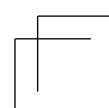
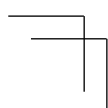


日本大学 法学部

【平成26年度以降～令和元年度以前入学者】



科目名索引

● : 教職課程科目

ア		外国法A（独）Ⅰ	3862
アジアの歴史Ⅰ	220	外国法A（独）Ⅱ	3867
アジアの歴史Ⅱ	225	外国法A（仏）Ⅰ	3872
アメリカ経済論	3737	外国法A（仏）Ⅱ	3877
アメリカ政治論	3742	外国法B（アジア）Ⅰ	3882
イ		外国法B（アジア）Ⅱ	3887
イノベーションと知的財産Ⅰ	3747	外国法B（EU）Ⅰ	3892
イノベーションと知的財産Ⅱ	3752	外国法B（EU）Ⅱ	3897
異文化メディア	3757	外国法B（英米）Ⅰ	3902
インターンシップA	3	外国法B（英米）Ⅱ	3912
インターンシップB	8	外国法B（独）Ⅰ	3922
インベスター・リレーションズⅠ	3762	外国法B（独）Ⅱ	3927
インベスター・リレーションズⅡ	3767	外国法B（仏）Ⅰ	3932
ウ		外国法B（仏）Ⅱ	3937
運輸政策	3772	外国法C（仏）Ⅰ	3942
エ		外国法C（仏）Ⅱ	3947
英検／IELTSⅠA	1112	学際教養A【東京の社会文化史】	230
英検／IELTSⅠB	1137	学際教養B【近代日本の戦争と社会】	246
英検／IELTSⅡA	1162	科学の歴史Ⅰ	263
英検／IELTSⅡB	1172	科学の歴史Ⅱ	268
英検／IELTSⅢA	1182	環境論Ⅰ	273
英検／IELTSⅢB	1192	環境論Ⅱ	278
英検／IELTSⅣA	1202	韓国語ⅠA	3414
英検／IELTSⅣB	1207	韓国語ⅠB	3419
英語A	942	韓国語ⅡA	3424
英語B	957	韓国語ⅡB	3429
英語C	972	監査論Ⅰ	3952
英語D	982	監査論Ⅱ	3957
英語E	992	管理会計論Ⅰ	3962
英語F	997	管理会計論Ⅱ	3967
英語G	1002	キ	
英語H	1007	企業会計法Ⅰ	3972
英語演習A	1012	企業会計法Ⅱ	3977
英語演習B	1027	企業不祥事論Ⅰ	3982
英語演習C	1042	企業不祥事論Ⅱ	3987
英語演習D	1052	企業法務Ⅰ	3992
英語演習E	1062	企業法務Ⅱ	3997
英語演習F	1072	キャリア・デザインA	13
英語演習G	1082	キャリア・デザインB	18
英語演習H	1097	キャリア・デベロップメントA	23
映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	3777	キャリア・デベロップメントB	33
映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	3787	キャリア入門	38
カ		教育学Ⅰ	283
会計学Ⅰ	3792	教育学Ⅱ	288
会計学Ⅱ	3802	● 教育課程論	8341
外国ジャーナリズム史A	3812	● 教育原論	8346
外国ジャーナリズム史B	3817	● 教職実践演習（中・高）	8351
外国法A（アジア）Ⅰ	3822	教育政策	4002
外国法A（アジア）Ⅱ	3827	● 教育制度論	8361
外国法A（EU）Ⅰ	3832	● 教育相談	8366
外国法A（EU）Ⅱ	3837	● 教育の方法・技術論	8371
外国法A（英米）Ⅰ	3842	行政学Ⅰ	4007
外国法A（英米）Ⅱ	3852	行政学Ⅱ	4017

行政管理研究	4027
行政管理論	4032
行政広報研究	4037
行政広報論	4042
行政実務演習	4047
行政組織研究	4052
行政組織論	4057
行政法Ⅰ	4062
行政法Ⅱ	4092
共通科目特論 A	43
教養演習ⅠA【日本軍兵士の被害と加害】	293
教養演習ⅠB【戦争の記憶—その過去・現在・未来】	309
教養演習ⅡA【質的研究と当事者研究 差別問題の「語り」を手がかりに】	
教養演習ⅡB【質的研究と文献研究 パーソナル・ライティングからアカデ	
金融商品取引法Ⅰ	4115
金融商品取引法Ⅱ	4120
金融法Ⅰ	4125
金融法Ⅱ	4130
金融マネジメント論	4135

ク

グローバル・コミュニケーションⅠ	4140
------------------	------

ケ

経営学Ⅰ	4145
経営学Ⅱ	4160
経営情報システム論Ⅰ	4175
経営情報システム論Ⅱ	4180
経営訴訟法Ⅰ	4185
経営訴訟法Ⅱ	4190
経営分析論	4195
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	4200
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	4205
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅰ	4210
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅱ	4215
経済学Ⅰ	4220
経済学Ⅱ	4245
経済行政法Ⅰ	4270
経済行政法Ⅱ	4275
経済刑法Ⅰ	4280
経済刑法Ⅱ	4285
経済史	4290
経済思想史Ⅰ	4295
経済思想史Ⅱ	4300
刑事政策Ⅰ	4305
刑事政策Ⅱ	4310
経済政策論	4315
経済法Ⅰ	4320
経済法Ⅱ	4325
警察政策	4330
刑事訴訟法Ⅰ	4335
刑事訴訟法Ⅱ	4363
刑事法Ⅰ	4377
刑事法Ⅱ	4387
刑事法特殊講義ⅠA	4397
刑事法特殊講義ⅠB	4407
刑事法特殊講義ⅡA	4417
刑事法特殊講義ⅡB	4432
刑事法特殊講義ⅢA	4447
刑事法特殊講義ⅢB	4452
刑事法特殊講義ⅣA	4457
刑事法特殊講義ⅣB	4467

芸術論Ⅰ	355
芸術論Ⅱ	370
刑法Ⅰ	4477
刑法Ⅱ	4519
計量政治学	4554
原価計算論Ⅰ	4559
原価計算論Ⅱ	4564
健康科学Ⅰ	385
健康科学Ⅱ	390
● 現代教職論	8376
現代行政論Ⅰ	4569
現代行政論Ⅱ	4574
現代政治理論	4579
現代メディア社会論Ⅰ・Ⅱ	4589
現代メディア社会論Ⅱ	4599
憲法Ⅰ（人権）	4609
憲法Ⅱ（統治機構）	4644
憲法A（人権）	4679
憲法B（統治機構）	4699

コ

公共経営論	4719
公共経済学Ⅰ	4724
公共経済学Ⅱ	4734
公共政策基礎演習	4744
公共政策特殊講義A	4779
公共政策特殊講義B	4784
公共政策論	4789
公共選択論	4794
広告コミュニケーションⅠ	4799
広告コミュニケーションⅡ	4804
広報広告コミュニケーション演習Ⅰ	4809
広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	4814
広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	4824
公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	4834
公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	4839
公法特殊講義Ⅱ（行政法）A	4844
公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	4849
公務員制度論	4854
コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	4859
コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	4869
国際関係史Ⅰ	4879
国際関係史Ⅱ	4894
国際関係法〔公法系〕AⅠ	4909
国際関係法〔公法系〕AⅡ	4919
国際関係法〔公法系〕BⅠ	4929
国際関係法〔公法系〕BⅡ	4939
国際関係法〔私法系〕AⅠ	4949
国際関係法〔私法系〕AⅡ	4954
国際関係法〔私法系〕BⅠ	4959
国際関係法〔私法系〕BⅡ	4969
国際関係論Ⅰ	4979
国際関係論Ⅱ	4984
国際金融論Ⅰ	4989
国際金融論Ⅱ	4994
国際経営法学Ⅰ	4999
国際経営法学Ⅱ	5005
国際経営論Ⅰ	5011
国際経営論Ⅱ	5016
国際経済法Ⅰ	5021
国際経済法Ⅱ	5026

国際経済論Ⅰ	5031	社会学Ⅱ	440
国際経済論Ⅱ	5036	● 社会科・公民科教育法Ⅰ	8391
国際契約法Ⅰ	5041	● 社会科・公民科教育法Ⅱ	8401
国際契約法Ⅱ	5046	● 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	8411
国際研修（英）ⅠA	1312	● 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	8421
国際研修（英）ⅠB	1317	社会思想の歴史Ⅰ	465
国際研修（中）ⅠA	3172	社会思想の歴史Ⅱ	470
国際研修（中）ⅠB	3177	社会情報システム研究	5281
国際研修（独）ⅠA	2452	社会情報システム論	5286
国際研修（独）ⅠB	2457	社会政策論Ⅰ	5291
国際研修（仏）ⅠA	2822	社会政策論Ⅱ	5296
国際研修（仏）ⅠB	2827	社会調査概論	5301
国際政治学Ⅰ	5051	社会保障法Ⅰ	5306
国際政治学Ⅱ	5066	社会保障法Ⅱ	5316
国際政治経済特殊講義A	5081	社会保障論Ⅰ	5326
国際政治経済特殊講義B	5086	社会保障論Ⅱ	5331
国際取引法AⅠ	5091	宗教学Ⅰ	475
国際取引法AⅡ	5097	宗教学Ⅱ	480
国際取引法BⅠ	5103	出版メディアⅠ	5341
国際取引法BⅡ	5109	出版メディアⅡ	5346
国際民事紛争処理法Ⅰ	5115	上級簿記論Ⅰ	5351
国際民事紛争処理法Ⅱ	5120	上級簿記論Ⅱ	5356
国会論	5125	少年法Ⅰ	5361
コミュニケーション演習Ⅰ	5130	少年法Ⅱ	5366
コミュニケーションの科学A	5136	商法Ⅰ（会社法）	5371
コミュニケーションの科学B	5146	商法Ⅱ（商取引法）	5406
コンピュータ・リテラシーA	48	商法Ⅲ（支払システム法）	5426
コンピュータ・リテラシーB	103	商法Ⅳ（保険法）	5447
サ		商法Ⅴ（運送法）	5461
債権法各論	5156	情報システム論Ⅰ	5481
債権法総論	5161	情報システム論Ⅱ	5486
財政学Ⅰ	5166	消防政策	5491
財政学Ⅱ	5176	情報通信政策	5496
サイバー法Ⅰ	5186	情報の科学Ⅰ	5501
サイバー法Ⅱ	5191	情報の科学Ⅱ	5506
財務諸表論Ⅰ	5196	情報法Ⅰ	5511
財務諸表論Ⅱ	5201	情報法Ⅱ	5516
産学連携と知的財産Ⅰ	5206	人材マネジメント論Ⅰ	5521
産学連携と知的財産Ⅱ	5211	人材マネジメント論Ⅱ	5526
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅰ	5216	● 人文地理学概論Ⅰ	8431
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅱ	5221	● 人文地理学概論Ⅱ	8436
産業技術と知財D（コンテンツ）Ⅰ	5226	心理学Ⅰ	485
産業技術と知財D（コンテンツ）Ⅱ	5231	心理学Ⅱ	505
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅰ	5236	ス	
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅱ	5241	数学Ⅰ	525
産業立地論	5246	数学Ⅱ	530
シ		スピーキング・リスニング（中）ⅠA	3182
自主創造の基礎Ⅰ	123	スピーキング・リスニング（中）ⅠB	3222
自主創造の基礎Ⅱ	163	スピーキング・リスニング（中）ⅡA	3262
自然人類学Ⅰ	395	スピーキング・リスニング（中）ⅡB	3277
自然人類学Ⅱ	400	スピーキング・リスニング（中）ⅢA	3292
● 自然地理学概論Ⅰ	8381	スピーキング・リスニング（中）ⅢB	3297
● 自然地理学概論Ⅱ	8386	スピーキング・リスニング（独）ⅠA	2462
実践教養A	405	スピーキング・リスニング（独）ⅠB	2492
実践教養B	410	スピーキング・リスニング（独）ⅡA	2522
ジャーナリズム・スタディーズⅠ	5251	スピーキング・リスニング（独）ⅡB	2532
ジャーナリズム・スタディーズⅡ	5261	スピーキング・リスニング（独）ⅢA	2542
ジャーナリズム倫理Ⅰ	5271	スピーキング・リスニング（独）ⅢB	2547
ジャーナリズム倫理Ⅱ	5276	スピーキング・リスニング（仏）ⅠA	2832
社会学Ⅰ	415	スピーキング・リスニング（仏）ⅠB	2852

スピーキング・リスニング（仏）Ⅱ A	2872
スピーキング・リスニング（仏）Ⅱ B	2887
スペイン語Ⅰ A	3392
スペイン語Ⅰ B	3398
スペイン語Ⅱ A	3403
スペイン語Ⅱ B	3409
セ	
西欧政治思想史Ⅰ	5531
西欧政治思想史Ⅱ	5541
政策過程論	5546
政策研究 A	5551
政策法務論	5556
政治学Ⅰ	5561
政治学Ⅱ	5586
政治学原論	5611
政治過程論	5621
政治経済原書研究 A	5626
政治経済原書研究 B	5651
政治経済専門研究 A	5676
政治経済専門研究 B	5701
政治コミュニケーション	5726
政治制度論	5731
政治哲学	5736
政治経済理論特殊講義 A	5741
政治経済理論特殊講義 B	5746
政治経済理論特殊講義 C	5751
精神分析学Ⅰ	535
精神分析学Ⅱ	540
● 生徒指導・進路指導論	8441
税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	5756
税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	5766
税法Ⅱ A（所得税法）	5776
税法Ⅱ B（法人税法）	5781
税法Ⅲ A（資産税法）	5786
税法Ⅲ B（消費・諸税法）	5791
生命の科学Ⅰ	545
生命の科学Ⅱ	550
● 西洋史概論Ⅰ	8446
● 西洋史概論Ⅱ	8451
西洋政治史Ⅰ	5796
西洋政治史Ⅱ	5806
西洋の歴史Ⅰ	555
西洋の歴史Ⅱ	560
西洋法制史Ⅰ	5811
西洋法制史Ⅱ	5821
世界文学Ⅰ	565
世界文学Ⅱ	580
ゼミナール 3 年	5831
ゼミナール 4 年	6420
選挙制度論	6950
専門演習 A	6960
専門演習 B	6980
専門演習 C	6990
専門演習 D	6995
専門演習 E	7010
専門演習 F	7020
専門研究 B	7025
ソ	
総合講座 A	595
総合講座 B〔＜～らしさ＞をめぐる視点〕	600

ソーシャル・キャピタル論	7030
タ	
体育実技Ⅰ A	3456
体育実技Ⅰ B	3531
体育実技Ⅰ C	3606
体育実技Ⅰ C（テニス中級）	3677
体育実技Ⅰ C（バドミントン）	3679
体育スポーツ科学Ⅰ	605
体育スポーツ科学Ⅱ	610
チ	
地域開発論	7036
地域コミュニケーション A	7041
地域コミュニケーション B	7046
地域政策	7051
地球科学Ⅰ	615
地球科学Ⅱ	620
● 地誌学概論Ⅰ	8456
● 地誌学概論Ⅱ	8461
知的財産英語	7056
知的財産法 A（特許・実用新案）Ⅰ	7061
知的財産法 A（特許・実用新案）Ⅱ	7076
知的財産法 B（意匠）	7091
知的財産法 C（商標・不正競争）	7096
知的財産法 D（著作権）Ⅰ	7101
知的財産法 D（著作権）Ⅱ	7111
知的財産法 E（関連条約）Ⅰ	7121
知的財産法 E（関連条約）Ⅱ	7126
地方行財政特殊講義 C	7131
地方行財政特殊講義 D	7136
地方財政論Ⅰ	7141
地方財政論Ⅱ	7146
地方自治法Ⅰ	7151
地方自治法Ⅱ	7156
地方自治論Ⅰ	7161
地方自治論Ⅱ	7176
中国語演習 A	3072
中国語演習 B	3082
中国語演習 C	3092
中国語演習 D	3097
中国語演習 E	3102
中国語演習 F	3107
中国語演習 G	3112
中国語演習 H	3122
中国語基礎文法 A	2992
中国語基礎文法 B	3032
中国語資格試験対策Ⅰ A	3142
中国語資格試験対策Ⅰ B	3147
中国語資格試験対策Ⅱ A	3152
中国語資格試験対策Ⅱ B	3157
中国語資格試験対策Ⅲ A	3162
中国語資格試験対策Ⅲ B	3167
中国語基礎表現 A	2902
中国語基礎表現 B	2947
調査ジャーナリズム	7191
地理学Ⅰ	625
地理学Ⅱ	630
テ	
哲学Ⅰ	635
哲学Ⅱ	650
● 哲学概論Ⅰ	8466

● 哲学概論Ⅱ	8471
ト	
ドイツ語演習A	2262
ドイツ語演習B	2277
ドイツ語演習C	2292
ドイツ語演習D	2307
ドイツ語演習E	2322
ドイツ語演習F	2337
ドイツ語演習G	2352
ドイツ語演習H	2362
ドイツ語基礎表現A	1932
ドイツ語基礎表現B	2007
ドイツ語基礎文法A	2082
ドイツ語基礎文法B（月曜2時限）	2172
ドイツ語資格試験対策ⅠA	2392
ドイツ語資格試験対策ⅠB	2402
ドイツ語資格試験対策ⅡA	2412
ドイツ語資格試験対策ⅡB	2422
ドイツ語資格試験対策ⅢA	2432
ドイツ語資格試験対策ⅢB	2442
統計学Ⅰ	665
統計学Ⅱ	675
倒産法Ⅰ	7196
倒産法Ⅱ	7201
● 道德教育の理論と方法	8476
● 東洋史概論Ⅰ	8481
● 東洋史概論Ⅱ	8486
東洋法制史Ⅰ	7206
東洋法制史Ⅱ	7211
TOEICⅠA	1322
TOEICⅠB	1362
TOEICⅡA	1402
TOEICⅡB	1437
TOEICⅢA	1472
TOEICⅢB	1497
TOEICⅣA	1522
TOEICⅣB	1527
TOEFLⅠA	1212
TOEFLⅠB	1232
TOEFLⅡA	1252
TOEFLⅡB	1267
TOEFLⅢA	1282
TOEFLⅢB	1292
TOEFLⅣA（iBT）	1302
TOEFLⅣB（iBT）	1307
● 特別活動論	8491
● 特別支援教育概論	8496
都市政策	7216

ニ	
日本経済論Ⅰ	7221
日本経済論Ⅱ	7226
日本語Ⅰ	3312
日本語Ⅱ	3322
日本語Ⅲ	3332
日本語Ⅳ	3337
日本語Ⅴ	3342
日本語Ⅵ	3352
日本語Ⅶ	3362
日本語Ⅷ	3372
日本語Ⅸ	3387

日本語Ⅹ	3382
日本国憲法	203
● 日本史概論Ⅰ	8500
● 日本史概論Ⅱ	8510
日本ジャーナリズム史Ⅰ	7231
日本ジャーナリズム史Ⅱ	7241
日本政治過程論	7246
日本政治史Ⅰ	7251
日本政治史Ⅱ	7261
日本政治思想史Ⅰ	7266
日本政治思想史Ⅱ	7271
日本政治特殊講義B（選挙運動論）	7276
日本政治論Ⅰ	7281
日本政治論Ⅱ	7291
日本大学の歴史	208
日本の近現代Ⅰ	685
日本の近現代Ⅱ	690
日本の自然A	695
日本の自然B	700
日本の社会A	705
日本の社会B	710
日本の前近代Ⅰ	715
日本の前近代Ⅱ	720
日本の文化A	725
日本の文化B	730
日本文学Ⅰ	735
日本文学Ⅱ	755
日本法制史Ⅰ	7301
日本法制史Ⅱ	7306
ニュース英語Ⅰ	7311
ニュース英語Ⅱ	7331

ノ	
農業政策	7351

ハ	
● 発達と学習【新課程】	8520
発展教養A【生きる方法の宗教的探究】	775
発展教養B【人生の意味の宗教的探究】	785
犯罪心理学	7356

ヒ	
比較行政論	7361
比較憲法Ⅰ	7366
比較憲法Ⅱ	7371
比較ジャーナリズム史	7376
比較政治学	7381
東アジア経済論	7386
東アジア政治論Ⅰ	7391
東アジア政治論Ⅱ	7396
東アジアの文学Ⅰ	795
東アジアの文学Ⅱ	800
ビジネスロー文献講読Ⅰ	7401
ビジネスロー文献講読Ⅱ	7407

フ	
フォト・ジャーナリズム	7413
福祉政策	7418
物権・担保物権法	7423
フランス語演習C	2712
フランス語演習D	2717
フランス語演習E	2722
フランス語演習F	2727
フランス語演習G	2732

フランス語演習H	2742
フランス語基礎表現A	2562
フランス語基礎表現B	2597
フランス語基礎文法A	2632
フランス語基礎文法B	2672
フランス語資格試験対策ⅠA	2762
フランス語資格試験対策ⅠB	2782
フランス語資格試験対策ⅡA	2802
フランス語資格試験対策ⅡB	2807
フランス語資格試験対策ⅢA	2812
フランス語資格試験対策ⅢB	2817
文化人類学Ⅰ	805
文化人類学Ⅱ	810
文章表現法Ⅰ	815
文章表現法Ⅱ	855
ヘ	
平和学	7433
ホ	
法医学Ⅰ	7438
防衛政策	7443
法学Ⅰ	7448
法学Ⅱ	7499
法学演習AⅠ（憲法基礎演習）	7514
法学演習AⅡ	7529
法学演習BⅠ	7544
法学演習BⅡ	7554
法学演習EⅠ	7564
法学演習EⅡ	7569
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅰ	7574
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅱ	7579
法思想史Ⅰ	7584
法思想史Ⅱ	7594
法情報学Ⅰ	7604
法情報学Ⅱ	7609
法哲学Ⅰ	7614
法哲学Ⅱ	7624
法律外国語AⅠ【法律学科】	7634
法律外国語AⅡ【法律学科】	7645
法律外国語BⅠ【法律学科】	7657
法律外国語BⅡ【法律学科】	7667
簿記原理Ⅰ	7677
簿記原理Ⅱ	7692
マ	
マーケティング戦略論Ⅰ	7707
マーケティング戦略論Ⅱ	7712
マーケティング論Ⅰ	7717
マーケティング論Ⅱ	7722
マクロ経済学Ⅰ	7727
マクロ経済学Ⅱ	7747
ミ	
ミクロ経済学Ⅰ	7762
ミクロ経済学Ⅱ	7782
民事執行・保全法	7797
民事訴訟法	7804
民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	7825
民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	7835
民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）A	7840
民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）B	7845
民事法特殊講義Ⅳ（商法）A	7850
民事法特殊講義Ⅳ（商法）B	7855

民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	7860
民事法特殊講義Ⅵ（商業登記法）	7865
民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）A	7870
民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）B	7875
民法Ⅰ（民法総則）	7880
民法Ⅱ（物権法）	7938
民法Ⅲ（担保物権法）	7973
民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	7994
民法Ⅴ（債権法各論）	8015
民法Ⅵ（親族法）	8044
民法Ⅶ（相続法）	8059
民法総則	8074
メ	
メディア演習Ⅰ	8084
メディア演習Ⅱ	8089
メディア演習Ⅲ	8094
メディア・コミュニケーションの科学A	8099
メディア・コミュニケーションの科学B	8109
メディア史	8119
メディア／情報産業Ⅰ	8124
メディア調査	8129
メディア・テキストの基礎Ⅰ	8134
メディア・テキストの基礎Ⅱ	8139
メディア・テキストの基礎Ⅲ	8184
メディア・ビジネス	8199
メディア文化演習Ⅰ	8206
メディア文化演習Ⅱ	8211
メディア文化演習Ⅲ	8217
メディア法Ⅰ	8222
メディア法Ⅱ	8232
メディア理論	8237
ヨ	
ヨーロッパ政治論Ⅰ	8242
ヨーロッパ政治論Ⅱ	8247
ラ	
WritingⅠA	1912
WritingⅠB	1917
WritingⅢA	1922
WritingⅢB	1927
リ	
ReadingⅠA	1782
ReadingⅠB	1812
ReadingⅡA	1842
ReadingⅡB	1872
ReadingⅢA	1902
ReadingⅢB	1907
リーディング・ライティング（中）ⅠA	3132
リーディング・ライティング（中）ⅠB	3137
リーディング・ライティング（中）ⅡA	3302
リーディング・ライティング（中）ⅡB	3307
リーディング・ライティング（独）ⅠA	2372
リーディング・ライティング（独）ⅠB	2382
リーディング・ライティング（独）ⅡA	2552
リーディング・ライティング（独）ⅡB	2557
リーディング・ライティング（仏）ⅠA	2752
リーディング・ライティング（仏）ⅠB	2757
リサーチ・ペーパー（メディアと社会）	8252
リサーチ・ペーパー（情報と社会）	8257
リサーチ・ペーパー（政治行動論）	8262
リサーチ・ペーパー（メディアと文化）	8267

リスク・コミュニケーション	8272
Listening & Speaking I A	1532
Listening & Speaking I B	1572
Listening & Speaking II A	1612
Listening & Speaking II B	1652
Listening & Speaking III A (木曜3時限)	1692
Listening & Speaking III B (木曜3時限)	1727
Listening & Speaking IV A	1762
Listening & Speaking IV B	1772
立法過程論	8278
倫理学Ⅰ	900
倫理学Ⅱ	910
● 倫理学概論Ⅰ	8530
● 倫理学概論Ⅱ	8540
□	
労働事情	8283
労働法Ⅰ	8288
労働法Ⅱ	8298
ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	8308
ローカル／コミュニティ・メディアⅡ	8314
ローマ法Ⅰ	8319
ローマ法Ⅱ	8329
ロシア語ⅠA	3434
ロシア語ⅠB	3439
ロシア語ⅡA	3444
ロシア語ⅡB	3449
論理学Ⅰ	920
論理学Ⅱ	930

I 群

共通科目

I 群

共通科目

科目名	インターンシップA	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミ・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。

【履修条件】
第2学年後期又は、第3学年でメディア関連企業就職希望者。初回講義出席必須。志望業界毎にグループ分けし、第2回よりグループ毎実習開始。

【授業方法】
志望業界毎に編成したグループで業界研究を行いグループ発表する。夏季休業中に実施されるインターンシップ実習へのエントリーを行う。現業に携わるゲストスピーカーによる特別講習を実施する。授業毎リアクションペーパー提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる業界研究及び発表、グループ討論は、必ずしも講座時間中だけでなく、発表の為のグループ打ち合わせ等も含む(ピア評価を取り入れる)、模擬面談（やり取りの直接評価）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。					4							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。						4						
③	学齢からこれまでを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。							4					
④	学齢からこれまでを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。								4				
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。									4			
⑥	自らの意思や、長所、短所を理解し、適切な業種選択は具体的な職種を見つけることができる。								4				
⑦	グループ討論などで司会やまとめ役を積極的に担当できる。											4	
⑧	エントリーシートで、自分の短所、長所を含め、インターンシップの志望動機や希望企業の分析等を説明できる。							4					
⑨	面談で、インターンシップ希望企業の志望理由、業界分析、自分の長所、短所がはきはきと説明できる。										4		
⑩	互いに志望する同じ業界の研究を共同して行うことができる。												4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポート（ES）が，書式等の要件を満たし，課題に適切に答える内容になっているかを基準に，到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5		40			70
討論・発表等	第5～10回の講座におけるグループワークおよび打ち合わせのための討論において自分の意見を述べる事ができたかを基準に，到達目標⑦、⑨、⑩にかかわる意見表明が身についているかを評価する。（ピア評価）							10		5	5	20
授業への参画度	リアクションペーパーで毎回、授業理解度、参加度、自己表明度等を評価する。	1	1	1	1	1	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	6	6	6	6	10	10	40	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
業界研究発表は終了後その場での評価を述べ、レポート等は解説し、模擬面談、グループ討論などは事後に口頭で解説、指導する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定せず、参考書は、随時提示する。				

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業内セミナー（インターンシップとほぼ同じことを行い、時に選考を含む作業の企画実務）を担当 グループ面談や個別面談等のモデルケースのやり取りを実際に行ってみて、他の受講生がそれを見てどう感じるか評価も含めて実践する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 月	イントロダクション及び導入講義	インターンシップとキャリア形成／初回ガイダンス (志望業界の研究・発表の為にグループ分けを行うので、履修登録を悩んでいる者も必ず初回に出席すること)	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、仕事に就く意味や、勤労の意欲を理解、表明できる。	
		事前学修	マスコミ・メディア、Web各社のインターンシップの概要を調べておく。自らの第一志望、第二志望の業界業種を決めておく	180分
		事後学修	グループ分け後に連絡を取れるよう各グループでコミュニケーションを密に出来るようにする。	60分
2	4/13 月	各業界に分かれグループワーク (業界研究に着手)	業界研究についてのオリエンテーション／グループワーク 自ら志望する業界（新聞、出版、放送、広告、エンタテインメント、Web）に分かれて業界の歴史と現在の状況を研究するグループワークに着手する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑦、⑩に関連して、自らの志望する業界・企業の研究について、業界の歴史と社会的作用、自らの希望を加味して調べ、資料を分析し、グループ討論で意見表明できる。	
		事前学修	自身の志望業種を絞り、第1志望業界をグループ分けの根本にする。その業界の歴史、主な企業、自らの志望順位等の下調べをしておく	180分
		事後学修	グループワークでの業界研究に必要な情報を入手する方法を出版資料だけでなくWebなどでも調べ、発表に備える。	60分
3	4/20 月	インターンシップの実際を経験者から聞く①	実際にインターンシップを経験した学生の話聞く① 4年生などで3年次にインターンシップをした経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。	
		事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。	180分
		事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。	60分
4	4/27 月	インターンシップの実際を経験者から聞く②	実際にインターンシップを経験した学生の話聞く② 4年生などで3年次にインターンシップ経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。	
		事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。	180分
		事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。	60分
5	5/4 月	業界研究発表① 新聞業界	業界研究発表① 新聞業界 グループ研究発表&ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	新聞業界について基本的なことを知っておく。 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
		事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分
6	5/11 月	業界研究発表② 出版業界	業界研究発表② 出版業界 グループ研究発表&ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	出版業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
		事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 月	業界研究発表③ 広告業界	業界研究発表③ 広告業界 グループ研究発表&ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	広告業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
		事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分
8	5/25 月	業界研究発表④ 放送業界	業界研究発表④ 放送業界 グループ研究発表&ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	放送業界について基本的なことを知っておく。 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
		事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分
9	6/1 月	業界研究発表⑤ コンテンツ（エンタテインメント）業界	業界研究発表⑤ コンテンツ（エンタテインメント）業界について グループ研究発表&ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	コンテンツ業界について基本的なことを知っておく。 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
		事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分
10	6/8 月	業界研究発表⑥ Web業界	業界研究発表⑥ Web業界 グループ研究発表&ディスカッション この回にインターンシップ公募用模擬ES配布する。模擬ESを書きあげて次回担当教員に提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	インターネット業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う	180分
		事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分
11	6/15 月	インターンシップ一般公募対策 ESの書き方の基礎	インターンシップ一般公募対策 第一志望企業に出すESを提出する。 志望理由は詳しく、わかりやすく、質問には具体的に答えるなどESの書き方の基礎を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	模擬ESにできるだけ詳しくわかりやすく、具体的に記入し当日提出する。	180分
		事後学修	講座を聴いて改めて自分の書いたESを推敲しブラッシュアップする。	60分
12	6/22 月	ゲストスピーカー講演①	マスコミ業界に求められる人材① (ゲストスピーカー)	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関してゲストスピーカーの話を理解、積極的に質問し、自らの希望業界や企業のインターンシップ実効に生かすことができる。	
		事前学修	ゲストスピーカーについてプロフィールをよく読み、必ず質問を考えておく。	180分
		事後学修	自らにあてはめ、インターンシップに臨む業界についてまとめておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 月	ゲストスピーカー講演②	マスコミ業界に求められる人材② (ゲストスピーカー)	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関してゲストスピーカーの話を理解、積極的に質問し、自らの希望業界や企業のインターンシップ実効に生かすことができる。	
		事前学修	ゲストスピーカーについてプロフィールをよく読み、必ず質問を考えておく。	180分
		事後学修	自らにあてはめ、インターンシップに臨む業界についてまとめておく。	60分
14	7/6 月	講座内でESを書き上げる。	講座内で、自らのインターンシップ第一志望企業にES（公募企業用模擬ES）を書き上げて提出する（制限時間70分）	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。	
		事前学修	模擬ESを70分で完成提出できるように、あらかじめ、必ず書いておく。	220分
		事後学修	これまでの講座で疑問点が生じていないかもう一度洗いなおす。	20分
15	7/13 月	ES解説と講座前期総括	ES解説と講座前期総括 前回講座で提出されたESの傾向や、注意事項を開設府フィードバックし、具体的に描く、詳細に書く、分かりやすく書くとはどういうことか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。 自らの提出ESと比べ、欠点を補い修正ができる。	
		事前学修	インターンシップAの講座について、要点と質問をまとめて記しておく。	40分
		事後学修	最終的に自らの志望するインターンシップの日程を確認しESを実際を書く	200分

科目名	インターンシップB	担当者	柴田 秀一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミ・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。

【履修条件】
先修条件として「インターンシップA」を履修した者に限る。夏季休業中にインターンシップ実習や夏季集中講座（新聞学研究所講座）に参加した者（但し、後学期中に企業のインターンシップ実習に参加する意思がある者も履修可）。

【授業方法】
インターンシップ実習の報告（個人発表）を通して、クラス全体で就業に対する理解を深める。また、現業に携わるゲストスピーカーによる特別講義を実施する。授業毎リアクションペーパー提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる業界研究、発表、グループ討論第10～11回（ピア評価も使用）、模擬面談第8～9回（やり取りの直接評価）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】					4							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【技能】						4						
③	学齢からこれまでを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】							4					
④	学齢からこれまでを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【知識】								4				
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【技能】									4			
⑥	自らの意思や、長所、短所を理解し、適切な業種選択は具体的な職種を見つけることができる。【技能】								4				
⑦	グループ討論などで司会やまとめ役を積極的に担当でき、互いに志望する同じ業界について共同して研究できる。【態度】											4	
⑧	エントリーシートで、自分の短所、長所を含め、インターンシップの志望動機や希望企業の分析等を説明できる。【技能】							4					
⑨	面談で、インターンシップ希望企業の志望理由、業界分析、自分の長所、短所がはきはきと説明できる。【技能】										4		
⑩	自ら経験した出来事を、その出来事を知らないものにも分かりやすく、的確に説明することができる。【態度】												4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポート、ESが書式等の条件を満たし、課題に多季節に答えている内容となっているかを基準に到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄が身についているかを評価する	5	5	5	5	5	5		40			70
討論・発表等	討論、模擬面談等で自分の意見や物事の説明が十分にできたかを基準に、到達目標⑦、⑨、⑩にかかわる意見表明や説明が身についているかどうか評価する。(ピア評価を使用することもある。)							7		7	6	20
授業への参画度	毎回リアクションペーパーを配り、授業理解度、参加度、自己表現度等を評価する。	1	1	1	1	1	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	6	6	6	6	10	7	40	7	6	100

【課題に対するフィードバックの方法】
インターン個人発表はその場でアドバイス、模擬面談、グループ討論は終了後にアドバイス、グループ討論はピア評価も併用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。 参考書は、適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 企業内セミナー（インターンシップとほぼ同じことを行い、時に選考を含む作業の企画実務）を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		グループ討論やグループ面談・個別面談のモデルケースのやり方を実際に試みて、ほかの受講生がそれを見てどう感じるかも含めて、合評形式での討論、面談を再現する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 月	イントロダクション	インターンシップ初回ガイダンス。 今後の講座の進め方とアンケート インターンシップ経験者は、経験した会社名や期間を記し、未経験者は、今後の計画、絞り込む 業界や、希望する職種を記す。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップ経験者は自らの志望業界、志望企業のへの就職に向け て、志望動機、将来の希望、現在の自らの力を理解したうえで改めて仕事に就く意思を持つことができる。	
		事前学修	インターンシップ経験者は、自分の経験をまとめておく。提出E S、作文等あれば用意、また、実施演習や 行ったグループディスカッションのテーマ等を分かり易くまとめておく。未経験者は今後のインターンシッ プ日程を調べ、エンリリー出来るようにする。	180分
		事後学修	講座の進め方をうけてインターンシップ経験の発表準備をする。まだ、未経験の受講者は、自己の志望動機 や、希望が書けるようにしておく。	60分
2	9/21 月	インターンシップ実習経験 個人発表①	インターン実習経験個人発表① （業界別・個人別） インターンシップAを受けた後のインターンシップ経験者は、業界別にインターンシップ経験を発 表する形式は、パワーポイント、レジュメ、動画等を使い、未経験受講者にも分かりやすくもの を心掛ける。	
		この回の 到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講 者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験 受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるよう にする。	
		事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）	180分
		事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめて記しておく。	60分
3	9/28 月	インターン実習経験個人発 表②	インターン実習経験個人発表②（業界別・個人別）	
		この回の 到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講 者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験 受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるよう にする。	
		事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）	180分
		事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめて、記しておく	60分
4	10/5 月	インターン実習経験個人発 表③	インターン実習経験個人発表③（業界別・個人別）	
		この回の 到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講 者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験 受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるよう にする。	
		事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）	180分
		事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめて知るしておく。	60分
5	10/ 12月	インターン実習経験個人発 表④	インターン実習経験個人発表④（業界別・個人別）／E S・作文演習	
		この回の 到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講 者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験 受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるよう にする。	
		事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）	180分
		事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	10/ 19月	インターン実習経験個人発表⑤	インターン実習経験個人発表⑤ （業界別・個人別）／E S・作文演習	
		この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講者は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
		事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）	180分
		事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）	60分
7	10/ 26月	インターン実習経験個人発表⑥	インターン実習経験個人発表⑥ （業界別・個人別）／E S・作文演習	
		この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講者は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
		事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）	180分
		事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）	60分
8	11/9 月	インターンシップ模擬個人面談①	インターンシップ 模擬個人面談① インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、個別模擬面接を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え、経験しておく。そのため合評形式で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧～⑩にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップ経験受講者はより一歩進めて採用試験に照準を合わせ、志望動機、自らの今までの経験を生き生きと人に語ることができるようにする。また、インターンシップ未経験受講者は、インターンシップでも選考があることを踏まえ模擬面接に対処できるようにする。	
		事前学修	ES（エントリーシート）を書いた上、シミュレーションをして模擬面接想定質問を立て、答えを話してみる。また、自らの弱いところや、カバーできていない業界研究の範囲がないか確かめる。	180分
		事後学修	模擬面談をやり終えたうえで、答えられなかったことや分からなかったことについては、もう一度調べなおし、きちんと記して残しておく。	60分
9	11/ 16月	インターンシップ 模擬個人面談②	インターンシップ 模擬個人面談② インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、個別模擬面接を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え経験しておく。そのため合評形式で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧～⑩にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップ経験受講者はより一歩進めて採用試験に照準を合わせ、志望動機、自らの今までの経験を生き生きと人に語ることができるようにする。また、インターンシップ未経験受講者は、インターンシップでも選考があることを踏まえ模擬面接に対処できるようにする。	
		事前学修	ES（エントリーシート）を書いた上、シミュレーションをして模擬面接想定質問を立て、答えを話してみる。また、自らの弱いところや、カバーできていない業界研究の範囲がないか確かめる。	180分
		事後学修	模擬面談をやり終えたうえで、答えられなかったことや分からなかったことについては、もう一度調べなおし、きちんと記して残しておく。	60分
10	11/ 23月	インターンシップ グループ討論①	インターンシップ グループ討論① インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、グループ討論を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え経験しておく。そのため合評形式で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑦、⑩にかかわる事柄を理解し、グループ討論で出された課題について、自らの考えを分かりやすく述べ、課題解決のためグループで協力して、時には会話をリードしながら、意見が出なくなってしまった時には新たな視点を示すといった全体を見られる討論ができるようにする。	
		事前学修	グループ討論について、様々な企業で行われる討論の題について調べ、討論のシミュレーションをしてみる。	60分
		事後学修	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。様々な題で、グループディスカッションを友人らと行って慣れておくこと。	180分
11	11/ 30月	インターンシップ グループ討論②	インターンシップ グループ討論② インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、グループ討論を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え経験しておく。そのため合評形式で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑦、⑩にかかわる事柄を理解し、グループ討論で出された課題について、自らの考えを分かりやすく述べ、課題解決のためグループで協力して、時には会話をリードしながら、意見が出なくなってしまった時には新たな視点を示すといった全体を見られる討論ができるようにする。	
		事前学修	グループ討論について、様々な企業で行われる討論の題について調べ、討論のシミュレーションをしてみる。	60分
		事後学修	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。様々な題で、グループディスカッションを友人らと行って慣れておくこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/7月	エントリーシートの書き方/筆記試験・作文・時事問題	エントリーシートの書き方/筆記試験・作文・時事問題 インターンシップ経験者は、一步進めて採用試験のためのエントリーシートを、未経験者はインターンシップの選考に必要なエントリーシートの書き方の基礎を学ぶ。また、字の読み書き・時事問題・作文は実際に問題を解かないと力がつかない。実践を試みる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧、⑩にかかわる事柄を踏まえ、エントリーシートの志望動機等を具体的にわかりやすく、書いた人物に興味を持ってもらえるように書くことができる。	
		事前学修	企業のエントリーシートにどんなものがあるか調べ、質問の形式を知る。次々回提出のエントリーシートを、下書きしてみる。漢字の読み書き・時事問題・作文はかならず出るので普段から、Webを含めマスメディアで取りあげられているものに触れまておくことが重要。	180分
		事後学修	自分が書いてみたESと講座で示されたESの書き方の表現が同じであったか点検し、足りない点についてブラッシュアップしておく。	60分
13	12/14月	マスコミ業界の実務と最新動向について (ゲストスピーカー)	マスコミ業界の実務と最新動向について (ゲストスピーカー)	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥にかかわる事柄を踏まえ、ゲストスピーカーの話す内容が、特に自分の目指す仕事のどこに役立つかにつくことができること。また、自分の望む職種に応用が可能かを見通す力を持てること。	
		事前学修	ゲストスピーカーの仕事について、事前に調べておく。また、	180分
		事後学修	ゲストの話の中で、自らの志望業種、仕事に応用できるものはすべて、記しておく。	60分
14	12/21月	ES (エントリー・シート) の作成、提出	講座内でES (エントリー・シート) の作成 (制限時間70分で)、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄を踏まえ、講座時間内に志望動機等を具体的にわかりやすく、書いた人物に興味を持ってもらえるように書くことができる。	
		事前学修	制限時間内にきちんと書けるように、事前に書式を渡すので、必ず時間を計って書いてみる。	200分
		事後学修	提出したESは事前に行ったものはすべて網羅できたかどうか確かめ、不備があれば次回解説に備え、記しておく。	40分
15	2021/1/18月	エントリーシート解説 インターンシップまとめ	エントリーシート解説 インターンシップまとめ 前回提出されたエントリーシートで陥りやすい点や、具体的に書くとはどういうことが、分かりやすく書くとはどういうことか解説説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑩にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップの講座で行ってきたことを振り返り、その集大成として前回提出したエントリーシートに、特に到達目標⑧が盛り込まれて書かれていること。	
		事前学修	インターンシップA/Bで得た事柄や、インターンシップ経験で今後社会に出て重要と思われるものを記しておく。	200分
		事後学修	この時点で、3年次生は、既に自分の目指す仕事の方向や業種・企業等が定まっている事が必要。	40分

科目名	キャリア・デザインA	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
働く際に必要となる労働事情や労働法制の概略を説明するとともに、キャリアに関する理論、ジョブカード、教育訓練などキャリアに関する施策などキャリアデザインを考えるうえで必要となる事項について説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働事情や労働法制の状況を理解したうえで、大学卒業後の長い職業生涯について、自律的に考え、適切に行動できるようにする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義を中心として授業を進める。受講者の人数によっては受講者との討議も行う。関連資料をポータルシステムからダウンロードして持参してもらうことがある。提出したレポートについては、後の講義でコメントする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	労働事情と労働法制について説明することができる。				2	2						
②	キャリアに関する理論を説明することができる。				2	2						
③	自分のジョブカードを作成できる。				2	2						
④	就職に向けて企業情報を収集できる。				2	2			2			
⑤	自身のキャリアデザインを描き、実行することができる。				2	2			2		2	
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	20	20	15	30	15						100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	15	30	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
厚誼において開設する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後（金曜 1 時限後）に受け付け、内容、日時、場所等を確認、調整する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	37年間、厚生労働省において、労働政策の企画・立案に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		厚生労働省で担当した各種政策に関する経験をもとに、社会に出て働く場合に実際に役立つ知識を付与する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	働き方改革	オリエンテーションとして、授業スケジュール、成績評価の方法、参考資料などを説明する。働き方改革について説明し、企業の動きなどを理解してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、現在の働き方改革の考え方を理解する。	
		事前学修	事前に「働き方改革実行計画」（総理大臣官邸HP参照）を読んで、働き方改革の概要を理解する。	120分
		事後学修	働き方改革に関するマスコミ報道、書籍なども参照して、働き方改革に関する理解を深め、友達と意見交換する。（2時間）	120分
2	4/16	労働法の基礎知識	労働法の基礎知識を説明する。労働法はアルバイトにも適用があること、就職活動や就職後において必要な知識を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、働くうえで必要となる労働法の基礎知識を理解する。	
		事前学修	事前に「アルバイトをする前に知っておきたい7つのポイント」（労働条件に関する総合情報サイト）を参照のうえ、友人とともに、アルバイト経験に基づいて意見交換を行い、アルバイトの働き方に問題がないか確認する。	120分
		事後学修	「知っておきたい働くときのルールについて」（労働条件に関する総合情報サイト）を読んで、働く際に必要となる労働法の知識を深める。	60分
3	4/23	社会保障制度の基礎知識	社会保障制度の基礎知識について説明する。年金、医療保険の役割、負担と給付の関係などについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会保障制度の基礎知識を理解する。	
		事前学修	年金や医療保険について、新聞記事やネット情報を参照して、友人と社会保障の意義、問題点などについて意見交換する。	120分
		事後学修	人生100年を想定して、自分の働き方、社会保障とのかかわりなどを整理する。	60分
4	4/30	キャリアに関する理論	キャリア、キャリアデザインとは何か、基本的な事項について説明し、以後の講義の前提となることを理解してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標②及び⑤に関連して、キャリアに関する理論の概要を理解する。	
		事前学修	「キャリア」「キャリアデザイン」について、ネット検索、参考書購読などによって、予備的知識を得ておく。	120分
		事後学修	キャリアデザインの概念を理解したうえで、この段階における自分のキャリアデザインについて考えを整理してみる。	120分
5	5/7	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行とは何か、現在の実態はどうなっているかを説明する。そのうえで、会社内においてキャリアを積む場合、転職など外部労働市場においてキャリアを積む場合について、それぞれの状況を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本的雇用慣行と今後の動向について理解する。	
		事前学修	「日本的雇用慣行」について、ネット検索、書籍購読によって、予備的知識を得ておく。	120分
		事後学修	我が国の現在の雇用慣行を理解したうえで、自分の目指したい方向を考え、友達と意見交換する。	120分
6	5/14	産業・就業構造	産業構造・就業構造の変化の状況、人口構造の変化と今後の見通しを説明する。これらが、長い職業生涯に与える影響を理解してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、産業構造・就業構造の現状と将来像について理解する。	
		事前学修	雇用政策研究会報告（平成31年）を読んで、我が国の経済、労働市場の変化や今後の見通しについて理解しておく。	120分
		事後学修	関心のある産業について、売上高・生産量、就業者数などの推移、今後の見通しについて、ネット検索によって情報を集めて、整理する。（2時間） 第3回から今回までの講義を踏まえて、自分のキャリア形成の方向についてレポート（1000字以内）をまとめ、提出する。（2時間）	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	労働時間制度	現在の労働時間や休暇の状況、法改正や関係施策、企業の取り組み状況を説明する。就職した場合の働き方について、理解してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、現在の企業における労働時間の状況を理解する。	
		事前学修	「働き方・休み方ポータルサイト」にアクセスして、企業における労働時間短縮に向けた取組事例を閲覧し、企業における取組状況を理解する。	60分
		事後学修	現在の労働時間・休暇取得状況を理解したうえで、自分が企業で働く場合の課題、職業・企業選択の視点を整理し、友達と意見交換する。	120分
8	5/28	賃金制度	年功給、職能給、職務給などの賃金制度について基礎的な説明をするとともに、最近の賃金の動向、賃金に関する政策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、現在の企業における賃金制度を理解する。	
		事前学修	「賃金構造基本統計調査の概況」（厚生労働省HP参照）を読んで、賃金の概況を理解しておく。	60分
		事後学修	賃金制度や賃金水準などを理解したうえで、職業・企業選択の視点を整理し、友達と意見交換する。	120分
9	6/4	大卒者の就職状況	大学等卒業者の就職状況、離職の状況などの状況を説明するとともに、就職に関するルール、新規学卒者に対する就職支援などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④及び⑤に関連して、大卒者の就職状況などを理解し、自分の就職活動の方向を定める。	
		事前学修	厚生労働省HPにアクセスして、大学等卒業者の就職内定状況、新規学卒者の離職状況を確認し、大学新卒者の就職の課題を考える。	120分
		事後学修	新規大卒者の就職状況、就職に関するルール、支援策などを踏まえて、今後の自分の就職に向けた活動について整理する。	120分
10	6/11	企業情報の収集	就職活動においては企業情報の取得が重要であるが、どのような情報源があるか、何に注意する必要があるか、さらに、求人情報の見方などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④及び⑤に関連して、企業情報の集め方、情報をみる場合の留意点を理解する。	
		事前学修	会社四季報、就職情報誌などによって、企業情報を閲覧し、どのような企業の関する情報が入手できるか、試みしてみる。	120分
		事後学修	企業に関して、働く環境を含めた情報を収集し、最も関心がある企業を選定し、就職先の候補として、当該企業の情報、評価をレポートにまとめる（1000字以内）	240分
11	6/18	女性の雇用	女性の雇用の状況、問題点、関係法制について説明する。育児・介護などは、女性だけの問題ではなく、すべての働く人の問題であることを理解してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、女性の雇用状況、問題点などを理解する。	
		事前学修	「平成30年版働く女性の実情」の「第1章 平成30年の働く女性の状況」を読んで、女性の雇用の概況を理解する。	120分
		事後学修	女性の働く環境の問題点や育児・介護・治療と仕事の両立の課題について考えをまとめ、友達と意見交換する。	120分
12	6/25	キャリアコンサルティング	将来の職業を考えるうえでかわりのある、自己理解、キャリアアンカー、職業関心などについて解説する。また、キャリアコンサルティングについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②、③及び⑤に関連して、キャリアコンサルティングの重要性を理解する。	
		事前学修	自分の性格、価値観、関心事項などを整理し、どのような大学生活を送りたいか、将来どういうことをやりたいのかを考えること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて、再度自分の今後の大学生活、将来の仕事について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	ジョブカード	ジョブカードの趣旨、活用状況、作成方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学生用のジョブカードを作成できるようにする。	
		事前学修	ジョブカード制度総合サイトにアクセスして、ジョブカード制度の概要について理解する。	60分
		事後学修	学生用のジョブカードを作成し、提出する。（提出用には、住所・電話番号・メールアドレスなどの個人情報 の記入は不要）	240分
14	7/9	教育訓練	企業における教育訓練の状況、公的職業訓練、自主的な教育訓練受講に対する支援施策などについて説明する。職業生涯を通じてキャリアアップを目指すために必要な知識を得られるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標③及び⑤に関連して、就職後に自律的に教育訓練を受講できるようにする。	
		事前学修	「平成30年労働経済の分析」要約版の「第II部 働き方の多様性に応じた人材育成の在り方について」を読んで、人材育成の状況について、理解する。	120分
		事後学修	関心のある職業について、必要な資格、知識を確認し、それらの資格・知識を取得するために必要な教育訓練などを整理し、友達と意見交換する。	120分
15	7/16	転職	転職市場の状況、転職する場合の支援措置、ハローワークの利用などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③及び⑤に関連して、就職後のキャリア選択で転職する場合の留意点を理解する。	
		事前学修	「年齢にかかわらずない転職・再就職者の受入れ促進のための指針」（厚生労働省HP）を読んで、転職・再就職に関する政策の考え方を理解する。	60分
		事後学修	就職したのちに、企業に問題があった場合、別のキャリアを希望するようになった場合などについて、対応の仕方について考えを整理し、友達と意見交換する。	120分

科目名	キャリア・デザインB	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
国・地方における公務員の種類、働き方を概観するとともに、具体的な政策立案、法律改正などの事例をもとに、実際の公務員の仕事について学修する。また、公務員のキャリアデザイン、働き方について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公務員を志望する場合は、自らの目指すべき公務員像を描けるようにするために、政策策定の過程、行政機関の運営、公務員の働き方などの基本的知識を修得する。 公務員を希望しない場合には、実際の国会や政府の動きを理解し、公務員の働き方を参考に、自分の目指したい働き方を考える。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義を中心として授業を進める。受講者の人数によっては受講者との討議も行う。関連資料をポータルシステムからダウンロードして持参してもらうことがある。提出したレポートについては、最終の講義でコメントする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公務員の働き方を説明することができる。				2	2						
②	法律制定の過程を説明することができる。				2	2						
③	政策策定の過程を説明することができる。				2	2						
④	行政機関の運営を説明することができる。				2	2						
⑤	自身のキャリアデザインを描き、実行することができる。				2	2			2		2	
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	15	15	15	15	40						100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に開設する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後（木曜4限後）に受け付け、内容、日時、場所等を確認、調整する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	厚生労働省で、37年間、政策の企画・立案に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		厚生労働省における法改正、人事管理などの経験を踏まえて、実際の行政の運営や公務員の人事管理について説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	国家公務員のキャリアの事例	オリエンテーションとして、授業スケジュール、成績評価の方法、参考資料などを説明する。 また、担当教員の37年間の公務員生活における働き方を事例として、公務員の職業キャリアを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び⑤に関連して、国家公務員のキャリアについて理解する。	
		事前学修	公務員の先輩、知り合いに話を聞くこと、公務員に関するネット検索や書籍購読をすることによって、公務員に関する情報を収集する。	120分
		事後学修	講義で説明した担当教員の職業キャリアの事例を参考にして、公務員について自分の考えを整理して、友達と意見交換する。	120分
2	9/24	行政機関の概要	国・地方の行政機関について概観し、働いている公務員の状況を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び⑤に関連して、国、地方公共団体の行政組織を理解する。	
		事前学修	国、地方の行政機関について、種類、業務などを調べ、基礎知識を得る。	120分
		事後学修	自分がどのような機関で働きたいか考えたうえで、友達と意見交換する。公務員を志望しない受講者は、行政組織の現状に関して、友達と意見交換する。	120分
3	10/1	公務員の採用と求められる公務員像	公務員の採用、人事管理、働き方改革などに携わった経験を踏まえて、公務員のキャリアと求められる公務員像について、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び⑤に関連して、公務員に求められる資質を理解する。	
		事前学修	ネット検索などによって、公務員に関する様々な情報、評価を収集し、一般的な公務員像を整理する。	120分
		事後学修	公務員のあるべき姿、求められる資質について、友達と意見交換する。	120分
4	10/8	公務員の人事制度	公務員の賃金、人事評価、昇給・昇格などの人事管理について、制度、運用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び⑤に関連して、公務員の人事制度について理解する。	
		事前学修	国家公務員法・地方公務員法のうち、関心があるものについて、概要を調べる。	120分
		事後学修	公務員の人事管理の在り方について、友達と意見交換する。	120分
5	10/15	国の政策立案過程	国の政策立案過程の事例として、骨太方針策定までの流れを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び③に関連して、骨太の方針を事例として、国の政策立案過程を理解する。	
		事前学修	骨太2020を読んで、国の政策、予算編成の考え方がどのように示されているのかを理解する。	120分
		事後学修	国の政策立案過程、骨太方針の役割を整理し、国の政策立案の在り方について、友達と意見交換する。	120分
6	10/22	働き方改革の立案過程	担当教員が実務に携わった働き方改革を事例として取り上げ、政府全体にかかわる政策の立案過程について説明する。	
		この回の到達目標	働到達目標①及び③に関連して、き方改革を事例として、国の政策立案過程を理解する。	
		事前学修	働き方改革実現会議の経緯を調べ、働き方改革実行計画を読んで、全体の流れを理解する。	120分
		事後学修	働き方改革の流れについて整理し、政府全体にかかわる政策立案について、友達と意見交換する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	法律制定業務Ⅰ	担当教員が法改正の担当係長として携わった、昭和60年労働基準法改正を事例として取り上げ、法改正における法規係長の役割、働き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び②に関連して、法律制定に関する実務を理解する。	
		事前学修	昭和60年労働基準法改正の経緯、内容などについて調べて、基礎知識を得る。（公務員の仕事を説明する事例であるので、改正内容を詳しく理解する必要はない）	120分
		事後学修	法改正における実務担当者の役割、働き方を整理して、友達と意見交換する。	120分
8	11/5	法律制定業務Ⅱ	担当教員が法改正の担当部局長として携わった、平成17年障害者雇用促進法改正を事例として取り上げ、法改正における部局長の役割、働き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び②に関連して、法律制定に関する公務員の役割について理解する。	
		事前学修	平成17年障害者雇用促進法改正の経緯、内容などについて調べて、基礎知識を得る。（公務員の仕事を説明する事例であるので、改正内容を詳しく理解する必要はない）	120分
		事後学修	法改正における実務責任者の役割、働き方を整理して、友達と意見交換する。	120分
9	11/12	国会業務	国会業務について、準備段階から審議まで、公務員の業務を中心に説明する。併せて、県庁における県議会業務について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③及び④に関連して、国会関係における公務員の役割を理解する。	
		事前学修	衆議院インターネットTV中継にアクセスし、関心のある委員会（予算委員会以外）審議の状況を見て、国会審議の状況を知る。	120分
		事後学修	国会・議会業務における答弁者、補助者としての公務員の役割を整理して、友達と意見交換する。	120分
10	11/19	予算編成業務	予算編成について、各省での検討・調整、財務省の査定、予算案の決定プロセスと、公務員の業務について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、③及び④に関連して、予算編成の実務について理解する。	
		事前学修	令和2年度予算案を調べて、予算の構成、記載事項等を理解する。（予算の内容ではなく、どのようなことが書かれているかを理解すること）	120分
		事後学修	予算編成の流れを理解し、予算編成における公務員の役割について、友達と意見交換する。	120分
11	12/3	予算執行業務	予算関連施策の実施準備、実施状況の把握、政策評価などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、③及び④に関連して、予算執行の実務について理解する。	
		事前学修	関心のある予算を伴う施策を選び、実施状況などを調べる。	120分
		事後学修	施策の実施過程を理解し、公務員が必要とする能力、留意すべき事項などについて、友達と意見交換する。	120分
12	12/10	災害対策業務	東日本大震災を事例として、政府の対応について、厚生労働省を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び④に関連して、災害時に政府がどのように機能するか理解する。	
		事前学修	東日本大震災の被害、復旧・復興の動きについて調べる。	120分
		事後学修	災害時における政府の役割、課題などについて、友達と意見交換する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	国と地方公共団体の関係	地方分権、国の地方支分部局の役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、③及び⑤に関連して、国と地方公共団体の関係、問題点について理解する。	
		事前学修	（関心のある省庁の地方支分部局を選んで、どのような業務を行っているか調べる。	120分
		事後学修	地方支分部局の職員の職務内容、働き方を整理し、地方支分部局で働くことについて、友達と意見交換する。	120分
14	12/24	地方公共団体の仕事	秋田県庁に勤務していた経験を踏まえて、国と地方との関係、地方公務員の働き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、④及び⑤に関連して、地方公共団体における業務について理解する。	
		事前学修	県庁・市役所等のうち、関心のある機関について、業務内容、職員の働き方について調べる。	120分
		事後学修	県庁・市役所の役割を理解し、地方公務員として働くことについて、友達と意見交換する。	120分
15	1/14	労働行政の第一線の仕事	労働基準監督官、ハローワーク職員を事例として取り上げ、第一線機関の業務、所属している職員の状況などを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、④及び⑤に関連して、国の第一線機関の業務について理解する。	
		事前学修	国・地方公共団体における直接国民と接する第一線機関のうちから、関心のある機関を選んで、どのような業務をやっているか、職員はどのような者か調べる。	120分
		事後学修	第一線機関の役割を理解し、国民と直接かかわる仕事で働くことについて考えを整理して、友達と意見交換する。	120分

科目名	キャリア・デベロップメントA	担当者	久地楽 雅也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
【AB共通】 大学卒業後の進路選択について、指針を示し、自らの希望・能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【AB共通】 職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。

【履修条件】
2～3年生が主な対象です。 ※早期に履修すれば、自分の将来の可能性が広がられます。新卒採用の就職のためには、4年生になる前に修了するのがおすすめ。グループワークを行うので、4人～20人の履修者数を想定しています。

【授業方法】		
4～5月で自分の過去・現在・未来をシンプルにとらえ、6～7月に自分が興味をもてる仕事をシンプルな企画にして発表します。この4ヶ月の取組みを通じて、「仕事」をする自分の個性をつかみます。そして、この個性を活かす体験を起点にして、その後の職業選択とキャリア開発の土台にします。 仕事は、特別な受験や演技ではなく、個性ある人間どうしの日常の営みです。大事なことは、虚実が入り混じる「就活」イベントで迷走することではなく、「仕事」そのもので自分を考えて自分を成長させること。このことを基本に授業を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レクチャーを起点に、クラスワーク（対話集会・全体共有）／グループワーク（対話・討議・意見交換）／個人ワーク（内省・渉外・発表）を組み合わせます。教員はレクチャーの他、各種ワークのファシリテーター／人材育成コーチ／企画プロデューサーの4役を兼務します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。					3						
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。						3					
③	学齢からこれまでを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。					3						
④	学齢からこれまでを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。						3					
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。									3		
⑥	グループ討論などで積極的に司会やまとめ役を担当できる。											3
⑦	エントリーシートで、自己の短所、長所を含め、希望職種の志望動機や希望業界の分析等が説明できる。											3
⑧	面接で、希望職種の志望理由、希望業界の分析、自己長所、短所がはきはきと説明できる。											3
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5	40				70
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑥にかかわる自己表現力が身についているかを評価する。						20					20
授業への参画度	授業毎リアクションペーパーを求める。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	7	7	7	7	25	40				100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の持込みまたは発表をする授業中に、口頭で伝える。一度に全員のフィードバックができない場合は、授業終了後の同じ教室、または次回授業の中で、個別に伝える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。※参考資料は授業の中で適宜紹介。				

【オフィスアワー】
事前予約をして、授業終了直後の同じ教室、または、講師の勤務先で、約1時間以内を目処に実施します。予約連絡先は、授業で伝えます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 現在、広告会社（株）博報堂で人材育成プロデューサーを担務。併せて、複数の大学でアクティブ・ラーニング型授業の講師を兼務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		●（株）博報堂の人材育成プロデューサー（現職） ・社会人発想教育機関「博報堂生活者アカデミー」シニア・プロデューサー（2015～現在） ・人材開発戦略室グループマネージャー等（2013～2018） ・社員向け企画研修講師（受講者3千人超 1990年代～現在） ●現在、次の大学でアクティブ・ラーニング型授業等の講師を兼務 ・東京工業大学「現代社会の課題とコミュニケーション」（非常勤 2019～） ・明治学院大学文学部「メディア産業論」（非常勤 2019～） ・駿河台大学メディア情報学部「オンキャンパス・インターンシップ」（非常勤 2013～） ・東洋大学社会学部「メディアキャリア論」（ゲスト 2017～）

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	04/07	就活の虚実を知る	①学生の自己紹介②講師の紹介③就活の虚実について④リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	就活の虚実に踊らされず、仕事で自分をとらえる意味を理解する。自分を他者に伝えて他者を傾聴できるようになる。	
		事前学修	1分間の自己紹介を準備。発声によるリハーサルを行うとよい。	20分
		事後学修	他者の自己紹介を参考にして、自分の自己紹介を改善する。	20分
2	04/14	なんで仕事をするのだろう	①レクチャー「人生100年時代」②対話「なんで仕事をするのだろう」（グループワーク）③リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	未来を自分ごとにする。自分の生涯を想像できる。なんで仕事をするのかについて、自分の考え・思いを他者に伝えられる。	
		事前学修	「自分が仕事をする事」に対して、どんなイメージを持っているか、今現在の考え・思いをまとめる。	120分
		事後学修	「なんで仕事をするのか」について、自分の考え・思いをまとめる。	120分
3	04/21	自分の過去・現在・未来をとらえる（1）現在	①「なんで仕事をするのか」を共有（クラスワーク）②「自分の長所・短所」を構造化（個人ワーク・クラスワーク）③リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	「自分の長所・短所」を、客観的にとらえられる。	
		事前学修	今現在の「自分の長所・短所」を箇条書きにする。	120分
		事後学修	「自分の長所・短所」について、家族・親戚・友人・社会人にインタビューし、自分の意見を加えてまとめる。	120分
4	04/28	自分の過去・現在・未来をとらえる（2）過去	①「自分の長所・短所」レポートを口頭で共有（クラスワーク）②「自分史年表」を用いて自己紹介（グループワーク・クラスワーク）③リアクションペーパー（個人ワーク）。	
		この回の到達目標	「自分史年表」を用いて、今の自分を成り立たせている要因を見つける。	
		事前学修	幼少期から現在までの「自分史年表」を作成。	120分
		事後学修	「自分史年表」を改訂し、今の自分を成り立たせている要因を明確にする。	120分
5	05/12	自分の過去・現在・未来をとらえる（3）未来に向けた現在	①レクチャー「Will（やりたいこと）・Must（すべきこと）・Can（できること）のトリレンマ」②未来に向けた「仕事の目的・目標」を描く（個人ワーク・グループワーク）③リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	自分のトリレンマ（自分がやりたいこと（Will）・すべきこと（Must）・できること（Can）の特徴と難しさ）を理解し、キャリアづくりのスタートラインに立つ。	
		事前学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」をまとめる。	120分
		事後学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」を、家族・親戚・友人・社会人に伝えて、意見をもらう。	120分
6	05/19	自分の過去・現在・未来をとらえる（4）未来（前半）	①未来に向けた「仕事の目的・目標」を改訂（クラスワーク・グループワーク・個人ワーク）②リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	未来に向けた「仕事の目的・目標」に具体性を盛り込み、実現性の検討ができるようになる。	
		事前学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」で、目指す「仕事（職種や職業）と動機（目指す理由）」を考えて改訂。	120分
		事後学修	目指す仕事について、調査（資料の収集分析やヒアリング等）を開始。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	05/26	自分の過去・現在・未来をとらえる（5）未来（後半）	①未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」への考え・思いを深耕（個人ワーク・個人指導）②リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」を、自分なりにイメージできるようになる。まずは、仮説でよい。	
		事前学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をまとめる。	120分
		事後学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」を改訂してまとめる。	120分
8	06/02	仕事で自分をとらえる（1）「私の仕事考案」テーマ検討（前半）	①レクチャー「企画づくり」②「私の仕事考案」テーマ検討会（クラスワーク・個人指導）③リアクションペーパー（個人ワーク） （注）検討テーマ例：就職したい企業の商品Aの広告企画を考案する／アルバイトをする店舗Bの新規顧客獲得企画を考案する	
		この回の到達目標	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をふまえ、身近な仕事や暮らし（経済活動・社会活動）の具体事象を集め、「私の仕事考案」のテーマ候補に相応しいかどうか、検討できるようになる。	
		事前学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をふまえ、身近な仕事や暮らしの具体事象はないか、その候補を洗い出す。	120分
		事後学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をふまえ、身近な仕事や暮らしの具体事象を、「私の仕事考案」のテーマに整えていく。	120分
9	06/09	仕事で自分をとらえる（2）「私の仕事考案」テーマ検討（後半）	①レクチャー「企画づくり」②「私の仕事考案」テーマ検討会（クラスワーク・個人指導）③リアクションペーパー（個人ワーク） （注）検討テーマ例：就職したい企業の商品Aの広告企画を考案する／アルバイトをする店舗Bの新規顧客獲得企画を考案する	
		この回の到達目標	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をふまえ、身近な仕事や暮らし（経済活動・社会活動）の具体事象の中から、「私の仕事考案」のテーマ候補に相応しいものは何か、最終的に判断できるようになる。	
		事前学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をふまえ、身近な仕事や暮らしの具体事象はないか、その最終候補を洗い出す。	120分
		事後学修	未来に向けた「仕事の目的・目標」と目指す「仕事と動機」をふまえ、身近な仕事や暮らしの具体事象を、「私の仕事考案」テーマに最終的に整えていく。	120分
10	06/16	仕事で自分をとらえる（3）「私の仕事考案」発表準備（前半）	①「私の仕事考案」資料収集進捗確認（クラスワーク・個人指導）②リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	「私の仕事考案」収集資料に基づく、企画骨子のイメージがもてるようになる。	
		事前学修	「私の仕事考案」の企画に必要な資料収集を行う。	220分
		事後学修	「私の仕事考案」の企画骨子に沿って、必要な資料収集を行う。	120分
11	06/23	仕事で自分をとらえる（4）「私の仕事考案」発表準備（後半）	①「私の仕事考案」企画骨子進捗確認（クラスワーク・個人指導）②リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	「私の仕事考案」収集資料と企画骨子に基づく、企画詳細のイメージがもてるようになる。	
		事前学修	「私の仕事考案」の企画に必要な資料収集と企画骨子の制作を行う。	220分
		事後学修	「私の仕事考案」の企画骨子に沿って、必要な資料収集と企画詳細の制作を行う。	120分
12	06/30	仕事で自分をとらえる（5）「私の仕事考案」の発表本番（前半）	①発表と質疑応答（クラスワーク）②リアクションペーパー（個人ワーク）	
		この回の到達目標	自分の特徴・個性を活かして、自分の仕事を企画として表現できるようになる。発表を通じて自分の特徴・個性を自覚できるようになる。	
		事前学修	発表と企画の詳細を決め、発表の準備リハーサルを行う。	220分
		事後学修	自分と他者の発表を振り返り、発表の成功点・改善点を抽出。自分の特徴・個性をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	07/07	仕事で自分をとらえる (6)「私の仕事考案」の 発表本番 (後半)	①発表と質疑応答②リアクションペーパー (個人ワーク)	
		この回の 到達目標	自分の特徴・個性を活かして、自分の仕事を企画として表現できるようになる。発表を通じて自分の特徴・個性を 自覚できるようになる。	
		事前学修	発表と企画の詳細を決め、発表の準備リハーサルを行う。	220分
		事後学修	自分と他者の発表を振り返り、発表の成功点・改善点を抽出。 自分の特徴・個性をまとめる。	120分
14	07/14	仕事で自分を成長させる (1) 計画を立てて実行に 移す	①各自の「10年後に向けた、就業までの自分計画」を共有 (グループワーク・クラスワーク) ②リアクションペーパー (個人ワーク)	
		この回の 到達目標	キャリア計画の重要性を理解し、実行できる・実行すべき・実行したい計画として「10年後に向けた、就業まで の自分計画」をまとめる。	
		事前学修	「10年後に向けた、就業までの自分計画」の原案を作成。	120分
		事後学修	「10年後に向けた、就業までの自分計画」を改善して仕上げ、自宅の見えるところに掲示し実行する。	120分
15	07/21	仕事で自分を成長させる (2) スピーチから人生の ビジョンを学ぶ	①スピーチのネット音声動画を視聴 (クラスワーク) ②スピーチ気づきの共有 (グループワー ク) ③授業全体の意見感想を共有 (クラスワーク) ④リアクションペーパー (個人ワーク)	
		この回の 到達目標	今や誰もが、一流のスピーチを無料で視聴体験できる環境にいる。このチャンスを積極的に活かし、授業終了後も 自分でキャリア開発への意欲を高めていくために、一流のスピーチを日常的に検索・視聴して刺激を受け続ける習 慣をもつ。	
		事前学修	自分に影響を与えた言葉 (格言・歌詞・台詞・演説・著書の一節など) とその理由を、まとめる。	20分
		事後学修	ネットの音声動画を検索して、自分が興味をもてるスピーチのリストを作成。実際に視聴を開始して、印象 に残った言葉をまとめる。	20分

科目名	キャリア・デベロップメントA	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
【AB共通】 大学卒業後の進路選択について、指針を示し、自らの希望・能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【AB共通】 職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。

【履修条件】
共通科目として、法学部全学科学生が受講可能である。レポート課題・討論などの内容から、特に、マスコミ業界を目指す学生は受講を勧めるが、一般企業、公務員等志望者にも受講可能な内容である。

【授業方法】
キャリア・デベロップメントA、B両方受講の方が望ましい。受講生の発言や討論によって授業進め、受講生が、多人数の前で意見表明しやすくする。専門性の高いゲストを呼ぶこともあり、授業毎にリアクションペーパーを書かせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討論はピア評価を使用し、「自己紹介」（第6～7講）「発表」（第5講）「将来の青図を描いて発表する」は、発表後直接評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】				3							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【知識】					3						
③	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】				3							
④	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【技能】					3						
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【技能】								3			
⑥	グループ討論などで積極的に司会やまとめ役を担当できる。 【態度】										3	
⑦	エントリーシートで、自己の短所、長所を含め、希望職種の志望動機や希望業界の分析等が説明できる。【態度】										3	
⑧	発表で、希望職種の志望理由、希望業界の分析、自己長所、短所がはきはきと説明できる。【態度】										3	
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5	40				70
討論・発表等	適職発表、将来の自分像、自己紹介、において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標にかかわる自己表現力が身についているかを評価する。						20					20
授業への参画度	授業毎リアクションペーパーを求める。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	7	7	7	7	25	40				100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワーク、レポート、発表等は終わった後随時、解説指導を加える時間を取る。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考書は適宜提示する。				

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業採用試験での面接員、評価、採用試験企画担当、リクルート担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		人材の望まれ方、仕事に対する知識、情熱、判断力等の披歴やコミュニケーション能力を磨く課題を提示し、実践できるようにする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6(月)	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション 仕事をするために。これからのキャリアデベロップメントAをどう進めていくかシラバスを中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
		事前学修	アルバイト、パートタイムワーク等を通じて、働くとは何かどんな意味を持つか、800字程で書いておく。	120分
		事後学修	仕事の選択のためにやらなければならない事、特に自己分析、他己分析について、友人知人に聞く準備をしておく。	120分
2	4/13(月)	何故仕事をするか① 仕事をする意味	何故仕事に就くか① 仕事をする意味 何のために働くか、労働とはどういうことか。 正社員・契約社員・総合職・一般職・起業・個人事業主などの	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
		事前学修	仕事をする。仕事に就くとはどういう事か考えてみる。自己実現、社会貢献、協調協力、経済活動等思いつくことをすべてあげて記してみる。講座で発表する	120分
		事後学修	どんな方向の仕事だったらやりたいか、業界・業種を考得てみる。	120分
3	4/20(月)	何故仕事をするか②	何故仕事に就くか② 仕事をする意味が分かったら、好きな事を仕事にするか、好きなことは取って趣味として仕事をしていないときにするか。受講者が考えを述べながら探る。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
		事前学修	好きなことを仕事として行うか、それとも好きなことは趣味などで、仕事をしていない時にするか、自分はどちらを取るか考えておき、講座で意見を出し合う	180分
		事後学修	講座を聴き改めて考察する。	60分
4	4/27(月)	自己分析① 分析の仕方	自己分析① 分析の仕方、課題提示 自分はどんな仕事に向いているか自己分析、するとともに、知人や自分に近い人などに自分の向く仕事や、他から見える自分の性格等を聞いた他己分析をした結果を発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①～③、および④に関連して自らの適職等の分析と、周辺の人に尋ね他から見た適職、向く業種等の分析ができ、表明できる。	
		事前学修	自らどんな仕事に向いているか考察した上で、友人知人に、自分はどんな仕事に向いていると思うか授業前に聞いておく他己分析を行っておく。自らの考えと一致していればよいが、一致していなかった場合は、何故なのか考えていみる。	180分
		事後学修	改めて、自己分析と他人からの意見を総合して、自らの進路を考えてみる。(2時間)	60分
5	5/4(月)	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。 課題： 生涯の青図を描いて発表する。 5年後、10年後、15年後、20年後の自分の理想は何かどうありたいか。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、5年後、10年後、15年後、20年後の自分があるべき希望の姿がどうありたいかを考える	
		事前学修	5年後、10年後、15年後、20年後の自分について、どうありたいか考察し記し、発表の準備をする。	180分
		事後学修	他の学生の発表や意見表明と比較して、自らの将来を再考してみる。	60分
6	5/11(月)	自己分析③ 自己紹介①	自己分析③ 受講生が自己紹介①(1人1分間)を受講生の前でしてみる。 受講生全員が、一人1分間の自己紹介でどれだけ自分のことを表明できるかやってみる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、人の前で話すことができる。わかりやすく親しみ易い言葉を使い自己紹介をする。	
		事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、1分で何度も話す練習をしてみる。	180分
		事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 (月)	自己分析④ 自己紹介②	自己分析④ 受講生が自己紹介②（1人1分間）を試みる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、人の前で話すことができる。わかりやすく親しみやすい言葉を使い自己紹介をする。	
		事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、1分で何度も話す練習を試みる。	180分
		事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。	60分
8	5/25 (月)	業界研究（Ⅰ） 出版物、Web情報での研究	業界研究（Ⅰ） 自らの目指すところとは何か？ 出版資料等での分析と最新資料をWebで検索して研究する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。	
		事前学修	自らの目指す仕事、業界等を大まかでもいいから決めて、その業界仕事の成り立ち、社会的貢献度、自らの抱く好感度などを記し、事前に興味のある会社や仕事の順に重要度の高いものから調べる。	180分
		事後学修	講座を聞いてみて、再び自己分析を利用して自分の職業を具体的に考えてみる。	60分
9	6/1 (月)	業界研究（Ⅱ） OB・OGからの情報	業界研究（Ⅱ） Web、書籍をはじめキャリアセミナー、OB・OGからの情報を分析する。 OBGからの確実な経験情報を得るのは重要であるが、そうした手立てをどうつけるか等を講座で明らかにする。	
		この回の到達目標	達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。	
		事前学修	方向が決まれば、実際の業界研究に着手し資料づくりを始める。	120分
		事後学修	情報の整理をする。どんな情報が自分に足りないか、何を得るべきか整理し、小野情報を得る手法を考える。	120分
10	6/8 (月)	インターンシップ（Ⅰ） 概要	インターンシップ 概要（Ⅰ）行ってみる。試してみる。調べてみる。殆どの企業が3年の夏から秋にかけて行う。インターンシップは選考を兼ねる企業が年々増えている。その実態と対策を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験することができる。	
		事前学修	インターンシップとは何か概要と時期を具体的に調べておく。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。	180分
		事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。	60分
11	6/15 (月)	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話 これまでインターンシップを経験した先輩受講生から、経験談を聞き、自らの実践の参考にする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験する準備ができる。	
		事前学修	自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。	120分
		事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。	120分
12	6/22 (月)	法学部学生として どう考えるか。	法学部学生であることと、一般常識 入社試験、面接の常識・非常識 この講座の先にある、採用試験を見据え、その場で必ずある一般常識や筆記試験で、法学部性として知っておくべき事柄を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、法学部学生として、知っておくべき一般常識や、法知識について説明、実践できる。	
		事前学修	法律用語・一般常識の入社試験問題集を実際に解いてみる。	120分
		事後学修	法学部学生として、専門知識がきちんと身についたか。また、改めて自己分析と自己紹介の練習をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 (月)	レポート講座内 課題	仕事について。何を目指してきたか、自分にとっての仕事とは何か。しごとの対価として給与をもらうとはどういうことが、また起業するかなど、様々な仕事に対する考え方を踏まえレポートを講座内で70分で仕上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、仕事についての講座内レポートを制限時間内に書ける。	
		事前学修	レポート課題を制限時間内に書けるように、あらかじめ出された課題を時間に合わせて書く。	180分
		事後学修	提出したレポート内容をもう一度考察してチェックする。	60分
14	7/6 (月)	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカー招聘 仕事について。何を目指してきたか、仕事とは何か。実際に就職し、仕事をしながら生活している先輩の話を聞く。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、ゲストスピーカーの話の内容を自らの職業選びの参考にできる。	
		事前学修	ゲストのプロフィールをよく読み、必ず質問するように質問内容を考えておく。	120分
		事後学修	仕事選びについて、ゲストの話の中で実行できるものを直ちにすぐ実行に移す。	120分
15	7/13 (月)	提出したレポート講座内課題解説、講座まとめ	レポートの解説とまとめ、質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧について、本講座で実践した自己分析、他己分析、自己紹介等を使い、自らの提出したレポートについて、自ら評価分析し、足りない点を補うことが出来る。	
		事前学修	これまでの講座の重要事項をまとめて記しておく。	120分
		事後学修	インターンシップや採用試験に進めるようにエントリーシートの準備をする。	120分

科目名	キャリア・デベロップメントB	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
大学卒業後の進路選択について指針を示し、自らの希望や能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。

【履修条件】
共通科目として、法学部全学科学生が受講可能である。レポート課題・討論などの内容から、特に、マスコミ業界を目指す学生は受講を勧めめるが、一般企業、公務員志望者でも受講可能な内容である。

【授業方法】
キャリア・デベロップメントA、B両方受講が望ましい。受講生の発言や討論で授業を進める形式で、受講生が自らの考えを多人数の前で表明できる力をつける。討論課題は前週講座で提示。授業毎リアクションペーパーを出させる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「グループ討論」（第8～12講）はピア評価を使用し、「自己紹介書発表」（第5回、6回）と第3講「将来の青図を描いて発表する」は、発表後、直接評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】				3							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【知識】					3						
③	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】				3							
④	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【技能】					3						
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【知識】								3			
⑥	発表で自分の意見説明ができ、グループ討論などで積極的に司会やまとめ役を担当できる。【態度】										3	
⑦	エントリーシートで、自己の短所、長所を含め、希望職種の志望動機や希望業界の分析等が説明できる。【技能】								3			
⑧	面接で、希望職種の志望理由、希望業界の分析、自己長所、短所がはきはきと説明できる。【態度】										3	
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5	30				60
討論・発表等	適職発表、将来の自分像、自己紹介、模擬面接において自分の意見を述べることをできたかを基準に、到達目標①～⑥、⑧にかかわる自己表現力が身についているかを評価する。						30					30
授業への参画度	授業毎リアクションペーパーを求めて、講座参画度を評価する。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	7	7	7	7	35	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評は、レポートは次の回の講義で、グループ討論や、自己紹介書の発表、模擬面接はその都度、討論・面接・発表が終わってから、講義時間内に示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考書は適宜示す。				

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業採用試験試での面接員、評価・採用試験企画担当、リクルート担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容		人材の望まれ方、仕事に対する知識、情熱、判断力等の披歴やコミュニケーション能力を磨く課題を提示し、実践できるようにする	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 月	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション 講座の進め方、各回の講座の説明、レポート課題のやりかた等について説明する。 特に、この講座は発表、討論があるのでそのやり方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連してこの講座の各回の説明と準備すべき事柄、グループ討議、発表について説明する。	
		事前学修	何故仕事をするか社会的意味を論理的に考えておく。	120分
		事後学修	講座を聴き受講計画を立てる。	120分
2	9/21 月	何故仕事に就くのかの考察	何故仕事に就くのかの考察 職業について、何故仕事につかなければいけないのか 自分の好きなことを仕事にするか、それは趣味として、別に仕事を選ぶか。 次回発表の為の「自分の将来像」用紙を配布	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して何故仕事に就くのか理解した上で、業種等を選択ができる。	
		事前学修	自分はどんな仕事に就くのか、好きな事を仕事にするのか、そうではないのか。何故そう思うか、考えて記しておく。自ら希望する業種、業界を考えておく。	120分
		事後学修	何故仕事に就くのか理由を明確にしておく。将来の青図を考える。	120分
3	9/28 月	私の将来像	将来の青図（自分の5年後、10年後、15年後、20年後）を書いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して自ら選択した仕事で将来何をやっていきたいか、5年後、10年後、15年後、20年後にどうありたいか将来の予想図を書き発表できる。	
		事前学修	自分の5年後、10年後、15年後、20年後を考え、より具体的に何をしていたいかを記し、発表の準備をする。	180分
		事後学修	講座を聴きほかの受講生の将来像を見て、自分の進むべき方向を考える。自己紹介書を書く準備をする。	60分
4	10/5 月	自己紹介書を書く①	自己紹介書の発表① 自分がどんな人間か 自己を知る 課題：自己紹介書を書き、発表する。（5～6人）	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して自らの自己紹介書を書き発表することができる。	
		事前学修	配布した自己紹介書を具体的に詳しく、発表出来るように書いておく。	120分
		事後学修	他の学生の発表を聴いた上で、自己紹介書を直すべきところがあれば、書き直し推敲する。	120分
5	10/12 月	自己紹介書を書く②	自己紹介書の発表② 自分がどんな人間か 自己を知る 課題：自己紹介書を書き、発表する。（5～6人） 次回のエントリー模擬エントリーシートひな型を講座終了時に渡す。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して自らの自己紹介書を書き発表することができる。	
		事前学修	配布した自己紹介書を具体的に詳しく、発表出来るように書いておく。	180分
		事後学修	他の学生の発表を聴いた上で、自己紹介書を直すべきところがあれば、書き直し推敲する。	60分
6	10/19 月	企業エントリーシートを書く	エントリーシートの書き方 この講座の先にある企業採用試験、インターンシップ等を見据え、 模擬エントリーシートを書いてみる。より具体的に詳細に書く書き方を知る。 次回のグループ討論のテーマを講座の最後に示す。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、今までの講座で行ってきた自己分析、他己分析、自己紹介書等の内容を通して企業の 模擬エントリーシートが具体的に書ける。	
		事前学修	エントリーシートを自分で書いてみる。書いた自己紹介書を参考に、志望理由などを具体的企業を想像して その事業内容を調べ質問項目にすべてこたえられるように記す。	200分
		事後学修	講座で、説明されたかエントリーシートの書き方と自らの記したシートを比べ不備なところがあれば、ブ ラッシュアップする。いいところは更に伸ばす。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 月	グループ討論①	討論① 世の中で起きている社会的事象や、仕事の課題について、自分はどうかとらえているか、意見を表明し、加えて他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。 今回講座終了時に次回討論の課題を発表する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、実際の仕事の場合での課題をどう解決していくか、あるいは世の中で起こっている出来事に人はどんな意見を持っているか、グループでの話し合いを通して、課題に対して自分の意見を表明し、また、まとめ役となつた議論の進行をすることができる。	
		事前学修	この回の討論の題について積極的に発言するため、自らの意見を具体的にまとめておく。	120分
		事後学修	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れ、悪い点をブラッシュアップする。	120分
8	11/9 月	グループ討論②	討論② 世の中で起きている社会的事象や、仕事の課題について、自分はどうかとらえているか、意見を表明し、加えて他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。 今回講座終了時に次回討論の課題を発表する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、実際の仕事の場合での課題をどう解決していくか、あるいは世の中で起こっている出来事に人はどんな意見を持っているか、グループでの話し合いを通して、課題に対して自分の意見を表明し、また、まとめ役となつた議論の進行をすることができる。	
		事前学修	討論の題について積極的に発言するため、自らの意見を具体的にまとめておく。	120分
		事後学修	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れ、悪い点をブラッシュアップする。	120分
9	11/16 月	グループ討論③	討論③ 世の中で起きている社会的事象や、仕事の課題について、自分はどうかとらえているか、意見を表明し、加えて他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。 今回講座終了時に次回討論の課題を発表する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、実際の仕事の場合での課題をどう解決していくか、あるいは世の中で起こっている出来事に人はどんな意見を持っているか、グループでの話し合いを通して、課題に対して自分の意見を表明し、また、まとめ役となつた議論の進行をすることができる。	
		事前学修	討論の題について積極的に発言するため、自らの意見を具体的にまとめておく。	120分
		事後学修	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入、悪い点をブラッシュアップする。	120分
10	11/23 月	グループ討論④	討論④ 世の中で起きている社会的事象や、仕事の課題について、自分はどうかとらえているか、意見を表明し、加えて他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。 今回講座終了時に次回討論の課題を発表する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、実際の仕事の場合での課題をどう解決していくか、グループでの話し合いを通して、課題に対して自分の意見を表明し、また、まとめ役となつた議論の進行をすることができる。	
		事前学修	討論の題について積極的に発言するため、自らの意見を具体的にまとめておく。	120分
		事後学修	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れ、悪い点をブラッシュアップする。	120分
11	11/30 月	グループ討論⑤	討論⑤ 世の中で起きている社会的事象や、仕事の課題について、自分はどうかとらえているか、意見を表明し、加えて他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。 次回模擬面接の対象受講生を決める。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、実際の仕事の場合での課題をどう解決していくか、グループでの話し合いを通して、課題に対して自分の意見を表明し、また、まとめ役となつた議論の進行をすることができる。	
		事前学修	討論の題について積極的に発言するため、自らの意見を具体的にまとめておく。	120分
		事後学修	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れ、悪い点をブラッシュアップする。	120分
12	12/7 月	模擬面談①	模擬面談① 受講生を対象に2～3人に1人10分程度の模擬面接を実施する。その際の具体的なやり取りを他の受講生に見せて、合評会とすることで、面接を受けている受講生以外にも、全体が模擬面接を見られるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、模擬面接で、自ら希望する業界、職種、の仕事や、自己紹介、希望、長・短所を生き生きと話すことができる。	
		事前学修	模擬面接のため、自ら希望する企業や職種について考えをまとめ、自己紹介とともに、模擬面接の準備をする。	120分
		事後学修	模擬面接の講座を受けて、他の学生の発言、態度と自らの意見を比較、良い点を取り入れ、悪い点をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 月	模擬面談②	模擬面談② 受講生を対象に2～3人に1人10分程度の模擬面接を実施する。その際の具体的なやり取りを他の受講生に見せて、合評会とすることで、面接を受けている受講生以外にも、全体が模擬面接を見られるようにする。 講座終了時に次回課題の模擬エントリーシートひな型を配る。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、模擬面接で、自ら希望する業界、職種、の仕事や、自己紹介、希望、長・短所を生き生きと話すことができる。	
		事前学修	模擬面接のため、自ら希望する企業や職種について考えをまとめ、自己紹介とともに、模擬面接の準備をする。	120分
		事後学修	模擬面接の講座を受けて、他の学生の発言、態度と自らの意見を比較、良い点を取り入れ、悪い点をブラッシュアップする。	120分
14	12/21 月	授業内レポート 模擬エントリーシートを書き提出	授業内 レポート執筆 制限時間70分 この講座の先にある、採用試験、インターンシップ等を見据えて、企業の模擬エントリーシートを制限時間に書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑦に関連して、自己分析、他己分析、自己紹介書を生かし、より具体的に自分の志望する業種、企業のエントリーシートを分かりやすく記入することができる。	
		事前学修	自己分析、他己分析、自己紹介書を生かし前回渡された模擬ESひな型で、制限時間内に問いに全て答えられるように、エントリーシートの下書きをしておく。	200分
		事後学修	何をどう述べたか、次回の解説のために、ESの内容の検討をしておく。	40分
15	2021/1/ 18	レポートの開設と講座のまとめ	レポートの解説 講座のまとめと質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、これまでの講座の集大成として先にある企業説明会や採用試験等で、自らの希望や紹介、質問に対する受け答えが十分に出来る。	
		事前学修	今後の企業説明会や採用試験を目指し、改めて自己紹介書や口頭での自己紹介、エントリーシート記入をきちんとできるようにしておく。	120分
		事後学修	今後、インターンシップ、就職活動にすぐに移れるように、志望業界の資料をそろえておく。	120分

科目名	キャリア入門	担当者	白川 欽也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
キャリアデザインの必要性、手法、支援施策とともに、キャリアデザインを考える際に必要となる労働をめぐる諸事情について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
長い職業生活において、自らのキャリア形成を考え、行動していくために、キャリアデザインの重要性を理解し、自らのキャリアデザインを描く能力を修得する。

【履修条件】
1年次生、2年次生を対象とする。（3年次生、4年次生は履修不可であり、キャリアデザインA、B等を受講すること）

【授業方法】		
担当教員の講義、演習、発表等を組み合わせて、授業を進める。必要に応じて、講義に関連する資料を紹介する。。 講義に使用するレジメは、COLNetを利用して、事前に配布する（COLNetの学生教員共有の私のフォルダにアップロード） また、小テスト（授業内試験）は、試験終了後に解説等を行う。レポートの講評も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	就職活動にも役立つように、グループ討議を行い、コミュニケーション力や協同力を養う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	キャリアデザインの必要性を認識し、それを描くことができる。				1	1			1		1	
②	自身のキャリアデザインを実現するために、具体的な行動をとることができる。				1	1			1		1	
③	労働環境にかかわる情報を収集し、それを活用することができる。				1	1			1			
④	自身のキャリアデザインと大学における学びを接続することができる。				1	1			1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより、到達目標①②③④に関わる基礎知識や態度を評価する。	12	12	12	12							48
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシー、知的姿勢および態度が身についているかを評価する。	8	8	8	8							32
討論・発表等	グループ討議における討議への参加等により、①②③④を評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業への参画は、成績評価の前提となる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト終了後に、その解説を行う。また、レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
学生のためのキャリアデザイン入門	渡邊俊	中央経済社	2015	参考書	任意
ハーバードの人生を変える授業	タル・ベン・シャハー	大和書房	2015	参考書	任意
LIFE SHIFT(ライフ・シフト)	リンダ グラットン	東洋経済新報社	2016	参考書	任意
ライフデザイン	ビル・バーネット	早川書房	2017	参考書	任意
LEAN IN(リーン・イン) 女性、仕事、リーダーへの意欲	シェリル・サンドバーグ	日経ビジネス人文庫	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
土曜2限授業終了後に、授業講堂にて行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 土9/19	ガイダンス、ライフステージ	ガイダンス（授業計画等）を理解することにより、授業をスムーズに準備することができる、また、人生における役割、ライフステージについて学習する。	
		この回の到達目標	人生における役割とライフステージについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業概要、授業目的、授業方法、授業計画等について理解しておくとともにレジメを読み、ライフステージについて事前学習を行う。	90分
		事後学修	ガイダンスに基づき、今後の自分の受講計画を立てるとともに、ライフステージについて自分なりの考え方をまとめる。	150分
2	第1部 土9/26	働くことの意味と選択肢	働くことの意味、働きがい、モチベーションについて学習する。	
		この回の到達目標	働くことの意味、働きがい、モチベーションについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、働くことの意味、働きがい、モチベーションについて考えておく。	90分
		事後学修	働くことの意味やモチベーション等について、自分の考え方をまとめる。	150分
3	第1部 土10/3	大学での学びと成長に向けた資質・態度	大学での学びと成長に向けた資質・態度について学習する。	
		この回の到達目標	大学での学びと成長に向けた資質・態度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、大学での学びと成長に向けた資質・態度について理解し、説明することができる。	90分
		事後学修	大学での学びと成長に向けた資質・態度について、自分の考え方をまとめ、大学生活に活かす。	150分
4	第1部 土10/10	働くことの意味と理解 産業と企業の概要	産業と企業についての基礎知識・動向を学習する。	
		この回の到達目標	業と企業についての基礎知識・動向を理解し、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、産業と企業についての基礎知識・動向を理解するとともに、その情報を収集しておく。	90分
		事後学修	産業と企業についての考え方を自分なりにまとめる。	150分
5	第1部 土10/17	働くことの意味と理解 製造業と建設業	働くくことの意味と理解 製造業・建設業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	製造業・建設業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、製造業・建設業について理解するとともに、その情報を収集しておく。	90分
		事後学修	製造業・建設業の動向、仕事の内容等について整理しまとめる。	120分
6	第1部 土10/24	金融業、電力業等	働くくことの意味と理解 金融業、電力・通信産業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	金融業、電力・通信産業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解するとともに、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、金融業、電力・通信産業について理解するとともに、その情報を収集しておく。	90分
		事後学修	金融業、電力・通信産業の動向、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 土10/31	働くことの意味と理解 小売業、サービス業	働くことの意味と理解 小売業・サービス業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	小売業・サービス業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解するとともに、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、小売業・サービス業について理解するとともに、その情報を整理しておく。	90分
		事後学修	小売業・サービス業の動向、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。	120分
8	第1部 土11/7	働くことの意味と理解 公務員	働くことの意味と理解 公務員についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。	
		この回の到達目標	公務員についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を理解するとともに、説明することができる。	
		事前学修	レジメを読み、公務員について理解するとともに、その情報を収集し整理しておく	90分
		事後学修	公務員の状況、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。	120分
9	第1部 土11/14	職業人インタビュー	職業人インタビューの目的、内容、方法等を学習し、自分がインタビューを行う準備をする。	
		この回の到達目標	職業人インタビューの目的、内容、方法等を理解するとともに、職業人インタビューを行い、その結果をレポートにまとめる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、職業人インタビューの目的、内容、方法等について考察する。	90分
		事後学修	職業人インタビューに取り組み、その結果をレポートにまとめて、提出する。	300分
10	第1部 土11/21	自己分析	自己分析の目的、方法について学習する。	
		この回の到達目標	自己分析の目的、方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、自己分析について考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	自己分析について自分なりの考え方をまとめ、自己分析を行う。	150分
11	第1部 土11/28	社会人基礎力	社会人基礎力の意義、能力要素について学習する。	
		この回の到達目標	社会人基礎力の意義、能力要素等について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、社会人基礎力について考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	社会人基礎力の意義や能力要素について自分なりの考え方をまとめる。	150分
12	第1部 土12/5	キャリアデザイン基礎 職業選択の理論	職業選択の理論について学習する。	
		この回の到達目標	職業選択の理論について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、職業選択の理論について、考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	職業選択の理論について自分なりの考え方をまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 土12/12	キャリアデザイン演習	キャリアデザインについての演習を行い、自分のキャリアデザインを行う第一歩とする。	
		この回の到達目標	キャリアデザイン演習を行い、その結果を振り返り、自己のキャリアデザインに反映させる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、キャリアデザインの演習の準備を行う。	90分
		事後学修	キャリアデザイン演習の結果を振り返り、自己のキャリアデザインについての考え方をまとめる。	150分
14	第1部 土12/19	働くことと法律	働くことと法律について学習する。 授業内小試験を行う。	
		この回の到達目標	労働法の概要、相談・支援機関の状況等について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前にレジメを読み、働くことと法律について考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	働くことと法律について自分なりの考え方をまとめる。 授業内小試験の結果を振り返り、これまでの講義を復習する。	150分
15	第1部 土12/26	キャリアデザインとライフデザイン	キャリアデザインとライフデザインについて学習する。	
		この回の到達目標	キャリアデザインとライフデザインの意義、内容について理解し、説明することができる。 レポートの講評を行う。	
		事前学修	事前にレジメを読みキャリアデザインとライフデザインについて考察するとともに、その情報を収集する。	90分
		事後学修	キャリアデザインとライフデザインについての考え方をまとめ、自己のキャリアデザインとライフデザインについての考え方をまとめる。	150分

科目名	共通科目特論 A	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などで判断力・思考力・分析力等の資質、いわゆる論理的思考力を有しているかを問われるが、他のどのような職業においても重要な資質であるといえよう。本講座では、前述のような試験で必要となる基本的な論理学の知識を学びながら、論理的な思考力を身につけていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における種々の問題を、論理的・科学的・合理的かつ批判的に考察し解決に導く力を養うのために、判断力・思考力・分析力等の論理的思考能力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
論理的思考法についての講義、さらに理解を深め知識を確実なものとするための課題を交互に行っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてグループディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とは何かを説明できる。						4	4						
②	さまざまな論証のタイプがあること、それらの違いを説明できる。						4		4	4				
③	どのタイプの論証であるかを決定することができ、その理由を説明できる。						4		4	4				
④	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						4	4		4				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	20	30	30	5							85
小テスト等	到達目標①②③に関わる講義中に課す課題への取り組みの の成果を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	35	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	野内良三	2006	参考書	推奨
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三		2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	開講にあたって/論理的思考とは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、論理的思考とは何か、また論理学の基本的用語などについて説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理学の基本的な用語について説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	シラバスを確認する。公務員試験や法科大学院適性試験でどのような問題が出されているか調べる。	120分
		事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	第一部 水4/15	命題、演繹、推測	命題とは何か、命題から構成される論証とは何か、さらに論証の2つのタイプ、演繹と推測の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	論証とは何か、演繹と推測の違いとは何かを理解し、それについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	授業内容をシラバスで再確認する。論理的思考とはどのようなものか、自分なりに考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、命題とは何か、演繹と推測の違いについて説明できるようにする。	120分
3	第一部 水4/22	定言命題	真と偽、矛盾と反対の違い、定言命題とは何かを説明する。また定言命題をヴェン図で書く方法について説明する。	
		この回の到達目標	定言命題とは何か、また矛盾と反対の違いとは何かを理解し、それについて説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。矛盾とはなにか、自分なりに考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、矛盾と反対の違いについて説明できるようにする。	120分
4	第一部 水4/29	ヴェン図による判断、仮言命題、選言命題	ヴェン図の説明、ヴェン図を用いての真偽の判断の方法、および仮言命題と選言命題について説明する。	
		この回の到達目標	ヴェン図の書き方を理解し、それを用いた真偽の判断方法について説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。特にヴェン図の書き方をしっかりと復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。定言、仮言、選言命題の違いを確認する。	120分
5	第一部 水5/6	両刀論法	両刀論法とは何か説明する。またその論破の方法について考える。	
		この回の到達目標	両刀論法とはなにかを理解し、その論破の方法について説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ジレンマとは何か、ジレンマに陥るとはどのような状況か、友達と話しあってみよう。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。両刀論法論破に関するポイントを明確にしておこう。	120分
6	第一部 水5/13	条件連鎖、法則	条件連鎖とは何か、またド・モルガンの法則について説明する。	
		この回の到達目標	条件連鎖がどのようなもので何に使われるのかを理解し、それについて説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ド・モルガンの法則や対偶について高校で習った人は復習、習っていない人は調べておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。逆・裏・対偶の違い、ド・モルガンの法則について説明できるか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	消去法、背理法	消去法、背理法を用いた条件連鎖について説明する。	
		この回の到達目標	消去法、背理法とは何か、条件連鎖の中でそれらがどのように使われるのかを理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。背理法について高校で習った人は復習、習っていない人は調べておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。	120分
8	第一部 水5/27	存在文の条件連鎖	存在文と全称文の違い、存在文が入る場合の条件連鎖の方法について説明する。	
		この回の到達目標	存在文とは何か説明できる。また、それが含まれる条件連鎖の方法を説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。	120分
9	第一部 水6/3	条件連鎖とヴェン図	条件連鎖と同じように、ヴェン図でも演繹かどうか判別できる。そこでヴェン図を用いたその方法を説明する。	
		この回の到達目標	ヴェン図による演繹かどうかの判別方法を理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ヴェン図の書き方を復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。ヴェン図の書き方が修得できているか確認する。	120分
10	第一部 水6/10	命題論理概説	命題論理とはどのようなものか、また命題論理で用いる記号について説明する。	
		この回の到達目標	命題論理とはどのようなものであるのか、また命題論理で用いられる記号について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。これまで出てきた命題の特徴は何か考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。命題論理でにおける命題とこれまで出てきた命題との違いを明確にしておく。	120分
11	第一部 水6/17	真理値表	真理表とは何か、その見方、使い方について説明する。	
		この回の到達目標	真理表とはどのようなものでいかに使われるのか理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。命題論理で用いる記号について復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理表の見方・使い方を理解できているか、しっかりと復習しておく。	120分
12	第一部 水6/24	真理値分析	真理値分析の方法と、推論が正しいかどうかの判別方法について説明する。	
		この回の到達目標	真理値分析の方法、それによる推論の正しさの判別方法について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。真理表の見方・使い方について復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理値分析のやり方を確実に理解できているか確認、しっかりと復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	命題論理応用問題	命題論理を用いた応用問題を行い、それぞれにおける真理値分析の特徴的な手法を説明する。	
		この回の到達目標	真理値分析のさまざまな応用の仕方について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
		事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。真理値分析のやり方について復習しておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。各種問題集などを見て、命題論理に関する問題を解いてみる。	120分
14	第一部 水7/8	講義全体の復習と授業内試験	これまでの講義の復習と、理解度確認のための授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための出題に対し、十分な解答をすることができる。	
		事前学修	“配布物やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。”	150分
		事後学修	“配布物やノートをみながら、答案の自己評価をする。”	120分
15	第一部 水7/15	試験問題の解説、講義全体の振り返り	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、講義全体の学びを振り返る。	
		この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s④にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	“配布物やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。”	120分
		事後学修	“配布物やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。本講義での学びを振り返る。”	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。

【授業方法】
コンピュータ教室で実習形式により授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義で学修した内容をもとに、課された課題を解決する方法を自ら考えて作成します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に作成する総合課題（成績の評価対象）の解説を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習で使用するコンピュータのファイルを配布します。				

【オフィスアワー】
keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3. 4限の講義後にお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法	講義で学ぶWord、Excel、PowerPointがどのようなソフトであるか理解する。講義の進め方、講義の準備、授業評価について理解する。講義で作成するファイルの保存方法について理解する。電子メールを用いる際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Word, Excel, PowerPointがどのようなソフトであるが概要を調べる。メールを書く際のマナーやインターネットの利用方法を調べる。	120分
		事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用する資料の配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	第一部 木 4/16	Wordを用いた文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Microsoft Wordとはどのようなソフトウェアであるか調べる。	120分
		事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	第一部 木 4/23	Wordを用いた図、表、グラフの作成	SmartArtによる図の作成、(Excelではなく) Wordによる表の作成、グラフ作成の機能を使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Wordで図、表、グラフを作成する機能を調べる。	120分
		事後学修	Wordで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	第一部 木 4/30	Wordを用いた数式作成、章および節の番号設定、図表の番号設定	数式の入力、章や節の番号、図、表、数式の番号を連番で自動で設定し、本文中で参照できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	長い文章において、章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。	120分
		事後学修	章番号、節番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	第一部 木 5/7	Wordにおけるページ区切り、セクション区切り	ページを区切る機能と、1つのファイルを複数の異なるファイルで構成されているように作成する際に必要となるセクション区切りの機能を正しく理解し、使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ページ区切り、セクション区切りの機能がどのようなものであるか調べる。	120分
		事後学修	ページ区切り、セクション区切りで何を行っているか、利用するとどのような利点があるか確認する。	120分
6	第一部 木 5/14	Wordにおける目次と参考文献一覧の作成	第4回目の講義で学んだ章、節の設定方法をもとに、自動で目次を作成する機能について理解する。参考文献一覧の作成方法について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	目次とはどのようなものか、参考文献一覧がどのようなもので、なぜ必要か調べる。	120分
		事後学修	目次の種類、参考文献一覧の種類を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	Wordの総合課題	第7回目までの講義で学んだWordの機能を利用し、指定された課題を作成する。解説をもとに、理解が不十分であった箇所を修正する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使った機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
		事前学修	第6回までの講義で学んだ内容を復習する。	120分
		事後学修	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。	120分
8	第一部 木 5/28	PowerPointによるスライド作成とプレゼンテーション	PowerPointでプレゼンテーション用の資料を作る際の注意点を理解し、実際にスライドを作成してプレゼンテーションが出来るようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	PowerPointとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
		事後学修	PowerPointを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
9	第一部 木 6/4	Excelの基礎	Excelにデータを入力し、計算し、グラフを作成するといった基本的なファイル作成の流れについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Microsoft Excelとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
		事後学修	計算式でセルを参照する際に使う相対参照、絶対参照とはどのようなものであるか確認する。	120分
10	第一部 木 6/11	Excelによる関数を使った計算とグラフ作成	複雑な計算を容易に実現できる関数と、入力データを計算した結果を用いたグラフ作成は機能について理解する。作成したグラフの修正方法を理解する。異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフの作成方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Excelの関数とはどのようなものであるか調べる。Excelでのグラフ作成方法を調べる。	120分
		事後学修	関数の使い方を確認する。グラフの作成方法を確認する。グラフにはどのような種類があり、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
11	第一部 木 6/18	Excelにおける並べ替えと抽出	データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。	120分
		事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法を確認する。フィルタで、必要なデータのみ表示する方法、元データはそのままに、必要なデータをシートに抽出する方法を確認する。	120分
12	第一部 木 6/25	Excelにおけるデータ集計	元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計するピボットテーブル、小計の機能を正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	クロス集計とはどのような操作であるか調べる。	120分
		事後学修	同様の集計方法であるピボットテーブル、小計の異なる点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	Excelでの操作自動化：マクロ	何度も同じ操作をくり返す際に有用なマクロの機能について理解し、正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	マクロ、VBAとはどのような機能であるか調べる。	120分
		事後学修	マクロを使い、どのように操作を記録して使うか確認する。マクロがVBAとして記録されていることを確認する。マクロを含んだファイルを保存する際の形式を確認する。	120分
14	第一部 木 7/9	Excelによる総合課題の作成	講義で使用したExcelの機能を使った総合課題を作成し、正しく学修できているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題を正しく作成し、講義で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	第9回～第13回の講義で学んだ内容を復習する。	120分
		事後学修	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。	120分
15	第一部 木 7/16	総合課題の解説と修正	第14回に作成した総合課題の解説を理解し、課題に間違いの箇所があった場合には修正する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題の解説をもとに理解が不十分であった点を補い、学んだ内容を正確に説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
		事後学修	レポート課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内実技試験の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付・提示する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
		事前学修	ID，パスワードを事前に確認しておく，事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	4/13 4/14	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
		事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
		事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	4/20 4/21	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
		この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
		事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
		事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	4/27 4/28	Microsoft Word の使用法1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
		事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	5/4 5/5	Microsoft Word の使用法2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
		この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
		事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	5/11 5/12	Microsoft Word の使用法3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
		この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
		事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18 5/19	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。
		この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。
		事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。
		事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。
8	5/25 5/26	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。
		事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。
		事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。
9	6/1 6/2	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。
		この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。
		事前学修	Excel の関数について調べておくこと。
		事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。
10	6/8 6/9	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。
		この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。
		事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。
		事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。
11	6/15 6/16	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。
		この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。
		事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。
		事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。
12	6/22 6/23	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。
		この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。
		事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。
		事後学修	データベース機能について復習しておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	Microsoft Power Point の 使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
		この回の 到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
		事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
		事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	7/6 7/7	Microsoft Power Point の 使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
		この回の 到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）がで	
		事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
		事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	7/13 7/14	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
		この回の 到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
		事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討議（第3回、第10回） 受講者間での相互評価（第6回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜 10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い	社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動とログイン	
		この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動操作とColnetへのログイン操作を適切に実施することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。ColnetのユーザIDとパスワードを確認する。	60分
		事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。	60分
2	第一部金 4/17	インターネットの仕組み 理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	インターネットとColnet、ファイルの管理方法 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認	
		この回の到達目標	①②に関連して、インターネットやコンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
		事前学修	「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	120分
		事後学修	1種類目の資料作成を完了する。2種類目の資料に未着手の場合は、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	120分
3	第一部金 4/24	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）： ワークシートを基にしたグループ討議、理解しやすい資料作成のための方法（講義） グループ討議と講義をもとに、理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。	
		この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
		事前学修	1種類目の資料と2種類目の資料を比較検討して、ワークシート（異なる編集方法による資料の比較）に記入する。	120分
		事後学修	講義内容を復習する。	120分
4	第一部金 5/1	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）： 見本にそった2種類の資料作成、テーマをもとにした資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。さらに、学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。	
		この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。さらに、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
		事前学修	2種類目の資料の見本を確認すると共に、操作ガイドを参照して資料の凡その作成方法を掴む。	60分
		事後学修	見本にそった資料作成で課した2種類目の資料の作成が終わっていない場合は完了する。	150分
5	第一部金 5/8	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。	
		この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
		事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	150分
		事後学修	テーマをもとにした資料作成の課題が終わっていない場合は作成完了する。	120分
6	第一部金 5/15	理解しやすい資料の作成 (MS-Word) 電子メールの利用	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（作成した資料に対する他者からのフィードバックを得る、また他者の資料を見てフィードバックする）と完成資料の提出 電子メールの利用：完成資料に対する自己評価シートの電子メールによる提出	
		この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのための方法を説明することができる。 ②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
		事前学修	作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	120分
		事後学修	相互評価でのコメントを受けて、修正すべき点を検討し、資料をブラッシュアップして提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (1) : データ分析の基本的な考え方 (講義)、課題(分析テーマ)説明、表計算ソフトであるMS-Excelの 特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力	
		この回の 到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。表計算ソフトである MS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。	
		事前学修	「データの分析と解釈 (MS-Excel)」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-Excelの起動方法、基 本画面を確認し、実際に操作してみる。	120分
		事後学修	講義内容を復習すると共に、課題シートを再読して課題(分析テーマ)全体を概観する。MS-Excelの基本操作 を復習する。	120分
8	第一部金 5/29	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (2) : 測定項目毎の特徴の分析 (数式、関数の活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出でき る。算出値をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、測定項目別の特徴を読み取るこ とができる。	
		事前学修	分析対象データのExcel入力を完了する。	120分
		事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。	120分
9	第一部金 6/5	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (3) : 測定項目毎の特徴の分析 (ヒストグラムの活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。作成したグラ フ (ヒストグラム) をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、測定項目別の特徴を読み取 ることができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、算出した値 (平均や分散など) からわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	測定項目毎のヒストグラム作成が終わっていない場合は完了する。	180分
10	第一部金 6/12	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (4) : 測定項目毎の特徴に関するグループ討議、測定値の比較分 析 (偏差値の活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、読み取った測定項目別の特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏 差値が算出 (測定値の標準化) できる。偏差値をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、 各測定値の特徴を読み取ることができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、ヒストグラムからわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	各測定値に対する偏差値の算出および指示したグラフ作成を完了する。	120分
11	第一部金 6/19	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (5) : 分析レポートの作成	
		この回の 到達目標	③に関連して、課題 (分析テーマ) に対する考察を、読み取った測定項目別の特徴、各測定値の特徴をもとに、算 出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。	180分
12	第一部金 6/26	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料 の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資 料の基とする企画書の選択、プレゼンテーション資料の構想を練る	
		この回の 到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができ る。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。	
		事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。 MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。(2時間)	60分
		事後学修	プレゼンテーション資料の構想がまとまっていない場合、企画書をもとに訴求点を決め掲載情報の絞込みを 行う。MS-PowerPointの基本操作を復習する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 構想にそって、プレゼンテーション資料を作成する。	
		この回の到達目標	④に関連して、MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。	
		事前学修	プレゼンテーション資料作成に必要な写真やイラスト等の参考資料を集める。(2時間)	150分
		事後学修	プレゼンテーション資料の作成を完了する。(2時間)	150分
14	第一部金 7/10	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 口頭発表時の留意点(講義)、プレゼンテーション資料にそった発表シナリオ作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
		この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。	
		事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件(時間他)を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点(訴求点)をピックアップする。	120分
		事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオの作成を完了し提出する。	120分
15	第一部金 7/17	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (4) : 企画プレゼンテーション実施と受講者間での相互評価(プレゼンテーションに対して他者からフィードバックを得る、また他者のプレゼンテーションに対してフィードバックする) 講座全体のまとめ	
		この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。	
		事前学修	プレゼンテーション(口頭発表)の練習をする。	120分
		事後学修	講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認小テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリ (Word、Excel、PowerPoint) を利用する。論文 (骨子)、口頭発表、確認小テストに関する講評・解説は授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PowerPointを利用した口頭発表に対し質疑応答や相互評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に指定する				

【オフィスアワー】
授業前後に質問を受け付ける。土曜日12：10～12：40、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の実習を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	【ガイダンス】【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し共有ドライブに提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連しPCの基礎的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。 初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。	120分
		事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。 特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。	120分
2	第一部 土4/11	【情報通信技術の概要】情報処理関連用語の解説、コンピュータとは	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。	120分
		事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標本化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。	120分
3	第一部 土4/18	【情報通信技術と社会】 【授業内小テスト】	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。講義の後、授業内テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、情報セキュリティやネット利用に係る知的財産保護等について理解し実践できる。	
		事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。	120分
		事後学修	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。	120分
4	第一部 土4/25	【実習基礎編1】Wordの基本操作、PowerPointの基本操作	コンピュータの基本操作の確認：Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Windowsの基本を理解し、WordやPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。	
		事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。	60分
		事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。 Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。	180分
5	第一部 土5/2	【実習基礎編2】Excelによるデータ集計、グラフ作成	コンピュータの基本操作の確認：データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解しデータ分析、グラフの作成などを適切に実施できる。	
		事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。	60分
		事後学修	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。	180分
6	第一部 土5/9	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報の利用	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。	
		事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。	120分
		事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】	統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。	
		事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認。	120分
		事後学修	統計学のポイントについて復習する。	120分
8	第一部 土5/23	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文とは	論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。	
		事前学修	これまでに学習した文章作成方法の確認。	120分
		事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。	120分
9	第一部 土5/30	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習	Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用フリーソフトの紹介。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールを適切に利用することができる。	
		事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。	180分
10	第一部 土6/6	【実習応用編2】 オブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習	Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
		事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。	180分
11	第一部 土6/13	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習	【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン設定などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
		事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。	180分
12	第一部 土6/20	【実習応用編4】 Wordによる論文（または論文骨子）の作成	Wordによる論文の作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。 参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。（コンピュータ・リテラシーAの重点項目）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。	
		事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。	120分
		事後学修	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	【実習応用編5】 PowerPointの利用実習	PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、自動プレゼン、ノート・配布資料の作成等）	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、PowerPointのを利用し口頭発表用のスライドを効率的に作成することができる。	
		事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。	180分
14	第一部 土7/4	【模擬発表会】 PowerPointによるプレゼン	作成した論文のポイントについてPowerPointのスライドショーを実行しながら各自5～10分程度の口頭発表を行う（発表時間は履修人数により調整）。発表後、質疑応答、相互評価ならびに講評を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを使い適切に口頭発表ができる。	
		事前学修	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。	120分
15	第一部 土7/11	【総まとめ講義】	論文、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
		事前学修	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
		事後学修	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5 挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6 コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7 リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8 省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の15回目に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Word 2016 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
よくわかる Excel 2016 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	ガイダンス及び導入講義	本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。キーボードからの文字入力を試す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。	
		事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。	120分
		事後学修	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。	120分
2	4月16日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作1(テキストLesson1～Lesson11)」	ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン1～レッスン11までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
3	4月23日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作2(テキストLesson11～Lesson17)」	ワードのテキストレッスン12～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
4	4月30日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作1(テキストLesson20～Lesson25)」	ワードのテキストレッスン20～レッスン25までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson20～Lesson25を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
5	5月7日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作2(テキストLesson26～Lesson32)」	ワードのテキストレッスン26～レッスン32までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson26～Lesson32を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。	120分
6	5月14日	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作1(テキストLesson1～Lesson5)」	エクセルのテキストレッスン1～レッスン5までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。	120分
		事後学修	一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 2 (Lesson6～Lesson8)」	エクセルのテキストレッスン6～レッスン8までに、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson6～Lesson8を予習すること。	120分
		事後学修	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。	120分
8	5月28日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 3 (Lesson9～Lesson12)」	エクセルのテキストレッスン9～レッスン12までに、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson9～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。	120分
		事後学修	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。	120分
9	6月4日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」	エクセルのテキストレッスン13～レッスン16までに、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。	120分
		事後学修	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。	120分
10	6月11日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson21)」	エクセルのテキストレッスン18～レッスン21までに、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson18～Lesson21を予習すること。	120分
		事後学修	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
11	6月18日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 2 (Lesson22～Lesson26)」	エクセルのテキストレッスン22～レッスン26までに、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson22～Lesson26を予習すること。	120分
		事後学修	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
12	6月25日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」	エクセルのテキストレッスン27～レッスン30までに、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。	120分
		事後学修	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	パワーポイントの操作	配布したパワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	配布したパワーポイントの教材に関して予習すること。	120分
		事後学修	パワーポイントの操作方法ばかりでなく、レジメを作成できるよう文書を要約できるようにする。	120分
14	7月9日	実技試験授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	講義で行ってきたそれぞれのソフトウェアに関する演習問題の総合的な復習を行うこと。	120分
		事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	7月16日	実技試験の解説	実技試験の解説を行う。あわせて各ソフトウェアの操作方法に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成できること。	
		事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
		事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう実技試験の問題を再度行う。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	毛利 康秀	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
		この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
		事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
		事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	4月13日	Wordの基本的な操作（1）	Wordの基本的な操作の確認	
		この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	4月20日	Wordの基本的な操作（2）	ビジネス文書の作成	
		この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
		事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	4月27日	Wordの基本的な操作（3）	インターネットからの情報の収集・加工	
		この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
		事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひとつとおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	5月4日	Wordの基本的な操作（4）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
		この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
		事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	5月11日	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
		この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
		事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
		事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月18日	Excelの基本的な操作（１）	Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認
		この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。
8	5月25日	Excelの基本的な操作（２）	算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成
		この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
9	6月1日	Excelの基本的な操作（３）	算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成
		この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
10	6月8日	Excelの応用的な操作（１）	計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成
		この回の到達目標	B M I 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、B M I 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
11	6月15日	Excelの応用的な操作（２）	アンケートデータの集計とグラフの作成
		この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
12	6月22日	WordとExcelの連携	Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する
		この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。
		事前学修	WordとExcelを同時に使用方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	PowerPointの活用（１）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
		この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	7月6日	PowerPointの活用（２）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
		この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
		事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	7月13日	PowerPointの活用（３）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
		この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
		事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
		事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。

【授業方法】
PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第12回、第13回のプレゼンテーションの評価について相互に検討・批評する。 第14回のスモールデータ分析（啓江トレンド分析）について相互に検討し多角的な視点を獲得する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講生が提出した課題やレポートについては、次回の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。 また期末試験も含めた総合的なフィードバックはポータルサイトより行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。				

【オフィスパワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	現代社会と情報システム	・授業ガイダンス 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
		この回の到達目標	現代社会におけるICT関連課題、法学部情報システム（COLNet）の重要性、またPCの操作技術習得の重要性を理解する。	
		事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)	120分
2	4月13日	情報システムと個人情報の保護 インターネットの光と陰	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門	
		この回の到達目標	個人情報の保護に留意して法学部情報システム（COLNet）の各種ツールを活用できる。	
		事前学修	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
3	4月20日	Microsoft Wordによるリポート作成	・リポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。	
		この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft Wordによるリポート作成技法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キーマニュアル.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
4	4月27日	Microsoft Wordの各種編集技法の習得	Microsoft Wordの基本操作2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会；インターネットの仕組みとビジネスモデル	
		この回の到達目標	Microsoft Wordの各種編集技法（特に各種DTP技法）を習得する。	
		事前学修	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
5	5月4日	Microsoft Excel入門	Microsoft Excelの基本操作1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能	
		この回の到達目標	Microsoft Excelの入門として基本的な表計算技法を習得する。 またデータの各種保存方法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)	120分
6	5月11日	Microsoft Excelの各種グラフ作成	Microsoft Excelの基本操作2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）	
		この回の到達目標	Microsoft Excelによる基本的なグラフ作成技法を習得する。 またWeb上のデータの検索とダウンロード、その後の編集技法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月18日	各種組織の公開データの分析的利用	Microsoft Excelの応用操作 1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）
		この回の到達目標	企業や官公庁の公開データの検索・閲覧・ダウンロードとMicrosoft Excelによるデータベース機能を習得する。
		事前学修	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間) 120分
		事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間) 120分
8	5月25日	電子メールの送受信と個人情報保護の基礎	Microsoft Excelの応用操作 2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）
		この回の到達目標	学生として公的なNUメールの利用技法とマナー、添付ファイルのパスワード設定等々のネットワーク・エチケットを習得する。
		事前学修	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間) 120分
		事後学修	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析. xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間) 120分
9	6月1日	データ分析の基礎と学術論文作成技法	・ABC分析について ・レポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・レポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理
		この回の到達目標	データ分析・評価の基礎と学術論文作成に際して基本的な技法を習得する。
		事前学修	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間) 120分
		事後学修	・論文・レポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間) 120分
10	6月8日	情報発信の基礎	PowerPointによるプレゼン資料の作成 1 （アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成）
		この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成技法を習得する。
		事前学修	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間) 120分
		事後学修	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間) 120分
11	6月15日	プレゼンテーションの全体像	PowerPointによるプレゼン資料の作成 2 （聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点）
		この回の到達目標	プレゼンテーションについて全体的な評価の視点を形成・獲得する。
		事前学修	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間) 120分
		事後学修	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間) 120分
12	6月22日	PowerPointを利用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション 1 （学生によるプレゼンテーション 1）
		この回の到達目標	学生によるPowerPointを利用したプレゼンテーションに対して理解し、質疑応答への参加、その後の全体的な評価の視点を形成する。
		事前学修	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間) 120分
		事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間) 120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	PowerPointと副次的資料を併用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション2 (学生によるプレゼンテーション2)	
		この回の到達目標	PowerPointとその他資料を併用したプレゼンテーション技法を理解し、各自のプレゼンテーション能力を高める。	
		事前学修	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で作業を進めておく。(2時間)	120分
14	7月6日	ビッグデータの分析	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)	
		この回の到達目標	個人や企業・官公庁等の行動から生成されるビッグデータの分析の基礎としてMicrosoft Excelの最新技法、ピボットテーブルの分析技法を習得する。	
		事前学修	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)	120分
15	7月13日	プログラミング入門 フローチャートとアルゴリズム	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)	
		この回の到達目標	ホームページの構造とプログラミングへの理解の基礎としてHTMLによるホームページの基礎的な作成技法を習得する。	
		事前学修	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)	120分
		事後学修	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	鈴木 正章	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。

【授業方法】
授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
評価の方法・配点・講評についてポータルサイトを使って受講者に全員に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Windows10対応30時間でマスターWord&Excel2016	実教出版編集部	実教出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日および木曜日の１９：３０ー１９：５０の時間帯で授業講堂で受付ます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第二部 火 (4/7) 第二部 木 (4/9)	【ガイダンス】【授業内容の説明】	Windows10の画面構成および起動・終了、アプリケーションソフト起動・終了、学内パソコンの使い方、情報とメディアの活用法について学修する
		この回の到達目標	学内パソコンを使って1回目の授業内容について操作ができる。
		事前学修	教科書の「Windows10の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。120分
		事後学修	学内パソコン使用について習熟すること。120分
2	1第二部 火 (4/14) 第二部 木 (4/16)	【インターネット】【Eメール】【課題の提出方法】	学内ネットワークの活用 クラウドの活用
		この回の到達目標	インターネットやEメールを利用できる。また、学内及び学外パソコンから課題が提出できる。
		事前学修	Internet Explorerのについて熟読しておくこと120分
		事後学修	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。120分
3	第二部 火 (4/21) 第二部 木 (4/23)	【wordの基本】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷
		この回の到達目標	アプリword2016を使って起動・文字の入力・文書の保存・印刷・終了ができる。
		事前学修	教科書の「Word2016の基礎的な使い方」について熟読しておくこと。120分
		事後学修	Word2016の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。120分
4	第二部 火 (4/28) 第二部 木 (4/30)	【文書作成】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定
		この回の到達目標	ページの書式設定した文書作成ができる。
		事前学修	教科書の文書の作成について熟読しておくこと。120分
		事後学修	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと。120分
5	第二部 火 (5/5) 第二部 木 (5/7)	【文書の編集(1)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能
		この回の到達目標	文字のサイズやフォントの変更・箇条書き・表の作成及び編集ができる。
		事前学修	教科書の編集機能について熟読をしておくこと。120分
		事後学修	編集機能を使った様々な文書を作成すること。120分
6	第二部 火 (5/12) 第二部 木 (5/17)	【文書の編集(2)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能
		この回の到達目標	図・写真・テキストボックスを文書内に挿入できる。
		事前学修	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。120分
		事後学修	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 火 (5/19) 第二部 木 (5/21)	【Excelの基本(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成	
		この回の到達目標	Excel2016の画面構成を理解した上で表を作成しデータの入力ができる。	
		事前学修	教科書のExcel2016の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。	120分
		事後学修	Excel2016を使って表を作成できるようにする。	120分
8	第二部 火 (5/26) 第二部 木 (5/28)	【Excelの基本(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入	
		この回の到達目標	表の中に合計・平均などの数式を挿入し計算できる。	
		事前学修	教科書のExcel2016の様々な書式設定を理解しておくこと。	120分
		事後学修	数式の入力と様々な書式設定をして表を作成する。	120分
9	第二部 火 (6/2) 第二部 木 (6/4)	【Excelの基本(3)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成	
		この回の到達目標	Excelのデータから様々なグラフ（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフなど）を作成できる。	
		事前学修	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
		事後学修	表データから様々なグラフを作成する。	120分
10	第二部 火 (6/9) 第二部 木 (6/11)	【Excelの基本(4)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集	
		この回の到達目標	Excelで作成したグラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができる	
		事前学修	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
		事後学修	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。	120分
11	第二部 火 (6/16) 第二部 木 (6/18)	【Excelの活用(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）	
		この回の到達目標	Excelで活用する関数を挿入することができる。	
		事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
		事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分
12	第二部 火 (6/23) 第二部 木 (6/25)	【Excelの活用(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）	
		この回の到達目標	順位づけ・四捨五入・判定・条件による集計の関数が活用できる。	
		事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
		事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 火 (6/30) 第二部 木 (7/2)	【PowerPointの基本(1)】	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計	
		この回の到達目標	PowerPointの画面構成を理解した上で、テーマに基づいたプレゼンテーションの設計ができる・	
		事前学修	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。	120分
		事後学修	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。	120分
14	第二部 火 (7/7) 第二部 木 (7/9)	【PowerPointの基本(2)】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入	
		この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を理解し、活用できる。	
		事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
		事後学修	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。	120分
15	第二部 火 (7/14) 第二部 木 (7/16)	【PowerPointのまとめ】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ	
		この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を使って一つのまとまったプレゼンテーションが作成できる。	
		事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
		事後学修	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。

【授業方法】
コンピュータ教室で実習形式により授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義で学修した内容をもとに、課された課題を解決する方法を自ら考えて作成します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に作成する総合課題（成績の評価対象）の解説を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習で使用するコンピュータのファイルを配布します。				

【オフィスアワー】
keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3. 4限の講義後にお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法	講義で学ぶWord、Excel、PowerPointがどのようなソフトであるか理解する。講義の進め方、講義の準備、授業評価について理解する。講義で作成するファイルの保存方法について理解する。電子メールを用いる際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Word, Excel, PowerPointがどのようなソフトであるが概要を調べる。メールを書く際のマナーやインターネットの利用方法を調べる。	120分
		事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用する資料の配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	第一部 木 9/24	Wordを用いた文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Microsoft Wordとはどのようなソフトウェアであるか調べる。	120分
		事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	第一部 木 10/1	Wordを用いた図、表、グラフの作成	SmartArtによる図の作成、(Excelではなく) Wordによる表の作成、グラフ作成の機能を使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Wordで図、表、グラフを作成する機能を調べる。	120分
		事後学修	Wordで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	第一部 木 10/8	Wordを用いた数式作成、章および節の番号設定、図表の番号設定	数式の入力、章や節の番号、図、表、数式の番号を連番で自動で設定し、本文中で参照できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	長い文章において、章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。	120分
		事後学修	章番号、節番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	第一部 木 10/15	Wordにおけるページ区切り、セクション区切り	ページを区切る機能と、1つのファイルを複数の異なるファイルで構成されているように作成する際に必要となるセクション区切りの機能を正しく理解し、使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ページ区切り、セクション区切りの機能がどのようなものであるか調べる。	120分
		事後学修	ページ区切り、セクション区切りで何を行っているか、利用するとどのような利点があるか確認する。	120分
6	第一部 木 10/22	Wordにおける目次と参考文献一覧の作成	第4回目の講義で学んだ章、節の設定方法をもとに、自動で目次を作成する機能について理解する。参考文献一覧の作成方法について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	目次とはどのようなものか、参考文献一覧がどのようなもので、なぜ必要か調べる。	120分
		事後学修	目次の種類、参考文献一覧の種類を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	Wordの総合課題	第7回目までの講義で学んだWordの機能を利用し、指定された課題を作成する。解説をもとに、理解が不十分であった箇所を修正する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使った機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
		事前学修	第6回までの講義で学んだ内容を復習する。	120分
		事後学修	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。	120分
8	第一部 木 11/5	PowerPointによるスライド作成とプレゼンテーション	PowerPointでプレゼンテーション用の資料を作る際の注意点を理解し、実際にスライドを作成してプレゼンテーションが出来るようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	PowerPointとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
		事後学修	PowerPointを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
9	第一部 木 11/12	Excelの基礎	Excelにデータを入力し、計算し、グラフを作成するといった基本的なファイル作成の流れについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Microsoft Excelとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
		事後学修	計算式でセルを参照する際に使う相対参照、絶対参照とはどのようなものであるか確認する。	120分
10	第一部 木 11/19	Excelによる関数を使った計算とグラフ作成	複雑な計算を容易に実現できる関数と、入力データを計算した結果を用いたグラフ作成は機能について理解する。作成したグラフの修正方法を理解する。異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフの作成方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Excelの関数とはどのようなものであるか調べる。Excelでのグラフ作成方法を調べる。	120分
		事後学修	関数の使い方を確認する。グラフの作成方法を確認する。グラフにはどのような種類があり、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
11	第一部 木 12/3	Excelにおける並べ替えと抽出	データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。	120分
		事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法を確認する。フィルタで、必要なデータのみ表示する方法、元データはそのままに、必要なデータをシートに抽出する方法を確認する。	120分
12	第一部 木 12/10	Excelにおけるデータ集計	元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計するピボットテーブル、小計の機能を正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	クロス集計とはどのような操作であるか調べる。	120分
		事後学修	同様の集計方法であるピボットテーブル、小計の異なる点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	Excelでの操作自動化：マクロ	何度も同じ操作をくり返す際に有用なマクロの機能について理解し、正しく使用できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	マクロ、VBAとはどのような機能であるか調べる。	120分
		事後学修	マクロを使い、どのように操作を記録して使うか確認する。マクロがVBAとして記録されていることを確認する。マクロを含んだファイルを保存する際の形式を確認する。	120分
14	第一部 木 12/24	Excelによる総合課題の作成	講義で使用したExcelの機能を使った総合課題を作成し、正しく学修できているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題を正しく作成し、講義で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	第9回～第13回の講義で学んだ内容を復習する。	120分
		事後学修	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。	120分
15	第一部 木 1/14	総合課題の解説と修正	第14回に作成した総合課題の解説を理解し、課題に間違いの箇所があった場合には修正する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題の解説をもとに理解が不十分であった点を補い、学んだ内容を正確に説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
		事後学修	レポート課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討議（第3回、第10回） 受講者間での相互評価（第6回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜 10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い	社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動とログイン	
		この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動操作とColnetへのログイン操作を適切に実施することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。ColnetのユーザIDとパスワードを確認する。	120分
		事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。	120分
2	第一部金 9/25	インターネットの仕組み 理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	インターネットとColnet、ファイルの管理方法 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認	
		この回の到達目標	①②に関連して、インターネットやコンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
		事前学修	「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	120分
		事後学修	1種類目の資料作成を完了する。2種類目の資料に未着手の場合は、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	120分
3	第一部金 10/2	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）： ワークシートを基にしたグループ討議、理解しやすい資料作成のための方法（講義） グループ討議と講義をもとに、理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。	
		この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
		事前学修	1種類目の資料と2種類目の資料を比較検討して、ワークシート（異なる編集方法による資料の比較）に記入する。	120分
		事後学修	講義内容を復習する。	120分
4	第一部金 10/9	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）： 見本にそった2種類の資料作成、テーマをもとにした資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。さらに、学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。	
		この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。さらに、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
		事前学修	2種類目の資料の見本を確認すると共に、操作ガイドを参照して資料の凡その作成方法を掴む。	60分
		事後学修	見本にそった資料作成で課した2種類目の資料の作成が終わっていない場合は完了する。	150分
5	第一部金 10/16	理解しやすい資料の作成 (MS-Word)	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。	
		この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
		事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	150分
		事後学修	テーマをもとにした資料作成の課題が終わっていない場合は作成完了する。	120分
6	第一部金 10/23	理解しやすい資料の作成 (MS-Word) 電子メールの利用	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（作成した資料に対する他者からのフィードバックを得る、また他者の資料を見てフィードバックする）と完成資料の提出 電子メールの利用：完成資料に対する自己評価シートの電子メールによる提出	
		この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのための方法を説明することができる。 ②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
		事前学修	作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	120分
		事後学修	相互評価でのコメントを受けて、修正すべき点を検討し、資料をブラッシュアップして提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (1) : データ分析の基本的な考え方 (講義)、課題(分析テーマ)説明、表計算ソフトであるMS-Excelの 特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力	
		この回の 到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。表計算ソフトである MS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。	
		事前学修	「データの分析と解釈 (MS-Excel)」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-Excelの起動方法、基 本画面を確認し、実際に操作してみる。	120分
		事後学修	講義内容を復習すると共に、課題シートを再読して課題(分析テーマ)全体を概観する。MS-Excelの基本操作 を復習する。	120分
8	第一部金 11/6	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (2) : 測定項目毎の特徴の分析 (数式、関数の活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出でき る。算出値をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、測定項目別の特徴を読み取るこ とができる。	
		事前学修	分析対象データのExcel入力を完了する。	120分
		事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。	120分
9	第一部金 11/13	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (3) : 測定項目毎の特徴の分析 (ヒストグラムの活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。作成したグラ フ (ヒストグラム) をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、測定項目別の特徴を読み取 ることができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、算出した値 (平均や分散など) からわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	測定項目毎のヒストグラム作成が終わっていない場合は完了する。	180分
10	第一部金 11/20	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (4) : 測定項目毎の特徴に関するグループ討議、測定値の比較分 析 (偏差値の活用)	
		この回の 到達目標	③に関連して、読み取った測定項目別の特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏 差値が算出 (測定値の標準化) できる。偏差値をもとに、講義内容 (データ分析の基本的な考え方) を活用して、 各測定値の特徴を読み取ることができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、ヒストグラムからわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	各測定値に対する偏差値の算出および指示したグラフ作成を完了する。	120分
11	第一部金 11/27	データの分析と解釈 (MS-Excel)	データの分析と解釈 (MS-Excel) (5) : 分析レポートの作成	
		この回の 到達目標	③に関連して、課題 (分析テーマ) に対する考察を、読み取った測定項目別の特徴、各測定値の特徴をもとに、算 出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。	
		事前学修	講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴をピックアップする。	120分
		事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。	180分
12	第一部金 12/4	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料 の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資 料の基とする企画書の選択、プレゼンテーション資料の構想を練る	
		この回の 到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができ る。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。	
		事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。 MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。 (2時間)	60分
		事後学修	プレゼンテーション資料の構想がまとまっていない場合、企画書をもとに訴求点を決め掲載情報の絞込みを 行う。MS-PowerPointの基本操作を復習する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 構想にそって、プレゼンテーション資料を作成する。	
		この回の到達目標	④に関連して、MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。	
		事前学修	プレゼンテーション資料作成に必要な写真やイラスト等の参考資料を集める。(2時間)	150分
		事後学修	プレゼンテーション資料の作成を完了する。(2時間)	150分
14	第一部金 12/18	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 口頭発表時の留意点(講義)、プレゼンテーション資料にそった発表シナリオ作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
		この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。	
		事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件(時間他)を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点(訴求点)をピックアップする。	120分
		事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオの作成を完了し提出する。	120分
15	第一部金 12/25	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (4) : 企画プレゼンテーション実施と受講者間での相互評価(プレゼンテーションに対して他者からフィードバックを得る、また他者のプレゼンテーションに対してフィードバックする) 講座全体のまとめ	
		この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。	
		事前学修	プレゼンテーション(口頭発表)の練習をする。	120分
		事後学修	講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認小テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリ（Word、Excel、PowerPoint）を利用する。論文（骨子）、口頭発表、確認小テストに関する講評・解説は授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PowerPointを利用した口頭発表に対し質疑応答や相互評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に指定する				

【オフィスアワー】
授業前後に質問を受け付ける。土曜日12：10～12：40、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の実習を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	【ガイダンス】【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し共有ドライブに提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連しPCの基礎的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。 初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。	120分
		事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。 特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。	120分
2	第一部 土9/26	【情報通信技術の概要】情報処理関連用語の解説、コンピュータとは	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。	120分
		事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標本化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。	120分
3	第一部 土10/3	【情報通信技術と社会】 【授業内小テスト】	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。講義の後、授業内テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、情報セキュリティやネット利用に係る知的財産保護等について理解し実践できる。	
		事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。	120分
		事後学修	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。	120分
4	第一部 土10/10	【実習基礎編1】Wordの基本操作、PowerPointの基本操作	コンピュータの基本操作の確認：Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Windowsの基本を理解し、WordやPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。	
		事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。	60分
		事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。 Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。	180分
5	第一部 土10/17	【実習基礎編2】Excelによるデータ集計、グラフ作成	コンピュータの基本操作の確認：データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解しデータ分析、グラフの作成などを適切に実施できる。	
		事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。	60分
		事後学修	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。	180分
6	第一部 土10/24	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報の利用	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。	
		事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。	120分
		事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】	統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。	
		事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認。	120分
		事後学修	統計学のポイントについて復習する。	120分
8	第一部 土11/7	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文とは	論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。	
		事前学修	これまでに学習した文章作成方法の確認。	120分
		事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。	120分
9	第一部 土11/14	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習	Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用フリーソフトの紹介。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールを適切に利用することができる。	
		事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。	180分
10	第一部 土11/21	【実習応用編2】 オブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習	Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
		事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。	180分
11	第一部 土11/28	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習	【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン設定などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。	
		事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。	180分
12	第一部 土12/5	【実習応用編4】 Wordによる論文（または論文骨子）の作成	Wordによる論文の作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。 参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。	
		事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。	120分
		事後学修	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	【実習応用編5】PowerPointの利用実習	PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、自動プレゼン、ノート・配布資料の作成等）	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、PowerPointのを利用し口頭発表用のスライドを効率的に作成することができる。	
		事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
		事後学修	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。	180分
14	第一部 土12/19	【模擬発表会】PowerPointによるプレゼン	作成した論文のポイントについてPowerPointのスライドショーを実行しながら各自5～10分程度の口頭発表を行う（発表時間は履修人数により調整）。発表後、質疑応答、相互評価ならびに講評を実施する。（コンピュータ・リテラシーBの重点項目）	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを使い適切に口頭発表ができる。	
		事前学修	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。	120分
15	第一部 土12/26	【総まとめ講義】	論文、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
		事前学修	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
		事後学修	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。						1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。						1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。											2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の15回目に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Word 2016 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
よくわかる Excel 2016 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	ガイダンス及び導入講義	本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。キーボードからの文字入力を試す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。	
		事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。	120分
		事後学修	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。	120分
2	9月24日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作1(テキストLesson1～Lesson11)」	ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン1～レッスン11までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
3	10月1日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作2(テキストLesson11～Lesson17)」	ワードのテキストレッスン12～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
4	10月8日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作1(テキストLesson20～Lesson25)」	ワードのテキストレッスン20～レッスン25までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson20～Lesson25を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。	120分
5	10月15日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作2(テキストLesson26～Lesson32)」	ワードのテキストレッスン26～レッスン32までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	ワードのテキストLesson26～Lesson32を予習すること。	120分
		事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。	120分
6	10月22日	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作1(テキストLesson1～Lesson5)」	エクセルのテキストレッスン1～レッスン5までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。	120分
		事後学修	一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 2 (Lesson6～Lesson8)」	エクセルのテキストレッスン6～レッスン8までに 関して、操作方法の説明に基づいて各自操作 する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson6～Lesson8を予習すること。	120分
		事後学修	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。	120分
8	11月5日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 3 (Lesson9～Lesson12)」	エクセルのテキストレッスン9～レッスン12までに 関して、操作方法の説明に基づいて各自操作 する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson9～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。	120分
		事後学修	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。	120分
9	11月12日	テキスト「マイクロソフト エクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」	エクセルのテキストレッスン13～レッスン16までに 関して、操作方法の説明に基づいて各自操作 する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。	120分
		事後学修	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。	120分
10	11月19日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson21)」	エクセルのテキストレッスン18～レッスン21までに 関して、操作方法の説明に基づいて各自操作 する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson18～Lesson21を予習すること。	120分
		事後学修	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
11	12月3日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 2 (Lesson22～Lesson26)」	エクセルのテキストレッスン22～レッスン26までに 関して、操作方法の説明に基づいて各自操作 する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson22～Lesson26を予習すること。	120分
		事後学修	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
12	12月10日	テキスト「マイクロソフト エクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」	エクセルのテキストレッスン27～レッスン30までに 関して、操作方法の説明に基づいて各自操作 する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。	120分
		事後学修	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	パワーポイントの操作	配布したパワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	配布したパワーポイントの教材に関して予習すること。	120分
		事後学修	パワーポイントの操作方法ばかりでなく、レジメを作成できるよう文書を要約できるようにする。	120分
14	12月24日	実技試験 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	講義で行ってきたそれぞれのソフトウェアに関する演習問題の総合的な復習を行うこと。	120分
		事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	1月14日	実技試験の解説	実技試験の解説を行う。あわせて各ソフトウェアの操作方法に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成できること。	
		事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
		事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう実技試験の問題を再度行う。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
		この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
		事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
		事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	9月21日	Wordの基本的な操作（1）	Wordの基本的な操作の確認	
		この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	9月28日	Wordの基本的な操作（2）	ビジネス文書の作成	
		この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
		事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	10月5日	Wordの基本的な操作（3）	インターネットからの情報の収集・加工	
		この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
		事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	10月12日	Wordの基本的な操作（4）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
		この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
		事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	10月19日	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
		この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
		事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
		事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月26日	Excelの基本的な操作（１）	Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認
		この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。
8	11月9日	Excelの基本的な操作（２）	算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成
		この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
9	11月16日	Excelの基本的な操作（３）	算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成
		この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
10	11月23日	Excelの応用的な操作（１）	計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成
		この回の到達目標	BMI 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、BMI 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
11	11月30日	Excelの応用的な操作（２）	アンケートデータの集計とグラフの作成
		この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。
		事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。
12	12月7日	WordとExcelの連携	Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する
		この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。
		事前学修	WordとExcelを同時に使用方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	PowerPointの活用（1）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
		この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
		事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	12月21日	PowerPointの活用（2）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
		この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
		事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
		事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	1月18日	PowerPointの活用（3）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
		この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
		事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
		事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。

【授業方法】
PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第12回、第13回のプレゼンテーションの評価について相互に検討・批評する。 第14回のスモールデータ分析（啓江トレンド分析）について相互に検討し多角的な視点を獲得する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講生が提出した課題やレポートについては、次回の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。 また期末試験も含めた総合的なフィードバックはポータルサイトより行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。				

【オフィスパワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月曜日 9月14日 火曜日 9月15日	現代社会と情報システム	・授業ガイダンス 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
		この回の到達目標	現代社会におけるICT関連課題、法学部情報システム（COLNet）の重要性、またPCの操作技術習得の重要性を理解する。	
		事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)	120分
2	月曜日 9月21日 火曜日 9月22日	情報システムと個人情報の保護 インターネットの光と陰	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門	
		この回の到達目標	個人情報の保護に留意して法学部情報システム（COLNet）の各種ツールを活用できる。	
		事前学修	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
3	月曜日 9月28日 火曜日 9月29日	Microsoft Wordによるリポート作成	・リポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。	
		この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft Wordによるリポート作成技法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キー一覧.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
4	月曜日 10月5日 火曜日 10月6日	Microsoft Wordの各種編集技法の習得	Microsoft Wordの基本操作2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会；インターネットの仕組みとビジネスモデル	
		この回の到達目標	Microsoft Wordの各種編集技法（特に各種DTP技法）を習得する。	
		事前学修	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
5	月曜日 10月12日 火曜日 10月13日	Microsoft Excel入門	Microsoft Excelの基本操作1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能	
		この回の到達目標	Microsoft Excelの入門として基本的な表計算技法を習得する。 またデータの各種保存方法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)	120分
6	月曜日 10月19日 火曜日 10月20日	Microsoft Excelの各種グラフ作成	Microsoft Excelの基本操作2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）	
		この回の到達目標	Microsoft Excelによる基本的なグラフ作成技法を習得する。 またWeb上のデータの検索とダウンロード、その後の編集技法を習得する。	
		事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月曜日 10月26日 火曜日 10月27日	各種組織の公開データの分析的利用	Microsoft Excelの応用操作 1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）	
		この回の到達目標	企業や官公庁の公開データの検索・閲覧・ダウンロードとMicrosoft Excelによるデータベース機能を習得する。	
		事前学修	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B. xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
8	月曜日 11月8日 火曜日 11月9日	電子メールの送受信と個人情報保護の基礎	Microsoft Excelの応用操作 2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）	
		この回の到達目標	学生として公的なNUメールの利用技法とマナー、添付ファイルのパスワード設定等々のネットワーク・エチケットを習得する。	
		事前学修	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析. xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間)	120分
9	月曜日 11月16日 火曜日 11月17日	データ分析の基礎と学術論文作成技法	・ABC分析について ・レポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・レポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理	
		この回の到達目標	データ分析・評価の基礎と学術論文作成に際して基本的な技法を習得する。	
		事前学修	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間)	120分
		事後学修	・論文・レポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間)	120分
10	月曜日 11月23日 火曜日 11月24日	情報発信の基礎	PowerPointによるプレゼン資料の作成 1 （アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成）	
		この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成技法を習得する。	
		事前学修	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
11	月曜日 11月30日 火曜日 12月1日	プレゼンテーションの全体像	PowerPointによるプレゼン資料の作成 2 （聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点）	
		この回の到達目標	プレゼンテーションについて全体的な評価の視点を形成・獲得する。	
		事前学修	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間)	120分
12	月曜日 12月7日 火曜日 12月8日	PowerPointを利用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション 1 （学生によるプレゼンテーション 1）	
		この回の到達目標	学生によるPowerPointを利用したプレゼンテーションに対して理解し、質疑応答への参加、その後の全体的な評価の視点を形成する。	
		事前学修	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月曜日 12月14日 火曜日 12月15日	PowerPointと副次的資料を併用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション2 (学生によるプレゼンテーション2)	
		この回の到達目標	PowerPointとその他資料を併用したプレゼンテーション技法を理解し、各自のプレゼンテーション能力を高める。	
		事前学修	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で作業を進めておく。(2時間)	120分
14	月曜日 12月21日 火曜日 12月22日	ビッグデータの分析	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)	
		この回の到達目標	個人や企業・官公庁等の行動から生成されるビッグデータの分析の基礎としてMicrosoft Excelの最新技法、ピボットテーブルの分析技法を習得する。	
		事前学修	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)	120分
15	月曜日 1月18日 火曜日 1月12日	プログラミング入門 フローチャートとアルゴリズム	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)	
		この回の到達目標	ホームページの構造とプログラミングへの理解の基礎としてHTMLによるホームページの基礎的な作成技法を習得する。	
		事前学修	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)	120分
		事後学修	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	鈴木 正章	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。

【授業方法】
授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									2		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
評価の方法・配点・講評についてポータルサイトを使って受講者に全員に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Windows10対応30時間でマスターWord&Excel2016	実教出版編集部	実教出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日および木曜日の１９：３０ー１９：５０の時間帯で授業講堂で受付ます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 火 (9/15) 第二部 木 (9/17)	【ガイダンス】【授業内容の説明】	Windows10の画面構成および起動・終了、アプリケーションソフト起動・終了、学内パソコンの使い方、情報とメディアの活用法について学修する	
		この回の到達目標	学内パソコンを使って1回目の授業内容について操作ができる。	
		事前学修	教科書の「Windows10の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。	120分
		事後学修	学内パソコン使用について習熟すること。	120分
2	1第二部 火 (9/22) 第二部 木 (9/24)	【インターネット】【Eメール】【課題の提出方法】	学内ネットワークの活用 クラウドの活用	
		この回の到達目標	インターネットやEメールを利用できる。また、学内及び学外パソコンから課題が提出できる。	
		事前学修	Internet Explorerのについて熟読しておくこと	120分
		事後学修	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。	120分
3	第二部 火 (9/29) 第二部 木 (10/4)	【wordの基本】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷	
		この回の到達目標	アプリword2016を使って起動・文字の入力・文書の保存・印刷・終了ができる。	
		事前学修	教科書の「Word2016の基礎的な使い方」について熟読しておくこと。	120分
		事後学修	Word2016の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。	120分
4	第二部 火 (10/6) 第二部 木 (10/8)	【文書作成】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定	
		この回の到達目標	ページの書式設定した文書作成ができる。	
		事前学修	教科書の文書の作成について熟読しておくこと。	120分
		事後学修	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと。	120分
5	第二部 火 (10/13) 第二部 木 (10/15)	【文書の編集(1)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能	
		この回の到達目標	文字のサイズやフォントの変更・箇条書き・表の作成及び編集ができる。	
		事前学修	教科書の編集機能について熟読をしておくこと。	120分
		事後学修	編集機能を使った様々な文書を作成すること。	120分
6	第二部 火 (10/20) 第二部 木 (10/22)	【文書の編集(2)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能	
		この回の到達目標	図・写真・テキストボックスを文書内に挿入できる。	
		事前学修	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。	120分
		事後学修	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 火 (10/27) 第二部 木 (10/29)	【Excelの基本(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成	
		この回の到達目標	Excel2016の画面構成を理解した上で表を作成しデータの入力ができる。	
		事前学修	教科書のExcel2016の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。	120分
		事後学修	Excel2016を使って表を作成できるようにする。	120分
8	第二部 火 (11/10) 第二部 木 (11/5)	【Excelの基本(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入	
		この回の到達目標	表の中に合計・平均などの数式を挿入し計算できる。	
		事前学修	教科書のExcel2016の様々な書式設定を理解しておくこと。	120分
		事後学修	数式の入力と様々な書式設定をして表を作成する。	120分
9	第二部 火 (11/17) 第二部 木 (11/12)	【Excelの基本(3)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成	
		この回の到達目標	Excelのデータから様々なグラフ（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフなど）を作成できる。	
		事前学修	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
		事後学修	表データから様々なグラフを作成する。	120分
10	第二部 火 (11/24) 第二部 木 (11/19)	【Excelの基本(4)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集	
		この回の到達目標	Excelで作成したグラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができる	
		事前学修	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
		事後学修	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。	120分
11	第二部 火 (12/1) 第二部 木 (12/3)	【Excelの活用(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）	
		この回の到達目標	Excelで活用する関数を挿入することができる。	
		事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
		事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分
12	第二部 火 (12/8) 第二部 木 (12/10)	【Excelの活用(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）	
		この回の到達目標	順位づけ・四捨五入・判定・条件による集計の関数が活用できる。	
		事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
		事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 火 (12/15) 第二部 木 (12/17)	【PowerPointの基本(1)】	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計	
		この回の到達目標	PowerPointの画面構成を理解した上で、テーマに基づいたプレゼンテーションの設計ができる・	
		事前学修	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。	120分
		事後学修	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。	120分
14	第二部 火 (12/22) 第二部 木 (12/24)	【PowerPointの基本(2)】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入	
		この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を理解し、活用できる。	
		事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
		事後学修	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。	120分
15	第二部 火 (1/12) 第二部 木 (1/14)	【PowerPointのまとめ】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ	
		この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を使って一つのまとまったプレゼンテーションが作成できる。	
		事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
		事後学修	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。	120分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。				1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。				2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。				1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。				1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。				1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。				1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。				1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。				1	1	1	1	1	1
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
				教科書	
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/15	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/22	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/29	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/6	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/13	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/27	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/3	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/17	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/24	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/8	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
学部間での転部，他大学からの編入学，通信教育部からの転籍者等向けクラス

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが，教室，図書館の利用状況，また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに，グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し，グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し，新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において，より良い成果をあげるために，お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験，自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し，相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	任意
日本大学F Dガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	任意
備考	プリントやパワーポイントを使用する。				

【オフィスアワー】
火曜13～14時 金曜18時～18時30分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法、履修上の注意、授業計画に関する留意事項などについて説明を行う。自己紹介や受講生の交流を行うので、必ず出席すること。教科書は持参しなくても良い。	
		この回の到達目標	クラスのメンバーの顔と名前を覚える。 到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/14	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/21	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/28	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/12	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/26	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/2	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/9	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/16	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/23	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/7	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/14	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。(再履修者向けクラス)

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜11時～12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	9/21	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	9/28	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	10/5	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	10/12	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	10/19	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	11/9	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	11/16	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	11/23	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	11/30	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	12/7	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	12/21	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	1/18	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
学部間での転部，他大学からの編入学，通信教育部からの転籍者等向けクラス

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）にありますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/13	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/20	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/27	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/4	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/11	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/25	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6/1	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/8	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/15	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/22	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/6	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
前学期に「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	9/26	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	10/3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	10/10	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	10/17	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	10/24	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	11/7	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	11/14	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	11/21	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	11/28	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	12/5	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	12/18	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	12/26	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎の学修事項を確認し、質問があれば準備しておく。	180分
		事後学修	後学期の内容をふりかえる。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。(再履修者向けクラス)

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30府b¥ん（事前にメールでアポイントメントをとること）、研究室：本館7階1714室、メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を授業に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4月17日	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4月24日	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	5月1日	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5月8日	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5月15日	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5月29日	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	6月5日	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6月12日	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6月19日	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6月26日	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7月10日	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7月17日	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
前学期に「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学F Dガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
					必携
					必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	9/26	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	10/3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	10/10	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	10/17	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	10/24	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	11/7	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	11/14	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	11/21	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	11/28	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	12/5	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	12/18	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	12/26	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎の学修事項を確認し、質問があれば準備しておく。	180分
		事後学修	後学期の内容をふりかえる。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	舘野 正生	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。(再履修者向けクラス)

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						2	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
		事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	4/11	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
		事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	4/18	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
		事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	4/25	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
		事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	5/2	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
		事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	5/9	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
		事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	5/23	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
		事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	5/30	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
		事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	6/6	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
		事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	6/13	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
		事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	6/20	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
		事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	7/4	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
		事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
		事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	7/11	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。校学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
		事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/23	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/30	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/7	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/14	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	10/21	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	11/11	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	11/18	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	11/25	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	12/2	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	12/9	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	12/23	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	1/13	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
学部間での転部、他大学からの編入学、通信教育部からの転籍者等向けクラス

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。前半期に課題図書の予習とグループディスカッションを通じて研究テーマを発見、後半は設定したテーマについてグループワーク・発表・論文執筆を行う。したがって下記の授業区分通りにはならない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の終わりまたは最初に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	その他	任意
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		その他	任意
備考	共通テキストは教室で指示する。				

【オフィスアワー】
火曜13時～14時 金曜18時～18時30分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/22	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/29	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/6	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/13	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	10/20	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	11/10	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	11/17	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	11/24	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	12/1	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	12/8	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	12/22	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	1/12	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。(自主創造の基礎Ⅰは修得済みである者)

【授業方法】
参加型(能動的)学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加型(能動的)学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜11時～12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。120分
2	4/13	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分
3	4/20	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。120分
4	4/27	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。
		事前学修	発表のリハーサルを行う。120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。120分
5	5/4	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。120分
6	5/11	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	5/25	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	6/1	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	6/8	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	6/15	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	6/22	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	7/6	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	7/13	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
学部間での転部、他大学からの編入学、通信教育部からの転籍者等向けクラス

【授業方法】
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）にありますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/21	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	9/28	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/5	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/12	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	10/19	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	11/9	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	11/16	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	11/23	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	11/30	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	12/7	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	12/21	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	1/18	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。（自主創造の基礎Ⅰは修得済みである者）

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	4/11	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	4/18	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	4/25	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	5/2	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	5/9	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	5/23	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	5/30	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	6/6	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	6/13	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	6/20	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	7/4	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	7/11	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントをとること）、研究室：本館7階1714室、メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を授業に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9月25日	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10月2日	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10月9日	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10月16日	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	10月23日	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	11月6日	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	11月13日	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	11月20日	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	11月27日	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	12月4日	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	12月18日	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12月25日	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。(自主創造の基礎Ⅰは修得済みである者)

【授業方法】
参加型(能動的)学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加型(能動的)学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	4/11	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	4/18	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	4/25	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	5/2	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	5/9	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	5/23	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	5/30	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	6/6	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	6/13	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	6/20	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	7/4	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	7/11	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2020年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2020	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※入学時に配付したもの		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。 ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
		事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	9/26	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	10/3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	10/10	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	10/17	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
		事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	10/24	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	11/7	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	11/14	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	11/21	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
		事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	11/28	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
		事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	12/5	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
		事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
		事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
		事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	12/19	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
		事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
		事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	12/26	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
		事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
		事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	日本国憲法	担当者	田上 雄大	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○							

【授業の概要】
憲法は、国の最高法規であり、国民主権・人権尊重・平和主義などの基本原則をベースとした「国家統治の基本法」であり、「人権保障のバイブル」である。本講義では、日本国憲法を素材とし、重要箇所の条文解釈を学修するが、同時に、最新の憲法問題を数多く知ること、憲法を身近なものとして学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、市民としての正しい政治的判断ができるようになるために、憲法（人権・統治機構）の基礎知識を身につけ、日本国憲法の将来を展望する能力を修得する。また、学説・判例の学修を通じて、法的・論理的思考力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式。配布したレジュメに沿って講義を行う。学生の興味関心などに応じて、シラバスの内容から多少変更される可能性がある。そのため、フレキシブルな姿勢で講義にのぞむことが求められる。なお、受講するうえで少なくとも日本国憲法や明治憲法の条文を必要に応じて講義中に確認できる状態にしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	立憲主義をはじめとする憲法の基礎的な概念を説明できる。					2							
②	日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明できる。					2							
③	日本国憲法に定める統治機構の概要を説明できる。					2							
④	憲法問題を議論し、日本国憲法の将来を展望できる。					2							
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	35	35								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④に関連して、グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかどうかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じてリアクションペーパー等を配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法（Next教科書シリーズ）第二版	齋藤康輝, 高畑英一郎 (編集)	弘文堂	平成29	参考書	任意
六法（デイリー六法、ポケット六法など）				参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後（水曜日 5 限、二部 2 限）に学内の開かれたスペースまたは講義する（した）講堂で行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	【ガイダンス】【憲法の役割】	1、ガイダンスを行い、今後の講義の進め方について説明する。 2、憲法を学ぶうえで基礎となる憲法の役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の講義進行を理解し、これに向けた学習体制を確立すること及び憲法の役割を理解し、説明することができる。	
		事前学修	1、シラバスを確認し、今後の学修計画を構想しておくこと。 2、憲法とはどのようなものか考えておくこと。	120分
		事後学修	1、ガイダンスを踏まえて学修計画を具体化すること。 2、憲法の役割について整理しておくこと。	120分
2	9/23	【主権】	国家体制と主権とのかかわりなどを理解するとともに、主権の持つさまざまな意味について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、主権の概念を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	主権のさまざまな意味を整理し、まとめておくこと。	120分
3	9/30	【天皇の地位と権能】	諸外国にはない日本国憲法の特徴である天皇の憲法上の地位や皇室制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇や皇室制度の特徴を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	天皇や皇室制度の概要をまとめておくこと。	120分
4	10/7	【戦争放棄】	日本国憲法に関する議論の中心にあることが少なくない憲法9条の成り立ちや解釈について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、憲法9条の成立過程や解釈を理解し、そのうえで自衛権について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	憲法9条の成立過程や自衛権の解釈についてまとめておくこと。	120分
5	10/14	【基本的人権とその限界】	基本的人権の歴史を理解するとともに、その種類や限界について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、基本的人権の性質を理解し、その保障と限界について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	基本的人権の歴史や特徴をまとめておくこと。	120分
6	10/21	【法の下での平等】	差別と区別との違いを理解するとともに、憲法上の平等と平等の範囲外について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、さまざまな平等の種類を理解したうえで、平等の例外や弊害について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	平等のあり方とその例外についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	【思想・良心の自由】【信教の自由】【政教分離】	精神的な営みの役割を理解するとともに、内心の自由、信教の自由及び政教分離について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、人間の精神的な活動と憲法とのかかわりを理解したうえで、その限界や政教分離の意義について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	内心の自由や信教の自由の意義、政教分離の形態についてまとめること。	120分
8	11/11	【表現の自由】【学問の自由】	表現の自由がさまざまな活動の根幹にあることを理解するとともに、その保障と制約の態様や学問の自由について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、表現の自由や学問の自由の重要性を理解し、その制約のあり方について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	表現の自由にかかわる問題についてまとめること。	120分
9	11/18	【身体的自由権】【経済的自由権】	身体的自由権や経済的自由権の意義を理解するとともに、その特徴や事例について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、身体的自由権や経済的自由権の意義を理解し、さまざまな事例に照らして説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	これまで学習した各種自由権についてまとめること。	120分
10	11/25	【参政権】	参政権が国民固有の権利であることを理解するとともに、国民の主権の行使の一形態ともいえる参政権の重要性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、参政権の重要性を理解し、参政権にかかわる諸問題について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	参政権の意義についてまとめること。	120分
11	12/2	【教育を受ける権利】	教育権の所在を理解するとともに、教育を受ける権利の意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、教育権の所在を理解し、教育権のあり方について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	教育権にかかわる問題についてまとめること。	120分
12	12/9	【労働者の権利】	労働者の権利の保障の重要性を理解するとともに、勤労権や労働基本権について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、勤労権や労働基本権を理解し、労働者が権利を持つことの重要性について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	労働者の権利についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	【立法】【行政】	国民の代表たる機関の役割を理解するとともに、立法権、行政権の性質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、立法権や行政権の役割を理解し、その特徴や限界について説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	国会や内閣の概要についてまとめること。	120分
14	12/23	【司法】【憲法尊重擁護義務】【憲法改正】	裁判員や憲法改正国民投票といった国民がかかわりうる制度のシステムを理解するとともに、司法権や裁判員制度、憲法尊重擁護義務、憲法改正について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、 1、司法権の役割や裁判員制度の概要 2、憲法尊重擁護義務の意義、憲法改正の概要 を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	司法の役割や裁判員制度の概要、憲法尊重擁護義務の意義、憲法改正の概要についてまとめること。	120分
15	1/13	【試験】【まとめ】	1、授業内試験を実施する。 2、これまでの講義のまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学習したことを理解し、自らの見解を踏まえて論理的に説明することができる。	
		事前学修	今までの講義を振り返り、自らの見解を整理しておくことが望ましい。	180分
		事後学修	今までの講義や試験を踏まえて改めて見解をまとめることが望ましい。	120分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
初回授業で「日本近現代史の中の日本大学」、各種参考資料・「参考図」などを配布して、これらを活用して講義を中心に進めていく。そのほかに「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価を盛り込んで授業を展開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。					1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。					1						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について達成ができていないかを、論述試験により評価する。授業内試験を予定しているが、履修者数により、定期試験とする場合がある。	40	30	10								80
小テスト等	授業内容に課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
レポート等	到達目標①に関わり講義中に課す小レポートにより、 (1) 講義内容が把握できているか、(2) 講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
山田顕義と萩	松原太郎	萩ものがたり	2019	教科書	必携
日本近現代史の中の日本大学〔『研究紀要』日本大学文理学部〕	古川隆久	日本大学文理学部	2017	教科書	必携
「山田顕義に関するリーフレット」	日本大学広報部	日本大学広報部		参考書	推奨
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考	「日本近現代史の中の日本大学」〔『研究紀要』日本大学文理学部〕は印刷して、「山田顕義に関するリーフレット」とともに配布します。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	教育制度史からみた日本大学史	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史について説明できる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	120分
2	4/13	山田顕義と幕末の倒幕運動	幕末の状況について概述しつつ、山田の誕生、藩校・松下村塾での学び、さらに倒幕運動での活躍を考える。松下村塾での教育が、今日でいうアクティブ・ラーニングとよべるものであったことを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と倒幕運動について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と幕末の倒幕運動」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と幕末の倒幕運動の展開について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。	150分
3	4/20	山田顕義と明治維新	明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と明治維新について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
4	4/27	山田顕義と法典編纂	条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
5	5/4	山田顕義と大津事件	大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
6	5/11	山田「建白書」を読む	山田顕義の残した「建白書」を読み、彼の考えを知る。さらに山田顕義の「建白書」に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「山田の建白書」の主張に関するピア評価を実施する。小レポートは解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田「建白書」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	日本における高等機関の誕生と発展	東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の問題と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関・司法制度について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生・司法制度の整備について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本における高等機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
8	5/25	日本法律学校の創設	山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに山田顕義と法律学校との関係に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「日本法律学校と山田顕義との関係」を解答しピア評価を実施する。小レポートについて解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校の創設について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の創設の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
9	6/1	専門学校令と「日本大学」	日本大学は専門学校令によって法令上、学校となった。大学となつたものの、法令上は大学ではなかった。専門学校令前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、専門学校令と「日本大学」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「専門学校」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	専門学校令と「日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
10	6/8	大学令と日本大学	大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大学令」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
11	6/15	日本大学の発展	大正時代から昭和初期における高等教育機関の発展と「学問の自由」について把握し、大学自治、日本大学の発展と社会的な要請を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の発展・拡充について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の日本大学の発展に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本大学の発展について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
12	6/22	太平洋戦争と日本大学	戦時体制の下の大学のおかれた状況を把握し、戦時下の大学、太平洋戦争と日本大学について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、太平洋戦争の時代の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の太平洋戦争と日本大学に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	太平洋戦争と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	新制日本大学から今日の日本大学	新制大学の誕生の意義を考える。新制日本大学から、高度成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度成長時代の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の新制日本大学の誕生から今日の日本大学までを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
14	7/6	講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	再度、試験問題を解く。参考書を読む。	150分
15	7/13	試験解説、講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。参考書を読む。	150分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
初回授業で「日本近現代史の中の日本大学」、各種参考資料・「参考図」などを配布して、これらを活用して講義を中心に進めていく。そのほかに「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価を盛り込んで授業を展開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。						1						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について達成ができていないかを、論述試験により評価する。授業内試験を予定しているが、履修者数により、定期試験とする場合がある。	40	30	10								80
小テスト等	授業内容に課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
レポート等	到達目標①に関わり講義中に課す小レポートにより、 (1) 講義内容が把握できているか、(2) 講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
山田顕義と萩	松原太郎	萩ものがたり	2019	教科書	必携
日本近現代史の中の日本大学〔『研究紀要』日本大学文理学部〕	古川隆久	日本大学文理学部	2017	教科書	必携
「山田顕義に関するリーフレット」	日本大学広報部	日本大学広報部		参考書	推奨
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考	「日本近現代史の中の日本大学」〔『研究紀要』日本大学文理学部〕は印刷して、「山田顕義に関するリーフレット」とともに配布します。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	教育制度史からみた日本大学史	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史について説明できる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	30分
		事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	120分
2	9/21	山田顕義と幕末の倒幕運動	幕末の状況について概述しつつ、山田の誕生、藩校・松下村塾での学び、さらに倒幕運動での活躍を考える。松下村塾での教育が、今日でいうアクティブ・ラーニングとよべるものであったことを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と倒幕運動について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と幕末の倒幕運動」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と幕末の倒幕運動の展開について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。	150分
3	9/28	山田顕義と明治維新	明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と明治維新について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
4	10/5	山田顕義と法典編纂	条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
5	10/12	山田顕義と大津事件	大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
6	10/19	山田「建白書」を読む	山田顕義の残した「建白書」を読み、彼の考えを知る。さらに山田顕義の「建白書」に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「山田の建白書」の主張に関するピア評価を実施する。小レポートは解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田「建白書」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	日本における高等機関の誕生と発展	東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の問題と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関・司法制度について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生・司法制度の整備について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本における高等機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
8	11/9	日本法律学校の創設	山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに山田顕義と法律学校との関係に関する「振り返りシート」を使った小レポートを作成し、別紙に「日本法律学校と山田顕義との関係」を解答しピア評価を実施する。小レポートについて解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校の創設について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の創設の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
9	11/16	専門学校令と「日本大学」	日本大学は専門学校令によって法令上、学校となった。大学となつたものの、法令上は大学ではなかった。専門学校令前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、専門学校令と「日本大学」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「専門学校」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	専門学校令と「日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
10	11/23	大学令と日本大学	大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されている「大学令」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
11	11/30	日本大学の発展	大正時代から昭和初期における高等教育機関の発展と「学問の自由」について把握し、大学自治、日本大学の発展と社会的な要請を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の発展・拡充について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の日本大学の発展に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	日本大学の発展について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
12	12/7	太平洋戦争と日本大学	戦時体制の下の大学のおかれた状況を把握し、戦時下の大学、太平洋戦争と日本大学について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、太平洋戦争の時代の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の太平洋戦争と日本大学に関係するところを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	太平洋戦争と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	新制日本大学から今日の日本大学	新制大学の誕生の意義を考える。新制日本大学から、高度成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度成長時代の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	「教科書」の新制日本大学の誕生から今日の日本大学までを精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分
14	12/21	講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	再度、試験問題を解く。参考書を読む。	150分
15	1/18	試験解説、講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。参考書を読む。	150分

Ⅱ 群

総合科目

Ⅱ 群

総合科目

科目名	アジアの歴史Ⅰ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
中華民国の成立・清朝の滅亡から国民党による中国統一にいたるまでを概述しつつ、この期に展開された政治思想・政治体制をテーマと取り上げて講義を進める。20世紀はじめに共和国となった中国は、国内政治は混迷し、しかも日本をふくめた欧米列強に主権が奪われた状態にあった。1910年代から20年代の中国史の展開を、「袁世凱の政治思想」、「孫文の革命思想－三序や賢人政治」、中国ナショナリズムの高揚と諸列強、孫文の死と蔣介石の台頭、訓政と憲政、などを取り上げて詳述したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
中国近代史についての知識・理解を発展・深化させるために、基礎的な事項を確認しつつ、この時代の基本的な認識を獲得し、出来事の歴史的な意義や、その出来事と歴史との関係づけられる能力を修得する。さらに学んだ認識を論理的に説明できる能力を修得する。

【履修条件】
履修条件はありません。歴史に興味がある学生、中国史に興味がある学生で、自立的に学ぶ学生なら大歓迎です。

【授業方法】		
講義を主としますが、それぞれの授業の冒頭に「事前確認シート」を使って事前学習について確認をし、当日のテーマを講義します。テーマの終了時には「振り返りシート」を使い、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	清朝末期から民国初期までの、中国近代史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、19世紀末から20世紀初頭の中国における、列強の侵略とその抵抗を把握し、学んだことをもとに、自らの見解を明らかにできる。						2	2	2	2				
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験かは受講者数に応じて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
革命とナショナリズム 1925-1945 〈シリーズ中国近現代史③〉	石川禎浩	岩波書店（岩波新書）	2010	教科書	必携
対立と共存の日中関係史 〈叢書 東アジアの近現代史 2〉	中村元哉	講談社	2017	参考書	任意
東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編	名古屋大学出版会	2007	参考書	任意
近代国家への模索 1894-1925 〈シリーズ中国近現代史②〉	川島真	岩波書店（岩波新書）	2010	参考書	任意
世界大戦と国民形成 新編 原典中国近代思想史 第4巻	坂元ひろ子ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
国家建設と民族自救 新編 原典中国近代思想史 第5巻	野村浩一ほか編	岩波書店	2011	その他	任意
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017	その他	任意
備考	適宜、参考文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7 4/8	中国史の近代とは－開講にあたって－／20世紀の中国史と憲政	本科目の趣旨や授業運営の方法を説明する。そのうえで、20世紀の中国史と憲政について講述する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、20世紀の中国史と憲政について説明できる。	
		事前学修	(1) シラバスを熟読して履修を検討する。(2) テキストを購入して読んでみる。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
2	4/13 4/14 4/15	辛亥革命から民国の成立へ	辛亥革命によって成立した共和国は、大総統の地位が、なぜ孫文から袁世凱へ権力の移譲が行われなければならないのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、辛亥革命から袁世凱の大総統就任の中国の状況について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
3	4/20 4/21 4/22	袁世凱政権	袁世凱の独裁への道、さらに帝制への政治の展開を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、袁世凱政権の展開を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
4	4/27 4/28 4/29	袁世凱の政治思想	「国を盗んだ大泥棒」という評価がある袁世凱であるが、独裁制をめざす袁世凱にも彼なりの考えがあったことを考える。、	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、袁世凱の政治思想を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業内容を1500字程度にまとめる。	120分
5	5/4 5/5 5/6	孫文と陳独秀－賢人政治と大衆の啓蒙	孫文と陳独秀についてとりあげ、2人がどのような大衆認識のもとに、大衆に対応したかを考える。その後、孫文と陳独秀について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孫文と陳独秀－賢人政治と大衆の啓蒙－について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
6	5/11 5/12 5/13	袁世凱の死と中国－軍閥割拠－	袁世凱の死がもたらした中国の政治状況について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、袁世凱の死と中国－軍閥割拠－について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19 5/20	北京政府と第一次世界大戦	第一次世界大戦後の中国についての国際的な地位・列強との関係を考える。その後、第一次世界大戦と中国の関係について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国と第一次世界大戦について説明できるとともに、自らの見解を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
8	5/25 5/26 5/27	国共合作の成立	軍閥割拠の混乱のなかにあつて、コミンテルンのはたらきかけによる新しい動き、すなわち共産党の誕生、国民党の改組、さらに国共合作について、その意義を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国共合作の成立の意義を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
9	6/1 6/2 6/3	孫文の死と国民党・共産党	孫文の死によって、その志を受け継いだ勢力がどのように展開したかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、孫文の死と国民党・共産党の展開について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
10	6/8 6/9 6/10	蒋介石の台頭と共産党	孫文の死後、どのようにして蒋介石が台頭し、また共産党との関係がどうなったかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、蒋介石の台頭と共産党について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
11	6/15 6/16 6/17	国民政府による中国の統一	国民政府による中国の統一は、どのように展開したか、その意義や特徴を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民政府による中国の統一について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
12	6/22 6/23 6/24	軍政から訓政へー中華民国訓政時期約法ー	国民党による中国統一期を憲政から考える。孫文の「三序」と関係の小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、軍政から訓政へー中華民国訓政時期約法ーの意味や特徴を説明できるとともに、自らの見解を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30 7/1	国民党の内紛から蔣汪合作体制	国民党の内紛から蔣汪合作体制について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民党の内紛から蔣汪合作体制について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
14	7/6 7/7 7/8	「アジアの歴史Ⅰ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題をときながら、教科書・参考書を味読して知識・理解を深める。	150分
15	7/13 7/14 7/15	試験解説、「アジアの歴史Ⅰ」に関する講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、1920年代の中国について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、教科書・参考書にあたりながら本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度試験を解く。	90分

科目名	アジアの歴史Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
1920年代から1940年代までの中国近代史を学ぶ。第一次世界大戦後、中国の国際的な地位は向上し、列強は高揚する中国のナショナリズムに協調して対応していった。そのなかで、二十一カ条要求を契機に日中関係は悪化し、1930年代には満州事変、日中戦争へと、日本との戦争の時代をむかえた。これらがどのように推移し、両国間のその後の歴史を規定したかを講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
すでに知っている第一次世界大戦後の中国近代史の基礎的な事項を、さらに発展・深化させるために、歴史的な展開を論理的に説明でき、さらに出来事の歴史的な意義や、その出来事がのち歴史をいかに規定したかを関係づけられる能力を修得する。20世紀初めの日中関係はいかなる展開をしたを説明できる能力を修得する。

【履修条件】
履修条件はありません。歴史に興味がある学生、中国史に興味がある学生で、自立的に学ぶ学生なら大歓迎です。

【授業方法】
講義を主としますが、それぞれの授業の冒頭に「事前確認シート」を使って事前学習を確認して、当日のテーマを講義します。そして最後には「振り返りシート」を使い、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	1920年代から40年代の、中国近代史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、1920年代から40年代までの中国における、国民党と共産党の協力と対立、日本の侵略を把握し、学んだことをもとに、自らの見解を明らかにできる。					2	2	2	2				
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験かは受講者数に応じて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
革命とナショナリズム 1925-1945 〈シリーズ中国近現代史③〉	石川禎浩	岩波新書	2010	教科書	必携
対立と共存の日中関係史 〈叢書 東アジアの近現代史 2〉	中村元哉	講談社	2017	参考書	推奨
東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編	名古屋大学出版会	2007	参考書	任意
東アジア近現代通史（上）－19世紀から現代まで	和田春樹ほか	岩波書店	2014	参考書	推奨
世界大戦と国民形成 新編 原典中国近代思想史 第4巻	坂元ひろ子ほか編	岩波書店	2010	参考書	任意
国家建設と民族自救 新編 原典中国近代思想史 第5巻	野村浩一ほか編	岩波書店	2011	その他	任意
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017	その他	任意
備考	適宜、参考文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15 9/16	近代東アジアのなかの中国・朝鮮・日本	近代東アジアのなかの中国・朝鮮・日本の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代東アジアのなかの中国・朝鮮・日本の関係を説明できる。	
		事前学修	(1) シラバスを熟読して履修を検討する。(2) テキストを購入して読んでみる。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
2	9/21 9/22 9/23	19世紀初頭までの満洲	19世紀初頭までの満洲について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀初頭までの満洲についての概観を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
3	9/28 9/29 9/30	ロシアの朝鮮進出と日清戦争	満洲と朝鮮半島をめぐるロシアと日本の進出・動向	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、満洲と朝鮮半島をめぐるロシアと日本の進出・動向を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業内容を1500字程度にまとめる。	120分
4	10/5 10/6 10/7	日露戦争と満鉄誕生	日露戦争と満鉄誕生、日本にとって満洲のもつ意味を考える。その後、19世紀初頭から日露戦争後までの満洲について的小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、満洲に関して19世紀初頭から日露戦争と満鉄誕生までを説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
5	10/12 10/13 10/14	第一次世界大戦と二十一条要求	二十一条要求と列強の対応と、二十一条要求が日中両国の関係のターニングポイントであったことを考える。その後、二十一条要求に関する小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二十一条要求と列強の対応と、この要求が日中両国の関係のターニングポイントであったことを説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
6	10/19 10/20 10/21	奉天軍閥－張作霖・張学良・郭松齢－	軍閥割拠のなかで奉天軍閥の動向と日本との関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、軍閥割拠のなかで奉天軍閥の動向と日本との関係を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。	120分
		事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27 10/28	北京政府の「修正外交」から国民政府の「革命外交」	1920年代から30年代の中国の外交関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国共産党の誕生と国共合作の過程と、そのもつ意義を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
8	11/09 11/10 11/12	満洲事変の勃発と満洲国の建国	謀略ではじまった戦争について満洲事変について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、謀略ではじまった戦争について満洲事変について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
9	11/16 11/17 11/18	日本の華北侵略と西安事件	満洲国建国後の日本の華北侵攻と西安事件のもつ意味を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、満洲国建国後の日本の華北侵攻と西安事件までの展開とその歴史的意義を説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
10	11/23 11/24 11/25	盧溝橋事件	なぜ日本軍が北京にいたかを検討し、日中戦争が偶発ではじまった戦争であることを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日中戦争が何故偶発ではじまった戦争であることを説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
11	11/30 12/01 12/02	日中戦争	日中戦争の展開について検討し、その後、満洲事変と日中戦争の勃発についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日中戦争の展開とその諸相、さらに国際関係について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
12	12/07 12/08 12/09	戦時下の中国と傀儡政権	戦時下の中国と傀儡政権の展開について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦時下の中国と傀儡政権について説明できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15 12/16	日中の戦争からより大きな戦争へ	日中戦争と太平洋戦争の関係を検討する。その後、日中戦争と太平洋戦争の関係についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日中戦争と太平洋戦争の関係を理解できる。	
		事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
		事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。	120分
14	12/21 12/22 12/23	「アジアの歴史Ⅱ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	150分
15	1/12 1/13 1/18	試験解説、「アジアの歴史Ⅱ」に関する講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第一次世界大戦から太平洋戦争までの中国の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	90分

科目名	学際教養A【東京の社会文化史】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当のこの講義では、「東京の社会文化史」と題して、都市論のさまざまなアプローチを織り込みながら、明治・大正・昭和の東京に関するトピックスを掘り下げ、この巨大都市の変化とその特質を考察する。その際、特に地域社会構造（コミュニティ）や生活文化などに重点を置きながら検討する（具体的なトピックスは、講義計画を参照のこと）。同時に、受講生とともにこれからの都市への向き合い方を考える場としたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」（Bコース）の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
東京の過去・現在・未来に関心を持つ者、街歩きが好きな者を歓迎する。単位だけが欲しいという者、参加意欲のない者の履修はお断りします。

【授業方法】		
レジュメとパワーポイント・画像・映像を使用し、時折ディスカッションや小レポートなどを通じて参加型の形式を取り入れる。宿題を課すこともある。課外でフィールドワークを行うこともある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントカード。ピア・レビュー。フィールドワーク。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力								
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力								
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力								
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力								
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2							
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2							
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2							
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															
【成績評価の方法・基準・割合】					到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身につけているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。				30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。				10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。				10										10
討論・発表等															
授業への参画度															
その他()															
その他()															
その他()															
到達目標別の比率(%)					50	30	20								100
【課題に対するフィードバックの方法】															
講評をポータルサイトで発表															

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。講義中に読書リストを配布する。				
【オフィスアワー】					
火曜13:00～14:00 金曜18:00～18:30 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史資料や公文書の保存・公開の重要性。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	「東京の社会文化史」とは どういう講義か	さまざまな都市へのアプローチを踏まえ、本講義の狙いと視点、講義概要を説明する。 評価方法、単位取得条件、注意事項、文献紹介についても言及する。	
		この回の 到達目標	本講義の狙いを理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読して、頭に入れておく。特に講義の趣旨や全体像を概観しておく。	120分
		事後学修	ガイダンス資料を熟読しながら、履修を検討する。	120分
2	4/14	東京遷都	江戸幕府を崩壊させた明治新政府は、なぜ江戸への遷都を選んだのだろうか。	
		この回の 到達目標	東京遷都の歴史過程と遷都戦略の意味を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
3	4/21	明治の東京改造	江戸幕府の崩壊によって荒廃した街をどのように復興させていくのか。 明治の東京改造の試みや構想を分析し、封建都市から近代都市へ脱却の意味を考える。	
		この回の 到達目標	明治のまちづくりの歴史的意義を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 なぜ東京を改造しなくてはならなかったかを考えてみる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
4	4/28	下町の社会構造と暮らし	江戸との連続性の強い下町の住民像と生活様式を分析し、明治の下町の地域社会のあり方から考 える。	
		この回の 到達目標	「下町」的なものの原型を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「下町」についての自分のイメージをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
5	5/5	山の手の主婦の日記を読む	明治30年代の山の手の主婦が書いた日記を分析し、下町とは相対的に異なった「山の手」の生活 様式や地域社会のあり方について考える。	
		この回の 到達目標	「山の手」的なものの原型を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「小林信子日記」を読んで、レポートをまとめる（宿題）。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
6	5/12	最暗黒の東京 ——都市下層社会論	都市スラム（都市下層社会）がどのようなものであり、なぜ形成されたのか、そこを「最暗黒」 と名指しするような視線（眼差し）が市民の間に生まれたのはなぜか。	
		この回の 到達目標	都市空間の格差や差別についての視点を獲得する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「スラム」についての自分のイメージをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	工業化と地域社会 ——新下町論	東京の工業化に伴って生まれた地域社会＝「新下町」の社会構造や生活様式の特質について分析する。	
		この回の到達目標	「下町」的なものの変容について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。月島は「下町」か？、自分の答えをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
8	5/26	郊外の思想と住宅地形成	東京の人口が飽和し都市問題が発生する中で、「郊外」の価値が発見される。そのなかでイギリスの「田園都市」思想が日本に紹介されるが、日本的な変容を遂げ定着していく。	
		この回の到達目標	日本における郊外住宅地形成の過程を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「郊外」についての自分のイメージをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
9	6/2	百貨店と商業空間の変容	百貨店の誕生を取り上げ、都市空間の消費化について考える。	
		この回の到達目標	都市の発展と消費社会化との関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「百貨店」に関わる自分の体験をまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
10	6/9	関東大震災と朝鮮人虐殺	関東大震災の被害を概観したうえで、その直後に起こった朝鮮人虐殺事件の実態とその背景について考える。	
		この回の到達目標	都市空間における差別と不平等への視点を獲得し、「共生の作法」の重要性を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。関東大震災について知っていることを書き出す。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
11	6/16	震災復興と都市構造の変容	関東大震災後の復興事業の実施過程や内容を検討する。	
		この回の到達目標	土地区画整理事業をはじめとする復興事業の意義や問題点を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。震災復興で出来た施設を挙げる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
12	6/23	東京の盛り場論(1)——浅草	江戸時代から続く宗教的盛り場である浅草を取り上げ、変容し続ける娯楽空間のダイナミズムを考える。	
		この回の到達目標	「盛り場」とは何か、その活力の源泉についての考え方を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。盛り場とは何か、自分なりの考えをまとめる。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	東京の盛り場論(2)―銀座・新宿	震災後の「モダン東京」を象徴する盛り場である銀座・新宿を取り上げ、都市構造の変容と盛り場の変容との関係を考える。	
		この回の到達目標	都市構造の変容と盛り場の変容との関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。銀座と新宿のイメージを自分なりにまとめる	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
14	7/7	戦争と東京 ――地域の組織化と空襲による破壊	戦時下における都市住民の組織化と地域社会の変容、および戦争末期の東京大空襲の実態を踏まえ、「都市は戦争できない」というテーゼについて考える。	
		この回の到達目標	戦争という「非日常」の経験を媒介にして、都市の「日常」への視点を得る。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。自分の地域の町内会や空襲について調べておく。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
15	7/14	まとめ 都市への向き合い方（ディスカッション）	近代都市東京の歴史を素材として、都市の諸相について検討してきた本講義を振り返り、「都市への向き合い方」を考えるディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	自分なりの「都市への向き合い方」を思考し、伝達することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返る。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

科目名	学際教養A【中国の社会文化】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。齋藤担当の学際教養Aでは【中国の社会文化】について講義をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。適宜、資料・史料・地図・各種の「参考図」などを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。					2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
天下と天朝の中国史	檀上寛	岩波書店（新書）	2016	参考書	推奨
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店（ジュニア新書	2004	参考書	推奨
中国の論理	岡本隆司	中央公論新社（新書）	2016	参考書	推奨
漢字の文化史	阿辻哲次	筑摩書房（学芸文庫）	2007	参考書	任意
三国志演義	井波律子	岩波書店（新書）	1994	参考書	任意
二十世紀中国の革命と農村	田原史起	山川出版社	2008	参考書	任意
中国近代史	岡本隆司	筑摩書房（新書）	2013	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。上記以外の参考書については授業のなかで、適宜、紹介してゆく。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（４号館１階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/8	中国の帝王像		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。その上で、中国において理想とする帝王像を考える。中華たる中国人が周辺諸民族にとった差異の論理について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の帝王像について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の帝王像について、神話・伝説との関係を把握し、さらに適宜参考文献にあたっ てノートに整理しておく。	120分
2	4/15	帝王の呼び名と社会文化の規範		中国では、本名のほかにいくつもの「名前」が付けられ、呼び方などについて社会のルールがで きあがった。名前と社会ルールの関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、帝王の名・名前の社会的な関係について説明できるとともに、自らの見解を述べるこ とできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、帝王の呼び名について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、帝王の呼び名について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	4/22	中国における文書行政の成立		中国における文書行政について検討したい。文字と記録紙の使用・普及があって各種の行政が可 能となり、また円滑に処理できるようになった。文字と記録紙の発明・普及と文書行政の関係を 考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文字・記録紙の普及と文書行政の関係について説明できるとともに、自らの見解を述 べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、 文字（漢字）や文書行政について要点をノートに整理しておくこ と。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、漢字の起源・発展と文書行政について、適宜参考文献にあたってノートに整理してお く。	150分
4	4/29	天命思想の成立と展開		中国の歴代王朝の正統性、為政者や政権の担い手、文化人が共有した天命思想は、王朝の政治・ 支配にとって必須のものであった。天命思想と政治・支配の関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天命思想と政治・支配との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べるこ とできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、天命思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、天命思想と政治・支配との関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理して おく。	150分
5	5/6	革命思想・識緯思想		革命思想と識緯思想が、王朝の政治・支配の正当性・儀式形成に大きな影響をあたえ、また支配 者が援用したことを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、革命思想・識緯思想が王朝の政治や支配体制に大きな影響を与えたことについて説明 できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、革命思想・識緯思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、革命思想・識緯思想が王朝の政治や支配体制に大きな影響を与えたことについて、適 宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
6	5/13	正当性からみた支配と支配秩序 皇帝と王朝		帝王・皇帝たる人物は有徳者であることが絶対条件であった。有徳者は文化的な価値の体現者 で、その「徳」は儒教から由来するものであること考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正当性からみた皇帝支配とその秩序について説明できるとともに、自らの見解を述べ ることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、皇帝と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、正当性からみた皇帝支配とその秩序について、適宜参考文献にあたってノートに整理 しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/20	中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性		中国では新王朝成立後、その王朝は支配の正当性の1つとして前王朝の歴史を編纂した（正史）。正史の編纂は国家事業として取り組まれ、その歴史書には体裁などに原則がみられた。歴史書の体裁を守り受け継ぐことが新王朝に求められた。文化と国家事業の関係を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の歴史書にみられる「皇帝誕生」と「求められた理想像」の共通性について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
8	5/27	民衆世界の英雄（ヒーロー）		中国の通俗小説にみられる人物に着目して、民衆の英雄像をとらえて、民衆の意識を考える。また正史『三国志』と『三国志演義』を比較して考える。その後、『三国志』と『三国志演義』についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民衆世界の英雄像、『三国志』と『三国志演義』について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、『三国志』と『三国志演義』について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、『三国志』と『三国志演義』を比較し、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
9	6/3	民間信仰と地域社会とその秩序		中国では、支配者・知識人が価値をおいた思想や信仰のほかに、民間信仰があった。農民や漁民、商人の精神的な拠りどころになった信仰したと、彼らによる地域・集団の「規範」について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民間信仰と地域・集団の「規範」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、民間信仰と地域社会とその秩序について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、民間信仰と地域社会とその秩序について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
10	6/10	中国の王朝による全国統一と東西交流		中国の歴史は、王朝による統一と分裂の時代であった。全国統一がもつ意味と交流によって中国にもたらされた文物が社会に浸透し、やがて規範や秩序に影響を与えたことを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の王朝による全国統一と東西交流について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の王朝による全国統一と東西交流について、文化と規範秩序の関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
11	6/17	前近代中国における法と政治―法・権力・権勢の関係		法家思想と政治 前近代中国における政治において、法と統治、さらに法律がもつ意味を法家思想との関わりで考える。その後、法家思想と政治について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をおこなう。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前近代中国における法・法と統治について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代中国における法・法と統治について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、前近代中国における法・法と統治について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	6/24	前近代中国における法と刑罰 身分と法	前近代中国における刑罰について、良民・賤民という身分や男尊女卑という意識がどのように刑罰等に反映されたかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、身分と法について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、前近代中国における法と刑罰について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
13	7/1	前近代中国における家族 - 婚姻・「同居共財」	前近代における家を取りあげ、家族・宗族にみられる意識がどのように社会の規範を成り立たせていたかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前近代中国の家についての意識と社会の規範との関係をについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代中国の家について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、前近代中国の家についての意識と社会の規範との関係をについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
14	7/8	中国に関する「社会文化論A」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	150分
15	7/15	試験解説、中国に関する「社会文化論A」に関する講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する社会文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	90分

科目名	学際教養A【沖縄表象文化論】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当のこの講義では、「沖縄表象文化論」と題して、人類学を中心とした人文科学の方法論を主に用い、近現代の沖縄に関する具体的なできごとやイメージを扱う。特異な文化と歴史を有する沖縄を取り巻く現代社会の政治的状況を鑑みつつ、構造的差別、国民国家、平和主義といった沖縄とともに問うべき普遍的問題群について考察する。何かを平易な形で他者に伝えることよりも、自分に伝えられるかどうかに力を集めるような諸相において、表象そのものが傾く意味について丁寧に考えていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。

【授業方法】
毎回の討議、グループワーク、レビューシートの提出、場合によってはレポートの提出を求める。ゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。		2	2	2	2			
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。		2	2	2	2			
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2	2	2	2			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	前富西一馬、勝方＝稲福恵子	昭和堂	2010年	教科書	必携
備考	資料等適宜配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日14:30～15:00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会における文化の役割やその政治性についての議論を通して教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		イントロダクション 沖縄と学ぶことの意味について考える	沖縄学についての歴史、現状および沖縄を対象とする様々な人文・社会科学の諸領域についての概略を述べる	
		この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時に自分なりの問題設定を確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読し、沖縄を学ぶことの自分なりの意義について言語化し整理しておく。	120分
		事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2		琉球・沖縄の歴史と言語 1	沖縄における言語的世界の概観とそのリアリティについて考える。	
		この回の到達目標	沖縄という具体的な場所で、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの経験や定義をまとめておく	120分
		事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3		琉球・沖縄の歴史と言語 2	沖縄における言語的世界のリアリティをめぐる諸問題について考える。	
		この回の到達目標	沖縄の歴史という具体的な時間でのなかで、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの困難な経験や印象的なできごとをまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4		文化の翻訳 1	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
		この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージについてまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5		文化の翻訳 2	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
		この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6		文化の翻訳 3	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品やできごとを扱った批評や論考を通して考える。	
		この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを扱った批評や論考を通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、社会における沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく	120分
		事後学修	沖縄を扱う具体的な批評や論考についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や論争などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		芸術・芸能を味わう 1	沖縄の伝統芸能におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。 ゲストスピーカーを囲んで討議を予定する。	
		この回の到達目標	伝統芸能の世界における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄の伝統文化のイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄の伝統文化についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
8		芸術・芸能を味わう 2	現代美術におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
		この回の到達目標	現代美術の舞台における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄のアートのイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄を中心とする日本における現代美術についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
9		芸術・芸能を味わう 3	観光やショービジネスを中心とするメディアにおけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
		この回の到達目標	観光やショービジネスを中心とする沖縄の文化産物における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、沖縄のイメージがどのように形成されてきたかを自分なりにまとめておく	120分
		事後学修	沖縄を中心とする日本における文化産物についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
10		宗教と信仰の世界 1	王権論と世界観について考える。	
		この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきた王権論について考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分なりの宗教や信仰のイメージについてまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄と日本における王権論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。	120分
11		宗教と信仰の世界 2	シャーマニズムについて考える。	
		この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきたシャーマニズム論について考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分自身が持っている宗教的世界観や信仰に対するリアリティについてまとめておく。	120分
		事後学修	沖縄と日本におけるシャーマニズム論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。	120分
12		戦争の記憶と基地問題 1	具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、共同体について考える。	
		この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して共同体のあり方を議論する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分自身が接してきた戦争関連のニュースや基地問題に関する言説についてまとめておく。	120分
		事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		戦争の記憶と基地問題 2	具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、国民国家について考える。	
		この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して国民国家のあり方を議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、戦争の記憶と基地問題をめぐる議論についてまとめておく。	120分
		事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
14		復帰と反復帰について	同化と異化の問題を文学と政治の領域で考える。	
		この回の到達目標	アイデンティティやエスニシティといった分析概念を整理しつつ、そこからこぼれ落ちるリアルな民族誌的風景を考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、日本と沖縄の関係性をめぐる議論についてまとめておく。	120分
		事後学修	復帰と反復帰についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された論考などに触れる。	120分
15		まとめ	これまでのトピックをもとに、沖縄と学ぶアリーナの内と外で討議を行う。	
		この回の到達目標	講義内容とレビューシートへのフィードバックを振り返り、沖縄の文化や社会に対するイメージの変化について議論する。同時に自分自身の言葉が生まれることによって、世界が活気を帯びる様子を共有する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、沖縄の文化や歴史について自分なりの言葉で整理をする。	120分
		事後学修	これまでの資料やノートを見直して講義内容を復習する。期末レポートを作成する。	120分

科目名	学際教養B【近代日本の戦争と社会】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当のこの講義では、「近代日本の戦争と社会」と題して、戦争や軍隊と社会との関係を歴史的に考察する。戦史や兵器にフォーカスする授業ではない。なぜ人びとは兵士となることを受け入れたのか？、庶民はどのように戦争と関わりを持ったのか？、兵隊はどのように戦い、どのように死んでいったのか？ このような素朴な疑問に導かれながら、戦時下の兵士や市民のリアルに迫るとともに、彼らの意識や行動を社会構造の問題としても捉えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
本講義は軍事史や戦史を扱うものではない。初回に出席して、講義の趣旨を良く理解してから履修すること。勉学意欲のない者や単位だけが欲しいという者は履修しないでほしい。

【授業方法】
レジュメとパワーポイント、映像を使用する。ディスカッションを随時行う。コメントカードや振り返りシートの提出などを求める。こちらの問題提起に対し、自分なりに思考し、あるいは発言をするなど、授業に積極的に参加して欲しい。展示施設への見学会も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントカード。小レポート。フィールドワーク。ピア・レビュー。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2	2	2								
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。					2	2	2	2								
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。					2	2	2	2								
④																	
⑤																	
⑥																	
⑦																	
⑧																	
⑨																	
⑩																	
【成績評価の方法・基準・割合】						到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法		評価基準				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／授業内試験)		到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。				30	30	20									80
小テスト等		到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。				10											10
レポート等		テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。				10											10
討論・発表等																	
授業への参画度																	
その他()																	
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)						50	30	20									100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
講評はポータルサイトで発表する。																	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。読書リストは授業中に配布する。				
【オフィスアワー】					
火曜13:00～14:00 金曜18:00～18:30 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について教育する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション——戦場を想像することの意味	現代日本人の戦争観の一端を紹介し、それを踏まえながら本講義の問題意識や狙い、視角を説明する。 あわせて、講義計画や履修上の注意について述べる。	
		この回の到達目標	本講義の趣旨を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。講義の趣旨を良く理解する。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
2	9/22	国民国家と軍隊	近代における戦死者の数の増大や戦争形態の変化をもたらした国民国家について比較史的に考える。	
		この回の到達目標	国民国家概念の理解の上に立って、国民国家と戦争・軍隊との関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。国民国家についての知識を確認しておく。	120分
		事後学修	国民国家と軍隊との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
3	9/29	戦争とナショナリズム——日清戦争を中心に	日清戦争を事例に戦争とナショナリズムとの関係について考える。	
		この回の到達目標	ナショナリズムが戦争や軍隊に与える影響と、戦争や軍隊がナショナリズム形成に与える影響について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。ナショナリズムについて知っていることをまとめる。	120分
		事後学修	戦争とナショナリズムとの関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
4	10/6	総力戦体験と戦争違法化——第一次世界大戦の意義	総力戦という形態をと、それが生み出した惨禍が戦争の違法化という新しい理念を生み出したことを中心に、第一次世界大戦の歴史的意義を考察する。	
		この回の到達目標	戦争社会史のうえでの第一次世界大戦の歴史的意義について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦について知っていることをまとめる。	120分
		事後学修	戦争の歴史にとつての第一次世界大戦の意義を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
5	10/13	「良兵」を作り出す社会——軍隊と社会構造	なぜ徴兵制が受容されたのかを社会構造の問題として考える。	
		この回の到達目標	軍隊を支える社会的な基盤を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の軍隊についてのイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	軍隊と社会構造との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
6	10/20	戦場の兵士——軍事郵便や兵士の日記を読む	兵士が家族などに当てた手紙や兵士の日記を素材に、戦場での兵士の体験や意識を探る。	
		この回の到達目標	戦場の実態や兵士の置かれた状況をリアルに認識するとともに、日本軍兵士の蛮行の構造的要因を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦場では何が起こっていたか、知っていることをまとめる。	120分
		事後学修	日本軍兵士の蛮行の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	マス・メディアと「大衆の国民化」——満州事変を例として	満州事変期の排外主義的ナショナリズムの高揚についてのマス・メディアの役割を考える。	
		この回の到達目標	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変についての知識を確認しておく。	120分
		事後学修	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
8	11/10	総力戦体制と国民(1) ——国民の精神・身体の動員	総力戦体制下の国民動員政策について考察する。	
		この回の到達目標	思想・身体の動員システムについて理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「総力戦」に関する知識を確認しておく。	120分
		事後学修	国民の精神・身体の動員メカニズムを中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
9	11/17	総力戦体制と国民(2) ——強制と同意	総力戦体制下の国民動員がなぜ可能であったのかを、システムの強制性と同意の契機の両側面から考察する。	
		この回の到達目標	総力戦体制と国民との関係を構造的・重層的に捉える視点を獲得する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。国民は戦争の被害者であるか？、考えをまとめておく。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
10	11/24	しょうけい館（戦傷病者資料館）見学会	九段下にあるしょうけい館（戦傷病者資料館）を見学し、等身大の兵士の姿や軍隊のシステム、戦場の実態と過酷な従軍体験、戦後の傷痍軍人が置かれた状況等について学ぶ。	
		この回の到達目標	展示物から戦争や軍隊のリアリティを学び取る。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。しょうけい館のWEBサイトをみて、施設の概要を確認しておく。	120分
		事後学修	見学で感じたこと、学んだことをレポートにまとめる。	120分
11	12/1	ピア・レビューとディスカッション	しょうけい館の見学レポートについてのピア・レビューを実施、そこで出た論点について全体でディスカッションする。	
		この回の到達目標	多様な意見に触れることで、戦争や軍隊のリアリティに関する理解や戦争と社会との関係についての学びを深める。	
		事前学修	しょうけい館の見学レポートを執筆する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容やピア・レビューでの指摘を振り返る。関連する文献を読む。	120分
12	12/8	兵士たちの無残な死 ——餓死・玉砕死・特攻死	映像や手記、証言などを通じて、戦場における悲惨な状況を明らかにし、その構造的要因について考える。	
		この回の到達目標	戦場の実態や兵士たちの死に方の特異性や構造的要因を理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦死に意味があるのか？、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	無残な死の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	チョウ・ムンサンの遺書 ——極限下の人間から何を学べるか？	B C級戦犯として処刑された朝鮮人軍属の遺書を読み、戦争における生と死、罪と罰について考える。	
		この回の到達目標	戦争における加害と被害の重層性という問題への理解を深める。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦犯や戦争裁判についての知識を確認する。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
14	12/22	戦争の「傷痕」 ——忘れられた戦争犠牲	「忘れられた皇軍」などの映像を視聴し、戦争の記憶と忘却に関わる諸問題を考える。	
		この回の到達目標	「戦争の記憶」をめぐる問題の所在を理解し、それについて考えることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦争はいつ終わるのか、戦後はいつ終わるのか？、自分なりの答えをまとめる。	120分
		事後学修	日本の戦後処理の特質を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
15	1/12	おわりに	まとめのディスカッション	
		この回の到達目標	講義内容を振り返り、あるいはディスカッションにおける他の受講生の発言に触れることを通じ、自らの達成や認識の変化を確認し、今後の課題を考えることができる。	
		事前学修	講義内容を復習する。講義を通じて、自分の戦争観、さらには人間観や社会観どのような変化があったのか、ディスカッションでの発言を考えておく。	120分
		事後学修	プリントやノートを見直して講義内容・ディスカッションでの議論を復習する。 関連する文献を読む。期末レポートを執筆する。	120分

科目名	学際教養B【中華世界の諸相】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。齋藤担当の学際教養Bでは【中華世界の諸相】について講義をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。適宜、資料・史料・地図・各種の「参考図」などを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
天下と天朝の中国史	檀上寛	岩波書店（新書）	2016	参考書	推奨
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店（ジュニア新書）	2004	参考書	推奨
中国の論理	岡本隆司	中央公論新社（新書）	2016	参考書	推奨
はじめて学ぶ中国思想：思想たちとの対話	渡邊義浩ほか編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
科学と官僚制	平田茂樹	山川出版社	1997	参考書	任意
儒教の歴史〔宗教の世界史 5〕	小島 毅	山川出版社	2017	参考書	任意
仏教の歴史2〔宗教の世界史 4〕	末木文美士編	山川出版社	2018	参考書	任意
道教の歴史〔宗教の世界史6〕	横手 裕	山川出版社	2015	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。上記以外の参考書については授業のなかで、適宜、紹介してゆく。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（４号館１階412研究室） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/16	華夷思想と中華世界		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。その上で、華夷思想の成立と展開を考える。中華たる中国人が周辺諸民族にとった差異の論理について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、華夷思想と中華世界について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	9/23	中華思想と中華世界の国際秩序－東アジアの国際秩序		中華思想にもとづいた国際秩序が成立した東アジアについて、中華思想と東アジア国際関係について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華世界の国際秩序について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中華世界の世界秩序について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中華世界の国際秩序について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	9/30	朝貢・冊封体制 朝貢と交易のネットワーク		朝貢冊封関係を求める中国王朝には、「皇帝の徳の広がり」と周辺諸地域の皇帝への敬慕」という意識があった。中国王朝の意識と「朝貢冊封体制」という対外関係について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朝貢・冊封体制と中国王朝の対外意識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、朝貢冊封体制について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、朝貢・冊封と中国王朝の対外意識との関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
4	10/7	中華世界の崩壊と万国公法（国際法）		アヘン戦争の敗北によって、中国は国際法の社会に参入した。しかしスミーズに新たな国際秩序に加われたわけではなかった。外国との戦争をへて、はじめてなされたもので、前近代中国人の意識と戦争との関係を考える。その後、中華世界についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また、小テストの解説をする。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華世界の崩壊と万国公法（国際法）について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中華世界の崩壊と万国公法（国際法）について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中華世界の崩壊と万国公法（国際法）について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
5	10/14	科举以前の官吏登用法と地域社会		秦代に官僚制度が整った中国では、多くの行政官が必要となった。科举以前にも官吏登用法が実施され人材が確保された。官僚とし求められた文物や基準は、実務を遂行していくにあたっての知識・技能ではなかった。そこで求められたものは何かを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科举以前の官吏登用法と地域社会について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、科举以前の官吏登用法と地域社会について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、科举以前の官吏登用法と地域社会について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
6	10/21	科举の成立－導入・展開・発展と皇帝権力の関係－		科举は唐代で成立し、20世紀初頭までつづいた。試験による選抜であるが、そこに求められたのは実務を遂行するための基礎的な知識ではなかった。文人としての文化的な素養（漢詩・書道など）であった。社会的指導者に求められたものと、実際の政治との関係について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科举と、その試験に求められた教養について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、科举について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、官僚・行政官の採用・任用にあたって求められたものについて、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	中国の農村	農民たちの暮らしと地域との関係をふまえて農村統治のあり方と王朝の教化との関係を、また近代にみられた農村における統治と土地革命について検討して、そこにみられる施策と文化の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の農村について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の農村について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の農村について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
8	11/11	中国の都市	前近代中国の都市の特徴と、都市の唐代から宋代の変容を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の都市について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の都市について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国の都市について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
9	11/18	中国思想	中国の古典思想を概略し、思想と王朝や社会との関係にふれて考える。思想と社会との関係について、9回～13回の授業において具体的に考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国思想について要点をノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、中国思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	120分
10	11/25	儒教と王朝	儒教思想の形成・発展をとらえるとともに、王朝との関係においていかに政治や施策に反映したかを考える。その後、儒教と王朝についての小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、儒教と王朝との関係において儒教がいかに政治・施策に反映したか説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、儒教と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、儒教と王朝について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
11	12/2	儒教思想と朝鮮半島・日本	儒教思想の朝鮮半島・日本における広がりとともに、儒教を受容した朝鮮半島・日本での政治や施策、社会通念との関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教を受容した朝鮮半島・日本での政治や施策、社会通念との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、儒教思想と朝鮮半島・日本について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、教を受容した朝鮮半島・日本での政治や施策、社会通念との関係について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
12	12/9	仏教思想と王朝	インドから伝来した仏教が、東アジアで広がり変容し、さらに政治をはじめ諸政策に如何に影響をあたえたか、その関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仏教思想が政治をはじめ諸政策に如何に影響を与えたかを説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、仏教思想と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、仏教思想が政治をはじめ諸政策に如何に影響を与えたか、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	道教思想と王朝	道教の源流となる思想はいくつもあるが、それが道教として成立した。この道教が政治をはじめ諸政策に影響をあたえ、また日常生活における「規範」「信仰」となった。政治や生活において如何に影響をあたえたか、両者の関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、道教思想と王朝の諸政策、生活における「規範」「信仰」との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、道教思想と王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	授業の内容を復習し、について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
14	12/23	中国に関する「社会文化論B」に関する講義総括、授業内試験	中国に関する「社会文化論B」に関する講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する「社会文化論」に関する基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題を解く	150分
15	1/13	試験解説、中国に関する「社会文化論B」に関する講義総括	中国に関する「社会文化論B」に関する試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する社会文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	90分

科目名	学際教養B【マイノリティ・スタディーズ】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当のこの講義では、「マイノリティ・スタディーズ」と題して、現代社会における様々なマイノリティを取り巻く諸問題と可能性を取り上げる。最新の文化理論や具体的な時事的問題を紹介しつつ、当事者性、エスニシティ、セクシュアリティなどの領域を、言語・文化・権力を軸に考察する。誰かのことばと世界や社会が天秤にかけられゆらめく均衡に、自分の考えや経験を小さな錘（おもり）として丁寧に載せ置く作業が求められます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】 文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。特に当事者性を有する、もしくは強い関心のある者の参加を望む。
--

【授業方法】 毎回の討議、グループワーク、レビューシートの提出、場合によってはレポートの提出を求める。ゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。		30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。		10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。		10										10
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	50	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。資料等適宜配布する。				
【オフィスアワー】					
金曜日14:30～15:00					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。		
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会におけるエンパワーメントの重要性やアイデンティティ・ポリティクスの課題などの議論を通して教育する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		イントロダクション マイノリティと学ぶことの意味について考える	マイノリティ・スタディーズという領域の可能性と問題について考える。	
		この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時にマイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読し、マイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について自分なりにまとめておく。	120分
		事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2		マイノリティとは誰か。	本講義で扱う様々なマイノリティの問題群をどのように学んでいくか、その形式を自ら選択するために議論する。	
		この回の到達目標	マイノリティの問題と可能性を学ぶことの意義とその方法について議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分なりにマイノリティを学ぶ意義とその方法についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3		少数的意見を聴く 1	ホームレスから移民、就職活動や婚活まで、様々な社会的問題と個人的活動を、マイノリティの視点を通して見つめたときに浮かび上がるシステムについて整理する。特に資本主義の問題について扱う。	
		この回の到達目標	資本主義社会における諸条件を考察することで見えてくるマイノリティの姿を考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「経済」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4		少数的意見を聴く 2	ジェンダー、LGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
		この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を考察することで見えてくるマイノリティの意味を考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5		少数的意見を聴く 3	ジェンダー、JGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
		この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を、具体的な作品を通して考察することで見えてくるマイノリティの可能性を考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6		少数的立場に立つ 1	集団における個のあり方を、エスニシティ、人種問題という条件を通して議論する。	
		この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人のリアリティを、エスニシティ・人種という条件を通して歴史的に考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された事件や作品などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		少数的立場に立つ2	エスニシティ、人種問題について具体的な作品や事件を通して議論する。	
		この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人の可能性を、エスニシティ・人種という条件を通して民族誌的に考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめる。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。	120分
8		少数的立場に立つ3	マイノリティの立場について、同化と異化の視点から議論する。ゲスト・スピーカーを囲む予定。	
		この回の到達目標	マイノリティの立場について、具体的な声を通して同化と異化の視点から議論する。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめる。	120分
		事後学修	ゲスト・スピーカーの語りを中心に、配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。	120分
9		当事者とは誰か	当事者性をめぐる問題について議論する。	
		この回の到達目標	マイノリティの語りに接するときに不可避に生じる当事者性の問題について考える。	
		事前学修	前回のゲスト・スピーカーの語りに応答するレポートを作成する。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。	120分
10		研究者とは誰か	マイノリティを代弁するもしくは代表する立場を取る「研究者」という立場の功罪について議論する。	
		この回の到達目標	マイノリティを研究する行為のメタレベルを問う議論の倫理的意味について考える。	
		事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、マイノリティと学ぶ可能性における研究者の役割についてまとめる。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。	120分
11		病と老いについて	「マイノリティになる」最も身近な事例のひとつとして、疾病と老化をとりあげ議論する。	
		この回の到達目標	制度や文化におけるマイノリティの役割について考える。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティという概念を自らの実人生の文脈に位置づける作業を行う。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品などに触れる。	120分
12		多文化主義について	マイノリティの声に対して社会がどのように応答してきたか、その具体的政策のひとつとして、多文化主義の歴史と課題を紹介する。	
		この回の到達目標	アメリカ社会における多文化主義の功罪について具体的な資料をもとに議論する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、多文化主義について自分のことばでまとめる。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		学校文化について	いじめ問題やスクール・カーストなど我々の社会の重要な装置としての教育に潜む課題ついて、マイノリティの視点から議論する。	
		この回の到達目標	誰もが共有する学校空間における「マイノリティ」の経験について言語化する作業を行う。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自らの学校生活について自分のことばで振り返っておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
14		社会運動について	日本における典型的なマイノリティの社会問題とされてきた基地問題を取り上げ、「現地との温度差」を軸に議論する。	
		この回の到達目標	具体的なドキュメンタリー作品を通して、基地問題について議論する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と自分自身の社会性を切り結ぶ作業を共有する。	120分
		事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
15		まとめ	これまで扱ってきた様々なマイノリティの問題群をもとに、その可能性を中心にまとめの討議を行う。	
		この回の到達目標	これまで学んできたことを振り返り、自分の言葉で整理する。	
		事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と可能性をめぐって自分自身との繋がりをあらためて考える。	120分
		事後学修	これまでの資料やノートを見直して、講義内容を復習する。期末レポート作成の準備をする。	120分

科目名	科学の歴史Ⅰ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準として評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会の中の科学』	中島秀人	放送大学教育振興会	2008	参考書	任意
『<科学の発想>をたずねて自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦	左右社	2010	参考書	任意
『科学の社会史―ルネサンスから20世紀まで』	古川安	南窓社，1989年；増訂版，2001年；ちくま学芸文庫版，2018年		参考書	任意
『科学史技術史事典〔縮刷版〕』		弘文堂	1994年	参考書	任意
『日本語の作文技術』	本多勝一	朝日文庫，1982年(新版，2015年)	1982年	参考書	任意
『レポートの組み立て方』	木下是雄	ちくま学芸文庫	1990年	参考書	任意
備考	その他，高校生のときに使用した世界史の教科書があれば，それも参考書とする。				

【オフィスアワー】
授業時間の前後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4月8日 第二部 4月8日	ガイダンス，「科学」とは何か？	・授業の目的，進め方，評価方法を説明する。 ・人類が遺した遺跡史料などを通じて，人類が自然についてどのように見ていたのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，人類が自然についてどのような見方をしていたのかを説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
2	第一部 4月15日 第二部 4月15日	「科学」の始まり	古代オリエント文明における「科学」（自然に関する体系的な見方のこと）の特徴について理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，古代オリエント文明の「科学」の特徴について理解して，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
3	第一部 4月22日 第二部 4月22日	古代ギリシアの「科学」	古代ギリシア時代の代表的な「科学」者であるタレスからアリストテレスの自然観について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，古代ギリシア時代の代表的な「科学」，すなわち当時の自然観について，その特徴を理解して，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
4	第一部 4月29日 第二部 4月29日	ヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」	古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について，その特徴を理解して，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
5	第一部 5月6日 第二部 5月6日	アラビアの「科学」	古代ギリシアの「科学」ひきつぎ，イスラム教を中心としたアラビア世界で発達した「科学」について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，アラビアの「科学」について，その特徴を理解し，説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分
6	第一部 5月13日 第二部 5月13日	12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」	中世欧州における「科学」の発達と，アラビアの「科学」を導入した欧州で起こった「12世紀ルネサンス」について，その特徴を理解する．	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」について，その特徴を理解し説明できる．	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと．また配布資料の該当箇所をよく読むこと．	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと．また参考資料に目を通すことが望ましい．	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5月20日 第二部 5月20日	近代科学の誕生(1) コペルニクスの天文学と地動説	近代科学のはじまりとなったコペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
8	第一部 5月27日 第二部 5月27日	近代科学の誕生(2) ティコとケプラーの天文学	コペルニクスの地動説を発展させたティコとケプラーの天文学について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ティコとケプラーの天文学について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
9	第一部 6月3日 第二部 6月3日	近代科学の誕生(3) ガリレオ・ガリレイの科学	近代科学の成立においてガリレオ・ガリレイの成し遂げた業績について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガリレオ・ガリレイの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
10	第一部 6月10日 第二部 6月10日	近代科学の誕生(4) ニュートンと力学の成立	近代科学の誕生をもたらしたといえる力学におけるニュートンの業績について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニュートンの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
11	第一部 6月17日 第二部 6月17日	近代科学の誕生(5) ラヴォワジエと近代化学の成立	近代的な化学の成立において重要な貢献をなしたラヴォワジエの業績について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ラヴォワジエの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
12	第一部 6月24日 第二部 6月24日	産業革命と科学・技術・社会 (1) 産業革命を支えた発明家たち	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、それを支えた発明家たちの業績を中心に、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命を支えた発明家たちの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7月1日 第二部 7月1日	産業革命と科学・技術・社会（2）産業革命と社会の変革	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、どのような社会変革がもたらされたのか、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命における社会変革について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	第一部 7月8日 第二部 7月8日	進化論の成立ーダーウィンと進化論	ダーウィンの進化論がどのように成立したのかについて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ダーウィンの進化論について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	第一部 7月15日 第二部 7月15日	科学の制度化と職業的科学者の誕生	19世紀にすすんだ科学の制度化と職業的な科学者の誕生したことについて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学の制度化と職業的な科学者の誕生について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	科学の歴史Ⅱ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史（特に近現代）を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準として評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会の中の科学』	中島秀人	放送大学教育振興会	2008	参考書	任意
『<科学の発想>をたずねて自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦	左右社	2010	参考書	任意
『科学の社会史―ルネサンスから20世紀まで』	古川安	南窓社，1989年；増訂版，2001年；ちくま学芸文庫版，2018年		参考書	任意
『科学史技術史事典〔縮刷版〕』		弘文堂	1994年	参考書	任意
『日本語の作文技術』	本多勝一	朝日文庫，1982年(新版，2015年)	1982年	参考書	任意
『レポートの組み立て方』	木下是雄	ちくま学芸文庫	1990年	参考書	任意
『科学者ってなんだ？』	梶雅範編	丸善	2007年	参考書	任意
備考	その他，高校生のときに使用した世界史の教科書があれば，それも参考書とする。				

【オフィスアワー】
授業時間の前後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9月16日 第二部 9月16日	ガイダンス 現代の科学と社会	・授業の目的、進め方、評価方法を説明する。 ・19世紀以降の現代の科学は、それ以前の科学と比べて、その規模が拡大しただけでなく、社会と深く結びつくようになった。現代の科学の特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学と社会の特徴について考え、説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
2	第一部 9月23日 第二部 9月23日	19世紀の化学産業と第一次世界大戦	19世紀の化学産業と20世紀初頭に起こった第一次世界大戦について、主に科学者のフリッツ・ハーバーの生涯を通じて、科学と国家の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、19世紀の化学産業と第一次世界大戦について理解して、説明できる。	
		事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
3	第一部 9月30日 第二部 9月30日	20世紀の物理学	20世紀に物理学は大きな変革を遂げたが、放射能の発見に関する科学と社会の関係を通じて、物理学の変革について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、20世紀の物理学の変革について、その特徴を理解して、説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
4	第一部 10月7日 第二部 10月7日	20世紀の戦争と科学1	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史について、その特徴を理解して、説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
5	第一部 10月14日 第二部 10月14日	20世紀の戦争と科学2	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。現代に通じる科学の研究体制が形成された第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解し、説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
6	第一部 10月21日 第二部 10月21日	20世紀の戦争と科学3	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。第二次世界大戦の終結後の冷戦の時代の科学について、インターネット構想の起源などを通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、冷戦の時代の科学について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10月28日 第二部 10月28日	日本における科学と政治(1)	日本における科学と政治について、原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
8	第一部 11月11日 第二部 11月11日	日本における科学と政治(2)	日本における科学と政治について、科学に関する日米関係の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学に関する日米関係の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史のの該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
9	第一部 11月18日 第二部 11月18日	日本における科学と政治3	日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
10	第一部 11月25日 第二部 11月25日	現代の科学研究の実際(1)	現代の科学研究の実際について、現代の生物学研究を事例にして、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
11	第一部 12月2日 第二部 12月2日	現代の科学研究の実際(2)	現代の科学研究の実際について、DNA二重らせん構造の発見における人間と社会の関係を事例にして、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
12	第一部 12月9日 第二部 12月9日	現代の科学研究の実際(3)	現代の科学研究の実際について、一つの学術論文が作成されるまでと、それに関する論文捏造問題の事例を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術論文と論文捏造問題について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12月16日 第二部 12月16日	現代の科学・技術の諸問題 (1)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題である水俣病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題である水俣病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	第一部 12月23日 第二部 12月23日	現代の科学・技術の諸問題 (2)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題であるイタイイタイ病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題であるイタイイタイ病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	第一部 1月13日 第二部 1月13日	現代の科学・技術の諸問題 (3)	現代の科学・技術の諸問題について、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊が「発見」され、その対策がなされる歴史を通じて、その特徴を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊の発見と対策について、その特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
		事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	環境論Ⅰ	担当者	佐々木 夏来	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
環境論とは、人間と自然環境との関係に関する理論であり、古くは古代ギリシアより近代的理論へ通じる議論がおこなわれてきた。近代日本においては、急激な産業発展にともなって公害問題が拡大し、近年の社会・経済のグローバル化で地球環境問題は世界の共通認識になった。本科目では、我々の身近な環境問題から地球環境問題についての具体的事例学習を通して、環境問題発生の仕組みを理解し、課題解決に向けた主体的な考察ができるようになることを目的とする。毎回、授業の最後（授業時間内）に小レポートを課し、授業で取り上げたテーマについて、自分なりの課題解決策を考えてもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
世の中で起きている現象とその主体である人間と自然環境の関係について、公平な立場に立って正しく理解し、課題解決に向けて主体的な考察ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリントを用いた講義形式。毎回、授業の最後に各回のテーマに関する小レポートを課す。定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また、前学期中の授業内において、プレゼン及びグループディスカッションを含む授業を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。				2	2				2		
②	学生が、主体性をもって環境問題の抽出をおこない、自分の意見を提示出来るようになる。					2	2	2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に対して適切に回答する内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	第10回の授業におけるプレゼン及びディスカッションにおいて説明および意見交換の内容を基準に、到達目標②にかかわる能力を評価する。		20									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
授業後の講堂で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 火4/7 水4/8 第二部 火4/7	ガイダンスー環境とは何かー	前期授業内容の説明，評価方法の説明，「環境」という言葉の意味は？「環境」という概念の歴史の変遷
		この回の到達目標	前期授業内容の把握，評価方法の理解，「環境」という単語の意味を理解し説明できる。（SB0 s ①）
		事前学修	シラバス内容の理解120分
		事後学修	前期授業計画と授業内容の理解120分
2	第一部 火4/14 水4/15 第二部 火4/14	環境問題とは	環境問題の定義，環境論とは何を学ぶ学問分野か？
		この回の到達目標	環境問題という言葉の理解，環境論にて学ぶ対象を理解し説明できる（SB0 s ①）
		事前学修	過去から現在にかけて、どのような環境問題が発生してきたか関心をもつ120分
		事後学修	個々人の持つ環境のイメージと実際の環境および環境問題の定義との関係性を理解する120分
3	第一部 火4/21 水4/22 第二部 火4/21	環境問題と社会構造の歴史	近代以降の環境問題の歴史の変遷と社会構造の変化を読み解く
		この回の到達目標	公害から地球環境問題へ，環境問題の歴史の変遷を学び，社会構造の変化とのかかわりを説明できる（SB0 s ①）
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める120分
		事後学修	環境問題の歴史の変遷を理解し，将来，新たにどのような問題が発生しうるか考える120分
4	第一部 火4/28 水4/29 第二部 火4/28	自然環境と人間活動	自然環境と人間活動の相互作用と環境問題発生メカニズムを学ぶ
		この回の到達目標	人間活動が自然環境に及ぼす影響と，環境問題発生要因について理解し説明できる（SB0 s ①②）
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める120分
		事後学修	第2回および第3回内容を踏まえ，現象としての環境問題に関する復習をおこなう120分
5	第一部 火5/5 水5/6 第二部 火5/5	身近な環境問題①	大気環境・大気汚染
		この回の到達目標	大気環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める120分
		事後学修	大気環境に関わる様々な環境問題に興味を持ち，身の回りで起きている現象に気づき，理解する120分
6	第一部 火5/12 水5/13 第二部 火5/12	身近な環境問題②	水質汚染
		この回の到達目標	河川・湖沼・海洋・地下水の水質汚染を取り上げてこの原因や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める120分
		事後学修	水質環境に関わる様々な問題に興味を持ち，身の回りで起きている現象に気づき，理解する120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 水5/20 第二部 火5/19	身近な環境問題③	廃棄物問題	
		この回の到達目標	社会における物質循環と廃棄物が生じる過程を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	日常生活で、自分が物質循環のどこに位置しているかを認識し、廃棄物削減の行動を試みる	120分
8	第一部 火5/26 水5/27 第二部 火5/26	身近な自然と人間との関わり	里山の生態学	
		この回の到達目標	身近な自然と人間との関わりについて、その変遷と現在起きている現象を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	人間と自然との関わり合いのバランスが崩れた場合に起こる現象について理解を深める	120分
9	第一部 火6/2 水6/3 第二部 火6/2	自然災害と人間	自然災害を克服する方策と、人間活動が引き起こす災害	
		この回の到達目標	自然災害克服のために、いかに自然を理解し改変してきたかを理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	自然災害の多い日本において、いかに自然と共生すべきかについて深く考える	120分
10	第一部 火6/9 水6/10 第二部 火6/9	プレゼン及びディスカッション	個別のテーマ設定と資料作成及びプレゼン・ディスカッション	
		この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して、着想から資料収集、報告に至る研究過程を理解し実践できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	様々な環境問題に関するプレゼン資料の作成	120分
		事後学修	当日の教室内で行われた議論に関して理解を深める	120分
11	第一部 火6/16 水6/17 第二部 火6/16	地球環境問題①	海洋汚染	
		この回の到達目標	海洋汚染の要因とその影響について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	第6回で学習した水質汚染と関連させて、海洋汚染についての理解を深める	120分
12	第一部 火6/23 水6/24 第二部 火6/23	地球環境問題②	気候変動	
		この回の到達目標	これまで地球が辿ってきた気候変動について理解し、気候変動が起こる仕組みと影響について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	気候変動が起こる仕組みについて復習し、世の中で気候変動の影響と捉えられている現象について科学的に理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 水7/1 第二部 火6/30	地球環境問題③	水不足・食糧不足・砂漠化	
		この回の到達目標	環境問題には地域性があることを認識するとともに、水不足，食糧不足，砂漠化の要因について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	世界各地で起きている地球環境問題に対して関心を持ち，その環境下で生活している人々の状況について理解を深める	120分
14	第一部 火7/7 水7/8 第二部 火7/7	地球環境問題④	生態系破壊	
		この回の到達目標	第13回までに学習した内容が生態系に及ぼす影響について理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回までの授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	環境問題が及ぼす影響の大きさを実感し，世界で起きている現象について理解を深める	120分
15	第一部 火7/14 水7/15 第二部 火7/14	前学期授業の総括	前学期授業内容のまとめ	
		この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め，個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	前学期の授業内で学んだ様々な自然現象とこれらの人間との関係を復習する	120分

科目名	環境論Ⅱ	担当者	佐々木 夏来	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
近年の日本においては里地里山に代表される生活環境と社会環境の変化が，固有の生態系に対して悪影響を与えていることが指摘されている。これは，地域の自然環境が人間との関係を持ちながら維持されてきたことによっている。本科目では，ローカルからグローバルまで様々な空間スケールで発生する環境問題に対し，自然科学がどのようなアプローチを取ってきたかを学習すると共に，人間と環境の関係を理解し，将来に向け持続可能な人間環境を考えていくことが出来るようになることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な時空間スケールの環境問題に対し，その中で展開される自然科学的アプローチを理解し説明できるようになる。また、環境変化と人間社会との繋がりを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリントを用いた講義形式。映像資料やプリントを適宜配布する。授業内において，学生主体のプレゼン及びディスカッションをおこなう。定期試験の解説は，後日ポータルシステムを通じておこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また，後学期中の授業内において，プレゼン及びグループディスカッションを含む授業を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。				2	2				2		
②	学生が、主体性をもって変化の中から問題の抽出をおこなうことが出来るようになる。					2	2	2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	第10回の授業におけるプレゼン及びディスカッションにおいて説明および意見交換の内容を基準に、到達目標②にかかわる主体性が身についているかを評価する。		20									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
				教科書	
				参考書	
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 水9/16 第二部 火9/15	ガイダンス及び導入講義	後学期の授業概要の説明，評価方法の説明	
		この回の到達目標	前期授業内容との関連性の理解，評価方法の理解を通し前期授業内容との繋がりを習得する（SB0 s ①）	
		事前学修	シラバス内容の理解	120分
		事後学修	後期授業計画と授業内容の理解	120分
2	第一部 火9/22 水9/23 第二部 火9/22	環境論とは	環境論の歴史，前期授業内容に復習（環境の定義，環境問題の定義など）	
		この回の到達目標	単語の理解，環境論にて学ぶ対象に関する理解，環境変化～問題解決までの流れを理解し説明できる（SB0 s ①）	
		事前学修	前学期授業内容の復習もしくは「環境」という単語を調べる	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
3	第一部 火9/29 水9/30 第二部 火9/29	環境の概念とその歴史の変遷	環境問題と社会，「環境」に対する意識の変遷（前期授業内容の復習を含む）	
		この回の到達目標	環境の概念の歴史の変遷を学び，環境に対する意識の変遷を理解し説明できる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	個々人の持つ環境に対するイメージがどのような歴史的背景を基に構築されてきたのかを理解する	120分
4	第一部 火10/6 水10/7 第二部 火10/6	環境問題を捉える視点①	環境倫理とは？	
		この回の到達目標	環境倫理の三つの主張を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	学問分野としての環境倫理の主張に関する理解を深める	120分
5	第一部 火10/13 水10/14 第二部 火10/13	環境問題を捉える視点②	様々な自然の捉え方，自然と人間の関係性に関する考察	
		この回の到達目標	様々な分野における自然の捉え方を学び，現代の自然観に基づく自然の捉え方を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	様々な分野における自然観を理解し，これと人間との関係に関する理解を深める	120分
6	第一部 火10/20 水10/21 第二部 火10/20	環境問題を捉える視点③	環境問題における科学技術の役割	
		この回の到達目標	科学技術と社会とのかかわりを学び，環境問題と科学技術の関係性を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	「科学」「技術」「科学技術」の定義およびこれらと環境との関係に關しての理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 水10/28 第二部 火10/27	環境問題を捉える視点④	環境問題に関わる社会政治的側面	
		この回の到達目標	環境問題とこの影響に関する社会的政治的側面を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
		事後学修	環境問題に内在する社会的政治的側面の理解を深める	120分
8	第一部 火11/10 水11/11 第二部 火11/10	環境学/環境科学の視点	問題設定と解決への道筋	
		この回の到達目標	問題設定および問題解決へ向けた視座を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
		事前学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
		事後学修	環境論・環境関連分野における学問的問題点と映像資料内の科学的不確実性の関連を復習する	120分
9	第一部 火11/17 水11/18 第二部 火11/17	環境問題の特性	科学的不確実性と予測	
		この回の到達目標	環境問題に内在する科学的不確実性を理解し、個々人で見つけることができるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	環境・環境問題の定義を復習	120分
		事後学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
10	第一部 火11/24 水11/25 第二部 火11/24	プレゼン及びディスカッション	個別のテーマ設定と資料作成及びプレゼン・ディスカッション	
		この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して、着想から資料収集、報告に至る研究過程を実践できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	様々な環境問題に関するプレゼン資料の作成	120分
		事後学修	ディスカッション内容のまとめ	120分
11	第一部 火12/1 水12/2 第二部 火12/1	環境保護の思想と現在の地球環境①	エコロジー思想の系譜	
		この回の到達目標	エコロジー思想の歴史と今日的な意味を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
12	第一部 火12/8 水12/9 第二部 火12/8	環境保護の思想と現在の地球環境②	ディープ・エコロジー	
		この回の到達目標	ディープ・エコロジーとこの考え方に基づく自然観を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 水12/16 第二部 火12/15	持続可能な循環型社会への取り組み	循環型及び自然再生型社会へ・環境技術の現状	
		この回の到達目標	循環型・自然再生型社会のもたらす影響を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
14	第一部 火12/22 水12/23 第二部 火12/22	地球時代の環境論	現在における地球観を通して見た環境とは？	
		この回の到達目標	後学期中に習得した様々な環境変化とその要因，社会的意味などを通した現在の地球観(自然観)を理解し，個々人の知識として利用できるようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
15	第一部 火1/12 水1/13 第二部 火1/12	後学期授業の総括	後学期授業内容のまとめ	
		この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深めることで，様々な自然観を基にした環境を理解することが出来るようになる（SB0 s ①②）	
		事前学修	前回の授業内容の復習	120分
		事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分

科目名	教育学Ⅰ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者が人間の教えと育ちをの関係を明瞭に理解できることを目的とします。教育学の諸課題について、受講者がみずからの考えをみずからの言葉で表現できるようになることを講義の到達目とします。

【履修条件】
特にありません。なお、予習復習の時間は、あくまでも目安でありますから、個々人の生活（奨学金利用にともなうアルバイト、家庭のご都合など）を踏まえ、各自で学習計画を立案してください。

【授業方法】
毎回レジュメと史資料を配布し、それに沿って講義をします。そのほかに、写真資料、音声資料、映像資料なども使用することがあります。なお、授業中における、私語、講堂外での受講、コメントペーパーの代筆（不正行為）などは、厳しくご対応いたします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。				2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。				2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。				2	2	2	2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	15			15					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。到達目標①②③⑥授業内容を踏まえた議論が展開できる。	10	10	10			10					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25			25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
personal writing (第2号)	2019年度「教育学」受講生	猫の手書房	2019	参考書	推奨
学ぶ、向きあう、生きる	楠原彰	太郎次郎社エディタス	2013	参考書	任意
差別の現在	好井裕明	平凡社	2015	参考書	任意
働くことと学ぶこと	里見実	太郎次郎社	1995	参考書	任意
日本人のしつけは衰退したか	広田照幸	講談社	1999	参考書	任意
〈民主〉と〈愛国〉	小熊英二	新曜社	2002	参考書	任意
貧困の戦後史	岩田正美	筑摩書房	2017	参考書	任意
高校紛争 1969-1970	小林哲夫	中央公論新社	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4.10（金曜日・3限）	ガイダンス	現代日本の教育改革・入試／シラバス／カリキュラム	
		この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	シラバスを参照してください。ウェブ検索などがかまいませんので、「教育学」について検討してください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
2	4.17（金曜日・3限）	日本教育社会史①	近世の教育文化と明治以降の近代教育システム	
		この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
3	4.24（金曜日・3限）	日本教育社会史②	戦後教育スタート・戦前と戦後の連続性と精神史	
		この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
4	5.1（金曜日・3限）	日本教育社会史③	高校生がエリートだったころ・『コクリコ坂から』みる青少年文化と社会運動の萌芽	
		この回の到達目標	日本における近代教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
5	5.8（金曜日・3限）	日本教育社会史④	紛擾から闘争へ 闘争から紛争へ・学生運動の毀したもの	
		この回の到達目標	教育史における戦争と学校教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
6	5.15（金曜日・3限）	日本教育社会史⑤	管理教育と校内暴力・『金八先生』のリアリティ	
		この回の到達目標	戦後の教育改革と都鄙格差について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5.22（金曜日・3限）	日本教育社会史⑥	『ハレンチ学園』から『ビリギャル』の欺瞞・現代日本教育課題	
		この回の到達目標	学生自治と「エリート教育」の関係と位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
8	5.29（金曜日・3限）	近代教育のルーツ①	近代教育以前の子ども像・絵画／玩具／被服／童話／絵本の教育史	
		この回の到達目標	1970年～80年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
9	6.5（金曜日・3限）	近代教育のルーツ②	子どもの「価値」変遷・遺棄と保護の教育史	
		この回の到達目標	1990年代～2000年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
10	6.12（金曜日・3限）	近代教育のルーツ③	児童小説の変遷・修正される家族観と子ども観	
		この回の到達目標	近代教育の外側に存在した子ども観を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
11	6.19（金曜日・3限）	近代教育のルーツ④	児童小説に描写された家族と子どもの幸福・だれが幸福の定義を定めるのか？	
		この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
12	6.26（金曜日・3限）	近代教育のルーツ⑤	個々人の「こだわり」と近代社会・トラウマ語り超えて	
		この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7. 3（金曜日・3限）	近代教育のルーツ⑥	量から質の時代へ・多様な家族像と乱反射する価値観の多様性	
		この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
14	7. 10（金曜日・3限）	変容する価値観①	社会における男女の区分とLGBTQ・映像資料にみる男女の社会的役割の表象と差別問題	
		この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
15	7. 17（金曜日・3限）	変容する価値観②	男女の区分タブーの変遷・構築される価値観と差別問題 近代日本の女性観	
		この回の到達目標	教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
		事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
		事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

科目名	教育学Ⅱ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「教育」とは、なにかということを考えられることを目的としています。「教育」にできること、「教育」にできないこと、「教育」がしてよいこと、「教育」がしてはいけないことを身につけられることを目標としています。

【履修条件】
教育学分野、社会学分野、歴史研究（日本史、世界史、政治史）に関心のある学生。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おきください。

【授業方法】
講義形式。授業終了後に受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、50～60件の代表的な意見をプリントにまとめて配布します。紙上討論というかたちで、受講生の意見に対して、そのつど応答をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。					2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。					2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。					2	2	2	2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。設題の内容を理解した記述ができる。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	15			15					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。授業内容を踏まえた議論が展開できる。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	10	10	10			10					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25			25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
悪と全体主義	仲正昌樹	NHK出版	2018	参考書	推奨
今こそアーレントを読み直す	仲正昌樹	講談社	2009	参考書	任意
日本とドイツ	仲正昌樹	光文社	2006	参考書	任意
全体主義の起源	ハンナ・アーレント	みすず書房	2017	参考書	任意
エルサレムのアイヒマン	ハンナ・アーレント	みすず書房	2017	参考書	任意
否定と肯定	デボラ・E・リップシュタット	ハーバーコリンズ・ジャパン	2017	参考書	任意
思い出のアンネ・フランク	ミープ・ヒース	文藝春秋	1994	参考書	推奨
雲は答えなかった	是枝裕和	PHP研究所	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて担当教員から明示します。基本的には、「教育学Ⅰ」と同様の時間です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/18	ガイダンス・導入講義	社会問題と「教え」と「育ち」	
		この回の到達目標	当該授業にて取り扱う社会問題の性格について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
2	9/21 9/25	貧困と公教育①	個々人のニーズと公教育・給食制度を手がかりに	
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
3	9/28 10/2	貧困と公教育②	隔離されていく貧困層・『ちびまる子ちゃん』の世界観の喪失	
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
4	10/5 10/9	貧困と公教育③	貧困のイメージと公教育の機会均等・福祉の切り捨てを超えて	
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
5	10/12 10/16	貧困と公教育④	社会階層と教育格差の再生産・「幸せな貧困」でよいのか？	
		この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
6	10/19 10/23	分断と公教育①	人種による社会階層の分断・アメリカにおける人種差別	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/30	分断と公教育②	ユダヤ人の迫害史・『アンネの日記』とヨーロッパの差別問題	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
8	11/9 11/6	分断と公教育③	『アンネの日記』その後史 ナチス・ドイツの台頭と市民	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
9	11/16 11/13	分断と公教育④	ミーブ・ヒースとアドルフ・アイヒマン 市民的勇気と「凡庸な悪」	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
10	11/23 11/20	分断と公教育⑤	ヨーロッパ各地の公教育・ドイツとオランダの教育実践	
		この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
11	11/30 1/27	公教育の使命①	オランダとフィンランドの公教育・理想と現実	
		この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
12	12/7 12/4	公教育の使命②	アメリカの公教育と教育改革・改革による公教育の崩壊	
		この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/11	公教育の使命③	国家と個人・アメリカの家庭教育	
		この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
14	12/21 12/18	多様性と差別問題①	「曖昧な生きづらさ」と差別問題 吃音／斜視／異形／脱毛／拒食／LGBTQ／在日コリアン／在日台湾人／アトピー性皮膚炎／性犯罪被害／情緒不安定……	
		この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。なお、タイトルにつけた「生きづらさ」の事例は、すべて、これまで、この授業を履修していた学部生の事例です。講堂には、このような多様なアイデンティティ抱えた学部生が雑居しています。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
15	1/18 12/25	多様性と差別問題②	排除される障害者・「健常者に迷惑をかけない」というバイアスを超えて	
		この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
		事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
		事後学修	レポート作成。	120分

科目名	教養演習ⅠA【日本軍兵士の被害と加害】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大岡担当のこの演習では、「日本軍兵士の被害と加害」と題し、吉田裕『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』『日本の軍隊ー兵士の近代史』の輪読、および関連する歴史資料の分析を行う。戦争体験者の減少や国際関係の変動の中で、戦争の実態を踏まえない乱暴な言説が横行している。その一方で、下級兵士や庶民の目線に立って、戦争のリアリティを描き出そうとする新しい戦争史研究が生まれてきている。こうした学問的成果に学びながら、戦争や軍隊の本質について議論したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
本演習のテーマに関心を持ち、知的な発見や学問的討論に飢えている者、大学時代に「学問でも頑張った」と言えるものが欲しいという者を歓迎する。単位だけが目的の人、主体的な学習の意欲・能力のない人はご遠慮ください。

【授業方法】
まずはテーマに関連する文献を読解する。取り上げる範囲を事前に読んでくることは全員必須である。教員や他の受講生の質問に答えられるように、内容をよく理解しておく。 発表者はテキストの論点を簡潔に整理したうえで、批判的に考察・論評を加え、討論したい問題を提起する。 それを踏まえ、全員で質疑応答と討論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。プレゼンテーション。ただし、形だけの「アクティブ・ラーニング」、内容が伴わない小学生レベルのディスカッション・プレゼンテーションの真似事からは脱却して欲しい。その場に何事か刺激や気づき、新しい論点を付け加えていくために、頭をフル回転させ、自分の意見を保つ努力をし、下手でも良いから情熱を持って伝えようとする事が求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を 明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れ て客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60	
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調 査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイ ント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価 する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20	
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質 問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまと められるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		10	30	30	30							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の終わりに講評を行う。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実		吉田裕	中央公論新社	2018年	教科書	必携
日本の軍隊ー兵士たちの近代史		吉田裕	岩波書店	2002年	教科書	必携
アジア・太平洋戦争		吉田裕	岩波書店	2007年	参考書	推奨
餓死した英霊たち		藤原彰	ちくま書店	2018年	参考書	推奨
中国戦線従軍記：歴史家の体験した戦場		藤原彰	岩波書店	2019年	参考書	推奨
兵たちの戦争 手紙・日記・体験記を読み解く		藤井忠俊	朝日新聞社	2019年	参考書	推奨
ものいわぬ農民		大牟羅 良	岩波書店	1958年	参考書	推奨
戦没農民兵士の手紙		岩手県農村文化懇談会	岩波書店	1961年	参考書	推奨
備考	書ききれないので、その他の参考文献は教室で指示する。					
【オフィスアワー】						
火曜13時～14時 金曜18時～18時30分						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		記憶の継承に関わる社会教育や学校教育における平和教育の方法について。 官庁や自治体、企業における文書の作成・保存・公開の重要性について。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス／イントロダクション 本演習の問題意識など導入講義	本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキストの紹介、単位取得要件などについて説明する。また参加者の自己紹介を行う。 スケジュールの決定。	
		この回の到達目標	演習の目的を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。テキストを入手する。	120分
		事後学修	ガイダンスを振り返り、履修を決める。	120分
2	4/17	『日本軍兵士』(1)	筆者のプロフィールと研究の位置づけ（レクチャー） 序章 アジア・太平洋戦争の長期化	
		この回の到達目標	著者の問題意識、本書の課題と方法の特色、研究史上の位置づけを理解する。 アジア・太平洋戦争の性格について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
3	4/24	『日本軍兵士』(2)	第1章 死にゆく兵士たち―絶望的抗戦期の実態1 第2章 身体から見た戦争―絶望的抗戦期の実態2	
		この回の到達目標	絶望的抗戦下の日本軍の戦いと兵士たちの置かれた状況を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
4	5/1	『日本軍兵士』(3)	第3章 無残な死、その歴史的背景 終章 深く刻まれた「戦争の傷跡」	
		この回の到達目標	兵士の無残な死をもたらしした日本軍の組織的問題点、そうした軍隊や軍事指導者を生み出した日本社会の構造的な問題点を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
5	5/8	『日本軍兵士』(4)	『日本軍兵士』総括討論 ①日本軍とその戦いの実態から我々は何を学ぶことができるか？ ②本著作の現代的意義は何か？ ③次なる課題は何か？	
		この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、あらためて本書の現代的意義を確認する。	
		事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
		事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
6	5/15	『日本の軍隊』(1)	序章 分析の視角 第1章 近代社会の形成と軍隊	
		この回の到達目標	日本の近代化と軍隊との関係について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	『日本の軍隊』(2)	第2章 軍隊の民衆的基盤	
		この回の到達目標	民衆が軍隊を受容する構造的な要因を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
8	5/29	『日本の軍隊』(3)	第3章 総力戦の時代へ 第4章 十五年戦争と兵士	
		この回の到達目標	軍隊改革の挫折と反近代的で精神主義的な軍隊への変貌の歴史的過程について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
9	6/5	『日本の軍隊』(4)	『日本の軍隊』総括討論 ①軍隊と社会との関係はどのようなものなのか？そこから何を学べるか？ ②本書の現代的意義は何か？ ③次なる課題は何か？	
		この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、本書の現代的意義を確認する。	
		事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
		事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
10	6/12	演習後半の課題設定 「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」	後半ではメンバーが分担して、兵士の手紙・日記・体験記を読解し、そこから何を学び取れるかを報告する。どのような史料を取り上げるか、誰が何をテーマに報告するかを決める。	
		この回の到達目標	テーマを理解し、自分の課題や役割を決める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	自分の分担した史料を読み進め、報告の準備をする。	120分
11	6/19	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(1)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
12	6/26	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(2)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(3)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
14	7/10	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(4)	分担した史料に関する研究発表	
		この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
		事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
15	7/17	総括討論 加害と被害の重層性をめぐって	前期の演習の成果を確認するとともに、日本軍兵士における加害と被害の重層性について、討論を行う。	
		この回の到達目標	演習での学びを振り返り、自己にどのような認識の変化があり、何が達成されたかを確認する。	
		事前学修	これまでの演習のレジュメやノートを読み直し、総括討論の準備をする。	120分
		事後学修	前期の成果の振り返りと今回の討論のまとめを行う。 次なる自己の問題意識を確認する。	120分

科目名	教養演習ⅠA【不利益学】	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大熊担当の教養演習ⅠAでは『不利益学』について学修する。世の中便利なモノにあふれ、いろいろラクになった。その結果、以前より暮らしは楽しくなったか。何か見失ったものはないか。これらについて考え、議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、第一回目に人数調整の可能性があるため、必ず一回目には出席すること。

【授業方法】
テキストを用いながら、基本的にはグループディスカッション（または全員で議論）や発表を行いながら不利益学につて考える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表を行い、それらについての議論・評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
その都度、ディスカッションの内容や発表についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ごめんなさい、もしあなたがちょっとでも行き詰まりを感じているなら、不便を取り入れてみてはどうですか？	川上浩司	インプレス	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	開講にあたって／不利益学とはなにか	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、不利益学とは何か、なぜ不利益学という学問が世の中に登場したのかなどについて説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。不利益学の概要について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを確認する。不便、便利、益について、それが何を意味しているか、良いことか悪いことか、例を挙げて考えておく。	120分
		事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	第一部 水4/15	「不便」の良い点	不便とはどのようなことか、不便とはよくないと一概にいえるか考えてみる。	
		この回の到達目標	不便とは何か、普段考えているのとは違う視点で考え、それについて議論し新しい視点で不便について説明できるようになる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの序章を読んでおく。その上で不便とは何か考えてみる。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に不便とは何か、授業前後でどのように考えが変わったか（または変わらなかったか）をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	「便利」とは？	どのようなことが便利と考えているか、不便と便利は反対語か、またラクと楽しい、益と害についても同様に考えていく。	
		この回の到達目標	便利と不便、ラクと楽しい、益と害について自分なりに考え、それを説明できるようになる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの1章を読んでおく。便利と不便、ラクと楽しい、益と害など、それぞれの違いについて考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、便利とは何かなど、授業前後でどのように考えが変わったか（または変わらなかったか）をまとめる。	120分
4	第一部 水4/29	楽しい「不便」	不便なことの中にも楽しいことが存在する可能性があることについて、さまざまな例を挙げながら説明し、それらについて考える。	
		この回の到達目標	不便なことの中にも楽しいことが存在する可能性があることについて説明できるようになる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの2章を読んでおく。不便だけど楽しかった、と思ったことがないか考えておく。	120分
		事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。不便と楽しいことが常に対立するのではないことを理解する。	120分
5	第一部 水5/6	便利・不便についての考察	これまでの授業内容をふまえ、便利・不便、不便だが楽しいことなどについて、自らの体験から考察し発表する。	
		この回の到達目標	不利益学の基礎となる、不便が悪いイメージしかないわけではないことを理解し、それを自分の体験をもとに他者に説明できる（関連SB0s②③④）。	
		事前学修	テキストの2章まで、および授業ノートを見直して、不便についての自分なりの意見を発表できるようにまとめる。	150分
		事後学修	不便についての他者の意見を参考に、もう一度不便について考えてみる。	120分
6	第一部 水5/13	不利益とは	不利益とは何かについて考える。	
		この回の到達目標	不利益とは何か、さまざまな例を挙げて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの3章を読んでおく。	120分
		事後学修	テキストにある例のほかに、何か不利益なことがあるか考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	「便利」の害	便利ながことが本当に100%良いことか考える。便利さゆえに悪くなったことはないのか考える。	
		この回の到達目標	かなりの部分で便利な世の中になっているが、それによって何らかの害（悪いこと）が起きていないか自ら考え、それについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの4章を読んでおく。親の育った時代と比べて何が便利になったのか、その良いところ、悪いところについて、また今後より便利になると思われるもの（こと）についても考えておく。	120分
		事後学修	便利なこと（もの）によって失われたものがあることについて、授業内容を参考に考えてみる。	120分
8	第一部 水5/27	不利益についての考察	不利益に関して、自らの体験から考察し発表する。	
		この回の到達目標	不利益について理解し、それを自分の体験をもとに他者に説明できる（関連SB0s②③④）	
		事前学修	テキストの4章まで、および授業ノートを見直して、不利益についての自分なりの意見を発表できるようにまとめておく。	150分
		事後学修	不利益についての他者の意見を参考に、もう一度不利益について考えてみる。	120分
9	第一部 水6/3	安心とは	安心と不便の関係について考える。	
		この回の到達目標	安心と不便がどのように関連しているか例を挙げながら説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの5章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を参考に、安心と不便の関係について再度考える。また、楽しいことと不便なことの関連についても考える。	120分
10	第一部 水6/10	益をもたらす不便	不利益の6つの性質について学修し、それぞれについて例を挙げながら理解していく。	
		この回の到達目標	不利益の6つの性質について説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの6章を読んでおく。	120分
		事後学修	不利益の6つの性質を参考にしながら、益をもたらす不便なことについて考えておく。	120分
11	第一部 水6/17	不利益なシステムとは	不便なものとは不利益なものとの違いについて考える。	
		この回の到達目標	不便なものとは不利益なものとの違いを明確に理解し、それを説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの7章を読んでおく。	120分
		事後学修	ただ不便なもの、不便だが益のあるもの（不利益）についてそれぞれ例を考えてみる。	120分
12	第一部 水6/24	プレストバトル	ブレインストーミングを不便にしたプレストバトルについて学修し、実践してみる。	
		この回の到達目標	プレストバトルの方法、意義について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	テキスト7章最後にあるプレストバトルについての説明をよく読んでおく。	120分
		事後学修	ブレインストーミングとプレストバトルの違いについて、授業内容を参考に自分なりに整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	不便益を形にするためのアイデア	不便益なことを「もの」にするための手法について、テキストの例を参考に考える。	
		この回の到達目標	不便益なことを実際に使える「もの」とするためにはどうすればよいか説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの8章を読んでおくこと。	120分
		事後学修	不便益な「もの」についてのアイデアを考えておく。	120分
14	第一部 水7/8	アイデアについて議論する	不便益な「もの」について考えてきたアイデアを出し合い、プレストバトルする。	
		この回の到達目標	プレストバトルの方法を用いて、不便益なものに関する自分の考えを他者に明確に説明することができる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	8章を参考に、不便益な「もの」についての具体的なアイデアを考え、発表できるようにしておく。	150分
		事後学修	プレストバトルの結果、およびこれまでの授業内容をもとに、不便益学についてまとめる。	90分
15	第一部 水7/15	講義全体のふり返り	不便益学についてのレポート内容を発表、その後回収。最後に講義全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	各自で学修・発表・検討した内容をレポート化し、自らの意見を客観的に提示できるようになる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	14回までの授業内容を振り返り、各自、不便益学に関するレポートを完成させ、授業内に発表・提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕。	150分
		事後学修	不便益学についての学修をもとに、各自、これを実生活にどのように活かせるかを考える。	90分

科目名	教養演習ⅠA【スポーツについて考える】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。佐藤担当のこの演習では、「スポーツを考える」と題し、我が国において文化としてスポーツが根付きつつある中、スポーツの魅力とは何か、現代スポーツの問題点は何か、スポーツと社会の関わりについて関係資料や調査結果を用いながら、スポーツの本質について議論を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。テーマ毎に個人及び共同報告（発表）をしてもらい、それについて質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人発表及び共同報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日 12:10～13:00 研究室 事前に連絡をすること（satou.hideaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	スポーツを考える	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義	
		この回の到達目標	SB0s③	
		事前学修	「スポーツ」に関する個人及び社会が関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	60分
		事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	60分
2	4/14	スポーツの魅力について（１）	・テーマについての説明 ・調査方法の確認	
		この回の到達目標	SB0s①、③	
		事前学修	スポーツの魅力について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分
3	4/21	スポーツの魅力について（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
4	4/28	スポーツの魅力について（３）	・個人及び共同発表（２） ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
5	5/5	スポーツの魅力について（４）	・個人及び共同発表（３） ・質疑応答 ・テーマのまとめ	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
6	5/12	現代スポーツの問題点（１）	・テーマについての説明	
		この回の到達目標	SB0s①、③	
		事前学修	現代スポーツの問題点について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	現代スポーツの問題点 (2)	・個人及び共同発表 (1) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
8	5/26	現代スポーツの問題点 (3)	・個人及び共同発表 (2) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
9	6/2	現代スポーツの問題点 (4)	・個人及び共同発表 (3) ・質疑応答 ・テーマのまとめ	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
10	6/9	スポーツと社会 (1)	・テーマについての説明	
		この回の到達目標	SB0s①、③	
		事前学修	スポーツと社会について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。	180分
11	6/16	スポーツと社会 (2)	・個人及び共同発表 (1) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分
12	6/23	スポーツと社会 (3)	・個人及び共同発表 (1) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料 (報告書) を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	スポーツと社会（４）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
14	7/7	スポーツとは何か	・オリンピック、パラリンピックについて	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	オリンピックムーブメントについて関連する資料を調べまとめる。	60分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。	180分
15	7/14	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	各テーマ毎作成したレポートを振り返り、疑問点などを抽出する。	180分
		事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツを様々な視点で考える。	180分

科目名	教養演習 I B【戦争の記憶—その過去・現在・未来】	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大岡担当のこの演習では、「戦争の記憶—その過去・現在・未来」と題し、関連文献の輪読と個人研究を行う。戦争の歴史は「終戦」で終わるわけではない。痛み続ける戦争の傷痕や戦後処理の問題も、戦争の歴史の一部である。さらに、終わった戦争をどのように記憶し、その記憶はどのように変遷してきたか、という「戦争記憶」の歴史もまた、戦争史研究にとって重要な研究課題となっている。このことは「戦争の記憶」という切り口からの、戦後の政治・社会・国際関係の考察にもつながる。この演習は過去を扱いつつ、漂流し政治化する「戦争の記憶」の現在を議論し、未来を展望する視座を獲得することを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
本演習のテーマに関心を持ち、知的な発見や学問的討論に飢えている者、大学時代に「学問でも頑張った」と言えるものが欲しいという者を歓迎する。単位だけが目的の人、主体的な学習の意欲・能力のない人はご遠慮ください。

【授業方法】
まずはテーマに関連する文献を読解する。取り上げる範囲を事前に読んでくれることは全員必須である。教員や他の受講生の質問に答えられるように、内容をよく理解しておく。 発表者はテキストの論点を簡潔に整理したうえで、批判的に考察・論評を加え、討論したい問題を提起する。 それを踏まえ、全員で質疑応答と討論を行う。 条件が整えば戦争に関わる博物館・資料館の見学を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。プレゼンテーション。ただし、形だけの「アクティブ・ラーニング」、内容が伴わない小学生レベルのディスカッション・プレゼンテーションの真似事からは脱却して欲しい。 その場に何事か刺激や気づき、新しい論点を付け加えていくために、頭をフル回転させ、自分の意見を保つ努力をし、下手でも良いから情熱を持って伝えようとするのが求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジユメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を 明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れ て客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60	
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調 査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイ ント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価 する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20	
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質 問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまと められるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		10	30	30	30							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の講義における講評。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦争の記憶 コロンビア大学特別講義 学生との対話		キャロル・ブラック	講談社	2019	教科書	必携
戦争を記憶する 広島・ホロコーストと現在		藤原帰一	講談社	2001	教科書	必携
日本人の戦争観		吉田裕	岩波書店	2005	教科書	必携
記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争		成田龍一・吉田裕	岩波書店	2015	参考書	推奨
備考	その他の参考文献は教室で指示する。					
【オフィスアワー】						
火曜13時～14時 金曜18時～18時30分						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		記憶の継承に関わる社会教育や学校教育における平和教育の方法について。官庁や自治体、企業における文書の作成・保存・公開の重要性について。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス 本演習の問題意識など導入 講義	本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキストの紹介、単位取得要件などについて説明する。また参加者の自己紹介を行う。 スケジュールの決定。	
		この回の 到達目標	演習の目的を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読する。テキストを入手する。	120分
		事後学修	ガイダンスを振り返り、履修を決める。	120分
2	9/25	『戦争の記憶』(1)	1 MEMORY AND HISTORY / 「歴史」とは何か、「記憶」とは何か 2 OPERATIONS OF MEMORY / 「戦争の記憶」はいかにして作られるのか	
		この回の 到達目標	「歴史」と『記憶』の違い、および現代において「記憶」が問題になるのはなぜかを理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
3	10/2	『戦争の記憶』(2)	3 THE COMFORT WOMEN IN PUBLIC MEMORY / 慰安婦の記憶 4 THE PAST IN THE PRESENT / 歴史への責任——記憶が現在に問い掛けること おわりに	
		この回の 到達目標	『戦争の記憶』をめぐる現代的問題と未来への課題を認識する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
4	10/9	『戦争を記憶する』(1)	第1章 2つの博物館——広島とホロコースト 第2章 歴史と記憶の間 第3章 正しい戦争——アメリカ社会と戦争	
		この回の 到達目標	日米の戦争記憶の比較から、問題の所在を理解する。またアメリカの戦争観を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
5	10/16	『戦争を記憶する』(2)	第4章 日本の反戦 第5章 国民の物語	
		この回の 到達目標	アメリカとの比較で日本の戦争記憶の特質を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
6	10/23	『日本人の戦争観』(1)	第1章 歴史意識と政治一九〇年代における政策転換 第2章 「太平洋戦争史観」の成立—占領期	
		この回の 到達目標	問題の所在を理解する。占領期の戦争観の形成とその歴史的背景を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	『日本人の戦争観』(2)	第3章 認識の発展を阻むもの―占領から講和へ 第4章 ダブル・スタンダードの成立―一九五〇年代	
		この回の到達目標	日本政府の戦争観におけるダブルスタンダードの構造と背景を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
8	11/6	『日本人の戦争観』(3)	第5章 戦争体験の「風化」―高度成長期 第6章 経済大国化のなかの変容―一九七〇年代	
		この回の到達目標	戦争体験の風化と高度経済成長を背景とした戦争観の変容を理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
9	11/13	『日本人の戦争観』(4)	第7章 ダブル・スタンダードの動揺―一九八〇年代 第8章 歴史からの逃避―現在そして将来	
		この回の到達目標	冷戦体制の崩壊前後における国際環境の変容と戦争観の動揺との関係について理解する。	
		事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
		事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
10	11/20	前半総括討論	前半期の総括討論を行う。	
		この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、あらためて「戦争の記憶」「戦争観」の現代的状況について理解を深め、将来への展望を考える。	
		事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
		事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
11	11/27	個人発表(1) 兵士たちの記憶	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
12	12/4	個人発表(2) サブカルチャーの中の戦争	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	個人発表(3) 戦時生活の記憶	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
14	12/18	個人発表(4) 記憶の衝突	分担したテーマについての個人発表	
		この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
		事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
		事後学修	発表と討論を復習する。	120分
15	12/25	総括討論	総括討論を通じて、演習の成果を確認するとともに、今後の課題を確認する。	
		この回の到達目標	演習での学びを振り返り、自己にどのような認識の変化があり、何が達成されたかを確認する。	
		事前学修	これまでの演習のレジュメやノートを読み直し、総括討論の準備をする。	120分
		事後学修	前期の成果の振り返りと今回の討論のまとめを行う。 次なる自己の問題意識を確認する。	120分

科目名	教養演習ⅠB【仕掛学】	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。大熊担当の教養演習ⅠBでは『仕掛学』について学修する。法律や条例は何のためにあるのか。それらに頼らず問題解決を目指す仕掛学は、法学部の学生だからこそぜひ学んでほしい内容である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、第一回目に人数調整をする可能性があるため、必ず一回目は出席すること。

【授業方法】
テキストを用いながら、基本的にはグループディスカッション（または全員で議論）・発表を行い、「仕掛け学」について考えていく。それを踏まえて何らかの仕掛けについて考案し、発表する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表を行い、またそれらについての議論・評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
その都度、ディスカッションの内容や発表についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
仕掛学	松村真宏	東洋経済新報社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス／仕掛学とは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、仕掛学とは何かについて、仕掛けの例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	貼紙や罰則が役に立っていないと思われる事例が世の中にはあるが、その時に仕掛学が役に立ちそうであることを理解し、例を挙げてその理由を簡単に説明できる（関連SB0s①③）。	
		事前学修	シラバスを確認する。テキストの目次や写真を見ておく。	120分
		事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	第一部 水9/23	さまざまな仕掛け	問題解決のために、人を動かす仕掛けを作ること、良い仕掛けと悪い仕掛けの違い、仕掛けの定義を理解する。	
		この回の到達目標	仕掛がなぜ必要か、また良い仕掛けと悪い仕掛けの違いは何かを理解し、明確に説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの序章を読んでおく。	120分
		事後学修	身の回りにある仕掛けを探す。	120分
3	第一部 水9/30	仕掛けたい世の中の問題点	貼紙や罰則が役に立っていないような問題点（もの、こと）を各自発表（できるだけ具体的に）し、なぜその状態になっているかについて議論する。	
		この回の到達目標	貼紙や罰則が役に立っていない場合があるのはなぜかを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	仕掛けが役立ちそうな問題（もの、こと）を探して、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業内で議論した内容を参考に、各自発表した内容について再度考えてみる。	120分
4	第一部 水10/7	仕掛けの基本	強い仕掛けと弱い仕掛けの違いについて考える。また仕掛けが行動中心のアプローチであることを理解する。	
		この回の到達目標	強い仕掛けと弱い仕掛けの違いを説明することができ、また仕掛けで行動を変えることにより問題解決につなげていることについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの1章を読んでおく。	120分
		事後学修	さまざまな仕掛けについて、それがどのように人の行動を変えているのか考えてみる。	120分
5	第一部 水10/14	仕掛けの原理と構成要素	仕掛けの仕組みがどのようなになっているか、その原理を考え、またその構成要素について分類する。	
		この回の到達目標	仕掛けの原理を説明でき、また仕掛けの構成要素について例を挙げて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの2章をよく読んで、特に構成要素についてノートに整理してまとめておくこと。	120分
		事後学修	ある仕掛けを取り上げ、その原理を構成要素に分けて説明してみる。	120分
6	第一部 水10/21	構成要素による仕掛けたい問題点の考察	第3回で考えた、仕掛けが必要そうな問題について、仕掛けの原理・構成要素を考慮しながらその問題を解決できそうな仕掛けについて議論する。	
		この回の到達目標	仕掛けの原理・構成要素の知識を的確に説明でき、さらに仕掛けの実践問題として活用することができる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	第3回で議論した内容について、仕掛けの原理や構成要素と関連付けて考え、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での議論内容を再考し、より良い仕掛けの可能性について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	仕掛けの発想法	仕掛けを見つける方法、仕掛けを考案するための方法について考える。	
		この回の到達目標	仕掛けを考案するための様々な方法について、例を挙げて説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキストの3章を読んでノートに整理しておく。	120分
		事後学修	授業内容をもとに、いろいろな仕掛けを考えてみる。	120分
8	第一部 水11/11	仕掛けにつながる行動の観察	第7回で学修した仕掛けを見つける方法を実践し、その結果を発表する。	
		この回の到達目標	仕掛けを見つける観察力を養い、その方法・成果を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	第7回で学修した仕掛けを見つける方法を参考に、世の中にある仕掛けを探し、それを発表するための準備を行う。	150分
		事後学修	授業内での他の人の発表を参考に、さらにさまざまな仕掛けを見つけてみる。	90分
9	第一部 水11/18	オズボーンのチェックリストとSCAMPER法	仕掛を考える際に有効なオズボーンのチェックリストとSCAMPER法について考える。	
		この回の到達目標	オズボーンのチェックリストとSCAMPER法について説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	テキスト3章のオズボーンのチェックリストとSCAMPER法について読んでおく。	120分
		事後学修	オズボーンのチェックリストとSCAMPER法を用いて、仕掛けを考えてみる。	120分
10	第一部 水11/25	仕掛けるべき問題と、仕掛けの提案	世の中にある種々の問題に、実際に仕掛けるための案を考える。 まず各自持ち寄った問題と仕掛け案について、何が問題かを明確にし、仕掛け案が可能か、また有効かについて議論する。	
		この回の到達目標	問題点の整理をし、仕掛学の対象として有効なものを選択したその理由を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	仕掛を応用できそうな問題を探し、何が問題か、またその仕掛けの案についてまとめておく。	150分
		事後学修	仕掛対象となった各問題の問題点を整理し、仕掛けが有効なものを考えてみる。	120分
11	第一部 水12/2	仕掛けのアイデアを考える	第10回で議論した問題の中から、仕掛けを作るものを選択する。 さらに、仕掛けのアイデアを出し合う。	
		この回の到達目標	仕掛けが必要とされる問題がどのような特徴があるか、また仕掛けが可能な理由、仕掛けが難しい理由について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	第10回で議論した問題の中から、仕掛けを作れそうなものと考えておく。	120分
		事後学修	提出された仕掛けのアイデアの中から具体的に実現可能なものはどれか考えておく。	120分
12	第一部 水12/9	仕掛けを具体化する	仕掛のアイデアについてのブレインストーミングをおこない、仕掛けを具体化していく。	
		この回の到達目標	机上の空論的な仕掛けではなく、自分たちで実践できる範囲の仕掛けとは何かを考え説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	自分たちでできる仕掛けの限界（時間的、技術的）を考えておく。	120分
		事後学修	具体化された仕掛けについて再考しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	仕掛学としての整理	具体化された仕掛けについて、仕掛けの原理・構成要素の点から整理して、ブラッシュアップできないか考える。	
		この回の到達目標	自分たちで考案した仕掛けについて、原理・構成要素の観点から説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	考案された仕掛けについて、原理・構成要素の点から調べておく。	120分
		事後学修	仕掛けるまでのプロセスについて整理しておく。	120分
14	第一部 水12/23	仕掛けについての発表と考察	考案した仕掛けについて発表を行い、講評を行う。	
		この回の到達目標	考案した仕掛けについて、なぜそれが良いのかを論理的に説明できる（関連SB0s①②③④）。	
		事前学修	なぜその仕掛けが良いのか、また仕掛けるまでのプロセスなどを発表するための準備を行う。	150分
		事後学修	お互いの発表を聞いて、自分の考えた仕掛けについて再考する。	120分
15	第一部 水1/13	授業のふり振り返り／仕掛学に関する理解と実践について	第14回目で発表した内容を中心にまとめた仕掛学に関するレポートの回収。その後、その内容を踏まえて仕掛学についてのまとめを行う。	
		この回の到達目標	仕掛学に関して理解し説明ができるようになり、さらに、各自またはグループで調査・発表・検討した内容をレポート化し、自らの意見を客観的に提示できるようになる（関連SB0s②③④）	
		事前学修	仕掛け学に関して、また考案した仕掛けについてのレポートを作成する。	150分
		事後学修	テキストの内容や授業内に行われた議論をもとに、仕掛学の必要性を理解し、今後仕掛学をどのように活かしていけるか考える。	90分

科目名	教養演習ⅠB【スポーツのパフォーマンスについて】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。 佐藤担当のこの演習では、「スポーツのパフォーマンスについて考える」と題し、主にスポーツ心理学、体力科学の領域の研究成果や調査結果を用いて、「パフォーマンス」について議論したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。授業時及び事前・事後学修時に実習や調査等を課し、個人報告（発表）をしてもらい、それについて議論、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	議論、質疑応答、個人報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
議論、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
これから学ぶスポーツ心理学	荒木雅信	大修館書店	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月、火曜日 12:10～13:00 研究室 事前に連絡をすること（satou.hideaki@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	スポーツパフォーマンスとは	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義 ・スポーツパフォーマンスについて	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	「スポーツパフォーマンス」について関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	120分
		事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	120分
2	9/22	スポーツ心理学的アプローチ（１）	・スポーツ心理学の研究について ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
3	9/29	スポーツ心理学的アプローチ（２）	・運動のメカニズムについて ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
4	10/6	スポーツ心理学的アプローチ（３）	・運動学習の原理とは ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動学習について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
5	10/13	スポーツ心理学的アプローチ（４）	・運動、スポーツ指導とスポーツ心理学 ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動・スポーツ指導について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
6	10/20	スポーツ心理学的アプローチ（５）	・運動制御（反応とは何か） ・目標設定とパフォーマンス ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	運動制御について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	スポーツ心理学的アプローチ（6）	・運動、スポーツの動機付け ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	動機付け（内的、外的）について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
8	11/10	スポーツ心理学的アプローチ（7）	・心理検査紙を用いたパフォーマンス評価	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	授業時に配付した心理検査紙を事前に実施し、回答をまとめてくる。	120分
		事後学修	スポーツ心理学におけるパフォーマンスについて自分の考えをまとめ報告書を作成する。	120分
9	11/17	スポーツ心理学的アプローチ（8）	・まとめ ・個人発表 ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
10	11/24	体力科学的アプローチ（1）	・体力科学の研究について ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	体力科学について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
11	12/1	体力科学的アプローチ（2）	・トレーニングとパフォーマンス（1） ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
12	12/8	体力科学的アプローチ（3）	・トレーニングとパフォーマンス（2） ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	体力科学的アプローチ (4)	・トレーニングとパフォーマンス (3) ・議論	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
14	12/22	体力科学的アプローチ (5)	・トレーニングとパフォーマンス (4) ・質疑応答	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
		事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
15	1/12	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	SB0s①～④	
		事前学修	全体を振り返り授業で取り上げたスポーツのパフォーマンスについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツのパフォーマンスを様々な視点で考える。	120分

科目名	教養演習ⅡA【質的研究と当事者研究 差別問題の「語り」を手がかりに】	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
【教養演習ⅡA 科目の概要】総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。【授業概要】香川の担当する演習では、現代の多様な当事者研究（差別問題研究）の視点から、個々人の興味関心のある社会問題や社会事象について分析、検討をします。なお、受講の前提として、香川の担当する「教育学Ⅰ/Ⅱ」のいずれかの単位を取得しているか、当該科目を履修登録していることを要件とします。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目における学問分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
特にありませんが、初回の授業には必ず出席してください。

【授業方法】		
【香川の演習】①テキスト（場合によっては配付資料を使用する場合もある）の講読します。②受講生の個人報告を中心とした演習形式で行います。発表では各自の理解内容・調査内容・疑問点などを報告し、全員で議論します。レポート等についての講評は授業内で行います。なお、予習と復習の時間は、あくまで目安ですので、個々人の学習状況に応じて、調整してください。2019年度の個人報告テーマ事例……ディズニー映画の女性表象、車椅子使用者の男性と非使用者の恋愛、ジェンダー・マイノリティと映像作品、学習塾の教師像、性犯罪被害者とその支援、ブラック部活など。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					2							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							2					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								2				
④	適切なレジユメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の発表時に担当者の側から発表の総括を行います。また、ポータルサイトを利用してフィードバックを実施します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
当事者研究の研究	石原孝二	医学書院	2013	参考書	任意
摂食障害の語り	中村英代	新曜社	2011	参考書	任意
趣味の社会学 文化・階層・ジェンダー	片岡栄美	青弓社	2019	参考書	任意
病気と表象	サンダー・L・ギルマン	ありな書房	1997	参考書	任意
家族はなぜ介護してしまうのか	木下衆	世界思想史社	2019	参考書	任意
病の言語表象	木村功	和泉書院	2016	参考書	任意
映画とジェンダー／エスニシティ	塚田幸光	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
ライフストーリー研究に何ができるか	櫻井厚・石川良子	新曜社	2015	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて教員から教示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4. 6（月曜日）	授業の方法と目的の概説	授業の内容と進め方について解説します。担当教員の専攻する学問領域についても検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨めるようにする。また、演習に関連する学問領域の特質を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスをもとに、担当教員の専攻する学問領域の特質について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
2	4. 13（月曜日）	当事者研究と教育社会学	社会学分野における当事者研究の性格について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、当事者研究の位置づけに関して、その概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
3	4. 20（月曜日）	当事者研究の位相	社会学分野のなかで蓄積された質的研究の性格と当事者研究について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究の位相についてその概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
4	4. 27（月曜日）	当事者研究と教育社会学研究	教育社会学分野の諸研究と当事者研究の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と教育社会学研究の相関についてその概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
5	5. 4（月曜日）	個々人の生活世界と当事者研究	受講生のこれまでの経験を踏まえて、当事者研究について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
6	5. 11（月曜日）	被教育体験と当事者研究（個人報告）	個人の被教育体験と当事者研究の関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5.18（月曜日）	労働世界と当事者研究（個人報告）	個々人のアルバイト経験を通して、組織や集団と当事者研究の関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
8	5.25（月曜日）	差別問題（人種差別）と当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
9	6.1（月曜日）	差別問題（知的障害に関する諸研究）と当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
10	6.8（月曜日）	差別問題（精神疾患に関する諸研究）と当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
11	6.15（月曜日）	差別問題（身体障害に関する諸研究）と当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分
12	6.22（月曜日）	犯罪社会学と当事者研究（個人報告）	犯罪社会学の諸研究と当事者研究の関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6.29（月曜日）	社会問題と当事者研究（個人報告）	社会問題とされる諸現象と当事者研究の関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分
14	7.6（月曜日）	「社会病理」と当事者研究（個人報告）	「社会病理」とラベリングされる諸現象と当事者研究の関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	60分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分
15	7.13（月曜日）	総括討議	前期の授業内容に関して、総括討議を実施します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分

科目名	教養演習ⅡA【量的社会学の方法】	担当者	常松 淳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。常松担当の教養演習ⅡAでは、John Goldthorpeのテキスト（Sociology as a Population Science）を購読し、量的社会学の方法について考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
社会学の方法についてある程度の知識と関心のあること。

【授業方法】
次の文献を講読する。学生は担当箇所についてまとめたプリントを作り、これをもとに報告・討論する。 Goldthorpe, John, 2016, Sociology as a Population Science, Cambridge University Press.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表・討論。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を与える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Sociology as a Population Science	John H. Goldthorpe	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に対応する。メールも可（vyb03233@nifty.com）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部・水曜・4/8	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方，テキストの概要，その背景などについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，テキストの概要とその意義について説明できる。	
		事前学修	テキストのIntroductionを読んでおく。	120分
		事後学修	今後の学修計画を立てておく。	120分
2	一部・水曜・4/15	第1章を読む	第1章を読解し，問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，「集まりの科学としての社会学」という考えを説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み，疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ，該当章の内容を整理しておく。	120分
3	一部・水曜・4/22	第2章を読む	第2章を読解し，問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，個人とその変動という観点を説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み，疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ，該当章の内容を整理しておく。	120分
4	一部・水曜・4/29	第3章を読む	第3章を読解し，問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，方法論的個人主義について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み，疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ，該当章の内容を整理しておく。	120分
5	一部・水曜・5/6	第4章を読む	第4章を読解し，問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，集団における規則性という観点から社会学について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み，疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ，該当章の内容を整理しておく。	120分
6	一部・水曜・5/13	第5章を読む	第5章を読解し，問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，社会学研究における統計の役割について説明できる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み，疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ，該当章の内容を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部・水曜・5/20	第6章を読む	第6章を読解し、問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、統計データの収集について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み、疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ、該当章の内容を整理しておく。	120分
8	一部・水曜・5/27	第7章を読む	第7章を読解し、問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、データ分析の方法について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み、疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ、該当章の内容を整理しておく。	120分
9	一部・水曜・6/3	第8章を読む	第8章を読解し、問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、統計学と因果的説明との関係を説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み、疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ、該当章の内容を整理しておく。	120分
10	一部・水曜・6/10	第9章を読む	第9章を読解し、問題点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、社会学におけるメカニズムと因果性について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当章を読み、疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ、該当章の内容を整理しておく。	120分
11	一部・水曜・6/17	全体の振り返り（1）	社会学は何を説明すべきかについて討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、社会学の目標について説明できるようになる。	
		事前学修	社会学の目的について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ内容を整理しておく。	120分
12	一部・水曜・6/24	全体の振り返り（2）	社会学と統計学の関係について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、社会学における統計学の役割について説明できるようになる。	
		事前学修	社会学と統計学の関係について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ、内容を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部・水曜・7/1	全体の振り返り（3）	社会学における因果的説明について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、社会学における因果性について説明できるようになる。	
		事前学修	社会学における因果的説明について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ、内容を整理しておく。	120分
14	一部・水曜・7/8	全体の振り返り（4）	因果的説明とメカニズムについて討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、社会学におけるメカニズム的説明について解説できるようになる。	
		事前学修	社会学におけるメカニズム的説明について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業内での解説・討論を踏まえ内容を整理しておく。	120分
15	一部・水曜・7/15	まとめ	「集まりの科学」としての社会学について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、量的社会学が目指すものについて説明できるようになる。	
		事前学修	テキスト全体を読み返し、疑問点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	量的社会学の方法について整理する。	120分

科目名	教養演習ⅡA【19世紀イギリスの政治と宗教】	担当者	馬淵 彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に係るテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。この授業では、受講生各自による調査・研究の一つの参考材料として、担当教員の集めた資料（史料）とそれらの資料の活用方法を、「イギリス近代の政治社会とキリスト教」を通じて紹介します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に係る豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
特になし（キリスト教会史の知識がなくても分かるよう授業を進めていく）。

【授業方法】
講義（ビデオや絵などの視覚教材やプリントなどの配布資料を用いながら行なう）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。受講者数などの状況を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で個々の受講生の理解度を確認し、個別に指導する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一九世紀イギリスの民衆と政治文化	ローハン・マック ウィリアム	昭和堂	2004	参考書	任意
イングランド労働者階級の形成	エドワード・P・トム スン	青弓社	2003	参考書	任意
備考	必要に応じて、授業中に資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	近代イギリスの宗教と政治	近代イギリスの宗教と政治での鍵であるプロテスタント的立憲主義のネイションを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、17世紀後半にイングランドがプロテスタント・コンスティテューションをどのように形成したかを説明できる。	
		事前学修	ヘンリー8世の宗教改革、ピューリタン革命、名誉革命とはそれぞれどのようなものであったか、辞典などを用いて調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
2	4/15	民衆の信仰	民衆の信仰であるメソジストを宗教的ヴォランタリ・ソサエティの視点から概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国教会と非国教会の境界が、メソジスト派によってどのように曖昧にされたかを説明できる。	
		事前学修	ジョン・ウェスレーとはどんな人物か、またメソジスト派とはどのような活動をしたグループかについて、調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
3	4/22	アレヴィ論争	19世紀イギリス政治文化に関連するアレヴィ論争を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フランスの哲学者アレヴィが19世紀イギリス社会の相対的な政治的安定についてどのように説明したかを説明できる。	
		事前学修	産業革命とその社会的影響について、またフランス革命と19世紀のヨーロッパの暴動・革命について調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
4	4/29	イギリスの農業労働者の組合運動	19世紀後半イングランドの農業労働者の組合運動を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、19世紀後半のイングランドにおいて、農業労働者たちがどのように労働組合運動を生み出したのかを説明できる。	
		事前学修	イギリスの18世紀の「農業革命」について、また、19世紀の労働運動について調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
5	5/6	農業労働者組合とキリスト教	19世紀後半イングランドの労働運動とキリスト教との関係を扱ったナイジェル・スコットランド博士のテーゼを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナイジェル・スコットランド博士が、農業労働者の組合運動とキリスト教とのつながりについて、どのような仮説を立てているかを説明できる。	
		事前学修	イギリス国教会、長老派、会衆派、バプティスト派、クエーカーとは、それぞれどのような特徴をもったキリスト教か調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
6	5/13	農業労働者組合と労働争議	農業労働者組合の労働争議にキリスト教諸派がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者組合の労働争議に、各地の国教会と非国教会がどのように関与していたかを説明できる。	
		事前学修	19世紀半ばのイングランドの農業労働者の生活水準や環境について調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	農業労働者組合と国内外移住政策	農業労働者組合の国内外移住政策にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者の国内外移住政策に、各地の国教会・非国教会がどのように関与したかを説明できる。	
		事前学修	1870年代のイギリスが、どのような地域に植民地などを持っていたか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
8	5/27	農業労働者組合と教区権問題	農業労働者組合による教区権活用にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者組合の教区権への介入政策に、各地の国教会・非国教会がどのように関与したかを説明できる。	
		事前学修	19世紀半ばのイングランドにおいて、教区の行政がどのようにになっていたのか、また教区による慈善活動にどのようなものがあったか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
9	6/3	農業労働者組合と土地法改革運動	農業労働者組合による土地法改革運動にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者組合による土地購入政策と土地法改革運動に対して、各地の国教会・非国教会がどのように関与したかを説明できる。	
		事前学修	第二次囲い込み運動とその影響について調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
10	6/10	農業労働者組合と選挙法改正運動	農業労働者組合による選挙法改正運動にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者組合と自由党との接近に対して、各地の国教会・非国教会はどのような態度を示したかを説明できる。	
		事前学修	政党政治とは何か、第一回選挙法改正と第二回選挙法改正はそれぞれどのような改正であったのか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
11	6/17	農業労働者組合と国教廃止運動	農業労働者組合による国教会廃止運動にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者組合が急進的自由党員の政策を採用したことに対して、各地の国教会・非国教会がどのような態度を示したかを説明できる。	
		事前学修	国教会と非国教派の諸教会の教会運営・維持費はどこから得られているか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
12	6/24	農業労働者組合と救貧運動	農業労働者組合による救貧運動にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、イギリスの伝統的な救貧事業や19世紀に新たに始まった救貧事業にどのようなものがあるかを説明できる。	
		事前学修	新救貧法、友愛組合、キリスト教社会主義、救世軍、COS(Charity Organization Society)、またイギリスのその他の救貧事業について調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	農業労働者組合と共済組織	農業労働者組合による共済組織設立にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農業労働者組合の共済組織形成に対して、各地の国教会・非国教会がどのように関与したかを説明できる。	
		事前学修	19世紀のイギリスの社会保障の実態がどのようなものであったのか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
14	7/8	農業労働者組合と政党政治	農業労働者組合による政党政治への関与にキリスト教諸勢力がどのような姿勢をとっていたか概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第三回選挙法改正の推進運動や改正後の最初の総選挙において、各地の国教会・非国教会がどのように関与したかを説明できる。	
		事前学修	第三回選挙法改正とはどのような改革だったのか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
15	7/15	スコットランド博士のテーゼ再検討	スコットランド・テーゼの問題を通して、なぜ一般化や理論では歴史の実態を見誤るのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	ナイジェル・スコットランドが宗教社会学的に立てた仮説は、史学的手法を用いた今回の再検討の結果、修正が必要か、また必要ならばどのように修正されなければならないか考えてくる。	120分
		事後学修	授業内に紹介された参考文献や配布された資料を読み、歴史学的手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	教養演習ⅡB【質的研究と文献研究 パーソナル・ライティングからアカデミック・ライ ティングへ】	担当者	香川 七海	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授 業 時 間 数	90分×15回	必修 選択		総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施 に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
【教養演習IIB科目の概要】総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。【授業概要】香川の担当する演習では、現代の多様な当事者研究（差別問題研究）の視点から、個々人の興味関心のある社会問題や社会事象について分析、検討をします。なお、受講の前提として、香川の担当する「教育学I/II」のいずれかの単位を取得しているか、当該科目を履修登録していることを要件とします。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目における学問分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
特にありませんが、初回の授業には必ず出席し、ガイダンスを受講してください。

【授業方法】		
①テキスト（場合によっては配付資料を使用する場合もある）の講読します。②受講生の個人報告を中心とした演習形式で行います。発表では各自の理解内容・調査内容・疑問点などを報告し、全員で議論します。レポート等についての講評は授業内で行います。なお、予習と復習の時間は、あくまで目安ですので、個々人の学習状況に応じて、調整してください。2019年度の個人報告テーマ事例……ディズニー映画の女性表象、車椅子使用者の男性と非使用者の恋愛、ジェンダー・マイノリティと映像作品、学習塾の教師像、性犯罪被害者とその支援、ブラック部活など。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					2							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							2					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								2				
④	適切なレジユメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の発表時に担当者の側から発表の総括を行います。また、ポータルサイトを利用してフィードバックを実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパ政治思想の誕生	将基面貴巳	名古屋大学出版会	2013	参考書	任意
オオカミ少女はいなかった	鈴木光太郎	新曜社	2008	参考書	任意
人口問題の正義論	松元雅和	世界思想社	2019	参考書	任意
セクシャリティの多様性と排除	好井裕明	明石書店	2010	参考書	任意
現実はいつも対話から生まれる	ケネス・J・ガーゲン	ディスカヴァー	2018	参考書	任意
私がアルビノについて調べ考えて書いた本	矢吹康夫	生活書院	2017	参考書	任意
民族という虚構	小坂井敏晶	東京大学出版会	2002	参考書	任意
失われた子どもたち	タラ・ザーラ	みすず書房	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて教員から教示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9.14（月曜日）	初回の授業にて教員から教示します。	授業の内容と進め方について解説します。担当教員の専攻する学問領域についても検討します。前期の授業との関係についても説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨めるようにする。また、担当教員の専攻する学問領域の特質を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスをもとに、担当教員の専攻する学問領域の特質について検討する。	60分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
2	9.21（月曜日）	社会問題と教育社会学	社会問題と教育社会学の関係、性格について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、社会問題と教育社会学研究の位置づけに関して、その概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
3	9.28（月曜日）	社会問題の諸相	現代社会において構築される社会問題の位相について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題の位相についてその概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
4	10.5（月曜日）	社会問題と人々のまなざし	社会問題に対する同時代の人々の認識について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題研究と社会問題に対する諸言説についてその概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
5	10.12（月曜日）	社会問題と教育課題	現代社会において表出する教育課題の「語られ方」を検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題と教育課題の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
6	10.19（月曜日）	被教育体験と社会問題（個人報告）	個人の被教育体験と社会問題の関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、個々人の被教育体験と社会問題の関係について説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10. 26 (月曜 日)	就職活動と社会問題（個人報告）	現代日本の就職活動の変遷を考察するとともに、就職活動にともなう社会問題について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、就職活動と社会問題の関係について説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
8	11.9 (月曜 日)	学校教育と社会問題（個人報告）	学校教育と社会問題の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、学校教育と社会問題の関係について説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
9	11. 16 (月曜 日)	差別問題と社会問題（個人報告）	差別問題と社会問題の関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、差別問題と社会問題の関係が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
10	11. 23 (月曜 日)	映像分析（テレビドラマ・映画）と社会問題の表象（個人報告）	映像資料のなかに描かれた社会問題について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題がいかに映像資料に反映されているかという概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
11	11. 30 (月曜 日)	映像分析（ドキュメンタリー番組）と社会問題（個人報告）	映像資料のなかに描かれた社会問題について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題がいかに映像資料に反映されているかという概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
12	12.7 (月曜 日)	映像分析（アニメーション）と社会問題（個人報告）	映像資料のなかに描かれた社会問題について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12.14 (月曜日)	差別問題（人種差別）と社会問題（個人報告）	反知性主義とアメリカ・ヨーロッパの差別問題関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
14	12.21 (月曜日)	差別問題（ユダヤ人の迫害）と社会問題（個人報告）	反知性主義とアメリカ・ヨーロッパの差別問題関係について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	60分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
15	1.18 (月曜日)	総括討議	後期の授業内容に関して、総括討議を実施します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	180分
		事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分

科目名	教養演習ⅡB【計算社会科学の方法】	担当者	常松 淳	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。常松担当の教養演習ⅡBでは、Matthew Salganikのテキスト（Bit by Bit: Social Research in the Digital Age）を購読し、計算社会科学の方法について考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
社会調査法について初歩的な知識と関心のあること。

【授業方法】		
次の文献を講読する。学生は担当部分についてまとめたプリントを作り，報告・討論する。 Salganik, Matthew, 2017, Bit by Bit: Social Research in the Digital Age, Princeton University Press.（＝2019, 瀧川裕貴・常松淳・阪本拓人・大林真也訳『ビット・バイ・ビット——デジタル社会調査入門』有斐閣。）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の報告と討論を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を与える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ビット・バイ・ビット——デジタル社会調査入門』	マシユー・サルガニック	有斐閣	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に応じる。メールでも対応可（vyb03233@nifty.com）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部・水曜9/16	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方，テキストの概要，背景について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，テキストの概要を把握し，その位置付けを説明できるようになる。	
		事前学修	テキストのイントロダクションを読む。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえ，今後の学修計画を立てる。	120分
2	一部・水曜9/23	第2章を読む（1）	第2章の前半を読解し，疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，行動観察データについて説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み，疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ，内容を振り返る。	120分
3	一部・水曜9/30	第2章を読む（2）	第2章の後半を読解し，疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，現代の巨大デジタルデータについて説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み，疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ，内容を振り返る。	120分
4	一部・水曜10/7	第3章を読む（1）	第3章の前半を読解し，疑問点について整理する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，サーヴェイ調査の基本について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み，疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ，内容を振り返る。	120分
5	一部・水曜10/14	第3章を読む（2）	第3章の後半を読解し，疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，新しい質問手法について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み，疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ，内容を振り返る。	120分
6	一部・水曜10/21	第4章を読む（1）	第4章の前半を読解し，疑問点について討論する	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して，実験の基礎について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み，疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ，内容を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部・水曜10/28	第4章を読む（2）	第4章の後半を読解し、疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、より複雑な実験の意義について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分
8	一部・水曜11/11	第5章を読む（1）	第5章の前半を読解し、疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、マスコラボレーションの基本について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分
9	一部・水曜11/18	第5章を読む（2）	第5章の後半を読解し、疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、マスコラボレーションのデザインについて説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分
10	一部・水曜11/25	第6章を読む（1）	第6章の前半を読解し、疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、科学研究における倫理について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分
11	一部・水曜12/2	第6章を読む（2）	第6章の後半を読解し、疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、デジタル社会調査で特に問題となる領域について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分
12	一部・水曜12/9	第6章を読む（3）	第6章で取り上げられた研究事例について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、実際の研究例について倫理上の問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部・水曜12/16	第7章を読む	第7章を読解し、疑問点について討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、これからの社会調査について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分
14	一部・水曜12/23	全体の振り返り	テキスト全体を振り返り、討論する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、デジタル時代の社会調査について解説できるようになる。	
		事前学修	テキスト全体を読み返し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、テキスト全体を振り返る。	120分
15	一部・水曜1/13	社会調査テーマを考える	新しい社会調査手法によって調べたい事柄について考え、発表する。	
		この回の到達目標	到達目標1～4に関連して、新たに学んだ社会調査法を応用できるようになる。	
		事前学修	テキストの内容を踏まえ、社会調査のテーマを考える。	120分
		事後学修	授業での討論を踏まえ、内容を振り返る。	120分

科目名	教養演習ⅡB【歴史学の実践にかかわる諸問題】	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。この授業では、ケンブリッジ大学歴史学部のプロフェッサーであったジェフリー・エルトンの著書『歴史学の実践』を英語原文で講読します。歴史学の研究手法を正確に把握し、また他の学問の有効な活用方法も一緒にさぐっていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
英語文献を講読していくため、各回の箇所について事前に和訳等して、内容をできるだけ理解してくること。また英語の辞書を毎回持つてくること（電子辞書でも可だが、紙の英和辞典が好ましい）。

【授業方法】
受講生による講読、および教師による解説。小論文作成希望者には、論文作成の指導。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。受講者数などの状況を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3			1				
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジユメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で個々の受講生の理解度を確認し、個別に指導する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Practice of History	G. R. Elton	Blackwell Publishing	(1st ed.,	その他	任意
備考	教科書などの資料の入手方法等に関しては、授業で説明し対応する。				

【オフィスアワー】
研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	講読する書籍と著者についての説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、E. H. カーの主張とG. R. エルトンの主張は、どのような点でなぜ対立するのかを説明できる。	
		事前学修	シラバスをしっかりと読み、この講座について目的や方法や履修条件を理解してくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
2	9/23	Preface	E. R. エルトンの執筆目的を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、この本が何の目的で書かれたものか、その趣旨について説明できる。	
		事前学修	テキストの'Preface'の箇所pp. vii-viiiを読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
3	9/30	近代歴史学の誕生	近代歴史学がどのように誕生したかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、近代歴史学がどのように誕生したかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'The Present Debate'の箇所pp. 1-4を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
4	10/7	近代歴史学をめぐる論争	The Present Debate 近代歴史学をめぐる論争を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、近代歴史学をめぐる論争を説明できる。	
		事前学修	テキストの'The Present Debate'の箇所pp. 4-7を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
5	10/14	歴史学独自の手法	Autonomy 歴史学独自の手法を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史学独自の手法を説明できる。	
		事前学修	テキストの'Autonomy'の箇所pp. 7-9を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
6	10/21	歴史学独自の成果	Autonomy 歴史学独自の成果を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史学独自の成果としてどのような点をあげられるかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Autonomy'の箇所pp. 9-11を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	歴史研究の種類	Kinds 歴史研究の種類を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史研究にはどのような種類があるかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Kinds'の箇所pp. 11-15を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
8	11/11	歴史学による間違った研究	Kinds 歴史学による間違った研究を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史学による間違った研究とはどのようなものかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Kinds'の箇所pp. 15-18を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
9	11/18	歴史学による優れた研究	Kinds 優れた研究を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、優れた研究とはどういうものなかのを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Kinds'の箇所pp. 18-21を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
10	11/25	過去を扱う諸々の学問	Rivals 過去を扱う諸々の学問を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去を扱う歴史以外の諸々の学問にどのようなものがあるかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Rivals'の箇所pp. 21-28を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
11	12/2	歴史学の隣接学問	Rivals 歴史学の隣接学問を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去を扱う歴史額以外の諸々の学問が歴史学とどのように異なるかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Rivals'の箇所pp. 28-35を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
12	12/9	歴史学と他の学問との望ましい関係	Rivals 歴史学と他の学問との望ましい関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史学と他の学問との望ましい関係とはどのようなものかを説明できる。	
		事前学修	テキストの'Purpose'の箇所pp. 35-30を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	歴史学の目的	Purpose 歴史学の目的を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史学の目的を説明できる。	
		事前学修	テキストの'Purpose'の箇所pp. 35-30を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
14	12/23	歴史学の人類や社会への貢献	Purpose 歴史学から人類や社会への貢献を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史学から人類や社会への貢献を説明できる。	
		事前学修	テキストの'Purpose'の箇所pp. 40-45を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
15	1/13	「E.H. カー vs. G.R. エルトン」論争	Afterword by Richard Evans 「E.H. カー vs. G.R. エルトン」論争を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業全体を通して講読してきた書に基づき、歴史研究の目的と課題を説明できる。	
		事前学修	テキストAfterword by Richard Evans'の箇所pp. 165-203を読み、日本語で説明できるようにしてくる。	120分
		事後学修	授業内で講読し理解できた歴史研究の手法や目的を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。					2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。						2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。							2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業前後、授業講堂にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 4月6日 4月7日	授業の方法と目的の概説	芸術の価値 クリエイティブ・クラス AIは何をもたらすか	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	第1部 4月13日 4月14日	既成価値観の見直し（1）	岡本太郎の対極主義 芸術とは何か 「なんだ、これは！」	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	第1部 4月20日 4月21日	既成価値観の見直し（2）	身のまわりを見つめ直す 赤瀬川原平『老人力』にみる新しい立脚点	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	第1部 4月27日 4月28日	既成価値観の見直し（3）	荒川修作 反芸術 弱者に向けた芸術	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	第1部 5月4日 5月5日	既成価値観の見直し（4）	おたく クール？ 村上隆 コンテンポラリー・アートの意味	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	第1部 5月11日 5月12日	既成価値観の見直し（5）	ポップ・アート 日常的イメージの引用 アンディ・ウォーホル 他	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 5月18日 5月19日	既成価値観の見直し（6）	芸術を思索すること オノ・ヨーコとジョン・レノン	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	第1部 5月25日 5月26日	複製技術時代の芸術（1） 写真の発明	写真は人々の認識をどのように変えたか 情報授受の変容	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	第1部 6月1日 6月2日	複製技術時代の芸術（2） 写真の発展	記録か芸術か？ 報道写真 表現としての写真	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	第1部 6月8日 6月9日	複製技術時代の芸術（3） 映画の発明	映画前史からたどる 世界初の映画の登場と影響	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	第1部 6月15日 6月16日	複製技術時代の芸術（4） 映画、映像の発展	娯楽か芸術か？ 多様な映像 進展する映像技術	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	第1部 6月22日 6月23日	複製技術時代の芸術（5） 音楽の複製	生演奏か？ 録音か？ グレン・グールドの問題提起	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 6月29日 6月30日	ミュージアムの存在意義	各国のミュージアムをめぐって メディアとしての文化装置	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	第1部 7月6日 7月7日	文化政策	日本 アメリカ フランスを比較する 国家の文化や芸術に対する価値観 世界文化遺産	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	第1部 7月13日 7月14日	まとめ	芸術とは何か 文化とは何か	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。リアクションペーパーなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス：nrkinase@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	授業の方法と目的の概説	序論Ⅰ：芸術論Ⅰについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術作品には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることを。	120分
		事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	第一部 木4/16	西洋美術史から見た日本美術史 各論1-① 仏教伝来と飛鳥時代	仏教伝来と飛鳥時代について、鑑賞と解釈の方法や、建築、絵画、彫刻、工芸の定義について説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	第一部 木4/23	各論1-② パルテノン神殿と奈良の法隆寺	パルテノン神殿と奈良の法隆寺について、伽藍造営経緯、作品様式とアルカイックスマイル等諸技法を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	第一部 木4/30	各論1-③ 薬師寺と唐招提寺	薬師寺と唐招提寺について、歴史記念建造物や世俗建築の概略を説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	第一部 木5/7	各論1-④ 天平時代、奈良盛期	天平時代、奈良盛期におけるクラシック様式について、国家事業としての東大寺造営との関連で解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	第一部 木5/14	西洋美術史から見た日本美術史 各論2-① 平安時代の美術と西洋への影響	浄瑠璃寺、平等院及びサグラダファミリアやモネの絵画を鑑賞し、平安時代の美術と西洋への影響について説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	各論2-② 曼荼羅と密教尊像	大陸より伝承した図像形式である曼荼羅と密教尊像を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	第一部 木5/28	各論2-③ 絵巻物とやまと絵	絵巻物とやまと絵における、画面構成法、説話表現について説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	第一部 木6/4	西洋美術史から見た日本美術史 各論3-① 鎌倉時代における寺院建築	鎌倉時代における寺院建築再興や、大仏様と禅宗様について解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	第一部 木6/11	各論3-② 絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式	絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式について、精緻な肖像に見る写実や、日本とヨーロッパの写実表現の概略を説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	第一部 木6/18	各論3-③ 室町時代 楼閣建築と庭園造営	室町時代における楼閣建築と庭園造営について、パラッツォ、ヴィッラの歴史と並行して解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	第一部 木6/25	各論3-④ 水墨画、詩画軸山水 雪舟	水墨画、詩画軸山水、雪舟について、書斎と風景描写、同時代のルネサンス風景画とともに説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	授業まとめ	前学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
		事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	第一部 木7/9	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として、授業内試験を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	授業内試験の準備。前期内容の振り返り。	120分
		事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	第一部 木7/16	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	フィードバックの準備。前期内容の振り返り。	120分
		事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】 特に無し。

【授業方法】 講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を使用し作例を具体的に紹介しながら進める。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータルシステムにて実施	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】	
木曜1限、授業前後に受け付ける。授業講堂にて。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	イントロダクション及び導入講義	「芸術」「美術」とは何か 図像・様式と写実の歴史	
		この回の到達目標	「芸術」「美術」の基本的概念の把握。	
		事前学修	「芸術」「美術」について自身の知識、見解を整理しておく。	120分
		事後学修	美術史学の基本事項について復習。	120分
2	4月16日	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本① 写実主義の展開 日本の江戸と近代化	
		この回の到達目標	近代における西洋と日本の影響関係の把握。	
		事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	19世紀東西文化の復習。	120分
3	4月23日	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本② 印象派とジャポニスム 日本の近代化	
		この回の到達目標	印象派を中心とする東西の影響関係の理解。	
		事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ジャポニスムについて復習。	120分
4	4月30日	世紀末芸術	世紀末芸術 象徴主義、アール・ヌーヴォーの展開	
		この回の到達目標	19世紀末の表現形式の理解。	
		事前学修	世紀末芸術について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	世紀末芸術の思想・視覚表現について復習。	120分
5	5月7日	表現主義とキュビズム	表現主義とキュビズム マティス、ピカソの時代 色とかたちの追求	
		この回の到達目標	20世紀初頭のムーブメントの理解。	
		事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	表現主義とキュビズムについて復習。	120分
6	5月14日	ダダイズム、シュルレアリスム	ダダイズム、シュルレアリスム ツァラ、デュシャン、ブルトンの時代	
		この回の到達目標	第一次世界大戦後の美術状況の理解。	
		事前学修	20世紀前半の美術、文学活動について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ダダ、シュルレアリスムについて復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	戦前・戦後の日本美術	前衛と戦争の影 占領下とその後の日本美術	
		この回の到達目標	占領下とその後の日本美術について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	戦前、戦後美術の復習。	120分
8	5月28日	戦後の西洋美術	アンフォルメル、アクションの時代① 抽象表現主義 未定形の表現	
		この回の到達目標	戦後の抽象芸術について理解。	
		事前学修	戦後西洋美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	アンフォルメル、抽象表現主義の復習。	120分
9	6月4日	日本の前衛美術	アンフォルメル、アクションの時代② アンフォルメル旋風と日本 具体美術協会	
		この回の到達目標	50年代日本の表現展開について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	50年代日本美術の復習。	120分
10	6月11日	戦後アメリカ美術	ネオダダ、反芸術① カラー・フィールド・ペインティングからネオ・ダダへ	
		この回の到達目標	50年代アメリカの美術状況について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	50年代日本とアメリカ美術の復習。	120分
11	6月18日	日本の前衛美術	ネオダダ、反芸術② 読売アンデパンダン展の時代とその後	
		この回の到達目標	60年代日本の表現展開について理解。	
		事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	60年代日本美術の復習。	120分
12	6月25日	ミニマル、コンセプチュアル・アート	ミニマル・アート、もの派、コンセプチュアル・アート 要素の抽出 ミニマルへの普遍的美意識	
		この回の到達目標	日本と西洋におけるミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの理解。	
		事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	ポップ・アート	ポップ・アート 日用品、マス・メディアへの視点 イメージの提示	
		この回の到達目標	アメリカを中心とするポップ・アートの展開について理解。	
		事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ポップ・アートについて復習。	120分
14	7月9日	新表現主義	シミュレーショニズム、ニュー・ペインティング 未視感から既視感へ 新表現主義の台頭	
		この回の到達目標	80年代の表現展開について理解。	
		事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	シミュレーショニズム、ニューペインティングについて復習。	120分
15	7月16日	まとめ	まとめ、現代の動向	
		この回の到達目標	授業全体のまとめおよび00年代以降の展開について理解。	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式。パワー・ポイント、視聴覚機器を用いて、数多くの作品を映像などで紹介しながら進める。随時リアクションペーパーを行い、事後にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後、授業講堂にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 9月14日 9月15日	授業の方法と目的の概説	芸術とは何か 私たちの視野を広げてくれる芸術 アートの存在意義	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	第1部 9月21日 9月22日	芸術家の創造・思想・人生 (1) フランシスコ・デ・ゴヤ	近代の先駆者 さまざまな試み	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	第1部 9月28日 9月29日	芸術家の創造・思想・人生 (2) ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	風景画の意義 自然と人間	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	第1部 10月5日 10月6日	芸術家の創造・思想・人生 (3) エドガー・ドガ	社会を見つめるまなざし 写真の影響	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	第1部 10月12日 10月13日	芸術家の創造・思想・人生 (4) クロード・モネ	《印象・日の出》当時のジャーナリズムをふり返る 印象派とは	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	第1部 10月19日 10月20日	芸術家の創造・思想・人生 (5) オーギュスト・ルノワール	酷評された作品 世論とは何か 女性表現の開拓	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 10月26日 10月27日	芸術家の創造・思想・人生 (6) エドヴァルド・ムンク	《叫び》はなぜ人々を魅了するのか 病、死をどうとらえるか	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	第1部 11月9日 11月10日	芸術家の創造・思想・人生 (7) アンリ・マティス	フォーヴィスム（野獣派）とは 《ジャズ》最晩年の作品	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	第1部 11月16日 11月17日	芸術家の創造・思想・人生 (8) ジョルジュ・ルオー	キリスト教絵画 ヨーロッパの精神文化 独自の世界を構築	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	第1部 11月23日 11月24日	芸術家の創造・思想・人生 (9) パブロ・ピカソ	キュビズム（立体派）とは ピカソの革新とは何か	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	第1部 11月30日 12月1日	芸術家の創造・思想・人生 (10) マルク・シャガール	夢や愛を描く 世界的活躍の軌跡	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	第1部 12月7日 12月8日	芸術家の創造・思想・人生 (11) 葛飾北斎	江戸後期の浮世絵師の挑戦 ジャポニスムへの影響	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 12月14日 12月15日	芸術家の創造・思想・人生 (12) 横山大観	明治、大正、昭和をふり返る 富士の描写にみられるもの芸術家の創造・思想・人生	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	第1部 12月21日 12月22日	芸術家の創造・思想・人生 (13) 伊藤若冲 熊谷守一	わが道を行く画家たち 自分らしい生き方とは	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	第1部 1月18日 1月12日	まとめ	人生と芸術 芸術鑑賞の意義	
		この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
		事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
		事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。リアクションペーパーなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス：nrkinase@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	授業の方法と目的の概説	序論Ⅱ：芸術論Ⅱについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることに。	120分
		事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	第一部 木9/24	西洋美術史から見た日本美術史 各論4-① 安土桃山、織豊時代	安土桃山、織豊時代について、 国宝姫路城を例として説明します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	第一部 木10/1	各論4-② 西洋美術の伝播と導入 暮らしを彩る工芸意匠、狩野派	西洋美術の伝播と導入、暮らしを彩る工芸意匠について、 狩野派、茶の湯と茶室、数寄屋造から和式家屋への展開を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	第一部 木10/8	各論4-③ 宗達光琳派	宗達光琳派について、 季節の推移を味わい、ルネサンスの風神（ゼフュロス）画も説明します。。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	第一部 木10/15	西洋美術史から見た日本美術史 各論5-① ロココの雅宴画 寛文美人画と浮世絵	ロココの雅宴画、寛文美人画と浮世絵について、 師宣肉筆、木版製作工程を解説します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	第一部 木10/22	各論5-② 春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵	春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵について 色彩や輪郭、パリの日本美術流行とともに説明します。。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	各論5-③ 舶来機器と洋風絵画 源内	舶来機器と洋風絵画について 源内、蘭学と油彩、オランダ絵画の影響を解説します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	第一部 木11/5	各論5-④ 文人画、銅版、動植物絵	文人画、銅版、動植物絵について、 空気と線などによる遠近法、モナ・リザの空気遠近法、イタリアの美人画を説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	第一部 木11/12	西洋美術史から見た日本美術史 各論6-① 学制発布と美術教育の始まり	学制発布と美術教育の始まり、印象派とパリ留学について、 明治以後の建築様式を解説します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	第一部 木11/19	各論6-② 日本美術を鑑賞致します	日本美術を鑑賞致します。 伝統保持や復古再生について説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	第一部 木12/3	各論6-③ アールヌーヴォー アールデコ 万国博覧会	アールヌーヴォー、アールデコについて、 建築装飾、工芸作品を多様に楽しみ、鑑賞する眼を養う。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
		事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	第一部 木12/10	各論6-④ 近現代における芸術 20世紀初め西洋美術の影響	近現代における芸術、20世紀初め西洋美術の影響について、 洋画や彫刻における充実の様相を説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	授業まとめ	後学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
		事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	第一部 木12/24	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として、授業内試験を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
		事前学修	授業内試験の準備。後期内容の振り返り。	120分
		事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	第一部 木1/14	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
		事前学修	フィードバックの準備。後期内容の振り返り。	120分
		事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を用いて具体的な作例を紹介しつつ授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。						2						
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。							2					
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。								2				
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
授業前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	複製技術とメディア	美術、視覚メディアと素材 画材の歴史 複製技術とマチエール メディア・アート考察	
		この回の到達目標	視覚メディアの歴史について把握	
		事前学修	日常的に使っている視覚メディア、今は使われなくなった視覚メディアについて自身の経験、見解を整理しておく。	120分
		事後学修	美術、視覚メディア史の基本事項について復習。	120分
2	9月24日	写真と絵画	写真と油絵① 写真の登場と美術、社会への影響	
		この回の到達目標	写真と絵画それぞれの役割と歴史について理解	
		事前学修	油絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
3	10月1日	写真と絵画	写真と油絵② 錦絵と写真鏡 “Photography”と「写真」	
		この回の到達目標	明治期の浮世絵と写真の役割について理解	
		事前学修	絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
4	10月8日	近代の複製技術	複製技術の展開① 出版文化と複製イメージ 製版の多様性	
		この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
		事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	複製技術史の復習。	120分
5	10月15日	近代の複製技術	複製技術の展開② 銅版、石版、木口木版の隆盛	
		この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
		事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	複製技術史の復習。	120分
6	10月22日	万国博覧会	博覧会の時代① 博覧会ブームの時代 万国博覧会	
		この回の到達目標	万博を中心とする博覧会の歴史について理解	
		事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
		事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	博覧会と作品観賞	博覧会の時代② 作品をみる「場所」考察	
		この回の到達目標	博覧会の流行と展開について理解	
		事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
		事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分
8	11月5日	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開① 素材の拡張 キュビズム以後	
		この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
		事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	コラージュのはじまりと展開について復習。	120分
9	11月12日	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開② 現代のコラージュとその文脈	
		この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
		事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	コラージュの展開について復習。	120分
10	11月19日	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材① ミニマル・アート、もの派と素材	
		この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	ミニマル・アートについて復習。	120分
11	12月3日	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材② コンセプチュアル・アートと素材	
		この回の到達目標	美術作品における素材について理解	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	コンセプチュアル・アートについて復習。	120分
12	12月10日	彫刻の定義と歴史	「彫刻」と「立体」 彫刻作品の定義と役割・歴史	
		この回の到達目標	彫刻作品の定義と役割・歴史について理解	
		事前学修	彫刻作品について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	彫刻史について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	メディア・アート	メディア・アート史① 実験映像の時代とCG黎明期	
		この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
		事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
14	12月24日	メディア・アート	メディア・アート史② CGの発展、「マルチメディア」とは何か	
		この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
		事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
15	1月14日	まとめ	まとめ 美術と画材の拡張②	
		この回の到達目標	授業全体のまとめ。美術作品の「素材」についての再考。	
		事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
		事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	健康科学 I	担当者	佐藤 秀明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
WHO憲章では健康について「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義している。このことから健康を理解するには様々な視点から考える必要があるといえる。本講義では健康に関連するテーマ（諸問題や健康被害等）を取り上げ、健康を取り巻く環境について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康問題や健康に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康を保持増進するための環境について健康を自主的・総合的に考え、的確に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、講義である。授業時にレジメおよび関連する資料を配布する。パワーポイントや視聴覚資料を用いて進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ピアレビュー（第4回、12回目）、ミニッツペーパー（適宜）、課題レポート（第15回目）を活用する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	健康被害について、具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
③	健康を取り巻く環境について具体例を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	社会的な健康問題について、関連する情報を用いて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	到達目標①②についての知識が身についているかを確認する。	5	5									10
レポート等	到達目標④についての知識が身についているかを、レポートにより評価する。				20							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解答及び解説、レポート課題の講評をする。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会を変える健康のサイエンス 健康総合科学への21の扉		東京大学医学部健康総合科学科 編	東京大学出版会	2016	参考書	任意
健康格差		マイケル・マーモット	日本評論社	2017	参考書	任意
シンプル衛生学公衆衛生学2019		鈴木 庄亮（監修）	南江堂	2019	参考書	任意
備考	なし					

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 ※事前に連絡をしてください。e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	健康とは何か	1. ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する 2. 事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する 3. WHOの健康の定義について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康の定義をから「健康とは何か」を説明できる。	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. WHOの健康の定義（日本語及び英語）を読み、そこに示されている視点を調べてくる。	45分
		事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以降の学習計画を立てる。	30分
2	4/13	健康とウェルビーイング	1. 健康を理解する上で重要な「考え方」について説明する。 2. 予防医学について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ウェルビーイングとは何かを具体例を挙げて、また予防医学について説明することができる。	
		事前学修	健康におけるウェルビーイングとは何か調べ、価値判断と事実判断に基づく考え方を	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、価値判断と事実判断に基づく考え方の具体例と予防医学について理解を深める。	60分
3	4/20	ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア	1. 健康にかかわるサービスの提供について、先進国と発展途上国の関係の変遷について説明する。 2. 従来の健康づくりとヘルスプロモーションの目的、戦略、活動方法の違いを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアの理念について具体例を示し説明することができる。	
		事前学修	オタワ憲章とアルマ・アタ宣言を読み、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて理解を深める。	60分
4	4/27	健康診断の活用	1. 健康管理の手段として健康診断はどのように活用されるか、また検診と健診の違いを説明する。 2. ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康診断の意義とその活用方法について説明することができる。	
		事前学修	定期健康診断の情報（個人のもの）を準備する。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康診断の意義とその活用方法について理解を深める。	60分
5	5/4	環境と健康（気候変動による健康被害）	1. 人間の内部環境と外部環境の関係を説明する。 2. 気候変動による健康被害を知り、「緩和策」及び「適応策」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
		事前学修	物理的環境とホメオスタシス（恒常性）について調べてくる。	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、人間の内部環境と外部環境の関係について理解を深める。	60分
6	5/11	環境と健康（公害による健康被害）	1. 化学的環境について説明する。 2. 公害によってもたらされる健康被害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
		事前学修	身近な環境汚染問題について調べてくる。	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康被害を引き起こす環境汚染問題についての理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	環境と健康 (暑熱・寒冷環境と健康)	暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、暑熱環境及び寒冷環境によって引き起こされる健康被害、その対処法について説明できる。	
		事前学修	暑熱環境の健康被害である熱中症、寒冷環境の健康被害である低体温症について調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について理解を深める。	90分
8	5/25	危機管理と健康（感染症）	1. 人類と感染症の関わりについて説明する。 2. 三大感染（エイズ、結核、マラリア）と顧みられない熱帯病を知り、グローバルヘルスの重要性を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、感染症とは何か具体例を示し説明することができる。	
		事前学修	新興感染症及び再興感染症について調べてくる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、感染症についての理解を深める。	60分
9	6/1	危機管理と健康（性感染症）	1. ウイルスと細菌による感染症の違いについて説明する。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然免疫と獲得免疫について説明することができる。	
		事前学修	人間の免疫機能について関連資料を調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、自然免疫と獲得免疫についての理解を深める。	60分
10	6/8	危機管理と健康（インフルエンザ）	1. 季節性と新型の違いを知り、適切な予防策と対応策を説明する。 2. インフルエンザの世界流行の歴史を概観し、流行がもたらした被害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、季節性と新型インフルエンザの違いを知り、適切な予防策と対応策を説明することができる。	
		事前学修	インフルエンザの世界流行について関連資料を調べ、各国の取り組みについてまとめる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、季節性と新型インフルエンザの違いを知り、適切な予防策と対応策の理解を深める。	60分
11	6/15	現代人の病気	現代社会において罹患する特徴的な病気について、その原因と予防策を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本人が罹患する病気とその原因について説明することができる。	
		事前学修	日本人に多い病気について関連資料を調べ、まとめる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、日本人が罹患する病気とその原因について理解を深める。	60分
12	6/22	統計と健康	保健統計から健康測定と健康指標について示し、どのような取り組みがなされているかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができる。	
		事前学修	「健康日本21」について調べ、その目的と具体的な取り組みについてまとめる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができるように理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	健康の社会的決定要因	健康格差を生み出す社会的要因について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康の社会決定要因とは何かを説明することができる。また、その原因を示し解決策を述べることができる。	
		事前学修	配付資料及び関連する資料を読み、健康格差とそれを生み出す社会的な要因についてまとめてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康格差の現状を踏まえ、その原因と解決策について理解を深める。	60分
14	7/6	授業内試験と解説	授業内試験（60分）及び、解説（30分）を行う	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康を取り巻く環境、健康被害、健康に関する諸問題について具体例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	試験に向けて、講義内容をまとめる。	120分
		事後学修	試験の解答及び解説内容をまとめ、自己評価を行う。疑問点や不明点を挙げ、質問を準備する。	30分
15	7/13	健康を取り巻く環境について考える	健康に関連する諸問題や健康被害についてまとめる	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康とは何か健康問題と関連付けて説明することができる。	
		事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	180分
		事後学修	授業の振り返りを行い、健康を取り巻く環境について理解を深める。	90分

科目名	健康科学Ⅱ	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人生１００年時代といわれるが、寿命と健康が同じものとして考えることは難しい。健康の保持増進に関連する「ストレス」や「生活習慣」に関する知識を学修し、主体的に健康行動を実践できる態度を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康課題や健康の保持増進に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康課題を探究し、その課題に対して総合的に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、講義である。授業時にレジメおよび関連する資料を配布する。パワーポイントや視聴覚資料を用いて進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ピアレビュー（第３回、７回、１３回目）、ミニッツペーパー（適宜）、課題レポート（第１５回目）を活用する

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	数多くの健康情報を体系的にまとめ、主体的に正しく判断できる				2	2	2	2				
③	健康の保持増進の方法について科学的な根拠を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	健康課題について、問題提起し関連する知識を用いてその解決策を示すことができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	到達目標①②についての知識が身についているかを確認する。	5	5									10
レポート等	到達目標④についての知識が身についているかを、レポートにより評価する。				20							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解答及び解説、レポート課題の講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養の健康科学	高井 茂、中井 定	創成社	2017	参考書	任意
現代人のからだと心の健康―運動の意義と応用	平木場 浩二	杏林書院	2006	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 ※事前に連絡をしてください。e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	健康寿命と平均寿命	1. ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する 2. 事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する 3. 健康寿命について説明する。また健康日本21の目標についても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康寿命から「健康とは何か」を説明できる。	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. 健康寿命について調べてくる。	45分
		事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以後の学習計画を立てる。	30分
2	9/21	健康を損なう要因	健康を損なう要因の一つである喫煙、アルコールのリスクを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、喫煙、アルコールのリスクを説明することができる。また、それらの対策として講じられている取り組みについて説明することができる。	
		事前学修	受動喫煙、サードハンド・スモークの被害について関連資料を調べてくる。	45分
		事後学修	講義内容をまとめ、喫煙、アルコールのリスクについての理解を深める。	60分
3	9/28	心の健康	1. メンタルヘルスについて説明するとともに、心理検査の用いて自己のメンタルヘルスについて理解する。 2. ストレスのメカニズムについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、心理検査の使用と評価方法について説明することができる。	
		事前学修	メンタルヘルスについて調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムとメンタルヘルスについて理解を深める。	90分
4	10/5	ストレスマネジメント	1. 認知的評価とストレスへの対処について説明する。 2. ストレスコーピングについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレスのメカニズムと対処方法について説明することができる。	
		事前学修	ストレスのメカニズムについて復習する。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムと対処方法について理解を深める。	60分
5	10/12	生活習慣と健康	肥満を栄養・運動・休養の視点から概観し、健康に大きな影響を及ぼす生活習慣の重要性を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生活習慣と肥満の関係について説明することができる。	
		事前学修	自らの生活習慣（栄養・運動・休養）を、配布シートに記入してくる。	90分
		事後学修	講義内容をまとめ、生活習慣と肥満の関係について理解を深め、自身の生活習慣の振り返りを行う。	30分
6	10/19	栄養と健康	1. 身体を作る基本ともいえる三大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂肪）の吸収メカニズムとその働きについて説明する。 2. その他の栄養素（ビタミンとミネラル）の働きについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、栄養素の消化吸収について説明することができる。	
		事前学修	五大栄養素について調べてくる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、栄養素の消化吸収について理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	健康的な食生活	健康の保持増進・質を向上させるための「食生活」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康にかかわる食行動について説明することができる。	
		事前学修	食品の表示制度について調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康にかかわる食行動について理解を深める。	90分
8	11/9	運動と健康 体力とその必要性	1. 健康に関連する体力要素を知り、授業では、簡単な自己診断を行い健康体力への理解を深める。 2. 活性酸素の功罪	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。	
		事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。	60分
9	11/16	健康的な運動	「運動不足」による健康への悪影響とともに、「運動のやりすぎ」による健康被害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。	
		事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。	60分
10	1/23	運動処方について	健康の維持増進を目的とした運動プログラムの考え方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康の維持増進を目的とした運動プログラムの作成手順および考え方を説明することができる。	
		事前学修	ストレングストレーニング（主に自重トレーニング）、エアロビクストレーニングについて調べる。	90分
		事後学修	講義内容をまとめ、運動処方について理解を深める。	30分
11	11/30	疲労と休養	疲労のメカニズムと休養の適切な選択について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、疲労の種類・メカニズムと休養の種類の示し、適切な休養を選択することができる。	
		事前学修	身体的な疲労と精神的な疲労について調べる。 積極的休養と消極的休養について調べる。	60分
		事後学修	講義内容をまとめ、疲労のメカニズムと休養の選択についての理解を深める。	60分
12	12/7	睡眠と健康	睡眠のメカニズムについて示し、睡眠の質及び量について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、睡眠のメカニズムを示し、質の高い睡眠とは何か説明することができる。	
		事前学修	適切な睡眠の有無が健康に及ぼす影響について調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、睡眠のメカニズムと睡眠の質について理解を深める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	コミュニケーションと健康	人との関わりが健康に与える影響に示し、コミュニケーションの必要性について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、コミュニケーションの有無が健康に及ぼす影響について説明することができる。	
		事前学修	孤独死の原因について調べる。	30分
		事後学修	講義内容をまとめ、健康と関係するコミュニケーションについての理解を深める。	30分
14	12/21	授業内試験と解説	授業内試験（60分）及び、解説（30分）を行う	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康を取り巻く環境、健康被害、健康に関する諸問題について具体例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	試験に向けて、講義内容をまとめる。	120分
		事後学修	試験の解答及び解説内容をまとめ、自己評価を行う。疑問点や不明点を挙げ、質問を準備する。	30分
15	1/18	健康行動について考える	健康に影響を及ぼす、ストレス及び生活習慣についてまとめる	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康とは何かをストレス及び生活習慣に関する知識を用いて説明することができる。	
		事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	120分
		事後学修	授業の振り返りを行い、健康を獲得するための健康行動について理解を深める。	30分

科目名	自然人類学Ⅰ	担当者	松浦 秀治	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人類の特質を理解するには、まず哺乳類・霊長類の特徴を捉え直しておく必要がある。このため、授業では「霊長類とはどういう哺乳類か」を概観した上で、現在のヒトの身体的特徴を説明する。そうしたヒトの身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境とに強く関係していること、更には「直立姿勢と二足歩行」という特性が、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の有毛性、家族の形成などのヒトの諸特徴と深く関連している点なども解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「生物としてのヒト」という視点を持ち、ヒトの身体特徴を学習することで、ヒトの身体形質と文化環境は不可分の関係にあることを理解する。また、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を培い、「人類の真の特徴」とは何かを正しく捉える基礎力を養成することを目的とする。この講義によって、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学ぶ。また、それに基づいて、「ヒトが文化を創ったというよりは、文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
シラバスやオリエンテーションを通じて授業の概要や評価方法などを理解した上で履修すること。教科書は用いないので、まずは出席し、講義をしっかりと聴くことが大切と考える。私語は厳禁とする。

【授業方法】
プリントを配り、スライドを写しながら講義・解説する（スライドの撮影は厳禁）。質問があれば、いつでも挙手すること（質疑応答は出席者全員の前で行うため、授業中に質問すること）。小テストの翌週はテストの内容解説も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜質問と議論を授業中にて繰り返しながら講義内容の浸透を図る。また、全授業を通して行う計6回の小テストとこの解説により、双方向型のコミュニケーションを取る時間を確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を理解し説明できるようになる					2		2	2				
②	「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学び、これに基づき「文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになる						2	2	2				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標①，②に関して，小テストを資料参照不可で6回行うことで評価する（事務が認める公的理由によるテスト欠席は証明書類の提出で考慮）。受験回数が規定（4回）に達しない場合は採点拒否（E評価）とする。	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。プリントを配布し、スライドを写す（スライドの撮影は厳禁）。				

【オフィスアワー】
第一部：火曜14:40～16:10（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。第二部：火曜16:20～17:50（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 第二部 火4/7	オリエンテーションおよび イントロダクション 導入講義	授業の目的・方法、評価方法、授業スケジュール、受講時の注意等および自然人類学に関するイ ントロダクション	
		この回の 到達目標	授業の概要や評価方法などを理解し、授業に取り組む準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、内容を確認するとともに、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（質問は第2 回の授業時に受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
2	第一部 火4/14 第二部 火4/14	ヒトに至る生物の系譜（1）	ヒトの分類上の位置、各分類群の特徴（動物、脊椎動物）	
		この回の 到達目標	ヒトの分類上の位置および動物と脊椎動物の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	第1回で配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（特に、プリントに記 された「授業計画（授業全体としての「目次」）」を参照）。また、第1回で理解できなかった箇所があれば、 質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること）。	120分
		事後学修	第2回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
3	第一部 火4/21 第二部 火4/21	ヒトに至る生物の系譜（2）	各分類群の特徴（脊椎動物の中の哺乳類）	
		この回の 到達目標	脊椎動物の中の哺乳類の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参 照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴い てもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習を する。	120分
4	第一部 火4/28 第二部 火4/28	ヒトに至る生物の系譜（3）	霊長類とはどういう哺乳類か 小テスト（出題範囲は第2回・第3回の授業内容）	
		この回の 到達目標	霊長類とはどういう哺乳類かを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画 を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴い てもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テスト への準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
5	第一部 火5/5 第二部 火5/5	ヒトの定義	ヒトの定義の解説	
		この回の 到達目標	ヒトの定義を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参 照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴い てもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習を する。	120分
6	第一部 火5/12 第二部 火5/12	ヒトの特徴（1）	直立姿勢と二足歩行 小テスト（出題範囲は第4回・第5回の授業内容）	
		この回の 到達目標	直立姿勢と二足歩行に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画 を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴い てもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テスト への準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、 前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 第二部 火5/19	ヒトの特徴 (2)	直立姿勢と二足歩行 (続)	
		この回の到達目標	直立姿勢と二足歩行に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
8	第一部 火5/26 第二部 火5/26	ヒトの特徴 (3)	直立姿勢と二足歩行 (続) (参考：ヒトは早く立ち上がりすぎた?) 小テスト (出題範囲は第6回・第7回の授業内容)	
		この回の到達目標	直立姿勢と二足歩行というヒトの特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
9	第一部 火6/2 第二部 火6/2	ヒトの特徴 (4)	文化（文化と身体形質）	
		この回の到達目標	文化とは何かを学び、また「文化がヒトを創り上げた」という観点を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
10	第一部 火6/9 第二部 火6/9	ヒトの特徴 (5)	咀嚼器官（咬器、歯と顎）の退化 小テスト（出題範囲は第8回・第9回の授業内容）	
		この回の到達目標	ヒトの歯と顎の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
11	第一部 火6/16 第二部 火6/16	ヒトの特徴 (6)	脳の発達（左右差、一側優位性）	
		この回の到達目標	ヒトの脳の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
12	第一部 火6/23 第二部 火6/23	ヒトの特徴（7）		生理的早産（習慣的早産）、成長遅滞 小テスト（出題範囲は第10回・第11回の授業内容）
		この回の到達目標	ヒトにおける生理的早産と成長遅滞について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
13	第一部 火6/30 第二部 火6/30	ヒトの特徴（8）		無毛性、音声言語
		この回の到達目標	ヒトにおける無毛性および音声言語について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
14	第一部 火7/7 第二部 火7/7	ヒトの特徴（9）		繁殖期の季節性欠如(周年化)と発情期の非顕現化(長期化) 小テスト（出題範囲は第12回・第13回・第14回の授業内容）
		この回の到達目標	ヒトにおける繁殖期の季節性欠如と発情期の非顕現化について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
15	第一部 火7/14 第二部 火7/14	ヒトの特徴（10）		性差 まとめ
		この回の到達目標	性差に関する基礎的知識を学ぶ。また、授業全体を通して、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を理解し説明できるようになり、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を身につけることによって、「文化がヒトを創り上げた」という観点について具体例を挙げつつ説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	半期の授業を振り返り、これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	自然人類学Ⅱ	担当者	松浦 秀治	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ヒトの進化史を講義する。まず、新生代において霊長類が進化発展していく中で、人類と類人猿がどの様に分岐してきたのかを概観した上で、始原的人类から現生人類に至るヒトのおよそ6百万年間の変遷史を解説する。また、日本列島にはどれくらい古くからヒトが棲んでいたのか、現代の日本人が成立する過程はどのようなであったのかについても考察する。講義は主に化石骨を中心とした古人類学的証拠を基に進めるが、必要に応じて遺伝学的証拠にも言及する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
最初的人类はチンパンジーに似ていたわけではない。授業では、人類と類人猿という類型的な捉え方を見直すとともに、初期の人類から現生的人类まで、人類は単に「猿人→原人→旧人→新人」と直線的に進化してきたのではない、ことを把握する。また「日本人」は必ずしも均質ではなく、「日本人種」を定義するのは難しいことを理解する基盤を養成することを目的とする。講義でヒトの起源・進化の基礎を学び、また現生人類の起源に関する近年の考え方を知る。そうした進化史を踏まえた上で、日本人の起源と形成史について考察し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1、2、3、4

【履修条件】
シラバスやオリエンテーションを通じて授業の概要や評価方法などを理解した上で履修すること。教科書は用いないので、まずは出席し、講義をしっかりと聴くことが大切と考える。私語は厳禁とする。

【授業方法】
プリントを配り、スライドを写しながら講義・解説する（スライドの撮影は厳禁）。質問があれば、いつでも挙手すること（質疑応答は出席者全員の前で行うため、授業中に質問すること）。小テストの翌週はテストの内容解説も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜質問と議論を授業中にて繰り返しながら講義内容の浸透を図る。また、全授業を通して行う計6回的小テストとこの解説により、双方向型のコミュニケーションを取る時間を確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヒトの起源・進化の基礎を学ぶとともに、現生人類の起源に関する近年の考え方を理解し説明できるようになる。					2		2	2				
②	日本人の起源と形成史に関する基礎知識を学び、これに基づき「日本人」は必ずしも均質ではなく、「日本人種」を定義するのは難しいことを説明できるようになる。						2	2	2				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標①、②に関して、小テストを資料参照不可で6回行うことで評価する（事務が認める公的理由によるテスト欠席は証明書類の提出で考慮）。受験回数が規定（4回）に達しない場合は採点拒否（E評価）とする。	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	教科書は使用しない。プリントを配布し、スライドを写す（スライドの撮影は厳禁）。				

【オフィスアワー】
第一部：火曜14:40～16:10（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。第二部：火曜16:20～17:50（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 第二部 火9/15	オリエンテーションおよび イントロダクション 導入講義	授業の目的・方法、評価方法、授業スケジュール、受講時の注意等および人類の進化史に関する イントロダクション 地質時代の区分－「人類の時代」はいつ？－	
		この回の 到達目標	授業の概要や評価方法などを理解し、授業に取り組む準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、内容を確認するとともに、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（質問は第2回の授業時に受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
2	第一部 火9/22 第二部 火9/22	霊長類の出現と進化（1）	現生霊長類（サル類）の分類と類縁関係	
		この回の 到達目標	現生の霊長類の分類と類縁関係（特にヒトと類人猿との関係）を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	第1回で配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（特に、プリントに記された「授業計画（授業全体としての「目次」）」を参照）。また、第1回で理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること）。	120分
		事後学修	第2回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
3	第一部 火9/29 第二部 火9/29	霊長類の出現と進化（2）	新生代前半（古第三紀）における霊長類の進化と発展	
		この回の 到達目標	新生代前半（暁新世、始新世、漸新世）の化石霊長類（サル類）の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
4	第一部 火10/6 第二部 火10/6	霊長類の出現と進化（3）	中新世におけるヒト上科の展開（類人猿と人類の分岐） 小テスト（出題範囲は第2回・第3回の授業内容）	
		この回の 到達目標	中新世におけるヒト上科（類人猿と人類の分岐）の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
5	第一部 火10/13 第二部 火10/13	サルからヒトへ	ホミニゼーション（サルからヒトへの過程）	
		この回の 到達目標	サルからヒトへの過程（いわゆる類人猿段階から人類へ）とはどのような変化を意味するかを理解し、また始原的人類化石について説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
6	第一部 火10/20 第二部 火10/20	鮮新世における猿人の展開 －ホモ Homo 属（humans） の出現へ－（1）	初期の猿人 小テスト（出題範囲は第4回・第5回の授業内容）	
		この回の 到達目標	ラミダス、アナメンシス猿人、アファール猿人に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 第二部 火10/27	鮮新世における猿人の展開 ーホモ Homo 属 (humans) の出現へー (2)	アフリカヌス猿人、ロブスト型猿人	
		この回の到達目標	アフリカヌス猿人、ロブストス猿人、ボイセイ猿人に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
8	第一部 火11/10 第二部 火11/10	鮮新世における猿人の展開 ーホモ Homo 属 (humans) の出現へー (3)	ホモ・ハビリスなどの初期ホモ属、エチオピクス猿人 猿人の系統関係の解釈 ーラミダスから原人へ至る系統ー 小テスト（出題範囲は第6回・第7回の授業内容）	
		この回の到達目標	初期ホモ属やエチオピクス猿人に関する基礎知識を学ぶとともに、猿人の系統関係の解釈（ラミダスから原人へ至る系統）を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
9	第一部 火11/17 第二部 火11/17	更新世における人類の進化 ー現代人への道ー (1)	原人（ホモ・エレクトス）	
		この回の到達目標	原人（ホモ・エレクトス）に関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
10	第一部 火11/24 第二部 火11/24	更新世における人類の進化 ー現代人への道ー (2)	「旧人」（ホモ・ハイデルベルゲンシスとホモ・ネアンデルターレンシス） 小テスト（出題範囲は第8回・第9回の授業内容）	
		この回の到達目標	ホモ・ハイデルベルゲンシスとホモ・ネアンデルターレンシスに関する基礎知識を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
11	第一部 火12/1 第二部 火12/1	更新世における人類の進化 ー現代人への道ー (3)	新人（ホモ・サピエンス）ー現生人類の起源問題ー	
		この回の到達目標	現生人類の起源に関する近年の考え方を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部 火12/8 第二部 火12/8	日本人の起源と形成 ー旧石器時代の日本列島人から現代日本人への系譜ー (1)	序言（いわゆる「日本人」とは）、日本人の起源と形成に関する研究法、最古の日本列島人小テスト（出題範囲は第10回・第11回の授業内容）	
		この回の到達目標	いわゆる「日本人」とは何をさすかを考察し、また、日本人の起源と形成に関する研究法について知るとともに、最古の日本列島人に至る系譜を学び、説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
13	第一部 火12/15 第二部 火12/15	日本人の起源と形成 ー旧石器時代の日本列島人から現代日本人への系譜ー (2)	最古の日本列島人、縄文時代人と古墳時代人の違い	
		この回の到達目標	最古の日本列島人に至る系譜を再確認し、また、縄文時代人と古墳時代人の違いを理解し説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。	120分
14	第一部 火12/22 第二部 火12/22	日本人の起源と形成 ー旧石器時代の日本列島人から現代日本人への系譜ー (3)	縄文時代人から古墳時代人への変化要因と弥生時代人、渡来系弥生時代人のルーツ、まとめ小テスト（出題範囲は第12回・第13回・第14回の授業内容）	
		この回の到達目標	縄文時代人から古墳時代人への変化要因と弥生時代人について、また、渡来系弥生時代人のルーツに関して学ぶことによって、日本列島人の起源と形成について理解し説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。	120分
		事後学修	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。	120分
15	第一部 火1/12 第二部 火1/12	まとめ	半期のまとめ	
		この回の到達目標	人類進化史の新たな展開や、なぜ過去に学ぶか、などについて理解し説明できるようになる。	
		事前学修	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。	120分
		事後学修	半期の授業を振り返り、これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	実践教養A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
瞑想（精神集中）を実践していきたい。近年、瞑想による脳機能の著しい増加が科学的に検証されGoogle社などの企業で研修として行われており、また、精神疾患に有効であることも明らかになってきているが、東洋では人間を精神身体的に向上させ、心身の平穏を得るための実践として、紀元前から行われ続けてきていたものであった。この時間はこの東洋に伝わる実践を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神的に過酷な環境を生き、心身を病んでいく人が多い中、精神的に安定し、より生きやすくなるために、瞑想（精神集中）を習慣付け、それを修得する。加えて、やがて社会に出て仕事を行うとき、その仕事がよりよくできるために、脳機能を高められる実践を修得する。

【履修条件】
自分のために真剣に行える人に参加してほしい。授業開始時間から精神集中を行うので遅刻しないこと。

【授業方法】		
主に参加者による発表が中心となる。参加者が調べてきた瞑想（精神集中）法を全員で行い、それらについてレポートを書き紹介する方法が中心となる。個人発表を複数回行ってもらうが、後半の発表は全員、テキスト『氣の呼吸法』を用いる。参加者は他の参加者が紹介する様々な実践を行ってみて、自分に合ったものを見付けだし、身に付けてほしい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	瞑想（精神集中）に関する知識を充分に取得し、それを説明することができる。						2						
②	瞑想（精神集中）を実践することで他者との関係など、対象を冷静に観察し、それを説明することができる。								2	2		2	
③	瞑想（精神集中）を実践することで、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。								2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③に関して、授業内で瞑想（精神集中）を実践し、身に付けることができているかなどをレポートにより評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①、②、③に関して、瞑想（精神集中）に関する発表を行い、その内容が理解できているか、その実践により得られた状態に基づいた行動ができるようになりつつあるか評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第7回に、それまでの回の実践によって積み重ねられた、現在の自分の状態について中間レポートを提出してもらい、到達目標②、③に関わる、自分と対象のどちらにも執われない立場が身に付き行動ができるようになりつつあるかを確認し評価する。		10	10								20
その他(期末レポート)	第14回に、全体を振り返り、実現できた自分の状態に関する期末レポートを提出してもらい、到達目標②、③に関わる、自分と対象のどちらにも執われない立場が身に付いているかを確認し評価する。		10	10								20
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表に対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『氣の呼吸法』（幻冬舎文庫）	藤平光一	幻冬舎	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜 1 限の講堂。 ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	4/14	瞑想について	参加者は瞑想に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、瞑想を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、瞑想について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り行つて、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	瞑想について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/21	精神集中について	前回のレポート紹介と講評。参加者は「精神集中」に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、精神集中を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、精神集中について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	「精神集中」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/28	呼吸法について	前回のレポート紹介と講評。参加者「呼吸法」に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、呼吸法を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、精神集中について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	呼吸法について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/5	動禅について	前回のレポート紹介と講評。参加者は動禅に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、動禅を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、動禅について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	動禅について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/12	静禅について	前回のレポート紹介と講評。参加者は静禅について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、静禅を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、静禅について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	静禅について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	振り返りと講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に紹介し、それについてさらにレポートを書く。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	5/26	気功について	前回のレポート紹介と講評。参加者は気功について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、気功を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、気功について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	「動禅と静禅」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	6/2	武道と呼吸法について	前回のレポート紹介と講評。参加者は武道と呼吸法について調べてきたことを紹介し、『禅と武道』を元にした授業者の話を聞き、メモを取り、武道の呼吸法を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、武道と呼吸法について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	「武道と呼吸法」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/9	『氣の呼吸法』「はじめに」と「第1章」	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』「はじめに」と「第1章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』「はじめに」と「第1章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	テキスト『氣の呼吸法』「はじめに」と「第1章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/16	『氣の呼吸法』「第2、3章」	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』「第2、3章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』「はじめに」と「第2、3章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	テキスト『氣の呼吸法』「第2、3章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/23	『氣の呼吸法』「第4章」	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』「第4章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介表し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』「第4章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	テキスト『氣の呼吸法』「第4章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	『氣の呼吸法』「第5章」	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』「第5章」についての授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』「第5章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	テキスト『氣の呼吸法』「第5章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/7	後半のまとめ	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/14	生きやすくなること	前回のレポート紹介と講評。参加者は授業者による講義全体のまとめの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、これまでの授業で学んだ実践を行い、いつも冷静な自分であることができ、生きやすくなることができ、それを説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	実践教養B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
「自分を知る」ということを行う。自分を知ることが人類の歴史の中で紀元前から探究、実践されてきた、人間が生きていく上で基礎となる重要な訓練であった。そこでこの時間は古来からの実践を知り、現代の様々な方法を行って、自分を知り、自分の軸を創ることを修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者に気を使い過ぎるあまり、自分が無く、八方美人で嫌だといった声が聞かれるが、それを解決しより生きやすくなるために、自分はどうの人であるのかを明らかにし、それを軸にして他者と関わるができるようになる自分を実現する能力を修得する。また就職活動のエントリーシートでの自己紹介や自己PRにも役立てられる自己分析力を身に付ける。

【履修条件】
1年次後期から3年次の履修を推奨。自分のために真剣に行える人に参加してほしい。

【授業方法】
授業者による講義（知識）と、参加者が調べてきた自分を知る方法を行い（実践）、それらについてレポートを書き紹介するという双方向形式が中心となる。参加者は他の参加者が紹介する様々な方法を行ってみて、自分を明らかにしていってほしい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分を知ることの意義を充分に知って理解し、それを説明することができる。									2		
②	自分を知る訓練を実践し、自分のことが分かっていくことによって、相手のことも尊重し理解することができ、それを説明できる。				2		2	2				
③	自分の軸を創ることで、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。							2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内レポート】到達目標①、②に関する、知識を理解し、自分が分かるようになりつつあるかを授業内レポートにより評価する。	15	15									30
討論・発表等	到達目標①、②、③に関して、自分を知ることに関する発表を行い、その内容が理解できているか、それによってさらに自分のことが明らかにでき、自分の軸が創られつつあるかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第8回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標②に関わる、自分のことも他者のことも知り、そのどちらも尊重する立場が身に付きつつあるかを確認する。		20									20
その他(期末レポート)	第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分を軸にしつつ他者との良好な関係を創れる立場が身に付いているかを確認する。		20									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	65	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、発表に対し講評し、第8回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと授業内レポートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/22	自分を知る方法について	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞いて、授業者からの発問に回答し、いくつかのテストを行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知る方法と意義について明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	自分を知る方法について調べ、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	9/29	西洋における自分を知ること	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による自分を知ることに関する西洋の先人たちの話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、西洋における自分を知ることについて理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	西洋で行われてきた自分を知ることについて調べ、ノートにまとめておく。）	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	10/6	東洋における自分を知ること	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを発表し、授業者による「自分を知る」ことに関する話を聞き、メモを取り、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。	
		この回の到達目標	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による自分を知ることに関する東洋の先人たちの話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		事前学修	東洋で行われてきた自分を知ることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	10/13	自分はどのような人かについて	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による話を聞き、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、それを提出する。。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分はどのような人であるかを知る意義を理解し、自分を探り、自分の一面を明らかにすることができ、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	自分はどのような人かについて考え、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/20	ヴィパッサナーについて	前回のレポート紹介と講評。参加者はヴィパッサナーについて調べてきたことを紹介し、その実践を行い、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、ヴィパッサナーについて、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
		事前学修	ヴィパッサナーについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	仏教の身調べと内観について	前回のレポート紹介と講評。参加者は身調べと内観について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、身調べと内観について、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにし、それを説明することができる。	
		事前学修	身調べと内観について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	11/10	ここまでのまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第7回までの授業で分かった、自分を知ることの意義をレポートにまとめたものを簡略に紹介し、他者の内容を聞き、分かったことをレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標②、③に関して、ここまでの授業で分かった自分について知ることが、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	第7回までの授業で分かった、自分を知ることの意義をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/17	「自分を観察すること」について	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分を観察することについて調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を観察することについて、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
		事前学修	自分を観察することについて調べ、ノートにまとめておく。）	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/24	自分を観察することとマインドフルネスについて	前回のレポート紹介と講評。参加者はマインドフルネスについて調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を観察することマインドフルネスについて、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
		事前学修	自分を観察することとマインドフルネスについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	12/1	就職活動での自己分析について	前回のレポート紹介と講評。参加者は就職活動での自己分析について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者が提示するテストを行い、それによって分かった自分について、レポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、就職活動での自己分析についてその内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
		事前学修	就職活動での自己分析について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/8	自分を知るテスト	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分が選んだ書籍の内容を紹介し、そこに説かれているテストを参加者全員で行い、レポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知るテストを行い、それによって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
		事前学修	自分を知るテストが書かれた書籍を1冊選び、そこで紹介されている内容をまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	自分以外のタイプを知る	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分以外のタイプを知ることについて調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、それによって分かった意義などについて、レポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分以外のタイプを知ることの意義を理解し、自分以外のタイプを明確に知ることによって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
		事前学修	自分以外のタイプを知ることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/22	自分はどのような人であるか	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容によって分かった自分を紹介し、参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、レポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、授業後半の内容を有効に使い自分のことが明確にできているかを確認し、さらに追究していくことができ、それを説明できる。	
		事前学修	第9回から第13回までのレポートを確認し、自分はどのような人であるかをまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	1/12	自己紹介	前回のレポート紹介と講評。前回の自分はどのような人かに基づき、「自己紹介」を作成し、それを紹介する。参加者は他者の自己紹介に対して意見を書き、それを紹介し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、これまでの授業で学んだ実践を行い、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。	
		事前学修	初回からの授業内レポートなど、すべてを振り返って、自己紹介文を書いておく。	120分
		事後学修	参加者からの見解を踏まえて、よりいい自己紹介文を作成する。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会学的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
講義を中心に社会学の世界を探っていく。教科書中心の授業、教科書の具体的事例などに関し、資料や映像なども使用しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートに関する講評・解説などを振り返りながら実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もう一つの地域社会論―酒田大火30年、「メディア文化の街」ふたたび	仲川秀樹	学文社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月 4 / 6	社会学の世界を知る	授業の内容、授業の進め方、試験・成績評価などの説明をします。教科書や参考文献の紹介など、授業の準備について説明します。社会学の授業の流れを知り、授業の準備となります。	
		この回の到達目標	社会学的考えることは何か、社会学の対象は何か、社会学の世界を理解し、説明することができます。	
		事前学修	授業内容の確認として、シラバスを読んでおいてください。社会学という学問と、地域社会を知るために、教科書の序文を読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業の進め方とシラバスを再点検し、教科書の序文を再読してください。	120分
2	第一部 月 4 / 13	社会学とメディアの関係	社会学の概念、社会学とメディアとの関係を説明します。社会学とメディアの密接な関係を知り、社会学の関心が広がります。	
		この回の到達目標	社会学とメディア文化の関係を考えます。メディア文化の視点が社会学で必要かを理解し、説明することができます。	
		事前学修	社会学という学問の理解と、メディア文化の関係を教科書、第1章の序文からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
3	第一部 月 4 / 20	社会学の対象とは	メディア文化が根ざしたフィールドワークを考えます。実証的方法の重要性を知り、社会学の学修スタイルがわかります。	
		この回の到達目標	社会学の対象領域を考えます。都市と地域を理解し、説明することができます。	
		事前学修	地域社会の特徴を、教科書第1章の1からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
4	第一部 月 4 / 27	地域社会に根差したメディア文化とは	洋画専門館「グリーン・ハウス」の存在がもたらした地域性を考えます。なぜ、メディア文化の街といわれたのかを学修します。	
		この回の到達目標	地域社会にある、地域性を考えます。地域の文化を知り、地域を理解し、その地域を説眼することができます。	
		事前学修	地域社会に根差した洋画専門館について、教科書第1章の2から内容をよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
5	第一部 月 5 / 4	都市とメディア環境充足度とは	大都市と地方都市のメディア環境を比較し、都市の活性化のための計画を考えます。	
		この回の到達目標	その都市の活性度を知り、都市に何が必要かを理解し、説明することができます。	
		事前学修	メディア環境の意味を、教科書第1章の3からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
6	第一部 月 5 / 11	地域社会を時代から考える	1970年代のメディア文化を映像や資料をもとに学修します。	
		この回の到達目標	地域の歴史的背景を知るのは時代性の理解が必要です。時代と地域を理解し、説明することができます。	
		事前学修	1970年代の時代背景の特質を教科書第1章の4からよみとってください。	120分
		事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5／18	地域社会の事例	山形県酒田市中心市街地を対象に、地方都市のメディア文化の関係を学修します。	
		この回の到達目標	酒田市中心市街地の衰退要因である、酒田大火と中心市街との関係を理解し、中心市街地の詳細を説明することができます。	
		事前学修	酒田大火の歴史を教科書第2章の1と2からよみとってください。	120分
		事後学修	酒田大火によって街はどのように変貌したのかを自分なりに考えてください。	120分
8	第一部月 5／25	地域社会の衰退	中心市街地から郊外型社会へと流れが変わり、地域社会の衰退がもたらしたものは、郊外型社会です。その過程を学修します。	
		この回の到達目標	地域社会の変化を理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方都市のモータリゼーションがもたらした状況を、教科書第2章の3からよみとってください。	120分
		事後学修	中心市街地の衰退の意味を、郊外型店舗登場との関係からまとめてください。	120分
9	第一部月 6／1	地域社会の活性化へ向けて	地域活性化へ向けた取り組みとしてのメディア文化的プロジェクトを学修します。	
		この回の到達目標	地域社会活性化の方法について理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方都市活性化の取り組みを、教科書第3書の1から事前に学習してください。	120分
		事後学修	メディア文化的プロジェクトが若者に浸透した事例を講義ノートから振り返ってください。	120分
10	第一部月 6／8	地域社会の活性化へ向けて	地方アイドルによるまちおこしプロジェクトを学修します。	
		この回の到達目標	地方都市から発信したアイドルプロジェクトを考えます。アイドルでのまちおこしを理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方アイドル登場の社会的背景を教科書第3書の2からよみとってください。	120分
		事後学修	地方アイドル登場によって街がどのように変化するのか、教科書講義ノートから予測してください。	120分
11	第一部月 6／15	アイドルによる地域活性化とは	アイドル誕生と商店街との関係、住民、まちの活性化を学修します。	
		この回の到達目標	商店街発アイドル誕生の過程を知り、中心市街地活性化の必要策を理解し、説明することができます。	
		事前学修	地方アイドルが商店街活性化に与えて影響を教科書第3章の3からよみとってください。	120分
		事後学修	商店街はどのように発展するのか、商店街アイドルの実態を振り返ってください。	120分
12	第一部月 6／22	地域社会の中心市街地活性化とは	地域社会の動向を握る中心市街地商店街の進化を学修します。	
		この回の到達目標	商店街の進化の背景にあるメディア文化プロジェクトを検証します。プロジェクトを理解し、商店街の進化の背景を説明することができます。	
		事前学修	商店街の活性化から、商店街の進化の過程を、教科書第4章の1から探ってください。	120分
		事後学修	郊外に比較し、衰退続ける商店街に、進化の可能性とは何か、講義ノートから振り返ってください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6／29	地方都市のメディア文化再考	洋画専門館「グリーン・ハウス」と「世界一と言われた映画館」ロードショー公開がもたらしたメディア文化の街を学修します。	
		この回の到達目標	メディア文化の街を知り、それが中心市街地に与えた影響を考えます。メディア文化の街を理解し、説明することができます。	
		事前学修	メディア文化の街の象徴として君臨していた洋画専門館を教科書第1章の2から再考してください。	120分
		事後学修	ドキュメンタリー映画になった地方都市の洋画専門館が果たした役割を講義から振り返ってください。	120分
14	第一部月 7／6	地域社会のこれから	メディア文化の街のゆくえを総括します。	
		この回の到達目標	メディア文化の街のこれからを考えます。地域社会はいかにあるべきかを理解し、説明することができます。	
		事前学修	地域社会のメディア文化的プロジェクト、「地方アイドル」「洋画専門館」の事実を再考してください。	120分
		事後学修	社会学的思考による地域社会の分析をこれまでの講義、実践的な取り組みから総括してください。	120分
15	第一部が 7／13	社会学と地域社会の総括	「社会学1」講義の総括、振り返ります。	
		この回の到達目標	社会学の世界における都市と地域、地域社会の存在を再考しながら、地方都市の現状を考えます。地方都市を理解し、地方都市の課題を説明することができます。	
		事前学修	本講義のノートと教科書で履修した部分を振り返ってください。	120分
		事後学修	教科書と講義用ノートから、社会学における地域社会の意義をまとめてください。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	中村 英代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会学的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
他の受講生が静かに、集中して講義を受けることを妨げない方。ガイダンスでは、本講義で何が学べるのか、学ぶことで何が得られるのか、受講生は半期で何をどの程度習得できるかについて説明します。

【授業方法】
指定テキストを用い、板書による説明を中心とした講義形式で行います。講義内容への理解を深めるために、視聴覚作品（DVD）も鑑賞します。レスポンスカードでの質問等には、次週の講義の冒頭でフィードバックを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週の講義で提出するレスポンスカードの内容について、次の回の講義の冒頭で教員からコメントをフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学ドリルーこの理不尽な世界の片隅で』（¥1,900＋税）	中村 英代	新曜社	2017年	教科書	必携
備考	初回ガイダンスではテキスト（教科書）は使いません。テキストはガイダンスを開いて受講を決めた後に購入して下さい。本講義では毎週必ず指定テキストを使います。第2回目から毎週必ずテキストを持参して下さい。				

【オフィスアワー】
質問等は講義の前後の時間に授業講堂にて受けつけます。履修の際には、担当教員のウェブサイトも参考にして下さい。 http://www.hideyonakamura.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス&イントロダクション 導入講義	社会学とはどのような学問なのか、本講義で何が学べるのかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会学とはどのような学問かについて理解できる	
		事前学修	シラバスをしっかりと読んでおく。テキストを持っている場合は第1章を予習する。	120分
		事後学修	テキスト第1章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。	120分
2	4/15	現代の就労（1）：非正規雇用とワーキングプア	現代社会の「格差と貧困」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代社会の「格差と貧困」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
3	4/22	現代の就労（2）：格差の何が問題なのか	現代社会の「格差と貧困」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「格差と貧困」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
4	4/29	貧困と格差（1）：資本主義社会を理解する	「資本主義社会」の仕組みと成立条件について学修する。特に産業資本についてしっかり理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「資本主義社会」の仕組みと成立条件について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
5	5/6	貧困と格差（2）：現代の貧困	「貧困」が生じる背景と貧困をめぐる現状について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「資本主義社会」の仕組みと成立条件について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第2章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第2章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
6	5/13	恋愛と結婚（1）：恋愛と結婚はどのような関係にあるのか	「恋愛と結婚」は歴史的にどのような関係にあったかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「恋愛と結婚」の関係について3つのパターンがあることを理解し、私たちのよく知る恋愛・結婚はその中の一つのスタイルなのだということを理解できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第3章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第3章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	恋愛と結婚（２）：データからみる現代の結婚	「現代の結婚」の特徴である未婚率の現状についてデータに基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「現代の結婚」の特徴である未婚率の現状についてデータに基づいて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第3章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第3章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
8	5/27	ジェンダー論（１）：「男らしさ／女らしさ」と生きづらさ	ジェンダー論の基礎を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「男らしさ／女らしさ」がもたらす生きづらさについて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第4章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第4章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
9	6/3	ジェンダー論（２）：「とり乱し」の思想を理解する	「とり乱しの思想」について学修する。このことによって、学んだことと自分自身の生活の結びつけ方を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ジェンダーについて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第4章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第4章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
10	6/10	関係性と暴力（１）：ドメスティックバイオレンスを理解する	「ドメスティックバイオレンス」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「ドメスティックバイオレンス」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（２時間）	120分
		事後学修	テキスト第5章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第5章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
11	6/17	関係性と暴力（２）：ドメスティックバイオレンスに対処する	「ドメスティックバイオレンス」への対処方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「ドメスティックバイオレンス」への対処方法について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第5章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第5章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
12	6/24	依存症の社会学（１）：生き延びるための依存	「依存症」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「依存症」とそこからの回復について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第7章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第7章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	依存症の社会学（2）：セルフヘルプグループとは何か	「セルフヘルプグループ」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「セルフヘルプグループ」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第7章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第7章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
14	7/8	依存症の社会学（3）：「もっと、もっと」という欲望と社会環境	「依存症」を生む社会環境について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「依存症」を生みだす社会環境について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第7章を復習する。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第7章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分
15	7/15	レポートの書き方：面白いレポートはなぜ、どのように面白いのか	「レポート」の書き方の基本を習得するとともに、自分自身のレポートの傾向性と改善法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して「レポート」の書き方の基本を習得するとともに、自分自身のレポートの傾向性と改善法について理解する。	
		事前学修	テキスト第13章を読んでおく。自分はどのようなレポートを書いているのかを振り返り、まとめておく。	120分
		事後学修	テキスト第13章を復習する。第13章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、「社会学Ⅱ」も継続履修することが望ましい。

【授業方法】
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、講義中に学生との対話を通して、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
追って指示する					
備考	初回授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月4/9	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
		この回の到達目標	社会学の性格（性質）について理解できる。	
		事前学修	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。	120分
		事後学修	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	第1部 月4/16	状況（情況）判断①	疑似環境、状況（情況）的影響について。	
		この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
		事前学修	前回の講義内容を確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
3	第1部 月4/23	状況（情況）判断②	レディネス（readiness）の重要性について。	
		この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
		事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
4	第1部 月4/30	社会（学）とは何か？	社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。	
		この回の到達目標	「社会」の成り立ちを理解し、自身の行いを振り返ることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
5	第1部 月5/7	社会的動物としての人間①	現代人にとって欠如傾向にある福祉の観点（Double Happiness）を理解する。	
		この回の到達目標	世の中の諸問題に対応する視点を養える。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
6	第1部 月5/14	社会的動物としての人間②	人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。	
		この回の到達目標	我々について、動物学的な知識もふまえて理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月5/21	人間関係の諸相と構造①	人間とヒトの違いについて理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
8	第1部 月5/28	人間関係の諸相と構造②	人間（Human Being）の本質について考える。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
9	第1部 月6/4	人間関係の諸相と構造③	人間関係における地位（status）について理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	7～8回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
10	第1部 月6/11	人間関係の諸相と構造④	人間関係における役割（role）について理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	7～9回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
11	第1部 月6/18	人間関係の諸相と構造⑤	「地位－役割」の関係性について理解する。	
		この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
		事前学修	7～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
12	第1部 月6/25	人間関係の諸相と構造⑥	地位を性質的に分類する。	
		この回の到達目標	自分自身の「存在」する意味について理解できる。	
		事前学修	7～11回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月7/2	人間関係の諸相と構造⑦	構造的地位としての「アイドル」（idol）について考える。	
		この回の到達目標	「地位－役割」の関係性とイメージについて理解できる。	
		事前学修	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	第1部 月7/9	人間関係の諸相と構造⑧	構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。	
		この回の到達目標	「ジェンダー」について、その社会的・文化的性質を理解できる。	
		事前学修	7～13回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	第1部 月7/16	「社会学Ⅰ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
		この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	馬渡 玲欧	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会学的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特に無し。ただし、授業上の諸注意を遵守すること。

【授業方法】
授業方法は基本的に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	履修人数にもよりますが、グループ・ディスカッションの時間やレポート報告の時間をとることができればと考えています。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭で課題や質問にコメントをすることもあります。適宜、メールやポータルサイトを使用します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・社会調査へのアプローチ	大谷信介（他）	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
質的社会調査の方法	岸政彦（他）	有斐閣	2016	参考書	任意
社会学入門	筒井淳也（他）	有斐閣	2017	参考書	任意
				その他	
備考					

【オフィスアワー】
非常勤のため、何か相談があれば適宜メールにて連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8 第一部 木4/9	ガイダンス：社会学で何を学ぶのか	初回授業のガイダンスとして、社会学で何を学ぶことができるのか、確認する。授業全体の流れ、成績評価の方法、履修上の諸注意などをあわせて告知する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。	
		事前学修	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを頭に入れたうえで、自分の関心を整理しておく。興味のある各回のトピックについて、予備知識を調べておく。	60分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
2	第一部 水4/15 第一部 木4/16	社会調査でなにをするのか	社会調査（量的・質的）の実施に関する制度や組織、法などについてまずは学習する。調査の種類、データの集め方についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
3	第一部 水4/22 第一部 木4/23	社会調査の歴史	社会調査の歴史について概観する。ブースの社会踏査、シカゴ学派、アメリカの量的調査の成り立ちなどを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
4	第一部 水4/29 第一部 木4/30	社会調査の基本的な考えかた	社会調査で頻繁に使用する用語や概念について学習する。仮説の作り方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
5	第一部 水5/6 第一部 木5/7	質問紙調査の基本：調査票のつくりかた	質問紙調査の流れを確認する。そのうえで質問文作成の注意点を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
6	第一部 水5/13 第一部 木5/14	サンプリング	サンプリングの歴史、サンプリングの原理や方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20 第一部 木5/21	質問紙調査の実際	単純集計、クロス表、基礎統計量について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
8	第一部 水5/27 第一部 木5/28	質問紙調査の実際	前回の復習後、推定や検定などを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
9	第一部 水6/3 第一部 木6/4	質的調査の基本	質的調査で何が行われているか学ぶ。また、調査における注意点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
10	第一部 水6/10 第一部 木6/11	フィールドワーク	質的調査のなかでも「フィールドワーク」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
11	第一部 水6/17 第一部 木6/18	参与観察	質的調査のなかでも「参与観察」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
12	第一部 水6/24 第一部 木6/25	生活史	質的調査のなかでも「生活史」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1 第一部 木7/2	質的調査の実際	これまでの質的調査に関する授業内容を踏まえ、受講者間のグループワークやプレゼンテーションを予定している。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。到達目標③に関して、自分の関心に応じて論を立てることができる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
14	第一部 水7/8 第一部 木7/9	近年の社会調査の新しい動向	近年の社会調査の新しい動向について、デジタル社会調査のごく基本的な考え方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
15	第一部 水7/15 第一部 木7/6	試験	授業内試験と解説・これまでの振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまでの授業を踏まえながら、社会学的観点と社会学的説明を試験問題に即して総合的に展開できるようになる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、試験準備をする。	220分
		事後学修	授業全体を振り返り、配布資料、メモ記録、ノート、文献リストをまとめる。	80分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	渡邊 隼	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会学的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし、受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。						2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。							2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
(1) 毎回の授業時間内に提出するレポート課題について、次回の授業時にフィードバックする。(2) 授業時間外に作成し、提出するレポート課題（学期中に少なくとも1回）について、学期末にフィードバックする。(3) 授業内試験について、学期末にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考	このほかに授業内で関連文献を紹介する。受講者からの参考文献・資料についての質問も歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9 第二部 火4/7	・授業のガイダンス ・社会学はいかなる学問か ・社会学の研究視点	・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の成立と展開について説明する。 ・社会学の研究や社会調査を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代社会の諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
2	第一部 木4/16 第二部 火4/14	現代社会の理解（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
3	第一部 木4/23 第二部 火4/21	現代社会の理解（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、法と社会システム、経済と社会システムをあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
4	第一部 木4/30 第二部 火4/28	現代社会の理解（3）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会変動の概念、近代化、産業化、情報化をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
5	第一部 木5/7 第二部 火5/12	現代社会の理解（4）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
6	第一部 木5/14 第二部 火5/19	現代社会の理解（5）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21 第二部 火5/26	現代社会の理解（6）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション、組織の概念、官僚制をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
8	第一部 木5/28 第二部 火6/2	家族と生活の理解（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
9	第一部 木6/4 第二部 火6/9	家族と生活の理解（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の変容、家族の機能、生活のとらえ方、生活の変容をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
10	第一部 木6/11 第二部 火6/16	人と社会の関係（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
11	第一部 木6/18 第二部 火6/23	人と社会の関係（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的ジレンマ、社会関係資本論をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
12	第一部 木6/25 第二部 火6/30	社会問題の理解（1）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会問題のとらえ方、具体的な社会問題（貧困、失業、差別、社会的排除、自殺、犯罪、非行など）をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2 第二部 火7/7	社会問題の理解（2）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会問題のとらえ方、具体的な社会問題（児童虐待、いじめ、DV、ハラスメント、公害、環境破壊など）をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。授業内試験にそなえて授業全体の内容を勉強しておく。	120分
14	第一部 木7/9 第二部 火7/14	・授業全体のまとめ ・授業内試験	・授業全体のまとめを行なう。 ・授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。授業内試験にそなえて授業全体の内容を勉強しておく。	120分
		事後学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。	120分
15	第一部 木7/16 第二部 火7/21	・授業内試験の解説と講評 ・レポートの解説と講評	・授業内試験の解説と講評を行なう。 ・レポートの解説と講評を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
教科書の内容に沿いながら、講義中心に進める。講義では、基礎的な思考から、実証研究の成果を分析し、地方都市のまちおこしや、地域活性化、地方再生の道をメディア文化とポピュラーカルチャーの取り組みから探ってみる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートの講評・解説などを振り返りとして実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクトシティと百貨店の社会学	仲川秀樹	学文社	2012		
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月 9 / 1 4	社会学を实践するとは	社会学Ⅱの進め方。授業内容の確認、シラバスの要点、成績評価などについて説明し、確認します。	
		この回の到達目標	社会学Ⅱでは、シラバスに沿いながら、社会学の実践的な方法を考えます。社会学が理論と検証によって理解し、説明することができます。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでください。教科書の序文を読み、授業の導入に役立ててください。	120分
		事後学修	教科書の序文から、目次全体を把握し、次回の講義の要点を確認してください。	120分
2	第一部 月 9 / 2 1	中心市街地研究とは	地域社会の内容から、中心市街地の研究をすすめていきます。中心市街地再生のために必要な方法論を考えます。	
		この回の到達目標	地域社会の問題を解決するための実践的な方法を考えていきます。その前提として、地域社会と中心市街地の活性化に必要な基礎理解につとめ、中心市街地を理解し、説明することができます。	
		事前学修	教科書の序文にある、中心市街地の研究過程をよみとってください。	120分
		事後学修	社会学における中心市街地研究の特徴を、講義ノートから理解を深めてください。	120分
3	第一部 月 9 / 2 8	コンパクトシティとは	中心市街地を再生するために、コンパクトシティの必要性について説明します。コンパクトシティとは何かを考えます。	
		この回の到達目標	大都市と比べ地方都市の衰退が叫ばれて久しいなか、コンパクトシティによる新たな地方都市を考えます。コンパクトシティを社会的に理解し、説明することができます。	
		事前学修	教科書第1章の、社会学から考えるコンパクトシティを事前によんでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
4	第一部 月 10 / 5	コンパクトシティの必要性とは	コンパクトシティにおけるまちづくりを考えた場合の問題と課題を考えます。コンパクトシティの問題を解決するために方法論を説明します。	
		この回の到達目標	コンパクトシティを社会的に構築するために必要な方法を考えます。方法論を理解することで、コンパクトシティの重要性を説明できます。	
		事前学修	教科書第1章の、コンパクトシティのシステム問題を事前に読んでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
5	第一部 月 10 / 12	中心市街地のメディア環境とは	中心市街地に人が集まるには、中心市街地のシンボルに注目することです。そのシンボルを理解し、人が集まり理由を説明することができます。	
		この回の到達目標	メディア環境とは、メディア文化を背景としています。メディアから発した娯楽性の高いエリアを理解し、メディア環境を説明することができます。	
		事前学修	教科書第2章の、中心市街地のシンボルを事前に読んでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
6	第一部 月 10 / 19	中心市街地のシンボル、ローカル百貨店とは	ローカル百貨店の存在から中心市街地のシンボルの意味を考えます。	
		この回の到達目標	メディア環境を象徴するのがローカル百貨店の存在であることを考えます。ローカル百貨店の存在を理解し、中心市街地に必要な理由を説明できます。	
		事前学修	教科書第2章の、中心市街地と百貨店を事前に読んでください。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 月 1 0 / 2 6	メディア文化の発信とは	ローカル百貨店によるメディア環境構築を考えます。
		この回の到達目標	地方都市にメディア環境を構築するには、ローカル百貨店の役割が必要なことを理解し、説明することができます。
		事前学修	ローカル百貨店の必要性を、教科書第2章からよみとってください。
		事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。
8	第一部 月 1 1 / 9	学生が考える百貨店のあり方とは	百貨店のあり方—大学生調査1—について検証し、学生の考え方を探ります。
		この回の到達目標	大学生の意識調査を探ります。そこからローカル百貨店は何をすべきかを理解し、説明することができます。
		事前学修	教科書第3章の、調査結果を読んでください。
		事後学修	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。
9	第一部 月 1 1 / 1 6	学生が考える百貨店のあり方とは	百貨店のあり方—大学生調査2—について検証し、学生の考え方を活かします。
		この回の到達目標	大学生の意識調査から検証した内容を地方都市の若者の関心を結びつけてみます。ローカル百貨店の役割が明確になり、理解し、説明できます。
		事前学修	教科書第3章の、調査結果を読んでください。
		事後学修	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。
10	第一部 月 1 1 / 2 3	ポピュラーカルチャー的空間とは	地方都市の中心市街地再生のための実践的な取り組みとして、ポピュラーカルチャー的空間の構築をめざします。
		この回の到達目標	ポピュラーカルチャー的空間構築のために必要なものを考えます。エンタテインメントの重要性を理解し、ポピュラーカルチャーの必要性が理解でき、説明することができます。
		事前学修	教科書第3章の、実践例を読んでください。
		事後学修	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。
11	第一部 月 1 1 / 3 0	百貨店とエンタテインメントを考える	ポピュラーカルチャー的イベントの取り組みから発信できるものを考えます。
		この回の到達目標	人が集まる中心市街地に必要な環境を理解し、説明することができます。
		事前学修	教科書第3章の、実践例を読んでください。
		事後学修	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。
12	第一部 月 1 2 / 7	地方都市の若者の居場所と百貨店空間とは	中心市街地再生にかかわるローカル百貨店と若者の居場所を考えます。
		この回の到達目標	若者が集まることは中心市街地再生のために重要なことです。そのために若者の居場所をローカル百貨店空間に求めることの必要性を理解し、説明することができます。
		事前学修	教科書第4章の百貨店の、重要性とメディア環境の構築を読んでください。
		事後学修	自分たちが考えるメディア環境を講義ノートから整理してください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月 1 2 / 1 4	コンパクトシティに必要な空間とは	中心市街地シンボルと人が集まる空間とは、ローカル百貨店のメディア環境構築であることを再考します。	
		この回の到達目標	メディア環境には、人が集まり、地方都市再生の鍵になることを考えます。あらためてメディア環境とローカル百貨店の関係を理解し、必要なスタイルを説明することができます。	
		事前学修	教科書第6章の、学生たちのレポートを読んでください。	120分
		事後学修	自分たちが考える人が集まる空間を講義ノートから整理してください。	120分
14	第一部 月 1 2 / 2 1	地方都市再生の方法とは	コンパクトシティとローカル百貨店にみる地方再生をまとめます。	
		この回の到達目標	地方都市の活性化は、中心市街地再生にあることを理解し、その理由を説明することができます。	
		事前学修	地域社会を再考するために必要なコンパクトシティ構想と百貨店の役割を教科書から再考してください。（2時間）	120分
		事後学修	社会学の実証研究としてのフィールドワークの意味を理解するようつとめてください。	120分
15	第一部 月 1 1 / 8	社会学ができること	社会学Ⅱの総括、振り返ります。	
		この回の到達目標	社会学を学修し、理解し、社会に実践する方法を説明することができます。	
		事前学修	社会学Ⅱでは、実証研究の重要性をあつかいました。その対象をあらためて整理してください。（2時間）	120分
		事後学修	基礎研究から実証研究、そして実践的な取り組みにある、社会学的方法論の理解につとめてください。（2時間）	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	中村 英代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
担当教員による「社会学Ⅰ」を受講していると望ましいですが、「社会学Ⅰ」を受講していなくても問題のないように、講義を進めます。

【授業方法】
指定テキストを用い、板書による説明を中心とした講義形式で行います。講義内容への理解を深めるために、視聴覚作品（DVD）も鑑賞します。レスポンスカードでの質問等には、次週の講義の冒頭でフィードバックを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。					2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。						2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。							2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週の講義で提出するレスポンスカードの内容について、次の回の講義の冒頭で教員からコメントをフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学ドリルーこの理不尽な世界の片隅で』（¥1,900＋税）	中村 英代	新曜社	2017年	教科書	必携
備考	初回ガイダンスではテキスト（教科書）は使いません。テキストはガイダンスを開いて受講を決めた後に購入して下さい。本講義では毎週必ず指定テキストを使います。第2回目からは毎週必ずテキストを持参して下さい。				

【オフィスアワー】
質問等は講義の前後の時間に授業講堂にて受けつけます。履修の際には、担当教員のウェブサイトも参考にして下さい。 http://www.hideyonakamura.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス&イントロダクション：社会学Ⅱで何を学ぶか	社会学とはどのような学問であり、日常生活にどのように活かせるかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会学とはどのような学問であり、日常生活にどのように活かせるかについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスをしっかりと読んでおく。テキストを持っている場合は第1章を予習する。	120分
		事後学修	テキスト第1章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第1章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
2	9/23	権力論（1）：犯罪と逸脱	「犯罪と逸脱」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「犯罪と逸脱」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第8章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第8章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
3	9/30	権力論（2）：権力はいたるところに	「権力論」の歴史と、生活の中に遍在する権力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「権力」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第8章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第8章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
4	10/7	儀礼と自己（1）：礼儀作法は身を守る？	「儀礼論」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「儀礼論」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第9章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第9章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第9章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
5	10/14	儀礼と自己（2）：変えられる自己と変えられない自己	「自己論」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「自己論」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第9章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第9章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第9章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
6	10/21	過食症と拒食症（1）：ダイエットをするとどうなるのか？	「摂食障害」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「摂食障害」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第6章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第6章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	過食症と拒食症（2）：回復・承認・自己受容	「摂食障害」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「摂食障害」とそこからの回復について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第6章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第6章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第6章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
8	11/11	自殺論（1）：データから理解する現代の自殺	統計データに基づいて現代の「自殺」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「自殺」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第10章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第10章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第10章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
9	11/18	自殺論（2）：自殺希少地帯での人々に人間関係とは？	「自殺が生じにくい人間関係・社会環境」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「自殺が生じにくい人間関係・社会環境」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第10章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第10章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第10章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
10	11/25	医療の社会学（1）：私たちはどのような医療を受けているのか	現代の「医療」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の「医療」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第11章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第11章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第11章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
11	12/2	医療の社会学（2）：医療化する社会	「医療化」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「医療化」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第11章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第11章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第11章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
12	12/9	犯罪と逸脱（1）：逸脱行動の理論の歴史	「犯罪と逸脱」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「逸脱行動の理論の歴史」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	配布資料を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	犯罪と逸脱（２）：犯罪をとりまく社会環境	「犯罪と逸脱」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「犯罪をとりまく社会環境」について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	配布資料を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。	120分
14	12/23	構築主義と心理療法（１）：「問題志向」・「解決志向」・「解消志向」	「構築主義と心理療法」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「構築主義と心理療法」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第12章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第12章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第12章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分
15	1/13	構築主義と心理療法（２）：ナラティブ・アプローチを理解する振り返り、解説	「ナラティブ・アプローチ」について学修する。「問題の外在化」をマスターする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「ナラティブ・アプローチ」「問題の外在化」について理解し、説明できる。	
		事前学修	テキスト第12章を予習する。講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。	120分
		事後学修	テキスト第12章を復習する。身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。第12章のブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、同一担当者による「社会学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、講義中に学生との対話を通して、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
追って指示する					
備考	初回授業内で指示する。なお、「社会学Ⅰ」履修者は、同一教科書を使用する。				

【オフィスアワー】
木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月9/17	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
		この回の到達目標	【後期からの履修者】社会学の性格（性質）について理解できる。 【前期からの継続履修者】前期の解説内容を実践に移すレディネスを養える。	
		事前学修	後期から履修を開始する学生は、シラバスを読んで講義の目的・目標を理解する。 前期からの継続履修学生は、これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。なお、後期から履修を開始する学生は、テキストを入手して「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	第1部 月9/24	問題行動の根源①	「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。	
		この回の到達目標	「問題」という状況を理解する視点を養える。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
3	第1部 月10/1	視聴覚機器による問題行動の理解①	韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
		この回の到達目標	日本では問題とされていないシーンが韓国でどう理解されているか、実感できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
4	第1部 月10/8	視聴覚機器による問題行動の理解②	韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
		この回の到達目標	日本と韓国の、子どもたちへのメッセージの違いから歌詞（内容）に変化が生じることを理解する。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
5	第1部 月10/15	問題行動の根源②	「罪」の定義および構造について理解する。	
		この回の到達目標	人間の動作が「罪」に至るまでの流れを理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
6	第1部 月10/22	問題行動の根源③	「自我」と「超自我」の関係性について理解する。	
		この回の到達目標	「罪」と「自我」「超自我」の関係性について理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月10/29	問題行動の根源④	「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。	
		この回の到達目標	一般に混同されがちな「行為」「行動」の概念について、リーガルマインドにも照らし合わせつつ理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
8	第1部 月11/5	問題行動の根源⑤	社会的自我について理解する。	
		この回の到達目標	自分自身の行為・行動が他者からどのように映っているのか、それを確認する方法を理解できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
9	第1部 月11/12	問題行動の根源⑥	「主我」と「客我」の関係性を理解する。	
		この回の到達目標	『Let It Go』をもとに、社会的自我について理解を深めることができる。 アノミー（anomie）現象について、実例を上げて説明する。 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
10	第1部 月11/19	問題行動の誤対処①	「人生縮小化」について。	
		この回の到達目標	「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
11	第1部 月12/3	問題行動の誤対処②	人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。	
		この回の到達目標	人間の本能と問題行動との関係性を理解できる。	
		事前学修	9～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
12	第1部 月12/10	「正義」の含意①	日本人の発想（一元論、二元論、多元論）と「正義」の関係性を考える。	
		この回の到達目標	日本人の行動・思考パターンが諸外国から理解されにくい現実を、実例を上げて説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中できちんと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月12/17	「正義」の含意②	「正義」の定義および性質について理解する。	
		この回の到達目標	「正義」の絶対性と相対性について理解できる。	
		事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	第1部 月12/24	「正義」の含意③	「正義」と献身について。	
		この回の到達目標	「正義」の絶対的な側面について、自分自身の行いを振り返って考えられる。	
		事前学修	1 2～1 3 回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	第1部 月1/14	「社会学Ⅱ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
		この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
		事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	馬渡 玲欧	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特に無し。ただし、授業上の諸注意を遵守すること。

【授業方法】
授業は基本的に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修人数にもよりますが、グループ・ディスカッションの時間やレポート報告の時間をとることができればと考えています。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭で課題や質問にコメントをすることもあります。適宜、メールやポータルサイトを使用します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会学 新版	長谷川公一（他）	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
非常勤のため、何か相談があれば適宜メールにて連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16 第一部 木9/17	ガイダンス：社会学で何を学ぶのか	初回授業のガイダンスとして、社会学で何を学ぶことができるのか、確認する。授業全体の流れ、成績評価の方法、履修上の諸注意などをあわせて告知する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。	
		事前学修	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを頭に入れたうえで、自分の関心を整理しておく。興味のある各回のトピックについて、予備知識を調べておく。	60分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
2	第一部 水9/23 第一部 木9/24	公共空間	身近な「公共空間」における人々の相互行為や振る舞いを考察することを通して、社会学の考え方に触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「公共空間」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考書籍に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
3	第一部 水9/30 第一部 木10/1	メディア	身近な「メディア」（マス・メディア、コミュニケーション・メディアなど）と人々の付き合い方を考察することを通して、社会学の考え方に触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「メディア」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
4	第一部 水10/7 第一部 木10/8	家族	身近な「家族」をめぐる諸問題と諸理論について、具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「家族」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
5	第一部 水10/14 第一部 木10/15	福祉国家	近現代の福祉国家の展開について概観する。近年の社会政策の動向、医療・福祉のあり方についても可能な限り触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「福祉国家」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「福祉国家」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
6	第一部 水10/21 第一部 木10/22	福祉国家	近年の社会政策の動向について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28 第一部 木10/29	グローバリゼーション	グローバリゼーションの展開について、諸概念・諸理論の特徴をまず概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「グローバリゼーション」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会と「グローバリゼーション」の関連を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
8	第一部 水11/11 第一部 木11/5	グローバリゼーション	グローバリゼーションの展開について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
9	第一部 水11/18 第一部 木11/12	都市空間	近現代の都市空間をめぐる諸問題と諸理論について、学説史的展開を踏まえながら概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「都市空間」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「都市空間」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
10	第一部 水11/25 第一部 木11/19	都市空間	近現代の都市空間をめぐる諸問題と諸理論について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
11	第一部 水12/2 第一部 木12/3	環境	近現代の公害問題・環境問題と諸理論について、学説史的展開を踏まえながら概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「公害・環境問題」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「公害・環境問題」の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
12	第一部 水12/9 第一部 木12/10	環境	近現代の公害問題・環境問題と諸理論について、より具体的な事例に基づき検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16 第一部 木12/17	社会運動	これまでの講義内容を踏まえつつ、近現代の様々な社会運動と社会運動論の展開について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「社会運動」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「社会運動」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
14	第一部 水12/23 第一部 木12/24	批判的社会理論	前回講義の延長線上で1950年代以降の批判的社会理論の動向について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、「批判的社会理論」の社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して「批判的社会理論」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。	
		事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
		事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
15	第一部 水1/13 第一部 水1/14	試験	授業内試験と解説・これまでの振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまでの授業を踏まえながら、社会学的観点と社会学的説明を試験問題に即して総合的に展開できるようになる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、試験準備をする。	220分
		事後学修	授業全体を振り返り、配布資料、メモ記録、ノート、文献リストをまとめる。	80分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	渡邊 隼	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び，現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ，社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
・毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし、受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。				2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。					2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
(1) 毎回の授業時間内に提出するレポート課題について、次回の授業時にフィードバックする。(2) 授業時間外に作成し、提出するレポート課題（学期中に少なくとも1回）について、学期末にフィードバックする。(3) 授業内試験について、学期末にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考	このほかに授業内で関連文献を紹介する。受講者からの参考文献・資料についての質問も歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17 第二部 火9/15	・ガイダンス ・日本社会の諸問題	・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の研究を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。 ・社会学的視点から日本社会の諸問題へアプローチする方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代の日本社会でみられる諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
2	第一部 木9/24 第二部 火9/22	現代日本社会の理解 (1)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
3	第一部 木10/1 第二部 火9/29	現代日本社会の理解 (2)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
4	第一部 木10/8 第二部 火10/6	現代日本社会の理解 (3)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
5	第一部 木10/15 第二部 火10/13	現代日本社会の理解 (4)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市・地域をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
6	第一部 木10/22 第二部 火10/20	現代日本社会の理解 (5)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市・地域をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29 第二部 火10/27	現代日本社会の理解 (6)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市・地域をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
8	第一部 木11/5 第二部 火11/10	現代日本社会の理解 (7)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、労働をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
9	第一部 木11/12 第二部 火11/17	現代日本社会の理解 (8)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、労働をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
10	第一部 木11/19 第二部 火11/24	現代日本社会の理解 (9)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、労働をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
11	第一部 木12/3 第二部 火12/1	現代日本社会の理解 (10)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、グローバル化をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
12	第一部 木12/10 第二部 火12/8	現代日本社会の理解 (11)	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、グローバル化をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17 第二部 火12/15	現代日本社会の理解（12）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、グローバル化をめぐる問題をあつかう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
14	第一部 木12/24 第二部 火12/22	・授業全体のまとめ ・授業内試験	・授業全体のまとめを行なう。 ・授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。授業内試験にそなえて授業全体の内容を勉強しておく。	120分
		事後学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。	120分
15	第一部 木1/14 第二部 火1/12	・授業内試験の解説と講評 ・レポートの解説と講評	・授業内試験の解説と講評を行なう。 ・レポートの解説と講評を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
		事前学修	授業内試験のふり返りをしておく。授業全体の内容を復習しておく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
		事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅰ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ルターからモンテスキューに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回リアクションペーパーで意見を求め、翌授業でフィードバックし、理解を深める。中間チェックテスト（2択20題）を1回行う。最終的な学期末レポートは1回提出する必要があるが、期末の試験は行わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルターからモンテスキューに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す中間チェックテストの 成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Colnetまたはポータルシステムに アップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課すリアクションペー パーの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定教科書なし。					
備考	Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進める。				

【オフィスアワー】
金曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10 第二部 金4/10	総論：社会思想史とは何か	社会思想の成り立ちと性格、および歴史とのかかわりについて学修する。また、年間講義計画・成績評価の方法、参考文献紹介などの確認を行う。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	本講座「社会思想の歴史」で学ぶことの内容を理解できる。また、受講するに際して固定観念に縛られない柔軟な姿勢の重要性を知り、これからの学修に生かすことができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、気になる何人かの思想家について一般的な理解がどのようなものか、インターネットサイトを通して概観し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業時に配布された「履修上の注意」および資料を精読し、重要と思われる項目をマーカー塗布またはアンダーラインして把握する。	120分
2	第一部 金4/17 第二部 金4/17	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター①人と思 想	当時のキリスト教世界においてなぜ贖宥状が必要だったか、社会において教会がどのような役割を果たしていたかを把握する。	
		この回の到達目標	当時のカトリック教会の腐敗状況をふまえ、ルター『95箇条の論題』の放つ時代的意義を理解できる。	
		事前学修	「Colnet>学生教員共有>川本隆>教材提示」フォルダにアクセスし、「ルター」のPDF資料を読み、理解しがたい箇所・重要だと思われる箇所をそれぞれノートに書きだし、受講に備える。	120分
		事後学修	Colnetの「教材提示」フォルダにあるルター関連のPDFで授業内容を復習し、授業で取り上げられなかった資料に目を通して理解を深め、内容整理する。	120分
3	第一部 金4/24 第二部 金4/24	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター②思想と影 響	「95か条の論題」の成立背景を確認しつつ、ルターの信仰義認説の概要と意義を理解する。また、ルターの放った主教改革の狼煙がどのように同時代人に受け止められていくかを学修する。	
		この回の到達目標	ルターが最初から宗教改革者になろうとして「95箇条の論題」を公表したわけではない事情を理解し、思想と反響のズレを把握できる。	
		事前学修	前回配布の資料をよみ、問題点・疑問点をピックアップしておく。	120分
		事後学修	Colnetの「教材提示」フォルダに提示された新しいルター関連のPDFを参考に授業内容を復習し、キリスト教的信仰の意味を理解しようと努める。	120分
4	第一部 金5/1 第二部 金5/1	ルネサンス期の社会思想：エ ラスムス	「宗教改革」がカトリック内部から生じてくる背景を理解し、エラスムスの時代批判の意義を確認する。	
		この回の到達目標	『痴愚神礼讃』の成立背景およびルターとの関連性・相違点を把握する。	
		事前学修	配布されたプリントやColnetのPDF資料をもとに、ルターのプロテスタンティズムとエラスムスやモアのカトリック的改革との違いを予想する。	120分
		事後学修	時代のキリスト教を改革しようとする精神は共通しているにもかかわらず、ルターとエラスムスの両者が対立していくのはなぜかについて、自分の考えをノートにまとめる。	120分
5	第一部 金5/8 第二部 金5/8	ルネサンス期の社会思想：モ ア	主著『ユートピア』の成立事情とその影響を学修する。	
		この回の到達目標	「どこにもないところ」としてのモアの『ユートピア』を、時代状況に照らしつつ、人文主義的技巧を駆使した作品として理解する。	
		事前学修	キリスト教教会の時代的な腐敗と国王の覇権主義との関係に注意しながら、モアの複雑な立ち位置を想像してみる。	120分
		事後学修	主著『ユートピア』が対話篇で綴られている理由は、プラトンの影響が考えられる。作中人物としてのモアと書き手としてのモアの使い分けに留意しながら彼の思想をまとめる。	120分
6	第一部 金5/15 第二部 金5/15	ルネサンス期の社会思想：マ キアヴェリとその時代	エラスムスと同時代でありながらキリスト教的な枠を突き抜ける、マキアヴェリ思想の時代的意義について学修する。	
		この回の到達目標	ルネサンス期のイタリアの傭兵の成立事情とマキアヴェリの傭兵評価を等身大で理解する。	
		事前学修	マキアヴェリの時代背景を知るには、イタリア・ルネサンスの時期の傭兵の役割を知る必要がある。PDF資料の「傭兵の二千年史」（抜粋）を一読しておく。	120分
		事後学修	エラスムス、モア、ルターの3者と全く異なる発想がマキアヴェリにあることを確認し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22 第二部 金5/22	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリ『君主論』	都市国家フィレンツェにおけるマキアヴェリの政治的位置に配慮しながら、『君主論』をはじめとするマキアヴェリ思想の意義を学修する。	
		この回の到達目標	一見、冷徹な皮肉屋にみえて単純な権謀術に還元できない思想家マキアヴェリの多様な側面を理解し、説明できる。	
		事前学修	Colnetに提示されたマキアヴェリ関連の資料PDFを読み、「フォルトゥーナ」「ヴィルトゥ」「スタト」というキーワードを抑えながら、マキアヴェリ思想の輪郭をまとめる。	120分
		事後学修	授業時に触れられない『リウィウス論』について調べ、『君主論』との異同をノートにまとめる。	120分
8	第一部 金5/29 第二部 金5/29	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の成立	ホッブズの時代背景（2つの市民革命）を踏まえて、ホッブズのリヴァイアサン思想の成立事情を学修する。	
		この回の到達目標	王党派にも革命派にも属さないホッブズ特有の位置を踏まえながら、ホッブズ思想の時代に与えた影響を等身大で把握できる。	
		事前学修	ピューリタン革命の時代にホッブズがどのような立場で思想を形成していたかを考えながら、事前資料PDFを読んでおく。	120分
		事後学修	ホッブズに「絶対王政擁護者」というレッテルを貼ることが不適切である。その根拠を問いただし、王党派、長老派、独立派、平等派との関係に配慮しながら、ホッブズ思想の特徴を列記する。	120分
9	第一部 金6/5 第二部 金6/5	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の思想	自然権を譲渡する必要からコモンウェルスが生成する事情を理解し、ホッブズ思想が近代人権思想の源流であることを理解し説明できる。	
		この回の到達目標	コモンウェルスの成立要件と相対主義的倫理の回避に必要なポイントを的確に説明できる。	
		事前学修	マキアヴェリの君主論とホッブズのリヴァイアサン思想を比較する際、決定的に異なる特徴は何か？ 予想される項目をノートに列記する。	120分
		事後学修	「自然権」と「自然法」の相違に注意しながら、コモンウェルスの必要性を箇条書きにまとめる。また「リヴァイアサン」の挿絵の意味を考え、ホッブズ思想の時代的意義をノートにまとめる。	120分
10	第一部 金6/12 第二部 金6/12	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の背景	机上の理論家でなく、名誉革命の立役者でもあったロックの『統治論』の成立背景を学修する。	
		この回の到達目標	ピューリタン革命から名誉革命の時代的推移において、国王と議会の対立がどのように変容していったか、また、この変容にロックの思想に深くかかわっている事情を理解し説明できる。	
		事前学修	ピューリタン革命から名誉革命に至るロックの時代背景を、PDF資料の年譜を見ながら、おおまかに把握しておく。	120分
		事後学修	時代の嵐に翻弄されながらもロックはどのような政治体制を待望していたのか？ 授業内容を踏まえつつ、その概要をノートに整理する。	120分
11	第一部 金6/19 第二部 金6/19	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の思想	ロックの思想が議会制民主主義の基礎づけを果たしたとされる根拠を学修する。	
		この回の到達目標	「プロパティ」という用語の背後に「神」があることに気をつけながら、人間固有の権利がロックにおいてどのように規定されているかを理解し、説明できる。	
		事前学修	ホッブズで明確に区別されていた「自然権」と「自然法」との区別がロックではなくなる。その理由を考えながら、『統治論』の抜粋PDF資料を精読する。	120分
		事後学修	イギリスの議会政治の歴史的発達とロックの『統治論』は密接な関係に留意しつつ、ロック思想の基本的特徴をノートにまとめる。	120分
12	第一部 金6/26 第二部 金6/26	近代の社会契約思想：ルソー『人間不平等起源論』	ルソーのパーソナリティの特異性と『不平等論』の成立事情を学修する。	
		この回の到達目標	ルソーのステレオタイプな「自然に帰れ」論を括弧にくくり、彼の個人史から読み取れるパーソナリティを踏まえて、『不平等論』の成立事情を理解し、説明できる。	
		事前学修	ルソーの思想を等身大で見するための予備作業として、ColnetにアップされたPDF資料で彼の人生遍歴を概観し、重要と思われるエピソードにマーキングをしておく。	120分
		事後学修	アムール・ド・ソワ とアムール・ド・プロプルは同じ愛でありながら、極端な差異としてとらえられる点に気をつけながら、『不平等論』の骨子をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3 第二部 金7/3	近代の社会契約思想：ルソー『社会契約論』	『不平等論』と『社会契約論』との「自然状態」概念の相違に着目しつつ、後者の論のパラドックス（全面譲渡の謎）を読み解く。	
		この回の到達目標	『不平等論』と『社会契約論』とで「自然状態」が異なる根拠を理解し、『社会系契約論』におけるルソーの狙いを客観的視点で説明できる。	
		事前学修	『不平等論』と『社会契約論』とでは「自然状態」のとらえ方の相違点をColnetにアップされたPDF資料から読み取り、箇条書きでノートに書きだす。	120分
		事後学修	「全面譲渡」という極端な形で描かれるルソーの社会契約論を時代背景と照らし合わせて考え、ノートにまとめる。	120分
14	第一部 金7/10 第二部 金7/10	仏リベラリズム：モンテスキュー『法の精神』	法服貴族という立場からフランスの王政の暴走に法的な歯止めをかけようとしたモンテスキュー思想の意義を学修する。	
		この回の到達目標	モンテスキューの権力分立論の根拠を、当時のフランスの時代状況と照らし合わせて理解し説明できる。	
		事前学修	法服貴族というモンテスキューの身分（立ち位置）が彼の思想とどのような関係にあるか？ PDF資料を読んで予想される内容をノートに書きだす。	120分
		事後学修	「穏和な整体」というときの「穏和」の意味に注意しながら、モンテスキューの権力分立論の独自性（特徴）についてノートにまとめる。	120分
15	第一部 金7/17 第二部 金7/17	前学期のまとめ	時代状況に即して思想家たちの行った改革の総まとめを行う。	
		この回の到達目標	ルネサンス・宗教改革の時代から近代にいたる社会思想の潮流をトータルかつ客観的に把握し、説明できる。	
		事前学修	年代順に並べなおすと、マキアヴェリ、エラスムス、モア、ルター、ホッブズ、ロック、モンテスキュー、ルソーの順になるにもかかわらず、なぜ上記のような順で概説したか考え、その根拠をノートにまとめる。	120分
		事後学修	「カトリシズム的改革とプロテスタンティズム」、「アダム的人間とプロメテウス的人間」、「社会契約思想と権力分立論」、「自然法概念」の推移、という4項目について、これまで学んできたことをトータルに整理し、ノートにまとめる。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅱ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回リアクションペーパーで意見を求め、翌授業でフィードバックし、理解を深める。中間チェックテスト（2択20題）を1回行う。最終的な学期末レポートは1回提出する必要があるが、期末の試験は行わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す中間チェックテストの 成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Colnetまたはポータルシステムに アップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課すリアクションペー パーの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定教科書なし。					
備考	Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進める。				

【オフィスアワー】
金曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18 第二部 金9/18	市民社会の思想：アダム・スミスの道徳哲学	時代背景を踏まえつつ、『道徳感情論』を中心に性善説・性悪説をのりこえるスミスの道徳論の形成について学修する。	
		この回の到達目標	スミスの時代の道徳学説の諸説を対照し、スミスが独自の道徳感情論を形成する経緯を理解し、説明できる。	
		事前学修	ColnetのPDF資料「アダム・スミス」の年譜と概要を読み、気になる点（飲み込めない箇所）をマーキングして受講に備える。	120分
		事後学修	道徳感覚学派の利他的人間像と、マンデヴィル、ヒュームらの利己的人間像の特徴をまとめ、スミスがどのようにそれらの道徳論を超克していったかをノートに整理する。	120分
2	第一部 金9/25 第二部 金9/25	市民社会の思想：アダム・スミス『国富論』	『国富論』の「見えざる手」の理論と分業の功罪について学修する。	
		この回の到達目標	スミスの重商主義批判を踏まえつつ、『国富論』を単純な市場開放論といえない面があることを的確に指摘し、説明できる。	
		事前学修	スミスの道徳論が「共感」や「公平な観察者」というテクニカルタームにどうつながっていくか、予想をたて、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	スミスの自由主義的経済思想の特徴を列記し、その発展系が現代のグローバル社会の新自由主義思想といえるかどうか、自分の考えをノートにまとめる。	120分
3	第一部 金10/2 第二部 金10/2	市民社会の思想：カントの道徳哲学と法論	カントの義務倫理の成立背景をたどり、キリスト教倫理との関係を含め、カントの理想が今日どのような意味をもつかを考察する。	
		この回の到達目標	厳格なカントの義務倫理が何を根拠にして生じるのか、道徳法則にしたがう自由のパラドックスをどのように解くか、という問いについての的確に応答し説明できる。	
		事前学修	Colnetに挙げられた資料を読み、カントの道徳論は厳格な義務倫理といわれる理由について、予想を立て、それをノートに書きだす。	120分
		事後学修	不幸な介護殺人や鷗外の『高瀬舟』などの事例で、カントの「生きる義務」という価値観が適用できる可能性についてノートにまとめる。	120分
4	第一部 金10/9 第二部 金10/9	市民社会の思想：スピノザの市民社会論	日常意識を超える神の視点では「必然性」と「自由」が一つであること、そのような「永遠の相のもと」で生きることに真の幸福があることを、スピノザの主著『エティカ』から学修する。	
		この回の到達目標	超越神論と汎神論の相違を踏まえ、スピノザの哲学において自由と必然が合致すること、また、この視点は、政治哲学的な意味も含意していることを理解できる。	
		事前学修	スピノザの汎神論のが、人間中心的な道徳観（個）を超える普遍の立場でありながら、民主主義的でありうるというパラドックスをどう解いたら良いか？ Colnetに挙げられた資料を一読し予想してみる。	120分
		事後学修	スピノザ哲学では、自我の主権意識にこだわるほうが真理から遠のくことになるのはなぜか、その理由を考えながら、スピノザの倫理思想をノートにまとめる。	120分
5	第一部 金10/16 第二部 金10/16	市民社会の思想：ヘーゲルの弁証法	ドイツ観念論の完成者といわれるヘーゲル哲学の体系構築に不可欠の弁証法について学修する。	
		この回の到達目標	ヘーゲル哲学体系における「弁証法」という方法の役割およびその内実についての的確に理解し、説明できる。	
		事前学修	「正→反→合」という図式的理解を「カツ→カレー→カツカレー」という喩えに変えることには問題がある。Colnetに挙げられた資料を読み、その問題点を予想し、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	ヘーゲルにとって弁証法はわき役であったにもかかわらず、体系構成の重要な方法と位置づけられる根拠を考えながら、ヘーゲル弁証法のポイントをノートにまとめる。	120分
6	第一部 金10/23 第二部 金10/23	市民社会の思想：ヘーゲル『法の哲学』家族論	ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第一段階「家族」について学修する。	
		この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』の「人倫」と「道徳性」との違いを踏まえ、人倫における「家族」の役割について理解し、説明できる。	
		事前学修	カントの道徳性を超えるヘーゲルの人倫（倫理）とは何か？ Colnetに挙げられた資料を読んでその内実を予想し、ノートにまとめ、受講に備える。	120分
		事後学修	家族の一体性・普遍性が「解体」されるとはどういうことか？ 家族の空中分解を意味するわけではないことに注意しながら、『法の哲学』における家族から市民社会への移行の論理を、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30 第二部 金10/30	市民社会の思想：ヘーゲル『法哲学』市民社会論	ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第二段階「市民社会」と第三段階「国家」について学修する。	
		この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』における市民社会の問題点とその克服の方法に関するヘーゲルの見解を理解し、説明できる。	
		事前学修	ヘーゲルのとらえる市民社会が「欲求の体系としての強制国家」といわれる根拠は何か。Colnetに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	人倫の弁証法的発展としての「家族→市民社会→国家」の歩みの必然性を職業団体の「誇り」の意識に注意しながら、ノートにまとめる。	120分
8	第一部 金11/6 第二部 金11/6	経済社会の思想：マルクス『経済学・哲学草稿』	初期の『経済学・哲学草稿』を中心にマルクスが「労働の疎外」を当時どのように考えていたかについて学修する。	
		この回の到達目標	本来、喜びと充足をもたらすはずの労働においてなぜ人間は疎外されてしまうのか？ この問題に関する初期のマルクスの分析を理解し、説明できる。	
		事前学修	労働における人間の「自己疎外」、すなわち「働けば働くほど人間が貧しくなる」という逆説がなぜ生じるか？ その回答を予想し、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	チャップリンの『モダン・タイムス』の20世紀と19世紀ドイツの状況と対比しながら、マルクスの労働疎外論のもつ意味について、ノートにまとめる。	120分
9	第一部 金11/13 第二部 金11/13	経済社会の思想：マルクス『資本論』の物象化論	マルクス『資本論』における商品の分析と物象化論的錯視の意味について学修する。	
		この回の到達目標	アソシアシオンという協同社会がいまだ実現されていないことを踏まえ、マルクスの資本主義社会に対する批判的分析のもつ意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	マルクスの思想とマルクス主義は異なる。その意味について、Colnetに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	「アソシアシオン」「物象化論的錯視」というキーワードを抑えながら、労働者を解放しようとしたマルクスの意図と構想のポイントをノートにまとめる。	120分
10	第一部 金11/20 第二部 金11/20	現代の環境思想：レイチェル・カーソン『沈黙の春』と日本の公害	カーソンの『沈黙の春』の成立事情と1970年代の日本の公害問題と現代の環境問題とを関連づけて学修する。	
		この回の到達目標	文学者ではなく海洋生物学者としてカーソンが『沈黙の春』で警告した内容を的確に把握し、説明できる。	
		事前学修	Colnetに挙げられたカーソンの『沈黙の春』冒頭の「明日の寓話」を読み、「白い粉」は何の寓意かを予想し、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	生態系が「目に見えないネットワーク」であることを見定めつつ、授業で触れられなかった彼女の思想をまColnetに挙げられた資料にあるカーソンの思想をノートにまとめる。	120分
11	第一部 金11/27 第二部 金11/27	現代の環境思想：ディープ・エコロジー①自己実現	「エゴ」と「セルフ」区別を踏まえつつ、アルネ・ネス「拡大自己実現」の思想を学修する。	
		この回の到達目標	「自己同一化」というキーワードを抑えつつ、「自我ego」から区別されるネスの「自己Self」概念を的確に理解し、ネスのホーリズムの立場を説明できる。	
		事前学修	起点を共有しながらも、本質的に異なる概念とされる「自我」と「自己」。その異同の内実は何かについて、Colnetに挙げられた資料を読みながら予想を立て、ノートに書きだす。	120分
		事後学修	実体としての「自我」、関係としての「自己」という両概念の特性に注意しながら、ネスの思想をノートにまとめる。	120分
12	第一部 金12/4 第二部 金12/4	現代の環境思想：ディープ・エコロジー②エプロン・ダイアグラム	ディープエコロジーの思想と運動の違いに留意しながら、エプロン・ダイアグラムとプラットフォーム原則について学修する。	
		この回の到達目標	ディープエコロジー運動にあつては、エプロン・ダイアグラムにおいて、レベル1の宗教・哲学よりも、レベル2のプラットフォーム原則のほうが重視されることの根拠について、的確に理解し、説明できる。	
		事前学修	ディープエコロジー運動において、思想や信条などの哲学的理念を共有事項とすると、なぜ問題なのかについて、Colnetに挙げられた資料から予想を立て、受講に備える。	120分
		事後学修	プラットフォーム原則の第4原則「不可欠の必要」があえて「曖昧な」書き方になっている点に注意ながら、プラットフォーム原則全体の要点をノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11 第二部 金12/11	現代の環境思想：ディー プ・エコロジー③食の思想	ディープ・エコロジストとは微妙に異なる「生命中心主義」の論客ピーター・シンガーと対比し つつ、アルネ・ネスが食に関してどのような立場にあったかについて学修する。	
		この回の 到達目標	食の哲学・自然観をめぐってアルネ・ネスとピーター・シンガーの見解が微妙に異なる事情にあることを理解し、 両者の異同を的確に説明できる。	
		事前学修	生きるためには食べなければならず、食べるためには殺さなければならない。この矛盾に対するネスの「生 命圏平等主義」の主張の意味は何か？ 自分なりの考えをノートにまとめ、受講に備える。	120分
		事後学修	生きものの「いのちを解く」現場から離れた現代人の食生活の問題は何かを考えながら、人間が「生きる」 ことの意味をネスがどのようにとらえていたかについて、ノートにまとめる。	120分
14	第一部 金12/18 第二部 金12/18	現代の環境思想：アルネ・ ネスのセルフ論	エーリヒ・フロムとスピノザを引き合いに出しながら、アルネ・ネスの「セルフ」論をより深く 学修する。	
		この回の 到達目標	フロムとスピノザに関するネスの見解を手がかりにしつつ、第11回で学んだネスの「自己実現」論をより深いレベ ルで理解し、フロムとスピノザからネスが何を学んだかについて説明できる。	
		事前学修	Colnetに挙げられた資料を読み、なぜ「自己愛」と「他者愛」が両立可能なのかについて、自分なりにノー トにまとめ、受講に備える。	120分
		事後学修	フロムから共感論のほかに、“preserve in his being”というスピノザの主張がなぜ必要となるのか、「エ ゴの脱色（解放）」という視点から、ネスの自己実現論をノートにまとめる。	120分
15	第一部 金12/25 第二部 金12/25	現代の環境思想：ソーシャ ル・エコロジー	ディープ・エコロジーの発想で見落とされがちな、社会関係（人間対人間の関係）の問題をマレ イ・ブクチンのソーシャル・エコロジー思想から学修する。	
		この回の 到達目標	エコロジー問題を考える際に、対自然関係よりも対人間関係が優先課題となる理由について、現代社会の事例を挙 げて理解し、説明できる。	
		事前学修	ブクチンの『エコロジーと社会』第1章に登場する、カリフォルニア出身のエコロジストの言説のおかしな 点とは何か？ Colnetに挙げられた資料を読み、自分なりの考えをノートにまとめる。	120分
		事後学修	生物資源を略奪するドイツの製菓会社の事例を参考に。社会的な人間相互の関係を改善せずには、地球環境 問題の真の解決には至らない、というブクチンの主張をノートにまとめる。	120分

科目名	宗教学Ⅰ	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本義とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。

【履修条件】 真剣に取り組める人。遅刻しないこと。隣の席は必ず空席にして着席すること。

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。レポートは試験と同じ扱いなので相談したり他者のを見るなどするとカンニングとみなし無効とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	宗教の定義・本義を十分に理解し、それを説明できる。				2	2		2				
②	自分の現状を明確にでき、それを基にさらに成長したことを説明できる。						2					
③	宗教の本義に基づき、いかなる時もそれに基づいて行動することができる。				2			2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関する知識が取得でき、それを説明できているかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標①、②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	40	20	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、遅刻は3点、欠席は5点を減点する。											
その他(宿題)	到達目標③に関し、宗教の根本義に基づいた行動ができるようになりつつあるか評価する。			20								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	4/11	宗教の定義	宗教の定義に関して、語源、歴史、研究者による定義などについて概説し、本授業で行うことを説明する。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①に関して、宗教とはどのようなものか、その定義を理解し、根本義は何かを明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	宗教という言葉の定義を広く調べた上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/18	人生の目標・目的	前回のレポート紹介と講評。人間が生きている環境、そこをどのように生きればいいのか、その目標・目的について扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、生きることの意味、人生の目標・目的を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	人生の中間目標、最終目的について考え、ノートにまとめておく	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/25	人間はどのように生きればいいのか。	前回のレポート紹介と講評。日常でどのように生きているか、どのように生きることがいい方向となるのかについて扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、人間はどのように生きればいいのかを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分が日常をどのように生きているかを確認し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/2	主人公とは何か。	前回のレポート紹介と講評。日常の自分は一体何によって動かされているのかなどに関する話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の人生を自分で生きることを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分が何を求めて生きているか、ノートに書き出し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/9	主人公は誰か	前回のレポート紹介と講評。他人を相手にするのみでは人生が進んでいかないことなどについての授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の主人公を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	承認欲求について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	向上・進化できたこと	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	5/23	執われとは	前回のレポート紹介と講評。人間の苦しみはどこから生ずるのかについて授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分が執われていることを自覚し、そこから離れることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	仏教に於ける「執(しゅう)着(じゃく)(執著)」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	5/30	執われからの展開（初段階）	前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開に関する初段階の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の精神的立場が一点に執われ続けていることを、自分の日常を記録することで調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/6	執われからの展開（高段階）	前回のレポート紹介と講評。精神的次元をさらに高める話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の日常のふるまいを精神的次元にあてはめて、それを記録しノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/13	自分の短所・欠点	前回のレポート紹介と講評。短所・欠点を元に、そこから展開していく話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の短所・欠点を明確にし、それをどうすればよいかを考えられるようになり、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の短所・欠点を調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/20	精神的な弱さについて	前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さについての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の精神的な弱さについて理解し、それを乗り越えていく行動ができるようになり、それについて説明できる。	
		事前学修	精神的弱さについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	精神集中について	前回のレポート紹介と講評。精神集中についての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神集中の意義について理解し、自分に合ったものを行うことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	精神集中について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/4	後半のまとめ	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/11	生きやすくなることについて	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標目標③に関して、これまでの授業を振り返り、どのように生きればいいかを確認し、より生きやすくなることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	宗教学Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本筋とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。
--

【履修条件】 真剣に取り組める人。遅刻しないこと。隣の席は必ず空席にして着席すること。

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。レポートは試験と同じ扱いなので相談したり他者のを見るなどするとカンニングとみなし無効とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分と他者を充分に知り理解し、それを説明することができる。				2	2						
②	達成目標①に基づき、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に判断することができるようになり、それを説明できる。						2	2				
③	自分の行動を観察し、意識的にすることができ、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に行動することができるようになり、それを説明できる。							2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関して、十分に自分を理解でき、客観的に冷静に判断することができて、それを説明できるかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない判断が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない行動が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	20	40	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、遅刻は3点、欠席は5点を減点する。											
その他(宿題)	到達目標②、③に関し、客観的に冷静に判断・行動することができ、それを説明できるかを評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/26	自分を知ること	授業者による「自分を知る」ことに関する先人たちの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることの重要性を歴史的に理解し、その意義を明確にし、それについて説明できる。	
		事前学修	自分はどのような人かについて探究することの意義を調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	10/3	自分を知する方法	前回のレポート紹介と講評。参加者は「自分を知る」ためのテストを行い、自分について分かったことをレポートに書き、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることによって自分に対する理解を深め、外側から自分の軸を創ることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、さらに理解を深める。	120分
4	10/10	変えられること、変えられないこと	前回のレポート紹介と講評。「変えられること、変えられないこと」、それをどうすればいいか、などについての話に対し、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、自分を含め観察し、調和の取れた生き方ができるようになり、それについて説明できる。	
		事前学修	自分が「どうにもできないこと、どうにかできること」について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	10/17	無常、無我について	前回のレポート紹介と講評。仏教の「無常」、「無我」についての話などを聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、「無常」、「無我」が自分を含め観察するということであることを理解し、それについて説明できる。	
		事前学修	仏教の「無常」、「無我」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/24	人間の暗い面	前回のレポート紹介と講評。「人間の暗い面」についての先人の見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の暗い面を十分に理解し、自分に当てはめて納得し、またそれについて説明できる。	
		事前学修	「人間の暗い面」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	向上・進化できたこと	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	11/7	人間の邪悪さ	前回のレポート紹介と講評。「人間の邪悪さ」に関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の邪悪さを十分に理解し、自分に当てはめて納得でき、それについて説明できる。	
		事前学修	人間の邪悪さについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/14	失敗に対する捉え方	前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、失敗に対する先人たちの捉え方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。	
		事前学修	失敗について自分の経験から考え、見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/21	失敗に対処すること	前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの対処の仕方、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、失敗に対する先人たちの対処の仕方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。	
		事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノーとを振り返り、失敗にどのように対応すればよいかを思考し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	11/28	対象に対する思い込み	前回のレポート紹介と講評。対象に対する思い込みに関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、対象に執われていることから、客観的に観察し、執われることから離れることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	対象を捉えるとき、自分の思いをかぶせることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/5	自分の進化を停滞させるもの	前回のレポート紹介と講評。自分の進化を停滞させるものに関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の進化を停滞させるものを明確に知り、それを修正して生きていくことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の進化を停滞させるものについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	自分の行動は自分が選んで 行っているか	前回のレポート紹介と講評。自分の行動は自分が選んで行っているかに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関して、自分の行動を意識的に自分で選んで生きることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	自分の行動は自分が選んで行っているかについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/19	後半のまとめ	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の 到達目標	到達目標②、③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それについて説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	12/26	自分が生きやすくなり、そ れが人類の進展に繋がって いること	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関して、これまでの授業を振り返り、自分が生きやすくなり、それを人類の進展に繋げることができ、それについて説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	心理学 I	担当者	木村 敦	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ週週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
すべての成績評価指標について、授業中に解説や評価基準の開示を行う。定期試験を実施する場合は、後日ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第3版	和田万紀 編	弘文堂	2014	教科書	推奨
備考	当クラスでは、教科書は主として前期に使用し、後期は毎回配布する授業資料に基づいて進行する。				

【オフィスアワー】
一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で個別質問を受け付ける。授業講堂にて。E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10 第二部 金4/10	【ガイダンス】 【法学部で心理学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学を学ぶことが自他の心理や行動を把握する上でどのように役立つかを説明できる。また、到達目標①～⑥に関連して、授業期間中に心理学を学修する範囲や計画、到達度の判断基準について自身で述べることができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 金4/17 第二部 金4/17	【心理学とは】	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の実験法について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
3	第一部 金4/24 第二部 金4/24	【心理学の歴史と研究法】	心の探究に関する研究の歴史的変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、実験と調査の差異について具体例や基礎用語、それぞれの長所短所を挙げながら説明できる。	
		事前学修	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
4	第一部 金5/1 第二部 金5/1	【感覚・知覚(1)感覚】	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、心理物理学方法を用いた錯視量の測定を自ら実施し、データを分析して物理量と知覚量の差異の有無とその要因について説明できる。	
		事前学修	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。	120分
5	第一部 金5/8 第二部 金5/8	【感覚・知覚(2)知覚】	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚・知覚の基礎的特性やその個人差について説明できる。	
		事前学修	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
6	第一部 金5/15 第二部 金5/15	【感覚・知覚(3)認知と感性】	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑥に関連して、SD法を用いた感性印象の測定を自ら実施し、感性評価における「全体と部分の総和との関連」についてデータに基づいて考察できる。	
		事前学修	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22 第二部 金5/22	【記憶】	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶プロセスの基礎的特性や関連理論、目撃証言の信憑性について説明できる。	
		事前学修	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
8	第一部 金5/29 第二部 金5/29	【学習】	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、レスポナデント条件付けとオペラント条件づけについて、具体例を挙げて比較説明できる。	
		事前学修	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
9	第一部 金6/5 第二部 金6/5	【感情(1)感情の機能と働き】	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情動理論や基本表情モデルについて説明できる。	
		事前学修	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
10	第一部 金6/12 第二部 金6/12	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ネガティブ感情の役割やアンガーマネジメント、アサーションといった感情のコントロールに関する基礎理論について説明できる。	
		事前学修	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
11	第一部 金6/19第 二部 金6/19	【感情(3)動機づけと行動】	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動機づけのモデルや欲求階層に関する基礎理論について説明できる。	
		事前学修	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
12	第一部 金6/26 第二部 金6/26	【性格(1)性格の捉え方】	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、ビッグファイブ理論に基づいて自己のパーソナリティを説明するとともに、既存の検査法では説明できないパーソナリティ特性について考察できる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3 第二部 金7/3	【性格(2) 性格と精神疾患】	パーソナリティに関係する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、投影法心理検査法の手続きや精神疾患の解釈例、限界について説明できる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
14	第一部 金7/10 第二部 金7/10	【授業内理解度確認テストと解説】	授業内理解度確認テストとその解説を実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、授業内理解度確認テストへの参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。	120分
		事後学修	理解度確認テストの解説をもとに、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
15	第一部 金7/17 第二部 金7/17	【総括と到達度自己チェック】	授業総括や到達度チェックシートに基づく到達度の自己チェック課題を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、科目各到達目標に対する自己の到達度を述べるとともに、到達していない部分についての補習課題を通じて、当該の用語・理論について説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。	120分

科目名	心理学Ⅰ	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。

【授業方法】
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。期末試験の解説を、後日「法学部ポータルサイト」に配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。				2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。					2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。						2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。							2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。											2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第3版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	必携
誠信心理学辞典 新版	下山晴彦	誠信書房	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること。（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。金曜1限授業前、授業講堂にて、その間に質問を受けます。授業後はすぐ帰ります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/10	心理学Ⅰのガイダンス・導入講義	心理学Ⅰの講義概要、成績評価についての留意点、心理学の領域について
		この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点について理解し、心理学がどのような領域に広がっているか理解することができる。
		事前学修	教科書の「序章」「第1章」を中心に全体を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
2	4/17	心理学の研究法	実験法、調査法、観察法、面接法
		この回の到達目標	心理学を研究する様々な手法（実験法、調査法、観察法、面接法）について理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第1章」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
3	4/24	科学としての心理学の歴史	科学としての心理学が始まる前と後
		この回の到達目標	科学としての心理学が始まった19世紀後半を中心とした歴史的経緯を理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「序章」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
4	5/1	感覚・知覚 1	視覚の仕組み
		この回の到達目標	視覚の基本的な機能について、心理学の視点から考えることができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。120分
5	5/8	感覚・知覚 2	視覚のしくみ（その2）、聴覚・味覚・触覚・嗅覚について
		この回の到達目標	視覚のみならず、それ以外の五感の機能について理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
6	5/15	学習 1	心理学での「学習」とはなにか（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習）
		この回の到達目標	学習の中でもっとも基本的な、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習について理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2」を通読する。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	学習 2	洞察学習、観察学習、条件づけの応用	
		この回の到達目標	6で学んだ条件づけ以外の学習について理解し、それらをどのように応用できるかについて理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2 学習」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	5/29	感情 1	感情とは何か、感情の生起メカニズム	
		この回の到達目標	感情はどのように生ずるのかについて生理学的・心理学的な視点から理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・1，2」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
9	6/5	感情 2	動機づけ、欲求不満	
		この回の到達目標	動機づけ（モチベーション）と欲求不満（フラストレーション）の基本的なメカニズムについて理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・4」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
10	6/12	記憶	記憶の種類とそれらの性質	
		この回の到達目標	記憶はどのように研究され、記憶の種類とそれらの性質について理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章・1」を通読する。	120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
11	6/19	パーソナリティ 1	性格に関する理論	
		この回の到達目標	古来から今日まで人の性格はどのように捉えられてきたかについて理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第5章」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
12	6/26	パーソナリティ 2	パーソナリティ検査の種類	
		この回の到達目標	パーソナリティはどのようにして測るかについて理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第8章・4」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	発達 1	生まれてから成人し、そして高齢期を迎えるまで	
		この回の到達目標	人間の発達について、心理学的な視点から理解することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1，2」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
14	7/10	発達 2	エリクソンの心理・社会的発達理論	
		この回の到達目標	「アイデンティティ」という概念を広めたE. エリクソンによる生涯発達について理解し、自分自身のこれからの発達について考察することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・3」を通読する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	7/17	総括	心理学Ⅰで学んだことの総括と期末試験についての留意点	
		この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、期末試験についての留意点を確認することができる。	
		事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、留意点で述べられたことを参考書に示された辞書などで調べる。	120分

科目名	心理学 I	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ週週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第3版	和田万紀 編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー、日本オリンピック委員会医・科学スタッフ（スポーツカウンセラー）等を経験してきました。 担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、心理学的理論・立場を日常生活（キャリア形成含）や健康・スポーツの現場で実践できるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	【ガイダンス/法学部で心理学Ⅰを学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月13日	【心理学とは】	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	4月20日	【心理学の歴史と研究法】	心の探究に関する研究の歴史の変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心の探究に関する研究の歴史の変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	4月27日	【感覚・知覚(1)感覚の特徴と知覚】	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
		この回の到達目標	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
		事前学修	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分
5	5月4日	【感覚・知覚(2)視覚】	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	5月11日	【感覚・知覚(3)認知と感性】	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
		この回の到達目標	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
		事前学修	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	【記憶】	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	5月25日	【学習】	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	6月1日	【感情(1)感情の機能と働き】	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	6月8日	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	6月15日	【感情(3)動機づけと行動】	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	6月22日	【性格(1)性格の捉え方】	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	【性格(2) 性格と精神疾患】	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	7月6日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度と修得内容を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	7月13日	【総括/心理学Ⅰ】	授業内テストの解説や心理学Ⅰ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	心理学 I	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
「心理学」に対する思い込みなどをもたずに受講することを条件とします。受講希望者が多い時には上級学年の学生から受講を認めます。最初の授業に必ず出席してください。

【授業方法】
講義を中心に、エクササイズ（検査実習や実験など）を行い、レポートを提出します。試験の講評等はポータルサイトを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出、及びエクササイズ（検査実習や実験など）を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2						
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2					
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2				
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2			
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。											2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。									2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、またはポータルサイトでお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第3版	和田万記	弘文堂	2017	教科書	必携
「ミューラーリヤーの錯視」実習キット		ナカニシヤ出版		その他	必携
備考	ミューラーリヤーの錯視実習キットは、授業中実験実習で使用し、レポート提出になります。購入方法は授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで9号館 9 5 0 1 研究室にて行う。なお事前予約を必要とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	心は「みえる化」できるのか？	授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。心を「見える化」するとはどのようなことなのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「心理学」と「現代心理学」の相違を、基本用語と概念を用いて説明して比較できる。。	
		事前学修	「こころをみえる化」することはできるのか、について自分の考えをまとめて記述する。。	120分
		事後学修	試験の日程、課題提出方法、課題購入方法を確認する。心理学のイメージ、こころを「みえる化」することについて、自分の考えと学修内容との相違をまとめて記述する。	120分
2	/	心理学の歴史	なぜ「現代心理学」なのか。現代心理学はいかに誕生したのか。実験心理学の誕生について心理学の歴史から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代心理学の誕生と、心理学における実験という方法の誕生の歴史的過程について、理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、現代心理学の誕生前後について記述する。	120分
		事後学修	「心理学の過去は長いが歴史は短い」の意味を学修内容をまとめて記述する。	120分
3	/	心理学の方法（１）	心理学の代表的な方法と特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心理学の代表的な方法と特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書、資料等から、心理学の方法について、実験法、心理検査法、調査法についてまとめて記述する。	120分
		事後学修	心理学の代表的な方法について、具体例を挙げながら長所、短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
4	/	心理学の方法（２）	心は実験できるのか。心理学における実験という方法について具体例を通してその短所、長所を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実験という方法を用いた具体的研究例から、心理学における実験という方法のその長所、短所について理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、実験法を用いた研究例を記述する。	120分
		事後学修	心理学で実験という方法を用いる長所と短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
5	/	感覚と知覚（１）	見ることと見えること。人間の感覚の特徴について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤につ関連して、人間の感覚の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、人間の感覚の特徴について具体例を記述する。	120分
		事後学修	閾という概念、感覚の特徴、感覚と知覚の差、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	/	感覚と知覚（２）	知覚の特徴、注意の機能について検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通して発展的に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能について理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、実験実習を実施して、データの整理、仮説の検討、考察を記述して、他者との討議から結論づけることができる。	
		事前学修	教科書配布資料を読み、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能についてまとめて記述する。	120分
		事後学修	実験実習とその後の他者との討議で得られた自他のデータの比較検討行い、仮説を検証、発展させてレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	記憶の仕組み	記憶の仕組みについて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶の種類や記憶の仕組み、忘却、知識等を基本用語と概念を用いて理解して、説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、記憶の仕組みをまとめて記述する	120分
		事後学修	記憶の仕組みについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
8	/	感情の働き	感情は非合理的なのか。感情のコントロールとストレスについて検討する。検査実習を行い、自分の感情のコントロールとストレス対処法の特徴について検討して、他者の結果との差を討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、情報としての感情、という視点から感情が心の働きに与える影響を理解する。到達目標③④⑥に関連して検査実習を行い、自分の感情のコントロールの特徴、ストレス対処の特徴を説明して、他者との討議を通じて結論づけることができる。	
		事前学修	教科書資料や経験から、判断や行動などが感情に強く影響された具体例を記述する。	120分
		事後学修	自分の感情のコントロールの特徴とストレス対処の特徴について、検査実習の結果を検討して、他者との討議の結果から、レポートを作成する。	120分
9	/	動機と行動	動機と行動について、動機の種類、強さ、構造、欲求不満と耐性及び対処法について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、行動の原因を動機の種類、特徴から理解して説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、動機と行動について、基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
		事後学修	動機と行動について、動機が存在しても行動が生じなかった例、発達の過程で特に強く感じた動機の例を述べて、その過程を学修内容をまとめて記述する。	120分
10	/	認知と行動	行動の原因として、帰属過程を含む認知的側面から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、認知と行動の関係と過程について、基本用語と概念を理解して説明できる。	
		事前学修	教科書資料を読み、認知と行動についての基本用語と概念についてまとめて記述する。	120分
		事後学修	行動変容に与える認知過程の影響を、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	/	性格のとらえ方	性格の特徴について、特性論と類型論等の説明、性格検査の種類とその特徴を検討する。検査実習を行い、その結果から自分の性格特徴について基礎用語と概念を用いて記述して、討議を通じて他者と比較検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、性格のとらえ方について基本用語と概念を用いて説明し、検査方法の種類と長所短所を説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の性格特徴を説明し、他者との討議を通じて自他の性格特徴の差を説明できる。	
		事前学修	教科書資料を読み、性格のとらえ方について基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
		事後学修	検査実習の結果と討議から、自分の性格の特徴と他者の性格の特徴との差について比較検討してレポートを作成する。	120分
12	/	心の発達（1）	乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達について理解して基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書、資料を読み、心の発達における乳幼児期の特徴についての基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
		事後学修	乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	心の発達（2）	青年期とそれ以降について、認知的、社会的発達の特徴を検討する。検査実習を実施して、自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通して比較検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、青年期の発達の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通じて他者との差異を説明して、結論づけることができる。	
		事前学修	教科書資料を読み、青年期とそれ以降の発達の特徴を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
		事後学修	青年期の認知的、社会的発達の特徴を学修内容をまとめて記述する。検査実習と他者との討議の結果からレポートを作成する。	120分
14	/	意識と行動	意識と行動について、心理学の歴史と心の働きから理解して、現代心理学での位置づけを検討する。また無意識の研究例を示して、意識と無意識、無意識と行動等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、意識と行動、意識と無意識に関する研究例を、基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書と資料を読み、意識と行動の説明を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
		事後学修	意識と行動、意識と無意識に関する学修内容をまとめて記述する。	120分
15	/	「現代心理学」から「心の働き」を考える	授業のまとめを行い、各授業で示されたキーワードの説明を補足する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の基本用語と概念を用いて、授業で示された各キーワードを説明することができる。	
		事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、試験の準備をする。	120分
		事後学修	到達目標①②⑤に関連して、自分の到達度を評価して、不足を補う。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	木村 敦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Iを履修していること（担当教員は問わない）。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う（レポート講評はポータルシステム配信）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。							2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。								2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。						2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。					2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。										2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。												2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
すべての成績評価指標について、授業中に解説や評価基準の開示を行う。定期試験を実施する場合は、後日ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で質問を受け付ける。授業講堂にて。E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18 第二部 金9/18	【ガイダンス】 【法学部で心理学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会心理学を学ぶことが自他の心理や行動を把握する上でどのように役立つかを説明できる。また、到達目標①～⑥に関連して、授業期間中に心理学を学修する範囲や計画、到達度の判断基準について自身で述べることができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 金9/25 第二部 金9/25	【社会心理学の研究法】	社会の中の人間行動を科学的作法をもって研究するために社会心理学ではどのような実験技法が用いられるかを実験例を通じて学び、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会心理学実験における専門的技法や結果を解釈する上での留意点について、具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質問紙による自尊心の測定、ならびに得点分布における位置づけの妥当性について、日常例を挙げて述べるができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
3	第一部 金10/2 第二部 金10/2	【心理学の研究倫理】	人間を対象とした研究を遂行する上で留意すべき倫理的配慮について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤⑥に関連して、社会心理学実験における「状況の再現」と「研究倫理」のバランスについて、社会心理学史に触れながら意見を述べるができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
4	第一部 金10/9 第二部 金10/9	【印象形成】	人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、印象形成のメカニズムや諸要因について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、印象形成に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
5	第一部 金10/16 第二部 金10/16	【社会的推論】	人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、原因帰属のメカニズムや特性、ヒューリスティックについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、原因帰属に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。また、到達目標⑤⑥に関連して、授業内で実施する社会的認知を題材として調査と分析を通じて、社会的認知の平均的傾向と個人差について、データに基づいて述べるができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
6	第一部 金10/23 第二部 金10/23	【態度の形成と変容】	人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、態度形成のメカニズムや態度変容・説得に影響を及ぼす要因について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、態度の形成や変容に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30 第二部 金10/30	【授業内理解度確認テストと解説】	前半範囲の復習および、理解度確認テストとその解説を実施し、ここまでの学習についての理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業内理解度確認テストへの参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
		事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
		事後学修	授業内テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
8	第一部 金11/6 第二部 金11/6	【環境と行動】	物理的環境と人間行動の相互作用に関して学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、物理的環境と対人環境がそれぞれ人間の心理・行動に及ぼす影響について比較しながら説明することができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
9	第一部 金11/13 第二部 金11/13	【他者存在】	人間が集合・集団の中でどのように振る舞うかに関して、他者存在が個人のパフォーマンスに及ぼす影響の現象とメカニズムについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、他者存在が人間の心理・行動に影響を及ぼす要因について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
10	第一部 金11/20 第二部 金11/20	【対人関係・集団行動】	人間が集団の中でどのように振る舞うかに関して、対人関係や集団行動の基礎的理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、集団の形成・維持・崩壊のプロセスや、集団行動の特性について、具体例や代表的モデル、基礎用語を挙げながら説明できる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
11	第一部 金11/27 第二部 金11/27	【集合行動】	集合行動の範囲、集合行動と集団行動の差異、集合行動のメカニズムについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、集合行動と集団行動の差異、ならびに集合行動のメカニズムに関する見解の変遷について、具体例や代表的理論、基礎用語を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
12	第一部 金12/4 第二部 金12/4	【法と心理学】	子どもを対象とした司法面接を行う際の心理学的側面からの留意点について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、司法面接において面接官と被面接者の間でディスコミュニケーションが生じないようにどのような言語的表現や面談プロセスが必要かについて、具体例を挙げながら説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、社会性尺度を用いた自己の社会性スキルの把握および他者との比較を通じて、自己の社会性スキル向上のための課題について述べることができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11 第二部 金12/11	【授業内理解度確認テストと解説】	後半範囲の復習および、理解度確認テストとその解説を実施し、ここまでの学習についての理解度を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内理解度確認テストへの参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
		事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
		事後学修	授業内テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
14	第一部 金12/18 第二部 金12/18	【日常生活の心理学】	食事といった身近な場面における心理・行動に関する最新の知見を学習し、これまで学習した心理学の知見を整理し直すとともに、日常生活への応用について自分の意見を述べられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常生活の中で社会心理学の理論や技法がどのように役立てられているかについて、具体例や基礎用語を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
15	第一部 金12/25 第二部 金12/25	【総括と到達度自己チェック】	授業総括や到達度チェックシートに基づく到達度の自己チェック課題を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、科目各到達目標に対する自己の到達度を述べるとともに、到達していない部分についての補習課題を通じて、当該の用語・理論について説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識や技能を論じられるように準備する。	120分
		事後学修	授業総括および授業内レポートの内容を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学修方針を考える。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。「心理学Ⅰ」を履修することが望ましい。

【授業方法】
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う(殆ど板書はしない)。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックする。期末試験の解説を、後日「法学部ポータルサイト」に配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。							2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。								2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。						2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。					2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。										2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。												2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第3版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	推奨
産業・組織心理学エッセンシャルズ(第4版)	外島裕・田中堅一郎	ナカニシヤ出版	2019	参考書	任意
備考	教科書よりも、参考書の使用頻度が多いです。				

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること。（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。金曜1限授業前、授業講堂にて、その間に質問を受けます。授業後はすぐ帰ります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/18	心理学Ⅱのガイダンス・導入講義	心理学の応用領域について
		この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点、心理学の応用領域について理解できる。
		事前学修	講義ノートとテキストを確認して、「心理学Ⅰ」で学んだことを振り返る。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
2	9/25	応用心理学の歴史的経緯	心理学の応用はいつから始まったか
		この回の到達目標	応用心理学がどのように始まり発展してきたかについて理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料に目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
3	10/2	ワーク・モチベーション1	科学的管理法、ホーソン研究、達成動機理論
		この回の到達目標	仕事におけるモチベーションの歴史的経緯と基本的な用語を理解することができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
4	10/9	ワーク・モチベーション2	期待-価値モデル、目標設定理論と目標による管理
		この回の到達目標	ワーク・モチベーションをどうすれば高めることができるかについて、その手立てを理解できる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。120分
5	10/16	同調と服従	同調行動と権威への服従を実験で再現したら
		この回の到達目標	同調行動と権威への服従を心理学の視点から理解し、ナショナリズムやホロコーストの原因について考察できる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・3）に目を通す。参考書の該当箇所にも目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分
6	10/23	説得と応用を科学する	人を説得するのに効果的な手立てはあるか
		この回の到達目標	効果的な説得と要請の仕方について理解し、効果的に説得するにはどうすればよいか考えることができる。
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・2）に目を通す。参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所にも目を通す。120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	リーダーシップを心理学の視点から考える 1	特性アプローチ、行動アプローチ	
		この回の到達目標	リーダーシップをリーダーの特性面と行動面から理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	11/6	リーダーシップを心理学の視点から考える 2	状況適合的アプローチ	
		この回の到達目標	効果的なリーダーシップが、リーダーを取り巻く状況へ適合できるか否かで決まることを理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
9	11/13	職業適性	「自分に合う仕事は何か」を科学する	
		この回の到達目標	職業の適性について理解し、自分自身の職業適性を考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「3 人事測定の方法」）に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
10	11/20	組織における意思決定の落とし穴 1	プロスペクト理論	
		この回の到達目標	日常生活における一見すると「不合理な」判断を、心理学的視点から理論的に考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
11	11/27	組織における意思決定の落とし穴 2	コミットメントのエスカレーション	
		この回の到達目標	経営者・運営管理者が陥る「非合理的」な意思決定について理解し、その対処法について考えることができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
12	12/4	職場におけるストレス 1	ストレスとは何か	
		この回の到達目標	ストレスに関する基本用語（例えば、ストレッサーとストレイン）を理解することができる。	
		事前学修	教科書「第4章・5」、事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	職場におけるストレス 2	ストレスへの対処	
		この回の到達目標	ストレスによる障害を理解し、ストレスに対処することができる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
14	12/18	法と心理学	法学における心理学の役割とは	
		この回の到達目標	心理学は法学にどのような貢献ができるかを理解できる。	
		事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	12/25	総括	講義の総括と期末試験についての留意点	
		この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、期末試験についての留意点を確認する。	
		事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	60分
		事後学修	講義ノートと参考書を確認して、講義の総括と期末試験についての留意点を確認し、試験準備を行う。	180分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第3版	和田万紀 編	弘文堂	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー、日本オリンピック委員会医・科学スタッフ（スポーツカウンセラー）等を経験してきました。 担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、心理学的理論・立場を日常生活（キャリア形成含）や健康・スポーツの現場で実践できるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	【ガイダンス/心理学Ⅱを学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	9月21日	【発達の心理学①】	発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	9月28日	【発達の心理学②】	身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	10月5日	【発達の心理学③】	エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（1時間）	120分
5	10月12日	【社会の心理学①】	対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	10月19日	【社会の心理学②】	対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	【社会の心理学③】	集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
8	11月9日	【社会の心理学④】	集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
9	11月16日	【言語・思考・知能の心理学】	思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
10	11月23日	【健康の心理学①】	ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
11	11月30日	【健康の心理学②】	ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
12	12月7日	【臨床・異常の心理学①】	精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	【臨床・異常の心理学②】	精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
14	12月21日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。(2時間)	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。(2時間)	120分
15	1月18日	【総括/心理学Ⅱを総括する】	授業内テストの解説や心理学Ⅱ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や心理学Ⅱ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。(2時間)	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。(2時間)	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Ⅰを履修中、または履修済みであることが望ましい。受講者が多いと上級学年から受講を許可します。最初の授業に必ず出席してください。

【授業方法】
講義を中心とする。授業中に実験実習、検査実習を行い、集団討議を通じて結果の検討、考察を行います。試験の講評等はポータルサイトを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出、及び実験実習、検査実習を授業中に行い、集団討議を通じてレポートを提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、またはポータルサイトでお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第3版	和田万記	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで9号館 9 5 0 1 研究室にて行う。なお事前予約を必要とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	社会的動物としての人間とはどのような存在か。	授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。社会的動物としての人間存在について、社会心理学からの考え方を説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連して、社会心理学の視点を理解して説明することができる。	
		事前学修	評価方法などを確認する。社会的動物とは何かについて、自分の考えを記述する。	120分
		事後学修	社会的動物としての人間存在に関して、学修内容から社会心理学の視点と自分の考えの相違をまとめて記述する。	120分
2	/	自己認知	自己概念と自己認知、現実自己と理想自己、他人の目に映る自分の姿、という視点から、自己の姿の特徴を検討する。実験実習の結果を他者との討議を通じて検討して、自己認知の特徴を記述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己認知と他者認知の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論づけることができる	
		事前学修	自分を意識化する、自己認知には複数の視点があることを具体例から確認して記述する。	120分
		事後学修	自己認知の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習の結果と討議からレポートを作成する。	120分
3	/	社会的認知	対人認知、社会的推論の形成と特徴を説明して検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通じて検討して社会的認知の特徴を一般化する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対人認知、社会的推論の特徴を社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論付けることができる。	
		事前学修	教科書、資料から、対人認知と社会的推論の特徴について社会心理学の基本用語と概念からまとめて記述する。	120分
		事後学修	対人認知、社会的推論の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習と討議を通じて結果を検討して、レポートを作成する。	120分
4	/	上手な自己表現（１）自己呈示	上手な自己表現とは何か、自己呈示の種類と自分の自己呈示の特徴及び対人関係への影響を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己呈示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から、自己呈示にはどのような種類があるのか、上手な自己表現、下手な自己表現とは何かについて記述する。	120分
		事後学修	誰に、自分のどのような側面を、どのような提示方法で、見せるのか。その結果対人関係はどのように変化するのかについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
5	/	上手な自己表現（２）自己開示	自己開示の定義、機能、対人関係への影響、自己開示と適応及び社会的スキル等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて記述する。	120分
		事後学修	自分にとって「上手な自己表現」とは何か、自己開示はどのように上手な自己表現に寄与するのか、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	/	援助行動・援助要請行動	援助行動と援助要請行動について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、援助行動と援助要請行動の生起過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
		事前学修	なぜ援助行動ができないのか、なぜ援助要請行動ができないのか、について具体例を記述する。	120分
		事後学修	援助行動が起きるまでと援助要請行動が起きるまでの心理的過程について学修内容をまとめて、援助行動、援助要請行動を起こすことができない要因を記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	攻撃行動	攻撃行動の生起要因、及び抑制要因、攻撃行動の対人機能などを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、攻撃行動の生起過程と抑制要因について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から攻撃行動の原因、生起過程、抑制要因について記述する。	120分
		事後学修	攻撃行動について学修内容をまとめて記述する。	120分
8	/	態度と行動	態度と行動の一貫性について、態度の定義、態度形成、態度の強度と持続性、態度変容、説得的コミュニケーション等から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、態度と行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
		事前学修	教科書、資料等から態度の形成 集団認知と集団間関係、態度変容、説得的コミュニケーションについて記述する。	120分
		事後学修	態度と行動の一貫性について、学修内容をまとめて記述する。	120分
9	/	他者の存在の影響	空気を読む、とは何か。規範の形成と種類、同調行動等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、規範の形成と個人の行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	他者の存在により自分の判断や行動が影響を受けた例から、その原因と心理的過程、結果を記述する。	120分
		事後学修	裸の王子様の寓話について、規範の形成、同調行動から学修内容をまとめて記述する。	120分
10	/	集団と個人	集団と個人に関して、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団と個人に関して社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書、資料から、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等について記述する。	120分
		事後学修	集団と個人について、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	/	組織の特徴	組織の特徴について、リーダーシップとフォロワー、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤、日本型組織の特徴、組織の発達と終焉等について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、組織の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
		事前学修	教科書、資料から、組織と個人、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤等に関してまとめて記述する。	120分
		事後学修	組織の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分
12	/	集団認知と集団間関係	集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等からその特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団認知の特徴、集団間関係について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書、資料等から集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等をまとめて記述する。	120分
		事後学修	集団認知の特徴と集団間関係について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	集合行動	集合行動の特徴と没個性化について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集合行動の特徴と没個性化等について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
		事前学修	教科書、資料等から、集合行動について具体例や研究例をまとめて記述する。	120分
		事後学修	集合行動の特徴と没個性化について学修内容をまとめて記述する。	120分
14	/	流行、流言	流行、流言についてその発生、普及、終息過程から、なぜ私たちはそれを信じるのか、を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、流行や流言の発生、普及、終息過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。、	
		事前学修	流行や流言に自分が影響を受けた例、受けなかった例を考えて、その理由と心理的過程を記述する。	120分
		事後学修	流行、流言について、学修内容をまとめて記述する。	120分
15	/	他者の存在と個人	授業全体を振り返り、社会心理学の基本用語と概念の確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者の存在が個人に与える影響について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
		事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、質問等を記述する。未提出物がないかを確認する。	120分
		事後学修	到達目標について、自分の達成度をそれぞれ評価して、試験の準備をする。	120分

科目名	数学 I	担当者	木村 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会現象を数学で表現して、処理できる基本的な力を獲得するために、数と式の計算及び方程式、不等式を学修する。特に素因数分解、記数法、数列、方程式の整数解、不等式など基礎知識の定着と応用をする。そして文章化された問題を定式化して、操作する能力を獲得する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会現象を数学で表現して操作することができる力を得るために、基本的な数学の知識の定着とその発展と応用を目的として、数と式の計算及び方程式、不等式の基本的知識の確認し、そこから応用展開へ進む力を修得する。

【履修条件】
中学校程度の数学および高等学校の数学 I 程度の数式処理に関する知識・技術は、身につけていることを仮定して講義する。

【授業方法】
講義の最初に提出されたレポートの解説を行い、次にその回に必要な基本的な知識を説明し、問題を解いてもらう。その後、問題解決のための思考方法を説明し解法を与える。授業内試験終了後には、その解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	数と式の計算、方程式と不等式、について理解し、課題を解く方法を指摘することができる。							2					
②	数と式の計算、方程式と不等式、について理解し、応用問題に答えることができる。							2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。								2				
④	学修者は、文章化された問題を、数学的に定式化し、操作できる。						2						
⑤	社会における具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、操作できる。					2							
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、達成度を授業内試験で確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
小テスト等	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとに知識の獲得の程度を小テストで確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週に実施した小テストの解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日4時限の授業前後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9 第二部木 4/9	ガイダンス，導入授業	講義を履修する上で必要な知識、講義の進め方、評価方法を説明する。それによって受講生は授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	講義を履修する上での必要な知識を身につけているかを確認し、必要とされた知識を用いて、計算等ができるようになる。	
		事前学修	中高における数学内容を一通りおさらいしておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスを振り返り，次の授業に備えること。	120分
2	第一部木 4/16 第二部木 4/16	数と式の計算について（その1）	数と計算について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、数と計算に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における数と計算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
3	第一部木 4/23 第二部木 4/23	数と式の計算について（その2）	素因数分解について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、素因数分解に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における素因数分解に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
4	第一部木 4/30 第二部木 4/30	数と式の計算について（その3）	約数・倍数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、約数・倍数に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における約数・倍数に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
5	第一部木 5/7 第二部木 5/7	数と式の計算について（その4）	商と余りについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、商と余りに関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における商と余りに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
6	第一部木 5/14 第二部木 5/14	数と式の計算について（その5）	記数法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、記数法に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における記数法に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21 第二部木 5/21	数と式の計算について（その6）	数量問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、数量問題に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における数量問題に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
8	第一部木 5/28 第二部木 5/28	数と式の計算について（その7）	数列について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、数列に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における数列に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
9	第一部木 6/4 第二部木 6/4	方程式と不等式について（その1）	方程式の整数解について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、方程式の整数解に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における方程式の整数解に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
10	第一部木 6/11 第二部木 6/11	方程式と不等式について（その2）	不等式について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、不等式に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における不等式に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること	180分
11	第一部木 6/18 第二部木 6/18	方程式と不等式について（その3）	時計算等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、時計算等に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における時計算等に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること	180分
12	第一部木 6/25 第二部木 6/25	方程式と不等式について（その4）	集合について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、集合に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における集合に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2 第二部木 7/2	方程式と不等式について (その5)	速さ・距離・時間について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、速さ・距離・時間に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における速さ・距離・時間に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
14	第一部木 7/9 第二部木 7/9	方程式と不等式について (その6)	旅人算等について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、旅人算等に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における旅人算等に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
15	第一部木 7/16 第二部木 7/16	試験とまとめ	授業内試験及び解説	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	数学Ⅱ	担当者	木村 孝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会事象を数学で表現して処理できる基本的力を獲得するために、方程式と不等式、図形、場合の数と確率を修得する。主に、ダイアグラム、仕事算、ニュートン残、三角形・円の面積、順列・組み合わせ・確率について、基礎知識を確認し、そこから発展、応用展開へ進む力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会事象を数学で表現して処理するために、基本的な知識の定着と発展、応用を目的として、方程式と不等式、図形、場合の数と確率の基本的知識の確認とその応用展開を行う力を修得する。

【履修条件】
中学校程度の数学および高等学校の数学Ⅰ程度の数式処理に関する知識・技術は、身につけていることを仮定して講義する。

【授業方法】
講義の最初に提出されたレポートの解説を行い、次にその回に必要な基本的な知識を説明し、問題を解いてもらう。その後、問題解決のための思考方法を説明し解法を与える。授業内試験終了後には、その解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	方程式と不等式、図形、場合の数と確率について理解し、課題を解く方法を指摘できる。						2					
②	方程式と不等式、図形、場合の数と確率について理解し、課題を解く方法を理解して、発展問題に応用できる						2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。							2				
④	文章化された問題を、数学的に定式化し、操作できる。					2						
⑤	社会の具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、操作できる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤について、授業内試験で確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
小テスト等	各授業ごとに、達成目標①②③④⑤について、小テストで確認して評価する。	20	20	4	4	2						50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週に実施した小テストの解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日4時限の授業前後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17 第二部木 9/17	方程式と不等式について (その7)	ダイヤグラムについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ダイヤグラムに関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高におけるダイヤグラムに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
2	第一部木 9/24 第二部木 9/24	方程式と不等式について (その8)	比と割合について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、比と割合に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における比と割合に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
3	第一部木 10/1 第二部木 10/1	方程式と不等式について (その9)	濃度について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、濃度に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における濃度に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
4	第一部木 10/8 第二部木 10/8	方程式と不等式について (その11)	仕事算について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、仕事算に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における仕事算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
5	第一部木 10/15 第二部木 10/15	方程式と不等式について (その12)	ニュートン算について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ニュートン算に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高におけるニュートン算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
6	第一部木 10/22 第二部木 10/22	図形について（その1）	三角形について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、三角形に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における三角形に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29 第二部木 10/29	図形について（その2）	三角形の面積について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、三角形の面積に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における三角形の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
8	第一部木 11/5 第二部木 11/5	図形について（その3）	円に関する問題－2つの円に外接する直線－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円に関する問題－2つの円に外接する直線－を解答できる。	
		事前学修	中高における円に関する問題に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
9	第一部木 11/12 第二部木 11/12	図形について（その4）	円に関する問題－軌跡の長さ－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円に関する問題－軌跡の長さ－を解答できる。	
		事前学修	中高における円に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
10	第一部木 11/19 第二部木 11/19	図形について（その5）	円の面積に関する問題－円の面積比－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円の面積に関する問題－円の面積比－を解答できる。	
		事前学修	中高における円の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
11	第一部木 12/3 第二部木 12/3	図形について（その6）	円の面積に関する問題－2つの円が重なった部分の面積－について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、円の面積に関する問題－2つの円が重なった部分の面積－を解答できる。	
		事前学修	中高における円の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
12	第一部木 12/10 第二部木 12/10	場合の数と確率について（その1）	場合の数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、場合の数に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における場合の数に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17 第二部木 12/17	場合の数と確率について (その2)	順列について学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、順列に関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における順列に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
14	第一部木 12/24 第二部木 12/24	場合の数と確率について (その3)	組合せについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、組合せに関する問題を解答できる。	
		事前学修	中高における組合せに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。	60分
		事後学修	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。	180分
15	第一部木 1/14 第二部木 1/14	試験とまとめ	授業内試験及び解説	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	精神分析学Ⅰ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学の人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。				2							
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。							2				
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。					2						
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。						2					
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。						2					
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基本概念と用語が獲得できたか否かを授業内試験で評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内での課題提示や検査実習等について、レポートとして提出して評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを提出して、基本用語と概念が獲得できたか否かを確認して評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー等を経験してきました。
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、精神分析理論・立場からメンタルヘルスの向上や文化的価値創造に繋げることが出来るよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	【ガイダンス/精神分析学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で精神分析を学ぶことが自身にどのように役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	4月13日	【無意識・夢とは】	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
		事前学修	無意識・夢について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	4月20日	【錯誤行為、心の構造とは】	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	錯誤行為、心の構造について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	5月4日	【防衛機制とは】	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分
5	5月11日	【心の発達】	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	フロイト発達理論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	5月18日	【心の発達と性格形成】	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	フロイトの性格形成について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月25日	【精神分析と心の病①】	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	フロイトにおけるヒステリーについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	6月1日	【精神分析と心の病②】	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	転換性障害の心理面について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	6月8日	【精神分析と心の病③】	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	人格障害について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	6月15日	【精神分析と心の病の治療①】	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	転移・逆転移について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	6月22日	【精神分析と心の病の治療②】	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	自由連想法における解釈と終結について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	6月29日	【フロイト以降の精神分析①】	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	分析心理学、自我心理学・対象関係論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月6日	【フロイト以降の精神分析②】	独立学派、自己心理学の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	独立学派、自己心理学の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
		事前学修	独立学派、自己心理学について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	7月13日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	7月20日	【総括/精神分析学を総括する】	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	精神分析学Ⅱ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。						2	2	2	2				
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。						2	2	2	2		2		2
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。						2	2	2	2				
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。						2	2	2	2				
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。						2	2	2	2				
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基本概念と用語が獲得できたか否かを授業内試験で評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内での課題提示や検査実習等について、レポートとして提出して評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを提出して、基本用語と概念が獲得できたか否かを確認して評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー等を経験してきました。
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、精神分析理論・立場からメンタルヘルスの向上や文化的価値創造に繋がられるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	【ガイダンス/精神分析学Ⅱを学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で精神分析を学ぶことが自身にどのように役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
		この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	9月21日	【フロイトの生涯①】	反ユダヤ主義の時代とフロイトの家族について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	反ユダヤ主義の時代とフロイトの家族について説明できるようになる。	
		事前学修	フロイトが活躍していた時代背景について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	9月28日	【フロイトの生涯②】	精神分析の発展していく時代とフロイトの亡命について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	精神分析の発展していく時代とフロイトの亡命について説明できるようになる。	
		事前学修	精神分析が発展する過程について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	10月5日	【フロイトの思想①】	フロイトの思想（文化、社会、宗教等）について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイトの思想（文化、社会、宗教等）について説明できるようになる。	
		事前学修	フロイトの思想について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
5	10月12日	【フロイトの思想②】	フロイトが行った各芸術・文学作品の分析について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイトが行った各芸術・文学作品の分析について説明できるようになる。	
		事前学修	ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ビンチ、シェークスピア、ゲーテの代表作品について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	10月19日	【精神分析の展開】	ユングの分析心理学について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ユングの分析心理学について説明できるようになる。	
		事前学修	カール・グスタフ・ユングの生い立ちについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	【フロイトとユングの理論比較①】	フロイトとユングの無意識、心的構造、コンプレックスの各理論の同異について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイトとユングの無意識、心的構造、コンプレックスの各理論の同異について説明できるようになる。	
		事前学修	無意識、心的構造、コンプレックスについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	11月9日	【フロイトとユングの理論比較②】	フロイトとユングの神経症理論、精神分析の技法の同異について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイトとユングの神経症理論、精神分析の技法の同異について説明できるようになる。	
		事前学修	神経症理論、精神分析の技法について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	11月16日	【フロイトとユングの症例①】	ドラ、ネズミ男の症例について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	ドラ、ネズミ男の症例について説明できるようになる。	
		事前学修	抑圧、強迫神経症について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	11月23日	【フロイトとユングの症例②】	太陽のファロスを見た男性、うつを呈した子ども殺人の女性の症例について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	太陽のファロスを見た男性、うつを呈した子ども殺人の女性の症例について説明できるようになる。	
		事前学修	集合的無意識、うつ症状について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	11月30日	【フロイトとユングの症例③】	狼男、グレートヘンについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	狼男、グレートヘンについて説明できるようになる。	
		事前学修	エディプス・コンプレックス、統合失調症について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	12月7日	【精神分析から見たフロイト①】	フロイトのコンプレックスについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイトのコンプレックスについて説明できるようになる。	
		事前学修	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	【精神分析から見たフロイト②】	フロイトの生涯からみた欲動論の変遷について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	フロイトの生涯からみた欲動論の変遷について説明できるようになる。	
		事前学修	心的装置（エス、自我、超自我）について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	12月21日	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
		この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
		事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
		事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	1月18日	【総括/精神分析学Ⅱを総括する】	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
		事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
		事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	生命の科学 I	担当者	濱崎 雄太	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
生命現象の基本的な仕組みを分子レベルで理解することが本講義の狙いである。まず、生命体がどのようなものであるかその基本概念を解説したのち、生物の基本構造である細胞を構成する分子について説明する。そして、DNAという分子に記録されている遺伝情報がどのように伝達し、発現するのか解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の様々な生物学的問題を解決するために、生命現象の基本的な仕組みを知り、社会人としての基本的生命科学のさらなる知識を身につけ、これを客観的に分析し問題解決につなげることのできる能力を修得する。

【履修条件】
前期と後期を継続して聴講することが望ましい。

【授業方法】
液晶プロジェクターを用いたスライド映写と板書を併用した講義形式で行う。毎回参考プリントを配布する。毎回の講義で小テストを行い受講者の理解度の確認を行うとともに、翌週の講義で解説を行うことで理解を深める助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命がどのようなものであるのかを理解し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、生命体や分子について理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	40									70
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの翌週に解説を行う。また、第15回には小テスト後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
時間 月曜日 15:30～16:10 受付場所 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 月4/6	ガイダンス 生命とは？	生物学、生命科学の学問領域について学修する。また、本講義で取り扱う授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考書について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物学、生命科学の学問領域について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、生物学、生命科学の学問領域について調べ、ノートに整理し、講義内容と比較検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 第二部 月4/12	生物の基本構造	生物に共通する基本的な事柄について述べ、生物の基本単位が細胞であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生物の基本単位である細胞について、大きさ、原核生物の細胞と真核生物の細胞の違いについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第2回目の授業内容を確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
3	第一部 第二部 月4/20	細胞を構成する物質	細胞を構成している物質の種類とその特徴について知り、さらに細胞内で働く力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生体を構成する主要な物質と生体物質において重要な分子内/分子間の結合について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第3回目の授業内容を確認するとともに、「原子」、「分子」、「電子」、「水分子」、について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
4	第一部 第二部 月4/27	核酸(DNA・RNA)	遺伝子、ゲノム、DNA、RNAの関係について学び、DNAという物質の中に遺伝情報がどのように保存されているかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、遺伝子、ゲノム、DNA、RNAの関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第4回目の授業内容を確認するとともに、「遺伝子」、「ゲノム」、「DNA」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
5	第一部 第二部 月5/4	タンパク質の構造	タンパク質は生体内における重要な有機化合物である。タンパク質の基本単位がアミノ酸であることを知り、タンパク質の多様な立体構造がアミノ酸の特性に依存することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アミノ酸、タンパク質の構造について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第5回目の授業内容を確認するとともに、「アミノ酸」、「ペプチド結合」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
6	第一部 第二部 月5/11	タンパク質の働き	タンパク質は生体内における重要な有機化合物である。タンパク質が生体内でどのように働いているかを学修する。また、タンパク質の働きがその立体構造に依存することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してタンパク質が生体内でどのように働いているか、また、タンパク質の働きがその立体構造に依存することを理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第6回目の授業内容を確認するとともに、「酵素」、「細胞骨格」、「筋肉」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 月5/18	細胞周期	細胞は決まった細胞周期に従って成長し複製される。細胞周期の概要とその仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、細胞周期の概要とその仕組みについて理解し、説明できる	
		事前学修	シラバスの第7回目の授業内容を確認するとともに、「細胞周期」、「細胞分裂」、「DNAの複製」、「染色体」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
8	第一部 第二部 月5/25	DNAの複製	DNAは細胞の増殖に伴って複製される。DNA複製の概要とその仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、DNA複製の概要とその仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第8回目の授業内容を確認するとともに、第4回の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
9	第一部 第二部 月6/1	DNAの損傷と修復	DNAはたびたび損傷を受けるが、それを修復する機能も備わっている。DNAに損傷が起きる要因とその修復機構について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、DNAに損傷が起きる要因とその修復機構について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第9回目の授業内容を確認するとともに、第4回、第8回の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
10	第一部 第二部 月6/8	DNAの塩基配列の調べ方	第4回、第8回、第9回の講義で個体の遺伝情報がDNAの塩基配列として保存されていることを学習した。DNAの塩基配列情報を調べる手法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、DNAの塩基配列情報を調べる手法について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第10回目の授業内容を確認するとともに、第4回、第8回、第9回の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
11	第一部 第二部 月6/15	遺伝子発現：転写	遺伝子が持つタンパク質の情報とはタンパク質のアミノ酸の並び順の情報である。DNAに記された遺伝情報は転写、翻訳という過程を経てタンパク質の合成が行われる。本講義では転写の分子メカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、転写の概要とその仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第11回目の授業内容を確認するとともに、「DNA」、「RNA」、「アミノ酸」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
12	第一部 第二部 月6/22	遺伝子発現：翻訳	遺伝子が持つタンパク質の情報とはタンパク質のアミノ酸の並び順の情報である。DNAに記された遺伝情報は転写、翻訳という過程を経てタンパク質の合成が行われる。本講義では翻訳の概要とその仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、翻訳の概要とその仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第12回目の授業内容を確認するとともに、「mRNA」、「リボソーム」、「コドン」、「アミノ酸」について調べてくる。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 月6/29	遺伝子発現：遺伝子発現調節	同一個体内の細胞は同じ遺伝情報を持っている。しかしながら同一個体内には様々な細胞が存在している。同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第13回目の授業内容を確認するとともに、「転写」、「複製」の過程について再度復習しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
14	第一部 第二部 月7/6	細胞の分化	同一個体内の細胞は同じ遺伝情報を持っている。しかしながら同一個体内には様々な細胞が存在している。同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第14回目の授業内容を確認するとともに、ヒトを構成している細胞の種類について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
15	第一部 第二部 月7/13	講義のまとめ	各回で学んだ内容について説明できるか試験を通じて確認するとともに試験終了後に内容を解説する。講義内容について質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生命の特徴、そして生命を構成する高分子について理解し、説明することができる。到達目標③に関連して、質疑応答により講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	本科目全体の内容、そして試験の内容と自身の回答を振り返り、改めて学んだ内容を説明できるようにする	120分

科目名	生命の科学Ⅱ	担当者	濱崎 雄太	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
生命現象の基本的な仕組みを分子レベルで理解することが本講義の狙いである。まず、分子や遺伝子がどのように細胞を機能させているのか、その原理を学ぶ。さらに、相棒集団がどのように組織化され、個体を形成していくのかについて動物の現象を例に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の様々な生物学的問題を解決するために、生命現象の基本的な仕組みを知り、社会人としての基本的生命科学のさらなる知識を身につけ、学修した内容の本質を的確にとらえて平易に説明できる能力を修得する。

【履修条件】
前期と後期を継続して聴講することが望ましい。

【授業方法】
液晶プロジェクターを用いたスライド映写と板書を併用した講義形式で行う。毎回参考プリントを配布する。毎回の講義で小テストを行い受講者の理解度の確認を行うとともに、翌週の講義で解説を行うことで理解を深める助けとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命がどのようなものであるのかを理解し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、生命体や分子について理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	40									70
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③についての各能力が身についているか、授業内での質疑応答を基準により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの翌週に解説を行う。また、第１５回には小テスト後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
時間 水曜日 １５：３０～１６：１０受付場所 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 月9/14	生命とは	生物学、生命科学の学問領域について学修する。また、本講義で取り扱う授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考書について説明する。それによって受講生は、授業の準備を具体的に行えるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物学、生命科学の学問領域について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、生物学、生命科学の学問領域について調べ、ノートに整理し、講義内容と比較検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 第二部 月9/21	細胞の構造	細胞を構成している物質の種類とその特徴について知り、特にDNAとタンパク質の特徴について改めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して物質の種類とその特徴について理解し、特にDNAとタンパク質の特徴について説明できる。	
		事前学修	シラバスの第3回目の授業内容を確認するとともに、「細胞膜」、「DNA」、「タンパク質」、「細胞小器官」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
3	第一部 第二部 月9/28	種概念と生物の系統	DNAの塩基配列によって生物種を分類することができる。本講義では生物が大きく3種類のドメインに分かれていることを学習し、さらに新たな遺伝子が生まれる仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生物の3ドメイン説について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第2回目の授業内容を確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」、「生物界三大ドメイン」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
4	第一部 第二部 月10/5	細胞とエネルギー	生命活動を維持するためには外部からエネルギーを取り入れる必要がる。本講義では生命活動とエネルギーの関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生命活動には外部からのエネルギーが必要なことを理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第4回目の授業内容を確認するとともに、「アデノシン三リン酸 (ATP)」、「酵素」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
5	第一部 第二部 月10/12	呼吸	細胞内にミトコンドリアを取り込んだ生物は酸素を用いた酸化過程を通じて大きなエネルギーを取り出すことができる。本講義ではミトコンドリアにおいて糖からエネルギーを取り出す過程について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミトコンドリアにおいて糖からエネルギーを取り出す過程について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第5回目の授業内容を確認するとともに、「ミトコンドリア」、「解糖系」、「クエン酸回路」について調べておく。(2時間)	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
6	第一部 第二部 月10/19	光合成	植物は光合成によって太陽エネルギーを化学エネルギーに変換している。本講義では光合成のメカニズムについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して光合成のメカニズムについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第6回目の授業内容を確認するとともに、「葉緑体」、「可視光」、「クロロフィル」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 月10/26	シグナル伝達	多細胞生物の細胞は、周囲の細胞と情報交換を行っている。本講義では、多細胞生物におけるシグナル伝達について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して細胞生物におけるシグナル伝達について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第7回目の授業内容を確認するとともに、「細胞膜」、「シグナル伝達物質」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
8	第一部 第二部 月11/9	神経系	我々の脳内では多数の神経細胞からなるネットワークによって情報処理が行われている。本講義では、神経細胞が活動するメカニズムと複数の神経細胞からの情報がどのように統合されるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して神経細胞が活動するメカニズムと複数の神経細胞からの情報がどのように統合されるのかについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第8回目の授業内容を確認するとともに、「神経細胞」、「静止膜電位」、「活動電位」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
9	第一部 第二部 月11/16	外界からの情報を受容する仕組み	生物が外界の情報を取得する仕組みについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して生物が外界の情報を取得する仕組みについて理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第9回目の授業内容を確認するとともに、「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「触覚」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
10	第一部 第二部 月11/23	遺伝	有性生殖によって親から子へ遺伝情報が継承されていく。本講義では、遺伝の法則性とその染色体の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して遺伝の法則性と染色体の関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第10回目の授業内容を確認するとともに、「メンデルの法則」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
11	第一部 第二部 月11/30	減数分裂と配偶子形成	有性生殖をする生物は卵や精子といった配偶子を形成する。本講義では、配偶子形成の際に行われる減数分裂について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して配偶子形成の際に行われる減数分裂について、理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第11回目の授業内容を確認するとともに、「染色体」、「体細胞分裂」、「減数分裂」について調べておく	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
12	第一部 第二部 月12/7	多細胞生物の発生	多細胞生物の受精から発生の過程について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して多細胞生物の受精から発生の過程について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第12回目の授業内容を確認するとともに、「受精卵」、「細胞分化」について調べてくる。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 月12/14	自然免疫	細菌やウイルスといった病原体から身を守るために、我々の体は何重もの防御線が働いている。そのうち自然免疫は体内に侵入してきた病原体に対して最初に働く免疫システムである。本講義では、自然免疫について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して自然免疫について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの第13回目の授業内容を確認するとともに、「ウイルス」、「細菌」、「白血球」について調べておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。	120分
14	第一部 第二部 月12/21	適応免疫	適応免疫は病原体の目印(抗原)に対して特異的に働く免疫システムである。本講義では、適応免疫について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して適応免疫について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの第14回目の授業内容を確認するとともに、「抗体」と「キラーT細胞」について調べておく。(2時間)	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)	120分
15	第一部 第二部 月12/18	講義のまとめ	各回で学んだ内容について説明できるか試験を通じて確認するとともに試験終了後に内容を解説する。講義内容について質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生命の特徴、そして生命を構成する高分子について理解し、説明することができる。到達目標③に関連して、質疑応答により講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	本科目全体の内容、そして試験の内容と自身の回答を振り返り、改めて学んだ内容を説明できるようにする	120分

科目名	西洋の歴史Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ルネサンスの時代から啓蒙思想の時代に至るまでの人物や事件、思想、文化などを取り上げて、ヨーロッパにおける政治、経済、社会、宗教、文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、ルネサンスや宗教改革や自然科学革命に関連する人物や事件・思想・文化などを理解した上で、「三時代区分問題」を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・リアクションペーパー・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルネサンスから啓蒙思想までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における時代三区分の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ゆがめられた西洋史	西洋史で用いられる三時代区分について、その特徴と問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋史における時代区分法の問題を、どのような方法で検討できるか説明できる。	
		事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
		事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	4/14	西洋史とは何か	西洋史という歴史研究・教育領域での日本の特殊な歴史的背景と関係していること、また今日では西洋史という枠組みが揺らいでいることをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「西洋史」という歴史研究・教育領域と日本の特殊な歴史背景と関係、および今日における西洋史という枠組みの動揺を説明できる。	
		事前学修	西洋とは何か、また西洋史が東洋史など他の歴史とどう区別されているのか考えておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	4/21	古代・中世・近代とは何か	古代・中世・近代とは何か	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ世界に直線史観がどのような経緯で入ったのか、またどのような変容を遂げたのかを説明できる。	
		事前学修	循環史観と直線史観とは何か、また代表的なものにそれぞれどのようなものがあるか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	4/28	古代ギリシアの世界	ルネサンスの基調となった人文主義と、また、人文主義者が憧れた古代ギリシアの世界を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ギリシアの世界に憧れた理由を説明できる。	
		事前学修	古代ギリシアとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	5/5	古代ローマの世界	人文主義者が憧れた古代ローマの世界を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ローマの世界にあこがれた理由を説明できる。	
		事前学修	古代ローマとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	5/12	ルネサンスと三時代区分法	「ルネサンス」による時代三区分法の特徴とその問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ルネサンス」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
		事前学修	「ルネサンス」とは何か、また「ルネサンス」との呼称がついている歴史用語にどのようなものがあるかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	宗教改革とルター	宗教改革とルターの福音解釈について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ルターの説く福音信仰による個人の救いとはどういうことかを説明できる。	
		事前学修	「宗教改革」とは、何をどのように改革しようと試みたものなのかを調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
8	5/26	宗教改革と三時代区分	「中世」的世界観の発展したものとしてルターの宗教改革を位置づけられるか考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「宗教改革」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
		事前学修	己（個人）の魂の革新をえるために格闘し続けてきた隠修士・修道士に、古代ローマ時代から宗教改革期までの時期にどのようなグループ（修道院・修道会）があり、どのように発展してきたかを調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	6/2	近代自然科学の誕生	近代自然科学の土台となっている方法と理論を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ある種のキリスト教的自然観が近代科学の誕生に影響を与えていたことを説明できる。	
		事前学修	なぜイギリスでは地動説がキリスト教からの反発を受けず、ニュートンたちによって近代自然科学が確立したのかを調べたり考えたりしておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	6/9	自然・社会科学と三時代区分	法・政治・経済・社会における科学ブームとその反動を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「科学革命」・「啓蒙思想」で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
		事前学修	近代自然科学の成果と啓蒙思想の発展がどのように関係しているか、また17世紀から19世紀において科学的・合理的世界とは異なる（あるいは反する）思想にどのようなものがあったかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	6/16	時代三区分法の問題点	西洋史に三時代区分法を用いた場合、歴史解釈上のどのような問題が生じるかをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、なぜ三時代区分が歴史研究において深刻な問題を生じさせるのかを説明できる。	
		事前学修	「ルネサンス」「宗教改革」「科学革命」のどれによってでも、「中世」と「近代」を区分する際に、過去の実態を見誤らせられることを再確認しておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	6/23	近代歴史学の登場	西洋における歴史研究の手法や理念がどのように発展したかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法が、これまで人類が持っていた歴史研究手法とは異なり、特殊であることを説明できる。	
		事前学修	近代歴史学がどのように誕生したのか、近代歴史学はそれまでの歴史研究とどのような点で異なるかを調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	歴史研究の方法	近代歴史学の手法では、どのように歴史研究がなされるのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法による歴史研究の長所・可能性と短所・限界を説明できる。	
		事前学修	今日の歴史研究者が、近代歴史学に基づいて実際にどのように研究作業を遂行しているかを調べる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	7/7	「西洋の歴史Ⅰ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
		事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
		事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	7/14	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業の中で理解しきれっていない箇所をまとめてくる。	120分
		事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋の歴史Ⅱ	担当者	馬淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フランス革命からドイツ帝国成立に至るまでの人物や事件・思想・文化などを主に取り上げて、ヨーロッパにおける政治・経済・社会・宗教・文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを理解した上で、19世紀に新たに登場した歴史観とその歴史学上の諸問題を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス革命からドイツ統一までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における進歩史観の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	西洋史と歴史観	西洋史と種々の進歩史観の関係について、その特徴と問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の歴史観が西洋史の理解を誤らせる可能性があることを説明できる。	
		事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
		事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	9/22	近代歴史学の特殊性と課題	「近代歴史学」の特殊性と課題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学に対して多くの批判があり、それらがどのようなものであるかを説明できる。	
		事前学修	歴史学も科学とだという主張が、どのようなことを根拠になされているかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	9/29	歴史学と他の学問との違い	近代歴史学でしか説明できない過去の世界はあるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学が過去を研究する手法において他の学問とは異なること点を説明できる。	
		事前学修	歴史学以外に過去を扱う学問にどのようなものがあるか、またそれらの学問と歴史学では過去の研究方法でどのように異なるかを調べたり考えたりしてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	10/6	歴史学の視点	自分の理想や価値観といった今日の世界観を通して、過去を物語っていいのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学では、現在のためという外側からでなく、過去そのものの内側から理解することがなぜ大切であるかを説明できる。	
		事前学修	歴史研究において優れた研究とは何か、また劣った研究とは何かを考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	10/13	フランス革命	フランス革命と進歩史観について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命が啓蒙主義や進歩史観やナショナリズムとどのように関係しているかを説明できる。	
		事前学修	フランス革命の経緯とフランス革命の政治的・社会的・文化的影響を調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	10/20	ナポレオン	ナポレオンに対する二つの異なる歴史像と、フランス以外のナショナルな歴史観を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ナポレオンの登場によってなぜナショナルな歴史観がヨーロッパ各地に芽生えたのかを説明できる。	
		事前学修	ナポレオン1世について、彼の功績や失脚の経緯などを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	産業革命	「産業革命」の起源と社会的影響や、自由主義・急進主義・社会主義・階級意識に基づく歴史観を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「産業革命」を一つの契機として、なぜ自由主義や急進主義、社会主義、階級層的な歴史観が芽生えたのかを説明できる。	
		事前学修	「産業革命」はどのような歴史現象だったのか、また社会構造をどのように変容させる出来事だったのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	11/10	ウィーン体制	ウィーン体制の起こりと、ウィーン体制に関連する超民族共同体的・漸進的保守主義の歴史観を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、メッテルニヒやウィーン体制によって、反ナショナリズム的、漸進的保守主義の歴史観が強められたことを説明できる。	
		事前学修	「ウィーン体制」とは何かについて調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	11/17	1848年の革命	1848年の革命の起こりと発展、そしてこの革命で種々の歴史観の衝突したことを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命、ナポレオン、産業革命、ウィーン体制などによって生じた理想的社会像が1848年に衝突し、暴動や革命へと発展したことを説明できる。	
		事前学修	ヨーロッパの革命とされる1848年に、どのような革命がどの地域で生じたのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	11/24	東方問題	東方問題とヨーロッパ中心史観について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、イスラーム圏においてヨーロッパ列強間の対立が展開され、また帝国主義の時代の幕開けにつながることを説明できる。	
		事前学修	東方問題がなぜ生じたのか、またヨーロッパ列強間でどのような対立構図が生じていたのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	12/1	イタリア統一・ドイツ統一	イタリア統一・ドイツ統一と、民族主義に根差す歴史観の発展について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、イタリア統一とドイツ統一での政府の政策と民衆の民族意識のそれぞれの役割について説明できる。	
		事前学修	イタリアの統一とドイツの統一が、それぞれどのように達成されたのかを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	12/8	進歩史観の根源と問題点	歴史研究において、歴史の発展法則や理論を発見したいという誘惑についてその根源と問題点を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋史の学びが西洋の過去の実態の理解のためではなく、無意識のうちに別の目的のための道具にすり替えられていくカラクリについて説明できる。	
		事前学修	西洋の歴史のこの講義の5回から11回まで学習したことを復習しておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	歴史学の真の目的と社会貢献	歴史の学びは今日の現代社会に役に立つのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問としての歴史研究（近代歴史学）が、今日の社会に重要な役割を果たしていることを説明できる。	
		事前学修	西洋の歴史解釈が、特定の理想や信念に基づいて歪められていた実態を、ここまでの講義内容を振り返ることとで再確認する。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	12/22	「西洋の歴史Ⅱ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
		事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
		事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	1/12	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業の中で理解しきれない箇所をまとめてくる。	120分
		事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業で、受講者にリアクションペーパーの提出を課し、その内容について次回に説明を行う ③教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す（1回の授業）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①毎回の授業でリアクションペーパーを記入する ②教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小論文については、次週の授業にフィードバックを行う。期末試験については、ポータルにへ解説を配信する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャンヌ・ダルク (改訂版)	ジュール・ミシュレ	中公文庫	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室：授業に関する質問、フランス語学習に関する質問、留学相談（その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けますeshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション及び導入講義	授業の説明	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
		事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
		事後学修	配布されたプリントを読んだうえで、疑問点を抽出して調べる	120分
2	4/14	19世紀フランスの歴史と文学(1)	19世紀フランスの歴史と社会(1) 19世紀フランス文学概観(1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	4/21	19世紀フランスの歴史と文学(2)	19世紀フランスの歴史と社会(2) 19世紀フランス文学概観(2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀後半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	4/28	キリスト教概説(1)	キリスト教の教義、その他	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(1)	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	5/5	キリスト教概説(2)	キリスト教概説：フランス史におけるキリスト教について	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(2)	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	5/12	啓蒙思想と19世紀文学(1)	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学(1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、啓蒙思想およびフランス大革命とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	啓蒙思想と19世紀文学 (2)	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学 (2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
8	5/26	啓蒙思想と19世紀文学 (3)	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件 (1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
9	6/2	啓蒙思想と19世紀文学 (4)	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件 (2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
10	6/9	ミシュレのフランス史 (1)	ミシュレ『フランス革命史』序説とヴォルテール	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、民衆史家としてのミシュレのフランス史の特徴について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
11	6/16	ミシュレのフランス史 (2)	ミシュレ『魔女』	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、民衆史家としてのミシュレのフランス史の特徴について説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
12	6/23	ミシュレによるジャンヌ・ダルク (1)	ディスカッションおよび小論文	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、教科書『ジャンヌ・ダルク』に関して、批評的に意見を述べることができ、他者の意見を適切に理解して適切に応答できる。さらに授業で提示された質問について教科書を参考に適切に解答できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読みかえし、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ゾラとドレフュス事件 (1)	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』 (1)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	配布されたプリントをよく読んでおくこと	120分
14	7/7	ゾラとドレフュス事件 (2)	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』 (2)	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	配布されたプリントをよく読んでおんで理解すること	120分
15	7/14	まとめ	前期試験とまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、その社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回試験の準備をすること	120分
		事後学修	前期全体の復習をすること	120分

科目名	世界文学 I	担当者	真道 杉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・グループディスカッション・発表等を適宜取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材については授業中に文献リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み （4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス ドイツ語圏文学概論	1 9 世紀から現代までのドイツ語圏文学概論	
		この回の到達目標	2 0 世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	シラバス確認	120分
		事後学修	ドイツ語圏における 2 0 世の歴史についてまとめる。	120分
2	4/15	テーマ 1－1 様々なメディアと文学 1	様々なメディアが発信するメッセージを具体例を見ながら概観し、その中の文学が持つ特徴を考察する。	
		この回の到達目標	様々なメディアと比較した中で文学がもつ特徴について自分の意見を言うことができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
3	4/22	テーマ 1－2 様々なメディアと文学 2	様々な形態のメディアの中から、物語という概念を考察する。	
		この回の到達目標	物語がどのようなところにあるのか、どのような役割を果たしているのか自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
4	4/29	テーマ 2－1 EUの礎 1	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの生い立ちと『パン・ヨーロッパ』	
		この回の到達目標	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの生い立ちと『パン・ヨーロッパ』について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
5	5/6	テーマ 2－2 EUとドイツ語圏文学 2	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの『パン・ヨーロッパ』の中に描かれた世界について概観する。	
		この回の到達目標	『パン・ヨーロッパ』に描かれた世界とクーデンホーフ・カレルギーが生きた世界の特徴について自分の考えを述べる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
6	5/13	テーマ 3－1 オーストリア文学の特徴 多民族多文化国家の文学 1	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物像から現在のEUにつながるコスモポリタンな社会を概観する。	
		この回の到達目標	『ウィーンとウィーン人』に描かれる社会の特徴について意見を言うことができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	テーマ3-2 オーストリア文学の特徴 多民族多文化国家の文学2	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物や社会について話し合う	
		この回の到達目標	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物や社会について自分の推測や考えや述べ、グループの人たちの考えと比較して、学んだ内容をまとめることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
8	5/27	テーマ4-1 ユダヤ人とドイツ文学1	ザッヘル・マゾッホの『ユダヤ人の生活』の中に描かれているユダヤ人の生活について概観し、グループワークの中で意見交換をする。	
		この回の到達目標	ザッヘル・マゾッホと『ユダヤ人の生活』について概略とその特徴を説明し、自分の考えをのべることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
9	6/3	テーマ4-2 ユダヤ人とドイツ文学2	ヴェーザ・カネッティの『黄色い街』の中に描かれているユダヤ人の生活について概観し、マゾッホの描いたユダヤ人と比較して、グループで意見交換をする。	
		この回の到達目標	マゾッホとカネッティの描くユダヤ人の生活からそこで描かれているユダヤ人の比較、作者の意図について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
10	6/10	テーマ5-1 カフェ文化と文学1	ウィーンのカフェ文学を概観し、リヒャルト・ミクリーのカフェについての文章をもとにカフェの持つ役割について考察する。	
		この回の到達目標	ミクリーのテキストに描かれているカフェの特徴と社会における役割と効果について自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
11	6/17	テーマ5-2 カフェ文化と文学2	ペーター・アルテンベルクとイルゼ・アイヒンガーの短編を題材に、カフェ文学の特徴について概観する。	
		この回の到達目標	カフェ文学の特徴について自分の考えを説明し、グループの人たちと意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
12	6/24	テーマ6-1 ナチスとドイツ文学1	ナチスとドイツ文学について概観する。	
		この回の到達目標	ナチス時代とそこにおける文学について、当時の文学の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	テーマ6-2 ナチスとドイツ文学2	ベルマン・ヘッセの『ガラス玉演戯』の冒頭部分を例に、ナチス時代が文学にどのように反映されているか概観する。	
		この回の到達目標	時代背景を踏まえて『ガラス玉演戯』についてグループの中で意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
14	7/8	レポートのグループセッション	作成するレポートについてグループワークで発表・討論をする。	
		この回の到達目標	期末レポート案について説明をし、グループ内の人たちのレビューを反映させた上でレポートを作成する。	
		事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。（関連SB0s①②③）	120分
		事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	7/15	レポートのグループ・プレゼンテーション	完成させたレポートをグループ内で発表	
		この回の到達目標	①②③の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
		事前学修	レポートの作成	210分
		事後学修	自分の発表内容とグループ内の発表内容を比較考察し、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。

【授業方法】		
カレル・チャペックの『ロボット』（1920）と平田オリザのロボット演劇『働く私』（2008）、アンドロイド演劇『さようなら』（2010）を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。適宜CDやDVDを使う。なお、後期（Ⅱ）では、そのとき扱う H. G. ウェルズの短篇『世界最終戦争（ハルマゲドン）の夢』をオペラ化した舞台（世界初演）を劇場で観る予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ロボット	カレル・チャペック	岩波文庫	1989	教科書	必携
備考	平田オリザ「働く私」「さようなら」はプリントを使用する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 4/8	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界文学」を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、半期で取り上げる「世界文学」作品を読むことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第二部水 4/15	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて概説し、意見交換をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第二部水 4/22	カレル・チャペックについて	チェコの作家カレル・チャペック（1890-1938）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、カレル・チャペックについての概略を理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	チェコの作家カレル・チャペックについて調べ、メモを作成する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第二部水 4/29	『ロボット』序幕を読む	チャペック『ロボット』序幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第二部水 5/6	『ロボット』第1幕を読む	チャペック『ロボット』第1幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第二部水 5/13	『ロボット』第2幕を読む	チャペック『ロボット』第2幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 5/20	『ロボット』第3幕を読む	チャベック『ロボット』第3幕を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第二部水 5/27	『ロボット』まとめ	チャベック『ロボット』全体を振り返り、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を読み返したうえで、内容を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第二部水 6/3	劇作家平田オリザについて	劇作家平田オリザについて概説し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、平田オリザについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	劇作家平田オリザについて調べ、メモを作成する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第二部水 6/10	ロボット演劇『働く私』を読む	平田オリザのロボット演劇『働く私』を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を熟読・音読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第二部水 6/17	アンドロイド演劇『さようなら』を読む	平田オリザのアンドロイド演劇『さようなら』を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を熟読・音読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第二部水 6/24	ロボット/アンドロイド演劇のまとめ	平田オリザのロボット/アンドロイド演劇を振り返り、読み合わせと意見交換をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当作品を読み返したうえで、内容を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 7/1	チャベックの『ロボット』と平田のロボット/アンドロイド演劇の比較	チャベックの『ロボット』と平田オリザのロボット/アンドロイド演劇作品を比較し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、チャベックと平田オリザの作品を比較したうえで、自分の考えを説明し応答（対話）することができる。	
		事前学修	チャベックの『ロボット』と平田オリザのロボット/アンドロイド演劇作品を比較し、両者の共通性と差異について考え、メモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第二部水 7/8	半期のまとめ	半期の学習内容を振り返り、試験の趣旨について説明し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で扱った世界文学（戯曲）作品の社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	半期の授業内容を振り返り、疑問点等を整理する。（2時間）	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）	60分
15	第二部水 7/15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「世界文学」（戯曲）についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	文学（戯曲）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業で、受講者にリアクションペーパーの提出を課し、その内容について次回に説明を行う ③教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す（1回の授業）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①毎回の授業でリアクションペーパーを記入する ②教員から与えられた課題に対して、グループでディスカッションしつつ、解答を捜す

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小論文については、次週の授業にフィードバックを行う。期末試験については、ポータルにへ解説を配信する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
死刑囚最後の日	ヴィクトル・ユゴー	光文社文庫	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室：授業に関する質問、フランス語学習に関する質問、留学相談（その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けますeshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/15	オリエンテーション及び導入講義	授業の説明
		この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる
		事前学修	シラバスをよく読んでおく120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと120分
2	9/22	19世紀の歴史と社会（1）	19世紀の歴史とヴィクトル・ユゴーの政治的軌跡（1）
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について概説できる
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと120分
3	9/29	19世紀の歴史と社会（2）	19世紀の歴史とヴィクトル・ユゴーの政治的軌跡（2）
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について概説できる
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと120分
4	10/6	ユゴーのその他の作品について知る（1）	『レ・ミゼラブル』の概略（1）ジャンとナポレオン
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと120分
5	10/13	ユゴーのその他の作品について知る（1）	『レ・ミゼラブル』の概略（2）国民公会への言及
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと120分
6	10/20	ユゴーのその他の作品について知る（3）	『レ・ミゼラブル』の概略（3）1832年の民衆蜂起
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、その社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	ユゴーのその他の作品について知る（4）	『クロード・グー』：刑法、社会保障、死刑制度	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
8	11/10	ユゴーの哲学と思想（1）	『死刑囚最後の日』序文について（1）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の序文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
9	11/17	ユゴーの哲学と思想（2）	『死刑囚最後の日』序文について（2）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の序文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
10	11/24	ユゴーの哲学と思想（3）	『死刑囚最後の日』序文について（3）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の序文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
11	12/1	ユゴーの哲学と思想（4）	『死刑囚最後の日』序文について（4）ディスカッションと小論文	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の序文を理解し、批評的に意見を述べることができ、他者の意見を適切に理解して適切に応答できる。さらに授業で提示された質問について教科書を参考に適切に解答できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
12	12/8	ユゴーの哲学と思想（5）	『死刑囚最後の日』本文について（1）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	ユゴーの哲学と思想（6）	『死刑囚最後の日』本文について（2）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
14	12/22	ユゴーの哲学と思想（7）	『死刑囚最後の日』本文について（3）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
		事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
15	1/12	まとめ	後期末試験とまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、その社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
		事前学修	後期末試験の準備をする	120分
		事後学修	後期全体の復習をすること	120分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・グループディスカッション・発表等を適宜取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『精神分析学入門』	フロイト	中公文庫	2019	参考書	推奨
『シュニッツラー短編集』	シュニッツラー	三修社	1982	参考書	推奨
『きたれ、甘き死よ』	ヴォルフ・ハース	水声社	2001	参考書	推奨
『白バラは散らず』	インゲ・ショル	未来社	1964	参考書	推奨
『初版グリム童話集1-5』	グリム兄弟	白水社	2007	参考書	推奨
『太陽通り』	トーマス・ブルスイヒ	三修社	2002	参考書	推奨
備考	その他の教材については授業中に文献リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み（4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス ドイツ語圏文学概論	20世紀ドイツ語圏文学の背景と文学の特徴を概観する。	
		この回の到達目標	20世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	シラバス確認	120分
		事後学修	ドイツ語圏における20世の歴史についてまとめる。	120分
2	9/23	テーマ1-1 精神分析学と文学1	フロイトの精神分析学と背景となった19世紀末から20世紀初頭のオーストリアの文化を概観し、そこから影響を受けた文学について考察する。	
		この回の到達目標	精神分析とフロイトとその時代のウィーンについて説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
3	9/30	テーマ1-2 精神分析学と文学2	フロイトと同時期に作家活動をしていたアルトゥール・シュニッツラーの短編を読んで考察する。	
		この回の到達目標	フロイトとシュニッツラーについて考察したことを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
4	10/7	テーマ2-1 ドイツ語圏の推理小説1	推理小説の成立について概観し、ヴォルフ・ハースの探偵小説を例に推理小説を分析する手法について導入する。	
		この回の到達目標	推理小説の歴史について説明し、具体的に作品の中の分析のポイントについて意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
5	10/14	テーマ2-2 ドイツ語圏の推理小説2	ヴォルフ・ハースや他の推理小説を用いて、グループワークの中で自分の分析について説明し、他の人の話をレビューする。	
		この回の到達目標	推理小説について自分の読み方を説明し、他の人の意見についてレビューすることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
6	10/21	テーマ3-1 ノンフィクション文学1	ナチスと白バラの運動について概観し、インゲ・ショルの『白バラは散らず』の成立について講義、ノンフィクション文学について考察する。	
		この回の到達目標	白バラと『白バラは散らず』について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	テーマ3-2 ノンフィクション文学2	『白バラは散らず』を読んで、そこに書かれている内容について自分の考えを述べ、他の人の意見についてレビューをする。	
		この回の到達目標	『白バラは散らず』を読んで考察した内容を説明し、他の人の考えについてコメントすることができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
8	11/11	テーマ4-1 皆伐文学 ー言葉が皆伐された後1	ナチスのプロパガンダと言語について概観し、戦後ドイツ語に起こった言語と文学の危機についてギュンター・アイヒの詩を例に考察する。	
		この回の到達目標	ナチス時代とその後のドイツ語の状況について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
9	11/18	テーマ4-2 皆伐文学 ー言葉が皆伐された後2	ギュンター・アイヒと同時代のブレヒト、ツェーランの詩を例に戦後のドイツ語文学について考察する。	
		この回の到達目標	第二次世界大戦後のドイツ語圏文学の特徴について、具体的な作品を通じて説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
10	11/25	テーマ5-1 グリム童話は どう読まれたか1	グリム童話の成立と作品の特徴とドイツ語圏の受容について考察する。	
		この回の到達目標	グリム童話について新しく得た知見について説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
11	12/2	テーマ5-2 グリム童話は どう読まれたか2	グリム童話の背景を踏まえてテキストを読む。	
		この回の到達目標	グリム童話について具体的にテキストに言及しながらグループの人たちと意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
12	12/9	テーマ6-1 東西ドイツの文学1	東西ドイツの歴史を踏まえて当時の文学を読む。	
		この回の到達目標	東西ドイツの歴史について簡単な説明し、当時の文学の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	テーマ6-2 東西ドイツの文学2	トーマス・ブルスィヒの『太陽通り』を読む。	
		この回の到達目標	時代背景を踏まえて、『太陽通り』についてグループの中で意見交換ができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
		事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
14	12/23	レポートのグループセッション	作成するレポートについてグループワークで発表・討論をする。	
		この回の到達目標	期末レポート案について説明をし、グループ内の人たちのレビューを反映させた上でレポートを作成する。	
		事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。（関連SB0s①②③）	120分
		事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	1/13	レポートのグループ・プレゼンテーション	完成させたレポートをグループ内で発表	
		この回の到達目標	①②③の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
		事前学修	レポートの作成	210分
		事後学修	自分の発表内容とグループ内の発表内容を比較考察し、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。

【授業方法】		
H. G. ウェルズの短篇小説『タイム・マシン』（1895）『世界最終戦争（ハルマゲドン）の夢』（1901）を輪読する。発表・意見交換を中心に演習形式で進める。なお、フィールドワークとして、作曲家の藤倉大が「世界最終戦争の夢」をオペラ化した舞台《アルマゲドンの夢》（世界初演）を劇場で観る予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2				
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2			
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2			
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
タイム・マシン	H. G. ウェルズ	岩波文庫	1991	教科書	必携
備考	H. G. ウェルズ「世界最終戦争の夢」『ウェルズSF傑作集2』（阿部知二訳）は絶版のため、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 9/16	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界文学」を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、半期で取り上げる「世界文学」を読むことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第二部水 9/23	H. G. ウェルズについて	イギリスの作家 H. G. ウェルズ（1866-1946）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、H. G. ウェルズについての概略を理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	イギリスの作家 H. G. ウェルズについて調べ、メモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第二部水 9/30	『タイム・マシン』を読む（1）	『タイム・マシン』1～3を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第二部水 10/7	『タイム・マシン』を読む（2）	『タイム・マシン』4～8を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第二部水 10/14	『タイム・マシン』を読む（3）	『タイム・マシン』9～12を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第二部水 10/21	『タイム・マシン』を読む（4）	『タイム・マシン』13～16＋エピローグを読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 10/28	『世界最終戦争の夢』を読む（１）	『世界最終戦争の夢』の前半を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第二部水 11/11	『世界最終戦争の夢』を読む（２）	『世界最終戦争の夢』の後半を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第二部水 11/18	『世界最終戦争の夢』まとめ	『世界最終戦争の夢』全体を振り返り、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品を読み返したうえで、内容を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第二部水 11/25	文学のオペラ化（１）	作曲家の藤倉大が『世界最終戦争の夢』を舞台化したオペラ《アルマゲドンの夢》について、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、劇場で観たオペラについて、感じたこと/考えたことを説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	劇場で観たオペラについて、感じたこと/考えたことをメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第二部水 12/2	文学のオペラ化（２）	短篇小说『世界最終戦争の夢』とオペラ《アルマゲドンの夢》を比較し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、短篇小说とオペラを比較したうえで、自分の考えを説明し応答（対話）することができる。	
		事前学修	短篇小说『世界最終戦争の夢』とオペラ《アルマゲドンの夢》を比較し、両者の共通性と差異について考え、メモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第二部水 12/9	H. G. ウェルズ論（１）	H. G. ウェルズ論（１）を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該批評を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当批評を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 12/16	H. G. ウェルズ論（2）	H. G. ウェルズ論（2）を読み、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当批評を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第二部水 12/23	H. G. ウェルズのまとめ	半期で扱った作品を振り返り、盛り込まれたテーマや問題点について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で扱った作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	半期で扱った作品を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第二部水 1/13	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「世界文学」についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	「世界文学」についての小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	授業で何を得たか整理する。	60分

科目名	総合講座A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文学/芸術と「危機」の関係をめぐって、様々なジャンル（詩・小説・評論・美術・音楽等）の作品分析により、考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
豊かな創造性を養うために、文学/芸術に親しむ習慣を身につけ、ものごとを複眼的視点から見ることができる能力を修得する。

【履修条件】
必ず初回に出席し、成績評価の方法・課題レポート作成の注意点を理解すること。

【授業方法】
ゲスト（彫刻家を予定）を含む複数の講師が共通テーマに基づき、様々なジャンルの作品分析を講義形式でおこなう。適宜、ビデオ・画像等を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回質疑応答の時間を設け、学期末には総括としてグループディスカッション及びピアレビューを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	授業で扱う作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。				2		2	2				
②	授業で扱う問題やテーマを理解し、その理解を説明することができる。				2	2	2					
③	授業で扱う問題やテーマへの理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	①②③に関する各能力が身についているかを、3回のレポートによって評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）/適切に行ったかを基準に、①③に関する各能力が身についているかを評価する	5		5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を各区分の翌週以降にポータルで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回の授業時に各講師がプリントを配布する。全体の「参考文献表」は初回に配付する。				

【オフィスアワー】
授業の質問は授業終了後、または火曜昼休みに対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		各講師の実践的な経験に基づき、各授業ごとに反映	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	イントロダクション及び導入講義【真道 杉】	「芸術における危機とは何か」テーマに関する概論と、受講の仕方についての説明	
		この回の到達目標	テーマについての概要を理解し説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読しておく。	120分
		事後学修	授業の内容をノートにまとめる。	120分
2	4/17	ナチス・ドイツの音楽政策【佐藤 英】	ナチス・ドイツ時代の音楽政策について、おもにリヒャルト・ワーグナー(1813-1883)の受容の観点から考察する。ワーグナーのオペラ《ニュルンベルクのマイスタージンガー》についても解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、リヒャルト・ワーグナーの作品がナチス・ドイツにおいてどのように「利用」されたか、具体例を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	高校の教科書やインターネットでナチス・ドイツについて情報を集めておくこと。作曲家リヒャルト・ワーグナーについても同様に調べてみること。	120分
		事後学修	授業のプリントやノートで、ナチス・ドイツ時代の文化政策について、要点を整理しておくこと。YouTubeなどでアクセス可能な映像/音源も、視聴すること。	120分
3	4/24	ナチスの記憶と戦後ドイツの音楽家たち【佐藤 英】	第二次世界大戦後のドイツ語圏のクラシック音楽界の動向について、ナチスとの対峙/克服という観点から説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、第二次世界大戦後、ドイツ語圏の音楽家が直面しなければならなかった「ナチス以後」の問題について、概要を説明できる。また、その情報に則して、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	授業のプリントや書籍、映像/音声などを利用し、リヒャルト・ワーグナーについて調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内で得た知見を整理し、レポートを執筆すること。	120分
4	5/1	美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（1）【松山博樹】	ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』（1922）からうかがえる時代背景を考察し、そこに隠されている「美学と政治の結託」を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ジョイス、『ユリシーズ』、モダニズム芸術について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	法学部図書館所蔵の『ユリシーズ』を手に取り、たとえ読まずともページをめくって目を通しておくことよい。また、モダニズム芸術について調べておくことさらによい。	120分
		事後学修	次週の講座に備え、「美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（1）」の振り返りをおこなうこと。	120分
5	5/8	美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（2）【松山博樹】	前週の講座を批判的に振り返り、考察を逆説的に発展させ、『ユリシーズ』と「美学と政治の結託」のねじれた関係性に危機の時代におけるひとりの作家の在り方を見出す。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ジョイス、『ユリシーズ』、モダニズム芸術について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	前週の講座内容を踏まえ、再び法学部図書館所蔵の『ユリシーズ』を手に取り、たとえ読まずともページをめくって目を通しておくことよい。また、当時の国際政治および芸術のおかれた状況について調べておくことさらによい。	120分
		事後学修	「美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（2）」の振り返りをおこなうこと。	120分
6	5/15	人間主義の危機（1）：人間の尊厳から動物の尊厳へ——ピーター・シンガーの『動物の解放』——【吉澤保】	ピーター・シンガーの哲学と、ジル・ドゥルーズの哲学は、それぞれ、人間中心主義の危機、近代の危機への、一つの応答であるが、両者は全く異なる。まず主に、前者の『動物の解放』（1975年）を取り上げて考察する。感性的存在はすべて平等とされる。通常、差別は人間種に限定される（人種差別、性差別など）が、シンガーにおいては動物にまで拡張される（種差別）。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ピーター・シンガーと『動物の解放』について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	ピーター・シンガーとその著作について、またアニマル・ライツ、アニマル・ウエルフェア、ヴィーガニズム、種差別などについて調べる。	120分
		事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	人間主義の危機（２）：人間の尊厳から出来事の尊厳へ — ジル・ドゥルーズの『千のプラトー』 — 【吉澤保	シンガーが、人間から動物への尊厳の拡張を試みるのに対して、ドゥルーズは、尊厳そのものの無効化を試みる（正しくは、出来事の尊厳は、尊厳ではない）。重要なのは、保存すべき生命ではなく、生成（変化）そのものになる。後者の主に『千のプラトー』（1980年）を取り上げて考察する。すべては平等であるというドゥルーズの考えは、シンガー流の尊厳の拡張ではない。ドゥルーズにおいては、社会の危機、戦争は必ずしも否定的なものではない。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ジル・ドゥルーズと『千のプラトー』について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	ジル・ドゥルーズとその著作について、また国家装置、主体化、戦争機械、管理社会などについて、調べる。	120分
		事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。	120分
8	5/29	フランソワ・ラブレーとルネサンス—— 信仰の危機と人間性の回復（１）【石橋正孝】	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景にフランソワ・ラブレーとその著作について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレーについて自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。	120分
		事後学修	講義で扱った本文を再度読み直し、バフチンの参考書と照らし合わせながら、生命の喜びと生命の死を文化の創造と破壊のサイクルに当てはめて読み直す。	120分
9	6/5	フランソワ・ラブレーとルネサンス—— 信仰の危機と人間性の回復（２）【石橋正孝】	バフチンの理論を参照しながら、唯名論争、宗教革命をキーワードにフランソワ・ラブレーを読む。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレーとルネサンスについて自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	唯名論争、宗教革命について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。	120分
		事後学修	講義で扱った本文を、講義で学んだ歴史的・文化的文脈の中で再度読み直し、中世から近代への移行をもたらした要因について考察する。	120分
10	6/12	関東大震災と日本文学【宮澤隆義】	戦前の日本文学と危機との関係について、関東大震災を中心に紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問して知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、震災に対する文学者たちの反応について理解を深める。	
		事前学修	戦前の日本史と文学史について、おおまかな流れを調べておく。	120分
		事後学修	配布プリント掲載の作品・人物について調べ、考察を深める。	120分
11	6/19	アジア・太平洋戦争と日本文学【宮澤隆義】	戦前から戦中にかけての日本文学の動向を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問して知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、アジア・太平洋戦争への文学者たちの応答について理解を深める。	
		事前学修	戦前～戦中の日本史と文学史について、おおまかな流れを調べておく。	120分
		事後学修	配布プリント掲載の作品・人物について調べ、考察を深める。	120分
12	6/26	国際彫刻シンポジウム【八木ヨシオ+真道】	戦後の国際彫刻シンポジウムの活動について紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、扱った造形作品について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	国際彫刻シンポジウムについて調べ、画集やインターネットで作品を見ておく。	120分
		事後学修	講義の内容を振り返り、そこから得たものをメモしてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	ホロコーストの文学 【真道 杉】	第二次世界大戦におけるドイツ語圏文学の一例としてイルゼ・アヒンガーの小説を取り上げ、強制収容所体験が文学にどのように影響したのかを探る。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、扱った作家について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	第二次世界大戦とナチスの強制収容所について、イルゼ・アイヒンガーについて図書館等で調べておく。	120分
		事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
14	7/10	ホロコーストの心理学 【真道 杉】	強制収容所の心理を描いたヴィクトール・フランクルの体験とその著作を扱い、フランクル体験が著作にどのように影響したのかを探る。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、フランクルとその著作について自分の意見を伝えることができる。	
		事前学修	1回目の授業を踏まえて、ユダヤ人について、ヴィクトール・フランクルについて図書館等で調べておく。	120分
		事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
15	7/17	振り返り	授業全体を振り返り、授業内で発表し、他の人の発表についてコメント（レビュー）をする。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、授業内で扱ったテーマについて自分の意見を伝えることができるとともに、到達目標③に関連して、他の人の意見についてコメント（レビュー）ができる。	
		事前学修	半期の授業を振り返り、何を得たかメモしてみる。	120分
		事後学修	授業で学んだことを今後活かすにはどうすればよいか考える。	120分

科目名	総合講座B[＜～らしさ＞をめぐる視点]	担当者	江島 泰子 他	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
テーマは「ジェンダーから見たワークとライフ」です。ワークに関してはサービス残業・過労死等の異常状態の解消、男女共同参画社会の実現に向けての対策が問題です。さらに家事、育児、介護を含むライフには、無償労働である家事労働をどのように解釈し、今後社会がどのような支援を行い、男女の間で公平に分担するのかという問題があります。オムニバス形式による講師陣からの問いかけを通して考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジェンダーの視点から現代社会の現状を分析し、それを説明するとともに今後の解決策を提案できるようになるために、ジェンダー問題の重要性を理解し、現代社会の動向を的確に把握できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
ゲストを含む10人の講師が、それぞれの専門分野から講義を行う。適宜、ビデオ・画像等を用いる。ゲストには、講座テーマに関連する分野で知見を持つ専門家を招く。講義の中での学生同士の話し合い、質問時間等を設ける。毎回、リアクションペーパーの記入を課題とする。2回の授業および最終回のまとめの時間（合計3回）は、ディスカッションを中心に進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生同士の話し合い、ディスカッション、コメントペーパー記入、質問タイムの設定	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジェンダー概念を理解し、概念形成の背景を論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①に関連して、現代社会における諸問題を抽出し、それらについて分析できる。				2	2	2	2				
③	①と②を総合して、現代社会の諸問題の解決に向けて、自らの解決策を説明し、他者と共有できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、レポートによって判断する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標③が達成できているかについて、ディスカッション後に授業内で作成する小論文で判断する。			20								20
授業への参画度												
その他(レアクション ペーパー)	到達目標①②が達成できているかについて、レアクションペーパーによって判断する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	原則として、各講師がプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜 15:00～16:00(4号館445研究室) eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ゲストスピーカーにおける社会経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業における労働問題への対応の経験および男性の育児参加に関わる体験	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	オリエンテーション導入講義	各回の授業内容に関する説明。ジェンダー、ワーク・ライフ・バランスに関する問題提起【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの目標の具体的な内容を理解し、その達成に向けてどのように学修すればよいかを説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読んで、特に興味をもった内容に関して調べておくこと。	120分
		事後学修	配布された参考文献に関して、興味あるものを選んで読んでおくこと。	120分
2	9/25	哲学的視点から	人間と労働 ―― 生きることと働くこと【岡山敬二】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、哲学的視点から把握された労働の在り方を理解し、それについて説明できるとともに、自分が考えていた労働の概念と比較して、その差異を分析できる。	
		事前学修	賃金労働と家事労働、その他様々な人間的活動との違いや共通点について見解をまとめ、整理しておくこと。	120分
		事後学修	ヘーゲルのいう労働、マルクスのいう抽象的な人間労働、賃金労働と疎外についてその意味の違いを人間と社会という点からまとめておくこと。	120分
3	10/2	ジェンダーについて考える	言語を通して考えるジェンダー【黒滝真理子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェンダーと言語について説明できる。	
		事前学修	日仏英の「女性らしい表現・コミュニケーションスタイル」「男性らしい表現・コミュニケーションスタイル」を身近から探し挙げておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、言語性差を引き起こしてきた歴史・社会・文化の背景についてA4・2枚以内にまとめる。	120分
4	10/9	歴史的視点から（1）	近代家族の形成と家事労働―歴史で考える労働とジェンダー(1)【大岡聡】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、近代家族の形成と家事労働について説明できる。	
		事前学修	200年前・100年前・50年前の家族は、それぞれどのようなものであったとイメージしますか。自分が抱いているイメージを箇条書きで書いてください。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、近代家族の特質についてまとめてみましょう。	120分
5	10/16	歴史的視点から（2）	企業社会の形成とジェンダー―歴史で考える労働とジェンダー(2)【大岡聡】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業社会の形成とジェンダーの関わりについて説明できる。	
		事前学修	祖父母・父母・自分の生誕・教育歴・職歴・結婚・出産・育児・介護のライフヒストリー・ファミリーヒストリーを年表風にまとめてみましょう。	120分
		事後学修	落合恵美子『21世紀家族―家族の戦後体制の見かた・超えかた』（第4版、有斐閣、2019年）を読んだ上で、「家族と労働の過去・現在・未来」というテーマ2000～3000字の小論文を作成しなさい。	120分
6	10/23	日本の労働状況	日本の労働状況と働き方改革【ゲストスピーカー】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過労死問題を理解し、その解決に向けて必要な対策について説明できる。	
		事前学修	「労働」に関して、現在の日本が抱える諸問題を整理してノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義から何を学んだかを整理し、日本における今後の労働の在り方について自分なりの意見を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	海外の視点から（１）	韓国におけるジェンダーから見たワークとライフ【ゲストスピーカー】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、韓国におけるジェンダーから見たワークとライフについて説明できる。	
		事前学修	韓国の近代史について、調べておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布された資料をもとに、韓国における労働の問題を整理し、日本の状況と比較する。	120分
8	11/6	ディスカッション（１）	「労働」に関して現在の日本が抱える諸問題を、ジェンダーの視点から考える。【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ディスカッションを行うことで、日本における労働の諸問題の理解を深め、これらについて、ジェンダーの視点と関連させて自分なりの改善策を提案できる。	
		事前学修	「労働」に関して、現在の日本が抱える諸問題について、整理する。また、ジェンダーの視点から、これらの問題をどのように考えたらよいのか、検討しておく。	120分
		事後学修	グループで意見交換を行い、全体発表を聞いたのちに、自分の考えと他者の考えの相違について整理し、その差異の原因について自分なりに検討する。	120分
9	11/13	海外の視点から（２）	フランスのワーク・ライフ・バランス【神尾真知子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フランスにおけるワーク・ライフ・バランスについて説明できる。	
		事前学修	フランスはどのような国か、基本的な情報を収集して、整理しておく。	120分
		事後学修	フランスのワーク・ライフ・バランス政策を踏まえて、日本のワーク・ライフ・バランス政策が、女性に「自由な選択」を保障しているのか、批判的に検討する。	120分
10	11/20	ライフの問題点（１）	日本の子育て支援【橋爪幸代】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における子育て支援施策について説明できる。	
		事前学修	日本における子育て支援策について調べ、どのような課題があるかをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	講義から学んだことを整理し、日本における子育て支援施策における課題とそれに対する解決策を考える。	120分
11	11/27	ライフの問題点（２） 法的権利とケアから考える	「仕事と労働の法的評価」 無償労働について、法的な権利という側面と、ケアの倫理という別の側面から、その意味を考える。【松島雪江】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無償労働について、法的な権利という側面と、ケアの倫理という別の側面から、その意味を説明できる。	
		事前学修	「無償労働」に該当する労働について調べてくる。それがなぜ、無償なのかの正当性を考えておく。	120分
		事後学修	無償労働が無償で行われている理由、それによりどのような問題があるのか、無償労働が有償労働分野に及ぼす影響についてまとめておく。	120分
12	12/4	ライフの問題点（３） ケアを制度の視点から考える	多様化する家族と介護のありかたを考える【矢田尚子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多様化する介護と家族のあり方についての実状を理解し、制度上の課題を説明できる。	
		事前学修	「地域包括ケアシステム」「介護保険制度」「成年後見制度」について調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートに沿って、講義内容を復習・整理し、講義の中で示した家族と介護の在り方について書かれた著作を読んでみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	男女の役割分業システムについて考える	男性とケア労働【ゲストスピーカー】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の日本における男女の役割分担システムについて理解し、それを変革する方法について、自分なりの見解を述べることができる。	
		事前学修	男性の育児休暇取得率、ケア労働参加率について日本の状況を調べ、それをヨーロッパまたはアジアの任意の国の状況と比較する。また、比較の対象である国が男女共同参画社会の実現のために行っている諸政策について確認する。	120分
		事後学修	講義から何を学んだかを整理し、男女共同参画社会の実現に必要な政策についての提案を考える。	120分
14	12/18	ディスカッション（2）	ケア労働の諸問題について、ジェンダーの視点から考える【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、9, 10, 11, 12, 13回の講義内容を総合的に整理し、ケア労働の諸問題について、自分なりの見解を述べることができる。	
		事前学修	9, 10, 11, 12, 13回目の講義を参考に、ケア労働の諸問題について、自分なりの見解をまとめて他者に説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	ディスカッションで交わされたさまざまな意見について整理し、ディスカッションの前後で自分の見解に変化があったか検討してみる。	120分
15	12/25	ディスカッションとまとめ	到達目標①②③の確認、解説【江島泰子】	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれが達成できているかをディスカッションを通じて再検討し、自分なりの検証結果を述べることができる。	
		事前学修	到達目標を確認し、①②③について自分が達成できているか確認する。	120分
		事後学修	①②③について、自分が達成できていたか、ディスカッションを振り返って考え、今後の行動目標を定める。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅰ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツが関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。毎回小レポートを提出する。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 小レポート、Think-Pair-Share

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スポーツに関わる基本的な概念を理解し、スポーツの価値を認め、論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。						2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、実施到達目標①② にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解し ているかを評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切 に答える内容になっているかを基準に達成目標③にかかわ る説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験， レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	開講にあたって/ スポーツ科学とは何か	①スポーツ科学とは何か、②授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の理論体系について説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	4/17	スポーツとは何か	スポーツ科学の体系について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ科学の理論体系について説明できる。	
		事前学修	スポーツを楽しめる能力(スポーツリテラシー)について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、スポーツとは何かについて自分なりの説明でまとめる。	120分
3	4/24	トレーニング論 (トレーニングの原理・原則)	トレーニングの原理・原則について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力の構成要素の防衛体力、行動体力について説明できる。	
		事前学修	トレーニングの原理・原則について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの原理・原則について理解を深める。	120分
4	5/1	トレーニング論 (トレーニングの種類)	トレーニングの種類について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニングの種類について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験からトレーニングの種類について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの種類についてまとめる。	120分
5	5/8	トレーニング論(トレーニング計画とその実際)	トレーニング計画とその実際について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニング計画とその実際について説明できる。	
		事前学修	トレーニング目標の設定について調べる。	120分
		事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニング計画とその実際について理解を深める。	120分
6	5/15	スポーツコーチング (コーチに必要な資質と能力)	コーチに必要な資質と能力について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コーチに必要な資質と能力を説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	今までのスポーツ経験からコーチに必要な資質と能力について自分なりの考えをまとめる。	120分
		事後学修	コーチに必要な資質と能力について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	スポーツコーチング(スポーツコーチングの実践)	スポーツコーチングの実践を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツコーチングの実践を説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	スポーツ競技を1つの選択し、その競技の国際競技力と強化方策を調べる。	120分
		事後学修	スポーツコーチングの実践について日本の国際競技力と強化策について理解を深める。	120分
8	5/29	フェアプレイ：アンチ・ドーピング（スポーツの価値）	スポーツの価値について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツの価値について説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	スポーツの価値について調べる。	120分
		事後学修	スポーツの価値について自分なりの説明でまとめる。	120分
9	6/5	フェアプレイ：アンチ・ドーピング（世界ドーピング防止規程および我が国の対応について）	世界ドーピング防止規程および我が国の対応について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界ドーピング防止規程および我が国の対応について説明できる。	
		事前学修	ドーピングが禁止されていることについて調べる。	120分
		事後学修	世界ドーピング防止規程および我が国の対応について理解を深める。	120分
10	6/12	スポーツとオリンピック（オリンピックの歴史）	オリンピックはどのようにして始まったのか？	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの歴史について説明できる。	
		事前学修	オリンピックの歴史について調べる。	120分
		事後学修	オリンピックの歴史について理解を深める。	120分
11	6/19	スポーツとオリンピック（オリンピックの理念）	オリンピックはどんな願いが込められている？	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの理念について説明できる。	
		事前学修	オリンピックの理念について調べる。	120分
		事後学修	オリンピックの理念について自分なりの説明でまとめる。	120分
12	6/26	スポーツと政策（グローバリゼーションと日本のスポーツ）	グローバリゼーションと日本のスポーツについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グローバリゼーションと日本のスポーツについて説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	グローバリゼーションと日本のスポーツについて調べる。	120分
		事後学修	グローバリゼーションと日本のスポーツについて理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	スポーツと政策(日本のスポーツプロモーション)	日本のスポーツプロモーションについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本のスポーツプロモーションについて説明できる。隣人と討論する。	
		事前学修	日本のスポーツプロモーションについて調べる。	120分
		事後学修	日本のスポーツプロモーションについて理解を深める。	120分
14	7/3	スポーツを「みる」「ささえる」： 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会	2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を「みる」「ささえる」。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツを「みる」「ささえる」について説明できる。	
		事前学修	スポーツを「みる」「ささえる」について調べる。	120分
		事後学修	スポーツを「みる」「ささえる」について理解を深める。	120分
15	7/17	まとめ/ 振り返り	授業内試験及び解説、学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を説明することができる。	
		事前学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を見直し、復習する。	120分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅱ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツに関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。毎回小レポートを提出する。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート、Think-Pair-Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多面にわたるスポーツの価値を認め、論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。						2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、実施到達目標①② にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解し ているかを評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切 に答える内容になっているかを基準に達成目標③にかかわ る説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験， レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	開講にあたって/スポーツ科学とは何か	スポーツ科学で扱うテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の概観を説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノート・資料を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	9/22	体力とは	体力の構成要素（防衛体力、行動体力）について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、体力の構成要素について説明できる。	
		事前学修	体力の分類について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、体力の構成要素について理解を深める。	120分
3	9/29	体力と健康	健康の考え方、体力と健康との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、健康とはどのような状態か考察する。健康と体力との関係について理解する。	
		事前学修	健康観について調べ、健康とはどのような状態か自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、健康と体力との関係について自分なりの説明でまとめる。	120分
4	10/6	身体運動を生み出す生体のしくみ（筋骨格系のしくみと働き）	身体運動を生み出す筋骨格系のしくみと働きについて理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋骨格系器のしくみと働きについて説明できる。	
		事前学修	筋骨格系について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、運動器のしくみと働き、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
5	10/13	身体運動を生み出す生体のしくみ（呼吸・循環器系のしくみと働き）	身体運動を生み出す呼吸・循環器系のしくみと働きについて理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、呼吸・循環器系のしくみと働きについて説明できる。	
		事前学修	呼吸・循環器系について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、呼吸・循環器系のしくみと働き、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
6	10/20	身体運動を生み出す生体のしくみ（運動と脳・神経系）	身体運動を生み出す脳・神経系のしくみと働きについて理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、脳・神経系のしくみと働きについて説明できる。	
		事前学修	脳・神経系について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、脳・神経系のしくみと働き、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	身体運動と栄養	身体運動を支える5大栄養素の役割について理解し、その重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、5大栄養素の役割について説明できる。	
		事前学修	5大栄養素について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、5大栄養素とその重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
8	11/10	身体運動と発育発達（脳神経系）	脳神経系に着目し、基本的な発育発達過程を理解し、身体運動が発育発達に与える影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、脳神経系の発育発達における身体運動の重要性と、留意点について説明できる。	
		事前学修	脳神経系の発育発達について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、発育発達（脳神経系）における身体運動の重要性と、留意点について自分なりの説明でまとめる。	120分
9	11/17	身体運動と発育発達（筋骨格系・呼吸循環器系）	筋骨格系および呼吸循環器系に着目し、基本的な発育発達過程を理解し、身体運動が発育発達に与える影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋骨格系および呼吸循環器系の発育発達における身体運動の重要性と、留意点について説明できる。	
		事前学修	筋骨格系および呼吸循環器系の発育発達について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、発育発達（筋骨格系および呼吸循環器系）における身体運動の重要性と、留意点について自分なりの説明でまとめる。	120分
10	11/24	身体運動と発育発達（生物学的成熟）	生物学的成熟の概念や、個人差について理解し、身体運動やスポーツを行う上での留意点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、生物学的成熟や発育発達の個人差を踏まえ、身体運動やスポーツを行う上での留意点について説明できる。	
		事前学修	生物学的成熟という概念について調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、身体運動やスポーツを行う上での留意点について、生物学的成熟や発育発達の個人差を踏まえて考え、自分なりの説明でまとめる。	120分
11	12/1	身体運動と睡眠・メンタルヘルス	身体運動が睡眠やメンタルヘルスに及ぼす影響について理解し、その重要性と留意点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、身体運動が睡眠・メンタルヘルスに及ぼす影響について理解し、その重要性と留意点について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験から、身体運動と睡眠・メンタルヘルスとの関係についてまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、身体運動が睡眠・メンタルヘルスに及ぼす影響について、自分なりの説明でまとめる。	120分
12	12/8	スポーツ外傷・障害	スポーツ活動中に多い外傷・障害について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い外傷・障害について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験からスポーツ外傷・障害についてまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、スポーツ外傷・障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	内科的スポーツ障害	スポーツ活動中に多い内科的障害について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い内科的障害について説明できる。	
		事前学修	今までのスポーツ経験から内科的スポーツ障害についてまとめる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、内科的スポーツ障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。。	120分
14	12/22	外傷・障害の救急処置	スポーツ現場で行う救急処置について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ現場で行う救急処置について説明できる。	
		事前学修	救急処置にはどのようなものがあるか調べる。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、スポーツ現場で行う救急処置について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分
15	1/12	まとめ/振り返り	授業内試験及び解説、学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を評価する。	
		事前学修	講義ノート・資料を見直し、復習する。	120分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	地球科学 I	担当者	永田 玲奈	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地球科学とは、私たちが住んでいる「地球」で起こる自然現象を対象とする学問である。本講義では、その中でも身近な自然現象である「気象」を取り上げる。気象現象は学んだその足で外に出てみるとすぐに実感できることが多いため、理系の教科があまり得意でない学生さんにも容易に理解しやすい。普段当たり前のように感じている雨や風などの気象現象はどうやって発生しているのか？また、地域によって気候が異なるのはなぜなのか？近年問題になっている地球温暖化は何が問題なのか？このような日常のちょっとした疑問に対して理解を深め、学んだ気象現象を目の当たりにした際に思わず人に説明したくなるような知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年増加している気象災害から身を守るために必要な知識は何か？それは気象現象のメカニズムと特徴を正しく理解することである。講義を通して実際に気象災害に直面した際に身を守る方法を自分なりに考える力を習得する。最近の暖冬や猛暑の原因は私たち人間の活動により引き起こされている地球温暖化にあると考えられている。地球温暖化に対して正しい知識を習得することで、自分に今何ができるのか具体的な意見を述べられる力を養うとともに地球環境について問題提起ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。試験はポータルを使用して3回の小テストを実施し、授業内に解説を行う。小テストの実施時期については適宜授業内で通知する。小テストは十分な期間を設けて受けてもらうため、受けそびれた場合の救済策はない点に注意。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	私たちの生活に気象がいかに影響を与えているかを知り、身近な気象現象について人に説明できるようになる。							2	2				
②	気象災害から身を守る知識を身につける。					2		2	2				
③	地球温暖化や気候変動に対する正しい知識を得ることで、今自分にできることを考える力がつく。					2	2	2	2				
④	地球の環境問題について他人に問題提起できる能力を養う。					2	2	2	2				
⑤	毎日当たり前に見ている天気予報が理解できるようになる。							2	2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ポータルを使用して3回の小テストを実施する。到達目標①②③④⑤に関わる気象・気候の基礎知識が身についているかを確認する。	15	15	15	30	25						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義（木曜3限）の後に授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9(木)	講義ガイダンス～日々の生活に見られる気象現象を知ろう！～	全15回の授業で学ぶ気象現象の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから気象現象を深く学ぶための予備知識を身につけることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ気象現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の事前学習に役立つ知識を身につける。	
		事前学修	日々の生活の中で気になっている気象現象を1つ選んで調べてくること。	120分
		事後学修	全講義の流れを頭に入れ、今後の講義に備えること。また、気になる気象用語があった場合は自分で調べてみること。	120分
2	4/16(木)	地球大気の組成と成り立ち～太陽系の中で特別な大気を持つ惑星「地球」～	地球は太陽系の他のどの惑星とも異なるユニークな大気を持つ。太陽系の惑星と大きさや重さなどを比較しながら、なぜ地球だけが特別な大気を持つ惑星となったのかその歴史について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、なぜ、地球大気だけが人間が生きるのに十分な酸素を持つのか？その鍵は海の誕生である。私たちにあっていったって当たり前である「海」と「酸素」。それらがいかんして誕生したのかその謎について理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球と火星・金星の大気組成の違いについて比較するとともに、地球大気に占める割合が一番多い気体は何かについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球誕生から現在の大気への変遷についてノートにまとめること。	120分
3	4/23(木)	大気の鉛直構造と大気の運動～なぜ風は起きるのか？～	風はなぜ起こるのか？と考えたことがあるだろうか。その鍵は東京ドームを出る際に強風が発生するメカニズムにある。本講義では、身近な現象を通して大気の流れのメカニズムを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、「大気の流れ」というと難しく感じるかもしれないが、普段日々感じている風も「大気の流れ」である。飛行機に乗ると耳がキーンとするのはなぜか？その答えは大気の鉛直構造を知ることによって得られる。今回はこのような日頃疑問に感じている気象の豆知識について理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球に大気があるおかげで私たちが生きることが可能となっている。私たちの生存に不可欠な地球大気が果たす役割について調べてくること。	120分
		事後学修	大気が地球に果たす役割となぜ風が発生するのかについてノートにまとめること。	120分
4	4/30(木)	地球のエネルギー収支～大気がなければ地球の温度は－18℃？～	地球の気温は私たち生物が生きるのに適した気温になっている。この「適した気温」はいかにして保たれているのかについて学ぶ。また、赤道に近い地域は年中暑く極に近い地域は年中寒い。同じ地球にもかかわらずこのような気温差が生じるのはどうしてなのだろうか？普段当たり前と思っているこれらの疑問を解き明かす。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、季節変化はなぜあるのか知っているだろうか？ちなみに、太陽からの距離が季節に応じて変わるからではない。日本は四季の移り変わりがはっきりしており季節に応じた美しい景観を愛でることができる。この四季が生じるメカニズムについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本・赤道に近い地域・極に近い地域の年平均気温について調べてくること。	120分
		事後学修	地球が現在の気温に保たれているメカニズムについてノートにまとめてしっかりと理解すること。	120分
5	5/7(木)	降水過程～雨はどうやって降るのか？～	私たちに恵みをもたらす雨はどうやって降ってくるのだろうか？雨が降る際には雲が存在するのだが、では雲から雨が降る仕組みはどうなっているのだろうか？この講義を聞いた後には、雨を眺めながらその発生メカニズムを思い出さずにはいられないような話題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、雨が降る仕組みは暑い夏の日にはペットボトルを室温に置いていた際にペットボトルの表面に水滴が生じるメカニズムと同じである。普段に目にする身近な例をもとに雨が降る仕組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	空気中を落下する雨粒はどのような形をしているのかと、その理由について調べてくること。	120分
		事後学修	雲ができて雨が降る過程についてノートにまとめること。	120分
6	5/14(木)	大規模な大気の運動～地球をめぐり大気の流れと高気圧・低気圧～	外に出るたびに感じる風は実は地球の大きな流れの一部である。私たちが普段よく耳にする「低気圧」・「高気圧」・「前線」とは一体何なのか？そして、実は前線にはいくつか種類があることなど天気予報を見る際に役立つ知識を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、天気予報で頻繁に耳にする天気に関する用語を学ぶことで、第8回の日本の四季に応じた気圧配置を理解する基礎作りを行うことができる。	
		事前学修	大気大循環とは何かと低気圧と高気圧の違いについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球大気の流れを把握し、低気圧・高気圧の仕組みについてノートにまとめしっかりと理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21(木)	中小規模の気象現象～台風・集中豪雨・竜巻～	中小規模現象は雷・台風・竜巻・集中豪雨などが挙げられるが、これらの現象は災害を引き起こすことがある。中小規模現象の発生メカニズムと特徴を正しく理解するとともに、実際に遭遇した際の対処法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、近年、台風や集中豪雨による災害が頻発している。これらの現象から身を守るためには正しい知識の修得が不可欠である。今後増えると思われる気象災害に対処するために、正しい知識に加えて気象情報の活用についても理解し、説明することができる。	
		事前学修	台風・突風・集中豪雨などの中小規模の気象現象による災害の事例について調べること。	120分
		事後学修	豪雨・突風に実際遭遇した際に今回学んだ知識を役立てられるように講義内容をノートにまとめること。	120分
8	5/28(木)	日本の気候と卓越する気圧配置～冬の日本海側はなぜ雪が多いのか？～	日本には冬は寒く雪が降り、夏は暑いという季節に応じた特徴的な天候が見られる。この天候をもたらす気圧配置について学ぶ。なぜ冬の東京には雪があまり降らないのか？なぜ春の天気は変わりやすいのかなど、日々感じている気象の素朴な疑問について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、日本の季節に応じた気圧配置を学ぶことで、天気予報を見る際に現在よりもその内容を深く理解することを目的とする。冬季に耳にする「西高東低の気圧配置」や夏季によく聞く「北太平洋高気圧」とは何かを理解し、天気図を見てその日のおおまかな天気を知ることができる。	
		事前学修	日本の四季の中で好きな季節を選び、その季節に見られる天候の特徴について調べてくること。	120分
		事後学修	四季それぞれに見られる天気の特徴を理解し、季節ごとに見られる気圧配置をノートにまとめてしっかりと頭に入れること。	120分
9	6/4(木)	気候変動とは？～今の気候は地球にとって「標準の気候」ではない？～	第4回で学んだように赤道付近は暖かく極付近は寒い。このような気候は地球の長い歴史の中では決して「標準の気候」ではない。地球は現在よりもかなり暖かく極付近にさえ海水などの氷が存在しなかった時代や、逆に赤道付近の気温がマイナスとなるほど寒い時代もあった。今では考えられないような地球の過去の気候について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現在地球温暖化に伴う異常気象が問題になっている。過去の地球の気候変動を知ること、次回から話題にする地球温暖化が過去と比較していかに異常であることを理解するための基礎知識を養うことができる。	
		事前学修	恐竜が生息していた頃の気候と現在の気候は何が違うのか調べてくること。	120分
		事後学修	地球が誕生してから現在までの地球の気候の変遷についてノートにまとめること。	120分
10	6/11(木)	近年の気候変動～地球温暖化とは？～	「最近天気がおかしい」と感じることはあるだろうか？猛烈な雨や強い台風など人類が経験したことのない異常気象が頻発している。この原因は人間活動が引き起こしている地球の気温上昇、つまり「地球温暖化」であると考えられている。第9回で学んだように、現在よりも気温が高い時代があったにも関わらず現在の地球温暖化が問題とされる理由について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、地球温暖化の原因を理解することで問題点は何でありこれから私たち人類はこの問題についてどのように対処していけば良いのかについて考える力を養う。また、今後地球温暖化が進んだ場合にどのような未来が待っているのかその予測についても理解し、この地球規模の問題に対して真剣に取り組む精神を養うことができる。	
		事前学修	地球温暖化とはどのような現象であり、現在何が問題とされているのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球温暖化は地球の過去の気候と比較して何が問題であるのかをノートにまとめ理解すること。	120分
11	6/18(木)	地球温暖化の影響～海面上昇や大雨の増加～	地球温暖化に伴い世界各地で様々な影響が出ている。例えば、大陸上の氷（氷河・氷床）の融解による海面上昇や、夏の高温日や大雨の増加など気象災害につながる現象の増加も見られる。地球温暖化の影響について具体例を挙げながら学ぶことで、いかにこの問題の解決が急を要するのかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「今も寒い冬を経験することがあるのだから地球温暖化は起きていない」と主張する人もいるが、実はこの理論は正しくない。日本の冬は地球温暖化の影響で寒くなる年もあるのだ。地球温暖化にとって一番大事なことは人々が正しい知識を持つことである。地球温暖化の影響を正しく理解しその知識を周囲に広める力を養うことができる。	
		事前学修	地球温暖化の影響にはどのようなものがあるのか具体的な例を調べてくること。	120分
		事後学修	地球温暖化は私たちの生活にいかなる影響を及ぼしているのかをノートにまとめること。	120分
12	6/25(木)	地球温暖化に対する国際的な取り組み～身近にできる地球温暖化対策も学びましょう！～	毎年多くの国々が集まって地球温暖化対策について話し合っている。地球温暖化対策はイコール経済活動の停滞につながるため対策について消極的な国も少なくはないが、紆余曲折を経ながら「地球温暖化に真剣に取り組もう！」とする国々の意識は少しずつ高まってきている。地球温暖化対策に関して話し合う会議である「COP」とは何か？何が話し合われているのかについて学ぶとともに、今日から私たちができる地球温暖化対策についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、国際的な地球温暖化対策について深く知ること自分たちが今何をすべきなのかを考える力を養う。また、身近にできる地球温暖化対策を学ぶことで日々の暮らしで地球温暖化について考える習慣を身につけることができる。	
		事前学修	地球温暖化対策に関連して以下の用語を調べること：COP、京都議定書、パリ協定。	120分
		事後学修	地球温暖化対策の国際的な取り組みの歴史をノートにまとめるとともに、今日から自分が生活の中でできる地球温暖化対策について書き出し実際に実施すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2(木)	エルニーニョと世界の天候～引き起こされる異常気象～	エルニーニョ現象は熱帯太平洋の海洋で起こる現象であるが、遠い日本の天候にも影響している。エルニーニョ現象が発生すると日本は冷夏・暖冬になりやすい。エルニーニョ現象は世界の天候に大きな影響を与え、時には気象災害が発生するような極端な現象を引き起こす。海洋で発生するエルニーニョ現象が大气にもたらす影響について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、エルニーニョ現象とはどのような現象であるかとその世界の天候への影響についても理解する。現在までは大気の変動のみを扱ってきたが、この回では海洋と大気が密接に関係しているという概念を学ぶことができる。	
		事前学修	「エルニーニョ現象」・「ラニーニャ現象」とは何か事前に調べてくること。	120分
		事後学修	エルニーニョ現象とはどのような現象であり、日本を含めた世界の天候にどのような影響を与えるのかについてノートにまとめること。	120分
14	7/9(木)	ヒートアイランド現象～なぜ東京の夏は暑いのか？～	東京などの都心部では夏に郊外よりも気温が高くなる。これはアスファルトやコンクリートといった人工被覆と呼ばれるものが原因の1つである。ヒートアイランド現象は熱帯夜や局地的な豪雨などを引き起こしている。都市が作り出すヒートアイランド（熱の島）はいかにして作り出されているのか、そのメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「都市は暑い！」と感じたことはあっても「それはなぜ？」と聞かれると答えられる人は多くない。本学は東京都心部に位置しているため、ヒートアイランド現象のメカニズムについて理解した後に大学の外に出て周囲を見渡すことで、ヒートアイランド現象を引き起こす要因を実感することができる。	
		事前学修	都市の高温化であるヒートアイランド現象の発生要因について調べてくること。	120分
		事後学修	ヒートアイランドの要因についてノートにまとめ、大学の周辺でヒートアイランドの要因と考えられるものを探してみること。	120分
15	7/16(木)	講義のまとめ～講義の知識を気象災害から身を守るために生かそう！～	第2回～第14回の講義を振り返り、復習を行う。ここでは、復習を行いながら1回ごとの講義で少しずつ学んだ知識を結び付けることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、本講義の目標は1)天気予報を見る際に深く理解できる知識を身につける、2)気象災害に対処できる知識と情報活用能力を習得するである。講義を聴きながら自分が上記の1)・2)についてどこまで達成できたかを自己評価できる。	
		事前学修	第2回～第14回の講義について要点をまとめてくること。	120分
		事後学修	講義の中で一番興味をもったトピックについて書籍などを読み、さらに理解を深めること。	120分

科目名	地球科学Ⅱ	担当者	永田 玲奈	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本は地震大国であることに加えて、火山噴火もしばしば起きている。地震や火山噴火はどうして起こるのか？その疑問に答えるには地球内部の構造について知る必要がある。私たちの日々の生活では感じるができないが地球の内部はゆっくりと動いており、この動きが地震や火山活動を引き起こしているのである。本講義では、地球46億年の歴史の中で「現在の地球」はいかにして作り上げられたのかを紐解きながら、自然災害が起こるメカニズムとその対処方法について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
普段、地震や火山などの自然現象に興味があっても中々そのメカニズムを理解することは難しい。本講義では「理系の教科に興味のある学生さん」・「あまり得意でない学生さん」を問わず地球科学の知識を身につけるとともに、その知識を普段の生活に役立てる力を養うことを目的とする。身近な例をもとに知識の向上を図るため、授業を受けた後に関連する記事やドキュメンタリーを見た際に理解を深めることが可能となる。すべての講義を通して私たちが住んでいる「地球」という地域の特徴を学ぶことで、今までとは違った見方で日常の風景を見ることができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。試験はポータルを使用して3回の小テストを実施し、授業内に解説を行う。小テストの実施時期については適宜授業内で通知する。小テストは十分な期間を設けて受けてもらうため、受けそびれた場合の救済策はない点に注意。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	火山や地震などの自然災害に実際に直面した際の対処方法が身に付く。					2	2	2				
②	地球環境の成り立ちを知ることで環境問題に対する意見を述べられるようになる。				2		2	2				
③	普段何気なく見ている風景や地形の成り立ちを理解することができる。						2	2				
④	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる。				2	2	2	2				
⑤	地球の成り立ちや地震・火山・地形などの地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる。				2	2	2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ポータルを使用して3回の小テストを実施する。到達目標①②③④⑤に関わる地球科学の基礎知識が身についているかを確認する。	35	10	15	20	20						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	10	15	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義（木曜3限）の後に授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17(木)	講義ガイダンス～地球の内部と表面について知ろう！～	全15回の授業で学ぶ地球内部と表面の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから地震・火山などの現象を深く学ぶための予備知識を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の事前学習に役立つ知識を身につけることができる。	
		事前学修	シラバスの中で興味のあるテーマを1つ選び、自分なりに調べてくること。	120分
		事後学修	講義の流れをノートにまとめることで講義概要をしっかりと頭に入れ、今後の講義に備えること。	120分
2	9/24(木)	地球の誕生～火の玉地球から現在の地球になるまで～	46億年前に誕生したばかりの地球は「火の玉地球」と呼ばれる高温の状態だった。「火の玉地球」から大気が存在し美しい海をたたえる現在の地球になるまでの過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、最近「はやぶさ」による小惑星探査が話題に上がっているが、なぜ小惑星が重要なのか？地球はどうやって生物が住むことのできる環境になったのか？その歴史について理解し、説明することができる。	
		事前学修	誕生したばかりの地球である「原始地球」はどのような状態だったのか調べてくること。	120分
		事後学修	地球はいかにして「現在の地球」となったのか、その過程をノートにまとめること。	120分
3	10/1(木)	地球環境の変遷～地球環境の古文書「地層」とは？～	地球の長い歴史においてその環境は劇的に変化してきた。地球環境の変化を知る鍵が地層である。地層は「地球環境の古文書」と呼ばれるほど地球環境に関する多くの情報が集まっている。地層から過去の地球の情報を取り出す方法とそれによって明らかになった地球環境の歴史について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、オーロラはどうやって発生するのか？また、「チバニアン」や「地磁気逆転」など、現在話題になっているこれらの用語について理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球の過去を知ることが出来る「地層」とは何か調べてくること。	120分
		事後学修	地層からどうやって地球環境の変遷を知ることができるのかについてノートにまとめること。	120分
4	10/8(木)	世界の大地形～地震が多いところと少ないところがあるのはなぜ？～	地図帳を開いてみると山や大きな平野など様々な地形が読み取れる。海水に覆われて普段は見ることにはできないが、実は海底の地形は複雑であり海底にも山脈が存在する。地形の形成過程を学ぶことで、地震が起こりやすい地域とそうでない地域がある理由を学修する。	
		この回の到達目標	戦国武将・武田信玄の軍旗には「動かざること山の如し」と書いてあったといわれているが、実は山はゆっくりと動いている。到達目標②③④⑤に関連して、地球内部の動きによりどのような地形が形成されるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	地殻変動とは何か、また地殻変動によりどのような地形が形成されるのか調べてくること。	120分
		事後学修	地域によって地形が異なる理由を理解するとともに、普段あまりなじみのない海底地形についてもノートにまとめること。	120分
5	10/15(木)	地球の内部構造～地球の構造は卵に似ている～	地球の内部はどうなっているのだろうか？と考えたことはあるだろうか。実は地球内部は卵の黄身・白身・殻のような層構造になっている。第4回に「地球は動く」という話をしたが、第5回では地球内部の動きについて詳しく学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、人々が魅了される美しい宝石は地球内部で作られている。地球内部の構造とその動きを知ることで宝石がどうやって生成されどこからやってくるのか理解し、説明することができる。	
		事前学修	地球の表面を覆うプレートとは何か、そしてプレートはなぜ動くのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球の内部構造を分ける2種類の方法について違いを理解し、その特徴についてノートにまとめること。	120分
6	10/22(木)	プレートテクトニクスと大陸移動説～昔大陸は1つだった～	現在地球には6つの大陸が存在するが、昔々その昔大陸は1つだった。第5回で地球内部は動くという話をしたが、この大陸の移動を引き起こしているのは「プレート」である。プレートについて正しく理解することで、ハワイ諸島が北西方向に並んでいる理由やヨーロッパのアルプス山脈誕生のメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、日本に険しい山脈が存在する理由もアイスランドで火山活動が活発な理由も全てプレートの運動によるものである。プレートについて理解することで、現在地球上で見られる地形の成り立ちについて説明できるようになる。	
		事前学修	第5回に学修した地球の内部構造をしっかりと理解し、プレートとは何かについて復習してくる。	120分
		事後学修	プレートの動きについて理解するとともに、プレートが動くメカニズムについてもノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29 (木)	地震はなぜ起こる？～日本はどうして地震が多いのか～	日本は地震大国である。世界の地震のなんと10%は日本で発生している。地震が発生した際によく耳にする「震度」や「マグニチュード」などの用語について正しい知識を見につけるとともに、地震はなぜ起こるのかそのメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、地震に慣れている私たち日本人だが、時折災害をもたらすような大きな地震を経験することがある。第8回に大地震発生時の対処法について学ぶが、今回は「大地震への対処法」をよりよく理解するためにまずは地震発生メカニズムについて学修する。	
		事前学修	海溝型地震と内陸型地震が起こるメカニズムについて調べてくること。	120分
		事後学修	地震が発生するメカニズムと日本に地震が多い理由についてノートにまとめること。	120分
8	11/5(木)	大規模地震のメカニズム～阪神・淡路大震災と東日本大震災の例から～	東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震と、阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震はともに甚大な被害をもたらした地震であるが、その発生メカニズムは異なる。この発生メカニズム違いが2つの地震における被害の違いを引き起こしており、東北地方太平洋沖地震では津波、兵庫県南部地震では建築物の倒壊が目立った。同じ地震でも被害の違いが生じる理由について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、過去に大きな被害をもたらした2つの地震についてその発生メカニズムと被害状況を学ぶことで、今後大きな地震が来た際に自分自身がどのような行動をとるべきなのかについて考えることができる。	
		事前学修	東日本大震災と阪神淡路大震災ではどのような被害が発生したのか事前に調べてくること。	120分
		事後学修	阪神・淡路大震災と東日本大震災における被害の違いについて地震発生メカニズムから説明できるようにノートにまとめること。	120分
9	11/12 (木)	火山活動～なぜ火山は噴火するのか？～	よく耳にする「活火山」とは何か？なぜ日本列島には火山が多いのか？なぜ火山は噴火するのか？火山列島である日本に住んでいる私たちが普段疑問に思っていることや火山噴火に遭遇した際に気を付ける点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、火山噴火のメカニズムや火山が噴火すると何が起きるのかを理解することで、明日起こるかもしれない火山噴火に備える知識を身につけることができる。	
		事前学修	なぜ日本列島に火山が多いのかその理由について調べてくること。	120分
		事後学修	火山国日本で火山と上手に付き合っていくために「火山はどこにでき、どうして噴火するのか」についてノートにまとめること。	120分
10	11/19 (木)	日本の火山活動と災害～雲仙岳を例に～	1990年代に噴火した長崎県島原半島に位置する雲仙岳では火砕流が発生し多くの人命が失われた。古代都市ポンペイを一瞬にして消し去ってしまったことで知られる「火砕流」の怖さについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、長崎県雲仙岳で発生した火砕流のメカニズムと被害状況を理解することで、今後火山噴火に直面した際に役立つ知識を身につけることができる。	
		事前学修	火山噴火時に発生する「火砕流」とはどのような現象であるのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	雲仙岳の噴火に伴う被害とともに、火山が噴火した際に自分の身を守るために気を付けるべき点についてノートにまとめること。	120分
11	12/3(木)	氷河地形～現在の地形を見れば昔の氷河の分布がわかる？～	1万8000年前の日本の平均気温は今よりも5℃以上低かったと考えられており、そのころには日本の山岳にも「氷河」が存在した。その証拠が日本の山に「氷河地形」として残っている。氷河とは何か？そして氷河が作り出す地形の種類と形成過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、氷河地形は「今よりもだいぶ気温が低い時代があり、その当時そこに氷河が存在した」ことを示す。氷河と氷河が作り出す地形の形成過程を学修することで、山岳に見られる地形から過去の気候変動が読み取れるという概念を理解できるようになる。	
		事前学修	迷子石・U字谷・モレーンとは何か事前に調べてくること。	120分
		事後学修	氷河地形の種類とその形成過程についてノートにまとめること。	120分
12	12/10 (木)	海洋が地球環境に果たす役割～海洋の変動が気候を決める？～	海洋の深層には2000年で地球を一巡りするゆっくりとした循環が存在し「海洋のコンベアベルト」と呼ばれている。1万2000年前に海洋のコンベアベルトの変化が地球の気候を劇的に変化させたことがわかっている。ここでは、深層循環が気候に影響するメカニズムについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④⑤に関連して、よく耳にする「氷期」とはなにか？寒い氷期が終わると地球の平均気温が上昇するのだが、その際にどのような現象が生じるのかについて理解し説明できるようになる。	
		事前学修	ヤンガードライアス期とは何かを調べてくること。	120分
		事後学修	海洋のコンベアベルトが気候に影響するメカニズムについてノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17 (木)	世界の小地形～河川がもたらす恵みと地形～	河川と人間は深いかかわりがあり、河川は文明の発展に貢献してきた。日本の河川の特徴について理解し、河川が作り出す地形と私たちの生活への影響について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、河川の水は飲料水や生活用水などに利用されるなど私たちの生活に欠かせないが、その一方で人々は洪水災害にも悩まされてきた。私たちが普段見慣れた地形の中には、実は河川の洪水により形成されたものもあるのだ。これらの知識を学修することで、河川がもたらす恩恵と河川が作り出す地形について深く理解できるようになる。	
		事前学修	日本と世界の河川の特徴を比較するとともに、河川が作る地形の中で自分が興味のあるものを選びその形成過程についても調べてくること。	120分
		事後学修	日本の河川の特徴と河川地形についてしっかりと理解するとともに、河川が私たちに与える影響についてもノートにまとめること。	120分
14	12/24 (木)	砂漠とは何か?～砂がなくても「砂漠」です!～	「砂漠」には「砂」という文字が含まれているが、実は砂漠の定義は「砂があること」ではない。砂漠の定義から、砂漠の気温の日変化や砂漠の空気から水分を取り出す方法など砂漠に関する豆知識も含めて「砂漠とはなにか」を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、砂漠の正しい定義となぜそこに砂漠が存在するのかその形成メカニズムを学修するとともに、日本でも見られる砂丘と砂漠の違いについて理解することができる。	
		事前学修	砂漠の定義と、砂漠と砂丘の違いについて調べてくること。	120分
		事後学修	砂漠が形成されるメカニズムについてノートにまとめること。	120分
15	1/14(木)	講義のまとめ～安全に地球に住むために私たちが気を付けること～	第2回～第14回の講義の復習を行う。全講義の中で学生さんから質問やコメントが多かった内容について重点を置いて復習を行うとともに、必要に応じて追加情報も織り込むことでさらなる知識の向上を図る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全ての講義内容について通して復習することで各回で学んだ知識を体系化することが可能となり、地震や火山噴火などの自然災害に直面した際に自分の身を守る手段として活用できるようになる。	
		事前学修	第2回～第14回について通して復習し、一番興味があったことや疑問に思うことをまとめてから講義に臨むこと。	120分
		事後学修	現在の地球がどのようにして成り立ったのかをよく理解することで、地震や火山噴火などの災害時に自分がどのように対応したら良いのかについて考えること。	120分

科目名	地理学Ⅰ	担当者	小倉 眞	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地理学の主要な分析視点である「空間」の概念と社会的展開の関係、また自然環境と社会との関係について学修する。具体的には空間認識としての地図（地形図等）の特徴と利用，世界の気候を中心とする自然環境と地域的特色や人口支持力、人口偏在と経済開発・経済発展の関係、工業資源の偏在と世界の工業立地、日本の自然的特徴と工業開発などについて具体的事例を踏まえながらその分析方法や理論的整理について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会は地域空間の中で成立・展開していることを理解し、その基本的構造について分析する過程において「地域的展開」の特徴や問題点などを発見し位置づけることができるようになることを目的としている。特に自然的条件と多様な社会の展開について整理すると共に、そのメカニズムについて理解し、それについての確に説明できるようになることを授業の目標としている。

【履修条件】
特になし。なお受講者数多い場合は受講制限をすることがある。

【授業方法】
テキストを参照しつつ基本的には講義方式で進めるが、プリントの配布によりテキスト以外の内容についても採り上げる。レポートの提出、また講義中に小テストを実施することがある。発問について考えたり、議論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出と講評、課題に関する議論を行う。またピア・レビューを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	空間の概念と社会的展開の関係や、自然環境と社会との関係について論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	①に関連して地形図読図の基礎を修得することによって、地域空間の展開論理について理解し、その特質について説明することができる。						2	2						
③	①に関連して人口と食料支持力の関係や資源偏在と工業立地との関係などについて理解し、それらに関する自らの見解を説明することができる。							2	2	2				
④	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が到達できているかについて、論述式試験（参照不可）により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもある。	30	20	10	10							70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、第3回は到達目標①にかかわる地理的表現方法が理解できているか、第13回は到達目標②にかかわる地理的理解ができているかについて評価する。	5	5									10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③及び④に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。			10	10							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内でのレポート内容についての講評、また試験についてはポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
世界を読む	青木・北村 著	原書房	2010	教科書	必携
人文地理学	竹中・大城等 編著	ミネルヴァ書房	2013	参考書	推奨
備考	地図帳を用意する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 水曜日12:10-13:00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441研究室） ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 水4/8 木4/9 第二部 水4/8	地理学の歴史と学問的特徴	地理学の発展過程を整理すると共に、学問的特徴としての「自然と社会との関係」について探究することを目的としていることを理解する。	
		この回の到達目標	社会科学としての地理学について理解し、その概要について説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	地理学とくに人文地理学の研究分野にどのような内容のものが含まれているか調べ、その項目を列記してみる。	120分
		事後学修	配布プリントを読み、講義時に取ったノートを整理する。	120分
2	第一部 月4/13 水4/15 木4/16 第二部 水4/15	地域の把握方法（等質地域・機能地域）	地域の単位の把握方法として、行政区ではなく景観や機能に基づいて区分する意義について考察する。	
		この回の到達目標	地域区分方法の相違や特質について理解し、説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	テキストの対象ページを熟読し、地域区分方法の相違・特徴について考えてみる。	120分
		事後学修	地域区分について具体的インデックスをたて区分してみる。	120分
3	第一部 月4/20 水5/22 木4/23 第二部 水4/23	世界全図の特徴と種類	球体の地球を平面図に描くには様々な方法があり、それぞれの目的をもって表現されている。その種類と特色について考察する。内容の理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	メルカトル図など具体的な世界全図の作成と目的を理解し、世界の広がりや位置関係についての確に説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	世界全図の種類や特徴についてテキスト及び配布プリントを利用して検討する。	120分
		事後学修	世界全図の使用目的を設定し、それに合った図法を整理する。	120分
4	第一部 月4/27 水4/29 木4/30 第二部 水4/29	地域空間の展開を具体的表現する地形図の読図方法	地域空間の諸相を表現する手法の一つとして地形図があるが、その読図方法について修得する。	
		この回の到達目標	地形図の読図と利用について理解し、具体的には扇状地地域の地形や土地利用について判読できる。（関連SB0s③）	
		事前学修	地形図からどのようなことに読み取れるか、等高線の特徴や地図記号について調べる。	40分
		事後学修	与えられた地形図を作業し、そこから何が読み取れるか整理する（レポートを作成する）	210分
5	第一部 月5/4 水5/6 木5/7 第二部 水5/6	地形図判読の結果について発表・議論する	各自が作業し、レポートを作成した内容についてピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	地形図の読図と利用について理解し、読図結果についての確に説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	地形図を作業し、読図内容についてまとめる。	180分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分
6	第一部 月5/11 水5/13 木5/14 第二部 水5/13	気候区形成のメカニズム	世界の各地域に展開する気候形成について整理し、その原理を考察する。	
		この回の到達目標	気象現象のメカニズムと世界に展開する地域的特徴の概要を説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	世界における気候区にはどのような種類があるのか調べ、その特徴と相違についてまとめる。	120分
		事後学修	気象現象のメカニズムについて検証し、「地域と気候」についてのマトリックスを作成してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 水5/20 木5/21 第二部 水5/20	サバンナ気候区の特徴と環境問題、及び地中海式気候区と農業	サバンナ気候地域の分布と自然的・社会的特徴や環境問題、また地中海式気候の特徴について考察する。	
		この回の到達目標	2つの気候区を事例として、そこで展開する生産構造や社会的特徴について整理し、的確に説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	サバンナ気候地域の分布や地中海式気候区地域における土壌・植生等について調べる。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
8	第一部 月5/25 水5/27 木5/28 第二部 水4/17	世界の人口分布の偏在性とその要因	世界人口の偏在について、その状況や要因を考える。	
		この回の到達目標	世界人口の現状を把握し、発展途上国と先進国のそれぞれについての展開特性を的確に説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	プリントを利用して大陸別の人口数や、人口増加率、人口ピラミッドの特徴について整理する。	100分
		事後学修	ノートを整理し、人口偏在の状況やその特質について要約（文章化）してみる。	140分
9	第一部 月6/1 水6/3 木6/4 第二部 水6/3	人口の偏在と食料供給力	人口の偏在性がなぜ生起するかについて食料供給力の観点から考察する。	
		この回の到達目標	食料供給力の分析指標を整理し、その形成要因についての的確に説明することができる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	ヨーロッパの農法とアジア式農法の相違・特徴について調べる。	60分
		事後学修	食料需用の相違や土地利用効率の特徴等について、農法や生産作物が持つ特質の観点から整理する。（「ヨーロッパとアジアの農法と生産力の関係」についてレポートを作成する）	200分
10	第一部 月6/8 水6/10 木6/11 第二部 水6/11	日本の農業生産システムと農村社会	水田農業を中心とする農村について、水利システムと社会的紐帯について考察する。	
		この回の到達目標	日本農村の生産システムの特徴を水利システムの特徴から理解し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	水田農業と水利との関係についての概要を調べてみる。	60分
		事後学修	ノートを整理し、農村社会の特徴について整理しその概要を文章化してみる。（作成は必須）	180分
11	第一部 月6/15 水6/17 木6/18 第二部 水6/17	日本農村の特質と現代工業社会との関係について議論する	各自が要約し文章化した内容、及び現代工業社会との関係についてピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	日本農村の特質について整理し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	日本農村の特質等についてまとめた内容を再度確認し、これと日本社会の特徴についての考えを整理する。	150分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	90分
12	第一部 月6/22 水6/24 木6/25 第二部 水6/24	工業資源の偏在と工業立地	世界のける工業資源の偏在状況を整理し、工業立地と立地移動について考察する。	
		この回の到達目標	世界における工業資源の偏在と工業立地（事例：鉄鋼工業、石油関連工業）について客観的に分析し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	プリントを参照して、主な工業資源の分布状況について、国別の産出量（特に主要工業原料）を中心に整理する。	120分
		事後学修	各工業部門の特質と立地との関係について、講義内容をまとめ復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 水7/1 木7/2 第二部 水7/1	イギリス産業革命期の繊維工業の立地と自然的条件	工業化草創期の工業立地の特色について分析し、工業立地と自然条件との関係について考察する。理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	イギリスの綿織物工業を事例として、工業立地と技術革新の基本的原理について理解し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	イギリスの工業分布と綿花の調達先、地形・降水の特徴などについて調べる。	90分
		事後学修	工業の発達と技術・資本・需要との関係について整理し、その要点を文章化してみる。	150分
14	第一部 月7/6 水7/8 木7/9 第二部 水7/8	日本の工業の発達と立地移動	日本の工業が高度経済成長期を通じて大きく発展した要因・特徴について考察する。	
		この回の到達目標	日本の工業発達過程を理解し、日本の工業立地の特色などについて、論理的に説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	戦前・戦後の工業内容について整理し、また今日における工業立地の特徴について調べる。	120分
		事後学修	臨海立地型と工業構造、また今日における内陸工業立地の状況について整理し、工業立地の特徴・変容について整理する。	120分
15	第一部 月7/13 水7/15 木7/16 第二部 水7/15	試験と振り返り	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②③を評価するための出題に対し、十分解答することができる。SB0s④にあるような振り返りを行い、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	テキストやプリントに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	テキストやプリントを見ながら、答案の自己評価をする。本講義での学びを振り返る。	40分

科目名	地理学Ⅱ	担当者	小倉 眞	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
地理学の主要な分析視点である「空間」の概念と社会的展開の関係、また自然環境と社会との関係について学修する。特に地域構造の視点から世界および日本の地域的特色、歴史的発展過程などを中心として都市と農村、中央と地方の関係を整理し、地域の構造問題について具体的事例を挙げながら生活・生産の場としての地域の社会的意義について、受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会は地域空間の中で成立・展開していることを理解し、その基本的構造について分析する過程において「地域的展開」の特徴や問題点などを発見し位置づけることができるようになることを目的としている。特に多様な社会の展開について整理すると共に、そのメカニズムについて理解し、それについての確に説明できるようになることを授業の目標としている。

【履修条件】
特になし。なお受講者数が多い場合は受講制限をすることがある。

【授業方法】
テキストを参照しつつ基本的には講義方式で進めるが、プリントの配布によりテキスト以外の内容についても採り上げる。レポートの提出、また講義中に小テストを実施することがある。発問について考えたり、議論したりする時間も設けたい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 レポート提出と講評、課題に関する議論を行う。またピア・レビューを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	空間の概念と社会的展開の関係や、自然環境と社会との関係について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①に関連して日本の自然的特色、農村の立地過程、都市の基本構造、日本の地域構造などについて理解し、それらに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が到達できているかについて、論述式試験(参照不可)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもある。	30	20	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、第3回は到達目標①にかかわる地理的理解ができているか、第8回は到達目標②にかかわる地域構造について理解・説明ができているかについて評価する。	5	5									10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内でのレポート内容についての講評、また試験についてはポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
世界を読む	青木・北村 著	原書房	2010	教科書	必携
人文地理学	竹中・大城等 編著	ミネルヴァ書房	2013	参考書	推奨
備考	地図帳を用意する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 水曜日12:10-13:00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441研究室） ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14 水9/16 木9/17 第二部 水9/16	日本の自然的特色	日本の自然的特色について地帯構造・地形の特徴・河川形態・気圧配置などを整理し、「災害大国日本」の意味を考察する。	
		この回の到達目標	列島国家の国土構造、特に地形的特色などを整理し、大陸国との相違などについての的確に説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	日本の自然的特徴について、北海道・本州・九州など各地域に分けて調べてみる。	120分
		事後学修	配布プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	第一部 月9/21 水9/23 木9/24 第二部 水9/23	日本の空間的広がり（海洋面積）の特徴	国連海洋法条約に基づく海域の設定方法と特色について地理学視点から整理する。	
		この回の到達目標	基線の設定方法、湾・入り江・河川などの規定、排他的経済水域と大陸棚の認定方法などについて理解し、説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	プリントを見て日本の海域・国土の配置などの状況について整理する。	120分
		事後学修	通常基線・直線基線設置の概要や、大陸棚の持つ意味（特に水産資源・海底資源（油田）等との関係）について復習する。	120分
3	第一部 月9/28 水9/30 木10/1 第二部 水9/30	日本の村落立地と農村の発展過程	日本の村落・農村に関して、条里制村落や近世農村の空間的配置や集落の機能について考察する。内容の理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	律令国家の基盤をなす条里制村落の構造、また近世農村の特質などについて客観的に整理し、その特徴を説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	条里地割と地域的展開地域、および近世農村の構造（ムラ・ノラ・ヤマ）について調べてみる。	120分
		事後学修	条里区割りと村落の単位、また近世農村における採草地や入会地の機能や役割について、講義内容をまとめ、農村の基本構造について検証する。	120分
4	第一部 月10/5 水10/7 木10/8 第二部 水10/7	日本の都市化の特徴と問題	都市化の定義および急速な都市化過程と行政施策の対応について考察する。	
		この回の到達目標	日本の都市過程と都市計画法（市街化区域設定）、農地法との関連について理解し、端的に説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	日本の都市化と都市計画法との関連について調べる。	90分
		事後学修	「都市化とスプロールの乱開発」について整理し、その問題点についてまとめる。	150分
5	第一部 月10/12 水10/14 木10/15 第二部 水10/14	田園都市構想とニュータウン建設	急速な都市化とその対応として、イギリスで展開した大ロンドン計画や田園都市構想などの意義、及びそれらに基づいて建設されたニュータウン計画について考察する。	
		この回の到達目標	イギリスで構想された都市計画の視点、これを受けて実施されたニュータウン計画について、日本の都市化と対比して、相違や特徴、都市社会の在り方などについての的確に説明できる。（関連SB0s②③）	
		事前学修	ハワードの「田園都市構想」の内容について事前に調べ、その特徴について整理してみる。	40分
		事後学修	「イギリスの都市計画とスプロールの乱開発が展開した日本の都市計画」について整理しレポートを作成する。	210分
6	第一部 月10/19 水10/21 木10/22 第二部 水10/21	発展途上国の都市問題と先進国の都市問題に関する議論	都市化の状況についてプッシュ要因とプル要因に分けて整理し、スラムスコッターの形成や都市構造の特徴についての整理に基づいて、ピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	経済発展の差異と都市構造の特徴について整理し、その特質について説明・議論ができる。（関連SB0s②③）	
		事前学修	発展途上国と先進国の都市形態などについて調べ、その概要について要約文章つくる。（文章作成は必須）	200分
		事後学修	作成した文章の内容が適切であったか、他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 水10/28 木10/29 第二部 水10/28	都市の内部構造と都市機能配置	都市機能の発達とともに、都市内部に諸機能がどのように配置されていくのかについての学説を整理し、その問題点などについて考察する。	
		この回の到達目標	都市内部の発展過程と都市の性格・特徴との関係について位置づけ、都市構造の概要について説明できる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	テキスト・プリントに基づいて、現代都市にはどのような機能が備わっているか、その項目・内容を整理する。	100分
		事後学修	講義内容を整理し、バージェスの同心円論と多核心モデルなどについて都市の機能配置の視点から検証する。また、都市で生起している「住み分け現象」の意味・内容について復習する。	140分
8	第一部 月11/9 水11/11 木11/5 第二部 水11/11	東京の発達史と都市構造	江戸・東京の都市構造（坂の町）を大坂（橋の町）と対比し、その特徴について考察する。内容の理解に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	江戸の都市構造の変容を整理し、都市の立地場所の特徴や現在の都市構造の特徴を理解し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	東京の立地場所（洪積台地と沖積低地）と機能の配置、また大阪の立地場所（淀川三角州）について地図で確認し、都市の特徴について調べる。	120分
		事後学修	講義内容を整理し都市機能の配置についてまとめるとともに、とくに玉川上水建設と江戸の配水機能などについて検証する。	120分
9	第一部 月11/16 水11/18 木11/12 第二部 水11/18	現代東京の都市構造と首都機能	世界都市としての東京の機能配置や都市構造の特徴について考察する。	
		この回の到達目標	一極集中化する東京の諸機能（行政・オフィス・小売業）の配置、拡大・高度化などの実態について客観的に整理し、都市構造の特色についての的確に説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	東京の都心域と副都心の分布、機能の相違について調べる。	120分
		事後学修	東京の都市機能の高度化・拡大と分散化について整理し、とくに湾岸地域の発展過程について検証する。	120分
10	第一部 月11/23 水11/25 木11/19 第二部 水11/25	複核構造（大阪・京都・神戸）の近畿圏	3都市がそれぞれの機能を高度化し、大きな都市圏を形成する近畿圏について、その結びつきの構造を考察する。	
		この回の到達目標	極めて特徴的な機能分布をする近畿圏の「都市間連携」について、地理学的視点から整理し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	大坂・京都・神戸の3都市について、都市の位置と鉄道などの交通網、それぞれの都市機能の特徴などを調べる。	120分
		事後学修	3都市の独立性と依存性に関して整理し、都市間交流と機能拡大について検証する。	120分
11	第一部 月11/30 水12/2 木12/3 第二部 水12/2	多角的産業都市としての名古屋圏	機械組立工業を中心として工業・商業などの分散立地と都市機能の高度化について考察する。	
		この回の到達目標	経済機能の拡大を通して都市間の機能分化が進展する名古屋圏について分析し、経済機能と都市機能との関係について理解し、説明することができる。（関連SB0s②③）	
		事前学修	名古屋・四日市・豊田・一宮・春日井などの諸都市について位置、経済機能の特色などを調べる。	50分
		事後学修	名古屋経済圏の特徴を整理するとともに、「東京・大阪・名古屋の都市構造・経済構造の特色」についてまとめる。（レポートを作成する）	210分
12	第一部 月12/7 水12/9 木12/10 第二部 水12/9	3大都市と都市圏の特徴に関するレポートの発表と議論	3大都市の特徴について作成したレポートの内容についてピア・レビュー方式により議論する。	
		この回の到達目標	大都市（圏）のそれぞれの特徴を整理・理解し、都市の展開メカニズムの基礎について説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	「東京・大阪・名古屋の都市構造・経済構造の特色」について作成したレポートを確認し、発表・討論の準備をする。	200分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 水12/16 木12/17 第二部 水4/16	北陸地方の経済（地方経済圏）と地域構造	大都市圏の周辺地域に位置する北陸地方の経済機能と地域構造について考察する。	
		この回の到達目標	地方経済圏の北陸地方における工業立地（薬・アルミ・メガネ・伝統産業等）の内容、また地方都市のコンパクトシティー化など特徴ある地域展開を示す北陸地方に関して地域構造の視点から整理し、説明できる。（関連SB0s①②③）	
		事前学修	北陸地方の自然的特徴と、福井県・石川県・富山県の主な工業内容について調べる。	120分
		事後学修	講義内容をまとめ、北陸の地域性と経済に関して、要約文としてまとめてみる。	120分
14	第一部 月12/21 水12/23 木12/24 第二部 水12/23	東北経済圏の地位と地方中核都市への機能集中化	東北6県の農業・工業（特に福島県・宮城県）などの経済展開、及び地方中核都市としての仙台の地位に関して考察する。	
		この回の到達目標	地方経済の衰退と地方中核都市への経済的・人的集中のメカニズムについて理解し、説明することができる。（関連SB0s①②）	
		事前学修	東北地方と仙台の結びつき（交通・商業・人的移動等）と、仙台経済圏形成について調べる。	120分
		事後学修	東北地方の地域的特徴を整理し、地域活性化には何が有効か、考えをまとめてみる。	120分
15	第一部 月1/18 水1/13 木1/14 第二部 水1/13	試験と振り返り	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分解答することができる。SB0s③にあるような振り返りを行い、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	テキストやプリントに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	テキストやプリントを見ながら、答案の自己評価をする。本講義での学びを振り返る。	40分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験実施後、解説・講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	教科書	推奨
備考	上記教科書のみ筆記試験で持ち込み可とするが、教科書の内容だけでは合格点に達する答案を準備できない点に十分注意すること。				

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7木4/9 土4/4	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
2	第一部火 4/14木 4/16土 4/11	「人間らしさ」とは——心と身体をめぐって	前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を心と身体という点から考える。	
		この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を心と身体という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
		事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、心と身体という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかについて、その意味を心と身体という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	第一部火 4/21木 4/23土 4/18	哲学的人間観の諸相	デカルトとニーチェ、この二人の哲学者を通して、哲学的人間観の代表的な諸相を比較、検討する。	
		この回の到達目標	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	デカルトやニーチェとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	第一部火 4/28木 4/30土 4/25	「私」という存在	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり（je pense donc je suis）」という命題について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	デカルトの哲学、とくに「われ思う、ゆえにわれあり」という命題の意味を調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	第一部火 5/5木5/7 土5/2	人間はどこまで動物か	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を考える。	
		この回の到達目標	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	人間と動物との違い、心や利害意識、言語能力とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	動物における心や利害、言語能力の有無について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	第一部火 5/12木 5/14土 5/9	人間らしさの基準とは	人間存在に固有の言語と認識能力について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	言語とは、認識とは何かについて思い、考えることを整理しておくこと	90分
		事後学修	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19木 5/21土 5/16	人類（ホモ・サピエンス）の「心」の歴史	人類の心の歴史をたどりながら、動物の行動と人間の行動を比較し、その違いについて考える。	
		この回の到達目標	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ヒト（ホモ・サピエンス）の誕生について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
8	第一部火 5/26木 5/28土 5/23	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて考える。	
		この回の到達目標	人間と機械や動物との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて、その意味をノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	人間と機械や動物との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	120分
9	第一部火 6/2木6/4 土5/30	心と身体の違いについて――デカルトをめぐる	デカルトに始まる身心問題の歴史的背景を確認し、その意味について考える。	
		この回の到達目標	デカルトに始まる身心問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	心（精神）と身体（肉体）と物質の違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトに始まる身心問題について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
10	第一部火 6/9木 6/11土 6/6	心と身体との接点について――デカルトを超えて	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	心（精神）と身体（肉体）や物質とはどうつながるのかについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
11	第一部火 6/16木 6/18土 6/13	「生きられる身体」としての自己の身体へ	物体存在ではない、内面としての「私」によって裏打ちされた身体のあり方について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	物質と身体（肉体）との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
12	第一部火 6/23木 6/25土 6/20	「世界内存在」としての身体――表現、表情をめぐる	身体の実現や表情という点から自己と他者との関係性について考える。	
		この回の到達目標	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	表情や表現とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30木 7/2土 6/27	「身体図式」とは一身体行動のなりたちをめぐって	感覚連合説の難点とゲシュタルトとしての「身体図式」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	幻影肢という現象、ゲシュタルトという概念とはどういうものを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
14	第一部火 7/7木7/9 土7/4	生きられた世界―日常生活へと巻き戻して	日常生活で経験される世界のありように照らし合わせ、フッサールの「生活世界」の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	生活世界と科学的、客観的な世界観との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったのかを調べておくこと。日常生活の世界と科学的世界観との違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	生活世界と科学的、客観的な世界との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
15	第一部火 7/14木 7/16土 7/11	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。定期試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。	
		この回の到達目標	人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間と機械や動物との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	筆記試験への準備も含め、人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	180分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋思想の要諦周覧	嘉吉純夫・斎藤隆	北樹出版	1994	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 木4/9	ガイダンス 哲学について	授業計画や評価方法などの説明。 「哲学とは何か」「哲学はいつ始まったのか」という問題を考える。	
		この回の 到達目標	哲学という学問について理解する。	
		事前学修	このシラバス全体を読み、教科書を使って授業の概要を理解する。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
2	第一部 第二部 木4/16	哲学史観について	アリストテレスの哲学史観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	哲学の歴史について理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
3	第一部 第二部 木4/23	哲学の始まり (1)	ミレトス派の自然観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	最初の哲学と言われているミレトス派の人々の哲学を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
4	第一部 第二部 木4/30	哲学の始まり (2)	ピュタゴラスとヘラクレイトスの自然観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	ミレトス派に続いて登場したピュタゴラスとヘラクレイトスの哲学を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
5	第一部 第二部 木5/7	哲学の新たな展開	エレア派の考え方を学ぶ。	
		この回の 到達目標	エレア派の哲学がそれまでの哲学とどのように異なるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
6	第一部 第二部 木5/14	エレア派の影響	エンペドクレスとアナクサゴラスの自然観を学ぶ。	
		この回の 到達目標	エレア派の哲学がその後の哲学にどのように影響したかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 木5/21	原子論の成立	レウキッポスとデモクリトスの原子論を学ぶ。	
		この回の到達目標	エレア派の哲学と原子論の関係を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
8	第一部 第二部 木5/28	自覚的な哲学者の登場	ソフィストとソクラテスの思想を学び、哲学者とは何かを考える。	
		この回の到達目標	ソフィストとソクラテスの考え方や生き方の違いを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
9	第一部 第二部 木6/4	イデア論	プラトンがなぜイデア論を唱えるようになったかを考える。	
		この回の到達目標	プラトンのイデア論を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
10	第一部 第二部 木6/11	プラトン哲学	プラトンのイデア論に基づく世界観を学ぶ。	
		この回の到達目標	イデア論の基づくプラトンの哲学を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
11	第一部 第二部 木6/18	アリストテレス哲学（1）	アリストテレスの世界観を学ぶ。	
		この回の到達目標	アリストテレス哲学における世界観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
12	第一部 第二部 木6/25	アリストテレス哲学（2）	アリストテレスの人生観を学ぶ。	
		この回の到達目標	アリストテレス哲学における人生観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 木7/2	ヘレニズム時代の哲学(1)	エピクロスの快楽主義を学ぶ。	
		この回の到達目標	エピクロスの快楽主義とその背後にある世界観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
14	第一部 第二部 木7/9	ヘレニズム時代の哲学(2)	ストア派の禁欲主義を学ぶ。	
		この回の到達目標	ストア派の禁欲主義とその背後にある世界観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
15	第一部 第二部 木7/16	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
		この回の到達目標	この授業全体を振り返って、古代ギリシア哲学の概要と主要な学説を理解する。	
		事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
		事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	江川 晃	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
教科書とプリントによる講義。感想・意見・質問ペーパーを講義の最後に提出のこと。次回、それをもとに対話をしながら授業を進めていきたい。哲学レポートの書き方も指導します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、出席票の裏に質問・意見・感想等を記入すること。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2			
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文書プリント、パワポプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日1限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	「哲学」という語が、日常使われる場合と学問として使われる場合の相違に関して考えてみる。 なぜ人類にとって、哲学が必要なのかを考えてみる。 前期・後期の内容を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①についてスケッチを描けるようになる。	
		事前学修	シラバスを読んでこよう。	120分
		事後学修	配布プリントの復習。	120分
2	4/17	「哲学」とは何か	日本において「哲学」という語がいつできたか。 それは何を意味したのか。	
		この回の到達目標	「哲学」という語の語源と意味を理解する。	
		事前学修	プリントを読んでくること。	120分
		事後学修	「哲学」という語の語源と意味を復習する。	120分
3	4/24	ギリシアの自然哲学1	ミレトス学派とピュタゴラス学派、ヘラクレイトスとパルメニデス学派の相違。	
		この回の到達目標	自然哲学とは何かについて理解する。	
		事前学修	プリントを読んで、ギリシアの自然哲学の流れを把握してくること。	120分
		事後学修	哲学発生の意義の理解。	120分
4	5/1	ギリシアの自然哲学2	エンペドクレスの生きる自然とデモクリトスの死せる自然	
		この回の到達目標	到達目標③各思想の対比。	
		事前学修	プリントを読んでく、エンペドクレスの意義について把握してること。	120分
		事後学修	タレスからデモクリトスまでの流れを理解する。	120分
5	5/8	ソクラテス	ソクラテスの対話の真意とは何か。	
		この回の到達目標	到達目標②ソクラテス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	ソクラテスについてのプリントを読んでくること。	120分
		事後学修	ソフィスト、徳の定義について把握。	120分
6	5/15	プラトン	プラトンの想起説と魂の不死。	
		この回の到達目標	到達目標②プラトン哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プラトンについての配布プリントを読んでくること。	120分
		事後学修	「イデア」を具体的に説明できるように復習しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	アリストテレス	アリストテレスの自然学と形而上学	
		この回の到達目標	アリストテレス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	アリストテレスとは誰だ。	120分
		事後学修	「存在論」とは何か。	120分
8	5/29	科学革命	コペルニクス・ケプラー・ガリレオ・ニュートンの反アリストテレス主義。	
		この回の到達目標	科学革命における宗教・哲学・科学について関連させ説明できる。 到達目標③科学革命における自然哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	天動説と地動説を調べる。	120分
		事後学修	科学革命の構造の理解。	120分
9	6/5	デカルトの哲学	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」	
		この回の到達目標	到達目標②デカルト哲学の立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プリントを読んでもくること。	120分
		事後学修	デカルトの「精神と物質の二元論」を説明できるようにしておこう。	120分
10	6/12	F. ベーコン	種族イドラ・洞窟のイドラ・市場のイドラ・劇場のイドラ	
		この回の到達目標	到達目標②ベーコンの経験論の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プリントを読んでもくること。	120分
		事後学修	「イドラ」とは何かを説明できるように復習しよう。	120分
11	6/19	カント	カントの哲学	
		この回の到達目標	到達目標②カント哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	「コペルニクスの転回」とは何か。	120分
		事後学修	「純粋理性」とは。	120分
12	6/26	キルケゴール 1	キルケゴールの実存主義	
		この回の到達目標	到達目標②キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	レギーネとの恋物語について調べていこう。	120分
		事後学修	「血の騒ぐもの」と「実存」	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	キルケゴール 2	実存の三段階(美的実存・倫理実存・宗教実存)	
		この回の到達目標	キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	実存の進化。	120分
		事後学修	人生にとっての「挫折」の意義を考えよう。	120分
14	7/10	哲学のレポート	哲学レポートの書き方(まとめ)	
		この回の到達目標	哲学のレポートを書き方を理解する。	
		事前学修	どのレポート課題を選択するか考えてこよう。	120分
		事後学修	書き始める。	120分
15	7/17	レポート提出 まとめ	授業補足と前期レポート提出	
		この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	完成させる。	120分
		事後学修	反省。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評・解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験実施後、解説・講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	教科書	推奨
備考	上記教科書のみ筆記試験で持ち込み可とするが、教科書の内容だけでは合格点に達する答案を準備できない点に十分注意すること。				

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15木 9/17土 9/19	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め、履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
2	第一部火 9/22木 9/24土 9/26	「人間らしさ」とは一時間と死をめぐって	前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を時間と死という点から考える。	
		この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を時間と死という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
		事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、時間や死という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかという意味について、時間と死という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	第一部火 9/29木 10/1土 10/3	時間とは何か	時間（現在・過去・未来）の存在の不思議さとその意味について考える。	
		この回の到達目標	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	時間の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	第一部火 10/6木 10/8土 10/10	時間の見方——アリストテレスとアウグスティヌスをめぐって	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論を比較し、その違いの意味について考える。	
		この回の到達目標	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	アリストテレスやアウグスティヌスとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	第一部火 10/13木 10/15土 10/17	現象学の視点——フッサールをめぐって	フッサールをはじめとする現象学の時間論を考察する準備として、「現象学的還元」という方法の意味について考える。	
		この回の到達目標	「現象学的還元」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	「現象学的還元」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	第一部火 10/20木 10/22土 10/24	「内的時間意識」の諸相——フッサールの時間論をめぐって	フッサールの時間論の「把持」と「予持」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	フッサールの時間論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27木 10/29土 10/31	積み重なる時間——メルロ＝ ポンティをめぐって	メルロ＝ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	メルロ＝ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	メルロ＝ポンティとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	メルロ＝ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
8	第一部火 11/10木 11/5土 11/7	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について考える。	
		この回の 到達目標	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
9	第一部火 11/17木 11/12土 11/14	死とは——人間と死	人間存在と死の問題の関係について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	人間存在と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	生と死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	人間存在と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
10	第一部火 11/24木 11/19土 11/21	魂は不死なのか	形而上学的不死思想（プラトンなど）について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	形而上学的な死生観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	死後の世界、魂の不死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	形而上学的な死生観について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
11	第一部火 12/1木 12/3土 11/28	死は悪なのか	非形而上学的死生観（エンペドクレス、ソクラテスなど）について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	死の善と悪について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	死の悪について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	死の善と悪について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
12	第一部火 12/8木 12/10土 12/5	死と時間——エピクロスを めぐって	エピクロスの死生観を確認し、死と時間意識の関係について、その意味を考える。	
		この回の 到達目標	死と時間意識の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	死と時間の関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	死と時間意識の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15木 12/17土 12/12	死と存在——ハイデガーをめぐって	ハイデガーの存在論にとっての死の問題の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	存在論と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ハイデガーとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	存在論と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
14	第一部火 12/22木 12/24土 12/19	時間と運命——ハイデガーの時間論をめぐって	ハイデガーの時間論における「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	運命や縁の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
15	第一部火 1/12木 1/14土 12/26	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。定期試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。	
		この回の到達目標	人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	筆記試験への準備も含め、人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋思想の要諦周覧	嘉吉純夫・斎藤隆	北樹出版	1994	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 木9/17	ガイダンス 近代哲学について	授業計画や評価方法などの説明。 哲学は近代になって西ヨーロッパで大きく変化した、その変化とその影響について考える。	
		この回の到達目標	近代哲学は新たなものとして西ヨーロッパで生まれ、その後「近代化」の名のもとに全世界に大きな影響を与えたことを理解する。	
		事前学修	このシラバス全体を読み、教科書を使って授業の概要を理解する。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
2	第一部 第二部 木9/24	近代哲学成立の歴史的背景	中世の崩壊と宗教改革、およびルネッサンスについて学ぶ。	
		この回の到達目標	どのような歴史的経緯を経て、西ヨーロッパで近代哲学が生まれたかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
3	第一部 第二部 木10/1	「科学革命」の時代	17世紀の西ヨーロッパで世界観が大きく変化したことを学ぶ。	
		この回の到達目標	17世紀の西ヨーロッパで生まれた近代哲学が「新しいもの」であることを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
4	第一部 第二部 木10/8	デカルト哲学の原点	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」という言葉が何を意味するかを考える。	
		この回の到達目標	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」の哲学的な意味を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
5	第一部 第二部 木10/15	デカルトの世界観	デカルトの物心二元論の世界観とその問題点を考える。	
		この回の到達目標	デカルトの物心二元論の世界観の内容を理解し、そこに心身問題があることを理解する。また、その心身問題をスピノザが心身並行論で解決しようとしたことも理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
6	第一部 第二部 木10/22	ホッブズ哲学	ホッブズの唯物論的な世界観と社会契約説を学ぶ。	
		この回の到達目標	ホッブズの世界観と国家観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 木10/29	ロックの認識論	ロックの経験主義に基づく認識論を学ぶ。	
		この回の到達目標	経験主義に基づくどのような認識論が成立するかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
8	第一部 第二部 木11/5	バークリーとヒュームの認識論	経験主義に基づく認識論を徹底させたバークリーとヒュームの認識論を学ぶ。	
		この回の到達目標	経験主義に基づいて認識論を徹底するとどうなるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
9	第一部 第二部 木11/12	フランス啓蒙主義と産業革命	フランス啓蒙主義について学び、それと産業革命との関係を考える。	
		この回の到達目標	フランスに始まる啓蒙主義の思想とはどのようなものであり、それが産業革命とどのような関係にあるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
10	第一部 第二部 木11/19	カントの認識論	ロックらのイギリス経験主義の認識論の問題を踏まえながらも、デカルトらの理性主義（合理主義）も継承したカントの認識論を学ぶ。	
		この回の到達目標	人間の認識の成立には、経験だけではなく、経験に基づかないもの（アプリアリなもの）をも必要とすることを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
11	第一部 第二部 木12/3	カントの道徳論	カントの幸福主義批判と彼の「義務」に基づく道徳論を学ぶ。	
		この回の到達目標	カントが幸福主義を批判した理由と「義務」を尊重した理由を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
12	第一部 第二部 木12/10	ヘーゲル哲学	ヘーゲルの観念論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。	
		この回の到達目標	ヘーゲルの「絶対者」と弁証法を理解し、それらに基づく歴史観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 木12/17	マルクス哲学	マルクスの唯物論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。	
		この回の到達目標	ヘーゲルから弁証法を継承しながらも、ヘーゲルとは異なり唯物論を唱えたマルクスの歴史観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
14	第一部 第二部 木12/24	サルトルの実存主義	サルトルの「実存は本質に先立つ」「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味を考え、実存主義に基づく人生観を学ぶ。	
		この回の到達目標	サルトルの実存主義に基づく人生観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
15	第一部 第二部 木1/14	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
		この回の到達目標	この授業全体を振り返って、古代ギリシア哲学の概要と主要な学説を理解する。	
		事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
		事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	江川 晃	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
教科書とプリントによる講義。感想・意見・質問ペーパーを講義の最後に提出のこと。次回、それをもとに対話をしながら授業を進めていきたい。哲学レポートの書き方も指導します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、出席票の裏に質問・意見・感想等を記入すること。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文書プリント、パワポプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日1限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	プラグマティズム 1	「信念は行動の規則」である。	
		この回の到達目標	到達目標②パースの哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	C. S. パースとはだれか。	120分
		事後学修	疑念、信念、習慣、行動を関連付ける。	120分
2	9/25	プラグマティズム 2	信念の固め方は4つある。固執の方法・権威の方法・先天的方法・科学的方法。	
		この回の到達目標	到達目標②パースのプラグマティズムの主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	探究とは何か。プリントを読んでおこう。	120分
		事後学修	4つの信念の固め方。	120分
3	10/2	情報は記号である	情報記号論：シネマ“MATRIX”の哲学	
		この回の到達目標	到達目標②パースの記号論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	シネマ“MATRIX”を見よう。	120分
		事後学修	VRと“MATRIX”の関係。現実とは何か。	120分
4	10/9	構造主義 1	メディアはその下位に神話作用を持っており、われわれはそれにより支配される。	
		この回の到達目標	到達目標②バルト哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	ロラン・バルトとはだれか。	120分
		事後学修	メディアの裏に隠された意図を知る。	120分
5	10/16	構造主義 2	モードは服であるが、言語として説明ができるのだ！	
		この回の到達目標	到達目標②バルトのモード論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	流行とは何か。	120分
		事後学修	言語として流行を見る。	120分
6	10/23	分析哲学 1	ウィトゲンシュタインの「事実の像が命題だ！」	
		この回の到達目標	到達目標②ウィトゲンシュタインの写像理論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	ウィトゲンシュタインとは誰だ。（2時間）	120分
		事後学修	「写像理論」と「語りえぬもの」（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	分析哲学 2	「なぜ占いは非科学なのか」 ポパーの反証理論を考える。	
		この回の到達目標	到達目標②ポパーの反証理論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	カール・ポパーとは誰だ。	120分
		事後学修	「反証可能なものこそ科学だ！」	120分
8	11/6	言語行為論	日常言語学派「話すことは同時に3つの行為をしている」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②オースティンの言語行為論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	A. J. オースティンとは誰だ。	120分
		事後学修	発語行為、発語内行為、発語媒介行為の理解。	120分
9	11/13	心の哲学 1	心は脳にあるのか	
		この回の到達目標	到達目標②「心脳同一説」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	心はどこにあるか。	120分
		事後学修	「心脳同一説」の批判。	120分
10	11/20	心の哲学 2	ロボットに心はあるのか	
		この回の到達目標	到達目標②心の哲学における「機能主義」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	AIは心を持つか。	120分
		事後学修	「機能主義」の理解。	120分
11	11/27	脳神経科学を哲学する	「脳倫理」の試み	
		この回の到達目標	到達目標②道徳的判断を脳の中の機能の求める「脳倫理」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	プリントを読んでくこと。	120分
		事後学修	「脳」に責任はあるか。	120分
12	12/4	われわれに「自由意思」はあるのか	われわれが決定する前に、脳が行動をすでに決定している。	
		この回の到達目標	到達目標②「脳倫理」の自由意志論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	B. リベットの実験とは。	120分
		事後学修	「脳倫理」とは。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	iPS細胞の哲学	生命科学と哲学：iPS細胞は人類に幸福をもたらすか？	
		この回の到達目標	到達目標②iPS細胞の哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
		事前学修	iPS細胞とは何か。	120分
		事後学修	再生医療の哲学	120分
14	12/18	レポート指導 2	哲学レポートの書き方 2（まとめ）	
		この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	課題を決めること。	120分
		事後学修	書き始めよう。	120分
15	12/25	試験と解説	授業補足と期末レポート提出	
		この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
		事前学修	完成させよう。	120分
		事後学修	反省。	120分

科目名	統計学 I	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データを整理・要約するための記述統計を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、記述統計の諸概念を正確に理解し、データから適切な仕方て情報を引き出す能力を修得する。

【履修条件】
各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。また、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のレポート課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。						2	2					
②	記述統計の基礎を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。						2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題は、翌週の授業内で議論および回答を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ファーストブックシリーズ統計学がわかる	向後千春, 富永敦子	技術評論社	2007年		
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部第二部金 4/10	【ガイダンス】【統計の基礎】	統計と確率の関係について講義を行います。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を講義で明らかにします。また、指定教科書についての説明も行います。さらに、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。	
		この回の到達目標	法学部における統計理解の重要性を理解する。また、確率・統計には不確実性が含まれており、その解釈が重要になることを理解する。	
		事前学修	統計に関する各自の考えをまとめてください。これに関しは、授業内で確認レポートとして皆さんに解答してもらいます。	120分
		事後学修	今日の授業ノートを再度読み返し、統計に関する各自の考えをまとめてください。	120分
2	第一部第二部金 4/17	【データの平均と分散】	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について講義を行います。	
		この回の到達目標	統計にいける平均神話の不確実性と、分散の重要性を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第1章を熟読してください。特に、「1-1 平均を調べる」と「1-2 度数分布」については、各自理解をして授業に臨んでください。（2時間）	120分
		事後学修	確認レポートで提出した「統計処理手順」を、再度自宅のパソコンで計算できるようにしてください。（2時間）	120分
3	第一部第二部金 4/24	【統計分布】	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理	
		この回の到達目標	統計における統計分布の重要性を理解する。また、統計における「大数の定理」と「中心極限定理」を理解する。	
		事前学修	今日の授業で講義を行い、下記の単語を予めインターネットなどで調べてください。 ・正規分布 ・大数の定理 ・中心極限定理	120分
		事後学修	統計処理における「データの正規性」が重要な役割を果たします。データの正規分布と中心極限定理が密接な関係にあることを理解し、身の回りの正規分布を示すデータを探してみてください。	120分
4	第一部第二部金 5/1	【仮説検定】	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを講義します。	
		この回の到達目標	仮説検定の基本的考えである、統計分布の信頼区間と棄却域を理解する。	
		事前学修	指定教科書第2章を熟読して下さい。	120分
		事後学修	この区間推定と信頼区間（と棄却域）は、有意差検定の根幹を成す考えですので、再度講義ノートを確認してください。	120分
5	第一部第二部金 5/8	【仮説検定の実際】	有意差検定の考え方の基本を講義します。第4回に講義した「信頼区間」との関係を講義します。また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮説」についても講義します。	
		この回の到達目標	仮説検定における「帰無仮説」を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章の「3-1」を熟読してください。また、先週講義した「信頼区間」についても再度確認しておいてください。	120分
		事後学修	今日の授業が、統計Ⅰの要となります。「統計分布」と「信頼区間」の考えが重要なつながりがあることを再確認してください。	120分
6	第一部第二部金 5/15	【カイ2乗検定の数理】	カイ2乗検定の考え方を講義します。有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ2乗検定を使って具体的に説明します。	
		この回の到達目標	カイ2乗検定の基本となった数学を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章「3-2」と「3-3」を熟読してください。	120分
		事後学修	カイ2乗検定を理解してください。特に、授業内レポートについて再度確認をしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部第二部金 5/22	【カイ2乗検定の計算】	カイ2乗検定の計算の実際を講義します。 特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を講義します。	
		この回の到達目標	実際のデータを利用して、カイ2乗検定処理を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章「3-4」を熟読してください。特に計算について理解をしてください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
8	第一部第二部金 5/29	【対応のないt検定の数理】	有意差検定で、最も利用されている「t検定（対応なし）」の考え方を講義します。 特に、正規分布とt分布、その信頼区間の関係について詳しく講義します。	
		この回の到達目標	対応のないt検定の数学的理解を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第4章を熟読してください。 特に、計算方法について理解をしてください。	120分
		事後学修	次回の課題レポート課題に関係しますので、必ず「t検定」の仕組みを理解してください。	120分
9	第一部第二部金 6/5	【対応のないt検定の計算】	実際のデータを使った「t検定（対応なし）」の計算方法について講義します。計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法も講義します。その上で、計算結果の解釈方法も講義します。また、「t検定（対応なし）」の前提条件である「等分散性」についても説明します。	
		この回の到達目標	「対応のないt検定」の計算と、その前提となる「等分散検定」を理解する。	
		事前学修	第8回の講義内容と指定教科書第4章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。）	120分
10	第一部第二部金 6/12	【対応のあるt検定の数理と計算】	実際のデータを使った「t検定（対応あり）」を使った計算方法も講義します。その上で、計算結果の解釈方法も講義します。さらに、第9回講義に「t検定（対応なし）」との違いについても講義します。	
		この回の到達目標	対応のあるt検定の数学的な理解と計算ができる。	
		事前学修	指定教科書第5章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
11	第一部第二部金 6/19	【分散分析の数理】	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を講義します。 特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を講義します。 特にF分布とF値の考えを理解することを目的とします。 また、分散分析の前提条件である等分散性についても講義します。	
		この回の到達目標	分散分析の数学的構造を理解する。	
		事前学修	指定教科書第6章を熟読してください。	120分
		事後学修	F分布の成り立ちと信頼区間との関係を確認してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。	120分
12	第一部第二部金 6/26	【1要因分散分析の数理と計算】	実際のデータを使った「分散分析（1要因）」についての計算方法を講義します。 特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順についても解説します。	
		この回の到達目標	1要因の分散分析の数学的仕組みを理解する。	
		事前学修	指定教科書第6章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部第 二部金 7/3	【2要因分散分析の数理と計算】	「分散分析(2要因)」について「分散分析(1要因)」との違いについて講義を行います。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について詳しく説明します。	
		この回の到達目標	2要因分散分析の計算方法と交互作用について理解する。	
		事前学修	指定教科書第7章を熟読してください。 特に「交互作用」について理解してください。	120分
		事後学修	「分散分析(2要因)」の仕組みと「交互作用」について理解してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。	120分
14	第一部第 二部金 7/11	【2要因分散分析の数理と計算と交互作用の計算】	実際のデータを使った「分散分析(2要因)」についての計算方法を講義します。 特に「交互作用」について詳しく説明します。	
		この回の到達目標	2要因分散分析の計算方法と交互作用についての実際の計算方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書第7章を再度読み返してください。	120分
		事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して 指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
15	第一部第 二部金 7/17	【仮説検定のまとめ】	総復習として、半年間行った講義内容を、データ分析の立場から講義します。 この講義によって、統計分析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。	
		この回の到達目標	本講座で理解した統計処理が、どのようなフィールドで利用可能かを理解する。	
		事前学修	今まで講義について、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
		事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	統計学Ⅰ	担当者	木村 孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データを整理・要約するための記述統計を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、記述統計の諸概念を正確に理解し、データから適切な仕方で情報を引き出す能力を修得する。

【履修条件】
高校の数学Aの「場合の数と確率」の内容をある程度理解していることが望ましい。電卓（ルート・キーのあるもの）を持参すること。

【授業方法】
講義形式で説明をしながら、例題を実際に分析することで統計手法を身につける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	統計分析の目的と方法について説明できる。							2	2				
②	記述統計の基礎を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。							2	2				
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。								2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週の問題の解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
例題で学ぶ初歩からの統計学 [第2版]	白砂堤津耶	日本評論社	2015	教科書	必携
基本統計学	宮川公男	有斐閣	1977	参考書	任意
備考	前週に実施した小テストの解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。				

【オフィスアワー】
木曜日3時限の授業後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス，導入授業	講義計画等のガイダンスと記述統計学の考え方の基礎について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、記述統計学とはどのようなものであるかを説明できる。	
		事前学修	統計学がどのようなものであるか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。	120分
		事後学修	統計学が社会においてどのようなことに用いられているか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。	120分
2	第一部木 4/16	度数分布とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、度数分布表とヒストグラムはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを作成することができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
3	第一部木 4/23	データの代表値（その1）	算術平均、メジアン、モードについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、算術平均、メジアン、モードはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
4	第一部木 4/30	データの代表値（その2）	加重算術平均、幾何平均、トリム平均、移動平均について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、加重算術平均、幾何平均、トリム平均、移動平均はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
5	第一部木 5/7	データの散らばり（その1）	範囲、四分位範囲、箱ひげ図について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、範囲、四分位範囲、箱ひげ図はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
6	第一部木 5/14	データの散らばり（その2）	平均偏差、分散と標準偏差について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平均偏差、分散と標準偏差はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	データの散らばり（その3）	変動係数、標準化変量、偏差値、歪度について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、変動係数、標準化変量、偏差値、歪度はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
8	第一部木 5/28	順列と組合せ（その1）	順列、円順列と数珠順列、重複順列について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、順列、円順列と数珠順列、重複順列はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
9	第一部木 6/4	順列と組合せ（その2）	組合せ、重複組合せについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、組合せ、重複組合せはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
10	第一部木 6/11	確率（その1）	確率の定義、加法定理、乗法定理について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確率、加法定理、乗法定理はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを用いて計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
11	第一部木 6/18	確率（その2）	ベイズの定理について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ベイズの定理はどのようなものであるかを説明でき、またそれらを用いて計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
12	第一部木 6/25	確率変数と確率分布（その1）	二項分布、ポアソン分布について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二項分布、ポアソン分布はどのようなものであるかを説明でき、またそれらに関連する値を計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	確率変数と確率分布（その2）	正規分布、標準正規分布について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正規分布、標準正規分布はどのようなものであるかを説明でき、またそれら関連する値を計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
14	第一部木 7/9	確率変数と確率分布（その3）	正規分布による二項分布の近似について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正規分布による二項分布の近似とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを用いて計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
15	第一部木 7/16	試験とまとめ	授業内試験及びまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	教科書及び初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	統計学Ⅱ	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データからその背後にある構造について推論する統計的推測の方法を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、統計的推測の原理を正確に理解し、データをもとに適切な仕方 で統計的推測を行う能力を修得する。

【履修条件】
統計Ⅰを受講していること。また、各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。なお、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、レポート課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。					2	2					
②	統計的推測の方法を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。					2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。						2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、適切な統計的推測に基づいて社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題は、翌週の授業内で議論および回答を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ファーストブックシリーズ統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】	向後千春, 富永敦子	技術評論社	2008年		
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部第二部金 9/18	【ガイダンス】【多変量解析の基礎】	本講義で行う「多変量解析」について講義を行います。指定教科書について解説します。また、各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても説明します。	
		この回の到達目標	法学における「多変量解析」の重要性を理解する。	
		事前学修	多変量解析について、各自インターネットで調べておいてください。	120分
		事後学修	第2回の講義までに各自のパソコンの設定を確認してください。	120分
2	第一部第二部金 9/25	【散布図と相関】	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について講義します。特に、データ間に関係がデータ解析に重要な要素であることを理解します。	
		この回の到達目標	散布図の作り方と相関の重要性を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第1章を熟読してください。	120分
		事後学修	様々なデータに関する散布図を作成し、その背景にある相関関係を調べてください。	120分
3	第一部第二部金 10/2	【相関係数の計算】	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について解説し、その計算方法を説明します。また、偏差積についても講義します。	
		この回の到達目標	相関係数の数理と計算方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書に第3章を熟読してください。	120分
		事後学修	相関係数の計算方法を確認してください。その場合、指定教科書の確認テストを計算することをお勧めします。	120分
4	第一部第二部金 10/9	【無相関検定の数理】	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について講義します。この「無相関検定」を行う場合には、前期で学習した「有意差検定」を利用することを解説します。	
		この回の到達目標	無相関検定の数理を理解し、かつ、無相関検定の問題点を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第3章を熟読してください。また、統計Ⅰで講義した「有意差検定」について確認してください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
5	第一部第二部金 10/16	【回帰分析の数理】	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について詳しく説明します。	
		この回の到達目標	回帰分析の数理を理解し、その適用範囲を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第4章を熟読してください。	120分
		事後学修	回帰分析は何を計算できるのかを理解してください。特に、データからの推測が可能な統計処理であることを理解してください。	120分
6	第一部第二部金 10/23	【単回帰分析の数理】	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について講義します。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても解説します。	
		この回の到達目標	単回帰分析の数理を理解し、実際の計算方法を習得する。その上で、回帰分析の結果の妥当性を検証するための「決定係数」について理解する。	
		事前学修	指定教科書の第4章を再度読んでください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部第二部金 10/30	【偏相関係数の数理と計算】	ここでは「偏相関」についての考え方と、その数学的意味を講義します。また、「偏相関」の計算方法についても解説します。	
		この回の到達目標	偏相関係数の仕組みを理解し、偏相関係数の計算方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第5章を熟読してください。（2時間）	120分
		事後学修	偏相関の考えは少々複雑で理解し難いので、必ず「確認テスト」を計算して、偏相関の理解を確実にしておいてください。（2時間）	120分
8	第一部第二部金 11/6	【重回帰係数の数理】	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を講義します。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について詳しく講義します。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても解説します。	
		この回の到達目標	重回帰分析の数理を理解する。その上で「多重共線性」などの問題点について理解する。	
		事前学修	指定教科書の第6章を熟読してください。	120分
		事後学修	「重回帰分析」の考え方を理解してください。必要なら「確認テスト」で各自確認をしてください。	120分
9	第一部第二部金 11/13	【重回帰分析の計算】	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を講義します。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も説明します。	
		この回の到達目標	重回帰分析の実際の計算方法を理解する。また、その計算結果の妥当性を検証する方法を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第6章を再度読んでおいてください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
10	第一部第二部金 11/20	【相関行列の意味】	多変量解析における「相関行列」について講義します。第3回の講義で説明した「相関」との関係性を解説し、「相関行列」の利用方法を解説します。	
		この回の到達目標	相関行列と偏相関行列の計算方法を理解し、それらの意味について理解する。	
		事前学修	指定教科書の第7章を熟読してください。	120分
		事後学修	第7章の「確認テスト」を各自解答し、「相関行列」を理解してください。	120分
11	第一部第二部金 11/27	【主成分分析の数理】	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを説明します。また、主成分分析では何が分るのかも説明します。	
		この回の到達目標	主成分分析の理解を行い、かつ、本分析の適用範囲を理解する。	
		事前学修	「主成分分析」は、指定教科書にはありません。事前に「資料」を配布しますので、それを熟読してください。	120分
		事後学修	配布資料を使って、実際の計算方法を理解してください。	120分
12	第一部第二部金 12/4	【主成分分析の計算】	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を解説します。授業内で課題を出しますので、それを回答することで各自主成分分析の計算方法を確認します。	
		この回の到達目標	主成分分析を実際のデータに適応して計算することを理解する。また、計算結果の解釈ができることを目的とする。	
		事前学修	配布資料と指定教科書の第8章を再度読んでください。	120分
		事後学修	どのような時に、主成分分析を使うかを各自理解してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部第 二部金 12/11	【因子分析の数理】	「因子分析」の考え方を講義します。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法も解説します。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても解説します。また、「主成分分析」との違いも解説します。	
		この回の到達目標	因子分析と主成分分析との違いを理解する。 かつ、因子分析の応用範囲を理解する。	
		事前学修	指定教科書の第8章を熟読してください。	120分
		事後学修	因子分析の理解自体は難しくありませんが、その計算方法が非常に面倒ですので、不明な点などがありましたら、再度教科書を読んで確認してください。	120分
14	第一部第 二部金 12/18	【因子分析の計算】	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に、手順を追って計算方法を講義します。また、因子分析の解釈の方法も合わせて解説します。	
		この回の到達目標	因子分析を具体的なデータに適用して、計算方法を理解する。 また、計算結果の解釈をが正しくできることを目的とする。	
		事前学修	指定教科書の第8章を再度読んでください。	120分
		事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
15	第一部第 二部金 12/25	【まとめ】	総復習として、半年間行った講義内容を、多変量解析の立場から講義します。この講義によって、多変量解析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。	
		この回の到達目標	本授業で理解した統計処理がどのような分野に適応されるかを正しく理解できることを目的とする。	
		事前学修	今まで講義について、多変量解析において、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
		事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	統計学Ⅱ	担当者	木村 孝	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データからその背後にある構造について推論する統計的推測の方法を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、統計的推測の原理を正確に理解し、データをもとに適切な仕方 で統計的推測を行う能力を修得する。

【履修条件】
統計学Ⅰの内容（記述統計）を学習済みであることを前提に講義を行う。電卓（ルート・キーのあるもの）を持参すること。

【授業方法】
講義形式で説明をしながら、例題を実際に分析することで統計手法を身につける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。					2	2					
②	統計的推測の方法を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。					2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。						2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、適切な統計的推測に基づいて社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前週の問題の解説・講評し、また15回目には授業内試験の解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
例題で学ぶ初歩からの統計学 [第2版]	白砂堤津耶	日本評論社	2015	教科書	必携
基本統計学	宮川公男	有斐閣	1977	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日3時限の授業後に授業講堂において質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	区間推定（その１）	母平均の区間推定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母平均の区間推定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所(118頁から137頁)を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
2	第一部木 9/24	区間推定（その２）	母比率の区間推定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母比率の区間推定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
3	第一部木 10/1	仮説検定（その１）	母平均の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母平均の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
4	第一部木 10/8	仮説検定（その２）	母比率の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母比率の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
5	第一部木 10/15	仮説検定（その３）	母平均の差の検定、母比率の差の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母平均の差の検定、母比率の差の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
6	第一部木 10/22	区間推定（その３）	母標準偏差の区間推定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母標準偏差の区間推定はどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	仮説検定（その４）	母標準偏差の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母標準偏差の区間推定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
8	第一部木 11/5	仮説検定（その５）	適合度の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適合度の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
9	第一部木 11/12	相関分析（その１）	相関係数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相関係数とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
10	第一部木 11/19	相関分析（その２）	相関係数の検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相関係数の検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
11	第一部木 12/3	相関分析（その３）	順位相関係数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、順位相関係数とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
12	第一部木 12/10	回帰分析（その１）	回帰係数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、回帰係数とはどのようなものであるかを説明でき、またそれを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	回帰分析（その2）	決定係数、重回帰分析について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、決定係数、重回帰分析とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
14	第一部木 12/24	回帰分析（その3）	回帰係数の区間推定と検定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、回帰係数の区間推定と検定とはどのようなものであるかを説明でき、またそれらを計算し求めることができる。	
		事前学修	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、わかりにくい部分を把握しておく。	90分
		事後学修	講義で学んだことを振り返り、講義で指摘した章末にある練習問題を解く。	150分
15	第一部木 1/14	試験とまとめ	授業内試験及びまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期にわたる講義内容をその程度理解できたかを確認する。	
		事前学修	教科書及び初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	60分

科目名	日本の近現代Ⅰ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
19世紀後半における日本の国民国家形成過程とその問題点を学習する。①日本は欧米諸国との関係でどのような道を選び取ったのか、それはアジアとの関係にどのような影響を与えたか、②日本が選び取った道筋は、その後の日本の歩みにどのような刻印を与えたのか、③近代社会の形成は、ふつうの人びとの生き方や価値観にどのような変化を与えたか、そのことの持つ意味は何か。これらの問いを受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代社会の形成過程やその特質を学び、「近代」の意味を考えることは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄である。本講義はそれらについて基本的な認識を獲得するために行われる。基礎的な歴史的事項の習得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的に分析する力をつけ、その歴史的意義や問題点を発見したり、国際比較の中で日本の近代の特質を理解すること、そして獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
到達目標と無関係なので、課外活動やオリンピックを理由とする不勉強や欠席に特別な配慮はしない。履修者過多の場合は履修制限する。

【授業方法】
毎回レジュメと史料を配布し、それに沿って講義する。配布の史料の他、パワーポイントを用いて、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に小レポートの執筆を課すことがある。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートとピア・レビュー、Think Pair Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の国民国家形成過程に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、19世紀の世界との関わりで日本の近代の特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関わるレポートにより、到達目標①②に関わる学習内容の深化の度合いを評価する。 到達目標①③に関わって講義中に課す小レポートとピアレビューの成果を評価する。	15	5									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。読書リストは講義中に配布する。なお中学校歴史教科書又は高校日本史教科書を予習用教材とする。出版社は問わない。				

【オフィスアワー】
火曜 13:00～14:00 金曜 18:00～19:00 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆を与える。特に史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 4/10	開講にあたって／日本の「近代」とは	前半では、①教養とは何か、歴史を学ぶとはどういうことか ②講義概要と視点、目標 ③評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では教科書記述の比較などを踏まえながら、日本史上の「近代」という時代区分について考える。	
		この回の到達目標	本講義の内容を理解する。「近代」という時期区分についての基本的理解を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	ガイダンス資料をよく読んで、履修を検討する。プリントや講義中のメモに沿って。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	4/14 4/17	幕末の社会情勢と幕藩体制の危機	19世紀前半の社会情勢について、正統性の危機という観点から考察する。	
		この回の到達目標	19世紀前半の社会変動の基本的性格について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回配布資料とシラバスを熟読する。 江戸時代の支配のしくみについて、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	4/21 4/24	「開国」の歴史的意義	近世の対外関係の特質と「外患」の世界史的な背景を踏まえながら、「開国」の歴史的意義について考える。	
		この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「鎖国」や「開国」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	4/28 5/1	公論・尊王・世直し	「開国」後の幕藩体制の危機と、それを克服しようとする諸政治構想について考察する。	
		この回の到達目標	「開国」後の政治社会情勢と、当該期の危機を克服しようとする諸政治構想について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「開国」後の社会情勢について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	5/5 5/8	「国民」になるということ	明治の日本が直面した国民国家形成という課題について考える。	
		この回の到達目標	国民国家概念の習得の上に、明治の諸改革を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。「国民」とは何か？ 自分なりの答えを考えておく。 明治初期の諸政策について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	5/12 5/15	文明開化論——対外的自立と＜文明化＞	対外的自立という課題との関係で＜文明化＞に関わる明治政府の政策について考える。	
		この回の到達目標	＜文明化＞の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 「文明開化」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 5/22	<国民化>と<文明化>—前半期の振り返り	<国民化>と<文明化>概念を軸に、前半期の講義を小括し、その後前半期の振り返りのための小レポートとピア・レビューを実施する。	
		この回の到達目標	小レポートを通じて前半の学習成果について、論理的に説明できる。他者の評価を踏まえながら自己の達成を評価する（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
		事後学修	ピア・レビューの成果を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
8	5/26 5/29	「文明」への懐疑——明治前期の民衆運動と「近代」	明治前期の民衆運動を通して、「近代」の意味について考える。	
		この回の到達目標	明治前期の民衆運動の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。 明治前期の民衆運動について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
9	6/2 6/5	「国民」の誕生？——自由民権と明治憲法	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で考察する。	
		この回の到達目標	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 自由民権運動と明治憲法について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	6/9 6/12	日本外交の「2つの顔」——<文明化>と東アジア国際関係の再編	明治前期の日本外交の2側面と、そのことが東アジア国際関係に持った意味を考える。	
		この回の到達目標	明治前期の日本外交の特質と東アジア国際関係との関わりについて説明する（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 明治政府の外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	6/16 6/19	<文明化>と対アジア外交論の諸潮流——征韓論・興亜論・脱亜論・小国主義	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流とその歴史的な意味について考察する。	
		この回の到達目標	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流を<文明化>との関わりで説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 征韓論や脱亜論について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	6/23 6/26	日清戦争論——「文明戦争論」とその実態	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義を<文明化>や<国民化>との関係で考える。	
		この回の到達目標	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 日清戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/3	東アジア国際情勢の変化と日露戦争	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争への道を考える。	
		この回の到達目標	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争の開戦までの経緯を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	7/7 7/10	日露戦争と日比谷焼打事件——20世紀の開幕	日露戦争後の日本の帝国主義外交や日比谷焼打事件を取り上げ、日露戦争の歴史的意義を考える。	
		この回の到達目標	①日露戦後の帝国主義外交と韓国併合の過程について、説明することができる。②日比谷焼打事件を通じて、戦争とナショナリズムとの関係や、ナショナリズムの両義性について理解し、説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦後の内政・外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	7/14 7/17	試験と振り返り	講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
		事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。レポートを完成させる。	210分
		事後学修	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。 本講義での学びを振り返る。	30分

科目名	日本の近現代Ⅱ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
20世紀初頭、世界の諸帝国の仲間入りをした日本は、それゆえ国内外にさまざまなジレンマを抱え込むことになり、これに規定されて内政・外交にわたる針路の変更を繰り返した。「帝国日本」は結局破局への道を歩むことになるが、その過程では現代日本社会につながるような社会変容も起きている。20世紀前半の日本の歩みと、それを規定した基本的な要因を受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代の帰結としてアジア・太平洋戦争における破滅・破壊を迎えたこと、および日本の現代社会への転換過程やその特質を修得することは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄であるので、本講義はそのために行われる。基礎的な歴史的事項の修得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的・客観的に分析する技能と態度、出来事の歴史的意義や問題点の発見力を身につけ、獲得した認識を論理的に説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
到達目標と無関係なので、課外活動を理由にした不勉強について、特別な配慮はしない。履修者過多の場合は履修制限することもある。

【授業方法】
毎回レジュメと史料を配布し、それに沿って講義する。配布の史料の他、パワーポイントを用いて、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に小レポートの執筆を課すことがある。発問について考えたり、隣人と討論したりする時間も設けたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートとピア・レビュー、Think Pair Share	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「帝国」日本の展開と崩壊に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、20世紀前半の世界との関わりで、当該期の日本のあゆみの特質と問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関するレポートにより、到達目標①②に関わる学習の深化の度合いを評価する。 到達目標①③に関わって講義中に課す小レポートとピアレビューの成果を評価する。	10	5	5								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	45	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。読書リストは講義中に配布する。なお中学校歴史教科書又は高校日本史教科書を予習用教材とする。出版社は問わない。					

【オフィスアワー】
火曜 13:00～14:00 金曜18:00～18:30 なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆する。特に歴史的史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/18	開講にあたって／「帝国」になるということ	前半では、①講義概要と視点、目標、授業計画、②評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介、日本の近現代Ⅰで講義した19世紀後半の日本の特質について説明する。後半では「帝国」日本の版図や民族構成を確認し、20世紀前半の日本が「帝国」であり、多民族国家であったことを確認する。	
		この回の到達目標	講義概要や履修上の注意事項を理解する。「帝国」日本の版図の拡大過程や民族構成を年表や統計表から読み取り、日本が「帝国」であること理解して、説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。日本の領土拡大過程を中学・高校の教科書で確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	9/22 9/25	日本の植民地主義と植民地支配	植民地支配を正当化する言説の特質を比較史的に考察した上で、植民地支配の内実を検討する。	
		この回の到達目標	日本の植民地主義と植民地支配の特質を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の植民地支配に関する記述をを中学・高校の教科書で確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	9/29 10/2	「裏日本」とは何か―地域間の不均等発展	統計表を分析しながら、産業革命前後における日本の地域間の不均等発展を確認し、その要因を考察する。	
		この回の到達目標	「上から」の近代化との関係で、地域間の不均等発展を説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の産業革命に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	10/6 10/9	帝国主義世界の変容と日本の針路―第一次世界大戦のインパクト	帝国主義世界の変容と日本の抱えたジレンマゆえ、「帝国」拡大路線の修正を余儀なくさせたことについて、考察する。	
		この回の到達目標	第一次世界大戦後の日本の針路修正の構造的要因を説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦と日本との関わりについての中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	10/13 10/16	工場労働者の「誕生」とその意識の変容	産業革命期の工場労働者が抱えた矛盾とそれを乗り越えようとする労働者意識の特質について考察する。	
		この回の到達目標	産業革命期の工場労働者労働者意識の変容やその特質について説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。産業革命期～第1次世界大戦期の工場労働者に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	10/20 10/23	サラリーマン家族の肖像	都市新中間層の増加と彼らが営む家族のあり方について考察する。	
		この回の到達目標	都市新中間層の増加の背景と彼らが営む家族のあり方の特徴を説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	大正期の都市社会の変化や大衆文化に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/30	帝国のデモクラシー——普選体制論	デモクラシー状況・大衆社会状況に対応した政治体制の変容を考察する。	
		この回の到達目標	「帝国」であること大衆民主制への変容との関係について説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	大正デモクラシーや「憲政の常道」に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
8	11/10 11/6	「帝国」と「大衆」の時代／前半期の振り返り	前半期に講義した1900～1920年代を「帝国」と「大衆」の時代という観点で小括する。そのうえで前半期の振り返りのための小レポートとピア・レビューを実施する。	
		この回の到達目標	「帝国」と「大衆」の時代の時代というまとめを踏まえ、1900～1920年代の日本の歴史像について、自分なりに説明することができる。その説明に対する他者の評価を踏まえ、自己の達成を評価することができる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
		事後学修	ピア・レビューの成果を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
9	11/17 11/13	岐路に立つ帝国日本——満州事変の歴史的意義	満州事変に始まる日本の対外針路の転換の構造的要因と、同時代の世界における位置づけを考える。	
		この回の到達目標	満州事変の歴史的意義について考察し、それを論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	11/24 11/20	戦争拡大の構図——日中全面戦争	日中戦争開戦および開戦後の日本軍の蛮行がその後の歴史過程に与えた影響について考える。	
		この回の到達目標	日本軍の蛮行の構造的要因を理解し、それを論理的説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。日中戦争前後の日本に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	12/1 11/27	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の開戦過程と、この戦争の特質について検討する。	
		この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の開戦の経緯を踏まえながら、この戦争の特質を論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。アジア・に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	12/8 12/4	総力戦体制と国民生活	総力戦体制下の国民生活の諸相について理解した上で、国民が戦争に同調していくメカニズムを検討する。	
		この回の到達目標	総力戦概念、および戦時国民生活や国民の意識の特徴について説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。戦時下の国民生活に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/11	「大日本帝国」の崩壊	戦線の崩壊と国民生活や国土の破壊を経て、敗戦にいたる過程について検討する。	
		この回の到達目標	日本の敗戦過程について理解することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	日本の敗戦過程に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	12/22 12/18	戦争体験と戦後デモクラシー	戦後改革の歴史的意義を踏まえつつ、日本の戦後処理の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	戦後改革と日本の戦後処理の意義と問題点について、説明することができる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	戦後改革に関する中学・高校の教科書の記述を書くにしておく。	120分
		事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	1/12 12/25	試験と振り返り	講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
		事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。レポートを完成させる。	210分
		事後学修	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。本講義での学びを振り返る。	30分

科目名	日本の自然A	担当者	瀬戸口 信一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。以下4つの到達目標を具体的に達成する。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
外国人留学生のみ

【授業方法】
講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。小テストの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・グループディスカッションなど	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。						2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。						2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	(1) 自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。	17	10	7								34
レポート等	(2) 課題の提出状況。	17	10	7								34
討論・発表等												
授業への参画度	(3) 授業への平常評価参加度。	17	10	5								32
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		51	30	19								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の「小テスト」・前期後期の最後の時間に行われる「まとめの小テスト」において、テストの解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「中学校社会科地図」	帝国書院編集部編	帝国書院	2019年 度		
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。（メールアドレス s-setoguchi@nifty.com)金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	前期のガイダンス、導入授業	シラバスの説明・学びたいことの要望調査	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、日本の自然について問題意識を持ち、これから1年間日本の自然について積極的に学ぶ姿勢を持つことができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読みまた関連書籍を読んで概観しておくこと。	120分
2	第一部 金4/17	日本の地理入門	日本の地域区分・都道府県・地図帳の使い方など	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地域区分・都道府県・県庁所在地などの基礎的知識を身に着ける。 到達目標②に関連して、地図帳の使い方を身に着ける。 到達目標③④に関連して、これから学ぶ「日本の自然」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然入門に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
3	第一部 金4/24	日本の地形（1）	日本の山地と海岸（世界との比較で）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の山地と海岸の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の山地と海岸」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の地形（日本の山地と海岸）に関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
4	第一部 金5/1	日本の地形（2）	日本の川と平野（世界との比較で）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の川と平野の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の川と平野」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
		事前学修	日本の地形（日本の川と平野）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
5	第一部 金5/8	日本の気候（1）	世界から見た日本の気候の特色	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界から見た日本の気候の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「世界から見た日本の気候の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の気候（世界から見た日本の気候）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
6	第一部 金5/15	日本の気候（2）	日本の気候区分（日本各地の気候の特色）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の気候区分を理解し、各地の気候の特色を説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の気候区分」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の気候（日本の気候区分）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	日本の自然災害（１）	日本の地震・風水害の歴史と実態	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の地震や風水害の歴史と実態を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の地震・風数がいの歴史と実態」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然災害（地震・風水害）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
8	第一部 金5/29	日本の自然災害（２）	防災の現実と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の防災の現実と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の防災の現実」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
		事前学修	日本の自然災害（防災）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
9	第一部 金6/5	日本の自然環境と産業（１）	世界と比べた日本の農業の特色と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の農業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の農業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
		事前学修	日本の自然環境と産業（農業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
10	第一部 金6/12	日本の自然環境と産業（２）	世界と比べた日本の漁業の特色と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の漁業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の漁業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然環境と産業（漁業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
11	第一部 金6/19	日本の自然環境と産業（３）	世界と比べた日本の林業の特色と課題	
		この回の到達目標	目標①②に関連して、日本の林業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の林業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の自然環境と産業（林業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
12	第一部 金6/26	日本の環境問題	日本の公害問題の歴史と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の公害問題の歴史と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の公害問題の歴史」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の環境問題（公害問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/4	日本の環境問題	日本の資源・エネルギー問題と環境問題の課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の資源エネルギー問題や環境問題の課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本の環境問題（日本の資源・エネルギーと環境問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
14	第一部 金7/10	日本の景観	世界自然遺産と世界文化遺産の実態と課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の世界自然遺産と世界文化遺産の実態と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の世界自然遺産と世界文化遺産の実態」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	日本の景観（世界自然遺産と世界文化遺産）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
15	第一部 金7/17	前期の授業の総まとめ	前期の授業を振り返り、学んだことを再確認する。 その後、前期の授業の「総まとめの小テスト」を実施し解説・振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだ日本の「自然地理」の内容を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、前期に学んだ日本の「自然地理」の内容について課題意識をもって考えまとめることができる。	
		事前学修	前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	これまでの復習を行い、後期の授業の準備を行う。	120分

科目名	日本の自然B	担当者	瀬戸口 信一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
外国人留学生のみ

【授業方法】
講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。小テストの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・グループディスカッションなど	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。				2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。				2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	(1) 自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。	17	10	7								34
レポート等	(2) 課題の提出状況。	17	10	7								34
討論・発表等												
授業への参画度	(3) 授業への平常評価参加度。	17	10	5								32
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		51	30	19								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の「小テスト」・前期後期の最後の時間に行われる「まとめの小テスト」において、テストの解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「中学校社会科地図」	帝国書院編集部編	帝国書院	2019年 度		
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。（メールアドレス s-setoguchi@nifty.com)金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	後期のガイダンス 北海道地方（１）	シラバスの説明・学びたいことの要望調査 北海道地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北海道の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「北海道の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。 北海道地方の自然環境と人々の暮らしに関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
2	第一部 金9/25	北海道地方（２）	北海道地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北海道地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「北海道地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	北海道地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
3	第一部 金10/2	東北地方（１）	東北地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東北地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「東北地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	東北地方の自然環境と人々の暮らしに関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
4	第一部 金10/9	東北地方（２）	東北地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東北地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「東北地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	東北地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
5	第一部 金10/16	関東地方（１）	関東地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関東地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「関東地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	関東地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
6	第一部 金10/23	関東地方（２）	関東地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関東地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「関東地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	関東地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	中部地方（１）	中部地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中部地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中部地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
8	第一部 金11/6	中部地方（２）	中部地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中部地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中部地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
9	第一部 金11/13	近畿地方（１）	近畿地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近畿地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「近畿地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	近畿地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
10	第一部 金11/20	近畿地方（２）	近畿地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近畿地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	近畿地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
11	第一部 金11/27	中国四国地方（１）	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らし	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中国四国地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
12	第一部 金12/4	中国四国地方（２）	中国・四国地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国・四国地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中国四国地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	中国・四国地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	九州地方（１）	九州地方の自然環境と人々の暮らし 九州地方の自然環境と産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、九州地方の自然環境と人々の暮らし、自然環境と産業の特色を理解し説明することができる。到達目標③④に関連して、「九州地方の自然環境と人々の暮らし」「九州地方の自然環境と産業」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	九州地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。九州地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
14	第一部 金12/18	九州地方（２）	南西諸島の自然環境と人々の暮らし・産業	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、南西諸島の自然環境と人々の営み・産業の特色を理解し、説明することができる。到達目標③④に関連して、「南西諸島の自然環境と人々の暮らし・産業」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
		事前学修	南西諸島の自然環境と人々の営み・産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
15	第一部 金12/25	後期の授業の総まとめ	前期の授業を振り返り、学んだことを再確認する。その後、前期の授業の「総まとめの小テスト」を実施し、解説・振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだ「日本の各地方の自然環境と人々の暮らしと産業」の内容を理解し、説明することができる。到達目標③④に関連して、前期に学んだ「日本の各地方の自然環境と人々の暮らしと産業」について課題意識を持ったことを考えまとめることができる。	
		事前学修	後期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
		事後学修	1年間の自然地理の授業で学んだことをこれからの日本での生活に実践的に生かす。	120分

科目名	日本の社会A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表、およびレポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。												
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7回と第14回に、それまでの回から理解したことなどに関するレポートを公表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重せず、他国を尊重する態度が身に付いてるかを確認する。		60									60
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度												
その他(授業内レポート)	毎回の授業内レポートについて、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	80									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山克秀	かんき出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	日本の社会Aの学習	日本の社会Aの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスとメモ、レポートを確認し、その内容を十分に理解する。	120分
2	4/16	グローバル化と情報化	テキストの01「格差社会を拡散させるグローバル化の猛威」、02「情報化のキーワードはつながる」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、グローバル化と情報化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/23	少子高齢化と安全な社会づくり	前回のレポート紹介と講評。テキストの03「世界一のスピード！日本は少子高齢化超特急だ」、04「環境問題だけじゃない！安全で幸せな社会づくり」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、少子高齢化と安全な社会づくりについて、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/30	文化と現代文化	前回のレポート紹介と講評。テキストの05「国や地域によって千差万別！生活に密着している文化」、06「マンガ・アニメは日本の誇る現代文化だ」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、文化と現代文化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/7	自由と責任、正義について	前回のレポート紹介と講評。テキストの07「責任を伴わない自由なんてありえない！」、08「多数決こそが正義は危険！」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と責任、正義について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/14	基本的人権と主権者について	前回のレポート紹介と講評。テキストの09「あたり前だけどあたり前じゃない基本的人権」、10「天皇は神から人に、国民は家臣から主権者に!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、基本的人権と主権者について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、さらにそれを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	5/28	国民主権と自衛隊について	前回のレポート紹介と講評。テキストの11「国民こそが国家の支配者だ!」、12「自衛隊は戦力ではなく実力!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、国民主権と自衛隊について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	6/4	人権と差別問題について	前回のレポート紹介と講評。テキストの13「犯罪者にだって人権はある!？」、14「日本に存在する差別問題」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、人権と差別問題について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/11	自由と最低限度の生活について	前回のレポート紹介と講評。テキストの15「おれは自由だ〜って誰から、何から?」、16「健康で文化的な最低限度の生活って何?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と最低限度の生活について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/18	参政権と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの17「参政権なんていらねーよとかいっちゃダメ!」、18「人権は無制限には尊重できない!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、参政権と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/25	憲法と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの19「憲法に載っていない人権がある?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、憲法と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	新しい人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの20「社会の変化が生み出した新しい人権」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、新しい人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/9	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明することができる。	
		事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/16	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
		事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業ノート確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の社会B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表、およびレポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。				2	2						
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。						2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを発表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重しない態度が身に付いているかを確認する。		25									25
その他(期末レポート)	第14回に、これまでの全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを発表、提出してもらい、到達目標2②についての両国を尊重し、より良い関係を創造する力が身に付いているかを確認する。		35									35
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	80									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山 克秀	かんき出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	日本の社会Bの学習	日本の社会Bの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスと授業ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/24	主権と選挙権	前回のレポート紹介と講評。テキストの21「少数意見の持ち主もみんなが主権者」、22「お金がなくても選挙権を持っている」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、主権と選挙権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	10/1	選挙違反、政治と金	前回のレポート紹介と講評。テキストの23「連呼に電話に戸別訪問。いったいどれが選挙違反！？」、24「政治にカネがかかるは事実」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、選挙違反、政治と金について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	10/8	主張の偏り、国会議員	前回のレポート紹介と講評。テキストの25「あなたの主張、偏っていない？」、26「国会議員が何をする人かわかりますか？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、主張の偏り、国会議員について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	120分
5	10/15	国会、内閣	前回のレポート紹介と講評。テキストの27「ヤジ、バンザイ、審議拒否…国会の仕事って？」、28「国会と内閣ってどう違うんだっけ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、国会、内閣について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/22	官僚、黙秘権	前回のレポート紹介と講評。テキストの29「官僚って何をする人？」、30「令状がないなら帰れ黙秘します！は憲法上の権利」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、官僚、黙秘権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	11/5	裁判員制度、国会・内閣・裁判所	前回のレポート紹介と講評。テキストの31「えっ！私が裁判員になるの？」、32「国会・内閣・裁判所はグー・チョキ・パーの関係」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめたレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、裁判員制度、国会・内閣・裁判所について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/12	地方、住民投票	前回のレポート紹介と講評。テキストの33「地方らしさの発揮って何をするの？」、34「外国人でも中学生でも政治に参加できる！？住民投票」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめたレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、地方、住民投票について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/19	経済、悪徳商法	前回のレポート紹介と講評。テキストの35「ごはんを食べ、服を買い、映画を観るのが経済」、36「悪徳商法には引っ掛かりたくない」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめたレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、経済、悪徳商法について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	12/3	自由と平等、会社組織	前回のレポート紹介と講評。テキストの37「自由を取るか、平等を取るか。それが分かれ目だ」、38「会社で一番偉いのは社長じゃない！？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめたレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と平等、会社組織について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/10	働く意味、働き方	前回のレポート紹介と講評。テキストの39「働くことの意味ってなんだろう？」、40「これからの働き方はどうなっていくんだろう？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめたレポートを書き、記録を取って提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、働く意味、働き方について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	需要と供給、紙幣の価値	前回のレポート紹介と講評。テキストの41「需要と供給ってどういうこと？」、42「ただの紙なのに、1万円札に価値があるのはなぜ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、需要と供給、紙幣の価値について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/24	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	1/14	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができるようになり、それを説明できる。	
		事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
		事後学修	他者の見解を元に、授業ノートを確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の前近代 I	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 古文書や図像などのさまざまな史料（歴史研究の材料）を使ってどのように歴史研究を進めていくのか、ということの切り口にして、歴史学の特質について学修する。特に、前近代の日本の史料（漢文や古文のようなもの）を中心素材として学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、さまざまな資料から情報を抽出し、活用することへの初歩的な理解や、歴史に関するさまざまな情報を取捨選択するための初歩的な能力を修得する。
--

【履修条件】 恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。
--

【授業方法】 講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間の営為のなかで、どのように情報が残されていくのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
②	残された過去の情報をもとに、どのようにして「歴史」が明らかにされるのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	40	60									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
		事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	4/17	主題1 基礎 歴史学とは何か？（1）—その目的と境界—	歴史学の目的とその境界について概観する	
		この回の到達目標	歴史学の目的と境界についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	4/24	主題1 展開 歴史学とは何か？（2）—隣接諸分野との関係—	歴史学と隣接諸分野（政治学・法学・経済学等）との関係について概観する	
		この回の到達目標	歴史学と隣接諸分野との関係についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	5/1	主題2 基礎 時代区分とは何か？（1）—戦前の歴史学から戦後歴史学まで—	日本史の時代区分論について、戦前の歴史学から戦後歴史学までの主要な議論を概観する	
		この回の到達目標	日本史の時代区分論（戦前の歴史学～戦後歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	5/8	主題2 展開 時代区分とは何か？（2）—現代歴史学の諸動向—	日本史の時代区分論について、現在歴史学の諸動向を概観する	
		この回の到達目標	日本史の時代区分論（現代歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	5/15	主題3 基礎 史料とは何か？（1）—一次史料と二次史料—	史料についての基礎的な知識や留意点を概観する	
		この回の到達目標	史料についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	主題3 展開 史料とは何か？（2）—口承文芸とオーラル・ヒストリー—	無文字社会（アイヌ等）の歴史を辿るための「史料」の性格とその留意点を概観する	
		この回の到達目標	無文字社会の歴史を辿るための「史料」の性格と留意点について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	5/29	中間まとめ	前半の授業内容を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
		この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	6/5	主題4 基礎 史料批判とは何か？（1）—その目的と方法—	史料批判の目的と方法について概観する	
		この回の到達目標	史料批判の目的と方法について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	6/12	主題4 展開 史料批判とは何か？（2）—言語論的転回との関係—	史料批判と言語論的転回の関係について、主要な議論を概観する	
		この回の到達目標	史料批判と言語論的転回の関係について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	6/19	主題5 基礎 拡大する史料（1）—書物研究の進展—	研究の進展にともなって新たな史料が開拓された事例（書物研究等）について概観する	
		この回の到達目標	書物研究の事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	6/26	主題5 展開 拡大する史料（2）—偽文書と由緒—	偽文書を活用した研究の方法や事例について概観する	
		この回の到達目標	偽文書を活用した研究の方法や事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	主題6 基礎 史料と現在 (1) 一 整理・保存・活用	史料の整理・保存・活用について概観する	
		この回の到達目標	史料の整理・保存・活用について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	7/10	主題6 展開 史料と現在 (2) 一 歴史実践とパブリック・ヒストリー	歴史実践とパブリック・ヒストリーについて概観する	
		この回の到達目標	歴史実践の諸相やパブリック・ヒストリーの動向について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	7/17	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
		この回の到達目標	人間の営為のなかでどのように情報が残されるのかということ、及び残された過去の情報をもとにどのように「歴史」が明らかにされるのかということについて、一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
		事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の前近代Ⅱ	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
江戸時代の社会について、史料を切り口に、いくつかの話題から掘り下げて考えていく。具体的には、漢文や古文のような江戸時代の史料を読み解きながら、日本の近世の村や、日本の近世の社会の特質について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、日本の近世の村や日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解を持つ。それを踏まえて、現在の社会との類似点・相違点を考えることにより、現在の社会を捉え直す視点を獲得する。

【履修条件】
恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。

【授業方法】		
講義形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史的な視点に立ち、歴史的事象について説明できる。						2	2	2	2				
②	日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解をもち、説明できる。						2	2	2	2				
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	30	70									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	70									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
		事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
		事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	9/25	主題1 基礎 近世日本の政治体制と東アジア（1）－統治組織の構造－	近世日本の政治体制の性格について、統治組織の構造を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（統治組織の構造）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	10/2	主題1 展開 近世日本の政治体制と東アジア（2）－中国・朝鮮との比較から－	近世日本の政治体制の性格について、中国・朝鮮との比較を中心に検討する	
		この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（中国・朝鮮との比較）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	10/9	主題2 基礎 近世日本の民間社会と庶民（1）－身分集団の様態－	近世日本の民間社会の特徴について、身分集団の様態を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（身分集団の様態）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	10/16	主題2 展開 近世日本の民間社会と庶民（2）－出版文化の隆盛－	近世日本の民間社会の特徴について、出版文化の隆盛を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（出版文化の隆盛）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	10/23	主題3 基礎 近世日本の対外関係と長崎（1）－出島・唐人屋敷・通詞－	近世日本の対外関係の実態について、出島・唐人屋敷・通詞といったキーワードを中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（出島・唐人屋敷・通詞）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	主題3 展開 近世日本の対外関係と長崎（2）—異国人・遊女・混血児—	近世日本の対外関係の実態について、異国人・遊女・混血児といったキーワードを中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（異国人・遊女・混血児）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	11/6	中間まとめ	前半の授業を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
		この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	11/13	主題4 基礎 近世琉球の政治・社会と東アジア（1）—中国・日本・薩摩との関係—	近世琉球の様態について、中国・日本・薩摩との関係を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世琉球の様態（中国・日本・薩摩との関係）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	11/20	主題4 展開 近世琉球の政治・社会と東アジア（2）—琉球文化の諸相—	近世琉球の様態について、その文化の諸相を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世琉球の様態（琉球文化の諸相）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	11/27	主題5 基礎 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（1）—私塾・会読・遊学—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、私塾・会読・遊学を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（私塾・会読・遊学）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	12/4	主題5 展開 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（2）—武士の上方在番と学問受容—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、武士の上方在番の事例を中心に概観する	
		この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（武士の上方在番の事例）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	主題6 基礎 幕末・維新期へ（１）―天皇・朝廷の政治的浮上とその背景―	幕末・維新期の諸相について、天皇・朝廷の政治的浮上を中心に概観する	
		この回の到達目標	幕末・維新期の諸相（天皇・朝廷の政治的浮上）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	12/18	主題6 展開 幕末・維新期へ（２）―ロシアの出現とその波紋―	幕末・維新期の諸相について、ロシアの出現を中心に概観する	
		この回の到達目標	幕末・維新期の諸相（ロシアの出現）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
		事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	12/25	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
		この回の到達目標	歴史的な視点に立ち、日本の近世社会の特質について基礎的な知識を持ち、それを一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
		事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
		事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の文化A	担当者	浅野 充	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では1年の各時期に、また人の生涯を通じてさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば、江戸や東京について、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の年中行事について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の年中行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とする。それ以外の内容についても、基本的に講義形式で行う。リアクションペーパー＝小テストと授業内試験のフィードバックはその都度、授業内にて行う（場合によってはポータルシステムも利用する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の年中行事、習慣の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書く授業内試験により評価する。	20	50									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武	青春出版社	2003年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の3限と5限（授業の前後）に対応可能です。授業講堂にて。メールの場合はasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木4/9	【ガイダンス】【干支と六曜】	授業計画などのガイダンスと導入。干支や六曜などを導入として取り上げ、日本の習慣やしきたりについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自国の文化、生活、社会と比較する素地をつくる。	
		事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣との比較や、日本での生活とで思い浮かぶことをまとめておくこと。	120分
2	木4/16	【日本の花見】	花見と日本人（最新の出来事Ⅰ）。日本の花見の習慣の歴史や桜の種類などについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の桜の花見について、あらためて学修、整理をする。	
		事前学修	花見に行っておくことが望ましい。	120分
		事後学修	花見について、自分の国の習慣との比較や、日本での経験などをまとめておくこと。まだ行える花見があるかどうか調べる（行ってみても良いかもしれません）。	120分
3	木4/23	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する：正月行事のしきたりⅠ。初日の出。初詣。門松。しめ飾り。年男。若水。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
4	木4/30	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する：正月行事のしきたりⅡ。鏡餅。おとそ。おせち料理。雑煮。お年玉。書き初め。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。	120分
5	木5/7	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する：正月行事のしきたりⅢ。初夢。七草がゆ。鏡開き。小正月。左義長。藪入り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
6	木5/14	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する：年中行事のしきたりⅠ。節分。初午。針供養。ひな祭り。お彼岸。花祭り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木5/21	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する：年中行事のしきたりⅡ。八十八夜。端午の節句。衣替え。七夕。土用の丑の日。お盆。盆踊り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。	120分
8	木5/28	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する：年中行事のしきたりⅢ。お月見。重陽の節句。恵比須講。酉の市。年の市。除夜の鐘。年越しそば。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。なお、3-8回までで取り上げたしきたりが、ちょうど時期的に合っているものについては、自分の住居の近所の行事を見学したりすることも良いかと思います。	120分
9	木6/4	【江戸と東京】	江戸と東京Ⅰ。近世都市江戸の成立について学修する。	
		この回の到達目標	現在、学びの場である日大法学部の所在する東京の歴史的な成り立ちを理解し、自国の人たちに概略を説明できるようになる。	
		事前学修	自分の住んでいる地域や日大法学部のある地域の地図をよく見ておくこと。歴史地図を見られればさらに良いです（2時間）。	120分
		事後学修	江戸について、知っていること、知りたいことを整理しておくこと。	120分
10	木6/11	【江戸と東京】	江戸と東京Ⅱ。大江戸の成立。水道橋の名称の由来と江戸の上水を学修し、江戸についてのビデオを見る。	
		この回の到達目標	日大法学部の所在する水道橋について興味を持ち、日本の江戸時代の文化、生活の一端を理解する。	
		事前学修	配布したプリントの江戸と東京の地図をよく見ておくこと。	120分
		事後学修	江戸について知ったこと、さらに知りたいことを整理してまとめておくこと（2時間）。	120分
11	木6/18	【日本の結婚のしきたり】	テキストを購読する：結婚のしきたりⅠ。婚姻。見合い。仲人。結納。神前結婚式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
12	木6/25	【日本の結婚のしきたり】	テキストを購読する：結婚のしきたりⅡ。三三九度。披露宴。お色直し。引出物。里帰り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木7/2	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する：懐妊・出産のしきたりⅠ。帯祝い。へその緒。お七夜。赤飯。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
14	木7/9	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する：懐妊・出産のしきたりⅡ。お宮参り。お食い初め。初誕生祝い。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
15	木7/16	【授業内試験】【解説】	日本の文化Aの授業内試験とフィードバック、まとめ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかを試験を通じて確認する。	
		事前学修	日本の文化Aの授業内容について、ノート・小テストを見直し、確認しておくこと	120分
		事後学修	授業内試験問題・正解の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと。	120分

科目名	日本の文化B	担当者	浅野 充	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では、お祝いや弔事（葬儀など）の時などにさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば歴史都市、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の慶事（お祝い）や弔事（葬儀など）の行事、手紙の作法について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の慶事・弔事の行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とする。それ以外の内容についても、基本的に講義形式で行う。リアクションペーパー＝小テストと授業内試験のフィードバックはその都度、授業内にて行う（場合によってはポータルシステムを利用する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の慶事や弔事の行事、手紙作法の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書く授業内試験により評価する。	20	50									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武	青春出版社	2003年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の3限と5限（授業の前後）に対応可能です。授業講堂にて。メールの場合はasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木9/17	【ガイダンス】【日本の休日制度】	授業計画などのガイダンスと導入を行う。受講学生が重なるようであれば、日本の文化Aの定期試験の返却なども行う予定。導入については、日本の休日制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の休日制度と文化との関わりを理解し、その歴史や現状を理解し、学修する。	
		事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱った休日などについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること。	120分
2	木9/24	【日本の祝い事】	テキストを購読する：祝い事のしきたりⅠ。七五三。十三参り。成人式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
3	木10/1	【日本の祝い事】	テキストを購読する：祝い事のしきたりⅡ。還暦の祝い。長寿の祝い。地鎮祭。棟上式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。2・3回目に取り上げたしきたりが自分の周りで行われているようでしたら、見学させてもらおうと思います。	120分
4	木10/8	【日本の贈答の行い方】	テキストを購読する：贈答のしきたりⅠ。中元。歳暮。贈答品の包装。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
5	木10/15	【日本の贈答の行い方】	テキストを購読する：贈答のしきたりⅡ。水引。のし。贈答品の表書き。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。4・5回目に取り上げたしきたりを自分が実際に行う体験がある人は良く思いだしておくこと。	120分
6	木10/22	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修するⅠ。平安京を中心にして日本の古代の都の具体的実像を理解し、確認する。	
		この回の到達目標	日本の平安京と中国の唐の長安城とを比較し、両者の類似点、相違点を整理する。	
		事前学修	自分が旅行などで、京都のどこに行ったかを思いだし整理しておくこと。地図などを駆使することもお勧めです。	120分
		事後学修	自分が行ったことのある京都の観光地などは歴史的にみるとどの時代のものかを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木10/29	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修するⅡ。その後の（中世・近世・近代・現代）の京都の変遷を理解し、確認する。京都の人気観光スポットを概観する。	
		この回の到達目標	中世以後の京都の歴史を学修し、理解する。京都の人気観光スポットを確認し、その歴史と注目点を学修し、理解する	
		事前学修	配布プリントをよく見ておくこと。授業では説明し切れていない部分もあるので、その部分はよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	今後、京都のどこに行きたいかをあらためて考えてみる。世界遺産、国宝などの該当寺社なども調べてみると興味がわくと思います。	120分
8	木11/5	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修するⅢ。京都御所のビデオを見る。	
		この回の到達目標	現在の京都御所の所在地、歴史、注目点を学修するために、京都御所の歴史を概観するビデオを視聴する。時間があれば、京都についての他のビデオも視聴する。	
		事前学修	京都御所について、歴史や所在地について調べてみる。	120分
		事後学修	京都御所のビデオを見た感想をまとめてみる。	120分
9	木11/12	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する：手紙のしきたりⅠ。手紙と葉書。表書き。裏書き。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、自国の手紙の書き方、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分にきた手紙を読み返してみる。	120分
		事後学修	授業で講義した内容を基に、表書きと裏書きを書く練習をしてみる。	120分
10	木11/19	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する：手紙のしきたりⅡ。頭語と結語。時候のあいさつ。実際に、手紙の凡例を書く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、日本式の手紙を書くことができるようになる。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに自分が日本で書いた手紙を思い起こしておく。	120分
		事後学修	授業で学んだ手紙の書き方を復習し、これまでに自分にきた手紙の正しい部分、問題のある部分を確認してみる。	120分
11	木12/3	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する：手紙のしきたりⅢ。年賀状。暑中見舞い。手紙の禁忌言葉。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、日本式の手紙の書き方の細部を理解する。季節柄、年賀状を書くことができるようになる。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の時候の手紙を確認してみる（現在だけでなく、古い習慣も調べてみる）。	120分
		事後学修	授業で取り扱った手紙や禁忌言葉について、自分の国の手紙などと具体的に比較し、まとめてみる。	120分
12	木12/10	【日本の葬儀】	テキストを購読する：葬式のしきたりⅠ。末期の水。死装束。北枕。通夜。葬式。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておく。	120分
		事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木12/17	【日本の葬儀】	テキストを購読する：葬式のしきたりⅡ。焼香。戒名。位牌。お布施。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
		事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
14	木12/24	【日本の葬儀】	テキストを購読する：葬式のしきたりⅢ。出棺。香典。忌中と忌明け。精進落とし。年忌法要。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。特に香典の金額の相場を学修する。	
		事前学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
		事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
15	木1/14	【授業内試験】【解説】	日本の文化Bの授業内試験、フィードバック、まとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかを試験を通じて確認する。	
		事前学修	日本の文化Bの授業内容について、ノート・小テストを見直し、確認しておくこと。	120分
		事後学修	試験の正解の確認と自分の意見を振り返っておくこと。また、日本のしきたりなどで、さらに知りたいことを整理しておくこと。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。

【授業方法】
板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特にないが、発言をもとめることはある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最初の講義で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (4/8)	【ガイダンス】【言語遊戯とは】	年間講義計画・評価法などについてのガイダンスと、言語遊戯について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言語遊戯の歴史について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを熟読すること。	120分
		事後学修	江戸時代について概観する。	120分
2	第一部水 (4/15)	【江戸文学とはなにか】	江戸文学とは何かを理解し、前時代との差異を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、江戸文学史を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえてノートをとめる。	120分
3	第一部水 (4/22)	【言語遊戯の発生】	言語遊戯の発生について理解し、その文学的背景を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して言語遊戯における和歌の位置について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえてノートをとめる。	120分
4	第一部水 (4/29)	【中世の連歌となぞ】	中世・近世の「なぞ」について理解し表現の方法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して多様化する言語遊戯と連歌の関係について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	なぞについて調査し、レポートする。	240分
5	第一部水 (5/6)	【変容する文芸と言語遊戯】	川柳前夜について講義する。新たなジャンルの誕生過程と時代背景を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、川柳誕生の時代背景と読者層について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	都市としての「江戸」について調査する。	180分
6	第一部水 (5/13)	【新たな文芸都市、江戸】	川柳と文運東漸について理解し、新興都市における文化の発展について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、上方から江戸への文化移動について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえてレポートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (5/20)	【通俗化された歴史と川柳】	歴史と川柳について講義する。詠史句について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、庶民の文芸への参画について説明し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	240分
8	第一部水 (5/27)	【川柳に描かれた習俗】	日常句と川柳について講義する。現在も変わらぬ人の心理について作品を通して理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当時の習俗と現代の習俗の違いを説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
9	第一部水 (6/3)	【パロディとは何か】【百人一首と言語遊戯】	パロディについて、百人一首を題材に講義する。古来より親しまれてきた古典をどのように変換し、笑いに換えるかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パロディについて説明でき、その上で、百人一首を用いた言語遊戯について自分の考えをのべることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	百人一首について調査士、まとめる。	180分
10	第一部水 (6/10)	【文芸における見立て】	見立てについて講義する。共通理解のもと作られたさまざまな文芸について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、見立ての技法について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
		事後学修	見立てを用いた作品について調査する。	180分
11	第一部水 (6/17)	【現代の漫画と見立て絵本】	見立て絵本について講義する。その豊かな表現力を理解し、現在の漫画との差異を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して漫画と見立て絵本の関連性について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
12	第一部水 (6/24)	【芸能と言語遊戯】	言語遊戯と他文芸について講義する。話芸や歌舞伎に用いられた言語遊戯を理解し、豊かな表現力を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、芸能に表現された言語遊戯について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (7/1)	【浮世絵に描かれた言語遊戯】	浮世絵と言語遊戯について講義する。実際に「判じ絵」を鑑賞し、その面白さを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、浮世絵に描かれた言語遊戯の意図を理解し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	浮世絵についてレポート作成。	180分
14	第一部水 (7/8)	【確認テストと解説】	授業内試験と解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義の全体像を的確に説明できる。	
		事前学修	前期内容を踏まえ、ノートをまとめる。	120分
		事後学修	川柳についてのレポート作成。	180分
15	第一部水 (7/15)	【全体の概観】	前期のまとめ。全体を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④のすべてについて、自分の理解度を文章化できる。	
		事前学修	解説をもとに質問を考える。	120分
		事後学修	前期講義を復習する。今回のテーマについて予習する。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。提出されたレポートについては、ポータルシステムで講評を公開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により，毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と，到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	ガイダンス『万葉集』とは？	前期の授業計画と内容、目標についての説明。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大まかな8世紀の日本で成立した『万葉集』の概略を理解することができる。
		事前学修	高校の教科書などを使って、『万葉集』がどのように成立しかのか、まとめておく。
		事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。
2	4/13	8世紀の日本とは？	「日本」と「天皇」の成立時期とその意義について学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「日本」・「天皇」の成立を通して、8世紀の日本が行った外交政策について理解することができる。
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。
		事後学修	『万葉集』が成立した時期と、「日本」「天皇」が成立した時期について確認する。
3	4/20	田辺福麻呂とは？	田辺福麻呂に関する説明を受け、渡来人系歌人の一実態を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宮廷歌人的な存在でもあった田辺福麻呂の人物像を通して、古代の官人の地方赴任時の業務について理解することができる。
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。
4	4/27	田辺福麻呂の宴席歌とは？	田辺福麻呂が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席でのルールを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、田辺福麻呂の宴席歌からうかがえる、地方の地名が同音の別の語を連想させ、歌のレトリックとして用いられる表現の戯遊性について理解することができる。
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。
		事後学修	宴席における田辺福麻呂の役割について確認する。
5	5/4	秦朝現とは？	秦朝元に関する説明を受け、宴席で歌を披露することができなかった歌人の事情を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、秦朝元からうかがえる渡来系氏族の一実態と、天皇臨席の宴席における人間関係（政敵を含む）の一端を理解することができる。
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。
6	5/11	宴席の座席は決まっているの？	秦朝元が歌を披露した宴席歌群全体を通して、天皇臨席の宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分によって「大殿」と「南の細殿」に席が分けられ、身分の高い人から順に歌を披露されていくこの時代の宴席の特徴について理解することができる。
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。
		事後学修	宴席における秦朝元の役割を確認する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	大伴家持とは？	大伴家持に関する説明を受け、家持がいかに宴席に慣れていたかを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当時21歳の大伴家持をはじめ若い貴族子弟が参集された宴席での、家持の立ち位置を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
8	5/25	宴席のルールとは？	大伴家持が参加した「黄葉」を主客にした宴席全体を通して文雅を愛する子弟たちの宴席歌の特徴について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分秩序に基づいた席順、歌を披露する順番、歌で表現しなければならないルール等と理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴家持の役割を確認する。	120分
9	6/1	大伴坂上郎女の伝記的情報とは？	大伴坂上郎女の伝記的情報とはどのようなものか学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『万葉集』が伝える坂上郎女の伝記的情報の特殊性を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
10	6/8	女性歌の「引き留め歌」とは？	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、女性歌の宴席での役割を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌の宴席歌「引き留め歌」の特徴を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する①。	120分
11	6/15	禁酒令とは？	古代の禁酒令について学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日照りの害や疫病、災害に関する対策の一つで公布される禁酒令とそれらが目的ではなく公布された禁酒令との違いを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
12	6/22	酒と宴席歌の関係性とは？	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、酒と歌との関係性について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、酒と宴席歌との関連性を通して、宴席歌における表現の意図についても理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する②。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	藤原仲麻呂とは？	藤原仲麻呂の政治家としての活躍を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、藤原氏の頂点に立っていた時の藤原仲麻呂の人物像について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	7/6	宴席における君臣秩序とは？	藤原仲麻呂が歌を披露した宴席歌群を通して、歌による君臣秩序の作用を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、あえて歌の形で自分の力を誇示した藤原仲麻呂の宴席歌の特徴について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における藤原仲麻呂の役割を確認する。	120分
15	7/13	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、宴席は社交の場であり、平城京時代の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	貴族は宴席で歌を披露するルールをどのように理解していたのかを確認する①。	180分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義時にプリントを配布する。毎回、前回提出のコメントシートを教場にて読み上げ講評する。なお、扱う文学者は講義の進行具合に応じて変化する可能性があることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントシートに対するレスポンスを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。						2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。							2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。								2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内での解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に配布するプリントを主に使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取るこ

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。近代と日本の文学について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の概要をつかむことができる。	
		事前学修	明治期の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	近代と日本の文学について、講義内容を復習しておくこと。	120分
2	第一部 水 4/15	明治期の「ユートピア」思想	政治小説とSF	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	明治期の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	政治小説とSFについて、講義内容を復習しておくこと。	120分
3	第一部 水 4/22	坪内逍遙	近代小説の理論と実践	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	坪内逍遙について確認しておくこと。	120分
		事後学修	坪内逍遙と二葉亭四迷について、講義内容を復習しておくこと。	120分
4	第一部 水 4/29	二葉亭四迷	言文一致について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	二葉亭四迷について確認しておくこと。	120分
		事後学修	泉鏡花と柳田国男について、講義内容を復習しておくこと。	120分
5	第一部 水 5/6	森鷗外（1）	〈立身出世〉の問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	森鷗外について確認しておくこと。	120分
		事後学修	森鷗外について、講義内容を復習しておくこと。	120分
6	第一部 水 5/13	森鷗外（2）	ベルリンの空間	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	森鷗外について確認しておくこと。	120分
		事後学修	森鷗外について、講義内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	明治初期のジャーナリスト ／樋口一葉（１）	江戸から東京へ	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	松原岩五郎、横山源之助、樋口一葉について確認しておくこと。	120分
		事後学修	松原岩五郎、横山源之助、樋口一葉について、講義内容を復習しておくこと。	120分
8	第一部 水 5/27	樋口一葉（２）	近代における〈子ども〉	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	樋口一葉について確認しておくこと。	120分
		事後学修	樋口一葉について、講義内容を復習しておくこと。	120分
9	第一部 水 6/3	自然主義（１）	永井荷風と初期自然主義	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	永井荷風について確認しておくこと。	120分
		事後学修	永井荷風について、講義内容を復習しておくこと。	120分
10	第一部 水 6/10	自然主義（２）	島崎藤村と田山花袋	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	島崎藤村、田山花袋について確認しておくこと。（２時間）	120分
		事後学修	島崎藤村、田山花袋について、講義内容を復習しておくこと。（２時間）	120分
11	第一部 水 6/17	泉鏡花、柳田國男	〈山〉とロマン主義的「文学」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	泉鏡花、柳田國男について確認しておくこと。	120分
		事後学修	泉鏡花、柳田國男について、講義内容を復習しておくこと。	120分
12	第一部 水 6/24	夏目漱石（１）	労働力の問題	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	夏目漱石について確認しておくこと。	120分
		事後学修	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7/1	夏目漱石（2）	鉱山の時空間	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	夏目漱石について確認しておくこと。	120分
		事後学修	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。	120分
14	第一部 水 7/8	芥川龍之介、谷崎潤一郎	ロシア革命のインパクト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	芥川龍之介、谷崎潤一郎について確認しておくこと。	120分
		事後学修	芥川龍之介、谷崎潤一郎について、講義内容を復習しておくこと。	120分
15	第一部 水 7/15	振り返り	近代と日本の文学について。半期の講義を振り返り、理解の到達度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解し、最終課題を提出することができる。	
		事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	近代と日本の文学について、前期講義内容の確認をしておくこと。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	山岸 郁子	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。手に入りやすい作品を扱うので、必ずあらかじめ読んでおくこと。また資料を配付するのでスクラップし持参すること。

【授業方法】
資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をコメントシートに書いて提出する(その紹介)などし て、一方通行の授業にならないように注意する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で小テストやコメントシートについて講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（プリントを配布する）。				

【オフィスアワー】
火曜日18時～19時30分（休暇中を除く。事前にメールでアポイントを取ること）講師室。yamagishi.ikuko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【ガイダンス】【文学と文学的なものとは】	樋口一葉「たけくらべ」を取り上げ〈文学〉と〈文学的〉なるものの関係性について学修する。また授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価のポイントを説明し、事前、事後の学習方法について理解し、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文学を読むための基本的なリテラシーを修得し、身の回りにある〈文学的〉なるものについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、国語教育において読んできた具体的な作品と学んだ内容についてノートに整理し、講義内容と比較・検討することができるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、国語教育において学んできた作品の読み方と異なる多様な分析方法について理解する。	80分
2	4/14	【文学の背景を知るためには】	樋口一葉「たけくらべ」について、作品に映し出された時代背景や社会状況を知るための調査の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、作品の時代背景や言語空間について、当時の地図や書簡を用いて理解し、説明することができる。	
		事前学修	「たけくらべ」と樋口一葉について調べ、作品を精読しておく。	80分
		事後学修	「たけくらべ」を再読し、時代背景や社会状況から読み解けるところをノートにまとめる。	80分
3	4/21	【文学の構造を理解するためには】	森鷗外「舞姫」について、作品を構造化して認識し、語りの機能について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「語り」の位置について確認し、作品の中でどのような役割をはたしているのか理解し、説明することができる。	
		事前学修	「舞姫」を読み、概要をつかんでおく。また森鷗外について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「舞姫」を再読し、エリスと出会う前後について、それぞれ内容をノートに簡潔にまとめる。	80分
4	4/28	【文学作品のプロットを正確に把握するためには】	森鷗外「舞姫」について、登場人物の関係性を整理し、物語においてどのような役割を果たしているのか学修する。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、文学を批評的に読むために必要なリテラシーを確認し、自分の言葉で表現することができる。	
		事前学修	「舞姫」における登場人物の役割についてノートに整理しておく。	80分
		事後学修	「舞姫」を再読し、理解を深める。太田豊太郎について自分の言葉で批評的に分析し、ノートにまとめる。	80分
5	5/5	【文学とメディアの関係について理解するためには】	夏目漱石「こころ」について、新聞メディア（「朝日新聞」）と小説の関係性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「こころ」と掲載紙である「朝日新聞」との関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「こころ」を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。「こころ」の中で新聞がどのように扱われているのか、ノートにまとめる。夏目漱石について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「こころ」の中で新聞に関して記述された部分を再読し、その役割について理解する。	80分
6	5/12	【他者との関わりと物語のプロットとの関係を把握するためには】	夏目漱石「こころ」について、登場人物の関係性とその意味について分析・学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「こころ」に登場する人間関係を押さえ、その意味と役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	夏目漱石について国語便覧などを用いて、その代表的な作品を押さえておく。	80分
		事後学修	「こころ」を再読し、「先生」と「K」、「先生」と「私」、そして「お嬢さん」「奥さん」の関係性に対する理解を深める。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	【文学における表現技法の効果について理解するためには】①	芥川龍之介「羅生門」について、作品世界を映し出すための技法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現技法の効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「羅生門」を読み、書かれている概要をつかんでおく。芥川龍之介について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「羅生門」を再読し、映像的な表現について再確認する。	80分
8	5/26	【文学における表現技法の効果について理解するためには】②	芥川龍之介「蜘蛛の糸」について、作品世界を映し出す「視点」に着目して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、作品が発表された時代状況（テクノロジーの発展）と作品との関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「蜘蛛の糸」を読み、なぜ糸が切れたのか自分なりに理由を考え、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「蜘蛛の糸」を再読し、移動する「視点」について、同時代の文脈において理解する。発展学習として「鼻」（プリント配布）を読む。	80分
9	6/2	【文学における区別と差別について理解するためには】	宮沢賢治「注文の多い料理店」において、象徴されている世界を正確にとらえる方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「東京」と「山奥」の違いをとらえ、ダブルミーニングの効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「注文の多い料理店」を読み、「東京」と「山奥」を示す言葉についてノートに整理しておく。宮沢賢治について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「注文の多い料理店」を再読し、その特徴について理解を深める。	80分
10	6/9	【文学表現として地方言語やオノマトペの効果について理解するためには】	宮沢賢治「永訣の朝」「やまなし」について、地方言語やオノマトペ（擬音語・擬態語）の効果について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宮沢賢治「永訣の朝」「やまなし」をとおして豊かな表現方法の可能性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「永訣の朝」「やまなし」を読み、描かれている内容について把握しておく。宮沢賢治について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「永訣の朝」「やまなし」を再読し、宮沢賢治作品が持つ特徴について理解を深める。（80分）	80分
11	6/16	【文学の中に表れる批評的言説について理解するためには】	川端康成「バッタと鈴虫」における語りの転移について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「バッタと鈴虫」について、その構造を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「バッタと鈴虫」を読み、作品の入れ子構造について図式化しノートにまとめておく。川端康成について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「バッタと鈴虫」を再読し、その特徴について理解を深める。発展学習として「雨傘」（プリント配布）を読む。	80分
12	6/23	【文学に表現される「生」と「死」について理解するためには】	志賀直哉「城の崎にて」における時間の流れと思考の変化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現を追いながら、「私」の思考を変化させるポイントについて正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	「城の崎にて」を読み、心境が変化する出来事をノートにまとめる。志賀直哉について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	「城の崎にて」を再読し、その特徴について理解を深める。発展学習として、「生」と「死」について書かれた文学作品をノートに書き出す。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【文学における作家とはどのような存在であるか理解するためには】	太宰治「富嶽百景」について分析し、作家イメージの生成と流通について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「富嶽百景」に登場する「私」と太宰治という署名との関係を整理し、作家イメージの流通について学修する。	
		事前学修	「富嶽百景」を読み、書かれている概要をつかんでおく。太宰治について調べ、ノートにまとめておく。	80分
		事後学修	小説内での言葉と太宰治の伝記的イメージとの関係性について整理し、作家と表現の関係について理解を深める。	80分
14	7/7	【文学を読解する力、自分の考えを説明する表現力を身につけるためには】	文学の基本・読解・分析・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を学修できたかどうか試験によって確認する。また自分の解答を通して、振り返り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「文学」作品を方法論別に読み、それを批評的な文章で記述できるか試験によって確認する。試験のポイントについて振り返り、自分の解答の問題点を探る。	
		事前学修	これまでの講義内容をまとめ、文学を読むための複数の方法について整理し、理解する。また授業内試験の準備と対策をしておく。	120分
		事後学修	授業内試験の問題を確認し、授業での解説に備える。	80分
15	7/14	【国語教育における文学の役割を確認するためには】	これまでの講義内容をまとめ、文学を読み解くための方法について振り返り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、問題意識を深化・発展させるための概要を説明する。近代日本文学について半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。	
		事前学修	授業内試験の問題について改めて作成した解答をノートに記述し、授業での解説に備える。	80分
		事後学修	授業内に行った試験の解説・講評・紹介を参考にして、これまでの授業をまとめるとともに、紹介した参考文献を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	80分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典(電子辞書可)を持参すること。

【授業方法】
【注意】この授業では、日本の古典文学を扱う。平安時代の歌物語『伊勢物語』『大和物語』を読む。授業方法は、プリント資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をリアクションペーパーに書いて提出する(その紹介)などして、一方通行の授業にならないように注意する。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーによる双方向授業。また、受講者数にもよるがグループワークなどを取り入れた授業も行う予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出の次の週の授業内に対応。また、15週目の講義でも総合的なフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。				

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第 1 回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月曜日 9/14 第2部 火曜日 9/15	ガイドランスと歌物語の基礎知識	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。〔2〕歌物語の概要。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、歌物語についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
		事前学修	高校時代に学習した便覧・文学史のテキストなどで歌物語にどのようなものがあるのか調べて講義に臨む。	120分
		事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、歌物語の概要に関して整理しておく。	120分
2	第1部 月曜日 9/21 第2部 火曜日 9/22	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要とその特質	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
		事前学修	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』に関して書かれている部分を読み直す。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。	120分
		事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の特質をまとめる。	120分
3	第1部 月曜日 9/28 第2部 火曜日 9/29	『伊勢物語』の序段を読む	『伊勢物語』を読む〔その1〕——初段「初冠」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「初冠」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの初段「初冠」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕有職故実としての語句「初冠」について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、初段「初冠」に対する理解を深める。〔2〕「いちはやきみやび」とは何なのかをまとめる。	120分
4	第1部 月曜日 10/5 第2部 火曜日 10/6	『伊勢物語』の芥川伝説	『伊勢物語』を読む〔その2〕——六段「芥川」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「芥川」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの六段「芥川」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文の構成の面白さについて考えておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、六段「芥川」に対する理解を深める。	120分
5	第1部 月曜日 10/12 第2部 火曜日 10/13	『伊勢物語』が描く男女のすれ違い	『伊勢物語』を読む〔その3〕——二十四段「梓弓」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「梓弓」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの二十四段「梓弓」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕古典世界における「弓」「矢」の呪術的な意味合いについて調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、二十四段「梓弓」に対する理解を深める。〔2〕女の心情の変化を整理する。（2時間）	120分
6	第1部 月曜日 10/19 第2部 火曜日 10/20	『伊勢物語』が描く男の理想像	『伊勢物語』を読む〔その4〕——四十五段「ゆく蜆」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「ゆく蜆」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの四十五段「ゆく蜆」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕蜆の見られる季節やその特色について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、四十五段「ゆく蜆」に対する理解を深める。〔2〕和歌に込められた男の思いをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月曜日 10/26 第2部 火曜日 10/27	『伊勢物語』の和歌を楽しむ	『伊勢物語』を読む〔その5〕——百二十三段「鶉」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鶉」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百二十三段「鶉」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「深草」の地について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十三段「鶉」に対する理解を深める。〔2〕男の心情の変化について整理する。	120分
8	第1部 月曜日 11/9 第2部 火曜日 11/10	『伊勢物語』の結末	『伊勢物語』を読む〔その6〕——百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、在原業平の辞世の歌に込められた思いが説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「辞世の歌」について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」に対する理解を深める。〔2〕業平の恋愛について整理しておく。	120分
9	第1部 月曜日 11/16 第2部 火曜日 11/17	『大和物語』の芦刈伝説	『大和物語』を読む〔その1〕——百四十八段「芦刈」 （1）	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、『大和物語』の芦刈説話の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。	120分
10	第1部 月曜日 11/23 第2部 火曜日 11/24	『大和物語』の芦刈伝説と他の作品	『大和物語』を読む〔その2〕——百四十八段「芦刈」 （2）	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、登場人物の心情の変化が論理的に説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、ストーリーを整理する。〔2〕「芦刈伝説」について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。〔2〕物語中の和歌の役割について考えてみる。	120分
11	第1部 月曜日 11/30 第2部 火曜日 12/1	『大和物語』の伝説の描き方	『大和物語』を読む〔その3〕——百五十段「猿沢の池」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「猿沢の池」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百五十段「猿沢の池」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十段「猿沢の池」に対する理解を深める。〔2〕猿沢の池に関して発展学習として調べてみる。	120分
12	第1部 月曜日 12/7 第2部 火曜日 12/8	『大和物語』の人物描写	『大和物語』を読む〔その4〕——百五十六段「姥捨」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「姥捨」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を再読し、登場人物三人の人物像を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月曜日 12/14 第2部 火曜日 12/15	『大和物語』と他の作品の比較研究	『大和物語』を読む〔その5〕——百五十八段「鹿鳴く声」	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鹿鳴く声」の段の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	〔1〕プリントの百五十八段「鹿鳴く声」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕『今昔物語集』掲載本文との違いについて考えておく。	120分
		事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十八段「鹿鳴く声」に対する理解を深める。〔2〕男の恋心を取り戻された理由について整理する。	120分
14	第1部 月曜日 12/21 第2部 火曜日 12/22	半年間の学びの振り返り	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語の特質を説明できるとともに実際の章段の読解を通じて『伊勢物語』『大和物語』の概要が説明できることを目標とする。	
		事前学修	これまでの講義内容をまとめ、「歌物語に見られる「生」「愛」「死」のかたち」について整理し理解する。授業内試験の準備と対策をしておく。	180分
		事後学修	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。	120分
15	第1部 月曜日 1/18 第2部 火曜日 1/12	まとめと到達度確認テスト	〔1〕14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語や『伊勢物語』『大和物語』の特質を他者に向かって説明できることを目標とする。	
		事前学修	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。	180分
		事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	60分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。

【授業方法】
板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には行わないが、発言を求めることはある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最初の講義で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (9/16)	【ガイダンス】【日本の芸能】	後期講義のガイダンスと評価について理解する。また、日本の芸能の発生について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の芸能の発生について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	60分
		事後学修	歌舞伎以前の芸能について、調査する。	180分
2	第一部水 (9/23)	【かぶきの発生】	かぶきの発生について理解し、その時代背景について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎の発生と前時代の芸能との関係を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
3	第一部水 (9/30)	【劇場の誕生と三味線】 【台頭する若衆歌舞伎】	劇場の誕生から若衆歌舞伎まで理解し、その成り立ちを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、劇場について現代の劇場との比較ができる。また若衆歌舞伎について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	三味線について調査する。	240分
4	第一部水 (10/7)	【元禄歌舞伎とその時代】	元禄歌舞伎について、その経済成長などの時代背景とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、元禄歌舞伎のみならず、その時代背景についても説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
5	第一部水 (10/14)	【歌舞伎を鑑賞する】	狂言舞踊を鑑賞し、感想文を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、鑑賞した作品について、説明でき、その上で、批評できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
6	第一部水 (10/21)	【歌舞伎を飾る】	歌舞伎の舞台装置について、その成り立ちを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、さまざまな舞台装置について説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (10/28)	【歌舞伎十八番と家の芸】	歌舞伎十八番について考え、現代まで続く「家の芸」について、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、歌舞伎十八番について、説明でき、なおかつ、文章で表現できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。その上で、レポート作成する。	240分
8	第一部水 (11/11)	【歌舞伎を見る】	歌舞伎十八番の解説と鑑賞	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して作品を鑑賞し、感想文を書く。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
		事後学修	感想文作成	180分
9	第一部水 (11/18)	【歌舞伎のジャンル】	時代物と世話物など、歌舞伎のジャンルについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎のジャンルを説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
10	第一部水 (11/25)	【歌舞伎のドラマツルギー】	「世界」と趣向について講義する。歌舞伎の作劇法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎のドラマツルギーを説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
11	第一部水 (12/2)	【木阿弥とその時代】	河竹黙阿弥の作品について、その表現と魅力について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、黙阿弥が生きた幕末・明治の世相と芸能について、説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	黙阿弥の生涯について調査する。	180分
12	第一部水 (12/9)	【白浪ものを鑑賞する。】	作品鑑賞と解説をする。作品は講義の中で決める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、黙阿弥作品を鑑賞し、その魅力や時代性を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (12/16)	【歌舞伎における悪】	歌舞伎における「悪」の描かれ方について、南北と黙阿弥を通して、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、黙阿弥と南北の作品の描き方を説明できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
		事後学修	講義をもとに、ノートをまとめる。	120分
14	第一部水 (12/23)	【授業内試験と解説】	後期試験と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各項目を理解した上で、文章化できる。	
		事前学修	試験の準備をする。	120分
		事後学修	解説をもとにレポート作成	240分
15	第一部水 (1/13)	【江戸歌舞伎の概観】	後期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①2③④に関連して、講義全体を把握した上で、江戸の歌舞伎について批評できる。	
		事前学修	講義全体を把握する。	120分
		事後学修	最終的に全体をまとめる。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。提出されたレポートについては、ポータルシステムで講評を公開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。						2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。							2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。								2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により，毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と，到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス「梅花宴」とは？	後期の授業計画と内容、目標についての説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、元号の典拠となった『万葉集』梅花宴の概略を理解することができる。	
		事前学修	ポータルで配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	9/21	石上宅嗣とは？	石上宅嗣に関する説明を受け、渡来系歌人の特徴を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある石上宅嗣の略歴を通して、古代の官人の実態について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
3	9/28	歌文化の形成について	石上宅嗣が歌を披露した宴席歌群全体を通して、『万葉集』に登場する歌人はごく一部の官人であることを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大伴家持と交流がなく、漢文学に精通している石上宅嗣が、宴席でふさわしい歌を詠んでいることから、平城京の歌文化の背景には歌に限らない幅広い教養の官人の存在も理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における石上宅嗣の役割を確認する。	120分
4	10/5	葛井広成とは？	葛井広成に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある葛井広成を通して、8世紀の歌文化の形成にはこうした渡来系氏族を含めて成立したことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
5	10/12	宴席歌の特徴とは？	葛井広成が歌を披露した宴席歌群全体を通して、親しい仲間同士が集まった宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「蟬」の声に着目しながら宴席にける同調を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における葛井広成の役割を確認する。	120分
6	10/19	文馬養とは？	文馬養に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある文馬養を通して、平城京の歌文化の成熟に貢献した氏族の存在を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	宴席の「終宴歌」とは？	文馬養が歌を披露した宴席歌群全体を通して、直属の上司が主催した宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上司も含む仕事仲間が参集した宴席での歌の披露方法とその特徴について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における文馬養の役割について確認する。	120分
8	11/9	秦八十島とは？	秦八十嶋に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある秦八十島を通して、無位から官途を歩み始めなければならない官人の存在を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
9	11/16	上司を和ませる宴席歌とは？	秦八十嶋が歌を披露した宴席歌群全体を通して、赴任先の地方で開催された宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宴席歌全体の流れを確認することで渡来系歌人の秦八十島の歌がいかに洒落ていて適切なものであったのかを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における秦八十嶋の役割を確認する。	120分
10	11/23	大伴坂上郎女とは？	大伴坂上郎女に関する説明を受け、女性歌の特徴と役割を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、女性歌としての坂上郎女歌の特徴を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
11	11/30	歌の表現から考えられる作者の意図とは？	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席歌と明記のない作品の読み方までも学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌を読む行為を通して、社交の具としての歌に長けた坂上郎女を理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する。	120分
12	12/7	「梅花宴」とは？	「梅花宴」に関する研究史について学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」32首における類似性が同調と融和の証であり、宴席歌にとっては必須条件であったことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	研究史における問題点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	「梅花宴」の参加者とは？	「梅花宴」の参加者の動向を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」の参加者は大伴旅人との個人的な交遊が認められる者以外は、たまたま大宰府に訪れていた官人たちであったことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	12/21	「梅花宴」の舞台・大宰府とは？	「梅花宴」に参加した歌人の配置と披露された歌の順番を通して、大宰府という第二の政庁における宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、参加者が全員男性であったことから女性を侍らせるような性格の宴席ではなく、旅人は参加者たちを文人と見做し、蘭亭の雅会のごとき清遊を企図した宴席であったことを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	研究論文を読むことを通して、自分の考えはどのように述べるべきなのかを確認する。	120分
15	1/18	後期まとめ	後期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、平城京と大宰府の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
		事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
		事後学修	貴族は宴席をどのような場所として捉えていたのかを確認する②。	180分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義時にプリントを配布する。毎回、前回提出のコメントシートを教場にて読み上げる。なお、扱う作家名は講義の進具合によって変更する可能性があることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントシートへのレスポンスを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内での解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に配布するプリントを主に使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 9/16	イントロダクション及び導入講義	「戦後」文学について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の概要をつかむことができる。	
		事前学修	「戦後」の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	「戦後」文学について復習をしておくこと。	120分
2	第一部 水 9/23	敗戦と文学者	太宰治・坂口安吾	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	太宰治・坂口安吾について確認しておくこと。	120分
		事後学修	太宰治・坂口安吾について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	第一部 水 9/30	大岡昇平の戦争（1）	捕虜の問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大岡昇平について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	第一部 水 10/7	大岡昇平の戦争（2）	戦争と人肉食	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大岡昇平について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	第一部 水 10/14	武田泰淳と中国（1）	泰淳のエッセイ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	武田泰淳について確認しておくこと。	120分
		事後学修	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	第一部 水 10/21	武田泰淳と中国（2）	泰淳の小説	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	武田泰淳について確認しておくこと。	120分
		事後学修	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 10/28	三島由紀夫	パフォーマンスと思想	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	三島由紀夫について確認しておくこと。	120分
		事後学修	三島由紀夫について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	第一部 水 11/11	「第三の新人」について（1）	庄野潤三・安岡章太郎	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	「第三の新人」について確認しておくこと。	120分
		事後学修	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	第一部 水 11/18	「第三の新人」について（2）	小島信夫	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	「第三の新人」について確認しておくこと。	120分
		事後学修	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	第一部 水 11/25	安部公房（1）	『壁』ほか	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	安部公房について確認しておくこと。	120分
		事後学修	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	第一部 水 12/2	安部公房（2）	『砂の女』ほか	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	安部公房について確認しておくこと。	120分
		事後学修	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	第一部 水 12/9	大江健三郎（1）	初期を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大江健三郎について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	大江健三郎（2）	中期を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	大江健三郎について確認しておくこと。	120分
		事後学修	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	第一部 水 12/23	中上健次と津島佑子	物語と小説	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
		事前学修	「戦後」の歴史について確認しておくこと。最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	中上健次と津島佑子について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
15	第一部 水 1/13	現代と「戦後文学」について	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解し、最終課題を提出することができる。	
		事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	「戦後」と文学の関係について、講義内容の復習をしておくこと。一年間の講義内容の確認をしておくこと。	120分

科目名	発展教養A【生きる方法の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 舘野担当の発展教養Aでは、多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート、小テスト答案などを提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表に対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。 tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	4/14	宗教の定義とその根本義について	「宗教」の定義に関して考察し、その基本となる意義を説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、宗教とその根本義について理解し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	「宗教」という言葉の定義について、詳しく調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	4/21	人工知能について	前回のレポート紹介と講評。人工知能の発展によって人間の環境が大きく変わること、それに対応するためにどのようにすればいいか、生きればいいのかについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人工知能について考察し、どのように生きればいいかを考察し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	人工知能について、現状について調査し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	4/28	人工知能を超えるもの	前回のレポート紹介と講評。人工知能を超えるものについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人工知能を超えることについて考察し、そのためにどのように生きればいいかを考察し、それをレポートに表現できる。	
		事前学修	人工知能を超えるものについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	5/5	何を求めて生きているか	前回のレポート紹介と講評。自分が何を求めて生きているかに関する受講者の話を聞き、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、何を求めて生きているかを明確にし、その基本に立って生き、それを明確に説明できること。	
		事前学修	自分が何を求めて生きているかに対し考察しノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	5/12	自分の主人公について	前回のレポート紹介と講評。自分の主人公とは何かを考察し、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分の主人公を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	自分の主人公について調査、考察し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ここまでの振り返りと講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に紹介し、それについてさらにレポートを書く。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	5/26	執われを超えること	前回のレポート紹介と講評。執われを超えることについて授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分の執われと、それを超えることを明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	自分が執われていることについて、現状を検討してノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	6/2	精神的次元の展開	前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開について話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、精神的次元の展開の内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	精神的次元の展開について考察し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	6/9	欲求階層説における自己超越	前回のレポート紹介と講評。欲求階層説における自己超越などの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、欲求階層説における自己超越の内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	欲求階層説について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	6/16	近代科学の特徴と欠点	前回のレポート紹介と講評。近代科学の特徴と欠点を考察し、そこからどのように展開していけばいいかについて検討し、受講者は授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、近代科学の特徴と欠点についての内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	近代科学と宗教について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	6/23	精神的な弱さとその超克について	前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さとその超克についての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、精神的な弱さとその超克についての内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	精神的弱さについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/30	精神集中		前回のレポート紹介と講評。精神集中について、受講者は調べてきたことを発表し、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
		この回の到達目標	到達目標に関して、精神集中の内容、効果についての内容を明確にし、それを説明できる。	
		事前学修	精神集中、その効果について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	7/7	振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
		この回の到達目標	到達目標に関して、第8回から第13回までの授業内容を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	7/14	全体の振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
		この回の到達目標	到達目標に関して、全体の授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	発展教養A【法学部のためのイスラーム概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の発展教養Aでは、「法学部のためのイスラーム概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新文学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、イスラームの教義、世界秩序観、法、奴隷制、税制、神秘主義等を概観したうえで、現代の事象を検討する。対象とする時期は、7～12世紀および20～21世紀である。13～19世紀は「発展教養B」で扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却・解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。							2	2				
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週回答する。14回目の講義で実施する試験は、15回目の講義で返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『岩波イスラーム辞典』	大塚和夫他編	岩波書店	2002	参考書	推奨
『イスラームのとらえ方』	東長靖	山川出版社	1996	参考書	任意
『西アジア』上巻	屋形禎亮・佐藤次高	朝日新聞社	1993	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	現代の中東・イスラーム地域	2000年以降の「中東・イスラーム地域」について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、2000年以降の「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	第一部火 4/14	イスラーム生誕	イスラーム、ムハンマド、コーランについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム、ムハンマド、コーランについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	第一部火 4/21	スンナ派とシーア派	正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	第一部火 4/28	イスラーム的世界秩序と法	イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	第一部火 5/5	法の担い手とその養成	スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	第一部火 5/12	マムルークとイクター制	マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	スーフィーと聖者	スーフィズム、聖者、タリーカについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スーフィズム、聖者、タリーカについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	第一部火 5/26	歴史的前提としてのオスマン帝国	オスマン帝国について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	第一部火 6/2	オスマン帝国の崩壊	オスマン帝国における秩序原理の再編、専制、立憲制、第一次世界大戦について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国における秩序原理の再編、専制、立憲制、第一次世界大戦について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	第一部火 6/9	オスマン崩壊後の中東	アラブ諸国体制、トルコ共和国について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アラブ諸国体制、トルコ共和国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	第一部火 6/16	パレスチナ問題の行方	パレスチナ問題について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、パレスチナ問題について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	第一部火 6/23	イスラーム復興運動の展開	イスラーム復興運動について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム復興運動について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	アラブの春とイスラーム国	アラブの春とイスラーム国について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アラブの春とイスラーム国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	第一部火 7/7	混乱のシリア、授業内試験	シリア情勢について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、シリア情勢について理解し、説明することができる。	
		事前学修	本講義全体の復習。	120分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	120分
15	第一部火 7/14	試験解説、講義総括	試験問題を解説し、本講義を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、試験問題を解説することができる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習。	120分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	120分

科目名	発展教養B【人生の意味の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 舘野担当の発展教養Bでは、多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
2年次より履修可能。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表、発言と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2				
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
木曜日10:40-11:10 木曜1限の講堂。ただし、必ず事前にメールにて連絡すること。tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
		事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	9/22	自分・自我・自己について	自分・自我・自己に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分・自我・自己について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	自分ということについて考え、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	9/29	自分を超越えるということについて	前回のレポート紹介と講評。自分を超越えるということに関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分を超越えるということについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	10/6	人間の次の段階について	前回のレポート紹介と講評。人間の次の段階に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人間の次の段階について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	人間の次の段階について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	10/13	仏教の仏・菩薩・神などについて	前回のレポート紹介と講評。仏教の仏・菩薩・神などに関しての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教の仏・菩薩・神などについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	仏教の仏・菩薩・神、ユダヤ教、キリスト教の神について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	10/20	仏教のダルマなどについて	前回のレポート紹介と講評。仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma に関する先人の見解、授業者による話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教のダルマなどについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	第6回までの振り返りと講評	第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き、提出し、授業者はそれを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	第6回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	11/10	人間が生きるための犠牲について	前回のレポート紹介と講評。人間が生きるための犠牲に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、人間が生きるための犠牲について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	人間が生きるための犠牲について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	11/17	仏教に於ける戒と律	前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教に於ける戒と律について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	仏教に於ける戒と律について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	11/24	仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理	前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理などに関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	12/1	唯識思想	前回のレポート紹介と講評。仏教の唯識思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、唯識思想について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	対象は自分の思考が現れたものであるという見解について調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	12/8	華嚴思想に於ける唯心	前回のレポート紹介と講評。仏教の華嚴思想に於ける唯心思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、華嚴思想に於ける唯心について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	自分の主体について	前回のレポート紹介と講評。受講者は自分の主体に関する授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、自分の主体について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	自分の主体とは何かについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	12/22	第8回から13回までの振り返りと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	第8回から第13回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	1/12	講義全体のまとめ	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出し、授業者はそれを講評する。	
		この回の到達目標	到達目標に関して、について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
		事前学修	初回からのノート、レポートすべてを振り返り、自分にとっての意味を明らかにし、自分の見解を書いておく。	120分
		事後学修	初回からのノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	発展教養B【法学部のためのオスマン史概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の発展教養Bでは、「法学部のためのオスマン史概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新文学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、支配体制、国際体系、ナショナリズム、自由と平等、法の継受、立憲制、議会制、外国投資などにつき、オスマン帝国を事例に検討する。対象とする時期は13～19世紀である。7～12世紀および20～21世紀は「発展教養A」で扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却・解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。			2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。		2		2				
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週回答する。14回目の講義で実施する試験は、15回目の講義で返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オスマン帝国	小笠原弘幸	中央公論新社	2018	参考書	任意
オスマン帝国	鈴木 董	講談社	1992	参考書	任意
オスマン帝国 500年の平和	林佳世子	講談社	2008	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	13世紀までの中東・イスラーム地域	13世紀までの「中東・イスラーム地域」について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、13世紀までの「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	第一部火 9/22	オスマン史1―君侯国から帝国へ	オスマン帝国の歴史のうち、1300年から1453年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1300年から1453年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	第一部火 9/29	オスマン史2―古典的支配体制の成立	オスマン帝国の古典的な支配体制について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の古典的な支配体制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	第一部火 10/6	オスマン史3―後期支配体制の形成	オスマン帝国の歴史のうち、1453年から1789年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1453年から1789年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	第一部火 10/13	オスマン史4―近代西洋国際体系への参入	オスマン帝国の歴史のうち、1789年から1876年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1789年から1876年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	第一部火 10/20	オスマン史5―二つのナショナリズム	オスマン帝国の二つのナショナリズムについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の二つのナショナリズムについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	オスマン史6―自由と平等	オスマン帝国の歴史のうち、1876年から1922年までについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1876年から1922年までについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	第一部火 11/10	法の継受1―オスマンと日本	オスマン帝国と日本における法の継受について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国と日本における法の継受について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	第一部火 11/17	法の継受2―オスマンの民法典論争	オスマン帝国の民法典論争について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の民法典論争について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	第一部火 11/24	憲法と議会制1―オスマン憲法の制定	オスマン帝国の憲法について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の憲法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	第一部火 12/1	憲法と議会制2―二つの立憲制	オスマン帝国の第一次立憲制と第二次立憲制について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の第一次立憲制と第二次立憲制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	第一部火 12/8	外国投資と商法1―日本資本のトルコ投資	トルコ共和国における日本資本の導入について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、トルコ共和国における日本資本の導入について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	外国投資と商法2—政体の変容と法の連続性	オスマン帝国とトルコ共和国における法の連続性について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国とトルコ共和国における法の連続性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
		事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	第一部火 12/22	国制と法、授業内試験	オスマン帝国の国制と法について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の国制と法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	本講義全体の復習。	120分
		事後学修	再度、試験問題を解く。	120分
15	第一部火 1/12	試験解説、講義総括	試験問題を解説し、本講義を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、試験問題を解説することができる。	
		事前学修	再度、本講義全体の復習。	120分
		事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	120分

科目名	東アジアの文学Ⅰ	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代中国の歴史文学の一つである司馬遷の『史記』を講読、その文体と表現、内容を学修する。特に秦の始皇帝による中華統一を中心テーマとして、春秋戦国時代のいくつかの伝記を読んでいく。各伝記より抜粋された部分を訓読にて鑑賞、原文に親しむとともに、受講者各々が、登場人物の行動・思い・挫折や栄光・生き方等から、自ら生きていく上でのヒントになるようなものを見い出だすべく『史記』の文学世界を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
『史記』講読より、中国語圏及び中華民族の思考や行動様式、バックボーン的一端を理解しつつ、自身の生き方を創造していくことを目的とする。各伝記に描かれたエピソードの背景、言葉、文体、思想などについて理解を深め、中国の古典文学を正しく読解し、当時に生きた人々の事跡、成功や失敗、様々な思いを読み取るとともに、そこからどのような知識を得、どのような態度を身に着け、どのように生きていくべきかを考察する。

【履修条件】
本シラバスの内容を了解し、指示に従って受講できる者。旧カリキュラムのみの科目であるため1年次生は履修できない。

【授業方法】
配付教材を用い講義形式で行う。『史記』より抜粋した文に解説を加え、訓読により講読していく。事後学習として毎時間後、ポータルよりリアクションペーパーに相当するものを送信し、期限内の回答を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきつかけをつくるとともに、対話的要素を講義に取り入れていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた作品への理解に基づき、自らの過去や未来を見つめ、自身がどのように生きるべきか考え述べるることができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する各能力が身についているかを、 原則として筆記試験（履修者が一定数以下の場合はレポート） によって評価する。	15	15	15	25							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーなどの内容を総合的に判断し、①② ③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	5	5	15							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のフィードバックは後日ポータルより送信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用せず、配付教材を用いる。参考文献も授業中に指示する。				

【オフィスアワー】
火曜 5 限、場所は、532講堂（予定）にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/10 第二部 4/4	はじめに・「管晏列伝」― 管仲と鮑叔・「友情とは」 導入	講義内容の説明／評価等について／配付資料(1)「管晏列伝を読む」の初めの部分を中心に鑑賞。 春秋時代の斉（姜斉）とその時代に生きた管仲・鮑叔に関連するエピソードについて学修する	
		この回の 到達目標	前期講義内容を理解するとともに、春秋時代と斉（姜斉）について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	シラバスをよく読み、『史記』と春秋戦国時代について調べ、前期初回の授業にのぞむ	30分
		事後学修	配付資料(1)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA01に回答する	210分
2	第一部 4/17 第二部 4/11	「斉大公世家」― 斉の襄公 と公孫無知のクーデタ・ 「友情とは」について	配付資料(1)「管晏列伝を読む」の前半部分を中心に鑑賞。春秋時代の斉（姜斉）と斉の襄公等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の 到達目標	春秋時代の斉（姜斉）と斉の襄公について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(1)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の斉（姜斉）について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(1)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA02に回答する	200分
3	第一部 4/24 第二部 4/18	「管晏列伝」― 斉の桓公・ 管鮑之交・「友情とは」ま とめ	配付資料(1)「管晏列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。斉の桓公や「管鮑之交」等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の 到達目標	斉の桓公や「管鮑之交」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(1)や前回の講義内容等を振り返り、春秋五覇と斉の桓公について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(1)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA03に回答する	190分
4	第一部 5/1 第二部 4/25	「秦本紀」― 春秋時代の秦 と晋・「正義とは」導入	配付資料(2)「秦本紀を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。春秋時代の周王朝とその諸侯の秦および晋等に関連するエピソードや人物について学修する	
		この回の 到達目標	春秋時代の周王朝、秦および晋について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(1)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の周王朝について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(2)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA04に回答する	180分
5	第一部 5/8 第二部 5/2	「秦本紀」― 仮途滅虢・百 里奚・「正義とは」につい て	配付資料(2)「秦本紀を読む」の前半部分を中心に鑑賞。「仮途滅虢」・百里奚等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の 到達目標	「仮途滅虢」という言葉や百里奚という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(2)や前回の講義内容等を振り返り、晋の献公について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(2)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA05に回答する	180分
6	第一部 5/15 第二部 5/9	「秦本紀」― 泛舟之役・三 百野人・「正義とは」ま とめ	配付資料(2)「秦本紀を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。秦の穆公および「泛舟之役」「三百野人」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の 到達目標	秦の穆公および「泛舟之役」「三百野人」といった言葉について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(2)や前回の講義内容等を振り返り、晋の恵公について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(2)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA06に回答する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/22 第二部 5/16	「晋世家」― 晋の驪姫之乱と公子重耳・「逆境に生きる」導入	配付資料(3)「晋世家を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。驪姫之乱と晋の亡命公子 重耳等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	晋の公子 重耳という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(2)や前回の講義内容等を振り返り、驪姫の乱について復習し（あるいは調べ）基礎知識を確認しておく	60分
		事後学修	配付資料(3)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA07に回答する	180分
8	第一部 5/29 第二部 5/23	「晋世家」― 割股報君・楚の成王・「逆境に生きる」ということ	配付資料(3)「晋世家を読む」の前半部分を中心に鑑賞。「割股報君」・楚の成王等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「割股報君」という言葉と楚の成王について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(3)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の楚について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(3)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA08に回答する	180分
9	第一部 6/5 第二部 5/30	「晋世家」― 晋文公と介子推・「逆境に生きる」まとめ	配付資料(3)「晋世家を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。晋文公・介子推等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	晋の文公と介子推について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(3)や前回の講義内容等を振り返り、晋の文公について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(3)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA09に回答する	180分
10	第一部 6/12 第二部 6/6	「刺客列伝」― 知伯と趙襄子・「報いる」導入	配付資料(5)「刺客列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。知伯・趙襄子等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	知伯・趙襄子といった人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(3)や前回の講義内容等を振り返り、晋末の六卿についてについて調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA10に回答する（2時間）	180分
11	第一部 6/19 第二部 6/13	「刺客列伝」― 知伯と豫讓・「報いる」ということ	配付資料(5)「刺客列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。知伯・豫讓等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	豫讓という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、晋の三分についてについて調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA11に回答する	180分
12	第一部 6/26 第二部 6/20	「刺客列伝」― 聶政と聶栄・「報いる」まとめ	配付資料(5)「刺客列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。聶政・聶栄等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	聶政という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の戦国時代について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA12に回答する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/3 第二部 6/27	「楽毅列伝」― 先従隗始・「立ち向かう」導入	配付資料(6)「楽毅列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。燕の昭王・「先従隗始」等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	燕の昭王および「先従隗始」という言葉について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の燕について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習考察するとともに、リアクションペーパーA13に回答する	180分
14	第一部 7/10 第二部 7/4	「楽毅列伝」― 斉の湣王と蘇秦・「立ち向かう」ということ	配付資料(6)「楽毅列伝を読む」の前半部分を中心に鑑賞。斉の湣王・蘇秦等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	斉の湣王・蘇秦について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の斉（田斉）と蘇秦という人物について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習考察するとともに、リアクションペーパーA14に回答する	180分
15	第一部 7/17 第二部 7/11	「楽毅列伝」― 楽毅の書簡・「立ち向かう」まとめ	配付資料(6)「楽毅列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。楽毅の書簡と彼の心情について学修するとともに、前期の学修をふりかえる。	
		この回の到達目標	楽毅の書簡とその心情について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、春秋末の呉の伍子胥（ゴ シショ）という人物について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA15に回答、前期の学修を振り返る。	240分

科目名	東アジアの文学Ⅱ	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代中国の歴史文学の一つである司馬遷の『史記』を講読、その文体と表現、内容を学修する。特に始皇帝による中華統一を中心テーマとして、戦国中期～六国併合までのいくつかの伝記を読んでいく。各伝記より抜粋された部分を訓読にて鑑賞、原文に親しむとともに、受講者各々が、登場人物の行動・思い・挫折や栄光・生き方等から、自ら生きていく上でのヒントになるようなものを見い出だすべく『史記』の文学世界を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
『史記』講読より、中国語圏及び中華民族の思考や行動様式、バックボーン的一端を理解しつつ、自身の生き方を創造していくことを目的とする。各伝記に描かれたエピソードの背景、言葉、文体、思想などについて理解を深め、中国の古典文学を正しく読解し、当時に生きた人々の事跡、成功や失敗、様々な思いを読み取るとともに、そこからどのような知識を得、どのような態度を身に着け、どのように生きていくべきかを考察する。

【履修条件】
本シラバスの内容を了解し、指示に従って受講できる者。旧カリキュラムのみの科目であるため1年次生は履修できない。

【授業方法】
配付教材を用い講義形式で行う。『史記』より抜粋した文に解説を加え、訓読により講読していく。事後学習としてポータルよりリアクションペーパーに相当するものを送信し、期限内の回答を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきつかけをつくとともに、対話的要素を講義に取り入れていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品への理解に基づき、自らの過去や未来を見つめ、自身がどのように生きるべきかという事を考え述べるすることができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する各能力が身についているかを、 原則として筆記試験（履修者が一定数以下の場合はレポート） によって評価する。	15	15	15	25							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーなどの内容を総合的に判断し、①② ③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	5	5	15							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のフィードバックは後日ポータルより送信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用せず、配付教材を用いる。参考文献も授業中に指示する。				

【オフィスアワー】
火曜 5 限、532講堂（予定）にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/18 第二部 9/19	はじめに・「廉頗・藺相如列伝」―戦国七雄の趙・和氏之璧・「動じない」導入	講義内容の説明／評価等について／配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の初めの部分を中心に鑑賞。古代中国の戦国七雄の趙と「和氏之璧」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	後期講義内容を理解するとともに、戦国七雄の趙・「和氏之璧」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	シラバスをよく読み、『史記』と戦国七雄について調べ、後期初回の授業にのぞむ	30分
		事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB01に回答する	210分
2	第一部 9/25 第二部 9/26	「廉頗・藺相如列伝」―怒髪衝冠・完璧帰趙・「動じない」とは	配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の前半部分を中心に鑑賞。「怒髪衝冠」「完璧帰趙」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「怒髪衝冠」「完璧帰趙」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の秦について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB02に回答する	200分
3	第一部 10/2 第二部 10/3	「廉頗・藺相如列伝」―秦の昭王・渾池之会・「動じない」ということ	配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の中盤部分を中心に鑑賞。秦の昭王と藺相如、「渾池之会」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	秦の昭王、そして「渾池之会」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の楽器（琴・瑟・編鐘など）について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB03に回答する	190分
4	第一部 10/9 第二部 10/10	「廉頗・藺相如列伝」―負荊請罪・刎頸之交・「動じない」まとめ	配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の残りの部分を中心に鑑賞。「負荊請罪」「刎頸之交」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「負荊請罪」「刎頸之交」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の身分制度「卿・大夫・士」について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB04に回答する	180分
5	第一部 10/16 第二部 10/17	「魏公子列伝」― 戦国七雄の魏と秦・食客三千・「謙る」導入	配付資料(9)「魏公子列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。戦国七雄の魏と秦、「食客三千」等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	戦国七雄の魏と秦、「食客三千」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の魏について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB05に回答する	180分
6	第一部 10/23 第二部 10/24	「魏公子列伝」― 虚位以待・信陵君と平原君・「謙る」ということ	配付資料(9)「魏公子列伝を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。「虚位以待」・趙の平原君等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「虚位以待」と趙の平原君について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国四君の信陵君以外の三名について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB06に回答する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/30 第二部 10/31	「魏公子列伝」― 竊符救趙・將在外、君命有所不受・「謙る」まとめ	配付資料(9)「魏公子列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。「竊符救趙」「將在外、君命有所不受」等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「竊符救趙」「將在外、君命有所不受」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、「長平の戦い」「兵符」について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB07に回答する	180分
8	第一部 11/6 第二部 11/7	「呂不韋列伝」― 奇貨可居・「のし上がる」導入	配付資料(10)「呂不韋列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。「奇貨可居」等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「奇貨可居」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の韓について調べ、秦の昭王について復習、基礎知識を確認しておく	60分
		事後学修	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB08に回答する	180分
9	第一部 11/13 第二部 11/14	「呂不韋列伝」― 嬴政誕生・「のし上がる」ということ	配付資料(10)「呂不韋列伝を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。安国君、子楚（嬴異人）そして後に始皇帝となる秦王嬴政の誕生に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	安国君、子楚、そして「嬴政誕生」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、白起そして范雎（ハン ショ）という人物について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB09に回答する	180分
10	第一部 11/20 第二部 11/21	「呂不韋列伝」― 位極人臣・周朝滅亡・「のし上がる」まとめ	配付資料(10)「呂不韋列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。「周朝滅亡」と呂不韋の絶頂期までに関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	周王朝とその滅亡、そして呂不韋の絶頂期までの半生について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、戦国時代の周王朝について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB10に回答する	180分
11	第一部 11/27 第二部 11/28	「王翦伝」― 廉頗と李牧・「大事を成す」導入	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。趙の李牧、そして廉頗のその後等に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	趙の廉頗、李牧といった人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、「刎頸之交」「合従連衡」「合従軍」について復習し（あるいは調べ）、基礎知識を確認しておく	60分
		事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB11に回答する	180分
12	第一部 12/4 第二部 12/5	「王翦伝」― 王弟叛変・嫪之乱・「大事を成す」について	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の前半部分を中心に鑑賞。「王弟叛変」「嫪之乱」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「王弟叛変」「嫪之乱」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、「函谷関」「宦官」について復習し（あるいは調べ）、基礎知識を確認しておく	60分
		事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB12に回答する	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/11 第二部 12/12	「王翦伝」― 呂不韋失脚・王翦攻鄴・「大事を成す」について	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。「呂不韋失脚」「王翦攻鄴」に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「呂不韋失脚」「王翦攻鄴」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、地図で趙都の邯鄲と鄴、韓都の新鄭・燕都の薊・魏都の大梁などの位置関係や地理を確認し（あるいは調べ）、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB13に回答する	180分
14	第一部 12/18 第二部 12/19	「王翦伝」― 秦滅韓趙・荊軻刺秦・秦滅燕魏・李信と蒙恬・「大事を成す」ということ	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。「秦滅韓趙」「荊軻刺秦」「秦滅燕魏」・李信と蒙恬に関連するエピソードについて学修する	
		この回の到達目標	「秦滅韓趙」「荊軻刺秦」「秦滅燕魏」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、荊軻という人物について調べ、基礎知識を得ておく	60分
		事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB14に回答する	180分
15	第一部 12/25 第二部 12/26	「王翦伝」― 秦軍大敗・王翦滅楚・統一天下・「大事を成す」まとめ	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。「秦軍大敗」「王翦滅楚」「中華統一」に関連するエピソードについて学修する 後期のまとめ	
		この回の到達目標	「秦軍大敗」「王翦滅楚」「中華統一」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、地図で楚都の寿春、斉都の臨淄などの位置を確認し（あるいは調べ）、基礎知識を得ておく。また後期の配付資料とノートを見直しておく	60分
		事後学修	後期の配付資料とノートを再度見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB15に回答する	240分

科目名	文化人類学Ⅰ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーとグループワークの併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。				2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。					2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。						2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。							2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週木曜日の講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に講義講堂にて質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。 メールアドレスは、講義内にて伝達する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		前期ガイダンス及び導入講義	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
		事前学修	シラバスの確認と教科書の内容を確認することで、講義全体の概要を見通す。また、本講義を履修することの意義についてまとめておく。	120分
		事後学修	ガイダンス内容を確認し、講義ノートをもとに、今後の学習計画を立てるとともに、文化を学ぶ意義をあらためて自身に引き付けて捉え直す作業を行う。	120分
2		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(1)	文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、「文化理解」について自分なりの経験を探し出し、ノートにまとめる。	120分
3		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、自らが所属する社会の固有の問題についてひとつ選び、自分なりの意見をノートにまとめる。	120分
4		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(3)	民族あるいはエスニシティに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民族あるいはエスニシティに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、民族やエスニシティといった概念に関連する具体的作品（小説、映画、漫画、美術作品など）を選び、鑑賞し、ノートにまとめる。	120分
5		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱ったトピックやテーマをひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
6		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った問題点をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(3)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
8		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程と現状について(1)	日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
9		近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程と現状について(2)	日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本におけるマイノリティの諸相を踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
10		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(1)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
11		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(2)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
12		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(3)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(4)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14		日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(5)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15		前学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文化人類学Ⅱ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーとグループワークの併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。				2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。					2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。						2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。							2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
毎週木曜日の講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に講義講堂にて質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。 メールアドレスは、講義内にて伝達する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		後期ガイダンス（授業計画、参考文献紹介など）	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
		事前学修	シラバスの確認。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容確認。	120分
2		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(1)	文化人類学にとって文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
3		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
4		「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(3)	人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
5		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
6		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(3)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
8		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(4)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
9		近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(5)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
10		マイノリティの可能性について(1)	具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
11		マイノリティの可能性について(2)	具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
12		マイノリティの可能性について(3)	具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		ポストモダン以降の人類学と文化理論について(1)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14		ポストモダン以降の人類学と文化理論について(2)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
		事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15		後学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
		事前学修	配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
		事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目】に人数調整を実施するので、必ず出席してください】積極的に授業に参加できる学生向けの授業です。

【授業方法】
課題作文の執筆やその発表など、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題作文やその発表など、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題を提出してもらい、添削をしたものをフィードバックし、全員で課題について討論、検討します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に添削をし、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	参考書は適宜、授業中に示します。				

【オフィスアワー】
授業終了後、場所は授業講堂にて質問を受け付けます。その他、講義中に指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	授業ガイダンス、導入授業	人数調整を行います。 授業の進め方、受講に当たってのルール、持参するものについて説明します。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、真摯に受講できるか見極めることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、課題を作成してきてください。	90分
		事後学修	テキストを準備し、一通り読んでおきましょう。	80分
2	4月17日	自己紹介文 1	効果的な自己紹介の方法を考えます。また、エントリーシートの書き方を学びます。	
		この回の到達目標	文章の書き方の基本を確認、理解し、実践することができる。	
		事前学修	テキスト7ページの課題 1 をやっておきましょう。 テキスト53・54ページを読んでおきましょう。	80分
		事後学修	授業で示した課題をやってきてください。	90分
3	4月24日	自己紹介文 2	前回の授業を確認し、これを踏まえて自己紹介文を書きます。	
		この回の到達目標	効果的な自己紹介文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト8～9頁を読んでおきましょう。 400字で自己紹介文を考えてきてください。	120分
		事後学修	授業で示した課題をやってきてください。	60分
4	5月1日	自己紹介文 3	自己紹介をグループ発表し、その後、全員の前で口頭発表を行います。	
		この回の到達目標	効果的な方法でプレゼンテーションができる。	
		事前学修	自己紹介文を口頭発表できるように準備しておいてください。	80分
		事後学修	他の受講者の発表を聞いた感想を書いてきてください。	80分
5	5月8日	履歴書の書き方	テキスト57ページに従って実際に履歴書を書いてみましょう。	
		この回の到達目標	正確に履歴書の記入ができる。	
		事前学修	テキスト57ページを読み、履歴書が書けるように確認しておきましょう。	80分
		事後学修	記入するべきところに空欄があるときは、埋めてきてください。	80分
6	5月15日	手紙を書く 1	時候の挨拶など、手紙の基本的な書き方について学びます。	
		この回の到達目標	手紙の基本的な書き方を理解することができる。	
		事前学修	テキスト39～46ページをよく読み、手紙の構成はどのようなものか、みておいてください。	80分
		事後学修	テキスト40ページをよく読み、手紙の書き方を再度確認しておいてください。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	手紙を書く 2	実際に手紙を書いてみましょう。	
		この回の到達目標	内容に応じて適切な手紙を書くことができる。	
		事前学修	前回出題される課題に添って、手紙を書けるように準備しておいてください。	80分
		事後学修	時候の挨拶など、実践で記したもの以外の表現も確認しておきましょう。	80分
8	5月29日	手紙を書く 3	書いた手紙を添削、清書します。敬語表現などにも注意しながら書いてみましょう。	
		この回の到達目標	適切な敬語表現ができる。	
		事前学修	テキスト37ページを読んでおきましょう。どのような敬語表現があるか、見ておきましょう。	80分
		事後学修	適切な敬語表現書かれているか、確認しておきましょう。	80分
9	6月9日	デジタル機器を用いた文章作成	インターネットやデジタル機器を用いた文章作成を理解し、電子メールを使って自分の考えを的確に相手に伝える方法を学びます。	
		この回の到達目標	デジタル機器を用いた文章作成が適切にできるようにできる。 電子メールで自分の考えを的確に伝えることができる。	
		事前学修	テキスト23～28ページ、およびテキスト47～51ページを読んでおきましょう。	80分
		事後学修	テキスト52ページを読んでおきましょう。	80分
10	6月12日	課題作文 1	読書体験を書こう。今まで読んだ本の中で印象深かったものについて、感想や自分に与えた影響についてまとめます。	
		この回の到達目標	読書体験を適切に表現し、伝わりやすい文章を作成することができる。	
		事前学修	自分が読んだ本の中からみんなに紹介したい作品を1冊、準備しておきましょう。その際に、図書館を利用しましょう。	90分
		事後学修	感想文の書き方を復習しておいてください。	80分
11	6月19日	課題作文2	自分の読書体験を発表しよう。前回の課題について、自分の書いた文章を口頭発表してもらい、合評します。	
		この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションで自身の文章を発表することができる。	
		事前学修	自分が紹介した本を、どのように表現したらみんなが読みたくなるか、プレゼンテーションの方法を考えておいてください。	80分
		事後学修	添削で示された部分を復習しておきましょう。	80分
12	6月26日	文章表現の基本 1	わかりやすい文章とはどのようなものを考えます。	
		この回の到達目標	良い文章を書くための方法を理解することができる。	
		事前学修	テキスト11～18ページをよく読んでおきましょう。	80分
		事後学修	テキスト11ページの課題をやっておきましょう。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	文章表現の基本 2	論理的な文章の書き方を学び、実際に書いてみよう。	
		この回の到達目標	論理的な文章とはどのようなものか理解し、書くことができる。	
		事前学修	テキスト19～22ページをよく読んでおきましょう。	80分
		事後学修	テキスト19ページの課題をやっておきましょう。	80分
14	7月10日	文章表現の基本 3	前回書いた文章を添削し、全員で討論します。	
		この回の到達目標	添削された部分を理解し、修正する、また、他の受講生の考えを理解し、評価をすることができる。	
		事前学修	テキスト25～28ページをよく読んでおきましょう。	80分
		事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	80分
15	7月17日	前期のまとめ	前期に学んだことを振り返ります。	
		この回の到達目標	前期に学んだことを振り返り、学習したことが理解できる。	
		事前学修	テキストを再度よく読んでください。	80分
		事後学修	配付資料をよく読んで文章表現の基礎を確認しておきましょう。	80分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第一回目の講義に人数調整を行うため、必ず出席すること。】その際に、「大学で学びたいこと」（600字程度）を手書きで書き、持参すること。4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、皆出席が前提であるため、4回以上の欠席は原則単位を認定しない。また、連続する講義のため、後期も受講することが望ましい。詳細は最初の講義で説明する。

【授業方法】
基本的には、時間内にレポート、小テストを行い、添削および解説を行う。また、学生間の相互添削なども予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には文章作成が中心だが、学生間の相互添削なども予定している。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題について添削指導、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	毎回プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 4 限 授業終了後授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (4/8)	【ガイダンス】【受講理由の執筆】	前期のガイダンス。授業全体を把握してもらう。その上で、受講理由を400字程度で作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な文章作成ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、自分の文章力を把握する。(2時間)	120分
		事後学修	次の課題について準備する。(2時間)	120分
2	第一部水 (4/15)	【小論文を書いてみる】	小論文作成(800字程度)。現在の自分の文章力の把握と書くスピードを認知する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的な文章を書くことができる。	
		事前学修	自分の文章力を元に、800字程度の文章を作成する。(3時間)	180分
		事後学修	本課題について考え、改めて書いてみる。(3時間)	180分
3	第一部水 (4/22)	【文章の基礎】	文章の基礎を学ぶ。「読む人が読みやすく、わかりやすい文章」とは何かを講義を通して理解する。また、課題を通じて、文章記号への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的な文章作法を体得できる。	
		事前学修	前回の文章をふまえて、改めて自身の文章力を見直す。(1時間)	60分
		事後学修	今回の講義を踏まえて文章を作る。(3時間)	180分
4	第一部 (4/29)	【わかりやすい文章とは】	文章の長さや文末表現。読み手が混乱しない文章作成を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他人に読みやすい文章が作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。(2時間)	120分
		事後学修	自分の文章力を見直す。(2時間)	120分
5	第一部水 (5/6)	【他人紹介】	受講生がペアを組んで、それぞれインタビューした上で、相手のことを紹介する文章を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、耳で聞いた内容を正確に文章にできる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。(2時間)	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作成する。(2時間)	120分
6	第一部水 (5/13)	【相互添削】	前回作成した文章を相手に読んでもらい、添削しあう。その上で、清書して提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を添削することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。(2時間)	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (5/20)	【悪文訂正】	悪文について講義する。「絶対的悪文」ともいうべき、誰が読んでも読みづらい文章を読む。これを反面教師として、「読みやすい文章」の書き方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を読み、自己の文章に反映することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
8	第一部水 (5/27)	【間違えやすい表現を学ぶ】	課題を通して、話し言葉と書き言葉について学び、加えて文語表現と文体の統一について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しい文章表記を身につけることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
9	第一部水 (6/3)	【引用表現】	課題を通して、引用について学び、引用と剽窃（いわゆる「パクリ」）の違いを理解し、正しい引用法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しく引用することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
10	第一部水 (6/10)	【参考文献収集】	参考文献について、その表記の仕方や収拾の仕方をを身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しく参考文献一覧が表記できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	文献収集し、参考文献一覧を作成する。（4時間）	240分
11	第一部水 (6/17)	【警護を学ぶ】	課題を通して敬語について理解し、学生時代はもちろん、社会に出ても恥ずかしくない敬語の用法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい敬語で話すことができる。また、敬語を用いた文章作成ができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義ノートをまとめ、練習問題に取り組む。（2時間）。	120分
12	第一部水 (6/24)	【手紙やメールの書き方】	手紙について 「はがき」「封書」の用途の違いや、年賀状などの略式あいさつなど、一般的な手紙の用途について身につける。また、「改まった手紙やメール」の書き方も身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、改まった手紙を書くことができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義ノートをまとめ、挨拶状を作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (7/1)	【小論文の自己添削】	第2回の講義で作成した文章を講義ノートなどをもとに、自己添削する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基礎的な文章力を養うことができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義内で添削した文章を清書する。（3時間）	180分
14	第一部水 (7/8)	【エントリーシート作成】	課題を通して効果的なエントリーシートの書き方を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効果的なエントリーシートが作成できる。	
		事前学修	前期の講義を振り返り、質問を考える。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
15	第一部水 (7/15)	【文章能力テストと解説】	手紙と敬語、悪文に関するテストと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の基本が理解できる。	
		事前学修	授業内試験の準備（2時間）	120分
		事後学修	全体の復習（2時間）	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	高橋 優美穂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
毎回課題が課されるため、その課題に取り組むことができる学生向けの授業である。【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
教科書と参考資料を用いた講義と演習を組み合わせるで進めていく。また、授業内では漢字テストを実施する（詳細は初回授業で説明する）。なお、課題で作成してもらった文章は、ペア・ワークやディスカッションの際に受講者全員で共有することがあるので、その点を了承の上で履修してほしい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	作成された課題をもとにペア・ワークや、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則授業内で行う。ポータルシステムを用いる場合は、事前にアナウンスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法―21世紀を生きる社会人のたしなみ〔新訂版〕	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜2限、授業後に授業講堂で行う。メールでの質問については、初回授業で説明を行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス 文章を書く①：自己紹介文	授業内容や教科書の使用方法など、授業に関する事項の説明を行う。また、受講生の文章執筆能力を確認するため、自己紹介文を執筆し、課題作文として提出してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、自己紹介文の執筆を通じて、文章執筆能力を見つめ直すことができるようになる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	60分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分
2	第一部 水4/15	文章を書く②：文章執筆の基礎知識	文章を書く時の基本ルールについて、教科書を用いて講義を行い、1回目の課題作文のリライト（修正）をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、原稿用紙の使い方や句読点のルールなど、細かな点に気を配りながら、文章を書くことができるようになる。	
		事前学修	教科書の5～10ページを読んでくる。とくに原稿用紙の使い方については熟読しておくこと。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、1回目の課題作文のリライトをする。	120分
3	第一部 水4/22	文章を書く③：文章を書く時の注意点	文を書く上でのルールについて、教科書を用いて講義を行い、自己紹介文のリライトを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、主語と述語がねじれた文のように、文の構造に注目しながら、自己紹介文のリライトができるようになる。	
		事前学修	教科書11～14ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書11ページの課題1・2を解き直し、復習をする。	120分
4	第一部 水4/29	文章を書く④：文章の構成	文章の構成について、教科書を用いて講義を行う。自己紹介文の清書を行い、課題作文として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、文章の構成を踏まえて客観的な文章を書くことができるようになる。	
		事前学修	教科書19～22ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
5	第一部 水5/6	自己紹介文のフィードバック 作文を書く	自己紹介文のフィードバックを行い、文章執筆の基本事項を再確認する。また、指定したテーマに沿って400字程度の作文を執筆し、課題作文として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、文章執筆上の基礎事項を修得することができる。到達目標③について、自己の意見を客観的に述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書や講義資料を用いて、4回目までの授業内容をまとめておく。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
6	第一部 水5/13	論作文を書く	課題作文のフィードバックを行う。また、指定したテーマに沿って600字程度の論作文を執筆し、課題作文として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるができるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
		事前学修	教科書20ページを読んでくる。	60分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。とくに作文と論作文の違いを明確にすること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	漢字テストの実施 書評を書く①：資料を探す	6回目までの漢字のまとめとして、漢字テストを実施する。 書評を書くために、文献資料を探す方法を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、漢字テストを通じて正しい日本語に関する知識を修得することができる。到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べることができるようになる。	
		事前学修	漢字テストに備え、これまでのテストの復習を行う。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 法学部図書館OPACで資料を検索し、興味のある書籍を借りて読む。	120分
8	第一部 水5/27	書評を書く②：資料を引用する	資料の用い方と引用の仕方について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書23～28ページを熟読する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 書評に用いる書籍を読み進め、印象的な部分を引用する。	120分
9	第一部 水6/3	書評を書く③：参考文献一覧を書く	参考文献一覧の執筆ルールについて講義を行い、参考文献一覧を完成させる。	
		この回の到達目標	到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書17～18ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 書評に用いる書籍を読み終え、どのように紹介すれば良いかを考えておく。	120分
10	第一部 水6/10	書評を書く④：書評を完成させる	書評の清書をし、授業内で提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになる。	
		事前学修	書評の文章構成を考える。	180分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。	60分
11	第一部 水6/17	相互批評をする	10回目の課題について、学生同士で批評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、学生間で相互批評をすることで、自己の意見を客観的・論理的に述べられるようになる。また他者の意見に触れ、自己の文章作成に活かすことができるようになる。	
		事前学修	自分が書いた書評を読み返し、修正すべき点があるかどうか検討する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 フィードバックされた課題の良い点、悪い点を整理し、自分の課題作文の良い点と悪い点を考える。	120分
12	第一部 水6/24	レポートを書く①：テーマと調査方法を決める	レポートのテーマ設定と調査方法について講義を行い、レポートのテーマを決定する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、レポートテーマに関する文献を読むことで、諸問題の現状を把握することができる。	
		事前学修	興味関心のあるテーマを挙げ、資料リストを作成し、先行研究ではどのような調査手法が用いられているのか確認する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 設定したテーマに関する文献資料を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	レポートを書く②：考察	考察の際に気をつける点を講義し、レポートの執筆を進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになり、レポートテーマが有する問題を自分の文章で的確に説明することができるようになる。	
		事前学修	漢字テストに備えて、これまでのテストの総復習をする。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて、レポートの考察部分を執筆する。	120分
14	第一部 水7/8	漢字テストの実施 レポートを書く③：リライトする	13回目までの漢字のまとめとして、漢字テストを実施する。 レポートを提出する際の注意点について講義をし、自分が執筆したレポートのリライトを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の文章を客観的・批判的に読み直すことができるようになり、担当者からのコメントを踏まえて文章を修正することができるようになる。	
		事前学修	漢字テストに備え、これまでのテストの復習を行う。	120分
		事後学修	執筆したレポートのリライトをし、レポートを完成させる。	120分
15	第一部 水7/15	レポートの提出 前期のまとめと質疑・応答	レポートの提出をする。前期のまとめを行い、質疑・応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになる。	
		事前学修	執筆したレポートを提出できるように、準備をする。	120分
		事後学修	授業内に行った解説・講評などを参考にして、これまでの授業内容をまとめる。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	竹田 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
教員による講義と、受講者による課題の実践を組み合わせた授業を行う。講義では、いくつかの実例をもとに、文章表現のための基本的事項について解説する。その後、受講者は講義での解説を踏まえて、実際に文章を作成する。作成した文章は、教員による添削・指導を受けて修正し、完成を目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回に課題を設け、文章の作成を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日2限、授業終了後に授業講堂にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション、文章表現について	この授業の進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
		この回の到達目標	授業の概要、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく確認する。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要・意義を確認する。	120分
2	4/14	自己紹介文を書く	自己紹介文を作成する。	
		この回の到達目標	自分について書くことを通じて、自分の基本的な文章表現能力について把握することができる。	
		事前学修	自分について、どのような特徴、経歴があるか、整理しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削をする。	120分
3	4/21	自己PR文を書く	自己紹介文を見直し、自己PR文として書き直す。	
		この回の到達目標	自己PR文を書くことを通じて、客観的に自己について分析することができる。また、就職活動などで求められる文章作成において必要な文体、形式、説得力ある表現の仕方などを意識することができる。	
		事前学修	自分について、どのような長所があるか、またその根拠になるようなエピソードがあるか、自己分析しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削をする。	120分
4	4/28	履歴書を書く 1 履歴書のルール	実際の書式に沿って履歴書を作成する。	
		この回の到達目標	基本的な書式、ポイント、注意点を理解して、履歴書を作成することができる。	
		事前学修	履歴書にどのような項目があるか確認しておく。また、それに沿って自分が書く内容を準備しておく。	120分
		事後学修	自分の作成した履歴書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
5	5/5	履歴書を書く 2 履歴書を書き直す	前回作成した履歴書について、添削を踏まえて修正する。また、他の受講者が作成した履歴書を相互に講評、添削することによって、自分の履歴書についても客観的に見直す。	
		この回の到達目標	自分の作成した履歴書の良かったところ、悪かったところを把握し、より良い履歴書を作成することができる。	
		事前学修	自分の作成した履歴書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
		事後学修	自分の作成した履歴書、他の受講者の作成した履歴書を見直し、評価ポイントを確認する。	120分
6	5/12	手紙を書く	さまざまなケースに合わせた手紙の書き方について学修する。	
		この回の到達目標	手紙を書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点などを理解して、実際に手紙を書くことができる。	
		事前学修	どのような場合に手紙を書く必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
		事後学修	自分の書いた手紙を客観的に見直し、自己添削する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	メールを書く	手紙とメールの特性の違いを理解し、メールの書き方について学修する。	
		この回の到達目標	メールを書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点を理解して、実際にメールを書くことができる。	
		事前学修	どのような場合にメールを書く必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
		事後学修	自分の書いたメールを客観的に見直し、自己添削する。	120分
8	5/26	ビジネス文書を作る	さまざまなケースに合わせたビジネス文書の書き方について学修する。	
		この回の到達目標	ビジネス文書を書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点を理解して、実際に作成することができる。	
		事前学修	どのような場合にビジネス文書を作る必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
		事後学修	自分の書いたビジネス文書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
9	6/2	文章を読む 1 パラグラフ	文章を書く前に、まずは正しく読み取ることを練習する。まずは「パラグラフ」について理解する。	
		この回の到達目標	文章における「パラグラフ」の機能について理解し、それを意識しながら文章の意味を正しく読み取ることができる。	
		事前学修	いつも自分がどのように文章を読んでいるか、改めて意識化しておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、パラグラフの機能を理解すること。	120分
10	6/9	文章を読む 2 要約する	文章の内容を正しく読み取り、その読み取った内容を要約することで理解を確かにする。	
		この回の到達目標	長い文章を正しく読み取り、自分の言葉で的確に要約することができる。	
		事前学修	パラグラフを意識しながら長い文章を読み、その内容を整理しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた要約を客観的に見直し、自己添削する。	120分
11	6/16	文章を読む 3 組み合わせる	複数の文章の内容を正しく読み取り、それぞれの内容を適切に整理しつつ、その関係を文章化する。	
		この回の到達目標	複数の文章の内容をそれぞれ正しく読み取り、議論の整理をすることができる。	
		事前学修	複数の文章をそれぞれよく読み、その内容を整理しておく。	120分
		事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削する。	120分
12	6/23	レポートを書く 1 調べて書く	小レポートを作成する。執筆に必要な情報報酬集の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	正しい情報収集の仕方、情報の取扱い方を理解することができる。	
		事前学修	テーマについて簡単に情報収集をしておく。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、適切な方法によって情報収集をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	レポートを書く 2 引用と参考文献	小レポートを作成する。調べた情報をレポートに使用する際の注意点、引用の仕方、参考文献の示し方について学修する。	
		この回の到達目標	情報の取扱い方、引用、参考文献のルールを正しく理解して、レポートを書くことができる。	
		事前学修	自分で調べた情報について、書誌情報を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、引用の仕方、参考文献の示し方を理解する。	120分
14	7/7	レポートを書く 3 構成に沿って書く	小レポートを作成する。全体の構成を作って、論理的な文章を書く。	
		この回の到達目標	論理的な書き方について理解し、説得力ある文章を書くことができる。	
		事前学修	どのような展開で説明すればよいか、論証するために必要な根拠は何か、自分でも考えておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、自分のレポートの論理構成、文章について推敲しながら、レポートを書き進める。	120分
15	7/14	レポートの提出とふりかえり	小レポートを提出する。これまでの授業内容、添削の内容を踏まえて完成させる。	
		この回の到達目標	これまでの授業内容を正しく理解して、形式・内容の整ったレポートを書くことができる。	
		事前学修	ここまでに作成したレポートを見直し、最後まで書き進める。	120分
		事後学修	ここまでの授業内容について改めて確認しつつ、自分のレポートを自己添削する。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】 様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】 第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。
--

【授業方法】 教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内、もしくはポータルの通知で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト準２級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（９号館９３０７研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（１２時２０分～１２時５０分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
		事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	4/15	第1章基礎力「語彙」	熟語や慣用句を正しく使用することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、与えられた意味内容や用法から、その熟語や慣用句を適切に選ぶことができる。	
		事前学修	教科書の「コラム」に掲載されている四字熟語の読み方と意味を理解しておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
3	4/22	第1章基礎力「文法」	最近よく見かける言葉遣いで、適切とは言えないものは何か見極めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ら抜き言葉やレズす言葉などを理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、適切とはいえない表現とはどのようなものかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
4	4/29	第2章読解力「意味内容・文章構成」	段落の役割とその相互関係とは何かを考えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、段落の役割やその段落どうしの関係を理解、文章化することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、文章には何かが書かれているのか、あるいは筆者の考えは何かを読み取るとはどのようなことかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
5	5/6	第2章読解力「資料分析」	資料を読み取る方法を学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図表やグラフを読み取る際、注意をしなければならないことを理解し、文章化することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、正しい資料の読み取り方とはどのようなことかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
6	5/13	第3章作成力（1）「書く力」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読み手のことを想像しながら、文章を書くことができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすさの原理とはどのようなことかを考えておく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	第3章作成力（1）「表現」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どのような表現を用いれば、読み手にわかってもらえるのか深く理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすい表現をする工夫を考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
8	5/27	第4章作成力（2）「伝える力」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時相手にどのような配慮をすべきかを理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙の文章で注意すべきことを考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
9	6/3	第4章作成力（2）「総合・通信文」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時情報を正確に伝えるにはどうすればよいのか理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙で自分の思いを正確に伝えるにはどうすればいいのかを考えておく。120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。120分
10	6/10	第5章作成力（3）「考える力」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の考えを主張するだけでなく、自分とは異なる考え方にも配慮した文章をどのように書けばいいのか理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、論説文の型はどのようなものが適切なのかを考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
11	6/17	第5章作成力（3）「総合・論説文」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文を作成する手順を理解することができる。
		事前学修	教科書の「解説」を読み、適切な論説文の構成とはどのようなものか考えておく。150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。90分
12	6/24	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、基礎力と読解力が適切に身についているのか確認することができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、四字熟語やグラフ付きの文章を正しく使用したり読んだりすることができる。
		事前学修	教科書を読んでおく。120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、読解力と作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章構成に関する問題や手紙文を推敲する問題を正解することができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
14	7/8	まとめ問題 第5問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を的確に伝えるだけでなく、自分の意見が他と異なる時はブレーン・ストーミングを行い、自分の立場や意見を支える材料集めたり、理由を考えたりすることができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
15	7/15	授業内復習テスト	復習テストの実施とその解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	200分
		事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目に人数調整をするので必ず出席すること。

【授業方法】
提出する課題を添削して返却する。欠席は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの授業進行はテーマが前後することもあることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。相互批評も行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2					1		
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。文章表現について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。	
		事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。	120分
		事後学修	文章表現について、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
2	第一部 木 4/16	自己紹介	自己紹介文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	文章表現について、前回内容の確認をしておくこと。	120分
		事後学修	自己紹介文について、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
3	第一部 木 4/23	記憶	記憶を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	自己紹介文について、前回内容の確認をしておくこと。	120分
		事後学修	記憶を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
4	第一部 木 4/30	悪文	悪文に学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	記憶を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
		事後学修	悪文に学ぶことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
5	第一部 木 5/7	厳密さ	厳密に書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	悪文に学ぶことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
		事後学修	厳密に書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
6	第一部 木 5/14	言い換え	言い換えに注意して書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	厳密に書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
		事後学修	言い換えに注意して書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 木 5/21	エピソード	エピソードを書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	言い換えに注意して書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	エピソードを書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
8	第一部 木 5/28	報告 1	近親者に向けて書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	エピソードを書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	近親者に向けて書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
9	第一部 木 6/4	長文記事	長文記事をまとめる
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	近親者に向けて書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	長文記事をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
10	第一部 木 6/11	肯定・否定	肯定・否定の意見を書く
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	長文記事をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	肯定・否定の意見を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分
11	第一部 木 6/18	報告 2	学生生活について報告する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	肯定・否定の意見を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	学生生活の報告について、講義の要点の復習をしておくこと。120分
12	第一部 木 6/25	レポートの書き方 1	レポートの目標を設定する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。
		事前学修	学生生活の報告について、前回内容の確認をしておくこと。120分
		事後学修	レポートの目標を設定することについて、講義の要点の復習をしておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	レポートの書き方2	引用・参考文献をまとめる	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	レポートの目標を設定することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
		事後学修	引用・参考文献をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
14	第一部 木 7/9	レポート執筆	レポートを執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	引用・参考文献をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
		事後学修	レポートを執筆することについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
15	第一部 木 7/16	振り返り	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。最終課題の提出	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の最終課題文を作成することができる。	
		事前学修	レポートを執筆することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
		事後学修	半期を振り返り、要点を復習すること。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回で人数調整をするので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
個人作業、ピア・ワークを複合した演習形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第3、4、6、10、12、13、15回にピア・ワークによるディスカッションを実施し、演習問題や文章作成に取り組みます。また、第6、7、8、11、12回にピア・ワークを通して、事前学修に取り組みます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等および討論・発表等に該当する、演習問題については作成例の提示と解説を、小テストについては添削と解説を行います。レポート等に該当する総合演習問題については解説と講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
木曜 5 限、授業終了後、授業講堂にて。watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。エラーなどでレスポンスが遅い場合は授業の前後に直接申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部木 4/9	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術を踏まえて学修活動の見通しを持つことができる。
		事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。120分
		事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。120分
2	第一部木 4/16	表記法の確認	表記の基準と読みやすさについて演習問題に取り組み、確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①に関して、表記の仕方を工夫することで読みやすい文章を書くための準備ができる。
		事前学修	メールや提出物などで日常的に用いている表記について確認し、各自の表記の特徴をまとめておきます。120分
		事後学修	図書館やP Cで各自が用意した文章を表記の基準に注意しながら読み、必要に応じて修正します。120分
3	第一部木 4/23	説明文の作成	わかりやすい説明の仕方を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、わかりやすい説明の特徴を理解し、実践することができる。
		事前学修	わかりやすい説明文の特徴について想起し、まとめておきます。120分
		事後学修	作成例を基に説明文をリライトし、演習問題に取り組みます。120分
4	第一部木 4/30	要約文の作成	要点の捉え方と文章化の手順を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、課題文の要点を捉えた要約文を作成することができる。
		事前学修	要約文作成のポイントについて想起し、まとめておきます。120分
		事後学修	作成例を基に要約文をリライトし、演習問題に取り組みます。120分
5	第一部木 5/7	敬意表現：尊敬語	尊敬語の適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 演習問題にピア・ワークで取り組みます。
		この回の 到達目標	到達目標①④に関して、尊敬語を適切に使用することができる。
		事前学修	尊敬語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。120分
		事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、尊敬語の使用が適切かどうかについて再確認します。120分
6	第一部木 5/14	敬意表現	謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱの適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 演習問題にピア・ワークで取り組みます。
		この回の 到達目標	到達目標①④に関して、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱを適切に使用することができる。
		事前学修	謙譲語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。120分
		事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、謙譲語の使用が適切かどうかについて再確認します。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	敬意表現：丁寧語・美化語	丁寧語・美化語の適切な使用ついて修得し、実践のための準備をします。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、丁寧語・美化語を適切に使用することができる。	
		事前学修	丁寧語・美化語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。	120分
		事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、丁寧語・美化語の使用が適切かどうかについて再確認します。	120分
8	第一部木 5/28	敬意表現：誤用例の解説と小テスト	誤用例について学び、小テストで到達度を確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、誤用例を踏まえて、適切に敬語を使用することができる。	
		事前学修	敬語使用全般について弱点がないかを整理し、ピア・ワークで確認しておきます。	120分
		事後学修	小テストを踏まえて、敬語使用についての弱点を確認し、復習に取り組みます。	120分
9	第一部木 6/4	実用文：手紙文の基本	手紙文の基本ルール（レイアウトを含む）を修得します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、手紙文の基本ルール（レイアウトを含む）を修得し、作成の準備ができる。	
		事前学修	手紙文作成に関する、現段階での知識を整理し、曖昧な部分を確認しておきます。	120分
		事後学修	作成例を基に手紙文の基本ルールについて整理し、確認しておきます。	120分
10	第一部木 6/11	実用文：手紙文の作成とリライト	基本ルールを活用して手紙文を作成し、ピア・ワークを通してリライトします。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、手紙文を作成し、ピア・ワークを通して完成度を高めることができる。	
		事前学修	手紙文作成の準備をし、演習問題に取り組みます。	120分
		事後学修	作成例を基に演習問題に取り組みます。	120分
11	第一部木 6/18	実用文：メールの基本	教員とのメール、就職活動時のメールについての注意点を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、メールによる円滑なコミュニケーションができるようになる。	
		事前学修	日常的なメールの使用に問題点がないか、ピア・ワークで確認しておきます。	120分
		事後学修	作成例を基にメールをリライトし、演習問題に取り組みます。	120分
12	第一部木 6/25	実用文：エントリーシート作成の基本	基本的な知識と手順を踏まえて、自己分析シートの記述をピア・ワークによって見直します。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、自己分析を通してエントリーシート作成の基本を修得することができる。	
		事前学修	自己分析シートを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。	120分
		事後学修	エントリーシートの効果的な作成の仕方について整理しておきます。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	実用文：自己PRの作成	基本的な知識と手順を踏まえて自己PRを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PRを作成することができる。	
		事前学修	自己分析シートを踏まえてアピールポイントを確認します。	120分
		事後学修	作成例を基に自己PRをリライトします。	120分
14	第一部木 7/9	総合演習問題についての準備と実施	敬意表現と手紙について復習し、総合演習問題によって到達度を確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、学修内容を整理し、到達度を確認することができる。	
		事前学修	敬意表現と手紙文についての学修内容を整理します。	120分
		事後学修	敬意表現と手紙文について自己点検をします。	120分
15	第一部木 7/16	総合演習問題についての振り返りと自己点検報告の作成	総合演習問題について解説と講評によって振り返り、ピア・ワークで自己点検報告を作成します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、文章作成に関する自己点検をすることができる。	
		事前学修	敬意表現と手紙文について自己点検し、弱点について分析します。	120分
		事後学修	敬意表現と手紙文についての弱点を再確認し、克服のための手立てを講じ、実践します。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	茅原 雅之	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目には人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、添削によって、問題点と良かった点を指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生が作成した文章をもとに、その問題点と評価すべき点についてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・他	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に直接の相談を受け付ける。質問・相談については電子メールにでも対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 4/6	オリエンテーション，導入講義	教科書の内容確認。授業計画に関する詳細な説明。到達目標の説明。	
		この回の到達目標	実社会に対応する上で必要となる文章力が、どの程度のものであるのかを理解する。	
		事前学修	辞書・教科書の準備。	120分
		事後学修	配布資料〈漢字〉についての復習。	120分
2	第二部月 4/13	手紙の書き方。（１）	手紙文の基本構成・社会的慣習を学ぶ。	
		この回の到達目標	社会生活を営む上で必要になる手紙文の書き方を理解する。	
		事前学修	配布資料〈手紙の構成〉に関する予習。	120分
		事後学修	配布資料〈手紙の構成〉に関する復習。	120分
3	第二部月 4/20	手紙の書き方。（２）	各種の手紙文を作成する。	
		この回の到達目標	社会的慣例に則った手紙文の作成が可能となる。	
		事前学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の復習。	120分
4	第二部月 4/27	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（１）	適切な文章と不適切な文章を比較する。	
		この回の到達目標	適切な文の長さ・主述の一致・句読点の用法について基本を理解する。	
		事前学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の復習。	120分
5	第二部月 5/4	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（２）	文章表現の誤った用例を確かめていく。	
		この回の到達目標	形式名詞・形式形容詞・形式動詞、文体、括弧の用法について基本を理解する。	
		事前学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の復習。	120分
6	第二部月 5/11	文章表現の基礎，敬語の確認。（１）	各種敬語を学ぶ。	
		この回の到達目標	形式名詞・形式形容詞・形式動詞、文体、括弧の用法について基本を理解する。	
		事前学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する予習。	120分
		事後学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 5/18	文章表現の基礎、敬語の確認。 （2）	敬語表現への理解を深める。	
		この回の到達目標	敬語表現を正しくつかいこなす。	
		事前学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の復習。	120分
8	第二部月 5/25	文章表現の基礎、原稿用紙の使い方。	原稿用紙を使用する際の基本を学ぶ。	
		この回の到達目標	禁足文字・括弧・英数字・引用文の記述など、原稿用紙を自在に使用できるようになる。	
		事前学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の復習。	120分
9	第二部月 6/1	文章表現の基礎、段落・構成の組み方。	構成の組み方を学習する。	
		この回の到達目標	文章の構成が何かを理解する。構成と段落の関係を理解する。	
		事前学修	教科書〈さあ文書を書いてみよう〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈さあ文書を書いてみよう〉項目の復習。	120分
10	第二部月 6/8	紹介文（小説・映画・漫画、その他）を書いてみよう。 （1）	自身の考えを他者に伝える。	
		この回の到達目標	自分と他者の考え方・価値基準の違いを理解する。	
		事前学修	自分が紹介したいと思う作品の選定。	120分
		事後学修	自分が紹介したいと思う作品の適否確認。	120分
11	第二部月 6/15	紹介文（小説・映画・漫画、その他）を書いてみよう。 （2）	自身の考えを文章に置き換えていく。	
		この回の到達目標	自身の考えを他者に伝えることの重要性和難しさを理解する。	
		事前学修	紹介文の文章構成を考える。	120分
		事後学修	提出課題〈紹介文〉の作成。	120分
12	第二部月 6/22	エントリーシートの作成。	エントリーシートが何かを理解し、作成法を学ぶ。	
		この回の到達目標	エントリーシートの作成が可能になる。	
		事前学修	教科書〈効果的な文章作成〉項目の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈エントリーシート〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 6/29	文章表現の基礎、漢字の確認。（1）	各種の漢字について学ぶ。	
		この回の到達目標	文章表現の基礎として漢字を使いこなせるようになる。	
		事前学修	教科書〈練習問題〉項目の予習。	120分
		事後学修	教科書〈練習問題〉項目の復習。	120分
14	第二部月 7/6	授業のまとめ。	前授業の学習内容を再確認していく。授業内容に関する質疑応答。	
		この回の到達目標	授業を統括する。文章表現の意義と重要性を理解する。	
		事前学修	授授業にて理解不十分であった点を自己点検する。	120分
		事後学修	授業内容の自己総括。	120分
15	第二部月 7/13	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
		この回の到達目標	授業の理解について達成度を確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
		事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
		事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生の履修を望む。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】		
受講生が文章表現に関する課題に演習形式で取り組み、担当者がそれにコメントなどを付す形式で授業を進める。毎回の授業の積み重ねが重要なため、欠席に対しては厳しい対応をおこなう。受講生の到達目標の達成状況によっては各回の授業内容を入れ替え・変更する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の提出とそれに対する担当者のコメント・添削など。場合によっては、受講生の間で課題の相互批評などを行い、学修の深化を図ることもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それをを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の課題に対して担当者の側から添削などをおこなう。次回以降の授業で、講評を述べる形でのフィードバックもありうる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法』新訂版―21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考	教科書は2019年11月出版の「新訂版」を用意すること。それ以前の「改訂版」などとは大幅に内容が異なっているので注意。なお「古い「改訂版」などは既に書店に在庫はない。				

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂にて。また、授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用して欲しい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 水曜日 9/16	授業の方法と目的の概説	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕文章表現の概説	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨むことができるようになる。また、文章表現の基本的な事項を理解し、正しく使うことができるようになる。	
		事前学修	高等学校で使用した国語便覧などで、文章表現の基本的事項に関して書かれている部分を精読する。	60分
		事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。文章表現の基本的事項を整理し、確認する。	180分
2	第1部 水曜日 9/23	敬語法1	敬語法の基本概念	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、敬語法の基本的な事を理解し、正しく使うことができるようになる。	
		事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
		事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
3	第1部 水曜日 9/30	敬語法2	社会の中に見られる敬語の誤用	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を理解し、それを実際に生かすことができるようになる。	
		事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
		事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
4	第1部 水曜日 10/7	敬語法3	注意すべき敬語の用法	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を正しく理解し、自己の文章に適切に使うことができるようになる。	
		事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
		事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
5	第1部 水曜日 10/14	贈答にかかわる文章表現1	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（一）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、季節ごとのふさわしい文章作成ができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
		事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分
6	第1部 水曜日 10/21	贈答にかかわる文章表現2	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（二）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、祝儀・不祝儀の場での適切な文章表現や各種の表書きができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
		事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 水曜日 10/28	小論文・論作文の実践演習1	要約の方法の理解	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、文章を要約することができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「要約の方法の理解」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「要約の方法の理解」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
8	第1部 水曜日 11/11	小論文・論作文の実践演習2	要約の実践とその応用	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、要約の実践とその応用を文章表現に活かすことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「要約の実践とその応用」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「要約の実践とその応用」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
9	第1部 水曜日 11/18	小論文・論作文の実践演習3	意見論述の方法	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、意見論述の方法を文章作成に活かすことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の方法」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「意見論述の方法」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
10	第1部 水曜日 11/25	小論文・論作文の実践演習4	意見論述の実践	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、様々な課題作文・課題小論文をにおいて、適切な意見論述ができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の実践」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「意見論述の実践」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
11	第1部 水曜日 12/2	小論文・論作文の実践演習5	引用のある小論文作成（一）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、引用のある課題作文・課題小論文を適切に書くことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「引用のある小論文作成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
12	第1部 水曜日 12/9	小論文・論作文の実践演習6	引用のある小論文作成（二）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の引用が適切であるかを判断することができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「引用のある小論文」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 水曜日 12/16	小論文・論作文の実践演習7	小論文の構成（一）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、構成に配慮の行き届いた小論文を書くことができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
		事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
14	第1部 水曜日 12/23	小論文・論作文の実践演習8	小論文の構成（二）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の小論文を客観的に批判し、不適切な箇所を説明することができるようになる。	
		事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、他の受講生の文章を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
15	第1部 水曜日 1/13	総合的理解と自らの理解の適切なレポート化	各自で用意したレポートの回収。その後、レポートの出題意図・採点基準について解説する。また、授業全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、半年間の学びを踏まえた課題をレポート化し、自らの意見を客観的に提示することができる。	
		事前学修	14回までの授業内容を振り返り、各自のレポートを完成させ、授業内に提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕	180分
		事後学修	授業内に行われた「レポートの出題意図・採点基準・解説」をもとに、各自のレポートの良い点と悪い点を確認し、よりよいレポートにするためにはどうしたらよいかを考える。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
積極的に授業に参加し、課題を必ず提出できる学生向けの授業です。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して、ガイダンスを受けてください。なお、担当者の前期科目・文章表現法Ⅰを受講していることが望ましい。

【授業方法】
課題作文やその発表など、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題作文やその発表など、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題作文を提出してもらいます。添削したものをフィードバックし、全員で課題について討論します。積極的な発言が求められます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削し、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	参考書は授業中に適宜紹介します。				

【オフィスアワー】
授業終了時に、場所は授業講堂にて質問を受け付けます。その他、講義中に指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	授業ガイダンス、導入授業	授業の進め方、受講に当たってのルール、持参するものについて説明します。	
		この回の到達目標	学習内容を理解し、積極的に文章で表現しようする意識を持つことができる。	
		事前学修	シラバスをよく読んでください。	80分
		事後学修	テキストのコラム欄をよく読んでおきましょう。	80分
2	9月25日	冠婚葬祭のマナー	冠婚葬祭のマナーを学びます。 祝儀・不祝儀袋の書き方、水引の意味など、伝統文化なども学びます。	
		この回の到達目標	祝儀袋などの書き方、日本の伝統文化について理解することができる。	
		事前学修	テキスト59～64ページを読んでおきましょう。	80分
		事後学修	付録6のbに祝儀袋の書き方にしたがってもう一度書き、確認しておきましょう。	80分
3	10月2日	論理的な文章を書く 1 課題作文1	論理的な文章の構成などを学びわかりやすい文章の書き方を学びます。 400字程度の課題1を書きます。	
		この回の到達目標	論理的な文章の書き方を理解することができる。	
		事前学修	テキスト19ページの課題 1 を考えておいてください。	80分
		事後学修	テキスト21ページを熟読し確認しておきましょう。	80分
4	10月9日	論理的な文章を書く 2 課題作文のフィードバック および討議	課題 1 について、添削された部分を理解し、リライトします。 その後、適宜発表し、受講生全員で討議します。	
		この回の到達目標	文章による表現と話し言葉による表現を理解し、適切に表現することができる。	
		事前学修	前回学習した論理的な文章の書き方を確認しておきましょう。	80分
		事後学修	授業内で示された参考図書を読んでおきましょう。	80分
5	10月16日	論理的な文章を書く 3 課題作文2	前回の授業で指示される課題2について、自分の意見を文章に書きます。	
		この回の到達目標	誤字・脱字なく文章を書き、文章の構成を考えて書くことができる。	
		事前学修	前回の授業で指示される課題2について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。	80分
		事後学修	テキスト第3章を復習しておきましょう。	80分
6	10月23日	論理的な文章を書く 4 課題作文のフィードバック および討議	課題2について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。	
		この回の到達目標	他の受講生の考えを理解した上で、自身の意見を明確に述べるることができる。	
		事前学修	課題2について補足資料がないか、調べておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点を確認しリライトしてみましょう。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	論理的な文章を書く 5 課題作文3	前回の授業で指示される課題3について、自分の意見を文章に書きます。	
		この回の到達目標	課題について適切な参考文献を調査・参照し、作文に適切に引用することができる。	
		事前学修	前回の授業で指示される課題3について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。	80分
		事後学修	テキスト20～23ページを読み返しておきましょう。	80分
8	11月6日	論理的な文章を書く 6 課題作文のフィードバック および討議	課題3について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。	
		この回の到達目標	適切に文章の推敲ができる。	
		事前学修	課題2について補足資料がないか、調べておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点について、リライトしてみましょう。	80分
9	11月13日	論理的な文章を書く 7 課題作文4	前回の授業で指示される課題4について、自分の意見を文章に書きます。	
		この回の到達目標	課題について適切な先行研究を調査・参照し、それに対する自身の意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業で指示される課題4について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。	80分
		事後学修	テキスト8～12ページを読んでおきましょう。	80分
10	11月20日	論理的な文章を書く 8 課題作文のフィードバック および討議	課題4について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。	
		この回の到達目標	他の受講生の文章におけるよい点・修正すべき点が指摘できる。	
		事前学修	課題4について補足資料がないか、調べておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点を確認し、リライトしてみましょう。	80分
11	11月27日	論理的な文章を書く 9 自由作文 1	各自が自由なテーマで文章を書きます。日ごろ受講者が考えていることを論理的な文章にまとめてみましょう。	
		この回の到達目標	時事問題に興味関心を持ち、それに関する自身の意見を文章として適切に表現することができる。	
		事前学修	自由作文1の題材について、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
		事後学修	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
12	12月4日	論理的な文章を書く 10 作文のフィードバックおよび討議	自由作文1について、適宜口頭で発表し、講評をします。	
		この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションで自身の意見を発表できる。	
		事前学修	自由作文1について、問題点をまとめておきましょう。	80分
		事後学修	添削された点を確認しリライトしてみましょう。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	論理的な文章を書く11 自由作文2	各自が自由なテーマで文章を書きます。日ごろ考えていることを論理的な文章にまとめてみましょう。	
		この回の到達目標	自身が設定したテーマについて適切な参考文献を調査・参照し、文章に適切に引用することができる。	
		事前学修	自由作文2の題材について、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
		事後学修	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。	80分
14	12月18日	論理的な文章を書く12 作文のフィードバックおよび討議	自由作文2について、適宜口頭で発表し、講評をします。	
		この回の到達目標	これまでの発表で習得したことを踏まえて発表することができる。	
		事前学修	自由作文について、問題点をまとめておきましょう。	80分
		事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	80分
15	12月25日	まとめ	半期で学んだことを振り返ります。	
		この回の到達目標	半期で習得した方法を活かし、適切な表現を用いて文章を作成し、プレゼンテーションできる。	
		事前学修	テキストを再度よく読んでください。	80分
		事後学修	授業目的、到達目標が達成できたかを確認してみましょう。	80分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第一回目の講義で人数調整を行うため、必ず出席すること】その際に、「私の弱点」というタイトルで、600字程度の文章を手書きで書き、持参すること。4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、皆出席が前提であるため、4回以上の欠席は原則単位を認定しない。詳細は最初の講義で説明する。

【授業方法】
基本的には文章作成と添削が中心だが、時間内に小テストを行う。また、学生間の相互添削やグループ討議、発表も取り入れていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生間の相互添削や発表、グループ討議など、説教的に取り入れていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する添削と解説。また、最終レポートに関してはポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	毎回プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 4 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 (9/16)	【ガイダンスと受講理由】	後期のガイダンス。講義の全体像を把握する。また、400字程度で受講理由を文章化する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読みやすい文章作成ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。（1時間）	60分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
2	第一部水 (9/23)	【説明スキーマとは】	課題を通して、説明スキーマについて理解し、現時点での自分の説明力を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ただし文章が作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、自分の弱点をノートにまとめる。（2時間）	120分
3	第一部水 (9/30)	【相互添削】	前回の講義をもとに説明スキーマを理解し、学生間で相互添削し、説明力を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を批判し、自分の文章に活かすことができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
4	第一部水 (10/7)	【グループ討議と意見書作成】	各グループに分かれて同一課題について討議し、意見書を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の意見を評価したうえで、全体の意見をまとめることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて、自分の意見をまとめる。（4時間）	240分
5	第一部水 (4014)	【文章を構成する】	文章の構成について、序論・本論・結露など各論の意味を理解し、身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、構成表を作成することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	60分
		事後学修	講義を踏まえて、構成表を作成する。（3時間）	180分
6	第一部水 (10/21)	【パラグラフ・ライティング】	パラグラフ・ライティングについて学び、エントリー・シートの構成を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わかりやすい文章を作成することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	テーマにしたがって、エントリー・シートを作成する。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 (28)	【マッピングについて】	マッピングについて理解し、思考マップ・構想マップの方法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分で選んだテーマについて、思考・構想マップが作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（1時間）	60分
		事後学修	マッピングをしてみる。（3時間）	180分
8	第一部水 (11/11)	【学生によるプレゼンテーション前半】	自分のお勧めの本をレジュメを用いてプレゼンする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を主張でき、なおかつ他人のプレゼンを評価できる。	
		事前学修	今回のテーマについてレジュメを作成する。（4時間）	240分
		事後学修	講義を踏まえてノートを自分なりに整理する。（1時間）	60分
9	第一部水 (11/18)	【学生によるプレゼンテーション後半】	各自お勧めの本をレジュメをもとに発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を主張でき、なおかつ他人のプレゼンを評価できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（1時間）	60分
		事後学修	講義を踏まえて文章を読み、レポートにまとめる。（3時間）	180分
10	第一部水 (11/25)	【客観的文章とは】	課題を通して、客観的文章について理解し、論文と感想文の差異を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、客観的文章が理解できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
11	第一部水 (12/2)	【文章を評価する】	同世代の書いたレポートを批評し、考え方のバリエーションを広げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、同世代のレポートを読むことにより、視野をひろげることができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
12	第一部水 (12/9)	【テーマの決定】	最終レポートに関して、自分の興味のある課題を、特定条件のもとに選び表紙を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、これまでの講義をもとに、「論文」としてふさわしい課題を選択することができる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	次週行う作業のため、文献を収集する（4時間）	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 (12/16)	【構成表作成】	最終レポートの構成表を作成し、理解の深度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の選択した課題の構成表を作成できる。	
		事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
		事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（4時間）	240分
14	第一部水 (12/23)	【下書きの相互評価】	下書きを提出し、学生間で相互評価する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、他人の論文を評価できる。	
		事前学修	後期内容を復習し、質問を用意する。（2時間）	120分
		事後学修	レポート作成。（10時間）	600分
15	第一部水 (1/13)	【まとめ、小テスト】	レポート提出とレポートを提出する。また、まとめとして、講義全体に関する小テストとその解説により全体像を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、正しく論理的な文章を作成できる。	
		事前学修	後期の講義ノートをもとめる。（2時間）	120分
		事後学修	講義をもとに改めてレポートを作成する。（2時間）	60分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	高橋 優美穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
毎回課題が課されるため、その課題に取り組むことができる学生向けの授業である。【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
教科書と参考資料を用いた講義と演習を組み合わせる進めていく。また、授業内では漢字テストを実施する（詳細は初回授業で説明する）。なお、課題で作成してもらった文章は、ペア・ワークやディスカッションの際に受講者全員で共有することがあるので、その点を了承の上で履修してほしい。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 作成された課題をもとにペア・ワークや、ディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則授業内で行う。ポータルシステムを用いる場合は、事前にアナウンスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法―21世紀を生きる社会人のたしなみ〔新訂版〕	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜2限、授業後に授業講堂で行う。メールでの質問については、初回授業で説明を行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス 文章を書く①：自己紹介文	授業内容や教科書の使用方法など、授業に関する事項の説明を行う。また、受講生の文章執筆能力を確認するため、自己紹介文を執筆し、課題作文として提出してもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、自己紹介文の執筆を通じて自己の文章作成能力の現状を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	60分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分
2	第一部 水9/23	メールの書き方	電子メールの書き方について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、電子メールの文案作成を通じてビジネスシーンで求められる文章表現を身につけることができる。	
		事前学修	教科書47～52ページを読んでくる。	120分
		事後学修	漢字テストの復習を行う。 指定した内容に関するメール文を作成する。完成したものは課題として提出する。	120分
3	第一部 水9/30	履歴書の書き方①：概説	履歴書の基本的な書き方について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、履歴書の作成だけでなく、それに付随する自己PRや志望動機で求められる文章表現を学ぶことで、就職活動で使用する日本語表現を身につけることができる。	
		事前学修	教科書57ページを読んでくること。	120分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 授業内で配布する履歴書に記入してみる。	120分
4	第一部 水10/7	履歴書の書き方②：注意点	2回目の授業内容を踏まえて、履歴書の下書きを完成させる。授業内で清書も行い、完成したものは課題として提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、履歴書の作成を通じて就職活動をするにふさわしい日本語表現を身につけることができる。	
		事前学修	図書館の所蔵資料やウェブサイト等で、履歴書記入上の注意点を確認しておく。	120分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返し、履歴書の書き方を復習する。	120分
5	第一部 水10/14	履歴書の書き方③：課題のフィードバック	3回目の課題を返却し、フィードバックを行う。また実際の履歴書を参照しながら、記入のポイントを復習する。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
		事前学修	2回目の事後学修で記入した履歴書に不備がないか確認する。	120分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返し、授業内容の理解の徹底に努める。	120分
6	第一部 水10/21	手紙の書き方①：形式・構成	手紙の書き方について、基本事項や形式について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、さまざまな文章形態があることを学び、手紙の基本的事項を身につけることができるようになる。	
		事前学修	教科書39～46ページを熟読する。	60分
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返し、授業内容の理解の徹底に努める。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 水10/28	手紙の書き方②：実例	手紙文の実例を示し、授業内で手紙文を作成する。完成したものは課題として提出する。
		この回の到達目標	到達目標①②について、手紙の作成を通じて、場に応じた日本語表現を身につけることができる。
		事前学修	教科書39～46ページを熟読してくる。
		事後学修	漢字テストの復習をする。 教科書や講義資料を読み返して、授業内容の理解の徹底に努める。
8	第一部 水11/11	手紙の書き方③：カバーレター（添え状）を書く	カバーレターや、返信のはがきの書き方について講義をする。
		この回の到達目標	到達目標①②について、カバーレターと返信はがきの書き方を通じて、場に応じた日本語表現を身につけることができる。
		事前学修	図書館の所蔵資料やウェブサイトでカバーレター（添え状）について調査をする。
		事後学修	漢字テストの復習をする。 講義資料を読み直して理解を深め、カバーレターを作成する。完成したものは課題として提出する。
9	第一部 水11/18	小テストの実施と解説	8回目までの到達度を確認するために、小テストを実施する。また授業内で解説も行う。
		この回の到達目標	到達目標①②④について、小テストを行うことで、正しい日本語表現を用いることができるかどうか、自己点検ができるようになる。
		事前学修	これまでの漢字テストを復習し、小テストに備える。
		事後学修	教科書や講義資料を用いて、これまでの授業内容の理解を深める。
10	第一部 水11/25	敬語法	敬語法の基本について講義を行い、敬語を適切に使えるようにする。
		この回の到達目標	到達目標①②について、敬語法の学修を通じて、正しい日本語表現を身につけ、的確に運用することができるようになる。
		事前学修	教科書33～36ページを読んでくる。
		事後学修	教科書33ページの課題を解き直し、敬語法への理解を深める。
11	第一部 水12/2	冠婚葬祭と文章表現	祝儀袋・不祝儀袋や水引といった、冠婚葬祭に関する文章表現を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②について、冠婚葬祭のマナーについて学修し、その場に応じた言葉の運用ができるようになる。
		事前学修	教科書59～64ページを読んでくる。
		事後学修	教科書59ページの課題1・2を解き直し、授業内容への理解を深める。
12	第一部 水12/9	論作文①：執筆する	各自指示されたテーマで、400字程度の論作文を執筆する。完成したものは課題として提出する。
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容をふまえ、正しい日本語表現で文章を執筆することができる。
		事前学修	11回目に示されるテーマについて、文献資料がないか調べておく。
		事後学修	図書館でテーマに関する参考文献を探し、読んでおく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	論作文②：相互批評	12回目に作成した課題をもとに、学生間での相互批評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
		事前学修	12回目の課題について、補足資料を調査し、目を通しておく。	120分
		事後学修	返却された課題と、相互批評の内容を踏まえて、自分の課題の修正点を考える。	120分
14	第一部 水12/23	小テストの実施 これまでの授業内容に関する 質疑応答	13回目までの到達度を確認するために、小テストを実施する。解説は授業内で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④について、小テストを行うことで、正しい日本語表現を用いることができるかどうか、自己点検ができるようになる。	
		事前学修	後期の授業内容を総復習し、小テストに備える。	120分
		事後学修	試験問題を再度解き直し、理解の至らなかった点を復習する。	120分
15	第一部 水1/13	小テストの解説と講評 後期の授業内容に関するま とめ	14回目に実施した小テストの解説を講評を行い、後期の授業のまとめとする。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容の振り返りを行うことで、正しい日本語表現を用い、さまざまな文章を執筆することができるようになる。また、到達目標③④について、小テストの解説の際に質疑応答も交えることで、自己の疑問点を論理的に伝えられるようになる。	
		事前学修	14回目の小テストの内容を再度確認し、質問事項をまとめておく。	120分
		事後学修	授業内に行った解説や質疑応答をもとに、これまでの授業をまとめ、理解を深める。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	竹田 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】

教員による講義と、受講者による課題の実践を組み合わせた授業を行う。講義では、いくつかの実例をもとに、文章表現のための基本的事項について解説する。その後、受講者は講義での解説を踏まえて、実際に文章を作成する。作成した文章は、教員による添削・指導を受けて修正し、完成を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回に課題を設け、文章の作成を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日2限、授業終了後に授業講堂にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション、文章表現について	この授業の進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
		この回の到達目標	授業の概要、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく確認する。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要・意義を確認する。	120分
2	9/22	敬語とマナー 1 敬語の基本	場面に応じて適切な言葉遣いができるよう、さまざまなケースに即して練習する。まずは基本的な敬語の用法、誤用の例、注意点について学修する。	
		この回の到達目標	敬語について、基本的な用法、誤用、注意点について理解することができる。	
		事前学修	自分の日頃使用している敬語について、どのようなときに使っているか、どういうことを意識しているか、改めて確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、自分の敬語の使い方について見直すこと。	120分
3	9/29	敬語とマナー 2 場面に応じた文章表現	場面に応じて適切な言葉遣いができるよう、さまざまなケースに即して練習する。冠婚葬祭などの具体的な場面における適切な文章表現の仕方について学修する。	
		この回の到達目標	冠婚葬祭などの具体的な場面における適切な文章表現の仕方について理解することができる。	
		事前学修	冠婚葬祭などの場面でどのような文章表現が必要になるか、考えておく。	120分
		事後学修	配布プリントを読み返し、場面に応じた文章表現について見直すこと。	120分
4	10/6	レビューを書く 1 対象の設定	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。まずは何について書くか、対象を検討し、その内容を分析する。	
		この回の到達目標	レビューを書く対象について、どのような特徴があるか、どこをレビューのポイントにしたいかを自分で考えることができる。	
		事前学修	レビューを書く対象の候補を考えて、よく内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	レビューを書く対象について、自分なりに要点を整理しておくこと。	120分
5	10/13	レビューを書く 2 構成を作る	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。対象についての内容整理に基づき、レビューの構成・展開を考える。	
		この回の到達目標	強調したいポイントを効果的に示すためにどのような情報が必要か、どのような構成・展開が必要か、自分で考えることができる。	
		事前学修	レビューを書く対象について、自分なりに要点を整理し、どのポイントを強調したいかを決めておく。	120分
		事後学修	自分で考えた構成に沿って、執筆を進める。	120分
6	10/20	レビューを書く 3 執筆する	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。構成に沿って執筆、推敲する。	
		この回の到達目標	レビューを書く対象について、要点を押さえて紹介しつつ、自分の評価・分析を示すことができる。	
		事前学修	自分で考えた構成に沿って、執筆を進める。	120分
		事後学修	自分の書いたレビューを客観的に見直し、自己添削する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	レビューを書く 3 相互批評	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。他の受講者が書いたレビューを相互批評することで、より優れた表現を目指す。	
		この回の到達目標	他の受講生の書いたレビューを読むことで、自分の書いたものについても客観的な視点を持って見直すことができる。	
		事前学修	他の受講生の書いたレビューを読む。	120分
		事後学修	相互批評で示されたポイントを意識して、改めて自分の書いたレビューを見直す。	120分
8	11/10	レポートを書く 1 テーマの設定	小レポートを作成する。レポート執筆時の注意点や、問題提起の仕方などについての解説を受けた後、どのようなテーマで書くかを検討する。	
		この回の到達目標	自分でレポートテーマを設定し、問題提起することができる。	
		事前学修	あらかじめいくつかテーマになりそうなものを考えておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、どのようなテーマ設定、問題提起をすべきか、改めて検討する。	120分
9	11/17	レポートを書く 2 ブレインストーミング	小レポートを作成する。レポートで扱うテーマ、トピックをより明確にするために、ブレインストーミングを行う。	
		この回の到達目標	自分が設定したレポートテーマについてより掘り下げて検討し、具体的な内容についての構想ができる。	
		事前学修	自分が設定したレポートテーマについて、情報収集をしておくこと。	120分
		事後学修	ブレインストーミングで出てきたアイデアを整理しておくこと。	120分
10	11/24	レポートを書く 3 構成を作る	小レポートを作成する。ブレインストーミングの結果を踏まえて、具体的なレポートの構成を考える。	
		この回の到達目標	レポートの論理的な構成・展開を自ら考えることができる。	
		事前学修	ブレインストーミングで出てきたアイデアを整理し、どのような内容をレポートに盛り込むか決めておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、執筆に必要な情報を調査しておくこと。	120分
11	12/1	レポートを書く 4 序論を書く	小レポートを作成する。序論を執筆して添削を受ける。	
		この回の到達目標	序論として書くべき内容を理解した上で、的確に書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、執筆に必要な情報を調査・整理しておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。	120分
12	12/8	レポートを書く 5 本論を書く	小レポートを作成する。本論を書き進め、添削を受ける。	
		この回の到達目標	本論の展開の仕方、論証の仕方を理解した上で、的確に書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	レポートを書く 6 結論を書く	小レポートを作成する。結論を書き進め。添削を受ける。	
		この回の到達目標	結論として書くべき内容を理解した上で、的確に書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
		事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
14	12/22	レポートを書く 7 仮提出	小レポートを作成する。引用、注や参考文献一覧などの形式を整え、レポートを仮提出する。	
		この回の到達目標	引用、注、参考文献などの形式を正しく理解して、書くことができる。	
		事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
		事後学修	配布プリントを見直し、自分のレポートの論理構成、文章、形式について推敲しながら、レポートを書き進める。	120分
15	1/12	レポートの提出とふりかえり	小レポートを提出する。これまでの授業内容、添削の内容を踏まえて完成させる。	
		この回の到達目標	これまでの授業内容を正しく理解して、形式・内容の整ったレポートを書くことができる。	
		事前学修	ここまでに作成したレポートを見直し、添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
		事後学修	ここまでの授業内容について改めて確認しつつ、自分のレポートを自己添削する。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。

【授業方法】
教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業内、もしくはポータルの通知で行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト 2 級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9 号館 9 3 0 7 研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（1 2 時 2 0 分～1 2 時 5 0 分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
		事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
		事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	9/23	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本語の語彙は4種類（和語・漢語・外来語・混種語）に分けられるが、実際に使用する際に適切な語彙を自ら選ぶことができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
3	9/30	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的な観点からよく見られる間違いを理解し、適切な表現を用いることができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
4	10/7	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約するときの手順を理解し、適切な要約文を作成することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
5	10/14	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約文を使って自分の考えを述べる際に適切な文章構成を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
6	10/21	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図表やグラフからどのようにデータを分析すべきか、どのようなことは分析できないのかを識別する能力を向上させることができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、誤字・脱字に注意するだけでなく、さらに分かりやすい表現にすることはできないかを考えることができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
8	11/11	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推敲する際にチェックすべき表現上や表記上のポイントを理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
9	11/18	第4章作成力（2）伝える力「総合」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きの通信文の基本形式を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
10	11/25	第4章作成力（2）伝える力「通信文」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きにおける敬意の表し方や基本形式の変形を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
11	12/2	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文の型とそれを作る手順を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
12	12/9	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、良い論説文である条件を理解することができる。	
		事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、読解力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフからの確にデータを読み取り、自分の考えを論理的に述べることができる。また適切なレポートを書くことができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
14	12/23	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な手紙や論説文を書くことができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	150分
		事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
15	1/13	授業内復習テスト	復習テストの実施とその解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
		事前学修	教科書を読んでおく。	200分
		事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目に人数調整をするので必ず出席すること。なお、前期の「文章表現法」に関する講義を履修していることが望ましい。

【授業方法】
提出する課題を添削して返却する。欠席は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの進行はテーマを変更することもあることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。相互批評も行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。文章表現について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。	
		事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。	120分
		事後学修	文章表現について、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
2	第一部 木 9/24	夏期休暇中の出来事	夏期休暇中の出来事を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	文章表現について、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	夏期休暇中の出来事を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
3	第一部 木 10/1	引用	引用して書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	夏期休暇中の出来事を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	引用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
4	第一部 木 10/8	データの援用	データを援用して書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	引用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	データを援用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
5	第一部 木 10/15	手紙	手紙を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	データを援用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	手紙を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
6	第一部 木 10/22	メール	メールを書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	手紙を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	メールを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	依頼文	依頼文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	メールを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	依頼文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
8	第一部 木 11/5	自己PR文	自己PR文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	依頼文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	自己PR文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
9	第一部 木 11/12	エントリーシート	エントリーシート形式で書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	自己PR文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	エントリーシート形式で書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
10	第一部 木 11/19	書評	書評を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	エントリーシート形式で書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	書評を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
11	第一部 木 12/3	課題文	課題文を書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	書評を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	課題文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
12	第一部 木 12/10	アウトライン	小論文のアウトラインを書く	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	課題文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	小論文のアウトラインを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	参考文献	引用・参考文献のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	小論文のアウトラインを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	引用・参考文献のまとめについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
14	第一部 木 12/24	小論文	小論文の仕上げ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の最終課題文を作成することができる。	
		事前学修	引用・参考文献のまとめについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	小論文の仕上げについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
15	第一部 木 1/14	振り返り	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。最終課題の提出。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
		事前学修	小論文の仕上げについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	半期の講義について、要点の復習をしておくこと。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	渡辺 重人	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回に人数調整をするので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
個人作業、ピア・ワークを複合した演習形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4、5、8、12、13、15回にピア・ワークによるディスカッションを通して、演習問題、文章作成、振り返りに取り組みます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習問題の解説・作成例の提示、提出物の講評、小テスト・小論文の添削・返却・解説、課題小論文の解説と講評とします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
木曜 5 限、授業終了後、授業講堂にて。watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。エラーでレスポンスが遅い場合は授業の前後に直接申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、学修活動の見通しを持つことができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。	120分
		事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。	120分
2	第一部木 9/24	論理的な文章の基本：パラグラフ・ライティングの概念	パラグラフ・ライティングの概念を捉え、活用の準備をします。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、活用の準備をすることができる。	
		事前学修	図書館やP Cで論理的な文章を探し、その特徴をまとめておきます。	120分
		事後学修	パラグラフ・ライティングの概念を踏まえて、図書館やP Cで各自が用意した文章を読みます。	120分
3	第一部木 10/1	論理的な文章の基本：概念 の理解についての確認	パラグラフ・ライティングについての演習問題に取り組み、実践します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、実践することができる。	
		事前学修	学修内容を踏まえて、パラグラフ・ライティングで書かれている文章を図書館やP Cで探します。	120分
		事後学修	作成例を踏まえて、もう一度演習問題に取り組みます。事前配布された演習問題に取り組みます。	120分
4	第一部木 10/8	論理的な文章の基本：パラ グラフの構造化	パラグラフの構造化について実践し、ピア・ワークで確認します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、論理的な文章の基本となる、パラグラフの構造化ができる。	
		事前学修	各自の用意した文章が、パラグラフ・ライティングで書かれているかについて再確認します。	120分
		事後学修	作成例を踏まえて、パラグラフの構造化に取り組みます。事前配布された演習問題に取り組みます。	120分
5	第一部木 10/15	論理的な文章の基本：結束 性の高め方	センテンスやパラグラフの結束性の高め方について実践し、ピア・ワークで確認します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、接続詞やキーワードを効果的に配置し、センテンスやパラグラフの結束性を高めることができる。	
		事前学修	キーワードの効果的な配置について想起し、注意点についてまとめておきます。	120分
		事後学修	接続詞やキーワードの効果的な配置に注意し、センテンスやパラグラフの結束性の高め方についてもう一度実践します。	120分
6	第一部木 10/22	情報収集の基本と発想法 表記と表現についての確認	情報収集の基本と活用法について確認し、実践します。発想法として、論理的思考と批判的思考の基本を修得します。 表記と表現についての確認：表記と表現について小テストで確認します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、論理的思考と批判的思考に基づいて情報を収集し、活用することができる。 到達目標①②③に関して、わかりやすい文章を書くために必要な表記と表現を身に付けることができる。	
		事前学修	表記と表現についての確認に備え、文章作成に関する知識を整理しておきます。	120分
		事後学修	図書館やP Cを利用し、情報収集を実践します。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	小論文攻略法：提案型小論文	提案型小論文の攻略法を修得し、小論文（721～800字）を作成します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、提案型小論文の攻略法を修得し、小論文を作成することができる。	
		事前学修	提案型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
		事後学修	授業時に作成した小論文をリライトします。	120分
8	第一部木 11/5	小論文の推敲と提出	リライトした小論文（721～800字）をピア・ワークでチェックし、提出します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、小論文を推敲し、完成度を高めることができる。	
		事前学修	リライトした小論文を推敲し、完成度を高めます。	120分
		事後学修	作成例を参照し、提案型小論文の作成手順を再確認します。	120分
9	第一部木 11/12	パラグラフ・ライティングの修得についての確認 論理的思考と批判的思考についての確認	パラグラフ・ライティングの修得について、演習問題で確認します。論理的思考と批判的思考の修得について、演習問題で確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考を身に付けることができる。	
		事前学修	事前配布された演習問題に取り組み、これまでの学修を振り返ります。	120分
		事後学修	パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考が身に付いているか、自己点検します。	120分
10	第一部木 11/19	小論文攻略法：抽象題型小論文	抽象題型小論文の攻略法を修得します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、抽象題型小論文の攻略法を修得し、作成することができる。	
		事前学修	抽象題型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
		事後学修	作成例を参照し、抽象題型小論文の作成手順を再確認します。	120分
11	第一部木 12/3	小論文攻略法：自己PR型小論文	アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PR型小論文の攻略法を修得します。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関して、自己PR型小論文の攻略法を修得し、アピールポイントを効果的に読み手に伝えることができる。	
		事前学修	自己PR型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
		事後学修	作成例を参照し、自己PR型小論文の作成手順を再確認します。	120分
12	第一部木 12/10	小論文攻略法：情報活用法についての確認と実践	情報活用法について確認し、ピア・ワークで実践します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、情報活用法を身に付け、実践することができる。	
		事前学修	課題小論文の作成に必要な情報が何であるかについて検討し、図書館やPCで情報収集をします。	120分
		事後学修	情報収集で得たデータを小論文に活用できるよう整理します。）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	小論文攻略法：課題小論文作成の準備	ピア・ワークを通して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文（721～800字）の作成の準備をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成するための準備をすることができる。	
		事前学修	各論のパラグラフのトピックを決め、アウトラインを考えます。	120分
		事後学修	課題小論文の下書きを作成します。	120分
14	第一部木 12/24	課題小論文の作成	課題小論文（721～800字）を作成し、提出します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成することができる。	
		事前学修	課題小論文の下書きを推敲します。	120分
		事後学修	課題小論文の下書きを熟読し、完成度を検証します。	120分
15	第一部木 1/14	課題小論文についての振り返り 自己点検報告の作成	課題小論文（721～800字）について解説と講評で振り返り、ピア・ワークを通して、文章作成に関する自己点検報告を作成します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題小論文の作成過程・完成度を検証し、自己点検をすることができる。	
		事前学修	完成した課題小論文をリライトします。	120分
		事後学修	課題小論文の振り返りを通して、文章作成上の注意事項を各自でまとめ、発展的な学習へつなげます。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	茅原 雅之	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、添削によって、問題点と良かった点を指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については電子メールにて対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jpまた授業の前後（月曜2限もしくは金曜2限）にも，直接の相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 月9/14	オリエンテーション。文章表現の基礎、漢字の確認。 (1)	授業計画の説明。各種の漢字について学ぶ。	
		この回の到達目標	授業内容の全体像を把握する。各種〈四字熟語〉の意味を理解する。	
		事前学修	一般的に使用されている四字熟語について調査しておく。	120分
		事後学修	配付資料〈四字熟語〉の復習。	120分
2	第二部 月9/21	文章表現の基礎、〈ことわざ・故事成語〉の確認。	各種の〈ことわざ・故事成語〉について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会生活に必要とされる程度の〈ことわざ・故事成語〉について理解する。	
		事前学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の復習。	120分
3	第二部 月9/28	小論文とは何か。	小論文とは何か、論理的な文章とは何かを学ぶ。	
		この回の到達目標	小論文が何かを理解する。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の復習。	120分
4	第二部 月10/5	小論文を書く。(1)	与えられた課題をもとに文章構成を組み立てる。	
		この回の到達目標	三段構成の文章を書くことができる。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の復習。	120分
5	第二部 月10/12	小論文を書く。(2)	小論文を記述する際の言葉遣いを学ぶ。	
		この回の到達目標	敬体と常体の文体を、使い分けることができる。	
		事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「思いやり」〉の作成。	120分
6	第二部 月10/19	小論文を書く。(3)	小論文の各種応用問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	複合型課題の小論文に対応できる。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「デザイナーベビー」〉の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「デザイナーベビー」〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 月10/26	小論文を書く。（４）	公務員試験における小論文の傾向を学ぶ。	
		この回の到達目標	公務員試験の小論文に対応できる。	
		事前学修	配布資料〈公務員の出題傾向〉の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「他者への気遣いとマナー」〉の作成。	120分
8	第二部 月11/23	小論文を書く。（５）	公務員試験対策の資料準備について学ぶ。	
		この回の到達目標	小論文執筆に必要となる各種資料を集めることができる。	
		事前学修	配布資料〈小論文の書き方「少子化対策」〉の予習。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「少子化対策」〉の作成。	120分
9	第二部 月11/16	小論文を書く。（６）	公務員試験の実例をもとに時間内に小論文を作成する。	
		この回の到達目標	公務員試験の既出問題を、制限時間以内に執筆することができる。	
		事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
		事後学修	提出課題〈小論文「超高齢化社会」〉の作成。	120分
10	第二部 月11/23	エッセイとは何か。	エッセイの起源から現在に至るまでの展開を学ぶ。	
		この回の到達目標	エッセイが何かを説明することができる。	
		事前学修	エッセイについての事前調査。	120分
		事後学修	配布資料〈各種エッセイ〉の復習。	120分
11	第二部 月11/30	エッセイを書く。（１）	エッセイとは「自分」を表現すること。	
		この回の到達目標	エッセイにより、自分を表現することができる。	
		事前学修	エッセイでもって自分の何を表現したいのか考えておく。資料を集める。	120分
		事後学修	提出課題〈3分スピーチ〉の作成。	120分
12	第二部 月12/7	エッセイを書く。（２）	エッセイにおける「文筆力」を学ぶ。	
		この回の到達目標	短い文章の中に、文筆力を駆使して文を書くことが出来る。	
		事前学修	エッセイにて表現する〈文筆力〉について考えておく。構想を立てておく。	120分
		事後学修	提出課題〈仮称「エッセイ」〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月2/14	文章表現の基礎、漢字の確認。（2）	間違いやすい漢字について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会一般で誤用が目立つ漢字について、間違いを指摘することができる。	
		事前学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の予習。	120分
		事後学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の復習。	120分
14	第二部 月12/21	授業全体のまとめ。	これまでの授業に関する総合的な質疑応答。	
		この回の到達目標	漢字・小論文・エッセイについて、知識と執筆方法を確かなものにする。	
		事前学修	これまでの授業で理解できなかった点について自己点検する。	120分
		事後学修	授業全体の自己総括をする。	120分
15	第二部 月1/18	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
		この回の到達目標	授業の達成度について自己確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
		事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
		事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
金曜日の第3時限の講座は1年次生のみ履修可(例年受講者過多のため)とします。金曜日の第4時限と火曜日の第5時限の講座に関しては全学生履修可です。

【授業方法】
講義形式で進めるが、知識の供給に加えて、できるだけ問題提起を行って生き生きした講義になるよう心がけたい。なお、唯一の成績評価(単位認定)の基準となる授業内試験を第13回の講義時に行い、その講評を第14回目もしくは第15回目の講義時に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回または第15回の中で、試験結果の講評というかたちでフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日の第3時限・第4時限、火曜日の第5時限の各講義終了後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜日 4/10 火曜日 4/7	倫理学とはどのような学問か	本講座の運営方針および「倫理学入門」（倫理学の考察対象についての概説、倫理学の歴史の概観等々）	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、倫理学の探究課題が道德教育とは異なり、道德哲学的側面をもっていることを認識・説明することができる。	
		事前学修	日本の社会が直面している倫理的状況について、また自分自身の身の回りに生起している倫理にかかわる出来事について、そこにどんな問題があるかを自分なりに析出して考えておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、倫理学の学問的個性と特徴について理解を深めておく。	120分
2	金曜日 4/17 火曜日 4/14	倫理の起源/倫理と宗教の関係性	人類の歴史と倫理の成立・発展の意義および諸宗教における倫理的部分の考察	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、人類の歴史と倫理の起源について理解するとともに、現代における宗教倫理について偏見なしに認識・説明することができる。	
		事前学修	人類学に関する知見を、図書館や市販文献を利用して入手しておく。また、世界宗教(キリスト教、イスラーム、仏教)の基本的教義と現状について理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容を吟味して、自分自身の生き方における倫理性と宗教性(あるいは非倫理性と非宗教性)について考察を深める。	120分
3	金曜日 4/24 火曜日 4/21	倫理の普遍性と相対性/倫理と文化の関係性	いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるかという倫理学上の根本問題をめぐる普遍主義と相対主義の対立および日本人の倫理観の特徴の考察	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、倫理の普遍的な性格と、社会の変化に応じて変化する相対的な部分とを認識して、われわれ日本人の倫理観の特徴を自覚・説明することができる。	
		事前学修	われわれ日本人の倫理観の特質を、倫理の普遍性と相対性(いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるか)という観点から自分なりに考えておく。できれば、各種のいわゆる日本人論に関連する文献に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、国際化が進行する現代において、われわれは今後どのような倫理的態度を身に着ける必要があるか、自分なりに省察する。	120分
4	金曜日 5/1 火曜日 4/28	正邪善悪をめぐる倫理的判断と法的判断のズレ/倫理と法の関係性/動機説対結果説	倫理的判断と法的判断の関係性と異同および行為の正邪善悪の判定基準をめぐる動機説と結果説(帰結主義)の対立に関する考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理的判断と法的判断がずれる場合があることを知り、さらに倫理学においても、正邪善悪の判定基準を行為の動機に置くか結果に置くかの理論的対立があることを十分に認識して、このことが实际的に、われわれ自身の行為の判定と評価にも大きく影響することを具体的に説明することができる。	
		事前学修	動機説(motivism)と結果説(consequentialism)について、倫理学関連の文献を用いて下調べしておく。また、前者の支持者であるドイツの思想家カントと後者の支持者であるイギリスの思想家ベンサムについて、基本的な事項をリサーチしておく。	120分
		事後学修	講義内容を振り返り、自分が対立する両説のどちらの側により多く共感を覚えるか、そしてそれは何故か、論点を整理して省察する。	120分
5	金曜日 5/8 火曜日 5/5	われわれの倫理的行為の導き手として最も信頼に値するのは「知」か「情」か「意」か	ソクラテスの知性主義(主知主義)、近世イギリス感情主義倫理およびカントの「善意志」の思想に関する対比的考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理的行為の選択や倫理的なスタンスが知・情・意のどれに重点を置くかで変わること理解し説明することができる。	
		事前学修	人間性を構成する要素のうち、自分自身にとって、知性、感情、意志(理性的意志)のいずれが実人生上最も重要か考えておく。	120分
		事後学修	ソクラテスの知性主義、イギリスの道德感覺学派および同情主義倫理、カント的主意主義のいずれが妥当か、講義内容を踏まえ、自分自身の立場を反省して再構築する。	120分
6	金曜日 5/15 火曜日 5/12	倫理の根底に据えるべきは「義務」か「幸福」か/義務説対幸福説	義務説と幸福説(倫理的な最高善を道德法則の履行とみなすかそれとも幸福の獲得・実現とみなすか)の対立に関する考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理の根幹をなすのは道德的義務の実現か幸福の達成かという根本的な問題について、その重要性について説明することができ、かつまたこの問題について自分自身の立場を確立して説明することができる。	
		事前学修	道德的義務の履行と人間的幸福の獲得とが対立するような出来事や事象について、どういうものがあるか考えておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、論点を整理し、両説それぞれの功罪をよく吟味して、自分自身として義務説・幸福説どちらの側に軍配を上げるか決定する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜日 5/22 火曜日 5/19	カントの義務倫理学の総体および美点と欠点の詳説	本講座第4回～第6回の講義を踏まえた、近代倫理学の祖の一人としてのカントの倫理思想の総合的分析と批判的考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「原則の人」と呼ばれるカントの堅牢な道徳哲学について理解し説明することができる。また、それによって自分自身の生き方の指針を再考して確立する。	
		事前学修	ドイツの思想家カントの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。	120分
		事後学修	講義で指摘されたカントの倫理思想の美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。	120分
8	金曜日 5/29 火曜日 5/26	ベンサムの総量功利主義の主眼と功罪の考究	本講座第4回～第6回の講義を踏まえた、近代的な幸福説(幸福主義)の確立者ベンサムの公衆的快楽主義的功利主義の分析と批判的考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「最大多数の最大幸福」を標榜するベンサムの総量功利主義について、先入観を排してその本意とするところを認識・理解し、適切に説明することができる。また、それによって自分自身の人生観を再構築する。	
		事前学修	イギリスの思想家ベンサムの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。	120分
		事後学修	講義で指摘されたベンサムの総量功利主義思想の美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。	120分
9	金曜日 6/5 火曜日 6/2	J. S. ミルの質的功利主義とP. シンガーの選好功利主義	前回の講義を踏まえた、ベンサムの総量功利主義の修正バージョンとしてのミルの質的功利主義および最新のシンガーの選好功利主義の分析と批判的考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、幸福や快楽の質の差を認めるミルの思想的立場の是非および生命の質の差を肯定するシンガーの思想的立場の是非について批判的な考察ができる。また、それを通して自分自身の道徳感覚を研ぎ澄ます。	
		事前学修	イギリスの思想家j. s. ミルの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。また、オーストラリア出身の倫理学者P. シンガーについて、インターネットを利用して情報を入手しておく。	120分
		事後学修	講義で指摘されたミルとシンガーの功利主義思想のそれぞれの美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。	120分
10	金曜日 6/12 火曜日 6/9	「愛」について考える	現代における愛のかたちの多様化および愛をめぐる危機的状況の考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、愛と倫理の間に生じる葛藤について理解し、自分自身の恋愛観・結婚観を確立して人生の指針とすることができる。	
		事前学修	インターネットを利用して、いわゆるLGBTとSOGIについて、最新の情報を入手しておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、愛による幸福はいかにして得られ保たれるか、自分自身の問題として真摯に省察する。	120分
11	金曜日 6/19 火曜日 6/16	「自由と責任」について考える	倫理的責任の根底をなす「自由」の重要性和「他者危害の原則」に関する考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、自由と倫理的責任の関係を理解し、倫理現代社会において肝心要の人間の自由が縮小の危機にさらされていること(主体的倫理観の喪失)を自覚して説明することができる。	
		事前学修	J. S. ミルの『自由論』を援用するので、図書館や書店において入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、自分自身の言わば「自由度」を測定して、自分の望む生き方がいかにして可能となるかその方策を具体的に考える。	120分
12	金曜日 6/26 火曜日 6/23	科学技術文明の功罪と管理社会において生きる現代人の在り方・生き方について考える	科学技術文明と管理社会にどっぷり浸かり、経済至上主義的価値観に縛られ翻弄される現代人の人生(人間の労働マシン化、消費マシン化、情報反応マシン化、社畜化等々の危機)に対する批判的考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、現代社会に生きるわれわれの倫理的主体性の喪失の危機について認識し、この状況に対する自己の生き方を模索して自分なりの倫理観、価値観、人生観を確立する。	
		事前学修	ニーチェの思想を援用するので、関連文献によって実存哲学およびその祖の一人ニーチェについて下調べをしておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、自分自身が直面している(さらには今後直面するであろう)諸問題について、自分なりの解決策を模索する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜日 7/3 火曜日 6/30	総括と補足説明および授業内試験	ここまでの講義の総括と補足説明(30分)、《授業内試験》の実施(60分)	
		この回の到達目標	ここまでの講義内容を総括・補足し、到達度①、②、③ のすべてを確認・評価するために《授業内試験》を実施するので、この考查において合格ラインを越えることで所定の単位を得ることができる。	
		事前学修	試験の基礎問題部分については、ここまでの講義内容を復習しておく。論述問題部分については、自分なりの見識を確立し、それを適切に表現できるようにシミュレーションしておく。	120分
		事後学修	試験で問われたことについて、あらためて省察し、自分なりの考えを再構築する。	120分
14	金曜日 7/10 火曜日 7/7	前回に実施された授業内試験の講評および質疑応答	授業内試験の講評と質疑応答および現代の倫理的問題、講義内容、現代の倫理的問題等々についての質問用紙を利用した質疑応答	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、みずからの習熟度や達成を質疑応答を通して確認し、不足する部分について上積みをする。	
		事前学修	これまでの講義内容と授業内試験の講評について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。	120分
		事後学修	質疑応答を思い返しながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめ、自分自身の倫理観を確立する。	120分
15	金曜日 7/17 火曜日 7/14	「生と死」そして「不幸脱出法」について考える	ショーペンハウアー、キルケゴール、ラッセル等の思想家たちの思想を援用した人生論と幸福論の展開	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、自分自身の今後の、特に実社会に出てからの人生行路の指針を得て、社会の風潮に流されることなく生きられるようになる。	
		事前学修	図書館や書店において岩波文庫所収『ラッセル 幸福論』を入手して読んでおく。	120分
		事後学修	講義内容を再考察するとともに、自分自身の人生の現状に照らして現代人の不幸の原因となるものを探索・考究し、その解消に向けて対策を講じる。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】
講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、適宜質問して理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞やネット情報などを使用				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス、導入授業	授業概要と倫理について	
		この回の到達目標	どのように授業を進めていくのか理解する	
		事前学修	高校時代の『倫理社会と現代』を復習してくること（2時間）	120分
		事後学修	道徳と倫理の違いについて確認すること（2時間）	120分
2	4/15	倫理とは何か	現代社会における倫理	
		この回の到達目標	「倫理」の意味について理解する	
		事前学修	南博『日本的自我』（岩波新書）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	友人や後輩・先輩との人間関係に必要なことを考えること（2時間）	120分
3	4/22	日本社会の倫理	日本的社会と人間関係	
		この回の到達目標	身の回りの人間関係がどのようにになっているのかを理解する	
		事前学修	中根千枝『タテ社会の力学』（講談社学術文庫）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	日本の人間関係の特色について確認すること（2時間）	120分
4	4/29	日本人の倫理と価値観	アメリカ人の正義・日本人の「和」	
		この回の到達目標	国によって倫理的な考え方に違いがあることを理解する	
		事前学修	池田謙一『日本人の考え方 世界の人の考え方』（勁草書房）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	国や文化によって、人間関係の違いを確認しておくこと（2時間）	120分
5	5/6	僕はどこにいるのか	社会の中での自己位置の確認	
		この回の到達目標	自己と集団との関係はどのようにあるのか理解する	
		事前学修	南博『日本人の心理と生活』（勁草書房）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	家族や友だちにとっての自分の立場を確認すること（2時間）	120分
6	5/13	社会と自己	弱気な私と強気な集団	
		この回の到達目標	日本人特有の自我について理解する	
		事前学修	増成隆士『現代の人間観と世界観』（放送大学教材）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	集団的犯罪行為はなぜ起こるのか、新聞記事を調べること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	「らしさ」と文化	日本人の同調性と倫理的行動	
		この回の到達目標	他者との同調行動をなぜ行なうのか理解する	
		事前学修	大平健『豊かさの精神病理』（岩波新書）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	なぜ人と同じ行動を取るのか考えてみること（2時間）	120分
8	5/27	メディアと人間関係	メディアが変える人間関係	
		この回の到達目標	情報機器との関係がどのようなものを理解する	
		事前学修	梅本吉彦『情報社会と情報倫理』（丸善）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	TVやゲーム機がどのように日常生活の中に入り込んでいるのか、確認すること（2時間）	120分
9	6/3	情報と人間関係	TV・コンピューターが生み出すデジタル人間と倫理	
		この回の到達目標	スマホがどのように人間関係を変えようとしているのか理解する	
		事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	IT革命 がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）	120分
10	6/10	情報社会の人間関係	疑似現実世界の人間関係	
		この回の到達目標	仮想空間が現実空間の人間関係に与えている影響について理解する	
		事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	Virtual reality がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）	120分
11	6/17	情報社会の恋愛	愛情は「モノ」でしか表現できないのか	
		この回の到達目標	情報機器によって恋愛関係が変化していることを理解する	
		事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	Virtual な恋愛について、考えてみること（2時間）	120分
12	6/24	青年期の人間関係	反抗 ― 自立 ― 恋愛の関係に就いて	
		この回の到達目標	青年期に直面する人間関係の難しさを理解する	
		事前学修	福島章『青年期の心』（講談社現代新書）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	それぞれが直面している倫理的問題を箇条書きしてみること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	人間形成と自己実現	青年期の自己実現の意味と目的	
		この回の到達目標	私たちはどのように「自己実現」を目指すのかを理解する	
		事前学修	小林司『「生きがい」とは何か』（NHKブックス）を読んでくること（2時間）	120分
		事後学修	何のために生きているのか、自己実現との関係で考えてみること（2時間）	120分
14	7/8	まとめ	講義の重要事項についての解説と補足	
		この回の到達目標	これまでの授業をフィードバックしてまとめる	
		事前学修	これまでの講義ノートの整理と重要な点についての確認をすること（2時間）	120分
		事後学修	学年末試験の対策を講じること（2時間）	120分
15	7/15	授業内試験、振り返り	前期末試験及び振り返り	
		この回の到達目標	授業内容を、どの程度理解しているのかを確認する	
		事前学修	前期授業内容の総復習（2時間）	120分
		事後学修	自己採点をすること（2時間）	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
金曜日の第3時限の講座は1年次生のみ履修可(例年受講者過多のため)とします。金曜日の第4時限と火曜日の第5時限の講座に関しては全学生履修可です。

【授業方法】
紋切型で総花的な講義になるのを避けるため、古代ギリシアに遡って限定的に詳説する。アニメやゲームのモチーフやキャラクターの原型・モデルが多数登場するギリシア神話から始め、一般の教科書に書かれていない知見を盛り込んで、聴講者にとって興味深く楽しい授業になるように心がける。なお、唯一の成績評価(単位認定)の基準となる授業内試験を第13回の講義時に行い、その講評を第14回目もしくは第15回目の講義時に行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2						
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2					
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回または第15回の中で、試験結果の講評というかたちでフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日の第3時限・第4時限、火曜日の第5時限の各講義終了後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜日 9/18 火曜日 9/15	古代ギリシア文明の成立・発展と倫理意識の萌芽	クレタ島をめぐる伝説と神話とそこに見られる道徳的教訓に関する考察、ポリス(都市国家)の成立・発展と倫理意識の発達	
		この回の到達目標	到達度①に関連して、クレタ島をめぐる伝説と神話に登場するテーセウスによるミーノータウロス(ミノタウロス)退治の逸話、およびイーカロス(イカロス)の翼にまつわる逸話の示唆するところの道徳的意義を看取して説明することができる。	
		事前学修	関連文献やインターネットを利用して、クレタ島を中心に花開いたミノア文明について調べておく。	120分
		事後学修	講義内容を確認し、そこに感知される古代ギリシア人の倫理観の萌芽の意義について、自分自身の関心にしたがつて再考察する。	120分
2	金曜日 9/25 火曜日 9/22	古代ギリシアの神々の生誕と系譜および人類の誕生にまつわる物語とヘシオドスの世界観・人間観・倫理観	「ティーターン神族の支配からゼウスを頂点とするオリュンポス十二神の支配へ」、「プロメーテウスによる人類の救い」、「パンドラーの壺(いわゆるパンドラの箱)にまつわる物語」、「掟の女神テミス、復讐の女神ネメシス、運命の女神たち(モイライ)の役割」等々の伝説についての考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシア神話の奥深さ・興味深さを認識し、そこから人間性と人間の生き方に対する古代ギリシア人の眼差し(人間観、人生観、倫理観)を看取・玩味して説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ヘシオドスの『神統記』と『仕事と日々』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、そこから現代に生きるわれわれへのメッセージを見出して、自分自身の生き方に対する示唆を導き出して省察する。	120分
3	金曜日 10/2 火曜日 9/29	ホメロスと三大悲劇詩人によるトロイ戦争にまつわる英雄伝説とそこに見られる運命観・死生観	最強の勇者アキレウス(アキレス)と悲劇の英雄ヘクトールの一騎打ち、知将オデュッセウスによる「トロイの木馬作戦」等々の有名な物語を含む一連の英雄伝説に見られるヒロイズムとその倫理性に対する考察	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、「古代ギリシア人のバイブル」と評され、ソクラテス、プラトン、アリストテレスにも(さらに言うと、二千数百年の時を隔てて有名な哲学者ニーチェにも)多大な影響を与えたホメロスの叙事詩およびその後のアイスキュロス、ソフォクレスらの悲劇詩人たちによる劇作に通底する死生観、運命観、倫理観を十分に理解して説明できる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、古代ギリシアの英雄伝説を貫くアレテー(卓越性)に基づく英雄主義的人生観、運命観、価値観を抽出・把握し、その倫理的意義と現代的意義を考察する。	120分
4	金曜日 10/9 火曜日 10/6	英雄伝説、悲劇作品、ヘロドトスの歴史書、イソップ物語等々に見られる道徳的教訓	モイラ(分け前、分限、定め、運命)、ヒュプリス(傲慢、慢心)、アーテー(迷妄、破滅)等々の倫理的観念をめぐる考察、およびDVDによるエウリピデス『メーディア(王女メディア)』の鑑賞	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシアの倫理思想の根底に存在する道徳訓や人生訓を総合的に理解し説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ソフォクレスの『オイディプース王(オイディプス王)』およびエウリピデスの『メーディア(王女メディア)』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	みずからの人生と他の人々の不幸・破滅を招く要因としての慢心と激情(怒り、憎しみ)について、われわれ現代人の状況と照らし合わせて考察する。	120分
5	金曜日 10/16 火曜日 10/13	ソクラテス以前の自然哲学者たちの倫理観	ミレトス学派による万物のアルケー(始原)の探究に始まり、原子論によって完成されるところの自然哲学の歴史、およびその中で輩出した賢者タレス、ピュタゴラス、デモクリトスそれぞれ固有の人生観と倫理観の考究	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、現代の倫理的諸問題の理解にもつながる自然哲学者たちの倫理意識や美意識を洞察して的確に説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(加来彰俊訳、岩波文庫)を入手し、タレス、ピュタゴラス、デモクリトスの章を通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻し、一種の応用問題として、現代の環境破壊の問題、心身問題、快楽主義的人生観が引き起こす社会問題等を自分なりに推考する。	120分
6	金曜日 10/23 火曜日 10/20	ソフィストたちによる伝統的道徳に対する挑戦とソクラテスによる倫理の本源に迫る真摯な問題提起	ソフィストたちの相対主義思想による伝統的倫理観の動揺と彼ら(特にプロタゴラスとゴルギアス)に対するソクラテスの批判についての考究	
		この回の到達目標	到達度①および②に関連して、現代の倫理学にも色濃く影を落とす倫理的相対主義をめぐる問題を洞察して、その適否について偏見を排して説明することができる。	
		事前学修	関連図書やインターネットを利用して、ソフィストについて下調べをしておく。また、図書館や書店を利用して、プラトンの著作『テアイテトス』と『ゴルギアス』を入手して通読しておく。	120分
		事後学修	現代においても散見されるソフィスト的な論理や主張について、自分なりにその問題点を抉り出して省察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜日 10/30 火曜日 10/27	ソクラテスの人生と倫理思想	ソクラテスの対話の本質、アポリア(行き詰まり)に導く問答法(論駁法)と助産術、ソクラテス裁判の実態、考古学的に発掘されたソクラテスの牢獄、「悪法も法なり」という解釈の誤り、ソクラテスの宗教性等々、ソクラテスにまつわる多岐にわたる考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、ソクラテスの精神性と倫理思想の本質および死生観と彼の刑死について、俗流の解釈を排して、的確に理解し説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『ソクラテスの弁明』、『クリトン』および『パイドン』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を玩味し、なぜソクラテスがなぜ、ゴータマ(釈迦)・孔子・イエスとともに世界の四聖人の一人として、いまだに人類の精神的指導者とみなされているのか推考・推察する。	120分
8	金曜日 11/6 火曜日 11/10	プラトンの倫理思想におけるエロース(エロス論)の役割と美意識	「美のイデア」への到達を目指すプラトンの「エロース(憧憬、恋情)論」の倫理思想史的意義、および青少年の美しい肉体に対する成人男性の恋愛こそを純粋な真の恋愛とみなす当時の慣習に基づく(真実の)プラトニック・ラブに関する考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、プラトンの『饗宴』に展開されている有名なエロース論とその倫理的・倫理思想史的意義を、通俗的な解釈を排して的確に理解し説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『饗宴』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、現在進むLGBT他と呼ばれる愛のかたちの多様化やSOGI(性指向と性自認)の偏見からの解放の流れにおいても、青少年(未成年者)保護の観点から、プラトンの依って立つ当時の少年愛の風俗・慣習が決して容認されないこと(イエローカードもしくはレッドカード)を確認しておく。	120分
9	金曜日 11/13 火曜日 11/17	プラトンのイデア論と魂不死説および理想国家論	「善のイデア」を認識した哲学者たちによる哲人政治の理想が語られている『国家』は、プラトンの代表作としてあらゆる教科書で紹介されているが、無視されがちな驚くべき構想についても考察に加える。たとえば、統治者階層・守護者階層の人々に対する一切の「私有」の禁止(すなわち無給・無資産、妻子の私有も禁止)、職務における男女平等、専守防衛や文民統制など。	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、プラトンの『国家』において展開されている「魂三分割の教説」とそれと並行して語られる国家の三分割の構想について、また「太陽の比喩」や「洞窟の比喩」などの哲学的な教説について、著作全体を視野に入れて的確に説明できる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『国家』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を反芻して、プラトンの倫理思想の美質だけではなく、彼の構想している理想国家における上部構造が雁字搦めの完全な管理社会であることを感知し、そこから現代社会において加速度的に進行する管理社会化の危険性と恐ろしさを十分に看取・感得し、批判的に考察しておく。	120分
10	金曜日 11/20 火曜日 11/24	アリストテレスのアレテー論と幸福論	アリストテレスのアレテー(卓越性、徳)の観念に基づく活動説的・自己実現説的幸福論、およびその基礎を形成する知性的アレテー(知恵、思慮、技術)と性格的アレテー(勇気、節制、温和等々のいわゆる中庸の徳)の分析に関する通俗的な理解にとどまらない考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、知の巨人アリストテレスの倫理思想の神髄を理解し、西欧の倫理学史に対する彼の学問的貢献についての的確に理解し説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、アリストテレスの著作『ニコマコス倫理学』を入手し通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、アリストテレスの幸福論とアレテー論の現代における有効性について、自分自身のケースに照らして洞察するとともに、彼の思想に漂う「エリート臭」についても批判的に評価を行っておく。	120分
11	金曜日 11/27 火曜日 12/1	小ソクラテス学派の人びとの個性的な価値観と倫理思想	小ソクラテス学派のうちのアリスティッポスを学祖とするキュレネ学派の快楽主義的倫理思想とアンティステネスとその弟子ディオゲネスによるキュニコス学派の反俗的倫理思想についての考察、およびそれらの思想の現代人にとっての有効性の考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、キュレネ学派の利己的快楽主義の思想とキュニコス学派の反俗的倫理思想について両者の倫理思想史的意義を理解し説明することができる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、時を経て近代の功利主義倫理につながってゆくアリスティッポスの快楽主義的人生観・価値観が、自分自身の生き方に資するところがあるかどうか省察する。また、キュニコス学派の反俗的人生観・価値観が、欲望の体系としての現代社会に対して鎮静剤的役割を果たすかどうか考察する。	120分
12	金曜日 12/4 火曜日 12/8	ヘレニズム期の倫理思想の「心のあり方」に基づく倫理思想	エピクロスが最高の幸福の境地とみなす「アタラクシア(心の平安)」とゼノンを開祖とするストア学派が至高の境地とみなす「アパテイア(不動心、無情念)」の倫理的・倫理思想史的意義の考究	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、エピクロスの精神的快楽主義の美点と問題点およびゼノンに発する禁欲的ストイシズムの利点と欠点について、十分に認識して説明できる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、エピクロスの説く精神の安らぎと身体は無苦痛をもって人生の充足とする思想が、現代人にとって有効な癒しとなるかどうか、ゼノンの説くストイックな価値観・人生観が、競争社会の渦中にあって苦しみ喘ぐ現代人にとって一服の清涼剤で鎮静剤となるかどうか考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜日 12/11 火曜日 12/15	総括と補足説明および授業内試験	ここまでの講義の総括と補足説明(30分)、《授業内試験》の実施(60分)	
		この回の到達目標	ここまでの講義内容を総括・補足し、到達度①、②、③ のすべてを確認・評価するために《授業内試験》を実施するので、この考查において合格ラインを越えることで所定の単位を得ることができる。	
		事前学修	試験の基礎問題部分については、ここまでの講義内容を復習しておく。論述問題部分については、自分なりの見識を確立し、それを適切に表現できるようにシミュレーションしておく。	120分
		事後学修	試験で問われたことについて、あらためて省察し、自分なりの考えを再構築する。	120分
14	金曜日 12/18 火曜日 12/22	前回に実施された授業内試験の講評および質疑応答	授業内試験の講評と質疑応答および現代の倫理的問題、講義内容、現代の倫理的問題等々についての質問用紙を利用した質疑応答	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、みずからの習熟度や達成を質疑応答を通して確認し、不足する部分について上積みをする。	
		事前学修	これまでの講義内容と授業内試験の講評について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。	120分
		事後学修	質疑応答を思い返しながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめ、自分自身の倫理観を確立する。	120分
15	金曜日 12/25 火曜日 1/12	キリスト教の伝播と浸透とそれに伴う倫理観の一大転換	ギリシア的四元徳(知恵、勇気、節制、正義)重視からキリスト教的三元徳(信仰、希望、愛)重視への倫理観の転換の倫理思想史的意義の考察	
		この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、キリスト教が西欧倫理思想史に与えた決定的な影響について十分に認識して説明できる。	
		事前学修	図書館や書店を利用して、キリスト教の基本的教義とその歴史に関する概説書(できれば『新約聖書』)を手し下調べをしておく。	120分
		事後学修	キリスト教が説く「アガペー(愛)」を重視し人間の傲慢・強欲を戒める思想傾向が、現代の倫理的諸問題の解決に対して有効な働きをするかどうか、大局的な見地から省察する。	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】
講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、適宜質問をして理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞記事やネット記事を参照する				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス、導入授業	環境倫理とはなにか	
		この回の到達目標	現代起きている環境問題について確認する	
		事前学修	夏期休業中の環境問題に関する新聞記事を確認すること	120分
		事後学修	環境の何が問題となっているのか、復習しておくこと	120分
2	9/23	自然とは何か	東洋では自然をどのように考えてきたのか	
		この回の到達目標	中国を代表する東洋的自然観は、どのような特色があるのかを理解する	
		事前学修	安田喜憲『森を守る文明・支配する文明』（PHP新書）を読んでくること	120分
		事後学修	中国以外の自然観を調査すること	120分
3	9/30	西洋人の自然観	キリスト教的自然観と私たちの自然観とどのように違うのか	
		この回の到達目標	西洋文明のもとにあるキリスト教ではどのように自然を考えているのか、どのように私たちと違うのかを理解する	
		事前学修	旧約聖書の「創世記」冒頭部分を読んでくること	120分
		事後学修	現代日本に於けるキリスト教の影響を考えてみること	120分
4	10/7	日本人の自然観	古代日本人の感じた神聖なる自然への眼差し	
		この回の到達目標	古代日本人は、どのように自然を考えていたのかを理解する	
		事前学修	土橋寛『日本語に探る古代信仰』（中公新書）を読んでくること	120分
		事後学修	身近な神社のご神木に、どのような種類があるか、調べてみること	120分
5	10/14	現代日本人の自然観	宮崎駿はもののけ姫で、何を主張しようとしたのか	
		この回の到達目標	現代日本人の代表として、宮崎駿がどのような自然観を持っているのか、彼のアニメを通して理解する	
		事前学修	「もののけ姫」のビデオを見てくること	120分
		事後学修	宮崎駿の他のアニメで、どのように自然を描いているのか、調べてみること	120分
6	10/21	文明と自然観	世界の各文明がもっている自然観の違いを比較しながら考える	
		この回の到達目標	自然観は、民族や宗教、文化や歴史によってまったく違っていることを理解する	
		事前学修	森本哲郎『そして文明は歩む』（新潮社）を読んでくること	120分
		事後学修	授業内容の文明における自然観の違いを、表にしてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	環境破壊の根源	破壊をもたらした近代社会の構造的原因は何か	
		この回の到達目標	現代社会が直面している環境破壊の原因がどこにあるのかを理解する	
		事前学修	A. トフラー『第三の波』のなかで、近代社会の特色を確認すること	120分
		事後学修	身近な環境問題にどのようなものがあるのか、確認すること	120分
8	11/11	環境倫理と新しい世界観・価値観	近代社会の終焉と新しい世界像	
		この回の到達目標	環境問題が、新しい社会制度を生み出そうとしていることを理解する	
		事前学修	A. トフラーの主張する、新しい社会について、調べてくること	120分
		事後学修	「近代主義」の先の「人間と自然」の関係はどのようなものか、レポートにまとめること	120分
9	11/18	生命倫理の基本的考え方	生命倫理とバイオテクノロジー	
		この回の到達目標	医療技術の進展が、いのちに対する考え方を変えようとしている現状を理解する	
		事前学修	日常の新聞記事の中で、医療問題や終末期医療の問題を確認すること	120分
		事後学修	環境倫理と生命倫理の区別を確認すること（2時間）	120分
10	11/25	生殖医療技術と人間関係 1	体外受精がもたらす問題	
		この回の到達目標	急激に変化している生殖医療技術が、どのような問題を生み出そうとしているのかを具体的に理解する	
		事前学修	体外受精における精子提供や卵子提供について確認してくること	120分
		事後学修	生殖医療を自らの問題として考えること	120分
11	12/2	生殖医療技術と人間関係 2	代理母問題を通して	
		この回の到達目標	産みの母と法的な母が分離しようとしている現状を理解する	
		事前学修	向井亜紀と高田延彦夫婦の代理出産の事例を確認してくること	120分
		事後学修	代理母以外に子供を持つ方法はあるのかを考えること	120分
12	12/9	生殖医療技術と人間関係 3	同性婚や性転換がもたらす影響	
		この回の到達目標	医療技術の進展によって、肉体的性別と社会的性別の区別を生み出し始めていることを理解する	
		事前学修	ジェンダーと性的役割の葛藤を確認してくること	120分
		事後学修	生殖医療技術が、どのような倫理的問題を起こすのかをまとめること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	脳死・臓器移植問題	人間の心はどこに宿るのか。生命倫理と心身論	
		この回の到達目標	脳死問題は、私たちの「自我」がどこにあるのか、根源的な問題を突きつけていることを理解する	
		事前学修	クレア・シルヴィア『記憶する心臓』（角川書店）を読んでくること	120分
		事後学修	臓器移植ネットワークのデータで、移植者のみならず移植希望者の数を確認すること	120分
14	12/23	新しい「死」	安楽死と生命の尊厳、現代医療技術がもたらす新しい死のあり方と意味	
		この回の到達目標	現代の医療技術の進展によって、新しい「死」が生み出されていることを理解する	
		事前学修	奥野修司『魂でもいいから、そばにいて』（新潮社）を読んでくること	120分
		事後学修	家族の死について、両親などより聞き取りをすること	120分
15	1/13	授業内試験、振り返り	学期末試験及び振り返り	
		この回の到達目標	授業内容をどの程度理解していたのかを確認する	
		事前学修	授業内容の総復習	120分
		事後学修	自己採点をすること	120分

科目名	論理学 I	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう。

【授業方法】
講義と演習を交互に行ないます。まず基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習し、具体的な応用問題を皆で納得のいくまで議論しながら楽しく、解いていきましょう！「考えるより慣れていきましょう」

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習してください。 事後、質問を受け付けます。受講票の裏に質問と理解度を記入の事。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようなになっているか分析し反論することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材に関しては、すべてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 4 限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 3 0 年間、予備校教育経験（数学・物理）。教育相談・父兄面接・家庭訪問・事務も経験した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		毎回、リアクションペーパーの質問に答えてから授業に入ります。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金4/10	ガイダンス及び導入講義	：論理学とは何か	
		この回の到達目標	論理学はトレーニングであることを理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読玩味すること。（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスプリントをよく復讐すること。（2時間）	120分
2	金4/17	1 直接推理	（1）対当推理	
		この回の到達目標	対当推理の理解。	
		事前学修	プリントで対当推理とは何かを読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	4つの対当推理を理解しておくこと。（2時間）	120分
3	金4/24	演習	（矛盾対当・反対対当・小反対対当・大小対当推理関する具体的な問題）	
		この回の到達目標	実生活での推理解。	
		事前学修	問題を考えてくること。（2時間）	120分
		事後学修	もう一度、問題を復習すること。（2時間）	120分
4	金5/1	変形推理	（2）変形推理（E判断、I判断、A判断）	
		この回の到達目標	変形推理解。	
		事前学修	「変形推理とは何か」をプリントで見えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	変形推理のタイプを区別できるように復習すること。（2時間）	120分
5	金5/8	演習	演習（E判断、I判断、A判断の変形推理）	
		この回の到達目標	実践能力開発。	
		事前学修	問題を考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	該当問題の復習（2時間）	120分
6	金5/15	2 間接推理	（1）定言三段論法（定言三段論法の構造と、格式）	
		この回の到達目標	三段論法の格・式の構造理解。	
		事前学修	三段論法に関するプリントの該当箇所をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容（格式、妥当な推理）の復習、（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金5/22	演習	(ベン図による妥当性判定に関する練習問題)	
		この回の到達目標	妥当性判定トレーニング。	
		事前学修	妥当性に関する練習問題をやっておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	ベン図による練習問題の復習(2時間)	120分
8	金5/29	仮言三段論法	(2) 仮言三段論法	
		この回の到達目標	仮言三段論法の構造理解。	
		事前学修	仮言三段論法とは何かを把握しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習(2時間)	120分
9	金6/5	演習	(仮言三段論法の問題)	
		この回の到達目標	仮言三段論法の実践トレーニング。	
		事前学修	具体的問題を見ておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	問題練習の復習。(2時間)	120分
10	金6/12	選言三段論法	(3) 選言三段論法	
		この回の到達目標	選言三段論法の構造理解。	
		事前学修	「選言三段論法とは何か」を調べておこう。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容復習(2時間)	120分
11	金6/19	演習	(選言三段論法に関する問題)	
		この回の到達目標	選言三段論法の実践トレーニング。	
		事前学修	配布プリントの選言三段論法に関する問題を考えておく(2時間)	120分
		事後学修	授業復習(2時間)	120分
12	金6/26	3 命題論理	(1) 論理語 (2) 命題計算	
		この回の到達目標	命題計算の意味。	
		事前学修	命題論理について把握しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容復習(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金7/3	演習	(命題計算)	
		この回の到達目標	命題計算の実践。	
		事前学修	問題予習 (2時間)	120分
		事後学修	問題復習 (2時間)	120分
14	金7/10	模擬試験 振り返り	模擬試験及び振り返り	
		この回の到達目標	総復習。	
		事前学修	今までの授業をまとめておこう! (2時間)	120分
		事後学修	回答をよく理解しておこう。 (2時間)	120分
15	金7/17	試験本番 解説	授業内試験と解説	
		この回の到達目標	模擬試験によるトレーニング。	
		事前学修	模擬試験を完ぺきにする。 (2時間)	120分
		事後学修	もう一度やりなそう。 (2時間)	120分

科目名	論理学 I	担当者	大熊 圭子	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書や配布プリントに沿って講義する。パワーポイント等を用いて説明、あわせて理解度チェックのための課題を行う。課題のうち提出したものは翌週に解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてのグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようになっているか分析し反論することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 木4/9 第二部火 4/7	開講にあたって／ロジカルシンキングとは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では論理的思考とはどのようなものか考える。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理的思考とはどのようなものか説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	シラバス・ガイダンス時の説明をよく読み、履修を検討する。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	第一部 火4/14 木4/16 第二部火 4/14	論証とはなにか	論証とは何か、それを構成するものが何か、さらに論理学における基本概念について学習する。	
		この回の到達目標	論証とは何かを論理学用語を用いて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。論証とは何か、ネットなどを使って調べてみる。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。新聞などを読んで、その中から論証の構造を持つ文を探し出してみる。	120分
3	第一部 火4/21 木4/23 第二部火 4/21	順接の接続関係	順接の接続関係において、特に注意しなければならないものについて考える。	
		この回の到達目標	順接の接続関係とその留意点について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第1章を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。順接の接続詞を積極的に用いて文章を書いてみる。	120分
4	第一部 火4/28 木4/30 第二部火 4/28	逆説の接続関係	逆説の接続関係において、特に注意しなければならないものについて考察する。	
		この回の到達目標	逆説の接続関係とその留意点について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第2章を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。逆説の接続詞を積極的に用いて文章を書いてみる。	120分
5	第一部 火5/5 木5/7 第二部火 5/5	議論の構造	論理的な文章を読み、それがどのような構造を持っているか読み取る方法について考える。	
		この回の到達目標	論理的な文章の構造を把握するための方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第3章を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。教科書の練習問題に取り組む。	120分
6	第一部 火5/12 木5/14 第二部火 5/12	議論の構造の問題	より複雑な論理的な文章を読み、その構造を評価する方法について考える。	
		この回の到達目標	複雑な文章の論理的構造を評価するための方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第3章を再度読んでノートを確認しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、どのような論理展開になっているか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 木5/21 第二部火 5/19	論証の組み立て	論証とはどのような組み立てを持っているのか、また論証の3タイプについて考える。	
		この回の到達目標	論証が導出に関して3つのタイプに分けられること、それぞれの違いを説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第4章を再度よく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが3つのタイプのどれか考える。	120分
8	第一部 火5/26 木5/28 第二部火 5/26	論証の分析	論証の3つのタイプを用いて、議論の構造を分析する。	
		この回の到達目標	3タイプの論証が、実際の議論の中でどのように使われているのかを説明できる（関連SB0s①②③）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.1をよく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが3つのタイプのどれか考えたうえで論証図を作成してみる。	120分
9	第一部 火6/2 木6/4 第二部火 6/2	論証の評価	論証の根拠について、その有効性の評価の方法を考える。	
		この回の到達目標	論証で用いられるさまざまな根拠の評価の方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.2をよく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、そこに含まれる根拠について評価してみる。	120分
10	第一部 火6/9 木6/11 第二部火 6/9	導出の関連性	導出とは何か、導出の関連性の評価について考える。	
		この回の到達目標	論証の結論がより正しくなるために重要な導出の意味、その評価の仕方を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.2を再度よく読んでノートを再作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、そこに含まれる導出について評価してみる。	120分
11	第一部 火6/16 木6/18 第二部火 6/16	推測と演繹について	推測と演繹の違いについて考える。	
		この回の到達目標	推測と演繹の違いを例を挙げて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書5.1をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。演繹と推測それぞれの論証をいろいろと作成してみる。	120分
12	第一部 火6/23 木6/25 第二部火 6/23	仮説形成	仮説形成タイプの論証がどのようなものか、その評価の方法を考える。	
		この回の到達目標	仮説形成タイプの論証とは何か、その評価方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書5.2をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから仮説形成タイプの論証を見つけ、その導出について評価してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 木7/2 第二部火 6/30	価値評価型論証	価値評価型論証とは何か、その評価の方法について考える。	
		この回の到達目標	価値評価型論証とは何か、その評価方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第6章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから価値評価型論証を見つけ、その導出について評価してみる。	120分
14	第一部 火7/7 木7/9 第二部火 7/7	前期の授業のふり返りと総合問題実施	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。試験に先立ち、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答をすることができる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	第一部 火7/14 木7/16 第二部火 7/14	講義全体のふり返りと総合問題の解説	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、もう一度前期講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。 本講義での学びを振り返る。	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう。

【授業方法】
講義と演習を交互に行ないます。まず基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習し、具体的な応用問題を皆で納得のいくまで議論しながら楽しく、解いていきましょう！「考えるより慣れていきましょう」

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習してください。 事後、質問を受けつけます。受講票の裏に質問と理解度を記入の事。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。				2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材に関しては、すべてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 4 限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 3 0 年間、予備校教育経験（数学・物理）。教育相談・父兄面接・家庭訪問・事務も経験した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		毎回、リアクションペーパーの質問に答えてから授業に入ります。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金9/18	論証の構造	4 論証の構造・演習	
		この回の到達目標	後期授業の大まかな把握。	
		事前学修	配布プリントの該当箇所をよく読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	論証図について授業中に取り上げた問題等を復習する。（2時間）	120分
2	金9/25	5 演繹と推測	(1) 演繹と推測の違い・演習	
		この回の到達目標	演繹と推測の違い把握。	
		事前学修	演繹と推測の違いについて把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容復習。（2時間）	120分
3	金10/2	仮説	(2) 仮説形成	
		この回の到達目標	仮説について把握。	
		事前学修	仮説とは何かを把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	授業の復習（2時間）	120分
4	金10/9	6 否定	(1) 否定と反対・演習	
		この回の到達目標	反論と否定の関係。	
		事前学修	否定・反対・両立不可能について把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	否定・反対・両立不可能について復習（2時間）	120分
5	金10/16	ド・モルガンの法則 1	(2) 「かつ」と「または」	
		この回の到達目標	ド・モルガン（1）の把握。	
		事前学修	「かつ」と「または」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分
6	金10/23	ド・モルガン（2）	(3) 「すべて」と「存在する」（ド・モルガンの法則 2）	
		この回の到達目標	ド・モルガン（2）の把握。	
		事前学修	「すべて」と「存在する」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金10/30	7 条件構造	(1) 逆・裏・対偶	
		この回の到達目標	逆・裏・対偶の把握。	
		事前学修	条件構造とは何か予習しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	逆・裏・対偶を具体的な問題を通じてよく理解しておこう。(2時間)	120分
8	金11/6	条件連鎖	(2) 条件連鎖・演習	
		この回の到達目標	条件連鎖の構造把握。	
		事前学修	条件連鎖の構造を予習しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	授業復習(2時間)	120分
9	金11/13	演習	第7章練習問題 問題1～4	
		この回の到達目標	条件連鎖のトレーニング。	
		事前学修	問題を事前に解いておこう。(2時間)	120分
		事後学修	問題1～4を復習しよう。(2時間)	120分
10	金11/20	8 推論の技術	(1) 存在文の扱い方・演習	
		この回の到達目標	存在文の理解。	
		事前学修	「存在文の扱い方」をよく読んでおこう。(2時間)	120分
		事後学修	具体例の復習。(2時間)	120分
11	金11/27	消去法	(2) 消去法・演習	
		この回の到達目標	消去法理解。	
		事前学修	消去法とは何かを把握しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	具体例・演習の復習。(2時間)	120分
12	金12/4	背理法	(3) 背理法・演習	
		この回の到達目標	背理法の意味理解。	
		事前学修	「背理法とは何か」を把握しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	具体的問題をもう一度独力で解答してみよう。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金12/11	試験の傾向と対策(模試)	試験の傾向と対策(1)	
		この回の到達目標	総復習。	
		事前学修	プリントの予習(2時間)	120分
		事後学修	傾向と対策(1)復習(2時間)	120分
14	金12/18	試験の傾向と対策(解答)	試験の傾向と対策(2)	
		この回の到達目標	模擬問題理解。	
		事前学修	プリントの予習(2時間)	120分
		事後学修	傾向と対策(2)復習(2時間)	120分
15	金12/25	試験 まとめ	授業内試験と解説	
		この回の到達目標	後期理解度の最大発揮。	
		事前学修	試験の傾向と対策を徹底的に理解しておこう。(2時間)	120分
		事後学修	試験復習(2時間)	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	大熊 圭子	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書や配布プリントに沿って講義する。パワーポイント等を用いて説明、あわせて理解度チェックのための課題を行う。課題のうち提出したものは翌週に解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についてのグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。					2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	30	40	10								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 木9/17 第二部火 9/15	開講にあたって／ロジカルシンキングとは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、論理学の基本的用語などについて説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理的思考とはどのようなものか説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	シラバスを熟読する。	120分
		事後学修	シラバス・ガイダンス時の説明をよく読み、履修を検討する。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	第一部 火9/22 木9/24 第二部火 9/22	否定の形	文の否定の形、および反対と否定の違いについて考える。	
		この回の到達目標	否定の形、および否定と反対の違いについて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	教科書7.1を熟読し、ノートにまとめておく。否定や反対についてその違いを考えてみる。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。様々な文の否定の形を作ってみる。	120分
3	第一部 火9/29 木10/1 第二部火 9/29	連言文と選言文	連言文と選言文とは何か、その否定の形について考える。	
		この回の到達目標	連言文と選言文の否定の形について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書7.2を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。連言文と選言文を探し、その否定の文を書いてみる。	120分
4	第一部 火10/6 木10/8 第二部火 10/6	存在文と全称文	存在文と全称文とは何か、その否定の形について考える。	
		この回の到達目標	存在文と全称文の否定の形について、およびその違いを説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書7.3を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。存在文と全称文の否定の形についての練習問題を解いてみる。	120分
5	第一部 火10/13 木10/15 第二部火 10/13	逆・裏・対偶	逆・裏・対偶とは何か、対偶の特別性について考えてみる。	
		この回の到達目標	逆・裏・対偶とは何か、対偶がなぜ重要かについて説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書8.1を読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。教科書の練習問題に取り組む。	120分
6	第一部 火10/20 木10/22 第二部火 10/20	条件連鎖	条件連鎖の方法、その目的について考える。	
		この回の到達目標	条件連鎖について、その目的・方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書8.2を読んでノートを確認しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。教科書の条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 木10/29 第二部火 10/27	存在文の条件連鎖	存在文が含まれるときの条件連鎖の方法について考える。	
		この回の到達目標	存在文が含まれる条件連鎖について、その方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.1を再度よく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の存在文が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
8	第一部 火11/10 木11/5 第二部火 11/10	消去法	消去法とは何か、消去法を用いた条件連鎖について考える。	
		この回の到達目標	消去法とは何か、また消去法を用いて条件連鎖を行う方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.2をよく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の消去法が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
9	第一部 火11/17 木11/12 第二部火 11/17	背理法	背理法とは何か、背理法を用いた条件連鎖について考える。	
		この回の到達目標	背理法とは何か、また背理法を用いて条件連鎖を行う方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.3をよく読んでノートを作成しておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の背理法が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
10	第一部 火11/24 木11/19 第二部火 11/24	条件連鎖のまとめ	条件連鎖の方法について復習する。	
		この回の到達目標	さまざまなタイプの論証を条件連鎖により演繹かどうかを確認する方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第8章、第9章を再度よく読んでノートを再作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書にある条件連鎖に関する練習問題・課題問題に取り組む。	120分
11	第一部 火12/1 木12/3 第二部火 12/1	批判のための視点	批判のためにどのような点に着目すべきかについて考える。	
		この回の到達目標	さまざまなタイプの論証を批判的に読み取るための方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書10.1をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞など様々な文章を読んで、批判できるポイントを探してみる。	120分
12	第一部 火12/8 木12/10 第二部火 12/8	異論と批判	異論、批判とはなにか、その違いについて考える。	
		この回の到達目標	異論とは何か、批判とは何か、その違いを明確に説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書10.2をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞の社説や投書欄を読んで、それについて批判をしたり異論を提出してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 木12/17 第二部火 12/15	批判する	論証を読み取り、より強力な批判の方法を考える。	
		この回の到達目標	より強力な批判とするにはどうすればよいかを説明できる（関連SB0s①②）。	
		事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第11章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞の社説や投書欄を読んで、それについてさまざまな観点から批判をしたり異論を提出してみる。	120分
14	第一部 火12/22 木12/24 第二部火 12/22	前期の授業のふり返りと総合問題実施	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。試験に先立ち、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	第一部 火1/12 木1/14 第二部火 1/12	講義全体のふり返りと総合問題の解説	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、後期講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
		事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
		事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。 本講義での学びを振り返る。	120分

Ⅲ群

外国語科目

Ⅲ群

外国語科目

科目名	英語A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表・ディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	年度を問わず	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（木曜昼休み）、講堂にて。itakura.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	第一部 水4/15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(1) 1章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	第一部 水4/22	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(2) 1章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	第一部 水4/29	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(3) 1章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	第一部 水5/6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(1) 2章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
6	第一部 水5/13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(2) 2章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(3) 2章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	第一部 水5/27	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger(1) 3章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	第一部 水6/3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger(2) 3章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	第一部 水6/10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger(3) 3章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
11	第一部 水6/17	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(1) 4章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部 水6/24	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(2) 4章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	第一部 水7/1	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(3) 4章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	第一部 水7/8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	第一部 水7/15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
		事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	英語A	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
留学生のみの授業と成ります。 原則、英語B（留学生）と通年で履修。

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	30分
		事後学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
2	4/16	Ancient Japan and East-Asia	Learn about relations between Japan, Korea and China in ancient times	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
3	4/23	Foreign Settlements in Japan.	Learn about foreign towns and communities in Japan in the leate medeival and early modern period.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
4	4/30	Kim Chung-son.	Learn about a renegade samurai in the Imjin War	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
5	5/7	Korean Potters in Japan.	Learn about the history of Korean potters in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
6	5/14	Yamada Nagamasa.	Learn about the Japanese man who nearly became a king in Thailand.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Tagawa Matsu.	Learn about the life of Tagawa Matsu the mother of Zheng Chenggong.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
8	5/28	Zhu Shun-sui.	Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee schollar in Edo Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
9	6/4	Maria Guyomar de Pina	Learn about Maria Guyomar de Pina, an important Japanese lady in Thai history.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
10	6/11	Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.	Learn about the history of Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
11	6/18	Sun Yat-sen in Japan.	Learn about Sun Yat-sen in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
12	6/25	Prince Cuong De.	Learn about the Vietnamese prince, Cuong De, in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	The Takasago Volunteers	Learn about the history of the Takasago Volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	7/9	Kyaw Din.	Learn about Kyaw Din and Japanese soccer history.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	7/16	Semester exam	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can complete the semester assessment.	
		事前学修	Prepare for the assessment	30分
		事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	英語A	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
1年生の英語A（固定クラス）の単位を取得している学生は履修できません。初回のガイダンス授業に必ず出席すること。

【授業方法】
テキストの課題を使って、実践演習をする。単語テスト等の小テストを実施する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (ISBN: 978-4-86312-293-2)	Chizuko Tsumatori他	National Georaphic Learning	2016	教科書	必携
備考	辞書を持ってくること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス（必ず出席すること） 授業の進め方について TOEIC Listening & Reading Testとは？	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	30分
		事後学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。	30分
2	4/15	Unit 1 Shopping Listening	Unit 1 Shopping Listening Part 1 人物写真 Part 3 & 4 情報を関連付けて答える	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「動詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 1 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 1 復習 Listening	30分
3	4/22	Unit 1 Shopping Reading	Unit 1 Shopping Reading Part 5 & 6 主語を見つける	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「動詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 1 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 1 復習 Reading	30分
4	4/29	Unit 2 Daily Life Listening	Unit 2 Daily Life Listening Part 1 モノ・風景写真	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「名詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 2 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 2 復習 Listening	30分
5	5/6	Unit 2 Daily Life Reading	Unit 2 Daily Life Reading Part 5 & 6 セットで覚える Part 7 全体を理解しなければならないNOT問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「名詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 2 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 2 Daily Life Reading	30分
6	5/13	Unit 3 Transportation Listening	Unit 3 Transportation Listening Part 2 冒頭の疑問詞がカギ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「代名詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 3 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 3 復習 Listening	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 3 Transportation Reading	Unit 3 Transportation Reading Part 5 & 6 再帰代名詞に注意	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「代名詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 3 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 3 復習 Reading	30分
8	5/27	Unit 4 Jobs Listening	Unit 4 Jobs Listening Part 2 Yes/No 疑問文への応答は最後まで聞く	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「形容詞と副詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 4 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 4 復習 Listening	30分
9	6/3	Unit 4 Jobs Reading	Unit 4 Jobs Reading Part 5 & 6 形容詞と副詞 Part 7 2つの文書を参照して解く問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「形容詞と副詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 4 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 4 復習 Reading	30分
10	6/10	Unit 5 Meals Listening	Unit 5 Meals Listening Part 2 付加疑問文のコツ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「時制」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 5 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 5 復習 Listening	30分
11	6/17	Unit 5 Meals Reading	Unit 5 Meals Reading Part 5 & 6 時制のヒントとなる語句	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「時制」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 5 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 5 復習 Reading	30分
12	6/24	Unit 6 Communication Listening	Unit 6 Communication Listening Part 2 会話が成立するかどうか	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「受動態と分詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 6 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 6 復習 Listening	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 6 Communication Reading	Unit 6 Communication Reading Part 5 & 6 主語は人かモノか Part 7 イントロがヒントになる	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「受動態と分詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 6 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 6 Communication Reading	30分
14	7/8	前期試験とふり返り	前期試験とふり返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験を受験することで前期に学んだTOEIC攻略の基礎が定着したかどうか確認することができる。	
		事前学修	テキスト試験範囲を勉強する。	120分
		事後学修	テストでわからなかったところをテキストで復習する。	30分
15	7/15	前期のまとめ	テストの返却 前期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テストの復習をすることで、TOEICの本番のテストに応用する力を身に付けることができる。	
		事前学修	前期の復習	30分
		事後学修	前期の復習	30分

科目名	英語B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基礎の構文・文法に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表やディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点后に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	年度を問わず	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（木曜昼休み）講堂にて。itakura.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	第一部 水9/23	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (1) 5章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	第一部 水9/30	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (2) 5章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	第一部 水10/7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (3) 5章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	第一部 水10/14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans (1) 6章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
6	第一部 水10/21	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans (2) 6章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans(3) 6章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	第一部 水11/11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、7. Water, Water, Everywhere(1) 7章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	第一部 水11/18	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	7. Water, Water, Everywhere(2) 7章のエッセイの中盤を精読します。 英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の理解を深めます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	第一部 水11/25	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、7. Water, Water, Everywhere(3) 7章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
11	第一部 水12/2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(1) 8章のエッセイの導入部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部 水12/9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(2) 8章のエッセイの中盤を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	第一部 水12/16	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(3) 8章のエッセイの結論部を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	第一部 水12/23	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業の振り返り。 前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	第一部 水1/13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
		事前学修	後期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
		事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	英語B	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
留学生のみの授業と成ります。 原則、英語B（留学生）と通年で履修。

【授業方法】		
講義および演習形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	Tei Ei-Kei	Learn about Tei Ei-kei and coffee culture in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	30分
		事後学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
2	9/24	Kairakutei Black	Learn about Kairakutei Black and rakugo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
3	10/1	Victor Starrfin	Learn about Victor Starrfin a Russian baseball pioneer in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
4	10/8	Rash Behari Bose	Learn about Rash Behari Bose and curry in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
5	10/15	Leo Sirota	Learn about Leo Sirota and classical music in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
6	10/22	Beate Sirota Gordon	Learn about Beate Sirota Gordon and the Japanese constitution.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Chen Kenmin	Learn about Chen Kenmin and Chinese food history in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
8	11/5	Rikidozan	Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee scholar in Edo Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
9	11/12	Ando Momofuku	Learn about Ando Momofuku and ramen culture in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
10	11/19	Korean food in Japan	Learn about the history of Korean food in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
11	12/3	Oh Sadaharu	Learn about Oh Sadaharu and baseball in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
12	12/10	Konishiki Yasokichi	Learn about Konishiki Yasokichi and sumo in Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Murata Renho	Learn about Murata Renho and Japanese politics	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	12/24	Son Masayoshi	Learn about Son Masayoshi and business in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	1/14	Semester exam	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can complete the semester assessment.	
		事前学修	Prepare for the assessment	30分
		事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	英語B	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
1年生の英語A（固定クラス）の単位を取得している学生は履修できません。初回のガイダンス授業に必ず出席すること。

【授業方法】
テキストの課題を使って、実践演習をする。単語テスト等の小テストを実施する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (ISBN: 978-4-86312-293-2)	Chizuko Tsumatori他	National Georaphic Learning	2016	教科書	必携
備考	辞書を持ってくること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス（必ず出席すること） 授業の進め方について	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、後期の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	30分
		事後学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。	30分
2	9/23	Unit 7 Fun Listening	Unit 7 Fun Listening Part 2 提案・勧誘・依頼の表現	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「動名詞と不定詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 7 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 7 復習 Listening	30分
3	9/30	Unit 7 Fun Reading	Unit 7 Fun Reading Part 5 & 6 動名詞 vs. 不定詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「動名詞と不定詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 7 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 7 復習 Reading	30分
4	10/7	Unit 8 Office Work Listening	Unit 8 Office Work Listening Part 3 & 4 設問先読み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「助動詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 8 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 8 復習 Listening	30分
5	10/14	Unit 8 Office Work Reading	Unit 8 Office Work Reading Part 5 & 6 助動詞の後には動詞の原形 Part 7 受取人と差出人をチェック	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「助動詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 8 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 8 Daily Life Reading	30分
6	10/21	Unit 9 Meeting Listening	Unit 9 Meeting Listening Part 3 & 4 全体を問う設問	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「比較」の基本的な表現を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 9 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 9 復習 Listening	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 9 Meeting Reading	Unit 9 Meeting Reading Part 5 & 6 比較のヒント	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「比較」の基本的な表現を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 9 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 9 復習 Reading	30分
8	11/11	Unit 10 Travel Listening	Unit 10 Travel Listening Part 3 & 4 部分を問う設問	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「前置詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 10 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 10 復習 Listening	30分
9	11/18	Unit 10 Travel Reading	Unit 10 Travel Reading Part 5 & 6 前置詞と接続詞の使い分け	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「前置詞」の基本的な役割を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 10 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 10 復習 Reading	30分
10	11/25	Unit 11 Finance Listening	Unit 11 Finance Listening Part 3 & 4 未来の行動を問う設問	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「接続詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 11 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 11 復習 Listening	30分
11	12/2	Unit 11 Finance Reading	Unit 11 Finance Reading Part 5 & 6 意味のつながりを見極める	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「接続詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 11 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 11 復習 Reading	30分
12	12/9	Unit 12 Business Listening	Unit 12 Business Listening Part 3 & 4 言い換え表現	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「関係詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 12 予習 Listening/Reading	30分
		事後学修	Unit 12 復習 Listening	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Unit 12 Business Reading	Unit 12 Business Reading Part 5 & 6 関係詞を選ぶ手順 Part 7 文中の単語を言い換える問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「関係詞」の基本的な使い方を理解し、TOEICの問題に応用できる。	
		事前学修	Unit 12 Dictation練習など	30分
		事後学修	Unit 12 Communication Reading	30分
14	12/23	後期試験とふり返り	後期試験とふり返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験を受験することで後期に学んだTOEIC攻略の基礎が定着したかどうか確認することができる。	
		事前学修	テキスト試験範囲を勉強する。	120分
		事後学修	テストでわからなかったところをテキストで復習する。	30分
15	1/13	後期のまとめ	テストの返却 後期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テストの復習をすることで、TOEICの本番のテストに応用する力を身に付けることができる。	
		事前学修	後期の復習	30分
		事後学修	後期の復習	30分

科目名	英語C	担当者	加藤 行夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
中学・高校程度の基本的な文法を理解していることが望ましい。

【授業方法】
文法事項を確認し、続いて演習を行なう。個人添削に十分時間をかける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Everyday English Grammar	水島幸司	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日午後6時～ 授業講堂にて 事前に連絡のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	本学法学部にて30年の教歴
実務経験に基づく実践的教育の内容		学生の習熟度に応じた教育	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	2020. 04. 10	授業方法等の説明およびイントロダクション	授業方法、年間計画、成績評価などの説明	
		この回の到達目標	内容の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
2	2020. 04. 17	英文法の基礎知識	文の種類、品詞など	
		この回の到達目標	英文法の基礎知識の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
3	2020. 04. 24	be動詞（現在形）	be動詞（現在形）	
		この回の到達目標	be動詞（現在形）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
4	2020. 05. 01	be動詞（過去形）	be動詞（過去形）	
		この回の到達目標	be動詞（過去形）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
5	2020. 05. 08	一般動詞（規則変化）	一般動詞（規則変化）	
		この回の到達目標	一般動詞（規則変化）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
6	2020. 05. 15	一般動詞（不規則変化）	一般動詞（不規則変化）	
		この回の到達目標	一般動詞（不規則変化）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	2020. 05. 22	命令文	命令文	
		この回の到達目標	命令文の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
8	2020. 05. 29	itの特別用法	itの特別用法	
		この回の到達目標	itの特別用法の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
9	2020. 06. 05	注意すべき疑問形	注意すべき疑問形	
		この回の到達目標	注意すべき疑問形の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
10	2020. 06. 12	進行形	進行形	
		この回の到達目標	進行形の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
11	2020. 06. 19	未来形	未来形	
		この回の到達目標	未来形の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
12	2020. 06. 26	助動詞（１）	助動詞（１）	
		この回の到達目標	助動詞（１）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	2020. 07. 03	助動詞（２）	助動詞（２）	
		この回の到達目標	助動詞（２）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
14	2020. 07. 10	復習	復習	
		この回の到達目標	復習内容の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
15	2020. 07. 17	試験および確認	復習＋試験	
		この回の到達目標	確認内容の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分

科目名	英語C	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
初回の授業に必ず出席できる学生。WordとPower Pointを使用できる学生のみ履修可。

【授業方法】
演習方式。毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜16：10～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・導入講義	リスニングやスピーキングに役立つサイトや参考文献の紹介	
		この回の到達目標	辞書だけでなく適切な参考書やサイトを確認するを。	
		事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
		事後学修	ガイダンスプリントの確認を行う。	60分
2	4/17	スピーキングについて	グループ創作会話 その1 英語表現の確認 文法プリント演習	
		この回の到達目標	場面想定ของกลุ่ม会話	
		事前学修	プリントの確認を行う。	60分
		事後学修	1分間プレゼンテーションのテーマを考える	60分
3	4/24	1分間英語プレゼンテーションについて	文法プリント 文法プリント演習 英語原稿作成。	
		この回の到達目標	一つのテーマについて英語である程度の長さの文章を作成するための表現を学ぶ。	
		事前学修	表現方法の確認を行う。	60分
		事後学修	原稿の推敲を行う。	60分
4	5/1	文法確認テストとリスニングチェック	TOEIC, TOEFL文法テストとリスニングチェック 説得性のある英語表現について	
		この回の到達目標	相手に伝えるための身体表現について学ぶ。	
		事前学修	文法の問題を見直す。	60分
		事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
5	5/8	英語プレゼンテーション その1	英語プレゼンテーション その1 コメント交換	
		この回の到達目標	英語プレゼンテーションの基本的な技術を学ぶ。	
		事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
		事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
6	5/15	英語プレゼンテーション その1	英語スピーチ その2 コメント交換 3分間英語プレゼンテーションについて	
		この回の到達目標	プレゼンテーションの基本的な技術を学び、具体的なコメントを行えるようにする。	
		事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
		事後学修	3分間プレゼンテーションのテーマを考える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	視覚的効果と具体的な表現について	
		この回の到達目標	パワーポイントを使って効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技術を学ぶ。	
		事前学修	英語スピーチの原稿修正を行う。	60分
		事後学修	パワーポイントの表紙を作成する。	60分
8	5/29	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	パワーポイント作成と修正	
		この回の到達目標	3分間英語プレゼンテーションのテーマ展開と構成の基本を学ぶ。	
		事前学修	プリントの見直しを行う。	60分
		事後学修	タイピング練習を行う。	60分
9	6/5	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 2	パワーポイント作成と修正	
		この回の到達目標	パワーポイントの英文作成のコツを学ぶ。	
		事前学修	発表用のパワーポイントのシートを作成する。	60分
		事後学修	英文の推敲を行う。	60分
10	6/12	復習テストと発表の最終確認	文法とリスニングの復習テスト 英語プレゼンテーション 原稿推敲	
		この回の到達目標	発表前の英語プレゼンテーションの問題点を解決する。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を確認する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
11	6/19	英語プレゼンテーション その1	英語ミニプレゼンテーション 1 学生によるコメント交換	
		この回の到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語プレゼンテーションの予行演習を行う。	60分
		事後学修	英語プレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
12	6/26	英語プレゼンテーション その2	英語ミニプレゼンテーション 2 学生によるコメント交換	
		この回の到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	英語プレゼンテーション その 3	英語ミニプレゼンテーション 3 学生によるコメント交換	
		この回の 到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
14	7/10	英語プレゼンテーション その 4	英語ミニプレゼンテーション 4 学生によるコメント交換 試験に備えての注意事項説明	
		この回の 到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
15	7/17	発表についての総評とテスト	まとめと復習テスト	
		この回の 到達目標	発表についての原稿とパワーポイントのシートを完成させる。	
		事前学修	発表の完成版を作る。	60分
		事後学修	テスト問題と解答の確認を行う。	60分

科目名	英語D	担当者	加藤 行夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
中学・高校程度の基本的な文法を理解していることが望ましい。

【授業方法】
文法事項を確認し、続いて演習を行なう。個人添削に十分時間をかける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Everyday English Grammar	水島幸司	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日午後6時～ 授業講堂にて 事前に連絡のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	本学法学部にて30年の教歴
実務経験に基づく実践的教育の内容		学生の習熟度に応じた教育	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	2020. 09. 18	名詞・冠詞	名詞・冠詞	
		この回の到達目標	名詞・冠詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
2	2020. 09. 25	代名詞	代名詞	
		この回の到達目標	代名詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
3	2020. 10. 02	前置詞	前置詞	
		この回の到達目標	前置詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
4	2020. 10. 09	形容詞	形容詞	
		この回の到達目標	形容詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
5	2020. 10. 16	副詞	副詞	
		この回の到達目標	副詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
6	2020. 10. 23	比較（１）	比較（１）	
		この回の到達目標	比較（１）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	2020. 10. 30	比較（２）	比較（２）	
		この回の到達目標	比較（２）の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
8	2020. 11. 06	接続詞	接続詞	
		この回の到達目標	接続詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
9	2020. 11. 13	受け身	受け身	
		この回の到達目標	受け身の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
10	2020. 11. 20	不定詞	不定詞	
		この回の到達目標	不定詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
11	2020. 11. 27	動名詞	動名詞	
		この回の到達目標	動名詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
12	2020. 12. 04	分詞	分詞	
		この回の到達目標	分詞の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	2020. 12. 11	現在完了	現在完了	
		この回の到達目標	現在完了の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
14	2020. 12. 18	復習	復習	
		この回の到達目標	復習内容の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分
15	2020. 12. 25	試験および確認	試験＋振り返り	
		この回の到達目標	確認内容の理解	
		事前学修	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する	30分
		事後学修	授業を振り返り、学習内容を整理する	30分

科目名	英語D	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
初回の授業に必ず出席できる学生。WordとPower Pointを使用できる学生のみ履修可。

【授業方法】
演習方式。毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜16：10～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・導入講義	リスニングやスピーキングに役立つサイトや参考文献の紹介	
		この回の到達目標	辞書だけでなく適切な参考書やサイトを確認する。	
		事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
		事後学修	ガイダンスプリントの確認を行う。	60分
2	9/25	スピーキングについて	グループ創作会話 その1 英語表現の確認 文法プリント演習	
		この回の到達目標	場面想定ของกลุ่ม会話	
		事前学修	プリントの確認を行う。	60分
		事後学修	1分間プレゼンテーションのテーマを考える。	60分
3	10/2	1分間英語プレゼンテーションについて	文法プリント 文法プリント演習 英語原稿作成	
		この回の到達目標	一つのテーマについて英語である程度の長さの文章を作成するための表現を学ぶ。	
		事前学修	表現方法の確認を行う。	60分
		事後学修	原稿の推敲を行う。	60分
4	10/9	文法確認テストとリスニングチェック	TOEIC, TOEFL文法テストとリスニングチェック 説得性のある英語表現について	
		この回の到達目標	相手に伝えるための身体表現について学ぶ。	
		事前学修	文法の問題を見直す。	60分
		事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
5	10/16	英語1分間プレゼンテーション その1	英語プレゼンテーション その1 コメント交換	
		この回の到達目標	英語プレゼンテーションの基本的な技術を学ぶ。	
		事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
		事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
6	10/23	英語1分間プレゼンテーション その1	英語スピーチ その2 コメント交換 3分間英語プレゼンテーションについて	
		この回の到達目標	プレゼンテーションの基本的な技術を学び、具体的なコメントを行えるようにする。	
		事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
		事後学修	3分間プレゼンテーションのテーマを考える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	視覚的効果と具体的な表現について	
		この回の到達目標	パワーポイントを使って効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技術を学ぶ。	
		事前学修	英語スピーチの原稿修正を行う。	60分
		事後学修	パワーポイントの表紙を作成する。	60分
8	11/6	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	パワーポイント作成と修正	
		この回の到達目標	3分間英語プレゼンテーションのテーマ展開と構成の基本を学ぶ。	
		事前学修	プリントの見直しを行う。	60分
		事後学修	タイピング練習を行う。	60分
9	11/13	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 2	パワーポイント作成と修正	
		この回の到達目標	パワーポイントの英文作成のコツを学ぶ。	
		事前学修	発表用のパワーポイントのシートを作成する。	60分
		事後学修	英文の推敲を行う。	60分
10	11/20	復習テストと発表の最終確認	文法とリスニングの復習テスト 英語プレゼンテーション 原稿推敲	
		この回の到達目標	発表前の英語プレゼンテーションの問題点を解決する。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を確認する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
11	11/27	英語プレゼンテーション その1	英語ミニプレゼンテーション 1 学生によるコメント交換	
		この回の到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語プレゼンテーションの予行演習を行う。	60分
		事後学修	英語プレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
12	12/4	英語プレゼンテーション その2	英語ミニプレゼンテーション 2 学生によるコメント交換	
		この回の到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	英語プレゼンテーション その 3	英語ミニプレゼンテーション 3 学生によるコメント交換	
		この回の 到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
14	12/18	英語プレゼンテーション その 4	英語ミニプレゼンテーション 4 学生によるコメント交換 試験に備えての注意事項説明	
		この回の 到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
		事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
		事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
15	12/25	発表についての総評とテスト	まとめと復習テスト	
		この回の 到達目標	発表についての原稿とパワーポイントのシートを完成させる。	
		事前学修	発表の完成版を作る。	60分
		事後学修	テスト問題と解答の確認を行う。	60分

科目名	英語E	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about Japanese history and culture in English so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the aims and objectives of the course	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	60分
		事後学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
2	4/14	From Edo to Tokyo - The Making of a Global City	Learn about the history of Tokyo	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the From Edo to Tokyo - The Making of a Global City story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
3	4/21	Kimono: Elegant Symbols of Japan	Learn about the history of kimono	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kimono: Elegant Symbols of Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
4	4/28	Kabuki - Pop Culture of the Past	Learn about the history of kabuki	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
5	5/5	Sumo - A Weighty Sport	Learn about the history of sumo	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kabuki - Pop Culture of the Past story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
6	5/12	Shinkansen - The Bullet Train	Learn about the history of the bullet train	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Shinkansen - The Bullet Train story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga - Global storytelling from Japan	Learn about the history of manga	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Manga - Global storytelling from Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
8	5/26	Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan	Learn about the history of Japanese arts and crafts	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
9	6/2	Cinema - Moving Art	Learn about the history of Japanese cinema	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Cinema - Moving Art story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
10	6/9	How to do a presentation	Learn about making presentations in English	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentation making in English.	
		事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
		事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	6/16	Presentation Making	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	6/23	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	7/7	Assessment Presentations	Assessment lesson	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	7/14	Assessment Presentations	Assessment lesson	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
		事前学修	Revise	60分
		事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語F	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about some powerful and inspirational women in Japanese history so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only and aimed at improving speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Samurai - Legendary Warriors of Japan	Learn about the history of samurai	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai - Legendary Warriors of Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
2	9/22	Korean Samurai: Fighting for Peace	Learn about the history of a renegade Japanese samurai in Korea	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean Samurai: Fighting for Peace story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
3	9/29	Samurai of California - Nagasawa Kanaye	Learn about Nagasawa Kanae, and wine in California	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai of California - Nagasawa Kanaye story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
4	10/6	Wako - Terrors and Darlings of the Seas	Learn about the history of pirates in Japan and East Asia	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Wako - Terrors and Darlings of the Seas story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
5	10/13	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy	Learn about the Tensho Embassy to Europe	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
6	10/20	A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga	Learn about Hasekura Tsunenaga's journey to Rome	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan	Learn about Yasuke	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
8	11/10	An English Japanese Lord - William Adams	Learn about William Adams	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about An English Japanese Lord - William Adams story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
9	11/17	Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand	Learn about Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
10	11/24	A Chinese Revolution Built in Japan	Learn about Sun Yat-sen and his time in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Chinese Revolution Built in Japan story to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	12/1	Presentation Making	Learn about presenting in English - using gestures.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	12/8	Presentation Making	Learn about presenting in English - structure and transitions.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Presentation Making	Learn about presenting in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	12/22	Assessment Presentations	Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	1/12	Assessment Presentations	Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語G	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
This course will teach you about Britain and its relationship with Japan so than you can explain Anglo-Japanese history in English.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for second year students who took 英語E/F in the first year. It will be taught in English only so as to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness

【履修条件】
原則、英語Hと通年で履修。CEFRB1・B2・C1を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						4		4	4		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						4		4	4		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						4		4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Britain and Japan in History	Thomas Lockley	DTP出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	First Class及び導入講義	Learn about the aims and objectives of the course	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the aims and objectives of the course to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read the syllabus.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
2	4/12	Introduction and summary writing	Learn about Introduction and summary writing	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
3	4/21	William Adams and lecture notes.	Learn about William Adams and lecture notes.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
4	4/28	Edo period	Learn about Edo period	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
5	5/5	Mid 19th century	Learn about Mid 19th century	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare questions for next class.	60分
6	5/12	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare questions for next class.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
8	5/26	Late 19th century	Learn about Late 19th century	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
9	6/2	Early 20th century	Learn about Early 20th century	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
		事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
10	6/9	Presentation Skills	Learn about presenting in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
		事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	6/16	Presentation preparation	Learn about presenting in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	6/23	Presentation preparation	Learn about presenting in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Presentation preparation	Learn about presenting in English.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	7/7	Presentations	Carry out assessments	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	7/14	Presentations	Carry out assessments	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
		事前学修	Continue with Presentations.	60分
		事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語H	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
This class will teach you about Britain. Its society, history and culture so than you can explain and explore Britain and British themes.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for second year students who took 英語E/F in the first year. It will be taught in English only so as to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness

【履修条件】
CEFRB1・B2・C1を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						4		4	4		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						4		4	4		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						4		4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Britain: Society, History and Culture	Thomas Lockley	DTP出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	British geography	Learn about British geography	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Please read the contents of syllabus.	60分
		事後学修	Prepare news discussion.	60分
2	9/22	British History 1	Learn about British History 1	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
3	9/29	British History 2	Learn about British History 2	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
4	10/6	Britain in the 20th century	Learn about Britain in the 20th century	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
5	10/13	The English Language	Learn about The English Language	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
6	10/20	British Food	Learn about British Food	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	British Society	Learn about British Society	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
8	11/10	British Transport	Learn about British Transport	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Prepare text for lesson.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
9	11/17	Presentation Skills	Learn about Presentation Skills	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Think about skills necessary in presentations.	60分
		事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.	60分
10	11/24	Presentation preparation	Learn about Presentation preparation	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Think of topic for presentation.	60分
		事後学修	Continue research and presentation preparation.	60分
11	12/1	Presentation preparation	Learn about Presentation preparation	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Continue research and presentation preparation.	60分
		事後学修	Continue research and presentation preparation.	60分
12	12/8	Presentation preparation	Learn about Presentation preparation	
		この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Continue research and presentation preparation.	60分
		事後学修	Continue research and presentation preparation.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Presentation preparation	Learn about Presentation preparation	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Practice presentation	60分
		事後学修	Continue research and presentation preparation	60分
14	12/22	Presentations	Carry out assessment presentation	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Practice presentation.	60分
		事後学修	Practice presentation.	60分
15	1/12	Presentations	Carry out assessment presentation	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
		事前学修	Practice presentation.	60分
		事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語演習A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「言語/哲学」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
後期の英語演習Bと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
英語で書かれた文献のプリント教材も併用し、演習形式で授業を展開していく。随時質疑応答の機会を設け、ディスカッションを行いながら理解度を高める。毎回小テストを実施する。フィードバックは授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、簡単な問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2		2			2		
③	「言語/哲学」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『事態の捉え方と述語のかたち―英語から見た日本語』	黒滝真理子	開拓社	2019	教科書	必携
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス 社会言語学・認知言語学とは	社会言語学・認知言語学の全体像について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。	30分
		事後学修	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。	30分
2	4/14	言語と社会の関わり	「ことばは何故変わるのか」という問題提起のもと、異文化間コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
3	4/21	社会言語学の「社会との関わり」	個別の状況における言語使用や言語選択などから、日常に絡んだ「社会」との関係を捉える。例えば、年齢、階級、性別、民族、アイデンティティなど。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
4	4/28	言語の多様性・バリエーション	言語の多様性・バリエーションの実態とそれが生じる背景や歴史を考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
5	5/5	言語とジェンダー/アイデンティティ	「言語とジェンダー」や「言語とアイデンティティ」	
		この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
6	5/12	ポライトネス理論	ポライトネス理論と敬語行動	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	言語政策	社会言語学の周辺を探る。	
		この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
8	5/26	認知言語学への導入	認知言語学とは何かについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
9	6/2	認知言語学の位置付け	言語理論の歴史における認知言語学の位置付けを概観し、何故認知言語学の重要性が高まってきたかを理解するために背景を捉える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
10	6/9	カテゴリー化・プロトタイプ・スキーマ	カテゴリー化・プロトタイプ・スキーマを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
11	6/16	認知文法と構文	認知文法と構文について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
12	6/23	意味拡張の仕組みと多義性	意味拡張の仕組みと多義性を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	認知能力としてのメタファーとメトニミー	認知能力としてのメタファーとメトニミーを学習し、具体例を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
14	7/7	授業内試験及び振り返り	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
		事前学修	弱点ノートの見直しをして学期末試験に臨む。	50分
		事後学修	間違えた箇所の復習をし、講義全体の確認をする。	10分
15	7/14	前期授業の総括	試験の講評・解説と授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
		事前学修	振り返りの内容の確認をする。	30分
		事後学修	理解不十分な個所をチェックし、講義全体の確認をし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英語演習A	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「言語/哲学」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志

【授業方法】
「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2		2			2		
③	「言語/哲学」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	西洋哲学に関するプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	西洋哲学入門	西洋哲学について概説を行い、西洋哲学を英語で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、西洋哲学を英語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、西洋哲学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。）	60分
2	4/15	「Wittgenstein」	「Wittgenstein」を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、西洋哲学の歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Wittgenstein」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Wittgenstein」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Wittgenstein」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	4/22	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。）	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。）	60分
4	4/29	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。）	60分
5	5/6	「Mill」、「Kant」	「Mill」、「Kant」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Mill」、「Kant」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Mill」、「Kant」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。）	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Mill」、「Kant」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	5/13	「Zeno」、「Descartes」	「Zeno」、「Descartes」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Zeno」、「Descartes」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Zeno」、「Descartes」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Zeno」、「Descartes」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	「Russel」、「Aquinas」	「Russel」、「Aquinas」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Russel」、「Aquinas」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「Russel」、「Aquinas」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。
		事後学修	授業内容を復習し、「Russel」、「Aquinas」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
8	5/27	「Locke」、「Hegel」	「Locke」、「Hegel」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Locke」、「Hegel」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「Locke」、「Hegel」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。
		事後学修	授業内容を復習し、「Locke」、「Hegel」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
9	6/3	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。）
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
10	6/10	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
11	6/17	「Is Shakespeare better than The Simpsons?」	「Is Shakespeare better than The Simpsons?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Is Shakespeare better than The Simpsons?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「Is Shakespeare better than The Simpsons?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、「Is Shakespeare better than The Simpsons?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
12	6/24	「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」	「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。
		事後学修	授業内容を復習し、「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」	「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	7/8	「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」	「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	7/15	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習A	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「言語/哲学」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英語演習Bを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2		2			2		
③	「言語/哲学」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Gateway to Britain	Terry O’Brien、他	南雲堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/15	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/22	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/29	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/6	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/13	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/27	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	6/3	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/17	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/24	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/8	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語演習B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、人文科学に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
前期の英語演習Aと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
英語で書かれた文献のプリント教材も併用し、演習形式で授業を展開していく。随時質疑応答の機会を設け、ディスカッションを行いながら理解度を高める。毎回小テストを実施する。フィードバックは授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、簡単な問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人文科学に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3		3			3		
②	人文科学に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						3		3			3		
③	人文科学に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3		3			3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『事態の捉え方と述語のかたち—英語から見た日本語』	黒滝真理子	開拓社	2019	教科書	必携
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス 認知言語学とは	認知言語学の全体像について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。	30分
		事後学修	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。	30分
2	9/22	メタファー	メタファーを応用した例文を解釈し、メタファーへの理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
3	9/29	ことばの意味変化	日英語対照の観点から「ことばの意味変化」を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
4	10/6	ことばの意味変化	日英語対照の観点から「ことばの意味変化」を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
5	10/13	文法化と主体化	「文法化と主体化」について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
6	10/20	日英語対照	対照研究の面白さと意義を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日英語対照研究の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	「日本語らしさ」と「英語らしさ」	「日本語らしさ」と「英語らしさ」について分析し、整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
8	11/10	「日本語らしさ」と「英語らしさ」	「日本語らしさ」と「英語らしさ」について分析し、整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日英語対照研究の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
9	11/17	事態把握	日英語の「事態把握」の相違を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
10	11/24	事態把握	日英語の「事態把握」の相違を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
11	12/1	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、言語の本質と働きに関わる洞察力をもって、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
12	12/8	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、言語の本質と働きに関わる洞察力をもって、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	認知言語学と文化学	「認知言語学と文化学」を説き、「認知→言語→学」の流れをまとめる。本授業の総括及び理解度の確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、言語の本質と働きに関わる洞察力をもって、批判的に意見を述べることができる。	
		事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
		事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
14	12/22	授業内試験及び振り返り	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
		事前学修	弱点ノートの見直しをして学期末試験に臨む。	50分
		事後学修	間違えた箇所の復習をし、講義全体の確認をする。	10分
15	1/12	授業の総括	試験の講評・解説と授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
		事前学修	振り返りの内容の確認をする。	30分
		事後学修	1年を通して学習したことを踏まえ、さらに英語力を身に着ける術を模索する。	30分

科目名	英語演習B	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「言語/哲学」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志。英語演習Aを履修していることが強く望まれる。

【授業方法】
「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3		3			3		
②	「言語/哲学」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3		3			3		
③	「言語/哲学」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3		3			3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	西洋哲学に関するプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	西洋哲学入門	西洋哲学について概説を行い、西洋哲学を英語で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、西洋哲学を英語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、西洋哲学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/23	「Plato」	「Plato」を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、西洋哲学の歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Plato」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Plato」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Plato」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	9/30	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。）	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	10/7	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。）	60分
5	10/14	「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」	「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	10/21	「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」	「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」	「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	11/11	「Should I work for love or money?」	「Should I work for love or money?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Should I work for love or money?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Should I work for love or money?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Should I work for love or money?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	11/18	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	11/25	西洋哲学について英語で読む	グループごとに割り振られる西洋哲学に関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	12/2	「How do I mend a broken heart?」	「How do I mend a broken heart?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「How do I mend a broken heart?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「How do I mend a broken heart?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「How do I mend a broken heart?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	12/9	「I'll swear my computer has a mind of its own...」	「I'll swear my computer has a mind of its own...」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「I'll swear my computer has a mind of its own...」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「I'll swear my computer has a mind of its own...」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「I'll swear my computer has a mind of its own...」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	「My smartphone's been stolen, and I'm worried about identity theft.」	「My smartphone's been stolen, and I'm worried about identity theft.」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「My smartphone's been stolen, and I'm worried about identity theft.」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「My smartphone's been stolen, and I'm worried about identity theft.」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「My smartphone's been stolen, and I'm worried about identity theft.」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	12/23	「Why can't I decide who to vote for?」	「Why can't I decide who to vote for?」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Why can't I decide who to vote for?」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Why can't I decide who to vote for?」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Why can't I decide who to vote for?」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	1/13	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習B	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、人文科学に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英語演習Aを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人文科学に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3					3		
②	人文科学に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3					3		
③	人文科学に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3					3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Gateway to Britain	Terry O’Brien、他	南雲堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/23	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	9/30	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/7	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/14	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/21	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/11	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/18	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/25	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	12/2	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/9	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/23	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	1/13	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語演習C	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
一定の英語読解力（英詩読解に文法の基礎知識は必須）と発言する意志を持っていること。

【授業方法】
英国ロマン派の詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2					2		2
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8金 4/10	英詩入門 1	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる詩作品について概説し、英詩を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を確認する。	30分
2	第一部 水4/15金 4/17	英詩入門 2	英詩の構造について解説し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、英詩の構造について理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	英詩について調べたうえで、「詩とは何か」自分なりに考えてみる。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
3	第一部水 4/22金 4/24	愛について	Robert Burns, “O my love’ s like a red, red rose”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	第一部 水4/29金 5/1	象徴について	William Blake, “The Sick Rose”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	第一部水 5/6金5/8	ハエと人間	William Blake, “The Fly”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	第一部水 5/13金 5/15	生・死・自然（1）	William Wordsworth, “She dwelt among the untrodden ways”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水5/20金5/22	生・死・自然（2）	William Wordsworth, “A slumber did my spirit seal”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	第一部水5/27金5/29	生・死・自然（3）	William Wordsworth, “We are seven”を読む（1）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	第一部水6/3金6/5	生・死・自然（4）	William Wordsworth, “We are seven”を読む（2）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	第一部水6/10金6/12	夢と現実（1）	S. T. Coleridge, “Something Childish, But Very Natural”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	第一部水6/17金6/19	夢と現実（2）	P. B. Shelley, “To ---” (Song)を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	第一部水6/24金6/26	愛と休息	Lord Byron, “So, we’ ll go on no more a roving”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1金7/3	ヒバリのソネット	William Shakespeare, “When in disgrace with fortune and men’s eyes” (Sonnet 29)を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部水 7/8金 7/10	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期で読んだ諸英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部水 7/15金 7/17	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	心に残った詩を暗唱し、前期で読んだ英詩についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	英語演習C	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志

【授業方法】
「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2					2		2
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	イギリス文学作品の原著か t らの抜粋を配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	イギリス文学入門	イギリス文学の歴史、特徴、背景などについて概説を行い、イギリス文学を原著で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、イギリス文学を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、イギリス文学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/17	「Pygmalion」(George Bernard Shaw)	「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、イギリス文学の歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Pygmalion」(George Bernard Shaw)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	4/24	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	5/1	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	5/8	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	5/15	「Great Expectations」(Charles Dickens)	「Great Expectations」(Charles Dickens)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Great Expectations」(Charles Dickens)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Great Expectations」(Charles Dickens)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Great Expectations」(Charles Dickens)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	「Gulliver's Travels」 (Jonathan Swift)	「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	5/29	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	6/5	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	6/12	イギリス文学の原著を読む	グループごとに割り振られるイギリス文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	6/19	「Romeo and Juliet」 (William Shakespeare)	「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	6/26	「Pride and Prejudice」 (Jane Austen)	「Pride and Prejudice」(Jane Austen)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Pride and Prejudice」(Jane Austen)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Pride and Prejudice」(Jane Austen)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Pride and Prejudice」(Jane Austen)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)	「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Jane Eyre」(Charlotte Brontë)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	7/10	「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)	「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Wuthering Heights」(Emily Jane Brontë)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	7/17	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習D	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
一定の英語読解力（英詩読解に文法の基礎は必須）と発言する意志を有すること。英語演習Cとセットでの履修が望ましい。

【授業方法】
英米の近現代詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3					3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16金 9/18	英詩入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明（再確認）する。また、取り上げる近現代のイギリス・アメリカ・アイルランドの詩作品について概説し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
2	第一部水 9/23金 9/25	ことばの音楽	E. A. Poe, “Annabel Lee”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
3	第一部水 9/30金 10/2	ことばと認識	E. Dickinson, “Success is counted sweetest” / “My life closed twice before its close”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	第一部水 10/7金 10/9	死別（1）	Thomas Hardy, “The Walk”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	第一部水 10/14金 10/16	死別（2）	Thomas Hardy, “The Voice”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	第一部水 10/21金 10/23	求愛と神話（1）	W. B. Yeats, “He Wishes for the Cloths of Heaven”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28金 10/30	求愛と神話（2）	W. B. Yeats, “Leda and the Swan”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	第一部水 11/11金 11/16	自然と人間	Robert Frost, “The Pasture” / “Stopping by Woods on a Snowy Evening”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	第一部水 11/18金 11/13	自由詩（1）	D. H. Lawrence, “Snake” を読む（1）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	第一部水 11/25金 11/20	自由詩（2）	D. H. Lawrence, “Snake” を読む（2）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	第一部水 12/2金 11/27	多元化された私	T. S. Eliot, “La Figlia Che Piange”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	第一部水 12/9金 12/4	信仰の問題	Edmund Blunden, “Report on Experience”を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16金 12/11	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
14	第一部水 12/23金 12/18	小論文とテーマ設定	小論文のテーマ設定・書き方について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、小論文の書き方を説明することができる。	
		事前学修	心に残った英詩のテーマについてメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容（小論文の書き方）について整理する。	60分
15	第一部水 1/13金 12/25	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	任意に選んだ英詩についてテーマを設定し、小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	英語演習D	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志。英語演習Cを履修していることが強く望まれる。

【授業方法】
「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3					3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	アメリカ文学作品の原著からの抜粋を配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	アメリカ文学入門	アメリカ文学の歴史、特徴、背景などについて概説を行い、アメリカ文学を原著で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、アメリカ文学を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、アメリカ文学に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/21	「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)	「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、イギリス文学の歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	9/28	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	10/5	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	10/12	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	10/19	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
8	11/9	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
9	11/16	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
10	11/23	アメリカ文学の原著を読む	グループごとに割り振られるアメリカ文学作品を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた文学作品を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布されたテキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた文学作品に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
11	11/30	「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)	「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、「Moby-Dick; or, The Whale」(Herman Melville)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。
12	12/7	「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)	「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。
		事前学修	事前に配布された「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。
		事後学修	授業内容を復習し、「The Fall of the House of Usher」(Edgar Allan Poe)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	「A Farewell to Arms」 (Ernest Hemingway)	「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「A Farewell to Arms」(Ernest Hemingway)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	12/21	「The Grapes of Wrath」 (John Steinbeck)	「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Grapes of Wrath」(John Steinbeck)に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	1/18	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習E	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「芸術/文化」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語読解力と、発言する意志を持っていること。一冊を一年で読み切るため、英語演習Fと合わせて通年で履修するのが望ましい。

【授業方法】
イギリス作家の戯曲（演劇台本）を輪読する。登場人物を履修者でcastingし、ドラマ仕立ての“読み合わせ”を英語と日本語で実践しながら意見交換する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						2			2		2		
③	「芸術/文化」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						2			2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記／レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント（Ronald Harwood, TAKING SIDES）を配布する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30 講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	演劇（戯曲）入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）および劇作家について概説し、戯曲を読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、戯曲を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第一部金 4/17	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
3	第一部金 4/24	背景・登場人物・舞台装置	テキストの前書き，“Characters,” “Set,” pp. 3-6 を読み、内容、背景等について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の背景・登場人物・舞台装置について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読・音読し、第二次世界大戦前後のドイツについて調べ、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第一部金 5/1	第1幕を読む（1）	第1幕（Act One）pp. 7- 12 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。作品の歴史的・社会的背景等について不明な点は調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第一部金 5/8	第1幕を読む（2）	第1幕（Act One）pp. 13-16 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第一部金 5/15	第1幕を読む（3）	第1幕（Act One）pp. 16-21 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	第1幕を読む（4）	第1幕（Act One）pp. 21-25 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第一部金 5/29	第1幕を読む（5）	第1幕（Act One）pp. 25-28 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第一部金 6/5	第1幕を読む（6）	第1幕（Act One）pp. 29-33 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第一部金 6/12	第1幕を読む（7）	第1幕（Act One）pp. 33-37 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第一部金 6/19	第1幕を読む（8）	第1幕（Act One）pp. 37-41 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第一部金 6/26	第1幕の読み合わせ（1）	第1幕（Act One）前半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	第1幕の読み合わせ（2）	第1幕（Act One）後半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部金 7/10	第1幕のまとめ	第1幕を振り返り、関連ビデオやCDを視聴し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	第1幕を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部金 7/17	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して演劇作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	第1幕についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	前期で学んだことを整理する。	60分

科目名	英語演習E	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「芸術/文化」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志

【授業方法】
「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2			2		2		
③	「芸術/文化」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2			2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	カルチュラルスタディーズに関するプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	カルチュラルスタディーズ入門	カルチュラルスタディーズについて概説を行い、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、カルチュラルスタディーズに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/15	「Frozen」	「Frozen」を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、カルチュラルスタディーズの歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Frozen」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Frozen」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Frozen」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	4/22	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	4/29	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	5/6	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Harry Potter and the Philosopher's Stone」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Harry Potter and the Philosopher's Stone」を読み、和訳、感想などをノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Harry Potter and the Philosopher's Stone」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	5/13	「The Remains of the Day」	「The Remains of the Day」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Remains of the Day」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Remains of the Day」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Remains of the Day」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	「The Full Monty」	「The Full Monty」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Full Monty」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Full Monty」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Full Monty」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	5/27	「Bridget Jones's Diary」	「Bridget Jones's Diary」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Bridget Jones's Diary」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Bridget Jones's Diary」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Bridget Jones's Diary」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	6/3	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	6/10	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	6/17	「Braveheart」	「Braveheart」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Braveheart」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Braveheart」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Braveheart」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	6/24	「The Crying Game」	「The Crying Game」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Crying Game」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Crying Game」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Crying Game」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	「Billy Elliot」 、 「Brassed Off」	「Billy Elliot」 、「Brassed Off」 について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Billy Elliot」 、「Brassed Off」 について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Billy Elliot」 、「Brassed Off」 を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Billy Elliot」 、「Brassed Off」 に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	7/8	「Notting Hill」 、 「Trainspotting」	「Notting Hill」 、「Trainspotting」 について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Notting Hill」 、「Trainspotting」 について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Notting Hill」 、「Trainspotting」 を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Notting Hill」 、「Trainspotting」 に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	7/15	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習F	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「芸術/文化」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語読解力と、発言する意志を持っていること。後期（演習F）から履修する場合、前期（演習E）で扱った第1幕（約40頁）を第二週目までに読み切ること。

【授業方法】
イギリス作家の戯曲（演劇台本）を輪読する。登場人物を履修者でcastingし、ドラマ仕立ての“読み合わせ”を英語と日本語で実践しながら意見交換する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3			3		3		
②	「芸術/文化」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					3			3		3		
③	「芸術/文化」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3			3		3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート(小論文)試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント (Ronald Harwood, TAKING SIDES) を配布する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	第1幕の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。第1幕を振り返り、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の第1幕について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	第一幕の内容を再確認しておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
2	第一部金 9/25	第2幕を読む（1）	第2幕（Act Two）・第1場（Scene One）-第2場（Scene Two）pp. 46-50 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所を熟読・音読し、第二次世界大戦直後のドイツについて調べ、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第一部金 10/2	第2幕を読む（2）	第2幕（Act Two）・第1場（Scene One）-第2場（Scene Two）pp. 46-50 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。作品の歴史的・社会的背景等について不明な点は調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第一部金 10/9	第2幕を読む（3）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 50-54 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第一部金 10/16	第2幕を読む（4）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 54-58 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	60授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第一部金 10/23	第2幕を読む（5）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 59-63 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	第2幕を読む（6）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 63-66 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第一部金 11/6	第2幕を読む（7）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 67-71 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第一部金 11/13	第2幕を読む（8）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 71-74 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第一部金 11/20	第2幕を読む（9）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 75-76 を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第一部金 11/27	第2幕の読み合わせ（1）	第2幕（Act Two）前半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品を解釈し、その解釈について説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第一部金 12/4	第2幕の読み合わせ（2）	第2幕（Act Two）後半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品を解釈し、その解釈について説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	第2幕のまとめ	第2 幕を振り返り、資料映像・音源を視聴し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	第2 幕全体を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部金 12/18	作品全体のまとめ	作品全体を振り返り、盛り込まれたテーマや問題点について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部金 12/25	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して演劇作品についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	作品についての小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	英語演習F	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「芸術/文化」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志。英語演習Eを履修していることが強く望まれる。

【授業方法】
「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3			3		3		
②	「芸術/文化」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3			3		3		
③	「芸術/文化」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3			3		3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	カルチュラルスタディーズに関するプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階1815研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	カルチュラルスタディーズ入門	カルチュラルスタディーズについて概説を行い、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、カルチュラルスタディーズに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/23	「My Fair Lady」	「My Fair Lady」を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、カルチュラルスタディーズの歴史、特徴、背景などを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「My Fair Lady」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「My Fair Lady」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「My Fair Lady」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	9/30	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	10/7	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	10/14	「United Kingdom」	「United Kingdom」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「United Kingdom」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「United Kingdom」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「United Kingdom」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	10/21	「The Wild West」	「The Wild West」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Wild West」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Wild West」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Wild West」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	「Vietnam」	「Vietnam」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Vietnam」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Vietnam」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Vietnam」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	11/11	「The American Dream」	「The American Dream」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The American Dream」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The American Dream」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The American Dream」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	11/18	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	11/25	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	12/2	「Historical Change」	「Historical Change」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Historical Change」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「Historical Change」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「Historical Change」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	12/9	「The Black Experience」	「The Black Experience」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Black Experience」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Black Experience」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Black Experience」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	「The Gay Experience」	「The Gay Experience」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Gay Experience」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Gay Experience」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Gay Experience」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	12/23	「The Female Experience」	「The Female Experience」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Female Experience」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
		事前学修	事前に配布された「The Female Experience」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、「The Female Experience」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	1/13	筆記試験／解説	60分間の筆記試験を実施し、答案回収後に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて総復習を行う。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習G	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
原則、英語演習Hと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2		2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
10:30-11:00 Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	Introduction及び導入講義	Learn about the themes and aims of the course.	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read the syllabus.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
2	4/17	Edo to Tokyo	Learn about Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
3	4/24	Akihabara	Learn about Akihabara	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
4	5/1	Yamanote	Learn about Yamanote	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
5	5/8	The Imperial Palace	Learn about The Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
6	5/15	Asakusa	Learn about Asakusa	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Roppongi and Shibuya	Learn about Roppongi and Shibuya	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
8	5/29	Kyoto	Learn about Kyoto	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
9	6/5	Mount Fuji	Learn about Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
10	6/12	Presentation skills	Learn about Presentation skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about presentation skills.	60分
		事後学修	Think about topics for presentation.	60分
11	6/19	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about topics for presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
12	6/26	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
14	7/10	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Practice Presentation.	60分
15	7/17	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語演習G	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英語演習Hを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。							2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。							2		2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BBC World Profile on DVD	Akira Morita	南雲堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/16	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/23	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/30	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/7	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/28	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	6/4	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/11	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/18	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/25	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/16	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語演習G	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語読解力と発言する意志を持っていること。一冊を一年で読み切るため、英語演習Hと合わせて通年で履修するのが望ましい。

【授業方法】
法廷ドラマを輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2		2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men (Student Editions)	Reginald Rose	Bloomsbury Methuen Drama	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	法廷ドラマ入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）について概説し、法廷（陪審）ドラマを読むことの意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法廷ドラマを原著で学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	第一部木 4/16	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
		事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第一部木 4/23	第1幕を読む（1）	第1幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第一部木 4/30	第1幕を読む（2）	第1幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第一部木 5/7	第1幕を読む（3）	第1幕（3）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第一部木 5/14	第1幕を読む（4）	第1幕（4）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	第1幕を読む（5）	第1幕（5）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第一部木 5/28	第1幕を読む（6）	第1幕（6）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第一部木 6/4	第1幕を読む（7）	第1幕（7）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第一部木 6/11	第1幕を読む（8）	第1幕（8）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第一部木 6/18	第1幕を読む（9）	第1幕（9）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第一部木 6/25	第1幕を読む（10）	第1幕（10）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	前半部の読み合わせ	前半部の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部木 7/9	前半部のまとめ	前半部を振り返り、関連ビデオを視聴し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	前半部を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部木 7/16	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷ドラマについての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	法廷ドラマ（前半）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
		事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	英語演習H	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検演習Gを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3		3		3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等にて連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
BBC World Profile on DVD	Akira Morita	南雲堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/1	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/15	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/22	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/5	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/12	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/19	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	12/3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	1/14	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語演習H	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
原則、英語演習Gと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
10:30-11:00 Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Bakumatsu	Learn about Bakumatsu	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read the syllabus.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
2	9/22	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
3	9/29	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
4	10/6	19th Century Japanese Abroad	Learn about 19th Century Japanese Abroad	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
5	10/13	19th Century non-Japanese in Japan	Learn about 19th Century non-Japanese in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
6	10/20	Early 20th Century non-Japanese in Japan	Learn about Early 20th Century non-Japanese in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Early 20th Century Japanese Abroad	Learn about Early 20th Century Japanese Abroad	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
8	11/10	Post War, Japan in the World and the World in Japan	Learn about Post War, Japan in the World and the World in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
9	11/17	How to Present	Learn about Presentation skills	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
		事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
10	11/24	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about presentation skills.	60分
		事後学修	Think about topics for presentation.	60分
11	12/1	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Think about topics for presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
12	12/8	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Continue with preparation and research.	60分
14	12/22	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Practice Presentation.	60分
15	1/12	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
		この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
		事前学修	Practice Presentation.	60分
		事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語演習H	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
中級以上の英語読解力と、発言する意志をもっていること。一冊を一年で読み切るため、英語演習Gと合わせて通年で履修するのが望ましい。

【授業方法】
法廷ドラマを輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men (Student Editions)	Reginald Rose	Bloomsbury Methuen Drama	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/19	作品前半の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。法廷ドラマの前半を振り返り、輪読の分担等をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの前半について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、法廷ドラマ前半の内容を再確認しておく。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
2	第一部木 9/24	第1幕を読む（11）	第1幕（11）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第一部木 10/1	第1幕を読む（12）	第1幕（12）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第一部木 10/8	第1幕を読む（13）	第1幕（13）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第一部木 10/15	第2幕を読む（1）	第2幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第一部木 10/22	第2幕を読む（2）	第2幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	第2幕を読む（3）	第2幕（3）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第一部木 11/5	第2幕を読む（4）	第2幕（4）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第一部木 11/12	第2幕を読む（5）	第2幕（5）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第一部木 11/19	第2幕を読む（6）	第2幕（6）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第一部木 12/3	第2幕を読む（7）	第2幕（7）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第一部木 12/10	第2幕を読む（8）	第2幕（8）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	第2幕を読む（9）	第2幕（9）を読み、内容について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第一部木 12/24	作品全体のまとめ	作品全体を振り返り、盛り込まれた社会的テーマや問題点について意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
		事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
		事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	第一部木 1/14	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷ドラマについてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
		事前学修	法廷ドラマについての小論文作成作業を完了させる。	180分
		事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
1. 指定された範囲の予習・課題を行うこと 2. やる気があること 3. 英検2級を受験すること

【授業方法】
毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
英検２級の受験、授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Let's Output in Basic English	佐藤臨太郎	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	その他、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜17：50～）に対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
		事後学修	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 オリエンテーションのおさらいをする。	30分
2	4月14日	模擬試験と解説	英検2級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	英検2級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。	30分
		事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	4月21日	英語の基礎力チェックと学習計画	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級合格のための基礎力がどれだけあるかを確認し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
		事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	4月28日	自己紹介の英語を聞き取る・be動詞と一般動詞	Unit1の自己紹介に関する英語の聞き取りとbe動詞と一般動詞の相違と使い方を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be動詞と一般動詞に関する文法問題が解けるようになり、自己紹介に関する英語を聞き取ることができる。	
		事前学修	小テストの該当箇所の予習をする。テキストのbe動詞と一般動詞についての解説を読む。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit1の音声を読み、be動詞と一般動詞の文法を復習する。	30分
5	5月12日	英語のEメールと自己紹介を英語で書く	小テスト、テキストUnit1のEメールの英文に関する問題を解き、自己紹介の英語を書く。ペアで自己紹介をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語のEメールを読むことができ、自己紹介の英文を書き、ペアで自己紹介をし合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit1のEメールに関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を読み、わからなかったところを復習する。小テストでできなかった単語の復習をする。	30分
6	5月19日	ネットの使用法についての英語の聞き取りと現在形・過去形・進行形	小テスト、Unit2のネットの使用法についての英語を聞き、内容を把握する。現在形・現在進行形・過去形・過去進行形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ネットの使用法についての英文を聞き取ることができる。現在形・過去形・現在進行形・過去進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit2のネットの使用法に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit2の音声を読み、現在形・現在進行形・過去形・過去進行形の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	英文ブログの読解と過去形と進行形で英文を書く	小テスト、Unit2の英文で書かれたブログを読み、問題を解く。過去形・進行形を使用した英文を書く。Writingの書き方とポイントを解説する。ペアで過去形と進行形を使用して話す練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、英文で書かれたブログの内容を理解し、過去形・進行形を使った英文を書き、Writingのポイントを理解し、過去形や進行形を使った英文を書くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit2のネットの使用法に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。	30分
		事後学修	Unit2の英文で書かれたブログ読む。進行形の文章の書き方を復習する。論理的な英文の書き方(introduction/ Body(reasons&examples)/ Conclusion)を復習する。	30分
8	6月2日	休暇の過ごし方に関する英語の聞き取りと未来形	小テスト、Unit3の休暇の過ごし方についての英語を聞き、内容を把握する。未来形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、休暇の過ごし方についての英文を聞き取ることができる。未来形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit3の休暇の過ごし方に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit3の音声を聞き、未来形の文法を復習する。	30分
9	6月9日	休暇の過ごし方に関する英語の読解と未来形を使用した英文を書く	小テスト、Unit3の英文で書かれたブログを読み、問題を解く。未来形を使用した英文を書く。ペアで予定について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の休暇の過ごし方についての英文を読むことができ、未来形を使用した英文を書き、ペアで予定について話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit3の休暇の過ごし方に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit3の英文で書かれたブログを読む。未来形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
10	6月16日	小旅行に関する英語の聞き取りと現在完了形と現在完了進行形	小テスト、Unit4の小旅行についての英語を聞き、内容を把握する。現在完了形・現在完了進行形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小旅行についての英文を聞き取ることができる。現在完了形・現在完了進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit4の休暇の過ごし方に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit4の音声を聞き、現在完了形・現在完了進行形の文法を復習する。	30分
11	6月23日	小旅行に関する英語の読解と現在完了形と現在完了進行形を使用した英文を書く	小テスト、Unit4の小旅行についての英文を読み、問題を解く。現在完了・現在完了進行形を使用した英文を書く。ペアで小旅行について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小旅行に関する英文を読むことができ、現在完了形・現在完了進行形を使用した英文を書き、ペーパーでこれまでの経験や継続していることについて話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit4の小旅行に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit4の小旅行に関する英文を読む。現在完了形・現在完了進行形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
12	6月30日	子どもの頃の思い出に関する英語の聞き取りと過去完了形と過去完了進行形	小テスト、Unit5の子どもの頃の思い出についての英語を聞き、内容を把握する。過去完了・過去完了進行形について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子どもの頃の思い出についての英文を聞き取ることができる。過去完了形・過去完了進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit5の子どもの頃の思い出に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit5の音声を聞き、過去完了形・過去完了進行形の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	子どもの頃の思い出に関する英語の読解と過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書く	小テスト、Unit5の子どもの頃の思い出に関する英文を読み、問題を解く。過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書く。ペアで子どもの頃の思い出について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子どもの頃の思い出についての英文を読むことができ、過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書き、ペアで過去の経験や過去に継続していたことについて話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit5の子どもの頃の思い出に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit5の子どもの頃の思い出に関する英文を読む。過去完了形・過去完了進行形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
14	7月14日	前期テストとふり回り	前期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、前期の内容のふり回り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	前期に学んだことをテキストを中心に総復習する。	120分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な部分と得意な部分を分析し、今後の対策を考える。	45分
15	7月21日	前期のふり回り	前期授業内テストの返却と解説。英検2級の問題の回答方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。	120分
		事後学修	前期に学んだところを総復習する。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
ペアによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされる。

【授業方法】		
基本的に、IELTSの教科書のタスクベースで、翻訳訳読式で返り読みせずに、直読直解するやり方で読み進める。各段落のTopic Sentence(中心となる話題文)を探すことで要旨を把握し、段落の展開方法を分析しながら練習問題にあたる。論理的な英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解(要約、スキミング、スキミング等を含む)スキルを実践的に習得できるように、ペア中心に進める。単熟語テストは、毎回行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアーワーク、ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。									1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、返却、講評をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS: Subjects and Strategies	石谷由美子、クリストファー・ブルスミス	南雲堂	2018	教科書	必携
はじめてのアイエルツ 改訂3版	石谷由美子、クリストファー・ブルスミス他	南雲堂	2016	参考書	推奨
データベースDataBase 4500完成英単語熟語 5thEdition	荻野治雄	桐原書店	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂で、授業前又は終了後（水曜日）に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス（授業内容・方針・英検・IELTS等についての説明を聞く）
		この回の到達目標	IELTS受験の為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。
		事前学修	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。（30分）
		事後学修	ガイダンスのおさらいをし、IELTSの概要について、Webサイトで調べてみる。
2	4/15	Chapter 1 Reading	Reading (1) A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	テキストと単語帳を購入し、準備をする。
		事後学修	テキストのChapter 1のReading (1)A、Bの間違った箇所を確認し、解きなおす。
3	4/22	Chapter 1 Reading	Reading (1)練習問題1の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストLevel 1の解答ができる。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Chapter 1のReading (1)練習問題1を解いてくる。 英単熟語テストLevel 1の準備をする。
		事後学修	Chapter 1のReading (1)練習問題1、英単熟語テストLevel 1の間違った箇所を確認し、解きなおす。
4	4/29	Chapter 1 Reading	Reading (2)A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題 英単熟語テストlevel 2を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Chapter 1のReading (2)問題ABを解いてくる。 英単熟語level 1の音読、暗記の準備をする。
		事後学修	Chapter 1のReading (2)問題AB、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。
5	5/6	Chapter 1 Reading	Reading (2)練習問題2の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 2を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	Reading (2)練習問題2の問題を解いてくる。 英単熟語level 2の音読、暗記の準備をする。
		事後学修	Unit 3、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。
6	5/13	Chapter 1 Reading	Reading (3)A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題 英単熟語テストlevel 3を解答する。
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。
		事前学修	の問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。
		事後学修	英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Chapter 1 Reading	Reading (3)練習問題3の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 3を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading (3)ABの問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading (3)練習問題3、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
8	5/27	Chapter 1 Reading	Reading (4)A: Multiple Choice Questions 選択肢問題B: Short Answer Questions 短文解答問題 英単熟語テストlevel 4を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading (4)ABの問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。 (30分)	60分
		事後学修	Reading (4)AB、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)	60分
9	6/3	Chapter 1 Reading	Reading (4)練習問題4の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 4を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading (4)練習問題4の問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading (4)練習問題4、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
10	6/10	Chapter 1 Reading	Reading Practice Test(1)の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading Practice Test(1)の問題を解いてくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading Practice Test(1)、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
11	6/17	Chapter 1 Reading	Reading Practice Test(2)の語彙、読解問題を理解する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Reading Practice Test(2)の問題を解いてくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Reading Practice Test(2)、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
12	6/24	Chapter 2 Writing	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesの語彙、説明、エッセイのパラグラフ展開の仕方を理解する。 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesを読んでくる。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesの復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Chapter 2 Writing	Writing(3)For or Against &(4)What Questionsの語彙、賛成反対のエッセイやWhat型疑問文を理解する。 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Writing(3)For or Against &(4)What Questionsを読んできく。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Writing(3)For or Against &(4)What Questionsの復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
14	7/8	授業内期末試験 授業の振り返り	Chapter 1、2の範囲の内容の問題を解答できる。	
		この回の到達目標	Chapter 1、2の範囲の内容を理解し、関連する問題を解答できる。	
		事前学修	期末試験に備え、Chapter 1、2の範囲の内容を復習する。	60分
		事後学修	英単熟語テストの全ての間違えた箇所をもう一度解いてみる。	60分
15	7/15	まとめ	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。	
		この回の到達目標	期末テスト解説を聞き、それを踏まえて、自己の学習の成果を分析する。	
		事前学修	前期授業学習内容を確認する。	60分
		事後学修	期末テストの間違った箇所をもう一度解いてみる。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IBを履修すること

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル+模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの17ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	4/15	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
3	4/22	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図面問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	30分
4	4/29	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文章完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット3の単語の単語を覚えること。	30分
5	5/6	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	30分
6	5/13	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	5/27	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	6/3	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	6/10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	6/17	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	6/24	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	7/8	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	7/15	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英検2級受験を目指す学生。

【授業方法】		
下記英検に特化したテキストとスピーキングに特化したNHKラジオテキストを使用し、音読を中心に、読み、書き、リスニング、スピーキングの力をつける。音読の場合はCDの後について全員でリピートをし各ダイアログを暗記し次回の授業でテストを行なう。テキストの文法事項を理解して、語彙を増やしてもらう。授業回数の後半では、こちらで用意したプリントを使用し英検面接の練習を行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループで英検2級面接で行われる内容に関して会話をし、意見を纏めて発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックを行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検2級マスターコース（リニューアル問題対応）	今村洋美 他	金星堂	2018	教科書	必携
NHKラジオ遠山頭の英会話楽習（5月号）	遠山頭	NHKラジオ出版	2020	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて１２時１５分～１２時３５分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス、導入授業	英検2級受験で求められる英語の実力についての説明をし、その実力をつけるために本授業で行われる内容を具体的に述べる。宿題の英文プリントを配る。	
		この回の到達目標	英検2級受験に必要な実力をどの様に付ければ良いのかを理解し、各学生は自分でなにをなすべきか分かり、行動するようになる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。	40分
		事後学修	配られたスクリプトを読み、理解できないところを確認し次回の授業で質問するようにする。	80分
2	4/14	Lesson 1-(1)	前回配られたプリントの内容並びに文法確認。テキストLesson 1 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。	
		事前学修	テキストLesson 1 のリーディングの問題を解くこと。前回配られたプリントを読むこと。	60分
		事後学修	授業で学習したことを確認する。必要な英文並びに英単語を暗記すること。	60分
3	4/21	Lesson 1-(2) NHKテキスト ダイアログ (1)	小テスト。テキストLesson 1 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (1)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの中の英単語と英文とを暗記し小テストの準備ををする。	50分
		事後学修	リスニングのスクリプトを音読し、NHKテキスト ダイアログ (1)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	70分
4	4/28	Lesson 2-(1) NHKテキスト ダイアログ (2)	小テスト。テキストLesson 2 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (2)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 2 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 2 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ (2) を暗記し、次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
5	5/5	Lesson 2-(2) NHKテキスト ダイアログ (3)	小テスト。テキストLesson 2 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (3)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスクリプトを音読し、NHKテキスト ダイアログ (3)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
6	5/12	Lesson 3-(1) NHKテキスト ダイアログ (4)	小テスト。テキストLesson 3 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ (4)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 3 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 3 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ (4) を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19	Lesson 3-(2) NHKテキスト ダイアログ (5)	小テスト。テキストLesson 3 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイア ログ(5)の音読練習。
		この回の 到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくる事。 60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(5)を暗記し次回の授業での小テストの準備 をすること。 60分
8	5/26	Lesson 4-(1) NHKテキスト ダイアログ (6)	小テスト。テキストLesson 4 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイ アログ(6)の音読練習。
		この回の 到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚 えそれが身につくようになる。
		事前学修	テキストLesson 4 のリーディングの問題を解くこと。 60分
		事後学修	テキストLesson 4 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(6) を暗記し次回の授 業での小テストの準備をすること。 60分
9	6/2	Lesson 4-(2) NHKテキスト ダイアログ (7)	小テスト。テキストLesson 4 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイア ログ(7)の音読練習。
		この回の 到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくる事。 60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(7)を暗記し次回の授業での小テストの準備 をすること。 60分
10	6/9	Lesson 5-(1) NHKテキスト ダイアログ (8)	小テスト。テキストLesson 5 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイ アログ(8)の音読練習。
		この回の 到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚 えそれが身につくようになる。
		事前学修	テキストLesson 5 のリーディングの問題を解くこと。 60分
		事後学修	テキストLesson 5 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(8) を暗記し次回の授 業での小テストの準備をすること。 60分
11	6/16	Lesson 5-(2) 英検2級模擬テスト	小テスト。テキストLesson 5 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。 テキストについてい る英検2級模擬テストを解く練習。
		この回の 到達目標	英検2級受験に慣れるようになる。
		事前学修	テキストについている英検2級模擬テストを解いてくる。 60分
		事後学修	授業で学習したことを復習し、英検2級受験に慣れるようにする。 60分
12	6/23	英検2級受験面接練習 (1)	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なっ てもらい、スピーキングの練習を行なう。。
		この回の 到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読 練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくる事。 60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。 60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	英検2級受験面接練習（2）	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。	
		この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくる。	60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。	60分
14	7/7	英文読解の補強	社説を英文で読み、時事英語の知識を得る。	
		この回の到達目標	今後英文で書かれた社説を効率良く、正確に読めるようになる方法を学ぶ。時事英語の知識の付け方が分かるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配られた英文のプリントを読み、理解出来ない箇所を確認してくる。	60分
		事後学修	授業で学習したことを確認し、必要な文法事項の再確認をし、有用な表現、英単語を覚えること。	60分
15	7/14	前期授業の反省並びに確認。	前期授業の振り返り。	
		この回の到達目標	前期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
		事前学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。NHKテキストのダイアログの暗記とリスニングで配られたスク립トの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
		事後学修	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IBを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。										1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken Pre 2: Sure to Succeed	William Noel, et al.	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/11	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/18	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/25	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/2	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/23	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	5/30	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/13	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/20	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/4	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/11	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
1. 指定された範囲の予習・課題を行うこと 2. やる気があること 3. 英検2級を受験すること

【授業方法】
毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。									1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
英検２級の受験、授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Let's Output in Basic English	佐藤臨太郎	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	その他、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜17：50～）に対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
		事後学修	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。オリエンテーションのおさらいをする。	30分
2	9月22日	模擬試験と解説	英検2級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	英検2級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。	30分
		事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	9月29日	英語の基礎力チェックと学習計画	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級合格のための基礎力がどれだけあるかを確認し、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
		事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	10月6日	義務に関する英語の聞き取る・助動詞	Unit6の義務に関する英語の聞き取りと助動詞を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する文法問題が解けるようになり、義務に関する英語の聞き取ることができる。	
		事前学修	小テストの該当箇所の予習をする。テキストの助動詞についての解説を読む。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit6の音声を聞き、助動詞を復習する。	30分
5	10月13日	義務に関する英文の読解と英作	小テスト、テキストUnit6の英文に関する問題を解き、助動詞を用いた英語を書く。ペアで助動詞を用いて話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、義務に関する英文を読み、英文を書き、ペアで話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit6の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を読み、わからなかったところを復習する。小テストでできなかった単語の復習をする。	30分
6	10月20日	食べ物についての英語の聞き取りと現在形・過去形・進行形	小テスト、Unit7の食べ物についての英語を聞き、内容を把握する。受動態について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、食べ物についての英文を聞き取ることができる。受動態について理解し、文法問題が解くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit7の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit7の音声を聞き、受動態を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	読解と受動態を用いた英文を書く	小テスト、Unit7のトマトの起源に関する英文を読み、問題を解く。受動態を使用した英文を書く。ペアで受動態を用いて話す練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、受動態を用いた英文の内容を理解し、受動態を使った英文を書くことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit7の英文を読み、わからない単語を調べる。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。	30分
		事後学修	Unit7の英文を読む。受動態を用いた英文の書き方を復習する。論理的な英文の書き方（introduction/Body (reasons&examples)/ Conclusion）を復習する。	30分
8	11月10日	to不定詞を用いた英語の聞き取りと文法	小テスト、Unit8のto不定詞を使用した英語を聞き、内容を把握する。不定詞について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞を使用した英文を聞き取ることができる。不定詞について理解し、文法問題が解けることができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit8の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit8の音声を聞き、不定詞の文法を復習する。	30分
9	11月17日	to不定詞を用いた英語の読解と不定詞を使用した英文を書く	小テスト、Unit8の不定詞を用いた英文を読み、問題を解く。不定詞を使用した英文を書く。ペアで将来の夢や希望について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞を用いた英文を読むことができ、不定詞を使用した英文を書き、ペアで将来の夢や希望について不定詞を使って話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit8の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit8の英文を読む。不定詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
10	11月24日	血液型に関する英語の聞き取りと動名詞	小テスト、Unit9の血液型についての英語を聞き、内容を把握する。動名詞について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、血液型についての英文を聞き取ることができる。動名詞について理解し、文法問題が解けるようになる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit9の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit9の音声を聞き、動名詞の文法を復習する。	30分
11	12月1日	血液型に関する英語の読解と動名詞を使用した英文を書く	小テスト、Unit9の血液型についての英文を読み、問題を解く。動名詞を使用した英文を書く。ペアで血液型について話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、血液型に関する英文を読むことができ、動名詞を使用した英文を書き、ペアーで動名詞を使用して話し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit9の血液型に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit9の血液型に関する英文を読む。動名詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
12	12月8日	現在分詞・過去分詞を用いた英文の聞き取りと文法理解	小テスト、Unit10の分詞を用いた英語を聞き、内容を把握する。現在分詞・過去分詞について理解し、文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を用いた英文を聞き取ることができる。現在分詞・過去分詞について理解し、文法問題が解けるようになる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit10の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit10の音声を聞き、現在分詞・過去分詞の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 5 日	現在分詞・過去分詞を用いた英文の読解と英作	小テスト、Unit10の分詞を用いた英文を読み、問題を解く。現在分詞・過去分詞を使用した英文を書く。ペアで書いた文章を読み合う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を用いた英文を読むことができ、現在分詞・過去分詞を使用した英文を書き、ペアで発表し合うことができる。	
		事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit10の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
		事後学修	Unit10の英文を読む。現在分詞・過去分詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
14	1 2 月 2 2 日	後期テストとふり回り	後期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、後期の内容のふり回り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで後期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	後期に学んだことをテキストを中心に総復習する。	120分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な部分と得意な部分を分析し、今後の対策を考える。	45分
15	1 月 1 2 日	後期のふり回り	後期授業内テストの返却と解説。英検2級の問題の回答方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	120分
		事後学修	後期に学んだところを総復習する。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
ペアーによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされる。

【授業方法】		
1Aで既習の速読スキル（英文構造理解、語彙、読解、スキヤニング、スキミング等）を踏まえて、前半は、イギリスの生活やアカデミックな英語のリスニングやスピーキングを習得できるように、ELTSの教科書のタスクベースで、多項式選択問題や、英問英答、完成問題等の練習問題にあたる。シャドウイング、ディクテーションや、ロールプレイ等はペア中心に進める。又、後半はアメリカ英語の英検2級二次試験対策を行う。英単熟語テストは毎回実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアーワーク、ディスカッション、ロールプレイ	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。										1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、返却、講評をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS: Subjects and Strategies	石谷由美子、クリストファー・ブルスミス	南雲堂	2018	教科書	必携
はじめてのアイエルツ 改訂3版	石谷由美子、クリストファー・ブルスミス他	南雲堂	2016	参考書	推奨
データベースDataBase 4500完成英単語熟語 5thEdition	荻野治雄	桐原書店	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂で、授業前又は終了後（水曜日）に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス（授業内容・方針・英検・IELTS等についての説明を聞く） リスニングの	
		この回の到達目標	IELTS受験の為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。（30分）	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをし、IELTSの概要について、Webサイトで調べてみる。	60分
2	9/23	Chapter 3 Listening	Listening (1) A: Multiple Choice Questions	
		この回の到達目標	リスニングの為に速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	テキストと単語帳を購入し、準備をする。	60分
		事後学修	テキストのListening (1) A: Multiple Choice Questions Aの間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
3	9/30	Chapter 3 Listening	Listening (2) Sentence Completion Questions練習問題 英単熟語テストLevel 1の解答ができる。	
		この回の到達目標	リスニングの為に速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Listening (2) Sentence Completion Questions練習問題を解いてくる。 英単熟語テストLevel 1の準備をする。	60分
		事後学修	Listening (2) Sentence Completion Questions練習問題、英単熟語テストLevel 1の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
4	10/7	Chapter 3 Listening	Listening (3) Short Answer Questions 英単熟語テストlevel 2を解答する。	
		この回の到達目標	学術的な文章を中心に、基本的な語彙、文法、論理的思考力をベースに、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等を習得する。そのために必要な語彙知識、文法読解の習得、定着を図り、英語の文章の基本的構成方法を体得・運用できるようになることが目標である。	
		事前学修	Listening (3) Short Answer Questionsを解いてくる。 英単熟語level 1の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Listening (3) Short Answer Questions、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
5	10/14	Chapter 3 Listening	Listening Practice Test 英単熟語テストlevel 2を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為に速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Listening Practice Testの問題を解いてくる。 英単熟語level 2の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Listening Practice Test、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
6	10/21	Chapter 4 Speaking	Speaking (1)Speaking Test Outline & Speaking Test Part 1 英単熟語テストlevel 3を解答する。	
		この回の到達目標	英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	peaking (1)Speaking Test Outline & Speaking Test Part 1のを予習をする。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	peaking (1)Speaking Test Outline & Speaking Test Part 1、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10/28	Chapter 4 Speaking		Speaking (2) Speaking Test Part 2&3 英単熟語テストlevel 3を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Speaking (2) Speaking Test Part 2&3の予習をする。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Speaking (2) Speaking Test Part 2&3Reading (3)練習問題3、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
8	11/11	Chapter 4 Speaking		Speaking (3) Sample Test 英単熟語テストlevel 4を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Speaking (3) Sample Testの予習をする。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Speaking (3) Sample Test、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
9	11/18	小テスト (Role Play)		Role Play をする。 英単熟語テストlevel 4を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授、スピーチ、討論ができる。	
		事前学修	Role Play の準備をする。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Role Play の講評を確認し、分析する。練習問題4、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
10	11/25	英検二級二次試験対策		英検二級二次試験の概要と過去問練習1 英単熟語テストlevel 5を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	英検二級二次試験の概要を確認し、過去問練習1の音読をする。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	英検二級二次試験の概要と過去問練習1の復習、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
11	12/2	英検二級二次試験対策		英検二級二次試験の概要と過去問練習2 英単熟語テストlevel 5を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	過去問練習2の音読をする。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	過去問練習2の復習、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
12	12/9	英検二級二次試験対策		英検二級二次試験過去問練習3 英単熟語テストlevel 6を解答する。
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授ができる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	過去問練習3の音読をする。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	Writing(1)Describing Graphs &(2)Describing Processesの復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	英検二級二次試験対策	英検二級二次試験過去問練習4 英単熟語テストlevel 6を解答する。	
		この回の到達目標	リスニングの為の速読速聴をベースに、英語の正しい発音やリズムやイントネーションを踏まえて流暢に、正しい語彙や文法で、より正確に意見や情報伝授が出きる。伝授が出きる。Sense Group Readingができる。	
		事前学修	過去問練習4の音読をする。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。	60分
		事後学修	過去問練習4の復習をする。英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。	60分
14	12/23	授業内期末試験 授業の振り返り	Chapter3、4の範囲の内容の問題を解答できる。	
		この回の到達目標	Chapter 3,4の範囲の内容を理解し、関連する問題を解答できる。	
		事前学修	期末試験に備え、Chapter3,4の範囲の内容を復習する。	60分
		事後学修	英単熟語テストの全ての間違えた箇所をもう一度解いてみる。	60分
15	1/13	まとめ	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。	
		この回の到達目標	期末テスト解説を聞き、それを踏まえて、自己の学習の成果を分析する。	
		事前学修	前期授業学習内容を確認する。	60分
		事後学修	期末テストの間違った箇所をもう一度解いてみる。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	諸坂 成利	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検 I Aを履修していること。

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00　但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	9/23	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、情報を一致させるマッチング問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	9/30	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	10/7	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図表を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	10/14	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	10/21	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	11/11	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	11/18	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	11/25	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	12/2	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	12/9	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	パート別考え方のアイディア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パート別考え方のアイディアに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	12/23	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	1/13	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	杉本 桂子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英検2級受験を目指す学生。

【授業方法】		
下記英検に特化したテキストとスピーキングに特化したNHKラジオテキストを使用し、音読を中心に、読み、書き、リスニング、スピーキングの力をつける。音読の場合はCDの後について全員でリピートをし各ダイアログを暗記し次の授業でテストを行なう。テキストの文法事項を理解して、語彙を増やしてもらう。授業回数の後半では、こちらで用意したプリントを使用し英検面接の練習を行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループで英検2級面接で行われる内容に関して会話をし、意見を纏めて発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検2級マスターコース（リニューアル問題対応）	今村洋美 他	金星堂	2018	教科書	必携
NHKラジオテキスト 遠山顕の英会話楽習 10月号	遠山顕	NHK出版	2020	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて 1 2 時 1 5 分～ 1 2 時 3 5 分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/5	ガイダンス、導入授業	英検2級受験についての説明。英検2級レベルよりやや難解な英文のプリントを読み、文法事項の説明をする。	
		この回の到達目標	英検2級受験の際に必要な情報を得、勉強の仕方が分かる。これまでに得てきた英語の知識を確認し新たに英語の実力を深める。。	
		事前学修	本授業のシラバスを読み、手持ちの教材で英語の知識の確認をしてくること。	60分
		事後学修	配られた英文のプリントを読み、有用な表現と英単語を覚え小テストの準備をすること。	60分
2	9/22	Lesson 6(1) NHKテキスト ダイアログ (1)	小テスト。テキストLesson 6 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(1)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 6 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 6 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(1) を暗記し、次の授業での小テストの準備をすること。	60分
3	9/29	Lesson 6(2) NHKテキスト ダイアログ (2)	小テスト。テキストLesson 6 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(2)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(2)を暗記し次の授業での小テストの準備をすること。	60分
4	10/6	Lesson 7(1) NHKテキスト ダイアログ (3)	小テスト。テキストLesson 7 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(3)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 7 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 7 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(3) を暗記し、次の授業での小テストの準備をすること。	60分
5	10/13	Lesson 7(2) NHKテキスト ダイアログ (4)	小テスト。テキストLesson 7 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(4)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(4)を暗記し次の授業での小テストの準備をすること。	60分
6	10/20	Lesson 8(1) NHKテキスト ダイアログ (5)	小テスト。テキストLesson 8 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(5)の音読練習。	
		この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	テキストLesson 8 のリーディングの問題を解くこと。	60分
		事後学修	テキストLesson 8 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(5) を暗記し、次の授業での小テストの準備をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Lesson 8(2) NHKテキスト ダイアログ (6)	小テスト。テキストLesson 8 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト ダイアログ(6)の音読練習。	
		この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
		事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト ダイアログ(6)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
8	11/10	英検2級受験面接練習 (1)	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。。	
		この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。	60分
9	11/17	英検2級受験面接練習 (2)	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。。	
		この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
		事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
		事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。	60分
10	11/24	英文読解の補強 NHKテキスト ダイアログ (7)	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。NHKテキスト ダイアログ(7)の音読練習。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト ダイアログ(7)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
11	12/1	英文読解の補強 NHKテキスト ダイアログ (8)	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。NHKテキスト ダイアログ(8)の音読練習。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト ダイアログ(7)を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
12	12/8	英文読解の補強	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	英文読解の補強	小テスト。プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。	
		この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
		事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にする。	60分
		事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚える。	60分
14	12/22	英文読解の補強	社説を英文で読み、時事英語の知識を得る。	
		この回の到達目標	今後英文で書かれた社説を効率良く、正確に読めるようになる方法を学ぶ。時事英語の知識の付け方が分かるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配られた英文のプリントを読み、理解出来ない箇所を確認してくる。	60分
		事後学修	授業で学習したことを確認し、必要な文法事項の再確認をし、有用な表現、英単語を覚える。	60分
15	1/12	後期授業の反省並びに確認。	後期授業の振り返り	
		この回の到達目標	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
		事前学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。NHKテキストのダイアログの暗記とリスニングで配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておく。	60分
		事後学修	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検 I Aを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken Pre 2: Sure to Succeed	William Noel, et al.	南雲堂	2011	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容	中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/26	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/17	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/7	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/14	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/21	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	11/28	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/5	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/19	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	12/26	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡBを履修すること

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50	
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20	
レポート等													
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30	
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		20	20	10	50							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの17ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	4/15	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
3	4/22	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図面問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	30分
4	4/29	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文章完成問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット3の単語の単語を覚えること。	30分
5	5/5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	30分
6	5/13	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	5/27	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	6/3	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	6/10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	6/17	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	6/24	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	7/8	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	7/15	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	黒滝 真理子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
後期の英検/IELTS II Bと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS:Subjects and Strategies	石谷他	南雲堂	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	IELTSとは	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	4/14	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(1)選択肢問題、Listening(1)選択肢問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	4/21	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(1)短文解答問題、Listening(1)選択肢問題（練習問題１）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	4/28	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(1)練習問題１、Listening(1)選択肢問題（練習問題２）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	5/5	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(2)英文完成問題、Listening(2)英文完成問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	5/12	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(2)表完成問題、Listening(2)英文完成問題（練習問題３）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(2)練習問題2、Listening(2)英文完成問題（練習問題4）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	5/26	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	6/2	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	6/9	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	6/16	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	6/23	IELTSのライティング	Writing(1)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	IELTSのライティング	Writing(2)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	7/7	IELTSの総括	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	前期に学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	30分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	7/14	IELTSの総括	試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡAを履修していること。

【授業方法】
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル＋模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また英単語プリントにより語彙力を強化する。ノート、カードの検査をする。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
リーダーズ英和辞典（第三版）	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	9/23	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、情報を一致させるマッチング問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	9/30	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	10/7	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図表を完成させる問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	10/14	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	10/21	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	11/11	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	11/18	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	11/25	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	12/2	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	12/9	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	パート別考え方のアイディア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パート別考え方のアイディアに習熟することができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	12/23	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	1/13	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	黒滝 真理子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
後期の英検/IELTS II Aと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS:Subjects and Strategies	石谷他	南雲堂	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	IELTSとは	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	9/22	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(3) 見出し選択問題、Listening(3) 短文解答問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	9/29	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(3) 正誤問題、Listening(3) 短文解答問題（練習問題5）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	10/6	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(3) 練習問題3、Listening(3) 短文解答問題（練習問題6）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	10/13	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(4) 英文完成問題、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	10/20	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(4) 英文完成問題、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	IELTSのリーディング/リスニング	Reading(4)練習問題4、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正確にコミュニケーションするために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	11/10	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	11/17	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	11/24	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	12/1	IELTSのリーディング/リスニング	Reading Practrice Test、Listening Practice Test	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、英文の内容を比較的短時間で的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	12/8	IELTSのライティング	Writing(3)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	IELTSのライティング	Writing(4)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、英文の内容をコミュニケーションすることができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	12/22	IELTSの総括	授業内試験及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	前期に学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	30分
		事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	1/12	IELTSの総括	試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語彙・文法の知識を活用し、英文の内容を正確に把握することができる。	
		事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、IELTSの試験に臨めるようにする。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅢBを履修すること

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル+模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List (Barron)を用いて、アカデミック・イングリッシュの語彙の基礎を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50	
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20	
レポート等													
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30	
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		20	20	10	50							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル+模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
Basic Word List (Fifth edition)	Brownstein ほか	Barron	2017	教科書	必携
リーダーズ英和辞典 (第三版)	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室 (9号館1階9017研究室) morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修企画引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの17ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	4/14	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	4/21	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット2の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	4/28	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット3の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	5/5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット4の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	5/12	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.3-13の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、表完成の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語、Basic Word List, pp.3-13の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.14-23の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、短く答える問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語、Basic Word List, pp.14-23の単語を覚えること。	35分
8	5/26	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.24-33の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語、Basic Word List, pp.24-33の単語を覚えること。	35分
9	6/2	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.34-43の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語、Basic Word List, pp.34-43の単語を覚えること。	35分
10	6/9	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.44-53の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット1の単語、Basic Word List, pp.44-53の単語を覚えること。	35分
11	6/16	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.54-63の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット2の単語、Basic Word List, pp.54-63の単語を覚えること。	35分
12	6/23	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.64-73の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、正誤問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット3の単語、Basic Word List, pp.64-73の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.74-83の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット4の単語、Basic Word List, pp.74-83の単語を覚えること。	35分
14	7/7	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.84-93の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	リーディング、ユニット5の単語、Basic Word List, pp.84-93の単語を覚えること。	35分
15	7/14	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則として英検／IELTSⅢBと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、練習問題を解くことによって英語の運用力を養います。予習を前提とし、毎回小テストを実施します。問題の解答に解説を加え、英文の内容理解度を確認します。本授業の事前・事後学習は合わせて1時間の学習を目安とします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、毎回の小テスト、語彙や文法ノートなどにより総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アイエルツのための英語総合演習	石谷由美子/Christofer Bullsmith	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語の運用能力を高める方法を学ぶことができる。
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。30分
2	第一部 月4/13	Reading (1)	選択肢および短文解答問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 8-11を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
3	第一部 月4/20	Reading (1)	練習問題1 America's Aging Pipesの問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 12-13を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
4	第一部 月4/27	Reading (2)	英文および表完成問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 14-17を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
5	第一部 月5/4	Reading (2)	練習問題2 A Patient's Guide to Heart Transplant Surgeryの問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 18-19を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分
6	第一部 月5/11	Reading (3)	見出し選択および正誤問題を解き、解説を加える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。
		事前学修	教科書p. 20-23を読み、問題を解いておくこと。30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Reading (3)	練習問題3 Universities around the world offer degrees taught in Englishの問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 24-25を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
8	第一部 月5/25	Reading (4)	英文完成問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 26-27を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
9	第一部 月6/1	Reading (4)	練習問題4 Tobacco or terrorismの問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 28-29を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
10	第一部 月6/8	Reading Practice Test 1	A "Clean Green" Fuel?の問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 30-33を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
11	第一部 月6/15	Reading Practice Test 2	The Human Cost of Wilderness Tourismの問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書34-37を読み、問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
12	第一部 月6/22	学習習慣の確認	語彙および文法ノートによる継続的な学習努力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な学習努力を継続できる。	
		事前学修	自習で使っているノートなどに学習内容を整理しておくこと。	30分
		事後学修	学習内容の整理方法に不足する箇所があれば、補足しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	学習内容の総まとめ	学習内容に関する質問を受け、要点をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習内容を正しく理解できる。	
		事前学修	学習内容について質問事項をまとめておくこと。	30分
		事後学修	学習努力が不足していた箇所を特定し、補う努力をすること。	30分
14	第一部 月7/6	授業内試験と解説	筆記試験を実施し、英語の運用能力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、英文理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月7/13	学習到達度の確認	試験の講評をし、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習到達度を確認できる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文の読解力を高める方法について要点を整理すること。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅢAを履修していること。

【授業方法】		
クラスをグループ分けし、毎回アクティヴ・ラーニングを実施する。テキストは『IELTS32のドリル+模試』（三修社）を使用し、毎週ユニットごとに進んでいく。また1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List (Barron)を用いて、アカデミック・イングリッシュの語彙の基礎を強化する。ノート、カードの検査をする。		
アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	グループによるテキストの講義、講師作成のリーディングのテスト、グループによる単語解説、テスト解説を行う。英語は講義を聴いても上達しないので、受講者に積極的に参加してもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。										3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。										3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。										3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。										3	3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50	
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20	
レポート等													
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30	
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		20	20	10	50							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル+模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
Basic Word List (Fifth edition)	Brownstein ほか	Barron	2017	教科書	必携
リーダーズ英和辞典 (第三版)	高橋作太郎ほか	研究社	2012	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 但しメールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室 (9号館1階9017研究室) morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旺文社大学受験ラジオ講座講師（英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、アクト・コーポレーション主催オレゴン州立大学夏期語学研修引率、日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習が効果的かつ基本であると認識している。良い教師に習っても、怠けていたのでは学習効果は得られないことを伝える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
		事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
		事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	9/22	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.94-103の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マッチング問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット6の単語、Basic Word List, pp.94-103の単語を覚えること。	30分
3	9/29	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.104-113の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット7の単語、Basic Word List, pp.104-113の単語を覚えること。	30分
4	10/6	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.114-123の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マッチング問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット8の単語、Basic Word List, pp.114-123の単語を覚えること。	30分
5	10/13	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.124-133の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
		事後学修	ユニット1の単語、Basic Word List, pp.124-133の単語を覚えること。	30分
6	10/20	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.134-143の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語、Basic Word List, pp.134-143の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.144-153の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット3の単語、Basic Word List, pp.144-153の単語を覚えること。	35分
8	11/10	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.154-163の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット4の単語、Basic Word List, pp.154-163の単語を覚えること。	35分
9	11/17	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.164-173の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット5の単語、Basic Word List, pp.164-173の単語を覚えること。	35分
10	11/24	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.174-183の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット6の単語、Basic Word List, pp.174-183の単語を覚えること。	35分
11	12/1	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.184-193の訳（Cグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット7の単語、Basic Word List, pp.184-193の単語を覚えること。	35分
12	12/8	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット8の単語、Basic Word List, pp.194-203の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	パート別考え方のアイディア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.204-213の訳（Aグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パート別考え方のアイディアに習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット1の単語、Basic Word List, pp.204-213の単語を覚えること。	35分
14	12/22	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.214-223の訳（Bグループ）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。また到達目標①に関連して、Basic Word Listの範囲の単語を覚えることができる。	
		事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
		事後学修	ユニット2の単語、Basic Word List, pp.214-223の単語を覚えること。	35分
15	1/12	リーディング・テストおよび単語テスト	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
		事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
		事後学修	リーディングテスト、および単語テストの復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
原則として英検 / IELTS Ⅲ Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、練習問題を解くことによって英語の運用力を養います。予習を前提とし、毎回小テストを実施します。問題の解答に解説を加え、英文の内容理解度を確認します。本授業の事前・事後学習は合わせて1時間の学習を目安とします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。										3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。										3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。										3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。										3	3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、毎回の小テスト、語彙や文法ノートなどにより総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アイエルツのための英語総合演習	石谷由美子/Christofer Bullsmith	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語の運用能力を高める方法を学ぶことができる。	
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。	30分
2	第一部 月9/21	Listening (1)	Sample 1 選択肢および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 58, 60を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
3	第一部 月9/28	Listening (1)	Sample 2 選択肢および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 59, 61を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
4	第一部 月10/5	Listening (2)	Sample 3 英文完成および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 62, 64を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
5	第一部 月10/12	Listening (2)	Sample 4 英文完成および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 63, 65を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
6	第一部 月10/19	Listening (3)	Sample 5 短文解答および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 66, 68を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Listening 3	Sample 6 短文解答および空所補充問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 67, 69を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
8	第一部 月11/9	Listening Practice Test	Section 1 図表問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 70-71を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
9	第一部 月11/16	Listening Practice Test	Section 2 空所補充問題および選択肢問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 71-72を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
10	第一部 月11/23	Listening Practice Test	Section 3 空所補充および選択肢問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 73-74を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
11	第一部 月11/30	Listening Practice Test	Section 4 空所補充および選択肢問題を解き、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文の内容を正しく理解できる。	
		事前学修	教科書p. 74-75を読み、語彙や英文の内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
12	第一部 月12/7	学習習慣の確認	語彙および文法ノートなどによる継続的な学習努力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な学習努力を継続できる。	
		事前学修	自習で使っているノートなどに学習内容を整理しておくこと。	30分
		事後学修	学習内容に不足する箇所があれば、補足しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	学習内容の総まとめ	学習内容に関する質問を受け、要点をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習内容を正しく理解できる。	
		事前学修	学習内容について質問事項をまとめておくこと。	30分
		事後学修	学習努力が不足していた箇所を特定し、補う努力をすること。	30分
14	第一部 月12/21	授業内試験と解説	筆記試験を実施し、英語の運用能力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、英文理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月1/18	学習到達度の確認	試験の講評をし、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習到達度を確認できる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文の読解力を高める方法を整理すること。	30分

科目名	英検／IELTS IVA	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IVBを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級対策実践演習講座	Mary Chikayama、他	金星堂	2006	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/11	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/18	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/25	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/2	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/9	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/23	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	5/30	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/13	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/20	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/4	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/11	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS IVB	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IVAを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator(進行役)です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検 2 級対策実践演習講座	Mary Chikayama、他	金星堂	2006	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/26	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	10/3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/10	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/17	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/24	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/7	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/14	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/21	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	11/28	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/5	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/19	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	12/26	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	高田 宣子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
WordとPower Pointを使用できる学生は履修可能です。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
TOEFLタイプの問題を解きながら、各自の弱点をチェックします。また、英語スピーチあるいは異文化問題をテーマとする視覚教材を分析しながら、テーマや展開の工夫について実践的に学んでいきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。										1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜16：10～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス TOEFLの特徴について	はじめに一辞書と参考文献の紹介、評価基準について	
		この回の到達目標	TOEFLに必要な参考書やサイトを確認する。	
		事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
		事後学修	英語1分間プレゼンテーションのテーマを考えておく。	60分
2	4/17	TOEFLの傾向と対策	ボキャブラリー・チェック 英語会話表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	大枠のTOEFL出題傾向を確認する。	
		事前学修	英語1分間プレゼンテーションの原稿下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
3	4/24	授業で必要となるパワーポイントとワードの操作技術の確認	TOEFLリスニング対策、会話表現の習得。 パワーポイントとワードの操作テストを行う。	
		この回の到達目標	ワードとパワーポイントを使って英文を作成する技術を習得する。	
		事前学修	パワーポイントとワードの操作方法を確認しておく。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
4	5/1	TOEFL復習文法テスト	TOEFLリスニング対策、文法復習チェック、ボキャブラリー・チェック	
		この回の到達目標	リスニング対策、文法復習チェックを行う。 あるテーマについて英語で1分間話すための技術を習得する。	
		事前学修	文法ワークシートの確認 英文原稿の推敲を行う。	60分
		事後学修	英文原稿の修正を行う。 復習テストの確認	60分
5	5/8	TOEFL長文 傾向と対策	TOEFLの長文問題の傾向と対策 英語表現練習 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の到達目標	TOEFLの長文の特徴を学び、テーマを読み取る技術を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分
6	5/15	TOEFLリスニング 傾向と対策	TOEFLのリスニング演習 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の到達目標	英語1分間スピーチとコメント交換 TOEFLのリスニングの特徴を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	TOEFLのライティングについて その1	TOEFLライティングの構成と特徴について（応用編）	
		この回の到達目標	英文ライティングの際に必要な構成展開について学ぶ。	
		事前学修	発表のパワーポイントを構成を考慮しておく。	60分
		事後学修	発表のパワーポイントを修正する。	60分
8	5/29	TOEFLのライティングについて その2	段落構成と展開の工夫について学ぶ（応用編） TOEFLイディオムチェック（応用編） 英語で意見を述べるための表現について	
		この回の到達目標	説明を行うために役立つ英語の慣用表現を習得し、英語で意見を展開するための基礎的な方法を学ぶ。	
		事前学修	原稿の下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを見直し、パワーポイントを修正する。	60分
9	6/5	Listening対策聞き取りのコツについて その1	各パートの傾向と対策を行う。 TOEFLイディオムのチェック パワーポイントで用いる英語についての注意点	
		この回の到達目標	視覚的な工夫と一つのテーマに沿って意見を展開するため工夫について学ぶ。	
		事前学修	パワーポイントを修正する。	60分
		事後学修	プリントを見直し、パワーポイントを修正する。	60分
10	6/12	Listening対策聞き取りのコツについて その2	各パートの傾向と対策を行う。 英語スピーチの構成展開と表現の確認	
		この回の到達目標	TOEFLの問題傾向と対策を確認し、英語スピーチのの段取りの最終確認を行う。	
		事前学修	英語スピーチのテーマを修正する。 配布プリントを確認する。	60分
		事後学修	ワークシートを修正する。 プリントを見直す。	60分
11	6/19	復習テストと確認。	TOEFLの復習テスト（英文読解とリスニング） 英語スピーチの内容確認。質疑応答。	
		この回の到達目標	文法と長文読解のレベルと今後の学習課題を確認する。 英語プレゼンテーションに向けての問題点を解決する。	
		事前学修	これまでのプリントを見直す。	60分
		事後学修	英語スピーチのワークシートを修正する。	60分
12	6/26	TOEFL長文出題の傾向と対策（応用編）学生による英語プレゼンテーションとコメント交換	長文のテーマで中級程度の難易度のテキストを取りあげて、傾向を分析する。 学生による英語コメント交換	
		この回の到達目標	ある程度の長さの英文を短い時間で読むためのコツを学ぶ。 英語スピーチを聞いて、発表の内容について意見を英語で伝えるための表現を習得する。	
		事前学修	配布プリントを読んでおく。	60分
		事後学修	パワーポイントを作成する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	TOEFLリスニング問題の傾向と対策（応用編） 学生による英語プレゼンテーションとコメント交換	中級程度の会話文あるいはある程度の長さの会話文の聞き取りの練習	
		この回の到達目標	英語会話文を聞いて、さらにコメントを英語で話すための表現を身に着ける。	
		事前学修	配布プリントの表現集を読んでおく。	60分
		事後学修	まとめの試験に備えて配布プリントの表現内容を確認しておく。	60分
14	7/10	TOEFLライティングの演習（応用編）	30分で200ワード以上を目標に英文を書いてみる。 その際の問題点について確認する。	
		この回の到達目標	短時間で英語で書くための表現を身に着ける。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	チェックを受けた英文を修正する。	60分
15	7/17	総評とテストならびに質疑応答	総まとめと復習テスト レポートの最終チェックと質疑応答	
		この回の到達目標	英文レポートの完成稿とプレゼンテーションの改訂版を仕上げる。	
		事前学修	英文レポートを作成する。	60分
		事後学修	テスト解答を確認する。	60分

科目名	TOEFL I A	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
授業では教科書を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。適宜小テストを行い、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで発話練習、会話練習を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
村尾純子，深山晶子，野ロジュディー	VOAで学ぶ最先端技術とPBL基礎演習	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	TOEFL ITPの解説	ガイダンス、読解力のチェック、TOEFL ITPの解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	TOEFLを勉強する目標をたてておく。これまで使用した英語の単語集、文法解説書をまとめておく。	30分
		事後学修	教科書を準備して音声をダウンロードする。授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	第一部火 4/14	顔認証システムに関する文章の読解、主語と動詞	教科書 Unit 1「顔認証システム」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：主語と動詞。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。主語と動詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
3	第一部火 4/21	教科書ユニット2、文法：不定詞	教科書 Unit 2「AI時代に生き残る方法」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：不定詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。不定詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
4	第一部火 4/28	教科書ユニット3、文法：動名詞	教科書 Unit 3「VRが変える医療」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：動名詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。動名詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
5	第一部火 5/5	教科書ユニット4、文法：助動詞	教科書 Unit 4「都市型農業の未来」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：助動詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。助動詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
6	第一部火 5/12	教科書ユニット5、文法：受動態	教科書 Unit 5「日本の伝統芸がNASAで大活躍」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：受動態	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。受動態の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	教科書ユニット6、文法：後置修飾語句	教科書 Unit 6「ロボットが高齢社会をアシスト」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：後置修飾語句	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。後置修飾語句の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
8	第一部火 5/26	教科書ユニット7、文法：現在完了	教科書 Unit 7「金属のリサイクル」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：現在完了	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。現在完了の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
9	第一部火 6/2	教科書ユニット8、文法：主語と動詞の呼応	教科書 Unit 8「進化するカメラ」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：主語と動詞の呼応	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。主語と動詞の呼応の関係を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
10	第一部火 6/9	教科書ユニット9、文法：代名詞	教科書 Unit 9「蚊との戦い」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：代名詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。代名詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
11	第一部火 6/16	教科書ユニット10、文法：比較	教科書 Unit 10「次世代VRの世界」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：比較	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。比較の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
12	第一部火 6/23	TOEFLリスニング問題の演習パートA	TOEFLリスニング問題の演習 パートA (Short Conversations)：言い換え、肯定文と否定文、受動態と能動態、場面を類推する、同意の表現、提案の表現を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	TOEFLリスニング問題の演習 パートB	TOEFLリスニング問題の演習 パートB (Long Conversations)：疑問文の種類、トピック、答えの順番を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
14	第一部火 7/7	TOEFLリスニング問題の演習 パートC	TOEFLリスニング問題の演習 パートC (Long Talks) 疑問文の種類、トピック、答えの順番を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出するトークを聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
15	第一部火 7/14	前期の振り返り	授業内試験及び前期の学習内容の振り返り。TOEFL ITPの模擬テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、模擬テストで間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニン グ	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	いいずな書店編集部	いいずな書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日・金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 金4/10	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	第一部 火4/14 金4/17	動詞と文型 (1)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型 (1) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型 (1) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 火4/21 金4/24	動詞と文型 (2)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型 (2) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型 (2) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	第一部 火4/28 金5/1	接続詞 (1)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46（接続詞 (1) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46（接続詞 (1) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	第一部 火5/5 金5/8	接続詞 (2)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47（接続詞 (2) ）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47（接続詞 (2) ）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	第一部 火5/12 金5/15	TOEFL ITP対策 (1) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 金5/22	TOEFL ITP対策 (2) 語彙・読解	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check! (p.16-18) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check! (p.16-18) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	第一部 火5/26 金5/29	名詞	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38 (名詞) のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38 (名詞) のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	第一部 火6/2 金6/5	TOEFL ITP対策 (3) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.26-27) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.26-27) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	第一部 火6/9 金6/12	TOEFL ITP対策 (4) リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills!, Speaking, Vocabulary Check! (p.22-25) の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のVocabulary Check! (p.25) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	第一部 火6/16 金6/19	仮定法 (1)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28 (仮定法 (1)) のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28 (仮定法 (1)) のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	第一部 火6/23 金6/26	仮定法 (2)	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 29 (仮定法 (2)) のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 29 (仮定法 (2)) のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 金7/3	仮定法（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 30（仮定法（3））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 30（仮定法（3））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	第一部 火7/7 金7/10	TOEFL ITP対策（5）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New medicine）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.31-33）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New medicine）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.31-33）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	第一部 火7/14 金7/17	TOEFL ITP対策（6）語彙・読解	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New Medicine）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check!（p.28-30）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New Medicine）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check!（p.28-30）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
上記資格試験の受験と結果を成績評価に含めます。原則TOEFL I Bと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎時間、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業時に、授業テーマ、学習項目に関する英作文に取り組んで発表したり、読解問題の解法をクラスで発表したりするTask-based learningにも取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験の内容について、期末試験実施日の授業時間にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topics and Tactics for the TOEFL Test	J, Knudsen and K. Namai	Nan’ un-do	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前（授業後等）に対面でアポイントメントを入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	オリエンテーション、教科書の導入、練習問題および解説	コースの到達目標、授業の進め方、英語圏の大学への留学に必要な4技能、特に、リーディング・スキルとリスニング・スキルについて理解する。コースの導入として、学術英語のテキストの読解に取り組み、内容と読解方法についての解説を聞く。	
		この回の到達目標	英語圏の大学への留学に必要な学術英語に関するスキルについて理解する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルについて理解する。練習問題に取り組み、このコースの学習方法を覚える。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（10分） Unit 1のリスニングを行い、英文テキストを読んでくる。（30分）	40分
		事後学修	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	4月17日	批判的思考と読書	Unit1 批判的思考と読書について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit 1 のリスニングを行い、英文テキストを読み、全ての問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
3	4月24日	エッセイのタイプとストラテジー	Unit2 エッセイのタイプとストラテジーについて、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit2の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
4	5月1日	フィクションと演劇の初歩	Unit3 フィクションと演劇の初歩について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
5	5月8日	社会学と宗教	Unit4 社会学と宗教について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
6	5月15日	P T S D	Unit5 P T S Dについて、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit5の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	ビジネスの転換	Unit6 ビジネスの転換について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit6の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
8	5月29日	動物園：賛成と反対	Unit7 動物園：賛成と反対について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit7の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
9	6月5日	エネルギーとエネルギー資源	Unit8 エネルギーとエネルギー資源について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit8の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
10	6月12日	コウモリ	Unit9 コウモリについて、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit9の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
11	6月19日	靴墨工場	Unit10 靴墨工場について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit10の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
12	6月26日	哲学と良い人生	Unit11 哲学と良い人生について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit11の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月3日	パナマ運河		Unit12 パナマ運河について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit12の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
14	7月10日	期末試験および振り返り		授業内期末試験及び振り返り
		この回の到達目標	第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Unit11-12の学習内容を確認、復習する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを試験で発揮できるように、復習する。（90分）	90分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
15	7月17日	アパルトヘイトの終焉		Unit13 アパルトヘイトの終焉について、基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Unit13の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。（30分）	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	高田 宣子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
WordとPower Pointを使用できる学生は履修可能です。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
TOEFLタイプの問題を解きながら、各自の弱点をチェックします。また、英語スピーチあるいは異文化問題をテーマとする視覚教材を分析しながら、テーマや展開の工夫について実践的に学んでいきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜16：10～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス TOEFLの特徴とスコア アップについて	はじめに一辞書と参考文献の紹介、評価基準について	
		この回の 到達目標	TOEFLに必要な参考書やサイトを確認する。	
		事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
		事後学修	プリントを確認しておく。	60分
2	4/17	TOEFLの傾向と対策 応用編	ボキャブラリー・チェック（中級程度） やや応用的な英語会話表現を学ぶ。	
		この回の 到達目標	大枠のTOEFL出題傾向を確認する。	
		事前学修	英語1分間プレゼンテーションの原稿下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
3	4/24	授業で必要となるパワーポ イントとワードの操作技術 の確認	TOEFLリスニング対策、会話表現の習得。 パワーポイントとワードの操作テストを行う。	
		この回の 到達目標	ワードとパワーポイントを使って英文を作成する技術を習得する。	
		事前学修	パワーポイントとワードの操作方法を確認しておく。	60分
		事後学修	プリントを確認する。	60分
4	5/1	TOEFL復習文法テスト （中級程度）	TOEFLリスニング対策、文法復習チェック、ボキャブラリー・チェックを行い、自分の弱点 を確認する。	
		この回の 到達目標	リスニング対策、文法復習チェックを行う。 あるテーマについて英語で1分間話すための技術を習得する。	
		事前学修	文法ワークシートの確認 英文原稿の推敲を行う。	60分
		事後学修	英文原稿の修正を行う。 復習テストの確認	60分
5	5/8	TOEFL長文 傾向と対策（中 級編）	TOEFLの長文問題の傾向と対策（ジャンル別に検証する） 英語表現練習 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の 到達目標	TOEFLの長文の特徴を学び、テーマを読み取る技術を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分
6	5/15	TOEFLのリスニング 傾向と 対策	TOEFLのリスニング演習（短い会話と長い会話） 英語1分間スピーチとコメント交換	
		この回の 到達目標	英語1分間スピーチとコメント交換 TOEFLのリスニングの特徴を学ぶ。	
		事前学修	プリントを予習しておく。	60分
		事後学修	プリントを復習しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	TOEFLのライティングについて その1	TOEFLライティングの構成と特徴について（応用編）学ぶ。 テーマに必要な語彙を習得する	
		この回の到達目標	英文ライティングの際に必要な構成展開について学び、より適切な単語表現を習得する。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	表現集を確認しておく。	60分
8	5/29	TOEFLのライティングについて その2	段落構成と展開の工夫について学び、語彙を工夫する。（応用編） TOEFLイディオムチェック（応用編） 英語で意見を述べるための表現について	
		この回の到達目標	説明を行うために役立つ英語の慣用表現を習得し、英語で意見を展開するための応用的な方法を学ぶ。	
		事前学修	原稿の下書きを作成する。	60分
		事後学修	プリントを見直し、パワーポイントを修正する。	60分
9	6/5	Listening対策聞き取りのコツについて その1	聞き取りの苦手な部分をポイントごとに確認し、対策と演習を行う。	
		この回の到達目標	英文の速度に慣れ、流れをつかめるようにする。	
		事前学修	プリントを確認する。	60分
		事後学修	プリントを見直す。	60分
10	6/12	Listening対策聞き取りのコツについて その2	前回の授業で特に問題のあった（日本人にとって苦手な）部分を集中的に扱う。 会話の内容について英語でまとめられるようにする。	
		この回の到達目標	TOEFLの問題傾向と対策を確認し、英語スピーチの段取りの最終確認を行う。	
		事前学修	配布プリントを確認する。	60分
		事後学修	ワークシートを修正する。 プリントを見直す。	60分
11	6/19	復習テストと確認。	TOEFLの復習テスト（英文読解とリスニング） 英語スピーチの内容確認。質疑応答。	
		この回の到達目標	文法と長文読解のレベルと今後の学習課題を確認する。 英語プレゼンテーションに向けての問題点を解決する。	
		事前学修	これまでのプリントを見直す。	60分
		事後学修	英語スピーチのワークシートを修正する。	60分
12	6/26	TOEFL長文出題の傾向と対策（応用編）	長文のテーマで中級程度の難易度のテキストを取りあげて、傾向を分析する。 学生による英語コメント交換	
		この回の到達目標	ある程度の長さの英文を短い時間で読むためのコツを学ぶ。 内容について意見を英語で伝えるための表現を習得する。	
		事前学修	配布プリントを読んでおく。	60分
		事後学修	パワーポイントを作成する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	TOEFLリスニング問題の傾向と対策（応用編） 学生によるコメント交換	中級程度の会話文あるいはある程度の長さの会話文の聞き取りの練習	
		この回の到達目標	英語会話文を聞いて、さらにコメントを英語で話すための表現を身に着ける。	
		事前学修	配布プリントの表現集を読んでおく。	60分
		事後学修	まとめの試験に備えて配布プリントの表現内容を確認しておく。	60分
14	7/10	TOEFLライティングの演習（応用編）	30分で220ワード以上を目標に英文を書いてみる。 その際の問題点について確認する。	
		この回の到達目標	短時間で英語で書くための表現を身に着ける。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	チェックを受けた英文を修正する。	60分
15	7/17	総評とテストならびに質疑応答	総まとめと復習テスト レポートの最終チェックと質疑応答	
		この回の到達目標	英文レポートの完成稿とプレゼンテーションの改訂版を仕上げる。	
		事前学修	英文レポートを作成する。	60分
		事後学修	テスト解答を確認する。	60分

科目名	TOEFL I B	担当者	堀 千和子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL IAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
授業では教科書を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。適宜小テストを行い、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークで発話練習、会話練習を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験、採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
村尾純子，深山晶子，野ロジュディー	VOAで学ぶ最先端技術 とPBL基礎演習	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業 関連の連絡は大学ポータルを使用します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	TOEFL ITPの解説	TOEFL-iBTの概要，事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	TOEFLを勉強する今期の目標をたてておく。シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	30分
2	第一部火 9/22	教科書ユニット11、文法：並列構造	教科書 Unit 11「昼寝の効果」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：並列構造	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。英文中の並列構造を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
3	第一部火 9/29	教科書ユニット12、文法：関係副詞	教科書 Unit 12「進化するスマートフォンアップ」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：関係副詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。関係副詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
4	第一部火 10/6	教科書ユニット13、文法：同格	教科書 Unit 13「がん細胞を光らせる」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：同格	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。同格を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
5	第一部火 10/13	教科書ユニット14、文法：品詞	教科書 Unit 14「宇宙にAIが行く時代」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：品詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。品詞を識別することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
6	第一部火 10/20	教科書ユニット15、文法：分詞構文	教科書 Unit 15「コウモリが教える老化の意味」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：分詞構文	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。分詞構文の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	教科書ユニット16、文法：同一句内の語順	教科書 Unit 16「電池のいらない携帯電話」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：同一句内の語順	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。同一句内の語順を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
8	第一部火 11/10	教科書ユニット17、文法：接続表現	教科書 Unit 17「星は死ぬのか」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：接続表現	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。接続表現を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
9	第一部火 11/17	教科書ユニット18、文法：冠詞・限定詞	教科書 Unit 18「コーヒーがロンドンを変える」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：冠詞・限定詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。冠詞と限定詞を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
10	第一部火 11/24	教科書ユニット19、文法：前置詞	教科書 Unit 19「驚異の天然材料」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：前置詞	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。前置詞の機能を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
11	第一部火 12/1	教科書ユニット20、文法：否定	教科書 Unit 20「インターネットの未来は？」内容把握と文法事項の確認。TOEFL文法問題：否定	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。英文の否定を説明することができる。	
		事前学修	新出単語を調べ、教科書のリーディングに目を通す。	30分
		事後学修	E-learning exerciseをする。文法問題を復習する。	30分
12	第一部火 12/8	TOEFLリスニング問題の演習パートA	TOEFLリスニング問題の演習 パートA (Short Conversations)：言い換え、肯定文と否定文、受動態と能動態、場面を類推する、同意の表現、提案の表現を中心に	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	TOEFLリスニング問題の演習 パートB	TOEFLリスニング問題の演習 パートB (Long Conversations)：疑問文の種類、トピック、答えの 順番を中心に	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
14	第一部火 12/22	TOEFLリスニング問題の演習 パートC	TOEFLリスニング問題の演習 パートC (Long Talks) 疑問文の種類、トピック、答えの順番を中 心に	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出するトークを聞き取り、理解することができる。	
		事前学修	事前に配布されたプリントでわからない単語・熟語を調べる。	30分
		事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読する。	30分
15	第一部火 1/12	後期の振り返り	授業内試験及び後期の学習内容の振り返り。TOEFL ITPの模擬テスト	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、模擬テストで間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニング	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	いいずな書店編集部	いいずな書店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日・金曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 金9/18	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	第一部 火9/22 金9/25	助動詞（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 火9/29 金10/2	助動詞（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	第一部 火10/6 金10/9	助動詞（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	第一部 火10/13 金10/16	TOEFL ITP対策（1）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	第一部 火10/20 金10/23	TOEFL ITP対策（2）リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.34-37) の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のVocabulary Check! (p.34-37) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 金10/30	比較（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	第一部 火11/10 金11/6	比較（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	第一部 火11/17 金11/13	比較（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	第一部 火11/24 金11/20	TOEFL ITP対策（3）文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.43-45）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.43-45）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	第一部 火12/1 金11/27	TOEFL ITP対策（4）読解・語彙	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary（p.40-42）の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05（The American Insurance System）のTry the TOEFL Test!, Vocabulary（p.40-42）を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	第一部 火12/8 金12/4	副詞	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseの解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 金12/11	TOEFL ITP対策 (5) 文法	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) の解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	第一部 火12/22 金12/18	TOEFL ITP対策 (6) リスニング・スピーキング	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.46-49) の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のVocabulary Check! (p.49) を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	第一部 火1/12 金12/25	TOEFL ITP対策 (7) 模擬試験	TOEFL-ITPの模擬試験とその解説 (1)。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を復習し、模擬試験に備えておく。	30分
		事後学修	模擬試験の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	村松 直子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
上記資格試験の受験と結果を成績評価に含めます。原則TOEFL I Aと通年で履修してください。

【授業方法】
演習方式。毎時間、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業時に、授業テーマ、学習項目に関する英作文に取り組んで発表したり、読解問題の解法をクラスで発表したりするTask-based learningにも取り組む。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末試験の内容について、期末試験実施日の授業時間にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Boost Your English 1 Practice for TOEFL ITP	M. Shishido et al.	Seibido	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前（授業後等）に対面でアポイントメントを入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	オリエンテーション、教科書の導入、練習問題および解説	コースの到達目標、授業の進め方、英語圏の大学への留学に必要な4技能、特に、リーディング・スキルとリスニング・スキルについて理解する。コースの導入として、学術英語のテキストの読解に取り組み、内容と読解方法についての解説を聞く。	
		この回の到達目標	英語圏の大学への留学に必要な学術英語に関するスキルについて理解する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルについて理解する。練習問題に取り組み、このコースの学習方法を覚える。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（10分） Unit 1のリスニングを行い、英文テキストを読んでくる。（30分）	40分
		事後学修	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	9月25日	Module 1 Lesson 1 & 3 Understanding agreement and disagreement	agreement and disagreementに関連する基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 1 Lesson 1, 3 の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
3	10月2日	Module 1 Lesson 2 & 4 Understanding gist	学術英語のリスニングやリーディングのgist questionsに対応するために語彙と英語表現の知識を増やし、リスニング力、読解力を高める。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 1 Lesson 2 & 4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
4	10月9日	Module 1 Lesson 5 & 6 Understanding purposes	学術テキストの長文読解を行い、その目的を正確に把握するための語彙、表現とスキルを身につける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 1 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
5	10月16日	Module 2 Lesson 1 & 3 Understanding negatives	negativesの様々な使い方と関連する語彙、表現を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 2 Lesson 1 & 3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
6	10月23日	Module 2 Lesson 2 & 4 Understanding specific information	学術英語のリスニングやリーディングのspecific informationに対応するために語彙と英語表現の知識を増やし、リスニング力、読解力を高める。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 2 Lesson 2 & 4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	Module 2 Lesson 5 & 6 Understanding pronoun reference	学術テキストの長文読解を行い、冠詞や代名詞が何を意味するのか的確に把握するために、名詞、代名詞の単数、複数形に注意する力をつける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 2 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
8	11月6日	Module 3 Lesson 1 & 3 Understanding idiomatic expressions	idiomatic expressions に関連する基本的な語彙と学術知識を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 3 Lesson 1 & 3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
9	11月13日	Module 3 Lesson 2 & 4 Understanding implication	学術英語のリスニングやリーディングのimplicationに対応するために語彙と英語表現の知識を増やし、リスニング力、読解力を高める。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 3 Lesson 2 & 4の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
10	11月20日	Module 3 Lesson 5 & 6 Understanding unfamiliar words	学術テキストの長文読解を行い、冠詞や代名詞が何を意味するのか的確に把握するために、unfamiliar wordsの意味を前後の文脈から把握する力をつける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 3 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
11	11月27日	Module 4 Lesson 1 & 3 Understanding wishes and the conditional	wishes and the conditionalの様々な使い方と関連する語彙、表現を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 4 Lesson 1 & 3の問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
12	12月4日	Module 4 Lesson 2 & 4 Present modals	Present modalsの様々な使い方と関連する語彙、表現を身に付け、同分野に関する講義やテキストの要点を素早く正確に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 4 Lesson 2 & 4 問題を解いてくる。（40分）	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	Module 4 Lesson 5 & 6 Understanding attitude	学術テキストの長文読解を行い、その意味を正確に把握するために、筆者がテキストの中でどのようなattitudeを示しているか把握する力をつける。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	Module 4 Lesson 5 & 6の問題を解いてくる。（40分）	60分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
14	12月18日	期末試験 授業の振り返り	授業内期末試験	
		この回の到達目標	第13回までの授業で学んだことを習得し、期末試験で実力を発揮する。	
		事前学修	Module 1-4の学習内容を確認、復習する。講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを試験で発揮できるように、復習する。（90分）	120分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）	30分
15	12月25日	期末試験の解説、授業の総括	期末試験問題の解説を聞き、このコースで学習した重要項目の習得程度の確認を行うとともに、復習すべき箇所あるいは今後の学習課題を明白にする。	
		この回の到達目標	授業テーマに関する学術英語の基本的な語彙と学術知識を身に付けると共に、講義のListening、paragraph reading、skimming、scanning、note-taking、critical thinking等のスキルを習得する。併せて、学術英語でよく用いられる表現、構文、文章構造、論理構造も把握する。	
		事前学修	期末試験で解けなかった問題がある場合は、教科書や英語参考書で該当項目の復習をしてくる。（40分）	40分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。今後の学習課題を明白にする。（30分）	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL IBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL-ITPを受験すること（受験料は受講者負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点され次の回に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLの初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLに向けた各自の英語学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を概観しておく。	10分
		事後学修	初期演習の復習を行う。	30分
2	4/13	・TOEFL実践的演習(1) ・多義語の演習	・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を精読し、それに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLリーディングの設問の諸々の傾向を把握し、何が問われているかを理解し、対応できる。	
		事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の意味を復習し、覚える。	30分
3	4/20	・TOEFL実践的演習(2) ・重要単語の用法の演習	・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の理解を深める演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の用法が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting（後半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「重要単語」の復習を行う。	30分
4	4/27	・TOEFL実践的演習(3) ・前置詞の用法の演習	・テキストChapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(前半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の用法」の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の用法が重要単語の用法ができる。	
		事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「前置詞の用法」の復習を行う。	30分
5	5/4	・TOEFL実践的演習(4) ・接頭辞から語彙を増やす演習	・Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(後半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・接頭辞から語彙を増やす演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。接頭辞から語彙を増やすことができる。	
		事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（後半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した接頭辞、および新しい語彙を復習し、覚える。	30分
6	5/11	既習内容の総復習(1)	Chapter 1～2の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の小テストを行う。その解答・解説を通じて、各自の学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストおよびその解答・解説を通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。	
		事前学修	Chapter 1～2を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	・TOEFL実践的演習(5) ・word formの演習	・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLにおける word formに関連した問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。word formに関連した問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。TOEFLの word formの問題をもう一度解いてみる。	30分
8	5/25	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出「重要単語」の意味・用法	・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味・用法を理解する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が判別できる。	
		事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger（後半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
9	6/1	・TOEFL実践的演習(7) ・多義語の意味判別の演習	・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語の意味を復習し、覚える。	30分
10	6/8	・TOEFL実践的演習(8) ・多義語の知識を増やす演習	・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の知識を増やす演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums（後半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語を復習し、覚える。	30分
11	6/15	既習内容の総復習(2)	テキストChapter 3～4の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の小テストを行う。その解答・解説を通じて、各自の学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストおよびその解答・解説を通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。	
		事前学修	Chapter 3～4を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
12	6/22	・TOEFL実践的演習(9) ・読解における多義語の意味判別の演習	・テキストChapter 5: Double Edged Net（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の意味を理解・判別する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 5: Double Edged Net（前半）を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語の意味を復習し、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	・TOEFL実践的演習(10) ・TOEFL「重要単語」の意味・用法	・テキストChapter 5: Double Edged Net (後半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が理解できる。	
		事前学修	Chapter 5: Double Edged Net (後半) を予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
14	7/6	・TOEFL実践的演習(11) ・重要な「前置詞」の意味・用法	・テキストChapter 6: The Issues of Oceansに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の意味・用法」の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の意味・用法が理解・判別できる。	
		事前学修	Chapter 6: The Issues of Oceansを予習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「前置詞の用法」の復習を行う。	30分
15	7/13	既習内容の総復習(3)	テキストChapter 5～6の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の小テストを行う。その解答・解説を通じて、各自の学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストおよびその解答・解説を通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。	
		事前学修	Chapter 5～6を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。 今学期の学習を踏まえて、各自の弱点等を認識し、今後の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL-ITPを前期に一回以上受験すること、評価に反映します。英和和英辞書は必須です。電子辞書も可。携帯、スマートフォンの使用は固く禁じます。

【授業方法】
長文を速読して英語の速読力をつけていきましょう。TOEFL-ITPの過去問を本番と同じ条件で半期に一度行います。解いた過去問は返却し、解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Read, Read, Read 英文速読と理解のための実践演習』	宮崎充保	成美堂	17		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金4/10	オリエンテーションと Placement Test	オリエンテーション 重要な説明をしますので、必ず出席してください。 Placement Test、est1, Test2, Test3。授業の予習について、TOEFLの特徴と種類について TOEICとの違いについて確認、成績に着け方についての説明。様々な留学の方法について紹介。	
		この回の到達目標	オリエンテーションと Placement Testを行います。1分間に何単語を読めるのかを計り、今後の目標と学習計画を立てていきます。また、ネットを通して復習する方法を伝えます。	
		事前学修	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスに事前に目を通して、質問があれば準備しておいてください。	30分
		事後学修	今後のTOEFLITPテスト日を確認しておくこと。教科書を準備して、事前にシラバスと照らし合わせて確認してください。 TOEFLとTOEICの違いや、留学に必要な条件についても確認しましょう。	30分
2	金4/17	Register What It Looks Like	Unit 1 Register What It Looks Like Test1, Test2, Test3の重要表現の確認をします。 Unit1 Warm Upの復習。	
		この回の到達目標	単語は形で認識できる	
		事前学修	Placement Test、1, 2, 3の重要表現の確認 事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit 1 Register What It Looks Like の単語を復習してください。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
3	金4/24	Eye Movement (1)	Unit 1 Register What It Looks Like 単語は形で認識できるように練習しましょう Unit 2 Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right” 自分がどのくらいの速度で読めるのかを確認しましょう。	
		この回の到達目標	Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right” 目を動かす(1) : 目は左→右へ動かす	
		事前学修	Unit 1 Register What It Looks Like の単語を復習してください。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。単語は事前に調べなくてもよいです。初見でどのくらい読めるか、速読できるかを調べます。	30分
		事後学修	Unit1 P16-P20の練習1-6を復習すること。授業内で習った単語を覚えてください。	30分
4	金5/1	Eye Movement (1)	Unit 2 : “Move Your Eyes from Left to Right” 自分がどのくらいの速度で読めるのかを確認しましょう。	
		この回の到達目標	Expand Your Eye: “Eye Span” 視野を広げて: アイ・スパン、一目で見られる範囲を広げて読むことができる。ある程度の数の単語をまとめて読むことができる。	
		事前学修	Unit 2の要点をノートにまとめること。Unit 1の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	前回の復習, Today’s passageの重要表現の確認及び、Unit 2 重要表現をまとめること。授業内で習った単語を再度確認して覚えてください。	30分
5	金5/8	Eye Movement (2): “by Skipping Words	Unit 2 Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right” Unit 3 Expand Your Eye: “Eye Span” 速度に着目して速読します。	
		この回の到達目標	視野を広げて: アイ・スパン 一目で見られる範囲を広げて、ある程度の数の単語をまとめて読むことができる。	
		事前学修	Unit 2 重要表現をまとめること。Unit 2の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Develop Your Vocabulary Unit3 Warm Up, 授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
6	金5/15	Eye Movement (2)	Unit 3 Expand Your Eye: “Eye Span” Unit 4 Eye Movement 速度に注目して速読します。 意味の小さい語は飛ばして読むことができる。	
		この回の到達目標	“by Skipping Words with Little Meaning” 目を動かす(2) : 意味の小さい語は飛ばすして読むことで、速度を上げることができる。	
		事前学修	Unit2 P26-P28の練習1-6を復習すること。Unit 3の単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
		事後学修	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金5/22	Eye Movement (2)	Unit 4 Eye Movement (2): “by Skipping Words with Little ” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語をかたまりとしてとらえる練習をしています。	
		この回の到達目標	速読の最も基礎的なテクニックである、単語を固まりとしてとらえ、そして小さい意味の単語を飛ばし読みできる。	
		事前学修	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。該当Unit 4の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit3 P34-P38の練習1-9を復習すること。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
8	金5/29	Find it Quickly (1)	Unit 4 の復習、そしてUnit 5 Find it Quickly: “Scanning” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしています。	
		この回の到達目標	Find it Quickly: “Scanning” キーワードを速く見つけるため、スキヤニングテクニックを理解する。	
		事前学修	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。該当Unit 4の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Develop Your Vocabularyの確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
9	金6/5	Find it Quickly (2)	Unit 5 Find it Quickly: “Scanning” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしています。	
		この回の到達目標	Find it Quickly: “Scanning” キーワードを速く見つけるため、スキヤニングテクニックを駆使して早く読むことができる。	
		事前学修	Develop Your Vocabularyの確認。該当Unit 5の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit4 P46-P51の練習1-6を復習すること。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
10	金6/12	Get It Chunk by Chunk (1)	Unit 6 Get It Chunk by Chunk Unit7 Warm Up 速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。	
		この回の到達目標	Unit 6 Get It Chunk by Chunk 英語のかたまりで意味を把握する。	
		事前学修	P68-77 理解度に応じて練習1-9のいくつかをpick upしておくので、練習してください。Develop Your Vocabularyを見て、単語を確認しておくこと。該当Unit 7の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit 5の重要単語の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
11	金6/19	Get It Chunk by Chunk (2)	Unit 6 Get It Chunk by Chunk 速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。	
		この回の到達目標	前期の後半の目標＜頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす＞ ことができる。	
		事前学修	Unit 5 の重要表現の確認。該当Unit 6の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	練習問題1-6, Develop Your Vocabularyをまとめておくこと。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
12	金6/26	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリーディングの過去問を本番同様の時間を使って試験を行います。	
		この回の到達目標	TOEFL TESTの過去問をといて、実践になれる。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をおしておくといいです。ネットや図書館で事前に頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめて置き、今後の対策をねること。学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金7/3	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリーディングの過去問を本番同様の時間を使って試験を行います。	
		この回の 到達目標	TOEFL TESTの過去問をとりて、実践になれる。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をおしておくと良いです。 ネットや図書館で事前に頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。頻出単語を覚えてください。	30分
14	金7/10	テストとまとめ	TESTおよびまとめ	
		この回の 到達目標	前期の授業で学習したことが身についているかをテストする。	
		事前学修	これまでの授業の復習をすること。 質問事項があればこの日までにまとめておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。間違えた箇所やあやふやな箇所はノートにまとめておきましょう。	30分
15	金7/17	試験の総括	時事英語に関するDVDを見聞きましょう。	
		この回の 到達目標	試験での不明な点を明らかにする。英語の動画をみて、英語に親しむ。	
		事前学修	これまでの授業の成果を見る為にネイティブの英語に触れてみましょう。あらかじめBBCやCNNなどのニュースを見ておきましょう。	30分
		事後学修	重要表現はまとめておきましょう。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IIBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験・期末試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL ITP	Mark D. Stafford & Chizuko Tsumatori	CENAGE Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10 - 13:00。詳細は第1回目の授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	授業の概要、成績評価方法、事前・事後学習の方法、TOEFL ITPの内容等について解説。グループ分けとチームビルディング・アクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式と授業の概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、目標・ふりかえりシートに英語学習における今学期の目標を記入する。	50分
2	4/15	Reading - Unit 01: Racial Discrimination Problem	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
3	4/22	Reading - Unit 01: 接続詞	接続詞に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
4	4/29	Listening - Unit 02: Short Conversations・名詞	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。名詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。また、到達目標②に関連して、名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。さらに、One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
5	5/6	Reading - Unit 03: The Discovery of a New Medicine	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
6	5/13	Reading - Unit 03: 仮定法	仮定法に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	中間試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期前半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期前半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期前半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
8	5/27	Listening - Unit 04: Looking for Reference Books in the Library	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
9	6/3	Listening - Unit 04: 助動詞	助動詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
10	6/10	Reading - Unit 05: American Insurance System	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
11	6/17	Reading - Unit 05: 比較	比較に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
12	6/24	Listening - Unit 06: Instructions on Class by a Professor	スピーチの解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スピーチの意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Listening - Unit 06: 副詞	副詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、副詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
14	7/8	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期後半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期後半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期後半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
15	7/15	講評とふりかえり	期末試験を返却し全体の傾向や間違いの多かった問題などを説明。グループで前期の目標・ふりかえりをシェアする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの程度身につけることができたか、自身をふりかえり適切に評価することができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「学期末のふりかえり」の部分を記入し、シートを完成させる。	30分
		事後学修	授業内でのふりかえりのシェアを参考に、今学期の英語学修の取り組みについて良かった点と悪かった点を改めて整理する。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストはすべて採点され次の回に返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～12:50、授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLに向けた初期演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLに向けた各自の英語学習法を考えることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。	10分
		事後学修	ガイダンス、および初期演習の復習を行う。	30分
2	9/21	・TOEFL実践的演習(1) ・TOEFL「重要構文」の演習	・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要構文」を見抜き、理解できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「重要構文」を見抜き、理解することができる。	
		事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「重要構文」の復習を行う。	30分
3	9/28	・TOEFL実践的演習(2) ・TOEFL頻出「多義語」の演習	・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の知識を広げる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「多義語」を的確に判別できる。	
		事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。	30分
4	10/5	・TOEFL実践的演習(3) ・英語の文体的特徴の演習	・テキストChapter 8: An Obsession with Possessionに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の文体的特徴（並列法、パラレリズム、対照法等）を理解する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の文体的特徴を認識できる。	
		事前学修	テキストChapter 8: An Obsession with Possessionの予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した文体的特徴の復習を行う。	30分
5	10/12	既習内容の総復習1	テキストChapter 7～8のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことができる。	
		事前学修	テキストChapter 7～8を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
6	10/19	・TOEFL実践的演習(4) ・TOEFL頻出「熟語の多義」の演習	・テキストChapter 9: Heading for a Crashに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「熟語の多義」を判別する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「熟語の多義」を識別できる。	
		事前学修	テキストChapter 9: Heading for a Crashの予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した熟語の多義を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	・TOEFL実践的演習(5) ・英語の「同綴異義語」の演習	・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の「同綴異義語」の意味を判別する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の「同綴異義語」を認識し、判別できる。	
		事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。	30分
8	11/9	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出word formsの演習	・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出するword formsの演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した内容に基づいて、適切なword formを選ぶようになる。	
		事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習したword formsの復習を行う。	30分
9	10/16	既習内容の総復習2		テキストChapter 9～10のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。	
		事前学修	テキストChapter 9～10を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
10	11/23	・TOEFL実践的演習(7) ・注意すべき「否定語」の演習	・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する注意すべき「否定語」を習得する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定語」を認識できる。	
		事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した注意すべき「否定語」の復習を行う。	30分
11	11/30	・TOEFL実践的演習(8) ・注意すべき「否定構文」の演習	・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英文において注意すべき「否定構文」を理解できるようになる演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定構文」を正確に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「否定構文」の復習を行う。	30分
12	12/7	・TOEFL実践的演習(9) ・注意すべき一見simpleな英語表現の演習	・テキストChapter 12: The Other Precious Liquid に関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英文において解釈に注意すべき一見simpleな英語表現を理解する演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき一見simpleな英語表現を的確に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 12: The Other Precious Liquidの予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した「注意すべき一見simpleな英語表現」の復習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	既習内容の総復習 3	テキストChapter 11～12のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。	
		事前学修	テキストChapter 11～12を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。	30分
14	12/21	・TOEFL実践的演習(10) ・注意すべき「熟語表現」の演習	・テキストChapter 12: The Other Precious Liquidに関するTOEFL形式の問題を解く ・TOEFLにおいて注意すべき「熟語表現」の理解を深める演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「熟語表現」を的確に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 14: Good Help, Bad Helpの予習を行う。 (*Chapter 13は飛ばします。)	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した注意すべき「熟語表現」の復習を行う。	30分
15	1/18	・TOEFL実践的演習(11) ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習	・テキストChapter 15: Are You Happy? に関するTOEFL形式の問題を解く ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」を適切に理解できる。	
		事前学修	テキストChapter 15: Are You Happy?の予習を行う。	60分
		事後学修	各自誤答した箇所を復習する。学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の復習を行う。 今学期学習した内容を振り返り、今後の自分の学習の方向性を考える。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
TOEFL-ITPを後期に一回以上受験することが履修の条件です。評価に反映しますので必ず受験して下さい。英和和英辞書は必須です。電子辞書も可。携帯、スマートフォンの使用は固く禁じます。

【授業方法】
演習形式で長文を速読して英語の速読力をつけていきましょう。単語を敢えて調べず初見で英語を速読することになれましょう。単語力に自信のない人は、事前に単語を調べても構いません。TOEFL-ITPの過去問を本番と同じ条件で半期に一度行います。解いた過去問は返却し、解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Read, Read, Read 英文速読と理解のための実践演習』	宮崎充保	成美堂	17		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	金9/18	ガイダンス及び前期の総復習	授業の予習について、TOEFLの特徴と種類について TOEICとの違いについて確認、成績に着け方についての説明。様々な留学の方法について紹介。
		この回の到達目標	これまでの授業を振り返り、速読のテクニックを復習し、後期の学習内容を確認して、学習計画と目標を設定する。
		事前学修	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスを事前に目をとおして教科書の該当箇所を確認しておきましょう。
		事後学修	今後のTOEFLITPテスト日を確認しておくこと。授業内で指示した単語を覚えてください。 TOEFL、TOEICの違いを確認しておきましょう。
2	金9/25	Find What Will Come After: “Prediction”	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” 様々な文章を初見で読みましょう。
		この回の到達目標	“Prediction” 後に続く表現を予測することができる。
		事前学修	Placement Test、1, 2, 3の重要表現の確認 事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。該当Unit 7の要点や目標を読んでおいてください
		事後学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の重要単語の復習をしてください。授業内で指示した単語を覚えてください。
3	金10/2	Imagine What Will Come After:	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” 様々な文章を初見で読みましょう。
		この回の到達目標	Imagine What Will Come After 後に続く表現を予測することができる。内容の予測を立てる。
		事前学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の重要単語の復習をしてください。該当Unit 8の要点や目標を読んでおいてください。
		事後学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の復習をしてください。授業内で指示した単語を覚えてください。
4	金10/9	WPSの確認	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” 速読に慣れてきたところで、WPSを確認しましょう。
		この回の到達目標	前期の初期からどの程度WPSがあがったのかを確認し、理解度をあげていく。
		事前学修	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” 該当Unit 8の要点や目標を読んでおいてください。 の復習をしてください。
		事後学修	前回の復習、Today’s passageの確認 Unit 8のまとめをすること、授業内で指示した単語を覚えてください。
5	金10/16	Read On and On without Turning Back (1)	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’re Lost” 長年の癖を直して、振り返りをしないようにする練習をしましょう。
		この回の到達目標	“Go Back Only When You’re Lost” Read On and On without Turning Turning Back 振り返りをしないでよむことができる。
		事前学修	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” のまとめをすること。該当Unit 9の要点や目標を読んでおいてください。
		事後学修	Develop you vocabularyの確認 Unit8の復習。授業内で指示した単語を覚えてください。
6	金10/23	Read On and On without Turning Back (2)	Unit 9 : “Go Back Only When You’re Lost” 振り返りをなくして、英文を読む速度を速めていくようにしましょう。
		この回の到達目標	一旦読み進めたところから、振り返りをしないように、一定の速度を保って読み続けることができる。
		事前学修	Unit8の復習および。該当Unit 9の要点や目標を読んでおいてください。
		事後学修	前回の復習, Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認。授業内で指示した単語を覚えてください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金10/30	Read On and On without Turning Back（3）	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” 多読をすることで、英文を読む速度を上げていきます。	
		この回の到達目標	読む速度を上げるため、多読を繰り返し行い、速度を上げる。	
		事前学修	該当Unit 9の要点や目標を読んでおいてください。 前回の復習, Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認	30分
		事後学修	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” を復習すること。 授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
8	金11/6	Read at Speed and Get the General Idea（1）	Unit 10 Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming” 意味を大まかにとらえ、スピードを速める練習をしましょう。	
		この回の到達目標	“Skimming” さっと大筋を掴む：意味を大まかに捉えて、英文のスキミングができるようになる。	
		事前学修	Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認。該当Unit 1 0の要点や目標を読んでおいてください。	30分
		事後学修	Unit 10のDevelop Your Vocabularyの確認。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
9	金11/13	Read at Speed and Get the General Idea（2）	Unit 10 Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming” p151－121練習問題1－11、Develop Your vocaburaly 読解スピードを速める練習をしましょう。	
		この回の到達目標	意味を大まかに捉えて、大筋をとらえる読み方で多読することで、読解スピードを大幅に上げることができる。	
		事前学修	該当Unit 1 0の要点や目標を読んでおいてください。Develop Your Vocabularyの確認	30分
		事後学修	Unit10を復習すること。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
10	金11/20	論理構成の把握と読みの実践	Unit11 意味を正確にとらえているか、演習形式で演習を通して確認しましょう。読む速度を確認し、これまでの達成度を確認しましょう。	
		この回の到達目標	How a Paragraph Is Made 段落構成法を理解する。これまでのテクニックを取り入れ、さらに最終的には段落の構成を理解して読むことができる。	
		事前学修	該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。Develop Your Vocabularyの確認	30分
		事後学修	Unit 11のDevelop Your Vocabularyをまとめておくこと。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
11	金11/27	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリーディングの過去問を行います。	
		この回の到達目標	TOEFL TESTの過去問を実際のテストと同じ条件で行い、テストの傾向を理解する。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとっておくと良いです。ネットや図書館などで頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。	30分
12	金12/4	TOEFL TEST まとめ	TOEFLのリスニングの過去問を行います。	
		この回の到達目標	TOEFL TESTの過去問を実際のテストと同じ条件で行い、テストの傾向を理解する。	
		事前学修	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとっておくと良いです。ネットや図書館などで頻出単語を確認しておきましょう。	30分
		事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金12/11	テストとまとめ	問題演習。前期の授業を総復習するため、問題を解いていきます。達成度をみてみましょう。	
		この回の到達目標	後期の授業で学んだことが理解できているかをテストする。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして準備すること。	30分
		事後学修	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。授業内で指示した単語を覚えてください	30分
14	金12/18	テストの総括	後期授業のまとめ。テストの解説および総括をします。	
		この回の到達目標	前期後期で学習した速読のテクニックをまとめる。テストの疑問点を明白にする。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして準備すること。	30分
		事後学修	不明な点を解説しますので、確認しましょう。授業内で指示した単語を覚えてください。	30分
15	金12/25	時事英語の動画	これまでの授業の成果をみるために、時事英語のDVDを見聞きましょう。	
		この回の到達目標	時事英語の動画を鑑賞して、英語のリスニングに親しむ。	
		事前学修	これまでの授業の成果を見る為にネイティブの英語に触れてみましょう。事前にBBCやCNNニュースを見ておくといいでしょう。	30分
		事後学修	重要表現はまとめておきましょう。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IIAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験・期末試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL ITP	Mark D. Stafford & Chizuko Tsumatori	CENAGE Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10 - 13:00。詳細は第1回目の授業にて連絡。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	オリエンテーション及び導入講義	授業の概要、成績評価方法、事前・事後学習の方法、TOEFL ITPの内容等について解説。グループ分けとチームビルディング・アクティビティを実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式と授業の概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、目標・ふりかえりシートに英語学習における今学期の目標を記入する。	50分
2	9/23	Reading - Unit 07: Financial Crisis	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
3	9/30	Reading - Unit 07: 関係詞	関係詞に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
4	10/7	Listening - Unit 08: Conversation between a Professor and a Student	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
5	10/14	Listening - Unit 08: 準動詞	準動詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、準動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
6	10/21	Reading - Unit 09: Native American・受動態	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。受動態に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。さらに到達目標②に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。さらにBuilding Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	中間試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期前半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期前半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期前半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
8	11/11	Listening - Unit 10: Civil War	講義の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで講義を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
9	11/18	Listening - Unit 10: 前置詞	前置詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前置詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
10	11/25	Reading - Unit 11: Environmental Problem	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
11	12/2	Reading - Unit 11: 現在完了	現在完了に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在完了に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
12	12/9	Listening - Unit 12: Astronomy	講義の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	CDで講義を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Listening - Unit 12: 疑問詞	疑問詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、疑問詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
14	12/23	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期後半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期後半の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期後半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
15	1/13	講評とふりかえり	期末試験を返却し全体の傾向や間違いの多かった問題などを説明。グループで後期をふりかえる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの程度身につけることができたか、自身をふりかえり適切に評価することができる。	
		事前学修	目標・ふりかえりシートの「学期末のふりかえり」の部分を記入する。	30分
		事後学修	授業内でのふりかえりのシェアを参考に、今学期の英語学修の取り組みについて良かった点と悪かった点を改めて整理する。	30分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL－ITPⅢBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL－ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
金曜日 8：30から8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に、教室または教員室で対応。メールアドレスについては授業内で連絡します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	TOEFLとはどのような試験なのか。	他の資格試験と比較しながらTOEFL－ITPについて解説し、授業方法、評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL－ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し学習の計画を立てる。	30分
2	第一部金 4/17	TOEFLの解説①（§ 1 Listening）	リスニングの問題の傾向の演習と解説。リスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、リスニングの問題の傾向を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の授業で配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。	30分
		事後学修	授業で使用されたプリントの語彙・文法事項を復習する。	30分
3	第一部金 4/24	TOEFL の解説②（§ 2 Structure and Written Expression）	TOEFL－ITPの文法問題の傾向の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法問題の傾向を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	配布されたプリント 1（心理学関連の英文）の語彙と文法の重要点を調べる。	30分
		事後学修	プリント1の語彙を覚え、内容の確認と文法事項の復習をする。	30分
4	第一部金 5/1	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）、プリント 1（心理学）演習①：語彙・イディオム、専門分野の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、心理学分野の語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント 1（心理学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
5	第一部金 5/8	リスニング：Part A、リーディング（心理学）演習②	リスニングPart A の傾向（話の核となるキーワード）、プリント 1（心理学）の演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングPart A の傾向と心理学関係の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント 1（心理学）の文の構造を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
6	第一部金 5/15	リスニング：Part B（設問の予想）、プリント 1（心理学）の演習③	リスニング：Part B の傾向（設問の予想）、プリント 1（心理学）の演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（設問の予想）、心理学に関連する文のバックグラウンドを理解でき、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント 1（心理学）の内容のバックグラウンドを調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）、文法問題①（品詞）	リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）、プリント2（文法問題①：品詞）の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）、プリント2（文法問題1）に関する知識を身につけ、それに関連する文法問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント2（文法問題1）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
8	第一部金 5/29	リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①	リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（経済学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
9	第一部 6/5	リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造	リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造を身につけし、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（経済学）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
10	第一部金 6/12	リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③	リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（経済学）のバックグラウンドを調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
11	第一部金 6/19	リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）の演習	リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント4（文法問題2）の語彙・文法事項を調べる。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
12	第一部金 6/26	リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①	リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（アメリカ史関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造	リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（アメリカ史）の文の構造について予習しておく。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。	30分
14	第一部金 7/10	プリント5（アメリカ史）演習③バックグラウンドの理解	プリント5（アメリカ史）演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカ史のバックグラウンドおよび重要表現を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（アメリカ史）の内容のバックグラウンドを調べる	30分
		事後学修	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
15	第一部金 7/17	TOEFL-ITP対策：速読	振り返りのための小テストとその解説。	
		この回の到達目標	到達目標の②③に関連して、TOEFL-ITP形式の問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、授業中の演習問題に間違えた問題をもう一度解く。前期の授業の総括をする。	30分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL ⅢIBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本/大井/上 村/Sano/松本	金星堂	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリアン受験料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要，授業のテーマや内容，授業スケジュール，事前・事後学習の方法や成績評価方法等について理解し，授業の準備を体系的に行えるようにする。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。
		事前学修	シラバスを熟読し，授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習し理解を深める。
2	4/15	パラグラフの書き方 TOEFL ITP対策(1)	Chapter 1(Introducing yourself)とパラグラフの書き方 TOEFL ITPのリスニング
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。
		事前学修	Chapter 1(Introducing yourself)のExerciseを解いておく。
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。
3	4/22	プロセス・ライティング TOEFL ITP対策(2)	Chapter 2(Writing a Story by Yourself)とプロセス・ライティング TOEFL ITPの文法
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	Chapter 2(Writing a Story by Yourself)のExerciseを解いておく。
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。
4	4/29	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(3)	Chapter 3 (Writing your ounwn recipe)とパラグラフライティング TOEFL ITPのリーディング
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	Chapter 3 (Writing your ounwn recipe)のExerciseを解いておく。
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。
5	5/6	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(4)	Chapter 4 (Different Varieties of English)と「パラグラフからエッセイへ」 TOEFL ITPのリスニング
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。
		事前学修	Chapter 4 (Different Varieties of English)のExerciseを解いておく。
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。
6	5/13	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策(5)	Chapter 5 (Describing interesting people and places)とエッセイ・パターン TOEFL ITPの文法
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	Chapter 5 (Describing interesting people and places)のExerciseを解いておく。
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策 (6)	Chapter 6 (Expressing your feelings)とエッセイ・パターン TOEFL ITPのリーディング	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 6 (Expressing your feelings)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	5/27	アカデミック・ライティング TOEFL ITP対策 (7)	Chapter 7 (Introducing your hometown)とアカデミック・ライティング TOEFL ITPの文法	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。。	
		事前学修	Chapter 7 (Introducing your hometown)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	6/3	アカデミック・ライティング TOEFL ITP対策 (8)	アカデミック・ライティング TOEFL ITP (文法模試)	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPの文法問題から自分の弱点や問題点を洗い出す。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に探り出した問題をもう一度解く。	30分
10	6/10	TOEFL ITP対策 (9) クライテリオン (1)	クライテリオン (1) TOEFL ITP (リーディング模試)	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPのリーディングを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習で扱ったリーディングの本文を音読し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	6/17	TOEFL ITP対策 (10) クライテリオン (2)	クライテリオン (2) とrevise方法 TOEFL ITP (リーディング模試)	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPのリーディングを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習で扱ったリーディングの本文を音読し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	6/24	TOEFL ITP対策 (11) クライテリオン (3)	クライテリオン (3) TOEFL ITP (リスニング模試)	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、リスニング力を身につけるとともに、英文の内容を正確に聴き取ることができる。。	
		事前学修	TOEFL ITPのリスニング問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	クライテリオン（４）	クライテリオン（４）とrevise	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（３）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分
14	7/8	クライテリオン（５）	クライテリオン（５）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（４）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	クライテリオン（５）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
15	7/15	授業の振り返り	授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ライティングもスキルを身につけ、またTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEFL ITPでよく間違える問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOEFLⅢAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOEFL－ITPの受験をすること。（受験料は自己負担）

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
金曜日 8：30 から 8：50、授業終了後、お昼休み、3限終了後に、教室または教員室で対応します。メールアドレスは授業内で通知します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部金 9/18	TOEFLとはどのような試験なのか	TOEFL－ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法について説明する。
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、TOEFL－ITPの各セクションの問題形式を説明することができる。
		事前学修	シラバスを読み授業の全体像を把握し、これまでの英語学習についてまとめておくこと。30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、英語学習の計画を立てる。30分
2	第一部金 9/25	TOEFLの解説①（§ 1 Listenin)	TOEFLのリスニングの問題の傾向の演習と解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFLのリスニングの問題の傾向を知りそれに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。30分
		事後学修	リスニングを復習し、プリントの語彙・文法事項を復習する。30分
3	第一部金 10/2	TOEFL の解説②（§ 2 Structure and Written Expression)	TOEFL の解説②（§ 2 Structure and Written Expression）：TOEFL の文法問題の演習と解説。理解度確認テスト。
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連し、TOEFL の文法問題の傾向を理解し、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	配布されたプリント 1（社会学関連の英文）の語彙を調べる。30分
		事後学修	今回配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項の復習をする。30分
4	第一部金 10/9	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）、プリント 1（社会学）演習①：	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）：プリント 1（社会学）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語の解説。理解度確認テスト。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、TOEFLのリーディングの社会学の内容の文の語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	プリント 1（社会学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。30分
		事後学修	返却された小テストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。30分
5	第一部金 10/16	リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）、プリント 1（社会学）の演習②：文の構造の理解	リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り、プリント 1（社会学）の演習②：文の構造についての解説。理解度確認テスト。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）、プリント 1（社会学）の演習②：文の構造を理解して、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	プリント 1（社会学）の文の構造を予習しておくこと。30分
		事後学修	リスニングの復習、返却された小テストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。30分
6	第一部金 10/23	リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント 1（社会学）の演習③：バックグラウンドの理解	リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント 1（社会学）の演習③：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント 1（社会学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	プリント 1（社会学）の内容のバックグラウンドを調べる。30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、プリント2（文法問題：接続詞）の演習	TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、TOEFL－ITP の文法問題（接続詞）の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、TOEFL－ITP の文法問題を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント2（文法問題）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
8	第一部金 11/6	リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①	リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語の解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（医学・健康問題関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
9	第一部金 11/13	リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の演習②	リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の演習②：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の文のバックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント3（医学・健康）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
10	第一部金 11/20	リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）の演習	リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント4（文法問題2：時制）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
11	第一部金 11/27	TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）演習①	TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語の解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）の中の語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント5（環境問題に関連する英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
12	第一部金 12/4	リスニング Part Bの傾向、プリント5（環境問題）演習②	リスニング Part B の傾向、プリント5（環境問題）演習②：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスニング Part B の傾向、プリント5（環境問題）の文のバックグラウンドを理	
		事前学修	プリント5（環境問題）の文の構造を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3：比較）	リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3：比較）の演習と解説。理解度確認テスト。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3）を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	プリント6（文法問題3）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
14	第一部金 12/18	TOEFL-ITP対策（1）リスニング問題、文法問題	今までの演習の理解度確認テストと解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFL-ITPのリスニング問題、文法問題を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでのプリントと小テストの総復習。	30分
		事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
15	第一部金 12/25	TOEFL-ITP対策（2）リスニング問題、リーディング問題	TOEFL-ITPのリスニング問題、リーディング問題の演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPのリスニング問題およびリーディング問題の形式を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、返却されたテストの復習をして、間違えたところをもう一度見直す。	30分

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL ⅢIBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFFL-ITPを受験すること（受験料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、TOEFL-ITPにより評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本/大井/上村/Sano/松本	金星堂	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリアン受験料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要，授業のテーマや内容，授業スケジュール，事前・事後学習の方法や成績評価方法等について理解し，授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し，授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	30分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習し理解を深める。	50分
2	9/23	パラグラフの書き方 TOEFL ITP対策(1)	Chapter 8(Studying more about the world)とパラグラフの書き方 TOEFL ITPのリスニング	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 8(Studying more about the world)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	9/30	プロセス・ライティング TOEFL ITP対策(2)	Chapter 9(Why are they so popular?)とプロセス・ライティング TOEFL ITPの文法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 9(Why are they so popular?)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	10/7	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(3)	Chapter 10(Why have fast food shops become popular in Japan?)とパラグラフライティング TOEFL ITPのリーディング	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 10(Why have fast food shops become popular in Japan?)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	10/14	パラグラフからエッセイへ TOEFL ITP対策(4)	Chapter 11 (Comparing shogi and Chess)と「パラグラフからエッセイへ」 TOEFL ITPのリスニング	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，リスニング力を身につけるとともに，英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 11 (Comparing shogi and Chess)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	10/21	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策(5)	Chapter 12(Things can be the same; things can be different)とエッセイ・パターン TOEFL ITPの文法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して，TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 12(Things can be the same; things can be different)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	エッセイ・パターン TOEFL ITP対策（6）	Chapter 13 (Expressing your opinion)とエッセイ・パターン TOEFL ITPのリーディング	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 13 (Expressing your opinion)のExerciseを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	11/11	TOEFL ITP対策（7）	Chapter 14 (International students at various universities) TOEFL ITP（リスニング模試）	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、リスニング力を身につけるとともに、英文の内容を正確に聴き取ることができる。	
		事前学修	Chapter 14 (International students at various universities)のExerciseを解いておく。TOEFL ITPのリスニング問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	11/18	TOEFL ITP対策（8）	Chapter 15 (presenting yourself) TOEFL ITP（文法模試）	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、TOEFL ITPに出題される文法の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	Chapter 15 (presenting yourself)のExerciseを解いておく。TOEFL ITPの文法問題から自分の弱点や問題を洗い出す。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に探り出した問題をもう一度解く。	30分
10	11/25	TOEFL ITP対策（9） クライテリオン（1）	クライテリオン（1） TOEFL ITP（リーディング模試）	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、短時間で的確に英文を把握するための読解力を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	TOEFL ITPのリーディングを解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習で扱ったリーディングの本文を音読し、間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	12/2	アカデミック・ライティング クライテリオン（2）	アカデミック・ライティングの手法 クライテリオン（2）とrevise方法	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（1）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分
12	12/9	アカデミック・ライティング クライテリオン（3）	アカデミック・ライティングの手法 クライテリオン（3）	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（2）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	クライテリオン（４）	クライテリオン（４）とrevise	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（３）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。	30分
14	12/23	クライテリオン（５）	クライテリオン（５）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	クライテリオン（４）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
		事後学修	クライテリオン（５）で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を指摘しておく。	30分
15	1/13	授業の振り返り	授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ライティングもスキルを身につけ、またTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
		事前学修	5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEFL ITPでよく間違える問題をもう一度解き、TOEFLの試験に臨めるようにする。	30分

科目名	TOEFL IVA (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IVBと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFEL-iBT (またはTOEFL-ITP) を受験すること (受験料は自己負担)。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。								4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-iBT（またはTOEFL-ITP）により評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身について いるかを、授業の課題などを基準に評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標③が達成しているかを、criterionにより評価す る。	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Writing Strateries	中谷安男	金星堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	4/16	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 1 Flow of sentences）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	4/23	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング（Chapter 1 Flow of sentences）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	4/30	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 2 Basic paragraph）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	5/7	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング（Chapter 2 Basic paragraph）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	5/14	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 3 Developing coherence）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/21	アカデミック・ライティング手法	パラグラフリーディング（Chapter 3 Developing coherence）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
8	5/28	リスニングとTOEFL ITP対策	リスニング、ITP対策
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
9	6/4	リスニングとTOEFL ITP対策	リスニング、ITP対策
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
10	6/11	アカデミック・ライティング手法	パラグラフリーディング（Chapter 4 Guiding your readers）、アカデミック・ライティング手法
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
11	6/18	クライテリオン	パラグラフリーディング（Chapter 4 Guiding your readers）、クライテリオン1
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分
12	6/25	クライテリオン	パラグラフリーディング（Chapter 5 Hedges and boosters）、クライテリオン2 (revise)
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	クライテリオン	パラグラフリーディング (Chapter 5 Hedges and boosters) 、クライテリオン 3	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	7/9	クライテリオン	パラグラフリーディング (Chapter 6 Generating ideas) 、クライテリオン 4 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン 3 をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	7/16	クライテリオン	パラグラフリーディング (Chapter 6 Generating ideas) とクライテリオン 5、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	講義全体の復習をし、後期の授業に備える。	30分

科目名	TOEFL iBT (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IVAと併せて履修することが望ましい。学期中に少なくとも一度TOFEL-iBT (またはTOEFL-ITP) を受験すること (受験料は自己負担)。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。								4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、 TOEFL-iBT（またはTOEFL-ITP）により評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、小 テストなどにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身について いるかを、授業の課題などを基準に評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標③が達成しているかを、criterionにより評価す る。			10								10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Writing Strateries	中谷安男	金星堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	9/24	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング (Chapter 7 How to attract your readers) 、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	10/1	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング (Chapter 8 Supporting your ideas) 、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	10/8	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング (Chapter 9 Concluding paragraphs)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	10/15	アカデミック・ライティング	TOEFL-iBT(Integrated Task)、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	10/22	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング (Chapter 10 Comparison and contrast paragraphs) 、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	エッセイ・ライティング	Chapetr 11(Essay structure)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	11/5	エッセイ・ライティング	Chapter 12 (Problem-solving essay)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	11/12	エッセイ・ライティング	Chapter 13 (The first step for academic papers)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	11/19	エッセイ・ライティング	Chapter 14 (Creating a reserach Niche)& Chapter 15 (Review)、エッセイ・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	12/3	クライテリオン	クライテリオン1	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	12/10	クライテリオン	クライテリオン2 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1をより完成度の高いエッセイに なるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	クライテリオン	クライテリオン3、ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	12/24	クライテリオン	ライティング手法の総括、クライテリオン4 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	1/14	クライテリオン	ライティング手法の総括とクライテリオン5、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、理解不十分な箇所をチェックし、TOEFLの試験に臨めるようにする。	30分

科目名	国際研修(英) I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students so as to increase opportunities to use English

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	海外の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	海外の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③、が身についているかを、レポートにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内発表により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about course plan and expectations	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
2	4/14	Rhetorical Triangle 1	Summarizing	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
3	4/21	Rhetorical Triangle 1	Summarizing	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
4	4/28	Rhetorical Triangle 1	Analysis of a text	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
5	5/5	Rhetorical Triangle 1	Analysis of a text (annotated)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
6	5/12	Rhetorical Triangle 1	Tools for Analyzying Rhetorical Texts	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Rhetorical Triangle 1	Tools for Analyzing Rhetorical Texts	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
8	5/26	Rhetorical Triangle 1	Essay: Comparative Analysis	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
9	6/2	Rhetorical Triangle 1	Essay: Comparative Analysis	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
10	6/9	Rhetorical Triangle 1	Essay: Comparative Analysis (peer review)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
11	6/16	Rhetorical Triangle 1	Finding an authentic text for rhetorical analysis	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
12	6/23	Rhetorical Triangle 1	Analyzing your text for rhetorical strategies	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Rhetorical Triangle 1	Preparing your presentation of the rhetorical strategies used in the text	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
14	7/7	Rhetorical Triangle 1	Presenting your rhetorical analysis of authentic writing to class	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Revise for the semester presentations	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
15	7/14	Rhetorical Triangle 1	Presenting your rhetorical analysis of authentic writing to class	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Revise for the semester presentations	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	国際研修(英) I B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students so as to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	英語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③、が身についているかを、レポートにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内発表により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Review Rhetorical Triangle 1	Summarizing what we learned last semester	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Review material from last semester.	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
2	9/22	Rhetorical Triangle 2	Discussing analysis of texts and the role of authorship and audience	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
3	9/29	Rhetorical Triangle 2	Analyzing film	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
4	10/6	Rhetorical Triangle 2	Analysis of a short film	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
5	10/13	Rhetorical Triangle 2	Analysis of a short film (annotated)	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
6	10/20	Rhetorical Triangle 2	Analysis of a short film (annotated)	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Rhetorical Triangle 2	American and Japan: How audiences differ	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
8	11/10	Rhetorical Triangle 2	American and Japan: How audiences differ: Case studies	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
9	11/17	Rhetorical Triangle 2	Choosing a longer film for analysis	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
10	11/24	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (Japanese perspective)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
11	12/1	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (Japanese perspective)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
12	12/8	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (American perspective)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (American perspective)	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
14	12/22	Rhetorical Triangle 2	discussions	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts and readings	30分
		事後学修	Complete assignment for next class	30分
15	1/12	Rhetorical Triangle 2	Course wrap-up and reflections	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
前期・後期それぞれ学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。 注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Primary Trainere for the TOEIC L&R test	Junnnosuke Hamasaki	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	イントロダクション及び導入講義	ガイダンス（小テスト実施予定）	
		この回の到達目標	今後の授業の進め方の説明	
		事前学修	前年度の授業の復習	30分
		事後学修	小テストの復習	30分
2	4/11	TOEIC: pre-test実施	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）	
		この回の到達目標	TOEIC試験形式に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	4/18	part 1~3	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前2回の授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	4/25	part4~7	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	5/2	part 1~3	Unit 2: 人物の動作に注目する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	5/9	part4~7	Unit 2: 人物の動作に注目する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	part 1~3	Unit 3: 疑問詞を聞き取る 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	5/23	part4~7	Unit 3: 疑問詞を聞き取る 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	5/30	part 1~3	Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	6/6	part4~7	Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	6/13	part 1~3	Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	6/20	part4~7	Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	part 1~3	Unit 6: 設問を先読みする 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
14	7/4	part 1~3 and part4~7	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回までの授業内容の復習	30分
		事後学修	全体の復習	30分
15	7/11	part 1~3 and part4~7	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。(受験料及び教材費は自己負担)

【授業方法】
実践演習をして解説をします。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグルーブワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Kick Off for the TOEIC TEST』	Noboru Matsuda	金星堂	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜14：30～／16：10～）、前の週の授業終了時に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション，導入授業	授業の進め方、TOEICの概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。TOEICがどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
		事後学修	TOEICテストについてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 ガイダンスのおさらいをする。	30分
2	4月14日	ミニ模擬テスト	TOEICテストの概要を簡潔に説明する。 ミニ模擬試験（公開試験の約半分の量）を受け、スコアレンジの算出をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ミニ模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	テキストのiv頁からx頁までに掲載されているTOEICの各パートの模擬問題を解いて、解説を読む。	30分
		事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	4月21日	英語の基礎力のチェックと学習目標作成	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分の英語力を確認し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	ミニ模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
		事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	4月28日	空港に関連する英語と文型①	小テスト、Unit1のListeningのPart1，Part4の演習問題（3頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。文型について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型に関連する文法問題と空港に関するListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit1の単語（2頁）、空港に関する単語を調べ、覚えてくる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。知らなかった空港に関する単語の用例や表現を調べ、覚える。	30分
5	5月12日	空港に関連する英語と文型②	小テスト、文型について理解し、Unit1のReadingのWarm-Up、Part5，Part6の演習問題（4，5頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型に関連する読解問題と空港に関する聞き取りの問題、読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit1の単語を覚えて、文型（2頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。	30分
		事後学修	文型について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
6	5月19日	ホテルに関連する英語と名詞の修飾①	小テスト、Unit2のListeningのPart2，Part4の演習問題（7頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞に関連する文法問題とホテルに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit2の単語（6頁）、ホテルや宿泊に関する単語を調べ、覚えてくる。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。ホテルに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	ホテルに関連する英語と名詞の修飾②	小テスト、名詞の修飾について理解し、Unit2のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（8、9頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の修飾に関連する読解問題とホテルに関する聞き取りの問題、読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit2の単語を覚えて、名詞の修飾（6頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit2の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	名詞の修飾について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
8	6月2日	道の聞き方に関連する英語と接続詞①	小テスト、Unit3のListeningのPart3、Part4の演習問題（11頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞に関連する文法問題と道の聞き方に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit3の単語（10頁）、道の聞き方や道路、自動車に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit3の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。道の聞き方や道路に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
9	6月9日	道の聞き方に関連する英語と接続詞②	小テスト、文と文の接続について理解し、Unit3のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（12、13頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞に関連する読解問題と道の聞き方に関する聞き取りの問題、読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit3の単語を覚えて、文と文の接続（10頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit3の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	文と文の接続について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
10	6月16日	レストランに関連する英語と使役動詞と知覚動詞①	小テスト、Unit4のListeningのPart1、Part4の演習問題（15、16頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、使役動詞と知覚動詞に関連する文法問題とレストランに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit4の単語（14頁）、レストランに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit4の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。レストランや食に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
11	6月23日	レストランに関連する英語と使役動詞と知覚動詞②	小テスト、知覚動詞と使役動詞について理解し、Unit4のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（15、16頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、使役動詞と知覚動詞に関連する読解問題とレストランに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit4の単語を覚えて、知覚動詞と使役動詞（14頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit4の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	知覚動詞と使役動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
12	6月30日	ショッピングに関連する英語と助動詞①	小テスト、Unit5のListeningのPart2、Part4の演習問題（19、20頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する文法問題とショッピングに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit5の単語（18頁）、ショッピングに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit5の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。ショッピングに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	ショッピングに関連する英語と助動詞②	小テスト、助動詞について理解し、Unit5のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（20—22頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する読解問題とショッピングに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit5の単語を覚えて、助動詞（18頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit5の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	助動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
14	7月14日	前期テストとふり回り	前期の総復習のための授業内テストと解説、前期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	前期で学習したことを復習し、各Partの注意点を頭に入れる。	30分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。	30分
15	7月21日	前期のふり回り	テストの返却と解説。前期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
		事後学修	前期に学んだところを総復習する。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	4/15	Unit 01 表・用紙 (Part 7)	Unit 01 表・用紙 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの表・用紙 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	4/22	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	4/29	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの広告 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	5/6	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの日常場面での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	5/13	Unit 03 品詞 (Part 5)	Unit 03 品詞 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)	・ClassMATE Mini test 1 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	5/27	Unit 04 動詞 (Part 5)	・ClassMATE Mini test 2 Unit 04 動詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの動詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	6/3	Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)	・ClassMATE Mini test 3 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの物の状態と位置 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	6/10	Unit 05 チャット (Part 7)	・ClassMATE Mini test 4 Unit 05 チャット (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのチャット (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	6/17	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2)	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	6/24	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7)	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの手紙・Eメール (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 07 電話での会話 (Part 3)	Unit 07 電話での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの電話での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	7/8	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5)	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・関係代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	7/15	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験とテストの解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）の受講を義務付ける（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEIC科目を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えるので注意すること。

【授業方法】
CALLシステムを利用した演習形式。オンラインによるペア演習を含む実践演習および解説を行う。フィードバックは授業で行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALLシステム（Computer Assisted Language Learning）は、映像教材や音声教材を学生用PCにリアルタイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用IT教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
LIGHTING UP THE TOEIC TEST	Brent Cotsworth他	金星堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	TOEIC入門	TOEICについて概説を行い、TOEICについて学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICについて学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEICに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	4/13	Traveling	Unit 1 Traveling：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTravelingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 1 Travelingの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 1 Travelingの振り返り	60分
3	4/20	Daily Life & Shopping	Unit 2 Daily Life & Shopping：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのDaily Life & Shoppingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 2 Daily Life & Shoppingの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 2 Daily Life & Shoppingの振り返り	60分
4	4/27	Review 1	TOEIC形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのTravelingおよびDaily Life & Shoppingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Reviewの振り返り	60分
5	5/4	At Restaurants	Unit 3 At Restaurants：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt Restaurantsを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 3 At Restaurantsの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 3 At Restaurantsの振り返り	60分
6	5/11	Job Hunting	Unit 4 Job Hunting：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのJob Huntingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 4 Job Huntingの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 4 Job Huntingの振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Review 2	TOEIC形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt RestaurantsおよびJob Huntingを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Reviewの振り返り	60分
8	5/25	At the Office 1	Unit 5 At the Office 1：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt the Officeを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 5 At the Office 1の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 5 At the Office 1の振り返り	60分
9	6/1	At the Office 2	Unit 6 At the Office 2：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt the Officeを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 6 At the Office 2の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 6 At the Office 2の振り返り	60分
10	6/8	Review 3	TOEIC形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのAt the Officeを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Reviewの振り返り	60分
11	6/15	Review Test 1	Unit 7 Review Test 1：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのReview Testに適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 7 Review Test 1の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 7 Review Test 1の振り返り	60分
12	6/22	Doing Business Online	Unit 8 Doing Business Online：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのDoing Business Onlineを設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 8 Doing Business Onlineの単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 8 Doing Business Onlineの振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	TOEIC模擬試験	TOEIC模擬試験の実施、解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC模擬試験に適切に対応することができる。	
		事前学修	TOEIC模擬試験の単語・熟語学習	60分
		事後学修	TOEIC模擬試験の振り返り	60分
14	7/6	前期期末試験	前期のまとめ 1：ペアやグループで実践的な演習を行う 前期期末試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期期末試験に適切に対応することができる。	
		事前学修	前期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	前期のまとめ 1の振り返り	60分
15	7/13	前期期末試験返却・解説	前期のまとめ 2：ペアやグループで実践的な演習を行う 前期期末試験返却・解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期で学んだ内容を振り返ることができる。	
		事前学修	前期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	前期のまとめ 2の振り返り	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICテストを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) が義務付けられます。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。(TOEICを2科目以上受講した場合は教材費がその分増えますのでご注意ください)

【授業方法】
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回Online Training教材からの単語テストを行い、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が3分の1を超えると失格とする。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test（ゼロから始めるTOEIC L&Rテスト対策）』	濱崎 潤之輔	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室・教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。	30分
2	第一部 金4/17	【TOEIC L&Rテストの全体像を知る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金4/24	【単語テスト】 【TOEIC L&Rテストの全体像を知る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	第一部 金5/1	【単語テスト】 【人物の動作に注目する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	第一部 金5/8	【単語テスト】 【人物の動作に注目する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	第一部 金5/15	【単語テスト】 【疑問詞を聞き取る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【単語テスト】【単語ノート点検】 【疑問詞を聞き取る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	第一部 金5/29	【単語テスト】 【物の位置・状態を表す表現を身に付ける】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	第一部 金6/5	【単語テスト】 【物の位置・状態を表す表現を身に付ける】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	第一部 金6/12	【単語テスト】 【話がかみ合う応答を選ぶ】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	第一部 金6/19	【単語テスト】 【話がかみ合う応答を選ぶ】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	第一部 金6/26	【単語テスト】【単語ノート点検】 【設問を先読みする】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【ClassMATEの復習】 【設問を先読みする】	ClassMATE教材の復習。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	第一部 金7/10	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金7/17	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】		
テキストに沿って毎授業 1 Unit 進める。 授業内で事前に解いてきた答えを読んでもらい、英語を発する機会を多くとる。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R Test	安丸雅子、渡邊晶子、砂川典子、高森暁子、十時康、Andrew Zitzmann	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後で質問にお答えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4 / 9	Introduction of this course	TOEICがどのような目的の試験か、またこの半期の授業の説明をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、資格試験TOEICの概要を理解し、毎日少なくとも30分は英語学習に取り組む自覚を持つ。	
		事前学修	この授業のシラバスを読み、自分の最新のTOEICスコアを確認する。	10分
		事後学修	テキストのIntroductionをCheckLinkを活用し、解答する。	30分
2	4/16	Unit 1 Daily Life 文型・品詞	Daily Lifeに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Daily Lifeに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を、文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 1の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 1を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 1 を毎日読み上げる。 Unit 1の音読を含めた復習。	60分
3	4/23	Unit 2 Shopping 代名詞・疑問詞	Shoppingに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Shoppingに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を、文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 2の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 2 を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 2 を毎日読み上げる。 Unit 2 の音読を含めた復習。	60分
4	4/30	Unit 3 Parties & Events 形容詞・副詞	Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 3 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 3を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 3 を毎日読み上げる。 Unit 3の音読を含めた復習。	60分
5	5/7	Unit 4 Traffic & Travel 前置詞	Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 4 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 4 を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 4 を毎日読み上げる。 Unit 4 の音読を含めた復習。	60分
6	5/14	Unit 5 Office Work 接続詞	Office Work に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Office Work に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 5 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 5 を解く。	90分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 5 を毎日読み上げる。 Unit 5 の音読を含めた復習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Unit 6 Marketing & ICT 名詞と動詞の一致	Marketing & ICT に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Marketing & ICT に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 6 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 6 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 6 を毎日読み上げる。 Unit 6 の音読を含めた復習。	60分
8	5/28	Review Test 1	今までUnit 1-6 で学んできた英語力でTOEIC模擬テストに取り組む実力アップを実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Review Test 1 を解き、合っているところ、間違えたところ、共に理解する。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 1-6 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 Unit 1-6を音読を取り入れて復習。	150分
		事後学修	Review Testの音読を取り入れた復習。 Key VocabularyのUnit 1-6 の音読し、全単語を発音、意味と一致させる。	60分
9	6/4	Unit 7 Production & Logistics 助動詞	Production & Logistics に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Production & Logistics に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 7 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 7 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 7 を毎日読み上げる。 Unit 7 の音読を含めた復習。	60分
10	6/11	Unit 8 Employment 時制	Employment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Employment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 8 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 8 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 8 を毎日読み上げる。 Unit 8 の音読を含めた復習。	60分
11	6/18	Unit 9 Personnel 受動態	Personnel に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Personnel に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 9 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 9 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 9 を毎日読み上げる。 Unit 9 の音読を含めた復習。	60分
12	6/25	Unit 10 Business 分詞・分詞構文	Business に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Business に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class Mateに取り組み、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 10 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 10 を解く。	130分
		事後学修	Key Vocabulary Unit 1-10 を毎日読み上げる。 Unit 10 の音読を含めた復習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Unit 11 Health & Environment 不定詞・動名詞	Health & Environment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Health & Environment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key VocabularyのUnit 11 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 11 を解く。	130分
		事後学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key Vocabulary Unit 1-11 を毎日読み上げる。 Unit 11 の音読を含めた復習。	120分
14	7/9	Unit 12 Finance 関係詞	Finance に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Finance に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
		事前学修	Key VocabularyのUnit 12 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 12 を解く。	130分
		事後学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key Vocabulary Unit 1-12 を毎日読み上げる。 Unit 12 の音読を含めた復習。	120分
15	7/16	Review Test 2	今までUnit 7-12 で学んできた英語力でTOEIC模擬テストに取り組み実力アップを実感する。 禁欲的な英語学習と共に、楽しみながら学ぶ方法を知る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Review Test 2 を解き、合っているところ、間違えたところ、共に理解する。 テキストを使う以外の英語の学習法を知り、自分で楽しみながら英語を学び続けられる方法を見つける。	
		事前学修	今まで学んできたUnit 7-12、できればUnit 1-12までを復習。	120分
		事後学修	Unit 1-12 を音読を取り入れて復習し、また楽しみながら学ぶ学習方法(NHK英語講座、映画、英語ドラマ、TED Talk、Democracy Nowなど) を夏季休暇も継続。	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめてのTOEIC L&Rテスト：全パート総合対策	塚田幸光	アスク出版	2017	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	オリエンテーション及び導入講義	・授業の進め方について ・教科書、オンライン教材、TOEIC受験についての説明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。授業用のノートを用意する。	30分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	4/13	TOEICを知ろう	・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・練習問題にトライする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの形式を学び、実践に役立てることができる。	
		事前学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。	30分
		事後学修	Pre-testを復習し、わからなかった単語を調べる。	30分
3	4/20	②Pre-testの実施とふり回り①	・グループを決める ・Pre-testを実施する ・Pre-testのListeningを復習する ・Listeningのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、自分の実力を確認することができる。到達目標①②に関連して、Pre-testのListeningの復習を通じて、TOEICのListeningの問題形式に慣れることができる。	
		事前学修	テキスト付属の音声ファイルを聴く。	30分
		事後学修	Pre-test Listeningの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	30分
4	4/27	Pre-testのふり回り	・Pre-testのListeningの小テスト ・Pre-testのReadingを復習する ・Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのReadingの復習を通じて、TOEICのReadingの問題形式に慣れることができる。	
		事前学修	Pre-testのListening 小テストの勉強をする。Pre-testのReadingを復習しておく。	30分
		事後学修	Pre-testのReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	5/4	Part 1の攻略法	・Pre-testのReadingの小テスト ・Part 1 写真描写問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してListening Part 1 の写真描写問題を解くことができる。	
		事前学修	・Pre-testのReadingの小テストの勉強をする ・Part 1の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 1を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
6	5/11	Part 2の攻略法	・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定） ・Part 2 応答問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part 2 の応答問題を解くことができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・Part 2の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 2を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Part 3の攻略法	・ClassMATE Mini test 1 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 3 会話問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Part 3 の会話問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 3の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 3を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
8	5/25	Part 4の攻略法	・ClassMATE Mini test 2 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 4 説明文問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 4 説明文問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 4の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 4を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
9	6/1	Part 5の攻略法①	・ClassMATE Mini test 3 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 5 短文穴埋め問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 5 短文穴埋め問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 5の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 5を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
10	6/8	Part 5の攻略法②	・ClassMATE Mini test 4 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 5 短文穴埋め問題の攻略方法を学ぶ（つづき）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 5 短文穴埋め問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 5の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 5を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
11	6/15	Part 6の攻略法	・ClassMATE Mini test 5 ・「スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 6 長文穴埋め問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 6 長文穴埋め問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 6の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	Part 6を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
12	6/22	Part 7の攻略法①	・ClassMATE Mini test 6 ・スコアに差が出るフレーズ40」の小テスト ・Part 7 読解問題の攻略方法を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 7 読解問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 7の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	・ClassMATE 模擬テスト(40問) の課題をやる。 ・Part 7を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Part 7の攻略法②	・Part 7 読解問題の攻略方法を学ぶ（つづき） ・ClassMATEの復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Part 7 読解問題を解くことができる。またClassMATEを復習することで、前期に学んだ解法のテクニックを定着させることができる。	
		事前学修	・ClassMATEの課題にもう一度トライする。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 7の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	・ClassMATEのわからなかった問題を復習する。 ・Part 7を復習し、音読、音読筆写、ディクテーションなどをする。	30分
14	7/6	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験（テキスト全体を範囲とする） ・前期試験のふり返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	7/13	前期のふり返り	・テスト返却 ・前期の授業をふり返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	夏休み中のTOEICの学習計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】		
TOEICL&R問題形式テキストに沿い、基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、又、音声の知識を整理しつつ速聴、話し言葉に慣れます。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。小テストとして、各ユニット毎のDictation TestやWord Testを行います。中間でペアによる会話（Role Play）、まとめは、TOEICの形式に沿った教科書の内容確認の筆記試験を行います。フィードバックは授業内に行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair Work、Group Work、Role Play	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ユニット毎に、語彙クイズはオンラインでチェックし、スコア記録と自己分析表を提出後に、テスト採点結果は授業中にお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Fast PASS FOR THE TOEIC L&R TEST』Revised Edition	上仲律子他	センゲージラーニング	2019		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問やご相談等は、授業講堂にて、授業前、終了後に対応させていただきます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明をする。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点を目指す為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。
		事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。60分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。60分
2	4/15	模擬テスト	Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を理解し、問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為のリーディングとリスニング英語運用能力を自己分析し、出題問題の傾向を探り、戦略的な勉強計画を構築する。
		事前学修	テキストを購入し、p12~23 Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を解いてみる。 解からない意味の語彙を調べる。60分
		事後学修	Preliminary Lesson (Pre-test) の間違えた箇所の問題を解き直し、確認する。60分
3	4/22	Unit 1 Food & Restaurant	Unit 1 Food & Restaurantを理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。
		事前学修	Unit 1 p24~33の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分
4	4/29	Unit 2 Entertainment	Unit 2 Entertainmentを理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。
		事前学修	Unit2 p34~43の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分
5	5/6	Unit 3 Travel	Unit 3 Travelを理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。
		事前学修	Unit3 p44~53の問題を解いてくる。 CM (ClassMATE) の手続きを完了し、準備をする。 オンラインクイズで語彙の確認をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
6	5/13	Unit4 Sports &Health		Unit4 Sports &Healthを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト1、CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit4 P54～63の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 語彙テスト1、CMを準備する。		
		事後学修	間違えた問題を解き直す。		
7	5/20	Unit 5 Purchasing		Unit 5 Purchasingを理解し、それに対応する問題を解答できる。CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit5 p64～73の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。		
		事後学修	Role Play の各自パートの練習をする。		
8	5/27	Unit 6 Housing &Accommodations		Unit 6 Housing &Accommodationsを理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit6 p74～83の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。		
		事後学修	間違えた問題を解き直す。		
9	6/3	Unit 7 Office Work(1) Unit 8 Unit 8 Office Work(2)		Unit 7 Office Work(1)Unit 8 Office Work(2)を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Unit7 p84～93及びUnit8 p94～104の問題を解いてくる。 CMの準備をする。		
		事後学修	間違えた問題を解き直す。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 Role Play の台本のパート練習をする。		
10	6/10	Role Play 練習 中間テスト（Role Play） 実施		Role Play をペアで実践できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。		
		事前学修	Role Play の台本のパート練習をする。 CMの準備をする。		
		事後学修	間違えた問題を解き直す。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	6/17	Unit9 Employment	Unit9 Employmentを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト2、CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit9 p104～113の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
12	6/24	Unit10 Lectures &Presentations	Unit10 Lectures &Presentationsを理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit10 p114～123の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
13	7/1	Unit11 Business Affairs(1) Unit12 Business Affairs(2)	Unit11 Business Affairs(1)Unit12 Business Affairs(2)を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト3を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit11 p124～133、Unit12 p134～144の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 語彙テスト3の準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。期末テストの準備をする。	60分
14	7/8	期末試験 授業の振り返り	授業内筆記試験実施	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit1～Unit12までの復習をする。	60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分
15	7/15	まとめと解説	期末試験解説、学習内容のまとめ	
		この回の到達目標	Unit1～Unit12までの学習修得の成果を確認する。	
		事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Primary Trainere for the TOEIC L&R test	Junnnosuke Hamasaki	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	part 1~3 and 4~7	前期授業の確認と復習	
		この回の到達目標	前期の授業中に感じたリスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前期授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
2	9/26	part 4~7	Unit 6: 設問を先読みする 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	Unit 6の予習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
3	10/3	part 1~3	Unit 7: 文脈を意識する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	10/10	part 4~7	Unit 7: 文脈を意識する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	10/17	part 1~3	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 1: リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	10/24	part 4~7	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	part 1~3	Unit 9: 手紙の特徴を理解する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	11/7	part 4~7	Unit 9: 手紙の特徴を理解する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	11/14	part 1~3	Unit 10: 代名詞を理解する 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	11/21	part 4~7	Unit 10: 代名詞を理解する 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	11/28	part 1~3	Test演習1（リスニングセッション中心）	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	12/5	part 4~7	Test演習2（リーディング中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	part 4～7	Test演習3（文法項目中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	文法事項の復習	30分
14	12/19	part 1～3 and 4～7	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語、文法の復習	30分
15	12/26	part 1～3 and 4～7	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験することとし、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。(受験料及び教材費は自己負担)

【授業方法】
実践演習をして解説をします。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグルーブワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Kick Off for the TOEIC TEST』	Noboru Matsuda	金星堂	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜14：30～／16：10～）、前の週の授業終了時に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 後期の授業の進め方とTOEICの概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	前期に学習したことを思い出し、テキストのUnit1から5までの各Partの問題を解く。間違えた所をもう一度解き、各Unitの場面に関する単語を覚える。	30分
		事後学修	ガイダンスを振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	9月22日	銀行に関連する英語と助動詞①	小テスト、Unit6のListeningのPart3， Part 4 の演習問題（25頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する文法問題と銀行に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit6の単語（24頁）、銀行に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit6の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。銀行に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
3	9月29日	銀行に関連する英語と助動詞②	小テスト、その他の助動詞について理解し、Unit6のReadingのWarm-Up、Part5， Part6の演習問題（26―27頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関連する読解問題と銀行に関する聞き取りと読解の問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit6の単語を覚えて、その他の助動詞（24頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit6の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	その他の助動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
4	10月6日	旅に関連する英語と時制①	小テスト、Unit7のListeningのPart1， Part 4 の演習問題（29-30頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制に関連する文法問題と旅に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit7の単語（28頁）、旅行に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit7の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。旅行に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
5	10月13日	旅に関連する英語と時制②	小テスト、時制について理解し、Unit7のReadingのWarm-Up、Part5， Part6の演習問題（30―31頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制に関連する読解問題と旅に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit7の単語を覚えて、時制（28頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit7の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	時制について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
6	10月20日	健康に関連する英語と現在完了形①	小テスト、Unit8のListeningのPart2， Part 4 の演習問題（33頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形に関連する文法問題と健康に関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit8の単語（32頁）、医療に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit8の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。医療に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	健康に関連する英語と現在完了形②	小テスト、現在完了について理解し、Unit8のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（34-35頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形に関連する読解問題と健康に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUni8の単語を覚えて、現在完了（32頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit8の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	現在完了について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
8	11月10日	不動産に関連する英語と前置詞①	小テスト、Unit9のListeningのPart3、Part4の演習問題（37頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞に関連する文法問題と不動産に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit9の単語（36頁）、不動産と賃貸に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit9の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。不動産と賃貸に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
9	11月17日	不動産に関連する英語と前置詞②	小テスト、前置詞について理解し、Unit9のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（38-39頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞に関連する読解問題と不動産に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit9の単語を覚えて、前置詞（36頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit9の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）	30分
		事後学修	前置詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）	30分
10	11月24日	スポーツに関連する英語と不定詞①	小テスト、Unit10のListeningのPart1、Part4の演習問題（41頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関連する文法問題とスポーツに関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit10の単語（40頁）、スポーツに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit10の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。スポーツに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
11	12月1日	スポーツに関連する英語と不定詞②	小テスト、to不定詞について理解し、Unit10のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（42-44頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関連する読解問題とスポーツに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストUnit10の単語を覚えて、to不定詞（40頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit10の単語を覚える。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	to不定詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分
12	12月8日	就職活動に関連する英語と仮定法	小テスト、Unit11のListeningのPart2、Part4の演習問題（47頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法に関連する文法問題と就職活動関する聞き取りの問題を解くことができる。	
		事前学修	テキストのUnit11の単語（46頁）、就職、人事に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit11の単語を調べる。オンライン教材を行う。	30分
		事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。就職・人事に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 5 日	実力テスト	実力テスト（各Partのミニテスト）の実施と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実力テストの受験を通して自分の実力を確認することができる。	
		事前学修	後期で学習したことを復習し、各Partの注意点を頭に入れる。	30分
		事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。（30分）	30分
14	1 2 月 2 2 日	後期テストと解説	後期の総復習のための授業内テストと解説、後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
		事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
		事後学修	後期に学んだところを総復習する。	30分
15	1 月 1 2 日	後期の振り返り	テストの返却と解説。後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり返り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	30分
		事後学修	後期に学んだところを総復習する。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのUnit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	9/23	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5)	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	9/30	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2)	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのYes/No疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	10/7	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	10/14	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	10/21	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5)	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 5の復習 (Part 5) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 11 留守番電話 (Part 4)	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの留守番電話 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	11/11	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7)	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	11/18	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3)	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ② (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	11/25	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7)	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 7の復習 (Part 7) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	12/2	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2)	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	12/9	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの時制・代名詞・語い問題 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4)	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	12/23	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6)	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのつなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	1/13	テキストの後期試験とテスト解説	・テキストの後期試験とテスト解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1 回以上受験し、ClassMATE (Online Training) の受講を義務付ける（受験料及びClassMATE 教材費は自己負担）。TOEIC 科目を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えるので注意すること。

【授業方法】
CALL システムを利用した演習形式。オンラインによるペア演習を含む実践演習および解説を行う。フィードバックは授業で行う。TOEIC 受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	CALL システム (Computer Assisted Language Learning) は、映像教材や音声教材を学生用PC にリアル タイムに配信しながら、ランダムに形成されたペアでスピーキング、リスニングの演習を実践することが可能であるのみならず、それを録画・録音して振り返りを行ったり、ペア演習に教員が参画し指導することができる優れたアクティブ・ラーニング用 IT 教材である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
LIGHTING UP THE TOEIC TEST	Brent Cotsworth 他	金星堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 13:00～14:30 松山博樹研究室（本館8階 1815 研究室） matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	TOEIC 入門 2	TOEIC について概説を行い、TOEICについて学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC について学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、TOEIC に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	9/21	Housing	Unit 9 Housing：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のHousing を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 9 Housing の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 9 Housing の振り返り	60分
3	9/28	Making Deals & Contracts	Unit 10 Making Deals & Contracts：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のMaking Deals & Contracts を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 10 Making Deals & Contracts の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 10 Making Deals & Contracts の振り返り	60分
4	10/5	Review 1	TOEIC 形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のHousing およびMaking Deals & Contracts を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Review の振り返り	60分
5	10/12	Public Service	Unit 11 Public Service：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のPublic Service を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 11 Public Service の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 11 Public Service の振り返り	60分
6	10/19	Banking & Finance	Unit 12 Banking & Finance：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のBanking & Finance を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 12 Banking & Finance の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 12 Banking & Finance の振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Review 2	TOEIC 形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のPublic Service および Banking & Finance を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Review の振り返り	60分
8	11/9	At Seminars & Workshops	Unit 13 At Seminars & Workshops：ペアやグループで実践的な演習を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のAt Seminars & Workshops を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 13 At Seminars & Workshops の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 13 At Seminars & Workshops の振り返り	60分
9	11/16	News & Media	Unit 14 News & Media：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のNews & Media を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 14 News & Media の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 14 News & Media の振り返り	60分
10	11/23	Review 3	TOEIC 形式のリスニング演習、文法演習、小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のAt Seminars & Workshop および News & Media を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	これまでの授業の振り返りおよびオンライントレーニング	60分
		事後学修	Review の振り返り	60分
11	11/30	Review Test 2	Unit 15 Review Test 2：ペアやグループで実践的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC のReview Test 2 を設定した問題に適切に対応することができる。	
		事前学修	Unit 15 Review Test 2 の単語・熟語学習、オンライントレーニング	60分
		事後学修	Unit 15 Review Test 2 の振り返り	60分
12	12/7	TOEIC 模擬試験 1	TOEIC TOEIC 模擬試験 1 の実施、解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC 模擬試験 1 に適切に対応することができる。	
		事前学修	TOEIC 模擬試験 1 の単語・熟語学習	60分
		事後学修	TOEIC 模擬試験 1 の振り返り	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	TOEIC 模擬試験 2	TOEIC 模擬試験 2 の実施、解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC 模擬試験 2 に適切に対応することができる。	
		事前学修	TOEIC 模擬試験 2 の単語・熟語学習	60分
		事後学修	TOEIC 模擬試験 2 の振り返り	60分
14	12/21	後期期末試験 まとめ	後期のまとめ 1：ペアやグループで実践的な演習を行う 後期期末試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期期末試験に適切に対応することができる。	
		事前学修	後期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	後期のまとめ 1の振り返り	60分
15	1/18	後期期末試験返却・解説	後期のまとめ 2：ペアやグループで実践的な演習を行う 後期期末試験返却・解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期で学んだ内容を振り返ることができる。	
		事前学修	後期の単語・熟語学習	60分
		事後学修	後期のまとめ 2の振り返り	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICテストを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）が義務付けられます。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。(TOEICを2科目以上受講した場合は教材費がその分増えますのでご注意ください)

【授業方法】
グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回Online Training教材からの単語テストを行い、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が3分の1を超えると失格とする。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教材の音読・問題解答については、グループ内で話し合った上で答え合わせを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施した翌週に、返却・答案訂正・解説・講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test（ゼロから始めるTOEIC L&Rテスト対策）』	濱崎 潤之輔	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室・教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】【目標の設定】	グループ分け、授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらい、単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
2	第一部 金9/25	【単語テスト】 【文脈を意識する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	第一部 金10/2	【単語テスト】 【文脈を意識する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	第一部 金10/9	【単語テスト】 【動名詞とto不定詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	第一部 金10/16	【単語テスト】 【動名詞とto不定詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	第一部 金10/23	【単語テスト】 【手紙の特徴を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【単語テスト】【単語ノート点検】 【手紙の特徴を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、①～⑤までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	第一部 金11/6	【単語テスト】 【代名詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	第一部 金11/13	【単語テスト】 【代名詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	第一部 金11/20	【単語テスト】 【意図問題を攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	第一部 金11/27	【単語テスト】 【意図問題を攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	第一部 金12/4	【単語テスト】【単語ノート点検】 【複数パッセージを攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【ClassMATEの復習】 【複数パッセージを攻略する】	ClassMATE教材の復習。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	第一部 金12/18	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	学習範囲の総復習	60分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	第一部 金12/25	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
		事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
		事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】		
毎授業 1 Unit を進める。音声に合わせてオーバーラッピング、シャドウイングを行う。予習してきた内容をもとに、テキストの問題を答え合わせをし、文法的解説も加え、総合的理解をする。事前学修、事後学修、授業中もTOEICと同じくらい集中力を要します。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標?が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標?が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標?が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標?が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で小テスト等お返しします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Top Tips for the TOEIC L&R Test 考えて解くTOEIC L&R TEST 実践演習	Shari J. Berman、小林裕子、早坂信	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に教室で質問にお答えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ	内 容		
1	9/17	Introduction of this course and start learning		この授業半期の進め方を簡単に説明し、早速TOEIC実践演習に取り組む。	
		この回の到達目標	Unit 1 TOEIC PART 1&2 の解説を聞き、自分の間違えたところを理解し、実際のTOEIC Part 1&2 のスコアアップを図る。		
		事前学修	テキストを購入し、音声をダウンロードし、Unit 1 を解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。		
		事後学修	Unit 1 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。		
2	9/24	Unit 2 Part 3		TOEIC Part 3 会話問題対策をする。	
		この回の到達目標	TOEIC Part 3 に関して戸惑うことなく解けるようになる。会話が流れ始める前に質問に目を通せるようになる。そしてPart 3 に於いてのスコアアップを図る。		
		事前学修	音声を使ってUnit 2 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。		
		事後学修	Unit 2 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。		
3	10/1	Unit 3 Part 4		TOEIC Part 4 説明問題対策をする。	
		この回の到達目標	TOEIC Part 4 に関して戸惑うことなく解けるようになる。会話が流れ始める前に質問に目を通せるようになる。そしてPart 3 に於いてのスコアアップを図る。		
		事前学修	音声を使ってUnit 3 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。		
		事後学修	Unit 3 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。		
4	10/8	Unit 4 Part 5		TOEIC Part 5 短文穴埋め問題対策をする。	
		この回の到達目標	TOEIC Part 5 短文穴埋め問題を文法的に、又は文意から解けるようになる。		
		事前学修	Unit 4 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。		
		事後学修	Unit 4 を音読しながら復習する。		
5	10/15	Unit 5 Part 6		TOEIC Part 6 長文穴埋め問題対策をする。	
		この回の到達目標	TOEIC Part 6 長文穴埋め問題のコツを知り、Vocabularyも増やし、文法的に、また文意に合う答えを見つけられるようになる。		
		事前学修	Unit 5 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする（この地道な努力が大事、大事）。		
		事後学修	Unit 4 を音読しながら復習する。		
6	10/22	Unit 6 Part 7		TOEIC Part 7 読解問題（single passage, multiple passages）対策をする。	
		この回の到達目標	難易度の高いTOEIC Part 7 を自分の力を十分に発揮して解き、着実にスコアアップにつなげるようにする。		
		事前学修	Unit 6 の解説分も含めよく読み、すべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。徐々に同じ単語を辞書で調べていることに気づき、そのような単語から記憶に定着してゆくのを実感するでしょう。		
		事後学修	Unit 6 を音読をしながら、毎日復習をする。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Unit 7 On the Move-Busses, Trains & Planes	交通に関してのTOEIC 問題をPart 1-7 すべてのパートの実践問題を解く。	
		この回の到達目標	交通に関してのvocabulary, idiomsをTOEIC 全てのパート演習で解き、交通に関して慣れる。	
		事前学修	オンライン教材ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 7 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 7 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
8	11/5	Unit 8 On the Menu / On the Itinerary-Sightseeing, Restrants & Hotels	Toeic で頻繁に出てくる、メニューや旅行日程の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、メニューや旅行日程の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 8 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 8 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
9	11/12	Unit 9 On Sale / ON Order-Shopping	Toeic で頻繁に出てくる、買い物の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、買い物の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れ、スコアアップにつなげる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 9 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 9 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
10	11/19	Unit 10 Off the Clock	Toeic で頻繁に出てくる、レジャー、エンターテイメントの題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、レジャー、エンターテイメントの題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 10 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 10 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
11	12/3	Unit 11 On the Air	Toeic で頻繁に出てくる、メディア、広告の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、メディア、広告の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備え、またTOEIC模擬テストも解き、TOEIC IP に備える。 Unit 11 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	130分
		事後学修	Unit 11 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
12	12/10	Unit 12 On the Agenda	Toeic で頻繁に出てくる、会議、スケジュール変更の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、会議、スケジュール変更の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備え、またTOEIC模擬テストも解き、TOEIC IP に備える。 Unit 12 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	140分
		事後学修	Unit 12 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Unit 13 At the Office	Toeic で頻繁に出てくる、オフィスでの交渉、販売の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	Toeic で頻繁に出てくる、オフィスでの交渉、販売の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	Unit 13 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 13 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
14	12/24	Unit 14 During the Interviews	学生の皆さんが興味のあるの題材、就職活動、自己のPRをTOEIC 全てのパート演習で解く。	
		この回の到達目標	学生の皆さんに現実味のある題材、就職活動、自己のPRをTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
		事前学修	Unit 14 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その分の中での品詞と意味ををメモする。	100分
		事後学修	Unit 14 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
15	1/14	多様な学習法の紹介	禁欲的に机に向かい取り組む学習方法と楽しみながら学ぶ方法を両立させることを提示。	
		この回の到達目標	禁欲的に机に向かい取り組む学習方法と楽しみながら学ぶ方法を両立させることを認識し、自分に合っている学習法を見つけ、毎日英語に触れ、自分で学ぶことを認識する。	
		事前学修	テキストの復習をし、分からないところがあれば質問できるようにする。NHK語学講座、TED Talk、英語ドラマ、英語の映画(英語字幕も試す)、Democracy Now!などをネットも使い、自分に合っている学習法を見つける。	200分
		事後学修	自分に合っている学習法を持続させる。	200分

科目名	TOEIC I B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめてのTOEIC L&Rテスト：全パート総合対策	塚田幸光	アスク出版	2017	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	オリエンテーション及び導入講義	・授業の進め方について ・教科書、オンライン教材、TOEIC受験についての説明 ・前期の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習することでこれまでに学んだテクニックを確認することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。授業用のノートを用意する。	30分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、後期の学習スケジュールを立てる。	30分
2	9/21	CaLaboに慣れる	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・CaLaboの使い方を学ぶ ・Listening/Readingのグループワーク	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身に付けたテクニックを定着することができる。	
		事前学修	前期のテキストを復習する。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
3	9/28	Listening/Reading実践問題① 前期ClassMATE Week 1	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力を養う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
4	10/5	Listening/Reading実践問題② 前期ClassMATE Week 2	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
5	10/12	Listening/Reading実践問題③ 前期ClassMATE Week 3	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
6	10/19	Listening/Reading実践問題④ 前期ClassMATE Week 4	・「超直前単語集」から小テストを実施する ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・小テストの勉強をする。 ・課題を解く。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Listening/Reading実践問題 ⑤ 前期ClassMATE Week 5	・ClassMATE 小テスト Week 1 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
8	11/9	Listening/Reading実践問題 ⑥ 前期ClassMATE Week 6	・ClassMATE 小テスト Week 2 & Week 3 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2 & 3の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
9	11/16	Listening/Reading実践問題 ⑦	・ClassMATE 小テスト Week 4 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。 ・Part 5の問題を解く。わからなかった単語、フレーズを覚える。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
10	11/23	Listening/Reading実践問題 ⑧	・ClassMATE 小テストWeek 5 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
11	11/30	ClassMATEのミニテストにトライする	・ClassMATE 小テスト Week 6 ・ClassMATE Mini Testの実施 ・Mini Testの復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ClassMATEのMini Testを受験することで、実践力を定着させることができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・小テストの勉強をする。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分
12	12/7	TOEICの受験をふりかえる	・TOEIC IPテストの受験をふり返し、自分の足りない力を見極め、今後の学習計画を立てる。 ・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在の実力を分析し、今後の学習計画に生かすことができる。	
		事前学修	・ClassMATEの課題にもう一度トライする（Week 1-3）。	30分
		事後学修	今日学んだことをおさらいし、Listening Partを音読する。わからなかったところをやり直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	後期試験対策	・Listening/Readingのグループワーク ・CaLaboを使ったディクテーションおよび会話練習 ・テキスト+プリント+ClassMATEで応用力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの問題に慣れ、実践力を身に付けることができる。	
		事前学修	・ClassMATEの課題にもう一度トライする(Week 4-6)。	120分
		事後学修	・ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	30分
14	12/21	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験（テキスト全体を範囲とする） ・前期試験のふり返り	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	1/18	前期のふり返り	・テスト返却 ・後期の授業をふり返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	後期にテキスト、プリント、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	就職に向けて、TOEICの学習計画を立て直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICL&R問題形式テキストに沿い、基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、又、音声の知識を整理しつつ速聴、話し言葉に慣れます。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。小テストは1回、又、中間でペアによる会話 (Role Play) 、まとめは、TOEICの形式に沿った教科書の内容確認の筆記試験を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair Work 、Group Work、Role Play	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト解説、講評、採点結果は授業中にお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『TOEIC L&R Test: On Target Book 1』Revised Edition	大賀 リエ、William J. Benfield 他	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問やご相談等は、授業講堂にて、授業前、終了後に対応させていただきます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明をする。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点を目指す為にこの授業で何をどの様にしたらよいかを把握する。	
		事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	60分
2	9/23	Unit 1 GOING OVERSEAS	Unit 1 GOING OVERSEAS Sentence Patterns（文型）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit1の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
3	9/30	Unit 2 GOING SHOPPING	Unit 2 GOING SHOPPING Interrogative Words（疑問詞の種類）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 2の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
4	10/7	Unit 3 FOOD AND HEALTH	Unit 3 FOOD AND HEALTH Adjectives and Adverbs（形容詞と副詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 3の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
5	10/14	Unit 4 SPORTS AND GAMES	Unit 4 SPORTS AND GAMES Tricky Prepositions（まちがしやすい前置詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 4の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CM（ClassMATE）の手続きを完了し、準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	10/21	Unit 5 DIRECTIONS AND TRANSPORTATION	Unit 5 DIRECTIONS AND TRANSPORTATION Auxiliary Verbs（助動詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 5の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
7	10/28	中間テスト（Units 1-5） 授業の振り返り	Review Test 1（Units 1-5）を解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Review Test 1（Units 1-5）準備の為の復習をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	Role Play の各自パートの練習をする。	60分
8	11/11	Unit 6 SALES CAMPAIGN	Unit 6 SALES CAMPAIGN Causative Verbs and Verbs of Perception（使役動詞と知覚動詞）を理解し、対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 6の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMを準備する。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分
9	11/18	Unit 7 EMPLOYMENT	Unit 7 Relative Clauses（関係詞）を理解し、それに対応する問題を解答できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Unit 7の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。 Role Play の台本のパート練習をする。	60分
10	11/25	Role Play 練習 中間テスト（Role Play） 実施	Role Play をペアで実践できる。 CMを解答できる。	
		この回の到達目標	頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。	
		事前学修	Role Play の台本のパート練習をする。 CMの準備をする。	60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	12/2	Unit 8 COMMUNICATIONS	Unit 8 COMMUNICATIONS Tenses（時制）を理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。
		事前学修	Unit 8の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分
12	12/9	Unit 9 ECOLOGY	Unit 9 ECOLOGY Conditional Sentences（条件文／仮定法）を理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。
		事前学修	Unit 9の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分
13	12/16	Unit 10 TROUBLESHOOTING	Unit 10 TROUBLESHOOTING Verb+`ing, Verb+to+Stem Verb を理解し、それに対応する問題を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。
		事前学修	Unit 10 の問題を解いてくる。シャドウイング練習をする。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。期末テストの準備をする。60分
14	12/23	期末試験 授業の振り返り	期末試験を解答できる。
		この回の到達目標	TOEIC L&R450点獲得の為の基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する。
		事前学修	Unit6～Unit12までの復習をする。60分
		事後学修	前期授業の学習内容を確認する。60分
15	1/13	まとめと解説	期末試験解説、学習内容のまとめ
		この回の到達目標	Unit1～Unit12までの学習修得の成果を確認する。
		事前学修	前期授業の学習内容を確認する。60分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。60分

科目名	TOEIC II A	担当者	石川 太郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
前期・後期それぞれ学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。(受験料及び教材費は自己負担)。 注: TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEIC L&R Test: On Target, Book 1 (Revised Edition)	大賀リエ その他	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	イントロダクション及び導入講義	ガイダンス（小テスト実施予定）	
		この回の到達目標	今後の授業の進め方の説明	
		事前学修	前年度の授業の復習	30分
		事後学修	小テストの復習	30分
2	4/11	TOEIC: pre-test実施	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）	
		この回の到達目標	TOEIC試験形式に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	4/18	part 1～3	Unit 1: Going Overseas 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前2回の授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	4/25	part4～7	Unit 1: Going Overseas 2: リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	5/2	part 1～3	Unit 2: Going Shopping 1:リスニングセッション	
		この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	5/9	part4～7	Unit 2: Going Shopping 2:リーディングセッション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	part 1~3	Unit 3: Food and Health 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	5/23	part4~7	Unit 3: Food and Health 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	5/30	part 1~3	Unit 4: Sports and Games 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	6/6	part4~7	Unit 4: Sports and Games 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	6/13	part 1~3	Unit 5: Directions and Transportation 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	6/20	part4~7	Unit 5: Directions and Transportation 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	part 1~3	Unit 6: Sales Campaign 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
14	7/4	part 1~3 and part4~7	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回までの授業内容の復習	30分
		事後学修	全体の復習	30分
15	7/11	part 1~3 and part4~7	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	井上 悦男	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、ⅡBとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	TOEICとは	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成を知る。TOEIC試験の特徴を知る。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	4/13	TOEICの全体的なアプローチ	Part2, Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	4/20	Part2, 5 の位置づけ	Part2, 5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を細かく知る。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	4/27	Listening Section の概略	サンプル問題(listening)、Part5	
		この回の到達目標	Listening Section のそれぞれの取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	5/4	Reading Section の概略	サンプル問題(reading)、Part2	
		この回の到達目標	reading section のそれぞれの形式の取り組み方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習、サンプル問題(reading section)の問題を解き、解答を確認する。	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	5/11	Part1, 2 の実践演習	Test1 Part1(1-6), 2(7-31), Part5(101-110)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Part1, 2 の実践演習	ClassMATEの小テスト、Test2 Part1(1-6), 2(7-31), Test1 Part5(111-120)	
		この回の到達目標	Part1, 2の形式、傾向を理解し、さらに、経験をつむ。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	5/25	Part2 (wh-疑問文)	ClassMATEの小テスト、Part2 (wh-疑問文)の練習、Test1 Part5(121-130)	
		この回の到達目標	Part2 (wh-疑問文)の問題の位置づけを理解し、習熟する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	6/1	Part2 (定型表現)	ClassMATEの小テスト、Part2 (定型表現)の練習、Test2 Part5 (101-110)	
		この回の到達目標	定型表現の整理をして、頻出表現を把握する。さらに、練習の仕方を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	6/8	Part3 入門	ClassMATEの小テスト、Test2 Part5(111-120)、Test1 Part3(32-55)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	6/15	Part3 の演習	ClassMATEの小テスト、Test2 Part5(121-130)、Test1 Part3(56-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	6/22	Part4 入門	Test1 Part6(131-138)、Part4(71-85)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式を理解し、慣れる。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Part4 の演習	Test1 Part6(139-146)、Part4(86-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の形式と傾向をより理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	7/6	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	7/13	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。 TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他	成美堂	2019	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜 10:30～10:40 12:10～12:20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、履修上の注意事項、TOEICの概要の説明等。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、前期の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	シラバス内容を確認する。	30分
		事後学修	ガイダンス内容とテキストの構成等を確認し、前期の学習計画を立てる。	30分
2	4/16	Arts & Museum (1)	Unit 1: Listening Section Part 1およびとPart 2の問題演習と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Section Part 1とPart 2の形式理解と解答法を身につけることができる。	
		事前学修	テキストp. 6の問題を解く。	30分
		事後学修	Unit 1 Listening Section Part 1とPart 2の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
3	4/23	Arts & Museum (2)	Unit 1: Listening Section Part 3とPart 4の問題演習と解説。 VocabularyテキストSection A Unit 1～Unit 3小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Section Part 3とPart 4の形式理解と解答法を身につけることができる。	
		事前学修	VocabularyテキストSection A Unit 1～Unit 3小テスト準備	30分
		事後学修	Listening Section Part 3とPart 4の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
4	4/30	Arts & Museum (3)	Unit 1: Reading Section Part5, Part6, Part7の問題演習と解説。 VocabularyテキストSection A Unit 4～Unit 6小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Reading Section Part5, Part6, Part7の形式理解と解答法を身につけることができる。	
		事前学修	テキストp. 14の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 4～Unit 6 小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 1 Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
5	5/7	Lunch & Parties (1)	Unit 2: Listening Section 子音と母音の連結を意識し、聞き取る。 VocabularyテキストSection A Unit 7～Unit 9小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子音と母音の連結を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 15の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 7～Unit 9小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 2 Listening Section の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
6	5/14	Lunch & Parties (2)	Unit 2: Reading Section 形容詞と冠詞について。 VocabularyテキストSection A Unit 10～Unit 12小テスト ClassMATEの使い方について	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞と冠詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 23の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 10～Unit 12小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 2: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Medicine &Health (1)	Unit 3: Listening Section [r][m][n]以外の子音と母音の連結。 ClassMATE Mini test 1	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、[r][m][n]以外の子音と母音の連結を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 24の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 3: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
8	5/28	Medicine &Health (2)	Unit 3: Reading Section 副詞について。 ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、副詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 32の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 3: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。	30分
9	6/4	Traffic & Travel (1)	Unit 4: Listening Section 音の混合を意識し、聞き取れる。 ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音の混合を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 34の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 4: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
10	6/11	Traffic & Travel (2)	Unit 4: Reading Section 比較について。 ClassMATE Mini test 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 41の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 4: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
11	6/18	Ordering & Shipping (1)	Unit 5: Listening Section t音の変化。 ClassMATE Mini test 5	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、t音の変化を意識し、聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 42の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 5: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
12	6/25	Ordering & Shipping (2)	Unit 5: Reading Section 動詞と時制について。 ClassMATE Mini test 6	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞と時制について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 50の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 5: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Factories & Production (1)	Unit 6: Reading Section 未来表現など。 VocabularyテキストSection A Unit 13～Unit 15小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、未来表現数字について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 51の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit 13～Unit 15小テスト準備。	30分
		事後学修	Unit 6: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
14	7/9	授業内試験及びふり回り等	テキストの前期試験 前期の授業内容をふり返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期復習テストを受験することで、TOEIC受験に必要な対応力を身に付けることができる。	
		事前学修	テキストUnit 1 ～Unit 6 及びVocabularyテキスト Section A Unit1～Unit30の復習	30分
		事後学修	試験をふり回り、わからなかった箇所を復習する。	30分
15	7/16	前期の総まとめ	前期学習内容の総まとめ及び講評	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の学習内容を総まとめし、講評を加えることで、後期に向けた学習計画が立てられる。	
		事前学修	前期の学習内容を復習し、わからなかった箇所をチェックする。	30分
		事後学修	総まとめをもとに、後期に向けての学習計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布資料等を基にして、英語圏の人々の思考形式をグループで話し合い、レポートに纏めて提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週コメントを入れ、返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新訂版 TOEIC L&Rテストへようこそ	北原良夫	朝日出版社	2020		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、 小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
		この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
		事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	4/15	Part1.2のストラテジーの学習	写真問題、質疑応答問題についての理解	
		この回の到達目標	Part1.2の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	テキストp. v. の問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	4/22	Part3のストラテジーの学習	小テスト1(Part1.2) 会話問題についての理解	
		この回の到達目標	Part3の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	単語1-50を暗記する。 テキストpp. 2-4. 5-6. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
4	4/29	Part4のストラテジーの学習	小テスト2(Part3.4) トーク問題等についての理解	
		この回の到達目標	Part4の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	単語51-100を暗記する。 テキストpp. 4. 7-9. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
5	5/6	Part1.2. と時制	小テスト3(Part1.2) 時制に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、時制に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語101-150を暗記する。 テキストpp. 10-12. 13-14. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
6	5/13	Part3.4とショート・リーディング	小テスト4(Part3.4) アナウンス等に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ショート・リーディングに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語151-200を暗記する。 テキストpp. 12. 15-17. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Part1.2と品詞	小テスト5(Part1.2) 品詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、品詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語201-250を暗記する。 テキストpp.18-20.21-22.を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
8	5/27	Part3.4とイベント	小テスト6(Part3.4) イベントに関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、イベントに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語251-300を暗記する。 テキストpp.20.23-25.その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
9	6/3	Part1.2と仮定法	小テスト7(Part1.2) 仮定法に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、仮定法に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語301-350を暗記する。 テキストpp.26-28.29-30.を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
10	6/10	Part3.4と広告	小テスト8(Part3.4) 広告に関する表現についての理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、広告に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語351-400を暗記する。 テキストpp.28.31-34.その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
11	6/17	Part1.2と不定詞、動名詞	小テスト9(Part1.2) 不定詞と動名詞についての理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定詞、動名詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語401-450を暗記する。 テキストpp.36-37.39-40.を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
12	6/24	会議での表現	会議に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、会議に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	テキストpp.38.41-43その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	これまでの学習の確認	これまでの戦略の確認による、自己達成度の向上確認	
		この回の到達目標	これまでの解法の戦略を駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	単語小テスト1-9とUnit1-5の確認をする。	60分
		事後学修	配布プリントの復習	30分
14	7/8	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
		この回の到達目標	英語圏の思考形式を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
		事前学修	英語圏の思考形式に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
		事後学修	英語圏人々の思考形式を確認する。	30分
15	7/15	英語圏の文化とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の思考形式の相違の理解	
		この回の到達目標	英語圏と日本での人々の思考形式の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
		事前学修	単語451-550を暗記する。	30分
		事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力				
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力				
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力				
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力				
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。						2		
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。							2	
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	4/15	Unit 01 表・用紙 (Part 7)	Unit 01 表・用紙 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの表・用紙 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	4/22	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	4/29	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの広告 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	5/6	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの日常場面での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	5/13	Unit 03 品詞 (Part 5)	Unit 03 品詞 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)	・ClassMATE Mini test 1 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	5/27	Unit 04 動詞 (Part 5)	・ClassMATE Mini test 2 Unit 04 動詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの動詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	6/3	Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)	・ClassMATE Mini test 3 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの物の状態と位置 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	6/10	Unit 05 チャット (Part 7)	・ClassMATE Mini test 4 Unit 05 チャット (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのチャット (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	6/17	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2)	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	6/24	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7)	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの手紙・Eメール (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Unit 07 電話での会話 (Part 3)	Unit 07 電話での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの電話での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	7/8	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5)	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・関係代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	7/15	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験とテストの解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを前期1回、後期1回以上受験し、ClassMATE (Online Training)をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。 TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
小テストを毎回実施します。内容はその前の授業で扱った単語や表現から出題するので必ずvocabulary noteを準備し毎回復習してください。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語によるグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Tactics for the TOEIC TEST Listening and Reading Test Introductory Course	Grant Trew	Oxford	2017	教科書	必携
備考	ISBN978 0 19 452976 1				

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 通訳者、グローバル企業において輸出入業務
実務経験に基づく実践的教育の内容	英語による実践実務への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	ガイダンスと教科書の使い方、TOEIC試験について	Introduction to the course Becoming familiar with TOEIC	
		この回の到達目標	TOEIC試験の構成を知る。	
		事前学修	教科書の裏表紙にあるMP3ファイルにアクセスし、音声を聞き始める。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
2	水4/15	Photo Questions	Unit 1 Nouns and Verbs	
		この回の到達目標	Part 1について回答の対策を知る。名詞、動詞について音声より理解する。	
		事前学修	Unit1の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
3	水4/22	Question and Response	Unit 2 Tag questions	
		この回の到達目標	内容の意味を把握し間違いを避ける。付加疑問文を理解する。	
		事前学修	Unit 2の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
4	水4/29	Conversations	Unit 3 Offers and Suggestions	
		この回の到達目標	設問にある単語や表現から内容を予測する。	
		事前学修	Unit 3の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
5	水5/6	Announcements	Unit 4 Talks	
		この回の到達目標	Who, Whereで始まる問題に解答する。	
		事前学修	Unit 4の音声箇所をリスニングする。	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
6	水5/13	リスニングパート	Unit 1 - Unit 4 review	
		この回の到達目標	TOEICのリスニングパート全体について振り返り。苦手箇所を知り、対策を計る。	
		事前学修	Unit 1-4 review listening	30分
		事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	Incomplete Sentences	Unit 5 Talking about the future	
		この回の到達目標	時間の使い方について実際に回答し体感した上で対策する。	
		事前学修	Unit 5 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
8	水5/27	Text Completion	Unit 6 Part of Speech	
		この回の到達目標	品詞を見極めることで時間を短縮する。	
		事前学修	Unit 6 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
9	水6/3	Blank questions	Unit 5 - Unit 6 review	
		この回の到達目標	空欄を充す問題について回答の時間短縮する対策。	
		事前学修	Unit 5 - Unit 6 review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
10	水6/10	Reading Comprehension	Unit 7 Using context	
		この回の到達目標	読解問題について内容を読み解き語彙問題に回答する。	
		事前学修	Unit 7 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
11	水6/17	TOEIC Reading Parts	Reading part review	
		この回の到達目標	読解問題全般について対策を立てる。	
		事前学修	Reading part review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
12	水6/24	TOEIC Listening Test	TOEIC Practice Test (1) Listening Part and review	
		この回の到達目標	Practice Testを実施し弱点を知る。	
		事前学修	TOEIC Practice Test 1 Listening Part	30分
		事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	TOEIC reading Test	TOEIC Practice Test (1) Reading Test	
		この回の到達目標	Practice Testを実施し弱点を知る。	
		事前学修	TOEIC Practice Test 1 Reading Part	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
14	水7/8	Summary	Review Unit 1-7	
		この回の到達目標	TOEIC Part 1-7の全体的な対策を立てる。	
		事前学修	Review Practice Test (1) and all the units	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
15	水7/15	Examination and Feedback	Summary of Unit 1~7	
		この回の到達目標	期末試験の実施と解説。	
		事前学修	Review all the units	30分
		事後学修	Review all the units	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R TEST	Masako Yasumaru他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	辞書を持ってくること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション TOEICとは CaLaboの使い方を学ぶ	・授業の進め方について ・教科書、TOEICについての説明	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。テキストを購入する。授業用のノートを用意する。	60分
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	4/14	Unit 1 Daily Life その1	・Unit 1 Daily Life (文型・品詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文型・品詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 1を予習する。	60分
		事後学修	Unit 1のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
3	4/21	Unit 1 Daily Life その2	・Unit 1 Daily Life (文型・品詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文型・品詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 1を復習する。	60分
		事後学修	Unit 1のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
4	4/28	Unit 2 Shopping その1	・Unit 2 Shopping (代名詞・疑問詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 2を予習する。	60分
		事後学修	Unit 2のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
5	5/5	Unit 2 Shopping その2	・Unit 2 Shopping (代名詞・疑問詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 2を復習する。	60分
		事後学修	Unit 2のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
6	5/12	Unit 3 Parties & Events その1	・Unit 3 Parties & Events (形用詞・副詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、形用詞・副詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 3を予習する。	60分
		事後学修	Unit 3のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Unit 3 Parties & Events その 2	・Unit 3 Parties & Events (形用詞・副詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、形用詞・副詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 3を復習する。	60分
		事後学修	Unit 3のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
8	5/26	Unit 4 Traffic & Travel その 1	・Unit 4 Traffic & Travel (前置詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 4を予習する。	60分
		事後学修	Unit 4のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
9	6/2	Unit 4 Traffic & Travel その 2	・Unit 4 Traffic & Travel (前置詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 4を復習する。	60分
		事後学修	Unit 4のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
10	6/9	Unit 5 Office Work その1	・Unit 5 Office Work (接続詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 5を予習する。	60分
		事後学修	Unit 5のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
11	6/16	Unit 5 Office Work その2	・Unit 5 Office Work (接続詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 5を復習する。	60分
		事後学修	Unit 5のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
12	6/23	Unit 6 Marketing & ICT その 1	・Unit 6 Marketing & ICT (名詞・主語と動詞の一致) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 6を予習する。	60分
		事後学修	Unit 6のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Unit 6 Marketing & ICT その 2	・Unit 6 Marketing & ICT（名詞・主語と動詞の一致）その 2 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
		事前学修	Unit 6を復習する。	60分
		事後学修	Unit 6のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
14	7/7	前期試験と復習	前期試験 試験でわからなかったところをテキストで確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだテキストの解法のテクニックを理解できているか確認することができる。	
		事前学修	テスト勉強をする。	120分
		事後学修	テストをもう一度やってみる。	60分
15	7/14	前期のふり 返り	テストの返却と前期のふり 返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関して、前期に学んだことをふり 返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだことを復習する。	60分
		事後学修	夏休み中のTOEICの学習計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC II B	担当者	石川 太郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TOEIC L&R Test: On Target, Book 1 (Revised Edition)	大賀リエ その他	南雲堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	part 1~3 and 4~7	前期授業の確認と復習	
		この回の到達目標	前期の授業中に感じたリスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前期授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
2	9/26	part 4~7	Unit 6: Sales Campaign 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	Unit 6の予習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
3	10/3	part 1~3	Unit 7: Employment 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	10/10	part 4~7	Unit 7: Employment 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	10/17	part 1~3	Unit 8: Communications 1: リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	10/24	part 4~7	Unit 8: Communications 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	part 1~3	Unit 9: Ecology 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
8	11/7	part 4~7	Unit 9: Ecology 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
9	11/14	part 1~3	Unit 10: Troubleshooting 1:リスニングセクション	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
10	11/21	part 4~7	Unit 10: Troubleshooting 2:リーディングセクション	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
11	11/28	part 1~3	Test演習1（リスニングセクション中心）	
		この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分
12	12/5	part 4~7	Test演習2（リーディング中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	part 4～7	Test演習3（文法項目中心）	
		この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	文法事項の復習	30分
14	12/19	part 1～3 and 4～7	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	前回授業の復習	30分
		事後学修	単語、熟語、文法の復習	30分
15	12/26	part 1～3 and 4～7	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、II Bとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	形式と対策方法	ガイダンス(問題構成の確認)、模擬問題の演習	
		この回の到達目標	問題構成の再確認。	
		事前学修	既習事項の確認	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	9/21	Part2, 5の復習	Test1 Part2(7-31), Test2 Part6(131-138)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問)と Part5 (7/10問)程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	9/28	Part2, 5の習熟	Test2 Part2(7-31), Test2 Part6(139-146)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part2 (18/25問), Part6 (5/8問), Part5 (7/10問), 程度正解すること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	10/5	Part3の復習	Test2 Part3(32-55)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	10/12	Part3の習熟	Test2 Part3(56-70)、Part5、音読練習	
		この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	10/19	Part4の復習、Part7の演習	Test2 Part4 (71-85)、Test1 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7で時間配分を把握する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Part4の習熟、Part7の演習	ClassMATEの小テスト、Test2 Part4(86-100)、Test1 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7の問題文を正確に読めること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	11/9	複数文書の読解問題	ClassMATEの小テスト、Test1 Part7(176-185)、Test2 Part3(43-70)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式を理解する。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	11/16	複数文書の読解問題の発展	ClassMATEの小テスト、Test1 Part7(186-200)、Test2 Part4(71-100)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	11/23	読解問題の習熟	ClassMATEの小テスト、Test2 Part7(147-160)、音読練習	
		この回の到達目標	本番を意識して問題を解ける。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	11/30	読解問題の習熟	ClassMATEの小テスト、Test2 Part7(161-175)、音読練習	
		この回の到達目標	読解問題の本文を正確に読める。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	12/7	複数文書の読解問題の発展	Test2 Part7(176-185)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	複数文書の読解問題の習熟	Test2 Part7(186-200)、音読練習	
		この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
		事前学修	前回までの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	12/21	授業内試験	授業内試験、問題の解説	
		この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	答えの確認	30分
15	1/18	まとめ	まとめ（受講生の人数によって個別に面接）	
		この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
		事前学修	これまでの復習	30分
		事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料と受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。小テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他	成美堂	2019	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜 10:30～10:40 12:10～12:20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンスおよび演習	後期の授業の進め方やスケジュール、履修上の注意事項の説明 Unit 6: Listening Section 数字表現	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いろいろな数字表現に慣れることができる。	
		事前学修	シラバス内容を確認する。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を確認し、後期の学習計画を立てる。 Unit 6の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
2	9/24	Research & Development	Unit 7: Reading Section 主語と動詞の呼応、時制の一致 VocabularyテキストSection B Unit 1～Unit 3小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語と動詞の呼応、時制の一致について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 60の問題を解く。 VocabularyテキストSection B Unit 1～Unit 3小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 7: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
3	10/1	Computers & Technology (1)	Unit 8: Listening Section キーワードからトピックを把握する。 VocabularyテキストSection B Unit 4～Unit 6小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してキーワードからトピックを把握することができる。	
		事前学修	テキストp. 69の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 4～Unit 6小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 8: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
4	10/8	Computers & Technology (2)	Unit 8: Reading Section 能動態と受動態 VocabularyテキストSection B Unit 7～Unit 9小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、能動態と受動態について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 77の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 7～Unit 9小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 8: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
5	10/15	Employment & Promotions (1)	Unit 9: Listening Section キーワードから状況を把握する。 VocabularyテキストSection B Unit 10～Unit 12小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キーワードから状況を把握することができる。	
		事前学修	テキストp. 78の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 10～Unit 12小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 9: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
6	10/22	Employment & Promotions (2)	Unit 9: Reading Section 不定詞と動名詞 VocabularyテキストSection B Unit 13～Unit 15小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 86の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit 13～Unit 15小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 9: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Advertisements & Personnel (1)	Unit 10: Listening Section 英単語からイメージを描く ClassMATE Mini test 1	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英単語からイメージを描くことができる。	
		事前学修	テキストp. 87の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 10: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
8	11/5	Advertisements & Personnel (2)	Unit 10: Reading Section 分詞 ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 95の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 10: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
9	11/12	Telephone & Messages(1)	Unit 11: Listening Section 英語の話の展開の特徴を知る。 ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の話の展開の特徴を知ることができる。	
		事前学修	テキストp. 96の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 11: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
10	11/19	Telephone & Messages(2)	Unit 11: Reading Section 助動詞 ClassMATE Mini test 4	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 104の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 11: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
11	12/3	Banking & Finance (1)	Unit 12: Listening Section 必要な情報のみを聞き取る。 ClassMATE Mini test 5	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、必要な情報のみを聞き取ることができる。	
		事前学修	テキストp. 105の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 12: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。	30分
12	12/10	Banking & Finance (2)	Unit 12: Reading Section 接続詞 ClassMATE Mini test 6	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	テキストp. 114の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。	30分
		事後学修	Unit 12: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Office Work & Equipment	Unit 13 関係代名詞&関係副詞 VocabularyテキストSection B Unit 16～Unit 18小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係代名詞&関係副詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	VocabularyテキストSection B Unit 16～Unit 18小テスト準備	30分
		事後学修	Unit 13: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
14	12/24	授業内試験およびふり返し	テキストの後期試験 後期授業をふり返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期復習テストを受験することで、TOEICスコアアップに必要な力を身に付けることができる。	
		事前学修	テキストUnit 6 ～Unit 13およびvocabularyテキストSection B Unit1～Unit30 までの復習	30分
		事後学修	試験をふり返し、わからなかった箇所を確認する。	30分
15	1/14	後期の総まとめ	後期の学習内容の総まとめ及び講評	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の学習内容を総まとめし、講評を加えることで、今後の学習目標を立てることができる。	
		事前学修	後期の学習内容の復習	30分
		事後学修	総まとめをもとに、今後のTOEIC対策または英語学習の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	配布資料等を基にして、英語圏の人々の思考形式をグループで話し合い、レポートに纏めて提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週コメントを入れ、返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新訂版 TOEIC L&Rテストへようこそ	北原良夫	朝日出版社	2020		
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、 小石裕子	アルク	2016		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12：10～13：00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
		この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
		事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	9/23	Part5. 6. のストラテジーの学習	短文穴埋め問題、長文穴埋め問題についての理解	
		この回の到達目標	Part5. 6. の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	テキストp. viii-ixの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	9/30	Part7. のストラテジーの学習	小テスト1(Part1. 2) 読解問題についての理解	
		この回の到達目標	Part7. の一般的な解法を理解できる。	
		事前学修	単語501-550を暗記する。 テキストpp. 44-45. 47-48. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
4	10/7	Part3. 4. と準動詞	小テスト2(Part3. 4) 準動詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、チャットに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語551-600を暗記する。 テキストpp. 46. 49-52. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
5	10/14	Part1. 2. と分詞	小テスト3(Part1. 2) 分詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語601-650を暗記する。 テキストpp. 54-55. 57-58. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
6	10/21	Part3. 4と旅行	小テスト4(Part3. 4) 出張等に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、旅行に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語651-700を暗記する。 テキストpp. 56. 59-62. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Part1.2と分詞構文、使役動詞	小テスト5(Part1.2) 分詞構文、使役動詞に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞構文、使役構文に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語701-750を暗記する。 テキストpp. 64-65. 67-68. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
8	11/11	Part3.4と会議、天候	小テスト6(Part3.4) 会議、天候に関する表現の理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、会議、天候に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語751-800を暗記する。 テキストpp. 66. 69-73. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
9	11/18	Part1.2と比較構文	小テスト7(Part1.2) 比較構文に関する問題の理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、比較構文に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語801-850を暗記する。 テキストpp. 74-75. 77-78. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
10	11/25	Part3.4と商品注文、ダブル・パッセージ	小テスト8(Part3.4) 商品注文に関する表現についての理解	
		この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ダブル・パッセージに関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語851-900を暗記する。 テキストpp. 28. 31-34. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
11	12/2	Part1.2と不定代名詞	小テスト9(Part1.2) 不定代名詞についての理解	
		この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定代名詞に関する問題の解法が理解できる。	
		事前学修	単語901-950を暗記する。 テキストpp. 84-85. 88-89. を解いてくる。その際 Warm-up & Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up & Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分
12	12/9	図表のリスニング・パート	図表問題の取り組み方の理解	
		この回の到達目標	図表の解法(Part3.4.7)の解法が理解できる。	
		事前学修	テキストpp. 86-87. 90-93. その際 Vocabulary Build-up の英文和訳も行う。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Vocabulary Build-up の単語を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	これまでの学習の確認	これまでのストラテジーの確認による、自己達成度の向上確認	
		この回の到達目標	これまでの解法のストラテジーを駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
		事前学修	単語小テスト1-9とUnit6-10の確認をする。	60分
		事後学修	配布プリントの復習	30分
14	12/23	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
		この回の到達目標	英語圏における世界観を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
		事前学修	英語圏の人々の世界観に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
		事後学修	英語圏人々の世界観を確認する。	30分
15	1/13	英語圏の世界観とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の世界観の相違の理解	
		この回の到達目標	英語圏と日本での人々の世界観の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
		事前学修	単語951-1005を暗記する。	30分
		事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018		
備考					

【オフィスアワー】
水曜16：10／17：50～ 講堂にて質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのUnit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	9/23	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5)	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	9/30	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2)	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのYes/No疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	10/7	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	10/14	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	10/21	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5)	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 5の復習 (Part 5) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Unit 11 留守番電話 (Part 4)	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの留守番電話 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	11/11	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7)	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	11/18	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3)	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ② (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	11/25	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7)	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 7の復習 (Part 7) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	12/2	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2)	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) をする。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	12/9	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの時制・代名詞・語い問題 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4)	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	12/23	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6)	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのつなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
		事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
		事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	1/13	テキストの後期試験とテスト解説	・テキストの後期試験とテスト解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
		事後学修	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを前期1回、後期1回以上受験し、ClassMATE (Online Training)をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。 TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
小テストを毎回実施します。内容はその前の授業で扱った単語や表現から出題するので必ずvocabulary noteを準備し毎回復習してください。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英語によるグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Tactics for the TOEIC TEST Listening and Reading Test Introductory Course	Grant Trew	Oxford	2017	教科書	必携
備考	ISBN978 0 19 452976 1				

【オフィスアワー】
毎回の授業前後に授業が行われる講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 通訳者、グローバル企業において輸出入業務
実務経験に基づく実践的教育の内容	英語による実践実務への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	水9/16	TOEIC試験全般について	Review Unit 1~7
		この回の到達目標	受験したTOEIC試験について振り返り今後の時間配分について対策を立てる。
		事前学修	教科書の裏表紙にあるMP3ファイルにアクセスし、音声を聞き始める。30分
		事後学修	vocabulary note30分
2	水9/23	Photo Questions	Unit 8 Present Tenses, Prepositions
		この回の到達目標	現在形についてリスニング練習。前置詞について理解する。
		事前学修	Unit 8 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
3	水9/30	Question and Response	Unit 9 Questions with Indirect answers
		この回の到達目標	リスニング問題での間接的な答え方について慣れる。
		事前学修	Unit 9 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
4	水10/7	Conversations	Unit 10 Opinions
		この回の到達目標	意見を述べている内容のリスニング問題を理解する。
		事前学修	Unit 10 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
5	水10/14	Talks	Unit 11 Voice mails and recorded messages
		この回の到達目標	録音されたメッセージを理解する。
		事前学修	Unit 11 音声箇所をリスニングする。30分
		事後学修	vocabulary note30分
6	水10/21	TOEIC listening parts	Unit 8 - Unit 11 review
		この回の到達目標	TOEICのリスニングパート全体について振り返り。苦手箇所を知り、対策を計る。
		事前学修	Unit 8 - Unit 11 音声箇所をリスニングする30分
		事後学修	vocabulary note30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	Incomplete Sentences	Unit 12 Using prefixes	
		この回の到達目標	接頭語を知り迅速に的確に答える。	
		事前学修	Unit 12 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
8	水11/11	Text Completion	Unit 13 Pronouns and possessive forms	
		この回の到達目標	代名詞と所有格を復習しTOEICの問題を解く。	
		事前学修	Unit 13 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
9	水11/18	Reading Comprehension	Unit 14 Answering NOT questions	
		この回の到達目標	難解な'NOT question'への対応を知る。	
		事前学修	Unit 14 練習問題	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
10	水11/25	TOEIC Reading Parts	Reading parts review	
		この回の到達目標	読解問題全般について対策を立てる。	
		事前学修	Reading Part review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
11	水12/2	TOEIC Listening Part	TOEIC Practice Test (2) Listening Part and review	
		この回の到達目標	Practise Testを実施し対策を立てる。	
		事前学修	TOEIC Practice Test (2) Listening Part	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
12	水12/9	TOEIC Reading Part	TOEIC Practice Test (2) Reading Part and review	
		この回の到達目標	Practice Testを実施し対策を立てる。	
		事前学修	TOEIC Practice Test (2) Reading Part and review	30分
		事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	Part 2 and Part 5	Questions and responses, blank questions	
		この回の到達目標	高得点に繋がるPart 2, Part 5の力を磨き正答率を高める。	
		事前学修	Review Practice Test (2)	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
14	水12/23	Summary	Review all the units	
		この回の到達目標	TOEIC Part 1-7の全体的な対策を立てる。	
		事前学修	Review all the units	30分
		事後学修	vocabulary note	30分
15	水1/13	Examination and Feedback	Summary of all the units	
		この回の到達目標	期末試験の実施と解説。	
		事前学修	Review all the units	30分
		事後学修	Review all the units	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『名作映画でTOEIC(2)めざせ！500： シャレード』	仲郷慶他	英宝社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:00-15:00 研究室（9号館6階9605研究室） sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	前期に学んだことをおさらいし、目標設定とスコア獲得のための学習計画を立てる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの目標設定とスコア獲得のための学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期に学んだことをふり返る。お気に入りの英語&日本語字幕のある映画を探しておく。	60分
		事後学修	テキストを注文する。自分の現在の力を自己分析する。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画・ドラマを観る。	150分
2	9/22	Unit 7 Who's Lying? (1)-1	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、母音の聞き取りに慣れ、不定詞・動名詞の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
3	9/29	Unit 7 Who's Lying? (1)-2	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、母音の聞き取りに慣れ、不定詞・動名詞の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
4	10/6	Unit 8 Secrecy (2)-1	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、母音の聞き取りに慣れ、分詞の機能を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
5	10/13	Unit 8 Secrecy (2)-2	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、母音の聞き取りに慣れ、分詞の機能を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
6	10/20	Unit 9 Still Hungry (1)-1+G156:BM173	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、子音の聞き取りに慣れ、比較の表現を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Unit 9 Still Hungry (1)-2	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、子音の聞き取りに慣れ、比較の表現を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
8	11/10	Unit 10 Still Hungry (2)-1	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、子音の聞き取りに慣れ、接続詞の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
9	11/17	Unit 10 Still Hungry (2)-2	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、子音の聞き取りに慣れ、接続詞の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
10	11/24	Unit 11 Charade (1)-1	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、地名の聞き取りに慣れ、関係詞の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
11	12/1	Unit 11 Charade (1)-2	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、地名の聞き取りに慣れ、関係詞の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分
12	12/8	Unit 12 Charade (2)-1	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、数字などの聞き取りに慣れ、仮定法の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Unit 12 Charade (2)-2	*Word & Phrases *Listening Tips, Exercises *Part 1-7 練習問題 *Dictation *Grammar Training	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、数字などの聞き取りに慣れ、仮定法の役割を理解することで、TOEICのスコアに結びつけることができる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	テキストの復習をする。先週観たTVやインターネット、DVDの動画を英語音声、英語字幕に変えて観てみる。プレゼンテーションの準備を始める。	120分
14	12/22	後期試験 プレゼンテーション	後期試験 プレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだテキストの解法のテクニックを理解できているか確認することができる。	
		事前学修	テスト勉強をする。プレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	テストをもう一度やってみる。	30分
15	1/12	プレゼンテーション	*テストの返却と前期のふり返し *プレゼンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまで提出してきた動画のスクリプトレポートからプレゼンテーションできる。	
		事前学修	テキストの予習をする。日本語字幕（音声は英語）でお気に入りの映画やドラマを繰り返し観る。気になるシーン数分間の英語字幕と日本語を書き写し、音読する。	60分
		事後学修	動画を使った英語学習の方法をおさらいする。	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を受講してもらいます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。 小テストは授業内で返却を行う。授業内試験後に、試験の解説を行い、内容を振り返る。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。									3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										3		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (1)	Yutaka Kitamura	On Demand Publishing	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月4/6	TOEICとは	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。英英辞典の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	授業の進め方、TOEICの概要を理解する。英英辞典の使い方を習得する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第1部 月4/13	TOEIC第1部について	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第1部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(10-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。	30分
3	第1部 月4/20	TOEIC第2部について	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
4	第1部 月4/27	TOEIC第3部について	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第3部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
5	第1部 月5/4	TOEIC第4部について	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(27-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
6	第1部 月5/11	TOEIC第5部について	リーディング第5部：演習と解説 TOEICリーディング第5部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第5部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(84-85頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月5/18	TOEIC第6部について	リーディング第6部：演習と解説 TOEICリーディング第6部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(86-87頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
8	第1部 月5/25	TOEIC第7部（前半部分、single passage）について	リーディング第7部（前半部分、single passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部前半（single passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部前半（single passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の準備、テキスト(88-94頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
9	第1部 月6/1	TOEIC第7部（後半部分、double passage）について	リーディング第7部（後半部分、double passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部後半（double passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部後半（double passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部後半（double passage）問題演習の準備、テキスト(94-97頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第7部後半部分（double passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
10	第1部 第2部 月6/8	TOEIC第1部と第2部について	リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第1－2部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第1－2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備、テキスト(10-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
11	第1部 月6/15	TOEIC第3部と第4部について	リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第3－4部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第3－4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備、テキスト(26-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
		事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
12	第1部 月6/22	TOEIC第5部と第6部について	リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第5－6部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第5－6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備、テキスト(30-41頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
		事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月6/29	TOEIC第7部single passage問題について	リーディング問題演習（第7部前半single passage問題）と解説 自宅トレーニング方法の紹介	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部前半single passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部（前半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部前半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
14	第1部 月7/6	TOEIC第7部double passage問題について	リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 自宅トレーニング方法の紹介	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第7部後半double passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部（後半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
15	第1部 第2部 月7/13	前期の振り返りと学習内容の定着	前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。試験後解説と前期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	前期授業の総まとめとしての授業内試験を通して、前期の授業で扱った内容を確認し、ビジネス英語全般の理解を深める。	
		事前学修	「前期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。（30分）	30分
		事後学修	「前期のまとめ」の内容の復習。前期授業の学習内容を確認する。（30分）	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験すること。オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務づける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC TEST Trainer Target 650	Masahiko Yamaguchi 他3名	CENGAGE Learning	2016		
備考					

【オフィスアワー】
金曜14：30～講堂にて。授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後に相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/10	オリエンテーション及び導入講義	ガイダンス
		この回の到達目標	到達目標①②も関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。
		事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R Test のHPに目を通す。
		事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。
2	4/17	提案-時制1	Unit 1 Listening Section の学習
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 を学習して、提案の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。
		事前学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。 Unit 1 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。
		事後学修	Unit 1 Listening Sectionを音読し、復習として自分で訳してみる。
3	4/24	提案-時制1	Unit 1 Listening Section の小テスト Unit 1 Reading Section の学習
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 を学習して、時制の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。
		事前学修	・Unit 1 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 1 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。
		事後学修	Unit 1 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。
4	5/1	確認-時制2	Unit 1 Reading Section の小テスト Unit 2 Listening Section の学習
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2を学習して、確認の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。
		事前学修	・Unit 1 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 2 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。
		事後学修	Unit 2 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。
5	5/8	確認-時制2	Unit 2 Listening Sectionの小テスト Unit 2 Reading Section の学習
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2を学習して、時制の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。
		事前学修	・Unit 2 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 2 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。
		事後学修	Unit 2 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。
6	5/15	会話を始める-助動詞	Unit 2 Reading Sectionの小テスト Unit 3 Listening Section の学習
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3を学習して、会話を始めるときの表現を使ったListeningの問題を解くことができる。
		事前学修	・Unit 2 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 3 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。
		事後学修	Unit 3 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	会話を始める-助動詞	ClassMATE Mini Test 1 Unit 3 Listening Sectionの小テスト Unit 3 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3を学習して、助動詞を使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・Unit 3 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 3 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 3 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
8	5/29	ニュース報道-フレーズリーディング	ClassMATE Mini Test 2 Unit 3 Reading Sectionの小テスト Unit 4 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit4を学習して、ニュース報道を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・Unit 3 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 4 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 4 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
9	6/5	ニュース報道-フレーズリーディング	ClassMATE Mini Test 3 Unit 4 Listening Sectionの小テスト Unit 4 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 4を学習してフレーズリーディングを使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・Unit 4 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 4 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 4 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
10	6/12	義務-代名詞	ClassMATE Mini Test 4 Unit 4 Reading Sectionの小テスト Unit 5 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5を学習して、義務の表現を使ったListening の問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・Unit 4 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 5 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 5 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
11	6/19	義務-代名詞	ClassMATE Mini Test 5 Unit 5 Listening Sectionの小テスト Unit 5 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5を学習して、代名詞を使ったReading の問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・Unit 5 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 5 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 5 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
12	6/26	理由-前置詞	ClassMATE Mini Test 6 Unit 5 Reading Sectionの小テスト Unit 6 Listening Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 を学習して理由の表現を使ったListening の問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・Unit 5 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 6 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 6 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	理由-前置詞	ClassMATE 模試 Unit 6 Listening Sectionの小テスト Unit 6 Reading Section の学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6を学習して前置詞を使ったReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE 模試をやる。 ・Unit 6 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 6 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
		事後学修	Unit 6 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
14	7/10	前期試験と振り返り	テキストの前期試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
		事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
		事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	7/17	前期の振り返り	テスト返却 前期の授業を振り返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	夏休み以降の勉強の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC を受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 遅刻30分以上は欠席とみなす。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークでの問題解析、解説、出題を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で課題、試験の講評、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Best practice for the TOEIC listening and reading test revised edition	Yoshizuka	Seibido	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂に来て下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察する	
		事前学修	TOEIC目標の設定	30分
		事後学修	ジャーナルの書き方	30分
2	第一部 水4/15	TOEIC診断テスト	TOEIC Part1 to Part 7	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEIC Testの形式、内容を考察する。	
		事前学修	語彙復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
3	第一部 水4/22	Restaunt	人称代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 1	30分
		事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	第一部 水4/29	Entertainment	不定代名詞と再帰代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 2	30分
		事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	第一部 水5/6	Business	現在、過去時制	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リーディング	30分
		事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	第一部 水5/13	Office	現在完了	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題分析	30分
		事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	Telephone	期間を表す前置詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題作成	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	第一部 水5/27	Letter & e-mail	場所を表す前置詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 発表準備	30分
		事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	第一部 水6/3	Health	数量形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 グループワーク	30分
		事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	第一部 水6/10	Bank & Post office	自動詞と他動詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リフレクションシート	30分
		事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	第一部 水6/17	New Products	形容詞を作る接尾辞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 語彙	30分
		事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	第一部 水6/24	Travel 1	副詞を作る接尾辞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 表現	30分
		事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	Travel 2	分詞構文	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法	30分
		事後学修	ジャーナル 1 2 授業振り返り	30分
14	第一部 水7/8	Job applications	比較	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 総復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 3 授業振り返り	30分
15	第一部 水7/15	Shopping	受動態	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 前期の学習内容のまとめ	30分
		事後学修	ジャーナル 1 4 授業振り返り	30分

科目名	TOEIC ⅢA(木曜3限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト等に関しては当日もしくは後日解答と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日 (木)	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Aの概要について説明。第1回目の履修希望者数によっては人数調整のためミニテストを行う場合もある。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、前期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、前期の学習計画を立てる。	30分
2	4月16日 (木)	TOEICについての説明、プレテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	4月23日 (木)	第1回英単語試験 ・Unit 1	単語試験 (No. 1 - 45)/ テキストMini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33) の小テスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 ・テキストWarm-Up Listeningの音声を聴く	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	4月30日 (木)	第2回英単語試験 Unit 1	単語試験 (No. 46 - 90)/ テキストpp. 24 - 28までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「食」と「レストラン」関連のTOEICの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 24 - 28の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 24 - 28の間違えたところを中心に復習する。	30分
5	5月7日 (木)	第3回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 91 - 143)/ テキスト Mini TOEIC L&R Test (pp. 39 - 43)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Entertainment」関連の問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	5月14日 (木)	第4回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 144 - 195)/ テキストpp. 34 - 38までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Entertainment」関連の語彙の修得、リスニング、リーディングの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 34 - 38の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 34 - 38の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日 (木)	第5回英単語試験 Unit 3 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No.196 - 248)/ テキストMini TOEIC L&R Test(pp.49 - 53)/ClassMATE Mini test	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 3, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	5月28日 (木)	第6回英単語試験 Unit 4 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No.249 - 300)/ テキストMini TOEIC L&R Test(pp.59 - 63)/ ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	6月4日 (木)	第7回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 3&4	単語試験 (No.301 - 345) / ClassMATE Mini test / テキストpp. 24 - 28までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 4, Part 5の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 44 - 48 / pp. 54 - 58の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 44 - 48 / pp. 54 - 58の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	6月11日 (木)	第8回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 5	単語試験 (No.346 - 398)/ ClassMATE Mini test 4 / テキストMini TOEIC L&R Test(pp.69 - 73)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	6月18日 (木)	第9回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 6	単語試験 (No.399 - 450)/ ClassMATE Mini test 5 Mini TOEIC L&R Test(pp.79 - 83)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	6月25日 (木)	第10回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 5 & Unit 6	単語試験 (No.451 - 495)/ ClassMATE Mini test 6 テキストUnit 5&Unit 6 : pp. 64 - 68 / pp. 74 - 78までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 6の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 64 - 68 / pp. 74 - 78の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 64 - 68 / pp. 74 - 78の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日 (木)	第11回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No. 496 - 548）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る。	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。	30分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	7月9日 (木)	第12回英単語試験 / TOEIC模擬試験の復習、その他の問題	単語試験（No. 549-600）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 1- 6のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	7月16日 (木)	前期の振り返り	前期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、夏休み中、もしくは後期のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	前期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	前期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢA(木曜4限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト等に関しては当日もしくは後日解答と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	北尾、西田他2名共著	朝日出版社	2017	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12:50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日 (木)	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Aの概要について説明。第1回目の履修希望者数によっては人数調整のためミニテストを行う場合もある。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、前期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストの最初の4ページを読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、前期の学習計画を立てる。	30分
2	4月16日 (木)	TOEICについての説明、プレテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	4月23日 (木)	第1回英単語試験 ・Unit 1	単語試験 (No. 1 - 45)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	4月30日 (木)	第2回英単語試験 Unit 1の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 46 - 90)/ テキストUnit 1の復習。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「食」と「レストラン」関連の語彙や表現、動詞の形を身につけることが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。Warm-upの単語を覚える。Unit 1のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストとTOEIC練習問題を復習する。	30分
5	5月7日 (木)	第3回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 91 - 143)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「旅行」関連の語彙や表現、動詞の形を身につけることが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	5月14日 (木)	第4回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 144 - 195)/ Unit 2の復習 / TOEIC練習問題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC練習問題を解くことでTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 2のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。Unit 2のReadingとTOEIC練習問題の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日 (木)	第5回英単語試験 Unit 3/ TOEIC練習問題 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No.196 - 248)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。/ClassMATE Mini test 1	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「エンターテインメント」関連の語彙や表現、品詞に関する知識を身につけることが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	5月28日 (木)	第6回英単語試験 Unit 4 / TOEIC練習問題 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No.249 - 300)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。/ ClassMATE Mini test 2	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「会議」関連の語彙や表現を身につけて、分詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	6月4日 (木)	第7回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 5 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.301 - 345) / ClassMATE Mini test / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「人事」関連の語彙や表現を身につけて、不定詞と動名詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
10	6月11日 (木)	第8回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 6 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.346 - 398)/ ClassMATE Mini test 4 / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してショッピング」関連の語彙や表現を身につけて、不定詞と動名詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストTOEIC Part1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	6月18日 (木)	第9回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 7 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.399 - 450)/ ClassMATE Mini test 5 テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「広告」関連の語彙や表現を身につけて仮定法を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	6月25日 (木)	第10回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 3 - Unit 7の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No.451 - 495)/ Unit 3 - Unit 7の復習をする。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 3 - Unit 7のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストUnit 3 - Unit 7のReading Partの問題を中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日 (木)	第11回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No. 496 - 548）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る。	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。	30分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	7月9日 (木)	第12回英単語試験 / TOEIC模擬試験の復習、その他の問題	単語試験（No. 549-600）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 1- 6のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	7月16日 (木)	前期の振り返り	前期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、夏休み中、もしくは後期のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	前期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	前期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。 小テストは次の授業で返却を行う。授業内試験後解説と振り返りを行う。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。									3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										3		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (2)	Yutaka Kitamura	On Demand Publishing	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月9/14	General introduction	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。TOEICのスコア表の読み方を学ぶ。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
		この回の到達目標	授業の進め方、TOEICの概要を理解する。TOEICのスコア表の読み方を学び、自分で学習戦略を立てられる。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
		事前学修	授業の概要を大学のHPで確認する。（30分）	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	第1部 月9/21	TOEICリスニング第1部について	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(1-5頁)に取り組む。	30分
		事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。	30分
3	第1部 月9/28	TOEICリスニング第2部について	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(6-11頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。	30分
4	第1部 月10/5	TOEICリスニング第3部について	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(12-19頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
5	第1部 月10/12	TOEICリスニング第4部について	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(20-28頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
6	第1部 月10/19	TOEICリーディング第5部について	リーディング第5部：演習と解説 リーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	第1部 月10/26	TOEICリーディング第6部について		リーディング第6部：演習と解説 リーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	TOEICリーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
		事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。(30分)		
		事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		
8	第1部 月11/9	TOEICリーディング第7部前半single passageについて		リーディング第7部（前半single passage）：演習と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
		事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備、テキスト(39-47頁)に取り組む。(30分)		
		事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		
9	第1部 第2部 月11/16	TOEICリーディング第7部後半double passageについて		リーディング第7部（後半double passage）：演習と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
		事前学修	リーディング第7部後半問題演習の復習、テキスト(47-58頁)に取り組む。(30分)		
		事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		
10	第1部 月11/23	TOEICリスニング第1－2部について		リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説 リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
		事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備。テキスト(59-63頁)に取り組む。(30分)		
		事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		
11	第1部 月11/30	TOEICリスニング第3－4部について		リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説 リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
		事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備。テキスト(64-67頁)に取り組む。(30分)		
		事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		
12	第1部 月12/7	TOEICリーディング第5－6部について		リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
		事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備。テキスト(5-22頁)に取り組む。(30分)		
		事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1 月12/14	TOEICリーディング第7部前半single passageについて	リーディング問題演習（第7部前半single passage）と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備。テキスト(68-72頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
14	第1部 月12/21	TOEICリーディング第7部後半double passageについて	リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
		この回の到達目標	リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
		事前学修	リーディング第7部後半double passage問題演習の準備。テキスト(78-89頁)に取り組む。（30分）	30分
		事後学修	リーディング第7部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。授業内最終テストに備える。	30分
15	第1部 月1/18	後期授業の総まとめと振り返り	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。その後解説と後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	後期授業の総まとめとしての授業内試験（及びその後の解説）を通して、後期学習内容の理解を深める。	
		事前学修	「後期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。	30分
		事後学修	「後期のまとめ」の内容の復習。後期授業の学習内容を確認する。 今後の自分の学習計画を立て、将来の受験に備える。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務づける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC TEST Trainer Target 650	Masahiko Yamaguchi 他3名	CENGAGE Learning	2016		
備考					

【オフィスアワー】
金曜14：30～講堂にて。授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	苦情-接続詞	Unit 7 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7を学習して苦情の表現を使ったListening 問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 7 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 7 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
2	9/25	苦情-接続詞	Unit 7 Listening Sectionの小テスト Unit 7 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7を学習して接続詞を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 7 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 7 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 7 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
3	10/2	交通情報-スキミング	Unit 7 Reading Sectionの小テスト Unit 8 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8を学習して交通情報のListening の問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 7 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 8 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 8 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
4	10/9	交通情報-スキミング	Unit 8 Listening Sectionの小テスト Unit 8 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8を学習してスキミングを用いてReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 8 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 8 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 8 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	10/16	Yes/Noで答える質問-関係詞	Unit 8 Reading Sectionの小テスト Unit 9 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9を学習してYes/Noで答える質問のListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 8 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 9 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 9 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
6	10/23	Yes/Noで答える質問-関係詞	Unit 9 Listening Sectionの小テスト Unit 9 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9を学習して関係詞を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・Unit 9 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 9 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 9 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／30	意見-分詞構文	ClassMATE Mini Test 1 Unit 9 Reading Sectionの小テスト Unit 10 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10を学習して意見の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・Unit 9 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 10 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 10 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
8	11／6	意見-分詞構文	ClassMATE Mini Test 2 Unit 10 Listening Sectionの小テスト Unit 10 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10を学習して分詞構文を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・Unit 10 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 10 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 10 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
9	11／13	意見の一致・不一致-仮定法	ClassMATE Mini Test 3 Unit 10 Reading Sectionの小テスト Unit 11 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11 を学習して意見の一致・不一致のListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・Unit 10 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 11 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
		事後学修	Unit 11 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
10	11／20	意見の一致・不一致-仮定法	ClassMATE Mini Test 4 Unit 11 Listening Sectionの小テスト Unit 11 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11を学習して仮定法のReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	ClassMATE Mini Test 4 Unit 11 Listening Sectionの小テスト Unit 11 Reading Sectionの学習	30分
		事後学修	Unit 11 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
11	11／27	会議-スキミング	ClassMATE Mini Test 5 Unit 11 Reading Sectionの小テスト Unit 12 Listening Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12を学習して会議に関するListeningの問題を解くことができる。	
		事前学修	ClassMATE Mini Test 5 Unit 11 Reading Sectionの小テスト Unit 12 Listening Sectionの学習	30分
		事後学修	Unit 12 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
12	12／4	会議-スキミング	ClassMATE Mini Test 6 Unit 12 Listening Sectionの小テスト Unit 12 Reading Sectionの学習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12を学習してス棄民後を用いたReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	ClassMATE Mini Test 6 Unit 12 Listening Sectionの小テスト Unit 12 Reading Sectionの学習	30分
		事後学修	Unit 12 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／11	総復習	ClassMATE 模試 Unit 12 Reading Sectionの小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期やったことを用いてListeningとReadingの問題を解くことができる。	
		事前学修	・ClassMATE 模試の課題をやる。 ・Unit 12 Reading Sectionの小テストを勉強する。	30分
		事後学修	授業で学習したことの復習。	30分
14	12／18	後期試験と振り返り	テキストの後期試験	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
		事前学修	後期の範囲を勉強する。	30分
		事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	12／25	後期の振り返り	テスト返却 後期の授業を振り返る	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
		事前学修	後期にテキスト、ClassMATEで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
		事後学修	今年が終わっても引き続きTOEICの勉強を続けていくための計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC を受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。 遅刻30分以上は欠席とみなす。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークでの問題解析、解説、出題を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で課題、試験の講評、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perfect practice for the TOEIC L & R test Revised edition	Ishii	Seibido	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に講堂に来て下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察する。	
		事前学修	TOEIC目標の設定	30分
		事後学修	ジャーナルの書き方	30分
2	第一部 水9/23	TOEIC診断テスト	TOEIC Part1 to Part 7	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEIC Testの形式、内容を考察する。	
		事前学修	語彙復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
3	第一部 水9/30	Studying Abroad	動詞の時制	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 1	30分
		事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	第一部 水10/7	International Conference	自動詞と他動詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法復習 2	30分
		事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	第一部 水10/14	Holidays	主語と動詞の一致	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リーディング	30分
		事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	第一部 水10/21	Leisure	動名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題分析	30分
		事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	Restaurant	不定詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 問題作成	30分
		事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	第一部 水11/11	Online Shopping	副詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 発表準備	30分
		事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	第一部 水11/18	Global Warming	分詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 グループワーク	30分
		事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	第一部 水11/25	Web Sites	名詞の可算、不可算	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 リフレクションシート	30分
		事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	第一部 水12/2	Workplace	代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 語彙	30分
		事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	第一部 水12/9	Nursing Care	接続詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 表現	30分
		事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	Global Trading	受動態と使役	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 文法	30分
		事後学修	ジャーナル 1 2 授業振り返り	30分
14	第一部 水12/23	Eco-Friendly Economy	関係詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 総復習	30分
		事後学修	ジャーナル 1 3 授業振り返り	30分
15	第一部 水1/13	Business Trips	形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
		事前学修	課題 後学期の学習内容のまとめ	30分
		事後学修	ジャーナル 1 4 授業振り返り	30分

科目名	TOEIC ⅢB(木曜4限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト、速読用の小レポート等に関しては当日もしくは後日解答、解説、返却等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	北尾、西田他2名共著	朝日出版社	2017	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日 (木)	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Bの概要について説明。（第1回目の履修希望者数によっては人数調整のためミニテストを行う場合もある。）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、後期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストの最初の4ページを読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	9月24日 (木)	TOEICについての説明、プレテストまたはミニテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストもしくはミニテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	10月1日 (木)	第13回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. 601 - 630/1`15)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	10月8日 (木)	第14回英単語試験 Unit 8の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 16 - 60)/ テキストUnit 8の復習。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「日常生活」に関連した語彙や表現、受動態を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。Warm-upの単語を覚える。Readingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストとTOEIC練習問題を復習する。	30分
5	10月15日 (木)	第15回英単語試験 Unit 9	単語試験 (No. 61 - 113)/ テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「オフィス・ワーク」に関連した語彙や表現、代名詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。Warm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	10月22日 (木)	第16回英単語試験 Unit 9の復習 TOEIC練習問題	単語試験 (No. 114 - 165)/ Unit 9の復習。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC練習問題を解くことでTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 2のReadingの問題をもう一度解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。Unit 2のReadingとTOEIC練習問題の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日 (木)	第17回英単語試験 ClassMATE Mini test 1 Unit 10 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 166 - 218) / ClassMATE Mini test 1 / テキストWarm-upの答え合わせの後 Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して「ビジネス」に関連した語彙や表現、数量詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキスト Warm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復 習する。	30分
8	11月5日 (木)	第18回英単語試験 ClassMATE Mini test 2 Unit 11 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 219 - 263) / ClassMATE Mini test 2/テキストWarm-upの答え合わせの後 Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して「旅行」に関連した語彙や表現、接続詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキスト Warm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復 習する。	30分
9	11月1 2日 (木)	第19回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 12 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 264 - 315) / テキストWarm-upの答え合わせの後Part1-Part 7のミニテスト、解 答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。ClassMATE Mini test 3	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して金融と銀行業」に関連した語彙や表現、前置詞を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストWarm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べてお く。。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。 テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に 復習する。	30分
10	11月1 9日 (木)	第20回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 13 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 316-360) / ClassMATE Mini test 4 / テキストWarm-upの答え合わせの後 Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して「メディア」に関連した語彙や表現、コロケーションを使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキスト Warm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストTOEIC Part1-Part 7のミニテストの間違えたところを中 心に復習する。	30分
11	11月2 3日 (木)	第21回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 14 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 361-413) / ClassMATE Mini test 5 / テキストWarm-upの答え合わせの後 Part1-Part 7のミニテスト、解答と解説を行う。TOEIC練習問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して「健康と福祉」に関連した語彙や表現を使った問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。テキスト Warm-Upの問題を解いて分からない語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストPart1-Part 7のミニテストの間違えたところを中心に復 習する。	30分
12	11月2 10日 (木)	第22回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 8 - Unit 14の復習 / TOEIC練習問題	単語試験 (No. 414-465) / ClassMATE Mini test 6 / Unit 8 - Unit 14の復習をする。TOEIC練習 問題を解いた後で解答と解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。Unit 8 - Unit 14のReadingの問題をもう一度解いて分からな い語を辞書で調べておく。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストUnit 8 - Unit 14のReading Partの問題を中心に復習す る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日 (木)	第23回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No.466-518）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。今までオンラインで学習したClassMATEの問題を選んで解く。	120分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	12月24日 (木)	第24回英単語試験 TOEIC模擬試験の復習、その他の問題	単語試験（No.519-570）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 6- 12のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	1月14日 (木)	後期の振り返り	後期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、今後のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	後期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	後期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB(木曜3限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト、速読用の小レポート等に関しては当日もしくは後日解答、解説、返却等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日 (木)	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Bの概要について説明。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、後期の学習目標を立てることが出来る。	
		事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等についてもう一度確認をする。	30分
		事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	9月24日 (木)	TOEICについての説明、プレテストまたはミニテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストもしくはミニテストと解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
		事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	10月1日 (木)	第13回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. .601 - 630/1`15)/ テキストMini TOEIC L&R Test(pp. 89 - 93)の小テスト、解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 ・テキストWarm-Up Listeningの音声を聴く	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する。	30分
4	10月8日 (木)	第14回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. . 16 - 60)/ テキストpp. 84 - 88までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連のTOEICの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 84 - 88の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 84 - 88の間違ったところを中心に復習する。	30分
5	10月15日 (木)	第15回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. .61 - 113)/ テキスト Mini TOEIC L&R Test(pp. 99 - 103)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連の問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する。	30分
6	10月22日 (木)	第16回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No .114 - 165)/ テキストpp. 94 - 98までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連の語彙の修得、リスニング、リーディングの問題を解くことが出来る。	
		事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 94 - 98の問題を解く。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 94 - 98の間違ったところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日 (木)	第17回英単語試験 Unit 9 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No. 166 - 218)/ ClassMATE Mini test 1 /テキストMini TOEIC L&R Test(pp.109 - 113)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	11月5日 (木)	第18回英単語試験 Unit 10 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No. 219 - 263)/ ClassMATE Mini test 2/テキストMini TOEIC L&R Test(pp.119 - 123)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	11月12日 (木)	第19回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 9 & 10	単語試験 (No. 264 - 315) /テキストpp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の解答と解説。ClassMATE Mini test 3	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	11月19日 (木)	第20回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 11	単語試験 (No. 316-360)/ ClassMATE Mini test 4 /テキストMini TOEIC L&R Test(pp.129 - 133)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	12月3日 (木)	第21回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 12	単語試験 (No. 361-413)/ ClassMATE Mini test 5 / Mini TOEIC L&R Test(pp.139 - 143)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
12	12月10日 (木)	第22回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 5& Unit 6	単語試験 (No. 414-465)/ ClassMATE Mini test 6 / テキストUnit 11 & Unit 12 : pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138までの解答と解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 3, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
		事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
		事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日 (木)	第23回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No.466-518）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る	
		事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。今までオンラインで学習したClassMATEの問題を選んで解く。	120分
		事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	12月24日 (木)	第24回英単語試験 TOEIC模擬試験の復習、 その他の問題	単語試験（No.519-570）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
		事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
		事後学修	テキストUnit 6- 12のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	1月14日 (木)	後期の振り返り	後期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、今後のTOEIC対策を立てることが出来る。	
		事前学修	後期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
		事後学修	後期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC IVA	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC500点程度取得している上級レベルの学生を対象とするクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC730点を獲得するために上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア730点を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『初級者からのニュース・リスニング CNN Student News 2020春』	CNN English Express	朝日出版社	2020	教科書	必携
『TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編』	IIBC	IIBC	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00-16:00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/7	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。授業の進め方 ・ TOEICを受験する目的を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	30分
		事後学修	今日の振り返り。配布されたプリントを読む。	30分
2	第一部 4/14	TOEICの学習方法を知ろう	①TOEICテスト対策と学習法を学ぶ。 ②授業の進め方を知る（プリント配布）。 ③オンライン教材の実践方法を理解する。 ④グループ分けをして自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①到達目標①②に関連して、TOEICを学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。 ②グループメンバーを知ることができる。	
		事前学修	教科書を購入し、配布されたプリントを読む。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
3	第一部 4/21	Reading Part の概要 Part 5を学ぶ・ 新聞記事で速読力をつける	①Reading Partの概要と対策を理解する。 ②Part 5 の解き方を学ぶ。 ③新聞記事を利用して速読力をつけ、Part 7の正解率を上げる方法を知る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Reading問題の解法のテクニックを使って、テストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	プリントを使い、指定された範囲の課題を準備する。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
4	第一部 4/28	音読とシャドーイングを学ぶ	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②Listening Partの概要と解き方を学ぶ。 ③CALL教室の使い方を知る。 ④音読・シャドーイングの方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音読・シャドーイングの方法を身に付けることでListeningの正解率を上げることができ	
		事前学修	配布プリントを使い、小テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。オンライン教材を開始する。	30分
5	第一部 5/5	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
6	第一部 5/12	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
8	第一部 5/26	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
9	第一部 6/2	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
10	第一部 6/9	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
11	第一部 6/16	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
12	第一部 6/23	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	復習テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週のテストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	Reading Part 復習テスト	前期に学んだ英語表現等を含むTOEIC Reading Part のテスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力を使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	これまで学習した前期のプリントを復習する。	30分
		事後学修	最終シャドーイングテストに向けて練習をする。	30分
14	第一部 7/6	Readingテストのフィードバック	前回Readingテストのフィードバック 最終シャドーイングテストに向けて練習	
		この回の到達目標	TOEICテストを控え、復習の必要な部分を確認することができる。	
		事前学修	シャドーイングの練習を継続する。	30分
		事後学修	オンライン教材が完成しているかを確認する。 シャドーイングの練習を継続する。	30分
15	第一部 7/13	シャドーイングテスト	最終シャドーイング課題を实践する→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、最終シャドーイング課題のパフォーマンスを通して、英語のリスニング・スピーキング能力を示すことができる。	
		事前学修	最終シャドーイング課題を練習する。	30分
		事後学修	これまでの振り返り。音読・シャドーイングの練習を続け、夏休み後のTOEICテストに向けて計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC IVB	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC500点程度取得している上級レベルの学生を対象とするクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC730点を獲得するために上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア730点を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『初級者からのニュース・リスニング CNN Student News 2020 秋』	CNN English Express	朝日出版社	2020	教科書	必携
『TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編』	IIBC	IIBC	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00-16:00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/15	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。授業の進め方 ・ TOEICを受験する目的を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	30分
		事後学修	今日の振り返り。配布されたプリントを読む。	30分
2	第一部 9/22	TOEICの学習方法を知ろう	①TOEICテスト対策と学習法を学ぶ。 ②授業の進め方を知る（プリント配布）。 ③オンライン教材の実践方法を理解する。 ④グループ分けをして自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①到達目標①②に関連して、TOEICを学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。 ②グループメンバーを知ることができる。	
		事前学修	教科書を購入し、配布されたプリントを読む。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
3	第一部 9/29	Reading Part の概要 Part 7を学ぶ 新聞記事で速読力をつける	①Reading Partの概要と対策を理解する。 ②Part 7 の解き方を学ぶ。 ③新聞記事を利用して速読力をつけ、Part 7の正解率を上げる方法を知る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Reading問題の解法のテクニックを使って、テストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	プリントを使い、指定された範囲の課題を準備する。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
4	第一部 10/6	音読とシャドーイングを学ぶ	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②Listening Partの概要と解き方を学ぶ。 ③CALL教室の使い方を知る（後期からの履修者）。 ④音読・シャドーイングの方法について学ぶ（後期からの履修者）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音読・シャドーイングの方法を身に付けることでListeningの正解率を上げることができ	
		事前学修	配布プリントを使い、小テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。オンライン教材を開始する。	30分
5	第一部 10/13	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズの小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
6	第一部 10/20	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/27	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
8	第一部 11/10	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
9	第一部 11/17	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
10	第一部 11/24	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
11	第一部 12/1	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	配布プリント等を完成し、クイズに備える。 音読とシャドーイングの練習をする。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
12	第一部 12/7	新聞で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①新聞記事内容・Readingプリント内フレーズ・オンライン教材の小テスト ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	復習テストに備える。	30分
		事後学修	学習した内容を復習し、次週のテストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/14	Reading Part 復習テスト	前期に学んだ英語表現等を含むTOEIC Reading Part のテスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力を使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
		事前学修	これまで学習した前期のプリントを復習する。	30分
		事後学修	最終シャドーイングテストに向けて練習をする。	30分
14	第一部 12/21	Readingテストのフィードバック	前回Readingテストのフィードバック 最終シャドーイングテストに向けて練習	
		この回の到達目標	TOEICテストを控え、復習の必要な部分を確認することができる。	
		事前学修	シャドーイングの練習を継続する。	30分
		事後学修	オンライン教材が完成しているかを確認する。 シャドーイングの練習を継続する。	30分
15	第一部 1/12	シャドーイングテスト	最終シャドーイング課題を实践する→教員からのフィードバック	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、最終シャドーイング課題のパフォーマンスを通して、英語のリスニング・スピーキング能力を示すことができる。	
		事前学修	最終シャドーイング課題を練習する。	30分
		事後学修	これまでの振り返り。 音読・シャドーイングの練習を続け、今後のTOEICテストに向けて計画を立てる。	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open to all students, except 1st year students.

【授業方法】
In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students may receive feedback in each class and at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English File Pre-Intermediate Student's Book 3rd Edition	Latham-KoenigOxenden	Oxford	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	Monday, April 6	Introduction及び導入講義	Orientation	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to introduce themselves to the rest of the class.	
		事前学修	Prepare self-introduction	30分
		事後学修	Read materials	30分
2	Monday, April 13	Discussing your life	Unit 1A Where are you from? Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss their life.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, April 20	Describing people	Unit 1B Charlotte's Choice Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to describe people.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
4	Monday, April 27	Clothes, prepositions of place	Unit 1C Mr and Mrs Clark and Percy Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about clothes and use prepositions of place.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, May 4	Holidays	Unit 2A Right place, wrong person Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about holidays.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
6	Monday, May 11	Prepositions of time and place	Unit 2B The story behind the photo Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use prepositions of time and place.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	Monday, May 18	Time sequencers and connectors	Unit 2C One dark October evening Skills: English listening and discussion skills Short Test	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use time sequencers and connectors	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, May 25	Plans and predictions	Unit 3A Plans and dreams Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss plans and predictions	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, June 1	Future arrangements	Unit 3B Let's meet again Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to make future arrangements.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, June 8	Expressions for paraphrasing	Unit 3C What's the word? Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use expressions for paraphrasing.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, June 15	Parents and teenagers	Unit 4A Parents and teenagers Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about relationships between parents and teenagers.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
12	Monday, June 22	Fashion and shopping	Unit 4B Fashion and shopping Skills: English listening and discussion skills	
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss fashion and shopping.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, June 29	The weekend		Unit 4C Lost weekend Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to introduce themselves to talk about how people spend their weekend.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Review unit	30分
14	Monday, July 6	Review		Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use the grammar and vocabulary studied so far.	
		事前学修	Revision for end of term test	60分
		事後学修	Revise all units	60分
15	Monday, July 13	End of term test Review		Review End of term test
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use the grammar and vocabulary studied so far.	
		事前学修	Revision for end of term test	60分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This course is for first year students.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ancient International Japan story so as to improve overall	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Japan Towns story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/15	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: the African samurai story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Tensho Embassy story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the William Adams story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Tama story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the International Nagasaki story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please review Units 1-16 before test (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa story so as to improve overall language	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Imperial Palace	Learn about the story of the Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Japanese families of European merchants story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Meiji Jingu	Learn about the story of The Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Sushi and Tempura	Learn about the story of Sushi and Tempura	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Zhu Shun-sui story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Waegwan story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/14	Semester Exam Review	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semseter	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Pair work, small group work, class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments in class to students on their performance and written feedback on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. If you have questions see me Saturday 3rd period or 4th period at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with a foundation for building human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/25	Course Introduction、及び導入講義	Instructor & course introduction; ice breaking activities; introducing yourself to others	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to understand the content and style of the class. Students will be able to introduce themselves to others.	
		事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	5/2	Personal introductions	Introducing yourself/ Personal information	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to introduce themselves and question others for basic personal information.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	5/9	Formal introductions	Formal language used in the workplace for introductions; job titles and duties	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to use more formal language to introduce themselves and others. They will also be able to initiate and sustain a short conversation about jobs and duties.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	5/16	What a life!	Daily life as a student	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about their daily routine.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson.	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson.	30分
5	5/23	What a life!	Discussing typical daily life	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to use time expressions to talk about daily activities.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	5/30	Free-time	Hobbies	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about things they can do and things they like to do.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	6/6	Free-time	Leisure activities; Listening Test 1	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to talk about free-time activities.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	6/13	Places	Talking about your hometown and what you can do there.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to describe their hometown and its facilities.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	6/20	Places	Hometown facilities	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to talk about the available facilities in their hometown area.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	6/27	Getting around	Directions	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to talk about their commute to college.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	7/4	Getting around	Ask for and give directions	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to ask for for and give directions.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	7/11	Shopping	Describing shopping habits	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to describe their shopping style.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/18	Shopping	Shopping habits	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will be able to ask for assistance from shop clerks when shopping.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	7/25	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	8/1	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I A(金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can ask for individual feedback at the end of class. Longer conferences can be scheduled on Monday, Wednesday or Fridays 2:00-4:00.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	There is no assigned textbook for this class.				

【オフィスアワー】
Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	一部水曜 5時限 4/8 一部金5 時限4/10 二部月曜 1時限 4/6	Introduction、及び導入講義		Meet the instructor . Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Excerpts from How The West Was Won (1962)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals	
		事前学修	30 minutes minimum : Review the syllabus and course description.	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Boundaries of the American West. Buy A 40 page A4 size clear file notebook and put all handouts in it in a neat and organized fashion.	30分
2	一部水曜 5時限 4/15 一部金5 時限4/17 二部月曜 1時限 4/13	The West: A Time and A Place		Lecture on and excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” . Pre-screening activity on Stagecoach (1939) Screening Part One (00:00-21:00).
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity	
		事前学修	30 minutes minimum : Organize your notebooks and be ready to show them to the instructor.	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Worksheet : match each character to the description by using your notes	30分
3	一部水曜 5時限 4/22 一部金5 時限4/24 二部月曜 1時限 4/20	East Vs West		The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Lecture on Part One of Stagecoach. Screening Part two of Stagecoach (21:00 - 50:00)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review all notes to prepare for first quiz	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: John Ford Biography	30分
4	一部水曜 5時限 4/29 一部金5 時限5/1 二部月曜 1時限 4/27	Social Prejudice and Outcasts		Lecture On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts. Screening Part Three of Stagecoach (50:00-96:00)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Redemption and Revenge Prepare for quiz # 2	30分
5	一部水曜 5時限 5/6 一部金5 時限5/8 二部月曜 1時限 5/4	Manifest Destiny		Quiz #2 followed by questions and correction Lecture on Part Three of Stagecoach :
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Get ready for Quiz by reviewing all notes	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Wagon Trains	30分
6	一部水曜 5時限 5/13 一部金5 時限5/15 二部月曜 1時限 5/11	The Journey West		Lecture : Wagons West! Excerpts from A Bend In The River (1952) and Wagon Master (1950)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Homework Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Cattle Culture and Cattle Drives	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部水曜 5時限 5/20 一部金5 時限5/22 二部月曜 1時限 5/18	Cattle Culture in the American West	Quiz #3 . Lecture: Introduction to Howard Hawk' s Red River (1947) Screening Part One of Red River (1:00-36:00).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Students prepare for quiz #3	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Cattle Drives and Cowboys	30分
8	一部水曜 5時限 5/25 一部金5 時限5/27 二部月曜 1時限 5/29	Cowboys: Icons of the West	Lecture on Part One of Red River : Cowboys, Ranchers and the Brand . Screening Part Two of Red River (33:00-83:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Cowboy clothing, food and drink	30分
9	一部水曜 5時限 6/3 一部金5 時限6/5 二部月曜 1時限 6/1	The West and The Law	Lecture on Part Two of Red River: “I am the Law” Screening Part Three of Red River (81:00-133:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : John Wayne	30分
10	一部水曜 5時限 6/10 一部金5 時限6/12 二部月曜 1時限 6/8	Screening Between the Lines	Quiz #4 Lecture on part Three of Red River : Relationships	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : prepare fro Quiz #4	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Homo-eroticism in the West and Westerns.	30分
11	一部水曜 5時限 6/17 一部金5 時限6/19 二部月曜 1時限 6/15	The Culture of Violence	Lecture on Gunfighters: excerpts from The Left Handed Gun (1958) and The Gunfighter (1950).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	30分
12	一部水曜 5時限 6/24 一部金5 時限6/26 二部月曜 1時限 6/22	The Range Wars	Quiz #5 . Lecture: Introduction to Shane (1953) and the range wars. Screening Part One Shane	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #5	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading ; The Range Wars	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	一部水曜 5時限 7/1 一部金5 時限6/29 二部月曜 1時限 7/3	Points of View		Lecture on Part One of Shane : through a Child' s Eyes Screening Part Two of Shane (1953).
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Shane' s Search for Redemption	30分
14	一部水曜 5時限 7/8 一部金5 時限7/10 二部月曜 1時限 7/6	The Search for Redemption		Lecture: Why does Shane Stay? Screening Part Three of Shane
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #6	30分
15	一部水曜 5時限 7/15 一部金5 時限7/17 二部月曜 1時限 7/13	The Passing of an Age		Quiz #6 . Lecture on Part Three of Shane : A Man and his Shadow.
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #6	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Organize notebooks in preparation for the Fall Semester.	30分

科目名	Listening & Speaking I A(月曜5時限・水曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can ask for individual feedback at the end of class. Longer conferences can be scheduled on Monday, Wednesday or Fridays 2:00-4:00.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	There is no assigned textbook for this class.				

【オフィスアワー】
Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	一部水曜 5時限 4/8 一部金5 時限4/10 二部月曜 1時限 4/6	Introduction、及び導入講義		Meet the instructor . Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Excerpts from How The West Was Won (1962)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals	
		事前学修	30 minutes minimum : Review the syllabus and course description.	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Boundaries of the American West. Buy A 40 page A4 size clear file notebook and put all handouts in it in a neat and organized fashion.	30分
2	一部水曜 5時限 4/15 一部金5 時限4/17 二部月曜 1時限 4/13	The West: A Time and A Place		Lecture on and excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” . Pre-screening activity on Stagecoach (1939) Screening Part One (00:00-21:00).
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity	
		事前学修	30 minutes minimum : Organize your notebooks and be ready to show them to the instructor.	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Worksheet : match each character to the description by using your notes	30分
3	一部水曜 5時限 4/22 一部金5 時限4/24 二部月曜 1時限 4/20	East Vs West		The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Lecture on Part One of Stagecoach. Screening Part two of Stagecoach (21:00 - 50:00)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review all notes to prepare for first quiz	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: John Ford Biography	30分
4	一部水曜 5時限 4/29 一部金5 時限5/1 二部月曜 1時限 4/27	Social Prejudice and Outcasts		Lecture On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts. Screening Part Three of Stagecoach (50:00-96:00)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Redemption and Revenge Prepare for quiz # 2	30分
5	一部水曜 5時限 5/6 一部金5 時限5/8 二部月曜 1時限 5/4	Manifest Destiny		Quiz #2 followed by questions and correction Lecture on Part Three of Stagecoach :
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Get ready for Quiz by reviewing all notes	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Wagon Trains	30分
6	一部水曜 5時限 5/13 一部金5 時限5/15 二部月曜 1時限 5/11	The Journey West		Lecture : Wagons West! Excerpts from A Bend In The River (1952) and Wagon Master (1950)
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Homework Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Cattle Culture and Cattle Drives	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部水曜 5時限 5/20 一部金5 時限5/22 二部月曜 1時限 5/18	Cattle Culture in the American West	Quiz #3 . Lecture: Introduction to Howard Hawk' s Red River (1947) Screening Part One of Red River (1:00-36:00).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Students prepare for quiz #3	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Cattle Drives and Cowboys	30分
8	一部水曜 5時限 5/25 一部金5 時限5/27 二部月曜 1時限 5/29	Cowboys: Icons of the West	Lecture on Part One of Red River : Cowboys, Ranchers and the Brand . Screening Part Two of Red River (33:00-83:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Cowboy clothing, food and drink	30分
9	一部水曜 5時限 6/3 一部金5 時限6/5 二部月曜 1時限 6/1	The West and The Law	Lecture on Part Two of Red River: “I am the Law” Screening Part Three of Red River (81:00-133:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : John Wayne	30分
10	一部水曜 5時限 6/10 一部金5 時限6/12 二部月曜 1時限 6/8	Screening Between the Lines	Quiz #4 Lecture on part Three of Red River : Relationships	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : prepare fro Quiz #4	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Homo-eroticism in the West and Westerns.	30分
11	一部水曜 5時限 6/17 一部金5 時限6/19 二部月曜 1時限 6/15	The Culture of Violence	Lecture on Gunfighters: excerpts from The Left Handed Gun (1958) and The Gunfighter (1950).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	30分
12	一部水曜 5時限 6/24 一部金5 時限6/26 二部月曜 1時限 6/22	The Range Wars	Quiz #5 . Lecture: Introduction to Shane (1953) and the range wars. Screening Part One Shane	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #5	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading ; The Range Wars	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部水曜 5時限 7/1 一部金5 時限6/29 二部月曜 1時限 7/3	Points of View	Lecture on Part One of Shane : through a Child' s Eyes Screening Part Two of Shane (1953).	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : Shane' s Search for Redemption	30分
14	一部水曜 5時限 7/8 一部金5 時限7/10 二部月曜 1時限 7/6	The Search for Redemption	Lecture: Why does Shane Stay? Screening Part Three of Shane	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #6	30分
15	一部水曜 5時限 7/15 一部金5 時限7/17 二部月曜 1時限 7/13	The Passing of an Age	Quiz #6 . Lecture on Part Three of Shane : A Man and his Shadow.	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #6	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Organize notebooks in preparation for the Fall Semester.	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read the syllabus	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Ancient Japan and East Asia	Learn about the story of Ancient Japan and East Asia	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Foreign settlements in Japan	Learn about the story of Foreign settlements in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Korean potters in Japan	Learn about the story of Korean potters in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Tagawa Matsu	Learn about the story of Tagawa Matsu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Zhu Shun-sui	Learn about the story of Zhu Shun-sui	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	Learn about the story of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Sun Yat-sen in Japan	Learn about the story of Sun Yat-sen in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Prince Cuong De	Learn about the story of Prince Cuong De	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Takasago Volunteers	Learn about the story of The Takasago Volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Kyaw Din	Learn about the story of Kyaw Din	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Revision	Review and prepare for the semester exam	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Review vocabulary words and complete reflections.	30分
15	7/14	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair work, group work, question creation	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
In class feedback given immediately or next week

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press			
備考					

【オフィスアワー】
Wednesday 10:30 - 16:20 Classroom to be decided email: alexander.chirnside@nihon

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introductory communication Basic questions	Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions	
		この回の到達目標	Feeling comfortable meeting non-Japanese people	
		事前学修	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)	30分
		事後学修	Review grammar rules of yes/no questions (30min)	30分
2	4/15	Basic question reinforcement More complex questions	Yes/no question activity. Explanation of wh questions	
		この回の到達目標	Ability to elicit information from non-Japanese	
		事前学修	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)	30分
		事後学修	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)	30分
3	4/22	Discussing family matters	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)	30分
		事後学修	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
4	4/29	Discussing family matters	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
5	5/6	Discussing food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
6	5/13	Discussing food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test	
		この回の到達目標	Develop test-taking skills	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	5/27	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	6/3	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
10	6/10	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to describe one's living environment	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)	30分
		事後学修	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	6/17	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to describe one's living environment	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	6/24	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test	
		この回の到達目標	Develop test-taking skills	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Discussing music	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to discuss music likes and dislikes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	7/8	Topic creation in groups	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
		この回の到達目標	Create original topic using format modeled on format in previous classes	
		事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	7/15	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
		この回の到達目標	listening and speaking tests	
		事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
		事後学修	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】
This course aims to equip students with the communicative skills they need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation及び導入講義	Introduction of the teacher and students, guidelines for the classes	
		この回の到達目標	Discussion of the syllabus	
		事前学修	Read the contents of the syllabus.	35分
		事後学修	Prepare answers for before you read questions in Unit 1, page 2	35分
2	4/13	Law in Daily Life	Students familiarize themselves on the practical use of law in daily life	
		この回の到達目標	Students learn to listen and understand the contents of the reading passage	
		事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese	30分
		事後学修	Read the reading passage in Unit 1, page 3 and find the meaning of the difficult words	40分
3	4/20	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms	
		この回の到達目標	Listen to the CD for the reading passage, learn pronunciation and intonation. Reading the passage in class. Answering the comprehension question in pairs	
		事前学修	Complete the vocabulary expansion exercise on page 4	30分
		事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards	45分
4	4/27	Law in Daily Life	Discussing the debate question	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in small groups. Writing the answers	
		事前学修	Summarize the reading passage in the textbook	45分
		事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2	30分
5	5/4	Legal Systems	Legal Systems around the World	
		この回の到達目標	Discussing about legal systems around the world	
		事前学修	Answer the legal terms section on page 8	30分
		事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words	45分
6	5/11	Legal Systems	Talk about legal systems around the world	
		この回の到達目標	Listen to the CD on legal systems around the world. Shadowing exercise in pairs	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 10	50分
		事後学修	Find the meaning of the vocabulary and answer the vocabulary expansion questions on page 10	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Adversarial and Inquisitorial	Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in groups - arguments for and against the two systems	
		事前学修	Summarize the contents in the reading passage on page 9	60分
		事後学修	Prepare answers to the question on kinds of courts in Japan	45分
8	5/25	Japanese Court System	The Japanese Court System	
		この回の到達目標	Discuss the court system in Japan and answer the before you read questions	
		事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14	35分
		事後学修	Reading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words	60分
9	6/1	Lay Assessors	Should lay assessors also participate in civil cases?	
		この回の到達目標	Discussion in groups on should lay assessors participate in both criminal and civil cases	
		事前学修	Answer the debate question for homework	45分
		事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words	60分
10	6/8	Presentation	Introducing basic presentation techniques	
		この回の到達目標	Students practice the basic presentation techniques in pairs and groups	
		事前学修	Students think of two topics on current legal/social issue in Japan for the presentation and write a short outline	60分
		事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issues in Japan	40分
11	6/15	Legal Professionals	Discussion of the legal profession in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of the legal profession in Japan	
		事前学修	Students think of the legal professions in Japan and write a brief description of them	40分
		事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage	35分
12	6/22	Legal Professionals	Discussion of passage on legal professionals in Japan	
		この回の到達目標	Listening to the reading passage on CD and trying to understand the contents	
		事前学修	Answer the comprehension questions on page 22	30分
		事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Presentation	Preparation for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the script the the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	7/6	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	60分
15	7/13	Wrap up	Wrap up, review and final test	
		この回の到達目標	To give feedback on their assignments to the students	
		事前学修	Review for the test	60分
		事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	60分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	アソニー トーベン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Open to all students, except 1st year students.

【授業方法】
In this course students will engage in group and whole class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Group work

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students may receive feedback in each class and at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English File Pre-Intermediate Student's Book 3rd Edition	Latham-KoenigOxenden	Oxford	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	Monday, September 14	Orientation Time expressions		Unit 5A No time for anything Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use time expressions.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
2	Monday, September 21	Describing a town or city		Unit 5B Superlative cities Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to describe towns and cities.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
3	Monday, September 28	Health and the body		Unit 5C How much is too much? Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to discuss health and the body.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit 30	30分
4	Monday, October 5	Opposite verbs/predictions		Unit 6A Are you pessimist? Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use opposite verbs.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
5	Monday, October 12	Decisions, offers, promises		Unit 6B I'll never forget you Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use language associated with decisions, offers and promises.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit Revision for forthcoming test	60分
6	Monday, October 19	Talking about dreams		Unit 6C The meaning of dreaming Skills: English listening and discussion skills Short test
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to talk about dreams.	
		事前学修	Read unit Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	Monday, October 26	Verb + infinitive		Unit 7A How to... Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use verbs with the infinitive.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
8	Monday, November 9	Verb + gerund		Unit 7B Being happy Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use verbs with the gerund.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
9	Monday, November 16	Modifiers: a bit, really, etc.		Unit 7C Learn a language in a month! Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use modifiers.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
10	Monday, November 23	Speaking about problems		Unit 7C Learn a language in a month! Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to speak about problems.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
11	Monday, November 30	First conditional		Unit 8B If something can go wrong... Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use the first conditional.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分
12	Monday, December 7	Adverbs of manner		Unit 8C You must be mine Skills: English listening and discussion skills
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use adverbs of manner.	
		事前学修	Read unit	30分
		事後学修	Review unit	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	Monday, December 14	Review		Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use all grammar and vocabulary so far	
		事前学修	Revision for forthcoming test	60分
		事後学修	Revise all units	30分
14	Monday, December 21	Review End of term test		End of term test Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use all grammar and vocabulary so far.	
		事前学修	Revise all units (30min)	60分
		事後学修	Revise all units	30分
15	Monday, January 18	Review		Review
		この回の到達目標	As per SBOs 1 and 2 above, students can read, write, listen and speak in English so as to improve their ability to use all grammar and vocabulary so far.	
		事前学修	Revise all units	30分
		事後学修	Revise all units	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This course is designed for first year students

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why.Please ask questions after the class (Tuesday 3rd or 4th period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Review Lesson	Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	TheTensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	1/12	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Pair work, small group work, class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group discussions	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral feedback on performance in classroom and written feedback for homework.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition.	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. Please ask questions after the class (Saturday 3rd period, 4th period) at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Welcome back/ Summer break	Introduction of second half of the course; ice-breaking activities; talking about summer	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to understand the content and style of the course. They will also be able to converse about what they did during the summer.	
		事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	9/26	What's happening?	Talking about what's happening in your life	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to describe their current life.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	10/3	What's happening?	Talking about what's happening in your life	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to use the present continuous to talk about daily activities.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	10/10	People	Describing people's physical appearance	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to describe how people look.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	10/17	People	Describing people's character	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to describe people's personality.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	10/24	Having fun	Invitations	
		この回の到達目標	At the end of this class students will be able to make and respond to invitations.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	Having fun	Making future arrangements	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss plans for the future and make arrangements.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	11/7	Vacation	Memorable vacations	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about some of their most memorable trips.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	11/14	Movies	English through movies	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their favorite movies.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	11/21	Life stories	Talking about early memories	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to speak about their childhood memories.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	11/28	Life stories	Life stories of famous people	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about famous people's lives.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	12/5	Hopes and intentions	The future	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams for the future.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	Hopes and intentions	After graduation	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams after they graduate.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	12/19	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will exhibit and gain and understanding of their speaking and listening skills through participation in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	12/26	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students will exhibit and gain and understanding of their speaking and listening skills through participation in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I B(金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can ask for individual feedback at the end of class. Longer conferences can be scheduled on Monday, Wednesday or Fridays 2:00-4:00.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	There is no assigned textbook for this class.				

【オフィスアワー】
Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部水曜 5時限 9/16 一部金5 時限9/18 二部月曜 1時限 9/14	The Lawless Lawman	Lecture：The Lawless Lawman: Little Bill Dagget in Unforgiven (1992), Judge Bean in The Westerner (1940) and Pop in One Eyed Jacks (1960)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 Minutes Minimum：Review the syllabus for the Fall semester.	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading：Lawmen of the Old West	30分
2	一部水曜 5時限 9/23 一部金5 時限9/25 二部月曜 1時限 9/21	“Western Law”	Quiz #1 Lecture：Introduction to and Screening Part 1 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 Minutes Minimum：Prepare for Quiz #1	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Aging Icons of the West	30分
3	一部水曜 5時限 9/30 一部金5 時限10/2 二部月曜 1時限 9/28	Law Vs Lawlessness	Lecture on Part One of The Man Who Shot Liberty Valance：Law Vs Lawlessness Screening Part two of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading: Going to School With Ransom Stoddard	30分
4	一部水曜 5時限 10/7 一部金5 時限10/9 二部月曜 1時限 10/5	Teaching the People About Democracy	Lecture on Part two of The Man Who Shot Liberty Valance: Educating the People . Screening Part 3 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading: Why Did the Western Change?	30分
5	一部水曜 5時限 10/14 一部金5 時限 10/16 二部月曜 1時限 10/12	Legends vs History	Quiz #2. Lecture on Part Three of The Man Who Shot Liberty Valance：Tell the legend	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review reading homework before	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Introduction to High Noon	30分
6	一部水曜 5時限 10/21 一部金5 時限 10/23 二部月曜 1時限 10/19	The Code of Honor	Screening High Noon (1952)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
		事前学修	30 minutes minimum：Pre-screening worksheet	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Helen Ramirez: a study in Contrast	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部水曜 5時限 10/28 一部金5 時限 10/30 二部月曜 1時限 10/26	When People Fail	Lecture on High Noon : When Symbolism Becomes Empty	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Hollywood Witch Hunts	30分
8	一部水曜 5時限 11/11 一部金5 時限11/6 二部月曜 1時限 11/9	Early Images of Native Americans	Quiz #3 Lecture; Early images of the American Indian: Excerpts from Stagecoach and Drums Along the Mohawk (1939).	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #3	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Early Images of the American Indian	30分
9	一部水曜 5時限 11/18 一部金5 時限 11/13 二部月曜 1時限 11/16	The Evolving Image of Native Americans	Lecture: From torturer and rapist to noble savage . Excerpts from She Wore A Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950), Broken Arrow (1950)	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Weapons and Warriors	30分
10	一部水曜 5時限 11/25 一部金5 時限 11/20 二部月曜 1時限 11/23	Attempting to Right Historical Wrongs	Lecture: The Transformation of John Ford: excerpts from The Searchers (1956) and Cheyenne Autumn (1964).	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Watching the Unwatchable	30分
11	一部水曜 5時限 12/2 一部金5 時限 11/27 二部月曜 1時限 11/30	The Use of Comedy	Quiz #4 . Lecture: From Noble Savage to Elder Brother Screening Part One of Little Big Man (1970). (1:00-47:00)	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Introduction to Little Big Man	30分
12	一部水曜 5時限 12/9 一部金5 時限12/4 二部月曜 1時限 12/7	The End of Censorship	White culture vs American Indian Culture: comparing and contrasting . Screening Part Two of Little Big Man (47:00-97:00)	
		この回の 到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading ; Adoption among the Indians	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部水曜 5時限 12/16 一部金5 時限 12/11 二部月曜 1時限 12/14	Another Case of Social Criticism	Lecture: Little Big Man as Social Criticism Screening Part Three Of Little Big Man (97:00-137:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Trickster in Native American Cultures	30分
14	一部水曜 5時限 12/23 一部金5 時限 12/18 二部月曜 1時限 12/21	The Trickster	Quiz #5 Lecture: Jack Crabbe/ Little Big Man as Trickster	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #5	30分
		事後学修	30 minutes minimum : HW Reading : Does the West have a future as well as a past?	30分
15	一部水曜 5時限 1/13 一部金5 時限 12/25 二部月曜 1時限 1/18	The Revisionist Western goes Berserk	Excerpts from Blazing Saddles. Lecture: A film for its times.	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Self evaluation and reflection of on the course contents as well as whether learning objectives were attained.	30分

科目名	Listening & Speaking I B (月曜5時限・水曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can ask for individual feedback at the end of class. Longer conferences can be scheduled on Monday, Wednesday or Fridays 2:00-4:00.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	There is no assigned textbook for this class.				

【オフィスアワー】
Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部水曜 5時限 9/16 一部金5 時限9/18 二部月曜 1時限 9/14	The Lawless Lawman	Lecture：The Lawless Lawman: Little Bill Dagget in Unforgiven (1992), Judge Bean in The Westerner (1940) and Pop in One Eyed Jacks (1960)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 Minutes Minimum：Review the syllabus for the Fall semester.	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading：Lawmen of the Old West	30分
2	一部水曜 5時限 9/23 一部金5 時限9/25 二部月曜 1時限 9/21	“Western Law”	Quiz #1 Lecture：Introduction to and Screening Part 1 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 Minutes Minimum：Prepare for Quiz #1	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Aging Icons of the West	30分
3	一部水曜 5時限 9/30 一部金5 時限10/2 二部月曜 1時限 9/28	Law Vs Lawlessness	Lecture on Part One of The Man Who Shot Liberty Valance：Law Vs Lawlessness Screening Part two of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading: Going to School With Ransom Stoddard	30分
4	一部水曜 5時限 10/7 一部金5 時限10/9 二部月曜 1時限 10/5	Teaching the People About Democracy	Lecture on Part two of The Man Who Shot Liberty Valance: Educating the People . Screening Part 3 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading: Why Did the Western Change?	30分
5	一部水曜 5時限 10/14 一部金5 時限 10/16 二部月曜 1時限 10/12	Legends vs History	Quiz #2. Lecture on Part Three of The Man Who Shot Liberty Valance：Tell the legend	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum：Review reading homework before	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Introduction to High Noon	30分
6	一部水曜 5時限 10/21 一部金5 時限 10/23 二部月曜 1時限 10/19	The Code of Honor	Screening High Noon (1952)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
		事前学修	30 minutes minimum：Pre-screening worksheet	30分
		事後学修	30 minutes minimum：Reading; Helen Ramirez: a study in Contrast	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部水曜 5時限 10/28 一部金5 時限 10/30 二部月曜 1時限 10/26	When People Fail	Lecture on High Noon : When Symbolism Becomes Empty	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading homework before class	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Hollywood Witch Hunts	30分
8	一部水曜 5時限 11/11 一部金5 時限11/6 二部月曜 1時限 11/9	Early Images of Native Americans	Quiz #3 Lecture; Early images of the American Indian: Excerpts from Stagecoach and Drums Along the Mohawk (1939).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #3	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Early Images of the American Indian	30分
9	一部水曜 5時限 11/18 一部金5 時限 11/13 二部月曜 1時限 11/16	The Evolving Image of Native Americans	Lecture: From torturer and rapist to noble savage . Excerpts from She Wore A Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950), Broken Arrow (1950)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading: Weapons and Warriors	30分
10	一部水曜 5時限 11/25 一部金5 時限 11/20 二部月曜 1時限 11/23	Attempting to Right Historical Wrongs	Lecture: The Transformation of John Ford: excerpts from The Searchers (1956) and Cheyenne Autumn (1964).	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Watching the Unwatchable	30分
11	一部水曜 5時限 12/2 一部金5 時限 11/27 二部月曜 1時限 11/30	The Use of Comedy	Quiz #4 . Lecture: From Noble Savage to Elder Brother Screening Part One of Little Big Man (1970). (1:00-47:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading; Introduction to Little Big Man	30分
12	一部水曜 5時限 12/9 一部金5 時限12/4 二部月曜 1時限 12/7	The End of Censorship	White culture vs American Indian Culture: comparing and contrasting . Screening Part Two of Little Big Man (47:00-97:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading ; Adoption among the Indians	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部水曜 5時限 12/16 一部金5 時限 12/11 二部月曜 1時限 12/14	Another Case of Social Criticism	Lecture: Little Big Man as Social Criticism Screening Part Three Of Little Big Man (97:00-137:00)	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review Reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Reading : The Trickster in Native American Cultures	30分
14	一部水曜 5時限 12/23 一部金5 時限 12/18 二部月曜 1時限 12/21	The Trickster	Quiz #5 Lecture: Jack Crabbe/ Little Big Man as Trickster	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Prepare for Quiz #5	30分
		事後学修	30 minutes minimum : HW Reading : Does the West have a future as well as a past?	30分
15	一部水曜 5時限 1/13 一部金5 時限 12/25 二部月曜 1時限 1/18	The Revisionist Western goes Berserk	Excerpts from Blazing Saddles. Lecture: A film for its times.	
		この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
		事前学修	30 minutes minimum : Review reading	30分
		事後学修	30 minutes minimum : Self evaluation and reflection of on the course contents as well as whether learning objectives were attained.	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Tei Ei-kei	Learn about the story of Tei Ei-kei	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Victor Starrfin	Learn about the story of Victor Starrfin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Rash Behari Bose	Learn about the story of Rash Behari Bose	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Leo Sirota	Learn about the story of Leo Sirota	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Beate Sirota Gordon	Learn about the story of Beate Sirota Gordon	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Chen Kenmin	Learn about the story of Chen Kenmin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	Rikidozan	Learn about the story of Rikidozan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Ando Momofuku	Learn about the story of Ando Momofuku	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Korean Food in Japan	Learn about the story of Korean Food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	Oh Sadaharu	Learn about the story of Oh Sadaharu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Konishiki Yasokichi	Learn about the story of Konishiki Yasokichi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Murata Renho	Learn about the story of Murata Renho	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Son Masayoshi	Learn about the story of Son Masayoshi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	1/12	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Working in groups, working in pairs, question and topic creation, peer evaluation of work done

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments will be given, if possible, in current class. If not, then the following week's class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press			
備考					

【オフィスアワー】
Wednesday 12:30 - 13:00 Classroom to be decided

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Introduction to communication	Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.	
		この回の到達目標	Ability to feel comfortable conversing with non-Japanese speaker	
		事前学修	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)	30分
		事後学修	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)	30分
2	9/23	Basic question reinforcement. More complex questions	In groups compare questions. make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.	
		この回の到達目標	Ability to feel comfortable questioning non-Japanese speaker	
		事前学修	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)	30分
		事後学修	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)	30分
3	9/30	Discussing transportation and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation	
		事前学修	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)	30分
		事後学修	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
4	10/7	Discussing transportation and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
5	10/14	Discussing sport and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
6	10/21	Discussing sport and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000-1500. Topics 6 and 7 test	
		この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000-1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	11/11	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
		事後学修	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	11/18	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)	30分
10	11/25	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)	30分
		事後学修	Review TV vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	12/2	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	12/9	Recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501-2000. Topics 8 and 10 test	
		この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500-2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Discussing school and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
		この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of school	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
		事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	12/23	New topic questions creation	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
		この回の到達目標	Ability to work in teams to crewe questions for team-negotiated topic	
		事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
		事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	1/13	Revision of semester's work, listening and speaking tests	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
		この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in semester	
		事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
		事後学修	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】		
This course will continue to develop the communicative skills students need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write,listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Feedback and Syllabus 導入講義	Feedback on the final test, students talk about the summer vacation	
		この回の到達目標	Students write about how they spent the summer vacation and present it to class	
		事前学修	Review the units studied in the spring semester	60分
		事後学修	Research on how modern Japanese law evolved	60分
2	9/22	Foreign Laws	Japan adopting foreign laws	
		この回の到達目標	Understand the reasons why Japan adopted some foreign laws into their legal system and listen to the reading passage on the CD	
		事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards	60分
		事後学修	Answering the comprehension questions on page 28	45分
3	9/28	Role of lawyers in courts	Discuss the role of lawyers in courts	
		この回の到達目標	Learn to speak and write arguments for and against the topic of the role of lawyers in courts	
		事前学修	Summarize the reading passage on page 27	60分
		事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution	40分
4	10/5	Japanese Constitution	Role of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Group discussion on the present Constitution and the necessity to amend it	
		事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32	30分
		事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions	60分
5	10/12	Japanese Constitution	Articles of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Discussing arguments for and against maintaining a self defense force	
		事前学修	Answer the debate question on page 36	45分
		事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishments imposed	40分
6	10/19	Criminal Law	Criminal Law in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of criminal law in Japan and other countries	
		事前学修	Listen to the class CD on criminal law in Japan and check the unfamiliar words	40分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 42	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 26	Movie	Watching a movie on a criminal trial	
		この回の到達目標	Students watch the movie without subtitles/captions	
		事前学修	Do a research on the movie to be watched	50分
		事後学修	Students write their opinion about the movie. Answer the debate question on page 42	60分
8	11/9	Civil Law	Criminal law and civil law	
		この回の到達目標	Distinguish the differences between criminal and civil law	
		事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45	60分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 46	35分
9	11/ 16	Litigation in Japanese Culture	Discuss about litigation in Japanese Culture	
		この回の到達目標	Students discuss in groups if litigation is acceptable or not in Japanese culture and make short presentation in class	
		事前学修	Summarize the reading passage and make note of the unfamiliar words	60分
		事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure	40分
10	11/ 23	Commercial Law	Importance of Commercial Law	
		この回の到達目標	Importance of commercial law and difficulties to take legal action against foreign companies	
		事前学修	Research on the type of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan	60分
		事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD on page 57	40分
11	11/ 30	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan	
		この回の到達目標	The extent to which legislation in Japan protects producers and consumers	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58	60分
		事後学修	Summarize the reading passage and write down the unfamiliar words	60分
12	12/7	Lay Judge System	Lay Judge System in Japan	
		この回の到達目標	The necessity to have the lay judge system in Japan	
		事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system	60分
		事後学修	Listen to the reading passage on CD and write down the unfamiliar words	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 14	Presentation	Preparation for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the explanation/description for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	12/ 21	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience, peer review and evaluation	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of the classmates	45分
15	1/11	Wrap up	Wrap up, review and final test	
		この回の到達目標	To complete the course successfully	
		事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	60分
		事後学修	Feedback on the assignments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIB. CEFR A2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Interchange Intro, 5thEdition ISBN 9781316620113	Jack Richards	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class or at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/13	Unit 1 What's your name?	Meeting and greeting people.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can introduce selves, greet others, and ask for names and phone numbers.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/20	Unit 2. Where are my keys?	Objects and locations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can name objects and talk about their locations.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases. (	30分
4	4/27	Unit 3A. Where are you from?	Cities and countries	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about cities and countries and where people are from.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/4	Unit 3B. Where are you from?	Personality and appearance	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe how people look and also their personalities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/11	Unit 4A. Is this coat yours?	Clothing and colors	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can say different parts of clothing and colors.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 4B. Is this coat yours?	Weather and seasons	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe weather and seasons.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/25	Unit 5A. What time is it?	Clock times, time of day	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk ask for and tell time.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/1	Unit 5B. What time is it?	Everyday activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe current activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/8	Unit 6A. I ride my bike to school	Transportation	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about going to work or school.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/15	Unit 6B. I ride my bike to school	Family relationships, daily routines	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about family relationships and daily and weekly routines.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/22	Unit 7A. Does it have a view?	Houses and apartments	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask about and describe houses and apartments.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 7B. Does it have a view?	Rooms and furniture	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the furniture in a room.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/6	Unit 8. Where do you work?	Jobs and workplaces	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about jobs and workday routines.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	7/13	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	ダイアン ホーリー ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Pair and group work, listening activities, watching short movie clips.

【授業方法】
Attendance (no more than 3 absences permitted), pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be used in some instances if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chat and Share! Topic Starters for Today's Students	d	Kinseido	2020	教科書	必携
備考	Students MUST have textbook and MUST participate. Attendance is mandatory.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp Wednesdays: 12:10-12:30 immediately after class

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Introduction及び導入講義	Orientation: Communicating in English. Pair work, listening, and self introductions	
		この回の到達目標	Introduction to the class, pair work, self-introductions, campus life	
		事前学修	Introduction to the class	10分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
2	2	Weekends	Unit 2 Weekends	
		この回の到達目標	Who has the most days off?	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Japanese culture	Unit 3 Japanese culture	
		この回の到達目標	Japanese words in English	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	Healthy living	Unit 4 Healthy living	
		この回の到達目標	Living a long and healthy life	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	5	Fashion	Unit 5 Fashion	
		この回の到達目標	A controversial fashion ad	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	Lifestyle	Unit 6 Lifestyle	
		この回の到達目標	Living with less: minimalism	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	Celebrations	Unit 7 Celebrations	
		この回の到達目標	The highest earning song	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	Travel	Unit 8 Travel	
		この回の到達目標	Alternative places to stay	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Food	Unit 9 Food	
		この回の到達目標	Japanese food in the world	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Environment	Unit 10 The Environment	
		この回の到達目標	Earth Day	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	Business	Unit 11 Business	
		この回の到達目標	SMS and Email	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	Internet and social media	Unit 12 The Internet and Social Media	
		この回の到達目標	The internet and Social Media	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	Sports	Unit 13 Sports	
		この回の到達目標	The first woman to run the Boston Marathon	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	Barrier-free society	Unit 14 A Barrier-free Society	
		この回の到達目標	No limitations!	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Study for test	90分
15	15	Examination まとめ	Semester Test Students will be given a test on Units 1-14	
		この回の到達目標	Final Exam	
		事前学修	Students will be tested on Units 1-14	90分
		事後学修	Students will study for exam	90分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Students will participate in pair work and small groups to improve their speaking skills. They will listen to various audio recordings to improve their listening comprehension.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group discussions

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。										2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										2	2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will receive oral comments on performance during class and written comments on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com If you have questions see me Saturday 2nd period at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		This content of this course is a foundation to help build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/25	Introduction、及び導入講義	Instructor and course introduction, ice breaker activities, How to Introduce Yourself	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of the style and content of the course. They will also learn how to introduce themselves and how to introduce a friend to others.	
		事前学修	Come to class well rested and prepared to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	5/2	Lifestyles	Introducing yourself / Introducing a friend, daily life, routines	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to talk about their daily life and routine.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	5/9	Lifestyles	Lifestyles	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to use adverbs of frequency to talk about daily routines.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	5/16	Leisure	Leisure: hobbies & interests	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to use the simple present and present continuous when discussing sports and leisure.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	5/23	Leisure	Likes and dislikes	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to talk about their likes and dislikes.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	5/30	Getting along	Getting along: requests & permission	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to make and respond to requests.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	6/6	Getting along	Getting along: requests & permission; Listening Test 1	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above the students will be able to make requests and ask for permission.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	6/13	Interests	Favorite hobbies and interests	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above the students will be able to discuss their favorite hobbies and interests.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	6/20	Interests	Favorite hobbies and interests	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above the the students will be able to listen for specific information about people's hobbies and interests.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	6/27	Telling a story	Storytelling, adjectives of emotion	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above the students will be able to tell a story about a personal experience	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	7/4	Telling a story	Talking about past events	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above the students will be able to tell and retell stories	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	7/11	Celebrations	Celebrations around the world	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above the students will be able to describe in detail how people celebrate various holidays around the world.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/18	Celebrations	Celebrations in Japan; Listening Test 2	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to describe celebrations of Japanese holidays and festivals.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	7/25	Evaluation	Speaking Test Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will demonstrate their speaking and comprehension skills in English during a small group discussion on topics covered in this course.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	8/1	Evaluation	Speaking Test Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will demonstrate their speaking and comprehension skills in English during a small group discussion on topics covered in this course.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「East Asia in Japanese history」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class (Wednesday 3rd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read and discuss the course objectives, so as to improve their comprehension of written and spoken English.	
		事前学修	Read the contents of the syllabus.	30分
		事後学修	Students must learn some new vocabulary each week. There will be a short vocabulary test at the beginning of each lesson.	30分
2	4/15	Ancient Japan and East Asia	Learn about Japan's international contacts in ancient times	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ancient Japan and East Asia, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	4/22	Foreign settlements in Japan	Learn about foreign settlements in Japan in the sixteenth and seventeenth centuries	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of foreign settlements in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	4/29	Kim Chung-son	Learn about the Japanese and Korean hero, Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kim Chung-son, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	5/6	Korean potters in Japan	Learn about the Korean potters who worked in Japan following the Imjin War	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean potters in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	5/13	Yamada Nagamasa	Learn about the seventeenth century merchant and diplomat, Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yamada Nagamasa, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Tagawa Matsu	Learn about the life of Tagawa Matsu	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tagawa Matsu, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	5/27	Zhu Shun-sui	Learn about the Chinese scholar and diplomat, Zhu Shun-sui, and his influence in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Zhu Shun-sui, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	6/3	Chinese merchants in Tokugawa Japan	Learn about Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	6/10	Sun Yat-sen in Japan	Learn about the life of Sun Yat-sen, the first Chinese President, and his relations with Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sun Yat-sen in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	6/17	Prince Cuong De	Learn about the life of the Vietnamese revolutionary, Prince Cuong De, and his relations with Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Prince Cuong De, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	6/24	The Takasago volunteers	Learn the history of the Takasago volunteers	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Takasago volunteers, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Kyaw Din	Learn about the Burmese man, Kyaw Din, who popularized soccer in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kyaw Din, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
14	7/8	Semester Revision	Semester revision. Practice exam with feedback.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	Revise for the exam.	30分
15	7/15	Semester Test	Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for semester exam.	30分
		事後学修	Review exam questions and answers.	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】
This course aims to equip students with the communication skills they need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above students, can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの解説及び講評を授業内もしくはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation及び導入講義	Introduction of the teacher and the students, guidelines for the classes	
		この回の到達目標	Discussion of the syllabus	
		事前学修	Read the contents of the syllabus	35分
		事後学修	Prepare answers for the before you read questions in Unit 1 page 2	35分
2	4/13	Law in Daily Life	Students learn to familiarize themselves on the practical use of law in daily life	
		この回の到達目標	Students learn to listen and understand the contents of the reading passage	
		事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese	30分
		事後学修	Read the reading passage in Unit 1 page 3 and find the meaning of the difficult words	40分
3	4/20	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms	
		この回の到達目標	Listen to the CD for the reading passage, learn pronunciation and intonation. Reading the passage in class. Answering the comprehension questions in pairs.	
		事前学修	Complete the vocabulary expansion exercise on page 4	30分
		事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards	45分
4	4/27	Law in Daily Life	Discussing the debate question	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in class in small groups. Writing the answers	
		事前学修	Summarize the reading passage in the textbook	45分
		事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2	30分
5	5/4	Legal Systems	Legal Systems around the World	
		この回の到達目標	Legal Systems around the World. Discussing about legal systems in the world	
		事前学修	Answer the legal terms section on page 8	30分
		事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words	45分
6	5/11	Legal Systems around the World	Talk about Legal Systems around the World	
		この回の到達目標	Listen to the CD on legal systems around the world. Shadowing exercise in pairs	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 10	50分
		事後学修	Find the meaning of the vocabulary and answer the vocabulary expansion questions on page 10	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Adversarial and Inquisitorial	Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
		この回の到達目標	Discussing the debate question in groups - arguments for and against the two systems	
		事前学修	Summarize the contents of the reading passage on page 9	60分
		事後学修	Prepare answers to the question on kind of courts in Japan	45分
8	5/25	The Japanese Court System	The Japanese Court System	
		この回の到達目標	Discuss the court system in Japan and answer the before you read questions	
		事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14	35分
		事後学修	Reading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words	60分
9	6/1	Lay Assessors	Should lay assessor also participate in civil cases?	
		この回の到達目標	Discussion in groups on should lay assessors participate in both criminal and civil cases	
		事前学修	Answer the debate question for homework	45分
		事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words	60分
10	6/8	Presentation Techniques	Introducing basic presentation techniques	
		この回の到達目標	Students practice the basic presentation techniques in pairs and groups	
		事前学修	Students think of two topics on current legal/social issues in Japan for the presentation and write a short outline	60分
		事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issues in Japan	40分
11	6/15	Legal Professionals	Legal professionals in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of the legal professionals in Japan	
		事前学修	Students think of the legal professions in Japan and write a brief description of them	40分
		事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage	35分
12	6/22	Legal Professionals in Japan	Discussion of passage on legal professionals in Japan	
		この回の到達目標	Listening to the reading passage on CD and trying to understand the contents	
		事前学修	Answer the comprehension questions on page 22	30分
		事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Presentation	Preparing for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the script for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	7/6	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	60分
15	7/13	Wrap up	Wrap up, review and final test	
		この回の到達目標	To give feedback on their assignments to the students	
		事前学修	Review for the test	60分
		事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	60分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and language integrated learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajima, S et al	Sansusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	April 6	Introductory lecture	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	April 13	Stereotypes and Racism	Using different media, students will further investigate what stereotypes are and how they can be resisted in daily life.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will use media to look at stereotypes in action. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	April 20	Information and Communication	Students will talk about the importance of information technologies in modern communication today.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will explain current issues in the world of information and communication using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
4	April 27	Information and Communication	Using different media, students will further investigate the topic of information and communication and explore the importance of using media intelligently in daily life.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will use different media to look at questions concerning information and communication. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
5	May 4	Culture and Fashion	Students will discuss how and why culture and fashion is important.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will discuss current issues in the world of culture and fashion using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	May 11	Culture and Fashion	Students will use different media to further investigate the topic of culture and fashion and explain how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will use different media to look at a question concerning culture and fashion. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	May 18	Review Class	Making speeches about one of three themes: Stereotypes and Racism, Information and Communication, and Culture and Fashion	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will create a speech with logic and style.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners' speeches.	60分
8	May 25	Health	Students will discuss how people harm, hinder, and hopefully improve their health.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues in the world of health using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
9	June 1	Health	Students will use different media to investigate the topic of health and on how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will consider questions concerning health matters. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	June 8	Capitalism & Materialism	Students will learn how to discuss issues concerning capitalism and materialism.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues about capitalism and materialism using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	June 15	Capitalism & Materialism	Students will further investigate the topic of capitalism and materialism and consider how important it is to explain social issues with specific vocabulary.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will look at questions concerning capitalism and materialism. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
12	June 22	Global Warming	Students will discuss the changes global warming brings to the world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss issues in global warming using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	June 29	Global Warming	Students continue to investigate global warming.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will look at questions concerning global warming. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分
14	July 6	Review Class 2	Making speeches about one of three themes: Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, to get students to create a speech with logic and style!	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	120分
15	July 13	Review Class Unseen test	The content will be from one of the six themes from this semester: Stereotypes and Racism, Information and Communication, Culture and Fashion, Health, Capitalism and Materialism, and Global Warming.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, to get students to respond to news articles and create a group discussion: plan it, do it, reflect on it, and add notes to their notebooks	
		事前学修	Previous class notes	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	200分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/15	Ancient Japan and East Asia	Learn about the story of Ancient Japan and East Asia	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/22	Foreign settlements in Japan	Learn about the story of Foreign settlements in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/29	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/6	Korean potters in Japan	Learn about the story of Korean potters in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/13	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	Tagawa Matsu	Learn about the story of Tagawa Matsu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/27	Zhu Shun-sui	Learn about the story of Zhu Shun-sui	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/3	Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	Learn about the story of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/10	Sun Yat-sen in Japan	Learn about the story of Sun Yat-sen in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/17	Prince Cuong De	Learn about the story of Prince Cuong De	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/24	The Takasago volunteers	Learn about the story of The Takasago volunteers	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Kyaw Din	Learn about the story of Kyaw Din	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/8	Revision	Revise texts in preparation for exam	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/15	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning: In-class discussion is used to asses prior knowledge and comprehension of the new material. Student participation is necessary to promote critical thinking and deeper understanding.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Intercultural Awareness	Shigeru Sasajima	Sanshusha	2020	教科書	必携
備考	None				

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部 金4/10	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the syllabus and the structure of the class	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Think about any questions you want to ask about the syllabus.	60分
2	一部 金4/17	Unit 1: Awareness	Develop your intercultural awareness.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening 1. Oral reading 2-3. Vocabulary	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	60分
		事後学修	Review vocabulary	60分
3	一部 金4/24	Unit 1: Graphs and charts	4. Intercultural citizenship 5. Global awareness	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing notes	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Review vocabulary	30分
4	一部 金5/1	Unit 2: Diversity	Understand Intercultural Diversity in Peoples and Places.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
5	一部 金5/8	Unit 2: Graphs and charts	4. Refugee admission or recognition 5. Muslims in the US	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
6	一部 金5/15	Unit 3: Consumer	Be a good consumer.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	一部 金5/22	Unit 3: Graphs and charts		4. Mass production 5. Tradition vs industrialization
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
8	一部 金5/29	Unit 4: Society		Learn about food, culture, and society.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
9	一部 金6/5	Unit 4: Graphs and charts		4. Vegan 5. Food tax
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
10	一部 金6/12	Unit5: Lifestyle		Have better lifestyles in different cultures.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
11	一部 金6/19	Unit 5: Graphs and charts		4. Paternity leave 5. Homework
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
12	一部 金6/26	Unit 6: Travel		Be an intercultural traveler.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	一部 金7/3	Unit 6: Graphs and charts		4. Inbound and outbound tourists in Japan 5. Countries that attract tourists
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
14	一部 金7/10	Unit 7: Citizenship		Cultivate global citizenship.
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
15	一部 金7/17	Unit 7: Graphs and charts		7. Student' s view of global citizen 8. Global citizenship poll
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIA. CEFR A2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Interchange Intro, 5th Edition ISBN 9781316620113	Jack Richards	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/21	Unit 9A. I always eat breakfast.	Basic foods	
		この回の到達目標	Basic foods	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	9/28	Unit 9B. I always eat breakfast.	Meals	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss healthy and unhealthy food and eating habits.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/5	Unit 10A. What sports do you like?	Sports	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask and tell about free-time activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/12	Unit 10B. What sports do you like?	Abilities and talents	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about abilities and talents.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/19	Unit 11A. I'm going to have a party.	Months and dates	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can use months and dates and talk about birthdays.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 11B. I'm going to have a party.	Doing things at different times of the year.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talke about planes for the evening, weekend and other occasions.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/9	Unit 12A. How do you feel?	Parts of the body, health	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe health problems, using parts of the body.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/16	Unit 12B. How do you feel?	Health problems and advice, medicine	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about common medications and give advice for health problems.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/23	Unit 13A. How do I get there?	Stores, things to buy	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about stores and other places.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	11/30	Unit 13B. How do I get there?	Tourist attractions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give directions.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/7	Unit 14. I had a good time.	Weekends, vacations, fun activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give information about weekend and vacation activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Unit 15A. Where were you born?	Date and place of birth	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can mention various feelings and emotions, including not feeling	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/21	Unit 15B. Where were you born?	School days	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can describe school experiences and memories.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	1/18	Testt and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test	60分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	ダイアン ホーリー ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Pair and group work, listening activities, watching short movie clips.

【授業方法】
Attendance (less than 3 absences allowed), textbook, pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning activities will be employed if necessary	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。										2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										2	2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Simply Speaking: Conversations for Effective Communication	Diane Nagatomo	Kinseido	2000	教科書	必携
備考	Students MUST be on time, have textbook, and participate. Attendance is mandatory.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp Wednesdays: 12:10-12:30 immediately after class

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Orientation及び導入講義	Orientation to the class	
		この回の到達目標	Introduction to the class, talking about yourself	
		事前学修	Come with necessary materials	10分
		事後学修	Question and answer worksheet and vocabulary worksheet	45分
2	2	Small talk	Unit 1 Small talk	
			Unit 1 Hi! How are you?	
		この回の到達目標	Introductions and small talk	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Majors	Unit 2 What's your major?	
		この回の到達目標	Discussing classes and education	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	Appearances	Unit 3 What did she look like?	
		この回の到達目標	Describing people	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	5	Travel	Unit 4 Let's take a trip!	
		この回の到達目標	Discussing travel	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	Restaurants	Unit 5 How about going out for dinner?	
		この回の到達目標	Discussing eating in restaurants	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	Shopping	Unit 6 Let's go shopping!	
		この回の到達目標	Discussing shopping	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	Illnesses	Unit 7 How are you feeling?	
		この回の到達目標	Discussing illnesses	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Schedules	Unit 9 I'm so busy (*Unit 8 will be skipped)	
		この回の到達目標	Discussing schedules	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Careers	Unit 10 What do you do?	
		この回の到達目標	Discussing careers	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	Sports	Unit 11 Let's watch sports!	
		この回の到達目標	Discussing sports	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	Celebrations	Unit 12 Let's celebrate	
		この回の到達目標	Discussing celebrations	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	Entertainment	Unit 13 That's entertainment!	
		この回の到達目標	Discussing entertainment	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	Health	Unit 14 Let's stay healthy!	
		この回の到達目標	Discussing health issues	
		事前学修	Study for final exam	90分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
15	15	Exam まとめ	Final Exam	
		この回の到達目標	Final Exam	
		事前学修	Study for final exam	90分
		事後学修	Students can show what they have learned from Units 7-12. (30分)	10分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Pair work, small group work, class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pairwork, group work, and role plays	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments on performance in class and written comments on homework assignments.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019		
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 Experience working at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Introduction、及び導入講義	Course and instructor introduction, summer vacation activities	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about what they did during the summer break.	
		事前学修	Come to every class well rested and ready to participate. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	9/26	Food and Drink	Food and Drink; countable and uncountable nouns	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their food and drink preferences.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	10/3	Food and Drink	Food and Drink; famous foods around the world and in Japan	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about famous dishes.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	10/10	Rules	Rules in life, i.e. at school, at home, at work, and in public facilities.	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss what is permitted or not allowed in various contexts.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	10/17	Rules	Talking about rules in your life	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss what is permitted or not allowed in various contexts.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	10/24	Adventures	Adventure activities	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about exciting things they have done.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	Adventures	Adjectives to describe experiences; Listening Test 1	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to talk about adventure activities and how they make you feel.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	11/7	Health	Suggestions and advice on how to keep healthy	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to talk give and receive advice on how to keep healthy	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	11/14	Health	Symptoms and treatment of various illnesses	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to talk about various illnesses and their symptoms.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	11/21	Comparisons	Making comparisons and expressing preferences	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to compare various consumer products and express their preferences.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	11/28	Comparisons	Adjectives to describe objects and people	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to compare various consumer products and express their preferences.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	12/5	Christmas	The Cultural and Spiritual meaning of Christmas	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above at the end of this class students will be able to understand the true meaning of Christmas.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	The Modern World	Modern technology in our lives; Listening Test 2	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about technology in their life	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	12/19	Evaluation	Speaking test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening comprehension skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	12/26	Evaluation	Speaking test Review Course questionnaire	
		この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening comprehension skills by participating in a small group discussion.	
		事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
		事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。										2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										2	2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「Multicultural Stories from Modern Japan」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class, (Wednesday 3rd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Tei Ei-kei	Learn about the life Tei Ei-kei and his role in introducing coffee culture to Japan.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tei Ei-kei, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
2	9/23	Kairakutei Black	Learn about Kairakutei Black, Japan's first foreign-born Rakugoka	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kairakutei Black, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
3	9/30	Victor Starrfin	Learn about the Russian refugee and Japanese baseball star, Victor Starrfin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Victor Starrfin, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
4	10/7	Rash Behari Bose	Learn about Rash Behari Bose and his role in popularizing curry in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Rash Behari Bose, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
5	10/14	Leo Sirota	Learn about the Russian-born composer Leo Sirota, and his life in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Leo Sirota, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
6	10/21	Chen Kenmin	Learn about the life of Chen Kenmin who helped to popularize Chinese food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Chen Kenmin, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Rikidozan	Learn about the Korean-Japanese wrestler, Rikidozan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Rikidozan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
8	11/11	Ando Momofuku	Learn about Ando Momofuku, Japanese inventor of the instant noodle	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ando Momofuku, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
9	11/18	Korean food in Japan	Learn about the rising popularity of Korean food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean food in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
10	11/25	Oh Sadaharu	Learn about the life of the Chinese-Japanese baseball player and manager, Oh Sadaharu.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Oh Sadaharu, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
11	12/2	Konishiki Yasokichi	Learn about the life of the Hawaiian born sumo-wrestler Konishiki Yasokichi.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Konishiki Yasokichi, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分
12	12/9	Beate Sirota Gordon	Learn about the life of the women's rights advocate, Beate Sirota Gordon	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Beate Sirota Gordon, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Son Masayoshi	Learn about the life of the Japanese businessman, Son Masayoshi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Son Masayoshi, so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for vocabulary test.	30分
		事後学修	Summarize group discussion in textbook. Prepare for next week's practice exam.	30分
14	12/23	Semester Revision	Semester revision. Practice exam with feedback.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Revise all of the course vocabulary.	30分
		事後学修	Revise for the exam.	30分
15	1/13	Semester Test	Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.	
		事前学修	Prepare for semester exam.	30分
		事後学修	Review exam questions and answers.	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
The class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities.

【授業方法】
This course will continue to develop the communicative skills students need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays in the teachers` lounge before class or after class in the classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Feedback and Syllabus	Feedback on the final test and students talk about the summer vacation	
		この回の到達目標	Students write about how they spent the summer vacation and present it to class	
		事前学修	Review the units studied in the spring semester	60分
		事後学修	Research on how modern Japanese law evolved	60分
2	9/22	Foreign Laws	Japan adopting foreign laws	
		この回の到達目標	Understand the reasons why Japan adopted some foreign laws into their legal system and listen to the reading passage on the CD	
		事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards	60分
		事後学修	Answering the comprehension questions on page 28	45分
3	9/28	Role of lawyers in courts	Discuss the role of lawyers in courts	
		この回の到達目標	Learn to speak and write arguments for and against the topic of role of lawyers in courts	
		事前学修	Summarize the reading passage on page 27	60分
		事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution	40分
4	10/5	Japanese Constitution	Japanese Constitution and the necessity to amend it	
		この回の到達目標	Group discussion on the present Constitution and the necessity to amend it	
		事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32	30分
		事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions	60分
5	10/12	Japanese Constitution	Articles of the Japanese Constitution	
		この回の到達目標	Discussing arguments for and against maintaining a self defense force	
		事前学修	Answer the debate question on page 36	45分
		事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishments imposed	35分
6	10/19	Criminal Law	Criminal Law in Japan	
		この回の到達目標	Discussion of criminal law in Japan and in other countries	
		事前学修	Listen to the CD on criminal law in Japan and check the unfamiliar words	40分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 42	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月 26	Movie	Watching a movie on a criminal trial	
		この回の到達目標	Students watch the movie without Japanese subtitles/captions	
		事前学修	Do a research on the movie to be watched	50分
		事後学修	Students write their opinion about the movie. Answer the debate question on page 42	60分
8	11/9	Civil Law	Criminal Law and Civil Law	
		この回の到達目標	Distinguish the differences between criminal and civil law	
		事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45	60分
		事後学修	Answer the comprehension questions on page 46	35分
9	11/16	Litigation in Japanese Culture	Discuss about litigation in Japanese Culture	
		この回の到達目標	Students discuss in groups if litigation is acceptable or not in Japanese culture	
		事前学修	Summarize the reading passage and make note of unfamiliar words	60分
		事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure	40分
10	11/23	Commercial Law	Importance of Commercial Law	
		この回の到達目標	Importance of commercial law and the difficulties to take legal action against foreign companies	
		事前学修	Research on the type of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan	60分
		事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD on page 57	40分
11	11/30	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan	
		この回の到達目標	The extent to which legislation in Japan protects producers and consumers	
		事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58	60分
		事後学修	Summarize the reading passage and write down the unfamiliar words	60分
12	12/7	Lay Judge System	Law Judge System in Japan	
		この回の到達目標	The necessity to have the Lay Judge System in Japan	
		事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system	60分
		事後学修	Listen to the reading passage on the CD and write down the unfamiliar words	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 14	Presentation	Preparation for presentation	
		この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
		事前学修	Students prepare the explanation/description for the power point slides	45分
		事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	12/ 21	Presentation	Final group presentation	
		この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience, peer review and evaluation	
		事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
		事後学修	Peer review and evaluating the presentations of the classmates	45分
15	1/11	Wrap up	Wrap up, review, feedback and final test	
		この回の到達目標	To complete the course successfully	
		事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	60分
		事後学修	Feedback on the assignments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching approach will be from an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL Global Issues	Sasajuma, S. et al	Sanshusha	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	September 14	Re-Introduction: Energy and Ecosystems	Re-introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will get to know the course again.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy a new notebook? Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	September 21	Energy & Ecosystems	Using different media, students will further investigate how and why ecosystems are important.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will look at the issue of ecosystems. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
3	September 28	Endangered Species	Students will discuss why we should be concerned about the number of endangered species in our world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues related to endangered species.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	October 5	Endangered Species	Using different media, students will further investigate the topic of endangered species and how important it is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will consider questions concerning endangered species.	
		事前学修	They will study the topic and move towards small discussions.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
5	October 12	Human Rights	Students will consider why we should be concerned about human rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss why human rights are important.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	October 19	Human Rights	Using different media, students will further investigate the topic of human rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will consider questions concerning the topic of human rights.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	October 26	Review Class 3	Making speeches about one of three themes: Energy and Ecosystems, Endangered Species, and Human Rights.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will create a speech.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of a partners speech. Submit own speech.	120分
8	November 9	International Relationships	Students will discuss why we should all think about the topic of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will learn how to discuss current issues in the world of international relationships from a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
9	November 16	International Relationships	Students will discuss the issue of international relationships.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss current issues in international relations using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
10	November 23	War and Peace	Students will discuss war and peace in our world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss war and peace in the modern world using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
11	November 30	War and Peace	Using different media, students will further investigate the topic of war and peace and its importance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will learn how to discuss current issues in the world of war and peace using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
12	December 7	Global Citizenship	Students will discuss what global citizenship is in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will learn how to discuss what global citizenship is using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	December 14	Global Citizenship	Using different media, students will further investigate global citizenship and discuss its relevance in the modern world.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will discuss what global citizenship means using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for Review Class 4.	120分
14	December 21	Review Class 4	Making speeches about one of three themes: International Relationships, War & Peace, and Global Citizenship	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will create a speech.	
		事前学修	Previous class notes	120分
		事後学修	Write a review of partners speeches.	200分
15	January 15	Review Class Unseen Test	The contexts will be from one of the six themes from this semester: Energy and Ecosystems, Endangered Species, Human Rights, International Relations, War & Peace and Global Citizenship.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will respond to news articles and create a group discussion: plan it, do it, reflect on it, and add to their notebooks.	
		事前学修	Previous class notes.	100分
		事後学修	Write a review of the class: your article, and what other students taught you!	100分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	Tei Ei-kei	Learn about the story Tei Ei-kei	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	9/23	Kairakutei Black	Learn about the story Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	9/30	Victor Starrfin	Learn about the story Victor Starrfin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	10/7	Rash Behari Bose	Learn about the story Rash Behari Bose	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	10/14	Leo Sirota	Learn about the story Leo Sirota	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	10/21	Beate Sirota Gordon	Learn about the story Beate Sirota Gordon	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Chen Kenmin	Learn about the story Chen Kenmin	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
8	11/11	Rikidozan	Learn about the story Rikidozan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
9	11/18	Ando Momofuku	Learn about the story Ando Momofuku	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
10	11/25	Korean Food in Japan	Learn about the story Korean Food in Japan	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
11	12/2	Oh Sadaharu	Learn about the story Oh Sadaharu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
12	12/9	Konishiki Yasokichi	Learn about the story Konishiki Yasokichi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Murata Renho	Learn about the story Murata Renho	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	12/23	Son Masayoshi	Learn about the story Son Masayoshi	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
15	1/13	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Intercultural Awareness	Shigeru Sasajima	Sanshusha	2020	教科書	必携
備考	None				

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	二部 金9/18	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the syllabus and the structure of the class	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Think about any questions you want to ask about the syllabus.	60分
2	二部 金9/25	Unit 8: Education	Study the education system.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening 1. Oral reading 2-3. Vocabulary	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	60分
		事後学修	Review vocabulary	60分
3	二部 金10/2	Unit 8: Graphs and charts	4. Expenditure on educational institutions 5. Enrollment and dropout rates	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing notes	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	None	0分
4	二部 金10/9	Unit 9: Art	Appreciate the arts.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
5	二部 金10/16	Unit 9: Graphs and charts	4. Creativity and life satisfaction 5. Exports of cultural goods	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
6	二部 金10/23	Unit 10: A.I.	See the potential of Artificial Intelligence (A.I.).	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	二部 金10/30	Unit 10: Graphs and charts		4. Robotic operating systems 5. The hot topics in AI research
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
8	二部 金11/6	Unit 11: Gender		Change your attitude toward gender roles.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
9	二部 金11/13	Unit 11: Graphs and charts		4. Husbands and household chores 5. Female representatives in national assemblies
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
10	二部 金11/20	Unit 12: Money		Live well in a cashless society.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
11	二部 金11/27	Unit 12: Graphs and charts		4. Cryptocurrency 5. Currency exchange
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
12	二部 金12/4	Unit 13: Peace		Pray for no more wars and just peace.
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	二部 金12/11	Unit 13: Graphs and charts	4. Gun owning 5. Nuclear warheads	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分
14	二部 金12/18	Unit 14: Immigration	Address immigration issues.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: 1. Listening Quiz 2. Vocabulary 3. Reading	
		事前学修	Pre-read exercise 1-3	70分
		事後学修	Record and email text 1.1	60分
15	二部 金12/25	Unit 14: Graphs and charts	4. Immigration in Germany 5. Global exports	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Discussion Writing	
		事前学修	Pre-read tables 4-5	60分
		事後学修	Finish writing assignment in Word document	60分

科目名	Listening & Speaking ⅢA(木曜3時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIB. CEFR B1

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2nd Edition, ISBN9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/16	Unit 1A People and Places	Who we are and where we are from	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe people and places and introduce themselves.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/23	Unit 1B People and Places	What we do and where we live	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their school/jobs and describe where they live.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	4/30	Unit 2A Daily Life	What we like doing in free time	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their hobbies and likes/dislikes.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/7	Unit 2B Daily Life	What we do in daily life, how often we do things.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their daily lives, including habits and customs.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/14	Unit 3A Home	Where we live	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe the area they live, including shops and where things are.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Unit 3B Home	What we need to do and our homes	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can explain what they need to do and describe their homes.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/28	Unit 4A Holidays	Our past, what we hear	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they did in the past and what people tell them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/4	Unit 4B Holidays	Dates and months, holidays.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe time, including dates and months, as well as various holidays.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/11	Unit 5A Shops	What we want, shopping	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe what they want to buy and learn how to talk to shop assistants.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/18	Unit 5B Shops	Department stores, excuses, in a store	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about department stores, how to make excuses and follow directions in a store.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/25	Unit 6A Education	Classmates, teachers, school subjects	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their classmates and teachers and also about what subjects they are studying in university.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Unit 6B Education	TCourses, languages and education, preferences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about unexpected things that have happened to them,	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/9	Unit 7A Family	Family, family life	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe their families and family life, as well as people they know.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	7/16	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking ⅢA(木曜4時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIB. CEFR B1

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2nd Edition, ISBN9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/16	Unit 1A People and Places	Who we are and where we are from	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe people and places and introduce themselves.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/23	Unit 1B People and Places	What we do and where we live	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their school/jobs and describe where they live.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	4/30	Unit 2A Daily Life	What we like doing in free time	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their hobbies and likes/dislikes.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/7	Unit 2B Daily Life	What we do in daily life, how often we do things.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their daily lives, including habits and customs.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/14	Unit 3A Home	Where we live	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe the area they live, including shops and where things are.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Unit 3B Home	What we need to do and our homes	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can explain what they need to do and describe their homes.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/28	Unit 4A Holidays	Our past, what we hear	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they did in the past and what people tell them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/4	Unit 4B Holidays	Dates and months, holidays.	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe time, including dates and months, as well as various holidays.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/11	Unit 5A Shops	What we want, shopping	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe what they want to buy and learn how to talk to shop assistants.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/18	Unit 5B Shops	Department stores, excuses, in a store	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about department stores, how to make excuses and follow directions in a store.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/25	Unit 6A Education	Classmates, teachers, school subjects	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their classmates and teachers and also about what subjects they are studying in university.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	Unit 6B Education	TCourses, languages and education, preferences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about unexpected things that have happened to them,	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/9	Unit 7A Family	Family, family life	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe their families and family life, as well as people they know.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	7/16	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This course is for level 3 students

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。									3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									3	3		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考	授業内またはセメスター後				

【オフィスアワー】
paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why.Please ask questions after the class (Tuesday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction及び導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story of Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Sumo	Learn about the story of Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga	Learn about the story of Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Akihabara	Learn about the story of Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Yamanote	Learn about the story of Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Imperial Palace	Learn about the story of Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Asakusa	Learn about the story of Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Meiji Jingu	Learn about the story of The Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Sushi and Tempura	Learn about the story of Sushi and Tempura	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Noodles	Learn about the story of Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	7/14	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	Introduction	Learn about the learning objectives of the class.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	4/14	Edo to Tokyo	Learn about the story Edo to Tokyo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	4/21	Kimono	Learn about the story Kimono	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	4/28	Kabuki	Learn about the story Kabuki	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	5/5	Sumo	Learn about the story Sumo	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	5/12	Shinkansen	Learn about the story Shinkansen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Manga	Learn about the story Manga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	5/26	Akihabara	Learn about the story Akihabara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	6/2	Yamanote	Learn about the story Yamanote	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	6/9	Imperial Palace	Learn about the story Imperial Palace	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	6/16	Asakusa	Learn about the story Asakusa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	6/23	The Meiji Jingu	Learn about the story The Meiji Jingu	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Sushi and Tempura	Learn about the story Sushi and Tempura	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	7/7	Noodles	Learn about the story Noodles	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	7/14	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Pair and group work, listening activities, watching short movie clips, making presentations.

【授業方法】
Attendance (fewer than 3 absences), textbook, pair work, group discussion, homework, presentations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be employed in some instances if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。										3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										3	3		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
No textbooks: handouts will be provided					
備考	Student will keep all handouts in a file folder and submit at the end of the semester.				

【オフィスアワー】
Hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Introduction及び導入講義	TED Talk # 1	
		この回の到達目標	Einstein the parrot	
		事前学修	Come to class with necessary materials	10分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
2	2	Sleep	TED Talk # 2	
		この回の到達目標	Want to succeed? get more sleep	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Success	TED Talk # 3	
		この回の到達目標	Eight secrets of success	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	Silence	TED Talk # 4	
		この回の到達目標	The Danger of Silence	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	5	Happiness at work	TED Talk # 5	
		この回の到達目標	This is what makes people happy at work	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	Goals	TED Talk # 6	
		この回の到達目標	Keep your goals to yourself	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	Community innovation	TED Talk # 7	
		この回の到達目標	How community innovation can save wildlife	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	Architecture	TED Talk # 8	
		この回の到達目標	Architectural innovations of the ancient world	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Three things I learned	TED Talk # 9	
		この回の到達目標	Three things I learned	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Working at home	TED Talk # 10	
		この回の到達目標	Why working at home is good for business	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	Oceans	TED Talk 11	
		この回の到達目標	Life in the deep ocean	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	Success	TED Talk # 12	
		この回の到達目標	Success is a continuous story	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	Remember to say thank you	TED Talk # 13	
		この回の到達目標	Remember to say thank you	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	Simple genius of a good graphic	TED Talk # 14	
		この回の到達目標	Simple genius of a good graphic	
		事前学修	Question and answer worksheet)	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
15	15	Exam まとめ	Exam	
		この回の到達目標	To test students' knowledge	
		事前学修	Study for exam	90分
		事後学修	Students review what was on the test	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3 (978-1-337-10412-8 Student Book with My Keynote Online ¥3,400)	Paul Dummet, Helen Stephenson, Lewis Lansford,	Cengage	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
教師室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	April 6	Introductory lecture	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	Students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class. They will start to look at the topic of stereotypes and give examples from materials.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	April 13	Helping people	Making a difference to individuals. Textbook tasks	
		この回の到達目標	Students will consider how to help people in daily life. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
3	April 20	Helping people	Students will talk about charity, kindness and making a difference in people's lives	
		この回の到達目標	Students will talk about how to make a difference in society and in day-to-day life	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
4	April 27	Trends	We will consider trends in different fields.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at questions concerning current trends. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
5	May 4	Trends	Students will discuss how and why trends are important.	
		この回の到達目標	Students will discuss current issues in the world of trends using a range of materials.	
		事前学修	Watch TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher,	60分
6	May 11	Improving Lives	We will consider ways to improve people's lives.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at ways to improve lives. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	May 18	Improving Lives	Students will discuss how and why it is important to improve other people's lives.	
		この回の到達目標	Students will discuss current issues in the world of trends using a range of materials.	
		事前学修	Watch TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	60分
8	May 25	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions related to the past three topics.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues related to the topics covered in the previous classes.	
		事前学修	Prepare for the discussion and presentation class by reviewing notes and past class work.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
9	June 1	Designing the Web	We will consider the importance of website design.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at website design. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
10	June 8	Designing the Web	Students will discuss how and why web design is important.	
		この回の到達目標	Students will discuss screen-based designs using a range of materials.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
11	June 15	Community Builders	We will consider the importance of improving communities.	
		この回の到達目標	Students will look at questions concerning community building. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and other articles.	60分
12	June 22	Community Builders	Students will discuss more about community building.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues in global warming using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	June 29	Clear Communication	We will consider how people can communicate more clearly and effectively.	
		この回の到達目標	Students will look at questions concerning clear communication. They will discuss the topic and move towards small debates.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and other articles.	60分
14	July 6	Clear Communication	Making speeches on one of three themes from the second half of the course.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues in clear communication with a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	120分
15	July 13	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues related to the topics covered in the previous classes.	
		事前学修	Prepare for the discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	100分
		事後学修	Review and reflect on the course.	60分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perspectives 1 [American English]	Lewis Lansford	National Geographic Learning	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	一部 金4/10	Introductory lecture		Introductory lecture Syllabus
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	一部 金4/17	Unit 1: Who are you?		1A. He is really into music [Grammar: Simple present and present continuous] 1B. How are you feeling?: [Vocabulary: Collocations]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Grammar Reading	
		事前学修	Look over vocabulary and grammar point in "A" section of the lesson	60分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
3	一部 金4/24	Unit 1: Who are you?		1C. I expect friends to understand [Grammar: Gerund and infinitive] 1E. What are you into? [Vocabulary: Likes and dislikes]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	1B section practice reading	70分
		事後学修	Review grammar	60分
4	一部 金5/1	Unit 2: Where the heart is.		2A. Different places [Grammar: Simple past] 2B. My space [Vocabulary: Suffix -ion]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
5	一部 金5/8	Unit 2: Where the heart is.		2C. A unique style [Grammar: Past continuous] 2E. Special things, special places [Vocabulary: Giving reasons]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
6	一部 金5/15	Unit 3: Health and happiness		3A. Treating the whole person [Grammar: Quantifiers] 3B. Painless [Vocabulary: Synonyms]
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 金5/22	Unit 3: Health and happiness	3D. TED Talk: The amazing story of the man who gave us pain relief	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
8	一部 金5/29	Unit 3: Health and happiness	3C. What makes us happy [Grammar: Phrasal verbs] 3E. Opinions about health and happiness [Vocabulary: Opinions]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
9	一部 金6/5	Unit 4: Learning	4A. How we learn [Grammar: comparative and superlative adjectives] 4B. Outdoor classroom [Vocabulary: Adjectives -ful / -less]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
10	一部 金6/12	Unit 4: Learning	4D. TED Talk: Dont eat the marshmallow!	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
11	一部 金6/19	Unit 4: Learning	4C. Skills for life [Grammar: Comparative forms] 4D. Its such a cool subject [Vocabulary: Making decisions]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	一部 金6/26	Unit 5: Family and friends	5A. The people in my life [Grammar: Present perfect and simple past] 5B. Coming of age [Vocabulary: Adjectives -al]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
13	一部 金7/3	Unit 5: Family and friends	5D. TED Talk: Why we laugh	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
14	一部 金7/10	Unit 5: Family and friends	5C. Stop me if you already heard this one [Grammar: for/since/already/just/yet] 5E. Invitations [Vocabulary: Availability]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
15	一部 金7/17	Oral presentation	Poster presentation	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Communication	
		事前学修	Practice	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	Listening & Speaking ⅢB(木曜3時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVA. CEFR B2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2ndEdition, ISBN 9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/24	Unit 9A Experiences	Places we've visited, recommendations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about places they have been to and also make recommendations.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	10/1	Unit 9B. Experiences.	Problems, experiences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can explain and ask about problems and talk about experiences they have had.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/8	Unit 10A. Travel	Time, tickets, trains	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about time (schedules), buying train tickets and traveling on trains.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/15	Unit 10B. Travel	Local transportation, recommendations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss local transportation and recommend places to visit.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/22	Unit 11A. Food	Restaurants	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can understand menus and order and pay in restaurants.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Unit 11B. Food	Kinds of food, agreement and disagreement	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe different kinds of food, talk about what they eat, and show agreement and disagreement.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/5	Unit 12A. Feelings	Health problems, advice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about health problems and give advice and refuse advice.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/12	Unit 12B. Feelings	Our feelings, news stories	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can express how they feel and why and also understand some news stories.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/19	Unit 13A. Nature	Weather, future	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the weather, along with future possibilities and ask for details.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	12/3	Unit 13B. Nature	Countryside/city, animals, duration	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can compare the countryside and the city, as well as talk about animals and duration.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/10	Unit 14. Opinions	Opinions, news	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give opinons about movies, news and social issues.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Unit 15. Technology	Machines, Internet	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss machines and things they can do on the Internet	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/24	Unit 16A. Love	Relationships	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe events in relationships and give news about them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	1/14	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking ⅢB(木曜4時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVA. CEFR B2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2ndEdition, ISBN 9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/24	Unit 9A Experiences	Places we've visited, recommendations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about places they have been to and also make recommendations.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	10/1	Unit 9B. Experiences.	Problems, experiences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can explain and ask about problems and talk about experiences they have had.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/8	Unit 10A. Travel	Time, tickets, trains	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about time (schedules), buying train tickets and traveling on trains.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/15	Unit 10B. Travel	Local transportation, recommendations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss local transportation and recommend places to visit.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/22	Unit 11A. Food	Restaurants	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can understand menus and order and pay in restaurants.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Unit 11B. Food	Kinds of food, agreement and disagreement	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe different kinds of food, talk about what they eat, and show agreement and disagreement.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/5	Unit 12A. Feelings	Health problems, advice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about health problems and give advice and refuse advice.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/12	Unit 12B. Feelings	Our feelings, news stories	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can express how they feel and why and also understand some news stories.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/19	Unit 13A. Nature	Weather, future	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the weather, along with future possibilities and ask for details.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	12/3	Unit 13B. Nature	Countryside/city, animals, duration	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can compare the countryside and the city, as well as talk about animals and duration.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/10	Unit 14. Opinions	Opinions, news	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give opinons about movies, news and social issues.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Unit 15. Technology	Machines, Internet	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss machines and things they can do on the Internet	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/24	Unit 16A. Love	Relationships	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe events in relationships and give news about them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Study for test.	60分
15	1/14	Test and review.	Test and review.	
		この回の到達目標	Test and review.	
		事前学修	Study for test.	60分
		事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This course is for level 3 students

【授業方法】
The 32 lessons have warmup talking, listening, pronunciation and free conversation practice.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An International History of Japan II	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why.Please ask questions after the class (Tuesday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
2	9/22	Ginza	Learn about the story of Ginza	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
3	9/29	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
4	10/6	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
5	10/13	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
6	10/20	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Make a note of major mistakes made (30min)	30分
8	11/10	The Tensho Embassy	Learn about the story of The Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please review weaknesses (30min)	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
11	12/1	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Please make sure to complete exercises in the book (30min)	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	1/12	Semester Exam まとめ	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment.	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester exam	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（最初講義で： TBA）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Ginza	Learn about the story of Ginza.	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Read syllabus.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	9/22	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	9/29	Nara	Learn about the story of Nara	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	10/6	Mount Fuji	Learn about the story of Mount Fuji	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	10/13	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	10/20	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Wako	Learn about the story of Wako	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	11/10	The Tensho Embassy	Learn about the story of the Tensho Embassy	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	11/17	Hasekura Tsunenaga	Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	11/24	Yasuke	Learn about the story of Yasuke	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	12/1	William Adams	Learn about the story of William Adams	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	12/8	Yamada Nagamasa	Learn about the story of Yamada Nagamasa	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	12/22	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
		事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
		事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	1/12	Semester Exam	Semester assessment	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can carry out the semester assessment	
		事前学修	Revise for the semester exam	30分
		事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Attendance (fewer than 3 absences), pair work, group discussion, homework, presentations. Students who are absent more than three times in one semester will be dropped from the course.

【授業方法】
Students will watch TED Talks, listen for specific information and for the gist. They will study vocabulary from the TED talks and engage in discussions that surround the topic of the TED Talks

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning may be used if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
No textbooks: handouts will be provided					
備考	Attendance and class participation is mandatory.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	Wear nothing new	Introduction to first semester, TED Talk # 1	
		この回の到達目標	Wear nothing new	
		事前学修	Come to class with necessary materials	10分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
2	2	Want to be more creative?	TED Talk # 2	
		この回の到達目標	Want to be more creative?	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
3	3	Try something new for 30 days	TED Talk # 3	
		この回の到達目標	Try something new for 30 days	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
4	4	How we find life on other planets	TED Talk # 4	
		この回の到達目標	How we find life on other planets	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
5	4	Are you human	TED Talk # 5	
		この回の到達目標	Are you human?	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
6	6	The best gift I ever survived	TED Talk # 6	
		この回の到達目標	The best gift I ever survived	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	A rare galaxy changing	TED Talk # 7	
		この回の到達目標	A rare galaxy changing	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
8	8	How we can teach our bodies to heal faster	TED Talk # 8	
		この回の到達目標	How we can teach our bodies to heal faster	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
9	9	Less stuff more happiness	TED Talk # 9	
		この回の到達目標	Less stuff more happiness	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
10	10	Less stuff more happiness	TED Talk # 10	
		この回の到達目標	Less stuff more happiness	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
11	11	How to safe a language from extinction	TED Talk # 11	
		この回の到達目標	How to safe a language from extinction	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
12	12	How policewomen make communities safer	TED Talk # 12	
		この回の到達目標	How policewomen make communities safer	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	The brain	TED Talk # 13	
		この回の到達目標	The brain	
		事前学修	Question and answer worksheet	30分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
14	14	This computer is learning to read your mind	TED Talk # 14	
		この回の到達目標	This computer is learning to read your mind	
		事前学修	Study for the exam	90分
		事後学修	Vocabulary worksheet	30分
15	15	Exam まとめ	Exam	
		この回の到達目標	Final Exam	
		事前学修	Study for exam	90分
		事後学修	Students review after exam	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Keynote 3 (978-1-337-10412-8 Student Book with My Keynote Online ¥3,400)	Paul Dummet, Helen Stephenson, Lewis Lansford,	Cengage	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日）. rjw@veryfast.biz

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	September 14	Introductory lecture	Introduction to the course and the topics.	
		この回の到達目標	Students will get to know the teacher, the textbook, and activities to be used in class. They will start to look at the topic of stereotypes.	
		事前学修	Read syllabus and reflect!	60分
		事後学修	Buy the textbook. Buy a notebook. Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.	60分
2	September 21	Identity	Talking about identity and multicultural experiences. Textbook tasks.	
		この回の到達目標	Students will consider identity. They will discuss the topic and move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
3	September 28	Identity	Students will talk about the issue of identity and how identities shape our lives.	
		この回の到達目標	Students will talk about ways to appreciate a range of different identities.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
4	October 5	Transportation Solutions	We will consider transport systems and the effects they have on our lives	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at transport. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
5	October 12	Transportation Solutions	Students will discuss how and why the issue of transport is important.	
		この回の到達目標	Students will discuss current issues in transport using a range of materials.	
		事前学修	Watch TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
6	October 19	New Words	We will consider why new words are important.	
		この回の到達目標	Students will look at the process by which new words are created. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	October 26	New Words	Students will discuss the importance of new words.	
		この回の到達目標	Students will discuss new words through a range of materials.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Prepare for the discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	100分
8	November 9	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions.	
		この回の到達目標	Students will discuss and present from one of the past three topics.	
		事前学修	Prepare for discussion and presentation class through reviewing notes and past class work.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分
9	November 16	Understanding Emotions	We will consider the importance of understanding emotions.	
		この回の到達目標	Students will use different media to look at emotions. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Make notes on it.	60分
10	November 23	Understanding Emotions	Students will discuss how and why it is important to understand emotions,	
		この回の到達目標	Students will discuss emotions using a range of materials.	
		事前学修	Watch the TED Talk for the unit. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	60分
11	November 30	Leaders and Thinkers	We will consider ways of leadership and how to think outside the box.	
		この回の到達目標	Students will look at leadership. They will move towards small discussions.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and of other articles.	60分
12	December 7	Leaders and Thinkers	Students will discuss how leaders think. They will discuss leaders and thinkers.	
		この回の到達目標	Students will discuss aspects of leadership and ways of thinking using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	December 14	Well-being	We will consider how people can improve their own well-being.	
		この回の到達目標	Students will look at questions concerning well-being. They will discuss the broad topic of health.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and watch the TED Talk for the chapter. Read and make notes of this and of other articles.	60分
14	December 21	Well-being	Students will discuss well-being. They will discuss case studies in class.	
		この回の到達目標	Students will discuss issues in well-being using a range of materials.	
		事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
		事後学修	Review and read articles handed out by the teacher	120分
15	January 15	Discussion and presentation class	Students will do presentations and discussions.	
		この回の到達目標	Students will discuss and present from one of the past three topics.	
		事前学修	Prepare for discussion and presentation class through reviewing notes and past work.	100分
		事後学修	Review and reflect on the course.	60分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	S.サンチェス ペレス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Students will be encouraged to think critically and develop the language skills needed to find their own voice in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	40	40									80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on paper assignments and day to day verbal feedback in class discussion.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perspectives 1 [American English]	Lewis Lansford	National Geographic Learning	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and via email to su_saps@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	二部 金9/18	Introductory lecture	Introductory lecture Syllabus	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Understand the structure of the course and what students are expected to do.	
		事前学修	Read Syllabus	30分
		事後学修	Prepare 1-2 questions and send an email (optional)	30分
2	二部 金9/25	Unit 6: Do your best	6A. The best I can be [Grammar: Modals] 6B. Not so fast [Vocabulary: Negative prefixes]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Look over vocabulary and grammar point in "A" section of the lesson	60分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	90分
3	二部 金10/2	Unit 6: Do your best	6C. Unexpected art [Grammar: Zero conditional] 6E. Giving advice [Vocabulary: Giving advice]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
4	二部 金10/9	Unit 7: Tell me what you eat	7A. Food & flavors from around the world [Grammar: Predictions and arrangements] 7B. The greatest human success story [Vocabulary: Verb to noun]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
5	二部 金10/16	Unit 7: Tell me what you eat	7C. A taste of honey [Grammar: First conditional] 7E. Whats it like [Vocabulary: Planning a meal]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
6	二部 金10/23	Unit 8: Buyers choice	8A. Why we buy [Grammar: second conditional] 8B. Saving the surf [Vocabulary: Compound nouns]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	二部 金10/30	Unit 8: Buyers choice	8D. TED Talk: Our campaign to ban plastic bags in Bali	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
8	二部 金11/6	Unit 8: Buyers choice	8C. New things from old ones [Grammar: Relative clauses] 8E. Call to action [Vocabulary: How to persuade]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
9	二部 金11/13	Unit 9: All in a days work	9A. Work should be fun [Grammar: Past perfect] 9B. What do you want to be when you grow up? [Vocabulary: Dependent prepositions]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
10	二部 金11/20	Unit 9: All in a days work	9D. TED Talk: The surprising thing I learned sailing solo around the world	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
11	二部 金11/27	Unit 9: All in a days work	9C. She said it wasnt just about the money [Grammar: Reported speech] 9E. What does a UX designer do? [Talking about careers]	
		この回の到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Writing	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" writing section	90分
		事後学修	Review grammar	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
12	二部 金12/4	Unit 10: Remote control		10A. Inventions: past, present, and future [Grammar: Passive Voice] 10B. Can tech teach us [Vocabulary: Word forms]
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Vocabulary Listening Grammar	
		事前学修	Record reading section 2B	70分
		事後学修	Review vocabulary and grammar	60分
13	二部 金12/11	Unit 10: Remote control		10D. TED Talk: How to control someone else's arm with your brain
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Listening Notetaking Discussion	
		事前学修	Prepare by pre-reading "D" writing section	90分
		事後学修	None	0分
14	二部 金12/18	Unit 10: Remote control		10C. Using tech to take control [Grammar: Passive] 10E. Whos in control? [Vocabulary: Pros and cons]
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Grammar Speaking	
		事前学修	Prepare by pre-reading "E" speaking section	90分
		事後学修	Review grammar	30分
15	二部 金12/25	Oral presentation		Final group presentation
		この回の 到達目標	As per SB0s①② above: Communication	
		事前学修	Practice	120分
		事後学修	Review	30分

科目名	Listening & Speaking IVA(月曜3限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVB. CEFR B1 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rdEdition, ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at <jwoodjapan@hotmail.com>

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Introductory lecture	Learning what the class is about .	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/13	Unit 1.1 A World of Difference	Family and culture	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the affect of culture on families living in different countries.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/20	Unit 1.2 A World of Difference	Lifestyles, everyday situations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their lifestyles and how it affects what they do evert day.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	4/27	Unit 2.1 The work week	Successful people	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes people successful or not	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/4	Unit 2.2 The work week	Payment for jobs, opinions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about how much people make doing various jobs and give their opinions about this and other things.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/11	Unit 2.3 The work week	Free-time activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they do when they're not working or at school-their free-time activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 3.1 Good times, bad times.	Relationships	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about relationships, especially their early loves.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/25	Unit 3.2 Good times, bad times!	Getting along, good matches	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes people fall in love and what kinds of relationships are the best.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/1	Unit 4.1 Getting it right	Personal habits and philosophies	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they think is the most important in their lives and how they go about doing things every day.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/8	Unit 4.2 Getting it right	Laws, what's important in life	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss various laws and how they help establish what's important in our lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/15	Unit 5.1 Our changing world	Predictions about the future	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can make predicitions about the future and what they think will happen to them and to the world.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/22	Unit 5.2 Our changing world	Weather, space	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can talk about the weather and make predictions about it and also talk about space.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 5.3 Our changing world	Environment, making arrangements	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the environment and what they think will happen to it in the future as well as how to make arrangements to meet someone or go somewhere.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/6	Unit 6.1 What matters to me	Close relatives, family	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about who they feel closest to in their family and how they feel about other relatives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	7/13	Unit 6.2 What matters to me	Possessions, descriptions	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their most important possessions and why they value them and also describe what they own.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking IVA(月曜4限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVB. CEFR B1 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rdEdition, ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at <jwoodjapan@hotmail.com>

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Introductory lecture	Learning what the class is about .	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	4/13	Unit 1.1 A World of Difference	Family and culture	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the affect of culture on families living in different countries.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	4/20	Unit 1.2 A World of Difference	Lifestyles, everyday situations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their lifestyles and how it affects what they do evert day.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	4/27	Unit 2.1 The work week	Successful people	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes people successful or not	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	5/4	Unit 2.2 The work week	Payment for jobs, opinions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about how much people make doing various jobs and give their opinions about this and other things.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	5/11	Unit 2.3 The work week	Free-time activities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they do when they're not working or at school-their free-time activities.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Unit 3.1 Good times, bad times.	Relationships	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about relationships, especially their early loves.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	5/25	Unit 3.2 Good times, bad times!	Getting along, good matches	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes people fall in love and what kinds of relationships are the best.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	6/1	Unit 4.1 Getting it right	Personal habits and philosophies	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they think is the most important in their lives and how they go about doing things every day.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	6/8	Unit 4.2 Getting it right	Laws, what's important in life	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss various laws and how they help establish what's important in our lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	6/15	Unit 5.1 Our changing world	Predictions about the future	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can make predicitions about the future and what they think will happen to them and to the world.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	6/22	Unit 5.2 Our changing world	Weather, space	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can talk about the weather and make predictions about it and also talk about space.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Unit 5.3 Our changing world	Environment, making arrangements	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the environment and what they think will happen to it in the future as well as how to make arrangements to meet someone or go somewhere.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	7/6	Unit 6.1 What matters to me	Close relatives, family	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about who they feel closest to in their family and how they feel about other relatives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	7/13	Unit 6.2 What matters to me	Possessions, descriptions	
		この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their most important possessions and why they value them and also describe what they own.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking IV B (月曜4限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This is the highest Listening and Speaking level. CEFR B2 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rd Edition ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Introduction	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/21	Unit 7.1 Passions and fashions	Passions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they are passionate about in their lives.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	9/28	Unit 7.2 Passions and fashions	Personal experiences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their own life experiences and how they have affected them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/5	Unit 8.1 No fear!	Phobias-what we're afraid of	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes them afraid in their daily lives and how they deal with it.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/12	Unit 8.2 No fear!	Danger, true and false facts about our lives	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what kinds of things are dangerous and give true and false information about their own lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/19	Unit 9.1 It depends how you look at it	Justice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can go over various kinds of justice for crimes committed.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 9.2 It depends how you look at it	Difficult situations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe difficult situations they've had in the past and how they dealt with them or will deal with them in the future.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/9	Unit 9.3 It depends how you look at it	Punishment, imprisonment	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss how criminals are punished for their crimes and how which ways are the most effective.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/16	Unit 10.1 All things high tech	Future cities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe what cities of the future may look like and how they will change from now.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/23	Unit 10.2 All things high tech	Online	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can talk about what they like to do online and what their favorite websites are.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	11/30	Unit 10.3 All things high tech	Objects, advice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe objects they own, idetifying them, and also can give advice to tourists.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/7	Unit 11.1 Seeing is believing	Understanding what happened or what we see	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe optical illusions and what happened in a detective story.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Unit 11.2 Seeing is believing	Crime detection, stories	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about modern crime detection and also tell stories about events that have happened to them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/21	Unit 12.1 Telling it like it is	Famous people, impacts	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about famous people and how they have affected the world and our lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	1/18	Unit 12.2 Telling it like it is	News	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about where they get their news information and what the current news is.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking IV B (月曜3限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This is the highest Listening and Speaking level. CEFR B2 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rd Edition ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Introduction	Learning what the class is about.	
		この回の到達目標	As per SB0s①②above, students can get information about the course objectives.	
		事前学修	Check the syllabus.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	9/21	Unit 7.1 Passions and fashions	Passions	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about what they are passionate about in their lives.	
		事前学修	Be ready to study English.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	9/28	Unit 7.2 Passions and fashions	Personal experiences	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about their own life experiences and how they have affected them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	10/5	Unit 8.1 No fear!	Phobias-what we're afraid of	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what makes them afraid in their daily lives and how they deal with it.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	10/12	Unit 8.2 No fear!	Danger, true and false facts about our lives	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss what kinds of things are dangerous and give true and false information about their own lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	10/19	Unit 9.1 It depends how you look at it	Justice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can go over various kinds of justice for crimes committed.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Unit 9.2 It depends how you look at it	Difficult situations	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe difficult situations they've had in the past and how they dealt with them or will deal with them in the future.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	11/9	Unit 9.3 It depends how you look at it	Punishment, imprisonment	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can discuss how criminals are punished for their crimes and how which ways are the most effective.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	11/16	Unit 10.1 All things high tech	Future cities	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe what cities of the future may look like and how they will change from now.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	11/23	Unit 10.2 All things high tech	Online	
		この回の到達目標	.As per SB0s ①② above, students can talk about what they like to do online and what their favorite websites are.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	11/30	Unit 10.3 All things high tech	Objects, advice	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe objects they own, idetifying them, and also can give advice to tourists.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	12/7	Unit 11.1 Seeing is believing	Understanding what happened or what we see	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe optical illusions and what happened in a detective story.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	Unit 11.2 Seeing is believing	Crime detection, stories	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about modern crime detection and also tell stories about events that have happened to them.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	12/21	Unit 12.1 Telling it like it is	Famous people, impacts	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about famous people and how they have affected the world and our lives.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	1/18	Unit 12.2 Telling it like it is	News	
		この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about where they get their news information and what the current news is.	
		事前学修	Prepare homework.	30分
		事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Reading I A	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業外で毎週必ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。

【授業方法】
学生主体の授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。毎回多読の進行状況やリアクションペーパーに関して教員がコメントをします。IRCサイトを利用して、感想を入力します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分のペースで読み進めていき、毎回グループで本についての発表をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がリアクションをサイトでチェックし、口頭でフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
多聴多読マガジン2020年4月号	コスモピア	コスモピア	2020	その他	任意
備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				

【オフィスアワー】
火曜日 15：00～16：00電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	前期ガイダンス及び導入講義	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について	
		この回の到達目標	①前期授業の進め方について理解することができる。 ②多読の進め方について理解することができる。	
		事前学修	シラバスを読んでくる。	30分
		事後学修	履修を決めた学生は配布資料を読む。	90分
2	第一部 月4/13	図書館の多読本について IRCの登録	①法学部図書館6階で各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける。 ②グループ分けをする。 ③グループのメンバーの自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①多読本の種類と借り方について理解することができる。 ②Book talkをするメンバーを知ることができる。	
		事前学修	法学部図書館6階に足を運んでみる。	30分
		事後学修	図書館で本を借り、多読を始める。	90分
3	第一部 月4/20	IRCの使い方	②IRCの説明と登録。 ③多読本を読み進める。	
		この回の到達目標	IRCの投稿方法を理解することができる。	
		事前学修	図書館で本を借りる。 2，3冊授業に持参できるように準備をする。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
4	第一部 月4/27	Book talkを始める	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②自分の読むスピードを知る	
		この回の到達目標	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk&発表の流れを理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
5	第一部 月5/4	多読の効用	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②グループメンバーにコメントをつける。 ③多読によって推測力が養成できることを知る。	
		この回の到達目標	①メンバーの投稿にコメントする方法を知ることができる。 ②多読の効用としての読みの推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
6	第一部 月5/11	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
8	第一部 月5/25	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
9	第一部 月6/1	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
10	第一部 月6/8	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
11	第一部 月6/15	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と予測力について理解を深めることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
12	第一部 月6/22	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） ②最終課題の説明。 ③走行距離を確認する。	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。 ②最終課題について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。 ②最終課題について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のこれまでのキロ数と冊数を確認して読み進める。	90分
14	第一部 月7/6	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②前期課題についてグループで話し合う。 ③各自の読むスピードを確認し、前期初めと比較してみる。	
		この回の到達目標	多読と速読力、推測力との関係性を理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のキロ数と冊数を最終確認して読み進める。	90分
15	第一部 月7/13	ランキング発表	①最終課題プレゼンと目標到達キロ数について教員からフィードバックを受ける。 ②前期top runners 発表&表彰。	
		この回の到達目標	多読を継続することで養われた英語力について理解することができる。	
		事前学修	各自のキロ数と冊数を最終確認してIRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	前期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。 夏休み期間も多読を継続するように努める。	90分

科目名	Reading I A	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的かつ他の受講者と協力し合って授業に取り組む者。引き続きReading I Bを受講する予定の者。

【授業方法】
英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。更にChapter毎に小テスト(単語)を行う。(開始15分前後は別教材で「多読」実施。)最終授業日は授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1						
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1						
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験(授業内)の解説、調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Welcome to Britain【Revised Edition】英国の（いま）を知りたい[改訂新版]	Tim Knight	音羽書房鶴見書店	2018		
King Arthur and the Knights of the Round Table	Stephen Colbourn	MACMILLAN	2008		
備考	2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。				

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜14：30～14：50，16：10～16：30）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイドンス＋ 'King Arthur' とは？	ガイドンス＋初回reading("King Arthur and the Knights of the Round Table"について) 所謂「アーサー王伝説」に関する一般的な情報を把握し、説明できる。	
		この回の 到達目標	'King Arthur'を読むにあたり、その関連・背景情報を把握する。	
		事前学修	(事前にテキストが入手可能な場合)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。 加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。	30分
		事後学修	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 1)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が 把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにす るため。)	30分
2	第一部水 4/15	「イギリス」とは？(名称)	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を 整理し、説明できる。2. Chapter 1 The United Kingdom? (前半)演習と解説 (※ 1chapter/2classesペースの予定。) 個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。	
		この回の 到達目標	英文を正確に読解し、「イギリス(英国)」等の正式名称・定義を理解する。	
		事前学修	1. "King Arthur"("多読"用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に 概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞 書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照 合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不 十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
3	第一部水 4/22	「イギリス」とは？ (実情/現状)	1. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 1 The United Kingdom? (後半) 演習と解説 「イギリス」の定義及び「連合王国」の実情を理解し、説明できる。	
		この回の 到達目標	英文を正確に読解し、「イギリス」の実情を把握する。	
		事前学修	1. "King Arthur"については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味 (文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語 彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せ て記録する。	30分
4	第一部水 4/29	「多文化国家イギリス」 (1)	1. Mini Test(Chapter1) 2. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 2 Multicultural Britain (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説 明できる。	
		この回の 到達目標	英文読解により、イギリスが多文化国家に至る、歴史背景を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. "King Arthur"("多読"用教材)：指定範囲を辞書を引かずに keywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声 に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大 体の意味を予想/記録する。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照 合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不 十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
5	第一部水 5/6	「多文化国家イギリス」 (2)	1. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 2 Multicultural Britain (後半) 演習と解説：「多民族/多文化国家」の実情及び その問題点を把握し、説明できる。	
		この回の 到達目標	英文読解により、多文化国家イギリスが抱える課題を読み解く。	
		事前学修	1. "King Arthur"については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味 (文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語 彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せ て記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	「言語」で見るイギリス(1)	1. Mini Test(Chapter 2) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 14 Language (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	イギリス人にとって「言語」にまつわる事柄を、英文読解により理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
7	第一部水 5/20	「言語」で見るイギリス(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 14 Language (後半) 演習と解説：「英語」'English'を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	イギリス人の「言語」に対する価値観を、英文読解により理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
8	第一部水 5/27	「イギリスとEU」(1)	1. Mini Test(Chapter 14) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 3 The UK and the EU (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスとEUの関係性を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
9	第一部水 6/3	「イギリスとEU」(2) 'Brexit'はいかに起きたか	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 3 The UK and the EU (後半) 演習と解説：'Brexit'をめぐる、イギリスとEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、'Brexit'がいかに起きたかを読み取る。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
10	第一部水 6/10	「階級」について(1)	1. Mini Test(Chapter3) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 5 Social class (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリス人の「階級」に対する考え方を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	「階級」について(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 6 Social class (後半) 演習と解説:「階級」'Social class'とはどういうものか、加えてその現状(イギリス社会の構造及びその歴史の変遷)について理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスの「階級社会」の現状を理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
12	第一部水 6/24	(受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	1. Mini Test(Chapter 6) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter○(前半) ※受講者の要望/選択によるもの。但し、(Chapter1, 2, 3, 4-7, 10, 14以外) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習(イギリス基本編)を踏まえ、受講者間で各自の興味・関心を意見交換し、トピックを選択し、読解する。 (受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。 2. “King Arthur”(「多読」用教材):指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
13	第一部水 7/1	(受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(第12回の続き)(後半) 演習と解説:Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習(イギリス基本編)を踏まえ、受講者間で各自の興味・関心を意見交換し、トピックを選択し、読解する。 (受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
14	第一部水 7/8	イギリスに関する基本情報の整理	1. Mini Test(Chapter ○(第12-13回展開範囲)) 2. 「多読」(“King Arthur”練習(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。 + ((受講者による) Book report 等を予定)	
		この回の到達目標	3か月の学習を通じて理解した、イギリスについての基本情報の整理・修正を行う。	
		事前学修	Mini Testに向けての準備と併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に不正解問題を中心に)する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。	30分
15	第一部水 7/15	(3か月の)学習成果(試験による)一定の客観的評価及びイギリス(英語圏文化)に関して得た知識・情報の整理	まとめ(試験を含む):授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。 3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。	
		この回の到達目標	一定の量及びレベルの英文の構造及び内容が理解できていることを試験により確認・自己認識すると共に今後の課題を明確にする。	
		事前学修	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」=「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認することで、学習効果及び今後の課題をより明確化させる。)	30分

科目名	Reading I A	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
とくに履修条件はない。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査をするのでいつ検査を受けても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。映像教材をみせる。実力テストは次の週に解説、解答をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	【ガイダンス】 導入講義	授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水4/15	【米国の全体理解】【発音】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水4/22	【米国の文化】【動詞】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、自動詞と他動詞の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水4/29	【米国の文化】【補語と目的語】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、補語と目的語の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水5/6	【米国の文化】【助動詞】	第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、助動詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水5/13	【米国の文化】【現在進行形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	【米国の文化】【過去進行形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水5/27	【米国の文化】【未来進行形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、未来進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水6/3	【米国の文化】【現在完了形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水6/10	【米国の文化】【過去完了形】	第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水6/17	【カナダの文化】【未来完了形】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、未来完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水6/24	【カナダの文化】【関係代名詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	【カナダの文化】【関係副詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水7/8	【カナダの文化】【複合関係詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、複合関係詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水7/15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国とカナダの歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Genius Basic English Grammar（大学生のためのジーニアス基礎英文法）	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	第一部 火4/14	Pre-Lesson 文の種類・動詞と文型	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson（文の種類・動詞と文型）の問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分の種類・動詞と文型に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson（文の種類・動詞と文型）の問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	第一部 火4/21	Lesson 1 時制-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，時制に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	第一部 火4/28	Lesson 1 時制-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，時制に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。到達目標③に関連して，ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	第一部 火5/5	Lesson 2 完了形-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，完了形に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	第一部 火5/12	Lesson 2 完了形-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，完了形に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。到達目標③に関連して，ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 火5/19	Lesson 3 助動詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。 40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。 20分
8	第一部 火5/26	Lesson 3 助動詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の発展問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の発展問題を解いておく。 40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。 20分
9	第一部 火6/2	Lesson 4 受動態-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。 40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。 20分
10	第一部 火6/9	Lesson 4 受動態-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の発展問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の発展問題を解いておく。 40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。 20分
11	第一部 火6/16	Lesson 5 不定詞（１）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の標準問題の解説。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の標準問題を解いておく。 40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。 20分
12	第一部 火6/23	Lesson 5 不定詞（１）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））発展問題の解説
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の発展問題を解いておく。 40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。 20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	Lesson 6 不定詞（２）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（２））の標準問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（２））の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	第一部 火7/7	Lesson 6 不定詞（２）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（２））の発展問題の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。 到達目標③に関連して、ペアワーク・グループワークを通して、作文問題に取り組むことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞）発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	第一部 火7/14	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	前期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	前期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。	20分

科目名	Reading I A	担当者	堤 裕美子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
次回の学習範囲の予習を怠らないこと。授業内ではグループ・ワークやペア・ワークに積極的に参加できること。

【授業方法】
受講者の予習を前提とし、英文精読(訳読)を行う。前回の授業で学習した英文を正しく理解しているか、和訳の小テストを数回実施し、次回以降返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で配布される英文精読用のワークシートを基に、グループワークで一番適切な訳を話し合いによって決めて、グループで訳文を完成させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前の授業で与えた課題は授業内で詳しく説明を行う。説明後の質問の受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Minds 15 Journeys in Law	鳥飼慎一郎、溜箭雅之	金星堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日2時限～6時限 授業後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	Reading IIAとは：英文精読と授業方法の意義を理解する	ガイダンス。受講希望者は必ず出席して下さい。授業のルーティン、英文の読み方やノートの取り方、評価について説明します。	
		この回の到達目標	英文精読を行う意義・目的を理解し、その実践方法を体験する。	
		事前学修	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。	30分
		事後学修	音声ファイルをダウンロードし、予習復習に使えるか確認をすること。	30分
2	4月15日	英文精読の鉄則：ノリで訳さない	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.9 "Overview of the Complaint"	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 9の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
3	4月22日	英文精読の鉄則：日本語と英語に橋を架ける	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.11 "Plaintiff's Story"	
		この回の到達目標	Plaintiff's Storyの文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 11の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
4	4月29日	第1章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.13 "Let's Hear the Verdict"	
		この回の到達目標	Let's Hear the Verdictの文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 13の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。（30分）	30分
5	5月6日	英文精読のコツ：単語の意味調べは最低3つ	Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.15 "Overview of the Complaint"	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 15の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
6	5月13日	英文精読のコツ：構文に親しむ	Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.16 "Plaintiff's Story"	
		この回の到達目標	"Plaintiff's Story"の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 16の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	第2章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 2「知らなかったでは済まされない?!配達遅れで被った損害への支払い」p.19 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.19の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。	30分
8	5月27日	数字の言い方に親しむ	Case 3「高すぎる勉強代?顧客がBMW社に求めた一罰百戒」p.21 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.21の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
9	6月3日	日英の固有名詞を比較する	Case 3「高すぎる勉強代?顧客がBMW社に求めた一罰百戒」p.22 “Plaintiff’s Story”	
		この回の到達目標	“Plaintiff’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.22の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
10	6月10日	第3章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 3「高すぎる勉強代?顧客がBMW社に求めた一罰百戒」p.25 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.25の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
11	6月17日	英語の人名表記に親しむ	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.27 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.27の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
12	6月24日	英文精読のコツ：英文の熟語、意味を掴むコツを理解する	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.28 “Prosecution’s Story”	
		この回の到達目標	“Prosecution’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.28の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	第4章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.31 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.31の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
14	7月8日	語彙力の強化	知っておきたい司法の英単語（p.6. 7, 8）	
		この回の到達目標	英文を理解するために欠かせない司法の英単語を学習する	
		事前学修	小テスト箇所の復習。	30分
		事後学修	重要語彙を覚える。	30分
15	7月15日	授業のまとめと総括	今学期の授業のまとめ（試験を含む）	
		この回の到達目標	半期の学習成果を試験を行い確認する	
		事前学修	今学期の授業を振り返る（30分）	30分
		事後学修	授業の見直しをする（30分）	30分

科目名	Reading I A	担当者	板倉 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則Reading I B と通年で履修してください。

【授業方法】		
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。授業内容に関して適宜ディスカッションと発表を行います。また、レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基礎の構文・文法に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表やディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1			1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies	Joseph Tabolt	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて。itakura.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	第一部 木4/16	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	第一部 木4/23	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	第一部 木4/30	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit1の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	第一部 木5/7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部 木5/14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
7	第一部 木5/21	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit2の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	第一部 木5/28	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	第一部 木6/4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	第一部 木6/11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit3の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部 木6/18	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
12	第一部 木6/25	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	第一部 木7/2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit4の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	第一部 木7/9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	第一部 木7/16	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
		事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	Reading I B	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業外で毎週必ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。

【授業方法】
学生主体の授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。毎回多読の進行状況やリアクションペーパーに関して教員がコメントをします。IRCサイトを利用して、感想を入力します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分のペースで読み進めていき、毎回グループで本についての発表をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。		1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。		1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。		1		1			1	
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がリアクションをサイトでチェックし、口頭でフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
多聴多読マガジン2020年4月号	コスモピア	コスモピア	2020	その他	推奨
備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				

【オフィスアワー】
火曜日 15：00～16：00電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	後期ガイダンス及び導入講義	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について	
		この回の到達目標	①後期授業の進め方について理解することができる。 ②多読の進め方について理解することができる。	
		事前学修	シラバスを読んでくる。	30分
		事後学修	履修を決めた学生は配布資料を読む。	90分
2	第一部月 9/21	図書館の多読本について IRCの登録	①法学部図書館6階で各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける（後期からの履修者のみ）。 ②グループ分けをする。 ③グループのメンバーの自己紹介をする。	
		この回の到達目標	①多読本の種類と借り方について理解することができる。 ②Book talkをするメンバーを知ることができる。	
		事前学修	法学部図書館6階に足を運んでみる。	30分
		事後学修	図書館で本を借り、多読を始める。	90分
3	第一部月 9/28	IRCの使い方	②IRCの説明と登録。 ③多読本を読み進める。	
		この回の到達目標	IRCの投稿方法を理解することができる。	
		事前学修	図書館で本を借りる。 2，3冊授業に持参できるように準備をする。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
4	第一部月 10/5	Book talkを始める	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②自分の読むスピードを知る	
		この回の到達目標	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk&発表の流れを理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
5	第一部月 10/12	多読の効用	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②グループメンバーにコメントをつける。 ③多読によって推測力が養成できることを知る。	
		この回の到達目標	①メンバーの投稿にコメントする方法を知ることができる。 ②多読の効用としての読みの推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
6	第一部月 10/19	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	多読と推測力について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	多読を継続 英語でリアクションを入れる	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語でリアクションを書き、発表することを学ぶ。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。 英語でリアクションを入れる。	90分
8	第一部月 11/9	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語でリアクションを書き、発表することを学ぶ。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。（	90分
9	第一部月 11/16	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語のリアクションペーパーのフィードバックを受ける。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
10	第一部月 11/23	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語のリアクションペーパーのフィードバックを受ける。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
11	第一部月 11/30	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity ③英語のリアクションペーパーのフィードバックを受ける。	
		この回の到達目標	英語で本の感想を述べたり書いたりすることができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分
12	第一部月 12/7	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） ②最終課題の説明。 ③到達距離を確認する。	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。 ②最終課題について理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	図書館で本を借りて読み進める。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②Readingの推測力をつけるgroup activity	
		この回の到達目標	①自分の読み方について確認することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のこれまでのキロ数と冊数を確認して読み進める。	90分
14	第一部月 12/21	多読を継続	①本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 ②前期課題についてグループで話し合う。 ③各自の読むスピードを確認し、後期初めと比較してみる。	
		この回の到達目標	多読と速読力、推測力との関係性を理解することができる。	
		事前学修	最低3冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	各自のキロ数と冊数を最終確認して読み進める。	90分
15	第一部月 1/18	ランキング発表	①最終課題と目標到達キロ数について教員からフィードバックを受ける。 ②後期top runners 発表&表彰。	
		この回の到達目標	多読を継続することで養われた英語力について理解することができる。	
		事前学修	各自のキロ数と冊数を最終確認してIRCにリアクションを入れる。	30分
		事後学修	後期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。	90分

科目名	Reading I B	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的かつ他の受講者と協力し合って授業に取り組む者。

【授業方法】
英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。更にChapter毎に小テスト(単語)を行う。(開始15分前後は別教材で「多読」実施。)最終授業日は授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					1		1			1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・調査報告等の講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Welcome to Britain【Revised Edition】英国の（いま）を知りたい[改訂新版]	Tim Knight	音羽書房鶴見書店	2018		
King Arthur and the Knights of the Round Table	Stephen Colbourn	MACMILLAN	2008		
備考	2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。				

【オフィスアワー】
授業後20分間（水曜14：30～14：50，16：10～16：30）授業講堂にて対応する。（※初回授業にて指示する。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	(3か月で展開する)(イギリス関連の)テーマはどんな展開か？	ガイダンス＋初回授業 (前期Reading I Aでの展開範囲)「アーサー王伝説」の登場人物及びストーリー展開を説明できる。 ＋本科目での展開範囲関連情報を把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	(前期「イギリス基本編」を得た)イギリス基本情報の整理と、本科目での展開を予想する。	
		事前学修	(前期Reading I Aでの学習を踏まえて)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。 加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。	30分
		事後学修	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 6)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにするため。)	30分
2	第一部水 9/23	イギリスの学校制度とは？ (1)	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter6 Schools and education (前半)演習と解説 (※1chapter/2classesペースの予定。) 個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスの教育システム・学校制度について概観する。	
		事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
3	第一部水 9/30	「(イギリスの)入試システム」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter6 Schools and education (後半) 演習と解説 イギリスの教育システムを理解(大学入試(相当)のものを含めた)し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。	
		この回の到達目標	英文読解により、(例えばイギリスで教育を受ける場合)どのような教育課程・大学入学までのコースを経るかを理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
4	第一部水 10/7	「イギリスの大学」について知る	1. Mini Test(Chapter6) 2. 「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter7 University students and higher education (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、(受講者と同じ立場の)イギリスの大学及び大学生について知る。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想/記録する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
5	第一部水 10/14	「イギリスの大学生」について知る。	1. 「多読」(“King Arthur”(1 5 分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter7 University students and higher education (後半) 演習と解説：イギリスの大学の実情及びその問題点を把握し、説明できる。併せて、日本人大学生との比較・対照を行う。	
		この回の到達目標	英文読解により、(受講者と同じ立場の)イギリスの大学生の学生生活について理解すると共に、日本との比較・対照を大なう。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	イギリス人にとっての「(紅)茶」とは？	1. Mini Test(Chapter 7) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 4 7Tea (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスを代表する飲料である「(紅)茶」に対するイギリス人のとらえ方を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
7	第一部水 10/28	イギリスにおける「(紅)茶の歴史」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter4 Tea (後半) 演習と解説: ‘Tea’を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。併せて日本の「茶(の湯)」文化との比較・考察を行う。	
		この回の到達目標	英文読解により、「(紅)茶」に関する語彙・定義を理解すると共に日本との違いを理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
8	第一部水 11/11	イギリス人にとっての「食」とは？(1)	1. Mini Test(Chapter 4) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter11 Food (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリス人の、「食」に対する価値観を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
9	第一部水 11/18	イギリス人にとての「食」とは？(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter11 Food (後半) 演習と解説: イギリスの食文化及び食に対する価値観(宗教を含めて)を理解し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。 とEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、イギリスの「食」にまつわる様々な語彙・定義を正確に理解する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
10	第一部水 11/25	イギリスの政治システムとは？(1)	1. Mini Test(Chapter11) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter10 Politics and government (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、の政治システムの基本を理解する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 12/2	イギリスの政治システムとは？（2）	1. 「多読」（“King Arthur”（15分程度））登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter10 Politics and government（後半）演習と解説：「議会政治」の国イギリスの政治システム及び現状を理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	英文読解により、日本とイギリスの政治システムの比較・対照を行う。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
12	第一部水 12/9	(受講者による選択後の)トピックを読解する ※テーマは選択後に指示する。	1. Mini Test(Chapter 10) 2. 「多読」（“King Arthur”（15分程度））登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter○（前半） ※受講者の要望/選択によるもの。(未習のもの) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習を踏まえ)受講者間による話し合いにて決定したトピックを)これまでの学習事項と関連付けて読解・情報整理する。	
		事前学修	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体的意味を予想する。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
13	第一部水 12/16	(受講者による選択後の)トピックを読解する ※テーマは選択後に指示する。	1. 「多読」（“King Arthur”（15分程度））登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○（第12回の続き）（後半）演習と解説：Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。	
		この回の到達目標	(これまでの学習を踏まえ)受講者間による話し合いにて決定したトピックを)これまでの学習事項と関連付けて読解・情報整理する。	
		事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
		事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
14	第一部水 12/23	(3か月の)学習成果(1) 語彙/文法/読解力の自己評価	1. Mini Test(Chapter ○(第12-13回展開範囲)) 2. 「多読」（“King Arthur”練習(15分程度)）登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。+ ((受講者による) Book report 等を予定)	
		この回の到達目標	実践してきた読解により得た知識の修正・補足を行うことで、受講者各自による学習の自己評価を行う。	
		事前学修	Mini Testに向けての準備と併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に不正解問題を中心に)する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
		事後学修	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。	30分
15	第一部水 1/13	(3か月の)学習成果(2) (試験による)一定の客観的評価及び(3か月の読解で得た)知識/情報の整理	まとめ(試験を含む):授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。 3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。	
		この回の到達目標	(試験により)一定量及びレベルの英文をどれだけ正確に読めるようになったか、それに必要な語彙が修得できたかを確認し、学習内容と各自の今後の課題を把握する。	
		事前学修	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」=「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録する。	30分
		事後学修	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認することで、学習効果及び今後の課題をより明確化させる。)	30分

科目名	Reading I B	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
とくに履修条件はない。

【授業方法】
学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査をするのでいつ検査を受けても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。映像教材をみせる。実力テストは次の週に解説、解答をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	【ガイダンス】 導入講義	授業の進め方やノートを取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートを取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
2	第一部 水9/23	【ロシアの全体理解】【発音】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
3	第一部 水9/30	【ロシアの文化】【受動態】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、受動態を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
4	第一部 水10/7	【ロシアの文化】【助動詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、助動詞を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
5	第一部 水10/14	【ロシアの文化】【仮定法】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。仮定法の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、仮定法の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
6	第一部 水10/21	【ロシアの文化】【話法】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。話法の基本理解の確認。。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、話法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	【ロシアの文化】【分詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。分詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、分詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	第一部 水11/11	【ロシアの文化】【動名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、動名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	第一部 水11/18	【ロシアの文化】【名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	第一部 水11/25	【ロシアの文化】【代名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。代名詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	第一部 水12/2	【中国の文化】【冠詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、冠詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	第一部 水12/9	【中国の文化】【形容詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。形容詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、形容詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	【中国の文化】【副詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	第一部 水12/23	【中国の文化】【比較】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較の基本理解の確認。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、比較の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	第一部 水1/13	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアと中国の歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
		事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
		事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Genius Basic English Grammar（大学生のためのジーニアス基礎英文法）	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 佐藤（健）研究室（10号館8階1814研究室） satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 火9/15	ガイダンス及び導入講義	事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，本授業の目標およびその達成方法などについて説明することができる。
		事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。50分
2	第一部 火9/22	Lesson 7 動名詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，動名詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。30分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。30分
3	第一部 火9/29	Lesson 7 動名詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の発展問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，動名詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
4	第一部 火10/6	Lesson 8 分詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
5	第一部 火10/13	Lesson 8 分詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の発展問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（1））の発展問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分
6	第一部 火10/20	Lesson 9 分詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題の解説。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，分詞に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の標準問題を解いておく。40分
		事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	Lesson 9 分詞（2）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の発展問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（2））の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	第一部 火11/10	Lesson 10 比較-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の標準問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	第一部 火11/17	Lesson 10 比較-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の発展問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	第一部 火11/24	Lesson 11 関係詞（1）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の標準問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	第一部 火12/1	Lesson 11 関係詞（1）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の発展問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（1））の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	第一部 火12/8	Lesson 12 関係詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（2））標準問題の解説	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（2））の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	Lesson 12 関係詞（２）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（２））の発展問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（２））の発展問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	第一部 火12/22	Lesson 13 仮定法	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）の標準問題の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）の標準問題を解いておく。	40分
		事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	第一部 火/12	試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、後期に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
		事前学修	後期の授業内容の総復習をしておく。	40分
		事後学修	後期の試験問題を今一度解き直す。	20分

科目名	Reading I B	担当者	堤 裕美子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
次回の学習範囲の予習を怠らないこと。授業内ではグループ・ワークやペア・ワークに積極的に参加できること。

【授業方法】
受講者の予習を前提とし、英文精読(訳読)を行う。前回の授業で学習した英文を正しく理解しているか、和訳の小テストを毎回実施し、次回以降返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で配布される英文精読用のワークシートを基に、グループワークで一番適切な訳を話し合いによって決めて、グループで訳文を完成させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前の授業で与えた課題は授業内で詳しく説明を行う。説明後の質問の受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Minds 15 Journeys in Law	鳥飼慎一郎、溜箭雅之	金星堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
水曜日2時限～6時限 授業後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	後期の授業内容を展望する	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.33 “Overview of the Complaint”(1)	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。	30分
		事後学修	音声ファイルの保存先を確認し、予習復習に使えるか確認をすること。	30分
2	9月23日	原告の訴えを正しく理解する	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.33 “Overview of the Complaint”(2)	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.33の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
3	9月30日	英文に即した和訳の理解に慣れる	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.34 “Plaintiff’s Story”	
		この回の到達目標	“Plaintiff’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.34の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
4	10月7日	第5章のまとめ：原稿支持か、被告支持か？	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.37 “Let’s Hear the Judgment”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.37の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
5	10月14日	法的文書を読む	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」p.41 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p.41の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
6	10月21日	比較的長い文章の流れを掴む	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」p.42 “Petitioner’s Story”	
		この回の到達目標	“Petitioner’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p.42の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	第6章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件―国家機密の漏えいと報道の自由」p. 45 “Let’s Hear the Judgment”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 45の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
8	11月11日	英文精読のコツ：名詞を説明する過去分詞	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」p. 47 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 47の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
9	11月18日	英文精読のコツ：～ingの役割を見極める	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」p. 48 “Defendant’s Story”	
		この回の到達目標	“Defendant’s Story” の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 48の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
10	11月25日	第7章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」p. 51 “Let’s Hear the Verdict”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 51の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
11	12月2日	英文精読のコツ：接続詞	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 53 “Overview”	
		この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
		事前学修	p. 53の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
12	12月9日	英文精読のコツ：略語を知る	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 54 “Petitioner’s Story”	
		この回の到達目標	“Petitioner’s Story” の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
		事前学修	p. 54の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	第8章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p.57 “Let’s Hear the Judgment”	
		この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
		事前学修	p.57の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
		事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
14	12月23日	司法英語を学習する	知っておきたい司法の英単語 (p.6, 7, 8)	
		この回の到達目標	英文を理解するために欠かせない司法の英単語を学習する	
		事前学修	小テスト箇所の復習。	30分
		事後学修	重要語彙を覚える。	30分
15	1月13日	授業のまとめと総括	今学期の授業のまとめ（試験を含む）	
		この回の到達目標	半期の学習成果を試験を行い確認する	
		事前学修	今学期の授業を振り返る	30分
		事後学修	授業の見直しをする	30分

科目名	Reading I B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則Reading I A と通年で履修してください。

【授業方法】		
演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。授業内容に関して適宜ディスカッションと発表を行います。また、レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基礎の構文・文法に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた発表やディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies	Joseph Tabolt	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて。itakura.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。また、前期Reading I Aで学修した語彙や構文・文法について、振り返りまとめ直します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。前期のReading IAを受講していた場合には、前期に学修した構文・文法をしっかりと見直しておくこと。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	第一部 木9/24	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	第一部 木10/1	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	第一部 木10/8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit5の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	第一部 木10/15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部 木10/22	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
7	第一部 木10/29	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit6の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	第一部 木11/5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	第一部 木11/12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	第一部 木11/19	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit7の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部 木12/3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文前半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
12	第一部 木12/10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文後半を精読します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	第一部 木12/17	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit8の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	第一部 木12/24	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
		事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	第一部 木1/14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
		事前学修	後期の授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
		事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	Reading II A	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学生一人一人に訳してもらい、一時間に2ページのペースで読み進めていく。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					2		2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に答案を返却し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
木曜日13時～18時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木曜日 4月9日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位を修得するための過程を理解する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	4月16日	授業方法に慣れる	Unit 1Europeを読む 五文型の説明	
		この回の到達目標	五文系を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
3	4月23日	文法を理解したうえでの和訳	Unit1 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	文法の知識を和約に反映できるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
4	4月30日	文脈を考慮に入れた訳	Unit1 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
		この回の到達目標	不定詞が理解できる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
5	5月7日	テキストの内容の理解を深める。	Unit1 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	内容を理解しながら行くセル用になる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
6	5月14日	ingの理解	Unit2 Itaryを読む ingの説明	
		この回の到達目標	文法を理解したうえで訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月21日	語彙力アップ		Unit2 前回の続きから和訳 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
8	5月28日	If節の用法		Unit2 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い
		この回の到達目標	条件文と仮定法の区別ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
9	6月4日	文法の復習		Unit2 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	今までに学んだ文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
10	6月11日	テキストの内容の理解を深める。		Unit3 Franceを読む that節の説明
		この回の到達目標	that節を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
11	6月18日	正確の和訳		Unit3 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	文法に照らして正確の和訳ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
12	6月25日	詳細な辞書の引き方		Unit3 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	辞書の引き方をただす。	
		事前学修	指示された個所の予習	39分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月2日	文法のおさらい		Unit3 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	これまでに習った文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
14	7月9日	訳の確認		Unit3 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	テキストの訳を正確なものにする。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
15	7月16日	前期の授業のまとめ		Unit 3 前回の続きから和訳 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点数を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II A	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
中学・高校で学んだ基本的文法知識があることを前提に授業を行います。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英字新聞の記事を読み、その内容について自分の意見を述べる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Insights 2020『世界を読むメディア英語入門2020』	村尾純子 他	(株) 金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12:30-12:50 本館二階講師室、火曜日 12:30-12:50 二号館一階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 火4/7	ガイダンス及び導入講義	前期の授業の進め方、テキスト（英字新聞）について、英語学習法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英字新聞について知り、学習計画を立てることができる。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	第一部 月4/13 火4/14	Chapter 1 Books! Bringing a Bright Future to Children	Chapter 1 Books! Bringing a Bright Future to Childrenの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 1のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
3	第一部 月4/20 火4/21	Chapter 2 Brew Sake with Fresh Idea	Chapter 2 Brew Sake with Fresh Ideaの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 2のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
4	第一部 月4/27 火4/28	Chapter 3 A Unique Tour Guide	Chapter 3 A Unique Tour Guideの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、観光に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 3のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
5	第一部 月5/4 火5/5	Chapter 4 A Banana with an Edible Peel	Chapter 4 A Banana with an Edible Peelの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、農業に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 4のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
6	第一部 月5/11 火5/12	Chapter 5 Too Crowded to Carry it on our Backs!	Chapter 5 Too Crowded to Carry it on our Backs!の本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 5のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 火5/19	Review Chapter 1-5	Chapter 1-5の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-5で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 1-5の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 1-5の本文の内容を再確認する。	30分
8	第一部 月5/25 火5/26	Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Use	Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Useの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教育・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 6のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
9	第一部 月6/1 火6/2	Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museum	Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museumの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 7のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
10	第一部 月6/8 火6/9	Chapter 8 Dream of Space Tourism Comes True	Chapter 8 Dream of Space Tourism Comes Trueの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宇宙に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 8のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
11	第一部 月6/15 火6/16	Chapter 9 Save the World from Garbage!	Chapter 9 Save the World from Garbage!の本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、環境に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 9のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
12	第一部 月6/22 火6/23	Chapter 10 Manga Featuring the Elderly	Chapter 10 Manga Featuring the Elderlyの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 10のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 火6/30	Review Chapter 6-10	Chapter 6-10の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 6-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 6-10の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 6-10の本文の内容を再確認する。	30分
14	第一部 月7/6 火7/7	前期授業のまとめ①	前期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 1-10で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	第一部 月7/13 火7/14	前期授業のまとめ②	前期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を活用して英字新聞の記事を読むことができる。	
		事前学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	前期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
Reading IIBと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。

【授業方法】
予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワーク、音読などの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading in Action	Tetsuhito Shizuka	kinseido	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	これまでとこれからの英語学習について	イントロダクション：授業の進め方や予習、復習の仕方	
		この回の到達目標	今後の授業の進め方や予習、復習の仕方	
		事前学修	高校までの英語の総復習	30分
		事後学修	Unit 1の予習	30分
2	4/11	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 1 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 1の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	4/18	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 1 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
4	4/25	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 2 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 2の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
5	5/2	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 2 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
6	5/9	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 3 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 3の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 3 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
8	5/23	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 4 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 4の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
9	5/30	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 4 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
10	6/6	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 5 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 5の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
11	6/13	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 5 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
12	6/20	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 6 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
		事前学修	Unit 6の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 6 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
14	7/4	読解、音読、シャドーイング、文法解説及び読んだ内容の要約	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化に加え読解及びライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
15	7/11	読解、音読、シャドーイング、文法解説及び読んだ内容の要約	試験&解説	
		この回の到達目標	語彙力及び文法強化に加え読解及びライティング&スピーキング力養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	試験で出題された箇所の確認	30分

科目名	Reading II A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて英文を正確によむための方法を身につける

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。ReadingIIBを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass Intro	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2013	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	4/15	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	4/22	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	4/29	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	5/6	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	5/13	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	5/27	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	6/3	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	6/10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	6/17	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	6/24	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	7/8	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	7/15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則として後学期のReadingⅡBと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、英文の和訳や要約により内容を理解する。練習問題を解くことにより英語の文法知識を強化する。各テーマについてグループで意見交換する。音読の小テストにより正確に読む力を確認する。授業内試験により文法や語法知識および英文理解力を評価する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、授業参画度などから総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
What Do You Mean?—Exploring Communication Gaps—	Kyoko Yashiro/Cecilia Ikeguchi/Robin Sakamoto	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を論理的、批判的に読む方法を知ることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。	30分
2	第一部 月4/13	Unit 1	The Japanese Bowに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 1-3の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
3	第一部 月4/20	Unit 1	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確認める。The Japanese Bowについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 4-6を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
4	第一部 月4/27	Unit 2	Smilesに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 7-9の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
5	第一部 月5/4	Unit 2	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確認める。Smilesについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 10-12を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
6	第一部 月5/11	Unit 3	Eye Contactに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 13-15の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	Unit 3	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Eye Contactについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 16-18を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
8	第一部 月5/25	Unit 4	Touching Behaviorに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 19-21の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
9	第一部 月6/1	Unit 4	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Touching Behaviorについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 22-24を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
10	第一部 月6/8	Unit 5	Hand Gesturesに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 25-27の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
11	第一部 月6/15	Unit 5	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Hand Gesturesについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	教科書p. 28-30を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
12	第一部 月6/22	小テストの説明	Unit 1-5の英文の音読方法について要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文内容を伝える方法を知ることができる。	
		事前学修	Unit 1-5の英文内容を総復習し、アクセントの位置やイントネーションを確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音しにくい箇所を特定し、音読の練習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	小テストの実施と講評	Unit 1-5の英文を音読し、正確に読む力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音読による学習到達度を確認できる。	
		事前学修	Unit 1-5の英文内容を十分に確認し、音読の練習をしておくこと。	30分
		事後学修	正しく発音できなかった部分を振り返り、声に出して読むこと。	30分
14	第一部 月7/6	授業内試験の実施と解説	筆記試験を実施し、読解力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法知識の活用による内容理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月7/13	学習到達度の確認	筆記試験について講評し、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認することができる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認をしておくこと。	30分
		事後学修	英文を論理的・批判的に読むのに必要な読解方法について要点を整理すること。	30分

科目名	Reading II A	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
教科書とノートを「2回目の授業」以降必ず持ってくること。

【授業方法】
本授業では、読むための英文法を用いて、学生自身が能動的に学習する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表、議論を通して、自身の理解を確認する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を最終授業にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学英語セミナー＜文の仕組み編＞	竹前文夫（他）	南雲堂	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
yusuke.yoda@tyg.jpにメールをし、事前にアポイントをとり調整してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 4月 7日	授業の進め方と現状の把握	授業の進め方について説明したのち、現在の英語力を測るためのテストを行う。	
		この回の到達目標	自分の現状を理解する	
		事前学修	シラバスを熟読する	10分
		事後学修	次回の授業の準備	50分
2	1部 4月 14日	文型と文の要素を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の5つの文型について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 1の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
3	1部 4月 21日	動詞の特性を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	動詞の種類と文型の関係について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 2の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
4	1部 4月 28日	単文と複文を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	句と節について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 3の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
5	1部 5月 5日	文の種類を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の疑問文の特徴について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 4の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
6	1部 5月 12日	時制（1）を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の現在・過去・未来について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 6の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 5月 19日	時制（2）を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の進行と完了について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 7 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
8	1部 5月 26日	能動態と受動態を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の能動態と受動態の使い方について理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 8 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
9	1部 6月 2日	条件と仮定を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	単なる条件と現実ではないことの違いを理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 9 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
10	1部 6月 9日	準動詞：不定詞を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	名詞・形容詞・副詞の働きをする動詞を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 11 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
11	1部 6月 16日	準動詞：分詞を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	形容詞の働きを分け合う動詞を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 12 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
12	1部 6月 23日	準動詞：動名詞を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	動詞が名詞のように使う方法を理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 13 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 6月 30日	話法を理解し長文を読む	小テスト、練習問題と読解、その解説を行う	
		この回の到達目標	英語の2種類の語りを理解し、長文の読解に活かす	
		事前学修	Unit 14 の冒頭の解説を読み、全てのエクササイズを解いてくる	50分
		事後学修	間違えた問題の解き直しと次回の小テストのための準備	10分
14	1部 7月 7日	期末テストと解説	テストを実施し、その内容を解説する。	
		この回の到達目標	前期の授業で身につけた力を確認し、長文の読解に活かす	
		事前学修	これまでに学習した内容に関する振り返りを行い、期末テストに備える	50分
		事後学修	期末テストを振り返り	10分
15	1部 7月 14日	今後の学習方法を考える	英語の学習方法について意見交換を行う	
		この回の到達目標	効率的な英語学習ができるようになる	
		事前学修	Unit 5を読む	50分
		事後学修	自分の英語学習について振り返る	10分

科目名	Reading II B	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学生一人一人に訳してもらい、一時間に2ページのペースで読み進めていく。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に答案を返却し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂			
備考					

【オフィスアワー】
木曜日13時～18時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木曜日 9月17日	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
		この回の到達目標	単位を修得するための過程を理解する。	
		事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	9月24日	授業方法に慣れる	Unit 4 Spainを読む 五文型の説明	
		この回の到達目標	五文系を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
3	10月1日	文法を理解したうえでの和訳	Unit4 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	文法の知識を和約に反映できるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
4	10月8日	文脈を考慮に入れた訳	Unit4 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
		この回の到達目標	不定詞が理解できる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
5	10月15日	テキストの内容の理解を深める。	Unit4 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	内容を理解しながら行くセル用になる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
6	10月22日	ingの理解	Unit5 Britainを読む ingの説明	
		この回の到達目標	文法を理解したうえで訳せるようになる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月29日	語彙力アップ		Unit2 前回の続きから和訳 小テスト
		この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
8	11月5日	If節の用法		Unit5 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い
		この回の到達目標	条件文と仮定法の区別ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
9	11月12日	文法の復習		Unit6 Benelux前回の続きから和訳
		この回の到達目標	今までに学んだ文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
10	11月19日	テキストの内容の理解を深める。		Unit6 Bを読む that節の説明
		この回の到達目標	that節を理解する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
11	12月3日	正確の和訳		Unit6 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	文法に照らして正確の和訳ができる。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
12	12月10日	詳細な辞書の引き方		Unit6 前回の続きから和訳
		この回の到達目標	辞書の引き方をただす。	
		事前学修	指示された個所の予習	39分
		事後学修	訳の訂正	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	文法のおさらい	Unit6 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	これまでに習った文法を確実に把握する。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
14	12月24日	訳の確認	Unit6 前回の続きから和訳	
		この回の到達目標	テキストの訳を正確なものにする。	
		事前学修	指示された個所の予習	30分
		事後学修	訳の訂正	30分
15	1月14日	後期の授業のまとめ	Unit 6 前回の続きから和訳 小テスト	
		この回の到達目標	小テストでよい点数を取る。	
		事前学修	試験範囲の復習	30分
		事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II B	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
中学・高校で学んだ基本的文法知識があることを前提に授業を行います。

【授業方法】
演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英字新聞の記事を読み、その内容について自分の意見を述べる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Insights 2020 『世界を読むメディア英語入門2020』	村尾純子 他	(株) 金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12:30-12:50 本館二階講師、火曜日 12:30-12:50 二号館一階講師室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14 火9/15	ガイダンス及び導入講義	後期の授業の進め方、前期学習内容の復習など。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の学習内容を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容を整理、確認する。	30分
		事後学修	後期の英語学習計画を立てる。	30分
2	第一部 月9/21 火9/22	Chapter 11 Why Not Go to Kyoto?	Chapter 11 Why Not Go to Kyoto?の本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 11のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
3	第一部 月9/28 火9/29	Chapter 12 To Be More Eco-friendly	Chapter 12 To Be More Eco-friendlyの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ファッション・環境に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 12のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
4	第一部 月10/5 火10/6	Chapter 13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel	Chapter 13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsuleの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 13のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
5	第一部 月10/12 火10/13	Chapter 14 Healthy Lifestyles Discount Premium	Chapter 14 Healthy Lifestyles Discount Premiumの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健康に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 14のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
6	第一部 月10/19 火10/20	Chapter 15 Stylish Sweden vs. Traditional India	Chapter 15 Stylish Sweden vs. Traditional Indiaの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際・経済に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 15のKey Expressions 1,2,3,Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 火10/27	Review Chapter 11-15	Chapter 11-15の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-15で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 11-15の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 11-16の本文の内容を再確認する。	30分
8	第一部 月11/9 火11/10	Chapter 16 Silent Speech Recognition App to Help People	Chapter 16 Silent Speech Recognition App to Help Peopleの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テクノロジーに関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 16のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
9	第一部 月11/16 火11/17	Chapter 17 Real vs. Artificial Chrestmas Trees	Chapter 17 Real vs. Artificial Chrestmas Treesの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 17のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
10	第一部 月11/23 火11/24	Chapter 18 Take them to the Ski Resort	Chapter 18 Take them to the Ski Resortの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、観光に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 18のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
11	第一部 月11/30 火12/1	Chapter 19 Impossible Made Possible	Chapter 19 Impossible Made Possibleの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 19のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
12	第一部 月12/7 火12/8	Chapter 20 Yet Another Step of the Giant	Chapter 20 Yet Another Step of the Giantの本文を読んで内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、医療・技術に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
		事前学修	Chapter 20のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
		事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 火12/15	Review Chapter 16-20	Chapter 16-20の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 16-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 16-20の本文を再読する。	30分
		事後学修	Chapter 16-20の本文の内容を再確認する。	30分
14	第一部 月12/21 火12/22	後期授業のまとめ①	後期の学習内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
		事前学修	Chapter 11-20で学んだ内容を復習する。	30分
		事後学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	第一部 月1/18 火1/12	後期授業のまとめ②	後期の学習内容を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-20で学習した単語を活用して英字新聞の記事を読むことができる。	
		事前学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
		事後学修	後期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
Reading IIAと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。

【授業方法】
予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前期に引き続きペアワークやグループワーク、音読などの演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グ ループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading in Action	Tetsuhito Shizuka	kinseido	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション：前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方	
		この回の到達目標	前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方	
		事前学修	前期の授業内容の総復習	30分
		事後学修	Unit 7の予習	30分
2	9/26	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 7 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 7の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
3	10/3	要約及びライティング&スピーキング	Unit 7 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
4	10/10	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 8 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 8の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
5	10/17	要約及びライティング&スピーキング	Unit 8 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
6	10/24	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 9 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 9の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	要約及びライティング&スピーキング	Unit 9 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
8	11/7	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 10 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 10の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
9	11/14	要約及びライティング&スピーキング	Unit 10 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
10	11/21	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 11 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 11の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
11	11/28	要約及びライティング&スピーキング	Unit 11 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
12	12/5	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 12 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	Unit 12の予習	30分
		事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	要約及びライティング&スピーキング	Unit 12 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	授業の復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
14	12/19	読解、音読、シャドーイング、文法解説及びライティング&スピーキング	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	授業の復習	30分
15	12/26	読解、音読、シャドーイング、文法解説及びライティング&スピーキング	試験&解説	
		この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
		事前学修	総復習	30分
		事後学修	試験で出題された箇所の確認	30分

科目名	Reading II B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルのReadingの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。Reading II Aを履修していること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。				2		2			2		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass Intro	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
		事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	9/23	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	9/30	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	10/7	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	10/14	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	10/21	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	11/11	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	11/18	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	11/25	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	12/2	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ること検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	12/9	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	12/23	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
		事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	1/13	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施するとともに試験終了後解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
		事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	山上 登美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則として前学期のReading IIAと通年で履修してください。

【授業方法】
演習形式。CDを聴き、英文の和訳や要約により内容を理解する。練習問題を解くことにより英語の文法知識を強化する。各テーマについてグループで意見交換する。音読の小テストにより正確に読む力を確認する。授業内試験により文法や語法知識および英文理解力を評価する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					2		2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを，グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、授業参画度などから総合的に評価します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
What Do You Mean?—Exploring Communication Gaps—	Kyoko Yashiro/Cecilia Ikeguchi/Robin Sakamoto	金星堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンスと学習内容の説明	学習内容と方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文を論理的・批判的に読む方法を知ることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておくこと。	30分
		事後学修	今後の学習計画を立てること。	30分
2	第一部 月9/21	Unit 6	Body Movementsに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 31-33の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を整理し、要点を整理すること。	30分
3	第一部 月9/28	Unit 6	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Body Movementsについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 34-36を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
4	第一部 月10/5	Unit 7	Spaceに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 37-39の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
5	第一部 月10/12	Unit 7	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Spaceについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 40-42を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
6	第一部 月10/19	Unit 8	Same Words Different Meaningに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 43-45の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	Unit 8	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Same Words Different Meaningについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 46-48を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
8	第一部 月11/9	Unit 9	Intonationに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 49-51の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
9	第一部 月11/16	Unit 9	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Intonationについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書52-54を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
10	第一部 月11/23	Unit 10	Succinct or Elaborateに関する英文を読み、解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の和訳や要約ができる。	
		事前学修	教科書p. 55-57の単語や熟語を調べ、英文の和訳や要約をしておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
11	第一部 月11/30	Unit 10	Exercisesを解き、語法や内容理解度を確かめる。Succinct or Elaborateについてグループで意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の意見を発表できる。	
		事前学修	教科書p. 58-60を読み、練習問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
12	第一部 月12/7	小テストの説明	Unit 6-10の英文の音読方法について要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文内容を正しく伝える方法を知ることができる。	
		事前学修	Unit 6-10の英文内容を復習し、アクセントの位置やイントネーションを確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音しにくい箇所を特定し、音読の練習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	小テストの実施と講評	Unit 6-10の英文を音読し、正確に読む力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、音読による学習到達度を確認できる。	
		事前学修	Unit 6-10の英文内容を十分に確認し、音読の練習をしておくこと。	30分
		事後学修	正しく発音できなかった部分を振り返り、声に出して読むこと。	30分
14	第一部 月12/21	授業内試験の実施と解説	筆記試験を実施し、読解力を評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法や語法知識の活用による内容理解度を確認できる。	
		事前学修	既習事項を振り返ること。	45分
		事後学修	解けなかった問題を解きなおすこと。	30分
15	第一部 月1/18	学習到達度の確認	試験について講評し、学習内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認できる。	
		事前学修	学習内容に誤解がないか確認しておくこと。	30分
		事後学修	英文を論理的、批判的に読むのに必要な方法を整理すること。	30分

科目名	Reading II B	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
同教員の前期の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
本授業では、ある程度の長さのある古典的哲学的な問題に関する本の部分を読み進めながら、英文解釈・読解の練習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生同士で読解した内容を比較したり、発表し、お互いの理解を共有する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内を通して、逐次フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
言語哲学：入門から中級まで	W. ライカン	勁草書房	2005	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
yusuke.yoda@tyg.jpにメールし、予約を取ってください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 9月15日	ガイダンスと現状把握	ガイダンスを行い、スケジュール、成績の付け方、授業震度などを確認すると同時に、自分の英語力の現在を知る。	
		この回の到達目標	授業内容・目的を理解する	
		事前学修	シラバスをよく読む	10分
		事後学修	与えられたリーディングを読む	50分
2	第1部 9月22日	パラグラフの理解	パラグラフの構成について理解する	
		この回の到達目標	Topic/Supporting/Concluding Sentencesについて理解する	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
3	第1部 9月29日	パラグラフ構成の理解	パラグラフ構成の構成	
		この回の到達目標	パラグラフがどのように構成されるか理解する	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
4	第1部 10月6日	読解演習	単語は何を表しているのかについての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
5	第1部 10月13日	読解演習	古典的な哲学についての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
6	第1部 10月20日	読解演習	名付けについての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 10月27日	読解演習	J. S. Millの考え方についての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
8	第1部 11月10日	読解演習	Fregeの考え方についての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
9	第1部 11月17日	読解演習	Russellの考え方についての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
10	第1部 11月24日	読解演習	Kripkeの考え方についての長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
11	第1部 12月1日	読解演習	単語とその指し示すものについて異なる考え方の長文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
12	第1部 12月8日	読解演習	命題についての説明文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 12月15日	読解演習	論理についての説明文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	与えられたリーディングを読み知らない単語を調べる	40分
		事後学修	与えられた教材を音読してみる	20分
14	第1部 12月22日	読解演習	数理についての説明文を読む	
		この回の到達目標	パラグラフやセンテンスについて理解した物を実際に使って文を読む	
		事前学修	最終試験のための準備	40分
		事後学修	最終試験の振り返り	20分
15	第1部 1月12日	期末試験と振り返り	これまでの学習した内容に関してテストを行う。	
		この回の到達目標	今後の英語学習について考える	
		事前学修	後期に学んだことを振り返る	40分
		事後学修	今後の英語の学習のしかた、目標について決める	20分

科目名	Reading ⅢA	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
演習形式。(1)テキストの内容確認。(2)テキストの内容に関連し、授業を行っている時点で報道されているニュースを読んで、インターネット上のニュースの視聴も行う。(他)授業資料配布や連絡を大学のネットを通して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ニュース記事・資料・ニュースクリップなどの学生によるレポートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					3		3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後、授業の中で解答例など示しながらフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2020 Edition)時事英語の総合演習-2019年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2020年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事のコピーを配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日 12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス，導入授業	この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
		この回の到達目標	目的達成にどういった学習が必要なのかを理解する。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。これから共にディスカッションなどを行う学生同士が話しやすい環境を整える。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
		事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
2	4/13	国内政治	Chapter 1 国内政治 Japan's pro-constitution reform forces fall short of 2/3 upper house majorityを読む。日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、日本の政治ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
3	4/20	latest domestic news	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
4	4/27	news clip on the latest domestic news	第3回授業で配布された日本の政治に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
5	5/4	経済・ビジネス	Chapter 2 経済・ビジネス(1) Japan is wasting its last chance to avoid a major economic blunderを読む。経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、経済・ビジネスニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
6	5/11	latest economy / business news	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	news clip on the latest economy / business news	第6回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
8	5/25	スポーツ	Chapter 14 スポーツ(1) FC Tokyo's Takefusa Kubo seals move to Real Madridを読む。スポーツに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、スポーツニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
9	6/1	latest sport news	第8回授業で配布されたスポーツに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第8回授業で配布されたスポーツに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
10	6/8	news clip on the latest sport news	第9回授業で配布されたスポーツに関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
11	6/15	外交・国際会議	Chapter 4 外交・国際会議 Trump begins state visit to Japanを読む。外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、外交・国際会議を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 4 外交・国際会議を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
12	6/22	latest foreign affair / international conference news	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	news clip on the latest foreign affair / international conference news	第12回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のnews clipの SCRIPTを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題SCRIPTと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
14	7/6	授業内試験, まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ。	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。テキスト、新聞記事のプリント、TVニュースのSCRIPTなど総復習。	120分
		事後学修	授業内試験を振り返る。	60分
15	7/13	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	60分
		事後学修	試験の見直しをする。	60分

科目名	Reading ⅢB	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
演習形式。(1)テキストの内容確認。(2)テキストの内容に関連し、授業を行っている時点で報道されているニュースを読んで、インターネット上のニュースの視聴も行う。(他)授業資料配布や連絡を大学のネットを通して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ニュース記事・資料・ニュースクリップなどの学生によるレポートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				3		3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③にかかわる学修態度が身についているかを、グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後、授業の中で解答例など示しながらフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2020 Edition)時事英語の総合演習-2019年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2020年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事のコピーを配布します。				

【オフィスパワー】
月曜日 12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス，導入授業	この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
		この回の到達目標	目的達成にどういった学習が必要なのかを理解する。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。これから共にディスカッションなどを行う学生同士が話しやすい環境を整える。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
		事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
2	9/21	気象・災害	Chapter 11 気象・災害 By 2050, London's climate will be as warm as Barcelona's, days new studyを読む。気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、日本の政治ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 11 気象・災害を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
3	9/28	latest climate / disaster news	第2回授業で配布された気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第2回授業で配布された気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
4	10/5	news clip on the latest climate / disaster news	第3回授業で配布された気象・災害に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
5	10/12	海外政治情勢	Chapter 6 海外政治情勢 Stepping into power, Johnson seeks more diverse Cabinetを読む。海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、海外政治情勢ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 6 海外政治情勢を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
6	10/19	latest foreign affairs news	第5回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第5回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	news clip on the latest foreign affairs news	第6回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のnews clipの SCRIPTを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題SCRIPTと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
8	11/9	軍事	Chapter 5 軍事 Japan to have first aircraft carriers since World War IIを読む。軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、軍事ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 5 軍事を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
9	11/16	latest military policy news	第8回授業で配布された5 軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第8回授業で配布された5 軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
10	11/23	news clip on the latest military policy news	第9回授業で配布された5 軍事に関する最新のnews clipのSCRIPTを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題SCRIPTと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
11	11/30	裁判・法令	Chapter 9 裁判・法令 Court: Forced sterilization unconstitutional, but no payoutを読む。裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、裁判・法令を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
		事前学修	テキスト Chapter 9 裁判・法令を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
		事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	30分
12	12/7	latest judicial news	第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
		事前学修	第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
		事後学修	課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	news clip on the latest judicial news	第12回授業で配布された裁判・法令に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
		事前学修	ABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。	60分
		事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	60分
14	12/21	授業内試験, まとめ	授業内試験および今学期の授業のまとめ。	
		この回の到達目標	授業で学修したことの確認することで各学生が自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	今学期の授業を振り返る。テキスト、新聞記事のプリント、TVニュースのスク립トなど総復習。	120分
		事後学修	授業内試験を振り返る。	60分
15	1/18	授業フィードバック	授業内試験のフィードバック。	
		この回の到達目標	授業内試験をフィードバックすることで、各学生が正確に自分の知識・技能の測定をし、評価を行うこと。	
		事前学修	授業内試験を振り返る。	60分
		事後学修	試験の見直しをする。	60分

科目名	Writing I A	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。

【授業方法】
履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。									1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。									1	1		1
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント配布				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜14：30～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・導入講義	英文ライティングの注意事項についての授業で使用するPowerPointとWordの使用方法についての確認	
		この回の到達目標	ライティングに役立つ辞書について確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
		事後学修	ガイダンスの確認を行う。	60分
2	4/17	英文ライティングの実例検証 Word使用方法についての確認	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表	
		この回の到達目標	英文ライティングに必要なWordの使用方法の習得 英文コメントの原稿作成	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	作成した英文の確認を行う。	60分
3	4/24	英文ライティングの実例検証Power Point使用方法についての確認	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成	
		この回の到達目標	Power Pointの英文フレーズ 初級技術の確認と習得	
		事前学修	プリントの予習を行う	60分
		事後学修	英文の確認と修正を行う	60分
4	5/1	読む英文と見せる英文について	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	Power Pointの英文ライティング中級技術の確認習得	
		事前学修	英文の確認を行う	60分
		事後学修	テーマ確認を行う	60分
5	5/8	英文ライティングに必要な文法チェック その1	まとめと文法確認テスト ライティングのテーマ発表およびテーマについての確認 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	文法の確認と発表のテーマ設定	
		事前学修	テーマ検討を行う	60分
		事後学修	テーマ検討と再確認を行う	60分
6	5/15	英文ライティングに必要な表現チェック その2	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 グループのワークシート打ち合わせ その1	
		この回の到達目標	英文表現の習得と発表の段取り決定	
		事前学修	文法見直しを行う	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	パワーポイントの英文作成の基礎について	文法確認 英文事例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 グループのワークシート打ち合わせ その2	
		この回の到達目標	パワーポイントのシートにふさわしい英文習得	
		事前学修	プリントの確認を行う。	60分
		事後学修	ワークシートについて検討する。	60分
8	5/29	短い英文フレーズの組み合わせ方法について	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 グループのワークシート打ち合わせ その3	
		この回の到達目標	英文の構成展開を再確認し 細かな間違いについて修正する。	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分
9	6/5	より明確な英文について	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 パワー・ポイントの英文作成演習 その1	
		この回の到達目標	英文の文法ミスとレイアウトのコツを学ぶ。	
		事前学修	プリントを確認しておく。	60分
		事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
10	6/12	口頭発表の英文原稿作成について	文法確認 パワー・ポイントの英文作成演習 その2	
		この回の到達目標	発表に必要な英文を学ぶ。	
		事前学修	表現集を確認しておく。	60分
		事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
11	6/19	文法の総復習 表現の一貫性と英文内容 についての最終確認	まとめと文法確認テスト	
		この回の到達目標	発表原稿のチェックを経て精度の高い英文を書く。	
		事前学修	文法プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	文法プリントの確認を行う。	60分
12	6/26	英文ライティングの相互チェック	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1	
		この回の到達目標	クラスメートの英語の発表についての的確なコメントを行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	英文手紙の書き方 その1 感謝の手紙の書き方について	グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1	
		この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞き、その内容や伝達方法について英語でコメントを行えるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
14	7/10	英文手紙の書き方 その2 謝罪の手紙についての書き方	グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
		この回の到達目標	英文での確かなコメントを書けるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
15	7/17	全体のまとめと講評	まとめと復習テスト	
		この回の到達目標	レポートの最終確認と推敲を行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

科目名	Writing I B	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。

【授業方法】
履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。									1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。									1	1		1
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につしてい るかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント配布				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜14：30～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・導入講義 前期の復習	英文ライティングの注意事項についての授業で使用するPowerPointとWordの使用方法についての再確認	
		この回の到達目標	ライティングに役立つ辞書について確認する。	
		事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
		事後学修	ガイダンスの確認を行う。	60分
2	4/17	英文ライティングの実例検証 Word使用方法についての確認	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表	
		この回の到達目標	英文ライティングに必要なWordの使用方法の習得 英文コメントの原稿作成	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	作成した英文の確認を行う。	60分
3	4/24	英文ライティングの実例検証Power Point使用方法についての確認	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成	
		この回の到達目標	Power Pointの英文フレーズ 初級技術の確認と習得	
		事前学修	プリントの予習を行う	60分
		事後学修	英文の確認と修正を行う	60分
4	5/1	読む英文と見せる英文について	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	Power Pointの英文ライティング中級技術の確認習得	
		事前学修	英文の確認を行う	60分
		事後学修	テーマ確認を行う	60分
5	5/8	英文ライティングに必要な文法チェック その1	まとめと文法確認テスト ライティングのテーマ発表およびテーマについての確認 グループ内での英文チェック	
		この回の到達目標	文法の確認と発表のテーマ設定	
		事前学修	テーマ検討を行う	60分
		事後学修	テーマ検討と再確認を行う	60分
6	5/15	英文ライティングに必要な表現チェック その2	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 グループのワークシート打ち合わせ その1	
		この回の到達目標	英文表現の習得と発表の段取り決定	
		事前学修	文法見直しを行う	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	パワーポイントの英文作成の基礎について	文法確認 英文事例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 グループのワークシート打ち合わせ その2	
		この回の到達目標	パワーポイントのシートにふさわしい英文習得	
		事前学修	プリントの確認を行う。	60分
		事後学修	ワークシートについて検討する。	60分
8	5/29	短い英文フレーズの組み合わせ方法について	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 グループのワークシート打ち合わせ その3	
		この回の到達目標	英文の構成展開を再確認し 細かな間違いについて修正する。	
		事前学修	プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分
9	6/5	より明確な英文について 主観から客観へ	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 パワー・ポイントの英文作成演習 その1	
		この回の到達目標	英文の文法ミスとレイアウトのコツを学ぶ。	
		事前学修	パワーポイント作成のための資料収集を行う。	60分
		事後学修	パワーポイントの修正を行う。	60分
10	6/12	英文原稿作成について テーマ設定の注意点について	文法確認 パワー・ポイントの英文作成演習 その2	
		この回の到達目標	発表に必要な英文を学ぶ。	
		事前学修	プリントを確認する。	60分
		事後学修	ワークシートを修正する。	60分
11	6/19	文法の総復習 表現の一貫性と英文内容 についての最終確認	まとめと文法確認テスト	
		この回の到達目標	発表原稿のチェックを経て精度の高い英文を書く。	
		事前学修	文法プリントの予習を行う。	60分
		事後学修	文法プリントの確認を行う。	60分
12	6/26	英文ライティングの相互 チェック	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1 語彙力と表現力をさらに深める。	
		この回の到達目標	クラスメートの英語の発表についての的確なコメントを行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	英文手紙の書き方 その1 感謝の手紙の書き方について	例文紹介と検証 語彙力と表現力の再確認 グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
		この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞き、その内容や伝達方法について英語でコメントを行えるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
14	7/10	英文手紙の書き方 その2 謝罪の手紙についての書き方	例文紹介と実習 語彙力と表現力の最終確認 グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
		この回の到達目標	英文での確かなコメントを書けるようにする。	
		事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
15	7/17	全体のまとめと講評	まとめと復習テスト	
		この回の到達目標	レポートの最終確認と推敲を行う。	
		事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
		事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

科目名	Writing ⅢA	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
後期のWriting ⅢBと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。								3	3		3
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。								3	3		3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価する。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Points Academic Writing:Organization, Content, Language	深山/幸重/尾鍋/村尾	金星堂	2019	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	アカデミック・ライティング	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める	50分
2	4/14	エッセイとは	Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	4/21	エッセイとは	Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	4/28	エッセイのタイトル	Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	5/5	エッセイのタイトル	Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	5/12	Introductionとは	Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Introductionの書き方	Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	5/26	Bodyの構造	Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	6/2	Bodyの構造	Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	6/9	conclusionのまとめ方	Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	6/16	conclusionとクライテリオン	Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン1	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	6/23	クライテリオン	クライテリオン2 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	クライテリオン	Unit 6（フィードバックに挑戦）、クライテリオン3	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	7/7	クライテリオン	クライテリオン4 (revise)、授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	7/14	クライテリオン	クライテリオン5、試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
		事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	Writing ⅢB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
前期のWriting ⅢAと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。								4	4		4
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。								4	4		4
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につしてい るかを，授業の課題などを基準に評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価す る。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Points Academic Writing:Organization, Content, Language	深山/幸重/尾鍋/村尾	金星堂	2019	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:20~12:50（休暇中は除く。場所は事前にアポイントメントを取った際に決める。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	アカデミック・ライティングとは	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
		事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める、	50分
2	9/22	エッセイとは	Unit 7（エッセイの最終原稿提出）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	9/29	リサーチ・ペーパー	Unit 8（リサーチ・ペーパーの構造とIntroduction）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	10/6	abstract	Unit 9（abstractの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	10/13	abstract	Unit 10（abstractの草稿）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	10/20	abstract	Unit 11（abstractの最終原稿）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	プレゼンテーション	Unit 12（プレゼンテーションの基本的特徴）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	11/10	視覚資料と発表原稿	Unit 13（視覚資料の作成）、Unit 14（発表原稿の完成）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	11/17	プレゼンテーション	Unit 15（プレゼンテーションの評価）、アカデミック・ライティング手法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	11/24	クライテリオン	クライテリオン1	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	12/1	クライテリオン	クライテリオン2 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう推敲する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	12/8	クライテリオン	クライテリオン3	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	クライテリオン	クライテリオン 4 (revise)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン 3 を完成度の高いエッセイになるよう推敲する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	12/22	クライテリオン	クライテリオン 5、授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
		事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
15	1/12	ライティングの総括	試験の講評と振り返り	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
		事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
		事後学修	講義全体の確認をし、復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題や会話練習を順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得に応じて適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子 他	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも受け付ける。授業後も教室等にて対応する。授業時間：火曜 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	単語の発音	ガイダンス、独和辞書の紹介 アルファベットの発音練習 簡単なあいさつの発音練習	
		この回の到達目標	発音の習得。	
		事前学修	教科書を購入し『はじめに』を読んでおく。 教科書添付のCDでアルファベットの発音を聞いておく。	30分
		事後学修	CDで発音練習を復習する。	30分
2	4/14	単語の発音	アルファベットの発音の復習 ドイツ語の単語の発音の仕方を、母音・子音と順を追って説明しながら、発音練習をする。	
		この回の到達目標	発音の習得。	
		事前学修	CDでアルファベット、単語の発音を聞いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて復習する。	30分
3	4/21	規則動詞	動詞の現在人称変化（1）（規則動詞）	
		この回の到達目標	規則動詞の人称変化の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 1（第1課）の解説箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
4	4/28	sein・haben	動詞sein・haben現在人称変化（不規則動詞） 語順 Lektion 1 Dialog	
		この回の到達目標	sein・habenの理解と習得。	
		事前学修	前回の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
5	5/5	名詞	名詞の性と格変化 定冠詞と不定冠詞の格変化	
		この回の到達目標	名詞の性と格の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 2の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
6	5/12	不規則動詞	疑問代名詞 並列の接続詞 Lektion 2のDialog Lektion 3 動詞の人称変化（2）（不規則動詞）	
		この回の到達目標	不規則動詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 2の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	不規則動詞の人称変化と命令形	動詞の人称変化（２）（不規則動詞） 命令形	
		この回の到達目標	不規則動詞の人称変化と命令形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 3 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
8	5/26	人称代名詞と複数形	人称代名詞3格と4格 非人称のes Lektion 3 のDialog 名詞の複数形	
		この回の到達目標	人称代名詞と複数形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 3 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
9	6/2	定冠詞と不定冠詞	定冠詞類・不定冠詞類の格変化 keinとnichtの使い方 Lektion 4 のDialog	
		この回の到達目標	定冠詞と不定冠詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 4 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
10	6/9	前置詞	前置詞の格支配	
		この回の到達目標	前置詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 5 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
11	6/16	前置詞	前置詞と定冠詞の融合形 Lektion 5 のDialog	
		この回の到達目標	前置詞と定冠詞の融合形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 5 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
12	6/23	話法の助動詞	話法の助動詞の現在人称変化 未来形	
		この回の到達目標	話法の助動詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 6 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	従属の接続詞	話法の助動詞の復習 従属の接続詞と副文	
		この回の到達目標	従属の接続詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 6 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題をする。	60分
14	7/7	前期内容の復習	時刻の表現 Lektion 6 のDialog 前期の内容についての復習	
		この回の到達目標	前期範囲の習得	
		事前学修	Lektion 6 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、試験に備え十分勉強する。	120分
15	7/14	試験と反省	授業内試験 試験終了後試験内容について解説する	
		この回の到達目標	試験と反省。	
		事前学修	前学期学習した内容を十分復習する。	120分
		事後学修	試験の出来、不出来をチェックし、反省点を出す。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
講義による。視聴覚教材も適宜利用して、耳と目からもドイツ語にしたしんでもらうつもりである。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に応対する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016		
備考					

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ドイツとドイツ語入門	ドイツ語の世界に入門。かんたんなあいさつからABCの発音。講義のすすめかた案内。教材について。	
		この回の到達目標	ドイツ語の発音。かんたんな相差っ表現により発音になれる。	
		事前学修	教材の下見。ひと通り目を通しておく。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
2	4/17	ドイツ語の基本1	テキストLektion1 人称代名詞・動詞sein, haben, trinken テーマ「ドイツへの到着」	
		この回の到達目標	基本動詞を使ったかんたんな表現をまなぶ。読み方の練習。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
3	4/24	ドイツ語の名詞には性がある	テキストLektion2/名詞の性 動詞の位置 テーマ「ライン河」	
		この回の到達目標	名詞の性の理解。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
4	5/1予定	疑問文の作り方	テキストLektion2 疑問文 ja と nein	
		この回の到達目標	疑問文のしくみと応用。道をたずねる。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
5	5/8	名詞には性がある	テキストLektion3 不規則な動詞 名詞の格 1/4格 テーマ Es gibt Wein. ドイツ・ワイン!	
		この回の到達目標	男性・女性・中性名詞の代表的なものを覚えよ!	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題(30分)	30分
6	5/15	否定文になれよう。	テキストLektion3 否定冠詞 kein 否定をふくむ疑問文のこたえ	
		この回の到達目標	nein, nichtという否定表現になれる。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)(30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	名詞の格変化	テキストLektion4 名詞の1/3/4格の使い方 テーマ「エネルギー問題」	
		この回の到達目標	名詞の格変化と複数形をマスターする。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
8	5/29	所有表現 2格 ザクセン2格とは？	テキストLektion4 名詞の2格の使い方	
		この回の到達目標	所有表現になれる。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
9	6/5	前置詞のしくみ	テキストLektion5 前置詞の使い方 例文 作文 テーマ「ドイツの地理」	
		この回の到達目標	前置詞にも格支配があつて、ややこしいが、一連の流れで考えよう。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
10	6/12	人称代名詞	テキストLektion5 人称代名詞 1/3/4格の使い方	
		この回の到達目標	人称代名詞が出で来る短い文章を読んで、ひの代名詞はだれをさしているか判断します。そう難しくはありませんが、教室で覚えましょう。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
11	6/19	前置詞とその用法です。	テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」	
		この回の到達目標	ここでも、格支配がつきものです。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
12	6/26	11課のつづき	テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」	
		この回の到達目標	前置詞の用法全般を習います。前置詞のある文の訳読をしているうちに、こつがわかります。場数が大事なドイツ語学習なのです。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	これまでの単元でまだ消化不良な項目の復習です。	前期の復習 和訳練習 語彙力アップ指導	
		この回の到達目標	苦手、未理解、まだ覚えきれないという学習の事実にむきあつての復習です。試験対策でもあります。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
14	7/10	読解練習	辞書を使ってかんたんな読解練習。	
		この回の到達目標	簡単な応用練習です。辞書をつかって、かんたんな初見のドイツ文にとりくみましょう。	
		事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
		事後学修	試験準備学習 (30分)	30分
15	7/17	前期試験まとめ	前期筆記試験(予定) 内容・範囲は授業内で指示する。	
		この回の到達目標	前期の学習内容の理解。	
		事前学修	試験範囲学習。範囲は事前に伝えておきます。	30分
		事後学修	試験結果の反省。(30分)	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、文章講読、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身につくドイツ語・初級（改訂新版）	前田良三・高木葉子	郁文堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	年間講義計画・成績評価方法・文字と発音のしくみ	授業方針を説明する。 すぐに文字、発音の訓練に入る。	
		この回の到達目標	授業と教科書の趣旨を理解する。 ドイツ語の文字と響きを体験する。	
		事前学修	ドイツやドイツ語について、図書館や電子媒体等を利用してまとめてみる。	30分
		事後学修	ドイツ語学習を、この半年の学生生活に位置付けてみる。	30分
2	水4/15	発音訓練	教科書の例に従い、発音と綴りを確認する。	
		この回の到達目標	ドイツ語特有の発音と綴り字規則を知る。	
		事前学修	教科書添付のCDを聴き、ドイツ語の音声に親しむ。	30分
		事後学修	発音の要点を確認する。重要項目を声に出し、綴り字を書いてみる。	30分
3	水4/22	動詞の現在人称変化	人称変化の仕組みと規則を知り、いくつかの動詞で練習する。	
		この回の到達目標	規則変化の代表例を覚えてしまうことが望ましい。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語との違いを知る。	30分
		事後学修	ドイツ語の人称変化の基本であるからよく練習をする。	30分
4	水4/29	定動詞の位置と枠構造	いくつかの例文を見て、その構造を理解する。 自分でもドイツ文を作ってみる。	
		この回の到達目標	基本的なドイツ文の仕組みを理解できる。	
		事前学修	英語の文の種類、それぞれの文における動詞の位置をまとめてみる。 そこで使われている文法用語も確認する。	30分
		事後学修	練習問題で、ドイツ語の語順になじむ。。	30分
5	水5/6	名詞の性と格変化	最初は表で変化を知る。 文の中で冠詞や名詞がどう変わるかを学ぶ。	
		この回の到達目標	練習を通じてまずは定冠詞の変化が頭の中に残るようにする。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語と比較してみる。	30分
		事後学修	名詞、冠詞の性、数、格について復習する。 教科書の例をCDで聴く。	30分
6	水5/13	名詞の複数形・定冠詞類と不定冠詞類	冠詞の変化の復習をする。 その応用、発展として複数形、冠詞類を学ぶ。	
		この回の到達目標	冠詞、冠詞類の変化を定着させる。	
		事前学修	英語の複数形をまとめてみる。	30分
		事後学修	冠詞、冠詞類の変化を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	動詞の不規則変化	規則変化の復習をする。 その応用、発展として不規則変化の代表例を学ぶ。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化により親しむ。	
		事前学修	第3回動詞の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	代表例の人称変化を復習する。	30分
8	水5/27	人称代名詞の格変化	人称代名詞の主格を確認する。 格変化、指示関係に注目しながら文章練習をする。	
		この回の到達目標	練習を通じて人称代名詞の変化を定着する。	
		事前学修	英語の人称代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	人称代名詞の格変化を覚える。英語の用法との違いを確認する。	30分
9	水6/3	前置詞	主な前置詞の用例を読む。 格支配について学ぶ。	
		この回の到達目標	代表的な用例を文章で理解する。	
		事前学修	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	具体的な用例の復習をし、ドイツ語の前置詞を理解する。	30分
10	水6/10	話法の助動詞	助動詞構文を知る。 それぞれの助動詞の用法を例文で理解する。	
		この回の到達目標	枠構造を理解する。 助動詞の人称変化ができる。	
		事前学修	ドイツ語と英語の助動詞を対応させてみる。	30分
		事後学修	助動詞の人称変化を復習する。 例文で、助動詞、本動詞の語順を理解する。	30分
11	水6/17	形容詞の格変化	冠詞の変化を復習する。 形容詞の格変化を練習する。	
		この回の到達目標	形容詞の格変化の仕組みを理解する。	
		事前学修	第5回の定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	変化についての基本的考え方を理解した上で徐々に覚えていく。	30分
12	水6/24	動詞の三基本形	動詞の三基本形の種類を知る。 辞書や不規則動詞変化表の見方を確認する。	
		この回の到達目標	主な動詞の三基本形を作ることができる。	
		事前学修	英語の動詞の三基本形を振り返ってみる。	30分
		事後学修	先ず規則変化を確実に身につける。不規則変化は重要動詞から徐々に覚えていく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	過去人称変化	現在人称変化の復習をする。 過去形を使っている文を読み取る。	
		この回の到達目標	文の現在と過去の時称動詞から読み取ることができる。	
		事前学修	第3回の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を読み直し、過去時制の判断が可能になっているか確認する。	30分
14	水7/8	前期まとめ	文法事項を中心に前期の勉強を整理する。 質問を受けて補足説明する。	
		この回の到達目標	前期の復習をし、理解が不足している部分を確認する。	
		事前学修	前期の学習をまとめてみる。	30分
		事後学修	重要項目を再度確認する。	30分
15	水7/15	試験	試験をして解説、講評を行う。	
		この回の到達目標	前期の成果を明らかにし、後期の学習で留意すべき点を考える。	
		事前学修	重要項目をまとめ、理解を確認する。	30分
		事後学修	試験を点検し、後期の学習を展望する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A・B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。独和辞書必携。予習は必須。12月にドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に修得する。確認小テスト・単語テストを適宜実施する。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子	朝日出版社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
授業（火曜5限もしくは木曜2限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	ガイダンス：ドイツ語圏の国々について	ドイツ語とドイツ語圏の国々、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語を話す国や地域についてを理解し、説明することができる。授業の全体的な方針を理解することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	第一部 木4/16	ドイツ語のつづり字と母音の発音	ドイツ語の母音のつづり字と発音の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベート、発音の規則、母音の読み方を理解し、教科書の単語を発音することができる。	
		事前学修	ドイツ語のアルファベートと英語のアルファベットの違いを確認してくる。	30分
		事後学修	アルファベート、単語のアクセント位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	第一部 木4/23	ドイツ語のつづり字と子音の発音	ドイツ語の子音つづり字と発音の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、子音の読み方を理解し、教科書の単語と挨拶表現を発音することができる。	
		事前学修	ローマ字読みで読める単語を読む練習をしてくる。	30分
		事後学修	子音のつづり字の発音、挨拶表現、単語をの発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
4	第一部 木4/30	動詞〔規則動詞〕の変化	Lektion 1 動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。動詞の辞書の引き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主語になる代名詞、動詞の変化、動詞の辞書の引き方について理解し、簡単な文を作ることができる。	
		事前学修	教科書の単語を読む練習をしてくる。	30分
		事後学修	主語になる代名詞と動詞の変化と位置を復習し、確実に覚えること。	30分
5	第一部 木5/7	動詞の位置	平叙文・疑問文の動詞の位置、重要動詞の現在人称変化、疑問詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平叙文・疑問文の動詞の位置について理解し、簡単な文を作ることができる。	
		事前学修	seinとhabenの変化と疑問詞を発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	seinとhabenの変化と疑問詞を復習し、確実に覚えること。	30分
6	第一部 木5/14	自己紹介ーはじめましてー：講読	会話文を音読し、訳を行う。自己紹介の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化について理解し、学習した単語を用いて自分について表現することができる。	
		事前学修	会話文を音読練習をしておく。	30分
		事後学修	重要表現練習を復習し、需要動詞を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	名詞の性・数・格	Lektion 2 名詞の〔性・数・格〕、定冠詞、不定冠詞、疑問代名詞について学習する。格の用法、名詞の辞書の引き方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、格の用法、名詞の辞書の引き方、疑問代名詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話文の名詞を辞書で調べてくること。ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認してくる。	30分
		事後学修	定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えること。格の用法について復習してくる。	30分
8	第一部 木5/28	職業は何ですか：講読	会話文を音読し、訳を行う。職業と専攻名を表現する練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問詞を使った疑問文について理解し、学習した単語を用いて自分について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
9	第一部 木6/4	不規則動詞の変化、命令形	Lektion 3 動詞〔不規則動詞〕の変化、命令形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不規則動詞の変化、命令形について理解し、学習した単語を用いて自分の好きなことと表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	不規則動詞の変化を確実に覚えること。命令形を復習すること。	30分
10	第一部 木6/11	趣味は何？：講読	会話文の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。代名詞の変化、非人称のesについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人称代名詞の変化、非人称表現について理解し、学習した単語を用いて自分の趣味について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	代名詞の変化を確実に覚えること。非人称のesを使った表現を復習すること。	30分
11	第一部 木6/18	様々な冠詞類について	Lektion 4 定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞の使い方、否定文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞類、所有冠詞、否定冠詞の使い方を理解し、冠詞類を用いた文を作ることができる。	
		事前学修	名詞を辞書で調べて、複数形を調べてくる。	30分
		事後学修	所有冠詞を確実に覚えること。	30分
12	第一部 木6/25	パン屋で買い物：講読	会話文の発音練習と訳を行う。買い物の時の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、否定文の作り方と疑問文の答え方について理解し、買い物で使う基本表現を使いこなせることができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現を復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	Deutsches Brot:講読	テキストP81 の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、冠詞の種類と格変化を確認しながら、テキストを訳することができる。	
		事前学修	テキストの発音練習をしてくること。冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
		事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
14	第一部 木7/9	重要表現の復習	練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した文法事項の問題を解答できる。	
		事前学修	前期学習した文法と重要表現を復習してくる。	40分
		事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と単語を覚える。	40分
15	第一部 木7/16	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞類と代名詞の変化について説明し、自分や身近な人について学習した単語を用いて表現することができる。	
		事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を総復習する。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜3・4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	ドイツと言えは何を連想するか考えておくこと。	30分
		事後学修	授業で触れた事柄をまとめておくこと。	30分
2	4/17	発音	ドイツ語のアルファベットと単語の発音	
		この回の到達目標	アルファベットを覚え、単語の発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストのvi頁からx頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。	30分
3	4/24	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造	
		この回の到達目標	規則動詞の現在人称変化の仕方を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキストのxi頁から6頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	5/1	冠詞と名詞	冠詞と名詞の構造と用法	
		この回の到達目標	冠詞と名詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキストの7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。また9頁から13頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	5/8	不規則動詞と命令形	不規則動詞と命令形の形態と用法	
		この回の到達目標	不規則動詞の形態と命令形の形態と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	5/15	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の用法	
		この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	前置詞	前置詞の用法と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	5/29	副文	副文の構造と用法	
		この回の到達目標	副文の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	6/5	話法の助動詞	話法の助動詞の形態と用法	
		この回の到達目標	話法の助動詞の形態と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	6/12	複合動詞	複合動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	複合動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト42頁から44頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	6/19	再帰動詞と非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	6/26	形容詞	形容詞の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	動詞の3基本形	動詞の3基本形の構造	
		この回の到達目標	動詞の3基本形の構造を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	7/10	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、十分に理解できていない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	7/17	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
秋期ドイツ語技能検定試験4級を受験すること。

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『希望のドイツ語』	小塩 節	朝日出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日8:50～10:40 月曜日2:30～4:10

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6土 4/4	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。ドイツ語やドイツ語圏についておおまかなアウトラインを理解する。アルファベートの発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
		事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
		事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること。	30分
2	月4/13土 4/11	ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
		事前学修	教科書2, 3ページの単語をCDを聞きながら発音してみること。	30分
		事後学修	ローマ字読みできない複母音を特に練習すること。	30分
3	月4/20土 4/18	第1課 動詞の人称変化および語順について	平叙文では主語がつねに文頭に来るわけではないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
		事前学修	教科書4ページのテキストを音読しておくこと。	30分
		事後学修	教科書6ページの練習問題で動詞の人称変化に習熟すること。	30分
4	月4/27土 4/25	第1課 読章 「私たちはドイツ語を学ぶ」	定動詞の位置に注意しつつテキストを読み、ドイツ語の語順に習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な自己紹介ができる。また、相手に尋ねることができる。	
		事前学修	教科書4ページを定動詞の位置に注意しながら予習してくること。	30分
		事後学修	【事後学習】不定代名詞manの用法を復習すること。	30分
5	月5/4土 5/2	第2課 名詞の姓・格、冠詞の変化、複数形	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、「Was (Wer) ist ～ ? Das ist ～ .」の構文を使い、人や物を紹介できる。	
		事前学修	教科書8ページのテキストを音読しておくこと。	30分
		事後学修	【事後学習】教科書10ページの練習問題で動詞の人称変化を復習しておくこと。	30分
6	月5/11土 5/9	第2課 読章 「朝食」	不規則動詞の辞書での調べ方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、格変化できる。	
		事前学修	教科書8ページを予習してくること。名詞は意味だけでなく性別も調べておくこと。	30分
		事後学修	定冠詞・不定冠詞の使い分けを整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月5/18土 5/16	第3課 冠詞類、人称代名詞の格変化	定冠詞類・不定冠詞類の意味および語尾変化を学修する。welcherの用法に習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	格の概念について整理しておくこと。	30分
		事後学修	教科書10ページの練習問題で冠詞類の変化に慣れておくこと。	30分
8	月5/25土 5/23	第3課 読章 「労働時間」	変則的な語尾変化の動詞を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、否定詞 nicht と kein を使い分けることができる。	
		事前学修	教科書12ページを予習してくる。名詞は性・数・格も調べておくこと。	30分
		事後学修	動詞が特定の格の目的語をとることを理解する。	30分
9	月6/1土 5/30	第4課 前置詞、命令法	前置詞は4種類あり、それぞれ特定の格を支配することを学修する。命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、適切に使うことができる。	
		事前学修	2、3課の冠詞類の格変化を今一度確認しておくこと。	30分
		事後学修	教科書19ページの練習問題で命令法に慣れること。	30分
10	月6/8土 6/6	第4課 読章 「ドイツー森の国」	前置詞の多様な意味を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書16ページを予習してくる。3・4格支配の前置詞の場合は、名詞が何格なのかを意識すること。	30分
		事後学修	3・4格支配の前置詞の3、4格の使い分けを復習しておくこと。	30分
11	月6/15土 6/13	第5課 形容詞の用法、付加語 語形容詞の語尾変化 小テスト（1）	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。また、形容詞は副詞としても使われることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、述語的用法と付加語的用法の違いを理解する。よく使われる形容詞を用いて、人や事物の性質・状態を説明できる。	
		事前学修	形容詞の語尾変化表と2、3課の格変化表を見比べておくこと。	30分
		事後学修	教科書22ページの練習問題を解いておくこと。	30分
12	月6/22土 6/20	第5課 読章 「菩提樹」	名詞の複数形や付加語形容詞等の辞書の引き方に習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
		事前学修	教科書20ページを予習してくる。付加語形容詞や名詞の複数形はそのままでは辞書に載っていないので、語尾をとって調べる。	30分
		事後学修	名詞の複数形から単数形を導き出すことに慣れておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月6/29土 6/27	第6課 形容詞の名詞化、形容詞の比較変化	形容詞を名詞化する方法とその用法、特に多用される中性名詞化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、比較の構文を使い簡単な作文ができる。	
		事前学修	付加語形容詞の語尾変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	教科書26ページの練習問題を解いておくこと。比較の種々の用法を整理しておくこと。	30分
14	月7/6土 7/4	第6課 読章「整頓好き」	比較の様々な用法について学修する。基数詞を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基数詞を使い簡単な計算ができる。	
		事前学修	教科書24ページを予習してくる。形容詞の比較級・最上級が付加語で使われるときは語尾が2種類付くので注意すること。	30分
		事後学修	基数詞の発音、つづりを練習しておくこと。	30分
15	月7/13土 7/11	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、基本的な表現を聞き取ったり、こちらから発信したり、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと	30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜4時限目ドイツ語基礎文法A（真道）を同時に受講すること。 授業に積極的に参加すること。月曜4時限目ドイツ語基礎文法A（真道）に登録すると、自動的に本授業に登録されます。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書については、初回授業で説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
		この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
		事前学修	シラバス確認	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	4/16	Start auf Deutsch	ドイツ語と英語の類似点から類推する コンテキストで意味を類推する	
		この回の到達目標	ドイツ語と英語の類似点からドイツ語の単語の意味を類推することができる。 コンテキストで意味を類推することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	CD確認 アルファベート予習	30分
		事後学修	アルファベート・発音復習 -語彙習得	30分
3	4/23	Lektion 1 Café d1	カフェでの会話	
		この回の到達目標	カフェでの会話を聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	文法事項・表現確認	30分
		事後学修	Lektion 1練習問題・語彙習得	30分
4	4/30	Lektion 2 Sprachkurs 1	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現 1	
		この回の到達目標	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得	30分
5	5/7	Lektion 2 Im Sprachkurs 2	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現2	
		この回の到達目標	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	会話練習	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得	30分
6	5/14	Lektion 3 Städte - Länder - Sprachen 1	街・国・言語についての表現 1	
		この回の到達目標	街・国・言語についての表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 2	街・国・言語についての表現 2	
		この回の到達目標	街・国・言語についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得	30分
8	5/28	Lektion 4 Menschen und Häuser 1	人と住まいについての表現 1	
		この回の到達目標	人と住まいについての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得	30分
9	6/4	Lektion 4 Menschen und Häuser 2	人と住まいについての表現 2	
		この回の到達目標	人と住まいについての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得	30分
10	6/11	Lektion 5 Termine 1	アポイントメントについての表現 1	
		この回の到達目標	アポイントメントについての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得	30分
11	6/18	Lektion 5 Termine 2	アポイントメントについての表現 2	
		この回の到達目標	アポイントメントについての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得	30分
12	6/25	6 Orientierung 1	道案内についての表現 1	
		この回の到達目標	道案内についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	6 Orientierung 2	道案内についての表現 2	
		この回の到達目標	道案内についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得	30分
14	7/9	筆記試験	A1レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分
15	7/16	口述試験	A1レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	60分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしいドイツ語入門	増本浩子	白水社	2014	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字と発音	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を理解する。	
		事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。（30分）	30分
		事後学修	文字と発音の復習（30分）	30分
2	第一部 木4/16	【現在人称変化】	人称代名詞 動詞の現在人称変化（規則変化） 前回授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まず動詞の現在人称変化を学ぶが、その前提として1格の人称代名詞も使えるようになる。	
		事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる。（10分）	10分
		事後学修	前回の授業で学習した単語・例文の暗記（50分）	50分
3	第一部 木4/23	【疑問文】	ja / nein で答える疑問文 疑問詞を使った疑問文 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、文の基本構造と語順を理解する。	
		事前学修	授業1回目～2回目の復習（15分）	15分
		事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
4	第一部 木4/30	【否定文】【不規則変化動詞】	nicht を使った否定文 動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、nicht の基本的な使い方を理解する。また、不規則変化動詞の現在人称変化を調べることができるようになる。	
		事前学修	授業1回目～3回目の復習（15分）	15分
		事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
5	第一部 木5/7	【名詞の性と格】【不定冠詞類】	名詞の性と格 不定冠詞・否定冠詞・所有冠詞の格変化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、名詞にグループ分けがあることを理解し、不定冠詞（類）の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業1回目～4回目の復習（15分）	15分
		事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
6	第一部 木5/14	【名詞の複数形】【sein と haben】	名詞の複数形 sein と haben の現在人称変化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、sein と habenの変化を覚え、名詞の複数形の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業1回目～5回目の復習（15分）	15分
		事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	【定冠詞（類）】【所有冠詞】	定冠詞（類）の格変化 mein 以外の所有冠詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、定冠詞（類）・不定冠詞（類）の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第一部 木5/28	【2 格と 3 格】	「gehören + 3 格」の文型 所有を表す 2 格 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、格の用法（特に、2 格と 3 格）についての基礎知識を得る。	
		事前学修	授業 1 回目～7 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第一部 木6/4	【前置詞】	前置詞と格 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前置詞の使い方・格支配を覚える。	
		事前学修	授業 1 回目～8 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	9 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第一部 木6/11	【命令】	命令文 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、いくつかの命令文があることを理解し、代表的な動詞について命令文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～9 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 0 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第一部 木6/18	【人称代名詞の変化】	人称代名詞の 3 格と 4 格 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、人称代名詞の変化を調べることができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～1 0 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 1 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第一部 木6/25	【非人称】	非人称の es 「es gibt + 4 格」の文型 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形式上の主語・形式上の目的語などをつかった代表的な文を覚える。	
		事前学修	授業 1 回目～1 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	【話法の助動詞】【3基本形】	話法の助動詞 3基本形入門 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、話法の助動詞を使った文の構造を理解し、いくつかの話法の助動詞を使用することができる。	
		事前学修	授業1回目～12回目の復習（15分）	15分
		事後学修	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
14	第一部 木7/9	【試験】【振り返り】	授業内試験。試験の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業1回目～13回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業1回目～13回目の復習（45分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（15分）	15分
15	第一部 木7/16	【前回までの学習事項の補足】【試験についての解説】	接続詞と副文 前回までの授業の要点の復習 場合によっては追試験を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、重要事項の再確認等を行う。到達目標③④に関連し、副文を作ることができるようになる。	
		事前学修	授業1回目～14回目の復習（15分）	15分
		事後学修	確認テストで学習不足の点を重点的に復習（45分）	45分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。前もって予習用プリントを配布。常時、教科書と独和辞典を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却、授業内試験については、後日、フィードバックの解説・講評をポータルサイトにより配信。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイク・ピナウ、他	郁文堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、木曜日17時50分～18時30分、授業講堂（前もってアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 木4/9	【ガイダンス】【発音の基礎】【挨拶の表現】	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典等についての説明）、それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。アルファベットと発音の基礎、挨拶表現を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発音の基礎を理解して、教科書5頁の文章を正しい発音で読み、文を理解することができる。	
		事前学修	シラバスと教科書1頁のアルファベット、第1課「こんにちは」の5頁を読んで準備する。	30分
		事後学修	1頁と5頁の文を音読して、正しい発音を身につける練習をする。	30分
2	第一部 月4/13 木4/16	【動詞の現在人称変化】	動詞の現在人称変化とその位置の決まりについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、日常生活を表す簡単な文を作ることができる。	
		事前学修	6頁と7頁の問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、教科書にあるwohnen、sein、habenの変化表を暗記する。	30分
3	第一部 月4/20 木4/23	【自己紹介】	お互いに自己紹介するシーンを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、コミュニケーションの第1歩である挨拶表現を身につけ、相手の言っていることを理解し、自己紹介をすることができる。	
		事前学修	8頁のシーンを読んで準備する。	30分
		事後学修	8ページの挨拶表現を暗記し、自己紹介する文を5文作る。	30分
4	第一部 月4/27 木4/30	【名詞の性と格】【定冠詞と不定冠詞の違い】	名詞には男性・女性・中性の性別があり、文中での働きによって1・2・3・4格の区別があること、定冠詞と不定冠詞縫について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、格について理解し、文中の名詞の性別と格を指摘し、辞書で引いた名詞にはその性別と格に応じて、正しい冠詞をつけることができる。	
		事前学修	第2課「サッカー・ワールドカップ」の10～11頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
5	第一部 月5/4 木5/7	【サッカー・ワールドカップ】	まとまった文章中で、動詞と名詞に注目して、文の構造を理解することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、冠詞の用法と名詞の複数形について理解し、それらが用いられている文の解釈をすることができる	
		事前学修	予習プリントを参考に、独和辞典を引いて、9頁の文章を読んで準備する。	35分
		事後学修	9頁の文中で使われている冠詞を指摘し、その格を確認する。10頁と11頁にある定冠詞と不定冠詞の格変化表を暗記する。	25分
6	第一部 月5/11 木5/14	【郵便局で】	数詞、国名、料金のききかたについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、数字を使って、郵便料金と郵便物を出す宛先の国名を言い、料金を聞き取ることができる。	
		事前学修	12～13頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	数詞を音読し、パートナーを見つけて13頁の会話文を練習する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 木5/21	【不規則変化の動詞】【分離動詞】	現在形で不規則に変化する動詞と実際の文章で別れる「分離動詞」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現在形で不規則に変化する動詞と分離動詞について理解し、それらを辞書で調べることができ、それらを用いた文を作ることができる。	
		事前学修	第3課「ケーキ」の15～16頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。15頁にある不規則動詞の変化を暗記する。	25分
8	第一部 月5/25 木5/28	【ケーキ】【レストランで注文】	ドイツのカフェやレストラン事情と注文の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツの食文化を理解して説明することができ、カフェやレストランで注文することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、14頁と17頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	パートナーと17頁の会話を練習する。	20分
9	第一部 月6/1 木6/4	【前置詞】【人称代名詞】	前置詞の意味と「格支配」、人称代名詞の格変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、前置詞と人称代名詞について理解し、それらを使って文を作ることができる。	
		事前学修	第4課「パン」の19～20頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。20頁にある人称代名詞の変化表を暗記する。	25分
10	第一部 月6/8 木6/11	【パンの文化】	ドイツ人の食生活について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツのパンと人々の食生活の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、18頁と21頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	日本とドイツの食習慣の違いについてまとめる。	20分
11	第一部 月6/15 木6/18	【さまざまな冠詞】【名詞に付ける形容詞】	定冠詞・不定冠詞以外の冠詞と、名詞に付ける形容詞の語尾について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いろいろある冠詞類の意味を区別して、使い方を理解し、正しく発音することができる。	
		事前学修	第5課「メーアヒェン」の23頁と24頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。23頁にあるdieserとmeinの変化表を暗記する。	25分
12	第一部 月6/22 木6/25	【有名なメーアヒェン】【プレゼントへのコメント】	1文が長い場合の文章理解の仕方について、および、自分の意見を表現する方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、相手に意見を求めるコミュニケーションのパターンを身につけて、使うことができる。グリムや童話について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、22頁と25頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	グリム兄弟はどういう仕事をしたのかをまとめ、「ホレおばさん」や「ラップンツェル」などの童話のあらすじを調べてみる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 木7/2	【話法の助動詞】【形容詞の比較変化】	話法の助動詞の意味と変化と構文のついて、おろび、形容詞原級・比較級・最上級について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、話法の助動詞構文と形容詞の比較変化について理解し、これらを用いた文を作ることができる。	
		事前学修	第6課「運転に気をつけて！」の27～28頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。27頁の変化表を暗記し、27頁と28頁の例文を音読して、正しい発音を身に付ける。	25分
14	第一部 月7/6 木7/9	【アオトバーンと教習所】	複合名詞の辞書での調べ方とその発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、複合語を正しく発音して意味をつかむことを理解し、アオトバーン事情とドイツでの運転免許証の取り方について説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、26頁と29～30頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	26頁と30頁を音読する。この回のテーマについて、ドイツと日本で違う点をまとめる。	20分
15	第一部 月7/13 木7/16	【振り返り】【授業内試験】	前学期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の全般に関し、どの程度身についたかを授業内試験によって判断する。	
		事前学修	前学期での学習内容を総復習して、理解してないところはないかどうか確認する。。	120分
		事後学修	授業内試験で正答を出せなかった箇所に関し、教科書やノートを調べて再検討する。	20分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4（読む・聞く・話す・書く）技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを同時履修すること。

【授業方法】
ドイツ語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ドイツ語ルネサンス」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜2限、授業後の教室, もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを、実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音し、ノートに書いてみる。	30分
2	4/15	発音の3大原則	アルファベットの発音を復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ドイツ語の発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音し、スペルをノートに書いてみる。主語となる代名詞を覚えておく。	30分
3	4/22	現在人称変化	基本動詞、sein、habenの変化を説明してから、会話文に進む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分、専攻を聞かれて、正確に聞き取り、その質問にドイツ語で答えることができる。	
		事前学修	CDを聞きながら、質問のフレーズを暗唱し、自分のことを言う練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
4	4/29	自己紹介と他己紹介	基本動詞、sein、habenの変化を復習し、その後、自己紹介と他己紹介の文を扱う。動詞の意味を辞書で調べる方法も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分のこと、身近の人をドイツ語で紹介することができる。	
		事前学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、質問と答えのパターンに習熟しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
5	5/6	名詞と冠詞	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の違い及び格の違いが分かったうえで、会話文の中で格を見分けることができる。	
		事前学修	基本会話に頻繁に使われる、主格と直接目的語の形を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
6	5/13	定冠詞と不定冠詞	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞、不定冠詞の用法及び格の役割が分かったうえで、会話文の中で適切な冠詞を使うことができる。	
		事前学修	基本会話に頻繁に使われる、主格と直接目的語の形だけではなく、間接目的語の形も確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	現在人称変化（2）	ここでは2人称、3人称単数で母音交替が起こる動詞の人称変化を取り上げる。	
		この回の到達目標	fahren, sprechen, sehen, essen ,geben などに日常会話に頻繁に出てくる動詞を、主語を自由に変えて活用できる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。辞書で不規則変化動詞を引いて、意味と活用を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
8	5/27	人称代名詞の3格、4格	人称代名詞の1格（主語）はすでに学んだが、ここでは3格（間接目的語）と4格（直接目的語）を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて使うことができる。	
		事前学修	定冠詞、不定冠詞の3格、4格の形を抜き出し、人称代名詞の3格とスペル上の共通項を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
9	6/3	定冠詞類と不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞）	定冠詞類と不定冠詞類（所有冠詞）の格変化を定冠詞、不定冠詞の格変化と関連付けて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、定冠詞類、特に、不定冠詞類（所有冠詞）を使って、「この・・・」「私の・・・」「あなたの・・・」「彼の・・・」「彼女の・・・」などを表現できるようになる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
10	6/10	疑問代名詞と疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、疑問詞を駆使し、いろいろな質問をすることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。疑問代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、共通項を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
11	6/17	数詞、時刻	数字20～100の言い方、および、時刻の言い方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特に21以上の数字の言い方、また、時刻に関して「…半」「…時15分前」「…時15分過ぎ」の表現を難なく聞き取り、言うことができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。数字を暗唱しておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
12	6/24	自分の好み、趣味、計画を伝える。 身近な人の好み、趣味、計画を聞き取る	自分の好み、趣味、計画の伝え方を文法的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の好み、趣味、計画を文法的に正しく伝えることができる。また、身近な人の好み、趣味、計画を正確に聞き取ることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞の使い方について説明する。	
		この回の到達目標	「が・の・に・を」以外の関係、例えば、「・・・と」「・・・へ」「・・・から」を意味する前置詞によって、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	授業で扱った日常表現を振り返り、難なく訳し、表現できるよう、発音し、ノートに書いておく。試験に備えて、基本単語、基本的な語形変化、基本フレーズを難なく言えるように、かつ、書けるようにしておく。	150分
14	7/8	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。問題の意図を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平易な文を訳し、自己紹介、他己紹介等、難なく表現できる。	
		事前学修	試験に備えて、CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	自分の誤り、欠点を認識することができる。それによって、到達目標①②③④に関連して、簡単な挨拶、自己紹介、他己紹介、日常生活関する会話ができるようになる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜5時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜5限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧「ドイツ語Ⅱ」)と同時に履修すること。受講の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワーク等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！レーゼン	新倉真矢子ほか	第三書房	2016年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義、 アルファペート	今後の学習についての概要を説明する。アルファペートを練習する。	
		この回の 到達目標	達成目標①に関連して、アルファペートを身につけることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を購入した人はひととおりを通しておくこと。	30分
		事後学修	第2回の授業までに教科書を準備しておくこと。教科書にひととおりを通しておくこと。	30分
2	4/15	挨拶表現、発音、数詞	簡単な挨拶表現を説明する。数字についても、きちんと読めて覚えることを目指す。	
		この回の 到達目標	達成目標①④に関連して、基本的に挨拶と数字を言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を持参して授業に参加すること。学習事項を前もって少し予習しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
3	4/22	動詞の現在人称変化・語 順、自己紹介①	動詞の現在人称変化・語順について解説する。自己紹介の基本的な表現を説明する。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の現在人称変化や語順を説明することができる。関連する問題を解くことができる。自己紹介をすることができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
4	4/29	自己紹介②、動詞の現在人 称変化・並列の接続詞	自己紹介の基本的な表現を使って練習する。動詞の現在人称変化・並列の接続詞について解説する。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の現在人称変化や並列の接続詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。自己紹介をすることができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
5	5/6	数詞・ドイツの国々	数詞を改めて練習する。ドイツの国々に関するテキストを読む。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、数詞を言うことができる。関連する問題を解くことができる。ドイツの国々に関するドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
6	5/13	定冠詞・不定冠詞・否定冠 詞、広告①	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞について解説する。ドイツの広告に関する表現を説明する。	
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞を説明することができる。ドイツの広告に関するドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	広告②、名詞の複数形、人称代名詞	ドイツの広告に関するテキストを読む。名詞の複数形、人称代名詞について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、名詞の複数形と人称代名詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。ドイツの広告に関するドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
8	5/27	ドイツ語圏の食べ物・飲み物	ドイツ語圏の食べ物・飲み物に関する表現を練習する。関連するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の食べ物や飲み物に関する表現を学び、それをテーマにしたドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
9	6/3	不定冠詞類・定冠詞類、家族と職業①	不定冠詞類・定冠詞類について解説する。家族と職業に関する表現を練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞類と不定冠詞類を説明することができる。関連する問題を解くことができる。家族と職業に関する表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
10	6/10	家族と職業②	家族と職業に関するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、家族と職業に関する表現を学び、それをテーマにしたドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
11	6/17	動詞の人称変化・命令形、余暇活動①	動詞の人称変化・命令形について解説する。余暇活動に関する表現を覚える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の人称変化と命令形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。家族と職業に関する表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
12	6/24	独検模試(5級)の実施と解説	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	余暇活動②	余暇活動に関するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、余暇活動に関する表現を学び、それをテーマにしたドイツ語のテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
14	7/8	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、筆記試験を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	7/15	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検4級受験のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項についてあらためて全体像を見直し、弱点を把握しその対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Bと通年で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
イン・ドイチュラントドイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか	朝日出版社	2016年	教科書	必携
新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義、アルファベート	今後の学習についての概要を説明する。アルファベートを練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、アルファベートを身につけることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を購入した人はひととおりの目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第2回の授業までに教科書を準備し、教科書の全体に目を通しておくこと。	30分
2	4/15	つづりと発音、第0課 ドイツ語のあいさつ、数詞①	簡単な挨拶表現を説明する。数字についても、きちんと読めて覚えることを目指す。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、基本的に挨拶と数字を言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	教科書を準備して授業に参加すること。アルファベートが言えるように、音声教材を活用して練習してくる	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
3	4/22	第1課 導入の会話、人称代名詞、動詞の現在人称変化、数詞②	導入の会話を通して、人称代名詞、さらに動詞の人称変化について学習する。数字も引き続き言えるものを増やしてゆく。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、人称代名詞、動詞の人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
4	4/29	第1課 sein、疑問詞、数詞③	英語のbe動詞に相当する動詞seinの人称変化を解説し、関連する練習問題を解く。引き続き、数字も練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞seinの人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
5	5/6	第2課 導入の会話、haben、名詞の性、数詞④⑤⑥⑦	動詞habenの人称変化を解説し、関連する練習問題を解く。引き続き、数字も練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞habenの人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
6	5/13	第2課 語順、決定疑問文と答え方、数詞の復習	ドイツ語の語順に関する法則と疑問文の作り方について解説し、関連する練習問題を解く。数字も、100まで言えるようにする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語の語順に関する法則と疑問文の作り方を説明することができる。数字を100まで言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	第3課 導入の会話、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
8	5/27	第3課 数詞、並列の接続詞、第4課 導入の会話	数詞、並列の接続詞について解説し、関連する練習問題を解く。4課の導入の会話を通じて、次の授業のポイントを説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、数詞、並列の接続詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	6/3	第4課 不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞	不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	6/10	第5課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(1)、名詞の3格、人を表す疑問代名詞	不規則変化動詞、3格の用例、疑問代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、3格の用例、疑問代名詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
11	6/17	独検(5級) 説 模試の実施と解	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	6/24	第6課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のes	導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のesについて解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在人称変化の不規則な動詞、人称代名詞、非人称のesについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	これまでの復習	次回の試験に向けて、前期の学習内容を一通り復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握してその対策を説明することができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
14	7/8	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、筆記試験を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	7/15	前期の内容の総復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検4級受験のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項についてあらためて全体像を見直し、弱点を把握しその対策を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習を復習すること。	30分
		事後学修	理解が十分でなかったところを中心に、復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	安藤 勉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
ごくやさしく煩雑ではない教科書を用い、辞書の引き方も学びながら、授業を進めます。授業の冒頭で必ず前回の復習をします。第14回目に試験と解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目から演習の形式で授業をすすめます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でフィードバックをします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ご存じですかドイツ？ [情報からドイツ]		朝日出版社	2003		
備考	間違いがないように、最初の授業時間の中で、教科書・辞書について詳しく説明します。				

【オフィスアワー】
水曜16:10～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	教材の作成など。
実務経験に基づく実践的教育の内容		教材の作成などに基づく授業。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス。	ガイダンス。授業の進め方・成績評価などの説明。	
		この回の到達目標	授業の進め方。	
		事前学修	シラバスと教科書を読み、講義の全体を概観してください。(30分)	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをしてください。(30分)	30分
2	4月15日	はじめてのドイツ語。	ドイツ語という言葉。	
		この回の到達目標	ドイツ語に接する。	
		事前学修	教科書の目次とアルファベットを見てきてください。(30分)	30分
		事後学修	教科書とノートに沿って復習してください。(30分)	30分
3	4月22日	アルファベット。	文字と発音（1）	
		この回の到達目標	アルファベットを学ぶ。	
		事前学修	ドイツ語の文字について教科書で予習してください。	30分
		事後学修	文字と発音を復習してください。とくに英語にはない4文字について。	30分
4	4月29日	アルファベット。	文字と発音（2）。	
		この回の到達目標	アルファベットを学ぶ。	
		事前学修	前回の文字と発音を確認してください。	30分
		事後学修	文字と発音を復習してください。	30分
5	5月6日	動詞の変化。	Lektion1 動詞の変化（1）。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化を学ぶ。	
		事前学修	動詞の人称変化について4ページを予習してください。	30分
		事後学修	ドイツ語の動詞は英語とは異なり語尾などが変化します。その変化を復習してください。動詞はとくに重要です。	30分
6	5月13日	動詞の変化。	Lektion1 動詞の変化（2）。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化を学ぶ。	
		事前学修	前回の動詞の変化について確認してください。	30分
		事後学修	動詞の変化を復習してください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	名詞と冠詞の性と格。	Lektion2 名詞と冠詞。	
		この回の到達目標	名詞と冠詞の性と格を学ぶ。	
		事前学修	名詞の性と冠詞について、8ページを予習してください。	30分
		事後学修	名詞と冠詞の変化について復習してください。名詞も冠詞も語尾などが変化します。	30分
8	5月27日	冠詞類の変化。	Lektion3 冠詞類。	
		この回の到達目標	冠詞類の変化を学ぶ。	
		事前学修	冠詞類について、12ページを予習してください。	30分
		事後学修	冠詞類の変化について復習してください。	30分
9	6月3日	前置詞の格支配。	Lektion4 前置詞の格支配。	
		この回の到達目標	前置詞の格支配について学ぶ。	
		事前学修	前置詞について、16ページを予習してください。	30分
		事後学修	前置詞について復習してください。	30分
10	6月10日	形容詞の語尾変化。	Lektion5 形容詞。	
		この回の到達目標	形容詞の語尾変化を学ぶ。	
		事前学修	形容詞の語尾変化について、20ページを予習してください。	30分
		事後学修	形容詞の語尾変化について復習してください。	30分
11	6月17日	形容詞の比較級と最高級。	Lektion6 形容詞の比較。	
		この回の到達目標	形容詞の比較級と最高級を学ぶ。	
		事前学修	形容詞の比較について、24ページを予習してください。	30分
		事後学修	形容詞の比較について復習してください。	30分
12	6月24日	動詞の3基本形。	Lektion7 動詞の3基本形と過去。	
		この回の到達目標	動詞の過去形と過去分詞を学ぶ。	
		事前学修	動詞の3基本形について、28ページを予習してください。(30分)	30分
		事後学修	動詞の3基本形と完了について復習をしてください。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	総復習とまとめ。	期末試験に備えての総復習。	
		この回の到達目標	前期の総復習とまとめ。	
		事前学修	期末試験に備えて疑問点を洗い出してください。	60分
		事後学修	第1回目からの授業の総復習をして、試験に備えてください。	60分
14	7月8日	試験、総復習。	試験、解説	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	試験のための復習をしてください。	60分
		事後学修	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。	60分
15	7月15日	試験、総復習。	試験、前期の学習範囲の総復習。	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	もう一度、前期の問題点を確認してください。	60分
		事後学修	前期のまとめをしてください。	60分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	富山 典彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語未履修者

【授業方法】
ドイツ語の基本的な文法事項に沿って、必要な語彙や表現を覚えていくことで、「到達目標」に達することを目指す。授業中に、聞き取り練習や発話練習を行うとともに、適宜小テストを実施して、到達度を測定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループに分かれて、ドイツ語の会話の練習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループに分かれて、ドイツ語の会話の練習をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Bravo! Deutsche Grammatik	富山典彦	郁文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
連絡することがあればメールでしてください。tomiyama@seijo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語のアルファベットの発音をします。	
		この回の到達目標	ドイツ語のアルファベットの読み方を覚える。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	発音練習をする。	30分
2	4月17日	ドイツ語の母音と子音	ドイツ語の母音と子音の発音をマスターする。	
		この回の到達目標	ドイツ語の母音子音を正しく発音できるようになる。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	発音練習をする。	30分
3	4月24日	かんたんな挨拶表現	ドイツ語で挨拶ができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	かんたんな挨拶表現を書く練習をする。	30分
4	5月1日	名詞の性と複数形	身近な名詞の性と複数形を覚える。	
		この回の到達目標	身近な名詞の性と複数形を覚える。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な名詞の性と複数形を書く練習をする。	30分
5	5月8日	身近な動詞を覚える(1)	身近な動詞を使った表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な動詞を使った表現を書く練習をする。	30分
6	5月15日	身近な動詞を覚える(2)	身近な動詞を使った表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	身近な動詞を使った表現を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月22日	身近な動詞を覚える(3)	身近な動詞を使った表現を身につける。
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。
		事前学修	CDを聞いておく。30分
		事後学修	身近な動詞を使った表現を書く練習をする。30分
8	5月29日	名詞と冠詞の格変化(1)	格変化した名詞と動詞の表現を身につける。
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。
		事前学修	CDを聞いておく。30分
		事後学修	格変化した名詞と動詞の表現を書く練習をする。30分
9	6月5日	名詞と冠詞の格変化(2)	格変化した名詞と動詞の表現を身につける。
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。
		事前学修	CDを聞いておく。30分
		事後学修	格変化した名詞と動詞の表現を書く練習をする。30分
10	6月12日	命令文	命令したり依頼したりすることができるようになる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。
		事前学修	CDを聞いておく。30分
		事後学修	命令表現を書く練習をする。30分
11	6月19日	否定文	相手の問いに否定で答えることができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。
		事前学修	CDを聞いておく。30分
		事後学修	否定文を書く練習をする。30分
12	6月26日	話法の助動詞	話法の助動詞を用いた表現を身につける。
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。
		事前学修	CDを聞いておく。30分
		事後学修	話法の助動詞を用いた表現を書く練習をする。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	前置詞	前置詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩をマスターする。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	前置詞を用いた文を書く練習をする。	30分
14	7月10日	再帰表現	再帰表現を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	再帰表現を用いた文を書く練習をする。	30分
15	7月17日	時刻の言い方	時刻の言い方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	時刻の言い方を書く練習をする。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	渡邊 善和	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
学習に当たっては、謙虚に、しかし好奇心旺盛に、しかも自発的にこつこつと学んでいく姿勢を期待する。途中で放棄するような意志薄弱な人は受講を遠慮して欲しい。

【授業方法】
テキストに沿って講義、演習をする。毎回復習を繰り返し、既習内容の定着を図る。DVD，CDなど視聴覚教材を適宜活用する。授業はやみくもに急ぐことなく、解説、指導は丁寧にすることを心がける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前回の授業を振り返り、疑問点を積極的に出させ、まずはそれに他の学生に答えさせる。その後教師のほうで解説する。またドイツに関する興味深い体験があればみんなの前で披露させ、他の受講生の意見を求める。る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で発表させ解説する。小テストは採点の上、訂正返却する。映画の感想は学生のものにコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベルリンに夢中』	石井学他	同学社	平成31 年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日（８：３０～８：５０分）また特に要望のある学生にはメールでの質問に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金4/10	ドイツ、ドイツ語とは	授業ガイダンス。また「ドイツ」、「ドイツ語」を概観しておく。	
		この回の到達目標	教員の授業に関する考え方を理解する	
		事前学修	シラバスおよび指定テキストを読み、講義の全体を概観しておく。	30分
		事後学修	この授業の内容を踏まえて、再度上記のテキストを読み直す。	30分
2	金4/17	アルファベット	ドイツ語のアルファベットの学習 ドイツ紹介DVD視聴 1	
		この回の到達目標	学習内容の暗記	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	アルファベットの復習をする。（文字、発音を正確に覚える。また発音は声に出して体にしみこませる。）	30分
3	金4/24	単語のつづりと発音	ドイツ語の単語のつづりと発音 1 ドイツ紹介DVD視聴 2	
		この回の到達目標	綴りと発音の法則性を理解・暗記する	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容を復習する。（発音は綴りと関係づけて覚える。またしっかり声に出して練習する）	30分
4	金5/1	動詞の現在人称変化	前回の復習とやり残したドイツ語の単語のつづりと発音 2 を解説の上練習する。 第 1 課 動詞の現在人称変化、語順などの解説および関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第 1 課	
		この回の到達目標	現在人称変化法の習得	
		事前学修	再度単語の発音練習をする。テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題ページの予習をする。	30分
5	金5/9	挨拶表現、名詞・冠詞類	第 1 課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第 2 課 名詞、冠詞類の解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第 2 課	
		この回の到達目標	挨拶表現とドイツ語の名詞・冠詞の理解と暗記	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題の自習をする。	30分
6	金5/8	名詞の複数形	第 2 課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第 3 課 複数形の解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第 3 課	
		この回の到達目標	複数形の作り方の習得	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題の自習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金5/15	不規則変化動詞、人称代名詞	第3課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第4課 不規則変化動詞、人称代名詞などの解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第4課	
		この回の到達目標	不規則動詞、人称代名詞23の変化の暗記	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題の自習をする。（30分）	30分
8	金5/22	前置詞	第4課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 復習プリントの配布 第5課 前置詞の格支配の解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第5課	
		この回の到達目標	前置詞の格支配の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題のページおよび配布プリントの自習をする。	30分
9	金5/29	会話練習	第5課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。配布プリントの答え合わせをする。 これまでの総復習 1	
		この回の到達目標	今までに習得した文法事項・表現を応用して簡単な会話練習をする。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習をする。	30分
10	金6/5	オーストリア・スイス紹介	これまでの総復習 2 オーストリア・スイス文化の解説 オーストリア・スイス紹介DVD視聴	
		この回の到達目標	しっかりオーストリア及びスイスを理解する	
		事前学修	オーストリア・スイスについて調べる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および両国についてもっと深く調べる。	30分
11	金6/12	ドイツ映画の鑑賞	ドイツの映画を鑑賞する。	
		この回の到達目標	映像を通して「ドイツ」を深く知る	
		事前学修	ドイツにかかわるテレビ番組や映画を見てくる。	30分
		事後学修	今回の映画の感想をメモしておく。	30分
12	金6/19	ドイツ映画鑑賞の続き	前回のドイツの映画の鑑賞をする。（前回の続き）	
		この回の到達目標	この映画の訴えたかったところを考察しレポートに書く	
		事前学修	前回のメモを、映画に関連して調べたことなどを加えて整理しておく。	30分
		事後学修	この映画の感想をもとに、新たに調べたことなどを加えてレポートの形にまとめる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金6/26	冠詞類及びその格変化、否定表現	第6課 冠詞類、冠詞類の格変化、nichtとkeinの解説と関連の練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第6課	
		この回の到達目標	冠詞類の理解、及ぼその変化の暗記、否定表現の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題のページの自習をする。	30分
14	金7/3	分離動詞、接続詞	第6課 練習問題のページと会話文の訳および簡単な会話練習をする。 第7課 分離動詞、非分離動詞、接続詞の解説と関連の練習問題をする。 復習プリントの配布（解答付） ベルリン紹介DVD第7課	
		この回の到達目標	分離動詞及び接続法の用法の理解、練習問題によるその定着	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習および練習問題のページと復習プリントの自習をする。（30分）	30分
15	金7/10	総括・学力考查	学力考查（授業内試験）及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	授業内試験の実施と解説	
		事前学修	試験範囲を徹底的に復習する。	30分
		事後学修	今回の試験に関し反省し後のステップにつなげる。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題や会話練習を順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得に応じて適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子 他	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも受け付ける。授業後も教室等にて対応する。授業時間：火曜 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	形容詞の格変化	夏休み課題の答え合わせ 形容詞の格変化	
		この回の到達目標	形容詞の格変化の理解と習得。	
		事前学修	夏休みの課題をしておく。 Lektion 7 の解説を読んでおく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
2	9/22	形容詞の比較表現	形容詞・副詞の比較 Lektion 7 Dialog	
		この回の到達目標	形容詞の比較表現の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 7 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
3	9/29	分離動詞	分離動詞・非分離動詞	
		この回の到達目標	分離動詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 8 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
4	10/6	非分離動詞とzu不定詞	分離動詞を復習する zu不定詞	
		この回の到達目標	非分離動詞とzu不定詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 8 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
5	10/13	zu不定詞句	zu不定詞・zu不定詞句 Lektion 8 Dialog	
		この回の到達目標	zu不定詞句の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 8 の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
6	10/20	動詞の三基本形	動詞の三基本形 現在完了形（1）	
		この回の到達目標	動詞の三基本形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 9 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	現在完了形	現在完了形（2）	
		この回の到達目標	現在完了形の理解と習得。	
		事前学修	現在完了形の箇所を再度読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
8	11/10	現在完了形の復習	現在完了形（3） Lektion 9 Dialog	
		この回の到達目標	現在完了形の習得。	
		事前学修	Lektion9の未学習の箇所を予習する。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
9	11/17	過去形	過去形	
		この回の到達目標	過去形の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 10 の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
10	11/24	人称代名詞と再帰代名詞	再帰代名詞・再帰動詞	
		この回の到達目標	人称代名詞と再帰代名詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion 10 再帰代名詞の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
11	12/1	再帰動詞	再帰動詞 Lektion10 Dialog	
		この回の到達目標	再帰動詞の理解と習得。	
		事前学修	再帰動詞の箇所を再度読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し、課題をする。	60分
12	12/8	関係代名詞	文法補足 1 関係代名詞 2 不定関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞の理解と習得。	
		事前学修	文法補足 1 関係代名詞の解説を読んでく。	30分
		事後学修	授業内容を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	受動態	文法補足 4 受動形	
		この回の到達目標	受動態の理解と習得。	
		事前学修	文法補足 4 受動形の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習する。	60分
14	12/22	接続法	文法補足 5 接続法 後学期文法内容の復習	
		この回の到達目標	接続法の理解と習得。	
		事前学修	文法補足 5 接続法の解説を読んでおく。	30分
		事後学修	後学期学習した文法事項を総復習する。	120分
15	1/12	試験と反省	後学期授業内試験 試験後、テスト内容について解説する。	
		この回の到達目標	試験と反省。	
		事前学修	後学期試験の為十分復習し勉強する。	120分
		事後学修	自己の出来、不出来をチェックして1年間のドイツ語学習を総括する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。やむをえぬ事由で欠席が複数回におぶときは、事前か事後に申し出て、指導を受けてください。

【授業方法】
前期教材、ドイツ語基礎表現Aの後半を使用して指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に確認する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016		
備考	現代のドイツの環境意識をテーマに、やさしくドイツ語を学べます。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/11予定 予定	前期試験の結果と前期の復習	前期の復習授業。	
		この回の到達目標	前期学習内容をふまえて、後期の学習の到達点と今後の学習指針をあたえる。	
		事前学修	前期の復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
2	9/18	過去時制の文章の訳読1	テキストLektion7 ドイツのお城に泊まる 話法の助動詞	
		この回の到達目標	自力で訳文を作る練習。その成果を発表してもらう。後期からは、プリントによる訳読問題も配布してテキストとあわせて実力を養います。プリントは教場にて配布します。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
3	9/26	過去時制の文章の訳読2	テキストLektion7 ドイツのお城に泊まる 名詞の複数形	
		この回の到達目標	自主的に指定の訳読訳文を作り、講義中にその精度を確かめる。各回の分量はそんなに多くはありません。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
4	10/2	過去時制の文章の訳読3	テキストLektion8 待ち合わせはどうやって？ 時刻表現・再帰動詞	
		この回の到達目標	時刻表現の習得。日常表現の習得。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
5	10/9	過去時制の文章の訳読4	テキストLektion8 待ち合わせはどうやって？	
		この回の到達目標	過去形になれる。規則動詞・不規則動詞の使い分け。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
6	10/16	過去時制の文章の訳読6	テキストLektion9 旅行案内所にて 分離／非分離動詞の使い方	
		この回の到達目標	過去時制になれる。同上。動詞のバリエーションを解説。分離・非分離動詞のしくみ。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23	現在完了形と、「わたしは～したい」とい表現法。(旅行用語)	テキストLektion9 旅行案内所にて。旅行に必要な表現について。	
		この回の到達目標	実用的表現の取得。かんたんな表現で、知りたいことをたずねる。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
8	10/30	いつ、どこで、だれと？という問いかけと答え。	テキストLektion10 誰と会ったのですか？ 完了表現	
		この回の到達目標	駅や道ばたで案内を乞うときの表現の習得。地図的な用語。都市名や建物、美術館などを使った慣用表現。プリントにて教材を補います。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
9	11/6	完了表現について学ぶ。	テキストLektion10 誰と会ったのですか？ 完了表現(実は現在形のかわりに多用される)	
		この回の到達目標	haben支配sein支配の動詞の識別(簡単です)ですが、ここをおさえないと日常会話で変なことになります。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
10	11/13	書き言葉・話し言葉	テキストLektion11 過去と完了表現のちがい(1) 過去形の基本	
		この回の到達目標	話し言葉は「現在完了」文書は「過去形」で表す基本を習います。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
11	11/20	10課におなじ。	テキストLektion11 過去と完了表現のちがい(2) 過去形の応用 字力で訳文をつくってもらい練習をします。	
		この回の到達目標	文章表現は過去形。会話は現在完了形の原則を意識します。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
12	11/27	四季折々、一年の季節などカレンダー的表現。	テキストLektion12 冬時間と夏時間 形容詞の比較 付加語的用法	
		この回の到達目標	日常的に使われる時間・季節・行事などの表現を学ぶ。	
		事前学修	単語調べ。(30分)	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4	やや上級な表現法。	接続法というもうひとつの動詞の変化（１）	
		この回の到達目標	かんたんな接続法の例文を覚えます。	
		事前学修	単語調べ。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
14	12/11	非現実話法の使い方	接続法というもうひとつの動詞の変化（２）	
		この回の到達目標	非現実話法とは仮定法のこと。典型的な表現で基本をまなびましょう。	
		事前学修	前回までのまとめ学習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
15	12/18予定	後期試験 まとめ	学期末の教場筆記試験 まとめ、振返り	
		この回の到達目標	試験合格60点以上	
		事前学修	試験準備（60分以上）	60分
		事後学修	試験の反省。（30分）	15分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、文章講読、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身につくドイツ語・初級（改訂新版）	前田良三・高木葉子	郁文堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館2階教員室（学生は立入禁止のため、本館1階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	完了形	助動詞構文、seinとhabenの人称変化を確認する。 完了文の読解と作文。	
		この回の到達目標	完了の助動詞の使い分けができる。 完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	英語の完了時制をまとめてみる。 habenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	語順、用法について英語との違いなどを確認する。	30分
2	水9/23	分離動詞	分離動詞を辞書で引いてみる。 分離する場合としない場合を例文で確認する。	
		この回の到達目標	基礎動詞と前綴りの関係に留意して例文を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の熟語動詞表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	分離動詞の使い方を、基礎動詞、前綴りの配語法から確認する。	30分
3	水9/30	命令形	二人称の使い分け、規則動詞、不規則動詞の人称変化を確認する。 会話文を読みながら命令文を理解する。	
		この回の到達目標	三つの形式の命令文を作ることができる。	
		事前学修	規則動詞、不規則動詞の人称変化を復習する。	30分
		事後学修	命令する相手に応じた三つの形式を例文によって復習する。	30分
4	水10/7	再帰動詞	人称代名詞を復習する。 ドイツ語の再帰代名詞を練習する。 再帰動詞を例文で理解する。	
		この回の到達目標	再帰表現を読み取り、辞書でも調べることができるようにする。	
		事前学修	英語、日本語の再帰表現を思い起こしてみる。	30分
		事後学修	再帰代名詞を覚えた上で、具体的な使い方を熟語表現として練習する。	30分
5	水10/14	接続詞と副文	接続詞の種類を学ぶ。 動詞の位置などに注目して読解訓練をする。	
		この回の到達目標	接続詞による語順の違いを理解する。 従属接続詞を伴った副文を読み取ることができる。	
		事前学修	動詞の位置に関して、今まで学んだことを復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を、接続詞を中心に読み直してみる。	30分
6	水10/21	zu不定詞	zu不定詞の用法を例文で学ぶ。 分離動詞のzu不定詞を作る。 他の文成分が入って句になった場合の語順に着目する。	
		この回の到達目標	zu不定詞の入った文を読み解くことができる。	
		事前学修	英語のto不定詞の用法をまとめる。	30分
		事後学修	句になった場合の語順、分離動詞のzu不定詞など確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	非人称動詞	日常でもよく使う様々な非人称表現を練習をする。	
		この回の到達目標	主な非人称表現を使えるようにする。	
		事前学修	英語の非人称表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	es gibt + 4格などの用例を確認する。	30分
8	水11/11	形容詞・副詞の比較変化	形容詞・副詞の比較変化形を練習する。 例文によって主な比較表現をまとめる。	
		この回の到達目標	よく使われる比較表現を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の形容詞の比較表現を振り返ってみる。	30分
		事後学修	例文、練習問題の具体例で復習する。	30分
9	水11/18	指示代名詞・関係代名詞 (1)	定冠詞の格変化を確認する。 指示代名詞を使った例文を読む。 関係文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	英語とは違う指示代名詞・関係代名詞の使い方を理解する。	
		事前学修	定冠詞の格変化の復習。 英語の関係代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	性、数、格や動詞の位置からドイツ語の関係代名詞を復習する。	30分
10	水11/25	関係代名詞 (2)	定関係代名詞、不定関係代名詞を用いた用例を読み解く。 関係代名詞の格変化、動詞の位置などに着目する。	
		この回の到達目標	関係文を含んだ長い文になじむ。	
		事前学修	英語の関係代名詞の使い方をまとめてみる。	30分
		事後学修	代表的例文を確認する。	30分
11	水12/2	受動文	助動詞構文、werdenとseinの人称変化、過去分詞の作り方を確認する。 werdenの三つの用法をまとめる。 受動文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	状態受動を含めて受動文を作ることができる。	
		事前学修	werdenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	状態受動、時制による表現形式の違いなど例文で確かめる。	30分
12	水12/9	接続法の形態	接続法の人称変化の練習をする。 接続法の主な用法を知る。 接続法第一式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	間接話法、要求話法を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の間接話法、仮定法を確認する。	30分
		事後学修	先ず接続法の人称変化を復習する。 代表的な用例を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	非現実話法	接続法の人称変化を確認する。 接続法第二式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	非現実話法、外交的接続法などを読み取ることができる。	
		事前学修	接続法の人称変化の復習。	30分
		事後学修	代表的な用例を理解する。	30分
14	水12/23	後期のまとめ	後期の学習を文法事項を中心に整理する。 質問を受けて補足説明をする。	
		この回の到達目標	これまでの勉強で不十分な所がないか確認する。	
		事前学修	後期全体の復習をする。 疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	理解が不十分な点を再度復習。	30分
15	水1/13	試験	試験をした後、解説と講評を行う。	
		この回の到達目標	後期の勉強の成果を明らかにし、これからの勉強の発展につなげる。	
		事前学修	重要項目を復習する。	30分
		事後学修	試験結果を点検し、今後の学習の展望を得る。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。独和辞書必携。ドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
ドイツ語基礎表現Aの続き行う。発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に行う。確認小テストを適宜行う。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る						1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する						1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする						1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却、添削する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子	朝日出版社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
授業（火曜5限もしくは木曜2限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	前期の復習	前期に学習した動詞と名詞の変化の確認、単語の発音について復習し、練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した重要動詞を確認し、文を作ることができる。	
		事前学修	前期に練習した単語の発音を復習すること。	30分
		事後学修	動詞の人称変化を復習し、確実に覚えること。	30分
2	第一部木 9/17	前置詞	5課 前置詞の使い方について説明する。重要表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の格支配、意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	名詞、冠詞類の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	前置詞の格支配と使い方を復習すること。	30分
3	第一部木 10/1	どう行けばいいですか？	前置詞と代名詞の融合形、前置詞格をとる動詞について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。行き方を尋ねる表現練習と行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞を使った文を確認し、行き方を尋ねる表現や道順について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習と前置詞の問題を復習する。	30分
4	第一部木 10/8	話法の助動詞	6課 話法の助動詞の変化とその文型、未来形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、話法の助動詞の変化と意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の例文を発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	話法の助動詞の変化と意味を確実に覚える。重要表現練習を復習する。	30分
5	第一部木 10/15	お城をを見てみたい	接続詞と副文について説明する。時刻の表現について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。「～したい」の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、従属の接続詞と副文について理解し、説明することができる。時刻の表現と自分のしたいことについて表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習と接続詞の問題を復習する。	30分
6	第一部木 10/22	形容詞	7課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化について理解し、説明することができる。	
		事前学修	冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞の変化について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	料理の注文	形容詞の比較表現について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。注文する時の表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較表現について理解し、説明することができる。レストランで注文する時の表現を使いこなせることができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習と形容詞の比較表現について復習する。	30分
8	第一部木 11/5	分離動詞と非分離動詞	8課 分離動詞とその構文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞とその構文について理解し、説明することができる。	
		事前学修	重要動詞の人称変化を復習してくること。	30分
		事後学修	分離動詞とその構文について復習する。	30分
9	第一部木 11/12	週末の予定は？	zu不定詞について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。予定を尋ねる表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、zu不定詞句の用法について理解し、説明することができる。自分の予定について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現練習とzu不定詞句についてを復習する。	30分
10	第一部木 11/19	テキスト講読	テキストP83の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、テキスト中の比較表現、分離動詞や副文について理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストP83の発音練習と辞書を使用し訳をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現と重要動詞の文を復習する。	30分
11	第一部木 12/3	現在完了形	9課 動詞の三基本形と現在完了形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の三基本形と現在完了形の文について理解し、説明することができる。	
		事前学修	sein , habenの人称変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	動詞の三基本形を確実に覚える。現在完了形について復習する。	30分
12	第一部木 12/10	週末に何したの？	会話文の発音練習と訳を行う。過去の出来事を尋ねる表現練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の過去の出来事について表現することができる。	
		事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現と現在完了形の文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	過去形と再帰表現	10課 過去形、再帰代名詞と再帰動詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去形の人称変化、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	動詞の三基本形と人称代名詞を復習してくる。	30分
		事後学修	過去形の人称変化、再帰動詞について復習する。	30分
14	第一部木 12/24	重要表現の復習	練習プリントで後期学習した文法事項の問題を解答する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、それに対応する問題を解答することができる。	
		事前学修	後期学習した文法と重要表現を復習してくる。	40分
		事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と重要単語を覚える。	40分
15	第一部木 1/15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、説明することができる。	
		事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を復習してくる。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜3・4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、導入授業	授業計画、成績評価の方法などの説明と前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	前期の成果の確認が十分に行われたか確認する。	
		事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
		事後学修	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。	30分
2	9/20	比較級と最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の比較級・最上級の構造について理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	10/2	過去形	過去形の構造と用法	
		この回の到達目標	過去形の構造と用法について理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	10/9	複合時制	複合時制(未来時制・完了時制)の構造と用法	
		この回の到達目標	複合時制の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	10/13	関係代名詞	関係代名詞の構造と用法	
		この回の到達目標	関係代名詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	10/20	受動態	受動態の構造と用法	
		この回の到達目標	受動態の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	接続法第1式	接続法第1式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第1式の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	11/6	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第2式の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解する。	
		事前学修	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	11/13	ドイツの平和と国際連合	国際連合とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(1)をこれまでに獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト80頁の設問に回答し、81頁本文13行目まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	11/20	ドイツの平和と墨子	中国の思想家墨子とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(2)をこれまでに獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	11/27	文法の再確認	テキスト全体について重要な事項の再確認	
		この回の到達目標	テキスト全体がこれまで獲得した知識により理解できていることを確認する。	
		事前学修	テキスト全体を振り返り、よく理解出来ていない箇所があれば、質問できるように準備する。	30分
		事後学修	授業で扱った重点をまとめておく。	30分
12	12/4	国際連合とハーグ平和会議	国際連合とハーグ平和会議について	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(1)をがこれまで獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	国際連合とクーデンホーフ・カレルギー	国際連合とクーデンホーフ・カレルギーについて	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(2)をがこれまで獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文22行目から最後まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	12/18	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材を理解し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	12/25	振り返り	授業内試験及び後期の授業の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
秋期ドイツ語技能検定試験4級を受験すること。

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『希望のドイツ語』	小塩 節	朝日出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日10:30～12:20 月曜日17:50～19:40

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14土 9/19	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、変化できる。	
		事前学修	前期範囲のテキストを音読しておくこと。	30分
		事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	月9/21土 9/26	第7課 再帰動詞、非人称のes、zu 不定詞	「再帰」とは何かを学修する。英語のいわゆる「訳さない it」である非人称のesの多岐にわたる用法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、zu不定詞句を用いて自分の趣味を紹介することができる。	
		事前学修	動詞の人称変化および人称代名詞の格変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分
3	月9/28土 10/3	第7課 読章 「ろうそくの灯りのもとで」	重要な熟語「es gibt 4格」の用法について学修する。序数のいい方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、序数を使い自分の誕生日を言うことができる。	
		事前学修	【準備学習】教科書28ページを予習してくる。前置詞が特定の動詞と結びついているときは、前置詞から引かずに、動詞の使い方を調べる。	30分
		事後学修	【事後学習】序数の使い方を復習しておくこと。	30分
4	月10/5土 10/10	第8課 動詞の3基本形および過去人称変化	過去形の作り方および用法を学修する。また、過去分詞の様々な用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、分詞は形容詞であることを理解し、付加語形容詞や名詞化として用いることができる。	
		事前学修	不規則動詞変化表の読み方をもう一度確認しておくこと。	30分
		事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。	30分
5	月10/12土 10/17	第8課 読章 「トーマス・マン」	不規則動詞の過去形から不定詞を見つけ出すことに習熟する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、過去形の文章を作ることができる。	
		事前学修	教科書32ページを予習してくる。動詞は必ず3基本形を調べておくこと。	30分
		事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを覚えておくこと。	30分
6	月10/19土 10/24	第9課 分離動詞・非分離動詞、副文（従属文） 小テスト（2）	複合動詞について学修する。副文（従属文）は主文に含まれた文であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
		事前学修	平叙文、疑問文の定動詞の位置を今一度確認しておくこと。	30分
		事後学修	分離動詞・非分離動詞の3基本形の作り方を練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/26 土10/31	第9課 読章 「自分の意見」	長文の構造を把握すること（どれが主文でどれが従属文かを理解すること）を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
		事前学修	教科書36ページを定動詞の位置に注意して（主文なのか従属文なのかを意識して）予習してくる。	30分
		事後学修	主文と従属文からなる複文の構造に慣れておくこと。	30分
8	月11/9土 11/7	第10課 話法の助動詞	助動詞構文では本動詞が後置されることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、本動詞に様々なニュアンスを付ける話法の助動詞について理解し、的確に使い分けることができる。	
		事前学修	不定詞と定動詞の違いについて確認しておくこと。	30分
		事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
9	月11/16 土11/14	第10課 読章 「ドイツの手工業—マイスター制度」	分離動詞は話法の助動詞とともに使われると分離しないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意の文章を話法の助動詞を用いた文章に書き換えることができる。	
		事前学修	教科書40ページを枠構造に注意しながら予習してくる。	30分
		事後学修	語順の点で英語と最も違う枠構造に慣れておくこと。	30分
10	月11/23 土11/21	第11課 完了形	完了形の作り方とその用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特に日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。	
		事前学修	haben と sein の現在人称変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。	30分
11	月11/30 土11/28	第11課 読章 「クリスマスツリー」	過去形と現在完了形の違いについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞・非分離動詞の過去分詞から、容易に不定詞を導き出すことができる。	
		事前学修	教科書44ページを予習してくる。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形の形を出しておくこと。	30分
		事後学修	過去分詞から不定詞を導き出すことに慣れておくこと。	30分
12	月12/7土 12/5	第12課 関係代名詞	関係文も従属文であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、適切な関係代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	従属文の定動詞の位置について確認しておくこと。	30分
		事後学修	教科書50ページの練習問題で関係文に慣れておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月12/14 土12/12	第12課 読章「ウィーンのカフェ」	不定関係文章について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、任意の先行詞に対して関係文章を作ることができる。。	
		事前学修	教科書48ページを関係代名詞の格に注意しながら予習してくる。	30分
		事後学修	関係代名詞のえらび方を復習しておくこと。	30分
14	12/21 土12/19	接続法	接続法の作り方と用法について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、日常よく使われる接続法の言い回しを理解し、使うことができる。	
		事前学修	動詞の人称変化、過去基本形の作り方を特に整理しておくこと。	30分
		事後学修	直説法との違いを整理しておくこと。	30分
15	月1/18土 12/26	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、基本的な表現を聞き取ったり、こちらから発信したり、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと	30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。月曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)に登録すると、自動的に本授業に登録されます。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書については、初回授業で説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
		この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
		事前学修	シラバス確認	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	9/24	Lektion 7 Berufe 1	職業についての表現 1	
		この回の到達目標	職業についての表現を聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得	30分
3	10/1	Lektion 7 Berufe 2	職業についての表現2	
		この回の到達目標	職業についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得	30分
4	10/8	Lektion 8 Berlin sehen1	ベルリン観光をするために必要な表現 1	
		この回の到達目標	ベルリン観光をするのに必要な表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得	30分
5	10/15	Lektion 8 Berlin sehen 2	ベルリン観光をするために必要な表現 2	
		この回の到達目標	ベルリン観光をするために必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得	30分
6	10/22	Lektion 9 Ferien und Urlaub 1	長期休暇と旅行についての表現 1	
		この回の到達目標	長期休暇と旅行についての表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	Lektion 9 Ferien und Urlaub 2	長期休暇と旅行についての表現 2	
		この回の到達目標	長期休暇と旅行についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得	30分
8	11/5	Lektion 10 Essen und trinken 1	食事についての表現 1	
		この回の到達目標	食事についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得	30分
9	11/12	Lektion 10 Essen und trinken 2	食事についての表現 2	
		この回の到達目標	食事についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得	30分
10	11/19	Lektion 11 Kleidung und Wetter 1	服装と天気についての表現 1	
		この回の到達目標	服装と天気についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得	30分
11	12/3	Lektion 11 Kleidung und Wetter 2	服装と天気についての表現 2	
		この回の到達目標	服装と天気についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得	30分
12	12/10	Lektion 12 Körper und Gesundheit 1	体と健康についての表現 1	
		この回の到達目標	体と健康についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	Lektion 12 Körper und Gesundheit 2	体と健康についての表現 2	
		この回の到達目標	体と健康についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
		事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得	30分
14	12/24	筆記試験	A2レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分
15	1/14	口述試験	A2レベルの試験	
		この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
		事前学修	試験準備	60分
		事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしいドイツ語入門	増本浩子	白水社	2014	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】【前期学習事項の復習】	ガイダンス 前期学習事項の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前期学習事項における弱点をみつけ、克服する。	
		事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく（４５分）	45分
		事後学修	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす（１５分）	15分
2	第一部 木9/24	【分離動詞】	分離動詞 前期学習事項と前回授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、分離動詞の使用例を覚える。	
		事前学修	前回の学習事項の復習（１５分）	15分
		事後学修	１７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
3	第一部 木10/1	【形容詞】	形容詞の比較級・最高級 形容詞の語尾変化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形容詞の変化等を理解する。	
		事前学修	授業１７回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
4	第一部 木10/8	【３基本形】	動詞の３基本形（夏休み前の学習の続き） 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、分離動詞の３基本形が作れるようになる。	
		事前学修	授業１７回目～１８回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
5	第一部 木10/15	【過去】	sein / haben の過去形、話法の助動詞の過去形 否定疑問文、非分離動詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、非分離動詞の３基本形が作れるようになる。	
		事前学修	授業１７回目～１９回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
6	第一部 木10/22	【現在完了】	現在完了形 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現在完了形の構文を理解し、単純な現在完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	授業１７回目～２０回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	【未来推量の助動詞】	werden の現在人称変化、未来形 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、話法の助動詞と未来推量の助動詞を使った文の相違を理解する。未来推量の助動詞の 人称変化を覚える。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 1 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分
8	第一部 木11/5	【zu 不定詞】	zu 不定詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、英語の to 不定詞との類似と相違を理解する。いくつかの例を暗記する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 2 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分
9	第一部 木11/12	【再帰表現】【man の用 法】【形容詞の名詞化】	再帰表現、man の用法 形容詞の名詞化 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、基礎的な再帰表現を理解し、いくつかの例文を暗記する。到達目標①②③④に関連 し、man を使った文を作ることができる。到達目標③④⑤に関連し、形容詞の名詞化を理解する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 3 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分
10	第一部 木11/19	【受動】	受動態の現在と過去 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、受動文・受動態の構造を知り、単純な受動文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 4 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分
11	第一部 木12/3	【関係代名詞】【男性弱変 化名詞】	定関係代名詞 男性弱変化名詞 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、関係代名詞を使って文を作ることができる。到達目標③④⑤に関連し、男性弱変化名 詞の変化を調べることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 5 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分
12	第一部 木12/10	【接続法の概略】	接続法第II式 前回までの授業の要点の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連し、接続法の概略を理解する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 6 回目の復習（ 1 5 分）	15分
		事後学修	2 7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木10/17	【よく使われる接続法】	würde を使った仮定の表現 前回までの授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、実際に使われる接続法を覚える。	
		事前学修	授業１７回目～２７回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
14	第一部 木12/24	【試験】【振り返り】	授業内試験。試験の解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業１６回目～２８回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業１７回目～２８回目の復習（４５分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（１５分）	15分
15	第一部 木1/14	【授業の補足】	これまでの授業での重要事項・注意事項の再確認。 場合によっては追試験を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、これまでの授業での重要事項・注意事項の再確認。	
		事前学修	これまでの学習事項の総復習（３０分）	30分
		事後学修	興味のわいた参考事項等についての自主学習（３０分）	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却。授業内試験は、後日、ポータルシステムによりフィードバックの解説・講評を配信。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイク・ピナウ、他	郁文堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、木曜日17時50分～18時20分、授業講堂（前もってアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14木 9/17	【ガイダンス】【従属の接続詞】【zu不定詞】	ガイダンス（授業の進め方等について説明）。従属の接続詞とzu不定詞について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、従属の接続詞を用いた副文構文とzu不定詞について理解し、さらに詳しい表現をするためにこれらを使うことができる。	
		事前学修	シラバスを読み、第7課「環境問題」の32～33頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直して、文の書き換えに慣れる。	25分
2	第一部 月9/21木 9/24	【地球温暖化と教育】	ドイツの日常生活における環境意識とドイツを取り巻く温暖化に対する姿勢について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、文章を読んでアルプスにおける地球温暖化の影響とドイツの環境保護教育について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、31頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	31頁を読み返し、日本との違いをまとめる。32頁にある5個の従属の接続詞を暗記する。	20分
3	第一部 月9/28木 10/1	【時刻の表現】	時刻の言い方とそれが出てくるシーンを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時刻を自分で言ったり、聞き取ったりすることができる。人にものを尋ねるときの丁寧な言い方を理解する。	
		事前学修	3頁と12頁の数詞を復習し、34頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	パートナーを見つけて、34頁の会話を練習する。	25分
4	第一部 月10/5木 10/8	【過去形】【現在完了形】	三基本形のうち、過去基本形を使う過去形の人称変化と、過去分詞を使う現在完了形を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、過去形と現在完了形の作り方を理解し、それらを使った基礎的な文を作ることができる。	
		事前学修	第8課「週末の過ごし方」の36～37頁の問題を解いて準備する。（35分）	40分
		事後学修	間違った箇所の問題を解き直す。36頁の三基本形の表を音読する。	20分
5	第一部 月10/12木 10/15	【ドイツの週末】	過去形と過去分詞から不定詞を特定し、辞書で確認し、文章を読み進めてドイツ人の生活の一旦に触れる学修をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、文章中の過去形と現在完了形を指摘し、ドイツで週末を過ごした日本人の体験から、ドイツ人の生活の基本にあるものを説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、35頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	35頁を音読し、ドイツの「閉店法」について調べる。	20分
6	第一部 月10/19木 10/22	【自由な時間】	自分がどのようなことをして時間を過ごしたか、現在完了形と過去形を使って表現する学修をする	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、ある日をどう過ごしたか、ドイツ人がよく話題とすることに答える表現ができる。	
		事前学修	38頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、38頁の文を音読する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 木10/29	【受動態】 【再帰動詞】	受動態との作り方と、再帰動詞とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、受動態と再帰動詞について理解し、それらを用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第9課「ベルリンの壁」の40～41頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、41頁にあるsich freuenの変化を暗記する。	25分
8	第一部 月11/9 木11/5	【第2次大戦後のドイツ史】	ベルリンの壁を中心に、ドイツ現代史の一端を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、第2次大戦後にドイツがたどった歴史について理解し、ベルリンの壁と東ドイツについて説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、39頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	39頁を復習し、1945年から現在に至るドイツの歴史を簡単な年表風にまとめる。	20分
9	第一部 月11/16 木11/12	【おすすめの表現】	音楽・美術・演劇等の文化活動の内容と行われる場所を関連付けて、より詳しい表現を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、従属の接続詞を用いて、「～かどうか」と質問したり、「もし～ならば」と人に勧めめる表現の文を作ることができる。	
		事前学修	42頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。42頁を音読し、キーセンテンスを暗記する。	25分
10	第一部 月11/23 木11/19	【関係代名詞】	関係代名詞の形と格変化、および、関係代名詞を使って作る副文を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、関係代名詞について理解し、それらを用いた文を作ることができる。	
		事前学修	第10課「政党」の44頁の問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。44頁にある定関係代名詞の表を暗記し、文を音読する。	30分
11	第一部 月11/30 木12/3	【政党のイメージカラー】	ドイツの主だった政党とそのイメージカラーの由来を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの主な政党について理解し、説明することができる。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、43頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	43頁の文で使われている関係代名詞を指摘し、その性別と格を把握する。	20分
12	第一部 月12/7 木12/10	【その後について尋ねる】	現在完了形や前置詞を伴った関係文で、より詳しく表現することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、関係代名詞を用いて、「あれはどうなりましたか？」と質問ができる。	
		事前学修	45～46頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。45頁の会話を、パートナーと練習する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 木12/17	【接続法】	接続法の作り方と用法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の用法について理解して説明し、適切に訳すことができる。	
		事前学修	第11課「クリスマス」の49～50頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
14	第一部 月12/21 木12/24	【クリスマス】	主人公の日本人学生によるドイツ体験の総まとめを、手紙文で学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クリスマスから新年にかけてドイツの習慣について理解し、説明ができる。手紙の書式を理解する。	
		事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、47頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	さまざまな文法事項を確認しながら、47頁を音読する。	25分
15	第一部 月1/18 木1/14	【振り返り】【授業内試験】	後学期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後学期の学習内容がどの程度身についたかを判断する。	
		事前学修	後学期の学習内容を振り返り、理解していない箇所がないかどうか、確認する。	120分
		事後学修	試験で正答できなかった箇所について、教科書やノートで確認する。	20分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bを同時履修すること

【授業方法】
ドイツ語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ドイツ語ルネサンス」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」		三修社 同学社	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室、もしくは、水曜日14時半から15時半まで研究室（9号館1階9103号室）にて。事前に電子メールで連絡のこと。 watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	後期授業について 3・4格支配の前置詞の意味と用法	3・4格支配の前置詞の意味と用法を説明する。3格か4格かのどちらかを支配するかについて動詞の意味からも検討する。また、融合形、さらには時を表す前置詞について取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、3・4格支配の前置詞の意味と用法を理解したうえで使い分けることができる。時を表す前置詞im, am, umなどを間違わずに使って、月、季節、曜日、1日の時間帯、時刻を言うことができる。	
		事前学修	小テストに備えて、3・4格支配の前置詞の意味と用法を完全に覚えておく。CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	辞書を引いて、3格の場合と4格の場合の意味の違いを調べておく。	30分
2	9/23	話法の助動詞	本動詞に話法の助動詞の持つ意味のニュアンスを加えると、表現の幅が広がることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、話法の助動詞を用いて、「許可を求める」、「頼みごとをする」、「相手の意向を聞く」、「希望を伝える」、「助言をする」、「誘いを断る」といった基本的な対人表現を使うことができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
3	9/30	動詞の3基本形 過去形	過去のこと表現するための基礎となる過去形と過去分詞の作り方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、sein, haben, 話法の助動詞などの過去形を使って、過ぎ去ったことを表現できる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。現在人称化と比較し、共通する部分を確認しておく。	30分
4	10/7	現在完了形	現在完了形の作り方を説明し、完了の助動詞haben, seinの使い分けについても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去形と現在完了形を使って、過ぎ去った事柄を表現できる。	
		事前学修	haben, seinの人称変化と過去分詞の作り方を復習しておく。CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
5	10/14	分離動詞	複合動詞はドイツ語には豊富にあるが、この回では特に英語のstand up, get up, go outなどにあたる分離動詞を取り上げ、文の作り方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、「出発する」、「到着する」、「乗車する」、「下車する」、「乗り換える」、「開ける」、「閉める」、「予定している」、「起床する」、「外出する」、「招く」、「テレビを見る」、「電話をかける」などの分離動詞を使って、簡単なやり取りができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。辞書で分離動詞を引いて、意味と構造を確認する。	30分
6	10/21	形容詞	形容詞には、付加語的形容詞と述語的形容詞があるが、付加語的形容詞の変化について解説を行い、同時に述語的用法に関しては、色彩、味覚（「甘い」「しょっぱい」「苦い」）、感情（「残念な」「うれしい」「悲しい」「いらいらした」）、性格（「親切的な」「積極的な」「近づきやすい」「信頼できる」などの形容詞を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、形容詞は物、人、事柄、動作などの属性、状態を表すことを理解し、基本的な形容詞を覚え、語尾を変化させて、使うことができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。辞書で分離動詞を引いて、意味と構造を確認する。冠詞類の語尾と比較して、共通する部分を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /28	比較表現 序数の言い方	ある対象の性質が他のものと同じ場合、優れている場合、劣っている場合、さらに「最も・・・」の表現について説明する。 数も語尾変化することを説明する。序	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、同等比較、優勢比較、劣勢比較、および最上級が使われた比較表現の文を作成することができる。日付、年号、そして、生年月日を正しく言うことができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。辞書で分離動詞を引いて、意味と構造を確認する。	30分
8	11 /11	esの用法	天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、esを主語にし、「雨が降る」、「雪が降る」といった天候、「寒い・暑い・暖かい」、「夏だ」、「晩だ」、「遠い」のような感覚、自然現象、季節、時刻、距離、そして「うれしい」など人間の感情に関する表現を言うことができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。辞書で分離動詞を引いて、意味と構造を確認する。英語のitと比較し、意味と用法を確認しておく。	30分
9	11 /18	再帰動詞と再帰代名詞	主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加えられる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰動詞と再帰代名詞を使って、「喜ぶ」「座る」「横たわる」「関心がある」などの表現ができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。辞書で分離動詞を引いて、意味と構造を確認する。英語のitと比較し、意味と用法を確認しておく。	30分
10	11 /25	受動態	主語が他のものから動作を受ける関係を示す受動態について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、「誰が何をする」ということに重点を置くのではなく、「何が行われる」かを中心に表現する形式であることを理解したうえで、使用することができる。	
		事前学修	werdenの人称変化と過去分詞の作り方を復習しておく。CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分
11	12 /2	zu不定詞	zu不定詞について用法、コンマのつけ方、語順などの配語法について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、zu不定詞を使って能力、勧誘、目的を表す表現ができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。辞書を引いて、zu不定詞の用法と意味を確認しておく。	30分
12	12/9	副文 定形の位置	主文と副文について解説を行い、ここでは特に、従属の接続詞に導かれる副文の意味と文構造を説明する。また、ドイツ語における定形の位置についてともに観察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件、時、因由、認容を表す文を書き、言うことができる。また、定形の位置には、1位、2位、文末と3つの位置があるが、文の種類によって、定形の位置を間違えずに置くことができる。	
		事前学修	平叙文、疑問文、命令文における定形の位置を確認しておく。CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /16	接続法	接続法の定形の作り方を説明し、非現実の表現や婉曲表現について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、希望や願望を切り出す言い方や丁寧な、慎重なものの言い方をすることができる。	
		事前学修	CDを繰り返し聞いて、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、後期の試験の範囲のCDを聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文法規則、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。	150分
14	12 /23	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。問題の意図を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平易な文章であれば聞き取り、読み、書き、訳すことができる。そして、文法規則と発話意図とを結びつけて、簡単なやり取りができる。	
		事前学修	試験に備えて、CDを繰り返し聞いて、文法規則を確認し、音読し、和訳し、覚えるまでノートに書く。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	1/12	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	自分の誤り、欠点を認識することができる。それによって、到達目標①②③④に関連して、平易な文章を聞き取り、読み、書き、訳すことができ、自分が置かれている状況の中で、適切な表現を思い出してごく簡単なやりとりができる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、次年度の会話、あるいは、中級読み物、検定対策の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Aと通年で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
イン・ドイチュラントドイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか	朝日出版社	2016年	教科書	必携
新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	前期の復習	独検5級の問題を解きながら、前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/23	第7課 導入の会話、前置詞	導入の会話を通じて、前置詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞の概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
3	9/30	第7課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形	前置詞について、新しい用例を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
4	10/7	第8課 導入の会話、話法の助動詞、話法の助動詞の現在人称変化、話法の助動詞の主な意味	導入の会話を通じ、話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
5	10/14	第9課 導入の会話、分離動詞、数詞の復習	導入の会話を通じて、分離動詞について解説し、関連する練習問題を解く。数詞もあらためて復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、分離動詞について説明することができる。数字もいうことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
6	10/21	第9課 命令形、時刻表現	命令形の法則と、時刻表現について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、命令表現と時刻表現について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	第10課 導入の会話、形容詞の格変化	導入の会話を通じ、形容詞の格変化について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、形容詞の格変化について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
8	11/11	第10課 再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	11/18	第11課 導入の会話、動詞の三基本形、過去人称変化	導入の会話を通じ、動詞の三基本形と過去形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形と過去形について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	11/25	独検4級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
11	12/2	独検4級 模試の解説(リスニング試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	12/9	第11課 従属接続詞	従属接続詞と語順について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、従属接続詞と副文について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	後期の復習	後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検3級受験のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握とその克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
14	12/23	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	1/13	この一年で学習したことの復習、これからのドイツ語の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習内容を復習すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜5時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜5限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧「ドイツ語Ⅱ」)と同時に履修すること。受講の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワーク等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゲナウ！ レーゼン	新倉真矢子ほか	第三書房	2016年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイドン及び導入講義ス、前期の復習	独検5級の問題を解きながら、前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/23	話法の助動詞・未来形、日記・メール①	話法の助動詞・未来形について解説する。日記・メールの基本的な表現を練習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞や未来形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。日記やメールに関する基本的な表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
3	9/30	日記・メール②、前置詞	ドイツ語で書かれた日記やメールを読む。前置詞について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。ドイツ語で書かれた日記やメールを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
4	10/7	再帰動詞、祝祭	再帰動詞について解説する。ドイツの祝祭に関するテキストを読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、再帰動詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。ドイツの祝祭に関するテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
5	10/14	分離動詞・非分離動詞・zu不定詞、時刻表現	分離動詞・非分離動詞・zu不定詞について解説する。時刻表現を習得する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、分離動詞・非分離動詞・zu不定詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。時刻表現を言うことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
6	10/21	従属接続詞、インタビュー	従属接続詞について解説する、インタビューを読み、正確に内容を把握する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、従属接続詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。インタビューのテキストを訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	動詞の三基本形・過去形・現在完了形、童話を読む①	動詞の三基本形・過去形・現在完了形について解説する。ドイツ語で書かれた童話を読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形・過去形・現在完了形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。簡単な童話を訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
8	11/11	童話を読む②	引き続き、ドイツ語で書かれた童話を、文法に留意しながら読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまで学習した文法事項を用いて、簡単な童話を読み、訳読することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
9	11/18	動詞の三基本形・受動態、説明文を読む①	動詞の三基本形・受動態について解説する。ドイツ語で書かれた説明文を読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形・受動態を説明することができる。関連する問題を解くことができる。説明文を訳読することができる。	
		事前学修	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくること。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
10	11/25	説明文を読む②、これまでの復習	ドイツ語で書かれた説明文を、文法に留意しながら精読する。これまでに学習した文法を総復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまで学習した文法事項を用いて、簡単な説明文を読み、訳読することができる。	
		事前学修	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくること。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
11	12/2	独検模試の実施	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	独検当日に使用した問題冊子を持参すること。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、知識が確実なものとなるよう、あらためて正解となる理由をよく考えること。	30分
12	12/9	形容詞の格変化・比較・関係代名詞	形容詞の格変化・比較・関係代名詞について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、形容詞の格変化・比較・関係代名詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	指示されたテキストを自宅で読んでくること。訳文を必ず書いてくること。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を重点的に復習する。よく理解できた部分についても、繰り返し読み、ドイツ語の文章の正しい解釈の仕方について、きちんと習得するよう努めること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	童話を読む	ドイツ語で書かれた童話を、文法に留意しながら読む。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまで学習した文法事項を用いて、簡単な童話を読み、訳読することができる。	
		事前学修	指示されたテキストを自宅で読んでくること。訳文を必ず書いてくること。	30分
		事後学修	予習で分からなかった部分を重点的に復習する。よく理解できた部分についても、繰り返し読み、ドイツ語の文章の正しい解釈の仕方について、きちんと習得するよう努めること。	30分
14	12/23	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習を振り返り、理解が十分でないところがどこか、確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	1/13	後期の復習、今後のドイツ語の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	安藤 勉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを履修した学生が望ましい。

【授業方法】
ごくやさしく、目でも楽しめる教科書を用い、授業を進めます。 授業の冒頭で必ず前回の復習をします。第14回目に試験・解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目から演習の形式で授業をおこないます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でフィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ご存じですかドイツ？ [情報からドイツ]		朝日出版社	2003		
備考	間違いがないように、最初の授業時間の中で、教科書・辞書について詳しく説明します。				

【オフィスアワー】
水曜16:10～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	教材の作成など
実務経験に基づく実践的教育の内容		教材作成などに基づいた授業。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	総復習。	前期の学習範囲の総復習	
		この回の到達目標	前期の学習範囲の総復習。	
		事前学修	前期の総復習をしてきてください。	30分
		事後学修	前期の学習範囲の総復習をしてください。	30分
2	9月23日	完了形。	Lektion8 完了形と分離動詞。	
		この回の到達目標	完了形の助動詞とを学ぶ。	
		事前学修	完了形と分離動詞について、32ページを予習してください。	30分
		事後学修	完了形と分離動詞について復習してください。	30分
3	9月30日	分離動詞。	Lektion8 完了形と分離動詞。	
		この回の到達目標	分離動詞と枠構造を学ぶ。	
		事前学修	分離動詞について、32ページを予習してください。	30分
		事後学修	分離動詞について復習してください。	30分
4	10月1日	受動態と能動態。	Lektion9 受動態。	
		この回の到達目標	受動文と能動文の変換を学ぶ。	
		事前学修	受動態について、36ページを予習してください。	30分
		事後学修	受動態について復習してください。	30分
5	10月7日	話法の助動詞。	Lektion10 話法の助動詞と再帰動詞。	
		この回の到達目標	話法の助動詞の変化を学ぶ。	
		事前学修	話法の助動詞について、40ページを予習してください。	30分
		事後学修	話法の助動詞について復習してください。	30分
6	10月14日	再帰動詞と再帰代名詞。	Lektion10 話法の助動詞と再帰動詞。	
		この回の到達目標	なぜ再帰という現象が起こるかを学ぶ。	
		事前学修	再帰動詞について、40ページを予習してください。	30分
		事後学修	再帰動詞について復習してください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月21日	関係代名詞。	Lektion11 関係代名詞と不定関係代名詞。。	
		この回の到達目標	関係代名詞の変化と位置を学ぶ。	
		事前学修	関係代名詞について、44ページを予習してください。	30分
		事後学修	関係代名詞の変化を復習してください。	30分
8	10月28日	不定関係代名詞。	Lektion11 関係代名詞と不定関係代名詞。	
		この回の到達目標	不定関係代名詞の変化を学ぶ。	
		事前学修	不定関係代名詞について、44ページを予習してください。	30分
		事後学修	不定関係代名詞について復習してください。	30分
9	11月11日	直説法。	Lektion12 接続法	
		この回の到達目標	まず直説法について、その用法を学ぶ。	
		事前学修	接続法について、48ページを予習してください。	30分
		事後学修	直説法について復習してください。	30分
10	11月18日	接続法第1式。	Lektion12 接続法。	
		この回の到達目標	接続法には第1式と第2式があることを理解する。	
		事前学修	接続法について、48ページを予習してください。(30分)	30分
		事後学修	接続法の意味について復習してください。	30分
11	11月25日	接続法第2式。	Lektion12 接続法。	
		この回の到達目標	接続法第2式の用法を学ぶ。	
		事前学修	接続法の用法について、48ページを予習してください。	30分
		事後学修	接続法の意味について復習してください。	30分
12	12月2日	接続法第1式と第2式。	Lektion12 接続法。	
		この回の到達目標	接続法第1式と第2式の例文を読む。	
		事前学修	接続法について、48ページを予習してください。	30分
		事後学修	間接話法について復習してください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月9日	総復習。	総復習、および落ち穂ひろい	
		この回の到達目標	総復習。とくに再帰動詞と分離動詞。	
		事前学修	試験に備えて疑問点などを洗い出してください。	60分
		事後学修	後期の授業の総復習して、試験に備えてください。	60分
14	12月16日	試験、総復習。	試験、総復習。	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	試験のための総復習をしてください。	60分
		事後学修	理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。	60分
15	12月23日	試験、総復習	試験、解説	
		この回の到達目標	試験、総復習。	
		事前学修	試験のための復習をしてください。	60分
		事後学修	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。	60分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	富山 典彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語を半期履修したもの

【授業方法】
ドイツ語の基本的な文法事項に沿って、必要な語彙や表現を覚えていくことで、「到達目標」に達することを目指す。授業中に、聞き取り練習や発話練習を行うとともに、適宜小テストを実施して、到達度を測定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループに分かれて、ドイツ語の会話の練習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点後に返却し、講評します。適宜ポータルシステムにより配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Bravo! Deutsche Grammatik	深山典彦	郁文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
連絡することがあればメールでしてください。tomiyama@seijo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	過去の表現(1)	過去の表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	過去の表現を書く練習をする。	30分
2	9月25日	過去の表現(2)	過去の表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	過去の表現を書く練習をする。	30分
3	10月2日	形容詞の用法	形容詞の用法を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	形容詞の用法の文を書く練習をする。	30分
4	10月9日	日付の言い方	日付の言い方を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の初歩から一歩前進する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	日付の言い方を書く練習をする。	30分
5	10月16日	受動表現	受動表現を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	受動表現を書く練習をする。	30分
6	10月23日	接続詞(1)	接続詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続詞を用いた文を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	接続詞(2)	接続詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続詞を用いた文を書く練習をする。	30分
8	11月6日	関係詞(1)	関係詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	関係詞を用いた文を書く練習をする。	30分
9	11月13日	関係詞(2)	関係詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	関係詞を用いた文を書く練習をする。	30分
10	11月20日	比較変化	比較変化を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	比較変化を用いた文を書く練習をする。	30分
11	11月27日	zu不定詞と分詞	zu不定詞と分詞を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	zu不定詞と分詞を用いた文を書く練習をする。	30分
12	12月4日	接続法(1)	接続法を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続法を用いた文を書く練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	接続法(2)	接続法を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続法を用いた文を書く練習をする。	30分
14	12月18日	接続法(3)	接続法を用いた文を身につける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	CDを聞いておく。	30分
		事後学修	接続法を用いた文を書く練習をする。	30分
15	12月25日	まとめ	これまでに学んだことを総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の中級レベルに到達する。	
		事前学修	これまでに学んだ例文を覚える。	60分
		事後学修	これまでに学んだことを整理する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	渡邊 善和	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
学修に当たっては、謙虚に、しかし好奇心は旺盛に、しかも自発的にコツコツと学んでいく姿勢を期待する。途中で放棄するような意志薄弱な人は受講を遠慮知ってほしい。

【授業方法】
テキストに沿って講義、演習をする。毎回復習を繰り返し、既習内容の定着を図る。DVD、CDなどの視聴覚教材を適宜活用する。授業はやみくもに急ぐことなく、解説、指導は丁寧なことを心掛ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前回の授業を振り返り、疑問点を積極的に出させ、まずはそれに対して他の学生に答えさせる。そのうち教師が解説する。またドイツに関する興味深い体験があれば、みんなの前で披露させ、他の受講生の意見を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題をこまめに出し、それを翌週回収し、授業内で講評する。一人一人の学力向上を常に意識する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベルリンに夢中』	石井学ほか	同学社	2020年	教科書	必携
『ヨーロッパ学入門』	武蔵大学人文学部	朝日出版社	2020年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日（8:30～8:50）2階教員室または特に要望のある学生にはメールでも対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金9/18	前期の総復習	前期の総復習をする。 前期範囲の総復習用プリントを配布する。	
		この回の到達目標	前期に学修したところを完全に定着させる。	
		事前学修	テキストの前期で習った範囲を精読してくる。	30分
		事後学修	復習プリントの自習をする。	30分
2	金9/25	会話練習	第7課 練習問題のページと会話文の訳と簡単な会話練習をする。 第7課の復習用プリントの配布	
		この回の到達目標	簡単な会話力の定着を図る。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回授業で習った内容の復習、および第7課の復習用プリントの自習をする。	30分
3	金10/2	話法の助動詞	第8課 話法の助動詞、未来時制の解説及び関連する練習問題をする。 第8課の復習用プリントの配布 ベルリン紹介のDVDの第8課を視聴する。	
		この回の到達目標	英語と対比しつつ話法の助動詞の運用力の定着を図る。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題のページ会話文の訳を自習する。 第8課の復習用プリントの自習をする。	30分
4	金10/9	動詞の3基本形	第8課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第9課 動詞の3基本形、過去時制の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第9課の視聴 、	
		この回の到達目標	3基本形の使用法の違い及び変化を覚える。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分
5	金10/16	現在完了時制	第9課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第10課 現在完了時制の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第10課の視聴	
		この回の到達目標	現在完了の使用法を理解する。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分
6	金10/23	形容詞	第10課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第11課 形容詞の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第11課の視聴	
		この回の到達目標	形容詞の活用と使用法の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金10/30	受動態、再帰表現	第11課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。 第12課 受動態、再帰動詞の解説及び関連する練習問題をする。 ベルリン紹介DVD第12課の視聴	
		この回の到達目標	2種の受動態の違いと再起表現の理解	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。	30分
8	金11/6	会話表現	第12課 練習問題のページと会話文の訳及び簡単な会話練習をする。	
		この回の到達目標	より複雑な表現に習熟する。	
		事前学修	テキストの指定されたページを精読してくる。	30分
		事後学修	今回の授業で習った内容の復習及び練習問題ページと会話文の訳を自習する。	30分
9	金11/13	ドイツ映画鑑賞	ドイツの映画を鑑賞する（次週にわたる）	
		この回の到達目標	じっくり鑑賞して「ドイツ」「ドイツ人」「人間」を知る。	
		事前学修	ドイツに関するテレビ番組や映画を見る。	30分
		事後学修	この映画を見ての感想をメモする。	30分
10	金11/20	前回のドイツ映画の鑑賞の続き	前回到引き続き同映画を鑑賞する。	
		この回の到達目標	「ドイツ」「ドイツ人」「人間」について深く考察する。	
		事前学修	前回のメモを整理し、関連して可能な限りドイツについて調べる。	30分
		事後学修	前回のメモを整理し、きちんとレポートの形にまとめる。	30分
11	金11/27	後期に学修した内容の総復習	後期の範囲の総復習（前半部分）	
		この回の到達目標	後期に学修した内容（前半部分）の定着を図る。	
		事前学修	後期の範囲（前半部分）の総復習をする。	30分
		事後学修	授業でした総復習（前半部分）の内容を確認し、しっかり頭に入れる。	30分
12	金12/4	後期に学修した内容の総復習の続き	後期に学修した内容（後半部分）の総復習をする。	
		この回の到達目標	総復習をしてみて自分の弱点に気づきそれを克服する。	
		事前学修	後期の範囲（後半部分）の総復習をする。	30分
		事後学修	後期の範囲の総復習（後半部分）の内容を確認し、しっかり理解、記憶する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金12/11	テキストの補足の解説 その1	文法の補足部分の前半部分の解説、及び関連する練習問題をする。 DVD「オクトーバーフェスト」の視聴	
		この回の到達目標	ドイツ人の意外な面を発見する。	
		事前学修	文法の補足部分のページの前半部分を読んでくる。	30分
		事後学修	今回の授業内容の復習をする。	30分
14	金12/18	テキストの解説 その2	文法の補足部分の後半部分の解説及び関連する練習問題をする。 DVD「ヨーロッパのクリスマス」の視聴 学年末考査の受験の手引きをする。	
		この回の到達目標	「クリスマス」の本質を理解する。学年末試験に向けてしっかり自分の弱点を把握する。	
		事前学修	文法の補足部分の後半部分を読んでくる。	30分
		事後学修	今回の授業の内容を復習する。	30分
15	金12/25	総括・学年末学力考査	学年末学力考査及び講評	
		この回の到達目標	さらなる上のレベルへの橋渡しをする。	
		事前学修	試験範囲の総復習を徹底的にしておく。	30分
		事後学修	学年末考査後のステップアップへ向けて自分の学習姿勢を反省する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題当順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得状況に応じて適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）	森公成他	同学社	2017	教科書	必携
独和辞書（ガイドンスにて紹介）	特に指定はしない	特に指定はしない		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも活発に質問してほしい。授業後も教室等で対応する。授業時間：火曜 1 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	発音	ガイダンス 独和辞書の紹介 アルファベットおよび単語の発音練習	
		この回の到達目標	単語の発音のルールを習得する。	
		事前学修	教科書を必ず購入し持参すること。 教科書の『はじめに』の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	CDで発音練習をする。	30分
2	4/14	動詞の現在人称変化	発音の復習 Lektion1 動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	規則動詞の人称変化のルールを習得する。	
		事前学修	単語の発音の箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	CDを聞き発音の復習をする。	30分
3	4/21	重要な不規則動詞の現在人称変化	Lektion1 sein、haben、werdenの現在人称変化	
		この回の到達目標	sein、haben、werdenの現在人称変化を覚える。	
		事前学修	独和辞書を必ず持参する。 Lektion1を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
4	4/28	名詞と冠詞	Lektion2 名詞と冠詞 名詞の性と格と定冠詞の格変化	
		この回の到達目標	定冠詞の格変化の理解と習得。	
		事前学修	Lektion2を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
5	5/5	名詞と冠詞	Lektion2 名詞と冠詞 名詞の性と格 不定冠詞	
		この回の到達目標	不定冠詞の理解と習得。	
		事前学修	Lektion2を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
6	5/12	名詞の複数形	Lektion3 複数形 名詞の複数形	
		この回の到達目標	単数形から複数形の作り方の習得。	
		事前学修	Lektion3を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	不規則動詞の現在人称変化	Lektion4 動詞の現在人称変化（２）、命令形 幹母音が変わる動詞の人称変化	
		この回の到達目標	不規則動詞の変化の仕方を習得する。	
		事前学修	Lektion4を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
8	5/26	冠詞類	Lektion5 冠詞類 定冠詞類の種類と格変化	
		この回の到達目標	定冠詞類の格変化の習得。	
		事前学修	Lektion5を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
9	6/2	冠詞類	Lektion5 不定冠詞類、人称代名詞 不定冠詞類の格変化	
		この回の到達目標	不定冠詞類の格変化の習得。	
		事前学修	Lektion5を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
10	6/9	前置詞	Lektion6 前置詞 前置詞の格支配	
		この回の到達目標	前置詞の種類と格支配の習得。	
		事前学修	Lektion6を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
11	6/16	従属の接続詞	Lektion6 従属の接続詞 従属の接続詞と複文	
		この回の到達目標	従属の接続詞の種類と複文の習得。	
		事前学修	Lektion6を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
12	6/23	話法の助動詞	Lektion7 話法の助動詞と未来形 話法の助動詞と未来形の助動詞	
		この回の到達目標	話法の助動詞の意味と使い方の習得。	
		事前学修	Lektion7を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	前期前半の復習	前期前半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	前期前半の練習問題の総復習。	
		事前学修	前期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	60分
14	7/7	前期後半の復習	前期後半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	前期前半の練習問題の総復習。	
		事前学修	前期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	30分
		事後学修	授業内容の復習と課題を行う。	120分
15	7/14	試験および反省	期末テスト及びテスト内容の解説	
		この回の到達目標	試験および反省。	
		事前学修	期末テスト範囲を総復習する。	120分
		事後学修	テストの出来をチェックして反省点を出す。 夏期休みの課題をしておく。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
テキスト『プロムナード やさしいドイツ語文法』(白水社)を主教材に、そのほか視聴覚教材もまじえてわかりやすく指導していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出レポートを評価して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブロムナード やさしいドイツ語文法』	荻原耕平 他	白水社	2016		
備考	「はじめに」などの前書きに目をとおしておいてください。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ドイツとドイツ語入門	ドイツ語が話されている国ぐに アルファベット/基本的あいさつ。以後の進捗は学習成果によって多少ズレこむ可能性もある。	
		この回の到達目標	ドイツ文化。ドイツ語の基本イメージの理解。	
		事前学修	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。	30分
		事後学修	ノート整理。復習。以下同様に心がけてください。	30分
2	4/17	ドイツ語の名詞	Lektion1 ドイツ語の発音・名詞のいろいろ。	
		この回の到達目標	まず、単語を正確に発音する。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
3	4/24	動詞入門	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在人称変化 その①	
		この回の到達目標	人称代名詞を使つての簡単な表現になれる。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
4	5/1 予定	動詞と平易な文章	Lektion2 動詞の現在人称変化 その②	
		この回の到達目標	日常表現から親しむ構文理解。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
5	5/8	名詞の性①	Lektion3 名詞の性と格の意味とその運用。	
		この回の到達目標	いっけんメンドクさそうな定冠詞・不定冠詞の格変化は、実は文意を理解するたるにいかにもドイツ的論理性があることに納得してもらう。そのうえでの反復練習である。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	復習・ノート整理。（30分）	30分
6	5/15	名詞の性と格②	変化表を覚えるのが主たる仕事ではない。それがどのように文意を表すかを正しく理解することが大事。	
		この回の到達目標	ドイツ語現在形の文章にたくさんふれ、反復練習によって理解度を深める。	
		事前学修	前回の復習。（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	定冠詞類と不定冠詞類①	英語のaとanにあたる不定冠詞の学習。例文によって慣れてもらう。	
		この回の到達目標	定冠詞・不定冠詞の暗記	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
8	5/29	定冠詞類と不定冠詞類②	いずれも定冠詞・不定冠詞に準ずるもの。表現の幅をひろげよう。	
		この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の文章に慣れる。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
9	6/5	人称代名詞	意味あいとは英語とおなじだが、おぼえることに一苦労するかもしれない。あくまでも授業中に反復練習して覚えてもらう。	
		この回の到達目標	人称代名詞の使い方。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
10	6/12	不規則動詞・命令形	動詞のパリエーションである不規則動詞。これが意外に頻繁に使用されるものである。規則性はないが、構文でマスターしよう。	
		この回の到達目標	主要不規則動詞のマスター。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
11	6/19	前置詞	前置詞を使った構文の学習。	
		この回の到達目標	前置詞をふくむ文章にたくさんふれて慣れていく。習うより慣れよ!!	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
12	6/26	分離動詞・接続詞	分離動詞といったいっけん難しそうな用語だが、運用はごく簡単。動詞のひとつ。接続詞は英語のイメージとおなじ。ただし、ドイツ語ならではの約束もあり。	
		この回の到達目標	分離動詞・接続詞を使った例文に親しむ。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7/3	話法の助動詞		英語のcanやmustのこと。意味はほぼ似ている。例文をたくさん読もう。
		この回の到達目標	助動詞の運用と読解。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
14	7/10	前期の総復習		前期試験をひかえて、とくに重要な部分を復習します。模擬問題も用意します。
		この回の到達目標	前期の学習内容を復習し、曖昧なところをなくす。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	ノート整理。（30分）	30分
15	7/17	前期試験。まとめ		試験内容は、事前の授業内で説明します。
		この回の到達目標	前期の復習と自分の理解度の反省と補填。	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	自己診断のうえ後期にそなえてください。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現A・Bも併せて履修すること。独和辞書必携。12月にドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
身近な基本的表現を多く使って、反復練習を積み重ねながら着実に文法を身につける。特に確実に習得すべき事項に関しては習得できるまで確認の小テストを実施する。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
初テストと課題は添削し返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田 悟	朝日出版社	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜3限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木4/9	ガイダンス：ドイツ語について	ドイツ語について、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の歴史について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	木4/16	母音字の発音	1課 発音規則を説明し、ドイツ語のつづり字と発音の関係を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音規則を理解し、アルファベットと教科書の単語が発音することができる。	
		事前学修	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認しておくこと。	30分
		事後学修	アルファベット、単語のアクセントの位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	木4/23	子音字の発音	子音字の読み方、簡単な挨拶表現、数字の読み方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、子音字の読み方を理解し、教科書の単語が発音することができる。	
		事前学修	ローマ字読みで読める単語を発音練習してくる。	30分
		事後学修	子音つづり字の発音、挨拶表現、数字を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。 数字の小テストを実施する。	30分
4	木4/30	主語と動詞〔規則動詞〕の変化	2課 主語と動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の形は主語の種類で決まることを理解し、動詞を辞書で引くことができる。	
		事前学修	教科書の単語を発音練習をしてくること。	30分
		事後学修	主語になる代名詞と規則変化動詞の人称変化を確実に覚えること。	30分
5	木5/7	語順について	語順について説明し、平叙文、疑問文の動詞の位置を学習する。重要動詞〔sein, haben〕の変化を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の位置で文のタイプが決まることを理解し、平叙文、疑問文を作ることができる。 練習問題P8	
		事前学修	練習問題P8 I を予習してくること。	30分
		事後学修	動詞の位置を復習する。小テストを実施するので、重要動詞〔sein, haben〕の変化は確実に覚えること。	30分
6	木5/14	名詞の性と数	3課 名詞の性と数について説明し、名詞の種類と複数形、定冠詞、不定冠詞、所有冠詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の三つの種類と複数形について理解し、名詞を辞書で引くことができる。 練習問題P8	
		事前学修	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認しておくこと。	30分
		事後学修	名詞の複数形、定冠詞、不定冠詞について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木5/21	名詞の種類と代名詞の関係	名詞の種類と代名詞の使い方、否定文の作り方について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の種類と代名詞の使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P12	
		事前学修	練習問題P12 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	三人称の代名詞の使い方について復習すること。 間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	木5/28	名詞の格変化	4課 文中での名詞の役割を表す[1・2・3・4格]の格について説明する。冠詞類の変化、否定冠詞を使った否定文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの名詞が主語か目的語か名詞の役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	名詞の性、複数形、定冠詞、不定冠詞についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	名詞の格変化についてを復習すること。小テストを実施するので、定冠詞、不定冠詞の変化は確実に覚えること。	30分
9	木6/4	名詞の格変化の練習	名詞の格変化を理解し、冠詞の種類と使い方について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞と冠詞の格変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P16	
		事前学修	練習問題P16を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
10	木6/11	動詞〔不規則動詞〕の変化	5課 動詞の語幹も変化する動詞〔不規則動詞〕の変化について説明し、命令表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞の変化と称代名詞の格変化について理解し、説明することができる。	
		事前学修	動詞の規則変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	不規則動詞の変化、命令表現について復習すること。小テストを実施するので、人称代名詞の変化は確実に覚えること。	30分
11	木6/18	代名詞の格変化	人称代名詞の格変化、非人称表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名詞の格変化と不規則動詞の変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P20	
		事前学修	練習問題P20を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
12	木6/25	前置詞と格支配	6課 前置詞と格支配について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞によって結び付く名詞の格が決まる格支配について理解し、説明することができる。	
		事前学修	名詞、定冠詞、不定冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
		事後学修	前置詞の格変化と意味について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木7/2	3・4格支配の前置詞	3・4格支配の前置詞について説明し、練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格変化と使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P24 I	
		事前学修	練習問題P24 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 前置詞の使い方を確実に覚える。	30分
14	木7/9	重要文法の復習	練習プリントで、動詞と名詞と前置詞の練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を理解し、解答できる。	
		事前学修	前期学習した文法事項を復習してくる。	40分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 重要単語を覚える。	40分
15	木7/16	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞の使い方を説明することができる。	
		事前学修	前期の文法と重要単語を総復習する。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂　土曜日10:30～12:20　　月曜日17:50～19:40

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4第 二部 月 4/6	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。 アルファベートの発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
		事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
		事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること	30分
2	第一部 土4/11第 二部 月 4/13	第1課 ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
		事前学修	添付CDで9、10ページの単語の発音をよく聞いておくこと。	30分
		事後学修	教科書11ページの単語を発音して意味を調べること。	30分
3	第一部 土4/18第 二部 月 4/20	第2課 動詞の現在人称変化、sein動詞、語順について	動詞は人称と数に応じて語尾変化することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、語尾変化した動詞から不定詞を導き出すことができる。	
		事前学修	教科書15ページの人称代名詞に目を通しておくこと	30分
		事後学修	教科書12ページの不定詞句を使って文章を作ってみること。	30分
4	第一部 土4/25第 二部 月 4/27	第2課 練習問題	定動詞の位置に注意しながら問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
		事前学修	教科書17ページを予習しておくこと。動詞はすべて現在人称変化してみること。	30分
		事後学修	自己紹介の仕方を練習しておくこと。	30分
5	第一部 土5/2 第 二部 月 5/4	第3課 名詞の姓と格変化（単数）について	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書19～21ページに目を通し、定冠詞・不定冠詞の使い分けを頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	課題に出された単語を定冠詞を付けて格変化させること。	30分
6	第一部 土5/9 第 二部 月 5/11	第3課 練習問題	格の用法に注意しながら問題を解いていく。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、定冠詞と不定冠詞の基本的意味を理解し、使い分けることができる。	
		事前学修	教科書23ページを予習しておくこと。名詞はすべて定冠詞をつけて格変化しておくこと	30分
		事後学修	課題に出された単語を不定冠詞を付けて格変化させること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16第 二部 月 5/18	第4課 名詞の複数形、人 称代名詞の格変化、定冠詞 類について	名詞の複数形には様々なタイプがあることを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	第6回授業で課題に出した単語の複数格を格変化させること。	30分
8	第一部 土5/23第 二部 月 5/25	第4課 練習問題	英語とは使い方が違う単数3人称の人称代名詞に注意して問題を解いていく	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問形容詞welcherの用法を理解し、使うことができる。	
		事前学修	教科書29ページを予習しておくこと。年代聞き取りの問題は、ドイツ語でつづりを書いておくこと。	30分
		事後学修	基数詞を発音し、書けるようにしておくこと。	30分
9	第一部 土5/30第 二部 月 6/1	第5課 不定冠詞類 小テ スト（1）	所有冠詞、否定冠詞keinの用法について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、nichtとkeinの違いを理解し、使い分けることができる。	
		事前学修	不定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	与えられた文章を否定文にしてみること。	30分
10	第一部 土6/6第 二部 月 6/8	第5課 練習問題	nicht の位置について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、否定疑問に対して的確に答えることができる。	
		事前学修	教科書35ページを予習しておくこと。Aの問題は自分でも質問を作ってみること。	30分
		事後学修	nichtとkeinの使い分けについて整理しておくこと。	30分
11	第一部 土6/13第 二部 月 6/15	第6課 不規則動詞、従属 文について	不規則動詞の現在人称変化を学修する。従属文では定動詞が後置されることを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、よく使われる不規則動詞を用いて簡単な文章を作ることができる。	
		事前学修	平叙文と疑問文の定動詞の位置を復習しておくこと。	30分
		事後学修	不規則動詞変化表の見方を復習しておくこと。	30分
12	第一部 土6/20第 二部 月 6/22	第6課 練習問題	不規則動詞の辞書での調べ方を復習しつつ問題を解いていく	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
		事前学修	教科書41ページを予習しておくこと。Bの問題は従属文も使って作文してみること。	30分
		事後学修	教科書36ページの不規則動詞の変化を覚えること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27第 二部 月 6/29	第7課 前置詞、非人称のesについて	前置詞は特定の格を支配することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、的確な前置詞を選ぶことができる。	
		事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと	30分
		事後学修	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを整理しておくこと。	30分
14	第一部 土7/4第 二部 月 7/6	第7課 練習問題	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いに注意して問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書47ページを予習しておくこと。3・4格支配の前置詞では、3格の場合は4格に、逆に4格の場合は3格になるような文章を作ってみること。	30分
		事後学修	時刻の言い方を練習しておくこと。	30分
15	第一部 土7/11第 二部 月 7/13	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。	
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと	30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、訳に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽をBGMに使用し、解説を行う。ドイツをより身近に感じてもらうために話題のDVDを見る時間を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ルネサンス（第3版）	本郷、佐藤他	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜14:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	[ガイダンス, 振り返り]	授業の進め方、授業内で見えるDVDについて紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語文法の学習方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	第一部 土4/11	[ドイツ語の発音について]	発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土4/18	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するのかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土4/25	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土5/2	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土5/9	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土5/23	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土5/30	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土6/6	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土6/13	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土6/20	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。(30分)	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土7/4	[ヒアリング練習]	ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土7/11	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題とし、次の授業で確認します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アトラス ドイツ文法の友	工藤康弘	白水社	2020年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～ 授業終了後の講堂にて。初回授業でメールアドレスを公開する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	【ガイダンス】 【ドイツ語のアルファベット】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 ドイツ語のアルファベットの読み方を学習し、発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音ができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	10分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のアルファベットの発音練習を行う。	20分
2	第一部月 4/13	【ドイツ語の発音】	ドイツ語の発音の原則とドイツ語特有の注意すべきつづりと発音について学習し、発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のつづりの読み方を理解し、発音ができる。	
		事前学修	教科書 8 ～ 9 ページを見ながら、音声を聞いてくる。	30分
		事後学修	教科書 8 ～ 9 ページの発音練習を行う。	30分
3	第一部月 4/20	【動詞の現在形】	主語になる人称代名詞、規則動詞の現在形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在形について理解し、動詞を変化させることができる。	
		事前学修	教科書 1 0 ページを読んでくる。	15分
		事後学修	主語になる人称代名詞、現在形の変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題Ⅰおよび 1 3 ページのⅢ1. ～4. を行う。	45分
4	第一部月 4/27	【sein, haben】 【文の組み立て】	重要動詞sein, habenの現在形、定動詞の位置と否定文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、sein, habenの現在形、文の組み立てについて理解し、sein, habenを変化させることができ、語を並べ替えてドイツ語文を作ることができる。	
		事前学修	教科書 1 1 ページを読んでくる。	15分
		事後学修	sein, habenの現在形の変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題Ⅱおよび 1 3 ページのⅢ5. を行う。	30分
5	第一部月 5/4	【名詞の性と格、定冠詞】	名詞の性、定冠詞の形と格の働きについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性と格、定冠詞について理解し、定冠詞を変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 1 4 ～ 1 5 ページを読んでくる。	15分
		事後学修	定冠詞の変化を暗記する。 教科書 1 6 ～ 1 7 ページの練習問題を行う。	60分
6	第一部月 5/11	【不定冠詞、人称代名詞の格変化】	不定冠詞の形、人称代名詞の格変化について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞と人称代名詞の格変化について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 1 8 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	不定冠詞と人称代名詞の格変化を暗記する。 教科書 2 0 ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	【冠詞類】	定冠詞類と不定冠詞類の意味と形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類と不定冠詞類について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 19 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	定冠詞類と不定冠詞類の変化を暗記する。 教科書 21 ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分
8	第一部月 5/25	【前置詞の格支配】	前置詞の意味と格支配について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格支配について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 22 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	前置詞の発音と意味を復習し、暗記する。 教科書 25 ページの練習問題Ⅱ 1, 4, 5を行う。	30分
9	第一部月 6/1	【前置詞と定冠詞の融合形、前置詞と熟語】	前置詞と定冠詞の融合形について、前置詞が特定の動詞や形容詞と結びつく熟語について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞と定冠詞の融合形と熟語について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 23 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	教科書 24 ページの練習問題Ⅰおよび 25 ページⅡ 2, 3を行う。	45分
10	第一部月 6/8	【母音が変わる現在形】 【数詞 0 ～ 20】	語幹の母音が変わる動詞の変化について学習する。 数詞 0 から 20 までの読み方を学習し、発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母音が変わる動詞の現在形について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。数詞 0 から 20 までを発音できる。	
		事前学修	教科書 15 ページの数詞の音声を聞いてくる。 教科書 26 ページを読んでくる。	20分
		事後学修	教科書 28 ページの練習問題Ⅰ 1, 2および 29 ページⅡ 1, 2, 3, 5を行う。 数詞 0 から 20 までを暗記する。	60分
11	第一部月 6/15	【命令形】	命令形の形式について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 27 ページを読んでくる。	10分
		事後学修	教科書 28 ページの練習問題Ⅰ 3, 4および 29 ページⅡ 4を行う。	30分
12	第一部月 6/22	【数詞 0 ～ 20】 【esを使った表現】	数詞 21 以上の読み方を学習し、発音練習を行う。 esを使った表現（天候、熟語、時刻）について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、esを使った表現について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。数詞 21 以上を発音できる。	
		事前学修	教科書 31 ページの数詞の音声を聞いてくる。 教科書 26・31 ページ「esを使った表現」を読んでくる。	20分
		事後学修	教科書 28 ページの練習問題Ⅰ 5を行う。 数詞と時刻を表す表現を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	【名詞の複数形、男性弱変化名詞】	名詞の複数形のタイプと格変化、男性弱変化名詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の複数形、男性弱変化名詞について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書 30～31 ページを読んできろ。	10分
		事後学修	複数形の格変化を暗記する。 教科書 32～33 ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分
14	第一部月 7/6	【語順、副文】	定動詞のあとの語順、文頭に置くもの、従属接続詞と副文、間接疑問文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、語順、副文について理解し、ドイツ語文中でも認識でき、ドイツ語文を作ることができる。	
		事前学修	教科書 34～35 ページを読んできろ。	30分
		事後学修	教科書 34～35 ページの例文の発音練習を行う。従属接続詞を暗記する。	30分
15	第一部月 7/13	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1回～第14回の学習内容を理解し、運用できる。	
		事前学修	教科書 7～35 ページの総復習を行う。	90分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
木曜日1限真道担当のドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音、語形変化、ドイツ語文の作成、会話も交えたアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で小テストの成果を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法・１００語の世界	清水 薫	同学社	2008		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験をもとに、実践で必要とされる文法の応用形式を授業で扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明。	
		この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	4/14	アルファベット ドイツ語の発音	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践	
		この回の到達目標	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践ができる。	
		事前学修	アルファベット ドイツ語の発音予習	30分
		事後学修	アルファベット ドイツ語の発音復習	30分
3	4/21	Lektion 1 規則的に変化する動詞	小テスト1 規則的に変化する動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	規則的に変化する動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト1試験準備	30分
		事後学修	Lektion 1 練習問題	30分
4	4/28	Lektion 2 文を作る	小テスト2 基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用	
		この回の到達目標	基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト2試験準備	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題	30分
5	5/5	Lektion 3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhaben	小テスト3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhabenについての説明・応用	
		この回の到達目標	名詞の性と格（1格/4格） seinとhabenについての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト3試験準備	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題	30分
6	5/12	Lektion 4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)	小テスト4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)についての説明・応用	
		この回の到達目標	不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト4試験準備	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Lektion 5 冠詞類	小テスト5 冠詞類についての説明・応用	
		この回の到達目標	冠詞類についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト5試験準備	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題	30分
8	5/26	Lektion 5 不規則に人称変化する動詞 2 命令形	小テスト6 不規則に人称変化する動詞 2 命令形について説明・応用	
		この回の到達目標	不規則に人称変化する動詞 2 命令形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト6試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
9	6/2	Lektion 6 複数形	小テスト7 複数形について説明・応用	
		この回の到達目標	複数形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト7試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
10	6/9	Lektion 6 人称代名詞	小テスト8 人称代名詞の説明・応用	
		この回の到達目標	人称代名詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト8試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
11	6/16	Lektion 7 前置詞	小テスト9 前置詞の説明・応用	
		この回の到達目標	前置詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト9試験準備	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題	30分
12	6/23	Lektion 8 話法の助動詞	小テスト10 話法の助動詞の説明・応用	
		この回の到達目標	話法の助動詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト10試験準備	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/30	Lektion 8 未来形		小テスト11 未来形について説明・応用
		この回の到達目標	未来形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト11試験準備	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題	30分
14	7/7	期末試験		期末試験及び解説
		この回の到達目標	今学期学修した内容全般について理解・応用できている。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	理解不足だった課の復習	60分
15	7/14	まとめ、振り返り		今学期の学修内容を振り返り、今後の学修計画を立てる。
		この回の到達目標	今学期を振り返り、今後に必要な学修計画について説明できる。	
		事前学修	今までの学修内容を概観、教科書の後半に目を通して今後の学修計画を練る。	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音、語形変化、ドイツ語文の作成、会話も交えたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で小テストの成果を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法・１００語の世界	清水 薫	同学社	2008		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験をもとに、実践で必要とされる文法の応用形式を授業で扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明。	
		この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	教材準備	30分
2	4/17	アルファベット ドイツ語の発音	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践	
		この回の到達目標	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践ができる。	
		事前学修	アルファベット ドイツ語の発音予習	30分
		事後学修	アルファベット ドイツ語の発音復習	30分
3	4/24	Lektion 1 規則的に変化する動詞	小テスト1 規則的に変化する動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	規則的に変化する動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト1試験準備	30分
		事後学修	Lektion 1 練習問題	30分
4	5/1	Lektion 2 文を作る	小テスト2 基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用	
		この回の到達目標	基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト2試験準備	30分
		事後学修	Lektion 2 練習問題	30分
5	5/8	Lektion 3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhaben	小テスト3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhabenについての説明・応用	
		この回の到達目標	名詞の性と格（1格/4格） seinとhabenについての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト3試験準備	30分
		事後学修	Lektion 3 練習問題	30分
6	5/15	Lektion 4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)	小テスト4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)についての説明・応用	
		この回の到達目標	不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト4試験準備	30分
		事後学修	Lektion 4 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Lektion 5 冠詞類	小テスト5 冠詞類についての説明・応用	
		この回の到達目標	冠詞類についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト5試験準備	30分
		事後学修	Lektion 5 練習問題	30分
8	5/29	Lektion 5 不規則に人称変化する動詞 2 命令形	小テスト6 不規則に人称変化する動詞 2 命令形について説明・応用	
		この回の到達目標	不規則に人称変化する動詞 2 命令形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト6試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
9	6/5	Lektion 6 複数形	小テスト7 複数形について説明・応用	
		この回の到達目標	複数形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト7試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
10	6/12	Lektion 6 人称代名詞	小テスト8 人称代名詞の説明・応用	
		この回の到達目標	人称代名詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト8試験準備	30分
		事後学修	Lektion 6 練習問題	30分
11	6/19	Lektion 7 前置詞	小テスト9 前置詞の説明・応用	
		この回の到達目標	前置詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト9試験準備	30分
		事後学修	Lektion 7 練習問題	30分
12	6/26	Lektion 8 話法の助動詞	小テスト10 話法の助動詞の説明・応用	
		この回の到達目標	話法の助動詞の説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト10試験準備	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Lektion 8 未来形	小テスト11 未来形について説明・応用	
		この回の到達目標	未来形について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト11試験準備	30分
		事後学修	Lektion 8 練習問題	30分
14	7/10	期末試験	期末試験及び解説	
		この回の到達目標	今学期学修した内容全般について理解・応用できている。	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	理解不足だった課の復習	60分
15	7/17	まとめ、振り返り	今学期の学修内容を振り返り、今後の学修計画を立てる。	
		この回の到達目標	今学期を振り返り、今後に必要な学修計画について説明できる。	
		事前学修	今までの学修内容を概観、教科書の後半に目を通して今後の学修計画を練る。	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第 1 部 木4/9	【ガイダンス】【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字（および発音）	
		この回の到達目標	到達目標①②③の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を理解する。	
		事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。（30分）	30分
		事後学修	文字と発音の復習（30分）	30分
2	第 1 部 木4/16	【文字と発音】	ドイツ語の発音 前回授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、解説・練習をする。単語だけでなく、短い文も読んでみる。	
		事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる。（10分）	10分
		事後学修	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（50分）	50分
3	第 1 部 木4/23	【動詞の現在人称変化】	1 格の人称代名詞 動詞の人称変化 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、まず動詞の現在人称変化を学ぶが、その前提として1格の人称代名詞も使えるようになる。	
		事前学修	授業1回目～2回目の復習（15分）	15分
		事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
4	第 1 部 木4/30	【重要な不規則変化動詞と語順】	sein と haben ドイツ語の語順 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③関連し、sein と habenの変化を覚え、動詞の位置を理解する。	
		事前学修	授業1回目～3回目の復習（15分）	15分
		事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
5	第 1 部 木5/7	【名詞の変化概要】	名詞の性と格 定冠詞と不定冠詞の変化 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、名詞にグループ分けがあることを理解し、定冠詞・不定冠詞の変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業1回目～4回目の復習（15分）	15分
		事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
6	第 1 部 木5/14	【名詞の複数形】	複数形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前回学習した名詞変化を発展させて、複数形についても変化を表にすることができる。	
		事前学修	授業1回目～5回目の復習（15分）	15分
		事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第 1 部 木8/21	【定冠詞類】	定冠詞類 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞類の変化ができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第 1 部 木5/28	【不定冠詞類】	不定冠詞類 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不定冠詞類の変化ができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～7 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第 1 部 木6/4	【格変化】	人称代名詞の格変化 3 人称の人称代名詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、人称代名詞の変化を表から読み取ることができる。	
		事前学修	授業 1 回目～8 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	9 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第 1 部 木6/11	【3 格と 4 格】	3 格と 4 格 非人称の es 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、格変化の基礎的な意味を理解する。	
		事前学修	授業 1 回目～9 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 0 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第 1 部 木6/18	【不規則変化動詞の調べ方】	動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不規則変化動詞の現在人称変化を調べることができるようになる。	
		事前学修	授業 1 回目～1 0 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 1 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第 1 部 木6/25	【不規則変化動詞を覚える】	重要な不規則変化動詞 命令形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、いくつかの不規則変化動詞の現在人称変化を覚える。命令形・命令法について概略を理解する。	
		事前学修	授業 1 回目～1 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	1 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木7/2	【前置詞】【3基本形】	前置詞 3基本形入門 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前置詞と格変化について理解する。単純な3基本形を作ることができる。	
		事前学修	授業1回目～12回目の復習（15分）	15分
		事後学修	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
14	第1部 木7/9	【試験】【振り返り】	授業内試験。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、授業1回目～13回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業1回目～13回目の復習（45分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（15分）	15分
15	第1部 木7/16	【前回までの学習事項の補足】	前回までの授業の補足など。 試験の解説。 場合によっては追試験を実施。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要事項の再確認等を行う。	
		事前学修	授業1回目～14回目の復習（15分）	15分
		事後学修	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習 授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習形式。教科書と独和辞典を常時使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して、返却。授業内試験の解説・講評は、後日、ポータルシステムにて配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
C D付き 気分はドイツ	本郷建治、佐藤彰、 他	三修社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：20～12：50、授業講堂（事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	【ガイダンス】【動詞の変化とは】	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典、発音の概要について説明を行う）。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行いことができる。 主語と動詞の現在人称変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、変化表を作ることができ、アルファベットを発音することができる。	
		事前学修	シラバスを確認して、講義の全体を概観し、教科書第1課「動詞の現在人称変化（1）」の10ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容とアルファベットの発音、現在人称変化についておさらいする。	30分
2	第一部 月4/13	【動詞の位置】	平叙文と疑問文における動詞の定位置について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の位置について理解し、説明することができ、規則に則って文を作り、正しく発音することができる。	
		事前学修	11ページを読み、12ページの問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた問題を解き直し、10ページの表を音読して正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	30分
3	第一部 月4/20	【名詞の性と格とは】【定冠詞と不定冠詞】	名詞には男・女・中性の区別があり、文中での働きによって1・2・3・4格があり、定冠詞と不定冠詞を意味によって使い分けることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞の意味の違いを理解し、それらを用いた文の構造を説明して翻訳することができる。	
		事前学修	第2課「冠詞と名詞」の13～15ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	13頁の「定冠詞と名詞の格変化」を音読して、正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	30分
4	第一部 月4/27	【複数形⑨【男性弱変化名詞とは】	名詞には複数形と格変化があることと、特殊な変化をする男性名詞があることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の複数形と男性弱変化名詞について理解し、文の中でそれらを指摘し、辞書を引くことができる。	
		事前学修	16ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認して間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
5	第一部 月5/4	【不規則変化動詞】	現在形で不規則に変化する動詞の人称変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現在形で不規則に変化する動詞の人称変化を理解する。	
		事前学修	第3課「動詞の現在人称変化（2）」の17～18ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	作成した変化表と17～18ページの例文を音読して、正しい発音を身につける。	30分
6	第一部 月5/11	【数詞とは】	数詞を使った時刻の表現、自己紹介や基本的な疑問文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、数詞を使って時間を言うことができ、コミュニケーションの基礎を形成する、自己紹介や相手を知るための質問の受け答えができる。	
		事前学修	19ページの問題を解き、20ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。20ページの文を参考にして、自己紹介する文を5文作る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	【人称代名詞】【さまざまな冠詞】	定冠詞・不定冠詞以外の冠詞の意味と格変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、さまざまな冠詞類の意味と格変化について理解し、変化表を作ることができる。	
		事前学修	第4課「人称代名詞、冠詞類」の21～23ページを読んで準備する。	35分
		事後学修	人称代名詞の変化表を音読して正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	25分
8	第一部 月5/25	【名詞の2格とは】	さまざまな冠詞を名詞につけて、2格を作ることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2格の冠詞と名詞を用いた文を作ることができる。	
		事前学修	24ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
9	第一部 月6/1	【副文とは】	動詞の位置で分かる副文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平叙文・疑問文に加えて、副文における動詞の位置について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課「定形の位置」の26～27ページを読み、29ページの問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直し、副文を作る「従属の接続詞」を書いて暗記する。	30分
10	第一部 月6/8	【前置詞とは】	前置詞の意味と、その後ろに来る格について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前置詞の意味と格支配について理解し、人称代名詞や冠詞を伴った名詞をその格にすることができる。	
		事前学修	第6課「前置詞」の31～33ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	31～32頁の前置詞を音読して正しい発音を身につけ、前置詞を暗記する。	30分
11	第一部 月6/15	【前置詞と定冠詞の融合形とは】	前置詞と定冠詞が融合して一語になった形について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前置詞と定冠詞との融合形について理解し、正しく発音し、文中で指摘して翻訳することができる。	
		事前学修	34ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認し、間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
12	第一部 月6/22	【話法の助動詞とは】	話法の助動詞のニュアンスと変化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞の意味と現在人称変化について理解する。	
		事前学修	第7課「話法の助動詞」の35～36ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	35ページの変化表を暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月 6/29	【助動詞構文とは】	話法の助動詞を使った構文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞構文を理解し、翻訳することができる。	
		事前学修	37ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認し、間違った箇所の問題を解き直す。	25分
14	第一部 月 6/29	【三基本形とは】【過去形】	三基本形の形と発音、過去人称変化を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、三基本形について理解し、正しい発音を身につけ、過去形の文を翻訳することができる。	
		事前学修	第8課「動詞の三基本形」の39～40ページを読み、41ページの問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違った箇所の問題を解き直す。過去人称変化表を暗記する。	25分
15	第一部 月 7/13	【振り返り】【授業内試験】	前学期で学んだことを振り返り、身についたかどうかを試験で確認する。その後、講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筆記試験により、全般的な到達度を判断する。	
		事前学修	教科書、ノート、配布資料を使って、全範囲にわたって復習し、不明な個所は理解する。	120分
		事後学修	試験で正解が出せなかったところを、教科書とノートで検討し、確認する。	20分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	森田 悟	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
学部の規定による。

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナードやさしいドイツ語語文法	萩原耕平、山崎泰孝	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時（火曜21：10～）、ただし、できる限り事前に申し出ること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月7日	ガイダンスとドイツ語とは	ドイツ語学習の意味と広がりを考える
		この回の到達目標	①に関連してドイツ語の学習についてやさしさと難しさを理解し学習計画を立てることができる。
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと 30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分） 30分
2	4月14日	ドイツ語の綴りと発音	発音、綴り字等について学修する
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の綴りと発音説明することができる。
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと 30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと 30分
3	4月21日	ドイツ語の名詞	名詞の性と格について学修する
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格について説明することができる。
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと 30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと 30分
4	4月28日	ドイツ語の名詞	名詞の性と格について学修する
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格について説明できる
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと 30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと 30分
5	5月5日	人称代名詞	人称代名詞について学修する
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の人称代名詞について説明できる
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと 30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと 30分
6	5月12日	定冠詞・不定冠詞	定冠詞、不定冠詞について学修する
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の定冠詞・不定冠詞について説明できる
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと 30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	定冠詞。不定冠詞	定冠詞、不定冠詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の定冠詞・不定冠詞について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
8	5月26日	人称代名詞	人称代名詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の人称代名詞について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
9	6月2日	人称代名詞	人称代名詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の人称代名詞について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）	30分
10	6月9日	不規則動詞	不規則動詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の不規則動詞について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
11	6月16日	不規則動詞	不規則動詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の不規則動詞について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
12	6月23日	前置詞	前置詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の前置詞について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	前置詞・命令	前置詞、命令について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の前置詞・命令について説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	7月7日	これまでの学修を確認	まとめ及び授業内試験	
		この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語のこれまで学修事柄を確認し評価することができる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
15	7月14日	これまで学習したこと事柄を振り返る	これまでの学習の確認と補充	
		この回の到達目標	①②③に関連してこれまで学修したドイツ語の理解を補足し学修事項を確認説明できる	
		事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bを同時履修すること

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜2限、授業後の教室、もしくは、9号館の共有スペース(事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp)にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	4/13	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	4/20	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
		事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	4/27	動詞の基本的な変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
		事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
		事後学修	ernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	5/4	sein habenの変化 形2位の原則	重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要不規則動詞sein habenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
		事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
		事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	5/11	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げるができる。	
		事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
		事後学修	格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	5/25	2格の位置	小テストを実施する。 学者が間違いやすい、2格を取り上げ、文構造を説明する。	初
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、2格名詞を含んだ平易な文章を作ることができる。	
		事前学修	2格名詞に注意して、文章を訳し、実際書いてみる。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
		事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	6/1	母音交替動詞の変化	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみ、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
10	6/8	人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
		事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	6/15	定冠詞類と不定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
12	6/22	疑問代名詞、疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類と不定冠詞類、そして疑問詞を含んだ平易な文章を訳し、作成することができる。	
		事前学修	疑問代名詞の格変化と男性、中性の定冠詞の格変化とを比較し、共通する部分を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、練習問題を何度も発音し、覚えるまでノートに書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞について取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「が・の・に・を」の4つの格を補うための品詞、前置詞を用いることで、表現の幅を広げることができる。	
		事前学修	前置詞の意味だけでなく、どの前置詞が何格と結びつくかをしっかりと覚えておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	7/6	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
		事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/13	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜5時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
水曜5時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」を同時履修すること。受講の際には、佐藤先生の水・5の授業にウェブ登録すること。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ゲナウ！レーゼン」	新倉真矢子他	第三書房	2016	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2016	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜5限、授業後の教室、もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	4/13	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	4/20	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
		事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	4/27	動詞の基本的な変化 定形2位の法則	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称、定形といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、wohnen, lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。定形の位置を把握できる。	
		事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
		事後学修	wohnen, lernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	5/4	sein haben, werdenの変化 並列の接続詞	重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則と並列の接続詞との関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要不規則動詞sein haben, werdenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
		事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
		事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	5/11	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格 定冠詞・不定冠詞	基本的な重要動詞の変化を復習し、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げるができる。定冠詞と不定冠詞の違いを把握できる。	
		事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞と冠詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
		事後学修	格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	5/25	複数形の5タイプ 人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	小テストを実施する。 ドイツ語の名詞の複数形5タイプの作り方を説明する。 人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、複数形を作ることができる。3人称の人称代名詞の用法について英語との違いを把握できる。	
		事前学修	英語の人称代名詞との違いを調べておく。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
		事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを開き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	6/1	定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
		事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
10	6/8	不定冠詞類 否定冠詞	定冠詞類との語尾の違いを説明する。改めて、否定冠詞も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、所有冠詞を難なく変化させることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	6/15	母音交替動詞の変化 命令形	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。 命令形の作り方について説明する。定形の位置についても指摘する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。また、命令文を作ることができる。	
		事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。 命令形は3タイプあることを調べておく。	30分
		事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみて、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
12	6/22	ドイツ語検定試験（独検）対策	独検5級（入門レベル）の過去問題を解きながら、問題の意図を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いままで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認、覚えることができる。	
		事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度読んでみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて、過去問を覚えるまで何度もやり直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	前期の総復習	基本単語、基本文法、基本表現を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法を手掛かりにして、平易な文章を訳し、作文することができる。	
		事前学修	基本単語、人称変化、格変化をしっかりと覚えておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	7/7	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
		事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
		事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	7/14	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
		事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aと併せて、ドイツ語基礎表現Aを履修すること（または履修済み）が望ましい。後期のドイツ語基礎文法Bは、独検を受験することが履修条件となりますので注意して下さい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて、学習した内容の定着を深めていきます。練習問題は、受講生に積極的に発表してもらいます。毎回、予習をしっかりとやることが前提となります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、授業内にて。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブーメラン・エルエー』（※姉妹版『ブーメラン』もあるため注意。必ず『ブーメラン・エルエー』を購入してください。	小野寿美子他	朝日出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:10～ 授業終了後の講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	【ガイダンス】 この授業を受けるにあたって	授業の進め方、評価方法、独和辞典の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独和辞典などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。授業で紹介された独和辞典をWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	第一部 火4/14	【つづり字と発音】	ドイツ語のアルファベットと発音について	
		この回の到達目標	ドイツ語のアルファベットと基礎的な発音を理解し、適用することができる。	
		事前学修	教科書の2～5頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で確認したアルファベットの発音を復習する。	30分
3	第一部 火4/21	【Lektion1】動詞	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則動詞)、重要動詞seinとhaben	
		この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の10頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ動詞の現在人称変化を復習する。	30分
4	第一部 火4/28	【Lektion1】語順	平叙文、疑問文での語順	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造を理解し、適用することができる。	
		事前学修	教科書の11頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ語順のパターンを復習する。	30分
5	第一部 火5/5	【Lektion2】名詞の性と冠詞	名詞の性、冠詞の格変化	
		この回の到達目標	名詞の性別と冠詞の格変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の18頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ名詞の性別と冠詞の格変化を復習する。	30分
6	第一部 火5/12	【Lektion2】名詞の複数形	名詞の複数形の5つの型	
		この回の到達目標	名詞の複数形の5つの型を理解し、独和辞典で確認することができる。	
		事前学修	教科書の19頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ複数形の5つの型について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	【Lektion3】不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	規則動詞との違いを理解し、不規則動詞の現在人称変化を適用することができる。	
		事前学修	教科書の26頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ不規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
8	第一部 火5/26	【Lektion3】非人称のes	非人称のesの表現と時刻の言い方	
		この回の到達目標	非人称のesの表現と時刻の表現を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の27頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ非人称のesと時刻の表現を復習する。	30分
9	第一部 火6/2	【Lektion4】冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類	
		この回の到達目標	定冠詞類、不定冠詞類の種類と格変化を確認し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の34頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ定冠詞類、不定冠詞類の使い方を復習する。	30分
10	第一部 火6/9	【Lektion4】 人称代名詞の3格と4格	人称代名詞の3格と4格、3格と4格の語順	
		この回の到達目標	人称代名詞の3格と4格を確認し、注意すべき3格、4格の語順を説明することができる。	
		事前学修	教科書の35頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ人称代名詞の3格と4格を復習する。	30分
11	第一部 火6/16	【Lektion5】前置詞	前置詞の種類と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の種類と格支配を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の42頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ前置詞の格支配を復習する。	30分
12	第一部 火6/23	【Lektion5】疑問代名詞	疑問代名詞のwerとwasの格変化	
		この回の到達目標	疑問代名詞の種類と格変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の43頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ疑問代名詞を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	【Lektion6】 話法の助動詞	助動詞の種類と語順	
		この回の到達目標	話法の助動詞の種類、現在人称変化、語順を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の50頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ話法の助動詞の現在人称変化と語順を復習する。	30分
14	第一部 火7/7	【前期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
		この回の到達目標	試験を通じて前期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
		事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
		事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	第一部 火7/14	【前期の総括】	前期授業のまとめ	
		この回の到達目標	前期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
		事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
		事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
文法事項を説明し、理解できたかどうかを練習問題で確認します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業時に答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ドイツについて	導入	
		この回の到達目標	ドイツの歴史について知る	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	4/17	発音規則	第1課 発音	
		この回の到達目標	発音規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	4/24	基数	第2課 数詞	
		この回の到達目標	ドイツ語で0～100まで言えるようにする	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	5/1	動詞の変化	第3課 動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	主語と動詞の関係を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	5/8	不規則動詞	第4課 強変化動詞	
		この回の到達目標	強変化動詞のパターンに慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	5/15	名詞の性・数・格	第5課 名詞の格変化	
		この回の到達目標	名詞の性・数・格のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	格変化の発展 1	第 6 課 冠詞類	
		この回の到達目標	冠詞類の使い方に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	5/29	格変化の発展 2	第 7 課 人称代名詞	
		この回の到達目標	代名詞の性・数・格を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	6/5	人称変化の発展	第 8 課 話法の助動詞	
		この回の到達目標	助動詞の使い方に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	6/12	前置詞の用法	第 9 課 前置詞	
		この回の到達目標	前置詞の格支配に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	6/19	動詞の発展	第 1 0 課 複合動詞	
		この回の到達目標	分離・非分離動詞を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	6/26	2 人称の違い	第 1 0 課 命令形	
		この回の到達目標	命令形の作り方に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	1～10課	前期のまとめ	
		この回の到達目標	前期に勉強したことを復習する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	7/10	筆記試験及びまとめ	前期の力だめし	
		この回の到達目標	前期の学習事項を理解できたかどうかを確認する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
15	7/17	解説	前期の総括	
		この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂・ドイツ文法の森（CD付）	ローデリヒ・ガート ゲ	第三書房	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口にし出て，声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	年間講義計画・成績評価方法・文字と発音のしくみ	授業方針を説明する。 すぐに文字、発音の訓練に入る。	
		この回の到達目標	授業と教科書の趣旨を理解する。 ドイツ語の文字と響きを体験する。	
		事前学修	ドイツやドイツ語について、図書館や電子媒体等を利用してまとめる。	30分
		事後学修	ドイツ語学習を、この半年の学生生活に位置付けてみる。	30分
2	水4/15	発音訓練	教科書の例に従い、発音と綴りを確認する。	
		この回の到達目標	ドイツ語特有の発音と綴り字規則を知る。	
		事前学修	教科書添付のCDを聴き、ドイツ語の音声に親しむ。	30分
		事後学修	発音の要点を確認する。重要項目を声に出し、綴り字を書いてみる。	30分
3	水4/22	動詞の現在人称変化	人称変化の仕組みと規則を知り、いくつかの動詞で練習する。	
		この回の到達目標	規則変化の代表例を覚えてしまうことが望ましい。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語との違いを知る。	30分
		事後学修	ドイツ語の人称変化の基本であるからよく練習をする。	30分
4	水4/29	定動詞の位置と枠構造	いくつかの例文を見て、その構造を理解する。 自分でもドイツ文を作ってみる。	
		この回の到達目標	基本的なドイツ文の仕組みを理解できる。	
		事前学修	英語の文の種類、それぞれの文における動詞の位置をまとめる。 そこで使われている文法用語も確認する。	30分
		事後学修	練習問題で、ドイツ語の語順になじむ。	30分
5	水5/6	名詞の性と格変化	最初は表で変化を知る。 文の中で冠詞や名詞がどう変わるかを学ぶ。	
		この回の到達目標	練習を通じてまずは定冠詞の変化が頭の中に残るようにする。	
		事前学修	教科書の説明を読み、英語と比較してみる。	30分
		事後学修	名詞、冠詞の性、数、格について復習する。 教科書の例をCDで聴く。	30分
6	水5/13	名詞の複数形・定冠詞類と不定冠詞類	冠詞の変化の復習をする。 その応用、発展として複数形、冠詞類を学ぶ。	
		この回の到達目標	冠詞、冠詞類の変化を定着させる。	
		事前学修	英語の複数形をまとめる。	30分
		事後学修	冠詞、冠詞類の変化を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	動詞の不規則変化	規則変化の復習をする。 その応用、発展として不規則変化の代表例を学ぶ。	
		この回の到達目標	動詞の人称変化により親しむ。	
		事前学修	第3回動詞の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	代表例の人称変化を復習する。	30分
8	水5/27	人称代名詞の格変化	人称代名詞の主格を確認する。 格変化、指示関係に注目しながら文章練習をする。	
		この回の到達目標	練習を通じて人称代名詞の変化を定着する。	
		事前学修	英語の人称代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	人称代名詞の格変化を覚える。英語の用法との違いを確認する。	30分
9	水6/3	前置詞	主な前置詞の用例を読む。 格支配について学ぶ。	
		この回の到達目標	代表的な用例を文章で理解する。	
		事前学修	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	具体的な用例の復習をし、ドイツ語の前置詞を理解する。	30分
10	水6/10	話法の助動詞	助動詞構文を知る。 それぞれの助動詞の用法を例文で理解する。	
		この回の到達目標	枠構造を理解する。 助動詞の人称変化ができる。	
		事前学修	ドイツ語と英語の助動詞を対応させてみる。	30分
		事後学修	助動詞の人称変化を復習する。 例文で、助動詞、本動詞の語順を理解する。	30分
11	水6/17	形容詞の格変化	冠詞の変化を復習する。 形容詞の格変化を練習する。	
		この回の到達目標	形容詞の格変化の仕組みを理解する。	
		事前学修	第5回の定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化を復習する。	30分
		事後学修	変化についての基本的考え方を理解した上で徐々に覚えていく。	30分
12	水6/24	動詞の三基本形	動詞の三基本形の種類を知る。 辞書や不規則動詞変化表の見方を確認する。	
		この回の到達目標	主な動詞の三基本形を作ることができる。	
		事前学修	英語の動詞の三基本形を振り返ってみる。	30分
		事後学修	先ず規則変化を確実に身につける。不規則変化は重要動詞から徐々に覚えていく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	過去人称変化	現在人称変化の復習をする。 過去形を使っている文を読み取る。	
		この回の到達目標	文の現在と過去の時称動詞から読み取ることができる。	
		事前学修	第3回の現在人称変化を復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を読み直し、過去時制の判断が可能になっているか確認する。	30分
14	水7/8	前期まとめ	文法事項を中心に前期の勉強を整理する。 質問を受けて補足説明する。	
		この回の到達目標	前期の復習をし、理解が不足している部分を確認する。	
		事前学修	前期の学習をまとめてみる。	30分
		事後学修	重要項目を再度確認する。	30分
15	水7/15	試験	試験をして解説、講評を行う。	
		この回の到達目標	前期の成果を明らかにし、後期の学習で留意すべき点を考える。	
		事前学修	重要項目をまとめ、理解を確認する。	30分
		事後学修	試験を点検し、後期の学習を展望する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(第一部金曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則、ドイツ語基礎文法Bと通年でこの授業を履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークなどを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義、文字と発音(前半)	今後の学習についての概要を説明する。アルファベートを練習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音をすることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)	30分
		事後学修	第2回の授業までにテキストを準備すること。授業で習った発音練習をすること。(30分)	30分
2	4/17	文字と発音(後半)	アルファベートを復習したのち、単語やあいさつ文を使って実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	テキストを準備して授業に来ること。前回の授業で習った発音をすること。	30分
		事後学修	音声教材を利用し、発音練習を行うこと。	30分
3	4/24	第1課 動詞の現在人称変化と語順	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の授業の復習を十分にしておくこと。第1課の内容について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第1課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	5/1	第1課 動詞の現在人称変化と語順、第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの3番と23ページの4番も扱う)	前回の復習の後、関連した練習問題を解く。名詞の性と格変化について、概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	発音練習と、第1課の文法事項をあらためて復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。	30分
		事後学修	定冠詞・不定冠詞の格変化の表を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	5/8	第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの2番と3番、23ページの4番も扱う)、第2課後半 重要な動詞	前回の復習の後、重要な動詞の現在人称変化について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。重要な動詞の現在人称変化を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	名詞の格変化について、十分に復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。	30分
		事後学修	重要な動詞の人称変化を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	5/15	第3課 不規則動詞の現在人称変化	現在人称変化の不規則な動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞について特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第1課の学習内容をあらためて復習しておくこと。新たに学習する不規則動詞の人称変化についても、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第1課、第2課でも動詞に関することを学習しているので、第3課の内容とごちゃごちゃにならないよう、注意深く復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	5/22	第10課(後半) 命令形		前回の復習の後、命令形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形の法則と注意すべき点を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	前回の学習内容を復習しておくこと。今回の授業の学習内容も、あらかじめ少し目を通しておくことが望ましい(今回はテキストの後半部分の第10課の一部を扱うため、予習する場合には気をつけること)。		
		事後学修	命令形について、よく復習すること。指示された宿題をしておくこと。		
8	5/29	第4課(前半) 前置詞		2格、3格、4格と結びつく前置詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化について、復習しておくこと。前置詞について、あらかじめ、少し目を通しておくこと。		
		事後学修	前置詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。		
9	6/5	第4課(後半) 副文		副文について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文の特徴を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	第1課で学習したドイツ語の語順について、復習しておくこと。		
		事後学修	副文は、英語とは語順が異なるため、十分に時間をかけて復習すること。指示された宿題をしておくこと。		
10	6/12	第5課(前半) 人称代名詞		人称代名詞について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の一覧表を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	新たに学習する人称代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。		
		事後学修	人称代名詞について、十分に復習すること(表を覚えること)。指示された宿題をしておくこと。		
11	6/19	独検(5級) 説	模試の実施と解	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。		
		事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。		
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。		
12	6/26	第5課(後半) 再帰動詞		再帰代名詞と再帰動詞について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞や再帰動詞の特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。		
		事前学修	第5課前半の学習事項が基礎となるので、復習してから授業にのぞむこと。		
		事後学修	再帰動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	第6課 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の表の特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	すでに学習した定冠詞・不定冠詞の知識が基礎となるので、よく復習して授業に来ること。第6課の内容も、前もって少し目を通しておくのが望ましい。	30分
		事後学修	定冠詞類・不定冠詞類について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
14	7/10	理解度の確認と前期のまとめ	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/17	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。学習が十分ではない点を把握し、今後の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(第二部火曜1時限)	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Bと通年で履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	例文の音読やグループでの練習など。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義とアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書についているCDを開いて、実際に発音してみる。	30分
		事後学修	第2回の授業までに教科書を準備し、今後、どのような学習をすることになるか、ひととおり、目を通すこと。	30分
2	4/14	第1課 ドイツ語の発音	アルファベットを復習したのち、単語やあいさつ文を使って実際の発音を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
		事前学修	教科書を準備して授業に参加すること。教科書を読んでくること。	30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習する。	30分
3	4/21	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
		事前学修	第2課の内容について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
4	4/28	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化	前回到引き続き、ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。関連した練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
		事前学修	前回の授業の復習を十分に行っておくこと。	30分
		事後学修	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
5	5/5	第3課 名詞の性と格	ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	第3課の学習事項について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第3課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
6	5/12	第3課 名詞の性と格/第4課 定冠詞類と不定冠詞類	引き続き、定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。あわせて、定冠詞類と不定冠詞類について、概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
		事前学修	前回の学習事項を十分に復習し、第4課の内容について少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第4課の内容は第3課の延長上にある。第3課と第4課の復習を十分にすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	第4課 定冠詞類と不定冠詞類/第5課 人称代名詞	引き続き、定冠詞類と不定冠詞類について説明する。人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
		事前学修	前回の学習事項を十分に復習し、第5課の内容について少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第3課と第4課の内容について、きちんと覚えること。第5課の内容についても、概要を理解できるようにしておくこと。	30分
8	5/26	第5課 人称代名詞	人称代名詞の一覧表を復習し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の一覧表を書くことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第5課の学習内容について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第5課の人称代名詞の一覧表をすべて覚えること。期末テストに備えて、第1課から第4課の学習内容についても、復習すること。	30分
9	6/2	第6課 不規則動詞、命令形	現在人称変化の不規則な動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞について特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第6課の不規則動詞について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	不規則動詞について、練習問題等も活用しながら、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。	30分
10	6/9	第6課 不規則動詞、命令形	前回の復習の後、命令形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形の法則と注意すべき点を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の学習事項について、十分に復習しておくこと。	30分
		事後学修	命令形について、練習問題等を活用し、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。	30分
11	6/16	第7課 前置詞	2格、3格、4格と結びつく前置詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第7課の学習事項について、少し目を通しておくこと。第3～5課の内容も関係してくるので、よく復習しておくこと。	30分
		事後学修	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。	30分
12	6/23	第7課 前置詞/第8課 分離動詞、接続詞	前回の復習の後、3・4格支配の前置詞について解説する。関連する練習問題を解くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を十分に復習しておくこと。第8課の分離動詞について、少し目を通しておくこと。動詞の人称変化の知識が求められるので、あらためて復習しておくこと。	30分
		事後学修	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	第8課 分離動詞、接続詞	分離動詞と接続詞について解説する。関連する練習問題を解くことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞と接続詞に関する要点を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第8課の分離動詞について、十分に復習しておくこと。接続詞について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第8課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第7課の学習内容についても、復習すること。	30分
14	7/7	理解度の確認と前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/14	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。学習が十分ではない点を把握し、今後の学習計画を立てることができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bを同時履修すること

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」	本郷建治・佐藤彰	三修社	2017	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜2限授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp)にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	前期文法の総復習 3・4格支配の前置詞	前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。その後、3・4格支配の前置詞の用法の説明を行う。	
		この回の到達目標	英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えたいうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。	
		事前学修	冠詞類の格変化(3格形、4格形)を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
2	9/21	前置詞を伴う熟語 前置詞の融合形	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どういふばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表記も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の熟語を知ること、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ることができる。	
		事前学修	参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
3	9/28	話法の助動詞	話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができる。	
		事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
4	10/5	動詞の三基本形 過去人称変化	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過去の人称変化についても述べる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。	
		事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
5	10/12	完了形	完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語表現であることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。	
		事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
6	10/19	分離動詞	前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げて、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる ドイツ語の構文の特徴である枠構造と結びつけて考えることができる。	
		事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /26	形容詞の用法 付加語的用法	ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化する のはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。	
		事前学修	強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
8	11/9	esの用法	非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
9	11 /16	再帰動詞 再帰代名詞	主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加わえら れる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」とい う自動詞的な意味にすることができる。	
		事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。	30分
10	11 /23	受動態	今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作 を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質 と区別して表現することができる。	
		事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
11	11 /30	分詞 zu不定詞	分詞の定義と種類を説明し、その後、zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別し て訳すことができる。	
		事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認 する。	30分
12	12/7	副文 関係文	まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。	
		事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。練習	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認 しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /14	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
		事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	110分
14	12 /21	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
		事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	110分
		事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	1/18	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
		事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜5時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
水曜5時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」を同時履修すること。受講の際には、佐藤先生の水・5の授業にウェブ登録すること。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる							1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる							1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ゲナウ！レーゼン」	新倉真矢子他	第三書房	2016	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2016	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室、もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	前期文法の総復習 話法の助動詞	前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。 話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、さらに、到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができる。	
		事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。1人称単数と3人称単数の人称変化形を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
2	9/21	前置詞と格支配	「～が・の・に・を」以外の関係、例えば、「～と」「～で」「～から」「～のために」等を表すときに使うドイツ語の前置詞を取り上げ、格支配について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の前置詞を知ることで、より詳しい、複雑なドイツ文を作ることができ、表現の幅を広げることができる。	
		事前学修	英語の前置詞は何格を支配しているか考えてみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
3	9/28	3・4格支配の前置詞 前置詞を伴う熟語 前置詞の融合形	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どうい うばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表 記も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えたいうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。それによって、ドイツ語の熟語を使ったり、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
4	10/5	再帰動詞 再帰代名詞	主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加わえられる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」という自動詞的な意味にすることができる。	
		事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。 辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。	30分
5	10/12	分離動詞	前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げて、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる ドイツ語の構文の特徴である枠構造と結びつけて考えることができる	
		事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
6	10/19	動詞の三基本形 過去人称変化	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過去の人称変化についても述べる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。	
		事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /26	完了形	完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語表現であることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。	
		事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認しておく。	30分
8	11/9	形容詞の用法 付加語的用法	ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化するのはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。	
		事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
9	11 /16	副文 関係文	まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。	
		事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認しておく。	30分
10	11 /23	受動態	今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質と区別して表現することができる。	
		事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
11	11 /30	分詞 zu不定詞 esの用法	分詞の定義と種類を説明し、その後zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別して訳すことができる。到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。	
		事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。英語のitの用法を調べておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認する。	30分
12	12/7	ドイツ語検定試験（独検）対策	独検4級（初級レベル）の過去問題を解きながら、問題の意図を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、検定の問題を通して今まで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認し、覚えることができる。	
		事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度熟読してみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /14	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
		事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
		事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	150分
14	12 /21	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
		事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	150分
		事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	1/18	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
		事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語学習に熱意があること。

【授業方法】
各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題当順次当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文法の習得状況に応じて適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）	森公成他	同学社	2017	教科書	必携
独和辞書（ガイドンスにて紹介）	特に指定はしない	特に指定はしない		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問は、授業中いつでも活発に質問してほしい。授業後も教室等で対応する。授業時間：火曜 1 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	複合動詞	Lektion8 複合動詞 分離動詞と非分離動詞	
		この回の到達目標	分離動詞の使い方を習得する。	
		事前学修	夏期課題を持参する。 Lektion8を読んでおく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
2	9/22	再帰動詞・非人称の主語es	Lektion8 再帰動詞・非人称の主語es 再帰代名詞と再帰動詞	
		この回の到達目標	再帰動詞表現を習得する。	
		事前学修	Lektion8を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
3	9/29	形容詞	Lektion9 形容詞の語尾と形容詞の比較変化 形容詞の比較級、最上級	
		この回の到達目標	形容詞の非格変化の習得。	
		事前学修	Lektion9を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
4	10/6	動詞の三基本形	Lektion10 規則動詞・不規則動詞の三基本形 動詞の三基本形の作り方	
		この回の到達目標	規則動詞・不規則動詞の三基本形のルールを習得する。	
		事前学修	Lektion10を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
5	10/13	過去形	Lektion10 動詞の過去人称変化 動詞の過去形の作り方	
		この回の到達目標	過去時制の表現を習得する。	
		事前学修	Lektion10を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
6	10/20	現在完了形	Lektion11 現在完了形の作り方 haben、seinの使い分け	
		この回の到達目標	現在完了形と過去形の使い分けを習得する。	
		事前学修	Lektion11を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	受動態	Lektion12 受動態の作り方 能動表現と受動表現	
		この回の到達目標	受動表現を習得する。	
		事前学修	Lektion12を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
8	11/10	zu不定詞	Lektion12 zu不定詞とzu不定詞句 zu不定詞の作り方	
		この回の到達目標	zu不定詞句表現を習得する。	
		事前学修	Lektion12を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
9	11/17	分詞	Lektion12 現在分詞 過去分詞と現在分詞	
		この回の到達目標	現在分詞表現を習得する。	
		事前学修	Lektion12の未学習箇所を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
10	11/24	指示代名詞	Lektion13 指示代名詞と関係代名詞 指示代名詞の使い方	
		この回の到達目標	指示代名詞表現の習得。	
		事前学修	Lektion13を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
11	12/1	関係代名詞	Lektion13 関係代名詞と不定関係代名詞 関係代名詞の使い方	
		この回の到達目標	関係代名詞の使い方を習得する。	
		事前学修	Lektion13を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
12	12/8	接続法	Lektion14 接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式の用法 接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式の作り方と表現	
		この回の到達目標	接続法第Ⅰ式・第Ⅱ式の表現を習得する。	
		事前学修	Lektion14を読んでおく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	後期前半の文法復習	後期前半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	後期前半の練習問題の総復習。	
		事前学修	後期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	30分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	60分
14	12/22	後期後半の総復習	後期後半の文法内容のチェック	
		この回の到達目標	後期後半の練習問題の総復習。	
		事前学修	後期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく。	60分
		事後学修	授業内容を復習し課題を行う。	120分
15	1/12	試験および反省	期末テスト及びテスト内容の解説	
		この回の到達目標	試験および反省。	
		事前学修	期末テストに向け準備する。	120分
		事後学修	テストの出来をチェックし、1年間のドイツ語学習を総括する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
講義により文法説明・学生による発表をふくむ問題練習。視聴覚教材によって、眼と耳でドイツとドイツ語の世界に親しむ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中か講義後にフィードバック

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブロムナード やさしいドイツ文法』	荻原耕平他	白水社	2016		
備考					

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/11	前期の復習授業	前期リハビリ授業。わたしたちは何をまなんできたか？復習と後期への展望。	
		この回の到達目標	前期学習の文法事項でまだ不十分なものや、忘れてしまった事項などを思いだしてもらう。	
		事前学修	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。学期末にノート提出あり。（30分）	30分
2	9/18	Lektion9 助動詞	助動詞の変化形および意味と例文。	
		この回の到達目標	助動詞の運用	
		事前学修	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。学期末にノート提出あり。（30分）	30分
3	9/25	動詞の三基本形	Lektion10 動詞の三基本形 不定詞・過去基本形・過去分詞 不規則動詞変化表の使いかた。	
		この回の到達目標	主に動詞の過去形(文書表現に多用される)の作り方。運用。訳し方など。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
4	10/2	不規則動詞の過去形	Lektion10 不規則動詞の例文になれる。	
		この回の到達目標	不規則動詞の過去形が使われている文章の訳し方。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
5	10/9	現在完了形	Lektion11 英語の現在完了形とは少々意味あいがことなるドイツ語の現在完了形について。	
		この回の到達目標	同上、英語の現在完了形とは少々意味あいがことなるドイツ語の現在完了形について理解する。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
6	10/16	受動態	Lektion11 受動文の作り方。構文	
		この回の到達目標	簡単な受動文を作れること。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/23	形容詞の比較・最上級の用法1	Lektion12 形容詞 比較級・最上級をつかった文例を読む。	
		この回の到達目標	語尾によって比較・最上級を見わける。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
8	10/30	形容詞の用法2	Lektion12 形容詞の付加語的用法	
		この回の到達目標	形容詞のつく例文和訳。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
9	11/6	さまざまな文例①	Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞のの用法	
		この回の到達目標	再帰代名詞・zu 不定詞をつかった例文和訳。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
10	11/13	関係代名詞1	Lektion14 関係文(1)	
		この回の到達目標	関係題名にも格変化あります。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
11	11/20	関係代名詞2	Lektion 14 関係文(2)やや複雑な例文にもとりくもう。	
		この回の到達目標	関係代名詞の訳読(初級)	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
12	11/27	復習講義1	後期内容の復習と応用練習(1) 習熟練習	
		この回の到達目標	未理解の項目を自己診断できるようにしておこう。	
		事前学修	前回の復習（30分）	30分
		事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/4	復習講義2	後期内容の復習と応用練習(2) 習熟練習	
		この回の到達目標	未理解の項目を自己診断できるようにしておこう。	
		事前学修	前回の復習 (30分)	30分
		事後学修	復習/ノート整理。 (30分)	30分
14	12/11	復習講義および接続法	後期内容の復習と応用練習(3) 模擬問題練習(予定) 接続法の解説(試験範囲には入りません)	
		この回の到達目標	最終的復習・模擬試験	
		事前学修	復習 (30分)	30分
		事後学修	試験準備学習のこと。 (30分)	30分
15	12/18	後期試験 まとめ	後期試験 筆記。初見実力問題もありますから、独和辞書使用可。	
		この回の到達目標	初級ドイツ語の読解力。	
		事前学修	試験準備学習のこと。 (30分)	60分
		事後学修	試験結果の反省。 (30分)	10分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bも併せて履修すること。独和辞書必携。予習復習を怠ることなく授業への積極的な参加が求められる。ドイツ語検定4級を受験すること。

【授業方法】
ドイツ語基礎文法Aの続きの文法を学習する。身近な基本的表現を多く使って、反復練習を積み重ねながら着実に文法を身につける。特に確実に習得すべき事項に 関しては習得できるまで確認の小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田 悟	朝日出版社	2017		
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜3限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	数字	20以上の数字、時刻の表現について学習，練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字と時間を表現できる。	
		事前学修	単語と数字の発音を復習しておくこと。	30分
		事後学修	数字、時刻の表現を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。	30分
2	第一部 木9/24	6課 接続詞について	接続詞について学習する。接続詞の種類と文の構造について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞の種類と文の構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P24 I / II	
		事前学修	前置詞を復習しておくこと。	30分
		事後学修	接続詞を覚えること。副文の作り方を復習する。	30分
3	第一部 木10/1	話法の助動詞、未来形	7課 話法の助動詞、未来形について学習する。助動詞構文について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞の変化、助動詞構文の文型について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 II	
		事前学修	練習問題P28 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞の人称変化と意味と助動詞構文の構造を確実に覚える。	30分
4	第一部 木10/8	複合動詞について	分離する動詞と分離しない動詞について学習する。ドイツ語の枠構造について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の枠構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 I	
		事前学修	練習問題 P28 I 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	分離動詞を使った文の構造（助動詞構文と同じ）を確実に覚える。	30分
5	第一部 木10/15	再帰表現	9課 再帰表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語と目的語が同じものを表わす再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P36 I	
		事前学修	人称代名詞の変化を確認しておくこと。	30分
		事後学修	再帰表現を復習し、重要再帰動詞を確実に覚える。zu不定詞の用法について復習する。	30分
6	第一部 木10/22	1回から6回目までの練習	疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞の練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	練習プリントを予習してくる。	30分
		事後学修	問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	中間試験・語順について	中間テスト・語順の復習 ドイツ語の枠構造を確認し、練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定動詞の位置、枠構造、否定文におけるnichtの位置を確認し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの練習問題を総復習する。	30分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	第一部 木11/5	zu 不定詞	8課 zu 不定詞の作り方と用法と形容詞の比較表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu 不定詞句と形容詞の比較表現について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題P32 I、P36 II	
		事前学修	練習問題P32 I、P36 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	zu不定詞の用法、形容詞の比較表現について復習する。	30分
9	第一部 木11/12	形容詞	8課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P32 II	
		事前学修	定冠詞の変化を復習しておくこと。練習問題 P32 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞の変化を復習する。	30分
10	第一部 木11/19	過去形	10課 動詞の三基本形と過去形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	動詞の現在人称変化を復習しておくこと。	30分
		事後学修	動詞の三基本形と過去形の人称変化を確実に覚える。動詞の三基本形の小テストを実施する。	30分
11	第一部 木12/3	現在完了形	11課 現在完了形について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	動詞の過去分詞を復習しておくこと。	30分
		事後学修	現在完了形の文を復習する。	30分
12	第一部 木12/10	受動態	受動態について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能動態と受動態の関係を理解し、受動態の文を作ることができる。	
		事前学修	動詞の三基本形を復習しておくこと。	30分
		事後学修	受動態の文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	関係代名詞	12課 関係代名詞と関係文について学習する。接続法の作り方、使い方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞を修飾する関係文について理解し、受動態の文を作ることができる。	
		事前学修	定冠詞の変化を確認しておくこと。	30分
		事後学修	関係代名詞と関係文のつくり方を復習する。	30分
14	第一部 木12/24	重要表現の復習	練習プリントで、受動態、関係文について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	後期学習した文法事項を復習してくること。	40分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。重要単語と重要表現を覚える。	40分
15	第一部 木1/14	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、説明することができる。	
		事前学修	過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文の総復習をすること。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂　　土曜日10:30～12:20　　月曜日17:50～19:40

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19第 二部 月 9/14	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、説明できる。	
		事前学修	前期範囲の文法事項を整理しておくこと	30分
		事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	第一部 土9/26第 二部 月 9/21	第8課 話法の助動詞、命令法について	話法の助動詞の人称変化と様々な意味について学修する。命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語に応じて話法の助動詞を適切に人称変化させることができる。	
		事前学修	不定詞と定動詞の違いをもう一度確認すること。	30分
		事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
3	第一部 土10/3第 二部 月 9/28	第8課 練習問題	助動詞構文は枠構造になることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書53ページを予習しておくこと。Aの問題は完全な文章で答えること。	30分
		事後学修	課題に出された文章を命令法に書き換えてくること。	30分
4	第一部 土10/10第 二部 月 10/5	第9課 形容詞の用法 小テスト (2)	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。形	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
		事前学修	教科書55～56ページの表と定冠詞類の表を比べてみること。	30分
		事後学修	よく使われる形容詞を反対語とペアで覚えること。	30分
5	第一部 土10/17第 二部 月 10/12	第9課 複合動詞について 練習問題	分離動詞は一種の枠構造を形作ることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書59ページを予習しておくこと。Bの問題は出来ればドイツ語で答えてみること。	30分
		事後学修	よく出てくる分離動詞前つづりの意味に習熟すること。	30分
6	第一部 土10/24第 二部 月 10/19	第10課 再帰動詞・再帰代名詞、zu不定詞 (句) について	「再帰」とは何かを学修する。zu不定詞 (句) の作り方と用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「再帰」の意味を理解し、適切な再帰代名詞を選ぶことができる。	
		事前学修	人称代名詞を復習しておくこと	30分
		事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31 第二部 月10/26	第10課 練習問題	3人称だけは再帰代名詞がsichになることに注意して問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
		事前学修	教科書65ページを予習しておくこと。再帰動詞の問題は主語の人称をいろいろ変えてみること。	30分
		事後学修	教科書60ページの再帰動詞を使って文章を作ってみること。	30分
8	第一部 土11/7第 二部 月 11/9	第11課 形容詞と副詞の比較級、序数について	比較の様々な用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、身近なことに关して比較の文章を作ることができる。	
		事前学修	教科書55～56ページの形容詞の用法について復習しておくこと	30分
		事後学修	よく出てくる形容詞の比較級と最上級を覚えること。	30分
9	第一部 土11/14 第二部 月11/16	第11課 練習問題	比較級・最上級が付加語的に使われた場合の語尾変化に注意して問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数を用いて日付を言うことができる。	
		事前学修	教科書69ページを予習しておくこと。序数を用いて自分の生年月日を言えるようにしておくこと。	30分
		事後学修	比較の種々の用法を整理しておくこと。	30分
10	第一部 土11/21 第二部 月11/23	第12課 動詞の3基本形および過去人称変化	3基本形とは何かについて学修する。過去人称変化と過去形の用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞も含め、あらゆる動詞の3基本形を作ることができる。	
		事前学修	現在人称変化を復習しておくこと	30分
		事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。	30分
11	第一部 土11/28 第二部 月11/30	第12課 練習問題	3基本形の作り方を復習しつつ問題を解いていく	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形の文章を読み、かつ作ることができる。	
		事前学修	教科書73ページを予習しておくこと。過去形の動詞はすべて不定詞と過去分詞を出しておくこと。	30分
		事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを完全に覚えておくこと。	30分
12	第一部 土12/5第 二部 月 12/7	第13課 完了形の作り方とその用法 分詞について	完了形も枠構造になることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2種類の助動詞を適切に選ぶことができる。	
		事前学修	habenおよびseinの現在人称変化を復習しておくこと	30分
		事後学修	課題に出された文章を現在完了形に書き換えてくること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	第一部 土12/12 第二部 月12/14	第13課 練習問題	過去形との違いを確認しつつ問題を解いていく
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。
		事前学修	教科書79ページを予習しておくこと。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形も出しておくこと。30分
		事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。30分
14	第一部 土12/19 第二部 月12/21	接続法	接続法の作り方と用法について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日常よく使われる接続法の言い回しを理解し、使うことができる。
		事前学修	動詞の人称変化、過去基本形の作り方を特に整理しておくこと。30分
		事後学修	直説法との違いを整理しておくこと。30分
15	第一部 土12/26 第二部 月1/18	試験および解説	筆記試験（60分）の後、解説（30分）を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、既習の文法事項を有機的に総合し、平易な文章を読んだり書いたりすることができる。
		事前学修	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと30分
		事後学修	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、訳に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽をBGMに使用し、解説を行う。ドイツをより身近に感じてもらうために話題のDVDを見る時間を設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ルネサンス（第3版）	本郷、佐藤ほか	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜14:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	第一部 土9/26	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土10/3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土10/10	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土10/17	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土10/24	[分離動詞について]	分離動詞について学ぶ、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3基本形について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土11/7	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土11/14	[完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土11/21	[完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土11/28	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土12/5	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土12/19	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土12/26	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題とし、次の授業で確認します。発音練習も適宜行います。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アトラス ドイツ文法の友	工藤康弘	白水社	2020年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～ 授業終了後の講堂にて。初回授業でメールアドレスを公開する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	【ガイダンス】 【形容詞の変化】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 形容詞の変化を学習し、発音練習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化を理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 ドイツ語基礎文法Aの学習内容を復習しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 教科書38～39ページの練習問題を行う。	60分
2	第一部月 9/21	【話法の助動詞（現在人称 変化と文構造）】	話法の助動詞の現在人称変化と文構造について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の現在人称変化と文構造について理解し、話法の助動詞を使ったドイツ語文を作ることができる。	
		事前学修	教科書40ページを読んでくる。	10分
		事後学修	話法の助動詞の現在人称変化を暗記する。 教科書42ページの練習問題Ⅰを行う。	40分
3	第一部月 9/28	【話法の助動詞（意味）】	話法の助動詞の意味について、また未来形に使われるwerdenについて学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の意味について理解し、話法の助動詞を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書40～41ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書43ページの練習問題Ⅱを行う。	45分
4	第一部月 10/5	【分離動詞】	分離動詞のしくみ、非分離動詞について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞、非分離動詞について理解し、分離動詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書44～45ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書46～47ページの練習問題を行う。	60分
5	第一部月 10/12	【動詞の3基本形】	動詞の3基本形の作り方、過去形の用法について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の3基本形の作り方、過去形の用法について理解し、過去形のドイツ語文を作ることができ、過去形のドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書48～49ページを読んでくる。	15分
		事後学修	動詞の3基本形の作り方を復習する。 教科書50～51ページの練習問題を行う。	60分
6	第一部月 10/19	【完了形】	現在完了形、過去完了形について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形について理解し、完了形のドイツ語文を作ることができ、完了形のドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書52ページを読んでくる。	10分
		事後学修	教科書54ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	【zu不定詞】	zu不定詞の形式と用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞の形式と用法について理解し、zu不定詞を使ったドイツ語文を作ることができ、zu不定詞を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書53ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書55ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分
8	第一部月 11/9	【再帰表現】	再帰代名詞と再帰動詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、再帰表現を使ったドイツ語文を作ることができ、再帰表現を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書56ページを読んでくる。	10分
		事後学修	再帰代名詞を暗記する。 教科書58ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分
9	第一部月 11/16	【受動態】	受動態について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態について理解し、受動態のドイツ語文を作ることができ、受動態のドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書57ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書59ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分
10	第一部月 11/23	【比較表現】	比較表限の形式、用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較表限の形式、用法について理解し、比較表現を使ったドイツ語文を作ることができ、比較表現を使ったドイツ語文を日本語に訳すことができる。	
		事前学修	教科書60～61ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書62～63ページの練習問題を行う。	60分
11	第一部月 11/30	【定関係代名詞、関係副詞】	定関係代名詞、関係副詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定関係代名詞、関係副詞について理解し、定関係代名詞、関係副詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書64ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書66ページの練習問題ⅠとⅡを行う。	60分
12	第一部月 12/7	【不定関係代名詞、指示代名詞】	不定関係代名詞、指示代名詞について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定関係代名詞、指示代名詞について理解し、不定関係代名詞、指示代名詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書65ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書67ページの練習問題ⅢとⅣを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	【接続法第2式】	接続法第2式の形、非現実話法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第2式の形、非現実話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書68～69ページを読んでくる。	15分
		事後学修	教科書70～71ページの練習問題を行う。	60分
14	第一部月 12/21	【接続法第1式】	接続法第1式の形、間接話法、要求話法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第1式の形、間接話法、要求話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
		事前学修	教科書73ページを読んでくる。	15分
		事後学修	接続法第1式について復習する。	30分
15	第一部月 1/18	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1回～第14回の学習内容を理解し、運用できる。	
		事前学修	教科書36～73ページの総復習を行う。	90分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
木曜1限真道担当のドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音・文法トレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、小テストのコメントを中心にフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法・１００語の世界	清水 薫	同学社	2008		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容	実務経験をもとに、実践に直結した文法の学修を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明	
		この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。 事前学修	
		事前学修	シラバス確認 文法・語彙復習	30分
		事後学修	教材準備 文法・語彙復習	30分
2	9/22	独検4級過去問解説 Lektion 9 形容詞の格語尾 序数	独検4級過去問解説 形容詞の格語尾 序数についての説明・応用	
		この回の到達目標	形容詞の格語尾 序数についての説明・応用ができる。	
		事前学修	独検4級過去問	60分
		事後学修	Lektion 9 練習問題	30分
3	9/29	Lektion 10 比較変化	小テスト13 比較変化についての説明・応用	
		この回の到達目標	比較変化についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト13試験準備	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題	30分
4	10/6	Lektion 10 非人称表現 不定代名詞	小テスト14 非人称表現 不定代名詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	非人称表現 不定代名詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト14試験準備	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題	30分
5	10/13	Lektion 11 時刻 分離 動詞	小テスト15 時刻 分離動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	時刻 分離動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト15試験準備	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題	30分
6	10/20	Lektion 11 非分離動詞	小テスト16 非分離動詞について説明・応用	
		この回の到達目標	非分離動詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト16試験準備	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Lektion 12 再帰動詞	小テスト17 再帰動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	再帰動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト17試験準備	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題	30分
8	11/10	Lektion 12 接続詞	小テスト18 接続詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	接続詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト18試験準備	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題	30分
9	11/17	Lektion 13 動詞の3基本形 過去人称変化	小テスト19 動詞の3基本形 過去人称変化について説明・応用	
		この回の到達目標	動詞の3基本形 過去人称変化について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト19試験準備	30分
		事後学修	Lektion 13 練習問題	30分
10	11/24	Lektion 14 完了形 zu不定詞	小テスト20 完了形 zu不定詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	完了形 zu不定詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト20試験準備	30分
		事後学修	Lektion 14 練習問題	30分
11	12/1	Lektion 15 受動 分詞	小テスト21 受動 分詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	受動 分詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト21試験準備	30分
		事後学修	Lektion 15 練習問題	30分
12	12/8	Lektion 16 関係代名詞 指示代名詞	小テスト22 関係代名詞 指示代名詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	関係代名詞 指示代名詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト22試験準備	30分
		事後学修	Lektion 16 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	Lektion 17 接続法	小テスト23 接続法について説明・応用	
		この回の到達目標	接続法について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト23試験準備	30分
		事後学修	Lektion 17 練習問題 (30分)	30分
14	12/22	期末試験	初級文法全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	初級文法が理解でき、試験のフォーマットに合わせて応用できる	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験を振り返り、文法復習	60分
15	1/12	試験解説及び振り返り	試験解説をする 今後のドイツ語学修の計画を立てる。	
		この回の到達目標	試験で間違ったところを改めて理解し、今後の目標設定を立てることができる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、今後のドイツ語学修について計画をたてる。	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音・文法トレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、小テストのコメントを中心にフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法・１００語の世界	清水 薫	同学社	2008		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容	実務経験をもとに、実践に直結した文法の学修を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明	
		この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。 事前学修	
		事前学修	シラバス確認 文法・語彙復習	30分
		事後学修	教材準備 文法・語彙復習	30分
2	9/25	独検4級過去問解説 Lektion 9 形容詞の格語尾 序数	独検4級過去問解説 形容詞の格語尾 序数についての説明・応用	
		この回の到達目標	形容詞の格語尾 序数についての説明・応用ができる。	
		事前学修	独検4級過去問	60分
		事後学修	Lektion 9 練習問題	30分
3	10/2	Lektion 10 比較変化	小テスト13 比較変化についての説明・応用	
		この回の到達目標	比較変化についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト13試験準備	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題	30分
4	10/9	Lektion 10 非人称表現 不定代名詞	小テスト14 非人称表現 不定代名詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	非人称表現 不定代名詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト14試験準備	30分
		事後学修	Lektion 10 練習問題	30分
5	10/16	Lektion 11 時刻 分離 動詞	小テスト15 時刻 分離動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	時刻 分離動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト15試験準備	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題	30分
6	10/23	Lektion 11 非分離動詞	小テスト16 非分離動詞について説明・応用	
		この回の到達目標	非分離動詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト16試験準備	30分
		事後学修	Lektion 11 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	Lektion 12 再帰動詞	小テスト17 再帰動詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	再帰動詞についての説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト17試験準備	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題	30分
8	11/6	Lektion 12 接続詞	小テスト18 接続詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	接続詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト18試験準備	30分
		事後学修	Lektion 12 練習問題	30分
9	11/13	Lektion 13 動詞の3基本形 過去人称変化	小テスト19 動詞の3基本形 過去人称変化についての説明・応用	
		この回の到達目標	動詞の3基本形 過去人称変化について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト19試験準備	30分
		事後学修	Lektion 13 練習問題	30分
10	11/20	Lektion 14 完了形 zu不定詞	小テスト20 完了形 zu不定詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	完了形 zu不定詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト20試験準備	30分
		事後学修	Lektion 14 練習問題	30分
11	11/27	Lektion 15 受動 分詞	小テスト21 受動 分詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	受動 分詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト21試験準備	30分
		事後学修	Lektion 15 練習問題	30分
12	12/4	Lektion 16 関係代名詞 指示代名詞	小テスト22 関係代名詞 指示代名詞についての説明・応用	
		この回の到達目標	関係代名詞 指示代名詞について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト22試験準備	30分
		事後学修	Lektion 16 練習問題	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	Lektion 17 接続法	小テスト23 接続法について説明・応用	
		この回の到達目標	接続法について説明・応用ができる。	
		事前学修	小テスト23試験準備	30分
		事後学修	Lektion 17 練習問題 (30分)	30分
14	12/18	期末試験	初級文法全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	初級文法が理解でき、試験のフォーマットに合わせて応用できる	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験を振り返り、文法復習	60分
15	12/25	試験解説及び振り返り	試験解説をする 今後のドイツ語学修の計画を立てる。	
		この回の到達目標	試験で間違ったところを改めて理解し、今後の目標設定を立てることができる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、今後のドイツ語学修について計画をたてる。	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験終了後に解説、あるいは教科書の該当ページを指示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間（木曜１・２・４・５限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第 1 部 木9/17	【ガイダンス】【前期学習事項の確認】	ガイダンス 前期学習事項の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前期学習事項における弱点をみつけ、克服する。	
		事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく（４５分）	45分
		事後学修	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす（１５分）	15分
2	第 1 部 木9/24	【分離動詞・非分離動詞】 【副文】	従属接続詞 分離動詞・非分離動詞 前期学習事項と前回授業の要点の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、副文の構造・分離動詞の使用例を覚える。	
		事前学修	前回の学習事項の復習（１５分）	15分
		事後学修	１７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
3	第 1 部 木10/1	【話法の助動詞】	話法の助動詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、話法の助動詞を使った文の構造を理解するとともに、いくつかの話法の助動詞の変化を覚える。	
		事前学修	授業１７回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
4	第 1 部 木10/8	【未来推量の助動詞】	未来推量の助動詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、話法の助動詞と未来推量の助動詞を使った文の相違を理解する。未来推量の助動詞の人称変化を覚える。	
		事前学修	授業１７回目～１８回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	１９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
5	第 1 部 木10/15	【３基本形】	３基本形（夏休み前の続き） 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、３基本形が作れるようになる。	
		事前学修	授業１７回目～１９回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分
6	第 1 部 木10/22	【過去形】	過去形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、過去形の用例を理解する。	
		事前学修	授業１７回目～２０回目の復習（１５分）	15分
		事後学修	２１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第 1 部 木10/29	【現在完了形】	現在完了形 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現在完了形の構文を理解し、単純な現在完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 1 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
8	第 1 部 木11/5	【受動】	受動文 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、受動文・受動態の構造を知り、単純な受動文を作ることができる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 2 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
9	第 1 部 木11/24	【形容詞】	形容詞の変化 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、形容詞の変化等を理解する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 3 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
10	第 1 部 木11/29	【比較表現】	比較表現 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、基礎的な比較表現が理解できるようになる。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 4 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
11	第 1 部 木12/3	【再帰】	再帰表現 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、基礎的な再帰表現を理解し、いくつかの例文を暗記する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 5 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分
12	第 1 部 木12/10	【zu 不定詞】	zu 不定詞 前回までの授業の復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英語の to 不定詞との類似と相違を理解する。いくつかの例を暗記する。	
		事前学修	授業 1 7 回目～ 2 6 回目の復習（1 5 分）	15分
		事後学修	2 7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（4 5 分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木12/28	【関係代名詞】	関係代名詞 前回までの授業の復習	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、関係代名詞を使って文を作ることができる。	
		事前学修	授業17回目～27回目の復習（15分）	15分
		事後学修	28回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）	45分
14	第1部 木12/24	【試験】【振り返り】	授業内試験。試験の解説。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、授業16回目～28回目の学習事項の達成度を確認する。	
		事前学修	授業17回目～28回目の復習（45分）	45分
		事後学修	自分の苦手な事項の復習（15分）	15分
15	第1部 木1/14	【接続法】	接続法 場合によっては追試験を実施。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、接続法の概略を理解する。	
		事前学修	これまでの学習事項の総復習（30分）	30分
		事後学修	興味をわいた参考事項についての自主学習（30分）	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。教科書と独和辞典を常時使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却。授業内実施試験の解説・講評は、後日ポータルサイトシステムにて配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CD付き 気分はドイツ	本郷建治、佐藤彰、 他	三修社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、授業講堂（前もってアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	【habenを使った現在完了形】	ガイダンス（授業の進め方等について）により、受講生は、授業の準備をスムーズに行うことができる。 habenを使った現在完了形について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、habenの現在人称変化と過去分詞を用いて作られる現在完了形について理解する。	
		事前学修	シラバスと第9課「現在完了形」の42ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	教科書にあるキーセンテンスの会話を正しい発音で音読し、過去形と現在完了形を文法的に区別する。	30分
2	第一部 月9/21	【seinを使った現在完了形】	seinを使った現在完了形について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、seinの現在人称変化と過去分詞とを用いて作られる現在完了形について理解する。どう いう過去分詞の時にこの構文になるか、説明することができる。	
		事前学修	43ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	学習した例文をおさらいし、過去分詞を正しい発音で音読し、暗記する。	30分
3	第一部 月9/28	【過去形と現在完了形の違い】	過去形と現在完了形の両方が用いられる会話について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、コミュニケーションに必要な現在完了形と過去形を使い分けることを理解する。	
		事前学修	44ページの問題を解いてくる。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
4	第一部 月10/5	【分離動詞とは】	分離動詞を用いた構文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、分離動詞を用いた文を理解し、分離動詞を辞書で引いて調べることができる。	
		事前学修	第10課「分離動詞」の48ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	学習した例文を音読して、正しい発音を身につける。	30分
5	第一部 月10/12	【分離動詞を使った会話】	分離動詞を使ってする会話を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、分離動詞を使って、目的地まで行くコミュニケーションを成立させることができる。	
		事前学修	49ページの練習問題を解いてくる。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
6	第一部 月10/19	【形容詞の使い方】	名詞の前におかれる、形容詞の付加語的用法と比較変化について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、形容詞の付加語的用法と比較変化について理解する。比較変化を正しく発音することが できる。	
		事前学修	第11課「形容詞」の50～52ページを読んで、53ページの問題を解いてくる。	35分
		事後学修	ノートを確認し、間違えた箇所の問題を解き直す。50～51の表を使って冠詞の復習をする。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	【再帰動詞とは】	再帰代名詞を伴った再帰動詞について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再帰動詞の意味と構造を理解し、辞書を引いて調べ、文を翻訳することができる。	
		事前学修	第12課「再帰動詞、非人称構文」の54～55ページを読んでくる。	30分
		事後学修	再帰動詞の意味を確認し、再帰代名詞の格変化を暗記する。	30分
8	第一部 月11/9	【esを使った熟語表現】	esを用いた非人称表現について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、esを用いた熟語の意味と辞書での調べ方を理解して、翻訳することができる。	
		事前学修	56ページの練習問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	第一部 月11/16	【定関係代名詞とは】	定関係代名詞とそれを使った関係文を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、先行詞と関係代名詞の関係を理解し、関係文中の関係代名詞が何格であるかを適切に説明できる。	
		事前学修	第13課「関係代名詞」の57ページを読んで準備する。	30分
		事後学修	関係代名詞の格について復習し、57ページの表を暗記する。	30分
10	第一部 月11/23	【不定関係代名詞とは】	不定関係代名詞について学修する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、不定冠詞を使った文を理解し、適切に翻訳することができる。	
		事前学修	58ページの練習問題を解いて準備する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
11	第一部 月11/30	【受動】	受動の構文について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、受動の助動詞と過去分詞で作られる受動態の現在形と過去形について理解し、そのほかの受動態についても説明できる。	
		事前学修	第14課「受動」の59～60ページを読んでくる。	30分
		事後学修	配布プリントで、受動の助動詞の時制を復習する。	30分
12	第一部 月12/7	【受動構文を使った会話】	まとまった会話文を聞いて、内容を把握する学修をする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、窓口でチケットを購入する時の会話を聞いて、その内容を理解することができる。	
		事前学修	61ページの練習問題を解いてくる。62～63ページの写真を見て、ウィーンのカフェ文化を理解する。	30分
		事後学修	ノートを確認して、練習問題のうち、特に過去分詞の作り方を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	【接続法とは】	接続法第1式と第2式の作り方と用法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の作り方と用法を理解し、その用法に応じて適切な翻訳をすることができる。	
		事前学修	第15課「接続法」の64～66ページを読み、67ページの問題を解いてくる。	35分
		事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。接続法第2式の動詞を正しく発音する練習をする。	25分
14	第一部 月12/21	現在分詞と過去分詞】【zu不定詞】	現在分詞と完了形と受動構文以外での過去分詞の用法、およびzu不定詞について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在分詞と過去分詞の形容詞的、副詞的用法を理解し、適切な翻訳ができる。zu不定詞の用法について説明することができる。	
		事前学修	第16課「分詞、zu不定詞」の68頁を読み、69ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
15	第一部 月1/18	【振り返り】【授業内試験】	後学期学習内容の振り返り、授業内試験と講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後学期に学習したことがどの程度身についたかを判断することができる。	
		事前学修	教科書、ノート、配布資料に目を通し、後学期で学修したこと全般について、理解していないことがないかどうか検討する。	120分
		事後学修	試験で正解できなかった箇所について、教科書等を参考にして、再検討する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	森田 悟	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
学部の規定による。

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝	白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜21：10～）ただし、できる限り事前に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	前期学習事項nの確認とガイダンス	後半の学習のためのガイダンス、前半の確認	
		この回の到達目標	①②③に関連して前期に学んだ中からは是非とも復習したい項目について再度確認できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
2	9月22日	前期学習事項の 中から特に重要な事項を復習	前半の学習の確認	
		この回の到達目標	①②③に関連して前期の学習事項の中からとk無に重要なことを説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
3	9月29日	分離動詞、接続詞	分離動詞、接続詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して分離動詞・接続詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
4	10月6日	動詞の3基本形	動詞の3基本形、過去について学修する	
		この回の到達目標	①②まるさんn胃関連して動詞の3基本形について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
5	10月13日	現在完了・受動	現在完了・受動について学修する	
		この回の到達目標	ドイツ語の現在完了・受動について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
6	10月20日	現在完了・受動	現在完了、受動について学修する	
		この回の到達目標	ドイツ語の現在完了・受動について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	現在完了・受動	現在完了、受動について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・受動について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
8	11月10日	形容詞・比較	形容詞、比較について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して形容詞・比較について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
9	11月17日	形容詞・比較	形容詞、比較について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・受動について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
10	11月24日	再帰動詞・zu不定詞	再帰代名詞・zu不定詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して、再帰動詞・zu不定詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
11	12月1日	再帰動詞・zu不定詞	再帰代名詞、zu不定詞について学修する	
		この回の到達目標	①②③に関連して再帰動詞・zu不定詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
12	12月8日	関係代名詞	関係代名詞について学修する	
		この回の到達目標	関係代名詞について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月15日	接続法		接続法について学修する
		この回の到達目標	接続法について説明できる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	12月22日	授業内試験		授業内試験及びまとめ、振り返り
		この回の到達目標	試験によって確認ができさらなる学習の計画。目標ができる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
15	1月12日	これまでの学習を振り替え 帰		これまでの学習の確認と補充を行い重要事項を学修できる
		この回の到達目標	ドイツ語の次のステップに行くことができる	
		事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
		事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bと併せて、ドイツ語基礎表現Bを履修すること（または履修済み）が望ましい。独検を受験することが履修条件となりますので注意して下さい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて、学習した内容の定着を深めていきます。練習問題は、受講生に積極的に発表してもらいます。毎回、予習をしっかりとやることが前提となります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、授業内にて。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブーメラン・エルエー』（※姉妹版『ブーメラン』もあるため注意。必ず『ブーメラン・エルエー』を購入してください。	小野寿美子他	朝日出版社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:10～ 授業終了後の講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	【ガイダンス】 この授業を受けるにあたって	授業の進め方、評価方法、独検の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独検などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。授業で紹介された独検関連の参考書についてWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	第一部 火9/22	【前期の復習】	Lektion1～Lektion6の語法の助動詞までの復習	
		この回の到達目標	前期で学習した文法事項を再確認し、使用することができる。	
		事前学修	Lektion1～Lektion6の語法の助動詞までを読んでおく。	30分
		事後学修	理解が不十分であると思われる前期の文法事項を復習する。	30分
3	第一部 火9/29	【Lektion6】 接続詞と分離動詞	従属の接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造(主文、副文)を理解し、適用することができる。また分離動詞の使い方を理解し、適用することができる。	
		事前学修	教科書の51頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ従属接続詞と分離動詞を復習する。	30分
4	第一部 火10/6	【Lektion7】 形容詞の格語尾変化	形容詞の使い方と形容詞の格語尾変化	
		この回の到達目標	ドイツ語における形容詞の使い方と形容詞の格語尾変化を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の58頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ形容詞の格語尾変化を復習する。	30分
5	第一部 火10/13	【Lektion7】 形容詞・副詞の比較	形容詞・副詞の比較級、最上級の作り方と比較の用法	
		この回の到達目標	形容詞・副詞の比較の文章を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の59頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ比較の文章を復習する。	30分
6	第一部 火10/20	【Lektion8】動詞の3基本形	動詞の3基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）	
		この回の到達目標	動詞の3基本形を理解し、不規則なものに関しては独和辞典を使って3基本形を確認し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の66頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ3基本形について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	【Lektion8】現在完了形	現在完了形の文章の作り方（完了の助動詞と過去分詞、語順）	
		この回の到達目標	現在完了形の文章構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の67頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ現在完了形の文章を復習する。	30分
8	第一部 火11/10	【Lektion9】過去形	過去形の文章の作り方（過去人称変化と語順）	
		この回の到達目標	過去形の文章構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の74頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ過去形の文章を復習する。	30分
9	第一部 火11/17	【Lektion9】再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞の種類と再帰動詞	
		この回の到達目標	再帰代名詞・再帰動詞の使い方や辞書での調べ方を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の75頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ再帰動詞の熟語的表現を復習する。	30分
10	第一部 火11/24	【Lektion10】zu不定詞	zu不定詞の用法	
		この回の到達目標	zu不定詞の基本的な使い方や熟語表現を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の82頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだzu不定詞の様々な用法を復習する。	30分
11	第一部 火12/1	【Lektion10】関係代名詞	関係代名詞の格と文章構造	
		この回の到達目標	関係代名詞を使った文章の構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の83頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ関係代名詞の文章を復習する。	30分
12	第一部 火12/8	【受動形】	動作受動と状態受動	
		この回の到達目標	受動の文章の種類、構造を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の100頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ受動形を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	【接続法】	接続法第1式、接続法第2式	
		この回の到達目標	接続法の用法を理解し、使用することができる。	
		事前学修	教科書の101～103頁を読んでおく。	30分
		事後学修	授業で学んだ接続法の用法を復習する。	30分
14	第一部 火12/22	【後期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
		この回の到達目標	試験を通じて後期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
		事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
		事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	第一部 火1/12	【後期の総括】	後期授業のまとめ	
		この回の到達目標	後期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
		事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
		事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
文法事項を説明し、理解できたかどうか練習問題で確認する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立ち入り禁止のため、本館 1 階教務課窓土まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	1 ～ 1 0 課	前期の復習	
		この回の到達目標	動詞の人称変化と名詞の格変化を再度確認する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	9/25	形容詞の用法	第 1 1 課 形容詞の格変化	
		この回の到達目標	形容詞の格変化のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	10/2	3 要形	第 1 2 課 動詞の 3 要形	
		この回の到達目標	3 要形の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	10/9	過去時制	第 1 2 課 動詞の過去人称変化	
		この回の到達目標	動詞の過去人称変化を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	10/16	完了時制	第 1 3 課 現在完了	
		この回の到達目標	haben支配とsein支配の動詞	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	10/23	3 種類の接続詞	第 1 4 課 接続詞	
		この回の到達目標	接続詞の違いを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	関係文	第 1 5 課 関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞の規定の仕方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	11/6	zu不定詞の用法	第 1 6 課 zu不定詞	
		この回の到達目標	zu不定詞の使い方を知る	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	11/13	再帰動詞	第 1 7 課 再帰代名詞	
		この回の到達目標	熟語表現を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	11/20	受動態	第 1 8 課 受動	
		この回の到達目標	受動態の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	11/27	比較級・最上級	第 1 9 課 形容詞の比較表現	
		この回の到達目標	比較級・最上級の使い方を知る	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	12/4	非現実話法	第 2 0 課 接続法第 2 式	
		この回の到達目標	接続法の時制を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	間接話法	第20課 接続法第1式	
		この回の到達目標	直接話法から間接話法への書き換えを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	12/18	筆記試験及びまとめ	後期のまとめ	
		この回の到達目標	後期の学習事項を理解できたかどうかを確認する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
15	12/25	解説	後期の総括	
		この回の到達目標	筆記試験を振り返り、答え合わせと解説をする	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂・ドイツ文法の森（CD付）	ローデリヒ・ガート ゲ	第三書房	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口にし出て，声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	完了形	助動詞構文、seinとhabenの人称変化を確認する。 完了文の読解と作文。	
		この回の到達目標	完了の助動詞の使い分けができる。 完了形の文を作ることができる。	
		事前学修	英語の完了時制をまとめてみる。 habenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	語順、用法について英語との違いなどを確認する。	30分
2	水9/23	分離動詞	分離動詞を辞書で引いてみる。 分離する場合としない場合を例文で確認する。	
		この回の到達目標	基礎動詞と前綴りの関係に留意して例文を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の熟語動詞表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	分離動詞の使い方を、基礎動詞、前綴りの配語法から確認する。	30分
3	水9/30	命令形	二人称の使い分け、規則動詞、不規則動詞の人称変化を確認する。 会話文を読みながら命令文を理解する。	
		この回の到達目標	三つの形式の命令文を作ることができる。	
		事前学修	規則動詞、不規則動詞の人称変化を復習する。	30分
		事後学修	命令する相手に応じた三つの形式を例文によって復習する。	30分
4	水10/7	再帰動詞	人称代名詞を復習する。 ドイツ語の再帰代名詞を練習する。 再帰動詞を例文で理解する。	
		この回の到達目標	再帰表現を読み取り、辞書でも調べることができるようにする。	
		事前学修	英語、日本語の再帰表現を思い起こしてみる。	30分
		事後学修	再帰代名詞を覚えた上で、具体的な使い方を熟語表現として練習する。	30分
5	水10/14	接続詞と副文	接続詞の種類を学ぶ。 動詞の位置などに注目して読解訓練をする。	
		この回の到達目標	接続詞による語順の違いを理解する。 従属接続詞を伴った副文を読み取ることができる。	
		事前学修	動詞の位置に関して、今まで学んだことを復習する。	30分
		事後学修	例文、練習問題を、接続詞を中心に読み直してみる。	30分
6	水10/21	zu不定詞	zu不定詞の用法を例文で学ぶ。 分離動詞のzu不定詞を作る。 他の文成分が入って句になった場合の語順に着目する。	
		この回の到達目標	zu不定詞の入った文を読み解くことができる。	
		事前学修	英語のto不定詞の用法をまとめる。	30分
		事後学修	句になった場合の語順、分離動詞のzu不定詞など確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	非人称動詞	日常でもよく使う様々な非人称表現を練習をする。	
		この回の到達目標	主な非人称表現を使えるようにする。	
		事前学修	英語の非人称表現をまとめてみる。	30分
		事後学修	es gibt + 4格などの用例を確認する。	30分
8	水11/11	形容詞・副詞の比較変化	形容詞・副詞の比較変化形を練習する。 例文によって主な比較表現をまとめる。	
		この回の到達目標	よく使われる比較表現を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の形容詞の比較表現を振り返ってみる。	30分
		事後学修	例文、練習問題の具体例で復習する。	30分
9	水11/18	指示代名詞・関係代名詞 (1)	定冠詞の格変化を確認する。 指示代名詞を使った例文を読む。 関係文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	英語とは違う指示代名詞・関係代名詞の使い方を理解する。	
		事前学修	定冠詞の格変化の復習。 英語の関係代名詞の使い方をまとめる。	30分
		事後学修	性、数、格や動詞の位置からドイツ語の関係代名詞を復習する。	30分
10	水11/25	関係代名詞 (2)	定関係代名詞、不定関係代名詞を用いた用例を読み解く。 関係代名詞の格変化、動詞の位置などに着目する。	
		この回の到達目標	関係文を含んだ長い文になじむ。	
		事前学修	英語の関係代名詞の使い方をまとめてみる。	30分
		事後学修	代表的例文を確認する。	30分
11	水12/2	受動文	助動詞構文、werdenとseinの人称変化、過去分詞の作り方を確認する。 werdenの三つの用法をまとめる。 受動文の作り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	状態受動を含めて受動文を作ることができる。	
		事前学修	werdenとseinの人称変化を復習する。	30分
		事後学修	状態受動、時制による表現形式の違いなど例文で確かめる。	30分
12	水12/9	接続法の形態	接続法の人称変化の練習をする。 接続法の主な用法を知る。 接続法第一式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	間接話法、要求話法を読み取ることができる。	
		事前学修	英語の間接話法、仮定法を確認する。	30分
		事後学修	先ず接続法の人称変化を復習する。 代表的な用例を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	非現実話法	接続法の人称変化を確認する。 接続法第二式の使い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	非現実話法、外交的接続法などを読み取ることができる。	
		事前学修	接続法の人称変化の復習。	30分
		事後学修	代表的な用例を理解する。	30分
14	水12/23	後期のまとめ	後期の学習を文法事項を中心に整理する。 質問を受けて補足説明をする。	
		この回の到達目標	これまでの勉強で不十分な所がないか確認する。	
		事前学修	後期全体の復習をする。 疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	理解が不十分な点を再度復習。	30分
15	水1/13	試験	試験をした後、解説と講評を行う。	
		この回の到達目標	後期の勉強の成果を明らかにし、これからの勉強の発展につなげる。	
		事前学修	重要項目を復習する。	30分
		事後学修	試験結果を点検し、今後の学習の展望を得る。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(第一部金曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則、ドイツ語基礎文法Aと通年でこの授業を履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークなどを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/25	第7課①②動詞	zu不定詞や分離動詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、zu不定詞や分離動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期に学習した動詞の人称変化の知識が必要になるため、よく復習しておくこと。	30分
		事後学修	分離動詞は英語に無い発想なので、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
3	10/2	第7課③ 話法の助動詞	話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、話法の助動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前期に学習した動詞の現在人称変化について、もう一度確かめてから授業にのぞむこと。英語の助動詞がどうだったか、思い出しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	10/9	独検4級問題に挑戦	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	配布する筆記試験の問題を自宅で解いてから授業に来ること。授業では筆記の解説とリスニングの問題を扱う予定である。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出て正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
5	10/16	第8課① 三基本形、過去形	三基本形と過去形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	新たに学ぶ第8課の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。	30分
		事後学修	三基本形と過去形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	10/23	第8課② 現在完了形	現在完了形について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、現在完了形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	三基本形について、よく復習してから授業にのぞむこと。また、第2課で学習したhabenとseinの現在人称変化も、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。	30分
		事後学修	現在完了形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	第8課③ 受動態	受動態について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、受動態の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第2課で学習したwerdenの現在人称変化を、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。過去分詞についての知識を整理しておくこと。	30分
		事後学修	受動態について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	11/6	第9課(前半) 形容詞の格変化	形容詞の格変化について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、形容詞の格変化の要点を説明することができる。関連する練習問題やドイツ語の文章を分析することができる。	
		事前学修	定冠詞(類)・不定冠詞(類)の格変化について、十分に復習してから授業に来ること。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
		事後学修	形容詞の表を見て格変化ができるように、ルールをよく復習しておくこと。	30分
9	11/13	第9課(後半) 比較級と最上級	比較級と最上級について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、比較級と最上級の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回学習した形容詞の格変化語尾について、復習しておくこと。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
		事後学修	比較級と最上級について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	11/20	第10課(前半) 関係代名詞	関係代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、関係代名詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	定冠詞の格変化を十分に復習してから授業にのぞむこと。新たに学ぶ関係代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
		事後学修	関係代名詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
11	11/27	第11課 接続法	接続法について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、接続法の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	過去形の作り方、過去形の人称変化について、復習しておくこと。新たに学ぶ接続法について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	接続法について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
12	12/4	独検の問題に挑戦	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
		事前学修	配布する筆記試験の問題を自宅で解いてから授業に来ること。授業では筆記の解説とリスニングの問題を扱う予定である。	30分
		事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	これまでの学習内容の復習	後期の学習事項について、あらためて要点を説明する。	
		この回の到達目標	後期の学習事項について、理解が十分ではない箇所を認識し、その解決法を見つけることができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(20分)	20分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(40分)	40分
14	12/18	理解度の確認と後期のまとめ	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	12/25	前期・後期の復習、今後の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。今後のドイツ語の学習について、よく考え、計画を立てること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(第二部火曜1時限)	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Aと通年で履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	例文の音読、グループでの問題練習。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	9/22	第9課 話法の助動詞	話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、話法の助動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第9課の学習事項について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞の変化表とそれぞれの機能について、十分に復習すること。	30分
3	9/29	第10課 動詞の3基本形	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去形と完了形の作り方を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第10課の動詞の3基本形について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動詞の3基本形について、十分に復習すること。	30分
4	10/6	第10課 過去形	前回の復習として、あらためて動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明する。過去の人称変化についても述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回の学習事項を復習しておくこと。第10課の過去形について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第10課の学習内容について、十分に復習すること。	30分
5	10/13	第11課 現在完了形	過去分詞の作り方を改めて説明した後、現在完了形によるセンテンスの作り方を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第10課の動詞の3基本形について復習しておくこと。第11課の現在完了形について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	現在完了形について、十分に復習すること。	30分
6	10/20	第11課 現在完了形、受動文	前回到引き続き、現在完了形の説明を行う。あわせて、受動文について、センテンスの作り方を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動文の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	第10課の現在完了形について復習しておくこと。第11課の受動文について、少し目を通しておくこと。	30分
		事後学修	第11課の学習内容について、十分に復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/27	第12課 形容詞、比較表現	形容詞の格変化や比較表現について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、形容詞の格変化や比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。
		事前学修	前期で学習した第3課と第4課の復習をしておくこと。第12課の形容詞について、少し目を通しておくこと。30分
		事後学修	形容詞の格変化について、一覧表の使い方がわかるようにしておくこと。30分
8	11/10	独検4級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。
		事前学修	第9課までの学習内容を復習しておくこと。30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。30分
9	11/17	独検4級 模試の解説(リスニング試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。
		事前学修	第9課までの学習内容を復習しておくこと。CDを聞いて、ドイツ人の発音にも慣れておくこと。30分
		事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。30分
10	11/24	第13課 再帰代名詞、zu不定詞	再帰代名詞、zu不定詞について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、再帰代名詞やzu不定詞について概要を説明することができる。
		事前学修	第13課の学習内容について、少し目を通しておくこと。30分
		事後学修	第13課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第12課の学習内容についても、復習すること。30分
11	12/1	第14課 関係代名詞	関係代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、関係代名詞について概要を説明することができる。
		事前学修	第14課の関係代名詞について、少し目を通しておくこと。30分
		事後学修	関係代名詞について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第13課の学習内容についても、復習すること。30分
12	12/8	第14課 接続法	接続法について解説し、関連する練習問題を解く。
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、接続法について概要を説明することができる。
		事前学修	第14課の接続詞について、少し目を通しておくこと。30分
		事後学修	テストに備えて、後期の学習内容を復習すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	これまでの復習	後期の学習事項について、あらためて要点を説明する。	
		この回の到達目標	後期の学習事項について、理解が十分ではない個所を認識し、その解決法を見つけることができる。関連する練習問題を解くことができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
14	12/22	理解度の確認と後期学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	1/12	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画についてよく考えること。	30分

科目名	ドイツ語演習A	担当者	黒瀬 志保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学系の文献理解を他者に発信し応答する技能を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A，Bを履修済み、あるいは初級文法の知識を必要とする。

【授業方法】
教科書に沿って、文法説明、練習問題、発音練習、会話練習、聞き取り練習、テキスト読解、作文を行う。必要に応じて独検対策も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の広場	清野智昭	同学社	2019年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜19：30～ 授業終了後の講堂にて。初回授業でメールアドレスを公開する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 4/6	【ガイダンス】 【Lektion 1】挨拶、アルファベット	授業の進め方と注意事項を説明する。 挨拶とアルファベットの発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語学習の基礎である挨拶とアルファベットの発音ができ、聞き分けることもできる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 挨拶とアルファベットの発音練習と教科書３ページの練習を行う。	30分
2	第二部月 4/13	【Lektion 1】発音とつづりの読み方のポイント	発音とつづりの読み方のポイントを学習し、発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語学習の基礎である発音とつづりの読み方のポイントを理解し、発音できる。	
		事前学修	教科書４～５ページを見ながら、音声を聞いてくる	30分
		事後学修	教科書４～６ページの発音練習を行い、６ページの問いに答える。	30分
3	第二部月 4/20	【Lektion 2】動詞の現在人称変化（文法）	動詞の現在人称変化を学習し、練習問題を行う。自己紹介の表現を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書７ページの音声を聞いてくる。 教科書８～９ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書７ページの発音練習を行い、教科書８～９ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
4	第二部月 4/27	【Lektion 2】動詞の現在人称変化（読解・作文）	自己紹介に関する会話練習、聞き取り練習、テキスト読解、作文を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、それに対応する会話や聞き取り、テキスト読解、作文ができる。	
		事前学修	教科書１０～１１ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書１０～１２ページの発音練習を行う。教科書１１ページの作文（自分のことについて）を書き、１２ページの問いに答える。	60分
5	第二部月 5/4	【Lektion 3】seinとhabenの現在人称変化（文法）	動詞の現在人称変化を学習し、練習問題を行う。 ドイツ周辺の国名などの語彙を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、seinとhabenの現在人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書１３～１５ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書１３ページの発音練習を行い、教科書１３～１４ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
6	第二部月 5/11	【Lektion 3】seinとhabenの現在人称変化（読解・作文）	自己紹介に関する会話練習、ドイツとオーストリアに関するテキスト読解と作文を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、seinとhabenの現在人称変化について理解し、それに対応する会話、テキスト読解、作文ができる。	
		事前学修	教科書１６～１７ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書１６～１７ページの発音練習を行う。教科書１７ページの作文（スイスとリヒテンシュタインについて）を書き、１８ページの問題を解く。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 5/18	【Lektion 4】名詞の１格と４格、複数形（文法）	名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の１格と４格、名詞の複数形について学習し、練習問題を行う。 身の回りのものを表す語彙を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の１格と４格、名詞の複数形について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書１９～２１ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書１９ページの発音練習を行い、教科書２０～２１ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
8	第二部月 5/25	【Lektion 4】名詞の１格と４格、複数形（読解・作文）	市場での会話練習、料理に関するテキスト読解と練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の１格と４格、名詞の複数形について理解し、それに対応する会話、テキスト読解、作文ができる。	
		事前学修	教科書２２～２３ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書２２～２３ページの発音練習を行う。教科書２３ページの課題を行い、２４ページの問題を解く。	60分
9	第二部月 6/1	【Lektion 5】不規則動詞、名詞の３格、所有冠詞（文法）	不規則動詞、名詞の３格、所有冠詞について学習し、練習問題を行う。 食べ物・飲み物に関する語彙と表現を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不規則動詞、名詞の３格、所有冠詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書２５ページの音声を聞いてくる。 教科書２６～２７ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書２５ページの発音練習を行い、教科書２６～２７ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
10	第二部月 6/8	【Lektion 5】不規則動詞、名詞の３格、所有冠詞（読解・作文）	親族を表す語彙の発音練習、兄弟姉妹や誕生日プレゼントに関する会話練習、家族に関するテキスト読解を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不規則動詞、名詞の３格、所有冠詞について理解し、それに対応する会話、テキスト読解、作文ができる。	
		事前学修	教科書２８～２９ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書２８～２９ページの発音練習を行う。教科書２９ページの課題を行い、３０ページの問題を解く。	60分
11	第二部月 6/15	【Lektion 6】前置詞（文法）	前置詞について学習し、練習問題を行う。 交通手段や行き先に関する語彙を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書３１ページの音声を聞いてくる。 教科書３２～３３ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書３１ページの発音練習を行い、教科書３２～３３ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
12	第二部月 6/22	【Lektion 6】前置詞（読解・作文）	通学やドイツの都市の場所に関する会話練習、休暇の過ごし方に関するテキスト読解と作文を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞について理解し、それに対応する会話、テキスト読解、作文ができる。	
		事前学修	教科書３４～３５ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書３４～３５ページの発音練習を行う。教科書３５ページの作文（休暇旅行について）を書き、３６ページの問題を解く。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 6/29	【Lektion 7】人称代名詞の3・4格、再帰動詞（文法）	人称代名詞の3・4格、再帰代名詞と再帰動詞について学習し、練習問題を行う。身体の部分を表す語彙、病気と症状の表現を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人称代名詞の3・4格、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書37～39ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書37ページの発音練習を行い、教科書38～39ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
14	第二部月 7/6	【Lektion 3・4格、再帰動詞（読解・作文）】	時刻の表現を学習し、聞き取り練習とや会話練習を行う。病気と症状、診療所の予約に関するテキスト読解を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人称代名詞の3・4格、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、問題を解答できる。時刻の表現を理解し、それに対応する聞き取りや会話ができる。	
		事前学修	教科書41ページの音声聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 教科書42ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書40～41ページの発音練習を行う。間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
15	第二部月 7/13	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、第1回～第14回の学習内容を理解し、運用できる。	
		事前学修	教科書1～36ページの総復習を行う。	90分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学系の文献理解を他者に発信し応答する技能を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現AB及びドイツ語基礎文法ABを履修していること。あるいは、独検4級及びCEFR A1レベル以上のドイツ語力を有していること。

【授業方法】
参加型の授業です。ペア・ワークやグループ・ワークをしながら会話・読解・作文のトレーニングをしてゆきます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回ペア・ワークやグループ・ワークを用いた自律学修です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回提出する作文の添削と授業中のコメント

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業初回到説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定の国際ライセンスの知識と技能を用いて、A2レベルの読解力と作文力の効果的な養成を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能についての説明	
		この回の到達目標	学期末に到達するレベルについて説明することができる。	
		事前学修	シラバス確認	30分
		事後学修	文法復習	30分
2	4/15	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1	語学の学習歴について、自分のプロフィールについてテキストを読み理解する	
		この回の到達目標	言語学習について、学習理由についてのテキストを理解することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1練習問題・語彙習得	60分
3	4/22	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2	語学の学習歴について、自分のプロフィールについてテキストを書いて、意見交換をする。	
		この回の到達目標	言語学習について、学習理由についてのテキストを書いて、ペアで意見交換することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2練習問題・語彙習得	60分
4	4/29	Einheit 2 Familienalbum 1	ドイツ語の家族史についてのテキストを読んで理解する。	
		この回の到達目標	ドイツ語の家族史についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 2 Familienalbum 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 2 Familienalbum 1 練習問題・語彙習得	60分
5	5/6	Einheit 2 Familienalbum 2	ドイツ語の家族史についてのテキストを書いて意見交換する。	
		この回の到達目標	ドイツ語の家族史についてのテキストを書いて、ペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 2 Familienalbum 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 2 Familienalbum 2 練習問題・語彙習得	60分
6	5/13	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1	旅と移動手段についてのテキストを読んで理解する。	
		この回の到達目標	旅と移動手段についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2	旅と移動手段についてのテキストを書いて意見交換する。
		この回の到達目標	旅と移動手段についてのテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】
		事前学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 作文 60分
		事後学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 練習問題・語彙習得 60分
8	5/27	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1	余暇活動についてのテキストを読んで理解する。
		この回の到達目標	旅と移動手段についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】
		事前学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1長文読解翻訳 60分
		事後学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1 練習問題・語彙習得 60分
9	6/3	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2	余暇活動についてのテキストを書いて、意見交換する
		この回の到達目標	余暇活動についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】
		事前学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 作文 60分
		事後学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 練習問題・語彙習得 60分
10	6/10	Einheit 5 Medien 1	メディアについてテキストを理解する。
		この回の到達目標	メディアについてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】
		事前学修	Einheit 5 Medien 1 長文読解翻訳 60分
		事後学修	Einheit 5 Medien 1 練習問題・語彙習得 60分
11	6/17	Einheit 5 Medien 2	メディアについてテキストを書いて、意見交換する。
		この回の到達目標	メディアについてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】
		事前学修	Einheit 5 Medien 2 作文 60分
		事後学修	Einheit 5 Medien 2 練習問題・語彙習得 60分
12	6/24	Einheit 6 Ausgehen 1	外出についてテキストを理解する。
		この回の到達目標	外出についてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】
		事前学修	Einheit 6 Ausgehen 1 長文読解翻訳 60分
		事後学修	Einheit 6 Ausgehen 1 練習問題・語彙習得 60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	Einheit 6 Ausgehen 2	外出についてテキストを書いて、意見交換する。	
		この回の到達目標	外出についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 6 Ausgehen 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 6 Ausgehen 2 練習問題・語彙習得	60分
14	7/8	期末試験	これまで学修した内容全般から期末試験を行う	
		この回の到達目標	今まで学んだ内容について、自律的にドイツ語のテキストを翻訳し、それについて自分の意見をドイツ語で書くことができる。【到達目標①②】	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	できなかった箇所を復習する。	60分
15	7/15	期末試験講評、振り返り	期末試験の講評をして、その上で今後の目標について話す。	
		この回の到達目標	今後のドイツ語学修について、目標を立てることができる。	
		事前学修	試験の振り返り	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学系の文献理解を他者に発信し応答する技能を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習方式。教科書、独和辞典、前もって配布する予習用プリントを常時使用。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ワーク： 第5回にルクセンブルク公用語の関する文献、第11回にゲーテの作品の一部を読み、内容についてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
アクティブ・ラーニングの講評は次回に行い、授業内試験のフィードバック解説と講評は、後日ポータルサイトを通して配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語、次のステップへ！	伊藤、シンチンガー、木村	同学社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日17時50分～18時20分、授業講堂（前もってアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】【ドイツの学生と知り合う】	ガイダンス（授業の進め方等の説明）。前置詞の復習をして、さらに進んだ使い方について学修する。ドイツの周辺諸国とEUの外観について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読んで理解し、登場人物と内容について説明することができ、ドイツ語の質問に対してはドイツ語の文で意見を述べることができる。	
		事前学修	シラバス、および、第1課2頁「パートナー」と4頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	読んだ文章を復習し、ドイツ語の質問にドイツ語で答える練習をする。	25分
2	第一部 木4/16	【ドイツと周辺諸国】	ドイツの国家形態と「中欧」における位置、EUとの関係を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ連邦共和国の成立過程と周辺諸国について理解し、説明することができる。	
		事前学修	3頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	3頁に出てく周辺諸国の国名を正しく発音できるか確認し、ドイツとヨーロッパの地図で国々の位置関係を把握する。	25分
3	第一部 木4/23	【前置詞を使った文、再帰動詞を使った文】	前置詞の格支配と再帰動詞を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、前置詞と再帰動詞について理解し、それらが用いられた文章を正しく解釈できる。	
		事前学修	5頁の問題を解いて準備する。	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、前置詞を使った問題文を書いて練習する。	20分
4	第一部 木4/30	【ドイツ旅行への提案】	分離動詞と非分離動詞、および、その三基本形を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞と非分離動詞を用いた文章の解釈ができ、読んだ文章の内容が合っているかどうか、判断して意見を述べることができる。	
		事前学修	第2課「旅行計画」の6頁と8頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	6頁でマルクスが提案していることをまとめる。	20分
5	第一部 木5/7	【オーストリアとスイス】	オーストリアとスイスについて、使用言語と通貨、首都について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オーストリアとスイスの特徴を述べ、読んだ文章の内容が合っているかどうか、判断して意見を述べることができる。	
		事前学修	7頁を読んで準備する。	30分
		事後学修	7頁をおさらいし、確認問題を正しい文に書き直す。	30分
6	第一部 木5/17	【分離動詞を使った文、非分離動詞を使った文】	さまざまな分離動詞と非分離動詞の意味と使い方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、分離動詞と非分離動詞を区別し、意味の上から適切な動詞を正しく使って、文を作ることができる。	
		事前学修	9頁の問題を解いて準備する。	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	【フランクフルト到着】	命令形を学修し、通関時に用いる表現やドイツの代表的な料理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、命令形について理解し、それを用いた文を解釈して、内容が合っているかどうかの判断ができる。	
		事前学修	第3課「ドイツ到着」の10頁と12頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	内容を問う質問に対して、答えをドイツ語で書いて、確認する。	20分
8	第一部 木 5/28	【ザクセンハウゼン】	フランクフルトの名物料理とその地区の歴史を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ザクセンハウゼン地区の歴史と特徴を説明することができる。	
		事前学修	11頁を読んで準備する。	30分
		事後学修	11頁の確認問題で、ドイツ語の質問にドイツ語の文で答えが書けるように練習する。	30分
9	第一部 木 6/4	【命令形を使った文、従属接続詞を使った文】	命令形の文を作ることと、従属接続詞を使って文を作る学修をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属の接続詞を用いて、文の前半と後半を正しく繋いで、コミュニケーションを成立させることができる。	
		事前学修	13頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。従属接続詞を用いて1文にしたものを、全文正しく書く練習する。	25分
10	第一部 木 6/11	【フランクフルト見物】	形容詞の付加語的用法と、フランクフルトの名所について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、形容詞を用いた文を解釈し、内容について、ドイツ語の質問に答えることができる。フランクフルトの見どころについて、説明することができる。	
		事前学修	第4課「フランクフルト・アム・マイン」の14頁と16頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	14頁であげられている名所をリストにまとめる。	25分
11	第一部 木 6/18	【ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ】	ドイツの文豪ゲーテの生涯と作品について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーテとその作品について説明し、その作品について意見を述べることができる。	
		事前学修	15頁を読んで準備する。	30分
		事後学修	ゲーテの生涯を簡単にまとめる。	30分
12	第一部 木 6/25	【付加語形容詞を多用した文】	形容詞を文中で正しい形に変化させることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、形容詞を正しい形にすることを理解し、ドイツを代表する音楽家、ヨーハン・ゼバスティアン・バッハとライプツィヒについて説明できる。	
		事前学修	17頁の問題を解いて準備する。	40分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、ライプツィヒについてまとめる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	【ミュンヘンへ】 【バイエルン】	話法の助動詞、ミュンヘンとバイエルンについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、バイエルンについて説明することができ、使役の助動詞lassenを含む話法の助動詞を使った文を理解することができる。	
		事前学修	第5課「ミュンヘンへ」の18～20頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	18頁にあるマルクスの家族構成と、19頁にあるバイエルンの簡単な歴史をまとめる。	20分
14	第一部 木7/9	【時刻の表現】	時刻の表現を用いて、コミュニケーションを取ることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、時刻の表現を用いて、ドイツ語の質問に答えることができる。	
		事前学修	21頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	パートナーを見つけて、21頁にある会話の練習をする。	25分
15	第一部 木7/16	【振り返り】【授業内試験】	前学期学修内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どの程度理解したかを授業内試験で判断する。	
		事前学修	前学期で学習したことを復習し、理解していない個所があるかどうか確認する。	180分
		事後学修	試験で正答できなかった箇所を、教科書やノートで確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習B	担当者	黒瀬 志保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学系の文献理解を他者に発信し応答する技能を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A，Bを履修済み、あるいは初級文法の知識を必要とする。

【授業方法】
教科書に沿って、文法説明、練習問題、発音練習、会話練習、聞き取り練習、テキスト読解、作文を行う。必要に応じて独検対策も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の広場	清野智昭	同学社	2019年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜19：30～ 授業終了後の講堂にて。初回授業でメールアドレスを公開する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 9/14	【ガイダンス】 【Lektion 8】分離動詞（導入）	授業の進め方と注意事項を説明する。 電車の発車時刻、番線、到着時刻に関する表現について学習し、会話練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、電車の発車時刻、番線、到着時刻に関する表現について理解し、それに対応する会話ができる。	
		事前学修	教科書42ページまで、もしくはこれまでに学習したドイツ語を復習しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 音声を聞いて、教科書43ページの発音練習を行う。	30分
2	第二部月 9/21	【Lektion 8】分離動詞と副文（文法）	分離動詞、副文、zu不定詞について学習し、練習問題を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞、副文、zu不定詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書44～45ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書44～45ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	第二部月 9/28	【Lektion 8】分離動詞と副文（会話・読解）	駅の窓口での会話の聞き取り練習と会話練習を行う。 一日についてのテキスト読解を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞、副文、zu不定詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文ができる。	
		事前学修	教科書46～47ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	60分
		事後学修	教科書46～47ページの発音練習を行う。教科書47ページの作文（自分の一日の様子）を書き、48ページの問題を解く。	60分
4	第二部月 10/5	【Lektion 9】話法の助動詞（文法）	休暇に関する表現、曜日・季節などの表現を学習し、会話練習を行う。 話法の助動詞について学習し、練習問題を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書49ページの音声を聞いてくる。 教科書50～51ページの問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書49ページの発音練習を行い、教科書50～51ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
5	第二部月 10/12	【Lektion 9】話法の助動詞（会話・読解）	レストランでの会話練習を行う。 ドイツの天候に関するテキスト読解を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞について理解し、それに対応する会話、テキスト読解、作文ができる。	
		事前学修	教科書52～53ページの音声を聞き、テキストを和訳してくる。	60分
		事後学修	教科書52～53ページの発音練習を行う。教科書53ページの作文（日本の四季の天候について）を書き、54ページの問題を解く。	60分
6	第二部月 10/19	【Lektion 10】定冠詞類、形容詞（文法）	洋服に関する語彙と表現を学習し、会話練習を行う。 定冠詞類、形容詞の語尾について学習し、練習問題を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類、形容詞の語尾について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書55ページの音声を聞いてくる。 教科書56～57ページを読んでくる。	30分
		事後学修	教科書55ページの発音練習を行い、教科書56～57ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 10/26	【Lektion 10】定冠詞類、 形容詞（会話）	ブティックでの会話練習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類、形容詞の語尾について理解し、それに対応する会話ができる。	
		事前学修	教科書 5 8 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書 5 8 ページの発音練習を行う。	30分
8	第二部月 11/9	【Lektion 10】定冠詞類、 形容詞（読解）	ドイツのクリスマスについてのテキスト読解を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類、形容詞の語尾について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。	
		事前学修	教科書 5 9 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書 5 9 ページの発音練習を行う。教科書 5 9 ページの課題を行い、6 0 ページの問題を解く。	60分
9	第二部月 11/16	【Lektion 11】過去形と現 在完了形（文法）	過去形、現在完了形について学習し、練習問題を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、過去形、現在完了形について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
		事前学修	教科書 6 1 ～ 6 3 ページを読んでくる。	30分
		事後学修	教科書 6 1 ページの発音練習を行い、教科書 6 2 ～ 6 3 ページで間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
10	第二部月 11/23	【Lektion 11】過去形と現 在完了形（会話）	序数と日付の言い方について学習し、誕生日と出生地についての聞き取り練習、会話練習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、序数と日付言い方について理解し、それに対応する聞き取り、会話ができる。	
		事前学修	教科書 6 4 ページを読み、数字の言い方を復習してくる。	30分
		事後学修	教科書 6 4 ページの発音練習を行う。	30分
11	第二部月 11/30	【Lektion 11】過去形と現 在完了形（読解）	手紙文の読解を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、過去形、現在完了形について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。	
		事前学修	教科書 6 5 ページの音声を聞き、テキストを和訳してくる。	30分
		事後学修	教科書 6 5 ページの発音練習を行う。教科書 6 5 ページの課題を行い、6 6 ページの問題を解く。	60分
12	第二部月 12/7	【Lektion 12】接続法第 2 式（文法）	接続法第 2 式について学習し、練習問題を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、接続法第 2 式について理解し、それに対応する会話ができ、問題を解答できる。	
		事前学修	教科書 6 7 ページの音声を聞いてくる。 教科書 6 8 ～ 6 9 ページを読んでくる。	30分
		事後学修	教科書 6 7 ページの発音練習を行い、教科書 6 8 ～ 6 9 ページで間違えた箇所の問題を解き直す。 7 2 ページの問題を解く。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 12/14	【Lektion 式（会話） 12】接続法第 2	接続法第 2 式を用いた会話練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法第 2 式について理解し、それに対応する会話ができる。	
		事前学修	教科書 7 0 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。	30分
		事後学修	教科書 7 0 ページの発音練習を行う。	30分
14	第二部月 12/21	【Lektion 式（読解） 12】接続法第 2	ドイツ留学に関するテキスト読解を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法第 2 式について理解し、それに対応するテキストを読解できる。	
		事前学修	教科書 7 1 ページの音声を聞き、テキストを和訳してくる。	30分
		事後学修	教科書 7 1 ページの発音練習を行い、課題を行う。	60分
15	第二部月 1/18	【授業内試験、振り返り】	授業内試験および後期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
		事前学修	教科書 4 3 ～ 7 2 ページの総復習を行う。	90分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習B	担当者	真道 杉	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学系の文献理解を他者に発信し応答する技能を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現AB及びドイツ語基礎文法ABを履修していること。あるいは、独検4級及びCEFR A1レベル以上のドイツ語力を有していること。

【授業方法】
参加型の授業です。ペア・ワークやグループ・ワークをしながら会話・読解・作文のトレーニングをしてゆきます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回ペア・ワークやグループ・ワークを用いた自律学修です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回提出する作文の添削と授業中のコメント

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業初回到説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定の国際ライセンスの知識と技能を用いて、A2レベルの読解力と作文力の効果的な養成を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能についての説明	
		この回の到達目標	学期末に到達するレベルについて説明することができる。	
		事前学修	シラバス確認	30分
		事後学修	文法復習	30分
2	9/23	Einheit 7 Zu Hause 1	住環境について、自分のプロフィールについてテキストを読み理解する	
		この回の到達目標	住環境について、学習理由についてのテキストを理解することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 7 Zu Hause 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 7 Zu Hause 1 練習問題・語彙習得	60分
3	9/30	Einheit 7 Zu Hause 2	住環境について、自分のプロフィールについてテキストを書いて、意見交換をする。	
		この回の到達目標	住環境について、学習理由についてのテキストを書いて、ペアで意見交換することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 7 Zu Hause 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 7 Zu Hause 2 練習問題・語彙習得	60分
4	10/7	Einheit 8 Kultur erleben 1	文化についてのテキストを読んで理解する。	
		この回の到達目標	文化についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 8 Kultur erleben 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 8 Kultur erleben 1 練習問題・語彙習得	60分
5	10/14	Einheit 8 Kultur erleben 2	文化についてのテキストを書いて意見交換する。	
		この回の到達目標	文化についてのテキストを書いて、ペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 8 Kultur erleben 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 8 Kultur erleben 2 練習問題・語彙習得	60分
6	10/21	Einheit 9 Arbeitswelten 1	仕事についてのテキストを読んで理解する。	
		この回の到達目標	仕事についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 9 Arbeitswelten 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 9 Arbeitswelten 1 練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	Einheit 9 Arbeitswelten 2	仕事についてのテキストを書いて意見交換する。	
		この回の到達目標	仕事についてのテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 9 Arbeitswelten 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 9 Arbeitswelten 2 練習問題・語彙習得	60分
8	11/11	Einheit 10 Feste und Geschenke 1	祝祭についてのテキストを読んで理解する。	
		この回の到達目標	祝祭についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 1 練習問題・語彙習得	60分
9	11/18	Einheit 10 Feste und Geschenke 2	祝祭についてのテキストを書いて、意見交換する	
		この回の到達目標	祝祭についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 2 練習問題・語彙習得	60分
10	11/25	Einheit 11 Mit allen Sinnen 1	感情についてテキストを理解する。	
		この回の到達目標	感情についてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 1 練習問題・語彙習得	60分
11	12/2	Einheit 11 Mit allen Sinnen 2	感情についてテキストを書いて、意見交換する。	
		この回の到達目標	感情についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 2 練習問題・語彙習得	60分
12	12/9	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 1	発明についてテキストを理解する。	
		この回の到達目標	発明についてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 1 長文読解翻訳	60分
		事後学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 1 練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 2	発明についてテキストを書いて、意見交換する。	
		この回の到達目標	発明についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 2 作文	60分
		事後学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 2 練習問題・語彙習得	60分
14	12/23	期末試験	これまで学修した内容全般から期末試験を行う	
		この回の到達目標	今まで学んだ内容について、自律的にドイツ語のテキストを翻訳し、それについて自分の意見をドイツ語で書くことができる。【到達目標①②】	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	できなかった箇所を復習する。	60分
15	1/13	期末試験講評、振り返り	期末試験の講評をして、その上で今後の目標について話す。	
		この回の到達目標	今後のドイツ語学修について、目標を立てることができる。	
		事前学修	試験の振り返り	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学系の文献理解を他者に発信し応答する技能を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習方式。予習用のプリントを前もって配布する。教科書と独和辞典を常時使用。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク： 第5回で、デパートの売り場について尋ねる文と答えの文をドイツ語で作り、第12回では、ドイツ語の短い詩を読に、内容についてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
アクティブ・ラーニングについての講評は次回に行い、授業内試験のフィードバック解説・講評は、後日、ポータルシステムにより配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語、次のステップへ！	伊藤、シンチンガー、木村	同学社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日17時50分～16時20分、授業講堂（前もってアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 木9/17	【ピナコテーク】	ガイダンス（授業の進め方等の説明）。受動態、および、ミュンヘンの美術館と代表的な画が について学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、ミュンヘンの美術館とルネサンス期に活躍したドイツの画家たちについて理解する。
		事前学修	シラバスと第6課「ミュンヘンと美術館」の22～24頁を読んで準備する。 45分
		事後学修	3つあるピナコテークについて、それぞれの特徴をまとめる。 15分
2	第一部 木9/24	【受動態の時制】【形容詞 の名詞化】	受動態の時制と形容詞の名詞化を学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、受動態の時制と形容詞の名詞化について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。
		事前学修	25頁の問題を解いて準備する。 40分
		事後学修	時制と熟語的表現sich lassenに注目し、間違えた箇所の問題を解き直す。 20分
3	第一部 木10/1	【ひとり旅】【ユースホス テルで知り合う】	関係代名詞、および、ヨーロッパの若者の旅行スタイルを学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係代名詞について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。ユースホステルについて 説明できる。
		事前学修	第7課「山へ」の26頁、27頁後半～28頁を読んで準備する。 40分
		事後学修	26頁で使われている関係代名詞の性と格を確認する。 20分
4	第一部 木10/8	【ザルツブルクとザルツカ ンマーグート】	モーツアルトの生地ザルツブルクで毎年行われる文化的イベントとその周辺地方について学修す る。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ザルツブルクの文化的イベントについて理解し、自分の意見を述べることができる。ザ ルツカンマーグートの特徴について説明できる。
		事前学修	27頁の前半を読んで準備する。（30分） 30分
		事後学修	ザルツブルクの主なイベントをまとめ、27～28頁に出てきた地名を地図で確認する。。 30分
5	第一部 木10/15	【めざす階を見つける】	資料であるデパートの案内表示を読みこむことと、そこで得た情報を実際に使用することを学修 する。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、デパートの売り場案内表示を理解し、ドイツ語で案内することができる。ドイツの建物の 構造について説明し、自分の意見を述べることができる。
		事前学修	29頁の問題を解いて準備する。 35分
		事後学修	パートナーを見つけて、29頁の会話を練習をする。 25分
6	第一部 木10/22	【第2次大戦後のドイツとベ ルリンの壁】	ベルリンの壁ができるまでのドイツ史と現在のベルリンの見どころとの関連を学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、第2次大戦後のドイツ分断の歴史について理解し、説明することができ、自分の意見を述 べることができる。
		事前学修	第8課「ベルリン、分断都市？」の30～32頁を読んで準備する。 45分
		事後学修	ベルリンの壁に関する名所旧跡をリストアップし、ベルリンの壁はだれがいつ何のために構築したかをまと める。 15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	【形容詞の比較変化】	形容詞の比較変化を用いた文の学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、形容詞の比較変化について理解し、熟語的表現も含め、それらを用いた文章の解釈ができる。	
		事前学修	33頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
8	第一部 木11/5	【ベルリンの大学】	ベルリン分断と大学の関係と、再統一について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ベルリンに新旧二つの大学がある理由とドイツ再統一の過程について説明することができる。	
		事前学修	第9課「ベルリンの大学」の34～35頁を読んで準備する。	45分
		事後学修	ベルリンの壁開放の過程をまとめる。	15分
9	第一部 木11/12	【文の書き換え】	文の時制（現在形から現在完了形へ）や態（能動態から受動態へ）を変えることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、文を書き換えることを理解し、時制や態を変えることができる。	
		事前学修	37頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。生年月日と生まれた地について、パートナーと会話練習をする。	25分
10	第一部 木11/19	【ドレスデンと第2次大戦】	爆撃によるドレスデン破壊と戦後復興の過程、現在の見どころとの関連を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、定動詞の位置について理解し、文中の定動詞を指摘することができる。ドレスデンが第2次大戦後にたどった道について説明できる。	
		事前学修	第10課「ドレスデンへの旅」の38頁を読んで準備する。	40分
		事後学修	ドレスデン周辺の見どころをまとめる。	20分
11	第一部 木12/3	【ケストナーとナチス時代】	ナチス時代に行われた迫害について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナチス時代の焚書やユダヤ教会堂破壊について理解し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	39頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	エーリヒ・ケストナーの生涯についてまとめる。	25分
12	第一部 木12/10	【動詞の位置の総まとめ】	ドイツ語の文では動詞の位置が決まっていて、動詞中心での言語であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、与えられた語を正しい語順に並べ、さまざまな構造を持つ文を作ることができる。	
		事前学修	41頁の問題を解いて準備する。	35分
		事後学修	ハインリヒ・ハイネの詩の内容を理解して音読し、ハイネについて調べる。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	【接続法の形と用法】【将来への希望】	接続法とは何か、その作り方と用法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、接続法第2式について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。	
		事前学修	第11課「別れの前に」の42～44頁を読んで準備する。	35分
		事後学修	42頁で使われている接続法第2式をピックアップし、正しく書けるように練習する。	25分
14	第一部 木12/24	【接続法を使って作文】	接続法第2式・非現実のニュアンスを持つ表現を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、接続法第2式を使って、非現実話法を表現する文を作ることができる。	
		事前学修	45頁の問題を解いて準備する。	40分
		事後学修	接続法第2式が正しく発音できるように注意して、45ページの文を音読する。	20分
15	第一部 木1/14	【振り返り】【授業内試験】	後期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後学期の学習がどの程度身についているかを判断する。	
		事前学修	後学期に学修したことを総復習し、理解していない個所がないか確認する。。	180分
		事後学修	試験で正答できなかった箇所を、教科書やノートで確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習C	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や訳読の発表と講評。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京	郁文堂	2002年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義。 必ず参加すること。	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。講読に際して必要になる基本的な文法事項について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語文法の基礎を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。「ドイツ語初級文法」で使用したテキストを一通り読んでおくこと。	30分
		事後学修	第2回の授業までに、テキストを準備し、第1課の予習をしておくこと。	30分
2	4/14	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft①	6ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストを準備し、第1課の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	4/21	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft②	6ページ後半から8ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	4/28	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft③	8ページの残り全部を、文の構造を把握しながら精読する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	5/5	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft④	10ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	5/12	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑤	10ページ後半から12ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑥	12ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
8	5/26	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑦	14ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
9	6/2	テキスト読解・Der gestiefelte Kater①	18ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
10	6/9	テキスト読解・Der gestiefelte Kater②	18ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
11	6/16	テキスト読解・Der gestiefelte Kater③	20ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
12	6/23	テキスト読解・Der gestiefelte Kater④	20ページ後半と22ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑤	22ページ後半から24ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。	30分
14	7/7	理解度の確認と前期の学習の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	テキスト全体を通読し、前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
		事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	7/14	前期の復習	前期に読んだ部分を改めて読み直し、理解が十分ではないところを改めて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
		事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
		事後学修	前期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	ドイツ語演習C(第一部月曜4時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法が習得済みであること

【授業方法】
「文学/思想」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
RASHOMON（芥川龍之介「羅生門」）	Ryunosuke Akutagawa	白水社	1983	教科書	必携
独和辞典　〔電子辞書は不可〕				その他	必携
必携　ドイツ文法総まとめ	中島・平尾・朝倉	白水社	2003	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜4限、授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールwatanabe.tokuo@nihon-u.ac.jpで連絡すること）にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	文学系演習の学修	本科目の趣旨、授業法について説明する。外国語を学びながら、同時に名作と言われる自国の文学作品を学ぶことの意味ついて述べる。また、文学作品の訳読による言葉の訓練が、想像力、思索力の鍛錬の基礎となることについても述べる。	
		この回の到達目標	冒頭の部分を正しく解釈することができる。（到達目標①）	
		事前学修	上記の文法事項を復習、予習しておく。冒頭部分の音読。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
2	4/13	時代背景を作品解釈に生かす	平安京の略図を見ながら、羅生門の位置、時代背景についても述べ、筋の展開との関連についても少し解説を行う。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、物語の時代と場所を正しく解釈に入れることができる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。平安京の地図を見て、羅生門の位置を確認しておく。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。そこから時代（平安時代の末期）であることを把握する。	30分
3	4/20	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。季節。	季節を感じさせる単語や文章を指摘する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。物語の時代、季節について自分の推理を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
4	4/27	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の状況	使われている単語、文意から物語の主人公の置かれた状況を検討してみる。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の身分と境遇に関する自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
5	5/4	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の年齢。	使われている単語、文意から主人公の年齢の推測を行う。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。登場人物が、老年か青年か少年かについての自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
6	5/11	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の心象風景。	使われている単語、文意から主人公の心象風景の推測を行う。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。登場人物の心理状態について自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の心理の推移	使われている単語、文意から主人公の心理の推移の推測を行う。	
		この回の到達目標	使われている単語、文意から主人公の心の移り変わりについての自分の推測を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
8	5/25	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。舞台装置の象徴的意味。	使われている単語、文意から舞台装置の象徴的な意味を推測する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。視点が一階から上階へ移動することで、そこが筋の転換点になっていることを認識できる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
9	6/1	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。舞台装置の描写。	使われている単語、文意から舞台装置が描き分けられていることに注意する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。舞台装置の描写と主人公の心理状況とを関連付けることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
10	6/8	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。主人公の心理状態	使われている単語、文意から登場人物の心理状態を推測する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の恐怖心と好奇心を推測し、自分の推理を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
11	6/15	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。上階の状況。	使われている単語、文意から舞台の上階の状況を説明する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。舞台の上階の状況を正確に描写することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
12	6/22	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。老婆の登場。	使われている単語、文意から老婆の行動を説明する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の行動を描写できる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 グループワーク	使われている単語、文意から老婆の行動と主人公の心理状態との関係をグループで類推する。	
		この回の到達目標	グループワークを通じて、各人が意見を述べ、よりの確な解釈をまとめ、決定訳をすることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。グループでまとめた訳を持ち帰り、その内容を吟味し、試験に備える。	150分
14	7/6	授業内試験／解説	筆記試験60分。問題の形式は、独文和訳で、応用問題。終了後、試験の意図と訳し方の要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、独文和訳の問題に厳密な訳を付けることができる。	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	150分
		事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。自分の解答を振り返り、間違ったと思われるところを確認しておく。	30分
15	7/13	解説／フィードバック	採点後に、解説を行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題に適切に答えるレポートを書くことができる。	
		事前学修	答案を振り返ってみて、間違ったところ、分からなかったところ、あやふやなところをノートに書き留めておく。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語演習C(第二部水曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年		
『気分はドイツ』	本郷・佐藤著	三修社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
①水曜 3 限授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス 授業の進め方 テキストの読み方	初級文法が終わった時点で内容のあるものを一冊読み上げることの意義について述べる。ロ ケットの父、ヴェルンヘル・フォン・ブラウンの功績について簡単に説明する。第1章 の第1段落だけ取り上げる。	
		この回の 到達目標	史上初めて人類が月に立つことに貢献したフォン・ブラウンの業績を簡単に紹介できる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	4/15	アポロ11号の月面着陸	第1章 アポロ11号 この テキストの文体である「歴史的現在」の訳し方について説明する。	
		この回の 到達目標	アポロ11号の月面着陸とフォン・ブラウンとの関係を類推できる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。2格の用法について調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	4/22	人類月に立つ	第1章 アポロ11号 この テキストの文体である「歴史的現在」の効果について説明する。	
		この回の 到達目標	月世界の情景と世界中の人たちの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	4/29	少年の月と星への夢	第2章 1960年代のアメリカから1920年代のドイツへ。 この 伝記小説の構成について説明する。	
		この回の 到達目標	主人公の少年の月への情熱を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	5/6	ロケット花火の実験	第2章を読んでいく。	
		この回の 到達目標	主人公の少年が、ロケット花火の実験をなぜ行ったのか、その理由を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	5/13	宇宙空間とロケット工学	第2章を読んでいく。 宇 宙空間へ行くのためには、なぜ飛行機ではなく、ロケットなのかを説明する。	
		この回の 到達目標	主人公の少年が、ロケット工学の専門書に取り組もうとする意欲を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	寄宿舍での生活	第2章を読んでいく。 チス台頭前のドイツの時代背景に触れる。ナ	
		この回の到達目標	主人公の少年の、望遠鏡を与えられたときの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
8	5/27	映画『月世界の女性』	第2章 映画『月世界の女性』（1920年）の解説を行う。あわせて当時の宇宙への知識についても触れる。 映画(DVD)を鑑賞しながら、テキストをともに読んでいく。	
		この回の到達目標	映画のあらすじと主人公の行動とを結びつけ、その関係を発表することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
9	6/3	世界のロケット研究事情	第3章を読んでいく。	
		この回の到達目標	各国の宇宙工学の状況を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
10	6/10	世界恐慌とロケット開発	第3章を読んでいく。 第1次世界大戦後の世界恐慌について簡単に説明する。	
		この回の到達目標	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
11	6/17	自動車王フォードとナチス	第3章を読んでいく。	
		この回の到達目標	アメリカの自動車王フォードとナチスがどのようにロケット開発にかかわってくるかについて推測しながらテキストを読み込み、意見を述べることができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
12	6/24	宇宙旅行協会とオーベルト教授	第3章を読んでいく。ベルリンの宇宙旅行協会について触れる。	
		この回の到達目標	宇宙旅行協会でのロケット研究とオーベルト教授との共同開発の内容を理解したうえで、テキストを読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	宇宙への情熱	第3章を読んでいく。第4章の文法解説。	
		この回の到達目標	主人公の少年の、変わらぬ月への情熱を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。関係文とzu不定詞についての文法事項を調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	150分
14	7/8	試験/解説	独文和訳形式。辞書参照可。文法解説。	
		この回の到達目標	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	150分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	7/19	解説／振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
		この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。テキストを通して、主人公のロケットへの情熱について接してみて、どう感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返る。第5章を先取りして、調べておく。	30分

科目名	ドイツ語演習D	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や訳文の発表と講評。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京	郁文堂	2002年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑥	後期の授業方針を説明する。24ページの後半部分を精読する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	前期で読んだ部分をあらためて通読し、夏休み後の授業に備える。24ページの後半を読んできること。後期からの参加者は、後期の初回の授業に必ず参加すること。	30分
		事後学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
2	9/22	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑦	26ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	9/29	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑧	26ページ後半と28ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	10/6	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑨	28ページ後半と30ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	10/13	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater ⑩	30ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	10/20	テキスト読解・Haensel und Gretel⑪	34ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	テキスト読解・Haensel und Gretel②	34ページ後半と35ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
8	11/10	テキスト読解・Haensel und Gretel③	36ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
9	11/17	テキスト読解・Haensel und Gretel④	36ページ後半と38ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
10	11/24	テキスト読解・Haensel und Gretel⑤	38ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
11	12/1	テキスト読解・Haensel und Gretel⑥	40～41ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
12	12/8	テキスト読解・Haensel und Gretel⑦	42ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	テキスト読解・Haensel und Gretel⑧	42ページ後半と44ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
14	12/22	理解度の確認と後期の学習内容の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	テキスト全体を通読し、後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
		事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	1/12	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期に学習したテキストの内容について復習する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
		事前学修	後期の学習内容を復習してくること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習についてよく考えること。	30分

科目名	ドイツ語演習D(第一部月曜4時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
①テキストの文章は独検2級レベルで、きわめて難解あるため、最低限基本文法の知識を備えていなければならない。②必ず予習をしてくること。④必ず独和辞典を持ってくること。

【授業方法】
文法・構文分析をまず行い、そのあと辞書を丹念に引き、一語一語丁寧に文を解釈する。前期は、ゆっくり進むが、後期にはテンポよく読み進めていく予定でいる。また何度か独⇄日を往復して、テキストを比較することも考えている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2					2		2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
RASHOMON（芥川龍之介「羅生門」）	Ryunosuke Akutagawa	同学社	1983年	教科書	必携
独和辞典〔電子辞書不可〕				その他	必携
必携 ドイツ文法の総まとめ	中島・朝倉・平尾	白水社	2003年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
①月曜４限，授業後の教室②9号館共有スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	前期の復習	前期で行った内容の復習を行う。外国語を学びながら、同時に名作と言われる自国の文学作品を学ぶことの意味について述べる。また、文学作品の訳読による言葉の訓練が、想像力、思索力の鍛錬の基礎となることについても述べる。	
		この回の到達目標	後期の1回目の部分を正しく解釈することができる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
2	9/21	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。舞台の情景描写。	使われている単語、文意から、舞台の描写を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。舞台の情景と筋の展開とを関連付けることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
3	9/28	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。老婆の外見の描写。	使われている単語、文意から、老婆の外見を正確に把握する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の役割を正確にとらえることができる。（到達目標①）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
4	10/5	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。二人の格闘。	使われている単語、文意から、主人公と老婆との格闘と主人公の逡巡を読み取る。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆との格闘を通して主人公の逡巡を把握することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
5	10/12	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。下人と老婆との格闘	使われている単語、文意から、主人公と老婆との力関係を読み、それが老婆の独白につながることにについて言及する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公と老婆との力関係を筋の展開と関連付けて、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
6	10/19	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。老婆の行動の動機	使われている単語、文意から、老婆の行動の動機について取り上げる。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の動機を読み取り、筋の展開と関連付けて説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /26	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 老婆の独白。	使われている単語、文意から、老婆の独白について取り上げる。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。老婆の台詞が果たす役割に関して自分の意見を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
8	11 /9	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 老婆の独白。	使われている単語、文意から、老婆の独白が主人公に心理に与える影響について取り上げる。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の心理状況を老婆の独白と関連付けて、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
9	11 /16	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 老婆の独白の主人公へ及ぼす影響。	使われている単語、文意から、主人公の行動を老婆の独白との関係について説明する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の行動を老婆の独白と関連付けて、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
10	11 /23	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 主人公の決心。	使われている単語、文意から、主人公の行動を類推し、勇気を獲得した動機を明らかにする。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の行動の動機は何かを説明できる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
11	11 /30	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 主人公の心理。	使われている単語、文意から主人公の心理を推測する。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公の心理を的確に把握し、各自、それについて意見を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
12	12/7	文章を正確に読み取り、想像力を働かせる。 主人公の性格描写。	使われている単語、文意から、主人公の性格の描写を試みる。	
		この回の到達目標	文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。主人公がどのような性格か、各自自分の考えを述べ、意見を交わすことができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /15	テキストの主題を考える。	テキストの解釈を通して、この小説のテーマについて考えてみる。グループワークを通じて、各人が意見を述べ、主題が何かをまとめる。	
		この回の到達目標	テキストの解釈を通じて、この作品のテーマについて各自、自分の意見を述べることができる。（到達目標①②） 自、自分の意見を述べることができる。（到達目標①②） テキストの解釈を通じて、この作品のテーマについて各自、自分の意見を述べることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
		事後学修	グループで得た意見を持ち帰り、その内容を吟味し、このテキストのテーマについて自分の見解をノートにまとめ、試験に備える。	150分
14	12 /22	授業内試験／解説	筆記試験60分。問題の形式は、独文和訳で、応用問題。終了後、試験の意図と訳し方の要点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、独文和訳の問題に厳密な訳を付けることができる。	
		事前学修	本試験に備えて、辞書を引く練習をし、文法事項を確認する。	150分
		事後学修	自分の答案を振り返り、誤りに気付いた部分を確認しておく。	30分
15	1/18	解説／フィードバック	採点後に、解説を行う。また、レポートを回収する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題に適切に答えるレポートを書くことができる。	
		事前学修	答案を振り返って見て、間違ったところ、分からなかったところ、あやふやなところをノートに書き留めておく。	60分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、その後、芥川龍之介の原文を読み、翻訳と原文との差を見て、印象をまとめる。	60分

科目名	ドイツ語演習D(第二部水曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2					2		2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年		
『気分はドイツ』	本郷・佐藤著	三修社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
①水曜 3 限，授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス 後期授業の進め方 第4章の復習	第4章までの内容を振り返る。第5章を読んでいく。	
		この回の到達目標	ナチスから資金援助を受けることになった経緯を文章から読み取ることができる。この時の主人公の心の葛藤についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。 アポロ11号について調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	9/23	ドルンベルガーとベルリンのロケット研究所	第5章を読んでいく。クンメルスドルフの地理的位置について説明する。	
		この回の到達目標	この時の主人公の心境についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	9/30	ロケットの宇宙旅行から兵器への転用	第5章を読んでいく。クンメルスドルフのロケット研究所での実験	
		この回の到達目標	テキストを読んで、クンメルスドルフのロケット研究所での実験の失敗から主人公の心境を読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	10/7	ヒトラーの独裁政治の始まりとロケット開発	第6章を読んでいく。	
		この回の到達目標	陸軍兵器局とロケット開発との関係をテキストから読み取ることができる。その理由について意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。ヒトラーの独裁政権がいつ始まったか調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	10/14	ロケット基地の建設	第6章を読んでいく。パーネミュンデの地理的な位置について説明する。	
		この回の到達目標	ロケット基地をなぜパーネミュンデに移したかその理由をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	10/21	大陸弾道ロケットの設計	第6章を読んでいく。当時のドイツの戦況について説明する。	
		この回の到達目標	ヒトラーから命令を受けた時の主人公の心境をテキストとの行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10 /28	イギリス情報部の活動	第7章を読んでいく。	
		この回の到達目標	多くの失敗を経て、A4ロケットの成功に至る経緯を理解したうえで、主人公の相反する心境を行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
8	11 /11	オスロレポート	第7章を読んでいく。	
		この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
9	11 /18	バルト海沿岸の空中写真解説	第7章を読んでいく。バルト海沿岸の地理的な位置を示す。	
		この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
10	11 /25	ペーネミュンデへの爆撃と終戦	第7章を読んでいく	
		この回の到達目標	終戦直後の主人公と技術者の行動についてテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
11	12/2	自由の天地へ	第8章を読んでいく。	
		この回の到達目標	主人公がなぜアメリカへ行く決心をしたか文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
12	12/9	再び宇宙計画に向う	第8章を読んでいく。米ソの宇宙開発競争について解説する。	
		この回の到達目標	主人公のアメリカでの生活とソ連との宇宙開発競争について文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /16	少年のころの夢の実現へ	第8章を読んでいく。読んだ後に、このテキストの構造が円環形式になっていることを説明する。	
		この回の到達目標	主人公が人類初の月への着陸という夢を達成した経緯をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
		事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
14	12 /23	試験/解説	独文和訳形式。辞書参照可。文法解説。	
		この回の到達目標	第8章までの内容を踏まえ、テキスト全体の内容を正確に理解したうえで、翻訳することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
		事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	1/12	解説/振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
		この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。このテキストを通して、主人公の生涯をかけた研究、強い意志、たゆみない努力に接してみて、何を感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
		事後学修	本科目の学修を振り返る。宇宙への挑戦者の伝記を読んで、どう感じたかを考えてみる。	30分

科目名	ドイツ語演習E	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できる能力を修得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2			2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
名作イーजीリーダー	久保哲司	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15-12:55 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義、文法説明	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる作品について概説し、これを読むことの意義を明らかにする。講読に際して必要になる基本的な文法事項について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講読に際して必要なドイツ語の基礎文法が説明できる。また、ドイツ語で芸術に関する著作を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	4/15	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft①	テキストの2ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストを準備し、2ページ(最初から注の23があるところまで)の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	4/22	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft②	テキストの3ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	4/29	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft③	テキストの4ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	5/6	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft④	テキストの5ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。次章で扱う作品について、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	5/13	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin①	テキストの7ページ～8ページ前半を読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin②	テキストの8ページ後半～9ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
8	5/27	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin③	テキストの10ページ～11ページ前半を読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
9	6/3	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin④	テキストの11ページ後半～12ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
10	6/10	ローエングリン 映像鑑賞 と作品解説	ワーグナーのオペラ《ローエングリン》を、比較的原作に忠実に演出された映像の抜粋を見て、作品に対する理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ワーグナーのオペラ《ローエングリン》の鑑賞と解説を通じ、この作品について説明することができる。	
		事前学修	授業で読んだ《ローエングリン》の内容について復習してくる。	30分
		事後学修	像で見たことをノートに整理しておく。	30分
11	6/17	ローエングリン 映像鑑賞 とディスカッション	010年以降に上演されたワーグナーのオペラ《ローエングリン》の映像の抜粋を見て、近年のオペラ演出の多様性について見識を得ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ワーグナーのオペラ《ローエングリン》の鑑賞と解説を通じ、ドイツ語圏のオペラにおける実情の一端を学び、その可能性について自分の考えを述べる。	
		事前学修	授業で読んだ《ローエングリン》の内容について復習してくる。	30分
		事後学修	予映像で見たことや自分の感想をノートに整理しておく。	30分
12	6/24	テキスト読解・第1部第3章 Erste Legende des Ruebezahl①	テキストの14ページ～15ページ前半を読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	テキスト読解・第1部第3章 Erste Legende des Ruebezahl②	テキストの15ページ後半～16ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
14	7/8	筆記試験と前期の学習内容 の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	前期に読んだ箇所を復習し、分からないところがどこかを明らかにしておくこと。前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
		事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	7/15	前期の復習	前期に学習したテキストの内容と映像資料について復習する。テキスト17ページから19ページの概要を説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
		事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
		事後学修	前期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	ドイツ語演習E	担当者	鈴木 満	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できる能力を修得する。

【履修条件】
ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。

【授業方法】		
ドイツ語に関してはアウトプットの前にインプットが必要です。授業中にドイツ語についての説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。 その上で、到達目標をクリアします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマに基づいて情報を集め、書面あるいは口頭で発表する。またその発表について書面あるいは口頭で質問・反論したり、どういう点で同意できるかを述べる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドイツ文の読み間違い等を指摘する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独和辞典				その他	必携
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
授業時間（木曜２限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツスポーツ少年団交流事業案内担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 木4/9	【ガイダンス】【文字および発音】	ガイダンス 文字および発音	
		この回の到達目標	受講生の人数・学力等を話し合い、この授業の今後の進め方を決定する。 到達目標①②達成のための準備として、文字および発音の復習。 到達目標①②に関連し、一般に言われているドイツ語圏文化の「評判」等についての情報入手の仕方を知る。	
		事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、一般に言われているドイツ語圏文化の「評判」等を考える。（20分）	20分
		事後学修	1回目授業の要点をレポートにまとめてみる。2回目の授業の準備。（40分）	40分
2	第二部 木4/16	【ドイツ語学力確認と復習・動詞】【第1回目授業のテーマについて発表】	動詞の復習。 ドイツの芸術文化に関連し、第1回目授業のテーマについて発表。	
		この回の到達目標	到達目標①②達成のための準備として、動詞の復習。 到達目標①②に関連し、「ドイツ語圏文化の評判」について発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業第1回目の復習。（10分）	10分
		事後学修	2回目授業の要点をレポートにまとめてみる。3回目の授業の準備。（50分）	50分
3	第二部 木4/23	【ドイツ語学力確認と復習・冠詞】【第1回目授業のテーマについての異論】	冠詞の復習。 ドイツの芸術文化に関連し、第1回目授業のテーマについての異論。	
		この回の到達目標	到達目標①②達成のための準備として、冠詞（類）の復習。 到達目標①②に関連し、第2回目のテーマ「ドイツ語圏文化の評判」についての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業第2回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	3回目授業の要点をレポートにまとめてみる。4回目の授業の準備。（45分）	45分
4	第二部 木4/30	【ドイツ語学力確認と復習・名詞】【第1回目授業のテーマについての総括】	名詞の復習。 ドイツの芸術文化に関連し、第1回目授業のテーマについての総括。	
		この回の到達目標	到達目標①②達成のための準備として、名詞の変化の復習。 第2回目のテーマ「ドイツ語圏文化の評判」についての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第5回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業3回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	4回目授業の要点をレポートにまとめてみる。5回目の授業の準備。（45分）	45分
5	第二部 木5/7	【第4回目授業で決めたテーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第4回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第4回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業4回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	5回目授業の要点をレポートにまとめてみる。6回目の授業の準備。（45分）	45分
6	第二部 木5/14	【第4回目授業のテーマについての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第4回目授業のテーマについての異論。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第4回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業5回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	6回目授業の要点をレポートにまとめてみる。7回目の授業の準備。（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 木5/21	【第4回目授業で決めた テーマの総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第4回目授業のテーマについての総括。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第4回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第8回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業6回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	7回目授業の要点をレポートにまとめてみる。8回目の授業の準備。（45分）	45分
8	第二部 木5/28	【第7回目授業で決めた テーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第7回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第7回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業7回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	8回目授業の要点をレポートにまとめてみる。9回目の授業の準備。（45分）	45分
9	第二部 木6/4	【第7回目授業のテーマに についての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第7回目授業のテーマについての異論。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第7回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業8回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	9回目授業の要点をレポートにまとめてみる。10回目の授業の準備。（45分）	45分
10	第二部 木6/11	【第7回目授業で決めた テーマの総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第7回目授業のテーマについての総括。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第7回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第11回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業9回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	10回目授業の要点をレポートにまとめてみる。11回目の授業の準備。（45分）	45分
11	第二部 木6/18	【第10回目授業で決めた テーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第10回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第10回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業10回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	11回目授業の要点をレポートにまとめてみる。12回目の授業の準備。（45分）	45分
12	第二部 木6/25	【第10回目授業のテーマ についての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第10回目授業のテーマについての異論。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第10回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業11回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	12回目授業の要点をレポートにまとめてみる。13回目の授業の準備。（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 木7/2	【第10回目授業のテーマについての総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第10回目授業のテーマについての総括。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第10回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第14回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業12回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	13回目授業の要点をレポートにまとめてみる。14回目の授業の準備。（45分）	45分
14	第二部 木7/9	【第13回目授業で決めたテーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第13回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第13回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業13回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	14回目授業の要点をレポートにまとめてみる。15回目の授業の準備。（45分）	45分
15	第二部 木7/16	【試験】【振り返り】	ドイツの芸術文化に関連し、第13回目授業のテーマについての考察。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第13回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意に反論・同意を述べる。 到達目標①②に関連し、ドイツ語を文法的に正しく読み、論理的に意見を構成しているかを確認する。	
		事前学修	授業1回目～14回目の復習。（30分）	30分
		事後学修	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習。（30分）	30分

科目名	ドイツ語演習E	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できる能力を修得する。

【履修条件】
基礎文法を一通り学習し終えていること。

【授業方法】
一年次に習得した文法事項を復習・確認しながら、ドイツ語のテキストの音読、読解、独作文など行う。ドイツ語検定3級レベルの読解力を身につけるために必要に応じて小テストを行う。必ず独和辞書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート課題は返却、添削する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身近なドイツ語－話したくなる１０のトピッカー	木戸紗織	朝日出版社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業（火曜４限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	ガイダンス：ドイツ語とドイツ語圏の文化と芸術について	授業の進め方・成績評価の方法について説明する。一年次に学習した文法事項の理解度を確認する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、自分が関心を持っているドイツの文化・芸術について説明することができる。苦手な文法事項を確認することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。一年次に習得した文法事項を確認し、苦手な項目をチェックしておく。	30分
		事後学修	苦手な文法事項を復習する。	30分
2	第一部火 4/14	ドイツ語の発音	発音規則について説明し、簡単な挨拶文、日本で使われる単語、有名なドイツ人の名前の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語の発音規則とつづり字の発音を理解し、単語を発音することができる。	
		事前学修	ドイツ語の母音・子音の発音規則を復習しておくこと。	30分
		事後学修	授業中に練習した単語を何度も繰り返し発音練習する。	30分
3	第一部火 4/21	動詞の人称変化	主語になる代名詞、疑問詞、動詞の変化、位置を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、簡単な平叙文・疑問文を作ることができる。	
		事前学修	Lektion 1教科書を読み、動詞の変化について復習しておく。	30分
		事後学修	自己紹介ができるように、学習した単語を使い自分について説明する練習をする。	30分
4	第一部火 4/28	Text 1:Gesundheit!講読	Text:Gesundheit!の発音練習と訳を行う。テキストの中の重要動詞の変化と否定文を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、重要動詞:sein haben werdenを使った文と否定文を作ることができる。	
		事前学修	テキストの音読と辞書を使用し訳を予習してくること。	30分
		事後学修	重要表現、重要動詞の変化を確実に覚える。	30分
5	第一部火 5/5	名詞について	名詞の種類、定冠詞、不定冠詞、格の用法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞、冠詞の変化、格の用法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	Lektion 2/3教科書を読み、定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えてくる。	30分
		事後学修	名詞の格の用法を復習し、練習する。	30分
6	第一部火 5/12	Text 2:Nestle 講読	Text:Nestleの発音練習と訳を行う。テキストの中の不規則動詞の変化を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、重要な不規則動詞を使った文を作ることができる。	
		事前学修	テキストの音読と辞書を使用し訳を予習してくること。	30分
		事後学修	重要表現、重要な不規則動詞の変化を確実に覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	Text 3:Pflegerboter 講読	Text:Pflegerboterの発音練習と訳を行う。テキストの中の名詞の格変化を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格と不規則動詞の変化を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と名詞の格を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現、重要動詞の目的語の格を確実に覚える。	30分
8	第一部火 5/26	冠詞類の変化	定冠詞類、不定冠詞類の冠詞の種類と変化、否定冠詞を使った否定文を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類、不定冠詞類を使いこなせるようになる。否定冠詞を使った否定文を作ることができる。	
		事前学修	Lektion 4 教科書を読み、定冠詞、不定冠詞の格変化をもう一度確実に覚えてくる。	30分
		事後学修	定冠詞類の冠詞、所有冠詞を確実に覚える。	30分
9	第一部火 6/2	Text 4:Kartoffeln 講読	Text:Kartoffelnの発音練習と訳を行う。冠詞の変化を確認し理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類の冠詞、所有冠詞、名詞の格を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現、重要動詞の目的語の格を確実に覚える。	30分
10	第一部火 6/9	人称代名詞と再帰代名詞について	人称代名詞と再帰代名詞の変化、再帰動詞の使い方をを確認し理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人称代名詞と再帰代名詞を使いこなせるようになる。再帰動詞を使った文を作ることができる。	
		事前学修	Lektion 5 教科書を読み、人称代名詞の変化を確実に覚えてくる。	30分
		事後学修	再帰動詞の用法を復習し、練習する。	30分
11	第一部火 6/16	Text 5:Zahnpasta 講読	Text:Zahnpastaの発音練習と訳を行う。人称代名詞と再帰代名詞の変化を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人称代名詞の格と再帰動詞の使い方を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現、重要動詞の目的語の格を確実に覚える。	30分
12	第一部火 6/23	前置詞の格支配	前置詞の使い方を確認し理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞を使いこなせるようになる。前置詞の格支配を理解し説明することができる。	
		事前学修	Lektion 6 教科書を読み、名詞の格変化をもう一度確実に覚えてくる。	30分
		事後学修	重要な前置詞の格や意味を確実に覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	Text 6:Pez 講読	Text:Pezの発音練習と訳を行う。テキストの中の置詞の使い方を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の使い方を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と前置詞の使い方を確認しながら、辞書を使用し訳をしていくこと。	30分
		事後学修	重要表現、前置詞の格や意味を確実に覚える。	30分
14	第一部火 7/7	重要表現の復習	練習プリントを使用して前期学習した文法事項の問題を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について説明することができる。	
		事前学修	前期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について調べまとめてくる。	30分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分
15	第一部火 7/14	授業内試験と振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞類の変化、前置詞の使い方を説明することができる。	
		事前学修	前期に学習した文法と重要単語を総復習する。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語演習F	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できる能力を修得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
名作イーजीリーダー	久保哲司	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15-12:55 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義、 文法説明	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる作品について概説し、これを読むことの意義を明らかにする。講読に際して必要になる基本的な文法事項について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講読に際して必要なドイツ語の基礎文法が説明できる。また、ドイツ語で芸術に関する著作を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	9/23	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser①	テキストの21ページ～22ページ前半を読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	9/30	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser②	テキストの22ページ後半～23ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	10/7	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser③	テキストの24ページ～25ページ前半を読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	10/14	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser④	テキストの25ページ後半～26ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	10/21	テキスト読解・第2部第2章 Das Buch des Wan-Hu-Tschen①	テキストの27ページ前半～28ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	タンホイザー 作品解説と映像鑑賞	ワーグナーのオペラ《タンホイザー》を、比較的原作に忠実に演出された映像の抜粋を見て、作品に対する理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ワーグナーのオペラ《タンホイザー》の鑑賞と解説を通じ、この作品について説明することができる。	
		事前学修	授業で読んだ《タンホイザー》の内容について復習してくること。	30分
		事後学修	映像で見たことをノートに整理しておくこと。	30分
8	11/11	タンホイザー 映像鑑賞と映像に関する解説	1978年にパイロイト音楽祭で収録されたワーグナーのオペラ《タンホイザー》の映像の抜粋を見て、舞台演出の可能性について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ワーグナーのオペラ《タンホイザー》の鑑賞と解説を通じ、オペラにおいては演出家によって様々な解釈が提示されていることを学び、その意味について自分の考えをまとめることができる。	
		事前学修	授業で読んだ《タンホイザー》の内容について復習してくること。	30分
		事後学修	映像で見たことをノートに整理しておくこと。	30分
9	11/18	タンホイザー 映像鑑賞とディスカッション	2014年と2019年にパイロイト音楽祭で収録されたワーグナーのオペラ《タンホイザー》の映像の抜粋を見て、近年のオペラ演出の多様性について見識を得ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ワーグナーのオペラ《タンホイザー》の鑑賞と解説を通じ、ドイツ語圏のオペラにおける実情の一端を学び、その可能性について自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	授業で読んだ《タンホイザー》の内容について復習してくること。	30分
		事後学修	映像で見たことや自分の感想をノートに整理しておくこと。	30分
10	11/25	文法説明、テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd①	第3部を読むにあたって要求される文法について解説する。それを踏まえて、テキストを読解する。テキストの36ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストの内容について復習してくること。	30分
		事後学修	映像で見たことをノートに整理しておくこと。	30分
11	12/2	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd②	テキストの37ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストの内容について復習してくること。	30分
		事後学修	映像で見たことや自分の感想をノートに整理しておくこと。	30分
12	12/9	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd③	テキストの38ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd④	テキストの39ページを読み、文法・内容に関して詳細に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
		事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
14	12/23	筆記試験との振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
		事前学修	後期に読んだ箇所を復習し、分からないところがどこかを明らかにしておくこと。後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
		事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	1/13	後期の復習	後期に学習したテキストの内容と映像資料について復習する。テキストの40ページ～41ページの概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
		事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
		事後学修	後期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	ドイツ語演習F	担当者	鈴木 満	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できる能力を修得する。

【履修条件】
ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。

【授業方法】		
ドイツ語に関してはアウトプットの前にインプットが必要です。授業中にドイツ語についての説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。 その上で、到達目標をクリアします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマに基づいて情報を集め、書面あるいは口頭で発表する。またその発表について書面あるいは口頭で質問・反論したり、どういう点で同意できるかを述べる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドイツ文の読み間違い等を指摘する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独和辞典				その他	必携
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
授業時間（木曜２限）後の休み時間、講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツスポーツ少年団交流事業案内担当。
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 木9/17	【ガイダンス】【基礎文法の復習】	ガイダンス 基礎文法の復習 ドイツの芸術文化に関連し、2回目授業のテーマを協議して決定する。	
		この回の到達目標	受講生の人数・学力等を話し合い、この授業の今後の進め方を決定する。 到達目標①②達成のための準備として、基礎文法の復習。 ドイツ語圏の芸術文化についての情報入手の仕方を知る。	
		事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、一般に言われているドイツ語圏文化の「評判」等を考える。（20分）	20分
		事後学修	1回目授業の要点をレポートにまとめてみる。2回目の授業の準備。（40分）	40分
2	第二部 木9/24	【第1回目授業のテーマについて発表】	動詞の復習。 ドイツの芸術文化に関連し、第1回目授業のテーマについて発表。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第1回目授業で決めたテーマについて発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業第1回目の復習。（10分）	10分
		事後学修	2回目授業の要点をレポートにまとめてみる。3回目の授業の準備。（50分）	50分
3	第二部 木10/1	【第1回目授業のテーマについての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第1回目授業のテーマについての異論。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第1回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業第2回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	3回目授業の要点をレポートにまとめてみる。4回目の授業の準備。（45分）	45分
4	第二部 木10/8	【第1回目授業のテーマについての総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第1回目授業のテーマについての総括。	
		この回の到達目標	第1回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第5回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業3回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	4回目授業の要点をレポートにまとめてみる。5回目の授業の準備。（45分）	45分
5	第二部 木10/15	【第4回目授業で決めたテーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第4回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第4回目に関決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業4回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	5回目授業の要点をレポートにまとめてみる。6回目の授業の準備。（45分）	45分
6	第二部 木10/22	【第4回目授業のテーマについての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第4回目授業のテーマについての異論。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第4回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業5回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	6回目授業の要点をレポートにまとめてみる。7回目の授業の準備。（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 木10/29	【第4回目授業で決めた テーマの総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第4回目授業のテーマについての総括。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第4回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第8回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業6回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	7回目授業の要点をレポートにまとめてみる。8回目の授業の準備。（45分）	45分
8	第二部 木11/5	【第7回目授業で決めた テーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第7回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第7回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業7回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	8回目授業の要点をレポートにまとめてみる。9回目の授業の準備。（45分）	45分
9	第二部 木11/12	【第7回目授業のテーマに についての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第7回目授業のテーマについての異論。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第7回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業8回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	9回目授業の要点をレポートにまとめてみる。10回目の授業の準備。（45分）	45分
10	第二部 木11/19	【第7回目授業で決めた テーマの総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第7回目授業のテーマについての総括。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第7回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第11回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業9回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	10回目授業の要点をレポートにまとめてみる。11回目の授業の準備。（45分）	45分
11	第二部 木12/3	【第10回目授業で決めた テーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第10回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第10回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業10回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	11回目授業の要点をレポートにまとめてみる。12回目の授業の準備。（45分）	45分
12	第二部 木12/10	【第10回目授業のテーマ についての異論】	ドイツの芸術文化に関連し、第10回目授業のテーマについての異論。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、第10回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意を述べる。	
		事前学修	授業11回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	12回目授業の要点をレポートにまとめてみる。13回目の授業の準備。（45分）	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 木12/17	【第10回目授業のテーマについての総括】	ドイツの芸術文化に関連し、第10回目授業のテーマについての総括。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第10回目のテーマについての発表・レポートについて総括する。 到達目標①②に関連し、第14回目の授業のテーマを協議して決定する。	
		事前学修	授業12回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	13回目授業の要点をレポートにまとめてみる。14回目の授業の準備。（45分）	45分
14	第二部 木12/24	【第13回目授業で決めたテーマの発表】	ドイツの芸術文化に関連し、第13回目授業で決めたテーマの発表。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第13回目に決めたテーマについての発表・レポート提出する。	
		事前学修	授業13回目の復習。（15分）	15分
		事後学修	14回目授業の要点をレポートにまとめてみる。15回目の授業の準備。（45分）	45分
15	第二部 木1/14	【試験】【振り返り】	ドイツの芸術文化に関連し、第13回目授業のテーマについての考察。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、第13回目のテーマについての発表・レポートについて反論・同意に反論・同意を述べる。 到達目標①②に関連し、ドイツ語を文法的に正しく読み、論理的に意見を構成しているかを確認する。	
		事前学修	授業1回目～14回目の復習。（30分）	30分
		事後学修	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習。（30分）	30分

科目名	ドイツ語演習F	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できる能力を修得する。

【履修条件】
基礎文法を学習し終えていること。

【授業方法】
ドイツ語演習Eの続きを学習する。一年次に習得した文法事項を復習・確認しながら、ドイツ語のテキストの音読、読解、独作文など行う。ドイツ語検定3級レベルの読解力を身につけるために必要に応じて小テストを行う。必ず独和辞書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート課題は返却、添削する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身近なドイツ語－話したくなる１０のトピッカー	木戸紗織	朝日出版社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業（火曜４限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。h.kawakami18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	ガイダンス：ドイツ語圏の文化と芸術について	授業の進め方・成績評価の方法について説明する。前期に学習した文法事項の理解度を確認する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分が関心を持っているドイツの文化・芸術について説明することができる。苦手な文法事項を確認することができる。	
		事前学修	前期に習得した文法事項を確認し、復習しておく。シラバスをよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	苦手な文法事項を復習する。	30分
2	第一部火 9/22	複合動詞と従属接続詞	複合動詞と従属接続詞、副文について説明し、分離動詞と使った文と副文を作ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語の枠構造を理解し、分離動詞と使った文と副文を作ることができる。	
		事前学修	Lektion 7教科書を読み、複合動詞と接続詞の種類と定動詞の位置について復習しておく。	30分
		事後学修	枠構造を復習し、従属接続詞を確実に覚える。	30分
3	第一部火 9/22	Text 7:Zeiss 講読	Text:Zeiss の発音練習と訳を行う。テキストの中の分離動詞と使った文と副文を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞と使った文と副文を確認し、訳することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と分離動詞と使った文と副文を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現、枠構造の文型を整理し確実に覚える。	30分
4	第一部火 10/6	話法の助動詞、非人称	話法の助動詞の種類と助動詞構文、非人称のesについて説明し、助動詞と使った文を作ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞の変化と動詞位置を理解し、助動詞構文を説明することができる。	
		事前学修	Lektion 8 教科書を読み、助動詞の変化について復習しておく。	30分
		事後学修	助動詞構文を復習し、助動詞の変化と意味を確実に覚える。	30分
5	第一部火 10/13	Text 8:Babyklappe 講読	Text:Babyklappeの発音練習と訳を行う。テキストの中の助動詞構文、非人称のesを使った文を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞構文と助動詞の意味について理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と助動詞と非人称のesを使った文を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくること。	30分
		事後学修	重要表現、助動詞構文と非人称のesを使った熟語の文を整理し確実に覚える。	30分
6	第一部火 10/20	現在完了形、受動態	動詞の三基本形を復習し、現在完了形、受動態について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完了形と受動態の助動詞構文について理解し、現在完了形、受動態の文を作ることができる。	
		事前学修	Lektion 9教科書を読み、動詞の三基本形について復習しておく。	30分
		事後学修	重要不規則動詞の過去分詞を確実に覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	Text 9:Bier 講読	Text:Pflegerboterの発音練習と訳を行う。テキストの中の現在完了形、受動態の文を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在完了形、受動態について理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの現在完了形、受動態を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現、現在完了形、受動態を整理し、作り方を復習する。	30分
8	第一部火 11/10	過去形、zu 不定詞	過去形の人称変化、zu 不定詞の用法を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去形とzu 不定句を使いこなせるようになる。	
		事前学修	Lektion 10 教科書を読み、動詞の三基本形をもう一度確実に覚えてくる。	30分
		事後学修	過去形の人称変化を復習する。	30分
9	第一部火 11/17	Text 10: Enigma講読	Text:Kartoffelnの発音練習と訳を行う。テキストの中の過去形とzu 不定詞の用法を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過去形の人称変化、zu 不定詞の用法を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習し、過去形とzu 不定詞の用法を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現、zu 不定句の用法を整理し確実に覚える。	30分
10	第一部火 11/24	関係代名詞	関係文の作り方と用法を確認し練習する。。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係文の役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	定冠詞の変化を確実に覚えてくる。	30分
		事後学修	関係文の用法を復習し、練習する。	30分
11	第一部火 12/1	Maerchen講読	Textの発音練習と訳を行う。テキストの中の定関係代名詞と関係文の文型を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定関係代名詞と関係文の文型を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と関係文を確認しながら、辞書を使用し訳をしてくる。	30分
		事後学修	重要表現、重要動詞を確実に覚える。	30分
12	第一部火 12/8	接続法	接続法の変化と用法を確認し理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の変化を理解し説明することができる。	
		事前学修	過去形の人称変化を復習してくる。	30分
		事後学修	接続法の文の用法を復習し、練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	Roman 講読	Textの発音練習と訳を行う。テキストの中の接続法の文を確認し練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の使い方を理解し説明することができる。	
		事前学修	テキストの音読練習と接続法の使い方を確認しながら、辞書を使用し訳をしていくこと。	30分
		事後学修	重要表現、重要動詞を確実に覚える。	30分
14	第一部火 12/22	重要表現の復習	練習プリントを使用して後期学習した文法事項の問題を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について説明することができる。	
		事前学修	後期学習した文法事項の問題を解答できる。自分が関心を持ったドイツ語圏の文化・芸術について調べとめる。	30分
		事後学修	間違えた問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分
15	第一部火 1/12	授業内試験と振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、枠構造、副文と関係文 助動詞構文についてを説明することができる。	
		事前学修	前期に学習した文法と重要単語を総復習する。	50分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜3・4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	ドイツと言えは何を連想するか考えておくこと。	30分
		事後学修	授業で触れた事柄をまとめ、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
2	4/17	発音	アルファベットと単語の発音の仕方	
		この回の到達目標	アルファベットと単語の発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストvi頁からx頁に目を通し、xi頁の発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。	30分
3	4/24	規則動詞	規則動詞の現在人称変化	
		この回の到達目標	規則動詞の現在人称変化を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキストxii頁から6頁に目を通し、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにし、発音を録音教材で確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	5/1	名詞・冠詞	名詞・冠詞	
		この回の到達目標	名詞と冠詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。またテキスト9頁から13頁に目を通しておくこと。発音を録音教材で確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	5/8	不規則動詞(2) 命令形	不規則動詞と命令形の構造	
		この回の到達目標	不規則動詞の構造と命令形の用法を理解し、簡単な文章を口に出して言えるようにする。	
		事前学修	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	5/15	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の構造	
		この回の到達目標	冠詞類と人称代名詞の用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	前置詞	前置詞の用法と格変化	
		この回の到達目標	前置詞の用法と格変化を理解を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	5/29	副文	接続詞と副文の構造と用法	
		この回の到達目標	副文と接続詞の構造と用法を理解し、副文を使った簡単な文章を口に出して言えるようにする。	
		事前学修	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	6/5	話法の助動詞	話法の助動詞の用法	
		この回の到達目標	話法の助動詞の用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	6/12	複合動詞	複合動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	複合動詞の構造と用法をを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト41頁から44頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	6/19	再帰動詞と非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の用法	
		この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の用法をを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	6/26	形容詞	形容詞の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の構造と用法をを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	動詞の3基本形	動詞の3基本形の構造	
		この回の到達目標	動詞の3基本形の構造をを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	7/10	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	7/17	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	もう一度全体を見直して、不確実なところがあればしっかりと記憶すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得してあること

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	購読はペアワークを行い、相互に文法説明ができるようにします。またプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治経済関連の翻訳通訳経験をもとに、テキストへのアプローチの方法を実践的に扱います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマの概要についての説明	
		この回の到達目標	授業の到達目標を明確に説明することができる。	
		事前学修	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習 ヨーロッパを中心とした時事問題を確認しておく	30分
		事後学修	教材の準備・文法復習	30分
2	4/14	時事問題テキスト1 「メディア1」	テキスト1 前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト1 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト1 「メディア」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ テキストの背景について調べる	30分
3	4/21	時事問題テキスト1 「メディア2」	テキスト1 後半の翻訳、文法解釈及び背景の解説	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト1 後半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト1 「メディア」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ	30分
4	4/28	時事問題テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1 の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
5	5/5	時事問題テキスト2 「政治・EU」1	テキスト2前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト2前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト2「政治-EU」 前半の訳語及び文法事項まとめ	30分
6	5/12	時事問題テキスト2 「政治・EU」2	テキスト2後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト2前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト2「政治・EU」 訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	時事問題テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
8	5/26	時事問題テキスト3「環境問題」1	テキスト3前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト3前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト3 「環境問題」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト3「環境問題」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
9	6/2	時事問題テキスト3「環境問題」2	テキスト3後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト3後半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト3 「環境問題」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト3「環境問題」後半訳語及び文法事項まとめ	30分
10	6/9	時事問題テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
11	6/16	時事問題テキスト4「大学・キャリア」1	テキスト4前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト4前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト4 「キャリア」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
12	6/23	時事問題テキスト4「大学・キャリア」2	テキスト4後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト4前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」後半訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	時事問題テキスト4 プレゼンテーション	テキスト4の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
14	7/7	期末試験 まとめ	今学期に学修した内容全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	自律的にドイツ語の時事問題テキストを文法解説して翻訳することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験でわからなかったところの振り返り	30分
15	7/14	試験解説・振り返り	試験の解説及び今学期の振り返り	
		この回の到達目標	今学期の到達度を確認して、今後のドイツ語学修の目標をたてる	
		事前学修	今後のドイツ語学修について計画を立てる	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜3・4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、導入授業	講義計画、成績評価の方法などの説明と前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	前期の成果の確認が十分に行われたか確認する。	
		事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
		事後学修	小テストであやふやだったり覚えていなかった点があれば、再確認して記憶しておくこと。	30分
2	9/25	比較級と最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
		この回の到達目標	比較級・最上級の構造についてを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	10/2	過去形	過去形の構造と用法	
		この回の到達目標	過去形の構造と用法についてを理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通してておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	10/9	複合時制	日本人とドイツの歴史について 未来形と完了形の構造と用法	
		この回の到達目標	複合時制の構造と用法を理解し、簡単な文章を色々な時制で口に出して言えるようにする。	
		事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	10/16	関係代名詞	関係代名詞の構造と用法	
		この回の到達目標	関係代名詞と関係文の用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	10/23	受動態	受動態の構造と用法	
		この回の到達目標	受動態の構造と用法について理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	接続法第1式	ドイツの環境問題 接続法第1式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第1式の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	11/6	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続法第2式の構造と用法を理解し、その理解に基づいて文を理解する。	
		事前学修	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	11/13	ドイツの平和と国連憲章	国連憲章とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(1)をこれまでに獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト80頁の設問に回答し、81頁の13行目までを訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	11/20	ドイツの平和と墨子	中国の思想家墨子とドイツの平和について	
		この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(2)を読解し、内容について自分の意見を発表できるようにまとめる。	
		事前学修	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと	30分
11	11/27	文法の再確認	テキスト全体について重要な事項の再確認	
		この回の到達目標	テキスト全体がこれまで獲得した知識により理解できていることを確認する。	
		事前学修	テキスト全体を振り返り、よく理解できていない箇所があれば、質問できるように準備する。	30分
		事後学修	授業前に分からなかったりあいまいだった箇所が、分かるようになったか確認する。	30分
12	12/4	国際連合とハーグ平和会議	国際連合とハーグ平和会議について	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(1)を、これまでに獲得した知識に基づいて読解する。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	国際連合とクーデンホーフ・カレルギー	国際連合とクーデンホーフ・カレルギーの思想について	
		この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(2)を読解し、内容について自分の意見を発表できるようにまとめる。	
		事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目から最後まで訳出しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。	30分
14	12/18	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	12/25	振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得してあること

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	購読はペアワークを行い、相互に文法説明ができるようにします。またプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治経済関連の翻訳通訳経験をもとに、テキストへのアプローチの方法を実践的に扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマの概要についての説明	
		この回の到達目標	授業の到達目標を明確に説明することができる。	
		事前学修	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習 ヨーロッパを中心とした時事問題を確認しておく	30分
		事後学修	教材の準備・文法復習	30分
2	9/22	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」	テキスト5前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト5前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 訳語及び文法事項まとめ テキストの背景について調べる	30分
3	9/29	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」2	テキスト5後半の翻訳、文法解釈及び背景の解説	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト5後半部部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト5「文化・スポーツ」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト5「文化・スポーツ」 訳語及び文法事項まとめ	30分
4	10/6	時事問題テキスト5 プレゼンテーション	テキスト5 の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
5	10/13	時事問題テキスト6 「歴史・観光」1	テキスト6 前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト6 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 前半の訳語及び文法事項まとめ	30分
6	10/20	時事問題テキスト6 「歴史・観光」2	テキスト6 後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の到達目標	ドイツ語のテキスト6 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト6 「歴史・観光」 訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	時事問題テキスト6 プレゼンテーション	テキスト6の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
8	11/10	時事問題テキスト7「ダイ バーシティ」1	テキスト7前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト7前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
9	11/17	時事問題テキスト7「ダイ バーシティ」2	テキスト7後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト7後半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト7「ダイバーシティ」後半訳語及び文法事項まとめ	30分
10	11/24	時事問題テキスト7 プレ ゼンテーション	テキスト7の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の 到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
11	12/1	時事問題テキスト8「宗 教・祝祭」1	テキスト8前半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト8前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
		事前学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」前半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
12	12/8	時事問題テキスト8「宗 教・祝祭」2	テキスト8後半の音読、翻訳、文法解釈	
		この回の 到達目標	ドイツ語のテキスト8前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」後半翻訳	60分
		事後学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」後半訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	時事問題テキスト8 プレゼンテーション	テキスト8の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
		この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
		事前学修	プレゼンテーション準備	60分
		事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
14	12/22	期末試験	今学期に学修した内容全般から出題する期末試験	
		この回の到達目標	自律的にドイツ語の時事問題テキストを文法解説して翻訳することができる。【到達目標①②】	
		事前学修	試験準備	120分
		事後学修	試験でわからなかったところの振り返り	30分
15	1/12	試験解説・振り返り	試験の解説及び今学期の振り返り	
		この回の到達目標	今学期の到達度を確認して、今後のドイツ語学修の目標をたてる	
		事前学修	今後のドイツ語学修について計画を立てる	30分
		事後学修	自己評価	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠA	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
ドイツ語に興味がある学生

【授業方法】		
Grammatical exercises, repetition and easy conversation 文法の復習、簡単な会話 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
in class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語で！ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Maeda	第三書房	第三書房	教科書	必携
文法から学べるドイツ語ISBN978-4-8163-3820-5	小笠原・トロール	ナツメ社	ナツメ社	参考書	推奨
備考	Repetition of what you know				

【オフィスアワー】
授業の後（土曜14：30～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	and first expressions	
		この回の到達目標	Good pronunciation	
		事前学修	シラバスを読み予習30分	30分
		事後学修	復習30分	30分
2	4/13	Pronunciation	発音練習 など	
		この回の到達目標	Verbs	
		事前学修	Must be fully understood 予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
3	4/20	Sich vorstellen	挨拶の言葉、自己紹介と練習	
		この回の到達目標	Verb and Sentence	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
4	4/27	First sentences	第1課 G r ü ß e 1 挨拶	
		この回の到達目標	Ask questions	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
5	5/4	Wiederholung der Lektion 1	第1課 G r ü ß e 2 挨拶	
		この回の到達目標	How to answer	
		事前学修	予習60分Practical exercises	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
6	5/11	Festivals in Germany	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? (1) その祭りの名前は何ですか？	
		この回の到達目標	Festivals in Germany	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Nomen und Artikel	第2課 Wie heißt das Fest? (2) その祭りの名前は何ですか?	
		この回の到達目標	Familie und Wortschatz	
		事前学修	予習60分Verb and sentence	60分
		事後学修	復習60分	60分
8	5/25	Familie (1)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	My and your family	
		事前学修	予習60分 Talk about family	60分
		事後学修	復習60分	60分
9	6/1	Familie (2)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	Du and Sie: How to use	
		事前学修	予習60分Question and answer	60分
		事後学修	復習60分	60分
10	6/8	Test und Landeskunde	小テスト, ドイツの生活 (ビデオ)	
		この回の到達目標	All cases	
		事前学修	予習90分	90分
		事後学修	復習30分	30分
11	6/15	All cases	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	Nouns and Adjectives	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
12	6/22	Exercise the cases	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	All cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/29	Thema Universitaet (1)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	Prepositions (1)	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
14	7/6	Universitaet (2)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	(Prepositions (2))	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
15	7/13	Test und Zusammenfassung		小テスト、ドイツの生活（ビデオ） まとめ
		この回の到達目標	Prepositions: Usage and differences	
		事前学修	予習90分	90分
		事後学修	復習30分	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でライティングを添削して、講評する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Wirtschaftsdeutsch für Anfänger	Dominique Macaire, Gerd Nicolas	Klett Verlag	1995	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ドイツ語の読み書き	簡単な履歴書を書く（何歳ですか？ 何の資格をいつとりましたか？）	
		この回の到達目標	簡単な履歴書を書けるようになる	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	4月11日	ドイツ語の読み書き	自己紹介とビジネスパートナーの紹介	
		この回の到達目標	紹介ができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	4月18日	ドイツ語の読み書き	スケジュール（時間）の書き方	
		この回の到達目標	スケジュールをめぐる定型句を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	4月25日	ドイツ語の読み書き	スケジュールの（日にち）の報告	
		この回の到達目標	スケジュールをめぐる定型句を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	5月2日	ドイツ語の読み書き	電話のかけ方I	
		この回の到達目標	電話の定型句を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	5月9日	ドイツ語の読み書き	電話のかけ方II（断りの電話）	
		この回の到達目標	断りの電話をかけられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
		この回の到達目標	電話の会話からメモを取れるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	5月23日	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くI（基本） 動詞の現在完了と過去形の使い分け	
		この回の到達目標	過去形を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	5月30日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	過去形を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	6月6日	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くII（具体的なビジネスメール） 分離動詞と非分離動詞	
		この回の到達目標	分離動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	6月13日	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くIII 代名詞の使い方	
		この回の到達目標	代名詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	6月20日	ドイツ語の読み書き	Eメールの書き方IV 再帰動詞の使い方	
		この回の到達目標	再帰動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習I	
		この回の到達目標	自由な文章作成	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	7月4日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習II	
		この回の到達目標	自由な文章作成	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	7月11日	ドイツ語の読み書き	まとめ・テスト	
		この回の到達目標	自由な文章作成	
		事前学修	ここまで学んだことの復習（20分）	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠB	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
積極的な授業参加。

【授業方法】
教科書とビデオ教材を用いて重要表現の練習を繰り返します。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
In class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語でISBN978-4-8086-1194-1	Hermann Troll/Satoshi Maeda	第三書房	第三書房	教科書	必携
文法から学べるドイツ語ISBN978-4-8163-3820-5	小笠原・トロール	ナツメ社	ナツメ社	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の後（月曜17：50～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Wiederholung	Repetition of first semester 復習	
		この回の到達目標	Nochmals alles	
		事前学修	復習予習30分	30分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
2	9/26	Fussball (1)	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Modalverben	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
3	10/ 3	Fussball (2)	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Uhrzeiten	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
4	10/ 10	Ostdeutschland	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Vergangenheit (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
5	10/ 17	Vergangenheit (2)	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Gebrauch	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
6	10/ 24	Test . 振り返り	Short test 1 and video	
		この回の到達目標	Ost und West	
		事前学修	予習 9 0 分	90分
		事後学修	復習 3 0 分	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10/ 31	Komparativformen		Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ? 湖へ泳ぎに行く？
		この回の到達目標	Adjektive	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
8	11/7	Superlativ		Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ? 湖へ泳ぎに行く？
		この回の到達目標	Superlativ und Komparativ	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
9	11/ 14	Konversation		Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね
		この回の到達目標	Perfekt (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
10	11/ 21	Perfekt in allen Formen		Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね
		この回の到達目標	Anwendung	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
11	11/ 28	Umwelt		Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ? 環境意識の強い国民？
		この回の到達目標	Passiv (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
12	12/ 5	Umwelt und Deutschland		Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ? 環境意識の強い国民？
		この回の到達目標	Passiv (2)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/ 12	Test . 振り返り		Short test and video
		この回の到達目標	Video Deutschland	
		事前学修	予習 9 0 分	60分
		事後学修	復習 3 0 分	60分
14	12/ 19	Bitten (1)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしてくださいませんか?
		この回の到達目標	Konjunktiv II	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
15	12/ 26	Bitten (2)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしてくださいませんか? まとめ
		この回の到達目標	Gebrauch	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるために、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の中で読み書きの練習をしてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Wirtschaftsdeutsch für Anfänger Grundstufe	Dominique Macaire Gerd Nicolas	Klett Edition Deutsch	1995	参考書	推奨
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	ドイツ語の読み書き	ビジネスニュースを読む	
		この回の到達目標	ビジネス用語を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	9月26日	ドイツ語の読み書き	パーセントや何分の一などの言い方	
		この回の到達目標	パーセントや何分の一などの言い方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	10月3日	ドイツ語の読み書き	ミーティングで丁寧表現を使う 話法の助動詞	
		この回の到達目標	丁寧表現・話法の助動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	10月10日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	丁寧表現・話法の助動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	10月17日	ドイツ語の読み書き	ホテルバーで お客様との会話、注文の仕方	
		この回の到達目標	ビジネス会話を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	10月24日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	ビジネス会話を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	ドイツ語の読み書き	ピクトグラムと話法の助動詞	
		この回の到達目標	ピクトグラムと話法の助動詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	11月7日	ドイツ語の読み書き	世界の国の名前 国民を意味する言葉の単数と複数	
		この回の到達目標	世界の国の名前・国民を意味する言葉の単数と複数を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	11月14日	ドイツ語の読み書き	ドイツの簡単な地理 州と州都など 前置詞の3格と4格の使い分け	
		この回の到達目標	前置詞の3格と4格の使い分けを理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	11月21日	ドイツ語の読み書き	前置詞の3格と4格の使い分けの復習	
		この回の到達目標	前置詞の3格と4格の使い分けを理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	11月28日	ドイツ語の読み書き	道案内の仕方	
		この回の到達目標	道案内の仕方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	12月5日	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
		この回の到達目標	道案内の仕方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	12月19日	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	12月26日	ドイツ語の読み書き	まとめ・テストと反省会	
		この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
		事前学修	16回からの内容の復習（20分）	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	ドイツと言えば何を連想するか考えておくこと。	30分
		事後学修	授業で触れた事柄をまとめておくこと。	30分
2	4/17	発音	ドイツ語のアルファベットと母音と子音の発音の仕方	
		この回の到達目標	アルファベットと発音の基礎を理解する。	
		事前学修	テキストの7頁から8頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	授業で扱った発音を録音教材によって確認し、発音練習をすること。	30分
3	4/24	単語	単語の発音の仕方	
		この回の到達目標	単語の発音の仕方を理解する。	
		事前学修	テキストの8頁から9頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	5/1	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造	
		この回の到達目標	規則動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキストの10頁から12頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	5/8	冠詞と名詞	冠詞と名詞の構造	
		この回の到達目標	名詞と冠詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキストの13頁の設問に回答し、14頁から16頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	5/15	名詞の複数形	名詞の複数形の構造	
		この回の到達目標	名詞の複数の構造を理解する。	
		事前学修	テキストの16頁から17頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	不規則動詞	不規則動詞の構造	
		この回の到達目標	不規則動詞の形態を理解する。	
		事前学修	テキスト18頁の設問に回答し、19頁から21頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	5/29	命令形	命令形の作り方	
		この回の到達目標	命令形の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト21頁から22頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	6/5	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の用法	
		この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の用法を理解する。	
		事前学修	テキスト23頁の設問に回答し、24頁から26頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	6/12	前置詞	前置詞の用法と格支配	
		この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解する。	
		事前学修	テキスト27頁の設問に回答し、28頁から30頁まで目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	6/19	副文	接続詞と副文の作り方	
		この回の到達目標	接続詞と副文の形態と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト30頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	6/26	話法の助動詞	話法の助動詞の用法	
		この回の到達目標	話法の助動詞の用法を理解する。	
		事前学修	テキスト31頁の設問に回答し、32頁から34頁までに目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	7/3	分離動詞	分離動詞の用法
		この回の到達目標	分離動詞と前綴りの構造と用法を理解する。
		事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、テキストの36頁から37頁までに目を通しておくこと。30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。30分
14	7/10	映像教材によりドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。30分
15	7/17	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。30分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ	本郷、佐藤他	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	[ガイダンス] [検定試験に合格する勉強法について]	授業の進め方、ドイツ語検定試験の概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語検定の内容を理解し、合格に向けての学習方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	第一部 土4/11	[ドイツ語の発音について]	発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土4/18	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土4/25	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土5/2	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土5/9	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土5/23	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土5/30	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土6/6	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土6/13	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土6/20	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土7/4	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土7/11	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。授業時間：金曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、導入授業	前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	前期の成果の確認が十分に行われたか確認する。	
		事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
		事後学修	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。	30分
2	9/25	非分離動詞	非分離動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	非分離動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト37頁から38頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	10/2	再帰動詞 非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
		この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト38頁から39頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	10/9	形容詞	形容詞の構造と用法	
		この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁から43頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	10/16	比較級・最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
		この回の到達目標	比較級・最上級の構造について理解する。	
		事前学修	テキスト43頁から45頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	10/23	過去形	過去形の形態と用法	
		この回の到達目標	過去形の形態と用法について理解する。	
		事前学修	テキスト46頁の設問に回答し、テキスト47頁から49頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	複合時制	未来形と完了形の構造と用法	
		この回の到達目標	未来形、完了形の構造と用法について理解する。	
		事前学修	テキスト50頁の設問に回答し、51頁から53頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	11/6	定関係代名詞	定関係代名詞の形態と用法	
		この回の到達目標	定関係代名詞と関係文の形態を理解する。	
		事前学修	テキスト54頁の設問に回答し、テキスト55頁から56頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	11/13	不定関係代名詞	不定関係代名詞の形態と用法	
		この回の到達目標	不定関係代名詞の形態と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト56頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	11/20	受動態	受動態の構造と用法	
		この回の到達目標	受動態の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト57頁の設問に回答し、テキスト58頁から60頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	11/27	zu不定詞と分詞	zu不定詞と分詞の用法	
		この回の到達目標	zu不定詞と分詞の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト60頁から61頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	12/4	接続法第1式	接続法第1式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続詞第1式の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、テキスト63頁から64頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
		この回の到達目標	接続詞第2式の構造と用法を理解する。	
		事前学修	テキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	12/18	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
		この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想を書くためのメモをとる。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
		事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	12/25	振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認する。	
		事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
		事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ	本郷、佐藤ほか	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜10:30～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	第一部 土9/26	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	第一部 土10/3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	第一部 土10/10	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	第一部 土10/17	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	第一部 土10/24	[分離動詞について]	分離動詞について学ぶ、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3基本形について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	第一部 土11/7	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	第一部 土11/14	[完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	第一部 土11/21	[完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	第一部 土11/28	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	第一部 土12/5	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	第一部 土12/19	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	第一部 土12/26	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
		事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
		事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか	三修社	2014	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15-13:00 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンスと基本単語の確認	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、いた年会に学習することが何か、イメージを得ておくこと。	30分
		事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	4/14	独検4級 模擬試験(筆記とリスニング)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
3	4/21	前回の模擬試験の解説	前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
4	4/28	第1章 発音、第2章 動詞と文	発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	5/5	第3章 格変化(単数形)、第4章 複数形	格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	5/12	対策学習編1(3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞)	3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	第5章 冠詞類	冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	5/26	対策学習編2(不規則変化動詞、複合的な疑問詞)	不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	6/2	第6章 前置詞	前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	6/9	第7章 人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	6/16	第8章 話法の助動詞、未来形	話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	6/23	対策学習編3(分離動詞、命令形)	分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	準備編(三基本形)、第9章 過去形、第10章 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
14	7/7	理解度の確認と前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/14	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 4訂版	恒吉良隆	白水社	2017	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進	第三書房	2010	参考書	推奨
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンスと基本単語の確認	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、一年間に学習することが何か、イメージを得ておくこと。	30分
		事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	4/14	独検4級 模擬試験	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、3級合格に向けて今後の課題を認識する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
3	4/21	前回の模擬試験の解説	前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。	
		事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。	30分
4	4/28	発音、動詞と文	発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	5/5	格変化(単数形)、複数形	格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	5/12	3人称の人称代名詞 疑問代名詞、疑問副詞	3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	冠詞類	冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	5/26	不規則変化動詞 複合的な疑問詞	不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	6/2	前置詞	前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	6/9	人称代名詞と再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	6/16	話法の助動詞 未来形	話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	6/23	分離動詞 命令形	分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	動詞の三基本形 過去形 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	120分
14	7/7	理解度の確認 前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	120分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	7/14	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策、2級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか	三修社	2014	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15-12:55 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、前期の復習	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。	
		事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	9/22	第10章 現在完了形、第11章 受動文	あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
3	9/29	第12章 接続詞、副文、第16章 zu不定詞	接続詞、副文、zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
4	10/6	第13章 接続法	接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	10/13	第14章 比較変化、第17章 形容詞の格変化	比較表現と形容詞の格変化について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、比較表現と形容詞の格変化について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	10/20	第15章 関係文	関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	独検3級対策 文法問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	11/10	独検3級対策 読解問題を中印に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に読解問題について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	11/17	独検3級対策 リスニング問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。	
		この回の到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	11/24	独検3級 模擬試験(筆記)	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	12/1	独検3級 模擬試験(リスニング)	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	12/8	後期の復習	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
		事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
		事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
14	12/22	理解度の確認と後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握して今後何をすべきか説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	1/12	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 4訂版	恒吉良隆	白水社	2017	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進	第三書房	2010	参考書	推奨
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス、前期の復習	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
		事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。	30分
		事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	9/21	現在完了形 受動文	あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
3	9/28	接続詞 副文 zu不定詞	接続詞、副文、zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
4	10/6	接続法	接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	10/13	形容詞の格変化 比較表現	形容詞の格変化と比較表現について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、形容詞の格変化と比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	10/20	関係文	関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
		この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10 /27	独検3級対策 文法問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。
		この回の 到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。30分
8	11 /10	独検3級対策 読解問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に読解問題について解説する。
		この回の 到達目標	達成目標①に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。30分
9	11 /17	独検3級対策 リスニング問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。
		この回の 到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。30分
10	11 /24	独検3級 模擬試験 筆記とリスニング	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。30分
11	12/1	独検 解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。
		この回の 到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる
		事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくること。また、各自で答え合わせをしておくこと。30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。30分
12	12/8	後期の復習	後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検2級受験のための導入とする。
		この回の 到達目標	達成目標①④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握し、その克服のための指針を説明することができる。
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。30分
		事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12 /15	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
		事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	150分
14	12 /22	理解度の確認 後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	150分
		事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	1/18	後期の振り返り	あらためて後期の学習事項を振り返り、来年度に勉強することを確認する。	
		この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
		事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定2級準1級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定2級、準1級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
練習問題を解きながら、文法事項を確認します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業時に答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	導入	第1課 発音 / 第2課 数詞	
		この回の到達目標	発音規則の習得	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	4/17	動詞の人称変化	第3課 動詞の現在人称変化 / 第4課 強変化動詞	
		この回の到達目標	動詞と主語の関係を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	4/24	名詞の性・数・格	第5課 名詞の格変化 / 第6課 冠詞類	
		この回の到達目標	名詞の性・数・格のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	5/1	格変化・人称変化の応用1	第7課 人称代名詞 / 第8課 話法の助動詞	
		この回の到達目標	代名詞の格変化、助動詞のシステムを把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	5/8	格変化・人称変化の応用2	第9課 前置詞 / 第10課 複合動詞・命令形	
		この回の到達目標	前置詞の格支配、動詞の発展形を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	5/15	格変化の発展	第11課 形容詞の格変化	
		この回の到達目標	形容詞の付加語的用法を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	過去時制	第 1 2 課 動詞の過去人称変化	
		この回の到達目標	動詞の 3 要形の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	5/29	現在完了時制	第 1 3 課 現在完了	
		この回の到達目標	haben/sein 支配の動詞を習得する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	6/5	副文	第 1 4 課 接続詞	
		この回の到達目標	定形後置の構造を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	6/12	関係文	第 1 5 課 関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞の性・数・格の規定方法を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	6/19	構文の発展	第 1 6 課 zu 不定詞 ・ 第 1 7 課 再帰代名詞	
		この回の到達目標	熟語表現を習得する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	6/26	受動表現	第 1 8 課 受動	
		この回の到達目標	受動形の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	形容詞の発展	第19課 形容詞の比較表現	
		この回の到達目標	比較級・最上級の作り方を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	7/10	丁寧な表現	第20課 接続法	
		この回の到達目標	接続法の時制を把握する	
		事前学修	授業で習ったことを復習する	30分
		事後学修	出題された箇所を確認する	30分
15	7/17	総合力	前期の力だめし	
		この回の到達目標	ドイツ語の基本文法を把握する	
		事前学修	自己採点し、不明箇所をピックアップする	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
イツ語検定 3 級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材はガイダンスで説明します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（4号館424研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	試験までのスケジュール及び授業の進め方についてのガイダンス	
		この回の到達目標	今学期の受験レベルを決定し、そこまでのスケジュールを把握し、現在の自分の到達度を測ることができる。（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	4/14	Einheit 1 Zeitpunkte 2	様々な時間感覚、時間の過ごし方について（不規則変化する過去形、従属接続詞während、zum＋動詞の名詞化の用法）文章の読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
3	4/21	Einheit 1 Zeitpunkte 2	様々な時間感覚、時間の過ごし方について（不規則変化する過去形、従属接続詞während、zum＋動詞の名詞化の用法）作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
4	4/28	Einheit 2 Alltag 1	様々な日常の場面（話法の助動詞の接続法2式、副詞的接続詞を用いた因果関係の表現、程度を示す副詞の用法）長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
5	5/5	Einheit 2 Alltag 2	様々な日常の場面（話法の助動詞の接続法2式、副詞的接続詞を用いた因果関係の表現、程度を示す副詞の用法）作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
6	5/12	Einheit 3 Männer - Frauen - Paare 1	ジェンダーとパートナー（zu不定詞句の用法、接頭辞や接尾辞のつく形容詞、従属接続詞の復習）長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	Einheit 3 Männer - Frauen - Paare 2	ジェンダーとパートナー（zu不定詞句の用法、接頭辞や接尾辞のつく形容詞、従属接続しの復習） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
8	5/26	Einheit 4 Deutschlands größte Stadt 1	ルール工業地帯（形容詞の付加的用法、縮小語尾の用法、無冠詞の形容詞変化の復習） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
9	6/2	Einheit 4 Deutschlands größte Stadt 2	ルール工業地帯（形容詞の付加的用法、縮小語尾の用法、無冠詞の形容詞変化の復習） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
10	6/9	Einheit 5 Schule und lernen 1	ドイツ語圏の学校制度（接続法2式現在形非現実話法の用法、副文の復習） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
11	6/16	Einheit 5 Schule und lernen 2	ドイツ語圏の学校制度（接続法2式現在形非現実話法の用法、副文の復習） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
12	6/23	Einheit 6 Klima und Umwelt 1	気候と環境（未来形の用法、相関接続詞の用法、前置詞wegenを用いた理由の表現） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	Einheit 6 Klima und Umwelt 2	気候と環境 （未来形の用法、相関接続詞の用法、前置詞wegenを用いた理由の表現） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
14	7/7	まとめと期末試験 1	まとめと授業内試験 （読解・聴解・作文）	
		この回の到達目標	今までの読解・聴解・作文で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s②③④）	
		事前学修	試験準備	180分
		事後学修	試験の見直し	30分
15	7/14	期末試験 1 と講評	授業内試験 （口述） 試験講評	
		この回の到達目標	今までの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
		事前学修	試験準備	90分
		事後学修	試験の見直し	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特にありませんが、初級文法を既習済みであることを前提に授業を進めます。

【授業方法】
2018年・2019年の春・秋季の過去問題を解きながら、傾向と対策を確認していきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回授業で答え合わせをし、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業の時に教材プリントを配布します。必ず出席して下さい。				

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場の知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	発音・イントネーション	過去問題 1	
		この回の到達目標	発音の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
2	9/25	語彙と語順	過去問題 2	
		この回の到達目標	語順の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
3	10/2	書き換え	過去問題 3	
		この回の到達目標	同義になる文法規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
4	10/9	接続詞	過去問題 4 前半	
		この回の到達目標	接続詞の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
5	10/16	副文	過去問題 4 後半	
		この回の到達目標	副文の規則を把握する	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分
6	10/23	短文読解 1	過去問題 5 前半	
		この回の到達目標	短文の速読に慣れる	
		事前学修	教科書を事前に一読する（30分）	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	短文読解 2	過去問題 5 後半	
		この回の到達目標	短文理解のスキルを磨く	
		事前学修	教科書を事前に一読する (30分)	30分
		事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる (30分)	30分
8	11/6	長文読解 1	過去問題 6 前半	
		この回の到達目標	長文の速読に慣れる	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
9	11/13	長文読解 2	過去問題 6 後半	
		この回の到達目標	長文理解のスキルを磨く	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
10	11/20	会話文の完成 1	過去問題 7 前半	
		この回の到達目標	会話文完成の仕方に慣れる	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
11	11/27	会話文の完成 2	過去問題 7 後半	
		この回の到達目標	会話文完成の仕方のスキルを磨く	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分
12	12/4	聞き取り問題 1	過去問題聞き取り前半	
		この回の到達目標	聞き取り問題に慣れる	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる (30分)	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	聞き取り問題 2	過去問題聞き取り後半	
		この回の到達目標	聞き取り問題の解き方のスキルを磨く	
		事前学修	過去問題を自力で解いてみる（30分）	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）	30分
14	12/18	過去問題の総括 1	後期の力だめし、まとめ	
		この回の到達目標	過去問題全体を復習する	
		事前学修	授業で勉強したことを復習する（30分）	30分
		事後学修	出題箇所を確認する（30分）	30分
15	12/25	過去問題の総括 2	答え合わせ・解説	
		この回の到達目標	過去問題全体を見直す	
		事前学修	不明だった箇所をピックアップする（30分）	30分
		事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定2級準1級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定2級、準1級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
イツ語検定3級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d B1	Funk	Cornelsen	2015年	教科書	必携
備考	その他参考書は授業中に随時紹介します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（4号館424研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Einheit 7 Peinlich? Peinlich! 1	マナーと日常起こるハプニング（現在分詞の用法、相関接続詞の用法、従属接続詞obwohlの用法） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	9/22	Einheit 7 Peinlich? Peinlich! 2	マナーと日常起こるハプニング（現在分詞の用法、相関接続詞の用法、従属接続詞obwohlの用法） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
3	9/29	Einheit 8 Generationen 1	ジェネレーション（könnteを用いた推測の用法、過去完了形、seitを用いた従属接続文、所有冠詞の2格の用法） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
4	10/6	Einheit 8 Generationen 2	ジェネレーション（könnteを用いた推測の用法、過去完了形、seitを用いた従属接続文、所有冠詞の2格の用法） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
5	10/13	Einheit 9 Migration 1	移民（使役の助動詞lassen、manを用いた受動文の代用、2格の関係代名詞） 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s②④）	
		事前学修	教科書長文読解、語彙練習	90分
		事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
6	10/20	Einheit 9 Migration 2	移民（使役の助動詞lassen、manを用いた受動文の代用、2格の関係代名詞） 作文・会話	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	Einheit 10 Europa: Politik und mehr 1	ヨーロッパの政治とその他 (wo+前置詞の疑問詞、brauchen+zu不定詞、-keit, -heitのつく名詞) 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を開き取った内容をドイツ語で伝えることができる。(関連SB0s②④)	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
8	11/10	Einheit 10 Europa: Politik und mehr 2	ヨーロッパの政治とその他 (wo+前置詞の疑問詞、brauchen+zu不定詞、-keit, -heitのつく名詞) 長文読解・聴解	
		この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。(関連SB0s①③)	
		事前学修	作文と会話の準備、語彙練習	90分
		事後学修	作文の修正、会話の復習	30分
9	11/17	Zertifikat Training 1	Zertifikat Deutschの模擬試験 (読解)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Lesen に合格できる。(関連SB0s②)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分
10	11/24	Zertifikat Training 2	Zertifikat Deutschの模擬試験 (聴解)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Hören に合格できる。(関連SB0s④)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分
11	12/1	Zertifikat Training 3	Zertifikat Deutschの模擬試験 (作文)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Hören に合格できる。(関連SB0s③)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分
12	12/8	Zertifikat Training 3	Zertifikat Deutschの模擬試験 (口述)と解説	
		この回の到達目標	Zertifikat Deutsch Sprechen に合格できる。(関連SB0s①)	
		事前学修	模擬試験準備	90分
		事後学修	模擬試験復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	総復習	今まで学修内容の総復習	
		この回の到達目標	今まで学修したことをアウトプットできる。（関連SB0s①②③④）	
		事前学修	総復習	90分
		事後学修	取りこぼしていたところを復習	60分
14	12/22	まとめと期末試験 1	まとめと授業内試験 （読解・聴解・作文）	
		この回の到達目標	今までの読解・聴解・作文で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s②③④）	
		事前学修	試験準備	180分
		事後学修	試験の見直し	30分
15	1/12	期末試験 1 と講評	授業内試験 （口述） 試験講評	
		この回の到達目標	今までの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
		事前学修	試験準備	90分
		事後学修	試験の見直し	30分

科目名	国際研修(独) I A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を身につけるために、それを達成し得るドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法AB及びドイツ語基礎表現ABが履修済みであることが望ましい。ウィーン夏期語学研修を受講する学生さんはできるだけこの授業を履修すること。

【授業方法】
自己発信型のコミュニケーションができるために、会話のドリル練習に加えペア・ワーク、グループ・ワークを通じて、自由な会話をたくさん取り入れます。積極的に参加してください。小テストを定期的に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、自己発信型のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題ごとに授業内にフィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Szenen 1 integriert 場面で学ぶドイツ語	佐藤 修子	三修社	2006	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道 杉	三修社	2013	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	短期・長期留学に向けた基本的な心得 語学レベルの到達目標を明らかにする	
		この回の到達目標	留学までに何ができるようになっていなければならないか、留学先で何を学んでくるのか目標を明らかにして説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、これまで学んだ文法・語彙を復習しておく。	60分
		事後学修	次週に向けて教材の予習をして単語を覚える。	30分
2	4/17	Kontakte 1	挨拶・自己紹介をする中で、シチュエーションに応じた敬語の使い方、場に応じた質問の仕方を学ぶ。	
		この回の到達目標	相手に合わせて挨拶をして、自己紹介ができる。相手のプロフィールを臨機応変に聞き出すことができる。	
		事前学修	挨拶・自己紹介ができるようにしておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
3	4/24	Kontakte 2	他己紹介、相手の連絡先を聞き出せるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。 ドイツ語圏のメディア事情について解説	
		この回の到達目標	他己紹介ができるようになる。相手の連絡先を聞き出し、自分の連絡先を伝えることができる	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
4	5/1	Studium und Sprachen	専攻分野、履修科目、言語について情報交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	自分の専攻分野や履修している科目について話すことができ、相手から同じテーマについて聞き出すことができる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
5	5/8	Hobbys	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
6	5/15	Essen und Trinken	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換ができるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	Familie und Berufe	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
8	5/29	Gegenstände	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
9	6/5	Wohnen	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
10	6/12	Uhrzeit und Datum	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
11	6/19	Nach dem Wochenende	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
12	6/26	Stadt und Universität	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	Vor den Ferien	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
		事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。 プレゼンテーションの準備	30分
14	7/10	Was kann man in Wien machen?	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
		この回の到達目標	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるようになる。	
		事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。ウィーンの街について調べてくる。	60分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	60分
15	7/17	プレゼンテーション	留学へ行った先で何をしたいのか、ドイツ語と日本語でプレゼンテーションをする。	
		この回の到達目標	留学先の情報と自分の計画をプレゼンテーションできる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	60分
		事後学修	授業中に新たに学んだことをまとめる。	30分

科目名	国際研修(独) I B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を身につけるために、それを達成しうるドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得していることが望ましい

【授業方法】
海外語学研修の授業と日常生活を想定し、ドイツ語会話と作文、及び現地の地誌・文化・社会情勢を踏まえてコミュニケーションができるよう、実践的なトレーニングをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回の授業で指示します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス及び導入講義	検定試験や留学試験の目標を明確にして、必要とされるスキルについて解説	
		この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、今後の目標のために必要とされるスキルについて説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
		事後学修	12月の独検、年明けのÖSD受験に向けて、単語と熟語の勉強を始めること。	30分
2	9/25	テキスト1 読解	ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
		この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。	
		事前学修	テキスト1を翻訳してくる。	60分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
3	10/2	テキスト1 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
		事前学修	テキスト1について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
4	10/9	テキスト1 論説文	テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
		この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
		事前学修	テキスト1に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
5	10/16	テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト1についてプレゼンテーションができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
		事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
6	10/23	テキスト2 読解	ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
		この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。	
		事前学修	テキスト2を翻訳してくる。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	テキスト2 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
		事前学修	テキスト2について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
8	11/6	テキスト2 論説文	テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
		この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
		事前学修	テキスト2に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
9	11/13	テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト2についてプレゼンテーションができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
		事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
10	11/20	テキスト3 読解	ドイツ語のテキスト3を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
		この回の到達目標	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		事前学修	テキスト3を翻訳してくる。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
11	11/27	テキスト3 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
		事前学修	テキスト3について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
		事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
12	12/4	独検の解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。	
		この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を指摘することができる。	
		事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
		事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	テキスト3 論説文	テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
		この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
		事前学修	テキスト3に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
		事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
14	12/18	テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト3についてプレゼンテーションができる。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
		事後学修	出来なかったところをよく復習すること。	30分
15	12/25	試験	授業内で学んだこと全般を対象に試験を実施する	
		この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を示すことができる。	
		事前学修	後期の学習事項について、時間をかけて復習すること。	30分
		事後学修	今後のドイツ語の学習について、よく考えること。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初学者であること。

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ語会話	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
その場で直接行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
その場で直接行う

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	会話	なんじですか？いくつですか？	
		この回の到達目標	所有代名詞を理解する	
		事前学修	教科書を買う、事前にシラバスを理解する	20分
		事後学修	復習で配布したプリントで副種	40分
2	4月16日	会話	だれですか？何ですか？	
		この回の到達目標	所有代名詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
		事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
3	4月23日	会話	どういうふうですか？	
		この回の到達目標	形容詞の使い方	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
		事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
4	4月30日	会話	何が好きですか？	
		この回の到達目標	自分の趣味について話す	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
		事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
5	5月7日	会話	これは・あなたは 何とといいますか？これをもっていますか？	
		この回の到達目標	紹介ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
		事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
6	5月14日	会話	ごきげんいかがですか？何を持っていますか？	
		この回の到達目標	3格と四格を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
		事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月 21日	会話		どこの出身ですか？これはどこから来ましたか？どうしてわかるんですか？
		この回の到達目標	自分の由来を語ることができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
		事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
8	5月 28日	会話		誰のものですか？ 誰のためですか？ どこにありますか？ （二格、三格、四格をとる前置詞）
		この回の到達目標	二格、三格、四格をとる前置詞を理解する	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
9	6月4日	会話		何をしますか？ これは何をやるものですか？ どこへ行きますか？
		この回の到達目標	これからの予定を伝える	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
10	6月11日	会話		なぜそこにいますか？ なぜそこへ行きますか？
		この回の到達目標	理由を伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
11	6月18日	会話		これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
12	6月25日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月2日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
14	7月9日	会話		復習
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
15	7月16日	会話		復習・まとめ
		この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/6	Guten Tag		1. Introducing yourself and others (picture story)
		この回の到達目標	learn to introduce	
		事前学修	Read page 9-11 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	4/13	Greetings		2. greetings
		この回の到達目標	learn to yourself 2	
		事前学修	Read page 12, 13 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
3	4/21	I am...		3. self introduction, "Where do you come from?"
		この回の到達目標	learn about countries and related languages	
		事前学修	Read page 14, 15 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C (30分)	30分
4	4/28	Countries		4. countries and languages
		この回の到達目標	learn to give personal information	
		事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C (30分)	30分
5	5/11	alphabet, data		5. the alphabet, telephone call, business cards
		この回の到達目標	talk about family relations	
		事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)	30分
6	5/18	Family		6. family and friends (picture story)
		この回の到達目標	talk about your condition	
		事前学修	Read p. 22, 23 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/25	introducing people	7. "How are you?"	
		この回の到達目標	learn to introduce others	
		事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	6/1	relatives	8. introducing family members	
		この回の到達目標	learn to talk about your friends	
		事前学修	Read page 25 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary, workbook section B (30分)	30分
9	6/8	friends	9. introducing friends	
		この回の到達目標	learn counting	
		事前学修	URead page 26 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C , verb conjugation (30分)	30分
10	6/15	numbers, about yourself	10. numbers 1-20, personal data	
		この回の到達目標	learn to introduce yourself in detail	
		事前学修	Read page 27 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary , workbook D (30分)	30分
11	6/22	Shopping	11. talk about yourself	
		この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
		事前学修	Read page 29 , 32 (30分)	30分
		事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	6/29	Food	12. Food and drink (picture story)	
		この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
		事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
		事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7/6	Food		13. food vocabulary, "the" and "a", plural
		この回の到達目標	learn to hear and say prices, order food	
		事前学修	Read p. 36, 37 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	7/13	Shops and restaurants		14. grocery shopping, numbers 20-100, lunch and dinner
		この回の到達目標	check your level	
		事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	7/20	test、振り返り		test (written), review, 解説
		この回の到達目標	learn about rooms	
		事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
		事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/6	Guten Tag		1. Introducing yourself and others (picture story)
		この回の到達目標	learn to introduce	
		事前学修	Read page 9-11 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	4/13	Greetings		2. greetings
		この回の到達目標	learn to yourself 2	
		事前学修	Read page 12, 13 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
3	4/21	I am...		3. self introduction, "Where do you come from?"
		この回の到達目標	learn about countries and related languages	
		事前学修	Read page 14, 15 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C (30分)	30分
4	4/28	Countries		4. countries and languages
		この回の到達目標	learn to give personal information	
		事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C (30分)	30分
5	5/11	alphabet, data		5. the alphabet, telephone call, business cards
		この回の到達目標	talk about family relations	
		事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)	30分
6	5/18	Family		6. family and friends (picture story)
		この回の到達目標	talk about your condition	
		事前学修	Read p. 22, 23 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/25	introducing people	7. "How are you?"	
		この回の到達目標	learn to introduce others	
		事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	6/1	relatives	8. introducing family members	
		この回の到達目標	learn to talk about your friends	
		事前学修	Read page 25 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary, workbook section B (30分)	30分
9	6/8	friends	9. introducing friends	
		この回の到達目標	learn counting	
		事前学修	URead page 26 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section C , verb conjugation (30分)	30分
10	6/15	numbers, about yourself	10. numbers 1-20, personal data	
		この回の到達目標	learn to introduce yourself in detail	
		事前学修	Read page 27 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary , workbook D (30分)	30分
11	6/22	Shopping	11. talk about yourself	
		この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
		事前学修	Read page 29 , 32 (30分)	30分
		事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	6/29	Food	12. Food and drink (picture story)	
		この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
		事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
		事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/6	Food	13. food vocabulary, "the" and "a", plural	
		この回の到達目標	learn to hear and say prices, order food	
		事前学修	Read p. 36, 37 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	7/13	Shops and restaurants	14. grocery shopping, numbers 20-100, lunch and dinner	
		この回の到達目標	check your level	
		事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	7/20	test、振り返り	test (written), review, 解説	
		この回の到達目標	learn about rooms	
		事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
		事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
積極的な授業で参加。

【授業方法】
教科書とビデオ教材を用いて重要表現の練習を繰り返します。 フィードバックは授業内において行います

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語で！ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Ogushi	第三書房	第三書房	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後（土曜14：30～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	Introduction、及び導入講義	ガイダンス and first expressions	
		この回の到達目標	German today	
		事前学修	シラバスを読み予習30分	30分
		事後学修	復習30分	30分
2	4/11	Writing and reading	発音練習 など	
		この回の到達目標	German and Germany	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
3	4/18	Spelling and reading	挨拶の言葉、自己紹介と練習	
		この回の到達目標	Understand the system	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
4	4/25	First meetings	第1課 G r ü ß e 挨拶	
		この回の到達目標	Du and Sie	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
5	5/2	Variations	第1課 G r ü ß e 挨拶	
		この回の到達目標	Friend and colleagues	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
6	5/9	Festivals in Germany (1)	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? その祭りの名前は何ですか？	
		この回の到達目標	Nouns and articles	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	Festivals (2)	第2課 Wie heißt das Fest? その祭りの名前は何ですか?	
		この回の到達目標	Usage of Nouns	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
8	5/23	Talking about family (1)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	Stammbaum	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
9	5/30	Talking about family (2)	第3課 Kai besucht die Familie Müller カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる	
		この回の到達目標	Noun and cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
10	6/6	Kleiner Test	小テスト, ドイツの生活 (ビデオ)	
		この回の到達目標	Internet and Germany	
		事前学修	予習90分	60分
		事後学修	復習30分	60分
11	6/13	All cases	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	Usage of cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
12	6/20	Cases continued	第4課 Die Mitglieder der Familie ミュラー家の人々	
		この回の到達目標	Usage of cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/27	Prepositions (1)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	Fixed cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
14	7/4	Prepositions (2)		第5課 An der Universität 大学で
		この回の到達目標	Non-fixed cases	
		事前学修	予習60分	60分
		事後学修	復習60分	60分
15	7/11	Test und Zusammenfassung		小テスト、ドイツの生活（ビデオ）まとめ
		この回の到達目標	Freie Wiederholung	
		事前学修	予習90分	90分
		事後学修	復習30分	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	R. ペトリック	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
小グループで、与えられた課題を練習する。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	能動的な学習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・返却・添削 等

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ハロー・ミュンヒェン・ノイ	関口一郎	白水社	2014		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：火曜3・4時限）話し合いの必要がある場合は電話してください（電話番号：042-666-8960）。その時、場所と時間等について決めます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	オリエンテーション、導入授業	授業についての説明	
		この回の到達目標	簡単な自己紹介	
		事前学修	別にはない	0分
		事後学修	教科書に目を通す	30分
2	火4/14	ドイツ語	Lektion 1 Guten Tag, in München	
		この回の到達目標	挨拶、ミュンヘンの紹介、ホテルのチェックイン	
		事前学修	教科書に目を通す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
3	火4/21	ドイツ語	Lektion 1 Guten Tag, in München（続き）	
		この回の到達目標	疑問点を探す	
		事前学修	教科書に目を通す	30分
		事後学修	CDを聞く（30分）	30分
4	火4/28	ドイツ語	Lektion 2 Klaudia geht in die Stadt	
		この回の到達目標	市内見物、道の尋ね方	
		事前学修	Lektion 2 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
5	火5/5	ドイツ語	Lektion 2 Klaudia geht in die Stadt（続き）	
		この回の到達目標	訪問、挨拶	
		事前学修	Lektion 2 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
6	火5/12	ドイツ語	Lektion 3 Eine Wohngemeinschaft	
		この回の到達目標	買い物	
		事前学修	Lektion 3 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火5/19	ドイツ語		Lektion 3 Eine Wohngemeinschaft (続き)
		この回の到達目標	食事の用意 食事	
		事前学修	Lektion 3 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
8	火5/26	ドイツ語		Lektion 3 Eine Wohngemeinschaft (続き)
		この回の到達目標	文法と練習： 不規則動詞	
		事前学修	Lektion 3 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
9	火6/2	ドイツ語		Lektion 4 Eine Reise nach Salzburg
		この回の到達目標	駅での案内	
		事前学修	Lektion 4 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
10	火6/9	ドイツ語		Lektion 4 Eine Reise nach Salzburg (続き)
		この回の到達目標	切符の購入	
		事前学修	Lektion 1-4 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
11	火6/16	ドイツ語		Lektion 4 Eine Reise nach Salzburg (続き)
		この回の到達目標	時間の言い方を学ぶ 数字 (0-100)	
		事前学修	Lektion 1-4 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
12	火6/23	ドイツ語		Lektion 5 Ein Tag von Michael
		この回の到達目標	時間の言い方を学ぶ	
		事前学修	Lektion 5 予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火6/30	ドイツ語	Lektion 5 Ein Tag von Michael (続き)	
		この回の到達目標	大学生の一日	
		事前学修	Lektion 5 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
14	火7/7	ドイツ語	復習	
		この回の到達目標	これまでの授業を進めてきた中で特に目についた間違いを指摘する。教科書の練習問題だけでなく、応用問題を解く	
		事前学修	Lektion 1-5 復習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
15	火7/14	ドイツ語	特別なドイツ語の発音の練習	
		この回の到達目標	できるだけいい発音でドイツの早口言葉をいう	
		事前学修	Lektion 1-5 復習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Spitze! 1	新倉真矢子	朝日	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
		この回の到達目標	挨拶ができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキスト1~3頁	30分
2	第一部 土4/11	自己紹介	Lektion 1 出身地、居住地	
		この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
		事前学修	テキスト1~4頁	30分
		事後学修	テキスト4~5頁	30分
3	第一部 土4/18	自己紹介	Lektion 1 大学、専攻	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト1~5頁	30分
		事後学修	テキスト6~8頁	30分
4	第一部 土4/25	自己紹介	Lektion 2 職業、国籍	
		この回の到達目標	仕事について会話ができる。	
		事前学修	テキスト5~8頁	30分
		事後学修	テキスト9~11頁	30分
5	第一部 土5/2	自己紹介	Lektion 2 疑問文 接続詞	
		この回の到達目標	語順について理解する。	
		事前学修	テキスト9~11頁	30分
		事後学修	テキスト12~16頁	30分
6	第一部 土5/9	自己紹介	Lektion 3 国、言語、3人称、be動詞	
		この回の到達目標	人を紹介することができる。 動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト9~16頁	30分
		事後学修	テキスト17~19頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	自己紹介	Lektion 3 数字、家族関係	
		この回の 到達目標	連絡先と家族関係について話せる。	
		事前学修	テキスト17~19頁	30分
		事後学修	テキスト20~24頁	30分
8	第一部 土5/23	日用品、色	Lektion 4 名詞の性と冠詞	
		この回の 到達目標	単語を知る、定冠詞と不定冠詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト17~24頁	30分
		事後学修	テキスト25~28頁	30分
9	第一部土 5/30	食事	Lektion 4 メニュー、食生活	
		この回の 到達目標	レストランで注文ができる。 食事について話せる。	
		事前学修	テキスト29~30頁	30分
		事後学修	テキスト31~32頁	30分
10	第一部 土6/6	住まい	Lektion 5 部屋、家具	
		この回の 到達目標	部屋と家具について話すことができる。 複数形を知る。	
		事前学修	テキスト25~32頁	30分
		事後学修	テキスト33~36頁 復習	30分
11	第一部土 6/13	住まい	Lektion 5 家具、値段、買い物	
		この回の 到達目標	欲しいものを買うことができる。 代名詞を使うことができる。	
		事前学修	テキスト33~36頁	30分
		事後学修	テキスト37~40頁	30分
12	第一部土 6/20	家族	Lektion 6 家族の紹介	
		この回の 到達目標	単語と所有冠詞を知る。	
		事前学修	テキスト33~40頁	30分
		事後学修	テキスト41~44頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 6/27	自宅		Lektion 6 持ちもの
		この回の 到達目標	持ち物について話す。 4格目的語を正しく使う。	
		事前学修	テキスト41～44頁	30分
		事後学修	テキスト44～48頁	30分
14	第一部土 7/4	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 7/11	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初学者であること。

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の中でドイツ語会話を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	教科書	必携
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後の15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業の後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	ドイツ語会話	何をしたいんですか？ 何をしなくちゃいけませんか？	
		この回の到達目標	自分の希望を伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	9月24日	ドイツ語会話	…してもいいですか？ それはできますか？	
		この回の到達目標	許可を得る表現を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	10月1日	ドイツ語会話	…してはいけません …するように言われています	
		この回の到達目標	禁止形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	10月8日	ドイツ語会話	どうして…してはいけませんか？	
		この回の到達目標	理由を説明できる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	10月15日	ドイツ語会話	手を貸してくれますか？ …してもいいですか？ どうしたらいいですか？	
		この回の到達目標	助動詞を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	10月22日	ドイツ語会話	どれが好きですか？	
		この回の到達目標	比較級を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	ドイツ語会話	…が一番好きです。	
		この回の到達目標	最上級を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	11月5日	ドイツ語会話	いつ来ますか？	
		この回の到達目標	未来形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	11月12日	ドイツ語会話	命令形の練習	
		この回の到達目標	丁寧な命令形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	11月19日	ドイツ語会話	何をするつもりですか？	
		この回の到達目標	話法の助動詞で計画を伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	12月3日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	12月10日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	12月24日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	1月14日	ドイツ語会話	復習・まとめ	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Housing	16. My apartment (picture story)	
		この回の到達目標	learn to describe homes	
		事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	9/29	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
		この回の到達目標	learn to buy furniture	
		事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
		事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	10/5	furniture	18. furniture, household gadgets	
		この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
		事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	10/12	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
		この回の到達目標	learn to describe your home	
		事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	10/19	your apartment	20. describe your apartment	
		この回の到達目標	learn to describe your day	
		事前学修	Read p 56 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	10/26	Talk about your day	21. My day (picture story)	
		この回の到達目標	learn to say times in German	
		事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
		事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	11/2	Time	22. the clock	
		この回の到達目標	learn to talk about times of the day an activities	
		事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	11/9	Spending time	23. daily activities, times of day	
		この回の到達目標	learn to describe free time activities	
		事前学修	Review the clock , verbs, read p 65 (30分)	30分
		事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	11/16	Free time	24. leisure (picture story)	
		この回の到達目標	learn about weather reports	
		事前学修	Read p 70, 71 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	11/23	Weather	25. the weather	
		この回の到達目標	learn to talk about your hobbies 2	
		事前学修	Read p. 72, 73 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary , workbook A, B (30分)	30分
11	11/30	hobbies	26. hobbies, activities	
		この回の到達目標	learn about how to study	
		事前学修	Read p 75 (30分)	30分
		事後学修	Workbook D (30分)	30分
12	12/7	Study	28. Learning, study (picture story	
		この回の到達目標	learn to read course programs	
		事前学修	Read p 82, 83 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	culture courses	28. culture school courses, hobbies	
		この回の到達目標	learn to talk about the past	
		事前学修	Read p 84, 85, check verb tables (30分)	30分
		事後学修	Grammar verbs, sentence structure (30分)	30分
14	12/21	What did you do?	29. talk about what you did (perfect tense) 復習	
		この回の到達目標	check your level	
		事前学修	Read page 86 (30分)	30分
		事後学修	Grammar perfect tense (30分)	30分
15	1/18	Test、振り返り	テスト(written), review, 解説	
		この回の到達目標	review what you learned	
		事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
		事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	Housing	16. My apartment (picture story)	
		この回の到達目標	learn to describe homes	
		事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	9/29	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
		この回の到達目標	learn to buy furniture	
		事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
		事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	10/5	furniture	18. furniture, household gadgets	
		この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
		事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	10/12	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
		この回の到達目標	learn to describe your home	
		事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
		事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	10/19	your apartment	20. describe your apartment	
		この回の到達目標	learn to describe your day	
		事前学修	Read p 56 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	10/26	Talk about your day	21. My day (picture story)	
		この回の到達目標	learn to say times in German	
		事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
		事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	11/2	Time	22. the clock	
		この回の到達目標	learn to talk about times of the day an activities	
		事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
		事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	11/9	Spending time	23. daily activities, times of day	
		この回の到達目標	learn to describe free time activities	
		事前学修	Review the clock , verbs, read p 65 (30分)	30分
		事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	11/16	Free time	24. leisure (picture story)	
		この回の到達目標	learn about weather reports	
		事前学修	Read p 70, 71 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	11/23	Weather	25. the weather	
		この回の到達目標	learn to talk about your hobbies 2	
		事前学修	Read p. 72, 73 (30分)	30分
		事後学修	Learn vocabulary , workbook A, B (30分)	30分
11	11/30	hobbies	26. hobbies, activities	
		この回の到達目標	learn about how to study	
		事前学修	Read p 75 (30分)	30分
		事後学修	Workbook D (30分)	30分
12	12/7	Study	28. Learning, study (picture story	
		この回の到達目標	learn to read course programs	
		事前学修	Read p 82, 83 (30分)	30分
		事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	culture courses	28. culture school courses, hobbies	
		この回の到達目標	learn to talk about the past	
		事前学修	Read p 84, 85, check verb tables (30分)	30分
		事後学修	Grammar verbs, sentence structure (30分)	30分
14	12/21	What did you do?	29. talk about what you did (perfect tense) 復習	
		この回の到達目標	check your level	
		事前学修	Read page 86 (30分)	30分
		事後学修	Grammar perfect tense (30分)	30分
15	1/18	Test、振り返り	テスト(written), review, 解説	
		この回の到達目標	review what you learned	
		事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
		事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語に興味がある学生

【授業方法】		
Grammatical exercises, repetition and easy conversation 文法の復習、簡単な会話 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
さあ、ドイツ語で！ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Maeda	第三書房	第三書房	教科書	必携
文法から学べるドイツ語ISBN978-4-8163-3820-5	小笠原・トロール	ナツメ社	ナツメ社	参考書	推奨
備考	Repetition of what you know				

【オフィスアワー】
授業の後（土曜14：30～）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	Wiederholung	Repetition of first semester 復習	
		この回の到達目標	前期学習した内容について説明できる	
		事前学修	復習 予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
2	9/26	Fussball	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Modalverben	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
3	10/3	Uhrzeit	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦	
		この回の到達目標	Offizielle und inoffizielle Zeit	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
4	10/10	Deutschland Ost	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Praeteritum (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
5	10/17	Ost und West	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？	
		この回の到達目標	Praeteritum (2)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
6	10/24	Test . 振り返り	Short test 1 and video	
		この回の到達目標	Ostdeutschland heute	
		事前学修	予習 9 0 分	60分
		事後学修	復習 3 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 31	Komparativ und Superlativ	Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ？湖へ泳ぎに行く？	
		この回の到達目標	Uebungen zum Komparativ	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
8	11/ 7	Indefinite Pronomen	Lesson 8 Z u m S c h w i m m e n a n e i n e n S e e ？湖へ泳ぎに行く？	
		この回の到達目標	All pronouns	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
9	11/ 14	Perfekt (1)	Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね	
		この回の到達目標	Perfekt und Kommunikation	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
10	11/ 21	Perfekt (2)	Lesson 9 D u b i s t l a n g e n i c h t d a g e w e s e n 久しぶりだね	
		この回の到達目標	Konversation und Bericht	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
11	11/ 28	Umweltstudien (1)	Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ？環境意識の強い国民？	
		この回の到達目標	Passiv (1)	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
12	12/5	Umweltstudien (2)	Lesson 10 U m w e l t b e w u s s t e B ü r g e r ？環境意識の強い国民？	
		この回の到達目標	Passiv Zusammenfassung	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/ 12	Test . 振り返り		Short test 2 and video
		この回の 到達目標	Deutschland und die Umwelt	
		事前学修	予習 9 0 分	60分
		事後学修	復習 3 0 分	60分
14	12/ 19	Bitten (1)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしていただけますか?
		この回の 到達目標	Konjunktiv II	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分
15	12/ 26	Bitten (2)		Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしていただけますか? まとめ
		この回の 到達目標	Anwendung	
		事前学修	予習 6 0 分	60分
		事後学修	復習 6 0 分	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	R. ペトリック	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
小グループで、与えられた課題を練習する。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	能動的な学習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・返却・添削 等

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ハロー・ミュンヒェン・ノイ	関口一郎	白水社	2014		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：火曜3・4時限）話し合いの必要がある場合は電話してください（電話番号：042-666-8960）。その時、場所と時間等について決めます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火9/15	オリエンテーション、導入授業	授業についての説明 文法の練習	
		この回の到達目標	文法：3・4格支配の前置詞	
		事前学修	教科書に目を通す	30分
		事後学修	教科書に目を通す	30分
2	火9/22	ドイツ語	Lektion 6 Im Olympiapark	
		この回の到達目標	電話で短い会話をする	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
3	火9/29	ドイツ語	Lektion 6 Im Olympiapark（続き）	
		この回の到達目標	文法：話法の助動詞	
		事前学修	Lektion 6 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
4	火10/6	ドイツ語	Lektion 7 Einkäufe	
		この回の到達目標	洋服選び	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
5	火10/13	ドイツ語	Lektion 7 Einkäufe（続き）	
		この回の到達目標	文法：形容詞の格変化	
		事前学修	Lektion 7 疑問点を探す	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
6	火10/20	ドイツ語	Lektion 8 Am Wochenende	
		この回の到達目標	相手に最近の休み/週末の行動を伝える	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火10/27	ドイツ語	Lektion 8 Am Wochenende（続き）	
		この回の到達目標	特別な現在完了形練習	
		事前学修	現在完了形の予習（30分）	30分
		事後学修	現在完了形の復習（30分）	30分
8	火11/10	ドイツ語	Lektion 9 Ein Gespräch über Berlin	
		この回の到達目標	ベルリン紹介	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
9	火11/17	ドイツ語	Lektion 9 Ein Gespräch über Berlin（続き）	
		この回の到達目標	特別な過去形練習	
		事前学修	過去形の予習	30分
		事後学修	過去形の復習	30分
10	火11/24	ドイツ語	Lektion 10 Deutsches Museum	
		この回の到達目標	ミュンヘン紹介、レストラン	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
11	火12/1	ドイツ語	Lektion 10 Deutsches Museum（続き）	
		この回の到達目標	文法：再帰代名詞と再帰動詞	
		事前学修	Lektion 10 疑問点を探す（30分）	30分
		事後学修	CDを聞く（30分）	30分
12	火12/8	ドイツ語	Lektion 11 König Ludwig II	
		この回の到達目標	相手に友達を紹介する	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	ドイツ語	Lektion 11 König Ludwig II（続き）	
		この回の到達目標	文法：関係代名詞	
		事前学修	関係代名詞の予習	30分
		事後学修	関係代名詞の復習	30分
14	火12/22	ドイツ語	Lektion 12 Auf Wiedersehen	
		この回の到達目標	接続法を用いたていねいな表現	
		事前学修	予習	30分
		事後学修	CDを聞く	30分
15	火1/12	ドイツ語	復習	
		この回の到達目標	プリントを配布し、今まで教科書で扱った問題を、異なる角度、または複合した角度から解いてみる	
		事前学修	Lektion 6-12 復習（30分）	30分
		事後学修	CDを聞く	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠB	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Spitze! 1	新倉真矢子	朝日	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部土 9/19	趣味		Lektion 7 暇の時間
		この回の 到達目標	好きなことについて話せる。	
		事前学修	前期の内容	60分
		事後学修	テキスト49～52頁	30分
2	第一部土 9/26	予定		Lektion 7 スケジュール、用事
		この回の 到達目標	予定について話せる。	
		事前学修	テキスト49～52頁	30分
		事後学修	テキスト53～56 頁	30分
3	第一部土 10/3	服装		Lektion 8 気に入るなもの、似合うもの
		この回の 到達目標	人称代名詞の3格を知る。	
		事前学修	テキスト49～56 頁	30分
		事後学修	テキスト57～59 頁	30分
4	第一部土 10/10	プレゼント		Lektion 8 誕生日やクリスマスのプレゼント
		この回の 到達目標	3格と4格の目的語を使う。	
		事前学修	テキスト57～60 頁	30分
		事後学修	テキスト60～64 頁	30分
5	第一部土 10/17	休暇		Lektion 9 休暇の予定
		この回の 到達目標	したいこと、できること、しなければならないことなどについて話せる。 助動詞を使う。	
		事前学修	テキスト57～64 頁	30分
		事後学修	テキスト65～68 頁	30分
6	第一部土 10/24	宿泊		Lektion 9 ホテルの予約
		この回の 到達目標	ホテルの予約ができる。	
		事前学修	テキスト65～68 頁	30分
		事後学修	テキスト68～72 頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 10/31	町にて	Lektion 10 店、施設、案内	
		この回の 到達目標	地図を使って、道を尋ねることができる。	
		事前学修	テキスト65～72 頁	30分
		事後学修	テキスト73～75 頁	30分
8	第一部土 11/7	交通	Lektion 10 乗り物、場所と方向を表す前置詞	
		この回の 到達目標	行きたいところについて話せる。	
		事前学修	テキスト73～75 頁	30分
		事後学修	テキスト76～80 頁	30分
9	第一部土 11/14	日程	Lektion 11 時刻	
		この回の 到達目標	一日について話せる。	
		事前学修	テキスト73～80 頁	30分
		事後学修	テキスト81～83 頁	30分
10	第一部 土11/21	時刻	Lektion 11 電車、営業時間	
		この回の 到達目標	時刻表現を理解する。	
		事前学修	テキスト81～83 頁	30分
		事後学修	テキスト84～87 頁	30分
11	第一部土 11/28	気候	Lektion 12 季節と天気	
		この回の 到達目標	天気予報を理解し、天気表現を知る。	
		事前学修	テキスト81～89 頁	30分
		事後学修	テキスト89～90 頁	30分
12	第一部土 12/5	過去	Lektion 12 現在完了形	
		この回の 到達目標	過去のことについて話せる。	
		事前学修	テキスト89～90 頁	30分
		事後学修	テキスト91～93 頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 12/12	過去		Lektion 12 観光、旅行
		この回の 到達目標	旅行について話せる。	
		事前学修	テキスト91～93 頁	30分
		事後学修	テキスト94～95 頁	30分
14	第一部土 12/19	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 12/26	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	振り返り	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	V. カレンバルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でドイツ語会話を行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ドイツ語会話	何時でしたか？ 何をしましたか？	
		この回の到達目標	時間を伝えることができるようになる	
		事前学修	教科書を買う，事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	4月11日	ドイツ語会話	誰でしたか？ 何でしたか？（所有代名詞）	
		この回の到達目標	所有代名詞を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	4月18日	ドイツ語会話	どういうふうでしたか？	
		この回の到達目標	形容詞を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	4月25日	ドイツ語会話	話法助動詞の過去形	
		この回の到達目標	話法助動詞の過去形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	5月2日	ドイツ語会話	話法助動詞の過去形II	
		この回の到達目標	話法助動詞の過去形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	5月9日	ドイツ語会話	どこへ行きましたか？ どこにいましたか？ （三格と四格の練習）	
		この回の到達目標	方向と場所を伝えることができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	ドイツ語会話	どうしてそれがわかりましたか？	
		この回の到達目標	理由を説明できる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	5月23日	ドイツ語会話	何に興味がありましたか？（再帰動詞をつかう）	
		この回の到達目標	再帰動詞を使える	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	5月30日	ドイツ語会話	なぜそうしましたか？	
		この回の到達目標	理由を説明できる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	6月6日	ドイツ語会話	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	6月13日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	6月20日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	7月4日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	7月11日	ドイツ語会話	まとめ・テスト	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	ここまで学んだことの復習（30分）	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Netzwerk neu A1.1	Stefanie Dengler	Klett	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
		この回の到達目標	挨拶ができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	テキスト6～9頁	30分
2	第一部 土4/11	自己紹介	Lektion 1 出身地、居住地、数字、連絡先	
		この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
		事前学修	テキスト6～9頁	30分
		事後学修	テキスト10～11頁	30分
3	第一部 土4/18	自己紹介	Lektion 1 国、言語、3人称	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト6～11頁	30分
		事後学修	テキスト12～13頁	30分
4	第一部 土4/25	自己紹介	Lektion 1 DVD	
		この回の到達目標	DVDの会話を理解して、インターアクティブで話すことができる。	
		事前学修	テキスト6～13頁	30分
		事後学修	テキスト14頁	30分
5	第一部 土5/2	自己紹介	Lektion 2 趣味、待ち合わせ	
		この回の到達目標	不規則動詞の現在人称変化について理解する。	
		事前学修	テキスト6～15頁	30分
		事後学修	テキスト16～19頁	30分
6	第一部土 5/9	自己紹介	Lektion 2 職業、名詞の性と冠詞、複数形 be動詞	
		この回の到達目標	仕事について話せる。	
		事前学修	テキスト9～16頁	30分
		事後学修	テキスト17～19頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	自己紹介	Lektion 2 DVD	
		この回の 到達目標	DVDの会話を理解して、インターアクティブで話すことができる。	
		事前学修	テキスト16～19頁	30分
		事後学修	テキスト20～24頁	30分
8	第一部 土5/23	町にて	Lektion 3 町にある場所、建物、名詞の性と冠詞	
		この回の 到達目標	単語を知る、定冠詞と不定冠詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト24～25頁	30分
		事後学修	テキスト26～29頁	30分
9	第一部土 5/30	町にて	Lektion 3 交通、案内	
		この回の 到達目標	道を尋ねることができる。	
		事前学修	テキスト26～29頁	30分
		事後学修	テキスト30～31頁	30分
10	第一部 土6/6	ハンブルクにて	Lektion 3 イベント、季節	
		この回の 到達目標	ドイツの文化を知る。	
		事前学修	テキスト26～32頁	30分
		事後学修	テキスト32～33頁 復習	30分
11	第一部土 6/13	ミュンヘンにて	Lektion 3 DVD 観光	
		この回の 到達目標	会話を理解することができる。	
		事前学修	テキスト34頁	30分
		事後学修	テキスト24～35頁	30分
12	第一部土 6/20	食事	Lektion 4 買い物	
		この回の 到達目標	買い物で使う単語を知る。 4格目的語を正しく使う。	
		事前学修	テキスト26～35頁	30分
		事後学修	テキスト42～45頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 6/27	食事		Lektion 4 BBQ、招待
		この回の 到達目標	食事について話せる。	
		事前学修	テキスト42～45頁	30分
		事後学修	テキスト42～46頁	30分
14	第一部土 7/4	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 7/11	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	V. カレンバルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でドイツ語会話を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	ドイツ語会話	動詞の受け身 彼に何をされましたか？ (I)	
		この回の到達目標	受身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
2	9月26日	ドイツ語会話	動詞の受け身 (II)	
		この回の到達目標	受身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
3	10月3日	ドイツ語会話	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？ (I)	
		この回の到達目標	第三者について伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
4	10月10日	ドイツ語会話	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？ (II)	
		この回の到達目標	第三者について伝えられるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
5	10月17日	ドイツ語会話	状態の受け身 (I)	
		この回の到達目標	受け身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
6	10月24日	ドイツ語会話	状態の受け身 (II)	
		この回の到達目標	受け身形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	ドイツ語会話	動詞の未来形（I）	
		この回の到達目標	動詞の未来形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	11月7日	ドイツ語会話	動詞の未来形（II）	
		この回の到達目標	動詞の未来形を使えるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	11月14日	ドイツ語会話	自分の過去と未来を語る（I）	
		この回の到達目標	自分の過去と未来を語るができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	11月21日	ドイツ語会話	自分の過去と未来を語る（II）	
		この回の到達目標	自分の過去と未来を語るができるようになる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	11月28日	ドイツ語会話	ここまでの復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	12月5日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	12月19日	ドイツ語会話	復習	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
		事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	12月26日	ドイツ語会話	まとめ・テスト	
		この回の到達目標	自由な会話ができる	
		事前学修	16回からの内容の復習	20分
		事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Netzwerk neu A1.1	Stefanie Dengler	Klett	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部土 9/19	ガイダンス、導入授業	Lektion 1-4 復習	
		この回の 到達目標	前期の内容を思い出す。	
		事前学修	前期範囲の復習を行っておくこと	30分
		事後学修	テキスト42～44頁	30分
2	第一部土 9/26	食事	Lektion 4 食生活、好きなもの	
		この回の 到達目標	食事について話せる。 4格目的語を正しく使う。	
		事前学修	テキスト42～46頁	30分
		事後学修	テキスト47～49頁	30分
3	第一部土 10/3	食事	Lektion 4 DVD	
		この回の 到達目標	会話が分かる。	
		事前学修	テキスト40～49頁	30分
		事後学修	テキスト50頁	30分
4	第一部土 10/10	日常生活	Lektion 5 時刻、予定	
		この回の 到達目標	予定について話せる。	
		事前学修	テキスト40～51頁	30分
		事後学修	テキスト52～54頁	30分
5	第一部土 10/17	日常生活	Lektion 5 家族	
		この回の 到達目標	日常生活について話せる。 所有冠詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト52～54頁	30分
		事後学修	テキスト55～56頁	30分
6	第一部土 10/24	日常生活	Lektion 5 待ち合わせ、予約、助動詞	
		この回の 到達目標	メールを書くことができる。 電話で連絡することができる。	
		事前学修	テキスト52～56頁	30分
		事後学修	テキスト57～59頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 10/31	日常生活	Lektion 5 DVD	
		この回の 到達目標	会話が理解できる。	
		事前学修	テキスト52～59頁	30分
		事後学修	テキスト60頁	30分
8	第一部土 11/7	暇	Lektion 6 祝い事、日付け	
		この回の 到達目標	友達を招待することができる。	
		事前学修	テキスト52～61頁	30分
		事後学修	テキスト62～65頁	30分
9	第一部土 11/14	暇	Lektion 6 レストラン、メニュー	
		この回の 到達目標	レストランで注文することができる。 人称代名詞を正しく使う。	
		事前学修	テキスト62～65頁	30分
		事後学修	テキスト66～67頁	30分
10	第一部土 11/21	暇	Lektion 6 外出、遊び	
		この回の 到達目標	ドイツ語圏の文化を知る。	
		事前学修	テキスト66～67頁	30分
		事後学修	テキスト68～69頁	30分
11	第一部土 11/28	暇	Lektion 6 DVD	
		この回の 到達目標	会話が理解できる。	
		事前学修	テキスト62～69頁	30分
		事後学修	テキスト70頁	30分
12	第一部土 12/5	仕事場	Lektion 7 インタナシプ	
		この回の 到達目標	仕事の内容について話せる。 接続詞を使うことができる。	
		事前学修	プリント	30分
		事後学修	プリント	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部土 12/12	仕事場		Lektion 7 オフィス、用事
		この回の 到達目標	用事について話せる。 前置詞を正しく使うことができる。	
		事前学修	プリント	30分
		事後学修	プリント	30分
14	第一部土 12/19	テスト予備、振り返り		振り返り
		この回の 到達目標	まとめ	
		事前学修	テスト予備	120分
		事後学修	テスト勉強	120分
15	第一部土 12/26	テスト、まとめ		まとめ
		この回の 到達目標	理解度の確認	
		事前学修	テスト勉強	120分
		事後学修	振り返り	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。								3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。								3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Deutsch lernen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	4月13日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Mehrsprachigkeit	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	4月20日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Rekorde	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	4月27日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Familienalbum	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	5月4日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Geburtstag	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	5月11日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Einladungen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Eine Reise	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	5月25日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Reisepläne	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	6月1日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Hobbys	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	6月8日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Im Verein	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	6月15日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Medien	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	6月22日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Einkaufen im Internet	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
13	6月29日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Ausgehen			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
14	7月6日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り			
		事前学修	Üben (30 Minuten)			30分
		事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)			30分
15	7月13日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Video			
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)			30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)			30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズなドイツ語コミュニケーションの習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。								4	4		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。								4	4		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Rund ums Essen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	9月21日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Ausgehen	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	9月28日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Stadtleben	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	10月5日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Wohnungssuche	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	10月12日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Was machen Sie, wennn...?	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	10月19日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Europa	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
7	1 0 月26 日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の 到達目標	Weimar			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
8	1 1 月9 日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の 到達目標	Damals			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
9	1 1 月16 日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の 到達目標	Arbeit			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
10	1 1 月23 日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の 到達目標	Berufswunsch			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
11	1 1 月30 日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の 到達目標	Feste			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
12	1 2 月7 日	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の 到達目標	Geschenke			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2月14日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	wiederholung復習	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	1 2月21日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振り返り	
		事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
		事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	1月18日	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Party	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Aussprachetraining, Leseübungen in der Klasse und mit dem Partner, Grammatik anhand von Beispielen erlernen oder zu vertiefen und dann selber Sätze schreiben

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino	Dogakusha	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion1 挨拶とABC	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	4/13	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion2 動詞の現在人称	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	4/20	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion3 動詞の現在人称2とhaben, sein	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	4/27	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion3 動詞の現在人称とhaben, sein	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	5/4	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion4 名詞1と4かく、複数形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	5/11	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion4 名詞1と4かく、複数形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion5 特別な動詞、3かく	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	5/25	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion5 特別な動詞、3かく	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	6/1	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion6 前置詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	6/8	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion6 前置詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	6/15	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion7 人称代名詞、再起動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	6/22	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion7 人称代名詞、再起動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Wiederholung	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	7/6	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
		事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
		事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	7/13	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Deutsche Spiele	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、A2レベルの試験に合格する文書による意思疎通の能力を習得します。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Aussprachetraining, Leseübungen in der Klasse und mit dem Partner, Grammatik anhand von Beispielen erlernen oder zu vertiefen und dann selber Sätze schreiben

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino	Dogakusha	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	7/20	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion8 分離動詞、副文	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	9/14	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion8 分離動詞、副文	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	9/21	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion9 助動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	9/28	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion9 助動詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	10/5	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion10 形容詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	10/12	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion10形容詞	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/19	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion11現在完了形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	10/26	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion11 現在完了形	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	11/9	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion12 weil... wenn...	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	11/16	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Lektion12 weil... wenn	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	11/23	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Wiederholung	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	11/30	Deutsch	Deutsch lernen	
		この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
13	12/7	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	Video			
		事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)			30分
		事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)			30分
14	12/14	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	A la carte			
		事前学修	Üben (30 Minuten)			30分
		事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)			30分
15	12/21	Deutsch		Deutsch lernen		
		この回の到達目標	A la carte			
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)			30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)			30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法Aを同時履修すること

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語	山下利枝 他	三修社	2018	教科書	必携
ケータイ万能フランス語文法	久松健一	駿河台出版社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7	ガイダンス・導入講義	授業の目的・内容、進め方、教科書、参考書の紹介、テストの実施方法、成績評価方法について説明。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の指針を理解し、それに基づいて今後の学習計画を立てられる。	
		事前学修	教科書に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	4/13 4/14	形容詞	主語＋動詞＋形容詞の構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞を含む簡単な例文を開き取り、暗唱できる。	
		事前学修	1課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	4/20 4/21	形容詞の位置	名詞＋形容詞、形容詞＋名詞の構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、フランス語特有の形容詞の位置について理解し、それを用いた例文を開き取り暗唱できる。	
		事前学修	2課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	4/27 4/28	形容詞と副詞	主語＋動詞＋形容詞、主語＋動詞＋副詞の構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞、副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	3課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	5/4 5/5	時の副詞	～mentを使った副詞、時の副詞の意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、～mentを使った副詞、時の副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	4課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	5/11 5/12	定冠詞と不定冠詞	le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞の意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	5課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19	部分冠詞	du, de laの意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞du, de laを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	6課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	5/25 5/26	小テスト、ここまでまとめ	中間小テスト、これまでのまとめ。	
		この回の到達目標	7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	7回目までの音で覚えたフレーズを書けるようにする。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	6/1 6/2	指示形容詞と指示代名詞	ce, cette, celui-ci, celle-ciなどの指示形容詞、指示代名詞意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞、指示代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	7課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	6/8 6/9	所有形容詞と所有代名詞	son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法を理解して暗唱できる。	
		事前学修	8課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	6/15 6/16	場所を表す前置詞	à, au, enなどの場所を表す前置詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、à, au, enなどの場所を表す前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	9課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	6/22 6/23	場所、時の前置詞	de, à, versなどの時・場所の前置詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、de, à, versなどの時・場所の前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。を理解し例文を暗唱できる。	
		事前学修	10課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	直接補語代名詞	直接補語代名詞le, la, lesの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、直接補語代名詞le, la, lesを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	11課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	7/6 7/7	間接補語代名詞	間接補語代名詞lui, leurの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、間接補語代名詞lui, leurを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	12課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	7/13 7/14	期末テスト、まとめ。	これまで音で覚えたフレーズをフランス語で書けるか、動詞の活用ができるかの確認。	
		この回の到達目標	14回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	14回目までに音で覚えたフレーズのフランス語の綴りの確認。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ショコラティエヌ！	サガズ・ミシエル他	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けます (eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6 4/7	オリエンテーション・導入 講義	1. 授業の説明 2. Initiation(p.9)
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、自己紹介の基本を修得して、自己紹介ができる
		事前学修	p. 6, 7の登場人物たちの紹介のページを見て、登場人物たちの名前や国籍を把握する。それらの国や都市がどこになるのか、地図上で調べる。30分
		事後学修	学修した内容をダウンロードした音声によって確認し、小テストの準備をする30分
2	4/13 4/14	私は日本人です（1）	1. 動詞 êtreの活用 2. フランス語のアルファベ(1) 3. 国籍名
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、自分のことを言う練習をしておく。宿題を行う30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする30分
3	4/20 4/21	私は日本人です（2）	1. 形容詞 2. フランス語のアルファベ（2） 3. 専門を答える
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分、専攻を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、自分のことを言う練習をしておく。宿題を行う30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする30分
4	4/27 4/8	私の母はパリに住んでいます（1）	1. -er動詞の活用 2. 名詞 3. 前置詞（1）
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の家族に関して、名前、居住地、身分、話せる言語を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、家族のことを言う練習をしておく。宿題を行う30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする30分
5	5/4 5/5	私の母はパリに住んでいます（2）	1. 前置詞（2） 2. 所有形容詞（1） 3. 否定文
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の家族に関して、名前、居住地、身分、話せる言語を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、家族のことを言う練習をしておく。宿題を行う30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする30分
6	5/11 5/12	私はスマートフォンを持っています（1）	1. 不定冠詞 2. 動詞 avoirの活用
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、場所の表現を覚え、場所に関するやり取りを聞き取って答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、場所に関する語彙の発音を確認する。宿題を行う30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19	私はスマートフォンを持っています（2）	1. 定冠詞 2. 所有形容詞（2） 3. 指示形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、場所の表現を覚え、場所に関するやり取りを聞き取って答えることができる。	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、場所に関する語彙の発音を確認する。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
8	5/25 5/26	私はスマートフォンを持っています（3）	前期中間試験 1. 動詞 avoirを使った表現 2. Il y a	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に解答できる。所有に関するやり取りを聞き取って答えることができる。	
		事前学修	前期中間試験の準備をする	180分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
9	6/1 6/2	私はポップスが大好きです（1）	中間試験の解説 1. 動詞 faire の活用 2. 疑問形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験の解説を聞いて、自分の間違ったところが理解できる。日常的な自分の活動について、質問を聞き取って答えることができる。	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、曜日と日常的な活動の表現に関して発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
10	6/8 6/9	私はポップスが大好きです（2）	1. 疑問文の作り方 2. 前置詞de, à + 定冠詞の縮約形	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、数字（1～99）を覚え、金額を言うことができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、数字（1～99）の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
11	6/15 6/16	私はそこに行きたいです（1）	1. 複合過去の活用 2. 動詞 allerの活用	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去に行ったことに関して聞き取り、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、ショッピングと服に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
12	6/22 6/23	私はそこに行きたいです（2）	1. 中性代名詞 y 2. 動詞 venirの活用 3. 不規則な形容詞	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを使った様々な表現を覚えて、関連する質問に答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、からだと飲み物に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	私は映画を見に行きました (1)	1. être を用いる複合過去 2. 部分冠詞	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を用いた質問をし、さらに答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、様々な活動に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	7/6 7/7	私は映画を見に行きました (2)	1. 中性代名詞 en 2. 量の表現 3. 動詞 prendre の活用	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、食べ物に関するやりとりで質問し、さらに答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時の表現と頻度に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
15	7/13 7/14	前期の総括	前期末試験とまとめ	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、期末試験に解答できる	
		事前学修	前期末試験の準備をする	180分
		事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ぜんぶ話して！	レナ・ジュンタ清岡 智比古	白水社	2015年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
		この回の到達目標	到達目標①の準備を行う。	
		事前学修	アルファベットの音声を聞く。	30分
		事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	4/14	日常生活で用いる基礎表現	国籍や職業をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分
3	4/21	日常生活で用いる基礎表現	出身や学部をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分
4	4/28	日常生活で用いる基礎表現	規則動詞を肯定・否定で使う。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	2 課前半の予習。	30分
		事後学修	2 課前半の単語を覚える。	30分
5	5/5	日常生活で用いる基礎表現	否定疑問形でたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	2 課後半の予習。	30分
		事後学修	2 課後半の単語を覚える。	30分
6	5/12	日常生活で用いる基礎表現	「～が好き？」とたずね、それにニュアンスをつけて答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3 課前半の予習。	30分
		事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	日常生活で用いる基礎表現	形容詞を使ってコメントする。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3 課後半の予習。	30分
		事後学修	3 課後半の単語を覚える。	30分
8	5/26	日常生活で用いる基礎表現	「どこで」「だれと」をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課前半の予習。	30分
		事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
9	6/2	日常生活で用いる基礎表現	質問の答えを展開させる。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課後半の予習。	30分
		事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
10	6/9	日常生活で用いる基礎表現	「～を持っている/持っていない」を表現する。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	5 課前半の予習。	30分
		事後学修	5 課前半の単語を覚える。	30分
11	6/16	日常生活で用いる基礎表現	年齢や学年をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	5 課後半の予習。	30分
		事後学修	5 課後半の単語を覚える。	30分
12	6/23	日常生活で用いる基礎表現	家族の名前や身分・職業をたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	6 課前半の予習。	30分
		事後学修	6 課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	日常生活で用いる基礎表現	人について好き/きらいを言い、その人がどんな風か言う。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	6 課後半の予習。	30分
		事後学修	6 課後半の単語を覚える。	30分
14	7/7	日常生活で用いる基礎表現	さまざまな活動について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	7 課の予習。	30分
		事後学修	7 課の単語を覚える。	30分
15	7/14	前期のまとめ	試験および課題の解説。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二	白水社	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業前後に声を掛けてください。木曜日12:50～13:00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	フランス語と英語の違いについて	オリエンテーション フランス語に親しむ（１）：アルファベ・フランス語表現	
		この回の到達目標	フランス語と英語の違いを知り、発音に慣れる。	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	アルファベを覚えましょう。	30分
2	第一部 木4/16	フランス語特有の綴り字の読み方について	フランス語に親しむ（２）：綴り字の読み方	
		この回の到達目標	フランス語の綴り字の読み方を覚える。	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	綴り字の発音の規則を覚えましょう。	30分
3	第一部 木4/23	主語人称代名詞と動詞の活用	国籍を言う：主語人称代名詞・動詞	
		この回の到達目標	自分の国籍をフランス語で言い、動詞の活用に慣れる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	基本的な動詞の活用を覚えましょう。	30分
4	第一部 木4/30	自己紹介と形容詞の変化	名前・職業を言う：形容詞の性・数の一致	
		この回の到達目標	フランス語で自己紹介をする。また形容詞の変化を覚えて会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	形容詞の変化の原則を覚えましょう。	30分
5	第一部 木5/7	不定冠詞と指示代名詞	持ち物を尋ねる（１）：不定冠詞・指示代名詞	
		この回の到達目標	不定冠詞の変化を覚え、指示代名詞を使って簡単な応答が出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	不定冠詞を覚えましょう。	30分
6	第一部 木5/14	形容詞の位置について	持ち物を尋ねる（２）：形容詞の位置	
		この回の到達目標	形容詞の位置に慣れ、持ち物についての簡単な応答が出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	形容詞を使った表現を自分で考えてみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	定冠詞の変化と疑問文の作り方	趣味を語る（１）：定冠詞・疑問文	
		この回の到達目標	定冠詞の使い方と変化を覚え、疑問文を使って簡単な会話を出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	定冠詞を覚えましょう。また自分でも疑問文を作ってみましょう。	30分
8	第一部 木5/28	疑問形容詞について	趣味を語る（２）：疑問形容詞	
		この回の到達目標	疑問形容詞の変化を覚え、簡単な会話が出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	疑問形容詞を使った文を考えてみましょう。	30分
9	第一部 木6/4	1課から4課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	ここまでで学んだ事項をしっかり身に身に付け、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	1課から4課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
10	第一部 木6/11	否定文	誰か尋ねる（１）：否定文	
		この回の到達目標	否定文の作り方を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	否定文を自分で作ってみましょう。	30分
11	第一部 木6/18	人についての疑問代名詞	誰か尋ねる（２）：疑問代名詞	
		この回の到達目標	疑問代名詞を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。	30分
12	第一部 木6/25	前置詞と定冠詞の縮約	したいことを尋ねる：前置詞と定冠詞の縮約・疑問代名詞	
		この回の到達目標	前置詞と定冠詞の縮約法を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	縮約形を覚えましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	強勢形と所有形容詞	住んでいる所を言う：人称代名詞の強勢形・所有形容詞	
		この回の到達目標	強勢形と所有形容詞の使い方を学び、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	強勢形と所有形容詞の変化をしっかりと覚えましょう。	30分
14	第一部 木7/9	物についての疑問代名詞	何をしているか尋ねる：疑問代名詞・場所を表す前置詞	
		この回の到達目標	疑問代名詞の使い方を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。	30分
15	第一部 木7/16	まとめとテスト	前期のまとめ・期末テスト	
		この回の到達目標	前期に学んだことを身に付け、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
		事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Bと続けて履修することが望ましい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 4/8	ガイダンス アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な音を聞き取り、発音できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 フランス語のアルファベの読みを暗記する。	30分
2	第二部水 4/15	フランス語の文字と発音	フランス語の発音の規則を学ぶ。それによって受講生は基本的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス語のつづり字と発音の関係が理解できるようになる。	
		事前学修	教科書5～6ページの発音の規則に目を通しておく。	30分
		事後学修	発音規則を確認しながら単語の読みを復習する。	30分
3	第二部水 4/22	1課 あいさつ	日常会話で用いられる挨拶の表現を学ぶ。それによって受講生は周囲の人にフランス語で挨拶できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フランスの挨拶を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	1課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
4	第二部水 4/29	1課 自己紹介	être動詞を用いた国籍や職業を示す表現を学ぶ。それによって受講生は自分や周囲の人の国籍や職業を説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国籍や職業を示す表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
5	第二部水 5/6	2課 名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は様々な単語をフランス語で言えるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な単語を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	2課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
6	第二部水 5/13	2課 提示表現	さまざまな提示表現を学ぶ。それによって受講生は周囲のものを指し示すことができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、提示表現を含む文を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 5/20	3課 動詞avoir	動詞avoirの活用と用法を学ぶ。それによって受講生はavoirを用いた表現を習得することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	3課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
8	第二部水 5/27	3課 疑問文と否定文	疑問文・否定文の作り方を学ぶ。それによって受講生は質問をしたり答えたりできるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、質問を聞き取って理解し、答えたり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
9	第二部水 6/3	4課 第1群規則動詞の活用	第1群規則動詞（er動詞）の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は様々な動作を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、er動詞を含む表現を正しく聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	4課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
10	第二部水 6/10	4課 形容詞	形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は、色や性質などを説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
11	第二部水 6/17	5課 部分冠詞	部分冠詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は冠詞の使い分けを正しく理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、部分冠詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	5課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
12	第二部水 6/24	5課 中性代名詞 en	中性代名詞 en の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を含む日常表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 en を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 7/1	6課 動詞 aller, venir	動詞 aller, venir について学ぶ。それによって受講生は自分が行きたいところや出身地などを表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、aller, venir を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	6課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
14	第二部水 7/8	6課 疑問副詞	疑問副詞の意味と用法を学ぶ。それによって受講生は場所や時などを尋ねられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問副詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	前期の授業内容を整理し、全体を復習する。	30分
15	第二部水 7/15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『やさしいサリュ（改訂版）』	田辺保子等	駿河台出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水 4／8 金 4／10	オリエンテーション	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方、フランス語の挨拶	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。アルファベ、綴り字の読み方を正確に発音できる。フランス語の挨拶ができる(達成目標①②③④に関連する)	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	水 4／15 金 4／17	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	
		この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。名詞の性と数について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	水 4／22 金 4／24	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	
		この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。être、リエゾン・アンシェヌマンについて、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	水 4／29 金 5／1	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	
		この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	水 5／6 金 5／8	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	
		この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞、数（1～10）、都市、言語、学科」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	水 5／13 金 5／15	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer。	
		この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「不定冠詞。avoir, aimer」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水 5／20 金 5／22	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（11～20）。家族、趣味。	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（11～20）。家族、趣味。	
		この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「否定文中のde、数（11～20）、家族、趣味」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	水 5／27 金 5／29	前期中間試験 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。	前期中間試験の実施 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。	
		この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「部分冠詞、il y a」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	前期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	水 6／3 金 6／5	中間試験解説 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。	前期中間試験の返却と解説 第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。	
		この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	水 6／10 金 6／12	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。	
		この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	水 6／17 金 6／19	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（20～60）。qui, comment。形状、性質、性格。	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（20～60）。qui, comment。形状、性質、性格。	
		この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（20～60）、qui, comment。形状、性質、性格」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	水 6／24 金 6／26	第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。	第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。	
		この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水 7 / 1 金 7 / 3	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir。	
		この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（60～100）、aller, venir」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	水 7 / 8 金 7 / 10	前期期末試験 第六課：行く、来る。国名、行き先。	前期期末試験の実施 第六課：行く、来る。国名、行き先。	
		この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「国名、行き先」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	水 7 / 15 金 7 / 17	前期期末試験解説 前期の振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
		この回の到達目標	前期に学修した文法事項を理解し、説明することができる。また同様に、前期学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 例文を練習し 4. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プチポワゾン	金子美都子、他	白水社	最新版	教科書	必携
備考	教科書に練習帳がついています。毎週使うので、必ず持ってきてください。				

【オフィスアワー】
土曜日、12時10分～ 授業終了後、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方を説明する。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の進め方を理解する。	30分
		事後学修	教科書と辞書を用意し、シラバスを読み、授業の進め方を理解する。	30分
2	4月11日	発音	発音を説明し、練習する。	
		この回の到達目標	発音を理解し、できるようにする。	
		事前学修	音声（CD）を聞いて発音を練習する。	30分
		事後学修	音声（CD）を聞いて発音を練習する。	30分
3	4月18日	L. 1 不規則動詞・名詞・形容詞	L. 1 不規則動詞・名詞・形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 1 不規則動詞・名詞・形容詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	4月25日	L. 1 練習問題	L. 1 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 1 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	5月2日	L. 2 不規則動詞・冠詞・否定文	L. 2 不規則動詞・冠詞・否定文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 2 不規則動詞・冠詞・否定文を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・冠詞・否定文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・冠詞・否定文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	5月9日	L. 2 練習問題	L. 2 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 2 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月16日	L. 3 規則動詞・疑問文	L. 3 規則動詞・疑問文を説明する。
		この回の到達目標	L. 3 規則動詞・疑問文を理解する。
		事前学修	規則動詞・疑問文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	規則動詞・疑問文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
8	5月23日	L. 3 練習問題	L. 3 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 3 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
9	5月30日	L. 4 規則動詞・名詞・形容詞	L. 4 規則動詞・名詞・形容詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 4 規則動詞・名詞・形容詞を理解する。
		事前学修	規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	規則動詞・名詞・形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
10	6月6日	L. 4 練習問題	L. 4 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 4 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
11	6月13日	L. 5 不規則動詞・近接未来・近接過去	L. 5 不規則動詞・近接未来・近接過去を説明する。
		この回の到達目標	L. 5 不規則動詞・近接未来・近接過去を理解する。
		事前学修	不規則動詞・近接未来・近接過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・近接未来・近接過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
12	6月20日	L. 5 練習問題	L. 5 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 5 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	L. 6 不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞	L. 6 不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 6 不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・指示形容詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	7月4日	L. 6 練習問題	L. 6 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 6 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	7月11日	前期のまとめと授業内試験	授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	L. 1～L. 6 までを理解する。	
		事前学修	L. 1～L. 6 までについて 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L. 1～L. 6 までについて 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
簡単なフレーズを繰り返し聞いて発音しながら、文法的解説を適宜加えていく。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語	山下利枝 他	三修社出版	2018	教科書	必携
ケータイ万能フランス語文法	久松健一	駿河台出版社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15	ガイダンス・導入講義	後期ガイダンス、簡単なフランス語の音声に触れる。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、簡単なフランス語の文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	教科書の13課以降に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	9/21 9/22	強勢形代名詞	moi, toiなどの強勢形代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moi, toiなどの強勢形代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	13課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	9/28 9/29	中性代名詞 en	中性代名詞の種類、enの文法的用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のenを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	10/5 10/6	中性代名詞 y	中性代名詞 yの文法的用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のyを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	15課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	10/12 10/13	代名詞の位置	le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞の語順・位置。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞のを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	10/19 10/20	単純関係代名詞	単純関係代名詞qui, que, dont, oùの用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、単純関係代名詞qui, que, dont, oùを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	17課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27	複合関係代名詞	複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	11/9 11/10	小テスト、ここまでのまとめ	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	11/16 11/17	疑問形と否定形	簡単な構文の疑問形est-ce queなどと否定形ne pas, non plusなどの表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問形と否定形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	19課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	11/23 11/24	様々な疑問表現	où, quand, comment, combien, pourquoiなどの様々な疑問表現を用いた疑問文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、様々な疑問表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	11/30 12/1	様々な否定表現	ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	21課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	12/7 12/8	時間の表現	il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続を表す表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続の表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	比較表現	moins, plusなどの比較表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moins, plusなどの比較表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	23課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	12/21 12/22	間接話法	Il dit que, il dit de, il m'explique queなどの間接話法の構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il dit que, il dit de, il m'explique queなどの間接話法の構文を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
		事前学修	24課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	1/12 1/18	期末テスト、まとめ	期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	14回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
		事前学修	9回目からの授業の復習。	30分
		事後学修	答案の間違った箇所を見直し・復習。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ショコラティエヌ！	サガズ・ミシエル他	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15：00～16：00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他メールによる問い合わせ・相談も受け付けます (eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15	たくさんの子供がいました (1)	1. 半過去 (1) 2. 動詞 attendre の活用	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去の状況について質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、量に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
2	9/21 9/2	たくさんの子供がいました (2)	1. 半過去 (2) 2. 時の表現 3. 動詞 connaître の活用	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去の状況について質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、食品に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
3	9/28 9/29	テニスをするでしょう (1)	1. 助動詞 vouloir の活用 (第6課) 2. 近接過去	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、今までに学んだ時制を組み合わせる質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、食事とニュアンスに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
4	10/5 10/6	テニスをするでしょう (2)	1. 近接未来 2. 単純未来 (1) 3. 時の表現	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、未来の計画について質問し、答えることができる (1)	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、食事とニュアンスに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
5	10/12 10/13	テニスをするでしょう (3)	1. 単純未来 (2) 2. 時の表現 (2)	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、未来の計画について質問し、答えることができる (2)	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、評価に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
6	10/19 10/20	どのくらい時間がかかりま すか (1)	1. 比較級 2. 条件法 (丁寧な言い方) 3. Il faut	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、交通機関について質問し、答えることができる	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、交通機関に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26 10/27	どのくらい時間がかかり ますか（2）	1. 最上級 2. 空間に関する表現
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、空間に関するやり取りで質問し、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、位置に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする
8	11/9 11/10	何時ですか（1）	後期中間試験 1. 時間に関する表現 2. 代名動詞
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に回答することができる。友人を誘うやり取りで質問し、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時間に関する語彙の発音の確認を行う（1）。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする
9	11/16 11/17	何時ですか（2）	前期中間テストの解説 1. 命令法
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、日常生活の行動を時間を入れて質問し、答えることができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時間に関する語彙の発音の確認を行う（2）。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
10	11/23 11/24	おごってくれるの？（1）	1. 人称代名詞（1）
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、活動を提案し、誘いを受ける（断る）ことができる（1）
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、提案に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
11	11/30 12/1	おごってくれるの？（2）	1. 人称代名詞（2） 2. 天候表現
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、活動を提案し、誘いを受ける（断る）ことができる（1）
		事前学修	天候表現に関して、発音を確認しておく。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする
12	12/7 12/8	面白そう（1）	1. 疑問代名詞（11課）（1） 2. 関係代名詞 qui と que
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、人物を描写することができる
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、サプライズに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	面白そう（2）	1. 疑問代名詞（11課）（2） 2. その他の関係代名詞	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、印章や気持ちを言うことができる（1）	
		事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、様子に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	12/21 12/22	面白そう（3）	1. 強調構文 2. ジェロンディフ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、印章や気持ちを言うことができる（2）	
		事前学修	宿題を行う	30分
		事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。期末試験の準備をする	30分
15	1/18 1/12	後期の総括	後期末試験とまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期末試験に解答することができる	
		事前学修	後期末試験の準備をする	180分
		事後学修	ポータルで公表された正解を確認し、後期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ぜんぶ話して！	レナ・ジュンタ清岡 智比古	白水社	2015年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	日常生活で用いる基礎表現	食事について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課前半の予習。	30分
		事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
2	9/22	日常生活で用いる基礎表現	頻度を表現する。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課後半の予習。	30分
		事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
3	9/29	日常生活で用いる基礎表現	よく行く場所について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	9 課前半の予習。	30分
		事後学修	9 課前半の単語を覚える。	30分
4	10/6	日常生活で用いる基礎表現	移動手段について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	9 課後半の予習。	30分
		事後学修	9 課後半の単語を覚える。	30分
5	10/13	日常生活で用いる基礎表現	習慣についてたずね、代名詞を使って答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 0 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 0 課前半の単語を覚える。	30分
6	10/20	日常生活で用いる基礎表現	代名動詞を使って習慣について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 0 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 0 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 27	日常生活で用いる基礎表現	生活時間についてたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
8	11/ 10	日常生活で用いる基礎表現	計画についてたずね、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課後半の単語を覚える。	30分
9	11/ 17	日常生活で用いる基礎表現	行きたい場所についてたずね、その土地の天候について話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課前半の単語を覚える。	30分
10	11/ 24	日常生活で用いる基礎表現	アドバイスを求める/与える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分
11	12/1	日常生活で用いる基礎表現	過去の出来事について質問し、それに答える。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 3 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課前半の単語を覚える。	30分
12	12/8	日常生活で用いる基礎表現	過去の表現を使って、一日の出来事・週末・ヴァカンスについて話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 3 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 15	日常生活で用いる基礎表現	代名詞を使って、過去の事柄を話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 4 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 4 課前半の単語を覚える。	30分
14	12/ 22	日常生活で用いる基礎表現	話を組み立てて、一日の行動を話す。	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 4 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 4 課後半の単語を覚える。	30分
15	1/12	後期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二	白水社	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業前後に声を掛けてください。木曜日12:50～13:00 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	前期の復習	ガイダンス まとめの練習問題	
		この回の到達目標	前期に学んだことを復習し、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	5課から8課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
2	第一部 木9/24	冠詞の変形と女性形容詞	家族を語る：否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形	
		この回の到達目標	否定文で変化する冠詞や特殊な女性形容詞を使って会話出来るようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	形容詞の女性形をまとめてみましょう。	30分
3	第一部 木10/1	数字と疑問副詞	年齢を言う：数字（1～30）・疑問副詞	
		この回の到達目標	数字や疑問副詞を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください	30分
		事後学修	数字を30まで暗記しましょう。	30分
4	第一部 木10/8	時刻の表現	時刻を言う：時刻の言い方・時の前置詞	
		この回の到達目標	時刻の表現を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	様々な時刻をフランス語で言う練習をしてみましょう。	30分
5	第一部 木10/15	9課から11課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	9課から11課までで学んだ事項を使って、会話出来るようになる①②③④	
		事前学修	9課から11課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
6	第一部 木10/22	人称代名詞と指示代名詞	紹介する：補語人称代名詞・指示代名詞	
		この回の到達目標	人称代名詞と指示代名詞を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	補語人称代名詞の変化を覚えましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	代名動詞と近接未来・過去	日常生活の表現：代名動詞・近接未来と近接過去	
		この回の到達目標	代名動詞や近接未来・過去を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	近接未来と近接過去の文を作ってみましょう。	30分
8	第一部 木11/5	部分冠詞と中性代名詞en	量を表す：部分冠詞・中性代名詞 en	
		この回の到達目標	部分冠詞を使う名詞や、中性代名詞enを使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	部分冠詞を覚えましょう。	30分
9	第一部 木11/12	命令形、中性代名詞y	天候を言う：命令形・中性代名詞 y・天候の表現	
		この回の到達目標	命令形や中性代名詞yを使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	命令形の文を作ってみましょう。	30分
10	第一部 木11/19	1 2 課から 1 5 課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	1 2 課から 1 5 課までで学んだ事項を使って、簡単な会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	1 2 課から 1 5 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
11	第一部 木12/3	比較級と指示代名詞	比較する：比較級・指示代名詞	
		この回の到達目標	比較表現や指示代名詞を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	比較級の文を作ってみましょう。	30分
12	第一部 木12/10	複合過去形	過去のことを語る：複合過去形	
		この回の到達目標	過去形を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	複合過去形の文を作ってみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	単純未来形	未来のことを語る：単純未来形	
		この回の到達目標	未来形を使った会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。	30分
		事後学修	単純未来形の文を作ってみましょう。	30分
14	第一部 木12/24	1 6 課から 1 8 課までの復習	まとめの練習問題	
		この回の到達目標	1 6 課から 1 8 課までで学んだ事項を使って、会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	1 6 課から 1 8 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
		事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	第一部 木1/14	後期のまとめとテスト	後期のまとめ・期末テスト	
		この回の到達目標	後期で学んだ事項を使って、会話ができるようになる①②③④	
		事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
		事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Aより引き続き履修することが望ましい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水 9/16	6課までの復習 7課 時刻表現	1～6課の復習をする。7課の時刻表現を学ぶ。それによって受講生は時刻表現の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時刻を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	7課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
2	第二部水 9/23	7課 非人称構文	さまざまな非人称構文を学ぶ。それによって受講生は時刻や天候を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、非人称構文を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
3	第二部水 9/30	8課 近接未来・近接過去	近接未来や近接過去の表現を学ぶ。それによって受講生は未来の予定や、最近したことについて説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近接未来・近接過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	8課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
4	第二部水 10/7	8課 中性代名詞 y	中性代名詞 y の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を正しく理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 y を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
5	第二部水 10/14	9課 比較級・最上級	比較級・最上級表現を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比較級・最上級を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	9課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
6	第二部水 10/21	9課 指示代名詞	指示代名詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は指示代名詞を用いた比較表現などを理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指示代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水 10/28	10課 目的語人称代名詞	目的語人称代名詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は目的語人称代名詞を含む表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、目的語人称代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	10課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
8	第二部水 11/11	10課 疑問代名詞	疑問代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は人を尋ねる表現を習得することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
9	第二部水 11/18	10課 フランス映画	フランス映画を見て単語や表現を聞き取る練習をする。それによって受講生は映画中に使用されている表現を理解し、確認することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、映画中に含まれる表現を聞き取って理解できるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	フランス映画について授業内容を参考にまとめる。	30分
10	第二部水 11/25	11課 代名動詞	代名動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は日常生活について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代名動詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	11課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分
11	第二部水 12/2	11課 命令形	命令形の形と用法を学ぶ。それによって受講生は他人に命令したりお願いをしたりできるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、命令形を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
12	第二部水 12/9	12課 複合過去（1）	助動詞 avoir を用いた複合過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	12課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 12/16	12課 複合過去（2）	助動詞 être を用いた複合過去の用法を学ぶ。それによって受講生は適切な過去表現ができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
		事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。	30分
14	第二部水 12/23	13課 単純未来	単純未来の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことが説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、単純未来を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	13課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
		事後学修	これまでの授業内容を整理し、全体を復習する。	30分
15	第二部水 1/13	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、返却・解説する。少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『やさしいサリュ（改訂版）』	田辺保子等	駿河台出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	水 9／16 金 9／18	オリエンテーション 第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。		授業の説明、第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。		
2	水 9／23 金 9／25	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。		第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。	
		この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
3	水 9／30 金 10／2	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。		第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。	
		この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「faireの慣用表現、家事」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
4	水 10／7 金 10／9	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去		第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去	
		この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「近接未来、近接過去」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
5	水 10／14 金 10／16	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分		第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分	
		この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		
6	水 10／21 金 10／23	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。		第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。	
		この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「代名動詞、指示形容詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。		
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。		
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水 1 0 / 2 8 金 1 0 / 3 0	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。	
		この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「非人称 (il fait)、se lever、時の表現」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、後期中間試験の準備をする。	120分
8	水 1 1 / 1 1 金 1 1 / 6	後期中間試験 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約(de)。	後期中間試験 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約(de)。	
		この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約(de)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	後期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	水 1 1 / 1 8 金 1 1 / 1 3	後期中間試験解説 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞（場所）、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。	後期中間試験解説 第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞（場所）、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。	
		この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「命令形、前置詞（場所）、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	水 1 1 / 2 5 金 1 1 / 2 0	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。複合過去（avoir）、様々な否定表現（１）。	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。複合過去（avoir）、様々な否定表現（１）。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（１）、否定表現（１）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去（avoir）、様々な否定表現（１）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	水 1 2 / 2 金 1 1 / 7	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。中性代名詞（en）、趣味、通信。	第十一課：過去のことを語る（１）、否定表現（１）。中性代名詞（en）、趣味、通信。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（１）、否定表現（１）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞（en）、趣味、通信」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	水 1 2 / 9 金 1 2 / 4	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。複合過去（être）、様々な否定表現（２）。	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。複合過去（être）、様々な否定表現（２）。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（２）、否定表現（２）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去（être）、様々な否定表現（２）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水 1 2 / 1 6 金 1 2 / 1 1	第十二課：過去のことを語る（2）、否定表現（2）。中性代名詞（y）。	第十二課：過去のことを語る（2）、否定表現（2）。中性代名詞（y）。	
		この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（2）、否定表現（2）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞（y）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、後期期末試験の準備をする。	120分
14	水 1 2 / 2 3 金 1 2 / 1 8	後期期末試験 第七課から第九課の振り返り。	後期期末試験の実施 第七課から第九課の振り返り。	
		この回の到達目標	第七課から第九課に学修した事項を理解し、説明することができる。またこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	後期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	水 1 / 1 3 金 1 2 / 2 5	後期期末試験解説 第十課から第十二課の振り返り。	後期期末試験の返却と解説 第十課から第十二課の振り返り。	
		この回の到達目標	第十課から第十二課に学修した事項を理解し、説明することができる。また同様にこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、後期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 例文を練習し 4. 問題練習を行います。 5. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プチポワゾン	金子美都子、他	白水社	最新版	教科書	必携
備考	教科書に練習帳がついています。授業で毎週使うので、必ず持ってきてください。				

【オフィスアワー】
土曜日 12：10～ 授業終了後、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	L. 7 不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞	L. 7 不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・疑問形容詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
2	9月26日	L. 7 練習問題	L. 7 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
3	10月3日	L. 8 非人称構文	L. 8 非人称構文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 非人称構文を理解する。	
		事前学修	非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	10月10日	L. 8 練習問題	L. 8 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	10月17日	L. 9 不規則動詞・部分冠詞・数量表現	L. 9 不規則動詞・部分冠詞・数量表現を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 不規則動詞・部分冠詞・数量表現を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・部分冠詞・数量表現について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・部分冠詞・数量表現について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	10月24日	L. 9 練習問題	L. 9 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月31日	L. 10 不規則動詞・命令形	L. 10 不規則動詞・命令形を説明する。
		この回の到達目標	L. 10 不規則動詞・命令形を理解する。
		事前学修	不規則動詞・命令形について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・命令形について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
8	11月7日	L. 10 練習問題	L. 10 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 10 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
9	11月14日	L. 11 不規則動詞・目的語人称代名詞	L. 11 不規則動詞・目的語人称代名詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 11 不規則動詞・目的語人称代名詞を理解する。
		事前学修	不規則動詞・目的語人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・目的語人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
10	11月21日	L. 11 練習問題	L. 11 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 11 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
11	11月28日	L. 12 不規則動詞・中性代名詞	L. 12 不規則動詞・中性代名詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 12 不規則動詞・中性代名詞を理解する。
		事前学修	不規則動詞・中性代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	不規則動詞・中性代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
12	12月5日	L. 12 練習問題	L. 12 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 12 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	L. 13 不規則動詞・比較級・最上級	L. 13 不規則動詞・比較級・最上級を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 不規則動詞・比較級・最上級を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	12月19日	L. 13 練習問題	L. 13 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	12月26日	後期のまとめと授業内試験	授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	L. 7～L. 13 まで理解する。	
		事前学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話・反復してもらいます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験答案返却時に解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー 1 トリコロール 文法編	高橋信良 他	朝日出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/7 4/8	ガイダンス・導入講義	。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 フランス語の特徴を理解し、音とつづりを一致させることができる。
		事前学修	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。
		事後学修	指定教材フランス語ブルー1に目を通しておいってください。
2	4/14 4/15	Leçon0: フランス語の綴り・発音	フランス語の音声・綴りに馴染む。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	0課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
3	4/21 4/22	Leçon1: 主語人称代名詞	Leçon1: 主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマン。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマンを理解し練習問題を解ける。
		事前学修	1課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
4	4/28 4/29	Leçon2: 動詞avoir	動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオン。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオンを理解し練習問題を解ける。
		事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
5	5/5 5/6	Leçon3: 形容詞	C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞を理解し練習問題を解ける。
		事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
6	5/12 5/13	Leçon4: 第一群規則動詞	第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文を理解し練習問題を解ける。
		事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 5/20	Leçon 5: 動詞aller, venir	動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	5/26 5/27	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
		事前学修	0, 1, 2, 3, 4, 5課の復習。	30分
		事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	6/2 6/3	Leçon 6: 動詞faire	動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	6/9 6/10	Leçon 7: 第二群規則動詞	第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	6/16 6/17	Leçon 8: 直接法複合過去	直接法複合過去、補語人称代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直接法複合過去、補語人称代名詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	6/23 6/24	Leçon9: 語幹の特殊変化 préférer	語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/1	Leçon 10: 動詞pouvoir, vouloir	動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	7/7 7/8	Leçon11: 比較級、最上級	形容詞の比較級、最上級の作り方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、比較級、最上級を理解し練習問題を解ける。	
		事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	7/14 7/15	期末テスト、採点、解説、まとめ。	期末テスト、採点、解説、まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
		事前学修	後半6, 7, 8, 9, 10, 11課の復習。	30分
		事後学修	採点で間違えた事項の復習。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15:00~16:00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 （メールによる問い合わせ・相談も受け付けます：eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/10	オリエンテーション・導入講義	授業の説明およびフランス語の挨拶と綴り字の読み方（1）
		この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. フランス語の挨拶(1)の部分の挨拶ができる 3. 発音と綴り字の読み方(1)の部分を正確に発音できる(達成目標①③に関連する)
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。(30分)
		事後学修	授業で学んだ事項（フランス語の挨拶と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。(30分)
2	4/17	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(2) 2. 発音と綴り字の読み方(2) 2. フランス語の名詞/不定冠詞（第1課）(達成目標①②③に関連する)
		この回の到達目標	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）
		事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする
3	4/24	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)
		この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)
		事前学修	1. フランス語の挨拶(3)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(3)の部分を正確に発音できる 3. 形容詞(第1課)を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）
		事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と形容詞の変化、être動詞を整理して、小テストの準備をする
4	5/1	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(4) 2. 発音と綴り字の読み方(4) 3. 主語となる代名詞と動詞 être/提示の表現
		この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(4)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(4)の部分を正確に発音できる 3. 主語の特徴を理解し、être 動詞を正確に活用できる④提示の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	フランス語の主語を英語の主語と比較して考察する。さらに英語のbe動詞と être動詞の活用を比較する
		事後学修	フランス語の主語とêtre動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える
5	5/8	文法、訳、文化	1. 発音と綴り字の読み方(5) 2. 第1課の本文/文化面 3. 定冠詞/動詞 avoir（第2課）
		この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(5)の部分を正確に発音できる 2. 第1課の本文を訳すことができる 3. 文化面の内容を理解し、説明できる 4. 定冠詞を理解し、運用できる 5. 動詞 avoir（第2課）を活用できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	第1課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語とフランス語の定冠詞の違いについて確認する。英語のhave動詞とavoir動詞の活用の差について確認する。
		事後学修	第1課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。
6	5/15	文法、訳、文化	1. voici・voilà/形容詞の位置（第2課） 2. 数詞 3. 第2課の本文/文化面
		この回の到達目標	1. voici・voilàを運用できる 2. 形容詞の位置（第2課）を覚え、運用できる 3. 数詞を30までいうことができる 4. 第2課の本文を訳すことができる 5. 文化面の内容を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）
		事前学修	教科書を見て、英語とフランス語における形容詞の位置の違いを確認する。第2課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる
		事後学修	第2課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	文法、訳、文化	1. 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課） 2. 曜日と月(1)（第3課） 3. 第3課の文化面	
		この回の到達目標	1. 第一群規則動詞を運用できる2. 疑問文（第3課）を作ることができる2. 曜日と月(1)（第3課）を聞き取りできる 3. 第3課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	教科書を見て、フランス語の第一群規則動詞とは何か確認する。3種の疑問文について、それぞれどのように異なるのか確認する。第3課の文化面の質問を調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
8	5/29	文法、訳、文化	1. 疑問形容詞（第3課） 2. 第3課の本文 3. 曜日と月(2)（第3課）	
		この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の聞き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第3課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。フランス語疑問形容詞を英語whatと比較して、その特徴を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
9	6/5	文法、訳、文化	前期中間試験（第1回～7回までの内容） 1. 動詞 faireの活用（第4課） 2. 所有形容詞	
		この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の聞き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする	120分
		事後学修	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。（30分）	30分
10	6/12	文法、訳、文化	中間試験テストの解説 1. 所有形容詞(2)と時間表現（第4課） 2. 第4課の文化面	
		この回の到達目標	1. 中間試験テストの解説を聞いて、間違った部分を理解できる 2. 時間表現（第4課）を正しく運用できる 3. 第4課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前回到学んだ所有形容詞の復習をする。文化面の質問について調べる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
11	6/19	文法、訳、文化	1. 第4課の本文 2. Il y a...（第5課） 3. 中性代名詞 y	
		この回の到達目標	1. 第4課の本文を訳すことができる 2. Il y a...（第5課）を理解し、運用できる 3. 中性代名詞yを理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第4課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
12	6/26	文法、訳、文化	1. 指示形容詞（第5課） 2. 位置を示す表現（第5課） 3. 第5課の文化面	
		この回の到達目標	1. 指示形容詞（第5課）を理解し、運用できる 2. 位置を示す表現（第5課）を理解し、運用できる 3. 第5課の文化面（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	フランス語の指示形容詞は、英語では何に相当するか調べる。位置を示す表現の綴り字の読み方を確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	文法、訳、文化	1. 疑問詞quiとque（1）（第5課） 2. 中性代名詞 y 3. 第5課の本文	
		この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（1）（第5課）を理解し、運用できる 2. 中性代名詞 y を理解し、運用できる 3. 第5課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第5課の本文の意味を調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
14	7/10	文法、訳、文化	1. 疑問詞quiとque（2）（第5課） 2. 前期文法項目の再確認	
		この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（2）（第5課）を理解し、運用できる 2. 前期文法項目を再確認する中で、それを改めて理解し、運用できるようにする（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前期後半に学んだ文法事項の内容を再確認しておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、期末試験の準備をする	30分
15	7/17	文法、訳、文化	前期期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ	
		この回の到達目標	前期後半に学んだ文法、訳について理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前期末試験の準備をする。	180分
		事後学修	ポータルで公表された前期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。 授業内試験については、添削して返却することで対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
		この回の到達目標	到達目標③に関する準備を行う。	
		事前学修	アルファベットの音声をCDで聞く。	30分
		事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	4/14	名詞に関する基礎文法	名詞と冠詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①③を達成する。	
		事前学修	1課の予習。	30分
		事後学修	1課の単語を覚える。	30分
3	4/21	動詞に関する基礎文法	主語代名詞と動詞「～である」の活用の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	2課前半の予習。	30分
		事後学修	2課前半の単語を覚える。	30分
4	4/28	動詞に関する基礎文法	動詞「～をもつ」の活用の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する	
		事前学修	2課後半の予習。	30分
		事後学修	2課後半の単語を覚える。	30分
5	5/5	否定文などに関する基礎文法	否定文の作り方と形容詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	3課の予習。	30分
		事後学修	3課の単語を覚える。	30分
6	5/12	動詞に関する基礎文法	規則動詞の活用の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	4課前半の予習。	30分
		事後学修	4課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	疑問文に関する基礎文法	疑問文の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	4 課後半の予習。	30分
		事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
8	5/26	形容詞に関する基礎文法	指示形容詞と所有形容詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	5 課の予習。	30分
		事後学修	5 課の単語を覚える。	30分
9	6/2	未来と過去の表現に関する基礎文法	近い未来と近い過去の言い方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	6 課の予習。	30分
		事後学修	6 課の単語を覚える。	30分
10	6/9	疑問詞に関する基礎文法	疑問代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	7 課前半の予習。	30分
		事後学修	7 課前半の単語を覚える。	30分
11	6/16	疑問詞に関する基礎文法	疑問副詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	7 課後半の予習。	30分
		事後学修	7 課後半の単語を覚える。	30分
12	6/23	比較級などに関する基礎文法	比較級と最上級の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	8 課の予習。	30分
		事後学修	8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	命令文などに関する基礎文法	命令文と非人称構文の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関し到達目標で①②③を達成する。	
		事前学修	9 課の予習。	30分
		事後学修	9 課の単語を覚える。	30分
14	7/7	目的語に関する基礎文法	直接目的と間接目的の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 0 課の予習。	30分
		事後学修	1 0 課の単語を覚える。	30分
15	7/14	前期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回小テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。履修人数によってアクティヴ・ラーニングを採用する。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・フランス語文法の〈基礎〉	太田浩一、前田保、渡辺仁	駿河台出版	2018	教科書	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンスとフランス語を勉強することの意義	ガイダンス、授業の方法、参考書、成績評価の方法などの説明。日本でフランス語を学ぶことの意義と目的について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、授業に必要な辞書や心構え、そして日本の大学でフランス語を勉強することの意義と目的を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、日本でフランス語を勉強する意義と目的、および日本で使われているフランス語を考えてリストアップしておく。	60分
		事後学修	小テストの準備、文法該当箇所の復習	60分
2	第一部木 4/16	発音、アルファベ、基礎知識	発音、アルファベ、基礎知識を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、発音、アルファベ、基礎知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	辞書で発音、アルファベ、基礎知識にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	発音、アルファベ、基礎知識の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 4/23	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 4/30	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 1・être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 5/7	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 5/14	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 2・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 5/28	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 3・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 6/4	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 6/11	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 4・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 6/18	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 6/25	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 5・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 7/9	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 6・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 7/16	春学期総復習試験	春学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、今まで学習してきた文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートを整理し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	春学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4／6	オリエンテーション，導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方（１）、フランス語の挨拶	
		この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. アルファベ、綴り字の読み方（１）を正確に発音できる、3、フランス語の挨拶ができる(達成目標①③に関連する)	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	4／13	第一課：名詞の性、名詞の数、主語の代名詞。	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞	
		この回の到達目標	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	4／20	第一課：動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	
		この回の到達目標	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	4／27	第二課：er動詞の直説法現在形、冠詞	er動詞の直説法現在形、冠詞	
		この回の到達目標	er動詞の直説法現在形、冠詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	5／4	第二課：形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	
		この回の到達目標	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	5／11	第三課：avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	
		この回の到達目標	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5／18	第三課：代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	
		この回の到達目標	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	5／25	前期中間試験 第四課：所有形容詞	前期中間試験の実施 第四課：所有形容詞	
		この回の到達目標	所有形容詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	6／1	中間試験解説 第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	前期中間試験の返却と解説 第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	
		この回の到達目標	不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	6／8	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	
		この回の到達目標	部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	6／15	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、on	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞on	
		この回の到達目標	指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞onについて、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	6／22	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	
		この回の到達目標	疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6 / 2 9	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	
		この回の到達目標	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	7 / 6	前期期末試験 第七課：形容詞（2）	前期期末試験の実施 第七課：形容詞（2）	
		この回の到達目標	形容詞（2）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	7 / 1 3	前期期末試験解説 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	前期期末試験の返却と解説 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	
		この回の到達目標	savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910 研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4／9	オリエンテーション，導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方（１）、フランス語の挨拶	
		この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. アルファベ、綴り字の読み方（１）を正確に発音できる、3、フランス語の挨拶ができる(達成目標①③に関連する)	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	4／16	第一課：名詞の性、名詞の数、主語の代名詞。	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞	
		この回の到達目標	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	4／23	第一課：動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	
		この回の到達目標	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	4／30	第二課：er動詞の直説法現在形、冠詞	er動詞の直説法現在形、冠詞	
		この回の到達目標	er動詞の直説法現在形、冠詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	5／7	第二課：形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	
		この回の到達目標	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	5／14	第三課：avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	
		この回の到達目標	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5 / 2 1	第三課：代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	
		この回の到達目標	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	5 / 2 8	前期中間試験 第四課：所有形容詞	前期中間試験の実施 第四課：所有形容詞	
		この回の到達目標	所有形容詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	6 / 4	中間試験解説 第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	前期中間試験の返却と解説 第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	
		この回の到達目標	不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	6 / 1 1	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	
		この回の到達目標	部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	6 / 1 8	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、on	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞on	
		この回の到達目標	指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞onについて、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	6 / 2 5	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	
		この回の到達目標	疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7 / 2	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	
		この回の到達目標	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	7 / 9	前期期末試験 第七課：形容詞（2）	前期期末試験の実施 第七課：形容詞（2）	
		この回の到達目標	形容詞（2）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	7 / 1 6	前期期末試験解説 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	前期期末試験の返却と解説 第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	
		この回の到達目標	savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ	斎藤昌三	白水社	最新版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日 10：30～ 授業終了後、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月4日	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方を説明する。
		この回の到達目標	授業の進め方を理解する。
		事前学修	シラバスを読み、授業の進め方を理解する。30分
		事後学修	教科書と辞書を用意し、授業の進め方を理解する。30分
2	4月11日	発音	発音を説明し、練習する。
		この回の到達目標	発音を理解し、できるようにする。
		事前学修	音声をダウンロードし、発音を練習する。30分
		事後学修	音声を聞きながら、発音を練習する。30分
3	4月18日	L1 名詞・不定冠詞・部分冠詞	名詞・不定冠詞・部分冠詞を説明する。
		この回の到達目標	名詞・不定冠詞・部分冠詞を理解する。
		事前学修	1. L1について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L1について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。30分
		事後学修	1. L1について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L1について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L1について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。30分
4	4月25日	L1 練習問題	練習問題を行う。
		この回の到達目標	練習問題を理解する。
		事前学修	L1 練習問題をできるだけ解いてみる。30分
		事後学修	1. L1 練習問題を理解する。 2. L1 練習問題について、教科書を声を出して読む。30分
5	5月2日	L2 定冠詞・慣用句	定冠詞・慣用句を説明する。
		この回の到達目標	定冠詞・慣用句を理解する。
		事前学修	1. L2について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L2について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。30分
		事後学修	1. L2について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L2について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L2について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。30分
6	5月9日	L2 練習問題	練習問題を行う。
		この回の到達目標	練習問題を理解する。
		事前学修	L2 練習問題をできるだけ解いてみる。30分
		事後学修	1. L2 練習問題を理解する。 2. L2 練習問題について、教科書を声を出して読む。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	L3 主語人称代名詞・規則動詞	主語人称代名詞・規則動詞を説明する。	
		この回の到達目標	主語人称代名詞・規則動詞を理解する。	
		事前学修	1. L3について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L3について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	1. L3について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L3について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L3について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
8	5月23日	L3 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	L3 練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. L3 練習問題を理解する。 2. L3 練習問題について、教科書を声を出して読む。	30分
9	5月30日	L4 不規則動詞・否定形	不規則動詞・否定形を説明する。	
		この回の到達目標	不規則動詞・否定形を理解する。	
		事前学修	1. L4について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L4について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	1. L4について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L4について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L4について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
10	6月6日	L4 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	L4 練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. L4 練習問題を理解する。 2. L4 練習問題について、教科書を声を出して読む。	30分
11	6月13日	L5 形容詞	形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	形容詞を理解する。	
		事前学修	1. L5について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L5について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	1. L5について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L5について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L5について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
12	6月20日	L5 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	L5 練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. L5 練習問題を理解する。 2. L5 練習問題について、教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	L6 不規則動詞・疑問形容詞	不規則動詞・疑問形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	不規則動詞・疑問形容詞を理解する。	
		事前学修	1. L6について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L6について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	1. L6について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L6について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L6について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	7月4日	L6 練習問題	練習問題を行う。	
		この回の到達目標	練習問題を理解する。	
		事前学修	L6 練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. L6 練習問題を理解する。 2. L6 練習問題について、教科書を声を出して読む。	30分
15	7月11日	前期のまとめ（授業内試験）	前期のまとめをし、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	前期の授業内容を理解する。	
		事前学修	1. L1～L6について、音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. L1～L6について、辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	1. L1～L6について、音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. L1～L6について、辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. L1～L6について、文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Bと続けて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、CD等で発音を確認しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な発音ができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 アルファベの読みを暗記する。	30分
2	第一部水 4/15	フランス語の文字と発音	フランス語の発音規則を学ぶ。それによって受講生は基礎的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的な母音と子音の発音ができるようになる。	
		事前学修	教科書7～8ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	CD等を活用し、発音練習をする。	30分
3	第一部水 4/22	フランス語の読み方の規則	フランス語の発音の規則や特徴的な語群の読み方を学ぶ。それによって受講生は基本的な語群の読みができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、フランス語に特有のつづり字と発音の関係を理解し、発音できるようになる。	
		事前学修	教科書8～9ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	CD等を活用し、教科書の単語の読みを練習する。	30分
4	第一部水 4/29	1課 名詞と冠詞	男性名詞と女性名詞、名詞につく冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は名詞および冠詞の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、名詞と冠詞についての文法規則を理解し、説明できるようになる。単語の発音ができるようになる。	
		事前学修	教科書10～11ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、1課の練習問題を解く。	30分
5	第一部水 5/6	1課の復習 2課 être動詞	1課の内容を復習し、名詞と冠詞の用法を確認する。また、être動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生はêtre動詞を用いた文を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、être動詞を使った文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書14ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	être動詞の活用を暗記し、CDを利用して発音練習する。	30分
6	第一部水 5/13	2課 avoir、提示表現	動詞avoirの活用と用法、さまざまな提示表現を学ぶ。それによって受講生は自分の持ち物や周囲のものについてフランス語で表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、avoirや提示表現を含む文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書15～17ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	avoirの活用を暗記し、CDを利用して発音練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	3課 否定文 形容詞	否定文の作り方と、形容詞の用法について学ぶ。それによって受講生は否定文と形容詞を用いた表現を理解することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、否定文や形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書18～19ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、CD等を活用して発音練習する。	30分
8	第一部水 5/27	3課の復習 4課 er動詞	3課の練習問題で文法の確認をする。第1群規則動詞の活用を学ぶ。それによって受講生はさまざまな動作を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いろいろな動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書20～21ページの練習問題を解く。22ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	第1群規則動詞の活用を暗記し、CD等を活用して発音練習する。	30分
9	第一部水 6/3	4課 疑問文	疑問文の作り方を学ぶ。それによって受講生は他者に質問をすることができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書23ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、24ページの練習問題を解く。	30分
10	第一部水 6/10	5課 指示形容詞・疑問形容詞	指示形容詞と疑問形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生はこれらの形容詞を用いた表現が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示形容詞や疑問形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書26ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、指示形容詞・疑問形容詞の形と用法を発音とともに暗記する。	30分
11	第一部水 6/17	5課 所有形容詞 6課 aller, venir	所有形容詞の形と用法、aller, venirの活用と用法を学ぶ。それによって受講生は所有物について説明したり、近い未来や過去の表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有形容詞を用いた文や、近接未来・近接過去を表現する文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書27～30ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、教科書28～29ページの練習問題を解く。	30分
12	第一部水 6/24	6課 前置詞と定冠詞の縮約	前置詞と定冠詞の縮約を学ぶ。それによって受講生は男性名詞・複数名詞の前につく前置詞と定冠詞の縮約について理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞と定冠詞の縮約が含まれる文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書31ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、32ページの練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	7課 finir, partirの活用	第2群規則動詞や不規則活用動詞の活用を学ぶ。それによって受講生はこれらの動詞を用いた文が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2群規則動詞や不規則活用動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書34～35ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、36～37ページの練習問題を解く。finirの活用を暗記する。	30分
14	第一部 水7/8	7課 疑問代名詞・疑問副詞	疑問代名詞や疑問副詞を学ぶ。それによって受講生は疑問詞を用いた表現を正しく理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書36～37ページの練習問題を解いておく。	30分
		事後学修	授業内容を整理し、疑問点を確認する。	30分
15	第一部 水7/15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、繰り返し発話してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点答案返却の後で解説・質問受付をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー 2 トリコロール 文法編	高橋信良 他	朝日出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/15 9/16	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、授業の方針・進め方を理解することができる。
		事前学修	前期教科書のフランス語ブルー1の復習をして、指定教材フランス語ブルー2とポケット版ではない学習辞書を用意してください。(30分)
		事後学修	指定教材フランス語ブルー2に目を通しておいってください。(30分)
2	9/22 9/23	Leçon1:動詞 connaître, savoir、	動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leの用法。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leを理解し練習問題を解けることができる。
		事前学修	1課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
3	9/29 9/30	Leçon2:動詞mettreと prendre	動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法の用法。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
4	10/6 10/7	Leçon3:動詞devoirと rendre	動詞devoirとrendre、非人称代名詞の用法。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞devoirとrendre、非人称代名詞を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
5	10/13 10/14	Leçon4:動詞direと écrire	動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフの用法。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフを理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。
6	10/20 10/21	Leçon5:動詞croireと voir	動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞の用法。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/28	Leçon 6:直説法大過去	直説法大過去、補語人称代名詞の語順。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法大過去、補語人称代名詞の語順を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	11/10 11/11	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの範囲の文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	1, 2, 3, 4, 5, 6課の復習。	30分
		事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	11/17 11/18	Leçon 7:直説法単純未来	直説法単純未来、直説法前未来の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法単純未来、直説法前未来を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	11/25 11/26	Leçon 8:関係代名詞lequel	関係代名詞lequel、接続詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、関係代名詞lequel、接続詞を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	12/1 12/2	Leçon 9:条件法	条件法現在、条件法過去の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、条件法現在、条件法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	12/8 12/9	Leçon10:間接話法	間接話法、感嘆文の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、間接話法、感嘆文を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/16	Leçon 11:接続法現在	接続法現在の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法現在を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	12/22 12/23	Leçon12:接続法過去	接続法過去の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	12課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	1/12 1/13	期末テスト、採点、解説、まとめ。	期末テスト、採点、解説、まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	後半7, 8, 9, 10, 11, 12課の復習。	30分
		事後学修	採点で間違えた事項の復習。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
日時：月曜日15:00~16:00 場所：研究室 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 （メールによる問い合わせ・相談も受け付けます：eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	文法、訳、文化	1. 動詞 aller/近接未来（第6課） 2. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)の答え合わせ（pp. 34-37）	
		この回の到達目標	1. 動詞 aller/近接未来（第6課）を理解し、運用できる 2. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)に解答できる（pp. 34-37）（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	15回目に課した課題に解答する。後期から受講する場合は、今週に渡した課題に解答して2週間後に持参すること	120分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
2	9/25	文法、訳、文化	1. 動詞 venir/近接過去（第6課） 2. 疑問副詞（第6課） 3. 第6課の文化面	
		この回の到達目標	1. 動詞 venir/近接過去（第6課）を理解し、運用できる 2. 疑問副詞（第6課）の意味を把握し、聞き取りできる 3. 第6課の文化面の内容を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	動詞venirの活用表を見て、活用の特徴と読み方を確認する。フランス語の疑問副詞の綴り字の読み方を確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
3	10/2	文法、訳、文化	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 2. 第6課の本文	
		この回の到達目標	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 を理解し、運用できる 2. 第6課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前置詞 à, deの意味を辞書で調べておく。定冠詞の復習をしておく。第6課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
4	10/9	文法、訳、文化	1. 部分冠詞/動詞 pouvoir（第7課） 2. 数詞(1)（第7課） 3. 第7課の文化面	
		この回の到達目標	1. 部分冠詞とは何か理解し、運用できる 2. 動詞 pouvoir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(1)（第7課）の聞き取りができる 4. 第7課の文化面の内容を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	フランス語の部分冠詞とは何か、確認しておく。動詞pouvoirの活用の読み方を確認する。第7課の文化面の質問について調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
5	10/16	文法、訳、文化	1. 比較級・最上級/動詞 vouloir（第7課） 2. 数詞(2)（第7課） 3. 第7課の本文	
		この回の到達目標	1. 比較級・最上級を理解し、運用できる 2. 動詞 vouloir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(2)（第7課）を聞き取ることができる 4. 第7課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	動詞vouloirの活用の読み方を確認する。前回に学んだ数詞の復習をする。第7課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
6	10/23	文法、訳、文化	1. 目的補語人称代名詞（水）（1）（第8課） 2. 天気に関する表現（第8課） 3. 第8課の文化面	
		この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞（1）（第8課）を理解し、運用できる 2. 天気に関する表現（第8課）を聞き取ることができる 3. 第8課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	目的補語人称代名詞とは何か、英語の知識を利用して調べておく。動詞faireの復習をしておく。第8課の文化面の質問について調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習すして、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	文法、訳、文化	1. 目的補語主語人称代名詞（2）（第8課） 2. 複合過去（1）（第8課） 3. 第8課の本文	
		この回の到達目標	1. 目的補語主語人称代名詞（2）（第8課）を理解し、運用できる 2. 複合過去（1）（第8課）を理解し、運用できる 3. 第8課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前回学んだ目的補語人称代名詞の復習をする。第8課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
8	11/6	文法、訳、文化	後期中間試験（第16回～22回までの内容） 1. 複合過去（2）（第8課） 2. 否定文の表現	
		この回の到達目標	1. 後期中間試験（第15回～22回までの内容）を理解し、正解できる 2. 複合過去（2）（第8課）を理解し、運用できる 3. 否定文の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	後期中間試験の準備をする	180分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
9	11/13	文法、訳、文化	後記中間テストの解説 1. 代名動詞（直説法現在）（1）（第9課） 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）	
		この回の到達目標	1. 後記中間テストの解説 を聞き、自分の不正解の部分を理解できる 2. 代名動詞（直説法現在（第9課））を理解し、運用できる 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）の用法を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
10	11/20	文法、訳、文化	1. 代名動詞（2）/命令法（第9課） 2. 第10課の文化面	
		この回の到達目標	1. 代名動詞（2）を理解し、運用できる 2. 命令法（第9課）を理解し、運用できる 3. 第10課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	前回学んだ代名動詞の代名詞部分と複合過去（直説法）の êtreを助動詞にとるかたちを復習しておく。第10課の文化面の質問を調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
11	11/27	文法、訳、文化	1. ジェロンディフ（第9課） 2. 半過去（直説法）（第10課） 3. 第10課の本文	
		この回の到達目標	1. ジェロンディフ（第9課）を理解し、運用できる 2. 半過去（直説法）（第10課）を理解し、運用できる 3. 第10課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	avoir, faire, aller, venir, finir, vouloir, pouvoirの直説法現在形（主語がnous）の場合の活用を確認しておく。第10課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
12	12/4	文法、訳、文化	1. 単純未来（直説法）（第11課） 2. 第11課の文化面	
		この回の到達目標	1. 単純未来（直説法）（第11課）を理解し、運用することができる 2. 第11課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	単純未来（直説法）が表す意味について確認しておく。avoirの直説法現在形の活用を確認しておく。第11課の文化面の質問について調べる	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	文法、訳、文化	1. 条件法現在（第11課） 2. 非人称表現 I l y a(第12課) 3. 第11課の本文	
		この回の到達目標	1. 条件法現在（第11課）を理解し、運用できる2. 非人称表現 I l y a(第12課）を理解し、運用できる 3. 第11課の本文を訳すことができる （達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	半過去形（直説法）と単純未来形（直説法）の語幹と語尾を確認して覚えておく。第11課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認しておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
14	12/18	文法、訳、文化	1. 接続法現在（第12課） 2. 第12課の文化面	
		この回の到達目標	1. 接続法現在（第12課）を理解し、運用できる 2. 第12課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	第一群規則動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく	30分
		事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
15	12/25	文法、訳、文化	後期期末試験（第24回～29回までの内容）とまとめ。	
		この回の到達目標	後期期末試験（第24回～29回までの内容）に正解することができる （達成目標①②③に関連する）	
		事前学修	後期末試験の準備をする	180分
		事後学修	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験に対しては、添削して返却することで対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	過去形の文章に関する基礎文法	複合過去の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
2	9/22	過去形の文章に関する基礎文法	複合過去の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課後半の単語を覚える。	30分
3	9/29	関係代名詞に関する基礎文法	関係代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 2 課の予習。	30分
		事後学修	1 2 課の単語を覚える。	30分
4	10/6	代名動詞に関する基礎文法	代名動詞の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 3 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課前半の単語を覚える。	30分
5	10/13	代名動詞に関する基礎文法	代名動詞の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 3 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 3 課後半の単語を覚える。	30分
6	10/20	未来形の文章に関する基礎文法	単純未来の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 4 課の予習。	30分
		事後学修	1 4 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 27	中性代名詞に関する基礎文法	中性代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 5 課の予習。	30分
		事後学修	1 5 課の単語を覚える。	30分
8	11/ 10	過去形の文章に関する基礎文法	半過去の作り方	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 6 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 6 課前半の単語を覚える。	30分
9	11/ 17	過去形の文章に関する基礎文法	半過去の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 6 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 6 課後半の単語を覚える。	30分
10	11/ 24	ジェロンディフなどに関する基礎文法	現在分詞とジェロンディフの説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 7 課の予習。	30分
		事後学修	1 7 課の単語を覚える。	30分
11	12/ 1	直説法時制のまとめ	動詞活用の復習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分
12	12/ 8	条件法に関する基礎文法	条件法の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 8 課の予習。	30分
		事後学修	1 8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 15	接続法に関する基礎文法	接続法の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	1 9 課の予習。	30分
		事後学修	1 9 課の単語を覚える。	30分
14	12/ 22	条件法と接続法に関する基礎文法	条件法と接続法の練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分
15	1/12	後期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回小テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。履修人数によってアクティヴ・ラーニングを採用する。

アクティヴ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティヴ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・フランス語文法の〈基礎〉	太田浩一、前田保、 渡辺仁	駿河台出版	2018	教科書	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
2	第一部木 9/24	Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	ガイドンス、Leçon 7・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 10/1	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 10/8	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 8・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 10/15	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 10/22	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 9・代名詞動詞、関係代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	Leçon 10・複合過去	Leçon 10・複合過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 10・複合過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 10・複合過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 10・複合過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 11/5	Leçon 10・複合過去	Leçon 10・複合過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 10・複合過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 10・複合過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 10・複合過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 11/12	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞で理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 11/19	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 11・半過去、受動態、指示代名詞で理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 12/3	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 12/10	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級を理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 12・中性代名詞、比較級、最上級の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフ	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフにある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 1/14	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフ	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフを理解し、説明することができる。	
		事前学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフにある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	Leçon 13・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 1/21	秋学期総復習試験	秋学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	秋学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9／14	後期オリエンテーション 第八課：目的補語人称代名詞	授業の説明、目的補語人称代名詞	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。目的補語人称代名詞について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	9／21	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	
		この回の到達目標	非人称構文、connaître, faire, écrireの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	9／28	第九課：代名動詞	第九課：代名動詞	
		この回の到達目標	代名動詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	10／5	第九課：よく使う代名動詞、日常の活動の表現	よく使う代名動詞、日常の活動の表現	
		この回の到達目標	よく使う代名動詞、日常の活動の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	10／12	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	
		この回の到達目標	直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	10／19	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
		この回の到達目標	特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1 0 / 2 6	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	
		この回の到達目標	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	1 1 / 9	後期中間試験 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	後期中間試験の実施 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	
		この回の到達目標	代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	後期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	1 1 / 1 6	後期中間試験解説 第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	後期中間試験の返却と解説 第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	
		この回の到達目標	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	1 1 / 2 3	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y, le、さまざまな否定表現	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y, le、さまざまな否定表現	
		この回の到達目標	直説法大過去、中性代名詞y, le、さまざまな否定表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	1 1 / 3 0	第十三課：関係代名詞	第十三課：関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	1 2 / 7	第十三課：強調構文、時の表現	第十三課：強調構文、時の表現	
		この回の到達目標	強調構文、時の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 / 1 4	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	
		この回の到達目標	条件法現在形、条件法過去形について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	1 2 / 2 1	後期期末試験 第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	後期期末試験の実施 第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	
		この回の到達目標	条件法の用法、時の表現（前置詞など）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	1 / 1 8	後期期末試験解説 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	後期期末試験の返却と解説 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	
		この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと授業内試験は、授業時に、少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9／17	後期オリエンテーション 第八課：目的補語人称代名詞	授業の説明、目的補語人称代名詞	
		この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。目的補語人称代名詞について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	9／24	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	
		この回の到達目標	非人称構文、connaître, faire, écrireの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	10／1	第九課：代名動詞	第九課：代名動詞	
		この回の到達目標	代名動詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	10／8	第九課：よく使う代名動詞、日常の活動の表現	よく使う代名動詞、日常の活動の表現	
		この回の到達目標	よく使う代名動詞、日常の活動の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	10／15	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	
		この回の到達目標	直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	10／22	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
		この回の到達目標	特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／29	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	
		この回の到達目標	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。	120分
8	11／5	後期中間試験 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	後期中間試験の実施 第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	
		この回の到達目標	代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	後期中間試験の準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	11／12	後期中間試験解説 第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	後期中間試験の返却と解説 第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	
		この回の到達目標	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	11／9	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y, le、さまざまな否定表現	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y, le、さまざまな否定表現	
		この回の到達目標	直説法大過去、中性代名詞y, le、さまざまな否定表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	12／3	第十三課：関係代名詞	第十三課：関係代名詞	
		この回の到達目標	関係代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	12／10	第十三課：強調構文、時の表現	第十三課：強調構文、時の表現	
		この回の到達目標	強調構文、時の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 / 1 7	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	
		この回の到達目標	条件法現在形、条件法過去形について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期期末試験の準備をする。	120分
14	1 2 / 2 4	後期期末試験 第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	後期期末試験の実施 第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	
		この回の到達目標	条件法の用法、時の表現（前置詞など）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	前期期末試験のための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	1 / 1 4	後期期末試験解説 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	後期期末試験の返却と解説 第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	
		この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
		事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
		事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	飯島 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施し、返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ル・フランセ	斎藤昌三	白水社	最新版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日、10時30分 授業終了後、授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	L. 7 不規則動詞・所有形容詞	L. 7 不規則動詞・所有形容詞を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 不規則動詞・所有形容詞を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・所有形容詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
2	9月26日	L. 7 練習問題	L. 7 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 7 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
3	10月3日	L. 8 不規則動詞・比較級・最上級	L. 8 不規則動詞・比較級・最上級を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 不規則動詞・比較級・最上級を理解する。	
		事前学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	不規則動詞・比較級・最上級について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
4	10月10日	L. 8 練習問題	L. 8 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 8 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
5	10月17日	L. 9 直説法複合過去	L. 9 直説法複合過去を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 直説法複合過去を理解する。	
		事前学修	直説法複合過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	直説法複合過去について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
6	10月24日	L. 9 練習問題	L. 9 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 9 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月31日	L. 10 関係代名詞・疑問代名詞	L. 10 関係代名詞・疑問代名詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 10 関係代名詞・疑問代名詞を理解する。
		事前学修	関係代名詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	関係代名詞・疑問代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
8	11月7日	L. 10 練習問題	L. 10 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 10 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
9	11月14日	L. 11 人称代名詞	L. 11 人称代名詞を説明する。
		この回の到達目標	L. 11 人称代名詞を理解する。
		事前学修	人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	人称代名詞について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
10	11月21日	L. 11 練習問題	L. 11 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 11 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分
11	11月28日	L. 12 受動態・強調構文	L. 12 受動態・強調構文を説明する。
		この回の到達目標	L. 12 受動態・強調構文を理解する。
		事前学修	受動態・強調構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。 30分
		事後学修	受動態・強調構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 30分
12	12月5日	L. 12 練習問題	L. 12 練習問題を説明する。
		この回の到達目標	L. 12 練習問題を理解する。
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。 30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	L. 13 代名動詞・非人称構文	L. 13 代名動詞・非人称構文を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 代名動詞・非人称構文を理解する。	
		事前学修	代名動詞・非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。	30分
		事後学修	代名動詞・非人称構文について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分
14	12月19日	L. 13 練習問題	L. 13 練習問題を説明する。	
		この回の到達目標	L. 13 練習問題を理解する。	
		事前学修	練習問題をできるだけ解いてみる。	30分
		事後学修	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。	30分
15	12月26日	後期のまとめと授業内試験	後期のまとめと授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	L. 7～L. 13 を理解する。	
		事前学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する	30分
		事後学修	L. 7～L. 13 について 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Aから引き続き履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、CD等で発音を確認しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 ル・フランセ・クレール	清岡智比古	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14：40～18：00 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	1～7課のまとめ 8課 voir, entendreの活用	1～7課で学んだ文法事項を復習する。また、voirなどの不規則活用動詞を学ぶ。それによって受講生はこれまでの学修内容を復習し、新出動詞を用いた文が理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、7課までの学修内容を復習する。また、voirなどの動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	1～7課の内容を見直し、不明な点について質問を準備する。 教科書38ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	CD等を利用し、教科書38ページの例文の発音を練習する。動詞の活用を暗記する。	30分
2	第一部水 9/23	8課 比較級・最上級	形容詞・副詞の比較級と最上級の作り方を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現や最上級表現を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較級・最上級を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書38～39ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書40～41ページの練習問題を解く。	30分
3	第一部水 9/30	9課 命令文 非人称構文	命令形および非人称構文を学ぶ。それによって受講生は他者に指示をしたり、天候や時間などを示す表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形や非人称構文を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書42～43ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書44～45ページの練習問題を解く。	30分
4	第一部水 10/7	10課 目的語人称代名詞 強勢形	目的語になる人称代名詞および強勢形を学ぶ。それによって受講生は目的語人称代名詞と強勢形を使った表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目的語人称代名詞や強勢形を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書46～47ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書48～49ページの練習問題を解く。	30分
5	第一部水 10/14	11課 複合過去	過去の行為や出来事を表現する複合過去について学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書50～51ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書52～53ページの練習問題を解く。	30分
6	第一部水 10/21	12課 関係代名詞	基本的な4種類の関係代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は関係代名詞を用いた文を理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書54～55ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書56～57ページの練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	13課 代名動詞	代名動詞の用法を学ぶ。それによって受講生は代名動詞を用いて日常生活を描写することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書58～59ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書60～61ページの練習問題を解く。	30分
8	第一部水 11/11	14課 単純未来	単純未来の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことや未来の予定を表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単純未来を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書62～63ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書64～65ページの練習問題を解く。	30分
9	第一部水 11/18	15課 中性代名詞	3種類の中性代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は正しい中性代名詞を選択し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中性代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書66～67ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書68～69ページの練習問題を解く。	30分
10	第一部水 11/25	16課 半過去	半過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は半過去と複合過去の違いを理解し、使い分けられるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書70～71ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書72～73ページの練習問題を解く。	30分
11	第一部水 12/2	17課 現在分詞・ジェロ ンディフ	現在分詞やジェロンディフの用法を学ぶ。それによって受講生は同時性を示す表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在分詞やジェロンディフを用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書74～75ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書76～77ページの練習問題を解く。	30分
12	第一部水 12/9	動詞の活用のまとめ	1～17課までに学んだ動詞の活用を復習する。それによって受講生は動詞の活用を体系的に理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、動詞の活用と発音を正しく理解できるようになる。	
		事前学修	教科書78～79ページの活用表を完成させる。	30分
		事後学修	教科書78～79ページの活用表をを正しく暗記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	18課 条件法現在	条件法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は事実に反する仮定を用いた表現や、語調緩和表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条件法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書80～81ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書82～83ページの練習問題を解く。	30分
14	第一部水 12/23	19課 接続法現在	接続法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は願望や推測などを示す表現を理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
		事前学修	教科書84～85ページの内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書86～87ページの練習問題を解く。	30分
15	第一部水 1/13	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	30分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語演習C	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABを履修済み、または同等程度のフランス語力を有すること。

【授業方法】
テキスト読解を中心に進める。文法事項を確認し内容を解説した後、学生が本文を読み訳を発表する。その後解説を加え、発音練習をする。小テスト・レポートは適宜実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	訳や疑問点に関する議論をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばの色ー中級からのフランス文学読本ー	杉本圭子・福田桃子・岡部杏子	朝日出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜13:00～14：30　授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付　(fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス 1. ロジェ・グルニエ『レオノール』	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 1課のロジェ・グルニエについて簡単に説明し、発音の練習をする。それによって受講生は効率的に次回以降の予習をすることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明することができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 フランス語の読みを復習する。	30分
2	第一部水 4/15	1. ロジェ・グルニエ『レオノール』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
3	第一部水 4/22	2. ナタリー・サロート『つまらぬことで』（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
4	第一部水 4/29	2. ナタリー・サロート『つまらぬことで』（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
5	第一部水 5/6	3. アントワヌ・レリス『ぼくは君たちを憎まない』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
6	第一部水 5/13	4. エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』（前半）	テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	4. エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
8	第一部水 5/27	5. ジャック・プレヴェール「家族のうた」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
9	第一部水 6/3	6. ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
10	第一部水 6/10	6. ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』（後半）	テキスト後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
11	第一部水 6/17	7. パトリック・モディアノ『血統書』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
12	第一部水 6/24	8. ラ・ロシュフコー『箴言集』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	9・ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
14	第一部水 7/8	9・ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
15	第一部水 7/15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	180分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	40分

科目名	フランス語演習D	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABを履修済み、または同等程度のフランス語力を有すること。

【授業方法】
テキスト読解を中心に進める。文法事項を確認し内容を解説した後、学生が本文を読み訳を発表する。その後解説を加え、発音練習をする。小テスト・レポートは適宜実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	訳や疑問点に関する議論をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばの色ー中級からのフランス文学読本ー	杉本圭子・福田桃子・岡部杏子	朝日出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜13:00～14：30 授業講堂にて。緊急の場合はメールにて受付（fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	ガイドダンス 10. ユベール・マンガレリ 『終わりの雪』(前半)	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。 テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
2	第一部水 9/23	10. ユベール・マンガレリ 『終わりの雪』(後半)	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
3	第一部水 9/30	11. アルチュール・ランボー 「夜明け」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
4	第一部水 10/7	12. ギョーム・アポリネール 「オレンジード」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
5	第一部水 10/14	13. アラン＝フルニエ『グラン・モーヌ』(前半)	テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
6	第一部水 10/21	13. アラン＝フルニエ『グラン・モーヌ』(後半)	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	14. オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』（前半）	テキスト前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
8	第一部水 11/11	14. オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』（後半）	テキストの後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
9	第一部水 11/18	15. イレーヌ・ネミロフスキー『舞踏会』	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
10	第一部水 11/25	16. ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」（前半）	テキストの前半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
11	第一部水 12/2	16. ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」（後半）	テキスト後半を読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
12	第一部水 12/9	17. シャルル・ボードレー「窓」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	17. シャルル・ボードレー ル「スープと雲」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
14	第一部水 12/23	18. フランシス・ポンジュ 「水について」	テキストを読み、日本語に訳す。また、内容について意見を発表する。それによって受講生はテキストの内容理解を深め、それについて議論することができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、フランス語の文献を理解してその内容を説明し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストの本文を日本語に訳す。Web音声をよく聞き発音を確認する。前回授業で提示された問題点についての発表準備をする。	60分
		事後学修	授業内容を確認し、疑問点を整理する。	30分
15	第一部水 1/13	授業内試験およびフィード バック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
		事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を総復習する。	180分
		事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	40分

科目名	フランス語演習E	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
フランス語の応用として、芸術・文化に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		75	25									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳が喜ぶフランス語	山下 利枝	三修社	2013年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、教科書紹介、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解し、リスニングからフランス語に触れることでテキストに多角的アプローチができる。	
		事前学修	シラバスを読んで授業の進め方について理解する。	30分
		事後学修	配布資料の範囲を確認しておく。	30分
2	4/15	1. Qui suis-je? 1	être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
3	4/22	1. Qui suis-je? 2	自己紹介のフランス語。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、 フランス・アルザス地方の歴史・文化についてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
4	4/29	2. Mon appartement au Japon 1	er動詞の受身形。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、第一群規則動詞の現在形・受け身を復習し、活用できる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
5	5/6	2. Mon appartement au Japon 2	ils trouvent que, j'ai l'impressions deなどの表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏住居環境の違いについてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
6	5/13	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon? 1	on, vousの使い方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、on, vousのフランス語特有の使い方の理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon? 2	日仏の対人関係の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために 日仏の対人関係の違いについてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
8	5/27	まとめと小テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
		この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	これまでの配布資料の単語を復習する。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
9	6/3	4. Le métro de Tokyo 1	フランス語の様々な熟語表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、 Grâce à, même siなどの表現を理解してテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
10	6/10	4. Le métro de Tokyo 2	日仏地下鉄事情について。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏の交通網の違いについての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
11	6/17	5. Les prénoms 1	動詞の未来形の活用と用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、動詞の未来形の活用と用法の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
12	6/24	5. Les prénoms 2	フランスの名前について。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、フランスのファーストネームの文化的背景についての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	6. La Dernière Classe 1	歴史的叙述の時制。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、半過去、未来形の混在する歴史的叙述への理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
14	7/8	6. La Dernière Classe 2	アルザス地方の歴史的背景。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、アルザスのドイツとの関係について歴史的な理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
15	7/15	まとめと期末テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
		この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	これまでの配布資料の単語を復習する。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分

科目名	フランス語演習F	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
フランス語の応用として、芸術・文化に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。					2			2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		75	25									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳が喜ぶフランス語	山下 利枝	三修社	2013	参考書	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、教科書紹介、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
		この回の到達目標	授業の進め方を理解し、リスニングからフランス語に触れることでテキストに多角的アプローチができる。	
		事前学修	指定教科書に目を通しておく。	30分
		事後学修	指定教科書のシラバスの範囲を確認しておく。	30分
2	9/23	7. Etudier le français 1	非人称構文。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、非人称構文における主語を文脈判断で理解してフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
3	9/30	7. Etudier le français 2	フランス語の文化的地位。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日本におけるフランス語の地位に対する理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
4	10/7	8. Tu et vous 1	Il est +形容詞+de+不定法	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、Il est +形容詞+de+不定法などの構文理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
5	10/14	8. Tu et vous 2	フランスにおける二人称の使い方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、フランスにおける二人称・敬語についての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
6	10/21	9. Les plats alsaciens 1	時制の混在。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、現在、半過去の混在するテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/28	9. Les plats alsaciens 2	アルザス料理について。
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、アルザス料理に対するドイツの影響の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。30分
8	11/11	まとめと小テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。
		この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。
		事前学修	7課から9課までの単語を復習する。30分
		事後学修	試験で間違った箇所を復習する。30分
9	11/18	10. L'hiver froid 1	大過去の用法。
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、大過去の用法の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。30分
10	11/25	10. L'hiver froid 2	過去時制の混在。
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、複合過去、半過去、大過去の混在する文章の時系列理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。30分
11	12/2	11. La fête 1	pourtant, doncなどの接続語。
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、pourtant, doncなどの接続語の使い方を理解した上でテキストを読み、意見を言うことができる。
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。30分
12	12/9	11. La fête 2	日仏の祭りについて。
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、祭りの日仏の在り方についての比較的知識を学びながらテキストを読み、意見を言うことができる。
		事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	12. La pétanque 1	主語＋permettre＋de＋不定法の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、主語＋permettre＋de＋不定法の用法の理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
14	12/23	12. La pétanque 2	ペタンクについて。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、ペタンクというスポーツについての知識を得ることでテキストを読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておく。	30分
		事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
15	1/13	まとめと期末テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
		この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
		事前学修	これまでの単語を復習する。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分

科目名	フランス語演習G	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス，導入講義	近代は人間主義によって特徴づけられる。人間はみな平等であるという思想は、差別主義に反対するための有力な武器となってきた。その一方で、近代は、人間以外のものを自然として搾取することで、歴史上稀有な経済発展を遂げた。近代はいろいろな点で問題を含む。この授業では、動物に焦点をあてて、この観点から、人間主義の危機、近代の危機を考察する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	4/17	動物論テキスト「ピーター・シンガー」	動物論テキスト「ピーター・シンガー」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	4/24	動物論テキスト「アニマル・ライツ」	動物論テキスト「アニマル・ライツ」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	5/1	動物論テキスト「アニマル・ウエルフェア」	動物論テキスト「アニマル・ウエルフェア」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	5/8	動物論テキスト「種差別」	動物論テキスト「種差別」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	5/15	動物論テキスト「工場畜産」	動物論テキスト「工場畜産」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	動物論テキスト「ヴィーガニズム」	動物論テキスト「ヴィーガニズム」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	5/29	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	6/5	中間試験解説	中間試験を返却し解説する。また、時事問題テキスト「文化」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	6/12	動物論テキスト「動物実験」	動物論テキスト「動物実験」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	6/19	動物論テキスト「闘牛」	動物論テキスト「闘牛」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	6/26	動物論テキスト「ゾーフィリア」	動物論テキスト「ゾーフィリア」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	動物論テキスト「人間の支配：キリスト教」	動物論テキスト「人間の支配：キリスト教」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	7/10	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	7/17	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、前期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	前期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	フランス語演習G	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館 9 階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス，導入講義	仏語歴二年目（以上）の学生向けの時事問題の仏語テキストを講読する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	4/16	時事問題テキスト「政治」	時事問題テキスト「政治」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	4/23	時事問題テキスト「経済」	時事問題テキスト「経済」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	4/30	時事問題テキスト「歴史」	時事問題テキスト「歴史」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	5/7	時事問題テキスト「社会」	時事問題テキスト「社会」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	5/14	時事問題テキスト「産業」	時事問題テキスト「産業」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	時事問題テキスト「法律」	時事問題テキスト「法律」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	5/28	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	6/4	中間試験解説 時事問題テキスト「文化」 （1）	中間試験を返却し解説する。また、時事問題テキスト「文化」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	6/11	時事問題テキスト「文化」 （2）	時事問題テキスト「文化」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	6/18	時事問題テキスト「教育」	時事問題テキスト「教育」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	6/25	時事問題テキスト「芸術」	時事問題テキスト「芸術」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	時事問題テキスト「スポーツ」	時事問題テキスト「スポーツ」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	7/9	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	7/16	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、前期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	前期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	フランス語演習H	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス，導入講義	近代は人間主義によって特徴づけられる。人間はみな平等であるという思想は、差別主義に反対するための有力な武器となってきた。その一方で、近代は、人間以外のものを自然として搾取することで、歴史上稀有な経済発展を遂げた。近代はいろいろな点で問題を含む。この授業では、動物に焦点をあてて、この観点から、人間主義の危機、近代の危機を考察する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	9/25	動物論テキスト「人間の支配：デカルト」	動物論テキスト「人間の支配：デカルト」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	10/2	動物論テキスト「人間の支配：生氣論、アニミズム」	動物論テキスト「人間の支配：生氣論、アニミズム」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	10/9	動物論テキスト「ルソーとロマン派」	動物論テキスト「ルソーとロマン派」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	10/16	動物論テキスト「カントとベンサム」	動物論テキスト「カントとベンサム」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	10/23	動物論テキスト「ダーウイン、進化論」	動物論テキスト「ダーウイン、進化論」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	動物論テキスト「人間の魂、動物の魂」	動物論テキスト「人間の魂、動物の魂」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	11/6	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	11/13	中間試験解説 授業振り返り	中間試験を返却し解説する。また、後期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	11/20	動物論テキスト「動物の解放」	動物論テキスト「動物の解放」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	11/27	動物論テキスト「ポストモダン：デリダ」	動物論テキスト「ポストモダン：デリダ」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	12/4	動物論テキスト「ポストモダン：ドゥルーズ」	動物論テキスト「ポストモダン：ドゥルーズ」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	動物論テキスト「エコロジー、地球温暖化」	動物論テキスト「エコロジー、地球温暖化」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	12/18	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	12/25	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、後期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この後期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	後期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	フランス語演習H	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・試験は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使います。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス，導入講義	仏語歴二年目（以上）の学生向けの時事問題の仏語テキストを講読する。授業の進め方等についてガイダンスを行い、テキスト、背景の説明を行う。音読を行う。	
		この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	9/24	時事問題テキスト「メディア」	時事問題テキスト「メディア」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
3	10/1	時事問題テキスト「文学」	時事問題テキスト「文学」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
4	10/8	時事問題テキスト「思想」	時事問題テキスト「思想」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
5	10/15	時事問題テキスト「戦争」	時事問題テキスト「戦争」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
6	10/22	時事問題テキスト「17世紀」	時事問題テキスト「17世紀」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	時事問題テキスト「18世紀」	時事問題テキスト「18世紀」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。中間試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
8	11/5	中間試験、振り返り	中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	中間試験に備える。指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	11/12	中間試験解説 時事問題テキスト「19世紀」（1）	中間試験を返却し解説する。また、時事問題テキスト「19世紀」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
10	11/19	時事問題テキスト「19世紀」（2）	時事問題テキスト「19世紀」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	30分
11	12/3	時事問題テキスト「20世紀」	時事問題テキスト「20世紀」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。また、ここまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分
12	12/10	時事問題テキスト「フランス語圏」	時事問題テキスト「フランス語圏」について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	時事問題テキスト「哲学」	時事問題テキスト「哲学」についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。これまで読んだ箇所について議論してもらう。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験に備える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	120分
14	12/24	期末試験、振り返り	期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標①②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験に備える。	120分
		事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
15	1/14	期末試験解説	期末試験を返却し、解説する。最後に、後期既読箇所の振り返りを行い、それについて議論してもらう。	
		この回の到達目標	この後期既読箇所について自分の考えを述べるができる（到達目標②に関連）。	
		事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。	30分
		事後学修	後期に講読した箇所をこれまでの学習を踏まえて再読する。	30分

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。実践的な書き言葉のトレーニングを通して、日常生活において直接必要となる事柄に対処できる文書による意思疎通の能力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書き、文書で伝えることができる。										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける。										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フランス語で書こう！』	佐藤久美子、佐藤領時	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:20-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス、「第1課、êtreを使う（1）」その1	この授業の進め方、成績評価の付け方等のガイダンスを実施した後、「第1課、êtreを使う（1）」その1について語彙、文法等の重要なポイントを解説して、CD等を用いて発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「êtreを使う（1）」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	初級フランス語の教科書を復習し、シラバスを読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
2	4/15	「第1課、êtreを使う（1）」その2	「第1課、êtreを使う（1）」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「êtreを使う（1）」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
3	4/22	「第2課、êtreを使う（2）」	「第2課、êtreを使う（2）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「êtreを使う（2）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
4	4/29	「第3課、avoirを使う（1）」	「第3課、avoirを使う（1）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「avoirを使う（1）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
5	5/6	「第4課、avoirを使う（2）」	「第4課、avoirを使う（2）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「avoirを使う（2）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をすること。	30分
6	5/13	「第5課、名詞と冠詞」	「第5課、名詞と冠詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「名詞と冠詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	「第6課、形容詞」	「第6課、形容詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「形容詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	前期中間試験にそなえる。	120分
8	5/27	前期中間試験、「第7課、疑問表現（1）」その1	前期中間試験を実施した後、「第7課、疑問表現（1）」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「疑問表現（1）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前期中間試験にそなえる。	120分
		事後学修	中間試験を解き直して、不明な箇所を辞書、文法教科書等で調べて、小テストの準備をする。	30分
9	6/3	前期中間試験解説、「第7課、疑問表現（1）」その2	前期中間試験を解説した後、「第7課、疑問表現（1）」のその2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、前期中間試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「疑問表現（1）」の2の問題に解答できる。	
		事前学修	中間試験を解き直して、不明な箇所を辞書、文法教科書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をする。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
10	6/10	「第8課、疑問表現（2）」	「第8課、疑問表現（2）」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「疑問表現（2）」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
11	6/17	「第9課、否定表現」	「第9課、否定表現」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「否定表現の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
12	6/24	「第10課、命令表現」	「第10課、命令表現」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「命令表現の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	「第11課、faire、prendreを使う」	「第11課、faire、prendreを使う」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「faire、prendreを使う」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読む。	30分
		事後学修	期末試験にそなえる。	120分
14	7/8	前期期末試験、「第12課、目的語の人称代名詞」その1	前期期末試験を実施した後、「第12課、目的語の人称代名詞」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「目的語の人称代名詞」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験にそなえる。	120分
		事後学修	期末試験を解き直して、問題箇所を辞書、文法教科書等で調べて、小テストの準備をする。	30分
15	7/15	前期期末試験解説、「第12課、目的語の人称代名詞」その2	前期期末試験を解説した後、「第12課、目的語の人称代名詞」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、前期期末試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「目的語の人称代名詞」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験を解き直して、問題箇所を辞書、文法教科書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をする。	30分
		事後学修	期末試験で間違った箇所をノートにまとめ、問題を解き直す。	30分

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠB	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現ABを履修済みであること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。実践的な書き言葉のトレーニングを通して、日常生活において直接必要となる事柄に対処できる文書による意思疎通の能力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて、日常的な事柄について自律的に書き、文書で伝えることができる。										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける。										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フランス語で書こう！』	佐藤久美子、佐藤領時	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス、「第13課、中性代名詞」その1	授業の方針、成績評価の方法等のガイダンスを行った後、「第13課、中性代名詞」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第13課、中性代名詞」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	シラバスを読み、当該文法箇所を初年度教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	学習した箇所を整理してまとめて、問題を解き直す。	30分
2	9/23	「第13課、中性代名詞」その2	「第13課、中性代名詞」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第13課、中性代名詞」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をする。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
3	9/30	「第14課、自動詞としても他動詞としても使う動詞」	「第14課、自動詞としても他動詞としても使う動詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第14課、自動詞としても他動詞としても使う動詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
4	10/7	「第15課、代名動詞」	「第15課、代名動詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第15課、代名動詞の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
5	10/14	「第16課、関係代名詞」	「第16課、関係代名詞」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第16課、関係代名詞」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をすること。	30分
6	10/21	「第17課、非人称構文」	「第17課、非人称構文」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第17課、非人称構文の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	「第18課、比較級・最上級」	「第18課、比較級・最上級」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第18課、比較級・最上級の問題」に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	後期中間試験にそなえる。	120分
8	11/11	後期中間試験 「第19課、過去分詞の性数の一致」その1	後期中間試験を実施した後、「第19課、過去分詞の性数の一致」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第19課、過去分の性数の一致」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	後期中間試験にそなえる。	120分
		事後学修	中間試験を解き直して、問題箇所を整理してノートにまとめ、辞書等で調べる。小テストの準備をする。	30分
9	11/18	後期中間試験解説 「第19課、過去分詞の性数の一致」その2	後期中間試験を解説した後、「第19課、過去分詞の性数の一致」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、後期中間試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「第19課、過去分詞の性数の一致」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	中間試験を解き直して、問題箇所を整理してノートにまとめ、辞書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	試験で間違った問題を解き直して、ノートにまとめる。授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
10	11/25	「第20課、論理関係を示す」	「第20課、論理関係を示す」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第20課、論理関係を示す」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
11	12/2	復習その1：「第1課～第4課の復習」	復習その1：「第1課～第4課の復習」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第1課～第4課の復習」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分
12	12/9	復習その2：「第5課～第8課の復習」	復習その2：「第5課～第8課の復習」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第5課～第8課の復習」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直して、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	復習その3：「第9課～第12課の復習」	復習その3：「第9課～第12課の復習」について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第9課～第12課の復習」の問題に解答できる。	
		事前学修	前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	期末試験にそなえる。	120分
14	12/23	後期期末試験「第13課～第16課の復習」その1	後期期末試験を実施した後、「第13課～第16課の復習」その1について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返す。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、「第13課～第16課の復習」その1の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験にそなえる。	120分
		事後学修	期末試験を解き直して、問題箇所をノートにまとめ、辞書等で調べる。小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
15	1/13	後期期末試験解説、「第13課～第16課の復習」その2	後期期末試験を解説した後、「第13課～第16課の復習」その2について、語彙、文法等の仏語作文において重要なポイントを解説して、CD等で発音練習を繰り返し、宿題として出した箇所の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、後期期末試験解説で取り上げた箇所を説明でき、「第13～第16課の復習」その2の問題に解答できる。	
		事前学修	期末試験を解き直して、問題箇所をノートにまとめ、辞書等で調べる。前回にだされた宿題を行い、小テストの準備をし、当該文法箇所を初年度文法教科書で読んでくる。	30分
		事後学修	試験で間違った箇所を改めて解いてみる。授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、問題を解き直す。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/7	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。30分
		事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。30分
2	4/14	自己紹介	La présentation, la description. 自己紹介・自分の描写に必要なフランス語の動詞。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、自己紹介に必要なフランス語を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布プリントのわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
3	4/21	être動詞	La description 2, le verbe "être".
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、動詞êtreの用法を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布プリントのわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
4	4/28	疑問文	L'interrogation simple, les verbes en "er"
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問文の作り方を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	5, 6課のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
5	5/5	第一群規則動詞	Les verbes en "er"
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、第一群規則動詞の活用を様々な動詞で応用でき、練習問題を解くことができる。
		事前学修	7, 8課のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
6	5/12	代名動詞	Les verbes pronominaux en "er", le nom et l'article.
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、代名動詞を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	9, 10課のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	単数形・複数形	Singulier et pluriel des noms, l'article défini/indéfini。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、名詞と冠詞の単数・複数を一致させ、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	11, 12課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	5/26	中間テスト、採点、解説・まとめ。	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
		事前学修	1課から12課までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	6/2	定冠詞の縮約形	前置詞と定冠詞の縮約、les possessifs. 所有形容詞と名詞の一致。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、定冠詞の縮約、所有形容詞と名詞の一致の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	13, 14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	6/9	指示形容詞	les démonstratifs, la possession。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞と名詞の一致を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	15, 16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	6/16	身体的特徴、否定表現	les caractéristiques physiques, les sensations négatives.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、身体描写の語彙、否定表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	17, 18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	6/23	avoir	le verbe "avoir", la négation. avoir。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、動詞avoirとその否定形の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	19, 20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	国と場所の前置詞	前置詞en, à, dans の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、場所の前置詞en, à, dans の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	21, 22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	7/7	非人称構文	前置詞 “dans”, “sur”, “sous”, 非人称構文“il y a”. 様々な前置詞の用法を理解し文を作れる。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、非人称構文、場所の前置詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	23, 24課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	7/14	期末テスト、採点、解説とまとめ。	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	8回目以降の復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定5級、4級に合格するための、基礎的フランス語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定5級、4級合格に向けた基礎的なフランス語の4技能を身につける。

【履修条件】
今年度中に仏検を受験すること。

【授業方法】
過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 定期的に小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。										1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。										1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。										1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。										1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 完全予想 仏検4級 改訂 CD付	富田正二	駿河台出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業後に声を掛けてください。木曜日16:10～16:20 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション 導入講義	オリエンテーション 導入講義	
		この回の 到達目標	今までに学んだ事項を復習し、確認する。	
		事前学修	今までに習った文法事項の範囲や使用したテキスト名を確認するので、あらかじめ調べてメモしておいてください	30分
		事後学修	基礎的な文法事項を確認しておきましょう	30分
2	第一部 木4/16	-er型規則動詞の活用	直説法現在形（1）-er型規則動詞の活用 小テスト	
		この回の 到達目標	-er型規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
3	第一部 木4/23	-ir型規則動詞の活用	直説法現在形（2）-ir型規則動詞の活用 小テスト	
		この回の 到達目標	-ir型規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
4	第一部 木4/30	不規則動詞の直説法現在形	直説法現在形（3）不規則動詞の活用 小テスト	
		この回の 到達目標	不規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
5	第一部 木5/7	代名動詞の直説法現在形	代名動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④ 小テスト	
		この回の 到達目標	代名動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
6	第一部 木5/14	命令法	命令法 小テスト	
		この回の 到達目標	命令形の変化を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	非人称動詞	非人称動詞 小テスト	
		この回の到達目標	非人称動詞の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
8	第一部 木5/28	直説法複合過去形	直説法複合過去形 小テスト	
		この回の到達目標	直説法複合過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
9	第一部 木6/4	代名動詞の複合過去形	代名動詞の複合過去形 小テスト	
		この回の到達目標	代名動詞の複合過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
10	第一部 木6/11	直説法単純未来形	直説法単純未来形 小テスト	
		この回の到達目標	直説法単純未来形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
11	第一部 木6/18	直説法半過去形	直説法半過去形 小テスト	
		この回の到達目標	直説法半過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
12	第一部 木6/25	ジェロンディフ	ジェロンディフ 小テスト	
		この回の到達目標	ジェロンディフの変化を覚え、使えるようになる②④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 木7/2	仏検過去問題（5級）		仏検過去問題（5級） 小テスト
		この回の到達目標	仏検過去問題（5級）を通して、試験に慣れる①③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
14	第一部 木7/9	仏検過去問題（4級）		仏検過去問題（4級） 小テスト
		この回の到達目標	仏検過去問題（4級）を通して、試験に慣れる①③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
15	第一部 木7/16	まとめとテスト		前期のまとめ・期末テスト
		この回の到達目標	前期に学んだことを確認し、身に付ける①②③④	
		事前学修	動詞の活用をしっかりと覚えましょう	30分
		事後学修	わからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ニヴォー・サンク ― 教室で学ぶ仏検 5 級 ― 』	富田正二	駿河台出版社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、綴り字の読み方（１）、名詞・不定冠詞・定冠詞	授業の進め方等のガイダンスを行った後、１）「フランス語の綴り字の読み方（１）」、２）「フランス語の名詞と不定冠詞と定冠詞（第１課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の綴り字の読み方（１）」で学習した綴り字を読み発音することができ、また、「フランス語の名詞と不定冠詞と定冠詞（第１課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
2	4/13	発音（２）、部分冠詞、主語となる代名詞と第一群規則動詞	１）「フランス語の発音（２）」、２）「部分冠詞（第６課）」、３）「主語となる代名詞と第一群規則動詞（第３課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の発音（２）」で学習した発音をすることができ、「部分冠詞（第６課）」の問題を解くことができ、「主語となる代名詞と第一群規則動詞（第３課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
3	4/20	発音（３）、否定文の作り方、動詞être	１）「フランス語の発音（３）」、２）「否定文の作り方（第２課）」、３）「動詞 être（第２課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の発音（３）」で学習した発音をすることができ、「否定文の作り方（第２課）」の問題に解答でき、また、「動詞 être（第２課）」を活用させることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
4	4/27	フランス語の発音（４）、動詞 avoir、不定冠詞・部分冠詞の変形	１）「フランス語の発音（４）」、２）「動詞 avoir（第３課）」、３）「不定冠詞・部分冠詞の変形（第６課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「フランス語の発音（４）」で学習した発音をすることができ、「動詞 avoir（第３課）」を活用させることができ、「不定冠詞・部分冠詞の変形（第６課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
5	5/4	数詞（１～２０まで）、動詞 sortir、所有形容詞・指示形容詞	１）「数詞（１～２０まで）」、２）「動詞 sortir（第８課）」、３）「所有形容詞・指示形容詞（第４課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「数詞（１～２０まで）」を発音し聞き取り書き取ることができ、「動詞 sortir（第８課）」を活用させることができ、「所有形容詞・指示形容詞（第４課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
6	5/11	いろいろな疑問文（１）、時空間の前置詞、形容詞の変化と位置	１）「いろいろな疑問文（１）（第８課）」、２）「時空間の前置詞（第５課、第１２課）」、３）「形容詞の変化と位置（第２課、第３課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「いろいろな疑問文（１）（第８課）」の問題に解答でき、「時空間の前置詞（第５課、第１２課）」の問題に解答することができ、また、「形容詞の変化と位置（第２課、第３課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問５級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	いろいろな疑問文(2)、前置詞de, à と定冠詞の縮約、動詞aller/近接未来	1) 「いろいろな疑問文(2)(第8課)」、2) 「前置詞de, à と定冠詞の縮約(第4課)」、3) 「動詞aller/近接未来(第5課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「いろいろな疑問文(2)(第8課)」の問題に解答でき、「前置詞de, à と定冠詞の縮約(第4課)」の問題に解答でき、「動詞aller/近接未来(第5課)」を活用できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、中間試験の準備をすること。	120分
8	5/25	中間試験 命令法、動詞venir/近接過去	中間試験を実施する。1) 「命令法(第5課)」、2) 「動詞venir/近接過去(第5課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「命令法(第5課)」の問題に解答でき、また、「動詞venir/近接過去(第5課)」を活用できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。中間試験の準備をすること。	120分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
9	6/1	中間試験の解説 疑問文の作り方、疑問形容詞	中間試験の返却と解説とを行う。1) 「疑問文の作り方(第5課)」、2) 「疑問形容詞(第9課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「疑問文の作り方(第5課)」の問題に解答でき、また、「疑問形容詞(第9課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
10	6/8	動詞 faire 、天候表現	1) 「動詞 faire(第9課)」、2) 「天候表現(第7課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、4級解説で扱った箇所を説明でき、「動詞 faire(第9課)」を直説法現在に活用でき、「天候表現(第7課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
11	6/15	動詞 pouvoir、比較級・最上級、数詞(21～69まで)	1) 「動詞 pouvoir(第7課)」、2) 「比較級・最上級(第9課)」、3) 「数詞(21～69まで)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞 pouvoir(第7課)」を直説法現在に活用でき、「比較級・最上級(第9課)」の問題に解答でき、また、「数詞(21～69まで)(第8課)」を発音し聞き取ることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
12	6/22	動詞 vouloir、いろいろな疑問文(2)、数詞(70～99まで)	1) 「動詞 vouloir(第11課)」、2) 「いろいろな疑問文(2)(第10課)」、3) 「数詞(70～99まで)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞 vouloir(第11課)」を直説法現在に活用でき、「いろいろな疑問文(2)(第10課)」の問題に解答でき、また、「数詞(70～99まで)(第8課)」を発音し聞き取ることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	代名動詞の1、いろいろな疑問文(3)、所有形容詞	1)「代名動詞の1(第9課)」、2)「いろいろな疑問文(3)(第10課)」、3)「所有形容詞(第4課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名動詞の1(第9課)」を直説法現在に活用でき、「いろいろな疑問文(3)(第10課)」の問題に解答でき、また、「所有形容詞(第4課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んてくること。	30分
		事後学修	前期末試験にそなえること。	120分
14	7/6	期末試験 代名動詞の2、	前期末試験を実施する。 1)「代名動詞の2(第9課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名動詞の2(第9課)」を直説法現在に活用でき、その問題に解答できる。	
		事前学修	前期末試験の準備をすること。	120分
		事後学修	4級の内容を把握し、11月の試験に向けてどのように勉強するか計画をたてること。	30分
15	7/13	期末試験解説、いろいろな疑問文(4)	前期末試験の解説を終えた後、1)「いろいろな疑問文(4)(第10課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、前期末試験の解説を説明でき、、「いろいろな疑問文(4)(第10課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んてくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめること(あるいは再度問題を解いてみること)。単語練習ノートを行って、後期第1回目に提出すること。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定5級、4級に合格するための、基礎的フランス語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定5級、4級合格に向けた基礎的なフランス語の4技能を身につける。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。 授業内試験については、添削して返却することに対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。										1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。										1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。										1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。										1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴワラ！	伊勢晃、谷口千賀子	早美出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する準備を行う。	
		事前学修	アルファベットの音声をCDで聞く。	30分
		事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	4/14	動詞に関する基礎項目	もっとも一般的な動詞活用の説明	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分
3	4/21	動詞に関する基礎項目	動詞活用の練習と作文	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分
4	4/28	疑問文に関する基礎項目	疑問文の3つの形を学ぶ	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する	
		事前学修	2 課の予習。	30分
		事後学修	2 課の単語を覚える。	30分
5	5/5	名詞に関する基礎項目	名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3 課前半の予習。	30分
		事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分
6	5/12	名詞に関する基礎項目	名詞の性と数にしたがって変化する3つの冠詞を学ぶ	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	3課後半の予習。	30分
		事後学修	3課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	avoirに関する基礎項目	avoir(have)の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課前半の予習。	30分
		事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
8	5/26	êtreに関する基礎項目	êtreの説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	4 課後半の予習。	30分
		事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
9	6/2	形容詞に関する基礎項目	形容詞のの説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	5 課の予習。	30分
		事後学修	5 課の単語を覚える。	30分
10	6/9	比較級・最上級に関する基礎項目	比較級と最上級の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	6 課の予習。	30分
		事後学修	6 課の単語を覚える。	30分
11	6/16	allerに関する基礎項目	aller(go)の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	7 課前半の予習。	30分
		事後学修	7 課前半の単語を覚える。	30分
12	6/23	venirに関する基礎項目	venir(come)の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	7 課後半の予習。	30分
		事後学修	7 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	未来と過去の表現に関する基礎項目	近接未来と近接過去の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関し到達目標で①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課前半の予習。	30分
		事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
14	7/7	命令形に関する基礎項目	命令形の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	8 課後半の予習。	30分
		事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
15	7/14	前期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場でを行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を繰り返し聞いてから、発話を反復してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案返却の際に解説・質問の時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	9/15	ガイダンス・導入講義		授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業方針を理解し、積極的にフランス語に取り組むことができる。		
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください		
		事後学修	授業で聞いたフランス語の音声の綴りを書けるようにしてください。		
2	9/22	疑問文		"Qui est-ce" et "Qu'est-ce que c'est?", "C'est" et "Il est"の用法の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"Qui est-ce" et "Qu'est-ce que c'est?", "C'est" et "Il est"の用法の違いについて理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
3	9/29	これは～です。		"C'est" + adjectif, les nombres. 数字の数え方を理解し、綴りをかける。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"C'est" + adjectif, les nombres. 数字の数えを理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
4	10/6	非人称構文・時間		"Il est" + heures, le tempsの時間表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"Il est" + heures, le tempsの時間表現・用法を理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
5	10/13	部分冠詞		部分冠詞du, de laと数の概念。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞と数の概念を理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		
6	10/20	比較級、最上級		La comparaison et le superlatif。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、比較級・最上級の用法を理解し練習問題を解くことができる。		
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。		
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	第二群規則動詞	第二群規則動詞-ir。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、第二群規則動詞-irの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	11/10	中間テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	11/17	-re動詞、不規則動詞	Les verbes en “-re”, les cas particuliers de verbes.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、-re動詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	11/24	指示語、所有詞	Les démonstratifs, la possession.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示詞、所有詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	12/1	基本的な不規則動詞	Le verbes “faire”, “aller”。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、不規則動詞faire, allerの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	12/8	近接未来、複合過去	Le futur proche, le passé composé avec “avoir”。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、近接未来、複合過去の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	複合過去の助動詞	Le passé composé avec "avoir" et "être".	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合過去の助動詞être, avoirの区分について理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	12/22	半過去、単純未来	L'imparfait, le future simple.	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、半過去、単純未来の時制を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	1/12	期末テスト、採点、解説とまとめ。	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
今年度中に仏検を受験すること。

【授業方法】
過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 定期的に小テストも実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 完全予想 仏検4級 改訂 CD付	富田正二	駿河台出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合は授業内や授業後に声を掛けてください。木曜日16:10～16:20 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	ガイダンス、強勢形人称代名詞	ガイダンス 強勢形人称代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	強勢形人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
2	第一部 木9/24	目的語人称代名詞	目的語人称代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	目的語人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
3	第一部 木10/1	再帰代名詞	再帰代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	再帰代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
4	第一部 木10/8	中性代名詞	中性代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	中性代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
5	第一部 木10/15	指示代名詞	指示代名詞 小テスト	
		この回の到達目標	指示代名詞の変化と使い方を覚える③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
6	第一部 木10/22	否定文	否定文 小テスト	
		この回の到達目標	否定文の作り方を覚え、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	不定詞や節を従える動詞	不定詞や節を従える動詞 小テスト	
		この回の到達目標	不定詞や節を従える動詞を覚え、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
8	第一部 木11/5	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順 小テスト	
		この回の到達目標	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を覚え、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
9	第一部 木11/12	複合時制と受動態	複合時制と受動態 小テスト	
		この回の到達目標	複合時制と受動態の語順を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
10	第一部 木11/19	関係代名詞と強調構文	関係代名詞と強調構文 小テスト	
		この回の到達目標	関係代名詞と強調構文の語順を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
11	第一部 木12/3	形容詞と副詞の語順	形容詞と副詞の語順 小テスト	
		この回の到達目標	形容詞と副詞の語順を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
12	第一部 木12/10	比較の表現	比較の表現 小テスト	
		この回の到達目標	比較の表現を確認し、使えるようになる③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 木12/17	仏検過去問題（５級）		仏検過去問題（５級） 小テスト
		この回の到達目標	仏検過去問題（５級）を通して、試験に慣れる①②③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
14	第一部 木12/24	仏検過去問題（４級）		仏検過去問題（４級） 小テスト
		この回の到達目標	仏検過去問題（４級）を通して、試験に慣れる①②③④	
		事前学修	小テストの準備	30分
		事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
15	第一部 木1/14	まとめとテスト		後期のまとめ・期末テスト
		この回の到達目標	後期に学んだことを復習し、自分で使えるようになる①②③④	
		事前学修	今までに勉強したことを、しっかり復習しておきましょう	30分
		事後学修	わわからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ニヴォー・サンク ― 教室で学ぶ仏検 5 級 ― 』	富田正二	駿河台出版社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9／14	ガイダンス、中性代名詞(1)、複合過去(1)	授業の進め方等のガイダンスを行った後、1)「中性代名詞(1)(第7課)」、2)「複合過去(1)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「中性代名詞(1)(第7課)」の問題に解答でき、また、「複合過去(1)(第8課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
2	9／21	中性代名詞(2)、複合過去(2)(第8課)	1)「中性代名詞(2)(第7課)」、2)「複合過去(2)(第8課)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、1)「中性代名詞(2)(第7課)」の問題に解答でき、また、「複合過去(2)(第8課)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
3	9／28	ne...pas以外の否定表現、単純未来(直説法)	1)「ne...pas以外の否定表現」、2)「単純未来(直説法)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「ne...pas以外の否定表現」の問題に解答でき、また、「単純未来(直説法)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
4	10／5	指示代名詞、半過去(直説法)	4級問題解説を行った後、1)「指示代名詞(第4課)」、2)「半過去(直説法)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「指示代名詞(第4課)」の問題に解答でき、また、「半過去(直説法)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
5	10／12	前置詞(1)、目的補語人称代名詞(1)	1)「前置詞(1)」、2)「目的補語人称代名詞(1)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞(1)」の問題に解答でき、また、「目的補語人称代名詞(1)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分
6	10／19	前置詞(2)、目的補語人称代名詞(2)	1)「前置詞(2)」、2)「目的補語人称代名詞(2)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞(2)」の問題に解答でき、また、「目的補語人称代名詞(2)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／26	動詞prendre（第6課）、会話表現(1)	「動詞prendre（第6課）」、「会話表現(1)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞prendre（第6課）」を直説法現在に活用でき、また、「会話表現(1)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。	30分
8	11／9	動詞savoir（第11課）、会話表現(2)	「動詞savoir（第11課）」、「会話表現(2)」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞savoir（第11課）」を直説法現在に活用でき、また、「会話表現(2)」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
9	11／16	所有代名詞・指示代名詞	「所有代名詞・指示代名詞（第4課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「所有代名詞・指示代名詞（第4課）」の問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
10	11／23	条件法現在	「条件法現在（第11課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「条件法現在（第11課）」を活用させることができ、その問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
11	11／30	関係代名詞(1)（第10課）、接続法現在(1)（第12課）	1)「関係代名詞(1)（第10課）」、2)「接続法現在(1)（第12課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「関係代名詞(1)（第10課）」の問題に解答でき、「接続法現在(1)（第12課）」を活用させることができ、またその問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分
12	12／7	関係代名詞(2)（第10課）、接続法現在(2)（第12課）	1)「関係代名詞(2)（第10課）」、2)「接続法現在(2)（第12課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「関係代名詞(2)（第10課）」の問題に解答でき、「接続法現在(2)（第12課）」を活用させることができ、またその問題に解答できる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでもくこと。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／14	関係代名詞（３）（第１０課）、接続法過去（第13課）	1）「関係代名詞（３）（第１０課）」、2）「接続法過去（第１３課）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「関係代名詞（３）（第１０課）」の問題に解答でき、「接続法過去（第１３課）」を活用させることができる。	
		事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んてくること。	30分
		事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、後期期末試験に備えること。	120分
14	12／21	後期期末試験、後期振り返り	後期期末試験を実施し、その後、後期授業の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、後期授業の振り返りで取り上げた箇所を説明でき、その問題に解答することができる。	
		事前学修	後期末試験の準備をすること。	120分
		事後学修	試験で間違った部分をノートに整理すること。	30分
15	1／18	後期期末試験の返却、その解説	後期期末試験を返却し、またその解説を行う。また、次年度以降のフランス語の一層の学修に備えてもらうために、仏検３級、４級の傾向、対策等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、後期期末試験解説で取り上げた箇所を説明でき、３級、４級の問題の解説において取り上げた傾向、対策等について説明でき、またそこで取り上げた問題に解答できる。	
		事前学修	後期に学んだ事項について、質問を準備すること。	30分
		事後学修	試験解説をノートに整理すること。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験に対しては、添削して返却することで対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴワラ！	伊勢晃、谷口千賀子	早美出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	過去の表現に関する基礎項目	avoirを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	9 課の予習。	30分
		事後学修	9 課の単語を覚える。	30分
2	9/22	過去の表現に関する基礎項目	êtreを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 0 課の予習。	30分
		事後学修	1 0 課の単語を覚える。	30分
3	9/29	目的語に関する基礎項目	直接目的と間接目的の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
4	10/6	強勢形に関する基礎項目	強勢形の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分
5	10/13	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞（現在）の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課前半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課前半の単語を覚える。	30分
6	10/20	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞（過去）の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
		事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/ 27	過去の表現に関する基礎項目	半過去の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 3 課の予習。	30分
		事後学修	1 3 課の単語を覚える。	30分
8	11/ 10	疑問詞に関する基礎項目	疑問詞を用いた文章を作り、それに応える	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 4 課の予習。	30分
		事後学修	1 4 課の単語を覚える。	30分
9	11/ 17	関係代名詞に関する基礎項目	関係代名詞の説明との練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 5 課の予習。	30分
		事後学修	1 5 課の単語を覚える。	30分
10	11/ 24	中性代名詞に関する基礎項目	中性代名詞の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 6 課の予習。	30分
		事後学修	1 6 課の単語を覚える。	30分
11	12/ 1	未来形に関する基礎項目	単純未来の作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 7 課の予習。	30分
		事後学修	1 7 課の単語を覚える。	30分
12	12/ 8	ジェロンディフに関する基礎項目	ジェロンディフの作り方の説明と練習	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	1 8 課の予習。	30分
		事後学修	1 8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/ 15	条件法に関する基礎項目	条件法の作り方の説明	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	19課の予習。	30分
		事後学修	19課の単語を覚える。	30分
14	12/ 22	接続法に関する基礎項目	接続法の作り方の説明	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	20課の予習。	30分
		事後学修	20課の単語を覚える。	30分
15	1/12	後期のまとめ	試験および課題の解説	
		この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
		事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
		事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」4級・3級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検4級・3級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験3級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いフランス語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。30分
		事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。30分
2	4/13	a＋定冠詞、de＋定冠詞	a la, au, aux, dela, du, desなどの前置詞＋定冠詞の形。。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、a＋定冠詞、de＋定冠詞の様々な形を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
3	4/20	所有形容詞	Mon, ton, sonなどの所有形容詞の単・複・男女のパターン。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、所有形容詞の単・複・男女の用法を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
4	4/27	指示形容詞	ce, cette, cesの指示形容詞
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞の用法を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
5	5/4	avoir＋名詞	J'ai une voitureなど、所有を表すavoir＋名詞。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、J'ai une voitureなど、所有を表すavoir＋名詞を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
6	5/11	身体的特徴、年齢	Ma fille a les yeux noirs, Mon fils a trois ansなど年齢・身体的特徴の表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、年齢・身体的特徴の表現を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	快・不快の表現	Il a mal à la tête, Ils ont faimなどの快・不快表現	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il a mal à la tête, Ils ont faimなどの快・不快表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	5/25	中間テスト	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	6/1	avoirの否定形	J'ai→Je n'ai pas, Nous avons→Nous n'avons pasなど、avoirの否定形における音・綴りの変化。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、J'ai→Je n'ai pas, Nous avons→Nous n'avons pasなど、avoirの否定形における音・綴りの変化を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	6/8	avoirの否定形における定冠詞、不定冠詞	Je n'ai pas la télévision, Je n'ai pas de chatなど、所有のavoirの否定形における定冠詞、不定冠詞	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、定冠詞、不定冠詞と名詞の一致を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	6/15	位置を表す前置詞	Il est de Paris, Il est à Paris, Il est près de Parisなどの前置詞による位置の表現の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、前置詞による位置の表現の違いを理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	6/22	国別の前置詞	En France, à Paris, Au Japon, à Tokyoなど、国による前置詞の違い。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、国による前置詞の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	空間配置の前置詞	Dans la voiture, sur la voiture, sous la voitureなどの空間における位置の前置詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、空間における位置の前置詞の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	7/6	非人称構文il y a	非人称構文“il y a”の肯定形、否定形、疑問形の作り方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、非人称構文“il y a”の肯定形、否定形、疑問形の作り方を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	7/13	期末テスト及び解説とまとめ	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」４級・３級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検４級・３級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験3級、4級を受けること。

【授業方法】		
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる									2	2		
②	基本的なフランス語を理解し、ほとんどのほとんどの身近な場面で対応できる									2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる									2	2		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/14	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。
		事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。30分
		事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。30分
2	9/21	識別の疑問文	Qui est-ce? Qu'est-ce que c'estなどの疑問文とその答え方。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Qui est-ce? Qu'est-ce que c'estなどの疑問文とその答え方を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
3	9/28	c'estとil estの違い	C'est un homme. Il est grand. C'est un sac. Il est grandなどに見られるc'estとil estの違い。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、c'estとil estの違いを理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
4	10/5	c'est＋形容詞による感想	C'est beau, c'est cherなどのc'est＋形容詞による感想表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、c'est＋形容詞による感想表現の用法を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
5	10/12	数字を用いた表現	数、助数詞、日付などの表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、数、助数詞、日付などの表現を理解し、練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分
6	10/19	Il est＋時間の表現	Il est cinq heuresなどのIl est＋時間の表現。
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il est＋時間の表現を理解し練習問題を解くことができる。
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	非人称構文を用いた気候表現	Il fait froid en hiver, il fait beau en juilletなどの非人称構文を用いた気候表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il fait froid en hiver, il fait beau en juilletなどの非人称構文を用いた気候表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	11/9	中間テスト	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	11/16	部分冠詞	Je mange de la salade, du poisson et des fruitsなどの部分冠詞の用法。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	11/23	不可算名詞の数え方	Un kilo de, beaucoup de, pas deなどの不可算名詞に用いる数量表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、不可算名詞に用いる数量表現を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	11/30	比較表現	plus grand que, moins grand que, aussi grand queなどの比較表現。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、plus grand que, moins grand que, aussi grand queなどの比較表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	12/7	最上級、量の比較	plus de, moins de, autant deなどの量の比較表現と最上級の作り方。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、量の比較表現と最上級の作り方を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	ir動詞	Je grandis, vous grandissezなど、-ir動詞の単数・複数二つの語尾。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、-ir動詞の活用語尾の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	12/21	様々な主要不規則動詞	partir, écrire, savoir, connaître, boireなどの頻出不規則動詞。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、partir, écrire, savoir, connaître, boireなどの頻出不規則動詞の共通パターンを理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
		事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	1/18	期末テスト及び解説とまとめ	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
		この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
		事前学修	前回までの復習。	30分
		事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅢA	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A1、A2）に合格するための、フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えつつ、資格試験対策II等で修得したフランス語力を更に向上させるために、フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A1、A2）合格に向けたフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
仏検3級以上を受験し、取得することを目標とする人。

【授業方法】
毎回単語テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。一年次で使用していた教科書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法・語彙の十分な知識を元に、フランス語圏における社会生活に対応することができる。									3	3		
②	長い文章の主旨を聞き、内容についての質問に答えることができる。									3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のフランス語が書ける。									3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プリント配布	なし	なし	なし	その他	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	仏検3級合格への目標設定	ガイダンス、授業の方法、参考書、成績評価の方法などの説明。模擬試験による実力測定、仏検3級合格へ向けたスケジュール作成	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、自分のフランス語力を理解し、仏検合格に向けたスケジュールを作成し、何が必要か説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フランス語の教科書文法項目を復習して、仏検3級の過去問を問いておく。	60分
		事後学修	小テストの準備、文法該当箇所の復習	60分
2	第一部木 4/16	定型表現「あいさつ」 直接法現在（1）-er型規則動詞	定型表現「あいさつ」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（1）-er型規則動詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「あいさつ」、直接法現在（1）-er型規則動詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	辞書で定型表現「あいさつ」、直接法現在（1）-er型規則動詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「あいさつ」、直接法現在（1）-er型規則動詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 4/23	定型表現「おれをいう、謝る」 直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）	定型表現「おれをいう、謝る」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「おれをいう、謝る」、直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「おれをいう、謝る」、直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「おれをいう、謝る」、直接法現在（2）-ir型規則動詞、不規則動詞（1）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 4/30	定型表現「賛成する、反対する」 直接法現在（3）不規則動詞（2）	定型表現「賛成する、反対する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（3）不規則動詞（2）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「賛成する、反対する」、直接法現在（3）不規則動詞（2）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「賛成する、反対する」、直接法現在（3）不規則動詞（2）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「賛成する、反対する」、直接法現在（3）不規則動詞（2）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 5/7	定型表現「依頼する、誘う」 直接法現在（4）不規則動詞（3）	定型表現「依頼する、誘う」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（4）不規則動詞（3）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「依頼する、誘う」、直接法現在（4）不規則動詞（3）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「依頼する、誘う」、直接法現在（4）不規則動詞（3）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「依頼する、誘う」、直接法現在（4）不規則動詞（3）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 5/14	定型表現「判断や評価を表す」 直接法現在（5）不規則動詞（4）	定型表現「判断や評価を表す」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法現在（5）不規則動詞（4）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「判断や評価を表す」、直接法現在（5）不規則動詞（4）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「判断や評価を表す」、直接法現在（5）不規則動詞（4）にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「判断や評価を表す」、直接法現在（5）不規則動詞（4）の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	定型表現「体調について話す」 代名動詞の直接法現在形	定型表現「体調について話す」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 代名動詞の直接法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「体調について話す」、代名動詞の直接法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「体調について話す」、代名動詞の直接法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「体調について話す」、代名動詞の直接法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 5/28	定型表現「買物をする」 命令形、過去分詞	定型表現「買物をする」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 命令形、過去分詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「買物をする」、命令形、過去分詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「買物をする」、命令形、過去分詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「買物をする」、命令形、過去分詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 6/4	定型表現「食事をする」 直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致	定型表現「食事をする」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「食事をする」、直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「食事をする」、直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「食事をする」、直接法複合過去形、過去分詞の性・数一致の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 6/11	定型表現「道案内、交通機関を利用する」 直接法半過去・大過去	定型表現「道案内、交通機関を利用する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法半過去・大過去を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「道案内、交通機関を利用する」、直接法半過去・大過去を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「道案内、交通機関を利用する」、直接法半過去・大過去にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「道案内、交通機関を利用する」、直接法半過去・大過去の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 6/18	定型表現「個人や生活にかかわる表現」 直接法単純未来形	定型表現「個人や生活にかかわる表現」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接法単純未来形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「個人や生活にかかわる表現」、直接法単純未来形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」、直接法単純未来形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」、直接法単純未来形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 6/25	定型表現「電話する」 条件法現在形とジェロンディフ	定型表現「電話する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 条件法現在形とジェロンディフを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「電話する」、条件法現在形とジェロンディフを理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「電話する」、条件法現在形とジェロンディフにある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「電話する」、条件法現在形とジェロンディフの理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	定型表現「確認する・否定表現」 接続法現在形	定型表現「確認する・否定表現」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 接続法現在形を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「確認する・否定表現」、接続法現在形を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「確認する・否定表現」、接続法現在形にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「確認する・否定表現」、接続法現在形の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 7/9	定型表現「日常的な話題」 強勢形人称代名詞、指示代名詞	定型表現「日常的な話題」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 強勢形人称代名詞、指示代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「日常的な話題」、強勢形人称代名詞、指示代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「日常的な話題」、強勢形人称代名詞、指示代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「日常的な話題」、強勢形人称代名詞、指示代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 7/16	春学期総復習試験	春学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートを整理し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	春学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	フランス語資格試験対策ⅢB	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A 1、A 2）に合格するための、フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えつつ、資格試験対策Ⅱ等で修得したフランス語力を更に向上させるために、フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A 1、A 2）合格に向けたフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
仏検3級以上を受験し、取得することを目標とする人。

【授業方法】
毎回単語テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。一年次で使用していた教科書を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイ、クイズ形式の質疑応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法・語彙の十分な知識を元に、フランス語圏における社会生活に対応することができる。									3	3		
②	長い文章の主旨を聞き、内容についての質問に答えることができる。									3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のフランス語が書ける。									3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・プレゼンの講評、解説、採点、質問事項への返答

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プリント配布	なし	なし	なし	その他	必携
備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				

【オフィスアワー】
授業終了後に質問を受け付ける授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	秋学期初回総復習テスト	秋学期初回総復習テスト60分、解説30分	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読んで、過去の仏検問題をとき、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	秋学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
2	第一部木 9/24	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」 目的語人称代名詞、再帰代名詞	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 目的語人称代名詞、再帰代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」、目的語人称代名詞、再帰代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」、目的語人称代名詞、再帰代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「あいさつ」「お礼を言う、謝る」、目的語人称代名詞、再帰代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
3	第一部木 10/1	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」 所有代名詞、中性代名詞	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 所有代名詞、中性代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」、所有代名詞、中性代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」、所有代名詞、中性代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「賛成・反対する」「依頼する、誘う」、所有代名詞、中性代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
4	第一部木 10/8	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」 関係代名詞、疑問代名詞	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 関係代名詞、疑問代名詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」、関係代名詞、疑問代名詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」、関係代名詞、疑問代名詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「判断や評価を表す」「体調について話す」、関係代名詞、疑問代名詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
5	第一部木 10/15	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」 不定代名詞、前置詞、場所・位置	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 不定代名詞、前置詞、場所・位置を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」、不定代名詞、前置詞、場所・位置を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」、不定代名詞、前置詞、場所・位置にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「買物をする」「道案内、交通機関を利用する」、不定代名詞、前置詞、場所・位置の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
6	第一部木 10/22	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」 時の前置詞	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。 時の前置詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」、時の前置詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」、時の前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「個人や生活にかかわる表現」「電話する」、時の前置詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」その他の前置詞	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。その他の前置詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」、その他の前置詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」、その他の前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	定型表現「確認する、否定表現」「日常的な話題」、その他の前置詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
8	第一部木 11/5	定型表現総復習 形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞	過去に学んだ全ての定型表現の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現、形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現、形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
9	第一部木 11/12	定型表現総復習 模擬試験	過去に学んだ定型表現の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を復習し、確実に修得していることを確認する。模擬試験を行い、検定試験への最終確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、定型表現、模擬試験の形式・内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定型表現、形容詞・副詞の補語を導く前置詞、動詞の補語を導く前置詞にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	模擬試験で理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分
10	第一部木 11/19	会話練習「数字について尋ねる」 否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順	会話練習「数字について尋ねる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「数字について尋ねる」、否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「数字について尋ねる」、否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「数字について尋ねる」、否定文、目的語人称代名詞と中性代名詞の語順の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
11	第一部木 12/3	会話練習「理由をのべる」 不定詞や節を従える動詞 関係代名詞と強調構文	会話練習「理由をのべる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「理由をのべる」、不定詞や節を従える動詞、関係代名詞と強調構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
12	第一部木 12/10	会話練習「金額について尋ねる」 比較の構文	会話練習「金額について尋ねる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。比較の構文を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「金額について尋ねる」、比較の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「金額について尋ねる」、比較の構文にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「金額について尋ねる」、比較の構文の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	会話練習「希望をのべる」 直接話法と間接話法	会話練習「希望をのべる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 直接話法と間接話法を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「希望をのべる」、直接話法と間接話法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「希望をのべる」、直接話法と間接話法にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「希望をのべる」、直接話法と間接話法の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
14	第一部木 1/14	会話練習「特徴についての べる」 慣用句	会話練習「特徴についてのべる」の意味、発音、綴り、発話すべき状況等を学ぶ。 慣用句を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、会話練習「特徴についてのべる」、慣用句を理解し、説明することができる。	
		事前学修	会話練習「特徴についてのべる」、慣用句にある各語の意味を調べ、ノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	会話練習「特徴についてのべる」、慣用句の理解できた点をノートに整理、復習をしたうえで、小テストに向けて暗唱、暗記する。また疑問点が解消されているか確認する。	60分
15	第一部木 1/21	秋学期総復習試験	春学期・期末テスト60分、解説30分	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関連して、今まで学習してきた定型表現、文法事項を理解し、説明することができる。	
		事前学修	過去のノートに整理、翻訳し、不明な点を羅列しておく。	60分
		事後学修	秋学期総復習試験の理解できた点、不明な点をノートに整理、復習をしたうえで、疑問点が解消されているか確認する。	60分

科目名	国際研修(仏) I A	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】		
このクラスはビデオ付きのフランスの教材を使用する。ナントに住む2家族の物語を見ながら学習を進めていく。各課はビデオを見て理解してみて、次にフランス語で書かれた資料を読み解きながらフランス語を勉強して、そして書いたり、話したり内容を深め、最後に文化的側面をビデオを使って学習する。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける										1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	TOTEM 1のプリント配布				

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	04/09	授業のオリエンテーション、及び導入講義	本講義の目的と概要について説明する。	
		この回の到達目標	授業計画を知ること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	10分
		事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること。	20分
2	04/16	名前を言う、挨拶、イントネーション	Leçon 1 Bienvenue !	
		この回の到達目標	名前を言う、挨拶、イントネーション	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
3	04/23	フランス語を読む	Leçon 2 Les mots à lire アルファベット、スペリング	
		この回の到達目標	資料の理解力を深める。	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
4	04/30	買い物する時の挨拶	Leçon 3 Les mots à écouter	
		この回の到達目標	買い物する時の挨拶	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
5	05/07	フランス文化	Leçon 4 Cultures Saluer, la France フランス人のジェスチャー、フランスのシンボル	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
6	05/14	自己紹介	Leçon 5 Moi, je suis... 年齢・職業を言う、家族について話す	
		この回の到達目標	年齢・職業を言う、家族について話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	05/21	自己紹介	Leçon 6 Mes amis et moi 日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
		この回の到達目標	日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
8	05/28	連絡先を聞く	Leçon 7 Toi 電話番号、メールアドレスを聞く	
		この回の到達目標	連絡先を聞く	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
9	06/04	フランス文化	Leçon 8 Cultures Faire connaissance, habiter à Nantes 住まいについて話す	
		この回の到達目標	住まいについて話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
10	06/11	テスト、振り返り	Préparation au DELF 試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		この回の到達目標	Leçons 1-8が身につけているかを確認する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
11	06/18	レストランの注文	Leçon 9 Et pour vous ? レストランで注文する	
		この回の到達目標	レストランで注文する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分
12	06/25	自分の住んでいる町について説明する	Leçon 10 À Paris 自分の住んでいる町について説明する	
		この回の到達目標	自分の住んでいる町について説明する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	07/02	時刻を言う、誘う	Leçon 11 Métro Odéon 時刻を言う、誘う	
		この回の到達目標	時刻を言う、誘う	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
14	07/09	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	07/16	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	国際研修(仏) I B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
このクラスはビデオ付きのフランスの教材を使用する。ナントに住む2家族の物語を見ながら学習を進めていく。各課はビデオを見て理解してみて、次にフランス語で書かれた資料を読み解きながらフランス語を勉強して、そして書いたり、話したり内容を深め、最後に文化的側面をビデオを使って学習する。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける										1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	TOTEM 1のプリント配布				

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	09/07	Leçons 1-11の復習	前期のレッスンの練習問題	
		この回の到達目標	前期のレッスンの復習	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること。	60分
2	09/14	フランス文化	Leçon 12 Cultures Au restaurant, Bienvenue à Paris レストランでの習慣、パリの紹介	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
3	10/01	洋服屋さんで買い物する	Leçon 13 Ça vous plaît ? 洋服屋さんで買い物する	
		この回の到達目標	洋服屋さんで買い物する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
4	10/08	食べ物の量を言う、レシピを読む	Leçon 14 Qu'est-ce qu'on mange ? 食べ物の量を言う、レシピを読む	
		この回の到達目標	食べ物の量を言う、レシピを読む	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
5	10/15	市場で買い物する	Leçon 15 Au marché 市場で買い物する	
		この回の到達目標	市場で買い物する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
6	10/22	フランス文化	Leçon 16 Cultures La bonne attitude, le bien manger 買い物と食べ物の習慣	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	テスト、振り返り	Préparation au DELF 試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		この回の到達目標	Leçons 12-16が身についているかを確認する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
8	11/05	自分の趣味について話す	Leçon 17 Et une comédie ? 自分の趣味について話す	
		この回の到達目標	自分の趣味について話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
9	11/12	人の見た目と性格を説明する	Leçon 18 Personnalités 人の見た目と性格を説明する	
		この回の到達目標	人の見た目と性格を説明する	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
10	11/19	過去の話しをする	Leçon 19 Le jour du livre 過去の話しをする	
		この回の到達目標	過去の話しをする	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
11	12/03	フランス文化	Leçon 20 Culture Faire connaissance Intouchables 対人距離間、映画について話す	
		この回の到達目標	フランス文化	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
12	12/10	過去の出来事について話す	Leçon 21 Le lycée, c'est fini ! 過去の出来事について話す	
		この回の到達目標	過去の出来事について話す	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータル音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	思い出話をする	Leçon 22 Les vacances 思い出話をする	
		この回の到達目標	思い出話をする	
		事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
		事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
14	12/24	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	01/14	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	フランス語の基礎	Initiation	
		この回の到達目標	フランス語の基礎を理解する	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	4/17	挨拶	Leçon 1	
		この回の到達目標	簡単な挨拶する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	4/24	挨拶	Leçon 1	
		この回の到達目標	名前を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	5/1	数字	Leçon 1/2	
		この回の到達目標	10まで数える	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	5/8	自己紹介	Leçon 2	
		この回の到達目標	名前を言う、30まで数える	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	5/15	自己紹介	Leçon 2	
		この回の到達目標	職業、国籍を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	家族	Leçon 3	
		この回の到達目標	人を描写する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	5/29	家族	Leçon 3	
		この回の到達目標	家族を紹介する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	6/5	大学	Leçon 3/4	
		この回の到達目標	自分の大学を紹介する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	6/12	大学	Leçon 4	
		この回の到達目標	キャンパスをの構成を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	6/19	大学	Leçon 4	
		この回の到達目標	大学の付近を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	6/26	自己紹介	Leçon 5	
		この回の到達目標	話せる言語、専攻を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	自己紹介	Leçon 5	
		この回の到達目標	趣味を紹介する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	7/13	前期のクラスの内容	まとめ	
		この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	7/17	前期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
		事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
		この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 水4/15	レッスン0-1	フランス語の基礎	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
		事前学修	レッスン0の予習	30分
		事後学修	レッスン0の復習	30分
3	第一部 水4/22	レッスン0-2	フランス語の基礎	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
		事前学修	レッスン0の予習	30分
		事後学修	レッスン0の復習	30分
4	第一部 水4/29	レッスン1-1	自己紹介をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
		事前学修	レッスン1の予習	30分
		事後学修	レッスン1の復習	30分
5	第一部 水5/6	レッスン1-2	自己紹介をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
		事前学修	レッスン1の予習	30分
		事後学修	レッスン1の復習	30分
6	第一部 水5/13	まとめ	レッスン0と1の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン0と1で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン0と1の見直し	30分
		事後学修	レッスン0と1の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	レッスン2-1	今住んでいるところや出身地について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
		事前学修	レッスン2の予習	30分
		事後学修	レッスン2の復習	30分
8	第一部 水5/27	レッスン2-2	今住んでいるところや出身地について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
		事前学修	レッスン2の予習	30分
		事後学修	レッスン2の復習	30分
9	第一部 水6/3	レッスン3-1	交通手段について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
		事前学修	レッスン3の予習	30分
		事後学修	レッスン3の復習	30分
10	第一部 水6/10	レッスン3-2	交通手段について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
		事前学修	レッスン3の予習	30分
		事後学修	レッスン3の復習	30分
11	第一部 水6/17	まとめ	レッスン2と3の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン2と3で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン2と3の見直し	30分
		事後学修	レッスン2と3の復習	30分
12	第一部 水6/24	レッスン4-1	アルバイトについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
		事前学修	レッスン4の予習	30分
		事後学修	レッスン4の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	レッスン4-2	アルバイトについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
		事前学修	レッスン4の予習	30分
		事後学修	レッスン4の復習	30分
14	第一部 水7/8	まとめ	レッスン4の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン4で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン4の予習	30分
		事後学修	レッスン4の復習	30分
15	第一部 水7/15	前期のまとめ	前期学習内容の総復習	
		この回の到達目標	前期学習内容を総復習する。	
		事前学修	前期終了したテキストの総復習	30分
		事後学修	前期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 4/9	テーマ別の基礎表現	授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。	
		この回の到達目標	授業のイメージを理解。	
		事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 4/16	テーマ別の基礎表現	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		この回の到達目標	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 4/23	テーマ別の基礎表現	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		この回の到達目標	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 4/30	テーマ別の基礎表現	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		この回の到達目標	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 5/7	テーマ別の基礎表現	発音と綴り字記号の読み方	
		この回の到達目標	発音と綴り字記号の読み方	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 5/14	テーマ別の基礎表現	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		この回の到達目標	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 5/21	テーマ別の基礎表現	趣味を語る（疑問文）	
		この回の到達目標	趣味を語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 5/28	テーマ別の基礎表現	好き嫌いを語る（疑問文）	
		この回の到達目標	好き嫌いを語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 6/4	テーマ別の基礎表現	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 6/11	テーマ別の基礎表現	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		この回の到達目標	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 6/18	テーマ別の基礎表現	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		この回の到達目標	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 6/25	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 7/2	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		この回の到達目標	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 7/9	テーマ別の基礎表現	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 7/16	テーマ別の基礎表現	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I A(木曜3時限)	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
コミュニケーションパターンと文法事項を学習、基本事項の反復トレーニング、会話を聞いて、会話の内容確認と会話のロールプレイ、応用練習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	04/07	フランス紹介、フランス語・フランスについてのクイズ	授業のオリエンテーション	
		この回の到達目標	フランス語に触れること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	10分
		事後学修	教科書を手に入れて、教科書をめくって観察すること。	20分
2	04/16	自己紹介	Leçon 0 挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
		この回の到達目標	挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
		事前学修	テキストの8．9ページを読んでおく。	10分
		事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
3	04/23	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
		この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
4	04/30	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
		この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
5	05/07	自己紹介	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
6	05/14	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	05/21	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
8	05/28	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
9	06/04	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	06/11	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
11	06/18	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
12	06/25	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	07/02	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
14	07/09	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	07/16	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	前期に習ったこと	前学期の復習	
		この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
		事前学修	前期に学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	9/25	日常生活	Leçon 6	
		この回の到達目標	一日のスケジュールを説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	10/2	日常生活	Leçon 6	
		この回の到達目標	平日、週末のスケジュールを説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	10/9	観光、休み	Leçon 6/7	
		この回の到達目標	休みの予定を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	10/16	観光、休み	Leçon 7	
		この回の到達目標	時刻を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	10/23	観光、休み	Leçon 7	
		この回の到達目標	日日や季節を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	天気	Leçon 8	
		この回の到達目標	天気を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	11/6	家	Leçon 8	
		この回の到達目標	自分が住んでいる家を説明する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	11/13	食べ物	Leçon 8/9	
		この回の到達目標	食べ物の容量を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	11/20	食べ物	Leçon 9	
		この回の到達目標	レシピを言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	11/27	レストランやカフェ	Leçon 9	
		この回の到達目標	禁じる、許可をあげる	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	12/4	服	Leçon 10	
		この回の到達目標	服を描写する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	服	Leçon 10	
		この回の到達目標	お店で服を買う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	12/18	後期のクラスの内容	まとめ	
		この回の到達目標	後期のクラスの内容を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	12/25	後期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	後期のクラスの内容を復習する	
		事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	レッスン5-1	ペットなどについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
		事前学修	前期の総復習とレッスン5の予習	30分
		事後学修	前期終了した学習内容の確認とレッスン5の復習	30分
2	第一部 水9/23	レッスン5-2	ペットなどについて話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
		事前学修	レッスン5の予習	30分
		事後学修	レッスン5の復習	30分
3	第一部 水9/30	レッスン6-1	科目・先生について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
		事前学修	レッスン6の予習	30分
		事後学修	レッスン6の復習	30分
4	第一部 水10/7	レッスン6-2	科目・先生について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
		事前学修	レッスン6の予習	30分
		事後学修	レッスン6の復習	30分
5	第一部 水10/14	まとめ	レッスン5と6の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン5と6で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン5と6の予習	30分
		事後学修	レッスン5と6の復習	30分
6	第一部 水10/21	レッスン7-1	食べ物について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
		事前学修	レッスン7の予習	30分
		事後学修	レッスン7の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	レッスン7-2	食べ物について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
		事前学修	レッスン7の予習	30分
		事後学修	レッスン7の復習	30分
8	第一部 水11/11	レッスン8-1	家事について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
		事前学修	レッスン8の予習	30分
		事後学修	レッスン8の復習	30分
9	第一部 水11/18	レッスン8-2	家事について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
		事前学修	レッスン8の予習	30分
		事後学修	レッスン8の復習	30分
10	第一部 水11/25	まとめ	レッスン7と8の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン7と8で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン7と8の予習	30分
		事後学修	レッスン7と8の復習	30分
11	第一部 水12/2	レッスン9-1	家族について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
		事前学修	レッスン9の予習	30分
		事後学修	レッスン9の復習	30分
12	第一部 水12/9	レッスン9-2	家族について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
		事前学修	レッスン9の予習	30分
		事後学修	レッスン9の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	レッスン10-1	クラブ活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン10の予習	30分
		事後学修	レッスン10の復習	30分
14	第一部 水12/23	レッスン10-2	クラブ活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン10の予習	30分
		事後学修	レッスン10の復習	30分
15	第一部 水1/13	まとめ	レッスン9と10の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン9と10で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン9と10の見直し	30分
		事後学修	後期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 9/17	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
		この回の到達目標	簡単な復習	
		事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 9/24	テーマ別の基礎表現	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		この回の到達目標	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 10/1	テーマ別の基礎表現	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		この回の到達目標	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 10/8	テーマ別の基礎表現	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		この回の到達目標	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 10/15	テーマ別の基礎表現	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 10/22	テーマ別の基礎表現	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 10/29	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現1（代名動詞）	
		この回の到達目標	日常生活の表現1（代名動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 11/5	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現2（近接未来）	
		この回の到達目標	日常生活の表現2（近接未来）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 11/12	テーマ別の基礎表現	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		この回の到達目標	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 11/19	テーマ別の基礎表現	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		この回の到達目標	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 12/3	テーマ別の基礎表現	比較する（比較級、最上級）	
		この回の到達目標	比較する（比較級、最上級）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 12/10	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る1（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る1（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 12/17	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る2（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る2（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 12/24	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る1（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る1（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 1/14	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る2（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る2（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B(木曜3時限)	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
コミュニケーションパターンと文法事項を学習、基本事項の反復トレーニング、会話を聞いて、会話の内容確認と会話のロールプレイ、応用練習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	09/07	Leçon 0-4の復習	前期のレッスンの練習問題	
		この回の到達目標	前期のレッスンの復習	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
2	09/14	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べておく	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
3	10/01	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
4	10/08	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
5	10/15	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
6	10/22	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
8	11/05	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
		この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
9	11/12	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
		この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	11/19	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
		この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
11	12/03	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
12	12/10	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
		事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
		事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返し覚えること。	60分
14	12/24	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
		事前学修	試験のための復習	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	01/14	フィードバック	まとめ、振り返り	
		この回の到達目標	まとめ、振り返り	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
授業への参加を重視します。

【授業方法】
ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes	Hachette	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	その年の授業	授業方法の説明	
		この回の到達目標	授業方法の説明の理解	
		事前学修	シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	4/17	フランスのレストラン	Leçon 9 : Et pour vous ?	
		この回の到達目標	レストランで注文する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	4/24	フランスのレストラン	Leçon 9 : Et pour vous ?	
		この回の到達目標	レストランで注文する（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	5/1	パリの観光	Leçon 10 : À Paris	
		この回の到達目標	道を案内出来る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	5/8	天気の説明	Leçon 10 : À Paris	
		この回の到達目標	天気予報を理解する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	5/15	美術館、映画、レストランに行く	Leçon 11 Métro Odéon	
		この回の到達目標	約束をとれる	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	美術館、映画、レストランに行く	Leçon 11 Métro Odéon	
		この回の到達目標	約束をとれる(続き)	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
8	5/29	洋服	Leçon 13 : Ça vous plait ?	
		この回の到達目標	服を描写する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
9	6/5	洋服	Leçon 13 : Ça vous plait ?	
		この回の到達目標	買い物出来る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
10	6/12	料理	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ?	
		この回の到達目標	レシピの材料の容量を言う	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
11	6/19	料理	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ?	
		この回の到達目標	レシピを説明できる	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
12	6/26	食べ物	Leçon 15 : Au marché	
		この回の到達目標	市場で買い物出来る	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	食べ物	Leçon 15 : Au marché	
		この回の到達目標	市場で買い物出来る（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	7/10	前期の授業	まとめ	
		この回の到達目標	前期の授業の内容を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	7/17	前期の授業	まとめ	
		この回の到達目標	前期の授業の内容を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語学習2年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	フランス語で身近なテーマについて自立的に文章を作って話すことができる										2			
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる											2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる											2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
		この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 水4/15	レッスン0-10	レッスン0-10のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストのレッスン0-10で学んだ内容を確認する。	
		事前学修	レッスン0-10を読んでおく	30分
		事後学修	レッスン0-10を復習しておく	30分
3	第一部 水4/22	レッスン11-1	習慣について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習慣について話すことができる。	
		事前学修	レッスン11の予習	30分
		事後学修	レッスン11の復習	30分
4	第一部 水4/29	レッスン11-2	習慣について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習慣について話すことができる。	
		事前学修	レッスン11の予習	30分
		事後学修	レッスン11の復習	30分
5	第一部 水5/6	レッスン12-1	週末の過ごし方について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
		事前学修	レッスン12の予習	30分
		事後学修	レッスン12の予習	30分
6	第一部 水5/13	レッスン12-2	週末の過ごし方について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
		事前学修	レッスン12の予習	30分
		事後学修	レッスン12の予習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	まとめ	レッスン11と12の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン11と12で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン11と12の見直し	30分
		事後学修	レッスン11と12の復習	30分
8	第一部 水5/27	レッスン13-1	時間について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、時間について話すことができる。	
		事前学修	レッスン13の予習	30分
		事後学修	レッスン13の復習	30分
9	第一部 水6/3	レッスン13-2	時間について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、時間について話すことができる。	
		事前学修	レッスン13の予習	30分
		事後学修	レッスン13の復習	30分
10	第一部 水6/10	レッスン14-1	休暇中の活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、休暇中の活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン14の予習	30分
		事後学修	レッスン14の復習	30分
11	第一部 水6/17	レッスン14-2	休暇中の活動について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、休暇中の活動について話すことができる。	
		事前学修	レッスン14の予習	30分
		事後学修	レッスン14の復習	30分
12	第一部 水6/24	まとめ	レッスン13と14の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン13と14で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン13と14の見直し	30分
		事後学修	レッスン13と14の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	レッスン15-1	経験について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、経験について話すことができる。	
		事前学修	レッスン15の予習	30分
		事後学修	レッスン15の復習	30分
14	第一部 水7/8	レッスン15-2	経験について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、経験について話すことができる。	
		事前学修	レッスン15の予習	30分
		事後学修	レッスン15の復習	30分
15	第一部 水7/15	まとめ	レッスン15の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン15で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン15の見直し	30分
		事後学修	レッスン15の復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】
授業での活動的な参加は求められている(出席だけでは参加になりません) 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	フランス語で身近なテーマについて自立的に文章を作って話すことができる										2			
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる											2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる											2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 4/9	テーマ別の基礎表現	授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。	
		この回の到達目標	授業のイメージを理解。	
		事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 4/16	テーマ別の基礎表現	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		この回の到達目標	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 4/23	テーマ別の基礎表現	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		この回の到達目標	国籍を言う（代名詞と名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 4/30	テーマ別の基礎表現	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		この回の到達目標	名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 5/7	テーマ別の基礎表現	発音と綴り字記号の読み方	
		この回の到達目標	発音と綴り字記号の読み方	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 5/14	テーマ別の基礎表現	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		この回の到達目標	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 5/21	テーマ別の基礎表現	趣味を語る（疑問文）	
		この回の到達目標	趣味を語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 5/28	テーマ別の基礎表現	好き嫌いを語る（疑問文）	
		この回の到達目標	好き嫌いを語る（疑問文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 6/4	テーマ別の基礎表現	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 6/11	テーマ別の基礎表現	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		この回の到達目標	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 6/18	テーマ別の基礎表現	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		この回の到達目標	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 6/25	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		この回の到達目標	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 7/2	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		この回の到達目標	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 7/9	テーマ別の基礎表現	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 7/16	テーマ別の基礎表現	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		この回の到達目標	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
授業への参加を重視します。

【授業方法】
ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes	Hachette	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	前学期の授業の内容	前学期の復習	
		この回の到達目標	前学期の復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	9/26	映画	Leçon 17 : Et une comédie ?	
		この回の到達目標	自分の好みを表現する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	10/2	映画	Leçon 17 : Et une comédie ?	
		この回の到達目標	未来の話をする	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	10/9	有名人	Leçon 18 : Personnalités	
		この回の到達目標	人を描写する（見かけ/正確）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	10/16	有名人	Leçon 18 : Personnalités	
		この回の到達目標	人を描写する（見かけ/正確）（続き）	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	10/23	文学	Leçon 19 : Le livre du jour	
		この回の到達目標	過去の話をする	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
7	10/30	文学		Leçon 19 : Le livre du jour		
		この回の到達目標	過去の話をする（続き）			
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）			30分
8	11/6	フランスの大学		Leçon 21 : Le lycée, c'est fini !		
		この回の到達目標	専攻を説明する			
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）			30分
9	11/13	フランスの大学		Leçon 21 : Le lycée, c'est fini !		
		この回の到達目標	驚きを表現する			
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）			30分
10	11/20	観光		Leçon 22 : les vacances		
		この回の到達目標	思い出を語る			
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）			30分
11	11/27	観光		Leçon 22 : les vacances		
		この回の到達目標	頻度を表現する			
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）			30分
12	12/4	留学		Leçon 23 : Erasmus		
		この回の到達目標	相談する			
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分
		事後学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）			30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/11	留学		Leçon 23 : Erasmus
		この回の到達目標	必要さを表現する	
		事前学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
		事後学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
14	12/18	後期の授業		まとめ
		この回の到達目標	後期の授業を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	12/25	後期の授業		まとめ
		この回の到達目標	後期の授業を復習する	
		事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
		事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。CEFRA1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
フランス語学習2年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016		
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	前期のまとめ	前期学習内容の総復習	
		この回の到達目標	前期学習内容を総復習する。	
		事前学修	前期終了したテキストの総復習	30分
		事後学修	前期終了した学習内容を確認する。	30分
2	第一部 水9/23	レッスン16-1	地理について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地理について話すことができる。	
		事前学修	レッスン16の予習	30分
		事後学修	レッスン16の復習	30分
3	第一部 水9/30	レッスン16-2	地理について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地理について話すことができる。	
		事前学修	レッスン16の予習	30分
		事後学修	レッスン16の復習	30分
4	第一部 水10/7	レッスン17-1	天候について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、天候について話すことができる。	
		事前学修	レッスン17の予習	30分
		事後学修	レッスン17の復習	30分
5	第一部 水10/14	レッスン17-2	天候について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、天候について話すことができる。	
		事前学修	レッスン17の予習	30分
		事後学修	レッスン17の復習	30分
6	第一部 水10/21	レッスン18-1	過去について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、過去について話すことができる。	
		事前学修	レッスン18の予習	30分
		事後学修	レッスン18の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	レッスン18-2	過去について話す	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、過去について話すことができる。	
		事前学修	レッスン18の予習	30分
		事後学修	レッスン18の復習	30分
8	第一部 水11/11	まとめ	レッスン16-18の復習	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン16-18で学んだことを用いながら会話することができる。	
		事前学修	レッスン16-18の予習	30分
		事後学修	レッスン16-18の復習	30分
9	第一部 水11/18	アクティビテ1-1	道を尋ねる	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、道を尋ねることができる。	
		事前学修	アクティビテ1の予習	30分
		事後学修	アクティビテ1の復習	30分
10	第一部 水11/25	アクティビテ1-2	道を尋ねる	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、道を尋ねることができる。	
		事前学修	アクティビテ1の予習	30分
		事後学修	アクティビテ1の復習	30分
11	第一部 水12/2	アクティビテ2-1	レストランで注文する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レストランで注文することができる。	
		事前学修	アクティビテ2の予習	30分
		事後学修	アクティビテ2の復習	30分
12	第一部 水12/9	アクティビテ2-2	レストランで注文する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レストランで注文することができる。	
		事前学修	アクティビテ2の予習	30分
		事後学修	アクティビテ2の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	アクティビテ3-1	買い物をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、買い物をするができる。	
		事前学修	アクティビテ3の予習	30分
		事後学修	アクティビテ3の復習	30分
14	第一部 水12/23	アクティビテ3-2	買い物をする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、買い物をするができる。	
		事前学修	アクティビテ3の予習	30分
		事後学修	アクティビテ3の復習	30分
15	第一部 水1/13	まとめ	後期学習内容の総復習	
		この回の到達目標	後期学習内容を総復習する。	
		事前学修	後期終了したテキストの総復習	30分
		事後学修	前期および後期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日 9/17	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
		この回の到達目標	簡単な復習	
		事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	木曜日 9/24	テーマ別の基礎表現	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		この回の到達目標	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	木曜日 10/1	テーマ別の基礎表現	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		この回の到達目標	年齢を言う（数字、疑問副詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	木曜日 10/8	テーマ別の基礎表現	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		この回の到達目標	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	木曜日 10/15	テーマ別の基礎表現	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する1（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	木曜日 10/22	テーマ別の基礎表現	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		この回の到達目標	人を紹介する2（補語人称代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日 10/29	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現1（代名動詞）	
		この回の到達目標	日常生活の表現1（代名動詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	木曜日 11/5	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現2（近接未来）	
		この回の到達目標	日常生活の表現2（近接未来）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	木曜日 11/12	テーマ別の基礎表現	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		この回の到達目標	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	木曜日 11/19	テーマ別の基礎表現	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		この回の到達目標	天候を言う（中世代名詞2、命令形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	木曜日 12/3	テーマ別の基礎表現	比較する（比較級、最上級）	
		この回の到達目標	比較する（比較級、最上級）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	木曜日 12/10	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る1（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る1（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日 12/17	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る2（複合過去形）	
		この回の到達目標	過去のことを語る2（複合過去形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	木曜日 12/24	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る1（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る1（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	木曜日 1/14	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る2（単純未来形）	
		この回の到達目標	未来のことを語る2（単純未来形）	
		事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
		事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っている事。授業に関する決まり(欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど)を守る事。初回の授業には開始時より必ず出席している事。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して音読、本文訳をさせ、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト終了後の解説及び採点後の返却、教科書本文音読テストの批評及び授業内試験の試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子・鄭幸枝	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9	【ガイダンス】【中国語とは】	①ガイダンス(授業の進め方等授業概要説明) ②中国語について(発音・文字・方言など)の概略を説明する。	
		この回の到達目標	中国語とはどのようなものかその概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスと教科書を読んで、講義の全体をつかんでおく。中国語とはどのようなものなのかを調べておく。	30分
		事後学修	ガイダンス(授業の進め方等)の確認、発音、文字(簡体字)の理解確認。	30分
2	第一部 4/16	【中国語の発音習得①】声調と単母音	発音習得 声調・単母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	声調、単母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	中国語の発音・文字(簡体字)を再度確認する。	60分
		事後学修	声調、単母音の習得確認。	60分
3	第一部 4/23	【中国語の発音取得②】子音、有気音、無気音。	発音習得 ①子音、有気音・無気音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	①子音、有気音・無気音を正確に発音することができる。	
		事前学修	声調、単母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	①子音、有気音・無気音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
4	第一部 4/30	【中国語の発音習得③】子音、有気音、無気音、複合母音。	発音習得 ②子音、有気音・無気音・複合母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	②子音、有気音・無気音・複合母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	①子音、有気音・無気音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	②子音、有気音・無気音・複合母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
5	第一部 5/7	【中国語の発音習得④】鼻母音、声調の変化、er化、軽声。	発音習得 鼻母音・声調の変化・er化・軽声等について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等を正確に発音することができる。	
		事前学修	②子音、有気音・無気音・複合母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
6	第一部 5/14	【中国語基礎表現習得①】人称代名詞、「～だ」、「～ですか」の表現。	第1課① 校門で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第1回ピンイン書き取りテスト(母音部)	
		この回の到達目標	第1課の文法事項を理解し、その本文を音読して、基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等について、教科書で再度確認、第1回ピンイン書き取りテスト準備、第1課① 校門で 予習(文法事項通読、新出単語及び本文発音確認)	120分
		事後学修	第1課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第1回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/21	【中国語基礎表現習得②】 動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文の表現。	第1課② 校門で、第2課① 廊下で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第2回ピンイン書き取りテスト（子音 b、p、m、f 部）	
		この回の到達目標	第1課の練習問題を正しく解答できる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第2回ピンイン書き取りテスト準備、第1課文法事項等について、教科書で再度確認、第1課② 校門で、第2課① 廊下で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第1課全事項の習得確認、第2課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第2回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
8	第一部 5/28	【中国語基礎表現習得③】 動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文の表現。	第2課② 廊下で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第3回ピンイン書き取りテスト（子音 d、t、n、l 部）	
		この回の到達目標	第2課の練習問題を正しく解答することができる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第3回ピンイン書き取りテスト準備、第2課文法事項等について、教科書で再度確認、第2課② 廊下で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第2課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第3回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
9	第一部 6/4	【中国語基礎表現習得④】 指示代名詞、形容詞述語文、所有格、語気助詞の表現。	第3課① キャンパスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第4回ピンイン書き取りテスト（子音 g、k、h 部）	
		この回の到達目標	第3課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第4回ピンイン書き取りテスト準備、第3課① キャンパスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第4回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
10	第一部 6/11	【中国語基礎表現習得⑤】 所有、反復疑問文、数詞の表現。	第3課② キャンパスで、第4課① 携帯を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。第5回ピンイン書き取りテスト（子音 j、q、x 部）	
		この回の到達目標	第3課の練習問題を正しく解答することができる。第3課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第5回ピンイン書き取りテスト準備、第3課文法事項等について、教科書で再度確認、第3課② キャンパスで、第4課① 携帯を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課全事項の習得確認、第4課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第5回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
11	第一部 6/18	【中国語基礎表現習得⑥】 所有、反復疑問文、数詞の表現。	第4課② 携帯を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第6回ピンイン書き取りテスト（子音 z、c、s、h、r 部）	
		この回の到達目標	第4課の練習問題を正しく解答することができる。第4課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第6回ピンイン書き取りテスト準備、第4課文法事項等について、教科書で再度確認、第4課② 携帯を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第4課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第6回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
12	第一部 6/25	【中国語基礎表現習得⑦】 場所詞、存在、副詞、二重目的語文の表現。	第5課① 学生食堂で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第7回ピンイン書き取りテスト（子音 z、c、s 部）	
		この回の到達目標	第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第7回ピンイン書き取りテスト準備、第5課① 学生食堂で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第5課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第7回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/2	【中国語基礎表現習得⑧】 場所詞、存在、副詞、二重 目的語文の表現。	第5課② 学生食堂で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 前期授業総復習、教科書本文音読テスト練習	
		この回の 到達目標	第5課の練習問題を正しく解答することができる。第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第5課文法事項等について、教科書で再度確認、第5課② 学生食堂で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第5課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、前期授業における習得の総確認、第1～7回ビンイン書き取りテスト見直し。	90分
14	第一部 7/9	【本文音読テスト、まとめ】	教科書本文音読テスト及び前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音できる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 7/16	【授業内試験、まとめ】	授業内試験及びその解説。前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、前期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認、前期試験の問題点改善、夏休み課題。	90分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	篠田 幸夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。小テスト返却時にポイントを解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	中国語の標準語はどのような言語か	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	中国語の標準語はどのような言語か大まかに説明できる。四声のイメージを説明できる。単母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキスト6・7ページを一読しておく。	20分
		事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	4月11日	中国語の発音	子音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。テキスト8～10ページを一読しておく。	15分
		事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	4月18日	中国語の発音	複合母音・鼻母音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	複合母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。テキスト11～14ページを一読しておく。	15分
		事後学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。	45分
4	4月25日	数字	第3課前半 数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	1から10までの数字を言える。月日・曜日を尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
		事前学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。17・18ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き17・18ページの発音練習をする。	15分
		事後学修	18ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
5	5月2日	時刻・時間	第3課前半小テスト 第3課後半 時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	時刻・時間の長さを尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
		事前学修	19ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き19ページの発音練習をする。18ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	19ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
6	5月9日	人称代名詞・姓名	第3課後半小テスト 第4課前半 人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	人称代名詞を言える。姓名を尋ねられる。自分の姓名を中国語で言える。	
		事前学修	21・22ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き21・22ページの発音練習をする。19ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	22ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	動詞〈是〉・構造助詞〈的〉	第4課前半小テスト 第4課後半 動詞〈是〉、構造助詞〈的〉のはたらきとその前後の語順を学習する。	
		この回の到達目標	動詞〈是〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。構造助詞〈的〉のはたらきが必要となる場合を説明できる。	
		事前学修	23ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き23ページの発音練習をする。22ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	〈是〉のはたらきと語順、〈的〉のはたらきと語順を説明できるようにする。23ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
8	5月23日	動詞述語文の基本語順・疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置	第4課後半小テスト 第5課前半 動詞述語文の基本語順、疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置と意味。	
		この回の到達目標	動詞述語文の基本語順を説明できる。疑問詞〈誰〉〈什么〉の意味と位置を説明できる。	
		事前学修	27・28ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き27・28ページの発音練習をする。23ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	28ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞述語文の基本語順を何も見ないで説明できるようにする。疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置を何も見ないで説明できるようにする。	45分
9	5月30日	指示代詞〈這〉〈那〉、疑問の〈嗎〉	第5課前半・第3課前半小テスト 第5課後半 〈這〉〈那〉の使い方、〈嗎〉はどのような疑問文で使えるか。	
		この回の到達目標	〈這〉〈那〉の意味と位置を説明できる。〈嗎〉がどのような疑問文で使えるか説明できる。	
		事前学修	29ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き29ページの発音練習をする。18・28ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	29ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	30分
10	6月6日	量詞と動詞〈有〉	第5課後半・第3課後半小テスト 第6課前半 六種の量詞と名詞の関係を覚える。動詞〈有〉の使い方を練習する。	
		この回の到達目標	六種の量詞と名詞の関係を説明できる。動詞〈有〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。	
		事前学修	31・32ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き31・32ページの発音練習をする。19・29ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	32ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。六種の量詞と名詞の関係を何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	6月13日	省略疑問文と反復疑問文	第6課前半・第4課前半小テスト 第6課後半 省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か。	
		この回の到達目標	省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できる。	
		事前学修	33ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き33ページの発音練習をする。22・32ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	33ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
12	6月20日	場所を表す指示代名と動詞〈在〉	第6課後半・第4課後半小テスト 第7課前半 場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方。	
		この回の到達目標	場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方を説明できる。	
		事前学修	37・38ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き37・38ページの発音練習をする。23・33ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	38ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。場所を表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。動詞〈在〉の語順を説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	選択疑問文とモノ・コトを表す指示代名詞	第7課前半・第5課前半小テスト 第7課後半 選択疑問文とはどのような疑問文か。モノ・コトを表す指示代名詞。	
		この回の到達目標	選択疑問文とはどのような疑問文か説明できる。モノ・コトを表す指示代名詞を言える。	
		事前学修	39ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き39ページの発音練習をする。28・38ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	39ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。モノ・コトを表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。選択疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
14	7月4日	総復習	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。 7課までの単語を復習する。	
		この回の到達目標	3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。3課から7課の単語が聞き取れる。	
		事前学修	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題を解いておく。3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	15分
15	7月11日	期末試験及び前期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第1課から第7課までの単語が聞き取れる。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第1課から第7課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点をして、授業中に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞	白帝社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：金曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	発音練習	発音練習（1）単母音、声調	
		この回の到達目標	中国語の発音のあらましを理解する。声調をマスターする。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
2	第一部 金4/17	発音練習	発音練習（2）単母音、複母音、子音、有気音、無気音	
		この回の到達目標	単母音をマスターする。複母音、子音、有気音、無気音の練習をする。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
3	第一部 金4/24	発音練習	発音練習（3）そり舌音、鼻母音	
		この回の到達目標	複母音、子音、有気音、無気音をマスターする。そり舌音、鼻母音の練習をする。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
4	第一部 金5/1	基本的な語順	第1課：本文の翻訳、①人称代詞、②動詞述語文。発音練習（4）注意すべき発音	
		この回の到達目標	そり舌音、鼻母音をマスターする。中国語の基本的な語順を理解する。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
5	第一部 金5/8	疑問と否定	第1課：③疑問を表す“ma”、④否定を表す“不”、練習問題。発音練習（5）声調の確認	
		この回の到達目標	疑問表現と否定表現を理解する。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること。	30分
6	第一部 金5/15	発音の確認	これまで練習してきた発音の確認	
		この回の到達目標	20くらいの単語をすらすら発音できるようにする。	
		事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
		事後学修	発音の復習をすること	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	代詞と“是”構文	第2課：本文の翻訳、①指示代詞（1）、②判断を表す“是”	
		この回の到達目標	代詞のあらましと“是”構文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
8	第一部 金5/29	構造助詞“的”と疑問詞疑問文	第2課：③連体修飾の“的”、④疑問詞疑問文、練習問題	
		この回の到達目標	構造助詞“的”と疑問詞疑問文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
9	第一部 金6/5	数詞と助数詞	第3課：本文の翻訳、①数詞・曜日・年月日、②時刻	
		この回の到達目標	数詞と助数詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
10	第一部 金6/12	名詞述語文と省略疑問文	第3課：③名詞述語文、④省略疑問文の“ne”、練習問題	
		この回の到達目標	名詞述語文と省略疑問文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
11	第一部 金6/19	指示代詞と存在文	第4課：本文の翻訳、①指示代詞（2）、②存在文	
		この回の到達目標	指示代詞と存在文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
12	第一部 金6/26	形容詞述語文と前置詞	第4課：③形容詞述語文、④前置詞の“離”、練習問題	
		この回の到達目標	形容詞述語文と前置詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	動詞“有”と反復疑問文	第5課：本文の翻訳、①所有を表す“有”、②反復疑問文	
		この回の到達目標	動詞“有”と反復疑問文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
14	第一部 金7/10	構造助詞“的”の省略と家族を表す名詞	第5課：③“的”の省略、家族の言い方、練習問題	
		この回の到達目標	構造助詞“的”の省略を理解し、家族を表す名詞を覚える。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
15	第一部 金7/17	まとめ	これまで学習してきた内容のまとめ	
		この回の到達目標	中国語の発音と基本的な表現のための文法を確認する。	
		事前学修	これまで学習してきた内容をすべて復習しておくこと。	30分
		事後学修	きちんと理解していないところは再度復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
文法を解説し、本文を朗読、翻訳する。発音の訓練を行い、会話を練習する。テキスト内容を暗記し、書きとりを行う。フィードバックは授業中に行う。テストなどについては採点して解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2012年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4月7日	中国語について	1、ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明」 2、中国の概況 3、中国語の発音：短母音、声調	
		この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：短母音、声調	
		事前学修	シラバスを確認し、授業計画を立てる。	90分
		事後学修	短母音、声調の復習	90分
2	第一部火 4月14日	中国語の発音	発音：子音、複合母音	
		この回の到達目標	発音：子音、複合母音の発音ができる。	
		事前学修	子音、複合母音の予習	90分
		事後学修	子音、複合母音の復習	90分
3	第一部火 4月21日	中国語の発音	発音：鼻母音、発音のトレーニング	
		この回の到達目標	鼻母音の発音ができる。	
		事前学修	鼻母音の予習	90分
		事後学修	発音の総復習	90分
4	第一部火 4月28日	第1課	第1課 「あなたは中国人ですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. “是” の文	
		この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
5	第一部火 5月5日	第1課	第1課 「あなたは中国人ですか。」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	第1課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておくこと	90分
		事後学修	第1課の総復習	90分
6	第一部火 5月12日	第2課	第2課 「これはなんですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 (1) 2. 疑問詞疑問文 3. “的” の用法 4. 副詞	
		この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5月19日	第2課	第2課 「これはなんですか。」 本文、トレーニング、	
		この回の 到達目標	第2課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第2課の総復習	90分
8	第一部火 5月26日	第3課	第3課 「あなたはどこに行きますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”	
		この回の 到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
9	第一部火 6月2日	第3課	第3課 「あなたはどこに行きますか。」 本文、トレーニング	
		この回の 到達目標	第3課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第3課の総復習	90分
10	第一部火 6月9日	第4課	第4課 「このバックはいくらですか」本文訳 ポイント 1. 量詞 2. 指示代名詞 (2) 3. 形容詞の文 4. “几” と“多少”	
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
11	第一部火 6月16日	第4課	第4課 「このバックはいくらですか。」 本文、トレーニング	
		この回の 到達目標	第4課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第4課の総復習	90分
12	第一部火 6月23日	第5課	第5課 「あなたは夜用事がありますか。」本文訳 ポイント 1. 数字 2. 日付・時刻を表す語 3. 「動作の時点」を言う表現	
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部火 6月30日	第5課		第5課 「あなたは夜用事がありますか。」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	第5課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第5課の総復習	90分
14	第一部火 7月7日	中間のまとめ		第1課～5課のまとめ。（前期末授業内筆記試験）
		この回の 到達目標	これまでの学習内の復習で、問題点を解説し、正しく理解できる。	
		事前学修	第1課～5課の復習、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第一部火 7月14日	フィードバック、質疑応答		①フィードバック、質疑応答及び前期のまとめ ②会話テストを行う。または書き取りをやる。
		この回の 到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	会話テストや書き取りに備え、内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得ること。

【授業方法】		
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。特に一部月曜5限（事前抽選除外クラス）は中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のフィードバックは後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を発信します。講読の課と練習問題は授業では学修しません。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/6 第二部 4/10	ガイダンス・中国語の四声	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／「Quizlet」について／参考プリント「C1A競技部～」について／成績評価方法について／中国語入門知識と四声を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、四声を正しく発音できる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、できれば教科書を購入し、第1課に目を通すとともにCD・DVDも視聴しておく	60分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期01）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて四声・挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
2	第一部 4/13 第二部 4/17	母音・3声の変調・軽声	母音・3声の変調・軽声の発音とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、母音・3声の変調・軽声といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期01）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期02）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ母音・3声の変調・軽声、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
3	第一部 4/20 第二部 4/24	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）など	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）などの発音とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期02）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、母音・3声の変調・軽声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期03）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
4	第一部 4/27 二部5/1	舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w	主にプリントを使用し舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wとそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期03）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて-n/-ng・-ian・erの発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期04）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
5	第一部 5/4 第二部 5/8	発音と綴りのまとめ	主にプリントを使用し、発音と綴りをまとめ、短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語の発音と綴りについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期04）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wを身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期05）およびC1A競技部_01-04課（発音篇）などをもちいて、今回学んだ発音の全般、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
6	第一部 5/11 第二部 5/15	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文	教科書ユニット2-第5課にて“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期05）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて中国語の発音と綴りを身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期06）およびC1A競技部_05課などをもちいて、今回学んだ“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/18 第二部 5/22	反復疑問文・形容詞述語文	ユニット2-第6課にて反復疑問文・形容詞述語文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と反復疑問文・形容詞述語文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期06）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期07）およびCIA競技部_06課などをもちいて、今回学んだ反復疑問文・形容詞述語文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
8	第一部 5/25 第二部 5/29	“呢”疑問文・“的”の用法	ユニット2-第7課にて“呢”疑問文・“的”の用法を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“呢”疑問文・“的”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期07）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、反復疑問文・形容詞述語文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期08）およびCIA競技部_07課などをもちいて、今回学んだ“呢”疑問文・“的”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
9	第一部 6/1 第二部 6/5	選択疑問文・数を問う疑問詞	ユニット2-第8課にて選択疑問文・数を問う疑問詞などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・数を問う疑問詞などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期08）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期09）およびCIA競技部_08課などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・数を問う疑問詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
10	第一部 6/8 第二部 6/12	文末付加型疑問文・“吧”の用法	ユニット2-第9課にて文末付加型疑問文・“吧”の用法を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文末付加型疑問文・“吧”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期09）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期10）およびCIA競技部_09課などをもちいて、今回学んだ文末付加型疑問文・“吧”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（次回は第11課）	30分
11	第一部 6/15 第二部 6/19	所有の“有”の用法	ユニット3-第11課にて所有の“有”の用法などを学修する（第10課は「講読文の課」につき授業では学修しない）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、所有の“有”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期10）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、文末付加型疑問文・“吧”の用法を身につけ授業にのぞむ（次回は第11課）	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期11）およびCIA競技部_11課などをもちいて、今回学んだ所有の“有”、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
12	第一部 6/22 第二部 6/26	ユニット2のまとめと復習	ユニット2-第5課〜第9課と第11課の復習を通して身に付けるべき文法・単語・短文を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文法・単語・短文を復習し、学修済みの文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期11）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、所有の“有”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（前期12）などをもちいて、文法・単語・短文を復習し短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/29 第二部 7/3	試験対策	前期総復習として、テキスト・プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して前期の内容を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、前期の学修内容を復習しつつ、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
		事後学修	前期口頭試験課題文をテキストやプリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習し短文音読の反復練習をする	120分
14	第一部 7/6 第二部 7/10	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習と短文音読の反復練習をする	120分
15	第一部 7/13 第二部 7/17	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	吉田 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特に無いが、初習者対象。

【授業方法】
基本的には、テキストに沿って行う。会話練習には、適宜単語を提示し練習に加える。 音読と聞き取りに中心をおいて、授業を進める。試験のフィードバックは、試験終了後に答え合わせを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては当日答え合わせをする、課題については翌週答えをしめす

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学漢語	衛榕群・中本愛	白帝社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の1時間目の授業終了後、教室で、質問・相談を受け付ける。（10時30分から40分まで）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	中国語とは	年間授業予定、授業方法、評価について 中国語とは。 単母音、声調、複母音	
		この回の到達目標	中国語の基本的な仕組みを覚える	
		事前学修	教科書の発音篇を見ておく、講義の全体を見ておく	30分
		事後学修	単母音6個を復習し、ローマ字の区別をする	30分
2	4月13日	子音・鼻母音	子音、鼻母音	
		この回の到達目標	子音を区別する、鼻母音を区別する	
		事前学修	教科書の発音篇を見ておく	30分
		事後学修	子音21個の区別をする（ピンインで書いてみる）	30分
3	4月20日	声調	声調の組み合わせ	
		この回の到達目標	正しく発音する	
		事前学修	声調の区別を確認する	30分
		事後学修	自分で組み合わせの音調を確認し、練習する	30分
4	4月27日	第一課	第1課「こんにちは」	
		この回の到達目標	名詞の述語文を理解する、副詞の意味を知る	
		事前学修	テキストのポイントを見ておく	30分
		事後学修	「～である」の使い方を復習する	30分
5	5月4日	第二課	第2課「名字は何ですか」	
		この回の到達目標	動詞の述語文を理解する	
		事前学修	動詞を使った文を見ておく	30分
		事後学修	動詞の文型を整理する	30分
6	5月11日	第三課	第3課「今日は天気が良い」	
		この回の到達目標	形容詞述語文を理解する	
		事前学修	形容詞述語文の形を見ておく	30分
		事後学修	疑問詞疑問文を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	第四課	第4課「彼は今年何歳」	
		この回の到達目標	数の表現を覚える	
		事前学修	数を使って疑問文を作ってみる	30分
		事後学修	この～、その～を言う言い方を復習する	30分
8	5月25日	第五課	第5課「食堂に行って食事をしよう」	
		この回の到達目標	動詞の完了、時刻の表現を理解する	
		事前学修	音源を聞いておく	30分
		事後学修	いつ、何をするの表現を復習する	30分
9	6月1日	復習	第1課から第5課の復習	
		この回の到達目標	動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文の区別ができる	
		事前学修	文型の整理をする	30分
		事後学修	45頁の会話文を音読する	30分
10	6月8日	第六課	第6課「食堂の料理はどうですか」	
		この回の到達目標	～にいる、～にあるの文を理解する	
		事前学修	テキストの本文を読む	30分
		事後学修	キャンパスマップを使って会話文を作る	30分
11	6月15日	第七課	第7課 「中華街に行ったことがあるか」	
		この回の到達目標	「～したことがある」「～したい」文を理解する	
		事前学修	テキストの本文を読んでおく	30分
		事後学修	「したことがある」「したことがない」の文型を復習する	30分
12	6月22日	第八課	第8課「どのくらいかかりますか」	
		この回の到達目標	～から、～までの表現を覚える	
		事前学修	長さの表現を調べる	30分
		事後学修	時間量を含んだ文章を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6月29日	第八課		第8課 自己紹介
		この回の到達目標	自己紹介文を作る	
		事前学修	テキストの自己紹介文を読んでおく	30分
		事後学修	自分の情報を入れて自己紹介文を作成する	30分
14	7月6日	第八課		春学期の復習
		この回の到達目標	復習1の問題を理解する	
		事前学修	復習1の問題をやっておく	30分
		事後学修	答えを確認する	30分
15	7月13日	期末テストとまとめ		前期期末テスト（テキスト第1課から第8課まで） 内容確認とまとめ
		この回の到達目標	春学期の学習内容を確認し、理解する	
		事前学修	春学期のまとめをする	30分
		事後学修	聞き取りの問題の内容をノートに書いておく	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2017 2・1 発行		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス 中国語とは	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
		この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解する	
		事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	10分
		事後学修	授業の内容を復習する	20分
2	第一部 土4/11	中国語の発音	発音について学ぶ 音節と声調 および 単母音韻母	
		この回の到達目標	とくに、声調を理解し覚えること	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単母音を発音練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
3	第一部 土4/18	中国語の発音	複合母音 韻尾 nとng	
		この回の到達目標	韻母を読む、書ける	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	母音の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
4	第一部 土4/25	中国語の発音	声母 有気音と無気音 そり舌音	
		この回の到達目標	声母を覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	声母の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
5	第一部 土5/2	ピンイン表記法	軽声、儿化韻 変調	
		この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ また正しく発音できるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	発音まとめの復習	20分
6	第一部 土5/9	発音到達度テスト まとめ	発音リスニングテスト	
		この回の到達目標	発音上達するように	
		事前学修	声母、韻母の復習	10分
		事後学修	テスト問題の見直し	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	第一課 自己紹介	人称代詞、 姓名の尋ね方、こたえ方 よく使われるあいさつ言葉	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を理解する	
		事前学修	会話文を読む	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
8	第一部 土5/23	第二課 お誕生日	月日の言い方、聞き方 年齢の言い方、聞き方 数の数え方	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
9	第一部 土5/30	第三課 電話をかける	電話番号の聞き方、言い方 「有」と「没有」	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
10	第一部 土6/6	第四課 お住まい	形容詞述語文のたずね方、こたえ方 動詞の「在」と介詞の「在」	
		この回の 到達目標	形容詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
11	第一部 土6/13	第五課 買い物	他動詞 「想」の使い方 「的」の名詞化用法	
		この回の 到達目標	買い物の会話を話せるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分
12	第一部 土6/20	第六課 食事をする	省略疑問文と疑問代詞 助動詞の「会」	
		この回の 到達目標	食事について会話をできるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	第一課から第六課 単語テスト まとめ	学んだ単語を漢字を書ける、読める	
		この回の 到達目標	単語を暗記	
		事前学修	単語の復習	30分
		事後学修	テストの見直し	10分
14	第一部 土7/4	本文と文法の復習	リスニングを作文の練習	
		この回の 到達目標	六課までの	
		事前学修	毎回の練習問題を復習	20分
		事後学修	本文を暗唱	10分
15	第一部 土7/11	前期テスト まとめ	試験	
		この回の 到達目標	試験	
		事前学修	教科書の内容を復習	30分
		事後学修	なし	0分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	劉 秋佳	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
3 分の 2 以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。

【授業方法】		
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。 フィードバックは授業内において行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	2000. 3. 31	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】	
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	飛鳥文化交流－国際関係と国際文化交流／気功波動の健康法－生命力の高次元への修業
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechatの交流コラム出を通じて関連情報を共有して紹介する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	第1回導 入 導入講義	中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会	
		この回の 到達目標	A-6	
		事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください	30分
		事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します	30分
2	4/16	第2回（発音一）	韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)	
		この回の 到達目標	A-6	
		事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
3	4/23	第3回 （発音二）	複母音と鼻母音(声調符号の付け方)、	
		この回の 到達目標	A-6	
		事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
4	4/30	第4回 （発音三）	特殊発音、声調の変化 （授業用語）	
		この回の 到達目標	A-6	
		事前学修	発音練習予定部分を学習してください	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
5	5/7	第5回 発音部分の小テスト	発音の総合練習とテスト	
		この回の 到達目標	A-6	
		事前学修	教科書の練習と配った練習問題を復習してください	30分
		事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください	30分
6	5/14	第6回 第1課北京的天气？	北京の天？（挨拶と授業養護） 天気会話表現と挨拶授業用語を習得する 述語分類、形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する	
		この回の 到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	第7回 第2課你是香港人？	貴方は香港の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
8	5/28	第8回 第3課你吃早了？	君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強します。	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
9	6/4	第9回 応用練習と文化事情	会話の応用練習：グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
10	6/11	第10回 第4課 你身体好？	君は元気ですか？ 主述述語文、近接未来の表現、疑問詞’多’＋形容詞の表現などを習う	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
11	6/18	第11回 第5課你家有几口人？	貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞’有’、疑問詞’幾’などを勉強する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
12	6/25	第12回 会話の応用練習	会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	第13回 第6課有人滑雪？	第6課スキーをする人がいますか？ 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
14	7/9	第14回 総復習 前期総復習	前期の学習要点を復習問題にまとめて、総合練習して確認します	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分
15	7/16	第15回 授業内テスト まとめ	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する	
		この回の到達目標	A-6	
		事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者 3 0 名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】							
書名			著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎 重版 2020年3月2刷発行			汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度	教科書	必携

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
		この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
		事前学修	テキスト6－7ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火4/14	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火4/21	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火4/28	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火5/5	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火5/12	会話編	第1課：「初次面」 会話と練習	
		この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
		事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火 5/19	会話編		第2課：「迎新生」 会話と練習
		この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
		事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 5/26	会話編		第3課：「我的一家」 会話と練習
		この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
		事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 6/2	会話編		第4課：「生日快」 会話と練習
		この回の到達目標	第4課：「生日快」	
		事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 6/9	会話編		第5課：「漫学」 会話と練習
		この回の到達目標	第5課：「漫学」を習得する	
		事前学修	第5課：「漫学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 6/16	会話編		第6課：「参校园」 会話と練習
		この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
		事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火 6/23	会話編		第7課：「趣好」 会話と練習
		この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
		事前学修	第7課：「趣好」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	火 6/30	会話編		第8課：「学」 会話と練習
		この回の 到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
14	火 7/7	復習		期末総合復習
		この回の 到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
		事前学修	総合復習の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
15	火 7/14	期末総括と授業内試験		期末総括試験及びまとめ、振り返り
		この回の 到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う	
		事前学修	試験の準備	120分
		事後学修	前期授業内容の復習	120分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っていること。授業に関する一般的な決まり（規定数以上の欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど）を守ることが出来ること。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	35	35							140

【課題に対するフィードバックの方法】
教科書本文音読テストの批評及び授業内試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子、鄭幸枝	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17	【前期授業復習】【中国語準中級へ向けての心構え】	前期授業の復習。	
		この回の到達目標	前期授業における習得分の定着度の確認。	
		事前学修	教科書発音部及び第1～5課全事項について、再度確認。	60分
		事後学修	前期文法事項の再度確認。授業の進め方の確認。	60分
2	第一部 9/24	【中国語基礎表現習得⑨】「～がいる、ある」、動詞の重ね型、時を表す語の表現。	第6課① 王先生の研究室で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第6課の文法事項を理解し、その本文を音読して、基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第6課① 王先生の研究室で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
3	第一部 10/1	【中国語基礎表現習得⑩】量詞、実現・完了、助動詞「～したい」の表現。	第6課② 王先生の研究室で、第7課① コンビニで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第6課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第6課文法事項等について、教科書で再度確認、第6課② 王先生の研究室で、第7課① コンビニで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課全事項の習得確認、第7課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
4	第一部 10/8	【中国語基礎表現習得⑪】量詞、実現・完了、助動詞「～したい」の表現。	第7課② コンビニで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第7課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第7課文法事項等について、教科書で再度確認、第7課② コンビニで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第7課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
5	第一部 10/15	【中国語基礎表現習得⑫】連動文、前置詞「～で」、時刻、「～である」の省略の表現。	第8課① バス停で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第8課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第8課① バス停で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
6	第一部 10/22	【中国語基礎表現習得⑬】助動詞「できる」、前置詞「～と」・「～に」、主述述語文の表現。	第8課② バス停で、第9課① 放課後に について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第8課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第8課文法事項等について、教科書で再度確認、第8課② バス停で、第9課① 放課後に 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課全事項の習得確認、第9課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/29	【中国語基礎表現習得⑭】 助動詞「できる」、前置詞 「～と」・「～に」、主述 述語文の表現。	第9課② 放課後に について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第9課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第9課文法事項等について、教科書で再度確認、第9課② 放課後に 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第9課全事項の習得の確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
8	第一部 11/5	【中国語基礎表現習得⑮】 様態補語、経験、比較、 「好き」の表現。	第10課① 卓球の中継を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第6課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第10課① 卓球の中継を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
9	第一部 11/12	【中国語基礎表現習得⑯】 進行、方向補語、選択疑問 文の表現。	第10課② 卓球の中継を見ながら、第11課① ディズニーランドで待ち合わせ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第10課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第10課文法事項等について、教科書で再度確認、第10課② 卓球の中継を見ながら 、第11課① ディズニーランドで待ち合わせ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課全事項の習得の確認、第11課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
10	第一部 11/19	【中国語基礎表現習得⑰】 進行、方向補語、選択疑問 文の表現。	第11課② ディズニーランドで待ち合わせ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第11課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第11課文法事項等について、教科書で再度確認、第11課② ディズニーランドで待ち合わせ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第11課全事項の習得の確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
11	第一部 12/3	【中国語基礎表現習得⑱】 過去の強調構文、結果補 語、動量詞の表現。	第12課① カフェテラスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して、基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第12課① カフェテラスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
12	第一部 12/10	【中国語基礎表現習得⑲】 過去の強調構文、結果補 語、動量詞の表現。	第12課② カフェテラスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第12課の練習問題を正しく解答することができる。第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して基礎表現をおこなうことができる。	
		事前学修	第12課文法事項等について、教科書で再度確認、第12課② カフェテラスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/17	【後期授業復習】	後期授業の総復習。	
		この回の到達目標	後期授業分の内容を体系的に習得する。	
		事前学修	第6～12課の習得確認。	120分
		事後学修	後期授業における習得の総確認。	120分
14	第一部 12/24	【本文音読テスト、まとめ】	教科書本文音読テスト及び後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音できる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 1/14	【授業内試験、まとめ】	授業内試験及びその解説。後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、後期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認、後期試験の問題点改善、中級に向けた春休みにおける学習。	90分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	篠田 幸夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	15	15	15	15							60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	35	35							140

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍	白水社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月19日	総復習	四声・単母音・鼻母音・子音・声調の変化、5課までの発音とポイントの確認をする。	
		この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・鼻母音・子音を正確に発音できる。5課までのポイントの基本語順を説明できる。5課までの単語が聞き取れる。	
		事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音及び第3課から第5課までの本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第3課から第5課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。	30分
		事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	30分
2	9月26日	総復習	第6・7課の発音とポイントの確認をする。第6・7課の単語が聞き取れるように復習する。	
		この回の到達目標	第6・7課のポイントの基本語順を説明できる。第6・7課の単語を正確に発音できまた聞き取れる。	
		事前学修	CDを聞き第6・7課の本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第6・7課のポイントの内容を説明できるように復習しておく。	30分
		事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	30分
3	10月3日	形容詞述語文、前置詞	第8課前半 形容詞述語文の基本語順と前置詞〈离〉〈从～到〉を練習する。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。前置詞〈离〉と〈从～到〉の位置と意味を説明できる。41・42ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	41・42ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き41・42ページの発音練習をする。	15分
		事後学修	42ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。形容詞述語文の基本語順、前置詞〈离〉〈从～到〉について何も見ないで説明できるように練習する。	45分
4	10月10日	動詞〈喜歡〉、連動文	第8課前半小テスト 第8課後半 動詞〈喜歡〉とその目的語の性質を習う。連動文の語順と訳し方。	
		この回の到達目標	動詞〈喜歡〉とその目的語の特徴説明できる。連動文の語順と訳し方について説明できる。43ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	43ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き43ページの発音練習をする。42ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	43ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞〈喜歡〉とその目的語の性質と連動文について何も見ないで説明できるように練習する。	45分
5	10月17日	手段・方法、値段の尋ね方	第8課後半小テスト 第9課前半 手段・方法の尋ね方、値段の尋ね方を練習する。	
		この回の到達目標	手段・方法を尋ねられまた答えられる。値段を尋ねられまた答えられる。47・48ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	47・48ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き47・48ページの発音練習をする。43ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
		事後学修	47・48ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
6	10月24日	比較文	第9課前半・第8課前半小テスト 第9課後半 比較文の二種類の語順を練習する。	
		この回の到達目標	比較文の二種類の語順と訳し方を説明できる。49ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	49ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き49ページの発音練習をする。42・48ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	49ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。比較文の語順について何も見ないで説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	完了態、助動詞	第9課後半・第8課後半小テスト 第10課前半 完了の〈了〉と助動詞〈想〉を練習する。	
		この回の到達目標	完了の〈了〉の位置と訳し方を説明できる。助動詞〈想〉の位置と訳し方を説明できる。51・52ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	51・52ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き51・52ページの発音練習をする。43・49ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	52ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。完了の〈了〉と助動詞〈想〉の位置について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
8	11月7日	変化態、前置詞	第10課前半・第9課前半小テスト 第10課後半 変化の〈了〉と前置詞〈在〉を練習する。	
		この回の到達目標	変化の〈了〉と限定できるのはどのような場合かを説明できる。前置詞〈在〉の訳し方と動詞の〈在〉との違いを説明できる。53ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	53ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き53ページの発音練習をする。48・52ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	53ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。変化の〈了〉と前置詞〈在〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
9	11月14日	助動詞〈会〉と〈能〉	第10課後半・第9課後半小テスト 第11課前半 助動詞〈会〉と〈能〉を練習する。	
		この回の到達目標	助動詞〈会〉と〈能〉の使い分けを説明できる。57・58ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	57・58ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き57・58ページの発音練習をする。49・53ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	57・58ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。助動詞〈会〉と〈能〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
10	11月21日	助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉	第11課前半・第10課前半小テスト 第11課後半 助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉を練習する。	
		この回の到達目標	助動詞〈可以〉の位置と意味を説明できる。前置詞〈給〉の位置と意味を説明できる。58ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	59ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き59ページの発音練習をする。52・58ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	59ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	11月27日	進行形と禁止	第11課後半・第10課後半小テスト 第12課前半 進行形と禁止の言い方を練習する。	
		この回の到達目標	進行形と禁止に用いる単語とそれぞれの位置を説明できる。61・62ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	61・62ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き61・62ページの発音練習をする。53・59ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	61・62ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。進行形と禁止の言い方について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
12	12月5日	経験と〈是～的〉構文	第12課前半・第11課前半小テスト 第12課後半 経験の〈過〉と〈是～的〉構文を練習する。	
		この回の到達目標	経験に用いる単語とその位置を説明できる。〈是～的〉構文とはどのような文かを説明できる。63ページの単語が聞き取れる。	
		事前学修	63ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き63ページの発音練習をする。58・62ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
		事後学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。経験の〈過〉と〈是～的〉構文について何も見ないで説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	復習	第12課後半・第11課後半小テスト 第8課から第10課の復習 44・46・50・54・56ページの解答合わせと誤答の分析をする。	
		この回の到達目標	第8課から第10課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第8課から第10課までの単語が聞き取れる。	
		事前学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。59・63ページの聞き取りができるように復習しておく。44・46・50・54・56ページの練習問題を解いておく。	45分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。41ページから56ページの単語を聞き取れるように復習する。	15分
14	12月19日	復習	第11課・12課の復習 60・64・66ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。	
		この回の到達目標	第11課・12課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第11課・12課の単語が聞き取れる。	
		事前学修	60・64・66ページの練習問題を解いておく。	45分
		事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。57ページから66ページの単語を聞き取れるように復習する。	15分
15	12月26日	期末試験と後期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第8課から第12課までの単語が聞き取れる。 第8課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第8課から第12課までの単語が聞き取れるように復習する。 第8課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点をして、授業中に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞	白帝社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：金曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	連動文と進行表現	第6課：本文の翻訳、①連動文、②進行を表す“正在、在、ne”	
		この回の到達目標	連動文と進行表現を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
2	第一部 金9/25	前置詞“在”と助動詞“想”	第6課：③前置詞の“在”、④助動詞の“想”、練習問題	
		この回の到達目標	前置詞“在”と助動詞“想”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
3	第一部 金10/2	アスペクト助詞“了”と動詞の重ね型	第7課：本文の翻訳、① “了”の用法（1）、②動詞の重ね型	
		この回の到達目標	アスペクト助詞“了”と動詞の重ね型を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
4	第一部 金10/9	選択疑問文と起点・着点を表す前置詞	第7課：③選択疑問文、④前置詞“cong／dao”、練習問題	
		この回の到達目標	選択疑問文と起点・着点を表す前置詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
5	第一部 金10/16	語気詞“了”と可能を表す助動詞	第8課：本文の翻訳、① “了”の用法（2）、②可能を表す“能”と“会”	
		この回の到達目標	語気詞“了”と可能を表す助動詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
6	第一部 金10/23	アスペクト助詞“過”と前詞“gen/he”	第8課：③経験を表す“過”、④gen／he…yiqi／yikuair、練習問題	
		この回の到達目標	アスペクト助詞“過”と前詞“gen/he”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	比較文と様態補語	第9課：本文の翻訳、① “比”の比較文、② “V得＋補語”の構文	
		この回の到達目標	比較文と様態補語を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
8	第一部 金11/6	主述述語文と少量表現	第9課：③主述述語文、④ “有点兒”と“一点兒”、練習問題	
		この回の到達目標	主述述語文と少量表現を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
9	第一部 金11/13	強調構文と二重目的語文	第10課：本文の翻訳、① “是…的”構文、②二重目的語を持つ動詞	
		この回の到達目標	強調構文と二重目的語文を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
10	第一部 金11/20	連体修飾語と前置詞“給”	第10課：③限定語となる動詞と形容詞、④前置詞の“給”、練習問題	
		この回の到達目標	連体修飾語と前置詞“給”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
11	第一部 金11/27	方位詞と持続を表す“着”	第11課：本文の翻訳、①方位詞、②継続を表す“着”	
		この回の到達目標	方位詞と持続を表す“着”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
12	第一部 金12/4	概数表現と可能を表す助動詞	第11課：③概数表現、④可能を表す“可以”、練習問題	
		この回の到達目標	概数表現と可能を表す助動詞を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	方向補語とアスペクト助詞“着”	第12課：本文の翻訳、①趨向補語、②付帯状況と方式を表す“着”	
		この回の到達目標	方向補語とアスペクト助詞“着”を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
14	第一部 金12/18	禁止表現と“疑問詞＋都／也…”の表現	第12課：③禁止を表す“別／不要…（了）”、④“疑問詞＋都／也…”、練習問題	
		この回の到達目標	禁止表現と“疑問詞＋都／也…”の表現を理解する。	
		事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
		事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
15	第一部 金12/25	まとめ	これまで学習してきたことのまとめ	
		この回の到達目標	基本的な表現のための、中国語文法の全体像を確認する。	
		事前学修	これまで学んできたことを復習しておくこと。	30分
		事後学修	よく理解していないところを再度復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】
文法を解説し、本文を朗読、翻訳する。はつおんの訓練を行い、会話を練習する。本文の内容を暗記し、書きとりを行う。フィードバックは授業内において行う。テストなどについては採点して解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2012年		
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部9月18日	授業の概要と到達目標 第6課	ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明」 第6課 「あなたは食事をしましたか。」本文訳 ポイント 1. 「完了」を表わす“了” 2. 「所在」を表わす“在” 3. 助動詞“想”	
		この回の到達目標	第6課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
2	第1部9月22日	第6課	第6課 「あなたは食事をしましたか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第6課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第6課の総復習	90分
3	第1部9月29日	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」本文訳 ポイント 1. 介詞“在”，” 离” 2. 「存在」を表わす“有” 3. 反復疑問文	
		この回の到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
4	第1部10月6日	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第7課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第7課の総復習	90分
5	第1部10月13日	第8課	第8課 あなたは何時からアルバイトを始めますか。本文訳 ポイント 1. 「時間量」を表わす語 2. 助動詞“得” 3. 介詞（2）“从”	
		この回の到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
6	第1部10月20日	第8課	第8課 「あなたは何時からアルバイトを始めますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第8課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第8課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部10月27日	第9課	第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」本文訳 ポイント 1.「過去の経験」を表わす“過” 2.“是～的”の文 3.介詞 (3) “跟”, “給”	
		この回の到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
8	第1部11月10日	第9課	第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」 本文、トレーニング 練習問題 第6課～9課のまとめ（授業内筆記試験）	
		この回の到達目標	第9課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第9課の総復習	90分
9	第1部11月17日	第10課	第10課 「あなたは歌を歌えますか。」本文訳 ポイント 1.助動詞“能”, “会” 2.「動作の様態」を言う表現 3.動詞の重ね型	
		この回の到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
10	第1部11月24日	第10課	第10課 「あなたは歌を歌えますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第10課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第10課の総復習	90分
11	第1部12月1日	第11課	第11課 「あなたは何をしているのですか。」本文訳 ポイント 1.「動詞の進行」を表わす“在～呢” 2.「～しに来る・～しに行く」の表 し方3.“是” 4.目的語を文頭に出す表現	
		この回の到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
12	第1部12月8日	第11課	第11課 あなたは何をしているのですか。 本文、トレーニング 練習問題	
		この回の到達目標	第11課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第11課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部12月15日	第12課	第12課 「楽しい旅行を！」本文訳 ポイント 1.「比較」の表現 2.“的”の用法 (2) 3.2つの目的語をとる動詞 4.目的語が主述句の時 練習問題	
		この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。	
		事前学修	文法の予習と練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
14	第1部12月22日	後期のまとめ	第7課～12課のまとめ（後期末授業内筆記試験）	
		この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点を確認し、正しく理解できる。	
		事前学修	第6課～12課の復習 問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部1月12日	フィードバック、質疑応答	フィードバック、質疑応答及び後期のまとめ 試験問題についての解説 会話テストか書き取りを行う。	
		この回の到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	後期学習した内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語基礎表現Aの内容が身についており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得る事。

【授業方法】		
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。特に一部月曜5限（事前抽選除外クラス）は中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後、後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016	その他	任意
備考	学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。講読の課と練習問題は授業では学修しません。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	一部9/14 二部9/18	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／「Quizlet」について／成績評価方法について／前期学修内容の確認と復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を確認するとともに、教科書の第1課から第11課までを復習しておく	60分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期01）などをもちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする	30分
2	一部9/21 二部9/25	存在の“有”・順と量の概念	ユニット3-第12課にて存在の“有”・順と量の概念などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存在の“有”・順と量の概念といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期01）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、前期学修部分の苦手を克服し授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期02）およびC1A競技部_12課などなどをもちいて、今回学んだ存在の“有”・順と量の概念、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
3	一部9/28 二部10/2	“在”の用法	ユニット3-第13課にて“在”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“在”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期02）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、存在の“有”・順と量の概念を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期03）およびC1A競技部_13課などなどをもちいて、今回学んだ“在”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
4	一部10/5 二部10/9	“是”を省略できる文	ユニット3-第14課にて“是”を省略できる文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”を省略できる文について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期03）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“在”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期04）およびC1A競技部_14課などなどをもちいて、今回学んだ“是”を省略できる文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	一部10/12 二部10/16	“会”“能”“想”の用法	ユニット3-第15課にて“会”“能”“想”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”“能”“想”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期04）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“是”を省略できる文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期05）およびC1A競技部_15課などなどをもちいて、今回学んだ助動詞の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（次回は17課）	30分
6	一部10/19 二部10/23	曜日・時刻の言い方	ユニット4-第17課にて曜日・時刻の言い方などを学修する（第16課は「講読文の課」につき授業では学修しない）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と曜日・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期05）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“会”“能”“想”の用法を身につけ授業にのぞむ（第16課は学修せず第17課に進む）	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期06）およびC1A競技部_17課などなどをもちいて、今回学んだ曜日・時刻の言い方の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 10/26 二部 10/30	介詞・“要”の用法	ユニット4-第18課にて介詞・“要”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞・“要”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期06）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期07）およびCIA競技部_18課などなどをもちいて、今回学んだ介詞・“要”の用法の復習と音読の反復練習をする	30分
8	一部11/9 二部11/6	比較表現	ユニット4-第19課にて比較表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と比較表現などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期07）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、介詞・“要”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期08）およびCIA競技部_19課などなどをもちいて、今回学んだ比較表現、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
9	一部 11/16 二部 11/13	金額・月日の言い方	ユニット4-第20課にて金額・月日の言い方などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額・月日の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期08）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期09）およびCIA競技部_20課などなどをもちいて、今回学んだ金額・月日の言い方、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
10	一部 11/23 二部 11/20	介詞“給”の用法・連動文	ユニット4-第21課にて介詞“”の用法・連動文などを学修する（第22課は「講読文の課につき授業では学修しない）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞“給”の用法・連動文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期09）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、金額・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期10）およびCIA競技部_21課などなどをもちいて、今回学んだ介詞“給”の用法・連動文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（第22課は学修しない）	30分
11	一部 11/30 二部 11/27	ユニット3のまとめと復習	ユニット3-第12課～第15課のまとめと復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、ユニット3で学修したいくつかの挨拶語慣用表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期10）課題などをもちいて、介詞“給”の用法・連動文を身につけ授業にのぞむ（第22課は学修しない）	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期11）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、今回確認したいくつかの挨拶語慣用表現・単語や文法の復習と短文音読の反復練習をする	30分
12	一部12/7 二部12/4	ユニット4のまとめと復習	ユニット4-第17課～第21課のまとめと復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、ユニット4で学修したいくつかの挨拶語慣用表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期11）課題などをもちいて、ユニット3の内容を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	教科書とQuizlet（後期12）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、今回確認したいくつかの挨拶語慣用表現・単語や文法の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	一部 12/14 二部 12/11	課題文の練習	後期総復習として、テキスト・プリントなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して後期の内容を全般的に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学んだ発音・単語・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、ユニット4の内容を身につけ授業にのぞむ	60分
		事後学修	後期口頭試験課題文をテキストやプリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する	120分
14	一部 12/21 二部 12/18	筆記試験とまとめ	後期筆記試験を実施し、試験後後期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する	120分
15	一部1/18 二部 12/25	口頭試験とまとめ	後期筆記試験の講評を行った後、後期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	吉田 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特に無いが、初習者対象。

【授業方法】
基本的には、テキストに沿って行う。会話練習には、適宜単語を提示し練習に加える。 音読と聞き取りに中心をおいて、授業を進める。試験のフィードバックは試験終了後に答え合わせをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては当日に答え合わせをする、課題に関しては翌週に答えを合わせる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学漢語	衛榕群・中本愛	白帝社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の1時間目の授業終了後、教室で、質問・相談を受け付ける。（10時30分より10時40分まで）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	前期末テスト返却 第九課	前期期末テストの返却と解答、第9課「どこで買ったのですか」	
		この回の 到達目標	量詞を理解する、是～的構文を理解する	
		事前学修	前期の学習内容を復習しておく 量詞を調べる、本文を読む	30分
		事後学修	間違いの個所の確認をする、二重目的語の文を復習する	30分
2	9月21日	第十課	第10課「北京の夏は京都より暑いでしょう」	
		この回の 到達目標	比較表現を覚える、選択疑問文を理解する	
		事前学修	「それとも」を使う文を考える	30分
		事後学修	比較文の否定文を復習する	30分
3	9月28日	第十一課	第11課「あなたは日本語が話せますか」	
		この回の 到達目標	可能表現文を理解する	
		事前学修	「～できる」の表現文を読んでおく	30分
		事後学修	～の時間、～をしたという文章を復習する	30分
4	10月5日	復習	9課、10課、11課の復習	
		この回の 到達目標	可能、比較文を理解する	
		事前学修	9課、10課、11課の文を復習する	30分
		事後学修	テキストの文章を暗記してみる	30分
5	10月12日	第十二課	第12課「今週末には何をするつもりですか」	
		この回の 到達目標	可能表現、義務表現の文章を理解する	
		事前学修	「～できる」の表現を復習する	30分
		事後学修	離合詞の言い方を復習する、実際に文を作ってみる	30分
6	10月19日	第十三課	第13課 「何をしていますか」	
		この回の 到達目標	持続表現、結果補語の文章を理解する	
		事前学修	在＋動詞文の形を調べる	30分
		事後学修	結果補語の文型を整理し、復習する、否定形を作ってみる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	復習	12課、13課の復習	
		この回の到達目標	できる表現と義務表現を理解する	
		事前学修	できるを表わす文とどのくらいできるかを表わす文を比較してみる	30分
		事後学修	結果補語文の否定形を復習する	30分
8	11月9日	第十四課	第14課「あなたは歌がうまい」	
		この回の到達目標	状態表現の文型を理解する	
		事前学修	程度を表す表現の形を見ておく	30分
		事後学修	状態表現文の肯定形と可能表現の違いを考える	30分
9	11月16日	第十五課	第15課「スピーチコンテストに参加する」	
		この回の到達目標	使役文を理解する 会＋動詞文を理解する	
		事前学修	スピーチ文を読んでみる	30分
		事後学修	スピーチ文を音読する	30分
10	11月23日	復習	14課、15課の復習	
		この回の到達目標	使役文と可能文を区別する	
		事前学修	14課、15課の本文を復習する	30分
		事後学修	14課、15課の本文を音読する	30分
11	11月30日	第十六課	第16課「どうしてですか」	
		この回の到達目標	理由を尋ねる文を理解する	
		事前学修	なぜ、どうしての意味を区別する	30分
		事後学修	理由を説明する文を作って表現する	30分
12	12月7日	第十七課	第17課「少し判らないところがある」	
		この回の到達目標	把構文の言い方を理解する	
		事前学修	方向補語の文、可能補語の文を見teおく	30分
		事後学修	可能補語と助動詞の意味の違いを考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	十六課、十七課復習	第16課、17課の復習	
		この回の到達目標	複文を理解する	
		事前学修	16課、17課の文を読んでおく	30分
		事後学修	できるを表す文と、状態を表す文を区別して、復習する	30分
14	12月21日	後期の復習	後期学習内容の復習	
		この回の到達目標	可能表現、状態表現、願望表現の文章を理解する	
		事前学修	9課から17課までの文章を音源で聞く	30分
		事後学修	各種の文型の否定形をまとめる	30分
15	1月18日	期末テストとまとめ	学習のまとめ、テストのFD	
		この回の到達目標	テストに解答する、短文を暗唱する	
		事前学修	秋学期の復習をする、本文を読む	30分
		事後学修	秋学期の学習内容で不明な点がないか自分で確認する	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2021 2・1 発行		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	第七課 アルバイト	動詞の重ね型 二重目的語をとる動詞	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
2	第一部 土9/26	第八課 外国語を学ぶ	経験態 経験態のたずね方、こたえ方 数量補語	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
3	第一部 土10/3	第九課 病院に行く	助動詞「能」および「能」と「会」の違い 程度副詞「有点儿」および「有点儿」と「一点儿」の違い	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
4	第一部 土10/10	第十課 図書館で	進行態「在」「正在」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
5	第一部 土10/17	第十一課 手紙を書く	比較表現「比」「AはBより～だ」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
6	第一部 土10/24	第十二課 旅行に行く	完了態 完了態のたずね方、こたえ方	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	テキストの終わりに	中国語の勉強について話そう	
		この回の到達目標	中国語に対して興味を持続できるように	
		事前学修	感想文を書く	20分
		事後学修	感想文を中国語に訳す	30分
8	第一部 土11/7	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
9	第一部 土11/14	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
10	第一部 土11/21	中国語検定試験の勉強	準四級筆記問題ドリル	
		この回の到達目標	文法事項の確認	
		事前学修	文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
11	第一部 土11/28	中国語検定試験の仮試験 まとめ	模擬試験問題で合格力を確認する	
		この回の到達目標	単語や文法などを復習	
		事前学修	単語、文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
12	第一部 土12/5	中国語会話の練習	初対面で、生活について、学習について、家族についてなど	
		この回の到達目標	中国語でいろいろなことを話そう、興味深く学べるように	
		事前学修	会話のテーマに関連単語、表現を復習	20分
		事後学修	会話文を繰り返す暗唱	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	総復習 1	リスニング	
		この回の到達目標	リスニングの聴く力をつける	
		事前学修	あいさつ語の復習	10分
		事後学修	問題を繰り返し復習	20分
14	第一部 土12/19	総復習 2	文法のまとめ	
		この回の到達目標	試験のための総復習	
		事前学修	文法項目を復習	20分
		事後学修	文章を書きながら覚えましょう	20分
15	第一部 土12/26	試験 まとめ	後期試験	
		この回の到達目標	試験	
		事前学修	テスト勉強	60分
		事後学修	なし	0分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
積極的に授業での練習に参加すること、授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版一国際関係と国際文化交流
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
		事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	9/24	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	10/1	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	10/8	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	10/15	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	10/22	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	応用練習	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	11/5	第11課 中国比日本大多少？	中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
9	11/12	第12課 北京烤多少？	北京ダックはおいくらですか？ 買い物の表現を習得する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	11/19	応用練習	会話応答練習と作文練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	12/3	第13課 中国人喜什么运？	中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	12/10	第14課 怎做才会不失礼？	どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	第15課 真会被款？	本当に罰金されますか 受身表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	12/24	総復習	復習と総合練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	1/14	授業内テスト まとめ	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	汪 鴻祥	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者40名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎	汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火 9/15	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
		この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う 夏休みの報告を行う	
		事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火 9/22	会話編	第8課：「学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火 9/29	会話編	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第9課：「广交朋友」	
		事前学修	第9課：「广交朋友」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火 10/6	会話編	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
		事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火 10/13	会話編	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
		事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火 10/20	会話編	第12課：「季化」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第12課：「季化」	
		事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火 10/27	会話編	第13課：「上学交通」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
		事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 11/10	会話編	第14課：「外活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第14課：「外活」	
		事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 11/17	会話編	第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」	
		事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 11/24	会話編	第16課：「校活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第16課：「校活」を習得する	
		事前学修	第16課：「校活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 12/1	会話編	第17課：「出国留学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
		事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火12/8	会話編	第18課：「健康食」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第18課：「健康食」を習得する	
		事前学修	第18課：「健康食」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火12/15	発表	期末発表会	
		この回の到達目標	レポートを提出し、発表を行う	
		事前学修	期末発表会の準備	120分
		事後学修	発表会内容の復習（30分）	120分
14	火12/22	復習	期末総合復習 第8課～18課	
		この回の到達目標	期末総合復習を行う	
		事前学修	期末総合復習	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
15	火1/12	総括と試験	期末試験及び振り返り、まとめ	
		この回の到達目標	後期の総括と授業内期末試験を行う	
		事前学修	期末試験の準備	120分
		事後学修	後期授業内容の復習（30分）	60分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6(月曜開講分、以下同断) 4/8(水曜開講分、以下同断) 4/10(金曜開講分、以下同断)	授業説明及び初歩的発音練習	授業展開方法に関して詳しく紹介し、中国語発音の初歩的練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国語の初歩的発音を習得することができる。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った初歩的発音を復習すること。	30分
2	4/13 4/15 4/17	基礎発音練習(中国語母音)	中国語母音(韻母)の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語母音(韻母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
		事前学修	中国語母音(韻母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	習った中国語母音(韻母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
3	4/20 4/22 4/24	基礎発音練習(中国語子音)	中国語子音(声母)の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語子音(声母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
		事前学修	中国語子音(声母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	習った中国語子音(声母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
4	4/27 4/29 5/1	基礎発音練習(中国語声調)	中国語声調(四声)の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語声調(四声)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
		事前学修	中国語声調(四声)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	習った中国語声調(四声)を自身で発音練習すること。	30分
5	5/4 5/6 5/8	教科書第一課(人称代名詞等)	人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課人称代名詞、名前の聞き方と答え方の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	人称代名詞、名前の聞き方と答え方の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	5/11 5/13 5/15	教科書第二課(動詞述語文等)	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/20 5/22	教科書第三課(形容詞述語文等)	形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課形容詞述語文、疑問詞「誰」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞述語文、疑問詞「誰」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	5/25 5/27 5/29	教科書第四課(的)	所有等を表す「的」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、所有等を表す「的」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課所有等を表す「的」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	所有等を表す「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	6/1 6/3 6/5	教科書第五課(数字、量詞)	数字、量詞について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、数字、量詞について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課数字、量詞の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	数字、量詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	6/8 6/10 6/12	教科書第五課(量詞、序数)	量詞、序数について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、量詞、序数について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課量詞、序数の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	量詞、序数の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	6/15 6/17 6/19	教科書第六課(了、想)	完了の「了」、助動詞「想」について学ぶ。	
		この回の到達目標	事前に第六課完了の「了」、助動詞「想」の部分に目を通しておくこと。	
		事前学修	到達目標①②到達達成の為、完了の「了」、助動詞「想」について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	完了の「了」、助動詞「想」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	6/22 6/24 6/26	教科書第六課(多少、幾等)	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 7/1 7/3	教科書第七課(時を表す語)	時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	7/6 7/8 7/10	教科書第七課(時を表す語が述語となる文)	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	7/13 7/15 7/17	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っている事。授業に関する決まり(欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど)を守る事。初回の授業には、開始時より必ず出席する事。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト終了後の解説及び採点後の返却、教科書本文発音テストの批評及び授業内試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語 1 年め	緒方昭、小林光考、 胡慶華著	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9	【ガイダンス】【中国語とは】	①ガイダンス(授業の進め方等授業概要説明) ②中国語について(発音・文字・方言など)の概略を説明する。	
		この回の到達目標	中国語とはどのようなものかその概要を説明することができる。	
		事前学修	シラバスと教科書を読んで、講義の全体をつかんでおく。中国語とはどのようなものなのかを調べておく。	30分
		事後学修	ガイダンス(授業の進め方等)の確認、発音、文字(簡体字)の理解確認。	30分
2	第一部 4/16	【中国語の発音習得①】声調、単母音	発音習得 声調・単母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	声調、単母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	発音、文字(簡体字)について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	声調・単母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
3	第一部 4/23	【中国語の発音習得②】複合母音、子音。	発音習得 複合母音・①子音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	複合母音、①子音を正確に発音することができる。	
		事前学修	声調・単母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	複合母音、①子音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
4	第一部 4/30	【中国語の発音習得③】子音、鼻母音。	発音習得 ②子音・鼻母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	②子音、鼻母音を正確に発音することができる。	
		事前学修	複合母音、①子音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	②子音・鼻母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
5	第一部 5/7	【中国語の発音習得④】鼻母音、er化、声調の組み合わせ、轻声、声調の変化。	発音習得 鼻母音・er化・声調の組合せ・轻声・声調の変化について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	鼻母音、er化、声調の組み合わせ、轻声、声調の変化を正確に発音することができる。	
		事前学修	②子音・鼻母音について、教科書で再度確認。	60分
		事後学修	鼻母音・er化・声調の組合せ・轻声・声調の変化の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。	60分
6	第一部 5/14	【中国語基礎文法習得①】人称代名詞、「～である」、「～か」の文法。	第1課① 中国人留学生と知り合う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第1回ピンイン書き取りテスト(母音部)	
		この回の到達目標	第1課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	鼻母音・er化・声調の組合せ・轻声・声調の変化について、教科書で再度確認、第1回ピンイン書き取りテスト準備、第1課① 中国人留学生と知り合う 予習(文法事項通読、新出単語及び本文発音確認)	120分
		事後学修	第1課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第1回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/21	【中国語基礎文法習得②】 一般動詞、指示代名詞、疑問詞疑問文、所有格の文法。	第1課② 中国人留学生と知り合う、第2課① 携帯の写真を見て について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第2回ピンイン書き取りテスト（子音 b、p、m、f 部）	
		この回の到達目標	第1課の練習問題を正しく解答することができる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第2回ピンイン書き取りテスト準備、第1課文法事項等について、教科書で再度確認、第1課② 中国人留学生と知り合う、第2課① 携帯の写真を見て 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第1課全事項の習得確認、第2課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第2回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
8	第一部 5/28	【中国語基礎文法習得③】 一般動詞、指示代名詞、疑問詞疑問文、所有格の文法。	第2課② 携帯の写真を見て について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第3回ピンイン書き取りテスト（子音 d、t、n、l 部）	
		この回の到達目標	第2課の練習問題を正しく解答することができる。第2課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第3回ピンイン書き取り準備、第2課文法事項等について、教科書で再度確認、第2課② 携帯の写真を見て 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第2課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第3回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
9	第一部 6/4	【中国語基礎文法習得④】 形容詞、副詞、所有、時制語の文法。	第3課① ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第4回ピンイン書き取りテスト（子音 g、k、h 部）	
		この回の到達目標	第3課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第4回ピンイン書き取りテスト準備、第3課① ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第4回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
10	第一部 6/11	【中国語基礎文法習得⑤】 場所詞、存在、省略疑問文、反復疑問文の文法。	第3課② いっしょに勉強しよう！、第4課① ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第5回ピンイン書き取りテスト（子音 j、q、x 部）	
		この回の到達目標	第3課の練習問題を正しく解答することができる。第4課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第5回ピンイン書き取りテスト準備、第3課文法事項等について、教科書で再度確認、第3課② いっしょに勉強しよう！、第4課① ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第3課全事項の習得確認、第4課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第5回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
11	第一部 6/18	【中国語基礎文法習得⑥】 場所詞、存在、省略疑問文、反復疑問文の文法。	第4課② ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第6回ピンイン書き取りテスト（子音 zh、ch、sh、r 部）	
		この回の到達目標	第4課の練習問題を正しく解答することができる。第4課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第6回ピンイン書き取りテスト準備、第4課② ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第4課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第6回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分
12	第一部 6/25	【中国語基礎文法習得⑦】 数詞、量詞、数量疑問文、所在の文法。	第5課① Tシャツを買う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 第7回ピンイン書き取りテスト（子音 z、c、s 部）	
		この回の到達目標	第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第7回ピンイン書き取りテスト準備、第5課Tシャツを買う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	120分
		事後学修	第5課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第7回ピンイン書き取りテスト見直し。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/2	【中国語基礎文法習得⑧】 数詞、量詞、数量疑問文、 所在の文法。	第5課② Tシャツを買う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。 前期授業総復習。	
		この回の 到達目標	第5課の練習問題を正しく解答することができる。第5課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第5課② Tシャツを買う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第5課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、前期授業における習得の総確認、第1～7回ビンイン書き取りテスト見直し。	90分
14	第一部 7/9	本文音読テスト、まとめ。	教科書本文音読テスト及び前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音することができる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 7/16[	授業内試験、まとめ。	授業内試験及びその解説。前期学習内容の振り返り。	
		この回の 到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、前期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認する、前期試験の問題点改善、夏休み課題。	90分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドリルの解答合わせおよび小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月4日	中国語とはどのような言語か。中国語の発音	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	中国語の標準語とはどのような言語かを大まかに説明できる。 四声のそれぞれのイメージを説明できる。 単母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキストのはじめに・7ページを一読しておく。	20分
		事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	4月11日	中国語の発音	子音の発音練習を行う。	
		この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	テキスト8ページ子音を一読し、CDを聞いておく。	15分
		事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	4月18日	中国語の発音	複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。	
		この回の到達目標	複母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
		事前学修	テキスト8ページ複母音・鼻母音を一読し、CDを聞いておく。	15分
		事後学修	CDを使い子音・複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。	45分
4	4月25日	人称代名詞、動詞、副詞	第1課 人称代名詞、動詞〈是〉、副詞〈也〉〈都〉を練習する。	
		この回の到達目標	人称代名詞が言える。動詞〈是〉を含む文の語順を説明できる。副詞〈也〉〈都〉の意味と文中の位置を説明できる。	
		事前学修	12～14ページを一読しCDを聞いておく。	15分
		事後学修	12～14ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
5	5月2日	指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語、疑問詞疑問文	15～17ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字の練習をする。	
		この回の到達目標	指示代名詞の使い方を説明できる。動詞述語文の基本語順を説明できる。連体修飾語と〈的〉の位置を説明できる。疑問詞の文中の位置を説明できる。10までの数字を言える。	
		事前学修	15～17ページのドリルを解いておく。18～20ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	18～20ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
6	5月9日	形容詞述語文、年月日・曜日、時刻	第1課小テスト 21～23ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の練習をする。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。年月日・曜日、時刻を言える。	
		事前学修	12～17ページの単語と語順について復習しておく。21～23ページのドリルを解いておく。24～26ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	24～26ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月16日	指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文	第2課小テスト 27～29ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文の練習をする。	
		この回の到達目標	場所を表す指示代名詞が言える。所有の〈有〉と存在の〈有〉の文のそれぞれの基本語順を説明できる。副詞〈有点儿〉の位置を説明できる。短縮疑問文について説明できる。	
		事前学修	18～23ページの単語と語順について復習しておく。27～29ページのドリルを解いておく。30～32ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	30～32ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
8	5月23日	選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉	第3課小テスト 33～34ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第5課 選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉の練習をする。	
		この回の到達目標	選択疑問文について説明できる。完了の〈了〉の位置と否定文について説明できる。反復疑問文について説明できる。動詞〈喜歡〉の特徴を説明できる。	
		事前学修	24～29ページの単語と語順について復習しておく。33～35ページのドリルを解いておく。36～38ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	36～38ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
9	5月30日	所在の〈在〉、介詞、変化の〈了〉、年齢・金額の言い方	第4課小テスト 39～41ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第6課 所在の〈在〉、介詞〈在〉〈給〉、変化の〈了〉、年齢の言い方、金額の言い方の練習をする。	
		この回の到達目標	所在の〈在〉の基本語順を説明できる。介詞の基本語順を説明できる。変化の〈了〉と限定できる場合を説明できる。年齢を質問できまた答えられる。金額を質問できまた答えられる。	
		事前学修	30～35ページの単語と語順について復習しておく。39～41ページのドリルを解いておく。42～44ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	42～44ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
10	6月6日	疑問詞、助動詞、連動文	第5課小テスト 45～47ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第7課 疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉、助動詞〈想〉、連動文の練習をする。	
		この回の到達目標	疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉を聞き取れる。助動詞〈想〉の位置を説明できる。連動文の基本語順を説明できる。	
		事前学修	36～41ページの単語と語順について復習しておく。45～47ページのドリルを解いておく。48～50ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	48～50ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
11	6月13日	助動詞、主述述語文、進行形	第6課小テスト 51～53ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第8課 助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形の練習をする。	
		この回の到達目標	助動詞〈会〉〈能〉の使い分けを説明できる。主述述語文の基本語順を説明できる。進行形を作る要素と語順を説明できる。	
		事前学修	51～53ページのドリルを解いておく。54～56ページを一読しCDを聞いておく。42～47ページの単語と語順について復習しておく。	20分
		事後学修	54～56ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
12	6月20日	助動詞〈会〉、依頼、〈是～的〉構文、動詞+〈一下〉	第7課小テスト 57～59ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第9課 可能性を表す助動詞〈会〉、依頼の〈請〉、〈是～的〉構文、動詞+〈一下〉の練習をする。	
		この回の到達目標	可能性を表す助動詞〈会〉の後に表れる動詞の特徴を説明できる。依頼の文の語順を説明できる。〈是～的〉構文について説明できる。〈一下〉の位置を説明できる。	
		事前学修	57～59ページのドリルを解いておく。60～62ページを一読しCDを聞いておく。48～53ページの単語と語順について復習しておく。	20分
		事後学修	60～62ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月27日	総復習	63～65ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第1課から第4課までの単語を復習し、ポイントとそれに関連する語順。	
		この回の到達目標	第1課から第4課までの単語を聞き取れる。第1課から第4課までの文法ポイントとそれに関連する語順を説明できる。	
		事前学修	63～65ページのドリルを解いておく。66～68ページを一読しCDを聞いておく。第1課～第4課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	40分
		事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
14	7月4日	総復習	第5課から第9課までの単語、文法ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
		この回の到達目標	第5課から第9課までの単語が聞き取れる。 第5課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第5課～第9課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	20分
		事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	40分
15	7月11日	期末試験と前期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第1課から第9課までの単語が聞き取れる。 第1課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第1課から第9課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得ること。

【授業方法】
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。本クラスは事前抽選除外クラスで、中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動（日大競技部）の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のフィードバックは後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を発信します。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・中国語の四声	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／「Quizlet」について／成績評価方法について／中国語入門知識と四声を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、四声を正しく発音できる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、中国語という言葉につて調べておく	60分
		事後学修	Quizlet（前期01）などを持ちいて四声・挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
2	4/17	母音・3声の変調・軽声	母音・3声の変調・軽声の発音とそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、母音・3声の変調・軽声といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期01）などを持ちいて、四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期02）などを持ちいて、今回学んだ母音・3声の変調・軽声、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
3	4/24	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）の発音とそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期02）などを持ちいて、母音・3声の変調・軽声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期03）などを持ちいて、今回学んだ-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
4	5/1	-iou/-uei/-uen	-iou/-uei/-uen・舌歯音の発音とそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-iou/-uei/-uen・舌歯音について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期03）などを持ちいて-n/-ng・-ian・erの発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期04）などを持ちいて、今回学んだ単母音・有気/無気音・挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	5/8	y-/w-・-üの綴り	y-/w-・-üの綴りとそれらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、y-/w-・-üの綴りなどについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期04）などを持ちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期05）などを持ちいて、今回学んだy-/w-・-üの綴り、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
6	5/15	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期05）などを持ちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（前期06）などを持ちいて、今回学んだソリ舌音・兒化、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/22	反復疑問文・形容詞述語文	反復疑問文・形容詞述語文などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と反復疑問文・形容詞述語文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（前期06）などをもちいて、ソリ舌音・児化の発音を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（前期07）などをもちいて、今回学んだ“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
8	5/29	“呢”疑問文・“的”の用法	“呢”疑問文・“的”の用法を学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“呢”疑問文・“的”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（前期07）などをもちいて、“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（前期08）などをもちいて、今回学んだ反復疑問文・形容詞述語文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
9	6/5	選択疑問文・数を問う疑問詞	選択疑問文・数を問う疑問詞などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・数を問う疑問詞などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（前期08）などをもちいて、反復疑問文・形容詞述語文を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（前期09）などをもちいて、今回学んだ“呢”疑問文・“的”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
10	6/12	文末付加型疑問文・“吧”の用法	文末付加型疑問文・“吧”の用法を学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、文末付加型疑問文・“吧”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（前期09）やなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（前期10）などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・数を問う疑問詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
11	6/19	所有の“有”の用法	所有の“有”の用法などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、所有の“有”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（前期10）などをもちいて、選択疑問文・数を問う疑問詞等の用法を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（前期11）などをもちいて、今回学んだ文末付加型疑問文・“吧”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
12	第一部 6/22 第二部 6/26	前期文法の復習	前期に学修した文法事項について復習する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、学修済みの文法を正しく理解できる
		事前学修	Quizlet（前期11）などをもちいて、所有の“有”の用法を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（前期口頭試験課題）などをもちいて、前期文法の復習と短文音読の反復練習をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	前期総復習と試験対策	前期総復習として、テキスト・プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、前回学修内容を身につけ、前期のこれまでの学修事項を復習しつつ、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
		事後学修	Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習する	120分
14	7/10	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習する	120分
15	7/17	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、中国語に対する興味と関心を深めるために、日本の楽曲の中国語カバー曲を授業に取り入れる。さらに、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	【ガイダンス】【発音練習】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 発音練習	
		この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
2	第一部 木 4/16	【発音練習】【人称代名詞などについて】	発音練習、第1課 人称代名詞、“是”の文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。また、人称代名詞などについて理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	第一部 木 4/23	【名前の聞き方と答え方、場所を表す指示代名詞などについて】	第1課 名前の聞き方と答え方について、第2課 場所を表す指示代名詞などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名前の聞き方と答え方について、また、場所を表す指示代名詞などについて理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	第一部 木 4/30	【疑問詞、について】	省略疑問文など	第2課 疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について学習する。 小テスト
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	第一部 木 5/7	【副詞“都……”について】	第3課 副詞“都……”について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副詞“都……”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 5/14	【形容詞述語文について】	第3課 形容詞述語文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	【指示代名詞、“的”の用法について】	第4課 指示代名詞、“的”の用法について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞、“的”の用法について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）	30分
8	第一部 木 5/28	【所有などを表す“有”、副詞“也”について】	第4課 所有などを表す“有”、副詞“也”について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有などを表す“有”、副詞“也”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）	30分
9	第一部 木 6/4	【数字、量詞について】	第5課 数字、量詞について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字、量詞について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 6/11	【序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について】	第5課 序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	第一部 木 6/18	【完了の“了”、助動詞“想”について】	第6課 完了の“了”、助動詞“想”について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了の“了”、助動詞“想”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 6/25	【存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて】	第6課 存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	【時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について】	第7課 時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 7/9	【時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について】	第7課 時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 7/16	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語の発音・意味・書体が日本語と全く違う外国語であると認識している者が望ましい。

【授業方法】
学生参加形式で行う。テキストに従い、毎時間指名し中国語で答えていただく。また随時小テストも行う。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本文型を用いた応用作文練習を適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。							1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。							1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・朱芸 共著	郁文堂	2017	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後教室内・講師控室で受け付けます。授業時間：月曜4限・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス 中国語とは。	現代中国語と漢文・日本漢字との意味や字形・発音の違いを説明する。これにより受講生が日本語漢字で簡単に習得できるという安易な発想をさせない。また授業計画・成績評価等の説明により、中国語学習に対する意識を高めることができる。	
		この回の到達目標	現代中国語と日本漢字の字形と意味に違いがあることを理解する。 日本語漢字音と現代中国語の発音との大きな違いがあることも理解する。	
		事前学修	まえがきと発音篇の説明を読み、声調とはどういうものであるのかCDを試しに聞いておく。	30分
		事後学修	CDを聞いて声調練習をしてみる。	30分
2	4/13	発音練習1 中国語の声調・単母音・複合母音	4つある声調と単母音・複合母音の発音を説明し、実際に発音練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して4つの声調と単母音・複合母音が正しく発音できる。	
		事前学修	CDを聞いて単母音・複合母音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて復習し、さらにピンイン表記を書いて覚える。	30分
3	4/20	発音練習2 中国語の鼻母音・子音とその組み合わせ	日本語でも使い分けしている鼻母音と子音の発音の仕方を説明し、実際に発音練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、鼻母音と子音の発音ができる。	
		事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
		事後学修	CDを聞いて発音の復習をし、実際の発音とピンイン表記e, iの違いを確認し覚える。 ピンインを書いて覚える。	30分
4	4/27	発音練習3 ピンイン表記の音声変化・声調の変化	見た目のローマ字（ピンイン）通り読めない綴りと“一”“不”の声調変化パターンを説明し、実際に発音練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、間違えやすいローマ字（ピンイン）の組み合わせを正しく発音できる。	
		事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
		事後学修	ある母音で始まるピンイン表記が変化することを書いて確認し発音してみる。 声調の変化がある第三声と“不”“一”の変化を確認し、書いて覚える。	30分
5	5/4	発音の総復習	数字を用いた年月日曜日、時刻の尋ね方と答え方を説明し、中国語で実際に受け答えができるように発音練習と併せて練習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、年月日曜日・時刻について答えることができる。	
		事前学修	日本語と表記が違うものをピックアップし、先に単語を覚える。 CDを聞いてピンインを見ながら発音練習してみる。	30分
		事後学修	日本語表記と違う単語を再確認する。 ピンイン表記を再確認し、CDを聞いて発音してみる。	30分
6	5/11	第1課 名前の聞き方と答え方・動詞述語文（1）・ドリル問題	中国語で名前の言い方、尋ね方を説明し、実際に答えられるよう練習する。 基本文型「AはBです」の肯定・否定・疑問の形を説明し表現できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の名前や「AはBです」の基本文型を用いて中国語で正しく答えることができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 自分の名前の簡体字・ピンインを中国語辞書で調べる。	30分
		事後学修	自分の名前の簡体字とピンイン表記を再確認する。 「AはBです」の肯定文・否定文・疑問文を再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	第2課 疑問詞疑問文・名詞の修飾の仕方・副詞「も」の用法・ドリル問題	指示代名詞と疑問詞「なに」「だれ」を用いた「Aは（も）Bです」の文型に、名詞を修飾する助詞の用法を説明し、第1課の基本文型を応用発展させた表現ができるように練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞を用いた「AはだれのBです」を中国語で正しく答えることができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
		事後学修	人称代名詞・指示代名詞を確認する。 第1課と第2課の疑問文の違いを確認する。 名詞を修飾する場合の「の」に相当する“的”が不要なケースを再確認する。	30分
8	5/25	第3課 場所代名詞・形容詞述語文・疑問詞「どうですか」・ドリル問題	述語が形容詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現ができるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 形容詞述語文に“是”が用いられてないことを確認しておく。	30分
		事後学修	場所代名詞をしっかりと覚える。 形容詞述語文の肯定文・否定文・疑問文の特徴を再確認する。特に副詞との組み合わせに注意。	30分
9	6/1	第4課 動詞述語文（2）・時点を表す語句の位置・省略疑問文・ドリル問題	述語が動詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、SVO文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 時点の語句（時間詞）は16－17頁参照。	30分
		事後学修	動詞述語文と時間を組み合わせた文に慣れるよう書いて覚える。	30分
10	6/8	第5課 所在の表現・方位詞の用法・前置詞“離”を用いた表現・ドリル問題	「AはBにある/いる」の肯定文・否定文・疑問文の文型と前置詞「から」の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所在と前置詞構文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
		事後学修	英語の前置詞句と違うことを再確認する。 日本人の言語習慣上忘れやすい「中」を再確認し、日中言語の相違を再考する。	30分
11	6/15	第6課 所有の表現・量詞＋名詞の組み合わせ・二種類の数の尋ね方・ドリル問題	日本語の助数詞に当たる量詞と名詞の組み合わせと「AはBを持っている/がある」の肯定文・否定文・疑問文の文型を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語式モノの数え方と所有文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 今までの否定文と違うことに着目しておく。	30分
		事後学修	量詞と名詞の組み合わせは一定なので、単語で覚えるよりもセットで確認する。 所有の否定文に用いられる“没”を再確認する。	30分
12	6/22	第7課 存在を表現する“有”の文・各種年齢の尋ね方・ドリル問題	「AにBがいる/ある」の肯定文・否定文・疑問文と年齢表現・親族の名称を説明し、簡単な家族紹介ができるよう練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の存在表現文との違いを理解し家族紹介を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課“在”と第6課“有”の違いを確認しておく。	30分
		事後学修	短文を自分の家族構成に沿って表現できるようにする。 第5課から第7課までの“在”と“有”、場所を表す語句がどのように並び替えされるのか再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	第8課 前置詞“在”を用いた表現・連動文（1）・ドリル問題	前置詞“在”を用いた動詞文の構造を説明した後、これと同じ構造の連動文も併せて説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の前置詞文との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語の前置詞句と違うことを確認しておく。	30分
		事後学修	4つの「で」に相当する前置詞を使い分けできるよう再確認する。 場所表現が置かれる位置を確認し、中国語の基本動詞述語文の構成を再確認する。	30分
14	7/6	第9課 動作の完了表現・前置詞“跟”を用いた表現・ドリル問題	動作の完了文型と前置詞“跟”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課と第8課の前置詞文との同異を再理解し、かつある動作が終了したことを中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞句を確認しておく。	30分
		事後学修	動作の完了を表現する“了”の位置と否定文・疑問文を再確認する。 述語が形容詞の場合の前置詞句を再確認する。	30分
15	7/13	前期の総合復習	授業内試験を実施し、最後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の漢字（簡体字）と発音表記ピンインで正しく表現することができる。	
		事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種否定文の違いを整理して覚えること。	60分
		事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと数と量詞を用いた肯定文を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
主に1年次生(中国語の初心者)を対象とする。

【授業方法】
講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に簡単な自己紹介を書き、授業内で発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳から学ぶ中国語	矢野光治 他	株式会社 天天	初版発 行	教科書	
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	ガイダンス 中国語について	中国の文化や中国語について簡単に紹介する。また、本講義の授業計画・内容などについての説明する。	
		この回の到達目標	中国の文化や中国語についてある程度の理解ができる。	
		事前学修	講義に関する要望などを考えておく。	30分
		事後学修	中国語に関する基本知識を調べておく。	30分
2	第一部 木4/16	中国語の発音 1	単母音、四声（声調）の学習	
		この回の到達目標	単母音と四声の発音を覚える。	
		事前学修	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。	30分
		事後学修	既習した単母音、四声を復習する。	30分
3	第一部 木4/23	中国語の発音 2	複合母音と子音の学習	
		この回の到達目標	複合母音と子音の発音を覚える。	
		事前学修	教科書の音声ファイルを聴きながら複合母音、子音を予習する。	30分
		事後学修	既習した複合母音、子音を復習する。（30分）	30分
4	第一部 木4/30	中国語の発音 3	鼻母音の学習 総合復習	
		この回の到達目標	鼻母音の発音を覚える。	
		事前学修	教科書の音声ファイルを聴きながら鼻母音を予習する。	30分
		事後学修	既習した発音と声調を復習してまとめる。	30分
5	第一部 木5/7	第1課	人称代名詞 動詞“是”の使い方 疑問詞疑問文	
		この回の到達目標	人称代名詞、動詞“是”、疑問詞疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第1課の内容を練習して覚える。	30分
6	第一部 木5/14	第1課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第1課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	第2課	場所代名詞 形容詞文 反復疑問文	
		この回の到達目標	場所代名詞、形容詞文、反復疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第2課の内容を練習して覚える。	30分
8	第一部 木5/28	第2課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第2課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。（30分）	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）	30分
9	第一部 木6/4	第3課	指示代名詞 動詞“有”の文	
		この回の到達目標	指示代名詞、動詞“有”の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第3課の内容を練習して覚える。（30分）	30分
10	第一部 木6/11	第3課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第3課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
11	第一部 木6/18	第4課	動詞“在”の文 因果関係の表現	
		この回の到達目標	動詞“在”及び因果関係の表現の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第4課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第4課の内容を練習して覚える。	30分
12	第一部 木6/25	第4課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第4課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	第5課	動詞文 時刻・日・曜日	
		この回の到達目標	動詞文、時刻・日・曜日の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第5課の内容を練習して覚える。	30分
14	第一部 木7/9	第5課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第5課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
15	第一部 木7/16	到達度のチェック 振り返り	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、到達度のチェックをする。	
		事前学修	前期に既習した内容を復習して覚える。	30分
		事後学修	前期の学習について総括する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歩歩高	康音など	隆美出版	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	中国語の勉強について	年間講義計画・成績評価の方法・数の読み方	
		この回の到達目標	中国と中国語の知識がわかる。	
		事前学修	教科書の目次を読む（30分）	30分
		事後学修	学習の計画を考える（30分）	30分
2	4月14日	数字と発音	発音Ⅰ 発音Ⅱ	
		この回の到達目標	単母音と複合母音を読む。	
		事前学修	数を暗記（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
3	4月21日	発音	発音Ⅲ	
		この回の到達目標	子音を読む。	
		事前学修	予習 録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
4	4月28日	発音	発音Ⅳ	
		この回の到達目標	発音記号と四声を覚える。	
		事前学修	予習 録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	発音のまとめ（30分）	30分
5	5月12日	你叫什么名字？	第1課 お名前は	
		この回の到達目標	自分の名前を言う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
6	5月19日	我学法律。	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	大学名と専攻を言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	你家有几口人？	第2課 何人家族ですか	
		この回の到達目標	質問文を言う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
8	6月2日	我有两个妹妹。	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	家族の紹介を言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
9	6月9日	你去麦当劳？	第3課 マクドナルドに行きますか	
		この回の到達目標	どこと何を使う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
10	6月17日	我吃堡包。	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	行くところと食べたいものを言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
11	6月23日	今天星期几？	第4課 今日は何曜日ですか	
		この回の到達目標	曜日と日にちを言う。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
12	6月30日	祝你生日快！	トレーニング 文法と練習問題	
		この回の到達目標	誕生日と祝いことばを言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	个多少？	第5課　いくらですか	
		この回の到達目標	値段を聞く。	
		事前学修	予習　本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習　録音を聞く（30分）	30分
14	7月14日	很漂亮。	トレーニング　文法と練習問題	
		この回の到達目標	形容詞を言う。	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
15	7月21日	テスト	期末試験及びまとめ、振返り	
		この回の到達目標	発音記号と会話の習得	
		事前学修	復習　録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14(月曜開講分、以下同断) 9/16(水曜開講分、以下同断) 9/18(金曜開講分、以下同断)	教科書第八課(動作回数、継続時間等)	動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課動作回数と継続時間、時間の長さの表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動作回数と継続時間、時間の長さの表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	9/21 9/23 9/25	教科書第八課(離合詞、従、在)	離合詞、介詞「従」「在」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、離合詞、介詞「従」「在」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課離合詞、介詞「従」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	離合詞、介詞「従」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	9/28 9/30 10/2	教科書第九課(過、会、能、可以)	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に教科書第九課経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	10/5 10/7 10/9	教科書第九課(反復疑問文、選択疑問文)	反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第九課反復疑問文、選択疑問文「還是」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	反復疑問文、選択疑問文「還是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	10/12 10/14 10/16	教科書第十課(方位詞、有、在)	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十課方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	10/19 10/21 10/23	教科書第十課(給、喜歡)	介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十課介詞「給」、動詞「喜歡」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	介詞「給」、動詞「喜歡」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/28 10/30	教科書第十一課(様態補語、動詞重ね型)	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	11/9 11/11 11/6	教科書第十二課(離、連動文)	介詞「離」、連動文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、介詞「離」、連動文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課介詞「離」、連動文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	介詞「離」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	11/16 11/18 11/13	教科書第十二課(在)	動作進行の「在」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、動作進行の「在」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課動作進行の「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動作進行の「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	11/23 11/25 11/20	教科書第十二課(別、的)	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	11/30 12/2 11/27	教科書第十三課(是～的)	「是～的」構文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「是～的」構文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十三課「是～的」構文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「是～的」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	12/7 12/9 12/4	教科書第十三課(比較表現)	比較表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、比較表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十三課比較表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/16 12/11	教科書第十四課(二重目的語)	二重目的語を取る動詞について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、二重目的語を取る動詞について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十四課二重目的語を取る動詞の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	二重目的語を取る動詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	12/21 12/23 12/18	第十四課(譲)	使役の「譲」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十四課使役の「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	使役の「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	1/18 1/13 12/25	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っていること。授業に関する一般的な決まり（規定数以上の欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど）を守ることが出来ること。

【授業方法】
先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教科書本文音読テスト終了後の批評及び授業内試験終了後の解説。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語 1 年め	緒方昭・小林光考・胡慶華	白水社	2019	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業開始前又は授業終了後（教室）にて。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17	【前期授業復習】【中国語 準中級へ向けての心構え】	前期授業復習。	
		この回の 到達目標	前期授業における習得分の定着度の確認。	
		事前学修	教科書発音部及び第1～5課全事項について、再度確認。	60分
		事後学修	前期試験の問題点改善、授業の進め方の確認。	60分
2	第一部 9/24	【中国語基礎文法習得⑨】 時制語、助動詞「したい」、語気助詞の文法。	第6課① いっしょに遊びに出かける について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第6課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第6課① いっしょに遊びに出かける 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
3	第一部 10/1	【中国語基礎文法習得⑩】 前置詞「～で」「～から」、完了、動詞の重ね型の文法。	第6課② いっしょに遊びに出かける、第7課① 花火は何時から？ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第6課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第6課文法事項等について、教科書で再度確認、第6課② いっしょに遊びに出かける 、第7課① 花火は何時から？ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第6課全事項の習得確認、第7課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）	90分
4	第一部 10/8	【中国語基礎文法習得⑪】 前置詞「～で」「～から」、完了、動詞の重ね型の文法。	第7課② 花火は何時から？ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第7課の練習問題を正しく解答することができる。第7課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第7課② 花火は何時から？ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第7課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
5	第一部 10/15	【中国語基礎文法習得⑫】 助動詞「できる」、経験、動量詞の文法。	第8課① 学園祭 について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第8課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第8課① 学園祭 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
6	第一部 10/22	【中国語基礎文法習得⑬】 様態補語、前置詞「～に」「～と」、連動文の文法。	第8課② 学園祭、第9課① カラオケに行く について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の 到達目標	第8課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第8課文法事項について、教科書で再度確認、第8課② 学園祭、第9課① カラオケに行く 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第8課全事項の習得確認、第9課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/29	【中国語基礎文法習得⑭】 様態補語、前置詞「～に」 「～と」、連動文の文法。	第9課② カラオケに行く について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第9課の練習問題を正しく解答することができる。第9課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第9課文法事項等について、教科書で再度確認、第9課② カラオケに行く 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第9課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
8	第一部 11/5	【中国語基礎文法習得⑮】 結果補語、進行、主述述語 文の文法。	第10課① 中国の映画を見る について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第10課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第10課① 中国の映画を見る 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
9	第一部 11/12	【中国語基礎文法習得⑯】 方向補語、比較、選択疑問 文の文法。	第10課② 中国の映画を見る、第11課① 帰国を前にして について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第10課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第10課文法事項等について、教科書で再度確認、第10課② 中国の映画を見る、第11課① 帰国を前にして 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第10課全事項の習得確認、第11課文法事項等の取得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
10	第一部 11/19	【中国語基礎文法習得⑰】 方向補語、比較、選択疑問 文の文法。	第11課② 帰国を前にして について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第11課の練習問題を正しく解答することができる。第11課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第11課文法事項等について、教科書で再度確認、第11課② 帰国を前にして 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第11課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
11	第一部 12/3	【中国語基礎文法習得⑱】 可能補語、過去の強調構 文、二重目的語文の文法。	第12課① 空港で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第12課① 空港で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分
12	第一部 12/10	【中国語基礎文法習得⑲】 可能補語、過去の強調構 文、二重目的語文の文法。	第12課② 空港で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答する。	
		この回の到達目標	第12課の練習問題を正しく解答することができる。第12課の文法事項を理解し、その本文を音読して作文や解釈をおこなえる基礎文法力を身に付ける。	
		事前学修	第12課文法事項等について、教科書にて再度確認、第12課② 空港で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）	90分
		事後学修	第12課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/17	【後期授業復習】	後期授業の総復習。	
		この回の到達目標	後期授業分の内容を体系的に習得する。	
		事前学修	第6～12課の習得確認。	120分
		事後学修	後期授業における習得の総確認。	120分
14	第一部 12/24	【本文音読テスト、まとめ】	教科書本文音読テスト後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	教科書本文をしっかりと正確に発音することができる。	
		事前学修	教科書本文音読テスト準備。	120分
		事後学修	教科書本文音読テストの問題点改善。	90分
15	第一部 1/14	【授業内試験、まとめ】	授業内試験及びその解説。後期学習内容の振り返り。	
		この回の到達目標	授業で習得したことをしっかりと試験で反映することができる。	
		事前学修	教科書の総復習、後期試験準備。	180分
		事後学修	これまでの学習内容を確認、後期試験の問題点改善、中級に向けた春休みにおける学習。	90分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドリルの解答合わせ・小テスト返却時にポイントを解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月19日	基本の復習		総復習 四声・単母音・子音・声調の変化、第1課から第9課までのポイントの例文の発音とポイントの内容確認をする。
		この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・子音の発音の仕方を説明できる。第三声の声調変化の原則について説明できる。動詞述語文・形容詞述語文の基本語順を説明できる。修飾語の位置を説明できる。第1課から第9課までの文法ポイントの内容を説明できる。	
		事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音および第1課から第9課までのポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第1課から第9課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。	45分
		事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。	15分
2	9月26日	禁止、介詞、経験、原因・理由を訪ねる〈怎么〉		第10課 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈过〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉の練習をする。
		この回の到達目標	禁止の表現が中国語で言える。〈从〉の正確な発音ができその語順を説明できる。〈过〉の位置と意味を説明できる。〈怎么〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	66～68ページを一読しCDを聞いておく。	15分
		事後学修	66～68ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
3	10月3日	介詞、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞		69～77ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第11課 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞の練習をする。
		この回の到達目標	介詞〈对〉〈离〉の位置と意味を説明できる。動詞の重ね型の基本的意味と訳し方を説明できる。目的語を二つとる動詞の基本語順を説明できる。	
		事前学修	69～70ページのドリルを解いておく。72～74ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	72・73ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
4	10月10日	比較文、助動詞、程度・数量の尋ね方、助動詞		第10課小テスト 75～76ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第12課 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉の練習をする。
		この回の到達目標	二種類の比較文の基本語順を説明できる。助動詞〈可以〉の用法を説明できる。程度・数量の尋ね方を中国語で言える。助動詞〈要〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	75～76ページのドリルを解いておく。78～80ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	78～80ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
5	10月17日	使役文、接続詞、「もうすぐ～する」の言い方、介詞		81～82ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第13課 使役文、接続詞〈因为〉〈所以〉、「もうすぐ～する」の言い方、介詞〈往〉の練習をする。
		この回の到達目標	使役文の基本語順を説明できる。接続詞〈因为〉と〈所以〉の使い方を説明できる。「もうすぐ～する」を中国語で言える。介詞〈往〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	81～82ページのドリルを解いておく。84～86ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	84～86ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
6	10月24日	結果補語、接続詞、様態補語、〈是不是〉		87～88ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第14課 結果補語、接続詞〈虽然～但是〉、様態補語、〈是不是〉を使った疑問文の練習をする。
		この回の到達目標	結果補語四つ以上言える。接続詞〈虽然～但是〉の意味を説明できる。様態補語とは何かを説明できる。様態補語の基本語順を二種類説明できる。〈是不是〉を使った疑問文を訳せる。	
		事前学修	87～88ページのドリルを解いておく。90～92ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	90～92ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月31日	持続、可能性、否定疑問、副詞	93～94ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第15課 持続の〈着〉、可能性の〈可能〉、否定疑問の〈不是～嗎？〉、副詞〈就〉の練習をする。	
		この回の到達目標	持続の〈着〉の用法を説明できる。〈可能〉の意味を説明できる。〈不是～嗎？〉の文を訳せる。副詞〈就〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	93～94ページのドリルを解いておく。96～98ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	96～98ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
8	11月7日	方向補語、存現文、仮定、介詞	99～100ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第16課 方向補語、存現文、仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の練習をする。	
		この回の到達目標	方向補語の種類と意味用法について説明できる。存現文の目的語の性質と語順を性質を説明できる。仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の訳し方を説明できる。	
		事前学修	99～100ページのドリルを解いておく。102～104ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	102～104ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
9	11月14日	処置文、〈越～越〉、副詞、除外・補充の表現	105～106ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第17課 処置文〈把〉、〈越～越〉、副詞〈才〉除外・補充の〈除了～以外〉の練習をする。	
		この回の到達目標	処置文とはどのような文か説明できる。処置文の基本語順を説明できる。〈越～越〉を訳せる。副詞〈才〉の位置と意味を説明できる。除外・補充の〈除了～以外〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	105～106ページのドリルを解いておく。108～110ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	108～109ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
10	11月21日	〈又～又～〉、可能補語、仮定、動詞〈祝〉	111～112ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第18課 〈又～又～〉、可能補語、仮定の〈即使～也〉、動詞〈祝〉の練習をする。	
		この回の到達目標	〈又～又～〉の使い方を説明できる。可能補語について説明できる。仮定の〈即使～也〉の位置と意味を説明できる。動詞〈祝〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	111～112ページのドリルを解いておく。114～116ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	114～116ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
11	11月28日	受身文、〈一边～一边〉、〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉	117～118ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第19課 受身文、〈一边～一边〉〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉の練習をする。	
		この回の到達目標	受身文の基本語順を説明できる。〈一边～一边〉の位置と意味を説明できる。〈先～然后/再〉の位置と意味を説明できる。〈像/跟～一樣〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	117～118ページのドリルを解いておく。120～121ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	120～121ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
12	12月5日	〈不但～而且〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉	123～124ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第20課 〈不但～而且〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉の練習をする。	
		この回の到達目標	〈不但～而且〉の位置と意味を説明できる。動詞〈帮〉の位置と意味を説明できる。評価を導く〈着〉の位置と意味を説明できる。動詞〈打算〉の位置と意味を説明できる。	
		事前学修	123～124ページのドリルを解いておく。126～128ページを一読しCDを聞いておく。	20分
		事後学修	126～128ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月12日	総復習	128～129ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第10課から第14課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
		この回の到達目標	第10課から第14課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	128～129ページのドリルを解いておく。120～124ページの単語と語順について復習しておく。	20分
		事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	40分
14	12月19日	総復習	第15課から第20課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。	
		この回の到達目標	第15課から第20課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる	
		事前学修	第15課～第20課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	40分
		事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
15	12月26日	期末試験及び後期学習内容の振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	第10課から第20課までの単語が聞き取れる。 第10課から第20課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
		事前学修	第10課から第20課までの単語が聞き取れるように復習する。 第10課から第20課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
		事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aの内容が身に付いており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。初回の授業で担当者の受講許可を得る事。

【授業方法】		
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。本クラスは事前抽選除外クラスで、中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動（日大競技部）の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行います。。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後、後日ポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。学修サポートとしてインターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。				

【オフィスアワー】
競技部員は月 6 と土 4、1033講堂（予定）。競技部以外は火 5、532講堂（予定）。要事前申し込み。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／「Quizlet」について／成績評価方法について／前期学修内容の確認と復習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を復習しておく	60分
		事後学修	Quizlet（後期01）などを持ちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする	30分
2	9/25	存在の“有”・順と量の概念	存在の“有”・順と量の概念などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存在の“有”・順と量の概念といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期01）課題などを持ちいて前期学修部分の苦手を克服し授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期02）などを持ちいて、今回学んだ存在の“有”・順と量の概念、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
3	10/2	“在”の用法	“在”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“在”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期02）課題などを持ちいて存在の“有”・順と量の概念を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期03）などを持ちいて、今回学んだ“在”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
4	10/9	“是”を省略できる文	“是”を省略できる文などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”を省略できる文について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期03）課題などを持ちいて、“在”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期04）などを持ちいて、今回学んだ“是”を省略できる文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	10/16	助動詞の用法	助動詞“会”“能”“想”の用法などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”“能”“想”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期04）課題などを持ちいて、“是”を省略できる文を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期05）などを持ちいて、今回学んだ助動詞“会”“能”“想”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
6	10/23	曜日・時刻の言い方	曜日・時刻の言い方などを学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と曜日・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期05）課題などを持ちいて、助動詞“会”“能”“想”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
		事後学修	Quizlet（後期06）などを持ちいて、今回学んだ曜日・時刻の言い方の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/30	介詞・“要”の用法	介詞・“要”の用法などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、介詞・“要”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期06）課題などをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期07）などをもちいて、今回学んだ介詞・“要”の用法の復習と音読の反復練習をする
8	11/6	比較表現	比較表現などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と比較表現などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期07）課題などをもちいて、介詞・“要”の用法を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期08）などをもちいて、今回学んだ比較表現、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
9	11/13	金額・月日の言い方	金額・月日の言い方などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額・月日の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期08）課題などをもちいて、比較表現を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期09）などをもちいて、今回学んだ金額・月日の言い方、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
10	11/20	介詞“給”の用法・連動文	介詞“給”の用法・連動文などを学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞“給”の用法・連動文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期09）課題などをもちいて、金額・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期10）などをもちいて、今回学んだ介詞“給”の用法・連動文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
11	11/27	後期前半の復習	後期後半の文法事項の定着にむけて反復練習を中心に学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と後期前半の文法事項について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期10）課題などをもちいて、介詞“給”の用法・連動文を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期11）などをもちいて、今回確認した後期前半の文法事項、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする
12	12/4	後期後半の復習	後期後半の文法事項の定着にむけて反復練習を中心に学修する
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と後期後半の文法事項について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる
		事前学修	Quizlet（後期11）課題などをもちいて、後期後半の文法事項を身につけ授業にのぞむ
		事後学修	Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、今回確認した後期後半の文法事項、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	後期総復習と試験対策	後期総復習として、口頭試験の対策を通して学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学んだ発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
		事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、前回学修内容を身につけ、前期のこれまでの小テストを復習しつつ、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ	60分
		事後学修	後期口頭試験課題文、Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちい復習する	120分
14	12/18	口頭試験課題文の練習	口頭試験課題文の反復練習を中心に学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる	
		事前学修	後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	苦手部分を確認し、克服にむけ練習を重ねる	120分
15	12/25	口頭試験とまとめ	後期筆記試験の講評を行った後、後期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、中国語に対する興味と関心を深めるために、日本の楽曲の中国語カバー曲を授業に取り入れる。さらに、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業で返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	【ガイダンス】【時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 第8課 時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について学習する。	
		この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	第一部 木 9/24	【離合詞、介詞“从”“在”について】	第8課 離合詞、介詞“从”“在”について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離合詞、介詞“从”“在”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	第一部 木 10/1	【助動詞“会、能、可以”について】	第9課 助動詞“会、能、可以”について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞“会、能、可以”について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	第一部 木 10/8	【反復疑問文、選択疑問文について】	第9課 反復疑問文、選択疑問文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、反復疑問文、選択疑問文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	第一部 木 10/15	【方位を表す言い方、存在を表す言い方について】	第10課 方位を表す言い方、存在を表す言い方について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方位を表す言い方、存在を表す言い方について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 10/22	【動作の対象や受益者を導く表現について】	第10課 動作の対象や受益者を導く表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の対象や受益者を導く表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	【程度補語、動詞の重ね型について】	第11課 程度補語、動詞の重ね型について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、程度補語、動詞の重ね型について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	第一部 木 11/5	【介詞“离”、連動文について】	第11課 介詞“离”、連動文について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、介詞“离”、連動文について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	第一部 木 11/12	【動作進行の“在”、“的”の用法について】	第12課 動作進行の“在”、“的”の用法について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作進行の“在”、“的”の用法について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 11/19	【禁止表現について】	第12課 禁止表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	第一部 木 12/3	【過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について】	第13課 過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 12/10	【“没有”の比較表現、類似を表す表現について】	第13課 “没有”の比較表現、類似を表す表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“没有”の比較表現、類似を表す表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	【二重目的語をとる動詞、使役表現について】	第14課 二重目的語をとる動詞、使役表現について学習する。 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語をとる動詞、使役表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 12/24	【“跟……一起”を用いた表現について】	第14課 “跟……一起”を用いた表現について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“跟……一起”を用いた表現について理解する。	
		事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 1/14	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語が日本語で通じるなどと安易に考えていない積極的な者が望ましい。

【授業方法】
学生参加形式で行う。テキストに従い、毎時間指名し中国語で答えていただく。また随時小テストも行う。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本文を応用した作文練習。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・主芸 共著	郁文堂	2017	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業終了後教室内・講師控室で受け付けます。授業時間：月曜4限・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	第10課 文法ポイント：願望表現・ 選択疑問文・提案文・ドリ ル問題確認	願望を表す助動詞文と提案文・選択疑問文の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、願望表現と提案文を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
		事後学修	助動詞文の肯定文・否定文・二種類の疑問文を確認する。 選択疑問文と提案文の構文を確認する。	30分
2	9/21	第11課 文法ポイント：比較表現・ 「～するのが好きだ」の表 現・副詞“越”の用法・ドリ ル確認	前置詞“比”を用いた比較表現と間違えやすい「～が好きだ」の表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞を述語にとる比較表現と「AすればするほどBだ」・「～をするのが好きだ」の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課・第8課の形容詞が述語になる時の前置詞句との違いに着目しておく。	30分
		事後学修	第5課・第8課・第11課の前置詞句の違いを再確認する。特に比較文の否定文に気を付ける。 日本人が間違えやすい“好”の意味を再確認し、中国語の「好き」「嫌い」を正しく覚える。	30分
3	9/28	第12課 文法ポイント：過去の経験 表現・助動詞“打算”・状 況の変化表現・ドリル確認	過去における経験の有無（したことがある/ない）と予定を表す助動詞文・状況の変化表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の経験表現と強調助動詞文・ある状況の変化表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課の“了”を用いた文と比較してみる。	30分
		事後学修	第9課“了”を用いた文との違いを再確認する。 第10課の助動詞と合わせて否定文の表現を再確認する。	30分
4	10/5	第13課 文法ポイント：動作の進行 表現・連動文（2）・推量 と確認の表現・ドリル確認	動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文と推量・確認表現を説明し、表現できるよう反復練習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文・推量確認表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課・第12課の時制文と文構成を比較してみる。 第8課の連動文を再確認しておく。	30分
		事後学修	3つの時制文を整理し再確認する。 第8課の連動文との違いを整理し再確認する。	30分
5	10/12	第14課 3つの「できる」の表現・ 動詞の重ね型・依頼の表現 （1）・ドリル確認	3つの「できる」の表現の使い分けと動詞の重ね型を用いた依頼表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、三種類の助動詞の使い分けと動詞の重ね型の文構造を理解し、「できる」と依頼文を中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 助動詞使用法の違いを読んでおく。	30分
		事後学修	三種類の助動詞の使用法と否定文のニュアンスの違いを再確認する。 命令形と依頼文の違いを再確認する。	30分
6	10/19	第15課 強調表現（1）・お金の言 い方・ドリル確認	過去の強調表現（1）と中国式お金の言い方を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、過去における時間・場所・方法手段を強調した文とお金の言い方を理解し、過去の強調文と買い物みに関して中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5（時点）・8（場所・前置詞）・9（了）課の内容を再確認しておく。	30分
		事後学修	第5課と第9課の語順を再確認し、強調文の構成文字の位置を再確認する。 数に慣れるようCDを聞いて発音し再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	既習事項の確認	動作の完了・過去における経験の有無・動作の進行の時制表現と前置詞文・助動詞文を再確認する。これにより中国語検定試験準4級・4級受験者への事前確認となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種時制表現・各種助動詞・各種前置詞の文構造を再確認し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 時制文を覚える。特に助動詞文も含めて各種否定文の違いを整理して覚えること。	30分
		事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時点・場所・数量表現を再確認する。	30分
8	11/9	第16課 文法ポイント：依頼表現（2）・結果補語の表現・前置詞“用”を用いた文・ドリル確認	新たな依頼表現文と結果補語構造とその表現・前置詞“用”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、依頼表現と結果補語の文構造と既習文法との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9の動作の完了・15課の前置詞文を確認しておく。	30分
		事後学修	結果補語の有無による肯定文と否定文の違いを整理し再確認する。 前置詞文の否定文が第5・9課と違うことを再確認する。	30分
9	11/16	第17課 文法ポイント：方向補語の表現・前置詞“給”“從”を用いた表現・ドリル確認	「行く/来る」を用いた方向補語・前置詞“給”“從”を用いた文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方向補語と前置詞文の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞文と各課の動詞が述語になる前置詞文を確認しておく。 方向補語の説明文を読んでおく。	30分
		事後学修	各種前置詞の用法を整理し再確認する。 方向補語のニュアンスを再確認する。	30分
10	11/23	第18課 文法ポイント：可能補語の表現・「それから」の表現・ドリル問題	第16課結果補語と第18課方向補語を応用発展させた可能補語と接続詞「それから」を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能補語と接続詞を用いた文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第12課の助動詞を確認しておく。	30分
		事後学修	第16課の結果補語からの応用形であることを整理し再確認する。 第12課「できる」表現との違いを整理し再確認する。	30分
11	11/30	第19課 文法ポイント：様態補語の表現・時間量の表現と“了”・ドリル確認	ある動作の様子や状態の表現と動作の時間量と“了”の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、様態補語と動作の時間量と動作の完了表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第3課形容詞文と第9課の“了”を用いた文を再確認しておく。	30分
		事後学修	様態補語の肯定文は日本語表現の語順と同じであり、否定文疑問文は第3課と同じ表現であることを再確認する。 時間量の表現がある場合の“了”の位置を再確認する。	30分
12	12/7	第20課 文法ポイント：二重目的語を要する動詞・助動詞を用いた「しなければならない」の表現・ドリル確認	二重目的語を要する動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語を必要とする動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語と同じ文構造であることと、助動詞の説明文を読んでおく。	30分
		事後学修	助動詞の否定文を再確認し、併せて既習の各種助動詞を整理して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	第21課 文法ポイント：使役表現・副詞を用いた各種強調表現（2）・ドリル確認	使役文と副詞を用いた各種強調表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、使役文と強調表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第16課の依頼文の文法構成を確認しておく。	30分
		事後学修	使役文の文構成を整理し、日本語の翻訳の仕方を再確認する。 各種程度副詞と併せて整理し再確認する。	30分
14	12/21	第22課 文法ポイント：受身表現・近接未来表現・伝聞表現・ドリル確認	受身文と近い将来に起こり得ることの表現及び伝聞表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受身文と未来・伝聞の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
		事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第21課の使役文の文構成を確認しておく。	30分
		事後学修	使役文と受身文の違いを整理し再確認する。 近接未来表現にも“了”が用いられるが、第9・12課の“了”と区分できるよう整理し再確認する。	30分
15	1/18	授業内試験 一年間の基礎中国語文法総復習	一年間の基礎中国語文法習得度を確認するために試験を行う。終了後解説をし再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文法構造とピンインを総合的に再確認し理解する。	
		事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種補語表現と否定文の違いを整理して覚えること。	60分
		事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時間量を用いた肯定文・各種補語表現を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aを修了した学生を対象とする。

【授業方法】
講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳から学ぶ中国語	矢野光治 他	株式会社 天天	初版発	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜２・３・４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	第6課	動詞の時態① 選択疑問文	
		この回の到達目標	動詞の時態、選択疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第6課の内容を練習して覚える。	30分
2	第一部 木9/24	第6課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第6課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
3	第一部 木10/1	第7課	助動詞 “想” “打算” 動詞の時態②	
		この回の到達目標	助動詞 “想” “打算” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第7課の内容を練習して覚える。	30分
4	第一部 木10/8	第7課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第7課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
5	第一部 木10/15	第8課	“是～的” の文 “又～又～” の文	
		この回の到達目標	“是～的”、“又～又～” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第8課の内容を練習して覚える。	30分
6	第一部 木10/22	第8課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第8課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	第9課	第9課 時量補語 助動詞 “要”	
		この回の到達目標	時量補語、助動詞 “要” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第9課の内容を練習して覚える。	30分
8	第一部 木11/5	第9課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第9課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
9	第一部 木11/12	第10課	助動詞 “会” “能” “喜” 接続詞 “不但～而且～”、“除了～以外，～”	
		この回の到達目標	助動詞 “会” “能” “喜” の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第10課の内容を練習して覚える。	30分
10	第一部 木11/19	第10課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第10課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
11	第一部 木12/3	第11課	様態補語・動量補語 受け身 “把” の文	
		この回の到達目標	様態補語・動量補語、受け身の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第11課の内容を練習して覚える。	30分
12	第一部 木12/10	第11課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第11課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	第12課	二重目的語 名量詞	
		この回の 到達目標	二重目的語、名量詞の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
		事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第12課の内容を練習して覚える。	30分
14	第一部 木12/24	第12課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第12課で習った表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	練習問題を予習する。	30分
		事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
15	第一部 木1/14	到達度のチェック 振り返り	期末テスト、振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①、②、③に関連して、到達度のチェックをする。	
		事前学修	後期に既習した内容を復習して覚える。	30分
		事後学修	後期の学習について総括する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	鄭 暁青	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中説明

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歩歩高	康音など	隆美出版	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	我会做中国菜。	第6課 料理ができますか	
		この回の到達目標	可能表現	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
2	9月22日	你喜吃生片？	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	会話を聞いて書く。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
3	9月29日	你每天几点起床？	第7課 何時に起きますか	
		この回の到達目標	いつと時間の長さを表現する位置の違い	
		事前学修	予習 練習問題 (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
4	9月15日	什么？几点？	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	時刻を言う。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
5	10月6日	多？	第8課 何時間寝ましたか	
		この回の到達目標	時間の長さを言う。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
6	10月13日	每天学几个小？	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて日本語に訳す。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	簡体字の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月20日	北京比京冷多了。	第9課 今日は昨日より良くなりました	
		この回の到達目標	比較の表現を熟する。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
8	10月27日	他比你高一点。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	比較文を作る。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
9	11月10日	你去中国？	第10課 中国のネットを見たことがありますか	
		この回の到達目標	したことがある表現を言う。	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
10	11月17日	想去旅行。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聴いて書く。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
11	11月24日	我在看地。	第11課 なにをしていますか	
		この回の到達目標	進行する表現を言う	
		事前学修	予習 録音を聞く (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
12	12月1日	他正在打。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を上手に朗読する。	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月8日	寒假打算干什么？	第1 2課 もうすぐ冬休みになります	
		この回の到達目標	冬休みの計画を言う。	
		事前学修	予習 録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	復習 本文の朗読（30分）	30分
14	12月15日	自我介	トレーニング 自己紹介を書く	
		この回の到達目標	自己紹介を書く。	
		事前学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
		事後学修	自己紹介を書く（30分）	30分
15	1月12日	自我介	まとめと期末テスト・振返り	
		この回の到達目標	自己紹介を言う。	
		事前学修	自己紹介を読む（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	中国語演習A	担当者	于 晓飛	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解出来る幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/8 第二部 4/7	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	音声聞き、中国語の発音を耳にする	60分
2	第一部 4/15 第二部 4/13	発音	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
		この回の到達目標	中国語の発音を覚える	
		事前学修	発音を練習すること。（30分）	60分
		事後学修	勉強した発音を、自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	第一部 4/22 第二部 4/20	発音と挨拶表現	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
		この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介できる	
		事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
		事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第一部 4/29 第二部 4/28	北京的夏天？	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について説明	
		この回の到達目標	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について理解し、話せることができる	
		事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	第一部 5/6 第二部 5/5	実験演習	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：形容詞述語文についての表現と是を用いた文。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の応用会話でき、“是”の構文について理解できる	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
		事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第一部 5/13 第二部 5/11	你是香港人	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
		この回の到達目標	疑問文の作り方：四つの疑問文を作ることができる	
		事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/20 第二部 5/19	実験演習	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
		この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
		事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第一部 5/27 第二部 5/26	你吃早了	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：動詞述語文表現と助数詞；会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	動詞述語文表現と助数詞について理解し、応用することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	第一部 6/3 第二部 6/2	実験演習	筆記小テスト ポイントの構文を使って、応用会話する	
		この回の到達目標	勉強したことを使って、自分のことに基づいて説明することができる	
		事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	第一部 6/10 第二部 6/9	你身体好	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：主述述語文と状態補語。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、また応用することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第一部 6/17 第二部 6/16	実験演習	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：主述述語文と状態補語の表現について練習する	
		この回の到達目標	主述述語文と状態補語の表現について理解できる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第一部 6/24 第二部 6/23	你家有几口人	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：所有を表す動詞と因果関係を表す表現	
		この回の到達目標	複文の接続詞の言い方について理解し、家族についての説明することができる。	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/1 第二部 6/30	実験演習	会話小テスト 会話文を解釈 ポイントについての表現	
		この回の到達目標	家族について中国語で上手に説明することができる	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）	60分
14	第一部 7/8 第二部 7/7	有人滑雪	発表テスト ポイントについて説明 存現文の表現	
		この回の到達目標	様々な現象について存現、焼失の表現を理解し、自然現象について説明することができる	
		事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習（30分）	60分
15	第一部 7/15 第二部 7/14	復習と期末筆記テスト	全般復習とテスト範囲を指示する	
		この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く	60分

科目名	中国語演習A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解出来る幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。

【授業方法】
「言語/哲学」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》中国語さらなる一歩	尹景春、竹島毅	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	授業説明及文法紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、多少専門的な中国語文法の紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に多少専門的な中国語文法知識を習得することができる。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った文法知識を自分なりに整理すること。	30分
2	4/16	教科書第一課(可以、要)	助動詞「可以」「要」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、助動詞「可以」「要」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	第一課助動詞「可以」「要」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞「可以」「要」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	4/23/	教科書第一課(主述述語文)	主述述語文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、主述述語文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第1課主述述語文部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	主述述語文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	4/30	教科書第二課(因為)	原因や理由を表す「因為」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、原因や理由を表す「因為」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第2課原因や理由を表す「因為」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	原因や理由を表す「因為」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	5/7	教科書第二課(可是)	逆説を表す「可是」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、逆説を表す「可是」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第2課逆接を表す「可是」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	逆接を表す「可是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	5/14	教科書第三課(連動文等)	連動文、「是～的」の文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、連動文、「是～的」の文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第3課連動文、「是～的」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	連動文、「是～的」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	教科書第三課(怎麼)	疑問詞「怎麼」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「怎麼」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第3課疑問詞「怎麼」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞「怎麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	5/28	教科書第四課(了)	「了」の三つの用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「了」の三つの用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第4課「了」の三つの用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「了」の三つの用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	6/4	第四課(就)	副詞「就」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「就」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第4課副詞「就」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「就」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	6/11	第五課(結果補語、有点兒)	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第5課結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	6/18	第五課(要是)	仮定を表す「要是」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、仮定を表す「要是」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第5課仮定を表す「要是」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	仮定を表す「要是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	6/25	第六課(存現文)	存現文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、存現文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第6課存現文部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	72/	第六課(主語がフレーズである時)	主語がフレーズである時について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、主語がフレーズである時について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第6課主語がフレーズの時の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	主語がフレーズの時の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	79/	第六課(又～又～等)	「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第6課「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	7/16	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習B	担当者	于 晓飛	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解出来る幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2			2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/16 第二部 9/15	ガイダンスと導入講義、自己紹介	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	前期勉強したことを復習と自己紹介の準備	60分
2	第一部 9/23 第二部 9/22	你老家在哪儿(1)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動詞“在”と“有”の使い方；介詞の区別状況語が強調される構造。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、介詞の使い方応用できる	
		事前学修	自己紹介できるよう発音を練習すること。	60分
		事後学修	新しい語彙を覚え自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	第一部 9/30 第二部 9/29	你老家在哪儿(2)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：状況語が強調される構造。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、特に“是・・・的”の表現を身に付けることができる。	
		事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
		事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第一部 10/7 第二部 10/6	几点起床	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：時点を表す言葉と時間の長さを表す言葉の語順	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、応用練習もできる。	
		事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	第一部 10/14 第二部 10/13	中国正流行什么	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動作の進行、持続を表す	
		この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用会話でき、応用練習もできる。	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
		事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第一部 10/21 第二部 10/20	你会包子	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：可能を表す助動詞“会”、“能”、“可以”	
		この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用練習もできる	
		事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/28 第二部 10/27	中国比日本大多少	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
		この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
		事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第一部 11/11 第二部 11/10	総合演習	会話小テスト 今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて発表 会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて話せることにする。	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみることに。	60分
9	第一部 11/18 第二部 11/17	中国比日本大多少	筆記小テスト ポイント：比較表現の構文を使って、会話練習する	
		この回の到達目標	比較表現を身に付け、自分のことに基づいて説明することができる	
		事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	第一部 11/25 第二部 11/24	北京烤多少	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：把を用いた文と可能補語	
		この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、応用練習もできる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第一部 12/2 第二部 12/1	中国人喜什么运	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：複文の接続詞と行為、状態の関連する対象を表す表現	
		この回の到達目標	ポイントの説明について理解し、応用練習できるようにする	
		事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第一部 12/9 第二部 12/8	怎做才不失礼	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：使役表現について	
		この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/16 第二部 12/15	真会被款	発表テスト ポイントについて説明 受け身文と可能補語	
		この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	第一部 12/23 第二部 12/22	総合復習	今まで勉強したことを全般復習する	
		この回の到達目標	勉強したことを理解し、回答できるようにする	
		事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習	60分
15	第一部 1/13 第二部 1/12	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 筆記テスト	
		この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く	60分

科目名	中国語演習B	担当者	栗原 千里	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解出来る幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。

【授業方法】
「言語/哲学」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》中国語さらなる一歩	尹景春、竹島毅	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp（栗原千里研究室メールアドレス）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	第七課(着)	状態の持続を表す「着」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、状態の持続を表す「着」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第7課状態の持続を表す「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	状態の持続を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	9/24	第七課(再、部分否定)	副詞「再」、部分否定について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「再」、部分否定について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第7課副詞「再」、部分否定の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「再」、部分否定の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	10/1	第八課(方向補語、譲)	方向補語、使役を表す「譲」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方向補語、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第8課方向補語、使役を表す「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	方向補語、使役を表す「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	10/8	第八課(疑問詞不定用法)	疑問詞の不定用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞の不定用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第8課疑問詞の不定用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞の不定用法の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	10/15	第九課(可能補語)	可能補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、可能補語について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第9課可能補語部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	10/22	第九課(強調表現)	強調表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、強調表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第9課強調表現部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	強調表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	第十課(為了、会)	目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第10課目的を表す「為了」、推測を表す「会」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	目的を表す「為了」、推測を表す「会」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	11/5	第十課(～了～了)	「～了～了」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「～了～了」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第10課「～了～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「～了～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	11/12	第十一課(到、在)	結果補語「～到～」 「～在～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～到～」 「～在～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第11課結果補語「～到～」 「～在～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	結果補語「～到～」 「～在～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	11/19	第十一課(給)	結果補語「～給～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～給～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第11課結果補語「～給～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	結果補語「～給～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	12/3	第十一課(被)	受け身を表す「被」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、受け身を表す「被」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第11課受け身を表す「被」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	受け身を表す「被」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	12/10	第十二課(快～了)	「快～了」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「快～了」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第12課「快～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「快～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	第十二課(快要～了)	「快要～了」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「快要～了」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第12課「快要～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「快要～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	12/24	第十二課(把)	介詞「把」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「把」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第12課介詞「把」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	介詞「把」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	1/14	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を事前に整理して頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲举、于曉飛、劉 渴冰	同学社	2020年3 月		
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方と学習方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	CDを聞き、中国語の発音を耳にする。	60分
2	4/14	発音の復習と基本単語	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
		この回の到達目標	発音を復習し、基本単語を整理する。	
		事前学修	CDを聞く、発音を練習すること。	60分
		事後学修	勉強した発音を、CDを聞きながら覚えること。	60分
3	4/21	声調変化と挨拶練習	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
		この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
		事後学修	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	4/28	自己紹介	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。	
		この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。	
		事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習。	60分
5	5/5	氏名表現と「是」の用法	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。	
		この回の到達目標	氏名表現と「是」の用法を理解する。	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；CDをについて本文の会話を練習する。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	5/12	疑問文の作り方	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
		この回の到達目標	疑問文の作り方を理解し、それに対する回答をできるようにする。	
		事前学修	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	年月日曜日の表現	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日	
		この回の到達目標	年月日曜日の表現ができるようにする。	
		事前学修	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	5/26	時刻の表現	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	時刻を言えるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	6/2	家族親族の紹介	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称	
		この回の到達目標	各自の家族親族を紹介できるようにする。	
		事前学修	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する。	60分
10	6/9	年齢の表現	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。	
		この回の到達目標	年齢を言えるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	6/16	場所方位の表現	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
		この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞の用法を理解する。	
		事前学修	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	6/23	希望願望の表現	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現	
		この回の到達目標	願望や希望の表現を理解し、簡単な文を表現できるようにする。	
		事前学修	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備；自家の回りについて中国語で説明。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	職業の表現	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現	
		この回の到達目標	職業の表現を理解し、簡単な応用をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	7/7	学習の応用	発表テスト 口頭発表 講評	
		この回の到達目標	学習したことを用いて作文できるか確かめる。	
		事前学修	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習。	60分
15	7/14	中国語ヒヤリング	中国の映画を鑑賞	
		この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	中国語演習D	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲举、于曉飛、劉渴冰	同学社	2020年3月		
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	7/14	中国語ヒヤリング	中国の映画を鑑賞	
		この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。	60分
2	9/15	自己紹介と授業説明	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方と注意事項をする。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。 自己紹介の準備	60分
		事後学修	CDを聞き、中国語の発音を復習	60分
3	9/22	全般復習（第1課～第10課	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習	
		この回の到達目標	第1課～第10課までの会話を復習し、会話できることを確認する。	
		事前学修	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。	60分
4	9/29	評価の表現	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現	
		この回の到達目標	評価の表現ができるようにする。	
		事前学修	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
5	10/6	買い物表現	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現	
		この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介を通して発音が正しくできるようにする。買物の表現をできるようにする。	
		事前学修	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
6	10/13	動態助詞	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的	
		この回の到達目標	動作の時間、場所、方式、行為者等の表現（是・・・的）を理解し、使用できるようにする。	
		事前学修	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。	60分
		事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/20	好みについての表現	会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む	
		この回の到達目標	「～をするのが好きである；～することを好む」の表現をできるようにする。	
		事前学修	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
8	10/27	「～したことがある」表現と時間補語	会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語	
		この回の到達目標	「～したことがある」表現と時間補語の用法を理解し、会話できるようにする。	
		事前学修	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
9	11/10	比較表現	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現	
		この回の到達目標	比較表現をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
10	11/17	動作の進行中と持続表現	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現	
		この回の到達目標	動作の進行中と持続表現をできるようにする。	
		事前学修	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	11/24	可能の表現	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現	
		この回の到達目標	可能を表す表現をできるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	12/1	単純方位詞とその関連表現	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
		この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現を理解し、会話文の理解と表現ができるようにする。	
		事前学修	CDを聞き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/8	能力の表現		会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現
		この回の到達目標	能力についての表現ができるようにする。	
		事前学修	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	12/15	口頭発表、会話小テスト、 期末テスト、講評		会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評
		この回の到達目標	口頭発表、会話小テスト、期末テストにおいて、勉強した表現を使うことができる。	
		事前学修	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。	60分
15	12/22	復習と筆記テスト		これまでの復習 筆記テスト
		この回の到達目標	勉強したことを理解し、上手く解答できる	
		事前学修	テスト範囲で復習	60分
		事後学修	全般復習	60分

科目名	中国語演習E	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。

【授業方法】
「芸術/文化」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2			2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2年目の中国語ポイント45	本間史、孟広学	白水社	平成31 年度	教科書	必携
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	授業説明及び芸術関連知識紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、中国語芸術関連知識の紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国芸術関連知識を習得することが出来る。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った中国芸術関連知識を自分なりに整理すること。	30分
2	4/13	教科書第一課(的、地)	名詞や動詞の前に置く「的」「地」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、名詞や動詞の前に置く「的」「地」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課名詞や動詞の前に置く「的」「地」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	名詞や動詞の前に置く「的」「地」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	4/20	教科書第一課(要、連動文)	助動詞「要」、連動文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、助動詞「要」、連動文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課助動詞「要」、連動文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	助動詞「要」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	4/27	教科書第二課(了)	動態助詞、語気助詞の「了」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動態助詞、語気助詞の「了」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課動態助詞、語気助詞の「了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	動態助詞、語気助詞の「了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	5/4	教科書第二課(嗎、吧)	語気助詞「嗎」「吧」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、語気助詞「嗎」「吧」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課語気助詞「嗎」「吧」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	語気助詞「嗎」「吧」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	5/11	教科書第三課(過)	経験、経過を表す「過」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、経験、経過を表す「過」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課経験、経過を表す「過」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	経験、経過を表す「過」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	教科書第三課(離合詞)	離合詞「聊天」「帮忙」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、離合詞「聊天」「帮忙」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課離合詞「聊天」「帮忙」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	離合詞「聊天」「帮忙」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	5/25	教科書第四課(在、着)	動作進行「在」、状態持続「着」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動作進行「在」、状態持続「着」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課動作進行「在」、状態持続「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動作進行「在」、状態持続「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	6/1	教科書第四課(動作時間、動作回数)	動作時間と動作回数の表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動作時間と動作回数の表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課動作時間と動作回数の表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動作時間と動作回数の表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	6/8	教科書第五課(要～了、快～了)	近未来「要～了」「快～了」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、近未来「要～了」「快～了」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課近未来「要～了」「快～了」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	近未来「要～了」「快～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	6/15	教科書第五課(就)	副詞「就」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「就」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課副詞「就」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「就」の用法の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	6/22	教科書第六課(結果補語)	結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	教科書第六課(還)	副詞「還」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「還」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課副詞「還」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「還」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	7/6	教科書第六課(雖然～但是～)	「雖然～但是～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「雖然～但是～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第6課「雖然～但是～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「雖然～但是～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	7/13	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習F	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。

【授業方法】
「芸術/文化」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2			2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2年目の中国語ポイント45	本間史、孟広学	白水社	平成31 年度	教科書	必携
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	教科書第七課(様態補語、比較表現)	様態補語(程度補語)、比較表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、様態補語、比較表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第7課様態補語(程度補語)、比較表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	様態補語(程度補語)、比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	9/21	教科書第七課(形容詞重ね型)	形容詞の重ね型について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、形容詞の重ね型について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第7課形容詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	形容詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	9/28	教科書第八課(方向補語)	方向補語、複合方向補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方向補語、複合方向補語について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課方向補語、複合方向補語の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	方向補語、複合方向補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	10/5	教科書第八課(連～也～)	強調表現「連～也～」について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、強調表現「連～也～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第8課強調表現「連～也～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	強調表現「連～也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	10/12	教科書第九課(把)	「把」構文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、強調表現「連～也～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第9課「把」構文部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「把」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	10/19	教科書第九課(再、又)	副詞「再」「又」の用法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「再」「又」の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第9課副詞「再」「又」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「再」「又」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	教科書第十課(可能補語)	可能補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、可能補語の用法について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第10課可能補語部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	11/9	教科書第十課(是～的、只有～才～)	「是～的」の構文、「只有～才～」の表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「是～的」の構文、「只有～才～」の表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第10課「是～的」の構文、「只有～才～」の表現の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「是～的」の構文、「只有～才～」の表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	11/16	教科書第十一課(～得了、～不了)	「～得了」「～不了」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「～得了」「～不了」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第11課「～得了」「～不了」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「～得了」「～不了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	11/23	教科書第十一課(兼語文)	兼語文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、兼語文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第11課兼語文部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	兼語文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	11/30	教科書第十一課(不是～而是～)	「不是～而是～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不是～而是～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課「不是～而是～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「不是～而是～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	12/7	教科書第十二課(存現文)	存現文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、存現文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第12課存現文部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	教科書第十二課(疑問詞呼応表現)	同じ疑問詞の呼応について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、同じ疑問詞の呼応表現について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第12課同じ疑問詞の呼応の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	同じ疑問詞の呼応の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	12/21	教科書第十二課(不管～都～)	「不管～都～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不管～都～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第12課「不管～都～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「不管～都～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	1/18	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習G	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読とプリントを用いた演習。また、テキストの内容についての意見交換等をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に意見交換等をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事中国語の教科書 ―2020年度版―』	三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 4/9	【ガイダンス】【基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）	
		この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。また、到達目標①②に関連して、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
		事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	第一部 木 4/16	【基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）】	基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞き取り問題を中心に、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
		事前学修	前回の授業で配布されたプリントの問題を解いておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	第一部 木 4/23	【前駐日大使、程永華氏の言葉を読み解く】	講読 第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉 問題演習（結果補語、方向補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前駐日大使の程永華氏が日本の若者に語りかけた言葉を理解する。また、結果補語、方向補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	第一部 木 4/30	【前駐日大使、程永華氏の言葉と日中関係】	講読 第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉 問題演習（可能性の用法など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回に引き続き、前駐日大使の程永華氏が日本の若者に語りかけた言葉を理解する。さらに、2017年以来、中国が日中関係改善に取り組んだ理由について理解する。また、可能性の用法などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
5	第一部 木 5/7	【中国の食文化（北京ダック）】	講読 第2課 二大「国民的料理」は今 問題演習（可能補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の食文化について理解する。特に、全聚徳の北京ダックが売れなくなった理由について理解する。また、可能補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 5/14	【中国の食文化（家庭料理）】	講読 第2課 二大「国民的料理」は今 問題演習（状態補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の食文化について理解する。特に、その家庭料理について理解する。また、状態補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 5/21	【中国の学校におけるAI事情（スマート制服）】	講読 第3課 AIが学校にやってきた 問題演習（並列表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の学校におけるAI事情について理解する。特にチップが入っている「スマート制服」について理解する。また、並列表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	第一部 木 5/28	【中国の学校におけるAI事情（電子宿題）】	講読 第3課 AIが学校にやってきた 問題演習（複文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の学校におけるAI事情について理解する。特に「電子宿題」について理解する。また、複文について理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
9	第一部 木 6/4	【中国の労働環境は今】	講読 第4課 仕事に生きるか、人として生きるか 問題演習（兼語文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の労働環境について理解する。また、兼語文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 6/11	【中国の労働環境の変化とその背景にあるもの】	講読 第4課 仕事に生きるか、人として生きるか 問題演習（主述述語文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の労働環境の変化とその背景にあるものについて理解する。また、主述述語文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
11	第一部 木 6/18	【中国の宅配事情は今】	講読 第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変 問題演習（処置式文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在の中国の宅配事情について理解する。また、処置式文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 6/25	【中国の宅配事情、その課題】	講読 第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変 問題演習（アスペクトなど）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の宅配事情、その現状と課題について理解する。また、アスペクトなどについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 7/2	【現代中国の家庭問題】	講読 第6課 仮面家族がなぜ人気？ 問題演習（状況語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の家庭問題について理解する。また、状況語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 7/9	【現代中国の家庭問題、その背景にあるもの】	講読 第6課 仮面家族がなぜ人気？ 問題演習（使役文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の家庭問題と、その背景にあるものについて理解する。また、使役文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 7/16	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語演習G	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。

【授業方法】
テキストに沿って、文型を中心に語彙や表現を増やししながら、読解と作文の力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から学ぶ中国語	劉力	株式会社 天天	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付け、授業内で答える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス及び導入講義	本講義の授業計画や内容についての説明	
		この回の到達目標	本講義の授業計画や内容について理解してもらう。	
		事前学修	講義に対する要望などを考えておく。	30分
		事後学修	1年目に習った単語や表現を復習する。	30分
2	第一部木 4/16	既習した内容の復習	1年目に習った初級文法や表現を復習する。	
		この回の到達目標	これまでに助動詞、前置詞、動詞、形容詞などを復習して覚える。	
		事前学修	教科書の用意	30分
		事後学修	これらの言葉や表現を用いて作文してみる。	30分
3	第一部木 4/23	第1課	「了」の文型（1）の使い方	
		この回の到達目標	「了」の文型（1）の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第1課の単語と文型を復習して覚える。	30分
4	第一部木 4/30	第2課	「了」の文型（2）の使い方	
		この回の到達目標	「了」の文型（2）の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第2課の単語と文型を復習して覚える。	30分
5	第一部木 5/7	第3課	「了」の文型（3）の使い方	
		この回の到達目標	「了」の文型（3）の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第3課の単語と文型を復習して覚える。	30分
6	第一部木 5/14	総合復習 第1課～第3課	単語小テスト（第1課～第3課） 第1課～第3課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
		この回の到達目標	第1課～第3課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第1課～第3課で習った文型を復習する。	30分
		事後学修	第1課～第3課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	第4課	「是～的」の構文	
		この回の到達目標	「是～的」の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第4課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第4課の単語と文型を復習して覚える。	30分
8	第一部木 5/28	第5課	方向補語の構文	
		この回の到達目標	方向補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第5課の単語と文型を復習して覚える。	30分
9	第一部木 6/4	第6課	数量補語の構文	
		この回の到達目標	数量補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第6課の単語と文型を復習して覚える。	30分
10	第一部木 6/11	総合復習	第4課～第6課	単語小テスト（第4課～第6課） 第4課～第6課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第4課～第6課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第4課～第6課で習った文型を復習する。	30分
		事後学修	第4課～第6課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分
11	第一部木 6/18	第7課	結果補語の構文	
		この回の到達目標	結果補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第7課の単語と文型を復習して覚える。	30分
12	第一部木 6/25	第8課	様態補語の構文	
		この回の到達目標	様態補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第8課の単語と文型を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部木 7/2	第9課		助動詞「会」「能」「可以」の使い方
		この回の到達目標	助動詞「会」「能」「可以」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第9課の単語と文型を復習して覚える。	30分
14	第一部木 7/9	総合復習	第7課～第9課	単語小テスト（第7課～第9課） 第7課～第9課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第7課～第9課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第7課～第9課で習った文型を復習する。	30分
		事後学修	第7課～第9課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分
15	第一部木 7/16	到達度のチェック		期末テスト、振り返り
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	前期に習った言葉や文型をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	中国語演習H	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読とプリントを用いた演習。また、テキストの内容についての意見交換等をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に意見交換等をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施後に、授業内で試験問題に関する解説をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事中国語の教科書 ―2020年度版―』	三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木 9/17	【ガイダンス】【呼び名に見る人間関係と社会の変化（若い女性の呼び方）】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 講読 第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化 問題演習（複文など）、意見交換	
		この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。到達目標①②に関連して、呼び名に見る人間関係と中国社会の変化を若い女性の呼び方を通して理解する。また、複文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	第一部 木 9/24	【呼び名に見る人間関係と社会の変化（夫婦間の呼び方の変化）】	講読 第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化 問題演習（逆接の接続詞など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、呼び名に見る人間関係と中国社会の変化を夫婦間の呼び方の変化を通して理解する。また、逆接の接続詞などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	第一部 木 10/1	【プーアル茶からコーヒー豆へ、新しい特産品づくり】	講読 第8課 茶馬古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ 問題演習（説明口調の表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プーアル茶の故郷で知られる中国雲南省普洱市思茅区の農民が新たな発展の道としてコーヒーへの転作を開始したことを理解する。また、説明口調の表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	第一部 木 10/8	【新しい特産品づくり、その経緯について】	講読 第8課 茶馬古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ 問題演習（動作の持続や進行を表す表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国雲南省普洱市思茅区の農民が新たな発展の道としてコーヒーへの転作を開始した、その経緯について理解する。また、動作の持続や進行を表す表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
5	第一部 木 10/15	【中国のATMが総撤退へ】	講読 第9課 都市こぼれ話 問題演習（進行形など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スマホ決済が急速に普及し、ATMが総撤退しつつある中国の現状について理解する。また、進行形などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	第一部 木 10/22	【ネットでのオープンキッチンへ】	講読 第9課 都市こぼれ話 問題演習（過去の経験を表す表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出前店の衛生状況がオンラインで見られる中国の現状について理解する。また、過去の経験を表す表現について理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	【中国企業による日本の中小企業の買収例について】	講読 第10課 中国マネーが日本の中小企業を救う 問題演習（受身文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国企業による日本の中小企業の買収例について理解する。また、受身文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	第一部 木 11/5	【中国企業による日本の中小企業の買収例、その背景について】	講読 第10課 中国マネーが日本の中小企業を救う 問題演習（存現文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国企業による日本の中小企業の買収例、その背景について理解する。また、存現文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
9	第一部 木 11/12	【北京を悩ませるヤナギの綿毛、その歴史的経緯について】	講読 第11課 北京を悩ませるヤナギの綿毛 問題演習（状態補語など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北京を悩ませるヤナギの綿毛について、その歴史的背景について理解する。また、状態補語などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	第一部 木 11/19	【北京を悩ませるヤナギの綿毛、その現状と課題について】	講読 第11課 北京を悩ませるヤナギの綿毛 問題演習（複文など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北京を悩ませるヤナギの綿毛、その現状と課題について理解する。また、複文などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
11	第一部 木 12/3	【健康志向と体型、中国の事情】	講読 第12課 中国、総フィットネス時代へ 問題演習（仮定表現など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健康志向と体型について、中国人の意識の変化について理解する。また、仮定表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	第一部 木 12/10	【中国のフィットネス事情、過去・現在・未来】	講読 第12課 中国、総フィットネス時代へ 問題演習（将然相など）、意見交換	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国のフィットネス事情について、その現状と課題について理解する。また、将然相などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	【ネットを通した近代化― 内モンゴルの例】	講読 第13課 内モンゴルのネットアイドル 問題演習（二者択一の表現など）、意見交換	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ネットを通した近代化について、内モンゴルの例を理解する。また、二者択一の表現などについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	第一部 木 12/24	【内モンゴルのネットアイ ドルの活動について】	講読 第13課 内モンゴルのネットアイドル 問題演習（2つの動詞をつなぐ“来”の働きなど）、意見交換	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、内モンゴルのネットアイドルの活動の具体例と、少数民族の今後の課題などについて理解する。また、2つの動詞をつなぐ“来”の働きなどについて理解する。	
		事前学修	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	第一部 木 1/14	【授業内テスト及びま とめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
		事前学修	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。	30分
		事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語演習H	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。

【授業方法】
テキストに沿って、文型を中心に語彙や表現を増やししながら、読解と作文の力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から学ぶ中国語	劉力	株式会社 天天	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付け、授業内で答える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	第10課	可能補語の構文	
		この回の到達目標	可能補語の構文を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第10課の単語と文型を復習して覚える。	30分
2	第一部木 9/24	第11課	「把」の使い方	
		この回の到達目標	「把」の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第11課の単語と文型を復習して覚える。	30分
3	第一部木 10/1	総合復習	第10課と第11課	第10課と第11課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第10課と第11課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第10課と第11課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第10課と第11課で習った文型をまとめてみる。	30分
4	第一部木 10/8	第12課	受け身の構文	
		この回の到達目標	受け身の構文を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第12課の単語と文型を復習して覚える。	30分
5	第一部木 10/15	第13課	使役の表現	
		この回の到達目標	使役の表現の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第13課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第13課の単語と文型を復習して覚える。	30分
6	第一部木 10/22	総合復習	第12課と第13課	単語テスト（第10課～第13課） 第12課と第13課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第12課と第13課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第12課と第13課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第12課と第13課で習った文型をまとめてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部木 10/29	第14課		「是」を使う文のいろいろ
		この回の到達目標	「是」の文に関する使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第14課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第14課の単語と文型を復習して覚える。	30分
8	第一部木 11/5	第15課		比較の文型（1）
		この回の到達目標	比較の文型（1）の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第15課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第15課の単語と文型を復習して覚える。	30分
9	第一部木 11/12	総合復習	第14課と第15課	第14課と第15課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
		この回の到達目標	第14課と第15課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
		事前学修	第14課と第15課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第14課と第15課で習った文型をまとめてみる。	30分
10	第一部木 11/19	第16課		比較の文型（2）
		この回の到達目標	比較の文型（2）の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第16課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第16課の単語と文型を復習して覚える。	30分
11	第一部木 12/3	第17課		比較の文型（3）
		この回の到達目標	比較の文型（3）の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第17課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第17課の単語と文型を復習して覚える。	30分
12	第一部木 12/10	第18課		推測の文型
		この回の到達目標	推測の文型の使い方を理解し、活用することができる。	
		事前学修	第18課の単語を予習する。	30分
		事後学修	第18課の単語と文型を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	総合復習 第16課～第18課	単語テスト（第14課～第18課） 第16課～第18課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
		この回の到達目標	第16課～第18課で習った文型や表現を用いて、文を作ることができる。	
		事前学修	第16課～第18課で習った文型や表現を復習する。	30分
		事後学修	第16課と第18課で習った文型をまとめてみる。	30分
14	第一部木 12/24	期末復習	後期に習った言葉や文型の復習をする。	
		この回の到達目標	後期に習った言葉や文型を覚える。	
		事前学修	既習した文型を用いて文を作る練習をする。	30分
		事後学修	ここまでに習った言葉と文型をまとめてみる。	30分
15	第一部木 1/14	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	後期に習った言葉や文型をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅠA	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
なし

【授業方法】
本文を朗読し、翻訳する。発音や会話を練習する。また書き取り，文を作るという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなど、採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子劉 幸枝	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部4月7日	シラバスの概要 中国語の発音		1. ガイダンス 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音、声調
		この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。 中国語の発音：単母音、声調が発音できる。	
		事前学修	シラバスの確認	90分
		事後学修	単母音、声調の復習	90分
2	第1部4月14日	中国語の発音		1、発音：複母音 2、日常会話
		この回の到達目標	複母音の発音ができる。 日常会話が練習できる。	
		事前学修	複母音の予習	90分
		事後学修	複母音の復習	90分
3	第1部4月21日	中国語の発音		1、発音：子音 2、声調の変化 3、挨拶言葉
		この回の到達目標	発音：子音の発音ができる。	
		事前学修	子音の予習	90分
		事後学修	発音の総復習	90分
4	第1部4月28日	第1課		第1課 「校門で」 本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是”を使った文 3. “”を使った疑問文
		この回の到達目標	第1課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
5	第1部5月5日	第1課		第1課 「校門で」 本文、トレーニング
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第1課の総復習	90分
6	第1部5月12日	第2課		第2課 「廊下で」 本文訳 ポイント 1. 動詞述語文 2. 疑問詞疑問文“什么”，“誰” 3. 省略疑問文“呢”
		この回の到達目標	第2課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第1部5月 19日	第2課		第2課 「廊下で」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習	90分
8	第1部5月 26日	第3課		第3課 「キャンパスで」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. “～的” 4. 語気助詞“吧”
		この回の 到達目標	第3課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
9	第1部6月 2日	第3課		第3課 「キャンパスで」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習と単語の暗記	90分
10	第1部6月 9日	第4課		第4課 「携帯を見ながら」本文訳 ポイント 1. 所有を表わす“有” 2. 反復疑問文 3. 数詞
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
11	第1部6月 16日	第4課 中間のまとめ		第4課 「携帯を見ながら」 本文、トレーニング 第1課～4課のまとめ（授業内筆記試験）採点して次週説明する。
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習と単語の暗記	90分
12	第1部6月 23日	第5課		第5課 「学生食堂で」本文訳 ポイント 1. 場所を表わす代名詞 2. 存在を表わす“有” 3. 副詞“也”と“都” 4. 二 重目的語文
		この回の 到達目標	第5課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部6月 30日	第5課		第5課 「学生食堂で」 本文、トレーニング
		この回の 到達目標	トレーニングで文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題の予習	90分
		事後学修	本文の復習と単語の暗記	90分
14	第1部7月 7日	前期のまとめ		第1課～5課のまとめ（前期末授業内筆記試験）
		この回の 到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
		事前学修	第1課～5課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部7月 14日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び授業のまとめ 試験問題を採点して解説する。 会話テストか書き取りを行う。
		この回の 到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	前期学習内容を確認し問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	リーディング・ライティング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
なし

【授業方法】
本文を朗読、翻訳する。発音や会話の練習をする。書き取り、文を作るという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内に二人一組で会話練習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストを採点して、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子鄭 幸枝	白水社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部9月15日	ガイダンスの概要 第6課の勉強	ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明」 第6課「王先生の研究室で」本文訳 ポイント 1. 動詞“在” 2. 動詞の重ね型 3. 時を表わす語の位置	
		この回の到達目標	第6課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
2	第1部9月22日	第6課	第6課 「王先生の研究室で」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第6課の総復習	90分
3	第1部9月29日	第7課	第7課 「コンビニで」本文訳 ポイント 1. 量詞 2. 実現・完了を表わす“了” 3. 助動詞“想”	
		この回の到達目標	第7課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
4	第1部10月6日	第7課	第7課 「コンビニで」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第7課の総復習	90分
5	第1部10月13日	第8課	第8課 「バス停で」本文訳 ポイント 1. 連動文 2. 前置詞“在” 3. 時刻の言い方 4. “是”の省略	
		この回の到達目標	第8課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
6	第1部10月20日	第8課	第8課 「バス停で」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第8課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部10月27日	第9課	第9課 「放課後に」 本文訳 ポイント 1. 助動詞“会”，“能”，“可以” 2. 前置詞“跟”と“給” 3. 主述述語文	
		この回の到達目標	第9課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
8	第1部11月10日	第9課	第9課 「放課後に」 本文、トレーニング 第6課～9課のまとめ（中間筆記試験）採点して次週解説する。	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第9課の総復習	90分
9	第1部11月17日	第10課	第10課 「卓球の中継を見ながら」 本文訳 ポイント 1. 様態補語 2. 経験を表わす“過” 3. 比較を表わす“比” 4. 動詞“喜歡”	
		この回の到達目標	第10課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
10	第1部11月24日	第10課	第10課 「卓球の中継を見ながら」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第10課の復習	90分
11	第1部12月1日	第11課	第11課 「ディズニランドで待ち合わせ」 本文訳 ポイント 1. 進行を表わす“在” 2. 方向補語 3. 選択疑問詞	
		この回の到達目標	第11課の文法や発音ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
12	第1部12月8日	第11課	第11課 「ディズニランドで待ち合わせ」 本文、トレーニング	
		この回の到達目標	トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	練習問題を事前にやっておく。	90分
		事後学修	第11課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部12月15日	第12課		第12課 「カフェテラスで」 本文訳 ポイント 1.“是～的”の文 2. 結果補語 3. 時間の長さ・動作の回数を表わす語の位置
		この回の到達目標	第12課の文法や発音ができる。 トレーニングで、文を書くことと会話ができる。	
		事前学修	文法とトレーニングの予習	90分
		事後学修	第12課の総復習	90分
14	第1部12月22日	後期のまとめ		第6課～12課のまとめ（後期授業内筆記試験） 本文、トレーニング
		この回の到達目標	これまでの学習で問題点が確認できる。	
		事前学修	第6課～12課の復習を史、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し理解する。	90分
15	第1部1月12日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び後期授業のまとめ 試験問題を採点して解説する。 会話テストか書き取りを行う。
		この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
		事前学修	後期学習内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	中国語資格試験対策ⅠA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
はじめて中国語を学修する者を対象とした中国語検定準4級対策と4級へのステップアップに向けた語学授業。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
“0(ゼロ)”から中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語と検定試験に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語の初級知識を学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現が理解できる								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介ができる								1	1		
③	簡単に短い日常的な文章を読むことができる								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は後期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・中国語の四声・目的語の位置	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。プリントにて中国語入門知識と四声などを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、動詞述語文における目的語の位置を理解して四声を正しく発音できる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、ネットなどにて中国語という言葉について簡単に調べておく。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などをもちいて四声・目的語の位置、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする。	30分
2	4/14	有気/無気音・正否疑問文	プリントを使用し、有気/無気音の発音と正否疑問文と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前01)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、有気/無気音・正否疑問文といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前01)課題などをもちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などをもちいて、今回学んだ有気/無気音・正否疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
3	4/21	-n/-ng・轻声・“請”の用法	プリントを使用し、-n/-ng・轻声の発音・“請”と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前02)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・轻声・正否疑問文について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前02)課題などをもちいて単母音・有気/無気音の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などをもちいて、今回学んだ-n/-ng・轻声・“請”、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
4	4/28	基本母音の発音・反復疑問文	プリントを使用し、基本母音の発音・反復疑問文と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前03)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と基本母音の発音・反復疑問文について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前03)課題などをもちいて-n/-ng・轻声の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などをもちいて、今回学んだ基本母音の発音・反復疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
5	5/5	“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置	プリントを使用し、“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前04)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前04)課題などをもちいて基本母音の発音・反復疑問文を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などをもちいて、今回学んだ“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
6	5/12	ソリ舌音と“是”の用法	プリントを使用し、ソリ舌音の発音と“是”の用法と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前05)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現とソリ舌音と“是”の用法などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前05)課題などをもちいて“-ian”の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などをもちいて、今回学んだソリ舌音と“是”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	選択疑問文・舌歯音	プリントを使用し、選択疑問文・舌歯音と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前06)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・舌歯音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前06)課題などを持ちいて、ソリ舌音の発音と“是”の用法を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などを持ちいて、今回学んだ選択疑問文・舌歯音、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
8	5/26	“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5	プリントを使用し、“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前07)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前07)課題などを持ちいて、選択疑問文・舌歯音を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などを持ちいて、今回学んだ“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
9	6/2	“y-” “w-” を用いた複母音の綴りと発音	プリントを使用し、“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前08)課題などを持ちいて、“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型、1～5の数を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などを持ちいて、今回学んだ“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
10	6/9	“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10	プリントを使用し、“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数の発音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前09)課題などを持ちいて、“y-” “w-” を冠す複母音・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などを持ちいて、今回学んだ“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
11	6/16	“兒化”	プリントを使用し、“兒化”とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“兒化”の用法について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前10)課題などを持ちいて、“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数について身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などを持ちいて、今回学んだ“兒化”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
12	6/23	年月日・曜日の言い方	プリントを使用し、年月日・曜日の言い方と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と年月日・曜日の言い方について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前11)課題などを持ちいて、“兒化”の用法を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期12）などを持ちいて、今回学んだ年月日・曜日の言い方の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	前期総復習と試験対策	前期総復習として、プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、発音・語彙・文法について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト(前12)課題などを持ち、年月日・曜日の言い方を身につけ、これまでの前期の小テストを復習し、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ。	60分
		事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文をプリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習する。	60分
14	7/7	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音、語彙、文法などを応用することができる。	
		事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する。	20分
15	7/14	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策 I B	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語の発音や基本事項を身につけた上で検定試験に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語の初級知識を学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現が理解できる								1	1		
②	身近な場面における会話ができる								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読んで理解できる								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書きとることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は後期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版					
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532 講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。前期学修内容の確認と復習を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、後期の内容を確認するとともに復習しておく。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期01）などを持ちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする。	30分
2	9/22	順と量の応用・連動文A	プリントを使用し、順と量の応用・連動文、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト（後01）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、順・量の応用、連動文と、いくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト（後01）課題などを持ちいて順と量の概念について理解を深め授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などを持ちいて、今回学んだ順と量の応用、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
3	9/29	時刻と時間の言い方・動作量	プリントを使用し、時刻と時間の言い方・動作量の位置、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト（後02）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と時刻・時間の言い方、動作量の位置について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト（後02）課題などを持ちいて、順と量の概念・連動文を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などを持ちいて、今回学んだ時刻と時間の言い方、動作量の位置、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
4	10/6	時刻と時間の応用・連動文B	プリントを使用し、時刻と時間の応用と連動文B、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト（後03）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と時刻と時間の応用、連動文Bについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト（後03）課題などを持ちいて、時刻と時間の言い方、動作量の位置について身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などを持ちいて、今回学んだ時刻と時間の応用、連動文B、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
5	10/13	100以上の数え方・“想”	プリントを使用し、100以上の数え方・“想”の用法と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト（後04）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、100以上の数え方・“想”の用法などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト（後04）課題などを持ちいて時刻と時間の応用、連動文Bについて身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などを持ちいて、今回学んだ100以上の数え方、“想”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
6	10/20	100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞	プリントを使用し、100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト（後05）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
		事前学修	小テスト（後05）課題などを持ちいて100以上の数え方、“想”の用法を身につけ授業にのぞむ。	30分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などを持ちいて、今回学んだ100以上の数の応用、“在”の用法、方位詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	10/27	金額の言い方・介詞・助動詞		プリントを使用し、金額の言い方・介詞・助動詞と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額の言い方、介詞、助動詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
		事前学修	小テスト(後06)課題などをもちい、100以上の数の応用・“在”・方位詞について身につけ、過去問WEBでまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分	
		事後学修	配付プリントとQuizlet(後期07)などで、金額の言い方の復習と音読の反復練習をする。過去問WEBにてまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分	
8	11/10	量詞の種類と用法・動態助詞		プリントを使用し、量詞の種類と用法・動態助詞、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と量詞の種類と用法・動態助詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
		事前学修	小テスト(後07)課題などをもちいて、金額の言い方・介詞・助動詞を身につけ、過去問WEBにてまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分	
		事後学修	学習した量詞の種類と用法・動態助詞、挨拶語慣用表現の復習及び短文音読の反復練習をする。過去問WEBでまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み採点までしておく。	90分	
9	11/17	検定準4級受験を振り返る		受験した検定試験の準4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。		
		事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。	30分	
		事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分	
10	11/24	4級筆記問題		4級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、4級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
		事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	30分	
		事後学修	学修した4級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分	
11	12/1	4級聴解問題		4級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、4級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
		事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	60分	
		事後学修	学修した4級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分	
12	12/8	後期の復習		後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。		
		事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分	
		事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどをもちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	映像教材	前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。	
		事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちい復習する。	60分
14	12/22	口頭試験対策と練習	後期総復習として、プリントなどをもちい口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。	
		事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。	60分
		事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。	120分
15	1/12	口頭試験とまとめ	後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅡA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定4級対策を通じて、初級～中級レベルの中国語運用能力を身につける語学授業

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定4級受験可能レベル～4級合格レベルの中国語運用能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語検定「準4級合格レベル」であること。中国語検定4級の難易度を理解し、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								2	2		
②	基本的な中国語を理解し、ほとんどのほとんどの身近な場面で対応できる								2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								2	2		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は前期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・準4級レベルの確認・復習a（動/形容詞述語文・疑問/否定文等）	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。準4級レベルの基礎の確認と復習を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、準4級レベル（復習a）の言葉や文章について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、過年度の配付資料を確認するとともに授業内容やレベル、小テストの分量などを理解しておく。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習a）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	4/14	復習b（疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など）	復習aの文法事項の定着度を確認し、疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など、準4級レベルの文法事項（復習b）について復習します。 ●小テスト（前01）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習b）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前01）課題などをもちい、準4級レベル（復習a）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習b）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	4/21	復習c（連動文AB・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など）	復習bの文法事項の定着度を確認し、連動文AB・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など、準4級レベルの文法事項（復習c）について復習します。 ●小テスト（前02）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習c）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前02）課題などをもちい、準4級レベル（復習b）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習c）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	4/28	介詞の用法（初級編）	プリントを使用して、介詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前03）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、介詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前03）課題などをもちいて、復習cの短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などをもちいて、今回学修した介詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	5/5	副詞の用法（初級編）	プリントを使用して、副詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前04）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前04）課題などをもちいて、介詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などをもちいて、今回学修した副詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	5/12	疑問詞の用法（初級編）	プリントを使用して、疑問詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前05）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、疑問詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト（前05）課題などをもちいて、副詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などをもちいて、今回学修した疑問詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	能願動詞の用法（初級編）	プリントを使用して、能願動詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前06) ※検定試験前々週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前06)課題などを持ちい、疑問詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などで、今回学修した能願動詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
8	5/26	動態助詞の用法（初級編）	プリントを使用して、動態助詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前07) ※検定試験前週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前07)課題などを持ちいて、能願動詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などで、今回学修した動態助詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
9	6/2	離合詞・数量補語の用法	プリントを使用して、離合詞・数量補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、離合詞・数量補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前08)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などを持ちいて、今回学修した離合詞・数量補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
10	6/9	結果補語の用法	プリントを使用して、結果補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、結果補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前09)課題などを持ちいて、離合詞・数量補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などを持ちいて、今回学修した結果補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
11	6/16	動態助詞の用法（中級編）	プリントを使用して、動態助詞の用法（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（中級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前10)課題などを持ちいて、結果補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などを持ちいて、今回学修した動態助詞の用法（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
12	6/23	前期の復習	前期の小テストで覚えた単語・短文を復習し、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容を復習し、既習短文や長文について日中相互翻訳ができる。	
		事前学修	小テスト(前11)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	前期試験対策	前期総復習の一環として、プリントなどをもちい、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した語彙・文法について理解し、学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(前12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
		事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文を、プリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などをもちい復習する。	120分
14	7/7	筆記試験とまとめ	前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳、および応用ができる。	
		事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	180分
		事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する。	20分
15	7/14	口頭試験とまとめ	前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。	
		事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	180分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅡB	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
前期中国語資格試験対策ⅡAとセットとなる後期科目。すでに中国語の基礎を習得した者を対象とする初級卒業レベルの語学演習。中国語検定4級取得を希望する学生向けの指導を行い、受講者には必ず年内に検定試験（原則として4級以上）を受検してもらう。毎回の小テストはハードである。前年度のネットワークドライブを参照し、内容をあらかじめ確認、よく考えてから受講を決めてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
検定合格を一目標に定めつつ、学習を通して、話す・聴く・読む・書くといった総合的中国語運用能力の養成を目的とする。中国語検定の4級は、聴解と講読筆記に対して共に一定レベル以上の能力が求められる。中国語の履修が週1～2コマ程度の本学部生にとって、中検4級合格は決して容易ではない。語彙を増やし、聴解・読解の訓練を繰り返し行つて、11月末までに検定4級合格レベルに到達できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。

【履修条件】
中国語検定「準4級合格レベル」であること。中国語検定4級の難易度を理解し、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
中国語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら、検定試験対策を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる										2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる										2	2		
③	短い中国語の文章が書ける										2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる										2	2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは採点したものを翌授業時に返却、期末試験の解説・講評は後期末にポータルより配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
毎週火曜 5 限、532講堂（予定）。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施します。（s-fukugi.2020@ceres.dti.ne.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス・前期学修内容の確認・様態補語・程度補語	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。様態補語・程度補語の用法を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、様態補語・程度補語について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を確認するとともに授業レベルを理解しておく。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet(後期01) などをもちいて、今回学修した様態補語・程度補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	9/22	存現文・方向補語（初級編）	プリントを使用して、存現文・方向補語（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後01)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存現文・方向補語（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後01)課題などをもちいて、様態補語・程度補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などをもちいて、今回学修した存現文・方向補語（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	9/29	方向補語（中級編）・比較表現	プリントを使用して、方向補語（中級編）・比較表現と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後02)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、方向補語（中級編）・比較表現について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後02)課題などをもちいて、存現文・方向補語（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などをもちいて、今回学修した方向補語（中級編）・比較表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	10/6	処置式・“是～的”の構文	プリントを使用して、処置式・“是～的”の構文と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後03)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、処置式・“是～的”の構文について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後03)課題などをもちいて、方向補語（中級編）・比較表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などをもちいて、今回学修した処置式・“是～的”の構文について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	10/13	可能補語	プリントを使用して、可能補語と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後04)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、可能補語について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後04)課題などをもちいて、処置式・“是～的”の構文の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などをもちいて、今回学修した可能補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	10/20	使役表現・受身表現	プリントを使用して、使役表現・受身表現と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後05)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、使役表現・受身表現について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後05)課題などをもちいて、可能補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などをもちいて、今回学修した使役表現・受身表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	副詞（中級編）・疑問詞（中級編1）	プリントを使用して、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後06)課題などをもちい、使役表現・受身表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期07）などで、今回学修した副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
8	11/10	能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）	プリントを使用して、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
		事前学修	小テスト(後07)課題などをもちいて、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
		事後学修	配付プリントとQuizlet（後期08）などで、今回学修した能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
9	11/17	検定4級受験を振り返る	受験した検定試験の4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。	60分
		事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	60分
10	11/24	3級筆記問題	3級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、3級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	30分
		事後学修	学修した3級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
11	12/1	3級聴解問題	3級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、3級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。	
		事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	60分
		事後学修	学修した3級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分
12	12/8	後期の復習	後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。	
		事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどをもちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	映像教材	前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。	
		事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の3級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。	120分
		事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などをもちい復習する。	60分
14	12/22	口頭試験対策と練習	後期総復習として、プリントなどをもちい口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。	
		事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。	60分
		事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。	120分
15	1/12	口頭試験とまとめ	後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。	
		事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	120分
		事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅢA	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級受験を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニング。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業説明及び文法説明	授業展開方法に関して詳しく説明し、中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級過去問に対する初歩的練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為の授業展開方法を理解し、更に中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級試験問題の出題状況に対して初歩的に理解することが出来る。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	学習した文法内容をしっかりと復習すること。	30分
2	4/17	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
3	4/24	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
4	5/1	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
5	5/8	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
6	5/15	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
8	5/29	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
9	6/5	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
10	6/12	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
11	6/19	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
12	6/26	第八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	7/10	八十七回中国語検定試験過去問	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
		事後学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	7/13	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習、授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅢB	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級合格を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。辞書(電子辞書課)必携。中国語検定試験(日本中国語検定協会)受験必須。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニング。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。										3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。										3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。										3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。										3	3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	第八十八回中国語検定試験過去問	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
2	9/25	第八十八回中国語検定試験過去問	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
3	10/2	第八十九回中国語検定試験過去問	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
4	10/9	第八十九回中国語検定試験過去問	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
5	10/16	第九十回中国語検定試験過去問	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
6	10/23	第九十回中国語検定試験過去問	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	第九十一回中国語検定試験過去問	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
8	11/6	第九十一回中国語検定試験過去問	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
9	11/13	第九十二回中国語検定試験過去問	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
10	11/20	第九十二回中国語検定試験過去問	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
11	11/27	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問に対する解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為、聞取能力、作文能力、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問を再度見直し、その解説に備える。	30分
		事後学修	第百二回中国語検定試験(令和二年十一月二十二日実施)過去問で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
12	12/4	第九十三回中国語検定試験過去問	第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
		事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	12/18	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
		この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
		事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
		事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	12/25	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できる中国語コミュニケーション力の養成。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修参加を目指すため、必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活および語学研修に対応した聞取・会話ができる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章が書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業説明及び中国諸事情紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、又中国諸事情に関して色々紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国諸事情を初歩的に理解することが出来る。	
		事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った中国諸事情の知識を自分なりに整理しておくこと。	30分
2	4/17	教科書第一課(対、的)	前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課前置詞「対」、名詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	前置詞「対」、名詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	4/24	教科書第一課(有的～有的～等)	「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第一課「有的～有的～」、「既～又～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「有的～有的～」、「既～又～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	5/1	教科書第二課(毎～都～等)	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	5/8	教科書第二課(比較用法等)	比較用法、「連～也～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、比較用法、「連～也～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
6	5/15	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞呼応表現、「除了～以外～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	教科書第三課(即使～也～等)	「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第三課「即使～也～」、「一点兒也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「即使～也～」、「一点兒也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	5/29	教科書第四課(着)	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	6/5	教科書第四課(複合方向補語等)	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第四課複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	6/12	第五課(結果補語、存現文)	結果補語、存現文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、結果補語、存現文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課結果補語、存現文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	結果補語、存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	6/19	教科書第五課(因為～所以～等)	「因為～所以～」、「什麼的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第五課「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「因為～所以～」、「一辺兒～一辺兒～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	6/26	教科書第六課(可能補語等)	可能補語、「什麼的」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、可能補語、「什麼的」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課可能補語、「什麼的」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	可能補語、「什麼的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	第六課(只要～就～)	「只要～就～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只要～就～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課「只要～就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「只要～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	7/10	第六課(一～就～)	「一～就～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「一～就～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第六課「一～就～」部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「一～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	7/17	前期復習及び授業内試験	前期復習及び授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できる中国語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に参加するため、必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する者。語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活及語学研修に対応した聞取・会話が十分できる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章を書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題等の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-12:50 研究室等(九号館一階9104研究室) kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp (栗原千里研究室メールアドレス)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	教科書第七課(是～的、様態補語)	「是～的」、様態補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「是～的」、様態補語について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第七課「是～的」、様態補語の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「是～的」、様態補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	9/25	教科書第七課(不知道～才好等)	「不知道～才好」、「好像～一樣」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不知道～才好」、「好像～一樣」について	
		事前学修	事前に第七課「不知道～才好」、「好像～一樣」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「不知道～才好」、「好像～一樣」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	10/2	教科書第八課(疑問詞不定用法、可能補語)	疑問詞不定用法、可能補語について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞不定用法、可能補語について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課疑問詞不定用法、可能補語の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	疑問詞不定用法、可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	10/9	教科書第八課(無論～都～等)	「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第八課「無論～都～」、「要是～的話，就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「無論～都～」、「要是～的話，就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	10/16	教科書第九課(給等)	動詞の後の「給」、受身文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	動詞の後の「給」、受身文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	10/23	教科書第九課(不是～就是～等)	「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	「不是～就是～」「再也沒～過」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	教科書第十課(動量補語、離合詞)	動量補語、離合詞について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動量補語、離合詞について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十課動量補語、離合詞の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	動量補語、離合詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	11/6	教科書第十課(雖然～但是～等)	「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
		事後学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
9	11/13	教科書第十一課(有)	後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課後置修飾語を伴う「有」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	後置修飾語を伴う「有」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	11/20	教科書第十一課(讓)	使役の「讓」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「讓」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課使役の「讓」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	使役の「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	11/27	教科書第十一課(就、都)	教科書第十一課(就、都)	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、副詞「就」、副詞「都」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十一課副詞「就」、副詞「都」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	副詞「就」、副詞「都」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	12/4	教科書第十二課(把)	「把」の文について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「把」の文について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課「把」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「把」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	教科書第十二課(対～來說)	「対～來說」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「対～來說」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課「対～來說」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「対～來說」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	12/18	第十二課(只有～才～)	「只有～才～」について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只有～才～」について学ぶことが出来る。	
		事前学修	事前に第十二課「只有～才～」の部分に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	「只有～才～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	12/25	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
		事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
		事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	于 曉飛	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦 、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9 第二部 4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	音声聞き、中国語の発音を耳にする	60分
2	第一部 4/16 第二部 4/15	発音	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
		この回の到達目標	中国語の発音を覚える	
		事前学修	発音を練習すること。（30分）	60分
		事後学修	勉強した発音を、自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	第一部 4/23 第二部 4/22	発音と挨拶表現	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
		この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介できる	
		事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
		事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第一部 4/30 第二部 4/29	北京的夏天？	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について説明	
		この回の到達目標	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について理解し、話せることができる	
		事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	第一部 5/7 第二部 5/6	実験演習	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：形容詞述語文についての表現と是を用いた文。	
		この回の到達目標	形容詞述語文の応用会話でき、“是”の構文について理解できる	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
		事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第一部 5/14 第二部 5/13	你是香港人	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
		この回の到達目標	疑問文の作り方：四つの疑問文を作ることができる	
		事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/21 第二部 5/20	実験演習	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
		この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
		事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第一部 5/28 第二部 5/27	你吃早了	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：動詞述語文表現と助数詞；会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	動詞述語文表現と助数詞について理解し、応用することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	第一部 6/4 第二部 6/3	実験演習	筆記小テスト ポイントの構文を使って、応用会話する	
		この回の到達目標	勉強したことを使って、自分のことに基づいて説明することができる	
		事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	第一部 6/11 第二部 6/10	你身体好	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：主述述語文と状態補語。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、また応用することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第一部 6/18 第二部 6/17	実験演習	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：主述述語文と状態補語の表現について練習する	
		この回の到達目標	主述述語文と状態補語の表現について理解できる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第一部 6/25 第二部 6/24	你家有几口人	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：所有を表す動詞と因果関係を表す表現	
		この回の到達目標	複文の接続詞の言い方について理解し、家族についての説明することができる。	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 7/2 第二部 7/1	実験演習	会話小テスト 会話文を解釈 ポイントについての表現	
		この回の到達目標	家族について中国語で上手に説明することができる	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）	60分
14	第一部 7/9 第二部 7/8	有人滑雪	発表テスト ポイントについて説明 存現文の表現	
		この回の到達目標	様々な現象について存現、焼失の表現を理解し、自然現象について説明することができる	
		事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習（30分）	60分
15	第一部 7/16 第二部 7/15	復習と期末筆記テスト	全般復習とテスト範囲を指示する	
		この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
なし

【授業方法】
本文を朗読、翻訳する。会話の訓練を行い、書き取りとリスニングを行う。 フィードバックは授業内において行い、テストは採点して、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子 松田かの子	白水社	2011年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部4月7日	中国語について		1、ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明」 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音と声調
		この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：単母音と声調	
		事前学修	シラバスをを確認し、授業計画を立てる。	90分
		事後学修	単母音と声調の復習	90分
2	第1部4月14日	中国語の発音		発音：子音と複母音
		この回の到達目標	子音と複母音の発音ができる。	
		事前学修	子音と複母音の予習	90分
		事後学修	子音と複母音の復習	90分
3	第1部4月21日	中国語の発音		発音：鼻母音と発音のトレーニング
		この回の到達目標	鼻母音と発音ができる。	
		事前学修	鼻母音の予習	90分
		事後学修	発音の総復習	90分
4	第1部4月28日	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是” 3. 否定を表す“不” 4. 疑問を表す“嗎”
		この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
5	第1部5月5日	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」 トレーニング、リスニング
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第1課の総復習	90分
6	第1部5月12日	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. 疑問詞“怎么样” 4. “的”
		この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第1部5月 19日	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」 トレーニング、リスニング
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第2課の総復習	90分
8	第1部5月 26日	第3課		第3課 「明日はどこへ行きますか。」本文訳 ポイント 1. 場所代名詞 2. 動詞述語文 3. 疑問詞疑問文 4. 省略疑問文“呢” 5. 時を 表すことばの位置
		この回の 到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
9	第1部6月 2日	第3課		第3課 「明日はどこへ行きますか。」 トレーニング、リスニング
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第3課の総復習	90分
10	第1部6月 9日	第4課		第4課 「ケーキを食べたいですか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“想” 2. 選択疑問文 3. 副詞“也” 4. 動詞の重ね型 5. 語気助 詞“吧”
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
11	第1部6月 16日	第4課		第4課 ケーキを食べたいですか。 トレーニング、リスニング
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第4課の総復習	90分
12	第1部6月 23日	第5課		第5課 「これはいくらですか。」本文訳 ポイント 1. 数詞 2. 量詞の使い方 3. 反復疑問文
		この回の 到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部6月 30日	第5課		第5課 「これはいくらですか。」 トレーニング、リスニング
		この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第5課の総復習	90分
14	第1部7月 7日	授業のまとめ		第1課～5課のまとめ（後期授業内筆記試験）
		この回の 到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
		事前学修	第1課～5課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部7月 14日	フィードバック・質疑応答		フィードバック・質疑応答及び授業のまとめ 試験問題についての解説 会話テストか書き取りを行う。
		この回の 到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。試験問題を採点して解説する。	
		事前学修	後期学習内容を確認し問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者30名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】							
書名			著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎 重版 2020年3月2刷発行			汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度	教科書	必携

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
		この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
		事前学修	テキスト6－7ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火4/14	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火4/21	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火4/28	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火5/5	発音編	発音と練習	
		この回の到達目標	中国語発音を習得する	
		事前学修	発音編の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火5/12	会話編	第1課：「初次面」 会話と練習	
		この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
		事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	火 5/19	会話編		第2課：「迎新生」 会話と練習
		この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
		事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 5/26	会話編		第3課：「我的一家」 会話と練習
		この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
		事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 6/2	会話編		第4課：「生日快」 会話と練習
		この回の到達目標	第4課：「生日快」	
		事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 6/9	会話編		第5課：「漫学」 会話と練習
		この回の到達目標	第5課：「漫学」を習得する	
		事前学修	第5課：「漫学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 6/16	会話編		第6課：「参校园」 会話と練習
		この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
		事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火 6/23	会話編		第7課：「趣好」 会話と練習
		この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
		事前学修	第7課：「趣好」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	火 6/30	会話編		第8課：「学」 会話と練習
		この回の 到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
14	火 7/7	復習		期末総合復習
		この回の 到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
		事前学修	総合復習の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
15	火 7/14	期末総括と授業内試験		期末総括試験及びまとめ、振り返り
		この回の 到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う	
		事前学修	試験の準備	120分
		事後学修	前期授業内容の復習	120分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる											1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる												1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる												1		
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2017 2・1 改訂版		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス 中国語とは	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
		この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解する	
		事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	10分
		事後学修	授業の内容を復習する	20分
2	第一部 土4/11	中国語の発音	発音について学ぶ 音節と声調 および 単母音韻母	
		この回の到達目標	とくに、声調を理解し覚えること	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単母音を発音練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
3	第一部 土4/18	中国語の発音	複合母音 韻尾 nとng	
		この回の到達目標	韻母を読む、書ける	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	母音の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
4	第一部 土4/25	中国語の発音	声母 有気音と無気音 そり舌音	
		この回の到達目標	声母を覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	声母の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	20分
5	第一部 土5/2	ピンイン表記法	軽声、儿化韻 変調	
		この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ また正しく発音できるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	発音まとめの復習	20分
6	第一部 土5/9	発音到達度テスト まとめ	発音リスニングテスト	
		この回の到達目標	発音上達するように	
		事前学修	声母、韻母の復習	10分
		事後学修	テスト問題の見直し	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	第一課 自己紹介	人称代詞、 姓名の尋ね方、こたえ方 よく使われるあいさつ言葉	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を理解する	
		事前学修	会話文を読む	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
8	第一部 土5/23	第二課 お誕生日	月日の言い方、聞き方 年齢の言い方、聞き方 数の数え方	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語と本文を覚えましょう	20分
9	第一部 土5/30	第三課 電話をかける	電話番号の聞き方、言い方 「有」と「没有」	
		この回の 到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
10	第一部 土6/6	第四課 お住まい	形容詞述語文のたずね方、こたえ方 動詞の「在」と介詞の「在」	
		この回の 到達目標	形容詞述語文の文型を学ぶ	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
11	第一部 土6/13	第五課 買い物	他動詞 「想」の使い方 「的」の名詞化用法	
		この回の 到達目標	買い物の会話を話せるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分
12	第一部 土6/20	第六課 食事をする	省略疑問文と疑問代詞 助動詞の「会」	
		この回の 到達目標	食事について会話をできるように	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	第一課から第六課 単語テスト まとめ	学んだ単語を漢字を書ける、読める	
		この回の 到達目標	単語を暗記	
		事前学修	単語の復習	30分
		事後学修	テストの見直し	10分
14	第一部 土7/4	本文と文法の復習	リスニングを作文の練習	
		この回の 到達目標	六課までの	
		事前学修	毎回の練習問題を復習	20分
		事後学修	本文を暗唱	10分
15	第一部 土7/11	前期テスト まとめ	試験	
		この回の 到達目標	試験	
		事前学修	教科書の内容を復習	30分
		事後学修	なし	0分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中説明

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子等著	白水社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	中国と中国語	年間講義計画・成績評価の方法 中国語の特色と勉強について	
		この回の到達目標	中国と中国語についての知識	
		事前学修	教科書の目次を読む (30分)	30分
		事後学修	学習の計画を立てる (30分)	30分
2	4月14日	韻母	発音 単母音	
		この回の到達目標	七つの単母音を暗記	
		事前学修	予習 教科書を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 単母音の練習 (30分)	30分
3	4月21日	双韻母	発音 複合母音	
		この回の到達目標	3 2 の母音を読む	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 母音の練習 (30分)	30分
4	4月28日	四声, 声母	発音 声調と子音	
		この回の到達目標	2 1 の子音と四声を読む	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 声調と子音の練習 (30分)	30分
5	5月12日	在校口	第1課 校門で	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 是の使い方 (30分)	30分
6	5月19日	疑問句和疑 (1)	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	簡体字の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月26日	在走廊	第2課 廊下で	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 在の使い方（30分）	30分
8	6月2日	疑句和疑（2）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 否定の使い方（30分）	30分
9	6月9日	我的校园	第3課 キャンパスで	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
10	6月16日	和形容	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 有の使い方（30分）	30分
11	6月23日	看手机	第4課 携帯を見ながら	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
12	6月30日	数字	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 副詞（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月7日	在学生食堂	第5課 学生食堂で	
		この回の到達目標	会話を読む。	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
14	7月14日	中国菜，料	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて漢字を書く	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認 疑問文の練習（30分）	30分
15	7月21日	拼音和学的字	期末試験及びまとめ、振返り	
		この回の到達目標	発音記号を読む、習った漢字の発音記号を書く	
		事前学修	復習（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	水4/8	第一課①回目。授業概要。第一課概要。本文練習。挨拶・会話練習。会話入門。簡単な挨拶語を使って会話する。標準的な中国語の基本発音1。	授業概要。第一課「問候」。①第一課概要。②挨拶・会話練習。③会話入門。中国語の語順、語調。文章の切り取り(句切)、ピークストレス(標峰重音)。標準的な中国語の発音法。④単語表、本文を読む。本文を訳す。本文と日本語訳を書く。簡単な挨拶語を使って会話する。⑤標準的な中国語の基本発音1。音節・四声・軽声・単韻母。
		この回の到達目標	中国語及び中国言語文化、異文化を理解する。簡単な挨拶語を使って会話する。
		事前学修	筆記と書き取り練習用ノート(1)を用意する。シラバスに目を通しておく。
		事後学修	復習。第一課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。
2	水4/15	第一課②回目。復習。疑問文(1)と答えかた。人称代名詞。二つの語気助詞と比較。文の種類。会話練習。標準的な中国語の基本発音1-2。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-2。声母、複韻母。音節・変調発音訓練。③人称代名詞。二つの語気助詞と比較。疑問文(1)と答えかた。文の種類。④会話1。(1)-(3)。⑤標準的な中国語の基本発音1-2テスト。本文と会話1.の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	人称代名詞、二つの語気助詞を把握する。標準的な中国語の基本発音1-2要領を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。
		事後学修	復習。会話1.(1)-(3)を声出して読む。第一課会話1.(1)-(3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。
3	水4/22	第一課③回目。復習。四声と軽声の比較、音の識別、音節・変調発音訓練、標準的な中国語の基本発音1-3。常用単語と発音練習。会話練習。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-3。鼻韻母。四声と軽声の比較練習。音の識別、音節・変調発音訓練。③親族。常用単語と発音練習。④会話2。(4)-(6)。⑤標準的な中国語の基本発音1-3テスト。会話2.の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	四声と軽声、音節の識別、変調、標準的な中国語の基本発音1-3を把握する。疑問文(1)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課会話1.(1)-(3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。
		事後学修	復習。会話2.(4)-(6)を声出して読む。第一課会話2.(4)-(6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。
4	水4/29	第一課④回目。復習。第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4。朗読練習。会話練習。第一課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-4。アル化韻。ローマ字綴り規則。音節表。音の識別、軽音と重音、軽重音の変化、標峰重音、句切と文単位。③朗読練習。会話練習・語調。④第一課①-④回授業要点をチェック。⑤標準的な中国語の基本発音1-4テスト。単語と会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4要領を把握する。第一課①-④回授業要点を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課会話2.(4)-(6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。
		事後学修	復習。第一課常用単語と会話を声出して読む。常用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。
5	水5/6	第二課①回目。復習。第二課概要。名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。序数と数量。疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。本文練習。本文について会話練習。中国語で自己紹介。	第一課復習問題。第二課「我是学生」。①第二課概要。②名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。「副詞」。序数と数量。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。⑤本文について会話練習。中国語で自己紹介。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』成績表を提出。
		この回の到達目標	中国語で自己紹介する。名詞述語文の構文を把握する。指示代名詞、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞を把握する。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。
		事前学修	第一課会話1.(1)-(3)、会話2.(4)-(6)を声出して読む。第一課の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』完成し、成績表のコピーを用意する。
		事後学修	復習。第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。中国語で自己紹介を練習する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	水5/13	第二課②回目。復習。数の数え方(1) - (3)。疑問文(1) - (3)の語調。会話練習(1) - (4)。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	第二課 ①復習問題。②強勢と弱勢。強勢と弱勢の変化。四声練習。音の識別。③数の数え方(1) - (3)。④疑問文(1) - (3)の語調。会話練習(1) - (4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	数の数え方(1) - (3)を把握する。疑問文(1) - (3)の語調を把握する。六つの疑問詞を使って簡単会話する。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。	30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。	30分
7	水5/20	第二課③回目。復習。品詞一覧。名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。置換え会話(1) - (3)。会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②品詞一覧。③名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文を把握する。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。	30分
8	水5/27	第二課④回目。復習。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第二課①-④回授業要点をチェック。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③第二課①-④回授業要点をチェック。④会話2. 聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	第二課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課数の数え方(1) - (3)、会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。	30分
9	水6/3	第三課①回目。復習。第三課概要。形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。本文練習。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「我的父母」。①第三課概要。②形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』成績表を提出する。	
		この回の到達目標	名詞述語文・形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文の構文を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
		事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
10	水6/10	第三課②回目。復習。3つの“de”助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。量詞の分類と常用名量詞と動量詞。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②三つの“de”助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。③量詞の分類と常用名量詞と動量詞。④会話練習(1) - (4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	3つの“de”助詞「的」「地」「得」の使い方を把握する。「得」つくる補語と他の補語を把握する。量詞の分類と常用名量詞と動量詞を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
		事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
		事後学修	復習。常用名量詞と動量詞。疑問文(4)。三つの「de」。程度補語・可能補語と結果補語・方向補語・数量補語。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水6/17	第三課③回目。復習。数量練習。四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。置換え会話(1) - (3)。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②数量練習。③四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	常用名量詞・動量詞の使い方を把握する。形容詞述語と形容詞修飾語を把握する。程度副詞表す程度を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第三課会話練習(1) - (4)を声出して読む。数量詞、三つの「de」、程度補語と可能補語、疑問文(1) - (4)をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。	30分
12	水6/24	第三課④回目。年齢段別の聞き方。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第三課①-④回授業要点をチェック。	第三課 ①復習問題。②年齢段別の聞き方。③置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。④第三課①-④回授業要点をチェック。⑤会話2. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		この回の到達目標	年齢段別の聞き方。第三課①-④回授業要点を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。	30分
13	水7/1	第一課～第三課復習。中国語作文を完成する。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習。③中国語作文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。④宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』成績表を提出する。	
		この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。中国語作文を完成する。	
		事前学修	第三課会話2. (4) - (6)を声出して読む。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
		事後学修	第一課～第三課復習。要点をチェック。	30分
14	水7/8	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	
		この回の到達目標	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	第一課～第三課復習。	30分
		事後学修	中国語作文を声出して読む。	30分
15	水7/15	中国語作文口頭発表会（口頭試験）。	中国語作文口頭発表会（口頭試験）。中国語作文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を提出。	
		この回の到達目標	中国語作文口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	中国語作文を声出して読む。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
3分の2以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。

【授業方法】		
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。 フィードバックは授業内において行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	2000. 3. 31	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化交流－国際関係と国際文化交流／気功波動の健康法－生命力の高次元への修業
実務経験に基づく実践的教育の内容	LINEとWechatの交流コラム出を通じて関連情報を共有して紹介する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	第1回導 入 導入講義	中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください	30分
		事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します	30分
2	4/16	第2回（発音一）	韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
3	4/23	第3回 （発音二）	複母音と鼻母音(声調符号の付け方)、	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
4	4/30	第4回 （発音三）	特殊発音、声調の変化 （授業用語）	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	発音練習予定部分を学習してください	30分
		事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
5	5/7	第5回 発音部分の小テスト	発音の総合練習とテスト	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	教科書の練習と配った練習問題を復習してください	30分
		事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください	30分
6	5/14	第6回 第1課北京的天气？	北京の天？（挨拶と授業養護） 天気会話表現と挨拶授業用語を習得する 述語分類、形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	第7回 第2課你是香港人？	貴方は香港の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
		この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
8	5/28	第8回 第3課你吃早了？	君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強します。	
		この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
9	6/4	第9回 応用練習と文化事情	会話の応用練習：グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
10	6/11	第10回 第4課 你身体好？	君は元気ですか？ 主述述語文、近接未来の表現、疑問詞’多’＋形容詞の表現などを習う	
		この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
11	6/18	第11回 第5課你家有几口人？	貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞’有’、疑問詞’幾’などを勉強する	
		この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
12	6/25	第12回 会話の応用練習	会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	第13回 第6課有人滑雪？	第6課スキーをする人がいますか？ 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
14	7/9	第14回 総復習 前期総復習	前期の学習要点を復習問題にまとめて、総合練習して確認します	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分
15	7/16	第15回 授業内テスト まとめ	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する	
		この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
		事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
教科書必携で、ちゃんと予習してくること

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文を日本語に正確に訳しているかどうかを授業内で確認します。各課の練習問題の答え合わせを授業内でします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本から学ぶ中国語	劉力	株式会社天々	2020年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4 / 6	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス及び導入講義
		この回の到達目標	授業内容を理解する
		事前学修	シラバスを読むこと
		事後学修	教科書を用意すること
2	4 / 13	教科書P2～P9の内容	発音:音節のしく・声調・声調の変化・母音・子音・アル化音み
		この回の到達目標	中国語の表音文字のローマ字を正確に発音できる
		事前学修	発音の予習
		事後学修	発音の復習
3	4 / 20	教科書P10～P13の内容	第1課 親友 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
		この回の到達目標	第1課親友 語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。
		事前学修	音声ファイルを聞いて第1課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。
		事後学修	第1課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。
4	4 / 27	教科書P14～P15の内容	第1課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする
		この回の到達目標	第1課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。
		事前学修	第1課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。
		事後学修	第1課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える
5	5 / 11	教科書P16～P19の内容	第2課 桜・桃の花・黄梅 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
		この回の到達目標	第2課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。
		事前学修	音声ファイルを聞いて第2課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。
		事後学修	第2課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること
6	5 / 17	教科書P20～P21の内容	第2課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。
		この回の到達目標	第2課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。
		事前学修	第2課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。
		事後学修	第2課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/24	教科書P22～P25の内容	第3課 彼女は一人で日本にいる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第3課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第3課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第3課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
8	5/31	教科書P26～P27の内容	第3課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第3課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第3課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第3課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
9	6/1	教科書P28～P31の内容	第4課 私は教室で昼ごはんを食べる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第4課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第4課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第4課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
10	6/8	教科書P32～P33の内容	第4課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第4課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第4課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第4課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
11	6/15	教科書P34～P35の内容	第5課 彼女は北京の観光案内を見ている 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第5課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第5課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第5課 彼女は北京の観光案内を見ている 語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
12	6/22	教科書P36～P39の内容	第5課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第5課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第5課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	教科書P40～P43の内容	第6課私は一度北海道へ行った 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第6課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第6課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第6課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
14	7/6	教科書P44～P47の内容	第6課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第6課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第6課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第6課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
15	7/13	教科書P10～P47の内容	試験 第1課～第6課の指定範囲	
		この回の到達目標	第1課～第6課の内容を把握する	
		事前学修	第1課～第6課の指定範囲	30分
		事後学修	第1課～第6課の復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	于 曉飛	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる											1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる											1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦 、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17 第二部 9/16	ガイダンスと導入講義、自己紹介	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
		この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
		事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
		事後学修	前期勉強したことを復習と自己紹介の準備	60分
2	第一部 9/24 第二部 9/23	你老家在哪儿(1)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動詞“在”と“有”の使い方；介詞の区別状況語が強調される構造。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、介詞の使い方応用できる	
		事前学修	自己紹介できるよう発音を練習すること。	60分
		事後学修	新しい語彙を覚え自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	第一部 10/1 第二部 9/30	你老家在哪儿(2)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：状況語が強調される構造。	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、特に“是・・・的”の表現を身に付けることができる。	
		事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
		事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第一部 10/8 第二部 10/7	几点起床	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：時点を表す言葉と時間の長さを表す言葉の語順	
		この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、応用練習もできる。	
		事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
		事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	第一部 10/15 第二部 10/14	中国正流行什么	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動作の進行、持続を表す	
		この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用会話でき、応用練習もできる。	
		事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
		事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第一部 10/22 第二部 10/21	你会包子	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：可能を表す助動詞“会”、“能”、“可以”	
		この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用練習もできる	
		事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/29 第二部 10/28	中国比日本大多少	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
		この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
		事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第一部 11/5 第二部 11/11	総合演習	会話小テスト 今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて発表 会話練習と発音矯正する。	
		この回の到達目標	今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて話せることにする。	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみることに。	60分
9	第一部 11/12 第二部 11/18	中国比日本大多少	筆記小テスト ポイント：比較表現の構文を使って、会話練習する	
		この回の到達目標	比較表現を身に付け、自分のことに基づいて説明することができる	
		事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	第一部 11/19 第二部 11/25	北京烤多少	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：把を用いた文と可能補語	
		この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、応用練習もできる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第一部 12/3 第二部 12/2	中国人喜什么运	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：複文の接続詞と行為、状態の関連する対象を表す表現	
		この回の到達目標	ポイントの説明について理解し、応用練習できるようにする	
		事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第一部 12/10 第二部 12/9	怎做才不失礼	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：使役表現について	
		この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
		事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/17 第二部 12/16	真会被款	発表テスト ポイントについて説明 受け身文と可能補語	
		この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
		事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
		事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	第一部 12/24 第二部 12/23	総合復習	今まで勉強したことを全般復習する	
		この回の到達目標	勉強したことを理解し、回答できるようにする	
		事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
		事後学修	全般復習	60分
15	第一部 1/14 第二部 1/13	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 筆記テスト	
		この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
		事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
なし

【授業方法】
朗読、翻訳、会話、リスニングという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行い、テストなどを採点して解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に二人一組で会話練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる											1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる											1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子松田かの子	白水社	2011年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部9月15日	シラバスの概要 第6課	シラバスの概要を説明する。 第6課「電子辞書を持っていますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞“有” 2. 動詞“在” 3. 前置詞“离”	
		この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。 第6課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
2	第1部9月22日	第6課	第6課 「電子辞書を持っていますか。」 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第6課の総復習	90分
3	第1部9月29日	第7課	第7課 「京劇のチケットを買いました。」本文訳 ポイント 1. 連動文 2. “什么” +名詞 3. 完了の“了” 4. 疑問詞“怎么”	
		この回の到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
4	第1部10月6日	第7課	第7課 「京劇のチケットを買いました。」 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第7課の総復習	90分
5	第1部10月13日	第8課	第8課 「ファーストフード店がありますか。」本文訳 ポイント 1. 変化を表わす“了” 2. 動詞“有” 3. 前置詞“在”	
		この回の到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
6	第1部10月20日	第8課	第8課 ファーストフード店がありますか。 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第8課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部10月27日	第9課	第9課 「中国の歌が歌えますか。」 本文訳 ポイント 1. 助動詞“可以” “会” “能” 2. 動詞“喜歡” 3. 前置詞“給”	
		この回の到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
8	第1部11月10日	第9課 中間のまとめ	第9課 「中国の歌が歌えますか。」 本文訳 トレーニング、リスニング 第6課～9課のまとめ（授業内中間筆記試験）	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第9課の総復習	90分
9	第1部11月17日	第10課	第10課 「長城に行ったことがありますか。」 本文訳 ポイント 1. 時刻の言い方 2. 経験を表わす“過” 3. 動作の回数を表わす言い方 4. 方向補語	
		この回の到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
10	第1部11月24日	第10課	第10課 「長城に行ったことがありますか。」 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第10課の総復習	90分
11	第1部12月1日	第11課	第11課 「お腹をこわしました。」 本文訳 ポイント 1. 主述述語文 2. “有点儿” 3. “是～的” 4. 比較の表現	
		この回の到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。	
		事前学修	文法の予習	90分
		事後学修	文法の復習と単語の暗記	90分
12	第1部12月8日	第11課	第11課 「お腹をこわしました。」 本文訳 トレーニング、リスニング	
		この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	トレーニング、リスニングの予習	90分
		事後学修	第11課の総復習	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部12月15日	第12課	第12課 「どのくらいの時間がかかりますか。」本文訳 ポイント 1. 結果補語 2. “从～到…” 3. 二つの目的語をもつ動詞 トレーニング・リスニング	
		この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。 会話力とリスニング力が向上できる。	
		事前学修	文法とトレーニングリスニングの予習	90分
		事後学修	第12課の総復習	90分
14	第1部12月22日	後期のまとめ	第6課～12課のまとめ（授業内期末筆記試験）	
		この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
		事前学修	第6課～12課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	90分
		事後学修	問題点を確認し、理解する。	90分
15	第1部1月12日	フィードバック・質疑応答	フィードバック・質疑応答及び授業のまとめ 試験問題についての解説 会話テストか書き取りを行う。	
		この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。試験問題を採点し、解説する。	
		事前学修	後期学習の内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。 会話プリントの内容を暗記する。	90分
		事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	90分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者40名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる											1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる												1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる												1		
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎	汪鴻祥 主編	白帝社	2020年度3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火 9/15	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
		この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う 夏休みの報告を行う	
		事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
2	火 9/22	会話編	第8課：「学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
		事前学修	第8課：「学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
3	火 9/29	会話編	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第9課：「广交朋友」	
		事前学修	第9課：「广交朋友」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
4	火 10/6	会話編	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
		事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
5	火 10/13	会話編	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
		事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
6	火 10/20	会話編	第12課：「季化」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第12課：「季化」	
		事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火 10/27	会話編	第13課：「上学交通」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
		事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
8	火 11/10	会話編	第14課：「外活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第14課：「外活」	
		事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
9	火 11/17	会話編	第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」	
		事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
10	火 11/24	会話編	第16課：「校活」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第16課：「校活」を習得する	
		事前学修	第16課：「校活」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
11	火 12/1	会話編	第17課：「出国留学」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
		事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分
12	火12/8	会話編	第18課：「健康食」 文法、会話、練習	
		この回の到達目標	第18課：「健康食」を習得する	
		事前学修	第18課：「健康食」の予習	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	火12/15	発表		期末発表会
		この回の到達目標	レポートを提出し、発表を行う	
		事前学修	期末発表会の準備	120分
		事後学修	発表会内容の復習（30分）	120分
14	火12/22	復習		期末総合復習 第8課～18課
		この回の到達目標	期末総合復習を行う	
		事前学修	期末総合復習	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
15	火1/12	総括と試験		期末試験及び振り返り、まとめ
		この回の到達目標	後期の総括と授業内期末試験を行う	
		事前学修	期末試験の準備	120分
		事後学修	後期授業内容の復習（30分）	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2021 2・1 学期		
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付けます。授業時間：土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	第七課 アルバイト	動詞の重ね型 二重目的語をとる動詞	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
2	第一部 土9/26	第八課 外国語を学ぶ	経験態 経験態のたずね方、こたえ方 数量補語	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	本文を暗唱	20分
3	第一部 土10/3	第九課 病院に行く	助動詞「能」および「能」と「会」の違い 程度副詞「有点儿」および「有点儿」と「一点儿」の違い	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
4	第一部 土10/10	第十課 図書館で	進行態「在」「正在」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
5	第一部 土10/17	第十一課 手紙を書く	比較表現「比」「AはBより～だ」	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	20分
6	第一部 土10/24	第十二課 旅行に行く	完了態 完了態のたずね方、こたえ方	
		この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
		事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	10分
		事後学修	単語、本文を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	テキストの終わりに	中国語の勉強について話そう	
		この回の到達目標	中国語に対して興味を持続できるように	
		事前学修	感想文を書く	20分
		事後学修	感想文を中国語に訳す	30分
8	第一部 土11/7	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
9	第一部 土11/14	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
		この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
		事前学修	準四級の挨拶文を読む	20分
		事後学修	準四級単語を覚える	20分
10	第一部 土11/21	中国語検定試験の勉強	準四級筆記問題ドリル	
		この回の到達目標	文法事項の確認	
		事前学修	文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
11	第一部 土11/28	中国語検定試験の仮試験 まとめ	模擬試験問題で合格力を確認する	
		この回の到達目標	単語や文法などを復習	
		事前学修	単語、文法の復習	20分
		事後学修	ドリル問題の復習	20分
12	第一部 土12/5	中国語会話の練習	初対面で、生活について、学習について、家族についてなど	
		この回の到達目標	中国語でいろいろなことを話そう、興味深く学べるように	
		事前学修	会話のテーマに関連単語、表現を復習	20分
		事後学修	会話文を繰り返す暗唱	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	総復習 1	リスニング	
		この回の到達目標	リスニングの聴く力をつける	
		事前学修	あいさつ語の復習	10分
		事後学修	問題を繰り返し復習	20分
14	第一部 土12/19	総復習 2	文法のまとめ	
		この回の到達目標	試験のための総復習	
		事前学修	文法項目を復習	20分
		事後学修	文章を書きながら覚えましょう	20分
15	第一部 土12/26	試験 まとめ	後期試験	
		この回の到達目標	試験	
		事前学修	テスト勉強	60分
		事後学修	なし	0分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時説明

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめまして！中国語	喜多山幸子等著	白水社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	王老的研究室	第6課 王先生の研究室で	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	予習 教科書を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
2	9月22日	和形容	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	予習 練習問題 (30分)	30分
		事後学修	復習 単語と文型 (30分)	30分
3	9月29日	便利店	第7課 コンビニで	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 本文の朗読 (30分)	30分
4	10月6日	去	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	発音の確認 (30分)	30分
		事後学修	復習 単語と文型 (30分)	30分
5	10月13日	等公交	第8課 バス停で	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 疑問詞と疑問文 (30分)	30分
6	10月20日	行的用法	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	簡体字の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	下后	第9課 放課後	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
8	11月10日	法小（1）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
9	11月17日	看球播	第10課 卓球の中継を見ながら	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
10	11月24日	法小（2）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
11	12月1日	迪斯尼	第11課 デイズニーランドで待ち合わせ	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
12	12月8日	法小（3）	トレーニング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	咖啡吧	第1 2 課 カフェテラスで	
		この回の到達目標	会話を流暢に読む	
		事前学修	単語の予習（30分）	30分
		事後学修	簡体字の確認（30分）	30分
14	1月14日	法小（4）	トレーニング 会話とヒヤアリング	
		この回の到達目標	会話を聴いて書き、漢字に発音記号付ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
15	1月21日	学了一年	期末試験及びまとめ、振返り	
		この回の到達目標	発音記号読めること	
		事前学修	復習 文法のまとめ（30分）	30分
		事後学修	まとめ（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる											1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる											1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	第四課①回目。前期復習問題。第四課概要。本文練習。「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	前期復習問題。第四課「我家有五口人」。①第四課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		この回の到達目標	「有」構文、存現文(1)、不定数の使い方を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
		事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
		事後学修	復習。第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
2	水9/23	第四課②回目。復習。中国の通貨－人民币元。番号と金額。疑問文(5) - (6)。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第四課 ①復習問題。②中国の通貨－人民币元。番号と金額。③四声練習。音の識別。疑問文(5) - (6)。④会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	番号と金額、疑問文(5) - (6)を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
3	水9/30	第四課③回目。復習。第四課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。第四課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	第四課①-③回授業要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第四課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
4	水10/7	第五課①回目。復習。本文練習。自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課復習問題。第五課「今天休息」。①第五課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	自動詞と他動詞、目的語・二重目的語、二つの「了」、連動文・兼語文、使役・受身文を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第四課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』を完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分
5	水10/14	第五課②回目。復習。方向補語・数量補語。曜日・週と年・月・日。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②曜日・週と年・月・日。③方向補語・数量補語。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
		この回の到達目標	方向補語・数量補語、曜日・週と年・月・日を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
		事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水10/21	第五課③回目。復習。第五課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。第五課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。
		この回の到達目標	第五課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第五課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第五課』。
7	水10/28	第六課①回目。復習。本文練習。「在」構文。存現文(2)。二つの「在」。結果補語。四種類の文をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第五課復習問題。第六課「我家在横濱」。①第六課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「在」構文。存現文(2)。二つの「在」。結果補語。四種類の文をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第五課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	「在」構文、存現文(2)、二つの「在」、結果補語、四種類の文を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第五課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第五課』を完成し、成績表コピーを用意する。
		事後学修	復習。第六課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』。
8	水11/11	第六課②回目。復習。時間点・時間段。時刻・時間・時。二つの「着」。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第六課 ①復習問題。②時間点・時間段。時刻・時間・時。③二つの「着」。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		この回の到達目標	時間点・時間段、時刻・時間・時、二つの「着」を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第六課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』。
9	水11/18	第六課③回目。復習。第六課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第六課 ①復習問題。第六課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		この回の到達目標	第六課①-③回授業要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第六課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』。
10	水11/25	第七課①回目。復習。本文練習。祝いと祈り常用語。五種類の補語をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第六課復習問題。第七課「祝賀」。①第七課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③祝いと祈り常用語。五種類の補語をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	祝いと祈り常用語を把握する。五種類の補語を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第六課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。第七課の単語表を声出して読む。第七課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第六課』を完成し、成績表コピーを用意する。
		事後学修	復習。第七課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第七課』。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
11	水12/2	第七課②回目。復習。方位詞の分類。「～左右」・「～上下」・「～前后」。二つの「」。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第七課 ①復習問題。②方位詞の分類。「～左右」・「～上下」・「～前后」。二つの「」。③四声練習。音の識別。④会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		この回の到達目標	方位詞の分類、「～左右」・「～上下」・「～前后」、二つの「」を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第七課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。
		事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。
12	水12/9	第七課③回目。復習。第七課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第七課 ①復習問題。第七課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第七課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。
		事前学修	第七課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。
13	水12/16	第四課～第七課復習。要点をチェック。第四課～第七課朗読短文復習。（口頭試験の朗読短文を選択）。	第七課①復習問題。②第四課～第七課復習。③第四課～第七課朗読短文復習。（口頭試験の朗読短文を選択）。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。
		事前学修	第七課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』を完成し、成績表コピーを用意する。
		事後学修	第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。要点をチェック。
14	水12/23	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。
		この回の到達目標	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。
		事前学修	第四課～第七課復習。要点をチェック。
		事後学修	朗読短文を書いて（簡体字、ピンイン、日本語訳）、声出して読む。
15	水1/13	中国語朗読短文発表会（口頭試験）。	中国語朗読短文発表会（口頭試験）。朗読短文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を提出。
		この回の到達目標	中国語朗読短文発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。
		事前学修	朗読短文を声出して読む。
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
積極的に授業での練習に参加すること、授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考	使用教科書は授業の時に指示します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ、或は木曜18時以降～講師控え室へ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版一国際関係と国際文化交流
実務経験に基づく実践的教育の内容	LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LIINE:08032718681／Wechat::koku811	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
		事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	9/24	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	10/1	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	10/8	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	10/15	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	10/22	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	応用練習	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	11/5	第11課 中国比日本大多少？	中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
9	11/12	第12課 北京烤多少？	北京ダックはおいくらですか？ 買い物の表現を習得する	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	11/19	応用練習	会話応答練習と作文練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
		事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	12/3	第13課 中国人喜什么运？	中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	12/10	第14課 怎么做才会不失礼？	どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	第15課 真会被款？	本当に罰金されますか 受身表現を習う	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
		事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	12/24	総復習	復習と総合練習	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	1/14	授業内テスト まとめ	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を	
		この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
		事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
		事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
教科書必携で、ちゃんと予習してくること

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文を日本語に正確に訳しているかどうかを授業内で確認します。各課の練習問題の答え合わせを授業内でします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本から学ぶ中国語	劉力	株式会社天々	2020年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	第7課P47～50	第7課 私たちはもう20になった 語句、ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第7課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第7課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第7課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
2	9/21	第7課P50～P52の内容	第7課の本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第7課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第7課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第7課本文・ポイントの例文の意味・漢字・ポイントを覚える。	30分
3	9/28	第8課P53～P56の内容	第8課 私は今中国語の勉強が非常に好きです。 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第8課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第8課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第8課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
4	10/5	第8課P56～P15の内容	第8課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第8課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第1課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第8課本文・ポイントの例文の意味・漢字・ポイントを覚える。	30分
5	10/12	第9課P59～P62の内容	第9課 桃は母が実家から送ってきたものです 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第9課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第2課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第9課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
6	10/19	第9課P63～P64の内容	第9課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第9課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第9課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第9課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	第10課P65～P68の内容	第3課 彼女は一人で日本にいる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第10課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第10課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第10課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
8	11/9	第10課P68～P70の内容	第10課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
		この回の到達目標	第10課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第10課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第10課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
9	11/16	第11課P71～P73の内容	第11課 小石川後樂園 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第11課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第11課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第11課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
10	11/23	第11課P74～P76の内容	第11課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第11課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第11課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
11	11/30	第12課P77～P79の内容	第12課 外は雪が降っている 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
		この回の到達目標	第11課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
		事前学修	音声ファイルを聞いて第11課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
		事後学修	第11課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
12	12/7	第12課P80～P81の内容	第12課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
		この回の到達目標	第12課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
		事前学修	第12課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
		事後学修	第12課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	第7課～第9課の試験	第7課～第9課の試験	
		この回の到達目標	第7課～第9課の内容を覚える。	
		事前学修	繰り返して第7課～第9課語句、例文、本文の漢字と意味を覚える。	30分
		事後学修	第7課～第9課語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
14	12/21	第10課～第12課の試験	第10課～第12課の試験	
		この回の到達目標	第10課～第12課の内容を覚える。	
		事前学修	繰り返して第10課～第12課語句、例文、本文の漢字と意味を覚える	30分
		事後学修	第7課～第9課語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
15	1/18	ビデオの鑑賞	ビデオの鑑賞後、教員に中国語に関する質問をする。	
		この回の到達目標	習った内容を理解し、覚える。	
		事前学修	習った中国語はきちんと理解できているかどうかを確認する。	30分
		事後学修	習った中国語はきちんと復習する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。

【授業方法】
テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 中国語さらなる一歩	尹景春他	白水社	12月第13刷	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス及び導入講義	本講義の授業計画・内容についての説明	
		この回の到達目標	本講義の授業計画・内容について理解してもらう。	
		事前学修	講義に関する要望などを考えておく。	30分
		事後学修	1年目に習った中国語の単語を復習する。	30分
2	第一部木 4/16	既習した内容の復習	中国語の発音を復習する。	
		この回の到達目標	正しい発音を身につける。	
		事前学修	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。	30分
		事後学修	大きな声で発音の練習をする。	30分
3	第一部木 4/23	既習した基礎文法の復習	中国語の基本的表現や構文を復習する。	
		この回の到達目標	これまでに習った文法や表現を復習して覚える。	
		事前学修	1年目に習った内容を復習する。	30分
		事後学修	既習した前置詞、疑問詞、助動詞などを復習する。	30分
4	第一部木 4/30	第1課 中国に行こう	主述述語文 助動詞「可以」「要」	
		この回の到達目標	主述述語文、助動詞「可以」「要」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
		事後学修	形容詞文の構文を復習して覚える。	30分
5	第一部木 5/7	第1課のトレーニング	第1課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第1課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第1課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
6	第一部木 5/14	第2課 ウーロン茶を飲もう	「原因・理由」を表わす「因」	
		この回の到達目標	「原因・理由」を表わす「因」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
		事後学修	本文を復習して、因果関係の表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	第2課のトレーニング	第2課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第2課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
		事後学修	第2課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
8	第一部木 5/28	第3課 友だちをつくろう	連動文の構文	
		この回の到達目標	連動文の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
		事後学修	本文を復習して、連動文の構文を覚える。	30分
9	第一部木 6/4	第3課のトレーニング	第3課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第3課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
		事後学修	第3課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
10	第一部木 6/11	第4課 長城に登ろう	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方	
		この回の到達目標	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第4課の単語を予習する。(30分)	30分
		事後学修	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の違いをまとめてみる。	30分
11	第一部木 6/18	第4課のトレーニング	第4課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第4課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
		事後学修	第4課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
12	第一部木 6/25	第5課 漢字を覚えよう	結果補語	
		この回の到達目標	結果補語の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
		事後学修	結果補語の構文を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	第5課のトレーニング	トレーニング5の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第5課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
		事後学修	第5課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
14	第一部木 7/9	総合復習	前期に習った言葉や表現を復習する。	
		この回の到達目標	既習した言葉や表現を復習して覚える。	
		事前学修	これまでに習ったことを復習する。	30分
		事後学修	これまでに習った語彙と表現を覚える。	30分
15	第一部木 7/16	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	前期に習った言葉や表現をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
発音記号、基礎文法を履修した者。

【授業方法】
初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙と表現を少しずつ増やしていく。二人で組んで会話の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内説明する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション中国語	斎藤敏康等	朝日出版	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	学習計画を立てる	年間講義計画・成績評価の方法	
		この回の到達目標	日々の努力は上達につながる。	
		事前学修	教科書の目次に目を通しておく（30分）	30分
		事後学修	学習計画を立てる（30分）	30分
2	4月16日	発音記号の全体像	発音の復習 1	
		この回の到達目標	各自の発音の弱点を見つける。	
		事前学修	予習 教科書を読む（30分）	30分
		事後学修	発音の確認 母音と四声（30分）	30分
3	4月23日	発音記号の再点検	復習 2 子音	
		この回の到達目標	全部読める喜び	
		事前学修	予習 教科書を読む（30分）	30分
		事後学修	発音の確認 録音を聞く（30分）	30分
4	4月30日	你我答（1）	第1課 私は大学生です	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
5	5月7日	，哪儿，什么	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
6	5月14日	你我答（2）	第2課 私は山本恵子と言います	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	什么是	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
8	5月28日	你我答（3）	第3課 桜がきれいです	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
9	6月4日	什么是形容	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
10	6月11日	你我答（4）	第4課 王さんが寮にいます	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
11	6月18日	介和方位	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
12	6月25日	你我答（5）	第5課 四川料理を食べたことがありますか	
		この回の到達目標	質問を聞いて答える。	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	了, , 着	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	短文を聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
14	7月9日	我会一点了。 我的音怎么?	まとめ・総合練習	
		この回の到達目標	文型の復習	
		事前学修	予習 練習問題 (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
15	7月16日	考考你	期末試験及びまとめ、反省。	
		この回の到達目標	前期学習内容のまとめ	
		事前学修	文型の確認 (30分)	30分
		事後学修	まとめ (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	萬 清華	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級、2級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2			
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる											2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる											2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 11971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	第一課①回目。授業概要。簡単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課「紹介」。①第一課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文(一)を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③助動詞。ちょっとの表現。④自分の名前を本文に入り替え、お互いに自己紹介。会話練習。	授業概要。簡単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課「紹介」。①第一課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文(一)を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③助動詞。ちょっとの表現。④自分の名前を本文に入り替え、お互いに自己紹介。会話練習。	
		この回の到達目標	授業概要。簡単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課概要。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。助動詞、ちょっとの表現を把握する。お互いに自己紹介。会話練習。	
		事前学修	筆記と書き取り練習用ノート（1）を用意する。シラバスに目を通しておく。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点をチェック。	30分
2	水4/15	第一課②回目。復習。本文練習。要点をチェック。「是……的」構文。能願動詞。動詞・形容詞の重ね型。ちょっとの表現を比較。副詞用法比較。三つの「de」復習。六種類の疑問詞復習。六種類の疑問文復習。	第一課 ①復習問題。②句切・標峰重音を注意しながら本文（二）を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③「是……的」構文。能願動詞。動詞・形容詞の重ね型。ちょっとの表現を比較。副詞用法比較。文の種類復習。三つの「de」復習。六種類の疑問詞復習。六種類の疑問文復習。本文について会話練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	「是……的」構文、形容詞の重ね型、動詞の重ね型、ちょっとの表現、六種類の疑問詞などを把握する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点をチェック。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら本文（二）を声出して読む。本文（二）と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。	30分
3	水4/22	第一課③回目。復習。能願動詞の分類。置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第一課 ①復習問題。能願動詞の分類。補語復習。②置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。③練習問題1、2。語順と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	能願動詞の分類とそれぞれの使い方を把握する。語順と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第一課本文（二）を声出して読む。要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音要領をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。	30分
4	水4/29	第一課④回目。復習。第一課①-④回授業要点をチェック。置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。練習問題3、4。聴力と作文練習。	第一課 ①復習問題。第一課①-④回授業要点をチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③練習問題3、4。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	第一課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第一課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題3、4を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音要領をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3、4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。	30分
5	水5/6	第二課①回目。復習。第二課概要。本文練習。要点をチェック。語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。連動文復習。単文と複文。接続詞。本文について会話練習。	第一課復習問題。第二課「吃飯」。①第二課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。連動文復習。補語復習。④本文について会話練習。『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	接続詞、語気助詞用法を把握する。単文と複文を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
		事前学修	第一課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水5/13	第二課②回目。復習。本文練習。動詞のアスペクト。補語復習。助詞復習。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第二課 ①復習問題。②動詞のアスペクト。補語復習。助詞復習。③句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を朗読。要点をチェック。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	動詞のアスペクトを把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。30分
7	水5/20	第二課③回目。復習。動詞のアスペクトをチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。動詞のアスペクトをチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。
		この回の到達目標	動詞のアスペクトを把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。30分
8	水5/27	第二課④回目。復習。第二課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。第二課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。
		この回の到達目標	第二課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第二課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。30分
9	水6/3	第三課①回目。復習。第三課概要。本文練習。要点をチェック。比較文の分類。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「朋友」。①第三課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③比較文の分類。④本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	比較文を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。
		事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』完成し、成績表コピーを用意する。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第三課』。30分
10	水6/10	第三課②回目。復習。本文練習。四種類比較方式用法をチェック。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第三課 ①復習問題。②本文を読む。四種類比較方式用法をチェック。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。
		この回の到達目標	四種類比較方式用法を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第三課』。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水6/17	第三課③回目。復習。四種類比較方式用法をチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第三課 ①復習問題。四種類比較方式用法をチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
		この回の到達目標	四種類比較方式用法を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。	30分
12	水6/24	第三課④回目。復習。第三課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第三課①復習問題。第三課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	第三課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。	30分
13	水7/1	復習。第一課～第三課復習、要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文朗読。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習、要点をチェック。③句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を朗読する。	
		事前学修	第三課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第三課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	第一課～第三課復習、要点をチェック。第一課～第三課本文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
14	水7/8	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
		この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	第一課～第三課復習、要点をチェック。	30分
		事後学修	句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
15	水7/15	中国語朗読発表会(口頭試験)。	中国語朗読発表会(口頭試験)。第一課～第三課本文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。	
		この回の到達目標	中国語朗読発表会(口頭試験)。及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする

【授業方法】
テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 中国語さらなる一歩	尹景春他	白水社	12月第13刷	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	第6課 街を歩こう	存現文の使い方	
		この回の到達目標	存現文の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
		事後学修	存現文の構文を復習して覚える。	30分
2	第一部木 9/24	第6課のトレーニング	第6課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第6課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第6課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
3	第一部木 10/1	第7課 中国映画を見よう	状態持続の表現	
		この回の到達目標	状態持続の表現を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
		事後学修	持続状態の表現を用いて作文する。	30分
4	第一部木 10/8	第7課のトレーニング	第7課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第7課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第7課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
5	第一部木 10/15	第8課 シルクを買おう	方向補語の構文	
		この回の到達目標	方向補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
		事後学修	方向補語の構文を復習して覚える。	30分
6	第一部木 10/22	第8課のトレーニング	第8課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第8課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第8課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	第9課 中華を食べよう	可能補語の構文	
		この回の到達目標	可能補語の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
		事後学修	可能補語の構文を復習して覚える。	30分
8	第一部木 11/5	第9課のトレーニング	第9課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第9課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第9課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
9	第一部木 11/12	第10課 太極拳を習おう	「了」などの表現	
		この回の到達目標	「了」などの表現を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
		事後学修	「了」を用いて作文する。	30分
10	第一部木 11/19	第10課のトレーニング	第10課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第10課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第10課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
11	第一部木 12/3	第11課 「水」を楽しむ	結果補語（2）の構文	
		この回の到達目標	結果補語（2）の構文を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
		事後学修	結果補語の構文を復習して覚える。	30分
12	第一部木 12/10	第11課のトレーニング	第11課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第11課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第11課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	第12課 春節を過ごそう	前置詞「把」の使い方	
		この回の到達目標	前置詞「把」の使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
		事後学修	中国の春節について調べる。	30分
14	第一部木 12/24	第12課のトレーニング	第12課の練習問題を解く。	
		この回の到達目標	第12課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
		事前学修	前回の授業で習った会話を朗読する。	30分
		事後学修	第12課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
15	第一部木 1/14	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
		この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
		事前学修	既習した言葉や表現をじっくり復習して覚える。	30分
		事後学修	中国語の勉強についての感想をまとめる。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
発音記号、基礎文法を履修した者。

【授業方法】
初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙と表現を少しずつ増やしていく。二人で組んで会話の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内説明

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション中国語	斎藤敏康	朝日出版	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：火曜１・２限、木曜３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月10日	你得很好。	第6課 中国語を勉強したい	
		この回の到達目標	想，要，得	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
2	9月17日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
3	9月24日	他不会游泳	第7課 私は水泳ができます	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
4	10月1日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分
5	10月8日	我在听音	第8課 宿題をやっています	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む（30分）	30分
		事後学修	復習 録音を聞く（30分）	30分
6	10月15日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記（30分）	30分
		事後学修	文型の確認（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月22日	把关上	第9課 辞書を持ってきましたか	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
8	10月29日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
9	11月5日	自行被走了	第10課 自転車が妹に乗って行かれた	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
10	11月12日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
11	11月19日	今天比昨天冷多了	第11課 あなたは私より三つ年下	
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 録音を聞く (30分)	30分
12	11月26日	会話を流暢に読む。	トレーニング 会話とヒヤリング	
		この回の到達目標	聞いて書ける	
		事前学修	単語の暗記 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月3日	不妹妹学开		第12課 家で勉強するように言われた
		この回の到達目標	你我答	
		事前学修	予習 本文を読む (30分)	30分
		事後学修	復習 練習問題解く (30分)	30分
14	12月10日	中文法		まとめ・総合練習
		この回の到達目標	翻短文	
		事前学修	予習 短文の翻訳 (30分)	30分
		事後学修	文型の確認 (30分)	30分
15	12月17日	テスト		学年末試験及びまとめ、振り返り
		この回の到達目標	まとめと反省	
		事前学修	復習 練習問題解く (30分)	30分
		事後学修	まとめ (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級、2級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文化教師、1984年北京語言大学对外中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	第四課①回目。復習。第四課概要。本文練習。要点をチェック。常用介詞の分類。本文について会話練習。	前期復習問題。第四課「聊天」。①第四課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③常用介詞の分類。④本文について会話練習。	
		この回の到達目標	常用介詞の分類と用法をチェック。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
		事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
2	水9/23	第四課②回目。復習。本文練習。常用副詞の分類。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第四課 ①復習問題。②本文を読む。常用介詞の分類をチェック。常用副詞の分類。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	常用介詞・副詞の分類と用法をチェック。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
3	水9/30	第四課③回目。復習。常用介詞・副詞の分類とチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。常用介詞・副詞の分類とチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	常用介詞・副詞の分類と用法を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
4	水10/7	第四課④回目。復習。第四課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	第四課①復習問題。第四課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	
		この回の到達目標	第四課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第四課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
5	水10/14	第五課①回目。復習。第五課概要。本文練習。要点をチェック。特殊動詞述語文。「是……的」構文(1)、(2)。存現文の分類。本文について会話練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第四課復習問題。第五課「客人」。①第五課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③特殊動詞述語文。「是……的」構文(1)、(2)。存現文の分類。④本文について会話練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	「是……的」構文(1)、(2)と存現文の分類を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
		事前学修	第四課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
6	水10/21	第五課②回目。復習。本文練習。特殊動詞述語文。「把」構文。使役文と兼語文。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②本文を読む。特殊動詞述語文。「把」構文。使役文と兼語文。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。
		この回の到達目標	「把」構文、使役文と兼語文を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。30分
7	水10/28	第五課③回目。復習。特殊動詞述語文。「被」構文と受身文。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。	第五課 ①復習問題。「被」構文と受身文。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	「被」構文と受身文を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。30分
8	水11/11	第五課④回目。復習。第五課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第五課 ①復習問題。第五課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	第五課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	第五課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。30分
9	水11/18	第六課①回目。復習。第六課概要。本文練習。要点をチェック。常用複文の分類。常用複文1-6。本文について会話練習。	第五課復習問題。第六課「旅行」。①第六課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③常用複文の分類。常用複文1-6。④本文について会話練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』成績表コピーを提出する。
		この回の到達目標	常用複文1-6を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。
		事前学修	第五課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』完成し、成績表コピーを用意する。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。30分
10	水11/25	第六課②回目。復習。本文練習。常用複文7 - 13。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第六課 ①復習問題。②本文を読む。常用複文7 - 13。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。
		この回の到達目標	常用複文7 - 13を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第六課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	水12/2	第六課③回目。復習。句読点と文章記号。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。	第六課 ①復習問題。句読点と文章記号。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	句読点と文章記号を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第六課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
		事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分
12	水12/9	第六課④回目。復習。第六課①-④回授業要点をチェック。中国の行政区。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第六課 ①復習問題。第六課①-④回授業要点をチェック。中国の行政区。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
		この回の到達目標	第六課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
		事前学修	第六課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
		事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分
13	水12/16	第一課～第六課復習、要点をチェック。第一課～第六課復習問題を完成する。中国語作文を完成する。	復習問題。①第一課～第六課復習、要点をチェック。②第一課～第六課復習問題を完成する。③中国語作文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を完成する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』成績表コピーを提出する。	
		この回の到達目標	第一課～第六課復習、要点を把握する。第一課～第六課復習問題を完成する。中国語作文を完成する。	
		事前学修	第六課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
		事後学修	第一課～第六課復習、要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
14	水12/23	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
		この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	第一課～第六課復習、要点をチェック。	30分
		事後学修	句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
15	水1/13	中国語作文発表会(口頭試験)。	中国語作文発表会(口頭試験)。中国語作文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。	
		この回の到達目標	中国語作文発表会(口頭試験)及びまとめ、振り返り。	
		事前学修	句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。(30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面において中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる								3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる								3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック；自己紹介と挨拶	
		この回の到達目標	講義の進め方と教材を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備。	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。	60分
2	4/15	「動詞+在」	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習 文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。	
		この回の到達目標	動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・を理解し、使用できるようにする。	
		事前学修	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
3	4/22	日中文化の相違点	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、中国語で表現できるようにする。	
		事前学修	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。	60分
		事後学修	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
4	4/29	比較表見	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了”を使用できるようにする。	
		事前学修	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。	60分
5	5/6	復習と練習	事前学習の内容について、練習と解明	
		この回の到達目標	ここまでの復習と練習をする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
6	5/13	累加関係を表す複文	ポイント：累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現。	
		この回の到達目標	累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	第3課の全般的応用練習	第3課の内容について、全般的応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、本文の朗読し、作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
8	5/27	前置詞の用法	ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。	
		この回の到達目標	同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べることができるようにする。	
		事前学修	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
9	6/3	第4課の全般的応用練習	第4課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	前置詞の使用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
10	6/10	接続詞と時間推移表現	ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現；程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第5課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
11	6/17	第5課の全般的応用練習	第5課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、応用作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。日中文化について作文：テーマ自由（200字）	60分
12	6/24	強調する表現	ポイントの説明：～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス 着る；本文の解釈；作文を提出	
		この回の到達目標	～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第6課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	強調構文と比較表現	ポイントについて説明：前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・する；本文の解釈と朗読訓練	
		この回の到達目標	前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・するの表現方法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第7課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
14	7/8	復習と期末テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	全般の復習、期末の筆記テストを実施する。	
		事前学修	全面復習： テスト範囲：1課～7課までのポイントの例文 2小テストの問題3，4	60分
		事後学修	今まで勉強したことを復習練習すること。	60分
15	7/15	中国語ヒアリング	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞	
		この回の到達目標	中国人の生活の会話をどのくらい聞き取ることができるかの能力を判定する。	
		事前学修	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢB	担当者	于 曉飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズな中国語コミュニケーションの習得（A2

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的・社会的場面において基礎的な語彙を用いて中国語で意思疎通をすることができる。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的、社会的な場面において平易な語彙を用いてスムーズに話することができる									4	4		
②	日常的、社会的な場面において遭遇する平易な言葉を用いた会話を理解することができる									4	4		
③	日常的、社会的な場面において平易な表現を用いて、適切な対応をしながら普通のテンポでインターアクティブな会話ができる									4	4		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文や、口頭発表の際に直接指示する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受けメールによる質問受け研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	夏休み宿題	夏休み宿題の口頭発表 講評	
		この回の到達目標	夏休みの宿題を口頭発表できる	
		事前学修	夏休みの作文を完成、発表の準備する。	60分
		事後学修	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。	60分
2	9/23	断定の口調を強める表現	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。	
		この回の到達目標	本文の解釈とうまく朗読できる	
		事前学修	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第8課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答； 日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。	60分
3	9/30	ドリルのチェック	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答　③ド リルと小テストの問題を解明する。	
		この回の到達目標	本文2の質問についての応答とドリルと小テストの問題を解明できる。	
		事前学修	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
4	10/7	ポイントを説明	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被　；可能性を推測、判断することを表 す：会	
		この回の到達目標	本文の翻訳とうまく読むことができる	
		事前学修	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第9課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答； 修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
5	10/14	会話練習と朗読の訓練	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テスト のチェック； 会話練習と朗読の訓練。	
		この回の到達目標	粗筋について話しすることができる	
		事前学修	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完 成。	60分
		事後学修	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字）	60分
6	10/21	ポイントについて解説	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない：不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補 語；本文の解釈と朗読	
		この回の到達目標	本文の解釈と正しく発音で読める	
		事前学修	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。作文を提出準備	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問 について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ドリルと小テストチェック	第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱できる	
		事前学修	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
8	11/11	ポイントについて説明	①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。	
		この回の到達目標	文の解説と関連接続語の応用ができる	
		事前学修	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
9	11/18	ドリルと小テストチェック	第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	本文2の質問について応答でき、日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
		事前学修	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
10	11/25	ポイントについて説明	ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	本文の解釈と正しく朗読できる	
		事前学修	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
11	12/2	ドリルと小テストチェック	第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	本文の朗読；粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答できる。	
		事前学修	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
12	12/9	ポイントについて説明	ポイントについて説明： 聞くところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読	
		この回の到達目標	本文を解釈と粗筋をはなせる	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	ドリルと小テストチェック	第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
		事前学修	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。）	60分
		事後学修	第12課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 (30分)	60分
14	12/23	ポイントについて説明	ポイントについて説明： 連動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；	
		この回の到達目標	口頭で本文の内容について話せる。	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	期末テスト範囲の復習をする：ポイントの例文と小テスト3、4の問題	60分
15	1/13	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	試験問題の回答ができる	
		事前学修	テスト範囲の復習をする	60分
		事後学修	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！	60分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡA	担当者	于 曉飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる。								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック；自己紹介と挨拶	
		この回の到達目標	講義の進め方と教材を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備。	60分
		事後学修	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。	60分
2	4/15	「動詞+在」	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習 文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。	
		この回の到達目標	動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・を理解し、使用できるようにする。	
		事前学修	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
3	4/22	日中文化の相違点	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、中国語で表現できるようにする。	
		事前学修	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。	60分
		事後学修	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
4	4/29	比較表見	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了”を使用できるようにする。	
		事前学修	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。	60分
5	5/6	復習と練習	事前学習の内容について、練習と解明	
		この回の到達目標	ここまでの復習と練習をする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
6	5/13	累加関係を表す複文	ポイント：累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現。	
		この回の到達目標	累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	第3課の全般的応用練習	第3課の内容について、全般的応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、本文の朗読し、作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
8	5/27	前置詞の用法	ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。	
		この回の到達目標	同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べることができるようにする。	
		事前学修	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
9	6/3	第4課の全般的応用練習	第4課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	前置詞の使用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
10	6/10	接続詞と時間推移表現	ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現；程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第5課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分
11	6/17	第5課の全般的応用練習	第5課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
		この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、応用作文できるようにする。	
		事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
		事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。日中文化について作文：テーマ自由（200字）	60分
12	6/24	強調する表現	ポイントの説明：～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス 着る；本文の解釈；作文を提出	
		この回の到達目標	～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第6課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	強調構文と比較表現	ポイントについて説明：前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・する；本文の解釈と朗読訓練	
		この回の到達目標	前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・するの表現方法を理解し、作文できるようにする。	
		事前学修	第7課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
		事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
14	7/8	復習と期末テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	全般の復習、期末の筆記テストを実施する。	
		事前学修	全面復習： テスト範囲：1課～7課までのポイントの例文 2小テストの問題3，4	60分
		事後学修	今まで勉強したことを復習練習すること。	60分
15	7/15	中国語ヒアリング	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞	
		この回の到達目標	中国人の生活の会話をどのくらい聞き取ることができるかの能力を判定する。	
		事前学修	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。	60分
		事後学修	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（	60分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる。								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20								60

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	夏休み宿題を発表	夏休み宿題の口頭発表 講評	
		この回の到達目標	作文を口頭発表できること。	
		事前学修	夏休みの作文を完成、発表の準備する。	60分
		事後学修	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。	60分
2	9/23	断定の口調を強める表現	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。	
		この回の到達目標	「是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不　」について理解し、本文の解釈できる。	
		事前学修	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第8課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。	60分
3	9/30	応用練習	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答　③ドリルと小テストの問題を解明する。	
		この回の到達目標	本文の粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答とドリルの問題を解明することができる。	
		事前学修	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
4	10/7	ポイントを説明	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被　；可能性を推測、判断することを表す：会	
		この回の到達目標	本文の翻訳とうまく読むことができる	
		事前学修	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	第9課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
5	10/14	会話練習と朗読の訓練	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テストのチェック； 会話練習と朗読の訓練。	
		この回の到達目標	本文の熟読、粗筋について話しすることがうまくできる	
		事前学修	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完成。	60分
		事後学修	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字）	60分
6	10/21	条件関係を表す複文	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない：不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈と朗読	
		この回の到達目標	条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈でき、朗読も正しく表現できるようにする。	
		事前学修	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。作文を提出準備	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ドリルと小テストチェック	第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱できる	
		事前学修	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
8	11/11	逆接関係を表す	①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。	
		この回の到達目標	文の解説と関連接続語の応用ができる	
		事前学修	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
9	11/18	応用練習	第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	文2の質問について応答でき、日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
		事前学修	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
10	11/25	本文の解釈と朗読練習	ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習	
		この回の到達目標	本文の解釈と正しく朗読できる	
		事前学修	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分
11	12/2	応用練習	第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	日本文の朗読；粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答できる。	
		事前学修	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
12	12/9	条件関係を表す。	ポイントについて説明： 聞くところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読	
		この回の到達目標	本文を解釈と粗筋をはなせる	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	応用練習	第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
		この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の粗筋を暗唱することができる。	
		事前学修	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。	60分
		事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話し てみる。	60分
14	12/23	ポイントについて説明	ポイントについて説明； 連動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；	
		この回の到達目標	本文の粗筋を暗唱することができる。	
		事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日 本語に翻訳してみる。	60分
		事後学修	期末テスト範囲の復習をする：ポイントの例文と小テスト3、4の問題	60分
15	1/13	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
		この回の到達目標	ポイントの練習問題を理解し、試験問題を回答できる。	
		事前学修	テスト範囲の復習をする	60分
		事後学修	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！	60分

科目名	日本語 I	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。						1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。										1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。						1							
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。	50分
2	4/14	講義の受け方	講義はどのような姿勢で受けるのか、また講義メモはどのように取るのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の受け方や講義メモの取り方を理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
3	4/21	教科書の読み方	講義で指定された教科書をどのように読み取るのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、教科書の情報を正確に読み取ることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
4	4/28	レポートの言葉遣いについて	話し言葉と書き言葉の違いを理解し、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レポートは適切な漢字と書き言葉を使って書くことを理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	5/5	分かりやすい文章について	読みやすい文章を書く上で必要な注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読みやすい文書とはどのようなものか気づくことができる。レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	5/12	分かりやすい文章の書き方	文章の構成とはどのようなものかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の構成がいかに重要であるか理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	引用の方法	自分の考えと他人の考えをどのように区別するのかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、引用の方法を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	30分
8	5/26	筋の通った文章について	パラグラフとは何かを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筋の通った文章はいかに読みやすいかを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
9	6/2	インターネットを使った情報収集について	インターネットを使った情報収集の注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットを使った情報収集の注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
10	6/9	図解から情報を読み取る方法	グラフや図表から、どのように情報を読み取るのかを考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グラフや図表から適切に情報を読み取ることができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
11	6/16	文章の種類について	文章の種類とその違いを理解する。また、レポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の種類とその違いに気づくことで、レポートとの違いを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
12	6/23	記録文と説明文の違いについて	記録文と説明文の違いを理解する。またレポートで使う漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、記録文と説明文との違いに気づくことで、レポートとの違いを更に理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	自分の考えの伝え方	自分の考えはどのように伝えるべきか、その注意点を考える。また、レポートで使用する漢字を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の考えを適切に伝えるための注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。またこれまでの漢字のテスト不正解を確認しておく。	50分
14	7/7	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	7/14	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要かを理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語 I	担当者	田中 拓郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。						1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。										1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。						1							
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション・導入 講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
		この回の 到達目標	授業の形式を理解し、日本語学習の方法について学ぶ	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木4/16	論説文の読解1	漢字テスト No. 1～No. 50 論説文読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	段落の構成と内容把握の概略を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 1～No. 50） 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	第一部 木4/23	小説の読解1	漢字テスト No. 51～No. 100 小説読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	心情描写の表現と小説独特の書体を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 51～No. 100） 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 1～No. 50）の間違った箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	第一部 木4/30	論説文の読解2	漢字テスト No. 101～No. 150 論説文読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	抽象的な文章の読解と、具体例から内容を把握する方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 101～No. 150） 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 51～No. 100）の間違った箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	第一部 木5/7	小説の読解2	漢字テスト No. 151～No. 200 小説読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	具体的な記述によって心情を描く文章の読解方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 151～No. 200） 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 101～No. 150）の間違った箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	第一部 木5/14	論説文の読解3	漢字テスト No. 201～No. 250 論説文読解（問題演習）	
		この回の 到達目標	内容把握と記述による表現方法の関連を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 201～No. 250） 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 151～No. 200）の間違った箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	小説の読解3	漢字テスト No. 251～No. 300 小説読解（問題演習）	
		この回の到達目標	擬音語、擬態語、副詞による場面描写の読み解き方を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違った箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	第一部 木5/28	論説文の読解4	漢字テスト No. 301～No. 350 論説文読解（問題演習）	
		この回の到達目標	一般論と具体例、抽象概念と具体例が入り乱れる文章を読み解く	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違った箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	第一部 木6/4	随想の読解1	漢字テスト No. 351～No. 400 随想読解（問題演習）	
		この回の到達目標	「事実」と「意見」の区別を、記述の特徴から理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 351～No. 400） 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 301～No. 350）の間違った箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	第一部 木6/11	論説文の読解5	漢字テスト No. 401～No. 450 論説文読解（問題演習）	
		この回の到達目標	比喩の種類、および比喩による説明の特徴を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 401～No. 450） 論説文5の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 351～No. 400）の間違った箇所を確認する 論説文5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	第一部 木6/18	随想の読解2	漢字テスト No. 451～No. 500 随想読解（問題演習）	
		この回の到達目標	導入ー背景ー本論ー結論の流れと段落構成を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 451～No. 500） 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 401～No. 450）の間違った箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	第一部 木6/25	論説文の読解6	漢字テスト No. 501～No. 550 論説文読解（問題演習）	
		この回の到達目標	論理接続詞による内容のつながりと文章構造のしくみを理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 501～No. 550） 論説文6の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 451～No. 500）の間違った箇所を確認する 論説文6を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	小説の読解4	漢字テスト No. 551～No. 600 小説読解（問題演習）	
		この回の到達目標	時間の流れと登場人物の心情のうつりかわりを把握する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 551～No. 600） 小説4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 501～No. 550）の間違った箇所を確認する 小説4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	第一部 木7/9	随想の読解3	漢字テスト No. 601～No. 650	
		この回の到達目標	暗喩による表現、および比喩を具体論に落とし込むための読解方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 601～No. 650） 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 551～No. 600）の間違った箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	第一部 木7/16	期末試験	期末試験、および解答と解説	
		この回の到達目標	14回の授業を通して理解した読解能力を確認する	
		事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内、もしくはポータルにて講評する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	50分
2	9/22	課題図書を読む	短い文章を読んで、内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達科目①に関連して、短い課題図書の内容を理解し、まとめることができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
3	9/29	インタビュー調査	インタビューを開き取る。	
		この回の到達目標	到達科目①に関連して、インタビューを正確に聞き取ることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
4	10/6	プレゼンテーションの準備	課題図書の本文とインタビューの内容をもとに、レジメを作成する方法を理解する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、短時間のプレゼンをするためのレジメを作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	10/13	テキストを読む	専門分野のテキストを読んで、内容をまとめる。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、テキストの内容を適切にまとめることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	10/20	プレゼンテーションの準備	レジメを作成するために、プレゼンテーションの仕方や手順を考える。	
		この回の到達目標	到達科目②に関連して、プレゼンテーションの仕方や手順を理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	プレゼンテーションの読み原稿を書く	レジュメに合わせた読み原稿を作成する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、レジュメに合わせた読み原稿を作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
8	11/10	スピーチを聞く	スピーチのチラシから、キーワードを知る。	
		この回の到達目標	到達科目①に関連して、スピーチのキーワードを知ることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
9	11/17	スピーチを聞く	スピーチを聞いてメモを取り、内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを聞いてメモを取ったり、内容を理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
10	11/24	スピーチを聞く	スピーチの内容を聞いて、質問を考える。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチの内容に基づいて質問内容を考えることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
11	12/1	質疑応答	スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
12	12/8	スピーチを書く	スピーチのアウトラインを作成する	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチのアウトラインを作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	スピーチを書く	スピーチを作成する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを作成することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	12/22	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	1/12	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達科目①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかにより必要かを理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅱ	担当者	田中 拓郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
前期「日本語1」からの継続授業。

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	前期授業（日本語1）と同様。毎回、「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で、答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	オリエンテーション・導入 講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
		この回の 到達目標	日本語学習の方法、授業の進め方を理解する	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木9/24	論説文の読解1	漢字テスト No. 651～No. 700 論説文(1)の読解演習	
		この回の 到達目標	イメージ的な抽象表現から主張の具体例を導く	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 651～No. 700) 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	第一部 木10/1	小説の読解1	漢字テスト No. 701～No. 750 小説(1)の読解演習	
		この回の 到達目標	小説の場面展開と段落構成の関係を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 701～No. 750) 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト(No. 651～No. 700)の間違った箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	第一部 木10/8	論説文の読解2	漢字テスト No. 751～No. 800 論説文(2)の読解演習	
		この回の 到達目標	論説文に頻出する用語の確認と使用例を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 751～No. 800) 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 701～No. 750) の間違えた箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	第一部 木10/15	小説の読解2	漢字テスト No. 801～No. 850 小説(2)の読解演習	
		この回の 到達目標	文語文、擬古文の読解方法を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 801～No. 850) 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 751～No. 800) の間違えた箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	第一部 木10/22	随想の読解1	漢字テスト No. 851～No. 900 随想(1)の読解演習	
		この回の 到達目標	記述者の視点の違いによる描写の差異を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 851～No. 900) 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 801～No. 850) の間違えた箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	小説の読解3	漢字テスト No. 901～No. 950 小説(3)の読解演習	
		この回の到達目標	主語・目的語が明示されていない行為文から場面の展開を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 901～No. 950) 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 851～No. 900) の間違えた箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	第一部 木11/5	論説文の読解3	漢字テスト No. 951～No. 1000 論説文(3)の読解演習	
		この回の到達目標	哲学的文章の読解練習を行い、抽象的概念や一般論の読み解き方を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 951～No. 1000) 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 901～No. 950) の間違えた箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	第一部 木11/12	随想の読解2	漢字テストNo. 1001～No. 1050 随想(2)の読解演習	
		この回の到達目標	通常とは異なる意味で使われている語句の意味を、文脈から理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1001～No. 1050) 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 951～No. 1000) の間違えた箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	第一部 木11/19	論説文の読解4	漢字テスト No. 1051～No. 1100 論説文(4)の読解演習	
		この回の到達目標	異なる時代、異なる文化的背景に基づく論説を読み解く	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1051～No. 1100) 論説文4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1001～No. 1050) の間違えた箇所を確認する 論説文4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	第一部 木12/3	随想の読解3	漢字テストNo. 1101～No. 1150 随想(3)の読解演習	
		この回の到達目標	外国人から見た日本文化論を読み解く	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1101～No. 1150) 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1051～No. 1100) の間違えた箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	第一部 木12/10	評論文の読解1	漢字テストNo. 1151～No. 1200 評論文(1)の読解演習	
		この回の到達目標	事実と意見のつながりと根拠の揃え方を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習 (No. 1151～No. 1200) 評論文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト (No. 1101～No. 1150) の間違えた箇所を確認する 評論文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/10	随想の読解4	漢字テストNo. 1201～No. 1250 随想(4)の読解演習	
		この回の到達目標	「個別事象の描写」と「一般論の展開」の区別を理解する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 1201～No. 1250） 随想4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 1151～No. 1200）の間違った箇所を確認する 随想4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	第一部 木12/24	随想の読解5	漢字テスト No. 1251～No. 1300 随想(5)の読解演習	
		この回の到達目標	複数のトピックが入り乱れる文章の主張文を整理する	
		事前学修	漢字テストの予習（No. 1251～No. 1300） 随想5の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
		事後学修	返却された漢字テスト（No. 1201～No. 1250）の間違った箇所を確認する 随想5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	第一部 木1/14	期末試験、および解答と解説	期末試験、および解答と解説	
		この回の到達目標	14回の授業を通して理解した読解能力を確認する	
		事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	60分

科目名	日本語Ⅲ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのかを把握することができる。				1	1		1				
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									1	1	
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上して いるかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、 noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。	40分
2	4/13	(教科書)「大学の魅力」	大学はどのような場所なのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学は学問をする場所であり、学問は創造的な問いかけをすることだと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
3	4/20	(教科書)「大学の魅力」	大学の魅力を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学の最終目標が知的可能性の探求であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
4	4/27	(教科書)「有意義な大学生活と学習・研究」	高校との違いを踏まえ、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを決めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	5/4	(教科書)「有意義な大学生活と学習・研究」	学修・研究をいかにするのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、学修・研究を成功させるためのスタディースキルを修得することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	5/11	(教科書)「大学の学習・研究の実際」	自分の目標に合わせた履修計画を立て、学修計画の重要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の目標に合わせた学修計画の重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	(教科書)「大学の学習・研究の実際」	自主学習の必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自主学習の必要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
8	5/25	(教科書)「ノートを取り方」	大学ではなぜノートを取るのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学ではノートを取り、まとめて、保管し、上手に利用することが学生の責任であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
9	6/1	(教科書)「ノートを取り方」	よい講義ノートとはどのようなノートなのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義ノートは講義後、それを基に内容を復元できるものと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
10	6/8	(教科書)の読解」	関連知識の必要性と整理の重要性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、読解力を向上させるために日頃から様々な知識を蓄えてくことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
11	6/15	(教科書)の読解」	読む習慣を身につける必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、目的によって読解の方法が異なることと、読む習慣がいかに重要かを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
12	6/22	(教科書)「情報収集」	どのような目的でどのような情報を探しているのかはつきりさせる必要があることを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、情報を収集する際には目的を明確にすれば効率がよいことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	(教科書)「情報収集」	収取した情報は、規格化、再利用、情報源の明記を心掛けて整理しておくことを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、収集した情報を整理する重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習しておく。	50分
14	7/6	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	7/13	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要なかを理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅳ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのか明確に把握することができる。				2	2		2				
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									2	2	
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				2							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上して いるかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、 noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	9/21	(教科書)「インターネット」	大学生活をサポートするインターネット利用で心得るべきことを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、インターネットの利用規定の内容を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
3	9/28	(教科書)「インターネット」	コミュニケーションツールとしての電子メールのマナーを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ネチケットについて調査をし、深く理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
4	10/5	(教科書)「テーマの選び方」	レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	10/12	(教科書)「テーマの選び方」	トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	10/19	(教科書)「情報の整理」	一次資料と二次資料の違いを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、二次資料は理解を深めるのに必要な資料だが、それをまとめたり発表に使えないことを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	(教科書)「情報の整理」	『あしながおじさん』を例に、質的な情報をどのように整理するかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一次資料を使用して、どのようなことでも新しい知見を引き出すことができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
8	11/9	(教科書)「書くことの重要性」	「読む」とことと「書く」とことの関連性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、研究における「書く」とことの重要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
9	11/16	(教科書)「書くことの重要性」	「書く」とことの意味を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、上手な文章の書き方の基本について考えることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
10	11/23	(教科書)「レポートや論文を書く」	レポートとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートを書く際の重要なポイントを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
11	11/30	(教科書)「レポートや論文を書く」	良いレポートの書き方を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、引用と剽窃の区別ができたり、説得力のあるレポートとはどのようなものを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
12	12/7	(教科書)「プレゼンテーション」	効果的なプレゼンテーションとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、準備を始める前から問題意識を持つ必要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	(教科書)「テストの準備と受け方」	大学のテストがいかに重要か、またその種類や内容を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学のテストの重要性やその種類と内容を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
14	12/21	(教科書)「テストの準備と受け方」	テストの準備と受験について、どのような点に注意すべきかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、テスト時間割の確認と学修計画の作成ができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	1/18	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分

科目名	日本語Ⅴ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書に従って進める。また、各テーマごとに復習テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7	東京書籍	2009年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、将来に向けて今後どの程度の日本語能力が必要かを考えることができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	4/14	(教科書)「はじめに」	日本語能力のトレーニングを始めるにあたり、日本語の適切さがどのように決まるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、あいまいな文や言葉の誤変換を通して、適切な日本語とはどのように決まるのかを理解することができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
3	4/21	(教科書)「敬語の種類と使い分け」	敬語の種類（時に尊敬語・謙譲語）と使い分けについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敬語の種類と使い分けについて理解を深めることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
4	4/28	(教科書)「敬語の種類と使い分け」	尊敬語と謙譲語を使う場面を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、敬語の使い方に注意しながら実際に近い場面で適切な敬語を使うことができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
5	5/5	(教科書)「注意すべき敬語」	尊敬語・謙譲語の混同、二重敬語・マニュアル敬語といった日常よく耳にする表現の間違いを気づくようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常よく間違える敬語を理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
6	5/12	(教科書)「注意すべき敬語」	間違った敬語を適切な敬語に書き換えるには、どのような点に注意すべきかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、間違った敬語を適切な敬語に書き改めることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	(教科書)「配慮を示す言葉」	円滑な人間関係を確立したり、維持するための言語行動の考え方を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敢えて敬語を使わないことが相手との円滑な人間関係を維持するために必要な場合があることを理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
8	5/26	(教科書)「配慮を示す言葉」	円滑な人間関係を確立したり、維持するため、敬語だけにとどまらない適切な配慮表現とは何かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、忌み言葉やほのめかしの表現を身につけることができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
9	6/2	(教科書)「ら抜きことば・レタス言葉・さ入れ言葉」	ら抜き言葉、レタス言葉を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ら抜き言葉、レタス言葉は間違いだと理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
10	6/9	(教科書)「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」	さ入れ言葉を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、さ入れ言葉は間違いだと理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
11	6/16	(教科書)「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」	長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語が対応しているか判別する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語がきちんと対応しているか判別することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
12	6/23	(教科書)「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」	文が複数の意味を持つあいまいな文は不適切な文であると理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文が複数の意味を持つあいまいな文は不適切な文であると理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	(教科書)「接続詞・接続語と文章」	接続語・指示語の用法を整理して、文の論理関係や文章の展開について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続語・指示語の用法を整理して、文の論理関係や文章の展開について理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	7/7	(教科書)「接続詞・接続語と文章」	連接関係を理解して、文章を読んで筆者の意見を正確に把握したり、自分の意見をより効果的に伝える文章を書くための基礎知識を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連接関係を理解して、文章を読んで筆者の意見を正確に把握したり、自分の意見をより効果的に伝える文章を書くための基礎知識を身につけることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	7/14	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を更に深めることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
		事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅴ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活で必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
演習形式。実際に作文を書く課題をもとに、その内容についてディスカッションする形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	作文、小論文の演習を行う。答案はすべて添削のうえ返却し、良い点と改良すべき点を授業で説明する。答案作成（アウトプット）とフィードバック（インプット）の両面から、作文能力の向上をはかる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。					2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。								2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。					2			2	2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各演習問題で作成した答案に直接添削を行う。直すべき点のポイントと改良の方法を、授業で説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション・導入講義	授業の基本的な流れを説明し、日本語の作文力を高めるための学習方法について学ぶ	
		この回の到達目標	日本語の作文の勉強方法について理解する	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の流れと構成を理解する	20分
		事後学修	日本語作文の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木4/16	日本語で作文を書く際の注意点	作文の種類と、段落構成の概要について。課題作文1「ことばと学習」のアウトライン作り	
		この回の到達目標	日本語文章の「型」について理解する	
		事前学修	「問題提起」「意見提示」の構成と、表現および語彙について確認する	20分
		事後学修	課題作文1「ことばと学習」の作文を完成させる	60分
3	第一部 木4/23	作文の文体	書き言葉の表現、語彙を学習する。原稿用紙の使い方を確認する。課題作文2「日本での体験」のアウトライン作り	
		この回の到達目標	話し言葉や流行語を使わず、フォーマルな表現で作文を書く	
		事前学修	課題作文1「ことばと学習」の確認と提出 常体（「～だ」「～である」）表現の予習と確認	30分
		事後学修	文体の違いを確認する。課題作文2「日本での体験」の作文を完成させる	90分
4	第一部 木4/30	メモの取り方	課題のポイントを考え、アイデアメモをつくる方法を学ぶ。課題作文3「ごみの分別」のアウトライン作り。課題作文1「ことばと学習」のフィードバック	
		この回の到達目標	課題に即したアウトラインのメモを作れる	
		事前学修	配布教材でアウトラインの役割について理解する。課題作文2「日本での体験」の確認と提出	30分
		事後学修	メモのとりかたの復習。課題作文3「ごみの分別」の作文を完成させる	90分
5	第一部 木5/7	「問題提起」の書き方	書き始めの段落（問題提起）の内容と表現を学ぶ。課題作文4「察しの文化」のアウトライン作り。課題作文2「日本での体験」のフィードバック	
		この回の到達目標	作文の第一段落を適切に書けるようになる	
		事前学修	段落の役割について確認する。課題作文3「ごみの分別」の確認と提出	30分
		事後学修	問題提起の表現、内容について確認する。課題作文4「察しの文化」の作文を完成させる	90分
6	第一部 木5/14	「意見提示」の書き方	第二部に相当する「意見提示」の内容と表現を学ぶ。課題作文5「遺伝子治療の賛否」のアウトライン作り。課題作文3「ごみの分別」のフィードバック	
		この回の到達目標	論理接続詞の使い、意見を提示する表現を身につける	
		事前学修	接続詞の使い方と意味について確認する。課題作文4「察しの文化」の確認と提出	30分
		事後学修	意見提示の表現について確認する。課題作文5「遺伝子治療の賛否」の作文を完成させる	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	「展開」の書き方	根拠をもとに自分の意見を幅広く展開する表現について学ぶ。課題作文6「手間と無駄の功罪」のアウトライン作り。課題作文4「察しの文化」のフィードバック	
		この回の到達目標	単なる羅列ではなく、文章として根拠を展開する書き方を身につける	
		事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文5「遺伝子治療の賛否」の確認と提出	30分
		事後学修	「展開」の表現について確認しておく。課題作文6「手間と無駄の功罪」の作文を完成させる	90分
8	第一部 木5/28	「結論」の書き方	文章全体をまとめ、結論にむけて文章を整える方法を学ぶ。課題作文7「知的生産の技術」のアウトライン作り。課題作文5「遺伝子治療の賛否」のフィードバック	
		この回の到達目標	各段落の役割が明確な文章を完成させることができる	
		事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文6「手間と無駄の功罪」の確認と提出	30分
		事後学修	「結論」の表現について確認しておく。課題作文7「知的生産の技術」の作文を完成させる	90分
9	第一部 木6/4	グラフ、表、資料の読み取り方	提示された資料をもとに主張を展開するための方法を学ぶ。課題作文8「歴史とは何か」のアウトライン作り。課題作文6「手間と無駄の功罪」のフィードバック	
		この回の到達目標	様々な資料を根拠として主張を展開することができる	
		事前学修	配布された資料を読み、課題の問題を解いておく。課題作文7「知的生産の技術」の確認と提出	30分
		事後学修	資料をもとにした主張の展開方法を確認する。課題作文8「歴史とは何か」の作文を完成させる	90分
10	第一部 木6/11	異なる意見を比べる	様々な立場の意見を取り入れ、比較して判断する文章の書き方を学ぶ。課題作文9「動物愛護の賛否」のアウトライン作り。課題作文7「知的生産の技術」のフィードバック	
		この回の到達目標	様々な意見を客観的に読み取り、比較することができる	
		事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文8「歴史とは何か」の確認と提出	30分
		事後学修	意見の比較の方法を確認する。課題作文9「動物愛護の賛否」の作文を完成させる	90分
11	第一部 木6/18	反論の方法	他人の主張に対して、効果的に反論をする方法を学ぶ。課題作文10「選挙制度」のアウトライン作り。課題作文8「歴史とは何か」のフィードバック	
		この回の到達目標	主張に対する反論する方法を身につける	
		事前学修	課題文を読み、展開されている主張をまとめておく。課題作文9「動物愛護の賛否」の確認と提出	30分
		事後学修	反論の方法について確認する。課題作文10「選挙制度」の作文を完成させる	90分
12	第一部 木6/25	データや資料の活用	ひとつのデータから複数の主張を導き、データの適切な運用について学ぶ。課題作文11「食料自給率」のアウトライン作り。課題作文9「動物愛護の賛否」のフィードバック	
		この回の到達目標	特定のデータや資料から双方向の議論を展開できる。	
		事前学修	配布された資料を読み、データから読み取れることをまとめておく。課題作文10「選挙制度」の確認と提出	30分
		事後学修	データの活用方法について確認する。課題作文11「食料自給率」の作文を完成させる	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	具体例と一般論の区別	個別事象と一般論を区別し、それらを混同した議論に反論する。期末課題の説明とアウトラインの作成。課題作文10「選挙制度」を完成させる	
		この回の到達目標	具体例と一般論を混同した議論を指摘できる	
		事前学修	課題文を読み、反論すべき問題点を確認しておく。課題作文11「食料自給率」の確認と提出	30分
		事後学修	具体例と一般論の区別について確認する。期末課題の答案作成（期限は2週間）	90分
14	第一部 木7/9	作文に必要な事項についてのまとめ	期末課題を執筆するために必要な内容を総復習する。課題作文11「食料自給率」のフィードバック	
		この回の到達目標	日本語作文に必要な事項を理解する	
		事前学修	配布されたチェックリストを確認し、いままで演習で行った自分の作文を自己採点しておく	60分
		事後学修	チェックリストの内容を確認する。期末課題の答案作成（期限は2週間）	120分
15	第一部 木7/16	期末課題の提出とフィードバック	期末課題についての説明とフィードバック	
		この回の到達目標	学期間に学んだことを活かして日本語作文を執筆できる	
		事前学修	期末課題答案の確認と提出	30分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅵ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書に従って進める。また、各テーマごとに復習テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7	東京書籍	2009年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）の場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、将来に向けて今後どの程度の日本語能力が必要かを考えることができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
		事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	9/22	(教科書)「類義語・対義語」	細かな意味や微妙な意味合いの違いをつかみ、語感を鍛える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、細かな意味や微妙な意味合いの違いを理解し、語感を鍛えることができる。	
		事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
3	9/29	(教科書)「類義語・対義語」	和語、漢語、カタカナ語という語種の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、和語・漢語・カタカナ語という語種の違いを理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
4	10/6	(教科書)「文体、話し言葉・書き言葉」	言語運用の適切さを決定づける条件によって、「文体」を使い分ける必要性と、その使い分けのポイントを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、言語運用の適切さを決定づける条件によって、「文体」を使い分ける必要性と、その使い分けのポイントをより深く理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	10/13	(教科書)「文体、話し言葉・書き言葉」	「書き言葉的」文体での留意点を押さえ、これを考慮した言葉の知識の応用を目指す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「書き言葉的」文体での留意点を押さえ、これを考慮した言葉の知識の応用ができるようになる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	10/20	(教科書)「コロケーション」	慣用的な言葉のつながりについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	(教科書)「コロケーション」	間違いやすいコロケーションとは何かを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、間違いやすいコロケーションを理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
8	11/10	(教科書)「部首・音訓・熟語」	漢字についての基本事項について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、漢字について、部首・音訓に関する基本事項を理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
9	11/17	(教科書)「部首・音訓・熟語」	熟語の読み方、構成について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、熟語の読み方とその構成について理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
10	11/24	(教科書)「送り仮名」	現代仮名遣いの適切な使い方について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代仮名遣いの適切な使い方について深く理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
11	12/1	(教科書)「送り仮名」	送り仮名の付け方について、注意すべき点を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、送り仮名の付け方について深く理解することができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
12	12/8	(教科書)「総合問題」	報告書の下書きを読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、報告書の下書きにおける不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	(教科書)「総合問題」	手紙文を読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙文における不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	12/22	(教科書)「総合問題」	小論文を読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小論文における不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
		事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	1/12	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を更に深めることができる。	
		事前学修	後期授業内容を復習する。(40分)	150分
		事後学修	試験で間違った問題を再度復習する。(30分)	30分

科目名	日本語VI	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
前期授業（日本語V）を履修していることが望ましい。

【授業方法】
演習方式。実際に論文を書くプロセスを演習によって敷衍し、大学生活におけるレポートや学術論文の書き方を段階ごとに実践する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題となる設問を予習として解いてくこと。授業では、提出された課題をもとに良い点と改良点をディスカッションする。期末には実際に論文を書き、理解の定着をはかり確認を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題で提出された答案にはすべて個別に添削講評を行う。全員の答案を授業内で比較し、ディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する	
		この回の到達目標	授業の流れを理解し、レポート・論文を執筆するための勉強法を理解する	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	レポート、論文の基本についておさらいし、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木9/24	論文の概略	論文の構成、作り方、まとめ方、種類について理解する。課題1「段落の内容を絞る」の解説	
		この回の到達目標	「論文」に必要な条件を理解する	
		事前学修	課題1「段落の内容を絞る」の答案作成	40分
		事後学修	論文の概略について復習し、授業の内容を確認する。課題1の復習	45分
3	第一部 木10/1	テーマの見つけ方	データや資料をもとにテーマを見つける方法について学ぶ。課題2「文の長さ」の解説	
		この回の到達目標	適切なテーマと不適切なテーマの違いについて理解する	
		事前学修	課題2「文の長さ」の答案作成	40分
		事後学修	テーマの見つけ方について復習し、授業の内容を確認する。課題2の復習	45分
4	第一部 木10/8	データの種類	テーマの基本となるデータ、資料の見分け方を種類について学ぶ。課題3「読み違いの表現」の解説	
		この回の到達目標	論文に必要なデータの種類を理解する	
		事前学修	課題3「読み違いの表現」の答案作成	40分
		事後学修	データの種類について復習し、授業の内容を確認する。課題3の復習	45分
5	第一部 木10/15	計量的データの利用方法	事柄データ、数量データ、文章データの種類を理解し、データ解釈の演習を行う。課題4「否定文と肯定文」の解説	
		この回の到達目標	データを正しく読み取り、問題を汲み取ることができる	
		事前学修	課題4「否定文と肯定文」の答案作成	40分
		事後学修	データの種類ごとに解釈の方法を確認する。課題4の復習	45分
6	第一部 木10/22	図表に関する表現	図表、数、資料、調査、実験を引用する際の表現と形式を学ぶ。課題5「受動態と能動態」の解説	
		この回の到達目標	論文に図表を適切な表現と形式で引用することができる	
		事前学修	課題5「受動態と能動態」の答案作成	40分
		事後学修	図表について復習し、授業の内容を確認する。課題5の復習	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	資料に関する表現	古語や外国語の資料の提示のしかた、調査の概要や実験の概要を示す表現と形式を学ぶ。課題6「直訳調、漢語調の表現」の解説	
		この回の到達目標	論文に資料を適切な表現と形式で引用することができる	
		事前学修	課題6「直訳調、漢語調の表現」の答案作成	40分
		事後学修	資料の種類と引用方法について復習し、授業の内容を確認する。課題6の復習	45分
8	第一部 木11/5	本論の構成	「問い」「仮説」「予測」「検証」の内容について理解し、本論で書くべき内容を理解する。課題7「漢字熟語の動詞」の解説	
		この回の到達目標	論文の本体となる内容の構成について理解する	
		事前学修	課題7「漢字熟語の動詞」の答案作成	40分
		事後学修	本論の役割と構成について復習し、授業の内容を確認する。課題7の復習	45分
9	第一部 木11/12	問題提起の表現	「データの提示」「疑問点の指摘」「目的の表示」「問題解決の方法」の内容と表現について学ぶ。課題8「漢字とひらがなの使い分け」の解説	
		この回の到達目標	問題提起の表現と内容について理解する	
		事前学修	課題8「漢字とひらがなの使い分け」の答案作成	40分
		事後学修	問題提起の内容と表現について復習し、授業の内容を確認する。課題8の復習	45分
10	第一部 木11/19	検証の表現	「予測（インプリケーション）」から資料や実験による「検証」につなげる内容と表現について学ぶ。課題9「主語と述語の距離」の解説	
		この回の到達目標	検証の節の役割と表現について理解する	
		事前学修	課題9「主語と述語の距離」の答案作成	40分
		事後学修	検証の方法と役割について復習し、授業の内容を確認する。課題9の復習	45分
11	第一部 木12/3	結論の表現	結びの役割、全体のまとめ、評価、展望提示の内容と表現についてそれぞれ学ぶ。課題10「修飾語と被修飾語の呼応」の解説	
		この回の到達目標	結論の段落の構成と表現を理解する	
		事前学修	課題10「修飾語と被修飾語の呼応」の答案作成	40分
		事後学修	結論の書き方と内容について復習し、授業の内容を確認する。課題10の復習	45分
12	第一部 木12/10	展開の技術	「例を挙げる」「対比する」「類似点を挙げる」「相違点を指摘する」「注目させる」「推論を示す」の表現の演習を行う。課題11「誤解を招く多義語」の解説	
		この回の到達目標	議論を展開し、持論を補強する表現を身につける。	
		事前学修	課題11「誤解を招く多義語」の答案作成	40分
		事後学修	展開の表現について復習し、授業の内容を確認する。課題11の復習	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	論文の体裁を整える	表題、要旨、キーワード、目次、付記、注、参考文献、付録の書体と内容について学ぶ。課題12「接続詞の注意点」の解説	
		この回の到達目標	論文に必要な要素を理解し、適切な書体に仕上げることができる	
		事前学修	課題12「接続詞の注意点」の答案作成	40分
		事後学修	論文の体裁を整えるための要素について復習し、授業の内容を確認する。課題12の復習	45分
14	第一部 木12/24	論文の最終チェック	チェックリストをもとに、自分の書いた論文を最終確認するための方法について学ぶ。課題13「間違いやすい助詞」の解説	
		この回の到達目標	論文を推敲し、ミスのない論文を仕上げることができる	
		事前学修	課題13「間違いやすい助詞」の答案作成	40分
		事後学修	論文の最終チェックについて復習し、授業の内容を確認する。課題13の復習	45分
15	第一部 木1/14	最終課題の提出、および解答と解説	最終レポートの提出、および解答と解説を行い、フィードバックを行う	
		この回の到達目標	自力でレポート・論文を完成させることができる	
		事前学修	今までの演習、授業内容をすべて復習し、期末試験に備える	120分
		事後学修	最終レポートのフィードバックをよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅶ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
履修生に課題を出し、添削の上で教場にて返却する。遅刻・欠席は厳しく取り、原則として認めない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				3						
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。						3				
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。							3			3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。								3		
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	15	15									30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。			30	30							60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編	アカデミックジャパニーズ研究会	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み中、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。日本語について。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、自己紹介を行うことができる。	
		事前学修	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。	120分
		事後学修	日本語の特徴について調べておくこと。講義内容の復習をしておくこと。	120分
2	第一部 水 4/15	テーマに沿った文章を読む 1	第1課「言葉の役割」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第1課「言葉の役割」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第1課「言葉の役割」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	第一部 水 4/22	テーマに沿った文章を読む 2	第2課「イルカと超音波」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第2課「イルカと超音波」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第2課「イルカと超音波」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	第一部 水 4/29	テーマに沿った文章を読む 3	第3課「地図の分類」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第3課「地図の分類」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第3課「地図の分類」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	第一部 水 5/6	テーマに沿った文章を読む 4	第4課「睡眠時間」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第4課「睡眠時間」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第4課「睡眠時間」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	第一部 水 5/13	テーマに沿った文章を読む 5	第5課「日時計」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第5課「日時計」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第5課「日時計」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	テーマに沿った文章を読む 6	第6課「研究者の二つのタイプ」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第6課「研究者の二つのタイプ」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第6課「研究者の二つのタイプ」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	第一部 水 5/27	テーマに沿った文章を読む 7	第7課「地球温暖化」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第7課「地球温暖化」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第7課「地球温暖化」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	第一部 水 6/3	テーマに沿った文章を読む 8	第8課「風呂場の戸」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第8課「風呂場の戸」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第8課「風呂場の戸」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	第一部 水 6/10	テーマに沿った文章を読む 9	第9課「手で数を表す」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第9課「手で数を表す」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第9課「手で数を表す」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	第一部 水 6/17	テーマに沿った文章を読む 10	第10課「文明はどのように伝わったか1」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第10課「文明はどのように伝わったか1」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第10課「文明はどのように伝わったか1」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	第一部 水 6/24	テーマに沿った文章を読む 11	第11課「文明はどのように伝わったか2」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第11課「文明はどのように伝わったか2」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第11課「文明はどのように伝わったか2」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7/1	テーマに沿った文章を読む 1 2	第 1 2 課「カラスの自動車利用行動」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第 1 2 課「カラスの自動車利用行動」を事前に読んでくること。	120分
		事後学修	第 1 2 課「カラスの自動車利用行動」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	第一部 水 7/8	テーマに沿った文章を読む 1 3	第 1 3 課「台湾南部の客家社会についての一考察」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第 1 3 課「台湾南部の客家社会についての一考察」を事前に読んでくること。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	第 1 3 課「台湾南部の客家社会についての一考察」について、講義内容の復習をしておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
15	第一部 水 7/15	アカデミック・ライティングについて	アカデミック・ライティングについて。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、半期のまとめとしての課題文を書くことができる。	
		事前学修	半期の内容の復習をしておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
		事後学修	アカデミック・ライティングについて調べておくこと。半期の内容を振り返り、確認すること。	129分

科目名	日本語Ⅶ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
日本語ⅠからⅥうち、少なくとも3つ以上を履修した上で受講すること。

【授業方法】		
フﾟrint教材の演習と解説を基本とする。毎回、課題となる設問を予習として解いてくこと。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。内容について全体で`討論を行い、課題に対して添削指導を行う。15回目に授業目的・到達目標の達成度確認試験を行い、併せてその解説と講評を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、問題演習とフィードバックのサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。演習は記述課題として提出し、各自の課題を添削のうえ返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。					3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。							3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。								3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	15	15									30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。			30	30							60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション	講義概要と成績評価に関する説明を行う。読解の基本、文章の読み方、必要な文法事項、語彙について概略の説明を行う。	
		この回の到達目標	授業の内容、課題の種類、成績評価について理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木4/16	新聞記事・コラムの種類と読解方法	コラム1「新品種改良による地域振興」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	新聞記事に独特な表現に慣れ、コラムの内容を読み解くことができる	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく	30分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
3	第一部 木4/23	体に関する表現と定型句を学ぶ	コラム2「おやつ商戦と新商品」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	体に関する表現、定型句を理解し、適切に用いた作文を書くことができる。	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、体の一部を含む表現を調べておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
4	第一部 木4/30	比喩の種類を学ぶ	コラム3「携帯電話商戦」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	新聞記事で用いられる比喩の種類について学び、意味を正しく解釈できる	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、比喩表現の意味について確認しておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
5	第一部 木5/7	背景知識が必要な文章	コラム4「インドのビジネス形態」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	文化に根付いた背景知識をもとに文章を読み解くことができる	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、文化に基づく表現・定型句について確認する。自分の母語に似たような表現がないか考えておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
6	第一部 木5/14	ことわざと慣用句	コラム5「動物実験の是非」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	ことわざや慣用句の意味を理解し、文章中で用いられている用法について理解する。	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、コラム中に使われていることわざ・慣用句と似たような表現が母語にあるかどうか考えておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	縁語でつながる語句	コラム6「太陽光エネルギーの利用」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	同じテーマを背景に使われている縁語について理解し、文章中で使われている表現のイメージを把握する	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、コラム中に使われている「戦い」に関連する語句をチェックしておく	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
8	第一部 木5/28	対比表現で用いられる語句	コラム7「電子部品メーカーの岐路」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	対比に用いられる表現を理解し、文章中で対比されている概念を整理して文章を読み解くことができる	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、文章中で異なる立場をとっている企業と、それぞれの基本方策とその理由についてまとめる	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
9	第一部 木6/4	社会的背景をもつ語彙・表現	コラム8「原子力発電所の開発受注」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	時事的な用語の意味を確認し、わからない用語が出てきたときに調べる方法を身につける	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、時事問題で頻出する用語について意味と用法を確認しておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
10	第一部 木6/11	時系列に沿った文章理解	コラム9「さとり世代と受験戦争」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	引用されている事象の前後関係を整理し、因果関係を適切に理解することができる	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、コラムで論じられている問題の「原因」と「結果」を整理しておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
11	第一部 木6/18	省略語と外来語	コラム10「ベースアップと国内雇用」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	新聞記事に頻出する省略語と外来語について学び、わからない用語の調べ方を身につける。	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、省略語と外来語の意味を調べておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
12	第一部 木6/25	馴染みのない分野の記事を読む	コラム11「スーパーマーケット再建」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	背景知識がない分野の記事を読み、そこで問題になっている事象と提案を理解することができる	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、内容を問う設問に答えておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	一般論と個別事象	コラム12「ホテルのバーのソフトドリンク」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	記事で引用されている個別事象から、展開されている一般論とのつながりを理解することができる。	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、段落ごとの内容を簡潔にまとめておく。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
14	第一部 木7/9	異なる視点で文章を読む	コラム13「飛行機、自動車、バイクの開発」の読解、練習問題の解説とフィードバック	
		この回の到達目標	複眼的な視点で記事を読み、主張に対して賛成・反対の両面から議論ができる。	
		事前学修	配布教材を読み、練習問題を解いておく。分からない漢字、意味の分からない言葉を調べておく。課題シートに従い、コラムの主張について「賛成」「反対」の両方の立場から根拠を考える。	45分
		事後学修	練習問題の内容を復習し、間違えた箇所を確認しておく。	30分
15	第一部 木7/16	期末試験及び解説	期末試験とその解説、フィードバック	
		この回の到達目標	授業全体の内容について、理解の度合いを試験によって確認する。	
		事前学修	今までのコラム、練習問題、課題シートをすべて復習し、期末試験に備える	120分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	60分

科目名	日本語Ⅷ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。なお、日本語ⅠからⅦのうち、少なくとも3つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】		
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞コラムを精読する。新聞コラムをもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。さらには全体で討論を行う。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。15回目に授業目的・到達目標の達成度確認試験を行い、併せてその解説と講評を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	(1) 課題の一部を板書してもらい、全員で検討する。日本語としてのよりよい表現の獲得を目指す。 (2) 課題の一部をコメントシートの形で提出してもらい、教員の側で添削して返却する。これを繰り返すことで日本語技能の習熟を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				3						
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。						3				
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。							3			3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。								3		
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	15	15									30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。			30	30							60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第 1 回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 火曜9/15	ガイダンスと日本語による出身国の紹介	〔1〕講義概要と成績評価に関する説明。〔2〕日本と祖国との違いに関する課題文章の完成と提出。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
		事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	第1部 火曜9/22	日本におけるしつけの問題	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説①。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「怒る」と「叱る」の違いに関して、図書館やネットで調べておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	第1部 火曜9/29	人を生かす叱り方とは	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説②。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。効果的な「叱り方」に関して各自で考えておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	第1部 火曜10/6	日本独特の食文化	2回・3回授業の確認小テスト 「納豆」に関するコラムの解説①。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「納豆」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	第1部 火曜10/13	発酵食品	「納豆」に関するコラムの解説②。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日配食品」にどのようなものがあるか、図書館やネットで調べておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	第1部 火曜10/20	日本の地震対策	4回・5回授業の確認小テスト 「東日本大震災」に関するコラムの解説①。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「東日本大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 火曜 10/27	地震に対する各自の考え	「東日本大震災」に関するコラムの解説②。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「関東大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
8	第1部 火曜 11/10	世界史の中の「喫茶店」	6回・7回授業の確認小テスト 「喫茶店」に関するコラムの解説①	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。喫茶店の成り立ちに関して、図書館やネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
9	第1部 火曜 11/17	真の安らぎとは	「喫茶店」に関するコラムの解説②	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自が「喫茶店」に臨むことをまとめておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
10	第1部 火曜 11/24	便利さの中に生きる現代人	8回・9回授業の確認小テスト 「ブラックアウト」に関する社説の解説①	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「ブラックアウト」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
11	第1部 火曜 12/1	電気のない生活	「ブラックアウト」に関する社説の解説②	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。寺田寅彦に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
12	第1部 火曜 12/8	真の教養とは	10回・11回授業の確認小テスト 「休養と教養」に関する社説の解説①	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「休養」「教養」という言葉に関して図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 火曜 12/15	教養を身に付けるために	「休養と教養」に関する社説の解読②	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
		事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	第1部 火曜 12/22	適切な日本語による表現	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
		事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。また、これまでの学習を振り返り、次回の試験の対策を立てておく。	60分
15	第1部 火曜 1/12	半年の学びの整理と確認	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕試験の解説・講評。質疑応答。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、課題（試験）に適切に答えることができるようになることを目標とする。また、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。	
		事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策を行う。	120分
		事後学修	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	日本語Ⅷ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
履修生に課題を出し、添削の上で教場にて返却する。遅刻・欠席は厳しく取り、原則として認めない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。						3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。							3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。									3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	15	15									30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。			30	30							60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編	アカデミックジャパニーズ研究会	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み中、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 9/16	ガイダンス	ガイダンス。日本語について。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、自己紹介を行うことができる。	
		事前学修	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。	120分
		事後学修	日本語について書かれた書籍を図書館で調べておくこと。講義内容の復習をしておくこと。	120分
2	第一部 水 9/23	テーマに沿った文章を読む 1	第1課「作文の基本（1）」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第1課「作文の基本（1）」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第1課「作文の基本（1）」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	第一部 水 9/30	テーマに沿った文章を読む 2	第2課「作文の基本（2）」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第2課「作文の基本（2）」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第2課「作文の基本（2）」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	第一部 水 10/7	テーマに沿った文章を読む 3	第3課「課題の提示」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第3課「課題の提示」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第3課「課題の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	第一部 水 10/14	テーマに沿った文章を読む 4	第4課「目的の提示」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第4課「目的の提示」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第4課「目的の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	第一部 水 10/21	テーマに沿った文章を読む 5	第5課「定義と分類」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第5課「定義と分類」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第5課「定義と分類」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 10/28	テーマに沿った文章を読む 6	第6課「図表の提示」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第6課「図表の提示」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第6課「図表の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	第一部 水 11/11	テーマに沿った文章を読む 7	第7課「変化の形容」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第7課「変化の形容」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第7課「変化の形容」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	第一部 水 11/18	テーマに沿った文章を読む 8	第8課「対比と比較」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第8課「対比と比較」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第8課「対比と比較」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	第一部 水 11/25	テーマに沿った文章を読む 9	第9課「原因の考察」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第9課「原因の考察」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第9課「原因の考察」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	第一部 水 12/2	テーマに沿った文章を読む 10	第10課「列挙」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第10課「列挙」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第10課「列挙」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	第一部 水 12/9	テーマに沿った文章を読む 11	第11課「引用」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第11課「引用」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第11課「引用」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	テーマに沿った文章を読む 1 2	第 1 2 課「同意と反論」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第 1 2 課「同意と反論」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	第 1 2 課「同意と反論」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	第一部 水 12/23	テーマに沿った文章を読む 1 3	第 1 3 課「帰結」	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
		事前学修	テキスト第 1 3 課「帰結」を読んでおくこと。最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	第 1 3 課「帰結」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
15	第一部 水 1/13	アカデミック・ライティングについて	アカデミック・ライティングと文章一般について。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、半期のまとめとしての課題文を書くことができる。	
		事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	アカデミック・ライティングと文章一般について、講義内容を復習しておくこと。一年の講義内容を確認すること。	120分

科目名	日本語Ⅹ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、昨今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8

【履修条件】
「日本語Ⅰ～Ⅳ」は履修済みであることを履修条件とする。「日本語Ⅴ～Ⅸ」のうち２科目は履修済みであることが望ましい。なお、授業には「国語辞典（日本語辞典）」を持参すること。

【授業方法】
教員の側が課題を用意し、その演習と解説で授業を進める。なお授業の進捗状況を見て、授業の回を適宜入れ替えたり教材の変更を行ったりする場合もある。最終の15回目に授業内試験を行い、その解説・講評と質疑応答を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	(1) 設問に対する解答を何人かが板書し、それを全員で討論してよりよい日本語の文章の作成を行う。 (2) 課題を提出してもらい、担当者が添削して返却する。その繰り返して日本語の能力の向上を目指す。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				4					4		
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や自国の文化について説明できるようになる。									4		
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。											4
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語の文章を読解し、そこにある問題を発見して解決に結びく説明をすることができる。				4							4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明するこ			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	35	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業時もしくはテストのあとに解説を行う。また、添削して返却する場合もある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第 1 回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 水曜日 9/16	ガイダンスと自己紹介、導入講義	講義概要と成績評価に関する説明（履修希望者は必ず出席すること）	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、授業内で行う自己紹介を聞いて相手の日本語を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができることを目標とする。また、日本語の文章を正しく理解するとともに、相手にわかりやすく伝えられるようになることも目標とする。	
		事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。（30分）	60分
2	第1部 水曜日 9/23	間違いやすい日本語表現	文章読解と文章作成の応用1（留学生の間違いやすい日本語表現）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に、間違いやすい日本語に対する理解を身に付けることができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	留学生の間違いやすい日本語表現に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
3	第1部 水曜日 9/30	推敲とは	文章読解と文章作成の応用2（推敲の方法）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に、「推敲」に対する正しい理解を身に付けることができ、それを実践することを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	推敲の方法に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
4	第1部 水曜日 10/7	確認テスト/簡潔な表現	〔1〕文章読解と文章作成の応用3（制限文字数で作文する方法） 〔2〕2回・3回の授業内容の確認小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。特に、簡潔な日本語表現を身に付けることができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	制限文字数で作文する方法に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
5	第1部 水曜日 10/14	テスト解説/日本語の会話表現	〔1〕2回・3回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習1（「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章の読解）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に日本語の日常会話用語を適切に使用することができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章の読解に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
6	第1部 水曜日 10/21	確認テスト/適切な会話表現	〔1〕評論文の読解と演習2（「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章作成と解説） 〔2〕4回・5回の授業内容の確認小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。特に、日常会話で適切な日本語表現を使うことができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章作成と解説に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 水曜日 10/28	テスト解説/敬語法	〔1〕4回・5回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習3（「ビジネス社会と敬語」に関する文章の読解）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に、日本語の敬語を正しく使うことができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「ビジネス社会と敬語」に関する文章の読解についての講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
8	第1部 水曜日 11/11	確認テスト/適切な敬語の使用	〔1〕評論文の読解と演習4（「ビジネス社会と敬語」に関する文章作成と解説） 〔2〕6回・7回の授業内容の確認小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。特に、場面ごとに異なった敬語表現を適切に使うことができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「ビジネス社会と敬語」に関する文章作成と解説に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
9	第1部 水曜日 11/18	テスト解説/接客用語	〔1〕6回・7回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習5（「日本の接客」に関する文章の読解）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に、日本での「接客」の特質を説明することができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「日本の接客」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
10	第1部 水曜日 11/25	確認テスト/「おもてなし」の心	〔1〕評論文の読解と演習6（「日本の接客」に関する文章作成と解説） 〔2〕8回・9回の授業内容の確認小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。特に、日本の「おもてなし」に関して正しく理解して説明できることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「日本の接客」に関する文章作成と解説の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
11	第1部 水曜日 12/2	テスト解説/日本社会の問題点	〔1〕8回・9回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕随筆の読解と演習1（「日本社会の問題点」に関する文章の読解）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に、日本社会の問題点に関して各自のことばで説明できることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「日本社会の問題点」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
12	第1部 水曜日 12/9	確認テスト/日本社会をどうすればよいか	〔1〕随筆の読解と演習2（「日本社会の問題点」に関する文章作成と解説） 〔2〕10回・11回の授業内容の確認小テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。特に、日本社会の将来に関して適切な日本語で提言できることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「未来に向けて」に関する文章作成と解説の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第 1 部 水曜日 12/16	テスト解説/日本の未来	〔1〕 11回・12回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕 随筆の読解と演習 3（「日本社会の未来」に関する文章の読解）	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、日本語の文章を正しく理解し、課題に適切に答えられ、それを日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。特に、日本の未来に関してある程度まとまった分量での意見表明ができることを大きな目標とする。	
		事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）	30分
		事後学修	「日本社会の未来」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）	60分
14	第 1 部 水曜日 12/23	確認テスト/未来づくりへの参画	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
		事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）	60分
		事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。また、これまでの学習を振り返り、次回の試験の対策を立てておく。（2時間）	60分
15	第 1 部 水曜日 1/13	半年の学習のまとめ/テスト解説	〔1〕 授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕 試験の解説・講評。質疑応答。	
		この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、半年の学習を自力で復習し到達できていない目標を自分から見つけ出し、自らスキルアップをはかることができるようになることを目標とする。また、日本語の文章を正しく理解し、設問に適切に答え、日本語で適切に表現できるようになることを目標とする。	
		事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策を行う。（2時間）	120分
		事後学修	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）	30分

科目名	日本語Ⅸ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、昨今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくこと。授業では、各項目の基本となる文法事項を整理し、課題の説明とフィードバックを行う。毎回、授業後半に定着をはかるための演習問題を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、「課題のフィードバック」「問題演習」「演習の解説とフィードバック」を行う。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				4					4		
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や自国の文化について説明できるようになる。									4		
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。											4
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語の文章を読解し、そこにある問題を発見して解決に結びく説明をすることができる。				4							4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明するこ			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	35	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては添削・コメントを付し返却する。授業内の演習問題は学生同士のディスカッションののち解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜16:15～17:00 各自、事前にアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション・導入講義	講義概要と成績評価に関する説明を行う。授業の前提となる文法事項、語彙について概略の説明を行う。	
		この回の到達目標	授業の内容、課題の種類、成績評価について理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
		事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	第一部 木4/16	助詞の使い方	課題1「助詞」についての解説とフィードバック。演習で文章中の助詞の用法と違いを確認する。	
		この回の到達目標	外国人が間違えやすい助詞について理解し、正しい文章を書くことができる。	
		事前学修	課題1「助詞」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題1で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
3	第一部 木4/23	類義語の使い分け	課題2「類義語と同義語」についての解説とフィードバック。演習で類義語と同義語の文法上の特徴を整理する。	
		この回の到達目標	類義語や同義語の文法上の違いを理解し、適切な語彙を用いた文章を書くことができる	
		事前学修	課題2「類義語と同義語」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題2で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
4	第一部 木4/30	動詞の活用	課題3「自動詞・他動詞・受身」についての解説とフィードバック。演習で動詞の意味から適切な活用を導く練習を行う。	
		この回の到達目標	間違えやすい動詞の活用について理解し、自分の書いた日本語文章を校正することができる	
		事前学修	課題3「自動詞・他動詞・受身」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題3で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
5	第一部 木5/7	呼応	課題4「主語―述語の一致と呼応」についての解説とフィードバック。演習で指定された語句を用いた作文問題を行う。	
		この回の到達目標	主語と述語を一致させた文章を書くことができ、ねじれた文章を直すことができる。	
		事前学修	課題4「主語―述語の一致と呼応」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題4で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
6	第一部 木5/14	言い切りの表現と文体	課題5「文末表現の調整」についての解説とフィードバック。演習で文末表現を整え文体を一致させる作文問題を行う。	
		この回の到達目標	文体の違いを理解し、適切な文末表現を用いた文章を書くことができるひらがなと漢字で書き分ける語彙を学び、どのような違いがあるのかを理解する	
		事前学修	課題5「文末表現の調整」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題5で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	文字表記の違い	課題6「ひらがなと漢字」についての解説とフィードバック。演習で指定語句の文字表記を正す問題を解く。	
		この回の到達目標	ひらがなと漢字で書き分ける語彙を学び、どのような違いがあるのかを理解する	
		事前学修	課題6「ひらがなと漢字」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題6で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
8	第一部 木5/28	カタカナ表記	課題7「擬声語・擬態語・外来語とカタカナ表記」についての解説とフィードバック。演習では読解問題を行い、文章中の指定語句を適切な表記に直す	
		この回の到達目標	カタカナで表記すべき語句について理解し、文章中で適切に使用した作文を書けるようになる。	
		事前学修	課題7「擬声語・擬態語・外来語とカタカナ表記」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題7で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
9	第一部 木6/4	文節による文の区切り	課題8「読点の打ち方」についての解説とフィードバック。演習では文の意味的なまとまりをもとに読点を打ち、文章を書く練習を行う。	
		この回の到達目標	読点を適切に用いた文章を書き、理解しやすい文を書くことができる	
		事前学修	課題8「読点の打ち方」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題8で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
10	第一部 木6/11	書き言葉と話し言葉	課題9「副詞・接続詞・文末表現の種類」についての解説とフィードバック。演習で話し言葉と書き言葉を状況によって使い分ける問題を解く。	
		この回の到達目標	大学のレポート・論文にふさわしい文体を学び、日常会話の表現との違いを理解する	
		事前学修	課題9「副詞・接続詞・文末表現の種類」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題9で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
11	第一部 木6/18	コロケーション	課題10「単語同士のつながり」についての解説とフィードバック。演習で単語の意味と使い方がずれている例を指摘する問題を解く。	
		この回の到達目標	単語の意味と使い方を正しく認識し、文脈に即した語彙を選ぶことができる	
		事前学修	課題10「単語同士のつながり」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題10で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
12	第一部 木6/25	専門用語の調べ方	課題11「漢語・専門用語・合成語」についての解説とフィードバック。演習で新聞記事の読解を行い、意味のわからない語の調べ方を練習する。	
		この回の到達目標	新聞記事や論文など、専門性の高い文章の読み方を身につける。	
		事前学修	課題11「漢語・専門用語・合成語」を解き、解答を作成してくること	45分
		事後学修	課題11で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	文の長さを読みやすさ	課題12「適切な文の長さ」についての解説とフィードバック。演習で「主語と述語の位置」「修飾語の位置」「接続関係」「同じ表現の削除」の問題を解く。	
		この回の到達目標	適切な長さの読みやすい文を書くことができる。冗長な文を訂正し、自分の書いた文を校正できる。	
		事前学修	課題12「適切な文の長さ」を解き、解答を作成してくる事	45分
		事後学修	課題12で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
14	第一部 木7/9	指示詞と代名詞	課題13「現場指示と文脈指示」についての解説とフィードバック。演習で指示詞と接続詞に用いられる類似表現の違いを学ぶ。	
		この回の到達目標	文中で使われる指示詞を適切な形で選択することができる。	
		事前学修	課題13「現場指示と文脈指示」を解き、解答を作成してくる事	45分
		事後学修	課題13で間違えた箇所を確認し、理解する。演習の内容を復習し、理解不足だったところを確認すること。	30分
15	第一部 木7/16	期末試験及び解説	期末試験、及び解答と解説	
		この回の到達目標	授業全体の内容について、理解の度合いを試験によって確認する。	
		事前学修	いままでの課題、演習を復習し、期末試験に備えて総復習を行う	120分
		事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	60分

科目名	スペイン語ⅠA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	挨拶 名前を言う	オリエンテーション・参考文献の紹介 Unidad 1 挨拶表現、アルファベット	
		この回の 到達目標	授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	
		事前学修	スペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄について文章にできるよう、考えておく。	10分
		事後学修	復習。授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	60分
2	第一部 水4/15	発音	Unidad 1 スペイン語の発音	
		この回の 到達目標	スペイン語を正しい発音で読むことができる。	
		事前学修	第一回目の授業で配られた用紙にスペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄などについて記入する。	20分
		事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。	30分
3	第一部 水4/22	数字、スペインの街・食べ物	Unidad 1	
		この回の 到達目標	0-10までの数字を覚える。スペインの街や食べ物について練習問題を通じて学ぶ。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。 Unidad 1の会話の復習	30分
4	第一部 水4/29	動詞の使い方	Unidad 2 名詞 冠詞	
		この回の 到達目標	名詞と冠詞の使い方を学ぶ。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p.9 1-3	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 水5/6	国籍・職業を述べる	Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
			Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
		この回の到達目標	人称代名詞とserの活用を覚える。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 9 5	30分
6	第一部 水5/13	カフェで注文する スペインの街	Unidad 2	
		カフェテリアでの会話		
		この回の到達目標	軽食や飲み物の注文ができるようになる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	Unidad 2の会話の復習	30分
7	第一部 水5/20	復習 人の描写	中間試験 Unidad 3 形容詞	
		この回の到達目標	人を描写する形容詞を覚える。	
		事前学修	Unidad 1-2復習	120分
		事後学修	p. 15-1-2	30分
8	第一部 水5/27	家族について話す	中間試験 FB Unidad 3 疑問文・否定文 動詞 tener	
		この回の到達目標	家族の容姿や性格について述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 18-3	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 水6/3	年齢を述べる スペインの街 スペインの祭り	Unidad 3 数字1-100	
		この回の 到達目標	人の容姿、性格、年齢を述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 18 4, 5	60分
10	第一部 水6/10	言語・科目	Unidad 4 規則動詞	
		この回の 到達目標	自分が話せる言語、自分が勉強している科目を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	規則動詞の活用を覚える	30分
11	第一部 水6/17	日常生活 1	Unidad 4 前置詞 疑問詞1	
		この回の 到達目標	住んでいる場所、仕事をしている場所などについて質疑応答できる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 21 5	30分
12	第一部 水6/24	日常生活 2	Unidad 4 曜日	
		この回の 到達目標	自分や友人の日常生活について質疑応答できる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 24 8, 9	60分
13	第一部 水7/1	日常生活 3	Unidad 4 総復習	
		この回の 到達目標	自己紹介文を書くことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水7/8	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の 到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
15	第一部 水7/15	まとめと復習	期末テストフィードバック	
		この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語 I B	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	スペイン語圏の国の首都	Unidad 5 指示形容詞 動詞 estar①所在	
		この回の到達目標	estar動詞の活用を覚え、人やものの所在を言うことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	前学期に学習した動詞とestarの活用を覚える	30分
2	第一部 水9/23	身の回りのものの所在 体調や気分を述べる	Unidad 5 hay estar②状態	
		この回の到達目標	身の回りのものの所在、体調や気分を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 27 5	20分
3	第一部 水9/30	自分が住んでいる町	Unidad 5 ser, estar, hay, tenerの使い分け	
		この回の到達目標	自分が住んでいる町について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 30-4, 5	60分
4	第一部 水10/7	日常生活 4	Unidad 6 ir, ver, hacer, poner, salir	
		この回の到達目標	普段、どのくらいの頻度でテレビを見たり、出かけたりするか述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
5	第一部 水10/14	時刻・日付	Unidad 6 時間表現 疑問詞2	
		この回の到達目標	時間を言うことができる。 予定を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 33 5	30分
6	第一部 水10/21	日常生活 5 サンティアゴへの巡礼	Unidad 6 既習の動詞や表現の復習と定着	
		この回の到達目標	自分の日常生活について時間や曜日の表現を使って述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 35 4	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	日常生活 6 したいことを伝える 依頼する	中間テスト Unidad 7 語幹母音変化動詞	
		この回の 到達目標	Unidad 6までの学習内容の定着	
		事前学修	Unidad 6までの復習	120分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
8	第一部 水11/11	天気 日付	Unidad 7 天候表現	
		この回の 到達目標	様々な場所の天候を述べることができる。 自分の誕生日を言ったり、友達の誕生日を聞くことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 38 ちょこ練 p. 39 5	30分
9	第一部 水11/18	パーティでの会話	Unidad 7 直接目的人称代名詞	
		この回の 到達目標	直接目的人称代名詞を使うことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 42 6, 9	60分
10	第一部 水11/25	買い物 1	Unidad 8 oir, venir, saber, conocer 衣類、色の表現	
		この回の 到達目標	衣類についての語彙を習得する	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える。	30分
11	第一部 水12/2	買い物 2	Unidad 8 関節目的人称代名詞	
		この回の 到達目標	スペイン語を使って買い物ができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 45 5	30分
12	第一部 水12/9	服装	Unidad 8 dar, decir, traer ガラパゴス諸島の動物	
		この回の 到達目標	自分や人が身につけている服装について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 48 7	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	まとめ	総復習	
		この回の到達目標	既習事項を復習し、分からないことがあれば、確認し、定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水12/23	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	第一部 水1/17	まとめと復習	試験のフィードバック	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）	30分

科目名	スペイン語ⅡA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	毎日の生活時間について話す	オリエンテーション・参考文献の紹介 スペイン語I レベルの復習 Unidad 9 再帰動詞	
		この回の到達目標	再帰動詞と再帰ではない動詞の区別ができるようになる。	
		事前学修	スペイン語Iの復習またはそれに相当するレベルのスペイン語の学習	60分
		事後学修	再起動詞の活用を覚える	30分
2	第一部 水4/15	誘う・断る	Unidad 9 再帰動詞のその他の用法 義務表現	
		この回の到達目標	友達を誘ったり、誘いを断ったりできる。	
		事前学修	新出単語調べ	20分
		事後学修	p. 51 5	30分
3	第一部 水4/22	毎日の生活時間について書く	Unidad 9	
		この回の到達目標	再帰動詞を使って質疑応答ができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 54 4, 5	30分
4	第一部 水4/29	好きなことについて話す	Unidad 10 前置詞格人称代名詞 gustar	
		この回の到達目標	gustarの使い方がわかる	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 55 ちょこ練 2	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 水5/6	興味があることを話す 体の痛いところを言う	Unidad 10 gustar 型の動詞 interesar, parecer, doler	
			Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
		この回の 到達目標	gustar型の動詞を使って、興味や体の痛い場所について話せる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 57 5	30分
6	第一部 水5/13	友達と体調について話す	Unidad 10	
		この回の 到達目標	体調が悪い友達にアドバイスができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	Unidad 9, 10の復習	60分
7	第一部 水5/20	試着する	中間試験 Unidad 11 比較、最上級	
		この回の 到達目標	比較級、最上級を使い、意見が言える。	
		事前学修	Unidad 9-10 復習	120分
		事後学修	p. 63 1	30分
8	第一部 水5/27	友達について知る メキシコの都市 メキシコの行事	中間試験 FB Unidad 11 不定語 否定語	
		この回の 到達目標	友達とスペインやラテンアメリカのことについて話す	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 63 6	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 水6/3	メキシコの都市	Unidad 11 感嘆文	
		この回の到達目標	感動を伝えることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 66 6	30分
10	第一部 水6/10	点過去	Unidad 12 点過去 規則動詞	
		この回の到達目標	規則動詞の点過去の活用を覚える。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	規則動詞の点過去の活用を覚える	30分
11	第一部 水6/17	昨日の出来事	Unidad 12 点過去 不規則動詞	
		この回の到達目標	昨日したことが話せる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 69 5	30分
12	第一部 水6/24	歴史	Unidad 12 数字 100-2000	
		この回の到達目標	歴史的出来事について簡単に述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 72 5	60分
13	第一部 水7/1	旅行	Unidad 12 総復習	
		この回の到達目標	今まで行った旅行について述べることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水7/8	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
15	第一部 水7/15	まとめと復習	期末テストフィードバック	
		この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語ⅡB	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	過去の習慣	点過去の復習 Unidad 13 線過去	
		この回の到達目標	子供の頃のことについて述べるができる	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	線過去の活用を覚える	30分
2	第一部 水9/23	過去の出来事について述べる	Unidad 13 点過去と線過去	
		この回の到達目標	点過去と線過去を使い分けができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 75 2	30分
3	第一部 水9/30	ペルー、ボリビアの街	Unidad 13 直接話法・間接話法 数字10. 000 助数	
		この回の到達目標	直接話法の文（現在形、過去形）を間接話法に書き換えることができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 75 5	30分
4	第一部 水10/7	経験	Unidad 14 過去分詞 現在完了	
		この回の到達目標	自分の経験について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
5	第一部 水10/14	過去の経験	Unidad 14 過去完了	
		この回の到達目標	過去のある時点よりも前に完了したこと、過去のある時点までの経験を述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 81 5	30分
6	第一部 水10/21	レストラン	Unidad 14 完了形のまとめ	
		この回の到達目標	レストランで注文、会計ができる	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	Unidad 13-14 復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	チリ、アルゼンチンの町	中間テスト Unidad 15 現在分詞 現在進行形	
		この回の到達目標	今していることについて述べることができる。	
		事前学修	Unidad 14までの復習	120分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
8	第一部 水11/11	家族の写真	Unidad 15 現在分詞のその他の用法	
		この回の到達目標	写真を見せながら家族について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 87 5	30分
9	第一部 水11/18	スペイン語圏のクリスマス	Unidad 15 関係代名詞 関係副詞	
		この回の到達目標	スペイン語でクリスマスの歌を歌うことができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 90 4, 5, 6	60分
10	第一部 水11/25	将来	Unidad 16 未来形	
		この回の到達目標	将来について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	新しい動詞の活用を覚える。	30分
11	第一部 水12/2	占い	Unidad 16 過去未来	
		この回の到達目標	過去未来形を使った様々な表現が使える。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 93 5	30分
12	第一部 水12/9	50年後の世界	Unidad 16 未来形、過去未来形のまとめ	
		この回の到達目標	未来の世の中について述べるができる。	
		事前学修	新出単語調べ	30分
		事後学修	p. 96 3, 4	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	まとめ	総復習	
		この回の到達目標	既習事項を復習し、分からないことがあれば、確認し、定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	総復習	120分
14	第一部 水12/23	まとめ	期末試験 振り返り	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	総復習	120分
		事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	第一部 水1/17	まとめと復習	試験のフィードバック	
		この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
		事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
		事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。(30分)	30分

科目名	韓国語ⅠA	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭	朝日出版社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 第一部 金 4/10	韓国語と「ハングル」文字	韓国語の特徴と「ハングル」文字の仕組みを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、韓国語全般について理解する。	
		事前学修	1課の韓国語と文字を読む。	30分
		事後学修	復習。	30分
2	第一部 月4/13 第一部 金 4/17	基本母音	基本母音字と発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本母音字を覚える	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月4/20 第一部 金 4/24	基本子音	基本子音字と発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本子音字と発音を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月4/27 第一部 金 5/1	合成子音と合成母音	合成子音字と合成母音字の発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、合成子音字と合成母音字の発音を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月5/4 第一部 金 5/8	終声子音	終声に使われる子音の発音を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、終声に使われる子音の発音を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月5/11 第一部 金 5/15	連音化	連音化を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、連音化を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 第一部 金 5/22	人称代名詞と自己紹介	第10課 私は学生です。 ・人称代名詞と自己紹介の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞と自己紹介の表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。（30分）	30分
8	第一部 月5/25 第一部 金 5/29	指示代名詞と体言の否定表現	第11課 これは何ですか。 ・指示代名詞と体言の否定表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞と体言の否定表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月6/1 第一部 金 6/5	家族名称	第12課 この人は誰ですか。 ・家族名称を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家族名称を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月6/8 第一部 金 6/12	ここまでの振り返り	第13課 復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、10課から12課までの内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
11	第一部 月6/15 第一部 金 6/19	位置関係の語と存在の表現	第14課 教室に何がありますか。 ・位置関係の語と存在の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、位置関係の語と存在の表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	第一部 月6/22 第一部 金 6/26	丁寧形表現	第15課 何をしますか。 ・丁寧形表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、丁寧形表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 第一部 金 7/3	時間関係の語と尊敬形表現	第16課どこへ行かれますか。 ・時間関係の語と尊敬形表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時間関係の語と尊敬形表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月7/6 第一部 金 7/10	ここまでの振り返り	第17課復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、14課から16課までの内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
15	第一部 月7/13 第一部 金 7/17	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語 I B	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定5級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
韓国語の文字が読めること。

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる										1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる										1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭	朝日出版社	2012		
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて cuchia1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14 第一部 金9/18	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	第一部 月9/21 第一部 金9/25	5級検定対策	ハングル検定対策出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月9/28 第一部 金10/2	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月10/5 第一部 金10/9	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月10/12 第一部 金10/16	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月10/19 第一部 金10/23	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を開き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 第一部 金10/30	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	第一部 月11/9 第一部 金11/6	過去形	第18課 昨日何をしましたか。 ・過去形表現と連結語尾を練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形表現と連結語尾を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月11/16 第一部 金11/13	漢数字	第19課 試験はいつですか。 ・漢数字と年月日の言い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、漢数字と年月日の言い方を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月11/23 第一部 金11/20	固有数字	第20課 いま何時ですか。 ・固有数字と時刻の言い方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、固有数字と時刻の言い方を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	第一部 月11/30 第一部 金11/27	ここまでの振り返り	21課 復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、18課から20課までの内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
12	第一部 月12/7 第一部 金12/4	打ち解けた丁寧形	第22課 いくらですか。 ・丁寧、尊敬形と数量表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、打ち解けた丁寧・尊敬形と数量表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 第一部 金12/11	提案と希望表現	第23課 何を食べましょうか。 ・提案、勧誘の表現と希望、願望の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、提案、勧誘の表現と希望、願望の表現を覚える。	
		事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月12/21 第一部 金12/18	ここまでの振り返り	第24課 復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、22課と23課の内容を復習する。	
		事前学修	読んでCDを聞く。	30分
		事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
15	第一部 月1/18 第一部 金12/25	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡA	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
20時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜16：10～ 授業終了後の講堂にて cuchl1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	理由・原因の表現	1課 理由、原因の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、理由、原因の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
2	第一部 月4/13	否定の表現	1課 否定の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、否定の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月4/20	決定・約束の表現	1課 決定、約束の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、決定、約束の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月4/27	仮定・条件の表現	2課 仮定、条件の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定、条件の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月5/4	連体形	2課 連体形の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連体形の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月5/11	確認・状況説明の表現	3課 確認、状況説明の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確認、状況説明の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	根拠・約束の表現	3課 根拠、約束の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、根拠、約束の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
8	第一部 月5/25	前提・前置きの表現	5課 前提、前置きの表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前提、前置きの表現を覚える	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月6/1	禁止の表現	5課 禁止の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止の表現を覚える	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月6/8	意図・同時進行の表現	6課 意図、同時進行の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意図、同時進行の表現を覚える	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	第一部 月6/15	可能形	6課 可能の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	第一部 月6/22	推測の表現	7課 推測の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推測の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	感嘆形	7課 感嘆の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、感嘆の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月7/6	伝聞・間接表現	7課 伝聞の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、伝聞の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	第一部 月7/13	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡB	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定4級レベル対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
30時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭	朝日出版社	2013		
備考					

【オフィスアワー】
月曜16：10～ 授業終了後の講堂にて cuchl1113@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	第一部 月9/21	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	第一部 月9/28	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	第一部 月10/5	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	第一部 月10/12	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	第一部 月10/19	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
		事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
		事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	第一部 月11/9	能力・経験の表現	9課 能力の有無と経験の有無の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能力の有無と経験の有無の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	第一部 月11/16	中断・転換の表現	9課 中断、転換の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中断、転換の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	第一部 月11/23	当然・制限の表現	10課 当然、必要と禁止、制限の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当然、必要と禁止、制限の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	第一部 月11/30	許容の表現	10課 許容、許可の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、許容、許可の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	第一部 月12/7	資格の表現	11課 資格の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資格の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	例示の表現	11課 例示の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、例示の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	第一部 月12/21	待遇表現	11課 待遇表現の表現を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、待遇表現の表現を覚える。	
		事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
		事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	第一部 月1/18	期末試験	期末試験及びまとめ、振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
		事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
		事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	ロシア語ⅠA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知りながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、レクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシア文化について関心のあるテーマを選び、短い発表を行いましょう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめてもらい、次回に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
備考	辞書については教場で紹介・説明予定。				

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス： ロシア語とはどんな言語か	ロシア語の歴史や特徴、現在ロシア語が使える国々について解説する。	
		この回の 到達目標	ロシア語に使われているキリル文字の由来について知る。	
		事前学修	教科書を購入し、シラバスを確認しておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 8-10（ロシアについての基礎知識）を読む。	30分
2	第一部 水4/15	アルファベットについて知る	アルファベットの名称と書き方	
		この回の 到達目標	ロシア語のアルファベットの名称を覚え、書けるようになる。	
		事前学修	教科書p. 11を見ながら音源2を3回聞く。	30分
		事後学修	アルファベットをすべて覚える。	30分
3	第一部 水4/22	文字と発音（母音）	10の母音の発音をマスターする	
		この回の 到達目標	10の母音をすべてマスターし、正しく発音できるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 12-13に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	母音の発音が正確にできるか確認しつつ宿題のプリントで練習する。	30分
4	第一部 水4/29	文字と子音の発音	22の子音の発音をマスターする。	
		この回の 到達目標	子音の音価を覚え、常に正確な発音ができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 14-17に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	母音・子音すべての音を正確に発音できるか確認しつつ宿題のプリントを解きながら練習する。	60分
5	第一部 水5/6	A=Bの構文とイントネーション	「これは〇〇です」「これは〇〇ですか？」の構文とイントネーション。	
		この回の 到達目標	A=Bです、A=Bですか？というもっとも基本的な構文の文法を学び、平叙文と疑問文の正確なイントネーションを身につける。	
		事前学修	教科書pp. 18-19に目を通し、音源を聞きながら本文の発音を反復してみる。	30分
		事後学修	宿題のプリントにある作文に取り組む。	30分
6	第一部 水5/13	人称代名詞	人称代名詞6つ、「〇〇は～ではない」の構文、基本的な挨拶（こんにちは、はじめまして、おはようございます、こんばんは）の言い方。	
		この回の 到達目標	人称代名詞6つの区別と正しい発音を覚える。基本の否定文の構造とイントネーションを学ぶ。日常的に使う挨拶の表現を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 22-23に目を通し、音源を聴きながら本文の発音と繰り返し、1課で学んだ肯定文との違いを考えてみる。	30分
		事後学修	教科書pp. 26-27の練習問題を解き、新しく出てきた単語を覚える（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	所有代名詞	所有代名詞、指示代名詞の種類と使い方	
		この回の到達目標	所有代名詞（私の、あなたの）と指示代名詞（この）の種類を覚え、名詞とともに正しい形で使えるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 28-29に目を通し、音源を少なくとも3回聞いておく。	40分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	60分
8	第一部 水5/27	形容詞	名詞の性、形容詞の使い方	
		この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚え、名詞に形容詞をつける場合に、性に応じて3種類の語尾変化を正確に行うことができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 32-35に目を通しておく。	40分
		事後学修	教科書pp. 36-37の練習問題を解き（宿題）、pp. 38-39の単語を書いて覚える。	60分
9	第一部 水6/3	動詞の変化	動詞の現在形、第1変化のかたち	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化のうち、もっとも多い第1変化のかたちを習得する。	
		事前学修	教科書pp. 40-41に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	宿題のプリントにある動詞をすべて正確に現在人称変化させる。	40分
10	第一部 水6/10	動詞の第2変化、名詞の複数形	動詞の現在形、第2変化のかたち。名詞の複数形の作り方。	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化の第2変化のかたちをマスターし、第1変化と正確に区別できるようにする。さらに、名詞の複数形の作り方の規則を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 44-45に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 48-49の練習問題を解く（宿題）。	40分
11	第一部 水6/17	名詞の格変化：前置格	名詞の格変化と前置詞в, н а, о。- с я動詞の現在人称変化の仕方。	
		この回の到達目標	名詞の格の概念について知り、前置格の用法と格変化の仕方を覚える。また、よく使われる- с я動詞の現在形の変化形もマスターする。	
		事前学修	教科書pp. 50-51に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解き、前置格の格変化をしっかりと復習する。	40分
12	第一部 水6/24	所有の表現、命令形	「私は〇〇をもっています」の構文。動詞の命令形の作り方。	
		この回の到達目標	「私は〇〇をもっています」の特殊な文法を理解し、さまざまな表現が言えるようになる。さらに、依頼の際によく用いる動詞の丁寧な命令形の作り方を身につける。	
		事前学修	教科書pp. 54-55に目を通すとともに、動詞の第1変化、第2変化を復習しておく。	40分
		事後学修	教科書pp. 58-59の練習問題を正確に解く（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	名詞の対格	名詞の格変化、対格とは何か。	
		この回の到達目標	動詞の直接目的語となる対格の用法と変化の仕方についてマスターする。	
		事前学修	教科書pp. 60-61に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	動詞пи с а т ьの現在人称変化を暗記する。	20分
14	第一部 水7/8	これまでのまとめと復習	これまでに学習した文法事項の総復習と応用。	
		この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
		事前学修	教科書1-9課までを復習してくること。	60分
		事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	60分
15	第一部 水7/15	理解度の確認と解説	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
		この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
		事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
		事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅠB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知らながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、レクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシア文化について関心のあるテーマを選び、短い発表を行いましょう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめてもらい、次回に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
備考	辞書については教場で紹介・説明予定。				

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	運動の動詞	動詞идтиを用いた「○○へ行く」の構文と行き先の表現。	
		この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「○○へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。	
		事前学修	教科書pp. 64-65に目を通し、動詞идтиとхотетьの現在人称変化を暗記する。	40分
		事後学修	教科書pp. 68-69の練習問題を解き、pp. 70-71の「単語力アップ」の単語を暗記する。	80分
2	第一部 水9/23	動詞の時制：過去形	動詞の過去形の作り方。「勉強する」を意味する動詞。	
		この回の到達目標	動詞の過去時制の作り方を覚える。また「勉強する」を意味する3つの動詞、учиться, заниматься, изучатьの使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選べるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 80-81に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 84-85の練習問題を解く（宿題）。	40分
3	第一部 水9/30	動詞の時制：未来形	動詞の未来形の作り方。動詞болеть「痛い」の用法。	
		この回の到達目標	動詞の未来形の作り方を覚える。「○○が痛い」という構文を理解し、体のいろいろな部位を示す語とともに表現できるようになる。よく使う不規則動詞の変化も学ぶ。	
		事前学修	教科書pp. 86-87に目を通し、動詞пить（飲む）、есть（食べる）、петь（歌う）、танцевать（踊る）の現在変化を暗記する。	40分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	40分
4	第一部 水10/7	名詞の格変化：生格	生格の用法：所有、否定生格。交通手段の表現。	
		この回の到達目標	名詞の生格の用法：1)所有や所属、2)否定生格を理解し、格変化の仕方を覚える。また、交通手段を示す「на＋前置格」を使った作文ができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 90-91に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 94-95の練習問題を解く（宿題）。	40分
5	第一部 水10/14	単語力・表現力アップ	時を表すさまざまな表現。	
		この回の到達目標	一週間の曜日、12カ月、朝・昼・晩・夜、四季、今年・去年・来年など、時を表す表現を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 96-97にじっくりと目を通し、音源を少なくとも2回は聞いてくる。	60分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解いてくる。	40分
6	第一部 水10/21	名詞の格変化：与格	名詞の与格の用法と作り方。代名詞の与格。	
		この回の到達目標	名詞の与格の用法と格変化の仕方を学ぶ。また、人称代名詞の与格も覚え、можноとともに「～でもいい」という許可の表現ができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 98-99に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	すでに出てきた前置格・対格・生格・与格を整理する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	名詞の格変化：造格	名詞の造格の用法と作り方。必要の表現。	
		この回の到達目標	名詞の造格の用法（手段、～と共に、～なしで）と格変化の仕方を学ぶ。無人称述語нужноを用いた「～しなければならない」という必要を示す構文も覚える。	
		事前学修	教科書pp. 102-105に目を通しておく。	30分
		事後学修	教科書pp. 106-107の練習問題を解く（宿題）。	40分
8	第一部 水11/11	形容詞の格変化 活動名詞の対格	形容詞の格変化のルールと変化の仕方。活動名詞（人間と動物を表す語）の対格の変化。	
		この回の到達目標	形容詞の格変化のルールを理解し、変化の仕方を覚え、名詞とともに正確なフレーズを作ることができるようになる。また、人間と動物を表す活動名詞の対格の変化形を覚え、作文できるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 108-109に目を通し、さらにp. 110の格変化表を暗記する。	40分
		事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解く。	40分
9	第一部 水11/18	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体と不完了体の意味と用法。「似ている」の構文。	
		この回の到達目標	動詞の完了体と不完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。「似ている」を示す形容詞похожийの使い方を覚える。	
		事前学修	教科書pp. 112-113に目を通し、p. 114にある新しい動詞7つの不定形と意味を暗記する。	40分
		事後学修	教科書pp. 116-117の練習問題を解く（宿題）。	30分
10	第一部 水11/25	単語力・表現力アップ	数詞の発音。さまざまな前置詞の用法。	
		この回の到達目標	数詞（0～2000）の正しい発音と合成数詞の作り方を習得する。さまざまな前置詞の格支配を知り、さらに豊かな表現ができる力をつける。	
		事前学修	教科書pp. 118-119に目を通し、音源を聞いておく。	30分
		事後学修	数詞1～100までを暗記する。	40分
11	第一部 水12/2	完了体動詞の未来時制	完了体動詞の未来形の作り方と意味。無人称述語нельзяの構文。	
		この回の到達目標	完了体動詞の現在形は未来時制となることを理解する。無人称文の述語нельзяを用いて「～してはいけない」という禁止の表現ができるようになる。	
		事前学修	教科書pp. 120-121に目を通した上で、p. 122の動詞помочьの変化を覚えておく。	30分
		事後学修	教科書p. 123にある例文をすべて暗記する。	30分
12	第一部 水12/9	仮定法	仮定法の作り方。「気に入る」の表現。	
		この回の到達目標	仮定法の助詞быの用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。「気に入る」を意味する動詞нравитьсяの用法を理解する。	
		事前学修	教科書pp. 124-125に目を通し、p. 126の「述語の造格」の解説をしっかりと読んでおく。	30分
		事後学修	教科書pp. 128-129の練習問題を解く（宿題）。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	アクティブ・ラーニング	ロシア文化について関心のあるテーマを選び短い発表を行う。	
		この回の到達目標	ロシアについて関心のあるテーマを選び、メディアや出版物などから興味のある情報を得てまとめ、プレゼンするスキルを養う。また、他の人の発表を聞き、疑問点や思ったことを発言する経験をもつ。	
		事前学修	情報収集、レジュメや原稿の準備を各自行う。	120分
		事後学修	他の人たちからの質問やコメントを糧に、さらに思考を深めていく。	30分
14	第一部 水 12/23	これまでのまとめと復習	後期で学習したことの総復習。	
		この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
		事前学修	教科書10-20課を中心に総復習をしてくる。	120分
		事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	120分
15	第一部 水1/13	理解度の確認と解説	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
		この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
		事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
		事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅡA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語、ロシア語圏の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもっていること。

【授業方法】		
まず初めに発音の規則から初級文法の復習をひと通り行い、同時に辞書の引き方を身につける。その後、簡単な読み物の講読を通して、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
プログレッシブロシア語辞典	中澤英彦	小学館	2014年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンスと発音復習	授業の進め方についてガイダンス、各履修者の希望とレベルをチェック。	
		この回の到達目標	ロシア語のアルファベットの発音を復習し再確認する。	
		事前学修	初級の教科書のCDを聞きながら、アルファベットの発音を復習しておく。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントでさらに発音の復習。	30分
2	第一部 水4/15	基本の構文	「A=Bです」「A=Bではありません」、挨拶の表現。	
		この回の到達目標	基本の肯定文と否定文の構文をおさらいし作文できるようになる。また、基本の挨拶：「こんにちは」「おはようございます」「こんばんは」「さようなら」なども覚える。	
		事前学修	初級の教科書1課2課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	第一部 水4/22	動詞の現在変化	動詞の第1変化、第2変化。人称代名詞。	
		この回の到達目標	動詞の現在人称変化を第1変化、第2変化ともに確実にできるようになる。6つの人称代名詞を主語にして現在形の簡単な文章が言えるようになる。	
		事前学修	初級の教科書5課6課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	第一部 水4/29	名詞の性、複数形	名詞の性の区別と複数形の作り方。	
		この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚える。複数形の作り方、不規則な複数形をもつ名詞で使用頻度が高いものを覚える。	
		事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
5	第一部 水5/6	所有代名詞、指示代名詞	所有代名詞の種類と指示代名詞の使用法。	
		この回の到達目標	人称代名詞ごとの所有代名詞を覚え、名詞の性・数に合わせて適切な所有代名詞を選べるようになる。指示代名詞も同様に、名詞の性・数に合わせて4つの中から適切なものを正確に選べるようにする。	
		事前学修	初級の教科書3課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	第一部 水5/13	形容詞	形容詞主格の語尾変化。	
		この回の到達目標	名詞の性・数に合わせて形容詞の語尾が4種類に変化することを理解し、常に適切な変化ができるようにする。	
		事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	名詞の格変化：前置格	名詞の前置格の用法と変化の仕方。場所の表現。	
		この回の到達目標	名詞の前置格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。前置格を用いた場所の表現ができるようになる。	
		事前学修	初級の教科書7課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
8	第一部 水5/27	名詞の格変化：対格	名詞の対格の用法と変化の仕方。	
		この回の到達目標	名詞の対格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。対格を目的語とする主語＋動詞・目的語の構文を言えるようになる。	
		事前学修	初級の教科書9課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
9	第一部 水6/3	名詞の格変化：生格	名詞の生格の用法と変化の仕方。所有・所属の表現。	
		この回の到達目標	名詞の生格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、否定生格の意味を理解し、非存在の意味をもつ文章を言えるようになる。	
		事前学修	初級の教科書14課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
10	第一部 水6/10	名詞の格変化：与格	名詞の与格の用法と変化の仕方。無人称文。	
		この回の到達目標	名詞の与格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、人称代名詞の格変化を学ぶとともに、無人称文の意味と用法を理解する。	
		事前学修	初級の教科書15課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
11	第一部 水6/17	名詞の格変化：造格	名詞の造格の用法と変化の仕方。	
		この回の到達目標	名詞の造格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。	
		事前学修	初級の教科書16課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
12	第一部 水6/24	動詞の時制：過去形	動詞の過去時制を用いた作文。	
		この回の到達目標	主語の性・数に応じて動詞を正確に過去時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。	
		事前学修	初級の教科書11課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	動詞の時制・未来形	動詞の未来時制を用いた作文。	
		この回の到達目標	主語の人称に応じて動詞を正確に未来時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。	
		事前学修	初級の教科書13課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
14	第一部 水7/8	所有の表現	ゞ＋生格を用いた所有の表現。	
		この回の到達目標	前置詞ゞを用いた所有の表現における主語と、生格で示される所有者の機能を正しく把握し、作文できるようになる。また、「もっていない」を示す否定生格も正確に表現できるようにする。	
		事前学修	初級の教科書8課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
15	第一部 水7/15	理解度の確認と解説	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
		この回の到達目標	既習の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
		事前学修	授業中に使用したプリントと初級の教科書を使って、既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	60分
		事後学修	試験の解答の見返しと復習。	30分

科目名	ロシア語ⅡB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語、ロシア語圏の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもっていること。

【授業方法】		
まず初めに発音の規則から初級文法の復習をひと通り行い、同時に辞書の引き方を身につける。その後、簡単な読み物の講読を通して、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる											2			
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる												2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる												2		
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
プログレッシブロシア語辞典	中澤英彦	小学館	2014年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	運動の動詞	動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」の構文と行き先の表現。	
		この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。	
		事前学修	初級の教科書10課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
2	第一部 水9/23	主語のない構文：不定人称文	不定人称文、受身の表現。	
		この回の到達目標	名前を名乗ったり、「～されている」という表現を作る不定人称文という構文を知り、言えるようになる。	
		事前学修	指示した動詞の現在変化を言えるようにしておく。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	第一部 水9/30	主語のない文章：無人称文	無人称文。気候、許可、禁止、義務、可能の表現。	
		この回の到達目標	主語をとらない無人称文はどんなときに、どのように使うのかを正しく把握し、正確に言えるようになる。	
		事前学修	人称代名詞の格変化を復習してくる。	20分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	第一部 水10/7	講読：簡単な読み物	読み物「私の家族」「日本について」の講読。	
		この回の到達目標	基本の文法事項を使って、教科書の読み物を正確に読みとき、美しい日本語に訳すことができるようになる。	
		事前学修	初級の教科書p. 140、p. 142の読み物を辞書を丁寧に読み日本語に訳す。その際、名詞の格や動詞の時制と体に留意することを常に意識する。	40分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
5	第一部 水10/14	動詞の完了体・完了体	動詞の完了体と完了体の意味と用法。	
		この回の到達目標	動詞の完了体と完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。体の機能を理解した上で正確な作文ができる。	
		事前学修	初級の教科書18課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	第一部 水10/21	数詞の決まり	個数詞と順序数詞の用法。	
		この回の到達目標	数詞をめぐる文法を学び、数詞と名詞の結合を正確にできるようにする。文の中に数詞を用いた表現を入れ、より豊かな表現ができるようになる。	
		事前学修	初級の教科書p. 118を復習し、1～1000までの数詞の発音をチェックする。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	関係代名詞	関係代名詞 к о т о р ы й の用法。	
		この回の到達目標	関係代名詞 к о т о р ы й の機能と変化の仕方を覚える。二つの文章を関係代名詞を用いてひとつにすることができるようになる。関係代名詞を用いた文を正確に和訳できるようにする。	
		事前学修	事前に配布したプリントを辞書を引きながら露文和訳してくる。	40分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
8	第一部 水11/11	講読：短編	短い物語の講読と露文和訳。	
		この回の到達目標	数詞や関係代名詞が含まれた文章を、基本の文法事項の知識と辞書を使って美しい日本語に訳すことができるようになる。	
		事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら和訳してくる。	40分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
9	第一部 水11/18	仮定法	仮定法の意味と作り方。	
		この回の到達目標	仮定法の助詞 б ы の用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。仮定法の文章を正しく和訳できるスキルを身につける。	
		事前学修	初級の教科書20課を読んでくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
10	第一部 水11/25	形動詞：能動形動詞	能動形動詞現在・過去の機能と用法。	
		この回の到達目標	能動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
		事前学修	関係代名詞について復習をしてくる。	30分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	60分
11	第一部 水12/2	形動詞：受動形動詞	受動形動詞現在・過去の機能と用法。	
		この回の到達目標	受動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
		事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
		事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
12	第一部 水12/9	講読：インターネットの記事	インターネット上のニュース記事を読む。	
		この回の到達目標	形動詞が用いられたジャーナリズムの文章を、辞書を引きながら読み解く。実際のテキストで用いられている生きたロシア語に触れ、これまでの文法がどのように使用されているかを把握する。	
		事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	講読：社会批評	社会批評の記事を読む。	
		この回の到達目標	比喻や風刺などが含まれた実際の社会批評を辞書を引きながら読み解く。	
		事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
		事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
14	第一部 水 12/23	副動詞	副動詞：完了体・不完了体の機能と用法	
		この回の到達目標	完了体副動詞・不完了体副動詞の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
		事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
		事後学修	授業で使用了プリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
15	第一部 水1/13	理解度の確認と解説	初見のテキストの訳出、解説と復習。	
		この回の到達目標	辞書を引きながら初見のテキストを正確、迅速に和訳することのできる集中力と基本文法の応用力を磨く。	
		事前学修	既習の文法事項の総復習をしてくる。	60分
		事後学修	自身の読解力の評価を行い、苦手な文法事項を知ってさらなる強化を。	40分

IV群

体育实技科目

IV群

体育实技科目

科目名	体育実技ⅠA	担当者	岩本 良裕	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
実技の授業であるので、トレーニングウェアとトレーニングシューズが必要です。運動終了後シャワーが利用できます。

【授業方法】
毎回トレーニングメニューに従い、自分のペースでトレーニングを進めます。エアロバイクやランニングマシンでトレーニングを行う際には、ワークマン等を使用しても構いません。水分摂取も適宜行ってください。内容によっては多目的コートを使用することもあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業ごとに記録されるトレーニングカードについてチェックし、講評・助言を行い、サポートしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週金曜日4時限 2号館地下

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 金4/10	ガイダンス トレーニングとは	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明	
		この回の 到達目標	トレーニングの目的・方法・評価方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	健康と運動の意義について調べる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 第二部 金4/17	体力測定	体力測定、体脂肪測定	
		この回の 到達目標	体力測定の意義や方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	体力の構成要素について調べる。	30分
		事後学修	授業を振り返り、ダイアグラムに基づき自分の体力の特性について確認する。	30分
3	第一部 第二部 金4/24	トレーニング方法 ストレッチング	シェープアップのためのトレーニング方法とストレッチングの方法	
		この回の 到達目標	トレーニングの方法とストレッチングの方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	自分の体力特性に基づき、トレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
4	第一部 第二部 金5/1	エアロビクトレーニング	シェープアップトレーニング 1 エアロビクトレーニング(1)	
		この回の 到達目標	エアロビクトレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
5	第一部 第二部 金5/8	エアロバイク	シェープアップトレーニング 2 エアロビクトレーニング(2) エアロバイク	
		この回の 到達目標	エアロビクトレーニング（エアロバイク）の使用方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
6	第一部 第二部 金5/15	ランニングマシン	シェープアップトレーニング 3 エアロビクトレーニング(3) ランニングマシン	
		この回の 到達目標	エアロビクトレーニング（ランニングマシン）の使用方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 金5/22	体幹トレーニングの意義	シェープアップトレーニング 4 体幹部強化メニュー(1) 意義と方法	
		この回の到達目標	体幹部強化トレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
8	第一部 第二部 金5/29	体幹トレーニングの方法	シェープアップトレーニング 5 体幹部強化メニュー(2) 体幹トレーニングの方法	
		この回の到達目標	体幹トレーニングの方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
9	第一部 第二部 金6/5	体幹トレーニング負荷の上げ方	シェープアップトレーニング 6 体幹部強化メニュー(3) 負荷の上げ方	
		この回の到達目標	体幹トレーニングにおいて、負荷を上げる方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。い。	30分
10	第一部 第二部 金6/12	下肢筋力強化トレーニングの意義	シェープアップトレーニング 7 下肢筋力強化トレーニング(1) 意義と方法	
		この回の到達目標	下肢筋力強化トレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
11	第一部 第二部 金6/19	下肢筋力強化トレーニングの方法	シェープアップトレーニング 8 下肢筋力強化メニュー(2) トレーニング方法	
		この回の到達目標	下肢筋力トレーニングを実践し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
12	第一部 第二部 金6/26	上肢筋力強化トレーニングの意義	シェープアップトレーニング 9 上肢筋力強化メニュー(1) 意義と方法	
		この回の到達目標	上肢筋力強化トレーニングの意義と方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 金7/3	上肢筋力強化トレーニングの方法	シェープアップトレーニング 1 0 上肢筋力強化メニュー(2) トレーニング方法	
		この回の到達目標	上肢筋力トレーニングを実践し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
14	第一部 第二部 金7/10	体力測定	シェープアップトレーニング 1 1 体力測定、体脂肪測定	
		この回の到達目標	体力測定を行い、自己の体力の現状を理解する。。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
15	第一部 第二部 金7/17	まとめ	[まとめ] 授業を振り返り、講評し、今後の課題等について解説する。	
		この回の到達目標	体力トレーニングの意義について、再確認する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、トレーニングカードに基づきグラフを作成して、トレーニング効果を確認する。	30分
		事後学修	半期の授業を振り返り、来期の授業に向けて課題を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や自己防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は許可しない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する。				

【オフィスアワー】
火曜1限前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	【ガイダンス】【授業内容 および履修条件の確認】	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、本授業において取り組むべき運動内容の把握、および授業に臨む姿勢や求められる服装・態度を理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）	30分
		事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）	30分
2	第一部火 4/14	【アイスブレイクと身体ほぐし】	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、仲間とコミュニケーションをとりながら、自身の身体をほぐし、自身の心と身体の実状について感覚的に確かめる。	
		事前学修	提出物の作成と、健康についての情報を得ること（30分）	30分
		事後学修	ストレッチ方法を自分なりに調べ、理解し実践に移すこと（30分）	30分
3	第一部火 4/21	【身体組成の測定および把握】	ストレッチ、健医チェック	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、体組成データを測定し、現状を把握すると共に、課題および改善点を踏まえて目標を設定する。	
		事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること（30分）	30分
		事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）	30分
4	第一部火 4/28	【体力チェック】	ストレッチ、簡単な体力チェック	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力の確認と、必要なトレーニングについて考え、計画することができる。	
		事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）	30分
		事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）	30分
5	第一部火 5/5	【最大筋力の算出】【卓球】	最大筋力測定、卓球の基礎技術	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの体力および健康の保持増進のために必要なトレーニングとウエイトの設定、自身の最大筋力の正確な算出ができる。また、卓球の基本的な技術やルールについて理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）	30分
		事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）	30分
6	第一部火 5/12	【最大筋力の算出】【有酸素運動の実践】【卓球（シングルスゲーム）】	前回到続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（シングルスゲームとルール）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、有酸素運動の意義と必要性を理解し、説明できるだけでなく、有酸素運動を実施する際に使用する機器がわかり、正しく使用できる。また、仲間と卓球のルールを確認・説明しながら、円滑にゲーム運営ができる。	
		事前学修	有酸素運動の知識を得て、適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。また、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。また、卓球のゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	【筋力トレーニング】【卓球（シングルスゲーム）】	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身に必要な筋力トレーニングについて考え、メニュー作成と実践ができる。トレーニングに関しても卓球に関しても、これまでの反省を踏まえ、目標を設定し、取り組むことができる。	
		事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5~6種目選択し、メニューを作成すること。また、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）	30分
		事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。また、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃えること（30分）	30分
8	第一部火 5/26	【筋力トレーニングプログラムの作成】【卓球（ダブルスゲーム）】	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回設定したトレーニングメニューの見直しと修正ができる。卓球では、新たにダブルスゲームに挑戦し、これまでの授業で培った技術や、シングルスゲームの経験を応用できる。	
		事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。また、ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。また、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）	30分
9	第一部火 6/2	【筋力トレーニングの継続】【ポートボールに関する基本事項の確認と実践】	筋力トレーニング、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで設定したトレーニングプログラムを継続して正確に実施し、自身の健康増進に繋げると共に、仲間とコミュニケーションをとりながらポートボールに取り組み、全身運動により、気持ちよく汗を流すことができる。	
		事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。また、ポートボールのルール・技術を調べること（30分）	30分
		事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。また、バスケットボールの技術をポートボールのゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）	30分
10	第一部火 6/9	【筋力トレーニングメニューの変更】【ポートボールの実践】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、必要に応じてトレーニング種目を増やし、より多くの筋肉を使って自身の健康増進を図ることができる。仲間と怪我なくポートボールに取り組み、スムーズなゲーム運営ができる。	
		事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。また、バスケットボールとポートボールのゲームのルールの違いを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。また、ポートボールのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと（30分）	30分
11	第一部火 6/16	【食生活と筋力トレーニングの振り返り】【ポートボール】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで・日頃のトレーニングだけでなく、食生活についても振り返り、改善に繋げることができる。また、これまでのポートボールの技術練習やミニゲームの経験を通して、トーナメント戦に取り組むことができる。	
		事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。また、ポートボールのトーナメント戦に備えて作戦を練ること（30分）	30分
		事後学修	体力カードをチェックし正確な記録ができたか確認すること。また、ポートボールにおいてチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）	30分
12	第一部火 6/23	【筋力トレーニングのチェック】【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの筋力トレーニングの経験を踏まえ、前期の最後に行う体組成測定に結果が反映されるためにどのようなことが必要か、自分なりに再度トレーニング内容のチェックを行うことができる。ドッジビーでは、コントロールが不慣れな中で、自分がどこにどのようにドッジビーを投げれば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	筋力トレーニングのポイントや意識すべき点について再度確認しておくこと。また、ドッジビーの投げ方やコントロールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かすこと。また、ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	【筋力トレーニングの継続】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前期最後の体組成測定の結果から、自身の健康増進が確認できることを目指し、トレーニングを継続する。ドッジビーでは、仲間との協働を通して、自分がどこにどのように動けば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	狙った筋肉に適切に刺激を加えられているか、前回のトレーニングによる筋肉痛の程度はどの程度だったか等を振り返り、次のトレーニングに活かすこと。また、ゴールドッジのルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの内容が充実してきた中、怪我等が無いよう、栄養・休養・ストレッチ などのコンディショニングを再度見直し、十分に実施すること。また、ドッジビーのゲームでの動きや投げ方が適切であったか振り返り、改善点について考えること（30分）	30分
14	第一部火 7/7	【筋力トレーニングの継続と今後の計画】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、筋力トレーニングの継続だけでなく、後期に向けて、夏休み中も自分で取り組むことができるトレーニングについて考え、目標を立てて休み中の実施をも試みることで、自身の健康管理に繋げることができる。	
		事前学修	前期最後の筋力トレーニングに向けて、コンディショニングしておくこと。また、ドッジビーでは、前回のゲーム内容を振り返り、より良い動きや投げ方ができるよう、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	後期に再度筋力トレーニングを行う際に筋力低下やトレーニング方法の忘却がないよう、自身の健康状態について現状を把握し、トレーニング方法を自分なりに整理してまとめておくこと。また、ドッジビーという協働行為を通して経験した、仲間とのコミュニケーションの重要性について、スポーツ場面以外において、どのような場面で活かされるか考えてみること（30分）	30分
15	第一部火 7/14	【身体組成の測定】 【前期のまとめ】 【振り返り】	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業を通して学んだ、体力および健康の保持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明することができるだけでなく、自身のトレーニングやスポーツ・運動への目標や取り組みについて振り返り、その達成度について振り返ることができる。	
		事前学修	前期のトレーニング結果を確認し、後期に継続されるよう取り組むこと（30分）	30分
		事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動やスポーツが不得意な人を優先する。受講時は必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や自己防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は許可しない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する。				

【オフィスアワー】
土曜授業（1・2限）前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部土 4/4	【ガイダンス】【授業内容 および履修条件の確認】	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、本授業において取り組むべき運動内容の把握、および授業に臨む姿勢や求められる服装・態度を理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）	30分
		事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）	30分
2	第一部土 4/11	【アイスブレイクと身体ほぐし】	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、仲間とコミュニケーションをとりながら、自身の身体をほぐし、自身の心と身体の実状について感覚的に確かめる。	
		事前学修	提出物の作成と、健康についての情報を得ること（30分）	30分
		事後学修	ストレッチ方法を自分なりに調べ、理解し実践に移すこと（30分）	30分
3	第一部土 4/18	【身体組成の測定および把握】	ストレッチ、健医チェック	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、体組成データを測定し、現状を把握すると共に、課題および改善点を踏まえて目標を設定する。	
		事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること（30分）	30分
		事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）	30分
4	第一部土 4/25	【体力チェック】	ストレッチ、簡単な体力チェック	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力の確認と、必要なトレーニングについて考え、計画することができる。	
		事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）	30分
		事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）	30分
5	第一部土 5/2	【最大筋力の算出】【卓球】	最大筋力測定、卓球の基礎技術	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの体力および健康の保持増進のために必要なトレーニングとウエイトの設定、自身の最大筋力の正確な算出ができる。また、卓球の基本的な技術やルールについて理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）	30分
		事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）	30分
6	第一部土 5/9	【最大筋力の算出】【有酸素運動の実践】【卓球（シングルスゲーム）】	前回到続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（シングルスゲームとルール）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、有酸素運動の意義と必要性を理解し、説明できるだけでなく、有酸素運動を実施する際に使用する機器がわかり、正しく使用できる。また、仲間と卓球のルールを確認・説明しながら、円滑にゲーム運営ができる。	
		事前学修	有酸素運動の知識を得て、適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。また、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。また、卓球のゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 5/16	【筋力トレーニング】【卓球（シングルスゲーム）】	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身に必要な筋力トレーニングについて考え、メニュー作成と実践ができる。トレーニングに関しても卓球に関しても、これまでの反省を踏まえ、目標を設定し、取り組むことができる。	
		事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5~6種目選択し、メニューを作成すること。また、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）	30分
		事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。また、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃えること（30分）	30分
8	第一部土 5/23	【筋力トレーニングプログラムの作成】【卓球（ダブルスゲーム）】	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回設定したトレーニングメニューの見直しと修正ができる。卓球では、新たにダブルスゲームに挑戦し、これまでの授業で培った技術や、シングルスゲームの経験を応用できる。	
		事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。また、ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。また、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）	30分
9	第一部土 5/30	【筋力トレーニングの継続】【ポートボールに関する基本事項の確認と実践】	筋力トレーニング、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで設定したトレーニングプログラムを継続して正確に実施し、自身の健康増進に繋げると共に、仲間とコミュニケーションをとりながらポートボールに取り組み、全身運動により、気持ちよく汗を流すことができる。	
		事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。また、ポートボールのルール・技術を調べること（30分）	30分
		事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。また、バスケットボールの技術をポートボールのゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）	30分
10	第一部土 6/6	【筋力トレーニングメニューの変更】【ポートボールの実践】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、必要に応じてトレーニング種目を増やし、より多くの筋肉を使って自身の健康増進を図ることができる。仲間と怪我なくポートボールに取り組み、スムーズなゲーム運営ができる。	
		事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。また、バスケットボールとポートボールのゲームのルールの違いを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。また、ポートボールのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと（30分）	30分
11	第一部土 6/13	【食生活と筋力トレーニングの振り返り】【ポートボール】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで・日頃のトレーニングだけでなく、食生活についても振り返り、改善に繋げることができる。また、これまでのポートボールの技術練習やミニゲームの経験を通して、トーナメント戦に取り組むことができる。	
		事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。また、ポートボールのトーナメント戦に備えて作戦を練ること（30分）	30分
		事後学修	体力カードをチェックし正確な記録ができたか確認すること。また、ポートボールにおいてチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）	30分
12	第一部土 6/20	【筋力トレーニングのチェック】【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの筋力トレーニングの経験を踏まえ、前期の最後に行う体組成測定に結果が反映されるためにどのようなことが必要か、自分なりに再度トレーニング内容のチェックを行うことができる。ドッジビーでは、コントロールが不慣れな中で、自分がどこにどのようにドッジビーを投げれば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	筋力トレーニングのポイントや意識すべき点について再度確認しておくこと。また、ドッジビーの投げ方やコントロールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かすこと。また、ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部土 6/27	【筋力トレーニングの継続】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前期最後の体組成測定の結果から、自身の健康増進が確認できることを目指し、トレーニングを継続する。ドッジビーでは、仲間との協働を通して、自分がどこにどのように動けば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	狙った筋肉に適切に刺激を加えられているか、前回のトレーニングによる筋肉痛の程度はどの程度だったか等を振り返り、次のトレーニングに活かすこと。また、ゴールドッジのルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの内容が充実してきた中、怪我等が無いよう、栄養・休養・ストレッチ などのコンディショニングを再度見直し、十分に実施すること。また、ドッジビーのゲームでの動きや投げ方が適切であったか振り返り、改善点について考えること（30分）	30分
14	第一部土 7/4	【筋力トレーニングの継続と今後の計画】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、筋力トレーニングの継続だけでなく、後期に向けて、夏休み中も自分で取り組むことができるトレーニングについて考え、目標を立てて休み中の実施をも試みることで、自身の健康管理に繋げることができる。	
		事前学修	前期最後の筋力トレーニングに向けて、コンディショニングしておくこと。また、ドッジビーでは、前回のゲーム内容を振り返り、より良い動きや投げ方ができるよう、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	後期に再度筋力トレーニングを行う際に筋力低下やトレーニング方法の忘却がないよう、自身の健康状態について現状を把握し、トレーニング方法を自分なりに整理してまとめておくこと。また、ドッジビーという協働行為を通して経験した、仲間とのコミュニケーションの重要性について、スポーツ場面以外において、どのような場面で活かされるか考えてみること（30分）	30分
15	第一部土 7/11	【身体組成の測定】 【前期のまとめ】 【振り返り】	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業を通して学んだ、体力および健康の保持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明することができるだけでなく、自身のトレーニングやスポーツ・運動への目標や取り組みについて振り返り、その達成度について振り返ることができる。	
		事前学修	前期のトレーニング結果を確認し、後期に継続されるよう取り組むこと（30分）	30分
		事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク（コーチング実践、発表）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート、振り返りシート、レポート課題について講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp※事前に上記メールアドレスに連絡（用件内容）をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6 4/7 ※上段月曜日、 下段火曜日	体育・スポーツの意義／健康とは何か	・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明をする ・事前学習及び事後学習についての説明をする ・体育・スポーツの意義、健康とは何かについての説明をする ※第1回目は運動準備不要（履修カードに貼り付ける写真を準備）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育・スポーツの意義および健康とは何かについて説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。 体育・スポーツの意義、健康について自身の考えを準備する	30分
		事後学修	ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う。	30分
2	4/13 4/14	体力及び身体運動の理解	・健医・フィットネスチェック ・軽運動、体操、ストレッチ等	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力を把握する方法について説明できる。	
		事前学修	運動の身体的・精神的効果について調べてくる。フィットネスチェックの測定種目（※測定種目：握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・閉眼片足立ち）について事前に確認してくる。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	4/20 4/21	柔軟性を高めるエクササイズ	・身体ほぐし運動（セルフおよびペアストレッチ） ・用具を使ったストレッチ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、柔軟性を高める方法について説明することができる。	
		事前学修	体力要素の一つである「柔軟性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 組んだ相手と意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
4	4/27 4/48	自重トレーニングを知る	・クイック&スロー、スタビラゼーショントレーニング ・正確な動作、適切な運動量についての説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、自重トレーニングの方法について説明することができる。	
		事前学修	自重トレーニングのメリット・デメリットについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 組んだ相手と意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
5	5/4 5/5	敏捷性（アジリティ）を高めるエクササイズ	・トレーニング用具（ラダー等）を用いた運動 ・正確な動作、適切な運動量についての説明	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、敏捷性を高める方法について説明することができる。	
		事前学修	体力要素の一つである「敏捷性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。 グループで意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
6	5/11 5/12	平衡性（バランス）を高めるエクササイズ	・平衡性を必要とする用具を用いた運動 ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、平衡性について説明することができ、また他者に自身の考えを伝える方法について説明することができる。	
		事前学修	体力要素の一つである「平衡性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法等を振り返り、振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18 5/19	サーキットトレーニングを知る	・サーキットトレーニングの目的・方法、プログラム作成の考え方などについての説明 ・簡単なプログラムの実施	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、サーキットトレーニングの方法について説明することができる。	
		事前学修	サーキットトレーニングのメリット・デメリットについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。	30分
8	5/25 5/26	身体感覚の再考	・マット運動（回転運動） ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、身体感覚について言語化し、他者に伝える方法を説明することができる。	
		事前学修	既習の回転運動について、動作のコツを調べる。自宅で可能な範囲で行う。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。	30分
9	6/1 6/2	ロープスポート①	・ダブルダッチ ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ダブルダッチの運動方法および指導方法について説明することができる。	
		事前学修	ダブルダッチの動作を動画視聴や関連資料を用いて事前に調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。	30分
10	6/8 6/9	ロープスポート②	・前回の内容を踏まえたグループ発表 ・技能試験 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、ダブルダッチの運動方法および指導方法について説明することができる。	
		事前学修	動作の復習及びコミュニケーション方法について準備する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。	30分
11	6/15 6/16	ボールスポート①（ネット系）	・ネット系のボールスポート ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
		事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
12	6/22 6/23	ボールスポート②（ゴール系）	・ゴール系のボールスポート ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
		事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29 6/30	トレーニングマシンを使った運動①	・最大筋力の測定、適切な負荷の設定を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、各種トレーニングマシンの使用方法および安全を確保した実施方法について説明することができる。	
		事前学修	ウェイトトレーニングのRM法、トレーニングの原理・原則について関連資料を調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。振り返りシートを作成する。	30分
14	7/6 7/7	トレーニングマシンを使った運動②	・トレーニングプログラムの作成と実施	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、目的に応じた適切なトレーニングプログラムの作成ができる。	
		事前学修	前回の設定負荷値をまとめ、授業時間で実施するトレーニング種目の選定を行う。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。作成したプログラムの良い点・課題点をまとめる。振り返りシートを作成する。	30分
15	7/13 7/14	体育・スポーツの恩恵とは何か	・フィットネスチェック ・振り返りシートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
		事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	30分
		事後学修	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装(ジャージ等)、室内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。多目的コートを使用する場合がある。出席状況で授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】提出されたレポート課題をもとに講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実技試験結果の講評・解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日 8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木4/9	【ガイダンス】【体育実技 実施方法】	年間授業計画、評価の方法に関するガイダンス	
		この回の 到達目標	体育実技授業実施の意義を知る	
		事前学修	授業内容等の把握、シラバス参照	30分
		事後学修	ガイダンス内容を確認する	30分
2	第1部 木4/16	体力テストの実施	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（1）	
		この回の 到達目標	体力チェックの結果より、現在の体力を知る	
		事前学修	体力チェックテスト測定種目について確認する	30分
		事後学修	体力チェックテスト（2）に対応できるよう復習をする	30分
3	第1部 木4/23	体操	ゆがみ修正体操 二人組になり、お互いにゆがみをチェックし修正方法を参考に実施する	
		この回の 到達目標	からだのゆがみが及ぼす健康被害などについて知る	
		事前学修	身体のゆがみはなぜ起こるのかを調べる	30分
		事後学修	ゆがみ修正体操 ストレッチングを実施する	30分
4	第1部 木4/30	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球のフォア・バックの習得	
		事前学修	卓球のフォア・バックの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のフォア・バックの復習を行う	30分
5	第1部 木5/7	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、カット） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球のカットの習得	
		事前学修	卓球のカットの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のカットの復習を行う	30分
6	第1部 木5/14	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球のサーブの習得	
		事前学修	卓球のサーブの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のサーブの復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木5/21	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとレシーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球のサーブ・レシーブの習得	
		事前学修	卓球のサーブとレシーブの予習を行う	30分
		事後学修	卓球のサーブとレシーブの復習を行う	30分
8	第1部 木5/28	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球シングルスのルール理解とゲームの実施	
		事前学修	卓球シングルスのゲームとルールの予習を行う	30分
		事後学修	卓球シングルスのゲームとルールの復習を行う	30分
9	第1部 木6/4	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球シングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	卓球シングルスのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	卓球シングルスのルールとマナーの復習を行う	30分
10	第1部 木6/11	実技【卓球】シングルス	卓球 シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球シングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	卓球シングルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	卓球シングルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分
11	第1部 木6/18	実技【卓球】ダブルス	卓球 ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球ダブルスのルールとマナーの習得	
		事前学修	卓球ダブルスのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	卓球ダブルスのルールとマナーの復習を行う	30分
12	第1部 木6/25	実技【卓球】ダブルス	卓球 ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	卓球ダブルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木7/2	実技【卓球】ダブルス	卓球 基本スキル（サーブ・ラリー）の授業内試験およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の 到達目標	卓球 基本スキルの習得	
		事前学修	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認	30分
		事後学修	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う	30分
14	第1部 木7/9	軽スポーツ実施	器具トレーニング ダーツなど軽スポーツ各種実施する	
		この回の 到達目標	軽スポーツ各種のルール理解	
		事前学修	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う	30分
		事後学修	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う	30分
15	第1部 木7/16	【まとめ】【振り返り】	【まとめ】授業の振り返り、講評	
		この回の 到達目標	スポーツ実施の有効性について理解すること	
		事前学修	半期の振り返りを行う	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	柴田 篤志	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージなど）と屋内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
授業の開始時と終了時にウォーミングアップ、クールダウンのためにストレッチなどを行う。 授業は主に2号館体育場およびトレーニングルームを使用して行うが、種目によって多目的コートを使用することがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で実施するスポーツ活動について、必要に応じて小グループを作成しグループ内でのディスカッション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の振り返りレポートおよび課題レポート

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて資料などを配布する。				

【オフィスアワー】
基本的には水曜日12：45～13：00および16：10～16：30の授業前後の時間に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス/体力および健康について	①授業の目的や方法、評価についての説明 ②スポーツや身体活動と体力および健康について	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解し、体力および健康の維持増進とスポーツ・身体運動について説明することができる。(SB0s①)	
		事前学修	シラバスを確認し、授業の概要などについて確認をする。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容について振り返り、受講に必要な準備物について確認、準備をする。	30分
2	第一部 水4/15	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動を通して自身の身体や体力について理解する。	
		この回の到達目標	体ほぐしの運動の意義について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	ウォーミングアップ・クールダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	体ほぐしの運動のポイントを理解し、実施する。	30分
3	第一部 水4/22	フィットネスチェック(体力測定)	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)を実施する。	
		この回の到達目標	フィットネスチェックを行い自己の体力レベルを把握し、体力を向上させる方法を確立する。(SB0s②③)	
		事前学修	フィットネスチェックの項目について確認する。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を振り返り、自己の体力および健康の増進に向けた計画を立てる。	30分
4	第一部 水4/29	柔軟性を高めるトレーニング	柔軟性を高めるトレーニングの内容と効果について学習する。	
		この回の到達目標	身体の柔軟性を高めるトレーニングとその効果について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	柔軟性を高めるトレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	柔軟性を高めるトレーニングの効果について振り返り、実施することで理解を深める。	30分
5	第一部 水5/6	体力向上のためのトレーニング	筋力や持久力を高めるトレーニングの内容と効果について学習する。	
		この回の到達目標	筋力や持久力を高めるトレーニングの内容とその効果について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	筋力や持久力を高めるトレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	筋力や持久力を高めるトレーニングの効果について振り返り、実施することで理解を深める。	30分
6	第一部 水5/13	マシンを使ったトレーニング	トレーニングマシンの使い方やトレーニングの効果について学習する。	
		この回の到達目標	トレーニングマシンの使い方とマシンに応じたトレーニング効果について説明することができる。(SB0s①②)	
		事前学修	トレーニングマシンを使ったトレーニングの特徴について調べる。	30分
		事後学修	トレーニングマシンを使ったトレーニングの効果についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	トレーニング計画の立案と実践	自己の体力レベルを向上させるためのトレーニング計画の立案し実践する。	
		この回の到達目標	自己の体力レベルや課題に応じたトレーニング計画について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	トレーニングの原理や原則について調べる。	30分
		事後学修	立案したトレーニング計画を振り返り、理解を深める。	30分
8	第一部 水5/27	フットサル①	フットサルに必要な基本動作について学習し、技術を習得する。	
		この回の到達目標	フットサルに必要な基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フットサルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	学習した基本動作について振り返り、理解を深める。	30分
9	第一部 水6/3	フットサル②	フットサルのゲーム内で必要な戦術について理解し、技術を習得する。	
		この回の到達目標	フットサルのゲーム内で用いられる個人やチームでの戦術について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フットサルのゲーム内で用いられる個人戦術、チーム戦術について調べる。	30分
		事後学修	フットサルのゲームにおける個人戦術とチーム戦術について振り返り、理解を深める。	30分
10	第一部 水6/10	フットサル③	実戦形式のゲームを通してチーム内でのコミュニケーションを深める。	
		この回の到達目標	実戦形式のゲームを通してチーム内でのコミュニケーションを行い、自らの取り組みについて説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フットサルのゲームにおけるチーム内でのコミュニケーションについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームの内容を振り返り、個人戦術やチーム戦術について理解を深める。	30分
11	第一部 水6/17	ミニバドミン① マシントレーニング	バドミントンの基本動作について学習し、技術を習得する。 マシンを使ったトレーニングを行う。	
		この回の到達目標	バドミントンに必要な基本動作について説明することができる。（SB0s③） 自己の体力レベルに応じたトレーニング内容を選択し、その効果について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	バドミントンの基本的な技術について調べる。	30分
		事後学修	学習した基本動作について振り返り、理解を深める。	30分
12	第一部 水6/24	ミニバドミン② マシントレーニング	バドミントンの戦術について理解し、技術を習得する。 マシンを使ったトレーニングを行う。	
		この回の到達目標	バドミントンのゲームで用いられる戦術について説明することができる。（SB0s③） 自己の体力レベルに応じたトレーニング負荷について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	バドミントンのゲームで用いられる戦術について調べる。	30分
		事後学修	バドミントンのゲームにおける戦術について振り返り、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	ミニバドミン③	実戦形式のバドミントンのゲームを行う。	
		この回の到達目標	実戦形式のバドミントンを通して、自らの取り組みを説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	バドミントンのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームを振り返り、理解を深める。	30分
14	第一部 水7/8	ドッジビー	ドッジビーを通してチームでのコミュニケーションを深める。	
		この回の到達目標	ドッジビーのゲームにおけるチーム内でのコミュニケーションのとり方について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	ドッジビーのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ドッジビーを通したチーム内でのコミュニケーションのとり方について振り返る。	30分
15	第一部 水7/15	フィットネスチェック/まとめ	①フィットネスチェック ②授業の振り返りとまとめ	
		この回の到達目標	フィットネスチェックおよび授業の振り返りを行い、自己の達成について評価する。（SB0s①②③）	
		事前学修	半期の授業内容と目標の達成度について振り返りを行う。	30分
		事後学修	スポーツ・身体運動の実践を通した体力および健康の維持増進について理解を深め、課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動をするうえで健康上の問題がないこと（不安のある学生は第1回目のオリエンテーション時に相談してください）。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオルを準備すること。多目的コートを使用する場合があります。

【授業方法】
主に全体指導、必要に応じてグループワークも実施します。また事後学習として、トレーニング記録や自己省察を目的とした授業省察ノートの作成をしてもらいます。【フィードバック方法】授業省察ノート講評およびレポート提出とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中は毎時間の課題に応じたグループ学習、授業後は省察ノートを作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時にレポートや毎授業の省察ノートの評価について総評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
基本的には授業前後の時間のみ。授業講堂にて。どうしても時間が作れない場合は授業実施期間の水曜日19：30以降に対応（要事前相談）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部 水4/8	授業概要の説明、導入授業	オリエンテーション（授業概要等の説明、アイスブレーキングの実施、＊着替えは不要）	
		この回の到達目標	本授業の概要について理解し、説明できる。	
		事前学修	本授業のシラバスを事前に一読しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
2	第一部・第二部 水4/15	体力測定の実施	体力測定①（握力・背筋力、立ち幅跳び・垂直飛び、反復横跳び、上体起こし、体前屈・上体そらし、閉眼片足立ち）	
		この回の到達目標	体力の概念について理解し、自らの体力要素について正確に測定できる。	
		事前学修	体力要素や体力測定方法について予習しておくこと（文部科学省HP_新体力テスト実施要項を参照）。また、ストレッチや軽いジョギングや筋力トレーニングなどで身体を慣らしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
3	第一部・第二部 水4/22	体力測定の実施と評価	体力測定②（踏み台昇降、各体力要素の評価）	
		この回の到達目標	自らの体力要素を客観的に評価できる。	
		事前学修	全身持久力測定のため、軽いジョギングなどで心肺機能に軽い負荷を与えておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
4	第一部・第二部 水4/29	筋力トレーニング	トレーニングマシンによる筋力トレーニングの実践①（筋力トレーニングの方法と健康効果の解説、各種マシンの使用方法とフォームの解説、至適強度の設定）	
		この回の到達目標	基本的な筋力トレーニングの効果や器具の使用方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力トレーニングについて基本的な方法や健康効果について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
5	第一部・第二部 水5/6	筋力トレーニング	トレーニングマシンによる筋力トレーニングの実践②（至適強度による筋力トレーニングの実践）	
		この回の到達目標	筋力トレーニングの至適強度を把握できる。	
		事前学修	第4回目の配布資料を再読しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
6	第一部・第二部 水5/13	自重負荷による筋力トレーニング	自重負荷による筋力トレーニングの実践（自らの体重を負荷にして様々な筋力トレーニングを実践する（スロートレーニングを中心に））	
		この回の到達目標	自重負荷による様々な筋力トレーニングを安全かつ効果的に実践できる。	
		事前学修	スロートレーニング（スロトレ）について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部 水5/20	持久力トレーニング	持久力トレーニングの解説と実践（心拍数による運動強度の確認方法とその健康効果の解説、運動と心拍数の関係を軽い運動を実践しながら体感してみる）	
		この回の到達目標	持久力トレーニングの効果と強度設定について理解し、説明できる。	
		事前学修	持久力トレーニングの健康効果について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
8	第一部・第二部 水5/27	持久力トレーニング	持久力トレーニングの実践（心拍数を確認しながらインターバル速歩およびTABATAメソッドの実践）	
		この回の到達目標	様々な持久力トレーニングについて至適強度（心拍数）を維持しながら実践できる。	
		事前学修	インターバル速歩およびTABATAメソッドについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
9	第一部・第二部 水6/3	持久力トレーニング	エアロビクスの解説と実践（歴史と効果の解説、基本的なリズムとステップの実践）	
		この回の到達目標	基本的なエアロビクスのステップを理解し、ゆっくりとしたリズムに合わせてステップを踏むことができる。	
		事前学修	エアロビクスの健康効果やステップについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
10	第一部・第二部 水6/10	持久力トレーニング	エアロビクスの実践（基本ステップで構成したベーシックエアロビクスの実践 ～心拍数を確認しながら実践する～）	
		この回の到達目標	心拍数による至適強度を把握しながら、リズムに乗って様々なエアロビクスのステップを組み合わせることができる。	
		事前学修	第9回で紹介したステップを練習しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
11	第一部・第二部 水6/17	ストレッチング	ストレッチングの解説と実践（種類と効果の解説、個人およびペアでストレッチングの実践～静的および動的ストレッチから簡易PNFまで～）	
		この回の到達目標	ストレッチングの種類と効果を理解し、実践することができる。	
		事前学修	ストレッチングについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
12	第一部・第二部 水6/24	ヨガ	ヨガの解説と実践①（ヨガの歴史や効果の解説、太陽礼拝の実践）	
		この回の到達目標	ヨガについて理解し、太陽礼拝のルーティンを実践することができる。	
		事前学修	ヨガの歴史や健康効果について調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部・第二部 水7/1	ヨガ	ヨガの実践②（呼吸と自分の身体に意識を向けて太陽礼拝、各種ポーズの実践）	
		この回の到達目標	太陽礼拝および各種ポーズを実践することができる。	
		事前学修	太陽礼拝のルーティンを実践しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
14	第一部・第二部 水7/8	ヨガ	ヨガの実践③（太陽礼拝、各種ポーズの実践）	
		この回の到達目標	太陽礼拝および各種ポーズの完成度を上げ、より自身の内面への洞察を深めることができる。	
		事前学修	太陽礼拝のルーティンを実践しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
15	第一部・第二部 水7/15	まとめ	レポートおよび授業省察ノートの提出、全体のまとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業を振り返り、今後のトレーニングについて具体的に計画し、生涯に渡って実践することができる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、授業省察ノートの「全体の感想」について記述しておくこと。	30分
		事後学修	今後の健康保持増進のためのトレーニング計画を再考すること。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装(トレーニングウェア、屋外・屋内シューズ) タオル、水分補給用の飲み物を準備すること。※第1回目は更衣不要(履修カードに貼る写真を準備)

【授業方法】
実技。 授業開始時にその日の実施内容、学習の目的を説明・確認。 資料配布による理論学習を行い、それらを実践するための様々なエクササイズやスポーツを実践する。 【フィードバック方法】授業記録シート、トレーニングカードや課題レポートの提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第10回、11回、12回のユニバーサルホッケーの実践では、種目に適したウォームアップ構成を考えるグループワーク、スキルアップとゲーム中の戦術についてのグループディスカッションの時間を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業記録、及び課題シート（トレーニングカードや体組成記録表など）への講評や質問への回答コメント・採点後の添削と返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（学習テーマに合わせて資料配布）				

【オフィスアワー】
金曜日 8：20～16:30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公共施設・スポーツ施設でのエアロビックダンス及び運動指導（有資格） 国公立中学校にて保健体育指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		多様なニーズの一般市民対象の指導経験を生かして、心身を健康に保つための知識やエクササイズを指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス】 【健康維持増進のための運動・生涯スポーツを学ぶ意味】	授業内容、授業方法、スケジュール、評価方法、及び受講に際しての注意等を説明する。実技と理論の融合を目指した授業展開であること、また取り扱う種目と学習内容についての概略とそれを取り扱う意味を理解することにより、見通しをもって学習の準備をすることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期学習する内容全般についての見通しを持って、健康・身体づくりの意味と、自ら主体的に目的に応じた具体的な方法を学ぶ手順を理解できる	
		事前学修	授業の目的・内容、準備等をシラバスを読んで確認しておく	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。各自の身体づくりの目的を明確にし、授業記録シートにまとめておく	30分
2	第一部 金4/17	【体力測定と仲間づくりゲーム】	体力測定&仲間づくりのゲーム ○健康の概念と3要素 ※ストレッチング（以降、毎回実施）	
		この回の到達目標	①に関連して、形態測定・体力測定の実施によって各自の課題や目的を明確にし、「運動」という側面だけでなく「食」や「休養」といったライフスタイル全般からアプローチする必要性を理解する	
		事前学修	「健康の概念」と「3要素」について調べておく	30分
		事後学修	体力測定の測定結果入力と、その結果を踏まえ、健康増進のために必要な目標を立てる配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく	30分
3	第一部 金4/24	【筋コンディショニングとは】	マシントレーニング Max測定（間接法）の理解と測定 ○筋コンディショニングの種類と方法	
		この回の到達目標	②に関連して、健康維持・増進のための筋コンディショニングの種類と方法を理解し、特にマシントレーニングを実施するための各自の目的に応じた負荷の設定について説明することができる	
		事前学修	①筋力トレーニングの種類、②マシントレーニングのメリット・デメリットについて調べておくこと	30分
		事後学修	配布資料をもとに様々な筋コンディショニングの方法について復習する	30分
4	第一部 金5/1	【マシントレーニング】	マシントレーニング Max測定（間接法）の測定 & ストレッチング ○トレーニング理論（マシントレーニングの目的と5つの要素との関係）	
		この回の到達目標	①②に関連して、各自の目的に応じたマシントレーニング実施のための負荷の設定について説明することができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく	30分
		事後学修	配布資料をもとに各自の目的に応じたトレーニング方法について復習しておくこと	30分
5	第一部 金5/8	【有酸素運動だけじゃない！エアロビックダンスの効果】	エアロビックダンス（導入）& ストレッチング ○エアロビックダンスの特徴と各自の運動強度ターゲットゾーンを達成するための工夫	
		この回の到達目標	①②に関連して、「エアロビックダンス」の特徴や効果について説明することができる	
		事前学修	エアロビックダンスとはどのようなエクササイズなのか調べておく	30分
		事後学修	授業で実施したストレッチングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと	30分
6	第一部 金5/15	【健康を維持増進するための3種類の運動は同時進行で！】	エアロビックダンス①（リニア形式でローインパクト） 筋コンディショニング（自重①腕）・ストレッチング ○有酸素運動とは？	
		この回の到達目標	①②に関連して、健康維持・増進のための3種類の運動について、また「有酸素運動」について強度別にその効果を説明できる。	
		事前学修	「有酸素運動」について調べておく	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習する。エアロビックダンスの特徴を説明できるようにしておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	【自分の目的に応じて運動強度や難易度を調節するエアロビックダンス】	エアロビックダンス②（リニア形式+コンビネーションでローインパクト） 筋コンディショニング（自重②スクワット）・ストレッチング ○有酸素運動の強度と効果	
		この回の到達目標	①②に関連して、エアロビックダンスを、難易度や移動距離、重心の移動といった要素変化で各自の目的に応じた運動強度を選択し実施することができる また、使った部位を意図的にストレッチングできる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングとストレッチングを実践し、正しいフォームやポイントを復習する。配布資料をもとに有酸素運動を行う際のポイントについて復習する	30分
8	第一部 金5/29	【低衝撃なのに高強度。ステップエアロビクスでマルチタスクエクササイズ】	ステップエアロビクス①（ベーシック） （踏み台を使用し音楽に乗って行う有酸素運動） 筋コンディショニング（自重③腹筋）・ストレッチング	
		この回の到達目標	①に関連して、ステップエアロビクスの特徴と効果を説明できる ②に関連して、筋コンディショニング（アイソレートした腹筋3種）のポイントを踏まえ実践することができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。ステップエアロビクスの特徴（メリット）について復習する	30分
9	第一部 金6/5	【ステップエアロビクスで脳トレ効果を体感】	ステップエアロビクス②（回転と方向転換） （踏み台を使用し音楽に乗って行う有酸素運動） 筋コンディショニング（自重④背筋）・ストレッチング	
		この回の到達目標	①に関連して、ステップエアロビクスの実践を通して、動きに関連した使用部位の名称を説明できる ②に関連して、筋コンディショニング（背筋）が正しく実践でき、ポイントを説明できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。ステップエアロビクスの特徴（メリット）について復習する	30分
10	第一部 金6/12	【生涯スポーツとは？ユニバーサルスポーツとは？】	ユニバーサルホッケー①（ニュースポーツの概念と種目理解） 筋コンディショニング（第4回目の1RMから算出した各自の目的に応じた負荷でのマシントレーニング）	
		この回の到達目標	①に関連して、生涯スポーツの意義と現状について理解し、ユニバーサルホッケーのゲームと基本的なスティック操作ができる ②に関連して、マシントレーニングにおいて各自の目的に応じた負荷でのトレーニング選択ができる	
		事前学修	ユニバーサルホッケー関連の動画を見てルールを理解し、競技のイメージを掴む	30分
		事後学修	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
11	第一部 金6/19	【ユニバーサルホッケーのゲーム実践】 【マシントレーニング】	ユニバーサルホッケー②（チームでの種目に応じたウォームアップの実践や、ゲーム構造の理解と戦術ディスカッションによるアクティブラーニング） 筋コンディショニング（フォームと呼吸のチェックを意識した各自の目的に応じた負荷でのマシントレーニング）	
		この回の到達目標	①に関連して、ユニバーサルホッケーのゲームの特徴を踏まえ、チーム全員が参加できる攻撃・守備方法などの戦術を考案でき、チーム全体で共通理解するためのコミュニケーションが取れる ②に関連して、マシントレーニングにおいて各自の目的に応じた負荷でのトレーニング選択ができる	
		事前学修	ユニバーサルホッケーのストロークの基本技術について調べ、ゲームの動画を観てイメージを掴む	30分
		事後学修	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
12	第一部 金6/26	【ユニバーサルホッケーのゲーム実践】 【マシントレーニング】	ユニバーサルホッケー③（リーグ戦の実施と前回の戦術の評価と課題をチームでディスカッションし、新たな展開を試みるアクティブラーニング） 筋コンディショニング（フォームと呼吸の意識、また負荷の評価をしながらのマシントレーニング）	
		この回の到達目標	①②に関連して、個人的技能の評価と課題を設定できる 前回のゲームについての集団的技能（戦術）評価し、新たな課題をチームごとに設定し、ゲームで試すことができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した技術・戦術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	【ヨガとは】 【マインドフルネスとは】	ヨガ①（ヨガとは？呼吸とポーズ） マインドフルネス	
		この回の到達目標	①②に関連して、「ヨガ」の発祥と特徴やメリットを理解し、実践を通して体感する 「マインドフルネス」の概要を理解し、実践を通して身体と心の変化を感じることができる	
		事前学修	各種ヨガに関する動画を視聴し、イメージを掴む ヨガの発祥について調べる	30分
		事後学修	授業で扱ったヨガのポーズと呼吸法を復習し、様々な生活の場面でマインドフルネスの実践を試みる	30分
14	第一部 金7/10	【パワーヨガとは】 【マインドフルネスの多様な形】	ヨガ②（パワーヨガ） 座位でのマインドフルネス・ 生活の中で多様なマインドフルネス実践法があることを学ぶ	
		この回の到達目標	①②に関連して、パワーヨガの特徴と効果を理解し、各自のパフォーマンスに応じたアーサナーを選択し、実践できる マインドフルネスの実践により身体と心の変化を感じることができる	
		事前学修	前回の各自の授業記録に記載したヨガのポーズや呼吸法の疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で扱ったヨガのポーズや呼吸法のポイントを復習し、様々な生活の場面でのマインドフルネスの実践を試みる	30分
15	第一部 金7/17	【身体づくりのための基礎知識と実践を振り返る】	前期取り扱った各エクササイズの振り返りと、講評	
		この回の到達目標	③に関連して、前期で取り扱った各フィットネスエクササイズの特徴を実践するためのポイントを説明できる マシントレーニングの記録について、目的に応じた負荷設定であったか評価できる	
		事前学修	これまで取り扱った各種エクササイズについて、目的に応じて効果的に行うポイントを整理する	30分
		事後学修	前期扱った資料をもとに健康を維持・増進するための要素や方法について復習する	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。

【授業方法】
実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況、または天候によって授業内容を変更する場合もある。円滑な授業を進めるため、ルールや基本的な動きを事前学習として課すこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。チーム内でディスカッションを行い、発表する時間も設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習や事後学習，さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましいです。E-mail：takata.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本バスケットボール協会公認C級コーチ，日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，スポーツの指導を行う。 運動やスポーツが心身に与える影響を伝え，生涯スポーツの一助になる授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	ガイダンスおよび体育とスポーツの意義	授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明する。 体育やスポーツの意義について理解する。 ※集合は2号館地下202教場、更衣は不要	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育やスポーツの意義について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 体育やスポーツの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する	30分
2	4/11	体力測定	体重、体組成、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈などの体力測定を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自身の体力レベルの確認をする。 年間の目標を設定する。	
		事前学修	今回実施する体力測定の方法を調べておく。	30分
		事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
3	4/18	スポーツ鬼ごっこ	スポーツ鬼ごっこを通じてコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	スポーツ鬼ごっこの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
4	4/25	柔軟性のトレーニング①	全身9か所の柔軟性をチェックする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、柔軟性の意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの生活や運動の経験を振り返って、自分の身体が何で硬いのか（または軟らかいのか）を説明できるようにしておく。	30分
		事後学修	柔軟性チェックの結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
5	5/2	柔軟性のトレーニング②	柔軟性のトレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、柔軟性のトレーニングを説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ、ウォームダウン（クーリングダウン）の中で取り入れられるストレッチについて調べておく。	30分
		事後学修	柔軟性のトレーニングを継続的に実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
6	5/9	アルティメット	ディスクの投げ方を習得し、チームプレーを学ぶ。 攻守の切り替えが多いため、自身の持久力や敏捷性を現状を把握する。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	ディスクの投げ方、およびアルティメットの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	持久力のトレーニング	持久力のトレーニングとして、自転車エルゴメータ、トレッドミル、クライムミルの使い方を説明する。 自分の体力レベルや目的に合った負荷設定を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、持久力およびその能力が必要とされる競技を説明できる。	
		事前学修	これまでの体育の授業や部活動などの運動、スポーツ活動で行ってきたトレーニングのうち、持久力向上に当てはまるものを考え、その意義を説明できるようにしておく。	30分
		事後学修	自転車エルゴメータ、トレッドミル、クライムミルを使用した際の自分の目的に合った負荷をまとめておく。 今後の目標を立てる。	30分
8	5/23	敏捷性のトレーニング	ラダーなどを用いて、敏捷性のトレーニングを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敏捷性のトレーニングを説明できる。	
		事前学修	敏捷性のトレーニングとして挙げられるSAQトレーニングとは何かを説明できるようにしておく。	30分
		事後学修	柔軟性のトレーニングを実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
9	5/30	フットサル	フットサルを行う。 特に、フットサルやサッカー経験者は自分のプレーを見せるだけではなく、未経験者へのサポートもすること。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	フットサルの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
10	6/6	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングとしてスタビライゼーショントレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビライゼーショントレーニングを説明できる。	
		事前学修	スタビライゼーショントレーニングについて調べておく。	30分
		事後学修	スタビライゼーショントレーニングをを継続的に実施し理解を深め、各トレーニングを説明できるようにする。	30分
11	6/13	レジスタンストレーニング	マシンやダンベルなどのフリーウエイトを使用して、レジスタンストレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、レジスタンストレーニングを説明できる。	
		事前学修	1RMとは何かを調べておく。 さらに、トレーニングの原理と原則を調べておく。	30分
		事後学修	各トレーニング種目における自分の目的に合った負荷をまとめ、今後のトレーニングメニューを考える資料を作る。	30分
12	6/20	トレーニングのまとめ	今まで実施したトレーニングのうち、理解度が足りない種目を実施する。 適切な負荷の設定やトレーニング方法を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実施したトレーニングを説明できる。	
		事前学修	今まで実施したトレーニングについて、疑問や質問をまとめておく。	30分
		事後学修	実施した様々なトレーニングを整理し、自分の目的に合ったトレーニングメニューを考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	卓球	卓球（ダブルス）を行う。 卓球の基本動作を練習するとともに、ダブルスのルールや動き方を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。	
		事前学修	卓球のダブルスのルールや動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	7/4	ドッジボール	ドッジボールを行う。 オーソドックスなルールだけではなく様々なルールを適用するので、ルールを理解することが求められる。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
		事前学修	当該クラスで行うドッジボールのルールを1つ考えておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
15	7/11	前期のまとめと振り返り	前期の振り返りを実施し、総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
		事前学修	前期の振り返り、反省や改善点などを発表できるようにしておく。	30分
		事後学修	発表して浮き彫りになった課題を後期に解決できるようにする。 夏季休業中も運動やスポーツを継続するように努める。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	田中 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
医師に運動を止められていない者。

【授業方法】
実技と演習を行います。アニメソングなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス(フィットネスダンス)を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生自身が短いコンビネーションを作成し指導を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
エアロビックダンスを教員の前で実演し、動きや姿勢などを矯正するためのアドバイスを受ける。 姿勢の矯正のための指導を個別に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィットネスダンス指導教本	編者 池田美知子	公益社団 日本 フィットネス協会	2010年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問、相談は毎授業後（水曜 1、2 限）に受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィットネスクラブ、行政、企業などでエアロビックダンス指導 企業セミナー、 特定保健指導、エアロビックダンス指導者養成

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション・導入講義	オリエンテーション・導入講義	
		この回の到達目標	授業を受講するにあたり、準備するもの、注意点を理解する。	
		事前学修	テキスト第1章を読む。	30分
		事後学修	テキスト第1章を読む。	30分
2	4/15	ステップシート	ステップシート プログラムの表記方法の読み方を学習し、プログラムを視覚的に理解する。 体力測定	
		この回の到達目標	エアロビックダンスを体験する。実施したエアロビックダンスを、ステップシートにてプログラムを視覚的に確認し理解する。	
		事前学修	テキスト第1章を読む。	30分
		事後学修	テキスト第2章のステップシート、コンビネーションの種類について確認する。	30分
3	4/22	コンビネーション	コンビネーション（1） 動きの塊の規則性を理解して動く。	
		この回の到達目標	エアロビックダンスプログラムの最小単位であるステップと、ステップを組み合わせたコンビネーションの構成を理解して動けるようにする。	
		事前学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
		事後学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。 生活習慣チェック表を記入し、自らの生活習慣を意識する。	30分
4	4/29	コンビネーション	コンビネーション（2）	
		この回の到達目標	エアロビックダンスプログラムの最小単位であるステップと、ステップを組み合わせたコンビネーションの構成を理解して動けるようにする。	
		事前学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
		事後学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
5	5/6	コンビネーション	コンビネーション（3）	
		この回の到達目標	エアロビックダンスプログラムの最小単位であるステップと、ステップを組み合わせたコンビネーションの構成を理解して動けるようにする。	
		事前学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
		事後学修	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。	30分
6	5/13	フィットネスダンス	フィットネスダンス（1） 振り付けのあるエアロビックダンス	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	フィットネスダンス	フィットネスダンス（2）	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。 生活習慣チェック表を記入、前回にチェックと比べ、良い習慣が身についたかを確認する。（30分）	30分
8	5/27	フィットネスダンス	フィットネスダンス（3）	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
9	6/3	フィットネスダンス	フィットネスダンス（4）	
		この回の到達目標	複雑な組み合わせのコンビネーションを理解して動けるようにする	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
10	6/10	コンビネーションの作成	コンビネーション作成	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
11	6/17	コンビネーションとプログラム	コンビネーションとプログラム（1） 学生が作成したコンビネーションをプログラムに発展させ運動を行う。	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
12	6/24	コンビネーションとプログラム	コンビネーションとプログラム（2）	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	実技試験準備	実技試験準備 コンビネーションの指導の練習	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
14	7/8	実技試験	実技試験 各自の動き、姿勢の矯正（教員から個別にアドバイス）	
		この回の到達目標	様々なパターンのコンビネーションを作成し、動くことができるようにする。	
		事前学修	自分が作成したコンビネーションの練習。	30分
		事後学修	課題曲、全曲のステップシート確認	30分
15	7/15	まとめ	まとめ 課題曲を全曲続けて行う。	
		この回の到達目標	今まで学んだ課題曲（フィットネスダンス）で有酸素運動になるように動けるようにする。	
		事前学修	課題曲、全曲のステップシート確認	30分
		事後学修	生活習慣チェック表を確認し、自らの生活習慣をもう一度見直す。そして、良い習慣が身につかなかった部分への原因と改善方法について考察しレポートを作成する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着と屋外及び屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等を準備）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的施設を使用する。第1回目は準備不要(履修カードに貼る顔写真を準備)

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9310研究室） tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。	
		事前学修	スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	4/13	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	4/20	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	4/27	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
		事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	5/4	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成について理解し、説明できる。	
		事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
		事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
6	5/11	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平衡性：バランスを高める運動を理解し、説明できる。	
		事前学修	「竹馬」の乗り方について調べる。	30分
		事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて理解し、説明できる。	
		事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
8	5/25	ロープスポーツ：個人技術	大縄跳び・ダブルダッチを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人技術について、グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有し理解し、説明できる。	
		事前学修	ダブルダッチについて調べ、必要な体力要素や動作について考える。	30分
		事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。	30分
9	6/1	ロープスポーツ：チーム技術	大縄跳び・ダブルダッチを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、チーム技術について、グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有し理解し、説明できる。	
		事前学修	前回授業における課題について、改善策を考えておく。	30分
		事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。グループにおける仲間とお互いの良い点や課題、前回からの改善出来た点などを共有する。	30分
10	6/8	球技：フットサル（基本動作）	足の使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、足の使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	フットサルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	足の使い方、基本動作について反復練習を実施し理解を深める。	30分
11	6/15	球技：フットサル(戦術)	個人戦術、チーム戦術について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人戦術、チーム戦術について理解し、説明できる。	
		事前学修	試合における個人戦術、チーム戦術について調べる。	30分
		事後学修	個人戦術、チーム戦術について分析を行う。	30分
12	6/22	球技：フットサル(実践形式)	実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションの取り方について理解し、説明できる。	
		事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	戦略・戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	器具を使ったトレーニング (上半身)	正しいフォームを学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、力が発揮できるフォームについて理解し、説明できる。	
		事前学修	レジスタンストレーニングの最高反復回数と% 1RMについて調べる。	30分
		事後学修	再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
14	7/6	器具を使ったトレーニング (下半身)	適切な負荷の設定を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について理解し、説明できる。	
		事前学修	超回復理論について調べる。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。	30分
15	7/13	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明できる。	
		事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと②運動にふさわしい服装(ジャージ等)、靴(室内用)を必ず用意すること

【授業方法】
施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。時期によっては多目的コートを使用し、屋外で授業を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終了前に、その日の内容や取り組みについてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については授業時間内（一部火曜 5 限、二部火曜 2、3 限）にしてください個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください。火曜日のみ16:00～ 授業間の時間等に対応します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 火4/7	【ガイダンス】 【体育実技の授業方法について】	年間授業計画、授業の進め方などにに関するガイダンス	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、体育実技の方法や目的を理解し、運動と健康の維持増進との関連について説明することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や到達目標、年間のスケジュールなどをよく理解しておく。	30分
		事後学修	ガイダンスの説明を振り返って授業内容や授業の進め方を理解する。また次週以降の授業に備えて体調管理に留意する。	30分
2	第一部 第二部 火4/14	【体力チェックの実践と評価】	体力チェックテスト	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力チェックを踏まえて現在の体力を把握・理解する。また今後の授業に向けて個人で目標を立てることができる。	
		事前学修	体力チェックの項目にはどのようなものがあるか、種目と実施方法を調べておく。	30分
		事後学修	自身の体力チェックの結果をふりかえり、体力および健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	第一部 第二部 火4/21	【体への理解とメンテナンス方法の実践】	体ほぐし・ストレッチング	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、体の柔軟性や疲労度について把握するとともに、メンテナンスを実践し、その方法や効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ストレッチの種類や方法にはどのようなものがあるか、またその効果について事前に調べておく。	30分
		事後学修	授業で実施した内容を振り返り、自宅などでも積極的に実践してみる。	30分
4	第一部 第二部 火4/28	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング トレーニング機器の安全な使用方法の理解と実践する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力を把握するとともに、トレーニング機器の種類や安全で正しい使い方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	サーキットトレーニングとは何か、またどのような効果があるか事前に調べておく。	30分
		事後学修	機器の重量の替え方やポジションの調整など、次週以降繰り返し説明が必要ないように復習しておく。	30分
5	第一部 第二部 火5/5	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング 機器の使用法の確認と個人のトレーニングメニューの作成	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力を把握するとともに、トレーニングを実践しその方法や効果を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前週の内容を振り返り、機材の使い方や重量の設定の仕方などを復習しておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、自分自身に合ったトレーニングメニューについて考える。	30分
6	第一部 第二部 火5/12	【トレーニング方法の学習と実践】	サーキットトレーニング 個人のトレーニングメニューの実践および長期目標の設定	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自分の体力や筋力に合ったメニューを作成するとともに、トレーニングを実践しそのメニュー対して評価をし、説明することができる。	
		事前学修	自分自身でトレーニングメニューを作り、実践する準備をしておく。	30分
		事後学修	自分の作ったトレーニングメニュー・および実践した内容を振り返り、よりよいメニューを考える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 火5/19	【卓球のルール理解と実践】 【シングルスとは】	卓球 シングルスのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	卓球のシングルのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。	30分
8	第一部 第二部 火5/26	【卓球のルール理解と実践】 【シングルのゲーム】	卓球 シングルのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールについて確認するとともに、ラケットの種類やボールの打ち方についても調べておく。	30分
		事後学修	卓球シングルの楽しさとはなにか、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
9	第一部 第二部 火6/2	【ウォーキングの効果の理解と実践】	ウォーキング	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ウォーキングの効果やメリットについて、一日どれくらい歩くことが推奨されているか事前に調べておく。	30分
		事後学修	自分自身の普段の歩数を意識的に調べ、足りないようであれば隙間時間などにウォーキングを実践する。	30分
10	第一部 第二部 火6/9	【フットサルのルール理解と実践】	フットサル フットサルのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	フットサルとサッカーの違いは何か、また使用するボールやルールについて調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなおしておく。	30分
11	第一部 第二部 火6/16	【フットサルのルール理解と実践】	フットサル フットサルのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールについて確認するとともに、蹴り方の種類などについても調べておく。	30分
		事後学修	フットサルの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方についての意見をまとめる。	30分
12	第一部 第二部 火6/23	【自宅でも気軽にできる運動とは】	DVD鑑賞（トレーニングやエアロビクスなど）	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	近年刊行された運動やスポーツについての書籍の中で、興味のあるものをピックアップしておく。	30分
		事後学修	自分自身に合う運動のスタイルとは何か、自分なりの意見をまとめておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 火6/30	【ダーツのルール理解と実践】	ダーツ ダーツのルールの理解および基本練習	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ダーツのルールや歴史について、あらかじめ調べておく。	30分
		事後学修	ダーツがもつスポーツ性とは何か、自分なりの意見をまとめる。	30分
14	第一部 第二部 火7/7	【ダーツのルール理解と実践】	ダーツ ダーツのルールの復習とゲームの実践	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールやゲームの方法を振り返り、ダーツの投げ方や握り方についても調べておく。	30分
		事後学修	ダーツの楽しさとは何か、自分なりの楽しみ方について意見をまとめる	30分
15	第一部 第二部 火7/14	【前期の授業の振り返りおよび解説】	前期のまとめと振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業をとおして自己の体力や筋力の変化を理解するとともに、スポーツ・運動と健康の維持増進について振り返り・説明することができる。	
		事前学修	体育実技ⅠAの授業について、実施したスポーツ・身体運動の種類や目的、またそれらの運動効果について振り返っておく。	30分
		事後学修	後期に向けて、健康の維持・増進のため具体的にどのような運動に取り組むかの目標を立てる。	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装、室内シューズ、タオル、筆記用具の用意

【授業方法】
講義、身体チェック、トレーニングを基盤として施設や人数に合わせた用具・ルールで運動を実践する。活動内容は個人カードに記録する。ボールゲームやニュースポーツは「多目的コート」を使用することがあるので前の週の授業時に連絡をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力・筋力測定の結果を受けて客観的に運動メニューを作成し、実践、調整をする。グループワークの中でリーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で解説し、確認をしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
木曜日13:00から18:00　2号館地下（体育教員室，体育場）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		AHA TC IEMA Faculty, 国際救命救急協会理事、イグザミナー 運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に伝えていく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木 4/9	ガイダンス 健康・体力について	健康・体力について、授業での到達目標を決める。年間の授業内容や履修上の注意点、評価方法などのガイダンス（体育場） 履修カード作成	
		この回の到達目標	心身共に健康で行動的な大学生活を送るための体力はどのくらいか理解する	
		事前学修	筆記用具、写真の準備をする、事前にシラバスを確認しておくこと	30分
		事後学修	ガイダンス内容に従い、トレーニングウェア、シューズ、タオルなどの準備、購入をする	30分
2	第1部 木 4/16	体をほぐしてチェックをしよう	各種ストレッチ 体のチェック 手具を使わないからだほぐし運動（体育場）	
		この回の到達目標	正しいストレッチの方法を習得する。	
		事前学修	体調管理 前回欠席の学生は写真の準備	30分
		事後学修	202教室とトレーニング機器の使い方とトレーニングルームでのルールのと体調管理の方法の再確認	30分
3	第1部 木 4/23	体力測定	体力カード作成 身体チェック（体力測定）（体育場）	
		この回の到達目標	現状の自身の体力を客観的に捉える。	
		事前学修	体調管理、体力測定内容の確認 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする 自分の体力測定の結果を客観的に捉え、高める体力をチェックする	60分
4	第1部 木 4/30	筋力測定と体ほぐし運動	トレーニングカード作成 筋力測定（1RMをはかろう） バランスボールを使ったからだほぐし運動（体育場）	
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える からだの使い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 筋力測定内容、マシンの使い方の確認 バランスボールの使い方を調べてくる	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方の確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする。	60分
5	第1部 木 5/7	筋力測定と体ほぐし運動	筋力測定（1RMをはかろう） ボールを使ったからだほぐし運動（体育場）	
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える ボール扱い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 筋力測定内容、マシンの使い方の確認 ボールの扱い方を調べてくる	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方の確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする。	60分
6	第1部 木 5/14	筋力測定と体ほぐし運動	筋力測定（1RMをはかろう） 縄跳びを使ったからだほぐし運動（体育場）	
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える ボール扱い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 縄跳びの様々な跳び方の情報を得る	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方、自分の筋力測定の結果を確認し、高める体力をチェックする ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木 5/21	運動メニュー作成とトレーニング	体力・筋力測定の結果を受け止め、自分に合ったトレーニングメニューを作成し、実践、調整する	
		この回の到達目標	自身の体力・筋力測定の結果をもとに自分に合った運動メニューを作成する トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 自分の筋力測定の結果を確認し、高める体力をチェックする	60分
		事後学修	トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 調整が必要なトレーニングメニューのチェックをする ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
8	第1部 木 5/28	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング 卓球野球（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮しチームとして卓球野球を成立させる 手具の扱いを楽しみ、苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	チームの貢献できたこと、足りなかったことなどを記録しておく ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
9	第1部 木 6/4	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング ドッジボール、ドッジビー（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮しチームとしてドッジボールやドッジビーを成立させる フリスビーの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 手具の扱いの弱点など高めるために何をすればよいか考える グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	手具の扱いの弱点など高めるために何をすればよいか考える グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
10	第1部 木 6/11	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング インディアカ（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮しチームとしてインディアカを成立させる インディアカの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく インディアカという羽をコントロールするためにはどうしたらよいか調べる グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	羽の扱いの修正方法を考える グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
11	第1部 木 6/18	トレーニングとレクリエーションスポーツ	トレーニング インディアカ（多目的コートor体育場）	
		この回の到達目標	チームメイトと協力して前回よりもインディアカらしくゲームができるように、チーム運営をする インディアカの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 羽の扱いを前回より上手にするためには、何を意識するのか考えてくる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	羽はコントロールできたか再確認 トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
12	第1部 木 6/25	トレーニングと卓球	トレーニング 卓球（シングルス）（体育場） トレーニング負荷チェック	
		この回の到達目標	トレーニングの負荷は適当であるか実践、調整、修正 ラケットでボールコントロールや回転をかける（ドライブ、カット）	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 自分に合うラケットはどっちなのか、卓球のルールとストロークを調べる。	60分
		事後学修	ラケットは自分に合っているものを使用して、コントロールや回転をかけることできたか再確認 トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第1部 木 7/2	トレーニングと卓球		トレーニング 卓球（シングルス）（体育場） ルールを把握をしてゲームをする
		この回の 到達目標	ペアと協力する ルールを理解してゲームを成立させる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 苦手なストロークができるようになる修正方法を調べる	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする できるようになったストロークのまとめとできないストロークの修正方法を考える	60分
14	第1部 木 7/9	トレーニングと卓球		トレーニング 卓球（ダブルス）（体育場） ルールを把握をしてゲームをする
		この回の 到達目標	ペアと協力する ルールを理解してゲームを成立させる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 苦手なストロークができるようになる修正方法を調べる ダブルスのルールを調べる	60分
		事後学修	授業ではトレーニングが最後なので、休み中にできる内容を考える ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする トレーニングの負荷を再確認し、休み中に行う運動メニューを作成し、提出準備する	90分
15	第1部 木 7/16	卓球大会		卓球団体戦（体育場） まとめ（夏休み中の運動メニューについて）
		この回の 到達目標	履修者全員が協力して卓球の団体戦運営を成立させる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ルールの確認 トレーニングの負荷を再確認し、休み中に行う運動メニューを作成し、提出準備する	90分
		事後学修	トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 授業ではトレーニングが最後なので、休み中にできる内容を再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	朴 鍾熾	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講者は室内用運動靴(紐靴)、トレーニングウェア(自由に運動ができる服装)、タオル等を各自で準備すること。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける証明写真1枚を準備)

【授業方法】
授業開始時に出席確認および実施内容の説明をする。※授業内容は変更する場合がある。多目的コートを使用する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員連絡にて

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
授業の前後（木曜2、3限）に質問を受け付ける。授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	【ガイダンス】【導入講義】	授業の目的・方法，評価方法，受講時の注意，シラバスについて説明	
		この回の到達目標	体育実技1Aに関する総合的な説明	
		事前学修	体育実技1Aに関する総合的な説明をするので，筆記用具等を持参すること	30分
		事後学修	次回の種目に関するルールを調べておく	30分
2	4/16	【体力測定】	握力，反復横跳び，上体起こし，長座体前屈，立ち幅跳び，閉眼片足たち	
		この回の到達目標	体力測定	
		事前学修	体力測定種目についてチェックする	30分
		事後学修	3体力測定の結果を踏まえて，1年間の体力管理の目標をたてる	30分
3	4/23	【卓球①】	基礎練習，サーブ，ラリー，シングルスゲーム	
		この回の到達目標	卓球の基礎練習	
		事前学修	卓球のルールについて調べる	30分
		事後学修	試合中の感覚を覚え，シングルス相手とコミュニケーションをとる	30分
4	4/30	【ダーツ①】	基礎練習，501ゲーム，01ゲーム	
		この回の到達目標	ダーツのルールの理解	
		事前学修	ダーツゲームの種類およびルールについて確認する	30分
		事後学修	ルールを正しく理解できたか省みる	30分
5	5/7	【フローアーカーリング①】	ルールの説明，ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	フローアーカーリングの理解	
		事前学修	フローアーカーリングのルールについて調べる	30分
		事後学修	チームワークに貢献できたか振り返り，次回のゲームに活かす	30分
6	5/14	【ハンドボール①】	パス，シュート，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	ハンドボールのルールの理解	
		事前学修	ハンドボールについて調べ，試合中のプレーをイメージトレーニングする	30分
		事後学修	自分のプレーに満足できたか考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	【フットサル①】	パス、ドリブル、ミニゲーム（4人組）※可能ならば屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	フットサルの理解	
		事前学修	サッカーとフットサルの違いについて調べる	30分
		事後学修	個人プレーとチームプレーが両方できたか振り返る	30分
8	5/28	【ピックルボール①】	ルールの説明、ラリー、ゲーム（2人組）	
		この回の到達目標	ピックルボールの試合	
		事前学修	ピックルボールのゲーム方法とルールについて調べる（30分）	30分
		事後学修	他のラケット競技と異なる点について考える（30分）	30分
9	6/4	【ドッチボール①】	ボールの投げ方、ゲーム（6人組）	
		この回の到達目標	ドッチボールのルールの理解	
		事前学修	ドッチボールに必要な体力要素について調べる（30分）	30分
		事後学修	チームメートとコミュニケーションをとり、次回の種目に活かす（30分）	30分
10	6/11	【ミニバドミントン①】	基礎練習、ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ミニバドミントンの試合	
		事前学修	ミニバドミントンを楽しめる方法を考える（30分）	30分
		事後学修	試合を振り返り、バドミントン競技の理解を深める（30分）	30分
11	6/18	【ウェイトトレーニング①】	レジスタンストレーニング、体組成測定	
		この回の到達目標	マシンの種類の把握	
		事前学修	ウェイトトレーニング時の注意点について調べる（30分）	30分
		事後学修	十分にクールダウンを実施し、疲労回復および傷害予防に努める（30分）	30分
12	6/25	【ユニホッケー①】	パス、ドリブル、ミニゲーム（4人組）	
		この回の到達目標	ユニホッケーの試合	
		事前学修	ユニホッケーのルールおよび技術を調べる（30分）	30分
		事後学修	ユニホッケーのスティック操作が上手にできたか確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	【フローカーリング②】	ルールの説明，ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	フローカーリングの試合	
		事前学修	フローカーリング①と違うチームを組み，戦術を考える（30分）	30分
		事後学修	フローカーリング①に比較し，上達できたか確認する（30分）	30分
14	7/9	【ピックルボール②】	ルールの説明，基本練習，ゲーム（3人組）	
		この回の到達目標	3人組試合	
		事前学修	フローカーリング①と違うチームを組み，戦術を考える	30分
		事後学修	試合の結果を見直し，次回の種目に活かす	30分
15	7/16	【まとめ】	レクリエーション，講評，質疑応答	
		この回の到達目標	まとめ	
		事前学修	前期のまとめをする	30分
		事後学修	総合評価	30分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	深田 喜八郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。授業は主に2号館体育場及びトレーニングルームを使用するが、多目的コートを使用する場合もある。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)

【授業方法】
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。 【フィードバック方法】作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2			2	2	2	2	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 17時30分～18時00分 2号館地下1F※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 月4/6	【ガイダンス及び用具の説明】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具及び施設の使用方法、注意点を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動と健康の関連について説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第二部 月4/13	【体ほぐしの運動】	パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ストレッチの重要性を説明できる。	
		事前学修	ストレッチの効果について調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。	30分
3	第二部 月4/20	【体力テスト】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力測定の結果を踏まえ自らの目標を説明でき。	
		事前学修	測定種目について確認する。	30分
		事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。	30分
4	第二部 月4/27	【自重トレーニング】	自身の体重を利用した筋力トレーニングの方法を紹介し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。	
		事前学修	自重トレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、自重トレーニングを実施する。	30分
5	第二部 月5/4	【マシントレーニング】	器具を使用した筋力トレーニングの方法や注意点を解説し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。	
		事前学修	マシントレーニングの種類を調べる。	30分
		事後学修	筋力増強のメカニズムについてまとめる。	30分
6	第二部 月5/11	【筋力トレーニングの実施】	各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、筋力と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、筋力トレーニングの達成目標について説明できる。	
		事前学修	筋力トレーニングプログラムの作成。	30分
		事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 月5/18	【卓球(練習)】	卓球台の準備や道具の取り扱いについて解説し、様々なペアで練習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	卓球の基礎技術についてまとめる。	30分
		事後学修	練習した経験を踏まえ、卓球のコツについてまとめる。	30分
8	第二部 月5/25	【卓球(シングルス)】	シングルスゲームの方法を解説し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	シングルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	シングルの結果を踏まえ、反省点をまとめる。	30分
9	第二部 月6/1	【卓球(ダブルス)】	ダブルスゲームの方法を解説し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ダブルスのコミュニケーションについてまとめる。	30分
10	第二部 月6/8	【有酸素運動①】	エアロバイクによる有酸素運動の方法を解説し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素運動の達成目標について説明できる。	
		事前学修	有酸素運動について調べる。	30分
		事後学修	エアロバイクの回転数や強度についてまとめる。	30分
11	第二部 月6/15	【有酸素運動②】	心拍数をもとにエアロバイクの強度を設定し、有酸素運動を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素運動の達成目標について説明できる。	
		事前学修	安静時心拍数を確認しておく。	30分
		事後学修	目標とする運動中の心拍数を確認する。	30分
12	第二部 月6/22	【有酸素運動③】	作成した有酸素運動プログラムをもとに、トレーニングを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、有酸素運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、有酸素運動の達成目標について説明できる。	
		事前学修	自分自身に適した有酸素運動を考案する。	30分
		事後学修	実施した内容について振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月6/29	【トレーニング実践①】	筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングプログラムを考案し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	総合的なトレーニングプログラムを作成する。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、プログラムを修正する。	30分
14	第二部 月7/6	【トレーニング実践②】	筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングプログラムを再度考案し、実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	総合的なトレーニングプログラムを再度作成する。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、まとめる。	30分
15	第二部 月7/13	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、トレーニングを実践する。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	岩本 良裕	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
実技の授業であるので、トレーニングウェアとトレーニングシューズが必要です。運動終了後シャワーが利用できます。

【授業方法】
毎回トレーニングメニューに従い、自分のペースでトレーニングを進めます。エアロバイクやランニングマシンでトレーニングを行う際には、ウォークマン等を使用しても構いません。水分摂取も適宜行ってください。内容によっては多目的コートを使用することもあります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業ごとに記録されるトレーニングカードについてチェックし、講評・助言を行い、サポートしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
毎週金曜日4時限 2号館地下

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 金9/18	体力測定 筋力アップトレーニング	体力測定、体脂肪測定 筋力アップトレーニングの方法	
		この回の到達目標	筋力アップトレーニングの方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前期の授業で確認した課題を再確認する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、筋力アップトレーニングの意義や方法を確認する。	30分
2	第一部 第二部 金9/25	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 1 体幹筋力アップトレーニング(1) フロントブリッジ、サイドブリッジ	
		この回の到達目標	体幹筋力アップトレーニング フロントブリッジ、サイドブリッジの方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
3	第一部 第二部 金10/2	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 2 体幹筋力アップトレーニング(2) ヒップリフト、ダイアゴナル	
		この回の到達目標	筋力アップトレーニング ヒップリフト、ダイアゴナルの方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
4	第一部 第二部 金10/9	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 3 体幹筋力アップトレーニング(3) 負荷を上げる方法	
		この回の到達目標	体幹筋力アップトレーニングの負荷を上げる方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
5	第一部 第二部 金10/16	体幹筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 4 体幹筋力アップトレーニング(4) 器具を利用する方法	
		この回の到達目標	体幹筋力アップトレーニング 器具を利用して行う方法を理解し、実践することにより、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
6	第一部 第二部 金10/23	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 5 下肢筋力アップトレーニング(1) マシーントレーニングの方法	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニング マシーントレーニングの方法とその効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部第二部 金10/30	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 6 下肢筋力アップトレーニング(2) 適切な負荷のかけ方	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニングにおいて適切な負荷のかけ方について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
8	第一部第二部 金11/6	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 7 下肢筋力アップトレーニング(3) マシーントレーニング	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニング マシーントレーニングを実践し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
9	第一部第二部 金11/13	下肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 8 下肢筋力アップトレーニング(4) 器具を使用しない方法	
		この回の到達目標	下肢筋力アップトレーニング 器具を使用しない方法について理解し、その方法を習得する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
10	第一部第二部 金11/20	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 9 上肢筋力アップトレーニング(1) マシーントレーニング	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニング マシーントレーニングの方法とその効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
11	第一部第二部 金11/27	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 10 上肢筋力アップトレーニング(2) 適切な負荷のかけ方	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニングにおいて負荷のかけ方について理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
12	第一部第二部 金12/4	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 11 上肢筋力アップトレーニング(3) ダンベルトレーニング	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニング ダンベルを使用したトレーニング方法の習得。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 金12/11	上肢筋力アップトレーニング	筋力アップトレーニング 1 2 上肢筋力アップトレーニング(4) 器具を使用しない方法	
		この回の到達目標	上肢筋力アップトレーニング 器具を使用しないトレーニング方法の習得。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。)	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
14	第一部 第二部4 金12/18	体力測定	筋力アップトレーニング 1 3 体力測定、体脂肪測定	
		この回の到達目標	体力測定を行い、自己の体力の現状を理解する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。	30分
		事後学修	授業を振り返り、トレーニングを行う。 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。	30分
15	第一部 第二部 金12/25	まとめ	[まとめ] 年間通してのトレーニング効果について確認し、運動の必要性についての意義を深める。	
		この回の到達目標	筋力アップトレーニングの意義について再確認する。	
		事前学修	前回までの記録をまとめ、トレーニングカードに基づきグラフを作成してトレーニング効果を確認する。	30分
		事後学修	日常生活の中に、運動を取り入れ、習慣化していくことの重要性について理解を深める。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動やスポーツが不得意な人を優先とする。受講時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や事故の防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は認めない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたリポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する				

【オフィスアワー】
授業（土曜1・2限）前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部土 9/19	【体組成測定】 【トレーニングプログラムの作成】	履修カードの作成、健医チェック、トレーニングプログラムの作成	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期と後期の体組成データの結果についての比較・分析を行うことができる。また、前期の反省および自身の健康状態を踏まえて、適切なトレーニングプログラムを作成することができる。	
		事前学修	前期のトレーニングプログラムおよびを体組成データを振り返ること（30分）	30分
		事後学修	体組成結果より生活習慣をチェックし、前期に作成したトレーニングメニューの内容について再検討すること（30分）	30分
2	第一部土 9/26	【トレーニングの実施】 【フットサル】	トレーニング（筋力・有酸素）、フットサル	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回作成したトレーニングプログラムについて必要に応じて適宜修正することができる。また、フットサルの基本的なルールおよび基本的な技術を理解できる。	
		事前学修	後期初回のトレーニング後の身体の状態を確認し、プログラム修正の必要があるか検討すること。また、フットサルの基本的なルールや技術について調べておくこと（30分）	30分
		事後学修	後期の体力・健康維持増進に関して自分なりの目標を設定すること。また、フットサルのルールや技術において、サッカーとの違いが曖昧な部分や理解が不十分な箇所について、十分に復習し理解しておくこと（30分）	30分
3	第一部土 10/3	【トレーニングの実施と、自宅でもできるトレーニングの検討】 【フットサル】	トレーニング（筋力・有酸素）、フットサル	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内のマシントレーニング以外で、自宅でもできるトレーニング内容について考え、計画することができる。また、フットサルのゲームを円滑に進めることができる。	
		事前学修	自重トレーニングについて調べ、自身ができそうなものをいくつかピックアップしておくこと。また、フットサルのゲームにおいて自身がどのように動くべきか考えて、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	この後、トレーニングを実施しない回が複数続いたため、自宅でのトレーニングプログラムを計画し、授業外でも自重負荷を用いたトレーニング等を実施すること。また、屋外多目的コートの場合や、ゴールの大きさ等、室内の体育場とは異なる特徴について確認しておくこと（30分）	30分
4	第一部土 10/10	【フットサル（屋外・ゲーム）】	フットサル	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、屋外コートでの練習・ゲームを通して、屋内コートとの違いについて自分なりに理解し、必要な工夫をすることができる。	
		事前学修	筋肉疲労を軽減するためストレッチを必ず実施すること（30分）	30分
		事後学修	前回同様、自宅でもトレーニングを実施すること。必要に応じてセット数・回数を修正する。また、フットサルに関して、屋内コートと屋外コートの違いや、それぞれのコートでの動き方や力の入れ具合の違いなど、必要な工夫について考えること（30分）	30分
5	第一部土 10/17	【フットサル（屋外・ゲーム）】	フットサル	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、前回の屋外コートでのゲーム経験を活かし、仲間と協力して思いっきりプレーすることができる。	
		事前学修	前回の反省を踏まえ、屋外コートで得点に繋げるためには、自分はどのように動く必要があるのか考えておくこと（30分）	30分
		事後学修	授業外でのトレーニングについて、十分な刺激・効果が得られているか振り返ること。また、本日のフットサルのゲームについて、自身のコート内での動きやボールコントロールの出来栄と、仲間と協力してうまくチームプレーができたかについて省みること（30分）	30分
6	第一部土 10/24	【バランストレーニング】 【ダーツ（カウントアップ）】	トレーニング（バランスボール）、ダーツ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ペアでのバランストレーニングを通して、問題発見・課題解決ができる。また、繊細なバランス感覚のトレーニングおよびダーツの基本的な投げ方の練習を通して、自身の身体感覚を敏感に捉え、どこをどのように調整すればよいか試行し、「気づく」ことができる。	
		事前学修	バランス（平衡性）について調べること。また、ダーツ（カウントアップ）の基本的なルールや投げ方について調べること（30分）	30分
		事後学修	実施した運動内容やパートナーとのコミュニケーション、身体感覚について振り返ることで、自分自身の特徴に気づき、改善に繋げること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部土 10/31	【他者のトレーニングに対する確認と修正】 【ダーツ（ゼロワン）】	トレーニング（筋力・有酸素）、ダーツ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで各自が行ってきたトレーニングに基づいて、他者のトレーニング方法やフォームについても修正、改善ができる。また、前回気づいた感覚に基づいてダーツの投げ方を修正し、命中率をあげる。	
		事前学修	各トレーニングマシンの主動筋や正しいフォームについて再度確認、もしくは調べること。また、ダーツ（ゼロワン）の基本的なルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	各トレーニングの使用部位やフォームを正しく理解し、修正できるように復習すること。また、今回のダーツの結果を踏まえて、次の目標を設定すること（30分）	30分
8	第一部土 11/7	【ペアでのトレーニングチェック】 【ダーツ（ゼロワン）】	トレーニング（筋力・有酸素）、ダーツ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ペアでのトレーニングを通して、適切なアドバイスや修正のスキルを磨くことで、問題発見・課題解決やコミュニケーションのトレーニングを行うことができる。また、前回よりも難易度の高いダーツのゲームを通して、所定の時間内に課題を終わらせるための、身体感覚と集中力を養うことができる。	
		事前学修	他者に対するアドバイスをを行う上で配慮すべきことや留意すべきことについて考え、必要に応じて調べること。また、ゼロワンのルール上、限られた時間の中で、できるだけ早く上がるために必要な要素について調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングに関する他者へのアドバイスをを行う際に必要なことについて考え、振り返り、次回に展開すること。また、ダーツは前回よりも技術レベルを高めることができたか検証すること（30分）	30分
9	第一部土 11/14	【技能チェック】 【エアロバイク体力テスト】	トレーニング（筋力・有酸素）、エアロバイク体力テスト	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、トレーニングのアドバイスに関する技能チェックを通して、体力および健康の保持増進に関する、自身の学びの確認とコミュニケーショントレーニングが可能となる。	
		事前学修	他者に対するトレーニングのアドバイスを実施するにあたり、伝えるべきこと、必要な知識を再度確認し、イメージトレーニングしておくこと（30分）	30分
		事後学修	ペアでうまくコミュニケーションが取れたか、適切な修正や知識の提供ができたかについて検証すること（30分）	30分
10	第一部土 11/21	【トレーニングプログラムの実施と見直し】 【スキップingロープ】	トレーニング（筋力・有酸素）、スキップingロープ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までのパートナーからのアドバイスを参考に、トレーニングプログラムを見直すことにより、自身のトレーニングや身体についての客観視ができる。また、スキップingロープを用いて、自身のフィジカルトレーニングが可能となるだけでなく、仲間とのチームワーク力を養うことができる。	
		事前学修	前回のパートナーからのアドバイスを活かし、トレーニングのプログラム内容を見直し、工夫すること。また、スキップingロープの様々な跳び方について調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングプログラムを見直し、負荷が増した場合は、これまで以上に十分にストレッチなどのコンディショニングを行うこと。また、トレーニングとしてのスキップingロープの活用について検討すること（30分）	30分
11	第一部土 11/28	【トレーニングとコンディショニングの実践】 【ユニホック】	トレーニング（コンディショニング）、ユニホック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ストレッチポールを利用したコンディショニング方法を理解し実践できる。また、ユニホックの基本的なルールや技能を理解し、仲間に説明することができる。	
		事前学修	ストレッチポールの利用方法について調べること。また、ユニホックの基本的なルールや道具、技能について調べること（30分）	30分
		事後学修	コンディショニングでは、コンディショニングの重要性・必要性および自分の身体の変化に気づくことができたかを省みること。また、ユニホックの練習・ゲームを通して、自分の得意な動きや苦手な動き、課題について省みること（30分）	30分
12	第一部土 12/5	【トレーニングの実践】 【ユニホック】	トレーニング（筋力・有酸素・コンディショニング）、ユニホック	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンディショニングを取り入れたトレーニングの重要性について説明できるだけでなく実践でき、日常生活に取り入れられるようになる。また、ユニホックの基本ルールや技能を把握した上で、ゲームをスムーズに行うことができるようになる。	
		事前学修	コンディショニングの方法について復習しておくこと。また、ユニホックのゲームについて、自身がすべき動きや必要なコミュニケーションについて、動画視聴を取り入れるなどして、自分なりにシミュレーションしておくこと（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの記録用紙に漏れがないか確認すること。また、ユニホックのスティック操作がスムーズにでき、満足のいくパスワークができたか振り返ること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部土 12/12	【ユニホック】	ユニホック	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、仲間と協力して試合に臨み、お互いに声を掛け合ってコミュニケーションをとることで、円滑なパスワーク、パフォーマンスに繋げることができる。	
		事前学修	スムーズな試合運びや、トーナメントを勝ち上がるために必要な技能・コミュニケーションについて、チームメイトと話し合ってみること（30分）	30分
		事後学修	ユニホックのルールを正しく運用し、前回よりもチームに貢献できたか省みること（30分）	30分
14	第一部土 12/19	【体力チェック】	簡単な体力チェック	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、体力チェックの実施により、自身の体力・健康の現状が把握でき、前期の結果との比較を通して、一年間の自身の取り組みについての評価ができる。	
		事前学修	前期の体力チェックのデータについて確認しておくこと（30分）	30分
		事後学修	正確に測定した上で、得られた結果について前期と後期の変化を比較・分析し、今後に活かすこと（30分）	30分
15	第一部土 12/26	【体組成測定】【振り返り】	後期のまとめ、健医チェック、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期と後期の体組成データの結果についての比較・分析を行い、一年間の自身の取り組みについての評価ができる（30分）	
		事前学修	これまでの体組成データについて確認しておくこと（30分）	30分
		事後学修	到達目標を再認識し、将来に向けて健康や体力の向上を目指した運動習慣を獲得すること（30分）	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動やスポーツが不得意な人を優先する。受講時は必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。自他の怪我や自己防止のため、アクセサリ類は全て外し、健康管理に留意した上で、遅刻をしないように出席すること。条件に満たない者の履修は許可しない。

【授業方法】
個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況や出席者数・天候により授業内容の変更もある。授業は2号館体育場およびトレーニングルームを使用するが、内容によっては多目的コートを使用することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でレポートの講評および解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用せず、必要に応じて資料を配布する。				

【オフィスアワー】
火曜1限前後の時間帯にて対応する。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	【ガイダンス】【授業内容 および履修条件の確認】	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、本授業において取り組むべき運動内容の把握、および授業に臨む姿勢や求められる服装・態度を理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）	30分
		事後学修	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）	30分
2	第一部火 4/14	【アイスブレイクと身体ほぐし】	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、仲間とコミュニケーションをとりながら、自身の身体をほぐし、自身の心と身体の現状について感覚的に確かめる。	
		事前学修	提出物の作成と、健康についての情報を得ること（30分）	30分
		事後学修	ストレッチ方法を自分なりに調べ、理解し実践に移すこと（30分）	30分
3	第一部火 4/21	【身体組成の測定および把握】	ストレッチ、健医チェック、ボール運動	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、体組成データを測定し、現状を把握すると共に、課題および改善点を踏まえて目標を設定する。	
		事前学修	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること（30分）	30分
		事後学修	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）	30分
4	第一部火 4/28	【体力チェック】	ストレッチ、ボール運動、簡単な体力チェック	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力の確認と、必要なトレーニングについて考え、計画することができる。	
		事前学修	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）	30分
		事後学修	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）	30分
5	第一部火 5/5	【最大筋力の算出】【卓球】	最大筋力測定、卓球の基礎技術	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの体力および健康の保持増進のために必要なトレーニングとウエイトの設定、自身の最大筋力の正確な算出ができる。また、卓球の基本的な技術やルールについて理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）	30分
		事後学修	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）	30分
6	第一部火 5/12	【最大筋力の算出】【有酸素運動の実践】【卓球（シングルスゲーム）】	前回到続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（シングルスゲームとルール）	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、有酸素運動の意義と必要性を理解し、説明できるだけでなく、有酸素運動を実施する際に使用する機器がわかり、正しく使用できる。また、仲間と卓球のルールを確認・説明しながら、円滑にゲーム運営ができる。	
		事前学修	有酸素運動の知識を得て、適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。また、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。また、卓球のゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	【筋力トレーニング】【卓球（シングルスゲーム）】	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身に必要な筋力トレーニングについて考え、メニュー作成と実践ができる。トレーニングに関しても卓球に関しても、これまでの反省を踏まえ、目標を設定し、取り組むことができる。	
		事前学修	筋力トレーニング種目を測定結果より5~6種目選択し、メニューを作成すること。また、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）	30分
		事後学修	実施した結果より再度メニューを検討すること。また、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃えること（30分）	30分
8	第一部火 5/26	【筋力トレーニングプログラムの作成】【卓球（ダブルスゲーム）】	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回設定したトレーニングメニューの見直しと修正ができる。卓球では、新たにダブルスゲームに挑戦し、これまでの授業で培った技術や、シングルスゲームの経験を応用できる。	
		事前学修	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。また、ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）	30分
		事後学修	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。また、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）	30分
9	第一部火 6/2	【筋力トレーニングの継続】【ポートボールに関する基本事項の確認と実践】	筋力トレーニング、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで設定したトレーニングプログラムを継続して正確に実施し、自身の健康増進に繋げると共に、仲間とコミュニケーションをとりながらポートボールに取り組み、全身運動により、気持ちよく汗を流すことができる。	
		事前学修	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。また、ポートボールのルール・技術を調べること（30分）	30分
		事後学修	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。また、バスケットボールの技術をポートボールのゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）	30分
10	第一部火 6/9	【筋力トレーニングメニューの変更】【ポートボールの実践】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、必要に応じてトレーニング種目を増やし、より多くの筋肉を使って自身の健康増進を図ることができる。仲間と怪我なくポートボールに取り組み、スムーズなゲーム運営ができる。	
		事前学修	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。また、バスケットボールとポートボールのゲームのルールの違いを調べること（30分）	30分
		事後学修	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。また、ポートボールのゲーム展開を認識し、次のゲームに活かすこと（30分）	30分
11	第一部火 6/16	【食生活と筋力トレーニングの振り返り】【ポートボール】	トレーニング（筋力・有酸素）、ポートボール	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまで・日頃のトレーニングだけでなく、食生活についても振り返り、改善に繋げることができる。また、これまでのポートボールの技術練習やミニゲームの経験を通して、トーナメント戦に取り組むことができる。	
		事前学修	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。また、ポートボールのトーナメント戦に備えて作戦を練ること（30分）	30分
		事後学修	体力カードをチェックし正確な記録ができたか確認すること。また、ポートボールにおいてチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）	30分
12	第一部火 6/23	【筋力トレーニングのチェック】【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの筋力トレーニングの経験を踏まえ、前期の最後に行う体組成測定に結果が反映されるためにどのようなことが必要か、自分なりに再度トレーニング内容のチェックを行うことができる。ドッジビーでは、コントロールが不慣れな中で、自分がどこにどのようにドッジビーを投げれば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	筋力トレーニングのポイントや意識すべき点について再度確認しておくこと。また、ドッジビーの投げ方やコントロールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かすこと。また、ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	【筋力トレーニングの継続】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、前期最後の体組成測定の結果から、自身の健康増進が確認できることを目指し、トレーニングを継続する。ドッジビーでは、仲間との協働を通して、自分がどこにどのように動けば良いか考え、実行することができる。	
		事前学修	狙った筋肉に適切に刺激を加えられているか、前回のトレーニングによる筋肉痛の程度はどの程度だったか等を振り返り、次のトレーニングに活かすこと。また、ゴールドッジのルールについて調べること（30分）	30分
		事後学修	トレーニングの内容が充実してきた中、怪我等が無いよう、栄養・休養・ストレッチ などのコンディショニングを再度見直し、十分に実施すること。また、ドッジビーのゲームでの動きや投げ方が適切であったか振り返り、改善点について考えること（30分）	30分
14	第一部火 7/7	【筋力トレーニングの継続と今後の計画】 【ドッジビー】	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、筋力トレーニングの継続だけでなく、後期に向けて、夏休み中も自分で取り組むことができるトレーニングについて考え、目標を立てて休み中の実施をも試みることで、自身の健康管理に繋げることができる。	
		事前学修	前期最後の筋力トレーニングに向けて、コンディショニングしておくこと。また、ドッジビーでは、前回のゲーム内容を振り返り、より良い動きや投げ方ができるよう、シミュレーションしてみること（30分）	30分
		事後学修	後期に再度筋力トレーニングを行う際に筋力低下やトレーニング方法の忘却がないよう、自身の健康状態について現状を把握し、トレーニング方法を自分なりに整理してまとめておくこと。また、ドッジビーという協働行為を通して経験した、仲間とのコミュニケーションの重要性について、スポーツ場面以外において、どのような場面で活かされるか考えてみること（30分）	30分
15	第一部火 7/14	【身体組成の測定】 【前期のまとめ】 【振り返り】	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の授業を通して学んだ、体力および健康の保持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明することができるだけでなく、自身のトレーニングやスポーツ・運動への目標や取り組みについて振り返り、その達成度について振り返ることができる。	
		事前学修	前期のトレーニング結果を確認し、後期に継続されるよう取り組むこと（30分）	30分
		事後学修	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート、振り返りシート、レポート課題について講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日 12：10～13：00 研究室 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp※事前に連絡（用件内容）をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14 9/15 ※上段：月曜日 下段：火曜日	運動・スポーツ実施と健康について	ガイダンス ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等 ・運動・スポーツ実施と健康への影響について 身体ほぐし運動	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、運動・スポーツが健康にもたらす影響について説明することができる。	
		事前学修	シラバスの確認 フィットネス測定種目の確認 ・握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
2	9/21 9/22	体幹のエクササイズ（スタビライゼーショントレーニング）	スタビライゼーショントレーニング ・静的スタビライゼーショントレーニング ・動的スタビライゼーショントレーニング	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、スタビライゼーショントレーニングの方法及び考え方について説明することができる。	
		事前学修	体幹をトレーニングする重要性について調べてくる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。他者と意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
3	9/28 9/29	全身持久力向上の運動（サーキットトレーニング）	サーキットトレーニング ・サーキットトレーニング（高強度エクササイズ）の実践 ・自分の体力に合わせた運動	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、サーキットトレーニングの方法及び考え方について説明することができる。	
		事前学修	全身持久力（心肺機能）を高めるサーキットトレーニングについて関連資料を用いて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する。	30分
4	10/5 10/6	ディスクスポーツ①	ディスクスポーツ ・フライングディスクのスローとキャッチ ・ゴールゲームの実施 ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの基礎技術について説明することができる。	
		事前学修	フライングディスクのスロー及びキャッチについて確認する。動画を視聴し各動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
5	10/12 10/13	ディスクスポーツ②	ディスクスポーツ ・フライングディスクのスローとキャッチ ・柔らかい素材のディスクを用いたゲーム ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの実践方法について説明することができる。	
		事前学修	フライングディスクのスロー及びキャッチについて再度確認する。動画等を視聴し各動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
6	10/19 10/20	ミニバドミントン	ミニバドミントン ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ミニバドミントンのゲーム ※屋外多目的コートで実施予定	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26 10/27	卓球①	卓球（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
8	11/9 11/10	卓球②	卓球（ダブルス①） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
9	11/16 11/17	卓球③	卓球（ダブルス②） ・種目の特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
10	11/23 11/24	卓球④	卓球（チーム戦） ・チーム戦における役割やコミュニケーション、リーダーシップや協働の実践	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの競技方法の理解、戦術の習得、チームでの楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	卓球（チーム戦）のルールについて調べる。動画を視聴し基本的な動作や戦術を確認する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてチーム戦における役割やコミュニケーション、リーダーシップや協働への理解を深める。	30分
11	11/30 12/1	ターゲットスポーツ①	ダーツ（カウントアップ） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	ダーツ（カウントアップ）のルールを確認する。動画を視聴し投動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分
12	12/7 12/8	ターゲットスポーツ②	ダーツ（ゼロワン） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて当該スポーツの楽しみ方を考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得、楽しみ方を説明することができる。	
		事前学修	ダーツ（ゼロワン）のルールを確認する。動画を視聴し投動作を確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14 12/15	器具を利用したトレーニング①	ストレングス&コンディショニングトレーニング① ・目的に応じた種目及び負荷の設定を学ぶ ・トレーニングプログラムの作成と実施	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ストレングス&コンディショニングトレーニングについて説明することができる。	
		事前学修	トレーニングの原理・原則について確認する。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	各種トレーニングの負荷設定に方法について再確認し、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
14	12/21 12/22	器具を利用したトレーニング②	ストレングス&コンディショニングトレーニング② ・目的に応じた種目及び負荷の設定を学ぶ ・トレーニングプログラムの作成と実施	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ストレングス&コンディショニングトレーニングについて目的に合ったプログラムを作成することができる。	
		事前学修	強度、時間、頻度など考慮したプログラムを作成する。「超回復理論」と「フィットネス・疲労理論」について調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	作成したプログラムの良い点・課題点をまとめる。学びを生かし様々なプログラムの作成をしてみる。振り返りシートを作成する。	30分
15	1/18 1/12	運動・スポーツ実施によって得られる恩恵について	まとめ ・フィットネスチェック ・振り返りシートの作成 ・講評	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、運動・スポーツ実施による恩恵及びその功罪について自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	授業内容及び目標達成度についてまとめる。	30分
		事後学修	運動・スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。また、各自の様々な目標達成に必要な不可欠な体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。多目的コートを使用する場合がある。出席状況で授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】提出されたレポート課題をもとに講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評・解説	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日 8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木9/17	ストレッチング（1）	準備体操などストレッチングを行う	
		この回の到達目標	体育実技に向けてストレッチングにより可動域を広げる	
		事前学修	授業内容等の確認 体育実技にふさわしい服装の準備をすること	30分
		事後学修	ガイダンス内容を確認する	30分
2	第1部 木9/24	体力テストの実施（2）	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（2）を行う	
		この回の到達目標	体力テスト（1）と比較し、健康維持に努める	
		事前学修	体力チェックテスト測定種目について確認する	30分
		事後学修	体力チェックテスト（1）との比較ができるように記入用紙を作成する	30分
3	第1部 木10/1	ストレッチング（2）	リラックスを重点に置いたストレッチングを実施する	
		この回の到達目標	身体をゆるめることを目標にストレッチングを行う	
		事前学修	ストレッチングの必要性について調べる	30分
		事後学修	ストレッチング体操実施後の振り返りを実施する	30分
4	第1部 木10/8	実技【バドミントン】シングルス	バドミントンのシングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのフォア・バックの習得	
		事前学修	バドミントンのフォア・バックの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのフォア・バックの復習を行う	30分
5	第1部 木10/15	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、ヘアピン） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのヘアピンの習得	
		事前学修	バドミントンのヘアピンの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのヘアピンの復習を行う	30分
6	第1部 木10/22	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのサーブの習得	
		事前学修	バドミントンのサーブの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのサーブの復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木10/29	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとドライブ） 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンのサーブとドライブの習得	
		事前学修	バドミントンのサーブとドライブの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントンのサーブとドライブの復習を行う	30分
8	第1部 木11/5	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスのルール理解とゲームの実施	
		事前学修	バドミントン シングルのゲームとルールの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントン シングルのゲームとルールの復習を行う	30分
9	第1部 木11/12	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	バドミントン シングルのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントン シングルのルールとマナーの復習を行う	30分
10	第1部 木11/19	実技【バドミントン】シングルス	バドミントン シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	バドミントン シングルのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	バドミントン シングルのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分
11	第1部 木12/3	実技【バドミントン】ダブルス	バドミントン ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントン ダブルスのルールとマナーの習得	
		事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナーの予習を行う	30分
		事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナーの復習を行う	30分
12	第1部 木12/10	実技【バドミントン】ダブルス	バドミントン ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントン ダブルスのルール理解とリーグ戦の実施	
		事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する	30分
		事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木12/17	実技【バドミントン】ダブルス	バドミントン 基本スキル（サーブ・ラリー）の確認、およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う	
		この回の到達目標	バドミントン 基本スキルの習得	
		事前学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認	30分
		事後学修	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う	30分
14	第1部 木12/24	軽スポーツ実施	器具トレーニング ピックルボールなど軽スポーツ各種実施する	
		この回の到達目標	軽スポーツ各種のルール理解	
		事前学修	ピックルボールなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う	30分
		事後学修	ピックルボールなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う	30分
15	第1部 木1/14	【まとめ】【振り返り】	【まとめ】授業の振り返り、講評	
		この回の到達目標	スポーツ実施の有効性について理解すること	
		事前学修	半期の振り返りを行う	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	柴田 篤志	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講時は運動に適した服装（ジャージなど）と屋内用シューズを必ず準備すること。

【授業方法】
授業の開始時と終了時にウォーミングアップ、クールダウンのためにストレッチなどを行う。 授業は主に2号館体育場およびトレーニングルームを使用して行うが、種目によって多目的コートを使用することがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で実施するスポーツ活動について、必要に応じて小グループを作成しグループ内でのディスカッション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の振り返りレポートおよび課題レポート

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて資料などを配布する。				

【オフィスアワー】
基本的には水曜日12：45～13：00および16：10～16：30の授業前後の時間に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス / フィットネス チェック	①授業の目的や方法、評価についての説明 ②フィットネスチェックを実施する。	
		この回の 到達目標	ガイダンスの内容を理解する。フィットネスチェックを実施し自己の体力レベルの変化について説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	前期のフィットネスチェックの結果を確認する。	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を振り返り、自己の体力の変化について理解する。	30分
2	第一部 水9/23	体力を高めるトレーニング	筋力や持久力、柔軟性を高めるトレーニングについて学習する。	
		この回の 到達目標	筋力や持久力、柔軟性を高めるトレーニングを理解し、自己の体力を高めるためのトレーニングについて説明することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	フィットネスチェックの結果から自己の体力の特徴について確認する。	30分
		事後学修	自己の体力を高めるためのトレーニングについて振り返り、理解を深める。	30分
3	第一部 水9/30	ディスクスポーツ①	フライングディスクの基本動作について学習し、技術を習得する。	
		この回の 到達目標	フライングディスクを用いるゲームにおける基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フライングディスク基本動作（スローやキャッチ）について確認する。	30分
		事後学修	学習した基本動作について振り返り、技術についての理解を深める。	30分
4	第一部 水10/7	ディスクスポーツ②	フライングディスクを用いたミニゲームを通して戦術について学習する。	
		この回の 到達目標	フライングディスクを用いたゲームの中で必要な戦術についてミニゲームを通して理解し、説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フライングディスクを用いるゲーム（アルティメット）の戦術について調べる。	30分
		事後学修	ミニゲームを通して学習した戦術について振り返り、理解を深める。	30分
5	第一部 水10/14	ディスクスポーツ③	実戦形式のゲームを通してフライングディスクを用いるゲームについての理解を深める。	
		この回の 到達目標	実戦形式のフライングディスクを用いるゲームを通してチームでのコミュニケーションを深め、自らの取り組みについて説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	フライングディスクを用いるゲーム（アルティメット）のルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームの内容を振り返り、チームの戦術や技術についての理解を深める。	30分
6	第一部 水10/21	卓球①	シングルスゲームを通してラケットの使い方など基本動作について学習する。	
		この回の 到達目標	卓球の基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	卓球の基本的な技術とルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームを振り返り、卓球の基本動作について理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 水10/28	卓球②		ダブルスのゲームを通して基本動作についての理解を深める。
		この回の到達目標	卓球の基本動作について、ペアでの意見交換などを通して理解を深める。（SB0s①③）	
		事前学修	卓球のダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球の基本動作について理解を深める。	30分
8	第一部 水11/11	卓球③		ダブルスのゲームを通して卓球の戦術について学習する。
		この回の到達目標	ダブルスのゲームを通して卓球の戦術について意見交換を行い、ペアでの取り組みについて説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	卓球のダブルスで用いられる戦術について調べる。	30分
		事後学修	卓球のゲームにおける戦術について振り返り、戦術についての理解を深める。	30分
9	第一部 水11/18	卓球④		チームでの試合（シングルスおよびダブルス）を行う。
		この回の到達目標	チームでのゲームを通してチーム内でのコミュニケーション積極的に行い、自己およびチームでの取り組みについて説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	卓球のチーム戦のルールについて調べる。	30分
		事後学修	チーム戦におけるゲームの内容を振り返り、技術や戦術についての理解を深める。	30分
10	第一部 水11/25	ポートボール①		ポートボールの基本動作について学習する。
		この回の到達目標	ポートボール基本動作についてゲームを通して学習し、その内容について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	ポートボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ゲームを通して学習したポートボールの基本動作について振り返り、理解を深める。	30分
11	第一部 水12/2	ポートボール②		ポートボールの戦術についてゲームを通して学習する。
		この回の到達目標	実戦形式のゲームを通してポートボールの戦術を理解し、自己およびチームの取り組みについて説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	ポートボールの戦術について調べる。	30分
		事後学修	実戦形式のゲームとチーム内でのコミュニケーションを通して学習したポートボールの戦術について振り返り、理解を深める。	30分
12	第一部 水12/9	ターゲットスポーツ①		チームでのミニゲームを通してターゲットスポーツの基本技術について学習する。
		この回の到達目標	ターゲットスポーツ（フロアカーリング）の基本動作について説明することができる。（SB0s③）	
		事前学修	フロアカーリングのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ミニゲームを通して学習した基本動作について振り返り、理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	ターゲットスポーツ②	実戦形式のゲームを通してターゲットスポーツの戦術について学習する。	
		この回の到達目標	ターゲットスポーツ（フロアカーリング）の戦術について説明することができる。（SB0s①③）	
		事前学修	フロアカーリングの戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームを通して学習した戦術について振り返り、理解を深める。	30分
14	第一部 水12/23	マシントレーニング	トレーニングの原理・原則を再確認し、自己の目的に応じたトレーニングプログラムを学習する。	
		この回の到達目標	トレーニングの原理・原則を再確認し、自己の体力レベルに応じたトレーニングの強度や時間を理解し、トレーニングプログラムを作成することができる。（SB0s①②）	
		事前学修	トレーニングの原理・原則などトレーニングを実施するための基礎知識について再確認する。	30分
		事後学修	自己の課題に応じたトレーニングプログラムについて振り返り、理解を深める。	30分
15	第一部 水1/13	フィットネスチェック / まとめ	①フィットネスチェック ②授業の振り返りとまとめ	
		この回の到達目標	フィットネスチェックおよび授業の振り返りを行い、自己の達成について評価する。（SB0s①②③）	
		事前学修	授業内容と自己の目標達成度について整理する。	30分
		事後学修	スポーツ・身体運動の実践が自己の健康増進や体力向上に与えた影響についてまとめる。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動をするうえで健康上の問題がないこと（不安のある学生は第1回目のオリエンテーション時に相談してください）。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオルを準備すること。多目的コートを使用する場合もあります。

【授業方法】
主に全体指導、必要に応じてグループワークも実施します。また事後学習として、トレーニング記録や自己省察を目的とした授業省察ノートの作成をしてもらいます。【フィードバック方法】授業省察ノート講評およびレポート提出とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中は毎時間の課題に応じたグループ学習、授業後は省察ノートを作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時にレポートや毎授業の省察ノートの評価について総評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
基本的には授業前後の時間のみ。授業講堂にて。どうしても時間が作れない場合は授業実施期間の水曜日19：30以降に対応（要事前相談）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部 水9/16	授業ガイダンス、導入授業	オリエンテーション（授業概要等の説明、授業省察ノートの説明、アイスブレーキングの実施、 ＊着替えは不要）	
		この回の到達目標	授業概要について理解することができる。。	
		事前学修	本授業のシラバスを一読しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
2	第一部・第二部 水9/23	スポーツの実践	卓球①（用具やルールの解説、グリップやスウィングの基本、簡単なラリーの実践）	
		この回の到達目標	卓球の基本的なルールや用具について理解し、簡単なラリーを実践できる。	
		事前学修	スポーツ実践のために、ストレッチやジョギングなどで軽く身体を動かしておくこと。 卓球というスポーツについてインターネット等で歴史やルールについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
3	第一部・第二部 水9/30	スポーツの実践	卓球②（サーブやショットでのボールの回転を理解する、簡易ダブルスゲームの実践）	
		この回の到達目標	ボールの回転の掛けかたと軌道を理解し、サーブやラリーの中で実践することができる。	
		事前学修	配布資料を再読し用具やルールの理解をしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
4	第一部・第二部 水10/7	スポーツの実践	卓球③（より正確でスピードのあるラリーの実践、ダブルスゲームの実践）	
		この回の到達目標	基本技術を高めるとともに、基本的なダブルスゲームを展開できる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールの理解をしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
5	第一部・第二部 水10/14	スポーツの実践	卓球④（ダブルスゲーム団体戦の実践）	
		この回の到達目標	ボールの回転やコースを狙うなど、ペアと戦略を考えながらダブルスゲームを展開できる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールの理解をしておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
6	第一部・第二部 水10/21	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー①（用具とルールの解説、トラップやパスワークの実践）	
		この回の到達目標	ユニバーサルホッケーのルールや用具について理解し、説明できる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーというニューススポーツについて、歴史や用具およびルールについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部 水10/28	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー②（ディフェンスを入れた実践的なパスワークの実践、簡易ゲーム）	
		この回の到達目標	基本的な技術を理解し、練習およびゲームの中で実践することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
8	第一部・第二部 水11/11	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー③（フロアバランスを考えたオフェンスとディフェンスの理解、ゲームの実践）	
		この回の到達目標	基本技術を高めるとともに、パスワークによるチームプレイを意識しながらゲームを展開することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
9	第一部・第二部 水11/18	チームスポーツの実践	ユニバーサルホッケー④（リーグ戦の実践）	
		この回の到達目標	チームでのパスワークを理解し、役割分担やスペースも考慮したプレイを展開することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
10	第一部・第二部 水11/25	チームスポーツの実践	フットサル①（用具やコートおよびルールの解説、トラップやパスワークの実践）	
		この回の到達目標	フットサルのルールや基本的な技術について理解し、説明することができる。	
		事前学修	フットサルというスポーツについて、歴史やルールについて調べておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
11	第一部・第二部 水12/2	チームスポーツの実践	フットサル②（対人でのボールコントロールとパスワークの実践、簡易ゲーム）	
		この回の到達目標	基本的なボールコントロールができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
12	第一部・第二部 水12/9	チームスポーツの実践	フットサル③（ゲームの実践）	
		この回の到達目標	基本的なボールコントロールおよびチーム同士でのパスワークを理解し、ゲームの中で実践することができる。	
		事前学修	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部・第二部 水12/16	体力測定	体力測定①（握力・背筋力、立ち幅跳び・垂直飛び、反復横跳び、上体起こし、体前屈・上体そらし、閉眼片足立ち）	
		この回の到達目標	体力要素について理解し、正確に測定することができる。	
		事前学修	体力要素や測定方法について事前に予習しておくこと（文部科学省HP_新体力テスト実施要項を参照）。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
14	第一部・第二部 水12/23	体力測定と評価	体力測定②（踏み台昇降、各体力要素の評価および前期との比較）	
		この回の到達目標	自らの体力要素を客観的に評価し、前期の結果と比較しながら課題を見つけることができる。	
		事前学修	全身持久力測定のため、軽いジョギングなどで心肺機能に軽い負荷を与えておくこと。	30分
		事後学修	授業省察ノートを作成しておくこと。	30分
15	第一部・第二部 水1/13	まとめ	レポートおよび授業省察ノートの提出、全体のまとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業を振り返り、自らの健康を考え、将来的な運動実践の課題をみつけ、具体的なトレーニング計画を作成することができる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り、授業省察ノートの「全体の感想」について記述しておくこと。	60分
		事後学修	今後の生涯スポーツの実践に向けて、興味のある社会人スポーツサークルについて調べ、実際に参加してみる。	180分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装（トレーニングウェア、屋外・屋内シューズ）タオル、水分補給用の飲み物を準備すること。※第1回目は更衣不要（履修カードに貼る写真を準備）

【授業方法】
実技。 授業開始時にその日の実施内容、学習の目的を説明・確認。 資料配布による理論学習を行い、それらを実践するための様々なエクササイズやスポーツを実施する。 【フィードバック方法】授業記録シート、トレーニングカードや課題レポートの提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第3回のバランスボールトレーニングではペアワークによって課題を進める。 第5回以降のアルティメット、ゴールドドッジ、シットینگバレーボール、ポートボールの実践では、グループワークによりその種目に適したウォームアップ構成を考え実践したり、スキルアップや戦術についてのグループディスカッションの時間を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたリポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業記録、及び課題シート（トレーニングカードや体組成記録表など）への講評や質問への回答コメント・採点後の添削と返却

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（学習テーマに合わせて資料を配布）				

【オフィスアワー】
金曜日 8：20～16：30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公共施設・スポーツ施設でのエアロビックダンス及び運動指導（有資格） 国公立中学校での保健体育指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		多様なニーズの一般市民対象の指導経験を生かして、心身を健康に保つための知識やエクササイズ・生涯スポーツを指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス】 【健康維持・増進のための基礎知識（食行動）】	授業内容・授業方法、スケジュール、評価方法、及び受講に際しての注意等を説明する。人生を豊かにする「食行動」について、「栄養」「摂取エネルギー」以外の幅広い視点で身体づくりと食が関連していることを理解する	
		この回の到達目標	①②に関連して、健康維持・増進のためにはライフスタイル全般から身体づくりを進める必要があることを理解できる 健康を維持するための「食」の視点は多岐に渡ることを説明できる	
		事前学修	前期配布の「記録表」に三日分の食事記録をつける	30分
		事後学修	4群点数法、食行動、食の安全性ついて配布資料をもとに復習する。身の回りにある食品のラベル表示を確認する	30分
2	第一部 金9/25	【バランスボール①矯正】	バランスボール①身体の歪みチェックを行い、矯正したい部位のエクササイズを知り、実践する。 マシントレーニング（各自の目的に応じた負荷でのトレーニング）	
		この回の到達目標	①に関連して、バランスボールエクササイズの特徴と効果を説明できる ②に関連して、歪みチェックを行い、各自の課題に対応したボールエクササイズを実践できる	
		事前学修	「バランスボールエクササイズ」の特徴や効果、エクササイズの種類について調べる	30分
		事後学修	歪みチェックで明確になった各自の身体の課題を矯正するための方法について調べる 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習する	30分
3	第一部 金10/2	【バランスボール②強化】	バランスボール②資料に基づきペアワークで体幹強化トレーニング 目的に応じたトレーニング（マシン、エアロバイク、自重など）	
		この回の到達目標	①②に関連して、バランスボールを使った体幹強化のためのトレーニングを理解し、実施できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載したバランスボールエクササイズに関する疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	授業で行なった体幹トレーニングのポイントの確認と実践 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習する	30分
4	第一部 金10/9	【ストレッチボール エクササイズ】 【バランスボードトレーニング】	ストレッチボール（ベーシックセブン） バランスボードを使った体感トレーニング	
		この回の到達目標	①②に関連して、ストレッチボールエクササイズの特徴と効果を説明できる ベーシックセブンの動作と呼吸のポイントを押さえ、一人で実践することができる	
		事前学修	ストレッチボール とは何か、その効果について調べる	30分
		事後学修	ベーシックセブンが一人でできるように、バスタオルなどを代用して実践する（正確な動作と呼吸） 配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく	30分
5	第一部 金10/16	【アルティメット】	アルティメット①キャッチ&スロー、パス&パスカットのドリル、ミニゲーム グループごとに競技特性を踏まえたウォームアップを実施、ルールを理解	
		この回の到達目標	③に関連してニュースポーツや生涯スポーツの概念を理解し、アルティメットのゲームルールを説明できる チーム全員が機能するゲーム展開を考えるために、チーム内で有効なコミュニケーションをとることができる	
		事前学修	アルティメット関連の動画を見てルールを理解し、ゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	スローイングの種類、キャッチングの基本技術のポイントを復習する	30分
6	第一部 金10/23	【アルティメット】	アルティメット②キャッチ&スロー、パス&パスカットのドリル、ゲーム チームごとの競技特性に応じたウォームアップの実施 全員参加の攻防が可能な戦術ディスカッション	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローかできる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載したスローイングの技術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく	30分
		事後学修	ゲームの戦術について（効率的な守備の配置など）調べておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	【アルティメット】	アルティメット③キャッチ&スロー、ゲーム チームごとの競技特性に応じたウォームアップの実施 前回のゲーム評価と課題の明確化。相手の動きに対応した戦術ディスカッション	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載したチームの戦術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	アルティメットの特徴と生涯スポーツとして楽しむための要素を明確化する	30分
8	第一部 金11/6	【ゴールドッジ】	ゴールドッジ①キャッチ&スロー、チームでパス&パスカットドリル、ゲーム（男女混合）	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる ゲームの中で、コート全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	ゴールドッジに関する動画を視聴し、ルールやゲームのイメージを掴んでおく	30分
		事後学修	ゴールドッジの特徴とその日の実践を踏まえ、次回の個人的な課題を明確化しておく	30分
9	第一部 金11/13	【ゴールドッジ】	ゴールドッジ②キャッチ&スロー、パスからのシュート練習、ゲーム（男女混合）	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる シュートにつながる動きやタイミングを理解できる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	ゴールドッジに関する動画を視聴し、「守備」に着目したゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	個人的な課題とチームとしての課題とその解決方法を明確化する	30分
10	第一部 金11/20	【ゴールドッジ】	ゴールドッジ③キャッチ&スロー、ゲーム（男女別）	
		この回の到達目標	③に関連して、基本的なキャッチ&スローができる 男女別で行うメリットを生かしたゲーム展開ができる ゲームの中で、全体を見渡して自分の動くべき位置取りを理解できる	
		事前学修	ゴールドッジに関する動画を視聴し、「攻撃」に着目したゲームのイメージを掴む 個人的な課題とチームとしての課題とその解決方法を明確化する	30分
		事後学修	ゴールドッジの特徴と自分がより楽しむためのルールの改善点や工夫を考えて授業記録に記述する 男女混合と男女別ゲーム、それぞれのメリットデメリットを明確化する	30分
11	第一部 金11/27	【シッティングバレーボール】 【パラスポーツの体験】	シッティングバレーボール①パラスポーツ体験することによって、その特有の技術や戦術を理解する 体幹・インナーマッスルを鍛えるトレーニング①バランスボード	
		この回の到達目標	②③に関連して、アダプテッドスポーツやパラスポーツを体験することによって、その特有の技術が理解できる また、スムーズにゲームを展開するために、バレーボールの要素を失わずにルールの改善や工夫を考案し実践できる	
		事前学修	シッティングバレーボール関連の動画を視聴してルールを理解し、ゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	さらにラリーを継続し楽しむために、どのような工夫やルールの変更ができるのか授業記録にピックアップする 授業で行った体感トレーニングを動作のポイントを踏まえて実践する	30分
12	第一部 金12/4	【シッティングバレーボール】 【パラスポーツの体験】	シッティングバレーボール② 体幹・インナーマッスルを鍛えるトレーニング②プランク、腕立て伏せ	
		この回の到達目標	②③に関連して、アダプテッドスポーツやパラスポーツを体験することによって、その特有の技術が理解できる また、スムーズにゲームを展開するために、バレーボールの要素を失わずにルールの改善や工夫を考案し実践できる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した個人・チームの技術的、戦術的な疑問点や改善点の解決方法やルールの変更や工夫を明確化する	30分
		事後学修	シッティングバレーボールの特徴と、ゲームを楽しむための要素を明確化し、他にどのようなパラスポーツがあるか調べる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	【ポートボール】	ボールゲーム①（ポートボール）男女混合 目的に応じたトレーニング（エアロバイク、マシントレーニング、自重、ストレッチポール、バランスボールなど）	
		この回の到達目標	②③に関連して、ポートボールの特徴と基本的な技術、戦術に関して理解し、攻撃・守備ともにゲームに参加できる 目的に応じた負荷設定でマシントレーニングを実施することができる	
		事前学修	ポートボールのルールを調べ、動画を視聴してゲームのイメージを掴む	30分
		事後学修	授業で実施したストレッチのポイントを踏まえた上で実践する（どこの筋肉を使っているか認識しながら行う）	30分
14	第一部 金12/18	【ポートボール】	ボールゲーム②（ポートボール）男女別 目的に応じたトレーニング（エアロバイク、マシントレーニング、自重、ストレッチポール、バランスボールなど）	
		この回の到達目標	②③に関連して、ポートボールの特徴と基本的な技術、戦術に関して理解し、攻撃・守備ともにゲームに参加できる 目的に応じた負荷設定でマシントレーニングを実施することができる	
		事前学修	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化する	30分
		事後学修	半期にわたるマシントレーニングやエクササイズが自分の目的に応じた負荷設定であったか評価し、課題を明確化する 男女別のゲームと男女混合のゲームのメリットデメリットを書き出す	30分
15	第一部 金12/25	【フィットネスエクササイズ・生涯スポーツ・ユニバーサルスポーツに関する振り返り】	ライフスタイルのチェックとプランニング まとめ及び振り返り・授業記録の講評と返却	
		この回の到達目標	①②に関連して、身体づくりのための基礎知識（運動実践のためのポイント）を説明できる ③に関連して、運動・休養・食の各側面からライフプランニングができる	
		事前学修	ライフスタイルチェックの実施と今後の運動プランを作成する	30分
		事後学修	1年を通して配布した資料をもとに目的に応じた運動の方法を復習する	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。

【授業方法】
実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況、または天候によって授業内容を変更する場合もある。円滑な授業を進めるため、ルールや基本的な動きを事前学習として課すこともある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。チーム内でディスカッションを行い、発表する時間も設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習や事後学習，さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましいです。E-mail：takata.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本バスケットボール協会公認C級コーチ，日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，スポーツの指導を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動やスポーツが心身に与える影響を伝え，生涯スポーツの一助になる授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	ガイダンスおよびスポーツの習慣化	授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明する。 体育やスポーツの意義について理解する。 体重と体組成を測定する。 ※2号館地下202教場に更衣をして集合	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スポーツの習慣化について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 スポーツの習慣化について、発表できるようにする。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する	30分
2	9/26	ドッジボール	ドッジボールを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 ドッジボールという競技の長所と短所を整理し、説明できる。	
		事前学修	全員が積極的に参加できるようなルールを発表できるようにしておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
3	10/3	スポーツ鬼ごっこ	スポーツ鬼ごっこを通じてコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 スポーツ鬼ごっこを初めて行う人にも競技の特性やルールを説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、スポーツ鬼ごっこの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
4	10/10	ソフトバレーボール①	ソフトバレーボールを行う。 ボールを使った基本動作を学び、後半は試合を通じてチームメイトとコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 ソフトバレーボールの競技特性を説明できる。	
		事前学修	ソフトバレーボールのルールを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
5	10/17	ソフトバレーボール②	ソフトバレーボールを行う。 試合ごとにチームの改善点を話し合い、より良いパフォーマンスが出せるようにする。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 ソフトバレーボールの競技特性を説明できる。	
		事前学修	ソフトバレーボールの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
6	10/24	アルティメット①	アルティメットを行う。 ディスクの投げ方を習得し、チームプレーを学ぶ。 攻守の切り替えが多いため、自身の持久力や敏捷性を現状を把握する。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 アルティメットの競技特性を説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、ディスクの投げ方、およびアルティメットの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	アルティメット②	アルティメットを行う。 チームプレーを通じて積極的なコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 アルティメットの競技特性を説明できる。	
		事前学修	アルティメットの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
8	11/7	フットサル①	フットサルを行う。 特に、フットサルやサッカー経験者は自分のプレーを見せるだけではなく、未経験者へのサポートもすること。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 フットサルの競技特性を説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、フットサルの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
9	11/14	フットサル②	フットサルを行う。 チームプレーを通じて積極的なコミュニケーションを図る。 ※屋外多目的コートで実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。 フットサルの競技特性を説明できる。	
		事前学修	フットサルの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
10	11/21	フロアカーリング①	フロアカーリングを行う。 個人技術を高めるため、基本動作の練習をする。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。	
		事前学修	フロアカーリングのルールを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
11	11/24	フロアカーリング②	フロアカーリングを行う。 試合形式で行う際、チームメイトと積極的に戦略を話し合う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 フロアカーリングの戦略を話し合い、チームの意見をまとめられる。 フロアカーリングの競技特性を説明できる。	
		事前学修	フロアカーリングの技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前を覚える。	30分
12	12/5	卓球①	卓球（ダブルス）を行う。 卓球の基本動作を練習するとともに、ダブルスのルールや動き方を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。 卓球の競技特性を説明できる。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、卓球のダブルスのルールや動き方を調べておく。	30分
		事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	卓球②	卓球（ダブルス）を行う。 卓球の基本動作を練習するとともに、ダブルスのルールや動き方を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、卓球のダブルスのルールを説明できる。 卓球の競技特性を説明できる。	
		事前学修	卓球の技術を向上させるために必要なことを調べておく。	30分
		事後学修	個人およびペアの反省点を挙げ、改善点をまとめる。	30分
14	12/19	体力測定	体重、体組成、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈などの体力測定を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自身の体力レベルの確認をする。	
		事前学修	前期の復習を兼ねて、今回実施する体力測定の方法を調べておく。	30分
		事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
15	12/26	1年間のまとめと振り返り	1年間の振り返りを実施し、総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
		事前学修	1年間の振り返り、反省や改善点などを発表できるようにしておく。	30分
		事後学修	発表して浮き彫りになった課題を今後の学生生活で解決できるようにする。 授業終了も運動やスポーツを継続するように努める。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	田中 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
医師に運動を止められていない者。

【授業方法】
実技と演習を行います。アニメソングなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス（フィットネスダンス）を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生自身がエアロビックダンスを作成し指導を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
エアロビックダンスを教員の前で実演し、動きや姿勢などを矯正するためのアドバイスを受ける。 姿勢の矯正のための指導を個別に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィットネスダンス指導教本	編者 池田美知子	公益社団 日本 フィットネス協会	2010年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問、相談は毎授業後（水曜 1、2 限）に受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		フィットネスクラブ、行政、企業などでエアロビックダンス指導 企業セミナー、 特定保健指導、エアロビックダンス指導者養成

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	フィットネスダンスの復習	フィットネスダンスの復習 前期で行ったフィットネスダンスの実施	
		この回の到達目標	前期で行ったフィットネスダンスを有酸素運動になるように動けるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
2	9/23	コンビネーションの復習と指導方法	コンビネーションの復習と指導（1） 16カウント、32カウントのコンビネーションを学生が作成し指導を行う。	
		この回の到達目標	学生自身がコンビネーションを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
3	9/30	コンビネーションの復習と指導方法	コンビネーションの復習と指導（2） 64カウントコンビネーションを学生が作成し指導を行う。	
		この回の到達目標	学生自身がコンビネーションを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
		事後学修	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。	30分
4	10/7	スムーズに動くためのキューイング	指導方法 キューイング	
		この回の到達目標	指導方法を取得する。 フィットネスダンスを作成できるようにする。	
		事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
		事後学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
5	10/14	フォーメーション	フォーメーションの効果	
		この回の到達目標	作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
		事後学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
6	10/21	グループワーク	グループワーク（1） 楽曲の決定とステップシートを用いて、楽曲の分析を行う。	
		この回の到達目標	作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。	30分
		事後学修	楽曲の構成をステップシートにて確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	グループワーク	グループワーク（2） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
		この回の到達目標	作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	楽曲の構成をステップシートにて確認。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
8	11/11	グループワーク	グループワーク（3） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする 作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
9	11/18	グループワーク	グループワーク（4） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。 作成したコンビネーションで有酸素運動になるように動くことができるようにする。	
		事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
10	11/25	グループワーク	グループワーク（5） イメージに合ったアームスの振り付け	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	作成中のダンスの練習。	30分
		事後学修	作成中のダンスの練習。	30分
11	12/2	グループワーク	グループワーク（6） フォーメーションの作成	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	作成中ダンスの練習。 「フォーメーションの効果について」テキストを読んでくる。	30分
		事後学修	完成したダンスの練習。	30分
12	12/9	グループワーク	グループワーク（7） グループのメンバー全員が動けるように練習する。	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	完成したダンスの練習。	30分
		事後学修	完成したダンスの練習。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	実技テスト	発表 実技テスト	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	完成したダンスの練習。	30分
		事後学修	完成したダンスの練習	30分
14	12/23	学生の作成したプログラムの実施	学生の作成したプログラムの実施	
		この回の到達目標	フィットネスダンスを作成しリードできるようにする。	
		事前学修	完成したダンスの練習	30分
		事後学修	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。	30分
15	1/13	まとめ	まとめ、講評 今まで学習したフィットネスダンス全曲と学生が作成したダンスで運動を行う。	
		この回の到達目標	作成したフィットネスダンスで、運動を生活に取り入れられるようにする。	
		事前学修	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。	30分
		事後学修	健康づくりのために自分たちが作成したダンスを学士同士で実施し運動習慣を身につける。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動着と屋外及び屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等を準備）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的施設を使用する。第1回目は準備不要(履修カードに張り付ける顔写真を準備)

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み：12:10～13:00メールにて事前に予約をすることtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。	
		事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	9/21	柔軟性を高める：ストレッチ体操	身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチについて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチについて理解し、説明できる。	
		事前学修	柔軟性を高めるトレーニングについて調べる。	30分
		事後学修	身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチのポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	9/28	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	10/5	自重トレーニングを知る	スタビラゼーショントレーニングを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビラゼーショントレーニングの効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	等張性筋収縮について調べる。	30分
		事後学修	体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	10/12	球技:卓球（基本動作）	ラケットの使い方、基本動作について実践形式における技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラケットの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	卓球のルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球における体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
6	10/19	球技:卓球（シングルス）	シングルス形式における戦略戦術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、シングルス形式における戦略戦術について理解し、説明できる。	
		事前学修	シングルスにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	シングルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	球技:卓球（ダブルス）	ダブルス形式における戦略戦術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ダブルス形式における戦略戦術について理解し、説明できる。	
		事前学修	ダブルスにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ダブルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
8	11/9	球技:ハンドボール（基本動作）	パス技術の実践形式における動作を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、パス技術の基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	ハンドボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ハンドボールにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
9	11/16	球技:ハンドボール（個人技術）	個人技術の課題に取り組み実践形式で行い技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人技術の課題について理解し、説明できる。	
		事前学修	個人技術の強み弱みの課題について考える。	30分
		事後学修	個人技術の課題を振り返り理解を深める。	30分
10	11/23	球技:ハンドボール(実践形式)	実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。＊屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションについて理解し、説明できる。	
		事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	戦略戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
11	11/30	球技:ユニバーサルホッケー（基本動作）	スティックの使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、スティックの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーのルールについて調べる。	30分
		事後学修	ユニバーサルホッケーにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	12/7	球技:ユニバーサルホッケー（個人技術）	個人技術の課題に取り組み実践形式でおこない技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人技術の課題について理解し、説明できる。	
		事前学修	個人技術の強み弱みの課題について考える。	30分
		事後学修	個人技術の課題を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	球技:ユニバーサルホッケー (実践形式)	実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションについて理解し、説明できる。	
		事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	戦略戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
14	12/21	器具を使ったトレーニング (全身運動)	適切な負荷の設定を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について理解し、説明できる。	
		事前学修	筋力・筋パワー・筋持久力を高める方法について調べる。	30分
		事後学修	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。	30分
15	1/18	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明できる。	
		事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
		事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと②運動にふさわしい服装(ジャージ等)、靴(室内用)を必ず用意すること

【授業方法】
施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。時期によっては多目的コートを使用し、屋外で授業を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業の終了前に、その日の内容や取り組みについてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については授業時間内（一部火曜5限、二部火曜2、3限）にしてください個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください。火曜日のみ16:00～ 授業間の時間等に対応します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 火9/15	【ガイダンス】 【体への理解とメンテナ ンス方法の実践】	体育実技ⅠBについてのガイダンスおよび授業方法についての解説 体ほぐし、ストレッチング	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、体育実技の方法や目的を理解し、運動と健康の維持増進との関連について説明することが できる。 体の柔軟性や疲労度について把握するとともに、メンテナンスを実践し、その方法や効果について理解し、説明する ことができる。	
		事前学修	ストレッチの種類や方法にはどのようなものがあるか、またその効果について事前に調べておく。	30分
		事後学修	授業で実施した内容を振り返り、自宅などでも積極的に実践してみる。	30分
2	第一部 第二部 火9/22	【卓球のルール理解と実 践】 【ダブルスとは】	卓球 ダブルスのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	卓球のダブルスのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。理解が不十分な場合には、次週に向け調べなお しておく。	30分
3	第一部 第二部 火9/29	【卓球のルール理解と実 践】 【ダブルスのゲーム】	卓球 ダブルスのルールの復習とリーグ戦	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ルールについて確認し、とくにダブルスにおけるローテーションの仕方を復習しておく。	30分
		事後学修	卓球ダブルスの楽しさとはなにか、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
4	第一部 第二部 火10/6	【ポートボールのルール理 解と実践】	ポートボール ポートボールのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ポートボールのゲームについて、ルールやゲーム進行の仕方について調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分
5	第一部 第二部 火10/13	【ポートボールのルール理 解と実践】	ポートボール ポートボールのルールの復習とリーグ戦	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ポートボールについて、ルールやゲーム進行の仕方について復習しておく。 また小さなコートで行う際に、ルールをどのように工夫すると楽しめるか考えておく。	30分
		事後学修	ポートボールの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
6	第一部 第二部 火10/20	【ミニテニスのルール理解 と実践】	ミニテニス ミニテニスのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニ ケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	テニスについて、ゲームの種類やルールなどについて調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 火10/27	【ミニテニスのルール理解と実践】	ミニテニス ミニテニスのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ミニテニスについて、ルールやゲーム進行の仕方について復習しておく。 また小さなコートで行う際に、ルールをどのように工夫すると楽しめるか考えておく。	30分
		事後学修	テニス型ゲームの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
8	第一部 第二部 火11/10	【さまざまな運動理論の学習と実践】	流行りのトレーニングを体験 DVDなどを用いたエアロビクスや筋力とレーニングなどの実践	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	流行のトレーニングについて、書籍や関連動画について調べておく。	30分
		事後学修	トレーニングを振り返り、自宅などでできることがあれば積極的に実践する。 また、自分自身に合う運動やトレーニングについて考える。	30分
9	第一部 第二部 火11/17	【さまざまな運動理論の学習と実践】	流行りのトレーニングを体験 DVDなどを用いたエアロビクスや筋力とレーニングなどの実践	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	流行のトレーニングについて、書籍や関連動画について調べておく。	30分
		事後学修	トレーニングを振り返り、自宅などでできることがあれば積極的に実践する。 また、自分自身に合う運動やトレーニングについて考える。	30分
10	第一部 第二部 火11/24	【ドッジボールのルール理解と実践】	ドッジボール ドッジボールのルールの理解と基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ドッジボールについて、ルールや歴史、ゲームの進め方などを調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分
11	第一部 第二部 火12/1	【ドッジボールのルール理解と実践】	ドッジボール ドッジボールのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	ドッジボールについて、ルールや歴史、ゲームの進め方などを復習しておく。 また投げ方や捕球のコツなどについても調べておく。	30分
		事後学修	ドッジボールの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
12	第一部 第二部 火12/8	【フリスビーのルール理解と実践】	フリスビー フリスビーのルールの理解および基本練習・ミニゲーム	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	フリスビー（アルティメット）について、ルールや歴史、ゲームの進め方などを調べておく。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、ルールの理解が十分か検討する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 火12/15	【フリスビーのルール理解と実践】	フリスビー フリスビーのルールの復習とリーグ戦	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実施した運動種目の特性や方法、また運動の効果を理解するとともに、仲間とのコミュニケーション・協働への理解を深める。	
		事前学修	フリスビー（アルティメット）について、ルールや歴史、ゲームの進め方などを復習しておく。 また投げ方やキャッチのコツなどについても調べておく。	30分
		事後学修	フリスビーの楽しさとは何か、また自分なりの楽しみ方について意見をまとめる。	30分
14	第一部 第二部 火12/22	【体力チェックの実践と評価】	体力チェックテスト	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、体力チェックを踏まえて現在の体力を把握・理解する。 また今後の授業に向けて個人で目標を立てることができる。	
		事前学修	前期に行った体力チェックテストの結果を見直しておく。 またこれまでの授業の取り組みで、向上が望める種目を予想しておく。	30分
		事後学修	体力チェックテストの結果を振り返り、自分自身の体力について考えるとともに、 後期の授業（運動） への取り組みを評価する。	30分
15	第一部 第二部 火1/12	【後期の授業の振り返りと解説】	まとめ及び振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業をとおして自己の体力や筋力の変化を理解するとともに、スポーツ・運動と健康の維持増進について振り返り・説明することができる。	
		事前学修	体育実技ⅠBの授業について、実施したスポーツ・身体運動の種類や目的、またそれらの運動効果について振り返っておく。	30分
		事後学修	授業を振り返り、自分自身のからだにとってどのような学びがあったのかをまとめる。今後も継続して運動やスポーツを続けるためにはどのような運動が適しているか、自己分析をおこなう。	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
運動に適した服装、室内シューズ、タオル、筆記用具の用意

【授業方法】
講義、身体チェック、トレーニングを基盤として施設や人数に合わせた用具・ルールで運動を実践する。活動内容は個人カードに記録する。ボールゲームやニュースポーツは「多目的コート」を使用することがあるので前の週の授業時に連絡をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力・筋力測定の結果を受けて客観的に運動メニューを作成し、実践、調整をする。グループワークの中でリーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で解説し、確認をしていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
木曜日13:00から18:00 2号館地下（体育教員室，体育場）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 AHA TC IEMA Faculty, 国際救命救急協会理事、イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に伝えていく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第1部 木 9/17	ガイダンス及び導入講義		ガイダンス（体育場） 履修カード作成 夏休みの成果を発表 トレーニング負荷チェック
		この回の到達目標	夏休みに行った運動メニュー実践と管理の発表 筋力・体力の増減を考慮に入れて、トレーニングメニュー再編	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく トレーニングを再確認し、休み中の運動メニュー実践と管理の発表ができるようにまとめる	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認	30分
2	第1部 木 9/24	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング ブレルボール（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してブレルボールができるように、チーム運営をする ボールが持てないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールが叩ける	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ブレルボールとバレーボールの違い、ボールの扱いを調べる グループで自分の役割を考える トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認	60分
		事後学修	ボールの扱いの修正方法を考える グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	60分
3	第1部 木 10/1	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング バレーボール（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してバレーボールができるように、チーム運営をする ボールが持てないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールを出せる	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく バレーボールのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	つなぎはプレーと指示の声で行えたのか再確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
4	第1部 木 10/8	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング ハンドボール（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してハンドボールができるように、チーム運営をする ボールが持てないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールをパスし、空間スペースを使ってゴールする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ハンドボールのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	思ったところにボールをパスし、空間スペースを使えたのか確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
5	第1部 木 10/15	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング アルティメット（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してアルティメットができるように、チーム運営をする フリスビーという手具の特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにフリスビーをパスし、空間スペースを使ってゴールする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく ハンドボールのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	思ったところにフリスビーをパスし、空間スペースを使えたのか確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
6	第1部 木 10/22	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング サッカー（多目的コート）
		この回の到達目標	チームメイトと協力してサッカーができるように、チーム運営をする 手で扱えないという特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 思ったところにボールをパスし、空間スペースを使ってゴールする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく サッカーのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	思ったところにボールをパスし、空間スペースを使えたのか確認 グループでの役割は果たせたのか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
7	第1部 木 10/29	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング負荷チェック 竹馬（体育室）
		この回の到達目標	現状の自身の筋力を客観的に捉える からだの使い方を覚える ペアで協力して行う	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 竹馬の様々な乗り方や扱い方を調べる	60分
		事後学修	初めて行うからだの使い方を復習してみる マシンと筋肉の使い方の確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	45分
8	第1部 木 11/5	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング フロアカーリング（体育室）
		この回の到達目標	チームメイトと話し合い、協力してフロアカーリングができるように、チーム運営をする 2種類のストーンの特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする 思ったところにストーンを投げたり、仲間に指示をしたり、指示をもらいながら試合を進める	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく フロアカーリングのルールを調べる グループで自分の役割を考える	60分
		事後学修	試合の進め方など、戦術について修正方法を調べる ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする グループでの役割は果たせたのか再確認	45分
9	第1部 木 11/12	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング フロアカーリング（体育室）
		この回の到達目標	チームメイトと話し合い、協力してフロアカーリングができるように、チーム運営をする 2種類のストーンの特性から、扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする。 前回より思ったところにストーンを投げれるようになったか	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 試合の進め方など、戦術について修正方法を調べる グループで自分の役割を考える	45分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする グループでの役割は果たせたのか再確認	30分
10	第1部 木 11/19	トレーニングとレクリエーションスポーツ		トレーニング ダーツ（体育室）
		この回の到達目標	同じボードのメンバーと協力してゼロワンができるように、ゲーム運営をする ダーツの扱いが苦手なチームメイトに教えたり、フォローをする 矢という危ない道具を危険のないよう扱い、ゼロで上がれるように思ったところに矢を投げたり、試合を進める	
		事前学修	危なくないようにするルールを考える ダーツボードの点数の見方とゼロワンのルールを調べる 体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく	60分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第1部 木 12/3	筋力測定とレクリエーションスポーツ	筋力測定（1RMをはかろう） 卓球（シングルス）（体育場）	
		この回の到達目標	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 現状の自身の体力を客観的に捉える。 コミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮し同じコートメンバーと協力してバウンドテニスを成立させる 空間スペースにボールを出し、ラリーをする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく スポンジボールとバウンドの特性に合ったストロークを調べる ラケットの扱いが苦手なメンバーに教えたり、フォローをする	45分
		事後学修	コントロールや回転をかけることできたか再確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分
12	第1部 木 12/10	筋力測定とレクリエーションスポーツ	筋力測定（1RMをはかろう） 卓球（シングルス）（体育場）	
		この回の到達目標	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 現状の自身の体力を客観的に捉える。 コミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮し同じコートメンバーと協力してバウンドテニスを成立させる 空間スペースにボールを出し、ラリーをする	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく スポンジボールとバウンドの特性に合ったストロークを調べる ラケットの扱いが苦手なメンバーに教えたり、フォローをする	45分
		事後学修	前回よりコントロールできたか確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分
13	第1部 木 12/17	筋力測定とレクリエーションスポーツ	筋力測定（1RMをはかろう） 卓球（ダブルス）（体育場）	
		この回の到達目標	ペアと協力する ルールを理解してゲームを成立させる 現状の自身の体力を客観的に捉える。	
		事前学修	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 苦手なストロークができるようになる修正方法を調べる ダブルスならではの戦術を考えてくる	45分
		事後学修	ペアとの連携はうまくいったのか、前回よりコントロールできたか確認 ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする	30分
14	第1部 木 12/24	体力測定	体力カード作成 身体チェック（体力測定）（体育場） 球技大会の内容決め	
		この回の到達目標	ポストテストとして現状の自身の体力を客観的に捉える 履修者で協力をして球技大会の種目、ルール、試合の運営を決める	
		事前学修	体調管理、体力測定内容の確認 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく 球技大会の種目などを考えてくる	30分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする 自分の体力・筋力測定の結果を同年代のデータと比較して客観的に捉えて考察し、授業終了してからの運動メニューを作成し、提出できるようにする 球技大会の役割を認識	90分
15	第1部 木 1/14	球技大会	履修者で種目、ルールを決めた内容の球技大会	
		この回の到達目標	履修者全員が協力して球技大会を運営し成立させる	
		事前学修	自分の体力・筋力測定の結果を同年代のデータと比較して客観的に捉えて考察し、授業終了してからの運動メニューを作成し、提出できるように準備する ルールと役割の確認	90分
		事後学修	ストレッチなどの筋肉をフォローし、疲労を残さないようにする 今後の運動習慣に備える	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	朴 鍾嫻	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
受講者は室内用運動靴(紐靴)、トレーニングウェア(自由に運動ができる服装)、タオル等を各自で準備すること。※第1回目は準備不要

【授業方法】
授業開始時に出席確認及び実施内容の説明をする。※授業内容は変更する場合がある。 多目的コートを使用する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員連絡にて

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
授業の前後（木曜 2、3 限）に質問を受け付ける。授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	【ガイダンス】【導入講義】	授業の目的・方法，評価方法，受講時の注意，シラバスについて説明	
		この回の到達目標	ガイダンス	
		事前学修	体育実技1Bに関する総合的な説明をするので，筆記用具等を持参すること	30分
		事後学修	次回の種目に関するルールを調べておく	30分
2	9/24	【体組成の測定】	体組成測定，身体バランスチェック	
		この回の到達目標	自分の体組成の記録	
		事前学修	体組成の測定の仕方について説明する	30分
		事後学修	体組成のデータをとっておき，半年後のデータと比較する	30分
3	10/1	【フットサル②】	パス，ドリブル，ゲーム ※可能ならば屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	フットサルの試合	
		事前学修	フットサルに必要な要素を考える	30分
		事後学修	運動量を検討し，試合中に十分活躍できたか検証する	30分
4	10/8	【フットサル③】	パス，ドリブル，ゲーム ※可能ならば屋外多目的施設で実施	
		この回の到達目標	フットサルの試合	
		事前学修	サッカーの基礎練習を行う（30分）	30分
		事後学修	試合中に十分活躍できたか検証する（30分）	30分
5	10/15	【卓球②】	基礎練習，サーブ，ラリー，ダブルスゲーム	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	卓球のダブルスのルールについて調べる	30分
		事後学修	チームメートとの連結は満足できたか考える	30分
6	10/22	【ミニバドミントン②】	基礎練習，ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	ミニバドミントンにおける戦術を工夫する	30分
		事後学修	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	【ピックルボール③】	ラリー練習，ゲーム（2人組）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	ピックルボールの方法を確認する	30分
		事後学修	試合の結果を見直し，次回の種目に活かす	30分
8	11/5	【ハンドボール②】	パス，シュート，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	試合戦術を工夫する	30分
		事後学修	自分のプレーに満足できたか考える	30分
9	11/12	【フロアカーリング③】	ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	フロアカーリング戦術について調べる	30分
		事後学修	チームワークに貢献できたか振り返り，次回のゲームに活かす	30分
10	11/19	【ミニバドミントン③】	基礎練習，ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	ミニバドミントンを楽しめる方法を考える	30分
		事後学修	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める	30分
11	12/3	【ミニバドミントン④】	基礎練習，ゲーム（ダブルス）	
		この回の到達目標	ダブルスでローテーション試合	
		事前学修	前週の結果を確認し，試合内容を工夫する	30分
		事後学修	コンビネーションが良かったか確認する	30分
12	12/10	【ユニホッケー②】	パス，ドリブル，ミニゲーム（4人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	ユニホッケーに必要な要素を調べる	30分
		事後学修	ユニホッケーのスティック操作が上手にできたか確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	【ビックルボール④】	ゲーム（2人組）	
		この回の到達目標	ミニ大会（リーグ戦）	
		事前学修	サーブから得点できる方法を考える	30分
		事後学修	運動量を確認する	30分
14	12/24	【体組成の測定】	体組成測定，身体バランスチェック	
		この回の到達目標	後期の2回目に測定した自分の体組成データと比較	
		事前学修	体組成の測定の準備をする	30分
		事後学修	データを比較し、ディスカッションする	30分
15	1/14	【まとめ】	レクリエーション，講評，質疑応答	
		この回の到達目標	まとめ	
		事前学修	後期のまとめをする	30分
		事後学修	総合評価	30分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	深田 喜八郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を学修し、体を動かす楽しみ、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。授業は主に2号館体育場及びトレーニングルームを使用するが、多目的コートを使用する場合もある。※第1回目は準備不要

【授業方法】
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身体運動の応用実践において、体力及び健康の維持増進に関わる概念について論理的に説明できる。		2			2	2	2	2	
②	フィットネス応用実践において、健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。		2			2	2	2	2	
③	競技的な応用実践において、スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		2			2	2	2	2	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。			10								10
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	30	30	20								80
授業への参画度	自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。 Think-Pair-Shareの形態により、問題発見・課題設定及び解決といった度合いを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した運動種目に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 17時30分～18時00分 2号館地下1F※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 月9/14	【ガイダンス及び用具の解説】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具や施設の使用法、注意点について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動と健康の関連について説明できる。 到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第二部 月9/21	【卓球(リーグ戦)】	卓球の試合をリーグ戦形式で実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	前期に実施した内容について振り返る。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
3	第二部 月9/28	【卓球(団体戦)】	卓球の試合を団体戦形式で実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、卓球の基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	団体戦の特徴について調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
4	第二部 月10/5	【ユニバーサルホッケー(練習)】	基本的な技術や戦術について解説し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ユニバーサルホッケーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
5	第二部 月10/12	【ユニバーサルホッケー(試合)】	ルールや注意点を解説し、試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ユニバーサルホッケーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ユニバーサルホッケーのルールをまとめる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
6	第二部 月10/19	【パットゴルフ(練習)】	設定されたコースを使用し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、パットゴルフの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	パットゴルフの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 月10/26	【パットゴルフ(試合)】	各自で設定したコースを使用し、試合形式でゲームをする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、パットゴルフの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	パットゴルフのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
8	第二部 月11/9	【ダーツ(練習)】	基本的な投げ方や点数のカウント方法を解説し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ダーツの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ダーツの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
9	第二部 月11/16	【ダーツ(試合)】	ルールや注意点などを解説し、試合形式でゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ダーツの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ダーツのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
10	第二部 月11/23	【ドッジビー①】	ドッジボールゲーム形式のルールを解説し、ゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ドッジビーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ドッジビーの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
11	第二部 月11/30	【ドッジビー②】	ポートボール形式のルールを解説し、ゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ドッジビーの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	ポートボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
12	第二部 月12/7	【ポートボール(練習)】	ドリブルやパスなどの基本技術について解説し、練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ポートボールの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	バスケットボールの基本技術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月12/14	【ポートボール(試合)】	ルールや注意点を解説し、試合形式でゲームを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ポートボールの基本技術・ルールを確認するとともに、自らの取り組みを振り返ることができる。	
		事前学修	バスケットボールのルールについて調べる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
14	第二部 月12/21	【スポーツの企画・運営】	学生主体となって、実施するスポーツを決定し、実践をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	実施したいスポーツ種目について調べる。	30分
		事後学修	実施内容を振り返り、まとめる。	30分
15	第二部 月1/18	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、体力及び健康の保持増進に向けた自らの取り組みや達成目標について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、スポーツを実践する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(サッカー)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者から上級者まで誰でも可。

【授業方法】		
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期２時限連続で実施する授業である。 サッカーに適した服装とフットサル用のシューズを用意すること。 服装に関してはガイダンス時に指示をする。 日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各グループにおいて、フットサルにおけるポジション、フォーメーション、戦術等についての課題を与え、それに基づいたグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日12:35-13:00（長期休暇を除く。事前にアポイントメントを取ること）大宮体育館教員控え室 sakamoto.shuji0904@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保有、日本サッカー協会公認サッカー審判員ライセンス保有
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本体育協会公認である日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6 金4/10	ガイダンス【サッカーとは】	【サッカー】の講義が学生に及ぼす影響を理解し、運動することの重要性について学修する。また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、【サッカー】の講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。	30分
2	月4/6 金4/10	体力測定【自分を知る】	【サッカー】の講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ることによって今後の運動への意識を高める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、サッカーで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り整理する。自分の体力の現状を把握し、翌週からの実技に備え運動に取り組む。	30分
3	月4/13 金4/17	コミュニケーション（声・アイコンタクト）	様々なアイスブレイクを用い、サッカーに必要とされる声、アイコンタクトを使ったコミュニケーションについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるコミュニケーション（声・アイコンタクト）について理解し、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、サッカーの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
4	月4/13 金4/17	コミュニケーション（ボディランゲージ・協力） コミュニケーションを用いたゲーム形式	様々なアイスブレイクを用い、サッカーに必要とされるボディランゲージ、グループワークを通してコミュニケーションについて学修する。コミュニケーションを用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるコミュニケーション（ボディランゲージ）について理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。コミュニケーションを用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、サッカーの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
5	月4/20 金4/24	基礎技術（ボールフィーリング：個人）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、個人でのボールを使った身体活動（リフティング）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、【サッカー】で必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、個人でのボールフィーリングを実践し楽しむことができる。また、ボールフィーリングのプレススキル向上の関連性について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、サッカー専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分
6	月4/20 金4/24	基礎技術（ボールフィーリング：グループ） 基礎技術（ボールフィーリング）を用いたゲーム形式	様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、グループでのボールを使った身体活動（サッカーテニス）を通しボールタッチを学修する。基礎技術を用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとボールフィーリングの関連性について説明することができる。基礎技術（ボールフィーリング）を用い仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月4/27 金5/1	基礎技術（ドリブル）	様々なストレッチやアイズブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるドリブルのボールタッチ（インサイド・アウトサイド・足のラウ）の相違点を理解し、様々な課題から学修する。ドリブルのフェイントとターンについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるドリブルでのボールタッチとサッカーのボールタッチの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
8	月4/27 金5/1	基礎技術（ドリブル）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（ドリブル）を発展させ、スモールサイド（ラインゴール）を用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる基礎技術（ドリブル）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
9	月5/4 金5/8	基礎技術（パス&コントロール）	様々なストレッチやアイズブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるパスを学修し、キックの相違点を理解し、様々な課題から学修する。ロンド（3対1）を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるパスの強弱の使い分け、パスの分類、キックの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
10	月5/4 金5/8	基礎技術（パス&コントロール）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（パス&コントロール）を発展させ、スモールサイド（コーンゴールゲーム）を用いてフットサルのミニゲーム（40m×35m）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
11	月5/11 金5/15	応用技術（パス）	様々なストレッチやアイズブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。基礎技術（パス）の発展として、ボールキープ、突破といった応用技術（パス）についてロンド（4対2）、2対1の突破を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる基礎技術（パス）とボールキープ、突破で用いられる応用技術（パス）の相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。	30分
12	月5/11 金5/15	応用技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（パス）を用い、スモールサイド（4ゴールゲーム）を用いてミニゲーム（40m×35m）を行い、基礎技術と応用技術との相違点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる応用技術（パス）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。到達目標②に関連してサッカーのルールについてA4で分類・整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月5/18 金5/22	応用技術（シュート/ドロップキック・パントキック）・GK	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるシュートを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（シュート）を学修し、様々な場面におけるシュートの相違点（ドロップキック・パントキック）について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（シュート）の方法を分類し相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。	30分
14	月5/18 金5/22	応用技術（シュート）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（ドリブル・パス・シュート）を用い、ハーフコートサイズ（68m×52.5m）でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。先週のスモールサイドゲームと比較し、用いられる応用技術の相違点について説明することができる。サッカーで必要とされる応用技術（シュート）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、ゲーム中に想定されるファウルについて整理する。また、相互的にファウルを回避する方法を検討しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。ゲームで想定されるファウルについて分類・整理する。	30分
15	月5/25 金5/29	リーグ戦形式のゲーム運営に向けたチームビルディング 仮チーム編成による練習	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてチームビルディングの方法を学修する。仮チーム編成による練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーにおいてチームビルディングがプレーに及ぼす影響を理解し、チームメイトと協働して検討することができる。サッカーで行われる基本的なリーグ戦の方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、チームビルディングとは何かを調べて整理し、講義中に他の学生とディスカッションできるようにしておく。サッカーのウォーミングアップ・練習メニューを調べ、オリジナルメニューを考案する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、チームビルディングについてのディスカッションの内容を整理しておく。	30分
16	月5/25 金5/29	リーグ戦形式のゲーム運営に向けた審判法 仮チーム編成による練習試合	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてサッカーの審判法を学修する。リーグ戦形式で仮チーム編成による練習試合を行う。仲間と協働してフルコートサイズ（105m×68m）のゲームを楽しむことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーにおけるルールの重要性を理解するとともに審判法を理解し正しく説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、ゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について調べ、行えるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、サッカーのルールに関する専門用語やゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について整理する。	30分
17	月6/1 金6/5	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達する練習メニューをチームごとに考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、チームの目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、仲間と協働して楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。サッカーで用いられるウォーミングアップについて調べ、オリジナルメニューを考案し発表できる準備をする。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
18	月6/1 金6/5	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達する練習メニューをチームごとに考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主体的にリーグ戦を運営するために、チームビルディングを通じ実行力を向上させる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。サッカーで用いられるウォーミングアップについて調べ、発表できる準備をする。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	月6/8 金6/12	第1回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
20	月6/8 金6/12	第1回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（ルールの理解や特徴の把握）を通じ、思考力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
21	月6/15 金6/19	第2回リーグ戦形式による ゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめる目標をディスカッションし考案する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。授業内におけるディスカッションの役割を理解し、積極的な発言、討論を行うことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールの設定をディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
22	月6/15 金6/19	第2回リーグ戦形式による ゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめる目標をディスカッションし考案する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（攻撃方法）を通じ、創造力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールについてディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分
23	月6/22 金6/26	第2回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を再設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、映像と自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
24	月6/22 金6/26	第2回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（守備方法）を通じ、発見力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	月6/29 金7/3	第3回リーグ戦形式による ゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、再構築することができる。自身の目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とポジションに関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
26	月6/29 金7/3	第3回リーグ戦形式による ゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析を通じて、フットサルの試合展開に応じ、状況把握能力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
27	月7/6 金7/10	第3回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、傾聴力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とフォーメーションによる戦術の相違点に関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
28	月7/6 金7/10	第3回リーグ戦形式による ゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、発信力や規律性を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
29	月7/13 金7/17	トーナメント戦形式による ゲーム	前週までの結果より、トーナメント戦形式によるゲームを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、トーナメント戦の実施やゲーム分析を通じ、柔軟性を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	サッカーで行われる基本的なトーナメント戦形式の方法を確認しておく。	30分
		事後学修	リーグ戦形式とトーナメント戦形式のゲームの特徴の相違点についてまとめる。	30分
30	月7/13 金7/17	サッカーのルールに関する 理解度の確認及び解説 まとめ・講評	サッカーのルールに関する理解度を確認し解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標②④に関連して、授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。	
		事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
		事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技 I C(フットサル)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者から上級者まで誰でも可。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期2時限連続で実施する授業である。 フットサルに適した服装とフットサル用のシューズを用意すること。 服装に関してはガイダンス時に指示をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各グループにおいて、フットサルにおけるポジション、フォーメーション、戦術等についての課題を与え、それに基づいたグループディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2		
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	2	2
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日12:35-13:00（長期休暇を除く。事前にアポイントメントを取る）大宮体育館教員控え室 sakamoto.shuji0904@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保有、日本サッカー協会公認サッカー審判員ライセンス保有
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本体育協会公認である日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/18	ガイダンス【フットサルとは】	【フットサル】の講義が学生に及ぼす影響を理解し、運動することの重要性について学修する。また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、【フットサル】の講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。	30分
2	月9/18	体力測定【自分を知る】	【フットサル】の講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ることによって今後の運動への意識を高める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、フットサルで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り整理する。自分の体力の現状を把握し、翌週からの実技に備え運動に取り組む。	30分
3	月9/25	コミュニケーション（声・アイコンタクト）	様々なアイスブレイクを用い、フットサルに必要とされる声、アイコンタクトを使ったコミュニケーションについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるコミュニケーション（声・アイコンタクト）について理解し、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、フットサルの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
4	月9/25	コミュニケーション（ボディランゲージ・協力） コミュニケーションを用いたゲーム形式	様々なアイスブレイクを用い、フットサルに必要とされるボディランゲージ、グループワークを通してコミュニケーションについて学修する。コミュニケーションを用いてフットサルのミニゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるコミュニケーション（ボディランゲージ）について理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。コミュニケーションを用い仲間と協働してフットサルゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、フットサルの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。	30分
5	月10/2	基礎技術（ボールフィーリング：個人）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、個人でのボールを使った身体活動（リフティング）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、個人でのボールフィーリングを実践し楽しむことができる。また、ボールフィーリングのプレースキル向上の関連性について説明することができる。用具の特性からフットサルとサッカーの相違点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分
6	月10/2	基礎技術（ボールフィーリング：グループ） 基礎技術（ボールフィーリング）を用いたゲーム形式	様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、グループでのボールを使った身体活動（サッカーデニス）を通しボールタッチを学修する。基礎技術を用いてフットサルのゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとボールフィーリングの関連性について説明することができる。基礎技術（ボールフィーリング）を用い仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/9	基礎技術（ドリブル）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるドリブルのボールタッチ（インサイド・アウトサイド・足のラウ）の相違点を理解し、様々な課題から学修する。ドリブルのフェイントとターンについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるドリブルでのボールタッチとサッカーのボールタッチの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
8	月10/9	基礎技術（ドリブル）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（ドリブル）を発展させ、スモールサイド（ラインゴール）を用いてフットサルのミニゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（ドリブル）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。	30分
9	月10/16	基礎技術（パス&コントロール）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるパスを学修し、キックの相違点を理解し、様々な課題から学修する。ロンド（3対1）を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるパスの強弱の使い分け、パスの分類、キックの相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
10	月10/16	基礎技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	基礎技術（パス）を発展させ、スモールサイド（コーンゴールゲーム）を用いてフットサルのミニゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。	30分
11	月10/23	応用技術（パス）	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。基礎技術（パス）の発展として、ボールキープ、突破といった応用技術（パス）についてロンド（4対2）、2対1の突破を用いて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）とボールキープ、突破で用いられる応用技術（パス）の相違点を理解し説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術と応用技術の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。	30分
12	月10/23	応用技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（パス）を用い、スモールサイドゲーム（4ゴールゲーム）を行い、基礎技術と応用技術との相違点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる応用技術（パス）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。到達目標②に関連してフットサルのルールについてA4で分類・整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月10/30	応用技術（シュート/ドロップキック・パントキック）・GK	様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるシュートを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（シュート）を学修し、様々な場面におけるシュートの相違点（ドロップキック・パントキック）について説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（シュート）の方法を分類し相違点について調べて準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。	30分
14	月10/30	応用技術（シュート）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式	応用技術（ドリブル・パス・シュート）を用い、スモールサイドゲーム（背中合わせゴール）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、先週のスモールサイドゲームと比較し、用いられる応用技術の相違点について説明することができる。フットサルで必要とされる応用技術（シュート）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、ゲーム中に想定されるファウルについて整理する。また、相互的にファウルを回避する方法を検討しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。ゲームで想定されるファウルについて分類・整理する。	30分
15	月11/6	リーグ戦形式のゲーム運営に向けたチームビルディング 仮チーム編成による練習	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてチームビルディングの方法を学修する。仮チーム編成による練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルにおいてチームビルディングがプレーに及ぼす影響を理解し、チームメイトと協働して検討することができる。フットサルのルールを理解し、サッカーとの相違点を説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、チームビルディングとは何かを調べて整理し、講義中に他の学生とディスカッションできるようにしておく。フットサルの練習メニューを調べ、オリジナルメニューを考案する。フットサルのルールを調べ、サッカーとの相違点を比較し、発表できる準備をしておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、チームビルディングについてのディスカッションの内容を整理しておく。	30分
16	月11/6	リーグ戦形式のゲーム運営に向けた審判法 仮チーム編成による練習試合	リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてフットサルの審判法を学修する。リーグ戦形式で仮チーム編成による練習試合を行う。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルにおけるルールの重要性を理解するとともに審判法を理解し正しく説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、ゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について調べ、行えるように準備する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、フットサルのルールに関する専門用語やゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について整理する。	30分
17	月11/13	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達をする練習メニューを考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、チームの目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、仲間と協働して楽しむことができる。	
		事前学修	フットサルで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。フットサルで用いられるウォーミングアップについて調べ、オリジナルメニューを考案し発表できる準備をする。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
18	月11/13	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達をする練習メニューを考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主体的にリーグ戦を運営するために、チームビルディングを通じ実行力を向上させる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	フットサルで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。フットサルで用いられるウォーミングアップについて調べ、発表できる準備をする。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	月11/20	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
20	月11/20	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（ルールの理解や特徴の把握）を通じ、思考力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
		事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
21	月11/27	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめるルール（時間・人数・制限・得点等）をディスカッションし考案する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。授業内におけるディスカッションの役割を理解し、積極的な発言、討論を行うことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールの設定をディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
22	月11/27	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめるルールを用いリーグ戦を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（攻撃方法）を通じ、創造力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールについてディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分
23	月12/4	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を再設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
		事前学修	ビデオ等の映像と自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
24	月12/4	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（守備方法）を通じ、発見力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	月12/11	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1週目 ソサイチによるゲームの導入	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、再構築することができる。自身の目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とポジションに関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
26	月12/11	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1週目 ソサイチによるゲームの導入	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析を通じて、フットサルの試合展開に応じ、状況把握能力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
27	月12/18	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2週目 ソサイチによるゲームの導入	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、傾聴力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間とフォーメーションによる戦術の相違点に関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
28	月12/18	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2週目 ソサイチによるゲームの導入	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、発信力や規律性を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
		事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
29	月12/25	トーナメント戦形式によるゲーム ソサイチによるゲームの導入	前週までの結果より、トーナメント戦形式によるゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、トーナメント戦の実施やゲーム分析を通じ、柔軟性を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
		事前学修	フットサルで行われる基本的なトーナメント戦形式の方法を確認しておく。	30分
		事後学修	リーグ戦形式とトーナメント戦形式のゲームの特徴の相違点についてまとめる。	30分
30	月12/25	フットサルのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評	フットサルのルールに関する理解度を確認し解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。	
		事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
		事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技 I C(ゴルフ初級)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
通常の筋力があれば問題ないとする。誰でも受講可とする。

【授業方法】
大宮キャンパスにて行う。 クラブ等は学部で準備してあるものを貸与する。スポーツシューズ、運動着、ゴルフ手袋は各自で準備する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	動画の撮影を用い、スイングの課題点、修正点を抽出し、課題解決に向けたディスカッションを行う。コースを工夫して設営し、主体的にゴルフのラウンドが行えるようにグループワークやディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料「ゴルフ指導者教本」を初回授業時に配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:35-13:00（長期休暇を除く。事前にアポイントメントを取る）大宮体育館教員控え室 sakamoto.shuji0904@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	ガイダンス【ゴルフ】とは	ゴルフの運動特性と安全管理について概説する。運動が学生に及ぼす影響を理解し、その重要性について学修する。 また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。 それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、ゴルフの運動特性と安全管理について説明することができる。また、講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。	30分
2	月9/14	体力測定【自分を知る】	ゴルフの講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ること で今後の運動への意識を高める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力測定の結果より健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。また、ゴルフで必要とされる体力について自らの達成課題を抽出することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、ゴルフで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。	30分
		事後学修	自分の体力の現状を把握し、結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。	30分
3	月9/21	コミュニケーション【声・アイコンタクト・ボディランゲージ・協力】	様々なアイスブレイクを用い、身体活動、仲間との協働の楽しさを知るとともに、今後のグループワークへつながるコミュニケーション能力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、スポーツで必要とされるコミュニケーションについて理解し、グループワークを通し実践することができる。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができ、マナーやルールについての理解を深めることができる。	
		事前学修	ゴルフに必要な用具の準備をしておく。 配布資料p2-p4を読んでゴルフとはどのようなスポーツか調べておく。また、p63-68を読んでゴルフの用具について整理しておく。	30分
		事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。	30分
4	月9/21	ゴルフの【安全管理】について ゴルフの基礎理論と実践 【グリップ・アドレス・スイング】	ゴルフの授業への準備と安全管理のための方策を学習する。ゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を学修し、ショートアイアン（ピッチング）、バードボールを使用して打撃練習を実践する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの安全管理の重要性について理解し、その動作特性やルール、マナーを説明することができる。また、ゴルフに必要なスキル（クローズドスキル）とその他スポーツのスキル（オープンスキル）の違いを説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	ゴルフに必要な用具の準備と安全管理のための方策を確認しておく。 配布資料p2-p4を読んでゴルフとはどのようなスポーツか調べておく。また、p63-68を読んでゴルフの用具について整理しておく。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。配布資料を読み、安全管理の方策を分類し、マナーやルールを整理する。	30分
5	月9/28	ゴルフの基礎理論と実践 【スクエアスタンスを意識したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてスクエアスタンスを意識したアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スクエアのスイングとはどのようなものかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	月9/28	ゴルフの基礎理論と実践 【重心移動を意識したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いて重心移動を意識したアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スイング中の重心移動がどのように行われているかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/5	ゴルフの基礎理論と実践 【グリップを意識したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてグリップ（スクエア・ストロング・ウィーク）を意識したアプローチショットを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。グリップの違いによってボール軌道がどのように変化するかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。動画の映像から客観的視点で自身のスイングを改善することができる。また他者との相違点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
8	月10/5	ゴルフの基礎理論と実践 【スタンスとボール位置を意識したスイング・ハーフスイングとフルスイングの違い】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてスタンスとボール位置を意識したフルスイングによるアプローチショットを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スタンスとボール位置の変化によるボール軌道の関係性を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。動画の映像からハーフスイングとフルスイングの違いを理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
9	月10/12	ゴルフの基礎理論と実践 【テイクバックを意識したスイング・スイングクロックによるアプローチ】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。スイングクロック（①5:00-7:00②3:00-9:00③1:00-11:00）を用いたアプローチを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。テイクバックの大きさと飛距離の関係性を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
10	月10/12	ゴルフの基礎理論と実践 【的入れゲームによるミニテスト①】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。様々な距離の的を狙ったアプローチショットを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。これまでのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を用い、スイングによるボール軌道の距離の変化を理解し、説明することができる。飛距離の異なるアプローチショットを打ち分けることができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
11	月10/19	ゴルフの【ルール・エチケット・マナー】について	ラウンドする際のゴルフのルール・エチケット・マナーについて学修する。プレー当日の手順・コースでの心得を確認しラウンドに向けた準備を行う。ウォーミングアップで、ゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボール・ピッチングを使用してスイングクロックによるアプローチ練習を実践する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフのルール・マナー・エチケットを理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p60-p62, p69-p71を読んでゴルフの基本的なルールやマナーをスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。ラウンド中のルール・マナー・エチケットをまとめ整理する。	30分
12	月10/19	体育館にてミニコースを設営してのラウンド	体育館にてミニコース（6ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラウンド設営の方法を理解し、積極的に設営に携わることができる。ゴルフのルール・マナー・エチケットを理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。注意深く観察しコースの特徴を捉え、スイングを変化させ使い分けることができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p60-p62, p69-p71を読んでゴルフの基本的なルールやマナーを整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。ラウンド中のルール・マナー・エチケットをまとめ整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月10/26	ゴルフの基礎理論と実践 【穴あきボールを使用したスイング】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球のスイングへの導入として穴あきボールを使用して打撃練習を实践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。バードボールと穴あきボールの打感や軌道の変化について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	月10/26	ゴルフの基礎理論と実践 【穴あきボールを使用したスイング・7番アイアン導入】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、穴あきボールを使用して打撃練習を实践する。7番アイアンを用いてアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。ピッチングと7番アイアンのアドレスの違い（グリップ・スタンス・ボール位置）について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
15	月11/9	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・グリーン回りを意識したアプローチ】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、グリーン回りを意識したアプローチショットを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。バードボール及び穴あきボールと本球の打感や軌道の変化について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p51-p54を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 再度ゴルフの安全管理のための方策を確認しておく。	30分
16	月11/9	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・スイングクロック・ゴルフゲージを使用した7番アイアンの打撃練習】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、スイングクロックによるアプローチを学修する。本球・ゴルフゲージを使用して7番アイアンのスイングを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、短距離（10y-30y）から中距離（40y-60y）の打ち分けを理解し、実践することができる。ピッチングと7番の違いが明確に説明できる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 再度ゴルフの安全管理のための方策を確認しておく。	30分
17	月11/16	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・ハーフスイングとフルスイングの違い】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、ハーフスイングとフルスイングの打ち分けを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、中距離（40y-60y）から長距離（80y-100y）の打ち分けを理解し、実践することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
18	月11/16	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・7番アイアン・ドライバー導入】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・7番アイアンを用い、ハーフスイングとフルスイングの打ち分けを学修する。ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、短距離（10y-30y）から中距離（40y-60y）の打ち分けを理解し、実践することができる。7番アイアンを用い、ストレートに飛ばすスイング動作を理解し、説明することができる。ドライバーとショートアイアンの相違点を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
19	月11/23	ゴルフの基礎理論と実践 【的入れゲームによるミニテスト②】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認する。本球・7ショートアイアン（ピッチング）・7番アイアンを用い、様々な距離の的を狙ったアプローチショットを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、適切な距離でのクラブ選択を理論的に説明し、実践することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 前回動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
20	月11/23	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・ヘッドスピードを意識したドライバー】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、ドライバーとショートアイアンの相違点を理解し、理論的に説明することができる。ヘッドスピードを上げるためにどのようなスイングが必要となるか理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	配布資料p27を読んでヘッドスピードについて整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
21	月11/30	ゴルフの基礎理論と実践 【本球を使用したスイング・インパクトを意識したドライバー】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。インパクト時のフェース面、両肘、手首の意識について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、インパクト時の正しいフェース面、姿勢（両肘・手首）について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
22	月11/30	ゴルフの基礎理論と実践 【ケイマンボールを使用したスイング・ドライバー】	前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、ケイマンボールを使用してドライバーのスイングを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、ドライバーの正しいスイングについて説明することができる。ドライバーを用い、ストレートに飛ばすスイング動作を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
		事前学修	前回授業の内容を確認し、ドライバーの基本技術を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
		事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
23	月12/7	グラウンドにてコースを設営しての練習ラウンド	グラウンドにてコース（9ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてストロークプレーにてラウンドを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なルール、スコアの付け方を学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフラウンドにおける基本的なルール、マナー、スコアの付け方を理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p9-p10を読んで競技の種類とプレー方法を整理しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
24	月12/7	グラウンドにてコースを設営しての公式戦ラウンド	グラウンドにてコース（9ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてラウンドを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略について学修する。次回のゴルフコース設営に向けたコースを考案しながらラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラウンドする仲間とともに協働して、マナーやエチケットの向上を心がけ、ラウンドを楽しむことができる。ストロークプレーとマッチプレーの相違点を理解し、説明することができる。練習ラウンドにて分析したコース概要をもとに、戦略を立てることができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに9ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
25	月12/14	グラウンドにて主体的にコースを設営しての練習ラウンド（9ホール）	グラウンドにてコース（9ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにディスカッションを行い、ゴルフコース設営について学修する。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフコース設営に関するディスカッションに積極的に参加し、自己の見解を述べるることができる。	
		事前学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。レポートにて9ホール構成のゴルフコースを考案する。	30分
		事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
26	月12/14	グラウンドにて主体的にコースを設営しての公式戦ラウンド（9ホール）	グラウンドにてコース（9ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにディスカッションを行い、ゴルフコース設営について学修する。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
27	月12/21	グラウンドにて主体的にコースを設営しての練習ラウンド（18ホール）	グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。他グループとゴルフコース設営のディスカッションを行い協働してコースを設営する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、18ホールの種別を理解し、バランスの取れたゴルフコースの設営について説明することができる。他者と協働して積極的にゴルフコース設営に参加することができる。	
		事前学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
		事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
28	月12/21	グラウンドにて主体的にコースを設営しての公式戦ラウンド（18ホール）	グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにゴルフコース設営のディスカッションを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。	
		事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
		事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について再度整理しておく。18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。	30分
29	月1/18	グラウンドにてコースを設営しての公式戦ラウンド（18ホール）ハンディキャップ方式	前回の結果をもとにハンディキャップ方式でストロークプレーにてラウンドを行う。グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ハンディキャップ方式のストロークプレーについて理解し、説明することができる。ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。	
		事前学修	配布資料p10-p11を読んでハンディキャップについて整理しておく。	30分
		事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
30	月1/18	ゴルフのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評	ゴルフのルールに関する理解度を確認し、解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え、理解を深める。	
		事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
		事後学修	スポーツ実技が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠC(コンバインドスポーツ)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
屋外・屋内運動靴（紐靴が望ましい）、運動着（トレーニングウェア等）、タオル、その他運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。特定のスポーツ種目ではなく、様々なスポーツ種目を実施するため、各回ごとの事前学習シートの作成が重要となる。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールグダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能 試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習 及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
授業実施日 9：00～13：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	体育・スポーツの意義と価値	ガイダンス ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 ・事前学習及び事後学習についての説明 体育実技と健康について（講義形式）	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる。また、到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、内容を確認する。体育・スポーツについての考えをまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。	30分
2	4/8	体力及び身体運動への理解	・ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する ・フィットネス測定の方法と評価について理解する	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる。また、到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる	30分
		事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。	30分
3	4/15	ソフトバレーボール①	ソフトバレーボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
4	4/15	ソフトバレーボール②	ソフトバレーボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
5	4/22	インディアカ①	インディアカ① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
6	4/22	インディアカ②	インディアカ② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/29	バドミントン①	バドミントン（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
8	4/29	バドミントン②	バドミントン（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
9	5/6	ターゲットバードゴルフ①	ターゲットバードゴルフ① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	振り返り、課題の設定を行う。	30分
10	5/6	ターゲットバードゴルフ②	ターゲットバードゴルフ② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・マナーや課題への挑戦についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
11	5/13	チェックボール①	チェックボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
12	5/13	チェックボール②	チェックボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	5/20	ミニテニス①		ミニテニス（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
14	5/20	ミニテニス②		ミニテニス（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
15	5/27	卓球①		卓球（シングルス①） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	振り返り、課題の設定を行う。	30分
16	5/27	卓球②		卓球（シングルス②） ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)	30分
17	6/3	卓球③		卓球（ダブルス） ・ルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
18	6/3	卓球④		卓球（チーム戦） ・意見の交換を通じてリーダーシップや協働への理解。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
		事後学修	チームメンバーと達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/10	ユニバーサルホッケー①	ユニバーサルホッケー① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
20	6/10	ユニバーサルホッケー②	ユニバーサルホッケー② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
21	6/17	ディスクスポーツ①	アルティメット ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
22	6/17	ディスクスポーツ②	ゴールディスク ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
23	6/24	ティボール①	ティボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
24	6/24	ティボール②	ティボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/1	キンボール①	キンボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。	30分
26	7/1	キンボール②	キンボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
27	7/8	フェンシング①	フェンシング① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	振り返り、課題の設定を行う。	30分
28	7/8	フェンシング②	フェンシング② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。	30分
		事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。	30分
29	7/15	ユニバーサルスポーツを考える	新スポーツ種目の提案 ・既存のスポーツの実施方法を工夫することや、新たなスポーツ種目を設定し実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツとは何かを説明することができる。	
		事前学修	様々なスポーツ種目を概観し、誰でも楽しめるスポーツ（ルールや実施方法等）について考え事前学習シートを作成する。	30分
		事後学修	実施したスポーツについての意見交換を行い、その意見をまとめる。	30分
30	7/15	スポーツの価値について考える	文化としてのスポーツ ・スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 ・授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツの価値とは何か、自身の経験と学びに基づいた考えを示すことができる。	
		事前学修	スポーツとは何かについて、自らの経験や学びを踏まえて考えをまとめる。	30分
		事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。課題レポートを作成する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(卓球)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
卓球経験の有無不問。運動靴、運動着、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をすること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。体力の維持増進のために、各自で30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施する。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。卓球の知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卓球に関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
授業実施日 9：00～13：00 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	体育・スポーツの意義と価値	1. ガイダンス内容（授業目的、到達目標、評価方法、授業計画）について理解する 2. 体育・スポーツの意義と価値について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる 2. 到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる	
		事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する 2. 体育・スポーツについての考えをまとめる	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。	30分
2	9/16	体力及び身体運動への理解	1. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する 2. フィットネス測定の方法と評価について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる 2. 到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる	
		事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる	30分
		事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。	30分
3	9/23	卓球の特性と安全管理（講義）	1. 卓球の特性（歴史、技術、ルール、倫理、用具等）を理解する 2. 卓球を安全に実施する上での安全管理について理解する	
		この回の到達目標	1. 到達目標②に関連して、卓球の特性（歴史、技術、倫理、用具等）を説明できる 2. 到達目標②に関連して、卓球を安全に実施する上での安全管理について説明できる	
		事前学修	卓球の特性について関連する資料を調べてくる 卓球で発生した事故等について調べてくる	30分
		事後学修	講義の内容をまとめ、卓球の特性と実施する際の安全面の確保について理解を深める	30分
4	9/23	基本的な動作と技術の習得〔1〕 フォアハンド、バックハンド	1. フォアハンド、バックハンド基本的な動作と技術の習得 2. 練習の効果について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、フォアハンド及びバックハンドの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標①に関連して、動作と技術習得の練習方法を工夫できる。	
		事前学修	フォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
5	9/30	基本的な動作と技術の習得〔2〕 フォアハンド、バックハンドのラリー	フォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	フォアハンド、バックハンドの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
6	9/30	基本的な動作と技術の習得〔3〕 カットのフォアハンド、バックハンド	1. カットの前ハンド、バックハンドの基本的な動作と技術の習得 2. 動作と記憶過程（認知構造）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、動作と技術を習得する際の認知構造について説明することができる。	
		事前学修	カットの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/7	基本的な動作と技術の習得〔4〕 カットのラリー	カットのフォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。	
		事前学修	カットの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す	30分
8	10/7	基本的な動作と技術の習得〔5〕 サーブ、レシーブ、スマッシュ	1. サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術の練習 2. 練習曲線を用いて、動作と技術の習得について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、練習曲線を用いて、動作と技術を習得する際の特徴について示し、自分に当てはめて説明することができる。	
		事前学修	サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
9	10/14	基本的な動作と技術の確認 技能試験	1. 簡易ゲームにより、習得した動作や技術の確認 2. 振り返りと課題の抽出	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	基本動作と技術を振り返り、技能試験に向けた練習を行う。	30分
		事後学修	技能試験の結果を踏まえ、技術習得状況を確認し課題を抽出する。また課題解決に向けた方法をまとめる。	30分
10	10/14	審判技術を学ぶ	1. ルールと審判法の説明 簡易ゲームにより、審判技術とルールを理解する 2. 練習効果を高める方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ルールと審判法について説明できる。	
		事前学修	ルールブックを熟読し、使用する用語をまとめる。	30分
		事後学修	審判法、特にジェスチャーと審判用語をまとめ、理解を深める。	30分
11	10/21	状況に応じた技術の選択〔1〕 サーブコースの選択	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択に説明する。 2. スポーツコーチングについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	シングルのサーブについて配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
12	10/21	状況に応じた技術の選択〔2〕 回転サーブ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	ナックル、下回転について配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/28	状況に応じた技術の選択〔3〕 ショート	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
14	10/28	状況に応じた技術の選択〔4〕 ツッツキ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
15	11/11	状況に応じた技術の選択〔5〕 スマッシュ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
		事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
		事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
16	11/11	ゲームの実践と審判〔1〕 シングルス総当たり（前半戦）	1. シングルス総当たり（前半戦） 2. スポーツマンシップとは何かを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。	
		事前学修	スポーツマンシップについて調べる。スポーツ活動現場においてどのように適応されるべきなのか自分の考えをまとめ、授業時の発表準備をする。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決策をまとめる。	30分
17	11/18	ゲームの実践と審判〔2〕 シングルス総当たり（後半戦）	シングルス総当たり（後半戦）	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
		事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	総当たりの結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。またトーナメントに備え課題を抽出する。	30分
18	11/18	ゲームの実践と審判〔3〕 シングルストーナメント（前半戦）	1. シングルストーナメント（前半戦） 2. フェアプレイとは何かを理解する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
		事前学修	フェアプレイについて調べる。その際、他のスポーツ種目の事例について確認し、授業時の発表準備をする。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決策をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/25	ゲームの実践と審判〔4〕 シングルストーナメント (後半戦)	シングルストーナメント (後半戦)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
20	11/25	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔1〕 サーブとレシーブ	ダブルスの基本動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
21	12/2	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔2〕 打球コースの選択	ダブルスの基本動作と技術の習得	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
		事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
22	12/2	ゲームの実践と審判〔5〕 ダブルス総当たり	ダブルス総当たり	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合方法、ルールを確認する。	30分
		事後学修	ペアの学生と振り返りを行い、お互いの課題を抽出する、また、課題解決に方策をまとめる。	30分
23	12/9	ゲームの実践と審判〔6〕 ダブルストーナメント	ダブルストーナメント	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	総当たりの課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、総当たりで課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
24	12/9	試合運営〔1〕 シングルスリーグ戦 (技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/16	試合運営〔2〕 シングルストーナメント (技能レベル別)	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
26	12/16	試合運営〔3〕 ダブルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
		事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
27	12/23	試合運営〔4〕 ダブルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
		事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
28	12/23	試合運営〔5〕 チーム戦	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
		事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
		事後学修	チームメンバーと振り返りを行う。	30分
29	1/13	レクリエーションとしての卓球を学ぶ	ゲーム方法を工夫し、性別・年齢・体力・技能を考慮したルールの提案と実施	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、既存のルールを工夫しレクリエーションとしての卓球の価値を示すことができる。	
		事前学修	レクリエーションとしての卓球について調べる。また、卓球を普及させる方策を考えまとめる。	30分
		事後学修	卓球を普及させる方策について課題レポートを作成する。	60分
30	1/13	スポーツの意義と価値について考える	1. スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 2. 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツ活動がもたらす様々な恩恵について具体例を挙げ説明することができる。	
		事前学修	スポーツの文化としての役割について自分の考えをまとめる	30分
		事後学修	全体を通した振り返りを行い、生涯スポーツとしての当該スポーツの位置付けを確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。 ※第1回目は準備不要

【授業方法】
大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。 必要に応じ、バドミントンの技能別を実施することがある。※授業内容は変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業で課題を与え、ペアもしくはグループ・ワークで進行する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2	
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	4
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2		
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にレポートの講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない(資料集を配布する)				

【オフィスアワー】
授業（火曜3限）の前後とする授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立スポーツ科学センターにてスポーツ選手への科学的サポートの実施
実務経験に基づく実践的教育の内容		ICTを用いた技能習得	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス、導入授業	ガイダンス(半期授業の組み立て, 授業方法, 履修条件などについて説明) 三崎町キャンパスにて行う。	
		この回の到達目標	シラバスの内容を理解する	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	10分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	10分
2	4/7	エクササイズ	エクササイズ	
		この回の到達目標	自身の体力と生活習慣の関係を理解する	
		事前学修	自身の生活習慣について省みる。	10分
		事後学修	学習内容から、自身の生活習慣を改善する。	10分
3	4/14	ミニゲーム	基本的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理について確認する。	10分
		事後学修	大宮キャンパスの施設利用方法等の理解を再確認する。	10分
4	4/14	ミニゲーム	基本的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンで使用する道具について特性を調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの道具の理解を深める。	10分
5	4/21	ミニゲーム	実践的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの基本動作について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの基本動作について理解を深める。	10分
6	4/21	ミニゲーム	実践的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの運動特性について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの運動特性について理解を深める。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/28	シングルスルール	ルールを学ぶ①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスルール、特性、安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルスルールを調べる。	10分
		事後学修	バドミントンシングルスルールについて理解を深める。	10分
8	4/28	シングルスルール	ルールを学ぶ②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスルール、特性、安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルス審判法について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンシングルス審判法について理解を深める。	10分
9	5/5	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール、特性、安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	リーグ戦の実施方法について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
10	5/5	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール、特性、安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	シングルス戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
11	5/12	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルス戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
12	5/12	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルス戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/19	シングルストーナメント	シングルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	トーナメントの実施方法について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる．	10分
14	5/19	シングルストーナメント	シングルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム前に必要なウォーミングアップについて調べる．	10分
		事後学修	シングルストーナメント結果から、自身のスキルについて分析し、自己理解を深める．	10分
15	5/26	ダブルスのルール	ダブルス ルールを学ぶ	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスのルールを調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスのルールについて理解を深める．	10分
16	5/26	ダブルスのルール	ダブルス 実践練習	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスの審判法を調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスの審判法について理解を深める．	10分
17	6/2	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分
18	6/2	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/9	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
20	6/9	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
21	6/16	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
22	6/16	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
23	6/23	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
24	6/23	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6/30	自主運営	自主運営①	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
26	6/30	自主運営	自主運営②	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
27	7/7	自主運営	自主運営③	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
28	7/7	自主運営	自主運営④	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
29	7/14	レクリエーション	レクリエーションとバドミントン	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、レクリエーションと人間関係構築の関係性を理解する	
		事前学修	レクリエーションとしてのバドミントンについて調べる。	10分
		事後学修	様々なバドミントンの楽しみ方について理解を深める。	10分
30	7/14	まとめ、講評	まとめ、講評	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、スポーツの特性を理解し、生涯にわたり自主的に実践するスキルを得る	
		事前学修	授業全体を振り返り、学んだことを整理する。	10分
		事後学修	バドミントンを通じて学んだ、体力的・心理的・社会的スキルから、より良い生活を送るための方策を検討する。	10分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。 ※第1回目は準備不要

【授業方法】
大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。 必要に応じ、バドミントンの技能別を実施することがある。※授業内容は変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業で課題を与え、ペアもしくはグループ・ワークで進行する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にレポートの講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない(資料集を配布する)				

【オフィスアワー】
授業（火曜3限）の前後とする授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立スポーツ科学センターにてスポーツ選手への科学的サポートの実施
実務経験に基づく実践的教育の内容		ICTを用いた技能習得	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、導入授業	ガイダンス(半期授業の組み立て, 授業方法, 履修条件などについて説明) 三崎町キャンパスにて行う。	
		この回の到達目標	シラバスの内容を理解する	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	10分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	10分
2	9/15	エクササイズ	エクササイズ	
		この回の到達目標	自身の体力と生活習慣の関係を理解する	
		事前学修	自身の生活習慣について省みる。	10分
		事後学修	学習内容から、自身の生活習慣を改善する。	10分
3	9/22	ミニゲーム	基本的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理について確認する。	10分
		事後学修	大宮キャンパスの施設利用方法等の理解を再確認する。	10分
4	9/22	ミニゲーム	基本的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	バドミントンのルール, 特性, 安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンで使用する道具について特性を調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの道具の理解を深める。	10分
5	9/29	ミニゲーム	実践的な動作の習得① ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの基本動作について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの基本動作について理解を深める。	10分
6	9/29	ミニゲーム	実践的な動作の習得② ミニゲーム	
		この回の到達目標	ミニゲームを通し, 自ら課題を発見し, 改善方法を計画し, 実行する	
		事前学修	バドミントンの運動特性について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンの運動特性について理解を深める。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	シングルスルール	ルールを学ぶ①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスルール、特性、安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルスルールを調べる。	10分
		事後学修	バドミントンシングルスルールについて理解を深める。	10分
8	10/6	シングルスルール	ルールを学ぶ②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスルール、特性、安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンシングルス審判法について調べる。	10分
		事後学修	バドミントンシングルス審判法について理解を深める。	10分
9	10/13	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール、特性、安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	リーグ戦の実施方法について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
10	10/13	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のルール、特性、安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	シングルス戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
11	10/20	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルス戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
12	10/20	シングルスリーグ戦	シングルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンシングルスリーグ戦のゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	シングルス戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	シングルストーナメント	シングルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのルール，特性，安全性を理解し自主的に実践する	
		事前学修	トーナメントの実施方法について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる．	10分
14	10/27	シングルストーナメント	シングルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンシングルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム前に必要なウォーミングアップについて調べる．	10分
		事後学修	シングルストーナメント結果から、自身のスキルについて分析し、自己理解を深める．	10分
15	11/10	ダブルスのルール	ダブルス ルールを学ぶ	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスのルールを調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスのルールについて理解を深める．	10分
16	11/10	ダブルスのルール	ダブルス 実践練習	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスのルール，特性，安全性を理解する	
		事前学修	バドミントンダブルスの審判法を調べる．	10分
		事後学修	バドミントンダブルスの審判法について理解を深める．	10分
17	11/17	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分
18	11/17	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦を通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる．	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する．	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
20	11/24	ダブルスリーグ戦	ダブルスリーグ戦④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルスリーグ戦のゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。	10分
21	12/1	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント①	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
22	12/1	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント②	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントを通じ、自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
23	12/8	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント③	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分
24	12/8	ダブルストーナメント	ダブルストーナメント④	
		この回の到達目標	バドミントンダブルストーナメントのゲーム運営を実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ダブルスの戦略について調べる。	10分
		事後学修	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。	10分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	自主運営	自主運営①	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
26	12/15	自主運営	自主運営②	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
27	12/22	自主運営	自主運営③	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
28	12/22	自主運営	自主運営④	
		この回の到達目標	バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築する	
		事前学修	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	10分
		事後学修	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。	10分
29	1/12	レクリエーション	レクリエーションとバドミントン	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、レクリエーションと人間関係構築の関係性を理解する	
		事前学修	レクリエーションとしてのバドミントンについて調べる。	10分
		事後学修	様々なバドミントンの楽しみ方について理解を深める。	10分
30	1/12	まとめ、講評	まとめ、講評	
		この回の到達目標	バドミントンを通じて、スポーツの特性を理解し、生涯にわたり自主的に実践するスキルを得る	
		事前学修	授業全体を振り返り、学んだことを整理する。	10分
		事後学修	バドミントンを通じて学んだ、体力的・心理的・社会的スキルから、より良い生活を送るための方策を検討する。	10分

科目名	体育実技 I C(ソフトボール)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパス（グラウンド）の施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題レポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について説明できる。	
		事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	4/7	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	4/14	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	4/14	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
		事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
		事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	4/21	キャッチボールの基礎練習	キャッチボールの基礎技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボールの基礎技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	キャッチボールの基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	キャッチボール練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	4/21	キャッチボール応用練習	実践形式においてキャッチボール応用技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボール応用技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	キャッチボール応用技術の練習を調べる。	30分
		事後学修	キャッチボール応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/28	バッティング基礎練習	バッティング基礎技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バッティング基礎技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	4/28	バッティング応用練習	実践形式においてバッティング応用技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バッティング応用技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	バッティング応用練習を調べる。	30分
		事後学修	バッティング応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	5/5	走塁の基礎練習	走塁基礎技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁基礎技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	5/5	走塁の応用練習	実践形式において走塁の応用技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁の応用技術について、理解し説明することができる。	
		事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
		事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	5/12	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
		事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	5/12	実践におけるオールラウンドな体力の向上	実践において体力向上を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践におけるオールラウンドな体力の向上について、理解し説明することができる。	
		事前学修	実践に必要な体力を調べる。	30分
		事後学修	実践におけるオールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/19	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	5/19	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践において筋力とパワーの向上について、理解し説明することができる。	
		事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
		事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	5/26	実践形式：リーグ戦A	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	5/26	実践形式：リーグ戦A	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	6/2	実践形式：リーグ戦B	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	6/2	実践形式：リーグ戦B	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/9	実践形式：リーグ戦C	守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
		事前学修	守備練習について調べる。	30分
		事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
20	6/9	実践形式：リーグ戦C	守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
		事前学修	守備練習について調べる。	30分
		事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
21	6/16	実践形式：リーグ戦D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
22	6/16	実践形式：リーグ戦D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
23	6/23	実践形式：リーグ戦E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
		事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分
24	6/23	実践形式：リーグ戦E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
		事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6/30	実践形式：リーグ戦F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
		事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べた今回の戦略に役立てる。	30分
26	6/30	実践形式：リーグ戦F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
		事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
		事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べた今回の戦略に役立てる。	30分
27	7/7	実践形式：リーグ戦G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	7/7	実践形式：リーグ戦G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	7/14	実践形式：リーグ戦H ゲームの運営法	ゲームの運営法を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームの運営法について、理解し説明することができる。	
		事前学修	ゲームの運営法について調べる。	30分
		事後学修	ゲームの運営法を振り返り理解を深める。	30分
30	7/14	まとめ/ 振り返り	フィtnessチェック、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィtnessチェック、授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
		事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
		事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技 I C(多種目スポーツ)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパスの施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題レポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能 試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習 及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ習慣化と体力及び健康について、理解し説明できる。	
		事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
		事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	9/15	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
		事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
		事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	9/22	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法について説明できる。	
		事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
		事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	9/22	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
		事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
		事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	9/29	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バランスを高めるために必要なトレーニング方法について説明できる。	
		事前学修	竹馬の乗り方について調べる。	30分
		事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	9/29	キャッチボール練習：ティーボール①	実践形式においてキャッチボール技術を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてキャッチボール技術について説明できる。	
		事前学修	キャッチボール技術の練習を調べる。	30分
		事後学修	キャッチボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	バッティング基礎練習： ティーボール②	実践形式においてバッティング基礎技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてバッティング基礎技術について説明できる。	
		事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	10/6	バッティング応用練習： ティーボール③	実践形式においてティーボール技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてティーボール技術について説明できる。	
		事前学修	ティーボールのルールを調べる。	30分
		事後学修	ティーボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	10/13	走塁の基礎練習：ティー ボール④	走塁基礎技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、走塁基礎技術について説明できる。	
		事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
		事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	10/13	走塁の応用練習：ティー ボール⑤	実践形式において走塁の応用技術を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式において走塁の応用技術について説明できる。	
		事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
		事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	10/20	オールラウンドな体力の向 上：サーキットトレーニン グを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム を作成を学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて説明できる。	
		事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
		事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	10/20	オールラウンドな体力の向 上	オールラウンドな体力向上を体得する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上について説明できる。	
		事前学修	オールラウンドな体力の向上について調べる。	30分
		事後学修	オールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて説明できる。	
		事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	10/27	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践における筋力とパワーの向上について説明できる。	
		事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
		事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	11/10	実践形式：バスケットボール①	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
		事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	11/10	実践形式：バスケットボール①	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
		事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
		事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	11/17	実践形式：バスケットボール②	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	11/17	実践形式：バスケットボール②	対戦チームの強み弱みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
		事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
		事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
20	11/24	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
21	12/1	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
22	12/1	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
23	12/8	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
24	12/8	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
26	12/15	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
		事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
		事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
27	12/22	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
		事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	12/22	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
		事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	1/12	ゲームにおける運営：フットサル	ゲームにおける運営を積極的に行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームにおける運営について、理解し説明できる。	
		事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
		事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
30	1/12	まとめ/ 振り返り	フィtnessチェック、授業の振り返り	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィtnessチェック、授業の振り返り、理解し説明できる。	
		事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
		事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技 I C(テニス初級)	担当者	朴 美香	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)

【履修条件】

【授業方法】

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①												
②												
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)												

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
2				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
3				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
4				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
5				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
6				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
8				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
9				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
10				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
11				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
12				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
14				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
15				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
16				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
17				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
18				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
20				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
21				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
22				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
23				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
24				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
26				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
27				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
28				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
29				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
30				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

科目名	体育実技 I C(テニス中級)	担当者	朴 美香	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数			必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)

【履修条件】

【授業方法】

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①												
②												
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)												

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容	

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)

【授業方法】		
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
バドミントンの練習、試合に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 13時10分～13時40分 大宮キャンパス体育館※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	【ガイダンス及び用具の解説】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具や施設の利用方法・注意点について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、運動の恩恵を説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 金4/10	【体ほぐしの運動】	パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動に必要なストレッチを選択できる。	
		事前学修	ストレッチの効果について調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。	30分
3	第一部 金4/17	【体力測定】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、体力と健康の関連について説明できる。	
		事前学修	測定種目について確認する。	30分
		事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。	30分
4	第一部 金4/17	【基本的なショットの修得①】	シャトルに慣れるとともに、サーブやドライブの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	サーブ・ドライブについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
5	第一部 金4/24	【基本的なショットの修得②】	サーブやドライブに加え、クリアー、プッシュ、ドロップの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	クリアー・プッシュ・ドロップについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
6	第一部 金4/24	【基本的なショットの修得③】	これまで紹介したショットを復習するとともに、スマッシュの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	スマッシュについて調べる。	30分
		事後学修	これまで実施した基本技術をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/1	【半面シングルス①】	コートの手面を利用し、ゲーム形式でラリーすることで、基本技術の向上をはかる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルスについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
8	第一部 金5/1	【半面シングルス②】	リーグ戦形式で試合を実施することで、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルスの目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
9	第一部 金5/8	【ダブルスの練習①】	簡易ゲームによって、ダブルスのゲームを経験する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でダブルスのゲームを視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
10	第一部 金5/8	【ダブルスの練習②】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
11	第一部 金5/15	【ダブルスの練習③】	ラリー継続の練習をしながら、ダブルスの戦術を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスの戦術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
12	第一部 金5/15	【ダブルスの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金5/22	【ダブルスの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
14	第一部 金5/22	【ダブルスの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
15	第一部 金5/29	【ダブルスの試合④】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦において重要と考える点をまとめる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
16	第一部 金5/29	【シングルの練習①】	フットワークの練習をし、コート全体を動きながらラリーを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でシングルの動画を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
17	第一部 金6/5	【シングルの練習②】	審判の方法やラインの確認をし、ゲーム形式で練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	シングルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
18	第一部 金6/5	【シングルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 金6/12	【シングルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
20	第一部 金6/12	【シングルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
21	第一部 金6/19	【トリプルの練習】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、トリプルスに必要な技術・ルール・マナーを習得する。	
		事前学修	インターネット等でトリプルの試合を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
22	第一部 金6/19	【トリプルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
23	第一部 金6/26	【トリプルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
24	第一部 金6/26	【トリプルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 金7/3	【団体戦①】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	これまでの内容を振り返り、バドミントンに必要な基本技術、コミュニケーションについてまとめる。	30分
		事後学修	試合結果振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
26	第一部 金7/3	【団体戦②】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
27	第一部 金7/10	【団体戦③】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
28	第一部 金7/10	【学生企画によるゲーム運営①】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	どのような形式でゲームを実施すべきか、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
29	第一部 金7/17	【学生企画によるゲーム運営②】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	改善点を踏まえ、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、まとめる。	30分
30	第一部 金7/17	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、バドミントンの実習で期待される恩恵と健康行動について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、バドミントンを実践する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)

【授業方法】
授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等により実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
バドミントンの練習、試合に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 13時10分～13時40分 大宮キャンパス体育館※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	【ガイダンス及び用具の解説】	授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明するとともに、用具や施設の利用方法・注意点について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、運動の恩恵を説明できる。	
		事前学修	運動の意義についてまとめる。	30分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	第一部 金9/18	【体ほぐしの運動】	パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、運動に必要なストレッチを選択できる。	
		事前学修	ストレッチの効果について調べる。	30分
		事後学修	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。	30分
3	第一部 金9/25	【体力測定】	身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、体力と健康の関連について説明できる。	
		事前学修	測定種目について確認する。	30分
		事後学修	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。	30分
4	第一部 金9/25	【基本的なショットの修得①】	シャトルに慣れるとともに、サーブやドライブの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	サーブ・ドライブについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
5	第一部 金10/2	【基本的なショットの修得②】	サーブやドライブに加え、クリアー、プッシュ、ドロップの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	クリアー・プッシュ・ドロップについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
6	第一部 金10/2	【基本的なショットの修得③】	これまで紹介したショットを復習するとともに、スマッシュの技術を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、バドミントンに必要な技術を習得する。	
		事前学修	スマッシュについて調べる。	30分
		事後学修	これまで実施した基本技術をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/9	【半面シングルス①】	コートの手面を利用し、ゲーム形式でラリーすることで、基本技術の向上をはかる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルスについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
8	第一部 金10/9	【半面シングルス②】	リーグ戦形式で試合を実施することで、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	半面シングルス目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
9	第一部 金10/16	【ダブルスの練習①】	簡易ゲームによって、ダブルスのゲームを経験する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でダブルスのゲームを視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
10	第一部 金10/16	【ダブルスの練習②】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
11	第一部 金10/23	【ダブルスの練習③】	ラリー継続の練習をしながら、ダブルスの戦術を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ダブルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	ダブルスの戦術について調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
12	第一部 金10/23	【ダブルスの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金10/30	【ダブルスの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
14	第一部 金10/30	【ダブルスの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
15	第一部 金11/6	【ダブルスの試合④】	団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標②に関連し、ダブルスのルールやマナーを習得し、説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦において重要と考える点をまとめる。	30分
		事後学修	試合の結果を振り返り、まとめる。	30分
16	第一部 金11/6	【シングルの練習①】	フットワークの練習をし、コート全体を動きながらラリーを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	インターネット等でシングルの動画を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
17	第一部 金11/13	【シングルの練習②】	審判の方法やラインの確認をし、ゲーム形式で練習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、シングルスに必要な技術・ルールを習得する。	
		事前学修	シングルのルールについて調べる。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
18	第一部 金11/13	【シングルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 金11/20	【シングルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
20	第一部 金11/20	【シングルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
21	第一部 金11/27	【トリプルの練習】	サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、トリプルスに必要な技術・ルール・マナーを習得する。	
		事前学修	インターネット等でトリプルの試合を視聴する。	30分
		事後学修	次回への改善点をまとめる。	30分
22	第一部 金11/27	【トリプルの試合①】	リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	リーグ戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
23	第一部 金12/4	【トリプルの試合②】	トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。	
		事前学修	トーナメント戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
24	第一部 金12/4	【トリプルの試合③】	団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、状況に応じた技術の選択をして試合ができる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	団体戦の目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 金12/11	【団体戦①】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	これまでの内容を振り返り、バドミントンに必要な基本技術、コミュニケーションについてまとめる。	30分
		事後学修	試合結果振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
26	第一部 金12/11	【団体戦②】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
27	第一部 金12/18	【団体戦③】	チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、団体戦に必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	チームのメンバーと目標を立てる。	30分
		事後学修	試合結果を振り返り、まとめる。	30分
28	第一部 金12/18	【学生企画によるゲーム運営①】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	どのような形式でゲームを実施すべきか、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、次回への改善点をまとめる。	30分
29	第一部 金12/25	【学生企画によるゲーム運営②】	リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、バドミントンに必要なルール・マナーについて説明できる。 到達目標④に関連し、試合結果を振り返り自らの達成度を説明できる。	
		事前学修	改善点を踏まえ、個人の意見をまとめる。	30分
		事後学修	実施した内容を振り返り、まとめる。	30分
30	第一部 金12/25	【まとめ】	これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、バドミントンの実習で期待される恩恵と健康行動について説明できる。	
		事前学修	これまでの内容についてまとめる。	30分
		事後学修	施設を探し、バドミントンを実践する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	松田 有司	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
基本的筋力が必要である。バレーボールに興味がありバレーボールを楽しむことができること

【授業方法】		
大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する 男女混合の6人制バレーボールを半年間実施する		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて説明を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
大宮体育館事務室1時より受付

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部4/6	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション授業 三崎町校舎3時限目	
		この回の到達目標	授業の内容・目的について理解をする	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	第1部4/6	身体・体力測定	身体能力および技術測定 1	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
3	第1部4/13	身体・体力測定	身体能力および技術測定 2	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
4	第1部4/13	個人基礎技術の習得	パス技術の習得	
		この回の到達目標	狙った場所にパスを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
5	第1部4/20	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
6	第1部4/20	個人基礎技術の習得	アタック・サーブ技術の取得	
		この回の到達目標	アタック・サーブを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 4/27	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習・練習試合	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分
8	第1部 4/27	チーム技術の習得	チーム練習(フォーメーション・ラリー)	
		この回の到達目標	バレーボールのフォーメーションを理解し、フォーメーションに応じた動きができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
9	第1部5/4	チーム技術の習得	チーム練習および練習試合	
		この回の到達目標	練習試合において、ラリーを続けることができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
10	第1部5/4	試合	第1次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	リーグ戦の仕組みを理解する	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
11	第1部 5/11	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
12	第1部 5/11	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 5/18	試合	第1次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
14	第1部 5/18	試合	第2次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
15	第1部 5/25	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
16	第1部 5/25	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
17	第1部6/1	試合	第2次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
18	第1部6/1	応用的な個人技術の習得	チーム変えでのチーム練習	
		この回の到達目標	個人技術の向上。新たなチームメイトと協同してチームビルディングを行う	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第1部6/8	応用的なチーム技術の習得	チーム練習・練習試合	
		この回の到達目標	チームメイトと統一した目標を持って、練習・試合を実施することが出来る	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分
20	第1部6/8	試合	第3次公式戦リーグ 1 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
21	第1部6/15	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
22	第1部6/15	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
23	第1部6/22	試合	第3次公式戦リーグ 3 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
24	第1部6/22	応用的なチーム技術の習得	チーム攻撃&守備のバリエーション練習	
		この回の到達目標	チーム攻撃&守備の技術力を向上させることができる	
		事前学修	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第1部 6/29	応用的なチーム技術の習得	攻撃・守備のフォーメーション練習	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分
26	第1部 6/29	試合	第4次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
27	第1部7/6	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
28	第1部7/6	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
29	第1部 7/13	試合	第4次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備の技術力向上	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
30	第1部 7/13	授業回顧	ルール&バレーボール理論の確認	
		この回の到達目標	授業を振り返り、自身の能力(技術・コミュニケーション能力・協働力)の向上について認識できるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	松田 有司	部別	第一部	期間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
基本的筋力が必要である。バレーボールに興味がありバレーボールを楽しむことができること

【授業方法】		
大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する 男女混合の6人制バレーボールを半年間実施する		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2	
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	2
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2		
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて説明を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
大宮体育館事務室1時より受付

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 9/14	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション授業 三崎町校舎3時限目	
		この回の到達目標	授業の内容・目的について理解をする	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	第1部 9/14	身体・体力測定	身体能力および技術測定 1	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
3	第1部 9/21	身体・体力測定	身体能力および技術測定 2	
		この回の到達目標	自身の体力の現状について理解をする	
		事前学修	バレーボールの技術や動作方法について調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
4	第1部 9/21	個人基礎技術の習得	パス技術の習得	
		この回の到達目標	狙った場所にパスを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
5	第1部 9/28	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	パス技術改善点についてまとめる	30分
6	第1部 9/28	個人基礎技術の習得	アタック・サーブ技術の取得	
		この回の到達目標	アタック・サーブを実施することが出来る	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 10/5	チーム基礎技術の習得	仮チーム編成での練習・練習試合	
		この回の到達目標	バレーボールの練習方法を理解し、チームで練習を実施することが出来るようになる	
		事前学修	バレーボールのルールを調べる	30分
		事後学修	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる	30分
8	第1部 10/5	チーム技術の習得	チーム練習(フォーメーション・ラリー)	
		この回の到達目標	バレーボールのフォーメーションを理解し、フォーメーションに応じた動きができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
9	第1部 10/12	チーム技術の習得	チーム練習および練習試合	
		この回の到達目標	練習試合において、ラリーを続けることができるようになる	
		事前学修	フォーメーションについて調べる	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分
10	第1部 10/12	試合	第1次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	リーグ戦の仕組みを理解する	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
11	第1部 10/19	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
12	第1部 10/19	試合	第1次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 10/26	試合	第1次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームメイトと協同してプレーをすることができるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
14	第1部 10/26	試合	第2次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
15	第1部 11/9	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
16	第1部 11/9	試合	第2次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
17	第1部 11/16	試合	第2次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
18	第1部 11/16	応用的な個人技術の習得	チーム変えでのチーム練習	
		この回の到達目標	個人技術の向上。新たなチームメイトと協同してチームビルディングを行う	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第1部 11/23	応用的なチーム技術の習得	チーム練習・練習試合	
		この回の到達目標	チームメイトと統一した目標を持って、練習・試合を実施することが出来る	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える	30分
20	第1部 11/23	試合	第3次公式戦リーグ 1 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
21	第1部 11/30	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
22	第1部 11/30	試合	第3次公式戦リーグ 2 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
23	第1部 12/7	試合	第3次公式戦リーグ 3 週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
24	第1部 12/7	応用的なチーム技術の習得	チーム攻撃&守備のバリエーション練習	
		この回の到達目標	チーム攻撃&守備の技術力を向上させることができる	
		事前学修	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第1部 12/14	応用的なチーム技術の習得	攻撃・守備のフォーメーション練習	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備ができるようになる	
		事前学修	バレーボールの試合映像を見る	30分
		事後学修	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える	30分
26	第1部 12/14	試合	第4次公式戦リーグ 1週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
27	第1部 12/21	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	自身の技術の課題点について理解し、改善に必要な練習方法をみつける	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(個人技術)についてまとめる	30分
28	第1部 12/21	試合	第4次公式戦リーグ 2週目	
		この回の到達目標	チームの課題点について(フォーメーションやコンビネーション)理解し、改善方法について考える	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
29	第1部 1/18	試合	第4次公式戦リーグ 3週目	
		この回の到達目標	コンビネーション攻撃や守備の技術力向上	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる	30分
30	第1部 1/18	授業回顧	ルール&バレーボール理論の確認	
		この回の到達目標	授業を振り返り、自身の能力(技術・コミュニケーション能力・協働力)の向上について認識できるようになる	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	30分
		事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	体育実技 I C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部 別	第一部	期 間	前期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス 体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2		
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	2	2
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス バスケットボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
		この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認 1	
		事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
		事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	/	バスケットボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
		この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認2	
		事前学修	高校までに習得したバスケットボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
		事後学修	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。（30分）	30分
3	/	バスケットボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認3	
		事前学修	バスケットボールのルールを確認する。（30分）	30分
		事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	/	バスケットボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得1	
		事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	/	バスケットボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得2	
		事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
		事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	/	バスケットボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得3	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
		事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	バスケットボールの応用戦術1	「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）	30分
		事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）	30分
8	/	バスケットボールの応用戦術2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2	
		事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）	30分
		事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
9	/	バスケットボールの個人技1	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認1	
		事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
		事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）	30分
10	/	バスケットボールの個人技2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認2	
		事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）	30分
11	/	バスケットボールの個人技3	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認3	
		事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）	30分
12	/	バスケットボールの個人技4	部分戦術を習得する。特に、2対2のパス&ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認4	
		事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	2対2のパス&ランについて復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	バスケットボールの部分戦術1	部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1	
		事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。(30分)	30分
14	/	バスケットボールの部分戦術2	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2	
		事前学修	ピック&ロールの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。(30分)	30分
15	/	バスケットボールの部分戦術3	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3	
		事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。(30分)	30分
16	/	バスケットボールの部分戦術4	部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4	
		事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。(30分)	30分
17	/	バスケットボールの部分戦術5	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5	
		事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。	30分
18	/	バスケットボールの部分戦術6	バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解	
		事前学修	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
		事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	/	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
		事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	/	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
		事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
		事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	/	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
		事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
		事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	/	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
		事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
		事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	/	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
		事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	バスケットボールのゲームコントロール2	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2	
		事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）	30分
26	/	ゲームの中で復讐1	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1	
		事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
27	/	ゲームの中で復讐2	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
28	/	ゲームの中で復讐3	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
29	/	ゲームの中で復讐4	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
30	/	ゲームの中で復讐5	まとめ・講評	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）	30分

科目名	体育実技 I C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部 別	第一部	期 間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2		
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	2	2
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス バasketボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認 1	
		事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
		事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	/	Basketボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認2	
		事前学修	高校までに習得したBasketボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
		事後学修	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。（30分）	30分
3	/	Basketボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認3	
		事前学修	Basketボールのルールを確認する。（30分）	30分
		事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	/	Basketボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得1	
		事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	/	Basketボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得2	
		事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
		事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	/	Basketボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得3	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
		事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	バスケットボールの応用戦術1	「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1	
		事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）	30分
		事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）	30分
8	/	バスケットボールの応用戦術2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2	
		事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）	30分
		事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
9	/	バスケットボールの個人技1	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認1	
		事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）	30分
		事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）	30分
10	/	バスケットボールの個人技2	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認2	
		事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）	30分
11	/	バスケットボールの個人技3	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認3	
		事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）	30分
12	/	バスケットボールの個人技4	部分戦術を習得する。特に、2対2のパス&ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	個人技の基本を確認4	
		事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	2対2のパス&ランについて復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	バスケットボールの部分戦術1	部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1	
		事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。(30分)	30分
14	/	バスケットボールの部分戦術2	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2	
		事前学修	ピック&ロールの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。(30分)	30分
15	/	バスケットボールの部分戦術3	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3	
		事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。(30分)	30分
16	/	バスケットボールの部分戦術4	部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4	
		事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。(30分)	30分
17	/	バスケットボールの部分戦術5	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
		この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5	
		事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。(30分)	30分
		事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。	30分
18	/	バスケットボールの部分戦術6	バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解	
		事前学修	ハーフコートオフenseにとってのエントリーの確認をする。(30分)	30分
		事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
		事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	/	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
		事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	/	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
		事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
		事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	/	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
		事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
		事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	/	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
		事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
		事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	/	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
		事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
		事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	バスケットボールのゲームコントロール2	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
		この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2	
		事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）	30分
		事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）	30分
26	/	ゲームの中で復讐1	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1	
		事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
27	/	ゲームの中で復讐2	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
28	/	ゲームの中で復讐3	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
29	/	ゲームの中で復讐4	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
30	/	ゲームの中で復讐5	まとめ・講評	
		この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5	
		事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
		事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）	30分

科目名	体育実技 I C(ゴルフ)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
ゴルフ初心者・初級者を対象とする。ゴルフ（運動）に相応しい服装，およびゴルフ手袋と屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分，汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業では、ゴルフボールやバードゴルフを用いた基本的な技術を習得するための反復練習とラウンドが中心である。雨天時も体育館のネットで同様の内容を行う。ゴルフの歴史、クラブ各部分とコース各所の名称、ルールとマナー、スタンス、グリップ、スイングなどに関する基本技術、安全管理などについて解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために授業内で数回の小テスト（筆記試験）を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回以降のゴルフスキル向上のための実技練習に関連して、アドレスやスイングにみられる自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を明確にする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および実技試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（資料集を配布する）				

【オフィスアワー】
水曜日17：00～17：30，授業施設にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	授業ガイダンス及び導入講義	半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	第一部水 4/8	ゴルフの運動特性と危険性	ゴルフの運動特性と期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゴルフを継続的に行うことで得られる恩恵とゴルフによる健康行動の利点について理解する。また、ゴルフ実施に伴う危険性について熟知して障害発生を予防できる。	
		事前学修	ゴルフおよびパードゴルフにおける基本的な技術の名称を確認する。	30分
		事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。	30分
3	第一部水 4/15	ゴルフ授業の要点と授業運営	ゴルフおよびパードゴルフの実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力を理解する。クラブとゴルフボールを使ったゲーム、クラブの種類と名称、グリップとスイングに関する基本的な名称について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゴルフの歴史、ゴルフを行うときの基本的な名称とゴルフ種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。	30分
		事後学修	ゴルフで使うクラブの種類と名称、およびボールの特性について認識する。	30分
4	第一部水 4/15	ショートアイアンの打撃練習(1)	ゴルフクラブの特性、基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、素振りによるハーフスイングについて調整する。軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、アイアンクラブの特性を知り、基本的なスタンスとグリップを調整できる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、ゴルフクラブの特性とスイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	第一部水 4/22	ショートアイアンの打撃練習(2)	基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方に注目して、軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。また、注視点と頭の位置、テイクバック中の両腕の形状とクラブの角度、スイング中の重心移動について調整する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スタンスとグリップの調整を行い、続く注視点や頭の位置、両腕の形状、重心移動などのスイングに関係する主要な調整ポイントを意識できる。	
		事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	第一部水 4/22	ショートアイアンの打撃練習(3)	軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。テイクバックの大きさと飛距離の関係、スイング中の重心移動と上半身の回転運動、クラブスイングの軌道について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、テイクバックの大きさとボール飛距離の関係性を理解するとともに、それに関係する重心移動や回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 4/29	ショートアイアンの打撃練習(4)	バードゴルフボールを使ったハーフスイングとフルスイングによる打撃（体育館で行う）練習を行う。動画によるスイングのワンポイントフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、バードゴルフを利用して、振り幅の大きいフルスイングの動作調整を体験する。その際に、動画によるフィードバック情報が運動学習を促進することを学修する。	
		事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
8	第一部水 4/29	ショートアイアンの打撃練習(5)	バードゴルフボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）を練習する。テイクバックの大きさによる飛距離の調整を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、バードゴルフを利用して、テイクバック（振り幅）の大きさと飛距離の関係を身体知として理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
9	第一部水 5/6	ショートアイアンの打撃練習(6)	バードゴルフボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）を練習する。的入れゲームによるテストを行う。受講者同士のピアサポートによりスタンス、グリップ、スイングのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、バードゴルフを利用したゲームとピアサポートにより、テイクバック（振り幅）の大きさによるボールの飛距離調整を精緻化する。また、動作調整の改善点を自ら説明することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
10	第一部水 5/6	ショートアイアンの打撃練習(7)	バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（体育館で行う）を練習する。スタンス、グリップ、スイングの調整ポイントとクラブの名称に関する小テストを行う。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称と調整ポイントで説明ができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。クラブ各部分の名称と動作調整のポイントについて理解する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。	30分
11	第一部水 5/13	様々なアイアンによる打撃練習(1)	ミドルアイアンを加えて、バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（グラウンドで行う）を練習する。先週の省察に基づいたグループディスカッションを行い、達成すべき個々の目標を明確にする。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、運動学習が進み、固定化してきたショートアイアンのスイングスキルをミドルアイアンを加えることで、スイング調整の幅を広げることができる。すなわち、クラブスイングスキルのスキーマを形成する。スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にする。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。	30分
12	第一部水 5/13	様々なアイアンによる打撃練習(2) ゴルフのルールとマナー	バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（グラウンドで行う）を練習する。ゴルフの基本的なルールとマナーについて学び、ゴルフの発生・成立の経緯との関係について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スイングクロックによる振り幅調整を身につける。また、ゴルフの主要なマナーとルールを理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。配布資料をもとに、ゴルフの歴史、基本的なルールとマナー、安全管理を確認する。	30分
		事後学修	ゴルフの発生・成立の経緯とルールの関係、およびゴルフ競技の普及について調査する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 5/20	様々なアイアンによる打撃練習(3) ゴルフのルールとマナー	ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）を練習する。 ゴルフの歴史，ルールとマナー，安全管理に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、実際のゴルフボールを使って、屋外でのアプローチショットを行い、ボール軌道を上げて距離調整を行うことができる。また、ゴルフの本コースデビューを見据えて、クラブハウスとプレーにおけるルールとマナーを身につける。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	第一部水 5/20	様々なアイアンによる打撃練習(4)	ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）を練習する。動画によるスイングのワンポイントフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、実践的なアプローチショットを身につける。そのために動画によるフィードバックを活用する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
15	第一部水 5/27	バードゴルフラウンド練習(1)	ゴルフラウンドにおける基本的なルール，マナー，スコアを実践する。グラウンドにバードゴルフ4ホールを設定してラウンド練習をする。ゴルフスキルの向上とプレーの楽しさを実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実際のゴルフラウンドをスムーズに安全に行うために協力することができる。そして、スコアを記録しながら、多様な人にとって適正なゴルフプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、コースラウンドの方法と安全管理を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
16	第一部水 5/27	バードゴルフラウンド練習(2)	バードゴルフ4ホールのラウンド練習をする。ホールのまわり方とコース戦略を設定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コースをまわる際の安全管理とルール・マナーを体現する。簡単なコース戦略を考えてみる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。指摘されたマナーを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
17	第一部水 6/3	パッティング バードゴルフラウンド練習(3)	体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習する。さらにバードゴルフ4ホールのラウンド練習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、パッティングのスタンスとスイングの基礎を習得する。3名あるいは4名でラウンドする際の協力と支援の重要性を理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックしたスイング，マナーの修正ポイントを確認する。	30分
18	第一部水 6/3	パッティング バードゴルフラウンド練習(4)	体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習し，パッティングゲーム（3名同時パッティング，5名連続パッティングなど）を試みる。さらにバードゴルフ4ホールのラウンド練習を行い，スコアの記録と確認の方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，パッティングによるボールの軌道と距離調整を精緻化する。また，ラウンドにおけるマナーとスコア記録の方法を身につける。	
		事前学修	ゴルフ競技会の方法と運営について，配布資料をもとに理解する。	30分
		事後学修	スコアから読み取れる技術獲得度と修正ポイントを認識する。 アプローチショットの問題点を把握する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 6/10	スイング動作のチェック 第1回ゴルフトーナメント (前半)	ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでバードゴルフ4ホール+実際のゴルフボールを使用した5ホール（パッティングあり）、合計9ホールのうちの前半4ホールを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。さらにラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
20	第一部水 6/10	第1回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。	30分
21	第一部水 6/17	スイング動作のチェック 第2回ゴルフトーナメント (前半)	ミドルアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。さらにラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
22	第一部水 6/17	第2回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。省察・整理に基づいた達成すべき個々の目標をあげておく。	30分
23	第一部水 6/24	スイング動作のチェック 第3回ゴルフトーナメント (前半)	ドライバースイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。前回の省察に基づいたグループディスカッションを行い、達成すべき個々の目標をピックアップする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。特にスタンスにおけるボールの距離調整、スイングプレーンの角度調整を理解する。さらにラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
24	第一部水 6/24	第3回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。スポーツにおけるハンディキャップの意義を理解する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部水 7/1	スイング動作のチェック 第4回ゴルフトーナメント (前半)	ドライバーのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。なお、前回授業のスコアを参考にハンディキャップを設定して、ハンディキャップ方式による9ホールストロークプレーとなる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長いウッドのスイングをスキルアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
26	第一部水 7/1	第4回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、様々なゴルフゲームを楽しむ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを楽しみ、ゴルフの継続的な実施によって期待される心身への恩恵と健康行動に対する価値を実感する。	
		事前学修	配布資料を確認し、前回の授業でチェックされたポイントについて自分の課題を推測する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
27	第一部水 7/8	パッティング動作のチェック 第5回ゴルフトーナメント (前半)	パッティングのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでの前半4ホールを行う。なお、設定されたハンディキャップにしたがい、団体戦による9ホールマッチプレーを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、パッティングのスイングをスキルアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、自らのゴルフスキルの向上を実感する。	
		事前学修	ゴルフ競技には様々な形態があることを確認する。	30分
		事後学修	アプローチショットのチェックポイントのうち苦手な部分を確認して修正ポイントをイメージする。公式戦を通じて使った戦略的な技術を確認する。	30分
28	第一部水 7/8	第5回ゴルフトーナメント (後半)	グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、様々なゴルフゲームを楽しむ。また、スイング動作に関する自らのチェックポイントを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。	
		事前学修	ゴルフゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
		事後学修	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を再考する。	30分
29	第一部水 7/15	技術面の振り返り	ショートアイアンによるアプローチショットの的入れと高いボール軌道を課題とするパフォーマンス測定、ロングアイアンあるいはドライバーによる真っすぐで低い弾道を課題とするパフォーマンス測定を行う。自らのチェック項目を中心とした改善の達成度と残った改善点を記述する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々なクラブの機能に対応した正確なボール軌道を可能とするスキル向上の達成度を自ら評価できる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。自らの技術的なスキルアップを主観的に評価する。	30分
		事後学修	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を確認する。	30分
30	第一部水 7/15	社会心理的側面の振り返り	授業の第3回～第29回を振り返り、ゴルフのルールとマナーに関する理解度を確認する。さらに継続的にゴルフを行うことによる心身への恩恵、健康行動への影響、社会的スキルへの影響を推測する。またゴルフを行うことによる悪影響を示唆する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、ゴルフ運動の身体面への影響に限らず、ゴルフを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。	
		事前学修	ゴルフの試合におけるルールとマナーについて、配布した資料をもとに確認する。	30分
		事後学修	ゴルフの健康スポーツとしての可能性とスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(テニス初級)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
テニス初心者・初級者を対象とする。テニス（運動）に相応しい服装とテニスシューズで受講する。適宜に補給用の水分、汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業ではテニスの基本的な技術・戦術を習得するための反復練習とゲーム実践・運営が中心である。雨天時も体育館のコートで同様の内容を行う。テニスの歴史、ラケット各部分とコート各所の名称、ルールとマナー、グリップ、構え、ショットなどに関する基本技術、安全管理などについて解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために授業内で数回の小テスト（筆記試験）を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回以降のテニススキル向上のための実技練習に関連して、構えやショットにみられる自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を明確にする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および実技試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（資料集を配布する）				

【オフィスアワー】
水曜日17:00～17:30 授業施設にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	授業ガイダンス及び導入講義	半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認する。大宮校舎までの交通手段と時間、および準備することについて準備する。シラバスの内容を確認する。	30分
		事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	第一部 水9/16	テニスの運動特性と危険性	テニスの運動特性と期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、テニスを継続的に行うことで得られる恩恵とテニスによる健康行動の利点について理解する。また、テニス実施に伴う危険性について熟知して障害発生を予防できる。	
		事前学修	テニスにおける基本的な技術の名称を確認する。	30分
		事後学修	テニスの運動特性と健康スポーツとしてのテニスの位置づけについて理解を深める。	30分
3	第一部 水9/23	テニス授業の要点と授業運営	テニスの歴史および実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力を理解する。ラケット各部分とコート各所の名称を知り、ラケットとボールを使った遊び、キャッチボールなどを通じてグリップとラケット操作に慣れる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テニスの歴史（成立）、テニスラケットとコートにおける主要な各部の名称とテニス種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。	
		事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。	30分
		事後学修	テニスで使うラケットやボールの特性について認識する。	30分
4	第一部 水9/23	フォアハンドストロークの習得(1)	ラケットとボールの特性を理解し、ボールを使った遊びからキャッチボール、ワンバウンドのラリー、およびフォアハンドのグリップによるスイングを練習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ラケットとボールの特性を知り、基本的な構えとグリップをフォアハンドストロークに合わせて調整できる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、フォアハンドのスイングの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	第一部 水9/30	フォアハンドストロークの習得(2)	ワンバウンドのボールのキャッチ。飛来してワンバウンドするボールの見え方とフォアハンドストロークの構えおよび打点の調整について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、構えとグリップの調整を行い、続く注視点や上半身の回転、テイクバックでの腕の位置、重心移動など、フォアハンドストロークに関係する主要な調整ポイントを意識できる。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	第一部 水9/30	フォアハンドストロークの習得(3)	ストロークの準備（ステップ：左右・前後の動き、構え、バウンドとボール軌跡と打点の予測）、基本的なストロークフォームを意識し、ボール軌道の知覚と予測の重要性、および初心者の課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、早いテイクバックとそれに対応したステップ、ボール軌道の予測と前後の移動による打点の調整について試行錯誤し、それに関係する重心移動や回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/7	フォアハンドストロークの習得(4)	サービスコートのストロークラリーを行う。その際に、動画によるストロークのワンポイントフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、狭いサービスコートを利用して、コンパクトなフォアハンドストロークの動作調整を体験する。その際に、動画によるフィードバック情報が運動学習を促進することを理解する。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
8	第一部 水10/7	フォアハンドストロークの習得(5)	サービスコートのストロークによるシングルスゲームを行う。フォアハンドストロークの修正ポイントを自己チェックして、チェックシートに整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、ショートラリーを利用することで、早いテイクバックや予測的な前後移動と正確なストロークの関係性を身体知として認識する。	
		事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
9	第一部 水10/14	フォアハンドストロークの習得(6) ダブルスゲームの実践	サービスコートのストロークラリー20回以上をパフォーマンス目標とする。 ダブルスゲームのルールとゲームの審判法を学び、サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 受講者同士のピアサポートによりフォアハンドストロークのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、ゲームとピアサポートにより、早いテイクバックと上半身の回転を意識するストロークと安定したショットの関係を精緻化する。動作調整の改善点を自ら説明することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 配布資料をもとに、テニスのダブルスゲームのルールを確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
10	第一部 水10/14	バックハンドストロークの習得(1)	バックハンドストロークのダブルハンドグリップ、構え、打点を理解し、基本的なスイングの準備（ステップ：左右の動き、スタンス、構え、打点の予測）を実践する。基本的なスイングフォームについて、フォアハンドとの違いを認識する。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称を用いて調整ポイントを説明ができる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、バックハンドのスイングの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームのマナーと審判法を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。	30分
11	第一部 水10/21	バックハンドストロークの習得(2)	サービスコートのストロークラリーにおいて動画によるストローク動作のワンポイントフィードバックを行う。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 先週の省察に基づいたグループディスカッションを行い、達成すべき個々の目標を明確にする。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、運動学習が進み、固定化してきたフォアハンドにバックハンドを加えることで、ストローク動作の各調整の幅を広げることができる。すなわち、グランドストロークスキルのスキーマを形成する。 ストローク動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にする。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 テニスのダブルスゲームのコートカバーについて確認する。	30分
		事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。	30分
12	第一部 水10/21	バックハンドストロークの習得(3) テニスのルールとマナー	サービスコートのストロークラリーを行いながら、バックハンドストロークの修正ポイントをチェックする。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 資料冊子に基づきテニスの基本的なルールとマナーを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バックハンドストロークのステップ、テイクバック、上半身の回転、打点などの準備動作の調整を身につける。また、テニスの主要なルールとマナーを理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水10/28	バックハンドストロークの習得(4) テニスのルールとマナー	サービスコートのショートラリーから始める。ベースラインからのフォアとバックのストロークラリー10回以上をパフォーマンス目標とする。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。 テニスの歴史、ルールとマナー、安全管理に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ストロークのショートラリーでボール軌道を安定させる調整を行うことができる。また、テニスのゲーム運営を見据えてルールとマナーを身につける。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	第一部 水10/28 ページ	ストロークの習熟度	フォアハンドおよびバックハンドストロークのテニスレイティングテスト（ハンディキャップHCの設定基準となる）を行う。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、フォアハンドとバックハンドのストロークで、ゴールを正確に相手コートの深い位置に打ち返せる。それを可能にした運動学習による調整動作の変容を説明することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認する。	30分
15	第一部 水11/11	サーブの習得(1) ダブルスゲームの運営と実践	オーバーヘッドサーブの準備（グリップの握り方、構え、スイング軌道、打点）を身につける。 ラケットを担いだ小さなスイングによる打点と打球方向のコントロールを理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。そして、ゴルフスキルの向上とプレーの楽しさを実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実際のテニスゲームをスムーズに安全に行うために協力することができる。そして、カウント、ゲーム、セットを指示しながら、ゲームをコントロールすることができ、他者に助言することができる。そして、多様な人にとって適正なテニスプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て、サーブの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームの戦略と意図を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
16	第一部 水11/11	サーブの習得(2)	オーバーヘッドサーブの準備（グリップ、構えとスタンス、スイング軌道）に続く大きなスイングによるフラットなボールコンタクトを実現する。クローズドスキルであるサーブの繰り返し練習による学習効果を理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブの正確性を高めるために求められる基本的な動作調整ポイントを理解する。ゲームを行う際の安全管理とルール・マナーを体現することができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
17	第一部 水11/18	サーブの習得(3)	オーバーヘッドサーブの様々なグリップと球種の違いを知る。サーブの正確性を高めるポイントについて、動画によるワンポイントフィードバックを行う。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、スムーズなサーブ動作を実現して、正確性を高めるための動作調整を自ら行うことができる。ゲームを行う際のペアによる協力と支援の重要性を理解する。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
18	第一部 水11/18	サーブの習熟度	テニスレイティングテストでサーブの正確性を評価する。この評価に基づきハンディキャップ（HP）を決定する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブによるボール軌道の正確性をつくるスキルの精緻化を進める。また、ゲームにおけるマナー、ジャッジ、カウントの指示と助言の方法を身につける。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認する。 審判における基本的なコールを振り返る。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水11/25	ボレーの習得(1)	構えとボールへの反応動作（ステップと上半身の回転），ボレーを打つ位置，フォアボレーのグリップ，打点の高さによるラケットの角度調整を理解し，基本的なグランドストロークとの違いを認識する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，ボレーの基本的な動き方と動作調整のポイントを理解する．さらにゲームを楽しみながら，仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て，ボレーの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームにおけるボレーの意義を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
20	第一部 水11/25	ボレーの習得(2)	バックボレーのグリップ，打点の高さによるラケットの角度調整を身につける．ボレーの基本的なステップとラケット操作を実践する．練習ではボレーで相手コートの深い位置を目標とする。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，相手コートの深い位置にボレーによりボールを打ち返すことができる．そのときに，素早い上半身の回転によるテイクバックと大きなラケットスイングを行わないことを実践できる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
21	第一部 水12/2	ボレーの習得(3)	ボレーはラリー20回以上がパフォーマンス目標となる．動画によるボレー動作のチェックを行う。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，連続してボレーを行うことで動作調整を固定化する．ボレーを行うことで攻撃の幅が広がること，陣形とポジショニングに関してペアとの協力が重要となることを理解する．そのコミュニケーションと協力を楽しむことができる。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認しておくこと。	30分
22	第一部 水12/2	ボレーの習熟度	テニスレイティングテストによりボレーの習熟度を評価する．これをHC決定の基準とする．グランドストロークからボレー，サーブからボレーへとつなぐ。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。 自己と他者の動作の問題点について，時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して，ゲームによりテニスを楽しみ，仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する．動作調整に，時間的，空間的，力の3要素が関係していることを理解し，自らのチェックポイントの修正法を考える。	
		事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
		事後学修	レイティングテストで評価された技術獲得度から，自らの修正ポイントを確認しておくこと。 省察・整理に基づいた達成すべき個々の目標をあげておく。	30分
23	第一部 水12/9	ロブとスマッシュの習得 ダブルスゲームのトーナメント	スマッシュのステップ，構え，さらに打点位置，スイングを調整する．ロブのボール軌道と狙う地点を認識する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。 前回の省察に基づいたグループディスカッションを行い，達成すべき個々の目標をピックアップする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，ロブとスマッシュの戦略的な意味を理解し，時間的・空間的な調整を試みる．特にラケットのスイング開始時点と打点の位置の調整を試みる．ゲームを楽しみながら，仲間との協力とともにスキル向上を促進させる．動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。	
		事前学修	すでに配布されている資料を見て，ロブとスマッシュの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームにおける戦略としてのボレーの意図を確認する。	30分
		事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
24	第一部 水12/9	ドリル練習(1)	左右のグランドストローク，左右のボレーを連続して正確に行う．ダブルスゲームの基本的陣形とポジションとフォーメーションを理解する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して，一つひとつの技術を連続して目標を達成することの楽しさを実感する。	
		事前学修	前回の授業で紹介されたゲームにおける代表的な技術の流れを確認する。	30分
		事後学修	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 水12/16	ドリル練習(2)	左右のグランドストローク、ローボレー、ハイボレー、スマッシュと連続的に行う。ダブルスゲームのポジションと打球に対する動き、コートカバーの意義を理解する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コートカバーの仕方を実践して、テニスの戦略的な側面をスキルアップをする。さらにドリルにより困難性が様々な課題をクリアする。	
		事前学修	前回の授業で紹介されたドリル練習で用いる技術の流れをイメージする。	30分
		事後学修	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
26	第一部 水12/16	ドリル練習(3)	コートカバーを中心とした打球によるポジションの変化に対応する。 ダブルスゲームのトーナメント大会を運営する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、習得した様々な技術を、相手選手や打球の違いに合わせて選択して打ち返し、さらにポジションをペアと協調して変えることができる。自らのスキルアップを実感する。	
		事前学修	前回の授業で紹介されたドリル練習におけるポジションの変化を確認する。	30分
		事後学修	ポジショニングとコートカバーの必要性と方法を確認し、ゲームのどの場面で発揮するか考える。	30分
27	第一部 水12/23	HCによるダブルスゲームリーグ戦	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。様々なテニススキルレベルの人とテニスを楽しむ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツの競い方に活用されるハンディキャップ方式の意義を理解する。これにより適正な競い合いと高い動機づけを実現する。	
		事前学修	テニスゲームで行われる基本的なリーグ戦の方法を確認する。 審判におけるコールの仕方を確認する。	30分
		事後学修	ゲームで使う得意な技術と苦手な技術を確認して、苦手な技術の修正ポイントをイメージする。 ゲームで使った戦略的な技術を確認する。	30分
28	第一部 水12/23	リーグ戦による大会運営	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。様々なテニススキルレベルの人とテニスを楽しむ。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
		事後学修	テニスゲームの様々な楽しみ方を自ら再考する。	30分
29	第一部 水1/13	技術面の振り返り	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。 フォアとバックのグランドストローク、フォアとバックのボレー、サーブを中心の一つひとつの技術の獲得を確認する。そして、自らのチェック項目を中心とした改善の達成度と残った改善点を記述する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々な技術に対応して正確なボールショットを可能とするスキル向上のプロセスと達成度を自ら評価できる。	
		事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
		事後学修	テニスゲームの様々な楽しみ方を確認する。	30分
30	第一部 水1/13	社会心理的側面の振り返り	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。 授業の第3回～第29回を振り返り、テニスのルールとマナーに関する理解度を確認する。さらに継続的にテニスを行うことによる心身への恩恵、健康行動への影響、社会的スキルへの影響を推測する。またテニスを行うことによる悪影響を示唆する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、テニス運動の身体面への影響に限らず、テニスを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。	
		事前学修	テニスの試合におけるルールとマナーについて、配布した資料をもとに確認する。	30分
		事後学修	テニスの健康スポーツとしての可能性とスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。	30分

V ~ VII群

専門科目

専門基幹・専門展開・専門演習関連

V
VII群
専門科目

科目名	アメリカ経済論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でアメリカ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とアメリカに關係する経済的問題及び解決策を提示そして相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、アメリカ経済の歩んできた道に関する考えを経済学及び政治学の考えを理解する。

【履修条件】
特にないが、政治学及び経済学の基礎的知識を有することが望ましい。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	アメリカの経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。					2					
②	アメリカの経済及び政治に関する出来事についての専門用語を理解できる。					2					
③	アメリカの経済及び政治に関連する出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。					2		2			
④	アメリカ経済論に関する他者の評価や意見を尊重することができる。							2		2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	30								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についての能力が身についているかを、グループディスカッション及びグループ発表により評価する。			5	10							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アメリカ経済の歩み』	榊原胖夫・加藤一誠	文真堂	2011		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	アメリカ経済論を学ぶ意味：アメリカ経済論の枠組みと授業概要について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識をを示しながら、アメリカ経済論を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、アメリカ経済論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバス及び教科書の第1章を熟読し、アメリカ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。	90分
		事後学修	講義資料を確認し、アメリカ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにアメリカの特徴もまとめること。	150分
2	4/14	戦後の好況とアメリカの「ルール」：第一次世界大戦後のアメリカにおける好況について	第一次世界大戦の背景とアメリカ経済に与えた影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次世界大戦がどのようにアメリカ経済の好況を促したかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第2章を熟読しておくこと。特に、第一次世界大戦の基本的内容とアメリカ経済に与えた影響について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、第一次世界大戦後のアメリカ経済の好況及び減速の理由をそれぞれまとめること。	120分
3	4/21	大不況とニューディール政策 1：大不況発生とその原因	戦間期における大不況発生とその原因について、株式バームの崩壊を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大恐慌発生の原因と大恐慌がいかに世界的な問題であったかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような経緯で大不況が発生したかについて理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、大不況が発生した原因についてまとめること。また、次回使用するケインズの有効需要の原理についてもまとめておくこと。	120分
4	4/28	大不況とニューディール政策 2：大不況への処方箋とケインズ	ニューディール政策及びケインズの有効需要の原則に関して説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニューディール政策の内容及び効果と有効需要の原則を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、大不況への処方箋として登場したニューディール政策について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、ニューディール政策の内容とその効果についてまとめておくこと。また、ケインズの考え方に関しても再度理解を深めること。	120分
5	5/5	第二次世界大戦とアメリカ経済における「供給」側の変化	第二次世界大戦の背景とアメリカ経済、特に「供給」システムに与えた影響を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第二次世界大戦がアメリカ経済に与えた影響及び持続可能な成長システムについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第4章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、第二次世界大戦が企業及び生産システムに与えた影響について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、第二次世界大戦時の「供給」システムについて理解を深めること。また、このシステムが経済成長とどのように関わっているかもまとめること。	120分
6	5/12	ゆたかな社会の確立へ向けて 1：アイゼンハワー政権が目指した「安定」	アイゼンハワー政権が行った主要な政策と「安定化」について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アイゼンハワー政権が行った政策の内容及びその効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、アイゼンハワー政権時の政策について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、人口増加及び朝鮮戦争が経済成長に与えた影響及びアイゼンハワー政権についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ゆたかな社会の確立へ向けて2：戦後の成長及びその成長がもたらした変化	戦後経済の成長と、その結果としてアメリカ経済に発生した社会的変化について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカ経済の急速な成長と社会的変化について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、戦後の成長がアメリカ経済「全体」に与えた影響について、その意味を理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、戦後経済成長がアメリカに与えた影響及び解決策について、項目ごとにまとめること。	120分
8	5/26	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済1：ケネディとジョンソン	ケネディ政権及びジョンソン政権の政策について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、両政権の政策及びニューフロンティアの概念について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ニューフロンティアの考え方について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、ケネディ及びジョンソン政権におけるそれぞれの政策についてまとめること。	120分
9	6/2	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済2：国際的な相互依存体制の枠組みについて	国際的為替・貿易システム及びアメリカ経済の問題であったスタグフレーションと貿易赤字について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当時のアメリカ経済の問題点及びニクソン政権の政策を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、スタグフレーションと貿易赤字について確認すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、ニクソンショック、スタグフレーション、財政赤字など重要なキーワードについてまとめること。	120分
10	6/9	アメリカ経済と「規制」撤廃1：カーター政権と規制撤廃	アメリカ経済の主要な問題の1つであった規制とカーター政権の政策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、カーター政権の主要な政策における規制撤廃の意味について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、カーター政権が行なった政策について確認すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、規制が撤廃されることによりアメリカ経済がどのような状況になったかについてまとめること。	120分
11	6/16	アメリカ経済と「規制」撤廃2：レーガノミクスからブッシュ政権まで	レーガン大統領及びブッシュ（パパ）政権の主要な政策について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、両大統領の政権時における主要な政策について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、レーガノミクスの内容について確認すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、レーガノミクスが問題視した点とのレーガノミクスの効果についてまとめること。	120分
12	6/23	繁栄が続いた1990年代のアメリカ経済：クリントン政権の活躍	アメリカ経済の救世主と言われたクリントン政権の主要な政策に関して説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クリントン政権がどのようにアメリカ経済を救ったのかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、クリントン政権が行なった政策等の内容について確認すること。	120分
		事後学修	講義資料を確認し、クリントン政権がどのように財政赤字解消等を達成したのかについてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	21世紀のアメリカ経済： ブッシュ政権およびオバマ 政権の政策	ブッシュ政権とオバマ政権時の政策を比較し、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関する グループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、両政権における政策を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグルー プとしての意見を発表できる。	
		事前学修	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ブッシュ政権及びオバマ政権が行なった政策等の内容 について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。	180分
		事後学修	講義資料を確認し、それぞれの政権の政策がどのように連鎖しているかについてまとめること。	60分
14	7/7	現代のアメリカ経済とトラ ンプ大統領：大統領選挙、 中間選挙、そして経済政策	ブッシュ政権とトランプ政権の政策を比較し、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関する グループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、両政権における政策を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグルー プとしての意見を発表できる。	
		事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、直近の大統領選挙及び中間選挙の結果と投票者の特徴について 確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。	180分
		事後学修	講義資料を確認し、トランプ政権がこれまで行なってきた政策について、政策ごとに経済学的な意味をまと めること。	60分
15	7/14	アメリカ経済論のまとめ及 び定期試験の説明	アメリカ経済論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ経済論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、 説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
		事前学修	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素につい て確認すること。	90分
		事後学修	これまでの講義資料を確認し、定期試験の準備を進めること。	150分

科目名	アメリカ政治論	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
アメリカ政治の実像をより深く理解するため、アメリカ政治史の流れをふまえ、大統領制、連邦議会といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ社会の価値観を知るため、文化的背景をほりさげるとともに、歴史的・制度的なアプローチをし、アメリカ政治に関する知識の修得をめざす。くわえて、アメリカ政治の特色をめぐって、ディスカッションをおこなうときに、相手の意見を尊重しつつ、みずからの意見を表明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
授業の形態は、講義形式を基本とするが、折りにふれ、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象がおきたときにはその問題についても議論をするため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、時事的な事象について、ディスカッションの要素をとり入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	建国の理念やアメリカ合衆国憲法の意義を説明することができる。【知識】					2						
②	アメリカ政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】					2						
③	アメリカ政治史上の事象をふまえて、現代アメリカがかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】					2		2				
④	アメリカ政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】							2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に表明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アメリカ政治』〔第3版〕	久保文明・砂田一郎・松岡泰・森脇俊雅	有斐閣	2017	教科書	必携
『アメリカ政治史』	久保文明	有斐閣	2018	参考書	推奨
『現代アメリカ』	渡辺靖編	有斐閣	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	アメリカという国	われわれは、アメリカという国を理解しているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、移民という視点から、アメリカという国の特質を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカという国の実態を把握することができる。	
		事前学修	教科書15頁の下から4行目～19頁を精読し、アメリカを考えるうえで必要な基礎的知識をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
2	第一部火 9/22	アメリカの政治的特質	アメリカの建国と憲法制定にいたる流れを学修する。くわえて、アメリカ合衆国憲法の有する意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の流れをふまえ、アメリカの政治的特質を説明することができる。	
		事前学修	教科書3頁～15頁の下から5行目を精読し、アメリカの政治制度の基本的な特質をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
3	第一部火 9/29	アメリカのもつ4つの顔	政治大国、経済大国、軍事大国、文化大国という4つの側面から、アメリカをとらえる。くわえて、アメリカのヘゲモニー（覇権）の低下が意味するものについても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治大国・経済大国・軍事大国・文化大国という観点からアメリカを説明することができる。	
		事前学修	教科書の第2章を精読し、政治大国・経済大国・軍事大国・文化大国というアメリカのもつ4つの顔をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
4	第一部火 10/6	大統領選挙と中間選挙	今年が大統領選挙の年であることを意識しつつ、アメリカの選挙の特徴を学修する。くわえて、大統領選挙や上下両院の選挙の現状と課題についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、アメリカの大統領選挙と中間選挙の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第3章を精読し、アメリカの大統領選挙と中間選挙のしくみをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
5	第一部火 10/13	政党と利益集団	二大政党制という、アメリカの政党制の特質をみとうえて、共和党、民主党のおのおのが、利益集団とどのような結びつきをもっているのかについて、政治活動委員会（PAC）という視点から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、共和党と民主党の政策のちがいと両党と利益集団とのかかわりを的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第4章を精読し、アメリカの二大政党制と利益集団の特徴をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
6	第一部火 10/20	メディアのはたす役割	アメリカにおいて、メディアのはたす役割はきわめて大きいとされる。ウォーターゲート事件を例にとって、アメリカ政治におけるメディアの位置づけについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、アメリカ政治において、メディアのはたす役割の大きさを的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章を精読し、アメリカ政治において、メディアのはたす役割をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	大統領制	大統領の権限を概観するとともに、リーダーシップという観点から、第二次大戦後の各大統領の政策決定スタイルについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、大統領制の特色を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章を精読し、アメリカの大統領制についての基本的知識をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
8	第一部火 11/10	連邦議会	大統領との緊張関係をみるだけでなく、「シニオリティ・ルール」「フィリバスター」といったアメリカ連邦議会の有する特質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、連邦議会の有する権限とその役割を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第7章を精読し、アメリカの連邦議会の有する特質をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
9	第一部火 11/17	裁判所の政治的役割	日本の政治と異なり、アメリカの政治では、裁判所が積極的な役割をはたしている。そこで、「ロー対ウェード事件判決」などにふれながら、アメリカ政治における連邦最高裁判所の位置づけについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、司法部のはたす役割の大きさを的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第8章を精読し、アメリカ政治において、司法部のはたす役割をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
10	第一部火 11/24	地方自治	中央・地方関係を視野に入れつつ、連邦制をとるアメリカの地方自治のしくみがどのようなものになっているのかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央・地方関係という視点をふまえ、アメリカの地方自治の有する特色を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第9章を精読しアメリカの地方自治の有する特質をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
11	第一部火 12/1	保守vsリベラルという構図	アメリカ政治を観察するうえで必要不可欠とされる、保守vsリベラルという構図に注目しつつ、現在のアメリカにおいて、イデオロギーをめぐる分裂がどこまで深まっているのかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、保守vsリベラルというイデオロギー対立の構図を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章を精読し、アメリカ政治をみるうえで重要な保守vsリベラルという用語の基本的知識をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
12	第一部火 12/8	宗教と政治	アメリカの政治をみていくうえで、宗教右派の存在を無視することはできない。選挙での宗教右派のはたす役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、アメリカ政治における宗教のもつ影響力の大きさを説明することができる。	
		事前学修	教科書の第11章を精読し、アメリカ政治における宗教の意味をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	マイノリティと政治	近年のアメリカの選挙では、マイノリティの票の動向が選挙結果を左右するともいわれる。そこで、アメリカ政治においてマイノリティがはたしている役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、近年、マイノリティの存在がクローズアップされている現状を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第12章を精読し、アメリカ政治におけるマイノリティの位置づけをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
14	第一部火 12/22	アメリカ外交の基調	アメリカ外交の基調とされる孤立主義の系譜をたどる。そして、混迷の度合いをまず、現在のアメリカ外交の特徴についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、アメリカ外交の基調である孤立主義の流れを説明することができる。	
		事前学修	教科書279頁～289頁の上から3行目を精読し、アメリカ外交の基調をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
15	第一部火 1/12	アメリカと日本	第二次大戦後の日米関係の動向について、政治・経済・文化といった側面から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治・経済・文化というアプローチから、第二次大戦後の日米関係の流れを説明することができる。	
		事前学修	教科書289頁の上から4行目～294頁の上から7行目を精読し、第二次大戦後の日米関係の流れをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

科目名	イノベーションと知的財産 I	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決，グローバル化した経済環境における企業競争力向上等経済社会の発展等に重要な役割を果たす。本授業では、イノベーションに関する基本的な概念，イノベーションと知的財産の関わり，企業競争力への影響，イノベーションを促進するための政策等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し，解決策を考える力を養成することを目的とする。より具体的には，イノベーションに関する基本的な知識を習得するとともに，イノベーションと知的財産との関わり，イノベーションと企業の競争力との関わり，イノベーション創出を目指した政策等に関する理解を深めることにより，企業等においてイノベーション創出に向けた活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
創造的な活動に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を行う。また，レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求めるとともに，小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	イノベーションに関する基本的な概念を説明することができる。				3	3						
②	イノベーションの事例について、その成功・失敗要因を指摘することができる。							3	3			
③	イノベーションの事例における知的財産の活用方法を指摘することができる。							3	3			
④	イノベーションにおいて知的財産が多様に活用されていることについて説明することができる。					3						
⑤	イノベーションが企業の競争力に及ぼす影響について説明することができる。					3						
⑥	イノベーション創出を促進するための政策を列挙し、それぞれの意義を説明することができる。					3						
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより，到達目標①④⑤⑥に関する知識と理解が 身についているかを確認する。	10			10	10	10					40
レポート等	2回のレポートにより，到達目標②③に関する調査，分析が できているかを評価する。		20	20								40
討論・発表等	第6回以降，提出されたレポート等に基づきディスカッショ ンを行い，到達目標②③が達成できているかを評価する。 また，授業への積極的な参加，発表の論理性等についても 評価する。		10	10								20
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象とはしない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	10	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び授業内小テストの結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日15：00～16：00，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		産業技術開発，地域経済活性化等イノベーション関連分野の政策立案・推進に 携わった。 イノベーションの場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【イントロダクション，導入講義】	本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について学修する。また，イノベーションの例を通じて，本授業におけるイノベーションについての共通理解を形成する。	
		この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，授業到達目標①のうち，多くのイノベーションに共通する特徴について説明することができるようになる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。	120分
		事後学修	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。多くのイノベーションに共通する特徴について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	4/14	【イノベーションについて 1 イノベーションに関する基本的な概念】	イノベーションの定義，イノベーションの普及，イノベーション・マネジメント等イノベーションに関する基本的な概念について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①のうち，イノベーションの定義，イノベーションの普及，イノベーション・マネジメント等イノベーションに関する基本的な概念について理解を深め，説明することができる。	
		事前学修	イノベーションとは何かについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布したプリントを再読し，イノベーションに関する基本的な概念について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4/21	【イノベーションについて 2 イノベーションの普及】	新しい製品・サービスが社会に受け入れられ，普及していく過程がイノベーション実現のために重要であることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①のうち，イノベーションに普及について理解を深め，説明することができる。	
		事前学修	新しい製品・サービスが社会に提供される場合に起こると想定されることについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，イノベーションの普及について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4/28	【イノベーションについて 3 イノベーション・マネジメント】	イノベーション・マネジメントの重要性，マネジメントの視点等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①のうち，イノベーション・マネジメントについて理解を深め，説明することができる。	
		事前学修	イノベーションを創出するために必要な取組は何かについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，イノベーション・マネジメントについて自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5/5	【イノベーションについて 4 イノベーションの事例研究 1】	イノベーションの事例を取り上げ，イノベーションが実現した経緯，成功の要因等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③について，事例としたイノベーションが実現した経緯，成功の要因，知財活用状況等を指摘することができる。	
		事前学修	自分が関心を持ったイノベーションの例をあげ，どのような点がイノベーティブであるかについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，取り上げた事例が実現した要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	5/12	【イノベーションについて 5 イノベーションの事例研究 2】	別のイノベーションの事例を取り上げ，イノベーションが実現した経緯，成功の要因等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③について，事例としたイノベーションが実現した経緯，成功の要因，知財活用状況等を指摘することができる。	
		事前学修	イノベーションを創出するために必要な要件は何かについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，取り上げた事例が実現した要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	【イノベーションにおける知財の活用 1 知財の重要性】	イノベーションにおいて知財が重要な役割を果たしていることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーションにおいて知的財産が果たしている役割について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	知的財産に関する基本的事項を事前学修する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおいて知的財産が果たしている役割について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5/26	【イノベーションにおける知財の活用 2 様々な知財の活用】	イノベーションの過程において、知的財産が様々な形で活用されていることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、知的財産の様々な活用方法について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	知的財産を知的財産権として確保することとノウハウとして秘匿することとのメリット、デメリットについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、知的財産が多様に活用されていることについて自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6/2	【イノベーションにおける知財の活用 3 知財ミックス】	イノベーションにおいて、特許権、意匠権、商標権等複数の知的財産権が組み合わせられ活用されていることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、知財ミックスについて理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	複数の知的財産権が活用されている事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、複数の知的財産権を活用する意義について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6/9	【イノベーションと企業の競争力 1 企業の競争優位性とイノベーション】	イノベーションが市場における企業の競争優位性に影響を及ぼすことについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤のうち、イノベーションが企業の競争力に影響を及ぼすことについて理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	新しい製品・サービスの出現が企業の競争力に影響を与えた事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションが企業の競争優位性に影響を及ぼすことについて自分なりの説明をまとめる。	120分
11	6/16	【イノベーションと企業の競争力 2 破壊的イノベーション】	企業の競争力に多大な影響を及ぼすタイプのイノベーションの一つである破壊的イノベーションについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤のうち、破壊的イノベーションについて理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	一つのイノベーションをきっかけに企業の競争優位性が大きく変化した例を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、破壊的イノベーションについて自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6/23	【イノベーションと企業の競争力 3 オープン・イノベーション】	競争力のある製品・サービスを短期間に開発・上市する方法として取組が進んでいるオープンイノベーションについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤のうち、オープン・イノベーションについて理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	複数の企業が協働してイノベーションを実現した事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、オープン・イノベーションについて自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【イノベーション政策1 イノベーション政策とは】	イノベーションを促進するための政策（イノベーション政策）がオープン・イノベーションへの対応を軸に推進されていることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥のうち、イノベーション政策とは何か、イノベーション政策の必要性等について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	わが国のイノベーション政策に関する報告書を事前に学修する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーション政策が実施される理由について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7/7	【イノベーション政策2 わが国のイノベーション政策】	科学技術イノベーション政策を中心に、わが国におけるイノベーション政策の現況について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥のうち、わが国におけるイノベーション政策の現況について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	国が異なればそのイノベーション政策も異なることになる理由について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、わが国のイノベーション政策の現況について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	7/14	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りとまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。	
		事前学修	初回からの配布プリントを再読し、イノベーションと知的財産について学修したことを再確認する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	イノベーションと知的財産Ⅱ	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決，グローバル化した経済環境における企業競争力向上等経済社会の発展等に重要な役割を果たす。本授業では、イノベーションに関する基本的な概念，イノベーション創出に向けた知財マネジメントに関する取組，イノベーション・マネジメントに関する取組，イノベーションを担う人材等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し，解決策を考える力を養成することを目的とする。より具体的には，イノベーションに関する基本的な知識を習得するとともに，イノベーションと知的財産との関わり，イノベーションと企業の競争力との関わり，イノベーション創出を目指した政策等に関する理解を深めることにより，企業等においてイノベーション創出に向けた活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
イノベーションと知的財産Ⅰを履修していることが望ましい。創造的な活動に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を行う。また，レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求めるとともに，小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	イノベーションに関する基本的な概念を説明することができる。				3	3						
②	イノベーションにおける知的財産の活用方法について説明することができる。					3						
③	イノベーションの事例について、知的財産の活用方法及びそれが成功に結び付いた要因を指摘することができる。							3	3			
④	イノベーション・マネジメント上の留意すべき点について説明することができる。					3						
⑤	イノベーションの事例について、イノベーション・マネジメント上の工夫を指摘することができる。							3	3			
⑥	イノベーション人材に求められる資質について説明することができる。					3						
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより，到達目標①②④⑥に関する知識と理解が 身についているかを確認する。	10		10		10	10					40
レポート等	2回のレポートにより，到達目標③⑤に関する調査，分析が できているかを評価する。		20		20							40
討論・発表等	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行い， 到達目標③⑤が達成できているかを評価する。また，授業 への積極的な参加，発表の論理性等についても評価する。		10		10							20
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象とはしない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	10	30	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び小テストの結果については，内容をとりまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日15：00～16：00，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		産業技術開発，地域経済活性化等イノベーション関連分野の政策立案・推進に携わった。 イノベーションの場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/15	【イントロダクション，導入講義】	【イントロダクション】 本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について学修する。また，イノベーションに関する基本的な概念を学修する。
		この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，到達目標①のイノベーションに関する基本的な概念を説明できるようになる。
		事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。
		事後学修	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。イノベーションに関する基本的な概念について自分なりの説明をまとめる。
2	9/22	【イノベーションと知財マネジメント1 イノベーションと知的財産】	知財マネジメントがイノベーションに及ぼす影響について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，知財マネジメントの巧拙がイノベーション創出に及ぼす影響について理解を深め，説明することができるようになる。
		事前学修	イノベーションと知的財産の関係について自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，知財マネジメントの巧拙がイノベーション創出に及ぼす影響について自分なりの説明をまとめる。
3	9/29	【イノベーションと知財マネジメント2 知的財産の価値】	。【イノベーションと知財マネジメント2 知的財産権の価値】 知的財産権の価値は，それを実施しようとする企業，市場環境等に依存して定まることについて学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，知的財産の価値が実施する企業や市場環境によって定まることについて理解を深め，説明できるようになる。
		事前学修	知的財産の価値は何により測ればよいのかについて自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，知的財産権の価値が，それが活用される状況に依存して定まることについて自分なりの説明をまとめる。
4	10/6	【イノベーションと知財マネジメント3 知財マネジメントの実際】	【イノベーションと知財マネジメント3 知的財産の活用状況】 企業等におけるイノベーション創出に向けた知的財産の活用状況について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，イノベーション創出の過程で知的財産が多様に活用されている状況について理解を深め，説明できるようになる。
		事前学修	企業等における特許の活用状況を調べる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，知的財産の活用状況について自分なりの説明をまとめる。
5	10/13	【イノベーションと知財マネジメント4 知財部門の新たな役割】	イノベーション創出に向けて，企業の知財マネジメントの主体となる知財部門が果たすべき役割について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，知財マネジメントの実施主体である知財部門が果たすべき役割について理解を深め，説明できるようになる。到達目標③のうち，事例としたイノベーションにおける知財活用の方方法及びそれが成功に結び付いた要因を指摘することができるようになる。
		事前学修	知的財産の多様な活用を行うために必要な条件とは何かについて自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，これからの知財部門の果たすべき役割について自分なりの説明をまとめる。
6	10/20	【イノベーションと知財マネジメント5 イノベーションの収益化】	企業におけるイノベーションの収益化に向けた知的財産に関する取組について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，知財マネジメントを通じてイノベーションの収益化を目指す企業の取組について理解を深め，説明できるようになる。到達目標③のうち，事例としたイノベーションにおける知財活用の方方法及びそれが成功に結び付いた要因を指摘することができるようになる。
		事前学修	企業がイノベーションからの収益を拡大するために，知的財産に関して工夫すべき点について自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，イノベーションの収益化の工夫について自分なりの説明をまとめる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	【イノベーション・マネジメント1 研究・技術開発のマネジメント】	研究・技術開発段階のマネジメントの重要性、マネジメントを的確に行うための方策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、研究・技術開発段階のマネジメントの重要性及びマネジメント上の留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	新しい製品・サービスにつながる技術を開発する際に重要なことについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、研究・技術開発段階のマネジメントの重要性について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/10	【イノベーション・マネジメント2 製品開発のマネジメント】	製品開発段階のマネジメントの重要性、マネジメントを的確に行うための方策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、製品開発段階のマネジメントの重要性及びマネジメント上の留意点について理解を深め、説明できるようになる。到達目標⑤のうち、事例とした製品開発段階のマネジメント上の工夫を指摘することができるようになる。	
		事前学修	製品・サービスが市場で受け入れられるために必要な要件について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、製品開発段階のマネジメントの重要性について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/17	【イノベーション・マネジメント3 事業化段階のマネジメント】	事業化段階において市場の獲得と収益の確保を実現するためのビジネスモデル構築が重要であることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、事業化段階におけるビジネスモデル構築の重要性及びマネジメント上の留意点について理解を深め、説明できるようになる。到達目標⑤のうち、事例とした事業化段階のマネジメント上の工夫を指摘することができるようになる。	
		事前学修	最近ヒットした新しい製品・サービスを見つけ、市場の獲得や収益の確保のための工夫を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、ビジネスモデルについて自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/24	【イノベーション・マネジメント4 ユーザー・イノベーション】	イノベーション・マネジメントにおいてユーザー参加が重要であることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーションにおけるユーザーの役割について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	製品・サービスのユーザーがイノベーションに関与した事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおけるユーザーの役割について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/1	【イノベーション・マネジメント5 リバース・イノベーション】	イノベーション・マネジメントにおいて製品・サービスと市場環境との適合性が重要であることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、市場環境に適合した製品開発の重要性について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	発展途上国で生まれ、先進国でもヒットした製品を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、市場環境に適合した製品開発の重要性について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/8	【イノベーション・マネジメント6 デザインドリブン・イノベーション】	イノベーション・マネジメントにおいてデザイン発想が重要であることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーションにおけるデザインの重要性について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	デザインという言葉の意味を調べる。また、デザインが決め手になって成功した製品・サービスを見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーション・マネジメントにおけるデザインの意義について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	【イノベーション・マネジメント7 経営デザインシート】	イノベーション創出に向けて、企業の経営デザインを推進する政府の取組について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーション創出に向けた経営デザインへの取組の重要性について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	経営デザインに関する政府の報告書を事前に学修する。	120分
		事後学修	経営デザインについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/22	【イノベーションの担い手】	イノベーションの担い手であるアントレプレナー、ベンチャー・ビジネス、ベンチャー・キャピタル等について、イノベーションにおいてそれぞれが果たす役割、現況等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥について、アントレプレナーシップ、ベンチャー・ビジネス、ベンチャー・キャピタルについて理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	アントレプレナーに求められる資質について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおけるベンチャービジネスとベンチャーキャピタルの役割について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/12	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を把握し、さらなる学修への課題を把握する。	
		事前学修	初回から配布されたプリントを再読し、イノベーションと知的財産について学修したことを再確認する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	異文化メディア	担当者	小林 正幸	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人種や民族、国籍などの異なる者同士、あるいは障害者ともに暮らすという状況は、ごく当たり前の日常となっている。だが、そこには少数者が、多数者から、何かが「異なる」という理由でしばしば差別され、時として激しい暴力が行使されるという現実が存在している。なぜ、そうしたことが起きるのか、それらがメディアでどう取り上げられているのかを取り上げる。本授業では、他者という観点から、この問いに向きあい、多様性を認め合う寛容な社会について考えていく。なお、講義資料を毎回提示する予定。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業の目的は、①国家や国民、民族、人種が決して自明のものではなく、社会的に構築されたものであること、②そこに構造化された政治性が差別を生みだし、そのことが、国民国家を成立させる重要な資源になっていたこと、③国民国家が、近代の産物として発明され、<かたち>を帯びていく過程で、メディアが、どのような役割を果たしたのかを理解することにある。本授業の到達目標は、他者理解のために自己を開くことにある。

【履修条件】
メディア、異文化理解は誰にとっても重要なことであるので」誰にでも門戸は開かれている。

【授業方法】
基本的には講義である。時に映像を見たり、資料を見ながら一緒に考えていくことにする。気楽に話し合います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	資料を参照した上での対話	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアが世界をどのように表象しているのか				3	3	3	3				
②	他者に対する理解の場を開く				3	3	3	3				
③	自分のことを理解する				3	3	3	3				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験で成績をつける	80										80
小テスト等	授業内リアクションペーパーは実施し成績の参考にする	10										10
レポート等												
討論・発表等	思ったことを自由に言って欲しい		5	5								10
授業への参画度	もちろん参加度が高いことを期待する											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		90	5	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中に質問をどしどしして欲しい

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
自由

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1回	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション	
		この回の到達目標	授業の目的を知る	
		事前学修	特にないが異文化とメディアに関する文献を自分なりに用意して欲しい	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
2	2回	文化と異文化という概念	文化と異文化という概念に関する社会学的理解を解説する	
		この回の到達目標	文化と異文化という概念を理解する	
		事前学修	あなたが考える文化や異文化がどのようなものか自力で考える	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
3	3回	他者とコミュニケーション	コミュニケーションとは一体なんであるのか学術的な解説をこなう	
		この回の到達目標	他者とコミュニケーションという概念を理解する	
		事前学修	あなたが考えるコミュニケーションがどのようなものか自力で考える	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
4	4回	映画から異文化に接する	障害者の映画「むかしMattoの町があった」を見て考える	
		この回の到達目標	映画の内容を理解し、そこにある他者について考える	
		事前学修	前回授業で渡された資料をよく読み込んでくる	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
5	5回	スポーツメディアに現れる他者性	オリンピック映画のプロパガンダ性とそこに現れる他者性の可能性を考察する	
		この回の到達目標	メディアの特質について理解する	
		事前学修	ベルリンオリンピックについて調べておく	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
6	6回	国家、国民を理解する	メディアが、どのように「国民」を創出していったのかについて、アンダーソン「想像の共同体」の議論の有効性と限界に注意を払いながら考える。	
		この回の到達目標	民族＝国民という図式に注意を払いながら、国民で構成された国家の形成プロセスについて説明する。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7回	異文化を理解するための理論	異文化理解をするための方法論や概念を解説する。	
		この回の到達目標	異文化を理解するためのいくつかの理論を紹介する。その上で多文化共生とはなんであるのかについて考える。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
8	8回	日本人の境界	国家や国民という概念の揺らぎに関して解説する。	
		この回の到達目標	日本人というカテゴリーが、どのように恣意的に形成されていったのかについて、台湾と朝鮮、さらに沖縄とアイヌに焦点をあてて説明する。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
9	9回	エスニック・メディアについて1	民族や人種、あるいは階級といった概念を理解し、それらがメディアによっていかに表象されるのかを考える。	
		この回の到達目標	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
10	10回	エスニック・メディアについて2	民族や人種、あるいは階級といった概念を理解し、それらがメディアによっていかに表象されるのかを考える。	
		この回の到達目標	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
11	11回	東アジアの文化を理解する	自国と隣接する国々の考えを理解する。	
		この回の到達目標	中国や韓国の文化について考察し、自国の文化との違いについて考察する。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
12	12回	スポーツにおける異文化	国際化していると思われるスポーツの中にある自国中心主義を明らかにする。	
		この回の到達目標	日本の相撲を取り上げ、その中にある日本人の異文化に対する理解のありようについて考察する	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13回	自己を相対化し、自己を理解する	自己を理解するためには他者との関係性が重要である。そのための具体的な事例を取り上げる。	
		この回の到達目標	自国の文化に内閉していないのかについて考えてみる	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
14	14回	他者を理解する 1	読書とはなんであるのか他者性との関わりから解説する。	
		この回の到達目標	メディアに表象される他者とはなんであるのかについて考察する。特に読書とはなんであるのかについて扱う。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分
15	15回	他者を理解する 2	メディアが他者性をもたらす可能性に関して考察する。	
		この回の到達目標	メディアに表象される他者とはなんであるのかについて考察する。その受容における振り返りとしての自己理解への開かれを考える。	
		事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
		事後学修	授業内容を振り返る	60分

科目名	インベスター・リレーションズⅠ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
狭い意味でのインベスターリレーションズ（IR）活動とは、企業が投資家に対し、投資の判断に必要な企業情報を提供する活動を指すが、この授業ではIRを広く捉えて、コーポレートファイナンスを扱う。コーポレートファイナンスとは、投資家（資本市場）との関わりの中で、企業の投資政策、財務政策、ペイアウト政策という3つの意思決定を、経済学的な視点から解明する学問である。この授業では、これらの意思決定のうち、企業価値を最大化するための投資政策、および財務政策の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバルな視点をもったビジネスパーソンとして活躍するためには、コーポレートファイナンスの知識を理解することが必須となりつつある。この授業では、企業の投資政策、及び財務政策の基礎を理解する。

【履修条件】
ファイナンス論を履修することが望ましい。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	投資家（資本市場）とコーポレートファイナンスの意思決定との関わりを理解し、説明することができる。		3	3	3	3			
②	企業価値を最大化するために、企業はどのような投資政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。		3	3	3	3			
③	資本構成（負債と株主資本の内訳）と企業価値の関係を理解し、説明することができる。		3	3	3	3			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験によって、達成目標①②③に関する内容を理解しているかを確認する。	27	27	26								80
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③に関する疑問点と内容の理解を確認する。	7	7	6								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	34	32								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『コーポレートファイナンス 入門編 第2版』	ジョナサン・バーク/ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『コーポレートファイナンス 応用編 第2版』	ジョナサン・バーク/ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『企業金融の経済理論 改訂版』	辻幸民	創成社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	イントロダクション及び導入講義	コーポレートファイナンスの学問上の位置づけやその対象について学修する。また、授業計画や評価方法を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：コーポレートファイナンスと資産価格理論（インベストメント）や証券投資論（アセットプライシング）との関連を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスの学問上の位置づけとその対象について整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートファイナンスの学問上の位置づけとその対象について復習し、説明できるようにする。コーポレートファイナンスを学修することで自分にとってどのようなメリットがあるかを考える。	120分
2	第一部 火4/14	企業活動の基本と企業の目標	企業活動の基本を押さえた上で、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：企業活動の基本を押さえた上で、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化であることを理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスが対象とする企業活動は何か、また、その活動をするときの企業の目標は何かを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化である理由を復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 火4/21	キャッシュフローの現在価値	将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を復習し、自分で計算できるようにする。	120分
4	第一部 火4/28	評価の基本原則：期待収益率と要求収益率	期待収益率と要求収益率の概念を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：期待収益率と要求収益率の概念を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、期待収益率と要求収益率の概念を確認し、両者が異なるものであることを認識する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、期待収益率と要求収益率の概念を復習し、説明できるようにする。	120分
5	第一部 火5/5	評価の基本原則：資本市場の均衡	資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムについて復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 火5/12	システムティックリスクと固有リスク	分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システムティックリスク）があることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：分散投資のリスク低減効果を押さえた上で、分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システムティックリスク）があることを理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、分散投資のリスク低減効果が生じる理由を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システムティックリスク）がある理由について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	資本資産評価モデル (CAPM)	投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連：投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、システマティックリスクの指標がベータで測れる理由を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルを復習し、説明できるようにする。	120分
8	第一部 火5/26	投資政策：NPV法	NPVの計算方法を押さえた上で、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：NPVの計算方法を押さえた上で、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法であることを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、NPVの計算方法を確認する。また、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法である理由について検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、NPVの計算方法を復習し、自分で計算できるようにする。また、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法である理由について復習し、説明できるようにする。	120分
9	第一部 火6/2	投資政策：IRR法	IRRの計算方法を押さえた上で、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）があることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：IRRの計算方法を押さえた上で、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）があることを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、IRRの計算方法を確認する。また、IRR法による意思決定が機能しないとき（NPV法と一致しないとき）はどのようなときかを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、IRRの計算方法を復習し、自分で表計算ソフト等を使って計算できるようにする。また、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）がある理由について復習し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 火6/9	投資政策：その他の投資意思決定手法	回収期間の計算方法を押さえた上で、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：回収期間の計算方法を押さえた上で、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しないことを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、回収期間の計算方法を確認する。また、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しない理由を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、回収期間の計算方法を復習する。また、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しない理由について復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 火6/16	投資政策：キャッシュフローの推定	キャッシュの流出を伴わない費用があることを押さえた上で、利益からキャッシュフローを推定する方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：キャッシュの流出を伴わない費用があることを押さえた上で、利益からキャッシュフローを推定する方法を理解し、自分で計算できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、キャッシュの流出を伴わない費用があるにはどのようなものがあるのかを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、利益からキャッシュフローを推定する方法を復習し、自分で計算できるようにする。	120分
12	第一部 火6/23	財務政策：MMの第1命題	完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、資本構成は企業価値に影響を与えないこと（MMの第1命題）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、資本構成は企業価値に影響を与えないこと（MMの第1命題）を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、完全資本市場の仮定とは何かを確認する。また、MMの第1命題とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、MMの第1命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	財務政策：MMの第2命題	MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇すること（MMの第2命題）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇すること（MMの第2命題）を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇する理由を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、MMの第2命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 火7/7	財務政策：法人税の導入	完全資本市場の仮定を緩めて、法人税を導入した世界を考えると、負債を利用すればするほど企業価値が上昇すること（修正MM命題）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、法人税を導入した世界を考えると、負債を利用すればするほど企業価値が上昇すること（修正MM命題）を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、負債利用には節税効果があることを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、負債利用の節税効果を押さえた上で、修正MM命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。	120分
15	第一部 火7/14	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
		事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	インベスター・リレーションズⅡ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
狭い意味でのインベスターリレーションズ（IR）活動とは、企業が投資家に対し、投資の判断に必要な企業情報を提供する活動を指すが、この授業ではIRを広く捉えて、コーポレートファイナンスを扱う。コーポレートファイナンスとは、投資家（資本市場）との関わりの中で、企業の投資政策、財務政策、ペイアウト政策という3つの意思決定を、経済学的な視点から解明する学問である。この授業では、企業価値を最大化するための財務政策とペイアウト政策について学修する。それに加え、コーポレートファイナンスの応用分野として、コーポレートガバナンスについても学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバルな視点をもったビジネスパーソンとして活躍するためには、コーポレートファイナンスの知識を理解することが必須となりつつある。この授業では、企業の財務政策とペイアウト政策を理解する。また、企業の経営者が私利私欲に走ることを抑え、企業価値を最大にするように行動させる仕組み（コーポレートガバナンス）について理解する。

【履修条件】
インベスター・リレーションズⅠの履修を前提とする。ファイナンス論を履修することが望ましい。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	投資家（資本市場）とコーポレートファイナンスの意思決定との関わりを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
②	企業価値を最大化するために、企業はどのような財務政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
③	企業価値を評価する方法を理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
④	企業価値を最大化するために、企業はどのようなペイアウト政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
⑤	エージェンシー問題とそれを軽減する仕組みであるコーポレートガバナンスについて理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験によって、達成目標①②③④⑤に関する内容を理解しているかを確認する。	16	16	16	16	16						80
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③④⑤に関する疑問点と内容の理解を確認する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『コーポレートファイナンス 入門編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『コーポレートファイナンス 応用編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『企業金融の経済理論 改訂版』	辻幸民	創成社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
		事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。	120分
2	第一部 火9/22	財務政策：財務的困難のコストの導入	完全資本市場の仮定を緩めて、法人税と財務的困難のコストを導入した世界を考えると、企業価値を最大にするような資本構成が存在することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、法人税と財務的困難のコストを導入した世界を考えると、企業価値を最大にするような資本構成が存在することを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、財務的困難のコストとは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法人税と財務的困難のコストを導入した世界では、企業価値を最大にするような資本構成が存在する理由について復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 火9/29	財務政策：負債のエージェンシーコスト	完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生することを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生することを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、事後情報の非対称性とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。	120分
4	第一部 火10/6	財務政策：ベッキング・オーダー理論	完全資本市場の仮定を緩めて、事前情報の非対称性を導入した世界を考えると、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測されること（ベッキング・オーダー理論）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事前情報の非対称性を導入した世界を考えると、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測される理由を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、事前情報の非対称性とは何かを確認する。また、ベッキング・オーダー理論の予測とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、事前情報の非対称性を導入した世界では、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測される理由について復習し、説明できるようにする。	120分
5	第一部 火10/13	企業価値評価：加重平均資本コストの推定	企業価値を評価するために、加重平均資本コストの推定方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：加重平均資本コストの推定方法を理解し、自分で実際に推定できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、加重平均資本コストとは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、加重平均資本コストの推定方法を復習し、自分で実際に推定できるようにする。	120分
6	第一部 火10/20	企業価値評価：DCF法	DCF法を用いて企業価値を評価する方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：DCF法を用いて企業価値を評価する方法を理解し、自分で実際に評価できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、DCF法を用いて企業価値を評価する方法を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、DCF法を用いて企業価値を評価する方法を復習し、自分で実際に評価できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	企業価値評価：株価倍率法	株価倍率法を用いて企業価値を評価する方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：株価倍率法を用いて企業価値を評価する方法を理解し、自分で実際に評価できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、株価倍率法を用いて企業価値を評価する方法を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、株価倍率法を用いて企業価値を評価する方法を復習し、自分で実際に評価できるようにする。	120分
8	第一部 火11/10	企業価値評価：M&Aへの応用	M&A（企業の合併・買収）において企業価値評価がどのように応用されるのかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連：M&A（企業の合併・買収）において企業価値評価がどのように応用されるのかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、M&A（企業の合併・買収）とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、M&A（企業の合併・買収）において企業価値評価がどのように応用されるのかを復習し、説明できるようにする。また、最近のM&Aの事例とこの回で学んだことを関連付けられるようにする。	120分
9	第一部 火11/17	ペイアウト政策：ペイアウト政策に関するMM命題	完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連：完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えないことを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、ペイアウト政策とは何かを確認する。また、ペイアウト政策が企業価値に及ぼす影響について検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、完全資本市場では、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えない理由について復習し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 火11/24	ペイアウト政策：シグナリング仮説とエージェンシー問題	完全資本市場の仮定を緩めて、税金や情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、税金や情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、完全資本市場の仮定とペイアウト政策の関係について検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、税金や情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与える理由について復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 火12/1	コーポレートガバナンス：所有と経営の分離とエージェンシー問題	エージェンシー問題とその理論的な背景を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連：エージェンシー問題とは何か、また、エージェンシー問題が生じる理由を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、エージェンシー問題とは何かを確認し、エージェンシー問題が生じる理由を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、エージェンシー問題とは何か、また、エージェンシー問題が生じる理由を復習し、説明できるようにする。	120分
12	第一部 火12/8	コーポレートガバナンス：様々なエージェンシー問題	利害対立の主体によって様々なエージェンシー問題が発生しうることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連：利害対立の主体によって様々なエージェンシー問題が発生しうることを理解し、それらを説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、どのような主体間で利害対立が発生しうるのかを検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、様々なエージェンシー問題について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	コーポレートガバナンス： ガバナンスメカニズム	エージェンシー問題を緩和するための仕組みとしてのコーポレートガバナンスを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①⑤に関連：コーポレートガバナンスは基本的に「規律付けの仕組み」と「利害一致の仕組み」から成ることを押さえた上で、これらによってどのようにエージェンシー問題が緩和されるのかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コーポレートガバナンスとは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、エージェンシー問題を緩和する仕組みについて復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 火12/22	コーポレートガバナンス： コーポレートガバナンスの 新しい展開	近年のコーポレートガバナンスにおける新しい展開について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①⑤に関連：近年のコーポレートガバナンスにおける新しい展開について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書と参考書を読むことに加えて、最近の新聞記事を読んで、近年のコーポレートガバナンスにおける新しい展開について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、最近の新聞記事を読んで、近年のコーポレートガバナンスにおける新しい展開について復習し、説明できるようにする。	120分
15	第一部 火1/12	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
		事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	運輸政策	担当者	小野 芳計	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
運輸政策について、まず概論、基礎を学修し、その後各運輸分野についてその現状、課題及び政策効果などについて学修する。運輸政策についての理解を深めるとともに、他の政策分野への展開が図れるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活に関連する運輸政策について、各運輸分野の現状、課題及び政策効果などを学修し、運輸政策についての理解を深めることを目的とする。外国の運輸政策についても触れる。運輸政策の概念、基本的構造等を習得して、その基礎にある理論を履修するとともに、他の政策分野への展開が図れるよう学修する。

【履修条件】
2年次以降生を対象とする。

【授業方法】
講義形式、スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	効率的な運輸・交通体系を形成するために運輸政策が必要とされていることを理解し、説明することができる。[知識]				4		4	4	4			
②	他分野の政策とは異なる運輸政策の基本的構造と政策の内容を理解し、説明することができる。[知識]				4		4	4	4			
③	運輸政策のそれぞれの施策がどのように機能し、課題や問題点を解決するのに適用されるかを調べることができる。[技能]				4		4	4	4			
④	運輸政策のそれぞれの施策の実際上の運用を理解し、与えられた課題に対して適切に適用することができる。[技能]				4		4	4	4			
⑤	運輸政策のそれぞれの施策の解釈・運用に関する議論に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。[態度・習慣]				4		4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、文字数、書式等の要件を満たし、課題に適切に応える内容になっているかを基準に、到達目標①②に関する基礎知識が身についているか、到達目標③④に関わる調査・説明ができるようになっているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標⑤に関わる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	スライドを使用するので教科書は使用しない。参考書は講義中に適宜紹介				

【オフィスアワー】
金曜日17:50～18:00 授業講堂にて メールアドレス：ono@jterc.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	約30年間 運輸省、国土交通省勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		運輸政策の立案・執行に携わっており、実務経験に基づき、運輸各分野の現状、課題及び政策効果などを講義することが可能である。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	運輸概論Ⅰー目的・概要	運輸政策の目的・概要について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運輸政策がどのような政策か、またどのような目的で実施されているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、各回ごとに事前に示す講義資料（運輸概論Ⅰ）を読み、講義の全体を概観する。	120分
		事後学修	講義終了後、運輸概論Ⅰについてノートを整理・復習して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部 金9/25	運輸概論Ⅱー意義・沿革・機構	運輸政策の意義・沿革、運輸政策を実施している機構の変遷などについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運輸政策はどのような意義があるのか、またその沿革、実施している機構の変遷などについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（運輸概論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、運輸概論Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
3	第一部 金10/2	運輸政策の基礎	全般的な運輸政策の課題と展望、政策の判断基準などについて運輸政策の基礎として学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全般的な運輸政策の課題は何なのか、またその展望はどうなっているのか、政策の判断基準は何かなどについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（運輸政策の基礎）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、運輸政策の基礎についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
4	第一部 金10/9	鉄道政策Ⅰー概論	鉄道の整備、整備に対する助成、サービスの充実、安全確保と技術開発などの鉄道政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、鉄道の整備、整備に対する助成、サービスの充実、安全確保と技術開発などの鉄道政策はどのようになっているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（鉄道政策Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、鉄道政策Ⅰについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
5	第一部 金10/16	鉄道政策Ⅱー国鉄改革	我が国鉄道政策史、鉄道法制史の概観、国鉄改革法等について学修し、国鉄改革の実態を明らかにする。この際、一般的な法令の制定手続きについても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、国鉄改革がどのようにして行われ、その成果がどうなっているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（鉄道政策Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、鉄道政策Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
6	第一部 金10/23	自動車交通政策	旅客輸送の活性化、貨物輸送の効率化、安全対策・環境対策などの自動車交通政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、旅客輸送の活性化、貨物輸送の効率化、安全対策・環境対策などの自動車交通政策がどのように行われているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（自動車交通政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、自動車交通政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	海運政策	外航海運、国内旅客船、内航海運、港湾運送の現状と課題を学修し、それらに対する海運政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、外航海運、国内旅客船、内航海運、港湾運送の現状と課題に対する海運政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（海運政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、海運政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
8	第一部 金11/6	船舶関係政策	船舶の登録、造船業及び舶用工業の現状と課題、船舶の技術開発等について学修し、それらに対する船舶関係政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、船舶の登録、造船業及び舶用工業の現状と課題、船舶の技術開発等に対する船舶関係政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（船舶関係政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、船舶関係政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
9	第一部 金11/13	船員政策	船員の労使関係と雇用の安定、船員の労働基準、船員の教育、船員の資格制度等について学修し、それらに対する船員政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、船員の労使関係と雇用の安定、船員の労働基準、船員の教育、船員の資格制度等に対する船員政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（船員政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、船員政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
10	第一部 金11/20	港湾政策	港湾の管理、港湾の整備、国土保全と災害対策などの港湾政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、港湾の管理、港湾の整備、国土保全と災害対策などの港湾政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（港湾政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、港湾政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
11	第一部 金11/27	航空政策	航空行政、航空事業行政、国際航空、空港整備、空港周辺環境対策、航空機安全対策などの航空政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、航空行政、航空事業行政、国際航空、空港整備、空港周辺環境対策、航空機安全対策などの航空政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（航空政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、航空政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
12	第一部 金12/4	海上保安政策	海上保安行政、海上警備・海難救助、海上交通の安全確保、海洋科学、国際活動に関する業務などの海上保安政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、海上保安行政、海上警備・海難救助、海上交通の安全確保、海洋科学、国際活動に関する業務などの海上保安政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（海上保安政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、海上保安政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	気象行政	気象業務、気象、地震・津波・火山、気候及び海洋の観測・監視・予測などに関する気象行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、気象業務、気象、地震・津波・火山、気候及び海洋の観測・監視・予測などに関する気象行政がどのように行われているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（気象行政）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、気象行政についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
14	第一部 金12/18	貨物流通政策・国際運輸政策	貨物流通行政、貨物流通施設行政、複合貨物流通行政などの貨物流通政策について学修する。また、国際運輸の現状と課題、国際的課題に対応した運輸行政の展開、国際協力の推進などに関する国際運輸政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、貨物流通行政、貨物流通施設行政、複合貨物流通行政などの貨物流通政策が、また、国際運輸の現状と課題、国際的課題に対応した運輸行政の展開、国際協力の推進などに関する国際運輸政策がどのように行われているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（貨物流通政策・国際運輸政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
		事後学修	講義終了後、貨物流通政策・国際運輸政策についてノートを整理し復習をしておくこと	120分
15	第一部 金12/25	地球環境問題	地球温暖化の現状と将来予測、取組の必要性、地球温暖化の緩和に向けた課題、国土交通行政の方向などの地球環境問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地球温暖化の現状と将来予測、取組の必要性、地球温暖化の緩和に向けた課題、国土交通行政の方向などの地球環境問題がどのようになっているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に講義の資料（地球環境問題）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと また、初回からの講義資料とノートを見直し、運輸政策全体を考察する。	120分
		事後学修	講義終了後、地球環境問題についてノートを整理し復習をしておくこと また、初回からの講義資料とノートを見直し、レポート作成に向けて準備する。	120分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
映像、音声を組み合わせてメッセージが伝達される放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間においても大きな位置を占めてきた。他方、近年のインターネットやデジタル機器の普及は、従来型の放送ジャーナリズムのあり方に大きな変更を迫っている。放送局での報道番組のディレクターとしての経験を活かしつつ、変容期の放送ジャーナリズムについて多角的に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディアやジャーナリズムの現代社会における必要性や価値を認識するために、放送ジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、それを踏まえて現状における問題点や今後に向けた課題等を認識する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。 授業内レポートは、講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）をクラスで視聴し、その内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴を説明することができる						3						
②	映像ジャーナリズムのメディア特性や影響力の特徴について述べる事ができる					3							
③	NHK、民放それぞれの放送事業の特徴や問題について理解し、説明することができる						3						
④	映像コンテンツの制作過程について理解し、その内容について批判的に解釈できる							3					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④についての各能力が身についているかを、 授業内試験により評価する。		20	25	25							70
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に 答える内容になっているかを基準に、到達目標①③にかかわる論 点を説明できるようになっているかどうかを評価する。	10		10								20
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについ て、到達目標①②に関わる事例についての説明能力が身についてい るかを評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新 放送論	島崎哲彦・米倉律編著	学文社	2018	教科書	推奨
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁・竹下俊郎	NHK出版	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719）できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。メールアドレスは、 yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題・などについて実践的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	イントロダクション、及び導入講義	放送メディアを取り巻く現況と課題	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像ジャーナリズムを取り巻く現状や課題の概況について述べることができる	
		事前学修	シラバスに目を通し、入手した教科書にも目を通しておく	90分
		事後学修	イントロダクションの内容について、実際のテレビ番組を視聴するなどして確認すること	90分
2	4月15日	映像メディアの特性	放送メディアのメディア特性。時間メディアとしての放送、情報伝達の総合性	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像メディアのメディア特性について、その特徴や問題点などを説明することができる。	
		事前学修	メディア論の基本的な考え方、知識について教科書（第Ⅰ章）、参考書などで予習する。	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料などを読み直し、知識を定着させる。	90分
3	4月22日	テレビニュース番組の構造とメディア特性	テレビニュースの編集・構成上の特徴を「マルチモダリティ」をキーワードにしながら概説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、テレビニュース番組がどのように構成されているのか、その特徴や傾向などについて述べることができる。	
		事前学修	テレビのニュース番組を事前に視聴し特徴を把握しておく。	90分
		事後学修	授業内容を踏まえテレビのニュース番組を分析的に視聴する	90分
4	4月29日	放送の公共性とは何か	放送の公共性はどのような論理構造になっているのか、公共性ゆえの法的規制とはどのようなものか	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、放送がなぜ公共性を持っているのか、その背景や法理などについて説明することができる。	
		事前学修	放送法や放送の公共性について教科書（第三章、第四章）、参考書等で予習する	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料を使って復習する。	90分
5	5月6日	放送体制①	公共放送の組織構造、財源	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送の基本的特徴、日本の公共放送NHKの組織や財源の仕組みなどについて述べることができる。	
		事前学修	公共放送について、教科書（第八章）、参考書、資料などで予習する。	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	90分
6	5月13日	放送体制②	公共放送によるジャーナリズムの特徴と課題	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送NHKの放送事業の特徴、ジャーナリズム上の課題などについて説明することができる。	
		事前学修	公共放送について教科書（第八章）、参考書、資料などで予習する。	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	放送体制③	民放のネットワークとビジネスモデル	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放のネットワークや組織、収益構造の特徴や問題点などについて述べることができる。	
		事前学修	民放の特徴、問題について、教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	90分
8	5月27日	放送体制④	民放によるジャーナリズムの特徴と課題	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放が展開するジャーナリズム活動の特徴や問題点について説明することができる。	
		事前学修	民放の特徴、問題点について、教科書（第Ⅲ章）、参考書などで調べておく	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する	90分
9	6月3日	放送体制⑤	テレビジャーナリズムの変容（小括と小レポートの実施）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、メディア環境の変容に伴って放送ジャーナリズムの変容の諸相を述べることができる。	
		事前学修	第4回～8回までの授業内容を教科書、ノート、資料などを用いて復習しておく	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	90分
10	6月10日	番組制作の現場①	放送局の主な職種と番組の企画・制作	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の制作過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	90分
11	6月17日	番組制作の現場②	取材力、構成力とは何か	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の取材や構成の特徴や現場での実相、問題点などについて述べることができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。	90分
12	6月24日	放送番組の社会的影響	メディア効果論の概要とアジェンダ・セッティング機能	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、メディア効果論の概要と放送のアジェンダ・セッティング機能の特徴について説明することができる。	
		事前学修	メディアの影響について教科書（第Ⅰ章）、関連資料などに目を通しておく。	90分
		事後学修	授業ノートと教科書による振り返り	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	放送とジェンダー①	番組の中のジェンダー	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の出演者に関するジェンダー論的特徴について説明することができる。	
		事前学修	ジェンダーとは何か、日本社会のジェンダー論的特徴などについて関連資料を読んでおく	90分
		事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	90分
14	7月8日	放送とジェンダー②	放送業界におけるジェンダー	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送業界の現状とそのジェンダー論的背景や問題点について述べることができる。	
		事前学修	日本のメディア産業におけるジェンダー論的な問題点について関連資料などを読んでおく	90分
		事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	90分
15	7月15日	授業総括とまとめ	授業全体の総括と授業内試験（レポート）の実施	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、映像ジャーナリズムをめぐる主要な論点や問題点などについて説明することができる。	
		事前学修	授業総括したうえで、授業内容を復習しておく。	90分
		事後学修	授業ノート、教科書による振り返り	90分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
映像、音声を組み合わせてメッセージが伝達される放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間においても大きな位置を占めてきた。他方、近年のインターネットやデジタル機器の普及は、従来型の放送ジャーナリズムのあり方に大きな変更を迫っている。放送局での報道番組のディレクターとしての経験を活かしつつ、変容期の放送ジャーナリズムについて多角的に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディアやジャーナリズムの現代社会における必要性や価値を認識するために、放送ジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、それを踏まえて現状における問題点や今後に向けた課題等を認識する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。 授業内レポートは、講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）をクラスで視聴し、その内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴を説明することができる						3						
②	映像ジャーナリズムのメディア特性や影響力の特徴について述べる事ができる					3							
③	NHK、民放それぞれの放送事業の特徴や問題について理解し、説明することができる						3						
④	映像コンテンツの制作過程について理解し、その内容について批判的に解釈できる							3					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④についての各能力が身についているかを、 授業内試験により評価する。		20	25	25							70
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①③にかかわる論点を説明できるようになっているかどうかを評価する。	10		10								20
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについて、到達目標①②に関わる事例についての説明能力が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新 放送論	島崎哲彦・米倉律編著	学文社	2018	教科書	推奨
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁・竹下俊郎	NHK出版	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719）できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題・などについて実践的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	イントロダクション、及び導入講義	放送メディアを取り巻く現況と課題	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像ジャーナリズムを取り巻く現状や課題の概況について述べることができる	
		事前学修	シラバスに目を通し、入手した教科書にも目を通しておく	90分
		事後学修	イントロダクションの内容について、実際のテレビ番組を視聴するなどして確認すること	90分
2	4月15日	映像メディアの特性	放送メディアのメディア特性。時間メディアとしての放送、情報伝達の総合性	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像メディアのメディア特性について、その特徴や問題点などを説明することができる。	
		事前学修	メディア論の基本的な考え方、知識について教科書（第Ⅰ章）、参考書などで予習する。	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料などを読み直し、知識を定着させる。	90分
3	4月22日	テレビニュース番組の構造とメディア特性	テレビニュースの編集・構成上の特徴を「マルチモダリティ」をキーワードにしながら概説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、テレビニュース番組がどのように構成されているのか、その特徴や傾向などについて述べることができる。	
		事前学修	テレビのニュース番組を事前に視聴し特徴を把握しておく。	90分
		事後学修	授業内容を踏まえテレビのニュース番組を分析的に視聴する	90分
4	4月29日	放送の公共性とは何か	放送の公共性はどのような論理構造になっているのか、公共性ゆえの法的規制とはどのようなものか	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、放送がなぜ公共性を持っているのか、その背景や法理などについて説明することができる。	
		事前学修	放送法や放送の公共性について教科書（第三章、第四章）、参考書等で予習する	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料を使って復習する。	90分
5	5月6日	放送体制①	公共放送の組織構造、財源	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送の基本的特徴、日本の公共放送NHKの組織や財源の仕組みなどについて述べることができる。	
		事前学修	公共放送について、教科書（第八章）、参考書、資料などで予習する。	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	90分
6	5月13日	放送体制②	公共放送によるジャーナリズムの特徴と課題	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送NHKの放送事業の特徴、ジャーナリズム上の課題などについて説明することができる。	
		事前学修	公共放送について教科書（第八章）、参考書、資料などで予習する。	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	放送体制③	民放のネットワークとビジネスモデル	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放のネットワークや組織、収益構造の特徴や問題点などについて述べることができる。	
		事前学修	民放の特徴、問題について、教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	90分
8	5月27日	放送体制④	民放によるジャーナリズムの特徴と課題	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放が展開するジャーナリズム活動の特徴や問題点について説明することができる。	
		事前学修	民放の特徴、問題点について、教科書（第Ⅲ章）、参考書などで調べておく	90分
		事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する	90分
9	6月3日	放送体制⑤	テレビジャーナリズムの変容（小括と小レポートの実施）	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、メディア環境の変容に伴って放送ジャーナリズムの変容の諸相を述べることができる。	
		事前学修	第4回～8回までの授業内容を教科書、ノート、資料などを用いて復習しておく	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	90分
10	6月10日	番組制作の現場①	放送局の主な職種と番組の企画・制作	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の制作過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	90分
11	6月17日	番組制作の現場②	取材力、構成力とは何か	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の取材や構成の特徴や現場での実相、問題点などについて述べることができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。	90分
		事後学修	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。	90分
12	6月24日	放送番組の社会的影響	メディア効果論の概要とアジェンダ・セッティング機能	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、メディア効果論の概要と放送のアジェンダ・セッティング機能の特徴について説明することができる。	
		事前学修	メディアの影響について教科書（第Ⅰ章）、関連資料などに目を通しておく。	90分
		事後学修	授業ノートと教科書による振り返り	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	放送とジェンダー①	番組の中のジェンダー	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の出演者に関するジェンダー論的特徴について説明することができる。	
		事前学修	ジェンダーとは何か、日本社会のジェンダー論的特徴などについて関連資料を読んでおく	90分
		事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	90分
14	7月8日	放送とジェンダー②	放送業界におけるジェンダー	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送業界の現状とそのジェンダー論的背景や問題点について述べることができる。	
		事前学修	日本のメディア産業におけるジェンダー論的な問題点について関連資料などを読んでおく	90分
		事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	90分
15	7月15日	授業総括とまとめ	授業全体の総括と授業内試験（レポート）の実施	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、映像ジャーナリズムをめぐる主要な論点や問題点などについて説明することができる。	
		事前学修	授業総括したうえで、授業内容を復習しておく。	90分
		事後学修	授業ノート、教科書による振り返り	90分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間において大きな位置を占めているが、近年の「放送と通信の融合」の進展は、これまでの映像ジャーナリズム、テレビジャーナリズムのあり方に大きな変化を迫っている。そうした変化の諸相について、災害報道、海外の動向、放送と市民の関係性、アーカイブなどを中心に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
過渡期・変容期にある放送についての基本的知識を発展させるために、放送をめぐるいくつかの主要な論点・テーマについて分析し、問題点を論じたり、考えたりする能力を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。授業内レポートは講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）を全員で視聴したあと、内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴や問題点などについて述べるができる。					3						
②	放送業界の歴史的発展過程や主要番組ジャンルの形成過程について説明することができる。				3							
③	戦争記憶・歴史認識と放送の関係に関する問題点について批判的に説明することができる。						3					
④	放送と市民の関係性をめぐる現状と課題について述べることができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達①②③④についての各能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20	15							75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式などの要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②④に関わる論点を説明できるようになっているかを評価する。		5		5							10
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについて、到達目標②③④に関わる事例についての説明能力が身についているかを評価する。		5	5	5							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新 放送論	島崎哲彦・米倉律編著	学文社	2018		
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719）できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題・などについて実践的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	イントロダクション、及び導入講義	変容期の放送業界をめぐる概況	
		この回の到達目標	変容期の放送業界をめぐる概況と主要な論点を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書、参考書の内容について目を通しておく	90分
		事後学修	資料、ノートを用いて振り返り	90分
2	4月15日	災害報道①	マス・メディアによる緊急報道の限界	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、マス・メディア、特にテレビによる緊急報道の現状や問題点などについて述べることができる	
		事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	90分
		事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	90分
3	4月22日	災害報道②	メディア間連携の可能性と課題、復興報道をめぐる諸課題	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、メディア間連携の可能性と課題、復興報道の方向性や課題について説明することができる	
		事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	90分
		事後学修	講義内容を整理してまとめておく	90分
4	4月29日	放送の歴史的展開①	戦前・戦前のラジオ放送から草創期のテレビ放送へ	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、戦前からのラジオの発展過程、戦後における草創期のテレビ放送の状況について述べることができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅱ章）を読んでおく	90分
		事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	90分
5	5月6日	放送の歴史的展開②	テレビドキュメンタリーの成立と発展	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テレビドキュメンタリーの成立過程と発展の諸相について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅱ章、Ⅴ章）を読んでおく	90分
		事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	90分
6	5月13日	放送の歴史的展開③	テレビドラマの誕生とその社会的機能	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テレビドラマの成立過程と発展過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。	90分
		事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	放送の歴史的展開④	ホームドラマにおける家族の表象	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ホームドラマにおける家族の表象と日本社会における家族史との関係を述べることができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。	90分
		事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	90分
8	5月27日	海外の放送①	アメリカにおける放送ジャーナリズムの歴史的展開	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカの放送業界の形成と歴史的展開について述べることができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅶ章）を読んでおく	90分
		事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	90分
9	6月3日	海外の放送②	メディアの多チャンネル化、デジタル化	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカにおける多チャンネル化、デジタル化の進展とその影響について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅶ章）を読んでおく	90分
		事後学修	講義内容を整理してまとめておく	90分
10	6月10日	海外の放送③	「放送と通信の融合」 t 寡占化の進行（小レポート実施）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカを中心とした海外の放送事情と課題について説明することができる。	
		事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	90分
		事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	90分
11	6月17日	放送と市民①	パブリック・アクセス～韓国の事例～	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、韓国におけるパブリック・アクセスの展開について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。	90分
		事後学修	講義内容をノート・配布資料を用いて復習する。	90分
12	6月24日	放送と市民②	パブリック・アクセス～日本の事例～	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、日本におけるパブリック・アクセスの現状と課題について述べることができる。	
		事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。	90分
		事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	放送と集合的記憶①	テレビにおける戦争の表象	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
		事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	90分
		事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する	90分
14	7月8日	放送と集合的記憶②	アーカイブ時代における放送	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、アーカイブ時代における放送の可能性と課題について述べることができる。	
		事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	90分
		事後学修	授業内容について、ノート、配布資料を用いて復習する	90分
15	7月15日	総括	講義全体の総括と授業内試験（レポート）の実施	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義全体の概要を踏まえて主要な論点について説明することができる。	
		事前学修	講義ノートを復習して内容をまとめておく	90分
		事後学修	講義内容を整理して総括する	90分

科目名	会計学Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察する力を身につける。

【履修条件】
会計学Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、簿記論Ⅰ・Ⅱ／簿記原理Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も行うので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組度合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、授業内試験の場合は試験終了後に、定期試験の場合はポータルシステムにて行う。授業内課題については、適宜授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財務会計入門	田中建二	中央経済社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館8階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/6	複式簿記の仕組み、会計とは何か	複式簿記の仕組みを把握し、会計とは何かを学ぶ	
		この回の到達目標	簿記の仕組みを理解し、会計の役割を学ぶ	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、簿記一巡の手続きを確認しておく。	120分
		事後学修	会計の目的について理解し、複式簿記の仕組みを理解する。	120分
2	第一部 4/13	会計制度と会計基準	わが国における会計制度の展開と、会計基準の成り立ちを学ぶ	
		この回の到達目標	わが国における会計制度がどのように展開し、今日の会計基準がいかにして成り立ったかを理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	会計基準の必要性を理解し、わが国における会計制度の展開を説明できるようにする。	120分
3	第一部 4/20	財務諸表の種類、貸借対照表	財務諸表の構成と貸借対照表の機能を学ぶ	
		この回の到達目標	わが国における財務諸表としてどのような書類が存在するかを把握し、貸借対照表の構成と機能を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	貸借対照表の基本的構造を理解し、その様式と役割を把握する。	120分
4	第一部 4/27	損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の構成とそれぞれの機能を学ぶ	
		この回の到達目標	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の各書類がどのような情報を提供するかを理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の基本的構造を理解し、それらの様式と役割を把握する。	120分
5	第一部 5/4	棚卸資産の意義と範囲、取得原価、売上原価の計算	棚卸資産の意義と具体的範囲、会計上の論点を学ぶ	
		この回の到達目標	棚卸資産の会計上の取扱いを理解し、売上原価の計算に関する会計基準の規定や考え方を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	棚卸資産の意義や範囲を把握し、その会計処理上のポイントを理解する。また、売上原価の計算に関する各種論点を理解する。	120分
6	第一部 5/11	棚卸資産の期末評価	棚卸資産の期末評価の方法と基本的考え方を学ぶ	
		この回の到達目標	棚卸資産の期末評価に関する会計基準の考え方を理解し、期末評価方法を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	正味売却価額を用いた期末評価を行う根拠を理解し、実際の期末評価ができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/18	有形固定資産の種類と取得原価の計算、減価償却	有形固定資産の種類や取得原価、減価償却費の計算方法を学ぶ	
		この回の到達目標	設備投資の基本的考え方を理解し、各種有形固定資産の取得原価や減価償却費の計算方法を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	設備投資による有形固定資産の取得をはじめ、有形固定資産会計にまつわる諸論点を理解するとともに、取得原価や減価償却費の計算方法を把握する。	120分
8	第一部 5/25	有形固定資産の減価償却、改良費と修繕費	減価償却の基本的考え方や実施する目的、効果を学び有形固定資産取得後の支出の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	減価償却の理論的根拠とその目的を理解し、有形固定資産取得後の支出の会計処理を把握する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	減価償却に関する理論上の論点を理解し、取得後に生じた改良費や修繕費の会計処理方法を身につける。	120分
9	第一部 6/1	リース取引	リース取引の基本的考え方と借手の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	リース取引の全体像を把握し、会計基準におけるリース取引の借手の会計処理規定を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	リース取引の態様や割引計算の基本的考え方を理解し、現在価値の計算方法を身につける。	120分
10	第一部 6/8	減損会計	固定資産の減損処理の必要性和減損会計の手続き一巡を学ぶ	
		この回の到達目標	減損会計の基本的考え方を理解し、回収可能価額を用いた減損処理の方法を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	減損会計一巡の手続き（特に回収可能価額の算定における使用価値計算方法）を理解する。	120分
11	第一部 6/15	無形固定資産と繰延資産	無形固定資産および繰延資産の会計処理の基本的考え方を学ぶ	
		この回の到達目標	無形固定資産の種類およびそれらの会計処理を把握するとともに、繰延資産の会計処理における考え方を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	無形固定資産の会計処理方法を身につけ、繰延資産会計における理論的根拠を理解する。	120分
12	第一部 6/22	ソフトウェアと研究開発費	ソフトウェアの会計処理方法と研究開発費の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	ソフトウェアの制作目的別の会計処理を把握し、研究開発費の会計処理の理論的根拠を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	市場販売目的のソフトウェアの償却方法を身につけ、研究開発費の発生時費用処理の根拠を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/29	金融資産と当座資産	金融資産の全体像とともに当座資産の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	金融資産と事業用資産の違いを把握し、当座資産の期末評価方法を身につける。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	金融資産の定義を理解し、貸倒見積高の算定方法を身につける。	120分
14	第一部 7/6	有価証券	有価証券の保有目的別の処理とその理論的根拠を学ぶ	
		この回の到達目標	有価証券の各種保有目的における処理を把握し、時価評価差額の取扱いに関する基本的考え方を理解する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	有価証券の保有目的別処理を把握し、売買目的有価証券とその他の有価証券の時価評価差額の取扱いの違いについての理論的根拠を理解する。	120分
15	第一部 7/13	前期総括	会計制度の基本的論点と資産会計における学修内容を総括する	
		この回の到達目標	財務会計の基本的論点から、資産会計における各種論点の内容までを理解する。	
		事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	会計学Ⅰ	担当者	松田 真由美	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察する力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組度合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については解説・講評を後う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクト財務会計	小栗崇資	中央経済社	2016	参考書	推奨
ケースでまなぶ財務会計	永野則雄	白桃書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間（講義室または講師室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部水 4/8	ガイダンス：会計学とは	会計学について、授業の内容・スケジュール・成績評価・参考文献について紹介を行う。	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、会計学とはどのようなものであるのか、また授業の進め方などが理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の業績などの新聞記事などに目を通し、企業がどのような活動をしているのか関心を持ちながら準備する。	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、会計学および授業について検討する。	60分
2	第一部 第二部水 4/15	企業会計とは	企業会計とは 財務会計と管理会計の役割	
		この回の到達目標	①、②に関連して、財務会計がどのような役割を果たしているのか、管理会計の違いとは何かについて、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて財務会計とは何かを検討する。	60分
3	第一部 第二部水 4/22	会計を取り巻く法制度	財務会計とそれを取り巻く法律（会社法・金融商品取引法） その情報開示	
		この回の到達目標	①、②、④に関連して、財務会計と法律（会社法と金融商品取引法）の関係や情報開示について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて法律と情報開示について検討する。	60分
4	第一部 第二部水 4/29	国際会計基準	国際会計基準・国際財務報告基準の成り立ちと役割 その影響 日本の基準との関係性	
		この回の到達目標	①、②、④に関連して、国際会計基準・国際財務報告基準の成り立ちと役割やその影響について、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて国際会計基準と日本の会計基準との関係について検討する。	60分
5	第一部 第二部水 5/6	企業の開示情報	企業の財務情報とは 貸借対照表と損益計算書とは その役割と構成	
		この回の到達目標	①、⑤に関連して、企業が開示する情報の中心となる、貸借対照表と損益計算書の構成およびその役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて企業の貸借対照表、損益計算書の役割について検討する。	60分
6	第一部 第二部水 5/13	貸借対照表	財産法と損益法とは 貸借対照表の表記方法	
		この回の到達目標	②、③、④に関連して、利益の計算とはどのように行われているのか、貸借対照表はどのように表記されているのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じてどのように利益が計算されるのか検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部水 5/20	資産負債の区分と評価法	資産・負債の表記の区分（流動・固定） 評価法について	
		この回の到達目標	①、②、③に関連し、貸借対照表の数字は過去・現在・未来の評価を基準に構成され、また資産・負債はどのように区分されているのか、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて評価方法が財務情報へ影響を与えることを検討する。	60分
8	第一部 第二部水 5/27	流動資産	流動資産の区分 当座資産 現金・掛取引・手形取引	
		この回の到達目標	①、②に関連して、流動資産の区分や現金、売掛金、受取手形がどのようなものかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、取引や目的によって貸借対照表における表示が異なることを検討する。	60分
9	第一部 第二部水 6/3	棚卸資産	棚卸資産とは何か 棚卸資産と売上原価、そして利益との関係	
		この回の到達目標	①、③に関連して、棚卸資産とは何か、それが貸借対照表や損益計算書へどのような影響を与えるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて棚卸資産と売上原価の関係について検討する。	60分
10	第一部 第二部水 6/10	棚卸資産	棚卸資産の評価方法 在庫管理とは	
		この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、棚卸資産はどのように評価されるのか、その評価の差異による影響、在庫管理の分析について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて棚卸資産の意味や棚卸資産が企業へ与える影響について検討する。	60分
11	第一部 第二部水 6/17	有形固定資産	有形固定資産と何か 償却資産と非償却資産 建物はなぜ一括で費用にならないのか 減価償却とは	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、有形固定資産とは何か、そしてその評価方法や減価償却が何かを理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、有形固定資産と減価償却について検討する。	60分
12	第一部 第二部水 6/24	無形固定資産	無形固定資産とは何か 償却方法	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、無形固定資産とは何か、その償却方法、有形固定資産との違いについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて無形固定資産と有形固定資産の違いについて検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 第二部水 7/1	負債		負債とは何か 法的債務ではない負債とは 借入金や社債 社債の消却
		この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、企業の負債とは何か、また社債を発行する意味やその償還・消却について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて負債とは何か、そして社債の意味について検討する。	60分
14	第一部 第二部水 7/8	引当金		引当金とは何か その設定方法 任意の引当金
		この回の到達目標	③、④、⑤に関連して、引当金とは何か、また引当金を設定することが与える影響について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて活動が引当金へ与える影響とともに、引当金自体が企業へ与える影響について検討する。	60分
15	第一部 第二部水 7/15	総括		会計基準や資産・負債について 試験 解説
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、前期の内容の理解度を確認する。	
		事前学修	配布資料やノートに目を通し、会計基準や貸借対照表の資産・負債について復習する。	60分
		事後学修	前期の内容を復習し、総括する。	60分

科目名	会計学Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。また、実際の企業の財務諸表を用いた企業の経営分析も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察し、評価する力を身につける。

【履修条件】
会計学Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、簿記論Ⅰ・Ⅱ／簿記原理Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておく と、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も行うので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察・評価することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組度合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、授業内試験の場合は試験終了後に、定期試験の場合はポータルシステムにて行う。授業内課題については、適宜授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財務会計入門	田中建二	中央経済社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/14	会計学Ⅰの学修内容の確認 および会計学Ⅱの全体像の 確認	会計学Ⅰで学修した会計の基本と資産会計の論点を復習しつつ、会計学Ⅱで扱う論点の全体像を 概観する	
		この回の 到達目標	会計学Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
		事後学修	会計の目的や資産会計における各論の内容を理解する。	120分
2	第一部 9/21	負債概念、流動負債	負債の概念を理解し、流動負債の会計処理を学ぶ	
		この回の 到達目標	財務会計の基礎概念としての資産および負債の定義を理解し、流動負債の会計処理を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	負債の概念を理解し、純資産との違いを理解する。流動資産の会計処理を身につける。	120分
3	第一部 9/28	固定負債、引当金	固定負債の会計処理および引当金の論点を学ぶ	
		この回の 到達目標	社債の会計処理を身につけ、引当金会計における基本的考え方を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	社債の期末評価の方法を身につけるとともに、引当金計上の要件を把握する。	120分
4	第一部 10/5	退職給付	退職給付の基本的考え方と退職給付引当金の会計処理を学ぶ	
		この回の 到達目標	退職給付の支給方式の違いを把握し、退職給付引当金の会計処理方法を把握する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	退職給付会計における基本的論点を理解し、退職給付引当金に関する一連の会計処理を身につける。	120分
5	第一部 10/12	純資産の部、資本と利益の 区分	純資産の部の構成と資本と利益の区分に関する会計理論上の考え方を学ぶ	
		この回の 到達目標	純資産の部の基本的構成を把握し、資本と利益の区分を要する理論的根拠を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	純資産の部における株主資本とそれ以外の構成内容を把握し、資本と利益の区分に関する2つの考え方を理 解する。	120分
6	第一部 10/19	払込資本と留保利益の会計	払込資本および留保利益に関する会計処理を学ぶ	
		この回の 到達目標	払込資本に関する一連の会計処理を理解し、剰余金の配当の会計処理を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	払込資本の会計処理を理解し、剰余金分配時の分配可能額の算定方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/26	収益の認識基準（現金主義、発生主義、実現主義）	収益認識に関する各種基準を学ぶ	
		この回の到達目標	現金主義、発生主義、実現主義の各基準の考え方を理解し、それぞれの基準による認識時点の違いを把握する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	収益認識に関する伝統的な議論の展開を理解し、現金主義、発生主義、実現主義による収益認識の方法を身につける。	120分
8	第一部 11/9	工事契約、新たな収益認識、費用収益対応の原則	工事契約における収益認識基準と、新たな会計基準による収益認識、費用収益対応の原則を学ぶ	
		この回の到達目標	工事契約における収益認識基準と新たな会計基準における収益認識の方法を把握し、費用収益対応の原則を理解する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	工事完成基準と工事進行基準による収益認識、新基準に基づく5ステップを通じた収益認識の方法を身につける。	120分
9	第一部 11/16	連結財務諸表の意義と連結財務諸表の構成	連結財務諸表の意義、連結の範囲、連結貸借対照表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	連結財務諸表の意義と構成を理解し、連結貸借対照表の作成方法を身につける。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	連結財務諸表の意義・構成を把握し、連結貸借対照表作成のための資本連結手続きを身につける。	120分
10	第一部 11/23	連結損益計算書の作成	連結損益計算書の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	連結損益計算書の作成方法と、連結会社間取引より生じた未実現利益の消去方法を身につける。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	連結損益計算書の作成方法を把握し、内部取引・未実現利益の消去方法を把握する。	120分
11	第一部 11/30	財務諸表分析の基礎、流動性の分析	財務諸表情報を用いた企業経営の分析の仕方と、流動性分析の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	財務諸表分析の意義を理解し、流動性分析のための指標の計算方法を把握する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、流動性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
12	第一部 12/7	安全性分析	安全性分析の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	安全性分析のための指標の計算方法を把握する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、安全性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/14	効率性分析	効率性分析の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	効率性分析のための指標の計算方法を把握する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、効率性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
14	第一部 12/21	収益性分析	収益性分析の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	収益性分析のための指標の計算方法を把握する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、収益性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
15	第一部 1/18	後期総括	負債会計から財務諸表分析までの学修内容を総括する	
		この回の到達目標	負債会計、純資産会計および損益会計の各種論点と、財務諸表分析の各方法を理解する。	
		事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	会計学Ⅱ	担当者	松田 真由美	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかんして作成されるかを学ぶ。また、実際の企業の財務諸表を用いた企業の経営分析も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察し、評価する力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察・評価することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組度合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、解説・講評を後う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクト財務会計	小栗崇資	中央経済社	2016	参考書	推奨
ケースでまなぶ財務会計	永野則雄	白桃書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間（講義室または講師室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 水9/16	ガイダンス：会計学とは	会計学について、授業の内容・スケジュール・成績評価・参考文献について紹介を行う。	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、資産、負債とは何か、そしてさまざまな会計のルールが存在することや授業の進め方が理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の業績などの新聞記事などに目を通し、企業がどのような活動をしているのか関心を持ちながら準備する。	30分
		事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、会計学および授業について検討する。	30分
2	第一部 第二部 水9/23	純資産	純資産とは何か その構成 内部留保とは 自己株式とは	
		この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連し、純資産はどのようなものによって構成されているのか、また蓄積とされる内部留保は何をさすのか、そして自己株式を保有することがどのような効果をもたらすのか、について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、純資産の内容やそれに影響を与える自己株式などについて検討する。	60分
3	第一部 第二部 水9/30	収益と費用	収益と費用の認識方法 特殊な取引 当期純利益と包括利益	
		この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、収益と費用の認識基準、特殊な取引への対応や国際財務報告基準の包括利益とはいかなるものであるのか、について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、収益と費用の認識や、包括利益の意味について検討する。	60分
4	第一部 第二部 水10/7	金融商品	株式 債券 オプション	
		この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、株式の保有目的によって異なる評価、債券の評価およびオプションなど金融派生商品について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、株式の評価の違いなどについて検討する。	60分
5	第一部 第二部 水10/14	連結会計	日本における連結会計の変遷 連結範囲 ルノー・日産・三菱自動車の関係	
		この回の到達目標	①、②、③、④に関連して、国際会計基準と連結会計が企業にもたらした影響、連結はどこまで対象となっているのか、子会社と関連会社の違いなどについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、連結範囲や連結はずしなどを検討する。	60分
6	第一部 第二部 水10/21	連結会計	連結貸借対照表・損益計算書について その作成手続きと考え方	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、連結は貸借対照表と損益計算書にはどのような反映されるのか、子会社と関連会社では計算上どのような違いが生まれてくるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習について、連結の手続きについて検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 水10/28	リース会計	リースとは リースの種類 借りた資産でも所有資産扱い リースの会計処理	
		この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、リースとは何か、その会計処理がもたらす影響について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、借りて使うのか、購入して使うのか、リース会計の意味について検討を行う。	60分
8	第一部 第二部 水11/11	減損会計	土地再評価法とは 減損会計とは その会計処理方法	
		この回の到達目標	①、③、④に関連して、減損会計とは何か、そしてその影響とはいかなるものであるのか、について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、減損会計の導入がもたらして影響を検討する。	60分
9	第一部 第二部 水11/18	退職給付会計	企業年金とは 退職給付会計とは それがもたらす企業や従業員への影響	
		この回の到達目標	②、③、⑤に関連して、企業年金の変遷や、退職給付と退職給与の違い、退職給付会計がもたらした影響について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業年金が置かれている状況やその会計について検討する。	60分
10	第一部 第二部 水11/25	企業結合会計	企業結合会計とは 対等合併と買収とは その会計的考え	
		この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、企業結合とは何か、買収と対等合併の違い、それに基づく会計基準について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業を買収することとはどういうことなのか、またその会計的な考えについて検討する。	60分
11	第一部 第二部 水12/2	企業結合会計	企業買収とのれん のれんの会計処理	
		この回の到達目標	②、③、④に関連して、のれんはどのように生まれるのか、そしてのれんの評価がもたらす影響、東芝とのれん問題について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業買収とのれんについて検討する。	60分
12	第一部 第二部 水12/9	資産除去債務	資産除去債務とは 原発と資産除去債務 資産除去債務の会計処理方法	
		この回の到達目標	①、③に関連して、資産除去債務とは、引当金から資産除去債務へ、原発へ資産除去債務を適用することについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、資産除去債務の意味を検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 水12/16	税効果会計	税効果会計とは 企業に課せられる税金 損失と繰延税金資産	
		この回の到達目標	①、③に関連して、税効果会計とは何なのか、企業の業績予測、そして損失がもたらす影響などを理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業の税金について検討する。	60分
14	第一部 第二部 水12/23	キャッシュフロー計算書	キャッシュフロー計算書とは その見方	
		この回の到達目標	①、②、⑤に関連して、なぜキャッシュフロー計算書が必要なのか、キャッシュフロー計算書の構成について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	30分
		事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、キャッシュフロー計算書について、どのような構成になっているのかなど検討する。	60分
15	第一部 第二部 水1/13	総括	純資産・さまざまな会計ルールについて 試験 解説	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、後期の内容全体の理解度を確認する。	
		事前学修	配布資料やノートに目を通し、純資産やさまざまな会計のルールについての復習を行う。	60分
		事後学修	後期の内容を復習する。	60分

科目名	外国ジャーナリズム史A	担当者	張 新慧	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、中国のマス・メディアの構造に大きく影響を与えるマルクス、レーニン等のジャーナリズム観に触れ、中華人民共和国建国以来の最高政治指導者が持つジャーナリズム・メディア認識や政策を振り返ることを通じ、中国のジャーナリズム発展史を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時系列的に中国のジャーナリズム史を概観しながら、グローバル社会の中で中国ジャーナリズムの普遍性と独自性について理解することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回ではPPTを使い、配布資料を参考しつつ講義を進める。これと同時に授業内容と関連する学者の研究成果、映像や新聞記事を活用する。授業内発表やレポートに対する講評と解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回講義の最後にリアクションペーパーを提出し、次回の講義内で解説と応答を行う。また、期末に履修生全員で話し合い（プレゼンテーション）、お互いに感想や知見を共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国のジャーナリズムの特質を把握し、中国のマス・メディアの発展史について説明できる。				3							
②	中国社会においてジャーナリズムの位置づけはどのように変わってきたかを説明することができる。					3						
③	ジャーナリズム・メディアの中国モデルについて論理的に説明することができる。						3					
④	中国社会の歴史的変遷を踏まえ、ジャーナリズム・メディアの中国モデルについて議論することができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関わる知識が身につく、独創的な思考を展開できているかを評価する。	12	12	12	12							48
討論・発表等	プレゼンテーションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③に関わる能力が身についているかを評価する。			20								20
授業への参画度	授業内のリアクションペーパーの内容によって、到達目標①②③④に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	3	3	3	3							12
その他(感想文)	授業内で視聴する2回のビデオに対する感想文を提出し、感想文の内容によって、到達目標①②③④に関する知識が、身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	40	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内及びポータルシステムを使用する。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)		山本 賢二	学生教員共有フォルダに掲載	2019	その他	必携
『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』〔第2版〕		大井 眞二、田村紀雄、鈴木 雄雅	世界思想社	2018	参考書	必携
『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』		大井 眞二	学文社	2019	参考書	推奨
備考	使用しない。					

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）研究室とメールアドレスは追ってお知らせする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 1 水9/16	オリエンテーション及び導入講義	本講義についての説明、ジャーナリズム研究概説、中国研究概説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業の内容や進め方を理解し、中国について学ぶことの意味を把握し、今後、能動的な学修を進めていく方法を身につけることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考文献に目を通し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、他の履修科目との関係を考える上で、自分の学習計画を作成する。	120分
2	第一部 1 水9/23	中国のマス・メディア構造	中国のマス・メディア、ジャーナリズムについての基本的構造についての知識を得る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、今の中国のマス・メディア、ジャーナリズムについての基本的構造について述べるができる。	
		事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	第一部 1 水9/30	現代中国ジャーナリズムの原点を探る I	マルクス、エンゲルスのジャーナリズム観を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、マルクス、エンゲルスはメディア（新聞）、ジャーナリズムについてどのように考え、何を主張したかについて説明し、彼らの主張が中国のジャーナリズムの発展とどのような繋がりがあるかについて述べるができる。	
		事前学修	石川康宏、内田 樹（著）『若者よ、マルクスを読もう 20歳代の模索と情熱』（2013年、角川ソフィア文庫）に目を通す。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	第一部 1 水10/7	現代中国ジャーナリズムの原点を探る II	レーニンのプレス思想を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、レーニンはプレスや党の機関紙について、どのように考えていたか、このような考え方は変化があったかについて説明し、レーニンの主張が中国のジャーナリズムの発展とどのような繋がりがあるかについて述べるができる。	
		事前学修	時代背景を理解するために、ロシア革命に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	第一部 1 水10/14	ビデオ視聴及び議論	NHKドキュメンタリーを視聴し、番組が伝えるロシアのメディア環境を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ドキュメンタリーに反映されるロシアのマス・メディア構造や状況について記述することができる。	
		事前学修	時代背景を理解するために、ロシア連邦に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。	120分
6	第一部 1 水10/21	近代中国ジャーナリズムの概況 I	報道（新聞）関連の法律の制定とその内容を中心に近代中国のジャーナリズムの発展状況を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、近代中国の歴史上の出来事を振り返り、清王朝末期におけるジャーナリズムの発展状況について説明することができる。	
		事前学修	時代背景を理解するために、清王朝期までの中国の歴史に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 1 水10/28	近代中国ジャーナリズムの概況Ⅱ	報道（新聞）関連の法律の制定とその内容を中心に近代中国のジャーナリズムの発展状況を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、北洋政府時代の報道法律と南京国民政府の報道法律の内容について説明することができる。	
		事前学修	時代背景を理解するために、清王朝末期から南京国民政府時期までの中国の歴史に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
8	第一部 1 水11/11	中国共産党のマスコミ事業の形成とその特徴Ⅰ	新民主主義革命の第一段階における中国共産党のマスコミ政策の状況に関する知識を得る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、中国共産党の出版物の出現とその宣伝制度の構築について説明することができる。	
		事前学修	新民主主義革命の第一段階における中国の歴史に関する基礎知識を調べておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
9	第一部 1 水11/18	中国共産党のマスコミ事業の形成とその特徴Ⅱ	新民主主義革命の第二段階における中国共産党のマスコミ事業の状況に関する知識を得る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、中国共産党の革命根拠地のマスコミのシステムの構造とその特徴について説明することができる。	
		事前学修	新民主主義革命の第二段階における中国の歴史に関する基礎知識を調べておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
10	第一部 1 水11/25	中国共産党のマスコミ事業の確立とその特徴	中国共産党の党機関紙の改造運動を通じての中国共産党のマスコミ政策の確立の背景を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、党の機関紙改造運動は、どのようにスタートして展開していたのか、そして指導道具論はどのように定められたかについて説明することができる。	
		事前学修	新民主主義革命段階における中国共産党の重要な出来事について調べておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
11	第一部 1 水12/2	ビデオ視聴及び議論	NHKドキュメンタリーを視聴し、戦時の言論環境について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、戦時の言論環境について記述することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。	120分
12	第一部 1 水12/9	現代中国の政治指導者の「新聞思想」Ⅰ	中華人民共和国の建国の父である毛沢東の新聞思想を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、毛沢東はマス・メディアやジャーナリズムについてどのように考え、実践したかについて説明することができる。	
		事前学修	毛沢東の生涯について調べておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 1 水12/16	現代中国の政治指導者の「新聞思想」Ⅱ	マス・メディアを巡る毛沢東の主な実践活動と発言を検証し、「『晋綏日報』の編集者に対する談話」が発表された背景を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、毛沢東の認識や発言は、近現代中国ジャーナリズムの発展に対してどのような意義を持つかについて説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
14	第一部 1 水12/23	現代中国の政治指導者の「新聞思想」Ⅲ	鄧小平、江沢民、胡錦濤と習近平の新聞思想を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、上記の4代の中国最高政治指導者の新聞思想の特徴について説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
15	第一部 1 水1/13	期末発表	これまでの授業で扱ったトピックやその中で考えたことに纏め、履修生全員で話し合う（プレゼンテーション）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、自主学習や調査で分かったことを議論することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を整理し、学んだ知識や考えたことを纏めておく。プレゼンテーション内容を準備する。	120分
		事後学修	中国のジャーナリズム・メディアの事情に関する知識を再確認する。	120分

科目名	外国ジャーナリズム史B	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、グローバルな視座から近代社会におけるジャーナリズムの発展過程を学修する。「外国ジャーナリズム史」の講義は、ケーススタディとして東アジア地域の発展過程を扱うものと、欧米地域の発展過程を扱うものの二つの講座が併行して開講されるため、各自の学修の目的に応じて適した方を履修すること。なお、どちらを選択した場合でも、新聞学科のDPに対する学修の目標は同一のものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近代社会におけるジャーナリズムの成り立ちとしくみに関する知識を修得するために、外国におけるジャーナリズムの発展過程を時系列的に位置づけ、歴史的事象を解釈することでジャーナリズムの普遍性を見出すとともに、多様な社会の独自性の価値を認める視座を涵養する。また、より専門的な学知にアプローチするために、メディア史料を正しく読み解くことのできる能力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
V群（専門基幹科目）の歴史系科目（「メディアと歴史」／「日本ジャーナリズム史Ⅰ」）の単位を修得済みであることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式とする。ただし、履修人数に応じた形で、より効果的な授業方法を実践することを妨げない。すなわち、履修者数によってはグループワークなどを実施する場合もある。受講の際は必ずノートを持参すること。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修用の資料配布時における事前学修、リアクションペーパー等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。				3							
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。					3						
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。						3					
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関わる知識および技能が身についているかを、ペーパーテストによって評価する（履修者数によって、事前に告知することでレポート試験に変更する場合があります）。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内のディスカッションやリアクションペーパーによって、到達目標④に関する知識および態度を評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内およびポータルサイトを使用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	イントロダクション・新聞の起源と定義について	新聞の起源と定義	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、近代的な新聞の成立以前のコミュニケーション形態を理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通すとともに、これまでに受講した歴史科目の内容を復習する。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
2	第一部 土9/26	西洋新聞略史	欧米のジャーナリズムの発展過程を概観し、翌週以降に詳細に扱う内容の見取り図を形成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、前近代から現代に至るまでのジャーナリズムの発展過程の大まかな流れを理解する。	
		事前学修	時代背景を理解するために高校「世界史」レベルの知識を振り返っておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
3	第一部 土10/3	黎明期の新聞	英国における1622年以前のメディア状況	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、英国における印刷技術の普及過程と出版統制、初期のニュース刊行物について理解する。	
		事前学修	時代背景を理解するために、ランカスター朝、ヨーク朝、およびテューダー朝の流れを把握する。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
4	第一部 土10/10	清教徒革命期の新聞	1640年代の英国における新聞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Mercuriusの特徴や、議会派による出版統制について理解する。	
		事前学修	時代背景として、清教徒革命について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
5	第一部 土10/17	小括と補論①	ジャーナリズム／マス・コミュニケーション理論の歴史的発展過程①	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連し、前回までの内容をFred S. SiebertらのFour Theories of the Pressの権威主義理論の特徴に則して整理し、理解する。	
		事前学修	第2回～第4回の内容の振り返り。	120分
		事後学修	授業内で課せられた問題の振り返り。	120分
6	第一部 土10/24	校外学習	活字メディアの発達とジャーナリズムの歴史を印刷博物館で学ぶ (※履修人数によって行き先や内容を変更する場合がある)	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、印刷博物館の常設展示において印刷技術の発展過程を学び、履修者同士で意見交換を行う。	
		事前学修	印刷博物館の展示内容について調べる。	120分
		事後学修	授業内で課せられた問題の振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	王政復古期の英国における新聞	1. 特許検閲法 2. 『ロンドン・ガゼット』の登場 3. 特許検閲法の失効	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、特許検閲法による言論統制について理解する。	
		事前学修	時代背景として、王政復古期の英国の歴史を調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
8	第一部 土11/7	18世紀英国の新聞と法	1. 特許検閲法の廃止 2. エッセイ・ペーパーの登場 3. スタンプ税法（印紙税）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、特許検閲法が廃止された過程と、新たな言論統制について理解する。	
		事前学修	時代背景として、名誉革命について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
9	第一部 土11/14	植民地時代のアメリカと新聞	1. 初期の植民地社会と新聞 2. ゼンガー事件 3. 独立戦争と新聞	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、アメリカにおける新聞の興りについて理解する。	
		事前学修	時代背景として、アメリカ独立戦争について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
10	第一部 土11/21	19世紀のアメリカと新聞	1. ペニーペーパーの誕生 2. 南北戦争と新聞 3. 新聞の変容	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ペニーペーパーの誕生によってもたらされた変化について理解する。	
		事前学修	時代背景として、南北戦争について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
11	第一部 土11/28	小括と補論②	ジャーナリズム／マス・コミュニケーション理論の歴史的発展過程②	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連し、前回までの内容をFred S. SiebertらのFour Theories of the Pressの自由主義理論の特徴に則して整理し、理解する。	
		事前学修	第7回～第10回の内容の振り返り。	120分
		事後学修	授業内で課せられた問題の振り返り。	120分
12	第一部 土12/5	20世紀のアメリカと新聞①	1. イエロー・ジャーナリズム 2. ニュース雑誌の隆盛 3. プレスの自由委員会	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、新聞や雑誌がマス・メディアとして発展していくなかで、どのような問題点が指摘されるようになったのかを理解する。	
		事前学修	時代背景として、米西戦争について調べておく。時代背景として、太平洋戦争期のアメリカ社会について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	20世紀のアメリカと新聞②	4. ペンタゴン・ペーパーズ 5. ウォーターゲート事件	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、調査ジャーナリズムや取材源の秘匿などについて歴史的出来事を通じて議論することができる。	
		事前学修	時代背景として、ベトナム戦争とアメリカ政治について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
14	第一部 土12/17	外国における邦字新聞略史	「外国ジャーナリズム史」におけるエスニック・ジャーナリズム	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、外国で発行された日本語新聞と日本人コミュニティについて理解する。	
		事前学修	時代背景として、アメリカの排日移民法について調べておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の講義資料を配布する。	120分
15	第一部 土12/26	総括	ジャーナリズム／マス・コミュニケーション理論の歴史的発展過程③ 授業内試験と解説	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連し、第13回までの内容をFour Theories of the Pressの社会的責任論の特徴に則して整理し、理解する。これらの古典的理論やWhig史観による通史を批判的に議論し、現代のジャーナリズムを考察するうえで のよすがとすることができる。	
		事前学修	第1回～第14回の内容の振り返り。	120分
		事後学修	試験内容の振り返り。講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	外国法A(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、慣習法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特色である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法体系を有するが、国際的には、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法に亘って講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる中華人民共和国法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる中華人民共和国に関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したプリントに基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における中華人民共和国法の位置づけについて説明することができる。				2	2				2		
②	中華人民共和国法と日本法との異同について説明することができる。				2	2				2		
③	中華人民共和国法が準拠法になった際に、同国法を調査し、適用することを説明することができる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内小テストにより、到達目標①②③に関わる中華人民共和国法に関する知識が身に付いているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	中華人民共和国法に関する総合的な知識を駆使し、多角的な視点から、同国法について理解を深めているかを確認する。	20	20	30								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし	なし	なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）教場にて行う。メールアドレス jozuisei@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	土4/4	ガイダンス、導入授業	講義の進め方、配布資料、期末レポート等についてガイダンスする。	
		この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	土4/11	中国法の歴史	中国法の歴史（古代から現代に至るまでの中国法の変遷）について解説する。	
		この回の到達目標	中国法の歴史を説明できること。	
		事前学修	中国法の歴史のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中国法の歴史のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	土4/18	現代中国法の体系	現代中国法の体系（中華人民共和国法、香港法、マカオ法、台湾法、少数民族自治区法）について解説する。	
		この回の到達目標	現代中国法の体系を説明できること。	
		事前学修	現代中国法の体系のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	現代中国法の体系のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	土4/25	中華人民共和国司法制度	中華人民共和国司法制度（裁判所制度、法曹制度等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国司法制度を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国司法制度のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国司法制度のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	土5/2	中華人民共和国実定法の種類	中華人民共和国実定法の種類（公法、刑事法、私法、司法解釈等）について総説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国実定法の種類を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国実定法の種類のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国実定法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	土5/9	中華人民共和国憲法	中華人民共和国憲法（1954年憲法、1975年憲法、1978年憲法、1982年憲法及び修正）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国憲法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国憲法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国憲法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	±5/16	中華人民共和国行政法	中華人民共和国行政法（行政組織、法治行政原則、行政法の種類等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国行政法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国行政法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国行政法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	±5/23	中華人民共和国行政訴訟法	中華人民共和国行政訴訟法（行政救済制度の目的、対象、範囲及び整備）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国行政訴訟法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国行政訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国行政訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	±5/30	中華人民共和国刑法	中華人民共和国刑法（基本原則、適用範囲、刑罰の種類）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国刑法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国刑法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国刑法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	±6/6	中華人民共和国刑事訴訟法	中華人民共和国刑事訴訟法（基本原則、取調べ手続、公判手続、上訴手続き等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国刑事訴訟法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国刑事訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国刑事訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	±6/13	中華人民共和国民法総則	中華人民共和国民法総則（私法における位置付け、私法基本原則等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国民法総則を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国民法総則のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国民法総則のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	±6/20	中華人民共和国物権法	中華人民共和国物権法（基本原則、所有権、区分所有、共有等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国物権法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国物権法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国物権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	土6/27	中華人民共和国契約法	中華人民共和国契約法（合同法の基本原則、経済法との関係、有名契約、無名契約等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国契約法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国契約法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国契約法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	土7/4	中華人民共和国不法行為法	中華人民共和国不法行為法（侵権責任法の基本原則、一般不法行為、特殊不法行為等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国不法行為法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国不法行為法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国不法行為法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	土7/11	前期のまとめ	前期のまとめ	
		この回の到達目標	前期の学習内容を説明できること。	
		事前学修	前期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法A(アジア)Ⅱ	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、慣習法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特色である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法体系を有するが、国際的には、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法に亘って講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる中華人民共和国法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる中華人民共和国に関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したプリントに基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における中華人民共和国法の位置づけについて説明することができる。					2					2		
②	中華人民共和国法と日本法との異同について説明することができる。					2					2		
③	中華人民共和国法が準拠法となった際に、同国法を調査し、適用することを説明することができる。					2					2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内小テストにより、到達目標①②③に関わる内容に関する知識が身に付いているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	中華人民共和国法に関する総合的な知識を駆使し、多角な視点から、同国法について理解を深めているかを確認する。	20	20	30								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし	なし	なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取る）教場にて行う。メールアドレス jozuisei@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	±9/19	ガイダンス、導入授業	ガイダンス及び中華人民共和国婚姻法（基本原則、婚姻の成立、身分的効力、財産的効力、離婚の方法等）について解説する。	
		この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国婚姻法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	±9/26	中華人民共和国養子縁組法	中華人民共和国養子縁組法（基本原則、養子縁組の成立及び効力、離縁等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国養子縁組法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国養子縁組法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国養子縁組法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	±10/3	中華人民共和国相続法	中華人民共和国相続法（承法の基本原則、法定相続、遺言相続等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国相続法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国相続法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国相続法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	±10/10	中華人民共和国会社法	中華人民共和国会社法（公司法の変遷、会社の形態、企業法務の課題）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国会社法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国会社法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国会社法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	±10/17	中華人民共和国有価証券法	中華人民共和国有価証券法（有価証券市場、有価証券の種類、株式投資の現状）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国有価証券法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国有価証券法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国有価証券法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	±10/24	中華人民共和国民事訴訟法	中華人民共和国民事訴訟法（紛争解決機関及び方法、調停主義、改正法の内容等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国民事訴訟法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国民事訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国民事訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	土10/31	中華人民共和国破産法	中華人民共和国破産法（破産制度、手続、債権者の権利、民事再生制度等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国破産法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国破産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国破産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	土11/7	中華人民共和国仲裁法	中華人民共和国仲裁法（民事訴訟との関係、手続、涉外仲裁の課題等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国仲裁法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国仲裁法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国仲裁法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	土11/14	中華人民共和国知的財産権法	中華人民共和国知的財産権法（知的財産権の種類、管轄官庁、権利行使等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国知的財産権法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国知的財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国知的財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	土11/21	中華人民共和国労働法	中華人民共和国労働法（基本理念、労働立法の種類、労働契約、労働基準等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国労働法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国労働法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国労働法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	土11/28	中華人民共和国経済法	中華人民共和国経済法（範囲、独占禁止法、不正競争法、企業所得税法等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国経済法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国経済法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国経済法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	土12/5	中華人民共和国国際私法	中華人民共和国国際私法（涉外民事関係法律適用法、最高人民法院司法解释、条約、区際私法等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国国際私法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国国際私法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国国際私法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	土12/12	中華人民共和国における国際公法	中華人民共和国における国際公法（国際条約、二国間条約、国際慣習法、国籍法）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国における国際公法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国における国際公法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国における国際公法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	土12/19	中華人民共和国における国際経済法	中華人民共和国における国際経済法（WTOの加盟及び課題、対外貿易の規制等）について解説する。	
		この回の到達目標	中華人民共和国における国際経済法を説明できること。	
		事前学修	中華人民共和国における国際経済法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華人民共和国における国際経済法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	土12/26	後期のまとめ	後期のまとめ	
		この回の到達目標	後期の学習内容を説明できること。	
		事前学修	後期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法A(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解すること。また、第4にEU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解すること。そしてこれらを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	EUが超国家的な法秩序を構成するとはどのような意味なのか、また、なぜEUレベルで憲法が必要とされるのかをについて理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
②	EU法令が誰により、どのように定められるのか、EU行政は誰により、どのように行われるのか、また、EUにおける司法権は誰により、どのようになされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
③	EU基本条約の諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				2	2				2		
④	EU基本条約の諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験（教科書2冊、ハンドアウト、ノート持込可）により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法基礎篇	庄司克宏	岩波書店	2013年	教科書	必携
はじめてのEU法	庄司克宏	有斐閣	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	EU法入門第1回	EU法入門（1）EU法を支える原則は何か（一） ヨーロッパ統合とEU法、個人が裁判所でEU法を使えるということ	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ヨーロッパ統合とEU法、および、EU法と個人の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』第1～2回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	4月14日	EU法入門第2回	EU法入門（2）EU法を支える原則は何か（二） EU法と国家主権の調整	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ヨーロッパ統合とにおけるEU法と国家主権の調整について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	4月21日	EU法入門第3回	EU法入門（3）トランスナショナルな法空間の構築（一） トランスナショナルな法空間、物・人・サービス・資本の自由移動	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間としての物・人・サービス・資本の自由移動について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』第4～5回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	4月28日	EU法入門第4回	EU法入門（4）トランスナショナルな法空間の構築（二） トランスナショナルな自由競争、単一通貨ユーロの仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間における競争法と単一通貨について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』第6～7回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	5月5日	EU法入門第5回	EU法入門（5）トランスナショナルな課題とEU法 EU市民権と外国人、物の自由移動と契約法、人の自由移動と刑事司法協力、域内市場と環境保護	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間において、どのような問題が生じ、いかにして解決されているかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』第8～11回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	5月12日	EU基本条約と権限類型	EU法制度の発展（一） EU法制度とその発展を、EU基本条約と権限類型に関連づけてそれぞれ説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法制度とその発展について、EU基本条約と権限類型に関連づけて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法』第12回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	EU法の法源とEU諸機関	EU法制度の発展（二） EU法制度とその発展を、EU法の法源とEU諸機関の発展に関連づけてそれぞれ説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法制度とその発展について、EU法の法源とEU諸機関の発展に関連づけて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法』第12回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	5月26日	EU立法手続	EU立法（一） 通常立法手続および特別立法手続、立法手続における諸機関の役割、補完性手続による国内議会の監視について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU立法手続、EU諸機関および国内議会の役割について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法』第13回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	6月2日	EU法秩序と「民主主義の赤字」	EU立法（二） EU法秩序における「民主主義の赤字」という問題についても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、「民主主義の赤字」という問題がなぜ生じ、どのように解決されるべきかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法』第13回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	6月9日	EU行政	EU行政 コミッションによる委任立法、EU立法の実施におけるコミトロジーおよび補助機関についてメローニ原則を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUにおいて行政がどのように行われるのかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章4節、『はじめてのEU法』第14回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	6月16日	EU裁判所組織と訴訟類型	EU司法（一） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	6月23日	先決付託手続	EU司法（二） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	取消訴訟と違法性の抗弁	EU司法（三） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	7月7日	義務不履行訴訟	EU司法（四） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	7月14日	総括と質疑	総括と質疑	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法A(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解すること。また、第4にEU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解すること。そしてこれらを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	EUが超国家的な法秩序を構成するとはどのような意味なのか、また、なぜEUレベルで憲法が必要とされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2	
②	EU法令が誰により、どのように定められるのか、EU行政は誰により、どのように行われるのか、また、EUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2	
③	EU基本条約の諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					2	2				2	
④	EU基本条約の諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】					2	2				2	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験（教科書2冊、ハンドアウト、ノート持込可）により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法基礎篇	庄司克宏	岩波書店	2013年	教科書	必携
はじめてのEU法	庄司克宏	有斐閣	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	EU法の直接効果	EU法の直接効果と優越性（一） EU法秩序を確立した判例法として、直接効果に関するVan Gend en Loos判決を紹介し、EU法の直接効果の定義および要件について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、直接効果に関するVan Gend en Loos判決について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第2回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	9月22日	EU法の優越性	EU法の直接効果と優越性（二） EU法秩序を確立した判例法として、EU法の国内法に対する優越性に関するCosta v ENEL判決について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法の国内法に対する優越性に関するCosta v ENEL判決について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	9月29日	EU指令と直接効果	EU法の直接効果と優越性（三） EU法の直接効果に関し、「指令」に焦点を当てて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの「指令」の直接効果について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第2回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	10月6日	EU指令とその他の効果	EU法の直接効果と優越性（四） 「指令」の直接効果以外の効果として、国内裁判所の適合解釈義務、および、抵触国内法の適用排除義務について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、「指令」における国内裁判所の適合解釈義務、および、抵触国内法の適用排除義務について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	10月13日	EU法違反と国家賠償責任	EU法の直接効果と優越性（五） EU法違反に対する加盟国の損害賠償責任について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法違反に対する加盟国の損害賠償責任について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	10月20日	EU法の優越性と国民的一体性条項	EU法の直接効果と優越性（六） とくに「指令」の直接効果以外の効果（国内裁判所の適合解釈義務、抵触国内法の適用排除義務、加盟国の損害賠償責任）について解説する。また、EU法の優越性の範囲と国民的一体性条項について解説する。その際、立憲的多元主義についても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	加盟国の手続的自律性の根拠と定義	EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（一） 直接効果を有し、かつ国内法に優越するEU法規定に基づく権利が私人に付与されたとしても、その侵害に対する救済は国内裁判所において国内法に依拠して行われる。それは加盟国の手続的自律性と呼ばれる。その根拠および定義について理論的に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、加盟国の手続的自律性の根拠および定義について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	11月10日	加盟国の手続的自律性の要件	EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（二） 加盟国の手続的自律性の要件としての同等性および実効性に焦点を当てる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、加盟国の手続的自律性の要件としての同等性および実効性について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	11月17日	EU法の下における基本的人権の保護と判例法	EU法の下における基本的人権の保護（一） EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	11月24日	EU司法裁判所と基本権審査の範囲	EU法の下における基本的人権の保護（二） EU司法裁判所の基本権に関する審査権の範囲はどこまで及ぶのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の基本権に関する審査権の範囲について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	12月1日	EU基本権憲章と欧州人権条約	EU法の下における基本的人権の保護（三） EU司法裁判所の判例法におけるEU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の判例法におけるEU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	12月8日	EUの欧州人権条約加入	EU法の下における基本的人権の保護（四） EUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について、EU司法裁判所の判例法を中心に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の判例法を踏まえてEUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	イギリスのEU離脱	EU脱退手続と権利停止手続（一） Brexit（イギリスのEU離脱）	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、イギリスのEU離脱問題とその結果について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	12月22日	加盟国による「法の支配」原則違反	EU脱退手続と権利停止手続（二） ポーランド・ハンガリーの「法の支配」違反問題	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ポーランド・ハンガリーの「法の支配」違反問題について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	1月12日	総括と質疑	総括と質疑	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまで学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、「違憲立法審査権」「デュー・プロセス」「大統領の権限」について判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。					2	2				2		
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。					2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文(英文)で理解し日本語で説明できるようになる。					2	2				2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知 (共訳)	国際書院	1998	その他	推奨
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	英米法・アメリカ合衆国概要	(1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要 (人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問題、経済問題、等) ; (2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の概要について理解し説明できるようになる。	
		事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	4/16	アメリカ合衆国の連邦制度	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 ; (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 ; (3) アメリカ連邦制度における州の権限	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカの連邦政府の特徴について理解し説明できるようになる。	
		事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	4/23	アメリカの法と裁判制度	(1) アメリカ法の法源 (コモンロー、エクイティー、制定法、リステイトメント) ; (2) アメリカ法の分類 (連邦法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法) ; (3) アメリカ裁判制度概観	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカにおけるコモンローとエクイティーの二重構造と妥当なアメリカ法の分類方法及びアメリカの裁判制度について理解し説明できるようになる	
		事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	4/30	アメリカ合衆国憲法と三権分立 (Separation of Powers)	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡 ; (2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡 (3) 司法府と立法府の間にみる抑制と均衡	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカ政府における三権分立の特徴を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	5/7	連邦司法府の連邦議会に対する違憲立法審査権	(1) 連邦司法府の違憲立法審査権とその根拠 ; (2) 判例研究 : Marbury v. Madison	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し判例の法的争点と法理について理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例 (Marbury v. Madison) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	5/14	連邦司法府の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権	(1) 判例研究 : Fletcher v. Peck ; (2) 判例研究 : Martin v. Hunter' s Lessee	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例 (Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter' s Lessee) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	「必要かつ適当条項」に基づく連邦議会の立法権	(1) 合衆国憲法1条8節18項(「必要かつ適当条項」); (2) 判例研究: McCulloch v. Maryland	
		この回の到達目標	上記条文と判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例(McCulloch v. Maryland)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	5/28	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I	(1) 合衆国憲法1条8節3項(「州際通商条項」); (2) 合衆国憲法修正10条(「留保条項」)との関係; (3) 判例研究: Gibbons v. Ogden	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例(Gibbons v. Ogden)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	6/4	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II	(1) 判例研究: Wickard v. Filburn; (2) 判例研究: Cooley v. Board of Wrdens; (3) 判例研究: Southern Pacific Co. v. Arizona	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例(Wickard v. Filburn; Cooley v. Board of Wrdens; Southern Pacific Co. v. Arizona)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	6/11	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III	(1) 判例研究: Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority; (2) 「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例(Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	6/18	判例法主義I	(1) イギリスの先例拘束性; (2) 判例研究: London Tramways Co. v. London County Council; (3) Practice Statement [1966]による修正	
		この回の到達目標	上記のイギリスの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例(London Tramways Co. v. London County Council)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料(Practice Statement [1966])を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	6/25	判例法主義II	(1) アメリカの先例拘束性; (2) 判例研究: Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey	
		この回の到達目標	上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例(Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	連邦裁判所で適用される州法	(1) 「エリー法理」の確立；(2) 判例研究：Swift v. Tyson (3) 判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	7/9	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明できるようになる。	
		事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	7/16	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
		この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
		事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、「違憲立法審査権」「デュー・プロセス」「大統領の権限」について判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明した後、「アメリカ法判例百選」をベースにディスカッションを行なう。適宜、英文資料を配布する。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。						2	2				2		
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。						2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文(英文)で理解し日本語で説明できるようになる。						2	2				2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては採点済み答案を返却し正答を解説する。 期末試験については解説・講評を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アメリカ法判例百選	樋口範雄他編	有斐閣	2012年		必携
アメリカ憲法入門(第8版)	松井茂記	有斐閣	2018年		推奨
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談は、以下のメール・アドレスに。「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	英米法の特徴	英米法の別名であるコモン・ローの本質をその起源をたどることによって理解する 続いて、大陸法系と英米法系の法システムを比較し、それぞれの特徴を理解する	
		この回の到達目標	コモン・ローの特徴の理解	
	第二部 水 4/8	事前学修	事前に配布するレジメを読み、英米法系と大陸法系の差異について自分なりのイメージを構成しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
2	第一部 水 4/15	イギリス法とアメリカ法	アメリカとイギリスの政治体制、判例法主義の相違点を理解する	
		この回の到達目標	同じ法系に属するアメリカ法とイギリス法の異同の理解	
	第二部 水 4/15	事前学修	事前に配布するレジメを読み、イギリス法とアメリカ法の共通点および差異について自分なりのイメージを構成しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
3	第一部 水 4/22	合衆国憲法の成立と連邦政府の誕生	連邦政府誕生の史的背景について概観し、州が一般的な権限を留保し、連邦が限定的な権限を州から委譲されているアメリカの連邦制度を理解する	
		この回の到達目標	「連邦制」の法的特徴の理解	
	第二部 水 4/22	事前学修	事前に配布するレジメを読み、「連邦制」とは何かについて考えておく	120分
		事後学修	「州」の重要性という観点から、授業内容を整理する	120分
4	第一部 水 4/29	合衆国憲法の特徴と三権分立	アメリカ合衆国憲法の条文を参照しながら、連邦政府の立法部、執行部、司法部の「抑制と均衡 (Checks and Balances)」を確認する	
		この回の到達目標	連邦政府の基本政体の理解	
	第二部 水 4/29	事前学修	事前に配布するレジメを読み、アメリカと日本の三権分立がどこまで類似し、どこが違うか考えておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースに類似点、相違点を整理する	120分
5	第一部 水 5/6	司法権の役割と限界	連邦の司法制度と州の司法制度の概要を整理する 連邦司法部の権限と限界について検証する 連邦最高裁の役割について考察する	
		この回の到達目標	司法制度と司法権の特質の理解	
	第二部 水 5/6	事前学修	事前に配布するレジメを読み、連邦と州の司法制度の併存に由来する問題点を考察しておく また、連邦の裁判制度が厳密な「三審制」なのかについて考えておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
6	第一部 水 5/13	違憲立法審査権とマーベリー判決	違憲立法審査権の根拠となったMarbury v. Madison 判決を精読し、その論理構成を検証する	
		この回の到達目標	違憲立法審査権の根拠と問題点の理解	
	第二部 水 5/13	事前学修	判例百選 # 1、Marbury v. Madisonならびに別途配布する英文資料一を予習しておく	120分
		事後学修	違憲立法審査権の根拠を探究するとともにMarbury v. Madison 判決の問題点を理解する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	連邦と州；①権限の配分、管轄	連邦と州の権限配分における重要判例を検討し理解する。また、連邦権限拡大の根拠となった憲法条文を確認する	
		この回の到達目標	連邦の権限の限界の理解	
	第二部 水 5/20	事前学修	判例百選#2；Fletcher v. Peck, 同#11;McCulloch v. Maryland の2ケースを予習のこと	120分
		事後学修	判例の争点、判旨を整理し、理解する	120分
8	第一部 水 5/27	連邦と州；②州際通商条項	本来連邦には予定されていなかった連邦権限の経済、社会分野への拡大について判例をベースに理解する。	
		この回の到達目標	連邦権限拡張の憲法的根拠の理解	
	第二部 水 5/27	事前学修	判例百選#13;Gibbons v. Ogden、同#14；Wickard v. Filburn他、同#15；Heart of Atlanta Motel v. U.S., 同#16；Obama Care の4ケースを予習のこと	120分
		事後学修	判例の争点、判旨を整理し理解する 通商条項が連邦の権限拡大に如何に貢献したかを理解する	120分
9	第一部 水 6/3	ニュー・ディールと憲法革命	大恐慌により危機に陥った国を救うため連邦政府は憲法を超えたニューディール政策を実行した。この「憲法違反」について最高裁がどう対応したかを検証する	
		この回の到達目標	ニュー・ディール時の「憲法革命」の本質の理解	
	第二部 水 6/3	事前学修	前回の州際通商の判例、事前に配布するレジメを読み、ニュー・ディール政策がどのような憲法上の問題を含んでいたかを考えておく	120分
		事後学修	正式の憲法改正手続によらない憲法改正、いわゆる「憲法革命」の内容を理解する	120分
10	第一部 水 6/10	大統領（執行権）の役割①	三権分立における執行権の定義、行政権との違いを確認する 連邦議会、司法との関係を検証する	
		この回の到達目標	大統領の権限の範囲、限界の理解	
	第二部 水 6/10	事前学修	事前に配布するレジメを読み、「執行権」とは何かについて考えておく 判例百選#8；U.S. v. NixonおよびINS v. Chadha Case(別途コピー配布)を予習しておく	120分
		事後学修	大統領の権限の範囲、限界について整理、理解する	120分
11	第一部 水 6/17	大統領（執行権）の役割②	大統領の戦時権限について、Korematsu Case, Hamdan v. Rumsfeld Caseをベースに検証する。	
		この回の到達目標	大統領の権限は非常時にどこまで拡張されるかについて検証する	
	第二部 水 6/17	事前学修	判例百選#38；Korematsu v. U.S., 同#7；Hamdan v. Rumsfeldを予習しておく	120分
		事後学修	非常時における大統領の権限について整理、理解する	120分
12	第一部 水 6/24	デュー・プロセス；Lochner 判決	人権の基本的規定であるデュー・プロセス条項の役割を理解する 手続的デュー・プロセスと実体的デュー・プロセスの違いを確認する 自由経済を支えたLochner 判決の意義を検討する。	
		この回の到達目標	人権保護規定の基本であるデュー・プロセス条項の理解	
	第二部 水 6/24	事前学修	事前に配布するレジメを読み、「デュー・プロセス」の概要を把握しておく 判例百選#10；Goldberg v. Kelly, 同#44；Lochner v. New Yorkを予習しておく	120分
		事後学修	デュー・プロセスが人権保護に果たした広範な役割について整理、理解する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7/1	デュー・プロセス ; Lochner 時代の終焉 ;	ニュー・ディール期以降の判例の変更を検証する また、1970年代以降の、デュー・プロセスの復活について、プライバシーの権利に焦点を当て フォローする	
		この回の 到達目標	デュー・プロセス条項の発展について理解する	
	第二部 水 7/1	事前学修	判例百選 # 4 7 ; Roe v. Wade, 同 # 4 8 ; Planned Parenthood v. Caseyを予習しておく	120分
		事後学修	実体的デュー・プロセスについて整理、理解する	120分
14	第一部 水 7/8	連邦最高裁の動向	1950年代のウォーレン・コートから現在のロバーツ・コートに至る連邦最高裁の変遷を概観する	
		この回の 到達目標	第二次大戦以降の連邦最高裁の判決動向について理解する	
	第二部 水 7/8	事前学修	事前に配布するレジメを読み、連邦最高裁判決の流れを把握しておく	120分
		事後学修	連邦最高裁がアメリカ社会において果たしてきた大きな役割について整理、理解する	120分
15	第一部 水 7/15	総括	まとめおよび期末試験	
		この回の 到達目標	合衆国憲法の内、連邦と州の関係、統治の機構について復習、理解する	
	第二部 水 7/15	事前学修	春学期に学習した判例、レジメを整理し、疑問点を抽出する	120分
		事後学修	期末試験の内容につき、ポータルサイトにて配信する解説を参照して、検証、復習する	120分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由、銃器規制等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。				2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。				2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知 (共訳)	国際書院	1998	その他	任意
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
					任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	連邦と州の裁判制度 I	(1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の連邦裁判所と州裁判所の管轄権の概要について原文での専門用語を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について 法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	9/24	連邦と州の事物的管轄権	(1) 連邦裁判所の事物的管轄権 (2) 州裁判所の事物的管轄権 (3) 競合的事物的管轄権	
		この回の到達目標	事案問題を使用し、連邦と州のいずれの裁判所に訴訟を提起すべきかを学修しその判断要素を整理し説明する。	
		事前学修	合衆国憲法3条を読み、連邦司法府の事物的管轄権の範囲を考察し整理する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法 辞典』等で調べておく	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	10/1	人的管轄権の拡張と縮小	(1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner (4) 判例研究：Daimler AG v. Bauman	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、アメリカの裁判所の人的管轄権の拡張と最近の縮小の動向について考察し判例の流れをとらえて説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner; Daimler AG v. Bauman）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	10/8	州と州の関係	(1) 他州判決の承認と執行 (2) 判例研究：Sherrer v. Sherrer (3) 判例研究：Williams v. North Carolina	
		この回の到達目標	アメリカの州裁判所の判決が他の州で承認・執行される要件を判例をとおして整理して説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	10/15	裁判所における実体準拠法の選択基準	(1) 契約法の準拠法の選択基準 (2) 不法行為法の準拠法の選択基準 (3) 判例研究：Babcock v. Jackson	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し判例をとおしてその法的争点と法理について理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Babcock v. Jackson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英 米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	10/22	陪審制度I	(1) 連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係 (2) 民事陪審制度におけるコモンローとエクイティーの救済 (3) 判例研究：Curtis v. Loether	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、連邦と州における民事事件・刑事事件の陪審審理の相違点を理解し説明する。	
		事前学修	合衆国憲法修正6条および7条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。 前回の授業で配布された判例（Curtis v. Loether）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英 米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	陪審制度II	(1) 判例研究：Apodaca v. Oregon (2) 判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB (3) 判例研究：Williams v. Florida	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	11/5	基本的人権 I	(1) 合衆国憲法修正第1条（信教の自由） (2) 判例研究：Lemon v. Kurtzman (3) 判例研究：Wisconsin v. Yoder	
		この回の到達目標	上記の政教分離・信教の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	11/12	基本的人権 II	(1) 合衆国憲法修正第1条（言論・出版の自由） (2) 判例研究：Schenck v. United States (3) 判例研究：New York Times Co. v. United States	
		この回の到達目標	上記の言論・出版の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	11/19	基本的人権 III	(1) 判例研究：Miller v. California (2) 判例研究：New York Times Co. v. Sullivan (3) 判例研究：Texas v. Johnson	
		この回の到達目標	上記の表現の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	12/3	基本的人権 IV	(1) 合衆国憲法修正第14条（平等権） (1) 判例研究：Dred Scott Case (2) 判例研究：Plessy v. Ferguson (3) 判例研究：Brown v. Board of Education, (4) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
		この回の到達目標	上記の人種差別に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Brown v. Board of Education of Topeka; Moose Lodge No. 107 v. Irvis; ）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	12/10	基本的人権 V	テーマ：平等権II (1) 判例研究：Shelley v. Kraemer (2) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
		この回の到達目標	上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	基本的人権 VI	(1) 判例研究：Regents of the University of California v. Bakke (2) 判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp. (3) 判例研究：Missouri v. Jenkins；(4) Gratz v. Bollinger；(5) Grutter v. Bollinger	
		この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
		事前学修	前回の授業で配布された判例（Regents of the University of California v. Bakke；Phillips v. Martin Marietta Corp.；Missouri v. Jenkins；Gratz v. Bollinger；Grutter v. Bollinger）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律 専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	12/24	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明する。	
		事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する 準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	1/14	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
		この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
		事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由、銃器規制等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明した後、「アメリカ法判例百選」をベースにディスカッションを行なう。適宜、英文資料を配布する。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。					2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。					2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。					2	2				2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては採点済み答案を返却し正答を解説する。 期末試験については解説・講評を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アメリカ法判例百選	樋口範雄他編	有斐閣	2012年		必携
アメリカ憲法入門（第8版）	松井茂記	有斐閣	2018年		推奨
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談は、以下のメール・アドレスに。「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 9/16	アメリカの司法制度	裁判所と管轄、および連邦裁判所、州裁判所の併存、管轄、機能について確認する	
		この回の到達目標	アメリカの司法制度の特徴を把握する	
	第二部 水 9/16	事前学修	事前に配布するレジメを読み、アメリカの司法制度のイメージをつかんでおく アメリカ法判例百選# 7 6、International Shoe Caseを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
2	第一部 水 9/23	アメリカにおける民事訴訟 手続	アメリカにおける民事訴訟手続の概要を当事者主義の観点から考察する	
		この回の到達目標	民事訴訟における当事者主義について理解する	
	第二部 水 9/23	事前学修	事前に配布するレジメを読み、アメリカの訴訟手続について自分なりのイメージを構成しておく アメリカ法判例百選# 7 1、Matsushita Eletric v. Zenithを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
3	第一部 水 9/30	陪審制度	陪審の歴史とアメリカにおける重要性を確認する	
		この回の到達目標	アメリカにおける陪審制度の特徴を把握する	
	第二部 水 9/30	事前学修	事前に配布するレジメを読み、本邦の裁判員制度とアメリカの陪審制度を対比して共通点、相違点を考えて おく アメリカ法判例百選# 6 2、Apodaca v. Oregon, 同# 6 3、Batson v. kentuckyを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
4	第一部 水 10/7	基本的権利	アメリカ憲法における人権規定の根拠を検証する	
		この回の到達目標	アメリカ憲法における人権規定の構造を理解する	
	第二部 水 10/7	事前学修	アメリカ憲法と人権の関係について考えておく アメリカ法判例百選# 4 3、Slaughter Caseを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
5	第一部 水 10/14	デュー・プロセスとブライ バシー	デュー・プロセス条項が人権擁護に果たす役割、並びに実体的デュー・プロセスの応用であるブ ライバシーの考え方と妊娠中絶事件の関係を検証する	
		この回の到達目標	実体的デュー・プロセスの人権保護への適用プロセスを理解する	
	第二部 水 10/14	事前学修	事前に配布するレジメを読み、人権に関する重要な包括規定であるデュー・プロセスについて復習しておく アメリカ法判例百選# 4 7、Roe v. WAdeを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
6	第一部 水 10/21	平等条項と審査基準	修正14条の平等条項適用に当たり、厳格審査をはじめとする三つの判断基準について考察する	
		この回の到達目標	平等条項の審査基準を判例を通じて理解する	
	第二部 水 10/21	事前学修	事前に配布するレジメを読み、三つの審査基準につき一応の理解をしておく アメリカ法判例百選# 2 2、Calorene Products、同# 3 8、Korematsu Caseを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 10/28	人種差別①	Brown 判決とそれ以前； 従来の判例とブラウン判決を比較し、ブラウン判決の画期性を確認する	
		この回の到達目標	人種差別禁止判決の歴史、争点を理解する	
	第二部 水 10/28	事前学修	事前に配布するレジメを読み、人種差別問題とは何かについて考えておく。 アメリカ法判例百選# 3 7、Plessy v. Ferguson ,同# 39,Brown v. Board of Educationsを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
8	第一部 水 11/11	人種差別②	Brown 判決以降の発展、 主に「逆差別」の問題について検証する	
		この回の到達目標	「逆差別」について判例を通じて問題点を分析、理解する	
	第二部 水 11/11	事前学修	事前に配布するレジメを読み、ブラウン判決以降の発展について概要を把握しておく。 アメリカ法判例百選# 41、Grutter v. Bolinger, 同# 4 2、Parents in Seattle Caseを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
9	第一部 水 11/18	表現の自由	憲法上、最も多岐にわたり体系化が困難と言われる修正1条の問題を概観する	
		この回の到達目標	表現の自由に関する問題点を判例の分析を通じて理解する	
	第二部 水 11/18	事前学修	事前に配布するレジメを読み、アメリカ社会における「表現の自由」問題の複雑性について考えておく アメリカ法判例百選# 3 0、Schenck Case, 同# 3 4、New york times v. Sullivanを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
10	第一部 水 11/25	信教の自由	修正1条の政教分離と信教の自由について検証する	
		この回の到達目標	信教の自由について判例の分析を通じて理解する	
	第二部 水 11/25	事前学修	事前に配布するレジメを読み、多民族、多宗教社会であるアメリカにおける信教の自由とは何かについて考えておく アメリカ法判例百選# 2 7、Lemon Case, 同# 2 9、Smith Caseを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
11	第一部 水 12/2	性と婚姻の自由	女性、同性愛者への性差別、同性婚問題を検証する	
		この回の到達目標	性と婚姻の自由について判例の分析を通じて理解する	
	第二部 水 12/2	事前学修	事前に配布するレジメを読み、性差別、同性婚問題について考えておく アメリカ法判例百選# 4 0、Frontiero v. Richadson, 同# 5 0.Lawrence v. Texasを予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
12	第一部 水 12/9	銃器規制問題	銃器規制問題について、賛成、反対両論の憲法上の根拠を検証する	
		この回の到達目標	銃器規制問題に関する憲法上の問題を理解する	
	第二部 水 12/9	事前学修	事前に配布するレジメを読み、アメリカにおける銃器規制問題について問題点を考えておく アメリカ法判例百選# 5 2、Heller Caeew予習しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 12/16	連邦最高裁の動向①	1950年代のWarrenコートからRehnquistコートに至る連邦最高裁の歴史を概観する	
		この回の到達目標	第二次大戦後の連邦最高裁の発展および問題点を把握する	
	第二部 水 12/16	事前学修	事前に配布するレジメを読み、第二次大戦後の最高裁の動向につき概要を把握しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
14	第一部 水 12/23	連邦最高裁の動向②	現在のRobertsコートの構成、スタンス、今後の行方について考察する	
		この回の到達目標	現在の連邦最高裁が抱える問題点を整理し、今後の方向について考察する	
	第二部 水 12/23	事前学修	事前に配布する英文資料を読み、アメリカ社会において連邦最高裁が果たす重要な役割を理解しておく	120分
		事後学修	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する	120分
15	第一部 水 1/13	総括	まとめと期末試験	
		この回の到達目標	アメリカにおける基本的人権と憲法に関する問題点を整理し、各自の意見をまとめる	
	第二部 水 1/13	事前学修	秋学期に学習したレジメを復習し、論点、判旨、疑問点を整理しておく	120分
		事後学修	期末試験の内容につき、ポータルサイトにて発信する解説を参照して、検証、復習する	120分

科目名	外国法A(独)Ⅰ	担当者	栗島 智明	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法A（独）では、このうちドイツ公法（憲法・行政法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの公法（憲法・行政法）に関する解釈論を修得し、またドイツ公法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ公法理解を目指す。世界的に見ても模範とされることの多いドイツの公法学を学ぶことで、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
英語・ドイツ語いずれかの読解能力を有し、かつ、憲法の知識を有すること

【授業方法】		
『An Introduction to German Law/Einführung in das deutsche Recht』と題する指定教科書（英語版・ドイツ語版のいずれも内容は同じであるため、どちらを用いてもよい）の該当部分を受講生が各自であらかじめ読んでくるようにし（＝必須課題。予習を怠る者は不可とする）、授業ではその内容について解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ公法に関する具体的な問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ公法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の公法理解にも活かすことができる。				2							
②	ドイツの公法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。				2							
③	ドイツ公法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ公法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業に対する準備，グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
個別に相談に応じる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An Introduction to German Law (7th Edition)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
Einführung in das deutsche Recht (7. Aufl.)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
ドイツ連邦共和国基本法	初宿正典	信山社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
個別に相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	法伝統①	ドイツの法伝統（法典化志向・ローマ法の継受等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツの法伝統（法典化志向・ローマ法の継受）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
2	4/13	法伝統①	ドイツの法伝統（戦後の自然法ルネサンス等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツの法伝統（戦後の自然法ルネサンス）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
3	4/20	法領域①	ドイツにおける法領域の分類（私法・公法・刑法等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法領域の分類について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
4	4/27	法領域②	ドイツにおける法領域の分類（実体法と手続法・ヨーロッパ法等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法領域の分類（実体法と手続法・ヨーロッパ法等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
5	5/4	法源①	ドイツにおける法源（成文法・判例法の一般論）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法源（成文法・判例法）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
6	5/11	法源②	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	規範ヒエラルキー①	ドイツにおける規範ヒエラルキー（憲法・実定法を超える法・議会法）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける規範ヒエラルキー（憲法・実定法を超える法・議会法）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
8	5/25	規範ヒエラルキー②	ドイツにおける規範ヒエラルキー（国際法・EU法）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける規範ヒエラルキー（国際法・EU法）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
9	6/1	法解釈	ドイツにおける法解釈について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法解釈について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
10	6/8	裁判権①	ドイツにおける裁判権（全体像・基本原則）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（全体像・基本原則）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
11	6/15	裁判権②	ドイツにおける裁判権（個別の5つの裁判権）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（個別の5つの裁判権）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
12	6/22	裁判権③	ドイツにおける裁判権（憲法裁判権・EU司法裁判所）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（憲法裁判権・EU司法裁判所）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	法曹養成①	ドイツにおける法曹養成（統一法曹・弁護士）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法曹養成（統一法曹・弁護士）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
14	7/6	法曹養成②	ドイツにおける法曹養成（裁判官・検察・行政官・大学教員）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法曹養成（裁判官・検察・行政官・大学教員）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
15	7/13	法律文献	ドイツにおける法律文献について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法律文献等について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

科目名	外国法A(独)Ⅱ	担当者	栗島 智明	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法A（独）では、このうちドイツ公法（憲法・行政法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの公法（憲法・行政法）に関する解釈論を修得し、またドイツ公法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ公法理解を目指す。世界的に見ても模範とされることの多いドイツの公法学を学ぶことで、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
英語・ドイツ語いずれかの読解能力を有し、かつ、憲法の知識を有すること

【授業方法】		
『An Introduction to German Law/Einführung in das deutsche Recht』と題する指定教科書（英語版・ドイツ語版のいずれも内容は同じであるため、どちらを用いてもよい）の該当部分を受講生が各自であらかじめ読んでくるようにし（＝必須課題。予習を怠る者は不可とする）、授業ではその内容について解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ公法に関する具体的な問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ公法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の公法理解にも活かすことができる。				2							
②	ドイツの公法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。				2							
③	ドイツ公法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ公法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業に対する準備，グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
個別に相談に応じる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An Introduction to German Law (7th Edition)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
Einführung in das deutsche Recht (7. Aufl.)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
ドイツ連邦共和国基本法	初宿正典	信山社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
個別に相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	憲法史・行政法史①	ドイツの憲法史・行政法史（神聖ローマ帝国・宗教改革・ドイツ連邦等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツの憲法史・行政法史（神聖ローマ帝国・宗教改革・ドイツ連邦等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
2	9/21	憲法史・行政法史②	ドイツの憲法史・行政法史②（パウル教会憲法・ドイツ帝国・ドイツ連邦共和国等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツの憲法史・行政法史②（パウル教会憲法・ドイツ帝国・ドイツ連邦共和国等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
3	9/28	憲法総論①	ドイツにおける憲法総論（憲法の概念・機能・改正禁止条項等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける憲法総論（憲法の概念・機能・改正禁止条項等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
4	10/5	憲法総論②	ドイツにおける憲法総論（適用範囲等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける憲法総論（適用範囲等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
5	10/12	基本権総論①	ドイツにおける基本権総論（防御権・一般平等権・保護義務等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける基本権総論（防御権・一般平等権・保護義務等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
6	10/19	基本権総論②	ドイツにおける基本権総論（基本権享有主体・第三者効力・保護領域・介入・正当化・比例原則等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	個別基本権①	ドイツにおける個別基本権（人間の尊厳・一般的行為自由・生命に対する権利等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける個別基本権（人間の尊厳・一般的行為自由・生命に対する権利等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
8	11/9	個別基本権②	ドイツにおける個別基本権（意見表明の自由・集会の自由・庇護権等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける個別基本権（意見表明の自由・集会の自由・庇護権等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
9	11/16	憲法の構造原理①	ドイツにおける憲法の構造原理（民主制・法治国家等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける憲法の構造原理（民主制・法治国家等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
10	11/23	憲法の構造原理②	ドイツにおける憲法の構造原理（社会国家・共和国・連邦国家・欧州統合等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける憲法の構造原理（社会国家・共和国・連邦国家・欧州統合等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
11	11/30	憲法機関①	ドイツにおける憲法機関（連邦大統領・連邦議会等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける憲法機関（連邦大統領・連邦議会等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
12	12/7	憲法機関②	ドイツにおける憲法機関（連邦参議院（参議会）・連邦政府・連邦憲法裁判所等）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける憲法機関（連邦参議院（参議会）・連邦政府・連邦憲法裁判所等）について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	政党・財政憲法	ドイツにおける政党・財政憲法について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける政党・財政憲法について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
14	12/21	防衛憲法・宗教団体	ドイツにおける防衛憲法・宗教団体について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける防衛憲法・宗教団体について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
15	1/18	行政法総論	ドイツにおける行政法総論について学ぶ。	
		この回の到達目標	ドイツにおける行政法総論について説明できるようになる。	
		事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

科目名	外国法A(仏)Ⅰ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
外国法の勉強は、条文の解説に留まらず、それが制定された背景にある歴史、思想、社会を理解することが必要となります。本講義では、フランス法の歴史と現代フランスの基本的法構造を学習します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス法の歴史的発展過程と現代の基本的法構造についての基礎知識の習得を目的とする。これらを理解し、日本との主要な違いを説明できることを目標とします。

【履修条件】
フランスに関心があること。フランス語履修者であれば一層望ましい。

【授業方法】
講義形式。資料をポータルシステムにて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを求めます。その他、質疑応答や条文の音読を適宜求めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス法の歴史的発展過程と現代フランスの基本的法構造について理解し、説明できる。				2							
②	社会・文化・法の多様性を理解し、比較法的に考察し、意見を述べることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①について知識が身についているかを確認する。	80										80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーや質疑応答を通じ、到達目標②について評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
フランスの政治制度 [改訂版]	大山礼子	東信堂	2013	参考書	任意
フランスの事後的違憲審査制	ベルトラン・マチュー	日本評論社	2015	参考書	任意
フランス法律用語辞典[第3版]	中村 紘一他	三省堂	2012	参考書	任意
備考	これらはいずれも参考書です。授業でこれらは使用せず、配付物を使用します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、フランス法学習の意義、フランス法の歴史（序）	授業のテーマや内容、授業方法、ポータルサイトでの授業共有ファイルの配付方法、成績評価の方法を説明する。フランス法の歴史の概略を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、日仏の法制史の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。日仏の法制史の概要についてまとめる。	120分
2	第一部 水4/15	フランス法の歴史（1）古法時代	ガリア・ローマ期からカペー朝までのフランス古法時代について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの古法時代のうちガリア・ローマ期からカペー朝までのフランス法の歴史を説明できる。	
		事前学修	世界史の大枠を復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	フランス法の歴史（2）古法時代—中間法時代	絶対王政期から中間法時代への変遷を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス古法時代の終盤である絶対王政期から中間法時代にかけてどのような法的社会的変化が生じたかを説明できる。	
		事前学修	世界史の流れを復習する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
4	第一部 水4/29	フランス法の歴史（3）中間法時代	中間法時代の様々な法的変化について具体的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、中間法時代にどのような変革から近代法制度が確立したかを説明できる。	
		事前学修	世界史（特に近代史）の流れを復習する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
5	第一部 水5/6	フランス法の歴史（4）近代法時代	フランス近代の一般的歴史と法制史としての変化を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、社会の変化と共に中間法時代に確立した制度がどのように変化したかを説明できる。	
		事前学修	世界史（近代史）の流れを復習する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
6	第一部 水5/13	第五共和制憲法の構造	フランス現行憲法の成り立ち、構造、特徴を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス第五共和制憲法の成り立ち、構造、特徴を知り、日本国憲法と比較して論じることができる。	
		事前学修	資料のフランス憲法の構造を確認する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、フランス憲法と日本憲法の違いについて考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	大統領と政府	執行権を担う大統領と政府の権限と関係を憲法条文に沿って解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、大統領と政府の権限や関係について理解し、日本国憲法の行政権と比較して論じることができる。	
		事前学修	フランス憲法2章および3章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、大統領と政府の権限について考察する。日本法との違いを考える。	120分
8	第一部 水5/27	国会	国会および国会と政府の関係について憲法条文に沿って解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの国会および国会と政府の関係について理解し、日本国憲法の制度と比較して論じることができる。	
		事前学修	フランス憲法4章および5章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、国会および国会と政府の関係について考察する。日本法との違いを考える。	120分
9	第一部 水6/3	行政組織・地方自治	フランスの行政組織と地方自治について憲法条文に沿って解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの行政組織と地方自治のあり方を理解し、日本の制度と比較して論じることができる。	
		事前学修	フランス憲法12章および13章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、行政組織・地方自治について考察する。日本法との違いを考える。	120分
10	第一部 水6/10	裁判制度 (1) 司法裁判所	フランス裁判制度の概要を説明し、司法裁判制度について詳述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、裁判制度一般について日仏の異同を理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス憲法8章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、裁判制度の概要と司法裁判制度について考察する。日本法との違いを考える。	120分
11	第一部 水6/17	裁判制度 (2) 行政裁判所	フランスの行政裁判制度について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの行政裁判制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	行政裁判制度とは何かを調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、行政裁判制度について考察する。	120分
12	第一部 水6/24	裁判制度 (3) その他の裁判所	司法裁判所や行政裁判所に属さないその他の裁判制度について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、司法裁判所や行政裁判所に属さないその他の裁判所の役割や制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス憲法9章および10章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、司法・行政裁判所以外の裁判制度について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	裁判制度（4）違憲審査制の発展	フランスにおける違憲審査の発展について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスにおける違憲審査制度の位置づけや発展について理解し、日本の状況と比較して説明できる。	
		事前学修	フランス憲法7章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、憲法院および違憲審査制度について考察する。	120分
14	第一部 水7/8	憲法改正・国民投票	憲法改正と国民投票について憲法条文に沿って説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス憲法における改正手続と国民投票の制度を理解し、日本の状況と比較して説明できる。	
		事前学修	フランス憲法16章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、憲法改正・国民投票について考察する。日本法と比較して異同をまとめる。	120分
15	第一部 水7/15	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の歴史とフランス法の基礎を総体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
		事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	外国法A(仏)Ⅱ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
フランス語の法源およびフランス法の一部であり重要な関係を有する法規範（国際法・EU法）との関わりを学習します。後半は、人権保障に関する憲法判例をいくつかとりあげます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス法の法源およびフランス法と国際法・EU法との関わりについての基礎知識の習得を目的とする。フランスを取り巻く広義の法構造を説明できることを目標とする。また、フランスにおける人権保障のあり方について理解することを目的とします。

【履修条件】
外国法A（仏）Ⅰを履修済であること。あるいは既修者と同等程度にフランスの基本的法構造を理解していること。

【授業方法】
講義形式。資料をポータルシステムにて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを求めます。その他、質疑応答や条文の音読を適宜求めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス法の法源および国際法・EU法との関係、フランスにおける人権保障について理解し、説明できる。				2							
②	社会・文化・法の多様性を理解し、比較法的に考察し、意見を述べるができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①について知識が身についているかを確認する。	80										80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーや質疑応答を通じ、到達目標②につ いて評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
はじめてのEU法	庄司克宏	有斐閣	2015	参考書	任意
フランスの憲法判例I・II	フランス憲法判例研 究会	信山社	2002, 2013	参考書	任意
フランス法律用語辞典 [第3版]	中村 紘一他	三省堂	2012	参考書	任意
備考	これらはいずれも参考書です。授業でこれらは使用せず、配付物を使用します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス、法源（序）	授業のテーマや内容、授業方法、ポータルサイトでの授業共有ファイルの配付方法、成績評価の方法を説明する。フランス法の法源について概略を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、日仏の法源のあり方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。フランス法の法源についてまとめる。	120分
2	第一部 水9/23	法源（1）国内法	フランス法の国内規範について憲法条文に沿って解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の国内規範の種類と意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法の法源について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。	120分
3	第一部 水9/30	法源（2）国際法の基本	国際社会に由来するフランス法の法源を理解するために、国際法の基本について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法に関連する国際法の基礎を理解し、説明することができる。	
		事前学修	国際法の基本を調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、国際法の基礎について考察する。	120分
4	第一部 水10/7	フランス法とヨーロッパ法（1）EUの歴史：	EUの歴史とフランスがこれにどのように関与してきたかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、EUの歴史の概要とフランスの関わりを理解し、説明することができる。	
		事前学修	EUとフランスの関わりを調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、EUの歴史およびEUとフランスの関わりについて考察する。	120分
5	第一部 水10/14	フランス法とヨーロッパ法（2）EUの仕組み	特殊な国際組織であるEU内部の仕組みについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、EUの基本構造と諸機関の役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	EUの基本的構造を調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、EUの仕組みについて考察する。	120分
6	第一部 水10/21	フランス法とヨーロッパ法（3）：EUと加盟国の関係	EU法とEU加盟国の国内法の関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、EU法がフランスをはじめとする加盟国の国内法とどのような関係にあるかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	EUと加盟国との法的関係について調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、EUと加盟国の法的関係について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	フランス法とヨーロッパ法 (4) 憲法と国際規範	国際法やEU法についてフランス憲法にどのように位置づけられているかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス憲法における国際規範の位置づけを理解し、説明することができる。	
		事前学修	フランス憲法6章および15章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における国際規範の位置づけについて考察する。	120分
8	第一部 水11/11	法学教育と法曹	法や制度は法学教育や法曹のあり方とも関係している。フランスにおける法学教育や法曹について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスにおける法学教育や法曹育成のあり方を理解し、日本の状況と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の法曹について考える。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランスにおける法学教育と法曹について考察する。	120分
9	第一部 水11/18	フランス憲法における人権保障	人権宣言の意義や内容、フランス歴代憲法における人権保障について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス人権宣言の意義と内容、憲法による人権保障の発展を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第5共和国憲法前文、人権宣言、第4共和国憲法前文を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における人権保障について考察する。	120分
10	第一部 水11/25	国際人権法とフランスの人権保障との関わり	フランスの人権保障に影響を与える国際人権法について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、国際人権法がフランスにどのように関わっているかを理解し、日本の状況と比較して説明することができる。	
		事前学修	国際人権法の基本を調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、国際人権法とフランスの人権保障の関係について考察する。	120分
11	第一部 水12/2	人権に関する憲法判例(1) 平等	フランスにおける平等概念とこれに関する憲法院判例、法的発展について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスにおける平等概念とこれに関する法的問題や発展を理解し、日本法と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本憲法における平等について復習しておく。フランス憲法の平等規定を探す。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における平等について考察する。日仏の異同をまとめる。	120分
12	第一部 水12/9	人権に関する憲法判例(2) 思想・良心・信教の自由	フランスにおける思想・良心・信教の自由について、その概念と関連する憲法院判例等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスにおける思想・良心・信教の自由について理解し、日本法と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本国憲法における思想・良心の自由および信教の自由について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における思想・良心・宗教の自由について考察する。日仏の異同をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	人権に関する憲法判例(3)表現の自由	フランスにおける表現の自由について、その概念と関連する憲法院判例について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスにおける表現の自由について理解し、日本法と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本国憲法における表現の自由について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における表現の自由について考察する。日仏の異同をまとめる。	120分
14	第一部 水12/23	人権に関する憲法判例(4)環境憲章	環境憲章の意義、内容、関連する憲法院判例について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、環境憲章の意義と内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	環境憲章を読む。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、環境憲章における権利義務について考察する。	120分
15	第一部 水1/13	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の国内的・国際的法源と人権保障のあり方について総体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
		事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	外国法B(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
中国文化圏における台湾（中華民国）、香港、マカオの法制度及び実定法について講義する。台湾法については日本法との関連において、香港法については英国法との関連において、マカオ法についてはポルトガル法との関連において論及する。更に、それらの地域の住民と中華人民共和国本地居民との間における交流についても、随時、解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる台湾法、香港法、マカオ法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる台湾、香港、マカオに関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される台湾法及びマカオ法、そして、英米法系に分類される香港法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したレジュメ（台湾法、香港法、マカオ法の主要法規の概要）に基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における台湾法の位置づけについて説明することができる。				3	3	3			3		
②	台湾法と日本法の異同について説明することができる。				3	3	3			3		
③	台湾法が準拠法となった際に、当該法を調査し、適用することを説明することができる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内小テストにより、到達目標①②③に関わる内容に関する知識が身に付いているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	台湾法に関する総合的な知識を駆使し、多角な視点から、当該法について理解を深めているかを確認する。	20	20	30								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし		なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取る）教場にて行う。メールアドレス jozusei@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	土4/4	ガイダンス、導入授業	前期のガイダンス。講義の進め方、配布資料、期末レポート等について説明する。	
		この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	土4/11	中華民国法の歴史	中華民国法の歴史について解説する。	
		この回の到達目標	中華民国法の歴史を説明できること。	
		事前学修	中華民国法の歴史のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国法の歴史のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	土4/18	中華民国の法的地位	中華民国の法的地位について解説する。	
		この回の到達目標	中華民国の法的地位を説明できること。	
		事前学修	中華民国の法的地位のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国の法的地位のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	土4/25	中華民国憲法	中華民国憲法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国憲法を説明できること。	
		事前学修	中華民国憲法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国憲法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	土5/2	中華民国行政法	中華民国行政法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国行政法を説明できること。	
		事前学修	中華民国行政法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国行政法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	土5/9	中華民国刑事法	中華民国刑事法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国刑事法を説明できること。	
		事前学修	中華民国刑事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国刑事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	±5/16	中華民国財産法	中華民国財産法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国財産法を説明できること。	
		事前学修	中華民国財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	±5/23	中華民国家族法	中華民国家族法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国家族法を説明できること。	
		事前学修	中華民国家族法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	±5/30	中華民国商事法	中華民国商事法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国商事法を説明できること。	
		事前学修	中華民国商事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国商事法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	±6/6	中華民国労働法	中華民国労働法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国労働法を説明できること。	
		事前学修	中華民国労働法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国労働法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	±6/13	中華民国知的財産法	中華民国知的財産法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国知的財産法を説明できること。	
		事前学修	中華民国知的財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国知的財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	±6/20	中華民国国際私法	中華民国国際私法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国国際私法を説明できること。	
		事前学修	中華民国国際私法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国国際私法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	土6/27	中華民国環境法	中華民国環境法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国環境法を説明できること。	
		事前学修	中華民国環境法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国環境法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	土7/4	中華民国の紛争解決方法	中華民国の紛争解決方法について解説する	
		この回の到達目標	中華民国の紛争解決方法を説明できること。	
		事前学修	中華民国の紛争解決方法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	中華民国の紛争解決方法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	土7/11	前期のまとめ	前期のまとめ	
		この回の到達目標	前期の学習内容を説明できること。	
		事前学修	前期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法B(アジア)Ⅱ	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
中国文化圏における台湾（中華民国）、香港、マカオの法制度及び実定法について講義する。台湾法については日本法との関連において、香港法については英国法との関連において、マカオ法についてはポルトガル法との関連において論及する。更に、それらの地域の住民と中華人民共和国本地居民との間における交流についても、随時、解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる台湾法、香港法、マカオ法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる台湾、香港、マカオに関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される台湾法及びマカオ法、そして、英米法系に分類される香港法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したレジュメ（台湾法、香港法、マカオ法の主要法規の概要）に基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における香港法、マカオ法の位置づけについて説明することができる。					3					3		
②	香港法、マカオ法と日本法の異同について説明することができる。					3					3		
③	香港法、マカオ法が準拠法となった際に、当該法を調査し、適用することを説明することができる。					3					3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内小テストにより、到達目標①②③に関わる内容に関する知識が身に付いているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	香港法、マカオ法に関する総合的な知識を駆使し、多角な視点から、当該法について理解を深めているかを確認する。	20	20	30								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし		なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） 教場にて行う。メールアドレス jozusei@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	±9/19	ガイダンス、導入授業	後期のガイダンス。講義の進め方、配布資料、期末レポート等について解説する。	
		この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
		事前学修	授業の復習を行っておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	±9/26	香港法総説	香港法総説	
		この回の到達目標	香港法総説を説明できること。	
		事前学修	香港法総説のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	±10/3	香港の憲法性法律	香港の憲法性法律について解説する	
		この回の到達目標	香港の憲法性法律を説明できること。	
		事前学修	香港の憲法性法律のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港の憲法性法律のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	±10/10	香港行政法	香港行政法について解説する	
		この回の到達目標	香港行政法を説明できること。	
		事前学修	香港行政法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港行政法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	±10/17	香港刑事法	香港刑事法について解説する	
		この回の到達目標	香港刑事法を説明できること。	
		事前学修	香港刑事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港刑事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	±10/24	香港財産法	香港財産法について解説する	
		この回の到達目標	香港財産法を説明できること。	
		事前学修	香港財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	土10/31	香港家族法	香港家族法について解説する	
		この回の到達目標	香港家族法を説明できること。	
		事前学修	香港家族法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	土11/7	香港企業法	香港企業法について解説する	
		この回の到達目標	香港企業法を説明できること。	
		事前学修	香港企業法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	香港企業法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	土11/14	マカオ法総説	マカオ法総説	
		この回の到達目標	マカオ法総説を説明できること。	
		事前学修	マカオ法総説のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	マカオ法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	土11/21	マカオ民法総説	マカオ民法総説	
		この回の到達目標	マカオ民法総説を説明できること。	
		事前学修	マカオ民法総説のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	マカオ民法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	土11/28	マカオ債権法	マカオ債権法について解説する	
		この回の到達目標	マカオ債権法を説明できること。	
		事前学修	マカオ債権法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	マカオ債権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	土12/5	マカオ物権法	マカオ物権法について解説する	
		この回の到達目標	マカオ物権法を説明できること。	
		事前学修	マカオ物権法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	マカオ物権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	土12/12	マカオ家族法	マカオ家族法について解説する	
		この回の到達目標	マカオ家族法を説明できること。	
		事前学修	マカオ家族法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	マカオ家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	土12/19	マカオ商事法	マカオ商事法について解説する	
		この回の到達目標	マカオ商事法を説明できること。	
		事前学修	マカオ商事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	マカオ商事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	土12/26	後期のまとめ	後期のまとめ	
		この回の到達目標	後期の学習内容を説明できること。	
		事前学修	後期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
		事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法B(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法において、物・人・サービスの自由移動に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	超国家的な法秩序を構成するEUにおける単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）の意義について理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3			3		
②	超国家的な法秩序を構成するEUの単一市場における競争法の意義について理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3			3		
③	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					3	3	3			3		
④	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】					3	3	3			3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験(教科書2冊、ハンドアウト、ノート持込可)により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法政策篇	庄司克宏	岩波書店	2014年	教科書	必携
欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏	岩波書店	2016年10月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	EUの仕事、制度、拡大と深化	EUの基礎知識（一）EUの仕事、制度、拡大と深化 （１）EUはどのような仕事を行っているか。誰によりどのように運営されているか。 （２）EUはどのように拡大してきたか。どこまで拡大するのか。脱退はあるか。 （３）EUの深化にはどのような限界があるか。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの仕事、制度、拡大と深化について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第１～３章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	4月14日	EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟	EUの基礎知識（二）EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟 （１）域内市場の統治モデルとしての市場統合アプローチにはどのようなものがあるか。 （２）EU司法裁判所は、加盟国の社会的価値や文化的多様性に対して、どのように配慮しているか。 （３）EU市民権はどのように保護されているか。 （４）経済通貨同盟における金融政策と財政政策は、どのような意味で非対称的か。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第４～７章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	4月21日	EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係	EUの基礎知識（三）EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係 （１）EUはどのような意味で規範形成力行使しているか。 （２）EUはどのようにして安全保障上の役割を果たしているか。 （３）EUは東アジアのモデルとなるか。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第８～１０章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	4月28日	域内市場（単一市場）総論	域内市場（単一市場）総論 物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場について概観し、複数の国家が単一の市場を形成するには何が必要なのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場の基本事項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』序章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第４章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	5月5日	関税・課徴金の廃止（EU機能条約第３０条）	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（一） 物の自由移動のうち関税・課徴金の廃止（EU機能条約第３０条）について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、関税・課徴金の廃止について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第２章１～３節を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	5月12日	差別的内国税の禁止（EU機能条約第１１０条）	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（二） 物自由移動のうち差別的内国税の禁止（EU機能条約第１１０条）について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、差別的内国税の禁止について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第２章１～３節を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）と差別的 内国税の禁止（EU機能条約 第110条）の関係	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（三） 関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）と差別的 内国税の禁止（EU機能条約第110条）の 関係について解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～④に関連して、関税・課徴金の廃止と差別的 内国税の禁止の関係について理解し、説明すること、ま た、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章1～3節を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	5月26日	数量制限と同等の効果を有 する措置の禁止（EU機能条 約第34－36条）	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（一） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約 第34－36条）について、定義および明文の適用除外関連する判例を取り上げながら解説を行 う。	
		この回の 到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止の定義および明文の適用除外について理解 し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	6月2日	相互承認と「不可避的要 請」	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（二） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約 第34－36条）について、相互承認と「不可避的要請」に関連する判例を取り上げながら解説 を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止における相互承認と「不可避的要請」につ いて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	6月9日	「一定の販売取り決め」お よび市場アクセス・アプ ローチ	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（三） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約 第34－36条）について、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テスト、「一定の販売取り決 め」および市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止におけるデ・ミニミス・ルールの排除、遠 隔度テスト、「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチについて理解し、説明すること、また、自 己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	6月16日	物の自由移動と知的財産権	物の自由移動（知的財産権との関係）（四） 国内法の所産としての知的財産権はEU域内市場における物の自由移動を制限する方向に働くが、 EU司法裁判所はどのようにして両者の調和を図っているかについて権利消尽理論に焦点を当て、 特許、商標、著作権に関する判例を取り上げながら説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～④に関連して、物の自由移動と知的財産権との関係について理解し、説明すること、また、自己の見 解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章5節を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	6月23日	人の自由移動の範囲と明文 の適用除外	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（一） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、その範囲およ び明文の適用除外関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動の範囲および明文の適用除外について理解し、説明すること、また、自 己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	人の自由移動と資格同等性原則	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（二） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、相互承認と「公益上不可欠の理由」および資格同等性原則に関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動における相互承認、「公益上不可欠の理由」および資格同等性原則について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	7月7日	人の自由移動における市場アクセス・アプローチ	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（三） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動におけるデ・ミニミス・ルールの排除、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	7月14日	総括と質疑	総括と質疑	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまで学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。	120分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法B(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法のうち、資本の自由移動および競争法全般について理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	超国家的な法秩序を構成するEUにおける単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）の意義について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3			3		
②	超国家的な法秩序を構成するEUの単一市場における競争法の意義について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3			3		
③	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						3	3	3			3		
④	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】						3	3	3			3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験（教科書2冊、ハンドアウト、ノート持込可）により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法政策篇	庄司克宏	岩波書店	2014年	教科書	必携
欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏	岩波書店	2016年10月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	EUの基礎知識の再確認	EUの基礎知識の再確認	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』の内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体を再読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
2	9月22日	資本の自由移動	資本の自由移動 資本の自由移動について他の自由移動との相違を踏まえながら、その範囲および適用除外について判例の動向とともに解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本の自由移動について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第4章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
3	9月29日	EU競争法の枠組みおよび目的	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（一） EU競争法の枠組みおよび目的について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の枠組みおよび目的について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
4	10月6日	EU競争法の遵守確保（1）	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（二） EU競争法の遵守確保（enforcement）について定める規則1/2003に関して解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の遵守確保（enforcement）について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
5	10月13日	EU競争法の遵守確保（2）	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（三） EU競争法の遵守確保（enforcement）におけるコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係に関して解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の遵守確保（enforcement）におけるコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
6	10月20日	EU機能条約第101条（1）	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（一） EU機能条約第101条の解説を行う。まず第101条1項について、事業者、協定および協調的行為、「目的又は効果」、デ・ミニミス・ルール等の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条1項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	EU機能条約第101条（2）	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（二） EU機能条約第101条3項の適用除外について、排他的流通や選択的流通などの垂直的制限に関する一括適用除外なども素材として使用しながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条3項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
8	11月10日	EU機能条約第101条の域外適用	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（三） EU機能条約第101条の域外適用の問題について取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条の域外適用について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
9	11月17日	EU機能条約第102条（1）	EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（一） EU機能条約第102条における支配的地位の有無に関し、産品市場および地理的市場、市場占有率および参入障壁について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第102条における支配的地位の有無について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
10	11月24日	EU機能条約第102条（2）	EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（二） EU機能条約第102条における支配的地位の濫用の態様について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第102条における支配的地位の濫用について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
11	12月1日	EU合併規則	EU競争法（合併規則）（三） EU合併規則の背景、合併規則におけるEUの管轄、手続および実体的審査について、それぞれ解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU合併規則について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第9章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
12	12月8日	EU競争法と公共サービス	EU競争法（EU競争法と公共サービス）（四） まずEU法における市場と国家の関係について述べた後、公の事業者等に対するEU競争法の適用の問題、国家援助規制と公共サービスの関係、一般的経済利益を有するサービスの順に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法における市場と国家の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第10章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	EU市民権	EU市民権（一） 経済活動に従事していなくとも加盟国国民のEU市民権という基本的地位に基づいて、移動・居住することが可能となっていることについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU市民権の地位について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
14	12月22日	EU市民権と自由移動	EU市民権（二） EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法の発展について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	80分
15	1月12日	総括と質疑	総括と質疑	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでに学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
		事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。	80分
		事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	80分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはIIを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	
備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	英米契約法総論Ⅰ	(1) 日本法との比較 (2) 英米契約法の法源とその補充的相関関係	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しコモンローにおける契約法の法源の種類が複数ありそれらが相関関係にあることを説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて自分の考えをノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
2	4/15	英米契約法総論Ⅱ	(1) コモンローとエクイティー (2) 契約の定義 (3) 契約の成立要件	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しコモンローとエクイティーの二重構造と契約の定義と成立要件を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
3	4/22	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) Ⅰ	(1) 申込の定義 (2) 申込の要件 (3) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し申込に関する判例・事案をとおしてその定義と要件を確認し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
4	4/29	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) Ⅱ	(1) 申込撤回自由の原則 (2) オプション契約 (3) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し日本法にはない申込撤回自由の原則を判例・事案をとおして説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
5	5/6	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) Ⅰ	(1) 承諾の定義 (2) 承諾の要件 (3) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカの法源下における承諾の効果を判例・事案をとおして確認し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
6	5/13	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) Ⅱ	(1) ミラーイメーজルール (mirror image rule) (2) 書式の戦い (battle of the forms) (3) メールボックスルール (mailbox rule) (4) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、ミラーイメージルールを否定するアメリカ合衆国統一商法典2-207条に関する判例・事案を分析し書式の戦い問題を認識し説明できるようになる。また、国連物品売買条約とアメリカ契約法との関係も理解し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	：契約の成立要件：約因 (consideration) I	(1) 約因の定義 (2) 約因の法理 (sufficient considerationその他)	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおして理解し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
8	5/27	契約の成立要件：約因 (consideration) II	(1) 約因の法理 (past considerationその他) (2) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、past considerationの法理やコモンロー上の約因法理の例外について説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
9	6/3	契約の成立要件：約因 (consideration) III	(1) 約因の法理 (right of contributionその他) (2) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、アメリカの不法行為法上の古い法理である寄与過失の法理と約因との関係を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
10	6/10	契約の成立要件：約因 (consideration) IV	(1) 約因の法理 (time element, accord and satisfactionその他) (2) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、代物弁済と約因の関係また契約締結後の時間の経過による約因への影響について理解し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
11	6/17	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) I	(1) 捺印証書 (sealed instrument) (2) 約束的禁反言 (promissory estoppel) (3) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、エクイティー上の約因の代替についてコモンローと比較して位置づけ説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
12	6/24	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) II	(1) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、判例・事案をとおして、約因の代替に関する最近の判例の動向を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめる。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation)	(1) 契約締結能力 (capacity) の欠如 (2) 違法性 (illegality) (3) 強迫 (duress) (4) 良心性 (Unconscionability)	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、コモンロー上の契約成立に対する抗弁に関する知識を高め、判例・事案をとおして整理し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
14	7/8	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できるようになる。	
		事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する 準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える (1時間)	120分
15	7/15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
		この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
		事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめる。	60分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
アメリカのビジネス法に関心があり、積極的に勉強する意欲があること

【授業方法】
事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明したのち、判例をベースにディスカッションを行う。 適宜英文資料を配布する。定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては採点済み答案を返却し正答を解説する。 期末試験については解説・講評を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アメリカ法判例百選	樋口範雄他編	有斐閣	2012年		必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談は、以下のメール・アドレスに。「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	ガイダンス・導入講義	講義の進め方および授業目的； アメリカ・ビジネス法が大陸法系と如何に異なるか	
		この回の到達目標	英米法の特徴を具体的に列挙し、大陸法との差異を検証する	
	第二部 水4/8	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	英米型と大陸型の相異を自分なりに整理しておく	120分
2	第一部 水 4/15	アメリカ・ビジネス法の概要；	アメリカでビジネスを行う上で関係するビジネス法の概観	
		この回の到達目標	アメリカ・ビジネス法の全体像を理解する	
	第二部 水 4/15	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
3	第一部 水 4/22	契約法①	契約法の成立、概要；英米契約法が歴史的にどのように成立したか、およびその特徴	
		この回の到達目標	英米私法の基本である契約法についてその本質を理解する	
	第二部 水 4/22	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
4	第一部 水 4/29	契約法②	約因の理論；英米契約法の主要概念である約因の意味と役割	
		この回の到達目標	契約法の核心である約因とは何かを正確に把握する	
	第二部 水 4/29	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 9 4，同# 9 5を予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
5	第一部 水 5/6	契約法③	契約の成立と抗弁自由；申込と承諾、抗弁自由	
		この回の到達目標	契約関係の始まりおよび抗弁事由について理解する	
	第二部 水 5/6	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 9 3を予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
6	第一部 水 5/13	契約法④	契約の終結と救済；契約終結の事由、契約が履行されない場合の救済、損害賠償の範囲	
		この回の到達目標	契約の終結事由、および目的が達成できない場合の救済方法について理解する	
	第二部 水 5/13	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 0 1、# 1 0 2、# 1 0 3を予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	統一商事法典	契約法の特別法ともいえる統一商事法典の概要、要点を把握する	
		この回の到達目標	契約法の補完としての統一商事法典について概要を把握する	
	第二部 水 5/20	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
8	第一部 水 5/27	会社法①	事業形態―会社とパートナーシップ；事業を始める時にどの形態を選ぶか、その利害得失	
		この回の到達目標	事業を始める際の法的形態について論点を把握する	
	第二部 水 5/27	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
9	第一部 水 6/3	会社法②	会社の設立、運営；会社の設立手続、会社の機関（取締役会、役員、従業員、株主）	
		この回の到達目標	会社の設立および機関について理解する	
	第二部 水 6/3	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
10	第一部 水 6/10	会社法③	取締役の役割と責任；経営陣との関係、フィデュシャリー・デューティ	
		この回の到達目標	会社の機関の内でもっと重要な取締役会の機能、責任について理解する	
	第二部 水 6/10	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
11	第一部 水 6/17	会社法④	取締役会の経営判断原則：取締役会は主要な経営判断につき株主の同意を得ないでどこまで独自に判断できるか	
		この回の到達目標	取締役会の経営判断原則について判例をベースに理解を深める	
	第二部 水 6/17	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 118、# 119、# 120を予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
12	第一部 水 6/24	民事訴訟と陪審	トラブル発生時の救済方法、訴訟手続	
		この回の到達目標	ビジネスにおいて紛争が発生した場合の解決方法について理解する	
	第二部 水 6/24	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 71、Matsushita Electric v. Zenithを予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7/1	連邦証券取引法	州法である会社法に対し、「連邦会社法」とも言える証券取引法の概要	
		この回の到達目標	会社法の補完としての証券取引法の概要について理解する	
	第二部 水 7/1	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選 # 1 2 1、# 1 2 2 を予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
14	第一部 水 7/8	独占禁止法	アメリカで独自の発展を遂げた独占禁止法の概要	
		この回の到達目標	アメリカで企業活動を行う上で重要な独占禁止法について理解する	
	第二部 水 7/8	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選 # 124 を予習	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
15	第一部 水 7/15	総括	まとめと期末試験	
		この回の到達目標	アメリカ・ビジネス法の特徴について総括する	
	第二部 水 7/15	事前学修	これまでに学習した判例、レジメを読み返し、要点疑問点を抽出しアメリカ・ビジネス法のまとめを作成する	120分
		事後学修	期末試験の内容につきポータルサイトで配信する解説を参照して検証、復習する	120分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはII又は外国法B（英米）Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	推奨
					任意
備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	アメリカ契約法の法源と大陸法との比較	アメリカの契約法の法源を大陸法のそれとの比較において学修する。	
		この回の到達目標	配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	9/23	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) I	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (2) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、イギリス法と日本法との比較においてアメリカ契約法における詐欺防止法の法的争点と法理を認識・説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	9/30	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) II	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (前回から続く) (2) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、アメリカの詐欺防止法に関する法的争点と法理をより深く理解し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	10/7	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) III	(1) 詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行 (part performance) の法理 (2) 詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言 (estoppel) の法理 (3) 詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し詐欺防止法の適用が除外される場合を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	10/14	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) I	(1) パロールエヴィデンスルール (2) パロールエヴィデンスルールの例外 (ambiguous termsその他)	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し日本法にはないパロールエヴィデンスルールの法的争点と法理を確認し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	10/21	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) II	(1) パロールエヴィデンスルールの例外 (lack of considerationその他) (2) 判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、パロールエヴィデンスルールの例外に関する法的争点と法理を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	履行：条件（condition）Ⅰ	（１）条件の種類と立証責任（２）条件と契約不履行の関係（３）約束と契約不履行の関係	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、約束との違いを念頭に条件に関する法的争点と法理を認識し説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	11/11	履行：条件（condition）Ⅱ	（１）条件的約束（２）判例・事案研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、どのようなときに条件が約束となるのかについて事案と判例をあげて説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	11/18	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ	テーマ：履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ （１）契約不履行の有無の判断基準である実質的履行（substantial performance）の法理（コモンロー）（２）完全履行の法理（perfect tender rule）（UCC）（３）判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の履行の基準とアメリカ統一商法典上のそれとの相違を認識し、事案と判例をとおして各法源の下での履行に関する法的争点と法理を整理して説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	11/25	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅱ	（１）契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶（anticipatory repudiation）（２）判例・事例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修し理解しコモンローに特有の履行気前の履行拒絶に関する法的争点と法理を事案と判例をとおして日本法との比較において説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	12/2	救済：類型と範囲Ⅰ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）（２）エクイティー上の特定履行（specific performance）（３）エクイティー上の差止命令（injunction）	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンローとエクイティー上の救済について、法的争点と法理を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	12/9	救済：類型と範囲Ⅱ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）に関する事案・判例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の損害賠償の種類に関する英米法の専門用語を認識し日本語で説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	救済：類型と範囲 III	(1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差 止命令 (injunction) に関する事案・判例研究	
		この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の救済との比較において、エクイティー上の救済を獲得するための要件がどのような点でより厳格であるかを認識し、いずれの救済がどのような場合に適切であるのかを説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	12/23	Q&Aセッション	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できるようになる。	
		事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する 準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	1/13	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
		この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
		事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
		事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
アメリカのビジネス法に関心があり、積極的に勉強する意欲があること

【授業方法】
事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明した後、判例をベースにディスカッションを行う。 適宜、英文資料を配布する。 定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては採点済み答案を返却し正答を解説する。 期末試験については解説・講評を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アメリカ法判例百選	樋口範雄他編	有斐閣	2012年		必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談は、以下のメール・アドレスに。「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 9/16	コモン・ローとエクイティ	英米法の別名であるコモン・ローとその例外としてのエクイティの理解	
		この回の到達目標	信託の元となったエクイティの本質を理解する	
	第二部 水 9/16	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
2	第一部 水 9/23	英米不動産法の特徴と歴史	所有権というより「占有権」的な概念	
		この回の到達目標	封建制の歴史を引きずる英米不動産法の特徴を理解する	
	第二部 水 9/23	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
3	第一部 水 9/30	現在のイギリス不動産法	1925年不動産法の概要	
		この回の到達目標	1925年法改正によりアメリカより進んだイギリス不動産法の概要を把握する	
	第二部 水 9/30	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
4	第一部 水 10/7	現在のアメリカ不動産法	不動産取引のプロセス、登記制度の未発達	
		この回の到達目標	現在のアメリカ不動産法の概要を把握する	
	第二部 水 10/7	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 0 5を予習する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
5	第一部 水 10/14	信託法の起源と現在のアメリカ信託法	信託の旧名は「ユース」、英米の不動産法体系を浸食	
		この回の到達目標	信託法の起源と現在のアメリカ信託法の概要を理解する	
	第二部 水 10/14	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 0 7、# 1 0 8	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
6	第一部 水 10/21	譲渡抵当と信託	信託概念の担保権への応用	
		この回の到達目標	信託の担保物権への応用である譲渡抵当について理解する	
	第二部 水 10/21	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 10/28	信託と法人	法人格を得られない場合の団体を信託形式で設立	
		この回の到達目標	英米において発展した「団体」としての信託を理解する	
	第二部 水 10/28	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
8	第一部 水 11/11	本邦信託法の概要	大陸法系の上での信託法の発展、現在の「信託法」の特徴	
		この回の到達目標	英米法固有の概念である信託が本邦にいかに移入されたかを把握する	
	第二部 水 11/11	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
9	第一部 水 11/18	フィデュシャリー・デューティ	信託概念の応用、身分から契約へ、契約から信託へ	
		この回の到達目標	現在において重要な、信託の応用概念であるフィデュシャリー・デューティについて理解する	
	第二部 水 11/18	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 1 1を予習する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
10	第一部 水 11/25	コーポレート・ガバナンス	誰が誰を統治するのか 日本の定義との相違	
		この回の到達目標	英米型のコーポレート・ガバナンスの本質について理解する	
	第二部 水 11/25	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
11	第一部 水 12/2	知的財産法	特許権、著作権、商標権の概要	
		この回の到達目標	アメリカ知的財産法の概要を把握する	
	第二部 水 12/2	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
12	第一部 水 12/9	英文契約書の読み方	英文契約書の構成、表現	
		この回の到達目標	アメリカ・ビジネス法の実践として契約書の読み方のキーポイントを把握する	
	第二部 水 12/9	事前学修	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 水 12/16	企業買収と会社法		ユノカル基準とレブロン基準
		この回の到達目標	会社法が実際に問題となる企業買収の代表的判例を検証する	
	第二部 水 12/16	事前学修	アメリカ法判例百選＃119、120を予習する	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
14	第一部 水 12/23	英文契約書演習		M&A（企業買収）契約書演習
		この回の到達目標	実際の企業買収契約書を教材にして、その構成、問題点を理解する	
	第二部 水 12/23	事前学修	事前に配布するM\$A契約書をできるだけ予習し授業に臨む	120分
		事後学修	授業内容、レジメのポイントの整理	120分
15	第一部 水 1/13	総括		まとめと期末試験
		この回の到達目標	コモン・ローー不動産法―信託法―フィデュシャリー―コーポレート・ガバナンスというアメリカ・ビジネス法の基本的な流れを理解する	
	第二部 水 1/13	事前学修	今学期に学習した判例、レジメを読み返し疑問点を抽出し、まとめを作成する	120分
		事後学修	期末試験の内容につきポータルサイトで配信する解説を参照して検証、復習する	120分

科目名	外国法B(独)Ⅰ	担当者	難波 岳穂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法B（独）では、このうちドイツ私法（民法・家族法・民事訴訟法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの私法（民法・家族法・民事訴訟法）に関する解釈論を修得し、またドイツ私法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ私法学理解を目指す。とりわけ、家族法の領域で中心的な役割を果たす「Lebensgemeinschaft」論を中心とした議論を紹介し、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
特になし。板書で説明を行う際にドイツ語を表記するので、受講生はドイツ語の辞書を持参してもらうことをすすめる。辞書を持ち込むことが叶わない場合を考慮し、必要に応じて日本語訳でも解説するので心配せず参加して欲しい。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、ミニレポートの講評も適宜採り入れ、受講生の理解度に配慮しつつ講義を行う。講義ごとにレジュメおよび配布資料等（ドイツ連邦憲法裁判所の判例ないしコメンタール、ドイツの新聞記事等）を準備する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目以降、各講義の中で受講生が関心を寄せた内容や概念定義に関する解釈が暫定的と判断できる場合には、特に講義内でディスカッションを行う。その際は、ミニレポートの作成と提出を求める場合もある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ私法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の私法理解にも活かすことができる。					2							
②	ドイツの私法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。					2							
③	ドイツ私法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ私法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等	ミニレポートの提出，完成度などを総合的に評価する。			15								15
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			15								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義及びミニレポートで受講生が述べた質問等の他、各課題に対する講評については、適宜講義内で行うか、又はメール等1で回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
調査資料2017－2平成28年度国際政策セミナー報告書：「家族のダイバーシティーヨーロッパの経験から考える」	国会図書館調査及び立法考査局	国会図書館	平成28年度	その他	必携
ドイツ法入門〔改訂版第9版〕	村上淳一ほか	有斐閣	平成30年	教科書	必携
ドイツの憲法判例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	ドイツ憲法判例研究会編	信山社	平成30年他	参考書	必携
				その他	
備考	「国会図書館調査資料2017－2」はインターネットより閲覧可能。 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1				

【オフィスアワー】
木曜日10：40～12：10事前にメール等で連絡すること。※なお、講義内容に関する質問等については、メールにても対応する予定である。 nanba.takeho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス 【Willkommen in Deutschland !】	①講義内容の説明、資料等の取扱い、レポート等の書き方など。 ②戸田典子「すべての人のための婚姻―同性婚法施行」論究ジュリスト23号[2017年]他。	
		この回の到達目標	受講生が身近に感じるドイツ連邦共和国（Deutschland）の知識やイメージを確認し、ドイツ連邦共和国を再発見しよう！	
		事前学修	ドイツ連邦共和国について各受講生が知っている事柄（ニュース、歴史、音楽等）について説明できるようにしておくことが望ましい。	120分
		事後学修	配布資料をよく読み、「ドイツと日本の婚姻制度の差異と類似点」について各自ミニレポートを作成する。	120分
2	第一部 水4/15	ヴァイマル憲法期と基本法の男女の権利	第1回目の事後学習で作成したミニレポートの見解を基にし、基本権3条・6条等との関係を中心に憲法上の権利へと至った婚姻制度について理解する。	
		この回の到達目標	婚姻制度（Ehe）の改革状況を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	配布資料をよく読み、ヴァイマル憲法と基本権（Grundgesetz）それぞれの婚姻制度の差異と類似点についてミニレポートを作成する。	120分
3	第一部 水4/22	ドイツ基本法の男女同権	第1回目と第2回目の事後学習で作成したミニレポートを基にし、基本権1条・2条・3条・6条等との関係を中心に憲法上の権利へと変遷した離婚・婚姻制度について理解する。	
		この回の到達目標	憲法上の権利としての離婚・婚姻制度を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用する等。	120分
4	第一部 水4/29	ドイツ家族法制改革の概要（1）	離婚に関する苛酷条項と婚姻・家族の特別の保護 有澤知子「期限付き苛酷条項違憲決定」[1980年]〔ド憲判Ⅰ〕他	
		この回の到達目標	離婚・婚姻制度の大改革について理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	1957年施行の男女同権法の影響に鑑みて、第4回目の論点を整理すること。 例えば、法学部図書館の他、国会図書館を利用し男女同権の歴史に関して検討することも望ましい。	120分
5	第一部 水5/6	ドイツ家族法制改革の概要（2）	ドイツ民法典（BGB）とヴァイマル憲法の理念を共に継承する基本法が、どのようにして子どもを「親の権利」から解放したのかについて検討する。	
		この回の到達目標	親子関係法の大改革を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
6	第一部 水5/13	所得税法と憲法上の家族（Familie）	小林博志「婚姻・家族の特別の保護と夫婦合算課税違憲判決」[1957年]〔ド憲判Ⅰ〕他	
		この回の到達目標	「婚姻家族」と「単身家族」の平等化を検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	特に、第4回目の講義内容と「事後学習」で推奨した男女同権法に関する検討と並行して第6回目の議論を復習する。例えば、インターネットによる検索の他、法学部図書館と国会図書館の利用をすることも望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	妊娠中絶の自由化と自己決定権	嶋崎健太郎「胎児の生命権と妊婦の自己決定権―第一次堕胎判決―」[1975年]〔ド憲判Ⅰ〕他、『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』の266-273頁の「刑法の基本原則と正義の貫徹との緊張関係」・「現代社会における正義」を採り上げる。	
		この回の到達目標	「胎児の生命権」とは、妊婦の中絶権を超える保護の対象となり得るのか!?	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	日本の場合、胎児の生命保護の観点はどうに考えられているのか、という問題についてミニレポートを作成しておくことが望ましい。そのために、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
8	第一部 水5/27	Gender Gapと両性の実質的平等 (1)	光田督良「家事労働日州法違憲決定」[1979年]〔ド憲判Ⅰ〕他	
		この回の到達目標	両性の労働共生と労働共働に着目して「両性の実質的平等」について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	特に、性差別（Gender Gap）に基づくBVerfGの判断枠組みとの関係で、第8回目の「家事労働日州法違憲決定」も重要な判例である故、基本法3条に関するBVerfGの理論を理解するためにも第8回目の内容をよく理解すること。	120分
9	第一部 水6/3	Gender Gapと両性の実質的平等 (2)	第8回目に続き、BVerfGの判例が示した男女同権法の影響とその軌跡について、古野豊秋「夫婦財産契約における契約の自由とその限界―扶養請求権放棄契約事件―」[2001年]〔ド憲判Ⅲ〕」を採りあげて確認する。	
		この回の到達目標	男女同権法の趣旨を踏まえて離婚・婚姻法について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、第9回目の判例をよく読み、関連する内容について学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索して理解を深めることが望ましい。	120分
		事後学修	第8回目と第9回目の内容を横断的に理解し、BVerfGが説く「両性の実質的平等」を保障するための理論を理解し、各自が最も良い方法でミニレポートを作成することが望ましい。例えば、インターネットの検索の他、法学部図書館や国会図書館の利用もすすめる。	120分
10	第一部 水6/10	1990年代までの子どもの福利 (Kindeswohl)	①ディータ・ヘンリッヒ著＝田村五郎他訳「扶養法に関するドイツ裁判所の判例―不明確な法概念の充足の試み―」『ドイツ現代家族法』[1993年]を読み扶養法改革を理解をする。②2019年に施行した「Das Gute-Kita-Gesetz」に規定する「未就学児の養育費負担の平等化」を理解する。	
		この回の到達目標	子どもの養育費と子どもの福利 (Kindeswohl) に関する基礎的理解を深めよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	第10回目で考察した②ドイツの「未就学児の養育費負担の平等化」の方針や政策についてミニレポートを作成することが望ましい。例えば、日本の状況との比較をするために、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
11	第一部 水6/17	子どもの養育費と国家による家族の特別の保護	第10回目に引き続いて「Das Gute-Kita-Gesetz」の改革内容を検討する。第11回目では「社会保障費算定における教育費の考慮」に関する浮田徹「家族介護判決 (Familien - Pflegeurteil)」[2001年]〔ド憲判Ⅲ〕との比較により、社会保障における「家族の特別の保護」に関するBVerfGの判断枠組みについて検討する。	
		この回の到達目標	社会保障上の「国家による家族の特別の保護」について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（177、188頁）の「親による保護」	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
12	第一部 水6/24	夫婦同氏原則と両性の実質的平等	山下威士「婚氏未決定の場合における夫の出生氏の優先適用規定の違憲性―婚氏 (Ehenamen) 事件―」[1991年]〔ド憲判Ⅱ〕と新村とわ「再婚時の「夫婦氏」の選択の制限」[2004]〔ド憲判Ⅲ〕の二つのBVerfGの判例を採りあげる。	
		この回の到達目標	これまでの講義の復習と並行し1990年、1998年、2005年の法改正による影響を確認し、基本法2条1項との関係から基本法3条に基づく「両性の実質的平等」を検討しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	国際家族法を舞台にする二つの事案	①古野豊秋「国籍の異なる両親と子供の国籍—国籍事件—」[1974年]〔ド憲判Ⅰ〕の他、「Kindeswohl」の意義をより深く検討するために、②古野「両親による子供の争奪と子供の福祉」[1998年]〔ド憲判Ⅲ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	子どもの福利（Kindeswohl）と両性の実質的平等について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
14	第一部 水7/8	憲法上の「家族（Familie）」概念と成年養子	核家族と家族の特別の保護と外国人の滞在許可 横田守弘「成年養子縁組事件」[1989年]〔ド憲判Ⅱ〕他	
		この回の到達目標	子どもの年齢に着目して国家による特別の保護の射程を確認しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
15	第一部 水7/15	前学期のまとめ 【補足説明と質疑応答】	前学期レポートの提出準備と前学期の講義内容の補足等	
		この回の到達目標	前学期の講義内容全体の中で理解が不十分であると思う内容及び事柄について質問しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により、前学期のレポートの提出準備を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	前学期のレポートの提出に向けた準備として、これまでの復習を十分に行っておくことが望ましい。しかし、レポートの提出に懸念材料がある場合には、別途質問時間を設けるので、該当する学生は質問内容を整理しておくこと。	120分

科目名	外国法B(独)Ⅱ	担当者	難波 岳穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法B（独）では、このうちドイツ私法（民法・家族法・民事訴訟法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの私法（民法・家族法・民事訴訟法）に関する解釈論を修得し、またドイツ私法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ私法学理解を目指す。とりわけ、家族法の領域で中心的な役割を果たす「Lebensgemeinschaft」論を中心とした議論を紹介し、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
特になし。板書で説明を行う際にドイツ語を表記するので、受講生はドイツ語の辞書を持参してもらうことをすすめる。辞書を持ち込むことが叶わない場合を考慮し、必要に応じて日本語訳でも解説するので心配せず参加して欲しい。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、ミニレポートの講評も適宜採り入れ、受講生の理解度に配慮しつつ講義を行う。講義ごとにレジュメおよび配布資料等（ドイツ連邦憲法裁判所の判例ないしコメンタール、ドイツの新聞記事等）を準備する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目以降、各講義の中で受講生が関心を寄せた内容や概念定義に関する解釈が暫定的と判断できる場合には、特に講義内においてディスカッションを行う。その際、ミニレポートの作成と提出を求める場合もある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ私法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の私法理解にも活かすことができる。				2							
②	ドイツの私法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。				2							
③	ドイツ私法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ私法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等	ミニレポートの提出，完成度などを総合的に評価する。			15								15
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			15								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義及びミニレポートで受講生が述べた質問等の他、各課題に対する講評については、適宜講義内で行うか、又はメール等で回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
調査資料2017－2平成28年度国際政策セミナー報告書：「家族のダイバーシティーヨーロッパの経験から考える」	国立国会図書館調査及び立法考査局	国立国会図書館	平成28年度	その他	必携
ドイツ法入門〔改訂版第9版〕	村上淳一ほか	有斐閣	平成30年	教科書	必携
ドイツの憲法判例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	ドイツ憲法判例研究会編	信山社	平成30年他	参考書	必携
備考	「国会図書館調査資料2017－2」はインターネットより閲覧とダウンロードが可能である。 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1				

【オフィスアワー】
木曜日10：40～12：10事前にメール等で連絡すること。※なお、講義内容に関する質問等については、メールにても対応する予定である。 nanba.takeho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ドイツ法の歴史と特徴 【ドイツとドイツ人】	『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』の1-25頁、38-50頁、105-114頁、135-139頁の他、Konrad Adenauer Stiftung, "Deutschland Erste Informationen für Flüchtlinge", HERDER, 2015, S. 16ff. を採り上げる。	
		この回の到達目標	ドイツ法の特徴を確認し、ドイツ民法典および基本法（憲法）の体系上の特徴を理解しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
2	第一部 水9/23	憲法とドイツ家族法	『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』の177-192頁の他、138、145、161-163頁の「私的自治と憲法」を採り上げる。	
		この回の到達目標	基本法と私的自治について検討しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
3	第一部 水9/30	子どもの福利（Kindeswohl）と両性の実質的平等（1）	小林武「親権における父の最終決定権および単独代理を定めた男女同権法の合憲性—最終決定権（Stichentscheid）判決—」[1959年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	自らの出自を知る権利を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
4	第一部 水10/7	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（1）	渡辺中「非嫡出子の基本権と憲法委託—非嫡出子決定」[1969年]〔ド憲判Ⅰ〕を読み、「婚外子差別禁止」が憲法上の要請として徹底化した経緯について採りあげる。	
		この回の到達目標	婚外子差別の撤廃を謳う基本法6条5項の趣旨を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
5	第一部 水10/14	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（2）	①佐々木健「ドイツ親子法における子の意志の尊重（1）」[2005年]〔立命館法学〕と②押久保倫夫「婚外子の父を知る権利と母親の人権」[1997年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	1992年に114番目の「児童の権利に関する条約」の批准国となったドイツが、実際にどのように子どもの権利の拡大を図ったのかについて確認しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。	120分
		事後学修	特に、佐々木[2005年]（ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）については、「子どもの福利（Kindeswohl）」との関係で重要な示唆を与える故、これまでの復習を行うために、よく読んで内容を理解する。	120分
6	第一部 水10/21	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（3）	渡辺中「婚外子に対する親としての配慮権（Sorgerecht）」[1991年]〔ド憲判Ⅱ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	婚外子に対する「親による保護」の基準について確認しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	第6回目は、次の第7回目と関連する判例なので内容をよく読んで理解する。例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	子どもの福利 (Kindeswohl) と婚外子差別の撤廃 (4)	第21回目を踏まえたうえで、新村とわ「婚外子に対する父母の配慮宣言と親による配慮権」[2003年]〔ド憲判Ⅲ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	親の配慮権における「両性の実質的平等」と子どもの福利 (Kindeswohl) について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	第6回目と第7回目の内容を復習することにて、第8回目の内容の理解がし易くなるので十分にこれまでの復習を行う。	120分
8	第一部 水11/11	子どもの福利 (Kindeswohl) と両性の実質的平等 (2)	第5回目で議論した「自らの出自を知る権利」とも関連する、玉蟲由樹「子の出自を知る父親の権利」[2007年]〔ド憲判Ⅳ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	第5回目講義の議論を踏まえ、「自らの出自を知る権利」について再考しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
9	第一部 水11/18	子どもの福利 (Kindeswohl) と養子縁組制度 (1)	戸田典子「すべての人のための婚姻―同性婚法施行」論究ジュリスト23号[2017年]の他、赤坂正浩「『第三の性』―インターセクシュアルの性別登録と一般的人格権・平等権」自治研究94巻12号[2018年]を読み、養子縁組制度に必要な子どものへの配慮や子どものための最善の利益について検討する。	
		この回の到達目標	子どもの福利 (Kindeswohl) と養子縁組制度について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	第9回目で議論したテーマに関する日独の比較を行いミニレポートにまとめることが望ましい。法学部図書館、国会図書館の利用の他、「特別養子制度の見直しについて」 http://www.moj.go.jp/content/001260586.pdf もすすめる。	120分
10	第一部 水11/25	子どもの福利 (Kindeswohl) と養子縁組制度 (2)	「核家族と両親・里親・里子の基本権」に関して、飯田稔「里親の養育権 (Sorgerecht) 訴訟」[1988年]〔ド憲判Ⅱ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	子どもの福利 (Kindeswohl) と養子縁組制度について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	第9回目の理解を踏まえ第10回の判例を検討し、「ドイツと日本の養子縁組制度を比較したうえで、自らの見解を述べる。」についてミニレポートを作成する。	120分
11	第一部 水12/2	憲法上の「家族 (Familie)」概念の変遷 (2)	近時の家族概念の拡大をめぐるBVerfGの見解となる2014年6月24日の第一法廷判決を読み、家族の特別の保護の対象となる「家族」概念の解釈が拡大する状況にあることを検討する。	
		この回の到達目標	憲法上の「家族 (Familie)」が、核家族から多世代型大家族へ変遷した際の基準となった「子どもの意見表明」に着目し、「子どもの最善の利益」と養育環境の安定化について検討しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	特に、第5回目で参照した佐々木 [2005年] (http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf) を読んで、『子どもの意見表明』についての理解を深める。	120分
12	第一部 水12/9	未就学児の養育環境に関する平等化 (1)	難波岳穂「バイエルン州育児手当の合憲性」[2012年]〔ド憲判Ⅳ〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	未就学児の養育環境に関する平等化と外国人の母親をもつ子どもの「福利 (Kindeswohl)」について検討しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	特に、第5回目で参照した佐々木 [2005年] (http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf) を読んで、ドイツにおける「児童の権利に関する条約」の影響力についてミニレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	未就学児の養育環境に関する平等化（2）	齋藤純子「ドイツの連邦親手当・親時間法―所得比例方式の育児手当制度への転換―」[2007年]〔国会図書館〕を採りあげる。	
		この回の到達目標	2006年施行の「ドイツの連邦親手当・親時間法」と2019年施行法の「Das Gute-Kita-Gesetz」の関連性ないし違いについて検討しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
		事後学修	第11回目、12回目と並行して第13回目で検討した齋藤[2007年]を十分に復習する。	120分
14	第一部 水12/23	憲法上の「家族（Familie）」概念の例外	三宅雄彦「生活パートナーシップ法の合憲性」[2002年]〔ド憲判Ⅲ〕他を採りあげる。	
		この回の到達目標	生活パートナーシップ法をめぐるBVerfGの判例を理解しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	第14回目の内容の理解を助ける、国会図書館の「家族のダイバーシティ ―ヨーロッパの経験から考える―」[2017年]（ http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1 ）を読むこともすすめる。	120分
15	第一部 水1/13	後学期のまとめ【補足説明と質疑応答】	後学期のレポートの提出準備と後期の講義内容の補足等	
		この回の到達目標	後学期の講義内容の中で不十分かつ曖昧な理解と検討であると判断できる事柄について質問しよう！	
		事前学修	各自が最も良いと思う方法により後学期のレポートの提出準備を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
		事後学修	後学期のレポートの提出に向けた準備として、これまでの復習を十分に行っておくことが望ましい。しかし、レポートの提出に懸念材料がある場合には、別途質問時間を設けるので、該当する学生は質問内容を整理しておくこと。	120分

科目名	外国法B(仏) I	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
フランスの歴史と法的基本構造を学習します。原語で、フランス憲法の条文を読み、後半には、フランスの憲法判例を読みます。これらを通じ、法の多様性について考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス法の歴史、基本的法構造およびフランス法と国際法・EU法との関わりを理解することを目的とし、フランスを取り巻く広義の法構造を説明できることを目標とする。仏語で法文を読解することができる。

【履修条件】
フランス語を履修していること。

【授業方法】
資料をポータルシステムにて配信します。予習課題への取組みを含め、積極的な参加を求めます。 授業計画は受講生の構成および関心によって変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質疑応答によって理解を確認します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス法の歴史的発展過程と現代フランスの基本的法構造について理解し、説明できる。				2							
②	仏語で法文を読解する基礎を身につけることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①について知識が身についているかを確認する。	70										70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	質疑応答を通じて、到達目標②について評価する。		30									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
フランスの憲法判例Ⅰ・Ⅱ	フランス憲法判例研究会	信山社	2002, 2013	参考書	任意
フランス法律用語辞典 [第3版]	中村 紘一他	三省堂	2012	参考書	任意
備考	これらは授業では使用しません。仏和辞書を必携のこと。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、フランス法令の調べ方、フランス法の歴史（序）	授業のテーマや内容、授業方法、ポータルサイトでの授業共有ファイルの配付方法、成績評価の方法を説明する。フランス法令の調べ方を説明する。フランス法の歴史の概略を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法令を調べることができる。日仏の法制史の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。（2時間）	120分
		事後学修	フランス法令の公式サイトを確認する。自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。日仏の法制史の概要についてまとめる。	120分
2	第一部 水4/15	概説フランス法史(1)	絶対王政期の制度から中間法時代にかけての法や制度の変遷を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス古法時代の終盤である絶対王政期から中間法時代にかけてどのような法的社会的変化が生じたかを説明できる。	
		事前学修	世界史の流れを復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、フランス法の歴史に沿った変遷をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	概説フランス法史(2) 第五共和制憲法の構造	中間法時代から近代法時代にかけての様々な法的変化について説明する。フランス現行憲法の成り立ち、構造、特徴を解説する。憲法前文第1文の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、社会の変化と共に中間法時代に確立した制度がどのように変化したかを説明できる。フランス第五共和制憲法の成り立ち、構造、特徴を知り、日本国憲法と比較して論じることができる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法前文第1文を原語で解説する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、フランス憲法と日本憲法の違いについて考察する。	120分
4	第一部 水4/29	大統領・政府	執行権を担う大統領と政府の権限と関係を憲法条文に沿って解説する。憲法前文第2文の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、大統領と政府の権限や関係について理解し、日本国憲法の行政権と比較して論じることができる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法前文第2文を原語で解説する。フランス憲法2章および3章を読む。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、大統領と政府の権限について考察する。日本法との違いを考える。	120分
5	第一部 水5/6	国会	国会および国会と政府の関係について憲法条文に沿って解説する。憲法7条1項の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの国会および国会と政府の関係について理解し、日本国憲法の制度と比較して論じることができる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法7条1項を原語で解説する。フランス憲法4章および5章を読む。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、国会および国会と政府の関係について考察する。日本法との違いを考える。	120分
6	第一部 水5/13	行政組織・地方自治	フランスの行政組織と地方自治について憲法条文に沿って解説する。憲法26条2項の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの行政組織と地方自治のあり方を理解し、日本の制度と比較して論じることができる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法26条2項を原語で解説する。フランス憲法12章および13章を読む。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、行政組織・地方自治について考察する。日本法との違いを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	司法裁判	フランス裁判制度の概要を説明し、司法裁判制度について詳述する。憲法72条1項の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、裁判制度一般について日仏の異同を理解し、説明できる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法72条1項を原語で読解する。フランス憲法8章を読む。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、裁判制度の概要と司法裁判制度について考察する。日本法との違いを考える。	120分
8	第一部 水5/27	行政裁判	フランスの行政裁判制度について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの行政裁判制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	行政裁判制度とは何かを調べる。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、行政裁判制度について考察する。	120分
9	第一部 水6/3	違憲審査制度	フランスにおける違憲審査制度の発展について説明する。憲法61条1項の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスにおける違憲審査制度の位置づけや発展について理解し、日本の状況と比較して説明できる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法61条1項を原語で読解する。フランス憲法7章を読む。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、憲法院および違憲審査制度について考察する。	120分
10	第一部 水6/10	法源	フランス法の法源について憲法条文に沿って解説する。憲法38条の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の国内規範の種類と意味を理解し、説明することができる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法38条を原語で読解する。日本法の法源について復習しておく。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。	120分
11	第一部 水6/17	国際法・EU法とフランス法の関係	国際法やEU法についてフランス憲法にどのように位置づけられているかを説明する。憲法88条の1の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、国際法やEU法とフランス法との関係を理解し、説明することができる。法文の仏語での読解能力を身につける。	
		事前学修	フランス憲法88条の1を原語で読解する。フランス憲法6章および15章を読む。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における国際規範の位置づけについて考察する。	120分
12	第一部 水6/24	憲法判例：死刑廃止(1)冒頭部分	憲法院判例の構造について説明する。死刑廃止に関する1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の冒頭部分の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の冒頭部分を読解する。当該箇所に出てきた法文を調べる。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。憲法院判決の構造について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	憲法判例：死刑廃止(2)判決理由1	死刑廃止に関する1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の判決理由1の原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の判決理由1を読解する。当該箇所に出てきた法文を調べる。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
14	第一部 水7/8	憲法判例：死刑廃止(3)判決理由2から判決主文まで	死刑廃止に関する1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の判決理由2から判決主文までの原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の判決理由2から判決主文までを読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。憲法院の法的論理について考察する。	120分
15	第一部 水7/15	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の歴史、基本構造、裁判制度、法源について総体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
		事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	外国法B(仏)Ⅱ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
同性婚、言語の多様性、環境保護、移民と博愛の原則に関するフランスの憲法判例を原語で読みます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス憲法判例の学習を通じ、文化、社会、法制度の多様性について比較法的視座を獲得することを目的とします。また、仏語で法文を読解する能力の習得を目標とします。

【履修条件】
外国法B（仏）Ⅰを履修済であること。あるいはこれと同等程度にフランスの基本的法構造を理解し、フランス法の読解ができること。

【授業方法】		
判例ごとに、判例で問題になっているテーマについて経緯や背景を説明します。次に、判例を仏語で読んでいきます。予習課題に取り組み、正確に読解できているかを授業で確認する形で授業を進めますので、積極的な参加を求めます。加えてレポートの提出を求めます。授業計画は受講生の構成および関心によって変更する可能性があります。仏和辞書を必ず持参してください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質疑応答によって予習箇所の理解の正確さを確認します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日仏の法制度の異同やその背景を理解し、説明することができる。				2							
②	仏語で法文や判例を読解する能力を身につけることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①について評価する。	20										20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について評価する。	30	50									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評をポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
フランスの憲法判例Ⅰ・Ⅱ	フランス憲法判例研究会	信山社	2002, 2013	参考書	任意
フランス法律用語辞典 [第3版]	中村 紘一他	三省堂	2012	参考書	任意
備考	これらは授業では使用しません。仏和辞書を必携のこと。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス、フランスの違憲審査制度、フランス法令と憲法院判例の調べ方、フランスの婚姻制度について	授業のテーマや内容、授業方法、成績評価の方法を説明する。フランスの違憲審査制度について説明する。フランス法令および憲法院判例の原語での調べ方を説明する。次回から読む判例読解のための背景的説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの違憲審査制度について説明することができる。フランス法令や憲法院判例を原語で調べることができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	フランス法令公式サイトと憲法院の公式サイトを確認し、検索ができるようにする。自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)	120分
2	第一部 水9/23	憲法判例：同性婚(1)判決理由17から19	同性婚に関する2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由17から19について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由17から19を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
3	第一部 水9/30	憲法判例：同性婚(2)判決理由20と21	同性婚に関する2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由20と21について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由20と21を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
4	第一部 水10/7	憲法判例：同性婚(3)判決理由22から25、フランスの言語政策について	同性婚に関する2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由22から25について原語での理解を確認する。次回から読む判例読解のための背景的説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由22から25を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。婚姻制度と憲法の関係について考察する。	120分
5	第一部 水10/14	憲法判例：言語の多様性(1)判決理由1から4	言語の多様性に関する1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由1から4について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由1から4を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
6	第一部 水10/21	憲法判例：言語の多様性(2)判決理由5から8	言語の多様性に関する1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由5から8について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由5から8を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	憲法判例：言語の多様性(3) 判決理由10から13、環境憲章について	言語の多様性に関する1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由10から13について原語での理解を確認する。次回から読む判例読解のための背景的説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由10から13を読解する。(2時間)	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。言語政策と憲法の関係について考察する。(2時間)	120分
8	第一部 水11/11	憲法判例：環境保護(1)冒頭から判決理由4	環境憲章に関する2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の冒頭から判決理由4について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の冒頭から判決理由4を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
9	第一部 水11/18	憲法判例：環境保護(2)判決理由5から7	環境憲章に関する2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の判決理由5から7について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の判決理由5から7を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
10	第一部 水11/25	憲法判例：環境保護(3)判決理由8から11、フランスの移民政策について	環境憲章に関する2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の判決理由8から11について原語での理解を確認する。次回から読む判例読解のための背景的説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の判決理由8から11を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。環境保護と憲法の関係について考察する。	120分
11	第一部 水12/2	憲法判例：移民と博愛の原則(1)判決理由2から4まで	移民と博愛の原則に関する2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由2から4までについて原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由2から4までを読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
12	第一部 水12/9	憲法判例：移民と博愛の原則(2)判決理由5と6	移民と博愛の原則に関する2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由5と6について原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由5と6を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	憲法判例：移民と博愛の原則 (3) 判決理由7から11まで	移民と博愛の原則に関する2018年7月6日憲法院判決 (QPC2018-717/718号) の判決理由7から11までについて原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2018年7月6日憲法院判決 (QPC2018-717/718号) の判決理由7から11を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
14	第一部 水12/23	憲法判例：移民と博愛の原則 (4) 判決理由12から15まで	移民と博愛の原則に関する2018年7月6日憲法院判決 (QPC2018-717/718号) の判決理由12から15までについて原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2018年7月6日憲法院判決 (QPC2018-717/718号) の判決理由12から15を読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分
15	第一部 水1/13	憲法判例：移民と博愛の原則 (4) 判決理由16から21まで	移民と博愛の原則に関する2018年7月6日憲法院判決 (QPC2018-717/718号) の判決理由16から21までについて原語での理解を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、判例の仏語での読解能力を身につける。判例読解を通じて法的論理の多様性を理解する。	
		事前学修	2018年7月6日憲法院判決 (QPC2018-717/718号) の判決理由16から21までを読解する。	120分
		事後学修	読解の間違った箇所を見直す。	120分

科目名	外国法C(仏) I	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
近年、日本と同様にフランスでも労働法の大きな改革がありました。これに関する最新の研究書を輪読し、労働法を通じた日仏の異同を考えていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランスにおける労働法の歴史およびフランス法の基礎を理解し、説明できる。労働法の下について比較法的に考えることができる。

【履修条件】
日本の労働法について基本的知識があること。

【授業方法】		
最初の数回は講義形式で、フランス労働法の歴史、フランス法の基礎等を講義します。その後、教科書を用い、担当箇所を割当て、ゼミ形式で理解を深めていきます。指定箇所の通読等の予習を含め、発表と討論を通じた積極的な参加を求めます。授業計画は受講生の構成および関心によって変更する場合があります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、ディスカッションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	フランス労働法の歴史的発展過程と現代フランス法の基本的法構造について理解し、説明できる。						2						
②	社会・文化・法の多様性を理解し、比較法的に考察し、意見を述べることができる。										2		
③	フランス労働法の構造や諸制度を理解し、日本法との異同を説明することができる。							2	2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①③について、理解と考察を評価する。	15		15								30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標②③に関わる論理的考察力、発表の適切さ、討議 への積極的な参加を評価する。		35	35								70
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
規範の逆転 フランス労働法改革と日本	野田進	日本評論社	2019	教科書	必携
フランス法〔第5版〕	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
フランス法律用語辞典〔第3版〕	中村 紘一他	三省堂	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス、労働法の歴史 (序)	授業のテーマや内容、授業方法、ポータルサイトでの授業共有ファイルの配付方法、成績評価の方法を説明する。フランス労働法が誕生する背景となる歴史的社会的状況について示す。	
		この回の 到達目標	到達目標①②との関連で、フランス労働法が誕生する歴史的社会的背景を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。ヨーロッパ近代史の流れを調べる。	120分
		事後学修	フランス中世から近代と労働の関係について復習する。	120分
2	第一部 水4/15	労働法の歴史 (1)	近代における労働法の誕生と発展について解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②との関連で、フランス労働法の発生と発展経緯を理解し、説明することができる。	
		事前学修	西欧近代史の流れを復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを復習し、フランス労働法の誕生と発展の変遷をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	労働法の歴史 (2)	戦後の労働法の変容および近年の労働法改革について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②との関連で、フランス労働法の戦後の変容と近年の改革を理解し、説明することができる。	
		事前学修	西欧現代史の流れを復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを復習し、フランス労働法の戦後の変化をまとめる。	120分
4	第一部 水4/29	フランス法の基礎(1)	フランス法の法源の類型、法典と法律、オルドナンス等、教科書を理解するための基礎知識について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の法源の類型と意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法の法源について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。	120分
5	第一部 水5/6	フランス法の基礎(2)	フランスの裁判制度、フランス労働法の構造、労働法典の構成等、教科書を理解するための基礎知識について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③との関連で、フランス法の裁判制度、労働法の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本の労働法の基本を復習する。	120分
		事後学修	フランスの裁判制度、労働法の概要をまとめ、日本法と比較して考える。	120分
6	第一部 水5/13	第I章第1～2節 新たな規範 構造	フランス労働法の新たな構造について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の 到達目標	到達目標②③との関連で、フランス労働法の新たな構造を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第I章第1～2節を通読する。	120分
		事後学修	フランス労働法の構造の変革について復習し、日本の状況と比較して考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	第I章3節 新たな「建築様式」の実相	労働法改革後の労働時間、休息、休暇制度について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス労働法の新たな労働時間、休息、休暇制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	第I章3節を通読する。日本法の労働時間、休息、休暇制度について復習しておく。	120分
		事後学修	労働法改革による労働時間、休息、休暇制度について復習し、比較法的に考察する。	120分
8	第一部 水5/27	第II章第1～2節 公序の失墜（1）	日本労働法の公序の失墜について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、日本労働法の公序の失墜について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第II章第1～2節を通読する。	120分
		事後学修	日本労働法の公序の失墜についてまとめ、考察する。	120分
9	第一部 水6/3	第II章第3～4節 公序の失墜（2）	フランス労働法改革による公序の失墜について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス労働法改革による公序の失墜について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第II章第3～4節を通読する。	120分
		事後学修	労働法における公序について日仏を比較法的に考察する。	120分
10	第一部 水6/10	第III章序説～2節、第I章第4節 労働協約	フランス労働協約制度の発展と改革について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス労働協約制度の発展と改革について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第III章序説～2節、第I章第4節を通読する。	120分
		事後学修	労働協約制度について日仏を比較法的に考察する。	120分
11	第一部 水6/17	第III章第3～5節 企業交渉の制度	フランスにおける企業交渉の新たな方式について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランスにおける企業交渉の新たな方式について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第III章第3～5節を通読する。	120分
		事後学修	フランスにおける企業交渉の新たな方式についてまとめ、比較法的に考察する。	120分
12	第一部 水6/24	第IV章第1～第4節 集団的成果協定	新しく導入された集団的成果協定の意義と効力について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、集団的成果協定の意義と効力について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第IV章第1～第4節を通読する。	120分
		事後学修	集団的成果協定について復習し、比較法的に考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	第V章第1～2節 従業員代表組織	フランスにおける従来の従業員代表組織の概要について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、従業員代表組織の概要について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第V章第1～2節を通読する。	120分
		事後学修	従来の従業員代表組織について復習し、比較法的に考察する。	120分
14	第一部 水7/8	第V章第3～5節 社会経済委員会	社会経済委員会の制度と意義について発表およびディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、社会経済委員会の制度と意義について理解し、説明することができる。	
		事前学修	第V章第3～5節を通読する。	120分
		事後学修	社会経済委員会の制度について復習し、比較法的に考察する。	120分
15	第一部 水7/15	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、フランス労働法の歴史、フランス法の基礎、改革後のフランス労働法の特徴について総体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
		事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	外国法C(仏)Ⅱ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
フランス法の歴史と現代フランス法の基本を踏まえた上で、フランス民法の債権法の概要を講義します。近年の債権法改革にも可能な限り触れます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス法の歴史的発展過程と現代フランスの基本的法構造についての基礎知識の習得、フランス債権法の基本概念についての学習を目的とします。これらの理解を通じ、日本法との主要な異同を説明できることを目標とします。

【履修条件】
民法総則と債権法について基礎知識があること。フランス語履修者であれば一層望ましい。

【授業方法】
講義形式。資料をポータルシステムにて配信します。授業計画は受講生の構成によって変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを求めます。その他、質疑応答や条文の音読を適宜求めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス法の歴史的発展過程と現代フランスの基本的法構造について理解し、説明できる。				2							
②	社会・文化・法の多様性を理解し、比較法的に考察し、意見を述べることができる。									2		
③	フランス民法の構造や諸概念を理解し、日本法との異同を説明することができる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①③について知識が身についているかを確認する。	30		50								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーや質疑応答を通じ、到達目標②について評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に出題のポイントを解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス法 [第5版]	滝沢正	三省堂	2018	参考書	任意
フランス法律用語辞典 [第3版]	中村 紘一他	三省堂	2012	参考書	任意
フランス民法	大村敦志	信山社	2010	参考書	任意
備考	これらはいずれも参考書です。授業でこれらは使用せず、配付物を使用します。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業の前後に講堂にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス、歴史(序)	授業のテーマや内容、授業方法、ポータルサイトでの授業共有ファイルの配付方法、成績評価の方法を説明する。フランス法の歴史の概略を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、日仏の法制史の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。日仏の法制史の概要についてまとめる。	120分
2	第一部 水9/23	歴史(1) 古法時代	ガリア・ローマ期からカペー朝までのフランス古法時代について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランスの古法時代のうちガリア・ローマ期からカペー朝までのフランス法の歴史を説明できる。	
		事前学修	世界史の大枠を復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
3	第一部 水9/30	歴史(2) 古法時代－中間法時代	絶対王政期から中間法時代への変遷を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス古法時代の終盤である絶対王政期から中間法時代にかけてどのような法的社会的変化が生じたかを説明できる。	
		事前学修	世界史の流れを復習する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
4	第一部 水10/7	歴史(3) 中間法時代	中間法時代の様々な法的変化について具体的に説明する。民法典の制定過程や意義について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、中間法時代にどのような変革から近代民法制度が確立したかを説明できる。	
		事前学修	世界史（特に近代史）の流れを復習する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
5	第一部 水10/14	歴史(4) 近代法時代	フランス近代の一般的歴史と法制史としての変化を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、社会の変化と共に中間法時代に確立した制度がどのように変化したかを説明できる。	
		事前学修	世界史（近現代史）の流れを復習する。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。	120分
6	第一部 水10/21	フランス法の基礎	フランス法の法源の類型、法典と法律の違い等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、フランス法の法源の類型と意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法の法源について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	民法典の構造と改正	パンデクテン方式を採らないフランス民法の構造、改正履歴、近時の改正の背景について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、フランス法の法源の類型と意味を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法の構造を復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス民法の構造が日本民法とどのように違うのか考察する。また、社会の変化と民法の改正について理解する。	120分
8	第一部 水11/11	契約自由の原則と契約の成立要件(1)	意思自治の原則、その変容、契約の成立要件の概要について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、意思自治の原則と契約の成立要件を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における財産法の原則と契約自由の原則について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、日仏民法の契約自由の原則（意思自治の原則）と契約の成立要件について比較法的に考察する。	120分
9	第一部 水11/18	契約の成立要件（2）	合意、合意の瑕疵（錯誤、強迫、詐欺、過剰損害）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、契約の成立要件である合意および合意の瑕疵について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法における意思表示について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の合意の瑕疵と日本法の意味表示について比較法的に考察する。	120分
10	第一部 水11/25	契約の成立要件（3）	当事者能力、目的その他の要件、および契約の無効について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、契約の成立要件である当事者能力、目的その他の要件について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法における行為能力、無効・取消しについて復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、当事者能力、目的その他の契約成立要件および無効の意味についてまとめ、比較法的に考察する。	120分
11	第一部 水12/2	契約の効果	当事者間の効果、第三者に対する効果について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス法における契約の様々な効果について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法における契約の効果について考える。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、契約の効果についてまとめ、考察する。	120分
12	第一部 水12/9	契約の解釈	契約の解釈についての原則、手順、契約解釈の裁判による統制について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス法における契約の解釈について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法における契約の解釈について考える。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、契約の解釈についてまとめ、考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	不法行為の種類（1）	不法行為法の概要、本人の所為による責任、他人の所為による責任について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス法における不法行為法の概要、本人の行為による責任、他人の行為による責任について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法における不法行為法について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、不法行為の概念や類型についてまとめ、比較法的に考察する。	120分
14	第一部 水12/23	不法行為の種類（2）	物の所為による責任、特殊な民事責任について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、フランス法における物の所為による責任、特殊な民事責任について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本民法における不法行為法について復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを見直し、不法行為の類型についてまとめ、比較法的に考察する。	120分
15	第一部 水1/13	授業内試験と解説	授業内試験を行い、その後出題のポイントを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③との関連で、フランス法の歴史、フランス法の基礎、フランス債権法を総体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。	180分
		事後学修	解説を聞き、回答内容を思い返し、再度、配布資料と講義ノートを見直す。	60分

科目名	監査論Ⅰ	担当者	小俣 光文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
現代の経済社会の中心的な担い手となっているのは、広く一般の投資家から資金を調達する株式会社である。株式会社は、資金を提供する投資家等に対して、資金が適切に利用されていることを示すために、財務報告を行う必要がある。しかしながら、会社の経営者が行った財務報告は、会社に都合の良い情報しか示されていない可能性があり、そのままでは信用されないため、会社が示した情報が適切なものであるかどうかを判断できるようにするのが監査の役割である。そこで、本講義では、なぜ監査という行為が行われるのか、どのように監査が行われるのかについて学び、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
監査が現代の経済社会に、監査に対する社会的期待が非常に高まるとともに、各種の情報公開が進むにつれて監査に対するニーズも非常に大きくなっている。監査に対するニーズが高まるとともに、新聞やテレビのニュースで監査が扱われる事例が増えている。まず、監査についての基本的な理論を習得することによって、こうした監査に対するニーズが高まっている理由を理解できる能力を身につける。そして、監査に関する基礎知識を習得することによって、こうした新聞記事やニュースの内容を理解できる能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義を行うので会計関連科目を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進める。 また、適宜、講義内容確認のためにミニテストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の資本主義経済において、監査が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】						3	3						
②	法律とは違う規範としての監査基準が監査制度にどのような影響を与えているのかを理解し、説明することができる。【知識】						3	3						
③	監査基準と実務指針の規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているのかを調べることができる。【技能】								3	3		3		3
④	監査基準と実務指針が実際にどのように運用されているのかを理解し、与えられた事例に対して規定を当てはめることができる。【技能】								3	3		3		3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験により，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	15	15	15	15							60
小テスト等	講義のまとめとして行う小テストにおいて，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等	講義のはじめにおいて，前回の小テストの解説を行う。到達目標③，④，に関わる課題の論理的考察力を確認し，質問の際の意見の明瞭性・論理性及び他人の意見を傾聴する態度等を確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日，ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後，質問を受け付ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公認会計士としての監査業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		事例に即して，実務においては監査基準や実務指針がどのように適用されているのかの解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水 4/8	監査論の考え方	監査とは何か、また監査論とはどのような学問なのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の本質、監査論の学習領域について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の本質について調べておく。	100分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の本質や監査論の学習内容について知識を整理しておく。	100分
2	水 4/15	株式会社の成立過程とその背景	金融商品取引法の債権者保護の前提となる企業情報ディスクロージャー制度の前提となる株式会社の成立過程について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、株式会社の成立過程について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、株式会社がどのように成立したのかについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、株式会社の本質や成立改定について知識を整理しておく。	120分
3	水 4/22	コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスとは何かについて、様々な定義から検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、コーポレート・ガバナンスについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、コーポレート・ガバナンスについて調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、コーポレート・ガバナンスの定義や本質について知識を整理しておく。	100分
4	水 4/29	企業情報ディスクロージャー制度	日本の金融商品取引法の下における企業情報ディスクロージャー制度について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、金融商品取引法のもとにおける企業情報ディスクロージャー制度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法のもとにおける企業情報ディスクロージャー制度について調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、金融商品取引法のもとにおける企業情報ディスクロージャー制度について知識を整理しておく。	100分
5	水 5/6	財務諸表とは	金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。また財政状態を示す貸借対照表について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表、特に貸借対照表について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表および貸借対照表について調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表および貸借対照表について知識を整理しておく。	120分
6	水 5/13	損益計算書	財務諸表のうち、企業の経営成績を示す損益計算書の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、損益計算書の意義および損益計算書から何が読み取れるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、損益計算書の意義および損益計算書がどのように作成されるのかについて調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、損益計算書の意義および損益計算書から何が読み取れるのかについて知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水 5/20	キャッシュ・フロー計算書	財務諸表のうち、企業のキャッシュ・フローを示すキャッシュ・フロー計算書の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、キャッシュ・フローの意義およびキャッシュ・フロー計算書から何が読み取れるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、キャッシュ・フローの意義およびキャッシュ・フロー計算書から何が読み取れるのかについて調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、キャッシュ・フローの意義およびキャッシュ・フロー計算書から何が読み取れるのかについて知識を整理しておく。	120分
8	水 5/27	監査の経済的機能	監査が経済社会においてどのような機能を果たしているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の本質、監査論の学習領域について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の本質について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の本質や監査論の学習内容について知識を整理しておく。	120分
9	水 6/3	監査の生成要因	株式会社が経済社会の中心を占めていく過程で、自然発生的に監査が生成した理由について、監査の経済的機能に焦点をあてて検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の経済的機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、経済的機能について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の経済的機能について知識を整理しておく。	120分
10	水 6/10	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法の下で監査がどのように規定されているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、金融商品取引法において監査についてどのように規定されているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法において監査についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、金融商品取引法において監査についてどのような規定が置かれているのかについて知識を整理しておく。	120分
11	水 6/17	会社法監査制度	会社法の下で監査がどのように規定されているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、会社法において監査についてどのように規定されているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、会社法において監査についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、会社法において監査についてどのように規定されているのかについて知識を整理しておく。	120分
12	水 6/24	監査規範の意義	監査基準を中心に、監査規範がなぜ必要なのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査基準の生成過程と内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査基準の生成過程と内容について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査基準の生成過程と内容および果たす役割について知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水 7/1	財務諸表監査の特質	財務諸表監査の枠組みと限界について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，財務諸表監査の枠組みと限界について理解し，説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに，財務諸表監査の枠組みと限界について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み，財務諸表監査の枠組みと限界について知識を整理しておく。	120分
14	水 7/8	公認会計士法に見る監査人の適格性	公認会計士法に盛られた監査人の独立性に関する規定を念頭に、信頼しうる監査を遂行するための監査人の適格性および監査業務と非監査業務の同時提供の禁止問題について検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査人の適格性について理解し，説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに，監査基準を中心に監査人の適格性についてどのような規定が置かれているのかについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み，監査人の適格性の内容と規定について知識を整理しておく。	120分
15	水 7/15	まとめ	監査論Ⅰにおける財務諸表監査のまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、レジュメや参考書を読み、監査が社会システムにおいてどのような役割を果たしているのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでのレジュメや、参考資料を読み、特に金融商品取引法の下での監査制度に関して知識を整理しておく。	120分
		事後学修	本講義で学んだ内容をまとめて復習し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、金融商品取引法と会社法における監査制度の違いについて整理する。	120分

科目名	監査論Ⅱ	担当者	小俣 光文	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
監査は、一つの社会的なコントロールシステムとして企業の健全な社会的発展を図るために必要不可欠な要具となっている。しかしながらエンロンのように経営破綻した企業が、それまで経営の不振を隠蔽するために不正な財務報告を行っていたことが明らかになることがある。このような事態が生じると監査に対する批判が高まり、その批判に答える形で、監査の実施方法も大きく変わることがある。そこで、本講義では、監査に対する批判が高まる原因となる不正な財務報告の事例等を概観しながら、財務諸表監査の基本となる監査基準がどのように監査を規定しているかを中心にして、企業の財務諸表監査が具体的にどのように行われているのかについて学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は監査に対するニーズが高まっており、公認会計士にならずとも多くの人が監査に関わる機会が増えている。こうした状況のなかで、監査がどのように行われているのか、また監査の結果がどのように利用者に伝達されるのかについて学び、自らが監査に関わる立場になったときに必要な知識を習得することを目標とする。 さらに、公認会計士になった場合はもちろんのこと、実際に内部監査部門に配属されたり、監査を受ける立場になったり、監査報告書を読む場合に必要な知識も身につけることを目標とする。

【履修条件】
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義を行うので会計関連科目を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進める。 また、適宜、講義内容確認のためにミニテストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の資本主義経済において、監査が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3	3				
②	法律とは違う規範としての監査基準が監査制度にどのような影響を与えているのかを理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3	3				
③	監査基準と実務指針の規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているのかを調べることができる。【技能】							3	3		3		3
④	監査基準と実務指針が実際にどのように運用されているのかを理解し、与えられた事例に対して規定を当てはめることができる。【技能】							3	3		3		3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	15	15	15	15							60
小テスト等	講義のまとめとして行う小テストにおいて，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等	講義のはじめにおいて，前回の小テストの解説を行う。到達目標③，④，に関わる課題の論理的考察力を確認し，質問の際の意見の明瞭性・論理性及び他人の意見を傾聴する態度等を確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	金融庁が公表している「監査基準」，日本公認会計士協会が公表している「監査基準委員会報告書」を参考資料とする。				

【オフィスアワー】
授業終了後，質問を受け付ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公認会計士としての監査業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		事例に即して，実務においては監査基準や実務指針がどのように適用されているのかの解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水 9/16	監査実施プロセスの全体像	国民経済の適切な運営、投資者の保護、公認会計士監査：金融商品取引法第193条の2の規定に基づく公認会計士または監査法人による監査の基本的枠組みについて理論的な視点から検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の基本的枠組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法における公認会計士監査の規定について調べておく。	100分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、特に金融商品取引法の下での監査制度に関して知識を整理しておく。	100分
2	水 9/23	企業不祥事と監査	監査制度の発展に影響を与えた企業不祥事を取り上げ、企業不祥事が監査制度にどのような影響を与えたのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、企業不祥事が監査制度にどのような影響を与えたのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、企業不祥事が監査制度にどのような影響を与えたのかについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、企業不祥事が監査制度にどのような影響を与えたのかに関して知識を整理しておく	120分
3	水 9/30	不正違法行為	米国企業改革法の制定を機に議論の高まった不正および違法行為に対する監査人の対応を踏まえて、わが国の金融商品取引法監査の今後の動向について、その課題と展望を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、企業改革法とその後の不正違法行為への対応について理解し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①、②に関して、企業改革法とその後の不正違法行為への対応について理解し、説明することができる。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、企業改革法とその後の不正違法行為への対応に関して知識を整理しておく。	120分
4	水 10/7	監査人の法的責任	排他的・独占的な監査権限を有する公認会計士および監査法人の役割と責任について金融商品取引法監査の基本的な枠組みとの関係において検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、公認会計士および監査法人の役割と責任について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、公認会計士および監査法人の役割と責任について調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、公認会計士および監査法人の役割と責任に関して知識を整理しておく。	120分
5	水 10/14	内部統制	経営者の責任の一環として位置づけられる内部統制について、内部統制とコーポレートガバナンス、内部統制とリスクマネジメントの関係について検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、内部統制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、内部統制について調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、内部統制に関して知識を整理しておく。	120分
6	水 10/21	企業および企業環境の理解	企業経営に影響を与える環境の変化とそれが財務諸表監査にどのように影響を与えるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、企業が経営上抱えているビジネスリスクとそれが監査にどのように影響を与えるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、リスクとは何かと企業が経営上抱えているビジネスリスクについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、リスクとは何かと企業が経営上抱えているビジネスリスクおよびそれが財務諸表監査にどのように影響を与えるのかに関して知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水 10/28	重要な虚偽表示のリスクの評価	重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかに関して知識を整理しておく。	120分
8	水 11/11	リスク対応手続	評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査手続とは何かについて調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかに関して知識を整理しておく。	120分
9	水 11/18	監査証拠の分類と評価	監査証拠がどのように分類できるのかについて学び、なぜ分類が必要なのか、分類することによってどのような効果があるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査証拠がどのように分類できるのかについて学び、なぜ分類が必要なのか、分類することによってどのような効果があるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査証拠とは何か、および監査証拠の分類について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査証拠がどのように分類できるのかについて学び、なぜ分類が必要なのか、分類することによってどのような効果があるのかに関して知識を整理しておく。	120分
10	水 11/25	監査報告書の意義と種類	なぜ監査報告が必要なのか、および監査意見がどのように形成されるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、なぜ監査報告が必要なのか、および監査意見がどのように形成されるのかについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査報告が必要とされる背景、および監査意見の種類について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、なぜ監査報告が必要なのか、および監査意見がどのように形成されるのかについて知識を整理しておく。	120分
11	水 12/2	監査報告書	短文体監査報告書に盛られる監査人のメッセージの中に「一般に公正妥当と認められる監査の基準」および「適正に表示している」との重要なキーワードがあるが、それらの意味する内容等について検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、短文体監査報告書の形式と記載内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、短文体監査報告書の形式と記載内容について調べておく。	150分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、短文体監査報告書の形式と記載内容に関して知識を整理しておく。	120分
12	水 12/9	監査上の主要な検討事項	監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）の開示に関する監査人の対応に対して検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、KAMについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）の開示について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、KAMに関して知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水 12/16	継続企業の前提と監査報告	監査報告書におけるゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、ゴーイングコンサーン情報の開示に関する監査人の対応に対して検討を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査報告書におけるゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，ゴーイングコンサーン情報の開示について理解し，説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに，監査報告書におけるゴーイング・コンサーン情報の開示について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査報告書におけるゴーイング・コンサーン情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，ゴーイングコンサーン情報の開示に関して知識を整理しておく。	120分
14	水 12/23	内部統制監査	内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査をめぐる問題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査について理解し，説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに，経営者の内部統制報告書とその監査について調べておく。	120分
		事後学修	レジュメや、参考資料を読み、内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査に関して知識を整理しておく。	120分
15	水 1/13	まとめ	監査論Ⅱにおける財務諸表監査の実施に関するまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，財務諸表監査の実施について理解し，説明することができる。	
		事前学修	これまでのレジュメや、参考資料を読み、監査がどのように実施されるのかに関して知識を整理しておく。	120分
		事後学修	本講義で学んだ内容をまとめて復習し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する	120分

科目名	管理会計論Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○			○	

【授業の概要】
経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とし、目的に応じた多様な会計情報が作成される。この授業では企業経営の様々な場面で活用される管理会計の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力を身につける。また、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を獲得する。

【履修条件】
管理会計論Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、原価計算論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	製品原価の計算構造を理解し、経営形態ごとの製造原価計算ができる。					3	3						
②	原価管理の考え方を理解し、標準原価による原価管理ができる。						3	3	3				
③	利益管理の考え方を理解し、直接原価計算やCVP分析による利益管理ができる。						3	3	3				
④	原価管理や利益管理の理解を通じて、企業経営者が会計情報を通じてどのように経営を考え、課題を発見するかを理解できる。							3	3			3	
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業で扱った内容が理解できているかを、授業内で与える課題への取組具合で評価する。	5	10	10	5							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、ポータルシステムにて行う。授業内課題については、適宜授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	原価計算の基本と管理会計	原価計算の基本を確認し、管理会計と財務会計の違いを学ぶ	
		この回の到達目標	原価計算の基本を概観し、管理会計と財務会計の違いを理解する。また、管理会計の役割を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、製造業における経営の全体像をイメージしておく。	120分
		事後学修	管理会計と意義と役割、財務会計との違いを説明できるようにする。各種原価を把握する。	120分
2	4/14	個別原価計算の仕組み	生産販売形態別の製品原価計算方法と個別原価計算の仕組みを学ぶ	
		この回の到達目標	個別原価計算が適合する生産形態と計算の基本的仕組みを理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	指図書別の製品原価の計算方法を身につける。	120分
3	4/21	製造間接費の配賦	製造間接費をめぐる論点とその配賦方法、差異分析方法を学ぶ	
		この回の到達目標	製造間接費の配賦手続きの必要性を理解し、具体的な配賦方法と変動予算における差異分析を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	公式法変動予算における製造間接費の配賦と予算差異・操業度差異の分析方法を把握する。	120分
4	4/28	総合原価計算、月末仕掛品の評価	総合原価計算の計算の仕組みと月末仕掛品の評価方法を学ぶ	
		この回の到達目標	総合原価計算が適合する生産形態と計算の基本的仕組みを理解し、月末仕掛品の評価ができるようになる。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	総合原価計算における原料費と加工費の取扱いの違いを理解し、月末仕掛品の評価と完成品総合原価の計算を身につける。	120分
5	5/5	先入先出法と平均法	月初仕掛品がある場合の期末仕掛品の評価方法を学ぶ	
		この回の到達目標	先入先出法と平均法の計算方法の違いを理解し、それぞれの評価方法における月末仕掛品の評価ができるようになる。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	先入先出法と平均法のそれぞれによる月末仕掛品の評価方法を身につける。	120分
6	5/12	標準原価計算による製品原価の計算	標準原価計算の基本的考え方と標準原価による製品原価の計算を学ぶ	
		この回の到達目標	標準原価を用いた製品原価計算の基本的考え方を理解し、標準原価による月末仕掛品評価ができるようになる。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	標準原価計算と実際原価計算の違いを理解し、原価標準を用いて製品原価を計算する方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	標準原価による原価管理と直接材料費差異分析	標準原価計算を用いた原価管理の考え方と直接材料費差異分析方法を学ぶ	
		この回の到達目標	原価の目標値としての標準原価の役割を理解し、直接材料費差異の細分析ができるようになる。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	直接材料費差異を材料消費価格差異と材料消費数量差異に分解できるようにする。	120分
8	5/26	直接労務費差異分析	直接労務費差異の分析方法を学ぶ	
		この回の到達目標	直接労務費差異の細分析ができるようになる。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	直接労務費差異を賃率差異と作業時間差異に分解できるようにする。	120分
9	6/2	製造間接費差異分析	製造間接費差異の分析方法を学ぶ	
		この回の到達目標	製造間接費差異の内容を細分析した上で、各差異の分類方法の違いによる分析方法を学ぶ	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	予算差異、変動費能率差異、固定費能率差異、操業度差異の分解方法を身につけ、それぞれの際の分類方法に応じた差異分析方法の違いを理解する。	120分
10	6/9	CVP分析と貢献利益	原価・営業量・利益の関係に基づく利益管理の考え方を学ぶ	
		この回の到達目標	分析の基本となる変動費と固定費の分解や貢献利益の計算方法などの基礎的知識を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	原価の発生態様による分類の必要性和意義を理解し、貢献利益ないし限界利益と呼ばれる利益の概念を理解する。	120分
11	6/16	各種CVP分析と固変分解	損益分岐点分析をはじめとする各種CVP分析の方法と、固変分解の仕方を学ぶ	
		この回の到達目標	損益分岐点売上高や目標利益達成点販売量等の計算方法、固変分解のための高低点法を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	貢献利益率を使った各種CVP分析手法や高低点法による固変分解の方法を把握する。	120分
12	6/23	直接原価計算の概要	直接原価計算の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	CVP分析のための基礎資料を提供する直接原価計算の方法を理解し、全部原価計算との違いを把握する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	変動費のみによる製品原価の計算方法を身につけ、全部原価計算との違いを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	固定費調整	固定費調整の必要性と固定費調整の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	固定費調整の意義を理解し、コロガン調整法による固定費調整の仕方を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	直接原価計算による営業利益を全部原価計算による営業利益へと調整する仕組みを理解する。	120分
14	7/7	問題演習による各種計算技法の確認	前期に扱った各種計算技法を、問題演習を通じて再確認する	
		この回の到達目標	問題演習を通じて各論点の計算方法を修得する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	前期に扱った各論点の計算方法を完全に修得する。	120分
15	7/14	前期総括	管理会計論の基本的考え方から原価管理および利益管理までの内容を総括する	
		この回の到達目標	管理会計の基礎から標準原価計算、CVP分析および直接原価計算の各論点を理解する	
		事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	定期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	管理会計論Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○			○	

【授業の概要】
経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とし、目的に応じた多様な会計情報が作成される。この授業では企業経営の様々な場面で活用される管理会計の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力を身につける。また、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を獲得する。

【履修条件】
管理会計論Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、原価計算論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	予算管理の考え方を理解し、企業における予算と実績の差異分析ができる。				3		3					
②	業務的意思決定の考え方を理解し、日常業務レベルにおける経営課題の認識やその解決のための意思決定を理解できる。				3	3	3	3				
③	構造的意思決定の考え方を理解し、経営基盤に関わる意思決定における課題の認識やその解決のための意思決定を理解できる。				3	3	3	3				
④	新たな原価管理の手法や企業評価の方法など、経営トップの意思決定に影響する管理会計上の論点を理解できる。						3	3			3	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業で扱った内容が理解できているかを、授業内で与える課題への取組具合で評価する。	5	10	10	5							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、ポータルシステムにて行う。授業内課題については、適宜授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	管理会計論Ⅰの学修内容の確認および管理会計論Ⅱの全体像の確認	管理会計論Ⅰで学修した管理会計の基本と原価管理・利益管理の各論点を復習しつつ、管理会計論Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
		この回の到達目標	管理会計論Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
		事後学修	管理会計の目的をはじめ、原価管理や利益管理の基本論点を理解する。	120分
2	9/22	予算実績差異分析	貢献利益の予算と実績の差異を分析する手法を学ぶ	
		この回の到達目標	貢献利益差異を販売価格差異、販売数量差異、変動費差異に分解する方法を身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	貢献利益差異の細分析方法を修得する。	120分
3	9/29	販売数量差異の細分析	販売数量差異を細分析する方法を学ぶ	
		この回の到達目標	市場総需要量差異と市場占有率差異の分析方法を理解し、販売数量差異の細分析ができるようになる。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	市場総需要量差異と市場占有率差異の分析方法を身につける。	120分
4	10/6	意思決定の基礎	意思決定の種類と意思決定における基本的用語を学ぶ	
		この回の到達目標	業務的意思決定と構造的意意思決定の違いを理解し、意思決定会計における基本用語の内容を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	業務的意思決定と構造的意意思決定の違いや、差額収益、差額原価ならびに埋没原価といった基本用語が説明できるようになる。	120分
5	10/13	差額原価収益分析	差額原価収益分析を用いた業務的意思決定を学ぶ	
		この回の到達目標	差額原価収益分析における差額収益や差額原価の概念を理解し、業務的意思決定の方法を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	業務的意思決定における基本的な意思決定の流れを理解する。	120分
6	10/20	問題演習による差額原価収益分析の理解	問題演習を通じて差額原価収益分析による業務的意思決定を学ぶ	
		この回の到達目標	問題演習によって、差額原価収益分析における差額収益や差額原価の捉え方、埋没原価の取扱いを身につける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	演習問題を復習し、差額原価収益分析による意思決定の方法を完全に修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/27	構造的意思決定の基礎	構造的意思決定の基本的考え方とキャッシュ・フローの見積りを学ぶ
		この回の到達目標	設備投資の是非を題材に、構造的意思決定の基本的考え方を理解し、キャッシュ・フローの見積り方法を身につける。
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。
		事後学修	業務的意思決定と構造的意思決定の違いを認識し、将来キャッシュ・フローの見積り方法を把握する。
8	11/10	単純回収期間法と貨幣の時間価値	単純回収期間法による投資案の評価方法と貨幣の時間価値の概念を学ぶ
		この回の到達目標	単純回収期間法による投資案の評価ができるようになるとともに、貨幣の時間価値の概念を理解する。
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。
		事後学修	単純回収期間法の計算方法を身につけ、貨幣の時間価値を考慮するための割引計算の必要性を理解する。
9	11/17	正味現在価値法による意思決定	正味現在価値法による設備投資の意思決定方法を学ぶ
		この回の到達目標	割引計算の手法を理解し、正味現在価値により設備投資案の評価方法を身につける。
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。
		事後学修	正味現在価値の計算手法を修得し、NPV法による構造的意思決定を理解する。
10	11/24	タックス・シールドの考慮と資本コストの計算	より実践的な構造的意思決定のための論点と技法を学ぶ
		この回の到達目標	設備投資の意思決定におけるタックス・シールド考慮の必要性を理解するとともに、割引計算の基礎となる資本コストの算定根拠を理解する。
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。
		事後学修	タックス・シールドを考慮した将来キャッシュ・フローの見積りや、加重平均資本コストの計算ができるようになる。
11	12/1	問題演習による構造的意思決定の理解	問題演習を通じて設備投資の意思決定方法を学ぶ
		この回の到達目標	問題演習を通じて設備投資における構造的意思決定を総合的に理解する。
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。
		事後学修	演習問題を復習し、構造的意思決定の方法を完全に修得するとともに、相互排他的な投資案の評価方法を把握する。
12	12/8	企業価値評価	企業価値評価の基本的考え方を学ぶ
		この回の到達目標	配当割引モデルを用いた企業価値の評価方法を理解し、設備投資の意思決定との考えの共通性を認識する。
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。
		事後学修	配当割引モデルによる企業価値の評価方法を身につける。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	ライフサイクル・コスト ィング	ライフサイクル・コストィングの基本的考え方を学ぶ	
		この回の 到達目標	ライフサイクル・コストィングの必要性を理解し、製品ライフサイクルの各段階における原価の概念を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	製品ライフサイクルにおける各段階で生じる原価の内容を把握し、ライフサイクル全体を通じた原価管理の必要性を理解する。	120分
14	12/22	原価企画	原価企画の基本的考え方を学ぶ	
		この回の 到達目標	原価企画によって製品の企画開発段階から原価管理を行う必要性を理解する	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	製品の企画開発の段階から始まる原価管理の手法を理解し、今日的な原価管理の論点を把握する。	120分
15	1/12	後期総括	予算実績差異分析から原価企画までの内容を総括する	
		この回の 到達目標	予算実績差異分析、業務的意思決定、構造的意 思決定、ライフサイクル・コストィングおよび原価企画の各論点を理解する	
		事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業会計法Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
企業が行う財務報告は、会計基準に従って作成された財務諸表で行われるが、財務諸表そのものの作成開示を要請しているのは、金融商品取引法や会社法といった法律である。このように企業会計は法律とも密接に結びついており、会計数値の中には法律によって測定方法が定められているものもある。この授業では、「会計に関する法律」という視点から会計学を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
株式会社を取り巻く会計規制についての総合的な理解を身に付け、企業会計と法との関わり合いについて論理的に思考する力や、制度との関係を批判的に思考する力を身に付ける。また、会計方法に基づいて企業経営を省察する力を獲得する。

【履修条件】
企業会計法Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、簿記原理、会計学、財務諸表論、会社法についての履修を済ませ、これらについての基本的理解が得られていると、さらに授業内容の理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業会計に関連する法制度の基本的考え方を理解する。				3	3						
②	企業会計の規制のあり方と法制度との関わり合いを理解し、論理的に考察できる。					3	3	3				
③	法体系の中における会計制度の役割を理解することで、制度における課題を発見できる。					3	3		3			
④	具体的な計算規定を理解することを通じて、企業経営を省察できる。					3			3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	20	15	20							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業で扱った内容が理解できているかを、授業内で与える課題への取組具合で評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、ポータルシステムにて行う。授業内課題については、適宜授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	企業会計にまつわる法規、会計規制の必要性	企業会計に関する法律や、会計規制の体系を学ぶ	
		この回の到達目標	日本における会計に関連する法律を中心に、どのような会計制度の体系が存在しているのかを理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、簿記や財務会計の基礎について確認しておく。	120分
		事後学修	会計規制の必要性をめぐる各種議論について理解し、企業会計に関する法律を把握する。	120分
2	4/15	金融商品取引法による会計規制の概要	金融商品取引法におけるディスクロージャー制度について学ぶ	
		この回の到達目標	金融商品取引法による会計規制の概要を理解し、ディスクロージャー制度の仕組みを理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	ディスクロージャー制度の基本的考え方について理解し、金融商品取引法に基づく開示書類を把握する。	120分
3	4/22	会社法による会計規制の概要	会社法および会社計算規則における会計情報の開示関連規定について学ぶ	
		この回の到達目標	会社法・会社計算規則による会計情報の開示規定の概要を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	会社法における会計規制の基本的考え方を理解し、会社法に基づく開示書類を把握する。	120分
4	4/29	貸借対照表に関する諸規定	会社計算規則における貸借対照表関連規定を学ぶ	
		この回の到達目標	会社計算規則における貸借対照表の計上項目に関する表示規定を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	貸借対照表の計上項目に関する会社計算規則の諸規定を理解し、具体的な表示方法を把握する。	120分
5	5/6	損益計算書に関する諸規定	会社計算規則における損益計算書関連規定を学ぶ	
		この回の到達目標	会社計算規則における損益計算書の構造やその計上項目に関する表示規定を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	損益計算書の様式に関する会社計算規則の諸規定を理解し、段階的利益計算の仕組みを把握する。	120分
6	5/13	株主資本等変動計算書に関する諸規定	会社計算規則における株主資本等変動計算書に関する表示規定を理解する。	
		この回の到達目標	株主資本等変動計算書の様式に関する会社計算規則における表示規定を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	株主資本等変動計算書の様式に関する会社計算規則の諸規定を理解し、具体的な表示内容を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	資産評価総論	会社計算規則における資産評価に関する基本的考え方を学ぶ	
		この回の到達目標	資産評価のための測定値としてどのようなものが存在するかを知り、その役割を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	資産評価のための各測定値の考え方を理解し、どのような測定方法があるかを把握する。	120分
8	5/27	各種測定値による具体的な資産評価	各論点別に具体的な資産評価の方法を学ぶ	
		この回の到達目標	取得原価や時価といった様々な測定値による、具体的な資産評価方法を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	資産評価のための各測定値の具体的算定方法を把握する。	120分
9	6/3	現在価値による資産評価	現在価値測定のための基本的考え方と具体的な測定方法を学ぶ	
		この回の到達目標	現在価値測定の理論的根拠を理解し、具体的な測定方法を身に付ける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	現在価値計算の基本的考え方を理解し、割引現在価値による資産評価方法を把握する。	120分
10	6/10	リース資産の測定	リース取引における借手の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	リース取引の全体像を把握し、借手が行う会計処理の考え方を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	リース取引の概要を理解し、借手が行う一連の会計処理を修得する。	120分
11	6/17	負債評価総論	会社計算規則における負債評価に関する基本的考え方を学ぶ	
		この回の到達目標	負債評価のための測定値としてどのようなものが存在するかを知り、その役割を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	負債評価のための各測定値の考え方を理解し、どのような測定方法があるかを把握する。	120分
12	6/24	引当金会計	引当金の計上根拠や分類を学ぶ	
		この回の到達目標	引当金に関する理論的・法的根拠を理解し、引当金の会計処理を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	引当金会計の理論的根拠や法的根拠を理解し、引当金の分類や計上方法を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	退職給付会計	退職給付制度を理解し、退職給付の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	確定給付制度や確定拠出制度の概要を理解し、退職給付に関する会計処理の方法を理解する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	退職給付会計の概要を理解し、一連の会計処理を把握する。	120分
14	7/8	債務性引当金と非債務性引当金	債務性引当金と非債務性引当金の違いを学ぶ	
		この回の到達目標	債務性引当金および非債務性引当金それぞれの特徴を理解し、その相違を把握する。	
		事前学修	配布レジюмеを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	債務性引当金と非債務性引当金との相違を理解し、会計理論上の問題点を把握する。	120分
15	7/15	前期総括	会計規制に関する基本的内容から引当金会計までの内容を総括する	
		この回の到達目標	会計規制の概要、資産評価や負債評価についての各論点を理解する	
		事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業会計法Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
企業が行う財務報告は、会計基準に従って作成された財務諸表で行われるが、財務諸表そのものの作成開示を要請しているのは、金融商品取引法や会社法といった法律である。このように企業会計は法律とも密接に結びついており、会計数値の中には法律によって測定方法が定められているものもある。この授業では、「会計に関する法律」という視点から会計学を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
株式会社を取り巻く会計規制についての総合的な理解を身に付け、企業会計と法との関わり合いについて論理的に思考する力や、制度との関係を批判的に思考する力を身に付ける。また、会計方法に基づいて企業経営を省察する力を獲得する。

【履修条件】
企業会計法Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、簿記原理、会計学、財務諸表論、会社法についての履修を済ませ、これらについての基本的理解が得られていると、さらに授業内容の理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業会計に関連する法制度の基本的考え方を理解する。						3	3						
②	企業会計の規制のあり方と法制度との関わり合いを理解し、論理的に考察できる。							3	3	3				
③	法体系の中における会計制度の役割を理解することで、制度における課題を発見できる。							3	3		3			
④	具体的な計算規定を理解することを通じて、企業経営を省察できる。							3			3			3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	20	15	20							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業で扱った内容が理解できているかを、授業内で与える課題への取組具合で評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、ポータルシステムにて行う。授業内課題については、適宜授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	企業会計法Ⅰの学修内容の確認および企業会計法Ⅱの全体像の確認	企業会計法Ⅰで学修した各論点を復習しつつ、企業会計法Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
		この回の到達目標	企業会計法Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
		事後学修	会計規制の概要をはじめ、資産評価や負債評価についての各論点の内容を理解する。	120分
2	9/23	純資産の部、資本金と資本剰余金	純資産の部の構成と、払込資本の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	会社法および会社計算規則における純資産の部の内訳を把握し、資本金および資本剰余金の会計処理を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	純資産の部の構成を把握し、払込資本に関する会社法上の諸規定を理解する。	120分
3	9/30	資本金等の増減、利益剰余金	会社法における資本金の増減や利益剰余金の取扱いに関する諸規定を学ぶ	
		この回の到達目標	資本金等の増減についての処理方法を身に付け、利益剰余金の性質を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	払込資本と留保利益の性格の相違を理解し、資本金等の増減についての処理方法を修得する。	120分
4	10/7	剰余金の配当と分配可能額	会社法・会社計算規則における剰余金の分配規制を学ぶ	
		この回の到達目標	会社法における剰余金の概念を理解し、分配可能額の算定方法を身に付ける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	剰余金の配当に関する会社法上の規定を理解し、分配可能額の算定方法を修得する。	120分
5	10/14	自己株式の意義	自己株式に関する規制と諸論点を学ぶ	
		この回の到達目標	自己株式の性質を理解し、自己株式をめぐる諸論点を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	自己株式の意義を理解し、自己株式をめぐる諸論点を把握する。	120分
6	10/21	自己株式の取得と処分	自己株式の取得時および処分時の規定を学ぶ	
		この回の到達目標	自己株式の取得・処分における規定を理解し、その会計処理方法を身に付ける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	自己株式の取得規制および処分規制を理解し、それぞれの場面における会計処理方法を修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	新株予約権の意義	新株予約権の仕組みと基本的処理を学ぶ	
		この回の到達目標	新株予約権の仕組みを理解し、通常の発行時の会計処理方法を身に付ける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	新株予約権の仕組みを理解し、通常の発行時における新株予約権の会計処理方法を修得する。	120分
8	11/11	ストック・オプション会計	ストック・オプションとして付与される新株予約権の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	ストック・オプションの仕組みを理解し、その会計処理方法を身に付ける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	ストック・オプションの基本的考え方を理解し、報酬として付与される新株予約権の会計処理方法を把握する。	120分
9	11/18	新株予約権の行使と失効	新株予約権の行使時と失効時の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	新株予約権の権利行使時と権利失効時の会計処理を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	新株予約権の権利行使時および失効時の会計処理を理解し、修得する。	120分
10	11/25	連結計算書類	連結計算書類の作成開示に関する諸規定を学ぶ	
		この回の到達目標	連結計算書類の作成開示に関する会社法上の規定を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	会社法における連結計算書類の作成に関する諸規定を理解し、具体的な構成を把握する。	120分
11	12/2	資本連結と連結貸借対照表	資本連結手続と連結貸借対照表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	資本連結手続と連結貸借対照表の作成方法を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	資本連結の考え方を理解し、一連の会計処理方法を修得する。	120分
12	12/9	吸収合併と株式交換	吸収型組織再編の類型と、その会計処理方法を学ぶ	
		この回の到達目標	吸収合併や株式交換の概要を理解し、パーチェス法による会計処理方法を理解する	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	企業結合の基本的考え方を理解し、吸収型再編における企業結合の会計処理を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	新設合併と株式移転	新設型組織再編の類型と、その会計処理方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	新設合併や株式移転の概要を理解し、それらの会計処理方法を理解する。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	新設型再編における企業結合の会計処理を把握する。	120分
14	12/23	会社分割および営業譲渡	会社分割や営業譲渡における事業分離取引の会計処理を学ぶ	
		この回の到達目標	事業分離取引の基本的仕組みを理解し、投資の清算と継続に関する会計処理を身に付ける。	
		事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	事業分離の基本的考え方を理解し、事業分離取引の会計処理を把握する。	120分
15	1/13	後期総括	純資産会計から組織再編会計までの内容を総括する	
		この回の到達目標	純資産の会計に関する諸論点、連結計算書類や企業結合・事業分離についての各論点を理解する。	
		事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業不祥事論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、実際に発生した企業不祥事の事例や日常で起こりうる倫理的ジレンマについて紹介する。自身が倫理的ジレンマに直面した際にどのような行動が求められるのかに関して、ケーススタディやグループワークを通じて、個人で考える能力を養い、多様な価値観を学ぶことの重要性の理解を目標としている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倫理的なジレンマに直面した際に求められる行動に唯一無二の答えはない。そのため、重要なことは多様な価値観・考え方に触れ、考える力を身につけることである。したがって、本講義では、教員と学修者とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた学修者同士の意見交換を重視し、学修者が企業不祥事に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義、企業不祥事の事例を用いたケースメソッド、ならびに学修者によるグループワークにより進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケースメソッドやグループワークを行い、企業不祥事の発生要因や倫理的ジレンマについて考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業倫理に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。				3	3						
②	個人で働くことと企業(組織)の一員として働くことの違いを理解し、説明することができる。				3	3						
③	日常生活における様々な倫理的ジレンマの存在を理解し、説明することができる。				3		3	3				
④	企業不祥事に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、企業不祥事の発生要因ならびに倫理的ジレンマに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるケースメソッド、ならびにグループワークにおいて自分の意見を述べることをできたかを基準に、到達目標③④にかかわる倫理的ジレンマや企業不祥事に関する諸問題について考察する力が身についているかを評価する。			20	20							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『問いからはじめる現代企業』	小山・出見世・谷口著	有斐閣	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業倫理と企業不祥事の関係について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/15	企業不祥事とはなにか	企業不祥事とは何か、その定義について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業不祥事の定義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4/22	企業不祥事の歴史	日本における企業不祥事の歴史とその内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における企業不祥事の歴史とその内容について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の歴史の中で関心をもったものを具体的に調べてまとめる。(2時間)	120分
4	4/29	企業不祥事と企業倫理Ⅰ：規範倫理と企業倫理	規範倫理(哲学や倫理学)が企業倫理とどのように関わっているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、規範倫理と企業倫理の関係を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、規範倫理と企業倫理の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5/6	企業不祥事と企業倫理Ⅱ：コンプライアンスと企業内部制度	企業不祥事を防止するために、企業が行っている仕組みづくりについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業内部制度の意義と課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業内部制度の意義と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	5/13	企業不祥事と企業倫理Ⅲ：倫理的思考と倫理的行動	個人の倫理的行動が企業にどのような影響を与えるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、個人が直面する倫理的ジレンマについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、個人が陥りうる倫理的ジレンマとしてどのようなものがあるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	ケースメソッドⅠ：個人の非倫理的行動に基づく企業不祥事	実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。	
		事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5/27	グループワークⅠ：日常にある倫理的ジレンマ	日常にある様々な倫理的ジレンマを克服するために、どのような行動が求められるのかについてグループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、倫理的ジレンマを克服する方法についてグループで考え、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、倫理的行動の必要性について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6/3	組織の誠実さを理解する：企業倫理の役割	個人ではなく、組織が倫理的であるとはどのような状態なのかについて、企業と市場の関係から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業倫理の役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業倫理の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6/10	組織の誠実さを構築する：環境づくり	企業が誠実であるために、組織内外の主体とどのような関係を築く必要があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、倫理制度の必要性について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、どのような環境づくりが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	6/17	組織の誠実さを維持する：倫理教育	企業不祥事を防止するために、企業は従業員に対してどのような倫理教育を行っているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、経営者と従業員の関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者と従業員はどのような関係を築くことが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6/24	組織の誠実さを実現する：企業の目的と責任	企業不祥事を防止するためには、企業はどうあるべきなのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業の役割と責任について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	関心のある企業を対象として、企業不祥事を防止するためにどのような取り組みをしているのかについて、調べてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ケースメソッドⅡ：途上国における児童労働問題	実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。	
		事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7/8	グループワークⅡ：良い経営者とはなにか	良い経営者に求められる条件に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、良い経営者に求められる条件についてグループで考え、自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、良い経営者に求められるものは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	7/15	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業不祥事に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	企業不祥事論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、実際に発生した企業不祥事の事例や日常で起こりうる倫理的ジレンマについて紹介する。自身が倫理的ジレンマに直面した際にどのような行動が求められるのかに関して、ケーススタディやグループワークを通じて、個人で考える能力を養い、多様な価値観を学ぶことの重要性の理解を目標としている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倫理的なジレンマに直面した際に求められる行動に唯一無二の答えはない。そのため、重要なことは多様な価値観・考え方に触れ、考える力を身につけることである。したがって、本講義では、教員と学修者とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた学修者同士の意見交換を重視し、学修者が企業不祥事に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
企業不祥事論Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義、企業不祥事の事例を用いたケースメソッド、ならびに学修者によるグループワークにより進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケースメソッドやグループワークを行い、企業不祥事の発生要因や倫理的ジレンマについて考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業倫理に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。					3	3						
②	組織と個人の関係について理解し、その違いについて説明することができる。					3	3	3					
③	グローバル化や技術革新が私たちの生活に与える影響について理解し、説明することができる。					3		3	3				
④	企業不祥事に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、企業不祥事の発生要因ならびに倫理的ジレンマに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるケースメソッド、ならびにグループワークにおいて自分の意見を述べることをできたかを基準に、到達目標③④にかかわる倫理的ジレンマや企業不祥事に関する諸問題について考察する力が身についているかを評価する。			20	20							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『問いからはじめる現代企業』	小山・出見世・谷口著	有斐閣	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業倫理と企業不祥事の関係について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画の見直しと前期の授業内容の復習。	120分
2	9/23	組織と個人の関係	組織と個人の関係における倫理的ジレンマについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、組織に属することで生じる倫理的ジレンマについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、組織と個人の間にどのようなコンフリクトが生じうるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	9/30	ステークホルダーと倫理的課題事項	企業と外部ステークホルダーとの間における倫理的ジレンマについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業と外部ステークホルダーとの間に生じる倫理的ジレンマについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業と外部ステークホルダーとの間にどのようなコンフリクトが生じうるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10/7	企業不祥事と企業の社会的責任	企業の事業活動と社会貢献活動との間における倫理的ジレンマについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業の社会的責任の必要性について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業が経済性と社会性とを両立する上での課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10/14	企業不祥事とコーポレート・ガバナンス	経営者の暴走によって生じる企業不祥事をどのようにして防止するのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業倫理とコーポレート・ガバナンスの関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業倫理とコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10/21	企業不祥事と経営戦略	企業が戦略を企てる上で生じる倫理的ジレンマについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業倫理と経営戦略との関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営戦略に企業倫理を組み込むことの必要性について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ケースメソッドⅠ：法律と倫理	実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。	
		事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/11	グループワークⅠ：消費者に求められる倫理的責任	健全な社会を築くために、消費者に求められる倫理的行動に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、消費者に求められる倫理的責任について自身で考え、意見を述べることができる。	
		事前学修	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、企業と消費者のあるべき関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/18	企業不祥事とグローバル化	グローバル化の進展によって生じた新たな倫理的課題について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、グローバル化がもたらす影響について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、グローバル化の進展によって生じた企業不祥事の事例を調べてまとめる。	120分
10	11/25	企業不祥事と技術革新	技術革新の進展によって生じた新たな倫理的課題について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、技術革新がもたらす影響について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、技術革新の進展によって生じた企業不祥事の実例を調べてまとめる。	120分
11	12/2	企業不祥事と専門職倫理	専門職とはなにか、専門職従事者独自の倫理的ジレンマとはなにかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、専門職倫理の意義と課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、専門職に関わる企業不祥事の実例を調べてまとめる。	120分
12	12/9	非営利組織における不祥事	非営利組織における不祥事は、企業不祥事とどのように異なるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、非営利組織における不祥事の特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、非営利組織における不祥事の実例を調べてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	ケースメソッドⅡ：非営利組織独自のジレンマに基づく不祥事	実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。	
		事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/23	グループワークⅡ：技術革新と専門職倫理	専門職倫理に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業倫理と専門職倫理の関係について自身で考え、意見を述べることができる。	
		事前学修	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、企業倫理と専門職倫理の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/13	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業不祥事に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	企業法務Ⅰ	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
国際取引が進展する中で必要とされる国際売買契約について、日本の民法と比較しながら、ウィーン売買条約(「国際物品売買に関する国際連合条約」CISG)における契約の成立および効力に関する規定を中心に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際商取引のうち特に国際売買契約に関する基礎知識の修得を目的として、その成立、特徴的ツールおよび契約書の構成等について、ウィーン売買条約等も参考にしながら、講義を進める。国際商取引のうち売買契約に関する基礎知識および売買契約書の作成ポイントを修得し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特にないが、債権法および国際私法を履修済みであることが望ましい。なお、これらの科目を未履修の受講生がいる場合は、必要に応じ教員が解説をする。

【授業方法】
テキストおよび条文をベースに教員が講義し、それに対する受講生との質疑応答を行う方式で、授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストおよび条文をベースに教員が講義し、それに対する受講生との質疑応答を行う方式で、授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際売買契約に適用される、ウィーン売買条約における契約の成立および効力に関する規定について理解し、説明できる。【知識】					2	2	2					
②	国際売買契約書で用いられる諸条項の意味および目的について理解し、説明できる。【知識】					2	2	2					
③	国際売買契約に適用される、ウィーン売買条約における契約の成立および効力に関する規定に基づき、契約の解釈に応用できる。【技能】					2	2	2					
④	国際売買契約書で用いられる諸条項の意味および目的を理解し、初歩的な契約書の条項を解釈できる。【技能】					2	2	2					
⑤	ウィーン売買条約における契約の成立と効力の規定に基づき、契約の解釈について自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】					2	2	2					
⑥	国際売買契約書で用いられる諸条項の意味および目的を理解し、初歩的な契約書の条項について自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】					2	2	2					
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	上記到達目標の①～④を達成しているかを確認するため、 前期の最終講義日に、記述式の授業内前期末試験を行う。	40										40
小テスト等	前期の講義時間内に、前週までの講義で最低限度理解して ほしいことについて、語群選択および正誤問題による、理 解度確認テストを3回行う。 試験実施日については、実施日の前週の講義日に事前予告 する方式とする。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	テキストおよび条文をベースに教員が講義し、それに対す る受講生との質疑応答を行う方式により、授業を行うの で、その質疑応答において自分の意見を述べ、積極的に参 加した学生には、上記の前期末試験及び理解度確認テスト とは別枠で加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、次回の講義時に答案を返却し、その解説を行う。また、期末試験については、後日、ポータルシステムにて配 信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』	亀田尚己編著平野英 則ほか著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業時間内に書面または口頭にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7火	【ガイダンス】 【国際商取引のあらまし】	国際的な売買を中心とする、国際商取引がどのようなプロセスを経て行われるかについて、その概要を学修する。	
		この回の到達目標	国際的な売買を中心とする、国際商取引のプロセスの概要について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに教科書の該当箇所を精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。また、講義内容の復習のために、ノートを整理する。	80分
2	4/14火	【予備的交渉】 【売買契約】	国際的売買契約における、【予備的交渉】のプロセスおよび【売買契約】の成立と契約書の締結に関する重要ポイントについて学修する。	
		この回の到達目標	国際的売買契約における、【予備的交渉】のプロセスおよび【売買契約】の成立と契約書の締結に関する重要ポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
3	4/21火	【代金決済】 【国際運送】 【国際取引に必要な保険】 【通関手続と引渡し】	国際的売買契約における、【代金決済】、【国際運送】、【国際取引に必要な保険】および【通関手続と引渡し】に関する重要ポイントについて学修する。	
		この回の到達目標	国際的売買契約における、【代金決済】、【国際運送】、【国際取引に必要な保険】および【通関手続と引渡し】に関する重要ポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
4	4/28火	【国際商取引とさまざまな法】	【国際商取引とさまざまな法】に関し、【「国際取引法」というもの】、【国際条約や各国公法による規制】、【国際商取引の当事者関係に適用される実体法】および【国際商取引の紛争解決手続に適用される法（国際民事手続法）】について学修する。	
		この回の到達目標	【国際商取引とさまざまな法】に関し、【「国際取引法」というもの】、【国際条約や各国公法による規制】、【国際商取引の当事者関係に適用される実体法】および【国際商取引の紛争解決手続に適用される法（国際民事手続法）】について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
5	5/5火	【国際契約法】	【国際契約法】に関し、【「準拠法」の指定】、【国際契約法としての「英国法／米国州法」vs「統一私法条約」】、【統一規則／標準書式／商慣習】について学修する。	
		この回の到達目標	【国際契約法】に関し、【「準拠法」の指定】、【国際契約法としての「英国法／米国州法」vs「統一私法条約」】、【統一規則／標準書式／商慣習】について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
6	5/12火	【国際物品売買に関する国際連合条約】	【国際物品売買に関する国際連合条約（CISG）】に関し、【条約の概要】、【CISGの重要性】、【適用範囲とオプトアウト】および【条約解釈の一般原則】について学修する。	
		この回の到達目標	【国際物品売買に関する国際連合条約（CISG）】に関し、【条約の概要】、【CISGの重要性】、【適用範囲とオプトアウト】および【条約解釈の一般原則】について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19火	【売買契約の成立】 【売主の義務とその違反】	【国際物品売買に関する国際連合条約（CISG）】における【売買契約の成立】および【売主の義務とその違反】について学修する。
		この回の到達目標	【国際物品売買に関する国際連合条約（CISG）】における【売買契約の成立】および【売主の義務とその違反】について理解し、説明できる。
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。
8	5/26火	【買主の義務とその違反】、【危険の移転】、 【履行の停止／履行期前の契約解除】、 【損害賠償の範囲／損害拡大の抑止】	【国際物品売買に関する国際連合条約（CISG）】における【買主の義務とその違反】、【危険の移転】、【履行の停止／履行期前の契約解除】および【損害賠償の範囲／損害拡大の抑止】について学修する。
		この回の到達目標	【国際物品売買に関する国際連合条約（CISG）】における【買主の義務とその違反】、【危険の移転】、【履行の停止／履行期前の契約解除】および【損害賠償の範囲／損害拡大の抑止】について理解し、説明できる。
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。
9	6/2火	【契約書の機能】 【契約書の締結】	【契約書の機能】に関し、【法的保護の条件としての契約書】、【紛争時の証拠としての契約書】、【履行のナビゲーターとしての契約書】および【事業の記録としての契約書】ならびに【契約書の締結】に関し、【国際契約書と国際契約言語としての英語】、【個別売買契約書：スポット契約とその書式】、【「書式の闘い」】および【継続的取引基本契約書】について学修する。
		この回の到達目標	【契約書の機能】に関し、【法的保護の条件としての契約書】、【紛争時の証拠としての契約書】、【履行のナビゲーターとしての契約書】および【事業の記録としての契約書】ならびに【契約書の締結】に関し、【国際契約書と国際契約言語としての英語】、【個別売買契約書：スポット契約とその書式】、【「書式の闘い」】および【継続的取引基本契約書】について理解し、説明できる。
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。
10	6/9火	【取引一般条件概説】その1	【取引一般条件】に関し、【個別売買契約書表面に記載される事項】ならびに【個別売買契約書裏面に記載される事項】のうち【物品売買契約に固有で、全個別取引に共通の条項】としての【輸出入の許認可に関する条項】、【支払いに関する条項】および【保険に関する条項】について学修する。
		この回の到達目標	【取引一般条件】に関し、【個別売買契約書表面に記載される事項】ならびに【個別売買契約書裏面に記載される事項】のうち【物品売買契約に固有で、全個別取引に共通の条項】としての【輸出入の許認可に関する条項】、【支払いに関する条項】および【保険に関する条項】について理解し、説明できる。
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。
11	6/16火	【取引一般条件概説】その2	【取引一般条件】に関し、【個別売買契約書裏面に記載される事項】のうち【一般条項】としての【不可抗力条項】、【終了条項】、【仲裁条項】および【準拠法条項】について学修する。
		この回の到達目標	【取引一般条件】に関し、【個別売買契約書裏面に記載される事項】のうち【一般条項】としての【不可抗力条項】、【終了条項】、【仲裁条項】および【準拠法条項】理解し、説明できる。
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。
12	6/23火	【継続的取引基本契約に見られる条項】 【売買契約以外の契約類型】	【継続的取引基本契約に見られる条項】、【売買契約以外の契約類型】および【電子メールを用いた契約の成立時期】について学修する。
		この回の到達目標	【継続的取引基本契約に見られる条項】、【売買契約以外の契約類型】および【電子メールを用いた契約の成立時期】について理解し、説明できる。
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30火	【前期の講義の総復習】 【前期末試験の出題範囲】	前期の講義内容を総復習し、その重要ポイントについて学修する。 併せて、前期末試験の出題範囲を発表する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容の重要ポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	前期の講義内容の重要ポイントをノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
14	7/7火	【質疑応答】	前期末試験の出題範囲内の疑問点について、教員と学生の間で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	質疑応答の内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	前期講義内容における疑問点を取りまとめて、質疑応答の準備する。	80分
		事後学修	質疑応答の内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
15	7/14火	【前期末試験】 まとめ	授業内前期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	試験問題を理解し、説明できる。	
		事前学修	前期講義内容を総復習し、前期末試験の準備をする。	80分
		事後学修	解答内容の自己検証を行い、理解を整理しておく。	80分

科目名	企業法務Ⅱ	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
国際取引の進展に伴い国際売買契約が締結された後、当該契約について紛争が生じた場合の対応について、国際民事訴訟や国際商事仲裁を中心に学修する。 また、必要に応じてわが国の仲裁法やニューヨーク条約なども参考にしながら、より実践的な学修を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際売買契約に関する特徴的なツールおよび紛争発生時の対応などについて、ウィーン売買条約やニューヨーク条約等も参考にしながら、主に国際商取引における紛争解決に関する基礎知識の修得を目的とする。 この基礎知識の基づき、具体的な紛争発生時における実践的交渉手法の基礎を修得し説明できることを目標とする。

【履修条件】
債権法、国際私法および企業法務Ⅰを履修済みであることが望ましい。未履修の受講生がいる場合には、教員が必要に応じて解説するので、特に履修条件は設けない。

【授業方法】
教員が次の講義の内容を予告するので、学生がテキストおよび条文をベースに予習し、講義において教員が学生の予習内容の理解を確認するために、学生との質疑応答を行う方式で、授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員が次の講義の内容を予告するので、学生がテキストおよび条文をベースに予習し、講義において教員が学生の予習内容の理解を確認するために、学生との質疑応答を行う方式で、授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際売買契約に関する特徴的なツールであるインコタームズの種類や船荷証券の法理的性質などについて理解し、説明できる。【知識】					2	2	2				
②	ウィーン売買条約やニューヨーク条約等も参考にしながら、国際商取引における紛争解決方法について理解し、説明できる。【知識】					2	2	2				
③	インコタームズの種類や船荷証券の法的性質などについて理解したうえで、実際の国際売買契約に応用することができる。【技能】					2	2	2				
④	紛争解決条項やニューヨーク条約などにに基づき、国際民事訴訟や商事仲裁による紛争解決方法を導くことができる。【技能】					2	2	2				
⑤	インコタームズの種類や船荷証券の法的性質を理解し、国際売買契約への応用につき、自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】					2	2	2				
⑥	紛争解決条項やニューヨーク条約に基づき、国際紛争の解決方法について自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】					2	2	2				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	上記到達目標の①～④を達成しているかを確認するため、 前期の最終講義日に、記述式の授業内前期末試験を行う。	40										40
小テスト等	前期の講義時間内に、前週までの講義で最低限度理解して ほしいことについて、語群選択および正誤問題による、理 解度確認テストを3回行う。 試験実施日については、実施日の前週の講義日に事前予告 する方式とする。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	テキストおよび条文をベースに教員が講義し、それに対す る受講生との質疑応答を行う方式により、授業を行うの で、その質疑応答において自分の意見を述べ、積極的に参 加した学生には、上記の前期末試験及び理解度確認テスト とは別枠で加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、次回の講義時に答案を返却し、その解説を行う。また、期末試験については、後日、ポータルシステムにて配 信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』	亀田尚己編著平野英 則ほか著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内に書面または口頭にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15火	【ガイダンス】 【インコタームズ】その1	後期の「企業法務Ⅱ」のみを受講する学生のために、前期に講義した「企業法務Ⅰ」に重要ポイントの概要を説明し、「企業法務Ⅱ」で学ぶ講義内容の概要を説明し、【ガイダンス】とする。国際売買契約で用いられる貿易取引条件である【インコタームズ】の概要について学修する。	
		この回の到達目標	国際売買契約で用いられる貿易取引条件である【インコタームズ】の概要について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを事前に確認するとともに、教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。 また、講義内容の復習のために、ノートを整理する。	80分
2	9/22火	【インコタームズ】その2	国際売買契約で用いられる【インコタームズ】のうち、重要な貿易取引条件について学修する。	
		この回の到達目標	国際売買契約で用いられる【インコタームズ】のうち、重要な貿易取引条件について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
3	9/29火	【外国為替】 【外国為替相場の種類】	外貨建て取引に伴う【外国為替】の意味および【外国為替相場の種類】とその内容について学修する。	
		この回の到達目標	外貨建て取引に伴う【外国為替】の意味および【外国為替相場の種類】とその内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
4	10/6火	【為替変動リスク】 【為替変動リスクの回避方法】 (その1) 【為替予約】	【為替変動リスク】の意味およびいろいろな【為替変動リスクの回避方法】のうち【為替予約】について学修する。	
		この回の到達目標	【為替変動リスク】の意味およびいろいろな【為替変動リスクの回避方法】のうち【為替予約】について学修する。について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
5	10/13火	【為替変動リスクの回避方法】 (その2) 【通貨オプション】 【ネットティング】	いろいろな【為替変動リスクの回避方法】のうち【通貨オプション】および【ネットティング】について学修する。	
		この回の到達目標	いろいろな【為替変動リスクの回避方法】のうち【通貨オプション】および【ネットティング】について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
6	10/20火	【国際物品運送】(その1) 【海上物品運送】 【船荷証券】 【海上運送状】	貿易取引に伴う【国際物品運送】のうち【海上物品運送】の形態とそこで利用される運送書類の【船荷証券】および【海上運送状】の法的性質の違いについて学修する。	
		この回の到達目標	貿易取引に伴う【国際物品運送】のうち【海上物品運送】の形態とそこで利用される運送書類の【船荷証券】および【海上運送状】の法的性質の違いについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27火	【国際物品運送】（その2） 【航空物品運送】 【国際複合運送】	貿易取引に伴う【国際物品運送】のうち【航空貨物運送】および【国際複合運送】について学修する。	
		この回の到達目標	貿易取引に伴う【国際物品運送】のうち【航空貨物運送】および【国際複合運送】について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
8	11/10火	【国際商取引紛争の解決手段と契約上の合意】	【国際商取引紛争の解決手段と契約上の合意】に関し、国際商取引紛争の解決手段としての【国際民事訴訟】と【国際商事仲裁】に関する契約書中の「紛争解決条項」について学修する。	
		この回の到達目標	【国際商取引紛争の解決手段と契約上の合意】に関し、国際商取引紛争の解決手段としての【国際民事訴訟】と【国際商事仲裁】に関する契約書中の「紛争解決条項」について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
9	11/17火	【国際民事訴訟】（その1）	国際紛争解決手段としての【国際民事訴訟】に関し、デフォルトとしての国際民事訴訟、国際民事訴訟における「法廷地」の意味、国際民事訴訟と「国際裁判管轄権」という問題および「国際裁判管轄権」決定のルール（日本の場合）について学修する。	
		この回の到達目標	国際紛争解決手段としての【国際民事訴訟】に関し、デフォルトとしての国際民事訴訟、国際民事訴訟における「法廷地」の意味、国際民事訴訟と「国際裁判管轄権」という問題および「国際裁判管轄権」決定のルール（日本の場合）について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
10	11/24火	【国際民事訴訟】（その2）	国際紛争解決手段としての【国際民事訴訟】に関し、裁判管轄条項の機能と性質および裁判管轄条項ドラフティングのポイントについて学修する。	
		この回の到達目標	国際紛争解決手段としての【国際民事訴訟】に関し、裁判管轄条項の機能と性質および裁判管轄条項ドラフティングのポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
11	12/1火	【国際商事仲裁】（その1）	国際紛争解決手段としての【国際商事仲裁】に関し、国際商事仲裁の意味、国際商事仲裁の法的な根拠と「仲裁付託の合意」、日本の仲裁法と仲裁判断執行のしくみおよび訴訟との比較について学修する。	
		この回の到達目標	国際紛争解決手段としての【国際商事仲裁】に関し、国際商事仲裁の意味、国際商事仲裁の法的な根拠と「仲裁付託の合意」、日本の仲裁法と仲裁判断執行のしくみおよび訴訟との比較について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
12	12/8火	【国際商事仲裁】（その2） 【仲裁以外のADR】 【国際商取引における弁護士の活用】	国際紛争解決手段としての【国際商事仲裁】に関する紛争解決条項としての仲裁条項のポイント、仲裁以外のADRおよび国際商取引における弁護士の活用について学修する。	
		この回の到達目標	国際紛争解決手段としての【国際商事仲裁】に関する紛争解決条項としての仲裁条項のポイント、仲裁以外のADRおよび国際商取引における弁護士の活用について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15火	【後期講義の総復習】 【後期末試験範囲の発表】	後期の講義内容を総復習し、その重要ポイントについて学修する。 併せて、教員から後期末試験の範囲を発表する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容を総復習し、その重要ポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
14	12/22火	【質疑応答】	後期末試験の範囲の内容に関する、教員と学生の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	後期末試験の範囲の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	後期末試験の範囲の内容について、事前に疑問点を取りまとめ、講義の準備をする。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および質疑応答の内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
15	1/12火	【授業内後期末試験】 まとめ	授業内後期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	授業内後期末試験の問題と解答について理解し、説明できる。	
		事前学修	授業内後期末試験の範囲について総復習を行い、試験の準備をする。	80分
		事後学修	授業内後期末試験の総復習をする。	80分

科目名	教育政策	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
教育政策立案過程から説き起こし、教育政策が社会生活に及ぼす重要性を理解する。とくに、「子どもの貧困」というわが国社会が直面している問題を深く掘り下げ、その対策について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教育政策が社会に及ぼす影響を理解し社会人として教育問題に取り組む態度を育み、「子どもの貧困」対策について自らの考えを述べられる知識、さらにその具体的解決策について提言できるような技能を身に付けられるよう教育政策論を学修する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義を基本とするが、BYODを活用して、講義中に学生自身が資料や統計を検索しつつ講義は進められる。講義に対するラーニングリフレクションの提出を求め、各テーマの理解度、補足必要な課題などを検証しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。						4		4					
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。								4	4				
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。								4	4				
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。									4	4			
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。									4	4			
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30		20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育政策・行政	安藤忠・壽福隆人監修	弘文堂	平成25年3月		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日4限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	授業計画について 導入講義	講義形式、BYODの活用、評価法を説明し、教育政策論の領域について紹介する。	
		この回の 到達目標	教育政策の学修領域とは何かを理解し、講義に対する意欲・意識を高める。	
		事前学修	シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。各自の教育歴・学校歴の中で、教育政策と関係が深いと思われる事象についてリストアップする。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
2	4月13日	教育政策の概念について	日本経済の成長の過程で、教育政策がどのようにかかわってきたのかを明らかにし、教育政策の概念を明らかにする。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関して、教育政策とはどのように社会と関わっているか説明できる。	
		事前学修	各自の教育歴と学校歴のなかで教育政策とのかかわりについて把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	4月20日	近代日本の教育政策	教育政策がわが国の近代化に大きく貢献したことを確認する。	
		この回の 到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
		事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	4月27日	教育政策立案過程	現代の教育問題に対して行政がどのように対応しているのか明らかにし、政策立案過程に見られる問題点を明らかにする。	
		この回の 到達目標	教育政策が社会の発展と大きく関わっていることを歴史的事実から説明できる。（到達目標①）	
		事前学修	近代史の中から教育政策の果たした役割について把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	5月4日	教育政策と学習指導要領	教育政策が学習指導要領にどのように反映しているかを明らかにする。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関して、学習指導要領の教育政策的意味について説明できるようにする。	
		事前学修	学習指導要領の法的位置づけについて調べ、授業内で発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	5月11日	中国の歴史的 教育政策と日 本への影響	わが国の伝統的教育政策と中国との交流について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、わが国の教育政策に見られる伝統について説明することができる。	
		事前学修	教育に関する公的支出が少ないのにわが国の教育水準が高い理由について各自が自分の意見を授業内で発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	古代ギリシャの教育政策	社会構造の違いが教育政策にどのような影響を与えるかについて古代ギリシャの教育政策から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、社会構造と教育政策の関係を明らかにして、今日のエデュケーション問題の原因を論理的に説明・批判できるようにする。	
		事前学修	今日の教育に関する問題点を各自明らかにし、問題の所在を自らの言葉で、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	5月25日	絶対主義王政下の教育政策	義務教育制度の成り立ちと教育政策の関係を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、義務教育制度の果たすべき役割と問題点について説明することができる。	
		事前学修	各自の教育歴の中に占める義務教育大きさについて、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	6月1日	資本主義発達期の教育政策	産業の発達と教育政策の関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、産業社会の発達に教育政策が深くかかわることを説明することができる。	
		事前学修	高指定された文献等で産業の発達と教育政策との深い関係について、質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	6月8日	現代アメリカの教育政策と現代日本の教育政策	今後の教育政策の展望のために、現代アメリカ、現代日本が直面している教育問題について明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、今後の教育政策に何を期待するか各自の意見を述べることができる。	
		事前学修	指定された文献等により今後教育政策の歩むべき方向に対して把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。指定された文献等により今後教育政策の歩むべき方向に対して把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	6月15日	子どもの貧困（1）	一億総中流という意識の中で捨て置かれてきた「子どもの貧困」問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、「子どもの貧困」の問題が現在いかに深刻な問題となっているか説明することができる。	
		事前学修	指定された資料・文献等により、OECDの勧告の意味を理解し、その重大性を把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	6月22日	子どもの貧困（2）	到達目標③④に関して、「子どもの貧困」の問題が現在いかに深刻な問題となっているか医療ものの観点から説明することができる。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、医療の観点から貧困家庭の子供が置かれている現状を説明することができる。	
		事前学修	指定された資料・文献等により、医療の観点から子供の置かれている状況尾を授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	子どもの貧困（3）	受験制度・進学問題から「子どもの貧困」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、貧困家庭と進学・受験問題の深刻な現実について学び、その問題性を説明できる。	
		事前学修	自らの学校歴の中から、受験や進学が現代日本においていかに重要な問題であるかをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	7月6日	子どもの貧困（4）	世界各地の貧困状態に置かれた子供の現状にも目を向け、その解決策について議論できる力をつける。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、国際的視点から「子どもの貧困」問題を理解し、この解決策を模索し、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
15	7月13日	子どもの貧困問題への提言	これまでの講義内容を踏まえて「子供の貧困」という問題に有効な手を打てない現代の教育政策の問題点を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、論理的に自らの意見をまとめ、「子どもの貧困」対策を自らの言葉で訴えることができるようにする。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加でき、自らの意見を述べらるよう自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山 公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾 勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス、国民生活と行政	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。	120分
2	4/15	行政サービスの範囲拡大	歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史的変遷について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、特に社会背景と行政の役割について理解を深めること。	180分
3	4/22	福祉国家の成立と課題	行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。	180分
4	4/29	行政と国民	行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。	180分
5	5/6	アメリカ行政学の歴史的展開	現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代国家に必要な不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。	180分
6	5/13	アメリカ行政学と行政理論	社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	行政学の構成	日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	180分
8	5/27	現代国家の政府体系	中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を枠づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	180分
9	6/3	現代国家の政府体系の課題	行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。	120分
10	6/10	行政管理と行政改革	行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性と、公共性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政が導入した、重要な概念である管理について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	180分
11	6/17	行政活動の能率	行政管理で用いられる、能率性・効率性・経済性の用語を中心に、現代で求められる公共性について検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の能率・効率について調べておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	180分
12	6/24	行政組織	組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政組織の機能について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	官僚制と民主制	官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	7/8	現代公務員制度の構成原理	公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公務員制度について検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	180分
15	7/15	講義のまとめと行政環境の変化	行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中折をみてリアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『行政学案内[第2版]』	真淵 勝	慈学社	2014	参考書	任意
『行政学』	真淵 勝	有斐閣	2009	参考書	任意
『よくわかる行政学（第2版）』	村上 弘・佐藤 満 編	ミネルヴァ書房	2016	その他	任意
備考	教科書は使用しないが、上記真淵著の2冊に準拠して授業を構成しているので、この2冊はとても有用である。				

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を確認し理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章に目を通し、講義の全体像をイメージできるようにする。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考書をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部 月4/13	1. 国家行政機構(1) 中央省庁のしくみ	「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部 月4/20	1. 国家行政機構(2) 中央省庁の出先機関等	中央省庁の出先機関の構成、配置、役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	中央省庁の出先機関の構成、配置、役割を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部 月4/27	1. 国家行政機構(3) 中央省庁再編の意味合い	中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望について学ぶ。	
		この回の到達目標	中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部 月5/4	1. 国家行政機構(4) 内閣制度のしくみと機能	内閣制度の仕組みと機能、また内閣総理大臣のリーダーシップについて学ぶ。	
		この回の到達目標	内閣制度 その仕組みと機能、また内閣総理大臣のリーダーシップを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部 月5/11	2. 国家公務員制度(1) 公務員制度のしくみ	国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度について学ぶ。	
		この回の到達目標	国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	2. 国家公務員制度(2) 官僚のライフステージ：天下りの機能と逆機能	官僚の天下りに関して、その功罪を学ぶ。	
		この回の到達目標	官僚の天下りに関して、その功罪を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部 月5/25	2. 国家公務員制度(3) 人事院の制度と機能	公務員は労働基本権を制約されているが、その代償としての人事院勧告を中心に学ぶ。	
		この回の到達目標	人事院の制度と機能を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部 月6/1	2. 国家公務員制度(4) 行政資源としての出向官僚	行政資源として見た中央官僚の地方出向について学ぶ。	
		この回の到達目標	行政資源として見た中央官僚の地方出向について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部 月6/8	3. 日本的行政システムの特徴(1)「官僚像」の時代的変容①「国土型官僚」、「調整型官僚」	「政官関係論」的視座に基づいて、時代により「官僚」像がどのように変わってきたかについて学ぶ。「国土型官僚」モデルから「調整型官僚」モデルまで	
		この回の到達目標	時代により「官僚」像がどのように変わってきたかを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部 月6/15	3. 日本的行政システムの特徴(2)「官僚像」の時代的変容②「吏員型官僚」	「政官関係論」的視座に基づいて、時代により「官僚」像がどのように変わってきたかについて学ぶ。「吏員型官僚」モデルを中心に扱い、このような変容をどのように理解するのかを主権者である国民の視点から探る。	
		この回の到達目標	時代により「官僚」像がどのように変わってきたかを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部 月6/22	3. 日本的行政システムの特徴(3) 大部屋主義とセクショナリズム	日本的官僚制の特質の一つと言われる「大部屋主義」と「セクショナリズム」について学ぶ。	
		この回の到達目標	日本的官僚制の特質の一つと言われる「大部屋主義」と「セクショナリズム」について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	3. 日本的行政システムの特徴(4) 稟議制神話と実際①通説としての「稟議制」	長年わが国特有の行政組織の意思決定方式と言われてきた「稟議制」について学ぶ。	
		この回の到達目標	「稟議制」について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部 月7/6	3. 日本的行政システムの特徴(4) 稟議制神話と実際②多様な意思決定方式のあり様	実際の行政組織においては「稟議制」はごく一部に採用されているにすぎず、実際には多様な意思決定方式が採用されていることを、井上誠一の所論に学ぶ。	
		この回の到達目標	行政組織における多様な意思決定方式を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部 月7/13	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。また期間のまとめとして、この間行った主要な事柄について質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で学んだ行政学の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	半期で授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、疑問を解消する。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山 公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾 勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	中央政府の組織編制	中央政府の組織を見つつ、その内部構成を検討していく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁の特色等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、さらに中央省庁のホームページ等を見て行政組織図について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政組織の理解を深めること。	120分
2	9/23	行政の内部過程	行政の内部メカニズムについて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織における、統合と調整等、そのメカニズムを説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、管理運営技術などを検討しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織におけるメカニズムの理解を深めること。	120分
3	9/30	政策過程	政策過程を概説し、政策展開を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策形成・立案における、行政と国民の関係を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策とは何かについて理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策形成と立案の理解を深めること。	180分
4	10/7	環境変化と政策	環境変化による政策の変化を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、多様な政策展開について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策ごとの違いと関連について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策の時間軸的变化の理解を深めること。	120分
5	10/14	政策過程分析	政策ごとに進め方や参加者が違うこと等に着目し、政策過程分析をみていく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策過程の理論や分析等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策の違いと参加の関連について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、多様な政策実施について理解を深めること。	120分
6	10/21	行政裁量・許認可・行政指導	行政裁量について、許認可・行政指導との関連をみていく。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政行為について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政裁量について、許認可・行政指導との関連を理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政裁量の必要性和課題の理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	政策評価	政策評価の対象と基準について検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策評価の意義と限界について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の効果について検討しておくように。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策評価実施後の行政活動の在り方についての検討を深めること。	120分
8	11/11	政策決定過程	政策過程における諸段階のうち、政策決定過程を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、政策決定過程ならびに、その過程における調整等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策決定過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、課題設定などその過程についての理解を深めること。	120分
9	11/18	政策実施過程	政策過程における諸段階のうち、行政の実施を学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、実施主体の課題等について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策実施過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策過程を全体として理解する。	120分
10	11/25	予算と会計	財政制度と予算・決算について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の財政制度とその課題について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、財政制度について理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、財政制度の理解を深めつつ、財政制度の問題点を検討しておくこと。	180分
11	12/2	議院内閣制と省庁制	行政組織を歴史的に概観し、内閣制度につて検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁改革の目的などを説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、三権分立における行政について、検討しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、中央省庁改革などの理解を深めること。	180分
12	12/9	地方自治	戦後日本の中央地方関係を概観し、地方自治の役割と自治体行政について学習する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、一番身近な行政である地方自治を理解し、住民意識の重要性について説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、地方自治について理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、身近な行政サービスと住民意識についての理解を深めること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	行政責任	行政責任の概念を見つつ、現代に求められる行政責任を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、現代で求められる行政責任について、自分なりの意見を説明できる。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政責任について理解をしておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政責任のバランスを考えること。	180分
14	12/23	行政統制	行政統制の類型を概観しつつ、行政の在り方を検討する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、行政統制の必要性、なかでも国民の責任について理解する。	
		事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政統制の類型を理解しておくこと。	60分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政内・外の実在の理解を深めること。	180分
15	1/13	講義のまとめと新たな行政モデル	行政をとりまく環境変化を検討しつつ、新たな行政モデルの必要性検討し、その後全体のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、現状の行政について理解しつつ、その問題点を説明でき、新たな行政モデル必要性について自分の意見を持つ。	
		事前学修	初回からの教科書と講義ノートを見直し、行政内・外の役割について考察する。	120分
		事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『行政学案内[第2版]』	真淵 勝	慈学社	2014	参考書	任意
『行政学』	真淵 勝	有斐閣	2009	参考書	任意
『よくわかる行政学（第2版）』	村上 弘・佐藤 満編	ミネルヴァ書房	2016	その他	任意
備考	教科書は使用しないが、上記真淵著の2冊に準拠して授業を構成しているので、この2冊はとても有用である。				

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	4. 官僚制論(1)近代官僚制とは何か？	マックス・ウェーバーらの近代官僚制論について、家産官僚制などと比較しながらその所論を学ぶ。	
		この回の到達目標	マックス・ウェーバーらを中心とする近代官僚制論を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
2	第一部月 9/21	4. 官僚制論(2)官僚制の逆機能	近代官僚制の逆機能と言われる諸現象について、アメリカで起こったマートン、セルズニックらの逆機能学派の所論に学ぶ。	
		この回の到達目標	近代官僚制の逆機能について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
3	第一部月 9/28	4. 官僚制論(3)他の側面から見た官僚制	ストリートレベルの官僚制、プロフェッショナル組織、開放的昇任制と閉鎖的昇任制など、もう一つの側面から現代の官僚制について焦点を当て、その機能について学ぶ。	
		この回の到達目標	官僚制のもう一つの側面について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
4	第一部月 10/5	5. 行政責任(1)行政責任とは何か？	主にギルバートの行政責任（行政統制）の4類型をモデルとして、行政責任とはどのようなものかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	現代行政国家における行政責任の意味合いを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
5	第一部月 10/12	5. 行政責任(2)受動的責任・能動的責任・自律的責任	古典的な行政責任の考え方である受動的責任に止まらず、能動的責任さらには自律的責任までが求められるその意味合いについて学ぶ。	
		この回の到達目標	受動的責任・能動的責任・自律的責任を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
6	第一部月 10/19	5. 行政責任(3)フリードリッヒとファイナーの論争	行政責任をめぐる有名なフリードリッヒとファイナーの論争を理解し、行政責任の考え方について学ぶ。	
		この回の到達目標	フリードリッヒとファイナーの論争から現代行政国家における行政責任のあり方を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	6. 行政ネットワーク (1) 公的 グリーゾーン組織とは何 か？	独立行政法人組織らを中心とする公的グリーゾーン組織と呼ばれる一群について、その制度や機能・役割を学ぶ。	
		この回の 到達目標	現代行政国家に果たす公的グリーゾーン組織について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部月 11/9	6. 行政ネットワーク (2) 私的 グリーゾーン組織とは何 か？	業界団体を始めとする私的グリーゾーン組織と呼ばれる一群について、その制度や機能・役割を学ぶ。	
		この回の 到達目標	現代行政国家に果たす私的グリーゾーン組織について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部月 11/16	6. 行政ネットワーク (3) 諮問 機関について	行政ネットワークから見た審議会等を始めとする諮問機関について、その制度、機能、役割等について学ぶ。	
		この回の 到達目標	諮問機関について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部月 11/23	7. 利益団体と行政について	利益団体が行政に果たす影響力を中心に、利益団体と行政、広く政治過程におけるその役割、機能について学ぶ。	
		この回の 到達目標	政治行政過程において利益団体が果たす役割や機能を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部月 11/30	8. 官民関係について	特に民間委託の功罪を取り上げ、「官」と「民」のあり方について学ぶ。	
		この回の 到達目標	「官民関係」を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部月 12/7	9. 政策過程 (1) 政策過程に関 する諸理論	政策過程に関する諸理論について学ぶ。	
		この回の 到達目標	政策改訂に関する諸理論について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	9. 政策過程(2)各過程の分析	政策過程の5段階について概説し、そこで行政が果たす役割、機能について学ぶ。	
		この回の到達目標	各政策過程を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部月 12/21	10. 国民と行政	国民はどのように行政過程に参加し、政策に関わることができるのかという点について学ぶ。	
		この回の到達目標	国民の行政参加について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部月 1/18	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。また期間のまとめとして、試験の解説の他、後期の授業で扱った主要な事柄について質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で行った行政学の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
		事前学修	半期の授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、疑問を解消する。	120分

科目名	行政管理研究	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
行政組織の業務を目的活動と区別し、目的活動を効率的に達成できるようにするための組織と維持発展をはかるためには何が必要かを検討する。具体的にはトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントにも続き、行政活動との関連で行政管理のあり方を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、国民の期待に応え、社会により貢献していく行政管理を、専門的に理解する能力を学修者に養成することを目的とする。具体的に本講義では、行政管理の基礎理論を解説しつつ、行政の効率的機能の改善・合理化を検討し、行政管理の問題点・展望を検討していく。さらに行政の目的のひとつである能率に検討を加えることで、能率よりも高い価値とされる「公益」とのバランスを学修者には考えられるようになってもらうことを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者が、行政管理の概念を理解し、行政管理のマネジメント機能について説明できる。						4						
②	学修者が、行政機関におけるトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントの機能に基づき、行政管理の機能を説明できる。						4		4	4			
③	学修者が、現代に求められる行政管理を能率と公益を踏まえて説明できるようになる。						4			4	4		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政管理の機能について理解し、行政組織の在り方を定期試験の問題において論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政組織の目的と管理の意味、研究方法についてキーワードを説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	行政組織の目的	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政組織の目的と管理の意味、研究方法についてキーワードを説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理の目的について理解する。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておく。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味や意義について理解を深めること。	120分
2	9/25	行政組織と行政管理	行政組織と行政管理の関係について検討していく。	
		この回の到達目標	①～③に関連して組織と管理の関係について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織論について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織と管理の関係について理解を深めること。	120分
3	10/2	行政管理の機能	行政管理に用いられる用語を解説しつつ、管理の機能について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、管理者についての機能について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、管理機能について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と機能について理解を深めること。	120分
4	10/9	意思決定と行政管理	行政管理に用いられる用語を解説しつつ、意思決定との関係を学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政の意思決定と管理機能の関係について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政の意思決定過程について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と意思決定の理解を深めること。	120分
5	10/16	行政管理と基本構想	行政管理と基本構想などの具体的な事例を検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、具体的な行政活動と管理の関係を説明できる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想などを見ておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分が住む自治体の方向性と行政管理について検討を加えること。	120分
6	10/23	政策と行政管理	行政管理に用いられる用語を解説しつつ、政策実施・行政組織との関係を学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、政策実施における行政管理の機能について理解する。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、政策とは何かについて理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と政策、行政の部署の理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	行政責任と行政管理	行政責任の変遷と、行政管理の関係について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政に求められる責任の変化と行政管理の変化について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政責任とは何かについて理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理の考え方や変化について理解を深めること。	120分
8	11/6	トップ・マネジメント	行政管理における、トップ・マネジメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、トップ・マネジメントの役割と対象について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解し、トップ・マネジメントについて調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるトップ・マネジメントと行政管理の役割についての理解を深めること。	120分
9	11/13	ミドル・マネジメント	行政管理における、ミドル・マネジメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、ミドル・マネジメントの役割と対象について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解し、ミドル・マネジメントについて調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるミドル・マネジメントの役割についての理解を深めること。	120分
10	11/20	ローアー・マネジメント	行政管理における、ローアー・マネジメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、ローアー・マネジメントの役割と対象について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、ローアー・マネジメントと行政サービスの実施段階について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるローアー・マネジメントの役割についての理解を深めること。	120分
11	11/27	行政評価と行政管理	行政管理と行政評価の関連について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政評価と行政管理の機能の関連を説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政評価と政策評価について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理と行政評価を経営管理の側面から理解を深めること。	120分
12	12/4	行政理論と行政管理	行政理論の変遷と行政管理について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政理論とその時代の行政管理の考え方の関係を説明できる。説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政理論と行政管理の関係について、歴史と照らし合わせて理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代の要請に基づく行政管理について理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	行政管理における管理者の役割	歴史・社会背景を見つつ、時代に求められる管理者について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、社会変化に伴う、管理者の役割変化について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、管理者の意味について復習しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代ごとの管理者の役割について理解を深めること。	120分
14	12/18	NPMと行政管理	NPMを含めた、新しい行政管理についてグループディスカッションを行いつつ検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、現代的な行政管理について意見が言えるようになる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、NPMと行政の能率について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、現代に求められる行政管理について検討すること。	120分
15	12/25	講義のまとめと現代的行政管理	現在求められている行政組織を、行政管理の機能に基づいて検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理の機能と階層別のマネジメントを理解し、現在求められる行政管理について説明できる。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の機能とその対象について考察する。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政管理論	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代行政が多岐にわたり国民の期待にさらに応え、社会により貢献していくためには、行政を科学的・能率的に管（Managing）することが必要とされる。すなわち、行政が効率的に機能を果たすように、行政活動の改善・合理化を進め、行政機能をより一層有効に果たすことが要請されているのである。そこで本講義では、行政管理の歴史、基礎理論を解説しつつ、行政管理の問題点や展望の基礎を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政に関連する、上級科目履修のために必要な行政管理の基礎の修得を目的とする。現在国・地方も財政難と言われ、行政の効率化が叫ばれている。そこで、行政の目的のひとつである「能率」に検討を加えることで、能率より高い価値とされる「公益」とのバランスを、行政だけではなく国民自身がそれぞれ現在の行政活動には何が求められるかを学修者が考える力をつけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、民間と行政の管理の概念違いを理解し、行政管理の特徴を説明できる。					2							
②	学修者が、現代に求められる行政サービスとの重要性和行政管理の役割について、歴史と社会背景を関係させつつ説明できる。					2		2	2				
③	学修者が、行政管理の機能を理解し、現在求められる行政管理手法の基礎を身につける。					2			2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政管理の概念、機能について理解し、定期試験の問題において課題について論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政管理の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	管理の考え方	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連を基礎にしつつ、管理の意味や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、管理の意味についてマネジメントであることを理解する。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味について理解を深めること。	120分
2	4/17	行政の概念	歴史の中での行政活動を見つつ、その公共性について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政活動の誕生と、公共サービスとは何かについて理解する。	
		事前学修	様々な教科書などを読み、行政とは何かについて、調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、公共性・公益について検討すること。	120分
3	4/24	行政組織の役割	公共性に基づく、行政組織の在り方について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政組織と民間組織の違いについて説明できる。	
		事前学修	ニュースなどを見て、関心ある行政活動について検討しておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の透明性の必要性の理解を深めること。	180分
4	5/1	行政の技術性	行政の技術性について学習し、その必要性と公共性との関係を検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、現代にもとめられる行政の技術性と問題点を説明できる。	
		事前学修	身近で行われている行政活動について、ホームページなどで調べ、行政の専門性について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の専門性と公共性のバランスに検討を加えておくこと。	120分
5	5/8	管理の歴史	管理という言葉を歴史的に検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、民間の管理手法から行政へ導入された「管理」の意味について理解できる。	
		事前学修	官民の管理活動を調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理についての理解を深めること。	120分
6	5/15	行政国家の成立	国家の歴史的変遷を見つつ、政府・官僚制などを検討し、行政サービスと管理手法を検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、その時代に求められた行政活動と行政管理を説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政国家について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政国家の成立要因についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	行政国家の展開	福祉国家への道と、行政サービスの拡大をみつつ、そこで求められる管理を検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政の拡大と行政管理の変化を理解できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、福祉国家について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、福祉国家への道への共通認識と、行政活動について理解を深めること。	120分
8	5/29	行政と行政管理	歴史の中で、社会背景に要請された行政活動の妥当性とは何かについて検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、社会の要請と行政管理の役割について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政機能の拡大の歴史について復習しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会に求められてきた行政活動を行うための行政の変化について検討しておくこと。	120分
9	6/5	科学的管理法	テーラーの科学的管理法と行政活動について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、テーラーの科学的管理法について説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、科学的管理法について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、なぜ科学的管理法を行政が導入する必要性があったかを検討しておくこと。	120分
10	6/12	POSDCORB	ギューリックのPOSDCORBを検討しつつ、行政における管理の必要性について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、管理機能について説明できる。	
		事前学修	組織における管理機能について検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政機能の拡大と管理を関連させて理解を深めること。	120分
11	6/19	行政管理の理念と概念	行政組織における「管理」の意味について、キーワードを用いて学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政の効率性について自分の意見が言えるようになる。	
		事前学修	行政の効率性について、検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の目的と行政組織について理解を深めること。	120分
12	6/26	現代行政と行政管理の役割	行政の能率について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政の能率に関する考えを説明できる。	
		事前学修	自分が住んでいる地域の財政について調べておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、能率の考え方について検討しておくこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	行政管理における効率と経済性	行政の目標を効率性・経済性を踏まえて検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、住民主体の行政とは何かについて、自分の意見が言えるようになる。	
		事前学修	行政の効率性と、公益について、検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分にとって必要な行政活動について検討しておくこと。	120分
14	7/10	行政管理と公益	現代行政に求められる行政管理について、グループディスカッション行いつつ検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理と公共性について説明できる。	
		事前学修	「公益」を中心に文献を読み、行政活動を検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を総合的に理解しておくこと。	120分
15	7/17	講義のまとめと行政管理	現在求められている、行政管理について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を踏まえて、行政管理を説明できる。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の役割について考察する。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政広報研究	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この講義では、社会とのコミュニケーション手段である「広聴広報」を戦略的に展開するいわば「戦略的広報」に焦点をあてる。そのため「戦略的広報」を実施していくにあたって、広聴広報行政の課題である「役割分担の明確化と連携の強化」、「PDCAサイクルのCAの強化」、及び「情報の共有化」の推進など、戦略的広報に必要となる情報創造・経営意思の明確化・組織内外の情報収集などの課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者には、行政課題を専門的に解決する能力の養成を目的とする。具体的には、行政環境の変容における現代の行政機関と地域住民とを結ぶパイプ・ラインの醸成の仕方、行政と住民の善意友好関係を築く行政広報・広聴（PublicRelations）を出発点として、広報活動を多角的に考察し、市民との関係を調整する、Public Relationsの優れた機能を検討することで、行政組織におけるマネジメント としての行政広報を理解できるようになることを学修者の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者が、行政の新しいモデルと行政広報の関係の必要性と、そのキーワードを説明できるようになる。						4						
②	学修者が、行政課題解決に用いられるための、行政広報の機能を身に着ける。						4		4	4			
③	学修者が、行政広報戦略を立案できるようになる。									4	4		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政広報の機能を理解し、つ、その戦略等について理解し、定期試験問題において論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報のマネジメントを指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	広報戦略のキーワード	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的にこなせるようにする。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報、Public Relations、コミュニケーション、行政マネジメントの関係について理解できるようにする。	
		事前学修	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。	180分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。	60分
2	9/25	広報・広聴の理論	行政広報に関する、理論などを学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の一般理解と理論の違いについて説明できるようになる。	
		事前学修	日本における広報の一般理解について調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、一般的に考えられている行政広報と、講義内で説明した理論を比較し理解を深めること。	120分
3	10/2	行政組織内における広報・広聴の役割	行政経営と行政広報の役割について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、現在求められる行政経営という言葉と、行政広報の関連を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体などの広報紙を読んでおくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営の必要性について理解を深め、行政広報との関連をまとめる。	180分
4	10/9	行政組織外における広報・広聴の役割	行政の基本方向と行政広報の関連について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、住民主体とは何かについて理解できるようになる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、予算など自分の生活する地域を知っておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の基本方向と住民の関連について理解を深めること。	120分
5	10/16	広報・広聴制度の検討	行政組織内外の関係構築について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報による、組織内外のマネジメントの必要性を理解できるようになる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、広報課などの仕事を理解しておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報による協力のネットワーク作りについての理解を深めること。	180分
6	10/23	広報・広聴戦略立案	具体的事例を解説しつつ、行政広報と行政の方向性について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政と市民が同じ方向性を共有するための広報戦略を理解できるようになる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想を見ておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政と住民の関係をまとめておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	広報・広聴と地域活性化	具体的事例を解説しつつ、行政広報における「選択」・「統合」・「関係」・「価値」を学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政と住民のコミュニケーションの必要性について説明できるようになる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の活性化方策など、地域の方向性をみておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営と行政広報の関連をまとめる。	120分
8	11/6	地域経営と広報・広聴戦略	ハコ作りから、コト作りへの変化の要請について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報と地域の価値について説明できるようになる。	
		事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の財政を見ておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、地域財政と行政広報の役割についての理解を深めること。	180分
9	11/13	広報・広聴マネジメント	中枢管理機能としての行政広報を検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政マネジメントと行政広報の役割について説明できるようになる。	
		事前学修	どこか民間企業のホームページなど見て調べ、その広報活動中心に活動を知っておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政マネジメントと行政広報の役割をまとめておくこと。	120分
10	11/20	住民との合意形成	合意形成と行政広報の役割について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政対住民、住民対住民の対立構造について理解できるようになる。	
		事前学修	合意形成の必要性について、官民の活動を見ておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、合意形成における行政広報の具体的実施方法について理解を深めること。	120分
11	11/27	迷惑施設と合意形成	合意形成における、行政対住民・住民対住民など対立関係改善の行政広報をグループディスカッションを行いつつ検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政の説明責任と行政広報について理解できるようになる。	
		事前学修	迷惑施設とは何かについて、理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、関係改善のための行政広報の役割についての理解を深めること。	120分
12	12/4	迷惑施設と行政広報機能	行政広報による価値の共有の手法について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、広聴を軸に、従来型行政広報の活動と現在の違いを説明できるようになる。	
		事前学修	民間企業における地域開発事例、地元の企業誘致活動などを調べておくように。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来型の行政広報との違いについて理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	迷惑施設と行政広報の行政 広報の課題	迷惑施設の建設プロセスなどの事例を解説し、課題を検討する。	
		この回の 到達目標	①～③に関連して、迷惑施設における行政の問題点を示すことができるようになる。	
		事前学修	身近にある迷惑施設と、自らの関係を調べ、自分で問題意識を持つておくように。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分なりの解決策をまとめておく。	120分
14	12/18	広聴と広報の連動	双方向性」・「協働」・「コミュニケーション」・「マネジメント」と行政広報の関連について 学習する。	
		この回の 到達目標	①～③に関連して、行政マネジメントと行政広報の関係を説明できるようになる。	
		事前学修	双方向コミュニケーションについて調べておくように。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働へと導く行政広報戦略についてまとめて おくこと。	120分
15	12/25	講義のまとめと広報行政	行政活動における、広聴の重要性を再確認し、コミュニケーションに基づく行政活動の確立を検 討する。	
		この回の 到達目標	①～③に関連して、住民本位の行政活動とは何かについて、行政広報に基づき問題点を明らかにすることが出来る ようになる。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政広報・行政マネジメント・協働・地域経営について考察する。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政広報論	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
今日、行政には行政環境、特に市民社会とのリレーション・シップづくりの重要性が増してきている。それは、行政を取り囲む環境が急激に変化し、多様化したからである。そこで本講義において、学修者は行政と様々な環境主体とのリレーション・シップをつくるコミュニケーション活動としての行政広報の歴史・概念・方法論を理解し、社会の課題解決に役立てるための行政広報の基礎を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者には、行政活動における、市民とのコミュニケーション実践の基礎を養成することを目的とする。市民の関心を引く広報技術、さらに行政広報・広聴（Public Relations）の優れた機能を検討することで、コミュニケーション・マネジメント戦略としての行政広報を理解し、そうしたマネジメントを立案できる能力がつくことを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、行政広報の概念を理解し、一般に理解されている行政広報の問題点を批判できる。					2							
②	学修者が、現代に求められる行政と市民の協働の重要性と行政広報の役割について説明できる。					2		2	2				
③	学修者が、行政広報の機能を理解し、社会の諸問題の解決方法を身に着ける。					2			2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政広報の概念、機能について理解し、定期試験の問題において課題が論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	行政広報のキーワード	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報、Public Relations、コミュニケーションの関係について理解できるようになる。	
		事前学修	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。	180分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。	60分
2	4/17	広報の概念	広報の概念について、その多義性・共通性について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の正しいイメージを再確立できるようになる。	
		事前学修	広報という言葉や、辞書などで調べておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報に関する一般理解と講義での説明の違いについて理解しておくこと。	180分
3	4/24	広報の歴史	広報の歴史を見つつ、広報活動の発展と変化を学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、広報機能の歴史的变化を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	自分の身の回りの広報の対象について、官民組織ごとに検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会背景と広報の発展段階の理解を深めること。	120分
4	5/1	広報の理論的考察	広報とその対象を検討しつつ、理論的な変化を学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の主体・客体を理解し、現状の問題点を説明できるようになる。	
		事前学修	広報における情報の方向性について、情報の送受信を基礎に検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代・対象・理論についてまとめておくこと。	120分
5	5/8	行政広報と自治体	自治体における政策と、行政広報のかかわりについて学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、自治体の政策と行政広報の関連、並びに重要性を理解できるようになる。	
		事前学修	自分の住んでいる自治体の広報紙またはホームページを見ておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自治体の基本計画・経営方針などについて、検討しておくこと。	180分
6	5/15	行政広報の課題確認	行政広報の一般理解として認識されている、一方向性について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報がPublic Relationsであることを理解し、その機能を説明できるようになる。	
		事前学修	広報における対象とのコミュニケーション活動について、具体的活動を官民の活動を通して検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報＝Public Relationsという理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	アクターの相互関係	双方向コミュニケーションとしての行政広報を検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、市民・行政の双方向コミュニケーションの必要性について説明できるようになる。	
		事前学修	広報における主体・客体について検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織における双方向コミュニケーションの必要性についての理解を深めること。	120分
8	5/29	行政広報と組織マネジメント	組織マネジメントにおける行政広報の位置づけについて学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報組織の環境整備の重要性について理解できるようになる。	
		事前学修	行政と民間企業の広報担当の組織の位置づけについて調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、中枢管理機能と行政広報についての理解を深めること。	120分
9	6/5	市民との信頼関係構築	市民協働の視点と、行政広報について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、市民との協働手法としての行政広報が説明できるようになる。	
		事前学修	地域における「市民の役割」と、「市民」という言葉について調べておくこと。	60分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働と行政広報の関係についての理解を深めること。	180分
10	6/12	地域社会と政策	ニーズの把握における広聴の重要性について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、住民ニーズの多様化と、それを聴く手法である広聴の必要性和政策への反映について説明できるようになる	
		事前学修	行政組織と環境変化について調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政における広聴の重要性の理解を深めること。	120分
11	6/19	市民の社会参加と行政広報	行政の社会変化対応と行政広報について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、新しい行政モデルの必要性和行政広報の関係について理解できるようになる。	
		事前学修	行政における参加の意味について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、プロデュース型行政の理解を深めること。	120分
12	6/26	合意形成と行政広報	迷惑施設など、行政対応と行政広報をグループディスカッション行いつつ検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政における調整コミュニケーション手法の必要性について理解できるようになる。	
		事前学修	自分に身近な行政サービスなどについて調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、市民とのコミュニケーションの重要性の理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	広報戦略の組織的展開	行政広報戦略と戦術の必要性について学習する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、協働のマネジメントとしての行政広報手法を理解できるようになる。	
		事前学修	市民と行政の協働について、具体例や必要性について調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来の一方向的な広報では、市民の理解は得られないという認識を深めること。	120分
14	7/10	広報戦略とメディア	市民との情報ギャップを埋める、行政広報戦略と情報発信媒体であるメディア工夫について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、行政実務における基礎となる、住民とのコミュニケーションと政策の関係について理解できるようになる。	
		事前学修	行政と市民のコミュニケーションの必要性とその方策について、調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、コミュニケーションに基づく仕事への転換についての理解を深めること。	120分
15	7/17	講義のまとめと協働型行政広報	現在求められている、協働型広報について検討する。	
		この回の到達目標	①～③に関連して、市民・行政の協働による共同作品とは何かについて説明できるようになる。	
		事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政広報＝Public Relationsの役割について考察する。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政実務演習	担当者	福島 康仁 木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	○

【授業の概要】
行政機関や非営利法人などにおいて2週間以上のインターンシップを行うことを前提とする。インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成に資することを目的とする。 インターンシップにより行政の理論と実際を体験することで、より理論的考察を深化させ、多角的思考ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
①3月28日のガイダンスに出席すること。出席しないと履修ができません。②学内で行われるインターンシップ・マナー講座を受講すること。③公職につく意思があること。その他の事項について詳細はガイダンス期間中に説明する。

【授業方法】
この科目は①事前調査、②インターンシップ、③事後報告、④事後レポートの作成をする。なお、インターンシップ先は、行政機関が行う公募によって決定する方法と本学部が提携する機関で行う方法（学内での選抜）を予定している。 事後レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習を通じて意見を述べなければならないので、ほとんどの演習時間中、教員との質疑応答をおこなう。またレポートの添削をつうじて常にフィードバックと作業を繰り返す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者として必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4			4				
②	各種の政策課題の認知、公共的な解決に当たって規範的判断について理解し説明できる。								4			
③	課題解決の優先順位、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。									4		
④	政策課題の規範論の観点から積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。										4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③について公共政策規範の諸論点・具体的事例への適用等について、学術論文の技法を駆使して説明できているか等をレポートにより評価する。	20	10	10								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(実務演習)	到達目標①②④について公共政策規範、具体的に現場への適用等について実践できるかを評価する。	20	20		20							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時レポートの添削指導をおこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館 6 階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体の審議会委員としての経験を生かして、実務的な場面を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	授業計画の説明とこの演習の位置づけ	インターンシップとは行政機関の公募試験の概要、学内選抜試験の概要について学修する。	
		この回の到達目標	インターンシップの位置づけについて説明できる。	
		事前学修	インターンシップガイダンスに参加していること。	120分
		事後学修	履修条件と自分の将来との関係を考える	120分
2	4/16	インターンシップの選択方法について	インターンシップの選択方法や考え方について学修する	
		この回の到達目標	インターンシップの選択方法や考え方について説明できる	
		事前学修	実習をしたいインターンシップ先について考えてくる	120分
		事後学修	インターンシップの選択しその理由について考える	120分
3	4/23	インターンシップ先での学修について	インターンシップの選択し何を学ぶ事項について学修する	
		この回の到達目標	インターンシップの何を学ぶ事項について説明できる	
		事前学修	実習をしたいインターンシップ先について考えてくる	120分
		事後学修	実習をしたいインターンシップ先について考える	120分
4	4/30	エントリーシートの書き方	エントリーシートの書き方について学修する	
		この回の到達目標	エントリーシートのひとり書きあげることができる	
		事前学修	エントリーシートを自分の視点で記述してみる	120分
		事後学修	エントリーシートを指摘事項を修正する	120分
5	5/7	エントリーシートの留意点	エントリーシートの作成時の留意点について学修する	
		この回の到達目標	エントリーシートの作成時の留意点を踏まえてレポート作成作業ができる	
		事前学修	エントリーシートを指摘事項を踏まえて作成する	120分
		事後学修	エントリーシートの作成時の留意点を踏まえてレポート作成作業する	120分
6	5/14	事前レポートの作成	事前レポートの形式と内容について学修する	
		この回の到達目標	事前レポートの形式と内容について説明できる	
		事前学修	レポートの作成方法についてインターネットを用いて調べてくる	120分
		事後学修	事前レポートの骨格を作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/21	事前レポートの留意点	事前レポートの留意点について学修する
		この回の到達目標	事前レポートの形式と内容の留意点について説明できる
		事前学修	事前レポートの骨格について説明できるように準備をする120分
		事後学修	事前レポートを留意点を意識しながら作成する120分
8	5/28	事前レポート作成のための調査手法	事前レポート作成のための調査手法について学修する
		この回の到達目標	事前レポート作成のための調査手法について説明できる
		事前学修	事前レポート作成のための調査方法を調べてみる120分
		事後学修	事前レポート作成のための調査してみる120分
9	6/4	読みやすい事前レポート	読みやすい事前レポートについて学修する
		この回の到達目標	読みやすい事前レポートについて学修する
		事前学修	読みやすい事前レポートとはなにか考える120分
		事後学修	読みやすい事前レポートのための工夫する120分
10	6/11	事前レポートの作成	事前レポートの完成にむけて学修する
		この回の到達目標	事前レポートの完成にむけて完成する
		事前学修	事前レポートの完成にむけて不足分を考える120分
		事後学修	事前レポートの完成させる120分
11	6/18	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する
		この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し仕事の在り方について説明できる
		事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする120分
		事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える120分
12	6/25	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する
		この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し使命感について説明できる
		事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする120分
		事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し働き方について説明できる	
		事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
		事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分
14	7/9	事後レポートの書き方	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの形式について学修する	
		この回の到達目標	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの的確な形式について説明できる	
		事前学修	メモをまとめてレポートを作成する	120分
		事後学修	アドバイスをもとに修正する	120分
15	7/16	事後レポートの書き方	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの留意点について学修する	
		この回の到達目標	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの留意点をふまえてレポートを作成できる	
		事前学修	レポートの総仕上げをする	120分
		事後学修	提出後の反省を整理する	120分

科目名	行政組織研究	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
今後の公共政策の学習及び実社会での各種活動等において必須の知識となる我が国行政組織の原理・編成を体系的に学習する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手としての基礎的知識を獲得するために、我が国中央行政組織の編成原理、内閣・府省組織の基本的構造及び独立行政法人制度などを体系的に学習し、実際の行政現場や公共政策課題解決の場において円滑に行動するための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	既存の組織理論にとらわれず、自ら日本行政組織の特性を分析し説明できる。				4		4					
②	現代日本の行政組織の問題点は何か、その改善のためには何が求められるか自分の言葉で説明できる。							4				
③	地域社会における行政組織の実態を知るための、実地調査・ヒアリングなどの調査手法を実行できる。								4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見 を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかかわ る説明能力が身についているかを評価する。		15	5								20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	55	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。	
期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治権力と行政組織：中央省庁の日本型制度設計	河合 晃一	勁草書房	2019	参考書	推奨
行政組織法	藤田 宙靖	良書普及会	1994	参考書	任意
霞ヶ関の正体―国を亡ぼす行政の病理	稲葉 清毅	晶文社	2005	その他	任意
内閣情報調査室	今井 良	幻冬舎新書	2019	その他	任意
文部科学省の解剖	青木 栄一他	東信堂	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】	
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		累次の国家行政組織法改正や組織新設査定に従事した経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び行政組織の基本構造 1（基本法制等）	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②行政組織法制と機構定員管理の概要を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、国家行政組織法及び機構定員管理の基本的仕組みを説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②行政法テキスト等により国家行政組織法及び総定員法の概要を学習しておく	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	9月23日	行政組織の基本構造 2（省庁トップマネジメント）	各省庁のトップ層を構成する大臣、副大臣、大臣政務官、事務次官等の組織制度・機能等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、各省庁の大臣等の役割を説明することができる。	
		事前学修	国家行政組織法の大臣等に係る規定を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
3	9月30日	行政組織の基本構造 3（省庁内部部局）	各省庁の基本組織となる局・部・課などの制度・機能等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、行政組織特有のライン組織及びスタッフ組織の基本的構造や組織編制の考え方を説明することができる。	
		事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法により局・課等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
4	10月7日	行政組織の基本構造 4（庁・委員会・審議会）	①同じ基本的行政機関である府省と庁・委員会の間の役割分担や、②いわゆる3条機関としての委員会と諮問機関としての審議会の違いについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、本府省と外局との違い、諮問機関としての審議会と外局としての委員会との違いなどについて説明することができる。	
		事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法により庁・委員会・審議会等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
5	10月14日	行政組織の基本構造 5（施設等機関・地方支分部局）	施設等機関の類型・機能、地方支分部局の役割等について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、各省にどのような機関等が設置され、どのような役割を果たしているか説明することができる。	
		事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法等により施設等機関・地方支分部局等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
6	10月21日	内閣・内閣官房の組織体制	内閣・内閣官房がどのような組織から構成され、どのように機能發揮しているかを学ぶ。特に各省庁にまたがる内外の情報関係業務がどのように調整され、統合されているか調べる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣等の総合調整機能・政策企画機能の發揮のために、どのような組織設計がされているか、特に情報機関相互の連携等がどう確保されているか説明することができる。	
		事前学修	内閣法の規定を読んでおくとともに、内閣官房等の公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	内閣府の組織体制①（内部部局・各種会議体）	総合調整機関及び政策実施機関の双方の性格を持つ内閣府の組織体制・機能を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣官房と内閣府はどのように機能分担しているのか、各省庁とはどのように組織体制・機能が異なるのか説明することができる。	
		事前学修	内閣府設置法及び内閣府公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
8	11月11日	内閣府の組織体制②（警察・公取・宮内庁など）	内閣府の外局である各庁・委員会にどのような組織・機能上の特徴があるか学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣府の外局はどのように機能分担しているのか、そのためにどのような組織体制をとっているのか説明することができる。	
		事前学修	各庁・委員会の設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
9	11月18日	内閣府の組織体制③（金融・消費者・復興庁など）	比較的最近に設置された内閣府外局の設置経緯・組織上の特徴等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、新たな内閣府の外局はどのような経緯で設置されたのか、組織設置が実現するためには、どのような条件が必要なのか説明することができる。	
		事前学修	各庁・委員会の設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
10	11月25日	行政コントロール機関（内閣人事局、人事院、会計検査院）	各省庁の監督機関の立場にあり、組織上も独自の位置づけを与えられている各種組織の制度・機能等を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、行政コントロール機関設置の必要性や、そのために与えられた権限や機能発揮のための制度等を説明することができる。	
		事前学修	各機関の根拠法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
11	12月2日	省庁組織 1（総務・法務・外務・財務省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に最も新しい庁である出入国在留管理庁の設置経緯等について調べる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び新たな出入国在留管理庁はどのような経緯で設置されたのか、説明することができる。	
		事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
12	12月9日	省庁組織 2（厚労・文科・農水省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に今回は文科省の業務運営の実態等について組織面から理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び文科省の業務運営にはどのような特徴があるのか説明することができる。	
		事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	省庁組織3（国交・環境・防衛省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に今回は原子力規制庁等の組織制度及び防衛本省と自衛隊との関係などについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び原子力規制行政・防衛行政の特徴について組織面から説明することができる。	
		事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
14	12月23日	独立行政法人制度	各府省と一体となって重要な業務を実施する独立行政法人の制度・実態を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、独立行政法人の主要制度、組織類型、代表的な法人の業務実態等について説明することができる。	
		事前学修	独立行政法人通則法及び主要法人の根拠法・公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
15	1月13日	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	60分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	60分

科目名	行政組織論	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
組織論の代表的な理論について、特に行政組織・非営利組織を特徴づける基本要素は何か、その行動原理はどのようなものかを体系的に学習する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基礎的素養を身に付けるために、組織とは何か、どのような原理で組織ができるのか、行政機関・NPO等は民間企業とどこが異なるのか、その具体的な働きの特徴は何か等を理解し、自己の立場を確認しつつ他者との関係の中で課題解決を円滑に進める能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間集団としての組織の本質を学び、組織人としての心構えを身に付け、行動で示すことができる。					2							
②	組織とは何か、すぐれた組織の特性は欧米理論に頼らず、自らの分析に基づいて述べることができる。							2					
③	現代日本の行政組織の問題点は何か自分の言葉で説明できる。								2				
④	現代日本の行政組織について、主要理論に照らしてどのような改善策が考えられるか、自分の言葉で提案できる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉でき説明できているかを筆記試験により評価する。		40	20	20							80
小テスト等												
レポート等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①③④にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5		10	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	40	30	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
組織論	桑田 耕太郎他	有斐閣アルマ v	2010	参考書	推奨
非営利組織論	田尾 雅夫他	有斐閣アルマ	2009	参考書	推奨
テキストブックNPO第2版	雨森 孝悦 編	東洋経済新社	2017	参考書	任意
現代行政と行政改革	東田 親司	芦書房	2004	参考書	任意
新版・経営行動	ハーバード・サイモン	ダイヤモンド社	2009	参考書	推奨
決定の本質 第2版	グレアム・アリソン 他	日経BP	2016	参考書	推奨
備考	特に指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		国家行政組織の管理部局に勤務した経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス及び組織の基礎理論 1（組織とは何か）	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②組織の本質についての理論を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、組織と呼ばれる人間集団の本質は何か、組織における共通目標や分業はなぜ重要か、現代社会においてはなぜ組織が 基本的構成要素となっているのか等につき説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で自分の考える「組織」とな何か？人はなぜ「組織」を作るのか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	4月15日	組織の基礎理論 2（組織と環境）	外部環境と組織とはどのように相互に影響を与え合っているのか、そもそも組織の境界はどこに設けるのが適切なのか、組織の規模はどの程度とするのが適切なのか等につき学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、組織の「内」と「外」はどこで分割するのが最も適切なのか？一般的に最適な解答はあり得るのかを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により代表的な組織形態モデルを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
3	4月22日	組織の基礎理論 3（組織の目標と構造）	組織における目標とは何か、成果を挙げる組織とそうでない組織の違いは何か、どのようにすれば強い組織を作ることができるのかなどについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、強い組織の条件とは何か？どのように組織を構築するのが最も適切か、学修者の身近な組織（学校、サークル、ゼミ、バイト先、家族）に即して説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により代表的な経営理論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
4	4月29日	組織デザイン 1（基礎理論）	組織の分割と統合の基礎理論、ラインとスタッフ等の組織類型について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、組織目的に応じた最適な組織規模・分業の在り方・スタッフ配置はどのようなものかについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により基礎的な組織デザイン論を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
5	5月6日	組織デザイン 2（我が国中央政府）	前回講義の内容を踏まえ、我が国省庁がどのような原理に基づいて編成されているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、各省庁組織の主な構成要素、官庁組織におけるラインとスタッフの概念などについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により主要な省庁の組織編制を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
6	5月13日	官僚制の逆機能について	我が国中央行政組織はどのような組織制度・行動原理に基づいて機能してきたのか、その結果、どのような弊害が表れてきたのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、これまでの我が国行政組織にどのような問題があったのか、その原因は何であったか組織論の観点から説明することができる。	
		事前学修	行政学テキスト等により官僚制の主要な問題点等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	組織文化とマネジメント	組織カルチャーの重要性とモチベーション論等について経営管理論・経営学等の諸理論も援用しつつ学習する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、組織が単なる入れ物でなく、多くの参加者が相互に影響を与え合う有機的な活動体であることを理解した上で、組織が有効に機能するために重要な組織文化とは何か、良い組織文化はどのように構築されるのか説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により組織文化に係る代表的な理論を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
8	5月27日	組織の発展	激変する外部環境の中で組織が存続するために必要な自己変革はどのようにして行われるのか、そのための組織マネジメントはどのように行えばよいかなどについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、組織が生き残っていく条件とは何か、成長する組織の秘訣とは何か、行政組織の特質に即して説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により民間企業の発展事例等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
9	6月3日	非営利組織論の基礎理論	行政組織・NPO等の公的な組織の基本的編制原理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、公共的な組織と民間組織の違いは何か、そのメルクマールはどこにあるのか説明することができる。	
		事前学修	行政学・公共経済学テキスト等により公共的組織の特質を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
10	6月10日	非営利組織の特徴と課題	現代経済社会において非営利組織に期待される役割と、組織面での課題について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、非営利組織の重要性がなぜ増大してきたのか、その一方でこれら組織が機能を最大限に発揮するために克服すべき課題は何かを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により非営利組織の類型、現状と課題等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
11	6月17日	NPO等の制度	NPO法人、社団・財団法人等の概容・基本的制度等を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国NPO法人等の根拠法、税制、運営上の課題などについて説明することができる。	
		事前学修	NPO等に係る基礎文献等により、現代社会におけるNPOの役割・重要性について考えをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
12	6月24日	サイモンの組織論 1	サイモン「経営行動」等から、組織を形作る「意思決定」「コミュニケーション」の意味とは何かについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、サイモン理論においてなぜ意思決定・コミュニケーションが組織形成の本質とされるのか、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を読み込み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	サイモンの組織論 2	前回に引き続き「経営行動」から、「満足化基準」「限定的合理性」「組織参加の誘引貢献」などのサイモン理論の鍵となる概念を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、代表的なサイモン理論のキーワードを我が国行政組織の実例に即して説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を読み込み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
14	7月8日	アリソンの組織決定論	アリソンの「決定の本質」を読み解き、冷戦下で米ソ核戦争の危機はどのように回避されたかを題材として、アリソンが提示した3つの主要意思決定モデルを学習する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、政治・行政の現場における決定行為に影響する諸要素について説明することができる。	
		事前学修	世界史教科書等で「キューバ危機」の概要を把握し、可能であれば米映画「13デイズ」をDVD等で視聴しておくこと が望ましい	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
15	7月15日	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特にはありませんが、憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。

【授業方法】
講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に、教員学生共有フォルダにてフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	必携
備考	本講義は、行政法総論の部分であるため行政判例百選Ⅰは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅱの部分については資料として配付することになります。				

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（水曜・木曜10：30）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	行政法の概観	行政法という科目がどのような科目なのかについて概観していきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政通則法および行政法の分類について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政通則法および行政法の分類については覚えるようにしてください。	120分
2	9/17	行政の概念と行政法の法源	行政とは何か、そしてまた行政法を構成している法としてはどのようなものがあるのかについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の概念に関する定義および行政法の法源について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政の概念に関する学説および行政法の法源については再確認をするようにしてください。	120分
3	9/23	行政法の基本原理（1）；法律による行政の原理とその具体的内容①	法律による行政の原理およびこの原理から登場する原則について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の意義およびこの原則の具体的内容について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律による行政の原理の意義およびこの原則の具体的内容については覚えるようにしてください。	120分
4	9/24	行政法の基本原理（1）；法律による行政の原理とその具体的内容②	法律による行政の原理のうち、法律の留保について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律の留保に関する学説について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律の留保に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
5	9/30	行政法の基本原理（2）・（3）；法律による行政の原理の例外と法の一般原則	法律による行政の原理の例外として特別権力関係、および、行政法の他の基本原理として法の一般原則などについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の例外および法の一般原則について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別権力関係および法の一般原則については再確認をするようにしてください。	120分
6	10/1	行政法の基本原理（4）；公法私法二元論	公法私法二元論に関する過去の議論および現在の理解について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公法私法二元論の過去および現在について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、いわゆる公法関係に民事法の適用の可否が問題となった判例については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10／7	行政の活動（1）；行政基準①（法規命令）	行政が立法を行う場面のうち、市民の権利義務に関する基準を定立する法規命令について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法規命令の概念および種類について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法規命令の種類である委任命令と執行命令といった分類および、法規命令が問題となった事例について再確認をするようにしてください。	120分
8	10／8	行政の活動（1）；行政基準②（行政規則）	行政が立法を行う場面のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の概念およびそれが抱える問題点（いわゆる外部化現象）について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政規則が問題となった事例について再確認をするようにしてください。	120分
9	10／14	行政の活動（2）；行政計画①（行政計画の意義と種類）	行政計画とは何か、そしてまた、行政計画にはどのようなものがあるのかについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の概念および行政計画の位置付けなどについて十分な説明・理解ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
10	10／15	行政の活動（2）；行政計画②（行政計画の統制と権利救済）	行政計画は、どのようにコントロールすべきであるのか、そしてまた市民に大きな影響を及ぼす場合にどのように権利救済を行うことができるのかについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画が行政訴訟の対象となるかどうかについて、いくつかの判例を挙げ、そしてこれについて十分な理解ができるようになる。	
		事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政計画が行政訴訟の対象となるかについては判例の動向を再確認するようにしてください。	120分
11	10／21	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質①）	行政行為とは何か、そしてまた、これが他の「行政の活動」などとどのような違いがあるのかについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為とは何か、そして日常生活のどのようなものと一致するのかといったことを十分理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の定義については覚えるようにしてください。	120分
12	10／22	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質②）	行政行為とは何か、そしてまた、これが他の「行政の活動」などとどのような違いがあるのかについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の特徴を挙げることができ、そして他の「行政の活動」などとどのような違いがあるのかを十分理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為とその他の活動との差異については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10／28	行政の活動（3）；行政行為②（行政行為の効力）	行政行為という行政の活動には、どのような特別な効力があるのかということについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力を挙げることができ、そしてこれらの概念を簡潔に説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の効力の種類については覚えるようにしてください。	120分
14	10／29	行政の活動（3）；行政行為③（行政行為の種類）	行政行為の種類について概観していくとともに、許可、特許そして認可について重点的に学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類を挙げることができ、そしてこれらの種類の違いについて十分理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、許可と特許、許可と認可の違いについては再確認をするようにしてください。	120分
15	11／5	行政の活動（3）；行政行為④（行政行為の羈束と裁量）	行政裁量と呼ばれるものについて、種類およびわが国における展開について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の概念を説明することができ、その種類について十分理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、司法審査の有無から区別される羈束裁量と自由裁量については再確認をするようにしてください。	120分
16	11／11	行政の活動（3）；行政行為⑤（行政行為の附款）	行政行為の附款と呼ばれるものの定義や種類について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の附款を説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、附款の種類については覚えるようにしてください。	120分
17	11／12	行政の活動（3）；行政行為⑥（行政行為の瑕疵、取消しと撤回）	取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、無効の判定基準を学びつつ、取消しと撤回の違いについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、無効の判定基準を学びつつ、取消しと撤回の違いを十分理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料8から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、取消と撤回の違いについては再確認をするようにしてください。	120分
18	11／18	行政の活動（4）；行政契約①	行政契約とは何か、そしてどのような行政契約があるのかについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の概念を十分理解し、その種類などについて説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約の概念および行政契約が登場する場面については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11／19	行政の活動（4）；行政契約②	行政契約が問題となった事例について、掘り下げて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約が問題となった事例を簡潔に説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約が問題となった事例については再確認をするようにしてください。	120分
20	11／25	行政の活動（5）；行政指導①	行政指導の概念およびその種類について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の概念およびその種類についてを十分理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導の概念および行政指導の種類については覚えるようにしてください。	120分
21	12／2	行政の活動（5）；行政指導②	行政指導が問題となった裁判例を確認しつつ、それが行政手続法の規定にどのような影響を与えているのかについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導が問題となった裁判例を紹介することができ、それが行政手続法の規定にどのような影響を与えているのかについて説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導が問題となった事例および、行政手続法における行政指導に関する規定については再確認をするようにしてください。	120分
22	12／3	行政の実効性確保（1）；行政上の強制執行①（行政代執行）	行政の実効性確保を概観すると共に、行政代執行法で規定されている代執行について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して行政の実効性確保について理解ができ、かつ、到達目標①に関連して行政代執行法で規定されている代執行について説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制の沿革および行政代執行の要件については再確認をするようにしてください。	120分
23	12／9	行政の実効性確保（1）；行政上の強制執行②（執行罰、直接強制、強制徴収）	執行罰、直接強制、強制徴収などについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執行罰、直接強制、強制徴収などについて説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
24	12／10	行政の実効性確保（2）；即時強制	即時強制と呼ばれるものについて、行政強制との違いを意識しつつ、学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して即時強制の概念について説明をすることができ、到達目標②に関連して行政強制との違いについて理解することができるようになる。	
		事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制との違いについては再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12／16	行政の実効性確保（3）；その他の義務履行確保制度（行政罰）	行政上のその他の義務履行確保制度として、行政刑罰と行政上の秩序罰について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して行政罰の概念について説明をすることができ、到達目標②に関連して行政刑罰と行政上の秩序罰との違いについて理解することができるようになる。	
		事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政刑罰と行政上の秩序罰との異同については再確認をするようにしてください。	120分
26	12／17	行政の実効性確保（4）；行政調査	行政調査について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査について説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
27	12／23	行政手続①	行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して行政手続法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政手続法の規定の議論について説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。	120分
28	12／24	行政手続②	行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して行政手続法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政手続法の各規定の議論について説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。	120分
29	1／13	情報公開	情報公開法に基づいて、情報公開の重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して情報公開法の規定について理解をし、到達目標②に関連して情報公開法の各規定の議論について説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、情報公開法の規定も確認するようにしてください。	120分
30	1／14	個人情報保護	行政機関個人情報保護法に基づいて、個人情報保護の重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して行政機関個人情報保護法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政機関個人情報保護法の規定の議論について説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政機関個人情報保護法の規定も確認するようにしてください。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習の課題及び提出レポートの解説は、授業内で行う。定期試験の解説は、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法〔第3版〕	池村正道 編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	任意
行政判例百選Ⅱ	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10～13:00 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス・行政法の位置づけ	年間講義計画・成績評価の方法についての説明と参考文献の紹介等を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。法学における行政法の位置づけを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の基本的事項について適切に解釈できることを目標とする。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、学生教員共有フォルダから第1回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討を加える。	120分
2	/	【行政と法1】地域の空家をどうすべきか	具体的事例として、空家問題を取り上げ、行政の行っている対策を概観し、行政活動と法の役割について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、空家問題の法的背景を認識し、問題点を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第2回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、各自の住んでいる地域に空家があれば、地域住民にとってどのような影響を与えているか検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、市町村レベルの対策と国レベルの対策のあり方との違いをまとめる。	120分
3	/	【行政と法2】都市の緑化を促進するにはどうすべきか	具体的事例として、緑化問題を取り上げ、都市において緑を確保する方策を概観し、市民が緑化に取り組むよう誘導する方の役割について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、都市の緑地促進の課題を把握し、課題を克服するための方策を考察できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第3回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、各自の住んでいる地域の緑化率等を調べ、わが国の緑化の問題を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、規制する行政のあり方と誘導する行政のあり方とを理解し、それぞれにおける法の役割をまとめる。	120分
4	/	行政とは何か	行政法学の対象である「行政」の意義を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政法の基盤的事項を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第4回レジュメ及び教科書の第1章を読み、各自のイメージする「行政」を簡潔にまとめる。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第1章関連問題を検討する。	120分
5	/	行政法の法源、行政法の意義・特質	行政法とされる法の存在形式とそれらの法規範の特質を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政法の存在形式と特質を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第5回レジュメ及び教科書の第2章を読み、行政活動に関連する法規範を考察する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第2章関連問題を検討する。	120分
6	/	行政組織	行政活動の担い手である行政組織について考察し、行政主体、行政機関等について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、行政組織について理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第6回レジュメ及び教科書の第3章1～4を読み、国及び地方公共団体の行政組織の違いを考察する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第3章関連問題の（1）、（2）を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	公務員・公物	行政活動の人的資源である公務員と物的資源である公物について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、公務員・公物について理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第7回レジュメ及び教科書の第3章5・6を読み、行政活動を具体的に担っている公務員のあり方を考察する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第3章関連問題（3）を検討する。	120分
8	/	行政過程	行政法学が従来想定してきた行政過程のモデルである、2分法3段階構造モデルについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、行政過程のモデルについて理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第8回レジュメ及び教科書の第4章1を読み、行政活動の法的な流れを図式化する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、行政過程の従来モデルの問題について検討する。	120分
9	/	法律による行政の原理（1）	行政活動を法的にコントロールする原理である「法律による行政の原理」の基本的な概念及び主たる判例について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法律による行政の基本的概念を踏まえて、実例を解釈できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第9回レジュメ及び教科書の第4章2を読み、行政活動の法的コントロールのあり方について検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第4章関連問題の（1）を検討する。	120分
10	/	法律による行政の原理（2）	「法律による行政の原理」の例外について、判例を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、法律による行政の意義と実例を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第10回レジュメをあらかじめ読み、「法律による行政の原理」の例外的な判例を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、「法律による行政の原理」の例外が認められる理由を検討する。	120分
11	/	行政手続	行政活動の手続的コントロールのあり方を、行政手続法を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、行政手続の意義を理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第11回レジュメ及び教科書の第4章3を読み、行政活動に対する実体法によるコントロールとは異なる、手続法的コントロールの意義を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第4章関連問題の（3）を検討する。	120分
12	/	行政情報管理	情報公開制度、個人情報保護、公文書管理、行政調査について、行政活動における情報の重要性を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、行政情報管理の意義を理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第12回レジュメ及び教科書の第4章4・5を読み、行政活動における情報の役割を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第4章関連問題の（2）、（4）を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	行政行為 (1)	行政活動において用いられる典型的な行為形式である、行政行為の意義と効力について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政行為の意義と効力を理解した上で、実際の事例で行政行為がどのような効力を持つかを適切に分析できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第13回レジュメ及び教科書の第5章1・3を読み、私人間における法的関係の形成とは異なる、行政・私人間の法的関係の形成のあり方を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第5章関連問題の (1) を検討する。	120分
14	/	行政行為 (2)	許可、認可等、実定法の中で用いられている行政行為をいかに分類できるか考察し、あわせて附款について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政行為の意義を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第14回レジュメ及び教科書の第5章2・7を読み、実定法の中で行政行為とされる行為の特徴を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、許可・特許・認可等の違いについて検討した上で、行政行為の従来の分類が現在でも妥当するのか検討する。あわせて、教科書の第5章関連問題の (3) を検討する。	120分
15	/	行政行為 (3)	行政に対して一定の判断余地を認める行政裁量の必要性及びその法的コントロールのあり方について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政裁量の必要性を理解し、行政裁量の存在理由を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中から第15回レジュメ及び教科書の第5章4を読み、なぜ行政裁量が法律による行政の原理の例外と位置づけられるのか検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、行政裁量に関連した判例の傾向について検討する。	120分
16	/	行政行為 (4)	取消しと無効、取消しと撤回など、行政行為の瑕疵に対する是正のあり方を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政行為の瑕疵について説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第16回レジュメ及び教科書の第5章5・6を読み、行政行為に何らかの瑕疵があった際に、私人の側、行政の側双方から、いかに是正するのかを検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第5章関連問題の (2) を検討する。	120分
17	/	行政立法 (1)	行政による規範定立作用である、行政立法の意義及び行政立法の一つである法規命令に対する法的コントロールを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、規範定立作用を理解し、実例における規範定立の効果を考察できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第17回レジュメ及び教科書の第6章1・2を読み、行政による規範定立のあり方を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第6章関連問題の (1) を検討する。	120分
18	/	行政立法 (2)	行政立法の一つである行政規則に対する法的コントロールを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政規則について説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第18回レジュメ及び教科書の第6章3を読み、行政内部において用いられルールを検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第6章関連問題の (2) を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	行政計画(1)	現代行政に特徴的な、行政計画の意義、必要性、種類等について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政計画の意義を理解した上で、実際の行政計画がどのような機能を持つかを説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第19回レジュメ及び教科書の第7章1～3を読み、様々な分野で用いられる行政計画について、新聞・雑誌等を利用して、どのようなものがあるか検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、行政行為と行政計画との相違点を検討する。	120分
20	/	行政計画(2)	行政計画の手続的コントロール、司法的コントロールについて、判例を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政計画のコントロールを説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第20回レジュメ及び教科書の第7章4・5を読み、行政計画により私人が不利益を被った際の救済方法を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第7章関連問題を検討する。	120分
21	/	行政指導(1)	事実行為である行政指導の意義、分類等について、具体的事例を通して考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政指導の意義を理解した上で、行政指導の趣旨と目的を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第21回レジュメ及び教科書の第8章1～3を読み、事実行為である行政指導と法的行為との相違点を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第8章関連問題の(1)を検討する。	120分
22	/	行政指導(2)	行政指導の手続的コントロール、司法的コントロールについて、判例を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政指導のコントロールについて説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第22回レジュメ及び教科書の第8章4・5を読み、行政指導により私人が不利益を被った際の救済方法を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第8章関連問題の(2)を検討する。	120分
23	/	行政契約(1)	契約という行為形式を行政活動において用いる意義および行政契約の種類について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政契約の意義を理解した上で、行政契約の実例を考察できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第23回レジュメ及び教科書の第9章1を読み、行政行為と行政契約の相違点を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第9章関連問題の(1)を検討する。	120分
24	/	行政契約(2)	規制行政、給付行政などの各行政分野で用いられる行政契約と履行確保手段について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政契約の履行手段を説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第24回レジュメ及び教科書の第9章2・3を読み、公害防止協定等の法的捉え方を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第9章関連問題の(2)、(3)を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	行政上の義務履行確保の手段(1)	行政上の義務履行確保制度について、私人間の義務履行確保との相違点を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政上の義務履行確保の手段を理解した上で、どのような手段があるかを具体的に説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第25回レジュメ及び教科書の第10章1・2を読み、行政上の義務が履行されない場合の問題点を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第10章関連問題の(2)を検討する。	120分
26	/	行政上の義務履行確保の手段(2)	行政上の強制執行である行政代執行、直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政上の義務履行確保の手段を判例を踏まえて説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第26回レジュメ及び教科書の第10章3～6を読み、行政代執行法の仕組みを検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、教科書の第10章関連問題の(1)を検討する。	120分
27	/	行政上の義務履行確保の手段(3)	行政罰、その他の義務履行確保の制度について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、行政上の義務履行確保の制度を理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第27回レジュメ及び教科書の第10章7・8を読み、行政上の強制執行以外の義務履行確保の手段が必要な理由を検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、行政上の義務履行確保の手段について、それぞれの特色を検討する。	120分
28	/	行政上の義務履行確保の手段(4)	行政上の義務づけを前提としない即時強制の意義及び直接強制に代わり多用される現状について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、即時強制の意義や現代的課題を理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第28回レジュメ及び教科書の第10章9を読み、直接強制と即時強制との相違点について検討する。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、即時強制の必要性和即時強制において用いられる勧告の意義を検討する。	120分
29	/	現代の行政活動のコントロールのあり方	これまで検討してきた諸点から把握できる、行政活動に対する法的コントロールのあり方や問題点を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、行政活動に対するコントロールを理解し、説明できること。	
		事前学修	学生教員共有フォルダ中の第29回レジュメ及びこれまでのレジュメを概観し、現代の行政活動に対する法的コントロールのあり方をまとめる。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直し、行政活動に対する実体法によるコントロール、手続法によるコントロールのほかに、どのようなコントロールが考えられるか検討する。	120分
30	/	講義のまとめ	行政法理論の意義と各種法令の趣旨目的を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政法理論の意義と各種法令について説明できること。	
		事前学修	これまでのレジュメ、教科書を読み返し、現行の行政法における問題点等を考察する。	120分
		事後学修	各項目について、簡単にまとめたものを文章化し、学期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。				2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。				2		2		2			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
一部（月曜日12：10/土曜日12：10）、二部（月曜日19：30/火曜日21：10）に研究室にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 9/14 2部 9/14	ガイダンス 行政法の概要	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を事前にざっと目を通しておくこと。	120分
		事後学修	教科書をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。	120分
2	1部 9/19 2部 9/15	行政法とは何か	行政法の全体像と主要なテーマについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の基本構造について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書や講義ノートで確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	1部 9/21 2部 9/21	行政とは何か	行政の意義、特徴、種類について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の意義と特徴について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
4	1部 9/26 2部 9/22	行政法の法源の意義と種類 (成文法源)	行政法の法源の意義と種類のうち、成文法源について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の法源における成文法源について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて、さらに理解を深めること。	120分
5	1部 9/28 2部 9/28	行政法の法源の種類(不文法源)	行政法の法源の種類のうち、不文法源の意義と内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の法源における不文法源について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて、行政法の法源について自分の意見をノートにまとめること。	120分
6	1部 10/3 2部 9/29	行政法の効力範囲と行政上の法律関係	行政法の効力範囲、行政上の法律関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の効力範囲、行政上の法律関係の概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 10/5 2部 10/5	法律による行政の原理の意義と内容	「法律による行政の原理」の意義と具体的内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、法律による行政の原理について自分の意見をノートにまとめること。	120分
8	1部 10/5 2部 10/6	法律の留保の妥当範囲	法律の留保の妥当範囲をめぐる学説と判例について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律の留保の妥当範囲をめぐる争いの概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
9	1部 10/10 2部 10/12	行政主体	行政主体の意義、種類、特色について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政主体の種類と特色について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政主体について自分の意見をノートにまとめること。	120分
10	1部 10/12 2部 10/13	行政機関	行政機関の意義、種類、権限について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政機関について自分の意見をノートにまとめること。	120分
11	1部 10/17 2部 10/19	行政過程と法	行政過程の意義、特色、対象について学修する。。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程の意義と概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
12	1部 10/19 2部 10/20	行政行為の意義と性質	行政行為の意義と性質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の意義と性質について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 10/24 2部 10/26	行政行為の種類	行政行為の種類である法律行為的行政行為と準法律行為的行政行為について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類と具体例について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
14	1部 10/26 2部 10/27	行政行為の効力	行政行為の効力である公定力、不可争力、執行力、不可変更力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力の種類と特色について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
15	1部 10/31 2部 11/9	行政裁量	行政裁量の意義、必要性、種類、司法審査について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
16	1部 11/7 2部 11/10	行政行為の瑕疵	行政行為の瑕疵の意義と種類について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の瑕疵の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
17	1部 11/9 2部 11/16	行政行為の取消と撤回	行政行為の取消と撤回の意義と相違点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の取消と撤回の意義と相違点について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深める。	120分
18	1部 11/14 2部 11/17	行政行為の付款	行政行為の付款の意義、種類、違法な付款とその効力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の付款の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	1部 11/16 2部 11/23	行政立法の意義と法規命令	行政立法の意義、法規命令の特色・内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政立法の意義と法規命令の概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政立法について感想をノートにまとめること。	120分
20	1部 11/21 2部 11/24	行政規則の意義と内容	行政立法の種類のうち、行政規則の意義と内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の意義と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
21	1部 11/23 2部 11/30	行政計画の意義と種類と根拠	行政計画の意義、種類、根拠について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
22	1部 11/28 2部 12/1	行政計画の手続的統制と司法的統制	行政計画に対する手続的統制及び司法的統制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画に対する手続的統制と司法的統制の概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
23	1部 11/30 2部 12/7	行政指導の意義と分類	行政指導の意義、分類、法的根拠について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の意義と分類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
24	1部 12/5 2部 12/8	行政指導の手続的統制と司法的統制	行政指導に対する手続的統制及び司法的統制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導に対する手続的統制と司法的統制の概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1部 12/7 2部 12/14	行政契約	行政契約の意義、種類、履行確保手段について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
26	1部 12/12 2部 12/15	行政上の義務履行確保の手段	行政上の義務履行確保の手段の意義や種類について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政上の強制手段の特色と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
27	1部 12/14 2部 12/21	行政手続	行政手続の意義、特色、内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政手続の特色と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
28	1部 12/19 2部 12/22	行政情報管理	情報公開、個人情報保護、公文書管理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政情報管理の特色と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
29	1部 12/21 2部 1/12	行政調査	行政調査の意義、特色、種類、法的統制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
30	1部 12/26 2部 1/18	授業のまとめ	行政法総論の体系と基本的な論点について総括的に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法総論の基本的な論点について説明できる。	
		事前学修	これまでの学んだことを復習し、行政法の体系を考察すること。	120分
		事後学修	これまでの学んだことを再度復習し、定期試験に向けて準備すること。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	長谷川 福造	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。毎回必ず指定教科書と小型六法（デイリー六法〔三省堂〕又はポケット六法〔有斐閣〕）を持参すること。

【授業方法】		
講義形式で行う。成績評価の方法・基準・割合に基づいて、講義の際に小テストやリアクションペーパー作成を実施する場合がある。必要に応じて【学生教員共有フォルダ】を経由して告知や資料配付を行う。説明に対応してプロジェクターと板書を使用するので、黒板とスライドが見やすい席に座ること。2017年版より前の六法を使用することを禁止する。例年9月に翌年版の六法が刊行される。刊行後は2021年版を速やかに購入し、2021年版の六法を持参すること。2021年版の六法を使用することが原則である。教科書と六法を必ず毎回持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。					2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。					2		2		2			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のポータルシステムでの配信によってフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）Next教科書シリーズ	池村正道 編	弘文堂	2017	教科書	必携
デイリー六法 2021年版（2018, 2019, 2020年版も許容）	大石眞ほか編修	三省堂	2020	その他	必携
ポケット六法 2021年版（2018, 2019, 2020年版も許容）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2020	その他	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	行政不服審査法に参照条文が付いていることから、小型六法はデイリー六法（三省堂）を推奨する。六法は、上記のどちらか一方を持参すること。六法の版については、2021年版を持参・使用するのが原則である。2017年版より前の六法を使用することを禁止する。六法と指定教科書は必ず毎回持参すること。判例百選は参考書であり必携ではない。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士として実際に経験・見聞した実例に基づいて、行政法Ⅰの領域に関連する事柄を守秘義務に抵触しない範囲で具体的に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月曜 9月14日	イントロダクション・行政法の位置づけ	高等学校までの12年間と学部的一年半を合計した13年以上に及ぶ様々な学修を、学部後半の2年間に繋げて「学士（法学）」として集大成する時期である。現在各自が日々熱心に取り組んでいる就職活動や各種資格試験の準備、更には卒業後の自分自身の職務執行・社会生活と行政法の理解・知見はダイレクトに関連している。初回のイントロダクションにおいて、受講者は行政法の位置づけを理解するとともに、本講座の内容・スケジュールを体得する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、高等学校まで及び学部での一年半の修練と行政法の学修の連続性を正しく理解し説明できるようになるとともに、法学部卒業後の社会生活・職務執行と行政法の密接不可分性を理解し説明することができる。到達目標②に関連して、今期30回の講義の展開を適切に理解し、具体的に説明できるとともに、学士（法学）の学位を取得する過程における行政法の位置づけと重要性を的確に体得し、正しく明瞭に説明することができる。
		事前学修	2021年版の六法の刊行状況を、三省堂又は有斐閣及び各種書籍販売会社の公式ウェブサイトを開覧して点検すること。2021年版の六法の刊行期日を確知するとともに、刊行期日に則して遅滞なく購入する準備を実行すること。9月末日までは2018年～2020年版の六法の使用・持参を認めるが、10月5日（第7回）以降は2021年版の六法を使用・持参しなければならない。また、指定教科書については、初回から持参することが必要であるが、履修登録手続を踏まえ、履修登録終了後の9月28日（第5回）以降、持参が義務となる。シラバスに記載している事柄を全部読んだ上で、2021年1月下旬までの17週間で自分が何をしなければならないかを、正確に具体的に理解しておくこと。これまでの13年以上の学修事項を適切に思い出して、これらの修得事項と行政法Ⅰがどのように関連しているかを具体的に考え、述べることができるようにしておくこと。
		事後学修	第1回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせて、2021年1月下旬までの17週間の学修計画を具体的に正しく策定すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。 回数が多く講義科目であることに配慮して、受講する学生の利便性向上・サポートのため、各回の事後学修事項を丁寧に工夫して叙述しました。また、紙幅の関係でこのシラバスに記載していない受講生の義務も沢山あります。自分自身が実行すべき義務を正しく確知して着実に遂行し、実りある17週間にしましょう。
2	第一部 火曜 9月15日	現代行政の特徴	指定教科書第1章の「現代行政の特徴」を題材として、講義・説明を実施する。現代行政の特徴を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、現代行政の特徴を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、現代行政の特徴に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「現代行政の特徴」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。10月5日以降の講義時にリアクションペーパー作成や小テストの解答を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによってリアクションペーパー作成や小テストの解答が滞った場合は評価を減点するので、一週目の段階から毎回の両方を持参することを習慣化して実行すること。
		事後学修	第2回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。前日の講義後に自分で策定した2021年1月下旬までの17週間の学修計画を点検し、必要に応じて正しく改訂すること。他の法律専門科目と同じく行政法Ⅰも、17週間の講義における解説事項は、各回の進展に応じて濃密な連続性・関連性を有している。したがって、講義時に具体的な指示がない場合でも、受講者が自分自身で、必要な事柄を適時に正しく明瞭に思い出した上で、各事柄相互の関連性を明敏に整理し、具体的に文字（口頭及び筆記）で適切に説明できる状態にすることが義務である。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。
3	第一部 月曜 9月21日	行政作用における多様な行為形式と行政法	指定教科書第1章の「行政作用における多様な行為形式と行政法」を題材として、講義・説明を実施する。行政作用における多様な行為形式と行政法を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政作用における多様な行為形式と行政法を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政作用における多様な行為形式と行政法に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政作用における多様な行為形式と行政法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第3回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。先週自分で策定した2021年1月下旬までの計画とこの1週間の自己の修練状況を照合し、何が出来てきたのか、実現できなかった項目が何かを適切に点検すること。この点検に基づいて、自分が今後実行しなければならない事項が何かを認識し、その認識事項を速やかに遂行すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。
4	第一部 火曜 9月22日	行政法の法源	指定教科書第2章の「行政法の法源」を題材として、講義・説明を実施する。行政法の法源を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政法の法源を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政法の法源に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政法の法源」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第4回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。先週自分で策定した2021年1月下旬までの計画とこの1週間の自己の修練状況を照合し、何が出来てきたのか、実現できなかった項目が何かを適切に点検すること。この点検に基づいて、自分が今後実行しなければならない事項が何かを認識し、その認識事項を速やかに遂行すること。履修登録の有無を点検すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 月曜 9月28日	行政法の効力の範囲	指定教科書第2章の「行政法の効力の範囲」を題材として、講義・説明を実施する。行政法の効力の範囲を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政法の効力の範囲を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政法の効力の範囲に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政法の効力の範囲」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第5回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回までの講義で説明のあった事柄を正しく鮮明に思い出して、それぞれの事柄が行政法領域においてどのように繋がっているかを詳細に確認するとともに、他の法律分野や社会生活一般とどのように関連しているかを分析する。これらの確認と分析の成果を自分自身で正確に文字化してノートを作成していく。作成ノートは手書きを推奨するが、Word等の電子媒体で作成することも認める。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
6	第一部 火曜 9月29日	行政上の法律関係	指定教科書第2章の「行政上の法律関係」を題材として、講義・説明を実施する。行政上の法律関係を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政上の法律関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政上の法律関係に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政上の法律関係」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第6回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第6回までの講義で説明のあった事柄を正しく鮮明に思い出して、それぞれの事柄が行政法領域においてどのように繋がっているかを詳細に確認するとともに、他の法律分野や社会生活とどのように関連しているかを分析する。これらの確認と分析の成果を自分自身で正確に文字化してノートを作成していく。作成ノートは手書きを推奨するが、Word等の電子媒体で作成することも認める。このノート作成は、第7回以降の講義の事後学修においても同様の義務である。10月以降の講義で、リアクションペーパー作成等を行う場合、六法と指定教科書のどちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって、解答が滞ったときは評価を減点するので、次回以降何を持参しなければならないかを確知しておくこと。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
7	第一部 月曜 10月5日	行政主体、行政機関	指定教科書第3章の「行政主体、行政機関」を題材として、講義・説明を実施する。行政主体と行政機関を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政主体と行政機関を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政主体と行政機関に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政主体、行政機関」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第7回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。間もなく、今期が始まって1か月が経過する。10月中旬の次週は、この1か月間の自己の鍛錬状況を既定の計画と照合することになるから、今週は、これまでの4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別しておくこと。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
8	第一部 火曜 10月6日	国と地方の行政組織	指定教科書第3章の「国と地方の行政組織」を題材として、講義・説明を実施する。国と地方の行政組織を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国と地方の行政組織を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、国と地方の行政組織に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「国と地方の行政組織」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第8回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。間もなく、今期が始まって1か月が経過する。10月中旬の次週は、この1か月間の自己の鍛錬状況を既定の計画と照合することになるから、今週は、これまでの4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別しておくこと。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
9	第一部 月曜 10月12日	公務員、公物	指定教科書第3章の「公務員、公物」を題材として、講義・説明を実施する。公務員と公物を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、公務員と公物を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、公務員と公物に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「公務員、公物」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第9回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。今週で、後期が始まって1か月が経過する。この1か月間の自己の鍛錬状況と9月中旬に策定した計画を照合すること。この照合によって、4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別すること。この識別と講座の進捗状況を踏まえて、速やかに学修計画を再点検し、10月18日までに行政法Ⅰの学修計画を改訂・修正・再構築すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。
10	第一部 火曜 10月13日	行政過程、法律による行政の原理	指定教科書第4章の「行政過程、法律による行政の原理」を題材として、講義・説明を実施する。行政過程及び法律による行政の原理を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政過程及び法律による行政の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政過程及び法律による行政の原理に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政過程、法律による行政の原理」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第10回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。今週で、後期が始まって1か月が経過する。この1か月間の自己の鍛錬状況と9月中旬に策定した計画を照合すること。この照合によって、4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別すること。この識別と講座の進捗状況を踏まえて、速やかに学修計画を再点検し、10月18日までに行政法Ⅰの学修計画を改訂・修正・再構築すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。
11	第一部 月曜 10月19日	行政手続	指定教科書第4章の「行政手続」を題材として、講義・説明を実施する。行政手続を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政手続を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政手続に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政手続」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第11回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。前日（10月18日）までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅰの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。この照合に基づいて、学修計画を適切に補訂すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。
12	第一部 火曜 10月20日	行政情報管理、行政調査	指定教科書第4章の「行政情報管理、行政調査」を題材として、講義・説明を実施する。行政情報管理と行政調査を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政情報管理と行政調査を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政情報管理と行政調査に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政情報管理、行政調査」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第12回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。前々日（10月18日）までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅰの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。この照合に基づいて、学修計画を適切に補訂すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。
13	第一部 月曜 10月26日	行政行為の意義・性質、種類	指定教科書第5章の「行政行為の意義・性質、種類」を題材として、講義・説明を実施する。行政行為の意義・性質と種類を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政行為の意義・性質と種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政行為の意義・性質と種類に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政行為の意義・性質、種類」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
		事後学修	第13回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。先週までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅰの学修計画と、今日の時点まで1週間の自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
14	第一部 火曜 10月27日	行政行為の効力、行政裁量	指定教科書第5章の「行政行為の効力、行政裁量」を題材として、講義・説明を実施する。行政行為の効力と行政裁量を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政行為の効力と行政裁量を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政行為の効力と行政裁量に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政行為の効力、行政裁量」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第14回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。先週までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅰの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
15	第一部 月曜 11月9日	行政行為の瑕疵、職権取消し・撤回、附款	指定教科書第5章の「行政行為の瑕疵、職権取消し・撤回、附款」を題材として、講義・説明を実施する。行政行為の瑕疵、職権取消し・撤回、及び附款を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政行為の瑕疵、職権取消し・撤回、及び附款を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政行為の瑕疵、職権取消し・撤回、及び附款に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政行為の瑕疵、職権取消し・撤回、附款」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第15回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。10月までに再構成した行政法Ⅰの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
16	第一部 火曜 11月10日	行政立法の意義、法規命令	指定教科書第6章の「行政立法の意義、法規命令」を題材として、講義・説明を実施する。行政立法の意義と法規命令を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政立法の意義と法規命令を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政立法の意義と法規命令に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政立法の意義、法規命令」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第16回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。10月までに再構成した行政法Ⅰの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
17	第一部 月曜 11月16日	行政規則	指定教科書第6章の「行政規則」を題材として、講義・説明を実施する。行政規則を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政規則を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政規則に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政立法の意義、法規命令」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第17回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
18	第一部 火曜 11月17日	行政計画の意義・機能、種類、法律上の根拠	指定教科書第7章の「行政計画の意義・機能、種類、法律上の根拠」を題材として、講義・説明を実施する。行政計画の意義・機能、種類、及び法律上の根拠を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政計画の意義・機能、種類、及び法律上の根拠を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政計画の意義・機能、種類、及び法律上の根拠に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政計画の意義・機能、種類、法律上の根拠」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第18回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 月曜 11月23日	行政計画の手続的統制と司法的統制	指定教科書第7章の「行政計画の手続的統制と司法的統制」を題材として、講義・説明を実施する。行政計画の手続的統制と司法的統制を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政計画の手続的統制と司法的統制を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政計画の手続的統制と司法的統制に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政計画の手続的統制と司法的統制」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第19回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
20	第一部 火曜 11月24日	行政指導の意義、分類	指定教科書第8章の「行政指導の意義、分類」を題材として、講義・説明を実施する。行政指導の意義と分類を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政指導の意義と分類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政指導の意義と分類に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政指導の意義、分類」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第20回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
21	第一部 月曜 11月30日	行政指導の法律の根拠、手続的統制、司法的統制	指定教科書第8章の「行政指導の法律の根拠、手続的統制、司法的統制」を題材として、講義・説明を実施する。行政指導の法律の根拠、手続的統制及び司法的統制を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政指導の法律の根拠、手続的統制及び司法的統制を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政指導の法律の根拠、手続的統制及び司法的統制に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政指導の法律の根拠、手続的統制、司法的統制」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第21回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
22	第一部 火曜 12月1日	行政契約の意義、種類	指定教科書第9章の「行政契約の意義、種類」を題材として、講義・説明を実施する。行政契約の意義と種類を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政契約の意義と種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政契約の意義と種類に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政契約の意義、種類」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第22回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
23	第一部 月曜 12月7日	各行政分野における行政契約	指定教科書第9章の「各行政分野における行政契約」を題材として、講義・説明を実施する。各行政分野における行政契約を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、各行政分野における行政契約を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、各行政分野における行政契約に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「各行政分野における行政契約」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第23回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
24	第一部 火曜 12月8日	行政上の義務履行確保の概要	指定教科書第10章の「行政上の義務履行確保の概要」を題材として、講義・説明を実施する。行政上の義務履行確保の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政上の義務履行確保の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政上の義務履行確保の概要に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政上の義務履行確保の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第24回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
25	第一部 月曜 12月14日	行政上の強制執行、行政代執行	指定教科書第10章の「行政上の強制執行、行政代執行」を題材として、講義・説明を実施する。行政上の強制執行及び行政代執行を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政上の強制執行及び行政代執行を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政上の強制執行及び行政代執行に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政上の強制執行、行政代執行」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第25回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
26	第一部 火曜 12月15日	直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収、給付拒否、公表、違反金	指定教科書第10章の「直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収、給付拒否、公表、違反金」を題材として、講義・説明を実施する。直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収、給付拒否、公表、及び違反金を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収、給付拒否、公表、及び違反金を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収、給付拒否、公表、及び違反金に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収、給付拒否、公表、違反金」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第26回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を的確かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	120分
27	第一部 月曜 12月21日	行政罰、即時強制（即時執行）	指定教科書第10章の「行政罰、即時強制（即時執行）」を題材として、講義・説明を実施する。行政罰と即時強制（即時執行）を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政罰と即時強制（即時執行）を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政罰と即時強制（即時執行）に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政罰、即時強制（即時執行）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第27回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材を照らし合わせる。既に遂行しているノート作成を引き続き精密に実行すること。これまでの3か月間で自分が理解した事項が何か、理解していなければならないにもかかわらず理解ができていない事柄が何かを正確に識別する。この識別に基づいて、今期末まで自分が取り組まなければならない項目を適切に書き出す。書き出した内容、これまで自分で作成してきたノート、六法及び教科書を全部照合する。この照合を基礎に、今期末までに何を暗記しなければならないかを具体化する。具体化した暗記事項の暗記を今日から実行する。必要事項の理解、暗記及びこれらの理解と暗記を基盤とする記述能力・表現能力の醸成は、期末テスト前日が期限である。自分自身が実行しなければならない事柄と義務を、毎日必ず的確に実行し続ける。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
28	第一部 火曜 12月22日	行政法Ⅰに関する事例研究	今期これまで学修した行政法Ⅰの領域において特に重要な事例の説明を行う。指定教科書と判例百選を素材に具体的な事例を提示し、各法令の要件・効果の解釈、行政法理論の展開、及び各判例・裁判例の分析を中心に実践的に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政法の基盤を構成する各種概念・考え方を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、主要な事例に関係する各法令の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書のうち行政法Ⅰの範囲全般を講義前日までに読んでおくこと。第5回及び第6回の事後学修で着手し、それ以降継続して作成している自分自身のノートと指定教科書・六法を照らし合わせて、自己の理解水準を確認すること。この確認によって、今の時点で自分が理解し叙述可能な事柄が何であるか、自分自身が理解できていない・叙述できない事柄が何かを識別すること。自分が理解していない・叙述できない事柄をどのようにして1月中旬までに到達水準へ向上させていくかの計画を正しく策定すること。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第28回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材を照らし合わせる。この照合と事前学修における自己調査を結合させて、年末年始に自分が取り組まなければならない事項を具体的に判別し文字化する。この文字化によって顕在化した課題に対して、1月6日までの2週間取り組み解決方法を、正確に定立する。定立した解決方法、前日着手した暗記事項の一覧、これまで作成してきたノート、六法及び教科書を全部照合する。この照合を基礎に、自分が何をしなければならないかを適切に具体化・自覚する。具体化・自覚した自己の義務を、今日から実行する。必要事項の理解、暗記及びこれらの理解と暗記を基盤とする記述能力・表現能力の醸成は、期末テスト前日が期限である。自分自身が実行しなければならない事柄と義務を、年末年始を含め、毎日必ず的確に実行し続ける。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	360分
29	第一部 火曜 1月12日	行政法Ⅰに関する事例研究	今期これまで学修した行政法Ⅰの領域において特に重要な事例の説明を行う。指定教科書と判例百選を素材に具体的な事例を提示し、各法令の要件・効果の解釈、行政法理論の展開、及び各判例・裁判例の分析を中心に実践的に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政法の基盤を構成する各種概念・考え方を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、主要な事例に関係する各法令の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書のうち行政法Ⅰの範囲全般を講義前日までにもう一度必ず読み直すこと。これまで講義で指摘・説明のあった六法掲載の各条項も必ず読み直し、指定教科書と自分自身が作成したノートと照合すること。この照合によって、自分自身の理解状況・叙述能力に瑕疵や欠如があるか否かを識別すること。この識別によって明らかになった瑕疵・欠如を1月11日までに迅速に正しく補正すること。これらの照合と補正によって再構築した自分自身の理解を土台に、適切な時間内に正確に叙述する能力を向上させておくこと。必要に応じて、暗記すべき事項の暗記を継続すること。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第29回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。この照合と事前学修における自己調査・再構築等を結合させて、今の時点で自分ができていることは何か、自分ができないことは何かを明確化する。明確となった自己の不足事項を、3日以内に修正・補訂すること。必要事項の理解、暗記及びこれらの理解と暗記を基盤とする記述能力・表現能力の醸成は、期末テスト前日が期限である。自分自身が実行しなければならない事柄と義務を、毎日必ず的確に実行し続けること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	150分
30	第一部 月曜 1月18日	事例研究と総括	今期これまで学修した行政法Ⅰの領域において特に重要な事例の説明を行う。指定教科書と判例百選を素材に具体的な事例を提示し、各法令の要件・効果の解釈、行政法理論の展開、及び各判例・裁判例の分析を中心に実践的に解説する。また、9月中旬から説明してきた行政法Ⅰに関する総括も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政法の基盤を構成する各種概念・考え方を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、主要な事例に関係する各法令の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書のうち行政法Ⅰの範囲全般を講義前日までにもう一度必ず読み直すこと。これまで講義で指摘・説明のあった六法掲載の各条項も必ず読み直し、指定教科書、自分自身が作成したノートも合わせ読み、先週明確化した自己の不足事項の改善状況と照合すること。この照合によって、自分自身の理解状況・叙述能力に瑕疵や欠如があるか否かを識別すること。この識別によって明らかになった瑕疵・欠如を1月17日までに迅速に正しく補正すること。これらの照合と補正によって再構築した自分自身の理解を土台に、適切な時間内に正確に叙述する能力を向上させておくこと。必要に応じて、暗記すべき事項の暗記を継続すること。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第30回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。この照合と事前学修における自己調査・再構築等を結合させて、今の時点で自分ができていることは何か、自分ができないことは何かを明確化する。明確となった自己の不足事項を、速やかに修正・補訂すること。必要事項の理解、暗記及びこれらの理解と暗記を基盤とする記述能力・表現能力の醸成は、期末テスト前日が期限である。自分自身が実行しなければならない事柄と義務を、毎日必ず的確に実行し続けること。各講義の到達目標を正しく適切に達成すること。	150分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
憲法や民法といった主要科目については履修もしくは履修中が望ましい。また、行政法Ⅰについては、履修済であった方がより効果的に授業を受けることができます。

【授業方法】
講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。					2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。					2		2		2			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解力と表現力を、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に教員学生共有フォルダにてフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	必携
備考	本講義は、行政救済法の部分であるため行政判例百選Ⅱは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅰの部分については資料として配付することになります。				

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（水曜・木曜10：30）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	行政救済制度の概観	行政救済制度（行政争訟と国家補償）の全体像を学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済制度（行政争訟と国家補償）について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。	120分
2	4/9	行政訴訟の概観と司法権	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政争訟および行政訴訟について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。	120分
3	4/15	行政訴訟の類型	行政訴訟の類型として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政訴訟の類型を挙げ、そしてこれらについて十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような類型があるのかについては覚えるようにしてください。	120分
4	4/16	取消訴訟（1）	行政事件訴訟法で規定されている取消訴訟の要件について、全体を確認していくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の要件を挙げ、これらの要件について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。	120分
5	4/22	取消訴訟（2）；処分性①	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性の概念および重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ゴミ焼却場事件については再確認をしていただき、そこで示された定義については覚えるようにしてください。	120分
6	4/23	取消訴訟（2）；処分性②	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/29	取消訴訟（2）；処分性③	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分
8	4/30	取消訴訟（3）；原告適格①	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以前の動向について取り上げたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原告適格の概念、これに関する学説および、重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
9	5/6	取消訴訟（3）；原告適格②	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正以前に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
10	5/7	取消訴訟（3）；原告適格③	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正後に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
11	5/13	取消訴訟（4）；訴えの利益	取消訴訟の訴訟要件のうち、訴えの利益について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴えの利益の概念および関連する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例については再確認をするようにしてください。	120分
12	5/14	取消訴訟（5）；取消訴訟の審理	取消訴訟の審理として、審理対象や審理手続について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、民事訴訟法との異同については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/20	取消訴訟（6）；取消訴訟の判決と効果、仮の権利救済	取消訴訟について裁判所が出す判決の種類およびその効果、そして、仮の権利救済について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の判決の種類とその効果、そして仮の権利救済について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の判決の種類、判決の効果、そして仮の権利救済の種類と要件については覚えるようにしてください。	120分
14	5/21	その他の抗告訴訟	その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟以外のその他の抗告訴訟を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、その他の抗告訴訟の種類および要件については再確認をするようにしてください。	120分
15	5/27	行政不服審査法	行政不服審査法で規定されている審査請求について、行政事件訴訟法との異同を意識しながら学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服審査法の重要規定を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意をしつつ、再確認をするようにしてください。	120分
16	5/28	国家補償法の概観①	国家補償法として、国家賠償および損失補償について概観したいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同については再確認をするようにしてください。	120分
17	6/3	国家賠償法の概観②	国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償賠償法の沿革について十分な説明ができ、国家賠償法の規定を簡単に説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定については再確認をするようにしてください。	120分
18	6/4	国賠法1条の根拠	国家賠償法について、どのような理由から国が賠償をすることになるのかについて、学説を踏まえて見ていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の責任の根拠に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/10	国賠法1条（2）；公権力の行使①	国家賠償法1条が規定する「公権力の行使」とは何かについて説明をしていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公権力の行使に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
20	6/11	国賠法1条（2）；公権力の行使②（権限不行使）	公権力の行使との関係で、いわゆる権限の不行使が国家賠償法1条の対象となるのかについて説明をしていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権限不行使に関する判例の展開について十分な利害ができるようになり、そして判例で示された要件を説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、権限不行使に関する判例の展開およびそこで違法へと導いた要件については再確認をするようにしてください。	120分
21	6/17	国賠法1条性（3）；職務関連性	職務関連性の概念およびこれに関する判例について説明をしていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務関連性について十分な説明ができるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、職務関連性が問題となった判例については再確認をするようにしてください。	120分
22	6/18	国賠法1条（4）；違法性①	国家賠償法で規定する違法性の概念について説明をしていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、違法性について説明をすることができ、これに関する学説の展開を示すことができるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する行為不法説と結果不法性については再確認をするようにしてください。	120分
23	6/24	国賠法1条（4）；違法性②（立法作用、司法作用と国家賠償責任）	行政機関以外の国家機関による違法な活動について説明をしていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関以外の国家機関に対する国家賠償訴訟に関する重要判例を説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別な活動に関する判例の展開については再確認をするようにしてください。	120分
24	6/25	国賠法1条（5）；過失①	国家賠償法で規定する過失の概念およびその後の展開について説明をしていきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失とは何かを説明することができるようになり、そして過失の客観化についても説明することができるようになる。	
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失の客観化については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	7/1	国賠法1条（5）；過失②	過失に関する重要判例および組織過失について説明をしていきたいと思います。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失が問題となった事案を紹介することができるようになり、そして組織過失についても説明することができるようになる。
		事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失にかかわる判例の展開および組織過失については再確認をするようにしてください。
26	7/2	国賠法2条（1）；公の営造物概念、瑕疵概念	国家賠償法2条で規定している公の営造物の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の営造物の瑕疵とはどのような場面であり、そしてそこでの要件について説明をすることができるようになる。
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法2条の要件については覚えるようにしてください。
27	7/8	国賠法2条管理瑕疵（2）；道路設置	公の営造物の瑕疵に関する判例のうち、道路設置管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道路設置管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。
		事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本となる高知落石事件を覚えつつ、その他の判例についても再確認をするようにしてください。
28	7/9	国賠法2条管理瑕疵（3）；河川設置	公の営造物の瑕疵に関する判例のうち、河川管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、河川管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。
		事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、大東水害訴訟および多摩川水害訴訟については覚えるようにしてください。
29	7/15	損失補償①―損失補償の根拠と要件	損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料13を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠および要件については覚えるようにしてください。
30	7/16	損失補償②	損失補償を行う際に、国家側はどの程度、補償をすべきかなどについて学ぶことになります。
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、損失補償を行う際に、国家側の補償の程度に関する学説を挙げることができ、そしてその学説について説明することができるようになる。
		事前学修	参考資料13から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、完全補償説と相当補償説については覚えるようにしてください。

科目名	行政法Ⅱ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのかが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
特になし。毎回必ず指定教科書と小型六法（デイリー六法〔三省堂〕又はポケット六法〔有斐閣〕）を持参すること。

【授業方法】
講義形式で行う。成績評価の方法・基準・割合に則して、講義の際に小テストやリアクションペーパー作成を実施する場合がある。必要に応じて【学生教員共有フォルダ】を経由して告知や資料配付を行う。説明に対応して教室のプロジェクターと板書を使用するので、黒板とスライドが見やすい席に座ること。指定教科書と小型六法を必ず毎回持参すること。2017版より前の六法を使用してはならない。最新の2020年版の六法を使用することが原則である。特別な理由がある場合は、2018年版又は2019年版の六法を使用することを認める。教科書又は六法を持参し忘れて、講義の理解、及び小テスト等に支障が出ることがないように注意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。					2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。					2		2		2			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての理解力と表現力を、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期終了後のポータルシステムでの配信によってフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）Next教科書シリーズ	池村正道 編	弘文堂	2017	教科書	必携
デイリー六法 2020年版（2018・2019年版も許容）	大石眞ほか編修	三省堂	2019	その他	必携
ポケット六法 2020年版（2018・2019年版も許容）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2019	その他	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	行政不服審査法に参照条文が付いていることから、小型六法はデイリー六法（三省堂）を推奨する。六法は、上記のどちらか一方を持参すること。六法の版については、2020年版を持参・使用するのが原則である。2017年版より前の六法を使用することを禁止する。六法と指定教科書は必ず毎回持参すること。判例百選は参考書であり必携ではない。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで（研究室）。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士として実際に経験・見聞した実例に基づいて、行政法Ⅱの領域に関連する事柄を守秘義務に抵触しない範囲で具体的に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月曜 4月6日	イントロダクション・行政法の概要	高等学校までの12年間及び学部前半を合計した14年間の様々な学修を「学士（法学）」として集大成する時期に、受講者が差し掛かっている。現在各自が取り組んでいる就職活動・各種資格試験の準備、更には卒業後の職務執行と行政法の理解・知見はダイレクトに繋がっている。初回のイントロダクションにおいて、受講者は行政法の概要を理解するとともに、本講座の内容・スケジュールを体得する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、高等学校まで及び学部での2年以上の修練と行政救済法の学修の連続性を正しく理解し説明できるようになるとともに、法学部卒業後の社会生活・職務執行と行政法の密接不可分性を正確に理解し説明することができる。到達目標②に関連して、前期30回の講義の展開を適切に理解し、具体的に説明することができる。とともに、学士（法学）の学位を取得する過程における行政法の位置づけと重要性を的確に体得し、正しく明瞭に説明することができる。	
		事前学修	六法を講義前日（4月5日）までに購入して準備をすること。指定教科書は、履修登録の日程に則して4月20日（第5回の講義日）までに購入することが義務である。シラバスに記載している事柄を全部読んだ上で、7月下旬までの15週間で自分が何をしなければならないかを、正確に具体的に理解しておくこと。これまでの14年間の学修事項を適切に思い出して、これらの修得事項と行政法Ⅱがどのように関連しているかを具体的に考え、述べることができるようにしておくこと。	150分
		事後学修	第1回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせて、7月下旬までの15週間の学修計画を具体的に正しく策定すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。回数が多く講義科目であることに配慮して、受講する学生の利便性向上・サポートのため、各回の事後学修事項を丁寧に工夫して叙述しました。また、紙幅の関係でこのシラバスに記載していない受講生の義務も沢山あります。自分自身が実行すべき義務を正しく確知して着実に遂行し、実りある15週間にしましょう。	120分
2	第一部 火曜 4月7日	行政救済法の意義	指定教科書第11章の「行政救済法の意義」を題材として、講義・説明を実施する。行政救済法の意義を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政救済法の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政救済法に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政救済法の意義」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。4月20日以降の講義時にリアクションペーパー作成や小テストの解答を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによってリアクションペーパー作成や解答が滞った場合は評価を減点するので、一週目の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第2回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。前日の講義後に自分で策定した7月下旬までの15週間の学修計画を点検し、必要に応じて正しく改訂すること。他の法律専門科目と同じく行政法Ⅱも、15週間の講義における解説事項は、各回の進展に応じて濃密な連続性・関連性を有している。したがって、講義時に具体的な指示がない場合でも、受講者が自分自身で、必要な事柄を適時に正しく明瞭に思い出した上で、各事柄相互の関連性を明敏に整理し、具体的に文字（口頭及び筆記）で適切に説明できる状態にすることが義務である。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
3	第一部 月曜 4月13日	行政不服審査の概要	指定教科書第11章の「行政不服審査の概要」を題材として、講義・説明を実施する。行政不服審査の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政不服審査の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政不服審査に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政不服審査の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第3回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。先週自分で策定した7月下旬までの学修計画とこの1週間の自己の修練状況を照合し、何が実現できたのか、実現できなかった項目が何かを適切に点検すること。この点検に基づいて、自分が今後実行しなければならない事項が何かを認識し、その認識事項を必ず速やかに遂行すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
4	第一部 火曜 4月14日	不服申立ての対象、不服申立事項	指定教科書第11章の「不服申立ての対象、不服申立事項」を題材として、講義・説明を実施する。不服申立ての対象及び不服申立事項を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、不服申立ての対象を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、不服申立事項に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「不服申立ての対象、不服申立事項」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第4回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。履修登録の有無を点検し、来週以降何を講義に持参しなければならないか、何を準備しなければならないかを正しく認識・実行すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 月曜 4月20日	不服申立ての種類、審査請求の要件、教示制度	指定教科書第11章の「不服申立ての種類、審査請求の要件、教示制度」を題材として、講義・説明を実施する。不服申立ての種類、審査請求の要件、及び教示制度を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、不服申立ての種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、審査請求の要件・教示制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「不服申立ての種類、審査請求の要件、教示制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第5回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回までの講義で説明のあった事柄を正しく鮮明に思い出して、それぞれの事柄が行政法領域においてどのように繋がっているかを詳細に確認するとともに、他の法律分野や社会生活一般とどのように関連しているかを分析する。これらの確認と分析の成果を自分自身で正確に文字化してノートを作成していく。作成ノートは手書きを推奨するが、Word等の電子媒体で作成することも認める。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
6	第一部 火曜 4月21日	行政不服審査の審理手続、審査請求をめぐるタイムライン	指定教科書第11章の「行政不服審査の審理手続、審査請求をめぐるタイムライン」を題材として、講義・説明を実施する。行政不服審査の審理手続、及び審査請求をめぐるタイムラインを理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政不服審査の審理手続を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、審査請求をめぐるタイムラインに関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政不服審査の審理手続、審査請求をめぐるタイムライン」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第6回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第6回までの講義で説明のあった事柄を正しく鮮明に思い出して、それぞれの事柄が行政法領域においてどのように繋がっているかを詳細に確認するとともに、他の法律分野や社会生活一般とどのように関連しているかを分析する。これらの確認と分析の成果を自分自身で正確に文字化してノートを作成していく。作成ノートは手書きを推奨するが、Word等の電子媒体で作成することも認める。このノート作成は、第7回以降の講義の事後学修においても同様の義務である。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
7	第一部 月曜 4月27日	行政審判、苦情処理制度・オンブズマン	指定教科書第11章の「行政審判、苦情処理制度・オンブズマン」を題材として、講義・説明を実施する。行政審判、及び苦情処理制度・オンブズマンを理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政審判を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、苦情処理制度・オンブズマンに関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政審判、苦情処理制度・オンブズマン」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第7回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。間もなく、前期が始まって1か月が経過する。5月初旬の次週は、この1か月間の自己の鍛錬状況と既定の計画を照合することになるから、今週は、これまでの4週間で自分が何を修得したか、修得しなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別しておくこと。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
8	第一部 火曜 4月28日	行政事件訴訟の概要	指定教科書第12章の「行政事件訴訟の概要」を題材として、講義・説明を実施する。行政事件訴訟の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政事件訴訟の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政事件訴訟の概要に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政事件訴訟の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第8回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。間もなく、前期が始まって1か月が経過する。5月初旬の次週は、この1か月間の自己の鍛錬状況と既定の計画を照合することになるから、今週は、これまでの4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別しておくこと。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 月曜 5月4日	行政事件訴訟法の沿革と特徴	指定教科書第12章の「行政事件訴訟法の沿革と特徴」を題材として、講義・説明を実施する。行政事件訴訟法の沿革と特徴を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政事件訴訟法の沿革と特徴を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政事件訴訟法の沿革と特徴に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政事件訴訟法の沿革と特徴」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第9回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。今週で、前期が始まって1か月が経過する。この1か月間の自己の鍛錬状況と4月上旬に策定した計画を照合すること。この照合によって、4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別すること。この識別と講座の進捗状況を踏まえて、速やかに学修計画を再点検し、5月10日までに行政法Ⅱの学修計画を改訂・修正・再構築すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
10	第一部 火曜 5月5日	行政事件訴訟の類型	指定教科書第12章の「行政事件訴訟の類型」を題材として、講義・説明を実施する。行政事件訴訟の類型を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政事件訴訟の類型を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政事件訴訟の類型に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政事件訴訟の類型」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第10回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。今週で、前期が始まって1か月が経過する。この1か月間の自己の鍛錬状況と4月上旬に策定した計画を照合すること。この照合によって、4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別すること。この識別と講座の進捗状況を踏まえて、速やかに学修計画を再点検し、5月10日までに行政法Ⅱの学修計画を改訂・修正・再構築すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
11	第一部 月曜 5月11日	訴訟要件の概要	指定教科書第12章の「訴訟要件の概要」を題材として、講義・説明を実施する。訴訟要件の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、訴訟要件の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、訴訟要件の概要に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「指定教科書の所定ページに沿って「訴訟要件の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第11回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。前日（5月10日）までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。この照合に基づいて、学修計画を適切に補訂すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
12	第一部 火曜 5月12日	処分性の要件	指定教科書第12章の「処分性の要件」を題材として、講義・説明を実施する。処分性の要件を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、処分性の要件を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、処分性に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「処分性の要件」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第12回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。前々日（5月10日）までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。この照合に基づいて、学修計画を適切に補訂すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
13	第一部 月曜 5月18日	原告適格の要件	指定教科書第12章の「原告適格の要件」を題材として、講義・説明を実施する。原告適格の要件を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、原告適格の要件を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、原告適格に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「原告適格の要件」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第13回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。先週までに改訂・修正・再構築・補訂した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点まで1週間の自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
14	第一部 火曜 5月19日	狭義の訴えの利益	指定教科書第12章の「狭義の訴えの利益」を題材として、講義・説明を実施する。狭義の訴えの利益の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、狭義の訴えの利益を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、狭義の訴えの利益に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「狭義の訴えの利益」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第14回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。先週までに改訂・修正・再構築・補訂した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。訴訟要件の主軸となる事項の説明が、この狭義の訴えの利益で一つの区切りとなる。したがって、ここまで学修した事項を的確に復習して、訴訟要件の位置づけと法律上の意義を正しく体得すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
15	第一部 月曜 5月25日	出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、管轄	指定教科書第12章の「出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、管轄」を題材として、講義・説明を実施する。出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、及び管轄の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、及び管轄を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、及び管轄に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、管轄」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第15回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。5月中旬までに再構成した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
16	第一部 火曜 5月26日	本案審理	指定教科書第12章の「本案審理」を題材として、講義・説明を実施する。本案審理の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、本案審理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、本案審理に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「本案審理」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第16回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。5月中旬までに再構成した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
17	第一部 月曜 6月1日	違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、立証責任	指定教科書第12章の「違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、立証責任」を題材として、講義・説明を実施する。違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、及び立証責任の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ及び立証責任を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ及び立証責任に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、立証責任」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第17回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
18	第一部 火曜 6月2日	仮の救済—執行停止制度	指定教科書第12章の「仮の救済—執行停止制度」を題材として、講義・説明を実施する。仮の救済—執行停止制度の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、仮の救済—執行停止制度を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、仮の救済—執行停止制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「仮の救済—執行停止制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第18回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 月曜 6月8日	訴訟の終了・判決の効力、 教示制度	指定教科書第12章の「訴訟の終了・判決の効力、教示制度」を題材として、講義・説明を実施する。訴訟の終了・判決の効力、及び教示制度の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、訴訟の終了・判決の効力、及び教示制度を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、訴訟の終了・判決の効力及び教示制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「訴訟の終了・判決の効力、教示制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第19回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
20	第一部 火曜 6月9日	無効等確認訴訟、不作為の 違法確認訴訟	指定教科書第12章の「無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟」を題材として、講義・説明を実施する。無効等確認訴訟、及び不作為の違法確認訴訟の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、無効等確認訴訟、及び不作為の違法確認訴訟を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、無効等確認訴訟、及び不作為の違法確認訴訟に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第20回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
21	第一部 火曜 6月15日	義務付け訴訟	指定教科書第12章の「義務付け訴訟」を題材として、講義・説明を実施する。義務付け訴訟の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、義務付け訴訟を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、義務付け訴訟に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「義務付け訴訟」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第21回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。講義回数として既に3分の2が経過した。また、前期末まで1か月である。これまで自分自身が実行してきた事柄を正しく振り返り、明確に思い出すこと。思い出した事項を既定の計画と照合し、何を達成して体得できているか、或いは実行すべきであったのに実行していなかった事実が何かを適切に点検し書き出すこと。書き出した項目と取り組まなければならない各種の義務を照らし合わせて、今後1か月間の学修計画を的確に策定すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
22	第一部 火曜 6月16日	差止訴訟、当事者訴訟・争 点訴訟	指定教科書第12章の「差止訴訟、当事者訴訟・争点訴訟」を題材として、講義・説明を実施する。差止訴訟及び当事者訴訟・争点訴訟の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、差止訴訟及び当事者訴訟・争点訴訟を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、差止訴訟及び当事者訴訟・争点訴訟に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「差止訴訟、当事者訴訟・争点訴訟」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第22回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。講義回数として既に3分の2が経過した。また、前期末まで1か月である。これまで自分自身が実行してきた事柄を正しく振り返り、明確に思い出すこと。思い出した事項を既定の計画と照合し、何を達成して体得できているか、或いは実行すべきであったのに実行していなかった事実が何かを適切に点検し書き出すこと。書き出した項目と取り組まなければならない各種の義務を照らし合わせて、今後1か月間の学修計画を的確に策定すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
23	第一部 火曜 6月22日	国家賠償制度の意義	指定教科書第13章の「国家賠償制度の意義」を題材として、講義・説明を実施する。国家賠償制度の意義、及び要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、国家賠償制度の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、国家賠償制度の意義に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「国家賠償制度の意義」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第23回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
24	第一部 火曜 6月23日	公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）	指定教科書第13章の「公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）」を題材として、講義・説明を実施する。公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第24回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。前期末が近付いていることから、必要に応じてシラバス記載の時分を上回る時間、事後学修を実行すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
25	第一部 月曜 6月29日	公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）	指定教科書第13章の「公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）」を題材として、講義・説明を実施する。公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第25回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
26	第一部 火曜 6月30日	賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、相互保証主義	指定教科書第13章の「賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、相互保証主義」を題材として、講義・説明を実施する。賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、及び相互保証主義の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、及び相互保証主義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、及び相互保証主義に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、相互保証主義」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第26回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。前期終了まで約2週間となった。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを見て確認すること。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、7月1日以降前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	180分
27	第一部 月曜 7月6日	損失補償制度	指定教科書第14章の「損失補償制度」を題材として、講義・説明を実施する。損失補償制度の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償制度を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、損失補償制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「損失補償制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第27回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを見て確認すること。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
28	第一部 火曜 7月7日	損失補償の谷間	指定教科書第14章の「損失補償の谷間」を題材として、講義・説明を実施する。損失補償の谷間に関連する要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の谷間を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、損失補償の谷間に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「損失補償の谷間」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第28回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
29	第一部 月曜 7月13日	行政法Ⅱの総復習	第28回までに説明した事柄を題材として、復習の講義を実施する。行政救済法に関連する要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政救済法全般を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政救済法全般における法律上の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って行政救済法の領域と自分自身が作成したノートを講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第29回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
30	第一部 火曜 7月14日	問題演習と総括	第29回までに説明した事柄を題材として、問題演習と総括の講義を実施する。行政救済法に関連する要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政救済法全般を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政救済法全般における法律上の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする	
		事前学修	指定教科書の所定ページに沿って行政救済法の領域と自分自身が作成したノートを講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
		事後学修	第30回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	西原 雄二	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。						2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。						2		2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解力と表現力を、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、月曜日 2 1：1 0 / 火曜日 1 9：3 0 に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス、行政法の概要	授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法等のガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
		この回の到達目標	授業の具体的な準備をし、行政法の重要性と概要について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書をざっと目を通してみること。	120分
		事後学修	教科書をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。	120分
2	4/7	行政救済法の概要	行政救済法の全体構造の内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済法の概要について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書や講義ノートで確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	4/13	行政争訟	行政争訟の意義と特色について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政争訟の特色について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
4	4/14	行政不服申立制度	行政不服申立制度の意義と内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服申立制度の内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
5	4/20	行政不服審査法の目的と内容	行政不服審査法の意義、目的、内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服審査法の内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、行政不服審査法について自分の意見をノートにまとめること。	120分
6	4/21	行政不服申立ての対象と事項	行政不服申立ての対象と不服申立事項について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服申立ての対象と事項について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	4/27	行政不服申立ての審理手続	行政不服申立てにおける審理手続について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服申立ての審理手続の特色について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。120分
8	4/28	教示制度	行政不服申立てにおける教示制度とその他の問題について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服申立てにおける教示制度の意義について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。120分
9	5/4	苦情処理制度	苦情処理制度の意義や具体的内容について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、苦情処理制度の内容について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。120分
10	5/5	行政事件訴訟制度	行政事件訴訟制度の意義や内容について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政事件訴訟制度の内容について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の感想をノートにまとめること。120分
11	5/11	行政事件訴訟法の意義と沿革	行政事件訴訟法の意義と沿革について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政事件訴訟法の意義について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。120分
12	5/12	行政事件訴訟法の特徴と訴訟類型	行政事件訴訟法の特徴と訴訟類型について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政事件訴訟法における訴訟の種類について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の感想をノートにまとめること。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/18	取消訴訟の訴訟要件	取消訴訟提起のための訴訟要件について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟における訴訟要件について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
14	5/19	取消訴訟の審理手続	取消訴訟の審理手続について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟における審理手続の内容について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
15	5/25	仮の救済と教示制度	行政事件訴訟法における仮の救済と教示制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、仮の救済と教示制度の特色について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
16	5/26	国家補償制度	国家補償制度の意義、特色、内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償制度の特色について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
17	6/1	国家賠償法の概説	国家賠償法（全6条）の意義と特色について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の意義について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
18	6/2	1条責任の意義と特色	国家賠償法における1条責任の意義と特色について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1条責任の意義について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/8	1条責任の要件	国家賠償法における1条責任の具体的な要件について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1条責任の要件について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
20	6/9	1条責任の効果	国家賠償法の1条責任の効果と求償権について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の1条責任の効果について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
21	6/15	2条責任の意義と特色	国家賠償法における2条責任の意義と特色について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の2条責任の意義について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
22	6/16	2条責任の要件	国家賠償法の2条責任の具体的な要件について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2条責任の要件について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
23	6/22	2条責任の効果	国家賠償法の2条責任の効果について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2条責任の効果について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
24	6/23	賠償責任者	国家賠償法における賠償責任者について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賠償責任者の特色について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	6/29	民法・特別法の適用問題	民法・特別法の適用と相互保障主義について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法・特別法の適用問題の概要について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。120分
26	6/30	損失補償制度	損失補償制度の意義や特色について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、損失補償制度の特色について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。120分
27	7/6	損失補償の法的根拠	損失補償の法的根拠と補償要否の基準について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、損失補償の法的根拠と要否の基準について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。120分
28	7/7	損失補償の内容と方法	損失補償の内容と方法について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、損失補償の内容について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分なりの説明をまとめること。120分
29	7/13	国家補償の谷間	国家補償の谷間の問題点と対応策について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償の谷間の内容について説明できる。
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。120分
		事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、国家補償について自分なりの説明をまとめること。120分
30	7/14	授業のまとめ	行政救済法の体系と基本問題について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済法の基本的な論点について説明できる。
		事前学修	これまでの学んだことを復習し、行政救済法の体系と論点を考察すること。120分
		事後学修	これまでの学んだことを再度復習し、定期試験に向けて準備すること。120分

科目名	金融商品取引法Ⅰ	担当者	中曽根 玲子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。本講義では、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために、①ディスクロージャー制度全般について取り上げる。なお、②③は後期開講の金融商品取引法Ⅱで扱う。また、金融商品取引法は本来広く有価証券を適用対象としているが、本講義では、有価証券の典型例である株式を中心に検討をしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化した企業社会において、上場会社が直面する資本市場に関わる諸問題の背景にある法的問題点を抽出し、金融商品取引法の法的知識に基づき問題を論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。

【履修条件】
株式の知識を前提とするため、会社法（株式・株主総会）をすでに履修または同時並行で履修していることと、金融商品取引法の全体像を理解するには、金融商品取引法Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
・講義形式で行うが、受講生の発言の発言の機会を設ける ・金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については適宜確認する ・金融商品取引法に関係するタイムリーな事例やトピックを適宜取り上げる ・事前資料（講義レジュメ・確認シートを含む）は、ポータルサイトにアップするので、各自ダウンロードし授業に持参する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	横断的資本市場法制である金融商品取引法の目的を理解し、その重要性を説明することができる。				3							
②	資本市場における公正な価格形成を達成するために金融商品取引法が具体的に定めている法規制の意義、手続の概要、法規制に違反した場合の法効果などを理解した上で、金融商品取引法のあるべき方向性について自らの考えを述べるができる。						3					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①については、金融商品取引法の役割・目的を確実に理解しているかを問う論文式試験で評価し、到達目標②に関しては、金融商品取引法のディスクロージャー制度の具体的な内容について基礎知識が定着しているかを重要な専門用語等の説明を求める論述試験によって評価する。	50	25									75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中における条文や基礎知識に関する発言等を基準に、到達目標の②の理解の程度を評価する。また授業テーマに沿って事前に配付する資料等を自ら調べ、資料の目的や内容を理解して授業に臨んでいるかを発言や質問等を確認し、それを基準に到達目標①を評価する。	10	15									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説及び講評は、後日、ポータルシステムにて配信する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学べる金融商品取引法（第4版）	近藤光男ほか3名	弘文堂	2018	教科書	必携
六法			最新版	その他	必携
備考	六法は、金融商品取引法全文及び関係する内閣府令が掲載されているものが好ましいが、少なくとも大学指定の六法で構わない。その場合は、省略部分については、コピーで対応すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水4/8	【ガイダンス】金融商品取引法Ⅰの学修に当たって	・講義のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等について説明する ・金融商品取引法Ⅰを受講するに際しての取り組み方について説明する ・金融商品取引法の全体像を概観する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品取引法Ⅰの学修計画を立てることができる	
		事前学修	・シラバスをよく読み、他の履修科目との関係や自分の学修計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」を読んでおく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、内容を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
2	第一部水4/15	【金融商品取引法総論】金融商品取引法の目的は何か	・金融商品取引法1条の目的の意義について、金融商品取引法成立の背景を踏まえ、考える ・金融商品取引法の全体像を説明する ・投資家を一般投資家、機関投資家、特定投資家に区分する意義とそれぞれの違いについて説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、横断的資本市場規制である金融商品取引法の規制目的について、投資家保護の考え方の意義を理解した上で、批判的に検討することができる	
		事前学修	・教科書 第1章「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第4章「Ⅷ 特定投資家への適用除外」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、また事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
3	第一部水4/22	【金融商品取引法上の有価証券（１）】金融商品取引法上の有価証券とは何か	・金融商品取引法が規制の対象とする有価証券とは、どのようなものを概観する ・有価証券の典型である株式については、会社法を踏まえつつ説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融商品取引法2条1項及び2項前段に定める有価証券とはどのようなものか理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第1章「Ⅲ 金融機関はどの範囲に適用されるか」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
4	第一部水4/29	【金融商品取引法上の有価証券（２）】金融商品取引法上の有価証券とは何か	・資産流動化法に基づく有価証券について概観する ・みなし有価証券（とくに集団投資スキーム）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融商品取引法2条2項各号に定める有価証券とはどのようなものか理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第6章「Ⅰ 投資信託および集団投資スキームの経済的意義②」と「Ⅴ 集団投資スキーム持分の規制」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
5	第一部水5/6	【証券市場の役割】流通市場とは何か	・流通市場が果たす役割について説明する ・株式はどのように譲渡（売買）されるかについて説明する ・会社法を踏まえつつ、振替株式について確認する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、現代社会で証券市場（とくに流通市場）が果たす役割について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第2章「Ⅰ 有価証券の上場」と「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	【証券市場のプレーヤー】 証券市場でのキーマンは誰か	・証券会社（第1種金融商品取引業者）の役割について商法を踏まえて説明する ・証券取引所（金融商品取引所）の役割について会社法を踏まえて説明する ・証券市場を活用する上場会社等の役割について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、証券市場の役割を担保する（支える）ものについて理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第2章「Ⅲ 金融商品取引所」と第4章「Ⅰ 金融商品取引業の意義」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
7	第一部水 5/20	【流通市場の情報開示（1）】流通市場での開示の必要性は何か	・流通市場の役割について再確認する ・自己責任の原則とは何か、その前提条件は何かについて説明する ・上場会社における会計と監査の意義とその制度について概観する ・会社法上の会計および監査制度について確認する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場の情報開示の必要性について理解し説明することができる	
		事前学修	・講義レジュメをよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・講義レジュメや会社法の講義で使用した教科書などを再度確認し、整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
8	第一部水 5/27	【流通市場の情報開示（2）】開示にはどのようなものがあるか	・金融商品取引法が上場会社等に課す情報開示義務のうち、有価証券報告書・四半期報告書・臨時報告書についてその目的や開示の意義について概観する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場における情報開示の重要性について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第3章「Ⅰ 開示規制の概要」と「Ⅲ 上場会社等が行う定期的な開示」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
9	第一部水 6/3	【流通市場の情報開示（3）】開示にはどのようなものがあるか	・金融商品取引法が上場会社に課す情報開示義務のうち、内部統制報告書や確認書等についてその目的や開示の意義について概観する ・証券取引所におけるタイムリーディスクロージャーの意義について考える	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場において開示される情報の多様性について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第3章「Ⅳ 財務情報の正確性を確保するための制度」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
10	第一部水 6/10	【発行市場の役割】発行市場とは何か	・発行市場の役割について説明する ・発行市場と流通市場の連続性と関係性について説明する ・発行市場を通じて行われる上場会社の資金調達方法について会社法を踏まえつつ概観する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、現代社会で証券市場（とくに発行市場）が果たす役割について理解し説明することができる	
		事前学修	・講義レジュメをよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自のノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・講義レジュメや会社法の講義で使用した教科書などを再度確認し、整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	【発行市場の情報開示 (1)】発行市場における 情報開示の必要性は何か	・発行開示規制の必要性と有典型例である価証券届出書等について説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、発行市場の情報開示の必要性について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示①②」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自のノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
12	第一部水 6/24	【発行市場の情報開示 (2)】発行開示にはどの ようなものがあるか	・発行開示における継続開示制度との統合について説明する ・投資家に対して提供される目論見書の意義について考える ・募集概念と売出概念について、会社法を踏まえつつ説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、発行市場での開示の仕組みについて理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示③④」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自のノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
13	第一部水 7/1	【発行市場・流通市場にお ける虚偽記載等の責任 (1)】発行市場における 責任とは何か	・発行市場において開示される情報に虚偽記載等が存在した時の問題点について説明する ・誰が誰に対してどのような責任を負うのかを、会社法の規定を踏まえつつ、系統立てて、また 事例を題材に検討する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、発行市場における責任について、到達目標①の金融商品取引法の目的を前提として、条文 の意義や適用関係について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書第 3章「Ⅴ 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか①②③」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書および自己の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を会社法を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
14	第一部水 7/8	【発行市場・流通市場にお ける虚偽記載等の責任 (2)】流通市場における 責任とは何か	・流通市場において開示される情報に虚偽記載等が存在した時の問題点について説明する ・誰が誰に対してどのような責任を負うのかを、会社法の規定を踏まえつつ、系統立てて、また 事例を題材に検討する	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、流通市場における責任について、到達目標①の金融商品取引法の目的を前提として、条文 の意義や適用関係について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第3章「Ⅴ 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか④⑤」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書および自己の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
15	第一部水 7/15	【まとめ】全体の振り返り	・確認シートに沿って、講義内容全般を振り返る ・質問等を受け説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達せられているかを確認シートに沿って各人が自己判断し、十分でないと思われる部分は質問等をして補完することができる	
		事前学修	・確認シートに沿って教科書を読み、まとめておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を整理し、質問を用意しておく	180分
		事後学修	・確認シートに沿って教科書と各自の講義ノートを見直し、定期試験に向けて準備する ・疑問点が解消されたかを確認する	180分

科目名	金融商品取引法Ⅱ	担当者	中曽根 玲子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。金融商品取引法Ⅰの講義をベースに、本講義では、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために定められている公開買付け、インサイダー取引、相場操縦などの②不公正な取引規制を取り上げる。また、③資本市場を支える証券会社に対する業者規制や行為規制についても概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化した企業社会において、上場会社が直面する資本市場に関わる諸問題の背景にある法的問題点を抽出し、金融商品取引法の法的知識に基づき問題を論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。

【履修条件】
・株式の知識を前提とするので、会社法（株式・株主総会）をすでに履修または同時並行で履修すること。金融商品取引法の全体像を理解するには、金融商品取引法Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
・講義形式で行うが、受講生の発言の機会を設ける ・金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については、適宜確認する ・金融商品取引法に関係するタイムリーな事例やトピックを適宜取り上げる ・事前資料（確認シートを含む）は、ポータルサイトにアップするので、各自ダウンロードし授業に持参する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	横断的資本市場法制である金融商品取引法の目的を理解し、その重要性を説明することができる。					3							
②	資本市場における公正な価格形成を達成するためにき金融商品取引法が具体的に定めている法規制の意義、手続の概要、法規制に違反した場合の法効果について説明できる。							3					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①については、金融商品取引法の役割・目的を確実に理解しているかを問う論文式試験によって評価し、到達目標②に関しては、公開買付け、インサイダー取引、相場操縦などの不公正な取引規制の内容について基礎知識が定着しているかを重要な専門用語等の説明を求める論述試験によって評価する。	50	25									75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中における条文や基礎知識に関する発言等を基準に、到達目標の②の理解の程度を評価する。また授業テーマに沿って事前に配付する資料等を自ら調べ、資料の目的や内容を理解して授業に臨んでいるかを発言や質問等を確認し、それを基準に到達目標①を評価する。	10	15									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学べる金融商品取引法（第4版）	近藤光男ほか3名	弘文堂	2018	教科書	必携
六法			最新版	その他	必携
備考	六法は、金融商品取引法全文及び関係する内閣府令が掲載されているものが好ましいが、少なくとも大学指定の六法で構わない。その場合は、省略部分については、コピーで対応すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	【ガイダンス】金融商品取引法Ⅱの学修に当たって	・講義のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等について説明する ・金融商品取引法Ⅱを受講するに際しての取り組み方について説明する ・金融商品取引法の全体像を概観する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品取引法Ⅱを学修するに際しての姿勢を計画することができる	
		事前学修	・シラバスをよく読み、他の履修科目との関係や自分の学習計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」と「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第2章「Ⅰ 有価証券の上場」と「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく（とくに金融商品取引法Ⅰを受講していない場合には、丁寧に読む） ・質問を用意しておく	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、内容を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
2	第一部水 9/23	【公開買付制度（1）】公開買付けの意義とは何か	・公開買付制度の意義について考える ・企業買収方法に関連して、会社法を踏まえつつ説明する ・公開買付制度の全体像を概観する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、公開買付制度とはどのような制度かを説明することができる	
		事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）①②」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
3	第一部水 9/30	【公開買付制度（2）】強制公開買付けとは何か	・公開買付けが適用されるケース（強制公開買付け）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、強制公開買付の意義及びその内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）③」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
4	第一部水 10/7	【公開買付制度（3）】公開買付者に求められている義務は何か	・公開買付けの方法に関する規制の意義や内容について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、勧誘の対象者と公開買付者の利益調整を図る規制の内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
5	第一部水 10/14	【公開買付制度（4）】発行会社による公開買付けとは何か	・引き続き、公開買付けの方法に関する規制について説明する ・発行会社による公開買付けの目的と規制内容について概観する ・発行会社以外の会社による公開買付けとの違いを確認する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、発行会社が行う公開買付についてその目的と規制内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④⑤」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	【委任状勧誘制度】委任状勧誘制度とは何か	・関係する会社法の制度を確認しつつ、上場会社で行われるプロキシファイトの意義及びその内容について概観する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上場会社や上場会社の株主が利用する委任状勧誘制度について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第5章「Ⅲ 委任状勧誘規制」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁や会社法のテキストを再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等を確認し、その意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
7	第一部水 10/28	【大量保有報告制度】大量保有報告とは何か	・大量保有報告制度の目的について考える ・大量保有報告制度を概観する ・特例制度の意義について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、上場会社の一定の株主に義務付けられている大量保有報告制度について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第5章「Ⅱ 株券等を大量に保有する者の開示義務とは」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
8	第一部水 11/11	【インサイダー取引規制（１）】インサイダー取引規制とは何か	・インサイダー取引規制の意義について考える ・インサイダー取引規制の全体像を概観する	
		この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的に関連して、上場会社の株式に係る重要情報を利用したインサイダー取引が規制される目的について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制①」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
9	第一部水 11/18	【インサイダー取引規制（２）】インサイダー取引規制はどのような場合に適用されるか	・インサイダー取引規制の対象となる者とのような情報がインサイダー取引規制の対象となるかについて説明をする ・公開買付関係者によるインサイダー取引とは何かを確認する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インサイダー取引規制の内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制②」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
10	第一部水 11/25	【インサイダー取引規制（３）】インサイダー取引の予防を目的とする規制とは何か	・インサイダー取引を未然に防止するために設けられた規制について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インサイダー取引を抑止または予防する規制の内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制③⑤」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 12/2	【不正取引規制（１）】 相場操縦とは何か	・相場操縦規制の意義について考える ・相場操縦行為として規制対象となる類型を説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、悪質な市場阻害行為としての相場操縦規制の内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制①②③」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
12	第一部水 12/9	【不正取引規制（２）】 その他不正取引とは何か	・空売り、風説の流布、偽計取引規制について取り上げる ・詐欺的行為を規制する金融商品取引法157条について説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、相場操縦以外の悪質な市場阻害行為に対する規制の必要性について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制④⑤」と「Ⅰ 詐欺的行為を禁止する157条」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
13	第一部水 12/16	【金融商品取引業者等に対する規制（１）】金融商品 取引業者規制とは何か	・市場を支える金融商品取引業者、金融商品取引仲介業者、外務員について説明する ・金融商品取引業を行うための登録制度について概観する	
		この回の 到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、金融商品取引業者に対する規制の目的とその内容について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第4章「Ⅱ 開業の規制と登録制度」、「Ⅳ 金融商品仲介業制度」、「Ⅴ 外務員への規制」 を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
14	第一部水 12/23	【金融商品取引業者等に対する規制（２）】金融商品 取引業者はどのような義務 を負うか	・金融商品取引業者の誠実公正義務（適合性原則と最良執行義務）を取り上げる ・金融商品取引業規制にうち、とくに損失補填を巡る法的問題点と規制の在り方について説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、金融商品取引業者が顧客に対して負う義務について理解し説明することができる	
		事前学修	・教科書 第4章「Ⅵ 金融商品取引業者の誠実公正義務」と第7章「Ⅳ 金融商品取引業者による不正取引②」を読んでおく ・事前資料に目を通しておく ・質問を用意する	120分
		事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料を整理しておく ・講義で取り上げた条文及び専門用語等の意味をまとめておく ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
15	第一部水 1/13	【まとめ】全体の振り返り	・確認シートに沿って、講義内容全般を振り返る ・質問等を受け、説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達せられているかを確認シートに沿って各人が自己判断し、十分でないと思われる部分は質問等をして補完することができる	
		事前学修	・後期確認シートに沿って教科書を読み、まとめておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を整理し、質問を用意しておく	180分
		事後学修	・後期確認シートに沿って教科書と各自の講義ノートを見直し、定期試験に向けて準備する ・疑問点が解消されたかを確認する	180分

科目名	金融法Ⅰ	担当者	田中 貴一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本講座では、預貯金取扱金融機関（銀行）による預金取引、貸出取引及び為替取引を中心として、各種の金融取引に関する法令と法的問題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
金融取引に関する民事実体法上の位置付けを理解するため、主として預金取引等を題材にして、その法的性質や法的問題について修得する。

【履修条件】
民法総則、担保物権法、債権法（総論・各論）を履修済みであること

【授業方法】
基本的には講義形式で進行するが、民事実体法の基礎的な理解の確認と金融法の発展的な理解を促すために問答形式によることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で法的論点に関して問答法を用いて検討を行うなど、対話的主体的な深い学びにより理解度を高める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	金融法における各種取引の法的な位置付けを説明することができる。				3							
②	金融法に関する基礎的な理解を踏まえつつ、主要な論点に関する問題の所在を適切に把握した上で、解決の道筋について簡潔に示すことができる。				3		3					
③	金融法の論点について自ら考察し、自分の意見を述べることができる。						3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業時間内に実施する小テストにより、到達目標①②に係る知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや授業内試験の解説・講評については、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融法務入門	藤池智則＝高木いづみ著	経済法令研究会	2020	教科書	必携
金融法概説	神田秀樹＝森田宏樹＝神作裕之編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として信託銀行に出向した上でその業務に従事する等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務において実際に生じ得る法律問題と解決方法の紹介	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び金融法の全体像	ガイダンスを行い、金融法の全体像について講義する。	
		この回の到達目標	金融法の全体像に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	120分
2	4/13	預金の法的性質と種類	預金の法的性質や預金の種類について講義する。	
		この回の到達目標	預金の法的性質や種類に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
3	4/20	預金の受入れ	預金の受入れについて講義する。	
		この回の到達目標	預金の受入れに関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
4	4/27	預金の払戻し	預金の払戻しについて講義する。	
		この回の到達目標	預金の払戻しに関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
5	5/4	預金の相続	預金の相続について講義する。	
		この回の到達目標	預金の相続に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
6	5/11	預金の差押え、消滅時効	預金の差押え、消滅時効について講義する。	
		この回の到達目標	預金の差押え、消滅時効に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	当座勘定取引	当座勘定取引について講義する。
		この回の到達目標	当座勘定取引に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
8	5/25	約束手形	約束手形について講義する。
		この回の到達目標	約束手形に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
9	6/1	為替手形・小切手	為替手形・小切手について講義する。
		この回の到達目標	為替手形・小切手に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
10	6/8	手形交換制度、電子記録債権	手形交換制度と電子記録債権について講義する。
		この回の到達目標	手形交換制度、電子記録債権に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
11	6/15	貸出の種類	貸出の種類について講義する。
		この回の到達目標	貸出の種類に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
12	6/22	金利規制等	金利規制等について講義する。
		この回の到達目標	金利規制等に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	銀行取引約定書（前半）	銀行取引約定書（第5条まで）について講義する。	
		この回の到達目標	銀行取引約定書（第5条まで）に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
14	7/6	銀行取引約定書（後半）	銀行取引約定書（第6条以下）について講義する。	
		この回の到達目標	銀行取引約定書（第6条以下）に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
15	7/13	授業内試験及びまとめ	前期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
		この回の到達目標	前期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
		事前学修	教科書を読むほか、前期中に配布されたレジュメや講義の復習をして授業内試験に備える。	120分
		事後学修	試験の解答についてレジュメ等により確認する。	120分

科目名	金融法Ⅱ	担当者	田中 貴一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本講座では、預貯金取扱金融機関（銀行）による預金取引、貸出取引及び為替取引を中心として、各種の金融取引に関する法令と法的問題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
金融法Ⅱでは、前期の金融法Ⅰに引き続き、金融取引に関する民事実体法上の位置付けを理解するため、主に貸出取引、為替取引等を題材にして、その法的性質や法的問題について修得する。加えて、銀行の固有業務（預金、貸出、為替取引）から派生する決済手段であるクレジット取引や電子マネー取引のほか、信託に関する取組みについても修得する。

【履修条件】
金融法Ⅰを履修済みであること、民法総則、担保物権法、債権法（総論、各論）を履修済みであること）。

【授業方法】
基本的には講義形式で進行するが、民事実体法の基礎的な理解の確認と金融法の発展的な理解を促すために問答形式によることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で法的論点に関して問答法を用いて検討を行うなど、対話的主体的な深い学びにより理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	金融法における各種取引の法的な位置付けを説明することができる。				3							
②	金融法に関する基礎的な理解を踏まえつつ、主要な論点に関する問題の所在を適切に把握した上で、解決の道筋について簡潔に示すことができる。				3		3					
③	金融法の論点について自ら考察し、自分の意見を述べることができる。						3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業時間内に実施する小テストにより、到達目標①②に係る知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや授業内試験の解説・講評については、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融法務入門	藤池智則＝高木いづみ著	経済法令研究会	2020	教科書	必携
金融法概説	神田秀樹＝森田宏樹＝神作裕之編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士として信託銀行に出向した上でその業務に従事する等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務において実際に生じ得る法律問題と解決方法の紹介

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/14	貸出取引の相手方	貸出取引の相手方について講義する。
		この回の到達目標	貸出取引の相手方に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
2	9/21	抵当権・根抵当権	抵当権・根抵当権について講義する。
		この回の到達目標	抵当権・根抵当権に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
3	9/28	抵当権・根抵当権以外の担保	抵当権・根抵当権以外の担保について講義する。
		この回の到達目標	抵当権・根抵当権以外の担保に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
4	10/5	保証	弁済・相殺
		この回の到達目標	保証に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
5	10/12	弁済・相殺	弁済・相殺について講義する。
		この回の到達目標	弁済・相殺に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
6	10/19	時効管理等	時効管理等について講義する。
		この回の到達目標	時効管理等に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26	法的倒産手続	法的倒産手続について講義する。
		この回の到達目標	法的倒産手続に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
8	11/9	為替取引	為替取引について講義する。
		この回の到達目標	為替取引に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
9	11/16	守秘義務、マネーロンダリング規制等	守秘義務、マネーロンダリング規制等について講義する。
		この回の到達目標	守秘義務、マネーロンダリング規制等に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
10	11/23	銀行の業務範囲規制	銀行の業務範囲規制について講義する。
		この回の到達目標	銀行の業務範囲規制に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
11	11/30	クレジット取引	クレジット取引について講義する。
		この回の到達目標	クレジット取引に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分
12	12/7	電子マネー	電子マネーについて講義する。
		この回の到達目標	電子マネーに関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	信託の概略	信託の概説について講義する。	
		この回の到達目標	信託の概略に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
14	12/21	信託の活用事例	信託の活用事例について講義する。	
		この回の到達目標	信託の活用事例に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
		事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
15	1/18	授業内試験及びまとめ	後期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
		この回の到達目標	金融法Ⅱの全体を通じて、到達目標①②③の到達度を評価し、今後の学修に役立てる。	
		事前学修	教科書を読むほか、後期中に配布されたレジュメや講義の復習をする。	120分
		事後学修	試験の解答についてレジュメ等により確認する。	120分

科 目 名	金融マネジメント論	担 当 者	奥水 清	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授 業 時 間 数	90分×15回		必修 選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済活動の裏側には必ずお金の流れがあり金融市場がある。金融市場では取引価格や金利が毎日変動しており、経済活動や資産形成などに大きな影響を与えている。金融市場の動きに関心を持ち、基礎的な知識を習得し、市場メカニズムを理解することが必要である。当授業では、金融市場に関して「歴史、理論・仮説、実証分析、新聞記事」等を紹介しつつ、市場メカニズムやリスク管理について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 金融市場の概要や金利・価格形成のメカニズムを理解するために、①金融市場および市場参加者等に関する基本的知識、②金利・株価・為替相場に関する歴史や理論・仮説、③経済と金融市場の相互関連性や法則性、等について学修する。さらに、知識の学修に加え、日々の新聞記事等を参考にしながら現実の市場の動きへの関心と理解を深める習慣を身につける。 【到達目標】 上記学習を通じて、①金融市場に関する解説記事をより深く理解できるようになること、②自分なりの意見を述べられるようになることを目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。プリント、新聞記事等を併用。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済・金融に関して基礎的知識を習得し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3				
②	金利、株価、為替相場、等に関する基礎知識や理論を習得し、説明することが出来る。【知識】				3	3	3	3				
③	経済と金融市場の相互関連性について理解し、説明することができる。【知識・技能】				3	3	3	3				
④	現在の金融市場の動きに関心をもち、背景を理解・推測し、説明することができる。【態度・習慣・技能】				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験 到達目標①～③に関わる知識・技能を評価	10	10	30								50
小テスト等												
レポート等	ミニレポートを3回予定。②にかかる知識を評価。		30									30
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の積極的な意見表明等を基準に、到達目標②および ④にかかわる学修態度を評価。				20							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金利・為替・株価の政治経済学	植草一秀	岩波書店	1992	参考書	任意
投資家のための 金融マーケット予測ハンドブック	三井住友信託銀行	NHK出版	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
koshimizu1219@gmail.com質問等のメールはいつでも可

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	信託銀行におけるエコノミストおよびストラテジスト
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を授業内容に繁栄できるように努力する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	【ガイダンス】金融マネジメント論	授業の概要、授業計画、成績評価、参考文献、参考となるホームページ、等について説明。	
		この回の到達目標	ガイダンスの説明を十分に理解する。	
		事前学修	事前にシラバスの内容を確認しておく。	60分
		事後学修	参考文献等の参照。	60分
2	第一部火 9/22	経済新聞と金融市場	①経済新聞の金融・証券市場欄の概要 ②金融市場の種類と特徴 ③経済と金融市場との関連性	
		この回の到達目標	金融、証券市場の概要や金利、株価、為替相場等の基礎的知識を習得する。経済と金融市場との関わりを新聞記事等でどのように扱っているかを理解する。	
		事前学修	経済新聞と金融市場の概要に関するプリントを事前配布する。プリントを参照しながら概要について予習する。	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
3	第一部火 9/29	ファンダメンタルズ（１） 【景気】	金融市場に大きな影響を及ぼす基本的要因である景気・景気指標の見方について学修する。 ①景気指標の種類（GDP、生産、業況判断、C・I等） ②景気指標の見方	
		この回の到達目標	景気、GDP、業況判断、景気循環などの定義や見方を理解する。	
		事前学修	景気・GDP等の概要と金融市場との関連について予習。前掲参考書およびネット参照。	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
4	第一部火 10/6	ファンダメンタルズ（２） 【景気】 ＜続き＞	金融市場に大きな影響を及ぼす基本的要因である景気循環について学修する。 ①景気循環（歴史） ②景気循環と金融市場の関連	
		この回の到達目標	前回到続き、景気・景気循環の歴史と金融市場との関係について学修し理解する。	
		事前学修	景気・景気循環の概要と金融市場との関連について予習。前掲参考書およびネット参照。	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
5	第一部火 10/ 13	ファンダメンタルズ（３） 【物価】	インフレ・デフレと金融市場の関係を学修する。 ①インフレとデフレ（定義、見方、歴史） ②物価指標（商品市況、企業物価、消費者物価、不動産価格、等） ③物価と金融市場の関係	
		この回の到達目標	物価の種類と見方を学修する。歴史を振り返り、物価の変動が金融市場に大きな影響を与えることを理解する。	
		事前学修	物価の概要と金融市場との関連について予習。前掲参考書およびネット参照。	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分
6	第一部火 10/ 20	ファンダメンタルズ（４） 【金融政策】	金融政策と金融市場の関係を学修する。 ①金融政策の概要 ②金融政策と金融市場の関係	
		この回の到達目標	金融政策が金融市場に重大な影響を与えることを理解する。米欧の金融政策の概要についても学修する。	
		事前学修	金融政策の概要と金融市場との関連について予習。前掲参考書およびネット参照。	120分
		事後学修	授業内容の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部火 10/ 27	ファンダメンタルズ（５） 【その他の要因】	上記（１）～（４）以外の基本的要因と金融市場の関係を学修する。 ①貿易・財政収支 ④地政学的リスク、等 ②海外経済動向 ③為替相場
		この回の到達目標	金融市場の動向に大きな影響を与える可能性がある要因としてどんなものがあるか理解する。
		事前学修	ファンダメンタルズ【その他の要因】としてどんなものがあるか、金融市場とはどんな関係があるか、等について予習。前掲参考書およびネットを参照。
		事後学修	授業内容の復習
8	第一部火 11/ 10	金利の概要 （１）	①金利の歴史 ②金利に関する基本的指標（ex. 各種金利、利回り、実質金利、イールドカーブ等）
		この回の到達目標	金利の歴史について学修する。また、金利に関する基本的指標について理解する。
		事前学修	金利の概要を予習。前掲参考書およびネットを参照。
		事後学修	授業内容の復習
9	第一部火 11/ 17	金利の概要 （２） ＜続き＞	①金利の決定要因と仮説 ②市場の動き ③ミニレポート提出
		この回の到達目標	金利決定に関する要因や仮説、最近の動き、等を理解し、金利水準のあり方等についてコメントできる。
		事前学修	金利の概要を予習し、事前に指示するテーマ（例えば金利の決定要因）についてミニレポートにまとめ授業出席時に提出。
		事後学修	授業内容の復習
10	第一部火 11/ 24	株価の概要	①株価の歴史 ②株価に関する基本的指標（ex. TOPIX、PER、PBR） ③株価の決定要因と仮説 ④ミニレポート提出
		この回の到達目標	株価の基本的指標、株価の決定要因、株価決定に関する仮説等を理解し、株価動向についてコメントできる。
		事前学修	株価の概要を予習し、事前に指示するテーマ（例えば株価の決定要因）についてミニレポートにまとめ授業出席時に提出。
		事後学修	授業内容の復習
11	第一部火 12/ 1	為替相場の概要	①為替相場の歴史 ②為替相場に関する基本的指標 ③為替相場の決定要因と仮説 ④ミニレポート提出
		この回の到達目標	為替相場の基本的指標、為替相場の決定要因、為替相場決定に関する仮説等を理解し、為替相場動向についてコメントできる。
		事前学修	為替相場の概要を予習し、事前に指示するテーマ（例えば為替相場の決定要因）についてミニレポートにまとめ、授業出席時に提出。
		事後学修	授業内容の復習
12	第一部火 12/ 8	オルターナティブ デリバティブ	①オルターナティブ投資 ②デリバティブ ③デリバティブ利用例
		この回の到達目標	オルターナティブ投資、デリバティブ、などについて基礎的概念や利用方法等を理解する。
		事前学修	投資関連の入門書やインターネットなどを利用して基本的概念や利用例等を予習。
		事後学修	授業内容の復習

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/ 15	経済と金融市場の相互関連性	金融市場は経済の動きと複雑に絡み合っていて変動しているが、ここでは景気循環と金融市場の関係という観点に絞り、一定の法則性があることを学修する。	
		この回の到達目標	景気循環の各局面と金利・株価・為替相場等の相関性について理解する。	
		事前学修	経済と金融市場の相互関連性に関する予習。前掲参考書およびネット等の参照。	180分
		事後学修	授業内容の復習	120分
14	第一部火 12/ 22	授業まとめ&授業内試験	①授業全体を通じてのポイントを整理 ②授業内試験	
		この回の到達目標	金融証券市場に関する基礎知識を踏まえながら「経済と金融市場の相互関連性」についてしっかりと論述できる。	
		事前学修	授業内試験に対応したテーマや問題点を整理する。	240分
		事後学修	授業内容の復習	60分
15	第一部火 1/ 12	試験フィードバック&金融投資教育について	①授業内試験等のフィードバック ②実社会における金融・投資教育への取り組み ③新年の金融市場について学生の意見交換	
		この回の到達目標	実社会における投資教育の動向を学修する。また、足下の金融市場動向について自分なりの説明ができる。	
		事前学修	事前に指示するホームページを参照して、金融・投資教育の実例を参考にする。	60分
		事後学修	授業内容の復習	60分

科目名	グローバル・コミュニケーションⅠ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
アメリカは、いくたびかの戦争、そして平時を通じて、どのようにメディアを駆使し、人々の心と精神を勝ち取ろうとしたのか。本授業では、アメリカのメディア戦略と実践を学びながら、メディアと外交の絡み合いや文化の持つ政治性について考える。それは、一見すると国際政治や日米関係史を学ぶもののように思えるが、マス・コミュニケーション研究や広告研究などにも密接に繋がっており、本授業は、領域横断的な分野に立脚したものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、昨今の国際政治・外交で大きな注目を浴びている広報文化外交やパブリック・ディプロマシーの可能性や限界、課題を考えるための知識の習得と新たな視点の提供を目的としている。到達目標は、次の三点におかれている。 1. 東アジアの国際政治とメディアの関係性に対する理解 2. 広報文化外交やパブリック・ディプロマシーに関する知識の獲得 3. メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座の提供

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。

【授業方法】
原則として、毎回、受講生には論文あるいは著書1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教師からのフィードバックを中心に行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題の論文、あるいは著書1章分を読み、上記のペーパーを提出したうえで授業に参加し、講義内で課題の解説とペーパーへの応答を行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	広報文化外交やパブリック・ディプロマシーについて説明することができる。						3						
②	東アジアおよびアメリカの政治・社会・文化について説明することができる。							3					
③	メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座を獲得することができる。								3				
④	国際政治とメディアの関係を読み解き、解釈することができる。									3			
⑤	社会構造の多様性や重層性について、構造的な観点から説明することができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する知識が身につく、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③④の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	2	2	2	2							8
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる知識が身につく、独創的な思考を展開できているのかを評価する。			12								12
討論・発表等												
授業への参画度	課題文を読んで作成するペーパーの提出について、読解の深さと、十分に練られたコメントの内容によって到達目標①②③④⑤に関わる知識と洞察力について評価する。	6	6	6	6	6						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	30	18	16						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で講評するほか、成績評価のための課題に関してはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対米依存の起源』	松田武	岩波書店	2015	その他	必携
『アメリカ文化外交と日本』	藤田文子	東京大学出版会	2015	その他	必携
『占領する眼・占領する声』	吉見俊哉ほか	東京大学出版会	2012	その他	必携
『スマート・パワー』	ジョセフ・ナイ	日本経済新聞出版社	2011	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則的には、水曜日の12時20分～13時。事前にメールで予約を取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	イントロダクション・導入講義	広報文化外交について学ぶことの意義について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、「アメリカ」について思想的に問うことの重要性を把握し、広報文化外交に関する研究の射程への考察を通じて、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を体得できるようになる。	
		事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	2	広報文化外交とは何か	広報文化外交とは何か：外交における世論の重要性が、あらたな課題として浮上してきている現状を紹介し、広報外交研究の潮流と、その射程について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の研究意義と課題について説明できるようになる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
3	3	広報文化外交と世論	世論調査データを読み解くことで、現在の国際政治環境について説明することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、外交と世論の関係を説明できるようになる。	
		事前学修	2回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	4	アメリカの「強さ」とは何か	ジョセフ・ナイの議論であるハード、ソフト、スマートパワーの概念について説明し、有用性と限界について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、ハード、ソフト、スマート・パワーについて説明し、それぞれが内包する問題点、課題について考察することができる。	
		事前学修	3回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	5	広報文化外交の理念	主として欧米での議論を中心に、その歴史的展開について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の歴史的起源と、その政治・社会的背景について述べることができる。	
		事前学修	4回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	6	第二次世界大戦期の心理戦	広報文化外交の前史として、第二次世界大戦期に活発に行われた心理戦の実態と、それが、どのように広報文化外交へと装いを新たにしていくのか。そのプロセスと意味について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、心と精神を掴み取ろうとする心理戦が、どのように開始され、いかに展開されたのかについて述べることができる。	
		事前学修	5回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	広報文化外交に関する研究蓄積を踏まえた時事解説および現状分析	広報文化外交に関する研究蓄積を踏まえた時事解説および現状分析：国際政治、外交に関する時事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについての具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。	
		この回の到達目標	国際政治、外交に関する時事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについての具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に勝つようし、日常的に国際報道に接しておくこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
8	8	GHQ占領とアメリカの文化攻勢 (1)	GHQ占領期に、アメリカが、敗戦国日本の国民から、心と精神を掴み取ろうとしたのか、その戦略と実践について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、GHQ占領による文化戦略と実践について、現代日本社会にもたらしている意味を踏まえながら、述べるができる。	
		事前学修	7回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
9	9	GHQ占領とアメリカの文化攻勢	心と精神を掴み取るために、どのようにメディアが利用されたのかを説明したうえで、「文化」の持つ力と政治性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、GHQは、どのように「文化」を活用し、占領政策を推進したのか、その効果と限界について述べるができる。	
		事前学修	8回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）	120分
10	10	GHQ占領期におけるメディア検閲 (1)	アメリカが行ったメディア検閲の実態について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、検閲に関する説明と、それがもたらす政治的、意味について説明することができる。	
		事前学修	9回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
11	11	GHQ占領期におけるメディア検閲 (2)	民主主義を促進するために行われた「非民主主義」的な方法という観点から、検閲と並行して行われたメディアへの指導について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、言論の自由と民主主義に関する歴史的なアプローチからの説明を行うことができる。	
		事前学修	10回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
12	12	対日広報文化外交の形成と展開 (1)	1950年代のアメリカによる対日広報文化外交について、占領期とポスト占領期の連続性・不連続性の両側面に焦点をあてて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1950年代にアメリカが日本に対して行った広報文化外交について、その特徴を述べることができる。	
		事前学修	11回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	対日広報文化外交の形成と展開(2)	1950年代から60年代におけるアメリカの広報文化外交にとって、もっとも重要なテーマの一つが、「原子力の平和利用」であった。この点を踏まえ、この回では、日本への原子力導入と広報文化外交の関係性について説明する。	
		この回の到達目標	1950年代から60年代におけるアメリカの広報文化外交にとって、もっとも重要なテーマの一つが、「原子力の平和利用」であった。この点を踏まえ、この回では、日本への原子力導入と広報文化外交の関係性について説明する。	
		事前学修	12回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	14	日本の広報文化外交の現状	日本政府が、現在、どのように広報文化外交を展開しているのか、その現状を説明し、課題について考える。	
		この回の到達目標	日本の広報文化外交について、その特徴と課題を述べることができる。	
		事前学修	13回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	15	まとめ	広報文化外交の可能性と今後の課題について説明する。	
		この回の到達目標	授業の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと。（2時間）	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	池田 直史	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義とグループワークによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・グループワークを2回行う。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、グループワークとリアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサン コ/マーク・リャン リー/デイビッド・ド ラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/ アンドレア・シェ パード/ジョエル・ポ ドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	イントロダクション及び導入講義	経営学とはどのような学問かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営学とはどのような学問かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、経営学の対象を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営学とはどのような学問かを復習し、説明できるようにする。	120分
2	第一部 金4/17	経営戦略とは何か	経営戦略とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：経営戦略とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略の定義を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 金4/24	競争と利益	競争と利益の関係を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：競争と利益の関係を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、完全競争市場と独占市場について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、競争と利益の関係を復習し、説明できるようにする。	120分
4	第一部 金5/1	経営戦略の成り立ち	経営戦略はどのようなもので成り立っているかを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：経営戦略はどのようなもので成り立っているかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略に必要な要素は何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略はどのようなもので成り立っているかを復習し、説明できるようにする。	120分
5	第一部 金5/8	事業戦略の考え方	事業戦略の基本的な考え方を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：事業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、事業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、事業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 金5/15	外部要因の分析	企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：企業を取り巻く外部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、業界構造分析とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	内部要因の分析	企業の内部要因を分析するための視点について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：企業の内部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、バリューチェーン分析とリソース・ベースト・ビューについて確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業の内部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。	120分
8	第一部 金5/29	グループワーク 1（外部要因分析）	グループで、指定された業界について業界構造分析を行い、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：業界構造分析に関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	指定された業界について業界構造分析を行う。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、業界構造分析を精緻化する。	120分
9	第一部 金6/5	競争優位と基本戦略	競争優位の基本的な型について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：競争優位の基本的な型を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、競争優位の基本的な型であるコスト優位と差別化優位が何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、競争優位の基本的な型について復習し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 金6/12	コスト優位	コストに影響を与える要因は何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：コストに影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コストに影響を与える要因は何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コストに影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 金6/19	差別化優位	差別化に影響を与える要因は何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：差別化に影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、影響を与える要因は何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、差別化に影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。	120分
12	第一部 金6/26	イノベーション	イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、イノベーションとは何か、また、イノベーションを阻害する要因について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	競争優位の持続可能性	競争優位が持続可能となる要因について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：競争優位が持続可能となる要因について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、競争優位が持続可能となる要因を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、競争優位が持続可能となる要因について復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 金7/10	グループワーク 2（イノベーション）	グループで何がイノベーションの阻害要因となるのかを議論し、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：イノベーションの阻害要因に関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	何がイノベーションの阻害要因となるのかを検討する。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、イノベーションの阻害要因に関する理解を深める。	120分
15	第一部 金7/17	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連：到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
		事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』	風間、松田編	文真堂	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/14	現代社会と経営学：経営学とは何か	経営学とはいかなる学問なのか、現代社会においてこれを学ぶことの意義を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学とはどのような学問なのかを理解すること。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4/21	企業と社会	社会における企業の位置づけ・役割について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の役割や存在意義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業と社会との関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4/28	企業の種類	企業の種類についての分類方法とそれぞれの特質について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の種類や分類方法について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の種類について、それぞれの特質を説明できるようにまとめる。	120分
5	5/5	企業理念と企業文化	企業理念と企業文化とはどのようなものなのか、その意義を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業理念と企業文化の意義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、その企業がどのような企業理念・企業文化をもっているのかをまとめる。	120分
6	5/12	企業文化の浸透とその逆機能	企業文化が組織内に浸透することでどのような有効性を発揮するのか、またどのような危険性があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業文化の意義と危険性について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業文化の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	企業の社会的責任Ⅰ：環境問題と社会的課題	企業を取り巻く環境問題や社会的課題にはどのようなものがあるか、それに企業はどのように対応していくことが求められているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任の概念について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の社会的課題とはいかなるものなのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
8	5/26	企業の社会的責任Ⅱ：事業活動と社会貢献活動	企業が事業活動と社会貢献活動を両立していくためには、どのような課題があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業の社会的責任の意義と課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ事業活動と社会貢献活動を両立しなければならないのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
9	6/2	グループワークⅠ：企業の社会的責任	企業はどのようにして社会的責任を果たしているのか調べ、それが社会にどのような影響を与えているのかをグループで議論し、発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業の社会的責任に関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、どのような社会貢献活動を行っているのか調べておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループが発表した内容を基に、企業の社会的責任の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分
10	6/9	企業戦略論Ⅰ：戦略の必要性	企業の活動において戦略はどのような意義があるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の活動における戦略の必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ、どのようにして戦略を企てるのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
11	6/16	企業戦略論Ⅱ：経済性と社会性の調和	企業が戦略を企てる上で、利益(経済性)と社会貢献(社会性)のバランスをどのようにしてとっているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性について、自分なりの考えをまとめる。	120分
12	6/23	グループワークⅡ：企業分析	授業内で説明した企業分析の手法を用いて、グループで興味ある企業の分析を行い発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業分析に関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	配布資料をよく読み、企業分析の手法について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループが発表した内容を基に、企業戦略の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	人的資源管理論Ⅰ：リーダーシップ論	企業の経営者はどのようにして人的資源(人材)を有効活用しているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、人的資源の有効な活用方法について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者の役割と責任について、自分なりの考えをまとめる。	120分
14	7/7	人的資源管理論Ⅱ：グローバル化とダイバーシティ	グローバル化の進展が、企業を構成するメンバー(従業員)にどのような変化をもたらしているのか、そのことによってどのような課題が生じているのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、人的資源を活用する上での課題を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ダイバーシティとはなにか、なぜそれが重要なのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
15	7/14	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド (PPT) に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーション、グループワークで構成。提出課題・中間レポートは授業時間内に講評。期末レポートはメールで評価をフィードバック。スライド (PDF) は共有フォルダーで公開。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題等提出の後に解説を実施。個人別評価結果をメールやポータルで通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版社	2013年	教科書	必携
ケースブック 経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之 西野和美	日本経済新聞出版社	2012年	教科書	必携
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00、木曜 15：00～16：10、18:00～19:00、金曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサル ティング） 経営コンサルティング業務や企業での経営管理業務に基づき、経営理論の説明に終わらず、理論 の経営現場への適用面にも留意した学修を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	オリエンテーション、及び 導入講義	シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の 到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、経営学と経営の違いについて、理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	教科書「経営学入門（上）」の全体に目を通し、「経営」と「経営学」の違いについて考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を確認し、プレゼンテーション課題のテーマ選定とプレゼンテーション日程について検討。	60分
2	第一部 金4/17	マイクロ組織論	マイクロ組織論。組織行動論（個人～20名以下のグループの行動）に関しての理論について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。グループワークにより、マイクロ組織論の背景について考察する。	
		この回の 到達目標	組織行動に関する主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』13～48頁、49～96頁に目を通すとともに、グループ（同じ業界に興味のある4名以内）メンバー候補を検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、マイクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
3	第一部 金4/24	マクロ組織論	20名以上の構成員からなる組織に関する理論（「組織論」）について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。	
		この回の 到達目標	組織論の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』97～140頁に目を通すとともに、グループメンバーを決定する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、マクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
4	第一部 金5/1	社会的ネットワーク論と柔 構造組織	SNSの普及とともに社会において重要性が増している社会的ネットワーク論の主要理論について学修する。また、社会的ネットワーク論にも関連して組織の「柔構造」についても環境との関係より学修する。	
		この回の 到達目標	社会的ネットワーク論のうち組織に関する理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年149～185頁（コピー事前配布）を熟読し、社会的ネットワーク論の主要理論について理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、社会的ネットワーク論の主要理論の提唱者とその概要、柔構造組織の概要について理解し説明できるようになる。	60分
5	第一部 金5/8	業務プロセスと人事制度	企業内で従業員が日々実施している業務を分類し、各業務の内容について学修する。また、マイクロ組織論の適用としての人事制度の実際について学修する。	
		この回の 到達目標	主要業務プロセスと人事制度を理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
		事前学修	ポーター, M. E.（土岐岬他訳）『競争優位の戦略』ダイヤモンド社1985年45～77頁（コピー事前配布）を熟読し、業務プロセス（バリューチェーン）の概念について理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容について復習し、業務プロセスと人事制度の不要な構成要素について説明できるようになること。	60分
6	第一部 金5/15	事業定義 1（概念）	経営戦略の中核をなす事業定義（事業ドメイン）の背景、概念、重要性について、分析的アプローチとの対比等も踏まえて学修。	
		この回の 到達目標	事業ドメインを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	『経営学入門（上）』141～152ページ、188～213ページに目を通し、経営戦略の定義と事業ドメインについて理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義に概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	事業定義2（方法）	事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。	
		この回の到達目標	事業ドメインの再構築方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年101～115ページ（コピー事前配布）に目を通す。教科書『ケースブック 経営戦略の論理』16～36ページ（AKB48）に目を通して、①AKB48の定義をCFTで表現する、②AKB48の成功要因（KFS）を従来のアイドルグループと比較して検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義の方法について説明できるようになる。	60分
8	第一部 金5/29	SWOT	自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析・統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。	
		この回の到達目標	SWOTのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』282～301ページ（アップル）に目を通して、①2012年時点のアップルをSWOTで整理する、②SWOTの結果より2012年以降アップルのとるべき戦略について検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、SWOTの概念について説明できるようになる。	60分
9	第一部 金6/5	製品・市場戦略とマーケティング	製品・市場分析より特定事業の事業戦略を導き出すツールであり、マーケティングとの関連について学修。新規事業戦略についても触れる	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の概念と適用手順を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年47～57ページ（コピー事前配布）に目を通し、企業のケース（コピー事前配布）より、企業の主要事業のKFS（成功要因）を抽出する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、製品・市場戦略の概念について説明できるようになる。	60分
10	第一部 金6/12	5フォースと競争戦略	ポーターの競争要因分析ツール：5フォースによる業界構造分析の方法について学修する。	
		この回の到達目標	5フォースの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『経営学入門（上）』169～180ページに目を通し、教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）に関して、サムスン電子の液晶テレビの事業戦略は、ポーターの3つの基本戦略のどれかについて検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、5フォースを特定業界に適用できるようになる。	60分
11	第一部 金6/19	PPM	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
		この回の到達目標	PPMのフレームワークを理解し、説明できるようになる（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『経営学入門（上）』152～169ページに目を通す。企業のケース（コピー事前配布）に目を通して、成功事業（善い方向へ変化した製品群）と失敗事業（悪い方向に変化した製品群）を抽出する。前期中間レポート（特定事業のKFS）の作成。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、PPMの概念について説明できるようになる。	60分
12	第一部 金6/26	コア・コンピタンス	企業戦略、事業戦略の前提となるコア・コンピタンスの理論的背景、概念、使い方等について学修。	
		この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	プラハラード, C.K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」（コピー事前配布）に目を通し、以下の項目について検討する。①コア・コンピタンスとは何か、②コア・コンピタンスとしての要件は何か（経営資源、技術との違い）、③各社のコア・コンピタンス。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コア・コンピタンスの概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	バランス・スコアカード	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
		この回の到達目標	バランス・スコアカードのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページ（コピー事前配布）に目を通し、景気の先行指標と遅行指標、バランス・スコアカードの導入効果について考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの概念について説明できるようになる。	60分
14	第一部 金7/10	戦略プロファイリング	特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
		事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年（コピー事前配布）に目を通す。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。	60分
15	第一部 金7/17	まとめ	組織と戦略に関する主要理論とその適用範囲、今後の生かし方等について学修。	
		この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
		事前学修	期末レポート（特定業界に関する①業界構造の分析、②主要各社の経営戦略の比較分析）の作成。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードし、全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修を前提とする。

【授業方法】
講義とグループワークによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・グループワークを2回行う。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、グループワークとリアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサン コ/マーク・リャン リー/デイビッド・ド ラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/ アンドレア・シェ パード/ジョエル・ポ ドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
		事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。	120分
2	第一部 金9/25	企業戦略の考え方	企業戦略の基本的な考え方を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：企業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、企業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。	120分
3	第一部 金10/2	垂直統合とは	垂直統合とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：垂直統合とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、垂直統合とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
4	第一部 金10/9	垂直統合と企業の範囲	垂直統合と取引費用の関係について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：垂直統合と取引費用の関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、取引費用とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と取引費用の関係について復習し、説明できる。	120分
5	第一部 金10/16	多角化とは	多角化とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：多角化とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、多角化とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 金10/23	多角化とコングロマリット・ディスカウント	多角化のメリットとデメリットを学修する。また、コングロマリット・ディスカウントとは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：多角化のメリットとデメリットを理解した上で、コングロマリット・ディスカウントとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のメリットとデメリットを整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、多角化のメリットとデメリットを押さえた上で、コングロマリット・ディスカウントとは何かを復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	多角化のマネジメント	多角化のマネジメントについて学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：多角化のマネジメントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のマネジメント手法を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、多角化のマネジメントについて復習し、説明できるようにする。	120分
8	第一部 金11/6	国際化	国際化の戦略について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：国際化の戦略について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、国際化の戦略を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際化の戦略について復習し、説明できるようにする。	120分
9	第一部 金11/13	グループワーク 1（多角化）	コングロマリット・ディスカウントの存在が指摘されているにもかかわらず、なぜ企業は多角化を維持しているのかをグループで議論し、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：多角化維持に関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	なぜ企業は多角化を維持しているのかを検討する。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、コングロマリット・ディスカウントに関する理解を深める。	120分
10	第一部 金11/20	M&A	M&A（企業の合併・買収）とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：M&A（企業の合併・買収）とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、M&A（企業の合併・買収）とは何かを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、M&A（企業の合併・買収）とは何かを復習し、説明できるようにする。	120分
11	第一部 金11/27	組織における問題	組織において生じる問題を学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：組織において生じる問題を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、組織において生じる問題にはどのようなものがあるかを確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、組織において生じる問題について復習し、説明できるようにする。	120分
12	第一部 金12/4	インセンティブの問題	インセンティブの問題とその緩和手段について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：インセンティブの問題とその緩和手段について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、インセンティブの問題とその緩和手段を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、インセンティブの問題とその緩和手段について復習し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	コーディネーションの問題	コーディネーションの問題とその緩和手段について学修する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③と関連：コーディネーションの問題とその緩和手段について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書や参考書を読んで、コーディネーションの問題とその緩和手段を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーディネーションの問題とその緩和手段について復習し、説明できるようにする。	120分
14	第一部 金12/18	グループワーク 2（インセンティブの問題）	グループで組織において利害対立が生じる状況とその緩和手段について議論し、その内容を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標②④と関連：インセンティブに関するグループ内の議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	組織において利害対立が生じる状況とその緩和手段について検討する。	120分
		事後学修	他のグループが発表した内容を取り入れて、インセンティブの問題に関する理解を深める。	120分
15	第一部 金12/25	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連：到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
		事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。						2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。						2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。							2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						2	2	2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』	風間、松田編	文真堂	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	企業の組織構造	企業はどのような組織構造によって構成されているのか、また組織構造にはどのような種類があるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の組織構造について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	9/29	雇用と人事	企業には、ワーク・ライフ・バランスを推進する上でなにが求められているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、働くことの意味について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、仕事と生活を両立するためにはなにが重要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10/6	合併・買収(M&A)の効果と目的	企業はなぜ合併・買収(M&A)を推し進めるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、買収・合併(M&A)の効果と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10/13	企業とイノベーション	企業はなぜイノベーションを必要とするのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、イノベーションの効果と課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イノベーションとはなにかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10/20	マーケティング論Ⅰ：市場と顧客	市場と顧客の関係から、企業がどのようにして顧客を見つけ出すのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、マーケティングの必要性を理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	マーケティング論Ⅱ：製品戦略と製品ライフサイクル	企業は顧客にどのように価値を形成し、それを伝達するのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、製品戦略と製品ライフサイクルについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、これからのマーケティングに求められるものについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/10	グループワークⅠ：マーケティング論	マーケティングに関する様々なテーマに関して、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、マーケティングに関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、様々なマーケティング手法について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、マーケティングの意義と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/17	生産管理論Ⅰ：モノづくりの基本	企業はどのようにしてモノづくりを行っているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、モノづくりの基礎について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの基礎とこれまでどのように発展してきたのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/24	生産管理論Ⅱ：モノづくりの高度化	グローバル化や技術革新の進展が、モノづくりにどのような影響を与えているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、グローバル化や技術革新がモノづくりに与える影響について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの高度化によって私たちの生活がどのように変化しているのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/1	グループワークⅡ：イノベーションと生産管理論	技術革新、とりわけAI技術の進展によって、私たちの生活はどのように変化するのか、その効果と課題についてグループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、技術革新が私たちの生活に与える影響に関するグループワークにおいて、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	私たちが日々の生活で使用している製品が、技術革新によってこれまでどのように変化してきたのかを調べる。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、イノベーションとモノづくりの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/8	国際経営Ⅰ：国際経営の組織モデル	企業は海外でどのように経営しているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業が海外進出をする意義について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際経営独自の課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	国際経営Ⅱ：グローバル化と経営の現地化	国際経営において、経営の現地化がなぜ必要なのか、その課題とはなにかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、国際経営の課題について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営の現地化の必要性和課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/22	SDGs(持続可能な開発目標)と企業価値の向上	社会の健全な発展と企業価値の向上を目指して、求められる企業像とはなにかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために求められる企業の役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、現代社会における企業の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/12	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	若林 広二	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
「経営学Ⅰ」の履修。

【授業方法】
スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーション、グループワークで構成。提出課題・中間レポートは授業時間内に講評。期末レポートはメールで評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、現代企業を取り巻く課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験またはレポート課題等により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついていないかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題等提出の後に解説を実施。個人別評価結果をメールやポータルで通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンサルティングの基本	神川貴実彦	日本実業出版社	2008	参考書	推奨
コンサルティングの基本 ベストプラクティス集	神川貴実彦	日本実業出版社	2013	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上）金曜 18：00～20：00（同上）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング） 経営コンサルティング業務の知見に基づき、経営理論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	オリエンテーション、及び 導入講義	シラバスに基づく後期授業全体の内容について説明。前期授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の 到達目標	授業全体の内容と主旨について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	経営学Ⅰで学修した理論について、コンサルタントとして経営現場に適用することを想定しながら復習する。	120分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	120分
2	第一部 金9/25	コンサルティング業界と組織	世界と日本のコンサルティング市場（規模、分野別構成比と各分野の成長性、主要企業別収益ランキング）とコンサルティング企業の組織構造や人事評価制度について学修する。	
		この回の 到達目標	コンサルティング業界とコンサルティング企業の組織体制・人事制度について理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、39～58ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）に目を通し、コンサルティング業界の全体像を理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	60分
3	第一部 金10/2	コンサルティング業務	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
		この回の 到達目標	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
		事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、13～36ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）に目を通し、コンサルティング業務の手順と内容を理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング業務の手順について説明できるようになる。	60分
4	第一部 金10/9	事業ドメインコンサルティング1（概要）	企業において実際に事業定義（ドメイン）を設定する手順を各種分析ツールを用いながら学修する。	
		この回の 到達目標	事業ドメイン再構築の手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	経営学Ⅰ資料より、（6）事業ドメインの概念、（7）事業定義の方法を復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年3～12ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の復習し、事業ドメインコンサルティングの手順について説明できるようになる。	60分
5	第一部 金10/16	事業ドメインコンサルティング2（演習1）	各人作成のCFT分析表（課題①）に基づいて、既存事業の機能について議論する。	
		この回の 到達目標	CFT分析の記入方法について理解し、自身で作成できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	良品計画のホームページ（www.muji.com/jp）より、現在の主要製品群（事業）を10～20抽出し、それぞれについてCFT分析をする（課題①、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成のCFT分析表を見ながら自身のCFT分析表を修正する。	60分
6	第一部 金10/23	事業ドメインコンサルティング3（演習2）	各人が作成したドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表（課題②）に基づいて、将来事業を定義する。	
		この回の 到達目標	将来事業ドメインの再構築方法について、理解し、自身である程度構築できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	良品計画について（ひきつづき）、CFT分析の結果に基づいて、現在から将来の事業をドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表に基づいて定義する（課題②、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成のドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表を全体の意見を反映させながら修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	収益コンサルティング	損得学の主要理論について、演習課題により修得する。	
		この回の到達目標	損得学の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	森田正雄「経営者のための損得学入門」海難タイムズVol. 379・382・385・388・391・395、2012年（コピー事前配布）を熟読し、意思決定の論理を理解する。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、損得学の同様の問題に対して正答できるようになる。	120分
8	第一部 金11/6	事業戦略コンサルティング	状況に応じて、製品・紫綬戦略、新規事業戦略、ブルー・オーシャン戦略の3つがあるが、各ツールの手順について学修する。	
		この回の到達目標	事業戦略策定方法を複数修得し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理（全面改訂版）』日本経済新聞出版社2012年257～77ページ（アサヒビール）について、1987年（スーパードライ発売）前後のビール業界の5フォースを作成する（課題3、指定様式使用）。	180分
		事後学修	配布資料の復習により、各種事業コンサルティング手法を状況によって使い分けができるようになる。	60分
9	第一部 金11/13	人事・組織コンサルティング	企業に人事制度を導入する際の手順、また組織構造を変える際の考え方について学修する。	
		この回の到達目標	人事・組織のコンサルティング手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	経営学Ⅰ資料より、（3）マクロ組織論、（5）業務プロセスと人事制度 について復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年81～95ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、人事制度の改定・組織改編の手順を説明できるようになる。	60分
10	第一部 金11/20	ファイナンスと将来設計	大学での学修を将来への自己投資ととらえ、投資を中心としたファイナンスの基礎理論について学修する。	
		この回の到達目標	ファイナンスの重要性を理解し、キャリアプランとの関係で説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	グループによる中間レポート（コンサルティングプロジェクトの企画提案書）の作成。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、ファイナンス理論の基礎を説明できるようになる。	60分
11	第一部 金11/27	中間レポートプレゼンテーション	各グループ作成・提出のプレゼンテーション資料（PPT）に基づいて、想定クライアントへの企画提案を行い、それについて講評する。	
		この回の到達目標	中間レポートを完成させるとともに、期末レポートに向けての課題を確認する（関連目標④）。	
		事前学修	前回作成した中間レポートに基づいたプレゼンテーションの準備。	120分
		事後学修	各グループへの講評を振り返り、期末レポートに結び付ける。	120分
12	第一部 金12/4	バランス・スコアカードコンサルティング1（概要）	前期扱ったバランス・スコアカードを実際に企業に導入する際の手順について学修。	
		この回の到達目標	バランス・スコアカードの導入手順を理解し、説明できるようになること（関連目標①④）。	
		事前学修	経営学Ⅰのバランス・スコアカード関連の資料（第13、14回）を復習する。あるいは、若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの導入手順を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	バランス・スコアカード コンサルティング2（演習 1）	各人作成の戦略マップについて講評し、最適な戦略マップの構築に結び付ける。	
		この回の 到達目標	戦略マップの作成手順を修得する（関連目標①④）。	
		事前学修	(株)ファーストリテイリングのホームページ（ http://www.fastretailing.com/jp ）に基づいて、ファーストリテイリングの戦略マップを作成する（課題⑤、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成の前略マップを全体の意見を反映させながら修正する。	60分
14	第一部 金12/18	バランス・スコアカード コンサルティング3（演習 2）	各人作成のバランス・スコアカードについて講評し、最適なバランス・スコアカードの構築に結び付ける。	
		この回の 到達目標	バランス・スコアカードの作成手順を修得する（関連目標①④）。	
		事前学修	ファーストリテイリングの戦略マップに基づいてバランス・スコアカードを作成する（課題⑤、指定様式使用）。	180分
		事後学修	各人作成のバランス・スコアカードを全体の意見を反映させながら修正する。	60分
15	第一部 金12/25	まとめ	各回の内容、扱ったコンサルティングツールとそのポイント、キャリアとしての経営コンサルタント等について学修。	
		この回の 到達目標	科目全体を通して、経営コンサルティング業務とそのポイントを理解し、説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
		事前学修	期末レポート（中間レポートの企画提案書に対応した答申書）作成。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードし、全体を復習する。	40分

科目名	経営情報システム論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
ICTが飛躍的に発展している現在、企業や様々な組織において、大量なデータ等を効率的に活用することは、経営の根幹にかかわる重要課題である。この経営情報システム論は、人と情報技術、そして組織を経営の視点から包括的に研究する学問領域であり、学生は、このような見地から企業その他の組織を把握し、経営情報システムがどのように利用されているかを学修することで経営情報システムの概要について理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日のICT環境を前提にして、「情報システム」と個々の「人間固有の情報処理能力」の情動的相互作用を組織全体として整合性のあるものにする理論の構築ができ、それによって組織体の維持発展や革新のための提案ができるようになる。

【履修条件】
特になし。後期の「経営情報システム論Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと配布資料（ファイル）を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営情報システムとICTの関係について理解している。				2		2	2				
②	企業環境の変化と経営情報システムの変遷について理解している。						2					
③	情報セキュリティの概要や情報倫理の問題点について理解し、説明できる。				2							
④	経営情報システムとネットビジネスの関係について理解し、説明できる。						2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	企業における経営情報システムの導入と問題点について、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験、小テストの解説・講評を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営情報論（新版補訂第3刷）	遠山暁・村田潔・岸眞理子	有斐閣アルマ	2017年	参考書	任意
HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク	労務行政研究所 編	労務行政	2015	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル等で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	4/14	経営情報システムとは何か	経営情報システムとは何かについて説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムとは何かについて理解できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	4/21	経営情報論の基礎	組織体と情報システムについて説明する。	
		この回の到達目標	組織体と情報システムについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	4/28	経営情報論の基礎理論	経営組織論と経営戦略論の概要について説明する。	
		この回の到達目標	経営組織論と経営戦略論の概要について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	5/5	経営情報システムの変遷	経営情報システムの変遷について説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムの変遷について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	5/12	情報通信技術の進展	情報通信技術の進展（クラウド・コンピューティング、ビッグデータ等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報通信技術の進展について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	経営情報システムの設計・開発	経営情報システムの設計・開発方法論（SDLC法等）について説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムの設計・開発について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	5/26	経営情報システムの管理	経営情報システムの管理（情報セキュリティ・マネジメント等）について説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムの管理について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	6/2	情報通信技術とビジネス・プロセス革新	情報通信技術とビジネス・プロセス革新（プロセスの戦略的重要性等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報通信技術とビジネス・プロセス革新（プロセスの戦略的重要性等）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	6/9	ネット・ビジネス	ネット・ビジネスについて説明する。	
		この回の到達目標	ネット・ビジネスについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	6/16	情報通信技術と組織変革	情報通信技術と組織変革（クローズドシステムとオープンシステム）について説明する。	
		この回の到達目標	情報通信技術と組織変革について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	6/23	情報通信技術と組織コミュニケーション	情報通信技術と組織コミュニケーション（メディア・リッチネス等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報通信技術と組織コミュニケーションについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	情報通信技術と社会	情報通信技術と社会（個人情報の利用とプライバシー等）について説明する。	
		この回の到達目標	情報通信技術と社会について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/7	経営情報システムの課題	経営情報システムの課題（ITガバナンス等）について説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムの課題（ITガバナンス等）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/14	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営情報システム論Ⅱ	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
近年、経営情報システムはICTの急激な進歩に伴って大きく変化している。ERP（Enterprise Resource Planning）やSCM（Supply Chain Management）をはじめ、クラウドやIoT、ビッグデータ、AIなど様々な環境の変化に対応し変化している。本講義では、実際に事例に当たること、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善できる知識を身に付けていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営情報システムの最新技術への対応を理解しシステムを体験することで、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる人材を育成する。

【履修条件】
特になし。前期の「経営情報システム論Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと配布資料（ファイル）を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営情報システムの変遷と背景について理解している。						2	2				
②	情報通信技術の現状と課題について理解している。				2		2	2				
③	経営情報システムの最新技術について理解している。						2	2				
④	経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる。				2		2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	企業における経営情報システムの導入と問題点について、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験、小テストの解説・講評を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク	労務行政研究所 編	労務行政	2015	その他	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	9/22	I C T とパラダイムシフト	I C T による地球規模でのパラダイムシフトについて説明する。	
		この回の到達目標	I C T による地球規模でのパラダイムシフトについて説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	9/29	I C T と経営情報システム	I C T と経営情報システムの現状について説明する。	
		この回の到達目標	I C T と経営情報システムの現状について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	10/6	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S）	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S）と背景について説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムの変遷と背景について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	10/13	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）と背景について説明する。	
		この回の到達目標	経営情報システムの変遷と背景について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	10/20	基幹業務統合システム（ERP）	基幹業務統合システム（ERP）について説明する。	
		この回の到達目標	基幹業務統合システム（ERP）について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	サプライチェーンの全体最適化（SCM）	サプライチェーンの全体最適化（SCM）について説明する。	
		この回の到達目標	サプライチェーンの全体最適化（SCM）について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	11/10	ビッグデータの概念とその戦略的活用	ビッグデータの概念とその戦略的活用について説明する。	
		この回の到達目標	ビッグデータの概念とその戦略的活用について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	11/17	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用について説明する。	
		この回の到達目標	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	11/24	クラウドサービスの活用と問題点	クラウドサービスの活用と問題点について説明する。	
		この回の到達目標	クラウドサービスの活用と問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	12/1	A I の活用と課題	A I の活用と課題について説明する。	
		この回の到達目標	A I の活用と課題について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	12/8	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性について説明する。	
		この回の到達目標	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	HRテクノロジーの活用事例	HRテクノロジーの活用事例について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーの活用事例について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	12/22	情報セキュリティとサイバー攻撃	情報セキュリティとサイバー攻撃について説明する。	
		この回の到達目標	情報セキュリティとサイバー攻撃について説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	1/12	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について整理しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営訴訟法Ⅰ	担当者	坪川 弘	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経営法学的観点に立脚すると、現代企業は予防法的・戦略法務的な経営を目指している。前者においてはリコールにいかに対処するか、さらにPL法紛争に対処できる内部統制システムの構築を目指している。他方、後者においてはいかに自社の知的財産権の創造、および活用を推進するかが急務となっている。そして、訴訟以外の方法による紛争解決制度の利用も増加している。これらに対する総合的学習が本講座の目的である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、経営の意思決定に際しての法的知識の育成を目的とし、さまざまな経営場面における判断基準を容易に選択できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法、商法、民事訴訟法、会社法などを履修していることが望ましいが、条件とはしない。

【授業方法】
講義時に配布するプリント、ビデオなどを利用して、講義を進める。また、講義には、六法を持参すること。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、前週に与えた課題に関する発表者を決め、その発表に基づいて教員のコメント及びクラス内のディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	企業を取り巻く法的リスクには何があるか、またその解決方法とはなにか。【知識】									
②	与えられた課題について自分なりに調べて他者にわかりやすいように発表する。【技能】									
③	講義で扱う法的リスクの重要度を他者に伝えること。【技能】									
④	法的リスクの発表に対する自己の考え方の表明。【態度・習慣】									
⑤	最終レポートにより講義内での発表・議論をまとめること。【技能】									
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	自己の発表した事項、具体的内容及びクラスでのディス カッションを踏まえたレポートを作成することにより、合 理的な事象の解明に努める。					50						50
討論・発表等	毎回与えられた課題について発表者が具体的内容を調べ、 その発表に基づいてクラス内のディスカッションを行うこ とによって、到達目標の①②③④に関わる論理的思考に基 づく発表及びより合理的な法的リスクの解決方法の模索を 図る。	10	20	10	10							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	10	50						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の発表に対する教員のコメントを述べることによって発表者及びクラス内の課題に対する理解を深める。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
講義等に関する質問および課題の提出は、下記のメール・アドレスへ講義の前日（水曜日）までにアップすること。 tubokawa@shodai.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	イントロダクション・導入 講義	法的リスクとその解消方法	
		この回の 到達目標	企業法務における関心事の解明（到達目標①）	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解しておくこと。	120分
		事後学修	経営訴訟法で学ぶべき事項を事後学習で確認する。	120分
2	第一部 木4/16	企業経営とリーガル・リス ク	企業経営におけるリスクには何があるかの解明	
		この回の 到達目標	企業経営におけるリーガル・リスクの存在を確認すること。（到達目標①）	
		事前学修	企業経営における様々なリーガル・リスクにはどんなものがあるか考えてみること。	120分
		事後学修	企業の法務部の関心事項がどのようなものか確認すること。	120分
3	第一部 木4/23	リーガル・リスクとしての 訴訟リスク	企業の訴訟に対する考え方の分析	
		この回の 到達目標	企業が訴訟を求めていることの確認（到達目標①）	
		事前学修	企業は果たして訴訟をすることを好ましいと考えているかどうか自分自身で検討すること。	120分
		事後学修	企業が訴訟リスクを回避するためにどのような法的観点からその是非を検討しているかを考えてみる。	120分
4	第一部 木4/30	企業経営におけるリーガル ・リスク・マネジメント	訴訟に至らないようにするための企業努力	
		この回の 到達目標	訴訟をしないために企業はなにをすべきか（到達目標①）	
		事前学修	現代の企業においてはどのようなリーガル・リスクがあるかについて検討すること。	120分
		事後学修	講義で検討したリーガル・リスクを再確認すること。	120分
5	第一部 木5/7	企業経営におけるリコール の現代的意義	リコールを行うべきかどうか	
		この回の 到達目標	リコールの決断は企業の義務である（到達目標①）	
		事前学修	どのような場合に企業はリコールを実行すべきかについて検討すること。	120分
		事後学修	企業が単なるコスト的観点でリコールを回避した場合の危険性を確認すること。	120分
6	第一部 木5/14	リコールの特性と企業対応	どのような場合にリコールをすべきか	
		この回の 到達目標	リコール決定までの企業内意思決定システムの解明（到達目標①②）	
		事前学修	リコールはあらゆる製造製品に関して発生するが、その製造製品ごとにリコール対応が変わることを確認すること。	120分
		事後学修	製造製品によってどのように企業が対応するかは、企業の日常的緊急的体制構築が必要であることを確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	リコール事例の検討：その1	フォード・ピント事件等の自動車に関するリコール事例の検討	
		この回の到達目標	自動車リコールの史的变化を学ぶ。（到達目標②③④）	
		事前学修	リコールの典型事例といわれる自動車のケースでどれくらいの頻度でリコールが行われているか調べてみること。	120分
		事後学修	自動車リコール事例の古典的ケースといえるフォード・ピント事件における企業の対応と裁判の結果について考えてみること。	120分
8	第一部 木5/28	リコール事例の検討：その2	多種にわたる食品リコール事例を学ぶ。	
		この回の到達目標	食品リコールの多様性を学ぶ。（到達目標②③④）	
		事前学修	食品・飲料・生活製品等の日常的に消費者が利用するものに対するリコールについて考えてみること。	120分
		事後学修	これらのものの特性に応じた各企業の対処方法について確認すること。	120分
9	第一部 木6/4	リコール事例の検討：その3	リコールプラス等のサイトを通じて最近のリコール事例を分析	
		この回の到達目標	民間のリコール状況の現状を知る。（到達目標②③④）	
		事前学修	最近発生したリコール事例を検討してみること。	120分
		事後学修	最近のリコール事例において成功または失敗したと考えられるものを検討すること。	120分
10	第一部 木6/11	企業経営とコンプライアンス	企業におけるコンプライアンスの必要性を学ぶ。	
		この回の到達目標	具体的な企業内のコンプライアンス体制の構築状況を知る。（到達目標①）	
		事前学修	企業経営におけるコンプライアンスとは何か考えてみること。	120分
		事後学修	東証の『コーポレートガバナンスコード』がどのようなものか検討すること。	120分
11	第一部 木6/18	製造物責任法の構造	PL法の目的等の解明	
		この回の到達目標	欠陥・責任主体・責任範囲等の解明（到達目標①）	
		事前学修	製造物責任法がどのような経緯で成立したか考えてみること。	120分
		事後学修	製造物責任における「製造物の範囲」・「欠陥の種類」・「責任主体」・「免責事由および消滅時効」等がPL法でどのように規定されているか確認すること。	120分
12	第一部 木6/25	製造物責任訴訟の事例：その1	PL判例の事案・判旨の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	事前に与えられたPLケースを検討すること。	120分
		事後学修	講義で扱った事例で何が問題になったか検討すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	製造物責任訴訟の事例：その2	PL判例の事案・判旨の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	事前に与えられたP L ケースを検討すること。	120分
		事後学修	講義で扱った事例で何が問題になったか検討すること。	120分
14	第一部 木7/9	製造物責任訴訟の事例：その3	PL判例の事案・判旨の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	講義で扱った事例を検討すること。	120分
		事後学修	P L 対策としての平時及び緊急時体制構築の重要性を確認すること。	120分
15	第一部 木7/16	前期のまとめ	リコール・PL法判例の検証	
		この回の到達目標	リコール及びPL法に関するレポートの提出（到達目標⑤）	
		事前学修	前期でやったことの確認をすること。	120分
		事後学修	今までの講義の内容を再検討すること。	120分

科目名	経営訴訟法Ⅱ	担当者	坪川 弘	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経営法学的観点に立脚すると、現代企業は予防法的・戦略法務的な経営を目指している。前者においてはリコールにいかに対処するか、さらにPL法紛争に対処できる内部統制システムの構築を目指している。他方、後者においてはいかに自社の知的財産権の創造、および活用を推進するかが急務となっている。そして、訴訟以外の方法による紛争解決制度の利用も増加している。これらに対する総合的学習が本講座の目的である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、経営の意思決定に際しての法的知識の育成を目的とし、さまざまな経営場面における判断基準を容易に選択できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法、商法、民事訴訟法、会社法などを履修していることが望ましいが、条件とはしない。

【授業方法】
講義時に配布するプリント、ビデオなどを利用して、講義を進める。また、講義には、六法を持参すること。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、前週に与えた課題に関する発表者を決め、その発表に基づいて教員のコメント及びクラス内のディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	企業を取り巻く法的リスクには何があるか、またその解決方法とはなにか。【知識】									
②	与えられた課題について自分なりに調べて他者にわかりやすいように発表する。【技能】									
③	講義で扱う法的リスクの重要度を他者に伝えること。【技能】									
④	法的リスクの発表に対する自己の考え方の表明。【態度・習慣】									
⑤	最終レポートにより講義内での発表・議論をまとめること。【技能】									
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	自己の発表した事項、具体的内容及びクラスでのディス カッションを踏まえたレポートを作成することにより、合 理的な事象の解明に努める。					50						50
討論・発表等	毎回与えられた課題について発表者が具体的内容を調べ、 その発表に基づいてクラス内のディスカッションを行うこ とによって、到達目標の①②③④に関わる論理的思考に基 づく発表及びより合理的な法的リスクの解決方法の模索を 図る。	10	20	10	10							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	10	50						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の発表に対する教員のコメントを述べることによって発表者及びクラス内の課題に対する理解を深める。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
講義等に関する質問および課題の提出は、下記のメール・アドレスへ講義の前日（水曜日）までにアップすること。 tubokawa@shodai.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	企業経営と知的財産権	企業における知的財産権の重要性の検証	
		この回の到達目標	企業における知的財産権の重要度の確認（到達目標①）	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解しておくこと。	120分
		事後学修	個々の知的財産権の具体的な内容を検討してみること。	120分
2	第一部 木9/24	特許侵害訴訟の構造	特許侵害訴訟の提起前・後の過程の検証	
		この回の到達目標	特許侵害訴訟の手続過程の解明（到達目標①）	
		事前学修	企業経営における様々なリーガル・リスクにはどんなものがあるか考えてみること。	120分
		事後学修	特許侵害訴訟の流れを確認すること。	120分
3	第一部 木10/1	特許侵害訴訟の事例：その1	特許権に関わる訴訟の解明	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	企業は果たして訴訟をすることを好ましいと考えているかどうか自分自身で検討すること。	120分
		事後学修	講義で取り扱った訴訟の特徴は何かを確認すること。	120分
4	第一部 木10/8	特許侵害訴訟の事例：その2	特許権に関わる訴訟の解明	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	現代の企業においてはどのようなリーガル・リスクがあるかについて検討すること。	120分
		事後学修	講義で取り扱った訴訟の特徴は何かを確認すること。	120分
5	第一部 木10/15	その他の知的財産権関連訴訟：その1	商標権に関わる訴訟の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	どのような場合に企業はリコールを実行すべきかについて検討すること。	120分
		事後学修	講義で扱った訴訟の特性を確認しよう。	120分
6	第一部 木10/22	その他の知的財産権関連訴訟：その2	著作権に関わる判例の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	リコールはあらゆる製造製品に関して発生するが、その製造製品ごとにリコール対応が変わることを確認すること。	120分
		事後学修	最近のインターネット関連の著作権問題を検討してみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	経営者の会社に対する責任	取締役等の義務の検証	
		この回の到達目標	任務懈怠による損害賠償責任の解明（到達目標①）	
		事前学修	リコールの典型事例といわれる自動車のケースでどれくらいの頻度でリコールが行われているか調べてみる こと。	120分
		事後学修	講義で確認した取締役等の責任を検討すること。	120分
8	第一部 木11/5	株主代表訴訟の構造	株主代表訴訟の提起手続の検証	
		この回の到達目標	会社法における株主代表訴訟の位置づけの確認（到達目標①）	
		事前学修	食品・飲料・生活製品等の日常的に消費者が利用するものに対するリコールについて考えてみる こと。	120分
		事後学修	株主代表訴訟の訴訟過程における問題点を確認しよう。	120分
9	第一部 木11/12	株主代表訴訟の事例：その1	株主代表訴訟の判例の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	最近発生したリコール事例を検討してみる こと。	120分
		事後学修	講義で検討した事例の問題点を明確に すること。	120分
10	第一部 木11/19	株主代表訴訟の事例：その2	株主代表訴訟の判例の検証	
		この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	企業経営におけるコンプライアンスとは何か 考えてみる こと。	120分
		事後学修	講義で検討した事例の問題点を明確に すること。	120分
11	第一部 木12/3	ADR（裁判外紛争処理） 制度の現代的意義	ADR制度の意義の解明	
		この回の到達目標	ADR制度の必要性の解明（到達目標①）	
		事前学修	製造物責任法がどのような経緯で成立した か考えてみる こと。	120分
		事後学修	訴訟とADRの手続きの相違点を確認 すること。	120分
12	第一部 木12/10	ADRの種類	ADR制度の種類の検証	
		この回の到達目標	行政型・民間型ADRの存在の確認（到達目標①）	
		事前学修	事前に与えられたPLケースを検討 すること。	120分
		事後学修	様々なADR制度の特性を確認 すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	ADR制度の活用事例その 1	医療・金融ADR制度等の検証	
		この回の 到達目標	各制度の意義及び活用状況の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	事前に与えられたPLケースを検討すること。	120分
		事後学修	各ADR制度の現状を確認してみよう。	120分
14	第一部 木12/24	ADR制度の活用事例その 2	労働・原子力損害賠償等のADR制度の検証	
		この回の 到達目標	各制度の意義及び活用状況の解明（到達目標②③④）	
		事前学修	講義で扱った事例を検討すること。	120分
		事後学修	各ADR制度の現状を確認してみよう。	120分
15	第一部 木1/14	後期のまとめ	知的財産権・株主代表訴訟・ADR制度の検証	
		この回の 到達目標	講義で扱ったテーマの最終レポートの提出（到達目標⑤）	
		事前学修	前期でやったことの確認をすること。	120分
		事後学修	今までの講義の内容を再検討すること。	120分

科目名	経営分析論	担当者	森 久	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 損益計算書，貸借対照表，キャッシュ・フロー計算書などは財務諸表とよばれ，企業経営の状況を表している。この授業では，それらによって収益性と安全性を明らかにする方法について学修する。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 経営分析に関する基礎的知識やスキルを修得することにより，企業経営を実際に分析できる能力を修得する。その能力は，公共政策の立場から民間企業の経営状況を把握するときや，公共・公益分野を中心とする民間企業でリーダーシップを発揮するうえで役立つ。
--

【履修条件】 簿記や財務諸表についての知識があれば理解がいつそう容易になるが，必須ではない。
--

【授業方法】 経営分析の目的と方法について取り上げたうえで，四つのテーマごとに講義，計算・所見，分析を繰り返していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実際の財務諸表を用いて財務比率を計算し、所見をまとめる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業経営の担い手である企業人としての倫理を学び実践できる。				4							
②	経営分析の目指す目標とその手段の適合性などを論理的・批判的に分析し、説明できる。						4					
③	経営分析に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。							4				
④	新たな企業経営・地域社会の発展策などを自ら考え、提案できる。								4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	所見をまとめ分析した結果を、四つのテーマそれぞれについてレポートとして提出する。その内容により到達目標①③④⑤にかかわる能力が身についているかを確認する。	5		5	5	5						20
レポート等	到達目標③④にかかわる能力が身についているかを、データの分析と理論についての期末レポートにより評価する。			20	20							40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①⑤にかかわる積極的な学修態度が能力が身についているかを確認する。	20				20						40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25		25	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
四つテーマについてのレポートは採点し返却する。期末レポートについては全体宛てに電子メールを送信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財務分析からの会計学	森久， 関利恵子他	森山書店	平成27年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 5 時限目終了後に設定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	経営分析目的と方法	この授業の進め方について理解したうえで、株主・投資家、債権者などの利害関係者が経営分析を行う目的を把握するとともに、分析視点、比率分析と実数分析、比較基準について知る。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、株主・投資家、債権者などの利害関係者が経営分析を行う目的を把握するとともに、分析視点、比率分析と実数分析、比較基準について知る。	
		事前学修	教科書の第1章と第2章を読み、経営分析の目的と方法について学ぶ。	120分
		事後学修	ノートを参照しつつ教科書の第1章と第2章を読んで、理解を確認する。	120分
2	9月24日	財務諸表	経営分析の対象である貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の概要について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書についての概要を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5～7章を読み、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の概要について学習する。	120分
		事後学修	ノートを参照しつつ教科書の第5～7章を読み、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の概要を把握する。	120分
3	10月1日	資本利益率による分析（その1）	収益性の総合指標である資本利益率を取り上げて、その計算方法、表している意味、分析方法などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、資本利益率による分析の方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章を読み、資本利益率の計算方法と表している意味について学習する。	120分
		事後学修	ノートを参照しつつ教科書の第10章を読み、資本利益率の意味や分析方法について確認する。	120分
4	10月8日	資本利益率による分析（その2）	4社の実際のデータを用いて資本利益率を計算し、各社の収益性についての所見をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、各社の収益性についての所見を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章を読み、資本利益率の計算方法を改めて学習する。	120分
		事後学修	計算、分析した結果をレポートとしてまとめる。	120分
5	10月15日	資本利益率による分析（その3）	4社の資本利益率についての分析結果を発表し、その内容について意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、実際のデータを用いて資本利益率による分析ができる。	
		事前学修	教科書の第10章を参照し、レポートの内容の適否について検討する。	120分
		事後学修	意見交換の結果を踏まえて、資本利益率の分析方法について確認する。	120分
6	10月22日	損益計算書の分析（その1）	損益計算書データで計算される売上高利益率を取り上げて、その計算方法、表している意味、分析方法などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、損益計算書の分析の方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章と第11章を読み、売上高利益率の計算方法と表している意味について学習する。	120分
		事後学修	ノートを参照しつつ教科書の第6章と第11章を読み、売上高利益率の意味や分析方法について確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	損益計算書の分析（その2）	4社の実際のデータを用いて売上高利益率を計算し、各社の収益性についての所見をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、各社の損益計算書についての所見を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章と第11章を読み、売上高利益率の計算方法を改めて学習する。	120分
		事後学修	計算、分析した結果をレポートとしてまとめる。	120分
8	11月5日	損益計算書の分析（その3）	4社の売上高利益率についての分析結果を発表し、その内容について意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、実際のデータを用いて損益計算書の分析ができる。	
		事前学修	教科書の第6章と第11章を参照し、レポートの内容の適否について検討する。	120分
		事後学修	意見交換の結果を踏まえて、資本利益率の分析方法について確認する。	120分
9	11月12日	貸借対照表の分析（その1）	貸借対照表データで計算されるストック指標を取り上げて、その計算方法、表している意味、分析方法などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、貸借対照表の分析の方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章と第14章を読み、ストック指標の計算方法と表している意味について学習する。	120分
		事後学修	ノートを参照しつつ教科書の第5章と第14章を読み、ストック指標の意味や分析方法について確認する。	120分
10	11月19日	貸借対照表の分析（その2）	4社の実際のデータを用いてストック指標を計算し、各社の安全性について分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、各社の貸借対照表についての所見を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章と第14章を読み、ストック指標の計算方法を改めて学習する。	120分
		事後学修	計算、分析した結果をレポートとしてまとめる。	120分
11	12月3日	貸借対照表の分析（その3）	4社のストック指標についての分析結果を発表し、その内容について意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、到達目標①③④⑤に関係し、実際のデータを用いて資本利益率による分析ができる。	
		事前学修	教科書の第5章と第14章を参照し、レポートの内容の適否について検討する。	120分
		事後学修	意見交換の結果を踏まえて、ストック指標の分析方法について確認する。	120分
12	12月10日	キャッシュフロー計算書の分析（その1）	キャッシュフロー計算書によるデータを取り上げて、その計算方法、表している意味、分析方法などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、キャッシュフロー計算書の分析の方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第7章と第15章を読み、キャッシュフロー・データの計算方法と表している意味について学習する。	120分
		事後学修	ノートを参照しつつ教科書の第7章と第15章を読み、キャッシュフロー・データの計算方法、表している意味、分析方法などについて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	キャッシュフロー計算書の分析（その2）	4社の実際のデータを用いてキャッシュフロー・データを計算し、各社の安全性についての所見をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、各社のキャッシュフロー計算書についての所見を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第7章と第15章を読み、キャッシュフロー・データの計算方法を改めて学習する。	120分
		事後学修	計算、分析した結果をレポートとしてまとめる。	120分
14	12月24日	キャッシュフロー計算書の分析（その3）	4社のキャッシュフロー・データについての分析結果を発表し、その内容について意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、実際のデータを用いて資本利益率による分析ができる。	
		事前学修	教科書の第7章と第15章を参照し、レポートの内容の適否について検討する。	120分
		事後学修	意見交換の結果を踏まえて、キャッシュフロー・データの分析方法について確認する。	120分
15	1月14日	まとめ	収益性と安全性の分析の方法について、体系的なまとめを行う。また、生産性や企業価値についても認識を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関係し、収益性と安全性の分析の方法について、体系的に説明することができる。	
		事前学修	教科書の第1, 2, 5～7, 10, 11, 14, 15章を読み、収益性と安全性の分析の概要を把握する。	120分
		事後学修	作成した四つのレポートを改めて読み直し、収益性と安全性を分析する方法について確認する。	120分

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○					

【授業の概要】
多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、組織体の戦略を策定しその実施を推進し、働き方を変えていくための実践的スキルを身につけることを目的とする。「経営学Ⅰ」で取り上げた経営戦略の主要理論の理解を前提に、より多くのケースに接することで、組織内のファシリテーターやリーダーとして戦略作りを推進できるようになることを目標とする。関連C P ・ D P：経営法学科3

【履修条件】
「経営学Ⅰ」の履修、あるいは、経営戦略の主要理論を理解していること。

【授業方法】
スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーションで構成。課題1は授業時間中に講評を実施。課題2は希望者にメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義とそれに基づく教員・履修者、履修者間の討議、課題とそれに基づく履修者によるプレゼンテーション。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	企業にとって戦略的発想の重要性を理解し、それを説明することができる。						3				
②	企業のおかれた状況の中で、最適な戦略を選ぶ能力を高める。						3				
③	企業の戦略的目標を認識し、目標間の関係性を明確化する方法を修得する。						3				
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題2では、到達目標③について、レポートを提出し戦略目標間の関係性の適切さを評価する。			30								30
討論・発表等	課題1では、到達目標③について、企業のステークホルダー別に戦略目標を分類整理し発表する。、			30								30
授業への参画度	到達目標①②について、戦略論の基礎知識が身についているかを、授業中の課題や討議により評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題1は授業時間中に講評を実施。課題2は希望者にメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	参考書	推奨
ケースブック 経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上）金曜 18：00～20：00（同上）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		経営コンサルティング業務の知見に基づき、戦略論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、企業経営にとって経営戦略の果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	経営学Ⅰの授業コンテンツの復習。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習と、戦略プロファイリング対象企業候補を検討。	120分
2	第一部 水4/15	事業定義 1（理論）	事業定義の重要性の再確認と事業定義手順について学修。	
		この回の到達目標	事業定義の方法・手順を説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	レビット、T. 「マーケティング近視眼」『ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス』1993年2月-3月号（コピー事前配布）を熟読し、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年1～33頁（コピー事前配布）に目を通す。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習に基づき、事業定義を企業組織で実際に実施できるようになる。	120分
3	第一部 水4/22	業定義 2（ケース）	事セコムのケースの詳細な分析に基づく事業定義（ドメイン）の変化についての学修。	
		この回の到達目標	セコムの事業定義の優れている点について理解し、説明すること（関連目標②）。	
		事前学修	セコムのケース（コピー事前配布）に基づく、機能の変遷と事業定義（ドメイン）のもたらす効果についてワークシートを用いた検討。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習と事前に作成したワークシートの修正。	60分
4	第一部 水4/29	戦略プロファイリング 1（理論）	戦略プロファイリングの背景、定義、実施方法について学修。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年（コピー事前配布）を熟読し、戦略プロファイリングの概念を理解する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により「戦略プロファイリング」を説明できるようになる。	60分
5	第一部 水5/6	製品・市場戦略 1（理論）	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
		事前学修	大前研一『マッキンゼー現代の経営戦略』プレジデント社1979年35～74ページ（コピー事前配布）を読む。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により「製品・市場戦略」の適用手順を説明できるようになる。	60分
6	第一部 水5/13	製品・市場戦略 2（ケース）	各人作成のワークシートに基づく現実の製品・市場戦略についての学修。	
		この回の到達目標	製品・市場戦略の手順・適用方法を理解し、適用できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	アスクルのケース（コピー事前配布）を読み、それに基づく製品・市場分析、K F S（成功要因）等についてワークシートを用いて検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習による製品・市場分析の方法と製品・市場戦略への結び付け方について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	SWOTと業界構造分析1 (理論)	外部環境と経営資源の分析に用いられるSWOTと5フォースの適用に重点を置いた学修。	
		この回の 到達目標	SWOTと5フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	ポーター，M. E. （土岐他訳）『競争の戦略』ダイヤモンド社1982年17～54頁（コピー事前配布）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習による5フォースの正しい適用方法を説明できるようになる。	60分
8	第一部 水5/27	SWOTと業界構造分析2 (ケース1)	マッキントッシュ時代のアップルを通して、SWOTと5フォースの適用方法を学修。	
		この回の 到達目標	SWOTと5フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	アップルのケース1（PCメーカー時代、コピー事前配布）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWOT分析と5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
		事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
9	第一部 水6/3	SWOTと業界構造分析3 (ケース2)	iPod・iPhone以降のプラットフォームへの成長過程のアップルについて、ケース1からSWOTで導かれる戦略仮説がケース2で実際に実施されたか検証する。	
		この回の 到達目標	アップルの戦略を通して、クロスSWOT分析に基づく戦略と実際の戦略の関係について理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	アップルのケース2（iPod・iPhone時代、コピー事前配布）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWOT分析と5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
		事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
10	第一部 水6/10	戦略プロファイリング2 (演習1)	各人作成の戦略プロファイリング結果（戦略マップ）について講評。	
		この回の 到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、実在の企業に適用できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	課題1（個別企業の戦略プロファイリング）の作成。	180分
		事後学修	各人作成の戦略プロファイリング結果に対する講評を整理。	60分
11	第一部 水6/17	戦略プロファイリング3 (演習2)	修正後の戦略プロファイリング結果について講評。	
		この回の 到達目標	戦略プロファイリングの結果を評価できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	講評に基づいて戦略マップを修正。	120分
		事後学修	修正した戦略プロファイリングへの講評内容を復習し、戦略プロファイリングのスキルを修得する。	120分
12	第一部 水6/24	PPM1（理論）	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
		この回の 到達目標	PPMの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年85～100ページ（コピー事前配布）を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの概念を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	PPM 2（ケース）	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
		この回の到達目標	PPMの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	GE（コピー事前配布）のケースより、花形・金のなる木・問題児・負け犬事業を選定、シャープのケース（コピー事前配布）より、成功事業・失敗事業を選定する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの結果の適用方法を修得する。	60分
14	第一部 水7/8	コア・コンピタンス（ケース）	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
		この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
		事前学修	プラハラード, C.K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』2014年307～45ページ（コピー事前配布）より、コア・コンピタンスの定義、要件についてワークシートに基づいて考察した上で、セイコーエプソンのケース（コピー事前配布）を分析。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、コア・コンピタンスを説明できるようになる。	60分
15	第一部 水7/15	まとめ（AI時代の経営戦略）	経営戦略の主要理論とその適用方法についてまとめる。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの影響についても触れる。	
		この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③）。	
		事前学修	課題2：課題1と異なる企業について戦略プロファイリングの実施。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○					

【授業の概要】
多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。また、イノベーション＝「価値創造」という認識の下、イノベーションの主要フレームワークをケースを用いながら理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、企業を成長させ従業員の働き方を変えるイノベーションとは何かを理解した上で、イノベーションの主要理論について学修することを目的とする。現象としてのイノベーションを、イノベーション理論で説明できるようになることを目標とする。関連CP・DP：経営法学科3

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーションで構成。中間課題は授業時間中に講評を実施。期末課題は希望者に対してメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義とそれに基づく教員・履修者、履修者間の討議、課題とそれに基づく履修者によるプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	企業にとってのイノベーションの重要性を理解し、それを説明することができる。						3						
②	現象としてのイノベーションを、諸イノベーション理論で説明する能力を修得。						3						
③	イノベーションの阻害要因を、実際のケースの中にみつける能力を修得する。						3						
④	イノベーションを起こす、あるいは、それを支援する能力を修得する。						3						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	期末課題：到達目標②④について、現象を理論で論理的に説明する総合的な能力を評価する。		30		10							40	
討論・発表等	中間発表；到達目標②について、自身で選択した企業において起きたイノベーションについて、適用可能なイノベーション理論をみつける能力を評価する。		20									20	
授業への参画度	到達目標①③について、イノベーション理論の基礎知識が身についているかを、授業中の課題や討議により評価する。	20		20								40	
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		20	50	20	10							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
課題 1 は授業時間中に講評を実施。課題 2 は希望者にメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別
コア・テキスト イノベーション・マネジメント		近能善範・高井文子	新世社	2010	教科書
経営学入門（上）第2版		榊原清則	日本経済新聞出版	2013	参考書
ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）		伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	参考書
イノベーションと企業家精神		P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	2015	参考書
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上）金曜 18：00～20：00（同上）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング） ものづくりの現場で得た知見に基づき、イノベーション理論の経営現場への適用方法を学修。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく授業全体の内容について説明。経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ 授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。	
		この回の到達目標	企業経営にとってイノベーションの果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	最近の新聞記事の中から、「イノベーション」と思われる事例を2つあげる。	120分
		事後学修	配布資料の復習。	120分
2	第一部 水9/23	イノベーションの定義	代表的なイノベーションの定義をあげ、それらより、授業における定義を作る。また、イノベーションとそうでないものの違いより、イノベーションの意味について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションの定義について説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』1～17頁に目を通し、「イノベーション」とは何か（定義）について検討する。	120分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションを説明できるようになる。	120分
3	第一部 水9/30	イノベーションとバリューチェーン（理論）	イノベーションがバリューチェーン上を移動する上での阻害要因について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションの3つの阻害要因をバリューチェーン上で説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』19～45頁を読む。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、3つの阻害要因について説明できるようになる。	60分
4	第一部 水10/7	イノベーションとバリューチェーン（ケース）	ゼロックスのケースの詳細な分析より、3つの阻害要因の企業活動における実際を学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションの生かし方と企業成長の関係について、ゼロックスとアップルの例で説明できるようになること（関連目標③）。	
		事前学修	ゼロックスのケース（コピー事前配布）について、ゼロックスの事業定義の変化、PARCでのアルト（Alto）の商品化に向けての阻害要因等について検討。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの3つの阻害要因について説明できるようになる。	60分
5	第一部 水10/14	イノベーションのライフサイクル	イノベーションを時間軸でとらえ、その進展を曲線で表現したモデル（理論）について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションのライフサイクルに関する諸理論を説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』47～80頁を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの時間による様々なモデルを説明できるようになる。	60分
6	第一部 水10/21	イノベーションの連続性	イノベーションの連続性（非連続性）を性能面、顧客価値（機能）面、経営資源面よりとらえ、相互の差について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションの技術・顧客価値による非連続性について説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』73～112頁、119～132頁を読んで、業務用カラオケにおけるイノベーションをワークシートをワークシートを用いて分析する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの連続性の3つの視点間の差を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	イノベーションとアーキテクチャ	アーキテクチャ（製品の構造・部品構成）の2つの軸（部品間特性・オープン化特性）について学修する。	
		この回の到達目標	各製品分野でアーキテクチャの果たす役割について説明できるようになること（関連目標②）。	
		事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』113～8頁、191～222頁を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、特定のイノベーションを2軸に位置付けられるようになる。	60分
8	第一部 水11/11	イノベーションの課題	これまでに扱ったいくつかの間違いやすい類似概念を、実際の例によって確認するとともに、イノベーションを起こすための理論（現象を説明するための理論ではなく）について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーション理論間の関係、イノベーションを起こす理論について、説明できるようになること（関連目標②④）。	
		事前学修	クリステンセン, C.（玉田俊平太訳）『イノベーションのジレンマ』翔泳社2001年27～58頁（第1章）より技術－顧客価値のマトリクスにHDDにおけるイノベーションを位置付け、アップルのケース1（前期使用）より主要パソコンを部品間特性・オープン化特性の2軸に位置付ける。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションを起こす方法について説明できるようになる。	60分
9	第一部 水11/18	中間課題プレゼンテーション	各人作成の中間報告（PPT）資料に基づく報告と、それに対する講評。	
		この回の到達目標	期末課題（イノベーションのケース）の作成に向けて、解決すべき調査・分析の問題を明確にする（関連目標②）。	
		事前学修	中間課題（イノベーションのケース分析レポートの中間報告）作成。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、期末課題に向けての指針とする。	60分
10	第一部 水11/25	イノベーションと知的財産	イノベーションの役割を知的財産マネジメントの観点より学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションにおいて果たす知財の役割について理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	知的財産マネジメントのサイクル（モデル）について調べる。	60分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションと知的財産の相互関係について説明できるようになる。	180分
11	第一部 水12/2	イノベーションとBOP（ケース）	BOP（ベース・オブ・ピラミッド：新興国市場）におけるイノベーションとその展開プロセスについて学修する。	
		この回の到達目標	リバースイノベーションの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②④）。	
		事前学修	ゴビンダラジャン, V（渡部典子訳）『リバース・イノベーション』ダイヤモンド社2012年247～76頁（コピ－事前配布）を読み、GEのリバース・イノベーションの成功要因について検討する。	180分
		事後学修	配布資料の内容を復習することにより、リバース・イノベーションの概念を説明できるようになる。	60分
12	第一部 水12/9	イノベーション組織	社会的ネットワーク論の主要なものについて概説し、それらより、イノベーション組織（イノベーションが起きやすい組織）作りの方法について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションを起こすための組織体制について説明できるようになること（関連目標②④）。	
		事前学修	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年、125～148頁（第7章）、149～185頁（第8、9章）を熟読し、社会的ネットワーク論とイノベーションの関係について考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーション組織が説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	イノベーションの評価	イノベーションの進展を評価するしくみとして、バランス・スコアカードが適用できる。イノベーション評価のツールとしてのバランス・スコアカードについて学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションの進捗を評価する手法としてのBSC的使用方法について、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181頁を熟読する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、バランス・スコアカードについて説明できるようになる。	60分
14	第一部 水12/23	イノベーションと経営戦略	「事業定義（経営戦略）→イノベーション→企業成長」という経営における一連の因果関係に直目し、本講座の意義について学修する。	
		この回の到達目標	イノベーションと経営戦略の関係について、説明できるようになること（関連目標①）。	
		事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年、1～33頁（前期配布済み）を読み、イノベーション、経営戦略、企業成長の関係について考察する。	180分
		事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーション企業成長の関係について説明できるようになる。	60分
15	第一部 水1/13	まとめ	イノベーションの定義、イノベーションとバリューチェーン、イノベーションのライフサイクル、イノベーションの連続性、イノベーションとアーキテクチャ、イノベーションと知財、イノベーションとBOP、イノベーション組織、イノベーションの評価、イノベーションと経営戦略といった項目のポイントについて振り返る。	
		この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
		事前学修	期末課題（イノベーションのケース）の作成。	200分
		事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) I	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
我々の生活はどこかで「ビジネス」との接点がある。特に、大学生である諸君にとっては、これからよりビジネスとの関わりが増えることになる。本講義では、ビジネスとの関わりを商法（会社法など）をはじめとした法律学の側面から切り取って分析する。とりわけビジネスの主体となる株式会社を管理・運営する取締役あるいは取締役会について深く学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの主体となる株式会社を管理・運営する取締役あるいは取締役会に関する法的知識を涵養することを目的とする。講義を通じて、受講生が社会生活とビジネスとの接点を見出し、それらを法的に分析することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法関連科目を履修していることが望ましい

【授業方法】
基本的に講義形式をとる。受講生数によっては対話型（ソクラテスマソッド）を用いた講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員と受講生との対話型の講義を行い、本講義に関わる主要な法的論点などを討議する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取締役・取締役会に関する法システムの全体構造とその特質を識別することができる。				1	1						
②	取締役・取締役会に関する主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				2	2						
③	取締役・取締役会についての主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。				2	2						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、最終回の試験で評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における問答の準備において到達目標②が身についているかを、問答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		20	20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
コメントシートの内容について次回以降の授業で教員がコメントする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
取締役・取締役会制度	近藤光男	中央経済社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	ガイダンス 取締役・取締役会制度の基礎	講義のガイダンスを行う。取締役・取締役会制度についてのアウトラインを学ぶ。	
		この回の到達目標	講義の全体像を把握するとともに、取締役・取締役会制度についての概要を理解する。	
		事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み、取締役・取締役会制度に関わる記事を確認する。	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の取締役・取締役会制度に関する記事を改めて読み返す。	120分
2	4月13日	取締役制度の変遷	取締役制度の変遷を学ぶ。	
		この回の到達目標	わが国の取締役制度の歴史を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
3	4月20日	取締役の選任・終任①	取締役についての概要を学ぶとともに、取締役の員数、取締役の資格について学修する。	
		この回の到達目標	どのようなビジネスパーソンが取締役に就任するか理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
4	4月27日	取締役の選任・終任②	取締役の選任とその手続について学修する。	
		この回の到達目標	取締役の選任プロセスを理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
5	5月4日	取締役の選任・終任③	取締役の解任について学修する。	
		この回の到達目標	取締役の解任に係る法的問題を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
6	5月11日	取締役会①	取締役会についてその概要を学修する。	
		この回の到達目標	取締役会の概要について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	取締役会②	取締役会の権限について学修する。	
		この回の到達目標	取締役会の権限について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	5月25日	取締役会③	取締役会決議について学修する。	
		この回の到達目標	取締役会決議について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	6月1日	取締役会④	内部統制システムについて学修する。	
		この回の到達目標	内部統制システムについて理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	6月8日	取締役会⑤	取締役会の運営について学修する。	
		この回の到達目標	取締役会の運営について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	6月15日	取締役会⑥	取締役に係る発展的問題点を学修する。	
		この回の到達目標	取締役に係る発展的問題点を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	6月22日	代表取締役①	代表取締役の概要を学修する。	
		この回の到達目標	代表取締役の概要を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	代表取締役②	代表取締役の権限とその法律問題を学修する。	
		この回の到達目標	代表取締役の権限とその法律問題について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	7月6日	取締役の業務執行	取締役の業務執行を学修する。	
		この回の到達目標	取締役の業務執行を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	7月13日	学期末試験 まとめ	講義で学んだ項目を試験する。	
		この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) Ⅱ	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
我々の生活はどこかで「ビジネス」との接点がある。特に、大学生である諸君にとっては、これからよりビジネスとの関わりが増えることになる。本講義では、ビジネスとの関わりを商法（会社法など）をはじめとした法律学の側面から切り取って分析する。とりわけビジネスの主体となる株式会社を管理・運営する取締役あるいは取締役会について深く学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの主体となる株式会社を管理・運営する取締役あるいは取締役会に関する法的知識を涵養することを目的とする。講義を通じて、受講生が社会生活とビジネスとの接点を見出し、それらを法的に分析することができようなることを目標とする。

【履修条件】
民法関連科目を履修していることが望ましい

【授業方法】
基本的に講義形式をとる。受講生数によっては対話型（ソクラテスマソッド）を用いた講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員と受講生との対話型の講義を行い、本講義に関わる主要な法的論点などを討議する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取締役・取締役会に関する法システムの全体構造とその特質を識別することができる。				1	1						
②	取締役・取締役会に関する主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				2	2						
③	取締役・取締役会についての主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。				2	2						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、最終回の試験で評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における問答の準備において到達目標②が身についているかを、問答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		20	20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
コメントシートの内容について次回以降の授業で教員がコメントする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
取締役・取締役会制度	近藤光男	中央経済社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	社外取締役①	社外取締役の概要を学修する。	
		この回の到達目標	社外取締役の概要を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
2	9月21日	社外取締役②	社外取締役に関する平成26年会社法改正および令和元年会社法改正を学修する。	
		この回の到達目標	社外取締役に関する平成26年会社法改正および令和元年会社法改正を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
3	9月28日	社外取締役③	社外取締役に関する法的諸問題を学修する。	
		この回の到達目標	社外取締役に関する法的諸問題を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
4	10月5日	監査等委員会設置会社の取締役	監査等委員会設置会社の取締役について学修する。	
		この回の到達目標	監査等委員会設置会社の取締役について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
5	10月12日	指名委員会等設置会社の取締役	指名委員会等設置会社の取締役について学修する。	
		この回の到達目標	指名委員会等設置会社の取締役について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
6	10月19日	取締役の責任①	取締役の善管注意義務を学修する。	
		この回の到達目標	取締役の善管注意義務について理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	取締役の責任②	経営判断原則の概要を学修する。	
		この回の到達目標	経営判断原則の概要を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	11月9日	取締役の責任③	経営判断原則の判例・裁判例を学修する。	
		この回の到達目標	経営判断原則の判例・裁判例を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	11月16日	取締役の責任④	経営判断原則の応用問題を学修する。	
		この回の到達目標	経営判断原則の応用問題を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	11月23日	取締役の責任⑤	監視義務の概要を学修する。	
		この回の到達目標	監視義務の概要を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	11月30日	取締役の責任⑥	監視義務の判例・裁判例を学修する。	
		この回の到達目標	監視義務の判例・裁判例を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	12月7日	取締役の責任⑦	取締役による利益相反行為を学修する。	
		この回の到達目標	取締役による利益相反行為を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	取締役の報酬①	取締役の報酬の概要を学修する。	
		この回の到達目標	取締役の報酬の概要を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	12月21日	取締役の報酬②	取締役の報酬について令和元年会社法改正を学修する。	
		この回の到達目標	取締役の報酬について令和元年会社法改正を理解する。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	1月18日	期末試験 まとめ	講義で学んだ事項が理解できているか確認する。	
		この回の到達目標	後期で学んだ事項を理解できているかチェックする。	
		事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

科目名	経済学 I	担当者	川又 祐	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	経済学Ⅰを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。	120分
3	第一部水 4/22	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線、供給曲線を自分で描く。	120分
4	第一部水 4/29	経済学の基本問題と経済学の課題(3)	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の歴史を整理する。	120分
5	第一部水 5/6	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数と無差別曲線を自分で描く。	120分
6	第一部水 5/13	消費者行動の理論(2)	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、予算制約戦を自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部水 5/20	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	第一部水 5/27	生産者行動の理論(2)		企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産関数を自分で描く。	120分
9	第一部水 6/3	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、供給曲線を自分で描く。	120分
10	第一部水 6/10	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分
11	第一部水 6/17	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
12	第一部水 6/24	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、独占市場の概念を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	不完全競争市場(2)	価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、価格差別の概念を整理する。	120分
14	第一部水 7/8	不完全競争市場(3)	不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	第一部水 7/15	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後解説、または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。期末試験の解説を後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷。川又編著	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	【ガイダンス，導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会科学の中の経済学の分析対象と分析手法、及び経済学の体系について理解し説明することが出来る。	
		事前学修	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	4月14日	【経済学の基本問題と経済学の課題1】	経済と経済学の関係、経済学の主要テーマが何であることを説明できる。経済学の分類を学習し説明できる。経済循環の構造を学習し、消費者（家計）、企業、政府との財や金の流れから経済主体のつながりを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の主要テーマ、経済学の分類、市場を介した経済循環の構造、さらに、市場経済・計画経済・混合経済の相違点、を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「1. 経済と経済学」「2. 経済循環の構造」「3. 市場経済・計画経済・混合経済」の部分再度読み、経済と経済学の関係、経済用語の概念を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、第1章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4月21日	【経済学の基本問題と経済学の課題2】	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学修して市場機構の仕組みを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の概念、市場の価格決定メカニズム、市場による資源配分機能を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「4. 市場機構の仕組み」を読み、市場機構の大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、需要曲線や供給曲線が移動すると価格と生産量はどのように変化するか、作図してみよう。（2時間）	120分
4	4月28日	【経済学の歴史】	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の発展過程、及び歴史上の著名な経済学者の学説の特徴を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「5. 経済学の歴史」を読み、歴史に残る著名な経済学者の時代的背景や学説を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、スミス、マルクス、ケインズの経済学の特質について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5月5日	【消費者行動の理論1】	消費者行動とは何か、また、消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析の基本となる効用関数、無差別曲線の基礎的概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「1. 消費者行動」「2. 効用関数と無差別曲線」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を解いてみる。	120分
6	5月12日	【消費者行動の理論2】	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得が変化や財の価格が変化が、消費者の財購入にどう影響するか説明できる。また、財の価格変化と消費者の購入量変化から消費者の需要曲線の導出を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算制約線と無差別曲線の基礎的概念を用いて、市場の需要曲線の導き方を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「3. 最適消費の決定」「4. 所得変化と価格変化の効果」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、章末にある問題（3）と（4）を解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	【小テスト、まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学習した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、経済の基本的課題、市場の機能と資源配分、経済学の実証分析対象と分析方法、経済学の歴史、消費者行動に関する理論について基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
8	5月26日	【生産者行動の理論1】	生産者の行動とは何を意味するのか学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者行動分析の基礎となる生産関数、等量曲線、技術的限界代替率、生産可能性フロンティアの基礎的 개념を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「1. 生産者の行動」、「2. 生産関数と等量曲線」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（1）を解いてみる。	120分
9	6月2日	【生産者行動の理論2】	企業が財を生産する際の費用にどのような分類が経済学で用いられているのか、固定費用、可変費用、総費用、平均費用、平均可変費用、限界費用といったさまざまな費用の基礎的 概念を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が財を生産する際の費用にどのような分類が経済学で用いられているのか、さまざまな費用の基礎的 概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「3. 費用関数」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（2）について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6月9日	【生産者行動の理論3】	最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習し、さらに、財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財の市場価格と生産における限界費用が等しくなるところで利潤が最大化すること。財の価格が変化すると限界費用との一致が変化し、企業は生産量を変化させることになること。価格変化と限界費用が一致する軌跡から企業の供給曲線の導出を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「4. 最適生産の決定」、「5. 供給曲線」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。	120分
11	6月16日	【競争市場均衡1】	完全競争市場の概念を学習、また、市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習によって、市場均衡の概念、市場均衡の安定性、について説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場の概念、各個人の需要曲線を集計した市場の需要曲線の導出、また各企業の供給曲線を集計した市場の供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、市場均衡の安定性について、それぞれ理解し悦名出来る。	
		事前学修	教科書 第4章の「1. 競争市場」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明でまとめる。	120分
12	6月23日	【競争市場均衡2】	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習し、その概念を説明できる。さらに、市場の需要曲線、供給曲線のシフト（移動）の原因を学習して、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済を研究するうえで重要な概念である効率の意味を余剰の概念を用いて理解し説明できる。さらに市場における需要曲線および供給曲線のシフトの概念を理解し、市場価格の変化を説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章「2. 余剰分析」、「3. 比較静学」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布資料を確認し、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	【独占市場】	独占市場とはどのような市場をいうのか、また、独占企業の生産量決定にどのような特徴があるのか完全競争市場下の企業と比較して学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全独占市場とはどのような市場をいうのか、なぜ独占が生じるのか、完全競争市場と比較して理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章「1. 不完全競争市場とは」、「2. 完全独占市場とは」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、完全競争市場に在る企業の個別需要曲線と独占企業の個別需要曲線の相違について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7月7日	【独占市場と社会的損失】	独占による社会的損失はどうして発生するのか、完全競争市場と比較して説明できる。さらに、独占企業は、同一の財について顧客ごとに異なる価格を付けることによって、利潤を最大かしようとすることがある。このことを価格差別という。価格差別戦略の実態を身近な経済取引から説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占による社会的損失はどうして発生するのか、完全競争市場と比較して理解し説明できる。また、われわれの身近な経済取引から企業の価格差別戦略（学生割引、シルバー割引等）を体験していること、なぜ企業はその様な行動を取るのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の2の「C 独占による社会的損失」「D 価格差別戦略」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、企業による身近な価格差別戦略の事例を検索してみる。また、章末の問題（1）と（2）について自分なりの説明でまとめる。	120分
15	7月14日	【独占的競争と寡占市場】	独占的競争、製品の差別化、広告・ブランド戦略、寡占市場での競争の各概念を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占的競争、製品の差別化、広告・ブランド戦略、寡占市場での競争の各概念を学習し独占寡占企業のさまざまな行動概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「3. 独占的競争・寡占市場とは」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（3）について自分なりの説明でまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。	180分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特に条件は無し。経済学の基本から学ぶため、高校生の時やこれまでに政治経済を学んだことがなくても問題は無い。経済学Ⅱも継続して履修すると、より楽しく学べるだろう。

【授業方法】
【授業区分】にしたがって講義形式で進める。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布する。				

【オフィスアワー】
木曜授業後（12:10～）に講堂で受け付けるが、事前に下記のアドレスにメールを送ること。hideaki_saito318@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】経済学とは、	ガイダンス ・履修上の注意点、成績評価の方法等の説明 ・授業でどのようなことを学ぶのか	
		この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えをする。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かを考える。また、授業を受ける心構えをする。	180分
2	第一部 木4/16	【理論】経済学の見方・考え方について。	経済学の見方・考え方を身に付けよう（1） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の見方を理解し、授業で学んだ内容を使って例文を作れるようにする。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	経済の見方・考え方を確認して、実生活での具体例を考える。	180分
3	第一部 木4/23	【理論】経済学の見方・考え方について。	経済学の見方・考え方を身に付けよう（2） ・見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の見方を理解し、授業で学んだ内容を使って例文を作れるようにする。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	経済の見方・考え方を確認して、実生活での具体例を考える。	180分
4	第一部 木4/30	【理論】経済の三主体について。	経済の主役は誰だろうか（1） ・家計の目的と役割	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済の中での家計の目的と役割を理解する。	
		事前学修	私たちはどのように行動をするか考える。	60分
		事後学修	家計の目的と役割を確認する。	180分
5	第一部 木5/7	【理論】経済の三主体について。	経済の主役は誰だろうか（2） ・企業の目的と役割	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済の中での企業の目的と役割を理解する。	
		事前学修	企業の行動基準を考える。	60分
		事後学修	企業の目的と役割を確認する。	180分
6	第一部 木5/14	【理論】経済の三主体について。	経済の主役は誰だろうか（3） ・政府の目的と役割、三主体の関係	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済の中での政府の目的と役割を理解する。	
		事前学修	政府はどのようなことを私たちにしてくれているのか考える。	60分
		事後学修	政府の目的と役割を確認する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	【理論】消費者の行動について.	消費者の行動を考えてみよう（１） ・無差別曲線と予算制約線	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無差別曲線と予算制約線について理解する.	
		事前学修	自分がお小遣いやアルバイト代をどのように使っているか考えてみる.	60分
		事後学修	予算制約線と無差別曲線のグラフを自分で描き、理解を深める.	180分
8	第一部 木5/28	【理論】消費者の行動について.	消費者の行動を考えてみよう（２） ・最適消費の決定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、効用最大となる消費者行動を理解する.	
		事前学修	最も幸せを感じられるお金の使い方を考えてみる.	60分
		事後学修	最適消費点をグラフで説明できるようにする.	180分
9	第一部 木6/4	【理論】消費者の行動について.	消費者の行動を考えてみよう（３） ・所得効果と代替効果	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、所得効果と代替効果を理解する.	
		事前学修	お小遣いやアルバイト代が増えた場合のお金の使い方の変化を考えてみる.	60分
		事後学修	所得効果と代替効果をグラフを使って説明できるようにする.	180分
10	第一部 木6/11	【理論】企業の行動について.	生産者の行動を考えてみよう ・生産要素が1つの場合	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業の生産行動について理解する.	
		事前学修	企業の行動基準を思い出す.	60分
		事後学修	生産は何によって行われているか確認しておく.	180分
11	第一部 木6/18	【理論】市場分析について.	価格と取引量の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場での取引を理解する.	
		事前学修	どのような時に取引が行われるか考えてみる.	60分
		事後学修	市場、需要、供給の言葉の意味を整理する.	180分
12	第一部 木6/25	【現象】政策の影響について.	価格と取引量の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、需要曲線と供給曲線がシフトしたときの影響を理解する. 到達目標③④に関連して、政府の政策が市場に与える影響を理解する.	
		事前学修	何を基準にして財・サービスを購入するか考えてみる.	60分
		事後学修	政府が市場に介入した場合の影響をグラフを使って説明できるようにする.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	【理論】外部性と公共財について.	市場が上手く機能しないと何が起こるか（１） ・外部性，公共財	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，外部性と公共財の意味と市場への影響を理解する.	
		事前学修	自分の住んでいる市区町村が提供しているサービスを探してみる.	60分
		事後学修	政府の存在理由を整理する.	180分
14	第一部 木7/9	【理論】不完全競争市場について.	市場が上手く機能しないと何が起こるか（２） ・不完全競争市場	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，独占市場での価格決定過程を理解する. 到達目標③④に関連して，完全競争市場に近づける方法を考える.	
		事前学修	価格が一方向的に決められている財・サービスを探してみる.	60分
		事後学修	不完全市場の弊害を復習する.	180分
15	第一部 木7/16	【総括】前期授業の復習.	授業のまとめと復習 ・授業の復習 ・準備のポイント説明	
		この回の到達目標	前学期末試験に向けて授業の復習をし，理解を深める.	
		事前学修	第2回～第14回の内容を振り返る.	60分
		事後学修	これまでの内容を復習して，試験に備える.	180分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。なお、授業中に小テストを数回実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 経済学入門 [第2版]	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	1 経済と経済学 2 経済循環の構造 3 市場経済・計画経済・混合経済	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済学とはどのような学問であるか説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「経済学とは何か」と「ミクロ経済学とマクロ経済学の違い」について理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
2	第一部 水4/15	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	4 市場機構の仕組み 5 経済学の歴史	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場と合理的行動、経済学の大きな流れについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場」と「合理的行動」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
3	第一部 水4/22	消費者行動の理論(1)	1 消費者行動 2 効用関数と無差別曲線	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、効用と無差別曲線について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
4	第一部 水4/29	消費者行動の理論(2)	3 最適消費の決定	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「予算制約線」の概念と「最適消費の決定」の理論を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
5	第一部 水5/6	消費者行動の理論(3)	4 所得変化と価格変化の効果	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、所得と価格の変化に対する需要の変化について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、価格と所得が変化した場合に、それぞれ需要関数がどのように変化するかを理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
6	第一部 水5/13	生産者行動の理論(1)	1 生産者の行動 2 生産関数	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生産関数と技術的限界代替率について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「生産関数」と「等量曲線」、「生産可能性フロンティア」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 水5/20	生産者行動の理論(2)	3 費用関数
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
8	第一部 水5/27	生産者行動の理論(3)	4 最適生産の決定
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、企業の生産量決定のメカニズムについて説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「利潤最大化条件」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
9	第一部 水6/3	生産者行動の理論(4)	5 供給曲線
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、供給曲線の導出について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「損益分岐点」と「操業停止点」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
10	第一部 水6/10	競争市場均衡(1)	1 競争市場
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場均衡と均衡の安定性について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場需要曲線」と「市場供給曲線」、「市場均衡」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
11	第一部 水6/17	競争市場均衡(2)	2 余剰分析
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、社会的余剰について説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「消費者余剰」と「生産者余剰」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分
12	第一部 水6/24	競争市場均衡(3)	3 比較静学
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、需要曲線と供給曲線のシフトについて説明できる。
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「需要曲線のシフト」と「供給曲線のシフト」を理解するように努力すること。120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	不完全競争市場(1)	1 不完全競争市場とは 2 完全独占市場	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、独占市場の社会的余剰について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占企業の行動」と「価格差別戦略」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
14	第一部 水7/8	不完全競争市場(2)	3 独占的競争・寡占市場とは	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、独占的競争と寡占市場について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占的競争」と「寡占市場」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
15	第一部 水7/15	まとめ	ここまでの内容の確認と復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者行動の理論と企業行動の理論、市場均衡について総合的に説明できる。	
		事前学修	教科書の1章から5章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理して、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	経済学 I	担当者	横溝 えりか	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、 事前にアポイントメントを取ること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	経済学Ⅰを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月13日	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
3	4月20日	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
4	4月27日	経済学の基本問題と経済学の課題(3)	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
		事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
5	5月4日	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
6	5月11日	消費者行動の理論(2)	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月18日	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
8	5月25日	生産者行動の理論(2)		企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
9	6月1日	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
10	6月8日	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
11	6月15日	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
12	6月22日	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	不完全競争市場(2)	価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	7月6日	不完全競争市場(3)	不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	7月13日	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 9/23	国民所得のさまざまな概念	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。	
		事前学修	教科書(第6章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	第一部水 9/30	均衡国民所得の決定(1)	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得決定理論を整理する。	120分
4	第一部水 10/7	均衡国民所得の決定(2)	国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線を描く。	120分
5	第一部水 10/14	貨幣と金融(1)	貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲を説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の役割を整理する。	120分
6	第一部水 10/21	貨幣と金融(2)	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類について説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、金融の概念を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	IS-LM分析と財政・金融政策 (1)	財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得決定理論を整理する。	120分
8	第一部水 11/11	IS-LM分析と財政・金融政策 (2)	財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習し、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を説明できる。また、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章4節、5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政政策と金融政策を整理する。	120分
9	第一部水 11/18	財政学の基礎	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について説明できる。	
		事前学修	教科書(第10章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の役割を整理する。	120分
10	第一部水 11/25	公共経済学の基礎(1)	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。	120分
11	第一部水 12/2	公共経済学の基礎(2)	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのかを学習し、どのような調整策があるかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのか、さらに、どのような調整策があるかを説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章3節、4節、5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗への対策を整理する。	120分
12	第一部水 12/9	日本経済論	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、日本の戦後経済史を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	国際経済学入門(1)	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産フロンティアの概念を整理する。	120分
14	第一部水 12/23	国際経済学入門(2)	オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを学習し、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを通じて、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政政策と金融政策の効果を整理する。	120分
15	第一部水 1/13	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内で解説、または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。期末試験の解説を後日ポータルを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷・川又編著	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月 15日	【ガイダンス，導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マクロ経済学の分析対象と分析方法、金融論の基礎的体系、財政学の基礎的体系、公共経済学の基礎的体系国際経済学の基礎的体系について理解し説明することが出来る。	
		事前学修	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月 22日	【国民所得のさまざまな概念1】	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、さらに、国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎的概念である国民所得、三面等価の原則、国内総生産（GDP）、名目GDPと実質GDPについて学習し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マクロ経済学の基礎的概念である国民所得、三面等価の原則、国内総生産（GDP）、名目GDPと実質GDPについて理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 「第6章 国民所得のさまざまな概念」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	9月 29日	【均衡国民所得の決定1】	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習し、説明できる。また、所得と消費支出の関係を表す消費関数を学習し、さらに投資が増えると国民所得が増えること、投資が増えると投資額の数倍の国民所得が増えるという乗数効果の理論を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得の大きさは総需要と総供給が等しくなるときに決まることを理解し説明できる。消費関数とは何か、乗数効果の概念は何かについて理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「1. 総需要と総供給」、「2. 消費、投資と乗数効果の関係」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末にある問題を解いてみる。	120分
4	10月6日	【均衡国民所得の決定2】	国民所得の規模決定に関する重要な恒等式と作図によって学習し説明できる。また、政府支出が拡大すると経済波及効果によって政府支出の乗数倍国民所得が増えることを説明できる。さらに、租税が国民所得に与える影響を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得の大きさはどのように決まるのかを理解し説明できる。乗数効果の概念を理解し説明できる。減税は、国民所得の大きさにどの程度影響を与えるのか租税乗数の概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「3. 政府支出拡大と減税の効果」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、以下の問題を解きなさい。 $C=40+0.6Y$ （消費関数）、 $I=100$ （投資額）、 $G=50$ （政府支出額）のとき、 （問） Y （ $GDP=$ 国民所得）の金額を求めよ。	120分
5	10月13日	【金融論の基礎－金融とは何か、貨幣とは何か】	金融とは何かを理解するために金融の役割、金融機関、直接金融・間接金融をそれぞれ学習し説明できる。さらに、貨幣とは何かを理解するために貨幣の機能、貨幣の範囲について学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金融の役割、金融機関、直接金融・間接金融の概念をそれぞれ理解し説明できる。さらに、貨幣の機能、貨幣の範囲について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「1. 金融とは」、「2. 貨幣とは」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10月20日	【金融論の基礎－金利とは】	金利と利回りの概念を学習し、概念の違いを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金利及び利回りの概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「3. 金利とは」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（3）と（4）について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	【小テスト、まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標②③に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得決定、金融論の基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
8	11月10日	【財政学の基礎1】	経済循環の図によって、政府と民間部門（家計、企業）のつながりを学習する。さらに、財政の役割、財政経費、租税について学習して説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府と民間部門との間の財サービスと貨幣の流れ、財政の役割、財政経費、租税の意義を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章 「1. 政府の経済活動」、「2. 財政 A財政の役割、B経費、C租税」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）（2）について、回答する。	120分
9	11月17日	【財政学の基礎2】	公債発行と日本の発行残高の現状、公的年金制度の仕組み、財政政策の概念、日本財政の抱える財政赤字と世代間の負担の不公平について学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、公債発行と日本の発行残高の現状、公的年金制度の仕組み、財政政策の概念、日本の財政が抱える問題を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章 「2. 財政 A財政の役割、B経費、C租税」、「3. 日本の財政問題」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（3）について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11月24日	【公共経済学と市場の失敗】	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴点であることを学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場の失敗するケースの意味を理解し、公共経済学の研究目的が市場の失敗を調整する方法を示すことにあることを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第10章の「1. 公共経済学とは何か」、「2. 市場の機能と失敗」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	市場の機能とメリットは何か、教科書、講義ノートと配付資料を確認して、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12月1日	【公共財、外部性と市場の失敗】	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適（効率的）資源配分を実現することが出来ないのか学習し、どのような調整策があるか説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、公共財の概念、外部性の概念を学修し、なぜ市場は公共財の最適供給に失敗し、また、外部性の問題を処理できないのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第10章の「3. 公共財の供給」、「4. 外部性」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題を解いてみる。	120分
12	12月8日	【国際経済学の基礎－貿易と余剰、比較優位】	貿易と余剰、比較優位を学習し、なぜ貿易が行われ、どのような財が国際間で貿易の対象となるのか国際経済学の基礎を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、貿易と余剰、比較優位の概念を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の「1. 国際貿易の基礎理論」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 5 日	【国際経済学の基礎－外国為替相場、国際通貨制度、国際収支統計】	外国為替相場、国際通貨制度、国際収支統計、国民経済計算と国際収支との関連について学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、外国為替相場の決定、国際通貨制度（固定相場制、変動相場制）、国際収支統計の各概念、及び国民経済計算と国際収支との関連について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の「2. 外国為替相場と国際収支」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	1 2 月 2 2 日	【日本経済論①－高度経済成長とその終焉】	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習して説明できる。さらに、高度経済成長の終焉を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、戦後からの復興、占領下の三大構造改革、朝鮮戦争特需の意義を理解し説明できる。高度経済成長を可能とした要因及び高度経済成長の終焉を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第12章の「1. 占領政策と戦後復興、2. 高度経済成長とその終焉」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（1）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1 月 1 2 日	【日本経済論②－バブル経済の発生とその崩壊】	バブル経済の発生とその崩壊、小泉構造改革とアベノミクスを学習し、バブル経済発生の背景と崩壊原因、小泉構造改革の特徴と時代背景、アベノミクスの概要を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バブル経済発生の背景と崩壊原因、小泉構造改革の特徴と時代背景、アベノミクスの概要を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第12章の「3. バブル経済とその崩壊、4. 小泉構造改革とアベノミクス」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	章末の問題（2）（3）について、自分なりの説明をまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。	200分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特に条件は無し。経済学の基本から学ぶため、高校生の時やこれまでに政治経済を学んだことがなくても問題は無い。経済学Ⅰも併せて履修すると、より楽しく学べるだろう。

【授業方法】
【授業区分】にしたがって講義形式で進める。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布する。				

【オフィスアワー】	
木曜授業後（12:10～）に講堂で受け付けるが、事前に下記のアドレスにメールを送ること。hideaki_saito318@yahoo.co.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】経済学とは、	ガイダンス ・履修上の注意点、成績評価の方法等の説明 ・授業でどのようなことを学ぶのか	
		この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えを持つ。	
		事前学修	新聞やニュース等で経済について触れる。	60分
		事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かを考える。また、単位取得のための心構えをする。	180分
2	第一部 木9/24	【理論】産業連関表について、	国の経済規模を計ってみよう ・国民経済計算 ・産業連関表	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、産業連関表が読み取れるようにする。	
		事前学修	財が生産される過程を考える。	60分
		事後学修	産業連関表の見方を復習しておく。	180分
3	第一部 木10/1	【理論】国内総生産について、	「景気が良い」とはどういう状況だろう（1） ・GDPとは何か ・名目GDPと実質GDPの違い	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国内総生産の定義を説明できるようにする。	
		事前学修	国内総生産の意味を調べておく。	60分
		事後学修	名目と実質の違いを説明できるようにする。	180分
4	第一部 木10/8	【理論】景気循環について、	「景気が良い」とはどういう状況だろう（2） ・国民所得が変化する理由 ・景気の移り変わり	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、景気の局面を説明できるようにする。	
		事前学修	どんな時に景気が良いと感じるか考えてみる。	60分
		事後学修	景気循環を整理する。	180分
5	第一部 木10/15	【理論】国民所得の決定について、	国民所得をコントロールすることは可能か ・45度線分析を使った国民所得の決定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民所得決定過程を理解する。	
		事前学修	三面等価の原則を思い出しておく。	60分
		事後学修	国民所得決定過程ををグラフを使って説明できるようにする。	180分
6	第一部 木10/22	【理論】IS-LM分析、	国民所得を増やす方法を考えてみよう（1） ・財市場とIS曲線	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、IS曲線の表すものを理解する。	
		事前学修	GDPの構成要素を確認しておく。	60分
		事後学修	IS曲線の求め方を復習し、自分で導出できるようにする。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	【理論】IS-LM分析.	国民所得を増やす方法を考えてみよう（2） ・財政の仕組みと財政政策	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政政策を理解する.	
		事前学修	政府の目的と役割を思い出しておく.	60分
		事後学修	財政政策の効果と弊害を確認する.	180分
8	第一部 木11/5	【理論】貨幣の役割について.	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣がもたらす影響	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣の特徴と機能を理解する.	
		事前学修	貨幣の種類を調べておく.	60分
		事後学修	貨幣の機能を復習しておく.	180分
9	第一部 木11/12	【理論】IS-LM分析.	別の方法で国民所得を増やしてみよう（1） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、LM曲線の表すものを理解する.	
		事前学修	貨幣需要と貨幣供給の意味を調べておく.	60分
		事後学修	LM曲線の導出方法を復習する.	180分
10	第一部 木11/19	【理論】IS-LM分析.	別の方法で国民所得を増やしてみよう（2） ・IS曲線とLM曲線の統合	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グラフを利用して均衡国民所得と均衡利子率を図示できるようにする。 到達目標③④に関連して、国民所得を増加させる方法を説明できるようにする.	
		事前学修	IS曲線とLM曲線の求め方を確認しておく.	60分
		事後学修	均衡利子率と均衡国民所得を求められるようにする.	180分
11	第一部 木12/3	【現象】公債について.	日本が抱えている問題を知ろう ・公債とは何か ・公債発行の弊害	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政状況を理解する.	
		事前学修	公債の種類を調べておく.	60分
		事後学修	公債は誰の負担になるか説明できるようにする.	180分
12	第一部 木12/10	【理論】租税について.	稼いだお金はすべて自分のものか（1） ・租税とは何か ・租税原則.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府が租税を徴収する根拠を理解する.	
		事前学修	日本にある租税を調べておく.	60分
		事後学修	租税原則を確認し、問題点は無いか考える.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	【理論】身近な租税について.	稼いだお金はすべて自分のものか（2） ・所得税と住民税の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，所得税と住民税の構造を理解する.	
		事前学修	所得，課税対象所得とは何か調べておく.	60分
		事後学修	所得税の問題点を整理しておく.	180分
14	第一部 木12/24	【理論】身近な租税について.	稼いだお金はすべて自分のものか（3） ・消費税の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，消費税の構造を理解する.	
		事前学修	身近にある消費税がかかる財・サービスを考える.	60分
		事後学修	消費税の納税先を確認する.	180分
15	第一部 木1/14	【総括】後期授業の復習.	授業のまとめと復習 ・授業の復習 ・試験準備のポイント説明	
		この回の到達目標	後学期末試験に向けてこれまでの授業を復習し，理解を深める.	
		事前学修	第2回～第14回の内容を振り返る.	60分
		事後学修	これまでの内容を復習して，試験に備える.	180分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。なお、授業中に小テストを数回実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 経済学入門 [第2版]	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	国民所得のさまざまな概念 (1)	1 国民所得 3 国内総生産	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、付加価値の概念を使って国内総生産について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「付加価値」と「国内総生産（GDP）」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
2	第一部 水9/23	国民所得のさまざまな概念 (2)	2 三面等価の原則 4 名目と実質	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、三面等価の原則および名目GDPと実質GDPの違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「三面等価の原則」と「名目GDP」、「実質GDP」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
3	第一部 水9/30	均衡国民所得の決定(1)	1 有効需要の原理 2 消費、投資と乗数効果の関係(1) 総需要とケインズ型消費関数	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、ケインズ型消費関数と可処分所得の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「ケインズ型消費関数」と「限界消費性向」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
4	第一部 水10/7	均衡国民所得の決定(2)	2 消費、投資と乗数効果の関係(2) 乗数効果	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、乗数効果（メカニズム）について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「乗数」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
5	第一部 水10/14	均衡国民所得の決定(3)	3 政府支出拡大と減税の効果	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大および減税が均衡国民所得に与える効果について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「均衡国民所得」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
6	第一部 水10/21	金融論の基礎(1)	1 金融とは	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、金融システムと金融の役割について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金融の役割」と「直接金融と間接金融の違い」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	金融論の基礎(2)	2 貨幣とは 3 金利とは	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、貨幣の機能および金利と債券価格について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「貨幣の機能」および金利と債券価格の関係を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
8	第一部 水11/11	財政学の基礎(1)	1 政府の経済活動 2 財政	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府の経済活動と財政の3機能について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「資源配分」と「所得再分配」、「経済安定化」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
9	第一部 水11/18	財政学の基礎(2)	3 日本の財政問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の財政状況と今後の課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
10	第一部 水11/25	公共経済学の基礎(1)	1 公共経済学とは何か 2 市場の機能と失敗	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場の機能と市場が失敗する4つのケースについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場の失敗」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
11	第一部 水12/2	公共経済学の基礎(2)	3 公共財の供給 4 外部性 5 自然独占 6 公共経済学が扱うその他のテーマ	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、公共財と外部性、自然独占について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「公共財」と「外部性」、「自然独占」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
12	第一部 水12/9	国際経済学の基礎(1)	1 国際貿易の基礎理論	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自由貿易均衡や比較優位を通して貿易の経済効果について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「自由貿易均衡」と「比較優位」を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	国際経済学の基礎(2)	2 外国為替制度と国際収支	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、為替レートと貿易や金融取引、国際収支の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、為替レートと輸出入の関係を理解するように努力すること。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
14	第一部 水12/23	日本経済論	1 占領政策と戦後復興 2 高度経済成長とその終焉（石油危機） 3 バブル経済とその崩壊 4 小泉構造改革とアベノミクス	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦後からアベノミクスまでの日本経済の流れについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
15	第一部 水1/13	まとめ	ここまでの内容の確認と復習	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と財政学、公共経済学、国際経済学、日本経済論がどのようなものか説明できる。	
		事前学修	教科書の6章から12章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理して、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、事前にアポイントメントを取る

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月21日	国民所得のさまざまな概念	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。	
		事前学修	教科書(第6章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
3	9月28日	均衡国民所得の決定(1)	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
4	10月5日	均衡国民所得の決定(2)	国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
5	10月12日	貨幣と金融(1)	貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲を説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
6	10月19日	貨幣と金融(2)	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類について説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章3節、4節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	IS-LM分析と財政・金融政策(1)	財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析するIS-LM分析を説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
8	11月9日	IS-LM分析と財政・金融政策(2)	財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習し、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を説明できる。また、IS-LM分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第9章4節、5節、6節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
9	11月16日	財政学の基礎	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について説明できる。	
		事前学修	教科書(第10章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
10	11月23日	公共経済学の基礎(1)	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
11	11月30日	公共経済学の基礎(2)	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのかを学習し、どのような調整策があるかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのか、さらに、どのような調整策があるかを説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章3節、4節、5節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
12	12月7日	日本経済論	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	国際経済学入門(1)	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章1節、2節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	12月21日	国際経済学入門(2)	オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを学習し、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オープンマクロ経済政策として、マンデル=フレミングモデルを通じて、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第13章3節)をよく読む。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	1月18日	講義のまとめ	講義のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
		事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済行政法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、多数の規制が存在することも事実です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学び、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようにします。

【履修条件】
憲法、民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。

【授業方法】
講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	履修者が「行政上の規制」のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。		2		2				
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。		2		2				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7第二 部木4/9	経済行政法総論（総説）― ―経済行政法の位置づけ （1）	経済行政とは何か？公的規制と規制緩和の関係。民間化・民営化などのキーワードを説明し、これから本授業で扱う論点などを概説します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解でき、難しいキーワードが出てくるので、それらに慣れることを目指します。	
		事前学修	本授業で用いる教科書の最初（第1部のサマリー）を一読してみましょう。	120分
		事後学修	授業内容について次の回につなげられるよう、当日扱った教科書の該当箇所をもう一度読んでみましょう。次に出てくる具体例も想定してみてください。	120分
2	第一部火 4/14第二 部木4/16	経済行政法の位置付け （2）	経済行政上の規制のとらえ方、経済行政法の位置付け等について説明していきます。「経済行政法」という授業は、他の法律分野とは異なり位置づけが難しいところがあります。それを平易に解説します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、他の法律との関係性を具体的に説明できることを目指します。	
		事前学修	第1回目で取り上げた授業内容から、教科書ではどのような話が登場するのかを自分なりに考えてみましょう。	120分
		事後学修	第1回目と第2回目の授業内容を比較して、自分が接した時事問題とどのように関係するかを考えたいうえで、第3回目につなげてみましょう。	120分
3	第一部火 4/21第二 部木4/23	経済行政法の位置付け （3）	経済行政と法治主義、公的規制の機能、独禁法の適用関係などの多様な論点について、学んでいきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、基本的な概念と経済行政法との結びつきを具体例を交えて論じられることを目指します。	
		事前学修	第2回目の事後学習で踏まえた時事問題がどのように法的に問題となるのかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	今回の授業内容は、本授業の中でもっともコアとなり学習するうえでも基礎的な内容を含むものですので、応用的論点に移る前に今一度その内容を復習してみましょう。	120分
4	第一部火 4/28第二 部木4/30	経済行政法の位置付け （4）	経済行政の歴史と外国法のほか、隣接諸分野との関係として、憲法、民事法、経済法・独禁法、刑事法等を取り上げます。独禁法の適用関係は第3回目で触れていますが、ここで改めて触れることにします。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、外国法との関係性を意識するほか、隣接科目である経済法との接点に分かることを目指します。	
		事前学修	第3回目での基礎的な議論が、他の法分野とどのように関係するかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	他の法分野は受講生の中にはまだ学んだことのない諸君もおられるはずですので、今回の授業の復習を兼ねて、どのような法分野が経済行政法と関わり合いがあるのかを思い描いて見ましょう。	120分
5	第一部火 5/5第二 部木5/7	経済行政過程論（1）	経済行政の基本的前提となる二面関係・三面関係、および公法私法の関係等について取り上げます。これらは、行政法の講義でも触れる箇所ですが、経済活動を視野に入れて、具体例を織り交ぜながら検討します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、私たちに身近な時事問題とこの講義内容との関係性を明らかにできることを目指します。	
		事前学修	今回の授業から、法解釈の方法について学んでいきます。本授業では特に行政法・経済法（独禁法）との接点が密接なため、その両方（または行政法を中心）について、教科書を通じて学ぶよう心がけてください。	60分
		事後学修	理論的な問題、事例的な議論が複雑に絡み合ってきますので、その整理をこの段階ですてみましょう。	180分
6	第一部火 5/12第二 部木5/14	経済行政過程論（2）	経済行政の政策論であり、経済行政における政策、政策過程がどのように具体的課題と接点を持つかについて検討するものです。本来、法律は条文を解釈するものと思われがちですが、経済行政の世界では政策の実現可能性を踏まえた検討が必要ですので、このことを意識することになります。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、法律だけではなく政策の観点からどのような課題があるかを自ら発見できることを目指します。	
		事前学修	第5回目の事後学習を通じて得られた概念が、どのように実際に応用されているかを学ぶ必要があり、そのことがまさにこの回の授業内容になりますので、該当箇所の教科書を一読しておきましょう。	60分
		事後学修	授業では経済政策を中心としてどのように形成されていったのかといった歴史的な過程を中心に議論の対象にしていますので、これまで学んできた歴史を中心に、自分の知識と照らし合わせてみましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19第二 部木5/21	経済行政過程論（3）	経済行政計画は経済政策の実現のための具体的なロードマップを示したものですが、それがどのように形作られ、それとあわせて、実現過程の中で国民の意思がどのように反映されるのか（国民参加）について、学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政策形成に必要な経済行政計画の具体例について理解できることを目指します。	
		事前学修	経済政策の形成を歴史的にとらえる前回の授業に引き続き、それが具体的にどのような形になっていくのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	難しい言葉が連続して出てきますので、授業で扱われた専門的単語を今一度復習してみましょう。	120分
8	第一部火 5/26第二 部木5/28	経済行政過程論（4）	経済行政における行為形式（1）として、この回では行政立法について学びます。法律では規定されていない事柄について、いったいどのような形で「規制」するのかという視点から、説明していきます。その中でも、経済行政法として最も多用されている「通達」の形式について、その機能等を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、規制や通達という抽象的な概念が経済行政の世界でどのように機能しているかを理解できることを目指します。	
		事前学修	今回からは「行為形式」として、国や公の団体がどのように「規制」を行っているかという形式面について議論するものです。このため、できる限り「経済行政過程論」を扱う部分の教科書を、読むようにしておきましょう。	120分
		事後学修	複雑な構造を伴う「規制」を具体例を持って説明されますので、どのようにその「規制」が機能しているのかを、時事問題を交えながら考えてみてください。	120分
9	第一部火 6/2第二 部木6/4	経済行政過程論（5）	経済行政における行為形式（2）として、「行政処分」について学びます。行政法の履修者はこの表現に聞き覚えがあると思いますが、そうではない諸君に対して、ここでイメージ作りをしてもらうよう試みます。その内容としては、伝統的な整理方法のほかに、詳しい機能ごとに整理します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本講義の隣接科目である行政法の概念を用いることで、「規制」の概念を法的に理解できることを目指します。	
		事前学修	前回の授業で扱った形式以外のものを取り上げる観点から、該当箇所の教科書を読むようにしておきましょう。	60分
		事後学修	許認可と呼ばれる行為形式を今回は学びましたので、自ら日頃接する時事問題に照らして頭にその内容を吸収しましょう。	180分
10	第一部火 6/9第二 部木6/11	経済行政過程論（6）	経済行政における行為形式（3）として、「行政契約」という内容について、経済活動への「規制」という視点にてらして論じます。通常の契約は対等な当事者間で成立しますが、ここでは一方的な義務を負う側（国・公共団体等）に関する法的問題、その他、公のサービスを民間企業が行う場合の課題について、取り上げる予定です。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済活動が民間以外の公の機関によっても行われている実態を知りそこでの課題を理解できることを目指します。	
		事前学修	今回は前回までに学んだ行為形式とは違い、民法などで取り上げられる「契約」をベースにした議論になります。ですので、民法を履修中または履修済の諸君は、そこで学んでいる（学んだ）内容を思い浮かべながら、該当箇所の教科書を一読しましょう。	120分
		事後学修	今回は、行為形式の中でも、どのような実体があるのかという「現象面」で議論していますので、講義を通じてわかりにくいと感じる諸君については、そこで話された事実がどのように身近な場面で起きているかを思い浮かべるようにしてください。	120分
11	第一部火 6/16第二 部木6/18	経済行政過程論（7）	経済行政上のエンフォースメント（実効性確保）を取り上げます。独禁法などでは一般的な課徴金納付命令、公共的なサービスでは問題の多い役務提供拒否（給付拒否）などが、この具体例になります。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済活動が民間以外の公の機関によっても行われている実態を知りそこでの課題を理解できることを目指します。	
		事前学修	「規制」は表面上行われても、それが実際に受け手の側で守られなければ意味がありません。なので、該当箇所の教科書を読むことで、どのような手段がそのためにあるのかについて予習してみましょう。	120分
		事後学修	ここでも専門用語がたくさん出てきますので、一つ一つの意味合い（使われ方など）に気をつけながら、疑問点を集約しておきましょう。	120分
12	第一部火 6/23第二 部木6/25	経済行政過程論（8）	経済行政組織という名称で、「総合調整機能」といった複雑な問題の解決に関する具体的課題、そのた組織として独任制（大臣責任制）と合議制（第三者機関制）の関係性など、多様な方法の存在を意識して解説します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、行政上の規制を機能させる行政機関の仕組みを、具体例を通じて理解できることを目指します。	
		事前学修	経済行政における行為形式に取り上げた一連の手段は、かなり政策とからみ合わさりながら実行に移されていますので、該当箇所の教科書を一読することで、それらがどのような組織により実行されているのかを意識してみましょう。	120分
		事後学修	国や公の団体を動かすための組織に関するルールとして、今回取り上げた課題がどのような問題点をはらんでいるかについて、考えてみましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30第二 部木7/2	経済行政過程論（9）	具体的な主体として掲げられるものに、特殊法人、独立行政法人といった法的責任を負う主体があるほか、第三者機関として構成される審議会がどのように経済行政に関与しているかについて、具体例を交えながら論じます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、多数の意思形成機関の存在に注意を払う必要性と求められる機能を理解できることを目指します。	
		事前学修	前回で学んだ経済行政組織としてのルールを実際に運用する法的主体も多数存在するため、どのようなものが具体的にあるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	今回取り上げた法主体・機関は行政改革の議論の中でも、その存在意義が問われてきましたので、そのことを思い起こしてみましょう。	120分
14	第一部火 7/7第二 部木7/9	経済行政過程論（10）	経済行政の行政救済論として、経済行政法の特有の訴訟事例を学ぶための基礎知識を身につけることとなります。具体的には、全体像を眺めることと並び、行政訴訟を中心にその訴訟手続についてとりあげることにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本講義と関連する訴訟手続の基本を理解し、その応用事例の論点を明らかにできるよう目指します。	
		事前学修	ここからは訴訟手続の議論にはいりますが、そもそも裁判手続について聞き慣れない、または学んだことがない諸君がいる場合は、是非訴訟手続について書かれた書物を手に取りながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	訴訟手続が中心的な議論になりますので、頭に入ってきにくいことは事実です。ですので、しっかりと教科書で復習などしながら、授業中に取り上げた諸事例への当てはめ方について勉強しておきましょう。	120分
15	第一部火 7/14第二 部木7/16	経済行政過程論（11）	前回の授業中には十分取り上げられなかった裁判所による国・公の団体の活動に対するコントロールの方法や、損害賠償請求、損失補償等の訴訟事例や制度設計の方法について、取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、各種事例が訴訟手続の中でいかに扱われているかをより具体的に理解できることを目指します。	
		事前学修	前回の授業では主に訴訟手続を中心に議論していますが、それが実際にどのように行われるのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	今回までが経済行政法の総論部分となりますので、これまで学んだことを該当箇所の教科書を通じて自分なりにまとめるようつとめてください。	120分

科目名	経済行政法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、多数の規制が存在することも事実です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学び、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようにします。

【履修条件】
憲法、民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。

【授業方法】
講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	履修者が「行政上の規制」のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。		2		2				
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。		2		2				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15第二 部木9/17	経済行政法各論（総説）― ―事業規制・業務規制法制 （1）	経済行政法各論では、まずは「事業規制」・「業務規制」に関わる法制度について、その意味内容を理解することになります。このような用語方法は、本授業独特の側面があるので、その理解につとめます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解します。難しいキーワードが出てくるので、それらに慣れることを目指します。	
		事前学修	今回から経済行政法各論にはいっていきます。まずはどのような内容が各論で扱われるのかを、該当箇所の教科書（とりわけ教科書第2部要旨部分）を一読してみましょう。	120分
		事後学修	用語法の理解を通じて、各論で何が具体的に問題となりそうかについて、総論の復習も兼ねながら考えてみましょう。	120分
2	第一部火 9/22第二 部木9/24	事業規制・業務規制法制 （2）	伝統的に「公企業」とか「公共企業」と呼ばれてきたいわゆる「ネットワーク産業」に関する規制の初歩的な内容についてとりあげます。「ネットワーク産業」とは、電力・ガス、電気通信などの点と点を線で結ばなければ産業として成立しない分野ですが、これには多数の規制が存在していますので、その理解を理論的に説明します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、「ネットワーク産業」という特殊な分野の特質と規制の関係について理解できることを目指します。	
		事前学修	今回から、本当の意味の各論がはじまります。ここで取り上げる「公益事業」とは何を意味するかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	初めて聞く単語ばかりであり、「ネットワーク産業」に対する規制の理由は、経済学とも関係しますので、可能な限り、授業で扱った単語の基礎的理解を進めるよう心がけてください。	120分
3	第一部火 9/29第二 部木10/1	事業規制・業務規制法制 （3）	次回以降に触れる事業規制の具体的内容を踏まえるために、それらの諸規制に見られる共通した機能（公益性担保機能、行政監督機能、補完的機能）の意味、相関関係について取り上げます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、規制の様々な機能を法的に整理する方法について、その基準を理解できることを目指します。	
		事前学修	事業規制と業務規制という用語で分けた経済行政に関する「規制」について、多様な目的から成り立っていることを念頭に置き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	さまざまな規制にどのような機能が備わっているかをとらえることの大切さを、授業で取り上げた事例を通じて改めて検討し直してみましょう。	120分
4	第一部火 10/6第二 部木10/8	事業規制・業務規制法制 （4）	事業規制の中身として、参入規制を取り上げます。ネットワーク産業では複数の事業者間で競争が生ずることにより大きな影響（消費者への悪影響等）が考えられるため、従来、そのために独占を保護する規制が存在していた点を踏まえ、それに関連した多様な規制について説明していきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、競争との関係を意識したうえで、どのような規制がそれに対し必要とされているかを具体例を通じて理解できることを目指します。	
		事前学修	前回までに取り上げた内容として「市場」という言葉をキーワードとすることができることから、このキーワードがどのように事業規制と関係するのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	具体例を交えた規制の説明ですが、授業内では十分に議論できないところがあるので、自らインターネットや新聞報道等で補うように努めましょう。	120分
5	第一部火 10/13第二 部木 10/15	事業規制・業務規制法制 （5）	まずは規制の対象となる「料金」について学びます。その際、ネットワーク産業は私たちの生活にとって不可欠なサービスを提供するものと位置づけられることが多いのですが、それはまた、「公共料金」とも賞されることがあります。授業ではこのあたりを批判的にとらえながら、どのような規制が実際に存在しているかを取り上げます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、市場原理の根幹である料金設定について行政上の規制の機能やその具体的意義を理解できることを目指します。	
		事前学修	前回が参入規制を主としましたが、今回は事業者が本来自由に設定できる料金が規制される場合について学びますので、身近にある料金規制に関する諸事例を思い描き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	60分
		事後学修	なぜ「公共料金」と呼ばれたり、その料金がどのように規制されているかを考えてみましょう。	180分
6	第一部火 10/20第二 部木 10/22	事業規制・業務規制法制 （6）	料金決定手続はかなり複雑ですので、総括原価主義やプライスカップ規制など、基本的な論点として整理学びます。この場合、規制緩和と政策との関係などについても触れることにします。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、「ネットワーク産業」に関する料金規制の機能を理解できることを目指します。	
		事前学修	料金規制は単にその種類を論ずるだけではならず、どのような手続によって規制されるかを具体的に検討する必要がありますので、その内容に関する該当箇所の教科書を一読してみましょう。	60分
		事後学修	複雑ではありますが、そこにある原理原則は外さずに記憶に残しておくことが重要です。このため、何がここで取り上げる手続の原理原則であるのかを、今一度検討してみましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27第 二部木 10/29	事業規制・業務規制法制 （7）	料金決定原則の基本は「原価」を規制対象とすることですので、その定義が法的にどのような なされているのか、その他、参入規制と並び、事業の終了に関わる規制（退出規制）についても学 びます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、料金規制の法的問題を総括的に理解し、他の事業規制法制の存在を理解できることを目 指します。	
		事前学修	料金規制の最後の回ですので、前回と前々回の議論を踏まえるためにも、過去2回分の講義内容を復習して 今回の授業に臨むことを期待します。	60分
		事後学修	今回は事業規制法制の総括を含む意味もありますので、第1回目以降の議論をここで頭に入れ直してみま しょう。	180分
8	第一部火 11/10第 二部木 11/5	事業規制・業務規制法制 （8）	業務規制法制を総説します。参入・料金・退出といった事業規制との違いを見据えながら、今回 は役務の利用者にとって役務の提供が不可欠とされる場合に、通常の経済活動（競争）では賄え ない場合にその提供を義務付けるための規制について、概念・必要性などの諸問題を扱います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、競争と規制の具体的関係性が事業規制法制以外に存在することを理解できることを目指 します。	
		事前学修	今回は業務規制法制という新たな項目に移りますので、第1回目で取り上げた事業規制法制との区別がどの ようなものだったかについて、学び直しましょう。	120分
		事後学修	今回学んだ役務提供義務は、私たちが日常必要とされる公共サービスがその対象とされることが多いので、 身近な場面を思い起こしながら、今回学んだ内容を思い起こすようにしましょう。	120分
9	第一部火 11/17第 二部木 11/12	事業規制・業務規制法制 （9）	競争が導入される際に、規制の撤廃とあわせて、規制の受け手（事業者）が競争しやすい環境を 作り出すなどの競争促進的なさまざまな規制が登場しますので、その種類をここで学びます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、競争を生み出すための規制の意義について理解できることを目指します。	
		事前学修	規制緩和とともに、競争が不適切と考えられてきた分野に競争が導入されることになる場合に、どのように そのギャップを是正するかが問題となります。いかなる規制がその是正に必要とされるかについて、該当箇 所の教科書を一読してみましょう。	60分
		事後学修	今回学んだ業務規制が日常接する分野においてどのように活用されているかを、インターネット・新聞報道 などを通じて思い起こすようにしましょう。	180分
10	第一部火 11/24第 二部木 11/19	産業保護・育成法制（1）	産業保護・育成法制について学んでいきます。この法制が一体何を意味するのかについて解説 し、その必要性について詳述していきます。具体的には、国や公の団体から拠出される補助金な どの金銭の提供を通じて、経済活動を担う企業を保護したり育成するための法制度について見て いきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、分野を横断する規制の存在とその意義について理解できることを目指します。	
		事前学修	前回までとは違って、個別の規制を見るのではなく、種別の隔てがない形での規制が行われている場合があ るので、その一例をここで学びます。	120分
		事後学修	他の箇所とは異なり、聞きなれない言葉遣いにまずは慣れるため、該当箇所の教科書を再読し復習してみま しょう。	120分
11	第一部火 12/1第 二部木12/3	産業保護・育成法制（2）	産業保護・育成法制には、産業助成型、競争制限型、外資規制型といった様々な手段が設けられ ていることから、それぞれの類型についてどのような制度が存在し、課題とされているかを見て いきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、産業保護・育成がどのように横断的に行われているかを法的に理解できることを目指し ます。	
		事前学修	言葉遣いに慣れたことを前提に、どのような法制度があるかを該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	ここでは、補助金といった金銭の提供だけで産業が保護・育成されるわけではないことを確認しておきま しょう。	120分
12	第一部火 12/8第 二部木 12/10	産業特性を持つ主要分野 （1）	今回は、エネルギー産業を取り上げますが、それが電力やガスといった私たちの生活に密接につ ながっている産業であるために、常に意識せざるを得ない分野であると同時に、複雑な規制、そ して規制改革の流れの中で、産業構造自体が大きく変化しています。その内容をできるだけ平易 かつ具体例を出しながら、解説していきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、エネルギー産業の特質について具体的に理解できる ことを目指します。	
		事前学修	経済行政法各論の集大成の第1回目は、エネルギー産業を取り上げます。これ以前で具体例において時折こ の産業が登場することはあるので、そのことの復習もかねて、どのような話がそれ以前に登場したかを思い 起こしながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	現在、電力会社、ガス会社が複数の会社から選択できるようになっているので、履修者諸君のご家庭での実 体験があればそのことが、本授業とどのように関連付けられるかを検討してみましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15部 木12/17	産業特性を持つ主要分野 (2)	交通産業は、その手段に応じて自動車、鉄道、航空機および船舶の4つにわけることができますが、それぞれに特徴のある規制が存在していることも事実です。密接につながりがある一方、特徴を持つ規制もありますので、事業規制・業務規制法制で学んだ知識をここであてはめながら、その内容について解説していきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、交通産業の特質について具体的に理解できることを目指します。	
		事前学修	各論集大成の第2回目は、交通産業を取り上げます。これまでの授業内でも断片的ではありますが取り上げられることがあった産業がどのような規制によって存在しているかを見ていきますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	身近であるものとそうではないもののがこの産業ではありますが、いずれも経済活動を支える大動脈を担う手段ばかりですので、どのような規制が登場していたのか、それに伴いどのような訴訟などの具体的事例が登場するのかを思い起こしてみましょう。	120分
14	第一部火 12/22部 木12/24	産業特性を持つ主要分野 (3)	通信産業は、電気通信と郵便に分けて論ずることが適当と考えられます。時に電気通信は、日進月歩の技術革新によって日々発展し続けていますので、規制がそれに追いついていないこともある一方、郵便は競争とどのようになじんでいるかという問題点を抱えています。このような具体例を事例を通じて検討します。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、通信産業の特質について具体的に理解できることを目指します。	
		事前学修	各論集大成の第3回目は、通信産業を取り上げます。第1回目および第2回目と同様に、これまでの授業内で断片的に取り上げてきましたので、ある程度聞きなれた単語が出てきますが、ここではそれを前提にしながら応用的な問題について取り上げますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	通信産業はいずれも身近なもののばかりですから、その背景にある規制の構造を把握することで、身近なものの存在を意識してみましょう。	120分
15	第一部火 1/12第二 部木1/14	産業特性を持つ主要分野 (4)	第1回目以降に取り扱った経済行政法の各論にかかわる様々な課題について総括し、今後の経済活動にもたらす影響、その他国民生活への影響やその法的問題点について、ここで展望を明らかにしておきます。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、総論的論点とあわせて、経済行政法全体の構造を説得的に理解できることを目指します。	
		事前学修	第1回目から第14回目までの議論を前提に、経済行政法の世界で何が起こっていたのかを、まとめてみましょう。	120分
		事後学修	各論で取り扱った授業内容の復習を通じて、発見できた問題がどのように法的に解決されているのか、それとも解決されていないのかについて、具体例をイメージしながら改めて復習してみましょう。	120分

科目名	経済刑法Ⅰ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について学修できるようにする。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討し、論点が整理できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身につけられるようにする。

【履修条件】
履修人数にもよるが、5月までに報告またはディスカッションする日程を決めることとし、その時期に必ず出席し報告等の割当てを受けることを履修条件とする。なお、刑法Ⅰまたは刑法Ⅱをすでに履修しているほうが望ましい

【授業方法】
事例研究を中心にディスカッションおよび報告などを取り入れて進める。 講義内での報告および発言等の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例を紹介あるいは報告する際には、争点について全体での議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済犯罪についての基礎的知識を身につけ、諸概念について説明できる。				1	1	1		1			
②	経済犯罪に関する法令に関して、個々の類型を把握し、それぞれの要件について説明できる。				1	1	1		1			
③	経済犯罪に関連する判例について争点を理解し、批判的な検討ができる。				1	1	1		1			
④	新たな経済犯罪現象について、立法的観点から問題点を指摘し、体系的な考察ができる。				1	1	1		1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	経済犯罪に関する事例について、到達目標②③に関しなが ら、事実の概要が的確に把握でき、争点が整理されてい るか判断する。		5	10								15
討論・発表等	到達目標①②をふまえたうえで、問題の本質をとらえ、論 理的な説明ができているかを判断する。くわえて、到達目 標③④に関連するような能力があるかについえも判断す る。	10	10	20	30							70
授業への参画度	授業における質疑や議論において、到達目標①②をふま えた発言等ができているか判断する。	10	5									15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での発言についてはその都度コメントを行う。レポートについては提出後に論評する。報告については議論の中でコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義において指定する。				

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	経済犯罪とは	経済犯罪に関する諸概念および事例について学修する。	
		この回の到達目標	具体的な事例を通じて経済犯罪に関する基礎的知識を身につけ、説明できるようにする。	
		事前学修	経済犯罪と考えるものを調べておく。	120分
		事後学修	経済犯罪についての概念や定義を理解する。	120分
2	4/13	経済刑法の概念と範囲	経済法令における罰則の規定のあり方について学修する。	
		この回の到達目標	経済法令違反行為の全体を知ることによって、刑法とそれ以外の法令との関係を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書（第1回目で指定したもの。以下同じ）または配布資料で、経済刑法に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
		事後学修	経済刑法に関して比較法的な観点から理解できるようにする。	120分
3	4/20	経済刑法の基本理念	経済刑法に関する学説の状況を学修する。	
		この回の到達目標	経済刑法に関する理論について基本的知識を有し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、経済刑法に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
		事後学修	経済刑法に関する基礎的概念を整理し、理解する。	120分
4	4/27	経済犯罪に対する法的制裁の体系	刑罰とそれ以外の法的制裁の関係について学修する。	
		この回の到達目標	刑罰以外の法的制裁の機能と今日的意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、法的制裁に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
		事後学修	刑罰と法的制裁の違いについて理解する。	120分
5	5/4	消費者犯罪に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、消費者犯罪をめぐる問題について学修する。	
		この回の到達目標	消費者犯罪の特徴について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、消費者犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
6	5/11	悪質商法に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、悪質商法をめぐる問題について学修する。	
		この回の到達目標	悪質商法の類型を整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、悪質商法に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	食品表示に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、食品表示をめぐる問題について学修する。	
		この回の到達目標	食品表示をめぐる事例に関して問題点を整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、不当表示に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
8	5/25	その他の不当表示に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、不当表示をめぐる問題について学修する。	
		この回の到達目標	不当表示をめぐる事例に関して問題点を整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、不当表示に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
9	6/1	欠陥商品に関する事例の検討	判例または近年の事例をみながら、欠陥商品をめぐる問題について学修する。	
		この回の到達目標	製造物責任に関する論点を整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、欠陥商品に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
10	6/8	独占禁止法上の犯罪	独占禁止法の沿革を概観し、刑事規制のあり方について比較法的観点から検討する。	
		この回の到達目標	独占禁止法について、とくにアメリカ法との関係を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、独占禁止法に関する基礎的知識を理解しておく。	120分
		事後学修	独占禁止法の基礎的概念を理解する。	120分
11	6/15	カルテルに関する事例の検討	カルテルの要件と事例について学修する。	
		この回の到達目標	カルテルに関する判例を整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、独占禁止法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
12	6/22	不当な取引制限に関する事例の検討	犯罪として規定されている行為と、その周辺の行為との関係について学修する。	
		この回の到達目標	刑事制裁と行政制裁の対象となる行為が分けられていることの意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、独占禁止法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	著作権侵害罪に関する事例の検討	著作権侵害に関する事例を概観し、侵害の実態について学修する。	
		この回の到達目標	著作権侵害罪の類型を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、知的財産・企業秘密の侵害に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
14	7/6	不正競争防止法に関する事例の検討	不正競争に関する事例を概観し、違反の実態について学修する。	
		この回の到達目標	不正競争の類型を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、知的財産・企業秘密の侵害に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
15	7/13	新しい経済犯罪の類型とその対策	近年になって問題化しつつある経済犯罪について検討する。	
		この回の到達目標	新たな現象に対して犯罪化する必要性を論じることができる。	
		事前学修	ネットワーク化に伴う新たな経済犯罪について考えておく。	120分
		事後学修	新たな経済犯罪への対応のあり方を考える。	120分

科目名	経済刑法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について学修できるようにする。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討し、論点が整理できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身につけられるようにする。

【履修条件】
履修人数にもよるが、5月までに報告またはディスカッションする日程を決めることとし、その時期に必ず出席し報告等の割当てを受けることを履修条件とする。なお、刑法Ⅰまたは刑法Ⅱをすでに履修しているほうが望ましい

【授業方法】
事例研究を中心にディスカッションおよび報告などを取り入れて進める。 講義内での報告および発言等の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例を紹介あるいは報告する際には、争点について全体での議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済犯罪についての基礎的知識を身につけ、諸概念について説明できる。				1	1	1		1			
②	経済犯罪に関する法令に関して、個々の類型を把握し、それぞれの要件について説明できる。				1	1	1		1			
③	経済犯罪に関連する判例について争点を理解し、批判的な検討ができる。				1	1	1		1			
④	新たな経済犯罪現象について、立法的観点から問題点を指摘し、体系的な考察ができる。				1	1	1		1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	経済犯罪に関する事例について、到達目標②③に関しなが ら、事実の概要が的確に把握でき、争点が整理されている か判断する。		5	10								15
討論・発表等	到達目標①②をふまえたうえで、問題の本質をとらえ、論 理的な説明ができていないかを判断する。くわえて、到達目 標③④に関連するような能力があるかについても判断す る。	10	10	20	30							70
授業への参画度	授業における質疑や議論において、到達目標①②をふま えた発言等ができていないかを判断する。	10	5									15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での発言についてはその都度コメントを行う。レポートについては提出後に論評する。報告については議論の中でコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義において指定する。				

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	経済犯罪の捜査の特徴	他の犯罪に対する捜査と比較しながら、手続等の実態について学修する。	
		この回の到達目標	刑事手続の過程とその他の手続との関係について整理し、説明することができる。	
		事前学修	具体的な経済事犯の流れを調べておく。	120分
		事後学修	犯罪捜査の流れと経済事犯の処理の特徴を理解する。	120分
2	9/21	会社法上の犯罪	会社法上の犯罪全体を概観し、個々の類型について学修する。	
		この回の到達目標	会社法が規定する各犯罪の要件について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	会社法の基礎的概念を整理し、個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
3	9/28	特別背任罪	特別背任罪に関する事例をみつつ、あわせて粉飾決算について学修する。	
		この回の到達目標	粉飾決算と特別背任罪の関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
4	10/5	会社財産を危うくする犯罪	違法配当罪や自己株式取得罪等の犯罪について学修する。	
		この回の到達目標	特別背任罪と会社財産危殆罪との関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
5	10/12	利益供与罪	利益供与罪に関する事例を見ながら、その要件について学修する。	
		この回の到達目標	利益供与が犯罪化された経緯を知り、実態が分析できるようにする。	
		事前学修	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
6	10/19	証券取引をめぐる犯罪	証券取引法から金融商品取引法に至るまでの経緯と、この間に生じた主な犯罪について学修する。	
		この回の到達目標	金融商品取引法上の個々の犯罪について整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
		事後学修	証券取引に関する基本的概念を整理しながら、個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	虚偽有価証券報告書提出罪	粉飾決算との関係及び金融商品取引法の情報開示制度について学修する。	
		この回の到達目標	虚偽有価証券報告書提出罪に関する事例を見ながら要件を理解し、また他罪との関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
8	11/9	相場操縦罪	相場操縦に関する限界的な事例をあげて、犯罪の成否について学修する。	
		この回の到達目標	相場操縦罪の要件について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
9	11/16	インサイダー取引罪	インサイダー取引行為に関する規制の沿革と事例を通してその意義を学修する。	
		この回の到達目標	インサイダー取引罪の事例について分析し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
10	11/23	法人の刑事責任	法人の刑事責任に関する理論を学修する。	
		この回の到達目標	法人処罰のあり方および限界について説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、法人の刑事責任について考えておく。	120分
		事後学修	法人の刑事責任に関する基礎的概念を整理する。	120分
11	11/30	法人の刑事責任に関する事例の検討	刑事責任が認められた事例と否定された事例を比較しながら、その成否について学修する。	
		この回の到達目標	刑事責任を否定した法理について分析し、説明することができる。	
		事前学修	教科書または配布資料で、法人の刑事責任について考えておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分
12	12/7	租税犯罪に関する事例の検討	逋脱罪の成立要件を見るとともに、いわゆる脱税の実態について学修する。	
		この回の到達目標	租税犯罪と課税回避行為との関係について理解し、課題について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書または配布資料で、租税犯罪について考えておく。	120分
		事後学修	個々の事案について分析・検討をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	国際取引をめぐる犯罪	国際取引をめぐる違反行為について概観し、個々の類型について学修する。	
		この回の到達目標	条約に違反する取引等について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書または配布資料で、国際取引と犯罪の関係について考えておく。	120分
		事後学修	国際取引と犯罪に関して現状と問題点を整理しておく。	120分
14	12/21	マネーロンダリング	マネーロンダリングの実態を把握し、個別の要件について学修する。	
		この回の到達目標	マネーロンダリングに対する国際協調と国内の立法措置の課題について説明することができる。	
		事前学修	具体的な事例を通して、マネーロンダリングについて考えておく。	120分
		事後学修	マネーロンダリング対策に必要な事項について考える。	120分
15	1/15	内部統制と経済犯罪	会社等における内部統制がどのような意義を持つのかについて学修する。	
		この回の到達目標	内部統制が問われる背景について理解し、説明することができる。	
		事前学修	具体的な事例を通して、企業と犯罪の関係について考えておく。	120分
		事後学修	社会人として、あるいは企業の中で果たすべき使命について考える。	120分

科 目 名	経済史	担 当 者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授 業 時 間 数	90分×15回		必 修 選 択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の歩みを、戦後から最近年までを学習する。戦後70年以上が経つが、その間の経済状況に様々な現象や変化が起きた。戦後の改革と復興期、高度経済成長期、ニクソン・ショック、高度経済の終焉と経済安定期、バブル経済の発生と崩壊、デフレーションなどの現象を取り扱いながら現代の日本経済がどのように形成されたのか考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講座では、欧米の経済に大きく遅れをとりながらも、短期間のうちに驚異的な発展を遂げ、欧米先進資本主義国と肩を並べる地位にまで躍進した日本経済の現代史的展開について、第二次世界大戦以降を中心に考察する。現代の日本経済がどのように形成されたのか、その歴史的過程を考察することで現代の経済の本質を分析し、また現代日本経済のかかえる問題点を歴史的に検出することを目的とする。受講生が、戦後日本経済に生じた様々な社会経済現象の要因に関する通説を修得して経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用しての講義の予定。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明することができる。							3	3				
②	経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。							3	3				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できる思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②にかかわる理解が身についているかを確認する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト（リアクション・ペーパー）実施後、解説を行う。または、ポータルシステムを通じて解説を受講生に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代日本経済史〔新版〕』有斐閣Sシリーズ	森・浅井・西成田・春日・伊藤著	有斐閣	2013年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	ガイダンス，導入授業	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済史の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる重要性を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書 第1章と第2章を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月25日	(1945～1954年)「占領下の暮らし」「戦後改革と占領政策の転換」「生産の再開と復興」	終戦直後の「占領下の暮らし」、「戦後改革と占領政策の転換」、「生産の再開と復興」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、終戦直後の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「1. 占領下の暮らし」、「2. 戦後改革と占領政策の転換」、「3. 生産の再開と復興」を読み、終戦直後の経済状態について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	10月2日	(1945～1954年)「労働・農民運動の再興と資本の再編」「朝鮮戦争と日米経済協力」	終戦直後の「労働・農民運動の再興と資本の再編」、「朝鮮戦争と日米経済協力」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて政府管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、終戦直後の経済政策の検討を通じて政府管理・支配の特徴、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「4. 労働・農民運動の再興と資本の再編」、「5. 朝鮮戦争と日米経済協力」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10月9日	(1955～1964年)「高度成長下の暮らし」「農業・重化学工業化・技術革新」「企業集団と中小企業」	戦後の高度経済成長がスタートした年とされる1955年以降の時期における、「高度成長下の暮らし」、「農業・重化学工業化・技術革新」、「企業集団と中小企業」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長初期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章 成長と「自立」(1955～1964年)の「1. 高度成長下の暮らし」、「2. 農業・重化学工業化・技術革新」、「3. 企業集団と中小企業」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10月16日	(1955～1964年)「日本的労使関係の成立」「経済政策と権力構造」「貿易為替の自由化」	高度経済成長期の「日本的労使関係の成立」、「経済政策と権力構造」、「貿易為替の自由化」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長期の経済政策、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章 成長と「自立」(1955～1964年)の「4. 日本的労使関係の成立」、「5. 経済政策と権力構造」、「6. 貿易為替の自由化」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10月23日	(1965～1971年)「大衆消費社会と暮らし」「長期好況と大型化投資」「企業主義原理」の普及	後期高度経済成長期に分類される1965年以降の時期における「大衆消費社会と暮らし」、「長期好況と大型化投資」、「企業主義原理」の普及を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、後期高度経済成長期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解して説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章 成長と軋轢(1965～1971年)の「1. 大衆消費社会と暮らし」、「2. 長期好況と大型化投資」、「3. 企業主義原理」の普及を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	(1965～1971年)「高度成長政策と地域開発政策」「高度成長と対外経済関係」	後期高度成長期の「高度成長政策と地域開発政策」、「高度成長と対外経済関係」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を学習して説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、この時代の経済政策の学修を通じて管理・支配の特徴を理解し、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章 成長と軋轢 (1965～1971年)の「4. 高度成長政策と地域開発政策」、「5. 高度成長と対外経済関係」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学修したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11月6日	小テスト、まとめ	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②に係わる基礎的理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後日本経済社会に生じた経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト (リアクション・ペーパー) に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
9	11月13日	(1971～1991年) 高度経済成長の終焉と、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期	高度経済成長の終焉と、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期を学習し、これらの経済現象の歴史性を論理的、科学的に説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、度経済成長の終焉、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期を学修し、これらの経済現象の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦 (1971～1991年)の「1. 1980年代の暮らし」、「2. ドル・ショックと石油危機」、「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11月20日	(1971～1991年)「企業と職場の変貌」「バブル経済の発生と原因」	この時期に生じた「企業と職場の変貌」を学習し、管理・支配関係の特徴を検出、また、「バブル経済」と呼ばれる現象が何であったか、バブル経済の発生と原因、消費者物価の低水準で安定した原因 (プラザ合意→円高、新興国の出現)、金融政策の失敗を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「バブル経済」現象、バブル経済の発生と原因、消費者物価の低水準で推移した原因 (プラザ合意→円高、新興国の出現)、金融政策の歴史性を論理的、科学的、かつ批判的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦 (1971～1991年)の「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	11月27日	(1971～1991年) 総需要管理政策の破綻と再編	「臨調・行革の構図―総需要管理政策の破綻と再編」、「5. 世界のなかの日本―欧米とアジア」を学習し、1980年代の経済政策、対外関係・国際関係を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、1980年代の経済政策、対外関係・国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦 (1971～1991年)の「4. 臨調・行革の構図―総需要管理政策の破綻と再編」、「5. 世界のなかの日本―欧米とアジア」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12月4日	(1992～2001年)「バブル崩壊後の暮らし」「金融システム不安と〔失われた10年〕」「1990年代の日本企業と仕事の現場」	1990年代の時期における「バブル崩壊後の暮らし」、「金融システム不安と〔失われた10年〕」、「1990年代の日本企業と仕事の現場」を学習し、また、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、この時代の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の経済現象を論理的、科学的に理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」 (1992～2001年)の「1. バブル崩壊後の暮らし」、「2. 金融システム不安と〔失われた10年〕」「3. 1990年代の日本企業と仕事の現場」を読み、内容について考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	(1992～2001年)「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」	「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」橋本政権(1996年1月11日～1998年7月30日)および小泉政権(2001年4月26日～2006年9月26日)を学習し、各経済政策のめざした経済構造改革を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」橋本政権(1996年1月11日～1998年7月30日)および小泉政権(2001年4月26日～2006年9月26日)の各経済政策のめざした経済構造改革現象を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」(1992～2001年)の「4. 橋本〔6大改革〕から小泉〔構造改革〕へ」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学修したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12月18日	(1992～2001年)「アジアのなかの日本経済」	アジアのなかの日本経済に関連して、21世紀に入り特にアジア圏における対外関係・国際関係に伴う経済現象を学習し説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、21世紀に入り特にアジア圏における対外関係・国際関係に伴う経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」(1992～2001年)の「5. 21世紀の国際関係ーアジアのなかの日本経済」を読み、内容を考察する。	120分
		事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	12月25日	(2020年以降)「日本経済の課題」	雇用状況、所得格差、財政状況の経済現象、さらに、安倍政権の経済政策を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2000年以降に生じた経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて理解し説明できる。	
		事前学修	雇用状況、所得格差、財政状況、安倍政権の経済政策の特徴を考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書、授業ノート、配付資料を確認し、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるか確認する。 期末試験の準備をする。	200分

科目名	経済思想史Ⅰ	担当者	高橋 宏幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅰでは、経済学の形成期から19世紀初頭頃までを主たる対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目的は、経済学とその思想の歴史を学ぶことでその通史を理解することはもとより、経済学が、各時代の社会的背景や思想と結びついて生み出された時代の産物であること、様々な価値判断に立脚して組み立てられていること、時代的制約性を有していることを理解することにある。さらに、経済学とその思想の歴史を学び、現代の経済学説や経済社会を歴史的観点から考察することを通じて、歴史を学ぶ意義を理解することも本講義の目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的には板書とその解説を中心とした講義形式で行う。資料としてプリントを配布・使用する。毎回しっかりとノートをとることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済学や経済政策論等を展開したのかを説明できるようになる。					2	2	2				
②	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済思想を展開したのかを説明できるようになる。					2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①および②について身に付いているかを筆記試験により総合的に評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 14:30～ 授業終了後の授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンスと講義の概容	講義における目標や方法、講義内容全体についての概説	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、経済学説や思想の流れについて概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスに目を通してくること	120分
		事後学修	今回の講義内容をノートやシラバス等で確認・復習しておくこと	120分
2	第一部 火4/14	経済思想史とは？	経済思想史とはどのような学問分野か	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、経済思想史とはどのような学問分野かを学び、経済学説やその思想を学ぶ意義について述べるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
3	第一部 火4/21	重商主義とは何か	重商主義の概念の概説およびイギリス重商主義の政策体系	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、重商主義の概念およびイギリス重商主義の政策体系について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
4	第一部 火4/28	イギリス重商主義	イギリス重商主義における経済理論および政策論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、イギリス重商主義における経済理論および政策論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
5	第一部 火5/5	フランス重商主義	コルベール主義の政策体系について	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、コルベール主義の政策体系について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
6	第一部 火5/12	重農主義①	重農主義における社会的背景・哲学的基礎	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、重農主義における社会的背景・哲学的基礎について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	重農主義②	フランソワ・ケネーとその『経済表』および経済政策論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、フランソワ・ケネーとその『経済表』および経済政策論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
8	第一部 火5/26	アダム・スミスの経済学体系①	アダム・スミスの生涯と著作。スミスにおける富の概念および分業論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、アダム・スミスの生涯・著作、そして富の概念と分業論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
9	第一部 火6/2	アダム・スミスの経済学体系②	スミスにおける価値論、自然価格・市場価格論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、スミスにおける価値論、自然価格論・市場価格論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
10	第一部 火6/9	アダム・スミスの経済学体系③	スミスにおける分配論、資本蓄積論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、スミスにおける分配論、資本蓄積論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
11	第一部 火6/16	アダム・スミスの経済学体系④	スミスにおける投資の自然的順序、経済発展論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、スミスにおける投資の自然的順序、経済発展論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
12	第一部 火6/23	T・R・マルサス	T・R・マルサスの『人口論』について	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、T・R・マルサスの『人口論』について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	T・R・マルサスとD・リカード①	T・R・マルサスとD・リカードの論争	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、T・R・マルサスとD・リカードの論争について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
14	第一部 火7/7	T・R・マルサスとD・リカード②	T・R・マルサスとD・リカードの経済学の特徴	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、T・R・マルサスとD・リカードの経済学の特徴について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
15	第一部 火7/14	総括	講義全体のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、講義全体の内容について振り返り、各テーマについてそれぞれ説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	講義全体の内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分

科目名	経済思想史Ⅱ	担当者	高橋 宏幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅱでは、19世紀中頃から20世紀中頃までを主たる対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目的は、経済学とその思想の歴史を学ぶことでその通史を理解することはもとより、経済学が、各時代の社会的背景や思想と結びついて生み出された時代の産物であること、様々な価値判断に立脚して組み立てられていること、時代的制約性を有していることを理解することにある。さらに、経済学とその思想の歴史を学び、現代の経済学説や経済社会を歴史的観点から考察することを通じて、歴史を学ぶ意義を理解することも本講義の目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的には板書とその解説を中心とした講義形式で行う。資料としてプリントを配布・使用する。毎回しっかりとノートをとることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済学や経済政策論等を展開したのかを説明できるようになる。						2	2	2				
②	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済思想を展開したのかを説明できるようになる。						2	2	2				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①および②について身に付いているかを筆記試験により総合的に評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 14:30～ 授業終了時の授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	ガイダンスと講義の概容	講義における目標や方法、講義内容全体についての概説	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、経済学説や思想の流れについて概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスに目を通しておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノートやシラバス等で確認・復習しておくこと	120分
2	第一部 火9/22	J・S・ミル①	ミルの生涯と著作、思想形成過程、経済思想の特質	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、ミルの生涯と著作、思想形成過程、経済思想の特質について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
3	第一部 火9/29	J・S・ミル②	ミルの生産論、分配論、社会主義論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、ミルの生産論、分配論、社会主義論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
4	第一部 火10/6	ドイツ歴史学派①	フリードリッヒ・リストと旧歴史学派	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、フリードリッヒ・リストと旧歴史学派について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
5	第一部 火10/13	ドイツ歴史学派②	新歴史学派について	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、新歴史学派について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
6	第一部 火10/20	K・マルクス①	マルクスの生涯と思想	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、マルクスの生涯と思想について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	K・マルクス②	マルクスの経済学と資本主義経済の発展方向	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、マルクスの経済学と資本主義経済の発展方向について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
8	第一部 火11/10	限界革命	限界革命の3大学派の特質	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、限界革命の3大学派の特質について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
9	第一部 火11/17	A・マーシャル	マーシャルの経済学体系	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、マーシャルの経済学体系について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
10	第一部 火11/24	J・M・ケインズ①	ケインズの生涯と著作、思想形成過程	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、ケインズの生涯と著作、思想形成過程について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
11	第一部 火12/1	J・M・ケインズ②	ケインズ経済学の骨格と経済政策	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、ケインズ経済学の骨格と経済政策について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
12	第一部 火12/8	アメリカ制度学派①	ソースタイン・ヴェブレンの進化論的経済学と制度の理論	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、ソースタイン・ヴェブレンの進化論的経済学と制度の理論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	アメリカ制度学派②	W・C・ミッチェルの数量的経済学	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、W・C・ミッチェルの数量的経済学について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
14	第一部 火12/22	アメリカ制度学派③	J・R・コモنزの集団行動の経済学	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、J・R・コモنزの集団行動の経済学について説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分
15	第一部 火1/12	総括	講義全体のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、講義全体の内容について振り返り、各テーマについてそれぞれ説明できるようになる。	
		事前学修	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと	120分
		事後学修	講義全体の内容をノート等で確認・復習しておくこと	120分

科目名	刑事政策Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得し、現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、刑事施設見学を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムの仕組みを説明できる。【知識】				1	1						
②	犯罪がなぜ発生するのか、その仕組みを説明できる。【知識】				1	1						
③	刑罰の歴史や意義を理解し、説明することができる。【知識】				1	1						
④	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、今後どのような犯罪への対応が必要なのかを調べることができる。【技能】					1	1		1			
⑤	日本における現行の刑事司法システムに対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】					1	1		1			
⑥	犯罪対策について考えるディベートやグループワークにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、論理的に議論を行うことができる。【態度】					1	1		1			
⑦	犯罪対策に関する教員からの問いに対して、その場で考え、論理的に応えることができる。【態度】					1	1		1			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して、基礎知識が身についているか、問題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べているかを筆記試験により評価する。	12	12	12								36
小テスト等												
レポート等	第9回で課すレポートが、要件を満たし課題に適切に答える内容になっているかを前提に、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識・調査能力・問題分析能力が身についているかを評価する。	2	2	2	11	11						28
討論・発表等	到達目標⑥⑦に関連して、第6回・第9回の授業で実施するグループワーク・ディベートにおいて、他のメンバーの意見を良く聞いていたか、論理的に自分の意見を述べる事ができたか、発表後の担当教員からの質問に適切に応えていたか等の評定尺度に照らして、問題発見力・問題解決力が身についているかを評価する。						18	18				36
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	14	14	11	11	18	18				100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、その次の回にリアクションペーパーに記載されていた意見や質問に対応する。最終試験の内容については、試験終了後に授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事政策【第7版】	岩井宜子	尚学社	2018	教科書	推奨
平成31年版 犯罪白書	法務総合研究所	昭和情報プロセス	2019	その他	任意
平成31年版 警察白書	国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2019	その他	任意
Next教科書シリーズ 刑事法入門	船山泰範 編	弘文堂	2014	参考書	任意
備考	教科書は必携としない。授業で取り扱ったテーマについて最適な文献をその都度紹介する。また授業において毎回レジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	刑事政策とは何か、犯罪学とは何か	刑事政策学・犯罪学の学問の概要やその歴史について説明し、社会にどのように貢献しているのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	受講生が刑事政策学の概要を理解し、次回以降の講義に備えられるようにする。この授業を通じて、どのように到達目標①②③④⑤⑥⑦を達成していくのかを理解し説明できる。	
		事前学修	刑事政策もしくは犯罪学に関して、どの項目でも構わないので、自らの関心のあるテーマを見つけて、ノートに200～300文字程度で列挙し学習意欲を高めておく。	120分
		事後学修	講義で配布したレジュメを確認し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、刑事政策学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で列記する。	120分
2	4月13日	犯罪原因論①生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因	犯罪者がなぜ犯罪者になってしまうのか、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因に基づいて犯罪の科学的分析の歴史を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、受講生が犯罪の発生原因の1つとされる生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因を理解し、それに基づいて犯罪の原因について説明することができる。	
		事前学修	最近、新聞・ニュース・インターネットで話題となった犯罪について、犯罪者はなぜ行為におよんだのかを考え、理由と思われるものをノートに列記する。授業時には、各自の意見を求める。	120分
		事後学修	授業で解説した、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因について、自ら考えた理由と対比し、犯罪の発生原因について改めて考えてみる。考えた内容は、ノートに500文字程度で整理する。	120分
3	4月20日	犯罪原因論②社会学的要因	犯罪者がなぜ犯罪者となってしまったか、社会学的要因の各理論について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、受講生が社会学的要因の理論を正しく理解し、分化的接触理論やアノミー理論等について具体的事例を用いながら説明することができる。	
		事前学修	マートンの「アノミー理論」と「社会解体理論」について、刑事政策、犯罪学の教科書等を調べ、それぞれ400文字程度でノートに整理した上で、2つ理論について自らの意見をノートに500文字程度で列記する。	120分
		事後学修	授業で解説した社会学的要因の理論のうち、自らが興味・関心を持った理論について、論文等を探し閱讀する。探し方が分からない場合は、授業終了後及びオフィスアワーの時間を使用して、担当教員に質問する。	150分
4	4月27日	犯罪機会論①犯罪原因論から犯罪機会論へ	犯罪予防に関する考え方について、犯罪原因論から犯罪機会論へ変遷した経緯について歴史的背景に触れつつ解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が犯罪予防の考え方が各刑事司法機関でどのように変わっていったのか、そして現在は犯罪を予防する方法は、どのように考えられているのかについて説明することができる。	
		事前学修	犯罪を事前に予防する方法としてはどのようなものが考えられるか、犯罪者の視点に立って考え、予防方法をノートに500文字程度で列記する。犯罪予防について、自分の住む都道府県の警察本部のホームページを確認してくる。	120分
		事後学修	①犯罪原因論が衰退した原因、②犯罪機会論の理論、③犯罪機会論が普及した理由、についてそれぞれ400文字程度で整理し、ノートに後で確認しやすいように記述しておく。	120分
5	5月4日	犯罪機会論②犯罪機会論に基づいた政策等の紹介	破れ(割れ)窓理論、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティといった犯罪機会論に基づいて考案された犯罪の事前予防のための理論や政策について、具体例を用いて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が破れ(割れ)窓理論、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティ等の犯罪の事前予防に関する政策等の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ニューヨークで行われた破れ(割れ)窓理論に基づく犯罪対策について調査を行い、ニューヨークの対策前の状況、行われた対策の内容、対策後の状況について、それぞれ400文字程度でノートに記述する。	120分
		事後学修	破れ(割れ)窓理論、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティは、自分の住む都道府県、市町村ではどのように取り入れられているか、警察本部、役所のホームページで確認し、ノートに列挙しておく。	120分
6	5月11日	犯罪機会論③自分の住む町の犯罪対策を考える	5～6名のグループに分かれ、それぞれ自分の町の犯罪状況、行われている犯罪対策を紹介してもらおう。その後、自分達の考える犯罪予防のために有効と思われる政策について議論し、パワーポイントにまとめ、発表してもらおう。なお、この回は図書館7階のラーニングコモンにおいて行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、受講生が自らの住む町の犯罪対策を調査し、グループ内でこれまでに学んだ犯罪予防の理論を基に議論し、相手が納得できるように発表することができる。	
		事前学修	自分の住んでいる市町村の犯罪政策を、役所や警察署のウェブサイト、広報資料を基に調査し、ノートに列記する。	120分
		事後学修	他のグループの発表内容を自らのノートに整理し、良いと考えたアイデアを来自分分が犯罪予防関係の仕事に就いた際に生かせるレベルまで研究しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	刑罰制度①刑罰制度総論	日本及び主要国の刑罰の歴史や刑罰の種類について資料を用いて説明した後、刑罰の意義や役割について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が刑罰の歴史や意義について正しく理解し、刑罰が社会の秩序を維持する上でどのように役立っているのかを説明することができる。	
		事前学修	人類の歴史と共に行われてきた刑の執行方法について、どのようなものがあつたのかを調査し、ノートに列挙してくる。拷問器具等については、憶測も多く、実際に存在したか疑問が呈されているものもあるため注意すること。	120分
		事後学修	刑罰の意義や役割がどのように変化していったのかについて、ノートに図表化してみる。刑罰の歴史の中で、残虐な刑の執行方法や拷問はどのような意味合いをもっていたのか、再整理しノートに列記する。	120分
8	5月25日	刑罰制度②－1 刑罰制度各論Ⅰ【死刑制度及び不定期刑】	死刑及び不定期刑について、現状を分析し、その問題点を抽出し、解決策を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、受講生が死刑制度及び不定期刑の意義やその問題点について正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	近年の日本の死刑執行状況と世界の死刑執行状況を調査し、ノートに列記する。刑法典の定める犯罪のうち、死刑が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。	110分
		事後学修	授業で解説した死刑の意義や目的をノートに整理し、自らは死刑制度に対してどのように考えるのかを賛成・反対を明確にした上で、500文字程度でノートに記述する。	150分
9	6月1日	刑罰制度②－2 死刑制度の是非についてのディベート	死刑制度の是非について、存置派と廃止派に分かれて全員でディベートを行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、死刑制度についてディベートを行うことによって、刑罰制度の意義の理解を深め、現行の刑罰制度に対する批判的思考力を高め、人を説得できるように自らの意見を言えるようになる。	
		事前学修	死刑制度についてディベートを行うので、前回までに学んだ刑罰制度の目的・意義等について整理しノートに列記する。死刑制度に対する賛成・反対の両方の立場の意見を調査し、ノートに列挙しておく。	180分
		事後学修	ディベートの内容を基にした死刑制度についてのレポートを前期末までに作成し提出することを求めるので、ディベートで出た賛成・反対の両方の立場の意見を整理し、ノートに列記しておく。	180分
10	6月8日	刑罰制度③刑罰制度各論Ⅱ【罰金刑及び短期自由刑】	罰金刑及び短期自由刑について、現状を分析し、その問題点を抽出し、解決策を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が罰金刑及び短期自由刑の意義・問題点について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	刑法典の定める犯罪のうち、罰金刑・自由刑（懲役・禁錮・拘留）が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。罰金刑の罰金はどこの機関に支払うのかを調べてくる。	120分
		事後学修	罰金刑の問題点とその解決策、短期自由刑の問題点とその解決策について整理し、それぞれ500文字程度でノートに記述しておく。	120分
11	6月15日	犯罪者の処遇①司法的処遇	犯罪者処遇の歴史及び現行のシステムについて解説した後、警察段階・検察段階・裁判所段階でどのような手続きが行われているか、また各段階でのダイバージョンはどのように実施されているのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、受講生が犯罪者処遇の歴史の変遷や現行の刑事司法システムについて正しく理解し、説明できる。日本におけるダイバージョンについて解説を行い、正しく理解し説明できる。	
		事前学修	日本における法定化されたダイバージョンである微罪処分・起訴猶予・執行猶予について、根拠条文及び要件を調査し、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	警察段階・検察段階・裁判所段階での処遇及び猶予制度について整理し、ノートに図式化して記述する。	120分
12	6月22日	犯罪者の処遇②－1 施設内処遇	日本における刑事施設の種類や処遇方針について諸外国と比較しながら説明し、刑事施設の中ではどのような矯正処遇が行われているのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、受講生が日本の刑事施設の処遇制度について正しく理解し、諸外国との違いなどについて説明することができる。	
		事前学修	関東には、どのような刑事施設がどこに存在するのか調査を行い、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	刑務所で行われている処遇をノートに列記し、その処遇に対する自分の意見をそこに付け足す。矯正処遇の現状について、犯罪白書（http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）で確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	犯罪者の処遇②－2 刑事施設見学	刑事施設の見学を行い、実際にその場に行き、現場の職員の方の話を聞くことで、刑事施設における矯正処遇の現実を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、受講生が矯正処遇の現場に足を運び自らの目で確認することによって、理論と現実の両方からの面から、刑事施設における犯罪者の矯正処遇について説明することができる。	
		事前学修	施設見学当日に対応してくれた職員の方に適切な質問ができるように、刑事施設で行われている処遇制度や受刑者の日常生活について配付した資料等で確認を行い、疑問点をノートに列挙する。	150分
		事後学修	刑事施設見学以前までに自分が持っていたイメージと、実際に行って見た感想を、それぞれ500文字程度でノートに記述し、比較してみる。	120分
14	7月6日	犯罪者の処遇③社会内処遇	犯罪者は刑事施設からの仮釈放が認められた場合、または裁判で執行猶予付判決となり保護観察付となった場合には社会内処遇となる。そうした社会内処遇の制度について、保護観察制度を中心に現状と課題を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、受講生が保護観察制度についての現状について正確に理解し、犯罪者の社会内処遇はどのように行われるべきかを説明することができる。	
		事前学修	刑事政策・犯罪学の教科書、法務省のウェブサイト等で、保護観察官とはどのような職業かを調査し、更生保護における保護観察官の役割についてノートに列記する。	120分
		事後学修	保護観察制度の現状と問題点、解決策について、ノートに600文字程度で記述する。保護観察制度の現状について、犯罪白書（ http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html ）で確認しておく。	120分
15	7月13日	試験及び試験の解説	授業内試験を実施し、試験終了後に試験問題の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことについて、試験を通じて定着を図る。	
		事前学修	これまでにノートに列記した事項を整理し、再度見直しを行い総復習を実施する。	200分
		事後学修	試験の解説に基づいて、自らの書いた答案の再検証を行う。	90分

科目名	刑事政策Ⅱ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得し、現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、刑事施設見学を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の日本における犯罪情勢を説明できる。【知識】				1	1						
②	性犯罪・高齢者犯罪・薬物犯罪・交通犯罪・外国人犯罪等の各種犯罪の原因・特徴を説明できる。【知識】				1	1						
③	犯罪被害者支援策等の近年の刑事司法手続きにおける諸政策を説明することができる。【知識】				1	1						
④	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、日本は今後どのような犯罪への重点的な対応策が必要なのかを調べることができる。【技能】					1	1		1			
⑤	日本における各種犯罪対策に対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】						1	1		1		
⑥	各種犯罪対策について考えるディベートやグループワークにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、論理的に議論を行うことができる。【態度】						1	1		1		
⑦	各種犯罪対策に関する教員からの問いに対して、その場で考え、論理的に応えることができる。【態度】						1	1		1		
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して、基礎知識が身についているか、問題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べているかを筆記試験により評価する。	12	12	12								36
小テスト等												
レポート等	第3回で課すレポートが、要件を満たし課題に適切に答える内容になっているかを前提に、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識・調査能力・問題分析能力が身についているかを評価する。	2	2	2	11	11						28
討論・発表等	到達目標⑥⑦に関連して、第3回・第5回の授業で実施するグループワーク・ディベートにおいて、他のメンバーの意見を良く聞いていたか、論理的に自分の意見を述べる事ができたか、発表後の担当教員からの質問に適切に応えていたか等の評定尺度に照らして、問題発見力・問題解決力が身についているかを評価する。						18	18				36
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	14	14	11	11	18	18				100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、その次の回にリアクションペーパーに記載されていた意見や質問に対応する。最終試験の内容については、試験終了後に授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事政策【第7版】	岩井宜子	尚学社	2018	教科書	推奨
令和元年版 犯罪白書	法務総合研究所	昭和情報プロセス	2019	その他	任意
平成31年版 警察白書	国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2019	その他	任意
Next教科書シリーズ 刑事法入門	船山泰範 編	弘文堂	2014	参考書	任意
備考	教科書は必携としない。授業で取り扱ったテーマについて最適な文献をその都度紹介する。また授業において毎回レジュメを配布する。				

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	現在の日本の犯罪情勢と分析方法	日本の犯罪の公式統計にはどのようなものがあり、採用されている統計法はいかなるものか、また日本の犯罪情勢は どのような現状にあるのかを統計資料を用いて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生がその分析方法について理解し、日本の刑法犯認知件数の推移について説明できる。	
		事前学修	現在の日本の犯罪の発生件数について新聞・インターネット等で調べ、ノートに列記しておく。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、刑法犯認知件数と暗数の問題等の犯罪統計に関する正しい理解を確認する。	120分
2	9月24日	犯罪被害者と刑事司法Ⅰ 刑事司法における犯罪被害者	刑事司法における犯罪被害者の地位の変遷と、近年の犯罪被害者支援策について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が犯罪被害者の置かれてきた立場と近年の犯罪被害者の地位向上について正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	犯罪被害者は刑事司法手続きにおいて現在どのような権利が認められているか、法務省のウェブサイト等で調べノートに列記してくる。	120分
		事後学修	刑事司法制度における犯罪被害者の地位について、認められてきた権利を年表にし、ノートに図式化する。	120分
3	10月1日	犯罪被害者と刑事司法Ⅱ 犯罪被害者支援策のこれから	5～6名のグループに分かれ、今後、日本では犯罪被害者はどのように刑事司法手続きに関与していくのが望ましいか、刑事司法手続きの原則を再確認した上でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤⑥⑦に関連して、犯罪被害者の刑事司法手続きへの参加についてのディベートを行うことによって、犯罪被害者と刑事司法制度の理解を深め、思考力を高め、自らの意見を言えるようになる。	
		事前学修	犯罪被害者の刑事司法手続きへの関与についてディスカッションを行うので、前回学んだ犯罪被害者の権利と刑事司法制度の原則について整理しノートに列記する。	200分
		事後学修	ディスカッションした内容を基にしたレポートを後期末までに作成し提出することを求めるので、ディスカッションで出た意見を整理し、ノートに列記しておく。	200分
4	10月8日	少年非行Ⅰ 少年法の基本理念と少年事件の手続き	少年法の基本的な考えや少年が刑事事件を起こした場合の手続きの流れについて概要を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が少年法の理念や手続きの正しい知識を修得し、説明できる。	
		事前学修	少年法に対する意見を授業時に聞くので、自分の考えをまとめ、ノートに列記しておく。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、少年法における刑事事件の手続きの流れをノートに図式化しておく。	120分
5	10月15日	少年非行Ⅱ 非行少年の処遇と少年非行対策の課題	少年院における処遇制度や少年非行への対策について解説を行う。少年法に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、少年法についてディベートを行うことによって、少年法の存在意義の理解を深め、思考力を高め、人を説得できるように自らの意見を言えるようになる。	
		事前学修	少年法についてディベートを行うので、前回学んだ少年法の目的・意義等について整理しノートに列記する。少年法に対する意見を調査し、ノートに列挙しておく。	200分
		事後学修	ディベートの内容を基にした少年法についてのレポートを前期末までに作成し提出することを求めるので、ディベートで出た意見を整理し、ノートに列記しておく。	200分
6	10月22日	高齢者犯罪	かつては犯罪被害者としての面が強かった高齢者であるが、現在は犯罪加害者としての高齢者が注目されている。高齢者はどのような犯罪を行うのか、また高齢者の社会復帰はどのようにすれば良いのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講者が高齢犯罪者の再犯防止策について提案ができるようにする。	
		事前学修	高齢者はどのような犯罪を行うことが可能か考え、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、高齢者犯罪の再犯防止策について自分の考えをノートに列記する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	薬物犯罪	大麻・アヘン・覚せい剤等の薬物の種類と依存性について説明し、薬物依存者をどのように社会復帰させるかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が薬物犯罪の事前予防策と再犯防止策について説明できる。	
		事前学修	薬物犯罪について、興味のあるニュースを新聞・インターネット等で調べ、ノートに列記しておく。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、薬物犯罪への対応策をノートに列記する。	120分
8	11月5日	精神障害者の犯罪	日本における精神障害者による犯罪の件数や特徴等の現状を統計データを用いて説明し、それに対する対応策の課題と今後の展望について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が偏見やイメージに基づかない、科学的データに基づく触法性精神障害者への正しい理解ができる。	
		事前学修	精神障害者の犯罪と言われて自分が思い浮かべるイメージをノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、精神障害者のうちどのくらいのパーセンテージの人間が犯罪を犯すのかや、精神障害者はどのような理由から犯罪を犯すのかについてノートにまとめておく。	120分
9	11月12日	外国人犯罪	来日外国人の数が年々増加する日本国内において、来日外国人犯罪の現状と課題を説明し、今後日本がどのような対策を行うことが必要なのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が来日外国人犯罪に対して、偏見やイメージに基づかない冷静な分析を行い、その対策について説明できるようにする。	
		事前学修	日本国内の来日外国人犯罪はどのくらい発生しているのか調べてくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、来日外国人犯罪の定義や犯罪の認知件数、対処方法についてノートに列記しておく。	120分
10	11月19日	交通犯罪	日本における交通犯罪の取り締まりがどのように行われてきたかを説明し、交通犯罪の現在の傾向と対策を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が交通犯罪の罰則の変遷過程やその理由について説明すること ができる。	
		事前学修	日本の交通事故の発生件数や事故死者数について調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、交通犯罪対策の歴史についてノートに図表化してみる。	120分
11	12月3日	児童虐待・DV（ファミリーバイオレンス）	児童虐待及びDVの現状及びその対策の難しさについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、受講生が、家庭内で発生し対策を取ることが難しい問題への解決策を考えることができる。	
		事前学修	近年、日本で発生した児童虐待またはDV事件についてインターネット等を通じて調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、児童虐待及びDV対策の問題点やなぜ対策が難しいのかをノートにまとめておく。	120分
12	12月10日	サイバー犯罪	サイバー犯罪の種類と各種サイバー犯罪の現状と対策について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がサイバー犯罪対策の高度な知識を養成する。	
		事前学修	サイバー犯罪と聞いてどのようなものをイメージするか、それについていくつかノートに列挙してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、サイバー犯罪に対して自分でできる対策について再確認し実行して おく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	性犯罪Ⅰ 性犯罪の現状と暗数、性犯罪の再犯防止(刑事施設における性犯罪再犯防止指導)	日本における性犯罪の認知件数と暗数の問題、性犯罪者の特徴、性犯罪者に対する再犯防止のための矯正処遇について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が性犯罪の特徴について正しい理解をし、説明することができる。	
		事前学修	日本国内で起きた強制性交等罪・強制わいせつ罪の認知件数について調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、性犯罪発生のメカニズムとなぜ暗数が多いのかについての理由をノートにまとめておく。	120分
14	12月24日	性犯罪Ⅱ 性犯罪の予防策	性犯罪の予防策について、アメリカ合衆国の制度を中心に、日本国内でも議論がなされているメーガン法やGPS監視等の様々な性犯罪対策について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がアメリカ合衆国の性犯罪対策について正確に理解し、説明できる。	
		事前学修	アメリカ合衆国（どこの州を参考としても良い）の性犯罪者対策を調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、どのようにすれば性犯罪を事前に予防できるかについて自分の意見をノートにまとめる。	120分
15	1月14日	試験及び試験の解説	授業内試験を実施し、試験終了後に試験問題の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことについて、試験を通じて定着を図る。	
		事前学修	これまでにノートに列記した事項を整理し、再度見直しを行い総復習を実施する。	300分
		事後学修	試験の解説に基づいて、自らの書いた答案の再検証を行う。	100分

科目名	経済政策論	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			

【授業の概要】
経済政策とは、経済理論を背景に政策的介入や規制等の効果について検討を行うものである。本講義ではミクロ経済政策について学修する。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実の経済問題（人口減少、雇用、経済成長、規制緩和、少子化、高齢化、社会保障）に対する、経済政策がどのような効果をもたらすかについて論じることができるようになるために、経済政策についてその理論的背景を修得する。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（同時履修可）

【授業方法】		
教科書・講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。					3	3	3	3			
②	ミクロ経済政策の概念や政府の介入の意義を、論理的に説明することができる。					3	3	3	3			
③	外部性や情報の非対称性をはじめとする市場の問題を説明することができる。					3	3	3	3			
④	個々のミクロ経済政策に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。					3	3	3	3			
⑤	非営利組織における主要な概念や理論を識別することができる。					3	3	3	3			
⑥	非営利組織のミッションや活動の意義を、論理的に説明することができる。					3	3	3	3			
⑦	寄付の理論、ボランティアの理論をはじめとする、経済理論を説明することができる。					3	3	3	3			
⑧	非営利組織（セクター）の活動に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。					3	3	3	3			
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、5回行う小テスト・レポートにより、到達目標①②③⑤⑥⑦に関わる基礎知識を評価する。	3	3	3		2	2	2				15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④(中間)、⑧(期末)にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。				35				35			70
討論・発表等	授業中の演習・質疑応答において自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標①②③⑤⑥⑦にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	2	2	2		3	3	3				15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	35	5	5	5	35			100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナール「経済政策入門」	岩田規久男、飯田泰之	日本経済新聞出版社	2006年	教科書	必携
備考	教科書は前半部分のみ利用し、後半部分は講義ノートに基づいて講義を行う。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		該当しない	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【オリエンテーション・需給分析】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、経済政策論を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、経済政策論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	教科書第1章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討をする。	120分
2	4/14	【厚生分析の基礎】	消費者余剰、生産者余剰、総余剰について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済分析の基礎である厚生分析の方法を説明できる。	
		事前学修	教科書第1章5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第1章の練習問題3について説明をまとめること。	120分
3	4/21	【競争市場と税・規制】	税・補助金の死荷重、価格規制と参入規制の費用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税や補助金による市場介入による死荷重を説明できる。	
		事前学修	教科書第2章1．2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第2章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
4	4/28	【貿易政策と産業政策】	自由貿易の利益と日本の産業政策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由貿易・産業政策の利益と費用を説明できる。	
		事前学修	教科書第2章3．4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第2章の練習問題5について説明をまとめること。	120分
5	5/5	【独占と規制】	規模の経済、独占企業の価格規制について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規模の経済と独占が生じる仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第3章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第3章の練習問題1．2について説明をまとめること。	120分
6	5/12	【インセンティブと規制緩和】	インセンティブ規制と公益事業の規制緩和について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インセンティブ規制の内容と規制緩和の利益について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第3章の練習問題5について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	【外部性と環境政策】	外部性、市場の失敗、コースの定理、排出権取引について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場の失敗と環境問題の経済学的理解について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第4章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
8	5/26	【公共財の供給】	公共財の性質と、費用便益分析について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財供給のメカニズムについて説明できる。	
		事前学修	教科書第4章2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第4章の練習問題6について説明をまとめること。	120分
9	6/2	【不完全情報とリスク】	期待効用仮説、リスク・プール、逆選択、モラル・ハザードについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、限界効用逓減、情報の非対称性について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章1．2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
10	6/9	【不完全情報下の経済政策】	情報開示政策、有限責任行動、政策金融の役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性についての政策介入について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章3．4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の練習問題4について説明をまとめること。	120分
11	6/16	【所得再分配政策】	効率性と公平性のトレードオフ、所得再分配の基準について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、効率性と公平性の違いについて説明でき、所得再分配政策の基準について議論できる。	
		事前学修	教科書第10章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第10章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
12	6/23	【所得税】	包括的所得税について考え方と性質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、包括的所得税の概念と問題点について説明でき、議論できる。	
		事前学修	教科書第11章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第11章の練習問題1について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【支出税】	支出税について考え方と性質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、支出税の概念と問題点について説明でき、議論できる。	
		事前学修	教科書第11章 2 の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第11章の練習問題 2 について説明をまとめること。	120分
14	7/7	【年金と医療】	保険原理と財政原理の違い、日本の年金制度について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険原理と財政原理の違いについて説明でき、日本の社会保障制度について議論できる。	
		事前学修	教科書第12章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第12章の練習問題 2 について説明をまとめること。	120分
15	7/14	【まとめ】	ここまでの講義全体の総括と、経済政策論を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、経済政策論を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
		事後学修	定期試験に向けて準備しておくこと。	240分

科目名	経済法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【履修条件】
憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。

【授業方法】
講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が独禁法ののさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。					2		2					
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。					2		2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済法・第8版補訂版	岸井大太郎ほか	有斐閣	2019年	教科書	必携
経済法判例・審決百選〔第2版〕	金井貴嗣ほか編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日17:50に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木4/9 第二部木4/9	独禁法概説	序論として独占禁止法の全体を眺め、どのような規定があるかを概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解します。規制の種類が条文に照らしてどのようなものがあるかを理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法はどのような規定であるのかについて、六法を開けてざっと読んでください。	120分
		事後学修	授業で話された内容を六法で確認しておきましょう。	120分
2	第一部木4/16 第二部木4/16	独禁法成立経緯（1）	独禁法制定当時の経緯を説明し、新日鉄合併事件などを通じて学びます。ここで景表法などの成り立ちを嘘つき牛缶事件を通じて学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、後で学ぶ独禁法のエンフォースメントの強化に至る具体的経緯を知ることで、現代的意義を理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
3	第一部木4/23 第二部木4/23	独禁法成立経緯（2）	独禁法が次第に課徴金制度など規制強化の制度経緯を眺めることで、現在の柱となる概念の活用方法を理解します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法の歴史的経緯に触れることで、独禁法上の既成概念の意義を深く理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
4	第一部木4/30 第二部木4/30	独禁法の基礎的概念（1）	「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」、公正競争阻害性といった独禁法の実体的規定の柱となる法概念の関係性を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法全体で共通して用いられる抽象概念をはじめに理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法の実体的規定に共通する概念を六法で見ておきましょう。	120分
		事後学修	これらの概念がどの規定と共通するかを六法で確認しましょう。	120分
5	第一部木5/7 第二部木5/7	独禁法の基礎的概念（2）	「事業者」や「公共の利益」など、独禁法の柱となる抽象的概念がどのように活用されるかを、都営芝浦と畜場事件や石油カルテル刑事事件を通じて概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的概念が実際の事例でどのように用いられているかを、最初の段階で知識として取得できることを目指します。	
		事前学修	第4回で学んだ独禁法の実体的規定がどのような場合に当てはまるのかに注意しながら、教科書の該当箇所を一読しましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
6	第一部木5/14 第二部木5/14	公正取引委員会の組織と権限（1）	独禁法を具体的に適用する行政組織に与えられる権原、その他の特殊性について取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法が特別の行政組織である公正取引委員会により執行されることを理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法を適用する主体が誰であるかを教科書の該当箇所から学び取ってみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21第二 部木5/21	公正取引委員会の組織と権限（2）	独禁法の適用事例を通じて組織上の課題を取り上げます。なお、すでに審判手続は廃止されていますが、学ぶ諸事例はこの手続にのっとり解決されているケースが多数になりますので、現在の制度と対比させながら論じます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法が特別の行政手続を設けることで紛争処理を行っている実態を理解できることを目指します。	
		事前学修	公正取引委員会に与えられる諸権限を六法で確認しておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
8	第一部木 5/28第二 部木5/28	違反事件の処理手続（1）	公正取引委員会に与えられる行政上の諸権限がどのような意味を持ち、それがどのように行使されるのかについて、主に手続的な問題として取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、公正取引委員会が他の行政機関とは独立していることの意義を、紛争事例を通じて習得できることを目指します。	
		事前学修	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
9	第一部木 6/4第二 部木6/4	違反事件の処理手続（2）	公正取引委員会に与えられた特殊な権限が違反事件にいかに関与しているかを概観します。この場合、詳細な手続が委員会規則によって定められていることがあるので、事前学習で調べたものに照らし合わせることを期待します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、公正取引委員会が独禁法違反の処理を行うための根拠規定の内容とその解釈ができることを目指します。	
		事前学修	公正取引委員会が定めた規則がありますので、その規則をインターネット等で調べてみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた諸権限が具体的にどのように活用されているのかを教科書などで確認しておきましょう。	120分
10	第一部木 6/11第二 部木6/11	実効性確保手段（1）	公正取引委員会による違反事件に対する行政上の措置として排除措置命令・課徴金納付命令を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法特有の違反処理に関する実体・手続の両面からの論点を理解できることを目指します。	
		事前学修	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
11	第一部木 6/18第二 部木6/18	実効性確保手段（2）	違反事件に対する民事上・刑事上の現れ方を概観します。特に、独禁法25条に規定される無過失損害賠償訴訟の意義を、鶴岡灯油訴訟を素材に学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、民事・刑事両面にわたり実効性確保手段がどのように機能するかを理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法の中で訴訟にかかわる部分についてどのような規定があるかを、六法の中から探し出してみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
12	第一部木 6/25第二 部木6/25	独禁法の機能の全体的概観	これまでに取り上げてきた内容について、独禁法がどのように機能するかを全体的に概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法特有のさまざまな現象や行政・民事・刑事の実効性確保を全体的に鳥瞰し、次の実体的な規定の解釈につなげられる能力を身につけられることを目指します。	
		事前学修	独禁法の柱となる概念はどのようなものがあるかを確認するため、教科書を読んでみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木7/2 第二部木7/2	行為規制に関する共通規定 ——「競争の実質的制限」	独禁法2条5項・3条前段の規定の意味を取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的な概念がどのように実際事例に生かされるかについて改めて認識できることを目指します。	
		事前学修	私的独占について独禁法がどのように規定しているかを六法から読み取ってみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
14	第一部木7/9 第二部木7/9	私的独占 私的独占	(1) —— 排除型 私的独占の類型のうち排除型に関する諸事例として、パラマウントベッド事件、NTT東日本FTTH事件などを取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的な概念がどのように実際事例に生かされるかについて改めて認識できることを目指します。	
		事前学修	到達目標①②と関連して、典型的な排除型私的独占のモデルを理解できることを目指します。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
15	第一部木7/16 第二部木7/16	私的独占 私的独占	(2) —— 支配型 私的独占の類型のうち支配型に関する諸事例として、野田醤油事件などを取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、支配型私的独占の典型モデルを深く理解できることを目指します。	
		事前学修	第14回で学んだ排除型私的独占と対比させながら、何が支配型私的独占であるのかについて、教科書を一読してみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分

科目名	経済法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め企業同士で競争しない協定が締結されることもしばしば行われるため、市場原理に反する企業によって競争がゆがめられてしまいます。このように、私たちの日常で起きうるさまざまな競争上の問題を解消する独占禁止法を本授業では取り上げ、その基本的な解釈をできるだけ忠実に条文に照らしながら学ぶことを目的とし、社会に出ても十分に対応できる法的思考（リーガルマインド）を身につけられることを目標とします。

【履修条件】
経済法Ⅰの履修者であることを求めます。なお、憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。

【授業方法】
講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が独禁法のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。				2		2					
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済法・第8版補訂版	岸井大太郎ほか	有斐閣	2019年	教科書	必携
経済法判例・審決百選〔第2版〕	金井貴嗣ほか編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日17:50に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/17第二 部木9/17	独禁法の実体的規定（概要）	経済法Ⅰで学んだ独禁法の基礎的概念や実体的規定を前提に、「競争の実質的制限」を共通要件とする独禁法2条6項・3条後段の規定の意味を取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、行為規制として重要な違反行為の典型類型をより深く理解できることを目指します。	
		事前学修	今回から不当な取引制限（カルテル）について学んでいきますので、カルテルとは何かなどを、身近な事例で感じながら教科書を一読してみましょう。あわせて六法で該当する規定を読んでおきましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分
2	第一部火 9/24第二 部木9/24	不当な取引制限（1）	多数の不当な取引制限に関する諸事例の典型的なものについて、取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、まずは条文が期待する基本的事例のイメージを理解できることを目指します。	
		事前学修	第16回で概要を理解した「不当な取引制限」がどのように活用されるのかについて、教科書を一読してみましよう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分
3	第一部火 10/1第二 部木10/1	不当な取引制限（2）	カルテル・官製談合について、協和エクシオ事件、目隠しシール談合事件のような典型的事例を通じて学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、先に学んだ基本的な事例イメージが具体的事例にいかにか当てはめられるかを理解できることを目指します。	
		事前学修	不当な取引制限のうち、「談合」を典型として特殊な事例として行政機関が関わるものもあるので、それらが何かについて教科書で一読してみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
4	第一部火 10/8第二 部木10/8	不当な取引制限（3）	不当な取引制限に関する課徴金納付命令などの特殊な手続について、復習およびそれにかかわる諸手続の問題を検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、課徴金制度の概要とその実効性を制度上どのような課題があるかを理解できることを目指します。	
		事前学修	独禁法の実効性確保手段（エンフォースメント）について、六法で該当する規定を探し出してみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
5	第一部火 10/15第二 部木 10/15	構造規制（1）——独占的状態規制	構造規制の一つである独禁法8条の4に規定される独占的状态規制について取り上げます。特に、「ネットワーク産業」と競争政策の関係性を意識します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、伝家の宝刀と呼ばれる独占的状态規制の存在意義について、具体的事例を交えて理解できることを目指します。	
		事前学修	構造規制がどのような意味を持つのかについて、教科書で確認してみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。	120分
6	第一部火 10/22第二 部木 10/22	構造規制（2）——集中規制概観	企業結合のうち集中規制（一般・市場）の意味について取り上げます。公取委のガイドラインに記された意義について、独禁法の歴史的観点から学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、構造規制の全体像を頭の中で描けるよう、独禁法の仕組みを理解できることを目指します。	
		事前学修	インターネット・新聞報道でもよく扱われるM&Aについて、どのような時事問題が登場するかを意識して教科書を一読してみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を教科書やインターネット・新聞報道などで確認しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/29第二部木 10/29	構造規制（3）——持株会社規制	構造規制の一つである持株会社規制に係る独禁法9条・11条について、関連する公取委ガイドラインに照らしながら、その中身について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、財閥復活の抑止力となるこれらの規定の存在意義を理解できることを目指します。	
		事前学修	企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している事業支配力過度集中規制ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。	120分
8	第一部火 11/5第二部木 11/5	構造規制（4）——株式保有・役員兼任・合併規制	独禁法10条、13条以下について取り上げ、株式保有・役員兼任・合併といった諸規制について概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本来自由であるこれらの諸規制が存在する意義について具体的に理解できることを目指します。	
		事前学修	第22回の授業で取り上げられなかった企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している企業結合ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。	120分
9	第一部火 11/12第二部木 11/12	構造規制（5）——企業結合事例の検討	公正取引委員会による審決例である新日鉄事件、広島電鉄事件、日本楽器事件などを通じて、企業結合に関する諸事例の基本的理解を進めます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、典型事例を説明することで企業結合事例の法的問題を理解できることを目指します。	
		事前学修	企業結合ガイドラインで触れられた内容に照らしてどのような問題が生ずるかについて、教科書を一読してみましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
10	第一部火 11/19第二部木 11/19	不公正な取引方法（1）	不公正な取引方法の要件である公正競争阻害性について、私的独占・不当な取引制限とは異なる構成要件とその意味を概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の概念についてその法構造を他の諸規制と照らして説明できることを目指します。	
		事前学修	六法の中で不公正な取引方法はどのように規定されているかを確認してみましょう。	120分
		事後学修	取り上げられた規定の意味を教科書などで確認しておきましょう。	120分
11	第一部火 12/3第二部木 12/3	不公正な取引方法（2）	排他条件付取引について和光堂事件をはじめとした典型事例を学ぶことで、不公正な取引方法の一角を担う違反行為について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の典型事例を理解し他の関連事例の説明にもつながられることを目指します。	
		事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
12	第一部火 12/10第二部木 12/10	不公正な取引方法（3）	独禁法上課徴金の対象となる再販売価格維持行為について、ソニーコンピュータエンタテインメント事件などを取り上げます。これとあわせて、拘束条件付取引にかかわる諸類型について、公取委のガイドラインに照らして検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の中でも違法性の強い再販売価格維持行為のイメージを深く理解できることを目指します。	
		事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/17部 木12/17	不公正な取引方法（４）	共同・その他の取引拒絶、差別対価等の差別的取扱いについて、全農協事件、北國新聞事件（第二次）など、実体法上の論点にかかわる諸事例を取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、一般指定の深い読み方を具体的事例に照らして理解できることを目指します。	
		事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
14	第一部火 12/24部 木12/24	不公正な取引方法（５）	不当廉売、優越的地位の濫用を、読売新聞社事件や三越事件といった典型事例を中心に学ぶとともに、その他の不公正な取引方法を含めた公正競争阻害性を要件とした行為規制全体像を明らかにします。180	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、典型事例を頭に入れることで、不公正な取引方法の全体的な把握できることを目指します。	
		事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分
		事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
15	第一部火 1/14第二 部木1/14	独禁法の実体的規定（総括）	独禁法の総説・実体的規定を通じて学んだ諸事項を総括し、問題発見能力（リーガルマインド）が養われていることを確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済法Ⅰを含めて学んだ独禁法に準備された様々な諸規制が私たちの経済活動にどのように関係しているかを理解できることを目指します。	
		事前学修	経済法Ⅰから前回までに学んだ独禁法に関する諸規定の解釈と具体的な諸事例について、復習してみましよう。	120分
		事後学修	確認できたことを教科書・百選に照らして検討してみましよう。	120分

科目名	警察政策	担当者	金山 泰介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
治安行政は、外交及び防衛と並んで重要な国家の基本機能でありながら、我が国の大学ではあまり論じられてこなかった分野である。しかしながら、平成に入ってから犯罪急増、サイバー犯罪、振り込め詐欺、ストーカー等新たな治安への脅威の出現により、治安に対する国民の関心が高まっているところである。本科目においては、警察行政を中心に犯罪や事故等人に起因する危険から個人や社会を守るための行政政策を説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
◎授業目的：治安行政は、平成期に入り犯罪急増等により国民の関心が高まるとともに、配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等の新規立法が相次いで行われるなど大きく進展している。こうした治安行政の中核に担う警察行政の進展の背景、内容を理解し、社会の安全にかかわる施策の企画、立案、執行を担える人材を養成する。 ◎到達目標：近年の警察行政の進展の背景、内容について自分の言葉で説明できるようになるとともに、社会における危険に対して国、自治体、企業、個人それぞれのレベルでの対処について考察し、具体的な対策について説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを用いた講義形式で行うが、随時質問をするので予習しておくこと。また、講義冒頭に前回講義のポイントを質問するので復習を欠かさないこと。試験の解説は、試験終了時に行う。、

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	警察制度の変遷について説明できる。【知識】				4	4			
②	警察法及び警察官職務執行法の概要を説明できる。【知識】				4	4			
③	犯罪統計の概要及び分析手法を説明できる。【知識】				4	4	4		
④	平成期の警察政策（社会安全政策）の大きな変化についてその特徴を説明できる。【知識】		4		4	4	4		
⑤	警察政策策定の基本的考え方を説明できる。【知識】				4	4			
⑥	危険事態に対処する場合の基本的な警察活動について法的根拠に基づき判断できる。【技能】		4		4	4	4		
⑦	公務員及び警察官の倫理について議論できる。【態度・習慣】		4		4	4	4		
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①ないし⑦に関し、筆記試験により評価する。警察に関する断片的な知識の羅列ではなく、社会の発展や国民の意識の変化とのかかわりなど制度や権限の変遷等現行法制の背景を踏まえた総合的な論述を求めます。理解の正しさ、表現力も評価します。	11	11	11	11	11	11	14				80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各授業冒頭では、前回の授業についての質問を行うことにより、復習の有無を氷解します。	2	3	3	3	3	3	3				20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		13	14	14	14	14	14	17				100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に論点等の解説をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版警察行政概論	金山泰介	立花書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：50～13：00、14：30～14：40 授業講堂で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を有しています。
実務経験に基づく実践的教育の内容		警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、日本警察の法制について諸外国の警察との比較を交えながら、具体的に説明します。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9月14日	ガイダンス，導入講義	社会の安全を守るための行政の意義と授業の進め方、評価方法等の説明
		この回の到達目標	社会の安全を守るための行政の意義を説明できる。
		事前学修	シラバス及びテキスト各章の冒頭の導入説明を読み講義全体を概観する。60分
		事後学修	講義ノートを整理し自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。120分
2	9月21日	犯罪情勢の推移と変化の原因	戦後の犯罪情勢を概観するとともに犯罪統計について理解する。
		この回の到達目標	刑法犯、特別法犯、交通業務上過失致死傷罪の意義を説明できる。
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪統計の概要を理解する。120分
		事後学修	講義ノートを整理し、犯罪統計におけるキーワードを記憶する。120分
3	9月28日	日本の警察及び刑事司法制度	警察及び刑事司法制度：警察制度を中心に我が国の刑事司法制度を理解する。
		この回の到達目標	日本警察の変遷をを基に現行制度の意義を説明できる。
		事前学修	事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、明治憲法下の警察と現行警察との違いを考察する。120分
		事後学修	講義ノートを整理し、旧警察法と新警察法の違いをまとめる。120分
4	10月5日	警察権限行使の法理	警察権限の法的根拠とその執行の基本的原則を理解する。
		この回の到達目標	警察権限行使の裁量における判断基準を説明できる。
		事前学修	事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、警察法第1条及び第2条の趣旨を考察する。120分
		事後学修	講義ノートを整理し、警察権限行使の基本原則をまとめる。120分
5	10月12日	警察官の倫理	警察官の職務倫理について理解するとともに警察官の倫理の特徴について考察する。
		この回の到達目標	警察官には一般公務員より高い倫理が求められることに納得し、を説明できる。
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、警察倫理と公務員倫理の違いを考察する。120分
		事後学修	講義ノートを整理し、警察官は一般公務員よりも高い倫理性が求められる理由についてまとめる。120分
6	10月19日	警察の捜査	警察の行う犯罪捜査の意義と任意捜査の原則について理解するとともに、主に英米法との比較において任意捜査の原則の意義を考察する。
		この回の到達目標	任意捜査の原則を法的根拠に基づき説明できる。
		事前学修	事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪捜査の法的根拠を確認する。120分
		事後学修	講義ノートを整理し、警察、検察それぞれの捜査の違いをまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	被害者対策と犯罪予防の理論	犯罪被害者対策の概要及び犯罪理論特に環境犯罪学の概要を理解する。	
		この回の到達目標	犯罪被害者の置かれている状況を知り、その支援の重要性を説明できる。環境犯罪学について説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪被害者の置かれている立場に思いを寄せる。	120分
		事後学修	講義ノート整理し、犯罪予防の理論の発展の経緯を整理する。	120分
8	11月9日	公共空間・地域の安全	公共空間における犯罪防止政策の変遷と現状を理解するとともに、犯罪予防の理論の適用・実践を考察する。	
		この回の到達目標	自らの居住地域の犯罪予防がどのように行われているか具体的に説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪予防の重要性を理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、犯罪予防の理論に基づく各種施策をまとめる。	120分
9	11月16日	家庭等親密圏の安全	配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等親密な関係にある者の間で生ずる事案への対応について考察する。	
		この回の到達目標	親密圏に対する国家の介入の変遷を説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、家族間の犯罪について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、夫婦間暴力、ストーカー対策、児童虐待対策に共通する事項をまとめる。	120分
10	11月23日	反社会的勢力対策	暴力団等反社会的勢力への対処について理解する。	
		この回の到達目標	暴力団等反社会的勢力への対処について、その歴史的背景及び法制度の変遷について説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、暴力団対策の歴史を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、暴力団対策の変化と国民の意識の変化についてまとめる。	120分
11	11月30日	サイバー空間の安全	サイバー犯罪対策の歴史と現行法制度について理解するとともに、サイバー空間の秩序構築について考察する。	
		この回の到達目標	サイバー空間と現実空間との相違及び融合を理解し、犯罪対策の特徴を説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、サイバーセキュリティ基本法の基本条項に目を通す。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、サイバー空間の秩序構築のための諸施策についてまとめる。	120分
12	12月7日	道路交通の安全	交通死亡事故防止対策について理解する。	
		この回の到達目標	交通安全基本計画の策定経緯を理解し、議院内閣制における省庁横断型政策プロジェクトの基本的な在り方を説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分の精読し、交通事故対策の歴史について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、交通死亡事故抑止に効果をもたらした諸要素をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	テロ対策	テロの歴史と対策について理解する。	
		この回の到達目標	テロの変遷を理解し、それに伴うテロ対策の転換を説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分の精読し、テロの歴史を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、テロ防止のための規制の必要性和個人の自由とのバランスについてまとめる。	120分
14	12月21日	犯罪対策閣僚会議と行動計画	犯罪対策閣僚会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定について考察する。	
		この回の到達目標	犯罪対策閣僚会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定についてその背景及び政策決定のを説明できる。	
		事前学修	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、「行動計画」策定の背景を検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、第1次から3次の「行動計画」の発展についてまとめる。	120分
15	1月18日	授業内試験及び講義のまとめ	論述式1問。テキスト、配布資料、ノート等紙媒体は持ちこみ可。 試験の解説	
		この回の到達目標	到達目標をクリアする。	
		事前学修	試験の準備	180分
		事後学修	解説を基に答案を再構成する。	60分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	澤田 康広	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単 位 数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑法総論，各論を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
教科書に依拠して講義形式で説明するが，あわせて適宜，判例百選等の事例も紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し，捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を，具体的事例に即して即して適用し，判断することができる。						1		1			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては，授業終了後に，事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第二部 水9/16	刑事訴訟法を知る		年間の講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 刑事訴訟法がどのような法律で、学習する際の注意点
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であるかを説明できる。	
		事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	第二部 木9/17	刑事訴訟法の意義と目的		刑事訴訟法の歴史、刑事訴訟法の意義と目的
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、日本の刑事訴訟法がどのような経緯で成立したかを知り、刑事訴訟法の意義と目的を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	第二部 水9/23	刑事手続の概要		刑事手続の流れ
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、時系列に従い、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	第二部 木9/24	刑事訴訟法の担い手①(裁判官)		刑事裁判権、裁判所の種類と役割、裁判官の除斥・忌避・回避、裁判管轄
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、裁判所法の条文を確認する。	120分
5	第二部 水9/30	刑事訴訟の担い手②(検察官)		刑事手続における検察官の地位・役割、我が国検察官の特徴
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国の検察官の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、検察庁法の条文を確認する。	120分
6	第二部 木10/1	刑事訴訟法の担い手③(捜査機関)		捜査機関としての司法警察職員の種類、その地位・役割、検察官との関係
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、司法警察職員の種類や検察官との関係を知り、刑事手続における司法警察職員の果たす役割について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 水10/7	刑事訴訟法の担い手④(被告人)	被告人の意義，被告人の確定，当事者能力，訴訟能力	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における被告人の地位を知り，氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	第二部 木10/8	刑事訴訟法の担い手⑤(弁護人)	弁護人の任務と権限，弁護人選任権	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における弁護人の役割を知り，弁護人選任権について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，該当する条文を確認する。	120分
9	第二部 水10/14	捜査の概説	捜査の意義，構造	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査の意義や構造を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	第二部 木10/15	捜査の端緒①	現行犯人の発見，変死体の検視	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，現行犯人を発見した際や変死体を発見した際に，どのような手続がとられ，捜査が開始されるかを説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	第二部 水10/21	捜査の端緒②	告訴，告発，請求，自首	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，告訴・告発等の意義と内容を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	第二部 木10/22	捜査の端緒③	職務質問	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，職務質問の法的根拠と法的性格，要件，実力行使(強制力の行使)の許否について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，警察官職務執行法の条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 水10/28	捜査の端緒④	所持品検査，自動車検問	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，所持品検査の法的根拠を知り，その際の実力行使（強制力の行使）の拒否や自動車検問の法的根拠を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
14	第二部 木10/29	任意捜査の原則	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）としての警察（捜査）比例の原則	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査のうち任意捜査が原則であることを理解し，比例の原則について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	第二部 木11/5	強制処分法定主義	強制処分法定主義の根拠，意義・趣旨，令状主義との関係，強制捜査と任意捜査との区別の基準	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制捜査と任意捜査との区別を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	第二部 水11/11	新しい強制処分	写真撮影，GPS捜査	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，写真撮影やGPS捜査の適法性やその根拠を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
17	第二部 木11/12	逮捕①	通常逮捕の要件と手続	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，通常逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	第二部 水11/18	逮捕②	緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 木11/19	勾留	逮捕前置主義，勾留の要件としての理由と必要性	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，勾留の要件と手続を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
20	第一部 木11/25	逮捕・勾留に関する諸問題①	事件単位の原則，一罪一逮捕一勾留の原則	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，被疑者の身柄拘束をめぐる原則について，理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
21	第二部 水12/2	逮捕・勾留に関する諸問題②	別件逮捕	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
22	第二部 木12/3	令状による搜索・差押①	令状請求の要件と手続	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，憲法35条の法意を理解し，搜索と差押の実体的要件(理由と必要性)を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
23	第二部 水12/9	令状による搜索・差押②	搜索・差押えの実施手続，搜索・差押の実施に「必要な処分」	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，搜索・差押えの具体的な実施手続を理解し，「必要な処分」として許容される事項を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	第二部 木12/10	令状による搜索・差押③	強制採尿	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制採尿の許容性と実施の要件と手続を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 水 12/16	逮捕に伴う搜索・差押	逮捕に伴う無令状搜索・差押の対象物，対象となる場所の範囲，時間的範囲	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，無令状搜索・差押が許容される要件や手続を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
26	第二部 木12/17	取調べ	被疑者の取調べ，被告人の取調べ，余罪の取調べ	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，被疑者，被告人の取調べの手続や問題点を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
27	第二部 木12/23	被疑者の黙秘権	黙秘権の根拠と保障の趣旨，黙秘権の保障の及ぶ範囲	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，黙秘権の保障について，憲法の規定と刑訴法の規定を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
28	第二部 木12/24	弁護人の援助を受ける権利	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利と接見交通権	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，接見交通権の内容と保障の趣旨，接見指定の要件を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
29	第二部 水1/13	違法捜査からの救済	違法捜査に対する刑事手続内外で講じることのできる措置	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，準抗告，違法収集証拠排除法則，国家賠償請求等の手続を通じて，違法捜査からの救済方法を理解し，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	第二部 木1/14	捜査手続の終結	検察官の終局処分とその内容	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，検察官の終局処分とその内容や手続を知り，説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	関 正晴	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。定期試験の解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1						
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						1		1				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果等については、講評をポータルサイトを通じて明らかにする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N e x t 教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	平成31年	教科書	
刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁ら編	有斐閣		その他	
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の12：10 ～12：30 に、質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	刑事訴訟手続の概説	年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事裁判手続の一般的な説明、捜査手続において中心となる各制度の内容と性質等を概説する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	1年生のときに学習した法学の教科書等の「刑事裁判手続」等の該当箇所を一読するとともに、シラバスを確認して講義全体を概観する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の8頁の図と比べあわせて、全体としての刑事手続の流れの理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
2	9月23日	刑事訴訟法の意義	刑事訴訟制度の歴史、意義、憲法や刑法との関係、刑事手続を捜査、公訴提起、公判、刑の執行等の内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の1頁から10頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
3	9月24日	刑事訴訟の目的と訴訟構造	刑事訴訟の目的に関して、刑事訴訟法1条に表れている指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容について確認し、訴訟構造に関する当事者主義の意義について、職権主義との対比で内容を説明し、刑事訴訟法の改正事項を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	法律用語辞典や各人の参考書で適正手続主義、実体的真実主義、当事者主義、職権主義という専門用語の内容を確認すること。教科書3頁から7頁、10頁から12頁を読み、近年の司法制度改革によってなされた刑事訴訟法の改正事項を確認する。	60分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	180分
4	9月30日	刑事訴訟の主体（裁判所）	刑事裁判権、刑事訴訟を担当する裁判所の種類と役割、国法上の裁判所と訴訟法上の裁判所、裁判官の除斥・忌避・回避、管轄についての条文の概要、事物管轄、土地管轄、審級管轄の意義	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の16頁から21頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
5	10月1日	刑事訴訟の主体②（裁判員裁判）	裁判員裁判について対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決方法等の内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の22頁から27頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
6	10月7日	刑事訴訟の主体③（検察官、捜査機関を含む）	刑事手続における検察官の地位・役割、司法警察職員の地位・役割、捜査における検察官と司法警察職員との関係について内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の27頁から34頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月8日	刑事訴訟の主体（被告人・弁護人）	疑者・被告人の訴訟法上の地位、当事者能力と訴訟能力、黙秘権・迅速な裁判を受ける権利、弁護人選任権、被疑者と被告人についてそれぞれの国選弁護制度の仕組み、弁護人の弁護義務と真実義務について内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の34頁から44頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
8	10月14日	刑事手続における被害者の地位	被害者に対する従来の刑事手続における取扱い、犯罪被害者保護法によって新たに導入されて制度の内容について条文に即して内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の44頁から51頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
9	10月15日	捜査の概説（捜査の意義・構造）と捜査の端緒	捜査の概念・定義、捜査の端緒の意義と種類、告訴・告発等の意義と内容、職務質問の法的根拠と法的性格、要件、実力行使と所持品検査の許否について内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の54頁から59頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
10	10月21日	任意捜査の原則	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組）としての警察(捜査)比例の原則、鑑定の囑託、実況見分、任意同行に対する規制の内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の59頁から61頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
11	10月22日	強制処分法定主義	強制処分法定主義の条文上の根拠、意義・趣旨、令状主義との関係・異同、任意捜査と強制捜査との区別の基準につて内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の61頁から62頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
12	10月28日	新しい強制処分説と科学的捜査	科学捜査とされる写真撮影や電話傍受について任意捜査と強制捜査との区別の基準がどのように適用されるか、強制処分とされた捜査手段に対する適法性の判断方法について内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の61頁から62頁を再度読み、また教科書91頁から97頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月29日	逮捕	逮捕の種類とそれぞれの異同、通常逮捕の要件と手続、現行犯及び準現行犯の意義と要件、緊急逮捕の要件と手続、逮捕後の手続の流れについて、条文に則して内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の62頁から67頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
14	11月5日	勾留	逮捕前置主義の条文上の根拠と趣旨、勾留の実体要件としての勾留の理由と必要性、勾留の手続（勾留質問、勾留請求権者、勾留請求の時間制限等）、勾留機関と延長、被疑者勾留の場所、勾留に対する不服申立方法について内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の68頁から70頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
15	11月11日	逮捕・勾留の諸問題(1)	事件単位の原則の趣旨と意義、二重逮捕・勾留の許否、再逮捕・勾留の許否（一罪一逮捕の原則）について内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の71頁から73頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
16	11月12日	逮捕・勾留の諸問題(2)	別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説と判例、違法な別件逮捕・勾留があった場合の法的効果についてについて内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の72頁から73頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
17	11月18日	令状による捜索・差押	憲法35条の法意、捜索と差押の実体的要件(理由と必要性)、捜索差押令状の請求手続、捜索場所の特定、差押目的物の特定、捜索・差押の実施手続、令状の事前提示が要求される趣旨、捜索・差押の実施に「必要な処分」の内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の73頁から80頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
18	11月19日	逮捕に伴う捜索・差押	逮捕に伴う捜索・差押が無令状で許される理由、逮捕に伴う捜索・差押の対象物、捜索の対象となる場所の範囲、逮捕に伴う捜索・差押が許される時間的範囲、被逮捕者の身体・所持品の捜索を実施できる場所等についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の85頁から87頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月25日	科学的捜査	強制採尿の許容性と実施の要件と手続、写真撮影と通信の傍受に対する法的規制についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の80頁から83頁、91頁から97頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
20	11月26日	おとり捜査に対する法的規制	おとり捜査の意義、適法性の判断基準、違法なおとり捜査の訴訟法上の効果についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の89頁から91頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
21	12月2日	身柄拘束中の被疑者やの取調べ、余罪の取調べ、被告人の取調べ	捜査構造論、被疑者の取調べ受忍義務の肯定説と否定説、余罪取調べの限界についての学説、起訴後の被告人の取調べの許否についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の97頁から103頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
22	12月3日	被疑者の黙秘権	黙秘権の根拠条文と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ事項、刑事手続以外の手続における黙秘権の保障の有無についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の103頁から105頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
23	12月9日	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利	刑事弁護人制度の意義、弁護人依頼権の憲法上及び刑事訴訟法上の根拠、実質的で有効な弁護を受ける権利についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の38頁から44頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	60分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	180分
24	12月10日	被疑者等と弁護人の接見交通権(1)	接見交通権の内容と保障の趣旨、憲法34条の弁護人依頼権との関係、接見指定要件である「捜査のため必要があるとい」の解釈についての学説と判例についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の105頁から109頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月16日	被疑者等と弁護人の接見交通権(2)	接見指定要件を定める刑事訴訟法39条3項の合憲性についての最高裁判例、起訴後の余罪捜査と接見指定の許否について判例の立場と学説の内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の105頁から109頁と各人の参考書の該当箇所を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
26	12月17日	被疑者の証拠保全制度と被疑者の勾留理由開示請求	証拠保全と勾留理由開示制度について、それらの意義、要件及び手続について条文に則して内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の69頁、99頁等を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
27	12月23日	違法捜査からの救済	違法捜査に対する刑事手続の内外で講じることのできる措置(準抗告、違法収集証拠の排除法則、控訴棄却、懲戒処分、刑事罰、国家賠償等)の内容を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の109頁から110頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
28	12月24日	捜査手続の終結と検察官の終局的事件処理の運用原則	検察官への事件装置手続、検察官の行う事件処理の種類(狭義の不起訴処分、起訴猶予処分、起訴処分)についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の110頁から112頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分
29	1月13日	公訴権の運用原則	国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、起訴猶予処分を行う際の考慮要素、公訴の取消制度についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の114頁から116頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	150分
30	1月14日	検察官の事件処理を適正化する制度	察審査会制度、付審判請求手続、公訴権乱用論の意義と具体例についての内容等を説明する。	
		この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。	
		事前学修	教科書の116頁から120頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	緑 大輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】 刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。
--

【履修条件】 刑法総論、刑法各論を履修済みであることが望ましい。
--

【授業方法】 テキストに沿って、講述する予定です。また、判例に関する補足のプリントを配布する予定です。なお、講義時に短いレポートないし感想を提出を求め、加點事由とする場合があります。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。						1	1	1				
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説資料の配布または講義時間内における講述による。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXT刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	2016年 刊行予定	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜講義前後授業講堂にて。または休憩時間（非常勤のため）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 金4/10	刑事訴訟制度の概要	講義で扱う内容および成績評価方法、参考文献の紹介などを行うガイダンスを実施する。その上で、刑事訴訟制度の意義および特色について講述する。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本的な概念である弾劾主義、糾問主義、当事者主義、職権主義等の概念を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書第1章1～2を読む。	120分
		事後学修	教科書第1章1～2および講義ノートの復習。	120分
2	第1部 金4/10	刑事訴訟への関与者(1)	刑事手続への関与者として、検察官制度と検察官の職務権限、司法警察職員の意義と検察官との関係等について学ぶ。	
		この回の到達目標	検察官、裁判所の制度と権限の概要を把握する。	
		事前学修	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第1章3～5および講義ノートの復習。	120分
3	第1部 金4/17	刑事訴訟への関与者(2)	刑事手続への関与者として、被告人の意義と訴訟能力および基本的権利、弁護人制度の意義と権限について学ぶ。	
		この回の到達目標	被告人、弁護人の権限と両者の関係について、その概要を把握する。	
		事前学修	教科書第1章6～8を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第1章6～8および講義ノートの復習。	120分
4	第1部 金4/17	捜査の基本原則、捜査の端緒	捜査の意義および捜査の端緒（特に職務質問および所持品検査を中心として）について学ぶ。その際に、強制と任意の区別についても併せて確認する。	
		この回の到達目標	職務質問における停止行為や所持品検査の判例を素材として、比例原則を事案に即して適用する方法を理解する。	
		事前学修	教科書第2章1A～Bおよび第2章3Aを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章1A～Bおよび第2章3A、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
5	第1部 金4/24	任意捜査の限界(1)	第4講で提示した事例問題を検討・解説した上で、任意捜査の限界について、任意同行を中心に学ぶ。	
		この回の到達目標	任意同行等の判例を素材として、任意捜査における被制約利益を把握する。	
		事前学修	教科書第2章2A～Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章2A～Dおよび講義ノートの復習の検討。	120分
6	第1部 金4/24	任意捜査の限界(2)	おとり捜査、写真撮影・ビデオカメラ撮影の限界について学ぶ。	
		この回の到達目標	おとり捜査、路上写真撮影に関する判例を素材として、任意捜査における被制約利益を意識した上でその適否を検討する方法を理解する。	
		事前学修	教科書第2章4A～Bを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章4A～B、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 金5/1	強制処分法定主義	第6講で提示した事例問題を検討・解説した上で、強制処分法定主義の意義、令状主義の意義、強制処分と任意処分の区別について学ぶ。その際に、有形力行使、GPS動静監視を素材とする。	
		この回の到達目標	強制処分法定主義の意義、捜査法において具体的な名文規定を必要とする処分の範囲について理解する。	
		事前学修	教科書第2章3A、4Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章3B、4C、講義ノートの復習。	120分
8	第1部 金5/1	逮捕の諸類型	逮捕の諸類型とその要件、勾留の手続について学ぶ。	
		この回の到達目標	通常逮捕、現行犯逮捕(および準現行犯逮捕)、緊急逮捕の要件を把握し、事案に即して要件の充足の有無を検討できる視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章3B～Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章3B～C、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
9	第1部 金5/8	逮捕・勾留の諸問題(1)	逮捕・勾留にかかわる諸問題(逮捕前置主義、別件逮捕勾留、再逮捕再勾留禁止など)について、問題の所在および学説状況を学ぶ。	
		この回の到達目標	逮捕前置主義、別件逮捕勾留・余罪取調べ、再逮捕再勾留禁止原則について、問題の所在と学説の概要を理解する。	
		事前学修	教科書第2章3Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章3D、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
10	第1部 金5/8	逮捕・勾留の諸問題(2)	逮捕・勾留にかかわる諸問題(逮捕前置主義、別件逮捕勾留、再逮捕再勾留禁止など)について、事例に即して学ぶ。	
		この回の到達目標	逮捕前置主義、別件逮捕勾留・余罪取調べ、再逮捕再勾留禁止原則について、裁判例および事例を検討する視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章3Dを踏まえて、事例問題を検討してくる。	120分
		事後学修	講義ノートの復習、配布する裁判例の復習。	120分
11	第1部 金5/15	搜索、押収の諸問題(1)	搜索、押収の令状審査および令状発付のための要件について学ぶ。	
		この回の到達目標	搜索、押収における令状主義の意義、令状の発付要件について、判例も素材としつつ把握する。	
		事前学修	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章3E、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
12	第1部 金5/15	搜索・押収の諸問題(2)	搜索、押収の執行に関する諸問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	搜索・押収の執行に伴って必要となる各処分について、判例も素材としつつ把握する。	
		事前学修	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)	120分
		事後学修	教科書第2章3E、講義ノートの復習。(2時間)教科書第2章3E、講義ノートの復習、事例問題の検討。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 金5/22	その他の対物的強制処分(1)	検証、鑑定、期日外尋問について学ぶ。	
		この回の到達目標	検証、鑑定、期日外尋問について、判例も素材としつつ把握する。	
		事前学修	教科書第2章3Eおよび4C～Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章3E、講義ノートの復習。	120分
14	第2部 金5/22	その他の対物的強制処分(2)	通信傍受、GPS動静監視の諸問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	通信傍受、電話検証、GPS動静監視について、判例を確認・精読することで、これらの捜査手法に対する制御方法について検討する視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章1～4を復習を兼ねて読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
15	第2部 金5/29	対物的強制処分の検討(1)	対物的強制処分（特に通常の搜索差押え）に関する事例問題を検討する。	
		この回の到達目標	対物的強制処分について、事例を通じて問題の所在を把握し、刑事訴訟法の解釈を行った上で、事例の解決を示す手法を把握する。	
		事前学修	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。事例問題を検討してくる。	120分
		事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
16	第2部 金5/29	対物的強制処分の検討(2)	対物的強制処分（特に無令状で行われる搜索差押え）に関する裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	対物的強制処分のうち、特に逮捕に伴う無令状の搜索・差押え・検証の裁判例について、学説を踏まえて検討する視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
17	第1部 金6/5	対物的強制処分の検討(3)	対物的強制処分（特に身体に対する措置を伴って証拠を収集する処分）に関する判例を検討する。	
		この回の到達目標	強制採尿、強制採血などの各処分について、判例を踏まえて適否を検討する視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
18	第1部 金6/5	捜査における法定主義	強制処分法定主義と法律の留保について検討する。	
		この回の到達目標	強制処分法定主義と法律の留保の関係について、検討する視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章3を復習として読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章3、講義ノートの復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第1部 金6/12	被疑者の取調べ(1)	被疑者側の防御活動としてとりうる手段を学ぶとともに、被疑者取調べの諸問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	被疑者に対する取調べについて、問題の所在を把握する。	
		事前学修	教科書第2章5B～Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章5B～C、講義ノートの復習。	120分
20	第1部 金6/12	被疑者の取調べ(2)	被疑者取調べの録音録画とその証拠利用にかかわる諸問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	被疑者の取調べにおける録音録画制度と、録音録画媒体の証拠利用に関して、裁判例を通じて問題の所在を把握する。	
		事前学修	教科書第2章5Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章5C、講義ノートの復習。	120分
21	第1部 金6/19	被疑者の取調べ(3)	協議合意制度（捜査協力型の司法取引）にかかわる諸問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	協議合意制度の概要と問題の所在について、把握する。	
		事前学修	教科書第2章5Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章5C、講義ノートの復習。	120分
22	第1部 金6/19	被疑者の防御(1)	被疑者と弁護人との接見交通権について、特に接見指定にかかわる問題を中心に学ぶ。	
		この回の到達目標	接見交通権の意義を把握するとともに、接見指定に関する判例の判断枠組みを理解する。	
		事前学修	教科書第2章5Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章5D、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
23	第1部 金6/19	被疑者の防御(2)	被疑者と弁護人との秘密交通権に関する諸問題を学ぶ。	
		この回の到達目標	被疑者と弁護人との秘密交通について、その意義と裁判例を把握し、問題を検討する視点を獲得する。	
		事前学修	教科書第2章5Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章5D、講義ノートの復習。	120分
24	第1部 金6/26	捜査手続における救済手段	捜査からの被疑者やその他関係者の救済手段を整理する。	
		この回の到達目標	捜査からの救済手段について、準抗告、違法収集証拠排除法則、国家賠償請求等を把握する。	
		事前学修	教科書5Eを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章5、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第1部 金6/26	捜査法の事例研究	ここまで学んだ捜査手続に関連する事例問題を提示し、検討する。	
		この回の到達目標	捜査法の事例問題を通じて、自ら問題の所在を把握し、刑事訴訟法の条文を解釈して、事例に解決を与える手法を把握する。	
		事前学修	教科書第2章1～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第2章1～5、講義ノートの復習。	120分
26	第1部 金7/3	検察官の事件処理	捜査の終結段階の処理として、警察官の処分、検察官送致、検察官の処分（起訴・不起訴・起訴猶予）について学ぶ。また、起訴後の捜査の実施の可否についても確認する。	
		この回の到達目標	微罪処分、検察官の起訴猶予権限と福祉的措置、起訴後の捜査の実施の可否について、制度の概要を把握するとともに問題の所在を理解する。	
		事前学修	教科書第2章6を読むとともに、関連条文を検討する。	120分
		事後学修	教科書第2章6、講義ノートの復習。	120分
27	第1部 金7/3	刑事訴訟の関与者(3)——犯罪被害者の地位	犯罪被害者の地位について、公判手続を見すえて整理する。	
		この回の到達目標	犯罪被害者の刑事訴訟における地位について、その概要を把握する。	
		事前学修	教科書第1章6～8を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第1章6～8、講義ノートの復習。	120分
28	第1部 金7/10	刑事訴訟の関与者(4)——裁判所	裁判所の事物管轄、土地管轄、権限などを整理する。	
		この回の到達目標	裁判所の管轄、公平な裁判所を担保するための諸措置、権限について、（裁判員の権限も含めて）その概要を把握する。	
		事前学修	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
		事後学修	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
29	第1部 金7/17	まとめ(1)	捜査手続に関するまとめを行う。	
		この回の到達目標	捜査上の各処分を規律する際の視点を確認し、本講義で学んだことを体系的に整理する。	
		事前学修	教科書第2章の復習。	120分
		事後学修	教科書第2章の復習と第2章末尾の問題の検討。	120分
30	第1部 金7/17	まとめ(2)	捜査手続に関するまとめを行う（時間調整・予備時間の確保を兼ねる）	
		この回の到達目標	講義の進行に遅れがみられる場合に、この時間を以て調整する。進行に遅れが生じない場合には、事例問題を提示して、その解説を行うことで、応用的な視点を獲得する。	
		事前学修	教科書の上記範囲の読み込みおよび関連条文の確認。	120分
		事後学修	期末試験前の学修。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	田中 優企	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。なお、当科目を履修後に「刑事訴訟法Ⅱ」も履修することを強く推奨する。

【授業方法】

教科書・六法とパワポ資料を用いながら講義形式で実施する。
パワポ資料は、授業前に、総合ポータルシステム内「授業共有ファイル」にPDFファイルでUPするので、各自、事前学習として参照すること。
授業外で、総合ポータルシステムを用いて小テストを4回実施する（小テストの結果は成績評価に含む。日程等については初回の授業時に説明する）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。					1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。							1		1			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎月の小テストについては、各回の解答締切日の授業内で実施する（ただし、小テスト④については、解説を総合ポータルシステムにＵＰする）。また、定期試験については、後日、解説を総合ポータルシステムにＵＰする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事訴訟法（第２版）	関正晴編	弘文堂	2019年	教科書	必携
刑事訴訟法基本判例解説（第２版）	椎橋隆幸・柳川重規編	信山社	2018年	教科書	必携
全訂刑事訴訟法（第２版）	渥美東洋	有斐閣	2009年	参考書	任意
プライマリー刑事訴訟法（第６版）	椎橋隆幸編	不磨書房	2017年	参考書	任意
ポイントレクチャー刑事訴訟法	椎橋隆幸他	有斐閣	2018年	参考書	任意
よくわかる刑事訴訟法（第２版）	椎橋隆幸編	ミネルヴァ書房	2016年	参考書	任意
刑事訴訟法判例百選（第１０版）	井上正仁他	有斐閣	2017年	参考書	任意
基礎から学ぶ刑事法	井田良	有斐閣	2017年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
各回の授業開始前（17:30~18:00）なお、事前にメールで連絡することが望ましい。 tanaka.yuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 4月6日 (月) 2限	オリエンテーション① 導入講義	今期の授業の進め方、成績評価の方法、定期試験・小テスト・任意レポートの説明、刑事訴訟法の学び方	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今期の学習計画を立てる。	
		事前学修	教科書2－15頁に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	今期の授業の進め方等について確認する。	120分
2	第二部 4月6日 (月) 3限	オリエンテーション② 導入講義	我が国の犯罪情勢と刑事手続の概要	
		この回の到達目標	今到達目標①・②に関連して、後の学習の前提として、我が国の犯罪情勢を知り、刑事手続の概要を理解する。	
		事前学修	教科書2－15頁に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
3	第二部 4月13日 (月) 2限	強制捜査と任意捜査①	強制処分の規律、任意処分の規律	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
4	第二部 4月13日 (月) 3限	強制捜査と任意捜査②	強制処分の意義	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
5	第二部 4月20日 (月) 2限	職務質問・所持品検査・自動車検問①	職務質問・所持品検査	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
6	第二部 4月20日 (月) 3限	職務質問・所持品検査・自動車検問②	自動車検問	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 4月27日（月） 2限	C D ・おとり捜査・仮装秘匿捜査①	C D （コントロールドデリバリー）	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
8	第二部 4月27日（月） 3限	C D ・おとり捜査・仮装秘匿捜査②	おとり捜査・仮装秘匿捜査	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
9	第二部 5月4日（月） 2限	逮捕・勾留① 小テスト①の解説	通常逮捕、現行犯逮捕 小テスト①の解説	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。 小テスト①の解説を聴き、到達目標①・②に関連する知識を身に付ける。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
10	第二部 5月4日（月） 3限	逮捕・勾留②	緊急逮捕、任意同行と実質的逮捕の区別	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
11	第二部 5月11日（月） 2限	逮捕・勾留③	勾留、逮捕・勾留に関わる諸原則	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
12	第二部 5月11日（月） 3限	逮捕・勾留④	別件逮捕・勾留	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 5月18日（月） 2限	搜索・差押①	令状に基づく搜索・差押（要件、執行方法、執行上の権限）	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
14	第二部 5月18日（月） 3限	搜索・差押②	「差押」に関する諸問題	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
15	第二部 5月25日（月） 2限	搜索・差押③	「搜索」に関する諸問題	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
16	第二部 5月25日（月） 3限	搜索・差押④	サイバー犯罪に関わる法整備	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
17	第二部 6月1日（月） 2限	搜索・差押⑤ 小テスト②の解説	逮捕に伴う搜索・差押（要件、無令状で許される理由） 小テスト②の解説	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。 小テスト②の解説を聴き、到達目標①・②に関連する知識を身に付ける。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
18	第二部 6月1日（月） 3限	搜索・差押⑥	逮捕の場合以外に無令状で許される場合の有無	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 6月8日 (月) 2 限	検証・鑑定・証人尋問	各処分の要件、手続	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
20	第二部 6月8日 (月) 3 限	科学技術を用いた捜査①	体液などの採取（強制採尿、強制採血など）	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
21	第二部 6月15日 (月) 2 限	科学技術を用いた捜査②	写真・ビデオ撮影、通信傍受	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
22	第二部 6月15日 (月) 3 限	科学技術を用いた捜査③	GPSを用いた捜査	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
23	第二部 6月22日 (月) 2 限	取調べ①	目的・役割、問題点、取調べにおける基本権の保障、取調べ受忍義務の有無	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
24	第二部 6月22日 (月) 3 限	取調べ②	取調べの可視性の向上、弁護人の取調べへの立会い	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワポ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワポ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 6月29日（月） 2限	取調べ③	任意取調べの規律、被告人の取調べ	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
26	第二部 6月29日（月） 3限	弁護権①	憲法上の弁護権、現行法上の弁護権保障の態様	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
27	第二部 7月6日（月） 2限	弁護権② 小テスト③の解説	国選弁護権の放棄、効果的な弁護を受ける権利・弁護人の義務 小テスト③の解説	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。 小テスト③の解説を聴き、到達目標①・②に関連する知識を身に付ける。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
28	第二部 7月6日（月） 3限	接見交通権①	役割、弁護権との関係、接見指定権との関係、「捜査のため必要があるとき」の意義	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
29	第二部 7月13日（月） 2限	接見交通権②	初回接見、面会接見	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分
30	第二部 7月13日（月） 3限	接見交通権③	起訴後の接見指定	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
		事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	関 正 晴	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事手続のうち、捜査以後、すなわち公訴提起、公判手続、証拠法、上訴等の手続を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
起訴後の裁判手続の基本構造を理解し、裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代に対応できるようにするため、公判手続や証拠法等の基本的知識や判例等を理解し、各手続に内在する問題点を解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。定期試験の解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。						1	1	1				
②	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説や講評については、ポータルシステムを通じて明らかにする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法	関正晴編	有斐閣	平成31年	教科書	
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁ら編	有斐閣		その他	
備考					

【オフィスアワー】
授業時間後に、受けつける。相談内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	刑事訴訟手続の概要、公訴提起と公判手続の概要	年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事訴訟手続の概要、特に公訴提起と公判手続の概要についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の7頁10頁を読み刑事手続の全体の流れについて理解し、シラバスを確認して講義全体を概観する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
2	4月9日	刑事裁判の原理(弾劾主義と当事者主義)	刑事訴訟法1条が規定する指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造に関する当事者主義の意義を職権主義との対比で内容を説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の3頁から4頁, 10頁から11頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
3	4月15日	公訴提起の総説、公訴権の運用とその規制	国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権濫用論の意義と具体例についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の114頁から120頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
4	4月16日	公訴提起の方式と効果	公訴提起の方式、不告不理の原則、条文に則した起訴状の記載事項の説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の120頁から125頁、126頁から132頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
5	4月22日	起訴状一本主義	起訴状一本主義の趣旨、具体的事例に則した予断排除の原則違反の有無を説明、同原則違反の効果についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の123頁から125頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
6	4月23日	訴因制度	訴因制度、訴因と公訴事実の関係、訴因の明示・特定の要請、判例の訴因が明示・特定されているか否かの基準と具体的事例の説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の132頁から134頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月29日	訴因変更制度①(訴因変更の要否)	訴因変更制度の意義、訴因の追加、撤回、狭義の変更、訴因変更の要否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の139頁から147頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
8	4月30日	訴因変更制度②(公訴事実の同一性)	公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更の時機的な限界についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の148頁から155頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
9	5月6日	訴因変更命令	裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の155頁から158頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
10	5月7日	公判の諸原則の概説、公判準備①(事前準備手続、公判前整理手続と証拠開示)	口頭主義、直接主義、公開主義の説明、公判前整理手続の目趣旨・目的、争点を整理し立証計画を立てるシステムについての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の161頁から169頁、174頁から182頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
11	5月13日	公判準備②(被告人の出頭を確保する手続、保釈)	公訴提起後の主要な手続の流れ(起訴状謄本の送達、弁護士選任権の告知、第一回公判期日の指定・通知、被告人の召喚等についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の170頁から174頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
12	5月14日	公判期日の手続(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)	第一審公判の手続の進行(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の183頁から190頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月20日	公判の分離、併合、公判手続の更新、停止、公判外の手続	公判の分離・併合の意義と趣旨及び手続、公判手続を停止・更新しなければならない場合、公判期日外の証人尋問等についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の191頁から193頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
14	5月21日	裁判員裁判制度の概説	裁判員裁判の基本構造(対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決の方法)についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の22頁から27頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
15	5月27日	簡易手続(簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続)	簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続の意義と内容についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の194頁から199頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
16	5月28日	証拠法総説(証拠の意義と種類、証拠裁判主義)	証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、証拠裁判主義、厳格な証明と自由な証明の概念、厳格な証明が必要な事実の範囲。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の199頁から209頁、212頁から215頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
17	6月3日	証拠法総説(自由心証主義、挙証責任)	自由心証主義の意義とその合理性を担保する制度、挙証責任に意義、証拠提出責任、争点形成責任、挙証責任の転換が認められるかについての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の209頁から212頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
18	6月4日	自白法則	自白の意義 自白法則の趣旨についての判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の215頁から217頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月10日	自白法則に関する裁判例	自白法則に関する裁判例の検討、約束による自白、偽計による自白、違法な手続で採取された自白等の具体的事例に則しての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の215頁から217頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
20	6月11日	補強法則	自白に補強証拠が必要とする理由、公判廷自白のも補強証拠が必要とされるか、補強証拠適格、補強証拠が必要とされる事実の範囲、補強証拠に必要とされる証明力の程度、共犯者自白に補強証拠が必要とされるかについての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の217頁から221頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
21	6月17日	伝聞法則①	伝聞証拠の意義、供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則と憲法との関係、伝聞法則の適用外についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の221頁から226頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
22	6月18日	伝聞法則②	伝聞法則の例外を認める理由と例外を認める場合の柱、伝聞書面と伝聞供述についての条文に則した例外とされる場合の説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の227頁から235頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
23	6月24日	伝聞法則③	任意性の調査、同意書面、合意書面、証明力を争うための証拠、写真・録音テープ・ビデオテープの証拠法上の取扱いについての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の236頁から237頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
24	6月25日	違法収集証拠の排除法則①	違法収集証拠の排除法則の根拠、違法収集証拠の証拠能力が否定される要件とその判断の際に考慮する要素、判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の238頁から240頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7月1日	違法収集証拠の排除法則②	毒樹の果実の法理、違法に収集された証拠から派生して収集された証拠の取扱いと判例の事案の説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の240頁から241頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
26	7月2日	裁判の効力①(確定判決の内容的確定力)	裁判の種類、裁判の成立の時点、裁判の確定の意義その効力、実体裁判の内容的確定利欲の意義とそれが及ぶ事件の範囲についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の243頁から259頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
27	7月8日	裁判の効力①(一事不再理効、二重の危険の禁止)	一事不再理効の意義及び根拠、一事不再理効の発生時期、一事不再理効の及ぶ客観的範囲についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の259頁から263頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
28	7月9日	上訴総説(上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の拘束力)	上訴制度の意義と種類、上訴の利益、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の拘束力についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の272頁から279頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分
29	7月15日	控訴審、上告審	控訴・上告理由の種類、控訴審の基本構造、審理手続、事実の取調べ、上告理由の種類、上告審の行う裁判の種類、職権破棄事由についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の279頁から295頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	120分
30	7月16日	非常救済手続(再審、非常上告)	再審、非常上告についての概説、再審開始の要件としての証拠の新規性と明白性についての説明。	
		この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書の297頁から306頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。	90分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。	150分

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	澤田 康広	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事手続のうち、捜査以後、すなわち公訴提起、公判手続、証拠法、上訴等の手続を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
起訴後の裁判手続の基本構造を理解し、裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代に対応できるようにするため、公判手続や証拠法等の基本的知識や判例等を理解し、各手続に内在する問題点を解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
教科書に依拠して講義形式で説明するが、あわせて適宜、判例百選等の事例も紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。				1	1	1				
②	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。						1		1		
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60	40									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関 正晴編	弘文堂	2019年	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁編	有斐閣	2017年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては，授業終了後に，事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 水 4/8	刑事手続の流れを知る	年間の講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 公訴提起と公判手続の概要	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続の流れを確認し、公訴提起と公判手続の概要を説明できる。	
		事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	第二部 木 4/9	刑事裁判の原理と刑事訴訟法の目的	弾劾主義と当事者主義、適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造における当事者主義の意義と職権主義との対比	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続における基本的原理を知り、刑事訴訟法の目的との関係を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	第二部 水 4/15	公訴提起の概説	国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権濫用論	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、公訴提起に関する基本原則を知り、その例外についても説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	第二部 木 4/16	公訴提起の方式と効果	公訴提起の方式、不告不理の原則、起訴状の記載事項	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、条文に則して公訴提起の方式や起訴状の記載事項を知り、公訴提起の手続を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	第二部 水 4/22	起訴状一本主義	起訴状一本主義の趣旨、予断排除の原則	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、具体的事例に即した予断排除の原則違反の有無や同原則違反の効果について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	第二部 木 4/23	訴因制度	訴因と公訴事実との関係、訴因の明示・特定の要請	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、判例の具体的事例を通じて、訴因が明示・特定されているか否かの基準を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 水 4/29	訴因変更制度①（訴因変更の可否）	訴因変更手続の意義，訴因の追加，撤回，狭義の変更	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，訴因変更の可否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	第二部 木 4/30	訴因変更制度②（公訴事実の同一性）	公訴事実の同一性の意義，訴因変更の時期的な限界	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
9	第二部 水 5/6	訴因変更命令と訴訟条件	訴因変更における裁判所の在り方	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
10	第二部 木 5/7	公判の諸原則の概説，公判準備①	事前準備手続，公判前整理手続と証拠開示	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公判前整理手続の目的及び従前の準備手続との異同や公判前整理手続の実施に伴う証拠開示の拡大について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	第二部 水 5/13	公判準備②	被告人の出頭を確保する手続，保釈，公訴提起後の主要な手続の流れ	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公訴提起後の第1回公判までの手続の流れを説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	第二部 木 5/14	公判期日の手続，第1審公判の手続の流れ	冒頭手続，証拠調べ，弁論，論告・求刑，判決の宣告，裁判所の訴訟指揮	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，第1審公判の手続の流れやその際の訴訟当事者の活動について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 水 5/20	公判の分離，併合，公判手続の更新・停止	公判外の手続，弁論の分離・併合の意義と趣旨及び手続	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公判外における手続の意義や趣旨を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	第二部 木 5/21	裁判員裁判概説	裁判員裁判の基本構造	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判員裁判の対象事件や裁判員の権限，評決の方法等について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	第二部 水 5/27	簡易手続	簡易公判手続，即決裁判手続，略式手続	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，各手続の意義と内容を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	第二部 木 5/28	証拠法総説①	証拠の意義と種類，証拠能力と証明力，厳格な証明と自由な証明	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，証拠裁判主義について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
17	第二部 水 6/3	証拠法総説②	自由心証主義，挙証責任	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，証拠による事実認定や訴訟当事者の責任について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	第二部 木 6/4	自白法則	自白の意義，自白法則の趣旨	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，自白法則についての判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 水 6/10	自白法則に関する裁判例	約束による自白，偽計による自白，違法な手続で採取された自白	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，具体的事例における自白の証拠能力について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
20	第二部 木 6/11	補強法則	自白に補強証拠を必要とする理由	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，補強証拠適格，補強証拠が必要な範囲等について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
21	第二部 水 6/17	伝聞法則①	伝聞証拠の意義，伝聞法則の趣旨	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則と憲法との関係や伝聞法則が適用されない場合について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
22	第二部 木 6/18	伝聞法則②	伝聞法則の例外	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則の例外を認める理由，伝聞書面と伝聞供述の例外について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
23	第二部 水 6/24	伝聞法則③	同意書面，合意書面，弾劾証拠	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則の例外に関連して，写真・録音テープやビデオテープの証拠法上の扱いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	第二部 木 6/25	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠排除法則の根拠	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，違法収集証拠排除法則により証拠能力が否定される要件やその判断の際に考慮する要素について，判例の立場や主要な学説の考え方について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 水 7/1	違法収集証拠排除法則②	毒樹の果実の法理，派生証拠の証拠能力	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，先行行為の違法性が後行行為に承継されるか，後行行為の証拠の取扱いについて，判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
26	第二部 木 7/2	裁判の効力①	確定判決の内容的確定力	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判の確定の意義とその効力，実体裁判の内容的確定力の意義とそれが及ぶ事件の範囲について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
27	第二部 水 7/8	裁判の効力②	一事不再理効	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，一事不再理効の意義と根拠，その発生時期，一事不再理効の及ぶ客観的範囲について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
28	第二部 木 7/9	上訴総説	上訴権，不利益変更の禁止の原則，破棄判決の効力	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，上訴制度の意義と種類，上訴の利益，上訴における各原則について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
29	第二部 水 7/15	控訴，上告	控訴理由の種類，控訴審の基本構造，上告理由の種類	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，控訴審における審理手続，上告審の種類や職権破棄事由について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	第二部 木 7/16	非常救済手続	再審，非常上告	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，再審，非常上告の要件や手続について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法Ⅰ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
裁判員制度が始まり、だれもが裁判員として人を裁く側に回りうるようになった。刑事法の問題はすべての人が考えなければならない問題となった。本講義では、刑法総論や刑法各論、刑事司法に関する重要問題をピックアップし、問題の所在を明らかにし、対立する背景について分析したのち、刑事法の重要問題を考える視座を講じていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法に関わる社会問題を刑事法的に考える視野を養い、自分なりの考えを築くとともに、それを表現し、他者とも意見交換もできるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式による。また、講義中、必要に応じて質疑応答を行う。 授業内試験終了後には内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の存在理由について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑事司法制度の全体像について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
③	刑法の基本原則について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
④	刑法総論上の重要問題について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	裁判例を正しく読み取り、その射程範囲について、説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	なぜ学説や裁判例が対立するのか、その所在を理解することができる。				2	2	2		2			
⑦	刑法の重要問題について、学友と意見を交換し、議論することができる。				2	2	2		2			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、 私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	10	10	10	10	10	10	40				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	40				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後にポイントを説明し、重要な点についての理解度を確認できるようにする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ刑事法	井田良	有斐閣	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	犯罪を法との関係	犯罪をめぐる日本の現状を概観する。	
		この回の到達目標	犯罪の実態をふまえて、関連する法がどのようなものであるのか説明できるようにする。	
		事前学修	犯罪に関する最近のニュースを調べておく。	120分
		事後学修	犯罪とは何か、刑事司法とは何かについて自説をまとめる。	120分
2	4/13	刑事法と刑法の概要	刑事法とは何か、刑法とは何かについて考える。 実体法と手続法、解釈論と立法論、社会学や心理学との関係などについて論じる。	
		この回の到達目標	刑事法に関する基礎的な理解を深め、概念等を説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第1章、4章を読む。	120分
		事後学修	諸概念について内容等を整理しておく。	120分
3	4/20	犯罪の原因と刑罰の目的	なぜ犯罪が起き、なぜ処罰されるのか。	
		この回の到達目標	犯罪と刑罰に関する理論について自分の言葉で説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第2章を読む。	120分
		事後学修	犯罪の原因と対策について考える。	120分
4	4/27	犯罪統計の見かた	統計から見た犯罪の動向 犯罪白書の見かた	
		この回の到達目標	犯罪統計を正しく理解し、犯罪の実態を把握できるようにする。	
		事前学修	教科書の第3章を読む。	120分
		事後学修	犯罪の現状・実態を知る。	120分
5	5/4	刑罰の本質	刑罰の目的 死刑制度について考える。	
		この回の到達目標	死刑制度について議論を行い自説が述べられるようにする。	
		事前学修	教科書の第5章、6章を読む。	120分
		事後学修	なぜ人を処罰するのかについて自説を整理しておく。	120分
6	5/11	刑罰の種類（1）	生命刑と自由刑	
		この回の到達目標	自由刑をめぐる今日的な問題について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第6章を読む。	120分
		事後学修	刑罰の違いを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	刑罰の種類（２）	財産刑と刑罰に関する今日的課題	
		この回の到達目標	財産刑に関する理論と他の法的制裁との関係について整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第６章を読む。	120分
		事後学修	刑罰と刑罰以外の法的制裁との関係を知る。	120分
8	5/25	刑事手続の基礎	刑事訴訟法とは 刑事手続の流れ① 犯罪の捜査	
		この回の到達目標	刑事訴訟法と刑事手続に関する法令の概要を把握し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第17章、18章を読む。	120分
		事後学修	刑事手続きの全体を理解する。	120分
9	6/1	刑事手続の実態	刑事手続の流れ② 起訴と公判	
		この回の到達目標	検察官の役割と実態について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第18章、19章を読む。	120分
		事後学修	刑事裁判の実態を知る。	120分
10	6/8	日本の刑事手続の特色	近年指摘されるような刑事手続に関する問題点を挙げる。	
		この回の到達目標	刑事手続をめぐる問題を自分で発見し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第20章を読む。	120分
		事後学修	裁判の傍聴に行ってみる。	120分
11	6/15	裁判員制度の概要	裁判員制度の趣旨と導入された背景を理解する。	
		この回の到達目標	裁判員制度の現状を理解し、課題が指摘できるようにする。	
		事前学修	教科書248～251頁を読む。裁判所のホームページで裁判員裁判の現状を把握しておく。	120分
		事後学修	裁判員になった時のための準備をする。	120分
12	6/22	犯罪者の処遇	矯正と保護の実態を把握する。	
		この回の到達目標	犯罪者の処遇がどのように行われているかを知り、課題について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第21章、22章を読む。	120分
		事後学修	犯罪者の社会復帰について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	少年犯罪の手続と処遇	少年法の沿革と趣旨について理解を深める。	
		この回の到達目標	少年法の理念について理解し、現実の事件を通じて説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第21章288～297頁を読む。	120分
		事後学修	少年犯罪の実態を知る。	120分
14	7/6	比較法研究のすすめ	犯罪現象をとらえるうえで他国との比較が重要であることを理解する。	
		この回の到達目標	比較法的手法についてポイントとなるべき諸点について理解し、述べるができるようにする。	
		事前学修	教科書の第23章を読む。	120分
		事後学修	日本の現状を諸外国の制度と比較しながら考える。	120分
15	7/13	まとめと授業内試験	刑事手続の概要	
		この回の到達目標	刑事手続法の全体像が把握でき、刑事実体法との違いについて説明できるようにする。	
		事前学修	刑事訴訟法と犯罪者処遇法の理論と実態を整理する。	120分
		事後学修	刑事司法手続の全体を把握しておく。	120分

科目名	刑事法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
裁判員制度が始まり、だれもが裁判員として人を裁く側に回りうるようになった。刑事法の問題はすべての人が考えなければならない問題となった。本講義では、刑法総論や刑法各論、刑事司法に関する重要問題をピックアップし、問題の所在を明らかにし、対立する背景について分析したのち、刑事法的重要問題を考える視座を講じていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法に関わる社会問題を刑事法的に考える視野を養い、自分なりの考えを築くとともに、それを表現し、他者とも意見交換もできるようにする。

【履修条件】
授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。

【授業方法】
もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の存在理由について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑事司法制度の全体像について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
③	刑法の基本原則について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
④	刑法総論上の重要問題について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	裁判例を正しく読み取り、その射程範囲について、説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	なぜ学説や裁判例が対立するのか、その所在を理解することができる。				2	2	2		2			
⑦	刑法の重要問題について、学友と意見を交換し、議論することができる。				2	2	2		2			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、 私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	15	15	10	10	10	10	30				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	10	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
a

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる刑法（第3版）』	井田良・佐藤拓磨	ミネルヴァ書房	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4月10日	刑法はいつい何のために存在するのか	刑罰という手段を用いる刑法はないほうがよい、という考えは多数ではないものの存在する。本当にそうだろうか。	
		この回の到達目標	さまざまな規範と法との関係、民法と刑法の違い、刑法の存在理由について考察できるようにする。	
		事前学修	序・基礎理論 1～3 まで読む。	120分
		事後学修	他の法律と刑法はどこが異なるのかを考える。	120分
2	第一部金 4月17日	罪刑法定主義の重要性とその背後にある思想とは	犯罪と刑罰は成文法によって定めるべきであるという思想は無味乾燥のように感じる。しかしこれがなければ、刑法は刑法たり得ない。この原則の意義とは。	
		この回の到達目標	罪刑法定主義の歴史的背景をふまえて、この原則の意味について考察できるようにする。	
		事前学修	序・基礎理論 4～5 まで読む。	120分
		事後学修	罪刑法定主義と刑法の在り方はどう結びついているのかを考える。	120分
3	第一部金 4月24日	なぜ刑法は故意犯処罰の原則を採用しているのか	被害者の目からすれば、故意によってであろうが過失によってであろうが、関係がないはずである。しかし、刑法は故意犯処罰の原則を堅持している。それはなぜなのかを考える。	
		この回の到達目標	故意犯処罰の原則を刑法の存在理由と絡めて理解し説明できるようになる。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件8～10を読む。	120分
		事後学修	刑法の在り方と故意犯処罰の原則がどう結びつくのかを考える。	120分
4	第一部金 5月1日	組織体による過失行為に対して刑法はどう対処しようとしているのか	企業組織体による過失行為はたびたび起き、被害者が多数に上ることが多い。こうした事件に対して、刑法はどう臨むべきだろうか。	
		この回の到達目標	管理過失および監督過失について理解し、企業組織体の刑事責任に対して私見をもてるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件11～13を読む。	120分
		事後学修	JR福知山線脱線事故や東京電力福島第一原発の事故は刑法的にどう考えるべきか。	120分
5	第一部金 5月8日	法人を処罰することの意義とは	刑法は個人行為責任を原則としているが、企業組織体による刑事事件が発生した場合に刑法はどのように対処するべきであろうか。	
		この回の到達目標	個人行為責任の限界を理解するとともに、法人を処罰する理屈はどのように立てうるかを考え表現できるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 2 を読む。	120分
		事後学修	法人処罰により目指すものは何かを考える。	120分
6	第一部金 5月15日	犯罪行為から重い結果が生じさえすれば、その者を重罰に処してよいのか	行為責任主義の意義について考える。とくに結果責任主義ではないかとの批判を向けうる結果的加重犯の在り方について検討する。	
		この回の到達目標	被害者保護の風潮が高まる中、行為責任主義の意義について説明することができるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 5～7 を読む。（2時間）	120分
		事後学修	なぜ刑法においては被害者の視点に立つことがなぜ許されないのかを、合理的に考える。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5月22日	他者を犠牲にしてまで、自己または他者を救うことがなぜ認められているのか	刑法は人を死亡させることを絶対的に禁止してはいない。正当防衛と緊急避難がこれを一定限度許容している。なぜそうした規定が設けられているのか。	
		この回の到達目標	正当防衛や緊急避難の意義について説明することができるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性1～4，5を読む。	120分
		事後学修	刑法と道徳の違いとどう関係するか、さらに法益保護とどう結びつくかを考える。	120分
8	第一部金 5月29日	指を詰めてくれと依頼され、その者の指を切り落とすことは犯罪か	被害者が自ら享受している法益を他者によって侵害されることに同意したときは、不可罰であるとい一般的に考えられている。それはなぜか。またその限界はどこにあるかを検討する。	
		この回の到達目標	刑法の存在理由から被害者の同意が不可罰となる理由を理解するとともに、被害者が同意さえすればすべて不可罰とすることの弊害についても考察することができるようになる。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性8を読む。	120分
		事後学修	被害者の同意が許容される範囲と許容されない範囲の線引きを考える。	120分
9	第一部金 6月5日	終末期における医療に対し刑法はどうかかわるべきか	私たちはやがて死をだれもが迎えることになるが、死をどう迎えるかを自ら決めることができるとするならば、それはどこまで許容され、どこからは認めえないのかを考える。	
		この回の到達目標	治療中止と安楽死との違いについて理解するとともに、積極的安楽死について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性9を読む。	120分
		事後学修	この問題はおそらく身近だろうから、身近な事例を刑法的に考察する。	120分
10	第一部金 6月12日	刑法は、刑罰を科す前提として、刑事責任能力があることをなぜ要求しているのか	犯罪を犯したにもかかわらず、その者に刑事責任を問うことができなければ、刑法はこれを処罰することはできない。一見常識に反するかのようなことの規定の意味について考える。	
		この回の到達目標	心神喪失・心神耗弱について理解するとともに、責任無能力者への対応についても説明することができる。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅲ責任1および2を読む。	120分
		事後学修	刑事責任能力が問題となっている事件について考えてみる。	120分
11	第一部金 6月19日	犯罪行為に出たものの結果が生じなかった場合、刑法はどう対応するか	犯罪を思い描いて犯罪行為に及んだものの、それが実現できなかった時に刑法はどう対応すべきかについて考える。	
		この回の到達目標	未遂犯と不能犯が刑法の存在理由と密接に関係していることについて理解するとともに、これについて私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅳ未遂犯1および2を読む。（2時間）	120分
		事後学修	刑法の役割論とどう関係するか考察する。（2時間）	120分
12	第一部6 月26日	犯罪者にも、1等（正犯）と2等（共犯）とランク付けがあるが、それはなぜか	犯罪に関与したものはすべて等しく刑事責任を負うべきであると考えるところ、刑法はそういう考え方をとらず、正犯と共犯を区別し、前者が第一次的刑事責任を負うとしている。それはなぜか。	
		この回の到達目標	正犯と共犯を区別することや間接正犯の意義を理解するとともに、共犯の処罰根拠について考察することができるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・Ⅴ共犯1～4を読む。	120分
		事後学修	なぜランク付けするべきなのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部7月3日	まずは共謀罪の意味を正しく知る	組織犯罪処罰法におけるテロ準備罪の制定をめぐり、国論は二分された。まずはこの犯罪について正確に理解するとともに、これからの課題について考える。	
		この回の到達目標	犯罪の企行段階に応じて刑法はどう対応しているか、またその理由について考えるとともに、テロ準備罪の特徴について説明することができるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・V共犯 5～8を読む。	120分
		事後学修	賛成論や反対論はどこか感情的になっている。社会の変化との関係で共謀罪の問題を考える。	120分
14	第一部7月10日	死刑は本当に必要か	死刑を存置するべきであるとするのがわが国の世論であるが、世界を見渡すと、それは必ずしも当たり前ではない。死刑の必要性について考える。	
		この回の到達目標	最高裁に示した死刑適用基準について理解するとともに、死刑制度について私見をもてるようにする。	
		事前学修	第1部刑法総論・VI犯罪の数と量刑理論 1 および 2 を読む。（2時間）	120分
		事後学修	ドイツ政府は友好国である日本が死刑を執行するたびに、抗議声明を出している。このことを考える。（2時間）	120分
15	第一部7月17日	刑法はどうあるべきか（まとめに代えて）	これまでの学びを振り返る。	
		この回の到達目標	これまでの学びをふまえて、刑法は何のためにあるのかについて、私見を展開できるようにする。	
		事前学修	これまで学んだことを自分なりに頭の中でまとめる（2時間）	120分
		事後学修	自分が考える刑法の在り方についてまとめる。（2時間）	120分

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する実体法と手続法を概観する。専門的な知識の習得だけではなく、刑事司法を身近なものとしてとらえながら、犯罪等についての理論がいかに現実の現象に反映されているか、実務の実態がどのようなものなのか等、自ら考えられるような機会として講義を行う。また、教科書だけではなく、その時々犯罪にかかわるニュースを取り入れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法および刑事訴訟法を中心とした刑事司法に関する法についての基礎的な知識の習得できる者を養成することを目的とし、近年生じている犯罪の動向やその問題点なども指摘しながら、これからの刑事的制裁の意義あるいは機能等を論ずる。そのうえで、専門基礎知識を得ることによって、現実に行っている犯罪やその抑止のための諸政策に関して問題意識を持ち、問題解決の方策を模索するような姿勢を身につけられることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式による。また、講義中、必要に応じて質疑応答を行う。 授業内試験終了後には内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世の中で起きている刑事法に関わる事件について説明することができる。					2	2	2		2			
②	刑法の在り方を想起しながら、刑事法に関わる事件にしついて私見を展開することができる。					2	2	2		2			
③	日本の刑事司法制度について説明するとともに、その問題を見極めることができる。					2	2	2		2			
④	事件を解決するために、刑罰法規を解釈することの意義を説明することができる。					2	2	2		2			
⑤	事件を解決するために、解釈された刑罰法規を事件に適用することの意義を説明することができる。					2	2	2		2			
⑥	刑法における犯罪の種類について説明し、その違いが何に由来するかについて述べることができる。					2	2	2		2			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を通じて、到達目標の①～⑥が達成されている かを筆記試験により確認する。	10	10	10	20	20	20	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	20	20	20	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後にポイントを説明し、重要な点についての理解度を確認できるようにする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ刑事法	井田良	有斐閣	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜 12：00～13：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	刑法とは	刑法と他の法領域との違いについて考える。	
		この回の到達目標	犯罪論に関する基礎的知識を習得し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第4章を読む。	120分
		事後学修	犯罪と刑罰に関する基礎的知識を整理する。	120分
2	9/21	生命身体等に関する罪	殺人罪や傷害罪、過失致死傷罪、逮捕監禁罪、略取誘拐罪、名誉毀損罪、業務妨害罪などの要件を概観する。	
		この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第8章を読む。	120分
		事後学修	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。	120分
3	9/28	財産に関する罪	刑法における財産の保護と、窃盗罪、詐欺罪、横領罪、器物損壊罪などの要件を概観する。	
		この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第8章を読む。	120分
		事後学修	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。とくに、交通事件について考える。	120分
4	10/5	社会的法益に関する罪	放火罪、偽造罪、薬物犯罪などの要件を概観する。	
		この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第8章を読む。	120分
		事後学修	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。とくに性犯罪について考える。	120分
5	10/12	国家的法益に関する罪	職権濫用罪や賄賂罪などの要件を概観する。	
		この回の到達目標	犯罪類型の分類と個別の犯罪の要件について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第9章を読む。	120分
		事後学修	偽造犯罪に関する理解を深める。	120分
6	10/19	刑法の基本原則	罪刑法定主義とは何か	
		この回の到達目標	罪刑法定主義に関する判例を整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第7章を読む。	120分
		事後学修	罪刑法定主義に関する判例を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	構成要件とは何か	構成要件の機能と要素について理解する。	
		この回の到達目標	犯罪の成立要件に関する理論について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第10章、11章を読む。	120分
		事後学修	犯罪の成立要件に関する基礎概念を整理する。	120分
8	11/9	構成要件の要素	不作為犯、身分犯、因果関係などの概念について理解する。	
		この回の到達目標	犯罪に関する基本的な概念について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第11章を読む。	120分
		事後学修	構成要件に関する諸概念をよく理解する。	120分
9	11/16	違法の本質	違法の本質をめぐる理論をふまえ、正当行為と緊急行為などの刑法の規定を理解する。	
		この回の到達目標	違法の本質に関する議論を整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第12章を読む。	120分
		事後学修	刑法における違法とその他の法領域の違法との区別を理解する。	120分
10	11/23	責任の概念	刑罰の目的に関連して、責任の本質が理解できるようにする。	
		この回の到達目標	刑事責任の本質が、具体的な事件を通して説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第13章を読む。	120分
		事後学修	責任主義という原則について考える。	120分
11	11/30	故意と過失	故意犯処罰の原則の意義と過失犯の構造について理解する。	
		この回の到達目標	故意の種類および故意に関する理論について説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第14章を読む。	120分
		事後学修	個々の犯罪を通じて故意と過失の違いを理解する。	120分
12	12/7	未遂と共犯	未遂犯や共犯が処罰される要件と根拠について理解する。	
		この回の到達目標	共犯論をめぐる今日的問題に関して、自説が展開できるようにする。	
		事前学修	教科書の第15章を読む。	120分
		事後学修	共犯や未遂が処罰される根拠を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	刑の適用	量刑および罪数について理解する。	
		この回の到達目標	判例を通じて量刑判断の実情を整理し、課題等が説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の第16章を読む。	120分
		事後学修	刑が宣告されるまでの手続を整理する。	120分
14	12/21	現代社会と刑法	犯罪に関する今日的な課題を探る。	
		この回の到達目標	何を処罰し、どのような行為に対して刑事的規制が必要か、自説が展開できるようにする。	
		事前学修	現在の犯罪の状況を調べる。	120分
		事後学修	犯罪に対する理解や感覚を養う。	120分
15	1/18	まとめと授業内試験	犯罪論と刑罰論のまとめ	
		この回の到達目標	犯罪論と刑罰論に関する基本的な概念を整理し、説明できるようにする。	
		事前学修	犯罪の成立要件について確認しておく。	120分
		事後学修	犯罪に関する理論を理解する。	120分

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
裁判員制度が始まり、だれもが裁判員として人を裁く側に回りうるようになった。刑事法の問題はすべての人が考えなければならない問題となった。本講義では、刑法総論や刑法各論、刑事司法に関する重要問題をピックアップし、問題の所在を明らかにし、対立する背景について分析したのち、刑事法の重要問題を考える視座を講じていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法に関わる社会問題を刑事法的に考える視野を養い、自分なりの考えを築くとともに、それを表現し、他者とも意見交換もできるようにする。

【履修条件】
授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。

【授業方法】
もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の存在理由について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑事司法制度の全体像について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
③	刑法の基本原則について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
④	刑法総論上の重要問題について理解し、説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	裁判例を正しく読み取り、その射程範囲について、説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	なぜ学説や裁判例が対立するのか、その所在を理解することができる。				2	2	2		2			
⑦	刑法の重要問題について、学友と意見を交換し、議論することができる。				2	2	2		2			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、 私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	15	15	10	10	10	10	30				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	10	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
a

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる刑法（第3版）』	井田良・佐藤拓磨	ミネルヴァ書房	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部9月18日	刑法各論において何を学ぶのか	刑法典にはさまざまな刑罰法規が用意されている。一つ一つの刑罰法規の意味について考えることの意義を考える。	
		この回の到達目標	刑罰法規を解釈して処罰範囲を定める作業の重要性について理解する。	
		事前学修	刑事法Ⅰの履修者は刑事法Ⅰで学んだことを振り返る。	120分
		事後学修	殺人罪の規定をよく読みながら、その背後に広がる様々な事件について想像を膨らませよう。（2時間）	120分
2	第一部9月25日	人の生命はどのように保護されるべきか	人の生命は生きる上で必要不可欠な法益であり、それを侵害する行為は厳しく処罰されるべきである。しかしながら、そもそも「人」の生命はどこからどこまでのことをさすべきなのか。生命に対する刑罰的保護の在り方について考える。	
		この回の到達目標	「人」の意義や、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪の違いについて、理解するとともに、その処罰範囲について説明できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪1および2を読む。（2時間）	120分
		事後学修	人の始期と終期はどう定められるべき考える。（2時間）	120分
3	第一部金10月2日	人の身体を刑法はどう保護するべきか	身体への侵害行為をどう規制するべきか考える。	
		この回の到達目標	傷害概念と暴行概念について理解するとともに、これをふまえて、同意傷害の可罰性や結果的加重犯についても説明することができるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪4および5を読む。	120分
		事後学修	精神障害は刑法上の傷害概念に含みうるかを考える。	120分
4	第一部10月9日	性犯罪規定はどのように改正されたか	性犯罪の規定が大幅に改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設され、法定刑の引き上げも行われた。旧規定と新規定を比較しながら、新規定が目指すべき方向について考える。	
		この回の到達目標	性犯罪の新しい枠組みについて理解するとともに、処罰範囲について説明することができるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪10を読む。	120分
		事後学修	性犯罪が改正された社会的背景を考える。	120分
5	第一部金10月16日	言論の自由と個人の名誉の保護とをどう調和させるべきか	名誉毀損罪は人の社会的評価を保護するためにあるが、これを強調すると、言論の自由を狭めるおそれが出てくる。その調和点を探る。	
		この回の到達目標	名誉毀損罪の基本構造を理解するとともに、報道の真実性が法廷において証明できなかった場合の処理について、私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪12および13を読む。	120分
		事後学修	いずれか一方を強調するときのデメリットを考えよう。	120分
6	第一部金10月23日	刑法は私有財産をどのように保護しようとしているか	刑法による財産保護の体系について学ぶ。	
		この回の到達目標	財物と財産上の利益との区別、故意犯処罰の原則がここにおいて貫かれている点について、説明することができるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪15および16を読む。	120分
		事後学修	窃盗罪が保護する財産が限定的であるのはなぜかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10月30日	財産犯が保護しようとして いる法益は何か	財産犯は究極的にどのような法益を保護するべきなのかを考える。	
		この回の 到達目標	本権説と占有説について理解するとともに、判例に現れた事案を分析できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪19および20を読む。	120分
		事後学修	最高裁判例が保護法益を占有と解している政策的な理由を考える。	120分
8	第一部11 月6日	詐欺罪が処罰される真の理 由はどこにあるか	搭乗券事例やゴルフ場利用事例など、近年、詐欺罪をめぐる裁判例の動きが活発である。また、振り込め詐欺のように今や詐欺は身近な罪といってもよい。詐欺罪の保護法益や構造について学ぶ。	
		この回の 到達目標	詐欺罪が成立するための要件を順番に理解するとともに、最近の裁判例について検討する。	
		事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪24～28を読む。	120分
		事後学修	この授業で取り上げた様々な事案をどう考えるべきか、整理しておく。	120分
9	第一部11 月13日	横領罪と背任罪の共通点と 相違点は何か―経済犯罪と 絡めて―	横領罪と背任罪は経済活動と密接に関係する犯罪の一つである。その処罰根拠について考える。	
		この回の 到達目標	横領罪と背任罪の構造について理解するとともに、これをふまえて経済犯罪に関するいくつかの事例について考察することができるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪30および34を読む。	120分
		事後学修	学んだことをふまえて、刑法と経済のかかわりについて私見をまとめる。	120分
10	第一部11 月20日	盗まれた物を買った者は何 罪に当たるか	財産犯の背後で行われる行為を規制するのが盗品等に関する罪である。その存在理由を考察する。	
		この回の 到達目標	盗品等に関する罪について全体像を理解するとともに、保護法益について説明することができるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪35・36を読む。（2時間）	120分
		事後学修	盗品等に関する罪における故意はどの程度のものでなければならないか。	120分
11	第一部11 月27日	放火罪の処罰範囲について	社会的法益を保護する犯罪の一つである放火罪について学ぶ。比較的既遂に至りやすい犯罪であるため、一つ一つの要件について学んでいく。	
		この回の 到達目標	公共危険犯の意義を理解するとともに、保護法益や現住性、建造物の意義、未遂時期や既遂時期について説明できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・II 社会的法益に対する罪1～3を読む。	120分
		事後学修	建造物の物理的一体性および機能的一体性を論ずる意義は何か。	120分
12	第一部金 12月4日	文書偽造罪が処罰される理 由とは何か	文書の社会的機能を考えるとともに、何をもって文書「偽造」といえるのかについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	文書の定義や偽造概念について理解するとともに、いくつかの事案について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・II 社会的法益に対する罪4～7を読む。	120分
		事後学修	履歴書の氏名記載欄に虚偽の名前を書き、写真欄に自身の写真を添付する行為は、私文書偽造罪に当たるか。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12月11日	インターネットとわいせつ罪との関係	わいせつ罪は風俗犯であるが、その保護法益をめぐり対立が以前から続いている。わいせつ罪の存在理由について考える。	
		この回の到達目標	刑法175条の保護法益について理解するとともに、インターネット上の無修正映像の送信について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・II社会的法益に対する罪8を読む。	120分
		事後学修	わいせつ動画ファイルを販売する行為は、その場所が日本と外国とで、処罰の可否が分かれるかを考える。	120分
14	第一部金 12月18日	収賄罪はいかなる構造をもつ犯罪か	本学部は公務員志望者が多いからこそ、この罪をしっかり学ぶ必要がある。保護法益や処罰範囲をめぐり、学説と裁判例が対立している。この罪の構造を学ぶ。	
		この回の到達目標	収賄罪の保護法益、収賄罪の体系について学ぶとともに、職務権限の範囲をめぐり私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2部刑法各論・III国家的法益に対する罪4および5を読む。（2時間）	120分
		事後学修	収賄罪の保護法益をめぐる対立を整理する。（2時間）	120分
15	第一部12 月25日	刑罰法規と社会生活とのかわりについて（特に犯罪化の意味について）	これまでの学びを振り返るとともに、犯罪化の時代の意味について考える。	
		この回の到達目標	90年代後半から続く犯罪化の潮流について学ぶとともに、これまでの学びとその潮流との関係について考える。	
		事前学修	これまで学んだことを復習しておく。	120分
		事後学修	社会の変化に刑法はどう対応するべきかを考える。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法の基礎的事項を取り扱った科目（刑法Ⅰ、刑法Ⅱなど）を履修したか、少なくとも同時に履修中であること。

【授業方法】
講義の方法を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著	八千代出版	2014年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年 5月	教科書	必携
備考	『刑法解釈論』は2020年5月中旬出版予定である。				

【オフィスアワー】
水曜日（１４：３０）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	序 刑法の目的	授業についての説明 刑法の目的と基本原則	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、刑法の目的と基本原則を理解する。	
		事前学修	目的（教科書『刑法の目的と解釈』を指す。以下同じ）の第1章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	刑法の目的と基本原則について、授業で学んだことをまとめる。	120分
2	4/15	刑法の解釈のあり方	刑法の解釈のあり方 児童ポルノ変換URL掲載事件	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の目的・基本原則と解釈・適用のあり方との関係を理解する。	
		事前学修	目的の第2章、現代（教科書『現代の判例と刑法理論の展開』を指す。以下同じ）の1～16頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	刑法の解釈・適用のあり方について、授業で学んだことをまとめる。	120分
3	4/22	明確性の原則	明確性の原則 世田谷区清掃・リサイクル条例事件	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の基本原則としての明確性の原則と具体的事案における問題点について理解する。	
		事前学修	目的の第3章、現代の17～28頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	明確性の原則について、授業で学んだことをまとめる。	120分
4	4/29	実行行為の類型性と危険性	実行行為の類型性と危険性 主観的要素と類型性・危険性	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為の類型性と危険性について理解する。	
		事前学修	目的の第4章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	実行行為の類型性と危険性について、授業で学んだことをまとめる。	120分
5	5/6	早過ぎた構成要件実現	早過ぎた構成要件の実現 クロロホルム事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、早過ぎた構成要件の実現の問題点を理解する。	
		事前学修	目的の第5章、現代の67～92頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	早過ぎた構成要件実現について、授業で学んだことをまとめる。	120分
6	5/13	遅過ぎた構成要件実現	遅過ぎた構成要件実現 複数の個別行為と結果の発生	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遅過ぎた構成要件実現の問題点を理解する。	
		事前学修	目的の第6章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	遅過ぎた構成要件実現について、授業で学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	間接正犯と不真正不作為犯 実行行為論のまとめ	間接正犯 不真正不作為犯 実行行為論のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、間接正犯、不真正不作為犯を含めた、実行行為論全般について理解する。	
		事前学修	目的の第7章・第8章、論（教科書『刑法解釈論』を指す。以下同じ）の第1編～第2編・第2章・第2節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	間接正犯、不真正不作為犯、実行行為全般について、授業で学んだことをまとめる。	120分
8	5/27	因果関係	因果関係 航空管制官誤指示事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、因果関係の問題点を理解する。	
		事前学修	目的の第9章、論の第2編・第2章・第2節、現代の29～39頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	因果関係について、授業で学んだことをまとめる。	120分
9	6/3	35条による違法性の阻却	35条による違法性阻却の基準 協同病院事件 鑑定人秘密漏示事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、35条の規定とその具体的事案への適用について理解する。	
		事前学修	目的の第10章、論の第2編・第2章・第4節、現代の93～104頁・105～116頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	35条による違法性阻却について、授業で学んだことをまとめる。	120分
10	6/10	36条の正当防衛と過剰防衛	正当防衛と過剰防衛 灰皿投げつけ事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、36条の規定とその具体的事案への適用について理解する。	
		事前学修	目的の第11章・第12章、論の第2編・第2章・第4節、現代の117～131頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	36条の規定と適用について、授業で学んだことをまとめる。	120分
11	6/17	故意、過失、錯誤	故意と過失の意義 錯誤による故意の阻却	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、故意、過失、錯誤による故意の阻却について理解する。	
		事前学修	目的の第13章、論の第2編・第2章・第5節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	故意、過失、錯誤について、授業で学んだことをまとめる。	120分
12	6/24	共謀共同正犯	共謀共同正犯 スワット事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共謀共同正犯の問題点を理解する。	
		事前学修	目的の第14章、論の第2編・第2章・第5節、現代の145～166頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	共謀共同正犯について、授業で学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	承継的共同正犯	承継的共同正犯 傷害重篤化事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、承継的共同正犯の問題を理解する。	
		事前学修	目的の第15章、論の第2編・第2章・第3節、現代の167～178頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	承継的共同正犯について、授業で学んだことをまとめる。	120分
14	7/8	共同正犯の離脱・解消	共同正犯の離脱・解消 強盗着手前立去り事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共同正犯の離脱・解消の問題を理解する。	
		事前学修	目的の第16章、論の第2編・第2章・第3節、現代の179～195頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	共同正犯の離脱・解消について、授業で学んだことをまとめる。	120分
15	7/15	中立的行為による幫助 授業のまとめ	中立的行為による幫助 ウイニー事件 授業全体のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中立的行為による幫助の問題を理解し、到達目標①②③に関連して、適正な刑法総則の諸規定等の解釈・適用の方法と文章による的確な表現について理解する。	
		事前学修	目的の第17章、論の第2編・第2章・第3節、現代の197～208頁を読み、問題点をメモする。今まで学んだ知識を整理する。	120分
		事後学修	中立的行為による幫助について、授業で学んだことをまとめる。今まで授業で学んだことを整理して、的確に文章に表現できるように準備し、定期試験に備える。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	清水 洋雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義中心とする。ただし、学生に質問をしながら授業を進めるものとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論（Next教科書シリーズ）	設楽裕文・南部篤編	弘文堂	2018年	教科書	必携
刑法総論講義第7版	前田雅英	東京大学出版会	2019年	参考書	推奨
最新重要判例250刑法第11版	前田雅英	弘文堂	2017年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日3時限（13：00～14：30） 研究室（13号館5階1354研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 9月16日	罪刑法定主義	罪刑法定主義の意義、特に類推解釈の禁止、遡及処罰の禁止等を考察する。	
		この回の到達目標	類推解釈や遡及処罰が許されないことの趣旨を理解し、具体例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
2	第一部 水 9月23日	責任主義、犯罪の一般的成立要件	責任主義の意義、事業主処罰規定、結果的加重犯や、犯罪の一般的成立要件、構成要件該当性、違法性、有責性を考察する。	
		この回の到達目標	責任主義、構成要件該当性、違法性、有責性という犯罪論体系、それに従って犯罪の成否を判断することの意義について理解し、その概要を説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートの基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
3	第一部 水 9月30日	構成要件要素、不作為犯	構成要件要素（行為、主体、客体、結果、状況等）、不真正不作為犯の成立要件等を考察する。	
		この回の到達目標	行為とは何か、法人の犯罪能力、不真正不作為犯の成立要件である作為義務、作為可能性、構成要件の当価値性等を理解し、その概要を具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートの基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
4	第一部 水 10月7日	因果関係	条件関係、条件説、相当因果関係説、危険の現実化説等を考察する。	
		この回の到達目標	実行行為と結果との間の因果関係の意義を理解し、その概要を具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートの基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
5	第一部 水 10月14日	違法性の基礎、正当防衛	形式的違法論・実質的違法論、行為無価値論・結果無価値論、正当防衛、過剰防衛、誤想防衛、誤想過剰防衛等を考察する。	
		この回の到達目標	違法性とは何か、正当防衛が成立する要件等について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
6	第一部 水 10月21日	緊急避難、正当行為	緊急避難の法的性格、緊急避難の要件、刑法35条の趣旨、法令行為、正当業務行為、正当行為等を考察する。	
		この回の到達目標	緊急避難の法的性格、緊急避難の要件、刑法35条の意図等について、その概要を具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 水 10月28日	責任の基礎、期待可能性		責任とは何か、適法行為の期待可能性について考察する。
		この回の到達目標	刑法における責任や、適法行為の期待可能性について理解し、その概要を説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
8	第一部 水 11月11日	責任能力、原因において自由な行為		責任能力とは何か、心神喪失・心神耗弱、原因において自由な行為等を考察する。
		この回の到達目標	責任能力の意義、心神喪失・心神耗弱の判断方法、原因において自由な行為等について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
9	第一部 水 11月18日	故意、事実の錯誤		故意の成立要件、故意の種類、行為者の認識した事実と発生した事実のくい違いをどう処理するかについて考察する。
		この回の到達目標	故意の成立要件、故意の種類、具体的事実の錯誤・抽象的事実の錯誤に関する具体的符合説、法定的符合説、抽象的符合説について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
10	第一部 水 11月25日	法律の錯誤、過失		法律の錯誤とは何か、事実の錯誤と法律の錯誤の区別、過失犯の成立要件、過失犯の構造、過失犯の種類、信頼の原則等を考察する。
		この回の到達目標	法律の錯誤の意義、事実の錯誤と法律の錯誤の区別、過失犯の成立する場合について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
11	第一部 水 12月2日	未遂犯、中止犯、不能犯		犯罪の遂行段階、未遂の種類、中止犯の法的性格、中止犯の要件、未遂犯と不能犯の区別を考察する。
		この回の到達目標	実行の着手時期、中止犯の要件、未遂犯と不能犯の区別などの概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
12	第一部 水 12月9日	正犯と共犯、間接正犯、共同正犯		正犯と共犯の区別、間接正犯、共同正犯を考察する。
		この回の到達目標	共犯の類型、間接正犯の成立する場合、共同正犯の成立要件などの概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 水 12月16日	共謀共同正犯、承継的共同正犯、狭義の共犯		共謀共同正犯の意義・要件、承継的共同正犯の意義・要件、教唆犯・従犯（幫助犯）の成立要件を考察する。
		この回の到達目標	共謀の意義、承継的共同正犯に関する学説、教唆犯・従犯（幫助犯）の成立要件の概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
14	第一部 水 12月23日	共犯の諸問題		共犯と身分、共犯と錯誤、共犯関係からの離脱、不作為と共犯、正当防衛と共犯等について考察する。
		この回の到達目標	65条に関する主な学説・判例、共犯と錯誤の問題、共犯関係からの離脱が認められる場合などの概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
15	第一部 水 1月13日	罪数		罪数論の意義、特殊な一罪、科刑上の一罪、併合罪等を考察する。
		この回の到達目標	罪数決定の基準、法条競合、包括一罪、観念的競合、牽連犯、かすがい現象等についての概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠBの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠBの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法の基礎的事項を取り扱った科目（刑法Ⅰ、刑法Ⅱなど）を履修したか、少なくとも同時に履修中であること。

【授業方法】
講義の方法を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。					3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。								3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。												3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著	八千代出版	2014年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年 5月	教科書	必携
備考	『刑法解釈論』は、2020年5月中旬刊行予定である。				

【オフィスアワー】
水曜日（１４：３０）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	序 胎児性傷害・致死	刑法の各則の諸規定等の解釈一般について 胎児性傷害・致死	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、各則の諸規定等の解釈に関する基本的知識を修得し、到達目標②③に関連して、胎児性傷害・致死について理解する。	
		事前学修	目的（教科書『刑法の目的と解釈』を指す。以下同じ）の第18章、論（教科書『刑法解釈論』を指す。以下同じ）の第2編・第3章・第10節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	胎児性傷害・致死について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	9/23	殺人罪と自殺関与罪	殺人罪と自殺関与罪の区別	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、殺人罪と自殺関与罪とを区別する基準を理解する。	
		事前学修	目的の第19章、論の第2編・第3章・第10節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	殺人罪と自殺関与罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	9/30	傷害罪の「傷害」	傷害罪の「傷害」に関する諸問題 睡眠薬混入事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、傷害の概念と関連する諸問題を理解する。	
		事前学修	目的の第20章、論の第2編・第3章・第10節、現代（教科書『現代の判例と刑法理論の展開』を指す。以下同じ）の209～222頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	傷害について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	10/7	名誉の保護	名誉に対する罪の客体・保護対象	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名誉毀損罪・侮辱罪の客体・保護対象について理解する。	
		事前学修	目的の第21章、論の第2編・第3章・第12節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	名誉の保護について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	10/14	財物と財産上の利益	財物と財産上の利益に関わる諸問題 家主殺害事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財物と財産上の利益の概念及びこれに関わる諸問題について理解する。	
		事前学修	目的の第22章、論の第2編・第3章・第13節、現代の248～262頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	財物と財産上の利益について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	10/21	民法的不法と財産罪	民法的不法が財産罪の成否に及ぼす影響	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、民法的不法が財産罪の成否にどのような影響を及ぼすかを理解する。	
		事前学修	目的の第23章、論の第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	民法的不法と財産罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	窃盗罪と不法領得の意思	窃盗罪における不法領得の意思の要否とその内容	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、窃盗罪における不法領得の意思について理解する。	
		事前学修	目的の第24章、論の第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	窃盗罪と不法領得の意思について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	11/11	詐欺罪と財産上の損害	詐欺罪における欺罔行為と財産上の損害 搭乗券詐欺事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、詐欺罪と財産上の損害について理解する。	
		事前学修	目的の第25章、論の第2編・第3章・第13節、現代の275～286頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	詐欺罪と財産上の損害について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	11/18	244条1項と家庭裁判所により選任された後見人の横領	家庭裁判所によって選任された後見人による横領の事案への244条1項準用の可否 成年後見人横領事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭裁判所によって選任された後見人が横領した事案に244条1項が準用されるかについて理解する。	
		事前学修	目的の第26章、論の第2編・第3章・第13節、現代の287～301頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	244条1項と家庭裁判所によって選任された後見人による横領について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	11/25	取引の相手方と特別背任罪の共同正犯	取引の相手方が特別背任罪の共同正犯となるための要件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取引の相手方が特別背任罪の共同正犯となるための要件について理解する。	
		事前学修	目的の第27章、論の第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	取引の相手方と特別背任罪の共同正犯について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	12/2	被害者に戻す行為と盗品関与罪	被害者に盗品を戻す行為と盗品関与罪の成否	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被害者に戻す行為が盗品関与罪に問われるかについて理解する。	
		事前学修	目的の第28章、論の第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	被害者に戻す行為と盗品関与罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	12/9	文書の有形偽造	文書偽造罪における有形偽造の概念と認定基準	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文書偽造罪における有形偽造について理解する。	
		事前学修	目的の第29章、論の第2編・第3章・第6節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	文書の有形偽造について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	103条の「罪を犯した者」と「隠避」	103条の「罪を犯した者」と「隠避」の解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、103条の「罪を犯した者」と「隠避」の適正な解釈について理解する。	
		事前学修	目的の第30章、論の第2編・第3章・第2節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	103条の「罪を犯した者」と「隠避」について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	12/23	197条1項の「その職務に関し」	197条1項の「その職務に関し」の解釈 北海道開発庁汚職事件	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、197条1項の「その職務に関し」の解釈について理解する。	
		事前学修	目的の第31章、論の第2編・第3章・第9節、現代の315～321頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	197条1項の「その職務に関し」について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	1/13	刑法の各則の諸規定等の解釈のあり方	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用のあり方 適正な解釈・適用の過程を的確に文章に表す方法	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の各則の諸規定等の解釈・適用を適正になすために必要なことは何かを理解し、適正な解釈・適用の思考過程を文章に的確に表現する方法を理解する。	
		事前学修	今までまとめてきたものを読み返して、知識を整理し、なお疑問点があればメモする。	120分
		事後学修	学んだ事項を的確に文章に表現できるように整理し、教科書を読み返して、定期試験に備える。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	清水 洋雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠBの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠBの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義中心とする。ただし、学生に質問をしながら授業を進めるものとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法各論（Nextk教科書シリーズ）	沼野輝彦・設楽裕文編	弘文堂	2017年	教科書	必携
刑法各論講義第7版	前田雅英	東京大学出版会	2020年	参考書	推奨
最新重要判例250刑法第11版	前田雅英	弘文堂	2017年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日3時限（13：00～14：30） 研究室（13号館5階1354研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4月 8日	生命・身体に対する罪	人の意義、殺人の罪、遺棄の罪、傷害の罪、（危険運転致死傷罪）、凶器準備集合罪・同結集罪、過失傷害の罪を考察する。	
		この回の到達目標	上記各犯罪の保護法益、罪質、各犯罪の成立要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
2	第一部 水 4月15日	自由・平穏に対する罪	逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐の罪、強制わいせつ・強制性交等罪、住居を侵す罪、秘密を侵す罪を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、（特に住居を侵す罪）、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
3	第一部 水 4月22日	名誉・信用に対する罪、財産に対する罪総説	名誉毀損罪の成立要件と事実の証明、信用毀損罪、業務妨害罪、財産罪の基礎を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等、事実の証明の趣旨・要件、財産罪の基本的事項を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
4	第一部 水 4月29日	窃盗罪	窃盗罪の保護法益、占有、不動産侵奪罪、親族間の犯罪に関する特例を考察する。	
		この回の到達目標	上記各犯罪の保護法益、罪質、要件等、親族間の犯罪に関する特例の趣旨・要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
5	第一部 水 5月 6日	強盗罪	強盗罪（1項強盗罪、2項強盗罪）、事後強盗罪、昏酔強盗罪、強盗致死傷罪等を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪、特に強盗罪、事後強盗罪、強盗致死傷罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
6	第一部 水 5月 13日	詐欺・恐喝の罪	詐欺罪（1項詐欺罪、2項詐欺罪）、電子計算機使用詐欺罪、準詐欺罪、恐喝罪（1項恐喝罪、2項恐喝罪）を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪（特に詐欺罪、恐喝罪）の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 水 5月20日	横領・背任の罪		横領罪、業務上横領罪、遺失物等横領罪、背任罪を考察する。
		この回の到達目標	上記の各犯罪（特に横領罪、背任罪）の保護法益、罪質、要件（横領罪の占有・委託関係・不法領得の意思、背任罪の事務処理者・財産上の損害等）を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
8	第一部 水 5月27日	盗品等関与罪		盗品等関与罪（無償譲受け罪、有償譲受け罪、運搬罪、保管罪、有償処分あっせん罪）、親族等の犯罪に関する特例を考察する。
		この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等、親族間の犯罪に関する特例の趣旨、要件を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
9	第一部 水 6月3日	騒乱の罪、放火・失火の罪、往来を妨害する罪		騒乱罪、多衆不解散罪、放火罪（現住建造物等放火罪、非現住建造物等放火罪、建造物等以外放火罪など）、往来妨害罪、往来危険罪、汽車転覆等を考察する。
		この回の到達目標	上記の各犯罪（特に放火罪）の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
10	第一部 水 6月10日	通貨偽造の罪、有価証券偽造罪、文書偽造罪総説		通貨偽造・同行使罪、通貨偽造準備罪、有価証券偽造罪、文書の意義、文書偽造罪等を考察する。
		この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等、特に文書偽造罪の基本概念を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
11	第一部 水 6月17日	公文書偽造罪、私文書偽造罪		公文書偽造罪、私文書偽造罪等を考察する。
		この回の到達目標	上記の犯罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
12	第一部 水 6月24日	わいせつの罪、賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪		公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等罪、賭博・富くじに関する罪、死体損壊等を考察する。
		この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7月 1日	公務の執行を妨害する罪	公務執行妨害罪、職務強要罪、強制執行妨害罪等を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪特に公務執行妨害罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
14	第一部 水 7月 8日	逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅の罪、偽証の罪	逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅罪、偽証罪等を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分
15	第一部 水 7月 15日	職権乱用罪、賄賂の罪	職権乱用罪、特別公務員職権濫用・暴行陵虐罪、収賄罪・贈賄罪等を考察する。	
		この回の到達目標	上記の各犯罪の基本概念、保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	80分
		事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	80分

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
とくになし。ただし、刑法の基礎を習得していない者は難度の高い事例問題への取り組み等が不可能であることに鑑み、履修を見送ることを推奨する。

【授業方法】
判例、設例や過去問、学術論文等を用いる。各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ、後半を検討・質疑に充てる。時間を要する問題の場合は、自宅での答案作成とし、次回授業の全部を費やして検討を行うこともある。授業内試験の解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき、授業時に意見表明を受講者自身に行わせ、次いで教員が評価を示し、さらに受講者からの意見を求めることがある。これにより、いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した、刑法の実質的内容とリアルな社会の現実に即した意味ある議論が可能となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等参加度に関する評価については授業時間内に講評を行う。筆記試験については，その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし（授業の度に問題，教材，補足資料等を配布する。）					
備考	六法（出版社を問わない。）は必携。				

【オフィスアワー】
土曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	刑法の基礎の学修と学力の確認	刑法学修についての基礎、とくに保護法益論と各論のアプローチにつき詳細に解説する。また、学力レベル確認のための試験を実施する。	
		この回の到達目標	保護法益とは何かを説明することができる。また、自己の刑法分野についての学力水準を正確に知り、適切な学修計画を立てることができる。	
		事前学修	刑法総論、各論について、基本書を読み返すなどして基本的理解を確かなものにした上で初回授業に臨むこと。	120分
		事後学修	出題されたテーマについて、提出した自分の答案を振り返り、自己採点、解答点検を怠らないようにする。	120分
2	4/11	法解釈と法益概念との関係、および刑法学修計画作成	刑法解釈の技法を確認した上で、この授業のすすめ方、教材・参考書等の準備について綿密な検討・説明を行う。	
		この回の到達目標	個々の受講者ごとに最適な学習計画を立て、十分な準備を行うことができる。	
		事前学修	前回受験した試験についての復習に基づき、教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。	100分
		事後学修	これまでの授業をふまえ、自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。	140分
3	4/18	同意に関する錯誤と犯罪の成否	自殺関与と殺人の限界（偽装心中と殺人罪の成否）	
		この回の到達目標	被害者の同意ないし承諾が犯罪の成否にいかなる影響を与えるかに関する基本的理解を確かなものにし、法益関係的錯誤論の是非等発展的テーマを理解する。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
4	4/25	同時傷害の特例の問題点	同時傷害の特例の趣旨、射程範囲、判例と学説の見解を検討し、その問題点を解明する。	
		この回の到達目標	刑法207条の同時傷害の特例が、挙証責任の転換という刑事裁判の例外を定めた特異な規定であることを正確に理解し、判例、学説の検討を通じて自己の見解を説明できるようにする。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例問題が出題されるかを予想し、答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
5	5/2	傷害罪と被害者の承諾	被害者の承諾は犯罪の成否にいかなる影響を与えるか。	
		この回の到達目標	法益の帰属主体による保護法益の処分と犯罪成否との関係を理解したうえ、とくに同意傷害に関して犯罪の成立が否定される限界をどのような基準で判断するか、自己の見解を展開できる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
6	5/9	監禁罪の保護法益	場所的移動の自由を保護法益とする監禁罪について、その自由が現実的自由であることを要するか、潜在的可能的なもので足りるか、について検討する。	
		この回の到達目標	監禁罪の保護法益について、可能的自由説を採る判例に対して、現実的自由説に立つ有力説からの批判をめぐる議論を正確に理解し自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	140分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/16	住居侵入罪の保護法益	住居・建造物侵入罪の保護法益をめぐる判例の変遷を検討し、同罪をどのようにとられるべきかを考察する。	
		この回の到達目標	住居権説から平穩説を経て新住居権説へと至る判例の変遷と背景をたどしく理解し、保護法益と同罪の処罰範囲、機能をふまえた適切な解釈を行うことができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
8	5/23	名誉毀損罪と真実性の錯誤	名誉の保護と表現の自由の保護との関係を背景に、とくにマスメディアの取材・報道への刑罰制裁による制約の限界を論じ、同罪の適正な処罰範囲を探る検討を行う。	
		この回の到達目標	名誉の保護と表現の自由との調整を図る規定としての刑法230条の2の趣旨を理解した上で、真実性の錯誤をどう取り扱うかについての判例の考え方をたどしく把握できる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
9	5/30	刑法における占有の概念	窃盗罪における占有概念について多角的に検討し、占有をめぐる判例の態度と学説の発展を考察する。	
		この回の到達目標	占有侵害によって特徴づけられる窃盗罪の性格をたどしく理解し、窃盗罪の成否の基準として働く占有の意義、性質の把握をふまえて、占有の有無が問題となった諸判例を分析し説明することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	100分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	140分
10	6/6	不法領得の意思	窃盗罪における不法領得の意思の意義、機能、その内容を検討し、判例がそれをどのようにとらえているかを解明する。併せて、横領罪における不法領得意思も視野に入れ、財産領得罪と不法領得の意思の関係を明らかにする。	
		この回の到達目標	不法領得の意思の2つの側面（機能）を理解し、具体的事案における判例の態度と動向を説明し、自己の見解を説得的に展開することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
11	6/13	強盗と恐喝との相違	強盗罪と恐喝罪とが、刑法典のそれぞれ異なる章におかれた異質な類型とされるものでありながら、現象的には脅迫行為の程度の違い、量的差異に過ぎないものとも見えることを切り口に、両罪の比較検討を行う。	
		この回の到達目標	「窃盗および強盗の罪」と「詐欺および恐喝の罪」とを対比し、異なる性格を有する財産犯罪であることを理解した上で、両罪の相違を説明し、行為者に錯誤が生じた場合、被害者の意思抑圧の程度が行為者の意図とは異なった場合等にふみこんで罪責の検討を進めることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）	130分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）	110分
12	6/20	死者の占有	死者が生前占有していた財物を死後に領得する行為をどう評価するか。死者が財物を事実上管理支配することはありえないと考えれば、およそ占有侵害を要素とする窃盗も強盗も成立の余地はないことになるが果たしてどうか。この点についての判例、学説を掘り下げて検討する。	
		この回の到達目標	刑法における占有の概念を理論的に厳密に把握するとともに、実質的妥当な結論を導くことの重要性に配慮しつつ、強盗罪、窃盗罪、遺失物等横領罪の成否を適切に論じることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	詐欺罪における処分行為	詐欺罪における処分行為は意識的なものでなければならないか、無意識的なもので足りるかが問題となる。何らかの意思に基づく処分といえるものがなければ窃盗罪に問うほかない。従って、財産上の利益の移転のケースについては、利益窃盗で不可罰となる。処分行為の内容を明らかにすることが重要となる。	
		この回の到達目標	詐欺罪の処分行為をめぐる判例の動向を整理したうえで、学説の状況をふまえ、処分行為の意義と内容を適切に説明することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
14	7/4	クレジットカードの不正使用と詐欺	人を欺く行為が行われ、それによって相手方が錯誤に陥り、その錯誤に基づく処分行為行われた結果、財物の交付による占有の移転または財産上の処分行為による利益の移転が惹起されるという詐欺罪に特徴的な構成要件実現のプロセスに照らし、自己名義のクレジットカードを用いた不正行為に詐欺罪を認めうるかが問題となる。	
		この回の到達目標	詐欺罪特有の構成要件の構造を正確に理解し、支払い能力・支払い意思のいずれも欠いた自己名義のクレジットカード利用形態の不正行為が詐欺罪を構成するか否かを論じ、説得力ある結論を導くことができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
15	7/11	不法原因給付と詐欺罪の成否	たとえば規制薬物を購入する旨偽って代金支払い意思無く薬物を騙し取ったり、売春の対価を支払う意思が無いのにあるかのように装いこれに応じさせる行為に詐欺罪が成立するか。民法上返還請求が認められない場合や、履行を要求しえない場合に詐欺罪の成立を認めうるかが問題となる。	
		この回の到達目標	不法原因給付と詐欺罪の成否との関係を適切に理解した上で、民法と刑法との目的の相違をふまえて妥当な見解を述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	100分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	140分

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法総論及び各論の履修又は独習が終了していること。

【授業方法】
シラバスに書いてある論点に関する教科書を読んでもくる等、毎回十分予習させ、課題に現れた個々の論点等につき、双方向的授業を通じ、その理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例や事例問題について、学生との質疑や議論を通じ、解決方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。				3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。				3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。				3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。				3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。				3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。				3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。				3			3				3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2015	教科書	必携
刑法総論 第3版	山口厚	有斐閣	2017	参考書	推奨
判例刑法総論 第7版	西田典之ほか	有斐閣	2018	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	因果関係論（1）	ガイダンス。訳の割当て等。因果関係論について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。判例数が多いので2回にわたり、同じ作業を行う。	
		この回の到達目標	因果関係に関する判例を理解し、別の事案の解決もできるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、因果関係に関する事例の自分なりの解決法を見つける。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
2	4/14	因果関係論（2）	因果関係論について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。判例数が多いので2回にわたり、同じ作業を行う。	
		この回の到達目標	因果関係に関する判例を理解し、別の事案の解決もできるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、因果関係に関する事例の自分なりの解決法を見つける。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
3	4/21	不作為犯論	不作為犯論（ここでは不真正不作為犯の解釈論）について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	不作為犯論に関する判例を理解し、少なくとも不作為の殺人の事例において、様々な事案の解決ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、不作為犯に関する事例の自分なりの解決法を見つける。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
4	4/28	その他の構成要件論	因果関係及び不作為以外の客観的構成要件に係る判例を読んで、体系的な理解を定着させる。	
		この回の到達目標	構成要件段階でどのような判断が行われるかを理解する。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、構成要件の判断に係る様々な事例の自分なりの解決法を見つける。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
5	5/5	被害者の同意論	被害者の同意に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	被害者の同意の効果の判断に際して、様々な事案の解決ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、被害者の同意の効果に関する事例の自分なりの解決法を見つける。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
6	5/12	正当防衛論（1）	正当防衛のうちの、「急迫不正の侵害」の有無（主に急迫性）に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	急迫不正の侵害の有無の判断に際して、様々な事案の解決ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、急迫不正の侵害の有無に関する事例の自分なりの解決法を見つける。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	正当防衛論(2)	正当防衛のうちの「防衛の意思」の有無に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	防衛の意思の有無の判断に際して、積極的加害意思の有無との関係も意識しながら、様々な事案の解決ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、防衛の意思の有無に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
8	5/26	正当防衛論(3)	正当防衛のうちの、「防衛行為の相当性」の有無及び自招防衛や過剰防衛の限界等、その他の要件に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	防衛行為の相当性の判断に関する様々な事案の解決ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、防衛行為の相当性に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
9	6/2	誤想防衛論	責任の議論との架橋のために、誤想防衛、誤想過剰防衛についての理解を確認し、これらに関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	自身のよってたつ学説に基づいて、誤想過剰防衛についての判断ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、誤想過剰防衛について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
10	6/9	錯誤論（1）	いわゆる抽象的事実の錯誤に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	抽象的事実の錯誤に関する事例の判断ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、抽象的事実の錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。構成要件の重なり合いの態様（形式的か実質的か）といったことにも注意を払って考える。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
11	6/16	錯誤論（2）	いわゆる抽象的事実の錯誤に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	抽象的事実の錯誤に関する事例の判断ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、抽象的事実の錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。構成要件の重なり合いの態様（形式的か実質的か）といったことにも注意を払って考える。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
12	6/23	違法性の意識の可能性	いわゆる違法性の錯誤に関すると思われる判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	違法性の錯誤に関する事例について、どのような場合に故意ないし責任が阻却されることがあるのかを説明できるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、違法性の意識の可能性の処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	過失犯論	過失犯についての基本的な考え方を理論面から確認しつつ、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	過失犯に関する事例の判断ができるようになること	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、過失犯の処理について自分なりの解決法を見つけしておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
14	7/7	未遂犯論	未遂犯についての判例を読みつつ、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	未遂犯に関する事例の判断ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、未遂犯の処理について自分なりの解決法を見つけしておく。その際、犯罪類型毎の検討も行っておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
15	7/14	罪数論	罪数についての基本的な整理を前提とし、今まで読んできた判例の罪数処理等をも確認しながら、罪数に関する判例も読み、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
		この回の到達目標	罪数に関する事例の判断ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、罪数処理について自分なりの解決法を見つけておく。その際、犯罪類型毎の検討も行っておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	三隅 諒	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法Ⅰ及び刑法Ⅱを履修中又は履修済であることが望ましい。

【授業方法】
履修人数によるが、毎回の授業は次のように進めることを想定している。 1. テーマとなる最高裁判例について、担当者（1～2名）による報告 2. 少人数のグループに分かれて、報告に関するグループディスカッション 3. 各グループのディスカッションの内容を全体に共有 4. 担当教員による解説

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記のとおり、担当者による報告とグループディスカッションを行うことを想定している。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。				3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。				3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。				3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。				3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。				3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。				3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。				3			3				3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。なお、希望者は面談を行うことも可能である。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
判例刑法総論	西田典之ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
刑事事実認定重要判決50選 上（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
刑法総論の悩みどころ	橋爪隆	有斐閣	2020	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、木曜日10:40～12:10。なお、開講時にメールアドレスを配布するので、時間内でも事前のアポイントを推奨する。反対に、アポイントがあれば、時間外でも随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス【刑法総論の主要概念と事実認定】	刑法学の学習において、それぞれの主要概念がどのような事実に基づいて認定されているかを精確に認識することの重要性を学修する。また、判例の読み方を解説し、参考文献についても紹介する。受講生においては、講義全体の狙いを把握し、今後の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	刑法総論における事実認定（総合評価を含む）及び法的評価の意義を理解し、その概要を説明することができる。	
		事前学修	殺意の認定を素材としてガイダンスを行うので、手持ちの教科書の「故意（特に未必の故意）」の箇所を一読する。	120分
		事後学修	殺意の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
2	第一部 火4/14	因果関係	因果関係についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	因果関係が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	因果関係の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
3	第一部 火4/21	不作為犯	不作為犯についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	不作為犯が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	不作為犯の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
4	第一部 火4/28	実質的違法性阻却	実質的違法性阻却についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	実質的違法性阻却が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	60分
		事後学修	実質的違法性阻却の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	90分
5	第一部 火5/5	被害者の同意と安楽死	安楽死についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	安楽死が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	安楽死の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
6	第一部 火5/12	正当防衛における急迫性	正当防衛における急迫性についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	正当防衛における急迫性が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	正当防衛における急迫性の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 火5/19	正当防衛における相当性		正当防衛における相当性についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	正当防衛における相当性が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	正当防衛における相当性の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
8	第一部 火5/26	実行の着手と早すぎた構成要件の実現		実行の着手と早すぎた構成要件の実現についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	実行の着手と早すぎた構成要件の実現が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	実行の着手の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
9	第一部 火6/2	過失犯の構造		過失犯についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	過失犯が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	過失犯の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
10	第一部 火6/9	間接正犯		間接正犯についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	間接正犯が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	間接正犯の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
11	第一部 火6/16	共謀の意義		共謀についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	共謀の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	共謀の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
12	第一部 火6/23	共犯の因果性と共犯の解消		共犯の因果性と共犯の解消についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	共犯の因果性と共犯の解消が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	共犯の解消の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 火6/30	教唆・幫助の意義		教唆・幫助の意義についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	教唆・幫助の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	教唆・幫助の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
14	第一部 火7/6	包括一罪		包括一罪についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	包括一罪が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	包括一罪の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
15	第一部 火7/13	まとめ		各回の講義で取り上げたテーマについての簡単なまとめを報告し、重要判例における事実認定の具体的内容を理解する。また、その理解を通じて、刑法学において、事実を抽出して評価することの重要性を学修する。
		この回の到達目標	刑法総論の主要概念ごとに、重要判例における事実認定の具体的内容を説明すると共に、刑法学における事実認定（総合評価を含む）及び法的評価の意義をよく理解し、十分に説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義で取り扱った最高裁判例を読み返し、講義においてどのような議論が行われたかについて、テーマごとに整理し直しておく。	120分
		事後学修	各テーマごとの主要概念の認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
とくになし。ただし、刑法の基礎を習得していない者は難度の高い事例問題への取り組み等が不可能であることに鑑み、履修を見送ることを推奨する。

【授業方法】
判例、設例や過去問、学術論文等を用いる。各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ、後半を検討・質疑に充てる。時間を要する問題の場合は、自宅での答案作成とし、次回授業の全部を費やして検討を行うこともある。授業内試験の解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき、授業時に意見表明を受講者自身に行わせ、次いで教員が評価を示し、さらに受講者からの意見を求めることがある。これにより、いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した、刑法の実質的内容とリアルな社会の現実に即した意味ある議論が可能となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等参加度に関する評価については授業時間内に講評を行う。筆記試験については，その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし（授業の度に問題，教材，補足資料等を配布する。）					
備考	六法（出版社を問わない。）は必携。				

【オフィスアワー】
土曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/19	使途を定めて委託した金銭と横領		金銭は、預かったときにその所有権も自己に移転するが、こうした性質から、「自己の占有する他人の物」を客体とする横領罪の成否が問題となる。そこで、この点についての判例の態度と、「金額の所有権」論も含めた学説を検討する。
		この回の到達目標	金銭の持つ性質をふまえて、理論的整合性をたもちつつ合理的妥当な横領罪の処罰範囲を画する解釈を導く議論を展開することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
2	9/26	横領の意義		横領行為とは何かについて、さまざまな横領の手段・態様を検討したうえで、領得行為説と越権行為説との対立に関する議論を考察しつつ、今日の判例と学説の状況を検討する。
		この回の到達目標	財産領得罪の一種としての横領罪の性格を理解した上で、判例の立場を説明し、同罪の本質をどうとらえるべきか、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	前回受験した試験についての復習に基づき、教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。	100分
		事後学修	これまでの授業をふまえ、自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。	140分
3	10/3	横領と背任の関係		横領罪と背任罪との関係については、しばしば両罪が同時に成立するようにみえる場合があるが、この両罪の区別についてのさまざまな見解を検討し、適切妥当な区別基準を導き出すべく検討を加える。
		この回の到達目標	横領罪と背任罪との区別について、判例の態度はどうか、学説にはどのようなものがあるかを整理し、もっとも妥当な見解を説得的に展開することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
4	10/10	不動産の二重売買と横領		自己の不動産を売却後に、登記未了のため依然所有名義者としての不動産登記上の外観が維持されていることを利用し、重ねて第三者に売却した場合の罪責を検討する。
		この回の到達目標	不動産の二重売買と横領 自己の不動産を売却後に、登記未了のため依然所有名義者としての不動産登記上の外観が維持されていることを利用し、重ねて第三者に売却した場合の罪責を検討する。 この回の 到達目標 横領罪における占有の概念の正確な理解を前提に、不動産取引と登記に関する知識をふまえ、土地等の二重売買事案についての横領罪成立の可能性を説明できる。さらに、二重売買不動産の譲受者に横領罪の共犯罪責の可能性について述べることができる	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例問題が出題されるかを予想し、答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
5	10/17	不動産の二重抵当と背任		自己の不動産を担保に供する抵当権設定契約を締結した者が、登記未了であることを利用し、その後重ねて第三者のために抵当権を設定して登記を了し、本来先順位の抵当権者となるべき者を後順位の位置に置いた場合の罪責を検討する。
		この回の到達目標	背任罪の「他人の事務処理」とは何を意味するかについての判例の具体的判断基準を理解した上で、学説の対立を整理し、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
6	10/24	横領語の横領		従来、横領罪が成立すれば、その後同一の客体に対する不法な処分がなされても重ねて横領罪が成立することはないとするのが判例・学説の承認するところであった。しかし、近時最高裁はこの判例を変更した。そこで、これがいかなる理由によるものかを検討する。
		この回の到達目標	横領物に対する横領行為が、不可罰的事後行為とされてきた従来の法解釈から、どのような事案を念頭に横領罪成立へと変更されたのかをふまえ、横領罪成否について自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	140分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	放火罪の既遂時期	放火罪の既遂時期について、独立燃焼説に立つ判例の立場と、その早期に過ぎる点で批判を加える学説との対立状況を把握し、今日、具体的妥当な見解は何かを解明する。	
		この回の到達目標	従来の伝統的な判例の見解と、さまざまな学説との対立状況をふまえ、放火罪の罪質や今日の状況にふさわしい既遂時期の基準について妥当な見解を述べ、説明することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
8	11/7	放火罪の客体と建造物の一体性	物理的に独立した複数の建造物が、回廊や通路等で接続する構造を有し、機能的に一体的な施設とみられる場合、それら一部が現住建造物性を具えていれば、他のどの部分に放火しても現住建造物への放火と扱うことができるか、という問題を検討する。	
		この回の到達目標	判例の見解を十分理解し、また今日の高度の難燃性建材・耐火構造の建築物に関する裁判例にあらわれた問題点なども視野に入れ、結論の具体的妥当性をふまえた見解を導くことができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
9	11/14	コピーと文書偽造	偽造した物自体を真正な文書の原本として用いる場合ばかりでなく、真正な文書のコピーとして呈示する等する場合も偽造文書の行使といえるか（そのような目的で作った場合文書偽造といえるか）が問題となる。判例と、有力な反対説とを検討する。	
		この回の到達目標	コピーが広く普及したことにより生じた現実と、判例の拡張的な解釈に対する学説の批判的態度を正確に理解し、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	100分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	140分
10	11/21	代理代表名義の冒用と文書偽造	狭義の文書偽造とは作成名義の偽りを意味するが、作成名義人の氏名自体の偽りではなく、代理権、代表権の付与なしに代理、代表名義を使用した文書を作る行為を文書偽造罪に問うことができるかを検討する。	
		この回の到達目標	名義人に無断で作成名義を用いた文書を作る行為がなぜ処罰される必要があるかをふまえ、肩書きの冒用ある文書の作成、代理名義・代表名義の冒用ある文書の作成行為が文書偽造に該当するか否か、自己の見解を説得的に述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
11	11/28	同姓同名の使用と文書偽造	自分と同姓同名の弁護士Aのいることを知った行為者が、この弁護士に成りすまして「弁護士A」との作成名義を表示した請求書を作成・行使した場合、有形偽造といえるかを検討する。	
		この回の到達目標	有形偽造説と無形偽造説とに分かれる学説の対立を整理し、「人格の同一性」に齟齬を生じさせたか否かを基準とする判例をふまえて自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）	130分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）	110分
12	12/5	作成名義人の承諾と文書偽造罪の成否	作成名義人の承諾ある場合であっても、文書によっては、その性質上偽造罪にあたる場合があるが、それはどのような場合で、いかなる原理によるのかを検討する。	
		この回の到達目標	作成名義人の承諾があっても、文書の性質上名義人以外の者による作成行為が許されない場合があるか、あるとすればどのような場合かを、判例の立場をふまえて説明することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	職務行為の適法性と公務執行妨害罪	公務の適正円滑な遂行を保護する公務執行妨害罪は、公務員による違法な行為はもとより職務の外形があっても適法性を欠く場合、成立する余地はないであろう。そこで、どのような意味・程度に職務行為が適法でなければならないかが問題となる。こうした点を検討する。	
		この回の到達目標	公務執行妨害罪における職務行為の適法性をめぐる判例の態度と、学説状況を整理し、説得的に自己の見解を組み立て、説明できる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
14	12/19	犯人蔵匿罪における「罪を犯した者」の意義	犯人蔵匿罪における「罪を犯した者」については、真犯人を意味すると解する説、犯罪の嫌疑をかけられ捜査・訴追の対象とされている者を指すとする説、また、真犯人、および合理的判断から真犯人と強く疑われる理由のある者を指すとする説があるが、こうした点を検討する。	
		この回の到達目標	本罪の保護法益の観点をふまえ、各説を整理・分析した上で、整合性と具体的妥当性のある見解に立った議論を展開することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
15	12/26	わいろ罪における「職務に関し」の意義	賄賂罪の保護法益から、その本質的要素として導かれる職務との関連性が、どのような意味で、どの程度要求されるかを検討する。	
		この回の到達目標	判例が、「準職務行為」、「職務密接関連行為」などの概念を用い、広範で包括的な権限を有し高い地位にある公務員による収受行為を処罰範囲に取込む解釈を採用していることについて、適切な検討を加え、説明することができる。	
		事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。	100分
		事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	140分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法総論及び各論の履修又は独習が終了していること。

【授業方法】
シラバスに書いてある論点に関する教科書を読んでもくる等、毎回十分予習させ、課題に現れた個々の論点等につき、双方向的授業を通じ、その理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例や事例問題について、学生との質疑や議論を通じ、解決方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。				3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。				3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。				3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。				3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。				3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。				3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。				3			3				3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2015	教科書	必携
刑法総論 第3版	山口厚	有斐閣	2017	参考書	推奨
判例刑法総論 第7版	西田典之ほか	有斐閣	2018	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	単独犯の事件処理	共犯論に入る前に、単独犯の事件処理の刑法的側面を確認する。	
		この回の到達目標	単独犯の事件処理ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、単独犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
2	9/22	共犯の処罰根拠論	共犯の処罰根拠論としての因果的共犯論の内容を理解し、それを前提に、関連する判例を読んで、共犯の因果関係の処理をできるようになる。	
		この回の到達目標	共犯の処罰根拠論（通説たる因果的共犯論）に基づく事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
3	9/29	共犯の処罰根拠論	共犯の処罰根拠論としての因果的共犯論の内容を理解し、それを前提に、関連する判例を読んで、共犯の因果関係の処理をできるようになる。	
		この回の到達目標	共犯の処罰根拠論（通説たる因果的共犯論）に基づく事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
4	10/6	共同正犯論	共謀概念の理論的な位置づけも踏まえつつ、共謀共同正犯の成立の限界を、関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	判例法として発展してきた共謀共同性犯論に基づく事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共謀共同正犯の成立範囲について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
5	10/13	共同正犯と幫助	共謀概念の理論的な位置づけも踏まえつつ、共同正犯と幫助犯の判断の分かれ目について、関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	共同正犯における正犯性についての事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共同正犯と幫助の境界について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
6	10/20	共犯論における関与者の変動	承継的共犯及び共犯関係の解消について、関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	承継的共犯及び共犯関係の解消に関する事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、承継的共犯及び共犯関係の解消（中止犯との差異も意識する）について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	不作為犯と共犯，共犯と錯誤	不作為犯や錯誤といった単独犯でも問題となる論点について，関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	不作為犯と共犯及び共犯と錯誤に関する事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，不作為犯と共犯，共犯と錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
8	11/10	過失犯の共犯	複数人関与の場合の過失犯について，関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	単独犯としての監督・管理過失及び過失の共同正犯との関係を理解する。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，過失犯と共犯（監督・管理過失を含む）について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
9	11/17	正当防衛と共犯	一部の者に違法性阻却事由が付着している場合についての事件処理について（一部の者に積極的が害意思がある場合や，新たな共謀の要否論等），関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	正当防衛と共犯に関する事案への当てはめができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，正当防衛と共犯について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
10	11/24	共犯と身分	共犯と身分についての条文適用を含む事件処理の方法について，関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて共犯と身分に関する事案における条文適用ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，共犯と身分について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
11	12/1	間接正犯と共犯	単独犯の法理が適用される間接正犯と，共犯の差を理解しつつ，関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて間接正犯と共犯に関する事案の判断ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，間接正犯と共犯のどちらが成立するか悩ましい事案における判断順序を含む判断方法について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
12	12/8	刑法各論と共犯	事後強盗罪等を取り上げながら，刑法各論における共犯論の議論を理解しつつ，関連する判例を読んで理解する。	
		この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて事後強盗罪等と共犯の文脈における事案の処理ができるようになる。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，事後強盗罪等にかかる共犯の論点について，自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	共犯の事件処理（1）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
		この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
14	12/22	共犯の事件処理（2）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
		この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
15	1/12	共犯の事件処理（3）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
		この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
		事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
		事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法Ⅰ及び刑法Ⅱを履修中又は履修済であることが望ましい。

【授業方法】		
履修人数によるが、毎回の授業は次のように進めることを想定している。 1. テーマとなる最高裁判例について、担当者（1～2名）による報告 2. 少人数のグループに分かれて、報告に関するグループディスカッション 3. 各グループのディスカッションの内容を全体に共有 4. 担当教員による解説		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記のとおり、担当者による報告とグループディスカッションを行うことを想定している。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。なお、希望者は面談を行うことも可能である。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
判例刑法各論	西田典之ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
刑事事実認定重要判決 上（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
刑事事実認定重要判決 下（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、木曜日10:40～12:10。なお、開講時にメールアドレスを配布するので、時間内でも事前のアポイントを推奨する。反対に、アポイントがあれば、時間外でも随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	ガイダンス【刑法各論の主要概念と事実認定】	刑法学の学習において、それぞれの主要概念がどのような事実に基づいて認定されているかを精確に認識することの重要性を学修する。また、判例の読み方を解説し、参考文献についても紹介する。受講生においては、講義全体の狙いを把握し、今後の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	刑法各論における事実認定（総合評価を含む）及び法的評価の意義を理解し、その概要を説明することができる。	
		事前学修	盗品性の知情の認定を素材としてガイダンスを行うので、手持ちの刑法総論の教科書の「故意（特に未必の故意）」の箇所と、刑法各論の教科書と「盗品等に関する罪」の箇所を一読する。	120分
		事後学修	盗品性の知情の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
2	第一部 火9/22	窃盗における占有の意義	窃盗における占有についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	窃盗における占有の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	窃盗における占有の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
3	第一部 火9/29	窃取の意義	窃取の意義についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	窃取の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	窃取の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
4	第一部 火10/6	不法領得の意思	不法領得の意思についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	不法領得の意思が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	不法領得の意思の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
5	第一部 火10/13	事後強盗における窃盗の機会	事後強盗における窃盗の機会についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	事後強盗における窃盗の機会が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	事後強盗における窃盗の機会の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
6	第一部 火10/20	文書の交付と詐欺	文書の交付と詐欺についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。	
		この回の到達目標	文書の交付について詐欺罪の該当性が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	文書の交付について欺く行為の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 火10/27	挙動による詐欺		挙動による詐欺についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	挙動による詐欺が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	挙動による詐欺の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
8	第一部 火11/10	任務違背行為の意義		背任における任務違背行為の意義についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	任務違背行為の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	任務違背行為の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
9	第一部 火11/17	図利加害目的の意義		背任における図利加害目的の意義についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	図利加害目的の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	図利加害目的の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
10	第一部 火11/24	建造物の意義		建造物の意義が問題となる各種犯罪についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	建造物の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	各種犯罪における建造物の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
11	第一部 火12/1	損壊の意義		損壊の意義が問題となる各種犯罪についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	損壊の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	各種犯罪における損壊の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
12	第一部 火12/8	傷害の意義		傷害の意義が問題となる各種犯罪（致傷を含む）についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	傷害の意義が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	各種犯罪における傷害の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 火12/15	参考人の虚偽供述		参考人の虚偽供述についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	参考人の虚偽供述が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	参考人の虚偽供述について犯人隠避・証拠偽造の該当性の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
14	第一部 火12/22	賄賂の意義		賄賂の意義についての近時の最高裁判例の内容を分析し、認定の根拠となった各事実の意義を検討する。また、事実の一部が変わった場合に最終的な判断が変化するか否かについて、自由に議論して考察を深める。
		この回の到達目標	賄賂が問題となった最高裁判例が、いかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、認定する上でどのような事実注目すべきが、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	素材となる最高裁判例（第1回講義で指定）を熟読すると共に、同じテーマに関する他の最高裁判例についても可能な限りで一読する。	120分
		事後学修	賄賂性の認定がどのように行われるかの認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分
15	第一部 火1/12	まとめ		各回の講義で取り上げたテーマについての簡単なまとめを報告し、重要判例における事実認定の具体的内容を理解する。また、その理解を通じて、刑法学において、事実を抽出して評価することの重要性を学修する。
		この回の到達目標	刑法各論の主要概念ごとに、重要判例における事実認定の具体的内容を説明すると共に、刑法学における事実認定（総合評価を含む）及び法的評価の意義をよく理解し、十分に説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義で取り扱った最高裁判例を読み返し、講義においてどのような議論が行われたかについて、テーマごとに整理し直しておく。	120分
		事後学修	各テーマごとの主要概念の認定プロセスについて、自分なりに整理してまとめ直す。また、教員の指定する参考文献を一読してみる。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅢA	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論（捜査手続を中心に）を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に公訴提起に至るまでの流れを理解し、捜査手続における問題点の解決方法を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で説明するが、具体的事例の解決にあたっては適宜討論形式で実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				3			3				3
②	捜査機関の行為の適法性の判断基準を説明することができ、それを具体的事例に即して適用して、解決することができる。				3			3				3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 14：30 に授業講堂で質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	刑事訴訟法を知る	年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献等の説明、刑事訴訟法を学習する際の注意点	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。	120分
2	第一部 水4/15	司法制度改革	司法制度改革と刑事訴訟法等の刑事手続法の改正	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近時の司法制度改革に伴い、刑事訴訟法等の刑事手続法がどのように改正されてきたかを説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	第一部 水4/22	刑事手続の概要	捜査(捜査の端緒)から公訴の提起、公判までの具体的手続	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時系列にしたがい、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
4	第一部 水4/29	刑事訴訟の担い手①	裁判所と裁判権、裁判所の役割、公平な裁判を実現するための制度(裁判官の除斥・忌避・回避)、裁判員制度	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	第一部 水5/6	刑事訴訟の担い手②	刑事手続における検察官の地位・役割、日本の検察官の特徴、検察官と警察等捜査機関との関係	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国検察官の特徴や警察等捜査機関との関係を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	第一部 水5/13	刑事訴訟の担い手③	被告人の意義、被告人の確定、当事者能力、訴訟能力	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事手続における被告人の地位を知り、氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	刑事訴訟法の担い手④	弁護人（弁護人選任権、国選弁護制度）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事手続における弁護人の役割を知り、国選弁護制度を含む弁護人選任権について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
8	第一部 水5/27	接見交通権	被疑者と弁護人の接見交通権の意義、目的、接見制限の合憲性、接見指定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接見交通権の内容と保障の趣旨、接見指定の要件を理解し、説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
9	第一部 水6/3	捜査の端緒	職務質問、所持品検査、自動車検問等	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務質問や所持品検査等各捜査の端緒の法的根拠と法的性格、要件、実力行使（強制力の行使）の拒否について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	第一部 水6/10	任意捜査の原則	任意捜査の原則、強制処分法定主義（任意捜査の限界）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）と警察（捜査）比例の原則について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	第一部 水6/17	人的強制処分	逮捕と勾留	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、逮捕の種類、要件と手続、逮捕前置主義、一罪一逮捕一勾留の原則等について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	第一部 水6/24	物的強制処分	搜索・差押	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法35条の法意を理解し、搜索と差押えの実体的要件（理由と必要性）を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	公訴提起①	起訴独占主義と起訴便宜主義，検察審査会制度	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，公訴提起に関する基本原則を知り，その例外についても説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	第一部 水7/8	公訴提起②	起訴状一本主義と公訴の提起	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，予断排除の原則の趣旨と同原則違反の有無や効果について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	第一部 水7/15	訴因	訴因制度と訴因変更	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，訴因制度の基本的事項を理解し，具体的事例に即して訴因の明示・特定について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅢB	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、捜査手続から、公訴提起、公判手続を経て判決(裁判)に至るまでの流れを理解し、各手続における問題点の解決方法を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法Ⅰ, 刑事訴訟法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で説明するが、具体的事例の解決にあたっては適宜討論形式で実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。						3			3				3
②	捜査機関の行為の適法性の判断基準を説明することができ、それを具体的事例に即して適用して、解決することができる。						3			3				3
③	公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。						3			3				3
④	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。						3			3				3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 14：30に授業講堂で質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	刑事訴訟法を知る	年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献等の説明、刑事訴訟法を学習する際の注意点	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。	120分
2	第一部 水4/15	司法制度改革	司法制度改革と刑事訴訟法等の刑事手続法の改正	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近時の司法制度改革に伴い、刑事訴訟法等の刑事手続法がどのように改正されてきたかを説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	第一部 水4/22	刑事手続の概要	捜査(捜査の端緒)から公訴の提起、公判までの具体的手続	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時系列にしたがい、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
4	第一部 水4/29	刑事訴訟の担い手①	裁判所と裁判権、裁判所の役割、公平な裁判を実現するための制度(裁判官の除斥・忌避・回避)、裁判員制度	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	第一部 水5/6	刑事訴訟の担い手②	刑事手続における検察官の地位・役割、日本の検察官の特徴、検察官と警察等捜査機関との関係	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国検察官の特徴や警察等捜査機関との関係を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	第一部 水5/13	刑事訴訟の担い手③	被告人の意義、被告人の確定、当事者能力、訴訟能力	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事手続における被告人の地位を知り、氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	刑事訴訟法の担い手④	弁護人（弁護人選任権、国選弁護制度）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事手続における弁護人の役割を知り、国選弁護制度を含む弁護人選任権について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
8	第一部 水5/27	接見交通権	被疑者と弁護人の接見交通権の意義、目的、接見制限の合憲性、接見指定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接見交通権の内容と保障の趣旨、接見指定の要件を理解し、説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
9	第一部 水6/3	捜査の端緒	職務質問、所持品検査、自動車検問等	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務質問や所持品検査等各捜査の端緒の法的根拠と法的性格、要件、実力行使（強制力の行使）の拒否について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	第一部 水6/10	任意捜査の原則	任意捜査の原則、強制処分法定主義（任意捜査の限界）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）と警察（捜査）比例の原則について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	第一部 水6/17	人的強制処分	逮捕と勾留	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、逮捕の種類、要件と手続、逮捕前置主義、一罪一逮捕一勾留の原則等について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	第一部 水6/24	物的強制処分	搜索・差押	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法35条の法意を理解し、搜索と差押えの実体的要件（理由と必要性）を説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	公訴提起①	起訴独占主義と起訴便宜主義，検察審査会制度	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，公訴提起に関する基本原則を知り，その例外についても説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	第一部 水7/8	公訴提起②	起訴状一本主義と公訴の提起	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，予断排除の原則の趣旨と同原則違反の有無や効果について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	第一部 水7/15	訴因	訴因制度と訴因変更	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，訴因制度の基本的事項を理解し，具体的事例に即して訴因の明示・特定について説明できる。	
		事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
警察官、検察事務官、家庭裁判所調査官、法務教官、保護観察官などをを目指す者を対象として、刑事司法手続過程における実務の現状を概観し、各段階における今日的課題を分析・検討し、犯罪の背景にある様々な社会的因子を踏まえた、総合的な犯罪に対する事前・事後予防のあり方を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目（Ⅴ群）で学修した憲法、刑法、刑事訴訟法や専門展開科目（Ⅵ群）で学修した少年法等の基礎的な理解を発展させるために、憲法、刑法、刑事訴訟法、犯罪者処遇に関する関係法等の関連性を理解し、犯罪者と被害者人権保障を踏まえた刑事司法手続のあり方と運用について考察する能力を修得する。

【履修条件】
憲法、刑法、刑事訴訟法、少年法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
毎回基礎的な参考資料は配付するが、シラバスに従って事前準備がなされていることを前提に、課題解決に向けたディスカッションやグループワークを行う。随時、施設参観や関係実務家の参加を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、施設見学を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事司法手続過程における実務のあり方や運用について理解し、説明ができる				3			3				3
②	実務家に必須の聴く力と観察力を身に付ける							3				3
③	調書等の書面作成能力を養う				3			3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連し、課題に対する簡潔、明確に論点を踏まえた自説が展開されているかを評価する。	10	10	20								40
討論・発表等	ディベートやグループワークでの聴く力、受容的態度に裏打ちされた意見の表明力	15	15									30
授業への参画度	毎回、ディベートやグループワークを行うので、出席のみならず課題解決に向けた寄与度も評価する		30									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	55	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
			無し		
備考	特に指定しないが、憲法、刑法、少年法、刑事政策等の基本書が有れば、それを使用して下さい。				

【オフィスアワー】
木曜16時20分から17時の間、本館9階1904号室で実施する。なおメールで予約して下さい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等
実務経験に基づく実践的教育の内容		刑事司法関係者による講義参加と施設見学を実施する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	刑事司法手続を概観する	犯罪発生から刑事司法手続の終了までの実務の現状について概括的に解説し、この演習で何を学び、どう活かすのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②関連し、刑事司法手続の概要について説明できる。	
		事前学修	犯罪の発生から刑事司法手続の終了までの手続の概要について調べてみる	120分
		事後学修	受講する際に必要な基本的知識の過不足について理解し、シラバスで検討する課題に必要な関係領域の学習計画立てる	120分
2	4/16	犯罪抑止と警察活動	犯罪防止に関する事前抑止の現状を知るとともに、住民、自治体、警察の相互補完の関係を効果的あらしめるための考察を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	住民自ら担う犯罪抑止について、都道府県等で実際に行われている対策について、各自の地域の状況を調べておく	120分
		事後学修	住民、自治体、そして警察が三位一体で効率的な犯罪抑止を行えた目の役割分担についてまとめる	120分
3	4/23	特殊詐欺の抑止	特殊詐欺の現状とその対策について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、課題を明らかにし、改善策が提案できる。	
		事前学修	警察、自治体が行っている対策について調べる	120分
		事後学修	効果的な対応方法について、自らの考えをレポートにまとめる	120分
4	4/30	犯罪捜査と適正手続の保障	警察による捜査活動上の課題と法的な問題を理解し、その解決に向けた取組状況について、比較法的な視点も踏まえ解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、違法排除の限界について説明ができる。	
		事前学修	適正手続の保障に関し、憲法・刑事訴訟法の基本書で論点について事前苦くしておく	120分
		事後学修	違法収集証拠として証拠が排除される範囲と警察活動の限界についてまとめる	120分
5	5/7	犯罪被害者の保護	犯罪被害者基本法に基づく、刑事司法手続の各段階における具体的取組状況について、警察実務家の参加を得て、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、課題を明らかにし、改善策が提案できる。	
		事前学修	犯罪被害者にとって保護が必要な項目を洗い出し、加害者家族も被害者か、について考えておく	120分
		事後学修	犯罪被害者の保護に関する刑事司法制度下の諸制度とその他の制度についてまとめる	120分
6	5/14	精神疾患と措置入院	精神障害者による犯罪に対する刑事司法と精神保健福祉法の対応の現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	精神疾患を有する者によって、犯罪が行われた場合に、警察や検察はどの様に対応しているのか調べておく。	120分
		事後学修	措置入院や医療観察制度についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	微罪処分	微罪処分の法的根拠と法的性格を理解した上で、被害者（遺族を含む）も納得できる運用がなされている否か学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	微罪処分とはどのようなものか調べてみる	120分
		事後学修	微罪処分の果たすべき役割についてまとめる	120分
8	5/28	起訴猶予処分の新たな展開	起訴猶予処分を受けた者に対する再犯防止措置の必要性が指摘されて忌め現状に鑑み、検察が取りうる対応について、その現状と対策について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	起訴猶予処分の現状について、犯罪白書や刑訴法の基本書で調べておく	120分
		事後学修	起訴猶予処分を受けた者に対する再犯防止策について整理し、レポートにまとめる	120分
9	6/4	検察審査会の機能	検察審査会法が改正され、機能強化が図られているが、現状と課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	検察審査会について、基本書や犯罪白書で調べておく	120分
		事後学修	指定弁護士による強制起訴が効果的に運用されるための制度設計についてまとめる	120分
10	6/11	通常裁判と裁判新裁判	両者の差異と裁判員裁判固有の問題点を指摘し、現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	両者の差異はどこにあるのか、裁判新裁判が導入された背景に何があるのか裁判所のHP等で調べておく。	120分
		事後学修	裁判長の訴因変更命令と裁判員裁判における検察控訴の可否についてまとめる	120分
11	6/18	公正かつ公平な裁判	憲法、裁判所法、刑事訴訟法がどのような保障措施を講じているかについて、現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	裁判を受ける権利に関し、公正かつ公正な裁判とはどのような裁判か、そのための制度設計はどうなっているか調べておく	120分
		事後学修	外国人への対応について、刑事司法手続を俯瞰する公正かつ公平な裁判制度とはどのようなものかまとめる	120分
12	6/25	執行猶予と刑の一部執行猶予	執行猶予と刑の一部執行猶予が再犯防止にどのような役割を果たしているかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	執行猶予の現状と果たすべき役割について調べておく	120分
		事後学修	再犯性の高い犯罪者に対する執行猶予や刑の一部執行猶予制度の果たすべき焼き割と限界についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	受刑者の権利と特別改善教育	相対的応報刑の視点に立ち、受刑者の権利としての処遇参加と再犯防止に向けた効果的な処遇のあり方として導入された特別改善教育について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	受刑者の人権と処遇の強制について調べておく。	120分
		事後学修	受刑者自らが処遇計画の策定に参加できるのか、刑罰の目的との関係で整理する	120分
14	7/9	保護観察制度の改革	効果的な再犯防止を図るためには、保護観察の立ち位置や運用上の課題が有り、現行制度の課題と対策について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	保護観察（制度）について、その種類と概要について調べておく。犯罪白書や法務省のHPを見てみよう	120分
		事後学修	保護司の専門性と権限、そして、特別遵守事項の効果的な運用についてまとめる	120分
15	7/16	修復的司法と治療的司法の導入	21世紀は、被害者の世紀とも言われ、既存の刑事司法手続に代わって被害者の当事者性を取り入れた修復的司法や、犯罪類型によっては、刑事罰を前提としない治療的司法が薬物・性犯罪について導入されているのが欧米の現状で有り、この点について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	それぞれの内容について、HP上で調べてみよう。	120分
		事後学修	これらの制度を日本に導入することの是非について、レポートにまとめる	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	毛利 晴光	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法が扱う捜査，公判（一審）全般の刑事手続を授業の対象とする。 刑事訴訟法の基本原則や刑事手続の流れ・仕組みについて，実務とのつながりを意識しつつ，幅広く学修する，

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法科大学院への進学や予備試験合格に必要な基礎的学力の修得を目指し，刑事訴訟法の基本原則や刑事手続の流れ・仕組みについて体系的に理解した上，刑事手続のそれぞれの段階で生じる諸問題に対し，実務においてどのような運用（解決の仕方）がされているのか，学説・判例ではどのような考え方が示されているのかを学修する。

【履修条件】
法科大学院への進学や予備試験合格を目指し積極的な履修に取り組む意欲のある者（3年次生を主要な対象とするが，4年次生も歓迎する。）。

【授業方法】
毎回，レジュメと参考資料を配付して，それに基づき講義をする。教科書は，事前学習の際に使用する（具体的には，毎回，教科書の指定箇所を読んでくる。）ほか，教科書に掲載されている書式については，授業の際に随時活用する。参考書は，授業や教科書の理解を深めるのに役立つものであるが，利用を義務付けるものではない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事手続法の基礎知識を修得する。					3			2				
②	刑事手続の仕組みについて、実務とのつながりを意識しつつ、幅広くかつ柔軟な見方・理解ができる。					3			2				
③	刑事手続法の基礎知識を基に、刑事手続の仕組みについて、自分の言葉で説明することができる。					2			3				2
④	刑事手続法の基礎知識を基に、刑事手続の諸問題について、自分で考え、意見を述べるができる。					2			3				3
⑤	刑事手続の諸問題に関する考え方を、与えられた事例に対し、適切に当てはめすることができる。					2			3				3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内での小テストにより、それぞれの段階での到達目標に関わる基本的な知識を身に着けているかを確認する。	25	25	25								75
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	教員との質疑応答などを通じて、授業への関心の度合いを測るとともに、予習や復習の効果がどの程度上がっているかをチェックし、総合的な評価をする。				25							25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストは、直後に解説等を行い、後日、答案を採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 刑事手続法 [第7版]	三井誠・酒巻匡	有斐閣	2017年	教科書	必携
刑事訴訟法講義案 [4訂補訂版]	裁判所職員総合研修所	司法協会	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 16:30～17:30（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントをとること）研究室（1356号室） メールアドレス： mouri.harumitsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		裁判官として、東京、横浜、大阪地裁等で一審の、また東京、大阪高裁で二審の刑事裁判を担当 刑事裁判実務に携わった経験を活かして、実際の刑事手続（実務）の一端を紹介するとともに、実務で採用されている考え方や仕組みなどを学修できるように教育する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木4・9	ガイダンス 刑事手続の流れと主体	はじめに、本授業のねらいや学び方、授業のスケジュールなどを説明する。その際、刑事訴訟法の条文や判例の重要性についても触れる。次いで、刑事手続の流れを概観するとともに、刑事手続の主体についても解説し、刑事手続がどのような仕組みになっているかを大まかに学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事手続の流れや仕組みについて、概略、理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、刑事訴訟法及び刑事訴訟規則にざっと目を通し、かつ、教科書の「はじめに」及び目次並びに「刑事手続の流れ」の図表を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
2	第1部 木4・16	捜査その1 任意捜査と強制捜査	はじめに、捜査に対する法的規律として、強制処分法定主義と令状主義の説明をし、次いで、任意捜査と強制捜査の区別、判断枠組等について解説をし、捜査の適法性を検討するのにどのような考え方をとるのかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、捜査に対する法的規律について、概略、理解し、説明できるとともに、具体的な事例において、捜査の適法性の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
3	第1部 木4・23	捜査その2 逮捕、勾留、取調べ	殺人事件の捜査を題材にして、捜査（身柄関係）の実際がどのような流れで進むのかを概観した上、逮捕及び勾留の要件等を説明し、逮捕・勾留をめぐる問題（逮捕前置主義など）や被疑者の取調べをめぐる問題について、実務の考え方を交えながら、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、身柄関係の捜査がどのようなものであるか、概略、理解し、説明できるとともに、具体的な事例において、逮捕・勾留や取調べに関する問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
4	第1部 木4・30	捜査その3 搜索・差押えなど	覚せい剤事件の捜査を題材にして、捜査（証拠収集）の実際がどのような流れで進むのかを概観した上、捜査の端緒や任意捜査をめぐる問題、搜索・差押えをめぐる問題、強制採尿等をめぐる問題について、実務の考え方を交えながら、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、証拠収集関係の捜査がどのようなものであるか、概略、理解し、説明できるとともに、具体的な事例において、搜索・差押えや強制採尿等に関する問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
5	第1部 木5・7	捜査その4 被疑者の権利、捜査段階の弁護	被疑者の権利として、黙秘権と弁護権（弁護人の援助を受ける権利）を説明し、特に弁護権として、弁護人選任権及び接見交通権の内容とこれらをめぐる問題について解説する。また、捜査段階の弁護として、どのような活動があるのか、実務の実際を交えながら、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、被疑者の権利、捜査段階の弁護がどのようなものであるか、概略、理解し、説明できるとともに、具体的な事例において、接見交通に関する問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
6	第1部 木5・14	小テスト第1回 公訴提起、公判準備	はじめに、捜査に関する問題を小テストする。次いで、公訴提起について、起訴状一本主義等の基本原則に触れた上、訴因の機能や特定について解説し、さらに、公訴提起後第1回公判期日までの流れについて概観する。被告人の勾留、保釈についても、併せて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、公訴提起、公判準備がどのようなものであるか、概略、理解し、説明できるとともに、具体的な事例において、訴因や被告人の保釈に関する問題の検討が一応できるようになる。なお、小テストでは、捜査に関する基本的事項の修得について再確認をする。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木5・21	公判準備，公判期日の手続	はじめに，公判準備（公判前整理手続を除く）として，その内容とこれに関連する証拠開示の問題を解説する。次いで，公判期日の手続として，典型的な裁判における手続の流れを概観した上，証人尋問と訴訟指揮権について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，公判準備，公判期日の手続がどのようなものであるか，概略，理解し，説明することができるとともに，具体的な事例において，証拠開示や証人尋問等に関する問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
8	第1部 木5・28	訴因の変更，弁論の併合 証拠法その1 総論	はじめに，刑事裁判の変形といえる訴因の変更と弁論の併合（客観的併合）について，解説する。次いで，証拠法の総論として，証拠に関する基本原則のほか，証拠能力と証明力，挙証責任等，基本的な事項について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，訴因の変更や弁論の併合がどのようなものであるか，概略，理解し，説明することができるとともに，これらに関する問題の検討が一応できるようになる。併せて，証拠に関する基本的な事項について，正しく理解し，説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
9	第1部 木6・4	証拠法その2 伝聞証拠	証拠能力の制限の一つとして，伝聞証拠を取り上げる。具体的には，伝聞法則の意義・根拠，伝聞例外，非伝聞について，実務の実際を踏まえつつ，具体例を示して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，伝聞証拠とはどのようなものであるか，なぜ問題になるのか，伝聞例外になるのはどのようなものかなどについて，理解し，説明することができるとともに，具体的な事例において，伝聞証拠に関する問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
10	第1部 木6・11	証拠法その3 自白，違法収集証拠排除	証拠能力の制限の一つとして，自白法則と違法収集証拠排除法則を取り上げる。具体的には，自白法則については，その意義・根拠，具体例，これに関連する問題を，違法収集証拠排除法則についても，その意義・根拠，具体例，これに関連する問題を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，任意性のない自白や違法収集証拠とはどのようなものであるか，なぜ問題になるのかについて，理解し，説明することができるとともに，具体的な事例において，自白法則と違法収集証拠排除法則に関する問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
11	第1部 木6・18	小テスト第2回 裁判員裁判その1 公判前整理手続	はじめに，第6回以降の授業で取り上げた公判・証拠等に関する基本的事項について小テストをする。次いで，裁判員裁判を取り上げ，裁判員裁判対象事件において必要的である公判前整理手続について，その意義，手続の流れなどを，実務の実際を踏まえつつ，説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，公判前整理手続とはどのようなものであるか，公判準備との違いはどこか，なぜ裁判員裁判では公判前整理手続が必要的なのかについて，概略，理解し，説明することができる。なお，小テストでは，公判・証拠法に関する基本的事項の修得について再確認をする。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
12	第1部 木6・25	裁判員裁判その2 選任手続，公判手続，評議	前回に次いで裁判員裁判を取り上げ，裁判員の選任手続，公判手続，評議などについて，実務の実際を踏まえつつ，具体例を示して説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，裁判員の選任手続の流れを知るとともに，裁判員裁判が通常の裁判とどこが違うのか，どのような工夫がなされているのかについて，概略，理解し，説明することができる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木7・2	要通訳事件，被害者保護	刑事手続においてしばしば問題になる要通訳事件と犯罪被害者保護を取り上げる。まず，要通訳事件では，通訳人の選任，通訳をめぐる問題などを説明し，次いで，犯罪被害者保護では，被害者特定事項の秘匿，被害者参加など，被害者保護に関する諸制度について，実務の実情も交えつつ，説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，要通訳事件がどのように処理されているのか，犯罪被害者保護のための制度にはどのようなものがあるのか，どのような経緯から制度化されるようになったのかについて，概略，理解し，説明することができる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
14	第1部 木7・9	情状立証，量刑	はじめに，公判弁護の一つである情状立証について，その内容等を説明する。次いで，事実認定とともに刑事裁判で必ず問題となる量刑について，その仕組み，考え方などを，実務の実情を踏まえつつ，説明し，さらに，量刑をめぐる問題についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，情状立証とはどのようなものか，量刑とは，どのような考えにより，どのような手順で判断されるのかについて，概略，理解し，説明することができる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
15	第1部 木7・16	判決，準抗告・抗告など 小テスト第3回	はじめに，判決について，その内容，確定の効力について説明する。次いで，準抗告・抗告について。説明する。最後に，第11回以降の授業で取り上げた事項について小テストをする。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，判決，準抗告・抗告などについて，どのようなものであるか，概略，理解し，説明することができる。なお，小テストでは，裁判員裁判，量刑などに関する基本的事項の修得について再確認をする。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	尾田 清貴	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法演習ⅣAで行った授業の枠組みは維持しながら、その対象を一般犯罪から少年による非行に限定し、少年司法手続過程を巡る今日的課題を抽出し、健全育成と事件処理（再送防止）の二面性を踏まえて、法理論の限界を実務がどの様に克服しているかについて学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非行少年の大半は、被害少年の側面を有していることから、成人と同じ目線で対応することは難しい。そこで、少年司法手続の特殊性を先ず理解し、少年と関わる関係者に求められている“良い聴き方”を身に付けるために、非行原因論の主要な理論を理解し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
憲法、刑法、刑事訴訟法、少年法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
毎回基礎的な参考資料は配付するが、シラバスに従って事前準備がなされていることを前提に、課題解決に向けたディスカッションやグループワークを行う。随時、施設参観や関係実務家の参加を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、施設見学を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	少年司法手続過程における刑事手続との違いについて理解し、節委できる				3			3				3
②	実務家に必須の聴く力と観察力を身に付ける							3				3
③	保護処分の現状を踏まえ改善すべき点を指摘できる				3			3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連し、課題に対する簡潔、明確に論点を踏まえた自説が展開されているかを評価する。	10	10	20								40
討論・発表等	ディベートやグループワークでの聴く力、受容的態度に裏打ちされた意見の表明力	15	15									30
授業への参画度	毎回、ディベートやグループワークを行うので、出席のみならず課題解決に向けた寄与度も評価する		30									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	55	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
			無し		
備考	特に指定しないが、憲法、刑法、少年法、刑事政策等の基本書が有れば、それを使用して下さい。				

【オフィスアワー】
木曜16時20分から17時の間、本館9階1904号室で実施する。なおメールで予約して下さい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等
実務経験に基づく実践的教育の内容		少年司法関係者の講義参加と施設見学を実施する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	少年司法手続を概観する	非行（犯罪）の発生から少年手続の終了までを概観し、各段階でどのような課題が有るか説明し、今後の授業に向けた取組方針を各自が立てる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年手続の概要を理解し、説明できる。	
		事前学修	少年法、刑事訴訟法、裁判所法、更生保護法等を基に、概略を調べよう	120分
		事後学修	受講する際に必要な基本的知識の過不足について理解し、シラバスで検討する課題に必要な関係領域の学習計画立てる	120分
2	9/24	非行防止と警察活動	非行抑止と再非行防止に果たすべき少年警察の役割と家庭・学校・地域の連携の現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	健全育成と事件処理の現状について、警察庁のHPで調べておく	120分
		事後学修	家庭・学校・地域社会と警察活動の効果的な連携についてまとめる	120分
3	10/1	事件処理と適正手続の保障	少年警察・検察段階における適正手続の保障について、1965年のゴールト判決を受け、日本でも手続二分論に立脚し、適正手続の保障が図られているが、その現状を踏まえ、課題を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、課題を明らかにし、改善策が提案できる。	
		事前学修	犯罪少年の取扱いにおける適正手続の保障の保障がどの様に行われているかについて調べる	120分
		事後学修	少年警察活動規則の運用と少年係警察官の機能につてまとめる	120分
4	10/8	犯罪被害者保護	警察による捜査活動上の課題と法的な問題を理解し、その解決に向けた取組状況について、比較法的な視点も踏まえ解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、違法排除の限界について説明ができる。	
		事前学修	加害者が少年であった場合の被害者の保護は、成人犯罪者の場合と異なるのかしら経ておく	120分
		事後学修	警察、検察、家庭裁判所、矯正・保護の各段階での被害者対応について整理し、レポートにまとめる	120分
5	10/15	微罪処分と簡易送致、署限りの措置	全件送致主義の原則がある中で、警察での取扱いにはどのような処理が行われているかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、警察での取扱い率いて理解し、説明ができる。	
		事前学修	少年にも微罪処分が可能か、少年法の基本書等で調べておく	120分
		事後学修	相互の関係と少年係警察官の専門性についてまとめる	120分
6	10/22	少年係検察官の役割と機能	訴追裁量権が認められていない検察官が、少年手続で果たすべき役割について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	少年係検察官の役割について調べておく	120分
		事後学修	違法収集証拠への対応と処遇意見の添付についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	検察関与と裁定合議制	検察関与と裁定合議制が日視された場合の検察官の権能とその限界に関して検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	それぞれの制度内容と何故導入されたのかについて、少年法の基本書等で調べておく	60分
		事後学修	手続二分論を踏まえた検察官の権能と審判を主催する裁判官に必要とされる資質や経験についてまとめる	60分
8	11/5	被害者の訴訟参加	刑事訴訟法の一部改正で認められた被害者の訴訟参加等の制度が、少年審判ではどの様に運用されているのか、その下乗と課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	審判への被害者の訴訟参加の現状について、裁判所のHPで調べておく	120分
		事後学修	訴訟参加が認められる場合と認められない場合の裁判所の対応、附帯私訴についてまとめる	120分
9	11/12	逆送（原則逆送）と裁判員裁判	逆送と原則逆送の違い、逆送時の検察官の役割と成人事件の検察官の対応や役割の差異について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	逆送、原則逆送に対する検察官の対応、裁判員裁判に付される少年事件の類型について、裁判所のHP等で調べておく	120分
		事後学修	指定弁護士による強制起訴が効果的に運用されるための制度設計についてまとめる	120分
10	11/19	処遇勧告	終局決定に際し、裁判官は、1号観察や少年院送致決定時に、当該少年に対する具体的に処遇条件を勧告し、個別処遇内容の策定に反映させることができるが、どの様に運用されているのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、その内容を理解し説明ができる。	
		事前学修	処遇勧告とはどのようなものか調べておく	120分
		事後学修	処遇勧告が保護処分にどの様に反映されているかについてまとめる	120分
11	12/3	1号観察の課題	1号観察の効果的な運用を図るためには、現状でどのような問題点あるのかを理解し、その解決方法について検討する	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、課題を踏まえてあるべき姿を提案できる。	
		事前学修	保護処分としての保護観察の種類と運用実態について法務省のHPや犯罪白書等で調べておく	120分
		事後学修	保護司の専門性や年齢等が、少年に対する保護観察にどのような影響を及ぼすかを踏まえて、改善策をレポートにまとめる	120分
12	12/10	2号観察	仮退院に向けた環境調整（調査）の内容と仮退院決定への寄与度に占める被害者の意向、仮退院後の遵守事項の効果的な運用について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、課題を踏まえてあるべき姿を提案できる。	
		事前学修	仮退院に伴う保護観察の現状について、犯罪白書や法務省のHPで調べておく	120分
		事後学修	特別遵守事項違反に際し、保護観察所長から家庭裁判所に対して新たな保護処分の申請が行われることの是非についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	少年刑務所における特別改善教育	刑事処分に付された結果、有罪判決を受けた少年がその年齢によっては、直接少年刑務所には収容されないか、それぞれの場所でどのような処遇を受けているのか、現状と課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	少年刑務所における処遇について、犯罪白書等で調べておく	120分
		事後学修	何故刑務官ではなく、法務教官が処遇に当たるのか、刑罰の執行が個別処遇化についてまとめる	120分
14	12/24	交通保護事件の処理手続と特別改善教育	一般事件を犯していない交通事犯少年に関しては、家庭裁判所の交通部での対応、交通保護観察での対応等、事案に即した対応がなされてきたが、課題も多いことから、その対策を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、課題を踏まえてあるべき姿を提案できる。	
		事前学修	交通事件処理手続について、少年法の基本書等で調べておく	120分
		事後学修	交通短期保護観察・長期保護観察の現状と課題についてまとめる	120分
15	1/14	修復的司法の導入	軽微な非行（犯罪）に関しては、欧米では、少年事件・刑事事件の両方について、既存の司法手続から加害者・被害者・地域社会による当事者間による犯罪被害の修復を基本コンセプトとする修復的司法が導入されている。この点に関し、日本でも導入か農家について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
		事前学修	修復的司法とはどのようなものか調べておく	120分
		事後学修	少年手続への導入可能性についてまとめる	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	毛利 晴光	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事裁判の事実認定に関して入門的な講義をするものである。併せて、事実認定と関連づけながら、証拠法や事実認定に関わる諸問題（特に、刑事法特殊講義ⅣAで取り上げることができなかった事項）についても、実務とのつながりを意識しつつ、幅広く学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法科大学院への進学や予備試験合格に必要な基礎的学力の修得を目指し、刑事裁判の事実認定について、その仕組みや基礎的事項を体系的に理解した上、刑事裁判の事実認定において必然的に問題となる証拠法等の諸問題についても、実務ではどのような運用（解決の仕方）がされているのか、学説や判例ではどのような考え方が示されているのかを学修する。

【履修条件】
法科大学院への進学や予備試験の合格を目指し積極的に履修に取り組む意欲のある者（3年次生を主要な対象とするが、4年次生も歓迎する。）

【授業方法】
毎回、レジュメと参考資料を配付して、それに基づき講義をする。教科書は、事前学習の際に使用する（具体的には、毎回、教科書の指定箇所を読んでくる。）。参考書は、授業や教科書の理解を深めるのに役立つものであるが、利用を義務付けるものではない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事裁判の事実認定について基礎知識を修得する。					3			2				
②	事実認定が特別なものではなく、刑事手続の各場面で問題になることを理解する。					3			2				
③	事実認定の仕組みについて、自分の言葉で説明することができる。					2			3				2
④	事実認定に関連する諸問題について、自分で考え、意見を述べることができる。					2			3				3
⑤	事実認定がどのようなものであるか、具体的事例を踏まえつつ、体得する。					2			3				3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内での小テストにより、それぞれの段階での到達目標に関わる基本的な知識を身に着けているかを確認する。	25	25	25								75
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	教員との質疑応答を通じて、授業への関心の度合いを測るとともに、予習や復習の効果がどの程度上がっているかをチェックし、総合的な評価をする。				25							25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストは、直後に解説を行い、後日、答案を採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事事実認定入門〔第3版〕	石井一正	判例タイムズ社	2015年	教科書	必携
入門 刑事手続法〔第7版〕	三井誠・酒巻匡	有斐閣	2017年	教科書	必携
刑事訴訟法講義案〔4訂補訂版〕	裁判所職員総合研修所	司法協会	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 16:30～17:30（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントをとること）研究室（1356号室） メールアドレス：mouri.harumitsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官として、東京、横浜、大阪地裁等で一審の、また東京、大阪高裁で二審の刑事裁判を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		刑事裁判実務に携わった経験を活かして、実際の刑事裁判の事実認定やこれに関連する刑事手続の一端を紹介するとともに、実務で採用されている考え方などを学修できるように教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月9／14	ガイダンス 事実認定が問題になった事例	はじめに、本授業のねらいや学び方、授業のスケジュールなどを説明する。次いで、事実認定の意義等について解説するとともに、事実認定が問題になった事例を取り上げ、事実認定についてイメージ、関心を持てるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事裁判の事実認定が特別なものではなく、刑事手続の各場面で問題になること（裁判官だけでなく、検察官や弁護人にも関係すること）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書（刑事事実認定入門）のはしがき及び目次を熟読し、かつ、本文にざっと目を通しておく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
2	第1部 月9／21	事実認定の基礎	事実認定の基礎として、事実認定の対象となる事実、事実認定の資料となる証拠、事実認定の結果として問題になる証明の程度、挙証責任について説明し、さらに、事実認定の方法（構造）についても、概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事裁判の事実認定について基礎知識を修得するとともに、事実認定の仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
3	第1部 月9／28	供述証拠の信用性判断その1 一般	事実認定で重要な作業となる供述証拠の信用性判断を取り上げ、その1として、信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明する。併せて、供述の証明力を争う方法（反対尋問、弾劾証拠、供述経過の立証など）についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、供述証拠の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、供述証拠の信用性判断の仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、供述の証明力を争う方法についても、正しく理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
4	第1部 月10／5	供述証拠の信用性判断その2 被告人の供述	供述証拠の信用性判断の具体例として、被告人の供述を取り上げる。具体的には、信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明し、自白の信用性が問題になった判例を参考に、その実際を学修する。併せて、自白の証明力に関するものとして、補強法則についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、被告人の供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、その仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、自白の補強法則についても、正しく理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。あらかじめ配付する自白の信用性が問題になった判例についても目を通しておく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
5	第1部 月10／12	供述証拠の信用性判断その3 共犯者の供述	供述証拠の信用性判断の具体例として、共犯者の供述を取り上げる。具体的には、信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明し、共犯者供述の信用性が問題になった判例を参考に、その実際を学修する。併せて、共同被告人の審理や共犯者供述の証拠能力、証明力について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、共犯者の供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、その仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、共犯者供述の証拠能力や証明力などについても、正しく理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。あらかじめ配付する共犯者供述の信用性が問題になった判例についても目を通しておく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
6	第1部 月10／19	小テスト第1回 供述証拠の信用性判断その4 被害供述	はじめに、第1回から第5回までに学修した事項について小テストを行う。次いで、供述証拠の信用性判断の具体例として、被害供述を取り上げる。具体的には、被害供述の信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明し、被害者供述の信用性が問題になった判例を参考に、その実際を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、被害者の供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、その仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。なお、小テストでは、第1回以降で触れた基本的事項の修得について再確認する。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。あらかじめ配付する被害者供述の信用性が問題になった判例についても目を通しておく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月10／26	供述証拠の信用性判断その5 目撃供述，犯人識別供述	供述証拠の信用性判断の具体例として，目撃供述，犯人識別供述を取り上げる。具体的には，目撃供述，犯人識別供述の信用性判断の考慮すべきポイントなどを、実務の実際を踏まえつつ、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，目撃供述，犯人識別供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに，その仕組みについて，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
8	第1部 月11／9	信用性判断に用いられる客観的証拠その1 実況見分調書など	供述の信用性判断で重視される客観的証拠その1として，実況見分調書を取り上げる。実況見分調書がどのようなものであるか，実例を示して説明するとともに，実況見分調書の証拠能力に関する問題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，実況見分調書が供述の信用性判断においてどのように用いられるか，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，実況見分調書の証拠能力に関する問題について，一応の検討ができるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
9	第1部 月11／16	信用性判断に用いられる客観的証拠その2 鑑定	供述の信用性判断で重視される客観的証拠その2として，鑑定を取り上げる。鑑定ががどのようなものであるか，その手続の流れも含めて，説明するとともに，DNA型鑑定など各種鑑定について紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，鑑定が供述の信用性判断においてどのように用いられるか，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，鑑定をめぐってどのような問題があるのか，幅広く学修する。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
10	第1部 月11／23	事実認定の構造 小テスト第2回	事実認定の構造として，直接証拠による認定と状況証拠による認定があり，その認定の仕組みがどのようなものであるかを説明する。最後に，第6回以降に学修した基本的事項について小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，事実認定には直接証拠による認定と状況証拠による認定があることを，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。なお，小テストでは，第6回以降で触れた基本的事項の修得について再確認する。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
11	第1部 月11／30	事実認定の具体例その1 殺意，薬物の認識	事実認定の具体例として，殺意及び薬物の認識を取り上げる。具体的には，殺意に関しては，殺意とは何かに触れた上，殺意の認定がどのようになされるかを解説する。次いで，薬物の認識についても，その認定がどのようになされるかを解説する。その上で，事例を用いて，実際に殺意の認定を行ってみる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，殺意や薬物の認識の認定は状況証拠による認定であることが多く，それが実際どのように認定されていくのか，その仕組みを概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，殺意が問題になる事例を用いて，殺意の認定が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
12	第1部 月12／7	事実認定の具体例その2 共謀	事実認定の具体例として，共謀を取り上げる。具体的には，共謀とは何かに触れた上，共謀の認定がどのようになされるかを解説する。併せて，共謀をめぐる争い方について，実務の実際と関連させながら，解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，共謀の認定は状況証拠による認定であることが多く，それが実際どのように認定されていくのか，その仕組みを概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，共謀をめぐる争い方について，正しく理解する。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月12／14	事実認定の具体例その3 犯人と被告人との同一性	事実認定の具体例として、犯人と被告人との同一性（犯人性）を取り上げる。具体的には、犯人性の認定がどのようになされるか、その仕組みを解説する。その上で、事例を用いて、実際に犯人性の認定を行ってみる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、犯人性の認定は状況証拠による認定であることが多く、それが実際どのように認定されていくのか、その仕組みを概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、犯人性が問題になる事例を用いて、犯人性の認定が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
14	第1部 月12／21	事実認定に関わる問題その1 訴因変更の要否、択一的認定	事実認定に関わる問題として、訴因変更の要否及び択一的認定を取り上げる。具体的には、訴因変更の要否や択一的認定が、事実認定とどう関わっているのかを説明し、これらに関する刑事法上の諸問題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、訴因変更の要否や択一的認定が、事実認定とどう関わっているのかを、理解し、自分の言葉で説明することができるとともに、これらに関する刑事法上の問題の検討が一応できるようになる。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
15	第1部 月1／18	事実認定に関わる問題その2 類似事実による認定 小テスト第3回	事実認定に関わる問題として、類似事実による立証を取り上げる。具体的には、類似事実による立証が、事実認定とどう関わっているのかを説明し、これに関する刑事法上の諸問題について解説する。最後に、第11回以降に学修した基本的事項について小テストをする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、類似事実による立証が、事実認定とどう関わっているのかを、理解し、自分の言葉で説明することができるとともに、これに関する刑事法上の問題の検討が一応できるようになる。なお、小テストでは、第11回以降で触れた基本的事項の修得について再確認する。	
		事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】		
講義の方法を用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1								
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。					1							
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1						
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
N e x t 教科書シリーズ刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	2018年	教科書	必携
現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著	八千代出版	2014年	教科書	必携
法学刑法 5 判例インデックス1000 〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考	『刑法解釈論』は、2020年5月中旬刊行予定である。				

【オフィスアワー】
水曜日及び金曜日（１６：１０）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	序論	刑法の学びの必要性 刑法の基礎 刑法の目的と解釈	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	『N e x t 教科書シリーズ刑法総論』の序論及び第1章～第2章、『刑法の目的と解釈』の第1章、『刑法解釈論』の第1編を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	9/18	刑法の基礎と基本原則	罪刑法定主義と責任主義 罪刑法定主義と刑法の解釈 児童ポルノ変換URL掲載事件（本シラバス記載の事件・事故は『現代の判例と刑法理論の展開』に掲載されている）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	9/23	刑法の基本原則と明確性の原則	罪刑法定主義と明確性の原則 世田谷区清掃・リサイクル条例事件	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	9/25	犯罪論の概要	犯罪論概説 構成要件該当性（実行行為・因果関係・結果） 違法性 責任	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	9/30	構成要件該当性(1)	構成要件該当性と構成要件 実行行為の意義 行為論 実行行為と危険性	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	10/2	構成要件該当性(2)	複数の行為と実行行為 実行行為の開始と終了 実行行為の終了と所為の終了 早すぎた構成要件実現 クロロホルム事件 遅すぎた結果の発生	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/7	構成要件該当性(3)	他人の行為を利用する実行と間接正犯 薬事法違反広告事件 不作為による実行と不真正不作為犯	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	10/9	構成要件該当性(4)	因果関係の意義 条件関係の諸問題	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	10/14	構成要件該当性(5)	相当因果関係と危険の現実化説 航空管制官の誤指示事件 被害者の同意と構成要件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	10/16	違法性(1)	違法性及び違法性阻却事由の本質 可罰的違法性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	10/21	違法性(2)	正当行為（35条） 法令行為 正当業務行為 その他の正当行為 取材活動と正当行為 鑑定人秘密漏示事件 被害者の同意 治療行為の中止 協同病院事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	10/23	違法性(3)	正当防衛（36条1項） 正当防衛の要件 過剰防衛 第三者の法益の侵害と正当防衛	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10 /28	違法性(4)	複数の反撃と正当防衛・過剰防衛 灰皿投げつけ事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	10 /30	違法性(5)	緊急避難（37条1項本文） 違法性阻却事由に関する錯誤 誤想防衛 誤想過剰防衛	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	11/6	責任(1)	責任論総説 故意の意義 意味の認識と故意 違法性の意識と故意	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
16	11 /11	責任(2)	事実の錯誤の意義 事実の錯誤と違法性の錯誤 具体的事実の錯誤 抽象的事実の錯誤 法定的符合説	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
17	11 /13	責任(3)	過失の意義 予見可能性と注意義務 企業活動と過失犯 尼崎 J R 脱線事件 ハブ破損事故	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
18	11 /18	責任(4)	責任能力 刑事未成年 原因において自由な行為 期待可能性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11 /20	未遂犯	未遂犯 実行の着手 中止未遂	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
20	11 /25	共犯(1)	共犯の意義・種類 共犯の処罰根拠	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
21	11 /27	共犯(2)	共同正犯の意義・要件 共謀共同正犯 スワット事件 過失犯の共同正犯	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
22	12/2	共犯(3)	承継的共同正犯 傷害重篤化事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
23	12/4	共犯(4)	教唆犯 未遂の教唆 従犯 幫助の因果性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
24	12/9	共犯(5)	中立的行為の幫助 ウイニー事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12 /11	共犯(6)	離脱による共犯関係の解消 強盗着手前立去り事件	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
26	12 /16	共犯(7)	不作為と共犯 予備罪と共犯	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
27	12 /18	共犯(8)	共犯と身分 65条と真正身分犯・不真正身分犯 非占有者の業務上横領への関与	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
28	12 /23	罪数	罪数 単純一罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪（54条1項） 併合罪	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
29	12 /25	刑罰論	刑罰の本質 刑の適用・執行・消滅	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
30	1/13	刑法の適用範囲 授業のまとめ	刑法の場所的・時間的適用範囲 外国判決の効力 刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用するために必要なこと 解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。	120分
		事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。 教科書を読み返して知識を整理し、試験に備える。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストに沿って進める。但し、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し、授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか、課題を示して能動的な取組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。						1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。							1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。								1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識 が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説・講評は，実施後の翌授業期日に行い，それが困難な場合および定期試験のそれはポータルシステム等を用いて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	発行予 定		
備考	教科書の版，刷が改められた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
金曜日，12時10分から13時まで，事前アポイントメントを前提に，場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/17	刑法の基礎・刑法の意義と役割		刑罰制度と「刑法」の意義、刑法はどのような役割をはたしているのか、他の法分野とのちがいはどうかについて検討を行う。
		この回の到達目標	刑法は何のためにあり、実際にいかなる仕組みを通じてどのような働きをしているのかを、自分の言葉で説明し、これについての意見を述べることができる。	
		事前学修	もし、窃盗や殺人、放火などが罰せられず放任されるとしたら世界はどうか、また、どんな行為が罰せられるか、まったく分からない世界で生きていかなければならないとしたらどうか、想像してみることを。	120分
		事後学修	法は権利や利益を保護するためにあるが、民法やその他の法分野と比べ、刑法はいかなる意味で権利・利益を保護しているのか、その特徴は何かを整理し確認する。	120分
2	9/18	刑法の基礎・刑法学修の出发点		刑事法の中の刑法の位置について、刑事訴訟法や少年法、刑事収容施設法、更生保護法などとの関係を検討し、また刑法各論と対比し刑法「総論」の意味を確認する。
		この回の到達目標	刑法とはどんな法で、どのような特徴をもつものなのか、実体法として他の刑事法と有機的に関係することにより刑事司法制度を形づくっていることの意味を説明することができる。	
		事前学修	六法を開き、刑事法分野に属する法令をながめ、どのように分類され、体系的に整理されているか考えようとして授業に臨むこと。	100分
		事後学修	刑事実体、刑事手続法、矯正保護法の三分類に属する各種法律を確認し、刑法総則と各則の関係、刑法総則の地位について確認する。	140分
3	9/24	刑罰の意義と内容		刑罰の種類・内容など刑罰制度の概要と、行政処分や損害賠償等の他の法的統制手段との関係を検討する。
		この回の到達目標	刑罰の種類・軽重と個々の刑の内容を説明し、法的統制手段としての刑罰固有の性格を説明することができる。	
		事前学修	刑罰の種類と定義に関する条文に目を通し、疑問に思った点を挙げておくこと。	140分
		事後学修	行政処分等と比べ、刑罰の最も大きな特徴は何か、また各種刑罰の性格について文章にまとめ確認する。	100分
4	9/25	刑罰制度の正当化根拠		害悪の賦課を内容とする刑罰制度について、国家はなぜ刑罰の名の下に犯罪者の生命や自由、財産を剥奪することができるのかを検討する。
		この回の到達目標	刑罰を純粹に自己目的的な正義の実現ととらえる絶対的応報の観念から説明づける見解から、その対局にある教育刑論、そして本質は応報でありながら犯罪抑止の効果を有する限度で正当化を考える相対的応報刑論、こうした議論を整理し説明することができる。	
		事前学修	国家の手による刑罰も、犯人の生命・自由・財産という利益を奪う点で「法益の侵害」と共通の性格を有する。これをどう説明するか、自分なりの見解をまとめたうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	絶対的応報刑と相対的応報刑、一般予防と特別予防、との関係を整理しておく。	120分
5	10/1	死刑制度論		死刑制度について、死刑の存廃をめぐる古くて新しい議論を概観し、今日、真に問題とすべき課題がどこにあるか、冷静な検討を試みる。
		この回の到達目標	死刑制度について、死刑は人道に反する、誤判の可能性を絶無になしえない以上直ちに廃止すべきである、といった検証不能な主張や水掛け論に陥る議論ではなく、	
		事前学修	わが国で死刑が言い渡される件数、執行される件数を調べてみることを。	110分
		事後学修	直観的・情緒的な議論を除き、死刑存廃に関するさまざまな意見を整理し、授業で取り上げた内容をふまえ、両論を対比し自分なりの一覧表を作成してみる。	130分
6	10/2	刑法の基本原則		刑法を支配する基本原則である罪刑法定主義に関し、その沿革、自由主義的側面と民主主義的側面、多様な派生原則について検討する。
		この回の到達目標	罪刑法定主義の趣旨と内容、罪刑法定主義が問題となった判例の態度について、批判的に検討を加え、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	罪刑法定主義の否定は何をもたらすか、考察した上で授業に臨むこと。	100分
		事後学修	罪刑法定主義の背景にある自由主義的要求と民主主義的要求、マグナカルタ以来の歴史的沿革、各種の派生原則などにつき整理・確認を行う。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/8	刑法の政策的基礎	刑法の政策的基礎（刑罰制度の基盤をなすもの）として、法益保護の原則（「法益なければ処罰なし」）と、責任主義の原則（何人も自己の非難に値する行為によらなければ刑罰を科せられない）を明らかにし、詳細な検討を加える。	
		この回の到達目標	刑法の主たる任務が法益の保護にあること、および、非難可能性の認められないところに処罰を行うことはゆるされない、とされることの意味をただしく説明することができる。	
		事前学修	利益と法益と権利、これら三つの概念の異同を辞典、参考書等で調べ、考えてみること。	120分
		事後学修	結果責任主義と団体責任主義に基づく刑事責任の追及が行われた前近代と比べ、非難可能性を刑罰の不可欠の要件とし、個人責任主義の徹底を図る今日の考え方を対比し、確認しておく。	120分
8	10/9	刑法学説の発展と学説	刑法学説史の変遷と近代刑法学の発展について、新派と古典派、現代社会と刑法理論の課題を検討する。	
		この回の到達目標	刑法学の歴史の中で、近代派の主張がどのようなものであったのか、そして近代派の批判による激しい対立状況から生み出されたものが何であったのかを説明することができる。	
		事前学修	犯罪は行為者の悪い性格の一つの表れに過ぎず、未遂と既遂も本質的違いはなく、暴行、器物損壊、公務執行妨害も細かく区別して論じる必要はないとの考えをどう思うか、考察を試みること。	120分
		事後学修	新派刑法学は、それまでの古典派の考え方に対する批判に端を発した学説であるが、どのような点で古典派は批判されたのか、まとめてみる。	120分
9	10/15	刑法理論の今日的課題	自然犯と法定犯とは、非犯罪化論の是非、法人の犯罪と法人の処罰をめぐる争いなど、刑法理論が直面する今日的課題について検討する。	
		この回の到達目標	自然犯法定犯区別説に対する批判的考察、また非犯罪化論の実体は何であったかを説明し、法人の犯罪主体性を否定し法人に対する刑法的統制に消極的なわが国の刑法に関して、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	さまざまな犯罪の中には、今日、あえて刑罰の対象とする必要性が乏しくなったものもあるとの指摘が行われたことがある。刑法典のなかにあるどの犯罪がそれにあたるかを考えてみる。	140分
		事後学修	各種犯罪を自然犯と法定犯とに分けて論じる見解に合理性はあるか、また、自然人のみを刑罰の名宛人とする現行刑法典のあり方は妥当か、自身の見解をまとめてみる。	100分
10	10/16	犯罪の成立要件	犯罪成立要件の全体をながめ、刑法学はなぜ煩雑な法解釈問題に拘り、難解な理論構築を志向するのかをふまえた上で、三分体系を採るわが国刑法学の特徴的な思考方法を検討する。	
		この回の到達目標	ある行為について犯罪が成立するか否かは、直感的な判断を排し、一回的な判断でもなく、構成要件該当性・違法性・有責性の三点の具備、すなわち違法な構成要件該当行為をしたことにつき行為者が有責であることの確認による、ということの意味を説明することができる。	
		事前学修	いかなる場合に犯罪は成立し、成立が妨げられるのか、刑法がきわめて慎重な判断をすることとしている理由は何か、考察したうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	三分体系のメリットとデメリットについて整理し確認する。	120分
11	10/22	構成要件とは何か	犯罪成立要件の構造と特徴、構成要件の客観的要素と主観的要素、構成要件の機能、構成要件と違法性、有責性との関係等につき検討する。	
		この回の到達目標	構成要件はどのような要素からなるか、客観的要素と主観的要素との関係はどうか、構成要件はいかなる機能を有するか、構成要件は違法行為類型であり有責行為類型でもあるとはいかなる意味かを説明することができる。	
		事前学修	犯罪成立要件と構成要件との関係はどうか、考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ、一覧表にするなどして整理確認する。	120分
12	10/23	構成要件該当性	不作為犯をめぐる諸問題、とくに作為と不作為、行為とは何か、真正不作為犯と不真正不作為犯、不真正不作為犯の成立要件について検討する。	
		この回の到達目標	不真正不作為犯の成立を認めた判例をあげ、その問題点を説明し、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	作為とは何か、不作為とは何か、行為とは何か、考察してみること。	110分
		事後学修	不作為犯、とりわけ不真正不作為犯の成立要件について整理・確認し、放火罪に関する判例を検討しておく。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	10/29	正犯と共犯の基礎		構成要件該当性の観点から、正犯構成要件に該当する正犯の実行行為、そして正犯以外の方法で関与する共犯の行為を検討し、正犯と共犯・直接正犯と間接正犯・正犯のメルクマールについての考察を行う。
		この回の到達目標	正犯とは自ら犯罪を実行する者をいい、共犯とは正犯以外の方法で正犯行為に関与する者をいうが、直接正犯・間接正犯の区別、正犯と教唆犯・幫助犯の区別、正犯の基準をどう考えるべきか、について整理し説明することができる。	
		事前学修	自ら手を汚して犯罪を実行する場合と、他人の犯罪に間接的に関わる場合とではその罪悪性にどのような違いがあるか考えてみること。	120分
		事後学修	正犯の概念をめぐる理論刑法学上の議論を整理しておく。	120分
14	10/30	刑法における因果関係		刑法における因果関係論の意義、条件説の提唱した条件関係の意義、条件説への批判と相当因果関係説の登場、相当因果関係説内部の対立、相当因果関係説の危機から因果関係の処理に関する新しいアプローチ、について検討する。
		この回の到達目標	従来の因果関係に関する理論状況を整理した上で、当該行為のもつ危険が結果に現実化したものとみられるか否かという判断方法を採用する判例の思考方法を説明することができる。	
		事前学修	ある行為と発生した被害との間に原因・結果の関係が認められなければ、その結果は行為者のしわざとはいえない、とされるのはなぜか、考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	因果関係の有無が問題とされた最高裁判例を検討し、判例がどのような基準に立って判断しているかを整理し確認する。	120分
15	11/5	違法性論の基礎		違法性とは何か、違法性の本質、主観的違法性論と客観的違法性論、結果無価値論と行為無価値論などの違法性論の基礎を検討する。
		この回の到達目標	犯罪は違法な行為であるが、その違法性という評価が、構成要件該当性と、また有責性とどのような関係を有するかを整理したうえで、違法性の本質を説明することができる。	
		事前学修	法に違反する性質を意味する「違法性」とは実質的には何を意味するのか、考察した上で授業に臨むこと。	140分
		事後学修	形式的違法・実質的違法、主観的違法正論・客観的違法正論、行為無価値論・結果無価値論、これらの違法性の本質をめぐる議論を整理しておく。	100分
16	11/6	違法性の阻却		違法性阻却事由と違法性阻却の原理を検討する。
		この回の到達目標	正当防衛、緊急避難、ならびに法令行為、正当業務行為および超法規的違法阻却事由について、個々の違法性阻却事由の要件を検討し、違法性阻却の意義と原理とを説明することができる。	
		事前学修	正当防衛が認められやすい社会状況と、認められにくい状況とを対比して、どのような点があるかその違いをもたらしすかを検討してみる。	120分
		事後学修	刑法35条を拠り所とする違法阻却の場合にはどのようなものがあるか、整理し確認しておく。	120分
17	11/12	緊急正当行為		正当防衛と緊急避難とを対比しつつ検討を加える。
		この回の到達目標	正当防衛と緊急避難とを比較し、両者がいかなる共通点を有し、相違点はどのようなものかについて、また正当防衛に関する近時の判例の動向を説明することができる。	
		事前学修	正当防衛と緊急避難の意義と要件とを整理し、両者の共通点と相違点について考えた上で授業に臨むこと。	110分
		事後学修	違法性阻却事由に関する刑法35条・36条・37条の規定の意義と内容を整理し確認する。	130分
18	11/13	責任論の基礎		刑法における違法評価と責任評価との関係をふまえたうえで、期待可能性の概念と規範的責任論の発展について検討する。
		この回の到達目標	犯罪成立の不可欠の要素としての責任が非難可能性を意味するものであり、非難は他行為可能性が認められて初めて可能になる（それに基づき刑罰を科しうる）という近代刑法の基盤にある考え方を具体例を挙げ説明することができる。	
		事前学修	自分の行為が原因で他人に被害が生じたとき、それが不可抗力であって自分に何の落ち度もないのに、厳しい非難にさらされた場合、どうこたえるか、熟慮してみたうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	責任、非難可能性、他行為可能性、期待可能性のそれぞれの意味と関係、位置づけ、また心理的責任論から規範的責任論への近代的責任概念の発展、これらについて整理・検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/19	責任領域の諸問題	故意と過失、責任能力、心神喪失と心神耗弱、刑事未成年という責任領域の諸問題について検討する。	
		この回の到達目標	刑法が故意犯処罰を原則とし、過失犯処罰を例外としていることの理由、また、犯罪が成立するためには責任能力が不可欠であることの理由について説明することができる。	
		事前学修	どんなに凶悪残忍な態様で多数の人命を奪う等しても、心神喪失にあたる場合は絶対に処罰できない。なぜか。自分なりの答えを見出すまで考えてみること。	140分
		事後学修	心神喪失・心神耗弱の意義、刑事未成年の意義、原因において自由な行為、これらの意義と問題点について整理し、まとめる。	100分
20	11/20	故意論	故意の体系的地位、故意の内容、確定的故意と不確定的故意、故意と過失との限界について検討を加える。	
		この回の到達目標	故意は構成要件・違法・有責のいずれに属する要素か、また、不確定的故意とは何か、未必の故意と認識のある過失との区別の基準をどのように考えるべきかについて説明することができる。	
		事前学修	わざとやった場合＝故意の結果惹起と、うっかりやってしまった場合＝過失の結果惹起とでは、その重大性がきわめて大きく異なる、と考えるのはなぜか、考察した上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	確定的故意と不確定的故意、概括的・択一的・未必的故意の異同、認識説と意思説、認容説と蓋然性説をめぐる議論、故意と過失との分水嶺、こうした諸点を分析整理しまとめる。	120分
21	11/27	事実の錯誤	事実の錯誤を具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤に大別し、具体的事実の錯誤をさらに客体の錯誤・方法の錯誤・因果関係の錯誤とに分類し、抽象的事実の錯誤について構成要件的符合の観点から判断する等、事実の錯誤の処理について総合的に検討する。	
		この回の到達目標	法律の錯誤（違法性の錯誤）と対比して事実の錯誤の性格を論じ、錯誤が具体的事実の点にとどまる場合と、抽象化した事実におよぶ場合との違いをふまえ、とくに方法の錯誤の処理に関し具体的符合説と法定的符合説の対立について説明することができる。	
		事前学修	犯人が①殺そうとした人を誤って別人と取り違え撃ち殺してしまったとき、②撃った弾が逸れ物陰の別人にあたって死亡させてしまったとき、罪責に違いが生じるか、考えてみること。	100分
		事後学修	具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤のちがい、客体・方法・因果関係の錯誤のちがいとその罪責への影響、具体的符合説と法定的符合説、故意の個数の問題、これらを整理しておく。	140分
22	12/3	法律の錯誤	事実の錯誤と対比して法律の錯誤（違法性の錯誤）の区別を論じ、厳格故意説と制限故意説の対立の性格、故意説と責任説との対立、故意と違法性の意識、違法性の意識の可能性について検討する。	
		この回の到達目標	事実自体の錯誤と事実についての評価に関する錯誤の違い、法の不知や、あてはめの錯誤の類型が故意の成立を妨げないのに対して、事実の評価の誤りに相当な理由が認められる場合は故意を阻却する余地のあることを、判例の事案を挙げて説明することができる。	
		事前学修	飼い犬を野犬だと思って撲殺してしまった場合と、飼い犬だが首輪もせず放し飼いなので処分しても罪に問われることはないと確信して撲殺した場合とで罪責は異なるか、考えてみること。	120分
		事後学修	法律の錯誤により違法性の意識を欠いた場合のうち、錯誤に無理もない（相当な）事情があり処罰が妨げられる場合とは具体的にどんなときか、判例を挙げて論じてみる。	120分
23	12/4	過失犯	故意犯と過失犯との比較をふまえ、過失犯の構造に関する刑事過失理論の変遷（旧過失論・新過失論・危惧感説）をながめ、予見可能性の内容と程度、信頼の原則、管理・監督過失の問題について検討する。	
		この回の到達目標	過失犯の実体を、法益侵害結果を予見できたのに行為に出て結果を惹起したことに求める旧過失論から、法益侵害結果を予見し、それに従って結果の発生を回避する適切な行動にでなかったことに求める新過失論への進化を説明し、そのような刑事過失理論の変遷の背景に何があったかを明らかにすることができる。	
		事前学修	わざとやったわけではなくとも、過失による人の死傷等の惹起は処罰される。なぜか。考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	旧過失論から新過失論、危惧感説へと発展する刑事過失理論と判例の動向を検討してみる。	120分
24	12/10	犯罪遂行の過程と刑法	犯行の決意から、共謀・準備、実行の着手、結果の発生へと至る、陰謀・予備罪、未遂犯、既遂犯という犯罪遂行のプロセスと刑法の干渉時期について検討する。	
		この回の到達目標	近代刑法は犯行の決意の段階で干渉することはありえず、陰謀の段階で処罰するのも稀有の例外、予備はごく限られた重大犯罪に限定され、多くの犯罪は未遂以降を処罰時期とし、既遂になってはじめて罰する類型もあるが、こうした処罰時期の差異は何に由来するかを説明することができる。	
		事前学修	犯罪が未遂に終わって被害が発生していないのに、多くの犯罪についてなぜ未遂犯として処罰する必要があるのか、考えてみること。	140分
		事後学修	刑法は、さまざまな犯罪類型において既遂のみを罰するものから、未遂をも罰する、あるいは少数ではあるが予備をも罰する、さらに早期の段階、陰謀を捕捉するものもある。その理由を考察する。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/11	未遂犯	未遂犯の要件、実行の着手の意義、障害未遂と中止未遂、中止未遂の意義と要件、および不能犯について検討を加える。	
		この回の到達目標	未遂犯の意義と要件をふまえ、実行の着手時期について、また中止未遂の成立要件についての判例の見解を説明し、また、不能犯の判断基準に関する判例と学説の考え方を示して自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	殺人の用途でピストルを準備した段階（予備）と、それを被害者に向け引き金を引こうとした時点（未遂）とを比べると刑罰の重さに著しい違いがある。なぜかを考えてみること。	100分
		事後学修	中止未遂が寛大に扱われる理由は何か、中止が認められる要件はどうか、整理しておく。	140分
26	12/17	共犯の基礎	必要的共犯と任意的共犯、共同正犯と狭義の共犯（教唆犯・従犯）との区別をふまえ、正犯と対比して共犯の性格を論じ、共犯の処罰根拠、個々の共犯の要件、一部実行・全部責任の法理について検討する。	
		この回の到達目標	総則の共犯について、正犯との違い、その処罰根拠をなかに求めるか、一部実行・全部責任の法理とは何か、教唆犯と従犯それぞれの成立要件、共同正犯の特徴、共謀共同正犯の成立要件について説明することができる。	
		事前学修	共犯者としての犯罪への関りにはどのような形態が考えられるか、検討したうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	共犯における「一部実行・全部責任の法理」とは何か、自分で事例を挙げて説明を試みる文章を書いてみる。	120分
27	12/18	共犯の諸問題	正犯（直接正犯・間接正犯）と共犯、共犯の従属性（実行従属性・要素従属性・罪名従属性）、承継的共犯、片面的共犯等共犯をめぐる諸問題について検討する。	
		この回の到達目標	共犯の正犯との対比、共犯独立性説と従属性説、従属性の内容（実行、要素、罪名の従属性）について、また承継的共犯、片面的共犯、過失犯の共犯について説明することができる。	
		事前学修	盗みをするよう唆したが、唆された者が応じなかった場合、いったん窃盗を決意したが思い返し実行に出なかった場合、実行に出たが発見されて盗めなかった場合、これらの罪責はどうか、考えてみること。	120分
		事後学修	共犯の従属性につき、実行・罪名・要素の各従属性を説明し、それぞれ判例がどう考えているかを確認しておく。	120分
28	12/24	罪数論	犯罪の個数はどのような基準により決するべきかに関し、行為、故意、法益等の罪数決定標準を用いること、また、単純一罪、法条競合、包括一罪等の概念にしたがって判断することを検討する。	
		この回の到達目標	一罪の成立を導く法条競合と包括一罪の概念について説明し、加えて、判例がどのような判断を示しているかを説明することができる。	
		事前学修	泥棒がA宅に侵入、書斎にあったAの財布を盗り、次いで子供Bの部屋から貯金箱を、さらに居間のダンスから妻Cのヘソクリ5万円を盗んだとき、窃盗罪は何個成立するか、考えてみること。	100分
		事後学修	単純一罪、法条競合、包括一罪、科刑上一罪、併合罪、単純数罪、これらの分類・整理を確認し、体系的理解を確かなものにしておく。	140分
29	12/25	科刑処理論	複数の犯罪が成立する場合の科刑処理に関し、科刑上一罪、併合罪について検討を加える。	
		この回の到達目標	複数の犯罪が成立するとき、行為者に科すべき刑をどのように導き出すかに関し、科刑上一罪、併合罪による科刑処理について説明することができる。	
		事前学修	窃盗罪の懲役刑の上限は10年であるが、空き巣を繰り返し計10件の窃盗について起訴された犯人に科せられる懲役刑は最長何年になるか、10年か、100年か、それとも？この点を考えてみた上で授業に臨むこと。	130分
		事後学修	法定刑⇒処断刑⇒宣告刑⇒執行刑という量刑と刑の宣告手続はどのように行われるか、とりわけ処断刑を導き出す処理はどうか、整理し確認しておく。	110分
30	1/14	刑罰の適用	執行猶予、仮釈放、刑の加重減免、刑の時効など刑罰執行上の諸問題について検討する。	
		この回の到達目標	執行猶予制度の趣旨と内容、また仮釈放制度はどのような役割を果たしているかについて、刑事政策的意義をふまえた説明をすることができる。	
		事前学修	執行猶予とはどのような制度で、何のためにあるのかを考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	微罪処分、起訴猶予、宣告猶予（立法論）、執行猶予（一部執行猶予を含む）、仮釈放のそれぞれの意義と関係、制度の趣旨の理解を確かなものにしておく。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
刑法を学問することに関心のある人は、ぜひ履修していただきたい。ただし、毎回六法をもってくるのがおっくうな人、継続的に講義に参加する姿勢のない人は、履修を遠慮いただきたい。小事に忠実なことが大成につながると思う。

【授業方法】
テキストの内容を踏まえたレジュメを用意し講義する。なお、今回のシラバスから事前学習と事後学習の欄が設けられた。その理由は開講時に説明する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。					1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。						1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。							1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。					1	1	1		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識 が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験についてはメールにて講評を試験終了後に送付する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『講義刑法学総論（第2版）』	井田良	有斐閣	2018		
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ（授業時間は除く）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4月6日	刑法の存在理由と機能	刑法は、刑罰という峻厳な制裁を用いる以上、その存在理由について説得的な説明ができなければ人々の支持されないことであろう。刑法の存在理由について学ぶ。	
		この回の到達目標	刑法の存在理由が犯罪の予防にあること、特にそれが法益保護に向けられるべきことを学ぶ。	
		事前学修	はじがき、第1編1章を読み、理解できないところメモ書きする。	120分
		事後学修	行為規範を用いた法益保護の仕組みを500字程度にまとめる。	120分
2	第一部金 4月10日	刑法の基本原則	刑罰という厳しい制裁手段を用いるところに刑法の特色がある。これが出鱈目に用いられては、刑法は国民弾圧の手段と化する。刑法によって立つべき基本原則について概観する。	
		この回の到達目標	行為責任主義の意義、罪刑法定主義の自由主義的側面と民主主義的側面について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	第1編2章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	罪刑法定主義の歴史的背景について500字程度で説明してみる。	120分
3	第一部月 4月13日	刑法、刑法典、刑罰法規	刑法を解釈することだけでなく、それがどう制定されるべきかについて考察する。	
		この回の到達目標	日本刑法の歴史とその特徴を学ぶとともに、それを解釈適用する際に注意すべきことについて説明することができるようになる。	
		事前学修	第1編3章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法の構造について500字程度で説明できるようにする。	120分
4	第一部金 4月17日	犯罪論の基礎理論	犯罪の本質とは何か、犯罪が成立するためにはいかなる要件をクリアする必要があるのかを考察するところに、犯罪論の意義があり、これが研究の対象となる。犯罪論の全体像について学ぶ。	
		この回の到達目標	構成要件該当性、違法性、有責性の意義について理解するとともに、違法性をめぐる結果無価値論と行為無価値論の対立はいったい何をめぐる対立なのかを考察する。	
		事前学修	第2編4章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	結果無価値論と行為無価値論とはそれぞれどのような見解か、500字程度でまとめる。	120分
5	第一部月 4月20日	構成要件	構成要件該当性は犯罪論の第一関門であり、行為がいかなる刑罰法規に該当するのかを判断する役目を負っている。このことの意義について考える。	
		この回の到達目標	犯罪論体系における構成要件該当性の判断は罪刑法定主義と密接に関連していることを学ぶとともに、構成要件の種類について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編5章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	犯罪の成立要件について500字程度で説明せよ。	120分
6	第一部金 4月24日	結果と因果関係	行為によって結果が発生したならば、その結果について責任を負うべきだとすることは、結果責任主義に陥る恐れがある。行為責任主義をふまえた因果関係論について考える。	
		この回の到達目標	刑法的因果関係について理解するとともに、最近の裁判例について考察することができるようになる。	
		事前学修	第2編6章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法における因果関係を論ずるに際して、最も大切なことは何か、500字程度でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部月 4月27日	不作為犯		作為犯の規定を介して不作為犯を処罰することは罪刑法定主義に抵触する恐れがある。この批判をクリアするためにはどうしたらよいかを考察する。
		この回の到達目標	作為犯と不作為犯の意義について理解するとともに、不真正不作為犯の処罰根拠について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編7章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	不作為犯の処罰範囲が拡散することの問題は何か、500字程度でまとめる。	120分
8	第一部金 5月1日	故意		故意犯処罰の原則の意義について探究する。
		この回の到達目標	なぜ故意犯処罰の原則がおかれているのかを刑法の存在理由と関係づけて説明することができるようにするとともに、故意における事実認識はどの程度のものである必要があるのかを説明することができるようにする。	
		事前学修	第2編8章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	故意行為を重く処罰する理由は何か、500字程度で説明する。	120分
9	第一部月 5月4日	具体的事実の錯誤		行為者の故意と行為者が実現した事実とがずれる場合がある。ここでは、一つの刑罰法規が適用可能な範囲内におけるずれについて考察する。
		この回の到達目標	故意犯処罰の原則と事実の錯誤の意味について理解するとともに、具体的事実の錯誤の諸類型について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編9章1～3節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	故意犯処罰の原則と錯誤論はどのような関係にたつか、500字以内で説明する。	120分
10	第一部金 5月8日	抽象的事実の錯誤		行為者の故意と行為者によって実現した犯罪事実とが、それぞれ別の構成要件にまたがるズレの処理について考察する。
		この回の到達目標	刑法38条2項の意義について理解し、この規定をめぐる見解の対立点を理解するとともに、解決策について私見をもてるようにする。	
		事前学修	第2編9章4節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法38条2項の存在理由について500字程度で説明せよ。	120分
11	第一部月 5月11日	過失犯		過失犯は刑法典においては例外的に処罰する構えが採られているが、現実には、故意犯よりも件数をはるかに多く、だれもが犯しやすい犯罪である。その構造について考察する。
		この回の到達目標	過失の本質をめぐる見解の対立を理解し、過失犯の態様について理解するとともに、過失の構造論について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編10章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	旧過失論、新過失論、危惧感説の違いについて500字程度で説明せよ。	120分
12	第一部金 5月15日	結果的加重犯		結果責任主義は刑法が採ってはいらない考え方の一つであるが、結果的加重犯に対しては結果責任主義的であるとの批判がある。こうした批判をクリアして、行為責任主義にのっとった結果的加重犯像について学ぶ。
		この回の到達目標	結果的加重犯の存在理由について理解するとともに、結果的加重犯のあるべき構造について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編11章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	結果責任の問題について500字程度で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 5月18日	違法性と違法性阻却事由	ある行為が構成要件に該当するとき、その行為に対しては刑法的違法性が推定されることになる。これを阻却する事由について学ぶ。	
		この回の到達目標	改めて犯罪論体系を思い出し、違法性を阻却するための基礎理論について理解する。	
		事前学修	第2編12章および13章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	違法性阻却事由を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
14	第一部金 5月22日	正当防衛	不正な侵害行為に対し刑法が許容している対抗手段が、正当防衛である。対抗手段とはいえ、不正な侵害行為者を侵害するものであるから、その許容範囲が問題となる。このことを学ぶ。	
		この回の到達目標	正当防衛の各要件の意義について説明することができるとともに、最近の裁判例について考察することができるようになる。	
		事前学修	第2編14章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	公的機関による助けを求めることが可能なときに、正当防衛権は行使できるか。	120分
15	第一部月 5月25日	緊急避難	直面した危険から免れる際に他者を侵害したときに、一定限度においてこれを許容するのが緊急避難である。いわれのない他者を傷つけて自分の利益を守るとは基本的に許されないことを前提に、どこまで緊急避難が許されるべきかを考察する。	
		この回の到達目標	正当防衛との違いや緊急避難の法的性格をめぐる議論を正確に理解するとともに、緊急避難の諸問題について自分なりに見解をまとめることができるようにする。	
		事前学修	第2編15章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	二分説について500字程度で説明せよ。	120分
16	第一部金 5月29日	自己決定に基づく違法性阻却事由	被害者の同意があれば、その法益侵害行為の違法性は阻却されるといわれる。しかし、その議論の状況をみると、一筋縄ではいかないことに気づく。違法性が阻却される場合と阻却されない場合の線をどこにひくべきかを考察する。	
		この回の到達目標	被害者の同意の議論状況を理解するとともに、関連する諸問題について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編16章及び17章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	被害者の同意を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
17	第一部月 6月1日	違法性阻却事由の錯誤	構成要件をめぐり錯誤が生じるように、違法性阻却事由をめぐっても錯誤が生じうる。その解決策について考察する。	
		この回の到達目標	違法性阻却事由の錯誤は事実の錯誤か違法性の錯誤かを考察をめぐらし、誤想防衛の諸類型を理解するとともに、その解決策について私見を展開することができるようにする。	
		事前学修	第2編18章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	誤想過剰防衛はどう処理するべきか、500字程度で説明せよ。	120分
18	第一部金 6月5日	責任論の基礎	ある行為が構成要件に該当し、違法性があることが確認されたとしても、責任がなければ、その行為者を罰することはできない。責任論の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	刑事責任能力がなぜ必要なのかを理解するとともに、刑事責任能力が問えない場合の対応や原因において自由な行為について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編19章および20章1節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑事責任能力制度の存在理由について、500字程度にまとめよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部月 6月8日	違法性の錯誤		刑法38条3項は違法性の錯誤について規定するが、事実の錯誤に比べて寛容ではない。その理由について考えるとともに、罪刑法定主義とこの問題が密接に関係していることについても考察する。
		この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤との違いを説明することができるようになるとともに、違法性の錯誤をめぐるいくつかの事例について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編20章2節から4節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	刑法を用いた取締りの在り方について考えよ。	120分
20	第一部金 6月12日	未遂犯と実行の着手		刑法は犯罪の遂行段階に対応して、規制を用意している。とりわけ実行の着手が重要であるのはなぜか、実行の着手時期をどこに定めるべきかについて考察する。
		この回の到達目標	犯罪の遂行段階とこれに対する刑法の規制について理解するとともに、実行の着手時期をめぐる諸問題のは意義に違法性の本質をめぐる対立が控えていることを理解する。	
		事前学修	第2編21章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	実行の着手時期と違法性の本質論との関係について500字程度にまとめよ。	120分
21	第一部月 6月15日	不能犯		実行の着手に当たるようにみえても、法益侵害の危険性がないと評価できる場合が不能犯である。その判断をいかに行うべきかを検討する。
		この回の到達目標	法益侵害の危険性を判断する枠組み、および危険判断の基礎事情について理解するとともに、それをめぐる諸見解について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編22章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	不能犯を論ずる意義について500字程度で説明せよ。	120分
22	第一部金 6月19日	中止犯		犯罪の実行に着手しても自己の意思によりその行為を中止したとき、刑法はその者に対して恩典を与えるのが中止犯である。その要件について考察する。
		この回の到達目標	中止犯規定の存在理由および中止犯の要件について理解するとともに、中止行為の任意性について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編23章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	中止犯の規定が存在する理由を考えよ。	120分
23	第一部月 6月22日	正犯と共犯		実行に着手した者を正犯、これに背後で関与した者を共犯と区別され、前者に対して最も重い刑事責任が科される。その区別をする意義について考察するとともに、間接正犯の扱いについて考える。
		この回の到達目標	正犯概念および共犯概念を理解するとともに、間接正犯について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編24章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	間接正犯をめぐる議論について500字程度で説明せよ。	120分
24	第一部金 6月26日	共同正犯		刑法60条は共同正犯について規定する。共同正犯の本質について考察するとともに、共同正犯に関する判例についても検討を加える。
		この回の到達目標	何を共同するのか、共謀共同正犯とは何かを理解するとともに、共同正犯の成否が問題となった諸判例について私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第2編25章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	共謀共同正犯について500字以内で説明せよ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部月 6月29日	教唆犯と幫助犯	教唆犯と幫助犯の要件について考察する。	
		この回の到達目標	共犯の処罰根拠について理解するとともに、それぞれの要件について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編26章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	共犯の処罰根拠論と違法性の本質論との関係について考えよ。	120分
26	第一部金 7月3日	共犯をめぐる諸問題	共犯と錯誤、および共犯の中止と共犯関係からの離脱について考察する。	
		この回の到達目標	共犯の本質論に基づいて、錯誤論や中止犯論を応用して問題を解決することを理解する。	
		事前学修	第2編27章1～2節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	共犯と錯誤の問題を解決する道筋を500字程度で説明せよ。	120分
27	第一部月 7月6日	共犯と身分	身分犯（正犯）に共犯が関与したときの解決策について考察する。	
		この回の到達目標	刑法65条の存在理由、同条1項と2項の関係について理解するとともに、同条の適用範囲について説明することができるようになる。	
		事前学修	第2編27章3節を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	事後強盗罪は身分犯か否か検討せよ。	120分
28	第一部金 7月10日	犯罪の個数および競合	ある行為が構成要件に該当し、違法性及び有責性も肯定できるときに犯罪は成立する。しかし、行為者について最終的に成立するのは一つの犯罪か、それとも複数の犯罪かが問題となる。	
		この回の到達目標	犯罪の個数および競合を検討する際に構成要件が重要であること、一罪判断の基準や併合罪、観念的競合、牽連犯について理解する。	
		事前学修	第2編28章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	犯罪の個数を論ずる意義は何か、500字程度で説明せよ。	120分
29	第一部月 7月13日	刑罰とその種類	刑罰という制裁は刑法を最も特徴づけるものである。その理論について検討する。	
		この回の到達目標	日本刑法が用意している刑罰の種類について説明することができるようにするとともに、刑罰制度はいかなる理論に基づくべきか私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第3編29章を読み、理解できないところをメモ書きする。	120分
		事後学修	死刑存廃論について500字程度で説明せよ。	120分
30	第一部金 7月17日	刑罰の適用および刑罰の執行	刑の量定は以下に行われるべきかを考察する。裁判員制度において刑の量定についてまで裁判員は判断しなければならない。そのプロセスについて学ぶ。	
		この回の到達目標	法定刑から処断刑、宣告刑のプロセスを理解するとともに、量刑は以下に判断されるべきか私見を展開できるようにする。	
		事前学修	第3編30章を読む。	120分
		事後学修	執行猶予制度の存在理由について500字程度で説明せよ。	120分

科目名	刑法Ⅰ【法職課程】	担当者	南 由介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
予習をし、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
予習をしてくることを前提に、適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。					1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。					1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。					1	1	1		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・総論〔第2版〕	井田良	有斐閣	2018	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良・佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良・城下裕二編	商事法務	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	刑法の存在理由と機能	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について。	
		この回の到達目標	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	金9/18	刑法の基本原則－罪刑法定主義	罪刑法定主義（法律主義、遡及処罰の禁止および派生原則等）を中心に、行為主義、責任主義について。	
		この回の到達目標	罪刑法定主義を中心に、行為主義、責任主義について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	月9/21	刑罰法規の解釈・適用	刑罰法規の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について。	
		この回の到達目標	刑罰法規の解釈および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	金9/25	犯罪論の基礎理論、結果無価値・行為無価値、構成要件	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について。	
		この回の到達目標	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	月9/28	因果関係論（1）	結果の意義および条件関係（仮定的消去法など）について。	
		この回の到達目標	結果の意義および条件関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	金10/2	因果関係論（2）	法的因果関係（相当因果関係説、行為の危険性の結果への現実化など）について。	
		この回の到達目標	法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/5	不作為犯論	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠（保証人説など）、不作為の因果関係について。	
		この回の到達目標	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠、不作為の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	金10/9	故意論（1）	故意における事実認識の対象およびその程度（意味の認識）について。	
		この回の到達目標	故意における事実認識の対象およびその程度について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	月10/12	故意論（2）	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別（認識説、蓋然性説、認容説、動機説など）について。	
		この回の到達目標	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	金10/16	錯誤論（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤（法定的符合説と具体的符合説）について。	
		この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	月10/20	錯誤論（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説と抽象的符合説、実質的重なり合い）について。	
		この回の到達目標	抽象的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	金10/23	過失犯論（1）	旧過失論と新過失論、危惧感説（新・新過失論）について。	
		この回の到達目標	旧過失論と新過失論、危惧感説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月10/27	過失犯論（2）	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について。	
		この回の到達目標	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	金10/30	違法性、違法性阻却事由、正当行為	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為（法令行為、正当業務行為）について。	
		この回の到達目標	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	金11/6	正当防衛	正当防衛の要件（急迫性、防衛行為、「やむを得ずにした行為」など）および過剰防衛について。	
		この回の到達目標	正当防衛の要件および過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	月11/10	緊急避難	緊急避難の要件（「現在の危険」、避難行為、法益の均衡など）および過剰避難、その他の緊急行為について。	
		この回の到達目標	緊急避難の要件および過剰避難、その他の緊急行為について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	金11/13	被害者の同意、安楽死・尊厳死	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死（特に積極的安楽死）・尊厳死（特に治療中止の根拠）の違法性阻却について。	
		この回の到達目標	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死・尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	月11/16	違法性阻却事由の錯誤	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）について。	
		この回の到達目標	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	金11/20	責任論の基礎、責任要素		責任の本質、責任の要素、責任要素（責任能力のほか、違法性の意識の可能性、適法行為の期待可能性）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について。
		この回の到達目標	責任の本質、責任の要素、責任要素（特に責任能力）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	月11/23	未遂犯論		未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について。
		この回の到達目標	未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	金11/27	不能犯論		危険判断および抽象的危险説、具体的危険説、客観的危险説について。
		この回の到達目標	危険判断および抽象的危险説、具体的危険説、客観的危险説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	月11/30	中止犯論		中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について。
		この回の到達目標	中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	金12/4	正犯と共犯		正犯の概念、共犯の概念（実行従属性、罪名従属性など）について。
		この回の到達目標	正犯の概念、共犯の概念について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	月12/7	間接正犯、由な行為	原因において自	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか（間接正犯の正犯性、間接正犯の諸類型など）、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデル（責任モデル）について。
		この回の到達目標	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデルについて理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	金12/11	共同正犯	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯（過失、結果的加重犯、不作為など）について。	
		この回の到達目標	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
26	月12/14	教唆犯と幫助犯	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態（片面的、不作為など）、共犯の因果関係について。	
		この回の到達目標	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態、共犯の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
27	金12/18	共犯をめぐる諸問題（1）	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について。	
		この回の到達目標	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
28	月12/21	共犯をめぐる諸問題（2）	共犯と身分について。	
		この回の到達目標	共犯と身分について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
29	金12/25	犯罪の個数・競合	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について。	
		この回の到達目標	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
30	月1/18	刑罰論	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について。	
		この回の到達目標	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	岡西 賢治	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
無

【授業方法】
講義形式による。なお、判例などの検討にあたっては意見を求めることもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。						1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。							1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。								1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後にポイントを説明し、評価の基準等を示す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論講義（第7版）	前田雅英	東京大学出版会	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜 17:00-18:00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	刑法とは	刑法の意義と役割、刑罰論と犯罪論	
		この回の到達目標	刑法の持つ機能などについて説明できる。	
		事前学修	刑法と他の法律とに違いを理解しておく。	120分
		事後学修	刑法をめぐる理論について整理する。	120分
2	4/9	犯罪の実態と刑法	近年の犯罪の実態を統計によって概観する	
		この回の到達目標	統計で示された犯罪の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	犯罪白書を見て、近年の状況を把握する。	120分
		事後学修	刑法理論と実際の犯罪の関係について考えておく。	120分
3	4/15	刑罰の本質	人を処罰する理由について考える。	
		この回の到達目標	刑罰の本質をめぐる理論について説明できる。	
		事前学修	刑罰に関する諸問題について議論を整理する。	120分
		事後学修	刑罰の目的について自説が述べられるようにしておく。	120分
4	4/16	刑罰の種類	死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料、没収	
		この回の到達目標	刑罰とその他の法的制裁との違いについて説明できる。	
		事前学修	それぞれの刑罰の違いについて整理する。	120分
		事後学修	刑罰をめぐる課題について論じられるようにする。	120分
5	4/22	罪刑法定主義（１）	法律主義、遡及処罰の禁止、絶対的不定期刑の禁止、類推解釈の禁止	
		この回の到達目標	罪刑法定主義に関する諸原理について説明できる。	
		事前学修	罪刑法定主義が確立する過程について理解する。	120分
		事後学修	判例との関係を整理する。	120分
6	4/23	罪刑法定主義（２）	明確性の原理、刑罰の適正	
		この回の到達目標	明確性の原則に関する判例について整理し、説明できる。	
		事前学修	明確性の原則をめぐる判例を調べておく。	120分
		事後学修	明確性の原則が問題となるような状況について整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/29	刑法の適用	場所的・時間的・人的適用	
		この回の到達目標	刑法の効力の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	刑法の適用に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	判例の争点について議論を整理する。	120分
8	4/30	犯罪論	犯罪とは何か、犯罪の要件と犯罪論体系、構成要件とは何か	
		この回の到達目標	犯罪論をめぐる理論について説明できる。	
		事前学修	犯罪をめぐる諸理論について整理しておく。	120分
		事後学修	それぞれの犯罪理論について特徴を整理する。	120分
9	5/6	構成要件の要素	客観的要素と主観的要素、構成要件と違法性・責任との関係	
		この回の到達目標	構成要件の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	構成要件という概念について理解する。	120分
		事後学修	違法性・責任との関係をどのようにとらえるべきなのかを説明できるようにする。	120分
10	5/7	構成要件と行為	行為論、実行行為、不作為	
		この回の到達目標	行為論と構成要件との関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	行為論に関する学説の状況を整理しておく。	120分
		事後学修	行為論を論じることの意義について考える。	120分
11	5/13	因果関係	因果関係をめぐる諸理論	
		この回の到達目標	因果関係についての理論および判例の状況を理解し、説明できる。	
		事前学修	因果関係に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	因果関係に関する学説の違いを把握する。	120分
12	5/14	法人の犯罪能力	法人処罰のあり方	
		この回の到達目標	犯罪が犯罪の主体となりうる根拠について説明できる。	
		事前学修	広義の刑法における法人処罰の規定を調べておく。	120分
		事後学修	法人処罰の今後にあり方について検討しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/20	違法性の本質	実質的違法論、可罰的違法性、結果無価値と行為無価値	
		この回の到達目標	刑法における違法性の判断をめぐってどのような議論があるのか整理し、説明できる。	
		事前学修	違法性に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	違法性の本質に関する諸理論を整理しておく。	120分
14	5/21	正当行為	法令行為、正当業務行為、治療行為	
		この回の到達目標	正当化する根拠について説明できる。	
		事前学修	刑法35条に関する法令と判例を整理しておく。	120分
		事後学修	違法の本質との関係を理解する。	120分
15	5/27	緊急行為	正当防衛、緊急避難	
		この回の到達目標	正当防衛、緊急避難の要件を理解し、説明できる。	
		事前学修	正当防衛に関する判例を類型化し、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	正当防衛と緊急避難の違いについて整理する。	120分
16	5/28	超法規的違法性阻却事由	被害者の同意、推定的同意、安楽死	
		この回の到達目標	構成要件と被害者の同意についての関係が説明できる。	
		事前学修	被害者の同意に関する事例について検討しておく。	120分
		事後学修	安楽死に関する議論について整理する。	120分
17	6/3	責任の本質	非難可能性、期待可能性	
		この回の到達目標	責任に関する刑法の規定について整理し、説明できる。	
		事前学修	責任に関する諸理論について整理しておく。	120分
		事後学修	期待可能性に関する判例を検討しておく。	120分
18	6/4	責任能力	心神喪失、心神耗弱、刑事未成年	
		この回の到達目標	責任能力の判断基準について説明できる。	
		事前学修	責任能力の判断についての議論のポイントを整理する。	120分
		事後学修	法的な判断と医学的な判断との差について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	6/10	故意		故意犯処罰の原則、故意の種類
		この回の到達目標	故意をめぐる学説の状況を整理し、説明できる。	
		事前学修	故意と過失との違いについて考えておく。	120分
		事後学修	故意の種類に関する学説を整理する。	120分
20	6/11	錯誤		具体的事実の錯誤、抽象的事実の錯誤、違法性の錯誤
		この回の到達目標	具体的な事例ごとに錯誤の内容を整理し、説明できる。	
		事前学修	錯誤に関する学説を整理しておく。	120分
		事後学修	事実の錯誤と違法性の錯誤との違いについて整理する。	120分
21	6/17	過失犯の構造		新旧過失犯論争、旧過失論、新過失論、危惧感説
		この回の到達目標	過失を処罰する根拠について説明できる。	
		事前学修	新過失論が提唱されるに至った背景を考えておく。	120分
		事後学修	責任の本質との関係が説明できるようにする。	120分
22	6/18	予見可能性と回避義務		具体的結果予見可能性、結果回避義務、信頼の原則、監督過失
		この回の到達目標	判例による過失の捉え方について説明できる。	
		事前学修	過失に関する判例を整理しておく。	120分
		事後学修	判例と学説との関係について議論を整理する。	120分
23	6/24	未遂と実行行為		犯罪遂行の段階とそれぞれの処罰の可否
		この回の到達目標	未遂が処罰される根拠について説明できる。	
		事前学修	実行の着手が争われた判例について検討しておく。	120分
		事後学修	犯罪類型ごとに実行の着手時期を整理する。	120分
24	6/25	不能犯と中止犯		客体の不能と方法の不能、中止犯の意義、任意性の判断
		この回の到達目標	中止犯の要件について整理し、説明できる。	
		事前学修	不能犯と中止犯に関する判例を調べておく。	120分
		事後学修	不能犯に関する学生つの状況を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/1	共犯と正犯	共犯の処罰根拠、犯罪共同説と行為共同説、共犯の従属性	
		この回の到達目標	共犯に関する諸概念について整理し、説明できる。	
		事前学修	共犯の正犯の区別について学説の状況を把握しておく。	120分
		事後学修	共犯論をめぐる議論のポイントについて整理しておく。	120分
26	7/2	共同正犯	共同実行の意思と事実、共謀共同正犯、承継的共同正犯、共犯関係からの離脱	
		この回の到達目標	共同正犯の本質について説明できる。	
		事前学修	共同正犯が成立しうるパターンを整理しておく。	120分
		事後学修	共同正犯をめぐる学説と判例の関係を把握する。	120分
27	7/8	教唆犯と幫助犯 共犯をめぐる諸問題	教唆の意義、幫助犯と共同正犯、不作為と共犯、身分と共犯、過失と共犯	
		この回の到達目標	共犯の成否が問題となりうる事例について説明できる。	
		事前学修	不作為や過失などが関連する共犯の事例について検討しておく。	120分
		事後学修	狭義の共犯の成立範囲に関して争点を整理しておく。	120分
28	7/9	罪数論	単純一罪・科刑上一罪と併合罪	
		この回の到達目標	犯罪の個数が問われる意義について説明できる。	
		事前学修	罪数をめぐる諸概念について整理しておく。	120分
		事後学修	罪数論の実務上の重要性について考えておく。	120分
29	7/15	刑の適用	法定刑・処断刑・宣告刑、刑の量定、執行猶予	
		この回の到達目標	実務上の課題について説明できる。	
		事前学修	今日的な問題につて検討しておく。	120分
		事後学修	刑事裁判の実態に則して考えることができるようにする。	120分
30	7/16	授業内試験 まとめ	試験終了後にポイントを解説し、評価の基準を説明する。	
		この回の到達目標	これまでの講義内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	講義において重要と思う点を整理しておく。	120分
		事後学修	できなかった点について理由を分析する。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南 由介	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法を学習することについて、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
学生に対し適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行つて問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケーススタディ刑法〔第5版〕	井田良・丸山雅夫	日本評論社	2019	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良・佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良・城下裕二編	商事法務	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木9/17	刑法と道徳	刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	金9/18	罪刑法定主義	罪刑法定主義の古典的内容と現代的内容について。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、罪刑法定主義の古典的内容と現代的内容について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	木9/24	責任主義、刑法の解釈	責任主義の意義および刑法の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任主義の意義および刑法の解釈について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	金9/25	結果無価値論と行為無価値論	「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	木10/1	刑法の適用	刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	金10/2	構成要件	犯罪論の体系と構成要件要素について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、犯罪論の体系と構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木10/8	不真正不作為犯	不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	金10/9	因果関係（1）	条件関係について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、条件関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	木10/15	因果関係（2）	法的因果関係（相当因果関係説、危険現実化説）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	金10/16	故意	事実認識の程度（意味の認識）および未必の故意について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実認識の程度および未必の故意について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	木10/22	事実の錯誤（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤（法定的符合説、具体的符合説）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	金10/23	事実の錯誤（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説、抽象的符合説）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、抽象的事実の錯誤理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木10/29	過失犯、結果的加重犯	旧過失論、新過失論、危惧感説（新・新過失論）、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、旧過失論、新過失論、危惧感説、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	金10/30	違法の実質	違法性、違法性阻却、実質的違法性論について。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違法性、違法性阻却、実質的違法性論について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	木11/5	正当防衛	正当防衛の成立要件（急迫性、防衛の意思、「やむを得ずにした行為」など）、過剰防衛について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、正当防衛の成立要件、過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	金11/6	緊急避難	緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件（「現在の危難」、避難行為、法益の均衡など）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	木11/12	安楽死、尊厳死、終末期医療	安楽死（特に積極的安楽死）、尊厳死（治療行為の中止）の違法性阻却について。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、安楽死、尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	金11/13	責任能力、原因において自由な行為	責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	木11/19	違法性の錯誤	違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	金11/20	違法性阻却事由の錯誤	事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）、誤想過剰防衛について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説、誤想過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	金11/27	実行の着手	処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	木12/3	不能犯	未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	金12/4	中止犯	中止犯の法的性格、任意性、中止行為について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中止犯の法的性格、任意性、中止行為について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	木12/10	正犯と共犯	実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	金12/11	共同正犯	犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
26	木12/17	共犯の従属性	共犯の従属性（実行従属性、要素従属性など）、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共犯の従属性、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
27	金12/18	幫助犯	幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助（片面的、不作為、間接、中立的行為など）について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
28	木12/24	共犯の関連問題	不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
29	金12/25	共犯と身分	構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
30	木1/14	犯罪の数、刑罰制度	本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法Ⅰを履修済であること。

【授業方法】		
講義の方法を用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを文章に的確に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N e x t 教科書シリーズ刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文編	弘文堂	2017年	教科書	必携
現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著、沼野ほか編	八千代出版	2014年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年 5月	教科書	必携
法学刑法 5 判例インデックス1000 〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考	『N e x t 教科書シリーズ刑法各論』については、補遺を弘文堂のサイトから入手して手もとにおく必要がある (http://www.koubundou.co.jp/files/00227_1.pdf)。				

【オフィスアワー】
水曜日及び金曜日（１６：１０）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	序論	総論と各論との関係 各論の学び方 刑法の各則の諸規定等の解釈のあり方	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を修得し、適正な解釈・適用とは何かについて理解する。	
		事前学修	以下、教科書『N e x t教科書シリーズ刑法各論』を「N」、『現代の判例と刑法理論の展開』を「G」、『刑法の目的と解釈』を「M」、『刑法解釈論』を「K」と略記する。 N 1～13頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N13頁の問題に取り組む。	120分
2	4/10	生命・身体に対する罪(1)	人の始期・終期 胎児性傷害・致死 殺人の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人の概念や胎児性傷害・致死の問題、殺人の罪について理解する。	
		事前学修	N15～22頁、G105～116頁、M第18章・第19章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N38頁の問題（1）に取り組む。G105～106頁の裁判例は妥当か、考えてみる。	120分
3	4/15	生命・身体に対する罪(2)	傷害の罪・過失傷害の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、傷害の罪、過失傷害の罪について理解する。	
		事前学修	N22～30頁、G209～222頁、M第20章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	G209～210頁の裁判例は妥当か、考えてみる。	120分
4	4/17	生命・身体に対する罪(3)	堕胎の罪・遺棄の罪・自動車運転致死傷法の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、堕胎の罪、遺棄の罪、自動車運転致死傷法の罪について理解する。	
		事前学修	N30～38頁、G223～234頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N38頁の問題（2）に取り組む。G223～225頁の裁判例は妥当か、考えてみる。	120分
5	4/22	自由に対する罪	逮捕及び監禁の罪・脅迫の罪・略取誘拐及び人身売買の罪・強制わいせつ等の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、自由に対する罪について理解する。	
		事前学修	N39～49頁を読み、問題点をメモする。教科書・備考欄の補遺を必ず読む必要がある。	120分
		事後学修	Nの補遺50頁の問題に取り組む。	120分
6	4/24	私的領域に関する罪	住居を侵す罪・秘密を侵す罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、私的領域に関する罪について理解する。	
		事前学修	N51～56頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N56頁の問題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/29	名誉に対する罪	名誉毀損罪・侮辱罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、名誉に対する罪について理解する。	
		事前学修	N57～65頁、M第21章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N65頁の問題に取り組む。	120分
8	5/1	信用及び業務に対する罪	信用毀損罪・業務妨害罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、信用及び業務に対する罪について理解する。	
		事前学修	N67～73頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N73頁の問題に取り組む。	120分
9	5/6	財産罪(1) 総説	財産罪の分類 財産罪の客体	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産罪全体の構造と基本概念を理解する。	
		事前学修	N75～86頁、G249～262頁、M第22章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N147頁の問題（1）に取り組む。	120分
10	5/8	財産罪(2) 窃盗の罪	窃盗の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗の罪について理解する。	
		事前学修	N86～91頁、G235～247頁、M第24章を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N147頁の問題（2）に取り組む。	120分
11	5/13	財産罪(3) 強盗の罪(1)	236条の強盗罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、強盗罪について理解する。	
		事前学修	N91～93頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	強盗罪に関する諸問題につき、知識を整理する。	120分
12	5/15	財産罪(4) 強盗の罪(2)	事後強盗罪・昏睡強盗罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事後強盗罪、昏睡強盗罪について理解する。	
		事前学修	N94～96頁を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	事後強盗罪・昏睡強盗罪に関する諸問題につき、知識を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/20	財産罪(5) 強盗の罪(3)	強盗致死傷罪及び強盗・強制性交等罪等の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、強盗致死傷罪等について理解する。	
		事前学修	N96～99頁（補遺も参照すること）、G263～273頁、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	G263～265頁の裁判例は妥当か、考えてみる。	120分
14	5/22	財産罪(6) 詐欺及び恐喝の罪(1)	詐欺の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺の罪について理解する。	
		事前学修	N99～113頁、G275～286頁、M第25章、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	G275～276頁の裁判例は妥当か、考えてみる。	120分
15	5/27	財産罪(7) 詐欺及び恐喝の罪(2)	恐喝罪の構造と解釈 詐欺罪・恐喝罪に共通する諸問題	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、恐喝罪等について理解する。	
		事前学修	N113～118頁、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	不法原因給付、権利行使と詐欺罪・恐喝罪の成否について考えてみる。	120分
16	5/29	財産罪(8) 横領・背任の罪(1)	横領の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、横領の罪について理解する。	
		事前学修	N118～125頁、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	不法原因給付と横領罪の成否など横領の罪に関する諸問題につき、知識を整理する。	120分
17	6/3	財産罪(9) 横領・背任の罪(2)	業務上横領罪の構造と解釈 家庭裁判所によって選任された後見人の横領と244条1項	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、業務上横領罪等について理解する。	
		事前学修	N125～131頁、G287～300頁、M第26章、K第2篇・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	業務上横領罪等に関する問題につき、知識を整理する。	120分
18	6/5	財産罪(10) 横領・背任の罪(3)	背任罪の構造と解釈 横領罪・背任罪に共通する諸問題	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、背任罪、横領罪・背任罪に共通する諸問題について理解する。	
		事前学修	N131～133頁、M第27章、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	横領罪・背任罪に共通する諸問題につき、知識を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/10	財産罪（11） 盗品等に関する罪(1)	盗品等に関する罪の基本構造・罪質	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、盗品関与罪の基本構造等を理解する。	
		事前学修	N134～137頁、M第28章、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	盗品関与罪の罪質等につき、知識を整理する。	120分
20	6/12	財産罪（12） 盗品等に関する罪(2) 民法的不法と財産罪まとめ	盗品関与罪の各規定の構造と解釈 民法的不法の財産罪の成否への影響	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、盗品関与罪の各規定及び民法的不法の財産罪の成否への影響について理解する。	
		事前学修	N137～139頁、M第23章、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	盗品関与罪の各規定に関する諸問題及び民法的不法と財産罪につき、知識を整理する。	120分
21	6/17	財産罪（13） 毀棄及び隠匿の罪	毀棄及び隠匿の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、毀棄及び隠匿の罪について理解する。	
		事前学修	N139～147頁、K第2編・第3章・第13節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N147頁の問題（3）に取り組む。	120分
22	6/19	公共の安全に対する罪	騒乱の罪・放火及び失火の罪・出水及び水利に関する罪・往來を妨害する罪・あへん煙に関する罪・飲料水に関する罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、公共の安全に対する罪について理解する。	
		事前学修	N149～166頁、K第2編・第3章・第3節及び第6節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N166頁の問題に取り組む。	120分
23	6/24	偽造罪(1) 通貨偽造の罪	通貨偽造の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、通貨偽造の罪について理解する。	
		事前学修	N167～175頁、K第2編・第3章・第6節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N202頁の問題（1）に取り組む。	120分
24	6/26	偽造罪(2) 文書偽造の罪(1)	文書偽造の罪の基本構造・客体・実行行為	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、文書偽造の罪の基本構造等について理解する。	
		事前学修	N175～186頁、M第29章、K第2編・第3章・第6節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N202頁の問題（2）に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/1	偽造罪(3) 文書偽造の罪(2)	文書偽造の罪の各規定の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、文書偽造の罪の各規定について理解する。	
		事前学修	N186～199頁、K第2編・第3章・第6節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N202頁の問題（3）に取り組む。	120分
26	7/3	偽造罪(4) その他の偽造罪等	電磁的記録不正作出等の罪・有価証券偽造罪・印章偽造罪・支払用カード電磁的記録に関する罪・不正指令電磁的記録に関する罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、通貨・文書偽造の罪以外の偽造罪等について理解する。	
		事前学修	N190～203頁、K第2編・第3章・第6節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	その他の偽造罪等につき、知識を整理する。	120分
27	7/8	風俗に対する罪	わいせつ及び重婚の罪・賭博及び富くじに関する罪・礼拝所及び墳墓に関する罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、風俗に対する罪について理解する。	
		事前学修	N205～217頁、G301～304頁、K第2編・第3章・第8節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	G301～303頁の裁判例は妥当か、考えてみる。	120分
28	7/10	国家の存立に対する罪 国家・地方公共団体の作用に対する罪(1) 公務の執行を妨害する罪	内乱に関する罪・外患に関する罪・国交に関する罪・公務の執行を妨害する罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、国家の存立に対する罪、公務の執行を妨害する罪について理解する。	
		事前学修	N219～241頁、K第2編・第3章・第1節及び第2節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N270頁の問題（1）に取り組む。	120分
29	7/15	国家・地方公共団体の作用に対する罪(2) 逃走の罪等	逃走の罪、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪・偽証の罪・虚偽告訴の罪の構造と解釈	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逃走の罪等について理解する。	
		事前学修	N241～255頁、M第30章、K第2編・第3章・第2節及び第7節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N270頁の問題（2）に取り組む。	120分
30	7/17	国家・地方公共団体の作用に対する罪(3) 職権濫用の罪及び賄賂の罪 授業のまとめ	職権濫用の罪・賄賂の罪の構造と解釈 刑法の各則の諸規定等の解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職権濫用の罪及び賄賂の罪について理解する。 到達目標①②③④に関連して、解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法を理解する。	
		事前学修	N255～270頁、G315～327頁、M第31章、K第2編・第3章・第9節を読み、問題点をメモする。	120分
		事後学修	N270頁の問題（3）に取り組む。 今まで学んできたことを整理して、定期試験に備える。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
なし。ただし、刑法Ⅰを履修済みであることがのぞましい。刑法Ⅰ（刑法総論）を学修済みであることを前提に授業を進めるからである。

【授業方法】
テキストに沿って進める。ただし、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。定期試験の解説を、後日ポータルシステム等を用いて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し、授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか、課題を示して能動的な取り組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。					1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内試験の解説・講評は、実施後の翌授業期日に行い、それが困難な場合および定期試験のそれはポータルシステムによる配信により行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文 編	弘文堂	2017年 発行		
備考	版，刷があらためられた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	刑法各論の基礎、保護法益の概念および各則の体系	刑法各論という学問分野の特徴をまなび、個々の犯罪定型の解釈指針としてもっとも重要な「保護法益」を検討する。	
		この回の到達目標	保護法益とは何かを正しく理解し、保護法益の帰属主体に基づく各種犯罪類型の体系的配列について説明することができる。	
		事前学修	すでに単位取得済みであっても、刑法総論全般を自身で復習し、基礎的理解を十分なものにしておく。とくに、責任主義と罪刑法定主義、構成要件要素、既遂と未遂、違法と責任分野の基本的テーマ等の理解を確認しておくこと。	100分
		事後学修	保護法益について、「利益」、「法益」、「権利」の意義とそれらの関係、法益の帰属主体による各種犯罪の三分類、体系的把握に関し、整理・確認を行う。	140分
2	4/10	生命に対する罪	殺人等の生命を保護法益とする罪の特徴と、固有の論点を検討する。	
		この回の到達目標	人の生命を保護法益とする犯罪類型の概要を説明し、人の始期と終期など生命に対する犯罪類型固有の問題点を整理して説明することができる。	
		事前学修	殺人とその周辺の条文に目を通しておくこと。また、さまざまな法益の中で「生命」がもっとも重要なものであるとされる理由は何か、自分なりの答えを出せるよう考えておくこと。	120分
		事後学修	殺人罪と自殺関与等の罪の法定刑に著しい軽重の差があるのはなぜか、試みに自分の言葉で答案を書いてみる。	120分
3	4/16	身体に対する罪	傷害罪など身体に対する罪の全体とその特徴を検討する。	
		この回の到達目標	身体に対する各種犯罪の概要を整理して把握し、暴行・傷害・傷害致死など犯罪類型相互の位置づけと関係を正確に説明することができる。	
		事前学修	刑法が、生命に次いで身体を手厚く保護しているのはなぜか、こう問われたときどう答えるか、考えておくこと。	100分
		事後学修	「傷害」とは何か、「心と体」に対する加害行為が傷害罪にあたる場合とあたらない場合について、判例はどう考えているか、整理しておく。	140分
4	4/17	身体に対する罪（過失犯）	生命・身体に対する加害行為と過失致死傷、交通犯罪等の特徴を検討する。	
		この回の到達目標	単純過失傷害、同過失致死、業務上および重過失致死傷、さらに過失運転致死傷等各罪の内容を、それら規定の法改正の経緯をふまえて説明することができる。	
		事前学修	過失犯は、故意に生命を害した場合・傷害を負わせた場合と比較し、どういった点が違うのか、よく考えてみたうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	単純過失傷害・致死の刑が著しく軽い理由は何か、また、自動車運転に起因する死傷事故に対する刑事規制はどのように変わってきたのか、整理しておく。	120分
5	4/23	人身の自由に対する罪	逮捕・監禁、略取・誘拐の罪について、その保護法益と個々の類型の特徴・内容について検討する。	
		この回の到達目標	逮捕・監禁罪ならびに略取・誘拐および人身売買罪について、それらの保護法益論をふまえた犯罪類型の特徴と内容について説明することができる。	
		事前学修	人の行動の自由を奪う行為を刑罰を用いて禁圧する理由は何か、いいかえれば逮捕監禁罪は何を保護しようとしているのかを考えてみること。	120分
		事後学修	逮捕監禁罪の保護法益と、略取誘拐罪の保護法益との比較、また略取誘拐、人身売買の罪に関する法改正の内容と経緯・理由について整理しておく。	120分
6	4/24	精神的自由に対する罪	脅迫、住居侵入、秘密を侵す罪等の精神的自由を侵害する犯罪類型について、その保護法益と個々の類型の特徴・内容について検討を加える。	
		この回の到達目標	脅迫罪等の精神的自由を害する犯罪について、それらの概要を示し、とくに住居侵入罪の保護法益をめぐる判例の変遷について説明し、判例の問題点を指摘することができる。	
		事前学修	脅迫罪が保護する自由とは何か、住居侵入・秘密を侵す罪は何を保護しようとしているのか、を考えてみる。	100分
		事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる判例と学説の動向について整理し、自分なりにまとめてみる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	4/30	名誉の保護と名誉毀損罪、侮辱罪		名誉に対する罪の特徴、その構成要件の内容を分析し、現行法が人の名誉をどのように保護しようとしているかを検討する。
		この回の到達目標	名誉毀損罪について、名誉とは何か、本罪成立に事実の摘示が必要な理由、公然性の要件と公然性が要求される理由について説明することができる。	
		事前学修	名誉とは無縁の一般の人々は、刑法で保護される名誉毀損とはかかわりないのか、刑法が保護する「名誉」は何を意味するのか、考えたうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	侮辱と名誉毀損、生者に対する名誉毀損と死者の名誉を毀損する行為、との比較対照を通じてここでの諸テーマを整理する。また、公然性が要求される理由は何かについて再確認しておく。	120分
8	5/1	名誉の保護と言論・表現、取材・報道の自由		刑法230条の2の規定がおかれた理由を考えたうえで、同規定により処罰が妨げられる場合を検討し、とくに真実性の証明に関する判例と学説を考察する。
		この回の到達目標	真実性の証明に関する判例の意義を理解した上で、個人の名誉の保護と表現の自由、取材・報道の自由、知る権利との関係を適切に整理し、説明することができる。	
		事前学修	誰のどんな事実であっても名誉を傷つける行為全てを処罰する、すなわちどれほど公的地位にある者でも権力者でも、名誉はどこまでも刑罰で保護されるべきだ、という考え方の徹底は、何をもたらすかを考えてみる。	100分
		事後学修	名誉という個人的法益の保護と、言論・表現の自由、マスメディア等の取材・報道の自由の保護とは、どちらが優先されるか、あるいはどのように調和を図るべきか、整理しておく。	140分
9	5/7	業務に対する罪		偽計、威力による業務妨害を処罰する犯罪類型について、その保護法益論をふまえ、成立要件を検討する。
		この回の到達目標	威力業務妨害、偽計業務妨害罪の成立要件について、具体例をあげて説明することができる。	
		事前学修	「業務」という言葉から何を連想するか、その指し示す意味内容と、なぜ刑法がそれを保護しようとしているのかを考えてみること。	110分
		事後学修	業務として保護されるものには何があるのか、公務執行妨害により保護される公務との関係はどうか、威力と偽計による業務妨害の具体的事例にはどんなものがあるか、整理しておく。	130分
10	5/8	性犯罪		強制性交等罪および強制わいせつ罪を中心に、性に関する自己決定の自由を保護する罪としての性犯罪を検討する。近時の大きな改正がもたらした点を中心に、性犯罪の課題にも目を向け考察を行う。
		この回の到達目標	強制性交等罪、強制わいせつ罪について、それらの成立要件および関連する類型の内容を明らかにし、またその保護法益が性に関する自己決定権であること、その手段たる暴行・脅迫の程度など特徴を説明することができる。	
		事前学修	強制わいせつ罪、強制性交等罪の意義、これらの罪は、わいせつ物頒布等罪など性表現に関する罪とその犯罪としての性質がどう違うのか、考えてみること。	120分
		事後学修	強制性交等罪を中心に近時行われた大きな法改正の内容と、立法経緯、その理由、改正前後の変更点について確認・整理をしておく。	120分
11	5/14	財産犯罪の基礎		刑法における財産の保護と財産犯の体系を概観し、各種財産犯罪の今日的課題を視野に入れて検討を行う。
		この回の到達目標	財産犯罪の種類を挙げ、刑法典が、章別にそれらをどのように位置づけているかを説明することができる。	
		事前学修	なぜ刑法は財産を保護する必要があるのか、また財産犯罪の種類について窃盗罪以下の条文を事前に読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	他人の財産に対する加害的行為のうち、刑法はその一部をピックアップし、その特徴を記述することにより犯罪として規定しているが、財産犯全体の構成要件的行為と法定刑を一覧できるよう整理してみる。	120分
12	5/15	窃盗罪		窃盗罪について、その構成要件の基本的構造と罪質、成立要件に関して検討を行い、保護法益、占有の概念、実行の着手時期、既遂時期、不法領得の意思等について詳細に検討を加える。
		この回の到達目標	窃盗罪の罪質の特徴、構成要件の構造、成立要件を説明し、保護法益、占有侵害、不法領得の意思に関する判例の考え方を明らかにすることができる。	
		事前学修	窃盗と強盗は、なぜ同じ章に規定されているか、また、これら二つの罪の違いはどこにあるか、条文の比較を試みること。	110分
		事後学修	窃盗罪の客体たる財物の意義について、占有の意義について、保護法益について、また不法領得の意思に関して、判例と学説を整理しておく。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	5/21	強盗罪		強盗罪の構成要件の特徴、実行行為たる暴行・脅迫の概念、強盗に関連する諸類型について検討を加える。
		この回の到達目標	強盗罪の性格と特徴を十分に理解した上で、諸問題についての判例の態度をふまえ、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	窃盗には財物に対する領得行為を罰する規定しかないが、強盗には財物に対する一項の規定と利益に対する二項の規定があるが、これはなぜかを考えてみること。	120分
		事後学修	単純強盗と事後強盗、こん睡強盗、強盗致死傷、強盗殺人と強盗致死等の関連する諸規定・諸類型の擬律について整理しておく。	120分
14	5/22	詐欺罪		詐欺罪の性格と構成要件の構造と特徴について、判例と学説の整理・分析を通じた考察を行い、詐欺罪の成否が問題となる具体例を素材にした検討を加える。
		この回の到達目標	窃盗などとの比較を通じて詐欺罪の特徴を明らかにし、その実行行為、処分行為などについて、判例の立場を説明し自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	詐欺罪が、「窃盗及び強盗の罪」とは別の章、すなわち次に扱われる恐喝罪と一緒に「詐欺及び恐喝の罪」の章に置かれてのはなぜかを考えてみること。	140分
		事後学修	詐欺罪の構成要件の構造とその構成要素（人を欺く行為、錯誤、処分行為、財物・利益の移転の連鎖）、処分行為の意義についての判例と学説について整理しておく。	100分
15	5/28	恐喝罪		構成要件の内容と特徴、詐欺と恐喝、強盗と恐喝との比較等を通じて検討を加え、恐喝罪に関する諸問題について考察する。
		この回の到達目標	恐喝罪の構成要件の内容と特徴をふまえ、詐欺との関係、強盗との比較など、恐喝罪の概要と関連する諸問題について説明することができる。	
		事前学修	恐喝罪と詐欺罪との共通の性格は何か、異なる点は何かにについて考えてみること。	120分
		事後学修	正当な権利を有する者が、その権利行使の手段として用いた方法が脅迫行為に当たる場合、恐喝罪が成立することがあるか、あるとすればどのような場合で、どの範囲について恐喝が認められるか、解答を試みる。	120分
16	5/29	横領罪・背任罪		横領罪および背任罪について、それぞれの類型の内容と特徴を明らかにし、両者の関係を検討する。
		この回の到達目標	横領罪の成立要件と横領行為について、および、背任罪の成立要件と特徴を述べ、両罪の関係を説明することができる。	
		事前学修	横領罪に問われる典型的な行為はどのようなものであるか、テキスト等から納得いくまで読み取っておくこと。	100分
		事後学修	横領、業横、遺失物等横領、窃盗を比較対照し、占有侵害の有無、委託信任関係違背の点、背任との区別、占有が委託等による基礎を有するか否か、占有の業務性、など諸点の関係を各自で表を作るなどして整理しておく。	140分
17	6/4	盗品等に関する罪		盗品等に関する罪の意義を明らかにし、その保護法益に関する議論をながめ、同罪が規定する各種の類型の内容と問題点を検討する。
		この回の到達目標	盗品等に関する罪がおかれている趣旨をふまえ、その保護法益を説明し、同罪を構成する各種類型の内容を述べ、本犯との関係を説明することができる。	
		事前学修	財産犯罪を抑止するために盗品等の買受行為などを厳しく処罰する必要があるのはなぜか、考えてみること。	120分
		事後学修	保護法益をめぐる議論、盗品等に関する各種犯罪類型の内容、本犯の共犯者による行為の取扱いについて整理し、自分の考えをまとめておく。	120分
18	6/5	毀棄・隠匿の罪		毀棄隠匿の罪について、その保護法益、犯罪類型の特徴、他の財産犯との関係などの諸点について検討を加える。
		この回の到達目標	毀棄隠匿の罪の内容と保護法益、構成要件の結果を説明し、判例の立場と問題点を明らかにして自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	器物損壊は他人の物を破壊等する財産侵害行為であって、物の効用を所有者から完全に奪う点に特徴がある。しかし刑罰は最高3年の懲役で、所有者による回復可能性を残す窃盗より相当軽い。この理由を考えて授業に臨むこと。	100分
		事後学修	物の破壊、隠匿等利用妨害、動物の殺傷など本罪を構成する様々な行為の態様を挙げ、分類・整理しておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/11	放火罪	放火罪が客体の別および公共の危険発生の別により詳細な規定を持ち、その刑罰の重い点などの特徴を有するものであることをふまえて、既遂時期、客体の把握方法等について検討を加える。	
		この回の到達目標	公共危険犯の典型としての放火罪の問題点を理解した上で、判例の立場を検討し、今日の建造物の構造と建材の特徴をふまえて妥当な見解を述べることができる。	
		事前学修	住宅等への放火に、死刑を含む殺人と同等の重い刑罰が予定されている理由はなぜか、自己の見解を述べられるよう考察しておくこと。	120分
		事後学修	客体の別により、各種放火罪が、具体的危険発生の要否、法定刑の大きな格差など細かにかき分けられていることを条文に即して確認・整理しておく。	120分
20	6/12	その他の公共危険犯等	騒乱罪、出水等に関する罪、往来妨害罪、および薬物濫用犯罪について検討する。	
		この回の到達目標	刑法が規定する騒乱罪、往来妨害罪などの公共危険犯の内容と問題点を、判例の態度をふまえて説明し、刑法典以外の罰則におよぶ薬物濫用犯罪の今日の課題を指摘することができる。	
		事前学修	麻薬などの規制薬物を自己に用いる行為は、直接他人向けられた加害行為と言い難い面を持つが、それにもかかわらず処罰の対象とされるのはなぜかを考えておくこと。	120分
		事後学修	薬物濫用行為の規制は、刑法典以外の法令に委ねられている部分がほとんどである。そこで、戦後の薬物規制立法の沿革と内容、現行法令の概要をまとめ、理解を深めておく。	120分
21	6/18	通貨偽造罪および有価証券偽造罪	通貨偽造罪、有価証券偽造罪について、その犯罪としての特徴、保護法益、構成要件の内容等について検討を加える。	
		この回の到達目標	通貨偽造罪の保護法益は何か、通貨の意義、偽造の概念と模造、偽造と変造、偽造行為と行使行為、目的犯であること、偽造罪・行使罪・交付罪・取得罪等について説明すること、また有価証券偽造についても同様に説明することができる。	
		事前学修	偽札を作ったり、勝手に人の名前の領収書を作ったりすることを、なぜ重い刑罰で禁止する必要があるのか。仮に、大量の偽札が出回る事態が起こったとして、それが何をもたらすのか。こうしたことを考察してみる。	140分
		事後学修	行使の目的とは何か、偽造と変造の違いは何か、偽造と模造との違いは何か、偽造と行使との関係はどうか、通貨の概念・有価証券の概念、こうしたことについて、自分自身納得がいくまで検討し、確認・整理しておく。	100分
22	6/19	文書偽造罪等	偽造の概念と、詔書偽造、公文書偽造、私文書偽造について、および印章偽造、電磁的記録不正作出、不正指令電磁的記録に関する罪等につき検討する。	
		この回の到達目標	文書偽造（有形偽造）と虚偽文書作成（無形偽造）との関係をふまえ、各種文書偽造罪の成立要件を正しく説明し、また電磁的記録不正作出罪等の文書偽造周辺の犯罪について説明することができる。	
		事前学修	他人の名義の文書を勝手に作ることと、内容虚偽の自分名義の文書を作ることとが区別され、私文書においては後者は処罰の対象とはならない理由はどこにあるか、自分なりの答えを出したうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	可視性・可読性、永続性、有形偽造と無形偽造、偽造と虚偽文書作成、公・私文書、有印・無印文書、権利・義務、事実証明に関する文書の概念等につき得心が行くまでテキスト等を読み込み、確認と整理を怠らない。	120分
23	6/25	わいせつ表現犯罪等	公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等の罪、重婚罪などの各種わいせつ犯罪について検討する。	
		この回の到達目標	公然わいせつ罪等のわいせつ表現犯罪と重婚罪等の保護法益の理解を前提に、これらの類型の内容と問題点を整理し、説明することができる。	
		事前学修	なぜ、わいせつな表現行為に刑法が介入する必要があるのか（刑罰をもって禁圧することが正当とされる理由は何か）、ポルノグラフィーなどを処罰することにより何を護ろうとしているのか、考えたうえで授業に臨むこと。	120分
		事後学修	公然わいせつ罪とわいせつ物頒布等の罪の刑罰に、大きな差異が設けられている理由は何かについて、各自、答案を書いてみる。	120分
24	6/26	風俗を害する罪	賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪について検討を加える。	
		この回の到達目標	賭博罪や礼拝所不敬罪などの犯罪について、その意義・保護法益をふまえ、内容と問題点を説明することができる。	
		事前学修	自分の金を賭けて賭博に参加することは、自身の財産を自己の意思で処分すること（もとより殆どの場合掛金を失うことになる）なので、刑罰をもって介入禁止する必要があるどこにあるのか、考えてみた上で授業に参加すること。	100分
		事後学修	賭博・富くじの罪、礼拝所・墳墓に関する罪の保護法益は何か、言い換えれば、これらの犯罪は誰の、どのような利益を侵害する犯罪なのか、という設問について答えを書いてみる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	7/2	職権濫用罪		公務員を犯罪主体とする罪としての職権濫用の罪について検討する。
		この回の到達目標	公務員による個人に対する加害行為を罰する職権濫用罪が、国家的法益に対する罪と位置づけられていることの意味を理解した上で、各種職権濫用罪の内容を説明し、問題点を明らかにすることができる。	
		事前学修	職権濫用罪の被害者は誰か、同罪はなぜ「汚職の罪」として位置づけられているのか、十分に考えた上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	職権濫用罪の成否が争われた事例について、そこでは何が争点とされ、裁判所はどのような判断を示したか、その判例の考え方は妥当なものかを論評してみる。	120分
26	7/3	賄賂罪		公務員を犯罪主体とする罪としての賄賂の罪について検討する。
		この回の到達目標	賄賂罪が、公務の公正さと公正さに対する国民の信頼を保護法益とする犯罪であることを説明し、各種賄賂罪の成立要件を明らかにし、職務関連性についての判例の態度とその理由を説明することができる。	
		事前学修	賄賂罪の被害者誰か、賄賂のやり取りは、どのような害悪をもたらすか、よく考えて自分なりの答えを得た上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	収賄罪構成要件の中核にある「職務関連性」をめぐる論点を整理し、わが国の判例がどのような事案について、いかなる判断を示してきたかを整理・分析しておく。	120分
27	7/9	公務執行妨害罪		公務を害する罪としての公務執行妨害罪の内容と問題点を検討する。
		この回の到達目標	公務執行妨害罪、職務強要罪、封印破棄・談合等の罪について説明し、とくに公務執行妨害罪に関する職務行為の適法性について自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	刑法は、公務執行中の公務員に暴力を振るったり脅迫を加えたりする行為を処罰しているが、これは何を保護しようとしているのか、この点について自分の考えをまとめた上で授業に臨むこと。	100分
		事後学修	公務執行妨害罪成立のためには、公務の外形を有することで足りるのか、それとも適法なものでなければならぬのか、適法性を要するとして、どの程度厳格に要求されるのか、業務妨害との関係はどうかを整理しておく。	140分
28	7/10	司法作用を害する罪		逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅、偽証等の刑事司法作用の適正円滑な働きを保護する犯罪を検討する。
		この回の到達目標	逃走の罪等刑事司法作用を保護する犯罪類型について説明し、これらの司法妨害関連犯罪の諸問題について、自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	勾留中の被疑者や、刑務所収容中の受刑者がそれら刑事施設から逃走することや、犯人を匿ったり証拠を消し去ったりすることが処罰されるのはなぜか、考えてみること。	120分
		事後学修	逃走、犯人蔵匿、証拠隠滅、偽証の各罪について、また捜査機関への不協力が犯人蔵匿罪に問われることがあるのか、冤罪を主張して逃走中の者の無実を信じて隠避する行為も同罪に問われるか等論点を整理し、確認する。	120分
29	7/16	国家の存立を脅かす罪		国家の存立を脅かす罪としての内乱および外患の罪について検討する。
		この回の到達目標	内乱に関する罪および外患に関する罪の意義と保護法益を明らかにし、これらに関する問題点について自己の見解を述べることができる。	
		事前学修	内乱罪は国の統治機構自体の破壊を指向する大規模な加害を想定した犯罪であるが、過去に本罪に問われた例はあるのか、調べてみること。	120分
		事後学修	内乱、外患の成立要件と、関連する各種の規定を整理しておく。	120分
30	7/17	国交に関する罪		外国国章損壊罪、私戦予備・陰謀罪、中立命令違反罪について検討する。
		この回の到達目標	国交に関する罪の意義と保護法益を理解した上で、外国国章損壊罪、私戦予備・陰謀罪、中立命令違反罪がおかれていることの意義を明らかにし、これらの罪の内容と問題点について説明することができる。	
		事前学修	衆人環視の中で外国の国旗を焼いたり、外国に敵対する軍事組織に所属して攻撃する準備を行ったりする行為は、それら外国の利益を保護するためのものなのか、考察した上で授業に臨むこと。	120分
		事後学修	刑法が国益を護るために定める各種国交に関する罪を整理し、その保護法益、成立要件等を確認する。	120分

科目名	刑法Ⅱ【法職課程】	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
法曹コース生向けの授業であるので、総合法コースの学生は同コースの刑法Ⅱをとること。

【授業方法】		
担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。定期試験の模範解答等を後日ポータルシステムで配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。		15	15	30	40							100
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	15	15	30	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2018	教科書	必携
刑法各論 第8版	西田典之著 橋爪隆補訂	有斐閣	2019	参考書	推奨
判例刑法各論 第7版	西田典之ほか	有斐閣	2018	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	刑法各論で学ぶべきこと	刑法総論と異なり、個々の刑罰法規をめぐる解釈論を展開するのが刑法各論である。その学ぶ心構えについて考える。	
		この回の到達目標	刑罰法規を解釈する意義、保護法益、法益侵害行為、時代の変化と刑法解釈について、説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。	120分
2	4/7	個人的法益に対する罪・総説	人の生命は最も重要な法益である。この法益をどのように保護するべきか考察する。	
		この回の到達目標	人の生命に対する罪の全体像を説明できるとともに、人の始期と終期について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
3	4/14	刑法による生命保護	殺人罪、同意殺人・自殺関与罪について考察する。欺罔によって得らえた被害者の同意の問題もここで扱う。	
		この回の到達目標	199条と202条の区別について説明できる。積極的安楽死や治療中止について裁判例をふまえて説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	生命・身体に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）	120分
4	4/14	刑法による身体の保護（1）	暴行罪、傷害罪、傷害致死罪を中心に、刑法が人の身体をどう保護するべき考察する。	
		この回の到達目標	傷害概念について説明することができる。結果的加重犯としての傷害罪と故意犯としての傷害罪について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
5	4/21	刑法による身体の保護（2）	同時傷害の特例、凶器準備集合・結集罪、自動車運転死傷処罰法について考察する。	
		この回の到達目標	同時傷害の特例の適用範囲、凶器準備集合等罪の保護法益、危険運転致死傷罪について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
6	4/21	生命身体に対する危険犯	人の生命身体に対する危険犯である遺棄罪について学ぶ。胎児の生命身体に対する危険犯である堕胎罪についても学ぶ。	
		この回の到達目標	危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）と侵害犯について説明できる。遺棄概念について説明できる。胎児性致死傷について論評できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/28	身体的内密領域に対する罪	平成29年に性犯罪が抜本的に改正された。ただし今も様々な議論が交わされている。新設された犯罪類型とその問題点について考察する。	
		この回の到達目標	性犯罪の保護法益、強制性交等罪、監護者わいせつ・性交等罪について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
8	4/28	自由に対する罪	生命や身体について、人間が生きる上で重要な法益が自由である。自由という法益の特質をふまえながら、脅迫罪、強要罪、逮捕監禁罪、略取誘拐・人身売買罪について考察する。	
		この回の到達目標	それぞれの構成要件について説明することができる。離婚協議中の親による子の奪い合いについて説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
9	5/5	個人の私的領域を侵す罪	住居侵入罪や秘密侵害罪について学ぶ。住居侵入罪は他の犯罪と随伴して行われることが多く、解釈論上の重要な論点も存在している。秘密侵害罪の守備範囲についても考察する。	
		この回の到達目標	住居侵入罪の保護法益をめぐる議論状況を説明することができる。秘密漏示罪の処罰範囲について説明ができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
10	5/5	社会的活動の主体としての人の保護	名誉、信用、業務に対する罪について学ぶ。とくに名誉毀損罪における公共の利害に関する場合の特例（230条の2）は名誉の保護と言論の自由の尊重とをどう調和させるかが課題となる。	
		この回の到達目標	名誉毀損罪、信用毀損罪、業務妨害罪について説明することができる。刑法230条の2の法意について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
11	5/12	財産犯総論	財産犯に共通する基本概念（財産と財産上の利益、財産犯の保護法益、不法領得の意思、占有概念）について学ぶ。	
		この回の到達目標	財産犯に共通する基本概念について説明することができる。財産犯の体系について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
12	5/12	窃盗罪と不動産侵奪罪	窃盗罪や不動産侵奪罪、親族相盗例について学ぶ。	
		この回の到達目標	窃盗罪や不動産侵奪罪の構造について説明できる。親族相盗例の適用範囲について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/19	強盗罪	強盗罪の罪質、1項強盗と2項強盗に関わる問題、事後強盗罪および昏睡強盗について学ぶ。さらに240条の擬律に関する問題も学ぶ。	
		この回の到達目標	強盗罪の構成要件について説明できる。事後強盗罪の構造について説明できる。240条の適用範囲について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
14	5/19	詐欺罪と恐喝罪	被害者の財産処分行為を介することにより成立する詐欺罪と恐喝罪について学ぶ。とくに詐欺罪に関する最近の裁判例について考察する。	
		この回の到達目標	詐欺罪の構成要件について説明することができる。詐欺罪に関する最近の裁判例について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
15	5/26	横領罪と背任罪	横領罪と背任罪の構造について学ぶ。	
		この回の到達目標	横領罪と背任罪の構成要件を説明することができる。両罪の類似点と相違点について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
16	5/26	盗品等に関する罪	いわば財産犯を補強する盗品等関与罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	盗品等関与罪の保護法益について説明できる。盗品等関与罪の類型について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
17	6/2	毀棄・隠匿罪	窃盗罪に次いで認知件数が多い器物損壊罪をはじめ各種毀棄・隠匿罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	毀棄・隠匿罪の保護法益について説明できる。毀棄隠匿罪の類型について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
18	6/2	社会的法益に対する罪・騒乱罪	社会的法益に対する罪の特徴について学ぶとともに、騒乱罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会的法益に対する罪の全体像について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/9	放火罪	現住建造物等放火罪、非現住建造物等放火罪、建造物等以外放火罪、その他放火に関係する罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	放火罪の類型、放火罪の保護法益、焼損概念、建造物の一体性について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
20	6/9	往来を妨害する罪	交通妨害および交通危険に関する罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	往来を妨害する罪の類型について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
21	6/16	通貨偽造罪	通貨偽造罪、偽造通貨行使罪、外国通貨偽造罪など、偽造通貨等取得罪、取得後知情行使等罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	各犯罪の構成要件について説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
22	6/16	文書偽造罪	公文書偽造罪、私文書偽造罪を中心に文書偽造罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	文書偽造罪の保護法益について説明できる。その理解が偽造罪の成否にどう関係するか説明することができる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
23	6/23	有価証券偽造罪・印章偽造罪	有価証券や印章に対する信用を害する罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	有価証券偽造罪、印章偽造罪の構成要件について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
24	6/23	支払用カード電磁的記録に関する罪・不正指令電磁的記録に関する罪	現代社会において重要性が増している支払用カードの信頼に対する罪について学ぶ。いわゆるコンピュータウィルス作成等罪についてもここで学ぶ。	
		この回の到達目標	支払用カードへの保護の必要性について説明できる。コンピュータウィルス作成罪の構成要件について説明できる。	
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	6/30	わいせつの罪	風俗犯である公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等罪などについて学ぶ。
		この回の到達目標	両罪の保護法益について説明できる。表現・芸術の自由とのバランスを図るためにどうするべきかを説明できる。
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。120分
26	6/30	公務の執行を妨害する罪	公務執行妨害罪やその他の関係する犯罪について学ぶ。
		この回の到達目標	公務執行妨害罪により保護されるべき公務とは何かを説明することができる。公務の執行を妨害する罪の全体像について説明できる。
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。120分
27	7/7	逃走罪、犯人蔵匿および証拠隠滅の罪	司法作用に対する罪である、逃走罪、犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪などについて学ぶ。
		この回の到達目標	犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪の保護法益について説明することができる。
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。120分
28	7/7	偽証罪・虚偽告訴罪	国家審判作用の安全に対する罪について学ぶ。
		この回の到達目標	偽証の定義をめぐる見解の対立について説明することができる。
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。120分
		事後学修	偽証の定義をめぐる見解の対立について説明することができる。120分
29	7/14	職権濫用罪および賄賂の罪・総論	公務員による犯罪について、職権濫用罪について学ぶとともに、わいろに関する罪の基本概念も併せて学ぶ。
		この回の到達目標	職権濫用とは何かを説明することができる。賄賂に関する罪の基本概念（保護法益、「職務に関し」、「請託」、不正な職務）について説明することができる。
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。120分
30	7/14	賄賂の罪・各論	賄賂に関する罪の諸類型、贈賄罪について学ぶ。
		この回の到達目標	賄賂罪の諸類型について説明し、どのように処罰範囲が拡張されているかを指摘することができる。
		事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。120分
		事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）を履修していることが望ましい。刑法は罪刑法定主義が支配する法律であるから、六法は必ず持参されたい。特に刑法各論ではこまめに条文にあたる。

【授業方法】
担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案採点后に、講評をメールにて一斉送信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・各論	井田良	有斐閣	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	第一部月 9月14日	刑法各論で学ぶべきこと		個々の刑罰法規を解釈することの意義とは、私たちの日常生活における行為の自由が広狭することと連動している。このことの意味を考察する。	
		この回の到達目標	次のことについて、理解し説明することができるようになる。①刑罰法規を解釈する意義、②解釈における保護法益の重要性、③法益侵害行為を明確にすることの重要性。		
		事前学修	はしがき、第1章を読む。		
		事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。		
2	第一部金 9月18日	人の生命に対する罪（1）		人の生命は個人が人生を送るうえで最も重要な法益である。刑法は人の生命をどう保護しようとしているのか、その体系を学ぶ。	
		この回の到達目標	次のことを理解し説明することができるようになる。①人の生命に対する罪の全体像、②人の生命として保護されるのは何時から何時までか（始期と終期）。		
		事前学修	第2章を読む。		
		事後学修	人の始期と終期について説明せよ。		
3	第一部月 9月21日	人の生命に対する罪（2）		殺人罪は、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪とに分かれる。なぜこうした構図を用意しているのかを考察するとともに、両罪の区別に関する事例について学ぶ。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①199条と202条との区別、②暴行・脅迫・欺罔行為によって得られた被害者の同意の効力。		
		事前学修	第2章を読む。（2時間）		
		事後学修	人を欺いて自殺させる行為は何罪に該当するか。（2時間）		
4	第一部金 9月25日	人の身体に対する罪（1）		人の身体は、最も侵害されやすい法益であるとともに、身体の侵害を通じて行われる社会的行為も存在する（スポーツ、治療行為など）。身体に対する罪の基本概念を学ぶ。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①暴行概念、②傷害概念、③精神障害の扱い、④日常生活と暴行・傷害。		
		事前学修	第3章を読む。（2時間）		
		事後学修	精神障害は傷害に該当するか。（2時間）		
5	第一部月 9月28日	人の身体に対する罪（2）		暴行によって傷害さらには死亡に至ることは、よくあることである。こうした事態を想定している結果的加重犯の構造について学ぶとともに、同意傷害、度維持傷害の特例について触れる、	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①結果的加重犯、②同意傷害、③同時傷害の特例の射程範囲。		
		事前学修	第3章を読む。（2時間）		
		事後学修	結果的加重犯について説明せよ。（2時間）		
6	第一部金 10月2日	生命及び身体に対する危険犯		生命及び身体に対する危険犯について学ぶ。危険が生じただけでなぜ処罰されるのか、危険の判断基準をどうするべきかを念頭に置きながら、考察する。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）、②堕胎罪（胎児に対する罪であると同時に母体に対する罪でもあること）、③遺棄罪（遺棄概念、身分犯が置かれている理由）。		
		事前学修	第4章を読む。（2時間）		
		事後学修	危険犯とは何か。（2時間）		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10月5日	身体的内密領域に対する罪	刑法典が制定されて以来、約110年ぶりに性犯罪の規定が改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設された。性犯罪の処罰理由について考察する。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①性的自己決定権の内実、②強制性交等罪、強制わいせつ罪の構造、③監護者による性犯罪の構造。	
		事前学修	第5章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	性犯罪に関する旧規定と新規定の違いについて説明せよ。（2時間）	120分
8	第一部金 10月9日	自由に対する罪	憲法においては様々な自由が保障されているが、刑法の守備範囲は限定的である。いかなる自由をどのように保護するべきかを考察する。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①脅迫罪の保護法益、②強要罪の性格、③逮捕・監禁罪の保護法益、④略取誘拐・人身売買罪の保護法益。	
		事前学修	第6章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	逮捕・監禁罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
9	第一部月 10月12日	個人の私的領域を侵す罪	プライバシーの保護も憲法においては重視されているが、刑法におけるその保護はやはり断片的である。住居侵入罪と秘密侵害罪を中心に考察する。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①刑法の保護に値する「私的領域」とは何か、②住居侵入罪の保護法益、③秘密侵害の規制方法。	
		事前学修	第7章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる対立について説明せよ。（2時間）	120分
10	第一部金 10月16日	社会的存在としての人の保護（1）	社会的評価を受けながら私たちは日常生活を送っている。社会からの評価、信用を侵害する罪について考察する。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①名誉毀損罪の保護法益及び構造、②信用毀棄罪の保護法益、③業務に対する罪の保護法益。	
		事前学修	第8章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	名誉毀損罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
11	第一部月 10月19日	社会的存在としての人の保護（2）	名誉毀損罪に焦点を当て、真実性の錯誤をめぐる処理の在り方について考察する。刑法230条の2の意義をどう解するかが重要である。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①230条の2の沿革、②真実性の証明が失敗した場合の問題点、③言論の自由と名誉保護の調和点はどこか。	
		事前学修	第8章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	真実性の錯誤をどう考えるべきか。（2時間）	120分
12	第一部金 10月23日	財産犯総論（1）	財産犯に共通する論点について2回に分けて講ずる。	
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の体系、②故意犯処罰の原則が貫かれている意味、③財物と財産上の利益の区別。	
		事前学修	第9章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	財物と財産上の利益について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部月 10月26日	財産犯総論（2）		財産犯に共通する問題で、前回触れた以外の論点について講ずる。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の保護法益（占有説、本件説）、②不法領得の意思（利益窃盗不可罰の理由）、③占有概念。	
		事前学修	第9章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	財産罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
14	第一部金 10月30日	窃盗罪と不動産侵奪罪		窃盗罪と1960年代に新設された不動産侵奪罪について学ぶ。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①窃盗罪の構造（利益窃盗が不可罰であることの理由〔再確認〕、②不動産侵奪罪の構造、③親族相盗例の適用範囲。	
		事前学修	第10章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	不動産侵奪罪の特徴について説明せよ。（2時間）	120分
15	第一部11 月6日	強盗罪（1）		財産犯の中でも凶悪犯に分類される強盗罪について2回に分けて講ずる。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①強盗罪の構造、②1項強盗と2項強盗の違い、③事後強盗罪・昏睡強盗罪と強盗罪との区別。	
		事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	強盗罪の要件について説明せよ。（2時間）	120分
16	第一部月 11月9日	強盗罪（2）		強盗罪は財産だけでなく、被害者の生命及び身体をも危険にさらす犯罪である。240条はこのことを想定した規定であるが、法定刑が極めて重いため、適用範囲をどう画するかが問題となる。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①240罪の構造、②適用範囲をめぐる争い（機会説、手段説、折衷説）。	
		事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	240条の適用をめぐる見解の対立について説明せよ。（2時間）	120分
17	第一部金 11月13日	詐欺罪と恐喝罪		詐欺罪と恐喝罪はともに被害者の意思および行為に基づいて財産が行為者へ移転される罪である。詐欺罪については裁判例が活発な動きを見せている。そうした事案も踏まえて考察する。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①詐欺罪が既遂に至るための要件、②詐欺罪の処罰根拠、③権利行使と恐喝罪の関係。	
		事前学修	第12章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	ヤクザが、暴力団関係者の使用禁止の看板を掲げているゴルフ場を利用することは、2項詐欺罪に当たるか。（2時間）	120分
18	第一部月 11月16日	横領罪と背任罪		被害者との委託信任関係を裏切ってなされるのが横領罪と背任罪である。両罪の類似点と相違点を明確にするとともに、経済と両罪の関係をも考察する。
		この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①横領罪と背任罪の構成要件における共通点と相違点、②不法原因給付物と横領、③背任罪の本質・	
		事前学修	第13章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	横領と背任の区別について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部金 11月20日	盗品等に対する罪		財産犯の背後をカバーするのが盗品等に関する罪である。財産犯に対して刑法が二段構えをとっている理由を探る。
		この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①盗品等に対する罪の保護法益、②盗品等に対する罪の諸類型とその典型例。	
		事前学修	第14章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	盗品に対する罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
20	第一部月 11月23日	毀棄・隠匿の罪		財産を毀損する罪も財産犯のかなめの一つである。毀棄隠匿罪の存在理由について考察する。
		この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①毀棄及び損壊概念、②器物損壊罪の構造、③文書等毀棄罪の構造、④建造物損壊罪の構造。	
		事前学修	第15章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	器物損壊罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
21	第一部金 11月27日	社会的法益に対する罪・総説		以上は個人的法益に対する罪であったが、ここからは社会的法益に対する罪について学ぶ。社会的法益とは何かを明らかにするとともに、その一つである騒乱罪について触れる。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①社会的法益とは何か、②騒乱罪の構造。	
		事前学修	第16章、第17章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	公共危険罪とはどのような犯罪か。（2時間）	120分
22	第一部月 11月30日	放火の罪		放火の罪は社会的法益に対する罪の代表格である。比較的既遂に至りやすいため、放火罪の構成要件を正確に理解することが求められる。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①現住建造物等放火罪の構造、②非現住建造物等放火罪の構造、③建造物等以外放火罪の構造。	
		事前学修	第18章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	焼損概念について説明せよ。（2時間）	120分
23	第一部金 12月4日	通貨偽造罪		各種偽造罪についてここから学ぶ。偽造罪も社会的法益に対する罪であるが、その法益をどう解するかが重要である。
		この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①通貨偽造罪の保護法益および構造、②取得後知情行使等罪の射程範囲。	
		事前学修	第20章、第21章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	取得後知情行使等罪について説明せよ。（2時間）	120分
24	第一部月 12月7日	文書偽造罪		文書偽造罪について学ぶ。文書には様々な社会的機能があるが、何をもって偽造といえるかが問題となる。
		この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①文書偽造罪の基礎理論をめぐる対立、②公文書偽造罪および虚偽公文書作成罪の構造、③私文書偽造罪の構造。	
		事前学修	第22章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	文書偽造罪の基礎理論について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部金 12月11日	有価証券偽造罪	通貨や文書以外にも、社会的信頼が担保されなければならない客体がある。とりわけ経済取引に 関係する客体に対する偽造罪について学ぶ。	
		この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①有価証券偽造罪の構造、②支払用カード電磁的記録 の罪の構造、③不正指令電磁的記録に関する罪に対する構造。	
		事前学修	第23章、第24章、第25章、第26章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	ウィルス作成罪の意義について説明せよ。（2時間）	120分
26	第一部月 12月14日	風俗犯総説	風俗犯とは、社会集団の生活上の様々な仕方やしきたりを保護するためにあるが、ここでは性風 俗を侵害する罪について学ぶ。性風俗は日々変化し、芸術活動の制約にもつながる恐れがある。 調和点について考察したい。	
		この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①わいせつ罪の保護法益、②わいせつ概念の変遷、③ インターネットとわいせつ罪に関わる問題。	
		事前学修	第27章、第28章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	芸術作品とわいせつの罪の関係について説明せよ。（2時間）	120分
27	第一部金 12月18日	公務の執行を妨害する罪	公務の執行を担保するための犯罪について学ぶ。	
		この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①公務執行妨害罪の構造、②不正な公務も保護される のか、③職務強要罪の構造。	
		事前学修	第31章、第35条を読む。（2時間）	120分
		事後学修	公務執行妨害罪において保護される公務とは何か。（2時間）	120分
28	第一部月 12月21日	刑事司法作用に対する罪	刑事司法作用を保護する罪について学ぶ。保護法益や罪質をどうとらえるかにより、帰結が大き く変わりうる犯罪である。	
		この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①犯人蔵匿・証拠隠滅罪の構造、②偽証罪の保護法 益。	
		事前学修	第37章、第38章、第39章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	偽証の本質について説明せよ。（2時間）	120分
29	第一部金 12月25日	公務員による犯罪	公務員が主体となる犯罪について学ぶ。職権濫用罪と収賄罪、贈賄罪について学ぶ。	
		この回の 到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①職権乱用の概念、②収賄罪の保護法益、③収賄罪の 類型、④収賄罪の守備範囲。	
		事前学修	第40章、第41章を読む。（2時間）	120分
		事後学修	「職務に関し」の意義について説明せよ。（2時間）	120分
30	第一部月 1月18日	これまでの学びの振り返り	これまで学んできた刑罰法規について振り返るとともに、刑法の在り方について考える。	
		この回の 到達目標	4つの到達目標を確認しながら、復習する。	
		事前学修	これまでの学びをふりかえる（2時間）	120分
		事後学修	疑問のある点について復習する（2時間）	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	三隅 諒	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法Ⅰを履修中または履修済であることが望ましい。また、民法や商法の知識を使うことがある。

【授業方法】		
講義形式による。ただし、アクティブ・ラーニングというほどではないが、講義中に理解を促すため、質問をして発言を促すことがある。第2回以降の講義は、事前に配布するレジュメに沿って進める。教科書（判例集）もたびたび参照するので、必ず持参すること。なお、成績評価には含めないが、理解度を確認するために、不定期に小テストを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。					1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、試験後にポータルシステム等で共有する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
判例刑法各論（第7版）	西田典之ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
刑法（第3版）	山口厚	有斐閣	2015	参考書	推奨
刑法各論（第7版）	西田典之（橋爪隆補訂）	弘文堂	2018	参考書	任意
講義刑法学・各論	井田良	有斐閣	2016	参考書	任意
犯罪事実記載の実務（7訂版）	末永秀夫ほか	実務法規	2018	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、木曜日10:40～12:10。なお、開講時にメールアドレスを配布するので、時間内でも事前のアポイントを推奨する。反対に、アポイントがあれば、時間外でも随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 火4/7	刑法各論とは 各犯罪の動向について	刑事法学全体における刑法各論の位置づけを学修するとともに、刑法各論を理解するために必要な考え方について学修する。また、授業のスケジュールや成績評価の方法、参考文献の紹介も行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、刑法各論がどのような学問分野であるか、また刑法総論や刑事学・刑事政策との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書に指定した刑法各論の各教科書の冒頭部分を一読する。	120分
		事後学修	刑法各論という分野がどのような学問分野であるか、どのように学修するのが好ましいかを意識しつつ、参考書に指定した刑法各論の各教科書の冒頭部分を再読する。	120分
2	第二部 木4/9	財産犯総説 毀棄罪①（器物損壊） 横領罪①（遺失物横領）	刑法各論全体における財産犯の位置づけを学修するとともに、比較的単純な類型である器物損壊及び遺失物横領について学修する。	
		この回の 到達目標	財産犯の保護法益と各犯罪類型の位置づけを理解し、説明できるようにする。また、器物損壊及び遺失物横領について、保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
3	第二部 火4/14	窃盗罪①〔他人の財物〕	窃盗罪における「他人の財物」の意義について学修する。	
		この回の 到達目標	窃盗罪の典型的事例を理解し、「他人の財物」の意義に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
4	第二部 木4/16	窃盗罪〔窃取・不法領得の意思〕	窃盗罪における「窃取」の意義について、保護法益を踏まえて学修する。また、「不法領得の意思」の意義及び機能について、器物損壊等との対比を通じて学修する。	
		この回の 到達目標	窃盗罪の保護法益と「窃取」の意義、また「不法領得の意思」について、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
5	第二部 火4/21	強盗罪①（強盗罪）	強盗罪について、窃盗罪との対比を踏まえて学修する。	
		この回の 到達目標	強盗罪の保護法益と典型的事例を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
6	第二部 木4/23	強盗罪②（事後強盗罪・強盗致死傷罪）	事後強盗罪について、窃盗罪および強盗罪との関連を意識しつつ学修する。また、強盗致死傷罪について、非常に重い法定刑が用意されていることの趣旨を学修する。	
		この回の 到達目標	事後強盗罪の典型的事例を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、強盗致死傷罪の保護法益を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 火4/28	詐欺罪①〔欺く行為〕	詐欺罪における欺く行為について、窃盗との対比を踏まえて学修する。	
		この回の到達目標	詐欺罪の保護法益と典型的事例を理解し、欺く行為に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
8	第二部 木4/30	詐欺罪②〔交付行為〕	詐欺罪における交付行為について、窃盗との対比を踏まえて学修する。また、三角詐欺などの複雑な類型についても説明できるようにする。	
		この回の到達目標	詐欺罪の交付行為に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
9	第二部 火5/5	恐喝罪	恐喝罪について、強盗罪及び詐欺罪との対比を踏まえて学修する。	
		この回の到達目標	恐喝罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
10	第二部 木5/7	横領罪②（委託物横領罪）	横領罪について、窃盗罪及び遺失物横領罪との対比を踏まえて学修する。	
		この回の到達目標	委託物横領罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
11	第二部 火5/12	背任罪	背任罪について、横領罪との対比を踏まえて学修する。	
		この回の到達目標	背任罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
12	第二部 木5/14	毀棄罪②（器物損壊以外） 盗品等に関する罪	器物損壊等以外の毀棄罪について、器物損壊等との対比を踏まえて学修する。また、盗品等に関する罪について、他の財産犯との違いを意識しつつ学修する。	
		この回の到達目標	毀棄隠匿罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、盗品等に関する罪についても、保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 火5/19	財産犯まとめ	財産犯全体がどのような仕組みになっていたかを整理し、各犯罪類型を的確に位置づけられるようにする。	
		この回の到達目標	各種の財産犯について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、これまでに取り扱った各種犯罪類型に関する議論を整理し直しておく。また、参考書に指定した教科書の該当部分や記憶のあいまいな判例・裁判例についても一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
14	第二部 木5/21	殺人罪・傷害罪 堕胎罪	殺人（自殺関与含む）や傷害罪につき、刑法総論の知識との連動を意識しつつ学修する。また、堕胎につき、母体保護法の存在も意識しつつ学修する。	
		この回の到達目標	殺人・傷害罪と堕胎罪に関し、各種の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
15	第二部 火5/26	遺棄の罪	遺棄について、刑法総論の知識との連動を意識しつつ学修する。	
		この回の到達目標	遺棄罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
16	第二部 木5/28	逮捕・監禁の罪 強要・脅迫の罪	逮捕・監禁・強要・脅迫の各犯罪類型につき、いかなる自由の侵害を問題としているのかを意識しつつ学修する。	
		この回の到達目標	逮捕・監禁・強要・脅迫の各犯罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
17	第二部 火6/2	略取・誘拐の罪	略取誘拐の罪について、処罰範囲の拡張の沿革にも配慮しつつ学修する。また、住居侵入について、他罪との関係にも意識しつつ学修する。	
		この回の到達目標	略取・誘拐の罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
18	第二部 木6/4	性的自由に対する罪	性的自由に対する罪について、近年の法改正にも配慮しつつ学修する。	
		この回の到達目標	性的自由に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第二部 火6/9	住居侵入罪		住居侵入罪について、他罪との関係にも配慮しつつ学修する。
		この回の到達目標	住居侵入罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
20	第二部 木6/11	名誉に対する罪		名誉に対する罪について、憲法上の権利との対抗やプライバシーに対する保護の規制、民事上の責任との関係も意識しつつ学修する。
		この回の到達目標	名誉に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
21	第二部 火6/16	秘密漏示罪 業務・信用に対する罪		秘密漏示罪及び業務・信用に対する罪について、近年の法改正も意識しつつ学修する。
		この回の到達目標	秘密漏示罪と業務・信用に対する罪の各犯罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
22	第二部 木6/18	個人的法益に対する罪のまとめ 国家的・社会的法益総説		個人的法益に対する罪の全体について、財産犯も取り入れて整理する。また、国家的・社会的法益に対する罪と個人的法益に対する罪の違いについて学修する。
		この回の到達目標	各種の個人的法益に対する罪について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。さらに、個人的法益と国家的・社会的法益の違いを説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、これまでに取り扱った各種犯罪類型に関する議論を整理し直しておく。また、参考書に指定した教科書の該当部分や記憶のあいまいな判例・裁判例についても一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
23	第二部 火6/23	放火罪①〔建造物等〕		現住建造物等放火罪における現住建造物の意義を中心に、放火罪の客体について学修する。
		この回の到達目標	各種の放火罪の保護法益と典型的事例を理解し、放火の客体に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
24	第二部 木6/25	放火罪②〔焼損・公共の危険〕		放火罪における焼損と公共の危険の意義について、保護法益を踏まえて学修する。
		この回の到達目標	放火罪における焼損と公共の危険に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 火6/30	偽造罪①〔文書・作成者〕	偽造罪の類型を学修し、文書偽造罪における文書と作成者の意義について学修する。	
		この回の到達目標	各種の偽造罪の保護法益と典型的事例を理解し、偽造罪における文書と作成者に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
26	第二部 木7/2	偽造罪②〔偽造〕	文書偽造罪における偽造の意義について学修する。	
		この回の到達目標	偽造の意義に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
27	第二部 火7/7	公務執行妨害罪	公務執行妨害罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
		この回の到達目標	各種の公務を妨害する罪の保護法益と典型的事例を理解し、公務執行妨害に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
28	第二部 木7/9	司法作用に対する罪 職権濫用罪	司法作用に対する罪と職権濫用罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
		この回の到達目標	各種の司法作用に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、各犯罪ごとの解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、職権濫用罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
29	第二部 火7/14	賄賂罪	賄賂罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
		この回の到達目標	各種の賄賂罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
30	第二部 火7/16	まとめ	各犯罪類型が様々な利益の保護について占める位置づけを学修するとともに、生の事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択するための考え方を学修する。また、その考え方の表現方法についても学修する。	
		この回の到達目標	各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。	
		事前学修	レジュメを一読し、これまでに取り扱った各種犯罪類型に関する議論を整理し直しておく。また、参考書に指定した教科書の該当部分や記憶のあいまいな判例・裁判例についても一読する。	120分
		事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

科目名	計量政治学	担当者	窪田 悠一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本授業では、まず計量政治学における現象の捉え方の基本的立場や研究のプロセスについて議論を行い、その次に分析の基礎として政治現象の数値化を考察するとともに、データの集計や図表による表現方法を扱う。そして統計的な推定や検定の仕組みを概観しながら、多様な回帰分析の手法に取り組む。授業は各手法が用いられる場面や適用例を紹介しながら進められるが、実際のデータを用いたコンピュータによる演習が中心となる。これに加えて、授業で学んだ分析手法を自らの関心に合わせて応用できるようにするため、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマと分析に基づいた研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
本授業では、政治学的なテーマを中心に様々な社会現象を題材にして、1) それらに関するデータの計量的な分析手法を理解し、2) そうした分析を用いた学術論文や実務報告書を批判的に読みこなし、3) 自らが分析を行い、かつ結果を解釈することができるようになることを目指す。こうした分析・批判能力は、他の授業におけるレポートや卒業論文などの知的プロジェクトを遂行する上で必要不可欠であるだけでなく、卒業後における諸業務においても重要になってくるものと思われる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義及びコンピュータを用いた演習の形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、グループ・ディスカッションやグループ・ワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会科学などの基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。							3				
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見することができる。								3			
③	法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、より良い社会・共同体を創造するためにすべきこと着手することができる。									3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	研究論文及び最終発表	20	25	25								70
討論・発表等	研究計画発表	5	5	5								15
授業への参画度	(出席を前提とした) 講義中の積極的な発言と課題提出	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Rによる計量政治学	浅野正彦・矢内勇生	オーム社	2018年	教科書	必携
S t a t a による計量政治学	浅野正彦・矢内勇生	オーム社	2013年	参考書	推奨
社会科学のための計量分析入門	松田憲忠・竹田憲史	ミネルヴァ書房	2012年	参考書	任意
備考	a				

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	イントロダクション（シラバスの説明、授業計画）	浅野・矢内（R）： 第1章 計量政治学とは？	
		この回の到達目標	本授業で扱う内容の概要と進め方を理解する。	
		事前学修	実証的な政治分析や統計データの活用に関心をもって授業に参加すること。できれば教科書の該当箇所を目を通し、統計データ分析の方法と応用例、計量政治学の方法と射程について事前にある程度の情報を得ていることが望ましい。	120分
		事後学修	本授業で扱うテーマや課題の内容・量を振り返り、履修するか否かを決める。履修する場合は教科書を次回授業までに購入し、第1章を読み直す。また本授業で取り組みたい研究論文のテーマについて考え始める。その他、授業外で統計データ分析やその分析がどのように行われているかについて常に情報を得られるよう努める。	120分
2	第一部 月9/21	実証研究の基礎（政治学における実証研究、研究デザインと実施のプロセス）	浅野・矢内（R）： 第2章 研究テーマの選び方 第3章 理論と仮説	
		この回の到達目標	政治学における実証研究の基礎について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、政治学（社会科学）における実証研究とは何か、またそれがどのように行われるのかについて確認する。その際に、自分の興味・関心がどういったテーマにあるのかについて省察し、いかなるリサーチクエスションと仮説をたてることができるのかについて考える。	120分
		事後学修	統計データを用いた政治分析やその方法を振り返り、本授業で取り組みたい研究論文のテーマについて考えを進める。その際に、事前学習で考えたリサーチクエスションや仮説を見直し、どのように改善することができるかについて考察する。	120分
3	第一部 月9/28	政治現象の数値化（概念の定義・操作化、測定尺度）	浅野・矢内（R）： 第6章 記述統計とデータの可視化・視覚化	
		この回の到達目標	政治現象の数値化がどのようにされるのかについて理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、変数や尺度の種類について学ぶ。特に、カテゴリー（質的）変数（名義尺度、順序尺度）と量的変数（間隔尺度、比率尺度）の違いについて事前に把握する。またこれらの測定尺度がどのように使い分けられているのかについて考える。	120分
		事後学修	政治現象をいかに数字で表すのか、またその際に考慮すべき点について振り返る。また、これらを自らの研究テーマに照らし合わせて、どのような尺度を用いた変数が必要になるかを考えるとともに、入手・使用可能なデータセットがないか探してみる。	120分
4	第一部 月10/5	集計表とグラフ	浅野・矢内（R）： 第6章 記述統計とデータの可視化・視覚化	
		この回の到達目標	データの特徴を集計表やグラフによって効率的に表現することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、統計データの特徴・パターンを集計表やグラフによって表現する方法とそのバリエーションについて学ぶとともに、それらを用いた表現方法の目的と特徴について考える。	120分
		事後学修	授業で扱った集計表・グラフについて振り返ると同時に、統計ソフト上での出力方法を確認する。また他の表現方法について調べるとともに、自らが扱う予定のデータ・変数に適した表・グラフについて考える。その際にも、統計ソフト上での出力方法を可能な限り調べておく。	120分
5	第一部 月10/12	記述統計	松田・竹田： 第5章 分布の数値的要約	
		この回の到達目標	データの特徴を目的に応じた代表値によって効率的に表現することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通し、記述統計量の種類とその考え方について考える。特に、データの中心やちらばりを表す代表値の目的や種類について確認する。また、こうした代表値がどのように使い分けられているのかについて考える。	120分
		事後学修	授業で扱った記述統計量について振り返る。特に標準偏差や分散の概念について、授業資料と参考書の該当箇所を読み返して十分に理解する。また、統計ソフト上でのこれらの記述統計量の計算・出力方法について改めて見直しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部 月10/19	統計的推定（仮説検定、区間推定、標準誤差）	浅野・矢内（R）： 第7章 統計的推定 第8章 統計的仮説検定	
		この回の到達目標	統計的推定の基礎について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、記述統計と推測統計の違いについて考える。その際に統計的推定の考え方について予備知識を得るように試みる。特に、標本分布、確率分布、母平均の信頼区間、有意水準、棄却域などといった用語について確認しておく。	120分
		事後学修	仮説検定、区間推定、標準誤差といった概念を中心に統計的推定の考え方について、授業資料と教科書の該当箇所を読み返して十分に理解する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
7	第一部 月10/26	変数間の関連性の検定	浅野・矢内（R）： 第9章 変数間の関連性	
		この回の到達目標	変数間の関連性の考え方と検定のやり方を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、変数間に関係があるとはどういうことか、またその統計的な検定方法について考える。特に相関係数やカイ二乗検定といった検定の目的や方法の違いについて事前に把握し、それらが用いられる場面について考える。	120分
		事後学修	統計的推定に基づいた変数間の関係性に関する検定方法について振り返り、推測統計の考え方を復習する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
8	第一部 月11/9	研究計画発表会	研究論文の構想（リサーチ・クエスション、データ、期待する結論など）について報告する。	
		この回の到達目標	事前にまとめた研究論文の構想について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。	
		事前学修	研究論文の構想について資料を作成し、報告の準備を行う。	120分
		事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆に活用する。	120分
9	第一部 月11/16	研究計画発表会	研究論文の構想（リサーチ・クエスション、データ、期待する結論など）について報告する。	
		この回の到達目標	事前にまとめた研究論文の構想について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。	
		事前学修	研究論文の構想について資料を作成し、報告の準備を行う。	120分
		事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆に活用する。	120分
10	第一部 月11/23	回帰分析の基礎とバリエーション	浅野・矢内（R）： 第10章 回帰分析の基礎	
		この回の到達目標	回帰分析（最小二乗法）の基本的な考え方について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、回帰分析（最小二乗法）の目的と方法について事前に把握する。特に、これまでの分析や検定とどのように異なるのかについて考える。また、回帰分析が実際にどのような場面で用いられているのかについて調べる。	120分
		事後学修	回帰分析の目的について振り返り、これまで学んだ分析方法との違いを考える。また、最小二乗法の考え方を復習し、基本的なアイデアを確認する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
11	第一部 月11/30	単回帰と重回帰	浅野・矢内（R）： 第11章 回帰分析による統計的推定 第12章 回帰分析の前提と妥当性の診断 第13章 回帰分析の応用 第14章 交差項の使い方	
		この回の到達目標	単回帰分析と重回帰分析の違いや、様々な独立変数を用いた分析モデルの特徴について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を目を通し、単回帰分析と重回帰分析の違いについて考える。また、回帰分析による統計的推定の意味について事前に把握するとともに、最小二乗法を用いた回帰分析の前提とその妥当性の診断方法について確認する。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を振り返り、単回帰分析と重回帰分析の違いについて復習する。また回帰分析と統計的推定や仮説検定との関係について考える。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	第一部 月12/7	ロジスティック回帰分析	浅野・矢内： 第15章 ロジスティック回帰分析	
		この回の到達目標	ロジスティック回帰分析の特徴や応用例を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所に通し、最小二乗法を用いた回帰分析とロジスティック回帰分析との違いについて考える。その際に、回帰分析における統計的推定の意味を再確認する。また、回帰分析が実際にどのような場面で用いられているのかについて調べる。	120分
		事後学修	授業で扱った内容を振り返り、回帰分析（最小二乗法）とロジスティック回帰分析の違いについて復習する。またロジスティック回帰分析における統計的推定や仮説検定について考える。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分
13	第一部 月12/14	回帰分析の復習と個別チュートリアル	研究論文で用いるデータとその分析方法について報告する。	
		この回の到達目標	研究論文で用いるデータを用意するとともに、その分析に関するアイデアについて口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。	
		事前学修	自らの研究論文で用いるデータを収集・整備し、その準備状況について授業で報告できるよう用意する。	120分
		事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆・修正に活用する。	120分
14	第一部 月12/21	回帰分析の復習と個別チュートリアル/研究発表	研究論文で用いるデータとその分析方法について報告する／研究論文の概要について報告する。	
		この回の到達目標	研究論文で用いるデータを用意するとともに、その分析に関するアイデアについて口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる／研究論文の成果について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを今後の学習に活かすことができる。	
		事前学修	自らの研究論文で用いるデータを収集・整備し、その準備状況について授業で報告できるよう用意する／研究論文の成果について報告できるよう用意する。	120分
		事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆・修正に活用する／授業内で受けた質問やコメントを今後の学習にどのように活かすことができるかを考える。	120分
15	第一部 月1/18	研究発表	研究論文の概要について報告する。	
		この回の到達目標	研究論文の成果について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを今後の学習に活かすことができる。	
		事前学修	研究論文の成果について報告できるよう用意する。	120分
		事後学修	授業内で受けた質問やコメントを今後の学習にどのように活かすことができるかを考える。	120分

科目名	原価計算論Ⅰ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
製造業企業の製造活動について、工業簿記や原価計算の専門領域の基礎知識・計算技法を用いてその基本的な内容を学習する。日商簿記検定2級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定2級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。

【履修条件】
教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定2級に興味のある者。簿記原理を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。なお、続けて休むとプリントをもらえない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	簿記論で学んだ知識を土台にして、工業簿記と商業簿記との相違を専門的視点から理解することができる。				2	2						
②	製造活動と原価計算の必要性を専門的視点から理解することができる。				2	2						
③	工業簿記と原価計算に関する専門用語を理解し、説明することができる。				2	2	2					
④	製造活動の流れと勘定科目間の振替関係を専門的視点から理解することができ、かつ合理的に考察できる。					2	2	2				
⑤	生産形態により異なる原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。					2	2	2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
原価計算ガイダンス・第2版（ISBN:9784502278716）	柳田仁編著	中央経済社	2018年	教科書	必携
備考	初版は古い構成のため使用できません。第2版を必ず購入してください。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日4限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10金曜日	ガイダンス、簿記検定、電卓	工業簿記と商業簿記の違い及び受験可能な簿記検定を説明することによりこの科目を学ぶ意義を理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、学問としての工業簿記や原価計算について理解することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、この科目の意義を把握できるように準備すること。	90分
		事後学修	履修すると決めたら、教科書を購入し、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。	150分
2	4/17金曜日	工業簿記と原価計算の意義と目的	製造業を前提に、その経営活動を理解することで、工業簿記と原価計算の役割や存在意義を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、工業簿記と原価計算の意義と目的を理解することができる。	
		事前学修	教科書第1章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
3	4/24金曜日	原価の概念と原価計算制度	原価の概念と原価計算制度について、基本的な意味と役割を学ぶ。特に製造原価に関してはしっかりと理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、基本的な原価概念と原価計算制度について理解することができる。	
		事前学修	教科書第2章と第3章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
4	5/1金曜日	工業簿記の構造	工業簿記の構造について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工業簿記の全体の流れと振替関係を理解することができる。	
		事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
5	5/8金曜日	材料費の基本	材料費の分類、購入、消費額の計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、材料費の基本を理解することができる。	
		事前学修	教科書第5章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
6	5/15金曜日	材料費の応用	材料費の消費額の計算と予定価格法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、材料費の応用を理解することができる。	
		事前学修	教科書第5章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22金曜日	労務費の基本	労務費の分類、調整計算、支払額と消費額について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、労務費の基本を理解することができる。	
		事前学修	教科書第6章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
8	5/29金曜日	労務費の応用と経費	労務費の予定価格法と経費の計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、労務費の応用と経費の計算技法を理解することができる。	
		事前学修	教科書第6章と第7章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
9	6/5金曜日	製造間接費の計算と記帳	製造間接費の配賦計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費の配賦計算を理解することができる。	
		事前学修	教科書第8章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
10	6/12金曜日	製造間接費の予定配賦	製造間接費の予定配賦について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費の予定配賦を理解することができる。	
		事前学修	教科書第8章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
11	6/19金曜日	原価の部門別計算の基本	原価の部門別計算の計算プロセス全体を理解し、そのうち第1次集計段階について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価の部門別計算の基本を理解することができる。	
		事前学修	教科書第9章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
12	6/26金曜日	原価の部門別計算の応用	原価の部門別計算の計算プロセスのうち第2次集計段階と第3次集計段階について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価の部門別計算の応用を理解することができる。	
		事前学修	教科書第9章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3金曜日	個別原価計算	個別原価計算について、その意義と計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、個別原価計算を理解することができる。	
		事前学修	教科書第13章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
14	7/10金曜日	製造原価報告書の基本	実際配賦を前提にした製造原価報告書の基本について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。授業内試験について伝達する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造原価報告書の構造を理解することができる。	
		事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
15	7/17金曜日	授業内試験実施とその解説	授業内試験（60分）と試験の解説（25分）および後期に向けて（5分）	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
		事前学修	授業内試験に向けた準備をしておくこと。	180分
		事後学修	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	原価計算論Ⅱ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
製造業企業の製造活動について、原価計算論Ⅰで学習した内容を土台にして、工業簿記や原価計算の専門領域の応用知識・計算技法を用いてその発展的内容を学習する。日商簿記検定２級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定２級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。

【履修条件】
教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定２級に興味のある者。簿記原理を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（８桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。なお、続けて休むとプリントをもらえない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	工業簿記と原価計算に関する専門用語を理解し、説明することができる。					2	2	2					
②	製造活動の流れと勘定科目間の振替関係を専門的視点から理解することができ、かつ合理的に考察できる。						2	2	2				
③	生産形態により異なる原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
④	原価管理概念とそれに役立つ原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
⑤	短期利益計画概念とそれに役立つ原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についている かを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】	
テスト実施後に講評・解説を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
原価計算ガイダンス・第2版 (ISBN:9784502278716)	柳田仁編著	中央経済社	2018年	教科書	必携
備考	前期の原価計算論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。				

【オフィスアワー】	
非常勤講師ゆえ、金曜日4限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18金曜日	前期の復習、製造間接費配賦差異の細分析	夏休みをはさんだので、思い出してもらうために前期の復習を確認する。製造間接費配賦差異の細分析について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、前期の学習内容の振り返りを行うことができる。製造間接費配賦差異について、更なる分析を理解することができる。	
		事前学修	前期で学んだことを復習しておくこと。	120分
		事後学修	日商簿記2級受験希望者は、勉強の計画を立てること。それ以外の学生は、配付したプリントを復習しておくこと。	120分
2	9/25金曜日	日商簿記2級レベルの製造原価報告書、損益計算書	日商簿記2級レベルの製造原価報告書と損益計算書について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、日商簿記2級レベルの製造原価報告書と損益計算書について、理解することができる。	
		事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
3	10/2金曜日	総合原価計算の基礎（単純総合原価計算）	単純総合原価計算を前提に、総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、総合原価計算の基本的な計算手続きについて、理解することができる。	
		事前学修	教科書第10章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
4	10/9金曜日	総合原価計算の応用（減損・仕損）	単純総合原価計算を前提に、減損や仕損が生じた場合の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、減損や仕損が生じた場合の総合原価計算の計算手続きについて、理解することができる。	
		事前学修	教科書第10章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
5	10/16金曜日	工程別総合原価計算	工程別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工程別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書第12章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
6	10/23金曜日	組別総合原価計算	組別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、組別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書第11章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30金曜日	等級別総合原価計算	等級別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級レベルの総合原価計算の問題を解くことで、総合原価計算の理解を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、等級別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書第11章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習すること。	120分
8	11/6金曜日	標準原価計算の基礎、標準直接材料費差異	標準原価計算の役割と基本的計算方法を学ぶことができる。さらに、標準直接材料費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価計算の計算方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書第14章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
9	11/13金曜日	標準直接労務費差異、標準製造間接費差異	標準直接労務費差異と標準製造間接費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価差異の細分析について理解することができる。	
		事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
10	11/20金曜日	標準製造間接費差異	標準製造間接費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級レベルの標準原価差異の総合問題を解くことで、標準原価差異の細分析の理解を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価差異の細分析について理解することができる。	
		事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
11	11/27金曜日	標準原価計算の記帳	標準原価計算の記帳方法であるパーシャルプランとシングルプランについて、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価計算の記帳方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
12	12/4金曜日	直接原価計算の計算構造	直接原価計算の計算構造について、全部原価計算と比較して学習することができる。さらに、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、直接原価計算の計算構造について理解することができる。	
		事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11金曜日	短期利益計画とCVP分析	短期利益計画とCVP分析について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、CVP分析について理解することができる。	
		事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
14	12/18金曜日	CVP分析と原価予測の方法	原価予測の方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。さらに、CVP分析に関しては、日商簿記2級レベルの問題を解くことで、さらなる理解を深めることができる。授業内試験について伝達する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価予測の方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
15	12/25金曜日	授業内試験の実施とその解説	授業内試験（60分）、試験の解説（25分）、日商簿記2級受験のアドバイス（5分）	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
		事前学修	試験に向けた準備をしておくこと。	180分
		事後学修	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	現代行政論Ⅰ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近年、行政と民間セクターの間にあって、公共的課題解決のために不可欠となっている住民参加、官民協働、NPO、ソーシャルビジネス等の諸要素を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、近年、民間セクターを巻き込んで、ネットワーク化が急速に進展する現代行政の特質や運営実態等を当面の諸課題との関連の中で学び、諸アクターの中で調整・交渉を経て課題解決に結びつけるための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会人として、公共政策課題の解決に当たって官のみに頼らず自助・共助を基本とする行動ができる。						2						
②	官民連携、NPO法人との協力の必要性を専門的観点から理解し、説明できる。							2					
③	一見複雑な社会事象を公共政策学のツールを活用して論理的・科学的・合理的に考察することができる。								2				
④	地域社会の抱える諸課題を自ら積極的にコミットすることで具体的に考察することができる。									2			
⑤	より良い地域社会の構築のために官民連携の在り方はどうすべきか説明できる。										2		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標②～⑤について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。		20	20	20	20						80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	20	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特定非営利活動法人制度 テキストブックNP0第2版 日本のソーシャルビジネス ネス 公民連携白書	特定非営利活動法人 制度研究会	商事法務	2015	参考書	推奨
テキストブックNP0第2版	雨森 孝悦 編	東洋経済新社	2017	参考書	任意
日本のソーシャルビジネス	日本政策金融公庫総合 研究所	同友館	2015	参考書	任意
公民連携白書	東洋大学PPP研究セン ター	時事通信社	各年	参考書	任意
非営利組織の経営	P. ドラッカー	ダイヤモンド社	1991	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス及び官民連携（PPP）総論	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②PPPとは何かを概略的に学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現代社会において、公共課題解決の担い手が行政のみにとどまらず、民間企業、各種法人、住民等にまで広がりを見 せている理由はなにか、官民はどのように連携すべきか、その政策的意義は何か等について説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②参考文献の目次・序文等に一通り目を通し、授業テーマの概略を把握しておく。③（各回共通）日頃より新聞・ニュースの政治・行政関連記事は常にフォローしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	4月15日	官民連携の諸相①（PFIの基礎概念）】	PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）による公共施設整備等の考え方・制度等を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、公共的な事業に民間資金を導入するPFIの意義とは何か、なぜそれが必要なのか、民間企業等なぜ資金を投じて公的分野に参入するのかを理解して説明できる。	
		事前学修	指定された文献等によりPFIの仕組み・運営実態等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	4月22日	官民連携の諸相②（PFIの事例1：刑務所等）	公権力行使の典型である矯正事業に民間企業が参入する意義は何か。運営の実態はどうなっているのか具体的事例に基づき学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、刑務所の民営化はなぜ可能か、民間企業はどのように刑務所の運営に参画できるのかの学修を通じて、官民の役割分担の在り方、PFIの本質とは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献、公式ウェブサイト等により矯正施設におけるPFIの仕組み・運営実態等の概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておくこと。	120分
4	4月29日	官民連携の諸相③（PFIの事例2：空港・道路等）	PFIの一手法として近年注目を集めているコンセッション方式など巨大インフラに対するPFI手法を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、なぜ多額の赤字を計上してきた空港事業等に民間企業が参入するのか、その意義・制度の仕組み・実態等を理解し、説明することができる。	
		事前学修	指定された文献・公式ウェブサイト等により関西国際空港や仙台空港の「経営主体」はどこか、その経緯はどうであったかなどの概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	5月6日	官民連携の諸相④（PFIの事例3：上下水道・公園等）	最近のPFI等では、住民の健康・生活に直結するライフライン関連事業等もその範囲に含まれつつある。本講ではこうした事業の実例を取り上げ、その実情を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、ライフライン関連事業の民営化の意義と、事業運営の安定性・サービス品質等の懸念への対応等について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された文献・最近の新聞報道等により水道の民営化をめぐる議論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	5月13日	官民連携の諸相⑤（第三セクター、指定管理者制度、市場化テスト）	第三セクター等すでに定着した官民連携の各種仕組とその実態・問題点を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、自治体の施設運営等は現在その多くが 公務員以外の民間主体により実施されている実態を理解し、その改善点等 を考察、説明することができる。	
		事前学修	受講者が日常的に行政の現場で接する職員は、いわゆる「公務員」なのか、それとも「民間」の職員なのか、可能な 限り事例を収集し、授業内で説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	官民連携の諸相⑥（住民意見の把握と社会的合意形成）	政策決定への住民参加の仕組みとして活用されているワークショップ、住民協定、パブリックコメントなどについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、近年の政策決定過程において説明責任（アカウンタビリティ）が問われるのみならず、住民等の具体的な参画の程度が重要になってきていることを理解し、その具体的な活用方策を考察し説明することができる。	
		事前学修	受講者の居住自治体の公式ウェブサイト等を調べ、住民の意見を行政に反映させる手段としてどのようなものが用意されているか 調べ、授業内で説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	5月27日	官民連携の諸相⑦（住民参加・外国事例）	住民が実際に公共政策実施の現場に参加する事例として 住民による税金の使途決定制度、小規模工事等への直接参加などを学ぶ。併せて諸外国の官民連携事例として ドイツのシュタットベルケなどの仕組みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、政策決定への参加にとどまらず、住民が執行過程等にも加わることの意義・重要性等について理解し、説明することができる。	
		事前学修	住民が政策決定・実施に直接参画する制度・手段としてどのようなものがあるか、行政学・地方自治論のテキスト等 で学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	6月3日	NPO論①（総論・現状）	NPO法人（特定非営利活動法人）をはじめとする非営利組織とは何か、その概念・制度・機能等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、NPOと営利組織との違いは何か、NPO等が近年、新たな公共的アクターとしてクローズアップされてきた理由は何かを説明することができる。	
		事前学修	受講者の身近な地域社会にあるNPO法人等の概容を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	6月10日	NPO論②（各分野でのNPOの活動1）	高齢者福祉、障害者支援、不登校など教育問題、子育て支援などの領域におけるNPOの活動実態と課題等について学習する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、いわゆるヒューマンサービスの特性を理解した上で、なぜこの分野でNPO等が重要な役割を果たすのか、またこれら組織が機能を最大限に発揮するために克服すべき課題は何かを理解し、説明することができる。	
		事前学修	受講者の居住自治体における社会福祉施設等の運営主体にはどのようなものがあるか、複数事例に当たり、その類型を把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	6月17日	NPO論③（各分野でのNPOの活動2）	災害対応・コミュニティ再生、住民主体のまちづくり支援などの分野におけるNPOの活動実態と課題等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOの様々な活動実態を把握し、地域社会における自助・共助の観点からその意義を考察した上で、説明することができる。	
		事前学修	報道状況・各種文献等から災害時等におけるNPOの役割・重要性について考えをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	6月24日	NPO論④（ソーシャルビジネス・世界のNPO）	ソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について学習する。併せて米英仏の非営利組織の制度・現状等を日本と比較することによって、我が国NPOの問題点等を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「新しい公共」分野で発展が期待されているソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について説明できる。また、欧米の制度と比較して我が国NPO等の制度・実態等を分析し説明できる。	
		事前学修	「非営利」組織において事業収益の追求は許されるか？その意義とはなにか？あなたの考えをまとめ、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。また、国際的に著名なNPO・NGOの事例を調べておき、発表できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	NPO論⑥（NPO等のマネジメント1）	NPOのマネジメントに関し、特に重要なミッション（使命）論、リーダー論、意思決定手法、イノベーション手段などについて学習する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOにはなぜ一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求されるのか、NPOの特性に即して理解し、説明できる。	
		事前学修	受講者が所属組織（サークル・バイト先・ゼミなど）の運営・マネジメントについて感じている疑問や要改善点などについて感覚に頼らずに論理的に分析し、授業内で発言できるように考えをまとめておく	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	7月8日	NPO論⑦（NPO等のマネジメント2）	前講に引き続き、NPOに特有のマネジメント方策として、各種ステークホルダー（利害関係者）との対外関係管理、職員・ボランティア等に係るチーム作り、財務管理等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、特にNPO等の対外・対内関係の重要性につき、具体的事例に即して論理的に説明できる。	
		事前学修	人材マネジメント論・リーダーシップ論などの文献に目を通した上で、「自分がNPO職員だったら」という当事者意識をもって授業に参加できるようにする。	120分
		事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	7月15日	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	現代行政論Ⅱ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
講義前半では、公共政策を実際に担当する公務員の勤務状況の実態・問題点・改善方向などを学ぶ。講義後半では具体的に公務員が働く現場で政治サイドと公務員がどのように関係し、影響し合うのかを歴史的変遷・立法過程における実例などを通して学び、我が国政治行政システムの特性を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、公共分野におけるアクターがどのような実態にあり、いかなる原理で機能しているのか理解した上で、具体的な課題解決場面で能動的に行動できる能力を修得する。併せて将来の職業生活においてあるべき働き方とは、どのようなものなのか自ら判断でき実生活を構築できる能力を修得するとともに、将来の職場勤務環境等に係る構想力・提案力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公務員制度の理解の上で、公務員に求められる倫理とは何か説明できる。						2						
②	公務員法制・働き方の仕組みなどを専門的観点から理解し説明できる。							2					
③	政官関係の現状などを論理的・科学的・合理的に説明できる。								2				
④	現代行政に求められる改善点を自らの分析に基づき考案し、説明できる。									2			
⑤	現場・実地調査の必要性を理解し、調査計画を立てることができる。										2		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉でき説明できているかを筆記試験により評価する。		20	30	30							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	30	40	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公務員人事改革	村松 岐夫 編著	学陽書房 第一法規 小学館新書 ちくま新書	2018	教科書	推奨
現代日本の公務員人事	河合 晃一 他	第一法規	2019	参考書	推奨
官僚たちの冬	田中 秀明	小学館新書	2019	その他	推奨
政治主導－官僚制を問い直す	新藤 宗幸	ちくま新書	2012	その他	任意
首相支配－日本政治の変貌	竹中 治堅	中公新書	2006	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		勤務管理責任者、複数法律の実務責任者としての経験や、国家・与党との対応を行ってきた経緯などを踏まえて適宜講義素材を提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び公務員をめぐる議論の概況	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現在、公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自でメディア論調等を確認して、公務員の現況に関する考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	9月23日	国家公務員制度	国家公務員法、一般職員給与法を中心に公務員法制の概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国家公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献等により国家公務員制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	9月30日	国家公務員の働き方改革 1	我が国において「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」が重要課題となった理由・背景事情を学ぶ。さらに公務員特有の事情が長時間労働・非効率な働き方に拍車をかけている状況を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国家公務員の勤務実態及びこれに対する改革への取り組み状況を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	10月7日	国家公務員の働き方改革 2	国家公務員の働き方改革のため取り組まれている具体的方策を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フレックス・タイム制、テレワーク、IT化等による業務効率化、管理職の意識改革・マネジメント能力向上等の諸方策について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	10月14日	女性公務員をめぐる現状	我が国の働き方改革の中でも特に課題となっている「女性活躍」及び「女性公務員」をめぐる諸論点について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、「女性活躍」について、その意義・重要性、女性登用が遅れてきた理由、現在取り組まれている対策等について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	10月21日	地方公務員をめぐる議論の概況	地方公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、現在、地方公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、地方公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、地方公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	地方公務員制度	地方公務員法を中心とする法制度の概要について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	11月11日	地方公務員の働き方改革 1	地方公務員の勤務実態、働き方改革のための取組を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員の勤務実態及びその改革方策について説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	11月18日	地方公務員の働き方改革 2	地方公務員の「やり甲斐喪失」、「士気低下」等の背景事情として地方公務員独自の要因があることを学習する。さらに最近、特に深刻化が指摘される教員の長時間労働等の勤務実態について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員特有の構造的問題とこれを解決するための方策について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	11月25日	政官関係をめぐる諸議論	最近の「官邸主導論」に代表される政官の在り方論に関し、どのような議論が行われているのか学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、政官関係に係る最近の議論の特徴を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	12月2日	政官関係の基礎理論	政治行政分離論・融合論などの様々な見解や、本人・代理人理論等の分析ツールを学ぶとともに過去の「政治主導」への試みを概観し、その功罪を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、様々な分析ツールを活用することにより、我が国の政治行政関係をめぐる諸論点を多角的に考察し、説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	12月9日	政治任用論	「政治任用」とは何か、その機能・問題点は何か、我が国における政治任用の態様はどうかを学習する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、昨今取り沙汰される公務員の「政治化」の問題点とは何か等を具体的事例に即して論理的に説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	諸外国の政官関係	米英独仏の公務員制度を概観し、それぞれの政官関係・政治任用の在り方の違いについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、各国間の政官関係・政治任用形態の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	12月23日	我が国政官関係の歴史的展開	戦前期我が国の政治任用制や戦後期のGHQによる公務員制度改革の概要等を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、なぜ我が国官僚制が今日みるような世界的にみても特異な姿 となったか、戦前との比較・GHQ改革の意義などを援用して説明できる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	1月13日	グループワーク等	立法過程における官僚の役割について、担当教員の法律実務・国会与党対応等の体験を素材に、これまでの講義内容も踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	事前配布するレジュメを読み込むとともに、これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	現代政治理論	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
原則として、「政治学原論」の履修を終えていることを求める。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施することがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験後に、ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代政治理論 新版	川崎修・杉田敦編	有斐閣	2012	教科書	必携
備考	必要に応じて、参考書籍を紹介することがある。				

【オフィスアワー】
月曜日14:40-16:10 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・政治理論を学ぶ意義	講義の流れや評価方法に関する説明／現代政治理論を学ぶ意義の学修	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治理論を学ぶ意義について説明することができる。	
		事前学修	このシラバスの内容を確認して、本セメスターの講義内容の概要を把握しておく。	100分
		事後学修	政治理論を学ぶ意味を考える。	140分
2	9/23	政治理論研究がめざすもの	現代政治理論の思考様式と方法論	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、現代の政治理論特有の思考様式について説明することができる。	
		事前学修	「政治学原論」の講義内容を復習しておく。	120分
		事後学修	教科書等を参考にしながら、講義内容全体を概観しておく。	120分
3	9/30	「政治」とは何か	権力や公共性といった概念を元にした「政治」という営為の意味の考察	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「政治」のいう人間の営みと社会におけるその意味について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第1章を確認しておく。	120分
		事後学修	教科書等も参考にしながら、講義内容を再確認する。	120分
4	10/7	権力	ミシェル・フーコーに代表される主要な権力理論	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、権力という作用が政治領域に留まるものではなく、社会の様々な領域に偏在していることを説明することができる。	
		事前学修	教科書の第2章を確認しておく。	120分
		事後学修	現実の社会に作用している権力を意識しながら、講義内容を再確認する。	120分
5	10/14	リベラリズムの歴史	ジョン・ロックやアダム・スミス、ジョン・ステュアート・ミルらによって展開されてきたリベラリズムの歴史	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ロックやスミス、ミルらによって形成されてきた様々なリベラリズムの理論を識別することができる。	
		事前学修	教科書の第3章を確認しておく。	120分
		事後学修	自由の概念的な変遷に注意しながら、講義内容を再確認する。	120分
6	10/21	現代社会・現代政治における自由	アイザイア・バーリンの2つの自由概念をはじめとする現代の主要な自由概念	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、現代における自由の意義について説明することができる。	
		事前学修	第5回講義の内容を振り返りながら、教科書第4章を確認しておく。	120分
		事後学修	自由の概念的な意味の変遷に注目しながら、第5回・第6回講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	政治において平等を追求する意味	ジョン・ロールズの『正義論』を中心とした、現代政治理論における平等概念	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ロールズの格差原理を理解した上で、現代政治における平等の意味について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章を確認しておく。	120分
		事後学修	教科書や講義内容を参照しながら、ロールズの格差原理について復習する。	120分
8	11/11	デモクラシー	古代民主政からポリアーキーや討議デモクラシーといった現代のデモクラシー理論に至る、デモクラシー概念の変遷とそれに対する評価の変化	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、現代に至るデモクラシー概念の内容やそれに関する理論を学び、それぞれを識別して説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章を確認しておく。	120分
		事後学修	デモクラシー概念が変化してきた意味について考えながら、講義内容を再確認する。	120分
9	11/18	ナショナリズム	「ネーション」概念の誕生と、エルネスト・ルナンやベネディクト・アンダーソンらによるナショナリズムに関する議論／多文化主義や「承認」の政治	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「ネーション」概念の功罪を理解し、ナショナリズムに関する諸理論・諸分析を説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章を確認しておく。	120分
		事後学修	「ネーション」概念の功罪に注意を払いながら、講義内容を再確認する。	120分
10	11/25	フェミニズム	フェミニズムの政治理論およびその歴史	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、近代政治理論の本質的批判理論としてのフェミニズムの性格を理解し、その意義を説明することができる。	
		事前学修	教科書第8章を確認しておく。	120分
		事後学修	近代政治理論、とりわけリベラリズムの立脚点との相違を意識しながら、講義内容を再確認する。	120分
11	12/2	ケアの倫理	フェミニズムの議論の中から生まれたケアの倫理の理論的内容とそのアクチュアリティ	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、脆弱性に注目して人間像の再定義を主張しているケアの倫理の内容を理解し、現代社会におけるその意義を説明することができる。	
		事前学修	前回の講義内容（フェミニズム）を、再確認しておく。	120分
		事後学修	近代政治理論が前提としてきた人間像との違いに注意を払いながら、ケアの倫理の主張を考える。	120分
12	12/9	性と政治	セクシャリティに関する政治課題とセクシャル・マイノリティに対する差別問題	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、セクシャリティに関する政治的課題とセクシャル・マイノリティに対する差別に関する諸問題について説明することができる。	
		事前学修	第10回・第11回講義の内容を再確認しておく。	120分
		事後学修	人間の生におけるセクシャリティの意味を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	公共性	近代以降のデモクラシーに対する反省から生まれた現代の公共性論	
		この回の到達目標	到達目標の②③に関連して、近代以降のデモクラシーや市民社会、資本主義の問題点を踏まえた上で、現代の政治や社会における公共性の意義について説明することができる。	
		事前学修	第5回および第8回講義の内容を再確認し、近代以降のリベラル・デモクラシーについて復習しておく。	120分
		事後学修	様々な論者による公共性に関する見解を比較考察する。	120分
14	12/23	グローバリゼーション	国際政治に関する基本的理論／グローバリゼーションが政治に与える影響	
		この回の到達目標	到達目標の②③に関連して、グローバリゼーションの功罪について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第11章を確認しておく。	120分
		事後学修	ナショナリズムに関する議論を振り返りながら、グローバリゼーションの功罪の双方を考える。	120分
15	1/13	講義総括	ここまでの講義全体の総括と、現代政治理論を学ぶ意味の再確認	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治的事象を理論的に考えることの重要性を説明することができる。	
		事前学修	セメスター全体の講義内容を総復習しておく。	120分
		事後学修	これまでの講義内容を振り返り、政治理論を学ぶ意義について考える。	120分

科目名	現代政治理論	担当者	吉野 篤	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
特にないが、できれば1年次に政治学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
主として講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期中に数回程度、リアクションペーパーで履修学生の質問・意見を聴取し講義に反映させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験後にポータルシステムを使ってフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next教科書シリーズ 政治学』第2版	吉野篤編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	参考書その他の文献・資料は授業中に指示する。なお新聞報道を資料として可能な限り配布する予定。				

【オフィスアワー】
火曜日午前中 研究室（本館8階1807研究室）yoshino.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	政治理論とは何か、今後の授業計画	理論とは何か、とりわけ政治理論とは何かを大前提として開設し、前学期で取り上げる具体的内容の概要を示し、留意事項を伝える。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、政治理論の意味や意義を理解し、授業内容の全体像を理解し、注意すべき点、留意点などを把握することができる。	
		事前学修	国内外で問題となっている政治問題について関心を広げ、その経緯や現状を調べてみること。	120分
		事後学修	授業の全体像について理解し、テキストの該当箇所を確認し、整理すること。	120分
2	9/22	イギリス理想主義の政治哲学	20世紀のアメリカ政治学史を具体的に取り上げる前に、19世紀末のイギリスで思想的にも理論的にもおおきな影響を与えたオックスフォート学派の政治哲学について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、時代の転換期にあって、その時代的変容に対処しようとしたイギリスの政治哲学的英知について概要を認識できる。	
		事前学修	19世紀後半のイギリスが直面していた課題はどのようなものであったのか、事前に調べておくこと。	120分
		事後学修	国家とはどのような存在であり、個人と国家の関係はどうあるべきかを日本の現状から考えてみる。	120分
3	9/29	政治過程論の生成	20世紀初頭に現れたベントレーの政治過程論について具体的な特徴を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、科学としての政治学への重要なステップとしてこの政治過程論が位置づけられることを理解できる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、新しいアプローチの意味を考えておくこと。	120分
		事後学修	テキストにある参考文献に当たり、さらに政治過程分析について掘り下げること。	120分
4	10/6	政治学は科学として可能であるか	社会学者マンハイムの『政治学は科学として可能であるか』を紹介し、そこでの議論の要点を提示して、科学化への道程に関するヒントを探る。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、政治学の科学的性格を高めることについてのヨーロッパの英知とはどのような内容であったかの一端を理解できる。	
		事前学修	マンハイムの業績、知識社会学などについて関係資料で事前に調べておくこと。	120分
		事後学修	もう一度マンハイムの主張を整理し、政治研究の可能性や課題などについて整理すること。	120分
5	10/13	シカゴ学派の全体像	1920年代からのシカゴ学派の形成とその主要メンバーの主要な功績、ある程度共通する立場などについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、アメリカ政治学のこれ以後の基盤となったシカゴ学派の考え方を全体的に理解することができる。	
		事前学修	主要メンバーだったメリアムやラスウェルについてある程度の予備知識を仕入れておくこと。	120分
		事後学修	統領だったメリアムの考え方などをアメリカ政治学の参考書などで今一度整理すること。	120分
6	1020/	ラスウェルの政治的精神分析学	シカゴ学派の具体的研究例としてラスウェルの政治的精神分析学を取り上げ、科学化へのステップとして位置づけながら、その独自性について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、近隣の学問的成果を政治学に応用しようとした具体的事例として、その重要なステップであることを理解できる	
		事前学修	できる範囲で精神分析学の大まかな枠組みを調べておくこと。	120分
		事後学修	発展的に他のラスウェルの研究をフォローしてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	行動論政治学の台頭	第二次大戦後に興隆する行動論政治学について、その基本的特徴を中心に全体像を示す。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、シカゴ学派の基本的取り組みの延長線上に行動論的枠組みが生起し、大きなムーブメントとなったことを理解し認識できる。	
		事前学修	行動科学そのものについて予備知識的に概要を捉えておくこと。	120分
		事後学修	発展的に主要メンバーの主要研究成果についても調べてみること。	120分
8	11/10	政治システム論の展開	1950年代後半に提起されたイーストンによる政治システム論についてモデル図を参照しながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、このシステムが政治の一般理論的な性格をもっていたことを認識できるとともに、自然科学的枠組みが導入されていることを理解できる。	
		事前学修	システムのそもそもの意味を考えておくとともに、自然科学と社会科学の特徴を整理しておくこと。	120分
		事後学修	政治システム論の特質を整理し、合わせてそこにどのような課題を見出すことができるかを主体的に考えること。	120分
9	11/17	脱行動論革命の衝撃	1969年に提起された脱行動論革命が政治学界にいかなるインパクトを与えたか、また、その核心的意義はどのような点にあったかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、イーストンの演説内容がいかなる重要性をもっていたか、また、学問としての政治学を考えるうえで、いかに大きなインパクトを与えたかを認識でき、理解できる。	
		事前学修	アメリカの1960年代後半という時代はどのような時代であったのか、脱行動論革命を理解するための参考として調べておくこと。	120分
		事後学修	できればイーストンの政治体系論を丹念にあたり、改めてその理論枠組みを整理すること。	120分
10	11/24/	行動論以後の多様なアプローチ	1970年代以降の研究のいくつかのアプローチを提示して、研究の多様性を紹介し、行動論からの変容を跡付ける。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、政治哲学の復権をはじめとする研究分野の拡散について、その概要をつかむことができる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、新しいアプローチの意味を考えておくこと。	120分
		事後学修	各アプローチのもつ有意性について主体的に考えること	120分
11	12/1	政治制度研究の系譜：プラトン	制度研究が政治研究の王道であったという視点から、プラトンの政治哲学の中にある制度設計について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、プラトンの提起した問題意識が決して時代錯誤ではなく、現代の政治制度設計に関しても重要な視点を提供するものであることを理解できる	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、古代ギリシャの思想的営為について整理すること。	120分
		事後学修	できればプラトンの国家編を部分的にでも読み、古典に触れる機会とすること。	120分
12	12/8	マキャベリの統治術	君主論を中心として、マキャベリの政治概念の革新性について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、近代の政治概念の確立に果たしたマキャベリの功績を理解するとともに、マキャベリズムの真意に迫ることができる。	
		事前学修	15世紀後半のイタリアの置かれていた状況を整理し、マキャベリの政治理論的位置づけを認識することができる。	120分
		事後学修	国家理性という概念について整理し直し、マイネッケの研究などにも主体的に取り組むこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	規範的新制度論の考え方	新制度論の分析枠組みの総論としてマーチとオルセンによる議論を取り上げ、行動論の成果を踏まえて登場した新たな制度論について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、それまでの伝統的な制度論との比較を通じて、この考え方がどのようなインパクトをもつのかを理解することができる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、この考え方の枠組みを整理しておくこと。	120分
		事後学修	改めて制度の意味を多角的に整理してみること。	120分
14	12/22	歴史的新制度論の考え方	総論として分析の枠組みを示し、合わせて具体的な研究文献をもとに、より具体的な論理を示す。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、政治史と政治理論の接点となり、両者の融合の可能性を認識し理解できる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、考え方のアウトラインを捉えること。	120分
		事後学修	政治の歴史に理論的視点が導入されることの意味を改めて考えてみること。	120分
15	12/22	合理的選択新制度論・社会学的新制度論	経済学と政治学の接点、また、社会学と政治学の接点について考察する際の参考例としてふたつの分析枠組みを示す。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、隣接の学問分野が政治研究にとって有意になるケースの具体的な研究について一定の知見を得ることができる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、考え方のアウトラインを整理しておくこと。	120分
		事後学修	このような学際的研究についてさらに他の例があるか主体的に調べること。	120分

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる（第6回）。また、グループワークで映像表現について討論させる（第11回）。リアクションペーパーは、毎回書かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】					1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】						1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】						1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正當に解釈でき、説明できる。【知識】					1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】											1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】											1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】											1	
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを、映像表現についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べることができたか等の評定尺度により受講生同士が互いに評価する。(ピア評価)					10	5	5				20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	19	15	23				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8 水	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分
		事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	4/15 水	現代社会とメディアの関係	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
		この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分
		事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分
3	4/22 水	現代メディアの利用と環境	ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
		この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。	180分
		事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分
4	4/29 水	各業界 新聞①	第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
		この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる	
		事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分
		事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分
5	5/6 水	各業界 新聞②	第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
		この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分
		事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分
6	5/13 水	メディアの大衆化以前	映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
		この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分
		事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20 水	マスコミュニケーションの成立と近代	前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
		この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達して来たことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。	150分
		事後学修	前回提出のリポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。	90分
8	5/27 水	各業界 放送① 制度・構造・歴史	テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P. 75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
		この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。	150分
		事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。	90分
9	6/3 水	各業界 放送② WEB、動画配信と放送	テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P. 75～130	
		この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。	140分
		事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）	100分
10	6/10 水	各業界 放送③ テレビ放送と報道	映画『グッドナイト&グッドラック』を鑑賞、テレビ報道の機能を商業放送の根本理念との対立や、社会現象とメディアの関係を読み取る。権力監視・表現の自由とニュース関係を知る。	
		この回の到達目標	映画『グッドナイト&グッドラック』を見、ジャーナリズムの権力監視、表現の自由と圧力、商業放送の利益追求の対立をどう切り抜けて、事実の放送に到達するか、それぞれの立場を見て、どうあるべきかを到達目標①②③④⑤に関連し考察できる。	
		事前学修	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドパージ（red purge）とは何か日米の社会的背景を調べて理解しておく。	120分
		事後学修	番組放送に対すると圧力、あるいは名誉棄損訴訟といった放送にまつわる問題と権力監視、表現の自由、の例について具体的にWeb、書籍などで調べ代表例を列記しておく。	120分
11	6/17 水	前週見た映画について グループワーク	前回の映画「グッドナイト&グッドラック」を見て、○権力の監視機能、○商業放送、○弱者の声を聞く等のTVメディアの機能と社会の関係での問題点をグループ討議しお互いに評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦に関連し、前週に見た映画について、テレビメディアの機能と社会との関係を念頭に討論に参加し、意見を述べるができる。	
		事前学修	社会とTVメディアの関係について（権力監視・弱者の救済・企業との関係・経営問題等）過去の問題を調べ自らはどう考えるか、発言をする素地をノートなどに列記しておく。	180分
		事後学修	自らの発言だけではなく、他の学生の発言も取り入れて検討し、より適切な意見とするためにノートに記し、合わせて考察する。	60分
12	6/24 水	各業界 出版と広告 業界の概要	教科書P. 131～出版、P. 169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
		この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 131～出版、P. 169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。	150分
		事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1 水	各業界エンタテインメント	映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）	
		事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめておく。	150分
		事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。	90分
14	7/8 水	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。	2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
		この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。	
		事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういったことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。	140分
		事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	100分
15	7/15 水	授業内レポート及び解説	これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
		この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。	
		事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。	180分
		事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。	60分

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる（第6回）。また、グループワークで映像表現について討論させる（第11回）。リアクションペーパーは、毎回書かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】					1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】						1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】						1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正當に解釈でき、説明できる。【知識】					1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】											1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】											1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】											1	
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを、映像表現についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べることができたか等の評定尺度により受講生同士が互いに評価する。(ピア評価)					10	5	5				20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	19	15	23				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意
備考						

【オフィスアワー】
月曜～木曜日の13：00～18：00授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける（研究室）。対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16 水	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分
		事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	9/23 水	現代社会とメディアの関係	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
		この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分
		事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分
3	9/30 水	現代メディアの利用と環境	ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
		この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。	180分
		事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分
4	10/7 水	各業界 新聞①	第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
		この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる	
		事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分
		事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分
5	10/14 水	各業界 新聞②	第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
		この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分
		事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分
6	10/21 水	メディアの大衆化以前	映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
		この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。	
		事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分
		事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28 水	マスコミュニケーションの成立と近代	前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
		この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達して来たことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。	150分
		事後学修	前回提出のリポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。	90分
8	11/11 水	各業界 放送① 制度・構造・歴史	テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P. 75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
		この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。	150分
		事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。	90分
9	11/18 水	各業界 放送② WEB、動画配信と放送	テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P. 75～130	
		この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。	140分
		事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）	100分
10	11/25 水	各業界 放送③ テレビ放送と報道	映画『グッドナイト&グッドラック』を鑑賞、テレビ報道の機能を商業放送の根本理念との対立や、社会現象とメディアの関係を読み取る。権力監視・表現の自由とニュース関係を知る。	
		この回の到達目標	映画『グッドナイト&グッドラック』を見、ジャーナリズムの権力監視、表現の自由と圧力、商業放送の利益追求の対立をどう切り抜けて、事実の放送に到達するか、それぞれの立場を見て、どうあるべきかを到達目標①②③④⑤に関連し考察できる。	
		事前学修	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドパージ（red purge）とは何か日米の社会的背景を調べて理解しておく。	120分
		事後学修	番組放送に対すると圧力、あるいは名誉棄損訴訟といった放送にまつわる問題と権力監視、表現の自由、の例について具体的にWeb、書籍などで調べ代表例を列記しておく。	120分
11	12/2 水	前週見た映画について グループワーク	前回の映画「グッドナイト&グッドラック」を見て、○権力の監視機能、○商業放送、○弱者の声を聞く等のTVメディアの機能と社会の関係での問題点をグループ討議しお互いに評価する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦に関連し、前週に見た映画について、テレビメディアの機能と社会との関係を念頭に討論に参加し、意見を述べるができる。	
		事前学修	社会とTVメディアの関係について（権力監視・弱者の救済・企業との関係・経営問題等）過去の問題を調べ自らはどう考えるか、発言をする素地をノートなどに列記しておく。	180分
		事後学修	自らの発言だけではなく、他の学生の発言も取り入れて検討し、より適切な意見とするためにノートに記し、合わせて考察する。	60分
12	12/9 水	各業界 出版と広告 業界の概要	教科書P. 131～出版、P. 169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
		この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
		事前学修	教科書P. 131～出版、P. 169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。	150分
		事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16 水	各業界エンタテインメント	映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）	
		事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめておく。	150分
		事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。	90分
14	12/23 水	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。	2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
		この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。	
		事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういったことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。	140分
		事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	100分
15	1/13 水	授業内レポート及び解説	これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
		この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。	
		事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。	180分
		事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。	60分

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2						
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2					
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。										2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読してくること。	90分
		事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	90分
2	4/15	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
3	4/22	ジャーナリズムの歴史・教育・制度①	ジャーナリズム史について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
4	4/29	ジャーナリズムの歴史・教育・制度②	ジャーナリズム教育―ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
5	5/6	ジャーナリズムの歴史・教育・制度③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
6	5/13	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
8	5/27	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
9	6/3	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
10	6/10	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
11	6/17	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
12	6/24	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
14	7/8	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
		この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
		事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
15	7/15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
		事前学修	授業内試験の準備	160分
		事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	20分

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2							
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2						
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読してくること。	90分
		事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	90分
2	9/23	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
3	9/30	ジャーナリズムの歴史・教育・制度①	ジャーナリズム史について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
4	10/7	ジャーナリズムの歴史・教育・制度②	ジャーナリズム教育―ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
5	10/14	ジャーナリズムの歴史・教育・制度③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
6	10/21	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
8	11/11	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
9	11/18	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
10	11/25	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
11	12/2	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
12	12/9	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
		事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
14	12/23	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
		この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
		事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
15	1/13	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
		事前学修	授業内試験の準備	160分
		事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	20分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返り、グループ・ディスカッション等を実施します。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）、グループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を，後日，ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	授業案内・導入：憲法の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	9/16	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	9/22	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法総論	明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	9/23	人権総論：人権の類型／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，人権の類型，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
5	9/29	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145 を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
6	9/30	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，政教分離原則違反の違憲審査基準（目的・効果基準）を説明し，履修者が政教分離原則の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準を説明している教科書pp. 145-150を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	精神的自由権（3）：政教分離をめぐる判例	政教分離をめぐる判例（津地鎮祭訴訟，殉職自衛官合祀訴訟，箕面忠魂碑訴訟，愛媛玉串料訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，政教分離をめぐる主要判例に表れた法理を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，政教分離原則違反の違憲審査基準に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離をめぐる判例を説明している教科書pp. 150-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
8	10/7	精神的自由権（4）：学問の自由／内心の自由の総復習	学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明し，履修者が学問の自由の特質を理解できるようにする。また，これまでに学修した内心の自由全般に関する総復習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明している教科書pp. 161-165を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，学問の自由の意義・判例をノートにまとめ，これまでの学修を振り返って，内心の自由の特質を説明できるようにする。	120分
9	10/13	精神的自由権（5）：表現の自由	表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し，履修者が表現の自由の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明している教科書pp. 165-170を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
10	10/14	精神的自由権（6）：表現の自由をめぐる判例／知る権利	表現の自由をめぐる判例（チャタレイ事件，夕刊和歌山時事事件，月刊ペン事件，沖縄返還阻止闘争事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，表現の自由との関連で，知る権利・アクセス権の意義を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，表現の自由に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由をめぐる主要判例，知る権利・アクセス権の意義を説明している教科書pp. 170-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
11	10/20	精神的自由権（7）：取材・報道の自由／検閲の禁止	取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例（博多駅テレビフィルム提出命令事件，外務省秘密漏洩事件など），検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例（税関検査事件，家永訴訟，北方ジャーナル事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例，検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，取材・報道の自由，検閲の禁止を説明している教科書pp. 177-186を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，取材・報道の自由の意義・判例，検閲の禁止の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
12	10/21	精神的自由権（8）：集会・結社の自由／通信の秘密	集会・結社の自由，通信の秘密の意義及びそれをめぐる判例（皇居前広場事件，泉佐野市民会館事件，東京都公安条例事件，エンタープライズ寄港阻止闘争事件，宗教団体アレフ観察処分取消し請求事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，集会・結社の自由の意義・判例，通信の秘密の意義・判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，集会・結社の自由を説明している教科書pp. 187-200を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，集会・結社の自由，通信の秘密の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	経済的自由権（１）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	10/28	経済的自由権（２）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
15	11/10	経済的自由権（３）：その他の経済的自由権／経済的自由権の復習	居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明したのち、経済的自由権の総復習を行い、履修者が経済的自由権の全容を包括的に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明している教科書pp. 220-224を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、経済的自由権をめぐる論点をノートにまとめ、その意義や重要判例の概要・争点・判旨、関連する法制度の趣旨をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
16	11/11	身体的自由権（１）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
17	11/17	身体的自由権（２）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-241を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
18	11/18	身体的自由権（３）：刑事被告人の権利	刑事被告人の権利（証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 241-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	参政権：参政権と選挙制度	参政権の意義及びそれをめぐる判例（外国人地方参政権訴訟，在外選挙権制限違憲訴訟など），選挙の基本原則，選挙制度の概要，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を説明し，履修者が参政権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義及びそれをめぐる判例，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権の意義並びにそれをめぐる問題及び判例を説明している教科書pp. 320-326，124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，「法の下の平等」原則との関連において，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向をノートにまとめ，参政権の特質を説明できるようにする。	120分
20	11/25	受益権	受益権（裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権，請願権）の意義を説明し，履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，受益権の意義をノートにまとめ，受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
21	12/1	社会権（1）：生存権の法的性格	社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し，履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，社会権の意義，生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ，生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分
22	12/2	社会権（2）：生存権をめぐる判例／教育を受ける権利	生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，教育を受ける権利の内容を説明し，履修者がその特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解し，説明することができる。また，到達目標①②③に関連して，教育を受ける権利の内容及び特質を理解し，説明することができる。	
		事前学修	生存権をめぐる判例，教育を受ける権利を説明している教科書pp. 272-280を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，生存権をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，教育を受ける権利の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
23	12/8	社会権（3）：労働者の権利	勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を説明し，履修者が労働者の権利の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，勤労の権利，労働基本権を説明している教科書pp. 280-290を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の意義・内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例をノートにまとめ，労働者の権利の特質を説明できるようにする。	120分
24	12/9	包括的人権（1）：法の下の平等	「平等」思想の歴史，「平等」のさまざまな意味，憲法14条の意義を説明し，履修者が「法の下の平等」原則の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，憲法14条の「法の下の平等」原則の特質を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，「法の下の平等」の意義及び特質を説明している教科書pp. 107-114を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，「法の下の平等」原則の意義，憲法14条の差別禁止自由列举の意義をノートにまとめ，「法の下の平等」原則の特質を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	包括的人権（2）：平等原則違反の違憲審査基準／判	平等原則違反の違憲審査基準を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、「法の下 の平等」をめぐる判例（性別による差別に関する判例、尊属殺・尊属傷害致死重罰規定に関する 判例、非嫡出子法定相続分規定に関する判例）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理 解できるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下 の平等」をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平等原則違反の違憲審査基準及び「法の下 の平等」をめぐる判例を説明している教科書pp. 115-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノート にメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、平等原則違反の違憲審査基準をノートにまとめ、平等原則違反の違憲審査基準を説明でき るようにする。また、「法の下 の平等」をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明で きるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
26	12/16	包括的人権（3）：人権総論 と「法の下 の平等」の総復 習／個人の尊重と幸福追求 権	人権総論で扱った内容と「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等のワークを行 う。また、個人の尊重と幸福追求権の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等を行い、意見を述べることで きる。また、到達目標①②に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義を理解し、説明することができる。★2	
		事前学修	前回授業の後に課せられた小テストの解答として提出した自分の答案を印刷またはメモして授業に持参す る。また、個人の尊重と幸福追求権を説明している教科書pp. 77-82を通読し、講義内容を概観したうえで、 疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
27	12/22	包括的人権（4）：プライバ シー権・肖像権	「新しい人権」の類型を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、一般的人格権 （プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者が事件の概要・争 点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバ シー権、肖像権）の意義及びそれに 関連する判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、プライバシー権、肖像権を説明している教科書 pp. 83-93を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、「新しい人権」の類型をノートにまとめ、これを説明できるようにする。また、一般的人 格権（プライバシー権、肖像権）の意義・判例をノートにまとめ、一般的人格権の特質を説明できるように する。	120分
28	12/23	包括的人権（5）：名誉権・ 環境（人格）権／自己決定 権	名誉権・環境（人格）権の意義・判例を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、 自己決定権の意義・類型及びそれに関連する判例を説明し、履修者が自己決定権の特質を理 解できるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉権・環境（人格）権の意義・判例、自己決定権の意義・類型及びそれ に関連する判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、名誉権・環境（人格）権、自己決定権を説明し ている教科書pp. 93-106を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、名誉権・環境（人格）権の意義・判例をノートにまとめ、その趣旨を説明できるようにす る。また、自己決定権の意義・判例をノートにまとめ、その特質を説明できるようにする。	120分
29	1/12	補遺：「憲法をまもる」こ との意味	政治的立場のいかんを問わず、すべての国民が知っておくべき「憲法の特質」のことを、「憲法 をまもる」というキーワードを手がかりに説明し、履修者が憲法論議の前提を理解できるように する。	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、「憲法の特質」をはじめ、憲法論議の前提についての理解をもとに、憲法問題について自 分の意見を述べるることができる。	
		事前学修	事前配布する資料を一読し、講義内容を概観しておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、憲法論議の前提を共有したうえで、ポータル・システムにて配信する小テストに解答す る。★2	150分
30	1/13	総括：「憲法Ⅰ（人権）」 の総復習	本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項につき説明を補い、履修者がこれを十分に理解で きるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項についての知識と思考力を深めること ができる。	
		事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、ノートを補完しつつ、定期試験を視野に入れた総復習を行い、基本的人権の意義や重要判 例を理解し、説明できるようにする。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書にそって講義形式で行う。講義で使用する資料をCOLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法 7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	必携
憲法判例 8版	戸松秀典・初宿正典	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
		この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと	120分
		事後学修	オリエンテーションを振り返ること	120分
2	9月15日	国家とは・立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書3-17ページを読んでくこと。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。	120分
3	9月21日	人権総論（1）	人権保障の歴史と意義・分類を学習する。歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書75-87ページを読んでくこと。「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人権の性質と政府との関係をまとめること。	120分
4	9月22日	人権総論（2）	人権の享有主体について学習する。憲法上の権利を行使することのできる者について考察する。特に外国人の国内での処遇と人権保障の問題を深く考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書87-97ページを読んでくこと。人権保障の対象となる人は誰なのかについて考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「人権の享有主体」「平等（人種・外国人）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
5	9月28日	人権総論（3）	憲法規定の私人間効力について学習する。統治権を行使する政府を生み出す法としての憲法の性質を再確認したうえで、政府の権限行使に制約を課す規定である人権規定の役割を理解し、その間隙に生じる問題への具体的解決方法を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法規定の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書110-118ページを読んでくこと。憲法というものの性質と、人権保障が及ぶ場面はどのようなものであるのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「私人間効力」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
6	9月29日	人権総論（4）	人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題について学習する。無制約な人権は保障されないという常識的な感覚について、それを根拠づける考えを考察する。さらには一般国民とは別に、政府と特別な法律関係を結ぶ人々に対する特異な取り扱いについての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書98-102, 106-110, 281-283ページを読んでくこと。「自由」と「勝手気まま」とは同じなのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「福祉国家主義」という憲法原則の内容と「内在的制約」の内容をまとめること。また、参考書で「公務員の政治活動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月5日	人権総論 (5)	人権を制約する法令の憲法適合性を判断する手法を学習する。公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	ある法律が憲法に違反するというのを、どのように決定するのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」の内容をまとめること。	120分
8	10月6日	法の下の平等	平等原則の意義と内容について学習する。「等しい」とは何を意味するのか、どのような平等ならば憲法上許されるのかなどについての理解を深める。さらに、「合理的区別」による人の異なる取り扱いなぜ認められるのか、どのような事例に認められているのかなどを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等原則の意義と内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書127-148ページを読んでくること。何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができののかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「平等（家族関係）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
9	10月12日	幸福追求権	「新しい人権」としての幸福追求権を学習する。主に人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」としての人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書119-126ページを読んでくること。電子機器の発展とプライバシー保護との関係を考えること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「幸福追求権の意味」「プライバシーの権利」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
10	10月13日	環境権・自己決定権	「新しい人権」である環境権・自己決定権について学習する。環境権の意義と内容について、さらに自己決定権の保障範囲について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」である環境権・自己決定権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書126-127, 271-273ページを読んでくること。自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「環境権・人格権」「自己決定権・人格権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
11	10月19日	思想・良心の自由	内心の自由の内容と保障範囲について学習する。内面の精神活動に対する制約を検討することを通して、内心の自由が保障する中核的内容の理解に努める。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、内心の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書149-153ページを読んでくること。国旗国歌に起立斉唱しなければならないのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「思想・良心の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
12	10月20日	信教の自由・政教分離	宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係について学習する。内心の自由の内容と保障範囲、宗教への配慮の問題、宗教的色彩を帯びる政府活動の許容性などについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書153-167ページを読んでくること。風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人々を政府が追悼するのは許されるのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「信教の自由」「政教分離原則」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月26日	学問の自由・大学の自治	学問研究の自由の内容と保障範囲について学習する。人間の欲望と倫理的制約の関係を念頭に置きつつ、学問研究の自由の限界について考察する。加えて、研究の場である大学の独自性について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問研究の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書168-174ページを読んでくること。人間の複製に関する研究は許されるのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「学問の自由と大学の自治」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
14	10月27日	表現の自由 (1)	表現の自由の意義について学習する。表現の自由に認められる「優越的地位」について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由の意義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書175-180ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、表現の自由は一般に他の人権よりも「優越的地位」にあるといわれるが、その理由を考えてくること。	120分
15	11月9日	表現の自由 (2)	表現内容規制について学習する。名誉毀損表現、性表現、ヘイトスピーチなどを扱う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容規制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書180-196ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「扇動的言論」「わいせつ表現」「名誉毀損」「営利的言論」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
16	11月10日	表現の自由 (3)	表現内容中立規制について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容中立規制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書196-198, 205-213ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「ビラ貼り・ビラ配布」「選挙運動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
17	11月16日	表現の自由 (4)	検閲・知る権利について学習する。表現活動に不可欠な情報の入手はいかに確保できるのかについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、検閲・知る権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書198-204ページを読んでくること。(2時間)	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「情報公開・知る権利」「事前抑制・検閲の禁止」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)	120分
18	11月17日	表現の自由 (5)	報道の自由、通信の秘密について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、報道の自由、通信の秘密についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書181-188, 221-223ページを読んでくること。(2時間)	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「報道の自由・取材源秘匿権」「通信の秘密」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月23日	集会・結社の自由	集会・結社の自由について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書213-221ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「集会・結社の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
20	11月24日	人身の自由	人身の自由について学習する。日本国憲法下における徴兵制の可否についても考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人身の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書242-243ページを読んてくること。（2時間）	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「意に反する苦役」と「強制役務」の違いをまとめること。（2時間）	120分
21	11月30日	法定（適正）手続の保障	法定（適正）手続の保障について学習する。行政手続にも求められる適正さについても考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定（適正）手続の保障についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書243-246ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「適正手続の原則」「行政手続」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
22	12月1日	刑事手続の保障（1）	被疑者の権利について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被疑者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書246-249ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「令状主義」「住居の不可侵」「弁護士依頼権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
23	12月7日	刑事手続の保障（2）	被告人の権利について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被告人の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書249-255ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「残虐な刑罰の禁止」「遡及処罰・事後立法の禁止」「一事不再理・二重の危険」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
24	12月8日	職業選択の自由	居住移転の自由および職業・営業の自由について学習する。営利活動に対する憲法の姿勢について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、居住移転の自由および職業・営業の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書234-232ページを読んてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「職業活動の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月14日	財産権	財産権について学習する。憲法が「財産権の不可侵」を規定する意義を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書233-241ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「財産権」「正当な補償」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
26	12月15日	社会権全般・生存権	福祉国家主義の意義と生存権の内容について学習する。私的自治の内容を確認したうえで、政府による弱者保護の実態を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、福祉国家主義の意義と生存権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書267-271ページを読んでくること。社会的格差は正のためにどのような政策がとられているのかを考 えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「生存権」に関連する最高裁判例の内容をま とめること。	120分
27	12月21日	教育を受ける権利・労働権	教育を受ける権利と労働者の権利を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育を受ける権利と労働者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書273-281ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「教育を受ける権利」「団結権・団体交渉 権」「争議権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
28	12月22日	国務請求権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権についての理解を深め、 その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書256-259ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「裁判を受ける権利」「国家賠償請求権」 「刑事補償請求権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
29	1月12日	参政権	投票権、立候補の自由について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、投票権、立候補の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書260-262ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙権」に関連する最高裁判例の内容をま とめること。	120分
30	1月18日	まとめ	この講義で修得した内容を振り返る。	
		この回の到達目標	この講義で修得した憲法の人権保障の内容についての理解を説明できる。	
		事前学修	今までの授業内容をまとめておくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法と明治憲法の条文が掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕ほか4名	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
START UP 憲法判例50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016	その他	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。研究室（本館6階 1616号室）メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日 (火)	近代立憲主義と人権概念の成立	近代立憲主義の意義、人権概念、イギリス権利章典、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、夜警国家等。 ※教科書第5講(pp. 75-85)	
		この回の到達目標	近代立憲主義の成立と内容、および当時の人権概念について説明できること。	
		事前学修	教科書第5講(pp. 75-85)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
2	9月16日 (水)	現代立憲主義と人権概念の変容	現代立憲主義の意義、社会権、社会国家(福祉国家)、行政国家、人権保障の国際化。 ※教科書第5講(pp. 85-88)	
		この回の到達目標	現代立憲主義の内容と人権の変容をもたらした背景について説明できる。	
		事前学修	教科書第5講(pp. 85-88)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
3	9月22日 (火)	人権の享有主体(1)	人権の享有主体一(1)日本国民 ※教科書第6講(pp. 90-120)	
		この回の到達目標	日本国民のみに保障される憲法上の人権について説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
4	9月23日 (水)	人権の享有主体(2)	人権の享有主体一(2)外国人 ※教科書第6講(pp. 90-120)	
		この回の到達目標	外国人にも保障される人権について説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。特に、判例に注意すること。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
5	9月29日 (火)	人権の享有主体(3)	人権の享有主体一(3)法人 ※教科書第6講(pp. 90-120)	
		この回の到達目標	法人にも保障される人権について説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。特に、判例に注意すること。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
6	9月30日 (水)	人権と「公共の福祉」	「公共の福祉」に関する学説、「公共の福祉」に関する通説の再検討	
		この回の到達目標	「公共の福祉」とは何かを学説を整理して説明できる。	
		事前学修	教科書の索引を利用して「公共の福祉」について書かれているページに目を通すこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月6日 (火)	幸福追求権と新しい人権 (1)	幸福追求権と新しい人権― (1) 名誉権・プライバシー権 *教科書第6講(pp. 97-104)	
		この回の到達目標	「新しい人権」とは何かを説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 97-104)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
8	10月7日 (水)	幸福追求権と新しい人権 (2)	幸福追求権と新しい人権― (2) 自己決定権・環境権 *教科書第6講(pp. 102-104)	
		この回の到達目標	自己決定権にはどのような権利・自由があるかを説明できる。	
		事前学修	教科書第6講(pp. 102-104)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
9	10月13日 (火)	法の下平等 (1)	法の下平等― (1) 憲法14条1項の解釈 *教科書第7講(pp. 105-110)	
		この回の到達目標	憲法14条1項の解釈を説明できる。	
		事前学修	教科書第7講(pp. 105-110)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
10	10月14日 (水)	法の下平等 (2)	法の下平等― (2) 尊属殺重罰規定違憲判決 *教科書第7講(pp. 110-112)	
		この回の到達目標	尊属殺重罰規定違憲判決(最大判昭48・4・4)の違憲理由を説明できる。	
		事前学修	教科書第7講(pp. 110-112)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
11	10月20日 (火)	法の下平等 (3)	法の下平等― (3) 議員定数不均衡訴訟、投票価値の平等、事情判決、違憲状態等。 *教科書第7講(pp. 113-119)	
		この回の到達目標	最近の議員定数不均衡訴訟について簡潔に説明できる。	
		事前学修	教科書第7講(pp. 113-119)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
12	10月21日 (水)	精神的自由権 (1)	精神的自由権― (1) 思想・良心の自由 *教科書第8講(pp. 122-124)	
		この回の到達目標	思想・良心の自由が問題となった判例について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講(pp. 122-124)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月27日 (火)	精神的自由権 (2)	精神的自由権― (2) 信教の自由の意義・内容・限界、政教分離の原則 ＊教科書第8講 (pp. 124-131)	
		この回の到達目標	「目的効果基準」について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講 (pp. 124-131)を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
14	10月28日 (水)	精神的自由権 (3)	精神的自由権― (3) 表現の自由、報道の自由、取材活動の自由、二重の基準論、事前抑制、検閲、表現内容規制・表現内容中立規制。 ＊教科書第8講 (pp. 132-137)	
		この回の到達目標	表現の自由の優越的地位について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講 (pp. 132-137)を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
15	11月10日 (火)	精神的自由権 (4)	精神的自由権― (4) 集会・結社の自由、パブリック・フォーラム	
		この回の到達目標	「集会の自由」の限界について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
16	11月11日 (水)	精神的自由 (5)	精神的自由権― (5) 学問の自由	
		この回の到達目標	「学問の自由」が問題となった事件について説明できる。	
		事前学修	教科書第8講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
17	11月17日 (火)	経済的自由権 (1)	経済的自由権― (1) 居住・移転の自由	
		この回の到達目標	「居住・移転の自由」の経済的自由の側面・精神的自由の側面について説明できる。	
		事前学修	教科書第9講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分
18	11月18日 (水)	経済的自由権 (2)	経済的自由権― (2) 職業選択の自由	
		この回の到達目標	消極的・警察的規制と積極的・政策的規制について説明できる。	
		事前学修	教科書第9講を読むこと。 (1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。 (3時間)	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月24日 (火)	人身の自由(1)	人身の自由―（１）適正手続きの保障。罪刑法定主義。	
		この回の到達目標	「罪刑法定主義」について説明できる。	
		事前学修	教科書第１０講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
20	11月25日 (水)	人身の自由(2)	人身の自由―（２）被疑者・被告人の権利	
		この回の到達目標	被疑者・被告人にはどのような権利が保障されているか説明できる。	
		事前学修	教科書第１０講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
21	12月1日 (火)	参政権(1)	参政権―（１）選挙権、被選挙権、選挙の基本原則、選挙制度。	
		この回の到達目標	選挙権・被選挙権の法的性格について説明できる。	
		事前学修	教科書第１１講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
22	12月2日 (水)	参政権(2)	参政権―（２）直接民主制の種類、最高裁判所裁判官の国民審査、住民投票、憲法改正の国民投票。、	
		この回の到達目標	日本国憲法が定める直接民主制の諸制度について説明できる。	
		事前学修	教科書第１１講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
23	12月8日 (火)	国務請求権(1)	国務請求権―（１）国務請求権の意義、請願権、請願の手続。	
		この回の到達目標	請願権の意義と請願の手続について説明できる。	
		事前学修	教科書第１２講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
24	12月9日 (水)	国務請求権(2)	国務請求権―（２）裁判を受ける権利、裁判を受ける権利の法的性格、裁判を受ける権利の範囲。	
		この回の到達目標	裁判を受ける権利の法的性格について説明できる。	
		事前学修	教科書第１２講を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月15日 (火)	国務請求権(3)	国務請求権― (3) 国家賠償請求権、刑事補償請求権。	
		この回の到達目標	国家賠償請求権と刑事補償請求権の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書第12講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
26	12月16日 (水)	社会権(1)	社会権― (1) 生存権、プログラム規定説、抽象的権利説、具体的権利説。	
		この回の到達目標	生存権の法的性格について説明できる。	
		事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
27	12月22日 (火)	社会権(2)	社会権― (2) 教育を受ける権利、教育の機会均等、義務教育の無償、学習権、教育権。	
		この回の到達目標	「教育を受ける権利」の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
28	12月23日 (水)	社会権(3)	社会権― (3) 労働基本権、団結権、団体交渉権、団体行動権、公務員の労働基本権。	
		この回の到達目標	公務員の労働基本権について説明できる。	
		事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
29	1月12日 (火)	国民の義務	国民の義務の意義、教育の義務、勤労の義務、納税の義務、憲法尊重擁護の義務。	
		この回の到達目標	国民の義務の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書第14講を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
30	1月13日 (水)	授業の総まとめ	全講義の中の特に重要な点について、要点を示しながら説明する。	
		この回の到達目標	全講義の中で疑問点を明確に把握できる。	
		事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。(1時間)	60分
		事後学修	全授業で扱った部分をすべて確認すること。(3時間)	180分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章「憲法の内容」1を読んでおくこと。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	150分
2	9月16日	基本的人権の歴史	基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、とりわけロックの社会契約に関する議論、憲法における人権の保障、人権概念の歴史的変遷を説明することができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の歴史的展開について整理したノートを作成する。	150分
3	9月21日	基本的人権の主体	基本的人権の主体ないし人的保護領域に関する議論を、国民、外国人、法人を例としながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法の基本的人権の享有主体に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域について、判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
4	9月23日	基本的人権の制限と正当化	基本的人権の制限とその正当化にかかわる議論を、公共の福祉論、比較衡量論、二重の基準論、比例原則審査論などを紹介しながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的人権の制限と正当化に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」3・4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、公共の福祉論および違憲審査基準論に関する議論を整理したノートを作成する。	150分
5	9月28日	私人間効力論	私人間の法律関係に対する基本的人権規定の適用に関する議論を、三菱樹脂事件などの主要判例の展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人権規定の私人間効力という問題とそれに対する日本の裁判所の対応について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、私人間における基本的人権の効力について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
6	9月30日	個人の尊重・幸福追求権 (1) 幸福追求権の保護領域	日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権に関する人格的利益説と一般的自由説との対立、さらにはより現代的な解釈としての「違憲の強制を受けない権利」という理解を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」1～2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月5日	個人の尊重・幸福追求権 (2) 新しい人権	日本国憲法には明文で保障されていない権利をどのように承認するかについての議論を、前回講義で説明した幸福追求権の保護領域との関係で論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不文の権利の保障根拠、具体的な保障内容について、判例の展開を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、不文の権利の保障について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
8	10月7日	法の下での平等 (1) 平等概念	絶対的/相対的平等，形式的/実質的平等といった平等概念と，日本国憲法14条後段列举事由の解釈について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，平等概念がもつ意義と問題点，14条後段列举事由の意味が説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，憲法上の平等概念および14条後段列举事由について整理したノートを作成する。	150分
9	10月12日	法の下での平等 (2) 平等原則と違憲審査	前回講義で説明した14条後段列举事由の解釈を踏まえて，平等原則違反が問題となった具体的事例を挙げながら，平等原則違反に関する違憲審査のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，尊属殺重罰規定違憲判決，国籍法違憲判決，非嫡出子相続分差別違憲決定，再婚禁止期間違憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」2～3を読んでおく。	90分
		事後学修	平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	150分
10	10月14日	思想・良心の自由 (1) 思想・良心の自由の保護領域	日本国憲法19条が保障する思想・良心の自由の意義および保護領域に関する議論を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，従来思想・良心の自由に関する解釈論を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，思想・良心の自由に関する従来議論を判例の態度も含めて整理したノートを作成する。	150分
11	10月19日	思想・良心の自由 (2) 思想・良心の自由と行為強制	一連の君が代・日の丸裁判で新たに議論されるようになった「望まぬ行為の強制」と思想・良心の自由への間接的制約の問題を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて，様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について，判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
12	10月21日	信教の自由と政教分離原則 (1) 信教の自由	日本国憲法20条が保障する信教の自由の意義や保護領域，制約事例について，主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，信教の自由の保護領域や制約事例を，エホバの証人剣道実技拒否事件，オウム真理教解散命令事件などを含めて，具体的に説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，信教の自由の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月26日	信教の自由と政教分離原則 (2) 政教分離原則	日本国憲法20条および89条が定める政教分離原則について、意義および内容を論じるとともに政教分離原則違反が問題とされた事例を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政教分離原則の内容とこれに対する違反が問題となった事例およびそこでの判示内容が説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。	150分
14	10月28日	学問の自由	日本国憲法23条が定める学問の自由および大学の自治について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問の自由の意義および大学の自治の内容について、主要判例を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、学問の自由および大学の自治について、判例を含めて整理したノートを作成する。	150分
15	11月9日	表現の自由 の保護領域	(1) 表現の自由 日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域について、古典的表現の自由から知る権利を含めた現代的な表現の自由への展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由の現代的な保護領域について整理したノートを作成する。	150分
16	11月11日	表現の自由 の制約と正当化	(2) 表現の自由 表現の自由に対する多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由に対する制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。	150分
17	11月16日	集会・結社の自由	日本国憲法21条が保障する集会・結社の自由について、保護領域、制約の正当化を中心に、主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、集会・結社の自由の意義とともに、泉佐野市民会館事件、広島市暴走族条例事件などの事案を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」5・6を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、集会・結社の自由の意義と内容および制約事例について整理したノートを作成する。	150分
18	11月18日	職業の自由 の保護領域	(1) 職業の自由 日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」1・3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由の保護領域について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11月23日	職業の自由（2）職業の自由の制約と正当化	制約態様や規制目的による正当化論証の切り分け論も踏まえて、職業の自由に対する制約事例を、主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、薬事法違憲判決、小売市場判決、酒税法事件などの主要判例について、そこでの判示内容も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。	150分
20	11月25日	財産権（1）財産権の保護領域と立法者による内容形成	日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性を中心に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の特殊性やそれが顕著にあらわれた判例である森林法違憲判決について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ森林法違憲判決での最高裁の判断を整理したノートを作成する。	150分
21	11月30日	財産権（2）財産権制約と正当化	財産権に対する制約類型（公用収用を含む）を踏まえて、それぞれの類型における違憲審査のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を、判例の立場も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。	150分
22	12月2日	身体の自由（1）適正手続保障	日本国憲法31条が定める刑事手続に関する原則規定の解釈のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適正手続保障が何を意味するのか、それはどこまでの射程をもつのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、適正手続保障の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分
23	12月7日	身体の自由（2）身体の自由各論	日本国憲法33条以下で定められた具体的な刑事手続に関する権利保障を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	150分
24	12月9日	参政権（1）選挙権の意義と射程	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月14日	参政権（2）議員定数不均衡	選挙の正当性・有効性を阻害する原因となる議員定数の不均衡という問題について、判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議員定数不均衡問題の所在とこれに対する裁判所判断の展開を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」3・4および第7章「平等権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、議員定数不均衡訴訟について整理したノートを作成する。	150分
26	12月16日	受益権・国務請求権	請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権について、その制度依存的な特徴を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権・国務請求権の意義や内容を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第12章「受益権」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけそれぞれの権利の具体化を担う法令との関係性を整理したノートを作成する。	150分
27	12月21日	生存権（1）格	日本国憲法25条が定める生存権について、その法的性格をめぐる議論を紹介し、生存権保障の特殊性を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生存権の法的性格をめぐる議論を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権の法的性格を整理したノートを作成する。	150分
28	12月23日	生存権（2）生存権訴訟の行方	堀木・朝日の両訴訟をはじめとして、近年の老齢加算廃止違憲訴訟などの展開を踏まえて、生存権訴訟の可能性について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、立法・行政裁量論と裁量統制手法について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、裁量統制手法としての判断過程統制について整理したノートを作成する。	150分
29	1月13日	教育を受ける権利・労働三権	教育を受ける権利と労働三権について、具体的な事例を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育を受ける権利と労働基本権の保障内容を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」3～5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、教育を受ける権利、労働基本権について整理したノートを作成する。	150分
30	1月18日	まとめ	基本的人権論に関するまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的人権論の全体像と今後の展望を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	野口 健格	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
・講義形式で実施する。 ・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・六法（出版社は問わない）を持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法1 人権(第7版)	渋谷 秀樹・赤坂 正浩 著	有斐閣アルマ	2019年	教科書	必携
憲法判例集(第11版)	野中俊彦・江橋崇／ 編著、渋谷秀樹／補訂	有斐閣新書	2016年	参考書	任意
備考	授業内容によってはプリントを配布することがある。その他の文献に関しては授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
土曜3限の講義終了後に適宜実施します。メールでの相談は（noguchi@cc.cgu.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 土9/19	イントロダクション（憲法とは何か？日本国憲法の三大原理と憲法の基本原理）	本講義における受講のルールや成績の評価方法等の基本事項を確認する。また、日本国憲法の三大原理やその他の基本原理について説明するとともに、憲法という法規範自体の理解と人権保障の重要性について説明する。	
		この回の到達目標	・自発的な学習ができるように講義受講の際に心掛けること、自分流のメモやノートをとる訓練の必要性を理解すること。 ・憲法の規範としての特殊性を理解するとともに、立憲主義の重要性についても意識できるようにすること。 ・日本国憲法の特徴について自身の言葉で説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
2	第二部 土9/19	人権論の歴史	人権という概念が誕生した歴史的な背景を説明し、その中で人権がどのように発展してきたのかを学んでもらう。	
		この回の到達目標	・人権が重要性に気づけるようにすること。 ・人権が尊重されなければならなくなった背景を知ること。 ・自分の言葉で人権について説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
3	第二部 土9/26	人権享受の主体適格性の限界	天皇・皇族、外国人、法人、公務員、在監者など通常の「人」とは異なる法的存在である者の存在を認識することを通して、実際に生じた事案について説明する。	
		この回の到達目標	・人権が保障される法的主体を知ること。 ・人権の保障が及ばない主体を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
4	第二部 土9/26	人権と公共の福祉	憲法典内にも度々登場する文言である「公共の福祉」について正しく理解するとともに、この概念を広く捉えてしまうことによって生じる人権への影響について学んでもらう。	
		この回の到達目標	・人権を制限できる場面を把握すること。 ・「公」の利益とは何かイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
5	第二部 土10/3	私人間における憲法の適用	本来的には国家（権力）と個人との関係を規律した規範である憲法が私人間にも適用されるに至った背景を意識しつつ、判例を参照しながら説明する。	
		この回の到達目標	・私人間に憲法が適用されるに至った理由を語れるようにすること。 ・私人間へ憲法を適用する際の手法について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
6	第二部 土10/3	部分社会論	具体的な事例（大学の単位認定や地方議会における処分、政党内部の処分）について司法審査の対象になるのかどうか説明する。	
		この回の到達目標	・具体的な部分社会についてイメージできるようにすること。 ・部分社会内での問題に対し司法審査が及ぶ射程について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 土10/10	法の下の平等①（不合理な差別の禁止）	差別はあからさまに生じるとは限らず、気がつけば誰もが差別の当事者（被害者または加害者）になり得る。そのため、差別が生じた事例に関しては背景も含めて説明し、平等の意義についても深く学んでもらう。	
		この回の到達目標	・差別が起こる理由について考えることができるようになること。 ・憲法14条1項の意義について自身の言葉で説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
8	第二部 土10/10	法の下の平等②（積極的差別是正措置）	差別の是正には長い時間がかかるのが常であるが、国家がそれを認識することによって差別的状況を改善するための政策を立案する場合がある。法の下の平等を実現するための方策の一つについて学ぶ。	
		この回の到達目標	・特定の差別を是正する手法について理解すること。 ・社会の中に存在するマイノリティーについて関心を持てるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
9	第二部 土10/17	法の下の平等③（家族と平等）	家族のあり方について判示した最高裁判例を学ぶことで、家族の形について深く考えてもらう。	
		この回の到達目標	・最小単位の社会と言われている家庭内の問題と平等について考えることができるようにすること。 ・憲法判例を参照しつつ、現時点で家庭に対する国民の認識について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
10	第二部 土10/17	精神的自由①（思想・良心の自由）	個人の人格にかかわる内面的な精神作用について「強い個人」という理想を掲げることもあるが、実際には難しく周りに流される生き方になってしまいがちである。そこで、憲法が保障する精神的自由の総則的規定の意義について学習する。	
		この回の到達目標	・目に見えない心の自由の重要性和脆弱性について理解すること。 ・心の自由を侵害されたことによって生じる損害についてイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
11	第二部 土10/24	精神的自由②（信教の自由と政教分離）	宗教でいうところの「神」的（絶対的）な存在を肯定しようとする精神作用について理解し、なぜ政治と宗教が癒着しやすいのか、癒着すると（宗教を信仰していない）個人にとってどのような不都合が生じるのか説明する。	
		この回の到達目標	・宗教について理解し、保障される自由の範囲を理解すること。 ・政教分離原則の具体的な事例について知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
12	第二部 土10/24	精神的自由③（集会・結社の自由）	不特定多数の人が何か特定の目的のために集まる集会は誰もがその存在を認識しているし、誰もが一度は何らかの結社に所属したことがあるはずである。なぜこれらに参加したりしなかったりすることが自由なのかを説明する。	
		この回の到達目標	・集会やデモ行進の目的を把握すること。 ・団体を結成するとはどのようなことなのか理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 土10/31	精神的自由④（表現の自由 (1)一表現への規制)	表現の自由の保障は現代憲法学でも非常に重要なウエイトを占めている。なぜそれほどまでに重要視されるのかを具体的な事例や法理論を通して説明する。	
		この回の到達目標	・表現の自由の重要性について実感することができるようにすること。 ・実社会の中で規制される得る場面をイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
14	第二部 土10/31	精神的自由⑤（表現の自由 (2)一検閲の禁止および事前抑制の禁止)	表現の自由の保障は現代憲法学でも非常に重要なウエイトを占めている。なぜそれほどまでに重要視されるのかを具体的な事例や法理論を通して説明する。	
		この回の到達目標	・表現の自由の事前抑制が何故ダメなのかを理解すること。 ・表現の自由が行使できなくなってしまった際に生じる影響について実感できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
15	第二部 土11/7	精神的自由⑥（学問の自由)	大学の研究機関としての側面と教育機関としての側面を理解するため、いくつかの事案や判例を紹介しつつ説明する。	
		この回の到達目標	・学問の自由と大学の自治について理解すること。 ・学問の自由の歴史的背景を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
16	第二部 土11/7	人身の自由①（奴隷的拘束からの自由と適正手続)	権力者から身体の自由を奪われることはある意味で非常にわかりやすい権力行使である。そのため、国家から身体の自由を奪われないよう設定された人権規定について理解し、それら人権規定の意義について学んでもらう。	
		この回の到達目標	・権力によって身体が拘束される具体的な場面を知ること。 ・憲法が人身の自由を保障してくれることの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
17	第二部 土11/14	人身の自由②（被疑者の権利と被告人の権利)	権力者から身体の自由を奪われることはある意味で非常にわかりやすい権力行使である。そのため、国家から身体の自由を奪われないよう設定された人権規定について理解し、それら人権規定の意義について学んでもらう。	
		この回の到達目標	・権力によって身体が拘束される具体的な場面を知ること。 ・憲法が人身の自由を保障してくれることの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
18	第二部 土11/14	経済的自由①（職業選択の自由)	人が自己の生計を維持するためにする継続的活動である職業は、憲法上どのように位置付けられ、また規制されているのが学んでもらう。	
		この回の到達目標	・経済活動の前提としての職業について、歴史的な背景を理解すること。 ・実際に職業選択の自由が規制される場面を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 土11/21	経済的自由②（財産権）	財産権の具体的な姿を認識しながら財産権の意義と法的制約の根拠について説明する。	
		この回の到達目標	・私有財産制の意義と現代社会における財産権概念について考えることができるようにすること。 ・実際に財産権が制約される場面を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
20	第二部 土11/21	受益権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について説明する中で、国家に対して作為を求めることの意義を学習してもらう。	
		この回の到達目標	・18～19世紀の「自由国家」観と20世紀の「社会国家」観について正しく認識すること。 ・国民が国家に対し行為や給付を要求することの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
21	第二部 土11/28	社会権①（生存権）	憲法上の健康で文化的な最低限度の生活がどのようなものなのかを考えてもらいつつ、時代時代に合った豊かさをどのように実現するか、またセーフティネットはどの程度準備すれば良いのかについて学んでもらう。	
		この回の到達目標	・憲法25条が保障する生存権の内容を理解すること。 ・朝日訴訟や堀木訴訟などの判例を通して生存権の限界を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
22	第二部 土11/28	社会権②（教育を受ける権利）	大人と比較して本来的に未熟である子供に教育を施さなければならないことは確かだが、憲法上の教育を受ける権利の考え方は様々である。ここでは過去の判例を素材にわが国の教育権の内容を説明する。	
		この回の到達目標	・教育を受ける機会が等しく与えられていなかった時代を知ること。 ・義務教育の意義について考察できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
23	第二部 土12/5	社会権③（労働基本権）	長期の景気低迷によって労働運動が下火になって久しいが、ここでは労働基本権とその周辺の法制度について学びつつ、過去や現在の状況を踏まえてその重要性和課題について説明する。	
		この回の到達目標	・労働者と使用者の権力関係について意識できるようにすること ・憲法の規定を具体化している制度について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
24	第二部 土12/5	幸福追求権の意義	幸福追求権に関する様々な学説について説明する中で、そもそも幸福追求権は何を保障しているのか考え学んでもらう。	
		この回の到達目標	・憲法13条の性質について理解すること。 ・個人主義の重要性について改めて認識すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 土12/12	新しい人権①（環境権）	新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
		この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
26	第二部 土12/12	新しい人権②（プライバシー権と行政情報開示請求権）	新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
		この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
27	第二部 土12/19	新しい人権③（自己決定権）	新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
		この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
28	第二部 土12/19	参政権・義務	選挙権と被選挙権について国政と地方自治に分けて説明すると同時に公務就任権についても言及する。また、勤労の義務・納税の義務・子女教育の義務について説明する。	
		この回の到達目標	・政治に参加するいくつかの具体的な場面を知ること。 ・日本国憲法の三大義務について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
29	第二部 土12/26	憲法と国際法	憲法にも「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする。」などと規定されているが、それぞれの法規範の関係性までは言及していない。本講義では、学説はどのように解釈されているのか学んでもらう。	
		この回の到達目標	・国内法と国際法の違いについて理解すること。 ・憲法優位説と国際法優位説についてそれぞれ説明できるようにすること	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
30	第二部 土12/26	人権の国際的保障	世界人権宣言や国際人権規約、その他の条約について学び、これまで日本が国際人権についてどの程度積極的にコミットしてきたのかを説明する。	
		この回の到達目標	・国際人権という概念について理解すること。 ・ユニバーサルな人権保障の可能性と困難さについて考えることができるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返り等を実施します。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業，調べ学修を要する小テスト（レポート）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業案内・導入：憲法の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	4/8	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	4/14	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法総論	明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	4/15	国会（1）：国会の地位	代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	4/21	国会（2）：国会の活動	会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	4/22	国会（3）：国会の権能と衆議院の優越	国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，国会の権能及び衆議院の優越を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越を説明している教科書pp. 306-315を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/28	国会（4）：議院の権能／国会の総復習	議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、これまでに学修した国会に関する総復習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院の権能を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院の権能を説明している教科書pp. 315-320を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	4/29	国会（5）：参政権と選挙制度	参政権の意義（「国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制）の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、参政権の意義と各種選挙制度の特徴を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、選挙制度に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、参政権の意義と各種選挙制度の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
9	5/5	国会（6）：議員定数不均衡（一票の較差）問題	議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し、履修者が投票価値の平等の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
10	5/6	内閣（1）：行政権と内閣制度／衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題	行政権の意義、内閣制度の変遷を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政権の意義、内閣制度の変遷、衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題の所在を理解し、説明することができる。	
		事前学修	行政権の意義、内閣制度の変遷を説明している教科書pp. 327-330を通読し、また事前に配布するパワーポイント資料を一読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、行政権の意義、内閣制度の変遷、衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
11	5/12	内閣（2）：議院内閣制	権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院内閣制を説明している教科書pp. 330-337を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみをノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
12	5/13	内閣（3）：内閣の組織	内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の組織を説明している教科書pp. 337-341を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/19	内閣（４）：内閣の権能	内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、内閣の権能に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の権能を説明している教科書pp. 342-348を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
14	5/20	天皇（１）：象徴天皇制	日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任、皇位継承の原則を明らかにし、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任及びそれをめぐる判例、皇位継承の原則を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-34を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任及びそれをめぐる判例、皇位継承の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
15	5/26	天皇（２）：国事行為／皇室経済	天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を説明し、履修者がその意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を説明している教科書pp. 34-43を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
16	5/27	裁判所（１）：司法権	「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論を説明し、履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「法律上の争訟」の要件、司法権の限界を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の特質を説明している教科書pp. 349-354を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
17	6/2	裁判所（２）：司法権の独立	裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を説明し、履修者が司法権の独立を確保する制度の概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の独立を説明している教科書pp. 354-360を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度をノートにまとめ、説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
18	6/3	裁判所（３）：裁判所の組織・権能	最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則（裁判の公開、裁判員制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、裁判所の組織・権能を説明している教科書pp. 360-370を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/9	裁判所（4）：違憲審査制	違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法についての考え方を説明し、履修者が違憲審査制の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、違憲審査制を説明している教科書pp. 370-374を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	90分
		事後学修	授業を振り返り、違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法をノートにまとめ、参政権の特質を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
20	6/10	財政（1）：財政民主主義／予算	財政民主主義、租税法律主義を説明し、履修者が財政の基本原則を理解できるようにする。また、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を説明し、履修者が予算とは何かを具体的に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政民主主義、租税法律主義、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財政の基本原則及び予算を説明している教科書pp. 375-384を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、財政の基本原則及び予算制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
21	6/16	財政（2）：決算／公金支出等の禁止	決算の意義と手続、財政状況の報告の意義を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義と、とりわけ慈善・教育・博愛事業との関連で表出する論点を説明し、履修者がこの憲法規定の問題点を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、決算の意義と手続、財政状況の報告の意義、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義及び問題点を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、憲法89条に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、決算、財政状況の報告、公金支出等の禁止を説明している教科書pp. 384-389を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	90分
		事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。また、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★1	150分
22	6/17	戦争の放棄（1）：平和主義の理念	憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平和主義の理念を説明している教科書pp. 44-48を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
23	6/23	戦争の放棄（2）：憲法9条の解釈	憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法9条を説明している教科書pp. 49-58を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
24	6/24	戦争の放棄（3）：自衛隊に関する判例	自衛隊に関する判例（恵庭事件、長沼事件、百里基地訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自衛隊に関する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、自衛隊に関する判例を説明している教科書pp. 58-65を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、自衛隊に関する判例をノートにまとめ、そこに表れた法理を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6/30	戦争の放棄（4）：安全保障	在日米軍に関する判例（砂川事件）、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、在日米軍に関する判例、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、日米安保条約と自衛権、国防法制の展開を説明している教科書pp. 65-76を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、在日米軍に関する判例、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
26	7/1	地方自治（1）：国の統治機構の重要項目の確認／地方自治の本旨	国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）に関する復習的講義を行う。また、地方自治の本旨、「憲法上の地方公共団体」の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の本旨、「憲法上の地方公共団体」の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでに学修した国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）の総復習をするとともに、地方自治の本旨を説明している教科書pp. 390-393を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、国の統治機構の重要項目を確認するとともに、地方自治の本旨をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
27	7/7	地方自治体の組織	地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、地方公共団体の組織を説明している教科書pp. 393-404を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）及び諸制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
28	7/8	地方自治（3）：条例制定権	国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例（徳島市公安条例事件、奈良県ため池条例事件、大阪市売春取締条例事件など）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、条例制定権を説明している教科書pp. 404-410を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
29	7/14	憲法改正	憲法改正の意義・限界の有無・手続を説明し、履修者がその概要を理解し、意見を述べるができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、憲法改正の意義を理解したうえで、立憲主義と憲法改正の関係について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	憲法改正を説明している教科書pp. 18-22を通読したうえで、疑問点をノートにメモしておく。また、事前配布する資料を一読し、講義内容を概観しておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、憲法論議の前提を共有したうえで、ポータル・システムにて配信する小テストに解答する。★3	150分
30	7/15	総括：「憲法Ⅱ（統治機構）」の総復習	本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項につき説明を補い、履修者がこれを十分に理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項についての知識と思考力を深めることができる。	
		事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、ノートを補完しつつ、定期試験を視野に入れた総復習を行い、統治機構の重要事項を理解し、説明できるようにする。	150分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法 7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	必携
憲法判例 8版	戸松秀典・初宿正典	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと。	120分
		事後学修	オリエンテーションを振り返ること。	120分
2	4月7日	国家とは・立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書3-17ページを読んでくこと。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。	120分
3	4月13日	憲法史	明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書18-34ページを読んでくこと。明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考え、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、明治憲法の欠陥はなんであったのか、日本国憲法の特徴は何かをまとめること。	120分
4	4月14日	統治の原理（1）	民主制と政党・選挙の原則について学習する。直接民主制、代表民主制の違いや、日本国憲法の想定する民主制の在り方を考察し、さらに政党の意義および普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票の意義と内容を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民主制と政党・選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書36-37，263-264，290-292ページを読んでくこと。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、代表民主制において議員と国民の関係はどのようなものであるのかをまとめること。	120分
5	4月20日	統治の原理（2）	【統治の原理（2）】平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度について学習する。平等選挙の意義の変容の理解に努めるとともに、「一票の格差」の是正がいかに民意の反映に影響を与えるのかを考察する。またこれに関わる最高裁判例を学ぶことを通して、現行の選挙制度の内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書265-266，301-307ページを読んでくこと。選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙の平等」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
6	4月21日	国会（1）	憲法の規定する国会の地位について学習する。国会議員に対する命令委任が禁止され、表決の自由が認められる理由や、「国権の最高機関」という規定の実質的意味を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法の規定する国会の地位についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書292-295ページを読んでくこと。「国民の代表機関」「国権の最高機関」の意味を確認してくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、三権分立の観点から国会の地位はどのようなものであるのかをまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月27日	国会（2）	【国会（2）】立法権について学習する。国会で制定すべき法律とはどのようなルールであるべきか、そのようなルール制定において、国会はどのような活動をするのかについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、立法権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書295-299ページを読んでくること。「唯一の立法機関」「法規概念」の内容を確認してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、法律で規定すべき内容についてまとめること。また立法手続の過程もまとめておくこと。	120分
8	4月28日	国会（3）	国会の組織と活動について学習する。二院制の意義、衆議院と参議院の関係、衆議院の優越の意義と内容を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の組織と活動についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書299-301、309-312ページを読んでくること。参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、二院制の意義と「ねじれ国会」の問題点をまとめること。	120分
9	5月4日	国会（4）	国会議員の地位について学習する。国会議員が行使する権能および特権の内容を学ぶ。さらには、国会議員の活動を支える組織についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会議員の地位についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書307-308ページを読んでくること。国会議員の権能と特権の内容を確認してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「国会議員の特権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
10	5月5日	国会（5）	国会の権能について学習する。立法権以外にも憲法は国会に多様な権能を認めているが、その内容を確認するとともに、法律上国会の権限として認められるものも学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書312-315ページを読んでくること。国会に認められる権能の内容を確認すること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正や条約締結における国会の役割をまとめること。	120分
11	5月11日	国会（6）	議院自律権と国政調査権について学習する。議院自律権に関する憲法規定を確認するとともに、国政調査権の行使における様々な問題を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院自律権と国政調査権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書315-321ページを読んでくること。「議院自律権」の内容を確認してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「議院自律権」「国政調査権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
12	5月12日	議院内閣制	議院内閣制の本質、日本における議院内閣制について学習する。憲法の想定する衆議院の解散は、政治的実例を許容するのかについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質、日本における議院内閣制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書330-335ページを読んでくること。議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「衆議院の解散」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月18日	内閣（1）	内閣の組織について学習する。内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深める。さらには、内閣に求められる責任、内閣の意思決定機関である閣議についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書325-330ページを読んでくること。文民統制の意義について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「内閣総理大臣の職務権限」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
14	5月19日	内閣（2）	行政権と内閣の権能について学習する。行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書298-299, 322-325ページを読んでくること。行政権の内容をどのように確定することができるのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「委任命令」「行政権による立法」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
15	5月25日	司法権（1）	司法権の意味と範囲について学習する。司法権の概念を確認したうえで、法律上の争訟の内容についての理解に努める。さらに司法権の限界についての様々な論点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の意味と範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書336-346ページを読んでくること。「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「司法権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
16	5月26日	司法権（2）	裁判所の組織について学習する。日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係や最高裁判所の権能について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書347-356ページを読んでくること。裁判員制度の意義について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「特別裁判所の禁止」「裁判官」「国民の司法参加」に関する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
17	6月1日	司法権（3）	司法権の独立について学習する。政治権力から裁判所が独立することの意義を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、司法権の独立の理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書356-359ページを読んでくること。民意と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、司法権の独立の内容をまとめること。	120分
18	6月2日	違憲審査制	法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律を無効にする裁判所の権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書377-392ページを読んでくること。最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「違憲審査権」「憲法判断の方法」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月8日	地方自治（1）	地方自治の本旨について学ぶ。我が国の国家制度に関する憲法規定を確認したうえで、単一国家における地方自治制度の意義を理解する。そして、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書367-368ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国と地方の関係はどのようなものであるのかをまとめること。	120分
20	6月9日	地方自治（2）	地方公共団体の組織と住民の権利について学習する。地方公共団体の種類や住民が持つ条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地方公共団体の組織と住民の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書368-369ページを読んでくること。住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを確認してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「地方公共団体」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
21	6月15日	地方自治（3）	条例制定権など地方公共団体の権限について学習する。自治組織権、自治行政権、自治財政権および条例制定権について考察する。条例に関しては、法律との関係についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条例制定権など地方公共団体の権限についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書369-373ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「条例制定権とその限界」「自治体財政権」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
22	6月16日	財政（1）	租税制度について学習する。租税法律主義の意義と内容を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書360-362ページを読んでくること。	120分
		事後学修	講ノートを確認するとともに、義の内容を振り返り、参考書で「租税法律主義」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
23	6月22日	財政（2）	予算制度と歳出に対する制約を学習する。予算の法的性質、国会における審議、決算などを理解したうえで、歳出に対する制約、とくに公金支出の禁止規定に該当する場合を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、予算制度と歳出に対する制約についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書362-366ページを読んでくること。私立学校への政府補助について、その必要性和問題点を考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「公の財産」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
24	6月23日	天皇制	憲法上の天皇の地位について学習する。国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書44-53ページを読んでくること。わが国における天皇の存在はなにかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「天皇」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6月29日	平和主義（1）	憲法9条と自衛権について学習する。戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深めたうえで、国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法9条と自衛権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書54-63ページを読んでくること。現在の国際社会での自衛権の行使について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「日米安保条約の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
26	6月30日	平和主義（2）	【平和主義（2）】自衛隊と国民保護法制について学習する。国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書63-71ページを読んでくること。自衛隊の任務について確認してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「自衛隊の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
27	7月6日	国民主権	「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。さらには、国民の要件である「国籍」について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民が主権を持つことの意義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書39-43ページを読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国民主権と立憲主義の関係をまとめること。	120分
28	7月7日	憲法改正の手続、国際法と憲法	憲法改正に関わる諸問題とその手続、さらには憲法および国内法と国際法との関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法改正、憲法および国内法と国際法との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書392-399ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正の手続と、国際法と国内法の関係をまとめること。	120分
29	7月13日	憲法規範の特徴と法源	憲法というルールに特徴的な性質や、憲法が破棄された時の国民の権利、憲法の内容が移り変わるなどについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法規範の特徴と法源についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書9-11, 375-377, 399-400ページを読んでくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法解釈の権威となるものはなにかをまとめること。	120分
30	7月14日	まとめ	これまで学んだ事項について、改めて深く考える機会を設け、疑問などを教員に尋ねる。	
		この回の到達目標	この講義で修得した憲法の人権保障の内容についての理解を説明できる。	
		事前学修	今までの授業内容をまとめておき、質問できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法、明治憲法およびポツダム宣言の条文がそれぞれ掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の講評を後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕ほか4名	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
Next教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書と授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。研究室（本館6階 1 6 1 6 号室）メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日 (火)	近代国家と憲法	国家の成立要件、憲法の内容、国家と憲法の関係、近代国家の特徴。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
		この回の到達目標	国家（近代国家）および憲法（近代憲法）の概念を理解し、国家と憲法の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
2	4月8日 (水)	現代の国際社会と憲法	現代の国際社会の現実、国際社会における国家の存立と憲法の役割。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
		この回の到達目標	現代国際社会の特徴を踏まえて、国家の存立についての憲法の役割を説明できる。	
		事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
3	4月14日 (火)	現代国家における憲法の目的と機能	現代国家の特徴、近代憲法から現代憲法への変容、福祉国家（社会国家）における憲法の目的と機能。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
		この回の到達目標	現代国家における憲法の目的と機能について説明できる。	
		事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
4	4月15日 (水)	日本国憲法の成立	ポツダム宣言の内容、明治憲法の改正、日本国憲法の成立過程、八月革命説。 ※教科書：第2講 (pp. 17-31)	
		この回の到達目標	ポツダム宣言の受諾から日本国憲法の成立に至る一連の流れを説明できる。	
		事前学修	教科書第2講 (pp. 17-31)を読むこと。ポツダム宣言の条文を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
5	4月21日 (火)	権力分立	権力分立の意義と目的、日本国憲法における権力分立の在り方。 ※教科書：第2講 (pp. 17-24)	
		この回の到達目標	日本国憲法の条文をもとに権力分立を説明できる。	
		事前学修	教科書第2講を（pp. 17-24）読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
6	4月22日 (水)	日本国憲法の基本原理	国民主権、平和主義、基本的人権、基本原理相互間の関係。 ※教科書：第2講 (pp. 25-31)、第4講 (pp. 47-58)、第5講 (pp. 73-75)	
		この回の到達目標	国民主権、平和主義および基本的人権の保障の相互関係について説明できる。	
		事前学修	教科書第2講 (pp. 25-31)、第4講 (pp. 47-58)、第5講 (pp. 73-75)を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月28日 (火)	天皇と国民主権	天皇（1）：天皇の地位、「国民の総意」（憲法1条）の意味。 ＊教科書：第3講（pp. 33-40）	
		この回の到達目標	天皇の地位と国民主権の関係を説明できる。	
		事前学修	教科書第3講（pp. 33-40）を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
8	4月29日 (水)	天皇と元首	天皇（2）：元首の概念、元首概念の変容 ＊教科書：第3講（pp. 38-40）	
		この回の到達目標	天皇は元首であると言えるか否かについて説明できる。	
		事前学修	教科書第3講（pp. 33-40）を読むこと。明治憲法の関連条文を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
9	5月5日 (火)	天皇の行為	天皇（3）―国事行為・公的行為 ＊教科書：第3講（pp. 41-44）	
		この回の到達目標	天皇の行為にどのようなものがあるか説明できる。	
		事前学修	教科書第3講（pp. 41-44）を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
10	5月6日 (水)	占領下における憲法解釈	戦争の放棄（1）―ポツダム宣言、占領、占領下における9条解釈 ＊教科書：第4講（pp. 47-55）	
		この回の到達目標	占領下における9条解釈について説明できること。	
		事前学修	教科書第4講（pp. 47-55）および「ポツダム宣言」を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
11	5月12日 (火)	独立回復と憲法解釈の変更	戦争の放棄（2）―日本国との平和条約、独立、保安隊から自衛隊へ、9条解釈の変更 ＊教科書：第4講（pp. 55-64）	
		この回の到達目標	独立回復後の9条解釈の変更の理由（背景）について説明できる。	
		事前学修	教科書第4講（pp. 55-64）を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
12	5月13日 (水)	冷戦後の国際社会と憲法解釈の変更	戦争の放棄（3）―現代国際社会と安全保障 ＊教科書：第4講（pp. 65-70）	
		この回の到達目標	冷戦後の国際社会の変容と憲法解釈変更の理由（背景）について説明できる。	
		事前学修	教科書第4講（pp. 65-70）を読むこと。（1時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月19日 (火)	国会の地位	国会（１）－国会の地位 ＊教科書：第１５講(pp. 241-244)	
		この回の到達目標	国会の地位について説明できる。	
		事前学修	教科書第１５講(pp. 241-244)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
14	5月20日 (水)	国会の組織	国会（２）－国会の組織、選挙制度。 ＊教科書：第１５講(pp. 244-248)	
		この回の到達目標	国会の組織と衆参両院の選挙制度について説明できる。	
		事前学修	教科書第１５講(pp. 244-248)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
15	5月26日 (火)	国会の権能	国会（３）－国会の権能、議院の権能。 ＊教科書：第１５講(pp. 248-255)	
		この回の到達目標	国会の主要な権能について説明できる。	
		事前学修	教科書第１５講(pp. 248-255)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
16	5月27日 (水)	国会議員の地位と特権・憲法と政党	国会（４）－国会議員の地位、国会議員の特権、日本国憲法と政党。 ＊教科書：第１５講(pp. 255-259)	
		この回の到達目標	国会議員の特権について説明できる。日本国憲法と政党の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書第１５講(pp. 255-259)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
17	6月2日 (火)	内閣の地位と行政権	内閣（１）－内閣の地位、行政権の意義、独立行政委員会。 ＊教科書：第１６講(pp. 261-263)	
		この回の到達目標	行政権について説明できる。	
		事前学修	教科書第１６講(pp. 261-263)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
18	6月3日 (水)	内閣の組織と権能	内閣（２）－内閣の構成、内閣の権能、内閣総理大臣の地位と権能。 ＊教科書：第１６講(pp. 267-273)	
		この回の到達目標	内閣はどのように組織され、どのような権能をもっているか説明できる。	
		事前学修	教科書第１６講(pp. 267-273)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月9日 (火)	議院内閣制	内閣（３）―議院内閣制の本質、議院内閣制の原則、衆議院の解散権、大統領制。 ＊教科書：第１６講(pp.264-267)	
		この回の到達目標	議院内閣制と大統領制の異同について説明できる。	
		事前学修	教科書第１６講(pp.264-267)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
20	6月10日 (水)	首相公選論	内閣（４）―首相公選論 ＊教科書：第１６講(p.265)	
		この回の到達目標	首相公選制とはどのような制度であるかを説明できる。	
		事前学修	教科書第１６講(p.265)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
21	6月16日 (火)	司法権とその独立	裁判所（１）―司法権の意義、法律上の争訟、主観訴訟、客観訴訟、裁判官の独立。 ＊教科書：第１７講(pp.275-281)	
		この回の到達目標	司法権の意義と司法権の独立を確保するための制度について説明できる。	
		事前学修	教科書第１７講(pp.275-281)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
22	6月17日 (水)	裁判所の組織と権能	裁判所（２）―裁判所の組織と権能、三審制、裁判員制度、規則制定権。 ＊教科書：第１７講(pp.281-286)	
		この回の到達目標	裁判所の組織と裁判員制度について説明できる。	
		事前学修	教科書第１７講(pp.281-286)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
23	6月23日 (火)	違憲審査制	裁判所（３）―違憲審査制、付随的審査制、抽象的審査制、憲法裁判所、 ＊教科書：第１７講(pp.286-302)	
		この回の到達目標	わが国の違憲審査制についてせる名できる。	
		事前学修	教科書第１７講(pp.286-302)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
24	6月24日 (水)	予算と財政	財政民主主義、租税法律主義、予算の法的性格、公金支出制限 ＊教科書：第１８講(pp.303-315)	
		この回の到達目標	租税法律主義について説明できる。	
		事前学修	教科書第１８講(pp.303-315)を読むこと。（１時間）	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6月30日 (火)	地方自治の本旨	「地方自治の本旨」の意義、団体自治、住民自治 ＊教科書：第19講(pp.316-320)	
		この回の到達目標	「地方自治の本旨」について説明できる。	
		事前学修	教科書第19講(pp.316-320)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
26	7月1日 (水)	地方公共団体の組織と権能	地方公共団体の統治機構(首長、議会、執行機関)、選挙制度、長と議会の選挙および権能。 ＊教科書：第19講(pp.320-322)	
		この回の到達目標	地方公共団体の統治機構のしくみについて説明できる。	
		事前学修	教科書第19講(pp.320-322)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
27	7月7日 (火)	条例制定権	法律と条例、条例制定権の範囲、住民投票条例とその効力。 ＊教科書：第19講(pp.323-331)	
		この回の到達目標	条例制定権の限界について説明できる。	
		事前学修	教科書第19講(pp.323-331)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
28	7月8日 (水)	憲法改正	憲法改正の手続き、憲法改正の限界、憲法の変遷。 ＊教科書：第20講(pp.339-346)	
		この回の到達目標	憲法改正手続を説明できる。	
		事前学修	教科書第20講(pp.339-346)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
29	7月14日 (火)	憲法保障	憲法保障の意義、憲法保障のための制度。抵抗権、国家緊急権。 ＊教科書：第20講(pp.333-339)	
		この回の到達目標	憲法保障の制度について説明できる。	
		事前学修	教科書第20講(pp.333-339)を読むこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
30	7月15日 (水)	授業の総まとめ	定期試験についての説明など。	
		この回の到達目標	授業を振り返り、疑問点を明らかにできる。	
		事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。(1時間)	60分
		事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題に関するグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章「憲法の概念」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念についてまとめたノートを作っておく。	150分
2	4月8日	日本憲法史 憲法	日本初の近代憲法である大日本帝国憲法について、成立史、特色、運用を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、大日本帝国憲法の成立、特色、運用の特徴について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、大日本帝国憲法の特徴および運用についてまとめたノートを作っておく。	150分
3	4月13日	日本憲法史 の成立	現行憲法である日本国憲法の成立史、特色について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」2・3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作っておく。	150分
4	4月15日	「統治と国家組織」総論	国家の統治という作用と憲法との関係性について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法が国家権力に対して、どのような影響および拘束を与えているのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国家統治に関する基礎理論を整理したノートを作成しておく。	150分
5	4月20日	法治国家原理と法の支配	「法治国家」原理と「法の支配」との異同について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ的な「法治国家」概念とイギリス・アメリカ的な「法の支配」とが、どのような背景から生じ、それぞれどのような経緯をたどってきたのかを、内容的異同を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、法治国家原理と法の支配の異同について整理をしたノートを作っておく。	150分
6	4月22日	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくにナシオン主権論・プーブル主権論について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月27日	民主政原理	国民主権原理の具体的な表れである民主政について、歴史的展開も踏まえて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の民主政が抱える問題も含めて、直接民主制、間接民主制、選挙制度などの具体的な制度の関連性を説明することができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくに議会制民主主義の特徴について整理したノートを作成する。	150分
8	4月29日	天皇制	日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。	150分
9	5月4日	権力分立原理（1）権力分立論の意義	権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味などを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、権力分立の基礎的理解を整理したノートを作成する。	150分
10	5月6日	権力分立原理（2）現代の権力分立	とりわけ20世紀以降の権力分立における大きな変化を、行政国家現象、司法国家現象などを素材として概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会国家原理や違憲審査制が導入されて以降の国家権力のあり方の変化を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。	150分
11	5月11日	国会と立法権（1）立法の概念	国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的立法概念の内容と限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的立法概念について整理したノートを作成する。	150分
12	5月13日	国会と立法権（2）国会・議院・議員の権能	国会、各議院、国会議員の権能について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの組織や議員個人の権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章3～8を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国会・議院・議員の権能について整理をし、とりわけ国政調査権、議員特権に関する判例をまとめたノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月18日	内閣と行政権（1）行政権の概念	行政権の概念について、執政権論を参照しながら、現代的な行政権理解を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の理解についての変遷および執政権論の登場によって生じた理解の変化を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ執政権論について整理したノートを作成する。	150分
14	5月20日	内閣と行政権（2）議院内閣制	内閣の組織に関する制度である議院内閣制の特徴と、日本国憲法上の問題点について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質論，衆議院解散権の所在・限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」2～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ内閣の衆議院解散権についての議論を整理したノートを作成しておく。	150分
15	5月25日	裁判所と司法権（1）司法権の概念	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、その特殊性を踏まえて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念，内在的・外在的限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟，板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	150分
16	5月27日	裁判所と司法権（2）司法の独立	司法権の対外的独立，裁判官の身分保障などの司法の独立性保障がいかなる意義をもち，かつどのような問題にさらされているのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の独立，裁判官の独立，裁判官の良心について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」2～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、司法の独立がなぜ重要なのかについて，対外的独立と対内的な独立とを対比しながら整理したノートを作成する。	150分
17	6月1日	違憲審査制 類型（1）違憲審査の類型	違憲審査の意義・歴史，類型論などについて概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか，どのような類型があるのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，とりわけ付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。	150分
18	6月3日	違憲審査制（2）付随的違憲審査制の特徴と審査技法	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制について，最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，最高裁判例と関連づけながら，付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月8日	違憲審査制（3）違憲判決の手法	法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果について，最高裁判例を挙げながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果を具体例を挙げながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，違憲判決の類型および判決の効力について，具体例とともに整理したノートを作成する。	150分
20	6月10日	国家と財政義（1）租税法律主義	国家の財政ルールの一つである租税法律主義について，その意義と射程を，判例も参照しながら概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，租税法律主義について，判例もあわせて整理したノートを作成する。	150分
21	6月15日	国家と財政支出（2）予算と公金	予算と公金支出に関する憲法上の規律について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算と公金支出に関する憲法上のルールが説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」2～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，予算・公金支出のルールについて整理したノートを作成する。	150分
22	6月17日	地方自治制度（1）地方自治の本旨	地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに，地方自治の本旨（団体自治・住民自治）の意味するところを具体例を挙げながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。	150分
23	6月22日	地方自治制度（2）条例	地方自治体がもつ条例制定権について，その意義と射程・限界を，具体例を参照しながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，とりわけ条例制定権の射程・限界を具体例を挙げながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」2～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，条例制定権をめぐる問題について整理したノートを作成する。	150分
24	6月24日	憲法保障制度（1）憲法改正	日本国憲法上の憲法改正手続について，改正限界に関する議論も踏まえて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「憲法改正」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6月29日	憲法保障制度（2）憲法尊重擁護義務	憲法尊重擁護義務の実質的意味について、昨今の緊急事態に関する議論も踏まえて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法尊重擁護義務がいかなる意味をもつのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法尊重擁護義務をめぐる諸問題について整理したノートを作成する。	150分
26	7月1日	平和主義 解釈論	(1) 前文・9条の日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」1～2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	150分
27	7月6日	平和主義	(2) 9条裁判	とりわけ自衛隊の合憲性が争われた裁判について概観する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条裁判がどのように展開してきたのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」2～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、9条をめぐる判例とそこでの判決内容について整理したノートを作成する。	150分
28	7月8日	平和主義 現 状	(3) 平和主義の現 状	9条改正問題や安保法制などの現状について論じる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条に関する具体的な現状を理解し、自分なりの考えを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」3～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平和主義が抱える問題とそれに対する自分の考えを整理したノートを作成する。	150分
29	7月13日	統治・国家組織論と人権論	違憲審査制、私人間効力論、生存権保障など、人権論と国家組織論とが交錯する領域についての議論を総括しながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論と人権論とがどのように関連しているのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、統治・国家組織論と人権論との関係性について整理したノートを作成する。	150分
30	7月15日	まとめ	統治・国家組織論についてのまとめをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	野口 健格	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
・講義形式で実施する。 ・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・六法（出版社は問わない）を持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法2 統治(第7版)	渋谷 秀樹・赤坂 正浩 著	有斐閣アルマ	2019年	教科書	必携
憲法判例集(第11版)	野中俊彦・江橋崇／ 編著、渋谷秀樹／補訂	有斐閣新書	2016年	参考書	任意
備考	授業内容によってはプリントを配布することがある。その他の文献に関しては授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
土曜3限の講義終了後に適宜実施する。メールでの相談は（noguchi@cc.egu.ac.jp）に送信すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 土4/4	イントロダクション（統治機構と権力分立）	本講義における受講のルールや成績の評価方法等の基本事項を確認する。また、憲法における統治機構と権力分立についての基本的な構造が認識できるようにする。	
		この回の到達目標	・憲法の基本構造を理解するとともに、わが国の統治機構における権力分立の重要性を意識できるようにすること。 ・自発的な学習ができるように講義受講の際に心掛けること、自分流のメモやノートをとる訓練の必要性を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
2	第二部 土4/4	日本国憲法史（統治機構）	明治憲法から現行憲法、そして日本国憲法制定から今日に至るまでの流れを概観する。その過程で、わが国の統治機構がどのように変遷してきたのを理解してもらう。	
		この回の到達目標	・大日本国憲法と日本国憲法の根本的な違いを理解すること。 ・戦後の日本国憲法が辿った流れを知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
3	第二部 土4/11	象徴天皇制（天皇の地位と権能）	前回の講義を受けて、天皇の地位がどのように変わったのかについて理解し、現行憲法下で有する象徴としての権能を学習する。	
		この回の到達目標	・明治憲法から現行憲法に移行する過程で天皇の地位がどのように変わったのかを理解すること。 ・現行憲法上の天皇の権能を把握すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
4	第二部 土4/11	平和主義①（憲法9条の意義）	憲法9条の条文解釈や同条制定の背景、過去から現在に至るまでに生じた問題点について学習する。	
		この回の到達目標	・憲法9条の具体的な問題点について知ること。 ・憲法9条の解釈の必要性について意識すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
5	第二部 土4/18	平和主義②（国防と安全保障）	自衛隊の法的位置付けと国際社会の中で日本を取り巻く安全保障環境の変化について学ぶ。	
		この回の到達目標	・自衛隊の役割と国際社会における日本の位置付けについて理解すること。 ・現在の集団安全保障体制とその問題点について知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
6	第二部 土4/18	立法①（国会の地位と構造）	国権の最高機関でありかつ国の唯一の立法機関である国会の基本事項について学習する。	
		この回の到達目標	・わが国の国会が憲法上どのように位置付けられているのか理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 土4/25	立法②（国会の権能）	国権の最高機関でありかつ国の唯一の立法機関である国会の基本事項について学習する。	
		この回の到達目標	・国会が持つ様々な権限・能力について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
8	第二部 土4/25	立法③（国会議員の地位）	法律という規範を議論を経て制定する役割を担う国会議員とはどのような者なのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	・国会議員が憲法上どのように位置付けられているのかを理解すること。 ・具体的な国会議員像についてイメージできるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
9	第二部 土5/2	立法④（国会の運営）	法律を制定する際に具体的な議論が行われる委員会や国会の運営方法について学習する。	
		この回の到達目標	・国会内でどのように審議が行われているのかを知ること。 ・国会運営を支える仕組みについて理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
10	第二部 土5/2	立法⑤（議員定数の不均衡）	一票の格差と平等についての問題点とこれまでに下された選挙訴訟に関する裁判所の判断について学習する。	
		この回の到達目標	・わが国の選挙制度について知ること。 ・一票の格差と平等の問題について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
11	第二部 土5/9	行政①（議院内閣制）	わが国において国会と内閣とが分立した上で、内閣は国会の信任によって存立する政治制度である議院内閣制について、大統領制と比較しつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	・議院内閣制の本質について理解すること。 ・議院内閣制と大統領制の違いについて理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
12	第二部 土5/9	行政②（内閣の組織・権能・責任）	内閣の基本事項について学習する。	
		この回の到達目標	・内閣の基本的な構造について理解し、全体を俯瞰できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 土5/16	行政③（内閣総理大臣の権限）	内閣総理大臣の権力性がどのような仕組みを背景として生じるのかを認識できるように学習する。	
		この回の到達目標	・内閣総理大臣の権限について知ること。 ・わが国では内閣総理大臣の権力や権威がどのように生じているのかを理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
14	第二部 土5/16	行政④（衆議院の解散）	衆議院の解散権行使の主体について理解し、解散という国家行為の法的・政治的問題について学習する。	
		この回の到達目標	・衆議院の解散がどのような法的・政治的事象であるのかを知ること。 ・解散権の所在を説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
15	第二部 土5/23	行政⑤（独立行政委員会）	内閣に属していない行政機関である独立行政委員会の法的問題点と意義について具体的な機関を例にあげて学習する。	
		この回の到達目標	・独立行政委員会の法的特徴について説明できるようにすること。 ・独立行政委員会の必要性と問題点について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
16	第二部 土5/23	司法①（司法権の由来と特色）	司法権についての基本事項について学習する。	
		この回の到達目標	・司法権の本質とわが国の司法制度について理解すること。 ・わが国における裁判の類型を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
17	第二部 土5/30	司法②（裁判所の組織・権能）	司法権の担い手である裁判所に関する基本的事項に関して学習する。	
		この回の到達目標	・わが国の裁判所を概観し、全体像を把握すること。 ・わが国の裁判所の権限・能力について知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
18	第二部 土5/30	司法③（司法の独立と民主統制-国民の政治参加）	司法の独立性と民主的統制に関する手法について学習する。	
		この回の到達目標	・司法の独立の重要性について理解すること。 ・裁判所の国民審査を制度的に理解すること。 ・裁判員裁判の制度の概要を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 土6/6	抽象的違憲審査制（憲法裁判所型）	ドイツに代表される憲法裁判所による違憲審査について学習する。	
		この回の到達目標	・ドイツに代表される憲法裁判所による違憲審査の意義について知ること。 ・違憲審査の何が「抽象的」なのか理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
20	第二部 土6/6	具体的違憲審査制（通常裁判所型）	日本やアメリカが採用している通常裁判所による違憲審査について学習する。	
		この回の到達目標	・日本やアメリカが採用している通常裁判所による違憲審査の意義について知ること。 ・違憲審査の何が「具体的」なのか理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
21	第二部 土6/13	憲法訴訟論①（対象）	わが国の憲法判例のいくつかを素材として憲法訴訟について学習する。	
		この回の到達目標	・憲法訴訟の対象事案の特徴を理解すること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
22	第二部 土6/13	憲法訴訟論②（要件と手続）	わが国の憲法判例のいくつかを素材として憲法訴訟について学習する。	
		この回の到達目標	・憲法訴訟が成立する要件と成立した際の手続きについて知ること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
23	第二部 土6/20	憲法訴訟論③（判断の方法・違憲判決の効力と事後処理）	わが国の憲法判例のいくつかを素材として憲法訴訟について学習する。	
		この回の到達目標	・憲法訴訟において裁判官がどのようなアプローチをして結論に至るのかを知ること。 ・違憲判決が出た際、その効力と事後処理の方法について知ること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
24	第二部 土6/20	世界の違憲審査制	憲法訴訟について学ぶにあたり世界各国の違憲審査制度について可能な限り紹介しながら進めていく。各国の制度比較を通して違憲審査という事象についての理解を深めていく。	
		この回の到達目標	・他国との制度比較を通じて違憲審査の意義を再検討すること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 土6/27	財政①（財政民主主義と租税法律主義）	国家レベルの財務と税務のあり方と民主的統制について学習する。	
		この回の到達目標	・財務や税務が民主的統制を受けていることの意義を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
26	第二部 土6/27	財政②（予算と決算）	国家予算の編成と決算について学習する。	
		この回の到達目標	・国家における予算と決算の仕組みについて理解すること。 ・国庫に対して国民の監視の目が及ばなければならないという視点を持つこと。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
27	第二部 土7/4	地方自治①（地方自治の本旨と地方公共団体の機関）	地方公共団体の基本事項について学習するとともに、憲法上想定される地方のあり方について学ぶ。その際、他国の事例も参照する。	
		この回の到達目標	・わが国の地方自治体の由来と特徴を理解すること。 ・地方分権の意義と問題点について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
28	第二部 土7/4	地方自治②（条例の性質・条例の範囲と限界）	わが国の地方公共団体が制定する条例について学ぶとともに、条例制定の目的や様々な地方行政の中で果たす役割について学習する。	
		この回の到達目標	・条例の性質について理解すること。 ・条例の適用範囲を知ること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
29	第二部 土7/11	憲法保障の諸類型（抵抗権・国家緊急権・違憲審査制）	わが国における憲法保障の意義は、憲法典の規範力を維持するために用意（想定）されているものを理解し、国家と憲法との関係性を再認識する。	
		この回の到達目標	・憲法保障という概念を理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
30	第二部 土7/11	憲法改正手続の意義と憲法改正権の限界	わが国の憲法改正手続の内容を再確認するとともに、その手続の妥当性を考え、また憲法改正権の「限界」についても考える。その過程で他国の事例も参照する。	
		この回の到達目標	・憲法改正手続規定と憲法改正手続法について理解すること。 ・憲法改正権の所在と限界について理解すること。	
		事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
		事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返りを実施する。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	授業案内・導入：憲法（人権）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	4/17	憲法総論：人権論へのイントロダクション	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	4/24	人権総論：人権の類型／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，人権の類型，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
4	5/1	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
5	5/8	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，目的・効果基準を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則を説明している教科書pp. 145-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	5/15	精神的自由権（3）：表現の自由	表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由を説明している教科書pp. 165-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	経済的自由権（１）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	5/29	経済的自由権（２）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、ポータル・システムにてレポートを提出する。★6	150分
9	6/5	身体的自由権（１）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
10	6/12	身体的自由権（２）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利、証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
11	6/19	受益権	受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義を説明し、履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、受益権の意義をノートにまとめ、受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
12	6/26	社会権（１）：生存権の法的性格	社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し、履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	社会権（2）：生存権をめぐる判例／その他の社会権	生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また、その他の社会権（教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）に表れた法理を理解し、説明することができる。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、生存権をめぐる重要判例、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権を説明している教科書pp. 272-290を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	7/1	包括的人権（1）：法の下の平等	「平等」思想の歴史、「平等」のさまざまな意味、憲法14条の意義、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下の平等」をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、憲法14条の「法の下の平等」原則の特質、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下の平等」をめぐる判例の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、「法の下の平等」の意義及び特質並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 107-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、「平等」のさまざまな意味、「法の下の平等」をめぐる判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。	120分
15	7/17	包括的人権（2）：幸福追求権と「新しい人権」	個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、を説明している教科書pp. 77-97を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権の意義及びそれに関連する判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
		この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解すること。	120分
		事後学修	オリエンテーションを振り返ること。	120分
2	4月13日	人権保障の一般原則(1)	人権を憲法で保障することの意義を考察する。西欧の歴史において中世から近代へと以降する時期に、どのように自由や権利の意識が芽生え定着していったのか、。産業革命の進展とともに権利の内容はどのように拡大していったのかを考察し、人権保障に通底する理念を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書121-123ページを読み、人権保障の意義について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の中で示された「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を想定してみること。	120分
3	4月20日	人権保障の一般原則(2)	人権の主体・私人間効力について考察する。憲法上の権利を主張することのできる人は誰かについて、国民、外国人、法人などを区分して考察する。さらに、人権の主張はどのような場面で可能なのかについては、統治権の意義と内容を確認したうえで、国民に及ぼす影響と人権との関係を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体と憲法の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書124-126ページを読み、憲法上の権利を主張することのできる人は誰か、人権の主張はどのような場面で可能なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、憲法と国民との関係を考えつつ自分が外国に行った時のことを想定してみる。また社会の中の格差や差別をどうやって解決すべきかを考えてみること。	120分
4	4月27日	人権の一般原則(3)	人権制約の原理について考察する。憲法上の権利は無制約に国民に認められるのか、それとも制約は必要か。どの程度までの制約ならば許されるのか。その制約はいかなる理由で正当化できるのかを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書126-128ページを読み、誰もが無制限に人権を主張した場合に、どのようなことは発生するのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「みなが平和に暮らす」とことと「みな同じように行動しなければダメ」は同じか、違うのかを考えてみること。	120分
5	5月4日	精神的自由(1)	良心の自由・信教の自由について学習する。良心の自由を保障する意義とその範囲、そして近年の最高裁判例が示した良心の自由に対する制約の原理を学ぶ。そして信教の自由を保障し、政教分離原則を掲げる理由を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、思想良心の自由および信教の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書135-142ページを読み、信念を持って生きること、信仰に基づいて生活することの意義を考え、それが否定された時の感情を想像してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国旗国歌に起立斉唱しなければならないのか、風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いですので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人たちを政府が追悼するのは許されるかを考えてみること。	120分
6	5月11日	精神的自由(2)	学問の自由・表現の自由の意義について学習する。学問研究を保障する意義を考察するとともに、表現の自由が人間の発展にどのような影響を及ぼし、さらには民主社会にいかなる意義を持つのかを学ぶ。また表現することに必要な様々な人間の活動についても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問の自由・表現の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書142-144ページを読み、科学研究や表現活動がいかに人間社会を進展させたのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、クローン技術やiPS細胞、AI技術のような人間の生活に大きな影響を与える研究はなぜ推進されるのか、表現の自由は「優越的地位」にあるというのが本当にそうなのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	精神的自由(3)	表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲を学習する。表現して情報を発信するにおいて、実際にどのような制約が存在しているのか、その制約はいかなる理由により正当化されているのか、その制約に対して裁判所はどのように憲法適合性を判断すべきなのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書144-149ページを読み、表現の自由になぜ制約が必要なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、表現の自由を制約する理由はすべてにおいて同じか、それとも異なる理由づけによるのかを考えてみること。	120分
8	5月25日	精神的自由(4)	知る権利と報道機関の自由について考察する。知る権利の憲法上の地位を確認するとともに、関連する最高裁判例を学び、情報流通の確保の重要性を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知る権利と報道機関の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書149-152ページを読み、知る権利とはどのようなものであるのか、知る権利を具体化する報道機関の自由は何かを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、新型ウィルス流行に際して政府が正しい情報を提供しない場合どうなるのかを考えてみること。	120分
9	6月1日	精神的自由(5)	集会・結社の自由について考察する。集会の自由については、公の施設を利用した場合と集団的示威行為とに分けて、最高裁判例を中心にその規制の実態を学ぶ。また結社の自由については、グループを結成して活動を継続することに政府はどのように関与することができるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書152-154ページを読み、集会がどのように人々の政治的意見の形成にかかわるのかを考えてみること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、サークルやバンドを結成し参加して活動することによってどのような問題があるのかを考えてみること。	120分
10	6月8日	経済的自由(1)	職業選択の自由について考察する。近代市民社会の基本理念である「私的自治」を確認し、契約の自由の意味を理解したうえで、就職し起業して営利を得ることの意義を考えるとともに、営業活動における公平さはいかに確保できるのか、現状の制約は公平といえるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職業選択の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書155-161ページを読み、就職したり起業して営利を稼ぐことは無制限に許されるのか、あるいは何らかの制約は必要なのか、必要ならどのような制約が望ましいのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、人はだれでも生活のために働くが、それを選び継続する自由はどこまで認められるのかを考えてみること。	120分
11	6月15日	経済的自由(2)	財産権保障について学習する。「私的自治」における所有権絶対の原則を確認したうえで、その他の財産的権利の内容とその保障の在り方を学ぶ。そして秩序や安全確保のための財産権制約と、弱者保護のための制約の理由を考察して、損失補償の実態を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書161-163ページを読み、各自の持つ服や靴、時計を「所有する」とはどういうことなのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、財産をもつ権利にはどのような制限が及ぶのかを考えてみること。	120分
12	6月22日	社会権(1)	福祉国家主義・生存権について学習する。憲法が福祉国家主義を採用した理由を考察するとともに、政府による経済的社会的弱者の救済を社会権の内容を確認したうえで理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、福祉国家主義・生存権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書168-170ページを読み、経済活動を放任した結果貧富の格差が著しい社会はどのようなものかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	社会権(2)	教育権・労働基本権について学習する。教育を受ける権利の意義を考察するとともに、公教育に対する政府の関与と補助の現状を学ぶ。また労働者の権利を理解して、特に労働三権の意義を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育権・労働基本権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書164-168ページを読み、小学校・中学校に通わなかった場合に今の日本で仕事を探すことができるのかを考え、さらに「ブラック企業」と何か調べてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国家が国民に教育を提供することの意味を考え、また労働者が集団で使用者と交渉する権利が認められるのはなぜかを考えてみること。	120分
14	7月6日	幸福追求権	憲法13条で保障されていると理解される人格権・自己決定権について学習する。「新しい人権」を保障する原理としての「幸福追求権」を理解するとともに、その内容である人格権・自己決定権の内実を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、幸福追求権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書171-185ページを読み、憲法13条の保障する幸福を追求する権利とはどのようなものか、また憲法に明記されていない権利はどのように保障されるべきかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてみよう、また電子機器とプライバシー保護との関係を考えてみること。	120分
15	7月13日	平等	形式的平等と実質的平等の差異を考えつつ、平等原則の意義を学習する。社会に存在する様々な区別と差別とをいかに見分けるのかについて、最高裁判例を参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書128-133ページを読み、「等しいものは等しく扱い、等しくないものは別々に扱う」ということはどういう意味なのかを考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてみること。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章「憲法の内容」1～4を読んでおくこと。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	150分
2	4月16日	基本的人権の歴史	基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、とりわけロックの社会契約に関する議論、憲法における人権の保障、人権概念の歴史的変遷を説明することができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の歴史的展開について整理したノートを作成する。	150分
3	4月23日	基本的人権の保障と制限	基本的人権の人的保護領域・事項的保護領域に関する議論を紹介するとともに、その制限と正当化についても論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法上の人権保障と制限に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」2～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域・事項的保護領域およびその制限について、判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
4	4月30日	私人間効力論	私人間の法律関係に対する基本的人権規定の適用に関する議論を、三菱樹脂事件などの主要判例の展開を含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人権規定の私人間効力という問題とそれに対する日本の裁判所の対応について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、私人間における基本的人権の効力について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
5	5月7日	個人の尊重・幸福追求権	日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を、新しい人権に関する判例も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権の保護領域に関する議論および、それを踏まえた新しい人権の保障問題について論じる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域、新しい人権の保障について、范蠡の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
6	5月14日	法の下での平等	絶対的/相対的平等、形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法14条後段列举事由の解釈を、主要な判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平等原則の意義およびこれに関する判例である尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決、非嫡出子相続分差別違憲決定、再婚禁止期間違憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	思想・良心の自由	思想・良心の自由の保護領域およびその制約に関する近年の判例の展開について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて、様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
8	5月28日	信教の自由と政教分離原則	日本国憲法20条が保障する信教の自由および政教分離原則の意義や内容、制約・違反事例について、エホバの証人剣道実技拒否事件や津地鎮祭事件など主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、信教の自由、政教分離原則の内容とこれに対する制約・違反が問題となった事例およびそこでの判示内容が説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、信教の自由、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。	150分
9	6月4日	表現の自由	日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域、さらには多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域、制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。	150分
10	6月11日	職業の自由	日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を論じるとともに、薬事法違憲判決、小売市場判決などの制約事例を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域、制約事例に対する裁判所の判断について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」1・3・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。	150分
11	6月18日	財産権	日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性、制約類型（公用収用を含む）を踏まえた違憲審査のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を判例の立場も含めて説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。	150分
12	6月25日	身体の自由	日本国憲法31条以下が定める刑事手続に関する規律に関する解釈のあり方を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	参政権	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障、選挙制度について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
14	7月9日	社会権	日本国憲法25条が保障する生存権を中心に、社会権保障のあり方、これが問題となった判例などを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会権の特徴とその実現に関する議論を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権を中心に、社会権保障とそれに伴う問題を整理したノートを作成する。	150分
15	7月16日	まとめ	基本的人権論に関するまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的人権論の全体像と今後の展望を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料およびこれまで作成したノートをよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法A(人権)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
指定教科書に沿って講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど、教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義での理解度を確認するため、指定用紙による授業内レポートを課し、それに対する講評を受講生全員に示すことによって問題意識を全体で共有し、意見を求め議論することで、講義内容の理解を深化させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果と講評とポータスシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック 日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
START UP 憲法判例 50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016	その他	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日3時限 研究室（本館6階1616研究室） higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日 (火)	近代立憲主義の成立と展開	近代憲法の成立と基本的人権の保障，イギリス名誉革命と権利章典，アメリカの独立革命と憲法的文書，フランス革命と人権宣言。（教科書73-85頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	近代憲法の成立過程とその基本原理を理解し，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	4月14日 (火)	人権の観念と内容	人権の性格，人間の尊厳，人権の分類（教科書73-85頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	人権の基礎づけと各種の人権の性格を理解し，人権の分類について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	4月21日 (火)	現代立憲主義と人権概念の変容	近代立憲主義から現代立憲主義への変化，現代憲法における人権保障，人権の国際化（教科書85-88頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	近代立憲主義から現代立憲主義への変化をもたらした時代背景と現代憲法の特徴を理解し，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	4月28日 (火)	人権の享有主体	人権享有主体（国民・外国人・法人・未成年），各種人権の性質，享有主体ごとに保障される人権の種類（教科書90-96頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	日本国憲法の保障する基本的人権が，その性質に応じて保障されることを理解し，人権享有主体のそれぞれが享有できる人権について簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
5	5月5日 (火)	人権と公共の福祉	「公共の福祉」とは何か，公共の福祉による人権制約，違憲審査基準（教科書98-99頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	「公共の福祉」について学説・判例の見解が簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
6	5月12日 (火)	包括的人権（幸福追求権）	幸福追求権の意義と範囲，幸福追求権から導き出される人権（名誉権・プライバシー権・自己決定権・環境権）。（教科書97-104頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	「新しい人権」について，判例に則して簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日 (火)	平等原則・平等権	平等観念の展開（市民革命期の人権宣言）、日本国憲法における平等原則（14条1項の解釈・14条1項違反とされた判例）、選挙権の平等、家族生活及び職場における男女平等。（教科書105-120頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	平等原則と合理的な差別について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
8	5月26日 (火)	精神的自由権（1）	精神的自由権の意義、思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則、学問の自由。（教科書122-131、141-142頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	内心の自由について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
9	6月2日 (火)	精神的自由権（2）	表現の自由の意義と内容、集会の自由、結社の自由。（教科書132-140頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	民主政における表現の自由の重要性について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
10	6月9日 (火)	経済的自由権	経済的自由権の意義、居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障。（教科書144-158頁、授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	経済的自由権に対する規制について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
11	6月16日 (火)	人身の自由	人身の自由の意義、奴隷的拘束および苦役からの自由、適正手続の保障、被疑者の権利と被告人の権利。（教科書159-178頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	人身の自由の保障の重要性について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
12	6月23日 (火)	参政権	参政権の意義、選挙権の法的性質、選挙の基本原則、選挙の方法と選挙運動の規制、直接民主制方式としての参政権。（教科書180-195頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	代表民主制にとっての参政権の重要性について、簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日 (火)	国務請求権	国務請求権の意義，請願権，裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権。（教科書196-210頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	国務請求権は自由権や社会権とどう違うか，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	7月7日 (火)	社会権（1）	社会権の歴史的背景，日本国憲法における社会権保障，生存権の法的性格，教育を受ける権利，教育権の所在と教育を受ける自由。（教科書211-223頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
		この回の到達目標	生存権に関する主要な判例について，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
15	7月14日 (火)	社会権（2）	勤労権，労働基本権の性格と内容，労働基本権の制限（教科書223-232頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	公務員の労働基本権に関する判例の傾向について，簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書に準拠し、講義形式で行うとともに、事前学修が行われていることを前提に、履修者数に応じて、反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）による振り返りを実施する。なお、講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	反転授業、調べ学修を要する小テスト（レポート）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果（成績分布等）・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	授業案内：憲法（統治機構）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	9/25	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	10/2	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法の基本原理	明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程・基本原理を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	10/9	国会（1）：国会の地位	代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	10/16	国会（2）：国会の活動	会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	10/23	国会（3）：国会の権能／議院の権能	国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。また，議院の権能（議院の自律権，国政調査権）を説明し，これを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を説明している教科書pp. 306-320を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	国会（4）：参政権と選挙制度	参政権の意義（国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制，大選挙区制，比例代表制）の特徴を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。また，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し，その概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
8	11/6	内閣（1）：行政権と内閣制度／議院内閣制	行政権の意義，議院内閣制のしくみを説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみを理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院解散総選挙に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，行政権の意義，内閣制度の変遷，議院内閣制を説明している教科書pp. 327-337を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみをノートにまとめ，説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★2	150分
9	11/13	内閣（2）：内閣の組織・権能	内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明している教科書pp. 337-348を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
10	11/20	天皇：象徴天皇制／国事行為／皇室経済	日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-43を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分
11	11/27	裁判所（1）：司法権	司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を説明し，履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，司法権の特質を説明している教科書pp. 349-360を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例，司法権の限界に関する理論をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
12	12/4	裁判所（2）：裁判所の組織・権能	裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明している教科書pp. 360-374を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	戦争の放棄：平和主義／憲法9条／安全保障	憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，戦争の放棄に関する問題に解答することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明している教科書pp. 44-76を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。また，ポータル・システムにてレポートを提出する。★6	150分
14	12/18	財政：予算・決算／公金支出等の禁止	予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明している教科書pp. 375-389を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分
15	12/25	地方自治：地方自治の本旨／地方公共団体の組織・運営	地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明している教科書pp. 390-410を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ，その概要説明できるようにする。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	国民主権	国民主権の意義・民主主義について学習する。まずは「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。そして、このことと不可分の関係にある民主主義の在り方について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書37-43ページと世界史の教科書を読み、人々が政治に参加する権利を獲得してきた歴史を確認してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてみる。	120分
2	9月21日	選挙(1)	国民の政治参加を具体化する制度、すなわち選挙の原則について学習する。普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票および平等選挙の意義と内容を考察する。その際に「一票の格差」の問題に触れ、近年の最高裁判例の発展について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書43-47ページを読み、選挙の原則の概要を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてみる。	120分
3	9月28日	選挙(2)	現在の選挙制度について学ぶ。衆議院および参議院の選挙制度の概要を理解したうえで、小選挙区制と比例代表制の内容と問題点を考察する。さらに日本の政党に対する規制についての理解も深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書43-54ページを読み、日本の選挙制度の概要を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現行の選挙制度にはどのような問題点があるのかを考えてみる。	120分
4	10月5日	国会(1)	二院制・国会の審議方法について学習する。二院制、とくに参議院の存在意義について理解を深めたうえで、国会が法律を制定する際の審査過程を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二院制・国会の審議方法についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書59-63ページを読み、国会の組織と手続の概要を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてみる。	120分
5	10月12日	国会(2)	立法権・議員特権について学習する。国会が制定すべき法律とはどのようなものであるべきか、また法律を制定する国会議員の任務と特権はどのようなものかを理解する。そしてなぜ国会議員が国民には認められない特権を手にするのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、立法権・議員特権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書63-68ページを読み、国会議員に認められている特権の内容を確認してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国民よりも厚く保護されている国会議員に求められる役割とはどのようなものかを考えてみる。	120分
6	10月19日	内閣	議院内閣制・内閣の構造と権能について学習する。議会と行政府との関係につき、議院内閣制の特徴を理解する。さらには、内閣の構造と権能を学んだうえで、今日の内閣主導の政治決定のあり様について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制・内閣の構造と権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書69-87ページを読み、内閣の組織と国会との関係の概要を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	裁判所(1)	司法権の内容・日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係を学んだうえで、裁判所が裁判する際に不可欠な条件を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の内容・日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書103-107、109-114ページを読み、裁判所の構成と裁判所の任務について理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてみる。	120分
8	11月9日	裁判所(2)	司法権の限界・司法の独立について学習する。裁判所が裁判できるにもかかわらず、その権限行使を回避する範囲と理由を考察し、その必要性の理解に努める。また司法の独立の意義を考察し、裁判と民意との関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の限界・司法の独立についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書106-109、111ページを読み、司法権が政治部門から独立していることの重要性を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、民主政と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてみる。	120分
9	11月16日	違憲立法審査権	法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、違憲立法審査権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書115-120ページを読み、憲法上最高裁判所に付与された違憲立法審査権の意義について理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてみる。	120分
10	11月23日	地方自治(1)	地方自治制度・地方公共団体の構造について学習する。憲法の規定する「地方自治の本旨」の理解とともに、現行の地方自治制度の概要および地方公共団体の構造を学ぶ。さらには国と地方公共団体との関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治制度・地方公共団体の構造についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書89-95ページを読み、日本の国家制度としての地方自治の概要を理解してくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国と地方の関係はどのようなものであるのかを考えてみる。	120分
11	11月30日	地方自治(2)	住民の権利・条例制定権について学習する。条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。さらに地方公共団体の権限として条例制定権ほかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住民の権利・条例制定権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書95-102ページを読み、地方自治制度の下での住民の権利について理解を深めてくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを考えてみる。	120分
12	12月7日	天皇	象徴としての地位・国事行為についての理解を深める。国民主権の下での天皇の存在、国事行為以外の天皇の行為の法的性質、象徴として天皇に認められる特権と制約、皇族などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書15-18ページや日本史の教科書を読み、日本の歴史における天皇について考えてくる。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	平和主義	戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制について学習する。国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係、9条の理解、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書187-200ページを読み、憲法が平和主義を採用するようになった経緯を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現在の国際社会での自衛権の行使について考えてみる。	120分
14	12月21日	国家について・憲法とは何か、立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家について・憲法とは何か、立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書1-22ページを読み、さらにこれまで学んだことを振り返り、国家の存在意義、国家と憲法との関係について考えてくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてみる。	120分
15	1月18日	憲法史	明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。	
		事前学修	教科書22-35ページを読み、と日本史の教科書を読み、幕末から明治維新、条約改正から5・15事件や満州事変を経て敗戦に至る歴史と、GHQの占領、新憲法制定、高度経済成長期にかけての歴史を理解してくること。	120分
		事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてみる。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。							1	1				
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。							1	1				
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。								1	1			
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	日本憲法史	大日本帝国憲法から日本国憲法へと至る歴史的な展開を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標1に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを、大日本帝国憲法と対比しながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作成する。	150分
2	9月24日	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」1および第14章「国会」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国民主権原理とその具体的な表れである民主制との関係性を整理したノートを作成する。	150分
3	10月1日	権力分立原理	権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのか、そして現在どのような変化を生じているのかを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味、現代的变化などを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。	150分
4	10月8日	国会と立法権	国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じるとともに、国会の組織・権能などを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的な立法概念とは何かを説明でき、また国会の組織や権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」1～8を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的立法概念について整理したノートを作成する。	150分
5	10月15日	内閣と行政権	とりわけ行政権の概念、議院内閣制、衆議院の解散を中心に、現代的な行政権理解を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の概念、議院内閣制の本質論、衆議院解散権の所在・限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」1～4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、執政権論、内閣の衆議院解散権についてノートを作成する。	150分
6	10月22日	裁判所と司法権	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、司法の独立の要請を踏まえて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界、司法の独立について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	違憲審査制 意義と類型	(1) 違憲審査の	違憲審査の意義・歴史、類型論などについて概説する。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか、どのような類型があるのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。	150分
8	11月5日	違憲審査制 審査制の特徴と審査技法	(2) 付随的違憲	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制を中心に、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	150分
9	11月12日	国家と財政		国家の財政ルールの一つである租税法律主義を中心に、その意義と射程を判例も参照しながら概観する。
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」1を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、租税法律主義について、判例もあわせて整理したノートを作成する。	150分
10	11月19日	地方自治制度		地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに、地方自治の本旨(団体自治・住民自治)の意味するところ、条例制定権の射程を具体例を挙げながら論じる。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。	150分
11	11月26日	憲法改正		日本国憲法上の憲法改正手続について、改正限界に関する議論も踏まえて論じる。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「憲法改正」1～3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。	150分
12	12月3日	平和主義 解釈論	(1) 前文・9条の	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」1・2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月10日	平和主義(2)9条裁判	とりわけ自衛隊の合憲性が争われた裁判について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条裁判がどのように展開してきたのかを説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」2・3を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、9条をめぐる判例とそこでの判決内容について整理したノートを作成する。	150分
14	12月17日	天皇制	日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と天皇制」2を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。	150分
15	12月24日	まとめ	統治・国家組織論についてのまとめをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
		事前学修	事前配布資料とこれまで作成したノートをよく読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点を基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
指定教科書に沿って，講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど，教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義での理解度を確認するため，指定用紙による授業内レポートを課し，それに対する講評を受講生全員に示すことによって問題意識を全体で共有し，意見を求め議論することで，講義内容の理解を深化させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果と講評とポータスシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック 日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
N e x t 教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	その他	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日3時限 研究室（本館6階1616研究室） higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日 (火)	国家と憲法	憲法と国家、憲法の分類、憲法の特質、近代憲法の基本原理、近代国家から現代国家への変容と現在憲法の展開。（教科書1-15頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	憲法と国家の関係を理解し、近代から現代にかけて憲法と国家の関係の変容を簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	9月22日 (火)	日本国憲法の成立	ポツダム宣言の意味、占領下における憲法の成立、八月革命説。（教科書17-24頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	日本国憲法の成立過程を理解し、その問題点を簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	9月29日 (火)	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）とその相互関係。（教科書25-31頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	各基本原理の内容を理解し憲法の目的という観点から、基本原理相互間の関係を簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	10月6日 (火)	天皇の地位と権能	国民主権と天皇制、天皇の地位、天皇の権能と行為、皇室経済。（教科書33-46頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	主権の意味の多義性を理解し、国民主権と調和する天皇制について簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
5	10月13日 (火)	戦争の放棄	日本国憲法の平和主義の特徴・9条解釈のあり方、政府・裁判所の9条解釈、9条解釈についての学説、憲法と安全保障。（教科書47-70頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	多様な9条解釈の存在を知り、憲法と国家の安全保障のあり方について各自が一定の見解をもてる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
6	10月20日 (火)	権力分立原理	権力分立の意義、権力分立の目的、権力分立の現代的変容。（教科書11－12、242、261、275頁、授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	近代憲法の基本原理である権力分立が日本国憲法にどのように現れているか、条文を示して説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月27日 (火)	議院内閣制		議院内閣制の意義と本質，議院内閣制と大統領制，首相公選論。（教科書264-271頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	議院内閣制がどのような制度であるか，大統領制との比較において説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
8	11月10日 (火)	国会の地位		国民の代表機関，国権の最高機関，国の唯一の立法機関。（教科書241-244，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	国民代表，国会中心立法の原則，国会単独立法の原則について簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
9	11月17日 (火)	国会の組織と権能		二院制，会期，国会の権能と議院の権能，衆議院の優越，国会議員の地位と特権，議会制民主主義と政党。（教科書241-259頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	日本国憲法における二院制の特徴について理解し，現代議会政治における議員と政党の関係についての憲法上の問題について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
10	11月24日 (火)	内閣の組織と権能		行政権の意義，独立行政委員会，内閣の構成，内閣の責任，内閣の権能，内閣総理大臣の地位と権能。（教科書261-273頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	内閣がどのように組織され，どのような権能があるか理解し，内閣と国会（衆議院）の関係について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
11	12月1日 (火)	裁判所の組織と権能		司法権の意義，司法権の独立，裁判所の構成・運営・管轄，裁判員制度，最高裁判所の組織と権能。（教科書275-286頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	司法権の独立の意義を理解し，それを支える制度について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
12	12月8日 (火)	違憲審査制		違憲審査制の類型，違憲審査の主体と対象，違憲審査制の運用，司法権の限界（党利行為論・立法裁量・行政裁量），違憲審査の方法と効力。（教科書286-302頁，授業時配布レジュメ）
		この回の到達目標	違憲審査制の運用実態について理解し，司法権の限界について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日 (火)	財政	財政の基本原則，予算の意義・性質・内容，予算の作成手続，決算の意義・効果，公金の支出制限。（教科書303-315頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	財政民主主義・租税法律主義について説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	12月22日 (火)	地方自治	地方自治の概念，わが国の地方自治制度，地方自治の本旨（住民自治・団体自治），地方公共団体の組織，条例制定権とその限界，住民投票，直接請求。（教科書316-331頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	国と地方の関係について，憲法と地方自治法をもとに簡潔に説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
15	1月12日 (日)	憲法保障と憲法改正	憲法保障の意義，国家緊急権，抵抗権，憲法改正の意義と限界，憲法の変遷の意義。（教科書333-346頁，授業時配布レジュメ）	
		この回の到達目標	憲法改正規定と国家緊急権が，なぜ憲法保障とされるのか説明できる。	
		事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
		事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	公共経営論	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
この授業では、国や自治体、独立行政法人など、公共政策の形成・実施を担う公共組織の経営（マネジメント）について学修する。限られた税金を有効に活用するには公共組織をどのように経営するのがよいだろうか。伝統的な行政管理のあり方が、新しい公共経営の考え方へと移り変わった背景・歴史を踏まえた上で、New Public Management（以下、NPM）と呼ばれる公共経営手法の具体例、日本の公共経営の実情について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
NPMが登場した背景・歴史を学修し、現代の公共組織において経営的視点が求められていることを理解する。その上で、NPMの具体的な手法、日本における実情を学修し、公共経営における諸問題、NPMの功罪を多面的に捉えることができるようになる。上記の知識・技能を習得した上で、公共経営に関する実社会の諸問題について、自らの考えを論理的に述べることができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で実施する。質疑応答等、双方向のコミュニケーションを目的として、コメントペーパー、アンケート等を適宜実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	NPMが登場した背景・歴史を説明することができる。					2		2					
②	NPMの具体的な手法、日本におけるNPMの実態に関する知識を習得した上で、そのメリット・デメリットを説明することができる。					2		2					
③	講義で学修した知識・理論を活用して、公共経営に関する社会現象について、論理的な評価・考察を行い自分の意見を述べるができるようになる。					2		2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識・技能が身に付いているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	40	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の公共経営	外山公美, 平石正美, 中村祐司, 西村弥, 五味太始, 古坂正人, 石見豊	北樹出版	2014	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	公共経営とは？	この授業の概要、どのような内容を学ぶことができる授業なのかを解説する。また、公共経営という学問の目的、隣接諸領域との違いについても取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共経営という学問が、どのような学問なのかを理解し説明することができるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく確認し、隣接諸領域との学問内容の違いや、自らが興味関心のある授業内容かどうかをよく検討する。	120分
		事後学修	授業の内容を振り返り、これまでに履修した科目、これから履修する科目との関連性、違いについて検討する。	120分
2	4/17	公共組織の役割	国・地方自治体に代表される公共組織と、企業に代表される民間組織の異同について取り上げる。公務と民間それぞれの役割・ミッションの違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共組織と民間企業の共通点、役割の違いを理解し、公共経営特有の性質を説明することができるようになる。	
		事前学修	公共組織と民間企業にはどのような共通点があり、どのような違いがあるか、具体的な組織をイメージしつつ考察する。	120分
		事後学修	公共組織の不祥事・失敗に対するバッシングを含むニュースを題材に、それが公共組織特有の問題に起因する現象であるかという観点から、授業で学んだ知識を基に自分なりの考察に取り組む。	120分
3	4/24	公共組織のガバナンス	公共組織と民間企業のガバナンスのあり方の違いについて取り上げる。公共組織特有の意思決定の仕組み、ガバナンスのあり方を、民間企業との対比で解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共組織と民間企業のガバナンスの共通点、違いを理解し、公共経営特有の性質を説明することができるようになる。	
		事前学修	民間企業におけるコーポレートガバナンス、会社、従業員、株主の関係について、事前に調べて予習する。	120分
		事後学修	公共組織の不祥事・失敗に対するバッシングを含むニュースを題材に、それが公共組織特有のガバナンス構造に起因する現象であるかという観点から、授業で学んだ知識を基に自分なりの考察に取り組む。	120分
4	5/1	伝統的な行政管理から公共経営へ	伝統的なPublic Administration（行政管理）の課題、New Public Management（新公共経営）と呼ばれる経営手法が登場した背景を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、伝統的な行政管理の課題、問題点について理解し、理論を援用し現実の社会現象を説明できるようになる。	
		事前学修	お役所仕事と呼ばれるような、公共組織の働きぶりの問題点、公務員への批判などのニュースを探し、なぜそのような現象が起きるのか、自分なりに考察する。	120分
		事後学修	事前学修で検討した実例を題材に、授業で学んだ理論を用いてもう一度考察を行う。	120分
5	5/8	NPMの登場	NPMと後に呼ばれることとなる経営のあり方が登場した歴史的経緯を、イギリスの実例から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1970年代のイギリスを含む先進諸国が直面していた財政赤字の問題、福祉国家の限界、新自由主義の登場といった、公共経営が必要とされるようになった歴史的経緯を説明できるようになる。	
		事前学修	オイルショック、福祉国家、イギリスの首相であったサッチャーについて、事前に調べてみる。	120分
		事後学修	サッチャーの行った行政改革のその後の評価について、イギリスのメディアがどのように評価しているか調べてみる。	120分
6	5/15	日本におけるNPMのはじまり	日本の財政赤字の推移、中曽根内閣における行財政改革を取り上げ、日本でも1980年代からNPM志向の改革が始まったことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本でも民営化に代表されるNPM志向の改革が必要となった背景について説明できるようになる。	
		事前学修	日本の財政赤字が国・地方合わせてどれくらいの金額になるのか、いつから借金が増え始めたのか、なぜ増え始めたのか、調査・考察してみる。	60分
		事後学修	日本以外の国の、国債発行に関する財政規律のルールがどのようになっているのか、調査・考察してみる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	5/22	民営化とその実情(1)国鉄の民営化		国鉄（現在のJR）の民営化を題材に、民営化という手法がもたらす影響を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国鉄民営化事例から、民営化という手法のもたらすメリット・デメリット、影響を説明できるようになる。		
		事前学修	国鉄時代の鉄道運行がどのようなものであったか、当時を知る50代後半以上の親族・知人に尋ねてみる。または、インターネットや文献を通じて、当時の様子を調査する。		
		事後学修	JR北海道の将来計画など、現在の地方交通の実情、地方自治体の公共交通に関する問題について調査し、これからの公共交通はどのようなあり方が望ましいか考察する。		
8	5/29	民営化とその実情(2)道路公団・郵政民営化		道路公団・郵政公社の民営化を題材に、民営化という手法がもたらす影響を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、道路公団・郵政民営化の事例から、日本における民営化には様々な経営の態様が存在することを理解し、それぞれの民営化の違いがもたらした影響を説明できるようになる。		
		事前学修	バブル崩壊後の日本の財政赤字の推移、財政投融资制度について、自分なりに調査し学修する。		
		事後学修	道路公団・郵政民営化後の、両社の複雑な組織構造と、改革の帰結・評価について、授業内容を復習する。		
9	6/5	公共サービスの外部化(1)独立行政法人制度		独立行政法人制度を題材に、イギリスのエージェンシーとの比較の観点から、日本におけるエージェンシー化の影響について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の独立行政法人制度、特徴をイギリスとの相違、対比の観点から捉えることができるようになる。		
		事前学修	日本の独立行政法人には、どのような組織が存在するのか調べてみる。		
		事後学修	独立行政法人の職員の待遇、就職試験の仕組みについて調べてみる。		
10	6/12	公共サービスの外部化(2)多様化する公共サービスの供給手法		外部委託、市場化テストなど、多様化する公共サービスの供給手法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外部委託、市場化テストなど、様々な公共サービスの供給手法について、それぞれの仕組み、手法間の違いを説明できるようになる。		
		事前学修	身の回りの公共サービスで、公務員ではなさそうな職員が実施しているものを探してみる。		
		事後学修	自分の住んでいる自治体の公共サービスで、指定管理者制度が活用されているものがあるか調べてみる。		
11	6/19	新たな公共の担い手		近年の公共経営において、新たな公共の担い手として重要性が高まっているNPOなどの非営利団体について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共サービスの供給において、NPOなどの非営利団体が果たしている役割、地域社会の実態を理解し、その機能を説明できるようになる。		
		事前学修	自分の住んでいる地域で、公共的な目的のために非営利組織が活動している事例を探してみる。		
		事後学修	自分の住んでいる自治体が、公共政策を実施する上で非営利組織を活用している事例（NPOの活動に補助金を給付している等）を探してみる。		
12	6/26	地方公共団体の経営		三位一体改革、夕張市の事例、地方創生の取り組みなどを題材に、近年の地方自治体を取り巻く経営環境の厳しさについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在の日本の地方自治体を取り巻く経営環境を理解し、これからの地方自治体が直面する経営課題について説明できるようになる。		
		事前学修	自分の住んでいる自治体の人口の推移、財政状況、ふるさと納税の内容について調べてみる。		
		事後学修	自分の住んでいる自治体の人口ビジョンと、まち・ひと・しごと創生総合戦略に目を通してみる。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	大都市経営の実情	大阪都構想を題材に、昨今の政令指定都市を取り巻く諸問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東京、大阪、横浜など、財政を中心とした大都市特有の問題、大阪都構想が生じてきた背景について説明できるようになる。	
		事前学修	大阪維新の会のウェブサイトアクセスし、都構想の概要に目を通してみる。	120分
		事後学修	授業で学修した内容を踏まえた上で、改めて大阪維新の会のウェブサイトを確認し、その是非について考えてみる。	120分
14	7/10	業績測定と政策評価	公共組織の活動に対する様々な評価が、どのように経営に活用され、どのような影響を与えているかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共組織特有の評価の難しさ、活用のあり方の難しさを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	公共組織の活動の良し悪しを、どのような基準で評価すればよいか考察してみる。	120分
		事後学修	自分の住んでいる自治体の活動について、行政評価、政策評価、業績測定、満足度調査など、何らかの評価結果の情報を探してみる。	120分
15	7/17	これからの公共経営	近年の行政におけるAIの活用、EBPMの推進を題材に、これからの日本の公共経営について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、AIやEBPMなど、これからの公共経営に影響を与えるトピックについて理解し、その影響を説明できるようになる。	
		事前学修	自分の住んでいる自治体で、AIを活用した取り組みが行われているか調べてみる。	120分
		事後学修	アメリカにおけるPPBSの実践、ロバート・マクナマラについて調べてみる。	120分

科目名	公共経済学Ⅰ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に 応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理 論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整する ために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
経済学Ⅰ・Ⅱないしミクロ・マクロ経済学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキスト・参考書を参照しつつ講義毎レジメと関連する資料を配付して講義を進める。 スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。									3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。									3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。									3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。									3	3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	20	20	10							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。定期試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『基礎コース 公共経済学 第2版』	井堀利宏著	新世社	2015年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月 7日	【ガイダンス，導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて公共経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共経済学と同様に公共部門を分析対象とする学問分野に財政学があるが、両学問の違いを特徴付けるものが何であるかの学修を通して公共経済学の分析手法を理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月 14日	【公共経済学の意義】	市場の機能とメリットを学習、競争的市場は優れた機能を有するが、失敗するケースがあることを学習、効率性を基準に公共経済学が市場の失敗の調整を提唱することを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、競争的市場は優れた機能を有するが万能ではなく、どのようなケースにおいて失敗してしまうのかを理解し、さらに、効率性を基準に公共経済学が市場の失敗の調整を考察することを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「1節 市場の機能」の部分を読み、市場の機能とメリットを理解し、市場の失敗の意味を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、市場の機能とメリット及び市場の失敗について、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4月 21日	【市場の失敗と財政の資源配分機能】	資源配分のケースにおける市場の失敗を学習し、政府の役割（財政の三大機能）との関連を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、資源配分の意味、なぜ市場システムを通じて最適な資源配分が実現できないのかを理解し、なぜ政府（財政）が資源配分の機能を持つのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「2節 政府の役割」の部分を読み、市場の失敗と政府の役割との関係を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、資源配分のケースにおける市場の失敗と政府の役割（財政の機能）との関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4月 28日	【市場の失敗と財政の所得再分配機能、経済安定化機能】	所得分配及び景気循環のケースにおける市場の失敗を学習し、政府の役割（財政の機能）との関連を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、なぜ市場システムを通じて適正な所得分配が実現できないのか、また好不況といった短期的景気循環が生じるのかを理解し、なぜ政府（財政）が所得再分配及び経済安定化機能を持つのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「2節 政府の役割」の部分を読み、市場の失敗と政府の役割との関係を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、所得分配・景気循環のケースにおける市場の失敗と政府の役割（財政の役割）との関係について、自分なりの説明をまとめる。現行財政の予算配分と財政の三大機能との関連を考察する。	120分
5	5月 5日	【小テスト，まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の機能と失敗、公共経済学の分析手法、及び政府の役割に関する財政学のアプローチとの違いについて基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
6	5月 12日	【国民と投票1】	中位投票者定理、投票のパラドックス、選挙区、選挙と棄権を学習し、多数決原理の意義と問題点について受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、投票制度による政策決定にどのような特徴と問題点があるのか、経済学の効率性基準から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「1節 選挙と投票」、「2節 選挙と棄権」の部分を読み、民主主義の基本制度である投票によって、有権者の意向が適切に反映されない可能性を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、中位投票者定理や投票のパラドックスの理論を作図して説明できるようにする。八代尚宏著『シルバー民主主義』（中公新書）を読み、感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月 19日	【国民と投票2】	様々な投票制度を学習し、投票の回数を少なくしながら、有権者の意向をより適切に反映できる投票制度について、簡単な数値例を用いて考察し、受講生が各投票制度の評価を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義制度の基本である投票制度を効率性の観点から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「3節 望ましい投票制度」の部分を読み、様々な投票制度の概念を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、節末の練習問題を解いてみる。	120分
8	5月 26日	【国民と投票3】	声による投票、圧力団体モデル、足による投票を学習し、投票以外の政治行動の意義と問題点について、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政策決定に関連する投票以外の有権者の政治行動を効率性の観点から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章「4節 有権者の政治行動」を読み、有権者による投票以外の政治行動について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、住民投票、圧力団体、足による投票の具体例を挙げてそれらの意義と問題点についてまとめる。	120分
9	6月 2日	【自然独占と市場の失敗】	市場の失敗するケースの1つである自然独占企業の特徴を学習し、その企業に対する規制方法を効率性基準から考察し、さらに、代表的料金規制の意義と問題点について学習し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自然独占がなぜ市場の失敗原因となるのか、失敗の解決策としてどのような方法があるのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章の「3節 独占と公的規制」を読み、自然独占企業の概念を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自然独占企業の具体例を挙げて、その特徴をまとめてみる。	120分
10	6月 9日	【外部性と市場の失敗】	市場の失敗の代表的な例である外部性、特に外部不経済（＝公害）のケースを取り上げ、簡単な数値例を用いて超過負担の概念から市場の失敗との関連を学習し、それを解消するための政府によるピグー課税を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、外部性がなぜ市場の失敗原因となるのか。外部性問題の解決策としてピグーの提唱した課税による方法について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「1節 外部性とは何か」「2節 ピグー課税」を読み、外部性の概念とピグー課税の意味について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、地球規模での環境税設立の可能性について、囚人のジレンマの理論を踏まえて、自分なりの説明をまとめる。また、COPの会議の推移についてまとめてみる。	120分
11	6月 16日	【外部性とコースの定理】	コースの定理、汚染権の売買について学習し、それぞれの意義と問題点を受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、外部性問題の解決策として、ピグー課税とは異なり当事者の自発的交渉によって最適解を見いだすことが出来ることを、ノーベル賞受賞者であるコースの定理によって理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「3節 コースの定理」「4節 外部性対策の経済的手段」の部分を読み、コースの定理、代表的な経済的手段の意義を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コースの定理の現実適用例を挙げてみる。	120分
12	6月 23日	【小テスト、まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策決定におけるさまざまな投票制度が効率性基準でどのように評価できるのか。また、市場の失敗における公共経済学の分析に関する基礎的理解が身についているかを確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月 30日	【公共財と市場の失敗】	公共財という特別の概念をもつ政府支出を、資源配分の効率性の観点から学習するために、まず公共財の概念を学習し、ただ乗りの問題解決が重要であることを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財とは、どのように定義されるのか、また、公共財はなぜ市場の失敗の原因となるのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章の「1節 公共財の概念とただ乗りの問題」を読み、公共財とはどのような財をいうのか、また、なぜ市場で最適供給が出来ないのかを考察する。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、教科書119頁の各キーワードをノートに3行ほどでまとめてみる。また、119頁の6-1節練習問題を解いてみる。	120分
14	7月 7日	【公共財の私的供給とナッシュ均衡】	公的供給と私的供給のメカニズムを学習し、公共財の最適供給条件であるサムエルソン・ルールは市場で成立しないことを学習する。学習を踏まえ受講者が政府による公共財供給の意義を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財はなぜ市場の失敗の原因となるのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章の「2節 公共財の公的供給と私的供給」を読み、サムエルソン・ルールの意義、また、公共財の公的供給と私的供給とはどういう意味か公共財の性質から考察する。また、私的（市場）供給では、なぜ最適供給が実現しないのか考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、教科書124頁の各キーワードをノートに3行ほどでまとめてみる。さらに、125頁の6-2節 練習問題を解いてみる。	120分
15	7月 14日	【準公共財と最適供給】	準公共財の概念、地方公共財、地方公共財の最適供給の方法と地方分権の意義を受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方公共財の供給においては、地方分権に基づいて供給する方が効率的資源配分の実現可能性から望ましいことを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章の「3節 準公共財」を読み、純粋公共財との違いは何か、地方公共財とはどのように定義され準公共財に分類されるのか理解し説明できる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、地方分権の意義と問題点、および日本における地方分権の状況について自分なりの説明をまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。	200分

科目名	公共経済学Ⅰ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に 応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理 論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整する ために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」と「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを数回実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。									3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。									3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。									3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。									3	3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	20	20	10							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共経済学15講	佐藤主光	新世社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・公共経済学とはどのような学問か ・分析の視点：効率性と公平性 ・市場均衡による効率的な資源配分の実現	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	第一部 金4/17	政府の役割と市場の失敗	・市場の失敗：外部性、公共財、情報の非対称性、独占 ・政府の役割（財政の3機能）：資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能 ・大きな政府と小さな政府（政府規模の国際比較を例に）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場の失敗と政府の役割を説明できる。	
		事前学修	教科書 第1講 1.4の後半「市場の失敗の例1：独占・寡占」から最後までと、1.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「市場の失敗」と「財政の3機能」について説明できるようにする。	120分
3	第一部 金4/24	外部性の理論(1)	・外部性とは何か ・外部性の例 ・外部性の存在する場合の市場均衡 ・非効率とならない外部性	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外部性について説明できる。	
		事前学修	教科書 第2講 2.1と2.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「外部性」について具体例を用いて説明できるようにする。また、「外部性が存在する場合の市場均衡における死重の損失」について図を使って説明できるようにする。	120分
4	第一部 金5/1	外部性の理論(2)	・政府の介入（ピグー税とピグー補助金） ・自発的交渉（コースの定理） ・排出量取引市場	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外部性の矯正について説明できる。	
		事前学修	教科書 第2講 2.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「コースの定理」と「排出量取引市場の特徴」について説明できるようにする。また、「ピグー税による矯正」について図を使って説明できるようにする。	120分
5	第一部 金5/8	公共財理論(1)	公共財について体験的に学ぶために、公共財供給ゲーム実験を行う。 その後、この場合の合理的な選択について、以下の2点を学ぶ。 ・ゲーム理論「囚人のジレンマ」 ・公共財の過小供給（ただ乗り問題）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財の非効率性について説明できる。	
		事前学修	教科書 第3講 3.2の真ん中「協調の失敗＝只乗り問題」と「囚人のジレンマ」を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「公共財ゲーム（囚人のジレンマ）におけるナッシュ均衡とパレート効率性」について説明できるようにする。	120分
6	第一部 金5/15	公共財理論(2)	・公共財とは何か（非競合性と排除不可能性） ・公共財の効率的供給（サミュエルソン条件） ・純粋公共財と準公共財	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財とサミュエルソン条件について説明できる。	
		事前学修	教科書 第3講 3.1の全部と3.2の最初「公共財の効率的供給」、3.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「公共財」と「純粋公共財と準公共財の違い」について説明できるようにする。また、「サミュエルソン条件」について図を使って説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	公共選択論(1)	- 公共選択論とはどのような学問か - 中位投票者定理 - 投票のパラドックス	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多数決投票による政策決定について説明できる。	
		事前学修	教科書 第4講 4.1と4.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「中位投票者定理」と「投票のパラドックス」について説明できるようにする。	120分
8	第一部 金5/29	公共選択論(2)	- 政治家と官僚の関係（エージェンシー問題） - レント・シーキング	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政策決定過程における問題点について説明できる。	
		事前学修	教科書 第4講 4.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「ニスカネンの予算最大仮説」と「レント・シーキング」について説明できるようにする。	120分
9	第一部 金6/5	情報の非対称性(1)	- 情報の非対称性とはどのような状態か - 逆選抜 - 逆選抜に対する政策（強制保険・政府による金融）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性について説明できる。	
		事前学修	教科書 第5講 5.1と5.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「情報の非対称性が中古車市場に与える影響」と「逆選抜が発生する理由」について説明できるようにする。	120分
10	第一部 金6/12	情報の非対称性(2)	- モラルハザードとは何か - 医療保険と事後的モラルハザード - スクリーニングとは何か - スクリーニングとしての現物給付	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、モラルハザードとスクリーニングについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第5講 5.3と5.4、5.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「モラルハザード」と「現物給付の利点」について説明できるようにする。また、「事後的モラルハザードによる死重の損失」について図を使って説明できるようにする。	120分
11	第一部 金6/19	租税の経済効果(1)	- 税の機能（財源確保、ピグー税、所得再分配、自動安定化装置） - 物品税が消費選択に与える影響	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の機能と影響について説明できる。	
		事前学修	教科書 第6講 6.1と6.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「税の機能」について説明できるようにする。また、「一括税と物品税の消費選択に与える影響の違い」について図を使って説明できるようにする。	120分
12	第一部 金6/26	租税の経済効果(2)	- 所得税が労働供給に与える影響 - 利子課税が貯蓄に与える影響 - 労働所得税と消費税の関係（税等価）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の経済効果について説明できる。	
		事前学修	教科書 第6講 6.3と6.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「所得税が労働供給に与える影響」と「利子課税が貯蓄に与える影響」について図を使って説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	税の帰着と負担(1)	・税の負担と税の支払いの違い ・税の帰着と価格弾力性 ・不完全競争と税の転嫁	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税の負担について説明できる。	
		事前学修	教科書 第7講 7.1の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「需要の価格弾力性と税の帰着の関係」と「供給の価格弾力性と税の帰着の関係」について説明できるようにする。また、「税負担の帰着」について図を使って説明できるようにする。	120分
14	第一部 金7/10	税の帰着と負担(2)	・一般均衡分析による法人税の帰結 ・多国籍業と租税回避 ・租税競争	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法人税の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書 第7講 7.2と7.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「法人税の帰結」と「多国籍企業による節税（租税回避）の仕組み」について説明できるようにする。また、「租税競争」についてゲーム理論を使って説明できるようにする。	120分
15	第一部 金7/17	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、公共経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、公共経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	教科書やノートを読み直して、これまでの授業内容について整理し、疑問点があればそれをまとめる。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理するとともに、教科書の各講末にある「理解度チェック」を解くなどして、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	公共経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に 応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理 論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整する ために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
公共経済学Ⅰを履修していることが望ましい。経済学Ⅰ・Ⅱないしミクロ経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキスト・参考書を参照しつつ講義毎レジメを配付して講義を進める。 スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。									3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。									3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。									3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。									3	3			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	20	20	10							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。定期試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『基礎コース 公共経済学 第2版』	井堀利宏著	新世社	2015年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月 15日	【ガイダンス，導入授業】	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて公共経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共経済学と同様に公共部門を分析対象とする学問分野に財政学があるが、両学問の違いを特徴付けるものが何であるかの学修を通して公共経済学の分析手法を理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月 22日	【市場の機能と政府の役割】	市場の機能と市場の失敗を学習し、効率性を基準に公共経済学は市場の失敗の調整方法を提唱することを学習し、受講生が同様に公共部門の研究をする財政学との相違点を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場システムはどのようなケースにおいて失敗するのかを理解し、なぜ政府（財政）が資源配分の機能、所得再分配機能、経済安定機能を果たすのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章 市場と政府 を読み、市場の機能とメリットを理解し、市場の失敗と政府の機能との関連を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、市場の機能と市場の失敗、および市場の失敗と政府の役割（財政の機能）との関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	9月 29日	【費用便益分析】	公共財の最適供給を実現するための、代表的な公共支出の評価方法である費用便益分析を学習し、その意義と分析手法を受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	市場に代わって、政府が財政を通じて公共財を最適に供給する方法の1つである費用便益分析の理論について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「1節 費用便益分析」を読み、その意義と手法を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、7－1節 練習問題を解いてみる。	120分
4	10月 6日	【最適な公共投資】	公共支出の役割、市場経済での公共投資の役割、公共投資の割引率を学習し、受講生が公共経済学のアプローチによって最適な公共投資を説明できる。	
		この回の到達目標	社会資本のような公共財は公共投資によって整備される。その際に、最適な（効率的な）公共投資のルールは、民間投資との配分問題、地域間での配分問題、異時点間での配分問題の観点から議論できることを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「2節 最適な公共投資」を読み、その意義とテーマに対する公共経済学のアプローチ手法を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、日本における地域間の生産性の違いデータをネット等から取得して、どのような資源配分が効率的と言えるのか自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10月 13日	【費用便益分析に代わる方法】	費用便益分析に代わる方法として、トラベルコスト法、ヘドニック・アプローチ、仮想的市場評価法を学習し、費用便益分析との相違点と意義について受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	費用便益分析に代わる、公共支出から家計が得る便益の推計方法としてのトラベルコスト法、ヘドニック・アプローチ、仮想的市場評価法を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章の「3節 費用便益分析に代わる方法」を読み、代表的代替法を確認し代替法の意義を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、代替法が具現化しているケースを挙げてみる。	120分
6	10月 20日	【小テスト，まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、効率的公共投資、費用便益分析の意義と問題点について基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月 27日	【転嫁からみた直接税と間接税の定義】	直接税と間接税の定義、転嫁と帰着、累進税と比例税について学習し、個別間接税の経済的な負担が、税金を誰が納税するかとは無関係に、需要と供給の関係で決まることを受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、個別間接税の経済的負担は、財市場における需要と供給の価格弾力性の関係によって決まることを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「1節 直接税と間接税」をよみ、相違点を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、需要および供給の価格弾力性の異なる財に間接税を課すことによって生じる資源配分の攪乱を考察してみる。	120分
8	11月 10日	【一般消費税と労働所得税の同等性の命題】	わが国の所得税の特徴、総合課税と分離課税、クロヨンの意味、付加価値税、一般消費税と労働所得税、税支払いのタイミング効果、包括的所得税と支出税について学習し、受講生が所得税体系の考え方を説明し、一般消費税と労働所得税の効果を比較して、その類似性を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、一般消費税と労働所得税の效果に違いのないとする同等性の命題について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「2節 課税体系の考え方」を読み、わが国の所得税の特徴を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、現代の租税（課税）原則論を調べて、原則論の内容を考察する。	120分
9	11月 17日	【最適課税の理論】	課税原則の1つである中立性の原則を学習し、資源配分の効率性を損ねることがない課税言い換えれば超過負担の発生しない課税はどうあるべきかについて説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、課税原則の1つ中立性の原則を踏まえるとき、労働所得税は超過負担という社会的損失をもたらすことを理解し、また、どのような課税方法を採用すれば超過負担の発生を抑えることが出来るか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「3節 最適課税の理論」を読み、その意義を前回の事後学習で得た租税原則論を踏まえ、て考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、最適課税論と公共経済学のアプローチとの共通点を自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11月 24日	【小テスト、まとめ】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、効率的課税に関する公共経済学のアプローチに関する基礎的理解が身についているか確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
11	12月 1日	【財政赤字と公債】	日本の公債発行状況、公債発行の問題点、財政運営のいろいろ考え方、クラウドファンディング・アウト、将来世代への負担の転嫁、リカードの中立命題、バローの中立命題を学習し、公債発行の問題点を踏まえて、日本の財政がいかに深刻であるのか受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公債発行に伴う問題点を理解し説明できる。また、公債発行に伴う問題に世代間への負担問題について、負担は生じないとするリカード及びバローの理論を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章の「1節 財政運営の考え方」「2節 財政赤字の負担」を読み、財政運営の考え方のいろいろな立場の存在を考察し、財政赤字の負担の様々な捉え方を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、9－2節 練習問題を解いてみる。	120分
12	12月 8日	【個人間の所得再分配政策】	所得格差を是正する問題を学習し、どの程度の再分配が望ましいのか、また、それを実現するために、その程度の累進的所得税が望ましいか考察し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所得再分配政策を検討する際に有名な価値判断としてのベンスサム基準とロールズ基準の意義と問題点を理解し、さらに、モラルハザードの問題を生じないリスク・シェアリングの再分配政策を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の「1節 個人間の再分配政策」を読み、再分配政策の意義について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、11－1節 練習問題を解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	【地方自治体間の再分配政策】	地域間での再分配政策のあり方を学習し、また、地域間での人口移動や公共財の波及効果を考慮すると、公平性の観点からデメリットが有ることし、再分配政策のあり方やその問題点について受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地域間での人口移動や公共財の波及効果を考慮すると、公平性の観点から問題が有ること理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の「2節 地域間の再分配政策」を読み、その意義と問題点を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを整理し、日本の人口移動の現状とその要因について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12月22日	【再分配政策（オーツの「地方分権定理」）】	オーツの「地方分権定理」を学習し、地方分権の意義について、社会的厚生（経済的厚生）最大化の基準から評価し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方分権に基づく資源配分は、最適性を実現とするオーツの「地方分権定理」の学説の意義を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章の2節内の地方分権を再読し、前回の事後学習で得た資料を基に、地方分権の意義を考察する。	120分
		事後学修	少子高齢化と人口減少が生じているわが国の現状を鑑みて、従来方式の再分配政策の有効性について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1月12日	【再分配政策（ティブーの「足による投票」）】	ティブーの「足による投票」を学習し、地方分権の意義について、社会的厚生（経済的厚生）最大化の基準から評価し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方分権に基づく最適資源配分の問題と関係するティブーの「足による投票」の学説の意義を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の4節内の「足による投票」を読み、地方分権の意義を考察する。	90分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、オーツの定理とティブーの学説の共通点と相違点を自分なりの説明する。初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。	200分

科目名	公共経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」と「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「公共経済学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。							3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。							3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	20	20	10							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共経済学15講	佐藤主光	新世社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・公共経済学とはどのような学問か ・市場の失敗 ・政府の役割（財政の3機能）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	第一部 金9/25	租税の経済効果	・税の機能（財源確保、ピグー税、所得再分配、自動安定化装置） ・物品税が消費選択に与える影響 ・所得税が労働供給に与える影響	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税の機能と経済効果について説明できる。	
		事前学修	教科書 第6講 6.1～6.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「税の機能」について説明できるようにする。また、「一括税と物品税の消費選択に与える影響の違い」と「所得税が労働供給に与える影響」について図を使って説明できるようにする。	120分
3	第一部 金10/2	望ましい税制に向けて(1)	・課税のコスト ・次善（セカンドベスト）という考え方	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、課税におけるセカンドベストについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第8講 8.1と8.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
4	第一部 金10/9	望ましい税制に向けて(2)	・ラムゼイ・ルール ・生産効率性	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラムゼイ・ルールについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第8講 8.3と8.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
5	第一部 金10/16	最適課税論(1)	・社会厚生関数 ・最適所得税理論 ・最適所得税の一般化	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、最適所得税理論について説明できる。	
		事前学修	教科書 第9講 9.2～9.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
6	第一部 金10/23	最適課税論(2)	・アトキンソン・スティグリッツの定理 ・資本課税	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、アトキンソン・スティグリッツの定理について説明できる。	
		事前学修	教科書 第9講 9.5と9.6の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	メカニズム・デザイン(1)	・メカニズム・デザインとは ・公共財	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メカニズム・デザインについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第10講 10.1と10.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
8	第一部 金11/6	メカニズム・デザイン(2)	・オークション・メカニズム ・複数財オークションへの応用	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、オークションについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第10講 10.4と10.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
9	第一部 金11/13	コミットメント問題(1)	・時間非整合性 ・利子所得税の問題	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時間非整合性の問題について説明できる。	
		事前学修	教科書 第11講 11.1と11.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	第一部 金11/20	コミットメント問題(2)	・ソフトな予算制約問題 ・コミットメント	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソフトな予算制約問題について説明できる。	
		事前学修	教科書 第11講 11.3と11.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	第一部 金11/27	EBPMという視点(1)	・エビデンスに基づく政策立案（EBPM）とは ・分析としてのEBPM	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、エビデンスに基づく政策立案（EBPM）について説明できる。	
		事前学修	教科書 第14講 14.1と14.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	第一部 金12/4	EBPMという視点(2)	・ランダム化比較実験とは ・ランダム化比較実験の実例	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ランダム化比較実験について説明できる。	
		事前学修	教科書 第14講 14.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	行動経済学で考える (1)	・経済人とは ・行動経済学とは ・行動経済学のいくつかの例	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動経済学とはどのような学問かを説明できる。	
		事前学修	教科書 第15講 15. 1と15. 2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	第一部 金12/18	行動経済学で考える (2)	・ナッジとは ・ナッジの実例	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナッジについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第15講 15. 3と15. 4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
15	第一部 金12/25	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、公共経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、公共経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	教科書やノートを読み直して、これまでの授業内容について整理し、疑問点があればそれをまとめる。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理するとともに、教科書の各講末にある「理解度チェック」を解くなどして、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディバートを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディバート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに公務員の実際を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス、公務員とは	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	9/23	公務員の種類(国家)	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の国家公務員制度の機能を理解し説明できる。	
		事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
		事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	9/30	公務員の種類（地方）	日本の地方公務員制度について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
		事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
		事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	10/7	公務員という職業	日本の公務員の仕事の特質について民間との比較を学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
		事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
		事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	10/14	公務員に必要な要素と自分たちに欠けているもの（集団討論）	公務員の社会における使命感とそれに必要な要素について集団討論により学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
		事前学修	公務員による社会貢献や行政の仕事について調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の使命感と必要な要素について集団討論の結果をうけて、自分なりの課題を整理してみる。	120分
6	10/21	公務員の特殊性と社会的責任	公務員の仕事の特殊性と社会的責任について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
		事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/28	公務員という仕事の課題 (集団討論)	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。
		事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。120分
		事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。120分
8	11/11	社会における公務員	公務員と社会の関係について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと120分
		事後学修	授業で扱ったグループ・ワークなどの結果をうけて整理してみる。120分
9	11/18	官民の感覚（ゲストスピー カー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修 する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。120分
10	11/25	行政手法と公務員	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について説明できる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことをふまえ、務員について自分なりに整理する。120分
11	12/2	公務員の業務の実際と特質	公務員の実際の業務と特質について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、公務員の実際と特質について他者と議論ができる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。120分
		事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。120分
12	12/9	志望先公務員試験（多岐選 択問題）	学習者がが志望する公務員試験の選択問題について学修する。
		この回の 到達目標	①～④に関連して、学習者が志望する公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて、情報収集と説明がで きる。
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。120分
		事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	志望先公務員試験（論述問題）	学習者がが志望する公務員試験の論述試験について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、学習者がが志望する公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	12/23	面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	1/13	まとめ	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
		この回の到達目標	①～④に関連して、自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
		事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
		事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義、グループワーク、個人ワークを混合して実施する。履修人数に応じて、講義とグループワークの比重を変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、個人ワーク、ディスカッションにより、主体的に公共政策の諸問題に対する考えを深める機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧								1					
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修人数によるが、毎回の授業内あるいは翌週の授業時に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共政策学の基礎	秋吉貴雄，伊藤修一郎，北山俊哉	有斐閣	2015	その他	任意
公共政策の歴史と理論	笠原英彦，桑原英明，大山耕輔	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	公共政策とは何か	授業の概要を説明するとともに、公共政策とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	公共政策という概念にどのような活動が含まれるのかを理解し説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく確認し、興味・関心を抱く内容があるか確認しておく。	120分
		事後学修	自宅や大学の付近で、公共政策によって供給された財・サービスがあるかどうか考えてみる。	120分
2	9/22	公共的問題とは何か(1)アジェンダ・セッティング	グループワーク、ディスカッションを通じて、社会の中に存在する様々な問題が、公共的問題として認識されるプロセスについて学修する。	
		この回の到達目標	社会の中に存在する様々な問題が、公共的問題として認識されるプロセスを理解し説明できるようになる。	
		事前学修	普段の社会生活の中で、自分にとっては問題であるが、社会的には問題視されていない事象を探してみる。	120分
		事後学修	事前学修で見つけた事象が、なぜ公共的問題として社会の中で問題視されていないのかを考察してみる。	120分
3	9/29	公共的問題とは何か(2)価値観・争点の多様性	グループワーク、ディスカッションを通じて、社会には多様な争点、問題が存在することを学修する。	
		この回の到達目標	どのような問題を公共的問題として認識するか、それぞれの問題間の優先順位には、個々人の多様性があることを、グループワーク、ディスカッションを通じて体感し理解する。	
		事前学修	ニュースや新聞を見て、解決すべきだと考える公共的問題を10個考え、優先順位を付けてリストアップしておく。	120分
		事後学修	ディスカッションの際に、自分とは異なる意見を述べた人々の立場に立って、相手の考えを理解してみようとする。	120分
4	10/6	誰が公共政策を決めるのか(1)公共政策にまつわる利害関係	グループワーク、ディスカッションを通じて、具体的な公共政策に関わるステークホルダーについて理解を深める。	
		この回の到達目標	利益集団、ステークホルダーなどの概念を、具体的な公共政策の実例から理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	自宅の周りで選挙のポスターを貼っている会社を探し、どのような会社がどの政党のポスターを貼っているかまとめてみる。	120分
		事後学修	授業で学修した知識を活用し、自宅の周りで見つけた会社と支持政党の利害関係を考察してみる。	120分
5	10/13	誰が公共政策を決めるのか(2)理念・アイデア	グループワーク、ディスカッションを通じて、環境政策を題材に、利益集団が背後に存在しない政策がなぜ実現するのかを学修する。	
		この回の到達目標	環境省の活動の実例から、利益集団とは異なる形で政策を実現するプロセスが存在することを理解し、政策過程における理念・アイデアの影響を説明できるようになる。	
		事前学修	SDGsなどの環境政策について事前に学修し理解を深めておく。	120分
		事後学修	個別の利害関係を超えて環境保全を推進するにはどのような要因が必要か自分なりに考察する。	120分
6	10/20	誰が公共政策を決めるのか(3)合理的意思決定とその限界	合理的意思決定、アメリカにおけるPPBSの試みについて学修する。	
		この回の到達目標	合理的意思決定の仕組みとその限界について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	どうすれば最善の公共政策を選ぶことができるか考察する。	120分
		事後学修	EBPMの概念について調査し、合理的意思決定の観点からその妥当性を検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	政策の評価	グループワーク、ディスカッションを通じて、公共政策の評価をどのように行えばよいかを学修する。	
		この回の到達目標	実際にグループワークで公共政策の評価を体験し、公共政策の評価が難しいものであることを理解する。	
		事前学修	自分の住んでいる自治体の図書館を訪問し、どのような基準で評価を行えば、図書館という行政サービスの良し悪しを測定できるか考察する。	120分
		事後学修	授業で学修した内容を踏まえた上で、図書館サービスの評価をどのように行うのがよいか再度考察する。	120分
8	11/10	政策事例 1 在	働き方改革を題材に、現在の日本の労働問題とそれに対応する公共政策を学修する。	
		この回の到達目標	日本の労働政策の現状を理解する。	
		事前学修	働き方改革とはどのようなものか、日本の雇用問題にはどのようなものがあるか、事前に調査する。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
9	11/17	政策事例 1 察	どのような公共政策を実施すれば働き方改革が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、働き方改革を推進するための施策を考察する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
10	11/24	政策事例 1 する報告資料の準備	どのような公共政策を実施すれば働き方改革が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、政策提言の報告資料を作成する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
11	12/1	政策事例 1 する報告	各グループでこれまでの成果を報告する。	
		この回の到達目標	グループで調査した政策提言の内容を、聴衆に対してうまく伝えることができるようになる。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の反省、他グループの報告の良かった部分を確認し、次の報告に活かせるようにする。	120分
12	12/8	政策事例 2 在	生物多様性国家戦略・地域戦略を題材に、現在の日本における自然環境保全政策について学修する。	
		この回の到達目標	生物多様性国家戦略・地域戦略など、日本における自然環境保全政策について理解する。	
		事前学修	生物多様性という概念について事前に調査・学修しておく。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	政策事例2 環境政策の考察	どのような公共政策を実施すれば自然環境の保全が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、自然環境の保全を進展させるための施策を考察する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
14	12/22	政策事例2 環境政策に関する報告資料の準備	どのような公共政策を実施すれば自然環境の保全が進展するか、グループワークを通じて主体的に学修する。	
		この回の到達目標	各グループで報告のための準備を進め、政策提言の報告資料を作成する。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
15	1/12	政策事例2 環境政策に関する報告	各グループでこれまでの成果を報告する。	
		この回の到達目標	グループで調査した政策提言の内容を、聴衆に対してうまく伝えることができるようになる。	
		事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
		事後学修	グループごとに報告の反省、他グループの報告の良かった部分を確認し、次の報告に活かせるようにする。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していること（他学科の学生は履修できない）。必ず毎回授業に出席すること。※グループ分け、輪読分担決定等を行うので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
講義形式に加え、個人研究発表、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017	教科書	必携
自治体の公共政策	岩崎忠	学陽書房	2013	教科書	必携
公共政策学	石橋章市朗他	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
対立軸でみる公共政策入門	松田 憲忠他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	ガイダンス及び公共政策学の概容	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公共政策学とはなにかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関し、授業全般の構成について把握するとともに、公共政策学の全体的イメージを理解し、その概要及び他の隣接学問分野との異同について説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②指定教科書の導入部分を読み進めておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
2	9月25日	講義1（公共政策課題の発見）	公共政策課題とは何か、その本質とは何か等につき学習する。具体的事例として福祉政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、身近にある様々な問題のうち、社会的解決を必要とするものは何か、そしてそれはなぜ個人や企業の努力で解決することが出来ないのかなどを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	10月2日	講義2（公共政策の設計・決定）	公共政策はどのようなプロセスを経て決定されるのかなどについて学習する。具体的事例として教育政策を取り上げる。具体的事例として経済政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、社会的問題の解決のために考えられる手段としてどのようなものがあるか、政策決定過程に参画する多くのアクター（政治・民間・学界・市民・官僚）はどのような相互作用を行って政策が作られるのかを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により等を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	10月9日	講義3（公共政策の実施）	決定された公共政策は実施フェーズにおいて、どのような手段・プロセスを用いて具体化されるのかについて学習する。具体的事例として農業政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、公共政策の現場においてどのように政策が展開されるのか生活保護の事例等を基に具体的に説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	10月16日	講義4（公共政策の評価・改善）	公共政策のPDCAサイクル及びその中で基幹的な位置を占める政策評価について学習する。具体的事例として公共事業・公共交通政策を取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、実施された政策の「善し悪し」は何をもって測るのか、また政策が社会に与える「効果」とは何なのか、公共政策を改善するために市民・専門家等は政策決定過程等にどう参画すべきかなどについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策評価論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	10月23日	個人研究発表①（自治体の政策課題）	参加者輪番により、自治体における政策課題の発見、アジェンダ化の過程などに係る教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかエネルギー政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	個人研究発表②（条例制定過程・予算編成過程）	参加者輪番により、自治体における政策決定過程の最重要プロセスである条例・予算の作成フェーズに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかICT政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
8	11月6日	個人研究発表③（自治体議会・国との関係）	参加者輪番により、自治体が政策決定・執行するに当たって議会・国とはどのような影響を与え合っているのか、各アクターの動きを扱った教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか、外交・安全保障政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
9	11月13日	個人研究発表④（政策の実施プロセス、社会資本整備など）	参加者輪番により、自治体における施策執行の様々な具体的ケースに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか移民政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
10	11月20日	個人研究発表⑤（政策の概念と公共政策の歴史）	参加者輪番により、学問としての公共政策学の位置付け、政策の定義・理念型、歴史的発展モデル、現代的な政策課題の諸相などについて教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか、中央一地方関係について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
11	11月27日	個人研究発表⑥（政策過程論）	参加者輪番により、アジェンダ設定、政策立案過程、政策決定の各種モデル、政策実施過程、政策評価等についての教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか予算・財政政策について学習する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12月4日	個人研究発表⑦（政策デザイン）	参加者輪番により、政策デザインの概念、デザイン手段、政策デザインを取り巻く文脈（コンテクト）への配慮、デザインに求められる規範などについての教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
13	12月11日	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポートを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の展開能力を更に確かなものとする。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
14	12月18日	個人研究発表⑨（自由課題2）	受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポートを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の展開能力を更に確かなものとする。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
15	12月25日	個人研究発表⑩（自由課題3）	受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポートを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の展開能力を更に確かなものとする。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要である。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディベートを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題やグループディスカッションに対する講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	9/22	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICT政策の現状について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	9/29	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICT成長戦略について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	10/6	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（災害対策）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	10/13	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（教育分野）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	10/20	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（医療分野）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
		この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（データ利活用）について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	11/10	グループディスカッション①	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
		この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	11/17	グループディスカッション②	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
		この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	11/24	グループディスカッション③	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
		この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	12/1	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習①	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	12/8	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習②	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	プレゼンテーション①	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	12/22	プレゼンテーション②	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	1/12	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	ICT政策に関する主要な論点を修得する。	
		事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。

【授業方法】
講義および演習 レポート試験や課題レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館 6 階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会などで議論を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/16	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
		この回の到達目標	授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/23	日本の国家公務員制度	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
		この回の到達目標	日本の国家公務員制度の機能を理解する。	
		事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
		事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	4/30	日本の地方公務員制度	日本の地方公務員制度について学修する。	
		この回の到達目標	日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
		事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
		事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	5/7	公務員の仕事の実態と特質について	日本の公務員の仕事の実態について民間との比較を学修する。	
		この回の到達目標	日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
		事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
		事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	5/14	公務員の仕事の特殊性	公務員の仕事の特殊性について学修する。	
		この回の到達目標	公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
		事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分
6	5/21	公務員の使命感（集団討論）	公務員の社会における使命感について集団討論により学修する。	
		この回の到達目標	公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
		事前学修	公務員による社会貢献について事例を調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の使命感について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/28	公務員の仕事の課題（集団討論）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。	
		事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。	120分
		事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
8	6/4	公務員と社会の関係について	公務員と社会の関係について学修する。	
		この回の到達目標	公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
9	6/11	公務員と民間感覚（ゲストスピーカー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修する。	
		この回の到達目標	現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
10	6/18	行政手法の担い手としての公務員（ゲストスピーカー）	行政手法としての公務員の役割について学修する。	
		この回の到達目標	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
11	6/25	公務員の実際と特質	公務員の実際と特質について学修する。	
		この回の到達目標	公務員の実際と特質について他者と議論ができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。	120分
12	7/2	公務員試験について（多岐選択問題）	公務員試験の選択問題について学修する。	
		この回の到達目標	公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/9	公務員試験について（論述問題）	公務員試験の論述試験について学修する。	
		この回の到達目標	公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	7/16	公務員試験の面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
		この回の到達目標	公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
		事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	7/23	総括	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
		この回の到達目標	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
		事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
		事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していることが求められます（他学科の学生は履修できません）。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に積極的に参加することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
毎回、グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の目的や政策の定義、意味等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	9/22	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	政策過程に関する基礎的な理論モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政策過程の代表的な理論モデルの意味を理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
3	9/29	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として欧米における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
4	10/6	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として日本における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
5	10/13	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
6	10/20	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	プレゼンテーション（政策過程）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行いながら政策過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、政策過程モデルの論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
8	11/10	ディベート（政策過程）	前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、政策過程の問題と課題についてディベートを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、政策過程に関する説得力のある議論を展開することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
9	11/17	公共政策の現状と課題に関する学修	欧米社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
10	11/24	公共政策の現状と課題に関する学修	日本社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
11	12/1	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）	グループごとに、現代日本の政策を一つ取り上げ、その概要について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、他者と協調しながら、現代日本における主要政策の概要について、グループ内で議論を深めることができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
12	12/8	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）	前回取り上げた政策について、グループごとにその問題や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グループ内の議論に積極的に参加し、現代日本における主要政策の問題についてメンバー全員で理解を共有することができる	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行いながら日本の公共政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現代日本における公共政策の論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
14	12/22	ディベート（現代日本の公共政策）	前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、現代日本における政策の問題と課題についてディベートを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、日本の公共政策の論点に関する説得力のある議論を展開することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
15	1/12	まとめ	これまでの授業で扱った政策過程及び諸政策の課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を理解し、他者に説明することができる。	
		事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
授業の構成および進行は、公共政策学科の学生を念頭において行われるが、他学科・他学部の学生の受講も大いに歓迎します。

【授業方法】
演習形式を取り、学生の積極的な質問や意見表明を期待する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の最終回に発表の結果についての公表と、希望者には各自の評価を伝達する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017		
備考	購入は必須ではありません				

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	オリエンテーション・ウォーミングアップ 導入講義	ウォーミングアップ：課題と評価について 公共政策とは？福祉政策との関係は？	
		この回の到達目標	授業の意図と課題を理解し、自分の演習課題を決定するか、もしくは課題達成までの計画を立てる。	
		事前学修	「入門 公共政策学」を読み、公共政策論の復習をする。	120分
		事後学修	この授業で自分が何をするのかを考え、計画を紙面に起こす。	120分
2	9/22	公共政策の基本知識と原理	理念・目的・税との関係および新しい公共を含む公共政策におけるステークホルダーについて説明を行う。	
		この回の到達目標	公共政策が取り組む課題を、自らの生活に引き付けて説明できるようになる。	
		事前学修	社会問題と公共政策の関係について考える。	120分
		事後学修	各ステークホルダーの公共政策における役割・位置づけを調べる。	120分
3	9/29	さまざまな公共政策	政策の次元とステークホルダーの関係およびそれぞれの役割について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が担当する役割について、他との違いを説明できるようになる。	
		事前学修	指定されたステークホルダーが実際に行っている事業や活動を調べる。	120分
		事後学修	授業での学びを自分の選択したテーマに引き付けて考察する。	120分
4	10/6	政策の対象とアクセス	問題解決のための2つの方向性と、それぞれの公共政策における意味を説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、2つの方法をそれぞれ具体的に挙げるができるようになる。	
		事前学修	自分（達）が取り上げるテーマについて、解決策を自分なりに考える。	120分
		事後学修	自分（達）が取り上げるテーマについて挙げた2つの方法の、それぞれの利点と欠点を調べる。	120分
5	10/13	中間発表	ここまでの授業を受けて、最終的な課題発表に向けて各自（グループ）の進捗状況を確認する。	
		この回の到達目標	他の人（グループ）との比較を通じて、自分（達）の取り組みの課題を挙げるができるようになる。	
		事前学修	中間発表に向けた準備をする。	120分
		事後学修	自分（達）の取り組みの課題について、対策を考える。	120分
6	10/20	政策の起点	さまざまな社会的課題が政策の対象となっていくプロセスと、政策策定の初期段階における情報収集について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、どのような方法で情報を集めることが適切なのか、理由も含めて説明できるようになる。	
		事前学修	さまざまなステークホルダーによる、政策策定のための情報収集の方法について調べる。	120分
		事後学修	授業での学びを自分の選択したテーマに引き付けて考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	必要な財源とモノの確保	政策に不可欠な財源と資源確保の方法について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、活用可能な財源と資源を挙げることができるようになる。	
		事前学修	政策の財源について調べてくる。	120分
		事後学修	自分（達）が予定している計画と、確認された財源・資源に無理がないか確認する。	120分
8	11/10	政策における人材	政策策定における人材とその確保の方法、課題について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が想定する計画において妥当な人材の要件を挙げることができるようになる。	
		事前学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、これまでの内容を踏まえて必要な修正などを確認し、それに必要な点について調べる。	120分
		事後学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、これまでの内容を踏まえて必要な修正などを確認し、リストアップする。	120分
9	11/17	評価とフィードバック	政策の評価とそのフィードバックについて、対象および方法について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が取り上げるテーマについて、適切なフィードバックの方法を、理由も含めて説明できるようになる。	
		事前学修	修正が必要な個所のリストを踏まえて、授業で修正を進めるために必要な情報を集める。	120分
		事後学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、最終的な計画をまとめる。	120分
10	11/24	発表のための基礎知識	プレゼンテーションの方法と技術、および政策策定における役割について説明する。	
		この回の到達目標	自分（達）が発表する課題解決方法のアピールポイントを挙げ、それをプレゼンテーションに生かす方法を選択することができる。	
		事前学修	さまざまなプレゼンテーションの方法を調べる。	120分
		事後学修	自分（達）の発表のプレゼンテーション資料作りのための計画を立てる。	120分
11	12/1	プレゼンテーション(PPT)の作成	これまでの授業を通じて、課題の完成とプレゼンテーションの作成を行う。	
		この回の到達目標	発表に必要なプレゼンテーションの技術を身に着け、自らのプレゼンテーションに生かすことができるようになる。	
		事前学修	最終的なプレゼンテーション作成に必要な資料・情報を集める。	120分
		事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。	120分
12	12/8	発表1回目	3～4組程度の発表を行う。	
		この回の到達目標	公共政策の策定および施行における各ステークホルダーの役割を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
		事前学修	自分の発表の改善に必要な情報について調べ、発表の準備を行う。	120分
		事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	発表2回目	3～4組程度の発表を行う。	
		この回の到達目標	公共政策の策定および施行における各ステークホルダーの役割を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
		事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
		事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。	120分
14	12/22	発表3回目	3～4組程度の発表を行う。	
		この回の到達目標	公共政策の策定および施行における各ステークホルダーの役割を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
		事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
		事後学修	全体の発表を受けて、それぞれの計画の違いとその理由について考察する。	120分
15	1/12	授業のまとめと振り返り	授業全体を通じた振り返りと、各自（グループ）の発表の講評を行う。希望者には採点結果を伝達する。	
		この回の到達目標	授業を通じて完成した計画および策定過程の課題をあげ、具体的な解決策を提案できるようになる。	
		事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
		事後学修	授業を通じて、今後に向けての自己評価と課題の確認を行う。	120分

科目名	公共政策特殊講義A	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉事業史は政治・行政からの統治の歴史ばかりではなく、人々の側から制度の歴史を学ぶ学問であるとともに、社会政策の背景をなす基本的人権の具体的な発達過程を知るうえでも重要である。社会福祉制度の世界的起源とその発展過程を歴史的に掌握する。とりわけ世界で最も古く世界の公的社会福祉制度に影響を与えたイギリス救貧法の歴史について、中世から近代までのイギリス社会史を織り込みながら学ぶようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会福祉事業史の履修講座は公務員就任時の社会福祉主事任用資格要件を得るための基幹講座となっている。イギリス史全体の政治経済的流れと、イギリス行政史を深く学習し、比較政治学からの学問研究的視点を醸成することを目的とする。 社会福祉事業史を政治・行政からの統治の歴史ばかりではなく、人々の側から制度の歴史を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科 1， 3， 4， 5

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対してはそれが実現できるように配慮する。

【授業方法】		
シラバスに沿ってパワーポイントおよびプリントを使って講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会福祉事業の歴史性と固有性が理解できる。						4		4	4	4			
②	社会福祉事業と政治・経済・社会との歴史的関連性が理解できる。						4		4	4	4			
③	基本的人権及び人間の尊厳の思想が、社会福祉事業史を通じて理解できる。						4		4	4	4			
④	社会政策の中の社会福祉事業史の位置づけが理解できる。						4		4	4	4			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を実施する。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等	4年生及び体育会系の諸君について、レポート提出を求める 場合がある。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	出席をとる。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の歴史的動向に注視し、課題の評論等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		公務員行政の実際と民間事業活動の実際を同時に教育内容に反映することができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜3	はじめに リーガルマインドと行政マインド	社会福祉事業史を学ぶ意義について	
		この回の到達目標	リーガルマインドはどのようなものか、行政マインドとはどのようなものかについてその概要を理解する。	
		事前学修	公務員試験やその他の国家試験での過去問題で社会福祉事業の歴史についてどのような出題があるか確認する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
2	木曜3	イギリス救貧法成立以前。	チューダー王朝までのイギリス社会と古典的福祉制度	
		この回の到達目標	エリザベス救貧法が成立する以前のイギリスの状況について理解する。	
		事前学修	古代から中世までのイギリス史を文献、インターネット等によって調べる。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
3	木曜3	エリザベス救貧法の成立過程	中世封建制度の変容と重商主義体制	
		この回の到達目標	世界初の公的扶助制度がイギリスの地で発生した前後の状況について理解する。	
		事前学修	エリザベス一世のイギリスの時代を把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
4	木曜3	1662年定住法について	定住法の成立とピューリタン革命による絶対王制による国内政治の混乱	
		この回の到達目標	救貧法成立の後に、関連立法として成立した定住法について理解する。	
		事前学修	ピューリタン(清教徒)革命の概略を把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
5	木曜3	ナッチブル法とワークハウスの誕生	名誉革命による社会の安定とナッチブル法による救貧法対象者の施設収容主義の成立	
		この回の到達目標	生活困窮者及び高齢者、障がい者等の院内救済を促進したナッチブル法時代は、ワークハウスの建設が促進された。これらの状況について理解する。	
		事前学修	名誉革命と議会政治の発達および救貧法体制の拡充について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
6	木曜3	ギルバート法の成立過程	産業資本主義の萌芽と救貧法の人道主義化	
		この回の到達目標	院内救済の弊害が叫ばれ、ギルバートによって在宅で救済が行われる院内救済が奨励された。この時期について理解する。	
		事前学修	18世紀の経済社会変動と重商主義から産業資本主義移行期における社会政策の動きを把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜3	イーデンの貧困調査	産業革命と旧救貧法の行き詰まり	
		この回の到達目標	18世紀後半のエリザベス救貧法が次第に効力をなくしてゆく状況について理解する。	
		事前学修	18世紀末の産業革命時の急激な社会変動と社会福祉事業を把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
8	木曜3	政治経済学の誕生と旧救貧法	救貧法廃止論と救貧法存続論　タウンゼンドとジェレミー・ベンサムの理論	
		この回の到達目標	経済学の誕生とこの理論に影響を与えた旧救貧法について理解する。	
		事前学修	ホイッグ党による議会制改良手技による社会政策を把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
9	木曜3	新救貧法成立への途	古典派資本主義経済理論と救貧法の改正	
		この回の到達目標	1834年の新救貧法成立前後の状況について理解する。	
		事前学修	19世紀初めの資本主義の進行と貧困について考察する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
10	木曜3	新救貧法の成立と内容	新救貧法の成立過程とともに、同法の内容及び原則について理解する。	
		この回の到達目標	新救貧法の趣旨と条項ごとの内容を確認する。	
		事前学修	新救貧法の内容についてインターネット等であらかじめ予習をする。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
11	木曜3	労働運動と慈善組織活動	新救貧法成立後に発生した労働運動と、この時期に中産階級によってなされた慈善活動について理解する。	
		この回の到達目標	スウィングー揆、チャーチスト運動、それに友愛組合運動、COS等を理解する。	
		事前学修	スウィングー揆、チャーチスト運動、それに友愛組合運動、COS等について把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
12	木曜3	失業問題	近代労働者階級による貧困問題へ理解と、それを実施したロンドン調査、ヨーク調査等について	
		この回の到達目標	近代的産業社会の発展と貧困の概念の変化をブース、ラウントリーらの業績を通じて理解する。	
		事前学修	ブースのロンドン調査、ラウントリーのヨーク調査について把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜3	自由社会改良の時代と貧困に関する王立委員会報告	普通選挙の拡大による労働者階級の政治参加と、社会政策の重視について。	
		この回の到達目標	高齢者処遇への政策接近と王立委員会の内容について理科愛する。	
		事前学修	19世紀末から20世紀初頭の自由党、労働党の政治的動きについて把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
14	木曜3	救貧法の解体	2つの世界大戦による保守・労働両党の社会政策及び社会保障の興隆と救貧法の解体	
		この回の到達目標	1930年の救貧法の廃止に至る政治的動向について理解する。	
		事前学修	ロイドジョージ内閣、マクドナルド内閣、ネヴィル・チェンバレン内閣等の政治的動きを把握する。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
15	木曜3	まとめ	イギリスの社会政策である救貧法に見る歴史的意義	
		この回の到達目標	イギリス救貧法の通史を通じて、貧民、高齢者、障がい者等の処遇の変遷を把握する。	
		事前学修	すべての講義内容を概観し、まとめてみる。（2時間）	120分
		事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

科目名	公共政策特殊講義B	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉事業史は人々の側から制度の歴史を学ぶ学問であるとともに、日本における基本的人権の具体的な発達を知るうえでも重要である。日本における社会福祉の思想及び制度の発展過程を歴史的に掌握する。奈良時代から中世および江戸期までに確立した日本の社会福祉の発達過程を考察するとともに、近代社会福祉制度の成立に関わる明治大正、昭和時代の人権思想の成立、変容・発展過程についても考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会福祉事業史の履修講座は公務員の社会福祉主事任用資格要件を得るための基幹講座となっている。従来における日本社会福祉事業史とは異なった、より精緻で幅の広い学問的研究視点を醸成することを目的とする。日本における社会福祉の思想及び制度の発展過程を歴史的に掌握し、説明できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：公共政策学科 1， 3， 4， 5

【履修条件】
学科の別を問わない。履修を望む者に対してはそれが実現できるように配慮する。

【授業方法】		
シラバスに沿ってパワーポイントおよびプリントを使って講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会福祉事業の歴史性と固有性が理解できる。						4		4	4	4			
②	社会福祉事業と政治・経済・社会との歴史的関連性が理解できる。						4		4	4	4			
③	基本的人権及び人間の尊厳の思想が、社会福祉事業史を通じて理解できる。						4		4	4	4			
④	社会政策の中の社会福祉事業史の位置づけが理解できる。						4		4	4	4			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を実施する。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等	4年生及び体育会系学生の諸君についてレポート提出を求め る場合がある。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	出席をとる	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の歴史的動向に注視し、課題の評論等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		公務員行政の実際と民間事業活動の実際を同時に教育内容に反映することができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木曜日3	日本の社会福祉事業の概観	慈善博愛から人権思想の尊重まで	
		この回の到達目標	本稿銀の意義と目的について理解する。	
		事前学修	今までの代表的な日本社会福祉事業史の概論に触れること。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
2	木曜日3	日本社会福祉事業の源流	奈良時代、および鎌倉時代の仏教的博愛思想による慈善事業、奈良仏教による慈善事業、鎌倉期の真言律宗の慈善活動について	
		この回の到達目標	聖徳太子、光明皇后、叡尊、忍性等の日本の社会福祉事業化による活動について理解する。	
		事前学修	施薬院、悲田院、四箇院等について調べること。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
3	木曜日3	江戸期の社会福祉事業（1）	享保の改革と「小石川（赤ひげ）養療院」	
		この回の到達目標	徳川吉宗の享保の改革と小川笙船による小石川養成所について理解する。	
		事前学修	徳川吉宗の時代の社会政策及び社会福祉事業について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
4	木曜日3	江戸期の社会福祉事業（2）	寛政の改革、長谷川平蔵と石川島人足寄せ場、松平定信の七分積金制度	
		この回の到達目標	長谷川平蔵による石川島人足寄せ場に経営とその内容、松平定信が創設した江戸七分積金制度の内容を理解する。	
		事前学修	江戸幕府老中・松平定信の社会政策、社会福祉事業のうち、石川島人足寄せ場、七分積金制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
5	木曜日3	明治維新とキリスト教慈善普及活動	明治維新前後から日本に入ってきたキリスト教慈善活動について	
		この回の到達目標	日本に流入した明治初期のキリスト教慈善活動を、カトリック、プロテスタントについてそれぞれ理解する。	
		事前学修	明治維新前後のキリスト教の普及の状態について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布され配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
6	木曜日3	恤救規則の成立	幕末から明治前半の社会福祉事業活動	
		この回の到達目標	毎時初期に行った維新政府による社会政策立法について理解する。	
		事前学修	日本の最初の公的扶助立法、恤救規則について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木曜日3	日本の民間社会福祉慈善活動	キリスト教思想の浸透と民間社会福祉活動 石井十次、留岡幸助、山室軍平、石井亮一について	
		この回の到達目標	日本の社会福祉事業の創始者とその内容について理解する。	
		事前学修	明治の民間社会福祉活動について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
8	木曜日3	大正デモクラシーと低所得、貧困層への社会政策	近代低賃労働者の発生と新しい貧困問題の発見。片山潜、横山源之助の事業	
		この回の到達目標	日本の近代的規定賃金労働者の創生と貧困問題の発成及びその発見と対処を試みた片山潜、横山源之助の事業について理解する。	
		事前学修	日露戦争以降の日本の重工業化と近代的沈労働者層の形成について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
9	木曜日3	米騒動と政府・民間による社会政策	米騒動と関東大震災に直面した時代の行政、民間の福祉活動 セツルメント、井上友一、賀川豊彦	
		この回の到達目標	米騒動の内容と推移及び関東大震災によって対処した社会福祉事業活動について理解する。	
		事前学修	米騒動、関東大震災について調べる（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
10	木曜日3	社会主義の浸透と救護法	マルクス主義浸透への対処と救護法の成立	
		この回の到達目標	救護法成立に至る昭和初期の政治・経済状況について理解する。	
		事前学修	治安維持法と救護法について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
11	木曜日3	敗戦と占領下の社会福祉事業	GHQの指令と福祉3法の時代	
		この回の到達目標	アメリカ占領軍による社会福祉関連立法の成立とその内容について理解する。	
		事前学修	第二次大戦の敗北と新しい社会福祉思想について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
12	木曜日3	高度経済成長と社会福祉制度の拡充、発展	国民皆保険・皆年金、福祉6法、1973年の福祉元年等の社会福祉法制度の充実とその内容について	
		この回の到達目標	日本の高度経済成長とその余慶としての福祉国家の充実の過程について理解する。	
		事前学修	日本の高度経済成長時代について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木曜日3	日本型福祉の模索	欧米福祉国家へのキャッチ・アップの時代から日本型福祉の時代へ	
		この回の到達目標	1980年代の世界的不況と福祉後退の局面における日本の福祉国家の在り方への模索段階について理解する。	
		事前学修	国際連合の社会福祉宣言について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
14	木曜日3	社会福祉基礎構造改革	官庁による措置の時代から民営化による民間の契約の時代へ 社会福祉制度改革	
		この回の到達目標	2000年を境とした社会ふじゅ基礎構造改革の内容とその後の変化について理解する。	
		事前学修	基礎構造改革による民営化とバブル崩壊の時代背景を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
15	木曜日3	まとめ 新たな社会福祉の充実に向けて	現在当面している社会福祉の課題	
		この回の到達目標	当面する社会福祉の課題と、将来の方向性について議論する。	
		事前学修	今までのプリントを概観すること。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って今学期の講義内容をまとめる。（2時間）	120分

科目名	公共政策論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				○

【授業の概要】
本講義では、政治の表舞台・裏舞台において活動する政治的アクターの組織と機能について触れつつ、実際の公共政策を事例として取り上げ、その形成過程、及びわが国における公共政策の現状と課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会を深く観察し、その問題・課題を理解しながら「政策人」としての素養を身に着けることを目的とします。 同時に、社会問題の解決策を究明し、そのための政策オプションについて理解します。

【履修条件】
※公共政策学科の必修科目です。他学科の学生は履修できません。

【授業方法】
原則として講義形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の諸問題や政策形成過程に興味を持ち、新聞を読むようになる。				2		2	2				2
②	学生が、現代社会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。						2	2				2
③	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。						2	2				2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	現代社会における政策及び政策形成過程の特質やその問題について、主に到達目標①②③の観点から十分に理解できているかを評価します。	10	30	40								80
小テスト等	授業中に実施される小テストにおいて、主に到達目標②③にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価します。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に積極的に参加することが求められます。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の小テスト等に対する講評を行い、政策や政策過程に対する理解の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	「公共政策」とは何かについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、公共政策の意義やその特殊性について理解することができる。	
		事前学修	履修条件を説明するので、初回ガイダンスには必ず出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認するとともに、教科書を用意しておくこと	120分
2	4/14	国家の役割と公共政策	国家の中で果たす公共政策の役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、戦前と戦後とで公共政策の果たす役割が大きく変化したことを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
3	4/21	公共政策と議会	日本の国会の会期制や委員会制度のついて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の会期制や委員会制度が特殊であることを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
4	4/28	公共政策と議会	先進各国の二院制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の二院制が特殊であることを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
5	5/5	公共政策と政党	政策形成過程において政党が果たす役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政党の性格や役割、その意義や問題について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
6	5/12	政府と官僚制	行政国家の意味や官僚の役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、行政国家における官僚制度の特質について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	利益集団の圧力活動	利益集団の定義及び政策過程において利益集団が果たす役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、利益集団の圧力活動のメリットとデメリットについて把握することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
8	5/26	政策過程のモデル	主に欧米において用いられてきた政策過程を説明する理論モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、政策過程を説明するモデルの意味やその限界について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
9	6/2	政策類型論	政策の内容が政策過程を決定するという理論モデルを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、代表的な政策類型モデルを理解するとともに、その問題点を把握することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
10	6/9	戦後の日本における公共政策の展開	戦後の日本において、重点政策がどのように変化していくのかを選挙と絡めて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、選挙と政策の関係性を把握しながら、戦後日本政治の流れを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
11	6/16	戦後の日本における公共政策の諸問題	戦後の日本において実施されてきた重要政策の意義や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、戦後政治史における公共政策の変遷やその問題・課題について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
12	6/23	現代日本における公共政策の現状	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の概要を把握し、それを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	現代日本における公共政策の諸問題	現代日本における公共政策の問題について、具体例を挙げながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の問題点を把握し、それを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
14	7/7	現代日本における公共政策の課題	現代日本における公共政策の今後の課題について、具体例を挙げながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の課題を把握し、それを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策、及び政策過程の問題や課題について整理しながら学修する。	
		この回の到達目標	公到達目標①②③に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を説明することができる。	
		事前学修	公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得する。	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

科目名	公共選択論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
選挙・政党・議会といった政治活動などの過程を経済学の手法を使用して分析する。また、これらの過程を明らかにするのみではなく、投票制度、政治資金に関する規制等、現実の政策論へと展開していくことも対象としているため、政策決定の枠組みを規定する諸制度の設計を重点的に学修する。最終的に、政治過程を理論的に理解することで、経済学が意図する最適な政策を提供することの不確実性及び政治活動の過程における法の重要性を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治活動の過程に関する研究を進めていくために必要な日本及び世界における政治活動の過程に関するシステムの知識及び問題発見・解決力を習得するために、政治活動の過程に関する基本的理論や核心となる概念を理解する。

【履修条件】
特にないが、基本的な政治学及び経済学の知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
参考書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共選択論における主要な概念や理論を識別することができる。						2						
②	世界の経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。						2						
③	公共選択論における各モデルの帰結を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						2		2				
④	公共選択論における各モデルの帰結を教訓として、現代社会の諸問題に対して解決策を提示することができる。						2		2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	25	25							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②③④に関わる基礎知識及び問題解決能力を評 価する。	5	5	10	10							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(1)テキストブック公共選択	川野辺裕幸・中村ま づる編	勁草書房	2013年	参考書	任意
(2) 公共選択の経済分析	小西秀樹	東京大学出版会	2009年	参考書	任意
備考	特定の教科書は指定しないが、上記の参考書、特に(1)を熟読することが望ましい。講義日前日までに講義資料をポータルシステムにて配布する。授業内では配布しないため、必要に応じて持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取ること） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	公共選択論とは何か？：公共選択論の射程、成績評価について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、公共選択論を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共選択論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認し、「公共選択」「政治経済」といったキーワードについて自分なりに理解してくること。	90分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、どの分野に興味があるかを自分なりに考え、日本での現状について調べてみること。	150分
2	9/22	公共選択論の対象と方法論について	公共選択論の分析対象と方法論（規範的・実証的）について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共選択論の分析対象とその方法論を理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：経済学、政治学、政治経済学	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、経済学及び政治学における各プレイヤーの概念を比較し、その違いをまとめること。また、公共選択の対象とその分析手法について自分なりにまとめること。	120分
3	9/29	政府の失敗と市場の失敗の違いについて	経済学における市場の失敗と公共選択論における政府（政治）の失敗について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の失敗と政府の失敗及び2つの失敗の関係性について理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政府の失敗、市場の失敗	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、経済学における市場の失敗についてまとめること。また、公共選択論における政府の失敗についても再確認し、2つの失敗がどのように関係しているかをまとめること。	120分
4	10/6	公共選択論における大きな政府と小さな政府の違い	政府がどれほど市場又は社会へ関与しているかを意味する指標として、大きな政府と小さな政府について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大きな政府と小さな政府の概念及び関連する統計等の内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：大きな政府、小さな政府、社会保障	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、大きな政府と小さな政府の特徴をまとめること。また、日本、アメリカ、中国などの各国政府はどちらのタイプに当てはまるかを考えてみること。	120分
5	10/13	投票ルールの考え方(1)：多数決のルールについて	多数決のルールに関して、最もシンプルである全員一致ルール等に関して説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多数決ルールの考え方とそれぞれのルールの意味について理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：パレート最適、メイの定理	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、多数決のルール設定についてまとめ、投票ルールが投票結果に与える影響をまとめること。	120分
6	10/20	投票ルールの考え方(2)：投票のパラドックスとアローの不可能性定理	投票ルールを考える上での問題点として投票のパラドックスとアローの不可能性定理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票のパラドックスとアローの不可能性定理について理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：投票のパラドックス、アローの不可能性定理	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、投票のパラドックスとアローの不可能性定理についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	投票ルールの考え方(3)：中位投票者定理の理解とその応用	中位投票者定理について説明し、どのように実際の投票ルールに応用するかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中位投票者定理及び現実の投票ルールへの応用方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：中位投票者定理	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、中位投票者定理の理解及び前回の内容の再確認を行う。	120分
8	11/10	選挙時における政治家の行動に関する理論	選挙時における政治家の得票最大化行動について理論的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治家の最大化行動及び現実の問題を理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治家、得票最大化行動	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、選挙時に政治家が何を重視して選挙活動を行うかをまとめること。また、現実の世界ではどうなっているかも自分なりに調べてみること。	120分
9	11/17	二大政党制及び多数政党制における政党間競争	主にな政党制度として二大政党制及び多数政党制について説明したうえで、両制度においてどのように政党間競争が行われるかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党制度の違い、多党制の発生要因、そして各制度ごとに政党間競争に関して理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：二大政党制、多数政党制	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、政党制の違いによって政党間競争がどのように異なってくるかをまとめること。	120分
10	11/24	合理的投票者と論理的投票者の理解	投票者の行動を理解するために合理的投票者と論理的投票者について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、両投票者の行動及び自身の投票行動に関して理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：合理的投票者、論理的投票者	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、合理的投票者と論理的投票者の違いについてまとめること。また、自身はどのように投票を行なっているかを考えること。	120分
11	12/1	公共選択路における官僚制度に関する理論：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル	政治主体の1つである官僚の行動に関して、ニスカネンモデル及びダンレヴィーモデルについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、官僚制度及び官僚の最大化行動に関して理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、官僚制度における官僚の最大化行動に関してまとめ、日本の現状についても一度考えをまとめること。	120分
12	12/8	政治的景気循環について	動学的な分析を行うために、政治的景気循環について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済政策と政治（活動）の関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治的景気循環、選挙競争、マクロ経済政策	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、政治的景気循環についてまとめること。その中でも、特にマクロ経済政策と政治の関係についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	公共選択論と財政赤字の問題	現在日本でも問題となっている財政赤字を公共選択論の分析フレームワークを使用しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政赤字が公共選択論においてはどのように扱われているかを理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：財政赤字、政治経済学	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、財政赤字とその解消方法についてまとめること。また、経済学と公共選択論における財政赤字への考え方の違いについてもまとめること。	120分
14	12/22	公共選択と現実の政策	公共選択論の分析フレームワークを使用し、現実社会で発生している諸問題に関する考え方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共選択論の分析手法を通じて日本及び世界における社会的問題を理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：社会保障制度、環境問題、国際貿易問題	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、現実世界で起きている問題を解決する時、公共選択論ではどの分析手法が適しているかをまとめること。また、自身の考えもまとめておくこと。	120分
15	1/12	講義のまとめ：公共選択と現実世界のつながり	公共選択論の内容を総括し、理論的メカニズム及び政治活動の過程における諸システムに関する問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して公共選択論における理論的メカニズム及び政治活動の過程における注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で政治行動の過程に関する諸システム対して判断ができる。	
		事前学修	これまでの講義資料を参考に講義内容を見直し、疑問点や興味を持った点等をまとめる。	90分
		事後学修	これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備を進めること。	150分

科目名	広告コミュニケーションⅠ	担当者	安達 周	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
広告コミュニケーションの概要を学修する。そのため、インターネットの出現と発展による広告の変容、広告の機能、マーケティングの概要、マーケティングにおける広告の役割、広告媒体（テレビ、新聞、インターネットなど）、広告業界の仕組み（広告主・広告会社・媒体社の連携）、広告会社の役割、広告を具体化するために不可欠な広告計画、ブランドの重要性などをテーマとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私たちは毎日、テレビCM、インターネット広告、新聞広告、雑誌広告などに接しているが、これら広告は、広告主、広告会社、媒体社などの連携によって私たちの目に触れることになる。この過程には、広告効果を高めるための様々な計画や工夫、法則、理論が詰め込まれており、これらを修得することにより広告コミュニケーションの概要を理解する。

【履修条件】
後期「広告コミュニケーションⅡ」を履修することが原則となっている。

【授業方法】
講義形式とする。授業ごとに資料を配布し、資料に基づき講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	広告の諸機能、インターネットの出現と発展による広告の変容などを理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3				
②	マーケティングの概要、マーケティングにおける広告の役割について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3				
③	広告業界の仕組み、広告会社の役割について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3				
④	広告を具体化するために不可欠な「広告計画」について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3				
⑤	積極的な姿勢で授業に臨むことができる。【態度・習慣】						3	3	3	3				
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④の達成度を評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑤について、授業への積極的な参画度を評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて開示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日3時限目の授業終了後、授業講堂にて。次の個人メールアドレスmeguru@arion.ocn.ne.jpでも受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金 4/10	【ガイダンス】【広告コミュニケーションとは】	ガイダンスで、授業計画、成績評価方法などを説明した後、広告コミュニケーションとは何か、企業にとっての広告の役割、インターネットの出現と発展による広告の変容などを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告の役割、インターネットの出現と発展が広告コミュニケーションに与えている影響を説明することができる。	
		事前学修	ネット広告・テレビCM・新聞広告・雑誌広告に対しての日常の接触度と、自身が一番影響を受けている広告媒体は何かを調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、広告の役割、インターネットによる広告コミュニケーションの変容を整理する。	120分
2	金 4/17	【広告の機能】	広告の機能である情報提供機能、説得機能、関係強化機能、経済的機能、社会的・文化的機能について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告の基本的機能である情報提供機能をはじめ、広告は社会的・文化的機能も果たしていることを説明することができる。	
		事前学修	広告の諸機能について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを確認して、広告の諸機能について整理する。	120分
3	金 4/24	【広告の種類 広報・パブリシティと広告】	広告の定義、広告の種類、広告と混同されがちな広報・パブリシティについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告の種類、広報・パブリシティと広告の違いを説明することができる。	
		事前学修	主な広告の種類、企業活動における広報・パブリシティの役割について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを参考に、企業のパブリシティ・広報活動の事例を調べる。	120分
4	金 5/1	【マーケティングと広告】	広告は企業のマーケティング活動の一翼を担っている。広告を理解するためには、マーケティングの概要を理解することが不可欠だ。マーケティングとは何か、マーケティングにおける広告の役割とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、マーケティングの概要、マーケティング活動と広告との関係を説明することができる。	
		事前学修	マーケティングの4Pと広告との関係、マーケティングミックスを調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、マーケティングの概要、マーケティングと広告との関係を整理する。	120分
5	金 5/8	【マーケティングの市場分析】	マーケティングの市場分析方法（PEST分析、SWOT分析、3C分析など）について学修する。これらの分析は、広告を具体化する「広告計画」に関係してくる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、主なマーケティングの市場分析方法を説明することができる。	
		事前学修	マーケティングのPEST分析、SWOT分析、3C分析、コミュニケーション・ミックスについて調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、マーケティングの市場分析方法を整理する。	120分
6	金 5/15	【広告業界の仕組み 広告会社の役割】	広告業界の仕組みと広告会社の役割を学修する。広告業界は、広告主・広告会社・広告制作会社・媒体社による連携で成り立っている。とりわけ広告会社の役割は大きく、広告会社を学ぶことによって、広告業界の概要が理解できる。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告業界の仕組み、広告会社の役割を説明することができる。	
		事前学修	広告主・広告会社・媒体社（テレビ局、新聞社・出版社など）の役割を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、広告業界の仕組み、広告会社の存在意義を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金 5/22	【広告費の流れ 広告会社の発展】	日本の広告業界独特の広告費の流れ、広告会社の歴史的発展過程を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告会社の発展過程と広告業界独特の広告費の流れを説明することができる。	
		事前学修	「コミッション」「フィー」について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、日本と欧米の広告会社の違いを整理する。	120分
8	金 5/29	【広告計画】	広告を具体化するために不可欠な「広告計画」について学修する。広告計画は、広告目標の設定、表現計画、媒体計画などの過程を踏む。広告計画を理解することは、広告コミュニケーションの概要を理解することにつながる。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告を具体化する「広告計画」を理解し、説明することができる。「広告計画」では、到達目標①②③の理解も必要になる。	
		事前学修	「広告計画」の立案過程について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、自ら「広告計画」を立案できるようにしておく。	120分
9	金 6/5	【表現計画】	広告計画の一環である「表現計画」について学修する。広告表現をいかに魅力的なものにできるかは広告の訴求効果を高めるポイントだ。魅力的な広告表現の制作に必要な要素や法則を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告計画で重要な「表現計画」を説明することができる。	
		事前学修	広告表現に必要な5I（ファイブ・アイ）の法則、3Bの法則、USPについて調べておく。	120分
		事後学修	配布資料やノートを確認して、表現制作に必要なポイントを整理する。	120分
10	金 6/12	【消費者理解の重要性】	広告を制作する上で常に意識すべきは消費者の考えだ。広告会社の広告制作プロセスを見ることによって、消費者を理解するポイントであるアカウント・プランニング、コンシューマー・インサイトを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、広告コミュニケーションにおける消費者理解の重要性を説明することができる。	
		事前学修	アカウント・プランニング、コンシューマー・インサイトについて調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、消費者を理解する上でのポイントを整理する。	120分
11	金 6/19	【媒体の特性】	様々な広告媒体の特性について学修する。広告メッセージを最も効果的に消費者伝えるためには、各媒体をどのように組み合わせる使うかが重要となる。そのためには各媒体の特性を理解する必要がある。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テレビや新聞、雑誌などのマス媒体、インターネット、交通・屋外媒体の各特性を説明することができる。	
		事前学修	主な広告媒体（テレビ、新聞、雑誌、ラジオ、インターネット、交通・屋外）の特性、メディア・ニュートラルの概念について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、主な広告媒体の特性を整理する。	120分
12	金 6/26	【媒体計画】	前回授業の媒体特性の理解を踏まえ、広告計画の一環である「媒体計画」について学修する。そこにはメディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアなど、現在のインターネット社会ならではの重要な概念が反映されており、これらを中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告計画で重要な「媒体計画」を、メディアミックス、クロスメディアなどの概念と併せて理解し、説明することができる。	
		事前学修	メディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアについて調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、メディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金 7/3	【ブランド】	ブランドについて学修する。強いブランドはマーケティングにおいて極めて大きな力となる。マーケティングの第一人者であるフィリップ・コトラーは「優れたブランドは、平均以上の収益を確保するための唯一の手段である」と述べている。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーケティングにおけるブランドの重要性を説明することができる。	
		事前学修	コモディティ化、ブランド・エクイティ、ブランド・ロイヤルティについて調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、授業内容を整理するとともに、身の回りのブランドが自身にどのような影響や購買効果を与えているかを調べる。	120分
14	金 7/10	【時代を切り取るクリエイティブ】	評価の高い広告表現（キャッチコピーなど）をもとに、時代を切り取るクリエイティブについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、優れたクリエイティブは時代を切り取っていることを説明することができる。	
		事前学修	テレビCM、新聞広告、ポスターなどの著名なキャッチコピーを調べておく。	120分
		事後学修	授業で扱った事例のほかに、自身にとって印象に残るキャッチコピーについて制作者と制作過程を調べ、クリエイティブの重要性を考察する。	120分
15	金 7/17	【前期授業のまとめ】	前期授業で扱った各テーマを振り返ることによって、広告コミュニケーションの概要を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、広告コミュニケーションの概要を説明することができる。	
		事前学修	前期授業の配布資料や講義ノートを確認し、各授業の要点を整理しておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノート、授業の振り返りによって、広告コミュニケーションの概要を整理する。	120分

科目名	広告コミュニケーションⅡ	担当者	安達 周	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
前期「Ⅰ」の授業を踏まえ、広告コミュニケーションをより幅広く学修する。そのため、現代の広告コミュニケーションに不可欠なネット広告の優れた特性と種類、映画のような「コンテンツと融合した」魅力的な広告、消費者に自発的に来てもらうインバウンドマーケティング、企業の社会貢献を重視するソーシャルマーケティング、世界展開するグローバルマーケティングと広告、知的財産と広告の関係、消費者を欺くステルスマーケティング、ジェンダーの観点などから問題化する広告の差別表現、広告の法律規制、広告媒体の責任論などが学修のテーマとなる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
広告コミュニケーションを、広告が抱える負の側面も含めて修得する。ネット広告の優れた特性と種類、コンテンツと広告の融合などと共に、広告の負の側面として、記事を装い消費者を欺くステルスマーケティング、やらせのクチコミ問題、時にトラブルが発生する知的財産と広告との関係、ジェンダーや人種差別の観点から批判される広告表現の問題点、虚偽・誇大広告に対する法律規制などを修得する。

【履修条件】
今年度あるいは過年度に前期「広告コミュニケーションⅠ」を履修した学生が履修できる。

【授業方法】
講義形式で行う。授業ごとに資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ソーシャルメディアを含むインターネット広告の特性と負の側面を理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3		3		
②	広告とコンテンツの融合はじめ、様々なマーケティング手法を理解し、広告効果を高める工夫を説明することができる。【知識】				3	3	3	3		3		
③	広告の法規制と業界自主規制、媒体責任、知的財産と広告の関係などを理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3		3		
④	「広告表現による差別」とその原因を理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3		3		
⑤	質問などによってテーマを掘り下げるなど、積極的な姿勢で授業に臨むことができる。【態度・習慣】				3	3	3	3		3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④の達成度を評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑤について、各テーマに対する質問など授業への積極的な参画度を評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて開示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜3時限目の授業終了後、授業講堂にて。次の個人メールアドレスmeguru@arion.ocn.ne.jpでも受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金 9/18	【ガイダンス】 【インターネット広告の特性と機能】	ガイダンスでは授業計画や成績評価方法などを説明する。その後、広告活動に大きな影響を及ぼしているインターネットによる広告を取り上げ、ネット広告の特性、その種類と機能、SNSなどのソーシャルメディアを利用した企業の取り組みを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、インターネット広告の特性、種類と機能、ソーシャルメディアを利用した企業の消費者アプローチを説明することができる。	
		事前学修	インターネット広告の特性と主な種類、ソーシャルメディアによる企業の消費者アプローチを調べておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ネット広告の利便性を整理する。	120分
2	金 9/25	【ネイティブ広告 ステルスマーケティング】	「広告を見せられている」という抵抗感を感じさせないネイティブ広告のほか、広告であることを隠し消費者を欺くステルスマーケティング、やらせのクチコミ、不適切なサイトに広告が掲載されてしまう広告価値の毀損（きそん）問題など、広告の負の側面について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ネイティブ広告、ステルスマーケティング、やらせのクチコミ問題について説明することができる。	
		事前学修	問題化したステルスマーケティングの事例、やらせのクチコミ事例について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、ネット広告が抱える問題点を整理しておく。	120分
3	金 10/2	【コンテンツと広告の融合】	映画のようなブランデッド・エンターテインメント、映画やテレビドラマの一場面に商品を溶け込ませるプロダクト・プレイスメントについて学修する。それにより、見る者に広告であることを意識させず、自然に広告効果を高める工夫を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブランデッド・エンターテインメント、プロダクト・プレイスメントについて説明することができる。	
		事前学修	「コンテンツと広告の融合」の概念を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを参考に、授業で扱った事例以外の「コンテンツと広告の融合」の成功例を調べ、整理しておく。	120分
4	金 10/9	【インバウンドマーケティング】	インターネットの進化とスマホの普及により、新しいマーケティング手法が登場している。その一つ「消費者に自発的に来てもらう」インバウンドマーケティングについて学修する。また、日本では定着しにくい比較広告などの手法についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インバウンドマーケティングや比較広告の手法などを説明することができる。	
		事前学修	インバウンドマーケティングなどの新しい手法、比較広告やタイアップ広告など旧来の手法について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認して、インバウンドマーケティングの消費者への効果を整理する。	120分
5	金 10/16	【ソーシャルマーケティングと広告】	ソーシャルマーケティングと広告について学修する。ソーシャルマーケティングとは、企業は利益追求だけを目指すのではなく、社会的責任を果たすことにより企業イメージを高める手法をいう。社会貢献をテーマとした企業広告の事例をもとに学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ソーシャルマーケティングとその意義を説明することができる。	
		事前学修	ソーシャルマーケティングに基づいた企業広告事例を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、企業が力を入れている社会的課題とその広告事例を整理する。	120分
6	金 10/23	【グローバルマーケティングと広告】	グローバルマーケティングと広告について学修する。世界の距離が縮まるにつれ、世界展開する企業が増えている。マーケティングのグローバル化は広告のグローバル化を必要とし、各国の文化、政治社会制度の違いによって、表現計画や媒体計画の変更が必要となることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、各国の政治社会制度の違い、文化の違いを考慮して展開されるグローバルマーケティングと広告について説明することができる。	
		事前学修	グローバル広告戦略の「標準化」と「現地化」について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料とノートを確認し、グローバルマーケティングによる広告事例を、欧米の広告を含めて調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金 10/ 30	【広告の法律規制】	広告は訴求効果を高めようとするあまり、虚偽・誇大表現をしがちであることなどから、様々な規制の下にある。広告規制には「法律規制」「業界による自主規制」「公正競争規約」があり、初めに法律規制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告に対する法律規制の概要を説明することができる。	
		事前学修	虚偽・誇大表現など「不当表示」規制の代表的法律である景品表示法を調べておく。	120分
		事後学修	最近の景品表示法違反事例を消費者庁ホームページや報道記事などで調べ、「優良誤認」「有利誤認」を整理する。	120分
8	金 11/6	【広告の業界自主規制 公正競争規約】	業界の自主規制、公正競争規約について学修する。業界自主規制は、法律による規制では不適切な広告の社会的責任、倫理・道徳、業界固有の商習慣を考慮してつくられる。公正競争規約は自主規制に強制力を加えたものだ。これらを学修することによって、広告規制の全体像を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法律規制とは異なる「業界の自主規制」「公正競争規約」について説明することができる。	
		事前学修	広告主、広告会社、媒体社がそれぞれ作っている「自主規制」の内容を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、広告規制の全体像を整理する。	120分
9	金 11/ 13	【媒体責任】	媒体責任について学修する。広告の責任は広告主にあるが、広告により経済的精神的損害を被った消費者が、広告を掲載した媒体（新聞社やテレビ局）に対し損害賠償訴訟を起こす場合がある。媒体責任をどう考えるか、最高裁判例などを基に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、媒体責任について、媒体責任を問われた判例を考察することで理解し、説明することができる。	
		事前学修	新聞社の媒体責任が問われた代表的事例である「日本コーポ事件」について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、授業で扱った判例以外の「媒体責任が認められなかったケース」「認められたケース」の判例を調べる。	120分
10	金 11/ 20	【広告と知的財産】	広告と知的財産について学修する。知的財産を権利者の許諾なく使用することはできない。広告と関係の深い知的財産権は、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法上の権利である。知的財産が広告制作の上でどのように関係してくるのか、どんな点に注意すべきか、知的財産をめぐるどのような係争が起こるのかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、「広告と知的財産」の関係について、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法の観点から説明することができる。	
		事前学修	著作権法が定義する著作物の範囲、広告と知的財産をめぐる係争事例を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法と広告との関係を整理する。	120分
11	金 11/ 27	【広告に見る差別表現】	広告に見る差別表現について学修する。広告は、ジェンダーに基づく女性差別、人種差別、障害者差別などの観点から問題化し、時に炎上することがある。批判された事例を検証し、問題点を理解する。広告は「時代を映す鏡」といわれるが、その時代の意識が広告によって浮かび上がる。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告に見られる女性差別、人種差別、障害者差別表現とその原因について説明することができる。	
		事前学修	差別として批判された広告（テレビCM、ネット動画CM、新聞広告など）の事例を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、広告による差別表現と時代意識との関係を整理する。	120分
12	金 12/4	【広告の差別表現と品位 カンヌライオンズに見るクリエイティブの可能性】	前回に続き広告による差別表現、さらに広告の品位について学修する。世界三大広告祭の一つである「カンヌライオンズ」で高評価を得た内外の作品を取り上げ、クリエイティブの可能性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、広告による差別表現、広告表現の品位について説明することができる。	
		事前学修	人種差別表現として批判され炎上した広告事例を調べておく。カンヌライオンズで受賞した内外の作品を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、広告の差別表現とその原因、広告の品位について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金 12/ 11	【江戸・明治の広告】	江戸・明治の広告について学修する。江戸時代の引札（ひきふだ）、錦絵、明治時代に新しい情報媒体として登場した新聞による広告を学修することにより、日本の広告の発展経緯と広告の工夫について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の近代化に伴う広告の発展過程と広告の工夫を説明することができる。	
		事前学修	江戸時代に越後屋呉服店（現三越）が配布した引札、明治時代に福沢諭吉が新聞広告の効用を説いた「商人に告ぐるの文」を調べておく。	120分
		事後学修	授業で取り上げた広告以外の江戸・明治の広告を「アドミュージアム東京」や文献で調べ、当時の広告の発展過程を整理する。	120分
14	金 12/ 18	【プロモーションメディアの特性と役割】	目立たないが広告媒体として重要な役割を果たしているダイレクトメール、フリーペーパー、フリーマガジン、POP、展示・映像などの特性と役割を学修する。これらは新聞折込、交通、屋外を加えてプロモーションメディアと称されている。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、マーケティングで重要な役割を果たしているプロモーションメディアの各特性と役割を説明することができる。	
		事前学修	プロモーションメディアの各特性と役割、日本の総広告費に占める同メディアの広告費割合を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、マーケティングにおけるプロモーションメディアの重要性を整理する。	120分
15	金 12/ 25	【後期授業のまとめ】	後期授業で取り上げた各テーマを振り返ることにより、広告コミュニケーションの全体像を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、広告抱える問題点も含めた広告コミュニケーションの全体像を説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを確認し、各授業テーマの要点を整理しておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノート、授業の振り返りにより、広告コミュニケーションの全体像を整理する。	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅰ	担当者	古川 隆	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
4年次に履修可能となる広報広告演習Ⅱ・Ⅲで「卒業レポート」を作成するための準備段階の位置づけ。大きく三つの内容がある。①広報論の基礎知識（講義）②問題発見と解決力の醸成（グループワーク）③論理的な文章力の向上（新聞クリッピングレポート）これらの内容を組み合わせ総合的に取り組んでいく。広報ならびに広告は授業担当者の専門研究分野であり、本務での業務分野でもある。4年次の卒業レポート作成に向けたアドバイスが可能である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会人として必要な広報と広告についての基本的な知識や企業活動における役割とそれぞれの違いを理解出来る能力を養成することを目標とする。ひとつのテーマについて問題発見と解決方法を考えられるようにする。自らの考えを論理的な文章で書けるようになる。本講座では、これらの目的を達成するために毎回の授業での決められた提出物を提出し、グループワークでの積極的な役割と発表ができることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 4, 8

【履修条件】
企業における広報や広告に興味をもっていること。広報の理論と実践を理解して、社会人になった将来にそれを生かすことを希望していること。事前・事後学習における課題にきちんと取り組めること。

【授業方法】
通常の講義の他、小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議なども取り入れる。積極的な授業参画を求める。また、受講者の理解度を勘案し、授業の方法や内容を変更することがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議を数回行う。このグループワークは演習Ⅱと演習Ⅲでも継続するので重視している。その基本を学んでもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新聞クリッピングレポートがきちんと作成できる。						2	2				
②	与えられたテーマに基づき200字作文が書ける。				2	2						
③	グループワークに積極的に参加して自らの役割を達成できる。						2			2		
④	確認テスト（筆記）において一定レベル以上の回答を導き出せる。				2	2	2	2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して、学修内容についてきちんと理解できているかどうかを確認テストにおいて評価する	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	新聞クリッピングレポートにおいて、到達目標③④に関連して記事に対する論述が十分に行われているかどうかを評価する。			10	10							20
討論・発表等	グループワークにおけるグループ内での討議や全体での発表、全体討議などでテーマや質問に対して前向きに意見を述べ有益であったかどうかを評価する。			10		10						20
授業への参画度	授業の内容にかかわらず学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業への参加は成績評価の前提であり、出席状況自体は加点・減点の対応とはならない。欠席の際も課題の提出は免除されない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	25	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	受講者の理解度を勘案して、開講後教科書（または参考書）を指定することがある。				

【オフィスアワー】
金曜１６：１０～ ３０分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する） なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	広告会社ならびにコンサルティングファームでの実務経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		広告や広報の理論や実践に関して実務者の観点から講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日 (金)	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション。半年間の授業計画や内容を説明し、講師の自己紹介や学生の自己紹介を行う。授業に関する事前のアンケートも実施する。今後必要となる「新聞クリッピングレポート」の作成方法を詳しく説明する。	
		この回の到達目標	授業内容を理解する。新聞クリッピングレポートの作成方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
2	9月25日 (金)	グループワークの説明	前回実施した授業アンケートの結果をフィードバックする。200字作文を実施する。ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。	
		この回の到達目標	ケーススタディによるグループワークの方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
3	10月2日 (金)	ケーススタディ(1)によるグループワーク	前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ(1)を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。	
		この回の到達目標	グループワークに主体的に参加する。グループ内において自分の役割を達成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
4	10月9日 (金)	ケーススタディ(2)によるグループワーク	前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ(2)を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。	
		この回の到達目標	グループワークに主体的に参加する。グループ内において自分の役割を達成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
5	10月16日 (金)	ケーススタディ(3)によるグループワーク	前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ(3)を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。	
		この回の到達目標	グループワークに主体的に参加する。グループ内において自分の役割を達成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
6	10月23日 (金)	広報論の基礎の講義①「広報の定義、基本」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義①を行う「広報の定義、基本」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義①を聞き、「広報の定義、基本」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日 (金)	広報論の基礎の講義②「広報の歴史：米国」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義②を行う「広報の歴史：米国」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義②を聞き、「広報の歴史：米国」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
8	11月6日 (金)	広報論の基礎の講義③「広報の歴史：日本」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義③を行う「広報の歴史：日本」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義③を聞き、「広報の歴史：日本」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
9	11月13日 (金)	広報論の基礎の講義④「企業活動と広報」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義④を行う「企業活動と広報」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義④を聞き、「企業活動と広報」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
10	11月20日 (金)	広報論の基礎の講義⑤「広報とメディア」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑤を行う「広報とメディア」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑤を聞き、「広報とメディア」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
11	11月27日 (金)	広報論の基礎の講義⑥「製品広報（マーケティングPR）」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑥を行う「製品広報（マーケティングPR）」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑥を聞き、「製品広報（マーケティングPR）」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
12	12月4日 (金)	広報論の基礎の講義⑦「IRと社内広報」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑦を行う「IRと社内広報」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑦を聞き、「IRと社内広報」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日 (金)	広報論の基礎の講義⑧ 「ネット広報と危機管理」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑧を行う「ネット広報と危機管理」	
		この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑧を開き、「ネット広報と危機管理」を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
14	12月18日 (金)	理解度確認テスト	前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。理解度確認テストを実施する。	
		この回の到達目標	理解度確認テストに取り組む。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分
15	1月8日 (金)	理解度確認テストの回答と解説、講評	前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。前回実施の理解度確認テストの回答と解説、講評を行う。本講座終了にあたり総括を行い、4年次履修可能な広報・広告コミュニケーション演習Ⅱ・Ⅲについて説明をする。	
		この回の到達目標	理解度確認テストの回答と解説、講評を受けて自分の回答を振り返る。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノート进行整理する。（2時間）	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	古川 隆	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)の技法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観（DP-1、CP-1）日本及び世界の社会システムを理解し説明する力（DP-2、CP-2）、論理的・批判的思考力（DP-3、CP-3）、問題発見・解決力（DP-4、CP-4）とコミュニケーション力（DP-6、CP-6）を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
演習Ⅰの履修で単位を取得し広報や広告に関するテーマを持っていること。1年間かけてレポートを書き上げる意気込みがあること。就職活動（欠席）には配慮するが、事前・事後学習の課題に関して責任を持って取り組むこと。

【授業方法】
通常の講義の他、小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議なども取り入れる。積極的な授業参画を求める。広報や広告に関するテーマが決まっていない学生は早期（4月～5月）にテーマを決めるように指導をする。各自のテーマに基づいた発表を随時行ってもらおう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議を数回行う。演習Ⅰですでにグループワークを実施しているので、より発表や討議の比重を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を取り扱うことができる人材を育成する。					3						
②	日本社会全体および世界的視野に立って、諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。						3					
③	考察の対象を客観的にかつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。							3				
④	「自ら課題を発見し、それを解決できる」といった研究活動に積極的に関与できる人材を育成する。								3			
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、結果的に生産性のある議論に参加できる。										3	
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的案論証が行われているか評価する。	20	15	15	15							65
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討議において、到達目標④⑤に関連した専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることであったかを評価する。				15	20						35
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対応とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	15	30	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞クリッピングレポート（作成方法は授業にて指導）を毎回の授業で提出してもらうので、新聞の購読はした方がよい。広報や広告に関するテキストは各人のテーマによって個別に指導をする。				

【オフィスアワー】
金曜14：30～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する）なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	広告会社ならびにコンサルティングファームでの実務経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		広告や広報の具体的な事例に対する実務者の観点からの解題や説明など。広告会社やPR代理店の実務作業に基づく考え方の教示。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日 (金)	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション。1年間の授業計画や内容を説明し、講師の自己紹介や学生の自己紹介を行う。授業に関する事前のアンケートも実施する。2回目以降提出が必須となる新聞クリッピングレポートの作成方法を詳しく説明する。	
		この回の到達目標	本授業の内容をしっかりと理解する。新聞クリッピングレポートの作成方法を理解する。	
		事前学修	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
2	4月17日 (金)	MB0の作成	年間目標設定(MB0)の詳細な説明をし、実際に自分のMB0を作成する。講師が教室を巡回し、作成上の個別指導を行う。前回実施した授業アンケートの結果をフィードバックする。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	自分のMB0を作成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
3	4月24日 (金)	グループワーク(1)	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ(1)を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	グループワークで自分の役割を達成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
4	5月1日 (金)	グループワーク(2)	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ(2)を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	グループワークで自分の役割を達成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
5	5月8日 (金)	グループワーク(3)	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ(3)を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	グループワークで自分の役割を達成する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。(2時間)	120分
6	5月15日 (金)	レポート作成方法(1)	レポート作成方法の講義(1)を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日 (金)	レポート作成方法 (2)	レポート作成方法の講義 (2) を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分
8	5月29日 (金)	レポート作成方法 (3)	レポート作成方法の講義 (3) を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分
9	6月5日 (金)	レポート作成方法 (4)	レポート作成方法の講義 (4) を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分
10	6月12日 (金)	文献検索方法 (1)	レポート作成方法 (文献検索) の講義 (1) を行う。「大石芳裕研究室 文献検索法」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	文献検索方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分
11	6月19日 (金)	文献検索方法 (2)	レポート作成方法 (文献検索) の講義 (2) を行う。「大石芳裕研究室 文献検索法」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	文献検索方法を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分
12	6月26日 (金)	卒業レポート作成計画書の作成方法と個別指導 (1)	卒業レポート作成計画書の作成方法を講義する。その後個別のテーマヒアリングと指導を行う (1名10分~20分) ※履修人数により個別指導の時間は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	卒業レポート作成方法を理解する。自分のテーマをしっかりと相談する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。個別指導をもとに卒業レポート作成計画書の作成を行う (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日 (金)	卒業レポート作成計画書の作成方法と個別指導 (2)	卒業レポート作成計画書の作成方法を講義する。その後個別のテーマヒアリングと指導を行う (1名10分～20分) ※履修人数により個別指導の時間は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	卒業レポートの作成方法を理解する。自分のテーマをしっかりと相談する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。個別指導をもとに卒業レポート作成計画書の作成を行う (2時間)	120分
14	7月10日 (金)	卒業レポート作成計画書の個別発表 (A)	卒業レポート作成計画書の個別発表 (Aグループ) と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。 ※履修人数により発表の予定は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。	
		この回の到達目標	卒業レポート作成計画書を発表する。全体討議に参加して発言をする。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。発表後の討議や講評をもとに卒業レポート作成計画書の修正を行う (2時間)	120分
15	7月17日	卒業レポート作成計画書の個別発表 (B)	卒業レポート作成計画書の個別発表 (Bグループ) と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。 ※履修人数により発表の予定は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。○夏休み中の課題を発表し、説明をする・	
		この回の到達目標	卒業レポート作成計画書を発表する。全体討議に参加して発言をする。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。発表後の討議や講評をもとに卒業レポート作成計画書の修正を行う (2時間)	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	湯浅 正敏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)の技法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観 (DP-1、CP-1) 日本及び世界の社会システムを理解し説明する力 (DP-2、CP-2)、論理的・批判的思考力 (DP-3、CP-3)、問題発見・解決力 (DP-4、CP-4) とコミュニケーション力 (DP-6、CP-6) を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
1年かけて大学4年の学びの集大成である「卒業研究レポート」を作成するため、「広報広告コミュニケーション演習Ⅱ」と「広報広告コミュニケーション演習Ⅲ」を継続して履修することが望まれる。

【授業方法】
通常の講義の他、討議型授業、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングも取り入れる。また研究レポート計画書作成の個別指導を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習のため、主体は討議型授業である。論点を提示し、それについて事前レポートを提出させ、討議を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を取り扱うことができる人材を育成する。				3							
②	日本社会全体および世界的視野に立って、諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。					3						
③	考察の対象を客観的にかつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						3					
④	「自ら課題を発見し、それを解決できる」といった研究活動に積極的に関与できる人材を育成する。							3				
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加できる。									3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的案論証が行われているか評価する。	20	15	15	15							65
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討議において、到達目標④⑤に関連した専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。				15	20						35
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対応とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	15	30	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で公表するとともに、コルネットを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『メディア産業論』	湯浅正敏編著	ミネルヴァ書房	2020	教科書	必携
『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』	湯浅正敏単著	ミネルヴァ書房	2020	参考書	推奨
『広告をキャリアにする人の超入門』	湯浅正敏編著	三和書籍	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12：20～13：00（事前メール予約）メールアドレス：yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp 講義内容、研究レポート作成等相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	今広告業界で注目されているテーマや課題を提示する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		カンヌライオンズ審査員への取材を基にした広告クリエイティブのトレンド	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス、研究領域	教員自己紹介（研究領域、研究実績等）並びに、シラバスの内容について一通り説明をした上で、広告研究領域の全体像を把握するための講義を行う。授業では、1）社会科学領域（経済学、経営学、法学、会計学）、2）人間科学領域（人文学・社会学・心理学等）、二つに大別される点と研究領域の多様性について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤について、全体的な説明を行う。	
		事前学修	シラバスを確認し、広告について何に関心があるのか、どんな研究をしたいのかといった目的意識をもって授業に臨む。	120分
		事後学修	広告研究は、「経済的側面、コミュニケーション的側面、社会・文化的側面といった多面性を持ち、広告主、生活者、メディア企業、広告会社の関係性も加わることによって、研究領域の多様性を生み出している。」ことを理解し、研究レポートのテーマを検討する。	120分
2	4/16	広告産業の概況	事前学習に加え、広告の3つの機能、経済的機能、社会・文化機能、コミュニケーション機能、広告の分類（主体・目的別、表現別）について講義で触れ、広告の研究領域について全体的に把握できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告産業についての理解を深める	
		事前学修	教科書『メディア産業論』6章1節広告産業の概況から、デジタルシフトに向かっていることを理解させ、問題意識を醸成する。	120分
		事後学修	講義ノートと教科書から広告の機能の多面性、一つは企業のマーケティング活動の一環としての経済的機能ともう一つは、「広告は時代を映す鏡である」という社会、文化に与える影響という側面を十分理解し、自分なりに説明できるようにする。	120分
3	4/23	広告ビジネスの日米の差異	事前学習に加え『メディア産業論』6章1節広告産業の概況、1）広告主とのアカウント上に違い、2）事業領域、提供サービスの違い、3）報酬制度の違いについて詳細に触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告産業についての理解を深める。	
		事前学修	教科書『メディア産業論』6章1節広告産業の概況から日米広告会社の相違点についてノートに記入して授業に臨む。（2時間）	120分
		事後学修	講義ノートと教科書『メディア産業論』6章1節広告産業の概況併せておさらいし、欧米を中心とした広告業界のグローバルスタンダードからみて、日本の特異性について考察する。（2時間）	120分
4	4/30	広告コミュニケーションの変容	事前学習に加え、メディアの多様化とコミュニケーション・ニュートラル、トリプルメディア（ペイドメディア、オーンドメディア、アーンドメディア）について触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告コミュニケーションについての理解を深める。	
		事前学修	広告媒体の分類、広告媒体の機能特性について学習する。マスコミ4媒体とは何か、テレビCMとネット広告の違い、電波媒体と印刷媒体特性について、比較考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと資料を併せておさらいし、トリプルメディアにはそれぞれメリット、デメリットがあること、そのためには三位一体の活用が必要であることを十分理解した上で、自分なりに説明できるようにする。（2時間）	120分
5	5/7	広告会社のグローバル化	事前学習に加え、日本の広告費のほか、世界の広告費（WARC：World Advertising Research Center）および世界の広告費予測（電通イージス・ネットワーク）からデジタルシフトの現状を把握する。また、世界の広告会社ランキングについても触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告会社のグローバル化についての理解を深める。	
		事前学修	各自「日本の広告費2019」（2020.2月電通発表）を入手し、特に媒体別広告費について、対前年比、構成比を確認し、数字からどのようなことが言えるのか、意見や考えを持ち寄って授業に臨む。	120分
		事後学修	講義ノートと講義スライド内容（PPT）を併せておさらいし、世界の広告費、国・地域別では成長率が高い国、日本のランキング、媒体別では、テレビ広告費とインターネット広告費について確認する。	120分
6	5/14	広告会社のステークホルダー	事前課題「広告会社のステークホルダー」の解答を示す。小説やテレビドラマに取り上げられた作品を通じて、広告業界を理解する。映像題材：海外ドラマ『MAD MEN』、『シリウスの道』（原作・藤原伊織 電通出身WOWOW放映）等。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告会社のステークホルダーについての理解を深める。	
		事前学修	COLNETにアップした課題（広告会社のステークホルダーについて）を事前に記入し、授業に臨む。	120分
		事後学修	テレビドラマを通じて、広告業界についてどのような感想を持ったのかを課題レポートとする。次回の授業で提出。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	広告とブランド	「ブランド理論」の変遷、製品とブランドの違い、ブランドの機能、ブランドの目的等基本的な説明およびブランド・コミュニケーション、ブランドコンセプトの開発については、ハーゲンダッツをケースに解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告とブランドについての理解を深める。	
		事前学修	「ブランド理論とブランディング」の講義スライド内容（PPT）を予め読んで、事前課題を解いて授業に臨む。	120分
		事後学修	なぜ今日ブランドが重要なのか？ 広告会社は、なぜブランド研究およびブランディングに積極的に取り組んだのか？ について説明できるようにする。	120分
8	5/28	マーケティングのフレームワーク	前半は6回目授業の課題レポートをもとにグループ発表を行う。後半はマーケティングについてセールスとの違い、マーケティングのフレームワーク、PEST（マクロ分析）SWOT分析、3C、4Pについて応用例を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告コミュニケーションについての理解を深める。	
		事前学修	6の課題レポートをグループ内で発表できるように準備する。	120分
		事後学修	発表で注意されたことを理解し、プレゼンテーション技法について次回に活かせるようにする。	120分
9	6/4	広告クリエイティブの拡張	参考書『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』の5章を参考資料として抜粋し、補足説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に広告クリエイティブの拡張についての理解を深める。	
		事前学修	各自参考資料（参考書『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』5章抜粋）を読んで考えをまとめて授業に臨む。	120分
		事後学修	広告クリエイティブの拡張、4つの融合領域について説明できるようにする。	120分
10	6/11	世界のクリエイティブのトレンド	世界のクリエイティブのトレンドについて、カンヌライオンズ受賞作品を事例に紹介する。広告からブランデッド・コンテンツへ、広告媒体力からコンテンツ伝播力へ、USPからブランド・フィロソフィーへ、ペイドメディアからオーンドメディア、アーンドメディアへ等7つのトレンドを示す。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に広告コミュニケーションについての理解を深める。	
		事前学修	広告図書館（汐留・電通本社近く）へ行き、ここ数年の広告専門誌「ブレーン」カンヌライオンズ特集号をみて、受賞作品の中で関心を持ったものを3つ挙げて授業に臨む。	120分
		事後学修	講義ノートと講義スライド内容（PPT）を併せておさらいし、カンヌライオンズのトレンドについて自分なりに考察する。	120分
11	6/18	デジタルトランスフォーメーションと5つの領域	授業では、PPTを使ってデジタルトランスフォーメーションと5つの領域BASICについて解説し、問題点を討議する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点にデジタルトランスフォーメーションと5つの領域についての理解を深める。	
		事前学修	教科書「6章1節デジタルトランスフォーメーションと5つの領域」を読み、ネット広告の歴史、基本的な広告手法およびターゲティング手法について学修する。	120分
		事後学修	ネット広告の特性やコンテンツターゲティング、行動ターゲティングの違いについて自分なりに説明できるようにする。	120分
12	6/25	個人データの活用と課題	個人データの活用と課題については、テキストの他、参考書『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』について、補足説明をする。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に個人データの活用と課題についての理解を深める。	
		事前学修	参考資料『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』を読み、授業に臨む。	120分
		事後学修	個人データの活用と課題について、理解し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	広告と社会的課題	論文とレポートの違い、問いの立て方（テーマの決め方）について学ぶ。 教科書をもとにPPTで補足説明をする。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に広告と社会的課題についての理解を深める。	
		事前学修	参考資料から問いを立てることの重要性を確認する。	120分
		事後学修	問いの立て方、比較のフィールドの広げ方、類似性と差異について確認する。	120分
14	7/9	卒業研究レポート計画書の作成の手引き	教科書をもとにPPTで補足説明をする。	
		この回の到達目標	到達目標③④を重点に研究レポート計画書についての理解を深める。	
		事前学修	参考資料から、問いの立て方のアプローチについて確認する。	120分
		事後学修	歴史的時間軸（縦軸）と地理的空間軸（横軸）で比較し、差異を見つけ分析する。 自分の研究領域に当てはめて問いを発見できるようにする。	240分
15	7/16	卒業研究レポート計画書の作成	卒業研究レポート計画書を提出。授業では、後期に向けて計画書作成から研究レポート作成のための作業工程について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④を重点に研究レポート計画書についての理解を深める。	
		事前学修	卒業研究レポート計画書を作成し、授業に臨む	120分
		事後学修	各自夏季休暇を利用して、研究レポート作成のための研究活動を行う。	480分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	古川 隆	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、広告研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)や論理的な文章構成について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学4年間の学びの集大成、成果物となる「卒業研究レポート」を作成することを目標とする。 新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観(DP-1、CP-1)、日本及び世界の社会システムを理解し説明する力(DP-2、CP-2)、論理的・批判的思考力(DP-3、CP-3)問題発見・解決力(DP-4、CP-4)、コミュニケーション力(DP-6、CP-6)を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
広報広告演習Ⅱの単位を取得していること。1年間かけてレポートを書き上げる意気込みがあること。就職活動(欠席など)には配慮するが、事前・事後学習の課題に関しては責任を持って取り組むことが大前提である。

【授業方法】
作成途中の卒業レポートに関する個別の発表と全体での討議を数多く実施する。通常の講義、グループワークと発表なども取り入れる。他に個別のレポート作成指導なども時間を決めて行う予定である。※履修人数により指導方法の変更がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個別の卒業レポートの発表と全員での討議の場を進捗に応じて数多く設ける。小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議も行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことができる人材を育成する。					4							
②	日本及び世界における諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。						4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。							4					
④	自ら問題を発見し、問題に対する解決策を考え、積極的に提案することができる人材を育成する。								4				
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。										4		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的な論証が行われるかを評価する。	10	20	20	20							70
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標④⑤に関連して専門的な知識に基づいて論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。				20	10						30
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	40	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞クリッピングレポート（作成方法は授業にて指導）を毎回の授業で提出してもらうので、新聞の購読はした方がよい。広報や広告に関するテキストは各人のテーマによって個別に指導をする。				

【オフィスアワー】
金曜14：30～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する）なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 広告会社ならびにコンサルティングファームでの実務経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		各自の研究テーマに合わせた調査の設計の指導やテーマに合わせた企業関係者の紹介などが行える予定。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月18日 (金)	オリエンテーション及び導入講義		後期オリエンテーション。半年間の授業計画や内容を説明する。前期提出の目標設定(MB0)のレビューの方法を説明し、各自がレビューを記載する。そのうえで各自の課題の認識を促す。前期最終回に提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
		この回の到達目標	後期の授業内容を理解する。MB0レビューを行う。	
		事前学修	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。MB0のレビューをもとに卒業レポート作成上の現状の課題をノートにまとめ、解決方法を考える。(2時間)	120分
2	9月25日 (金)	卒業レポートのドラフト個別発表(Aグループ)		卒業レポートのドラフト(夏休みの宿題)の個別発表(Aグループ)と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
		この回の到達目標	各自の卒業レポートのドラフトを発表し、討議を行う。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)	120分
3	10月2日 (金)	卒業レポートのドラフト個別発表(Bグループ)		卒業レポートのドラフト(夏休みの宿題)の個別発表(Bグループ)と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
		この回の到達目標	各自の卒業レポートのドラフトを発表し、討議を行う。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)	120分
4	10月9日 (金)	卒業レポートのドラフト個別発表(やり直しグループ)		卒業レポートのドラフト(夏休みの宿題)の個別発表(やり直しグループ)と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
		この回の到達目標	各自の卒業レポートのドラフトを発表し、討議を行う。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)	120分
5	10月16日 (金)	卒業レポートのドラフト個別発表のフォローアップ(1)		レポートのドラフトの発表にもとづくフォローアップの授業(1)を行う。調査の基本知識に関する講義を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
		この回の到達目標	フォローアップ授業の内容を自身のレポート作成に生かす。調査の基本を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。フォローアップ授業から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)	120分
6	10月23日 (金)	卒業レポートのドラフト個別発表のフォローアップ(2)		レポートのドラフトの発表にもとづくフォローアップの授業(2)を行う。ヒアリング実施の基本知識に関する講義を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
		この回の到達目標	フォローアップ授業の内容を自身のレポート作成に生かす。ヒアリング実施の基本を理解する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。フォローアップ授業から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日 (金)	卒業レポートの個別発表と 全体討議 A	卒業レポートの個別発表と全体討議 A（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の 到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分
8	11月6日 (金)	卒業レポートの個別発表と 全体討議 B	卒業レポートの個別発表と全体討議 B（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の 到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分
9	11月13日 (金)	卒業レポートの個別発表と 全体討議 C	卒業レポートの個別発表と全体討議 C（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の 到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分
10	11月20日 (金)	卒業レポートの個別発表と 全体討議 D	卒業レポートの個別発表と全体討議 D（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の 到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分
11	11月27日 (金)	個別のレポート作成の指導 A	個別の学生に対するレポート作成の指導 A（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の 到達目標	個別のレポート作成指導を受けて自身のレポートに生かす。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポート完成に向けてた作成をする（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへ反映させる。（2時間）	120分
12	12月4日 (金)	個別のレポート作成の指導 B	個別の学生に対するレポート作成の指導 B（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の 到達目標	個別のレポート作成指導を受けて自身のレポートに生かす。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの完成に向けた作成をする（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへ反映させる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日 (金)	個別のレポート作成の指導 C	個別の学生に対するレポート作成の指導 C (先着予約順) を行う。※先着順とするので遅い者は指導できな場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	個別のレポート作成指導を受けて自身のレポートに生かす。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの完成に向けた作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへ反映させる。 (2時間)	120分
14	12月18日 (金)	卒業レポートの提出	卒業レポートの提出を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート (添削済み) を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
		この回の到達目標	期限通り卒業レポートを完成させ、提出する。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの提出に向けた最終の作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分
15	1月9日 (金)	卒業レポートの講評	提出された卒業レポートの講評を行う。1年間の授業の総括と社会人となる前の心構えについて講義をする。 ※この授業での提出が最終期限となる。いかなる理由によっても事後の提出は受け付けない。 (事前提出は相談による)	
		この回の到達目標	卒業レポートの講評を聞き、自身のレポートを振り返る。総括を聞き、社会人となる心構えをする。	
		事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートが未提出の者は提出に向けた最終の作成をする (2時間)	120分
		事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。 (2時間)	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	湯浅 正敏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、広告研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)や論理的な文章構成について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学4年間の学びの集大成、成果物となる「卒業研究レポート」を作成することを目標とする。 新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観 (DP-1、CP-1)、日本及び世界の社会システムを理解し説明する力 (DP-2、CP-2)、論理的・批判的思考力 (DP-3、CP-3) 問題発見・解決力 (DP-4、CP-4)、コミュニケーション力 (DP-6、CP-6)を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
前期の「広報広告コミュニケーション演習Ⅱ」の単位を取得していること。研究レポートの課題に関しては、自らが決め、論理的な文章、執筆に取り組む意欲をもつことを望む。

【授業方法】
「卒業研究レポート」作成のための論理的思考力、論理的文章作成力、構成力を重点に指導し、発表形式を中心とした授業とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究発表のための事前学修、ディスカッション（意見交換、討議等）、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことができる人材を育成する。					4					4		
②	日本及び世界における諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。						4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。							4					
④	自ら問題を発見し、問題に対する解決策を考え、積極的に提案することができる人材を育成する。								4				
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。										4		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的な論証が行われるかを評価する。	10	20	20	20							70
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標④⑤に関連して専門的な知識に基づいて論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることであったかを評価する。				20	10						30
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	40	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を行うとともに、COLNETを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『メディア産業論』	湯浅正敏編著	ミネルヴァ書房	2020	教科書	必携
『広告会社から「ビジネスデザイン・カンパニー」へ』	湯浅正敏単著	ミネルヴァ書房	2020	参考書	推奨
よくわかる卒論の書き方	白井利明・高橋一郎	ミネルヴァ書房	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（事前メール予約）メールアドレス：yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp質問内容については、卒業研究レポート作成に限って受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 広告実務の経験を生かした発想法、企画立案、プレゼンテーション技法等
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス，導入講義	初回オリエンテーション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、授業の進め方や評価方法について理解し、これからの学修計画の立て方について説明する。	
		事前学修	シラバスをみて当日のオリエンテーションに臨む。	120分
		事後学修	COLNETで演習問題を解いて、復習する。	120分
2	9/24	議論の仕方、意見の仕方	教科書『よくわかる卒論の書き方』7 議論の仕方、10意見の仕方について、解説する。	
		この回の到達目標	特に到達目標⑤について、議論の仕方、意見の仕方を学修する。	
		事前学修	COLNETの講義スライド（（7 議論の仕方、10意見の仕方について）で事前学習する。	120分
		事後学修	COLNETで演習問題を解いて、復習する。	120分
3	10/1	企画・プレゼンテーションの技法	企画・プレゼンテーションの技法、	
		この回の到達目標	到達目標⑤について、企画・プレゼンテーションの技法を学修する。	
		事前学修	COLNETの講義スライド（（クリティカルシンキング）で事前学習する。	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの講義を聴いて、学んだ点をまとめて提出する。	120分
4	10/8	論理的に書く	参考書『よくわかる卒論の書き方』8論理的に書くについて、論理的な組み立て方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③の論理的に書く技法を学修する。	
		事前学修	COLNETの講義スライドで事前学習する。	120分
		事後学修	COLNETの演習問題を解いて、復習する。	120分
5	10/15	水平思考と類推思考	水平思考と類推思考の講義をする。	
		この回の到達目標	到達目標③の論理的に書く技法を学修する。	
		事前学修	COLNETの講義スライド（水平思考と類推思考）で事前学習する。	120分
		事後学修	COLNETの演習問題を解いて、復習する。	120分
6	10/22	考える技術・書く技術	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。	
		この回の到達目標	到達目標③④の論理的に書く技法を学修する。	
		事前学修	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。	120分
		事後学修	COLNETの演習問題を解いて、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	A I と創造性	「A I と創造性」について、討議型授業を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	論文「21世紀型教育論—AI時代の創造性教育導入に関する提言—」を読んで授業に臨む。	120分
		事後学修	討議型授業の感想をレポート提出する。	120分
8	11/5	考える技術・書く技術	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。	
		この回の到達目標	到達目標②③④の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。	120分
		事後学修	ロジカルライティングを研究レポート計画書作成に応用する。	120分
9	11/12	卒業研究レポート計画書の発表（第1回目）	卒業研究レポート計画書の発表（第1回目）討議と評価をする。レポートの書式とマナーの講義。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤	
		事前学修	卒業研究レポート計画書の 発表準備。	120分
		事後学修	レポートの書式とマナーについて、演習問題を解く。	120分
10	11/19	卒業研究レポート計画書の発表（第2回目）	卒業研究レポート計画書の発表（第2回目）討議と評価をする。引用、参考文献の表記の講義。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤	
		事前学修	卒業研究レポート計画書 発表準備。事前学習する。	120分
		事後学修	引用、参考文献の表記について、演習問題を解く。	120分
11	12/3	卒業研究レポート計画書の発表（第3回目）	卒業研究レポート計画書の発表（第3回目）討議と評価をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	卒業研究レポート計画書 発表準備。事前学習する。	120分
		事後学修	卒業研究レポート計画書の発表で指摘された点を研究レポート作成に役立てる	120分
12	12/10	個別卒業研究レポート	個別卒業研究レポート指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅶ卒論の書き進め方について、事前学習する。	120分
		事後学修	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	個別卒業研究レポート	個別卒業研究レポート指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅶ卒論の書き進め方について、事前学習する。	120分
		事後学修	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。	120分
14	12/24	個別卒業研究レポート	個別卒業研究レポート指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅷ研究の方法について、事前学習する。	120分
		事後学修	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。	120分
15	1/14	1年間の総括	1年間の総括授業。社会で必要な能力・学習・スキル。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
		事前学修	参考書『よくわかる卒論の書き方』Ⅷ研究の方法について、事前学習する。	120分
		事後学修	期日までに卒業研究レポートを提出。	120分

科目名	公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
憲法の権利論についての講義。 具体的には初回に説明する予定である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論に関する知見を深め、判例をはじめとする現実の諸問題に接近する力を養成することを目的とする。憲法の権利論について基礎となる理解を修得、定着させ、それを踏まえて、最高裁の重要基本判例を読むことができるようになることを目標とする。

【履修条件】
憲法の権利論を学ぶことに対して真摯であること、判例を読むことに対して貪欲であること、社会を知的なものに構築しようとすることに對して誠実かつ主体的であること。

【授業方法】
講義形式とする。ただし、受講者には、講義で扱う判例を判例集等と首っ引きで読みながら受講することが毎回求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例テキストを精密に読むことができる。						3			3				3
②	憲法上の権利論について批判的に議論することができる。						3			3				3
③	現実の問題と憲法理論との関係について創造的に理解することができる。						3			3				3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験をもって成績評価を行う。	30	40	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内に講評等の時間を設ける予定である。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。ただし、判例については授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日の19：00～20：00とします。前日までに13号館1階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	開講の辞 導入講義	憲法の権利論を学ぶことの意味を考える。	
		この回の 到達目標	①②③についての意欲を持つことができる。	
		事前学修	憲法の権利論についての各自の先入見を言葉にしておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	上記先入見が変化したか否かをひそかに見極めること。（2時間）	120分
2	4月13日	憲法の権利論	憲法の権利論の歴史的概観を試みる。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを持つことができる。	
		事前学修	憲法の権利論の歴史を各自で概観しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	憲法の権利論の将来を展望すること。（2時間）	120分
3	4月20日	信教の自由 1	信教の自由についての概要を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを信教の自由に即して思い描くことができる。	
		事前学修	信教の自由について考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
4	4月27日	信教の自由 2	信教の自由についての今日の問題を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを信教の自由に即してより深く思い描くことができる。	
		事前学修	信教の自由について考察をさらに深めておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
5	5月4日	信教の自由 3	予告した判例の全体を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを信教の自由に即して具体化することができる。	
		事前学修	予告した判例の論理展開を辿っておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
6	5月11日	信教の自由 4	信教の自由の諸問題について批判的に議論する。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを信教の自由に即して具体的かつ批判的に思い描くことができる。	
		事前学修	前回までの授業を丁寧に確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	表現の自由 1	表現の自由についての概要を把握する。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを表現の自由に即して思い描くことができる。	
		事前学修	表現の自由について考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
8	5月25日	表現の自由 2	表現の自由についての今日的問題を把握する。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを表現の自由に即してより深く思い描くことができる。	
		事前学修	表現の自由について考察をさらに深めておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
9	6月1日	表現の自由 3	予告した判例の全体を把握する。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを表現の自由に即して具体化することができる。	
		事前学修	予告した判例の論理展開を辿っておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
10	6月8日	表現の自由 4	表現の自由の諸問題について批判的に議論する。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを表現の自由に即して具体的かつ批判的に思い描くことができる。	
		事前学修	前回までの授業を丁寧に確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
11	6月15日	信教の自由まとめ	信教の自由について差し当たりの総括をする。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを信教の自由に即して総括することができる。	
		事前学修	前回までの授業を丁寧に確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
12	6月22日	表現の自由まとめ	表現の自由について差し当たりの総括をする。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを表現の自由に即して総括することができる。	
		事前学修	前回までの授業を丁寧に確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	授業内試験 まとめ	授業内試験を実施する。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを信教の自由と表現の自由に即して論述するという形で総括することができる。	
		事前学修	これまでの授業全体を丁寧に確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	試験について回顧しておくこと。（2時間）	120分
14	7月6日	講評等	授業内試験の講評等をする。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを信教の自由と表現の自由に即して自ら反省的に獲得することができる。	
		事前学修	試験について再考しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）	120分
15	7月13日	閉講の辞 振り返り	憲法の権利論を学ぶことの意味をあらためて考える。	
		この回の 到達目標	①②③についての見通しを自ら反省的に獲得することができる。	
		事前学修	言葉にしてあるはずの憲法の権利論についての各自の先入見を再度読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	言葉にしてあるはずの憲法の権利論についての各自の先入見を自ら論評すること。（2時間）	120分

科目名	公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
憲法の権利論（表現の自由について。今のところ公的助成と関連する問題を考えている。）についての講義。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論に関する重要な最高裁判例の事案に即して、議論ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
社会に生起する諸事象のなかに憲法問題を発見し、そこから法律論としての憲法論を自分で構築していくことに意欲を感じることができる者であること。

【授業方法】
委細は参加者との話し合いによるが、取り扱う主題、素材を共有した上で、徹底的に読解し、議論するという方法。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力			
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力			
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力			
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	社会に生起する諸事象のなかに憲法問題を発見することができる。					3			3	
②	発見した憲法問題から法律論としての憲法論を構築することができる。					3			3	
③	取り扱う主題、素材について判例を用いながら批判的に議論することができる。					3			3	
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート等を以て評価する予定である。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で行う予定である。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。ただし、文献等については授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
木曜日の18：00～19：00としします。前日までに13号館1階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	開講の辞 導入講義	この授業の進め方について説明する。	
		この回の 到達目標	①②に即して、この授業で何をするかを明確に説明することができる。	
		事前学修	この授業について考えてみること（2時間）	120分
		事後学修	この授業の進め方について批評できるようにすること（2時間）	120分
2	9月21日	憲法の権利論	憲法の権利論についての見通しを持つ。	
		この回の 到達目標	①②に即して、憲法の権利論についての見通しを持つことができる。	
		事前学修	憲法の権利論についての見通しとは何かを考え、言葉にしておくこと（2時間）	120分
		事後学修	上記見通しについて批評できるようにすること（2時間）	120分
3	9月28日	主題判例1の概要	表現の自由についての主題判例1の概要を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1の概要を把握することができる。	
		事前学修	主題判例1について事案を中心に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
4	10月5日	主題判例1の構造1	主題判例2の構造を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1の構造を把握することができる。	
		事前学修	主題判例1について丁寧に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
5	10月12日	主題判例1の構造2	主題判例1の構造を説明することができる。	
		この回の 到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1の構造を説明することができる。	
		事前学修	主題判例1について一層丁寧に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
6	10月19日	主題判例1の当てはめ	主題判例1の当てはめを把握する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1の当てはめを把握することができる。	
		事前学修	主題判例1について全体を批判的に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	主題判例2の概要	主題判例2の概要を把握することができる。	
		この回の到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1の概要を把握することができる。	
		事前学修	主題判例2について事案を中心におくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
8	11月9日	主題判例2の構造1	主題判例2の構造を把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例2の構造を把握することができる。	
		事前学修	主題判例2について丁寧に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
9	11月16日	主題判例2の構造2	主題判例2の構造を説明することができる。	
		この回の到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例2の構造を説明することができる。	
		事前学修	主題判例2について一層丁寧に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
10	11月23日	主題判例2の当てはめ	主題判例2の当てはめを把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例2の当てはめを把握することができる。	
		事前学修	主題判例2について全体を批判的に読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
11	11月30日	主題判例1と2の関係1	主題判例1と2の関係を把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1と2の関係を把握することができる。	
		事前学修	主題判例1と2の論理展開を辿っておくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
12	12月7日	主題判例1と2の関係2	主題判例1と2の関係を説明する。	
		この回の到達目標	①②③に即して、表現の自由についての主題判例1と2の関係を説明することができる。	
		事前学修	主題判例1と2の関係について批判的に検討しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	公的助成と表現の自由 1	公的助成と表現の自由の関係について考察する。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを公的助成と表現の自由の関係に即して判例を用いながら考察することができる。	
		事前学修	公的助成と表現の自由の関係について自分なりに考えておくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
14	12月21日	公的助成と表現の自由 2	公的助成と表現の自由の関係について説明する。	
		この回の到達目標	①②③についての見通しを公的助成と表現の自由の関係に即して判例を用いながら批判的に考察することができる。	
		事前学修	公的助成と表現の自由の関係について判例相互の関係を検討しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
15	1月18日	閉講の辞 振り返り	この授業の全体について点検する。	
		この回の到達目標	①②③に即して、授業で扱った主題、素材について批判的に説明することができる。	
		事前学修	前回までの授業の狙いが何であったかを考え、言葉にしておくこと（2時間）	120分
		事後学修	公的助成と表現の自由の関係について議論を展開できるようにすること（2時間）	120分

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）A	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
本講座では、行政法領域の判例の検討と事例研究を行う。 主に行政救済法の分野を取り扱う予定である。必要に応じて行政組織法や行政作用法の範囲も説明する。 履修者数や理解の進捗に対応して、法律の実務に携わる専門家（現職の裁判官、検察官、弁護士等）をゲストスピーカーとして招く予定である。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
本講座は、行政法領域における判例を分析し事例研究を行うことにより、行政法全般の理解を深めることを目的としている。行政救済法について基本的な理解がされていることを標準として、関係する判例を読み込むことにより、判例の射程について理解を深める。判例の理解と連動して、実際の事例を解決する際の法的思考力を醸成することを目標にしている。前期は主に判例分析を行い、後期は主に事例演習を行う計画である。場面に応じて国家試験等の過去問を検討する。ロースクール進学希望者については、進学後の行政法及びその関連分野の講座を、支障なく受講できる程度に到達することを目標とする。司法試験予備試験を受験する場合は、本年度又は来年度の最終合格を目標に設定する。

【履修条件】
法職課程の学生であることが望ましい。総合法コースの学生の受講も可能である。ロースクールへの進学希望者、司法試験予備試験受験者及び各国家試験受験者の受講を歓迎する。

【授業方法】
前もって検討予定の判例や事例問題を指定する。各回担当者を決めて、該当判例や事例について報告や質疑を行う。 受講者は、報告を割り当てられたか否かに関わらず全員予習をしてくること。進捗は人数及び理解の進捗状況に応じて調整する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の判例・裁判例及び事例を分析する際に、質疑応答やディスカッションを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の重要事項や関連判例の問題点と理論を理解する。				3			3				
②	行政法に関する知見に基づいて、実際の事例における問題点を発見して分析する。				3			3				3
③	発見した問題点に関する行政法理論と判例を基盤とした分析を適切に発表する。							3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的な重要事項や重要判例についてレポートを作成する。	10		20								30
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	10	10	20								40
授業への参画度	講義中に双方向・多方向で質疑応答を行う。		10	20								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に、受講者に対して評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	教科書と最新版の小型六法を必ず毎回持参すること。六法は、デイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣）の使用を推奨する。毎年9月に翌年版の六法が出版されるので購入・持参すること。教科書指定はしないが、各自がこれまで使用している体系書を必ず併用すること。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで（研究室）。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政、民事及び刑事領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法令の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火曜 4月7日	イントロダクション及び導入講義	前期のガイダンス 判例研究と報告に関する説明	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法を理解する上で重要な項目を理解する。	
		事前学修	シラバスを必ず確認しておくこと。行政法の既習事項について復習しておくこと。	120分
		事後学修	講座内容の確認。行政法の概観を再度点検しておくこと。	120分
2	第一部 火曜 4月14日	行政上の不服申立て総論	判例研究 ◆不服申立適格（最判昭和53年3月14日）、処分の告示と不服申立期間の起算点（最判平成14年10月24日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して、不服申立ての概要を理解するとともに、到達目標②との関連で、具体的な最高裁判所の判例でどのような判断がされているかを判例の射程を意識して分析する。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
3	第一部 火曜 4月21日	行政上の不服申立て総論	判例研究 ◆審査決定と理由附記（最判昭和37年12月26日）、壁面線指定と不服申立ての教示（最判昭和61年6月19日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、不服申立ての実例を理解し判例の射程を考察するとともに、到達目標③と関連して、各判例における理論上の問題点を説明できるようにする。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
4	第一部 火曜 4月28日	抗告訴訟の対象	判例研究 ◆土地区画整理事業計画（最大判平成20年9月10日）、用途地域の指定（最判昭和57年4月22日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で抗告訴訟の意義と役割を理解するとともに、到達目標②と関連して各重要判例の射程を分析して考察する。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
5	第一部 火曜 5月5日	抗告訴訟の対象	判例研究 ◆建築基準法42条2項の道路指定（最判平成14年1月17日）、病院開設中止勧告（最判平成17年4月14日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、抗告訴訟の対象を具体的事例に則して理解し射程を考察するとともに、到達目標③と関係して一連の重要判例の理論的問題点を説明できるようにする。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
6	第一部 火曜 5月12日	原告適格	判例研究 ◆都市計画事業認可と第三者の原告適格（最大判平成17年12月7日）、総合設計許可と第三者の原告適格（最判平成14年1月22日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して原告適格の意義を理解した上で、到達目標②との関係で第三者の原告適格に関する重要判例の意義と射程を考察する。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火曜 5月19日	原告適格	判例研究 ◆公衆浴場業の競業者（最判昭和37年1月19日）と一般廃棄物処理業の競業者（最判平成26年1月28日）の原告適格を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競業者の原告適格について理解し射程を分析するとともに、到達目標③と関係して原告適格に関する一連の重要判例の意義を説明できるようにする。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
8	第一部 火曜 5月26日	原告適格	判例研究 ◆特急料金認可と第三者の原告適格（最判平成元年4月13日）、史跡指定解除処分と第三者の原告適格（最判平成元年6月20日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、各判例の射程と理論構成を分析するとともに、到達目標③との関係で、原告適格の機能と要件の当てはめについて説明できるようにする。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
9	第一部 火曜 6月2日	訴えの利益	判例研究 ◆裁量基準の効果と訴えの利益（最判平成27年3月3日）、放送局免許拒否処分と訴えの利益（最判昭和43年12月24日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して訴えの利益の意義を理解した上で、到達目標②との関係で各判例の射程を分析する。さらに到達目標③との関連で、各判例の理論上の問題点を説明できるようにする。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
10	第一部 火曜 6月9日	取消訴訟以外の抗告訴訟	判例研究 ◆義務付け訴訟（最判平成21年12月17日）、懲戒処分差止め訴訟（最判平成24年2月9日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①との関連で、抗告訴訟以外の訴訟類型を理解するとともに、到達目標②と関係して各重要判例の理論構成を考察する。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
11	第一部 火曜 6月16日	取消訴訟以外の抗告訴訟	判例研究 ◆在外邦人の選挙権に関する確認訴訟（最大判平成17年9月14日）、事情判決（最判昭和33年7月25日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関係して、抗告訴訟と判決の重要事項を理解するとともに、各判例の射程を考察する。さらに、各類型の主要な判例の理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
12	第一部 火曜 6月23日	国家賠償法	判例研究 ◆学校事故（最判昭和62年2月6日）、「職務を行うについて」（最判昭和31年11月30日）を主に取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①との関連で、国家賠償法の基本事項や要件・効果を理解するとともに、到達目標②との関連で各判例の射程を分析考察する。	
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	第一部 火曜 6月30日	国家賠償法	判例研究 ◆河川管理の瑕疵の二つの判例と道路管理の瑕疵の二つの判例を主に取り扱う。
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で国家賠償法上の各要件の意義と事例での解釈を理解するとともに、到達目標③に関連して、各判例の理論構成と問題点を説明できるようにする。
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。120分
14	第一部 火曜 7月7日	損失補償	判例研究 ◆正当な補償（最大判昭和28年12月23日）、長期にわたる都市計画制限と補償の要否（最判平成17年11月1日）を主に取り扱う。
		この回の到達目標	到達目標①との関係で損失補償の意義を理解し、到達目標②との関係で損失補償の実例を分析する。その上で、それぞれの重要判例の射程と理論構成を説明できるようにする。
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。120分
15	第一部 火曜 7月14日	前期の総まとめ	これまでの14回で取り扱った判例等を総括するとともに、関連する判例・裁判例や具体的な事例を提示して実践的に分析する。
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、これまで説明した重要事項と判例の射程を理解するとともに、到達目標③と関連して、重要理論と判例の解釈を説明できるようにする。
		事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。120分
		事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。120分

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
本講座では、行政法領域の事例研究と判例の検討を行う。 主に行政救済法の分野を取り扱う予定である。必要に応じて行政組織法や行政作用法の範囲も説明する。 履修者数や理解の進捗に対応して、法律の実務に携わる専門家（現職の裁判官、検察官、弁護士等）をゲストスピーカーとして招く予定である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座は、行政法領域における事例研究を行うことにより、行政法全般の理解を深めることを目的としている。行政救済法について基本的な理解がされていることを標準として、関連判例も読み込み判例の射程について理解を深める。判例の理解と連動して、実際の事例を解決する際の法的思考力を醸成することを目標にしている。場面に応じて国家試験等の過去問を検討する。ロースクール進学希望者については、進学後の行政法及びその関連分野の講座を、支障なく受講できる程度に到達することを目標とする。司法試験予備試験を受験する場合は、本年度又は来年度の最終合格を目標に設定する。

【履修条件】
法職課程の学生であることが望ましい。総合法コースの学生の受講も可能である。ロースクールへの進学希望者、司法試験予備試験受験者及び各種国家試験受験者の受講を歓迎する。

【授業方法】
前もって検討予定の判例や事例問題を指定する。各回担当者を決めて、該当判例や事例について報告や質疑を行う。 受講者は、報告を割り当てられたか否かに関わらず全員予習をしてくる。進捗は人数及び理解の進捗状況に応じて調整する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の判例・裁判例及び事例を分析する際に、質疑応答やディスカッションを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の重要事項や関連判例の問題点と理論を理解する。					3			3				
②	行政法に関する知見に基づいて、実際の事例における問題点を発見して分析する。					3			3				3
③	発見した問題点に関する行政法理論と判例を基盤とした分析を適切に発表する。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的な重要事項や重要判例についてレポートを作成する。	10		20								30
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	10	10	20								40
授業への参画度	講義中に双方向・多方向で質疑応答を行う。		10	20								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に、受講者に対して評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
事例から行政法を考える	北村和生ほか著	有斐閣	2016	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	教科書と小型六法（デイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣））を必ず毎回持参すること。六法と各書籍は、最新版を使用すること。毎年9月に翌年度の六法が出版されるので購入・持参すること。教科書指定はしないが、各自がこれまで使用している体系書を必ず併用すること。履修者数や進度に応じて補助教材を配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで（研究室）。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政、民事及び刑事領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法令の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火曜 9月15日	後期のガイダンス及び導入講義	事例研究と報告に関する説明 後期の講座進行について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関連で、これまで各自が学んできた行政法の重要事項を再度点検して理解を深める。	
		事前学修	シラバスを確認した上で、既に各自が使用している行政法のテキストの冒頭にある総論的な導入説明を読んで、行政法分野の全体構造を再確認しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスと講義の概要、及び今後使用していくテキストを確認すること。	120分
2	第一部 火曜 9月22日	地下水保護条例をめぐる紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、地下水保護条例の紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
3	第一部 火曜 9月29日	地下水保護条例をめぐる紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、地下水保護条例の紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
4	第一部 火曜 10月6日	公の施設の利用許可をめぐる紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、公の施設の利用許可をめぐる紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
5	第一部 火曜 10月13日	公の施設の利用許可をめぐる紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、公の施設の利用許可をめぐる紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
6	第一部 火曜 10月20日	地方公務員の懲戒処分に対する司法審査	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、地方公務員の懲戒処分に対する司法審査における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火曜 10月27日	地方公務員の懲戒処分に対する司法審査	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、地方公務員の懲戒処分に対する司法審査における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
8	第一部 火曜 11月10日	老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
9	第一部 火曜 11月17日	老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
10	第一部 火曜 11月24日	社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
11	第一部 火曜 12月1日	社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
12	第一部 火曜 12月8日	廃棄物処理法における営業許可に関する紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、廃棄物処理法における営業許可に関する紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火曜 12月15日	廃棄物処理法における営業許可に関する紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、廃棄物処理法における営業許可に関する紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
14	第一部 火曜 12月22日	都市計画法における建築許可に関する紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関連で、都市計画法における建築許可に関する紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
		事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
15	第一部 火曜 1月12日	都市計画法における建築許可に関する紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、都市計画法における建築許可に関する紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
		事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
		事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分

科目名	公務員制度論	担当者	小田 勇樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
公務員に関する人的資源管理制度の東である公務員制度について、民間企業との共通点／特殊性に着目しながら学修します。採用・給与・昇進・退職のほか、公務員特有の問題である労働基本権、政官関係など、公務員制度の諸要素について取り上げた後、日本の公務における雇用システムの特徴・特殊性を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
採用・給与・昇進・退職のほか、公務員特有の問題である労働基本権、政官関係など、公務員制度の諸要素についてよく理解し、その特徴について説明できるようになる。その上で、雇用システム総体としての、日本の公務労働の特徴、公務員制度の特徴を理解し説明できるようになる。日本の公務員制度についての理解を通じて、公務員という職業への理解を深める。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で実施する。質疑応答等、双方向のコミュニケーションを目的として、コメントペーパー、アンケート等を適宜実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公務員の人的資源管理の特殊性について理解し説明することができるようになる。					2		2					
②	採用・給与・昇進・退職など、日本の公務員制度を構成する諸要素について、その特徴を説明することができる。					2		2					
③	雇用システム総体としての日本の公務員制度の特徴を理解した上で、日本の公務員の働き方について論理的な評価・考察を行い、公務員の働き方に対する自らの意見を述べるようになる。					2		2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識・技能が身に付いているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	40								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
人的資源管理論	八代充史	中央経済社	2019	参考書	任意
日本の官僚人事システム	稲継裕昭	東洋経済新報社	1996	参考書	任意
現代日本の公務員人事	大谷基道，河合晃一	第一法規	2019	参考書	任意
公務員人事改革	村松岐夫	学陽書房	2018	参考書	任意
若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす	濱口桂一郎	中公新書ラクレ	2013	参考書	任意
日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学	小熊英二	講談社現代新書	2019	参考書	任意
公務員制度改革の国際比較	OECD，平井文三	明石書店	2009	参考書	任意
国家公務員の中途採用	小田勇樹	慶應義塾大学出版会	2019	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	公務員制度とは？	この授業で取り扱う内容の概略、様々な人的資源管理制度の束である公務員制度について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員制度とはどのような内容を含むものであるのかを理解する。	
		事前学修	事前にシラバスに目を通し、どのような内容を取り扱う授業であるか、公務員制度とはどのようなものかを確認する。	120分
		事後学修	様々な職種の公務員について、どのような仕事が存在するのか調査する。	120分
2	9/25	公務員制度の役割	人的資源管理とはどのようなことを目的にした活動であるのか、労務管理から人的資源管理への概念の変遷など、官民に共通する人的資源管理の基本部分を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人的資源管理という概念が生じた背景、人的資源管理の目的を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	人事という言葉から連想する活動にはどのようなものがあるか、自分なりに調査・考察する。	120分
		事後学修	自分の立場に置き換えて、アルバイトや勉強をする際に、どのような報酬あるいは環境・条件があれば、取り組み意欲が高まるかを考察する。	120分
3	10/2	公務労働の特殊性	前回授業における官民共通の人的資源管理の基本を踏まえた上で、労働基本権や、業務内容の特殊性、民間の仕事との違いなど、公務特有の性質に起因する公務労働の特殊性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員の労働基本権、業務内容の特殊性、民間の仕事との違いを理解し、公務員の人的資源管理の特殊性を説明することができる。	
		事前学修	労働基本権とは何かについて復習し、事前に理解を深めておく。	120分
		事後学修	もしも、公務員がストライキを起こすことができるようになったら、どのようなことが起きるか、海外の事例を調査してみる。	120分
4	10/9	政官関係(1)公務員の政治的中立性と政治任用	公務員に政治的中立性が求められるようになった背景、政治任用の役割、政官関係の類型について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治的中立性の必要性、政治任用の役割、政官関係の類型を理解した上で、それらの用語について説明することができるようになる。	
		事前学修	政治家と官僚（公務員）の違いについて調査する。	120分
		事後学修	政治家と官僚の役割分担はどのようにあるべきか考えてみる。	120分
5	10/16	政官関係(2)政治家と官僚はどちらが強い？	戦後の日本政治を題材に、日本の政治家と官僚の関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の政治家と官僚の関係について、その変遷を理解した上で、近年の政治現象について政官関係の理論的視座から説明することができるようになる。	
		事前学修	政治主導というキーワードについて、その内容、主張していた政党・政治家などを調査する。	120分
		事後学修	日本の政治家と官僚の役割分担はどのようにあるべきか、望ましい政官関係のバランスはどのようなものか、授業の内容を踏まえて自分の考えをまとめてみる。	120分
6	10/23	誰を採用すべきか？公務員試験とメリットシステム	ペンドルトン法の成立、ノースコートトレヴェリアン報告など、過去の歴史的経緯を踏まえた上で、メリットシステムの基本について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の歴史的経緯を踏まえた上で、メリットシステムが必要とされる理由を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	公務員試験にはどのような内容の試験が含まれているのか調査する。	120分
		事後学修	コネや賄賂による不正な採用が発覚した過去の事例をインターネットや新聞を活用して調査し、メリットシステムの意義を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	日本の公務員の給与は高い？低い？人事院勧告の仕組み	日本の公務員の給与水準がどのように決まっているか、民間企業や他国と比較した場合にその賃金水準は高いのか、低いのかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人事院勧告の仕組みについて理解し、日本の公務員の賃金水準がどのように決まっているかを説明できるようになる。	
		事前学修	公務員の給与の高低を論じている記事や批評に目を通し、その妥当性を自分なりに考察してみる。	120分
		事後学修	事前学修で発掘した資料に再度目を通し、授業で学修した知識を用いてその主張の妥当性を検証する。	120分
8	11/6	誰に高い給与を払うべきか？労働市場との均衡と組織内の均衡	職務給と職能給という2つの異なる賃金制度を踏まえた上で、職階制の仕組み、日本の公務員の現在の給与制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職務給と職能給の違いを理解した上で、日本の公務員の賃金制度の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	組織の中で誰に高い給与を払うべきか、どのような基準（年齢、仕事内容、その年の働きぶり等）で給与を決めるのが良いかを考察し、その基準を用いた場合に生じるメリット・デメリットを検討する。	120分
		事後学修	身の回りの仕事（アルバイト先、家族等）の給与が、どのような基準で決まっているか調査し、その理由を考察する。	120分
9	11/13	誰が組織の上級ポストに就くのか？昇進と中途採用	組織の中で重要なポストに誰を就けるのが良いのか、日本の公務における昇進管理、出世競争のあり方に加えて、公募・中途採用を活用する諸外国の公務員制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の公務員制度における昇進管理が持つ職員への動機付けの機能を理解し、他国の公務員制度との違いを説明できるようになる。	
		事前学修	課長や局長と名が付くポストに、内部で育成された職員がたたき上げで就任する場合と、外から中途採用された職員が就任する場合を比べ、そのメリット・デメリットを考察する。	120分
		事後学修	自分が公務員あるいは民間企業に就職する場合に、どのようなキャリアパスを歩みたいか、どの程度の地位にまで昇進したいか、将来像を考えてみる。	120分
10	11/20	天下りは必要か？公務員の退職管理	天下りと呼ばれる現象がなぜ生じるのか、それは公務員特有の現象なのかについて、国内の民間企業との比較、イギリスの公務員制度との比較の観点から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天下りが生じる背景、そのメリットとデメリットを理解した上で、国内民間企業や他国との比較の観点を踏まえ、天下りの是非について自分の考えを説明することができるようになる。	
		事前学修	ここ数年のメディアにおける報道を調査し、天下りとはどのような現象を指しているのか理解を深める。	120分
		事後学修	天下りを厳格に取り締まる場合、公務員のキャリアパスをどのように設計するのがよいか、自分なりの考えをまとめてみる。	120分
11	11/27	なぜ霞が関の公務員は長時間働くのか？最大動員型の公務員制度	これまでの授業で取り上げた個別の人的資源管理制度を踏まえた上で、限られた資源を最大動員する日本型雇用の公務員制度の仕組みを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、限られた資源を最大動員する日本型雇用の公務員制度の仕組みを雇用システム総体として理解し、日本の公務員が勤勉に働くメカニズムを説明できるようになる。	
		事前学修	公務員の長時間労働に関するニュースを調査し事前に目を通してくる。	120分
		事後学修	日本型雇用の特徴を活かした最大動員型の公務員制度の是非、自分が働く職場として考えた時に就職したいと感じるかどうか、自らの考えをまとめておく。	120分
12	12/4	官民の人的資源管理 国内比較と国際比較	日本の公務員制度と日本の民間企業、諸外国の公務員制度、諸外国の民間企業と比較し、相対的な視点から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、官民・国際間の比較を通じて、日本の公務員制度の性質のうち、普遍的部分と特殊的部分を区分して理解することができるようになる。	
		事前学修	日本の公務員制度の様々な側面のうち、日本に特有な部分、公務特有の部部はどのような点か、これまでの授業で学んだことを踏まえてまとめる。	120分
		事後学修	授業で学修した公務・民間・諸外国の人的資源管理のあり方を踏まえて、自分に合った働き方、キャリアはどのようなものか考えをまとめてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	日本の公務員数と非正規雇用の増加	日本の公務員数が少ない背景、総定員法の概要、近年増加する非正規公務員について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、なぜ日本の公務員数は諸外国よりも少なくなったのか、なぜその人数で公共経営が成り立っているのか、NPMによる公共サービスの外部化の影響等を理解した上で、公務において非正規雇用が増加する背景を説明できるようになる。	
		事前学修	どのような公務員の職種で、非正規雇用が増加しているのか調査する。	120分
		事後学修	正規雇用と非正規雇用、少ない公務員の問題を解決するにはどうすればよいか、自分なりに考察する。	120分
14	12/18	働き方改革と公務員制度	近年の民間における働き方改革の進展、公務における働き方改革の動向、今後の公務員制度に与える影響について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における働き方改革の趣旨と方向性、公務における改革の現状を理解した上で、改革が日本の公務員制度にもたらす影響を説明することができる。	
		事前学修	働き方改革とは何か、ニュース等に目を通し事前に学修しておく。	120分
		事後学修	公務員あるいは民間企業への就職を念頭に、自らの将来像、働き方、キャリアパスを考え直し、どのような働き方をしていきたいか現時点での考えをまとめてみる。	120分
15	12/25	社会環境の変化に伴う公務員数の変化 AI、EBPMの進展	公共組織の現場において導入が進むAIの影響により、公務員の仕事、職種、専門性へどのような変化が生じるのか、EBPMと呼ばれる政策立案が要求されることによりどのような専門性が要求されるのか学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、AIやEBPMなどの進展に伴い、これからの公務員に求められる専門性の変化について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	EBPMとはどのような概念なのか事前に学修する。	120分
		事後学修	AIによりなくなる仕事、新たに増える仕事にはどのようなものがあるか、官民を問わず調査する。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。					2	2						
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。					2	2		2				
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。					2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業の分類について理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/16	コーポレート・ガバナンスとはなにか	コーポレート・ガバナンスの定義となぜこれが重要なのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かを理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4/23	株式会社とはなにか	コーポレート・ガバナンスと関連の深い株式会社の発展とその背景について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の仕組みについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社の特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	4/30	株式会社と会社機関	株式会社はどのような機関構造を有しているのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の構造について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社における様々な会社機関について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5/7	株式会社と経営者支配	コーポレート・ガバナンスにおける経営者支配論がどのように展開されてきたのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営者支配とは何かについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと経営者支配の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	5/14	経済の金融化と新制度派経済学	コーポレート・ガバナンスの新制度派経済学アプローチの内容と限界について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、新制度派経済学とは何かについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、新制度派経済学アプローチとは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	コーポレート・ガバナンスとステイクホルダー論	ステークホルダーとは何か、コーポレート・ガバナンスにおいてなぜこれが重要なのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ステイクホルダーの定義とその重要性について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとステークホルダー論の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5/28	グループワークⅠ：企業とステイクホルダー	企業のステークホルダーにはどのようなものが存在し、それらに対して企業はいかなる責任を有しているのかについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、企業とステイクホルダーとの関係について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、現代企業に求められる責任について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6/4	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅰ：戦後の経済発展	戦後の経済発展と日本的経営について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本的経営の特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、日本的経営とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6/11	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅱ：企業不祥事との関係	これまでの企業不祥事の歴史を基に、「企業はだれのものか」という問いについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業不祥事とコーポレート・ガバナンスの関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業不祥事の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	6/18	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅲ：外部監視と内部統制	外部監視と内部統制に関する制度的展開について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、外部監視と内部統制の内容について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、外部監視と内部統制とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6/25	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅳ：経営者報酬	経営者報酬の仕組みと種類について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、経営者報酬の仕組みと種類について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、世界と日本の経営者報酬の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅴ：同族企業	同族企業の特徴とこれがもたらす問題について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、同族企業のを理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、同族企業の事例を調べ、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7/9	グループワークⅡ：イノベーションとコーポレート・ガバナンス	IT企業におけるコーポレート・ガバナンスの問題について、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、イノベーションがもたらす問題について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、イノベーションとコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	7/16	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
1年生から4年生を対象とする。

【授業方法】		
講義、レジュメ配布 授業内レポートの解説を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。					2	2						
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。					2	2		2				
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。					2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二	中央公論新書	2017		
備考	参考書。授業内で適宜指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関するコーポレート・ガバナンス法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	【ガイダンス】【導入講義】	コーポレート・ガバナンス制度概論－コーポレート・ガバナンスの新たな意義と展望－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①②③⑤⑥について、コーポレート・ガバナンス制度概論に関する理解を深める。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	【成長戦略とコーポレート・ガバナンス改革】	アベノミクスの第3の矢・成長戦略と新しいコーポレート・ガバナンス改革の重要性－企業価値向上に向けて－ 企業のガバナンス改革が政府の成長戦略の基本となっていることを理解し、その重要性について学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、アベノミクスの中でガバナンス改革が成長戦略の中核となっていることを理解する。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンス改革の重要性について、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、政府の成長戦略の一環であることを復習する。	120分
3	第一部水 4/22	【日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革】	日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付け－成長戦略の中核としてのガバナンス－ 政府のガバナンス改革に対する取り組みを概観し、会社法改正、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの三位一体で制度構築を図っていることを学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付けを理解する。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンス改革の位置づけについて、具体的に考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、会社法改正、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの関連について復習する。	120分
4	第一部水 4/29	【会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革】	2014年会社法改正、2020年会社法改正（予定）とコーポレート・ガバナンス改革 ガバナンス改革は2019年会社法改正の大きな論点であり、関連する改正点と企業実務を学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革についての理解を深める。	
		事前学修	法制度面からガバナンス改革に関する改正内容を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、会社法改正と実務の対応について復習する。	120分
5	第一部水 5/6	【3つのガバナンス形態】	指名委員会等設置会社（米国型）、監査役会設置会社、および新設の監査等委員会設置会社のスキームの比較考察 法制度、企業実務の両面から、3つのガバナンス形態について具体的に学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、3つのガバナンス形態について具体的に理解を深める。	
		事前学修	会社法における3つのガバナンスの形態について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、3つのガバナンス形態、実務の対応について復習する。	120分
6	第一部水 5/13	【日本版スチュワードシップ・コード】	日本版スチュワードシップ・コードの策定と課題－機関投資家と経営陣の対話・エンゲージメント作り－ 日本版スチュワードシップ・コードについて、英国のコードと比較しつつ、機関投資家の対応、対話・エンゲージメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、日本版スチュワードシップ・コードについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	スチュワードシップ・コードについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードについて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	【日本版コーポレート・ガバナンス・コード】【対話・エンゲージメント】	日本版コーポレート・ガバナンス・コードの策定と課題 日本版コーポレート・ガバナンス・コードについて、英国のコードと比較しつつ、機関投資家の対応、対話・エンゲージメントについて学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、日本版コーポレート・ガバナンス・コード、対話・エンゲージメントについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて復習する。	120分
8	第一部水 5/27	【2つの日本版コードの改定と上場企業の取り組み】	最近の会社法改正、2つの日本版コードの改定と上場企業の取り組み 2017年、2018年のコードの改定に対する対応が上場企業の大きな課題であり、最新の内容を学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、ダブルコードと上場企業の取り組みについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	2つのコードの改定など、新しい動きについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、2つのコードの改定、企業実務の対応について復習する。	120分
9	第一部水 6/3	【ソフトローにおけるプリンシプル・ベース】	プリンシプル・ベース（原則主義）とComply or Explainルール（遵守せよ、さもなければ説明せよ） コードのソフトローにおけるプリンシプル・ベース（原則主義）と企業の対応について、学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、ソフトローにおけるプリンシプル・ベースについて具体的に理解を深める。	
		事前学修	プリンシプル・ベース（原則主義）、ソフトローについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベース（原則主義）と企業の対応について復習する。	120分
10	第一部水 6/10	【コーポレート・ガバナンス報告書】	有価証券報告書とコーポレート・ガバナンス報告書、東京証券取引所上場規程 コードの内容が上場規則に入っており、企業法務としての具体的な対応を学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、コーポレート・ガバナンス報告書などガバナンスの開示について理解を深める。	
		事前学修	東京証券取引所上場規程について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、上場規則と企業の対応について復習する。	120分
11	第一部水 6/17	【中長期的企業価値向上とガバナンス改革】	新たなコーポレート・ガバナンス検討に当たっての視点－旧来のガバナンス理論から日本独自の転換へ、欧米との相違、中長期的企業価値向上とROE重視かROIC重視か、経営陣とステイクホルダー・株主－ ROE（株主資本利益率）重視の考え方とステイクホルダーなど、最近の新しい論点を学習する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、中長期的企業価値向上とガバナンス改革の理解を深め、議論できるようになる。	
		事前学修	旧来のガバナンス理論と日本独自の転換について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ステイクホルダーなど、最近の新しい論点について復習する。	120分
12	第一部水 6/24	【独立社外取締役】	独立社外取締役、取締役会の監督機能強化、監査役の監査機能の強化、リスクマネジメント、コンプライアンス、内部統制など 法制度面と企業実務の観点から、プラクティスについて学習する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、独立社外取締役の役割、機能など理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	独立社外取締役、取締役会の機能などについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、独立社外取締役、取締役会などについて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	【ガバナンスのケーススタディ】	米国型・指名委員会設置会社、日本型・監査役会設置会社、監査等委員会設置会社のケーススタディー三菱UFJ銀行、ソニー、東芝、日産自動車、キャノン、パナソニック、三菱重工など実効性あるガバナンス改革の考察ーグローバル上場企業、巨大金融機関を取り上げ、ガバナンスの課題について実例を学習する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、ガバナンスのケーススタディの理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	米国型、日本型のガバナンスの課題について考察する。	120分
		事後学修	米国型、日本型のガバナンスの課題について企業実務の面から復習する。	120分
14	第一部水 7/8	【日本版コード改訂によるコードの実質化】	会社法改正と日本版コード改訂によるコードの実質化に向けての最新のフォローアップ状況政府、規制当局のガバナンスの実効性確保に向けた最新のフォローアップ状況について学習する。	
		この回の到達目標	①②③について、ガバナンスの実効性確保に向けた規制当局の動向を概観し、理解を深める。	
		事前学修	規制当局の最新のフォローアップ状況について考察する。	120分
		事後学修	ガバナンスの実効性確保に向けたフォローアップについて復習する。	120分
15	第一部水 7/15	【前期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。ガバナンス改革について総まとめを行う。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、ガバナンス改革に関する法制、実務の対応など全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	前期の授業内レポートの提出。解説を行うので、参考にして、企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
1年生から4年生を対象とする。

【授業方法】
講義、レジメ配布 授業内レポートの解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。				2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。					2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。				2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二	中央公論新書	2017		
備考	参考書。授業内で適宜指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関するコーポレート・ガバナンス法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	【後期授業ガイダンス】 【導入講義】	後期授業ガイダンス 前期に学習した基本事項の確認と後期の授業計画・目標の説明	
		この回の到達目標	①②③について、前期に学習した基本事項の確認、後期の授業計画・目標の説明により、ガバナンスの学習の理解を深める。	
		事前学修	前期に学習した基本事項の確認を行う。	120分
		事後学修	後期の授業計画・目標の説明と合わせて、ガバナンスの基本的事項を確認する。	120分
2	第一部水 9/23	【企業風土】	企業風土について	
		この回の到達目標	①②③に関し、ガバナンスと企業風土の関連について、理解を深める。	
		事前学修	ガバナンスと企業風土の関連について、事前に調べる。	120分
		事後学修	授業で学んだ企業風土の内容をガバナンスとの関連から整理し、復習する。	120分
3	第一部水 9/30	【日本における企業統治の制度】	日本における企業統治の制度の再確認：改革で何が変わったのか会社とはなにか、企業不祥事はなぜ起こるのか	
		この回の到達目標	①②③に関し、日本における企業統治の制度について、理解を深める。	
		事前学修	日本における企業統治の制度について、事前によく調べる。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
4	第一部水 10/7	【米国のガバナンス】	米国における企業統治制度の展開	
		この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度について、理解を深める。	
		事前学修	米国における企業統治の法制度について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
5	第一部水 10/14	【米国のガバナンス】【コンプライアンスとリスクマネジメント経営】	米国における企業統治制度の展開：市場の評価とM&A、コンプライアンスと内部統制・企業のリスクマネジメント経営	
		この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度について、理解を深める。特にコンプライアンスとリスクマネジメント経営を理解する。	
		事前学修	米国におけるコンプライアンスとリスクマネジメント経営について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
6	第一部水 10/21	【ドイツ、イギリスとの比較】	米国における企業統治制度の展開：ドイツ、イギリスとの比較	
		この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度とドイツ、イギリスとの比較について、理解を深める。	
		事前学修	米国における企業統治の法制度とドイツ、イギリスとの比較について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	【経済学・経営学からの企業統治】	経済学・経営学からの企業統治 エージェンシー問題への対応	
		この回の到達目標	①②③に関し、経済学・経営学からの企業統治について、理解を深める。	
		事前学修	経済学・経営学からの企業統治について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
8	第一部水 11/11	【経済学・経営学からみた企業統治】 【株主構成／債権者／市場規律】	経済学・経営学からみた企業統治：株主構成の影響／債権者からの見方/市場からの規律	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、経済学・経営学からみた企業統治、株主構成／債権者／市場規律について、理解を深める。	
		事前学修	株主構成／債権者／市場規律とガバナンスについて、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
9	第一部水 11/18	【企業不祥事】	それでも無くならない企業不祥事（１）企業不祥事の定義と分類	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、企業不祥事について、理解を深める。	
		事前学修	企業不祥事について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
10	第一部水 11/25	【企業不祥事】 【企業不祥事が生じる背景】	企業不祥事が生じる背景	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、企業不祥事が生じる背景について、理解を深める。	
		事前学修	企業不祥事が生じる背景について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
11	第一部水 12/2	【企業不祥事】 【企業内社会関係資本と不祥事】	企業統治のどこに問題があるのか 社会関係資本の観点の欠如 企業内社会関係資本と不祥事は密接にかかわっている。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、企業内社会関係資本と不祥事について、理解を深める。	
		事前学修	企業内社会関係資本と不祥事について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
12	第一部水 12/9	【コードの改訂と新たな課題】	スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの改訂 資本コスト、報酬シナリオ、政策投資株式、議決権行使助言会社などの新たな課題への対応	
		この回の到達目標	①②③に関し、2つのコードの改訂について、資本コスト、報酬シナリオ、政策投資株式、議決権行使助言会社などの新たな課題に関する理解を深める。	
		事前学修	2つのコードの改訂について、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	【グループガバナンスのガイドライン】	グループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドライン	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、経済産業省のグループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドラインについて、理解を深める。	
		事前学修	グループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドラインについて、よく調べておいてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
14	第一部水 12/23	【ESGとガバナンス】	E S G投資と S D G s、株主エンゲージメント	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、E S G（環境、社会、ガバナンス）に関する理解を深める。	
		事前学修	E S G（環境、社会、ガバナンス）に関する予習を十分に行ってください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
15	第一部水 1/13	【後期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。ガバナンス改革について、全体の授業の総まとめを行う。	
		この回の到達目標	①②③④に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、ガバナンス改革に関する法制、実務の対応など全体の体系を再度、考察する。	120分
		事後学修	後期の授業内レポートの提出。解説を行うので、参考にして、企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
コーポレート・ガバナンス論Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを行い、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。						2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。							2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。						2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。							2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業 と社会の関係における諸問題について考察する能力が身に ついているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験またはレポート課題等提出の後に解説を配布する（ポータルシステムでも配信を行う）。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かについて理解する。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	自分の学習計画の見直しと前期の授業内容の復習。	120分
2	9/24	コーポレート・ガバナンスと資本コスト	資本コストとは何か、株主や機関投資家が重視する財務諸表とは何かについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスと資本コストの関係について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、資本コスト削減のための施策について、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	10/1	コーポレート・ガバナンスと事業投資	事業投資とは何か、事業投資の評価方法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、事業投資の評価方法について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、事業投資と企業価値の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10/8	コーポレート・ガバナンスと資本政策	資本政策と株式発行、新たな種類株について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式の種類について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株主総会の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10/15	コーポレート・ガバナンスと合併・買収(M&A)	コーポレート・ガバナンスと企業の合併・買収(M&A)の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)の目的について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、合併・買収(M&A)の目的と類型について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10/22	機関投資家とコーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス原則と機関投資家の関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、機関投資家の定義とその役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、様々な投資視点について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	グループワークⅠ：グローバル化による影響と課題	海外子会社の企業不祥事を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、グローバル化の影響と課題について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化がもたらす問題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/5	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/12	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/19	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/3	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任との関係について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任とは何かについて理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/10	コーポレート・ガバナンスと社会的企業	社会的企業や非営利組織におけるコーポレート・ガバナンスについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、社会的企業や非営利組織にコーポレート・ガバナンスが求められる要因について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社と非営利組織の比較を通じて、求められるコーポレート・ガバナンスの相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	コーポレート・ガバナンスと企業倫理	企業不祥事を防止するために、コーポレート・ガバナンスはどのような役割を担うのかについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業不祥事を防止するためのコーポレート・ガバナンスの役割について理解する。	
		事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
		事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事を防止するための経営者や会社機関の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/24	グループワークⅡ：事業の繁栄と社会の繁栄	これまでの授業内容を踏まえて、従来のコーポレート・ガバナンスの課題について、グループで議論し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、今日におけるコーポレート・ガバナンスの意義と課題について、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
		事後学修	自分のグループと他のグループの発表を基に、現代のコーポレート・ガバナンスのあり方について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/14	授業内試験及び解説	授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
		事前学修	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	180分
		事後学修	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。	60分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
教科書に沿いながら講義する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代ヨーロッパ国際政治史	君塚直隆	有斐閣	2010	教科書	必携
ヨーロッパ国際関係史（新版）	渡邊啓貴	有斐閣	2008	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分―16時00分（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10に 火	授業概要 導入講義	はじめに：授業の概要について	
		この回の 到達目標	授業の概要を把握する。	
		事前学修	国際関係史についてネット等で各自情報収集をする。	120分
		事後学修	授業で紹介された文献を各自、図書館等で探す。	120分
2	4月17日	国際関係史	国際関係と国際関係史について	
		この回の 到達目標	国際関係と国際関係史の関連性について、国際法に注目しながら、理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（序章）を読む。	120分
		事後学修	国際関係と国際関係史についての授業の内容を復習する。	120分
3	4月24日	宗教改革	宗教改革について	
		この回の 到達目標	マルティン・ルターから始まる宗教改革について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章）を読む。	120分
		事後学修	宗教改革についての授業の内容を復習する。	120分
4	5月1日	宗教戦争	宗教戦争について	
		この回の 到達目標	宗教改革に関連して発生した戦争について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章、第2章）を読む。	120分
		事後学修	宗教戦争についての授業の内容を復習する。	120分
5	5月8日	三十年戦争	三十年戦争の発生から終了まで	
		この回の 到達目標	宗教戦争を4つの局面で理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 65～76）を読む。	120分
		事後学修	三十年戦争についての授業の内容を復習する。	120分
6	5月15日	ウェストファリア条約	ウェストファリア条約とウェストファリア体制について	
		この回の 到達目標	三十年戦争の結果成立したウェストファリア条約とウェストファリア体制について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 76～83）を読む。	120分
		事後学修	ウェストファリア条約とウェストファリア体制についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	勢力均衡	勢力均衡の始まりについて	
		この回の到達目標	大国間の勢力均衡による平和の実現について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第4章）を読む。	120分
		事後学修	勢力均衡の始まりについての授業の内容を復習する。	120分
8	5月29日	ロシア帝国	ロシア帝国の台頭について	
		この回の到達目標	ロシア帝国の台頭を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第5章）を読む。	120分
		事後学修	ロシア帝国の台頭についての授業の内容を復習する。	120分
9	6月5日	神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国について	
		この回の到達目標	神聖ローマ帝国の基本的な構造と対外関係について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第6章）を読む。	120分
		事後学修	神聖ローマ帝国についての授業の内容を復習する。	120分
10	6月12日	アメリカ独立	アメリカの独立について	
		この回の到達目標	アメリカの独立をヨーロッパとの関連で理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第7章）を読む。	120分
		事後学修	アメリカの独立についての授業の内容を復習する。	120分
11	6月19日	フランス革命	フランス革命について	
		この回の到達目標	フランス革命を他のヨーロッパ諸国との関係で理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第8章pp. 179~186）を読む。	120分
		事後学修	フランス革命についての授業の内容を復習する。	120分
12	6月26日	ナポレオン戦争	ナポレオン戦争について	
		この回の到達目標	ナポレオンのフランスと他のヨーロッパ諸国との間の戦争について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第8章pp. 186~201）を読む。	120分
		事後学修	ナポレオン戦争についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	ウィーン体制	ウィーン体制と勢力均衡について	
		この回の到達目標	ナポレオン戦争の結果成立したウィーン体制について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第9章）を読む。	120分
		事後学修	ウィーン体制と勢力均衡についての授業の内容を復習する。	120分
14	7月10日	クリミア戦争	クリミア戦争について	
		この回の到達目標	クリミア戦争をめぐる英仏トルコとロシアとの関係について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第10章）を読む。	120分
		事後学修	クリミア戦争についての授業の内容を復習する。	120分
15	7月17日	まとめ	授業のまとめ	
		この回の到達目標	ヨーロッパの国際関係史について、宗教改革からクリミア戦争までを復習する。	
		事前学修	前期学習した内容を確認する。	120分
		事後学修	前期学習した内容を総復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』 (仮 題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	参考書	推奨
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】	
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室） （事前にアポイントメントを取ること）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス・国際関係史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。また、関連科目である国際政治学・国際関係論との違いを示しながら、国際関係史を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	4/13	国際政治とは何か	国際関係史を学ぶための前提となる無政府的国際社会についての異なる見方を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、現在の無政府的国際社会の見方をリアリスト、リベラリスト、コンストラクティヴィストの立場から説明することができる。	
		事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」の第1節（p. 1-p. 21）を読み、無政府的国際社会とは何かについて、自分の考えをノートにまとめる。	120分
		事後学修	現在の無政府的国際社会の見方を、リアリスト、リベラリスト、コンストラクティヴィストの立場から表にまとめ、相違点についての知見をノートにまとめる。	120分
3	4/20	現代に通じる歴史上の紛争要因と倫理的問題	ペロポネソス戦争を事例として取り上げ、安全保障のジレンマを軸に、現代にも応用可能な歴史上の紛争要因を検証する。また、国際関係における倫理的問題について、懐疑主義、国家中心的道義主義、コスモポリタニズムの立場から向き合う方法を検証する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、歴史と理論を結びつけるためには、理論と事例を通じての理解が不可欠であることを説明できる。	
		事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」の第2節・第3節（p. 32-p. 48）を読み、国際関係における倫理的考慮や道義的義務とは何かをノートにまとめる。	120分
		事後学修	国際関係における倫理的問題について、懐疑主義、国家中心的道義主義、コスモポリタニズムの立場から、イラク戦争の歴史的解釈を試み、知見をノートにまとめる。	120分
4	4/27	国際関係史の主要な概念	国際関係史を学ぶ上で最も大事な概念である主権国家およびパワーとは何かについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際関係史における主要な概念である主権国家およびパワーとは何かを説明できる。	
		事前学修	「第2章紛争と協調を説明する一知の技法」の第1節（p. 49-p. 69）を読み、主権国家という概念が国際政治学の中でしばしば混乱して語られる理由をノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義の中で出てきた国家、国際的主体、国際システムなどの用語を使い、国家が追求する国益についての知見を整理しノートにまとめる。	120分
5	5/4	国際関係における分析のレベル	ウォルツの3つの分析レベルを用いて国際関係史を分析する手法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ウォルツの3つの分析レベルについて説明することができる。到達目標③④に関連して、特定の事例をウォルツの3つの分析レベルを用いて分析・検証することができる。	
		事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第2節（p. 69-p. 81）を読み、3つの分析のレベルの特徴についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	分析レベルについての知見をまとめ、戦争の原因、環境問題の原因など興味のある問題について3つのレベルで考え、ノートにまとめる。	120分
6	5/11	国際関係史のパラダイムと理論	国際関係におけるパラダイムとは何か、またパラダイム転換とはどのようなものかを解説する。それらを理解した上で、マルクス主義、コンストラクティヴィズムがどのようなパラダイム転換を、国際社会の紛争と協調の解釈にもたらしたのかを検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、国際関係研究に必要なパラダイムの内容、特に、マルクス主義、コンストラクティヴィズムの理論を説明できる。	
		事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第3節（p. 82-p. 94）を読むとともに、『国際関係論〈第3版〉（Next教科書シリーズ）』第8章を通読し、マルクス主義、コンストラクティヴィズムの特徴をノートにまとめる。	120分
		事後学修	第5回のリアリズム、リベラリズムの比較表に、マルクス主義、コンストラクティヴィズムを加えて、国際社会の紛争と協調をこれらの理論がどのように解釈するのかの知見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	国際関係史と反実仮想	反実仮想モデルを用いながら、歴史の因果関係を検証する手法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、反実仮想を用いた推論の方法の価値を説明できる。到達目標③④に関連して、反実仮想を用いて特定の事例を分析することができる。	
		事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第4節 (p. 94-p. 101) や、吉川直人『国際関係理論』(2015年、勁草書房)第2章などを読み、反実仮想に不可欠な、もっともらしさ、時間の近接性などの意味をノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義で学習した「仮想歴史」の方法論を使って、ペロポネソス戦争についての反実仮想を実施し、そこから得た知見をノートにまとめる。	120分
8	5/25	第1回から第7回の復習 中間テスト	これまでに学んだ事項を振り返る。また、第1回から第7回の範囲から中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際関係研究に必要な理論や概念について説明できる。到達目標⑤に関連して、現在の国際社会における様々な課題を国際関係理論を用いて考察できる。	
		事前学修	第1回から第7回の復習をする。これまでのノートを振り返る。	120分
		事後学修	理解が浅かった事項をノートにまとめる。また、新聞に目を通して、今日の国際社会の問題をテーマ毎に分類し、特に興味を持った事項について情報収集をしノートに書きだす。	120分
9	6/1	バランス・オブ・パワー	ウェストファリアからナポレオン戦争までの国際関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バランス・オブ・パワーとは何かについて説明できる。	
		事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の2節 (p. 115-p. 123) を読み、パワー分布としてのバランス・オブ・パワー、政策としてのバランス・オブ・パワーの意味についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	ウェストファリア前後のヨーロッパの情勢について整理してノートにまとめる。	120分
10	6/8	19世紀のバランス・オブ・パワー	第一次世界大戦前後の国際関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、欧州におけるバランス・オブ・パワーがどのように変化したのか説明できる。	
		事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の2節 (p. 115-p. 123) を読み、19世紀のバランス・オブ・パワーの構造についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	1914年からの「教訓」から戦争回避の政策に関する知見をノートにまとめる。	120分
11	6/15	第一次世界大戦の起源	第一次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第一次世界大戦の起源を3つの分析レベルの手法を用いて分析できる。	
		事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の3節 (p. 123-p. 144) を、システム・レベルを意識しながら読み、戦争が不可避であったのかについてノートにまとめる。	120分
		事後学修	ウォルツの3つのイメージを用いて第一次世界大戦の起源に関する知見をノートにまとめる。	120分
12	6/22	集団安全保障の興亡	国際連盟と集団安全保障について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集団安全保障の概念と国際連盟について説明できる。到達目標③④に関連して、第一次世界大戦後の世界の態度を分析して、国際連盟が機能しなかったことを説明できる。	
		事前学修	「第4章集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第1節 (p. 145-p. 157) を、集団安全保障の意味を考えながら読み、初期の国際連盟とアメリカの関係についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	戦間期における集団安全保障の方法についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	第二次世界大戦の起源	第二次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第二次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて説明できる。到達目標⑤に関連して、第一次世界大戦と第二次世界大戦の起源の違いについて説明できる。	
		事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第2節（p. 157-p. 178）を、ヒトラーの戦略を考えながら読み、3つのレベルに分解して、戦争の起源についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	第二次世界大戦がどのようにして進行していったのか、個人・国内・国際社会システムに分けて知見をノートにまとめる。	120分
14	7/6	第二次世界大戦の教訓	二度とヒトラーを生み出さないための政治的発明について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後の国際社会が取った戦争防止のための政策を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、戦争を起こさないための方法の有無及びその理由について自分の考えを説明することができる。	
		事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第2節（p. 157-p. 178）を、第二次世界大戦の意味を考えながら読み、太平洋戦争の特徴をノートにまとめる。	120分
		事後学修	第二次世界大戦は不可避だったのかについての知見をノートにまとめる。	120分
15	7/13	講義から得られた知見と講評	今期のできごとのレビュー及び3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考える思考の実験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考えることができる。	
		事前学修	第1回から第14回までに学んだことをノートを読みながら振り返る。	120分
		事後学修	世界で起こっている現在の問題の今後を、前期で学んだ歴史的事実から類推してノートにまとめてみる。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
講義形式を基本とする。ただし、必要に応じ、映像を紹介し、国際関係の流れ、および、日本外交について、適宜、説明を加える方法をとる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の講評を、後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
米軍基地権と日米密約	信夫隆司	岩波書店	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 1 2 : 2 0 ～ 1 2 : 5 0。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	国際関係史の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日米密約の意味を明らかにすることが、日米関係、さらには広く、国際関係を理解することの意義を明らかにする	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米密約を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	第一部 月4/13	冷戦の勃発	第二次世界大戦後の冷戦の勃発について考察する。同時に、この冷戦が日本の主権回復（1952年）にどのように影響したのかを理解できるようにする。また、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定の概要を分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、冷戦の勃発、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定の概要を説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦後、いわゆる冷戦が始まる。冷戦の原因は何だったのか、初期の冷戦の経緯についてノートにまとめる。また、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定の要点をノートにまとめる。	90分
		事後学修	冷戦はなぜ起こったのかを復習し、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定の関係を理解するとともに、日本の主権回復とはいかなる意味を持っていたのかについて知見をまとめる。	150分
3	第一部 月4/20	米軍基地権とは何か	「日本に基地は存在しない」ということの意味を考察する。基地権の物的面（基地の管理・利用）とはいかなるものかについて分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、米軍の基地権とはいかなる意味なのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の序章を読み、米軍基地権とは何か、また、物的・人的とはいかなる意味なのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	日本に米軍基地といわれるものは、どこに、どれくらいあるのかを調べてみる。それらの基地は、どのような機能を果たしているのか、日米安保条約との関連でノートにまとめる。	120分
4	第一部 月4/27	刑事裁判権とは	米軍基地権の人的面（刑事裁判権）について考察する。刑事裁判権とはいかなる意味か、なぜ刑事裁判権が重要なのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、刑事裁判権とは何かを説明できる。	
		事前学修	教科書の序章を読み、米軍基地権とは何か、また、物的・人的とはいかなる意味なのかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	過去に米軍関係者が犯した罪について調べてみる。米兵の犯罪がどのように扱われたのか、また、刑事裁判権の問題点をノートに整理する。	150分
5	第一部 月5/4	朝鮮戦争	朝鮮戦争勃発の原因、朝鮮戦争の経緯、朝鮮戦争が日本に与えた影響を中心に考察する。とくに、朝鮮戦争と日本の主権回復について分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、朝鮮戦争の意味、日本への影響について説明できる。	
		事前学修	朝鮮戦争とはいかなるものであったのかをノートにまとめる。とくに、朝鮮戦争が日本に与えた影響について知見をノートにまとめる。	150分
		事後学修	朝鮮戦争は、現時点でも、休戦状態にある。朝鮮戦争と朝鮮半島の分断が国際政治に及ぼした影響を整理するとともに、朝鮮半島の現状についてノートにまとめる。	90分
6	第一部 月5/11	刑事裁判権密約の意味	刑事裁判権密約について、具体的に何を意味していたのかを考察する。また、これらの問題は、日本が再独立を果たした時に問題となったので、日本がおかれた当時の国際情勢について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、刑事裁判権密約とはいかなるものなのかを説明できる。	
		事前学修	第一章刑事裁判権密約の「一. 刑事裁判権密約とは何か」、および、「二. 国連軍暫定協定と吉田書簡」を読み、刑事裁判権密約、国連軍暫定協定、および、吉田書簡の内容についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	刑事裁判権密約とは何かをノートに整理する。また、国連軍暫定協定案の経緯、および、吉田書簡の内容についてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	刑事裁判権密約の内容	行政協定第一七条の改正前と後の違い、また、アメリカ側は刑事裁判権についてどのように考えていたのか、および、NATO軍地位協定を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、行政協定第一七条とNATO軍地位協定の違いについて説明できる。	
		事前学修	第一章刑事裁判権密約の「三. 国連軍地位協定をめぐる交渉」、および、「四. 行政協定第一七条の改正」を読み、国連軍地位協定をめぐる交渉過程とは何か、行政協定第一七条はどのように改正されたのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	行政協定第一七条、改正された行政協定第一七条、さらには、NATO軍地位協定やアメリカとアイスランド、オランダ、ギリシャとの地位協定を比較し、ノートに整理してみる。	120分
8	第一部 月5/25	刑事裁判権密約の実態	日米合同委員会刑事裁判権分科会の日本側代表であった津田實法務省総務課長がおこなった「一方的陳述」は、「一方的」に名を借りながらも、実は、密約であったことを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、刑事裁判権密約の意味を説明できる。	
		事前学修	第一章刑事裁判権密約の「五. 密約の意味」を読み、密約とはどういうものであったのかを、とくに、津田総務課長による一方的陳述がなぜ密約といえるのかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	刑事裁判権密約とは何かを整理するとともに、密約がなぜ用いられるのかについての知見をノートにまとめる。	150分
9	第一部 月6/1	奄美返還とは	奄美群島の特異の関係、および、奄美返還協定の締結時に交わされた文書について考察する。とくに、奄美群島が有する特異の関係とはいかなる意味であったのか、それが、奄美返還協定の締結時に交わされた文書にどのように反映されていたのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、奄美返還協定における特異の関係とはいかなる意味かを説明できる。	
		事前学修	第二章奄美返還の「一. 特異の関係」、および、「二. 奄美返還協定時に交わされた文書」を読み、奄美群島の特異の関係とはいかなる意味かを考え、また、奄美返還協定の締結時に交わされた文書をノートにまとめる。	120分
		事後学修	特異の関係とは何だったのか、なぜこのような文書が協定の関連文書に盛り込まれたのかについて、知見をノートにまとめる。	120分
10	第一部 月6/8	奄美返還における基地権	第二章奄美返還のうち、アメリカが望んだ基地権とはいかなるものであったのか、また、奄美返還交渉において、アメリカが提示した返還案について考察する。これにより、アメリカが基地権をどのようにとらえていたのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、奄美返還において、アメリカが望んだ基地権とはいかなるものであったのかを説明できる。	
		事前学修	第二章奄美返還の「三. アメリカが望んだ基地権」、および、「四. アメリカ案」を読み、アメリカ側は、奄美返還にあたり、基地権として何を望んでいたのかをノートに整理する。	90分
		事後学修	アメリカが、基地権というものをどのようにとらえていたのかを整理する。アメリカの返還案とはいかなるものであったのか、また、なぜそのような返還案になったのかをノートにまとめる。	150分
11	第一部 月6/15	奄美返還密約	第二章奄美返還のうち、まず、奄美返還交渉はどのように行われたのかを考察する。そのうえで、最終的に、奄美返還協定にはどのような内容が盛り込まれたのかを分析する。また、奄美返還協定の関連文書に登場する「特異の関係」の意味を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、奄美返還協定における特異の関係とはいかなる意味かをノートにまとめる。また、奄美返還密約とは何かについてノートにまとめる。	
		事前学修	第二章奄美返還の「五. 奄美返還交渉」、および、「六. 特異の関係の意味」を読み、返還交渉の概要をつかむとともに、特異の関係とはいかなる意味だったのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	アメリカの占領下にあった日本の領土のうち、最初に返還されたのが奄美群島であった。1953年12月に返還されている。その当時の国際情勢の中で、奄美返還が持つ意味、また、「特異の関係」についてノートにまとめる。	120分
12	第一部 月6/22	ジラード事件	1957年1月に起こったジラード事件の概要を考察する。ジラードとはいかなる人物か、犠牲となった坂井なかさんは、なぜ、どのようにしてジラードにより銃撃されたのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ジラード事件とはどのような事件であったのかを説明できる。	
		事前学修	第三章ジラード事件の「一. ジラード事件から六〇年」を読み、ジラード事件とはいかなるものであったのかをノートに整理する。	90分
		事後学修	ジラード事件について知見をノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	ジラード事件の概要	ジラードの犯罪とはいかなるものであったのか、ジラードの同僚で、ジラードと共に現場にいたニクルの証言を振り返り、ジラードの犯行の様子を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ジラードの犯罪とはいかなるものであったのかを説明できる。	
		事前学修	第三章ジラード事件の「二. ジラードの犯罪」、および、「三. ニクルの犯罪」を読み、ジラード事件についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	ジラードの犯罪を整理するとともに、ジラードの同僚のニクルが、裁判において、どのような証言をしていたのかをノートにまとめる。	120分
14	第一部 月7/6	ジラード事件の密約	ジラード事件の密約について考察する。とくに、アメリカ側に残された公文書では、密約の存在は明らかなので、まず、それら公文書に密約がどのように記されているのかを明らかにする。また、ジラード事件の影響についても考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、ジラード事件の密約とはいかなるものであったのかを説明できる。	
		事前学修	第三章ジラード事件の「四. ジラード事件の密約」、および、「五. ジラード事件の影響」を読み、ジラード事件における密約とはどのようなものであったのか、ジラード事件はどのような影響を及ぼしたのかをノートに整理する。	120分
		事後学修	ジラード事件における密約、および、ジラード事件の影響についてノートに整理する。また、米兵が犯した罪を日本の裁判所で裁く難しさについて知見をノートにまとめる。	120分
15	第一部 月7/13	日米密約の総括	刑事裁判権密約、奄美返還、ジラード事件をあらためて振り返り、日米間でなぜ密約が交わされるのか、その構造的問題について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日米間で密約が交わされる構造的問題を説明できる。	
		事前学修	前期の講義を振り返り、各密約についてノートに整理する。	90分
		事後学修	日米間で密約が交わされるのはなぜなのかについてノートに知見をまとめる。この密約という方式が妥当なのか、問題点はないのかについてもまとめる。	150分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	喜多 義人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーションなどを利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーションや歴史に関する資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際関係の流れなどについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、歴史的出来事の意味を深く理解する機会も提供する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本外交の150年	波多野澄雄編	日本外交協会	2019	教科書	必携
ハンドブック 近代日本外交史	蓑原俊洋・奈良岡聰智編	ミネルヴァ書房	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：20～13：00、水曜日18:00～19:00（メールか電話で予約すること）。 研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp, 03-5275-8602）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス・国際関係史の学び方	講義の進め方、成績評価の方法、教科書・参考書の紹介のほか、国際関係史を学ぶ意義および学修方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学修者が、講義の全体像を把握するとともに、国際関係史を学ぶ意義を認識できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義内容の全体像を把握しておくこと。	120分
		事後学修	教科書および参考書、その他の関連図書を図書館で閲覧し、全体の流れを把握しておくこと。	120分
2	9/21	開国から大国となるまでの日本外交	国際関係史Ⅰを受講しなかった学生のために、幕末の開国からパリ講和会議までの日本外交について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、幕末から大正前期までの日本の外交政策と主要な外交問題への対応について理解し、評価できるようになる。	
		事前学修	参考書および関連図書を読み、この期間の日本外交の流れを把握しておくこと。	120分
		事後学修	主要な外交問題と日本の対応について説明できるようにする。	120分
3	9/28	第一次世界大戦後の日米関係と日ソ関係	日米関係悪化の原因となった日本人移民排斥問題について解説するとともに、日本のソ連承認の背景について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、日系移民をめぐる日米対立、および日ソ国交樹立の背景と意義について説明できるようになる。	
		事前学修	日系移民に対するカリフォルニア州の措置と日本政府の対応について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国交樹立後の日ソ関係ぎ展開について説明できるようにする。	120分
4	10/5	国際協調の時代	ワシントン会議とワシントン体制下の幣原外交について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、協調外交の背景とその意義について説明できるようになる。	
		事前学修	ワシントン体制(九カ国条約と海軍軍縮条約)の内容について確認しておくこと。	120分
		事後学修	太平洋地域および中国をめぐる国際秩序について説明できるようになる。	120分
5	10/12	軍縮会議への参加	ワシントン海軍軍縮会議、ロンドン海軍軍縮会議および国際連盟の軍縮会議における日本の交渉方針について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、軍縮会議における日本の要求と交渉妥結に至る過程について説明できるようになる。	
		事前学修	ワシントンおよびロンドン海軍軍縮会議の背景と列国の交渉方針について確認しておくこと。	120分
		事後学修	軍縮会議における日本の主張と軍縮条約の内容について説明できるようにする。	120分
6	10/19	満州事変	満州の当時の情勢、軍部の意図および事変の経過、満州国の建国について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、満州事変の原因、日本による武力行使の正当化理由、外交当局の対応について説明できるようになる。	
		事前学修	軍部の満州統治構想について理解しておくこと。	120分
		事後学修	軍部の満州統治構想の内容について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	国際連盟脱退	国際連盟および列国の満州事変・満州国建国への対応と日本外交について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、国際連盟の紛争解決の努力と非加盟国アメリカの行動、連盟脱退に至る外交について説明できるようになる。	
		事前学修	国際連盟の紛争解決手続とリットン報告書について確認しておくこと。	120分
		事後学修	満州事変と満州国建国に対する国際社会の反応と、連盟脱退までの過程について説明できるようにする。	120分
8	11/9	日中戦争	盧溝橋事件当時の情勢から武力衝突までの経緯、列国の対応、日中和平交渉および傀儡政権の樹立工作について解説する。また、戦争の過程で生じた南京事件にも論及したい。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、日中開戦の背景、日本の中国政策および英米の対応について説明できるようになる。	
		事前学修	盧溝橋事件の原因と戦争の経過について調べておくこと。	120分
		事後学修	満州事変以降の中国政策を評価し、和平努力について説明できるようにする。	120分
9	11/16	日ソ武力衝突	【授業内容】 満ソ国境紛争としての張鼓峯事件とノモンハン事件の背景、戦闘の経過、事件の処理について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、満州事変以降の日ソ関係、満ソ国境問題、武力衝突の勃発から終結に至る過程について説明できるようになる。	
		事前学修	日ソ国交樹立(1925年)以降、両事件までの両国関係について確認しておくこと。	120分
		事後学修	武力衝突の原因と戦闘の諸相、事件後の対ソ政策について説明できるようにする。	120分
10	11/23	太平洋戦争への道	中国での戦火の拡大、日独伊三国同盟の締結、南部仏印進駐により悪化した日米関係を打開し、日米開戦を回避するために行なわれた両国間の交渉について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日中戦争以降の日米関係、南部仏印進駐の目的と影響、日米交渉における対立点について説明できるようになる。	
		事前学修	日米交渉の争点となった日独伊三国同盟の締結過程と内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	日米交渉の経過と両国の主張について説明できるようにする。	120分
11	11/30	日米開戦	日本の開戦決定過程、無通告による真珠湾攻撃の背景および緒戦の戦闘経過について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、日本が開戦に踏み切った理由、真珠湾奇襲に関する日本の国際法感覚、軍部の作戦構想について説明できるようになる。	
		事前学修	日本が最後通牒と解釈した「ハル・ノート」が提示された経緯と内容について確認しておくこと。	120分
		事後学修	開戦に至る経緯と、「開戦は自衛権の発動である」とした日本の主張について説明できるようにする。	120分
12	12/7	戦争の経過	緒戦の勝利を経て連合軍の反撃による各地域での敗北、東南アジアの占領地の統治、捕虜の虐待や一般住民の殺害などの違反行為の背景について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、1943年以降の戦闘経過、日本軍の占領統治の特徴、主要な戦争犯罪事件とその原因について説明できるようになる。	
		事前学修	戦争中の違法行為に対する連合国からの抗議と、外交当局の反論について調べてみる。	120分
		事後学修	連合軍の反撃以降の戦闘経過と、日本軍による戦争犯罪の特徴と原因を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	敗戦と占領	和平工作からソ連の対日参戦、ポツダム宣言の受諾、連合軍の進駐、戦犯裁判までを概説し、さらにアメリカの占領政策、在外日本軍民の引揚げについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、連合国のカイロ宣言以降の対日政策、および戦後改革や戦犯裁判を含む占領政策政について説明できるようになる。	
		事前学修	日本による和平工作について調べてみること。	120分
		事後学修	連合国の占領政策および戦後の諸改革について説明できるようにする。	120分
14	12/21	サンフランシスコ講和条約	連合国との戦争状態を法的に終結させたサンフランシスコ講和条約をめぐる国内の意見対立と条約発効後の日米関係、日華平和条約、日ソ国交回復について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、対日講和条約の締結から日ソ国交回復、国際連合加盟に至る日本外交と日米、日ソ関係の新展開について説明できるようになる。	
		事前学修	朝鮮戦争が対日講和に及ぼした影響について考察すること。	120分
		事後学修	対日講和条約の内容と効果、日米安全保障条約の問題点、日ソ共同宣言の意義について説明できるようにする。	120分
15	1/18	まとめ	これまでの授業の振り返りをする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学修者が、講義の全体像を復習するとともに、国際関係史を学ぶ意義を改めて認識できるようになる。	
		事前学修	これまで学習した内容を振り返る。	120分
		事後学修	これまで学習した内容を総復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』 (仮題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	参考書	推奨
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】	
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室）（事前にアポイントメントを取ること）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス・政治思想史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。 また、関連科目である政治哲学との違いを示しながら、政治思想史を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	9/21	前期の復習	国際関係を学ぶための理論及びウェストファリアから第二次世界大戦までを振り返る。	
		この回の到達目標	①に関連して、国際関係を学ぶために必要な基礎的な事項を説明できる。	
		事前学修	前期配布資料やテキスト第1章から第4章までに目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておく。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語をノートにまとめる。わからない用語があれば用語集などで調べる。	120分
3	9/28	冷戦の起源	冷戦がなぜ起こったのか、またなぜ熱戦にならなかったのか議論し、国際社会の態度を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関して、抑止と封じ込めについて説明できる。	
		事前学修	「第5章 冷戦」の第1節・第2節（p. 179-p. 201）を読み、冷戦の起源についての、伝統主義者、修正主義者、ポスト修正主義者の見解をノートにまとめる。	120分
		事後学修	抑止と封じ込めの定義を確認し、自分の言葉でノートにまとめる。	120分
4	10/5	封じ込めの実践	封じ込めの実践についてキューバ危機を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、冷戦に対する国際社会の対応を説明できる。到達目標④⑤に関連して、キューバ危機が国際社会に与えた影響を説明できる。	
		事前学修	「第5章 冷戦」の第3節・第4節（p. 201-p. 206）を読み、キューバ危機の概要をノートにまとめる。	120分
		事後学修	キューバ危機はなぜ起こったのか、なぜ衝突を回避できたのかを振り返り、ノートにまとめる。また、その後国際社会はどう変化したか、歴史的な意味を考え、ノートに知見をまとめる。	120分
5	10/12	冷戦後の軍事紛争	冷戦後、国家間の軍事衝突は少なくなったが、世界で地域紛争や内戦は起きている。国際社会が冷戦後、紛争をどのように管理しているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、国際組織による軍事介入について説明できる。	
		事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」の第1節（p. 237-p. 255）を読み、国際社会が紛争解決のためにどのような施策を行っているのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	介入について、意味を確認し、冷戦後の紛争における介入事例をノートにまとめる。	120分
6	10/19	冷戦後の世界	冷戦後の軍事紛争について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、介入と民族自決問題について説明できる。	
		事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」（p. 256-p. 274）を読み、介入とは何かをノートにまとめる。	120分
		事後学修	冷戦前と冷戦後の軍事紛争への介入の違いについての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	東ヨーロッパの現状	現在の引火点としての東ヨーロッパの情勢について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、「新しい冷戦」としての東ヨーロッパの紛争について説明できる。	
		事前学修	「第7章 現在の引火点」の第1節（p. 275-p. 288）を読み、最近の東ヨーロッパ情勢についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	東ヨーロッパに関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。	120分
8	11/9	近東と中東の現状 中間テスト	現在の引火点としての近東と中東情勢を解説する。また、中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、イスラエル、イラン、アフガニスタン、シリア、イエメンなどの情勢について説明できる。	
		事前学修	「第7章 現在の引火点」の第1節・第2節・第3節（p. 288-p. 338）を読み、最近の中東、近東及びアジア情勢をノートにまとめる。 第1回から第7回の復習をしておく。	120分
		事後学修	近東、中東、アジアに関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。	120分
9	11/16	グローバリゼーション	グローバリゼーションと相互依存の概念について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションと相互依存の概念について説明できる。	
		事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」の第1節（p. 339-p. 347）を読み、21世紀のグローバリゼーションの意味をノートにまとめる。	120分
		事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
10	11/23	グローバリゼーションへの対応	グローバリゼーションがもたらす政治的態度と反グローバリゼーションについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、反グローバリゼーションの考え方について説明できる。	
		事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」の第2節・第3節（p. 347-p. 374）を複合的相互依存の意味をノートにまとめる。	120分
		事後学修	相互依存の源泉・利益・コスト・対称性などについての知見をノートにまとめる。	120分
11	11/30	情報革命とパワー	近代国際社会を揺るがす情報革命とパワーについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜ情報技術の進歩がウェストファリア体制を脅かす可能性があるのか、その理由と実態について説明できる。	
		事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」の第1節（p. 375-p. 396）を読み、インターネットの意味を考えながらアラブの覚醒についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	なぜインターネットが世界政治に大きなインパクトを与えるのかの知見をノートにまとめる。	120分
12	12/7	情報革命と脱国家主体	情報革命と脱国家的主体について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、情報化時代における脱国家主体のパワーについて、テロリズムなど負の側面からも説明できる。	
		事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」の第2節（p. 396-p. 411）を読み、脱国家的テロリズムと情報革命の関係についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	21世紀的な対テロ戦争についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	新しい世界秩序	20世紀から21世紀へ、新しい世界秩序について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、20世紀から21世紀にかけての国際社会の変化について説明できる。	
		事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」の第1節（p. 413-p. 440）を読み、テキストの「5つの未来構想」をノートにまとめる。	120分
		事後学修	大量破壊兵器と安全保障の脱国家的な挑戦についての知見をノートにまとめる。	120分
14	12/21	持続可能な社会の実現	持続可能な社会を実現するための方策について検証する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、多様な理論を用いて、複雑な世界を複数の角度から分析し、未来予測をすることの重要性について説明できる。	
		事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」の第2節（p. 440-p. 453）を、新しい世界秩序の意味を考えながら読み、今後の世界で起こりうることをノートにまとめる。	120分
		事後学修	今日の世界における様々な問題を整理し、新しい世界秩序についての知見をノートにまとめる。	120分
15	1/18	講義から得られた知見と講評	今期のできごとのレビュー及び3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考える思考の実験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考えることができる。	
		事前学修	第1回から第14回までに学んだことをノートを読みながら振り返る。	120分
		事後学修	世界で起こっている現在の問題の今後を、後期で学んだ歴史的事実から類推してノートにまとめる。	120分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式を基本とする。ただし、必要に応じ、映像を紹介し、国際関係の流れ、および、日本外交について、適宜、説明を加える方法をとる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の講評を、後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
米軍基地権と日米密約	信夫隆司	岩波書店	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 1 2：2 0～1 2：5 0。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	国際関係史の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、国際関係史を学修する意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際関係史を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	講義の概要を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	第一部 月9/21	ベルリンの壁構築	ベルリンの壁構築について考察する。ベルリンの壁は、どこに、なぜつくられたのかを明らかにする。さらに、東西冷戦において、ベルリンの壁が構築された意味を分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ベルリンの壁が、いつ、どこに、なぜつくられたのかを説明できる。	
		事前学修	1961年8月、東西冷戦を象徴するベルリンの壁の構築が始まる。ベルリンの壁はなぜつくられたのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	ベルリンの壁はどこにつくられたのかを確認する。また、ベルリンの壁は、なんのためにつくられたのかをノートに整理する。	120分
3	第一部 月9/28	キューバ危機（1）	キューバ危機はなぜ起こったのか、この危機はどのような経緯をたどったのかを考察する。とくに、ケネディ大統領、フルシチョフ首相、カストロ首相は何を考えていたのかを明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、キューバ危機はなぜ起こったのかを説明できる。	
		事前学修	1962年10月に起こったキューバ危機は、第三次世界大戦にもっとも近づいた出来事として知られている。キューバ危機とはいかなるものであったのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	キューバ危機はなぜ起こったのか、および、キューバ危機の経緯についてノートにまとめる。	120分
4	第一部 月10/5	キューバ危機（2）	キューバ危機はなぜ回避されたのかを中心に考察する。また、このキューバ危機によって、結局、核兵器は使えない兵器であることが明らかになる。キューバ危機の国際政治への影響とは何だったのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、キューバ危機が回避された要因、および、キューバ危機の国際政治への影響を説明できる。	
		事前学修	キューバ危機は、幸いなことに、第三次世界大戦に至らず、終結した。なぜ危機は回避されたのかを調べ、ノートにまとめる。	90分
		事後学修	キューバ危機はどのように回避されたのかをノートに整理する。また、キューバ危機が起こったことによって、その後の国際政治への影響を調べ、ノートにまとめる。	150分
5	第一部 月10/12	小笠原返還	1968年の小笠原返還交渉時に、返還後の小笠原に核を持ち込む密約が日米間で交わされたといわれる。そこで、この小笠原核持ち込み密約とは何かを明らかにする。また、小笠原返還をめぐる日米間の交渉の経緯を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、小笠原返還密約とは何かを説明できる。	
		事前学修	第四章小笠原返還の「一. 小笠原返還密約」、および、「二. 小笠原返還の経緯」を読み、小笠原返還の概要について調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	小笠原核持ち込み密約といわれるものは何か、および、小笠原返還交渉の経緯をノートにまとめる。	120分
6	第一部 月10/19	小笠原返還協定	小笠原返還協定の締結にあたって、「討議の記録」および「口頭発言」といった文書が、日米間で作成されている。これらの文書の意味を中心に、核持ち込み問題が日米間でどのように議論されたのかを明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、小笠原返還協定の内容を、付属文書を含め、説明できる。	
		事前学修	第四章小笠原返還の「三. 小笠原返還に関する文書」、および、「四. 「討議の記録」「口頭発言」作成の経緯」を読み、とくに、「討議の記録」および「口頭発言」とは何かをノートに整理する。	120分
		事後学修	「討議の記録」と「口頭発言」の違いは何かを明らかにし、小笠原核持ち込み密約は存在したのかについて、知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	小笠原返還と非核三原則	小笠原返還交渉の過程で、三木外務大臣は非核三原則をどのようにとらえていたのかを明らかにする。また、小笠原返還密約は存在していたのか、沖縄返還時の核密約との関連で考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤の関連で、小笠原返還交渉で、非核三原則が示されることを説明できる。	
		事前学修	第四章小笠原返還の「五. 三木外務大臣の国会答弁」、および、「六. 小笠原返還の教訓」を読み、小笠原返還交渉にあたって、当時の三木武夫外務大臣が非核三原則についてどのように考えていたのかを調べ、ノートにまとめる。	90分
		事後学修	小笠原核持ち込み密約と沖縄核持ち込み密約とを比較し、これらは本当に密約といえるのか、知見をノートにまとめる。	150分
8	第一部 月11/9	沖縄返還時の施設・区域	1972年5月、沖縄は本土に復帰した。沖縄には多くの施設・区域（米軍基地）が存在していた。そのため、その施設・区域を返還後も米側が使用したいとする場合、多くの問題が生じた。この施設・区域の問題点を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関連で、沖縄返還時、いかなる施設・区域の問題があったのかを説明できる。	
		事前学修	第五章沖縄返還の「一. 沖縄返還の諸問題」、「二. 施設・区域をめぐる攻防」、および、「三. 那覇空港の返還とP3移転」を読み、沖縄返還にあたって、施設・区域（米軍基地）の問題点をノートに整理する。	120分
		事後学修	沖縄返還にあたって、施設・区域の問題としてどのようなものがあったのかをノートにまとめる。	120分
9	第一部 月11/16	沖縄核持ち込み密約	沖縄返還交渉において、返還後の沖縄への核持ち込み問題がどのように決着したのかを明らかにする。また、佐藤総理の密使を務めた若泉敬と、ニクソン大統領の安全保障問題担当の大統領補佐官であったキッシンジャーとの交渉の経緯も考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤の関連で、沖縄核持ち込み密約とは何だったのかを説明できる。	
		事前学修	返還後の沖縄への核持ち込み問題について調べる。この問題では、若泉敬という佐藤総理の密使が重要な役割を果たした。若泉敬は沖縄返還交渉においていかなる役割を果たしたのかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	若泉敬とキッシンジャー補佐官との交渉の経緯をノートに整理する。沖縄核持ち込み密約とはいかなるものであったのかをノートにまとめる。	150分
10	第一部 月11/23	沖縄の施政権移行期の密約	1969年11月の佐藤・ニクソン会談で、1972年中の沖縄返還が決まり、沖縄は1972年5月に本土に復帰した。ただ、施政権は、同年5月に一挙に返還されたわけではなく、徐々に施政権の移行がおこなわれた。この施政権移行期における密約について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤の関連で、沖縄の施政権移行期における密約とは何かを説明できる。	
		事前学修	第五章沖縄返還の「四. 沖縄の施政権移行期」、および、「五. 「了解覚書」での処理」を読み、沖縄の施政権移行期における密約とは何かをノートに整理する。	120分
		事後学修	施政権移行期の密約とは何であったのか、その意味は何か、知見を含め、ノートに整理する。	120分
11	第一部 月11/30	伊江島事件の概要	伊江島事件の概要を明らかにするとともに、ロック軍曹が所属する第五空軍が、当初、どのような決定を下したのか、また、なぜそのような決定を下したのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、伊江島事件の概要を説明できる。	
		事前学修	第六章伊江島事件の「一. 伊江島事件の概要」、および、「二. 第五空軍の決定」を読み、伊江島事件はどのようなものであったのか、当初、信号銃を発射したロック軍曹の裁判権はどうなったのかをノートに整理する。	120分
		事後学修	伊江島事件はどのような事件だったのか、この事件への知見を含め、ノートに整理する。	120分
12	第一部 月12/7	伊江島事件の経緯	第五空軍は、ロック軍曹に対する裁判権を行使せずとの決定を覆し、結局、裁判権を行使する旨を日本側に伝えた。そのため、この件めぐり、日米合同委員会および刑事裁判権分科委員会で、長期間にわたり、協議がおこなわれる。この協議の経緯を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、合同委員会および刑事裁判権分科委員会における伊江島事件の経緯を説明できる。	
		事前学修	第六章伊江島事件の「三. 決定の撤回」、および、「四. 日米合同委員会および刑事裁判権分科委員会」を読み、伊江島事件はどのような推移をたどったのかをノートに整理する。	120分
		事後学修	伊江島事件をめぐって、日米合同委員会および刑事裁判権分科委員会でどのような議論が行われたのかをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	伊江島事件の決着	日本側はなぜロック軍曹に対する裁判権を行使せずとの決定にいたったのかを明らかにする。また、伊江島事件とジラード事件との違いについても考察する。さらに、自衛隊の海外派兵が可能になった今日、この伊江島事件はどのような意味を持っているのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、伊江島事件がどのように決着したのかを説明できる。	
		事前学修	第六章伊江島事件の「五. 裁判権を行使せず」、および、「六. 伊江島事件から今日の課題」を読み、なぜ日本側がロックに対する裁判権を行使せずとの決定にいたったのかをノートに整理する。	90分
		事後学修	伊江島事件とジラード事件との違いについて整理する。また、今日、日本は米軍の受入国だけではなく、他国への派遣国の立場でもある。受入国と派遣国の関係について知見をノートにまとめる。	150分
14	第一部 月12/21	ベルリンの壁崩壊	1989年11月のベルリンの壁崩壊を中心として、冷戦が終結していく過程を明らかにする。また、冷戦終結が、第二次世界大戦後の国際政治において、どのような意味をもっていたのかも考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、ベルリンの壁がなぜ、どのように崩壊したのかを説明できる。	
		事前学修	冷戦終結を象徴するベルリンの壁崩壊はどのように起こったのか、また、冷戦はどのようにして終結したのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ベルリンの壁崩壊の経緯を整理するとともに、冷戦の始まりから終結までの歴史的経緯をノートにまとめる。	120分
15	第一部 月1/18	日米密約を振り返る	ベルリンの壁構築から冷戦終結までの歴史的経緯を明らかにする。また、小笠原返還、沖縄返還、および、伊江島事件を振り返り、米軍基地権の全体像を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日米密約、および、冷戦の経緯を説明できる。	
		事前学修	日米密約、および、冷戦の経緯をノートにまとめる。	90分
		事後学修	日米密約、および、冷戦の経緯についての知見をノートにまとめる。	150分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅠ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際法は15世紀後半以降に西ヨーロッパで成立した法規範で、主権国家間の権利義務関係を規律する。しかし、国際法は国内法とその性質が大きく異なる。そこで、まず国際法の特質を理解した上で、その国際関係調整機能、紛争処理機能および国際社会の組織化機能、具体的には近代国際法の特質、国際法の法源、主体、国家の成立要件と権利義務、領域主権について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際社会の秩序維持に国際法が果たしている機能を理解するために、まず国際社会と国家社会の法構造の違い、近代国際法の成立と発展過程、国際法の法源および国際法と国内法の関係について説明することができる。その上で、国家の成立要件、権利義務ならびに領域主権に関する知識を修得することにより、国際問題を法的に考察する技能と態度が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
教科書にもとづいて講義する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代国際法の成立とその特質について説明することができる。					2					2		
②	国際社会における国際法の機能を説明することができる。					2					2		
③	国際法の法源の意義と相互関係について説明することができる。					2							
④	国家の成立要件と権利義務について説明することができる。					2					2		
⑤	国家の領域主権と領域取得の方式について説明することができる。					2							
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	20	25	15	15	15						90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	2	2	2	2	2						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	27	17	17	17						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXT教科書シリーズ『国際法（第3版）』	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2020	岩沢雄司	有斐閣	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分―16時00分（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
		この回の 到達目標	授業について理解する	
		事前学修	国際法に関する情報をネット等で探してみる。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考書等を確認する。	120分
2	4月17日	国際法概要	国際社会と国際法	
		この回の 到達目標	国際社会と国際法の関係について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第1章2―5頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際社会と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
3	4月24日	近代国際法	近代国際法の成立と発展	
		この回の 到達目標	近代国際法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第1章5―8頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	近代国際法の成立と発展についての授業の内容を復習する。	120分
4	5月1日	国作法の主体	国際法の主体：国家、国際組織、個人、NGO	
		この回の 到達目標	国際法の主体について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第1章9-10頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際法の主体についての授業の内容を復習する。	120分
5	5月8日	国際法と国内法	国際法と国内法の関係について	
		この回の 到達目標	国際法と国内法の関係について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第1章11-12頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際法と国内法についての授業の内容を復習する。	120分
6	5月15日	国際法の法源	国際法の法源①：条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議	
		この回の 到達目標	国際法の法源について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法以外の部分）を読んでおく。	120分
		事後学修	条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	国際慣習法	国際法の法源②：国際慣習法	
		この回の到達目標	国際法の法源としての国際慣習法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法の部分）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際慣習法についての授業の内容を復習する。	120分
8	5月29日	国家の成立要件	国際法と国家①：国家の成立要素	
		この回の到達目標	国家の成立要件について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章28-29頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国家の成立要素についての授業の内容を復習する。	120分
9	6月5日	国家承認	国際法と国家②：国家承認	
		この回の到達目標	国家承認の学説および必要性について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章29-31頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国家承認についての授業の内容を復習する。	120分
10	6月12日	政府承認	国際法と国家③：政府承認	
		この回の到達目標	政府承認とその必要性について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章32-33頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	政府承認についての授業の内容を復習する。	120分
11	6月19日	国家承継・政府承継	国際法と国家④：国家承継・政府承継	
		この回の到達目標	国家承継と政府承継について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章34-35頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国家承継・政府承継についての授業の内容を復習する。	120分
12	6月26日	国家の基本的権利義務	国家の基本的権利義務①：国家主権、主権平等、主権免除	
		この回の到達目標	国家の基本的権利義務のなかでも重要な国家主権、主権平等、それらから派生する主権免除について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章36-37頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国家主権、主権平等、主権免除についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	不干渉義務と管轄権	国家の基本的権利義務②：不干渉義務、管轄権	
		この回の到達目標	不干渉義務と管轄権について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章37-39頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	不干渉義務、管轄権についての授業の内容を復習する。	120分
14	7月10日	自衛権	国家の基本的権利義務③：自衛権	
		この回の到達目標	自衛権の理論および要件について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
15	7月17日	まとめ	まとめ：前期の総まとめ	
		この回の到達目標	前期の授業を概観する。	
		事前学修	前期の授業の内容を確認する。	120分
		事後学修	前記の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅠ	担当者	喜多 義人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際法は15世紀後半以降に西ヨーロッパで成立した法規範で、主権国家間の権利義務関係を規律する。しかし、国際法は国内法とその性質が大きく異なる。そこで、まず国際法の特質を理解した上で、その国際関係調整機能、紛争処理機能および国際社会の組織化機能、具体的には近代国際法の特質、国際法の法源、主体、国家の成立要件と権利義務、領域主権について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際社会の秩序維持に国際法が果たしている機能を理解するために、まず国際社会と国家社会の法構造の違い、近代国際法の成立と発展過程、国際法の法源および国際法と国内法の関係について説明することができる。その上で、国家の成立要件、権利義務ならびに領域主権に関する知識を修得することにより、国際問題を法的に考察する技能と態度が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代国際法の成立とその特質について説明することができる。				2					2		
②	国際社会における国際法の機能を説明することができる。				2					2		
③	国際法の法源の意義と相互関係について説明することができる。				2							
④	国家の成立要件と権利義務について説明することができる。				2					2		
⑤	国家の領域主権と領域取得の方式について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	20	25	15	15	15						90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	2	2	2	2	2						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	27	17	17	17						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出したレポートは、添削の上、コメントを付して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際法[第3版]』(Next教科書シリーズ)	渡部茂己・喜多義人編	弘文堂	2018年	教科書	必携
『国際法』第4版	浅田正彦編著	東信堂	2019年	参考書	推奨
『国際条約集 2019』	岩沢雄司編集代表	有斐閣	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：20～13：00、水曜日18:00～19:00。メールか電話で予約すること。 研究室は本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	国際法の特質と学修方法	到達目標①～⑤に関連して、学修者が国際法に興味を持てるように、国際法の特質、国際法の機能について概説するとともに、参考書の紹介、関係資料の検索方法の説明を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、国際法を学ぶ意義を理解し、学修方法を把握できるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、教科書を概観しておくこと。	120分
		事後学修	本科目と他の履修科目との関連について検討する。また、紹介した参考文献を図書館で閲覧し、その概要を把握しておくこと。	120分
2	/	近代国際法の成立とその特質	中世末期にヨーロッパで主権国家が誕生した背景を理解し、主権国家を規律する法体系として成立した近代国際法の特質と概要を解説する。さらに、20世紀に成立した現代国際法についての理解も深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代国際法の特質と国際法の諸機能を説明できるようになる。	
		事前学修	国際社会における法の機能を理解した上で、近代国際法が成立した背景を確認しておくこと。	120分
		事後学修	近代国際法の成立過程とヨーロッパ以外の地域への適用、近代国際法と現代国際法の相違点について説明できるようにする。	120分
3	/	国際法と国内法の差異	国家社会のように中央集権的権力機構を欠く国際社会では、国際法はどのような手続で定立され、適用され、執行されるのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国際社会における法(国際法)の定立、適用、執行の特殊性を説明できるようになる。	
		事前学修	国際社会と国家社会における法の定立、適用、執行の違いを理解しておくこと。	120分
		事後学修	国際法の定立、適用、執行に、国際機構や国際裁判所が果たす役割を説明できるようにする。	120分
4	/	国際法の主体	国家は国際法の能動的な法主体で、国際法上の権利義務がすべて帰属するが、受動的な法主体である国際機構と個人はいかなる範囲で権利を有し、義務を負うかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際法の主体となるべき要件を理解し、個別条約に規定された国際機構と個人の具体的権利義務について説明できるようになる。	
		事前学修	国際機構の「黙示的権能」について理解しておくこと。	120分
		事後学修	個人の国際法上の権利義務を規定した条約と、その権利義務の内容について説明できるようにする。	120分
5	/	国際法の法源(1)：国際慣習法	国際法の主要な法源である国際慣習法の成立要件を検討した上で、国際慣習法の法典化と漸進的発達について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、国際慣習法の意義と成立要件、法典化された慣習法規則について説明できるようになる。	
		事前学修	国際法の法源にはどのようなものがあるかを確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際慣習法の成立が国際裁判所で争われた事例について説明できるようにする。	120分
6	/	国際法の法源(2)：条約、法の一般原則など	条約の定義、種類および機能、法の一般原則が国際裁判で適用される理由、学説と判例の国際裁判における位置づけ、国際機構のいかなる決議が法源性を有するのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、国際慣習法以外の法源が国際裁判で適用される意義と具体例について説明できるようになる。	
		事前学修	条約と国際慣習法の関係、法の一般原則の内容について確認しておくこと。	120分
		事後学修	法の一般原則および判例・学説が国際裁判で適用された事例を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	国際法と国内法の関係	国際関係の緊密化や国際的人権保護の進展にともない、国際法が一国内で適用されるケースが増えている。そこで、いかなる手続により国際法が国内的に適用されるのかを考察するとともに、両者の規定内容が抵触した場合、いずれが優先されるかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際法が国内関係に適用されるようになった理由、適用方式および日本国憲法における国際法の地位について説明できるようになる。	
		事前学修	国際法が国内関係に適用される方式と要件について理解しておくこと。	120分
		事後学修	国際法が日本の裁判所で適用された主要な事例について説明できるようにする。	120分
8	/	国家承認	国家の成立に関する客観的要件と主観的要件、国家承認の法的性質、方式および効果等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、国家はいかなる要件を具備したとき、いかなる手続によって国際法上の主体となるのかについて説明できるようになる。	
		事前学修	国家の種類と国家の構成要素について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国家の成立要件、国家承認の方式、国際機構への加盟と国家承認との関係について説明できるようにする。	120分
9	/	政府承認	革命やクーデターにより成立した新政府に承認という手続がなぜ必要か、また政府承認の要件について解説した上で、近年多くの国が採用している政府承認廃止政策について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、政府承認の意義および要件、なぜ近年政府承認を廃止する国が増えたかについて説明できるようにする。	
		事前学修	新政府の成立要件、政府承認の意義について確認しておくこと。	120分
		事後学修	政府承認に関する近年の国家実行、国家承認との違いについて説明できるようにする。	120分
10	/	国家の権利 主権免除	義務(1)：主権、国家の基本的権利義務のうちで最も重要な国家主権について考察した上で、そこから派生する平等権、主権免除について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、国家平等権が反映された国際制度、および裁判権免除の意義と要件について説明できるようになる。	
		事前学修	国家の基本的権利義務にはどのようなものがあるかを理解しておくこと。	120分
		事後学修	日本の裁判所で、外国の行為に対する裁判権が免除された事例について説明できるようにする。	120分
11	/	国家の権利 自衛権	義務(2)：個別的自衛権の一類型である個別的自衛権の概念および行使要件を検討し、さらに国連憲章51条の自衛権規定と伝統的な自衛権との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、自衛権の現代的意義および行使要件、事例について説明できるようになる。	
		事前学修	自衛権の概念および行使要件について理解しておくこと。	120分
		事後学修	日本政府の自衛権行使に関する見解について説明できるようにする。	120分
12	/	国家の権利 自衛権	義務(3)：集団的自衛権の概念、成立経緯、発動要件について解説し、この権利が争点となったニカラグア事件国際司法裁判所判決について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、集団的自衛権が国連憲章に規定された経緯と、発動要件および問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	集団的自衛権の概念とその法的性質について理解しておくこと。	120分
		事後学修	集団的自衛権が主張された事例について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国家の権利義務(4)：不干渉義務	国内問題とは何かを明らかにした上で、合法的干渉、特に人道的干渉について考察し、さらに国際機構と不干渉義務との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、干渉が禁止される「国内問題」の範囲および近年注目されている人道的干渉の問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	「国内問題」とされる事項の変遷について理解しておくこと。	120分
		事後学修	人道的干渉を理由に行なわれた武力行使の事例を説明できるようにする。	120分
14	/	国家の領域	領域主権の法的性質、領域主権に関する国家の義務について考察した上で、領土、領海および領空の法的地位、特に領空の範囲と領空侵犯について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、領土、領海、領空の範囲とその法的地位について説明できるようになる。	
		事前学修	領土、領海、領空の法的地位について確認しておくこと。	120分
		事後学修	領土と領海に関する主権に対して、国際法上どのような制約があるかを説明できるようにする。	120分
15	/	国家領域の取得方式	領域権原に関して、いずれの国にも属さない無主地を自国領土に編入する先占と添付、いずれかの国の領土の一部または全部を編入する割譲、併合、征服、時効について、事例をもとに解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、領域取得の方式とそれぞれの事例について説明できるようになる。	
		事前学修	先占の要件と事例を確認しておくこと。	120分
		事後学修	領域取得に関する主要な事例について説明できるようにする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際関係法〔公法系〕AⅠで学んだことをもとに、日本の領土問題のほか、主要な国際法制度に関する理解を深める。すなわち、安全保障および資源確保上重要な海洋に関する法制度、外交領事機関の任務と特権免除、外国人の地位、難民の保護、人権の国際的保障、国際犯罪と処罰制度、国際機構の機能と限界、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係に安定と発展をもたらしている国際法の諸制度について理解するために、まず海洋および外交領事機関の法的地位、難民の保護、人権条約の履行確保制度に関する知識を修得する。さらに、国際犯罪、国家責任等に関する知識を充実させることにより、国家の行動を法的に評価できる能力が身につく。また、領土問題について事実関係と日本の立場を説明できるようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の領土問題の事実関係と双方の主張について説明することができる。				2					2		
②	海洋を区分し、それぞれにおける沿岸国の権利義務について説明することができる。				2					2		
③	外交官と領事の任務、不可侵権、特権免除と、その違いについて説明することができる。				2					2		
④	国際社会における人権保護制度について、関連条約を挙げて説明することができる。				2					2		
⑤	国際機構の発展と加盟国の地位、国際犯罪の概念と処罰制度、国家の国際責任の成立要件と解除方法について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	20	20	15	20	15						90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	2	2	2	2	2						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	22	17	22	17						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXT教科書シリーズ『国際法（第3版）』	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2020	岩沢雄司	有斐閣	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時（事前にメールでアポイントメントを取るこ）研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	国際法の後期分概要 導入講義	授業の説明	
		この回の 到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
		事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	9月25日	国際法と領域	国家の領域①：領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式	
		この回の 到達目標	国際法における領域の重要性と領域取得の方法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第6章67～76頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式についての授業の内容を復習する。	120分
3	10月2日	領土問題	国家の領域②：日本の領土問題	
		この回の 到達目標	領土問題の具体例として、日本の領土問題を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第6章76～81頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	日本の領土問題についての授業の内容を復習する。	120分
4	10月9日	海洋法の歴史	海洋法①：歴史的展開	
		この回の 到達目標	海洋法で重要な歴史的な経緯を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第7章84～85頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	海洋法の歴史的展開についての授業の内容を復習する。	120分
5	10月16日	海洋法の構造	海洋法②：海洋法の具体的な構造	
		この回の 到達目標	内水、領海、特殊な地域、EEZ、大陸棚、深海底について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第7章86～95頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	海洋法の構造についての授業の内容を復習する。	120分
6	10月23日	海洋に関する紛争解決	海洋法③：海洋境界の画定と紛争の解決	
		この回の 到達目標	海洋についての境界画定の方法と紛争の解決方法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第7章96～99頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	海洋境界の画定と紛争の解決についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	国際広域	国際公域：国際河川、運河、南極、宇宙	
		この回の到達目標	どこの国にも属さない国際広域について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第8章）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際公域についての授業の内容を復習する。	120分
8	11月6日	外交関係法	外交関係と国際法：外交使節と領事使節	
		この回の到達目標	外交と領事に関する国際法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。	120分
		事後学修	外交関係と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
9	11月13日	条約法	条約法としてのウィーン条約法条約	
		この回の到達目標	ウィーン条約法条約について理解する	
		事前学修	教科書の該当部分（第13章）を読んでおく。	120分
		事後学修	条約法についての授業の内容を復習する。	120分
10	11月20日	国際人権法	国際法と個人：人権	
		この回の到達目標	戦後発展した国際人権法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第9章）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際法と個人についての授業の内容を復習する。	120分
11	11月27日	国際環境法	国際法と地球環境	
		この回の到達目標	国際環境法を地球温暖化防止条約を中心に理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第10章）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際法と地球環境についての授業の内容を復習する。	120分
12	12月4日	国際経済法	国際法と国際経済	
		この回の到達目標	GATT/WTOと地域経済協定について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第11章）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際法と国際経済についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	国際機構法	国際法と国際機構	
		この回の到達目標	特に国連と国連憲章について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第12章）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際法と国際機構についての授業の内容を復習する。	120分
14	12月18日	国際責任	国家の国際責任	
		この回の到達目標	国家の行為についての責任について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。	120分
		事後学修	国家の国際責任についての授業の内容を復習する。	120分
15	12月25日	後期授業概要	後期まとめ	
		この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
		事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
		事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	喜多 義人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際関係法〔公法系〕AⅠで学んだことをもとに、日本の領土問題のほか、主要な国際法制度に関する理解を深める。すなわち、安全保障および資源確保上重要な海洋に関する法制度、外交領事機関の任務と特権免除、外国人の地位、難民の保護、人権の国際的保障、国際犯罪と処罰制度、国際機構の機能と限界、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係に安定と発展をもたらしている国際法の諸制度について理解するために、まず海洋および外交領事機関の法的地位、難民の保護、人権条約の履行確保制度に関する知識を修得する。さらに、国際犯罪、国家責任等に関する知識を充実させることにより、国家の行動を法的に評価できる能力が身につく。また、領土問題について事実関係と日本の立場を説明できるようになる。

【履修条件】
なし。国際関係法〔公法系〕AⅠを受講していることが望ましい。

【授業方法】
教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の領土問題の事実関係と双方の主張について説明することができる。						2					2		
②	海洋を区分し、それぞれにおける沿岸国の権利義務について説明することができる。						2					2		
③	外交官と領事の任務、不可侵権、特権免除と、その違いについて説明することができる。						2					2		
④	国際社会における人権保護制度について、関連条約を挙げて説明することができる。						2					2		
⑤	国際機構の発展と加盟国の地位、国際犯罪の概念と処罰制度、国家の国際責任の成立要件と解除方法について説明することができる。						2							
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	20	20	15	20	15						90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	2	2	2	2	2						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	22	17	22	17						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出したレポートは添削の上、コメントを付して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際法[第3版]』(Next教科書シリーズ)	渡部茂己・喜多義人編	弘文堂	2018年	教科書	必携
『国際法』第4版	浅田正彦編著	東信堂	2019年	参考書	推奨
『国際条約集 2019』	岩沢雄司編集代表	有斐閣	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：20～13：00、水曜日18：00～19：00。メールか電話で予約すること。研究室は本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	日本の領土問題(1)：北方領土	北方領土問題の歴史的経緯を確認した上で、国際法上の争点、日露双方の主張について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、北方領土に関する条約および国際文書の解釈と有効性、日露双方の主張を説明できるようになる。	
		事前学修	北方領土問題に関する条約、国際文書を確認しておくこと。	120分
		事後学修	日露双方の主張の根拠となっている事実関係について説明できるようにする。	120分
2	/	日本の領土問題(2)：尖閣諸島	尖閣諸島問題の歴史的経緯を確認した上で、国際法上の争点、日中双方の主張について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本による尖閣諸島の実効的占有と中国側の主張の問題点について説明することができる。	
		事前学修	尖閣諸島問題の争点を確認しておくこと。	120分
		事後学修	日中双方の主張の根拠となっている事実関係について説明できるようにする。	120分
3	/	日本の領土問題(3)：竹島	竹島問題の歴史的経緯を確認した上で、国際法上の争点、日韓双方の主張について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、竹島をめぐる日韓双方の主張の根拠について説明できるようになる。	
		事前学修	竹島問題の争点を確認しておくこと。	120分
		事後学修	日韓双方の主張の根拠となっている事実関係について説明できるようにする。	120分
4	/	海洋法(1)：海洋法の歴史、海洋の区分	海洋法の形成と発展過程を概観した上で、内水と湾、群島水域の法的地位について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、海洋法の形成と発展、海洋の区分について説明できるようになる。	
		事前学修	海洋法が形成された背景と海洋の区分について理解しておくこと。	120分
		事後学修	海洋法の法典化過程と、国連海洋法条約で採用された新たな制度について説明できるようにする。	120分
5	/	海洋法(2)：領海、公海、国際海峡	領海の法的地位、特に外国船舶の無害通航権および公海における国家の管轄権、国際海峡の通航制度について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、領海における沿岸国の権利義務、領海および国際海峡の通航制度、国家が公海への管轄権行使を認められる場合について説明できるようになる。	
		事前学修	領海と公海の法的地位について確認しておくこと。	120分
		事後学修	領海および国際海峡における軍艦の通航権について説明できるようにする。	120分
6	/	海洋法(3)：排他的経済水域、大陸棚、深海底	排他的経済水域、大陸棚、深海底の法的地位および資源開発制度について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、排他的経済水域、大陸棚における沿岸国の権利、深海底の開発制度について説明できるようになる。	
		事前学修	排他的経済水域、大陸棚および深海底の法的地位について確認しておくこと。	120分
		事後学修	排他的経済水域内での漁業に関する沿岸国の権利義務について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	外交・領事関係法(1)：外交使節	外交使節の任務、階級、構成員について理解した上で、公館の不可侵権および外交官の特権免除について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、外交使節の任務、不可侵権、特権免除について、具体的に説明できるようになる。	
		事前学修	外交関係に関するウィーン条約の構成と内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	外交特権について説明できるようにする。	120分
8	/	外交・領事関係法(2)：領事機関	領事機関の任務、階級、構成員、領事館の不可侵権および領事官の特権免除のほか、国家元首および外務大臣の特権免除、外国軍隊の法的地位について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、領事官の任務、不可侵権、特権免除を、外交官のそれと比較して説明できるようになる。	
		事前学修	領事関係に関するウィーン条約の構成と内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	外国元首および外国軍隊の特権免除について説明できるようにする。	120分
9	/	国際法における個人(1)：国籍、外国人の法的地位、犯罪人の引き渡し	国籍の意義と効果、国籍付与の基準、国籍が抵触した場合の措置について理解するとともに、外国人の出入国、滞在国における権利義務、犯罪人引渡しの意義と諸原則について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、国籍の意義と付与の基準、および犯罪人引渡しに関する諸原則について説明できるようになる。	
		事前学修	国籍が抵触する原因と、抵触により生じる不都合について確認しておくこと。	120分
		事後学修	政治犯罪人不引渡しの原則と、日本においてこの原則が問題になった事例を説明できるようにする。	120分
10	/	国際法における個人(2)：難民	難民の定義を確認した上で、難民条約上の締約国の義務、日本の難民政策について解説し、さらに亡命者の庇護権について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、難民の定義および法的地位について説明できるようになる。	
		事前学修	難民保護制度の発展について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国連難民高等弁務官事務所の活動について説明できるようにする。	120分
11	/	国際法における個人(3)：国際人権条約の履行確保制度	国際人権法の発展過程と主要な人権条約の概要を確認した上で、人権条約の国際的履行確保制度について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、主要な人権条約の履行確保制度の現状と問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	人権の国際的保護の進展について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際人権規約の履行確保制度について説明できるようにする。	120分
12	/	国際犯罪	国際犯罪の概念と類型、国際的規制犯罪と国際法上の犯罪について理解した上で、国際刑事裁判所の設立、対象犯罪、管轄権について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、国際刑事裁判所の組織構造、対象犯罪、管轄権行使の条件について説明できるようになる。	
		事前学修	国際犯罪の概念、その防止および処罰に関する条約について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際刑事裁判所の管轄権行使の条件について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国際機構	国際機構の発展過程を概観した上で、最も重要な国際機構である国際連合の目的および基本原則、組織構造、権限、加盟国の権利義務および意思決定について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、国際連合の主要機関の任務と権限について説明できるようになる。	
		事前学修	国際機構の定義と種類について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際連合総会と安全保障理事会の平和維持に関する権限関係について説明できるようにする。	120分
14	/	条約法	条約の締結手続、解釈原則、留保制度、無効原因と終了原因について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、条約の締結手続、無効、終了、運用停止の原因について、事例を挙げて説明できるようになる。	
		事前学修	条約の締結手続について確認しておくこと。	120分
		事後学修	条約の無効および終了が主張された事例について説明できるようにする。	120分
15	/	国家責任法	国家責任の発生要件、違法性阻却事由および責任解除の方法について考察し、さらに国家責任の追及方法としての外交保護権について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、国家責任の発生および解除について、事例を挙げて説明できるようになる。	
		事前学修	国際法上の国家責任の意味を確認しておくこと。	120分
		事後学修	会社に対する外交保護権の行使要件と関係事例について説明できるようにする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅠ	担当者	喜多 義人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際紛争はいかなる手続で解決されるのか。また、国家はいかなる手段で自国の領土と政治的独立を保全するのか。戦争の違法化の過程を概観した上で、国際紛争を平和的に解決するための非裁判手続(政治的手続)と裁判手続(司法裁判)のほか、復讐(対抗措置)、自衛、戦争などの強力的解決手続について学修する。また、集団安全保障制度と国際連合の平和維持活動(PKO)に関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際紛争の解決制度および国際平和の維持制度を理解するために、まず国際紛争解決のための非裁判手続、国際連盟と国際連合の紛争解決制度、国際裁判手続に関する知識を充実させる。さらに、集団安全保障制度の理念と現状を認識し、PKO創設の背景と発展について理解することにより、国際平和を実現するための国際法制度を説明できる能力が身につくようになる。

【履修条件】
特になし。国際関係法〔公法系〕AⅠⅡを履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	古代から現代に至る戦争観の変遷、とくに戦争の違法化について説明することができる。					3							
②	国際紛争解決に関する非裁判手続について、事例を挙げて説明することができる。					3					3		
③	国際裁判の管轄権、訴訟手続、判決の履行および日本が当事国となった事例について説明することができる。					3					3		
④	個別のおよび集団的自衛権の意義と発動要件、事例について説明することができる。					3							
⑤	国連の集団安全保障制度と平和維持活動の概要、問題点について説明することができる。					3					3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	15	15	20	15	15						80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		19	19	24	19	19						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出したレポートは添削の上、コメントを付して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際法[第3版]』(Next教科書シリーズ)	渡部茂己・喜多義人編	弘文堂	2019年	教科書	必携
『国際法学講義』第2版	杉原高嶺	有斐閣	2013年	参考書	任意
『国際条約集 2019』	岩沢雄司編集代表	有斐閣	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日18：00～19：00、木曜日10：30～11：30（メールか電話で予約すること）。研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	国際紛争解決法・国際人道法の学修方法	到達目標①～⑤に関連して、学修者が国際法に興味を持てるように、国際社会の紛争解決制度および戦争のルールについて概説するとともに、参考書の紹介、関係資料の検索方法の説明を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、国際法を学ぶ意義を理解し、学修方法を把握できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を概観しておくこと。	120分
		事後学修	本科目と他の履修科目との関連について検討する。また、紹介した参考文献を図書館で閲覧し、その概要を把握しておくこと。	120分
2	/	戦争の違法化	古代・中世の正戦論から近世の無差別戦争観、さらに現代の戦争違法観へ至る戦争観の変遷について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦争違法化の過程とその背景について説明できるようになる。	
		事前学修	国際社会でなぜ戦争に関する考え方が変化していったかについて理解しておくこと。	120分
		事後学修	戦争を制限または違法化した条約について説明できるようにする。	120分
3	/	国際紛争の和平的解決手続(1)：交渉、周旋、仲介、審査、調停	平和的解決手続のうち、非裁判手続に分類される交渉、周旋、仲介、審査、調停について、関連条約と事例にもとづき解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、非裁判手続それぞれの長所と短所、それによって紛争が解決された事例について説明できるようになる。	
		事前学修	紛争の平和的解決手続にはどのようなものがあるかを確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本が当事国となった紛争が、非裁判手続によって解決された事例を説明できるようにする。	120分
4	/	国際紛争の和平的解決手続(2)：国際連盟の紛争解決手続	国際連盟の総会および理事会の紛争解決手続について解説し、それらが適用された紛争について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際連盟の紛争解決手続とその問題点、それが適用された事例について説明できるようになる。	
		事前学修	国際連盟の目的、内部機関とその権限、意思決定手続について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際連盟の紛争解決手続の問題点について説明できるようにする。	120分
5	/	国際紛争の平和的解決手続(3)：国際連合、地域的機構の紛争解決手続	国際連合憲章の紛争の平和的解決義務を確認した上で、紛争解決に関する安全保障理事会、総会および事務総長の任務と権限について解説する。また、地域的国際機構の紛争解決手続について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際連合による紛争解決のメカニズムと、それが適用された事例について説明できるようになる。	
		事前学修	国連憲章第6章が規定する紛争解決手続を確認しておくこと。	120分
		事後学修	事務総長の任務と権限、関与した紛争について説明できるようにする。	120分
6	/	国際紛争の和平的解決手続(4)：国際裁判①国際裁判の特質	国際裁判と国内裁判の差異を理解した上で、仲裁裁判から常設仲裁裁判所、常設国際司法裁判所、国際司法裁判所に至る国際裁判の発展について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、国際裁判の特質と発展過程について説明できるようになる。	
		事前学修	常設仲裁裁判所の設立条約、組織構造、裁判官の指名および訴訟手続を確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際裁判に特有の制度について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	国際紛争の平和的解決手続(5)：国際裁判②国際司法裁判所	国際司法裁判所の裁判官資格と選任手続、特任裁判官制度、管轄権の行使要件、先決的抗弁、仮保全措置、再審制度等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、国際司法裁判所の管轄権が行使されるための条件について説明できるようになる。	
		事前学修	国際司法裁判所規程第36条2項の「選択条項」について理解しておくこと。	120分
		事後学修	国際司法裁判所の訴訟手続について説明できるようにする。	120分
8	/	国際紛争の平和的解決手続(6)：国際裁判③日本と国際裁判	日本が国際裁判の当事国となったマリア・ルース号事件（仲裁裁判）、家屋税事件（常設仲裁裁判所）、みなみマグロ事件（仲裁裁判）、南極海調査捕鯨事件（国際司法裁判所）について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本が当事国となった事件の事実関係と争点、判決について説明できるようになる。	
		事前学修	日本が当事国となった事件の概要を確認しておくこと。	120分
		事後学修	南極海調査捕鯨事件について説明できるようにする。	120分
9	/	国際紛争の強力的解決手続(1)：復仇、戦争	相手国の違法行為を停止させ、救済を得ることを目的とする復仇(対抗措置)の要件を考察するとともに、戦争の法的性質、復仇および自衛との違い、戦争の意義と効果等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、復仇の意義と要件、復仇として禁止される行為について説明できるようになる。	
		事前学修	国際社会ではなぜ、紛争が強力的手続によって解決されることがあるのかを理解しておくこと。	120分
		事後学修	復仇の事例について説明できるようにする。	120分
10	/	国際紛争の強力的解決手続(2)：自衛①(個別的自衛権)	個別的自衛権の意義を理解した上で、発動要件を検討し、さらに国連憲章51条の自衛権規定と伝統的な自衛権との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、自衛権の現代的意義および行使要件、事例について説明できるようになる。	
		事前学修	自衛権の意義および発動要件について確認しておくこと。	120分
		事後学修	自衛権と緊急避難の違いを、事例を挙げて説明できるようにする。	120分
11	/	国際紛争の強力的解決手続(3)：自衛②(集団的自衛権)	集団的自衛権の概念、成立経緯、発動要件について解説した上で、この権利が争点となった国際判例について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、集団的自衛権が国連憲章に規定された経緯と、発動要件および問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	集団的自衛権の概念とその法的性質について確認しておくこと。	120分
		事後学修	集団的自衛権が主張された事例について説明できるようにする。	120分
12	/	国際安全保障制度(1)：勢力均衡方式と集団安全保障制度	第一次世界大戦以前の勢力均衡方式と、戦後、国際連盟ではじめて採用された集団安全保障制度について解説した上で、国際連盟の集団安全保障制度とその問題点について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、国家がその領土と政治的独立を保全するための国際制度について説明できるようになる。	
		事前学修	集団安全保障制度について理解しておくこと。	120分
		事後学修	国際連盟が第二次世界大戦の防止に失敗した理由を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国際安全保障制度(2)：国際連合の集団安全保障制度	国際平和の維持に関する安全保障理事会の権限と行動、この制度の問題点および総会の権限について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、国際連合の集団安全保障制度の理念と現実について説明できるようになる。	
		事前学修	国連憲章第7章の下での安全保障理事会の行動について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国連憲章第7章の非軍事的措置、軍事的措置にはどのようなものがあるかを説明できるようにする。	120分
14	/	国連の平和維持活動(1)：PKOの設立と国連憲章上の根拠	冷戦期におけるPKOの設立と国連憲章上の根拠、基本原則について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、PKOの概念、設立経緯、基本原則について説明できるようになる。	
		事前学修	PKOの設立経緯と基本原則について確認しておくこと。	120分
		事後学修	PKO、国連軍、多国籍軍の相違点について説明できるようにする。	120分
15	/	国連の平和維持活動(2)：PKOの変容、日本とPKO	冷戦後に設立された新たなPKOの類型について考察するとともに、日本のPKO参加にともなう諸問題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、冷戦後のPKOの変容、たとえば武力行使の授権、任務の多様化等について、その背景と具体例を説明できるようになる。	
		事前学修	ガリ国連事務総長のPKO強化案(1992年)について確認しておくこと。	120分
		事後学修	冷戦後のいわゆる「平和強制型PKO」、「平和構築型PKO」および「強化されたPKO」について、具体例を挙げて説明できるようにする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅠ	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際紛争はいかなる手続で解決されるのか。また、国家はいかなる手段で自国の領土と政治的独立を保全するのか。戦争の違法化の過程を概観した上で、国際紛争を平和的に解決するための非裁判手続(政治的手続)と裁判手続(司法裁判)のほか、復讐(対抗措置)、自衛、戦争などの強力的解決手続について学修する。また、集団安全保障制度と国際連合の平和維持活動(PKO)に関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際紛争の解決制度および国際平和の維持制度を理解するために、まず国際紛争解決のための非裁判手続、国際連盟と国際連合の紛争解決制度、国際裁判手続に関する知識を充実させる。さらに、集団安全保障制度の理念と現状を認識し、PKO創設の背景と発展について理解することにより、国際平和を実現するための国際法制度を説明できる能力が身につくようになる。

【履修条件】
国際法Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	古代から現代に至る戦争観の変遷、とくに戦争の違法化について説明することができる。				3							
②	国際紛争解決に関する非裁判手続について、事例を挙げて説明することができる。				3					3		
③	国際裁判の管轄権、訴訟手続、判決の履行および日本が当事国となった事例について説明することができる。				3					3		
④	個別的小および集団的小の自衛権の意義と発動要件、事例について説明することができる。				3							
⑤	国連の集団安全保障制度と平和維持活動の概要、問題点について説明することができる。				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	15	15	20	15	15						80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		19	19	24	19	19						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXTシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2018	岩沢雄司	有斐閣	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分―16時00分（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
		この回の 到達目標	授業の概要について把握する。	
		事前学修	世界で発生している戦争について調べてみる。	120分
		事後学修	授業で紹介された参考書等を確認しておく。	120分
2	4月16日	戦争の違法化	戦争の違法化の歴史的経緯	
		この回の 到達目標	戦争の違法化の経緯を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第14章198頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	戦争の違法化についての授業の内容を復習する。	120分
3	4月23日	自衛権	国連憲章と自衛権の要件	
		この回の 到達目標	自衛権の要件を、国連憲章と慣習法の観点から理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
4	4月30日	非裁判的手続	国際紛争の平和的解決①：非裁判的手続き	
		この回の 到達目標	国連憲章における非裁判的手続きについて理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第14章199－202頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	非裁判的手続きについての授業の内容を復習する。	120分
5	5月7日	国際裁判	国際紛争の平和的解決②：裁判手続	
		この回の 到達目標	国連憲章における裁判手続について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第14章202－208頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	裁判手続についての授業の内容を復習する。	120分
6	5月14日	日本と国際裁判	国際紛争の平和的解決③：我が国と国際司法裁判所	
		この回の 到達目標	我が国が関わった国際裁判について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第7章99－100頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	我が国と国際司法裁判所についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月21日	国際安全保障の歴史的経緯	国際安全保障①：正戦論から集団安全保障へ	
		この回の到達目標	中世の正戦論から現在の集団安全保障までの経緯を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第15章212-214頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	正戦論から集団安全保障までについての授業の内容を復習する。	120分
8	5月28日	集団安全保障	国際安全保障②：国際連盟と国際連合の集団安全保障	
		この回の到達目標	国際連盟と国際連合の集団安全保障制度の違いについて理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第15章214-216頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際連盟と国際連合の安全保障についての授業の内容を復習する。	120分
9	6月4日	国連の集団安全保障制度	国際安全保障③：国際連合の集団安全保障制度の変遷	
		この回の到達目標	国連憲章下における集団安全保障制度の変遷について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第15章217-228頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際連合の集団安全保障制度の変遷についての授業の内容を復習する。	120分
10	6月11日	PKO	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結まで	
		この回の到達目標	PKOについて、その発生から現在までを理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第15章228-233頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結までについての授業の内容を復習する。	120分
11	6月18日	軍備に関する国際法	軍備管理と軍縮	
		この回の到達目標	とくに軍備の規制・禁止に関する国際法について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第15章233-237頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	軍備管理と軍縮についての授業の内容を復習する。	120分
12	6月25日	国際人道法の基本的事項	国際人道法①：歴史と基本的事項	
		この回の到達目標	国際人道法の歴史と基本的事項について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章240-245頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際人道法の歴史と基本的事項についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	国際人道法の諸原則	国際人道法②：諸原則	
		この回の到達目標	人道の原則をはじめとした国際人道法の諸原則について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章245－247頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際人道法の諸原則についての授業の内容を復習する。	120分
14	7月9日	国際人道法の適用範囲	国際人道法③：適用範囲（国際的武力紛争と非国際的武力紛争）	
		この回の到達目標	国際人道法の適用範囲について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章243頁）を読んでおく。	120分
		事後学修	国際人道法の適用範囲についての授業の内容を復習する。	120分
15	7月16日	まとめ	前期まとめ	
		この回の到達目標	前期に学習したことを確認、あらためて理解する。	
		事前学修	前期に行った授業の内容を確認する。	120分
		事後学修	前記の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	喜多 義人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
武力による紛争解決が原則的に禁止されている現代の国際社会においても、武力紛争は絶えることがない。第二次世界大戦以降は文民の犠牲者が増加する傾向にある。こうした現状をふまえ、国際人道法に関する理解を深める。そのために、人道法 の概念と基本原則を理解した上で、内戦への適用、害敵手段の規制、戦争犠牲者の保護、人道法の履行確保制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
武力紛争に適用される国際法規に関する知識を修得するために、まず国際人道法の基本原則、内戦に適用される諸規則、捕虜および傷病者、文民の保護、害敵手段に関する諸規則について理解する。さらに、戦争犯罪人の処罰制度、軍縮・軍備管理、日本による人道法の実践に関する理解を深めることにより、人道法が戦争被害の極小化に果たす機能を説明する能力が身につくようになる。

【履修条件】
特になし。国際関係法〔公法系〕BⅠを履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集 を持参することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際人道法の概念と基本原則、発展過程について説明することができる。				3							
②	日本による国際人道法の受容と実践について、具体例をあげて評価することができる。				3					3		
③	捕虜の資格と待遇ならびに傷病者、文民の保護について、関連条約をもとに説明することができる。				3					3		
④	禁止される害敵手段について、関連条約を挙げて説明することができる。				3							
⑤	国際人道法違反者の処罰制度および軍縮の歴史と現状について説明することができる。				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	10	15	20	15	20						80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	19	24	19	24						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出したレポートは添削の上、コメントを付して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際法』第3版(Next教科書シリーズ)	渡部茂己・喜多義人編	弘文堂	2019	教科書	必携
『国際人道法』改訂増補	藤田久一	有信堂	2004	参考書	推奨
『国際条約集 2019』	岩沢雄司編集代表	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日18：00～19：00、木曜日10：30～11：30。メールか電話で予約すること。 研究室は本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	国際人道法の概念と歴史	戦争の残虐化を防止し、戦争犠牲者を保護するための法規範である国際人道法の概念、発展過程について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際人道法とはいかなる法規範かを理解し、その形成・発展について説明できるようになる。	
		事前学修	国際人道法の概念について理解しておくこと。	120分
		事後学修	国際人道法の法典化について説明できるようにする。	120分
2	/	国際人道法の分類と適用範囲	国際人道法の分類および適用範囲について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際人道法をその内容、法源等を基準に分類できるとともに、それが適用される時間的・人的範囲について説明できるようになる。	
		事前学修	国際人道法の適用対象について確認しておくこと。	120分
		事後学修	jus ad bellumとjus in bello、ハーグ法 とジュネーブ法に分類される人道法それぞれの性質と関連条約について説明できるようにする。	120分
3	/	国際人道法の基本原則	国際人道法の基本原則、すなわち目標区別原則、不必要な苦痛を与える兵器の禁止原則、均衡性の原則等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際人道法の基本原則について、条約規定を挙げて説明できるようになる。	
		事前学修	国際人道法の基本原則について確認しておくこと。	120分
		事後学修	軍事目標主義について説明できるようにする。	120分
4	/	国際人道法と日本(1)：明治・大正時代	幕末から明治中期にかけての国際人道法の受容、日清戦争および日露戦争、第一次世界大戦におけるその適用について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際人道法の受容と実践を通じて、日本の明治・大正時代における国際法認識を説明することができるようになる。	
		事前学修	日本が明治初期に国際人道法を受容し、実践した事例を確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本が積極的に国際人道法を受容し、遵守した理由について説明できるようにする。	120分
5	/	国際人道法と日本(2)：昭和時代における人道法の実践	満州事変、支那事変および第二次世界大戦における日本政府と軍部の国際法認識について解説するとともに、昭和期の戦争で違法行為が多発した原因について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本が昭和期の戦争において、国際人道法に違反した事例とその原因について説明できるようになる。	
		事前学修	日本が国際人道法に違反した主要な事例を確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本が国際人道法を軽視するに至った理由について説明できるようにする。	120分
6	/	内戦と国際人道法	内戦に国際人道法を適用する意義、そのための手段としての交戦団体の承認について考察した上で、ジュネーブ諸条約共通第3条と第2追加議定書が定める人道的保護の対象者と内容について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、内戦への国際人道法適用の意義と限界、ジュネーブ諸条約と追加議定書によって与えられる保護の内容について説明できるようになる。	
		事前学修	なぜ内戦への国際人道法の適用が必要か、また適用する際の問題点について理解しておくこと。	120分
		事後学修	ジュネーブ諸条約と第2追加議定書を比較し、両者の保護規定の違いについて説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	害敵手段の規制(1)：核兵器	核兵器に関する学説、国連総会の決議、国際司法裁判所の勧告的意見および国内裁判所の判決等について解説した上で、核兵器の使用が違法か合法かを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、武力紛争に関する国際慣習法や関連諸条約、国際機構の決議等をもとに、核兵器の違法性(または合法性)について、自己の見解を述べることができるようになる。	
		事前学修	核兵器の製造、使用、実験等を規制する条約を確認しておくこと。	120分
		事後学修	2017年7月に国際連合総会で採択された核兵器禁止条約について説明できるようにする。	120分
8	/	害敵手段の規制(2)：化学兵器・生物兵器	化学兵器と生物兵器規制の歴史を概観した上で、化学兵器禁止条約と生物毒素兵器禁止条約について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、化学兵器と生物兵器の製造、保有、使用等を禁止する条約の内容および履行確保制度について説明できるようにする。	
		事前学修	化学兵器および生物兵器の特質と、法規制の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	化学兵器禁止条約の構造と履行確保制度について説明できるようにする。	120分
9	/	害敵手段の規制(3)：通常兵器の規制・背信行為	対人地雷、焼夷兵器、レーザー兵器、クラスター爆弾等の規制について解説するとともに、背信行為の禁止について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、個別条約による通常兵器の規制について説明できるとともに、背信行為と奇計の違いを具体例を挙げて説明できるようにする。	
		事前学修	通常兵器それぞれの性質と関連条約について確認しておくこと。	120分
		事後学修	通常兵器の規制をめぐる国際機構やNGOの行動について説明できるようにする。	120分
10	/	戦争犠牲者の保護(1)：捕虜	捕虜になりうる資格と捕虜の権利義務、捕虜管理国の義務について解説し、さらにテロリストと民間軍事会社要員の捕虜資格について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、捕虜資格の拡大、捕虜の待遇について説明できるようにする。	
		事前学修	捕虜に関する条約について確認しておくこと。	120分
		事後学修	捕虜資格の変遷とテロリストの捕虜資格について説明できるようにする。	120分
11	/	戦争犠牲者の保護(2)：傷病者・文民	1949年の傷病者保護条約および文民保護条約を中心に、傷病者と文民の人道的保護について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、傷病者保護の基本原則と衛生要員の保護、敵の権力内にある外国人たる文民の権利について説明できるようにする。	
		事前学修	1864年に第一回ジュネーブ条約(赤十字条約)が採択された背景とその基本原則について確認しておくこと。	120分
		事後学修	敵国内や敵の占領地内にある、敵の国籍を持たない者の権利について説明できるようにする。	120分
12	/	国際人道法の履行確保(1)：復仇、利益保護国、事実調査制度など	国際人道法の履行を確保するための手段としての復仇、利益保護国制度、事実調査制度および国際人道法の普及教育について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、ジュネーブ諸条約と第1追加議定書に採用された利益保護国制度および事実調査制度について説明できるようにする。	
		事前学修	人道法の履行を確保するための諸制度について確認しておくこと。	120分
		事後学修	第1追加議定書が定める事実調査の制度と、その問題点について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国際人道法の履行確保(2)：戦争犯罪人の処罰	戦争犯罪の概念と処罰制度の発展を概観した上で、第二次世界大戦終結後の戦争犯罪裁判、冷戦後の国際刑事裁判所の設立、管轄権、訴訟手続等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、第二次世界大戦後、戦争犯罪を裁く目的で設立された国際裁判所の管轄権、適用法規、訴訟手続、問題点等について説明できるようになる。	
		事前学修	戦争犯罪の処罰制度の発展について確認しておくこと。	120分
		事後学修	戦争犯罪裁判における被告人の責任阻却事由について説明できるようにする。	120分
14	/	日本の戦争責任と戦後補償	戦争責任とは何か、日本が第二次世界大戦中のどのような行為に対して責任を問われているのかについて考察した上で、日本が行なってきた賠償と補償について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、日本がどのような形で戦争責任を果たし、戦争賠償と戦後補償を行ってきたかについて説明できるようになる。	
		事前学修	対日平和条約や二国間の平和条約で賠償問題がどう処理されたか確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本が戦後、連合国やアジア諸国に対して行なった金銭賠償、役務提供などについて説明できるようにする。	120分
15	/	軍縮と軍備管理	軍備管理の概念と軍縮の歴史について考察した上で、二国間および多国間の軍縮条約と軍備管理条約、相互検証制度などについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、大量破壊兵器および通常兵器の軍縮について、関連条約を挙げて説明できるようになる。	
		事前学修	軍縮と軍備管理の歴史について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国連軍縮委員会の組織構造、活動および成果について説明できるようにする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
武力による紛争解決が原則的に禁止されている現代の国際社会においても、武力紛争は絶えることがない。第二次世界大戦以降は文民の犠牲者が増加する傾向にある。こうした現状をふまえ、国際人道法に関する理解を深める。そのために、人道法の概念と基本原則を理解した上で、内戦への適用、害敵手段の規制、戦争犠牲者の保護、人道法の履行確保制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
武力紛争に適用される国際法規に関する知識を修得するために、まず国際人道法の基本原則、内戦に適用される諸規則、捕虜および傷病者、文民の保護、害敵手段に関する諸規則について理解する。さらに、戦争犯罪人の処罰制度、軍縮・軍備管理、日本による人道法の実践に関する理解を深めることにより、人道法が戦争被害の極小化に果たす機能を説明する能力が身につくようになる。

【履修条件】
国際法Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
教科書にもとづいて講義する。小テストでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際人道法の概念と基本原則、発展過程について説明することができる。						3						
②	日本による国際人道法の受容と実践について、具体例をあげて評価することができる。						3					3	
③	捕虜の資格と待遇ならびに傷病者、文民の保護について、関連条約をもとに説明することができる。						3					3	
④	禁止される害敵手段について、関連条約を挙げて説明することができる。						3						
⑤	国際人道法違反者の処罰制度および軍縮の歴史と現状について説明することができる。						3					3	
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	10	15	20	15	20						80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。なお、事前に評価基準を公表する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	19	24	19	24						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N E X Tシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2020	岩沢雄司	有斐閣	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分―16時00分（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	授業概要 導入講義	後期授業の説明	
		この回の 到達目標	後期授業の内容を把握する。	
		事前学修	前記の授業をもう一回復習する。（2時間）	120分
		事後学修	授業で紹介された参考書等を確認する。（2時間）	120分
2	9月25日	ジュネーブ第一条約	ジュネーブ諸条約①：陸戦における傷病者の保護	
		この回の 到達目標	ジュネーブ第一条約について理解する	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章251頁の陸戦の部分）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	陸戦における傷病者の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
3	10月1日	ジュネーブ第二条約	ジュネーブ諸条約②：海戦における傷病者の保護	
		この回の 到達目標	ジュネーブ第二条約について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章251頁の海戦の部分）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	海戦における傷病者の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
4	10月8日	ジュネーブ第三条約	ジュネーブ諸条約③：捕虜の保護	
		この回の 到達目標	ジュネーブ第三条約について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章252頁B）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	捕虜の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
5	10月15日	ジュネーブ第四条約	ジュネーブ諸条約④：文民の保護	
		この回の 到達目標	ジュネーブ第四条約について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章253頁C）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	文民の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
6	10月22日	赤十字	ジュネーブ諸条約⑤：赤十字の活動と赤十字標章	
		この回の 到達目標	国際人道法における赤十字の役割と赤十字標章について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章251頁赤十字標章の部分）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	赤十字の活動と赤十字標章についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	ハーグ諸条約	ハーグ諸条約：戦闘手段の制限・禁止	
		この回の到達目標	ハーグ諸条約について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章242-243頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	戦闘手段の制限・禁止についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
8	11月5日	兵器の制限・禁止	兵器の使用規制・禁止①：通常兵器と生物・化学兵器	
		この回の到達目標	通常兵器と生物・化学兵器の制限禁止に関する条約を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章248頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	通常兵器と生物・化学兵器についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
9	11月12日	核兵器	兵器の使用規制・禁止②：核兵器	
		この回の到達目標	兵器の制限禁止に関する条約について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章249頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	核兵器についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
10	11月19日	履行確保制度	国際人道法の履行確保：普及、利益保護国、人道的団体	
		この回の到達目標	国際人道法の履行確保制度を理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章253－255頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	普及、利益保護国、人道的団体についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
11	12月3日	戦争犯罪	国際人道法の履行確保：重大な違反行為の処罰	
		この回の到達目標	戦争犯罪の処罰について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章255頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	重大な違反行為の処罰についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
12	12月10日	戦争犯罪と裁判	重大な違反行為の処罰のための取組み：国内裁判と国際裁判	
		この回の到達目標	戦争犯罪と国内・国際裁判について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章256頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	重大な違反行為の処罰のための取組みとしての国内裁判と国際裁判についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月17日	国際刑事裁判所		国際刑事裁判所規程と裁判
		この回の到達目標	国際刑事裁判所について理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章256－257頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	国際刑事裁判所についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
14	12月24日	新兵器と国際人道法		国際人道法の将来：サイバー攻撃とロボット兵器
		この回の到達目標	新兵器に対し国際人道法はどのように対応しているかを理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分（第16章249－250頁）を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	サイバー攻撃とロボット兵器についての授業の内容を復習する。（2時間）	120分
15	1月14日	まとめ		後期まとめ
		この回の到達目標	後期授業の内容を確認し、あらためて理解する。	
		事前学修	後期の授業の内容を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	後期の授業の内容を総復習する。（2時間）	120分

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅠ	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法と国際民事訴訟法及び国際取引法の一部を学修するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」においては、国際的な契約・不法行為・婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を決定する国際私法を授業の対象とする。「国際関係法〔私法系〕AⅠ」においては、国際私法の必要性と基礎理論、及び「法の適用に関する通則法」（通則法）の総則規定について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「国際関係法〔私法系〕」を学修するために必要となる国際私法の基本的な構造と通則法上の総則規定を理解し、その実際上の適用方法を修得する。より具体的には、国際的な契約・不法行為・婚姻・離婚等に関する私的な紛争が発生した場合に、国際私法がどの様にその紛争の準拠法を選択し、その解決を図っているかについて学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。講義の一部は、パワーポイントを使用して行う。理解度を図るために授業内で2度小テストを行い、翌週にその講評・解説を行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第7回以降、簡単な事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際的な私的な紛争を解決するために、国際私法が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
②	他の法律とは大きく異なる国際私法の基本的構造と総則上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法の総則法上の諸規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3					3		
④	総則法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3					3		
⑤	総則法上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥	総則法上の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法の基礎的構造に関する知識が身についているか、及び到達目標②に関わる総則規定を適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについて確認する。	30	30									60
レポート等												
討論・発表等	第7回目の講義以降、事例についての課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題の論理的考察力及び討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べることができたかをチェックリストや評定尺度に照らして評価する。			10	10	10	10					40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	10	10	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第6版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2012年	教科書	必携
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	推奨
『六法』（種類は特に指定しない）			2020年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	【ガイダンス】【国際私法とは】	「国際関係法〔私法系〕」の中心となる国際私法の全体像と国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法がどのような法律か、またその国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の国際私法のテキストを読み、国際私法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、国際私法と国際民事訴訟法・国際取引法との相違と相互関連性についてノートに分類・整理する。	120分
2	4/17	【国際私法の必要性】	国際私法は、なぜ必要とされているか、またどのような理念に基づいて国境を越えて発生する私的紛争の解決を図っているかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法がなぜ必要とされているかについて理解し、説明することができる。また、各国の法内容と日本法との相違について、調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第1章の「国際私法の必要性」を読み、世界各国の法制の相違の存在を理解し、なぜ国際私法が必要とされているかについて考察する。また、各国法の併存の状態を解決する方法について調べ、ノートに記述する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、なぜ世界中で国際私法という法律が必要とされているかについて考えるとともに、国際的な私的な法律関係を規律するのに最適な方法は何かについて考察し、ノートに列記する。時間)	120分
3	4/24	【国際私法の基礎的観念】	国際私法の基礎的観念として、国際私法の定義、目的と方法、基本的用語について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法の基礎的観念について知るとともに、国際私法の目的と方法、基本的用語について理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	教科書第2章の「国際私法の基礎的観念」読み、その大枠について考察するとともに、それが正しく理解されているかが授業内で確認できるようにノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習の内容と講義ノートと比較し、今後の学修のために、国際私法の基礎的観念及びその目的と規律方法、基本的用語について自分の理解に誤りがないよう確認し、ノートに列記する。	120分
4	5/1	【国際私法の法的性質・機能と隣接法分野】	国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を知ることによって、国際私法がどのような法的性質と機能を持つ法律であるかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を調べ、他の法分野とは異なる国際私法の性質をより深く理解し、説明することができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第3章の「国際私法の法的性質と機能」・第4章の「隣接法分野」を読み、国際私法の法的性質・機能と隣接する他の法との相違について調べ、大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法の法的性質と機能、及び国際私法と隣接法分野との結びつきについての理解について再度確認し、今後の学修に役立つようにノートに列記する。	120分
5	5/8	【国際私法の沿革】	国際私法が歴史的にどのようにして発生し、どのように発達してきたか、そしてそれが現在のサヴィニーの国際私法体系にどのようにつながっているかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法の歴史を理解するとともに、それが現在の国際私法が採用するサヴィニーの国際私法体系にどのような結びつきについているかについて調べ、説明することができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第5章の「国際私法の沿革」を読み、国際私法の歴史的発展について調べ、それが現在の国際私法理論にどのような結びつきについているかについてノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法体系の歴史的形成に関する自己の理解を確認するとともに、それが現在の国際私法規定にどのように結びついていてノートに列記する。	120分
6	5/15	【国際私法の法源】	国際私法の主たる法源である現行の通則法の成立まで展開を知るとともに、現在は、通則法以外の他の国内法と条約の中の国際私法規則から国際私法という法律分野が形成されていることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、通則法成立までの展開と通則法以外の国際私法規則の役割とおおよその内容を調べ、説明することができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第6章の「法源」を読み、国際私法がどのように発展し、現行法に至っているか、通則法以外の法・条約中の国際私法規定に何があるかについて調べてノートに記述し、授業内容をより理解できるように整理する。	120分
		事後学修	事前学修ノートと講義ノートを確認して、国際私法規定の展開について理解を図るとともに、国際私法の法源を成す条約と通則法以外の国内諸法の関係性について整理するためのノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	【法律関係の性質決定】 【小テスト】	国際私法規則の適用の過程で最初に問題になる「法律関係の性質決定」の問題について学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業の内容の理解度をはかるための小テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法の体系から必然的に生じる「法律関係の性質決定」の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じて、これまでの授業内容の体系的な理解を図る。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第7章の「法律関係の性質決定」を読み、性質決定の問題の重要性について理解する。また、第1回～第6回の授業内で学修したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し小テストに備える。	140分
		事後学修	講義ノートを確認して、法律関係の性質決定の問題について自分なりの説明をノートに列記しておく。また、授業内で配布された法律関係の性質決定に関する課題について、次の授業の中で行われる討議に備え準備する。	140分
8	5/29	【小テストの講評・解説】 【連結点の確定】	【小テストの講評・解説】【連結点の確定】 前回の小テストの講評と解説を行う。準拠法の決定過程における連結点の確定について、連結点の中心をなす国籍、常居所を中心に学修する。また、法律回避の問題についても学修する。さらに、前回の授業の課題である法律関係の性質決定の事例への当てはめに関するディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、連結点の確定の問題を理解し、説明することができる。小テストの講評・解説により学修内容の整理と事例への応用方法を知ることができる。また到達目標④⑤⑥に関連し、法律関係の性質決定の課題の討議を行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第8章の「連結点の確定」を読み、国際私法規則における各連結点の役割についてノートに記述し授業に備える。	130分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートで各規定で用いられている連結点について確認し、整理ノートに列記しておく。配布された連結点の確定の問題に関する課題に取り組む。小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで答え合わせをする。	130分
9	6/5	【準拠法の指定】	準拠法として指定された当事者の本国（国籍国）が地域的・人的に不統一法国である場合の処理について学修する。また、課題である連結点の確定に関する問題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地域的・人的に不統一な国の準拠法が指定された場合の処理について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、課題の連結点の確定について討議を行い、その確定方法のより深い理解を得、他に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第9章の「準拠法の指定」を読み、準拠法の指定を巡りどのような問題が生じているのかについて調べ、それをノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認し、準拠法の指定を巡る諸問題の解決方法について整理しノートに列記しておく。事例へ適用できるようにする。また、授業内で配布された準拠法の指定に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
10	6/12	【反致】	反致とは何か、またそれが準拠法決定においてどのような意味を有するかについて学修する。また、授業の課題である準拠法の指定に関する問題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、反致の根拠・種類について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、準拠法の指定に関する課題について討議を行い、反致の適用方法をより深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第10章の「反致」を読み、反致のシステムについて調べ、ノートに記述し授業に備える。	130分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、反致の根拠・種類について整理しノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された反致に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	130分
11	6/19	【外国法の適用】	準拠法として外国法を適用・解釈することの意味、指定された外国の法規に欠缺や内容の不明があった場合の処理について学修する。また、授業の課題である反致に関する問題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、外国法を適用する際に発生する問題の解決方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された反致の問題について討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第11章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程において発生する問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、外国法の適用過程で生じる諸問題についてのノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国法の適用に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	6/26	【国際私法上の公序】	準拠法として指定された外国法の適用結果がわが国の公序に反する場合に発動される公序則について学修する。また、授業の課題である外国法の適用に関する問題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法上の公序の意味と発動方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された外国法の適用上の問題についての討議を行い、解決方法についてのより深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第12章の「公序」を読み、国際私法上の公序の問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、国際私法上の公序に関する問題を整理しノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	7/3	【先決問題と適用問題】	国際私法独自の問題である先決問題と適用問題について学修する。また、授業の課題である公序に関する問題のディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、先決問題と適用問題の解決方法を理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された国際私法上の公序の問題についての討議を行い、公序についての深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	7/10	【自然人】【小テスト】	自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判の準拠法（国際裁判管轄権を含む）について学修する。授業の後半で、第7回～第13回までの講義内容の理解度をはかるための小テストを実施する。また、前回出された先決問題と適応問題に関する課題のディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判に関する国際私法関連規定を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された国際私法上の公序の問題についての討議を行い、公序についての深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
15	7/17	【小テストの講評・解説】【質疑応答】	前回の小テストの講評と解説を行う。また、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。さらに、前回出された自然人の権利能力に関する課題のディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法の総則規定全体について概説することにより、これまでに学修した知識を確認し、それらを説明することができる。また到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された自然人の権利能力に関する問題の討議を行い、権利能力についての深い理解を得、事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
		事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。	140分

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅡ	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事訴訟法及び国際取引法の一部を学修するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」は、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（準拠法）を選択する法律である国際私法を中心に学習する。「国際関係法〔私法系〕A」のⅡにおいては、国際私法の主たる法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）上の各論の規定について学修する。る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際的な私的生活関係の準拠法を選択する通則法上の規定の内容を理解し、実際の場面での適用の仕方を修得することを目的とする。より具体的には、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等に関する紛争が発生した場合、国際私法規定がどの様に準拠法を選択し、解決を図っているかについて学修し、それを様々なケースに応用できるようにする。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ」を学修していることを前提に講義が行われるため、その履修の経験者であること。単位の修得には至ってなくても良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際的な私的法律関係に適用される個々の規則を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
②	私法関係に関する日本と諸外国との法内容の基本的な相違について理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法の各論上の諸規定が實際上どのように解釈され・適用されるかを調べることができる。【技能】				3					3		
④	各論上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3					3		
⑤	各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥	各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②に関わる国際私法の各論上の諸規定に関する知識が身についているか、及び到達目標③④⑤⑥に関わる、各論上の諸規定を適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについて確認する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題の論理的考察力及び当時への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けて課題に足し、適切に事例等を調べることができたかをチェックリストや評価尺度に照らして評価する。			5	5	5	5					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。また、定期試験の解説については、後日ポータルで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第6版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2012年 度	教科書	必携
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	推奨
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	【法人】	法人の権利能力の準拠法の決定について、及び外国会社のわが国における権利能力の享有に関する民法等の諸規定について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人に関する国内法規定と外国法との相違及び国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	教科書第15章の「法人」を読み、法人に関する国際私法上の諸規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法人に関する国際私法規定と外国会社の権利義務について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法人の権利能力に関する課題に取り組む、次回の討議に備える。	120分
2	9/25	【法律行為】	法律行為に関する問題のうち、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法の決定について学修する。また、前回出された法人の権利能力の準拠法に関する課題のディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された法人の権利能力の準拠法についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第16章の「法律行為」を読み、法律行為の実質と方式に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法律行為に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法律行為に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備を行う。	120分
3	10/2	【物権法】	物権の準拠法について学修する。また、前回出された法律行為に関するディスカッションと課題の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権に関する国内法規定と外国法との相違及び国際私法関連規定の理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された法律行為の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第17章の「物権法」を読み、物権に関する国際私法規定を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、物権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備を行う。	120分
4	10/9	【契約（1）】	契約の準拠法につき、特に「当事者自治の原則」とその制限論について学修する。また、前回出された物権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の準拠法に関する「当事者自治の原則」を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された物権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅰの1・2を読み、契約債権に関する「当事者自治の原則」を考察し、ノートに記述し授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、「当事者自治の原則」に関する議論について整理し、ノートの列記しておき、事例に適用できるようにする。	130分
5	10/16	【契約（2）】	当事者による準拠法選択がない場合の契約準拠法、及び消費者契約及び労働契約の準拠法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約準拠法に関する当事者の選択がない場合の準拠法を決定する国際私法関連の規定、及び消費者契約と労働契約に関する規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅰの2・3を読み、契約債権に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法選択が無い場合の契約準拠法、消費者契約及び労働契約に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約債権に関する課題に取り組む。	120分
6	10/23	【法定債権】	不法行為を中心とした法定債権の準拠法について学修する。また、前回出された契約債権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、不法行為を中心とする法定債権に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された契約債権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅱ・Ⅲを読み、法定債権に関する国際私法規定の大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、法定債権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法定債権に関する課題に取り組む。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	【婚姻の成立】	婚姻の実質的・形式的成立要件（方式）の準拠法について学修する。また、前回出された法定債権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻の実質的・形式的成立要件に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の成立の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを読み、婚姻の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の成立に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻の成立に関する課題に取り組む。	120分
8	11/6	【婚姻の効力】	婚姻の身分的効力・財産的効力（夫婦財産制）の準拠法について学修する。また、前回出された婚姻の成立に関するディスカッションと課題の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻の身分的・財産的効力に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅴ・Ⅵを読み、婚姻の効力に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の効力に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻の効力に関する課題に取り組む。	120分
9	11/13	【離婚】	離婚の国際裁判管轄権、及び離婚の準拠法と婚約と内縁の準拠法について学修する。また、前回出された婚姻の効力に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、離婚の裁判管轄、及び離婚・婚約・内縁に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の効力の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅶ・Ⅷを読み、離婚の準拠法に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、離婚の裁判管轄と準拠法に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された離婚に関する課題に取り組む。	120分
10	11/20	【実親子関係】	実親子関係（嫡出親子関係と嫡出でない子の親子関係）の準拠法について学修する。また、準正の準拠法についても学修する。さらに、前回出された離婚に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実親子関係に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された離婚の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第20章の「親子関係」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを読み、実親子関係の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、実親子関係の成立に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された実親子関係に関する課題に取り組む。	120分
11	11/27	【養親子関係】	養親子関係の実質的成立要件、離縁の準拠法について学修する。また、前回出された実親子関係に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、養親子関係に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された実親子関係の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第20章の「親子関係」Ⅵ・Ⅶを読み、養親子関係に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、養親子に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された養親子関係に関する課題に取り組む。	120分
12	12/4	【親族関係・扶養義務・後見】	親族関係、扶養義務、後見・保佐の準拠法について学修する。また、前回出された養親子に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、親族関係、扶養義務、後見・補佐に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された養親子関係の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第21章の「親族関係」・第22章の「扶養義務」・23章の「後見・保佐」を読み、それぞれの国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、親族関係と扶養義務及び後見・保佐に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係、扶養義務及び後見・保佐に関する課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	【相続・遺言】	相続、遺言の準拠法、及び「遺言の方式の準拠法に関する法律」の主要規定について学修する。また、前回出された親族関係、扶養義務、後見・保佐に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、相続、遺言に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された親族関係、扶養義務及び後見・補佐の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。	120分
14	12/18	【国際民事訴訟法】	国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の諸問題について学修する。また、前回出された相続と遺言に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された相続及び遺言に関する課題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。	120分
15	12/25	【質疑応答】	前回出された国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題のディスカッションと解説を行う。また、後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国際私法規定である通則法の規定全体について質疑応答、及び国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題の討議を行うことにより、これまでに学修した知識を確認し、それを事例に適切に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
		事後学修	教科書と講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学修するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学修するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅠ」では特に、ケース事例を通じて国際私法の実際的な適用過程や問題点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法の主要法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）規定の実際的な適用過程についての修得を目的とする。 国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定・適用されるかについて様々な事例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕A」の学修を終えていること前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。「BⅠ」と「AⅠ」の同時履修も不可。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する（パワーポイントを使用することもある）。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、翌週の授業内で行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース事例の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法の総則及び各論の規定の内容を理解し、それを体系的に説明することができる。【知識】				3					3		
②	国際私法と関連の深い条約や商慣習法を理解し、それを説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法規定の適用過程を正しく理解し、様々なケースにおいて該当する規定を調べ、それを正しく解釈し、適切に応用・適用することができる。【技能】				3					3		
④	国際私法及び関連条約の適用関係を理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる事ができる。【態度・習慣】				3					3		
⑤	国際的私的紛争の解決に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べる事ができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法と関連条約に関する基礎的知識が身についているか、及び到達目標③に関わる適用規定を適切に発見し、それを実際のケースに適用・応用する力が身についているかを確認する。	20	20	30								70
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいた発表・討論を行うことで、到達目標④⑤に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。				15	15						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法入門（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	【ガイダンス】【国際私法・国際民事手続法・国際取引の関連性】	国際私法・国際民事手続法・国際取引法の大枠について学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法がどのような役割を持つ法律であるかを理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書等で国際私法、国際民事手続法、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の役割についてノートに分類・整理する。	120分
2	4/17	【国際関係私法の学び方】	国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性、及びそれらに関連する条約や商慣習について学修する。また、それらの学び方についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、関連する条約や商慣習についてどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方及び相互関連性について、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
3	4/24	【法選択規則】	国際的私的紛争に適用される準拠法を選択する法である法選択規則の目的とその実現方法、及び国際民事手続法と国際取引法との役割・構造上の相違について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、法選択規則の役割及びその構造と規律方法について理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、法選択規則と国際民事手続法と国際取引法上の規定の役割と構造の相違について調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法についてノートに整理・列記し、事例に適用できるようにする。	120分
4	5/1	【準拠法の決定】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法及び反致について、実際のケース事例への適用を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律関係の性質決定、連結点、不統一法及び反致について理解し、応用することができる。また、到達目標③に関連して、それらをケース事例へ当てはめて、解決へ導くことができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する法律関係の性質決定、不統一法及び反致に関する国際私法規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
5	5/8	【外国法の適用】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学修する。また、前回授業で出された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、性質決定・連結点・反致に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する、外国法の適用、公序、先決問題及び適応問題に対する国際私法の解決方法について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
6	5/15	【人・法人】	人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人・法人に関する準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人・法人に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	【契約】 【小テスト】	契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された人・法人に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じたこれまでの授業内容の整理・理解し、事例へ当てはめることができる。更に、到達目標④⑤に関連し、人・法人に関する事例の討議を通じた法適用プロセスの確認とその様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
8	5/29	【小テストの講評・解説】 【不法行為・事務管理・不当利得】	前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された契約に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストの解説を通じて、第1回～第6回までの内容を整理・理解する。また、到達目標①②不法行為・事務管理・不当利得の準拠法の決定について理解し、説明することができる。更に、到達目標③④⑤に関連して、契約に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された不法行為に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせをする。	120分
9	6/5	【債権債務関係】	債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学修する。また、前回授業で出された不法行為に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権債務関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、不法行為に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された債権債務関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
10	6/12	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】	物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学修する。また、前回授業で出された債権債務に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権・知的財産の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、債権債務に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第9の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権・知的財産に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
11	6/19	【婚姻・離婚】	婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された物権・知的財産に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻・離婚の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、物権・知的財産に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
12	6/26	【親子】		親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された婚姻・離婚に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親子関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、婚姻・離婚に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておくき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親子関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	7/3	【親族関係の諸問題】		親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された親子関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親族関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親子関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておくき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	7/10	【相続・遺言】【小テスト】		相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された親族関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続・遺言の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親族関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておく。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で 配布された相続・遺言に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
15	7/17	【小テストの講評・解説】【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、 前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テストの解説を通じて第7回～第13回の授業内容を整理・理解し、様々なケースに応用することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、相続・遺言に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで確認で見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
		事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。	140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学修するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学修するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅠ」では特に、ケース事例を通じて国際私法の実際的な適用過程や問題点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法の主要法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）規定の実際的な適用過程についての修得を目的とする。 国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定・適用されるかについて様々な事例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕A」の学修を終えていること前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。「BⅠ」と「AⅠ」の同時履修も不可。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する（パワーポイントを使用することもある）。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、翌週の授業内で行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース事例の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法の総則及び各論の規定の内容を理解し、それを体系的に説明することができる。【知識】				3					3		
②	国際私法と関連の深い条約や商慣習法を理解し、それを説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法規定の適用過程を正しく理解し、様々なケースにおいて該当する規定を調べ、それを正しく解釈し、適切に応用・適用することができる。【技能】				3					3		
④	国際私法及び関連条約の適用関係を理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑤	国際的私的紛争の解決に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法と関連条約に関する基礎的知識が身についているか、及び到達目標③に関わる適用規定を適切に発見し、それを実際のケースに適用・応用する力が身についているかを確認する。	20	20	30								70
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいた発表・討論を行うことで、到達目標④⑤に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。				15	15						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法入門（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	【ガイダンス】【国際私法・国際民事手続法・国際取引の関連性】	国際私法・国際民事手続法・国際取引法の大枠について学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法がどのような役割を持つ法律であるかを理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書等で国際私法、国際民事手続法、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の役割についてノートに分類・整理する。	120分
2	4/17	【国際関係私法の学び方】	国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性、及びそれらに関連する条約や商慣習について学修する。また、それらの学び方についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、関連する条約や商慣習についてどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方及び相互関連性について、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
3	4/24	【法選択規則】	国際的私的紛争に適用される準拠法を選択する法である法選択規則の目的とその実現方法、及び国際民事手続法と国際取引法との役割・構造上の相違について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、法選択規則の役割及びその構造と規律方法について理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、法選択規則と国際民事手続法と国際取引法上の規定の役割と構造の相違について調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法についてノートに整理・列記し、事例に適用できるようにする。	120分
4	5/1	【準拠法の決定】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法及び反致について、実際のケース事例への適用を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律関係の性質決定、連結点、不統一法及び反致について理解し、応用することができる。また、到達目標③に関連して、それらをケース事例へ当てはめて、解決へ導くことができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する法律関係の性質決定、不統一法及び反致に関する国際私法規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
5	5/8	【外国法の適用】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学修する。また、前回授業で出された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、性質決定・連結点・反致に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する、外国法の適用、公序、先決問題及び適応問題に対する国際私法の解決方法について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
6	5/15	【人・法人】	人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人・法人に関する準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人・法人に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	【契約】 【小テスト】	契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された人・法人に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じたこれまでの授業内容の整理・理解し、事例へ当てはめることができる。更に、到達目標④⑤に関連し、人・法人に関する事例の討議を通じた法適用プロセスの確認とその様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
8	5/29	【小テストの講評・解説】 【不法行為・事務管理・不当利得】	前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された契約に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストの解説を通じて、第1回～第6回までの内容を整理・理解する。また、到達目標①②不法行為・事務管理・不当利得の準拠法の決定について理解し、説明することができる。更に、到達目標③④⑤に関連して、契約に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された不法行為に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせをする。	120分
9	6/5	【債権債務関係】	債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学修する。また、前回授業で出された不法行為に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権債務関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、不法行為に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された債権債務関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
10	6/12	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】	物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学修する。また、前回授業で出された債権債務に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権・知的財産の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、債権債務に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第9の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権・知的財産に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
11	6/19	【婚姻・離婚】	婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された物権・知的財産に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻・離婚の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、物権・知的財産に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】 【技能】 【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	6/26	【親子】	親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された婚姻・離婚に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親子関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、婚姻・離婚に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親子関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	7/3	【親族関係の諸問題】	親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された親子関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親族関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親子関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	7/10	【相続・遺言】【小テスト】	相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された親族関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続・遺言の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親族関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておく。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で 配布された相続・遺言に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
15	7/17	【小テストの講評・解説】【質疑応答】	前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、 前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テストの解説を通じて第7回～第13回の授業内容を整理・理解し、様々なケースに応用することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、相続・遺言に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで確認で見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
		事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。	140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な国内法・条約・商慣習法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事手続法及び国際取引の主要分野（国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済）のシステムと法内容を理解し、国際的な商取引紛争がどの様に解決されているのかについて学修し、それを様々なケースに応用することができる。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」及び「BⅠ」の学修の終了を前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。なお、単位未修得でも良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際裁判管轄、国際的民事事件における「当事者・送達・証拠調べ」及び外国判決の承認・執行に関する規則を理解し、説明することができる。【知識】				3				3		
②	国際売買・国際運送・国際保険・国際決済のシステムや法内容を理解し、説明することができる。【知識】				3				3		
③	国際的私的紛争事案について、どのような規定の適用が問題となるかについて調べ、それを適切に適用することができる。【技能】				3				3		
④	国際取引紛争について、どのような法律の適用が問題となるかについて調べ、それを事例に適切に適用することができる。【技能】				3				3		
⑤	国際民事手続法及び国際取引法について理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるすることができる。【態度・習慣】				3				3		
⑥	国際民事手続法及び国際取引法に関する紛争の解決に関する討議において、他者の意見にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べるすることができる。【態度・習慣】				3				3		
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。	120分
2	9/25	【国際裁判管轄(1)】	国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	130分
3	10/2	【国際裁判管轄(2)】	国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
4	10/9	【当事者・送達・証拠調べ】	国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	10/16	【外国判決の承認・執行】	外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	10/23	【国際家事事件(1)】	国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	【国際家事事件(2)】	家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
8	11/6	【国際商事仲裁】	国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
9	11/13	【国際取引と法】	国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
10	11/20	【国際物品売買(1)】	国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
11	11/27	【国際物品売買(2)】	国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/4	【国際運送及び国際保険】	国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	12/11	【国際支払】	国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	12/18	【事例問題】	国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
15	12/25	【質疑応答】	後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。【知識】【態度・習慣】	
		事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
		事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な国内法・条約・商慣習法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事手続法及び国際取引の主要分野（国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済）のシステムと法内容を理解し、国際的な商取引紛争がどの様に解決されているのかについて学修し、それを様々なケースに応用することができる。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」及び「BⅠ」の学修の終了を前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。なお、単位未修得でも良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際裁判管轄、国際的民事事件における「当事者・送達・証拠調べ」及び外国判決の承認・執行に関する規則を理解し、説明することができる。【知識】					3				3		
②	国際売買・国際運送・国際保険・国際決済のシステムや法内容を理解し、説明することができる。【知識】					3				3		
③	国際的私的紛争事案について、どのような規定の適用が問題となるかについて調べ、それを適切に適用することができる。【技能】					3				3		
④	国際取引紛争について、どのような法律の適用が問題となるかについて調べ、それを事例に適切に適用することができる。【技能】					3				3		
⑤	国際民事手続法及び国際取引法について理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるすることができる。【態度・習慣】					3				3		
⑥	国際民事手続法及び国際取引法に関する紛争の解決に関する討議において、他者の意見にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べるすることができる。【態度・習慣】					3				3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験により、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。	120分
2	9/25	【国際裁判管轄(1)】	国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。【知識】	
		事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	130分
3	10/2	【国際裁判管轄(2)】	国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
4	10/9	【当事者・送達・証拠調べ】	国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	10/16	【外国判決の承認・執行】	外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	10/23	【国際家事事件(1)】	国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	【国際家事事件(2)】	家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
8	11/6	【国際商事仲裁】	国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
9	11/13	【国際取引と法】	国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
10	11/20	【国際物品売買(1)】	国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べる。【知識】【技能】	
		事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
11	11/27	【国際物品売買(2)】	国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/4	【国際運送及び国際保険】	国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	12/11	【国際支払】	国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	12/18	【事例問題】	国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
		事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
15	12/25	【質疑応答】	後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。【知識】【態度・習慣】	
		事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
		事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	140分

科目名	国際関係論Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶ。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理する。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とする。さらに、貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
国際政治や国際社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際社会における主要な概念を説明することができる。					2						
②	国際社会における主要な理論を説明することができる。					2						
③	国際社会における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。							2				
④	国際社会における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						2					
⑤	国際社会における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				2		2		2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』 (仮 題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> 』(Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取るこ) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス・国際関係論とは	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、国際関係論の学問的な位置づけなどを示しながら、国際政治学、国際関係史との違いや国際関係論を学ぶ意味について考える。ガイダンス期間ではあるが受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	教科書「序 平和学とは何か」を読むことに加え、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』第1章1節2節から、国際関係論が扱うテーマをノートに書きだす。また、以下の書籍などに目を通す。石田雄『平和の政治学』(1968年、岩波書店) 最初の30ページ程度。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば参考書を入手の上、全体の流れを把握しておく。教科書「序 平和学とは何か」を復習しノートにまとめる。	120分
2	4/14	国際関係論と平和学	国際社会を理解するための国際関係論の考え方を整理しながら、国際関係論の歴史や成り立ちを解説するとともに、国際関係論で使われる基本となる概念を理解し、国際関係論を理解するための知の後背地を形成する。さらにこの講義で特に焦点をあてる平和学的思考について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際関係論の概要、学問としての歴史を説明できる。	
		事前学修	教科書「第1講 平和学と国際関係論」を読むことに加え、『国際政治学事典』(弘文堂)、『国際政治経済辞典』(東京書籍)で調べたり、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』の索引を利用しながら、ウェストファリア体制、アナーキー、国家主権などの主要な概念をノートにまとめる。	120分
		事後学修	ウェストファリアシステム、国家主権、アクターの概念など、国際関係論で使われる基本となる概念についてノートにまとめたことと講義での説明を重ねながら復習する。	120分
3	4/21	国際社会のモデル化	無政府状態の国際社会をどのように理解したらよいのかについて、これまで、国際関係論で蓄積されてきた国際社会モデルを使いながら理解を深める。その上で、これまでのモデルでは説明しえない「新しい社会現象」が国際社会に起きていることも確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代国際関係の原型である主権国家体制の意味を説明できる。	
		事前学修	教科書「第2講 国際社会のモデル化」を読むことに加え、国際社会モデルについてまとめる。	120分
		事後学修	なぜ、モデル化が物事を考える上で思考を助けるのだろうか。国際社会をモデル化する意義について考え、ノートにまとめる。	120分
4	4/28	平和の概念整理	平和の多様性と平和概念の多義性、社会科学における平和の定義について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平和の概念を説明できる。到達目標④に関連して、平和の多義性に基づいて自分の言葉で平和を定義できる。	
		事前学修	教科書「第3講 平和の概念整理」を読むことに加え、自分自身で「平和」の定義を試みる。そのうえで、以下の書籍などに目を通し平和とはなにかをノートにまとめる。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年) 第1講。	120分
		事後学修	講義での知見と、自分の定義した「平和」の概念の違いは何かについてノートにまとめる。石田雄『平和の政治学』(岩波書店、1968年)を図書館で探して復習に使う。	120分
5	5/5	現代型平和学以前の平和学	初期の平和学がどのように紛争をとらえてきたのか、国際社会を研究するうえでどのような位置づけになったのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初期の平和学について説明できる。	
		事前学修	教科書「第4講 現代型平和学以前の平和学」を読むことに加え、以下の書籍などに目を通して、19世紀以前の平和の考え方と現代における平和の考え方の違いをノートにまとめる。カント『永遠平和のために』(岩波文庫、1985年)。	120分
		事後学修	講義で学んだ平和概念について自分の言葉でノートにまとめる。カントが伝えたかったことが今の国際機関のシステムにどのように生かされているのかを考える。	120分
6	5/12	紛争の科学的分析の登場	現代平和研究のさきがけとして、戦争の統計的分析の先駆者リチャードソン、ボールディングらを取り上げ、紛争を科学的に分析する方法論から現代的平和学が始まったことを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争を科学的に分析する手法を理解することができる。到達目標④に関連して、社会科学における数量的アプローチを使うことができる。	
		事前学修	教科書「第5講 紛争の科学的分析の登場」を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年) 第2講。	120分
		事後学修	講義で学んだリチャードソン方程式やボールディングの相互作用モデルなどを復習する。その折、数学的な論理的思考が社会科学に必須なことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ゲーム理論による発展／中間テスト	「人間が創った環境のなかでの紛争」（アナトール・ラパポート）を取り上げ、ゲーム理論による紛争理解の方法論について解説する。また、1回から6回の範囲から中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーム理論を説明することができる。到達目標④に関連して、ゲーム理論のアプローチを用いて身近な事象を考察できる。	
		事前学修	教科書「第6講 ゲーム理論による発展」を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（筑摩書房、2000年）第2講。また、第1回から第6回の復習をしておく。	120分
		事後学修	講義で学んだラパポートの人類を減ぼす4つの事象や囚人のジレンマなどを復習する。テスト結果に基づいて、自分の理解が届かなかったことをテキストなどを使って復習する。	120分
8	5/26	平和ならざる状態（ピースレスネス）	新しい平和の概念として登場したダスグプタの「平和ならざる状態（peacelessness）」について解説し、平和学にどのようなパラダイムチェンジが起きたのかを議論する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新しい平和の概念「平和ならざる状態」を説明できる。到達目標⑤に関連して、現代社会における平和ならざる状態とは何か、自分なりの考察をすることができる。	
		事前学修	教科書「第7講 平和ならざる状態（ピースレスネス）」を読むことに加え、平和学のパラダイムチェンジが起こった背景を考える。	120分
		事後学修	現在の「平和ならざる状態」の具体的事例をあげて、その状態を導く原因と自分なりの解決の対応策を考え、ノートにまとめる。パラダイムチェンジが社会にもたらす変革の意味を一般化できるようにする。	120分
9	6/2	構造的暴力と積極的平和	ガルトゥングは、平和の対概念は、必ずしも戦争ではなく、暴力であると考えている。この講では、暴力を分類することから始めて、「構造的暴力」とは何かを考える。そして、その構造的暴力を無くすための方法論として積極的平和のあり方を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ガルトゥングの主張を説明できる。到達目標③に関連して、構造的暴力の原因について考察できる。	
		事前学修	教科書「第8講 構造的暴力と積極的平和」を読むことに加え、『国際関係論〈第3版〉（Next教科書シリーズ）』11講を読み、国際社会のなかでの構造的暴力の具体的事例をノートにまとめる。	120分
		事後学修	今、自分たちが活きている現代社会の中で、構造的暴力であると考えられる事象に対して、その構造を考え、自分なりの構造変革の解決策をノートにまとめる。	120分
10	6/9	平和学の制度化	平和構築の研究について、教育面、運動面から議論し、どのように制度化されたか、その流れを解説する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、平和研究の進展について説明できる。⑤に関連して、平和研究が平和構築にどのように機能するのか考察すること異ができる。	
		事前学修	教科書「第9講 平和学の制度化」を読むとともに、これまで、自分が受けてきた学校教育やコミュニティーでの学びの中で、平和教育と考えられるものをノートにまとめてみる。	120分
		事後学修	平和研究の成果が市民社会に影響を与えた事例をノートにまとめる。	120分
11	6/16	紛争関連の資料の集め方・読み方	武力紛争の変遷を、統計データを使って分析しながら解説する。統計のもととなるデータをどのように収集すればよいか、集めたデータから何が読み取れるのかななどを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍備、武力紛争に関するデータ集め、分析することができる。	
		事前学修	教科書「第10講 紛争関連資料の集め方・読み方」を読むことに加え、ストックホルム国際平和研究所のウェブページにアクセスし、武力紛争のデータセットの意味を考え、ひとつグラフを取り出してその知見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	20世紀の武力紛争の特徴に関する講義の知見から、「非両立性」についての理解をノートにまとめる。	120分
12	6/23	核兵器と安全保障	現代型戦争の特徴、核兵器と平和などについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代型戦争の特徴について説明できる。また、到達目標③④⑤に関連して、核兵器と平和について考察することができる。	
		事前学修	教科書「第11講 核兵器と安全保障」を読むことに加え、文献やインターネットなどを用いて核兵器対する様々な見解を調べ、自分の意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	講義の知見から、「恐怖の均衡」についての理解と、核兵器への科学者たちの取り組みについてをノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	経済関連指標と世界の現実	経済の指標である人口、生産、貿易の3つから平和をどのように考えるかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人口、生産、貿易に関する様々な統計資料を読むことができる。また、到達目標③④⑤に関連して、統計資料から世界で起きている状況を考察することができる。	
		事前学修	教科書「第12講 経済関連指標と世界の現実」を読むことに加え、人口、生産、貿易が平和とどのように関連しているのか考え、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業で出てきた統計などから現在の国際社会における、人口、生産、貿易に関する問題、特に20世紀の意味とは何かを考えノートにまとめる。	120分
14	7/7	貧困者の声	貧困問題について、マクロの視点と逆にミクロの視点を使いながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貧困の問題について説明できる。到達目標⑤に関連して、貧困に関する様々な課題を平和構築の視点から考察できる。	
		事前学修	教科書「第13講 貧困者の声」を読み、インターネットで、世界銀行『貧しい人々の声 (Voices of the Poor) 』をダウンロードして読むとともに、内外の具体的な貧困の事例を探し、そこに存在する問題をノートにまとめる。	120分
		事後学修	貧困とは何なのかについて、講義の知見を使いながら、自分なりに定義を試み、ノートにまとめる。	120分
15	7/14	前期まとめ	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際社会をどのように理解するのかについて、レビューする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。	120分
		事後学修	世界で起こっている現在の問題を、前期で学んだ平和構築理論や概念を使ってどのように理解できるのかをノートにまとめる。	120分

科目名	国際関係論Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶ。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理する。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とする。さらに、貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
国際政治や国際社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際社会における主要な概念を説明することができる。						2						
②	国際社会における主要な理論を説明することができる。						2						
③	国際社会における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。								2				
④	国際社会における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。							2					
⑤	国際社会における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					2		2		2			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』 (仮 題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> 』(Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取るこ) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/22	ガイダンス・前期国際関係論Ⅰのレビュー（第2回から第7回）	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講登録を希望する学生は、できる限り第1回、第2回講義も出席することが望ましい。前期の国際関係論Ⅰの第2回から第7回までのレビューを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	教科書『平和学入門2』の「序 平和学入門1で何を学んだか」を読むことに加え、『平和学入門1』の第1講から第6講までを復習しておく。Ⅱから受講の学生は一度それらの個所を通読しておく。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、教科書を読み、全体の流れを把握しておく。特に、アナーキー、主権国家、アクターなどの基本用語をノートにまとめ理解を深めておく。	120分
2	9/29	前期国際関係論Ⅰのレビュー（第8回から第14回）	国際関係論Ⅰの第8回から第14回までのレビューを行う。受講登録を希望する学生は、できる限り第1回、第2回講義も出席することが望ましい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	『平和学入門2』の第7講から第13講までを復習しておく。Ⅱから受講の学生は一度その個所を通読しておく。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、教科書を読み、全体の流れを把握しておく。特に、囚人のジレンマ、平和ならざる状態、構造的暴力、恐怖の均衡などの基本用語をノートにまとめ理解を深めておく。	120分
3	10/6	戦争の中立的定義	戦争とは何かを中立的に定義する意味を考える。さまざまな定義があることを紹介しながら、「戦争」とはどのようなことを指すのか議論する。国会での有権解釈についても検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争の中立的定義を説明できる。到達目標③④に関連して、定義することの意味を説明できる。	
		事前学修	教科書「第1講 戦争の中立的定義」を読むことに加え、中立とは何か、一般的にどのような状態を指すのか考え、ノートに抜き出す。	120分
		事後学修	社会科学における定義と自然科学における定義の違いをノートにまとめ、なぜ戦争を一意に定義できないのか、その中で中立的定義ということがどのような意味を持つのか考える。	120分
4	10/13	戦争の肯定的定義	クラウゼヴィッツの言説を使いながら戦争の肯定的定義について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争の肯定的定義を説明できる。また、到達目標③に関連して、クラウゼヴィッツの戦争に対する思想を理解することができる。	
		事前学修	教科書「第2講 戦争の肯定的定義」を読むことに加え、クラウゼヴィッツの『戦争論』（岩波文庫など）、毛沢東の『毛沢東語録』（平凡社）などから戦争とは何かの記述をノートに抜き出す。	120分
		事後学修	戦争が人類社会にとって不可避なもの、必要悪であるとはどういう意味か、自分の理解をノートにまとめる。	120分
5	10/20	戦争の否定的定義	アナトール・ラパポートの定義を使いながら、戦争の否定的定義について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アナトール・ラパポートの戦争の定義を説明できる。	
		事前学修	教科書「第3講 戦争の否定的定義」を読む。余裕があれば、A.ラパポート 著、関寛治 編訳、『現代の戦争と平和の理論』（岩波書店、1969年）から戦争とは何かの記述をノートに抜き出す。	120分
		事後学修	戦争は必要悪ではなく、意志的に起こされるもの、すなわち、避けうるものとして定義する否定的定義について、自分の見解をノートにまとめる。	120分
6	10/27	データから見る戦争	戦争の変遷を統計データを使って解説する。それらの統計のもととなるデータをどのように収集すればよいか、集めたデータから何が読み取れるのかなどを指導する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、武力紛争に関するデータを集め、分析することができる。	
		事前学修	教科書「第4講 データから見る戦争」を読むことに加え、ストックホルム国際平和研究所のウェブページにアクセスし、武力紛争のデータセットの意味を考え、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	20世紀の武力紛争の特徴に関する講義の知見をノートにまとめ、「非両立性」「アノクラシー」についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	11/3	軍事支出と社会支出／中間テスト	軍事費と、人々の日々の生活に直結する公的な社会支出を比較しながら、本来、私たちが戦争をどのようにとらえなければいけないのかを考える。また、1回から6回の範囲から中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍事費と社会的支出を比較することの意味を説明できる。	
		事前学修	教科書「第5講 軍事支出と社会支出」を読み、軍事費と教育費の比較などから読み取れることをノートにまとめる。また、第1回から第6回の復習をしておく。	120分
		事後学修	ルース・シヴァードが『世界の軍事支出と社会支出』で世界に何を訴えたかったのかを考え、ノートにまとめる。テスト結果に基づいて、自分の理解が届かなかったことをテキストなどを使って復習する。	120分
8	11/10	戦争原因の経済的説明と文化人類学的説明	戦争原因について、軍産官学労情民複合体という経済的視点から解説する。また、なぜ人間が戦争を起こしてしまうのかの根源的な問いを文化人類学の知見を援用しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍産官学労情民複合体という経済的視点や、なぜ人間が戦争を起こすのかという文化人類学的視点について説明することができる。	
		事前学修	教科書「第6講 戦争原因の経済的説明と文化人類学的説明」を読むことに加え、世界の軍事費に占める各国の割合変化や、特定の国家の軍事費の推移の特徴を、国際社会の出来事と連動させてノートにまとめる。	120分
		事後学修	軍事費の推移と「軍産官学複合体」の関係に関する講義の知見を、アメリカ大統領の所属政党の違いとともにノートにまとめる。	120分
9	11/17	科学技術の進展と戦争の変化	科学技術と戦争がどういう関係にあったかを説明する。20世紀が、人口増加、科学技術の発展に至るまで、いかに他の世紀とは違う異質な世紀であったかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、科学技術と戦争がどのような関係にあったのかを説明できる。	
		事前学修	教科書「第7講 科学技術の進展と戦争の変化」を読むことに加え、20世紀の科学技術、21世紀の科学技術の特徴について、身の回りの技術を思い浮かべながらノートにまとめる。	120分
		事後学修	コピーとドублиケートの違いなど、科学技術の違いが戦争の本質を変えたことについての知見をノートにまとめる。	120分
10	11/24	勢力均衡政策	戦争を防ぐことに関して、歴史的にどのような努力がなされてきたか、あるいは、どのような仕組みがあったかについて勢力均衡政策を取り上げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、勢力均衡政策について説明することができる。また、到達目標③④に関して、勢力均衡の欠点について自分の見解を述べることができる。	
		事前学修	教科書「第8講 勢力均衡政策」を読むことに加え、勢力均衡政策の歴史についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	国際社会の発明としての勢力均衡政策に関する講義の知見をノートにまとめ、なぜそれが失敗したのかについて考える。	120分
11	12/1	集団安全保障	国際社会における集団安全保障システムの登場とその欠点について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、集団安全保障について説明することができる。また、到達目標③④⑤に関して、集団安全保障の短所と長所について自分の見解を述べることができる。	
		事前学修	教科書「第9講 集団安全保障と協調的安全保障」を読むことに加え、集団的自衛権と集団安全保障の違いについてノートにまとめる。	120分
		事後学修	集団安全保障の事例と集団安全保障の限界についての知見をノートにまとめる。特に、第13回講義に備えて、国連の集団安全保障の変遷について理解を深めておく。	120分
12	12/8	協調的安全保障	国際社会の協調的安全保障システムへの進展について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、協調的安全保障について説明することができる。また、到達目標③④⑤に関して、協調的安全保障の短所と長所について自分の見解を述べることができる。	
		事前学修	教科書「第9講 集団安全保障と協調的安全保障」を読むことに加え、北大西洋条約機構のウェブページにアクセスし、NATOの安全保障から協調的安全保障への変遷についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	協調的安全保障のどこが優れているのかについて、NATOのシステムの変遷から考えてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	国連PKOとPKF	国連PKOとPKFの取り組みを軸に、国際紛争にどのように国際社会が取り組んでいるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、国際社会に起きている紛争の状況について説明できる。到達目標③④⑤に関して国際社会の平和維持がどこまで可能なのかについて、その限界とともに考えることができる。	
		事前学修	ガーリ元国連事務総長の『平和への課題』『開発への課題』をウェブで読み、そのメッセージの意味を考える。	120分
		事後学修	ガーリ元国連事務総長の『平和への課題への追補』がなぜ出されたのかを、内容の整理とともに、講義からの知見を使いながらノートにまとめる。	120分
14	12/22	社会現象へのアプローチ：比較と分類の基本的ドリル	国際関係論のみならず、社会科学で応用可能な比較と分類の方法論について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関して、国際関係論ⅠとⅡで提示されてきた「一般化」「抽象化」がどのような方法論に基づくものであったかを理解することができる。	
		事前学修	教科書「付録 社会現象へのアプローチ：比較と分類の基本的ドリル」を読む。わかりにくいところをピックアップしておく。	120分
		事後学修	講義を参考に、国際社会を見る上で、これまで自分が使っていなかった方法論が、社会で生活していく中でどのように応用可能かをノートにまとめる。	120分
15	1/12	まとめと講評	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際社会における紛争をどのように理解すればよいのかについてレビューする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、後期で学んだ戦争についての知見を体系的に説明することがきる。	
		事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄を教科書とノートを見ながら振り返る。	120分
		事後学修	世界で起こっている現在の問題を、後期で学んだ紛争概念を使ってどのように理解できるのかをノートにまとめる。	120分

科目名	国際金融論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では国際金融について学ぶ準備となる、金融論の基礎から講義をすすめていきます。最近の国際金融の動向や諸問題を理解する上で、知っておくとよいと考えられる内容を中心に学んでいきます。金融の理論や金融制度についての知識に加え、金融を考える上で有用な、経済学のさまざまな概念についても紹介していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際金融論では国の枠を越えた金融取引を扱う。この授業では金融の理論や金融制度といった、金融論の基礎を理解し説明できる能力を養成することを目的とします。その上で、そこで理解した事柄を、国の枠を越えて取引が行われる場合に応用できるようにすることを、目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 経営法学科2, 3, 4, 6, 7 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰ,Ⅱの受講を終えていると、この授業で学ぶ内容を理解しやすくなります。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。授業中に中間試験を実施し、その解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に中間試験を実施し、その解説を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					3	3					3
②	日本と外国の金融の仕組みを理解し、説明することができる。					3	3					3
③	金融の現状を観察し、金融に関する問題を発見することができる。						3	3				3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の金融の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	10							65
小テスト等	授業時間中に実施する中間試験により、到達目標①と②にかかわる日本と外国の金融の仕組みを理解しているかを確認する。	15	20									35
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融論	家森信善	中央経済社	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取る) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	はじめに 導入講義	はじめに・金融論で学ぶこと	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これから学ぶ内容の概観を把握することができる。	
		事前学修	教科書(第1章)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
2	4月13日	貨幣	貨幣の役割、貨幣の定義、新しい貨幣	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済活動における貨幣の役割を把握することができる。	
		事前学修	教科書(第2章1節、2節、5節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	4月20日	金利(1)	金利の重要概念、金利と債券価格の関係	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、金利についての基本知識を把握することができる。	
		事前学修	教科書(第3章1節、2節、5節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	4月27日	金利(2)	金利の決定要因、金利の期間構造	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済活動における金利の役割を把握することができる。	
		事前学修	教科書(第3章3節、4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	5月4日	中央銀行	中央銀行の機能	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、中央銀行の機能について説明することができる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	5月11日	金融政策(1)	金融政策全般	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央銀行が実施する金融政策について説明することができる。	
		事前学修	教科書(第2章4節、第4章2節、第5章4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	金融政策(2)	金融政策の手段	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融政策の手段について説明することができる。	
		事前学修	教科書(第6章)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	5月25日	中間試験 振り返り	中間試験とその解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第7回までの講義内容を把握していて、説明することができる。	
		事前学修	第1回から第7回までの講義内容の復習	120分
		事後学修	教科書、ノート、中間試験問題を利用	120分
9	6月1日	金融システム	金融システムの機能、金融仲介機関の役割	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融システムについて基本的な説明をすることができる。	
		事前学修	教科書(第3章6節、第7章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	6月8日	金融機関	銀行、証券会社	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融システムにおける金融機関の役割を説明することができる。	
		事前学修	教科書(第7章3節、4節、第8章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	6月15日	プルーデンス政策(1)	金融システム安定化のための政策	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、プルーデンス政策について基本的な説明をすることができる。	
		事前学修	教科書(第9章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	6月22日	プルーデンス政策(2)	プルーデンス政策の政策手段	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、プルーデンス政策の政策手段を説明することができる。	
		事前学修	教科書(第9章3節、4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	金融機関破綻への対応	金融機関破綻への対応	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融機関破綻への対応手段を説明することができる。	
		事前学修	教科書(第10章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	7月6日	金融市場規制	金融市場の健全な発展を図るための政策的取り組み	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融市場規制の目的を説明することができる。	
		事前学修	教科書(第11章)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	7月13日	理解度の確認	理解度の確認	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握し、説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際金融論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では国際金融市場と国際金融制度について学びます。具体的には、外国為替市場で行われる取引(直物取引・先渡取引・通貨派生取引)について説明します。また、各種外国為替相場制度を紹介します。適宜、各種資料や統計を参照しながら国際金融取引の現状を見ていきます。またユーロ市場、金利先物取引と金利スワップ取引、クレジットデフォルトスワップ(CDS)取引についても扱います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では国際金融市場と国際金融制度についての知識を養成することを目的とし、国際金融市場と国際金融制度についての基本知識を得ること、そして国際金融市場で行われる取引の仕組みを理解し、説明できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 経営法学科2, 3, 4, 6, 7 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰ、Ⅱ、国際経済論Ⅱ、国際金融論Ⅰの受講を終えていると、授業内容の理解が容易になります。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。授業中に中間試験を実施し、その解説も行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に中間試験を実施し、その解説を行います	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					3	3					3
②	日本と外国の金融の仕組みを理解し、説明することができる。					3	3					3
③	金融の現状を観察し、金融に関する問題を発見することができる。						3	3				3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の金融の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	10							65
小テスト等	授業時間中に実施する中間試験により、到達目標①と②にかかわる日本と外国の金融の仕組みを理解しているかを確認する。	15	20									35
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 現代の国際金融を学ぶ	中條誠一	勁草書房	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取る) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	外国為替	外国為替とは	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、遠隔地の決済システムである為替について説明できる。外国為替と内国為替の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第6章1節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
2	9月21日	直物取引と通貨先渡取引	外貨建てでの資金調達には、予測不可能な為替レートの変動によって、高額なコストが発生する可能性がある。資金調達者はあらかじめ決められた為替レートで必要な外貨を調達する為替予約(通貨先渡取引)を行うことで、このような可能性に備えることができる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、為替リスクを回避(ヘッジ)する仕組みである、通貨先渡取引(為替予約)を説明できる。	
		事前学修	教科書(第6章2節、3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	9月28日	ユーロカレンシー市場	ユーロカレンシーとは、発行国外で取引される通貨のことである。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ユーロカレンシー市場が伝統的市場に比べて金融コストの低い市場となる理由を説明することができる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	10月5日	通貨派生取引(1)通貨先物取引	ヘッジとは、取引で発生するリスクを回避するために、相反する取引を行うことをいう。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨先渡取引との違いを含めて、通貨先物取引について説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	10月12日	通貨派生取引(2)通貨オプション取引	為替リスクをヘッジする方法の1つとして、外国為替市場を利用する通貨オプション取引がある。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨オプション取引の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	10月19日	通貨派生取引(3)通貨スワップ取引	企業は自社の資産内容と負債内容を組み替えて、効率的な資金運用・調達をしようとする。資産は項目の組み替えが可能だが、負債は項目を組み替えようにも、一旦返済をしなければならないため、それが難しい。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨スワップ取引の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	企業の国際財務活動(1) 為替リスクの管理	為替リスクとは一般に、為替レートの変動によって経済主体が被る損失、または期待した利益を失うというマイナスの影響を指す。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の為替リスクの管理方法について説明できる。	
		事前学修	教科書(第7章2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	11月9日	中間試験 振り返り	中間試験の実施とその解説	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第7回までの講義内容を把握しており、説明することができる。	
		事前学修	第1回から第7回までの講義内容の復習	120分
		事後学修	教科書、ノート、中間試験問題を利用	120分
9	11月16日	企業の国際財務活動(2)	外貨資金の調達と運用	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業による外貨資金の調達・運用方法について説明することができる。	
		事前学修	教科書(第7章1節、3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	11月23日	企業の国際財務活動(3)	金利先物取引と金利スワップ取引	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金利先物取引と金利スワップ取引の仕組みを説明することができる。	
		事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	11月30日	世界金融危機	クレジット・デフォルト・スワップ取引	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、クレジット・デフォルト・スワップ取引の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	12月7日	アジア通貨危機	様々な外国為替相場制度	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、様々な外国為替相場制度について説明できる。	
		事前学修	教科書(第8章2節、第4章)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	国際協力(1)	国際通貨基金(IMF)	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際通貨基金の仕組みを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	12月21日	国際協力(2)	国際決済システム	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際決済システムについて説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	1月18日	理解度の確認	理解度の確認	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握しており、説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際経営法学Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この講座では、グローバルに展開する国際的企業を取り巻く法制度について基礎的内容などを学習する。企業経営面に関する法制度の理解に主眼を置き、後期では米国ドッド・フランク法（金融改革法）、M&A（企業買収）、リスクマネジメント、企業不祥事・コンプライアンス、国際不正取引、国際的企業やメガバンクの経営戦略と法務に焦点を当て、仮想通貨やAI（人工知能）など新しいテーマであるフィンテックに関しても事例、司法判断などを学習する。

【授業の目的】（General Instructional Objective: GIO 一般目標）
サブプライム危機など国際金融法制、アベノミクスの成長戦略のコーポレート・ガバナンス（企業統治）改革、フジテレビ事件等敵対的買収・防衛策などグローバル企業を巡る組織法、比較法的な理論と実践の修得を目的とする。基礎理論と実務の接点となる重要科目で国際ビジネス法を学び、総合的な法制・経営の一体的な理解ができ、受講生が説明できることを目標とする。パナソニック、メガバンク等最新の総合的ケーススタディを交える。新しいテーマであるフィンテック、仮想通貨などに関しても理解し、説明できることを目標とする。法律関係学科以外の学生や2年生も歓迎する。金融機関やグローバル企業の就職を目指す者も幅広く、できるだけ多く受講してほしい。

【履修条件】
法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も大歓迎。企業経営、財務分析・企業評価、金融知識も修得する。関連科目で英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更によくなる。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	グローバルな展開をはかる企業の経営において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						2	2	2			2					
②	他の法律とは異なる国際経営にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						2	2	2			2					
③	国際経営に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べる。【技能】						2	2	2			2					
④	国際経営に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						2	2	2			2					
⑤	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑥	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑦	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑧	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑨	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑩	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)				
成績評価方法		評価基準					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等		提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。					15	15	15	15							60
討論・発表等		授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。									10	10	5				25
授業への参画度		授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。												5	5	5	15
その他()																	
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
レポートの講評について、最終日の授業において解説などを行う。																	

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。					

【オフィスアワー】	
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部火 4/7	【ガイダンス】【国際経営法学とは】	授業のテーマ、内容やスケジュール、生成期評価方法、参考文献の紹介を含めて国際経営邦楽の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 国際経営法学概説－企業の国際展開と法制度、国際会社法、金融理論ならびに国際金融論など－	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際経営法学がどのような法律か、またその国際私法や国際経済法との関連性について、理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、各自でグローバル企業の経営について講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第1部火 4/14	【国際金融法制】【サブプライム金融危機】	サブプライム・ローン問題と米国金融危機（1）－問題の根源と経緯、国際金融法制の動向とわが国の金融機関経営の展望－ 米国におけるサブプライム・ローン問題について、背景となる米国経済の動き、対応する金融規制当局の動向などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融に関する法制度がどのような法律か、また国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。	
		事前学修	サブプライム・ローン問題と米国金融危機の全般について、概要を把握し、我が国経済・金融への影響など問題意識を持って授業に臨んで下さい。関連の専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、授業内容に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
3	第1部火 4/21	【国際金融法制】【サブプライム金融危機】	サブプライム・ローン問題と米国金融危機（2）－証券化商品の仕組みと格付機関、投資銀行の戦略の破綻など－ 米国におけるサブプライム・ローン問題について、サブプライム証券化商品の組成と格付機関の利益相反、リーマンブラザーズの破綻事例などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融に関する法制度がどのような法律か、また国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。サブプライム証券化商品、利益相反、リーマンブラザーズ破綻事例などを理解できるようになる。	
		事前学修	サブプライム・ローン問題と米国金融危機について、証券化商品の仕組みと格付機関の関係、投資銀行の戦略の破綻のケースなどについて、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にサブプライム証券化商品に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
4	第1部火 4/28	【国際金融法制】【サブプライム金融危機】	サブプライム・ローン問題と米国金融危機（3）－バーゼル銀行監督委員会の自己資本規制、オバマ政権の金融改革法など－ 米国におけるサブプライム・ローン問題について、大規模金融機関にかかるバーゼル委員会の規制の変遷、オバマ政権によるドッド・フランク法の概要と問題点などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融に関する法制度がどのような法律か、また国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。オバマ政権による金融改革法としてのドッド・フランク法の概要を理解できるようになる。	
		事前学修	サブプライム・ローン問題と米国金融危機について、金融規制当局の具体的な対応などを時系列的に把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に金融面の規制内容に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
5	第1部火 5/5	【国際金融法制】【欧州債務危機】	欧州債務危機問題と国際金融（1）－ギリシャ危機、財政破綻とEU・ユーロ危機の関係など－ 欧州債務危機問題と国際金融に関し、発端となったギリシャ財政危機、ユーロ危機などについて概要と問題点などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融に関する法制度がどのような法律か、また国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。ギリシャ財政危機、ユーロ危機などについて理解できるようになる。	
		事前学修	欧州債務危機問題と国際金融に関し、問題の発端と拡散、EUの対応などなどについて、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にギリシャ財政危機、ユーロ危機などに関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
6	第1部火 5/12	【国際金融法制】【欧州債務危機】	欧州債務危機問題と国際金融（2）－国債の格付などソブリンリスク問題、欧米の国際金融法制と銀行経営－ 欧州債務危機問題と国際金融に関し、国債の格付等のソブリンリスクと銀行経営への影響について、ドイツ銀行などのケースを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融に関する法制度がどのような法律か、また国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。ソブリンリスクと銀行経営問題などについて、EU各国法制を理解できるようになる。	
		事前学修	欧州債務危機問題と国際金融に関し、ソブリンリスクと銀行経営問題などについて、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にソブリンリスク、国際金融法制と銀行経営などに関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部火 5/19	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】	アベノミクスの第3の矢・成長戦略の中心となるグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革の重要性 アベノミクスの3つの矢と成長戦略、グローバル企業によるガバナンス改革にかかる関連法制度の内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制がどのような法律か、について理解し、説明することができる。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に成長戦略とグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革、関連法制度の内容に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
8	第1部火 5/26	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【スチュワードシップ・コード】	長期的企業価値向上と日本版スチュワードシップ・コード（機関投資家向）の理論と上場企業の実践－株主総会の対応と法的課題－ ガバナンス改革に関し、機関投資家向けのスチュワードシップ・コードの内容について、英国の規制と対比して学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制がどのような法律か、について理解し、説明することができる。スチュワードシップ・コード（機関投資家向）の内容を英国のスチュワードシップ・コードと対比して理解できるようになる。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、スチュワードシップ・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にスチュワードシップ・コードとグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
9	第1部火 6/2	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【コーポレートガバナンス・コード】	車の両輪としての日本版コーポレートガバナンス・コード（経営陣向）の理論と上場企業の実践－株主総会の対応と法的課題－ アベノミクスの成長戦略のうち、スチュワードシップ・コードと車の両輪になるコーポレートガバナンス・コードの内容を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制がどのような法律か、について理解し、説明することができる。コーポレートガバナンス・コードの内容を理解できるようになる。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、コーポレートガバナンス・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にコーポレートガバナンス・コードとグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
10	第1部火 6/9	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【コーポレートガバナンス・コード】	スチュワードシップとコーポレート・ガバナンス・コード（1）－プリンシプル（原則）ベースとComply or Explain（遵守せよ、さもなければ説明せよ）－ 2つのコードにおいて、プリンシプルとComply or Explainについて内容を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制がどのような法律か、について理解し、説明することができる。コーポレートガバナンス・コードのうち、プリンシプルベースの内容を理解できるようになる。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、プリンシプルベースの意味などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にプリンシプルベースとComply or Explainの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
11	第1部火 6/16	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【コーポレートガバナンス・コード】	スチュワードシップとコーポレート・ガバナンス・コード（2）－機関投資家と経営陣のエンゲージメント・対話の形成－ 2つのコードにおいて、機関投資家と経営陣の常時からの対話の重要性和プラクティスについて学習する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制がどのような法律か、について理解し、説明することができる。2つのコードにおいて機関投資家と経営陣のエンゲージメント・対話の形成がいかになされるか、理解する。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、エンゲージメント・対話の形成の意味などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にエンゲージメント・対話の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
12	第1部火 6/23	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【コーポレート・ファイナンス】	コーポレート・ファイナンスと企業経営-DE S（債務の株式化）、D I Pファイナンス(つなぎ資金融資)- ガバナンス改革に関し、資金調達手段などファイナンス面の学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制ファイナンス面のがどのような法律か、について理解し、説明することができる。関連したDE S（債務の株式化）、D I Pファイナンスなどの理解を深める。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、資金調達手法などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にファイナンス手法の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部火 6/30	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【米国におけるコーポレート・ガバナンス法制】	米国におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）法制－取締役会制度、独立社外取締役、監査委員会・指名・報酬委員会ほか－ 米国におけるコーポレート・ガバナンスにかかる主要な州会社法について、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）法制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国における関連法制などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に米国のガバナンス法制の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
14	第1部火 7/7	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【米国におけるコーポレート・ガバナンス法制】	米国の機関投資家・年金基金、米国の株主代表訴訟と取締役責任、経営判断原則、コンプライアンス（法令遵守）体制等、英国スチュワードシップ・コードと会社法改正 米国におけるコーポレート・ガバナンスにかかる機関投資家、英国のスチュワードシップ・コードなどについて、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）法制について理解し、説明することができる。米国の株主代表訴訟と取締役責任、経営判断原則、コンプライアンス（法令遵守）体制を理解する。	
		事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国における年金基金など機関投資家、英国のスチュワードシップ・コードについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に英国のスチュワードシップ・コードなどの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
15	第1部火 7/14	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【前期の総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業のガバナンス改革について、前半の総まとめを行い、リスクマネジメント、コンプライアンスを含めた体系的な学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、前期の総まとめを行い、理解の定着が図られる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、グローバル企業に関するガバナンス全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業、金融機関のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	国際経営法学Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この講座では、グローバルに展開する国際的企業を取り巻く法制度について基礎的内容などを学習する。企業経営面に関する法制度の理解に主眼を置き、後期では米国ドッド・フランク法（金融改革法）、M&A（企業買収）、リスクマネジメント、企業不祥事・コンプライアンス、国際不正取引、国際的企業やメガバンクの経営戦略と法務に焦点を当て、仮想通貨やAI（人工知能）など新しいテーマであるフィンテックに関しても事例、司法判断などを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
サブプライム危機など国際金融法制、アベノミクスの成長戦略のコーポレート・ガバナンス(企業統治)改革、フジテレビ事件等敵対的買収・防衛策などグローバル企業を巡る組織法、比較法的な理論と実践の修得を目的とする。基礎理論と実務の接点となる重要科目で国際ビジネス法を学び、総合的な法制・経営の一体的な理解ができ、受講生が説明できることを目標とする。パナソニック、メガバンク等最新の総合的ケーススタディを交える。新しいテーマであるフィンテック、仮想通貨などに関しても理解し、説明できることを目標とする。法律関係学科以外の学生や2年生も歓迎する。金融機関やグローバル企業の就職を目指す者も幅広く、できるだけ多く受講してほしい。

【履修条件】
法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も大歓迎。企業経営、財務分析・企業評価、金融知識も修得する。関連科目で英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更によくなる。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)				
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力

達成されるべき具体的行動		関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の経営において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】	2	2	2			2		
②	他の法律とは異なる国際経営にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】	2	2	2			2		
③	国際経営に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】	2	2	2			2		
④	国際経営に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】	2	2	2			2		
⑤	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるができる。【態度・習慣】	2	2	2			2		
⑥	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】	2	2	2			2		
⑦	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるができる。【態度・習慣】	2	2	2			2		
⑧	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】	2	2	2			2		
⑨	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】	2	2	2			2		
⑩	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】	2	2	2			2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10	5				25
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。								5	5	5	15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評について、最終日の授業において解説などを行う。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部火 9/15	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【ドッド・フランク法】	米国ドッド・フランク法（金融改革法）の概要（1）ーシステム上重要な金融機関（S I F I s）、ボルカールールによる規模・M&A・業務制限ー 金融危機後の米国ドッド・フランク法（金融改革法）の概要などについて、学習する。	
		この回の到達目標	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、前期で学んだ米国ドッド・フランク法について、コーポレート・ガバナンスの面からさらに深く掘り下げて理解を深める。	
		事前学修	国際金融改革に関する法制度について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に米国のドッド・フランク法の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
2	第1部火 9/22	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【ドッド・フランク法】	米国ドッド・フランク法（金融改革法）の概要（2）ーコーポレート・ガバナンス、報酬改革、消費者保護などー 金融危機後の米国ドッド・フランク法（金融改革法）について、コーポレート・ガバナンスに関連して学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、前期で学んだ米国ドッド・フランク法について、コーポレート・ガバナンスの面からさらに深く掘り下げて理解を深める。報酬改革、消費者保護などを理解する。	
		事前学修	国際金融改革に関する法制度について、ドッド・フランク法の内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に米国のドッド・フランク法のガバナンス面の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
3	第1部火 9/29	【グローバル企業のM&A法制度】	世界のM&A（企業買収）動向ー米国のM&A法制、EU企業買収指令、合併、株式交換、三角合併、株式公開買付（TOB）などー 米国やEUにおけるM&A法制について概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国のM&A法制、EU企業買収指令などを理解する。	
		事前学修	国際的なM&A（企業買収）について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に欧米のM&A法制の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
4	第1部火 10/6	【グローバル企業のM&A法制度】	米国の敵対的企業買収防衛策に関する司法の変遷ーユノカル判決、ポイズンピル（毒薬条項）ー M&Aと防衛策について、先進国である米国の動向、判例などを中心に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国の敵対的企業買収防衛策に関する司法の変遷を理解する。	
		事前学修	国際的なM&A（企業買収）について、米国の防衛策の内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に米国の防衛策の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
5	第1部火 10/13	【グローバル企業のM&A法制度】	M&A（企業買収）判例研究ー経済産業省買収防衛策指針、ニッポン放送・フジテレビ s ライブドア、ブルドックソース、UFJ信託銀行メガバンク経営統合ー 国際的なM&A（企業買収）に関連して、近時の我が国の重要な司法判断に与える影響などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、M&A（企業買収）判例研究を行う。	
		事前学修	国際的なM&A（企業買収）に関連して、米国の防衛策と我が国への影響を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に米国の防衛策と我が国への影響の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
6	第1部火 10/20	【グローバル企業の不正会計と法制度】	エンロン事件、米国COSO報告書と米国企業改革法（SOX法）、日本版SOX法（金商法） 国際的な不正会計事件について、エンロン事件、米国COSO報告書、米国企業改革法（SOX法）の内容を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、国際的な不正会計事件について法制度を理解する。	
		事前学修	国際的な不正会計事件について、概要を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に国際的な不正会計事件の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部火 10/27	【グローバル企業のリスクマネジメント】	グローバル企業におけるリスクマネジメントの理論と実際－内部統制・内部監査、戦略的グループ・リスクマネジメント（ERM）－リスクマネジメントの法制度上の理論とプラクティスについて、グローバル企業に関し、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、リスクマネジメントのプラクティスを理解する。	
		事前学修	企業経営のリスクマネジメントに関して、概要を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に国際的企業におけるリスクマネジメントの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
8	第1部火 11/10	【グローバル企業のコンプライアンス】	企業不祥事・コンプライアンス（法令遵守）の法的研究－日産自動車事件：有価証券虚偽記等・特別背任、オリンパス事件：損失飛ばし、東芝事件：不正会計・業務監査、大王製紙事件：親子会社結合法制・子会社少数株主保護・グループ監査など－	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、企業不祥事・コンプライアンス（法令遵守）の法制度を理解する。	
		事前学修	グローバル企業におけるコンプライアンスについて、最近の日産自動車の有価証券虚偽記等、具体的な事例を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に国際的企業におけるコンプライアンスの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
9	第1部火 11/17	【グローバル企業の国際不正取引と域外適用】	国際不正取引と域外適用－米国欧米汚職行為防止法（FCPA）と丸紅・日揮、ブリジストン事件など－ 国際不正取引に関する不正防止について、米国FCPAと丸紅、ブリジストンなどのケースを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国欧米汚職行為防止法（FCPA）を理解する。	
		事前学修	グローバル企業におけるコンプライアンスについて、米国の規制などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に国際不正取引の規制の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
10	第1部火 11/24	【グローバル企業の企業評価・財務分析】	企業評価・財務分析手法－ROE（株主資本利益率）、LBO（借入金をしてこにした買収）、MBO（経営陣による買収）など－ 経営分析、財務分析について、グローバル企業のケースを用いて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、M&Aなどにおける基礎となる企業の評価手法などを理解する。	
		事前学修	グローバル企業における企業評価・分析について、米国の規制などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に企業評価・財務分析の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
11	第1部火 12/1	【グローバル企業の総合的なケーススタディー】	国際的企業における経営戦略と法務・ガバナンス－パナソニック、日立製作所、ソニー、帝人、トヨタなど総合的なケーススタディー－コンプライアンスやリスクマネジメント、ビジネス法務、経営・財務分析を含めてグローバ企業の総合的な事例演習を行う。日産自動車については、ルノー（仏）との国際合弁会社等も取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、法制度や経営・会計を含めた総合的なケーススタディーを理解する。グローバルなメーカーを題材とする。	
		事前学修	国際的企業における経営法務について調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にグローバ企業の総合的な事例の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
12	第1部火 12/8	【グローバル企業の総合的なケーススタディー】	メガバンクにおける経営戦略・法務・ガバナンス－三菱東京UFJ、みずほ、三井住友、三井住友信託銀行など－ ガバナンス改革を進める巨大金融機関の法務、プラクティスについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、法制度や経営・会計を含めた総合的なケーススタディーを理解する。メガバンクを対象とする。	
		事前学修	巨大金融機関の経営法務、ガバナンスについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にメガバンクの総合的事例の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部火 12/15	【グローバル企業とフィンテック法制】	フィンテックの概要と法制度（１）－フィンテックの欧米の概要、銀行法改正など－ フィンテックについて、欧米の概要と法制度などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、フィンテックについて理解する。	
		事前学修	フィンテックについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特にフィンテック全般の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
14	第1部火 12/22	【グローバル企業とフィンテック法制】	フィンテックの概要と法制度（２）－仮想通貨・ICOの概要、司法判断事例、各国の法制度、AI（人工知能）など－ 仮想通貨や裁判事例、各国の法制度とプラクティス、さらにAI（人工知能）にかかる法制度などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、フィンテックについて理解する。AI、仮想通貨などに関する法制度も欧米各国などを含めて理解する。	
		事前学修	フィンテックに関して仮想通貨などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、特に仮想通貨などの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
15	第1部火 1/12	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】 【後期の総まとめ】	授業内レポートと解説等を行う。グローバル企業のガバナンス改革について、総まとめを行い、リスクマネジメント、コンプライアンスを含めた体系的な学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、後期の総まとめを行い、理解の定着が図られる。レポートの解説も行う。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、グローバル企業に関するガバナンス全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	国際経営論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
多国籍企業の特徴と国際経営の独自問題について体系的に理解する。グローバル市場環境の中で日系多国籍企業が直面する問題とその解決策に関して講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、多国籍企業による国際経営の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「経営学ⅠとⅡ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にくること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案するマーケティング計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経営の独自問題を説明できる				2	2	2					
②	多国籍企業の歴史について説明できる				2	2	2					
③	内部化理論について説明できる					2	2					
④	グローバル組織について説明できる					2	2					
⑤	マルティドメスティック組織について説明できる					2	2					
⑥	トランスナショナル組織について説明ができる					2	2					
⑦	理論やフレームワークに基づき、多国籍企業成立のメカニズムを説明できる					2	2					
⑧	他者へ国際経営組織の特徴を説明できる						2					
⑨	他者の国際経営組織が内在する課題を批判的に検討できる						2					
⑩	優れた多国籍企業の組織モデルについて説明できる					2	2					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約3,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際経営の独自問題を調査・分析する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。			5	5	5	5	10	10	10	10	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション）、ケーススタディ、ゲスト講義、個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5		5	5		40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	10	10	10	10	10	15	15	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未来の多国籍企業	浅川・伊田・臼井・内田著	文真堂	2020	参考書	推奨
備考	本書は参考書（副読本）として使用する。毎回の授業内では使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	4月15日	国際経営の独自問題	そもそも国境を越える経営である国際経営には国内経営とは異なる独自の経営問題が内在している。これら問題について理解する	
		この回の到達目標	①の関連において、国際経営の独自問題について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な多国籍企業の動向を新聞記事等で調べておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	4月22日	多国籍企業の歴史	多国籍企業の歴史と定義について理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の歴史と定義について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	4月29日	多国籍企業の成立①	多国籍企業の成立の論理を理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（優位性概念）について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	5月6日	多国籍企業の成立②	多国籍企業の成立の論理を理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（内部化理論）について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	5月13日	多国籍企業の成立③	多国籍企業の成立の論理を理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（OLIパラダイム）について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	アクティブ・ラーニング① (グループ演習1)	企業のケースを使って、多国籍企業の成立プロセスを分析する	
		この回の到達目標	①, ②, ③, ⑦, ⑧, ⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、多国籍企業の成立プロセスを分析し、報告する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
8	5月27日	グローバル経営組織①	多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
		この回の到達目標	④, ⑤, ⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
9	6月3日	グローバル経営組織②	多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
		この回の到達目標	④, ⑤, ⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
10	6月10日	グローバル経営組織③	多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
		この回の到達目標	④, ⑤, ⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
11	6月17日	グローバル経営組織④	多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
		この回の到達目標	④, ⑤, ⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備 (レポート提出日)	180分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
12	6月24日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習2)	レポートを相互に分析する	
		この回の到達目標	④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨の関連において、他者のレポートを分析し、アドバイスをを行う	
		事前学修	自身のレポートの整理	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	アクティブ・ラーニング③ (個人演習1)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際経営の独自問題を分析し、課題を提示できる	
		事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	7月8日	アクティブ・ラーニング④ (個人演習2)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際経営の独自問題を分析し、課題を提示できる	
		事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	7月15日	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する	
		事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
		事後学修	振り返り	120分

科目名	国際経営論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
多国籍企業の特徴と国際経営の独自問題について体系的に理解する。グローバル市場環境の中で日系多国籍企業が直面する問題とその解決策に関して講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、多国籍企業による国際経営の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「経営学ⅠとⅡ」ならびに「国際経営論Ⅰ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にすること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案するマーケティング計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多国籍企業におけるグローバル生産管理しくみを説明できる					2	2	2					
②	多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみを説明できる					2	2	2					
③	多国籍企業における国際人的資源管理のしくみを説明できる					2	2	2					
④	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割を説明できる					2	2	2					
⑤	多国籍企業におけるグローバル・リーダーシップの機能を説明できる					2	2	2					
⑥	未来の多国籍企業の課題について説明ができる					2	2	2					
⑦	理論やフレームワークに基づき、多国籍企業の経営機能を説明できる					2	2	2					
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約3,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際経営の独自問題を調査・分析する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。			5	5	5	5	10	10	10	10	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション）、ケーススタディ、ゲスト講義、個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5		5	5		40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	10	10	10	10	10	15	15	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未来の多国籍企業	浅川・伊田・臼井・内田著	文眞堂	2020	参考書	推奨
備考	本書は参考書（副読本）として使用する。毎回の授業内では使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	9月23日	グローバル生産管理①	メーカーによる生産管理に基本とグローバル生産管理のしくみならびに課題について理解する	
		この回の到達目標	①の関連において、グローバル生産管理のしくみならびに課題について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	9月30日	グローバル生産管理②	メーカーによる生産管理に基本とグローバル生産管理のしくみならびに課題について理解する	
		この回の到達目標	①の関連において、グローバル生産管理のしくみならびに課題について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	10月7日	グローバル・イノベーション・マネジメント①	現在のイノベーション・マネジメントにおける課題を理解した上で、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を理解する	
		この回の到達目標	②の関連において、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	10月14日	グローバル・イノベーション・マネジメント②	現在のイノベーション・マネジメントにおける課題を理解した上で、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を理解する	
		この回の到達目標	②の関連において、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	10月20日	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	グローバル・イノベーション・マネジメントのための独自のしくみを考案する	
		この回の到達目標	②と⑦の関連において、グローバル・イノベーション・マネジメントの課題を説明し、解決策を考案できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	国際人的資源管理①	多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について理解する	
		この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
8	11月11日	国際人的資源管理②	多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について理解する	
		この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
9	11月18日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習2)	多国籍企業の国際人的資源管理における新しい機能を考案する	
		この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
10	11月25日	多国籍企業における組織文化と経営理念①	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
11	12月2日	多国籍企業における組織文化と経営理念②	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備、レポート準備（レポート提出日）	180分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
12	12月9日	グローバル・リーダーシップ	グローバル・リーダーシップの機能と効果について理解する	
		この回の到達目標	⑤の関連において、グローバル・リーダーシップの機能と効果について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	アクティブ・ラーニング③ (個人演習1)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標において、多国籍企業の経営機能を分析し、課題を提示できる	
		事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	12月22日	アクティブ・ラーニング④ (個人演習2)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標において、多国籍企業の経営機能を分析し、課題を提示できる	
		事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	1月13日	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する。	
		この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する。	
		事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
		事後学修	振り返り	120分

科目名	国際経済法Ⅰ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
現在のグローバル経済を支える大きな仕組みの一つである「WTO体制」を講義の対象とし、GATTの前身である「ITO」、「GATT体制」、「WTO体制」の仕組みを理解し、それぞれの時代背景、交渉経緯、特色等を学修する。さらに、ITOの頓挫、GATTの制定経緯、そして現在のWTO体制の成立から、「WTO体制」基本原則や紛争処理手続きを学修し、具体的事例に紛争処理手続きについて自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自由貿易体制」の意義を理解するための必要な国際経済法の基礎理論および「WTO体制」の基礎知識の修得を目的とする。 国際貿易紛争を「WTO体制」の枠組みにおいてどのように紛争解決を図っているのかを受講生が自らの言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
特にないが、経済法、国際経済法Ⅱを履修済みか、並行履修が好ましい。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。受講生間において討議することがある。 小テスト、振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。								2					
②	経済紛争における国際経済法上の問題点を正確に抽出できる。						2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。								2					
④	他者の意見を正確に理解できる。							2				2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる。						2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方をを用いて今後の展開を予測できる。						2	2	2			2		
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストを2回（20点×2回＝40点）行う。	40										40
レポート等	レポートを1回かす(30点)。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加（30点）。	10			10	10						30
授業への参画度	評価しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	5	5	15	15	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『2019年版不公正貿易報告書』	経済産業省通商政策 局編	経済産業業HP	令和元 年		
備考	上記報告書は、 http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/wto_compliance_report/index.html にUPされている。				

【オフィスアワー】
水曜日12時10分から13時00分（事前に口頭かメールでご連絡ください。メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	授業の目的、授業方法、教科書、参考図書・資料、成績評価等、そして資料検索の方法について学修する。 国際経済法Ⅰを学修する意義を理解する。	
		この回の到達目標	受講に必要な資料の収集方法、予習の仕方等を理解し実施できる。 国際経済法Ⅰを学修する意義を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストをダウンロードし、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	授業計画について確認するとともに、授業で行った資料の検索方法を用いて指定された資料を検索する。	120分
2	4/15	WTOの概要と関税制度	WTO協定の概要 「WTO協定の基本的目的」、「WTOの基本原則」、「WTO協定の全体像」、「WTOの機構」、そして「GATTおよびWTOにおける自由化交渉の流れ」を考察し、「WTO体制」の概要を学修する。 関税制度の概要について簡単に学修する。	
		この回の到達目標	WTO制定の経緯とその背景を自分の言葉で説明できる。 関税制度の概要について簡単に説明できる。	
		事前学修	指定されたテキストを印刷し、125-131頁を読み、「WTO体制」の全体像を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「WTO体制」の全体像を自分の言葉で説明できるように知識を整理する。	120分
3	4/22	最恵国待遇原則	最恵国待遇原則 「ルールの概観」講義し、「主要ケース」における問題点を学修する。	
		この回の到達目標	WTOにおける最恵国待遇規定について具体例をあげて説明できる。	
		事前学修	指定されたテキスト133-140頁を読んで、「最恵国待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「最恵国待遇」原則の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
4	4/29	内国民待遇原則	内国民待遇原則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を学修する	
		この回の到達目標	内国民待遇原則につて具体的な事例をあげて説明できる。	
		事前学修	指定されたテキスト141-148頁を読んで、「内国民待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「内国民待遇原則」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
5	5/6	数量制限禁止原則	数量制限への規制・輸出規制 「ルールの概観」、「主要ケース」について講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	何故数量制限が禁止されているのか自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定されたテキスト149-155頁、156-166頁を読んで、「数量制限」に対する規制、「輸出規制」について制度趣旨等を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「数量制限」に対する規制、「輸出規制」の問題点等と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
6	5/13	正当化事由	正当化事由 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	紛争事例において正当化事由がどのように主張され、どのような場合に認められるか主要な事例をあげて説明できる。	
		事前学修	指定テキスト167-189頁を読んで、紛争当事国の主張する「正当化事由」についてその趣旨について確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「正当化事由」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	関税制度	関税制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	譲許表を用いて関税の計算ができる。	
		事前学修	指定されたテキスト191-201頁と配布資料を読んで、「関税制度」の概要、基礎知識を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、関税制度の概要、基礎知識を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
8	5/27	アンチダンピング	ダンピング規制・アンチダンピング措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	ダンピング規制及びアンチダンピング措置の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
		事前学修	指定テキスト203-218頁を読んで、アンチダンピング措置について概要、基礎知識を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、アンチダンピング措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
9	6/3	補助金	補助金・相殺措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	補助金のWTO上の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
		事前学修	指定テキスト219-236頁を読んで、補助金・相殺措置の制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、補助金・相殺措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
10	6/10	セーフガード	セーフガード 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
		この回の到達目標	セーフガードが認められたケースを用いてどのような場合に認められるか説明できる。	
		事前学修	指定テキスト237-252頁を読んで、セーフガードの制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
11	6/17	貿易投資関連措置	貿易関連投資措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点について考察する。	
		この回の到達目標	貿易関連投資措置の概要について自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定テキスト253-256頁を読んで、貿易関連措置の基礎知識を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、貿易関連投資措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
12	6/24	原産地規則	原産地規則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	原産地規則についてその問題点を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定テキスト257-261頁を読んで、原産地規制の概要を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、原産地規制の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	基準・認証制度	基準・認証制度「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	基準・認証制度が国際貿易に及ぼす影響について具体的事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	指定テキスト263-283頁を読んで、基準・認証の制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
14	7/8	サービス貿易	サービス貿易「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	サービス貿易をWTOで取り扱う意義について自分の言葉で説明できる	
		事前学修	指定テキスト285-305頁を読んで、WTO体制におけるサービス貿易の取扱いについて確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、サービス貿易のWTO体制での取扱いについて自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
15	7/15	WTO体制の展望	これまでの講義を復習するとともに、残されているWTO体制の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	ここまでの講義を通じて学修した知識をふまえWTO体制の意義について自分の見解を整理し発表できる。	
		事前学修	これまでも講義ノート、テキストを確認して、自由貿易体制における「WTO体制」の役割を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
		事後学修	これまでの、資料・ノートを読み、残された課題について、自分なりの見解を示せるよう考えを整理する。	120分

科目名	国際経済法Ⅱ	担当者	中村 良	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
国際経済法Ⅱでは、「自由貿易体制」維持の観点から、世界の主要な競争法について制度趣旨・基礎概念・特徴を理解し、特に世界の競争方法をリードするアメリカ競争法（以下、アメリカ反トラスト法という）を中心にEU、アジア（日本、韓国、中国）における競争の法の基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ、EU、アジア（日本、韓国、中国）における競争法の基礎理論の修得を目的とし、競争法の背後にある経済理論の展開についても留意しながら、各国競争法について学修する。そして、今後の世界の競争法の展開について自分の見解をもち、自分の言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
経済法、国際経済法Ⅰを履修済みか、並行履修が望ましい。

【授業方法】		
授業資料を配布する。当該配布資料に沿って講義を進める。受講生間で討議することがある。 小テスト・振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。							2					
②	経済紛争における国際経済法の問題点を正確に抽出できる。					2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。							2					
④	他者の意見を正確に理解することができる。						2				2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる					2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方をを用いて今後の展開を予測できる。					2	2	2			2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストを2回(20点×2回=40点) 行う	40										40
レポート等	レポートを1回かす (30点) 。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加(30点)	10			10	10						30
授業への参画度	加味しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	5	5	15	15	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない					
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：10～13：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ってくださいメールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/23	ガイダンス・導入講義		1 授業の目的、方法、教科書、参考図書、成績評価等について 2 「競争法」の定義 3 国際経済法Ⅰとの関係 4 資料収集方法
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を正確に理解できる。 「競争法」の定義、勉強の意義、国際経済法Ⅰとの関係を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	経済法を履修済の受講生は、教科書・ノートを読み直しておくこと。未履修の受講生は、公正取引委員会のHPを参照し我が国における独占禁止法について確認する。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を確認し整理する。質問があれば、オフィスアワーのアポをとる。 授業内で紹介された情報検索を実施し内容を確認する。	120分
2	9/30	世界の競争法概説		世界主要国の競争法の歴史を概観し、その関係を学修する。
		この回の到達目標	世界の「競争法」の歴史を概観し、その関係と制定経緯について、自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)	120分
		事後学修	今回の授業の概要を配布資料・ノートで確認し、競争法の制定経緯について復習し、自分の言葉で説明できるように整理する。	60分
3	10/7	米国競争法（米国の法の特徴・反トラスト法制定以前の競争法・反トラスト法の制定）		米国法の特徴について学修する。 反トラスト法の起源・変遷について具体的事例を用いて学修する。 必要な資料の収集方法についても学修する。
		この回の到達目標	米国法の特徴と反トラスト法制定以前の競争制限行為規制についてその特色を正確に理解し自分の言葉で説明できる。 反トラスト法制定当時の米国の政治状況を踏まえ何故成立できたのかについて理解し、自分の言葉で説明できる。 制定資料等を自分で検索収集できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認して、①米国法の特色について整理し、②米国判例の検索方法を確認しておく。	120分
4	10/14	米国競争法（反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関）		反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関について、必要な資料の収集方法を学修するとともに、日本法と比較しての反トラスト法の特色を理解する。
		この回の到達目標	反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関について、日本法と比較してのその特色を正確に説明できる。 必要な資料を検索・収集できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認し、アメリカ反トラスト法の概要について、自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
5	10/21	米国競争法（反トラスト法による共同行為規制）		反トラスト法による主に共同行為（カルテル等）規制について、要件・立証責任・捜査方法等その特色を主要な判例等を参照しながら学修する。
		この回の到達目標	反トラスト法による主にカルテル規制について、要件・立証責任・捜査方法等その特色を主要な判例等を参照しながら学修し、その特色を整理し自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「カルテル規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
6	10/28	米国競争法（反トラスト法単独行為・私的独占規制）		反トラスト法における単独行為規制（私的独占等）について主要な判例をあげながら学修し、その特色について整理する。
		この回の到達目標	反トラスト法における単独行為規制（私的独占等）について、その要件と法の執行について事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「独占規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	11/04	米国競争法（合併規制・FTC法5条等）		反トラスト法の企業結合規制について主要判例、ガイドライン等を参照しながら、どのような場合に企業結合が制限されるか学修する。 FTC法5条についてその概要を理解する。
		この回の到達目標	米国競争法における企業結合規制についてガイドラインと主要判例を用いて、どのような場合に規制されるか説明できる。 FTC法5条について日本法と比較しながら説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理 反トラスト法における企業結合規制・FTC法の運用について整理し、自分の言葉で説明できるようにする。	120分
8	11/11	EU競争法（歴史・概要）		EUの歴史・基本原理、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を講義し、その特色を考察する。
		この回の到達目標	EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を学修し、自分の言葉で説明できる。 必要な資料を収集できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
9	11/18	EC競争法（共同行為規制）		EU競争法における「共同行為規制」（カルテル規制）の要件・主要な事例を学修し、米国・日本との違いを整理する。
		この回の到達目標	EU競争法における「共同行為規制」（カルテル規制）について米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法における「共同行為規制」の特色と米国・日本との違いについて、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
10	11/25	EU競争法（単独行為規制）		EC競争法における単独規制（市場支配的地位の濫用行為規制）の要件・主要な事例を学修し、米国・日本との違いを整理する。
		この回の到達目標	EC競争法における単独規制（市場支配的地位の濫用行為規制）の要件・主要な事例について米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、韓国独占禁止法における「市場支配的地位の濫用禁止」および「企業結合規制」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
11	12/08	EU競争法（合併・買収規制）		EC競争法における合併規制の要件・審査手続を学修し、米国・日本との違いを整理する。
		この回の到達目標	EC競争法における合併規制の要件・審査手続を学修し、米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、EC競争法における企業結合規制の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
12	12/09	アジアの競争法（韓国－執行機関・支配的地位の濫用等）		韓国競争法の執行機関、市場支配的地位の濫用禁止および企業結合規制について講義し、その特色を考察する。
		この回の到達目標	韓国競争法の執行機関、市場支配的地位の濫用禁止および企業結合規制について、その特色を自分の言葉で説明する。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、中国独占禁止法の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	アジアの競争法（韓国－カルテル規制）	アジア 韓国独占禁止法における「不当な共同行為」規制について講義し、その特色を考察する。	
		この回の到達目標	韓国の競争法について制定経緯・概要・執行機関・最近の運用について自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、韓国競争法の特徴と主要な規定の運用について自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
14	12/23	アジアの競争法(中国他)	中国競争法について制定経緯・概要について学修する。	
		この回の到達目標	中国競争法について制定経緯、概要、主要な規定の運用状況を自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、中国競争法の特徴と主要な規定の運用について自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
15	01/13	国際経済法Ⅱのまとめと展望	アメリカ反トラスト法、EU競争法、日本独占禁止法、韓国独占禁止法、中国独占禁止法の特色を比較するとともに国際協力について比較し、今後の競争法の展開について考察する。	
		この回の到達目標	「課題」について、これまでの学修した複数の知識を用いて論点と予測される結論について自分の言葉で説明できる。これから主要競争法の今後の展望について自分の意見を言える。	
		事前学修	これまでの配布資料・授業ノートを読み直し、各国の競争法の特色を整理する。必要に応じて参考資料を検索する。	120分
		事後学修	配布資料、授業ノートで、世界の主要な競争法の特色を確認し、これからの競争法の展開を自分の言葉で説明できるように自分の考えを整理する。	120分

科目名	国際経済論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この国際経済論Ⅰでは貿易論を、国際経済論Ⅱでは国際マクロ経済学を学びます。貿易論では、国同士が財の交換を行うことで生じる利得から、貿易を説明します。授業では最初に、余剰の概念を用いて、貿易政策の影響について説明します。次に、基本的な貿易モデルを、具体的には交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーン・モデルという3つのモデルを順に紹介します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
貿易政策が生産者と消費者、双方に与える影響について、及び貿易モデル(交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーン・モデル)について、理解し説明できる能力を養成することを目的とする。 また、二種類の生産要素(資本と労働)を使い生産した財を国同士で交換するヘクシャー＝オリーン・モデルを理解することで、国を跨いだ資本と労働の移動について考える、1つの見方を手にすることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰの受講を終えていることが望ましい。または、経済学の基本的な概念を知っていることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説もおこないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に小テストを実施し、その解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					2						2
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。					2	2					2
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。						2	2				2
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								2			2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等	授業時間中に実施する小テストにより、第1回は到達目標①にかかわる経済活動を観察する力が身についているか、第2回は到達目標①②にかかわる経済の現状を分析する力が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸	新世社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取ること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	貿易政策(1)	需要曲線と消費者余剰、供給曲線と生産者余剰	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、消費者余剰と生産者余剰の概念を説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
2	4月14日	貿易政策(2)	貿易の自由化と貿易利益 自由貿易を行うことが国全体のメリットになる理由を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、貿易利益を説明できる。	
		事前学修	教科書(第2章3節、4節、5節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	4月21日	貿易政策(3)	関税と非関税障壁、WTO	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、非関税障壁、WTOについて説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	4月28日	消費者行動の理論(1)	相対価格、予算制約	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、相対価格と予算制約について説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	5月5日	消費者行動の理論(2)	効用・無差別曲線、限界代替率	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、限界代替率について説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	5月12日	自給自足経済	自給自足経済の均衡	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貿易が行われる前の経済状態を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	交換モデル	自由貿易均衡	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、交換モデルを使って、貿易利益を説明できる。	
		事前学修	教科書(第3章4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	5月26日	リカード・モデル(1)	絶対優位と比較優位 リカードの比較優位説(リカード・モデル)では、国家間の労働生産性の違いから貿易を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、絶対優位と比較優位の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
9	6月2日	リカード・モデル(2)	生産可能性フロンティア	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、生産可能性フロンティアについて説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	6月9日	リカード・モデル(3)	相対価格と貿易パターン 国家間の労働生産性の違いと相対価格から、貿易パターンを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貿易パターンを説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	6月16日	リカード・モデル(4)	貿易利益	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、リカード・モデルを使って、貿易利益を説明できる。	
		事前学修	教科書(第4章6節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	6月23日	ヘクシャー=オリーン・モデル(1)	資本・労働比率、生産要素の集約性、生産可能性フロンティア ヘクシャー=オリーン・モデルでは、それぞれの国で入手できる生産要素の割合と、特定の品を生産するのに必要な生産要素の割合との関連性から貿易を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、リカード・モデルとの違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	ヘクシャー=オリーン・モデル(2)	リプチンスキー定理	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、リプチンスキー定理を説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	7月7日	ヘクシャー=オリーン・モデル(3)	ヘクシャー=オリーン定理	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘクシャー=オリーン定理を説明できる。	
		事前学修	教科書(第5章4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	7月14日	理解度の確認	理解度の確認	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握しており、説明できる。	
		事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際経済論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この国際経済論Ⅱの授業では、国際マクロ経済学を学びます。外国との取引を取り入れたマクロ経済モデル(開放経済モデル)を扱うことになり、閉鎖経済モデルにはなかった、外国為替相場や輸出入といった新しい変数を取り入れられます。国際収支統計は、公表されている統計資料を用いて、数字の読み方についても解説します。外国為替相場決定理論の紹介の他、経済政策の効果について考察するためのマクロ経済モデルを紹介します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では国際マクロ経済学を学びます。開放経済を説明する諸変数とそれらの相互関係について理解し説明出来る能力を養成することを目的とします。 さらには、外国と取引が行われている場合では経済政策の効果が、取引が行われていない場合と異なることを、その理由も含めて考えられるようになることを目標とします。関連D P 及びC P：法律学科1, 2 政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰ、Ⅱの受講を終えていることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説も行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に小テストを実施し、その解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					2	2					2
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。					2	2					2
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。						2	2				2
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								2			2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等	授業時間中に実施する小テストにより、第1回は到達目標①にかかわる経済活動を観察する力が身についているか、第2回は到達目標①②にかかわる経済の現状を分析する力が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸	新世社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取ること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	国民所得	国民所得勘定と対外取引	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国内総生産と国民総所得との違いを説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
2	9月22日	国際収支	開放経済と国際収支	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際収支統計の数字を説明できる。	
		事前学修	教科書(第11章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	9月29日	外国為替相場	外国為替市場と外国為替相場	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国為替取引についての基本的な説明ができる。	
		事前学修	教科書(第12章1節、2節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	10月6日	変動相場制度	為替相場制度と外国為替相場	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、金本位制、金ドル本位制、変動相場制といった為替相場制度について説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	10月13日	貿易と外国為替相場	外国為替相場の変化と貿易収支	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国為替相場と貿易収支との関係を説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章4節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	10月20日	外国為替相場の決定理論(1)	短期における外国為替相場の決定	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、金利平価説を説明できる。	
		事前学修	教科書(第12章5節、第13章1節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月27日	外国為替相場の決定理論(2)	長期における外国為替相場の決定
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、購買力平価説を説明できる。
		事前学修	教科書(第13章2節)を利用120分
		事後学修	教科書とノートを利用120分
8	11月10日	開放経済モデル	閉鎖経済モデルと開放経済モデル
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、開放経済モデルと閉鎖経済モデルの違いを説明できる。
		事前学修	教科書(第14章1節)を利用120分
		事後学修	教科書とノートを利用120分
9	11月17日	45度線図モデル	45度線図モデルの復習
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、45度線図モデルを説明できる。
		事前学修	教科書(第14章1節)を利用120分
		事後学修	教科書とノートを利用120分
10	11月24日	外国貿易乗数	開放経済モデルを使って、需要の変化の影響を見る。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、開放経済モデルと閉鎖経済モデルの違いを説明できる。
		事前学修	教科書(第14章2節)を利用120分
		事後学修	教科書とノートを利用120分
11	12月1日	IS-LMモデル	IS-LMモデルを紹介する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、IS-LMモデルのエッセンスを把握し、説明できる。
		事前学修	教科書(第15章1節)を利用120分
		事後学修	教科書とノートを利用120分
12	12月8日	マンデル＝フレミング・モデル(1)	IS曲線とLM曲線
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、IS曲線とLM曲線の導出について説明できる。
		事前学修	教科書(第15章1節)を利用120分
		事後学修	教科書とノートを利用120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	マンデル=フレミング・モデル(2)	国際収支均衡線	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際収支均衡線の導出について説明できる。	
		事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	12月22日	金融・財政政策の効果	金融政策と財政政策の効果	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、マンデル=フレミング・モデルを使って、金融・財政政策の効果を説明できる。	
		事前学修	教科書(第15章2節、3節)を利用	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	1月12日	理解度の確認	理解度の確認	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握し、説明できる。	
		事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
		事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際契約法 I	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
The aim of the course is to introduce students to basic principles of international contracts together with developing practical skills of contract drafting, review and negotiation. The course will also provide an overview of the various contracts commonly used in international trade.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Students should gain knowledge on and obtain an ability to explain: ・ general principles of international contract law; ・ negotiating international contract clauses; and ・ the general terms and conditions found in international agreements.

【履修条件】
Students who are interested in international contract law and how to negotiate them. The course will be taught mainly in English.

【授業方法】
講義及び論点についてのグループディスカッションと設例に基づいたロールプレイを行う。 The course is taught mainly in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	アクティブラーニングの形態 第2回目の講義以降、配布する資料に基づいたグループディスカッションやロールプレイを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Students should gain knowledge on the general principles of international contract law and be able to explain them in writing and orally.		2	2				2		
②	Students should practice and gain knowledge on negotiating international contract clauses.		2	2				2		
③	Students should become familiar with the general terms and conditions found in international agreements and understand and explain their importance.		2	2				2		
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に3回の小テストを行い、到達目標①及び③に関する国際契約の知識が身に付いており、それを自らの言葉で記述し説明することができているかを基準として評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標②について、グループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。		20									20
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から③について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(模擬国際 契約交渉)	到達目標②の模擬国際交渉において授業で学んだ国際契約に関する法律専門用語を使用し、適切なコミュニケーションをとることができるようになっているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	60	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback will be provided via quiz, group discussion, presentations and mock negotiations.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ポイントがわかる！国際ビジネス契約の基本・文例・交渉』	樋口一磨	日本加除出版株式会社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and by appointment. Please contact me if you would like to set up an appointment.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Over 25 years managing legal matters in the U.S. and Asia.
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	国際契約法とは	国際契約の全体像と国際ビジネスについての学修をする。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際契約とはどのようなものなのか、また国際ビジネスの3類型のうち、貿易型について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際契約法がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	90分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本3類型のうち、貿易型の具体的な論点について整理・再確認する。	90分
2	4/13	国際ビジネスの類型としての間接進出型と直接進出型	国際ビジネスの3類型のうち、間接進出型と直接進出型の具体的な内容と論点について学修をする。	
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、間接進出型と直接進出型の国際ビジネスについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の9ページから27ページまでをあらかじめ読んでおき、国際ビジネス契約の間接進出型と直接進出型の具体的な類型や課題などを理解し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	90分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本3類型のうち、間接進出型と直接進出型と貿易型の具体的な論点について整理・再確認する。	90分
3	4/20	国際ビジネス契約の特徴	〈国際ビジネス契約の特徴〉国際ビジネス契約にはどのような特徴があるのか、法の適用などはどうなっているのかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、国際契約には複数の側面からの特徴を有しているかについて、その内容を理解し、説明することができる。また、契約書の重要性や使用言語、法適用あるいは国際契約に固有のルールの内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の29ページから46ページまでをあらかじめ読んでおき、国際ビジネス契約の特徴を有しているかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネス契約の特徴と法や貿易ルール適用について整理・再確認する。	120分
4	4/27	商業信用状と紛争解決	商業信用状と紛争解決 Quiz #1. 国際ビジネスの決済に特有の商業信用状と紛争解決について学修をする。授業終了時に、第1回目から第4回目の内容について的小テストを実施し、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、商業信用状の具体的な内容とその仕組み、国際ビジネス契約に関して紛争が発生した場合の解決方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の46ページから55頁までをあらかじめ読み、商業信用状の内容や国際ビジネス契約に関連して発生した紛争の解決方法について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	180分
		事後学修	講義ノートと小テストの内容を確認して、国際ビジネスの類型と国際ビジネス契約の特徴についての具体的な論点について整理・再確認する。	120分
5	5/4	国際ビジネス契約書の体裁	教科書のUniform Commercial Code、Statute of Frauds、及びBattle of the Formsについて学修し、契約書の体裁について、Preamble、Recitals、and Considerationに分けて理解し説明できるようになる。	
		この回の到達目標	Students should understand these sections of the contract and explain their importance. This will be achieved via class discussion, group teamwork and mock negotiations.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の57ページから64頁までをあらかじめ読み、Order、Acceptance、Order Confirmation、及びBattle of the Formsについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the above clauses and confirm your understanding.	120分
6	5/11	英文契約に特有の表現。	We will examine: shall vs. may, right vs. obligation, best efforts vs. reasonable efforts, and liability.	
		この回の到達目標	Examine and explain how these terms are used in negotiations. Divide into teams and negotiate a hypothetical “Order.” Discuss how disputes may arise.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の64ページから73頁までをあらかじめ読み、examine how usage of these terms may affect a party’s obligations under the agreement.	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、become familiar with the clauses discussed and examine why misunderstandings may lead to litigation.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	1. 英文契約に特有の表現 2. 契約類型別。秘密保持契約（“NDA”）.	英文契約に特有の表現（binding, enforceable, terminate, cancel, and termination for cause）について学修する。Nondisclosure agreements（NDA）について理解し、NDAについて模擬交渉を行い、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	Examine and explain the following: binding, enforceable, terminate, cancel, termination for cause. Study and explain nondisclosure agreements and their purpose.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の74ページから95頁までをあらかじめ読み、examine nondisclosure agreement terms and conditions.	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、review non disclosure agreements and how they are used.	120分
8	5/25	契約類型別。 売買契約 part 1. Overview	We will explore a typical sales agreement for the sale of goods. Please study the following sections: Purpose, Terms and Condition of Purchase, Quantity and Price.	
		この回の到達目標	Understand and explain the clauses found in a typical sales agreement. Divide into teams, study the clauses above and negotiate a hypothetical sales contract.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の97ページから110頁までをあらかじめ読み、examine the clauses included in a typical sales agreements.	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and become familiar with the concepts discussed in class.	120分
9	6/1	契約類型別。 売買契約 part 2. 所有権	We will explore the following: Title and Risk of Loss, Price, Payment and Foreign Exchange Risk. We will reinforce these concepts via group discussion and mock negotiations.	
		この回の到達目標	Become familiar with and explain contract terminology used in a typical sales agreement. Reinforce your understanding via group discussion and mock negotiations.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の110ページから120頁までをあらかじめ読み、examine how sales agreements are structured and negotiated.	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and confirm your understanding of the concepts discussed in class.	120分
10	6/8	契約類型別。 売買契約 part 3.	We will study the following: Warranty, Intellectual Property and Product Liability. Quiz #2. 第5回目から第9回目の内容についての小テストを実施し、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	Examine the sections titled: Warranty, Intellectual Property and Product Liability. Explain why these clauses are important and their purpose. Take note of possible cultural differences and expectations with respect to these clauses.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の120ページから131頁までをあらかじめ読み、examine the sections on Warranty, Intellectual Property and Product Liability.	180分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and become familiar with the concepts discussed in class.	120分
11	6/15	契約類型別。 販売店契約 part 1 Distributor Agreements	This class will cover Distributor Agreements. We will compare distributor agreements and agent agreements and discuss.	
		この回の到達目標	Compare distributor agreements and agent agreements and note their similarities and differences. Study the clauses included in a typical distributor sales agreement. Divide into teams and discuss how to negotiate a distributor agreement.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の133ページから145頁までをあらかじめ読み、examine how distributor agreements are structured.	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the material covered in class and note the similarities and differences between distributor agreements and agent agreements.	120分
12	6/22	契約類型別。 販売店契約 part 2.	Distributor Agreements. We will study the following: Minimum Purchase Requirements, Incentive Targets, and Inventory. チーム分けをし模擬交渉を実施し、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	Discuss and be able to explain the following: Minimum Purchase Requirements, Incentive Targets, and Inventory. Divide into teams and negotiate a hypothetical distributor sales contract.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の146ページから158頁までをあらかじめ読み、examine what products your company will sell and how to achieve sales targets.	180分
		事後学修	講義ノートを確認して、confirm your understanding of minimum purchase requirements, incentive targets and inventory as discussed in class.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	契約類型別。 販売店契約 part 3.	We will study the following: Competing Products, Resale Price and Intellectual Property.	
		この回の到達目標	Be able to explain the following: Competing Products, Resale Price and Intellectual Property. Become familiar with these concepts and explain their importance. Divide into teams and negotiate a hypothetical distributor contract.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の158ページから165頁までをあらかじめ読み, examine competing products, resale price and intellectual property and explain how they will apply to your company contract.	180分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses and concepts used in class. Examine which clauses may be more important for your team. Develop negotiation strategies.	180分
14	7/6	契約類型別。 販売店契約 part 4.	We will study: Audit, Compliance with Laws, and the Foreign Corrupt Practices Act. Quiz #3. 第10回目から第14回目の内容についての小テストを実施し、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	Become familiar with and explain the following: Audit, Compliance with Laws, and the Foreign Corrupt Practices Act. Divide into teams and discuss the use of these clauses.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の165ページから169頁までをあらかじめ読み, examine the purpose of the sections titled Audit, Compliance with Laws, and the Foreign Corrupt Practices Act. Prepare for Quiz #3.	180分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and become familiar with the concepts discussed in class. Prepare for team presentations.	180分
15	7/13	Case Study	Group Presentations.	
		この回の到達目標	To review and present the material covered in classes 1-14. Group discussion.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の169ページから172頁までをあらかじめ読み, examine various termination clauses used in agreements. Prepare for team presentations.	240分
		事後学修	講義ノートを確認して、review the material covered in prior classes.	180分

科目名	国際契約法Ⅱ	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
The aim of the course is to introduce students to basic principles of international contracts together with developing practical skills of contract drafting, review and negotiation. The course will also provide an overview of the various contracts commonly used in international trade.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Students should gain knowledge on and obtain an ability to explain: ・ general principles of international contract law; ・ negotiating international contract clauses; and ・ the general terms and conditions found in international agreements.

【履修条件】
The course will focus on practical aspects of negotiating international business transactions and will be taught mainly in English.

【授業方法】
講義及び論点についてのグループディスカッションと説例に基づいたロールプレイを行う。 The course is taught mainly in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	アクティブラーニングの形態 Textbook, 配布する資料に基づいたグループディスカッションやロールプレイを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Students should gain knowledge on the general principles of international contract law and be able to explain them.					2	2				2		
②	Students should practice and gain knowledge on negotiating international contract clauses.					2	2				2		
③	Students should become familiar with the general terms and conditions found in international agreements and explain their importance.					2	2				2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に3回の小テストを行い、到達目標①及び③に関する国際契約の知識が身に付いており、それを自らの言葉で記述し説明することができているかを基準として評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標②について、グループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。		20									20
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から③について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(模擬国際 契約交渉)	到達目標②の模擬国際交渉において授業で学んだ国際契約に関する法律専門用語を使用し、適切なコミュニケーションをとることができるようになっているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	60	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback will be provided via quiz, group discussion, presentations and mock negotiations.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ポイントがわかる！国際ビジネス契約の基本・文例・交渉』	樋口一磨	日本加除出版株式会社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
After class and by appointment. Please contact me to set up an appointment.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Over 25 years managing legal matters in the U.S. and Asia.
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	国際契約法とは	国際契約の全体像と国際ビジネスについての学修をする。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際契約とはどのようなものなのか、また国際ビジネス、貿易について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際契約法がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	90分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本、貿易の具体的な論点について整理・再確認する。	90分
2	9/21	Contract Negotiations Case Study 1.	We will study Contract Negotiations, Fallacies, and Logical Reasoning.	
		この回の到達目標	The goal of this class is to become familiar with persuasion techniques, logical reasoning and fallacies. Understand and be able to explain these concepts.	
		事前学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Prepare to actively use your legal vocabulary during the next class.	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of logic, logical reasoning and fallacies.	60分
3	9/28	Contract Negotiations Case Study 2.	We will study logical reasoning, persuasion, and fallacies. What is a fallacy? How does one recognize fallacies?	
		この回の到達目標	To become familiar with persuasion techniques, logic and fallacies. Be able to explain these concepts. Recognize when fallacies are being used in speeches and debates.	
		事前学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Study how fallacies are used to persuade. Examine political speeches and the use of fallacies.	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	60分
4	10/5	Contracts. Distributor Arrangements.	Review of Distributor Arrangements. We will study the following: Appointment as Agent, Minimum Sales Targets, and Incentives. We will reinforce these concepts via group discussion and mock negotiations.	
		この回の到達目標	Become familiar with and explain the following: Distributor Agreements, Sales Targets and Incentives. Judge whether you will use these in your negotiations and be ready to discuss/negotiate these clauses.	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の173-180頁までをあらかじめ読み、choose what clauses you would like to include in your contract and explain why.	120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分
5	10/12	契約類型別。Individual Contracts, Commission.	We will examine the following: Individual Contracts, Commission, Price, Payment, Agent Responsibilities. Divide into teams for group discussion and mock negotiations. Quiz #1. 授業終了時に、第1回目から第4回目の内容について的小テストを実施し、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	Gain an understanding of these concepts and be able to explain them. Comprehension of these concepts will be reinforced through role play, group discussion and mock negotiation.	
		事前学修	Review the syllabus and read the text pp 180-192. Practice using these legal terms. Read and study any handouts provided earlier. Prepare for Quiz #1.	120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分
6	10/19	International Contracts	Manufacturer Agreement, OEM Agreements. This class will cover Manufacturer Agreements and OEM Agreements. We will examine manufacturer arrangements including specifications and processes.	
		この回の到達目標	Understand and explain the main clauses found in manufacturing agreements and OEM agreements. Decide whether you will include specifications in your agreement.	
		事前学修	Review your notes from the prior class and read the text pp 193-200.	120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	OEM Agreements. Intellectual Property	We will continue to explore OEM agreements including clauses in the agreement that deal with intellectual property.	
		この回の到達目標	Discuss parts, intellectual property and become familiar with these concepts. Be able to explain these concepts. Divide into teams and negotiate a hypothetical contract.	
		事前学修	Please read the text pp 200 – 204. Review the clauses of an OEM agreement and prepare to negotiate these terms. Decide whether your company will include sales targets.	120分
		事後学修	Review the clauses used in a typical agreement and become familiar with the concept of minimum purchase requirements, incentive targets and inventory as discussed in class.	120分
8	11/2	OEM Agreements.	We will study the following: Competing Products, Title and Warranty.	
		この回の到達目標	Discuss and be able to explain the Competing Products, Title and Warranty clauses in your agreement. Divide into teams and negotiate your agreement.	
		事前学修	Please read pp 204-212. Examine competing products, resale price and intellectual property and how you would like these clauses to apply to your hypothetical company.	120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Examine which clauses are more important to you and your business. Develop negotiation strategies.	120分
9	11/9	General Provisions	We will study the general provisions found in agreements including: Choice of Law, Language, Forum, and Force Majeure.	
		この回の到達目標	Understand and explain why Choice of Law, Language and Force Majeure clauses are used in contracts. Why are they important? Provide examples.	
		事前学修	Please review the material covered in prior classes and read the text pages 213-218. Choose what clauses you would like to include in your contract and explain why.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for Quiz #2.	120分
10	11/16	General Provisions.	We will study the concepts of Set Off, Limitation of Liability and Indemnity. Quiz #2. 授業終了時に、第5回目から第9回目の内容についての小テストを実施し、フィードバックをする。	
		この回の到達目標	Be able to explain and negotiate the following clauses: Set Off, Limitation of Liability and Indemnity. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via group discussion and mock negotiations.	
		事前学修	Review the material from prior classes and read pp 218-224 of the text. Choose which clauses you would like to include in your contract and explain why. Prepare for Quiz #2.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to use your expanding legal vocabulary during the next class.	120分
11	11/23	International Contracts Case Study	We will study the following: Term of the Agreement, Termination and Acceleration. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via mock negotiations.	
		この回の到達目標	Be able to explain and negotiate the following clauses: Term of the Agreement, Termination and Acceleration.	
		事前学修	Review the material from prior classes and read pp 225-231 of the text. Choose which clauses you would like to include in your contract and be prepared to explain why.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to use your expanding legal vocabulary during the next class.	180分
12	11/30	International Contracts Governing Law, CISG	We will study the following: Language, Governing Law and Disputes. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via mock negotiations.	
		この回の到達目標	Be able to explain and negotiate the following clauses: Language, Governing Law and Disputes. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via group discussion and mock negotiations.	
		事前学修	Please read pp 231-242 of the text. Prepare for mock negotiations. Prepare a draft of your final agreement and presentation.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/7	International Contracts Disputes	Arbitration, Jurisdiction and Compliance.	
		この回の到達目標	Be able to explain and negotiate the following clauses: Arbitration, Jurisdiction and Compliance. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via mock negotiations.	
		事前学修	Please read the text pp 242-250. Continue working on your company contract and final presentations.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for Quiz #3.	120分
14	12/14	International Contracts Disputes (continued)	Notice, Severability, Entire Agreement, Amendments Quiz #3 授業終了時に、第10回目から第14回目の内容についての小テストを実施し、フィードバックをする。 Prepare for final presentations.	
		この回の到達目標	Be able to explain and negotiate the following clauses: Notice, Severability, Entire Agreement, Amendments. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via class discussion and mock negotiations.	
		事前学修	Please review the materials from prior classes and read the text pp 250-258. Prepare for Quiz #3.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for final presentations.	120分
15	12/21	Case Study	Class Presentations	
		この回の到達目標	Be able to present and explain your company negotiation results.	
		事前学修	Prepare for your class presentation.	180分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 編	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』(仮 題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取る こと)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・国際政治学を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	4/15	国際政治学はどのような学問なのか	国際政治学の目指すところや研究領域について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際社会の形成や歴史、今日の課題などを大局的に説明することができる。	
		事前学修	テキスト第1章を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の特徴をノートにまとめる。 ウォルツ, K. N. /河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
		事後学修	国際政治学とはどのような学問なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
3	4/22	国際関係の理論について	国際社会を学ぶための基本的な見方を提示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会には自然科学のような厳格な理論は存在しないが、国際社会を理解するための見方が存在することを説明できる。	
		事前学修	テキスト第8章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の理論をノートにまとめる。 ウォルツ, K. /河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
		事後学修	国際政治に関する「理論」と自然科学における理論の違いについての知見をノートにまとめる。	120分
4	4/29	国際関係の様々な理論について	第二次世界大戦前のユートピアニズムに対する批判としてリアリズム、戦後生まれた古典的リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コントラクティヴィズムといった多様な理論について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コントラクティヴィズムとは何かを説明することができる。	
		事前学修	テキスト第8章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、リアリズムとリベラリズムの特徴をノートにまとめる。 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣, 2013年。	120分
		事後学修	ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コントラクティヴィズムなど、それぞれの見方によって、国家やアナーキーがどのように捉えられているかについての知見をノートに整理する。	120分
5	5/6	国際レジーム論	レジームとは何か、機能や設立について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際レジームとは何かについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第9章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際レジームの特徴をノートにまとめる。 ポーター, G.・ブラウン, J. W. /信夫隆司訳『地球環境政治—地球環境問題の国際政治学』国際書院, 1993年。	120分
		事後学修	国際レジームが国際社会で果たす役割と必要性についての知見をノートにまとめる。	120分
6	5/13	グローバル・ガバナンス論	グローバル・ガバナンスについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバル・ガバナンスとは何かについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第9章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル・ガバナンスの特徴をノートにまとめる。 渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス—政府なき秩序の模索』東京大学出版会, 2001年。	120分
		事後学修	グローバル・ガバナンスと国際レジームの違いについての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	20世紀の国際関係	第一次世界大戦、第二次世界大戦から冷戦期までの国際関係を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、第一次世界大戦から冷戦までの国際社会の歴史的流れを説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、第2次大戦と冷戦の特徴をノートにまとめる。 山本吉宣『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』東信堂，2006年。	120分
		事後学修	2度の大戦から冷戦までの歴史を振り返り、それぞれの原因についての知見をノートにまとめる。	120分
8	5/27	ポスト冷戦時代の国際関係 中間テスト	ポスト冷戦時代の国際関係について解説する。また、中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、冷戦後の国際社会の特徴について説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、冷戦後のアメリカ基準化についてノートにまとめる。 石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂高文社，2000年。	120分
		事後学修	冷戦終結は世界に何をもたらしたのかについての知見をノートにまとめる。	120分
9	6/3	今日の国際関係	ポスト冷戦期以降に国際社会で起こったことを追いながら、今日の国際政治について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、21世紀を象徴するような9.11が起こった背景と、国際政治の対応について説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、9.11とはどのような出来事であったのかをノートにまとめる。 ウッドワード，B. / 伏見威蕃訳『ブッシュの戦争』日本経済新聞社，2003年。	120分
		事後学修	9.11後、アメリカの政治がどのように転換したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
10	6/10	今日の国際関係における課題	911以降、自国第一の考え方が広まったことについて、国際政治の視点から解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、アメリカやヨーロッパ各国の経済、雇用、移民、難民の現状を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、難民問題の特徴をノートにまとめる。 遠藤乾『欧州複合危機—苦悶するEU，揺れる世界』中央公論新社，2016年。	120分
		事後学修	なぜ今、自国第一主義の時代なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
11	6/17	グローバリゼーション	グローバリゼーションの光と陰について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、われわれの生活が、世界各国と相互依存関係にあることを説明することができる。	
		事前学修	テキスト第4章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、相互依存論の理解をノートにまとめる。 フリードマン，T. / 伏見威蕃訳『フラット化する世界—経済の大転換と人間の未来（上・下）』日本経済新聞社，2006年。	120分
		事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
12	6/24	今日のグローバリゼーション	グローバリゼーションに対する推進派と反対派の対立など、様々な経済界や市民社会の対応について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションを当たり前のように受け止めるのではなく、その本質を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第4章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル市民社会の特徴をノートにまとめる。 重田康博『激動するグローバル市民社会—「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店，2017年。	120分
		事後学修	講義で扱ったグローバリゼーションに対する様々な主張についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	南北問題	南北問題とは何か、新興国の登場によって南北問題はどのように変化しているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、南北問題とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第1 1 章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、発展途上国が抱える問題についてノートにまとめる。 サックス, J. D. / 鈴木主税・野中邦子訳『貧困の終焉—2025 年までに世界を変える』早川書房, 2007 年。	120分
		事後学修	新興国の台頭によって世界の開発の問題がどのように変化したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
14	7/8	南北問題をどう解決するか	国連ミレニアム開発目標について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、国際社会は国連ミレニアム開発目標などを通じて、途上国問題についてどのように対応しようとしているのかについて説明することができる。	
		事前学修	テキスト第1 1 章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国連ミレニアム開発目標の特徴をノートにまとめる。 田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGs と開発教育—持続可能な開発目標のための学び』学文社, 2016 年。	120分
		事後学修	日本におけるSDG's に対する取り組みについての知見をノートにまとめる。	120分
15	7/15	まとめ	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際政治をどのように理解するのかについて、レビューする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。	120分
		事後学修	世界で起こっている現在の問題を、前期で学んだ国際関係理論を使って考えノートにまとめてみる。	120分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式を基本とする。また、随時、最新の国際事情に関する新聞記事を紹介する。必要に応じ、映像資料を用いることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して試験の講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論〔第3版〕	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	国際政治学の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。国際化する世界の中で、国際政治学を学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	シラバスを基に説明された内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	第一部 火4/14	学問としての国際政治学	国際政治学とはどのような学問なのか、その研究領域と特徴を中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学とはどのような学問なのかを説明できる。	
		事前学修	第1章 国際関係論とはどのような学問なのかのうち、国際関係論の学び方および国際関係論の研究領域とその特徴を読み、国際政治学とはどのような学問なのかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	国際関係論と国際政治学の区別についてノートにまとめる。	150分
3	第一部 火4/21	国際政治学の基本的枠組み	国際政治学研究の基本的枠組み、歴史分析における3つの仮説について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学の基本的枠組みを説明できる。	
		事前学修	第1章 国際関係論とはどのような学問なのかの後半を読み、国際政治学の基本的枠組みを整理し、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	歴史分析における3つの仮説について、知見をノートにまとめる。	120分
4	第一部 火4/28	大戦から冷戦へ	20世紀の国際関係とはいかなるものであったのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、20世紀の国際関係のうち、第一次世界大戦から第二次世界大戦、米ソ冷戦時代の国際関係を説明できる。	
		事前学修	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するかを読み、世界大戦、その後の冷戦についてノートにまとめる。	90分
		事後学修	世界大戦はなぜ起こったのか、冷戦はなぜ起こったのかを考え、知見をノートにまとめる。	150分
5	第一部 火5/5	ポスト冷戦の国際関係	ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀の国際関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀の国際関係について説明できる。	
		事前学修	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するかのうち、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀における主要な出来事をノートにまとめる。	120分
		事後学修	ポスト冷戦時代の国際関係の特徴をまとめるとともに、20世紀の国際関係といかなるものであったかを考え、ノートに知見をまとめる。	120分
6	第一部 火5/12	9.11同時多発テロの意味	21世紀の国際関係のうち、9.11同時多発テロおよびその後の国際関係の状況について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、2001年9月11日、米国で起きた同時多発テロ、および、その後の国際関係を説明できる。	
		事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかの前半を読み、2001年9月11日に米国で起きた同時多発テロについて調べ、その経緯および原因をノートにまとめる。	90分
		事後学修	9.11同時多発テロが、国際政治に与えた影響について考え、ノートに知見をまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	オバマ政権の誕生	オバマ政権の誕生後のアメリカの国際関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オバマ政権はなぜ誕生したのか、オバマ政権の特徴は何かを説明できる。	
		事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかのうち、3 オバマ政権成立後のアメリカ外交と国際関係を読み、オバマ政権の特徴についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	オバマ政権の核軍縮、および、オバマ政権が目指した太平洋重視の外交政策をノートにまとめる。	120分
8	第一部 火5/26	トランプ政権と自国第一主義	自国第一主義の時代とはいかなるものかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、トランプ政権の誕生、および、トランプ政権の政策がなぜ自国第一主義といわれるのかを説明できる。	
		事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかのうち、4 自国第一主義の時代を読み、自国第一主義とはいかなるものがあるかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	自国第一主義の問題点を整理し、この問題に対する知見をノートにまとめる。	150分
9	第一部 火6/2	イギリスのEUからの離脱	自国第一主義のうち、イギリスのEUからの離脱について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜイギリスは国民投票でEUから離脱することを選択したのかを説明できる。	
		事前学修	2016年6月におこなわれたイギリスの国民投票は、いかなる意味をもっていたのかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	イギリスがEUから離脱すると、EUおよび国際政治全般についてどのような影響が及ぶのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
10	第一部 火6/9	グローバリゼーションの影響	グローバリゼーションとは何か、その影響、および、光と影について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバリゼーションとはいかなる現象なのか、その光と陰について説明できる。	
		事前学修	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むかの前半を読み、とくに、グローバリゼーションの光と影についてノートにまとめる。	90分
		事後学修	グローバリゼーションの功罪について考え、知見をノートにまとめる。	150分
11	第一部 火6/16	新自由主義とグローバリゼーション	新自由主義とグローバリゼーションの関係、さらには、グローバリゼーションの理論について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、新自由主義とグローバリゼーションについて説明できる。	
		事前学修	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むかの後半を読み、グローバリゼーションの理論的な面についてノートにまとめる。	120分
		事後学修	グローバリゼーションと私たちの暮らしについて考え、知見をノートにまとめる。	120分
12	第一部 火6/23	現代の安全保障	国際社会における安全保障とは何か、国家の安全保障と地域の安全保障について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会における安全保障とは何か、国家および地域の安全保障について説明できる。	
		事前学修	第5章 現代の安全保障をどう読むかの前半を読み、安全保障とはいかなる意味があるのかをノートに整理する。	90分
		事後学修	現代の安全保障の特徴とは何かを考え、知見をノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	非伝統的安全保障	伝統的安全保障から非伝統的安全保障へ、安全保障の概念はどのように変容してきたのかを分析する。	
		この回の到達目標	到達目標②④⑤に関連して、伝統的安全保障と非伝統的安全保障の違いを説明できる。	
		事前学修	第5章 現代の安全保障をどう読むのかの後半を読み、現代の安全保障における問題点を調べ、ノートに整理する。	120分
		事後学修	現代の安全保障とはいかなるものかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
14	第一部 火7/7	北東アジアの政治と国際関係	北東アジアの政治と国際関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、北東アジアの政治と国際関係について説明できる。	
		事前学修	第6章 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのかを読み、北朝鮮、中国を中心とする北東アジアの国際関係を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	北東アジアにおける国際関係を整理し、ノートにまとめる。	120分
15	第一部 火7/14	国際政治の理論と現実	前期の講義全体を俯瞰し、国際政治の理論と現実について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際政治の理論と現実を説明できる。	
		事前学修	国際政治の理論と現実の乖離について調べ、ノートにまとめる。	90分
		事後学修	国際政治の理論と現実の問題点について考え、知見をノートにまとめる。	150分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際政治の展開などについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、国際社会の出来事理解を深める機会を提供する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	イントロダクション及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を説明する。	
		この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
		事前学修	教科書の第1章から第7章まで（3ページ～118ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	/	学問としての国際政治学	国際政治学と国際関係論がどのような学問なのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学と国際関係論がどのような学問であるのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	/	国際システムの形成	国際システムがどのように形成されたのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際システムがどのように形成されたのかを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	/	20世紀前半の国際政治	20世紀前半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀前半の国際政治を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	/	20世紀後半の国際政治	20世紀後半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀後半の国際政治を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	/	核兵器と国際政治	今日の国際政治をどう読むのか、とくに核軍縮を主題にしてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくに核軍縮を主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	テロとの戦い	今日の国際政治をどう読むのか、とくにテロとの戦いを主題にしてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくにテロとの戦いを主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	/	現象としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、現象としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現象としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	/	課題としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、課題としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、課題としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	/	伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、伝統的安全保障の面からともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	/	非伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、非伝統的安全保障の面からともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を非伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	/	北東アジアの国際政治	北東アジアの国際政治をどう読むのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、北東アジアの国際政治を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第6章「北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	冷戦期の国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦期の国際社会を念頭においてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦期の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	/	冷戦終結後の国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦終結後の国際社会を念頭においてともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦終結後の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	/	学修成果の確認	学修成果を確認するための筆記試験を実施する。答案回収後に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、試験問題に解答できる。	
		事前学修	これまでの授業の内容をふりかえり筆記試験に備える。	180分
		事後学修	授業と筆記試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 編	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』(仮 題)	多賀秀敏	勁草書房	2020 (予定)	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	後期授業の進め方・前期の復習	後期授業の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。前期に学習したことを用いて、今日の国際政治を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。理解が足りない事項については、ノートにまとめる。	120分
2	9/23	現代の安全保障	国際社会における安全保障とは何かについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、安全保障という問題領域がどのように定義され、その概念がどのように変化していったのかを理解する。	
		事前学修	テキスト第5章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門（新訂第4版）』亜紀書房，2009年。	120分
		事後学修	国際連盟や国際連合と、新しい安全保障の考え方の違いを考え、ノートにまとめる。	120分
3	9/30	集団安全保障	自国の安全を確保するためにどのような地域協力を構築しているのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際安全保障のためにこれまでに各国で取り組んできた仕組みとその限界を理解する。	
		事前学修	テキスト第5章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 神保謙・東京財団「アジアの安全保障」プロジェクト編『アジア太平洋地域の安全保障アーキテクチャー―地域安全保障の三層構造』日本評論社，2011年。	120分
		事後学修	国防のために日本や米国が行っている具体策とその実態を調べ、それらの問題点や課題を考え、ノートに書きます。	120分
4	10/7	国際紛争・国内紛争	現代における国際紛争・国内紛争の特徴について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会が紛争解決のためにどのような試みを行ってきたか理解する。	
		事前学修	テキスト第15章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣，2011年。	120分
		事後学修	ポスト冷戦期の紛争を取り上げ、その紛争に対する国際社会の対応についてノートにまとめる。	120分
5	10/14	人間の安全保障	人間の安全保障が紛争解決にどのような役割を果たすのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人間の安全保障の内容について理解し、国際社会の取り組みを知る。	
		事前学修	テキスト第15章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 武者小路公秀編著『人間の安全保障―国家中心主義をこえて』ミネルヴァ書房，2009年。	120分
		事後学修	人間の安全保障と従来の安全保障との違いをノートにまとめる。	120分
6	10/21	北東アジアの政治と国際関係―韓国・北朝鮮	朝鮮半島の状況と韓国と北朝鮮の政治について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朝鮮半島の歴史と政治について理解する。	
		事前学修	テキスト第6章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 小倉紀蔵・小針進編『日韓関係の争点』藤原書店，2014年。	120分
		事後学修	韓国・北朝鮮の外交の特徴をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	北東アジアの政治と国際関係―中国 中間テスト	中国の外交と日中関係について解説する。また、中間テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日中関係の流れを理解する。	
		事前学修	テキスト第6章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。増田弘・波多野澄雄編『アジアの中の日本と中国―友好と摩擦の現代史』山川出版社、1995年。 第1回から第6回の復習をしておく。	120分
		事後学修	日韓、日中関係の流れを確認し、ノートにまとめる。	120分
8	11/4	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか	国際社会の中で日本が置かれている状況について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の安全保障、経済外交、国際社会への貢献について説明できる。また、到達目標④に関連して、国際社会での位置づけを理解する。	
		事前学修	テキスト第7章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版）』有斐閣、2010年。 進藤榮一・水戸考道編『戦後日本政治と平和外交―21世紀アジア共生時代の視座』法律文化社、2007年。	120分
		事後学修	日本の国際貢献にはどのようなものがあるか調べ、ノートに書きだす。	120分
9	11/11	地球環境問題と国際社会	地球環境問題に向けた国際社会の取り組みについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地球環境問題の実態を理解し、さまざまなアクターがどのように対応しているのかについて理解する。	
		事前学修	テキスト第12章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 日本国際政治学会編「特集環境とグローバル・ポリティクス」『国際政治』166号、2011年。	120分
		事後学修	環境問題を、大気汚染、温暖化、生態系破壊、生物多様性、などに分類して原因と現状についてノートにまとめる。	120分
10	11/18	地球環境問題への対応	国際社会は地球環境問題を解決できるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、地球温暖化の問題を中心に、各国の態度と国際社会が抱える課題について理解する。	
		事前学修	テキスト第12章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 クライン、N.／幾島幸子・荒井雅子訳『これがすべてを変える―資本主義vs. 気候変動（上・下）』岩波書店、2017年。	120分
		事後学修	地球環境問題に関して、どのような利害関係があるのか調べ、ノートに書きだす。	120分
11	11/25	リージョナリズム	リージョナリズムとは何か、EUを例として開設する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、欧州統合の歴史とEUの仕組みについて理解する。	
		事前学修	テキスト第10章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 中村民雄『EUとは何か―国家ではない未来の形』信山社、2016年。	120分
		事後学修	EU統合がなぜ必要だったのかを考えながら、統合までの道のりをノートにまとめる。	120分
12	12/2	欧州統合の現状	EUの現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、EUが現在抱える問題を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、EU加盟国の現状と課題に関連して考えることができる。	
		事前学修	テキスト第10章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 遠藤乾『欧州複合危機―苦悶するEU、揺れる世界』中公新書、2016年。	120分
		事後学修	なぜ今EUからの離脱や欧州統合の進展に反対する声が提起されているのか考え、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/9	非国家アクターの台頭	非国家アクターとは何か、国際社会においてどのような役割を担っているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非国家アクターの定義とその活動について理解する。	
		事前学修	テキスト第13章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 西川潤・佐藤幸男編『NPO/NGO と国際協力』ミネルヴァ書房，2002年。	120分
		事後学修	非国家アクターが登場した理由について考え、自分の言葉でノートにまとめる。	120分
14	12/16	公の役割	非国家アクターを通して、「公」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの公的役割について、その現状と必要性を理解する。	
		事前学修	テキスト第13章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 柑本英雄『国際的行為体とアイデンティティの変容―欧州沿岸辺境地域会議と共通漁業政策をめぐって』成文堂，2000年。	120分
		事後学修	国家アクターの限界と非国家アクターの可能性について考え、ノートにまとめる。	120分
15	12/23	まとめ	第1回から第14回までのまとめと講評	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際社会の現状を理解し、課題解決への自分なりの方法を思考することができる。	
		事前学修	教科書やノートに目を通し、第14回までに学んだ事柄を振り返る。	120分
		事後学修	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認する。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式を基本とする。また、随時、最新の国際事情に関する新聞記事を紹介する。必要に応じ、映像資料を用いることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して試験の講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論〔第3版〕	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12：20～12：50。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	国際政治学の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。国際政治学を学ぶ意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	今後の授業内容を理解し、その要点をノートに整理する。	120分
2	第一部 火9/22	国際政治理論とは何か	国際政治理論とは何かを考察するとともに、主要な理論であるリアリズムについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際政治理論とは何か、および、国際政治学におけるリアリズムとは何かを説明できる。	
		事前学修	第8章 国際関係理論とは何かのうち、第1節、第2節を読み、国際政治理論とは何かを調べ、とくに、リアリズムおよびネオリアリズムとは何かをノートにまとめる。	150分
		事後学修	モーゲンソーのリアリズム、ウォルツの防御的リアリズム、ミアシャイマーの攻撃的リアリズムを整理し、ノートにまとめる。	90分
3	第一部 火9/29	ネオリベラリズム	国際政治理論の中で、ネオリベラリズムについて考察し、リアリズムとの違いを明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ネオリベラリズムとはいかなる国際政治の理論かを説明できる。	
		事前学修	第8章 国際関係理論とは何かのうち、第3節を読み、ネオリベラリズムとはいかなる理論かを調べ、とくに、リアリズムおよびネオリアリズムとの違いをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ネオリベラリズムは国際政治のいかなる現象に適用できるのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
4	第一部 火10/6	コンストラクティヴィズム	国際政治理論におけるコンストラクティヴィズムとは何かを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際政治理論におけるコンストラクティヴィズムとは何か、リアリズムおよびネオリベラリズムとの違いを説明できる。	
		事前学修	ウェントのコンストラクティヴィズムについて調べ、この理論の概要を整理する。	90分
		事後学修	観念的な国際政治理論と物質的な国際政治理論について考え、知見をまとめる。	150分
5	第一部 火10/13	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムと欧州統合について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③との関連で、欧州統合の歴史を説明できる。	
		事前学修	第10章 リージョナリズムと欧州統合の第1節、第2節を読み、欧州統合の歴史をノートに整理する。	90分
		事後学修	なぜ欧州統合は可能であったのかを考え、知見をまとめる。	150分
6	第一部 火10/20	EUの拡大とEUからの離脱	EUの拡大の歴史を学ぶとともに、イギリスのEUからの離脱について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤との関連で、なぜイギリスがEUから離脱しようとしたのかを説明できる。	
		事前学修	昨今の欧州統合の問題点を調べ、ノートに整理する。	120分
		事後学修	イギリスのEUからの離脱を考え、知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	南北問題とは何か	南北問題とは何か、その背景、および、今日の課題について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関連で、南北問題とはいかなるものなのか、問題の根源は何かを説明できる。	
		事前学修	第11章 南北問題をどう解決するか第1節、第2節を読み、南北問題とはどのようなものなのか、この問題の由来をノートに整理する。	90分
		事後学修	南北問題の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	150分
8	第一部 火11/10	南北問題の理論的枠組み	南北問題の理論的枠組みを分析し、公正な国際社会のあり方について分析する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、南北問題の理論的枠組みを説明できる。	
		事前学修	第11章 南北問題をどう解決するか第3節、第4節を読み、南北問題の理論的枠組みを整理し、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	南北問題の理論的枠組みとしていかなるものがあるかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
9	第一部 火11/17	地球環境問題とは何か	地球環境問題にはどのようなものがあるか、ならびに、国際社会の取り組みを中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、主要な地球環境問題、および、国際社会における取り組みを説明できる。	
		事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第1節を読み、地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	地球環境問題の解決策を考え、知見をノートに整理する。	120分
10	第一部 火11/24	地球温暖化	地球温暖化の科学的メカニズムを理解し、温暖化に対する国際社会の取り組みを中心に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、地球温暖化とは何か、国際社会の取り組みを説明できる。	
		事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第3節を読み、気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定を比較し、ノートに整理する。	90分
		事後学修	地球温暖化を防止するためのパリ協定の実効性を考え、知見をノートにまとめる。	150分
11	第一部 火12/1	地球環境ガバナンス	生物多様性、環境安全保障、グリーン経済を中心として、地球環境ガバナンスを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、地球環境ガバナンスとは何かを説明できる。	
		事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第4節を読み、とくに、生物多様性について調べ、その概要をノートにまとめる。	120分
		事後学修	ワシントン条約、生物多様性条約、名古屋議定書についてノートに整理する。	120分
12	第一部 火12/8	非国家アクターと市民社会	国際政治において、非国家アクターと市民社会がどのような役割を果たしているのかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①③との関連で、非国家アクターと市民社会の国際政治における役割、および、問題点を説明できる。	
		事前学修	第13章および第14章を読み、国際政治における非国家アクターとしてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	90分
		事後学修	非国家アクターおよび市民社会の役割を整理し、ノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	国際紛争・国内紛争とは何か	現代の主要な国際紛争・国内紛争の実態について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、現代の主要な国際紛争・国内紛争の実態を説明できる。	
		事前学修	第15章 国際紛争・国内紛争をどう解決するか第1節、第2節を読み、現代の国際紛争・国内紛争にはどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	国際紛争・国内紛争の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	120分
14	第一部 火12/22	国際紛争・国内紛争の解決策	現代の主要な国際紛争・国内紛争の解決策について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、現代の主要な国際紛争・国内紛争の解決策を説明できる。	
		事前学修	第15章 国際紛争・国内紛争をどう解決するか第3節、第4節を読み、現代の国際紛争・国内紛争の解決策としてどのようなものがあるかをノートにまとめる。	90分
		事後学修	国際紛争・国内紛争の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	150分
15	第一部 火1/12	国際政治学を理解するとは	後期の講義を振り返り、国際政治学を理解するとはいかなる意味かを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際政治学を理解するとはいかなる意味かを説明できる。	
		事前学修	後期の講義における問題点を振り返り、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	問題点についての解決策を自ら考え、ノートにまとめる。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際政治の展開などについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、国際社会の出来事の理解を深める機会を提供する場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	イントロダクション及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。	
		この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
		事前学修	教科書の第8章から第15章まで（121ページ～256ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	/	国際政治の現実主義理論	国際政治の現実主義理論とは何かをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の現実主義理論について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	/	国際政治の自由主義理論とコンストラクティヴィズム	国際政治の自由主義理論とは何かをともに考える。国際政治におけるコンストラクティヴィズム・アプローチがどのような意味をもつかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の自由主義理論について、ならびに国際政治においてコンストラクティヴィズム・アプローチがもつ意味について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	/	国際レジーム論	国際政治において国際レジーム論がどのような意味をもつかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治において国際レジーム論がもつ意味を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	/	グローバル・ガバナンス	国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がどのような意味をもつかをともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、到達目標①②に関連して、国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がもつ意味を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	/	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムとは何か、なぜ欧州で統合が進むのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、リージョナリズムと欧州統合の過程について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	EUの成果と課題	EUの成果と課題は何かともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、EUの成果と課題について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	/	南北問題と国際政治	南北問題をどう解決するのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、南北問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第11章「南北問題をどう解決するのか」について準備する	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	/	国際課題をめぐる講演会	国際政治に携わる外部講師を招いて講演会を開催する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、講演会の内容を理解したうえで自らの私見を説明できる。	
		事前学修	特別授業として外部講師の講演会を行う。課題は事前に告知する。	120分
		事後学修	講演会の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	/	地球環境問題	地球環境問題をどう解決するのかともに考える	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地球環境問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第12章「地球環境問題をどう解決するのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	/	非国家アクター	非国家アクターの台頭をどう見るのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの台頭を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第13章「非国家アクターの台頭をどう見るのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	/	市民社会と世界	市民社会は世界を動かすことができるのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、市民社会が世界を動かす現状と可能性を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第14章「市民社会は世界を動かすことができるのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国際紛争と国内紛争	国際紛争・国内紛争をどう解決するのかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の事象を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」前半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	/	紛争の解決と日本	国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本がどのように関われるかともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本が関わる現状と可能性を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」後半部について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	/	学修成果の確認	学修成果を確認するための筆記試験を実施する。答案回収後に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
		事前学修	これまでの授業の内容をふりかえり筆記試験に備える。	120分
		事後学修	授業と筆記試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

科目名	国際政治経済特殊講義A	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○		

【授業の概要】
地球環境問題、とりわけ大気をめぐる地球環境問題を中心に、地球温暖化、オゾン層の破壊、長距離越境大気汚染（酸性雨）について、発生 の原因、影響、国際社会の取り組み、具体的な環境条約、それら条約の効果、わたしたちの生活への影響について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
われわれにとって身近な問題である地球環境問題にはいかなるものがあるのか、および、国際社会でどのような取り組みが行われているかを 理解するために、具体的な事例にもとづき、これら問題の解決能力を修得する。また、地球環境問題を通して、ディスカッションおよびプレ ゼン能力を修得する。

【履修条件】
地球環境問題に関心のある、意欲のある学生が履修することが望ましい。

【授業方法】
特殊講義の特性をいかし、一方的な講義形式ではなく、学生参加型の授業方法とする。大気に関する地球環境問題を中心に、各自がテーマを 決め、レポートを作成し、プレゼンを行う形式である。また、レポートの講評をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッションおよびプレゼン。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。						3	3	3	3		
②	地球環境問題に対する国際社会の取り組みを説明できる。						3	3	3	3		
③	地球環境問題に対するディスカッションを通して、理解を深めることができる。						3	3	3	3		
④	地球環境問題について、プレゼンをおこなうことができる。						3	3	3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②④にしたがい、最終的に、地球環境問題に関するレポートを作成する。	10	10		30							50
討論・発表等	到達目標①②③にしたがい、自ら選択した地球環境問題について、プレゼンを行うとともに、ディスカッションする。	10	10	30								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最後に、プレゼン・レポートの講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 12：20～12：50。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	国際政治経済特殊講義の趣旨	講義の内容、授業の進め方、最終的な提出物等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地球環境問題を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめる。	120分
2	第一部 火4/14	地球環境問題とは何か（1）	地球環境問題にはいかなるものがあるかを考察し、われわれの生活との関連を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。	
		事前学修	地球環境問題にはどのようなものがあるのかを調べ、われわれの生活への影響をノートにまとめる。	120分
		事後学修	地球環境問題の特徴とは何かについてノートに知見をまとめる。	120分
3	第一部 火4/21	地球環境問題とは何か（2）	地球環境問題にはいかなるものがあるかを考察し、われわれの生活との関連を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。	
		事前学修	地球環境問題にはどのようなものがあるのかを調べ、われわれの生活への影響をノートにまとめる。	120分
		事後学修	地球環境問題の特徴とは何かについてノートに知見をまとめる。	120分
4	第一部 火4/28	地球温暖化の基礎（1）	地球温暖化はなぜ起こるのか、その科学的メカニズムを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球温暖化の科学的メカニズムを説明できる。	
		事前学修	地球温暖化はなぜ起こるのか、および、その影響を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	地球温暖化の身近な影響には何があるかをノートにまとめる。	120分
5	第一部 火5/5	地球温暖化の基礎（2）	地球温暖化はなぜ起こるのか、その科学的メカニズムを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球温暖化の科学的メカニズムを説明できる。	
		事前学修	地球温暖化はなぜ起こるのか、および、その影響を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	地球温暖化の身近な影響には何があるかをノートにまとめる。	120分
6	第一部 火5/12	気候変動枠組条約・京都議定書（1）	気候変動枠組条約・京都議定書の概要を考察するとともに、地球温暖化の国際的取り組みについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、気候変動枠組条約・京都議定書の概要を説明できるとともに、問題点をについてディスカッションできる。	
		事前学修	気候変動枠組条約・京都議定書とはいかなるものかを調べ、両者の違いをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションの成果を整理し、気候変動枠組条約・京都議定書の問題点をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	気候変動枠組条約・京都議定書（2）	気候変動枠組条約・京都議定書の概要を考察するとともに、地球温暖化の国際的取り組みについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、気候変動枠組条約・京都議定書の概要を説明できるとともに、問題点をについてディスカッションできる。	
		事前学修	気候変動枠組条約・京都議定書とはいかなるものかを調べ、両者の違いをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションの成果を整理し、気候変動枠組条約・京都議定書の問題点をノートにまとめる。	120分
8	第一部 火5/26	気候変動枠組条約・京都議定書（3）	気候変動枠組条約・京都議定書の概要を考察するとともに、地球温暖化の国際的取り組みについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、気候変動枠組条約・京都議定書の概要を説明できるとともに、問題点をについてディスカッションできる。	
		事前学修	気候変動枠組条約・京都議定書とはいかなるものかを調べ、両者の違いをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションの成果を整理し、気候変動枠組条約・京都議定書の問題点をノートにまとめる。	120分
9	第一部 火6/2	パリ協定（1）	京都議定書後のパリ協定について考察すると共に、ポスト京都議定書のあり方についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パリ協定の概要を説明できると同時に、地球温暖化の問題について私見を述べるができる。	
		事前学修	ポスト京都議定書への国際社会の対応について調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	京都議定書とパリ協定を比較し、両者の違いをノートにまとめる。	120分
10	第一部 火6/9	パリ協定（2）	京都議定書後のパリ協定について考察すると共に、ポスト京都議定書のあり方についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パリ協定の概要を説明できると同時に、地球温暖化の問題について私見を述べるができる。	
		事前学修	ポスト京都議定書への国際社会の対応について調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	京都議定書とパリ協定を比較し、両者の違いをノートにまとめる。	120分
11	第一部 火6/16	オゾン層破壊（1）	オゾン層破壊のメカニズム、ならびに、この問題に対する国際社会の対応を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オゾン層破壊のメカニズム、および、オゾン層を保護するためのウィーン条約、モントリオール議定書の内容を説明できる。	
		事前学修	オゾン層破壊のメカニズム、および、国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	ウィーン条約およびモントリオール議定書の内容を整理するとともに、温暖化対策との違いについて知見を深める。	120分
12	第一部 火6/23	オゾン層破壊（2）	オゾン層破壊のメカニズム、ならびに、この問題に対する国際社会の対応を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オゾン層破壊のメカニズム、および、オゾン層を保護するためのウィーン条約、モントリオール議定書の内容を説明できる。	
		事前学修	オゾン層破壊のメカニズム、および、国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	ウィーン条約およびモントリオール議定書の内容を整理するとともに、温暖化対策との違いについて知見を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	長距離越境大気汚染（酸性雨）（1）	長距離越境大気汚染（酸性雨）の科学的にメカニズム、および、この問題への国際社会の対応を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長距離越境大気汚染の発生原因、および、長距離越境大気汚染条約について説明できる。	
		事前学修	長距離越境大気汚染の発生原因および国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	日本における酸性雨問題についての知見を深め、ヨーロッパおよび北米との違いをノートにまとめる。	120分
14	第一部 火7/7	長距離越境大気汚染（酸性雨）（2）	長距離越境大気汚染（酸性雨）の科学的にメカニズム、および、この問題への国際社会の対応を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長距離越境大気汚染の発生原因、および、長距離越境大気汚染条約について説明できる。	
		事前学修	長距離越境大気汚染の発生原因および国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	日本における酸性雨問題についての知見を深め、ヨーロッパおよび北米との違いをノートにまとめる。	120分
15	第一部 火7/14	プレゼン	自ら選択した地球環境問題についてプレゼンをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、自らが選択した地球環境問題について、レジュメ、パワーポイント等を作成し、プレゼンをおこなうことができる。	
		事前学修	自ら選択した地球環境問題についてのプレゼンの準備をおこなう。	120分
		事後学修	プレゼンの結果をとおして、地球環境問題が、わたしたちの暮らしにどのように関連しているのかについて知見を深める。	120分

科目名	国際政治経済特殊講義B	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
野生生物や生態系の保護をめぐる地球環境問題について、その科学的メカニズムおよび国際社会の対応を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
われわれにとって身近な問題である地球環境問題にはいかなるものがあるのか、および、国際社会でどのような取り組みが行われているかを理解するために、具体的な事例にもとづき、これら問題の解決能力を修得する。また、地球環境問題を通して、ディスカッションおよびプレゼン能力を修得する。

【履修条件】
地球環境問題に関心のある、意欲ある学生が履修することを望む。

【授業方法】
特殊講義の特性をいかし、一方的な講義形式ではなく、学生が積極的に参加する授業方法とする。自然環境・野生生物に関する地球環境問題を中心に、各自がテーマを決め、レポートを作成し、プレゼンを行う。最後に、レポートの講評をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマについてディスカッションをおこなうとともに、各自が設定したテーマについてプレゼンする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。							3		3		3		
②	地球環境問題に対する国際社会の取り組みを説明できる。							3		3		3		
③	地球環境問題に対するディスカッションを通して、理解を深めることができる。							3		3		3		
④	地球環境問題について、プレゼンをおこなうことができる。							3		3		3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②④にしたがい、最終的に、地球環境問題に関するレポートを作成する。	10	10		30							50
討論・発表等	到達目標①②③にしたがい、自ら選択した地球環境問題について、プレゼンを行うとともに、ディスカッションする。	10	10	30								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最後に、プレゼンおよびレポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50。本館8階1806号。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	国際政治経済特殊講義の趣旨	講義の内容、授業の進め方、最終的な提出物等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地球環境問題を学ぶことの意義を説明できる。	
		事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
		事後学修	授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめる。	120分
2	第一部 火9/22	生物多様性	生物多様性とは何かについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、生物多様性とはいかなるものかを説明できる。	
		事前学修	生物多様性とはいかなるものかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	生物多様性はわたしたちの暮らしにどのような意味をもっているのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
3	第一部 火9/29	生物多様性条約（１）	生物多様性条約とはいかなるものかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、生物多様性条約の内容を説明できる。	
		事前学修	生物多様性条約とはいかなるものかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	生物多様性条約の内容について知見を深め、ノートにまとめる。	120分
4	第一部 火10/6	生物多様性条約（２）	生物多様性条約とはいかなるものかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、生物多様性条約の内容を説明できる。	
		事前学修	生物多様性条約とはいかなるものかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	生物多様性条約の内容について知見を深め、ノートにまとめる。	120分
5	第一部 火10/13	名古屋議定書（１）	生物多様性の保護と利用について考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名古屋議定書の内容を説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
		事前学修	生物多様性の保護と利用にはどのような問題があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	名古屋議定書の内容について整理し、ノートにまとめる。	120分
6	第一部 火10/20	名古屋議定書（２）	生物多様性の保護と利用について考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名古屋議定書の内容を説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
		事前学修	生物多様性の保護と利用にはどのような問題があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	名古屋議定書の内容について整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	ワシントン条約（１）	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みについて考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ワシントン条約の内容について説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
		事前学修	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みに何があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	ワシントン条約との関連で、わが国における象牙の問題について、どのような取り組みが行われているか知見を深める。	120分
8	第一部 火11/10	ワシントン条約（２）	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みについて考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ワシントン条約の内容について説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
		事前学修	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みに何があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	ワシントン条約との関連で、わが国における象牙の問題について、どのような取り組みが行われているか知見を深める。	120分
9	第一部 火11/17	日本国内における野生生物の保護（１）	日本国内における野生生物の保護に関する取り組みについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本国内における野生生物の保護に関する取り組みを説明できる。	
		事前学修	野生生物の保護に関する日本国内の取り組みを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	日本国内における野生生物の保護に関する法律を調べ、ノートにまとめる。	120分
10	第一部 火11/24	日本国内における野生生物の保護（２）	日本国内における野生生物の保護に関する取り組みについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本国内における野生生物の保護に関する取り組みを説明できる。	
		事前学修	野生生物の保護に関する日本国内の取り組みを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	日本国内における野生生物の保護に関する法律を調べ、ノートにまとめる。	120分
11	第一部 火12/1	森林減少（１）	森林減少の原因、および、森林減少を防ぐ国際社会の取り組みについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、森林減少の原因、および、森林原則声明等の国際社会の取り組みを説明できる。	
		事前学修	なぜ森林は減少するのか、どのような森林が減少するのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	森林減少の実態、および、森林原則声明の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分
12	第一部 火12/8	森林減少（２）	森林減少の原因、および、森林減少を防ぐ国際社会の取り組みについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、森林減少の原因、および、森林原則声明等の国際社会の取り組みを説明できる。	
		事前学修	なぜ森林は減少するのか、どのような森林が減少するのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	森林減少の実態、および、森林原則声明の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	砂漠化（１）	砂漠化とは何か、国際社会の取り組みを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、砂漠化はなぜ起きるのか、砂漠化を防止するための国際社会の取り組みを説明できる。	
		事前学修	どうして砂漠化が起きるのか、他の地球環境問題との関連も調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	砂漠化対処条約の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分
14	第一部 火12/22	砂漠化（２）	砂漠化とは何か、国際社会の取り組みを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、砂漠化はなぜ起きるのか、砂漠化を防止するための国際社会の取り組みを説明できる。	
		事前学修	どうして砂漠化が起きるのか、他の地球環境問題との関連も調べ、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	砂漠化対処条約の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分
15	第一部 火1/12	プレゼン	自ら選択した地球環境問題についてプレゼンをおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、自らが選択した地球環境問題について、レジュメ、パワーポイント等を作成し、プレゼンをおこなうことができる。	
		事前学修	自ら選択した地球環境問題についてのプレゼンの準備をおこなう。	120分
		事後学修	プレゼンの結果をとおして、地球環境問題が、わたしたちの暮らしにどのように関連しているのかについて知見を深める。	120分

科目名	国際取引法AⅠ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。

【履修条件】
学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。関連科目として民法（契約法）・商法のほか、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講するとさらによくなる。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						2	2				2		
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						2	2				2		
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						2	2				2		
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						2	2				2		
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるができる。【態度・習慣】						2	2				2		
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						2	2				2		
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるができる。【態度・習慣】						2	2				2		
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						2	2				2		
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						2	2				2		
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						2	2				2		

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。		15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。						10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。								5	5	5	5	20
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】												
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。												

【教科書・参考書等】					
書 名	著 者 名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】	
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、実務経験に基づき、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	【ガイダンス】【国際取引法とは】	国際取引法概説（１）－国際取引法の枠組み－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法の概要に関して学習し、国際私法などとの関連性も理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	【国際取引法と関連法分野】	国際取引法概説（２）－国際取引法と関連法分野－ 国際取引法概説として、国際取引法と関連法分野について、企業法務の視点も含め学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と関連法分野について、概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法と関連法分野について、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法概説について内容を復習する。	120分
3	第一部水 4/22	【国際取引法と企業の海外進出形態】	国際取引法と企業の海外進出形態（１）－輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と企業の海外進出形態について、概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法と企業の海外進出について、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出について内容を復習する。	120分
4	第一部水 4/29	【国際取引法と多国籍企業】	国際取引法と企業の海外進出形態（２）－グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法とグローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などについて、概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について内容を復習する。	120分
5	第一部水 5/6	【国際統一規則等と国際取引法】	国際統一規則等と国際取引法 国際統一規則等の概要について、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際統一規則等について、概要を理解する。	
		事前学修	国際統一規則等の概要について、学習する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際統一規則等の概要について内容を復習する。	120分
6	第一部水 5/13	【国際通商法関係と国際取引法】	国際通商法関係と国際取引法（１）－WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置、原産地国問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際通商法関係等について、概要を理解する。	
		事前学修	国際通商法関係と国際取引法について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法について内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	【国際取引法と地域統合条約】	国際通商法関係と国際取引法（2）－EU、NAFTA、ASEANなど地域統合条約ほか－ 国際通商法関係と国際取引法について、EU、NAFTA、ASEANなど地域統合条約などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と地域統合条約について、概要を理解する。	
		事前学修	国際通商法関係と国際取引法に関し、地域統合条約について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、地域統合条約などについて内容を復習する。	120分
8	第一部水 5/27	【国際取引法とTPP問題】	国際通商法関係と国際取引法（3）－TPP問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、TPP11などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法とTPP11などの概要を理解する。	
		事前学修	国際通商法関係と国際取引法に関し、TPP問題について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、TPP問題などについて内容を復習する。	120分
9	第一部水 6/3	【国際取引と知的財産権訴訟】	国際取引と知的財産権訴訟－米国のプロパテント政策、パリ条約、WTOと中国の模倣品対策など－ 国際取引と知的財産権訴訟に関し、米国のプロパテント政策などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と知的財産権訴訟の概要を理解する。	
		事前学修	国際取引と知的財産権訴訟に関し、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と知的財産権訴訟について内容を復習する。	120分
10	第一部水 6/10	【国際取引と製造物責任訴訟】	国際取引と到達目標①②に関連して、国際取引法と知的財産権訴訟の概要を理解する。 （1）－PL責任と契約責任－ 国際取引と製造物責任訴訟に関して、PL責任と契約責任などの概要を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と製造物責任訴訟の概要を理解する。	
		事前学修	国際取引と製造物責任訴訟に関し、概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟の概要について内容を復習する。	120分
11	第一部水 6/17	【国際取引と製造物責任訴訟】	国際取引と製造物責任訴訟（2）－米国の厳格責任主義ほか－ 国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の厳格責任主義についての判例などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と製造物責任訴訟の概要を理解する。特に、米国の厳格責任主義について理解を深める。	
		事前学修	国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の判例などを考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟について米国の判例などを復習する。	120分
12	第一部水 6/24	【国際取引法と準拠法と国際裁判管轄、域外適用】	域外適用（1）－近年の域外適用問題の概要、管轄・裁判籍など－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて理論と判例動向などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引法と域外適用を理解する。	
		事前学修	準拠法と国際裁判管轄などについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄について判例などを復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	【国際取引法と準拠法と国際裁判管轄、域外適用】	域外適用（2）－米国汚職行為防止法（FCPA）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2010）－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、米国や英国の域外適用問題の判例、今後の展望を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引法と域外適用を理解する。米国汚職行為防止法（FCPA）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2010）の具体的事例を理解する。	
		事前学修	準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて考察を深める。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用について復習する。	120分
14	第一部水 7/8	【国際取引と企業法務】	国際取引と企業法務－企業の業種と国際取引の形態、国際契約、法的リスク、グローバル内部統制とコンプライアンス・プログラム、日本企業の対応－ 国際取引と企業法務に関して、最近の動向を中心に組織形態、プラクティスを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引と企業法務を理解する。	
		事前学修	国際取引と企業法務などについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と企業法務について具体例などを復習する。	120分
15	第一部水 7/15	【前期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	国際取引法AⅡ	担当者	藤川 信夫	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。

【履修条件】
学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。関連科目として民法（契約法）・商法のほか、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講するとさらによくなる。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】		2	2			2		
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】		2	2			2		
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】		2	2			2		
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】		2	2			2		
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】		2	2			2		
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】		2	2			2		
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】		2	2			2		
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】		2	2			2		
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】		2	2			2		
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】		2	2			2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。					
【オフィスアワー】						
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、実務経験に基づき、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9月/16	【国際売買契約の概要】	国際売買契約の概要（1）－インコタームズ2010、FOB、CIFなど引渡条件－ 国際売買契約の概要、インコタームズ2010、具体的条項例、引渡条件を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際売買契約の概要を理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要などについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要について復習する。	120分
2	第一部水 9/23	【国際売買契約の概要】 【具体的条項例、品質保証、瑕疵担保責任】	国際売買契約の概要（2）－品質保証、瑕疵（かし）担保責任、不可抗力条項、契約解除など－ 国際売買契約の概要として、具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際売買契約の概要、具体的条項例、品質保証、瑕疵担保責任を理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要、具体的条項例について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要、具体的条項例について復習する。	120分
3	第一部水 9/30	【国際的資金決済】	国際売買契約の概要（3）－国際的資金決済、荷為替信用状（L/C）ほか－ 国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状（L/C）などを中心に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状を理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要、国際的資金決済について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的資金決済について復習する。	120分
4	第一部水 10/7	【国際運送・保険契約】	国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要 国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要について、企業法務の視点も含めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際運送・保険契約、国際秘密保持契約を理解する。	
		事前学修	国際運送・保険などの概要を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際運送・保険などについて復習する。	120分
5	第一部水 10/14	【国際的企業買収（M&A）】	国際的企業買収（M&A）（1）－意義と概要－ 国際的企業買収（M&A）の概要、意義について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収（M&A）を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）の概要などを考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収（M&A）の概要などについて復習する。	120分
6	第一部水 10/21	【友好的企業買収と敵対的企業買収】	国際的企業買収（M&A）（2）－友好的企業買収と敵対的企業買収－ 国際的企業買収（M&A）について、友好的企業買収契約と敵対的企業買収（TOB、二段階買収）などを判例、実務などの面から学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、友好的企業買収と敵対的企業買収を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）について、友好的企業買収と敵対的企業買収を考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収（M&A）の友好的企業買収と敵対的企業買収について、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	【国際的M&A契約、買収方式】	国際的企業買収（M&A）（3）－M&A契約、買収方式、資金調達、企業評価方法、ケーススタディー 国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、M&A契約、買収方式を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）について、M&A契約、買収方式、企業評価方法などを考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法を復習する。	120分
8	第一部水 11/11	【国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス】	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営（PAM）など企業のプラクティスを学習する。 国際的企業買収（M&A）（4）－デューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営－	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、デューディリジェンス（詳細調査）などの実務を理解する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを考察する。	120分
		事後学修	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを復習する。	120分
9	第一部水 11/18	【国際投融資と国際合弁契約】	国際投融資と国際契約（1）－国際合弁契約・ジョイント・ベンチャー・ゼネラル・パートナーシップ、国際共同開発－ 国際投融資と国際契約、国際合弁契約、国際共同開発などの企業法務を含めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融資と国際合弁契約・ジョイント・ベンチャーなどを理解する。	
		事前学修	国際投融資、国際合弁契約などを考察する。	120分
		事後学修	国際投融資、国際合弁契約などの復習を行う。	120分
10	第一部水 11/25	【国際投融資とリース、プロジェクト・ファイナンス】	国際投融資と国際契約（2）－リース、プロジェクト・ファイナンスほか新しい融資・担保契約－ 国際投融資と国際契約、プロジェクト・ファイナンス（PF）などについて、具体的に事例を用いて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融資とリース、プロジェクト・ファイナンスなどの実務を理解する。	
		事前学修	国際投融資と国際契約、新しい融資・担保契約について考察する。	120分
		事後学修	国際投融資と国際契約、プロジェクト・ファイナンスなどの復習を行う。	120分
11	第一部水 12/2	【国際代理店・販売店契約】	国際企業組織－代理店・販売店、支店、現地法人、子会社管理など－ 国際企業組織、国際代理店・販売店契約、支店、現地法人、子会社管理など企業法務を含めて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際代理店・販売店契約の実務を理解する。	
		事前学修	国際企業組織、国際代理店・販売店について考察する。	120分
		事後学修	国際企業組織、国際代理店・販売店契約などの復習を行う。	120分
12	第一部水 12/9	【国際取引と紛争処理】	国際取引と紛争処理（1）－国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄ほか－ 国際取引と紛争処理、国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄の問題を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引と紛争処理などを理解する。	
		事前学修	国際取引と紛争処理について考察する。	120分
		事後学修	国際取引と紛争処理について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	【国際取引と紛争処理】 【国際仲裁・調停】	国際取引と紛争処理（2）－国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）、国際倒産ほか－ 国際取引と紛争処理に関し、国際仲裁・調停などを主に企業法務の視点も含め、学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）などを理解するとともに、説明や議論ができるようになる。	
		事前学修	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを考察する。	120分
		事後学修	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを復習する。	120分
14	第一部水 102/23	【ウィーン売買条約】	国際取引法分野の新展開（1）－ウィーン売買条約の概要－ 国際取引法分野の新展開としてウィーン売買条約の内容、インコタームス2010との比較などを具体的に学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ウィーン売買条約の概要を理解する。	
		事前学修	国際取引法分野の新展開として、ウィーン売買条約と企業実務の対応などを考察する。	120分
		事後学修	ウィーン売買条約と企業実務の対応などについて復習する。	120分
15	第一部水 1/13	【後期総まとめ】	国際取引法分野の新展開（2）－ウィーン売買条約に関する実務の対応など－ ウィーン売買条約と企業実務の対応の学習を深める。授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	ウィーン売買条約について考察を深めるとともに、最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。（2時間）	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）	120分

科目名	国際取引法B I	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
この講座では、企業の国際取引に関する法制度を広く包括的に理解し、基礎から応用まで学習する。国際取引法各論として、重要な領域に焦点を当て、理論と企業実務も含め学習する。主として後期では、国際投融资、国際合併（ジョイントベンチャー）、国際売買契約に関してインコタームス2010やウィーン売買条約、国際金融法制などを採り上げ学習する。国際取引法総論の内容をさらに深めて、具体的な企業法務を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引法各論としてグローバル企業の国際業務等に関し比較法的な基礎理論と企業法務の実践の習得を目的とする。国際的M&A（企業買収）と敵対的防衛策、国際売買契約、国際販売代理店、国際投融资、国際企業結合法制などのほか、ウィーン売買条約、インコタームズ2010、国際資金決済、国際不正取引、国際金融法、域外適用など最新のテーマについて、受講生が説明できることを目標とする。法律関係でない学科の学生、2年生にも多く受講してほしい。企業実務の接点として重要な科目である。基礎理論のみならず実践・専門的内容を学び、総合的な国際ビジネス法の修得を目標とする。卒業後の進路に役立つよう備えることも目標となる

【履修条件】
国際取引法Iの履修を前提としない。できるだけ、わかりやすく解説する。学科を問わず、法律科目を初めて勉強する者も大歓迎。可能であれば民法・商法、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更に向上する。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																		
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	グローバルな展開をはかる企業の取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】 他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から発せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)					
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥			⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																		
小テスト等																		
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。						15	15	15	15								60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。										10	10						20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。												5	5	5	5		20
その他()																		
その他()																		
その他()																		
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100	

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートについては、最終の授業において詳しい解説を行うので、今後の学習に役立てていただきたい。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際取引に関する法制度に関して、企業の実務の視点から総合的にケーススタディも含めて授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	【ガイダンス】【国際取引法とは】	国際取引法概説－基礎的内容の講義－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法がどのような法律か、またその国際経済法や国際私法との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、事前に各自で授業全体の概要について把握し、概観する。専門用語、キーワードなども意味を学習する。次回の講義内容、学習・資料収集方法などは毎回事前に指示する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部火 4/14	【国際的M&A】	国際的M&A（企業買収）の概要 国際的M&A（企業買収）の基礎的内容を考察し、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的M&A（企業買収）の概要を説明することができる。	
		事前学修	国際的M&A（企業買収）について考察して、概要を把握する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的M&A（企業買収）の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	第一部火 4/21	【国際的M&A】	企業買収（M&A）と法制度－合併、株式交換・移転、会社分割、MBO（経営者による買収）、三角合併など－ 企業買収（M&A）と法制度について、具体的、かつ比較法的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的M&A（企業買収）の合併、株式交換・移転、会社分割、MBOを理解し、説明することができる。	
		事前学修	企業買収（M&A）と法制度について、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的M&A（企業買収）と法制度の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	第一部火 4/28	【敵対的買収防衛策】	企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策の具体例－ライツプラン、黄金株など－ 企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策について、具体的、かつ比較法的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敵対的買収防衛策について、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策について、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	第一部火 5/5	【国際的企業買収（M&A）契約】	国際的企業買収（M&A）契約の概要（1）－意義、概要－ 国際的企業買収（M&A）契約の概要について、企業法務など具体的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収（M&A）契約について、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）契約の概要について、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的企業買収（M&A）契約の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	第一部火 5/12	【国際的企業買収（M&A）契約】	国際的企業買収（M&A）契約の概要（2）－資産特定、負債承継、競業禁止義務など具体的条項例－ 国際的企業買収（M&A）契約の具体的条項例として、企業法務など具体的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収（M&A）契約について、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。具体的条項例について、さらに具体的に学習する。	
		事前学修	国際的企業買収（M&A）契約の具体的条項例について、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的企業買収（M&A）契約のの具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	【敵対的企業買収（M&A）とTOB】	敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルール、国際組織再編制度（1）－米国－ 敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、米国を中心に法制度を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルールについて、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、米国の法制度の大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、敵対的企業買収（M&A）とTOBにかかる米国の法制度について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	第一部火 5/26	【敵対的企業買収（M&A）とTOB】【欧州ルール】	敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルール、国際組織再編制度（2）－欧州－ 敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、英国、EUを中心に法制度を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルールについて、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。特に欧州の法制度を学習する。	
		事前学修	敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、欧州の法制度の大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、敵対的企業買収（M&A）とTOBにかかる欧州の法制度について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	第一部火 6/2	【日米欧における買収防衛策】	日米欧における買収防衛策の新動向（1）－経営判断原則、ユニカル判決など米国の判例法理－ 日米欧における買収防衛策について、経営判断原則、ユニカル判決など米国の判例法理を主に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における買収防衛策について、経営判断原則、ユニカル判決など米国の判例法理を具体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	日米欧における買収防衛策の動向について、主な判例など大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新動向について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	第一部火 6/9	【日米欧における買収防衛策】	日米欧における買収防衛策の新動向（2）－レブロン判決、ブラウシス判決など米国の判例法理の変遷と企業の対応など－ 日米欧における買収防衛策の新動向として、レブロン判決、ブラウシス判決などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における買収防衛策について、レブロン判決、ブラウシス判決などを具体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	日米欧における買収防衛策の動向について、主な判例など大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新しい判例などについて自分なりの説明をまとめる。	120分
11	第一部火 6/16	【日米欧における買収防衛策】	日米欧における買収防衛策の新動向（3）－国際的企業買収のケーススタディ、英ボードフォンによる独マンネスマンの敵対的買収など－ 国際的企業買収のケーススタディとして英ボードフォンによる独マンネスマンの敵対的買収などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における買収防衛策について、国際的企業買収のケーススタディを具体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	日米欧における買収防衛策の新動向について、国際的企業買収の事例の大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的企業買収のケーススタディについて自分なりの説明をまとめる。	120分
12	第一部火 6/23	【敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望】	日米欧における敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望 日米欧における敵対的買収・防衛策の法制について、比較法的に学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望・課題を具体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	日米欧における敵対的買収・防衛策の法制の比較などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、日米欧における敵対的買収・防衛策の法制について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	【敵対的買収・防衛策と我が国の対応】	敵対的買収・防衛策と我が国の対応（1）－ブルドックス事件、買収防衛策指針、MBO指針など－ 敵対的買収・防衛策と我が国の対応について、具体的に判例、規制当局の対応などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、敵対的買収・防衛策と判例、規制当局の対応を具体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	敵対的買収・防衛策に関して、ブルドックス事件などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、敵対的買収・防衛策と我が国の対応について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	第一部火 7/7	【中国、アジアにおけるM&A法制度】	中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応 中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応について、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応を具体的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	中国、アジアにおけるM&A法制度などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、中国、アジアにおけるM&A法制度について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	第一部火 7/14	【前期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業の国際的M&A法制度について、総まとめを行い体系的な学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。授業内レポートについて、解説等も行い、今後の学習に役立てていただきたい。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、前期の国際的M&A法制度全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分全体の復習を行う。	120分

科目名	国際取引法BⅡ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
この講座では、企業の国際取引に関する法制度を広く包括的に理解し、基礎から応用まで学習する。国際取引法各論として、重要な領域に焦点を当て、理論と企業実務も含め学習する。主として後期では、国際投融资、国際合併（ジョイントベンチャー）、国際売買契約に関してインコタームス2010やウィーン売買条約、国際金融法制などを採り上げ学習する。国際取引法総論の内容をさらに深めて、具体的な企業法務を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引法各論としてグローバル企業の国際業務等に関し比較法的な基礎理論と企業法務の実践の習得を目的とする。国際的M&A（企業買収）と敵対的防衛策、国際売買契約、国際販売代理店、国際投融资、国際企業結合法制などのほか、ウィーン売買条約、インコタームズ2010、国際資金決済、国際不正取引、国際金融法、域外適用など最新のテーマについて、受講生が説明できることを目標とする。法律関係でない学科の学生、2年生にも多く受講してほしい。企業実務の接点として重要な科目である。基礎理論のみならず実践・専門的内容を学び、総合的な国際ビジネス法の修得を目標とする。卒業後の進路に役立つよう備えることも目標となる

【履修条件】
国際取引法Ⅰの履修を前提としない。できるだけ、わかりやすく解説する。学科を問わず、法律科目を初めて勉強する者も大歓迎。可能であれば民法・商法、英語力向上から「ビジネスロー文献講読」も受講すると更に向上する。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																		
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	グローバルな展開をはかる企業の取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】 他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)					
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥			⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																		
小テスト等																		
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。						15	15	15	15								60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。										10	10						20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。												5	5	5	5		20
その他()																		
その他()																		
その他()																		
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100	

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートについては、最終の授業において詳しい解説を行うので、今後の学習に役立てていただきたい。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際取引に関する法制度に関して、企業の実務の視点から総合的にケーススタディも含めて授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	【国際投融资、企業結合法制】	国際投融资、企業結合法制概説 国際投融资、企業結合法制について、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融资、企業結合法制を理解し、説明することができる。	
		事前学修	国際投融资、企業結合法制などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際投融资、企業結合法制について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	第一部火 9/22	【国際合弁契約の概要】	国際合弁契約の概要（1）－意義、概要－ 国際合弁契約の概要について、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	国際合弁契約の概要などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際合弁契約の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	第一部火 9/29	【国際合弁契約の具体的条項例】	国際合弁契約の概要（2）－具体的条項例、株主間契約など－ 国際合弁契約の具体的条項例、株主間契約などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の具体的条項例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	国際合弁契約の具体的条項例、株主間契約などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際合弁契約の具体的条項例、株主間契約について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	第一部火 10/6	【国際合弁契約の具体的条項例】	国際合弁契約の概要（3）－譲渡制限、撤退条項など－ 国際合弁契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の具体的条項例を理解し、説明することができる。特に譲渡制限、撤退条項などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		事前学修	国際合弁契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際合弁契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	第一部火 10/13	【国際合弁契約の具体的条項例】	国際秘密保持契約の概要－具体的条項例、秘密情報遵守、返却・破棄、義務違反など－ 国際秘密保持契約の概要、具体的条項例などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の具体的条項例を理解し、説明することができる。特に秘密情報遵守、返却・破棄、義務違反などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		事前学修	国際秘密保持契約の概要などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際秘密保持契約の概要、具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	第一部火 10/20	【国際共同開発契約、国際ライセンス契約】	国際共同開発契約、国際ライセンス契約の概要－意義、具体的条項例、業務委託、成果物帰属・利用など－ 国際共同開発契約、国際ライセンス契約の意義、具体的条項例などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際共同開発契約、国際ライセンス契約について、具体的な企業法務などを学習する。	
		事前学修	国際共同開発契約、国際ライセンス契約などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際共同開発契約、国際ライセンス契約の概要、具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	【国際売買契約の概要】 【インコタームス】	国際売買契約の概要（1）－意義、インコタームス2010、具体的条項例、引渡条件などー 国際売買契約に関し、意義、インコタームス2010、具体的条項例、引渡条件などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要、インコタームスについて、具体的な企業法務などを学習する。特に引渡条件などについて理解する。	
		事前学修	国際売買契約の概要などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約について意義、インコタームス、具体的条項例、引渡条件について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	第一部火 11/10	【国際売買契約の概要】 【インコタームス】	国際売買契約の概要（2）－具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などー 国際売買契約に関し、具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要、インコタームスについて、具体的な企業法務などを学習する。特に品質保証、瑕疵担保責任について理解する。	
		事前学修	国際売買契約の具体的条項例などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約について具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	第一部火 11/17	【国際売買契約の概要】 【インコタームス】	国際売買契約の概要（3）－具体的条項例、不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などー 国際売買契約に関し、具体的条項例、不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要、インコタームスについて、具体的な企業法務などを学習する。特に不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて理解する。	
		事前学修	国際売買契約の具体的条項例、裁判管轄・準拠法などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約について具体的条項例、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて自分なりの説明をまとめる。	120分
10	第一部火 11/24	【国際売買契約の概要】 【国際的資金決済】	国際的資金決済の概要－外国為替、荷為替信用状、船荷証券などー 国際的資金決済に関し、外国為替、荷為替信用状、船荷証券などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約について、具体的な企業法務などを学習する。特に国際的資金決済について理解する。	
		事前学修	国際的資金決済の概要などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際的資金決済に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分
11	第一部火 12/1	【国際売買契約の概要】 【ウィーン売買条約】	ウィーン売買条約の概要（1）－基本的構成、適用範囲および総則ー ウィーン売買条約に関し、基本的構成、適用範囲および総則などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約について、具体的な企業法務などを学習する。特にウィーン売買条約について理解する。	
		事前学修	ウィーン売買条約の概要などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ウィーン売買条約の概要に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分
12	第一部火 12/8	【国際売買契約の概要】 【ウィーン売買条約】	ウィーン売買条約の概要（2）－契約の成立、物品の売買、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除、最終規定ほかー ウィーン売買条約に関し、契約の成立、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除など主要内容について、具体的な企業法務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約について、具体的な企業法務などを学習する。特にウィーン売買条約について理解する。契約の成立、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除などを理解する。	
		事前学修	ウィーン売買条約の概要について、契約の成立など内容面を深く掘り下げて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ウィーン売買条約の主要内容に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	【準拠法と国際裁判管轄】	準拠法と国際裁判管轄、域外適用問題－国際私法、国際不正とコンプライアンス、最新の事例研究－ 準拠法と国際裁判管轄、域外適用などについて、具体的なケーススタディを交えて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄などを学習し、理解・説明できる。	
		事前学修	準拠法と国際裁判管轄、域外適用などについて、大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分
14	第一部火 12/22	【国際金融と国際取引法】	国際金融におけるサブプライムローン金融取引の構造と米国ドッド・フランク法など金融改革法の動向、ギリシャ危機など欧州債務危機の問題点と展望、海外金融機関のフィンテックと仮想通貨の対応 国際金融領域に関して、国際取引法の視点から最新の理論と金融機関の企業実務などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、国際金融と国際取引法などを学習し、理解・説明できる。	
		事前学修	国際金融取引について、新しい動向を中心に大枠を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際金融領域に関して国際取引法の視点から具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分
15	第一部火 1/12	【後期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業の国際的M&A法制度について、総まとめを行い体系的な学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。授業内レポートについて、解説等も行い、今後課題、展望などの理解が一層できるようになる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、国際的M&A法制度全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分全体の復習を行う。	120分

科目名	国際民事紛争処理法Ⅰ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
クロスボーダー（国境を越えた）ビジネスや外国の当事者との間のビジネスから発生した法的問題を解決する法と実務に関する基礎的知識を学修する。授業で扱う法的争点はどれも、実際に国際的に活動する企業の代理人弁護士が必然的に直面するものであり、それらは、（１）国際裁判管轄権、（２）国際訴訟競合、（３）国際送達、（４）国際証拠調べ、（５）外国判決の承認と執行、（６）外国主権免除、（７）国際仲裁合意の国際的有効性、（８）外国仲裁判断の国際的執行性、（９）外国弁護士の国際商事仲裁における代理可能性、（１０）国際商事調停の将来性を含む。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業の目的】 コモンロー法域（イギリス、アメリカ、香港、シンガポール等）とシヴィルロー法域（日本、中国等）における国際ビジネス紛争の解決に関する法と実務を対比し理解する。その理解から、国境を越えたビジネスに関わる紛争の解決方法として国際交渉、国際調停、国際訴訟、国際仲裁の長所と短所を学修する。

【履修条件】
民事訴訟法、外国法、法律外国語、国際関係法を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
各授業で発言を求められる受講生を事前に選び、教科書と配布資料(日本語・英語)を題材として、講義形式とディスカッション形式を併用し授業を進める。		
授業内小テストのフィードバックは、小テストを実施した次の授業中に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に関する課題を与え、あらかじめ指名された各授業での発言を求められる複数の受講生を中心にディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コモンロー系諸国とシヴィルロー系諸国における国際ビジネスの紛争解決の法と実務に関する基本的知識を身に付け、説明することができる。						3	3	3	3	3			
②	コモンロー法域の法律専門用語を正確に理解・説明し、それらを使用してコミュニケーションすることができる。						3	3			3	3		
③	国際契約の一般条項において定められる紛争解決条項について問題点を発見し、起案し、客観的に自己の見解を系統立てて提言することができる。						3	3	3	3	3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の小テストにより、到達目標の①に関わる国際民事紛争処理法の基本的知識が身についているか、及び到達目標②に関わる法律専門用語を正確に理解し適切に使用することができているかを確認する。	35	35									70
レポート等												
討論・発表等	事例について課題を与え、授業中に事前に選ばれた受講生を中心にディスカッション（討議）を行う。その中で、到達目標①②③に関わる個別行動目標が達成されたかどうかを確認する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは行った次の回の授業で講評する。討論は行ったその回に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際取引紛争 紛争解決の基本ルール第3版』	中村 達也	敬文堂	2019	教科書	必携
『国際商取引紛争解決の法と実務 ―交渉、調停、仲裁の戦略的活用』	大貫 雅晴	同文館出版	2018	参考書	任意
『国際取引における準拠法・裁判管轄・仲裁の基礎知識』	大塚章男	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有
実務経験に基づく実践的教育の内容	実務経験の内容 ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として国際契約の実務と国際民事紛争の解決に従事。 国際契約と国際民事紛争解決の実務経験に基づき、主に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【概説】 【シヴィルローとコモンローの特徴】	「国際民事紛争処理法」に関するシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	「国際民事紛争処理法」に関するシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 「国際民事紛争処理法」の舞台となるシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、教科書を読み、国際民事紛争の解決手段としてどのような方法があるかを調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備する。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際民事紛争の各解決手段に関するシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について授業ノートに分類・整理する。	120分
2	4/14	【国際民事紛争の解決手段】	国際民事紛争の解決方法として裁判所を利用する方法と利用しない方法を学修し、それぞれの長所と短所を整理する。	
		この回の到達目標	国際民事紛争の解決方法としての交渉、調停、訴訟、仲裁の特徴を説明し、それらの方法を比較し、長所と短所について理解し、説明し、提言できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、国際民事紛争の解決方法として裁判所を利用する方法と利用しない方法を調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備する。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際民事紛争の各解決手段とそれに伴う長所と短所について、授業ノートに分類・整理する。	120分
3	4/21	【アメリカの紛争解決スタイルと裁判制度】	訴訟社会(Litigation Society)と呼ばれ、訴訟で紛争を解決する傾向が強い(Litigiousness)と言われるアメリカ社会を支持する法制度や法理を学修する。	
		この回の到達目標	訴訟社会(Litigation Society)と呼ばれ、訴訟で紛争を解決する傾向が強い(Litigiousness)と言われるアメリカ社会を支持する法制度や法理とはなにか、についてアメリカが英米法系(Common Law System)に属する法域であることと関連付けて考察し理解し説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、アメリカが訴訟社会と呼ばれる理由を調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカの訴訟社会の背景にある法制度と法理について、授業ノートに分類・整理する。	120分
4	4/28	【アメリカの民事訴訟手続の流れ】 【日本企業が直面するリスク】	アメリカの裁判所における民事訴訟手続の流れを、陪審制度における略式判決(Summary Judgment)、指図評決(Directed Verdict)、及び評決無視の判決(Judgment Non Obstante Veredicto)の役割とともに概観し、アメリカにおいて日本企業が直面する国際民事訴訟のリスクとは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解したうえで説明できるようにする。	
		この回の到達目標	アメリカの裁判所における民事訴訟手続の流れと日本企業が直面する国際民事訴訟のリスクを理解し、説明し、そのリスクの回避策を提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、アメリカの民事訴訟手続の流れと略式判決(Summary Judgment)、指図評決(Directed Verdict)、及び評決無視の判決(Judgment Non Obstante Veredicto)について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカの民事訴訟手続の流れ、専門用語、日本企業が直面するリスクについて、授業ノートに分類・整理する。	120分
5	5/4	【主権免除の原則】 【小テスト（第1回目）実施】	国際民事紛争では国内外の自然人や法人のほかに主権国家が被告となりうることを認識し、その際の日本やアメリカの裁判所による当該主権国家に対する裁判権の行使の可否、また、行使が可能となる場合の要件について学修する。小テスト（第1回目）を実施する。	
		この回の到達目標	日本やアメリカの裁判所における外国国家に対する裁判権の行使の要件を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、日本やアメリカの裁判所における外国国家に対する裁判権の行使の可否と要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。 授業の1回目から4回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第1回目）のための準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本やアメリカの裁判所における外国国家に対する裁判権の行使の要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分
6	5/11	【法廷地の選択】 【小テスト（第1回目）講評】	日本やアメリカにおける国内裁判管轄や国際裁判管轄の概念や要件の相違点、その相違に関連する法律問題、国際ビジネス契約の実務における裁判管轄条項の内容について学修する。 小テスト（第1回目）の講評をする。	
		この回の到達目標	法域により国内・国際裁判管轄の概念や要件が異なりうることを理解、説明できるようになり、その違いから生じる法律問題を発見し、かかる法律問題の解決策のひとつとして有効な裁判管轄条項を起案し、提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、国内裁判管轄、国際裁判管轄、及び裁判管轄条項について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国内裁判管轄、国際裁判管轄、及び裁判管轄条項について、関連法律問題とそれへの法的対応方法と共に、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/18	【フォーラム・ノン・コンビニエンスの法理】		アメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理について、日本の民事訴訟法下における「特別の事情」との比較において相違点を明確にし、関連する法律問題を考察し、その問題を解決する方法を学修する。
		この回の到達目標	アメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理を理解し、日本の民事訴訟法下における「特別の事情」との比較において説明できるようになる。また、その相違点から生じる法律問題点を発見できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、アメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理と日本の民事訴訟法下における「特別の事情」について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理と日本の民事訴訟法下における「特別の事情」について、その相違点と関連法律問題と共に、授業ノートに分類・整理する。	120分
8	5/25	【国際訴状送達】		コモンロー法域における「私人送達主義」とシヴィルロー法域における「職権送達主義」と、その相違点から生じる関連法律問題を学修する。ヘーグ送達条約（民事又は商事に関する裁判上及び裁判外の文書の外国における送達及び告知に関する条約）10条（a）が定める直接郵送送達に対する拒否宣言の効果、条約に従わずになされた訴状の送達の扱い方について学修する（2018年12月21日に日本政府も拒否宣言を行っている）。
		この回の到達目標	コモンロー法域とシヴィルロー法域で訴状の送達の実務が異なること、国際訴状送達が条約に基づき行われることがあること、条約の下でなされなかった訴状の送達の法的問題点を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、訴状の送達の実務がコモンロー法域とシヴィルロー法域で異なること、国際訴状送達に関する条約について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した訴状の送達におけるコモンロー法域とシヴィルロー法域での実務の相違点、国際訴状送達に関する条約、国際訴状送達に関する法律問題について、授業ノートに分類・整理する。	120分
9	6/2	【国際訴訟競合】		国内訴訟と異なり、国際訴訟では、日本と外国の裁判所で同一当事者間が訴訟を提起し、各裁判所での手続きが並行して進められるといったいわゆる国際訴訟競合の問題が発生すること、その問題から生じる関連法律問題、日本の裁判所におけるその法律問題への対応とアメリカにおける対応を学修する。
		この回の到達目標	国際訴訟競合とそれから生じる法律問題とそれに対する日本とアメリカの裁判所の対応について理解、説明することができるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、国際訴訟競合とそれから生じる法律問題、日本の裁判所におけるそれらの法律問題への対応について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際訴訟競合とそれから生じる法律問題、かかる法律問題に対する日本とアメリカの裁判所の対応について、授業ノートに分類・整理する。	120分
10	6/9	【国際証拠調べデポジション】 【小テスト（第2回目）実施】		「日本の訴訟のための外国にある証拠の取調べ」と「外国の訴訟のための日本にある証拠の取調べ」の有効性について条約の観点から学修する。アメリカの弁護士によるアメリカの裁判のための日本にいる証人に対して行われるデポジション（証言録取）の方法と法的問題点について学修する。 小テスト（第2回目）を実施する。
		この回の到達目標	国際民事訴訟における証拠収集の方法と範囲を理解し、説明できるようになる。国際証拠調べにおけるアメリカの弁護士によるアメリカの訴訟のためのディスカバリ（証拠開示手続）に関して、日本で行われるデポジション（証言録取）の法的問題点を発見し、その問題への対処方法を考察し提言することができる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、国際証拠調べに関する条約と日本の現状、アメリカの弁護士による日本におけるデポジション（証言録取）について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。 授業の5回目から9回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第2回目）の準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際民事訴訟における証拠収集の方法と範囲、国際証拠調べに関する法的問題点、アメリカの国際証拠調べに対する姿勢について、授業ノートに分類・整理する。	120分
11	6/16	【国際証拠調べ（続き）-アメリカ合衆国法律集第28編第1782条】 【小テスト（第2回目）講評】		国際民事訴訟における証拠収集に関連し、アメリカ合衆国法律集第28編第1782条（28 U.S.C. § 1782）の下での実務（アメリカの裁判所による外国の裁判で使用されるアメリカに所在する証拠の収集）について学修する。 小テスト（第2回目）の講評をする。
		この回の到達目標	アメリカ合衆国法律集第28編第1782条（28 U.S.C. § 1782）の解釈と同条下での実務について理解し、アメリカの国際民事訴訟への取り組みを国際証拠調べの観点から説明し、日本での国際民事訴訟における同条下での実務の便益を判断できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、アメリカ合衆国法律集第28編第1782条の解釈と同条下での実務について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカ合衆国法律集第28編第1782条の解釈と同条下での実務、そしてアメリカの国際民事訴訟への取り組みについて、授業ノートに分類・整理する。	120分
12	6/23	【多数当事者訴訟ークラスアクション】		アメリカにおけるクラスアクションと呼ばれる集団訴訟制度について日本との比較において学修する。
		この回の到達目標	日本とアメリカの集団訴訟制度の違いについて理解、説明できるようになり、日本の企業がアメリカのクラスアクションの被告となるリスクを減じる対策について考察し、提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、アメリカのクラスアクションと日本の選定当事者訴訟や消費者特別特例法についてその相違点を調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日米の集団訴訟制度の相違点と日本の企業がアメリカにおけるクラスアクションに巻き込まれるリスクを減じる方法について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【外国判決の承認と執行】 小テスト（第3回目）実施】	日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件を学修する。 小テスト（第3回目）を実施する。	
		この回の到達目標	日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件を理解し、説明することができる。日本における外国判決の承認と執行に関する法律問題を考察し、発見できる。かかる法律問題を解決する方法を推論し提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。 授業の10回目から12回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第3回目）の準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件、関連法律問題、その解決方法について、授業ノートに分類・整理する。	120分
14	7/7	【まとめと質疑応答】 【クラスディスカッション】 【小テスト（第3回目）講評】	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。 小テスト（第3回目）の講評をする。	
		この回の到達目標	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
		事前学修	教科書とこれまでの配布資料を読み、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
15	7/14	【まとめと質疑応答（続き）】 【クラスディスカッション（続き）】	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。	
		この回の到達目標	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
		事前学修	教科書とこれまでの配布資料を読み、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分

科目名	国際民事紛争処理法Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
クロスボーダー（国境を越えた）ビジネスや外国の当事者との間のビジネスから発生した法的問題を解決する法と実務に関する基礎的知識を学修する。授業で扱う法的争点はどれも、実際に国際的に活動する企業の代理人弁護士が必然的に直面するものであり、それらは、（１）国際裁判管轄権、（２）国際訴訟競合、（３）国際送達、（４）国際証拠調べ、（５）外国判決の承認と執行、（６）外国主権免除、（７）国際仲裁合意の国際的有効性、（８）外国仲裁判断の国際的執行性、（９）外国弁護士の国際商事仲裁における代理可能性、（１０）国際商事調停の将来性を含む。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業の目的】 コモンロー法域（イギリス、アメリカ、香港、シンガポール等）とシヴィルロー法域（日本、中国等）における国際ビジネス紛争の解決に関する法と実務を対比し理解する。その理解から、国境を越えたビジネスに関わる紛争の解決方法として国際交渉、国際調停、国際訴訟、国際仲裁の長所と短所を学修する。

【履修条件】
民事訴訟法、外国法、法律外国語、国際関係法を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
各授業で発言を求められる受講生を事前を選び、教科書と配布資料(日本語・英語)を題材として、講義形式とディスカッション形式を併用し授業を進める。		
授業内小テストのフィードバックは、小テストを実施した次の授業中に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に関する課題を与え、あらかじめ指名された各授業での発言を求められる複数の受講生を中心にディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コモンロー系諸国とシヴィルロー系諸国における国際ビジネスの紛争解決の法と実務に関する基本的知識を身に付け、説明することができる。						3	3	3	3	3			
②	コモンロー法域の法律専門用語を正確に理解・説明し、それらを使用してコミュニケーションすることができる。						3	3			3	3		
③	国際契約の一般条項において定められる紛争解決条項について問題点を発見し、起案し、客観的に自己の見解を系統立てて提言することができる。						3	3	3	3	3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の小テストにより、到達目標の①に関わる国際民事紛争処理法の基本的知識が身についているか、及び到達目標②に関わる法律専門用語を正確に理解し適切に使用することができているかを確認する。	35	35									70
レポート等												
討論・発表等	事例について課題を与え、授業中に事前に選ばれた受講生を中心にディスカッション（討議）を行う。その中で、到達目標①②③に関わる個別行動目標が達成されたかどうかを確認する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは行った次の回の授業で講評する。討論は行ったその回に講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際取引紛争 紛争解決の基本ルール第3版』	中村 達也	敬文堂	2019	教科書	必携
『国際商取引紛争解決の法と実務 ―交渉、調停、仲裁の戦略的活用』	大貫 雅晴	同文館出版	2018	参考書	任意
『国際取引における準拠法・裁判管轄・仲裁の基礎知識』	大塚章男	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として国際契約の実務と国際民事紛争の解決に従事。 国際契約と国際民事紛争解決の実務経験に基づき、主に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	【国際裁判管轄権】 【管轄合意条項】	国際取引の契約書には、紛争が生じた場合に適用される法や当該紛争を解決する手段について予測可能性を高めるため、あらかじめ準拠法条項や管轄合意条項を設けることがある。日本とアメリカの管轄合意条項の要件について学修する。	
		この回の到達目標	日本とアメリカで管轄合意条項が有効となる要件について理解し、説明できるようになり、有効な管轄合意条項を起案し、提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、管轄合意と日本とアメリカの契約書における管轄合意条項の例を2つずつ探し、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した管轄合意条項の要件と例について、授業ノートに分類・整理する。	120分
2	9/22	【裁判外紛争解決手段】	裁判以外の国際民事紛争解決の手段としては、交渉、調停、仲裁といった手段があるが、これらの各手段の国際ビジネスにおける特徴（長所と欠点）とは何かを学修する。	
		この回の到達目標	国際ビジネスにおける交渉、調停、仲裁の特徴について、理解し説明できるようにする。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、国際ビジネスにおける交渉、調停、仲裁の特徴について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した交渉、調停、仲裁の特徴について、授業ノートに分類・整理する。	120分
3	9/29	【ハイブリッド条項】	国際民事紛争解決の目的においては、裁判外紛争解決手段(ADR)である調停を裁判に前置したり、調停を仲裁に前置したりすることに合意することによって、裁判や仲裁を事前に回避する紛争解決条項（ハイブリッド条項）が存在する。日本とアメリカにおけるハイブリッド条項の要件について学修する。	
		この回の到達目標	ハイブリッド条項の種類と要件について理解し、説明できるようになり、有効なハイブリッド条項を起案し、提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、ハイブリッド条項について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したハイブリッド条項の種類と要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分
4	10/6	【ハイブリッド条項（続き）】	シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について学修する。	
		この回の到達目標	シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したシヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
5	10/13	【世界の国際仲裁制度の動向】 【小テスト（第1回目）実施】	世界の著名な国際仲裁機関における国際商事仲裁の件数を概観し、日本、中国、香港、シンガポール、韓国、欧米における国際仲裁の利用の動向を学修する。小テスト（第1回目）を実施する。	
		この回の到達目標	国際仲裁の利用について中国、香港、シンガポール、韓国、欧米の動向を考察し、それとの比較において日本の現状を理解し、説明できるようになる。また、自らが考えるかかる日本の現状の理由について、グループディスカッションをとおしてコミュニケーションし発信することができるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、日本、中国、香港、シンガポール、韓国、欧米における国際仲裁の利用の動向とその背景について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の1回目から4回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第1回目）のための準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した諸外国との比較における日本の国際仲裁の利用の動向とその理由について、授業ノートに分類・整理する。	120分
6	10/20	【国際仲裁合意の効力】 【小テスト（第1回目）講評】	日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について学修する。小テスト（第1回目）の講評をする。	
		この回の到達目標	日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について理解し、その違いを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	【国際仲裁に関する専門用語】	Arbitration Agreement, Submission Agreement, Severability, Arbitrability, Kompetenz-Kompetenz, Arbitration Award, functus officio等の仲裁関連の専門用語の意味を理解し、それらが使用される実務での場面を認識する。	
		この回の到達目標	教科書と配布資料を読み、仲裁関連の専門用語の意味を英語と日本語で理解し説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、日本とアメリカの仲裁関連の専門用語を列挙しその意味について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカの仲裁関連の専門用語の意味について、授業ノートに分類・整理する。	120分
8	11/10	【国際仲裁の事実審理の流れと特徴】	日本とアメリカにおける仲裁審理の流れとその特徴を対比して学修する。	
		この回の到達目標	国際仲裁の事実審理の流れと特徴を日本との比較において理解し説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、国際仲裁の事実審理の流れとその特徴について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際仲裁の事実審理の流れと日本との比較におけるその特徴について、授業ノートに分類・整理する。	120分
9	11/17	【国際仲裁条項の内容】	欠陥のある仲裁条項 (pathological arbitration clause) に関する問題点を考察し、仲裁条項に記すべき内容を学修する。	
		この回の到達目標	仲裁条項の欠陥とその問題点を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、欠陥のある仲裁条項とその問題点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した欠陥のある仲裁条項の事例と仲裁条項に記すべき内容について、授業ノートに分類・整理する。	120分
10	11/24	【国際仲裁条項の起案】 【小テスト（第2回目）実施】	国際仲裁条項のドラフティング（起案）について学修し、グループに分かれて討論を行う。 小テスト（第2回目）を実施する。	
		この回の到達目標	仲裁条項に記されるべき内容の理解を深化させ、仲裁条項をドラフティング（起案）し、その起案の理由をコミュニケーションし、最終的な国際仲裁条項を提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、仲裁条項に記されるべき内容について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の5回目から9回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第5回目）のための準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した仲裁条項に記されるべき内容について、授業ノートに分類・整理する。	120分
11	12/1	【国際仲裁条項の起案（続き）】 【小テスト（第2回目）講評】	言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点をグループに分かれて討論を行う。 小テスト（第2回目）の講評をする。	
		この回の到達目標	言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点を理解し、説明し、コミュニケーションし、提言できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
12	12/8	【外国仲裁判断の取消】	日本、アメリカ、イギリスの裁判所において国内仲裁判断が取り消される要件を学修する。	
		この回の到達目標	日本、アメリカ、イギリスの裁判所において国内仲裁判断が取り消される要件を理解し説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、日本、アメリカ、イギリスの裁判所における国内仲裁判断の取消要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本、アメリカ、イギリスの裁判所における国内仲裁判断の取消要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	【外国仲裁判断の承認と執行】 【小テスト（第3回目）実施】	外国仲裁判断の承認と執行の拒否事由についてニューヨーク条約に関連して学修する。また、外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について学修する。	
		この回の到達目標	ニューヨーク条約における外国仲裁判断の承認と執行の拒否事由について理解し、説明できるようになる。外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所の裁判所における承認と執行の可能性について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	教科書と配布資料を読み、ニューヨーク条約の内容と外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の10回目から12回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第3回目）のための準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したニューヨーク条約の内容と外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について、授業ノートに分類・整理する。	120分
14	12/22	【まとめと質疑応答】 【小テスト（第3回目）講評】	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。 小テスト（第3回目）の講評をする。	
		この回の到達目標	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
		事前学修	教科書とこれまでの配布資料を読み、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
15	1/12	【まとめ（続き）】 【クラスディスカッション（続き）】	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。	
		この回の到達目標	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
		事前学修	教科書とこれまでの配布資料を読み、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
		事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分

科目名	国会論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、前期の立法過程論に引き続き、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討し、国会や立法過程についての基礎的な知識を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国会の抱える諸問題や、その課題及び改革の方向性について理解します。

【履修条件】
学修効果の観点から、前期の「立法過程論」を履修していることが必要です。

【授業方法】
原則として、講義を軸に授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、授業の中に対話形式を取り入れます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、国会や立法過程に興味を持ち、メディアの報道内容を理解できるようになる。								2	2				
②	学生が、国会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。							2	2	2				
③	学生が、国会の抱える諸問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。							2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の観点から、国会や政策形成過程の特質やその問題について、十分に理解できているかを評価する。	10	30	40								80
小テスト等	到達目標②③の観点から、授業中に実施される小テストにおいて、立法過程を分析する視点が身についているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説、講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治 第3版	加藤秀治郎・水戸克典	慈学社	2020		
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	法律の立案－官僚機構	立法過程において官僚の果たす役割とその問題点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会審議以前に官僚が果たす役割について説明することができる。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	9/25	法律の立案－審議会	審議会政治とそれが政策過程に与える影響について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、審議会政治の特徴やその問題について、自分の言葉で説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
3	10/2	法令審査	内閣法制局と衆参両院法制局の組織や役割について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣法制局や両院法制局の仕組みについて理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
4	10/9	与党審査-政務調査会	自民党の政務調査会の組織、役割、課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、与党審査における政務調査会の役割を他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
5	10/16	与党審査－総務会	自民党の総務会の組織、役割、課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総務会の組織や特徴について理解し、それを説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
6	10/23	族議員の登場とその役割	政策形成過程に大きな影響力を行使する族議員の役割、性格等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、族議員の定義を含め、その役割を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	ポスト55年体制下の与党審査	連立政権が常態化した時代の与党審査の特徴について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単独政権下と連立政権下で与党審査がどのように変化したのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
8	11/6	政府内手続き	事務次官等会議をはじめとした政府内手続きの特徴を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、かつて政策形成過程で大きな意味をもった事務次官等会議の特質について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
9	11/13	政府内手続き－閣議	閣議決定の仕組みや特徴について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、閣議決定の意味や特徴を理解し、他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
10	11/20	予算編成と財務省の役割	わが国における予算編成の流れ、及びその特徴について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における予算編成のプロセスや特徴を理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
11	11/27	予算編成と経済財政諮問会議	日本の財政状況に触れながら、予算編成の改革の軌跡について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの日本で行われてきた予算編成にかかわる改革の概要を理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
12	12/4	国会における決算	国会における決算機能強化の意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、軽視されがちな決算審査の意義を、参議院改革の文脈で理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	国会とマス・メディア	立法過程にマス・メディアの及ぼす影響について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・メディアの報道が立法過程にどのような影響を与えるのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
14	12/18	国会改革	国会改革の歴史を振り返りながら、その可能性と限界について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの国会改革の概要を理解しつつ、その問題や限界について他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
15	12/25	まとめ	これまでの授業内容を振り返りながら、国会の特質やその問題・課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国の国会及び政策形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

科目名	コミュニケーション演習Ⅰ	担当者	浅利 光昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
この演習では、取材や報道などのジャーナリズム活動の背景にあるコミュニケーション行為の理論的な基礎知識について、原典及び関連文献等を通じて学習する。具体的には「マス・コミュニケーションの効果研究」を中心に、コミュニケーション理論の周辺分野の研究・知見等も扱うことで、インターネットの普及やサービスの多様化など情報化社会におけるコミュニケーション行為の諸課題を理論的な視点から整理、学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
コミュニケーション領域の中級・上級科目及び発展科目の履修、さらには卒業論文の執筆などで必要となる先行研究の調査・探索、読解能力の深化等を通じて、コミュニケーションに係る基礎的及び専門的知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観を含めた汎用的能力として情報を取り扱う力を育成することを目的とする。 自らの調査・研究成果を他者と共有する経験を通じ、他者からの評価を謙虚に受け止め、課題の解決策を考える過程を通じて、受講生自らが積極的に問題解決に取り組み、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1、4、8

【履修条件】
特になし

【授業方法】
コミュニケーション理論を題材としたプレゼンテーションなどの演習方式による授業を行う。基本的に毎回アクションシート（A41枚程度）の提出を求め、授業中に講評・解説等のフィードバックを行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 第2回講義以降、コミュニケーション理論を紹介した推奨文献等の該当箇所に関する課題を与え、翌週の講義内でそれに基づいた報告及びディスカッション等を実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代社会におけるコミュニケーション活動の理論的背景であるコミュニケーション理論の必要性を理解し、説明することができる【知識】						3	3	3				
②	コミュニケーション理論における代表的な先行研究の内容（問題意識、仮説設定、検証手法及び知見と課題等）を理解し、説明することができる【知識】						3	3	3				
③	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の内容（問題意識、仮説設定、検証手法及び知見と課題等）を調べることができる【技能】					3		3	3				
④	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の知見及び課題等を現代社会におけるマスメディアならびにジャーナリズム活動の諸課題に対して適切に当てはめることができる【技能】					3	3	3	3				
⑤	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の調査・分析に関する討議に積極的に参加し、自らの意見を述べる【態度、習慣】					3					3		
⑥	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の調査・分析に関する討議において、他社の見解も配慮しながら、自らの見解を論理的に系統立てて述べる【態度、習慣】					3					3		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準として、到達目標①②に関わるコミュニケーション理論の基礎的及び専門的知識を正確に理解し、到達目標③④に基づく文献調査ならびに現代社会におけるマスメディア、ジャーナリズム活動における諸課題に適切に応用できているかどうかを確認する。	5	10	10	10							35
討論・発表等	第2回講義以降、コミュニケーション理論を紹介した推奨文献等の該当箇所に関する課題を与え、翌週の講義内でそれに基づいた報告及びディスカッション等を実施する。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題に適切に取り組むことができたか（論理的考察力）及び討議への積極的参加（自らの意見の論理性並びに明瞭性）、他者の意見の傾聴等が適切になされたかをチェックリストや評定尺度等に照らして評価する。	5	10	10	10	10	10					55
授業への参画度	講義中の質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	20	15	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
第3回講義以降実施するディスカッションの最後に講評を行う。また、レポートに関する解説、講評は第15回講義で行う。なお、最終講義内で完了しなかった講評は、後日、ポータルサイト等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マス・コミュニケーション効果研究の展開〔改訂新版〕	田崎篤郎、児島和人	北樹出版	2003	教科書	推奨
情報メディア白書2020	電通メディア・イノベーションラボ	ダイヤモンド社	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10:30～10:40及び12:10～12:30 授業講堂にて実施する。質問、相談等は事前にメールにてアポイントメントを取ること（メールアドレス：asari@mdri.co.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	【ガイダンス】【コミュニケーション理論とは】	【コミュニケーション演習Ⅰのガイダンス】 コミュニケーション理論の外接並びに授業のテーマやねらい、授業内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献等の紹介を含め、コミュニケーション理論の学習方法や研究方法等について解説し、受講生がこの演習の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、コミュニケーション理論とはどのようなものか、また、現代社会におけるマスメディア並びにジャーナリズム活動の諸課題に対する論理的分析、考察への寄与等を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他関連文献、資料等（インターネット上の情報等を含む）を参照し、コミュニケーション理論とはどのようなものかを調べ、ノート等で整理し、講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自らの学習計画と他の履修科目との関係について整理し、検討する。また、コミュニケーション理論とマスメディア、ジャーナリズム活動の現代的諸課題との関連性についてノートに整理し、検討する。	120分
2	9/21	【マスコミュニケーションの弾丸理論】	初期のコミュニケーション理論研究の一つであるキャントリル「火星からの侵入」の翻訳書の一部を読み、1930年代当時の米国におけるラジオ放送の位置付けと現代社会との相違を踏まえたうえで、現代社会における課題等をディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、初期のコミュニケーション理論の代表的な研究・知見である「マスコミュニケーションの弾丸理論」について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスコミュニケーションの弾丸理論」に関する先行研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、ラジオドラマ「火星からの侵入」を事例とする一連の研究（マスコミュニケーションの弾丸理論）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。講義時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
3	9/28	【コミュニケーションの流れ研究 ①ピープルズ・チョイス/パーソナル・インフルエンス】【モニタージュ理論】	代表的な初期のコミュニケーション理論研究であるP. ラザーズフェルドらによる投票行動に関する研究（ピープルズ・チョイス/パーソナル・インフルエンス研究）に関する論文を閱讀したうえで、一連の研究から導き出される現代社会における課題等をディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「コミュニケーションの流れ」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「コミュニケーションの流れ」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 20～p. 24）インターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、コミュニケーションの流れを分析した一連の研究（ピープルズ・チョイス/パーソナル・インフルエンス）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
4	10/5	【コミュニケーションの流れ ②イノベーション理論】	米国農村部における技術革新の普及過程について研究したE. M. ロジャース「イノベーションの普及過程」研究に関する論文を閱讀したうえで、一連の研究から導き出された知見と現代社会の諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「イノベーション理論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「イノベーション理論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 25～p. 29）インターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、1950年代の米国農村部における技術革新の普及プロセスを分析した研究（イノベーション研究）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
5	10/12	【コミュニケーションの流れ ③批判とその後の展開】	「ピープルズ・チョイス」「パーソナル・インフルエンス」「イノベーションの普及過程」など、コミュニケーションの流れに関する一連の研究成果・知見を再度整理し、これらの研究成果に対する批判並びにその後の展開を踏まえたうえで、現代社会におけるコミュニケーションの多様化（インターネットの普及、サービス・デバイスの多様化等）を踏まえた関係性や今後の問題、諸課題についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「コミュニケーションの流れ」として整理された知見に対する批判やその後の展開について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「コミュニケーションの流れ」に関する諸研究の批判とその後の展開として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	「コミュニケーションの流れ」に関する一連の研究（第3回、第4回授業で実施）に関する知見を整理したうえで、教科教科書（p. 48～p. 53）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「コミュニケーションの流れ」に関する諸研究への批判並びにその後の展開を踏まえた現代社会における諸課題についてまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	10/19	【マスメディアの「利用と満足」研究】	Berelson (1949) “What ‘Missing the Newspaper’ Means”に代表される、ラジオや書籍、新聞等のマスメディアとの利用（視聴、聴取、閲読等）がユーザーにどのような効用（満足等）をもたらすかについてまとめたマスメディアの「利用と満足」研究の知見と現代社会の諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスメディアの利用と満足」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスメディアの利用と満足」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 29～p. 34／p. 53～p. 61）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、1940年代から1950年代にかけてメディア利用者の効用に注目した研究（「利用と満足」研究）及び諸研究への批判、その後の展開等の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	
7	10/26	【「説得的コミュニケーション」研究】	C. I. Hovlandらによる『コミュニケーションと説得』における一連の研究成果・知見（情報の送り手／受け手による違い、コミュニケーション内容による差異など）と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「説得的コミュニケーション」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「説得的コミュニケーション」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 34～p. 41／p. 61～64）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、C. I. Hovlandらによる研究（コミュニケーションと説得）と諸研究に対する批判、その後の展開等の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	
8	11/9	【認知的不協和の理論】	レオン・フェスティンガー『認知的不協和の理論 社会心理学序説』における一連の研究成果・知見と、現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題（SNSを通じた情報取得の問題、課題等）との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「認知的不協和の理論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「認知的不協和の理論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	ポータルシステム上で配布する各種資料及び原典、インターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、L. フェスティンガーによる「認知的不協和」に関する一連の研究成果・知見の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	
9	11/16	【「マス・コミュニケーションの限定効果論」の確立と課題】	Klapperによる“The Effect of Mass Communication”における一連の研究成果・知見（マス・コミュニケーション効果の類型化と一般化及びその要素）と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスコミュニケーションの限定効果論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスコミュニケーションの限定効果論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 41～p. 46）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「マスコミュニケーションの限定効果論」に関する一連の研究成果・知見の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	
10	11/23	【マスメディアの議題設定機能】	Maxwell e. McCombs & Donald L. Showによる「マスメディアの議題設定機能」仮説に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスメディアの議題設定機能」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスメディアの議題設定機能」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 66～p. 75）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「マスメディアの議題設定機能」仮説の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	11/30	【マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説】	E. Noelle-Neumannによる「（マスメディアによる）沈黙の螺旋」仮説に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 75～p. 89）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
12	12/7	【知識ギャップ仮説】	ティチナーらによる「知識ギャップ仮説」に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「知識ギャップ仮説」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「知識ギャップ仮説」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 99～p. 112）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、イノベーションの普及過程を踏まえた知識ギャップ仮説に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
13	12/14	【培養分析】	Gerbnerらによる一連の「培養分析」に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「培養分析」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「培養分析」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 112～p. 123）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「培養分析」研究の知見を踏まえたコミュニケーション研究領域への応用に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
14	12/21	【メディアシステム依存理論】	Sandra J. Ball-Rokeachらによる「メディアシステム依存理論」に関する一連の研究成果・知見を踏まえたうえで、現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「メディアシステム依存理論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「メディアシステム依存理論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	原典、教科書（p. 123～p. 132）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「メディアシステム依存理論」研究の知見を踏まえたコミュニケーション研究領域への応用に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
		事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
15	1/18	【コミュニケーション理論研究の課題】	コミュニケーション理論に関する代表的な論文、文献等を通じて学んだ成果及び知見等を踏まえ、コミュニケーション理論研究からみた現代社会におけるインターネットとジャーナリズムの関係性、ジャーナリズム活動におけるインターネット（ソーシャルサービスを含む）の活用に関する問題、諸課題についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、コミュニケーション理論の課題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、コミュニケーション理論研究の課題の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究の課題に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
		事前学修	教科書（p. 150～p. 163）やインターネット等を活用して収集、整理、分類した関連資料等を改めて整理や自ら作成したレポートの見直しを通じて、コミュニケーション理論の体系を考察する。併せて自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、過去のディスカッションの成果を踏まえたレポートを作成し、提出する。	220分
		事後学修	講義内でのコメント並びにポータルサイト等を通じて配信された講評等を確認する。	20分

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や文献資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる				1		1					
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げることができる					1	1					
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる					1	1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷	有斐閣	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章・Unit 1 を読んでくること。	90分
		事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	90分
2	4/14	コミュニケーションを分類する	日常的なコミュニケーションを観察し、分類することでそこから見えてくるコミュニケーションの形態を把握する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
3	4/21	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション	動物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションとの違いを把握したうえで、文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
		事前学修	教科書・第1章・Unit 3～4 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
4	4/28	コミュニケーションが成立するとはどういうことは？	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit 7～9 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
5	5/5	コミュニケーション現象の分析－ケーススタディ 1－	実際のコミュニケーション現象を扱った資料を読み、その内容の読解と小論文形式のレポートを執筆する（60分）。後半では、その資料についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現時点での理解と発見の力を試す	
		事前学修	第1 講～第4講までを復習する	120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
6	5/12	社会関係を調整するコミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。親密性、役割といった概念とともにその仕組みを把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章Unit10～11を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	都市空間とコミュニケーション	都市の中の匿名な空間で行われるコミュニケーションからみえてくる、距離、儀礼性を、ゴフマンの議論を通して把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー都市ー儀礼との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit11～12を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
8	5/26	説得のコミュニケーション	説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit 1 3を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
9	6/2	うわさと流言飛語	うわさや流言飛語研究の歴史は古い。その学説的な流れをおさえつつ、現代のうわさ現象を観察する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションーうわさの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit14を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
10	6/9	小テスト 振り返り	第6講～9講までの内容に対する小テストを行う	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの具体的現象を説明することができる	
		事前学修	第6講～9講を復習すること	180分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
11	6/16	流行とコミュニケーション	流行現象のメカニズムや大衆消費社会のコミュニケーションと社会関係を、リースマンの議論などを介しながら把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、流行の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第 3 ・Unit15を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
12	6/23	コミュニケーションと公共性	公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第 3 章・Unit16を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	広告とコミュニケーション	広告をコミュニケーションの視点からとらえ、P Rの多義性やマーケティングとがI C Tとともに連動している。この現在の状況を検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第4章・Unit19～20を読んでくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
14	7/7	ネットワーク空間とコミュニケーション	現在のI C Tのネットワークが編成されるなかでコミュニケーションはどのような姿を見せるのか? 「わたし」のありかとともに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
		事前学修	教科書・第4章・Unit23～24を読んでくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
15	7/14	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
		事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
		事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習る	90分

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や文献資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる						1		1					
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げるることができる							1	1					
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる							1	1					
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷	有斐閣	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章・Unit 1 を読んでくること。	90分
		事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	90分
2	9/23	コミュニケーションを分類する	日常的なコミュニケーションを観察し、分類することでそこから見えてくるコミュニケーションの形態を把握する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
3	9/30	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション	動物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションとの違いを把握したうえで、文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
		事前学修	教科書・第1章・Unit 3～4 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
4	10/7	コミュニケーションが成立するとはどういうことは？	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit 7～9 を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
5	10/14	コミュニケーション現象の分析－ケーススタディ 1－	実際のコミュニケーション現象を扱った資料を読み、その内容の読解と小論文形式のレポートを執筆する（60分）。後半では、その資料についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現時点での理解と発見の力を試す	
		事前学修	第1 講～第4講までを復習する	120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
6	10/21	社会関係を調整するコミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。親密性、役割といった概念とともにその仕組みを把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章Unit10～11を読んでくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	都市空間とコミュニケーション	都市の中の匿名な空間で行われるコミュニケーションからみえてくる、距離、儀礼性を、ゴフマンの議論を通して把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー都市ー儀礼との関連を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第2章・Unit11～12を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
8	11/11	説得のコミュニケーション	説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit 1 3を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
9	11/18	うわさと流言飛語	うわさや流言飛語研究の歴史は古い。その学説的な流れをおさえつつ、現代のうわさ現象を観察する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションーうわさの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit14を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
10	11/25	小テスト 振り返り	第6講～9講までの内容に対する小テストを行う	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの具体的現象を説明することができる	
		事前学修	第6講～9講を復習すること	180分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
11	12/2	流行とコミュニケーション	流行現象のメカニズムや大衆消費社会のコミュニケーションと社会関係を、リースマンの議論などを介しながら把握する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、流行の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3・Unit15を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
12	12/9	コミュニケーションと公共性	公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第3章・Unit16を読んてくること	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	広告とコミュニケーション	広告をコミュニケーションの視点からとらえ、P Rの多義性やマーケティングとがI C Tとともに連動している。この現在の状況を検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第4章・Unit19～20を読んでくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
14	12/23	ネットワーク空間とコミュニケーション	現在のI C Tのネットワークが編成されるなかでコミュニケーションはどのような姿を見せるのか? 「わたし」のありかとともに検討する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
		事前学修	教科書・第4章・Unit23～24を読んでくこと	90分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
15	1/13	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
		事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
		事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習る	90分

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションとインターネットについて、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活の経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題を考え、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。

【授業方法】
指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる				2							
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる					2						
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる						2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。なお、レポートは2回実施する予定である。	15	15	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席することは成績評価の前提であるため、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。ただし、欠席が著しい場合は成績評価の対象としない。	15	15	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00 研究室（9号館6階9601研究室）アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
		事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
		事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	9/23	コミュニケーションをめぐる問題	現代社会におけるコミュニケーションの偏重とその問題	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる問題について説明することができる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	9/30	アイデンティティからキャラへ	対人技法としてのキャラ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、他者との「キャラ」を通じた関わり方を具体的な例を挙げながら説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	10/7	関係のフラット化	コミュニケーションにおけるフラット化の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、受講者に日常生活の経験に引き付けてコミュニケーションのフラット化を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	10/14	コミュニケーションの閉塞化	閉塞化するコミュニケーションと解決の道筋	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	10/21	若者の友人関係とメディア	若者の友人関係とメディアに関する学説・実証研究	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人とメディアの関係を自らの経験に即して説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	産業構造の変容	「フォーディズム」から「ポストフォーディズム」へ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、現代社会の事象をポスト・フォーディズムの観点から説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	11/11	新自由主義	新自由主義の浸透とコミュニケーション	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、新自由主義の特徴を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	11/18	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力に焦点を当てた研究の展開	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を学術的な観点で把握できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	11/25	多様化する価値観とつながり	つながり依存と関係不安	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会における人間関係の問題を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	12/2	つながりの格差化	コミュニケーションにおける格差の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	12/9	承認願望	他者から得られる／他者に求める承認	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、承認願望の強まりの背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	常時接続を超えて	若年層のコミュニケーションに関する問題とその解決に向けた方向性	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を検討できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
14	12/23	社会関係資本	コミュニケーションを社会関係資本という概念によって把握する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体例を挙げながら社会関係資本を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
15	1/13	授業のまとめ	コミュニケーションとインターネットに関する問題を総括する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションとインターネットについて、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活の経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題を考え、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。

【授業方法】
指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる				2							
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる					2						
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる						2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。なお、レポートは2回実施する予定である。	15	15	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席することは成績評価の前提であるため、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。ただし、欠席が著しい場合は成績評価の対象としない。	15	15	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00 研究室（9号館6階9601研究室）アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
		事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
		事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	4/15	コミュニケーションをめぐる問題	現代社会におけるコミュニケーションの偏重とその問題	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる問題について説明することができる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	4/22	アイデンティティからキャラへ	対人技法としてのキャラ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、他者との「キャラ」を通じた関わり方を具体的な例を挙げながら説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	4/29	関係のフラット化	コミュニケーションにおけるフラット化の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、受講者に日常生活の経験に引き付けてコミュニケーションのフラット化を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	5/6	コミュニケーションの閉塞化	閉塞化するコミュニケーションと解決の道筋	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を説明できる	
		事前学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	5/13	若者の友人関係とメディア	若者の友人関係とメディアに関する学説・実証研究	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人とメディアの関係を自らの経験に即して説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	産業構造の変容	「フォーディズム」から「ポストフォーディズム」へ	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、現代社会の事象をポスト・フォーディズムの観点から説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	5/27	新自由主義	新自由主義の浸透とコミュニケーション	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、新自由主義の特徴を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	6/3	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力に焦点を当てた研究の展開	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を学術的な観点で把握できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	6/10	多様化する価値観とつながり	つながり依存と関係不安	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会における人間関係の問題を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	6/17	つながりの格差化	コミュニケーションにおける格差の進展	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	6/24	承認願望	他者から得られる／他者に求める承認	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、承認願望の強まりの背景を説明できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	常時接続を超えて	若年層のコミュニケーションに関する問題とその解決に向けた方向性	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションをめぐる諸問題の解決の方向性を検討できる	
		事前学修	教科書を読み、予習する	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
14	7/8	社会関係資本	コミュニケーションを社会関係資本という概念によって把握する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体例を挙げながら社会関係資本を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
15	7/15	授業のまとめ	コミュニケーションとインターネットに関する問題を総括する	
		この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

科目名	債権法各論	担当者	田中 夏樹	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第2章第3章第4章第5章の「契約」「事務管理」「不当利得」「不法行為」に規定された、第521条から第724条の2までが対象領域である。債権法各論の講義では、契約・不法行為といった各種債権の基本理論を学修する。具体的には、人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売り買いを行った場合（売買契約）といった人に対する権利、すなわち、債権について、具体的な契約類型に関する規律（債権各論）について取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権法は、債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが、いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて、政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて、実際の社会での債権の役割を理解し、債権法の考え方を習得し、最終的に、簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し、的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式で行う。具体的な債権をイメージしやすいように債権各論を先行して解説するまた、あらかじめパワーポイントの資料を配布する予定。最終授業にて授業内試験の講評・解説及び採点雑感を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						3						
②	債権法各論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						3						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②についての理解度を確認する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後，最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
契約法	松井和彦 ほか	日本評論社	2018	教科書	推奨
リーガルベシス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
備考	授業内にて説明するため，第一回授業までに準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき，民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権各論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権各論の民法上の位置づけについて説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権各論の導入部分を読み、債権各論の民法上の位置づけを理解する。	120分
		事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	第一部 金4/17	贈与契約	一方当事者が他方当事者に無償で目的物を譲り渡す契約である贈与契約は、双方の当事者が負担を迫る契約と比して当事者の保護の在り方が異なっている。片務・無償契約の典型例である贈与契約の解説を通じ、当事者の利害関係の調整を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、贈与契約の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、贈与契約の具体的な事例を踏まえ、誰がどのような利益を受ける関係にあるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	負担付贈与契約のように受贈者も一定の負担を迫る場合、通常の贈与契約とはどのように異なった考慮の必要性があるか検討し、自分の考え方をまとめる。	120分
3	第一部 金4/24	売買契約1	売買契約は双務・有償契約の典型的な契約であり、多くの契約関係に規定が準用される。売買契約では買主と売主間の権利義務がどのように規定されており、どのような考慮に基づくものであるか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、売買契約の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、売買契約の具体的な事例を踏まえ、贈与契約とはどのように当事者の関係が異なっているのかを確認する。	120分
		事後学修	売買契約において、双務契約であるということがどのような影響を及ぼしているか、贈与契約と比べて各当事者の要保護性はどのように異なっているかをまとめる。	120分
4	第一部 金5/1	売買契約2	売買契約では、権利や目的物に瑕疵が存在した場合には特別な規定を設けている。基本的には買主を保護するための規定であるが、一方的に買主を保護しているわけではなく、売主の利益にも配慮がなされており、具体的な条文を踏まえながら権利関係を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、売買契約において、権利や目的物の瑕疵が存在した場合の法適用について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、売買契約における各当事者の具体的な権利義務としてどのようなものが認められているか、条文とともに確認する。	120分
		事後学修	売買契約における瑕疵担保責任は、債権法改正によって修正されており、従来の規定と内容を比較し、変更点とその意義を検討する。	120分
5	第一部 金5/8	消費貸借契約	消費貸借契約は、主として金銭を目的とした契約であるが、実社会において融資を受ける場合などが当てはまる。その法的性質及び権利義務について具体的な事例を交え解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費貸借契約の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、消費貸借契約がどのような要件・効果を有しているか、条文や具体的な事例と併せて確認し、なぜそのような要件が必要なのか契約の性質から検討しておく。	120分
		事後学修	消費貸借契約の場合でも、目的物に瑕疵が存在していた場合にはどのような処理がなされるのか、条文を確認するとともに、その条文の適用場面を理解し、説明できるようにする。	120分
6	第一部 金5/15	賃貸借契約1	賃貸借契約は、もともと借主よりも貸主に有利な契約であり、借主の権利を保護するために様々な立法や判例が成立してきた。借主と貸主の権利義務に関する解説を主として行い、自身が当事者となった際の権利義務について理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賃貸借契約の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、賃貸借契約について、消費貸借契約とは要件・効果の点でどのような違いがあるかあらかじめ考え、自分なりに整理しておく。	120分
		事後学修	授業内にて扱った立法や判例法理が誰のどのような権利を守ろうとしたものであるか、仮にそのような立法等が存在していなかった場合にはどのような権利関係となっていたかについて考察し、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	賃貸借契約2	賃貸借契約は、民法の特別法である借地借家法にて特別の規定が設けられている。多くは借主を保護するための規定であるが、借地借家法がどのような点で民法を修正し、借主の保護を図っているかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賃貸借契約に関連して、借地借家法の概要について説明できる。	
		事前学修	前回の授業にて扱った賃貸借契約について、現行民法でも借主の保護に関して不十分な点がないか、検討しておく。	120分
		事後学修	借地借家法が、貸主の権利についてはどのように扱っているかを検討する。もともと借地借家法は、借主保護の趣旨が強く出ており、貸主の権利についての扱いを理解できるようにする。	120分
8	第一部 金5/29	請負契約	請負契約は、仕事の完成を目的とするものであるが、請負契約の要件・効果等について解説するとともに、完成した目的物に瑕疵が存在していた場合の適用関係についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、請負契約の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、請負契約について、要件・効果がどのようなものであり、雇用契約や委任契約との要件の違いを確認しておく。	120分
		事後学修	請負人が目的物を完成させる前に、地震等の当事者に帰責性のない原因によって目的物が滅失してしまった場合、いずれの当事者にどのような影響が生じるのかを検討する。	120分
9	第一部 金6/5	委任契約・雇用契約	委任契約と雇用契約は類似しているものの、適用される条文や要件・効果が異なっている。それぞれの契約における当事者の地位について解説し、なぜそのような相違が生じるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、委任契約・雇用契約の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、委任契約及び雇用契約について、要件・効果がどのようなものであるかを確認するとともに、実際の社会ではどのような契約として存在しているかを検討する。	120分
		事後学修	民法総則の代理人に関する規定や労働法に関する規定と債権各論の各規定がどのような関係に立つものであるかを整理し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 金6/12	不当利得	不当利得は、法律上の要件を満たすと債権が発生する法定債権であるが、条文自体は多くない。そのため、判例等を適宜紹介しながら、不当利得に関してどのような論理的考察がなされているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不当利得制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法定債権としてどのような類型があり、契約とは何が異なっているのかを検討する。	120分
		事後学修	転用物訴権という用語を各自の教科書で確認し、不当利得とはどのような関係にある問題かを検討し、事実関係やその問題点を検討する。	120分
11	第一部 金6/19	事務管理	事務管理は、他人のために義務なくして他人の事務処理をした際に生じる債権関係であるが、合意なく債権が生じる法定債権であり、要件が抽象的であるため、具体的な事例や判例を交えながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事務管理制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、事務管理について具体例を調べ、法律上の要件・効果について確認をしておく。	120分
		事後学修	事務管理は、比較的控えめな債権の成立しか認めていないが、例えば必要経費のみしか請求が認められないのでは他人の事務を積極的に処理する動機が失われることも考えられる。この点についての自分なりの考えをまとめておく。	120分
12	第一部 金6/26	不法行為1	不法行為は条文が少ないにもかかわらず重要な項目であり、不法行為の問題点としてどのようなものがあり、どのような考察がなされているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為制度一般について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不法行為の具体例を調べ、どのような場合に成立する法定債権であるのか、要件・効果とともに確認する。	120分
		事後学修	債務不履行とはどのような関係に立つものであるかを確認し、債務不履行責任と不法行為責任のいずれもが成立する類型が存在することを確認し、整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	不法行為2	不法行為にて生じた債権は、公平の観点などから一定の制限を受けることがあり、過失相殺や損益相殺がどのような制度趣旨であり、また、その趣旨が及ぶ限界はどこであるかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為における過失相殺や損益相殺について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不法行為の債権者の債権を制限する法理である過失相殺や損益相殺がどのような制度であるかを確認する。	120分
		事後学修	過失相殺や損益相殺が債務不履行の場合にも認められるものであるか、条文を確認し、不法行為との相違を検討する。	120分
14	第一部 金7/10	授業内試験及びまとめ	授業内にて試験を行い、また、債権法総論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権各論全体の概要について説明できる。	
		事前学修	授業内にて試験を行うため、配布したパワーポイントを復習する。	120分
		事後学修	授業内試験にてわからなかった点を確認し、パワーポイント等で復習するとともに、次回の授業までに質問事項を整理しておく。	120分
15	第一部 金7/17	試験講評	前回までの授業にて行った授業内試験の講評・解説を行い、同時に質疑にも回答する。また、債権法と他の法領域についての関係性にも言及し、履修計画の一助にしてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験の講評を踏まえて、試験で問われた内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	前回までの授業の復習を行い、理解できているところとできていないところを分け、不明点について考え、質問事項を検討しておく。	120分
		事後学修	債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。	120分

科目名	債権法総論	担当者	田中 夏樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権法は、債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが、いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて、政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて、実際の社会での債権の役割を理解し、債権法の考え方を習得し、最終的に、簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し、的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式で行う。具体的な債権をイメージしやすいように前期に債権各論を解説し、後期に債権総論の解説を行う。予めパワーポイントの資料を配布する予定。授業内で試験を行い、最終授業にて講評・解説及び採点雑感を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					3						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②についての理解度を確認する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後，最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
債権総論	石田剛 他	日本評論社	2018	教科書	推奨
リーガルベイス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
債権総論 第3版	中田裕康	岩波書店	2014	教科書	任意
備考	教科書はあくまで参考であり，授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため，第1回授業開始前に準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき，民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権各論と債権総論の対象の相違について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。	120分
		事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	第一部 金9/25	民法の体系と債権法の位置づけ	債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の体系と債権総論の位置づけについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。	120分
		事後学修	特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。	120分
3	第一部 金10/2	債権の種類	債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権の種類について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権の中でもどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているのかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。	120分
		事後学修	何故そのような分類をする必要があり、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。	120分
4	第一部 金10/9	債務不履行1	債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前に不明点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。	120分
5	第一部 金10/16	債務不履行2	債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行制度の類型について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。	120分
		事後学修	債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。	120分
6	第一部 金10/23	債務不履行3	債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを遡及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行制度の効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。	120分
		事後学修	債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	受領遅滞	受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受領遅滞制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。	120分
		事後学修	受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。	120分
8	第一部 金11/6	責任財産の保全1	債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、責任財産の保全制度の趣旨・目的について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。	120分
		事後学修	責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。	120分
9	第一部 金11/13	責任財産の保全2	責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しているが、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択するべきであるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権者代位権と詐害行為取消権の相違について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。	120分
		事後学修	責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。	120分
10	第一部 金11/20	連帯債務	多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連帯債務の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。	120分
		事後学修	連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡張を説明できるようにする。	120分
11	第一部 金11/27	保証債務	保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保証制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。	120分
		事後学修	保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているのかを理解し、説明ができるようにする。	120分
12	第一部 金12/4	債権譲渡	債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権譲渡制度の概要・趣旨について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。	120分
		事後学修	債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	債務消滅	発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務の消滅に関して、どのような制度が用意されているか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務が消滅するのはどういった類型が存在するか確認し、弁済についての該当箇所を確認する。	120分
		事後学修	債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。	120分
14	第一部 金12/18	授業内試験及びまとめ	授業内にて試験を行い、また、債権法総論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権総論の全体の概要について説明できる。	
		事前学修	授業内にて試験を行うため、配布したパワーポイントを復習する。	120分
		事後学修	授業内試験にてわからなかった点を確認し、パワーポイント等で復習するとともに、次回の授業までに質問事項を整理しておく。	120分
15	第一部 金12/25	試験講評	前回までの授業にて行った授業内試験の講評・解説を行い、同時に質疑にも回答する。また、債権法と他の法領域についての関係性にも言及し、履修計画の一助にしてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験の講評を踏まえて、試験で問われた内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	前回までの授業の復習を行い、理解できているところとできていないところを分け、不明点について考え、質問事項を検討しておく。	120分
		事後学修	債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。	120分

科目名	財政学Ⅰ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
特になし（経済学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい）。

【授業方法】
テキスト中心に講義形式の授業を行う。適宜、パワポを使用する。必要な資料は講義中に配布するか、Yドライブを通じて配布する。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	20							70
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又	八千代	2018	教科書	必携
備考	その他適宜、授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	授業ガイダンス・導入講義	教科書の第1章 財政の3大機能から、1 財政と、財政学の歴史を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、社会科学における財政学の位置づけを理解し、財政学を学ぶ意義を認識する。	
		事前学修	古典学派と官房学派及びその代表者について調べる。	120分
		事後学修	財政学の2大源流を説明できるようにする。	120分
2	第一部 火4/14	財政と資源配分機能①	教科書の第1章から、2 財政と資源配分機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、受講生が財政の機能の意義について説明できるようにする。	
		事前学修	現代の財政に期待される役割を調べる。	120分
		事後学修	市場の失敗を説明できるようにする。	120分
3	第一部 火4/21	財政と資源配分機能②	教科書の第1章から、2 財政と資源配分機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民間財と公共財の違いを認識し、財政の資源配分機能を説明できるようにする。	
		事前学修	公共財の概念を調べる。	120分
		事後学修	純粋公共財と準公共財を説明できるようにする。	120分
4	第一部 火4/28	財政と所得再分配機能①	教科書の第1章から、3 財政と所得再分配機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、資本主義は所得不平等を前提とする社会であることを説明できるようにする。	
		事前学修	資本主義における所得の不平等の原因を調べる。	120分
		事後学修	絶対的貧困と相対的貧困を説明できるようにする。	120分
5	第一部 火5/5	財政と所得再分配機能②	教科書の第1章から、3 財政と所得再分配機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、財政の所得再分配機能を説明できるようにする。	
		事前学修	所得再分配を実現している累進税と生活保護を調べる。	120分
		事後学修	ローレンツ曲線とジニ係数を説明できるようにする。	120分
6	第一部 火5/12	財政と経済安定機能①	教科書の第1章から、4 財政と経済安定機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、世界大不況の原因を説明できるようにする。	
		事前学修	J. M. ケインズの経済・財政学界における業績について調べる。	120分
		事後学修	J. M. ケインズの有効需要の原理、乗数理論を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	財政と経済安定機能②	教科書の第1章から、4 財政と経済安定機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにし、そして5 現代財政の課題を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政の経済安定機能を説明できるようにする。	
		事前学修	フィスカル・ポリシー、ビルト・イン・スタビライザーを調べる。	120分
		事後学修	フィスカル・ポリシーの目標である完全雇用を説明できるようにする。	120分
8	第一部 火5/26	財政民主主義	教科書の第2章 予算制度から、1 財政民主主義の歴史と意義を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、財政民主主義の意義を説明できるようにする。	
		事前学修	財政民主主義の歴史的背景を調べる。	120分
		事後学修	戦前と戦後の日本における財政民主主義の相違を説明できるようにする。	120分
9	第一部 火6/2	予算制度	教科書の第2章から、2 予算制度の概要を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、予算がどのような過程を経て成立するか、説明できるようにする。	
		事前学修	予算の種類を調べる。	120分
		事後学修	財政法の規定を確認する。	120分
10	第一部 火6/9	予算原則	教科書の第2章から、3 予算原則を中心に財政民主主義との関連を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算原則を説明できるようにする。	
		事前学修	財政民主主義と予算原則との関係を調べる。	120分
		事後学修	伝統的予算原則と現代的予算原則の相違を調べる。	120分
11	第一部 火6/16	予算制度	教科書の第2章から、4 予算制度の課題をプライマリーバランスの観点から明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、財政の役割を実現するために必要な予算制度を説明できるようにする。	
		事前学修	財政民主主義を再確認する。	120分
		事後学修	予算制度の課題を調べる。	120分
12	第一部 火6/23	政府支出	教科書の第3章 政府支出の理論と実際から、1 政府支出の理論を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、政府支出（経費）の効果を説明できるようにする。	
		事前学修	ケインズの有効需要の原理、乗数理論を再確認する。	120分
		事後学修	フィスカル・ポリシーの内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	経費膨張	教科書の第3章から、2 政府支出の膨張要因を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、経費膨張の法則を説明できるようにする。	
		事前学修	アドルフ・ワグナーの財政学界における業績を調べる。	120分
		事後学修	ピーコック、ワイズマンの経費膨張論を調べる。	120分
14	第一部 火7/7	政府支出の構造	教科書の第3章から、3 政府支出の構造を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。	
		事前学修	政府支出（経費）の効果（乗数効果）を再確認する。	120分
		事後学修	政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。	120分
15	第一部 火7/14	経費区分	教科書の第3章から、4 主要な経費を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主要経費やその他の経費区分を説明できるようにする。	
		事前学修	今年度予算の政府支出（経費）を調べる。	120分
		事後学修	主要経費の額を各年度で比較する。	120分

科目名	財政学Ⅰ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義毎にレジメと関連する資料を配付して講義を進める。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	20							70
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。定期試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『財政学入門』	楠谷・藪下・川又・ 斉藤編著	八千代出版	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	【ガイダンス，導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、私たちの生活が財政と深く結びついていることを学修し、さらに、財政学の学問体系を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読む。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月17日	【財政とその機能】	経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、財政の機能の意義について説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財政理論の発展過程、市場の機能と失敗、市場の失敗と財政の機能の関係を理解し、財政の機能の意義について説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「1. 財政と財政学の歴史」「2. 財政と資源配分機能」を読み、財政とは何か、財政学の発展過程、財政の三大機能の1つである資源配分機能の意義を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、財政の三大機能のうち資源配分機能の意義を市場の失敗との関連づけて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	4月24日	【財政の所得再分配機能】	資本主義経済における所得分配の決定メカニズム、所得格差の現状、財政の所得再分配機能を学習し、受講生が財政による所得再分配機能の意義を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、市場システムの所得分配決定メカニズム、所得格差の現状と発生原因を学修し、財政の所得再分配機能の内容と意義を説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「3. 財政と所得再分配機能」を読み、所得分配の現状と財政の所得再分配機能の意義を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、わが国における所得格差の推移データを参考に、格差を生じさせる原因は何か、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	5月1日	【財政の経済安定機能、現代財政の課題】	資本主義経済における景気循環を学習し、財政の経済安定機能の意義を学習する。また、日本の財政の現状を主要経費別分類の会計資料を基に学習し、財政の現状把握から日本の財政の抱える課題を考察し、経済安定機能と日本の財政の現状について説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、景気循環の発生に伴う弊害を学修し、財政の経済安定化機能の意義について説明できる。日本の財政が抱える問題の1つである、借金の増加を抑えるプライマリー・バランスの黒字化目標の意味を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章の「4. 財政と経済安定機能」、「5. 現代財政の課題」を読み、経済安定機能の意義と日本の財政が抱える課題について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、財政の経済安定機能とその意義、プライマリー・バランスの黒字化目標について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	5月8日	【小テスト，まとめ】	リアクションペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④にかかわる財政の機能に関する基礎的理解が身についているかを確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノートを復習し小テスト（リアクションペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について、教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
6	5月15日	【予算制度 1】	税や予算などの財政活動を規定する法制度を学習し財政民主主義の考え方を学習し、どのような法制度の枠組みの中で財政が営まれることによって財政民主主義が保証されているのか考察し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政活動を規定する日本国憲法を初めとする各種法制度を学修し財政民主主義を理解し、財政民主主義の意義を説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「1. 財政民主主義」、「2. 予算制度」を読み、財政民主主義の概念、税や予算などの財政活動を規定する法制度、予算の種類を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、税や予算が法律で規定されているのはなぜかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	【予算制度2】	予算過程の仕組みを学習して、受講生はそれらを説明できる。予算作成の意義と予算編成に求められる原則について法規定との関連性を学習し、これらの意義について受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、わが国財政の予算過程の仕組みを学修して、受講生はそれらを説明できる。到達目標①②④と関連して、予算の機能（役割）及び予算編成に求められる一般原則について法規定との関連性を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章の「2. 予算制度の3）予算過程」、「3. 予算原則」を読み、予算過程の仕組みと予算原則について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、予算過程の構造、通説的予算原則の内容を整理し、予算原則の意義について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5月29日	【政府支出の理論と実際1】	政府の支出には効率性が求められるが、どのような意味で効率的と判断されるのかを学習し、どのような条件が満たされれば、政府支出は効率的となるのか関連する経済学理論を用いて学習し、受講生が政府支出の経済的効率の意義を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、政府支出に効率性が求められる意義を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「1. 政府支出の理論」を読み、政府支出に求められる経済効率の意義について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、公共財の最適供給と地方分権の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6月5日	【政府支出の理論と実際2】	わが国の一般会計予算における経費の分類方法、経費構造、主要経費の構造の特徴を学習し、これらを受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、わが国の一般会計予算における経費の分類方法及び特徴を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章の「3. 政府支出の構造」を読み、わが国の経費の分類について考察する。	120分
		事後学修	わが国の政府支出の構造と歴史的な移り変わり（戦中→戦後→現在）を、予算の主要経費別分類に基づいて自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6月12日	【小テスト、まとめ】	リアクションペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、予算制度に関する基礎的理解が身についているかを確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノートを復習し小テスト（リアクションペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について、教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
11	6月19日	【租税の役割と租税原則】	租税の果たす役割、現代の租税原則について学習し、それらの意義を受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④と関連して、租税の役割は何か、現代の租税原則は何かを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章の「1. 税の役割と租税原則」を読み、その意義について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、スミスとワグナーの租税原則の相違点を指摘し、相違点を両者の活躍した時代背景から捉え、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6月26日	【租税の公平性原則と中立性原則】	租税原則に関する公平な税の意味を学習し、また、租税原則の中立性原則と同義語の経済効率を学習し現行の所得税の問題点を考察し、受講生が租税原則を具体的に説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、課税の公平性原則と中立性原則の意味を理解し、現行所得税が原則に照らして適正であるのか考察し、タックスミックスの意義を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは」、「3. 課税と経済効率」を読み、その意義について考察する。	120分
		事後学修	1989年に、日本が消費税を導入した際、物品税が廃止された。このような間接税の改革は経済効率の改善につながるといわれるが、この点について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	【日本の税制（所得税）】	日本の租税構造を主要国の構造と比較して日本の租税構造の特徴を学習する。さらに、わが国の所得税の仕組みと特徴について学習し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、日本の租税構造と主要国のものと比較学修し、その類似点と相違点を説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章の「4. 日本の租税構造」、「5. 所得税」を読み、その構造と特徴について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、わが国における所得税の特徴を税率構造、課税最低限、超過累進税などの点から自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7月10日	【日本の税制（消費税1）】	わが国の消費税の仕組みを学習し、これらを受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、どのような経緯から日本において消費税が導入されたのか、消費税の仕組みの特徴は何か理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章の「6. 消費税」を読み、その構造と特徴について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、付加価値税を導入している諸国の軽減税率採用の比較を考察してみる。	120分
15	7月17日	【日本の税制（消費税2）】	わが国の消費税のメリット、デメリットを学習し、これらを受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化、格差社会の現状等を踏まえて消費税のメリット及びデメリットを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章の「6. 消費税のメリット、デメリット」を読み、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化等を踏まえて、消費税のメリット・デメリットについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化、格差拡大の現状等を踏まえて、消費税のメリット・デメリットについて考察する。 初回からの授業ノートや配布資料、事後学修を見直して整理し、期末試験に向けた準備をする。	200分

科目名	財政学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
特になし（経済学Ⅰ、Ⅱ、財政学Ⅰを履修していることが望ましい。またマクロ経済学Ⅰ、Ⅱを履修中であることが望ましい。）

【授業方法】
テキスト中心に講義形式の授業を行う。適宜、パワポを使用する。必要な資料は講義中に配布するか、Yドライブを通じて配布する。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	20							70
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・サイトを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又	八千代	2018	教科書	必携
備考	その他適宜、授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	授業ガイダンス・導入講義	教科書第4章 租税の原則と日本の税制 1 税の役割と租税原則	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税の概念と課税の正義を説明できるようにする。	
		事前学修	財政学Ⅰでとりあげた財政民主主義を調べる。	120分
		事後学修	憲法の租税に関連する条文を調べる。	120分
2	第一部火 9/22	租税原則	教科書 1 税の役割と租税原則	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スミス4原則、ワグナー4大9小原則、現代租税原則を説明できるようにする。	
		事前学修	租税が果たしている役割を調べる。	120分
		事後学修	その他の租税原則を調べる。	120分
3	第一部火 9/29	公平な税	教科書 2 公平な税とは	
		この回の到達目標	到達目標①②③3④に関連して、水平的公平と垂直的公平を説明できるようにする。	
		事前学修	財政学Ⅰで言及した比例税と累進税の違いを確認する。	120分
		事後学修	公平な租税をみずから考える。	120分
4	第一部火 10/6	応益原則と応能原則	教科書 2 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公平な課税といわれる累進税を犠牲説によって正当化できるようにする。	
		事前学修	経済学で学ぶ限界効用の概念を確認する。	120分
		事後学修	応益原則と応能原則を調べる。	120分
5	第一部火 10/13	租税の転嫁と帰着	教科書2) 租税の転嫁と帰着	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、転嫁の種類を説明できるようにする。	
		事前学修	現代租税原則のうち中立原則を再確認する。	120分
		事後学修	前転、後転、帰着を調べる。	120分
6	第一部火 10/20	租税の転嫁と帰着	教科書2) 租税の転嫁と帰着②	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、租税転嫁によってひきおこされる超過負担を説明できるようにする。	
		事前学修	経済学やミクロ経済学でとりあげられる余剰概念（消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰）を調べる。	120分
		事後学修	価格弾力性について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	課税と経済効率	教科書 3 課税と経済効率	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、所得税と労働供給の関係を説明できるようにする。	
		事前学修	経済学やミクロ経済学でとりあげられる代替効果、所得効果を調べる。	120分
		事後学修	労働供給に影響を与えるものは何か、を調べる。	120分
8	第一部火 11/10	日本の租税構造	教科書 4 日本の租税構造 5 所得税 6 消費税 7 法人税 8 資産課税	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、各租税の収入の大きさを説明できるようにする。	
		事前学修	今年度予算（歳入）を調べる。	120分
		事後学修	各租税の収入を各年度で比較する。	120分
9	第一部火 11/17	公債論	教科書第5章 日本の公債問題 1 租税と公債の相違	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税と公債の違いを説明できるようにする。	
		事前学修	今年度予算（歳入）を調べる。	120分
		事後学修	公債残高を調べる。	120分
10	第一部火 11/24	公債の現状	教科書 2 公債発行の問題 3 公債の負担 4 日本の公債発行の現状	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政赤字を減らす方法を説明できるようにする。	
		事前学修	公債依存度を調べる。	120分
		事後学修	プライマリー・バランスを調べる。	120分
11	第一部火 12/1	社会保障財政	教科書第6章 社会保障財政 1 超高齢社会と社会保障	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、超高齢社会における財政の役割を説明できるようにする。	
		事前学修	日本の人口ピラミッドを調べる。	120分
		事後学修	日本の社会保障制度を調べる。	120分
12	第一部火 12/8	社会保障制度	教科書 2 年金保険制度 3 医療保険制度と財政 4 公的扶助	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、日本の年金保険制度を説明できるようにする。	
		事前学修	財政学 I でとりあげられる財政の所得再分配機能を調べる。	120分
		事後学修	積立方式と賦課方式を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	財政政策	教科書第7章 財政政策の理論 1 政府の目的 2 乗数効果と45度線分析	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、均衡国民所得の決定を説明できるようにする。	
		事前学修	財政学 I でとりあげられる財政の経済安定機能を調べる。	120分
		事後学修	ケインズの有効需要の原理を調べる。	120分
14	第一部火 12/22	IS曲線とLM曲線	教科書 3 IS曲線とLM曲線 4 IS-LM分析	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、IS曲線とLM曲線、クラウディングアウトを説明できるようにする。	
		事前学修	経済学及びマクロ経済学でとりあげられる流動性選好を調べる。	120分
		事後学修	IS曲線とLM曲線を自分で書いてみる。	120分
15	第一部火 1/12	地方財政	教科書第8章 地方の財政問題	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、地方財政の役割を説明できるようにする。	
		事前学修	中央財政と地方財政の違いを調べる。	120分
		事後学修	地方財政の規模を調べる。	120分

科目名	財政学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
財政学Ⅰを履修していることが望ましい。経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義毎にレジメと関連する資料を配付して講義を進める。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	10	20							70
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。定期試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『財政学入門』	楠谷・戴下・川又・ 斎藤著	八千代出版	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月 18日	【ガイダンス，導入授業】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、私たちの生活が財政と深く結びついていることを学修し、さらに、財政学の学問体系を理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読み、財政機能を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9月 25日	【日本の公債問題 1】	公債の定義と種類、公債の発行方法および償還方法を学習し、受講生が公債の仕組みや公債の評価を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、財源調達方法の1つである公債の特徴、種類、発行方法、償還方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「1. 公債の定義と種類」、「2. 公債の発行方法および償還方法」を読み、財源調達手段としての租税との相違、公債の種類や発行方法について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、公債発行に関するわが国の財政規定を確認し、その財政規定の根拠を、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	10月 2日	【日本の公債問題 2】	公債負担の問題に関する主要学説（ケインズ派経済学、ボーエン・デービス・コップ、モディリアーニの説、中立命題）を考察し、各学説の意義と相違点を明らかにし、受講生が公債負担に関する各学説を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、税金の先取りとされる公債発行が、公債の償還に際し、世代間の負担の不公平がどのような形で生じるのか、あるいは生じないのか、関連する学説を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「3. 公債負担に関する考え方」を読み、負担に関する各学説を考察する。	120分
		事後学修	中立命題の成立可能性に関する理論的論争を参考に、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	10月 9日	【日本の公債累増の問題】	公債発行の累増によって、財政の硬直化、世代間の不公平、経済に損失をもたらす非効率生む大きな政府、民間経済活動への阻害、わが国の財政状況を学習し、累増による問題点を考察し、受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、特に日本の財政は公債発行の累増が著しいこと。累増によって世代間負担の不公平の他にどのような問題が発生するのか理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章の「4. 公債累増の問題点」、「5. 日本の財政状況と公債発行の推移」を読み、わが国の公債発行残高の状況を踏まえて累増の問題点を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、わが国の財政再建に求められることは何か、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	10月 16日	【社会保障制度と財政】	わが国の社会保障制度の意義と財政との関連を学習し、超高齢社会の進展によって、社会保障給付費が拡大していることを学習し、制度の仕組みと意義、現状を受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、社会保障制度の内容及び社会保障制度と財政の関連を学修し、財政機能の観点から社会保障制度の意義を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章の「1. 超高齢社会と社会保障」を読み、社会保障の概念と意義について考察する。	120分
		事後学修	社会保障給付費の概念と一般会計予算の社会保障関係費の概念の違いを確認し、社会保障関係費の一般会計予算に占める推移と現役世代（若年世代）の負担について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	10月 23日	【小テスト，まとめ】	リアクションペーパーにより、前回までに学習した授業内容を踏まえ、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、公債、及び社会保障制度に関する基礎的理解が身についているかを確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノートを復習し小テスト（リアクションペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について、教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月 30日	【社会保障財政－公的年金制度と財政】	わが国の公的年金制度の意義と体系、年金財政の危機、制度改革の方向性を学習し、超高齢社会の進展によって年金財政の破綻が危惧されること、制度改革はどのような内容で進められているか学習し、公的年金の意義と現状、制度改革の必要性和方向性を受講生が説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、公的年金制度の意義と仕組み、及び年金財政が危機的状況にあることを学修し制度改革の必要性を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章の「2. 年金保険制度と財政」を読み、公的年金制度の意義と現状について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、年金の財政方式には2つの方式があるが、それぞれの方式の特徴と問題点について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11月 6日	【社会保障財政－医療保険制度と財政】	わが国の医療保険制度の概要、意義、課題について学習し、超高齢化の進展とともに厳しい財政状況にあることを理解し、説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、わが国の医療保険制度の概要、意義、課題について理解し、超高齢化の進展とともに厳しい財政状況にあることを説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章の「3. 医療保険制度と財政」を読み、医療保険制度の仕組みと現状について考察する。	120分
		事後学修	「医療保険制度の存在が、医療費を増加させる原因である」とも言われる。この点について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11月 13日	【公的扶助制度と財政】	公的扶助の現状、及び日本の生活保護制度の問題点を「負の所得税」の学説から学習し、生活保護制度の問題点と改革案を説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、公的扶助制度の体系、日本の生活保護制度の問題点、さらにその問題点の解消と関連する「負の所得税」の学説を理解し、説明できる。	
		事前学修	「4. 公的扶助」を読み、医療保険制度の仕組みと現状、また、公的扶助の意義と現状について考察する。ミルトン・フリードマンの「負の所得税」を考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を見直し、公的扶助の内容と問題点を整理する。公的扶助の予算配分の推移の特徴と要因について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11月 20日	【地方の財政問題1】	地方財政の機能の特徴、国と地方政府間財政関係、地方財政計画の役割、地方歳入の構造、地方税体系を学習し、地方財政の特徴点について説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、地方財政の機能の特徴、国と地方政府間財政関係、地方財政計画の役割、地方歳入の構造、地方税体系を理解し、地方財政の特徴点について説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「1. 地方財政の課題」、「2. 地方財政の収入」を読み、中央財政と地方財政の関係、地方財政の理論、地方の歳入構造、地方税体系を考察する。	120分
		事後学修	地方公共財の供給において民間手法を活用すべきだという意見について、自分なりの考えをまとめる。	120分
11	11月 27日	【小テスト、まとめ】	リアクションペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、公的年金財政及び医療保険財政の意義と問題点、地方財政の機能に関する基礎的理解が身についているかを確認する。	
		事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノートを復習し小テスト（リアクションペーパー）に臨む準備をする。	150分
		事後学修	理解が不十分であった項目について、教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
12	12月 4日	【地方財政の制度】	普通会計と公営事業会計、目的別分類、性質別分類、経常収支比率を学習し、地方公共団体の会計制度について説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、地方財政の会計制度について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「3. 地方の歳出構造」を読み、歳出の分類について考察する。	120分
		事後学修	地方分権時代にふさわしい地方税のあり方について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月 11日	【財政制度と地域間再分配】	地方交付税の仕組み、地方交付税の地域間再分配効果、国庫支出金意義、国庫支出金の経済効果等を学習し、地方交付税と国庫支出金の役割と問題点について、受講生が説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、地域間再分配に係わる各種補助金の意義と相違点を理解し説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「4. 地方交付税と財政調整」、「5. 国庫支出金」を読み、各制度の仕組みを考察する。	120分
		事後学修	特定補助金と一般補助金の違いについて説明し、地方住民の厚生水準を引き上げるためには、特定補助金を一般補助金に変えるべきとする主張について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12月 18日	【地方分権の定理】	分権化の推進と関連する学説「オーツの地方分権定理」を学習して、資源配分の観点から分権化のメリットを説明できる。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、われわれの経済社会において、資源配分の問題は重要な課題であるが、地方分権が効率的資源配分を実現することをオーツの「地方分権定理」を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「6. 分権化の地方財政」を読み、分権化の意味と分権化のメリット・デメリットを考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配付資料を見直し、地方分権定理の意義を整理する。	120分
15	12月 25日	【「足による投票」と資源配分の効率性】	ティブーの「足による投票」を学習して、資源配分の効率性の観点から分権化のメリット・デメリットを説明できる。講義のまとめ。	
		この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、効率的資源配分の実現において、地方分権化による資源配分が有効であることをティブーの「足による投票」を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章の「6. 分権化の地方財政」を読み、分権化の意味と意義は何であるのか考察する。初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、財政学の体系を考察する。	120分
		事後学修	高齢化や人口減少により地方消滅が心配されているわが国において、地方分権の意義と推進策について自分なりの考えをまとめる。初回からの授業ノートや配布資料事後学修を見直して整理し、期末試験に向けた準備をする。	200分

科目名	サイバー法 I	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○		○	○

【授業の概要】
コンピュータに関する問題やインターネット上に生ずる問題を、現行法によりどのように解決することが、社会にとって妥当なのか、それでは解決できない場合はどのような解決策を講じればよいのかを考えてみる講義である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的 コンピュータやインターネットに関わる問題を特別法や現行法や条約によりいかに解決するかを学ぶ。 到達目標 コンピュータネットワークやスマートフォンを利用する際に生ずる様々な問題をどのように解決することが良いのかや、現行法上の問題点などを理解し、解決の方向性を見出せるようになること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	1回、2回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネット、コンピュータに関する問題を解決するための知識と教養を、インターネットを活用して、補う。				4							
②	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、問題点を論理的に説明し、何を保護すべきなのかを指摘する。						4					
③	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、現に起きている問題、起こりうる問題点を指摘して、その解決方法を示す。								4			
④	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、調和を考え、調和点をインターネット上で率先して実行する。										4	
⑤	インターネット、コンピュータの利用における匿名性を指摘し、協調性のあるネットワークの利用に貢献する。											4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	20	20			40				10	10	100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20			40				10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井、鈴木、山口編	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	テキストに講義で取り上げる全てのテーマに関する内容が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月8日	ガイダンス及び導入講義		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。	
		事前学修	最近話題となった、コンピュータ、インターネットに関する問題を調べておく(例えばAI)。テキスト第1章を読んでおくこと。	120分
		事後学修	コンピュータやインターネットが何をもたらすのかを考え、まとめる。	120分
2	4月15日	情報の検索と収集		インターネットやコンピュータ、AIを利用し、作業効率を上げる方法を考えてみる。例えば、翻訳ソフトの利用で作業効率は向上するのかを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネットやコンピュータの利用がもたらすメリット、デメリットを理解し説明できる。	
		事前学修	コンピュータやインターネットを利用した1日の有効利用を考える。利用できるデータベースシステムを検索する。	120分
		事後学修	講義内容からコンピュータやインターネットを利用して1日の有効利用法を考え、試す。図書館のデータベースを利用する。ネット上の翻訳ソフトを使用する。e-GOV法令検索を利用する。	120分
3	4月22日	インターネット上の人権侵害		インターネット上に情報を発信する際に、人権侵害がなされる理由とその侵害予防と救済について考える。例、「ガラケー女 デマ投稿の市議」(2019/10/29朝日新聞)
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、プライバシー権や名誉毀損(刑法230条以下や)について理解し、説明できる。	
		事前学修	情報発信の意義を考えておく。テキスト第3章「インターネット上の名誉毀損・プライバシー侵害」部分を読んでおく。	120分
		事後学修	どのような場合に自己の情報発信が他者の人権を侵害することになるのか説明できるようにまとめる。	120分
4	4月29日	バイオメトリクス(画像検索エンジン)		バイオメトリクス認証システムを利用した社会のメリット、デメリットとプライバシーの保護を考える。
		この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、バイオメトリクス認証について理解し、その運用により守られる利益とプライバシーの保護について説明する。	
		事前学修	生体情報とは何なのか、その収集方法どのように行われるのかを調べておく。参考書「情報ネットワークの法実務第7章6(バイオメトリクス個人認証)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	バイオメトリクス情報の利用とプライバシー侵害の境界線を説明できるようにまとめる。	120分
5	5月6日	インターネットと表現の自由、インターネット上の差別的表現		インターネット上での、例えば、反政府活動とテロ行為の喧伝、自殺の奨励、ヘイトスピーチなどと表現の自由について考える。
		この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、憲法上で保障されている「表現の自由」、「言論の自由」に対する規制が可能か否か、メディアの違いにより規制の強弱が可能か否かなどを理解し、的確に説明する。	
		事前学修	表現の自由の概念を理解しておくこと。テキスト第6章「インターネット上の差別的表現・ヘイトスピーチ」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	表現に対する制限の基準を正しく説明できるようにまとめる。	120分
6	5月13日	プロバイダーの責任		人権侵害、名誉毀損、違法行為のサイトに関してインターネットサービスプロバイダーはどのように対処しなければならないのかを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、プロバイダー責任制限法との関係を理解し、プロバイダーの行為、責任を説明する。	
		事前学修	違法なウェブサイトとはどのようなものか調べておく。第12章「サービス・プロバイダーの責任と発信者開示」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	プロバイダーの責任と人の権利に対する制限の境界線を理解し、説明できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	電子メールの盗み読み	企業による従業員の監視行為としての企業メールサーバの監視行為や、個人による個人が使用するメールサーバに保存あるいは個人の所有する機器に保存されたメールの閲覧は許されるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、通信の秘密、信書開披罪(刑法133条)を基にして、メールの無断閲覧について理解し、的確に説明する。	
		事前学修	他人の電子メールを読む方法を調べておく。参考書「情報ネットワークの法実務第7章15(IT機器を利用した従業員の監視の在り方)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	電子メールと信書の違いを説明し、電子メールを監視することの適法性を説明できるようにまとめる。	120分
8	5月27日	不正アクセス禁止法の問題点	大学のパソコンを利用する為のIDとパスワードを学生(A)友人(B)に教え、その友人(B)に大学のパソコンを利用させる行為や、その友人(B)が友人(C)に学生(A)のID、パスワードを教え、大学のパソコンを使わせる行為は許されるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不正アクセス禁止法と、パソコンの利用規約を正しく理解し、不正アクセス行為、規約違反について説明する。	
		事前学修	大学のコンピュータの利用の為のID、PWを友達に教えたらどうなるのか。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	同一の条約に基づく方でありながらドイツ法と日本法では客体に違いがあること等をまとめる。	120分
9	6月3日	不正指令電磁的記録作成供用罪(刑165条の2)	コンピュータウイルスは不正指令電磁的記録の一つであるが、プログラムやアプリの自動アップデートでプログラム、アプリが正常に機能しなくなった場合には、そのアップデートプログラムは不正指令電磁的記録なのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不正指令電磁的記録の意義を正しく理解して、成立要件を的確に説明できる。	
		事前学修	パソコンの自動アッププログラムはウイルスソフトには該当しないのか確認する。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	「クッキー」に対する欧州と我が国の捉え方の違い等、不正指令概念の不正確さを理解し説明できるようにまとめる。	120分
10	6月10日	携帯電話(スマホ)の譲渡	スマートフォンを他人に自由に譲渡した場合に起こるべき問題を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、携帯電話やスマートフォンの譲渡の際に生じる問題を理解し、なぜ規制があるのかを的確に説明する。	
		事前学修	携帯電話不正利用防止法を確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第8章26(携帯電話不正利用防止法の概要)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	今日ではチップの譲渡が対象となること、本人確認の方法という観点から問題点を指摘できるようまとめる。	120分
11	6月17日	ブロッキングとフィルタリング	未成年者が携帯電話を使用する際にフィルタリングの契約を求められる理由について、青少年保護条例に規定される「有害図書」に関する規制と対比して考える。さらに、ブロッキングの根拠について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フィルタリングによる青少年の保護について理解し、ブロッキングの危険性と児童の保護について理解し、規制の範囲と合法性についての的確に説明する。	
		事前学修	青少年保護条例による有害図書の指定とは何かを調べておく。テキスト第5章「インターネット上での青少年の保護」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	フィルタリングとブロッキングの違いを理解して説明できるようまとめる。	120分
12	6月24日	リベンジポルノ、名誉毀損	いわゆるリベンジポルノ、コラージュ画像の頒布と名誉毀損について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、これらの行為の目的を理解し、被害者をどのように保護すべきかを的確に説明する。	
		事前学修	私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律の趣旨を調べておくこと。	120分
		事後学修	被害者に氏名の変更を認めるという解決方法やドイツ法のような規制と我が国の法とを比較して違いを説明できるようまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	ネット広告詐欺	ネット広告を利用した、世界で被害推計額5.5兆円といわれる広告主に対する詐欺行為(ネット広告詐欺)について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ネット広告詐欺について理解し、その規制の必要性について説明する。	
		事前学修	ネット広告詐欺について調べておく。参考書として、NHK出版新書590「暴走するネット広告」2019年6月10日を読んでおく。	120分
		事後学修	技術の進化とインターネット上で起こる問題に対して、既存の法による解決の可能性についてまとめる。	120分
14	7月8日	フェイクニュースの問題点	政治から既存のマスコミをも巻き込むフェイクニュースがもたらす影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フェイクニュースか否かを見極めるための方法を理解し、ファクトニュースを発見する方法とフェイクニュースの発信者の責任について説明する。	
		事前学修	フェイクニュースによる弊害について調べておく。さらにフェイクニュースの拡散に対する現行法による対処を考える。	120分
		事後学修	ファクトニュースとフェイクニュースの違いを知る方法を理解し、フェイクニュースの発信拡散の防止方法についてまとめる。	120分
15	7月15日	今学期のレポートについての解説	今学期のレポート課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。	
		事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。	120分
		事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。	120分

科目名	サイバー法Ⅱ	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○		○	○

【授業の概要】
コンピュータに関する問題やインターネット上に生ずる問題を、現行法によりどのように解決することが、社会にとって妥当なのか、それでは解決できない場合はどのような解決策を講じればよいのかを考えてみる講義である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的 コンピュータやインターネットに関わる問題を特別法や現行法や条約によりいかに解決するかを学ぶ。 到達目標 コンピュータネットワークやスマートフォンを利用する際に生ずる様々な問題をどのように解決することが良いのかや、現行法上の問題点などを理解し、解決の方向性を見出せるようになること。 関連DP及びCP 経営法学科1, 3, 5, 7, 8

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	1回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネット、コンピュータに関する問題を解決するための知識と教養を、インターネットを活用して、補う。				4							
②	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、問題点を論理的に説明し、何を保護すべきなのかを指摘する。						4					
③	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、現に起きている問題、起こりうる問題点を指摘して、その解決方法を示す。								4			
④	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、調和を考え、調和点をインターネット上で率先して実行する。										4	
⑤	インターネット、コンピュータの利用における匿名性を指摘し、協調性のあるネットワークの利用に貢献する。											4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、 学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	20	20			40				10	10	100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20			40				10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井、鈴木、山口 編	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	テキストに講義で取り上げる全てのテーマに関する内容が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び導入講義	インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。	
		事前学修	最近話題となった、コンピュータ、インターネットに関する問題を調べておく(例えばAI)。テキスト第1章「インターネット法の発達と特色」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	コンピュータやインターネットが何をもたらすのかを自ら考え、まとめる。	120分
2	9月23日	道路周辺映像サービスの問題点	道路周辺映像サービスにおける画像情報の提供とプライバシーの保護との関係を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、道路周辺映像サービスといわゆる地図が提供する情報の違いを理解し、プライバシーの保護について説明する。	
		事前学修	グーグルストリートビュー事件判決(福岡地裁平23, 3, 16)を読んでおく。日本法学81巻2号「道路周辺映像サービスの問題点」(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law81_2.pdf)を読んでおくこと。	120分
		事後学修	米国とヨーロッパの個人情報の保護の考え方の違いを理解し、説明できるようにまとめる。	120分
3	9月30日	忘れられる権利(削除権)	被検索者の同意のないネット上に存在する被検索者の情報を、検索エンジンが、検索結果として表示することは許されるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、インターネットの特質(情報の拡散)と他のメディアとの違いを比較、人権侵害について理解し、検索結果表示の要否を説明する。	
		事前学修	最高裁平成29年1月31日判決、欧州裁判所2014年5月13日判決、日本法学82巻1号「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf)を読んでおくこと。	120分
		事後学修	我が国とEUの個人情報の保護の相違を理解し、検索エンジンの規制の是非を説明できるようまとめる。	120分
4	10月7日	コンピュータ、インターネットと詐欺	インターネット、コンピュータを利用した詐欺と、いわゆるフィッシング詐欺について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、フィッシング詐欺と刑法上の詐欺との違いを理解して、それぞれについての的確に説明する。	
		事前学修	詐欺罪(刑法246条、246条の2)の成立要件と、不正アクセス禁止法7条を確認しておくこと。テキスト第9章「インターネットと刑法」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	それぞれの詐欺について理解し、その違いを整理し正しく説明できるようにまとめる。	120分
5	10月14日	国境のないインターネットと犯罪の成否	日本に住んでいるマカオの中国人(中国国籍)が、マカオでは合法的なインターネットカジノに日本からアクセスし賭博行為を行った場合、日本の賭博罪(刑法185条)を適用できるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国境のないインターネットの世界に国内法がどこまで適用できるのかを理解し、犯罪の成立について説明する。	
		事前学修	賭博罪(刑法185条)、富くじ発売等(刑法186条)の成立要件を確認する。最高裁判決昭52年12月22日を確認する。参考書「情報ネットワークの法実務12章9(国境を超える犯罪に対する刑法の適用)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	各国の固有法の適用と、グローバルスタンダードという観点から犯罪の成否を説明できるようまとめる。(2時間)	120分
6	10月21日	サイバーテロ	チェーン中華料理店の経営者を殺害すること「経済テロ」なのであろうか。テロリズムの定義を理解し、サイバーテロについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テロリズムの定義を理解し、サイバーテロについての的確に説明する。	
		事前学修	ネットワークで制御されている社会インフラにはどのようなものがあるか確認する。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材提供→サイバーテロ にある資料を読んでおくこと。	120分
		事後学修	テロの定義を正しく理解すること。社会インフラに対する攻撃のリスクを説明できるようまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月28日	検索エンジンサイト、プロバイダー、SNSの自主規制		検索エンジン、SNSでは、違法な発信がなされる場合があるが、検索エンジン、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダ(ISP)が発信、通信内容に関して自主規制を行うことの是非を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、検索エンジンサイト運営者、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダは、発信、送信内容に関して責任を負うべきなのか否かを理解し、その責任の存否について説明する	
		事前学修	検索エンジン利用の際にブロッキングはなされているのかを調べてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→検索エンジンサイトの自主規制	120分
		事後学修	検索エンジンのブロッキングと公益性、言論の自由、知る権利との関係を理解し、規制の是非を説明できるようまとめる。	120分
8	11月11日	デジタル万引き		窃盗は「他人の財物を窃取する(刑法235条)」ことであるが、いわゆるデジタル万引きは、雑誌等を撮影するだけであり、雑誌等が盗まれるわけではない。それゆえ、雑誌等を撮影する行為が窃盗罪に該当するのかを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、いわゆるデジタル万引きといわれる行為に対し適用可能な法条を発見し、その要件を理解し、犯罪の成否を説明する。	
		事前学修	デジタル万引きが何罪に当たるのか考えてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→デジタル万引き	120分
		事後学修	法律の解釈方法についてよく理解し、法条の適用を論理的に説明できるようまとめる。	120分
9	11月18日	ウェブサイトでの各種チケットの転売		コンサートチケットの転売とマスクの高額転売を比較し、転売の是非を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、いわゆる「チケット不正転売禁止法」、「ダフ屋行為」について理解し、様々な物の高額転売について説明する。	
		事前学修	いわゆるダフ屋行為とはどのようなものか理解しておくこと。不正転売規制法について検索し、その趣旨を理解しておく。	120分
		事後学修	コンサートチケットの転売の有効な対策はあるのか、主催者側、消費者側の立場から説明できるようまとめる。	120分
10	11月25日	いわゆるポケモンGOに関わる事件の法的な検証		日本で配信される前に、他国で配信され、その利用者による様々な違法な問題が起きていたアプリを、問題に対する対策をとることなく日本国内に配信し、他国と同様な問題が生じた場合の配信者の責任について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、配信後に日本国内で生じた違法な問題に対する配信者の責任を問うことができるかを理解し、結論を的確に説明する。	
		事前学修	公共の場所でのスマホ利用の是非を考えてみる。刑法61条、62条、未必の故意、概括的故意について刑法のテキストを読んでおく。	120分
		事後学修	法の解釈、適用の範囲を考え、(例えば、教唆、幫助)各法条が適用できるのか説明できるようにまとめる。	120分
11	12月2日	スパムメールとワン切り		いまだに広告メール配信が配信され、スマートフォンばかりでなく固定電話にまでいわゆる「ワン切り」がかかってくることにについて考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、広告メールの規制やワン切りの規制は何を保護するために制定されているのかを理解し、規制の問題点を説明する。	
		事前学修	いまだにスパムメールが配信されたり、ワン切りがかかってくる理由を考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務8章20(スパムメールの法律問題)、8章23(いわゆるワン切り対策…)」部分を読んでおくこと。(2時間)	120分
		事後学修	スパムメールやワン切りの新たな利用方法とその規制の成否を理解し、新たな視点での説明ができるようまとめる。	120分
12	12月9日	防犯カメラの法規制		日本と諸外国における防犯カメラの運用と、藤沢市、ドイツDuisburg、カナダTorontoが掲げる「スマートシティ」における防犯カメラの役割について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、防犯カメラの運用方法と結果について理解し、その運用方法について説明する。	
		事前学修	杉並区防犯カメラの設置及び利用に関する条例を確認しておく。ネットに投稿される防犯カメラ映像と設置場所の関係を把握しておく。参考書「情報ネットワークの法実務7章16(防犯カメラの法規制)部分を読んでおく。	120分
		事後学修	個人による防犯カメラの設置と撮影可能範囲の境界線を理解し、説明できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	ビッグデータの利用と保護の問題点	ネットワーク、コンピュータを利用した個人情報取得の許容範囲について考える。収集されたBigデータの利用とプライバシーの保護を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集とBigデータの利用について理解し、どのような観点から、何を保護すべきなのかを的確に説明する。	
		事前学修	情報の一局集中のメリット、デメリットを考える。テキスト11章「インターネット上の個人情報の保護」部分を読んでおく。	120分
		事後学修	経済発展を優先するのか、プライバシーを優先するのか、そのバランスは可能なのかを考えてみる。	120分
14	12月23日	情報タグの利用とプライバシーの保護	RFID(radio frequency identifier)を用いた人や物の管理を行うことによる人権侵害の可能性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、RFIDタグの機能と使用方法を理解し、移動制限、追跡などに利用した場合の人権侵害の危険性について説明する。	
		事前学修	情報タグや情報機器からプライバシーが侵害される場合を考えてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→情報タグ の資料を読んでおくこと。	120分
		事後学修	配布した情報タグの目的外の使用により、プライバシーの侵害は生ずるのか考えてみる。	120分
15	1月13日	今学期のレポート課題についての解説	今学期のレポート課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。	
		事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。	120分
		事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。	120分

科目名	財務諸表論Ⅰ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意思決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。 関連DPおよびCP：経営法学科1、2、3、4、5

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。理解の確認を行うために問題演習を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会において会計情報が果たす意義を理解する。					2	2	2	2	2			
②	財務諸表が示している情報を正しく理解し、適切な分析が行える。					2	2	2	2	2			
③	財務諸表データを基に経済社会を正しく分析できるようになる。					2	2	2	2	2			
④	企業運営において、会計データを正しく取り扱えるようになる。					2	2	2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	80%授業内容の理解度を確保するために実施します。	20	20	20	20							80
小テスト等	10%授業内容の理解度を確保するために実施します。	2	2	3	3							10
レポート等	10%知識の定着を図るために行います。	2	2	3	3							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	24	26	26							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代会計	齋藤真哉	NHK出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の講義後および電子メールにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	会計の基礎的理解	社会において会計が果たす役割について説明する。また講義全体を概観し、成績評価等の講義の進め方について説明を行う。	
		この回の到達目標	会計が果たす役割について具体的なイメージを持つ。	
		事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/16	会計の意義	(1) 会計の意義と対象領域、(2) 会計の機能と目的、(3) 会計情報伝達の道具としての財務諸表について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計の意義について理解し、経済社会に当てはめて知識を用いる事が出来る。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
3	4/23	会計の基礎	(1) 財務会計の前提(会計公準) (2) 会計主体について考察し、解説する	
		この回の到達目標	会計公準が果たす役割について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
4	4/30	複式簿記と財務諸表の構成要素(1)	複式簿記の全体像について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計情報において簿記が果たす役割を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
5	5/7	複式簿記と財務諸表の構成要素(2)	前回の複式簿記の全体像について確認した上で、財務諸表の構成要素について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	実際に簡単な簿記処理が行えるようになる。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
6	5/14	損益計算と資産負債の関係(1)	(1) 財務会計におけるキャッシュフロー制約、(2) 収益費用アプローチと資産負債アプローチについて考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計における資産・負債の意義について理解し、経済社会に当てはめて知識を用いる事が出来る。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	損益計算と資産負債の関係(2)	収益費用アプローチと資産負債アプローチについて確認した上で、（１）収益の費用の計算基準、（２）資産と負債の計算基準について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	資産負債アプローチと収益費用アプローチの異同とその意義について正しく理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
8	5/28	第５章 会計制度（１）	（１）会計制度を規制する主な法律、（２）会計制度の概要、（３）会社法会計について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	日本におけるトライアングル体制の意義について正しく理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
9	6/4	第５章 会計制度（２）	金融商品取引法会計について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	証券市場において会計情報が果たす役割を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
10	6/11	会計制度（３）	税務会計について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計制度と法人税法の関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
11	6/18	財務諸表（１）	（１）財務諸表、（２）貸借対照表、（３）損益計算書および包括利益計算書について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	主要財務諸表間の相互の関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
12	6/25	財務諸表（２）	（１）株主資本等変動計算書、（２）キャッシュ・フロー計算書について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	財務諸表全体の体系について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	会計基準（１）	企業会計原則について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計制度において企業会計原則が果たす役割を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
14	7/9	会計基準（２）	（１）日本版「概念フレームワーク」、（２）会計基準の適用対象について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計基準の体系全体を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
15	7/16	講義のまとめ	講義全体を振り返る	
		この回の到達目標	制度会計の基礎について復習し、定期試験に備えて知識を整理する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	講義全体の復習を行い、定期試験の準備をする。	180分

科目名	財務諸表論Ⅱ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意思決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。 関連DPおよびCP：経営法学科１、２、３、４、５

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。理解の確認を行うために問題演習を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会において会計情報が果たす意義を理解する。				2	2	2	2	2			
②	財務諸表が示している情報を正しく理解し、適切な分析が行える。				2	2	2	2	2			
③	財務諸表データを基に経済社会を正しく分析できるようになる。				2	2	2	2	2			
④	企業運営において、会計データを正しく取り扱えるようになる。				2	2	2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	80%授業内容の理解度を確保するために実施します。	20	20	20	20							80
小テスト等	10%授業内容の理解度を確保するために実施します。	2	2	3	3							10
レポート等	10%知識の定着を図るために行います。	2	2	3	3							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	24	26	26							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代会計	齋藤真哉	NHK出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の講義後および電子メールにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	会計の基礎的理解	社会において会計が果たす役割について説明する。また講義全体を概観し、成績評価等の講義の進め方について説明を行う。	
		この回の到達目標	会計が果たす役割について具体的なイメージを持つ。	
		事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書第の各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/24	金融商品に関わる取引 (1)	(1) 金融資産・金融負債の意義と内容、(2) 債権・債務について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	金融商品の会計上の特徴について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
3	10/1	金融商品に関わる取引 (2)	有価証券について考察し、解説する	
		この回の到達目標	有価証券の会計上の取扱いについて理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
4	10/8	金融商品に関わる取引 (3)	(1) デリバティブ(金融派生商品)、(2) ヘッジ取引について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	各種金融商品の会計上の処理について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
5	10/15	棚卸資産に関わる取引	(1) 棚卸資産の意義と範囲、(2) 棚卸資産の取得原価、(3) 棚卸資産の費用化、(4) 棚卸資産の評価について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	棚卸資産会計の意義を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
6	10/22	有形固定資産に関わる取引 き(2)	(1) 有形固定資産の内容と意義、(2) 有形固定資産の取得原価、(3) 有形固定資産の減価償却について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	固定資産会計の意義について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	有形固定資産に関わる取引 (2)	リース取引について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	リース会計の意義および近年の動向を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
8	11/5	有形固定資産に関わる取引 (3)	(1) 固定資産の減損、(2) 資産除去債務について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	減損会計および資産除去債務の会計について具体的にその処理を行えるようにする。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
9	11/12	無形固定資産に関わる取引	(1) 無形固定資産の意義と内容、(2) 各種無形固定資産、(3) 研究開発費などの会計処理について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	証券市場において会計情報が果たす役割を理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
10	11/19	引当金等に関わる取引	(1) 引当金の意義と分類、(2) 退職給付に係る負債について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	引当金の会計上の負債性について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
11	12/3	法人税等に関わる取引 (1)	(1) 法人税等の意義と会計処理、(2) 税効果会計の目的と手続き、(3) 一時差異等について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	会計上の利益と税務上の課税所得の関係について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
12	12/10	法人税等に関わる取引 (2)	(1) 資産負債法と繰延法、(2) 税効果額の記録と財務諸表上の表示、(3) 繰延税金資産の回収可能性と繰延税金負債の支払可能性について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	税効果会計の意義について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	純資産に関わる取引（１）	（１）純資産の意義と内容、（２）株主資本、（３）自己株式について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	企業における株主資本の意義および会計上の純資産について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
14	12/24	純資産に関わる取引（２）	（１）新株予約権、（２）評価・換算差額等について考察し、解説する。	
		この回の到達目標	純資産の部の構成要素について理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
15	1/14	講義のまとめ	講義全体を振り返る	
		この回の到達目標	情報システムとして、会計が果たす役割について講義全体を通して理解する。	
		事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
		事後学修	講義全体の復習を行い、定期試験の準備をする。	180分

科目名	産学連携と知的財産 I	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
産学連携は、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に行われており、また、イノベーション創出の有力な手段として積極的に推進されている。本授業では、産学連携に関する基本的な概念、産学連携における知的財産の取扱、産学連携を活性化するための政策制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。より具体的には、産学連携に関する基本的な知識を習得するとともに、産学連携の意義、産学連携と知的財産との関わり、産学連携を活性化するために講じられている政策制度に関する理解を深めることにより、企業等において産学連携活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
研究の推進や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また、レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求めるとともに、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	産学連携に関する基本的な概念を説明することができる。					3	3						
②	産学連携の意義について説明することができる。						3						
③	産学連携の事例について、その成功・失敗要因を指摘することができる。								3	3			
④	産学連携における知的財産の役割及びその取扱上の留意点について説明することができる。						3						
⑤	産学連携の事例に即して知的財産取扱上の工夫や課題を指摘することができる。								3	3			
⑥	産学連携を活性化するための政策制度について説明することができる。						3						
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより，到達目標①②④⑥に関する知識と理解が身についているかを確認する。	10	10		10		10					40
レポート等	2回のレポートにより到達目標③⑤に関する調査，分析ができて いるかを評価する。			20		20						40
討論・発表等	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行い， 到達目標③⑤が達成できているかを評価する。また，授業 への積極的な参加，発表の論理性等についても評価する。			10		10						20
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象とはしない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	10	30	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び小テストの結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日15：00～16：00，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本大学の産学連携部門において，産学連携の実務に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		産学連携の現場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	【イントロダクション，導入講義】	本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について学修する。また，産学連携の事例を通じて，本授業における産学連携の範囲について学修する。
		この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，到達目標①のうち，多くの産学連携活動に共通する特徴について説明できるようになる。
		事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。
		事後学修	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。多くの産学連携活動に共通する特徴について自分なりの説明をまとめる。
2	4/15	【産学連携とは何か1 産学連携に関する基本的な概念】	産学連携の定義，産学連携の形態等産学連携に関する基本的な概念について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①のうち，産学連携の定義，産学連携の形態等産学連携に関する基本的な概念を理解し，説明できるようになる。
		事前学修	「産学連携とは何か」との問いに対する自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，産学連携に関する基本的な概念について自分なりの説明をまとめる。
3	4/22	【産学連携とは何か2 産学連携に参加するプレイヤー】	産学連携の主体は企業と大学であるが，産学連携の場には大学と企業以外の様々な立場のプレイヤーが関与する場合が多い。今回はその状況及び各プレイヤーの役割について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①のうち，産学連携活動に参加するプレイヤーについて理解を深め，説明できるようになる。
		事前学修	性格の異なる企業と大学が協力して事業を行うときに留意すべき点について自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，産学連携には企業と大学以外のプレイヤーが関与する理由について自分なりの説明をまとめる。
4	4/29	【産学連携とは何か3 産・学が産学連携に取り組む意義】	企業はなぜ大学と連携する必要があるのか，大学はなぜ企業と連携しようとするのか。産・学が産学連携に取り組む意義について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，企業及び大学にとっての産学連携の意義を理解し，説明できるようになる。
		事前学修	企業及び大学が産学連携に取り組む理由について自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，企業及び大学が産学連携に取り組む意義について自分なりの説明をまとめる。
5	5/6	【産学連携とは何か4 政府が産学連携を推進する意義】	現在政府（官）は産学連携を積極的に推進している。政府が産学連携を推進する意義について学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，政府が産学連携を推進する意義について理解を深め，説明することができる。
		事前学修	政府が産学連携を積極的に推進する理由について自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，政府が産学連携を積極的に推進する意義について自分なりの説明をまとめる。
6	5/13	【産学連携とは何か5 産学連携の事例1】	産学連携の成功事例について，その経緯，得られた成果，成功の要因等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標③について，取り上げた産学連携の事例の成功・失敗要因及び知的財産取扱上の工夫や課題を指摘することができる。
		事前学修	産学連携の事例を分析する際に，どのような点に注目すべきであるかについて自分の考えをまとめる。
		事後学修	配布されたプリントを再読し，それぞれの事例の成功要因について自分なりの説明をまとめる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	【産学連携とは何か6 産学連携の事例2】	別の産学連携の成功事例について、その経緯、得られた成果、成功の要因等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③について、取り上げた産学連携の事例の成功・失敗要因及び知的財産取扱上の工夫や課題を指摘することができる。	
		事前学修	産学連携の成功事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、それぞれの事例の成功・失敗要因及び知的財産取扱上の工夫や課題について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	5/27	【産学連携における知的財産の取扱1 産学連携における知的財産の役割】	知的財産権の取得、組織間の移転、営業秘密としての保護等知的財産の取扱が産学連携において極めて重要であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、知的財産の取扱が産学連携において極めて重要であることについて理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	知的財産に関する基本的な知識を事前学修する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、知的財産の取扱が産学連携において極めて重要な課題であることについて自分なりの説明をまとめる。	120分
9	6/3	【産学連携における知的財産の取扱2 共同研究契約】	共同研究契約における知的財産に関する留意点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、共同研究契約における知的財産に関する留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	共同研究契約を締結する際に同意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、共同研究契約を締結する際に同意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	6/10	【産学連携における知的財産の取扱3 ライセンス契約】	ライセンス契約における知的財産に関する留意点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、ライセンス契約における知的財産に関する留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	ライセンス契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、ライセンス契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	6/17	【産学連携における知的財産の取扱4 産学連携に関するその他の契約】	秘密保持契約等産学連携に関するその他の契約に関する留意点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、産学連携に関するその他の契約における知的財産に関する留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	産学連携を行うに当たり必要となるその他の契約の種類を考える。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携に関するその他の契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	6/24	【産学連携に関する政策制度1 産学連携に関する政策制度】	産学連携を推進するために講じられてきた政策制度について、それらの目的、制度の概要、実施状況等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥のうち、産学連携を推進するために講じられてきた政策制度について理解を深め、説明できるようになる。	
		事前学修	産学連携を推進ために、どのような政策制度が有効かについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、わが国において講じられてきた産学連携に関する政策制度の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	【産学連携に関する政策制度 2 イノベーション政策における産学連携】	わが国のイノベーション政策において、産学連携がその推進方策の柱と位置付けられ、多様な政策が推進されている状況について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥のうち、産学連携がイノベーション政策推進上の重要な役割を担っていることについて理解を深め、説明することができるようになる。	
		事前学修	産学連携がどのようにしてイノベーション創出に寄与するのかについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携がどのようにしてイノベーション創出に寄与するのかについて自分なりの説明をまとめる。	120分
14	7/8	【産学連携に関する政策制度 3 地域振興政策における産学連携】	わが国の地域振興政策における産学連携への取組の経緯及び近年その重要性が高まっていることについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥のうち、わが国の地域振興政策における産学連携の重要性について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	産学連携がどのようにして地域活性化に貢献するのかについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携がどのようにして地域活性化に貢献するのかについて自分なりの説明をまとめる。	120分
15	7/15	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りとまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。	
		事前学修	初回からの配布プリントを再読し、産学連携と知的財産について学修したことを再確認する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標へ達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	産学連携と知的財産Ⅱ	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
産学連携は、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に行われており、また、イノベーション創出の有力な手段として積極的に推進されている。本授業では、産学連携の現況、産学連携に伴うリスクマネジメント、産学連携の推進に向けた取組、産学連携を支える専門人材等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。より具体的には、産学連携の現況、産学連携に伴うリスクマネジメント、産学連携の推進に向けた取組、産学連携を支える専門人材等に関する理解を深めることにより、企業等において産学連携活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
産学連携と知的財産Ⅰを履修していることが望ましい。研究の推進や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また、レポートの提出（授業内または課外）を複数回求めるとともに、小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	産学連携の現況について説明することができる。					3	3						
②	産学連携に伴うリスクマネジメントについて説明することができる。					3	3						
③	産学連携に伴うリスクマネジメントの事例について、工夫された点、課題等を指摘することができる。								3	3			
④	産学連携の促進に向けた取組について説明することができる。						3						
⑤	産学連携を促進するための取組事例について、工夫された点、課題等を指摘することができる。								3	3			
⑥	産学連携を支える専門人材について説明することができる。						3						
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	小テストにより，到達目標①②④⑥に関する知識と理解が身についているかを確認する。	10	10		10		10					40
レポート等	2回のレポートにより到達目標③⑤に関する調査，分析ができているかを評価する。			20		20						40
討論・発表等	提出されたレポート等に基づきディスカッションを行い，到達目標③⑤が達成できているかを評価する。また，授業への積極的な参加，発表の論理性等についても評価する。			10		10						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	10	30	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び授業内小テストの結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日15：00～16：00，事前にメールで予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本大学の産学連携部門で産学連携の実務に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		産学連携の現場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/16	【イントロダクション，導入講義】	本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，産学連携に関する基本的な概念について学修する。
		この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，本授業の履修の前提となる産学連携に関する基本的な概念，産学連携の意義等について理解を深め，説明することができる。
		事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。産学連携に関する基本的な概念，産学連携の意義等について自分なりの説明をまとめる。120分
2	9/23	【産学連携の現況1 大学】	大学における産学連携活動の状況，問題点と課題，対応策等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①のうち，大学における産学連携活動の状況，問題点と課題，対応策等について理解を深め，説明することができる。
		事前学修	大学が産学連携に取り組む上での問題点・課題について自分の考えをまとめる。120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，産学連携の推進に向けた大学の取組について自分なりの説明をまとめる。120分
3	9/30	【産学連携の現況2 企業】	企業における産学連携活動の現況，問題点，課題等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①のうち，企業における産学連携活動の現況，問題点，課題等について理解を深め，説明することができる。
		事前学修	企業が産学連携を行う理由について自分の考えをまとめる。120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，企業における産学連携の状況について自分なりの説明をまとめる。120分
4	10/7	【産学連携の現況3 公的研究機関】	公的研究機関における産・学との連携の現況，問題点，課題等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①のうち，公的研究機関における産・学との連携の現況，問題点，課題等について理解を深め，説明することができる。
		事前学修	公的研究機関が産・学との連携を促進しようとする際に課題となる点について自分の考えをまとめる。120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，公的研究機関と産・学との連携方策について自分なりの説明をまとめる。120分
5	10/14	【産学連携の現況4 大学発ベンチャー】	大学発ベンチャーの意義，設立状況，問題点，課題等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①のうち，大学発ベンチャーの意義，設立状況，問題点，課題等について理解を深め，説明することができる。
		事前学修	最近元気な大学発ベンチャーを見つけ，その事業の概要を調べる。120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，大学発ベンチャーの意義，現況及び課題について自分なりの説明をまとめる。120分
6	10/21	【産学連携に伴うリスクマネジメント1 利益相反マネジメント】	産学連携に伴うリスクのうち，大学内で生じることが懸念されるリスクへの対応について，利益相反マネジメントを中心に学修する。
		この回の到達目標	到達目標②のうち，利益相反マネジメント等大学内で生じることが懸念されるリスクへの対応について理解を深め，説明することができる。到達目標③のうち，産学連携に伴うリスクマネジメントの事例について，工夫された点，課題等を指摘することができる。
		事前学修	産学連携に伴い大学内部で起こることが懸念されるリスク要因について自分の考えをまとめる。120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し，利益相反マネジメントについて自分なりの説明をまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	【産学連携に伴うリスクマネジメント2 不実施補償問題】	産学連携に伴うリスクのうち、産学間で生じることが懸念されるリスクへの対応について、不実施補償問題を中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②のうち、不実施補償問題等産学間で生じることが懸念されるリスクへの対応について理解を深め、説明することができる。到達目標③のうち、産学連携に伴うリスクマネジメントの事例について、工夫された点、課題等を指摘することができる。	
		事前学修	産学連携に伴い、企業と大学の間で起こることが懸念されるリスク要因について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、不実施補償問題について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	11/11	【産学連携に伴うリスクマネジメント3 安全保障貿易管理】	外部との人と情報の交流が活発な大学において対応が求められている安全保障貿易管理に関する最近の対応について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②のうち、安全保障貿易管理に関する最近の対応について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	安全保障貿易管理について基本的な事項を事前学修する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、安全保障貿易管理の概要及びそれへの大学の対応策について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	11/18	【産学連携の推進に向けた取組1 共同研究の促進】	産・学が連携して新しい知識・技術を創出する共同研究を促進するための取組について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、共同研究を促進するための取組について理解を深め、説明することができる。到達目標⑤のうち、共同研究を促進するための取組事例において工夫された点、課題等を指摘することができる。	
		事前学修	企業と大学の共同研究を実施する際に留意すべき点について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、企業と大学の共同研究を促進するための留意点及びそれに対応するための取組について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	11/25	【産学連携の推進に向けた取組2 技術移転の促進】	大学の発明を企業にライセンスする活動を促進するための取組について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、ライセンスを促進するための取組について理解を深め、説明することができる。到達目標⑤のうち、ライセンスを促進するための取組事例において工夫された点、課題等を指摘することができる。	
		事前学修	大学の発明を企業にライセンスする活動を促進する際に留意すべき点について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、大学の発明を企業にライセンスする活動を促進する際に留意すべき点について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	12/2	【産学連携の推進に向けた取組3 中小企業との連携の促進】	中小企業と大学が共同研究や技術移転を行う際の課題及びその課題を克服するために講じられている取組について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、中小企業と大学との産学連携を促進するために講じられている取組について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	中小企業と大学との連携を促進する上で課題となる点について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、中小企業と大学との連携を促進するための方策について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	12/9	【産学連携の推進に向けた取組4 人材交流の促進】	産・学・官の間の研究者交流を活発にする意義及びその促進のための取組についてクロスアポイントメント制度を中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、産・学・官の間の研究者交流を活発にする意義及びその促進のための取組について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	研究者の組織間の流動性を阻害している要因について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、クロスアポイントメント制度の意義とその促進に向けた課題について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	【産学連携の推進に向けた取組 5 産学連携を促進するための政策】	産学連携を促進するために、現在政府が推進している政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④のうち、わが国の産学連携政策について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	産学連携を阻害すると懸念される要因について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携を促進するための政策について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	12/23	【産学連携を支える専門人材】	産学連携を支える専門人材の現況と課題について、コーディネータ、リサーチ・アドミニストレータを中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥について、産学連携を支える専門人材の現況と課題について理解を深め、説明することができる。	
		事前学修	産学連携を支援し、推進するために必要なスキルについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、コーディネータ及びリサーチアドミニストレータに求められる役割及びスキルについて自分なりの説明をまとめる。	120分
15	1/13	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りととりまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。	
		事前学修	初回からの配布プリントを再読し、産学連携と知的財産について学修したことを再確認する。	120分
		事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー)Ⅰ	担当者	石塚 冬樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
近年、スーパー台風・豪雨・猛暑・干ばつ・巨大竜巻・記録的積雪など、地球温暖化の影響とみられる異常気象が世界的に頻発している。一方では化石燃料から再生可能エネルギーへのシフト、原発依存是非の議論、低炭素・脱炭素社会への移行などが進み、環境・エネルギー問題は現代社会の最重要課題の一つとなっている。本講義では環境・エネルギー問題の現状と課題、対応する最先端環境技術について学習し、日本そして世界の歩むべき方向性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】 環境・エネルギー分野の諸項目についての現状と見通し、国内外の最先端環境技術の開発動向や普及課題等について、企業活動や社会・経済・外交などの動きと関連付けて理解する。また環境・エネルギー分野の知的財産を取り扱うのに必要な技術的知識を習得し、関連情報（新聞・テレビ・ネット等）をその背景を含めて理解・分析する力、さらにそのテーマについて自ら情報発信する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし。高校で理系科目（数学・物理・化学・生物）が習熟不足でも十分理解できるよう、「わかりやすさ」を重点に授業を行う。視覚教材（画像、ビデオ映像等）を多用することで理解を深める。

【授業方法】
各回ともレジュメを配布するとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。時事的テーマを取り上げた「事例研究」（＝事件・事故の分析、下欄●印の項目）により、実践的な問題分析能力の育成を図る。授業内レポートの採点・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球の気候変動の現状やその影響、また近未来の見通しについて説明することができる。						2	2	2			
②	原子力発電の仕組みを理解するとともに、過酷事故について説明することができる。						2	2	2			
③	ロボット技術を例として、最先端技術のあり方についての自分の意見を述べる ことができる。						2	2	2			
④	主要な公害や産業事故について、発生要因について分析し、説明することが できる。る。						2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、理解の正確さ及び論理的思考の程度を評価する。	10	10	5	5							30
討論・発表等												
授業への参画度	各回の到達目標に達しているかを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	35	20	5	10							70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	10	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日授業後に授業講堂で行う。メールでの相談は随時受け付ける。いつでも遠慮なく連絡されたい。メールアドレス： ishizuka.fuyukil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		シンクタンクにおいて担当分野の調査研究や開発プロジェクト活動に経験多数。 実体験に基づく身近な事例を紹介することにより、より現実感を伴う理解を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木4/9	1. 気候変動と人類の未来 (1) 地球シミュレーターが描く近未来の地球	スーパーコンピューターによる未来予測、大気と海洋の異変、日常化する異常気象、スーパー台風	
		この回の到達目標	気候変動や異常気象について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむ。 「地球シミュレーター」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	気候変動や異常気象について、自分の実感や体験と照らしあわせる。	120分
2	第1部 木4/16	(2) 生態系の異変と人類への影響	地球の肺アマゾンの危機、食料危機、熱帯病の北上、気候難民、溶解が進む永久凍土	
		この回の到達目標	気候変動による生態系への影響について理解し、説明することができる。	
		事前学修	「熱帯雨林」、「永久凍土」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	生態系の異変について、現状と見通しをまとめる。	120分
3	第1部 木4/23	(3) 臨界点を迎える極地	極地氷の融解と海面上昇、氷床崩壊、近づく臨界点（ティッピングポイント、ポイントオブノーリターン）	
		この回の到達目標	温暖化による極地への影響を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「北極」、「南極」の地理や気候について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	「ティッピングポイント」、「ポイントオブノーリターン」とはどういう状況かまとめる。	120分
4	第1部 木4/30	(4) 温室効果ガス削減の国際的枠組み	温暖化のメカニズム、I P C C 報告書、歴史的合意：パリ協定、米国トランプ政権の動き	
		この回の到達目標	温室効果ガス削減に向けての国際的な動きを理解し、説明することができる。	
		事前学修	「温室効果ガス」、「I P C C」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	「パリ協定」について、合意内容・問題点をまとめる。	120分
5	第1部 木5/7	(5) 資源とエネルギー	資源高騰・暴落、資源争奪、買収の危機にさらされた新日鉄、レアメタル、シェールガス、メタンハイドレート	
		この回の到達目標	エネルギーをめぐる国際的な動きを理解し、説明することができる。	
		事前学修	「敵対的買収」、「アルセロールミタル」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	日本におけるメタンハイドレートについて、開発状況と課題をまとめる。	120分
6	第1部 木5/14	(6) 再生可能エネルギー（総論）	再生可能エネルギーと新エネルギー、普及の意義・状況・課題、固定価格買取制度、海外先進事例と日本の現状	
		この回の到達目標	日本及び世界の再生可能エネルギーへの取組状況を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「固定価格買取制度」について調べ、概要をつかむ。（2時間）	120分
		事後学修	「再生可能エネルギー」の普及の必要性和意義についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木5/21	中間まとめ	第1回～6回の内容について授業内レポートを行う（講義資料および自ら作成したノートのみ持ち込み可）。レポートは次回返却・解説する。	
		この回の到達目標	第1～6回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	第1～6回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
		事後学修	レポートの設問について復習する。	120分
8	第1部 木5/28	2. 原子力エネルギー (1)原子力発電の仕組みと三 大過酷事故	東日本と西日本の異なるリスク、原発大国へ突き進む中国、日本の原子力産業の状況、安全性の 高い次世代原子炉 ●事例研究：スリーマイル島原発事故	
		この回の到達目標	原子力発電の仕組みを理解し、説明することができる。	
		事前学修	「原子力発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	原子力発電についての日本と世界の状況についてまとめる。	120分
9	第1部 木6/4	(2)●事例研究：チェルノブ イリ原発事故	軍事転用原発の危険な構造、ずさんな運転管理、果てしなく続く事故処理、悲惨な被曝労働者	
		この回の到達目標	チェルノブイリ事故の発生要因を分析し、説明することができる。	
		事前学修	「チェルノブイリ原発事故」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	「チェルノブイリ原発事故」の発生要因についてまとめる。	120分
10	第1部 木6/11	(3)●事例研究：福島第一原 発事故	事故の経緯と発生要因の分析、収束への遥かな道のり、首の皮1枚で助かった日本列島	
		この回の到達目標	福島第一原発事故の発生要因を分析し、説明することができる。	
		事前学修	「福島第一原発事故」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	「福島第一原発事故」の発生要因についてまとめる。	120分
11	第1部 木6/18	(4)核燃料サイクル	世界を牛耳るロシアの思惑、イラン核疑惑、核施設への空爆、もんじゅ廃炉、「準」国産エネル ギーへの険しい道	
		この回の到達目標	核燃料サイクルの目的・状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「核燃料サイクル」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	原子力発電の今後について、自分の考えをまとめる。	120分
12	第1部 木6/25	3. 最先端技術のあり方 1 ●事例研究：ロボット技術 の軍事利用	戦場に送り込まれるロボット軍団、ロボット代理戦争の現状、殺人ロボット、流出する日本の技 術、グーグル・ソフトバンクの思惑	
		この回の到達目標	事例としてあげたロボットの軍事利用につき、最先端技術のあり方について自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	「ロボットの軍事利用」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	「ロボット」がもたらす人類への恩恵と脅威について、自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木7/2	4. 公害と産業事故 (1) ●事例研究：四大公害病	企業の社会的責任、終わらぬ被害者救済、企業論理に埋没した技術者の良心、後追いする環境法整備	
		この回の到達目標	四大公害病の発生原因を分析し、自分の意見を述べることができる。。	
		事前学修	「四大公害病」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	公害の発生に伴う日本の法規制整備についてまとめる。	120分
14	第1部 木7/9	まとめ	第8回～13回の内容について授業内レポートを行う（講義資料および自ら作成したノートのみ持ち込み可）。レポートは次回返却・解説する。	
		この回の到達目標	第8～13回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	第8～13回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
		事後学修	授業内レポートの設問について復習する。	120分
15	第1部 木7/16	(2) ●事例研究：化学工場三 大事故	歴史的重大事故（イギリス、イタリア、インドの事例分析）の発生経緯 化学工場大爆発、ダイオキシン噴出、史上最大の企業犯罪：猛毒ガス漏洩	
		この回の到達目標	化学工場三大事故の要因を分析し、説明することができる。・	
		事前学修	「ボパール化学工場事故」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	講義全体で学んだことをもとに、環境・エネルギー問題の方向性について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー)Ⅱ	担当者	石塚 冬樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
近年、スーパー台風・豪雨・猛暑・干ばつ・巨大竜巻・記録的積雪など、地球温暖化の影響とみられる異常気象が世界的に頻発している。一方では化石燃料から再生可能エネルギーへのシフト、原発依存是非の議論、低炭素・脱炭素社会への移行などが進み、環境・エネルギー問題は現代社会の最重要課題の一つとなっている。本講義では環境・エネルギー問題の現状と課題、対応する最先端環境技術について学習し、日本そして世界の歩むべき方向性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】 環境・エネルギー分野の諸項目についての現状と見通し、国内外の最先端環境技術の開発動向や普及課題等について、企業活動や社会・経済・外交などの動きと関連付けて理解する。また環境・エネルギー分野の知的財産を取り扱うのに必要な技術的知識を習得し、関連情報（新聞・テレビ・ネット等）をその背景を含めて理解・分析する力、さらにそのテーマについて自ら情報発信する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし。高校で理系科目（数学・物理・化学・生物）が習熟不足でも十分理解できるよう、「わかりやすさ」を重点に授業を行う。視覚教材（画像、ビデオ映像等）を多用することで理解を深める。

【授業方法】
各回ともレジュメを配布するとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。時事的テーマを取り上げた「事例研究」（＝事件・事故の分析、下欄●印の項目）により、実践的な問題分析能力の育成を図る。授業内レポートの採点・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	再生可能エネルギーの普及促進の背景、各種エネルギーの仕組み・普及の現状・課題について説明することができる。							2	2	2			
②	自動車関連技術や熱利用技術などのエネルギーの高度利用技術について説明することができる。							2	2	2			
③	サイボーグ技術を例として、最先端技術のあり方についての自分の意見を述べることができる。							2	2	2			
④	低炭素社会・脱炭素社会に向けての世界の動きを理解し、その方向性について自分の意見を述べることができる。							2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、理解の正確さ及び論理的思考の程度を評価する。	10	5	5	10							30
討論・発表等												
授業への参画度	各回の到達目標に達しているかを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	40	10	5	15							70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	15	10	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日授業後に授業講堂で行う。メールでの相談は随時受け付ける。いつでも遠慮なく連絡されたい。オフィスメールアドレス： ishizuka.fuyukil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		シンクタンクにおいて担当分野の調査研究や開発プロジェクト活動に経験多数。 実体験に基づく身近な事例を紹介することにより、より現実感を伴う理解を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 木9/17	1. 再生可能エネルギー (仕組み・現状・課題) (1) 太陽エネルギー	太陽光発電・太陽熱発電・太陽熱利用、太陽光バブルの崩壊、特許に沈んだ大手メーカーの末路	
		この回の到達目標	太陽光発電等の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「太陽光発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	日本の太陽光パネル大手メーカーの知財戦略における失敗についてまとめる。	120分
2	第1部 木9/24	(2) 風力エネルギー	風力発電・洋上風力発電の仕組み、海外先進事例と日本の現状、特許出願状況からみる日本の未来	
		この回の到達目標	風力発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「風力発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	特許出願状況から導かれる日本における風力発電の状況についてまとめる。	120分
3	第1部 木10/1	(3) 地熱エネルギー ●事例研究：渋谷温泉施設爆発事故	火山と地熱、資源小国日本の豊富な資源、海外先進事例と日本の状況、福島事故後の国策大転換、普及への課題、ガス田上に住む我々	
		この回の到達目標	地熱発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「地熱発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	日本における地熱発電が進まない要因についてまとめる。	120分
4	第1部 木10/8	(4) 河川・海洋エネルギー	水力発電の現状、中小水力への活路、巨大な蓄電池：揚水発電、世界6位の海洋大国日本の未来	
		この回の到達目標	水力発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「水力発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	日本における河川・海洋エネルギー開発の方向性についてまとめる。	120分
5	第1部 木10/15	(5) バイオマスエネルギー	バイオマスは「地球に優しい」か、カーボンニュートラル、食糧との競合、生態系の破壊、次世代バイオマスへの期待、ミドリムシは世界を救う？	
		この回の到達目標	バイオマス発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「バイオマス」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	自動車用バイオ燃料に関する問題点と、今後あるべき方向性についてまとめる。	120分
6	第1部 木10/22	(6) 一般廃棄物エネルギー	廃棄物概論（一廃と産廃）、ごみ処理の優等生日本、一廃のエネルギー利用、循環型社会への移行	
		この回の到達目標	一般廃棄物のエネルギー利用や循環型社会への取組状況を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「一般廃棄物」と「産業廃棄物」について調べ、両者の相違を理解する。	120分
		事後学修	循環型社会への移行の必要性についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 木10/29	(7)産業廃棄物エネルギー ●事例研究：産業廃棄物の不法投棄事件	豊島・滋賀・福岡の事例分析、産廃のエネルギー利用、産廃の受け皿産業、不法投棄の発生メカニズム、不法投棄処理：巨額の税金投入	
		この回の到達目標	産業廃棄物の再利用技術や不法投棄問題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「不法投棄」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	不法投棄が行われた理由についてまとめる。	120分
8	第1部 木11/5	中間まとめ	第1～7回の内容につき授業内レポートを行う（講義資料及び自ら作成したノートのみ持ち込み可）。レポートは次回返却・解説する。	
		この回の到達目標	第1～7回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	第1～7回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
		事後学修	授業内レポートの設問について復習する。	120分
9	第1部 木11/12	2. エネルギーの高度利用技術 (1)燃料電池とエコカー	究極のエコカー燃料電池車、ハイブリッド車、電気自動車、次世代エコカーの覇者は	
		この回の到達目標	各種エコカーの仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。。	
		事前学修	「燃料電池」、「エコカー（環境対応自動車）」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	各種エコカーについての特徴（長所、短所など）をまとめる。	120分
10	第1部 木11/19	(2)ヒートポンプとコジェネレーション	あなたの家にもある高効率エネルギー供給システム、電力会社vsガス会社、六本木ヒルズ・スカイツリー・東京ドームシティー等の事例	
		この回の到達目標	熱利用技術（ヒートポンプとコジェネレーション等）の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「ヒートポンプ」、「コジェネレーション」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	「ヒートポンプ」と「コジェネレーション」の原理と応用例についてまとめる。	120分
11	第1部 木12/3	3. 最先端技術のあり方2 ●事例研究：サイボーグ技術	人類にもたらす恩恵と脅威、難病克服、スーパー兵器・兵士、許されざる人間改造、人工知能が人間を超える日、人類の後継者サイボーグ(?)	
		この回の到達目標	事例としてあげたサイボーグ技術をつき、最先端技術のあり方について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	「サイボーグ技術」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	サイボーグ技術開発のあるべき方向性について、自分の考えをまとめる。	120分
12	第1部 木12/10	4. 低炭素・脱炭素社会への移行 (1)さまざまな環境問題への取り組み	オゾンホール、酸性雨、自動車排ガス、山手トンネル・ノルウェー・スイス等の事例、道路トンネル天井崩落事故	
		この回の到達目標	さまざまな環境問題（地球規模、都市型）について理解し、説明することができる。、	
		事前学修	「低炭素社会」、「脱炭素社会」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	低炭素・脱炭素社会に向けて自分ができること、すべきことについて考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 木12/17	(2) 低炭素・脱炭素社会への移行	経済的動機付け、世界各国の環境エネルギー政策、つまづいた日本の固定価格買取制度、スマート社会への移行	
		この回の到達目標	低炭素・脱炭素社会に向けての世界の動きを理解し、自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	「スマート社会」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	日本の固定価格買取制度が直面している問題点についてまとめる。	120分
14	第1部 木12/24	まとめ	第9～13回の内容に関する授業内レポートを行う（講義資料及び自ら作成したノートのみ持ち込み可）。レポートは次回返却・解説する。	
		この回の到達目標	第9～13回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	第9～13回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
		事後学修	授業内レポートの設問について復習する。	120分
15	第1部 木1/14	(3) 地球環境の行方	加速する地球温暖化と対策、環境ビジネス～各国の取り組み、砂漠に建つ環境未来都市、水素社会を目指す日本	
		この回の到達目標	地球環境の変化と人類の対応について理解し、自分の意見を述べるができる。	
		事前学修	「環境未来都市マスダール」について調べ、概要をつかむ。	120分
		事後学修	講義全体で学んだことをもとに、環境・エネルギー問題の方向性について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	産業技術と知財D(コンテンツ) I	担当者	齋藤 崇	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本授業では、コンテンツを取り巻く状況、コンテンツを活用したコンテンツビジネスや知的財産権との関係について説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
さまざまなジャンルのコンテンツや、それを活用したコンテンツビジネスについて理解し、これらのコンテンツと知的財産権との関係について理解する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
授業は、資料を配布し講義形式にて行う。また、授業内容に対する定着度の確認や、質問や要望等に応えるため、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コンテンツと知的財産権との関係などに関する問いかけを行い、各自検討してみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コンテンツと知的財産権との関係について，説明することができるようになる。						2	2	2			
②	コンテンツやコンテンツビジネスについて，説明することができるようになる。						2	2	2			
③	コンテツビジネスが抱える諸問題について，考察し説明することができるようになる。						2	2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、コンテンツビジネスと知的財産権との関係についての知識の定着度を測るために、授業内試験にて評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、授業中にコンテンツビジネスが抱える諸問題に関する問いかけを行い、その回答を加味しながら授業への参画度として評価する。			40								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説について、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、講義資料を配布する。なお、文献については、必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の5時限目（16：20～17：50）に設定する。（なお、事前にアポイントメントがあると、対応がしやすい。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	コンテンツの総論（前期）	前期における本授業のガイダンス、および、コンテンツの内容や知的財産権との関係の総論について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コンテンツの内容や知的財産権との関係の総論について、理解し説明することができる。	
		事前学修	新聞やインターネットなどを用いて、コンテンツに関する話題を調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、前期におけるコンテンツの内容や知的財産権との関係の総論について、まとめておく。	120分
2	第一部水 4/15	コンテンツ産業の歴史	コンテンツの内容を踏まえて、コンテンツ産業の歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、コンテンツ産業の歴史的な変遷について、理解し説明することができる。	
		事前学修	コンテンツ産業の変遷について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、コンテンツ産業の歴史について、まとめておく。	120分
3	第一部水 4/22	コンテンツ産業と知的財産権	コンテンツ産業と知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コンテンツ産業と知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	知的財産権とはどういったものなのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、コンテンツ産業と知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
4	第一部水 4/29	コンテンツ産業とクールジャパン戦略	コンテンツ産業とクールジャパン戦略について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本のコンテンツ産業とクールジャパン戦略との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	クールジャパンの意味や目的等について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、コンテンツ産業とクールジャパン戦略について、まとめておく。	120分
5	第一部水 5/6	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツの内容について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、コンテンツの枠組みにおけるデジタルコンテンツの概要について、理解し説明することができる。	
		事前学修	コンテンツやデジタルコンテンツの意味などについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、デジタルコンテンツの内容について、まとめておく。	120分
6	第一部水 5/13	デジタルコンテンツと知的財産権	デジタルコンテンツと知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンテンツの枠組みにおけるデジタルコンテンツと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	知的財産権の意義などについて、調べておく	120分
		事後学修	講義資料を確認して、デジタルコンテンツと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	メディアの歴史と知的財産権	アナログからデジタルへのメディアの歴史と知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、アナログからデジタルへのメディアの歴史と知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	メディアとはどういったものなのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、アナログからデジタルへのメディアの歴史と知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
8	第一部水 5/27	インターネットと知的財産権	インターネット社会における知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、インターネットと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	インターネットと知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、インターネットと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
9	第一部水 6/3	キャラクタービジネスと知的財産権	キャラクタービジネスと知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャラクタービジネスにおける知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	普段目にしている、キャラクターの役割について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、キャラクタービジネスと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
10	第一部水 6/10	出版ビジネスの歴史	日本の出版ビジネスの歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の出版ビジネスの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	出版ビジネスとはどういったものかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の出版に関するコンテンツビジネスの歴史について、まとめておく。	120分
11	第一部水 6/17	出版ビジネスと知的財産権	日本の出版ビジネスと知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の出版ビジネスと知的財産権との関係の現状について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本の出版ビジネスと知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の出版ビジネスと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
12	第一部水 6/24	音楽ビジネスの歴史	日本の音楽ビジネスの歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の音楽ビジネスの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本の音楽ビジネスにはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の音楽ビジネスの歴史について、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	音楽著作権管理	日本の音楽著作権管理団体の役割について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の音楽著作権管理を行っている、JASRACなどの組織の役割について、理解し説明することができる。	
		事前学修	JASRACという組織について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の音楽著作権管理団体の役割について、まとめておく。	120分
14	第一部水 7/8	音楽ビジネスと知的財産権	音楽ビジネスと知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音楽ビジネスと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	音楽ビジネスと知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、音楽ビジネスと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
15	第一部水 7/15	授業内試験（前期）	前期で扱った内容について、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期で扱った内容について、授業内試験を行い、知識の定着度を確認する。	
		事前学修	前期で扱った内容について、講義資料を確認して、まとめておく。	120分
		事後学修	授業内試験の内容を踏まえて、前期で扱った内容について、復習しておく。	120分

科目名	産業技術と知財D(コンテンツ)Ⅱ	担当者	齋藤 崇	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本授業では、コンテンツを取り巻く状況、コンテンツを活用したコンテンツビジネスや知的財産権との関係について、説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
さまざまなジャンルのコンテンツやそれを活用したコンテンツビジネス、これらのコンテンツと知的財産権との関係について、理解する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
授業は、資料を配布し講義形式にて行う。また、授業内容に対する定着度の確認や、質問や要望等に応えるため、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コンテンツと知的財産権との関係などに関する問いかけを行い、各自検討してみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コンテンツと知的財産権との関係について，説明することができるようになる。								2	2	2			
②	コンテンツやコンテンツビジネスについて，説明することができるようになる。								2	2	2			
③	コンテツビジネスの抱える諸問題について，考察し説明することができるようになる。								2	2	2			
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、コンテンツビジネスと知的財産権との関係についての知識の定着度を測るために、授業内試験にて評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、授業中にコンテンツビジネスの抱える諸問題に関する問いかけを行い、その回答を加味しながら授業への参画度として評価する。			40								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説について、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、講義資料を配布する。なお、文献については、必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の5時限目（16：20～17：50）に設定する。（なお、事前にアポイントメントがあると対応がしやすい。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	コンテンツの総論（後期）	後期における本授業のガイダンス、および、コンテンツの内容や知的財産権との関係の総論について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コンテンツの内容や知的財産権との関係の総論について、理解し説明することができる。	
		事前学修	新聞やインターネットなどを用いて、コンテンツに関する話題について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、後期におけるコンテンツの内容や知的財産権との関係の総論について、まとめておく。	120分
2	第一部水 9/23	放送産業の歴史	日本の放送産業の歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の放送に関するコンテンツビジネスの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本の放送産業にはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の放送産業の歴史について、まとめておく。	120分
3	第一部水 9/30	放送産業と知的財産権	日本の放送産業と知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の放送に関するコンテンツビジネスと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本の放送産業と知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の放送産業と知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
4	第一部水 10/7	映画産業の歴史	日本の映画産業の歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の映画に関するコンテンツビジネスの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本の映画産業にはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の映画産業の歴史について、まとめておく。	120分
5	第一部水 10/14	映画産業と知的財産権	日本の映画産業と知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の映画に関するコンテンツビジネスと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本の映画産業と知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本の映画産業と知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
6	第一部水 10/21	ゲーム産業の歴史	日本のゲーム産業の歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本のゲームに関するコンテンツビジネスの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のゲーム産業にはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本のゲーム産業の歴史について、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	ゲーム産業と知的財産権	日本のゲーム産業と知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本のゲームに関するコンテンツビジネスと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のゲーム産業と知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本のゲーム産業と知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
8	第一部水 11/11	アニメ産業の歴史	日本のアニメ産業の歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本のアニメに関するコンテンツビジネスの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のアニメ産業にはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本のアニメ産業の歴史について、まとめておく。	120分
9	第一部水 11/18	アニメ産業と知的財産権	日本のアニメ産業と知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本のアニメに関するコンテンツビジネスと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のアニメ産業と知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、日本のアニメ産業と知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
10	第一部水 11/25	ウェブコンテンツの歴史	ウェブコンテンツの歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本のウェブコンテンツの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のウェブコンテンツにはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、ウェブコンテンツの歴史について、まとめておく。	120分
11	第一部水 12/2	ウェブコンテンツと知的財産権	ウェブコンテンツと知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本のウェブコンテンツと知的財産権との関係の現状について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のウェブコンテンツと知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、ウェブコンテンツと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
12	第一部水 12/9	モバイルコンテンツの歴史	モバイルコンテンツの歴史について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本のモバイルコンテンツの歴史について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のモバイルコンテンツにはどういったものがあるのかについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、モバイルコンテンツの歴史について、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	モバイルコンテンツと知的財産権	モバイルコンテンツと知的財産権との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本のモバイルコンテンツと知的財産権との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日本のウェブコンテンツと知的財産権との関係について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、モバイルコンテンツと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
14	第一部水 12/23	コンテンツビジネスと知的財産権の総括	これまでのさまざまなコンテンツビジネスと知的財産権との関係について、総括を行い内容を振り返りながら確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、さまざまなコンテンツビジネスと知的財産権との関係における現状と課題について、理解し説明することができる。	
		事前学修	自分自身がコンテンツを取り扱ったり、コンテンツビジネスを行う際に気をつけるべきことについて、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、これまでのさまざまなコンテンツビジネスと知的財産権との関係について、まとめておく。	120分
15	第一部水 1/13	授業内試験（後期）	後期で扱った内容について、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期で扱った内容について、授業内試験を行い、知識の定着度を確認する。	
		事前学修	後期で扱った内容について、講義資料を確認して、まとめておく。	120分
		事後学修	授業内試験の内容を踏まえて、後期で扱った内容について、復習しておく。	120分

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス) I	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
エレクトロニクスとは、一般的に電子部品や電子装置に関する技術を指すが、今や社会基盤ともなったコンピュータ，インターネット，スマートフォンなどの情報通信機器のみならず，自動車・エネルギー・医療・環境などの様々な分野で各産業を支える基幹技術となっている。エレクトロニクスⅠでは，情報通信企業に従事した経験をもとに，エレクトロニクスが各種システムやサービスにどのように関わっているかについて概説し，さらに知的財産権との関わりについても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では，エレクトロニクスに関する基本技術を学び，社会に普及する各種サービスへの応用事例を知る機会とする。これにより，今後の社会の発展に求められる技術やその応用などについて考察する力を養成することを目的とする。

【履修条件】
エレクトロニクスに興味があること。 [予備知識は不要]

【授業方法】
プレゼンテーション画面や配布資料による授業と，質疑応答（質問票の提出を含む），レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で期末レポートの解答に対する講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容の節目となるポイントで履修生に課題を与え，次週にその解答内容に対してフィードバックを行うとともに，履修生と質疑応答による意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	エレクトロニクス技術の代表格とも言えるコンピュータや、核となる半導体等の基本的仕組みを理解し、説明できる。						2					
②	人々の生活においてエレクトロニクス技術が使われる際の課題等を洞察し、各種サービスへの応用について発想できる。						2	2				
③	自身であまり触れることのないエレクトロニクス技術の応用分野においても、新たなサービスやビジネスについて発想し、予測することができる。							2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義の中間段階で小テストを実施し、それまでに学習した内容についての理解度を評価する。			15	15							30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見や考え方が要求する水準となっているかを評価する。			30	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中、講義内容について全ての履修生に質問し解答させると同時に、履修生からも質問を出させ、それに回答することで履修生の参画度を上げる。			10	10	10						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)				55	35	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート実施後の授業で、結果や内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、必要に応じ資料を配布する。また、参考書は適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日16：15～17：15（4時限目の授業後）， 場所：相談可能な場所， 内容：学業・その他

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	情報通信企業における I C T 関連研究開発および知的財産管理
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータのハードウェアやソフトウェア、インターネットなど、技術的観点だけではなく、サービスやビジネスの現状や課題を含めた実務について理解を深めることを目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	エレクトロニクス基本分野	<前期オリエンテーション> エレクトロニクスに関わる基本分野や基礎技術の全体像	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、エレクトロニクス基本分野や基礎技術の全体像を理解する。	
		事前学修	エレクトロニクスという言葉から思い付く技術やサービスについて自分なりにまとめる。	180分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	60分
2	第一部 水4/15	コンピュータとデジタル情報	エレクトロニクス基礎技術としてのコンピュータとデジタル情報の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して、エレクトロニクスの代表格であるコンピュータについてその仕組みを理解する。	
		事前学修	PCがどのような装置から構成されているかを考える。また光の3原色，色の3原色とは何かを復習する。	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特にデジタルの意味について理解する。	120分
3	第一部 水4/22	デジタル情報の記録・保存	デジタル情報の記録・保存の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して、デジタル機器の基礎となるデジタル情報の記録・保存方法に関して理解する。	
		事前学修	PCを利用する場合に、文書（テキスト）や音声，音楽，画像，映像などを格納する媒体にはどのようなものがあるか整理する。	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特に情報の格納媒体により記録方式が異なることを理解する。	120分
4	第一部 水4/29	デジタル情報の入出力	デジタル情報の入出力の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して、デジタル機器の基礎となるデジタル情報の入出力方法に関して理解する。	
		事前学修	PCを利用する場合に、情報の入力や出力，また通信を行う装置にはどのようなものがあるか整理する。	90分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	150分
5	第一部 水5/6	コンピュータ産業	コンピュータ産業の誕生と発展の歴史	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、コンピュータ産業の歴史や動向を知り，その課題や解決方法について考察する。	
		事前学修	情報処理学会（情報処理の分野で国内最大の学会）のホームページ「コンピュータ博物館」(http://museum.ipsj.or.jp/index.html) に目を通しておく。	60分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。また，これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	180分
6	第一部 水5/13	コンピュータ産業の今後と知的財産権問題	コンピュータ産業の将来像と知的財産権問題	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，コンピュータ産業に関わる知的財産権について，疑問点などを整理し，解決を図ることを試みる。	
		事前学修	コンピュータにはどのような知的財産権が含まれているか，また，どのような問題があるのかについて調査する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	「エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」質疑応答	「エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」に関する質問への回答と解説	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，エレクトロニクス基礎技術とコンピュータに関する疑問点などを整理し，解決を図るを試みる．	
		事前学修	「エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」の教材を復習する．	180分
		事後学修	回答したパワーポイント資料を復習する．	60分
8	第一部 水5/27	半導体とコンピュータ素子	エレクトロニクス基礎技術と半導体におけるコンピュータ素子の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，「産業の米」とも呼ばれる半導体（トランジスタ，コンピュータ素子）について理解する．	
		事前学修	「デジタル情報の記録・保存の仕組み」を復習する．	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．	120分
9	第一部 水6/3	半導体加工技術	半導体加工技術の発展とコンピュータの性能	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，半導体加工技術とコンピュータ性能について理解する．	
		事前学修	「デジタル情報の記録・保存のしくみ」で学習した高密度化技術について復習する．	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．特に半導体の仕組みについて理解を深める．	120分
10	第一部 水6/10	化合物半導体と光エレクトロニクス	化合物半導体と光エレクトロニクスへの応用	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，化合物半導体と光エレクトロニクス技術について理解する．	
		事前学修	NHK高校講座のホームページ「元素の周期表」(https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kagakukiso/archive/resume010.html) に目を通しておく．	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．特に発光／受光ダイオードの仕組みを理解する．	120分
11	第一部 水6/17	半導体産業	半導体産業の誕生と発展の歴史	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，半導体産業の課題について考察する．	
		事前学修	日本半導体歴史館 (http://www.shmj.or.jp/index.html) を閲覧し，「業界動向」，「応用製品」，「集積回路」などの歴史に目を通しておく．	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．	120分
12	第一部 水6/24	半導体産業と知的財産権	半導体産業における知的財産権問題の概要と解決方法	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，半導体産業における知的財産権問題の概要を理解し，課題解決の方法について考察する．	
		事前学修	半導体にはどのような知的財産権が含まれているか，また，どのような問題があるのかについて調査する．	180分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	エレクトロニクス基本分野 と知的財産権	エレクトロニクス基本分野における知的財産権問題	
		この回の 到達目標	到達目標①，②に関して，エレクトロニクス基本分野における知的財産権問題の概要を理解し，課題解決の方法について考察する．	
		事前学修	エレクトロニクス基本分野の知的財産権に関する紛争やビジネス上のトピック等について調査する．	90分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．また，これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる．	150分
14	第一部 水7/8	エレクトロニクス基本分野 のグローバル化	エレクトロニクス基本分野におけるビジネスのグローバル化と国際経済協力	
		この回の 到達目標	到達目標③に関して，エレクトロニクス基本分野の国際経済協力について理解し，問題の本質について考察する．	
		事前学修	我が国が他国や地域と取り結んでいる国際協力協定等について調査する．	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する．	90分
15	第一部 水7/15	エレクトロニクス基本分野 のまとめ	エレクトロニクス基礎技術と半導体，ビジネス実務に関する質問への回答と解説，並びにまとめ	
		この回の 到達目標	到達目標③に関して，エレクトロニクス基本分野のビジネスにおける課題や解決方法について考察する．	
		事前学修	エレクトロニクス基礎技術と半導体，ビジネス実務に関する教材について復習する．	180分
		事後学修	回答したパワーポイント資料を復習する．	60分

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス)Ⅱ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
エレクトロニクスとは，一般的に電子部品や電子装置に関する技術を指すが，今や社会基盤ともなったコンピュータ，インターネット，スマートフォンなどの情報通信機器のみならず，自動車・エネルギー・医療・環境などの様々な分野で各産業を支える基幹技術となっている．エレクトロニクスⅡでは，情報通信企業に従事した経験をもとに，情報通信やエレクトロニクスを応用した技術，サービス，並びにビジネスに関して概説し，さらに知的財産権との関わりについても理解を深める．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では，エレクトロニクスに関する基本技術を学び，社会に普及する各種サービスへの応用事例を知る機会とする．これにより，今後の社会の発展に求められる技術やその応用などについて考察する力を養成することを目的とする．

【履修条件】
エレクトロニクスに興味があること． [予備知識は不要]

【授業方法】
プレゼンテーション画面や配布資料による授業と，質疑応答（質問票の提出を含む），レポートによる履修生からの質問への回答．最後の回で期末レポートの解答に対する講評を行う．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容の節目となるポイントで履修生に課題を与え，次週にその解答内容に対してフィードバックを行うとともに，履修生と質疑応答による意見交換を行う．	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	エレクトロニクス技術の代表格とも言えるコンピュータや、核となる半導体等の基本的仕組みを理解し、説明できる。						1					
②	人々の生活においてエレクトロニクス技術が使われる際の課題等を洞察し、各種サービスへの応用について発想できる。						2	1				
③	自身であまり触れることのないエレクトロニクス技術の応用分野においても、新たなサービスやビジネスについて発想し、予測することができる。							2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義の中間段階で小テストを実施し、それまでに学習した内容についての理解度を評価する。			15	15							30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見や考え方が要求する水準となっているかを評価する。			30	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中、講義内容について全ての履修生に質問し解答させると同時に、履修生からも質問を出させ、それに回答することで履修生の参画度を上げる。			10	10	10						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)				55	35	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート実施後の授業で、結果や内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、必要に応じ資料を配布する。また、参考書は適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日16：15～17：15（4時限目の授業後），場所：相談可能な場所，内容：学業・その他

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	情報通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータのハードウェアやソフトウェア、インターネットなど、技術的観点だけではなく、サービスやビジネスの現状や課題を含めた実務について理解を深めることを目指す	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	エレクトロニクス応用分野の概要	<後期オリエンテーション> エレクトロニクス応用分野と応用技術の全体像	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、エレクトロニクス応用分野や応用技術の全体像を理解する。	
		事前学修	エレクトロニクスの応用分野である「自動車」、「医療」、「通信」、「電力」、「環境・エコ」等で、技術やサービスに関して最近話題となったトピックをインターネット情報などから洗い出す。	180分
		事後学修	エレクトロニクスの応用分野に関する全体像を整理する。	60分
2	第一部 水9/23	情報通信デジタル化と多重化	エレクトロニクス応用技術と情報通信における通信のデジタル化と多重通信の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して、情報通信において1回線で複数チャネルの通信ができることを理解す	
		事前学修	前期で学習した「デジタル情報」について復習する。	120分
		事後学修	デジタル情報の多重通信の意味を理解する。	120分
3	第一部 水9/30	移動体無線通信と光ファイバ通信	移動体無線通信と大容量光ファイバ通信の仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、基幹通信網で用いられる光ファイバの性質と利用形態を理解する。	
		事前学修	大容量光ファイバ通信で用いる光ファイバとは何かを調査する。	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
4	第一部 水10/7	インターネット通信	インターネット通信の高度化とユビキタスネットワークの仕組み	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、インターネットの基本的な仕組みを理解する。	
		事前学修	自身で利用しているインターネット通信サービスの種別を列挙し、ユビキタスという言葉の由来とその言葉を使った概念をピックアップする。	90分
		事後学修	布したパワーポイント教材を復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
5	第一部 水10/14	情報通信産業における法的課題	情報通信産業の発展における法的課題の概要	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、情報通信産業の歴史や動向を知り、法的課題について考察する。	
		事前学修	身の回りで情報通信を利用したサービスやビジネスにどのようなものがあるか列挙する。	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
6	第一部 水10/21	「エレクトロニクス応用技術と情報通信」の質疑応答	「エレクトロニクス応用技術と情報通信」に関する質問への回答と解説	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して、エレクトロニクス応用技術と情報通信に関する疑問点などを整理し、解決を図ることを試みる。	
		事前学修	「エレクトロニクス応用技術と情報通信」の教材を復習する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	カーエレクトロニクス	カーエレクトロニクスの概要と自動車産業の現状	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，カーエレクトロニクス技術やサービスを理解し，自動車産業の課題について考察する。	
		事前学修	近年話題の自動車の「自動運転」について，どのようなエレクトロニクス技術が応用されているかを調査する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
8	第一部 水11/11	パワーエレクトロニクス	パワーエレクトロニクスの概要と電力産業の現状	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，パワーエレクトロニクス技術やサービスを理解し，電力産業の課題について考察する。	
		事前学修	我が国の自然エネルギーにはどのようなものがあり，その比率や産業規模がどの程度かなどについて調査する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
9	第一部 水11/18	メディカルエレクトロニクス	メディカルエレクトロニクスの概要と医療システム産業の現状	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，メディカルエレクトロニクスの技術やサービスを理解し，医療分野の課題について考察する。	
		事前学修	電子化された医療機器にはどのようなものがあるかを調査する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
10	第一部 水11/25	エコ産業	エレクトロニクスとエコ産業の関連	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，エコ技術やサービスを理解し，エコ産業の課題について考察する。	
		事前学修	地球温暖化の原因と問題となる理由，現状や対策などについて調査する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
11	第一部 水12/2	光エレクトロニクス	光エレクトロニクスの概要と光応用産業の現状	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して，光エレクトロニクス技術やサービスを理解し，光応用産業の課題について考察する。	
		事前学修	3Dプリンタ，レーザ加工，光センサといった言葉がどのようなものなのか，概要を掴んでおく。	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
12	第一部 水12/9	エレクトロニクス応用産業と知的財産権	エレクトロニクス応用産業における知的財産権問題の概要と解決方法	
		この回の到達目標	到達目標①，②に関して，エレクトロニクス応用分野における知的財産権問題の概要を理解し，課題解決の方法について考察する。	
		事前学修	エレクトロニクス応用技術と産業で学んだ技術や産業に関わる知的財産権には何があるか，またその権利に関する問題点は何かについて調査する。	120分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	エレクトロニクス業界の国際技術紛争	ビジネス実務に関する話題としての我が国のエレクトロニクス業界が体験した国際技術紛争の事例	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、エレクトロニクス業界の国際技術紛争について理解し、問題の本質について考察する。	
		事前学修	エレクトロニクス業界が関連する国際的な技術紛争について調査する。	90分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	第一部 水12/23	国際標準化と知的財産権	技術規格の国際標準化の内容と知的財産権との関連	
		この回の到達目標	到達目標①，②，③に関して、エレクトロニクスの技術規格の国際標準を理解し、知的財産権との関連を考察する。	
		事前学修	エレクトロニクスの技術規格に関する標準化の事例を調査する。	150分
		事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
15	第一部 水1/13	エレクトロニクス応用分野のまとめ	エレクトロニクス応用技術と情報通信，エレクトロニクス応用技術と応用産業，ビジネス実務に関する話題に関する質問への回答と解説	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、エレクトロニクス分野のビジネスの課題を洞察し、解決方法について考察する。	
		事前学修	エレクトロニクス応用技術と情報通信，エレクトロニクス応用技術と応用産業，ビジネス実務に関する話題の教材を復習する。	180分
		事後学修	回答したパワーポイント資料を復習する。	60分

科目名	産業立地論	担当者	小倉 眞	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			

【授業の概要】
産業立地論は各種産業の特色ある機能の下で、「空間」のどの地点にそれを置けば、最少費用を実現し最も合理的に展開できるかについて、理論的に整理することである。理論の内とくに授業で取り上げるのは古典的理論ではあるが最も基本的視点を提起した農業立地論のチューネン、工業立地論のウェーバー、クリスタラー等であり、また、最新の理論として提起したクルーグマンやポーターの産業立地論について整理し、産業立地の理論的展開について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化・情報化社会における地域性や空間的展開など場所の特性を理解するための社会システムの理解力、論理的・批判的思考能力、問題発見・解決能力及び挑戦力を習得するために、近年の国際的産業立地や国内の立地展開について整理し、その基本的論理について理解する。さらに、農業・工業・都市・商業などの立地法則についての基本構造について理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストは使用せず、配布したプリント等によって授業を進める。また、適宜PC（パワーポイント）を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	セミスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。また、小テスト実施後の講評と討論を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	産業立地論における主要な概念や理論を識別できる。							2	2				
②	産業立地論に関連する出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。							2	2				
③	産業立地論に関連する出来事を教訓として、現代社会における問題及び自分なりの解決方法を提示できる。							2	2	2			
④	産業立地論に関連する現代社会の問題に対して、新たな考え及び従来示されてこなかった政策案を示すことができる。								2	2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	20	20							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②③④に関わる基礎知識を評価する。		5	5	5							15
レポート等	セメスター中、レポートにより、到達目標①②④に関わる基礎知識を評価する。	5	5		5							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	20	25	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのレポート内容についての講評と討論、また、試験についてはポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	配布プリント等により授業を行う。参考文献は必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 14：00～16：00 研究室（4号館4階441） メールアドレス： ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	産業立地論を学ぶ意味	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、産業立地論を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、産業立地論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスで授業内容を確認すると共に、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	ノートを見て、立地論の分析視点と経済空間の関係について整理する。	120分
2	9/23	チューネンの農業立地論(1)	現象を整理・抽象理論化するために、諸事象を分解・捨象して、理論化の前提となるべき内容の選択・整理についての過程を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、産業立地論の基本的な設定に関して理解し、説明できる。	
		事前学修	配布プリントを読み、チューネン理論の成立時期などについて確認する。	120分
		事後学修	理論の前提となる項目を整理し、それぞれについての妥当性・問題点などをまとめる。	120分
3	9/30	チューネンの農業立地論(2)	地代発生要因について整理すると共に、農家にとっての穀物価格とは何かについて考察する。また、地力の差や集約的農法と粗放の農法の相違・特質について検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地力の差や集約的農法と粗放の農法の相違・特質について理解し、説明できる。	
		事前学修	プリント1～7ページを読み、価格形成の内容について考察する。	120分
		事後学修	農産物価格は農家においては庭先価格で推し量ること、また輸送費の多寡が経営に影響を与える意味について確認する。	120分
4	10/7	チューネンの農業立地論(3)	チューネン理論が与えた理論的影響（都市から外延に広がる土地利用展開）と農業立地論としての問題点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、チューネン理論の理論的影響と問題点を理解し、説明できる。	
		事前学修	農業形態・肥力・市場価格について栽培圏が変化することを検証・考察する。	60分
		事後学修	チューネン理論の合理性と、理論的問題点などについて整理・検討する。与えられた課題についてのレポートを作成する。	180分
5	10/14	チューネンの農業立地論(4)	チューネン理論が与えた影響について、一般的土地利用との関係で具体的事例を上げながら考察する。 前回授業時の課題レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、チューネン理論が与えた影響について、一般的土地利用の例を理解し、説明できる。	
		事前学修	チューネン理論の内容について再度整理する。	120分
		事後学修	チューネン理論（同心円理論）が現代の土地利用空間においても、合理する部分があることを確認し、整理する。	120分
6	10/21	ウェーバーの工業立地論(1)	工業立地において費用の地域的差異を形成する要素は何であるかについて、集約していく過程について詳細に整理・考察する。（4回授業時の課題レポートについての講評と討議も行う。確認学習）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、工業立地において費用の地域的差異を形成する要素を理解し、説明できる。	
		事前学修	配布プリントの9～15ページを読み、ウェーバーの理論の概要について考察する。	120分
		事後学修	立地因子・立地単位などの用語整理と用語の意味等について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ウェーバーの工業立地論 (2)	費用の地域的差異として輸送費を抽出した過程について分析・考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、費用の地域的差異として輸送費を抽出した過程について理解し、説明できる。	
		事前学修	立地因子の導出過程について、生産費の項目を整理して局地的立地因子に関わる項目を抽出してみる。	120分
		事後学修	局地的立地因子として、輸送費、労働費が影響を与え、とくに輸送費の影響についてプリント見ながら確認・整理する。	120分
8	11/11	ウェーバーの工業立地論 (3)	立地三角形の内容について整理すると共に、労働費・集積のメリットなどについてもまとめ、ウェーバーの工業立地論の特色について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ウェーバーの工業立地論の特色について理解し、説明できる。	
		事前学修	資源調達，加工，消費の流れと立地について検証・考察する。	90分
		事後学修	立地三角形の理論的内容（輸送費・労働費）について整理する。次回小テストの準備をする。	150分
9	11/18	クルーグマンの産業立地論	クルーグマンが数学的に整理した不完全競争下の企業立地の運動法則につて考察する。て考察する。（ウェーバーの工業立地論に関する小テストも行う 20分）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、クルーグマンの産業立地論について理解し、説明できる。	
		事前学修	クルーグマンの産業立地論についてのプリントを見て、立地分析の主要な視点について検証する。	120分
		事後学修	A・Bの2地域間における立地単位と輸送費単位の関係についてついてまとめる。	120分
10	11/25	ポーターの産業立地論	ポーターの産業立地の理論的特色、クルーグマンとの論拠の相違などについて考察する。（小テストの講評と討議も行う 確認学習）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ポーターとクルーグマンの産業立地論の相違点を理解し、説明できる。	
		事前学修	ポーターの産業立地論の特色について事前に調べてみる。	120分
		事後学修	ポーターとクルーグマンの産業立地論の特色と相違について確認・検証する。	120分
11	12/2	クリスタラーの中心地理論 (1)	財の空間的到達範囲と需要範囲との関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財の空間的到達範囲と需要範囲との関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	プリントを読み、クリスタラーの理論の概要について検証する。	120分
		事後学修	空間ににおける財の到達範囲をどのように規定したか検証する。	120分
12	12/9	クリスタラーの中心地理論 (2)	一次中心から五次中心までを実際に作成し、その空間的特色について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、クリスタラーの中心地理論における空間的特色について理解し、説明できる。	
		事前学修	六角形図を描き、それぞれの焦点について確認してみる。	120分
		事後学修	六角形構造の内容を整理し、問題点なども列記してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	レッシュの経済地域論	クリスターとの理論的相違などを中心として整理・考察す る。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、レッシュの経済地域論とクリスターの理論の相違について理解し、説明できる。	
		事前学修	レッシュ，クリスタラーの理論的相違をプリントを見て整理する。	120分
		事後学修	レッシュの理論を整理し，その特徴について整理する。	120分
14	12/23	日本の工業立地変動	工業立地変動の過程・特徴等について整理し、受講生が調べた内容を中心に議論する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、工業立地変動に関して理解し、社会的問題等を批判的に分析及び説明できる。	
		事前学修	日本の工業分布の現況・特色について調べ、工業集積の地域的展開について整理する。	120分
		事後学修	経済環境の変動と立地移動について整理する。	120分
15	1/13	日本の工業立地の特色	産業立地論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、産業立地論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で各指標に対する判断ができる。	
		事前学修	加工貿易として臨海立地型の工業の展開について考察する。	120分
		事後学修	市場のグローバル化の中で、日本の工業立地がどのように変容したかについて整理すると共に、テストに向けて準ずる。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新聞学科の「新聞」とは、ジャーナリズムの訳語である。つまり、ジャーナリズム論は新聞学科の学生が学修する中心をなす科目である。受講者は、そのことをふまえて、新聞学科の学生が学ぶべきこととは何かを学修する。その中でもジャーナリズム論Aでは、「哲学・規範論」の部分学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズム論といわれる領域の中の規範論を理解し説明できるようになるために、諸理論の知識を身につけ、ジャーナリズムの実践においてどの理論を適用するか判断できる技能を修得する。そのために常に事前学修を十分に行って講義の臨む態度と積極的に質問をする習慣を身につける。

【履修条件】
教科書を購入した者に限る。

【授業方法】
講義形式が中心となるが、レポートの提出と講義ノートのチェック及びそれへのフィードバックを織り交ぜる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出により、講義ノート・チェックにより受講生の講義の理解度を、レポート提出によって講義の臨む態度・習慣をみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分は新聞学科で何を学びたいかを説明できる。				3							
②	ジャーナリストの社会における役割を説明し評価することができる。					3						
③	ジャーナリズム研究における規範論と記述論の違いを説明し適用できる。					3						
④	ジャーナリズム論における各規範論を解釈できる。						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートのチェックによって、講義内容を適切に理解しているかと、事前事後の学修により、理解を深めるような工夫をしているかどうかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
初回の講義で、レポートの書き方とノートの取り方を詳しく説明し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇 編著	印刷学会出版部	2018	教科書	必携
ジャーナリズム倫理学試論	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、講義ノートの取り方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝①】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書1・2・3章を読み、ジャーナリズムの理論というもののイメージを固めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	9/23	ジャーナリズムとプロフェッション	ジャーナリストをニュースを扱う専門職と考えた初期の人であるジョゼフ・ピューリツァーについて説明する。その後、専門職という概念を説明し、なぜジャーナリストに専門職教育が必要か、を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズムをなぜ学ぶのか、ジャーナリズム論の意義を理解する。①②	
		事前学修	教科書4・5章を読み、ジャーナリズム研究のイメージを固めておき、ジャーナリズム論の意義を考えておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、専門職とジャーナリズム論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	9/30	ジャーナリズムと規範理論	ジャーナリズム論における規範理論の位置づけと、記述論との相違を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズム論の中での規範理論の意義を理解する。①②③	
		事前学修	前回までの講義の内容を講義ノート及び教科書を使って確実に把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、規範論と記述論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	10/7	ジャーナリズム論における日本の課題	日本のジャーナリズム研究にどのような問題点があるのかを理解する。	
		この回の到達目標	日本のジャーナリズム研究における規範理論の位置づけを理解する。①②③	
		事前学修	前回までの講義ノート及び教科書の通読等からジャーナリズム論の概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、日本のジャーナリズム研究の問題点をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	10/14	プレスの自由委員会	プレスの自由委員会の報告書『自由で責任あるプレス』が刊行されるまでの過程とその意義を理解する。	
		この回の到達目標	プレスの自由委員会の活動内容とその意義を理解し説明できる。①②③	
		事前学修	アメリカの1800年代後半から1900年代初めにかけての機械化・工業化・都市化の状況を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、プレスの自由委員会について学んだことをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	10/21	社会的責任論	当初ジャーナリズムの現場からも研究者からも評価されなかった、社会的責任論が『マスコミの自由に関する四理論』を通じて普及していく過程を理解する。	
		この回の到達目標	社会的責任論の内容を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	プレスの自由委員会が、ジャーナリズムの危機と考えたメディア状況を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、社会的責任論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ジョン・C・メルルの社会的責任論批判	ジャーナリズム論の主流となった社会的責任論を、メルルがどのように批判したかを理解する。	
		この回の到達目標	メルルの社会的責任論批判の内容を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	『マスコミの自由に関する四理論』の内容を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、メルルの社会的責任論批判をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	11/11	リバタリアン・ジャーナリズム	メルルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
		この回の到達目標	リバタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	リバタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リバタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	11/18	エドモンド・B・ランベスのステイワードシップ論	メルルの社会的責任論批判に対する反論としてのランベスのステイワードシップ論の主旨を理解する。	
		この回の到達目標	ランベスのステイワード・シップ論を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	メルルの社会的責任論批判を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ランベスのステイワードシップ論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	11/25	リベラル・ジャーナリズム	ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
		この回の到達目標	リベラル・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	リベラリズムの概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リベラル・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	12/2	クリフォード・G・クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論	自由主義や個人主義を批判するクリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論の主旨を理解する。	
		この回の到達目標	クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	デモクラシーという概念を可能な限り多角的に把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	12/9	コミュニタリアン・ジャーナリズム	クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
		この回の到達目標	コミュニタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	コミュニタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、コミュニタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	ジャーナリストの行為規範 ①	ジャーナリストの行為規範を「二つの大前提」・「ジャーナリズムの定義」・「四つのアプローチ」の組み合わせによって構築する方法論を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範の構築の仕方を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	これまでの講義ノートと教科書を使い、これまでの講義の全体像を把握する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリストの行為規範構築の方法論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	12/23	ジャーナリストの行為規範 ②	ナショナリズム・リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの「四つのアプローチ」の内容を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範を適用し評価できる。①②③④	
		事前学修	リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの各ジャーナリズムを復習しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、「四つのアプローチ」をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	1/13	総括	講義ノートが適切にとれたか、レポートは適切に書き提出できたか、今後の講義にこの講義で得た知識が応用できるか等を確認する。	
		この回の到達目標	講義全体を通して積極的に受講していたかと、講義の到達目標に達しているかを省察できる。①②③④	
		事前学修	講義全体にわたって疑問点が残らないように質問事項を準備するとともに、講義ノートの精査ができるような準備をしておく。	120分
		事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新聞学科の「新聞」とは、ジャーナリズムの訳語である。つまり、ジャーナリズム論は新聞学科の学生が学修する中心をなす科目である。受講者は、そのことをふまえて、新聞学科の学生が学ぶべきこととは何かを学修する。その中でもジャーナリズム論Aでは、「哲学・規範論」の部分学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズム論といわれる領域の中の規範論を理解し説明できるようになるために、諸理論の知識を身につけ、ジャーナリズムの実践においてどの理論を適用するか判断できる技能を修得する。そのために常に事前学修を十分に行って講義の臨む態度と積極的に質問をする習慣を身につける。

【履修条件】
教科書を購入した者に限る。

【授業方法】
講義形式が中心となるが、レポートの提出と講義ノートのチェック及びそれへのフィードバックを織り交ぜる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出により、講義ノート・チェックにより受講生の講義の理解度を、レポート提出によって講義の臨む態度・習慣をみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分は新聞学科で何を学びたいかを説明できる。					3							
②	ジャーナリストの社会における役割を説明し評価することができる。						3						
③	ジャーナリズム研究における規範論と記述論の違いを説明し適用できる。						3						
④	ジャーナリズム論における各規範論を解釈できる。							3					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートのチェックによって、講義内容を適切に理解しているかと、事前事後の学修により、理解を深めるような工夫をしているかどうかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
初回の講義で、レポートの書き方とノートの取り方を詳しく説明し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇編著	印刷学会出版部	2018	教科書	必携
ジャーナリズム倫理学試論	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室 (9号館1階9101) tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8 9/16	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、講義ノートの取り方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝①】	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書1・2・3章を読み、ジャーナリズムの理論というもののイメージを固めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	4/15 9/23	ジャーナリズムとプロフェッション	ジャーナリストをニュースを扱う専門職と考えた初期の人であるジョゼフ・ピューリツァーについて説明する。その後、専門職という概念を説明し、なぜジャーナリストに専門職教育が必要か、を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズムをなぜ学ぶのか、ジャーナリズム論の意義を理解する。①②	
		事前学修	教科書4・5章を読み、ジャーナリズム研究のイメージを固めておき、ジャーナリズム論の意義を考えておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、専門職とジャーナリズム論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	4/22 9/30	ジャーナリズムと規範理論	ジャーナリズム論における規範理論の位置づけと、記述論との相違を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズム論の中での規範理論の意義を理解する。①②③	
		事前学修	前回までの講義の内容を講義ノート及び教科書を使って確実に把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、規範論と記述論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	4/29 10/7	ジャーナリズム論における日本の課題	日本のジャーナリズム研究にどのような問題点があるのかを理解する。	
		この回の到達目標	日本のジャーナリズム研究における規範理論の位置づけを理解する。①②③	
		事前学修	前回までの講義ノート及び教科書の通読等からジャーナリズム論の概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、日本のジャーナリズム研究の問題点をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	5/6 10/14	プレスの自由委員会	プレスの自由委員会の報告書『自由で責任あるプレス』が刊行されるまでの過程とその意義を理解する。	
		この回の到達目標	プレスの自由委員会の活動内容とその意義を理解し説明できる。①②③	
		事前学修	アメリカの1800年代後半から1900年代初めにかけての機械化・工業化・都市化の状況を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、プレスの自由委員会について学んだことをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	5/13 10/21	社会的責任論	当初ジャーナリズムの現場からも研究者からも評価されなかった、社会的責任論が『マスコミの自由に関する四理論』を通じて普及していく過程を理解する。	
		この回の到達目標	社会的責任論の内容を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	プレスの自由委員会が、ジャーナリズムの危機と考えたメディア状況を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、社会的責任論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20 10/28	ジョン・C・メルルの社会的責任論批判	ジャーナリズム論の主流となった社会的責任論を、メルルがどのように批判したかを理解する。	
		この回の到達目標	メルルの社会的責任論批判の内容を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	『マスコミの自由に関する四理論』の内容を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、メルルの社会的責任論批判をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	5/27 11/11	リバタリアン・ジャーナリズム	メルルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
		この回の到達目標	リバタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	リバタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リバタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	6/3 11/18	エドモンド・B・ランベスのスティワードシップ論	メルルの社会的責任論批判に対する反論としてのランベスのスティワードシップ論の主旨を理解する。	
		この回の到達目標	ランベスのスティワード・シップ論を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	メルルの社会的責任論批判を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ランベスのスティワードシップ論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	6/10 11/25	リベラル・ジャーナリズム	ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
		この回の到達目標	リベラル・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	リベラリズムの概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リベラル・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	6/17 12/2	クリフォード・G・クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論	自由主義や個人主義を批判するクリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論の主旨を理解する。	
		この回の到達目標	クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	デモクラシーという概念を可能な限り多角的に把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	6/24 12/9	コミュニタリアン・ジャーナリズム	クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
		この回の到達目標	コミュニタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	コミュニタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、コミュニタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1 12/16	ジャーナリストの行為規範 ①	ジャーナリストの行為規範を「二つの大前提」・「ジャーナリズムの定義」・「四つのアプローチ」の組み合わせによって構築する方法論を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範の構築の仕方を理解し説明できる。①②③④	
		事前学修	これまでの講義ノートと教科書を使い、これまでの講義の全体像を把握する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリストの行為規範構築の方法論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	7/8 12/23	ジャーナリストの行為規範 ②	ナショナリズム・リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの「四つのアプローチ」の内容を理解する。	
		この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範を適用し評価できる。①②③④	
		事前学修	リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの各ジャーナリズムを復習しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、「四つのアプローチ」をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	7/15 1/13	総括	講義ノートが適切にとれたか、レポートは適切に書き提出できたか、今後の講義にこの講義で得た知識が応用できるか等を確認する。	
		この回の到達目標	講義全体を通して積極的に受講していたかと、講義の到達目標に達しているかを省察できる。①②③④	
		事前学修	講義全体にわたって疑問点が残らないように質問事項を準備するとともに、講義ノートの精査ができるような準備をしておく。	120分
		事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
民主主義社会においてジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担う。以上のような前提のもと、本科目では①ジャーナリズムと真実、②ジャーナリズムとニュース、③ジャーナリズムと社会を学習することを通じて、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズムに対する理解を深めるために、具体的な事例を参照しつつジャーナリズムについての基本的な知識および理論を修得する。また、ジャーナリズムの活動を多角的に観察し、それをクリティカルな視点で解釈する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。その過程で、可能な限り時事的な問題を参照事例として取り上げる。またそれらの問題について、随時学生と意見交換を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を理解し、適切に用いることができる。				3	3	3					
②	ニュースが報道される仕組みを理解し、具体的に説明できる。				3	3						
③	社会の諸領域とジャーナリズムの関わりについて理解し、的確に説明できる。				3	3	3					
④	授業で修得した知識に基づいて、ジャーナリズムに関する課題に取り組むことができる。				3	3	3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	10	10	10							45
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているか、自分自身の意見を述べるができているか、そして論理的に記述できているかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できているかを評価する。	10	10	10	15							45
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートの要点をまとめた課題を提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標に関わる能力が修得できているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第9回の授業で、第8回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対してはする解説は、COLnetを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第8回及び第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために＜第2版＞	大井眞二他編	世界思想社	2018	教科書	必携
ジャーナリズム・スタディーズのフィールド	大井眞二	学文社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/23	ジャーナリズムの役割	民主主義社会におけるジャーナリズムの存在意義について、複数の類型を参照することを通じて学習する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズムの複数の類型を学習することを通じて、ジャーナリズムに対する多角的な視点を修得する。	
		事前学修	ジャーナリズムの類型について事前に調べ、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	9/30	ジャーナリズムと教育	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習する。ついで、現代社会におけるジャーナリズム・リテラシーの大切さについて考察する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習することを通じて、ジャーナリズム教育の重要性を理解する。	
		事前学修	教科書第3章「ジャーナリズム教育」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	10/7	客観報道とは何か	ジャーナリズムの重要な理念である「客観報道」の意義、歴史、そして問題点について学習する。ついで、送り手と受け手の立場から、ニュースの客観性について考察する。	
		この回の到達目標	「客観報道」について学習することを通じて、ニュースにおける「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
		事前学修	教科書第7章「プロフェSSIONナリズムと客観性」の内容を読み、客観報道について自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	10/14	ドキュメンタリーと真実	ジャーナリズムにおけるドキュメンタリーの意義、そして問題点について学習する。その際、実際にドキュメンタリーを視聴しつつ考察する。	
		この回の到達目標	映像における事実の伝達について学習することを通じて、「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
		事前学修	ドキュメンタリーの定義について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	10/21	問題報道	ジャーナリズムの信頼性に大きく影響する「やらせ」や「捏造」、そして「誤報」の問題とその背景について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	問題報道について学習することを通じて、その構造的要因について理解する。	
		事前学修	やらせと捏造に関する事件について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	犯罪報道	犯罪報道の構造について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	犯罪報道の構造を学習することを通じて、ニュースとしての「犯罪」について理解する。	
		事前学修	犯罪報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	11/11	総括(1)	第2回から第7回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。	
		この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分
9	11/18	ニュースとは何か	ニュースがどのような過程を経て私たちに届けられるのか、その取材と報道の仕組みについて学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	取材と報道の仕組みについて学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
		事前学修	教科書第5章「取材と報道」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	11/25	ニュースの選択過程	ニュースの選択過程について、その理論的枠組みを学習する。特に、その代表的な理論であるゲートキーピングの概念を中心に学習する。	
		この回の到達目標	ゲートキーピングの概念を学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
		事前学修	教科書第6章「『ニュースのコントロール』をめぐる相互作用過程」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	12/2	ニュースのフレーム	ニュース・フレームについて学習する。ついで、私たちの社会的現実が、フレームによって「切り取られた」ものであることを考察する。	
		この回の到達目標	フレームの概念について学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
		事前学修	教科書第10章「ニュースのフレーム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	12/9	世論とジャーナリズム	世論とジャーナリズムの関係について学習する。その際、第二次世界大戦への参戦にあたり日本のジャーナリズムが当時の世論の形成にどのように関わっていたのかを事例として参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	第二次世界大戦前の日本のジャーナリズムの概観から、ジャーナリズムと世論が相互に影響しあっていることを理解する。	
		事前学修	第二次世界大戦における日本のジャーナリズムについて事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12/16	政治とジャーナリズム		政治報道の構造について、権力とジャーナリズムの観点から学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。
		この回の到達目標	政治報道の構造を学習することを通じて、政治とジャーナリズムの関わりが社会にもたらす影響について理解する。	
		事前学修	政治報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	12/23	戦争とジャーナリズム		戦争にジャーナリズムがどのような影響を与えるのかを学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて学習する。
		この回の到達目標	国際問題の認識過程を学習することを通じて、戦争の勃発と平和の実現におけるジャーナリズムの役割について理解する。	
		事前学修	教科書第14章「戦争と平和のジャーナリズム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	1/13	総括(2)		第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。 合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。
		この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
民主主義社会においてジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担う。以上のような前提のもと、本科目では①ジャーナリズムと真実、②ジャーナリズムとニュース、③ジャーナリズムと社会を学習することを通じて、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズムに対する理解を深めるために、具体的な事例を参照しつつジャーナリズムについての基本的な知識および理論を修得する。また、ジャーナリズムの活動を多角的に観察し、それをクリティカルな視点で解釈する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。その過程で、可能な限り時事的な問題を参照事例として取り上げる。またそれらの問題について、随時学生と意見交換を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を理解し、適切に用いることができる。						2	2	2					
②	ニュースが報道される仕組みを理解し、具体的に説明できる。						2	2						
③	社会の諸領域とジャーナリズムの関わりについて理解し、的確に説明できる。						2	2	2					
④	授業で修得した知識に基づいて、ジャーナリズムに関する課題に取り組むことができる。						2	2	2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15								45
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているか、自分自身の意見を述べるができているか、そして論理的に記述できているかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できているかを評価する。	10	10	10	15							45
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートの要点をまとめた課題を提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標に関わる能力が修得できているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第9回の授業で、第8回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対してはする解説は、COLnetを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第8回及び第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために＜第2版＞	大井眞二他編	世界思想社	2018	教科書	必携
ジャーナリズム・スタディーズのフィールド	大井眞二	学文社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/16	ジャーナリズムの役割	民主主義社会におけるジャーナリズムの存在意義について、複数の類型を参照することを通じて学習する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズムの複数の類型を学習することを通じて、ジャーナリズムに対する多角的な視点を修得する。	
		事前学修	ジャーナリズムの類型について事前に調べ、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	4/22	ジャーナリズムと教育	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習する。ついで、現代社会におけるジャーナリズム・リテラシーの大切さについて考察する。	
		この回の到達目標	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習することを通じて、ジャーナリズム教育の重要性を理解する。	
		事前学修	教科書第3章「ジャーナリズム教育」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	4/29	客観報道とは何か	ジャーナリズムの重要な理念である「客観報道」の意義、歴史、そして問題点について学習する。ついで、送り手と受け手の立場から、ニュースの客観性について考察する。	
		この回の到達目標	「客観報道」について学習することを通じて、ニュースにおける「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
		事前学修	教科書第7章「プロフェSSIONナリズムと客観性」の内容を読み、客観報道について自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	5/6	ドキュメンタリーと真実	ジャーナリズムにおけるドキュメンタリーの意義、そして問題点について学習する。その際、実際にドキュメンタリーを視聴しつつ考察する。	
		この回の到達目標	映像における事実の伝達について学習することを通じて、「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
		事前学修	ドキュメンタリーの定義について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	5/13	問題報道	ジャーナリズムの信頼性に大きく影響する「やらせ」や「捏造」、そして「誤報」の問題とその背景について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	問題報道について学習することを通じて、その構造的要因について理解する。	
		事前学修	やらせと捏造に関する事件について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	犯罪報道	犯罪報道の構造について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	犯罪報道の構造を学習することを通じて、ニュースとしての「犯罪」について理解する。	
		事前学修	犯罪報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	5/27	総括(1)	第2回から第7回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。	
		この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分
9	6/3	ニュースとは何か	ニュースがどのような過程を経て私たちに届けられるのか、その取材と報道の仕組みについて学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	取材と報道の仕組みについて学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
		事前学修	教科書第5章「取材と報道」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	6/10	ニュースの選択過程	ニュースの選択過程について、その理論的枠組みを学習する。特に、その代表的な理論であるゲートキーピングの概念を中心に学習する。	
		この回の到達目標	ゲートキーピングの概念を学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
		事前学修	教科書第6章「『ニュースのコントロール』をめぐる相互作用過程」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	6/17	ニュースのフレーム	ニュース・フレームについて学習する。ついで、私たちの社会的現実が、フレームによって「切り取られた」ものであることを考察する。	
		この回の到達目標	フレームの概念について学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
		事前学修	教科書第10章「ニュースのフレーム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	6/24	世論とジャーナリズム	世論とジャーナリズムの関係について学習する。その際、第二次世界大戦への参戦にあたり日本のジャーナリズムが当時の世論の形成にどのように関わっていたのかを事例として参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	第二次世界大戦前の日本のジャーナリズムの概観から、ジャーナリズムと世論が相互に影響しあっていることを理解する。	
		事前学修	第二次世界大戦における日本のジャーナリズムについて事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7/1	政治とジャーナリズム		政治報道の構造について、権力とジャーナリズムの観点から学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。
		この回の到達目標	政治報道の構造を学習することを通じて、政治とジャーナリズムの関わりが社会にもたらす影響について理解する。	
		事前学修	政治報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	7/8	戦争とジャーナリズム		戦争にジャーナリズムがどのような影響を与えるのかを学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて学習する。
		この回の到達目標	国際問題の認識過程を学習することを通じて、戦争の勃発と平和の実現におけるジャーナリズムの役割について理解する。	
		事前学修	教科書第14章「戦争と平和のジャーナリズム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	7/16	総括(2)		第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。 合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。
		この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	ジャーナリズム倫理 I	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義は、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本では情報発信者のための倫理学、中でもメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように、倫理学を扱う。それがどれだけ間違ったことであるか、それを明確にするのが本講義の主な内容である。受講者は、情報発信者にとって、自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことの重要性を理解できる人間の育成を目的とする。 倫理学でいうところの自律とは何かを理解し、ジャーナリスト、すなわち情報発信者が遭遇する倫理的諸問題を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
テキストは必ず毎回持参。

【授業方法】
講義形式とディスカッションを組み合わせで講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義した内容に関する、受講者同士のディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、説明できる。				3							
②	ジャーナリストの行為を規範に則って、事例ごとに解釈し、適用し、評価できる。					3						
③	自身の考えを他の受講者に理解できるように説明できる。						3					
④	他の受講者の意見を適切に解釈し評価できる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	25	25									50
討論・発表等	授業におけるディスカッションにおいて自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる理解、 説明、解釈、評価の力が身についているかを評価する。			25	25							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションでは終了後に各自へのコメントをし、レポートについては、初回の講義で、レポートの書き方を講義し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇 編著	印刷学会出版部	2018	教科書	必携
ジャーリズム倫理学試論	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、ディスカッションのやり方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。
		この回の到達目標	ディスカッションのやり方とレポートの書き方を確実に把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝③④】
		事前学修	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。120分
		事後学修	講義ノートを取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
2	4/13	プライバシーの侵害①	プライバシー侵害の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。
		この回の到達目標	『逆転』事件の内容を理解し説明できる。①②
		事前学修	プライバシー侵害の事例の概要を把握しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、『逆転』事件の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
3	4/20	プライバシーの侵害②	プライバシー侵害の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。
		この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④
		事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ディスカッションをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
4	4/27	少年法①	少年犯罪報道の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。
		この回の到達目標	少年犯罪報道の事例の内容を理解し説明できる。①②
		事前学修	少年犯罪報道の事例の概要を把握しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、少年犯罪報道の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
5	5/4	少年法②	少年犯罪報道の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。
		この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④
		事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、少年犯罪報道の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
6	5/11	記者クラブ①	記者クラブの事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。
		この回の到達目標	記者クラブの事例の内容を理解し説明できる。①②
		事前学修	記者クラブの事例の概要を把握しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、記者クラブの事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	記者クラブ②	記者クラブの事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う
		この回の到達目標	記者クラブの事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④
		事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、記者クラブの事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
8	5/25	ヘイト・スピーチ①	ヘイト・スピーチの事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。
		この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例の内容を理解し説明できる。①②
		事前学修	ヘイト・スピーチの事例の概要を把握しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ヘイト・スピーチの事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
9	6/1	ヘイト・スピーチ②	ヘイト・スピーチの事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。
		この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④
		事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ヘイト・スピーチの事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
10	6/8	紛争地取材①	紛争地取材の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。
		この回の到達目標	紛争地取材の事例の内容を理解し説明できる。①②
		事前学修	紛争地取材の事例の概要を把握しておく120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、紛争地取材の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
11	6/15	紛争地取材②	紛争地取材の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。
		この回の到達目標	紛争地取材の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④
		事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、紛争地取材の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分
12	6/22	国家機密報道①	国家機密報道の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。
		この回の到達目標	国家機密報道の事例の内容を理解し説明できる。①②
		事前学修	国家機密報道の事例の概要を把握しておく。120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、国家機密報道の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	国家機密報道②	国家機密報道の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	国家機密報道の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
		事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、国家機密報道の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	7/6	総括ディスカッション	ジャーナリズム倫理全般にわたるディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	ジャーナリズム倫理全般に関して自分の意見を明確に述べられる。①②③④	
		事前学修	前回までのすべての講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム倫理全般の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	7/13	総括	ディスカッションとレポートの講評と指導	
		この回の到達目標	自身が講義全体の到達目標に達したかどうかを評価できる。①②③④	
		事前学修	講義全体に関する疑問点を質問できるように準備をする。	120分
		事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム倫理Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「ジャーナリズム倫理Ⅰ」では、「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を専門的に理解し、説明する能力を培った。そのような基礎を前提に、本講義ではジャーナリズム倫理学に関連する諸問題の応用力の養成を主眼とする。具体的な事例を使用して、実際に倫理的判断ができるようにジャーナリズム倫理学の理論をブレインストーミング等を通じて学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学に関する諸問題の分析力、判断力を涵養し、ジャーナリズムに関する倫理学的問題を、適切に分析できる素養を養成することを目的とする。 「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を批判的に捉え、論理的に結論を導き出せるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
・ジャーナリズム倫理Ⅰの単位取得者であること。・テキストは必ず毎回持参。

【授業方法】		
講義形式とディベートを組み合わせる講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義した内容に関する、受講者同士のディベート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、説明できる。				3	3	3	3				
②	ジャーナリストの行為を規範に則って、事例ごとに解釈し、適用し、評価できる。				3	3	3	3				
③	自身の考えを他の受講者に理解できるように説明できる。				3	3	3	3				
④	他の受講者の意見を適切に解釈し評価できる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワーク、ディベートにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①②③④にかかわる理解、説明、解釈、評価の力が身についているかを評価する。	25	25	25	25							100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディベートでは終了後に各チームへのコメントをする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズム倫理学試験	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇編著	印刷学会出版部	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、ディベートのルールとチーム編成、成績評価の方法、作戦会議のやり方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
		この回の到達目標	ディベートのルールと作戦会議のやり方を確実に把握する。①②③④	
		事前学修	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	120分
		事後学修	ディベートのルールと作戦会議のやり方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	9/21	ジャーナリズム倫理 I のお復習	ジャーナリズム倫理 I の概要を確認し、ディベートの準備に繋げる。	
		この回の到達目標	ジャーナリズム倫理 I の内容を理解し説明できるかを確認する。①②③④	
		事前学修	ジャーナリズム倫理 I の概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム倫理 I の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	9/28	プライバシーの侵害①	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
		この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
		事前学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
		事後学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
4	10/5	プライバシー侵害②	プライバシー侵害の事例に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
		事前学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
		事後学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
5	10/12	少年法①	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
		この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
		事前学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
		事後学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
6	10/19	少年法②	少年犯罪報道の事例に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
		事前学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
		事後学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	記者クラブ①	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
		この回の到達目標	記者クラブの事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
		事前学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
		事後学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
8	11/9	記者クラブ②	記者クラブの事例に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	記者クラブの事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
		事前学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
		事後学修	記者クラブの事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
9	11/16	ヘイト・スピーチ①	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
		この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
		事前学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
		事後学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
10	11/23	ヘイト・スピーチ②	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
		事前学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
		事後学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
11	11/30	紛争地取材①	紛争取材の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
		この回の到達目標	紛争地取材の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
		事前学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
		事後学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
12	12/7	紛争地取材②	紛争地取材の事例に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	紛争地取材の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
		事前学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
		事後学修	紛争地取材の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	国家機密報道①	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
		この回の到達目標	国家機密報道の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
		事前学修	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
		事後学修	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
14	12/21	国家機密報道②	国家機密報道の事例に関するディベートを行う。	
		この回の到達目標	国家機密報道の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
		事前学修	国家機密報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
		事後学修	国家機密報道の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
15	1/18	総括	全ディベートを通しての講評と受講者全員への個別指導	
		この回の到達目標	自身が講義全体の到達目標に達したかどうかを評価できる。①②③④	
		事前学修	講義全体の疑問点を質問できるように準備しておく。	120分
		事後学修	講評の内容と自身への指導内容を理解するとともに、今後の学修に繋がられるように記録しておく。	120分

科目名	社会情報システム研究	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるためにデータベースソフトを用いる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、基礎的スキルとしてのAccessの基本的操作方法を学習する。Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作を習得すると同時に、データベースを設計し、必要なデータを抽出できる。さらに、グラフや表を作成し、視覚化した資料を作成できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
Accessは比較的難解なため、Excel等の経験者、できれば、前期の「社会情報システム論」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Accessの基本的操作方法を理解し、操作できる。				4				4			
②	リレーショナルデータベースを適切に設計できる。				4		4	4				
③	テーブル、クエリ、フォーム、レポートなど適切に利用できる。						4	4	4			
④	データベースを使い、統計処理や分析ができる。						4	4	4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作や、データベースの設計、必要なデータを抽出できるかについて、到達目標①③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
		事前学修	ID, パスワードを事前に確認しておく。	120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	4/13	データベースの概略	データベースの概略について説明する。	
		この回の到達目標	データベースの概略について理解できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	4/20	Microsoft Access 1	リレーショナルデータベースについて説明する。	
		この回の到達目標	リレーショナルデータベースについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	4/27	Microsoft Access 2	Microsoft Access におけるデータベースの設計について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるデータベースの設計について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	5/4	Microsoft Access 3	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	5/11	Microsoft Access 4	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	Microsoft Access 5	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
8	5/25	Microsoft Access 6	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
9	6/1	Microsoft Access 7	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
10	6/8	Microsoft Access 8	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
11	6/15	Microsoft Access 9	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
12	6/22	Microsoft Access 10	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Microsoft Access 11	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/6	Microsoft Access 12	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/13	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会情報システム論	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるために表計算ソフトを用い、統計処理や分析方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Excelの基本的操作方法を学習する。Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数を習得すると同時に、ビジネスグラフを作成し視覚的なデータに加工できる。さらに、データから必要な情報を取り出し 統計処理や分析ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。後期の社会情報システム研究と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。						2						
②	Excelの基本的操作方法を理解する。								2	2			
③	データの集計や視覚化、加工、グラフ化などの処理ができる。								2	2			
④	データを用い、統計処理や分析ができる。						2		2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数の利用等、及び視覚的なデータに加工できるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。
		この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。
		事前学修	ID、パスワードを事前に確認しておく、事前にシラバスを確認しておくこと。120分
		事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。120分
2	4/13	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付等について説明する。
		この回の到達目標	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付等の操作について理解できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
3	4/20	Microsoft Excel 1	Microsoft Excel を使った表の作成と計算方法について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った表の作成と計算方法について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
4	4/27	Microsoft Excel 2	Microsoft Excel を使った計算式の利用方法やセル属性とコピー方法について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った計算式の利用、セル属性とコピーについて理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
5	5/4	Microsoft Excel 3	Microsoft Excelを使った基本的な関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excelを使った基本的な関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分
6	5/11	Microsoft Excel 4	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/18	Microsoft Excel 5		Microsoft Excel を使った（棒グラフ作成、2軸グラフ）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（棒グラフ作成、2軸グラフ）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	5/25	Microsoft Excel 6		Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	6/1	Microsoft Excel 7		Microsoft Excel を使った（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	6/8	Microsoft Excel 8		Microsoft Excel を使った（データ参照、VLOOKUP）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（データ参照、VLOOKUP）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	6/15	Microsoft Excel 9		Microsoft Excel を使った（グラフの種類と特徴）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（グラフの種類と特徴）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	6/22	Microsoft Excel 10		Microsoft Excel を使った（クロス集計）について説明する。
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（クロス集計）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Microsoft Excel 11	Microsoft Excel を使った（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/6	Microsoft Excel 12	Microsoft Excel を使った（回帰分析）について説明する。	
		この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（回帰分析）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/13	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会政策論Ⅰ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これに従って学校教材の基礎、公務員試験対策、福祉行政の知識やNPO活動のための知識のほか、広く人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
社会政策に関心がある諸君すべて受講可能である。学科、年次は問わない。（行政職課程は2年次から）

【授業方法】
講義形式で行う。授業はパワーポイントとプリントを中心に行う。アンケートの結果も踏まえ、適切な受講者数であれば、ある程度討論を含む演習方式も採用したい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	社会政策の概念について理解できるようになる。		2		2	2	2		
②	他の社会科学、公共政策と社会政策の位置づけができるようになる。		2		2	2	2		
③	政治・経済の変容と社会政策との関連について理解できる。		2		2	2	2		
④	社会政策と福祉国家との関連について理解できる。		2		2	2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を実施する（成績の80％）。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	出席率の少ない学生（4年生、体育会系学生等）に対してレポート提出を要求することがある。	5	5	5	5							20
討論・発表等	毎回の授業で質疑応答を受け付ける。まとめの授業で意見を求めることがある。	5	5	5	5							20
授業への参画度	毎回出席をとる（成績の20％）。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容	授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに、民間部門による政策アプローチからも論じることができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水曜3限	はじめに 社会政策とは何か	社会政策の概念、内容とその意味について述べる。	
		この回の到達目標	学問としての社会政策の今日における概念の定義について理解する。	
		事前学修	図書館等で社会政策に関する基本的文献にあたる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
2	水曜3限	社会政策学の歴史	社会政策の範囲、対象、および代表的な学説（ドイツ、イギリス）	
		この回の到達目標	学問としての社会政策の誕生及び発展の経緯について理解する。	
		事前学修	社会政策の概念を把握するため、ヨーロッパ社会で発生したこの学問の源流について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
3	水曜3限	社会政策の位置づけ	秩序維持政策、経済財政政策、および社会政策	
		この回の到達目標	社会科学の中の公共政策のうち、社会政策の位置づけ及び機能について理解する。	
		事前学修	公共政策のうち、社会政策の特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
4	水曜3限	社会政策の特徴	立法過程論と社会政策との違い	
		この回の到達目標	公共政策における最終目標としての立法化の過程と、社顔政策の固有の位置づけについて理解する。	
		事前学修	法律、制度形成に至る社会政策の特徴について理解する。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
5	水曜3限	社会政策の現代的意義	社会政策の根拠及び到達点、人間の尊厳、人権思想と社会政策	
		この回の到達目標	学問としての社会政策に固有な部分と、他の政策科学との違いについて近代法思想から分析する。	
		事前学修	福祉国家とは何か、社会政策とのかかわりについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
6	水曜3限	イギリス社会政策1	ブレトンウッズ体制、マーシャルプランによるベヴァリッジ計画の変容	
		この回の到達目標	ヨーロッパにおける第二次世界大戦後の国際政治・経済体制の変化をイギリスを事例に分析する。	
		事前学修	第二次世界大戦後の国際政治体制の変化と社会政策について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水曜3限	イギリス社会政策2	植民地独立とコモンウェルズ離脱による大英帝国の衰退、ストップ・ゴー経済政策の矛盾、英国病、債務国への凋落	
		この回の到達目標	社会政策を重視した福祉国家イギリスが、経済の衰退に直面してどのような体制変容を遂げたかについて理解する。	
		事前学修	福祉国家イギリスの衰退と社会政策の変容過程について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
8	水曜3限	イギリス社会政策3	サッチャーの登場と福祉国家、社会政策の見直し	
		この回の到達目標	サッチャー政権による新自由主義的政策が福祉国家イギリスをどのように変容させたかについて理解する。	
		事前学修	新自由主義の登場の原因と推移について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
9	水曜3限	イギリス社会政策4	イギリス社会政策の理念と現実のギャップ。ブレア、キャメロンからメイ、ジョンソンへ	
		この回の到達目標	サッチャー後の福祉国家における社会政策の動向について理解する。	
		事前学修	現代のイギリス社会政策について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
10	水曜3限	日本社会政策1	江戸期から明治・大正期の社会政策	
		この回の到達目標	日本における社会政策学の誕生の背景と酢の過程について理解する。	
		事前学修	日本の社会政策の源流について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
11	水曜3限	日本社会政策2	労働運動、米騒動等により、政府が行った戦前、戦時期の社会政策	
		この回の到達目標	実際に行われた大正および昭和初期からの社会政策の実例について理解する。	
		事前学修	日本の産業化の黎明期と社会政策の対応について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
12	水曜3限	日本社会政策3	戦後から現代の社会政策	
		この回の到達目標	第二次世界大戦の終結と戦後の社会政策の国家としての位置づけについて理解する。	
		事前学修	日本国憲法の成立と福祉国家の歩みについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水曜3限	現代日本の社会政策の特徴	与党及び野党の見解と推移、官僚群による政策遂行主体とその変容。	
		この回の到達目標	現代の社会政策の遂行主体とその変容について分析する。	
		事前学修	現代の社会政策の対応について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
14	水曜3限	安倍政権による社会政策と当面する課題	安倍政権による社会政策と当面する課題と今日的問題について取り上げる。	
		この回の到達目標	安倍政権による社会政策と当面する課題について分析する。	
		事前学修	現在、社会政策上で政策課題として挙げられる社会問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
15	水曜3限	今学期のまとめ	社会政策の学問的全体を包括する。	
		この回の到達目標	今学期を通じて社会政策に特有の対象、領域、解決が必要な課題等について明らかにする。	
		事前学修	今学期授業を総括し、社会政策が有する特徴についてまとめる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントと作成したノートを基に、今学期授業の概要をまとめる。（2時間）	120分

科目名	社会政策論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これにしたがって公務員試験対策、福祉行政やNPO活動のほか、人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。また社会政策が人々の権利や尊厳をもとに制度設計がなされる傾向にある点にも注目して講義を行う。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
社会政策に関心がある諸君はすべて受講可能である。学科、年次は問わない。（行政職課程は2年次から）

【授業方法】
講義形式で行う。授業はパワーポイントとプリントを中心に行う。アンケートの結果も踏まえ、適切な受講者数であれば、ある程度討論を含む演習方式も採用したい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会政策と人権思想について理解する。					2		2	2	2			
②	労働市場、労使関係、労働政策と賃金について理解する。					2		2	2	2			
③	失業、フリーター、ニート、および子供の貧困を含む現代の貧困問題について理解する。					2		2	2	2			
④	世界の貧困と移民労働の受け入れについて理解する。					2		2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を実施する（成績の80％）。	10		10	10	10						40
小テスト等												
レポート等	出席の少ない学生（4年生、体育会系学生等）に対してレポート提出を要求することがある。	5		5	5	5						20
討論・発表等	毎回の授業で質疑応答を受け付ける。まとめの授業で意見を求めることがある。	5		5	5	5						20
授業への参画度	毎回出席をとる（成績の20％）。	5		5	5	5						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25		25	25	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		公務員の政策アプローチ及び民間による政策アプローチのいずれも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水曜3限	人権思想と社会政策	人権思想とは何か。社会政策はそれとどのように関連しているのか。	
		この回の到達目標	人間の権利（人権思想）と社会政策の関連について理解する。	
		事前学修	人間の権利の獲得について、その歴史的過程（1948年国連世界人権宣言等）を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
2	水曜3限	人間の権利とは何か	人間の権利に反する思想「優生思想」の発生根拠とその理論、世界的普及の過程	
		この回の到達目標	20世紀の中葉以降確立した人権思想を誘発する根拠となった「郵政思想」について理解する。	
		事前学修	人権問題の原点ともいえる「優生思想」について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
3	水曜3限	人権確立の系譜	「血友病エイズ問題」と「らい予防法」「優生保護法」	
		この回の到達目標	日本で問題になった血友病エイズ、らい予防法、優生保護法について分析する。	
		事前学修	かつてわが国で行われた人権問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
4	水曜3限	正義論について	ジョン・ロールズ、マイケル・サンデルの正義論と人権思想	
		この回の到達目標	社会政策の源流となる社会契約論の学問的発展について理解する。	
		事前学修	人権思想をどう発展させるか、について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
5	水曜3限	優生思想と人権迫害	ヨーロッパ・ナチスドイツで行われた障がい者根絶計画、日本の知的障害者施設殺人事件と現代社会政策	
		この回の到達目標	ジョン・ロールズの正義論を社会政策の側から理解する。	
		事前学修	生産中心主義の社会思想と人権思想をどのように融合するか、について考察する。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
6	水曜3限	現代社会政策	政府による経済財政政策の中の社会政策について。	
		この回の到達目標	政府による労働政策、雇用政策について理解する。	
		事前学修	現代政治と社会政策について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水曜3限	雇用と労働	労働政策、雇用政策、最低賃金、失業問題	
		この回の到達目標	これまで行われてきた労働・雇用政策（労働慣行）と新たに行われようとしているものの違いについて理解する。	
		事前学修	現代の労働慣行、賃金、失業率について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
8	水曜3限	労働市場と労働環境	日本の労使関係と労働政策	
		この回の到達目標	連合と経団連による雇用・労働政策の違いについて理解する。	
		事前学修	現代日本の労働政策とその特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
9	水曜3限	貧困問題	貧困問題とは何か。その原因と解決の方向性について。	
		この回の到達目標	貧困とは何かについて多角的に理解する。	
		事前学修	現代の貧困問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
10	水曜3限	雇用問題1	フリーター、ニートについて	
		この回の到達目標	日本におけるフリーター、ニートの存在について理解する。	
		事前学修	フリーター、ニートの定義とその実態について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
11	水曜3限	雇用問題2	非正規雇用のメリット、デメリット	
		この回の到達目標	非正規雇用の問題を取り上げ、多角的に分析する。	
		事前学修	いわゆる非正規雇用問題についてその定義と実態、メリットとデメリットについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
12	水曜3限	雇用問題3	女性労働の役割、子供の貧困問題と社会政策	
		この回の到達目標	貧困問題の核心をなす「子供の貧困」について理解する。	
		事前学修	女性雇用、障害者雇用の現状から子供の貧困問題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水曜3限	世界の貧困問題	世界の貧困問題とその現状についてワールドバンクによる統計の解説を行う。	
		この回の到達目標	世界の貧困について理解する。	
		事前学修	ワールドバンク等の統計資料から世界の貧困状態の動向を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
14	水曜3限	社会政策の課題と将来	社会保障、社会政策の問題解決のための優先順位 外国人労働の導入について	
		この回の到達目標	外国人労働者の導入と社会政策の課題等について分析する。	
		事前学修	日本の労働市場における外国人労働の実態と課題について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）	120分
15	水曜3限	今学期のまとめ	新たな社会政策の制度設計 生産至上主義に代わるもの	
		この回の到達目標	経済政策と社会政策の新たな均衡はいかにあるべきか、について論じる。	
		事前学修	今まで配布されたプリントと作成したノートを整理する。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントと作成したノートを基に、今学期授業の概要をまとめる。（2時間）	120分

科目名	社会調査概論	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会調査は、社会のさまざまな領域で活用されている。社会の実態を知る上で、社会調査は必要不可欠のツールである。以上のような前提のもと、本科目では①社会調査の概念、②社会調査の歴史、③社会調査の方法を学習することを通じて、社会調査に関する基本的な知識および方法論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、社会調査に対する理解を深めるために、社会調査についての基本的な知識とと方法論を修得する。また、実際に社会調査を企画することで、社会調査を実施する基本的な能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
前半は、教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。後半は、スライドを用いて講義を進めつつ、受講生は各々が社会調査を企画し、実際に調査票の作成に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	社会調査の概念および歴史を理解し、具体的に説明できる。				2	2						
③	社会調査のデータに対するリテラシーを身につけ、それらをクリティカルに解釈できる。				2	2	2	2				
④	授業で修得した知識と方法論に基づいて、社会調査を企画することができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力が修得できているかを評価する。	15			15							30
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートの要点をまとめた課題を提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第10回の授業で、第9回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対してはする解説は、COLnetを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
系譜から学ぶ社会調査	小林多寿子	嵯峨野書院	2018	教科書	必携
社会調査の実際	島崎哲彦・大竹延幸	学文社	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス・導入講義	授業概要、授業目的、到達目標、成績評価の方法等を説明し、受講生が授業準備を具体的に実施できるようにする。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を通して読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	社会調査とは何か	社会調査の定義、考え方、そして類型について学習する。ついで、社会調査の意義について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査に関する基本的な知識を学習することで、社会調査に対するリテラシーを修得する。	
		事前学修	教科書第1章「リサーチ力を培うための社会調査論」の内容を読み、社会調査について自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	9/29	社会調査のルーツ	社会調査のルーツについて学習する。現在の社会調査につながる調査がどのようにして始まったのか、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	社会調査のルーツについて学習することで、社会調査の意義に対する理解を深める。	
		事前学修	教科書第2章「社会調査のルーツとヨーロッパにおける先駆者たち」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	10/6	古典的社会調査	家計調査および貧困調査について学習する。社会調査の原点ともいえるそれらの調査について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	家計調査および貧困調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第3章「貧困調査からの出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	10/13	シカゴ学派	シカゴ学派による社会調査について学習する。シカゴ学派が形成された背景、そしてそこで発展した質的調査について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	シカゴ学派が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第4章「シカゴ・スタイルーシカゴ学派とアメリカにおける質的調査の出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	10/20	地域調査	ミドルタウン調査に代表される地域調査について学習する。地域調査がもたらした影響について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	地域調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピープルズ・ CHOICES』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	メディア効果調査	メディア効果調査について学習する。メディアの影響力に対する認識がどのように変化していったのかについて、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	メディア効果調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピーブルズ・チョイス』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	11/10	世論調査	世論調査について学習する。世論調査の誕生からその発展の過程について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
		この回の到達目標	世論調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
		事前学修	教科書第11章「世論調査の発展」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
9	11/17	総括（1）	第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第2回から第8回までの講義ノートを見直し、社会調査への総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	11/24	社会調査の前提	社会調査を企画するために必要な基礎的知識を学習する。社会調査の種類、データの意味、実施する上での倫理等について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査を企画するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	身近にある社会調査の事例について調べ、自分なりに理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	12/1	社会調査の設計	社会調査の設計するために必要な基礎的な知識について学習する。社会調査の目的、方法、概念の操作的定義、仮説の構成等について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査を設計するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、どのようなテーマを選択するのか、そのテーマを選んだ理由は何なのかについて考えておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	12/8	調査票の作成	社会調査の設計するために必要な基礎的な知識について学習する。社会調査の目的、方法、概念の操作的定義、仮説の構成等について考察する。	
		この回の到達目標	社会調査を設計するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、調査テーマの概念の操作的定義や仮説について考えておく。	120分
		事後学修	授業で提示した課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	調査の実施	調査票調査の実施と回収、データの整理の方法について学習する。	
		この回の到達目標	調査票調査実施のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、調査を実施する際の注意事項について考えておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	12/22	集計と分析	データのエディティング、コーディング、クリーニングの方法、集計の種類、そして分析の考え方を学習する。収集したデータを集計、分析する方法について考察する。	
		この回の到達目標	データの集計および分析のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	社会調査の主体として、データの適切な集計と分析のために必要なことは何なのかについて理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	1/12	総括（2）	第10回から第14回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第10回から第14回までの講義ノートを見直し、社会調査への総合的な理解を深める。	120分
		事後学修	第10回から第14回までの講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	神尾 真知子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。各論として、社会保障法Ⅰでは、社会保険を中心に挙げて、代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。なお、社会保障法Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に挙げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保険に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにする。また、社会保険の仕組みを理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
静粛に授業を聞くこと。社会保障法Ⅰと社会保障法Ⅱの両方を履修して、社会保障法の全体像が理解できるので、両方履修することが望ましい。

【授業方法】
講義形式。社会福祉六法で条文を確認しながら講義を進める。授業の理解の確認を行うアクションペーパーは次の回にコメントする。また、授業内試験のフィードバックは最終講義日に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べることができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障法上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識を身につけているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べるができているかを確認する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30		10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験（授業内試験を実施予定）のフィードバックは講義の最終回に行う。毎回の小テストのフィードバックは次の講義時に添削の上返却し、コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トピック社会保障法 2020年版	本沢巳代子・新田秀樹編著	不磨書房	2020年	教科書	必携
社会福祉六法 2020年版		ミネルヴァ書房	2020年	教科書	必携
備考	上記2冊の教科書は講義に必須ですので、必ず購入してください。判例については、適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館4階444） kamio.machiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	労災の業務上外認定に関する再審査申立機関である労働保険審査会（厚生労働省所管）の委員を9年務めた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の労災認定がどのように業務上外と判断しているのかについて、講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6 第二部月 4/6	【第1回 ガイダンス 社会 保障法とは何か】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、社会保障法を学ぶ意義を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	社会保障法にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部月 4/13 第二部月 4/13	【第2回 社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源】	社会保障法の歴史を学び、法理念及び法体系を理解し、社会保障法の法源にはどのようなものがあるのかを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、社会保障法の総論的な事項を理解する。	
		事前学修	社会保障法はどのような歴史をたどってきたのか、法理念、法体系、法源とは何かについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源を確認し、説明できるようにする。（	120分
3	第一部月 4/20 第二部月 4/20	【第3回 医療保険の仕組み】	社会保険のうち、医療保険を取り上げ、社会保険としての仕組みを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、医療保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できる。	
		事前学修	医療保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、医療保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。	120分
4	第一部月 4/27 第二部月 4/27	【第4回 医療保険の給付】	社会保険のうち、医療保険を取り上げ、医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①及び③に関連して、医療保険の給付の仕組みを理解し、説明できるようにするとともに、現行医療保険制度の問題点を理解し、自分の意見を持てるようにする。	
		事前学修	医療保険の給付の仕組みを理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにし、日本の医療保険制度の問題点を整理する。	120分
5	第一部月 5/4 第二部月 5/4	【第5回 法人代表と健康保険の被保険者資格等に関する判例】	社会保険のうち、医療保険を取り上げ、重要な判例を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、医療保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
		事前学修	医療保険に関連する判例を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、医療保険関連判決の判旨を確認する。	120分
6	第一部月 5/11 第二部月 5/11	【第6回 介護保険の仕組みと給付】	社会保険のうち、介護保険を取り上げ、その仕組みと給付を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、介護保険の仕組みと給付を理解し、説明できる。	
		事前学修	介護保険の社会保険としての仕組みと給付を理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、介護保険の社会保険としての仕組みと給付を確認して、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18 第二部月 5/18	【第7回 ゲストスピー カー：介護保険の立法化の 尽力した元厚生大臣の講 演】	社会保険のうち、介護保険を取り上げ、介護保険の立法過程にかかわった元厚生大臣による講演 (ゲストスピーカー・予定)をお聞きして、立法化における様々な課題を理解し説明できるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、高齢社会の日本における介護の社会化をめぐる議論を理解し、介護保険制度に関して自分の 意見が述べられるようにする。	
		事前学修	介護保険の立法における議論を整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、介護保険の立法において何が問題とされ、どのように解決されたのかを確認し、説明 できるようにする。	120分
8	第一部月 5/25 第二部月 5/25	【第8回 年金保険の仕組 み】	社会保険のうち、年金保険を取り上げ、社会保険としての仕組みを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、年金保険の仕組みを理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	年金保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、年金保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
9	第一部月 6/1 第二部月 6/1	【第9回 年金保険の給付】	社会保険のうち、年金保険を取り上げ、どのような給付があるのかについて学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①及び③に関して、年金制度を理解すると共に、現行年金制度が変えている問題点を把握し、自分の意見 を述べるができるようにする。	
		事前学修	年金保険の給付の仕組みを理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、年金保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。	120分
10	第一部月 6/8 第二部月 8/8	【第10回 重婚的内縁関係 と遺族年金等に関する判 例】	社会保険のうち、年金保険を取り上げ、重要な判例を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、年金保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
		事前学修	年金保険に関連する判例を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、年金保険関連判決の判旨を確認する。	120分
11	第一部月 6/15 第二部月 6/15	【第11回 労災保険の仕組 み】	社会保険のうち、労災保険を取り上げ、社会保険としての仕組みを学修する。 労働保険審査会委員としての経験を踏まえ、労災の業務上外認定の実務及び再審査申立制度の仕 組みの説明をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、労基法の災害補償との違いに留意して、労災保険の仕組みを理解し、説明できる。	
		事前学修	労災保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
12	第一部月 6/22 第二部月 6/22	【第12回 労災保険の給 付】	社会保険のうち、労災保険を取り上げ、どのような給付があるのかを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、労災保険の給付を理解し、説明できる。	
		事前学修	労災保険の給付の仕組みを理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、労災保険の給付にはどのようなものがあるかを確認し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29 第二部月 6/29	【第13回 ぐる判例】 労働者性等をめ	社会保険のうち、労災保険を取り上げ、重要な判例を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、労災保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
		事前学修	労災保険関連の判例の判旨を理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、労災保険関連の判例の判旨を確認する。	120分
14	第一部月 7/6 第二部月 7/6	【第14回 総まとめ】	これまで学んだことを復習し、授業内試験の準備をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、前学期で学んだことを復習し、理解を確認する。	
		事前学修	講義ノートを確認し、これまで学習したことを振り返り、授業内試験の準備をする。	120分
		事後学修	授業内試験を受けて、学習不足だった点は何かを検討する。	120分
15	第一部月 7/13 第二部月 7/13	【第15回 メント】 授業内試験とコ	授業内試験を行い、コメントする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、社会保険についての理解を確認し、説明できる。	
		事前学修	前学期の講義内容を振り返り、復習する。	120分
		事後学修	授業内試験のコメントを聞いて、前期の学習の達成度を自分なりに評価する。	120分

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。各論として、社会保障法Ⅰでは、社会保険を中心に挙げて、代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。なお、社会保障法Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に挙げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにする。また、社会保険の仕組みを理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーを配り、その回で考えたこと、意見、質問等を記入してもらい、次の授業の最初にフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる事ができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障法上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識を身につけているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べるができているかを確認する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30		10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間内に実施した課題については、授業内に、最終回に実施した課題については、ポータルを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥 (著), 柴田 洋二郎 (著), 島村 暁代 (著), 橋爪 幸代	有斐閣	2019年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること）（メールアドレスは、ポータルにて連絡） 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	社会保障法の概念	社会保障が、国民の生活を保障するために、どのような役割を担っているのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	社会保障の概念とその役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	4月17日	医療保険について考える (ワークショップ)	医療保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
		この回の到達目標	医療保険の役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	4月24日	医療保険制度の概要	医療保険の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	医療保険制度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
4	5月1日	医療保険制度の課題	医療保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	医療保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	5月8日	労災保険制度について考える	労災保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
		この回の到達目標	労災保険の役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	5月15日	労災保険制度の概要	労災保険の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	労災保険制度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	労災保険制度の課題	労災保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	労災保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	5月29日	医療保険制度と労災保険制度の差異	医療保険制度と労災保険制度の差異を確認し、各制度における課題とその解決案について考える。	
		この回の到達目標	医療保険制度と労災保険制度の仕組みの差異について理解し、各制度における現代的な課題について、政策提案を含む私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	6月5日	雇用保険制度について考える	雇用保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。	
		この回の到達目標	雇用保険の役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	6月12日	雇用保険制度の概要	雇用保険の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	雇用保険制度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
11	6月19日	雇用保険制度の課題	雇用保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	雇用保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	6月26日	年金制度について考える	年金保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
		この回の到達目標	年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月分3日	年金制度の概要		年金保険の仕組みについて学ぶ。
		この回の到達目標	年金保険制度について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	7月10日	年金制度の課題		年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。
		この回の到達目標	年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	7月17日	前学期のまとめ試験及び振り返り		4つの社会保険制度について、それぞれの制度の仕組みを確認し、各制度の課題とその解決策について考える。
		この回の到達目標	4つの社会保険制度について、それぞれの制度の仕組みを理解し説明できるようにするとともに、各制度の課題とその解決策について私見を述べることができる。	
		事前学修	前学期講義内容を確認する。	120分
		事後学修	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	神尾 真知子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。社会保障法Ⅰは社会保険を中心に、社会保障法Ⅱは社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにすることを目標とする。

【履修条件】
社会保障法全体を理解するために、社会保障法Ⅰ及び社会保障法Ⅱを通して履修してほしい。社会保障法Ⅱから履修する学生は、教科書の前半を読んでおくこと。

【授業方法】
講義形式。社会福祉六法で条文を確認しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる事ができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識が身についているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べる事ができているか確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験（授業内試験を実施予定）のフィードバックは講義の最終回に行い、毎回の小テストのフィードバックは次の講義時に添削の上返却し、コメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トピック社会保障法 2 0 2 0 年版	本沢巳代子・新田秀樹編著	不磨書房	2 0 2 0 年	教科書	必携
社会福祉六法 2020年版		ミネルヴァ書房	2 0 2 0 年	教科書	必携
備考	上記 2 冊の教科書は講義に必須ですので、必ず購入してください。判例はプリントを適宜配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館4階444） kamio.machiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14 第二部月 9/14	【第1回 ガイダンス 社会 保障法Ⅱ 及び雇用保険の 仕組み】	社会保障法Ⅱから受講する学生のために、簡単な社会保障法のガイダンスを行った上で、社会保険のうち、雇用保険を取り上げ、仕組みを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、社会保障法を学ぶ意義を理解する。到達目標①に関連して、雇用保険の仕組みを理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
		事後学修	雇用保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。	120分
2	第一部月 9/21 第二部月 9/21	【第2回 「職業に就くこ と」に関する判例等】	社会保険のうち、雇用保険を取り上げ、重要な判例を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、雇用保険をめぐる判決の論理を理解し、説明できる。	
		事前学修	雇用保険関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
		事後学修	雇用保険関連判決の判旨を理解し、説明できるようにする。	120分
3	第一部月 9/28 第二部月 9/28	【第3回 保育サービスの種 類と仕組み】	社会福祉サービスのうち、児童福祉を取り上げて、保育サービスの種類と仕組みを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、保育サービスの種類と仕組みを理解し、説明できるようにする。到達目標③に関連して、日本の保育サービスの課題を理解し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	社会福祉サービスとは何か、保育サービスの種類と仕組みを確認する。現状の課題を理解する。	120分
		事後学修	保育サービスはどのような種類があり、どのような仕組みなのかを理解し、説明できるようにする。現状の課題に対する自分の意見を考察する。	120分
4	第一部月 10/5 第二部月 10/5	【第4回 保育所への入所承 諾義務付け等に関する判 例】	社会福祉サービスのうち、児童福祉を取り上げて、保育サービスをめぐる重要判例を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、保育サービスをめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
		事前学修	保育関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
		事後学修	保育関連判決の判旨を理解し、説明できるようにする。	120分
5	第一部月 10/12 第二部月 10/12	【第5回 児童手当の仕組 み】	社会手当のうち、児童手当を取り上げ、仕組みについて学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、児童手当の仕組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	社会手当とは何か、児童手当とは何かを確認する。	120分
		事後学修	児童手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
6	第一部月 10/19 第二部月 10/19	【第6回 フランスの子育て 支援のための社会手当】	日本の社会手当と比較するために、フランスの子育てのための社会手当である家族給付について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、フランスの家族給付制度の理念と制度のあり方と比較して、日本の子育て支援の社会手当のあり方も問題点を理解し、自分の意見を述べるようにする。	
		事前学修	フランスの子育てに関連する社会手当について確認する。	120分
		事後学修	フランスの社会手当と日本の社会手当の違いを理解し、説明できるようにし、日本の社会手当のあり方に対して自分の意見を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26 第二部月 10/26	【第7回 児童扶養手当の仕組み】	社会手当のうち、児童扶養手当を取り上げ、その仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び③に関連して、児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにし、児童扶養手当の問題点に対する自分の意見を述べられるようにする。	
		事前学修	児童扶養手当の仕組みを確認する。	120分
		事後学修	児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにし、自分の意見を考察する。	120分
8	第一部月 11/9 第二部月 11/9	【第8回 併給調整規定の違憲性等の判例】	社会手当のうち、児童扶養手当を取り上げ、重要な判例を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、児童扶養手当をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
		事前学修	児童扶養手当関連判決に関連する知識を確認する。	120分
		事後学修	児童扶養手当関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
9	第一部月 11/16 第二部月 11/16	【第9回 障がい者福祉の仕組み】	社会福祉サービスのうち、障がい者福祉を取り上げ、その仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、障がい者福祉の仕組みを理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	障がい者福祉サービスはどのような仕組みかを確認する。	120分
		事後学修	障がい者福祉の仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
10	第一部月 11/23 第二部月 11/23	【第10回 ゲストスピーカー：障がい者福祉についての社会福祉法人理事長の講演】	社会福祉サービスのうち、障がい者福祉を取り上げ、社会福祉法人理事長として障がい者福祉に携わっている方の講演（ゲストスピーカー・予定）をお聞きして、障がい者福祉の現状の理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、障がい者福祉の実情を理解し、現状の課題に対する意見を述べられるようにする。	
		事前学修	障がい者福祉サービスにはどのようなものがあるのかを整理する。	120分
		事後学修	障がい者福祉の現状を考察し、自分の意見を述べられるようにする。	120分
11	第一部月 11/30 第二部月 11/30	【第11回 生活保護の仕組み】	公的扶助のうち、生活保護を取り上げ、その仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、生活保護の仕組みを理解し、説明することができる。	
		事前学修	公的扶助とは何か、生活保護の仕組みを確認する。	120分
		事後学修	生活保護はどのような場合にどのような手続きによって給付されるのかを理解し、説明できるようにする。	120分
12	第一部月 12/7 第二部月 12/7	【第12回 保護の補足性の原則】	公的扶助のうち、生活保護を取り上げ、保護の補足性の原則について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、保護の補足性の原則を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	生活保護支給の要件を確認する。	120分
		事後学修	保護の補足性の原則とは何かを理解し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14 第二部月 12/14	【第13回 保護の補足性と稼働能力の活用に関する判例等】	公的扶助のうち、生活保護を取り上げ、重要な判例について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、生活保護をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
		事前学修	生活保護関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
		事後学修	生活保護関連判決の判旨を確認する。	120分
14	第一部月 12/21 第二部月 12/21	【第14回 総まとめ】	これまで学んだことを復習し、授業内試験の準備をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後学期で学んだことを復習し、理解を確認する。	
		事前学修	講義ノートを確認し、これまでの学習を振り返り、授業内試験の準備をする。	120分
		事後学修	授業内試験を受けて、学習不足だった点は何かを検討する。	120分
15	第一部月 1/18 第二部月 1/18	【第15回 授業内試験とコメント】	授業内試験を行い、コメントする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、雇用保険、社会手当、障がい者福祉、生活保護についての理解を確認し、説明できる。	
		事前学修	後学期の講義内容を振り返り、復習する。	120分
		事後学修	授業内試験のコメントを受けて、後学期の学習の達成度を自分なりに評価する。	120分

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。社会保障法Ⅰは社会保険を中心に、社会保障法Ⅱは社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP ： 法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーを配り、その回で考えたこと、意見、質問等を記入してもらい、次の授業の最初にフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】				2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的の考察できる。【論理的・批判的思考力】						2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる ことができる。【問題発見・解決力】							2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識が身についているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べる事ができているか確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間内に実施した課題については、授業内に、最終回に実施した課題については、ポータルを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥 (著), 柴田 洋二郎 (著), 島村 暁代 (著), 橋爪 幸代	有斐閣	2019年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること）（メールアドレスは、ポータルにて連絡） 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	社会福祉制度及び生活保護制度の歴史と概念	社会福祉サービスと生活保護制度の歴史を踏まえ、それぞれの役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会福祉サービスと生活保護制度の歴史と各制度の役割を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	9月25日	子育て支援をめぐる制度の概要	子育て支援制度の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	子育て支援制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	10月2日	子育て支援をめぐる制度の課題	子育て支援制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	子育て制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。	120分
4	10月9日	児童虐待をめぐる制度の概要	児童虐待防止制度の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	児童虐待防止制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	10月16日	児童虐待をめぐる制度の課題	児童虐待防止制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	児童虐待防止制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	10月23日	障害者福祉について考える	障害者の福祉ニーズについて学ぶ。	
		この回の到達目標	障害者の福祉ニーズについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月30日	障害者福祉制度の概要	障害者福祉制度の仕組みについて学ぶ。
		この回の到達目標	障害者福祉制度の仕組みについて理解し、説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
8	11月6日	障害者福祉制度の課題	障害者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。
		この回の到達目標	障害者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
9	11月13日	高齢者福祉について考える	高齢者の福祉ニーズについて学ぶ。
		この回の到達目標	高齢者の福祉ニーズについて理解し、説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
10	11月20日	高齢者福祉制度の概要	高齢者福祉制度の仕組みについて学ぶ。
		この回の到達目標	高齢者福祉制度の仕組みについて理解し、説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく（2時間程度）。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。120分
11	11月27日	高齢者福祉制度の課題	高齢者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。
		この回の到達目標	高齢者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
12	12月4日	生活保護制度について考える	貧困問題と生活保護制度の役割について学ぶ。
		この回の到達目標	貧困問題と生活保護制度について理解し、説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月11日	生活保護制度の概要		生活保護制度の仕組みについて学ぶ。
		この回の到達目標	生活保護制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	12月18日	生活保護制度の課題		生活保護制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。
		この回の到達目標	生活保護制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	12月25日	後学期のまとめ試験及び振り返り		福祉サービス制度と生活保護制度について、それぞれの制度の仕組みを確認し、各制度の課題とその解決策について考える。
		この回の到達目標	福祉サービス制度と生活保護制度について、それぞれの制度の仕組みを理解し説明できるようにするとともに、各制度の課題とその解決策について私見を述べることができる。	
		事前学修	後学期講義内容を確認する。	120分
		事後学修	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。						2		2				
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。						2		2	2			
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。						2		2				
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。	40			40							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10		5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50		5	45							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに民間部門からのアプローチも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜3	イントロダクション、社会保障とは何か	社会保障とは何かについての概要を理解する。	
		この回の到達目標	社会保障の概念を理解すると同時に現代社会における社会保障の重要性を述べる。	
		事前学修	図書館等で社会保障の概要について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
2	金曜3	社会保障の理念 目的	現代社会に社会保障が果たす役割についてその理念・目的を理解する。	
		この回の到達目標	社会保障の理念目的について政治・経済・雇用・労働の側面から理解する。	
		事前学修	法学部における社会保障の理念、目的とは何かについて理解する。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
3	金曜3	社会保障の歴史（1）	イギリス救貧法と公的扶助	
		この回の到達目標	公的扶助の制度的源流としてイギリス救貧法について理解する。	
		事前学修	社会保障の源流であるイギリスの歴史について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
4	金曜3	社会保障の歴史（2）	ドイツ社会政策と社会保険制度	
		この回の到達目標	日本の社会保障制度の根幹をなす社会保険制度の源流としてドイツ・ビスマルク 積込保険制度について理解する。	
		事前学修	ドイツの宰相ビスマルクが創始した社会保険制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
5	金曜3	社会保障の歴史（3）	世界大恐慌とアメリカ社会保障法	
		この回の到達目標	世界で最初に立法化された社会保障法の源流として1930年代のアメリカの状況について理解する。	
		事前学修	ルーズベルト大統領のニューデール政策と、世界最初の社会保障法について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
6	金曜3	日本の社会保障の歴史（1）	明治大正期の労働保険	
		この回の到達目標	近代的労働屋の発生と、東京帝国大学の労働保険講座の発生前後の事情を理解する。	
		事前学修	日本の近代化とヨーロッパの社会保険制度の導入過程について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜3	日本の社会保障の歴史（2）	健康保険法の成立と展開	
		この回の到達目標	日本で最初の社会保険制度である健康保険法成立前後の事情を理解する。	
		事前学修	健康保険制度成立の経緯について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
8	金曜3	日本の社会保障の歴史（3）	年金制度の成立と展開	
		この回の到達目標	公的年金制度の最初である労働者年金保険法成立前後の事情を理解する。	
		事前学修	労働者年金制度の成立の経緯について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
9	金曜3	日本の社会保障の歴史（4）	戦後の体制変革と、いち早く行われた社会保障制度による福祉国家成立の事情について理解する。	
		この回の到達目標	社会保障制度審議会の成立と「社会保障制度に関する勧告」の発表について理解する。	
		事前学修	敗戦後の国家目標としての社会保障の確立の経緯について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
10	金曜3	日本の社会保障の歴史（5）	社会保障の拡大について理解する。	
		この回の到達目標	日本の高度経済成長と国民皆保険、皆年金から社会保障制度の完成までの時期について理解する。	
		事前学修	高度経済成長と国民皆保険、皆年金児童手当、老人医療費無料化につて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
11	金曜3	社会保障の給付と負担	社会保障費、社会保障関連費、社会保障給付費、国民医療費に就て理解する。	
		この回の到達目標	財政、経済の側面から社会保障関連統計について理解する。	
		事前学修	政府予算に占める社会保障の比率、社会保障給付費、国民医療費等について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
12	金曜3	効率と公平、新自由主義と社会保障	福祉国家の基盤としての社会保障の充実からの観点と、安定した経済財政基盤としての社会保障の観点についてそれぞれ理解する。	
		この回の到達目標	ILOによる社会保障の見方と、OECDによる社会保障の見方について理解する。	
		事前学修	2000年以降の社会保障構造改革の動きについて調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜3	政治と社会保障	日本における歴代政権の社会保障政策を分析し、国家財政政策、政権交代が及ぼす影響について理解する。	
		この回の到達目標	日本の国内政治がどのように社会保障政策に影響を及ぼしたかについて理解する。	
		事前学修	社会保障と政治動向について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
14	金曜3	最近の社会保障政策の動き	社会保障国民会議答申と、最近の全世代型社会保障について理解する。	
		この回の到達目標	社会保障が当面する課題についての的確にとらえる。	
		事前学修	社会保障国民会議による社会保障の指針と政府の実行状況について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
15	金曜3	今学期のまとめ	社会保障とは何か、どこからきてどこに行くのかについてまとめる。	
		この回の到達目標	ば厘と～今学期における社会保障の全体像について理解する。	
		事前学修	今学期の講義概要をまとめる。（2時間）	120分
		事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。教科書は毎週持参のこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。	30			30	20						80
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10		5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40		5	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに民間部門からのアプローチも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	金曜3	公的年金制度1	国民年金制度の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	国民年金制度全般について理解する。	
		事前学修	国民年金制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
2	金曜3	公的年金制度2	厚生年金制度の仕組み、保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	厚生年金保険法、厚生年金制度について理解する。	
		事前学修	厚生年金制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
3	金曜3	公的年金制度3	国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度の内容について。	
		この回の到達目標	国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度等の内容について理解する。	
		事前学修	(国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度について調べる。2時間)	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
4	金曜3	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合）、共済組合制度	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合、公務員共済組合）について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	いわゆる被用者保険制度としての医療保険について理解する。	
		事前学修	健康保険制度、共済組合制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
5	金曜3	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について理解する。	
		事前学修	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について調べる（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
6	金曜3	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度の特徴について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	労働者災害補償保険法（労災保険法）、労働者災害補償保険制度について理解する。	
		事前学修	労働者災害補償保険(労災保険)制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	金曜3	雇用保険制度・基本手当	雇用保険制度の失業給付（基本手当）の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	雇用保険法、雇用保険制度の内容について理解する。	
		事前学修	雇用保険の基本手当について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
8	金曜3	雇用保険制度・基本手当以外	雇用保険の基本手当以外の各手当制度の給付内容、給付額その他について。	
		この回の到達目標	雇用保険の基本手当以外の給付の種類とその内容について理解する。	
		事前学修	雇用保険の基本手当以外の各手当制度の給付内容を調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
9	金曜3	介護保険制度	介護保険法及び介護保険制度について。保険料、財源、給付額その他について。	
		この回の到達目標	介護保険法及び介護保険制度全般について理解する。	
		事前学修	介護保険制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
10	金曜3	生活保護制度について	生活保護の給付財源、給付内容、給付の申請、認定、保護の種類、給付内容等について。	
		この回の到達目標	生活保護法及び生活保護制度全般について理解する。	
		事前学修	公的扶助（生活保護）について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
11	金曜3	児童に関する社会的給付	児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当について。保険料、財源、給付額その他について各制度の保険料、社会支出、財源、給付内容等について。	
		この回の到達目標	子供の貧困に関連する児童手当制度、児童扶養手当制度、特別児童扶養手当制度について理解する。	
		事前学修	児童手当制度、児童の社会的給付制度について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
12	金曜3	社会保障の国際比較	社会保障の国際比較と国際比較から見たわが国の特徴。	
		この回の到達目標	日本の社会保障制度の特徴を国際統計から理解する。	
		事前学修	欧米先進国と比較した日本の社会保障の特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	金曜3	社会保障の適正な在り方についての考察	マスメディアの論調にみる社会保障費の取り上げ方とその見方	
		この回の到達目標	マスメディアの論調にみる社会保障費の取り上げ方とその見方を分析し、社会保障の論点を理解する。	
		事前学修	新聞その他のメディアによる日本の社会保障の取り上げ方の特徴について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
14	金曜3	労働・雇用と社会保障	労働・雇用と社会保障との関係と望ましい在り方に関する提言。	
		この回の到達目標	社会保障制度は日本の労働・雇用とどのように関連しているかについて理解する。	
		事前学修	労働・雇用と社会保障との関係について調べる。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）	120分
15	金曜3	まとめ	日本の社会保障の今日的要件と将来予測	
		この回の到達目標	社会保障Ⅱで学んだ社会保障制度から、将来にわたりどのような方向を目指すべきかについて議論する。	
		事前学修	今学期のまとめ。（2時間）	120分
		事後学修	今学期の授業で配布されたプリント、作成したノートをもとに全体をまとめる。（2時間）	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	山村 りつ	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。教科書は毎週持参のこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。	30			30	20						80
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10		5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40		5	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説をポータルシステムを通じて配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会保障法便覧2019年度版	編集委員長 矢野聡	労働調査会	2019	教科書	必携
社会福祉士基礎講座『社会保障論』		中央法規出版	2020	参考書	任意
日本公的年金政策史研究	矢野聡	ミネルヴァ書房	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木・金曜日11:30-13:00前まで 研究室（本館9階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	オリエンテーション：授業の進め方についての説明 イントロダクション：社会保障政策を理解するために必要な基本知識を説明する。	
		この回の到達目標	社会保障制度の枠組みを図示できるようになる。	
		事前学修	社会保障各制度の予習をする。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
2	9/22	社会保障と経済	社会保障政策と密接なかかわりのある経済理論と、その関係性について説明する。	
		この回の到達目標	社会保障の各種制度・政策に資本主義経済が与える影響を説明できるようになる。	
		事前学修	社会保障と財源、景気動向の関係について予習をする。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
3	9/29	医療保障①	医療保障制度の中でも、我が国の公的保険制度による保証システムについて説明する。	
		この回の到達目標	自分が加入する健康保険制度の保険者と加入要件について説明できるようになる。	
		事前学修	自分が加入している医療保険制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
4	10/6	医療保障②	公的保険制度以外の方法による医療保障制度について説明する。	
		この回の到達目標	公的保険制度以外の方法をとる国を一つあげ、日本との違いを説明できるようになる。	
		事前学修	アメリカおよびイギリスの医療保障体制について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
5	10/13	所得保障①	日本の公的年金制度による所得保障制度について説明する。	
		この回の到達目標	所得保障に係る公的年金制度をあげ、受給要件を説明できるようになる。	
		事前学修	自分および自分の家族が加入している所得保障機能のある公的年金制度を調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
6	10/20	所得保障②	日本の公的扶助制度による所得保障制度について説明する。	
		この回の到達目標	公的扶助と公的保険のそれぞれによる所得保障の違いと特徴について説明できるようになる。	
		事前学修	生活保護制度と社会手当制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	所得保障③	社会手当とその役割について説明する。	
		この回の到達目標	社会手当の機能を生活保護・年金制度との関係を踏まえて説明できるようになる。	
		事前学修	日本にある社会手当制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
8	11/10	労働保障①	労働災害と積極的労働市場政策について説明する。	
		この回の到達目標	雇用保険と労災保険の違いおよびそれぞれの役割について説明できるようになる。	
		事前学修	労働者が加入する保険制度について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
9	11/17	労働保障②	労働者の権利保障に関する政策を制つめいする。	
		この回の到達目標	労働者の権利を守るための仕組みを図示し、説明できるようになる。	
		事前学修	労働三法とそれぞれの役割について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
10	11/24	日本の貧困問題	生活困窮者対策及び子どもの貧困などの、貧困問題に関する取り組みについて説明する。	
		この回の到達目標	日本の貧困問題を格差との関係を踏まえて説明できるようになる。	
		事前学修	貧困の連鎖について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
11	12/1	社会保障財政	国家予算に占める社会保障の割合、社会保障給付費、国民医療費等の統計の読み方と年次推移について説明する。	
		この回の到達目標	日本の社会保障給付費の特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	国家予算に占める社会保障の割合、社会保障給付費等について調べる	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
12	12/8	福祉国家論	エスピン・アンデルセンによる社会保障の分類及びOECD、EU加盟諸国等との国際比較から見たわが国の特徴について説明する。	
		この回の到達目標	福祉国家レジーム論における日本の位置づけについて、自らの意見を述べられるようになる。	
		事前学修	欧米先進国と比較した日本の社会保障の特徴について調べる	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	労働と社会保障の関係	社会保障政策における労働を、その機能および方法論の観点から説明する。	
		この回の到達目標	労働と社会保障制度の関係について自らの意見を述べられるようになる。	
		事前学修	労働と社会保障制度の相互関係について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
14	12/22	社会保障と地方分権	地方分権が社会保障制度に与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	地方分権が社会保障制度にもたらすメリットとデメリットを比較しつつ説明できるようになる。	
		事前学修	社会保障制度における地方分権化について調べる。	120分
		事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
15	1/12	まとめと総括	まとめ 日本の社会保障制度・政策の特徴を整理し、これまでの授業で出た疑問などについてフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、日本の社会保障制度のとるべき方向性について自らの意見を述べられるようになる。	
		事前学修	今学期の講義概要をまとめる。	120分
		事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る	120分

科目名	出版メディアⅠ	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。 たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1、2、3。

【履修条件】
①将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、②本がなければ生きていけない「書痴」。それ以外の者、特に月1～2冊程度の読書習慣がないものには、つらいだけなので無理に受講しないでください。

【授業方法】
前半は、主に新聞記事（配布します）をもとにした、最近の話題や新刊などについてライブ解説。後半は、出版にまつわる基礎知識。本に興味がないひとには、たいへんつらい授業。課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【本を読む力】1冊の本を精読し、ポイントを整理しながら全体を理解できる。				3	3	3	3				
②	【文章力】読者に伝わる正確な日本語の文章力／メディア入社試験で最低でも最初の書類選考を通過できる作文能力を身に付ける。				3	3	3	3				
③	【出版状況に対する現状理解】いまの出版界がどのような状況にあるのか、これからどうなるのかを正確に理解できる。				3	3	3	3				
④	【授業への常識的な参画】遅刻や欠席をせず、時間を守って授業に参加することで、社会人への予習的な習慣を身に付ける。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	月に1回（前期で3回）、課題書籍を題材とした「書評」を提出する。これによって到達目標①②の実力を身に付ける。3本そろって初めて評価対象とする。月1冊の読書・書評執筆は意外とたいへんな作業になることを承知しておいてほしい。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	全回出席を平常点とし、到達目標③④を身に付ける。遅刻・欠席に応じて減点対象とする。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題（書評）は、原則として翌週に朱字添削と採点を施して、サンプルとあわせて返却し、解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。わたしは、原則として10：00過ぎには教室に入っています。時間を要しそうな場合は、個別に、あらためて時間設定します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版社で足かけ40年の編集者生活。並行して音楽ライター歴20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		プロ編集者・校閲者のレベルで課題（書評）を朱字添削します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。	
		この回の到達目標	この講義の概要を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
2	第一部 土4/11	出版業界	出版業界の現況～なぜ、本はこんなに売れないのか。	
		この回の到達目標	出版業界の現状を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
3	第一部 土4/18	書籍造本	本の構造～なぜ、本は「16頁」の倍数でできているのか。	
		この回の到達目標	書籍の造本構造を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆現在読んでいる本を、1冊、持参すること。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆書店で、本の「台割」と「奥付」を気にかける。	120分
4	第一部 土4/25	雑誌造本	雑誌の構造～なぜ、週刊誌は、前と後ろにグラビアがあるのか。	
		この回の到達目標	雑誌の造本構造を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆その週の木曜日に発売された「週刊文春」を持参すること。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊誌と月刊誌の「製本」のちがいを気にかける。	120分
5	第一部 土5/2	ベストセラー	戦後の主なベストセラー～なぜ、いまも昔も、漱石『こころ』が文庫売り上げ第1位なのか。	
		この回の到達目標	ベストセラーの条件を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆いま売れている本の「理由」を気にかける。	120分
6	第一部 土5/9	文庫と新書	文庫・新書の歴史～なぜ、書店には、あんなに新書があふれているのか。	
		この回の到達目標	文庫と新書の歴史と現状を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆文庫か新書を、1冊、持参すること。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆大型書店の新書売り場を、隅々まで眺めてほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	雑誌	雑誌の歴史～なぜ、週刊新潮と週刊文春は同じ発売日なのか。	
		この回の到達目標	週刊誌の歴史と現状を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊文春に目を通してほしい。	120分
8	第一部 土5/23	図書館	図書館問題～なぜ、人々は本を買わないで、借りるのか。	
		この回の到達目標	図書館問題の要点を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆身近な公共図書館が、どのような状況になっているかを「体験」してほしい。	120分
9	第一部 土5/30	コミック	コミック編集・出版の世界～なぜ、ゴルゴ13の銃口の向きは決まっているのか。	
		この回の到達目標	コミック編集の特徴を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆漫画雑誌、もしくはコミック本を1冊、持参すること。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆話題の漫画に目を通してほしい。	120分
10	第一部 土6/6	電子出版	電子出版、ネット書店について～なぜ、アマゾン送料を取らずにやっていけるのか。	
		この回の到達目標	電子出版の現状を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆青空文庫でいいので、一度、「デジタル」で本を読んでみてほしい。	120分
11	第一部 土6/13	取次	取次とは～なぜ、書店で本を注文すると2週間かかるのか。	
		この回の到達目標	出版流通の現状を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆ウェブサイトでもいいので、「取次」の業態について知っておいてほしい。	120分
12	第一部 土6/20	出版契約	出版契約について～なぜ、本は3年たたないと文庫にならないのか。	
		この回の到達目標	出版契約について理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆所有している「文庫」の、単行本初出時期を気にかけてほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	著作権	著作権の話～なぜ、ミッキーマウスの著作権は、いつまでも切れないのか。	
		この回の到達目標	著作権の概要を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆奥付にマルＣ表示がある本とない本があることを、気にかけてほしい。	120分
14	第一部 土7/4	映像化	本の映像化について～なぜ、映画化すると、ほとんどがつまらなくなるのか。	
		この回の到達目標	本の映像化の条件について理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆どんな作品でもいいので、原作（小説）と映画のちがいを、比較してみてほしい。	120分
15	第一部 土7/11	まとめ	まとめ。前期中にできなかったテーマは、後期（出版メディアⅡ）で解説する予定です。	
		この回の到達目標	いままで触れられなかった問題点について理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分

科目名	出版メディアⅡ	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「Ⅰ」に準ずる。基本的にⅠの延長線。出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「Ⅰ」に準ずる。将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。 たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。
関連D P 及びC P：新聞学科1、2、3。

【履修条件】
①「Ⅰ」履修者。②将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、③本がなければ生きていけない「書痴」。

【授業方法】
「Ⅰ」に準ずるが、この「Ⅱ」では、業界専門紙の記事を配布資料に加え、前半はニュース解説、後半は出版にまつわる基礎知識。「Ⅰ」同様、課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【本を深く読む力】1冊の本を精読し、ポイントを整理しながら全体を理解、類書にも興味を広げる力を身に付ける。				3	3	3	3				
②	【プロに近い文章力】読者に伝わる正確な日本語で、プロの書評家に近いレベルの文章を書く力を身に付ける。				3	3	3	3				
③	【未来の出版状況に対する理解】今後の出版界がどのようになるかを正確に予測・理解できる力を身に付ける。				3	3	3	3				
④	【授業への常識的な参画】遅刻や欠席をせず、時間を守って授業に参加することで、社会人への予習的な習慣を身に付ける。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	「Ⅰ」同様、月に1回（前期で3回）、課題書籍を題材とした「書評」を提出する。これによって到達目標①②の実力を身に付ける。3本そろって初めて評価対象とする。月1冊の読書・書評執筆は意外とたいへんな作業になることを承知しておいてほしい。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	「Ⅰ」同様、全回出席を平常点とし、到達目標③④を身に付ける。遅刻・欠席に応じて減点対象とする。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題（書評）は、原則として翌週に朱字添削と採点を施して、サンプルとあわせて返却し、解説します。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度

【オフィスアワー】
何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。わたしは、原則として10：00過ぎには教室に入っています。時間を要しそうな場合は、個別に、あらためて時間設定します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版社で足かけ40年の編集者生活。並行して音楽ライター歴20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		プロ編集者・校閲者のレベルで課題（書評）を朱字添削します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。	
		この回の到達目標	この講義の概要を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
2	第一部 土9/26	新聞の書評	新聞の書評欄、そのちがいを。	
		この回の到達目標	新聞書評の特徴を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆複数の全国紙の書評欄を読み比べてほしい。	120分
3	第一部 土10/3	週刊誌の書評	週刊誌の書評欄、そのちがいを。	
		この回の到達目標	週刊誌書評の特徴を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1誌でいいので、週刊誌の書評欄をつづけて読んでほしい。	120分
4	第一部 土10/10	ネットの書評	代表的なネット書評について。	
		この回の到達目標	ネット書評の特徴を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆気に入ったネット書評をブックマークして読む習慣を身に付けてほしい。	120分
5	第一部 土10/17	ノーベル文学賞	ノーベル文学賞について。	
		この回の到達目標	ノーベル文学賞の概要を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1作くらいは、ノーベル文学賞受賞作を読んでほしい。	120分
6	第一部 土10/24	芥川賞、直木賞	芥川賞、直木賞について。	
		この回の到達目標	芥川賞、直木賞の概要を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1作くらいは、芥川・直木賞受賞作を読んでほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	文学賞	そのほかの文学賞について。	
		この回の到達目標	芥川・直木賞以外の主な文学賞について知る。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆講義で紹介した文学賞の受賞作を読んでほしい。	120分
8	第一部 土11/8	神保町	世界最大の古書店街・神保町について。	
		この回の到達目標	神保町の特色を知る。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆実際に神保町を歩いてほしい。	120分
9	第一部 土11/14	ミステリ	日本の4大ミステリ・ランキングについて。	
		この回の到達目標	ミステリ小説の世界を知る。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆漫画雑誌、もしくはコミック本を1冊、持参すること。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆賞を多く受賞したミステリを読んでほしい。	120分
10	第一部 土11/21	映画	出版社・取次が製作した映画について。	
		この回の到達目標	出版界と映画界の関係を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆講義で紹介した映画を1作くらいは観てほしい。	120分
11	第一部 土11/28	和本	和本について。	
		この回の到達目標	洋書（現代の本）と和本（江戸時代以前の本）のちがいを理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆神保町の古書店で、実際に「和本」に触れてほしい。	120分
12	第一部 土12/5	イベント	ブック・イベントについて。	
		この回の到達目標	主なブック・フェアなどのイベントを知る。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆機会があれば、紹介したブック・イベントに実際に行ってほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	2020年出版界	2020年の出版界の出来事を振り返る。	
		この回の到達目標	2020年が出版界にとってどんな年だったか、理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆来年に影響を及ぼしそうな出来事をウォッチしつづけてほしい。	120分
14	第一部 土12/19	2020年ベストセラー	2020年ベストセラー・ランキング解説。	
		この回の到達目標	2020年のベストセラーの特色を理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆2020年のベストセラーから、1冊くらい読んでほしい。	120分
15	第一部 土12/26	まとめ	まとめ。前期中にできなかったテーマなど。	
		この回の到達目標	いままで触れられなかった問題点について理解する。	
		事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
		事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分

科目名	上級簿記論Ⅰ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
上級簿記論Ⅰでは、日商簿記検定2級レベルの商業簿記について、基本的な計算原理と記帳技術を学修する。また、財務諸表の作成・公表に関する制度も学修する。なお、この授業は日商簿記検定の受験に役立つが、合格指導を目的としたものではないので注意すること。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業の目的は次の2つである。第1に、実践的に活用可能なレベルにまで簿記の知識とスキルを高めることである。第2に、簿記処理の意義と仕組みを財務諸表の作成・公表に関する制度とともに理解し、説明できるようになることである。

【履修条件】
日商簿記検定3級レベルの学習を終えていること。授業に出席し、事前事後の学修に取り組めること。

【授業方法】
プリントをもとに質疑応答を交えながら授業を進める。学生はテキストを参照しながら事前学修に努め、事後学修を通じて知識の定着とスキルアップを図る。なお、授業内でのモバイル使用は認めていないので筆記具や電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質疑応答を交えた双方向型の授業	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	簿記の意義と財務諸表の役割について、社会制度との関係から理解し、説明することができるようになる。【知識】				2	2						
②	財務諸表の構成内容を理解し、現物の財務諸表から企業の経営状況を考察して説明することができるようになる。【技能】						2	2	2			
③	主たる事業活動の記帳・計算に関する知識とスキルを修得し、手際よく記帳・計算の処理ができるようになる。【知識】【技能】				2	2						
④	簿記や財務諸表に関する論点について、授業内での質疑応答を通じて、自分の考えを述べるようになる。【態度・習慣】						2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	中間と期末の2回の授業内試験をもとに、到達目標①②③に関する理解度やスキルのレベルについて評価する。	20	14	26								60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートの様式と内容をもとに、到達目標②について評価する。		16									16
討論・発表等												
授業への参画度	学修態度や質疑応答への取り組み方をもとに、到達目標④について評価する。				24							24
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	26	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については試験終了後ただちに答え合わせと確認を行う。レポートの講評は、授業内または後日ポータルシステムにて伝える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
エッセンス簿記会計【第16版】	新田忠誓他著	森山書店	2020年4月発行	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10－12:20、授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンスと履修相談	授業概要、目的と目標、履修条件、授業の進め方、成績評価の方法、勉強の進め方について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④について理解し、自らの学修目的と合致するかを確認する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、日商簿記3級レベルの学習内容について、各自で理解度を確認する。	180分
		事後学修	ガイダンスプリントの内容を読み返し、自分の学習計画とあわせて履修の可否を検討する。	60分
2	4/16	簿記一巡の手続き	簿記の目的と一巡の手続きについて	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、簿記の目的と全体像を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第4章「簿記の概観」の箇所を読み込む。分からない箇所は事前に調べる。	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストの練習問題を解く。	150分
3	4/23	財務諸表の開示	会社法と金融商品取引法による財務諸表の開示規則について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、財務諸表の開示規制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第20章「決算書の公表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、インターネット等を使って各社の財務諸表を閲覧する。	180分
4	4/30	貸借対照表	報告式の区分貸借対照表の様式と仕組みについて	
		この回の到達目標	到達目標②④に関して、貸借対照表の意義と仕組みを理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第20章「貸借対照表の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、実際の貸借対照表を閲覧、各社の比較をする。	180分
5	5/7	損益計算書	報告式の区分損益計算書の様式と仕組みについて	
		この回の到達目標	到達目標②④に関して、損益計算書の意義と仕組みを理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第20章「損益計算書の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、実際の損益計算書を閲覧、各社の比較をする。	180分
6	5/14	財務諸表の作成	報告式の区分貸借対照表と区分損益計算書の作成について	
		この回の到達目標	到達目標②④に関して、貸借対照表と損益計算書の作成方法を理解し、自ら作成することができる。	
		事前学修	第4回と第5回の授業プリントとテキストを確認しながら、報告式の区分貸借対照表と区分損益計算書の計算内容を予習する。	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、報告式の区分貸借対照表と区分損益計算書を作成できるように練習する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/21	中間試験とフィードバック	試験及び解答と質疑
		この回の到達目標	到達目標①②に関しての知識とスキルの定着を図る。
		事前学修	第2回から第6回までの授業プリントとテキストを総復習し試験に備える。180分
		事後学修	間違えた箇所を授業プリントとテキストに戻って確認する。60分
8	5/28	売上総利益の計算	棚卸減耗費と商品評価損を含む売上原価・売上総利益の計算原理について
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、売上総利益の計算について理解し、説明することができる。
		事前学修	テキスト第6章「売上原価・売上総利益の計算」と「棚卸減耗費と商品評価損」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと例題を解く。150分
9	6/4	棚卸減耗費と商品評価損	棚卸減耗費と商品評価損を含む売上原価・売上総利益の計算と財務諸表について、消費税の処理について
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、棚卸減耗費と商品評価損の計算・記帳について理解し、説明することができる。
		事前学修	テキスト第6章「消費税の処理」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。180分
10	6/11	引当金	貸倒れの処理と貸倒引当金について、商品保証引当金とその他の負債性引当金について
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、引当金の計算・記帳について理解し、説明することができる
		事前学修	テキスト第8章「掛取引の記録と管理」と第7章「商品保証引当金」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。180分
11	6/18	手形	手形の意義と取引の記録、手形の不渡り、手形の更改について
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、手形の記帳について理解し、説明することができる
		事前学修	テキスト第9章「手形取引の記録と資金の管理」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。180分
12	6/25	電子記録債権と債務	電子記録債権債務の取引の仕組みと記録について、外貨取引の処理について
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、電子記録債権債務の記帳について理解し、説明することができる
		事前学修	テキストにて第10章「電子記録債権債務」と第19章「海外取引」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	銀行勘定調整表	銀行勘定調整表の意義と作成について	
		この回の到達目標	到達目標③④に関して、銀行勘定調整表について理解し、説明することができる	
		事前学修	テキスト第10章「銀行勘定調整表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	180分
14	7/9	期末試験とフィードバック	試験及び解答と質疑	
		この回の到達目標	到達目標③に関しての知識とスキルの定着を図る。	
		事前学修	第8回から第13回までの授業プリントとテキストを総復習し試験に備える。	180分
		事後学修	間違えた箇所を授業プリントとテキストに戻って確認する。	60分
15	7/16	財務諸表の活用	財務諸表からみた企業の経営状況についての考察	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、現物の財務諸表から企業の経営状況を考察し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	任意の企業を選択し、財務諸表をもとに企業の経営状況を考察し、レポートを作成・提出する。	210分
		事後学修	講評をもとにレポートの内容を見直す。	30分

科目名	上級簿記論Ⅱ	担当者	大野 智弘	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
上級簿記論Ⅱでは、日商簿記検定2級レベルの商業簿記について、基本的な計算原理と記帳技術を学修する。また、決算手続きについても学修する。なお、この授業は日商簿記検定の受験に役立つが、合格指導を目的としたものではないので注意すること。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業の目的は次の2つである。第一に、実践的に活用可能なレベルにまで簿記の知識とスキルを高めることである。第2に、期中の仕訳等とともに、一連の決算手続きについて理解を深め、特に八桁精算表を正確に手際よく作成できるようになることである。

【履修条件】
日商簿記検定3級レベルの学習を終えていること。授業に出席し、事前事後の学修にも取り組めること。

【授業方法】
プリントをもとにして質疑応答を交えながら授業を進める。学生はテキストを参照しながら事前学習に努め、事後学修を通じて知識の定着とスキルアップを図る。なお、授業内でのモバイル使用は認めていないので筆記具や電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質疑応答を交えた双方向型の授業	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	資金調達と運用に関する記帳・計算の知識とスキルを修得し、手際よく記帳・計算の処理ができるようになる。【知識】 【技能】					2	2						
②	決算手続に関する記帳・計算の知識とスキルを修得し、正確に手際よく八桁精算表を作成できるようになる。【知識】 【技能】					2		2	2				
③	現代社会における簿記の意義や目的について調査し、自分の考えを述べるができるようになる。【技能】						2			2			
④	簿記や財務諸表に関する論点について、授業内での質疑を通じて、自分の考えを述べるができるようになる。【態度・習慣】							2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	中間と期末の2回の授業内試験をもとに、到達目標①②に関する理解度やスキルのレベルについて評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートの様式と内容をもとに、到達目標②について評価する。			16								16
討論・発表等												
授業への参画度	学修態度や質疑応答への取り組み方をもとに、到達目標④について評価する。				24							24
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	16	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については試験終了後ただちに答え合わせと確認を行う。レポートの講評は、授業内あるいは後日ポータルシステムにて伝える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
エッセンス簿記会計【第16版】	新田忠誓他著	森山書店	2020年4月発行		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12：10－12：20、授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	ガイダンスと履修相談	授業概要、目的と目標、履修条件、授業の進め方、成績評価の方法、勉強の進め方について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④について理解し、自らの学修目的と合致するかを確認する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、日商簿記3級レベルの学習内容について、各自で理解度を確認する。	180分
		事後学修	ガイダンスプリントの内容を読み返し、自分の学習進度及び学習計画とあわせて履修の可否を検討する。	60分
2	9/24	純資産	貸借対照表の様式と内容及び純資産の部の詳細について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、貸借対照表における純資産の部の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第20章「貸借対照表の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、実際の貸借対照表を閲覧、各社の比較をする。	150分
3	10/1	資本金と資本準備金	株式の発行とその処理について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、資本金と資本準備金に関する処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章「会社を作る」と第13章「増資」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	150分
4	10/8	合併の処理	繰延資産と合併の処理について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、合併の処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「繰延資産」と「合併」に関する簿記処理について参考書を活用して予習する。	90分
		事後学修	授業プリントと参考書で復習し、参考書の練習問題を解く。	150分
5	10/15	利益処分	当期純利益の計算と利益処分に関する処理について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、利益処分に関する処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第15章「損益勘定」と第17章「繰越利益剰余金」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと例題を解く。	150分
6	10/22	株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の作成について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、株主資本等変動計算書の意義と作成方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第17章「株主資本等変動計算書」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストの練習問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	中間試験とフィードバック	試験及び解答と質疑	
		この回の到達目標	到達目標①に関しての知識とスキルの定着を図る。	
		事前学修	第2回から第6回までの授業プリントとテキスト及び参考書を総復習し試験に備える。	180分
		事後学修	間違えた箇所を授業プリントとテキスト及び参考書に戻って確認する。	60分
8	11/5	社債	社債の発行から償還に至る一連の処理について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、社債に関する処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第13章「社債」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	150分
9	11/12	有価証券	有価証券の分類と各種有価証券の処理について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、有価証券に関する処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第14章「有価証券」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	90分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	150分
10	11/19	固定資産	固定資産に関する一連の処理について	
		この回の到達目標	到達目標①④に関して、固定資産に関する処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第12章「固定資産」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	180分
11	12/3	決算整理	決算手続きと決算整理事項及び決算整理仕訳について	
		この回の到達目標	到達目標②④に関して、決算手続きの意義と決算整理に関する処理を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第15章「棚卸表の作成と決算整理」の箇所を読み込む。決算整理に関する箇所をテキストをもとに整理する。	120分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、決算整理に関するテキストの例題及び練習問題を解く。	120分
12	12/10	八桁精算表	八桁精算表の作成について	
		この回の到達目標	到達目標②④に関して、八桁精算表の意義と作成手続きを理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第15章「精算表の作成」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと練習問題を解く。さらに参考書を活用して問題演習をする。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	財務諸表	決算整理と財務諸表の作成について	
		この回の到達目標	到達目標②④に関して、財務諸表の作成について理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト第20章「貸借対照表と損益計算書の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	60分
		事後学修	授業プリントとテキストを復習し、参考書を活用して問題演習をする。	180分
14	12/24	期末試験とフィードバック	試験及び解答と質疑	
		この回の到達目標	到達目標①②に関しての知識とスキルの定着を図る。	
		事前学修	第8回から第13回までの授業プリントとテキスト及び参考書を総復習し試験に備える。	180分
		事後学修	間違えた箇所を授業プリントとテキストに戻って確認する。	60分
15	1/14	簿記の意義と目的	現代社会における簿記の意義と目的についての考察	
		この回の到達目標	到達目標③に関して、簿記の意義や目的について調査し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	社会における簿記の意義と目的について、インタビューを交えてレポートを作成・提出する。	180分
		事後学修	講評をもとにレポートの内容を見直す。	60分

科目名	少年法Ⅰ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法犯に占める少年の割合が半数余にのぼる今、少年事件がどの様に処理されているかについて、少年法の理念や目的を概観しつつ、刑事司法との関係についてその異同を正しく理解するために、比較法的な視点を踏まえて学習を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非行少年が、被害者や地域社会との関係改善をどの様に図ることが、改善更生に繋がるかに関する知識を習得するために、刑事訴訟法の特別法である少年法が規定されたのか、その理念と制度設計の概要を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書は事前に読んできていることを前提にし、講義内容を補完するための資料配付は適宜行う。少年司法機関の職員等による講義も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、少年施設の見学を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	少年法を少年手続と刑事手続との比較を通して、その異同が理解できる					1	1					
②	少年審判の役割や機能について理解し、説明ができる。					1	1					
③	家庭裁判所が管轄権を有する理由を比較法的な側面から説明することができる。					1			1			
④	少年非行の背景にある社会的環境や人的環境要因について調べる。				1				1			
⑤	少年手続を巡る諸問題について考察し、自分の意見をのゝることができる。						1		1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	ディベートを踏まえた自分の意見を論理的に記述できるかについて、到達目標⑤に基づき評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削・返却、定期試験については論点の解説と面談を実施する。 レポートの添削・返却、定期試験については論点の解説と面談を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
少年法入門（第6版）	澤登俊雄	有斐閣	2015	教科書	必携
少年法判例百選		有斐閣	1998	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の16時20分から17時30分の間本館9階1904研究室で実施する。なお、事前予約が望ましい、oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp 曜日の16時20分から17時30分の間本館9階1904研究室で実施する。なお、事前予約が望ましい、oda.kiyotaka@nihon¥u.ac.

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	日本BBS連盟副会長、警視庁委員会委員等 日本BBS連盟副会長、警視庁委員会委員等 日本BBS連盟副会長、警視庁委員会委員等
実務経験に基づく実践的教育の内容		少年司法手続関係者による講義と施設見学を実施する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/9 第二部 4/4	少年法とは（歴史を含む）	少年法の理念や目的を刑事訴訟法との関係を踏まえて解説し、その歴史の変遷についても概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、少年法の理念や目的について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	刑事訴訟法との異同箇所を整理する	120分
2	4/16 4/11	少年非行の現状	少年非行の昭和23年以降現在に至るまでの推移、非行内容の変遷について概観し、現在の非行の特徴について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関する基礎知識を基に説明できる。	
		事前学修	警察白書を読んだり、警察庁のHPで調べておく	120分
		事後学修	昭和23年以降現在までの傾向をまとめてみる	120分
3	4/23 4/18	非行少年とは	少年法3条に規定されている非行少年と少年警察活動規則に規定されている不良行為少年の概念の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年法が扱う少年について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	刑事上未成年を含む、少年関連年齢についてまとめる	120分
4	4/30 4/25	少年司法手続に関わる人々	警察・検察・裁判・矯正・保護の各領域に関わる人々について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年に特化した対応が何故なされているかについて説明できる。	
		事前学修	どの範囲の専門家・非専門家が関与するかイメージしてみる	120分
		事後学修	非行（犯罪）の発生から処遇までに関わる人について、区分してみる	120分
5	5/7 5/1	少年審判と刑事裁判の異同について	少年審判と刑事裁判に関する手続の各段階における差異について概観し、その理由について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、何故その様な差異があるかについて説明できる	
		事前学修	犯罪白書の概略図や裁判所のHPを見ておく	120分
		事後学修	配付資料に加筆しておく	120分
6	5/14 5/9	アメリカ・イギリスの少年司法手続との異同について	家庭裁判システムと少年裁判所システムの差異、検察官の役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、その際について説明できる。	
		事前学修	現行少年法の母法であるイギリス・アメリカの少年法について調べてみる	120分
		事後学修	現行法との違いについて、何故その様な運用になっているのか考えてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21 5/16	少年警察の現状と課題	健全育成部門と事件処理部門の業務内容を踏まえ、少年警察の現状と課題について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連し、少年警察の役割について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所や警察庁のHPを読む	120分
		事後学修	健全育成と事件処理についてまとめる	120分
8	5/28 5/23	少年検察の現状と課題	全件送致主義下の検察官の役割と課題について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年係検察官の役割について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所や検察庁のHPを読む	120分
		事後学修	検察官の役割と機能についてまとめる	120分
9	6/4 5/30	触法少年とぐ犯少年の処遇	少年法と児童福祉法が重疊的に関わる年齢層の非行少年の処遇の差異について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連し、12歳以上14歳未満の少年が少年院に送致されることについて説明できる。	
		事前学修	教科書・刑法Ⅰの該当箇所を読む、また、ぐ犯とは何か考えてみよう	120分
		事後学修	児童福祉上の措置と少年法上の措置の異同についてまとめる	120分
10	6/11 6/6	家庭裁判所の機能と役割	事件受理から終局決定に至るまでの審判手続に付随する役割と機能について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連し、その役割について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読み、通常の裁判所との異同について調べてみよう	120分
		事後学修	他の第一審裁判所との異同についてまとめる	120分
11	6/18 6/13	家庭裁判所調査官の役割と機能	少年審判の訴訟対象との関係で、他の裁判手続には存在しない家庭裁判所調査官の役割役割と機能について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、家庭裁判所調査官の役割と機能について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	家庭裁判所調査官になるためにはどうすれば良いか調べてみる	120分
12	6/25 6/20	試験観察とParental Order	試験観察の役割と機能について、Parental Order との比較を通して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、試験観察の役割と機能について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読み、どんな種類があるか調べてみよう	120分
		事後学修	家庭裁判所の教育的機能についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2 6/27	少年鑑別所と観護措置	少年鑑別所の役割と観護措置の役割について、交流との差異を踏まえて解説する	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連し、少年鑑別所の役割と観護措置の役割が説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所・法務省のHPを読む	120分
		事後学修	役割と機能についてまとめる	120分
14	7/9 7/4	少年審判の構造と役割	少年審判の構造とその目的、役割について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤に関連し、少年審判の構造が少年の更生にどの様に役立っているか説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読み、職権主義構造と当事者主義構造の違いについて調べてみよう	120分
		事後学修	刑事司法と少年審判廷差異についてまとめる	120分
15	7/16 7/11	少年審判と適正手続	1965年のゴールト判決を受けて、米国でも日本でも適正手続の少年手続に果たすべき役割が大きく変化していることから、適正手続の運用の現状について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連し、少年審判における適正手続のあり方を説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所、刑事訴訟法・憲法の教科書を読む	120分
		事後学修	適正手続がどこまで認められるのかまとめる	120分

科目名	少年法Ⅱ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
家庭裁判所における終局決定後の保護処分や刑事処分の現状、及び少年による各種事案毎の概要と多王について概観しつつ、少年法の理念がどの様に反映されているかについて、比較法的な視点も踏まえて学習を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
保護処分の種類と内容、及び刑事処分以降の対応に関する知識を修得するために、少年法の理念がどの様に反映されているか、具体的事案に即してどの様な処遇が実施されているかを知る。

【履修条件】
刑法Ⅱ、刑事訴訟法を履修していることが望ましい。 刑法Ⅱ、刑事訴訟法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書は事前に読んできていることを前提にし、講義内容を補完するための資料配付は適宜行う。少年司法機関の職員等による講義も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、少年施設の見学を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	終局処分の類型と内容について理解し、説明することができる					1	1					
②	被害者や地域社会との関係改善をどの様に進めることが、更生と社会復帰に繋がるかを理解し、説明ができる。					1	1					
③	少年の刑事手続を巡る現状を理解し、説明できる。					1	1		1			
④	被害者の権利と保護の現象について理解し、少年法と刑事訴訟法上の取扱いの差異について理解し、説明できる。				1		1		1			
⑤	少年事件を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						1		1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	ディベートを踏まえた自分の意見を論理的に記述できるかについて、到達目標⑤に基づき評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削・返却、定期試験については論点の解説と面談を実施する。 レポートの添削・返却、定期試験については論点の解説と面談を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
少年法入門（第6版）	澤登俊雄	有斐閣	2015	教科書	必携
少年法判例百選		有斐閣	1998	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時20分～17時30分の間に本館9階1904号室で実施する。ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本BBS連盟副会長、警視庁委員会委員等 日本BBS連盟副会長、警視庁委員会委員等
実務経験に基づく実践的教育の内容		少年司法手続関係者による講義と施設見学を実施する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/17 第二部 9/19	審判不開始と不処分	全件送致主義が、審判不開始と不処分の割合が、少年事件のほぼ70%を占めていることから、両処分の法的性格と機能について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	不起訴処分と無罪との差異についてまとめる	120分
2	9/24 9/26	保護観察（1号観察）	保護観察制度の概要を踏まえ、1号観察を巡る課題について、制度設計と人的資源等との問題点を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書や法務省のHPで調べてみる	120分
		事後学修	課題と対策について考えてみる	120分
3	10/1 10/3	少年院送致と少年院における教育	少年院の収容分類と処遇内容を踏まえ、その現状と課題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書や法務省のHPで調べてみる	120分
		事後学修	少年院の種類と処遇内容の違いについて、教育内容を踏まえて整理してみる	120分
4	10/8 10/10	保護観察（2号観察）	少年院からの仮退院に伴う保護観察の現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読み、犯罪白書や法務省のHPでしらべてみる	120分
		事後学修	遵守事項とそのペナルティーについてまとめる。二重処罰の禁止に抵触しないか考えてみる	120分
5	10/15 10/17	児童福祉法上の措置	児童相談所における措置の現状と家庭裁判所への通告制度について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読み、児童相談所における触法少年への対応について調べておく	120分
		事後学修	処遇内容についてまとめる	120分
6	10/22 10/24	検察官送致と刑事処分（裁判員裁判を含む）	逆送、原則逆送事件処理における検察官の役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、その際について説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書・裁判所のHPで調べてみる	120分
		事後学修	原則逆送と逆送の違いについて整理してみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29 10/31	少年事件と修復的司法	少年手続への修復的司法の導入に向けた比較法的な視点から考察を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤に関連し、少年手続における修復的司法の可能性について説明できる。	
		事前学修	修復的司法について調べておく	120分
		事後学修	少年事件にどの様に反映可能かレポートにまとめる	120分
8	11/5 11/7	少年事件と被害者の権利・保護	少年法と刑事訴訟法による被害者の権利や保護に差異が生じるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連し、基本的な差異について理解し、説明できる。	
		事前学修	加害者が成人である場合と少年である場合で、被害者の権利や保護の内容に違いがあるのか考えておく	120分
		事後学修	配付資料に加筆して、まとめる	120分
9	11/12 11/14	Teen Court	軽微な非行に対する少年審判における米国との差異について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	webで調べてみる	120分
		事後学修	わが国への導入の可否についてレポートにまとめて、翌週提出	120分
10	11/19 11/21	少年事件報道	写真雑誌、週刊誌における実名報道と少年法61条の関係について、解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読み、新聞記事検索でしらべてみる	120分
		事後学修	少年法61条の意義と射程距離についてまとめる	120分
11	12/3 11/28	福祉犯と児童虐待	福祉犯の意味内容と児童虐待への対応について、その現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所・警察庁のHPを確認しておく	120分
		事後学修	防ぐ方法について考えてみる	120分
12	12/10 12/5	非行原因論	社会学・心理学的視点に基づいた非行原因論によって、実際の非行現象を解明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	実際に発生している少年事件に当てはめてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17 12/12	薬物非行とDrug Court	薬物の薬理効果を理解した上で、薬物非行の現状と対策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所や犯罪白書・警察白書を調べる	120分
		事後学修	Drug Courtは、日本に導入できるか考えてみる	120分
14	12/24 12/19	性非行	加害者被害者の両側面から、性非行の現状とその対策について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	警察白書・警察庁のHPで現状を調べる	120分
		事後学修	対策についてまとめる	12分
15	1/14 12/26	交通非行とTraffic Court	道交法事件を対象にした、交通部での処理と交通保護観察の現状と課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	警察白書で現状を調べる	120分
		事後学修	Traffic Courtは、日本でも使えるか考えてみる	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	梅村 悠	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
「法人」に関する特別ルールを勉強することになるため、少なくとも「民法Ⅰ（民法総則）」を履修済みであることを必要とする。

【授業方法】
講義形式で実施するが、適宜、受講者に対して、授業参加を求める。また、毎回、授業時に質問（リクエスト）用紙を配布し、次週の授業時に回答する（可能な限り、学生からのフィードバックを授業に反映させる）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1				4			
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						1		1			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問（リクエスト）用紙については、次週の授業時に回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義30講	松島隆弘（編）	中央経済社	2015		
備考					

【オフィスアワー】
1 限終了後（木曜10:30～） 質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	総論	会社の意義と会社法の目的 ※なお、授業内容は、受講生の理解度等に応じて（フィードバックの結果を踏まえて）、適宜変更する可能性があるので、注意されたい（以下、2回目以降も同様）。	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
2	4/9	総論	会社の能力	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
3	4/16	総論	会社の法人格、法人格否認の法理	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
4	4/16	株式・資金調達	株式と有限責任	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
5	4/23	株式・資金調達	株式会社の資金調達 1	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
6	4/23	株式・資金調達	株式会社の資金調達 2	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/30	株式・資金調達	株式会社の資金調達 3	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
8	4/30	株式・資金調達	株式会社の資金調達 4	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
9	5/7	株式・資金調達	株式会社の資金調達 5	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
10	5/7	株式・資金調達	株式会社の資金調達 6	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
11	5/14	株式・資金調達	株式会社の資金調達 7	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
12	5/14	株式・資金調達	株式会社の資金調達 8	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/21	機関	株式会社の機関構造 1	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
14	5/21	機関	株式会社の機関構造 2	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
15	5/28	機関	株式会社の機関構造 3	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
16	5/28	機関	株式会社の機関構造 4	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
17	6/4	機関	株式会社の機関構造 5	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
18	6/4	機関	株式会社の機関構造 6	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/11	機関	株式会社の機関構造 7	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
20	6/11	機関	株式会社の機関構造 8	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
21	6/18	機関	株式会社の機関構造 9	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
22	6/18	機関	株式会社の機関構造 1 0	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
23	6/25	機関	株式会社の機関構造 1 1	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
24	6/25	機関	株式会社の機関構造 1 2	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/2	計算	資本制度と会社の計算	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
26	7/2	設立	株式会社の設立 1	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
27	7/9	設立	株式会社の設立 2	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
28	7/9	持分会社	持分会社の法規制	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
29	7/16	組織再編	組織再編 1	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分
30	7/16	組織再編	組織再編 2	
		この回の到達目標	上記の内容に係るルール（制度趣旨、判例、学説等）について基本的な理解ができるようになる。	
		事前学修	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）	120分
		事後学修	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容について質疑応答を行う等、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて講義の進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。					1							
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。							1		1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムにて後日配信する。試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義30講	松嶋隆弘編著	中央経済社	2015	教科書	必携
六法					必携
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作ほか編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）				

【オフィスアワー】
火曜3時限。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンス 会社の種類		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 会社の種類にはどのようなものがあるのか、説明する。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
2	第一部 火4/7	会社の意義と会社法の目的		会社の意義は何か、会社法の目的としてどういうものがあるのか、説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	第一部 月4/13	会社の能力		会社の権利能力は何か、会社の能力は自然人と異なる点があるのか、説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	第一部 火4/14	会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任		会社の法人格とはどういうものか、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどういう制度か、説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
5	第一部 月4/20	株主平等の原則とその例外		株主平等の原則とはどういう制度か、その例外として属人的定めとは何か、説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
6	第一部 火4/21	種類株式		普通株式とは何か、種類株式はどういう制度か、説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月4/27	新株発行の手続き	新株発行とは何か、新株発行手続きとはどのような制度か、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
8	第一部 火4/28	新株発行の差止め、無効、不存在	新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何か、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
9	第一部 月5/3	株式譲渡	株式譲渡とはどのような制度か、株式譲渡の制限どのような制度か、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
10	第一部 火5/4	自己株式	自己株式とは何か、自己株式取得規制とはどのような制度か、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
11	第一部 月5/11	株式の分割、併合等	株式の分割とは何か、株式の併合とはどのような制度か、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
12	第一部 火5/12	社債	社債とは何か、社債発行規制とはどのような制度か、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月5/18	機関総論、株主総会運営の 手続	機関とは何か、株主総会運営の手続はどういう制度か、説明する。	
		この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	第一部 火5/19	説明義務、株主提案権	説明義務とは何か、株主提案権はどういう制度か、説明する。	
		この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
15	第一部 月5/25	株主総会決議の瑕疵	株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴えはどういう制度か、株主総会決議不存在確認の訴えに関する判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
16	第一部 火5/26	競業取引と利益相反取引	競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
17	第一部 月6/1	取締役の義務	善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
18	第一部 火6/2	取締役と取締役会の役割	取締役とは何か、取締役会とはどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
19	第一部 月6/8	取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
20	第一部 火6/9	報酬規制		取締役の報酬とは何か、取締役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
21	第一部 月6/15	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
22	第一部 火6/16	取締役の対会社責任と株主代表訴訟		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
23	第一部 月6/22	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
24	第一部 火6/23	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
25	第一部 月6/29	資本制度と会社の計算		資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
26	第一部 火6/30	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限		株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
27	第一部 月7/6	株式会社の設立時の払込の手続と仮払込		株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮払込はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
28	第一部 火7/7	持分会社の法規制		合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
29	第一部 月7/13	合併と分割		合併とは何か、分割はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
30	第一部 火7/14	株式交換、株式譲渡と事業譲渡		株式交換とは何か、株式譲渡とは何か、事業譲渡はどういう役割をもつ制度か、判例法理の変遷についても、説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。 授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。		

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
2・3・4年次を対象とする。

【授業方法】
講義形式で行う。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1						
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						1		1		1		
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。								1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義30講	松嶋隆弘編	中央経済社	2017年		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:20～13:00 研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/6	ガイダンス・導入講義	ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について理解する。 会社とは何か、概観する。	
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 到達目標①②に関連して、会社法の規定のあり方について、簡潔に説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。会社法の位置づけを整理する。	120分
2	4/7	会社の意義と会社法の目的	会社の意義、会社の性質、会社法の目的とするものは何かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社の定義と会社法の目的を識別し、それを簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第2講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
3	4/13	会社の能力	会社の権利能力の意義、会社の能力が自然人の能力と異なる点について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社の能力と会社の目的はそれを簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第3講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
4	4/14	会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任	会社の法人格の意義、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書第4講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
5	4/20	株主平等の原則とその例外	株主平等の原則とどのような制度か、その例外として属人的定めとは何かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主平等の原則、属人的定めについて簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第5講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
6	4/21	株式の内容	標準となる普通株式とは何か、種類株式とはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、普通株式、種類株式に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第6講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/27	新株発行	新株発行とは何か、新株発行手続きとはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新株発行、新株発行手続に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第7講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
8	4/28	新株発行の差止め、無効、不存在	新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新株発行の差止め、無効、不存在に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第8講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
9	5/4	株式譲渡	株式譲渡自由の原則、株式譲渡の制限とはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式譲渡、株式譲渡の制限に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第9講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
10	5/5	自己株式	自己株式とは何か、自己株式取得規制とはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己株式取得規制に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第10講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
11	5/11	株式の分割、併合等	株式の分割とは何か、株式の併合とはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式の分割、株式の併合に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第11講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
12	5/12	株主名簿	株主名簿制度とはどのような制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主名簿の意義、その効果を簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第9講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/18	機関総論、株主総会運営の 手続	株式会社の機関とは何か、株主総会運営の手続について理解する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、機関、株主総会運営の手続の内容を識別し、簡潔に説明し、これに関して自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第13講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	5/19	説明義務、株主提案権	説明義務とは何か、株主提案権とはどのような制度かを理解する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、説明義務、株主提案権について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第14講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
15	5/25	株主総会決議の瑕疵	株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴えとはどのような制度か、株主総会決議不存在確認の訴えに関する判例法理の変遷についても、理解する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、株主総会決議取消しの訴え、無効確認の訴え、不存在確認の訴えに関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第15講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
16	5/26	競業取引と利益相反取引	競業取引、利益相反取引とは何か、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、競業取引とは何か、利益相反取引に関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第16講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
17	6/1	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務とは何か、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、善管注意義務、忠実義務の内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書第19講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
18	6/2	取締役と取締役会の役割	取締役とは何か、取締役会の果たす役割とは何か、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、取締役と取締役会について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第19講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/8	取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割	取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会はどのような役割を果たすか、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、取締役と取締役会の役割に関してその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第17講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
20	6/9	報酬規制	取締役の報酬に関する制度、取締役以外の報酬規制がどのようなものになるか、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の報酬規制、他の役員の報酬規制に関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第18講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
21	6/15	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社はどのような役割を期待されているかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造に関して、簡潔に説明、これに関する自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第20講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
22	6/16	取締役の対会社責任と株主代表訴訟	取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の対会社責任と株主代表訴訟に関して、その内容を識別し、簡潔に説明、これに関する自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第22講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
23	6/22	取締役の対第三者責任	取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の対第三者責任に関して、その内容を識別、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第22講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
24	6/23	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与	監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与の意義、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、監査役、監査役会、会計監査人、会計参与について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第23講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6/29	資本制度と会社の計算	資本制度とは何か、会社の計算制度がいかなるものか、判例法理の変遷とともに、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資本制度と会社の計算について、その内容を簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第24講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
26	6/30	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限	株式会社の設立手続の概要、発起人とはどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式会社の設立手続、発起人の権限について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第21講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
27	7/6	株式会社の設立時の払込の手続と仮払込	株式会社の設立時の払込の手続、仮払込に関する判例法理の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式会社の設立時の払込の手続と仮払込についてその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第26講、第27講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
28	7/7	持分会社の法規制	合名会社・合資会社・合同会社の意義、持分会社はどのような役割をもつ制度かを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合名会社・合資会社・合同会社についてはその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第29講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
29	7/13	合併と分割	合併、会社分割とは何か、その役割、関連判例の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合併、会社分割について、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第30講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
30	7/14	株式交換・株式移転、事業譲渡	株式交換・株式移転、事業譲渡の意義、その役割、関連判例の変遷について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式交換・株式移転、事業譲渡について、その内容を識別、説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書第30講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	定期試験の準備。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的にはレジュメ等を配布した講義形式になるが、場合によっては、事前の予習を踏まえての積極的な発言を求めることがある。なお、定期試験の解答・解説について、後日、ポータルシステム等にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1						
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						1		1		1		
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。								1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイト等を通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法（有斐閣ストゥディア）	中東正文ほか	有斐閣	2015年	教科書	必携
会社法（リーガルクエスト）（第4版）	田中亘ほか	有斐閣	2018年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の午後1時00分～午後2時30分。ただし、在室中は原則対応する。研究室（本館9階1919研究室） メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	【オリエンテーション、会社法の意義と会社法の目的】	現代の経済社会における会社とはどのような存在であるのか、それを規律する会社法とはどのような特徴、体系、機能を有しているのか講義する。	
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。会社法の意義等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の「序章 会社法への誘い」の部分を読み、会社法とはどのような法律であるのかを確認する。(2時間) なお、より詳しく会社法を概観したい受講生は、神田秀樹『会社法入門（新版）』（岩波新書）を読むことをおすすめする。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、他の関連科目（民法、労働法、経営学、経済学等）との関係を検討する。	120分
2	4月8日	【会社法総論（1）一会社の法的意義・会社の種類】	会社とは、法的には、営利を目的とする社团法人であるとされるが、ここにいう営利とは、社团法人とはどのような意味を有するのかについて説明する。さらに、株式会社、合同会社、合資会社、合名会社といった会社毎の違いについて講義する。	
		この回の到達目標	会社の法的意義等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	会社とはどのような存在であるのか、「企業」と同じであるのか、それとも異なるのかについて自分なりに検討し、さらに自分自身が身近に感じている「会社」にはどのようなものがあるのか調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、自分なりに株式会社、合同会社、合資会社、合名会社の違いについて作図してみる。	120分
3	4月13日	【会社法総論（2）株主有限責任制度】	株主有限責任制度とは、株主は出資した額を上限とする責任を負うのみで、それ以上の責任を負わないとするものであるが、その制度の理論的根拠や問題点について講義し、その問題点への対応策について学習する。	
		この回の到達目標	株主有限責任制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第1章 総論」を読み、株式会社の事業活動における会社法の役割について調べ、また、株式会社において最も重要な制度の一つである株主有限責任制度の意義とその問題点について考察する。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主有限責任制度における問題点について、他の解決方策がないかを検討してみる。	120分
4	4月15日	【株式会社の機関（1）一機関総論】	株式会社には、必置機関としての株主総会及び取締役があり、任意機関として、監査役、会計参与、会計監査人等があるが、それぞれの機関の役割や、そのような機関が置かれる理論的根拠等についてコーポレート・ガバナンスという観点から講義する。	
		この回の到達目標	株式会社の機関の全体像に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「1 株式会社の機関設計」を読み、株式会社にはどのような機関があるのか、そして、なぜそのような機関が要求されるのかについて考察する。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式会社における機関構成を作図してみる。	120分
5	4月20日	【株式会社の機関（2）株主総会】	株主総会の役割や機能について講義し、株主総会を開催するに当たり、どのような招集手続がとられるのかについて講義する。	
		この回の到達目標	株主総会に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「2 株主総会」を読み、株主総会の権限や株主総会招集の手続等の概観を考察する。(2時間) なお、実際の株主総会がどのように開催されているのかをニュースやインターネット記事等で調べておくと、なお理解が深まるのでおすすめする。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、時系列に沿って、株主総会の招集手続がどのように進行するのかをまとめておく。	120分
6	4月22日	【株式会社の機関（3）株主総会決議の瑕疵】	適法に開催されなかった株主総会の決議には瑕疵があるとされるが、具体的にどのような場合に、瑕疵があるとされるのか、さらに株主総会決議の瑕疵を争う訴えには、決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えがあり、それぞれの違いについて講義する。	
		この回の到達目標	株主総会決議の瑕疵に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「株主総会決議の瑕疵」を読み、株主総会決議の瑕疵の具体的な事例についてどのようなものがあるのか調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えの違いについて表でまとめるなどして考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月27日	【株式会社の機関（4）―取締役・取締役会・代表取締役】	株式会社の機関のうち、経営や監督を担う取締役・取締役会について、その選任・終任とその職務について講義した上で、取締役会決議を欠いたままなされた取引の効力といった法的問題について学習する。	
		この回の到達目標	取締役等の制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「3 取締役、取締役会、代表取締役」を読み、取締役・取締役会・代表取締役の役割や権限について考察する。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、取締役・取締役会・代表取締役に関わる法的問題にはどのようなものがあり、それに対して判例や学説の立場をまとめておく。	120分
8	4月29日	【株式会社の機関（5）―監査役、監査役会、会計監査人、会計参与】	会社の監督を担当する監査役、監査役会、会計監査人と取締役と共同して会計書類を作成する会計参与の役割や職務について講義する。	
		この回の到達目標	監査役等の制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「4 監査役・監査役会・会計監査人」を読み、それぞれの役割や職務の内容について考察しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、監査役・監査役会や会計監査人の監督と取締役会の監督とはどのように異なるのか、まとめておく。	120分
9	5月4日	【株式会社の機関（6）―指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社】	指名委員会等設置会社と平成26年会社法改正で新たに導入された監査等委員会設置会社の機関構造を概観し、監査役設置会社とはどのような点で異なるのか、導入の経緯等について講義する。	
		この回の到達目標	委員会型の会社に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「5 指名委員会等設置会社」「6 監査等委員会設置会社」を読み、監査役設置会社とはどのような点で異なるのか、について考察しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、指名委員会等設置会社や監査等委員会設置会社である会社をニュースやインターネット記事から調べ、具体的にどのように用いられているのかを調べておく。	120分
10	5月6日	【株式会社の機関（7）―役員の責任①（役員の義務総説）】	取締役は会社に対して善管注意義務と忠実義務を負っているとされているが、それらの義務はどのような関係に立っているのか、それらの義務から、具体的に取締役はどのような義務を会社に対して負っているのかについて、判例や学説を踏まえて講義する。	
		この回の到達目標	役員の義務に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「取締役の義務」を読み、取締役の善管注意義務と忠実義務の異同について考察しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、どのような事例で取締役の会社に対する義務が問題となるのかについてまとめておく。	120分
11	5月11日	【株式会社の機関（8）―役員の責任②（競業避止義務・利益相反取引・取締役の報酬規制）】	取締役は会社に対して忠実義務を負っていることから、そこから派生する規制として、競業取引規制、利益相反取引規制、取締役の報酬規制が定められている。そこで、これらの規制の具体的な内容及びそこから生じる法的問題について講義する。	
		この回の到達目標	競業規制等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、86頁以下の「忠実義務」及び「取締役の報酬」を読み、取締役の忠実義務から派生する競業避止義務、利益相反取引や取締役の報酬についてどのような規制がとられているのかについて調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、具体的な裁判例を素材に、どのような取引が競業取引に当たるのか、利益相反取引に当たるのかについてまとめる。	120分
12	5月13日	【株式会社の機関（9）―役員の責任③（会社に対する責任）】	取締役は会社に対して善管注意義務を負っているが、当該義務が問題となる場面として、経営の失敗や監視義務違反があるが、そこで問題となる経営判断原則や内部統制システム構築義務とはどのような原則、義務であるのかについて講義する。	
		この回の到達目標	役員の対会社責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、79頁以下の「善管注意義務」及び「7 役員等の責任」を読み、取締役の善管注意義務が問題となる事例にはどのようなものがあるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、講義で扱った事例以外の経営の失敗ともいえるべき事例や企業不祥事が問題となった事例では、取締役の善管注意義務違反の有無についてどのように判断されているのかを調べてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月18日	【株式会社の機関（10）－ 役員の責任④（株主代表訴訟・ 多重代表訴訟）】	取締役の会社に対する義務違反により会社に損害が生じた場合、通常、会社が当該取締役に対して損害賠償を求めることになるが、実際には会社と取締役が馴れ合う可能性があることから、株主が会社に代わって取締役の責任を追及する株主代表訴訟制度がある。そこで、この株主代表訴訟はどのような手続で行われるかなどについて講義する。	
		この回の到達目標	株主代表訴訟に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、125頁以下の「株主代表訴訟」を読み、株主代表訴訟の手続について概観しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主代表訴訟及び多重代表訴訟の手続について作図するなどしてまとめておく。	120分
14	5月20日	【株式会社の機関（11）－ 役員の責任⑤（第三者に対する責任）】	役員は本来であれば、会社に対してのみ責任を負うが、通説によれば、会社法は第三者に対しても特別の法定責任を負わせている。この対第三者責任の趣旨は何か、どのような場面で問題となるのかについて講義する。	
		この回の到達目標	役員の対第三者責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、130頁以下の「役員等の第三者に対する責任」を読み、役員等の対第三者責任の意義について考察しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、対第三者責任が問題となった裁判例を調べ、どのような判断がなされているのか、学説はそれに対してどのように評価しているかなどを調べておく。	120分
15	5月25日	【前半のまとめ】	会社法の意義、株式会社の機関構成、それぞれの機関の職務や役割を概観し、そこで問題となる法的紛争にはどのようなものがあり、判例や学説上、それに対してどのように対応しているのかについて概観する。	
		この回の到達目標	コーポレート・ガバナンスの全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「序章」「第1章」「第2章」を通読し、いわゆる会社法のうち、ガバナンスに関する部分について理解を深めておく。	120分
		事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、自分自身の知識がどの程度定着しているのか、演習本等でチェックする。	120分
16	5月27日	【株式制度と株主平等原則】	一般的に、株式は投資の対象としても見られているが、会社法上、株式を保有する株主には、会社に対して様々な権利を有している。そこで、株主の権利や株主は内容及び数に応じて平等に取り扱われなければならないという株主平等原則とはどのようなものなのかについて講義する。	
		この回の到達目標	株式制度等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「1 株式の意義」を読み、株式を保有する株主にはどのような権利が認められているのか、また実際の株式投資はどのように行われているのかを、ニュース等で調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主の権利にはどのような権利があるのか、具体的に表にまとめるなどしておく。	120分
17	6月1日	【種類株式制度】	教科書ではほとんど扱われていない種類株式制度について、具体的な種類株式の内容や用途について講義する。	
		この回の到達目標	種類株式制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「Column 3-1」を読み、種類株式の概観について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、実際に発行されている種類株式についてニュース等で調べておく。	120分
18	6月3日	【株式の譲渡（1）－株式譲渡自由の原則とその例外】	株式の譲渡は原則として自由とされているが、その理論的背景には何があるのかについて講義し、株式譲渡自由の原則の例外にはどのようなものがあるのかについて学習する。	
		この回の到達目標	株式譲渡自由の原則等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「2 株式譲渡自由の原則とその例外」を読み、株式譲渡自由の原則が認められる理論的根拠について考察しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式譲渡自由の原則の例外に反した場合の法的問題について、どのように考えられているのかまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月8日	【株式の譲渡（2）―株式の譲渡方法】	株式の譲渡方法には、大別して、株券発行会社と株券不発行会社の場合があることから、それぞれの会社に応じて、具体的にどのような手続によって株式は譲渡されるのかを講義する。	
		この回の到達目標	株式の譲渡方法等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「3 株式の譲渡と権利行使の方法」を読み、株式の譲渡の手続がどのように行われているのかについて概観しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社法が定める株式の譲渡方法だけではなく、振替株式制度についても教科書の該当ページを読むなどして理解しておく。	120分
20	6月10日	【資金調達（1）―募集株式の発行手続】	募集株式の発行手続の概要について説明し、その手続の背景にある募集株式の発行によって生じる既存株主の利益への影響についても講義する。	
		この回の到達目標	募集株式の発行手続等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「1 株式会社の資金調達方法の概要」「2 募集株式の発行等」を読み、募集株式の発行手続の概要について理解しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、なぜ募集株式の発行手続が法的に定められているのかなどについて、自分なりにノートなどを使用してまとめる。	120分
21	6月15日	【資金調達（2）―違法な募集株式の発行① 有利発行規制違反】	いわゆる有利発行とはどのような募集株式の発行であるのかについて説明した上で、有利発行であるにもかかわらず法定の手続に違反して募集株式が発行されてしまった場合には、どのような効果があるのかなどについて講義する。	
		この回の到達目標	有利発行規制に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「いわゆる有利発行の問題」を読み、有利発行とはそもそも何か、有利発行規制違反の募集株式の発行とは何かについて調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、有利発行規制違反の募集株式の発行が行われた場合の法的解決方法についてまとめておく。	120分
22	6月17日	【資金調達（3）―違法な募集株式の発行② 募集株式の発行の瑕疵】	募集株式の発行等が手続に違反してなされようとしている場合、もしくはなされてしまった場合に、影響を受ける株主は、事前又は事後にどのような措置をとることができるのかについて講義する。	
		この回の到達目標	募集株式の発行の瑕疵に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「募集株式の発行等の瑕疵をめぐる争い」を読み、募集株式の発行等の瑕疵について、事前及び事後にどのような措置が可能なのかについて調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、新株発行の差止請求や新株発行無効の訴えについてまとめておく。	120分
23	6月22日	【資金調達（4）―新株予約権・社債】	募集株式の発行以外にも新株予約権や社債による資金調達手法があることから、新株予約権や社債の発行手続について概観し、そこで問題となる法的問題について講義する。	
		この回の到達目標	新株予約権等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「3 新株予約権」「4 社債」を読み、募集株式の発行以外の資金調達手法について調べておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、募集株式の発行と新株予約権・社債の発行による資金調達にはどのような違いがあるのかまとめておく。	120分
24	6月24日	【会社の計算】	会社の計算書類や剰余金の配当手続について講義する。	
		この回の到達目標	会社の計算に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第5章 計算」を読み、会社の計算書類や剰余金配当手続について概観しておく。なお、他に簿記や会計学の講義をとっている場合には、それらの教科書等も読んでおくこともおすすめする。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社の計算書類の役割等についてまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6月29日	【組織再編（1）―組織再編 手続総説】	会社の組織再編には、合併、分割、株式移転、株式交換があるが、それぞれの再編の意義や手続について講義する。	
		この回の 到達目標	組織再編手続に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第6章 組織再編」を読み、会社の組織再編にはどのようなものがあるのかについて確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、合併、分割、株式移転、株式交換の手続の概要について、自分なりにまとめておく。	120分
26	7月1日	【組織再編（2）―株式買取 請求・事業譲渡】	会社が組織再編する場合、当該組織再編に反対する株主には株式買取請求が認められているが、当該株式買取請求手続について講義する。また、厳密には組織再編とはいえないが、それと類似する取引である事業譲渡手続についても講義する。	
		この回の 到達目標	株式買取請求制度等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第6章 組織再編」を読み、会社の組織再編により影響を受ける株主を保護するための手続としての株式買取請求について概観し、さらに事業の譲渡手続について概観しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式買取請求や事業譲渡手続において問題となる法的問題にはどのようなものがあるのか確認しておく。	120分
27	7月6日	【株式会社の設立（1）―一設 立手続総説】	会社の設立には、実体の形成と法人格の取得という二つの側面を有することから、それぞれの側面に併せて、会社の設立手続について講義する。	
		この回の 到達目標	会社の設立手続きに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「1 設立」を読み、会社の設立手続について概観しておく。（2時間）	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社の設立手続について作図して、その概要を把握しておく。	120分
28	7月8日	【株式会社の設立（2）―払 込手続】	会社設立時の払込手続と払込仮装行為としての預合及び見せ金の効力について講義する。	
		この回の 到達目標	払込手続に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「1 設立」及び「第4章 資金調達」のうち、「出資の履行」を読み、払込の手続及びその仮装行為にはどのようなものなのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、払込仮装行為の効力について判例及び学説はどのように考えているのかを考察する。	120分
29	7月13日	【会社の解散】	会社は株主総会決議等によって解散するが、その際の手続等について講義する。	
		この回の 到達目標	会社の解散に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「2 解散・清算」を読み、会社の解散手続の概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、どのような場合に会社は解散するのか、解散はどのような手続によってなされるのかを確認する。	120分
30	7月15日	【全体のまとめ】	会社法の全体を概観し、コーポレート・ガバナンスやコーポレート・ファイナンスに関する先端的な法的問題を講義する。	
		この回の 到達目標	コーポレート・ガバナンス及びコーポレート・ファイナンスの全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	配布された全ての講義レジュメ及び教科書を通読し、自分自身の知識を確認しておく。	120分
		事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認しつつ、演習本等を利用して、会社法上の法的諸問題についてアウトプットしてみる。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	酒巻 俊之	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
授業に出ないと教科書の内容の実務的理解や現物の確認、レポート内容の調査方法等を学べないので、仕事等で遅刻する場合も途中からでも出席するよう努力して欲しい。

【授業方法】
教科書を参照し、板書・パワーポイントによる要点整理、現物・条文・資料・検索エンジン等を用いた実演をスクリーン投射することにより授業を進める(撮影可・実演の為モバイル等の端末必須)。テストは教科書参照可だが、応用問題が多く事前勉強が必要である(授業時に注意及び小テスト等で確認もする。テスト時のみ電子機器使用不可)。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	モバイル端末等による検索実習及び調査レポート作成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。					1							
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。							1		1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出は授業内又は次回授業内、テストについては最終講義で正答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義 令和元年改正対応版	酒巻俊之	桜門書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室は法学部棟でないので注意。日本大学経済学部8号館(ダイワ猿楽町ビル)3-23。2階で受付手続きが必要なため、必ずメールで事前に予約のこと。sakamaki.toshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	会社顧問
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義内容に実務経験を反映している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木4/9	会社法入門	商法・会社法の歴史	
		この回の到達目標	各法と商法・会社法との関係を把握し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容まとめ。	80分
2	木4/9	会社の種類	会社の種類を講義する(パワーポイント使用)。	
		この回の到達目標	会社の種類を理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容まとめ。	80分
3	木4/16	株式会社の設立 発起人・定款・絶対的記載事項	株式会社の設立のうち、発起人・定款・絶対的記載事項について講義する。	
		この回の到達目標	株式会社の設立のうち、発起人・定款・絶対的記載事項について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容まとめ。	80分
4	木4/16	株式会社の設立 変態設立事項	株式会社の設立のうち、変態設立事項及び検査役の選任について講義する。	
		この回の到達目標	変態設立事項及び検査役の選任について理解し、募集株式・募集新株予約権の発行時の現物出資における検査役の選任との違いも理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
5	木4/23	会社の設立手続き(役員等の選任等)	株式会社の役員等の選任・選定を講義する。	
		この回の到達目標	株式会社の役員等の選任・選定・解任・解職の用語の使い方を理解し、正しく使用できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
6	木4/23	株式会社の設立まとめ、株式入門	株式会社の設立のまとめ、株式の内容、株券の廃止等について講義する。	
		この回の到達目標	株式会社の設立、株式の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木4/30	公開会社・公開会社でない株式会社	会社法上重要な定義である公開会社・公開会社でない株式会社を講義する(パワーポイント使用)。	
		この回の到達目標	会社法上重要な定義である公開会社・公開会社でない株式会社を理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
8	木4/30	種類株式、公開会社・公開会社でない株式会社の株式譲渡	種類株式、公開会社・公開会社でない株式会社の株式譲渡について講義する(パワーポイント使用)。	
		この回の到達目標	複雑な公開会社と公開会社でない株式会社の株式譲渡の違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
9	木5/7	株主の権利	株主名簿、株式の共有・質権等及び株券の現状について講義する。	
		この回の到達目標	株主名簿、株式の共有・質権等及び株券の現状について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
10	木5/7	募集株式の発行	募集株式の発行について講義する。	
		この回の到達目標	会社法下における募集株式の発行手続きについて理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
11	木5/14	新株予約権	新株予約権の機能について概説する。	
		この回の到達目標	会社法下における新株予約権の機能について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
12	木5/14	募集新株予約権	募集株式の発行手続きと募集新株予約権の発行手続きを比較する。	
		この回の到達目標	募集株式の発行手続きと募集新株予約権の発行手続き及び会社設立時の現物出資における検査役の選任等の手続きの違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木5/21	自己株式の取得	MBO・子会社化・企業買収・キャッシュ・アウト・相続人に対する株式の売渡請求におけるスクイーズ・アウト(少数株主の締出し)、事業承継等の自己株式の取得・交付について講義する。	
		この回の到達目標	MBO・子会社化・企業買収・キャッシュ・アウト・相続人に対する株式の売渡請求におけるスクイーズ・アウト(少数株主の締出し)、事業承継等の自己株式の取得について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。また、MBOについてネット等で事前知識を得ておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
14	木5/21	会社に対する株式買取請求	株式買取請求について概説する。	
		この回の到達目標	買取請求について、特に公開会社でない株式会社における譲渡承認拒否の場合と相続人等に対する売渡請求の制度の違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
15	木5/28	株主総会	株主総会について概説する。	
		この回の到達目標	株主総会について理解し、説明、対応できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
16	木5/28	少数株主権	少数株主権について詳細に講義する。	
		この回の到達目標	少数株主権について深く理解し、説明、対応できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
17	木6/4	株主総会以外の機関の設置	株主総会以外の機関の設置についてその役割とともに概説する。	
		この回の到達目標	株主総会以外の機関の設置についてその役割とともに理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
18	木6/4	コーポレートガバナンス、コーポレートガバナンス・コード	コーポレートガバナンス、コーポレートガバナンス・コードについて講義する(パワーポイント使用)。	
		この回の到達目標	検索エンジンを使って、会社の概要を調査できるようになる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	木6/11	取締役・執行役・監査役の資格・役割・任期	取締役・執行役・監査役の資格・役割・任期について講義する。	
		この回の到達目標	取締役・執行役・監査役の資格・役割・任期について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
20	木6/11	会計参与、会計監査人、社外役員の資格・役割・任期	会計参与、会計監査人、社外役員の資格・役割・任期について講義する。	
		この回の到達目標	会計参与、会計監査人、社外役員の資格・役割・任期について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
21	木6/18	役員等の会社に対する責任（各論）	役員等の会社に対する責任について個別に講義する。	
		この回の到達目標	役員等の会社に対する責任について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
22	木6/18	監査機関の役割、違法行為差止請求権	監査役（業務監査権限の有無）、監査等委員会、監査委員の比較を行う。また、これらの機関及び株主の違法行為差止請求権について講義する。	
		この回の到達目標	監査役（業務監査権限の有無）、監査等委員会、監査委員の比較を行う。また、これらの機関及び株主の違法行為差止請求権について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
23	木6/28	役員等の会社に対する責任の追及権者、株主代表訴訟	役員等の会社に対する責任の追及権者、株主代表訴訟について講義する。	
		この回の到達目標	役員等の会社に対する責任の追及権者、株主代表訴訟について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
24	木6/28	役員等の第三者に対する責任	役員等の第三者に対する責任について講義する。	
		この回の到達目標	役員等の第三者に対する責任について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	木7/4	補償契約、役員等損害賠償責任保険	補償契約、役員等損害賠償責任保険について概説する(パワーポイント使用)。	
		この回の到達目標	令和元年改正で設けられた制度である補償契約、役員等損害賠償責任保険について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
26	木7/4	事業譲渡、組織変更	事業譲渡、組織変更、簡易事業譲渡・略式事業譲渡について講義する。	
		この回の到達目標	事業譲渡、組織変更、簡易事業譲渡・略式事業譲渡について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
27	木7/9	合併・分割・株式交換・株式移転・株式交付	合併・分割・株式交換・株式移転・株式交付について講義する(パワーポイント使用)。	
		この回の到達目標	合併・分割・株式交換・株式移転・株式交付について理解し、説明できる。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ。	80分
28	木7/9	株主の権利行使に関する利益供与・会社における犯罪、その他(テスト前注意)	株主の権利行使に関する利益供与・会社における犯罪について講義する。なお、会社法改正動向やリクエストにより授業内容を変更する場合がある。	
		この回の到達目標	講義内容及びテスト範囲の理解し、説明できる。。	
		事前学修	該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	授業内容のまとめ及びテスト範囲の勉強。	80分
29	木7/16	解説、授業内テスト	テストの方式・解答の方法について講義した後、授業内テストをする。	
		この回の到達目標	テストで良い点を取ることができる。	
		事前学修	テスト範囲の該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	答案及び全体振り返り。	80分
30	木7/16	フィードバック(テスト解答解説、全体講義補足)	授業内テスト延長の可能性あり。テスト終了後、解答の解説・質疑応答等の時間を設ける。	
		この回の到達目標	誤答の修正、全体の振返りをすることができる。	
		事前学修	テスト範囲の該当部分を教科書で勉強しておく。	80分
		事後学修	答案及び全体振り返り。	80分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】		
基本的には商取引法に関する全体の講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で商法総則・商行為法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。					2		2					
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2		2		2			
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							2		2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内に行う。定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年	教科書	必携
商取引法（第8版）	江頭憲治郎	弘文堂	2018年	参考書	任意
現代海商法（第3版）	箱井崇史	成文堂	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13：00-14：30 研究室（本館9階1919研究室）。ただし、在室中は原則対応する。 minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月16日	商法総論		商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。る。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 商法総論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書に目を通し、商法総則・商行為法と呼ばれる分野にはどのような法的な問題があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法と民法の違い等を説明できるようにしておく。	120分
2	9月23日	商法の特徴		商法とはどのような法律であるのか、民法とはどのような点で異なるのか、商法とはどのような歴史を有しているのかについて説明する。
		この回の到達目標	商法の特徴に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第1章 商法総論」を読み、商法の意義、特徴、歴史と展開について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法の特徴について確認しておく。	120分
3	9月30日	商人の意義		商取引の主体たる商人や、商行為概念は商法の基本概念として位置づけられており、その2つの概念について説明する。
		この回の到達目標	商人の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第2章 商人・商行為」を読み、商法の基本概念である商人と商行為について、その概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商人とはどのような存在かについて、商人資格の取得等と合わせて説明できるようにしておく。	120分
4	10月7日	商号制度		商人がその営業上自己を表す名称のことを商号というが、商号とはどのようなものか、どのように機能しているのか、どのように保護されているのかについて説明する。
		この回の到達目標	商号制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商号」を読み、商号にはどのような機能があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商号の基本的事項について把握したうえで、どのような場合であれば類似商号といえるのかなどについて自分なりに検討してみる。	120分
5	10月14日	商業登記制度の概要		商人情報の公示方法の一つである商業登記制度について、その制度の存在意義や特徴を不動産登記との違いを明らかにしながら、説明する。
		この回の到達目標	商業登記制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第3章 商業登記 1 商業登記制度 2 商業登記の手続き」を読み、商業登記制度とはどのような制度なのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記制度の特徴について、不動産登記との違いを意識しながら、説明できるようにしておく。	120分
6	10月21日	商業登記の効力		商業登記には、一般的効力として消極的公示力と積極的公示力があるとされ、さらに不実登記の効力等も有することから、これらの効力について説明する。
		この回の到達目標	商業登記の効力に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商業登記 3 商業登記の効力」を読み、商業登記にはどのような効力があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記の効力に関する条文操作や解釈に慣れておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	商業帳簿制度	商人情報の公示として位置づけられる商業帳簿にはどのような機能を有しているのかなどについて説明する。	
		この回の到達目標	商業帳簿制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第6章 商業帳簿」を読み、商業帳簿制度の概要について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、さらに簿記論や会計学との関係について自分なりに検討しておく。	120分
8	11月11日	商業使用人制度・代理商	商人の補助者としての商業使用人や代理商について説明する。	
		この回の到達目標	商人の補助者としての商業使用人や代理商に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び「第7章 商業使用人 第8章 代理商」を読み、商人の補助者についてどのような者がいるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業使用人や代理商制度の概要を踏まえうえて、商業使用人と代理商の違いなどについて考察してみる。	120分
9	11月18日	商行為の通則規定	商行為の通則規定についてまずは説明したうえで、民法上の規定との違いなどについて解説する。	
		この回の到達目標	商行為の通則規定に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第9章 商行為法総論」を読み、商行為法通則に関する規定にはどのようなものがあるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法及び商法の規定との違いは何に起因しているのかなどについて説明できるようにしておく。	120分
10	11月25日	商事売買	商人間の売買の場合には、民法とは異なる規律を受ける場合があることから、商人間の売買である商事売買に関する特則規定について説明する。	
		この回の到達目標	商事売買に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第10章 商事売買」を読み、また民法における債務不履行責任や解除制度等について復習しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の売買に関する規定とどのような点が異なるのか、自分なりに表にまとめるなどして説明できるようにしておく。	120分
11	12月2日	交互計算契約	企業取引の決済手段の一つである交互計算契約の特殊性やその効力について説明する。	
		この回の到達目標	交互計算契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第11章 交互計算その他の決済手段」を読み、交互計算契約とはどのような契約であるのか、その概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、交互計算契約の効力等について説明できるようにしておく。	120分
12	12月9日	匿名組合契約	事業を行うに当たって用いられる匿名組合契約とはどのような契約であるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	匿名組合契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第12章 匿名組合」を読み、その契約の概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の組合や会社制度との違いについて、自分なりにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月16日	仲立営業		仲立営業の具体例を用いながら、仲立人の意義や民事仲立・商事仲立の区別、そして仲立人の権利義務関係について説明する。
		この回の到達目標	仲立営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 仲立営業」を読み、仲立営業の意義や特徴を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、仲立人の特徴について説明できるようにしておく。	120分
14	12月23日	問屋営業		問屋営業の具体例を用いながら、問屋の意義や特徴、そして問屋と委託者との関係や取引の相手方との関係について説明する。
		この回の到達目標	問屋営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 問屋営業」を読み、問屋営業の意義や特徴を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、代理商・仲立人・問屋の異同について説明できるようにしておく。	120分
15	1月13日	場屋営業		場屋営業において適用される規定や運送人の責任についてその概要を説明する。
		この回の到達目標	場屋営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第17章 場屋営業」を読み、場屋取引の意義や特徴を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、場屋営業主が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを説明できるようにしておく。	120分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学修を必ず行う者。

【授業方法】
基本的に講義形式とするが、受講者との対話も併せて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	商法総則・商行為法の主要な論点および多様な問題点について教員と受講生が対話し、講義の理解を深める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。					2		2					
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2		2		2			
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							2		2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて講義でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商法総則・商行為法（第8版）	近藤光男	有斐閣	2019	教科書	必携
商法判例百選	神作裕之・藤田友敬編	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月16日	商法総論		商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。
		この回の到達目標	このガイダンスによって、学修者が講義の全体像を理解することができる。 商法総論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書を通読して商法総則・商行為法がどのような分野であるのかを確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
2	9月23日	商法の意義と商法の法源		商法の意義と商法の法源について講義する。
		この回の到達目標	学修者が商法の意義と商法の法源を理解することができる。 商法の意義と商法の法源について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商法の意義と商法の法源についての概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
3	9月30日	商法の基本概念		商法の基本概念について講義する。
		この回の到達目標	学修者が商法の基本概念を理解することができる。 商法の基本概念について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商法の基本概念についての概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
4	10月7日	商業登記		商業登記について講義する。
		この回の到達目標	学修者が商業登記を理解することができる。 商業登記について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商業登記についての概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
5	10月14日	商号①		商号の意義、法規制の必要性、商号選定自由の原則、商号自由の制限、商号単一の原則を講義する。
		この回の到達目標	学修者が、商号の意義・法規制の必要性・商号選定自由の原則・商号自由の制限・商号単一の原則を理解することができる。 商号の意義・法規制の必要性・商号選定自由の原則・商号自由の制限・商号単一の原則について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商号についての概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
6	10月21日	商号②		名板貸、商号の譲渡、商号の廃止、商号の登記、商号権を講義する。
		この回の到達目標	学修者が、名板貸・商号の譲渡・商号の廃止・商号の登記・商号権を理解することができる。 名板貸・商号の譲渡・商号の廃止・商号の登記・商号権について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商号の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	商業帳簿	商業帳簿を講義する。	
		この回の到達目標	学修者が、商業帳簿を理解することができる。 商業帳簿について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商業帳簿の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	11月11日	商業使用人	商業使用人を講義する。	
		この回の到達目標	学修者が商業使用人を理解することができる。 商業使用人について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商業使用人の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	11月18日	代理商	代理商を講義する。	
		この回の到達目標	学修者が代理商を理解することができる。 代理商について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して代理商の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	11月25日	営業	営業を講義する。	
		この回の到達目標	学修者が営業を理解することができる。 営業について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して営業の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	12月2日	商行為法総則	商行為法総則を講義する。	
		この回の到達目標	学修者が商行為法総則を理解することができる。 商行為法総則について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商行為法総則の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	12月9日	売買	商事売買および消費者売買を講義する。	
		この回の到達目標	学修者が商事売買および消費者売買を理解することができる。 商事売買および消費者売買について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して商事売買および消費者売買の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月16日	交互計算		交互計算を講義する。
		この回の到達目標	学修者が交互計算を理解することができる。 交互計算について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して交互計算の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	12月23日	匿名組合		匿名組合を講義する。
		この回の到達目標	学修者が匿名組合を理解することができる。 匿名組合について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して匿名組合の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	1月13日	仲介営業		仲介営業を講義する。
		この回の到達目標	学修者が仲介営業を理解することができる。 仲介営業について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を通読して仲介営業の概要を確認する。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
民法総則および債権法を履修済みか並行履修していることが望ましい。必ず直近の商法改正を反映した六法（小型版六法で可）を携行のこと。

【授業方法】
講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	裁判例や時事の法律問題について、各自の調査・研究に基づいた報告と討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。						2							
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						2			2		2		
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。									2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中にフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガルマインド商法総則商行為法（第3版）	弥永真生	有斐閣	2019年	参考書	推奨
商法総則商行為法	松嶋隆弘・大久保拓也	中央経済社	2020年春	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	商法総則・商行為法の学習範囲	本講義のガイダンス 商法総則・商行為法を学ぶ目的を説明し、本講座が対象とする法領域を説明する。	
		この回の到達目標	民法と商法との領域の違いとその理由を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認し、教科書第1章を通読し理解する。	120分
		事後学修	民事法の全体像を把握したうえで、民事法の中における商法の役割・存在意義を理解し、自分の言葉で説明してみる。	120分
2	9/21	商法の法源と民法との異同	商法の法源・適用範囲を学び、民事法の法源と商法典の役割、民法と商法の異同を検討する。	
		この回の到達目標	民法と商法の規整の相違とその理由づけを理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	商法1条～3条、同501条～503条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第2章第1節・第2節を通読し理解する。	120分
		事後学修	商法が規整する対象範囲を理解し説明できる。 民法と商法との具体的な規整内容の異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
3	9/28	商人の意義	商人の意義と商人資格に関する裁判例を学び、商法典の規整対象を検討する。	
		この回の到達目標	商人の意義と商人資格に関する裁判例を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	商法4条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第2章第2節を通読し理解する。	120分
		事後学修	商人資格に関する裁判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
4	10/5	商号と登記制度	商号と商号登記に関する制度趣旨と法規整を検討する。	
		この回の到達目標	商号と商号登記に関する制度趣旨と法規整を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	商法11条～13条、15条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第4章を通読し理解する。	120分
		事後学修	商号・商号登記に関する判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
5	10/12	名板貸責任	名板貸責任の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	名板貸責任の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を他者に説明できる。	
		事前学修	商法14条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第4章第4節第7を通読し理解する。	120分
		事後学修	名板貸責任に関する判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
6	10/19	営業譲渡	営業譲渡の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	営業譲渡の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を他者に説明できる。	
		事前学修	商法16条～18条2を通読し条文の意味するところを考える。教科書第5章を通読し理解する。	120分
		事後学修	営業譲渡の場合分けごとの要件・効果を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	営業譲渡の裁判例	さまざまにタイプの営業譲渡について、最近の裁判例に基づいて検討する。	
		この回の到達目標	さまざまにタイプの営業譲渡について、最近の裁判例に基づいて検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	営業譲渡に関する最近の裁判例を事前に配布するので、これを熟読し理解する。	120分
		事後学修	営業譲渡に関する裁判例と法規整との関係を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
8	11/9	確認テスト・解説	授業内確認テストとその解説	
		この回の到達目標	これまでの授業内容を振り返り、重要論点や重要裁判例の判旨を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	第1回～第7回の講義内容を振り返り、重要論点を整理・理解しておく。	120分
		事後学修	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。	120分
9	11/16	商業使用人	支配人・商業使用人に関する法規整と関連裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	支配人・商業使用人に関する法規整と関連裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	商法20条～26条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第7章を通読し理解する。	120分
		事後学修	支配人・表見支配人・商業使用人に関する判例を熟読し自分の言葉で説明してみる。	120分
10	11/23	代理商	代理商に関する法規整と裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	代理商に関する法規整と裁判例を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	商法27条～31条、543条～558条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第7章第7節を通読し理解する。	120分
		事後学修	代理商・仲立人・問屋の異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
11	11/30	仲立商・問屋	仲立商・問屋に関する法規整と裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	仲立商・問屋に関する法規整と裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	商法27条～31条、543条～558条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第11章を通読し理解する。	120分
		事後学修	代理商・仲立人・問屋に関する判例を熟読し自分の言葉で説明してみる。	120分
12	12/7	商行為法総則	商行為法総則で規整される事項とこれに関連する裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	商行為法総則で規整される事項とこれに関連する裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	商法504条～521条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第8章を通読し理解する。	120分
		事後学修	特に、諾否通知義務・物品保管義務等に関する判例を熟読し自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	商事売買	商事売買に関する法規整とこれに関連する裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	商事売買に関する法規整とこれに関連する裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	商法524条～528条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第9章を通読し理解する。	120分
		事後学修	商事売買に関する裁判例の動向を整理し理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
14	12/21	場屋営業者	場屋営業者とその顧客との法律関係とこれに関連する裁判例を検討する。	
		この回の到達目標	場屋営業者とその顧客との法律関係とこれに関連する裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	商法593条～596条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第13章を通読し理解する。	120分
		事後学修	場屋営業者に関する裁判例を整理し理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
15	1/18	授業内試験・解説	授業内試験 フィードバックはポータルサイト等を通じて行う。	
		この回の到達目標	これまでの授業内容を振り返り、重要論点や重要裁判例の判旨を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	これまでの復習を行っておくこと。	120分
		事後学修	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。	120分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	南 健悟	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】		
基本的には商取引法に関する全体の講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で商法総則・商行為法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。					2							
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2		2		2			
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							2		2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内に行う。定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年	教科書	必携
商取引法（第8版）	江頭憲治郎	弘文堂	2018年	参考書	任意
現代海商法（第3版）	箱井崇史	成文堂	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日13：00-14：30 研究室（本館9階1919研究室）。ただし、在室中は原則対応する。 minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月16日	商法総論		商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。る。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 商法総論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書に目を通し、商法総則・商行為法と呼ばれる分野にはどのような法的な問題があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法と民法の違い等を説明できるようにしておく。	120分
2	9月23日	商法の特徴		商法とはどのような法律であるのか、民法とはどのような点で異なるのか、商法とはどのような歴史を有しているのかについて説明する。
		この回の到達目標	商法の特徴に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第1章 商法総論」を読み、商法の意義、特徴、歴史と展開について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法の特徴について確認しておく。	120分
3	9月30日	商人の意義		商取引の主体たる商人や、商行為概念は商法の基本概念として位置づけられており、その2つの概念について説明する。
		この回の到達目標	商人の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第2章 商人・商行為」を読み、商法の基本概念である商人と商行為について、その概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商人とはどのような存在かについて、商人資格の取得等と合わせて説明できるようにしておく。	120分
4	10月7日	商号制度		商人がその営業上自己を表す名称のことを商号というが、商号とはどのようなものか、どのように機能しているのか、どのように保護されているのかについて説明する。
		この回の到達目標	商号制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商号」を読み、商号にはどのような機能があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商号の基本的事項について把握したうえで、どのような場合であれば類似商号といえるのかなどについて自分なりに検討してみる。	120分
5	10月14日	商業登記制度の概要		商人情報の公示方法の一つである商業登記制度について、その制度の存在意義や特徴を不動産登記との違いを明らかにしながら、説明する。
		この回の到達目標	商業登記制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第3章 商業登記 1 商業登記制度 2 商業登記の手続き」を読み、商業登記制度とはどのような制度なのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記制度の特徴について、不動産登記との違いを意識しながら、説明できるようにしておく。	120分
6	10月21日	商業登記の効力		商業登記には、一般的効力として消極的公示力と積極的公示力があるとされ、さらに不実登記の効力等も有することから、これらの効力について説明する。
		この回の到達目標	商業登記の効力に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商業登記 3 商業登記の効力」を読み、商業登記にはどのような効力があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記の効力に関する条文操作や解釈に慣れておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	商業帳簿制度	商人情報の公示として位置づけられる商業帳簿にはどのような機能を有しているのかなどについて説明する。	
		この回の到達目標	商業帳簿制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第6章 商業帳簿」を読み、商業帳簿制度の概要について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、さらに簿記論や会計学との関係について自分なりに検討しておく。	120分
8	11月11日	商業使用人制度・代理商	商人の補助者としての商業使用人や代理商について説明する。	
		この回の到達目標	商人の補助者としての商業使用人や代理商に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び「第7章 商業使用人 第8章 代理商」を読み、商人の補助者についてどのような者がいるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業使用人や代理商制度の概要を踏まえうえて、商業使用人と代理商の違いなどについて考察してみる。	120分
9	11月18日	商行為の通則規定	商行為の通則規定についてまずは説明したうえで、民法上の規定との違いなどについて解説する。	
		この回の到達目標	商行為の通則規定に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第9章 商行為法総論」を読み、商行為法通則に関する規定にはどのようなものがあるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法及び商法の規定との違いは何に起因しているのかなどについて説明できるようにしておく。	120分
10	11月25日	商事売買	商人間の売買の場合には、民法とは異なる規律を受ける場合があることから、商人間の売買である商事売買に関する特則規定について説明する。	
		この回の到達目標	商事売買に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第10章 商事売買」を読み、また民法における債務不履行責任や解除制度等について復習しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の売買に関する規定とどのような点が異なるのか、自分なりに表にまとめるなどして説明できるようにしておく。	120分
11	12月2日	交互計算契約	企業取引の決済手段の一つである交互計算契約の特殊性やその効力について説明する。	
		この回の到達目標	交互計算契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第11章 交互計算その他の決済手段」を読み、交互計算契約とはどのような契約であるのか、その概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、交互計算契約の効力等について説明できるようにしておく。	120分
12	12月9日	匿名組合契約	事業を行うに当たって用いられる匿名組合契約とはどのような契約であるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	匿名組合契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第12章 匿名組合」を読み、その契約の概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の組合や会社制度との違いについて、自分なりにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	仲立営業	仲立営業の具体例を用いながら、仲立人の意義や民事仲立・商事仲立の区別、そして仲立人の権利義務関係について説明する。	
		この回の到達目標	仲立営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 仲立営業」を読み、仲立営業の意義や特徴を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、仲立人の特徴について説明できるようにしておく。	120分
14	12月23日	問屋営業	問屋営業の具体例を用いながら、問屋の意義や特徴、そして問屋と委託者との関係や取引の相手方との関係について説明する。	
		この回の到達目標	問屋営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 問屋営業」を読み、問屋営業の意義や特徴を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、代理商・仲立人・問屋の異同について説明できるようにしておく。	120分
15	1月13日	場屋営業	場屋営業において適用される規定や運送人の責任についてその概要を説明する。	
		この回の到達目標	場屋営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第17章 場屋営業」を読み、場屋取引の意義や特徴を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、場屋営業主が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを説明できるようにしておく。	120分

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	金澤 大祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払うか、クレジット・カード等で支払うか、銀行振込を利用するか、手形・小切手を使うか等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。授業では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて支払システムの全体構造、現金やコンビニ決済等簡易な決済方法の主要な論点についての知識を獲得し、さらに手形・小切手等企業間決済のような高度な決済法制の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
継続的に講義に出席し、予習・復習を行う者。

【授業方法】
本講義は、講義形式で行うが、適宜質疑応答を行うことによって学修者一人一人が論理的な解答を導き出すことができることを目指す。また、授業では、判例の原文を用いて、講義を行うなど、高度な内容を取り扱うこともある。ポータルシステムを利用して、解説や講評を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学修者との教員で支払システム法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	支払システム法の全体構造とその特質を識別することができる。		2							
②	現金やコンビニ決済等の簡易な決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。		2		2		2			
③	簡易な決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べるすることができる。				2		2			
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムにて後日配信する。試験の解説・講評については、試験終了後、行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
支払決済法講義（仮）	松嶋隆弘＝大久保拓也	中央経済社	近刊	教科書	推奨
六法				その他	必携
支払決済法－手形小切手から電子マネーまで－（第3版）	小塚荘一郎＝森田果	商事法務	2018	参考書	任意
手形小切手判例百選（第7版）	神田秀樹＝森田果	有斐閣	2014	参考書	任意
備考	教科書は、開講時に指示する。最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 12:10～12:40 授業終了後の講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部火 9/15	ガイダンス 支払決済法の基礎		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 支払決済法の全体像を把握する。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関する文献で予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
2	第一部火 9/15	支払決済の基本的仕組み		支払決済法の基本的な仕組みについて学ぶ。支払決済とは、どのような制度か、どのような法的問題点があるか説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
3	第一部火 9/22	電子マネー		電子マネーの基本的な仕組みについて学ぶ。電子マネーの意義、法的位置付け及び判例等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
4	第一部火 9/22	仮想通貨（暗号資産）		仮想通貨（暗号資産）の基本的な仕組みについて学ぶ。仮想通貨（暗号資産）の意義、法的位置付け及び判例等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
5	第一部火 9/29	銀行振込の概要		銀行振込の基本的な仕組みについて学ぶ。銀行振込の意義、法的位置付けについて説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
6	第一部火 9/29	銀行振込の法的問題点		銀行振込についての法的問題点について学ぶ。銀行振込に関する裁判例について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部火 10/6	デビットカード		デビットカードの基本的な仕組みについて学ぶ。デビットカードの意義、法的位置付け及び判例等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
8	第一部火 10/6	銀行間決済システム・資金移動業		銀行間決済システム・資金移動業の基本的な仕組みについて学ぶ。銀行間決済システム・資金移動業意義、法的位置付け及び判例等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
9	第一部火 10/13	有価証券理論		有価証券理論について学ぶ。有価証券の意義等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
10	第一部火 10/13	約束手形総論		約束手形による決済の過程について学ぶ。約束手形の振出、裏書および支払並びに手形訴訟の概要について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
11	第一部火 10/20	手形行為		手形行為とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。手形行為の特殊性、手形行為の成立要件、手形債権と原因債権の関係について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
12	第一部火 10/20	約束手形の振出		約束手形の振出に関する仕組みについて学ぶ。約束手形の記載事項、手形の交付、利益相反取引との関係、代理権限の濫用について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部火 10/27	第三者による手形行為		第三者による手形行為とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。代理方式、機関方式について学ぶ。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
14	第一部火 10/27	無権代理、偽造、変造		無権限者が手形行為をした場合に誰がどのような責任を負うかについて学ぶ。無権代理、偽造、変造裏書について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
15	第一部火 11/10	約束手形の裏書		約束手形の裏書とは、どのような仕組みになっているかについて学ぶ。裏書の意義、方式および効力並びに手形行為独立の原則の裏書への適用について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
16	第一部火 11/10	裏書の連続の効力		裏書の連続にはどのような効力があるかについて学ぶ。裏書の連続の判断方法、権利推定の効力、善意支払、善意取得について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
17	第一部火 11/17	特殊な裏書		特殊な裏書とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。無担保裏書、裏書禁止裏書、戻裏書、取立委任裏書、質入裏書について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
18	第一部火 11/17	手形抗弁		手形抗弁とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。物的抗弁と人的抗弁の意義、両者の区別について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部火 11/24	人的抗弁		人的抗弁とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。人的抗弁の制限、悪意の抗弁、融通手形の抗弁、後者の抗弁、二重無権の抗弁について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
20	第一部火 11/24	約束手形の請求、手形交換所と不渡		約束手形の請求、不渡とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。満期の意義、支払呈示の効力、手形交換所制度等について学ぶ。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
21	第一部火 12/1	遡求		遡求とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。遡求の意義、要件、効果について学ぶ。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
22	第一部火 12/1	手形保証、手形書替		手形保証、手形書替とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。手形保証、手形書替の意義、方式、裁判例等について学ぶ。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
23	第一部火 12/8	白地手形、手形割引、手形貸付		白地手形、手形割引、手形貸付とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。白地手形、手形割引、手形貸付の意義、方式、裁判例等について学ぶ。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
24	第一部火 12/8	公示催告と除権決定		公示催告、除権決定とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。公示催告の手続、除権決定の効果について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 12/15	手形の時効、利得償還請求権	手形の時効制度の概要、利得償還請求権の仕組みについて学ぶ。手形法上の消滅時効、利得償還請求の意義、要件について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
26	第一部火 12/15	電子記録債権	電子記録債権について約束手形と比較して学ぶ。電子記録債権の発生、譲渡および消滅について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
27	第一部火 12/22	クレジットカードの概要	クレジットカードの仕組みについて学ぶ。クレジットカードの意義、規制、法律構成について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
28	第一部火 12/22	クレジットカードの法的問題	クレジットカードの利用から生じる法的問題点について学ぶ。クレジットカードが関係する裁判例について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
29	第一部火 1/12	小切手	小切手はどのような仕組みになっているか学ぶ。小切手の意義、振出、練引について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分
30	第一部火 1/12	為替手形	為替手形はどのような仕組みになっているか学ぶ。為替手形の意義、活用方法について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。	120分

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払うか、クレジット・カード等で支払うか、銀行振込を利用するか、手形・小切手を使うか等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。授業では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて支払システムの全体構造、現金やコンビニ決済等簡易な決済方法の主要な論点についての知識を獲得し、さらに手形・小切手等企業間決済のような高度な決済法制の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅳ・民法Ⅴを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
支払システム法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で質疑応答を行い、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で支払システム法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	支払システム法の全体構造とその特質を識別することができる。		2							
②	現金やコンビニ決済等の簡易な決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。		2		2		2			
③	簡易な決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べるすることができる。				2		2			
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて講義でフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
支払決済法講義（仮）	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	近刊	教科書	推奨
六法				その他	必携
支払決済法一手形小切手から電子マネーまで（第3版）	小塚荘一郎＝森田果	商事法務	2018	教科書	推奨
手形小切手判例百選（第7版）	神田秀樹＝神作裕之編	有斐閣	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンス 支払決済の基礎	ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。支払決済の全体像について説明する。	
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
2	4月8日	支払手段法の役割	支払手段法の役割を学修する。	
		この回の到達目標	支払手段法の役割を理解することができる。テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
3	4月14日	支払手段の特徴	支払手段の特徴を学修する。	
		この回の到達目標	支払手段の特徴を理解することができる。テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
4	4月15日	決済システムの特徴	決済システムの特徴を学修する。	
		この回の到達目標	決済システムの特徴を理解することができる。テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
5	4月21日	電子マネー	電子マネーを学修する。	
		この回の到達目標	電子マネーを理解することができる。テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
6	4月22日	仮想通貨と疑似通貨	仮想通貨と疑似通貨を学修する。	
		この回の到達目標	仮想通貨と疑似通貨を理解することができる。テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月28日	銀行振込の仕組み	銀行振込の仕組みを学修する。	
		この回の到達目標	銀行振込の仕組みを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	4月29日	預金取引	預金取引を学修する。	
		この回の到達目標	預金取引を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	5月5日	振込の取消・撤回	振込の取消・撤回を学修する。	
		この回の到達目標	振込の取消・撤回を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	5月6日	デビットカード	デビットカードを学修する。	
		この回の到達目標	デビットカードを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	5月12日	銀行間決済システム	銀行間決済システムを学修する。	
		この回の到達目標	銀行間決済システムを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	5月13日	資金移動業・収納代行・代引き	資金移動業・収納代行・代引きを学修する。	
		この回の到達目標	資金移動業・収納代行・代引きを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	5月19日	小切手の基本		小切手の基本を学修する。
		この回の到達目標	小切手の基本を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	5月20日	小切手の振り出し		小切手の振り出しを学修する。
		この回の到達目標	小切手の振り出しを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	5月26日	無権限取引		無権限取引を学修する。
		この回の到達目標	無権限取引を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
16	5月27日	為替手形		為替手形を学修する
		この回の到達目標	為替手形を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
17	6月2日	約束手形とその発展形態		約束手形とその発展形態を学修する。
		この回の到達目標	約束手形とその発展形態を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
18	6月3日	約束手形の振り出し		約束手形の振り出しを学修する。
		この回の到達目標	約束手形の振り出しを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月9日	約束手形の流通	約束手形の流通を学修する。	
		この回の到達目標	約束手形の流通を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
20	6月10日	約束手形の支払	約束手形の支払を学修する。	
		この回の到達目標	約束手形の支払を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
21	6月16日	約束手形の遡求	約束手形の遡求を学修する。	
		この回の到達目標	約束手形の遡求を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
22	6月17日	約束手形上の権利の消滅	約束手形上の権利の消滅を学修する。	
		この回の到達目標	約束手形上の権利の消滅を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
23	6月23日	手形訴訟	手形訴訟を学修する。	
		この回の到達目標	手形訴訟を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
24	6月24日	電子記録債権概論	電子記録債権概論を学修する。	
		この回の到達目標	電子記録債権概論を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	6月30日	電子記録債権の発生	電子記録債権の発生を学修する。	
		この回の到達目標	電子記録債権の発生を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
26	7月1日	電子記録債権の譲渡	電子記録債権の譲渡を学修する。	
		この回の到達目標	電子記録債権の譲渡を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
27	7月7日	電子記録債権の消滅	電子記録債権の消滅を学修する。	
		この回の到達目標	電子記録債権の消滅を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
28	7月8日	電子記録債権の利用	電子記録債権の利用を学修する。	
		この回の到達目標	電子記録債権の利用を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
29	7月14日	クレジットカード	クレジットカードを学修する。	
		この回の到達目標	クレジットカードを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるようになる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
30	7月15日	有価証券理論	有価証券理論を学修する。	
		この回の到達目標	有価証券理論を理解することができる。	
		事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
		事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	大久保 拓也	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払うか、クレジットカード等で支払うか、銀行振込を利用するか、手形・小切手を使うか等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。授業では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて支払システムの全体構造、現金やコンビニ決済等簡易な決済方法の主要な論点についての知識を獲得し、さらに手形・小切手等企業間決済のような高度な決済法制の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅳ・民法Ⅴを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
支払システム法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で質疑応答を行い、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で支払システム法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	支払システム法の全体構造とその特質を識別することができる。					2							
②	現金やコンビニ決済等の簡易な決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2		2		2			
③	簡易な決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							2		2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（定期試験・授業内試験になるかは講義の進度により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムにて後日配信する。試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
六法				その他	必携
支払決済法―手形小切手から電子マネーまで―（第3版）	小塚 荘一郎＝森田果	商事法務	2018	参考書	必携
手形小切手判例百選（第7版）	神田秀樹＝神作裕之編	有斐閣	2014	参考書	推奨
備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）				

【オフィスアワー】
火曜3時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204） ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第二部 月4/6	ガイダンス 支払決済の基礎		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 支払決済の全体像について説明する。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
2	第二部 火4/7	支払決済の基本的仕組み		手形・小切手の基本的仕組みについて学ぶ。支払決済とはどういう制度か、有価証券の意義等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	第二部 月4/13	約束手形の記載事項の概要		約束手形の記載事項には何があるかについて学ぶ。必要的記載事項、署名等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	第二部 火4/14	約束手形の記載事項		約束手形の記載事項には何があるかについて学ぶ。有益的記載事項、無益的記載事項、有害的記載事項等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
5	第二部 月4/20	約束手形の振出の概要		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出と交付等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
6	第二部 火4/21	約束手形の振出		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の権利外觀法理、手形行為と民法・商法の適用等について説明する。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	第二部 月4/27	約束手形の振出と手形の代理		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の代理の概要について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
8	第二部 火4/28	約束手形の振出と手形の無権代理		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の無権代理について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
9	第二部 月5/3	約束手形の裏書の概要		裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の権利移転的効力、担保的効力等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
10	第二部 火5/4	約束手形の裏書		裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の資格授与的効力裏書の連続等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
11	第二部 月5/11	約束手形の裏書と裏書の連続		裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の連続等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		
12	第二部 火5/12	裏書に関わる特別な規制の概要		裏書に関わる特別な規制について学ぶ。善意取得等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 月5/18	裏書に関わる特別な規制	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。特殊の裏書として無担保裏書、戻手形、期限後裏書等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	第二部 火5/19	裏書に関わる特別な規制と取立委任裏書	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。特殊の裏書として取立委任裏書等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
15	第二部 月5/25	裏書に関わる特別な規制と質入裏書	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。特殊の裏書として質入裏書等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
16	第二部 火5/26	手形上の権利の請求の概要	手形上の権利の請求とはどういう制度であるかについて学ぶ。請求の効力等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
17	第二部 月6/1	手形上の権利の請求	手形上の権利の請求とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の呈示、善意免責等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
18	第二部 火6/2	手形抗弁の意義	手形抗弁とはどういう制度であるかについて学ぶ。抗弁の意義等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 月6/8	手形抗弁の種類	手形抗弁とはどういう制度であるかについて学ぶ。物的抗弁・人的抗弁等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
20	第二部 火6/9	約束手形の利用と不渡り	約束手形の利用方法について学ぶ。手形不渡制度等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
21	第二部 月6/15	約束手形の利用と手形行為独立の原則	約束手形の利用方法について学ぶ。手形行為独立の原則等について解説する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
22	第二部 火6/16	手形の支払確保制度の概要	手形の支払確保について学ぶ。手形保証等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
23	第二部 月6/22	手形の支払確保制度の仕組み	手形の支払確保について学ぶ。手形割引、手形貸付等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
24	第二部 火6/23	手形の支払確保と白地手形	手形の支払確保について学ぶ。白地手形等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 月6/29	約束手形の喪失	約束手形の喪失時の対応策について学ぶ。公示催告、除権決定について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
26	第二部 火6/30	約束手形の時効	約束手形の時効について学ぶ。時効、利得償還請求権について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
27	第二部 月7/6	為替手形・小切手	為替手形や小切手とはどういう有価証券であるかについて学ぶ。為替手形と小切手の法的仕組みや活用方法について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
28	第二部 火7/7	小切手・現金決済	小切手とはどういう有価証券であるかについて学ぶ。小切手と現金決済の仕組みについて説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
29	第二部 月7/13	手形・小切手の電子化、ファクタリング、クレジットカード	手形・小切手の電子化、ファクタリング等について学ぶ。でんさい、電子記録債権、クレジットカード等について説明する。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
30	第二部 火7/14	新たな資金決済制度	銀行取引、資金決済法による新たな資金決済制度について学ぶ。銀行振込、暗号資産(仮想通貨)について説明する。授業全体のまとめをする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。	120分

科目名	商法Ⅳ（保険法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
保険契約の意義を理解し、損害保険契約および生命保険契約に関する解釈論上の問題点とこれに関する裁判例を検討し、保険法に関する法的基礎知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における保険制度の役割を理解し、倫理性を踏まえた論理的思考を身に着けるために、保険会社はどのように運営されているか、損害保険契約とは、生命保険契約とは、傷害疾病保険契約とは何か、保険契約に特徴的な点は何か等、保険法に関する基礎的知識を修得する。

【履修条件】
3，4年生を対象とする。商法Ⅰ、債権法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
基本的に、講義形式で行う。 主要な論点に関する裁判例の考察については、発表・討論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連判例の考察について、グループ・ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	保険規制の意義を識別することができる。				2							
②	保険契約・制度、その趣旨、関連する問題点と法の適用等を理解し、説明できる。				2		2		2			
③	保険法の主要な論点に関する裁判例および学説を説明できる。						2		2			
④	保険法の主要な論点に関して考察し、自分の意見を述べることができる。						2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎的知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	25	15	10							60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが，書式等の要件を満たし，課題に適切に答える内容になっているかを基準に，到達目標①②③④にかかわる基礎的理解ができているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に，到達目標③④にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	30	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート、討論・発表等の解説は、授業内に行う。定期試験の解説は、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ポイントレクチャー保険法	甘利公人=福田弥夫=遠山聡	有斐閣	2017年	教科書	必携
保険法判例百選	山下友信=洲崎編	有斐閣	2010年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:20-13:00 研究室（9号館3階 9308研究室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス 保険法の意義	ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 保険法とはどのような法規かを把握する。	
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 到達目標①に関連して、保険法の位置づけをを理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。保険法の位置づけを整理する。	120分
2	9/15	保険の意義	保険とは何か、法学的、経済学的、経営学的にアプローチし、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保険の意義を整理し、説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
3	9/21	保険監督法	保険監督のための法整備 保険制度・保険契約に関する法のうち、保険業法の目的、そこに定める定義等を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保険監督法である保険業法に関連する主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 5を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
4	9/22	保険監督規制のあり方	保険募集の規制について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保険募集規制と、それをめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 5 VI～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
5	9/28	説明義務	保険法における説明義務とは何か、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、説明義務に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 III～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
6	9/29	保険契約の定義	保険契約の定義、当事者および関係者について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保険契約の定義、契約の当事者および関係者と、それをめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 2 I～IIIを読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/5	保険給付の履行期	保険給付の履行期はいつか、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険給付の履行期をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 2 IV～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
8	10/6	被保険利益	被保険利益とは何か、関連判例および学説等を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、被保険利益をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 3 を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
9	10/12	告知義務	告知義務とは何か、保険契約の中でどのような役割を果たすか、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、告知義務をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 4 I、II を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
10	10/13	告知義務違反の効果	告知義務に違反した場合の効果について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、告知義務違反をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 4 III を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
11	10/19	保険金額と保険価額	保険金額、保険価額の意義について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険金額、保険価額の意義に関連する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 5 I～IVを読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
12	10/20	通知義務	通知義務とは何か、保険契約においてどのような役割を果たすか等について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通知義務をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
		事前学修	教科書UNIT 5 V～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/26	火災保険	火災保険とはどのような保険か、主要な問題点等について、判例および学説等とともに理解し、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、火災保険をめぐる主要な問題点に関する考察について、グループワークを行い、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 5 VI～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
14	10/27	保険代位	保険代位とは何か、保険給付請求においてどのような役割を果たすか、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険代位をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 6 を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
15	11/9	故意免責	故意免責の「故意」の意義等について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、故意免責をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の考えを述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 7 を読み、テーマに関するテキストの予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた主要な論点全てに関して復習し、自分の意見をまとめる。	120分
16	11/10	重過失免責	重過失免責の「重過失」の意義等について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、重過失免責に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 7 を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
17	11/16	責任保険	責任保険の意義を中心に、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任保険に関連する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 8 I、II を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
18	11/17	専門家賠償責任保険	専門家賠償責任保険について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、専門家賠償責任保険に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 8 III を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/23	自賠責保険	自賠責保険について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自賠責保険に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 9 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
20	11/24	運行供用者の責任	自賠責保険における運行供用者責任について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、運行供用者の責任に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 9 IIIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
21	11/30	対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険	任意自動車保険における対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意自動車保険における対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 10 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
22	12/1	人身傷害補償保険、車両保険等	任意自動車保険における人身傷害補償保険、車両保険、特約条項について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意自動車保険における人身傷害補償保険、車両保険、特約条項に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 10 III～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
23	12/7	保険料と保険者の責任	生命保険契約における保険料と保険者の責任について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険契約における保険料と保険者の責任に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 11 I～Vを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
24	12/8	他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約	他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 11 VI～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/14	保険金受取人の変更	生命保険契約における保険金受取人の変更について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険契約における保険金受取人の変更に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 2 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
26	12/15	生命保険金受取人の権利	生命保険契約における保険金受取人の権利の取得割合、介入権について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険金受取人の権利の取得割合、介入権に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 2 III～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
27	12/21	生命保険契約の免責事由	生命保険の免責事由について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険の免責事由に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 3を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
28	12/22	傷害保険の保険事故	傷害保険契約の保険事故について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、傷害保険契約の保険事故に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 4 Iを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
29	1/12	責任開始期前発病不担保	生命保険契約における責任開始期前発病不担保条項について、関連判例および学説等とともに理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険契約における責任開始期前発病不担保条項をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 4 IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
30	1/18	まとめ	保険契約全般について、総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、説明義務に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの教科書、ノート等を確認する。	120分
		事後学修	定期試験の準備。	120分

科目名	商法Ⅳ（保険法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
保険契約の意義を理解し、損害保険契約および生命保険契約に関する解釈論上の問題点とこれに関する裁判例を検討し、保険法に関する法的基礎知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における保険制度の役割を理解し、倫理性を踏まえた論理的思考を身に着けるために、保険会社はどのように運営されているか、損害保険契約とは、生命保険契約とは、傷害疾病保険契約とは何か、保険契約に特徴的な点は何か等、保険法に関する基礎的知識を修得する。

【履修条件】
民法総則および債権法を履修済みか並行履修していることが望ましい。必ず「保険法」が登載された六法（小型版六法で可）を携行のこと。

【授業方法】
講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	裁判例や時事の法律問題について、各自の調査・研究に基づいた報告と討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	保険規制の意義を識別することができる。				2							
②	保険契約・制度、その趣旨、関連する問題点と法の適用等を理解し、説明できる。				2		2		2			
③	保険法の主要な論点に関する裁判例および学説を説明できる。						2		2			
④	保険法の主要な論点に関して考察し、自分の意見を述べることができる。						2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎的知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	25	15	10							60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが，書式等の要件を満たし，課題に適切に答える内容になっているかを基準に，到達目標①②③④にかかわる基礎的理解ができているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に，到達目標③④にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	30	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対するフィードバックは、授業内またはポータルサイトを通じて実施します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ポイントレクチャー保険法	甘利＝福田＝遠山	有斐閣	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信することも可とします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	保険法の範囲	本講義のガイダンス 保険法を学ぶ目的を説明し、本講座が対象とする法領域を説明する。	
		この回の到達目標	本講座で学ぶ法領域を理解し、保険制度と保険契約および保険法の対象領域とこれらの意義について他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1を通読し理解する。	120分
		事後学修	民事法の全体像を把握したうえで、民事法の中における保険法の役割・存在意義を理解し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
2	9/16	保険法判例の読み方	保険法に関する裁判例を読む際の着眼点を理解し、事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1のPOINT 1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
3	9/23	保険契約の当事者の権利義務（1）	保険契約の当事者の間の基本的な権利義務関係を整理し理解する。	
		この回の到達目標	保険契約の当事者の間の基本的な権利義務関係を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 2を通読し理解する。	120分
		事後学修	保険契約の当事者の間の基本的な権利義務関係を理解し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
4	9/23	保険契約の当事者の権利義務（2）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 2のPOINT 1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
5	9/30	被保険利益（1）	被保険利益に関する従来の議論を踏まえて、今日的な意義を検討する。	
		この回の到達目標	被保険利益に関する今日的な意義を理解し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 3を通読し理解する。	120分
		事後学修	生命保険と損害保険における被保険利益の相違を理解し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
6	9/30	被保険利益（2）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 3のPOINT 1～3に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/7	告知義務（１）	告知義務制度に内在する問題点を検討する。	
		この回の到達目標	告知義務制度に内在する今日的な法律問題を理解し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 4を通読し理解する。	120分
		事後学修	告知義務違反の意義・要件・効果を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
8	10/7	告知義務（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 4のPOINT 1～6に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
9	10/14	火災保険・地震保険（１）	火災保険・地震保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	火災保険・地震保険の概要と重要な法律問題を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 5を通読し理解する。	120分
		事後学修	地震免責を巡る法律問題を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
10	10/14	火災保険・地震保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 5のPOINT 1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
11	10/21	保険代位（１）	保険代位の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	保険代位の概要と重要な法律問題を検討し、これらを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 6を通読し理解する。	120分
		事後学修	保険代位を巡る法律問題を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
12	10/21	保険代位（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 6のPOINT 1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/28	免責事由（１）	保険会社が免責される場合とこれに関する重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	保険会社が免責される場合とこれに関する重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 7を通読し理解する。	120分
		事後学修	故意免責の射程範囲を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
14	10/28	免責事由（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 7のPOINT 1～7に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
15	11/11	・確認テスト ・確認テストの解説	これまでに学んだ領域に関する理解度と応用度を確認する。	
		この回の到達目標	これまでに学んだ領域に関する重要論点と重要裁判例の判旨を再確認し、これらを踏まえた応用問題にも自分の考えを他者に説明できる。	
		事前学修	これまでの重要論点と重要裁判例の振り返り	120分
		事後学修	テスト結果を踏まえ、自分自身の理解度を確認するとともに、理解度が不十分な点、応用力が不十分な点を改めて再確認し、テキストや裁判例の必要箇所を再読する。	120分
16	11/11	賠償責任保険（１）	賠償責任保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	賠償責任保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 8を通読し理解する。（120分）	120分
		事後学修	賠償責任保険を巡る法律問題を整理し、自分の言葉で説明を試みる。（120分）	120分
17	11/18	賠償責任保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 8のPOINT 1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
18	11/18	自賠責保険（１）	自賠責保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	自賠責保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 9を通読し理解する。	120分
		事後学修	自賠責保険と任意自動車保険との異同を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/25	自賠責保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 9のPOINT 1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
20	11/25	任意自動車保険（１）	任意自動車保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	任意自動車保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 10を通読し理解する。	120分
		事後学修	自賠責保険と任意自動車保険との異同を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
21	12/2	任意自動車保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 10のPOINT 1～6に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
22	12/2	生命保険（１）	生命保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	生命保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 11を通読し理解する。	120分
		事後学修	生命保険金請求権の法的性質を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
23	12/9	生命保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 11のPOINT 1～6に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
24	12/9	保険金受取人（１）	保険金受取人に関する重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	保険金受取人に関する重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 12を通読し理解する。	120分
		事後学修	保険金受取人とその他の保険契約関係者との関係を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/16	保険金受取人（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 2のPOINT 1～9に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
26	12/16	生命保険の免責事由（１）	生命保険の免責事由の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	生命保険の免責事由の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 3を通読し理解する。	120分
		事後学修	生命保険の免責事由を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
27	12/23	生命保険の免責事由（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 3のPOINT 1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
28	12/23	傷害疾病保険（１）	傷害疾病保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
		この回の到達目標	傷害疾病保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 4を通読し理解する。	120分
		事後学修	生命保険と傷害疾病保険との異同を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
29	1/13	傷害疾病保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
		この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
		事前学修	教科書UNIT 1 4のPOINT 1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
		事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
30	1/13	・本講座のまとめ ・授業内試験 ・試験の解説	本講座で学んだ重要項目を再確認し、その理解度と応用力を授業内試験で確認する。	
		この回の到達目標	これまでに学んだ領域に関する重要論点と重要裁判例の判旨を再確認し、これらを踏まえた応用問題にも自分の考えを他者に説明できる。	
		事前学修	これまでの学習内容の振り返る。	120分
		事後学修	試験で誤った個所の再確認を行う。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	工藤 聡一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野についても扱う。運送法では運送モードに応じた法規整を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。また、運送法分野についても、この講義を通して、運送取引に関する基礎知識を踏まえて、そこで生じる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎授業の最初にその日の「なぜ」を提示する。授業は講義形式のなぞ解きである。時間の最後に自分なりの「こたえ」を各自ノートに書き留めてもらう。それらが、ミニテスト、授業内テストにおける総合問題のヒントとなる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。				2							
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。				2		2		2			
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績評価指標の収集に続いて、当該指標における設問の意味、模範解答等を説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代商取引法』	藤田勝利・工藤聡一編	弘文堂	2011年		
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂にて、授業（水曜2限）の前後に質問に応じる。そこでアポイントメントとることにより、後日対応することもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	5/13	ガイダンス・イントロダクション・身近な企業取引（売買取引）	（ガイダンス）授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法等について確認する。 （イントロダクション：身近な企業取引（１）売買取引「商事売買」）企業法の体系を概観し、今後の学習内容を俯瞰する。身近な企業取引として、民事取引との対比における「商事売買」の仕組みを考察し、企業取引法への関心を育てる。	
		この回の到達目標	売買取引に関する商法規制の概要を説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅰ編第１章、第Ⅱ編第１章）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームA「KWLチャート（１）『商事売買』」を完成させる。	120分
2	5/20	身近な企業取引（売買仲介取引）	（身近な企業取引（２）売買仲介取引「仲立」）身近な企業取引として、「仲立人」ないし「仲介業者（ブローカー）」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる。また、派生論点として、バーチャル・ショッピング・モール等のプラットフォーム責任を考える。	
		この回の到達目標	売買仲介取引に関する商法規制の概要を説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第２章１）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームF「VENNダイアグラム『仲立人v s 問屋』」を完成させる。	120分
3	5/27	身近な企業取引（運送取引）	（身近な企業取引（３）運送取引「運送人」、運送仲介取引「運送取扱人から通運業者へ」）身近な企業取引として、「フォワダー」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる。	
		この回の到達目標	運送取引に関する商法規制の概要を説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第２章２）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームG「FRAYERモデル『フォワダー』」を完成させる。	120分
4	6/3	一般企業設備（人的設備・物的設備）	（一般企業設備：支配人、使用人、商号、商業帳簿、商業登記）企業取引を支える汎用的な企業設備として、「支配人」の権利義務を考察し、企業取引法への関心を育てる。担当教員の実務経験を踏まえて、企業の人的・物的設備の運用上の問題を重点的に講義する。	
		この回の到達目標	支配人等人的企業設備、及び商号等物的企業設備に関する商法規制の概要を説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅰ編第２章４、第３章１）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームC「KWLチャート『支配人の競業禁止義務』」を完成させる。	120分
5	6/10	陸上運送の企業主体	（陸上運送の企業主体）陸上運送人の権利義務について考える。国際複合運送における相次運送責任の成否を検討に含める。 ミニテストを実施する。解答に引き続き、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行う。	
		この回の到達目標	陸上運送の実態と法的規制とを把握し、その重要課題について説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章１、６）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。フォームA～Iのうちの１つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームB「KWLチャート（２）『コンテナ輸送』」を完成させる。	120分
6	6/17	海上運送の企業主体	（海上運送の企業主体と企業設備）海上運送の大資金性及び投機性が反映した、海上運送人の企業主体及び物的設備の態様を考察する。	
		この回の到達目標	陸上運送の実態と法的規制とを把握し、その重要課題について説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章３）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。フォームA～Iのうちの１つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	6/24	海上運送の企業活動	(海上運送の企業活動) 内航運送と外航運送の事業内容と関連制度について考察する。
		この回の到達目標	海上運送の実態と法的規制とを把握し、その重要課題について説明することができる。
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章4）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。120分
8	7/1	海上危険への対処	(海上危険への対処) 海上企業活動において不可避な海上危険への対処にかかる制度を考察する。
		この回の到達目標	海上運送の法的規制と海上危険との関係について、説明することができる。
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅰ編第1章、第Ⅱ編第1章）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。120分
9	7/8	運送仲介と倉庫寄託の企業活動	(運送仲介と倉庫寄託の企業活動) ロジスティクスの高度化に占める運送仲介及び倉庫寄託の役割を考察する。
		この回の到達目標	運送仲介及び倉庫寄託の現代的役割を説明することができる。
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章2）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。120分
10	7/15	国際航空運送の制度インフラ	(国際航空運送の制度インフラ) 航空機の円滑な往来を可能にする国際的な法的枠組みを確認する。国際航空公法である1944年シカゴ条約を俯瞰したのち、1929年ワルソー条約から1966年モントリオール協定までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける。
		この回の到達目標	いわゆるシカゴ条約体制の意義を説明することができる。
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、及びPDF教材『現代航空法論』（10）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。120分
		事後学修	テキスト、PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。120分
11	7/22	航空運送の企業主体	(航空運送の企業主体) 1971年グアテラマ・シティー議定書から1999年モントリオール条約までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける。
		この回の到達目標	いわゆるワルソー条約体制の意義を説明することができる。
		事前学修	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、及びPDF教材『現代航空法論』（10）を再度読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。120分
12	7/29	航空運送の企業設備・航空運送の企業活動	(航空運送の企業設備、航空運送の企業活動) 海上運送との対比において、航空企業の設備及び同企業活動の特徴を確認する。
		この回の到達目標	海上運送との対比において、航空企業の設備及び同企業活動の特徴を説明することができる。
		事前学修	PDF教材『現代航空法論』（6）及び（13）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	8/5	航空危険への対処	(航空危険への対処) 航空企業活動において不可避である航空危険への対処にかかる制度を考察する。今後増加が見込まれるドローン(小型無人機)の問題を考察対象に含める。担当教員の実務経験を踏まえて、ドローンの実務上の問題点を重点的に講義する。	
		この回の到達目標	航空運送の法的規制と海上危険との関係について、説明することができる。	
		事前学修	PDF教材『現代航空法論』(12)及び(14)を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。	120分
14	8/19	宇宙運送の可能性	(宇宙運送の可能性) 海陸、空陸、海空の各複合運送の課題、及び宇宙運送の可能性を考察する。	
		この回の到達目標	宇宙条約と航空運送条約とを参照しつつ、宇宙運送を性格づけその法的課題を説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』(第Ⅱ編第1章)、及びPDF教材『現代航空法論』(15)を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。	120分
		事後学修	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。	120分
15	8/26	サマリー	(サマリー) 半年間の講義を総括する。授業内テストを実施し、解答に引き続き、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行う。	
		この回の到達目標	国際航空運送人の責任制度の変遷を説明することができる。	
		事前学修	教科書『現代商取引法』及びPDF教材『現代航空法論』を通読する。フォームI「5ステップ・アウトライン・オーガナイザー『国際航空運送責任制度』」を準備する。	120分
		事後学修	自己のキャリアプラン、興味に即して、本講で学んだ概念、手法を用いたレポートを作成してみよう。例えば、物流企業への就職を希望しており、業界の課題としての人手不足やラストワンマイルに関心がある場合に、「自律飛行ドローンで運送営業を行う際の責任問題」についてまとめる、といったことである。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野についても扱う。運送法では運送モードに応じた法規整を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じうる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。また、運送法分野についても、この講義を通して、運送取引に関する基礎知識を踏まえて、そこで生じうる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的には講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で運送法の主要な論点移管する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。				2							
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。				2		2		2			
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月8日	運送法概論		運送法とはどのような法分野であるのか、その概要と、各種運送モードの説明を行う。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 運送法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第15章 運送営業・運送取扱営業」を読み、運送法全体を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を読みながら解答し、各種運送モードによる法規整の違いを確認する。	120分
2	4月15日	陸上運送契約の意義		陸上運送の契約の性質や、陸上運送の当事者たる運送人及び荷送人との法律関係と、荷受人との関係について説明する。
		この回の到達目標	陸上運送契約の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上運送の範囲や特徴について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上運送契約の性質や特徴について、自分なりにまとめておく。	120分
3	4月22日	陸上物品運送人の責任		陸上物品運送人の責任ついて、民法上の債務不履行責任との違い等を踏まえたうえで、その特徴について説明する。
		この回の到達目標	陸上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の責任の特徴（特に、民法上の債務不履行責任との違い）についてまとめておく。	120分
4	4月29日	陸上運送人の責任の特則		陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴である、高価品特則や損害賠償額の定型化に関する規定等について説明する。
		この回の到達目標	陸上運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴のうち高価品特則や損害賠償額の定型化に関する制度等について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴について、特則が適用される場合とそうではない場合とを把握しておく。	120分
5	5月6日	鉄道運送契約		陸上運送のうち、鉄道運送契約の特徴について説明したうえで、それ以外の陸上運送との違いについて解説する。
		この回の到達目標	鉄道運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、鉄道運送（鉄道物品運送及び鉄道旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、鉄道運送契約の特徴を把握し、実際、自身が締結している鉄道運送契約にはどのような問題があるのか、調べておく。	120分
6	5月13日	航空運送契約		航空運送契約の特徴について説明したうえで、商法の各規定との関係や各種航空運送に係る条約について説明する。
		この回の到達目標	航空運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、航空運送（航空物品運送及び航空旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、航空運送契約の特徴を把握しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	海商法概論	海商法とはどのような法分野であるのか、そこにはどのような特徴を有しているのか、そして、海商法の基本概念である船舶とは法律上、どのような存在であるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	海商法概論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法とはどのような法分野であるのか、法律上、船舶とはどのように扱われるのかについて確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海商法の特異性や船舶の法律上の扱いについて確認しておく。	120分
8	5月27日	船舶所有者・船員等	船舶の運航主体たる海上運送人・船舶所有者や海上運送人の補助者たる船員とはどのような存在であるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	船舶所有者・船員等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶の運航主体である海上運送人・船舶所有者の概念、そして、海上運送人の補助者たる船員についてどのような存在であるのか把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上運送人の特徴や船員について確認しておく。	120分
9	6月3日	船主責任制限制度	船舶所有者等の責任を一定程度制限する船主責任制限制度について説明する。	
		この回の到達目標	船主責任制限制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶所有者等の責任について確認し、そのうえで、船舶所有者の責任を一定程度制限する制度（船主責任制限制度）とは、どのような制度であるのか、その概要を確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船主責任制限制度の概要及び特徴を確認しておく。	120分
10	6月10日	船荷証券	海上運送人が荷送人に対して発行する船荷証券とはどのような証券であるのか、そして、どのような特徴を有するものであるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	船荷証券に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上運送人が発行する船荷証券とはどのような証券であるのかを簡単に確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船荷証券の意義及び特徴について把握しておく。	120分
11	6月17日	海上物品運送契約	海上物品運送契約は、どのように締結され、どのように履行されて、どのように終了するのかなどについて説明する。	
		この回の到達目標	海上物品運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送契約の履行過程について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送契約の履行過程について、図示するなどして、説明できるようにしておく。	120分
12	6月24日	海上物品運送人の責任	海上物品運送人の責任について、陸上運送や航空運送との違いを踏まえたうえで、その特徴について説明する。	
		この回の到達目標	海上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任について、どのような特徴を有しているのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任はどのような場合に生じるのか、その責任の性質は何かについて確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月1日	海上物品運送人の責任の特則		海上物品運送人がたとえ責任を負ったとしても、一定程度制限する制度や、場合によっては免責が認められる場合があるが、それはどのような場合なのか、なぜそのような制度が存在するのかを説明する。
		この回の到達目標	海上物品運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任制限や免責が認められる場合には、どのような場合があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任制限や免責について確認し、さらに、その合理性について説明できるようにしておく。	120分
14	7月8日	船舶衝突、海難救助、共同海損		海は危険と隣合わせであることから、海商法上、船舶の衝突に関する規定や、海難救助や共同海損制度があるが、その制度の内容及び特徴について説明する。
		この回の到達目標	船舶衝突などに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法特有の法的諸問題である、船舶衝突・海難救助・共同海損制度についてその概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船舶衝突規定や海難救助・共同海損制度について、どのような制度なのかについて説明できるようにしておく。	120分
15	7月15日	運送法・海商法の総復習		前期のまとめとして、運送法の概要及び海商法の概要について、改めてその中心的な部分を説明する。
		この回の到達目標	運送法・海商法の全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	配布された講義レジュメ及び教科書を通読し、運送法とはどのような法分野であるのか、また海商法とはどのような法分野で陸上運送や航空運送とはどのような異同があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、陸上運送・航空運送・海上運送の異同について、自分なりに表などにまとめて説明できるようにしておく。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。より具体的にいえば、商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野について扱う。運送法総論では、主として陸上運送契約の特徴や陸上運送人の責任について説明し、また海商法では海上運送に特有の法的諸問題について説明することとなる。なお、陸上運送の中でも特殊な鉄道運送及び航空運送についても解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法に関する基礎的知識を踏まえて、商取引、とりわけ運送取引において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。運送取引は、その運送モード（陸上運送・航空運送・海上運送）によって法的規律が異なっており、その違いを踏まえたうえでそこで生じる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
民法総則および債権法を履修済みかまたは並行して履修していることが望ましい。なお、講義には必ず直近の商法改正を反映した六法（小型版六法で可）を携行のこと。

【授業方法】
講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	裁判例や時事の法律問題について、各自の調査・研究に基づいた報告と討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。				2							
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。				2		2		2			
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルサイトで実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガルマインド 商法総則・商行為法第3版	弥永真生	有斐閣	2019年3月	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	寄託に関する法律関係の全体像	「他人からモノをあずかる」ことによって生じる法律関係の基本的な枠組みとその全体像を整理し理解する。	
		この回の到達目標	「他人からモノをあずかる」ことによって生じる法律関係の全体像を理解し、他者に説明できる。	
		事前学修	「他人からモノをあずかる」法律関係の基本となる寄託契約の規整（民法657条～666条）を通読し、その条文の意味するところを理解する。	120分
		事後学修	民事寄託（民法657条～666条）の法規整を再読しそれらの全体像を理解し、自分の言葉で説明してみる。	120分
2	4/13	商事寄託と場屋営業	商事寄託（商法593条～596条）の規整を整理したうえで、場屋営業者の顧客に対する法律上の責任を理解する。	
		この回の到達目標	民事寄託と商事寄託の異同を理解したうえで、場屋営業者の顧客に対する法律上の責任の考え方を他者に説明できる。	
		事前学修	商法593条～596条と教科書第13章を通読し、場屋営業者とその顧客との法律関係の概要を理解する。	120分
		事後学修	商事寄託と場屋営業者の責任の異同を整理・理解し、それを自分の言葉で説明してみる。	120分
3	4/20	商法典と取引約款の異同	実際の取引で使用される寄託約款・宿泊約款等を参照して、商法典との規整の異同を整理したうえで、重要裁判例の位置づけを理解する。	
		この回の到達目標	商法典の規整と取引約款の異同を整理し理解したうえで、それを他者に説明できる。	
		事前学修	民事寄託と商事寄託に関してあらかじめ指定した取引約款と裁判例（商法判例百選【98事件】）を通読し理解する。	120分
		事後学修	場屋営業者の責任に関する重要裁判例の論点と裁判所の判断を再読して、それを自分の言葉で説明してみる。	120分
4	4/27	倉庫営業	倉庫営業者に関する商法典の規整を整理し、倉庫営業者の顧客に対する責任を整理し理解する。また、商法典と倉庫約款との重要な異同について整理し理解する。	
		この回の到達目標	倉庫営業者に関する商法典の規整と取引約款の異同を整理し理解したうえで、それを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書第12章の倉庫営業者の部分を通読し、倉庫営業者とその顧客との法律関係の概要を把握する。	120分
		事後学修	倉庫約款の具体的な規整内容を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分
5	5/4	倉庫営業の裁判例	倉庫営業者に関する裁判例を検討したうえで、民事寄託・商事寄託・倉庫取引を横断的に整理し理解する。	
		この回の到達目標	倉庫営業者に関する裁判例を検討し理解したうえで、それを他者に説明できる。	
		事前学修	倉庫営業者に関してあらかじめ指定した裁判例（商法判例百選【94事件】）を通読し理解する。	120分
		事後学修	学習した裁判例を再読し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引の商法典と約款の規整のそれぞれの異同を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分
6	5/11	運送営業	運送業界の概要と運送取引に関する商法典の基本構造を理解し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引との異同を検討する。	
		この回の到達目標	運送取引に関する法規整を整理・理解し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引との異同を他者に説明できる。	
		事前学修	あらかじめ指定する運送業界の資料を一読するほか、教科書第12章の運送営業の部分を通読し、商法典の運送取引に関する規整の概要を把握する。	120分
		事後学修	運送取引に関する商法典の基本構造を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/18	陸上物品運送		陸上物品運送に関する商法典の規整と運送約款を整理し、それらの重要な異同について理解する。
		この回の到達目標	陸上物品運送に関する法規整の概要を理解し、それらを他者に説明できる。	
		事前学修	教科書第12章の「陸上物品運送」の部分を通読し、併せてあらかじめ指定した運送約款を一読し理解する。	120分
		事後学修	運送取引に関する商法典の基本構造と運送約款との重要な異同を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分
8	5/25	陸上物品運送約款		商法典の規整と運送約款の重要事項を整理したうえで、論点に関する裁判所の判断を整理し理解する。
		この回の到達目標	陸上物品運送において生じる法律問題やそれらの類型を理解し、それらの類型ごとの判断基準を整理し他者に説明できる。	
		事前学修	あらかじめ指定した陸上物品運送に関する重要裁判例（商法判例百選の中から指示する）を一読し理解する。	120分
		事後学修	陸上物品運送に関して紛争となる論点を整理し、裁判例の判断理由を自分の言葉で説明してみる。	120分
9	6/1	小テストと解説		授業内容の理解度の確認
		この回の到達目標	これまでの従業内容をふりかえり、その理解度を自身で確認する。	
		事前学修	第1回～第8回の講義内容を振り返り、重要論点を整理・理解しておく。	120分
		事後学修	テストと自己の解答結果および解説を振り返り、自分の理解度を確認する。	120分
10	6/8	陸上旅客運送		陸上旅客運送に関する商法典の規整と旅客運送約款を整理し、それらの重要な異同について理解0する。
		この回の到達目標	陸上旅客運送において生じる法律問題やそれらの類型を理解し、それらの類型ごとの判断基準を整理し他者に説明できる。	
		事前学修	教科書第12章の「陸上旅客運送」の部分を通読し、併せてあらかじめ指定した旅客運送約款を一読し理解する。	120分
		事後学修	陸上旅客運送に関する商法典の基本構造と運送約款との重要な異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
11	6/15	航空旅客運送		旅客運送約款や重要裁判例を通じて航空旅客運送に関する法律問題を整理し、それらの重要な異同について理解する。
		この回の到達目標	裁判例の検討を通じて陸上旅客運送と航空旅客運送の法律問題の相違を理解し、それを他者に説明できる。	
		事前学修	あらかじめ指定する航空旅客運送に関する重要裁判例（商法判例百選の中から指定する）を一読し事案概要を整理・把握する。	120分
		事後学修	陸上旅客運送・航空旅客運送の重要な異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
12	6/22	航空運送		航空運送に関する近時の重要な法律問題と裁判例を整理しそれらを理解する。
		この回の到達目標	航空運送に関する法規整および航空運送約款の概要を理解し、主要な法律問題について他者に説明できる。	
		事前学修	航空運送に関する業界資料と裁判例等を通読し、航空運送に関する法・条約規整の概要を理解する。	120分
		事後学修	航空運送に関する重要論点と裁判例を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	海上運送	海上運送に関する近時の重要な法律問題と裁判例を整理しそれらを理解する。	
		この回の到達目標	海上運送に関する法規整および航空運送約款の概要を理解し、主要な法律問題について他者に説明できる。	
		事前学修	海上運送に関する業界資料と裁判例等を通読し、海上運送に関する法・条約規整の概要を理解する。	120分
		事後学修	海上運送に関する重要論点と裁判例を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
14	7/6	国際海上運送	国際海上運送に関する近時の重要な法律問題と裁判例を整理しそれらを理解する。	
		この回の到達目標	国際海上運送に関する法規整および航空運送約款の概要を理解し、主要な法律問題について他者に説明できる。	
		事前学修	国際海上運送に関する業界資料と裁判例等を通読し、海上運送に関する法・条約規整の概要を理解する。	120分
		事後学修	国際海上運送に関する重要論点と裁判例を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
15	7/13	授業内試験と解説	授業内試験 フィードバックはポータルサイト等を通じて行う。	
		この回の到達目標	本講座で学んだ領域についての理解度と応用力の確認を行う。	
		事前学修	これまでに本講座で学んだ重要論点や重要裁判例の判旨を復習する。	120分
		事後学修	試験結果をふりかえり、自分の理解度・応用力を確認する。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	南 健悟	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野についても扱う。運送法では運送モードに応じた法規整を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。また、運送法分野についても、この講義を通して、運送取引に関する基礎知識を踏まえて、そこで生じる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的には講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で運送法の主要な論点移管する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。				2							
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。				2		2		2			
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について知識・技能・態度が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年		
備考					

【オフィスアワー】
毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月8日	運送法概論		運送法とはどのような法分野であるのか、その概要と、各種運送モードの説明を行う。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 運送法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第15章 運送営業・運送取扱営業」を読み、運送法全体を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を読みながら解答し、各種運送モードによる法規整の違いを確認する。	120分
2	4月15日	陸上運送契約の意義		陸上運送の契約の性質や、陸上運送の当事者たる運送人及び荷送人との法律関係と、荷受人との関係について説明する。
		この回の到達目標	陸上運送契約の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上運送の範囲や特徴について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上運送契約の性質や特徴について、自分なりにまとめておく。	120分
3	4月22日	陸上物品運送人の責任		陸上物品運送人の責任について、民法上の債務不履行責任との違い等を踏まえたうえで、その特徴について説明する。
		この回の到達目標	陸上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の責任の特徴（特に、民法上の債務不履行責任との違い）についてまとめておく。	120分
4	4月29日	陸上運送人の責任の特則		陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴である、高価品特則や損害賠償額の定型化に関する規定等について説明する。
		この回の到達目標	陸上運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴のうち高価品特則や損害賠償額の定型化に関する制度等について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴について、特則が適用される場合とそうではない場合とを把握しておく。	120分
5	5月6日	鉄道運送契約		陸上運送のうち、鉄道運送契約の特徴について説明したうえで、それ以外の陸上運送との違いについて解説する。
		この回の到達目標	鉄道運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、鉄道運送（鉄道物品運送及び鉄道旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、鉄道運送契約の特徴を把握し、実際、自身が締結している鉄道運送契約にはどのような問題があるのか、調べておく。	120分
6	5月13日	航空運送契約		航空運送契約の特徴について説明したうえで、商法の各規定との関係や各種航空運送に係る条約について説明する。
		この回の到達目標	航空運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、航空運送（航空物品運送及び航空旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、航空運送契約の特徴を把握しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	海商法概論	海商法とはどのような法分野であるのか、そこにはどのような特徴を有しているのか、そして、海商法の基本概念である船舶とは法律上、どのような存在であるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	海商法概論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法とはどのような法分野であるのか、法律上、船舶とはどのように扱われるのかについて確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海商法の特異性や船舶の法律上の扱いについて確認しておく。	120分
8	5月27日	船舶所有者・船員等	船舶の運航主体たる海上運送人・船舶所有者や海上運送人の補助者たる船員とはどのような存在であるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	船舶所有者・船員等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶の運航主体である海上運送人・船舶所有者の概念、そして、海上運送人の補助者たる船員についてどのような存在であるのか把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上運送人の特徴や船員について確認しておく。	120分
9	6月3日	船主責任制限制度	船舶所有者等の責任を一定程度制限する船主責任制限制度について説明する。	
		この回の到達目標	船主責任制限制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶所有者等の責任について確認し、そのうえで、船舶所有者の責任を一定程度制限する制度（船主責任制限制度）とは、どのような制度であるのか、その概要を確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船主責任制限制度の概要及び特徴を確認しておく。	120分
10	6月10日	船荷証券	海上運送人が荷送人に対して発行する船荷証券とはどのような証券であるのか、そして、どのような特徴を有するものであるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	船荷証券に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上運送人が発行する船荷証券とはどのような証券であるのかを簡単に確認しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船荷証券の意義及び特徴について把握しておく。	120分
11	6月17日	海上物品運送契約	海上物品運送契約は、どのように締結され、どのように履行されて、どのように終了するのかなどについて説明する。	
		この回の到達目標	海上物品運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送契約の履行過程について把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送契約の履行過程について、図示するなどして、説明できるようにしておく。	120分
12	6月24日	海上物品運送人の責任	海上物品運送人の責任について、陸上運送や航空運送との違いを踏まえたうえで、その特徴について説明する。	
		この回の到達目標	海上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任について、どのような特徴を有しているのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任はどのような場合に生じるのか、その責任の性質は何かについて確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	7月1日	海上物品運送人の責任の特則		海上物品運送人がたとえ責任を負ったとしても、一定程度制限する制度や、場合によっては免責が認められる場合があるが、それはどのような場合なのか、なぜそのような制度が存在するのかを説明する。
		この回の到達目標	海上物品運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任制限や免責が認められる場合には、どのような場合があるのかを把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任制限や免責について確認し、さらに、その合理性について説明できるようにしておく。	120分
14	7月8日	船舶衝突、海難救助、共同海損		海は危険と隣合わせであることから、海商法上、船舶の衝突に関する規定や、海難救助や共同海損制度があるが、その制度の内容及び特徴について説明する。
		この回の到達目標	船舶衝突などに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法特有の法的諸問題である、船舶衝突・海難救助・共同海損制度についてその概要を把握しておく。	120分
		事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船舶衝突規定や海難救助・共同海損制度について、どのような制度なのかについて説明できるようにしておく。	120分
15	7月15日	運送法・海商法の総復習		前期のまとめとして、運送法の概要及び海商法の概要について、改めてその中心的な部分を説明する。
		この回の到達目標	運送法・海商法の全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	配布された講義レジュメ及び教科書を通読し、運送法とはどのような法分野であるのか、また海商法とはどのような法分野で陸上運送や航空運送とはどのような異同があるのかを確認しておく。	120分
		事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、陸上運送・航空運送・海上運送の異同について、自分なりに表などにまとめて説明できるようにしておく。	120分

科目名	情報システム論Ⅰ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ワードやエクセルを利用して、データベースを利用して必要な情報を抽出すること等も含め情報の処理ができるように演習形式で進める講義である。ワード、エクセルの操作方法の習得が中心となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセル、パワーポイントによる電子データの作成と処理方法を習得させることを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、特にエクセルに関しては関数が十分に利用できることを目標とする。

【履修条件】
演習が中心となるので、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネットを利用して、知識、教養を深めることができる。					4							
②	Word, の基本操作を理解し、各国語によるFileを作成することができる。						4						
③	Word, PowerPoint、Excelを用いて論理的な文書を作成することや、プレゼンテーションが行える							4					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Wordの操作を中心にして、到達目標①②②の観点から、 事業内でコンピュータを使用した実技試験を行う。	10	80	10								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	80	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回目の講義の際に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Microsoft Word 2016ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
よくわかる Microsoft Excel 2016ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス 本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。コンピュータの利用方法について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。	
		事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。	120分
		事後学修	「よくわかるMicrosoft Word 2013 ドリル」Lesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。	120分
2	4月15日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作1（テキストLesson1～Lesson3）」	ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン1～レッスン3までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson1～Lesson3を予習すること。特にLesson3でタッチキー入力を練習すること。	120分
		事後学修	特殊文字の入力には様々な方法があるので合理的な方法を活用するように復習すること。タッチキー入力の練習をすること。	120分
3	4月22日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作2（テキストLesson4～Lesson6）」	ワードのテキストレッスン4～レッスン6までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson4～Lesson6を予習すること。特にLesson4、Lesson5を利用してタッチキー入力を練習する。	120分
		事後学修	同一の結果になる複数の操作方法があるので好みの方法で行えばよい。タッチキーの練習をすること。	120分
4	4月29日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作3（テキストLesson7～Lesson10）」	ワードのテキストレッスン7～レッスン10までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson7～Lesson10を予習すること。	120分
		事後学修	表の作成作業は、エクセルと共通する操作方法もあるので、再度、演習問題で復習すること。	120分
5	5月6日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作4（テキストLesson11～Lesson14）」	ワードのテキストレッスン11～レッスン14までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson11～Lesson14を予習すること。	120分
		事後学修	操作ボタンは予想がつくので、簡単に選択、操作できるようになるように、復習して覚えること。	120分
6	5月13日	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作5（テキストLesson15～Lesson17）」	ワードのテキストレッスン15～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson15～Lesson17を予習すること。	120分
		事後学修	図形、画像の挿入、ワードアートの作成ができるよう復習して覚えてもらうこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作1 (テキストLesson20～Lesson22)」	ワードのテキストレッスン20～レッスン22までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson20～Lesson22を予習すること。	120分
		事後学修	画像の挿入とオンライン画像の挿入方法の違いについて理解し、利用できるよう復習すること。	120分
8	5月27日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作2 (テキストLesson23～Lesson25)」	ワードのテキストレッスン23～レッスン25までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson23～Lesson25を予習すること。	120分
		事後学修	様々な基本操作の組み合わせができるようになること。差し込み印刷の操作を確認し、完成できるよう復習すること。	120分
9	6月3日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作3 (テキストLesson26～Lesson27)」	ワードのテキストレッスン26～レッスン27までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson26～Lesson27を予習すること。	120分
		事後学修	差し込み印刷ⅠとⅡの違いを理解し両方の操作方法を復習する。長文の編集ができるよう復習しておく。	120分
10	6月10日	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作4 (テキストLesson30～Lesson31)」	ワードのテキストレッスン30～レッスン31までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson30～Lesson31を予習すること。エクセルの基礎知識を予習すること。	120分
		事後学修	エクセルデータを利用したワード文書の作成ができるよう、エクセルの基本操作も復習しておくこと。	120分
11	6月17日	テキスト「マイクロソフトワードの応用5 (テキストLesson32～Lesson33)」	ワードのテキストレッスン32～レッスン33までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson32～Lesson33を予習すること。	120分
		事後学修	長文の作成と校閲方法を理解し、レポートの作成等に即応できるよう、復習すること。	120分
12	6月24日	パワーポイントの操作1	パワーポイントに關する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	配布したパワーポイントの教材を予習すること。	120分
		事後学修	基本操作を正しく理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	パワーポイントの操作 2	パワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	配布したパワーポイントの教材を予習すること。	120分
		事後学修	パワーポイントの元となる文書を要約してレジュメが作成できるようにする。	120分
14	7月8日	実技試験を実施する。 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	今期の講義で学んだことを復習すること。	120分
		事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。(2時間)	120分
15	7月15日	実技試験の内容開設	実技試験における問題完成に関しての解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	習熟度チェックでできなかったところを自ら学習しておくこと。(2時間)	120分
		事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。(2時間)	120分

科目名	情報システム論Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ワードやエクセルを利用して、データベースを利用して必要な情報を抽出すること等も含め情報の処理ができるように演習形式で進める講義である。ワード、エクセルの操作方法の習得が中心となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセル、パワーポイントによる電子データの作成と処理方法を習得させることを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、特にエクセルに関しては関数が十分に利用できることを目標とする。 関連DP及びCP 経営法学科1, 2, 3

【履修条件】
演習が中心となるので、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法により進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネットを利用して、知識、教養を深めることができる。					4							
②	Excel, の基本操作を理解し、各国語によるBookを作成することができる。						4						
③	Excel ,Word, PowerPoint、を用いて論理的な文書を作成することや、プレゼンテーションが行える。							4					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Excel操作を中心に、到達目標①②③の観点から、授業内でコンピュータを使用した実技試験を行い、成績の評価を行う。	10	80	10								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	80	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回目の講義で、実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Microsoft Excel 2016ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び導入講義	本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。 コンピュータの利用方法について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、FileやBookの保存操作を理解する。	
		事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。	120分
		事後学修	表計算ソフトは一次方程式の計算であることを理解すること。算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を大度復習すること。	120分
2	9月23日	エクセルの基礎知識 データの入力(テキストLesson1～Lesson3)	ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、エクセルのテキストレッスン1～レッスン3までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson1～Lesson3を予習しておく。	120分
		事後学修	データの入力方法、一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。	120分
3	9月30日	表の作成Ⅱ(テキストLesson4～Lesson6)	エクセルのテキストレッスン4～レッスン6までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson4～Lesson6を予習しておく。	120分
		事後学修	データの入力と数式の入力の違いについて理解すること 再度、演習問題を完成させてみること。	120分
4	10月7日	数式の入力 複数シートの操作(テキストLesson7～Lesson9)	エクセルのテキストレッスン7～レッスン9までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson7～Lesson9を予習しておく。	120分
		事後学修	数式の入力、関数意味とその入力、複数シートの操作方法を理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。	120分
5	10月14日	複数のシートの入力 表の印刷(Lesson10～Lesson12)	エクセルのテキストレッスン10～レッスン12までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson10～Lesson12を予習しておく。	120分
		事後学修	複数シートの操作方法を理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。	120分
6	10月21日	グラフの作成(Lesson13～Lesson14)	エクセルのテキストレッスン13～レッスン14までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson13～Lesson14を予習しておく。	120分
		事後学修	どのデータを利用してグラフを作成するのかよく理解し、再度、演習問題を完成させてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	データベースの利用 (Lesson15～Lesson16)	エクセルのテキストレッスン15～レッスン16までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson15～Lesson16を予習しておく。	120分
		事後学修	データベースから必要なデータが抽出できるよう、再度、演習問題を完成させてみること。	120分
8	11月11日	関数の利用 (Lesson18～Lesson19)	エクセルのテキストレッスン18～レッスン19までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson18～Lesson19を予習しておく。	120分
		事後学修	個々の関数の意味を理解し、その使い方を十分に理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
9	11月18日	表作成の活用 グラフの活用 (Lesson20～Lesson22) グラフィックの利用	エクセルのテキストレッスン20～レッスン22までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson20～Lesson22を予習しておく。	120分
		事後学修	関数の利用と表作成についてよく理解すること。どのデータを利用してグラフを作成するのかよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
10	11月25日	グラフの活用 グラフィックの利用 (Lesson23～Lesson26)	エクセルのテキストレッスン23～レッスン26までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson23～Lesson25を予習しておく。	120分
		事後学修	表作成の際のデータの利用について理解すること。ワード文書の図形を利用した文書の作成方法であり、どちらのソフトが便利か判断できるようにする。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
11	12月2日	グラフィックの利用 データベースの活用 (Lesson27～Lesson28)	エクセルのテキストレッスン27～レッスン28までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson26～Lesson28を予習しておく。	120分
		事後学修	データベースの活用は、表計算ソフト、パソコンの得意とする作業であり、その使用方法をよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
12	12月9日	ピボットテーブルとピボットグラフの作成 (Lesson29～Lesson30)	エクセルのテキストレッスン29～レッスン30までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	テキストLesson29～Lesson30を予習しておく。	120分
		事後学修	データベースの分析機能であり、その使用方法をよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	パワーポイントの操作	パワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
		事前学修	配布されたパワーポイントの教材を予習しておく。	120分
		事後学修	文書からレジュメを作成できるように、文書の要点をまとめられるようにする。	120分
14	12月23日	実技試験の実施 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	今期の講義で学んだことを復習すること。	120分
		事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	1月13日	実技試験の解説	実技試験の問題完成に関しての解説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
		事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
		事後学修	誤っていた操作について正しく理解し各ソフトウェアを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。	120分

科目名	消防政策	担当者	渡辺 剛英	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
消防は、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、傷病者の救急・救助、地震等の災害による被害軽減など、国民の安心・安全に関する重要な役割を担っている。 本講義では、消防に関する制度、組織、主な課題と施策等について、総務省消防庁や県・市の消防防災部局における実務経験も交えながら、基礎的な知識と考え方を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
消防に関する基礎的な知識を身につけ、火災や自然災害等に対する自助・共助・公助に繋げていくことができる能力を修得する。 より具体的には、消防白書や消防関連の報道内容等から、消防政策上の主な課題を理解し、社会的背景や具体的な行政施策と関連付けることのできる能力を修得する。

【履修条件】
2年次生以上を対象とする。

【授業方法】		
レジュメを配布して、各回のテーマと関連する制度、現況、主な課題と施策等について概要を説明するとともに、スライドを使用して、制度等の詳細や現場の様子等を補足する。 定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	消防に関する法令、統計、政策等の基礎的な知識を理解し、その概要を説明することができる。【知識】					4		4	4	4			
②	消防に関する基礎的な知識を、実社会の動向に対して適切に当てはめることができる。【技能】					4		4	4	4			
③	消防政策上の課題・施策に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる ことができる。【態度・習慣】					4		4	4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識、技能および態度・習慣が身についているかを、筆記試験により確認する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③に関わる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	事前・事後の学修において、消防白書（消防庁ホームページに掲載）を使用。				

【オフィスアワー】
曜日・時間：土曜日12:20～13:00（事前にメールでアポイントメントを取ること）受付場所：授業講堂メールアドレス： watanabe.takehide11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省消防庁や県・市の消防防災部局において勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記の勤務経験に基づく消防政策に関する事例や考え方を解説。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	【消防防災に関する概論】	消防組織法・消防法に基づく狭義の消防と、災害対策基本法・国民保護法に基づく広義の消防防災について、主な法的枠組み、組織体制、対応範囲等を学習する。	
		この回の到達目標	消防組織法・消防法に基づく狭義の消防と、災害対策基本法・国民保護法に基づく広義の消防防災について、主な法的枠組み、組織体制、対応範囲等を理解する。	
		事前学修	シラバスを精読するとともに、消防白書を概観する。	120分
		事後学修	授業中に解説した関連法を概観する。	120分
2	第一部 土4/11	【消防行政（１）－消防に関する体制整備】	消防法令に基づく国・地方の消防体制について、主な法的枠組み、組織体制、財政、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	消防法令に基づく国・地方の消防体制について、主な法的枠組み、組織体制、財政、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第１章第１節～第３節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
3	第一部 土4/18	【消防行政（２）－火災統計と火災原因調査】	消防法令に基づく火災統計と火災原因調査について、主な法的枠組み、組織体制、統計から見られる火災予防上の課題等を学習する。	
		この回の到達目標	消防法令に基づく火災統計と火災原因調査について、主な法的枠組み、組織体制、統計から見られる火災予防上の課題等を理解する。	
		事前学修	消防白書第１章第１節「火災の現況と最近の動向」１～５、同節「火災予防行政の現況」９～１０を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
4	第一部 土4/25	【消防行政（３）－住宅や事業所の火災予防】	消防法に基づく住宅や事業所の火災予防対策について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	消防法に基づく住宅や事業所の火災予防対策について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第１章第１節「火災予防行政の現況」１～８、同節「火災予防行政の課題」１～５を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
5	第一部 土5/2	【消防行政（４）－危険物施設や石油コンビナートの災害対策】	消防法に基づく危険物保安、石油コンビナート等災害防止法に基づくコンビナート防災について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	消防法に基づく危険物保安、石油コンビナート等災害防止法に基づくコンビナート防災について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第１章第２節～第３節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
6	第一部 土5/9	【消防行政（５）－救急】	消防法令や救急救命士法に基づく救急業務について、法的枠組み、組織体制、活動の流れ、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	消防法令や救急救命士法に基づく救急業務について、法的枠組み、組織体制、活動の流れ、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第２章第４節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	【消防行政（６）－救助】	消防法令に基づく救助業務について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	消防法令に基づく救助業務について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第２章第５節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
8	第一部 土5/23	【消防行政（７）－緊急消防援助隊と消防活動の高度化】	消防組織法に基づく緊急消防援助隊の広域応援について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	消防組織法に基づく緊急消防援助隊の広域応援について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第２章第７節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
9	第一部 土5/30	【消防行政（８）－大規模な事故災害等への対応】	大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第１章第７節、第８節〔地下施設等の災害対策〕、同節〔ガス災害対策〕、同節〔毒物・劇物等の災害対策〕、同節〔海上災害対策〕、同節〔航空災害対策〕を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
10	第一部 土6/6	【消防行政（９）－消防における国際協力と研究開発】	大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を学習する。	
		この回の到達目標	大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を理解する。	
		事前学修	消防白書第５章～第６章を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
11	第一部 土6/13	【防災・危機管理（１）－国・地方公共団体における防災の体制】	災害対策基本法に基づく国・地方の防災体制について、法的枠組み、組織体制、最近の改正動向、主な課題と施策等を消防防災の観点から学習する。	
		この回の到達目標	災害対策基本法に基づく国・地方の防災体制について、法的枠組み、組織体制、最近の改正動向、主な課題と施策等を消防防災の観点から理解する。	
		事前学修	消防白書第２章第８節～第９節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
12	第一部 土6/20	【防災・危機管理（２）－震災への対応】	災害対策基本法や大規模地震に関する特別措置法に基づく震災対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。	
		この回の到達目標	災害対策基本法や大規模地震に関する特別措置法に基づく震災対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から理解する。	
		事前学修	消防白書第１章第６節を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	【防災・危機管理（3）－風水害・雪害への対応】	災害対策基本法に基づく風水害対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。	
		この回の到達目標	災害対策基本法に基づく風水害対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から理解する。	
		事前学修	消防白書第1章第5節、第8節〔雪害対策〕を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
14	第一部 土7/4	【防災・危機管理（4）－国・地方公共団体における国民保護の体制】	国民保護法に基づく住民防護について、法的枠組み、組織体制、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。	
		この回の到達目標	国民保護法に基づく住民防護について、法的枠組み、組織体制、主な施策と課題等を消防防災の観点から理解する。	
		事前学修	消防白書第3章を精読する。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
15	第一部 土7/11	【防災・危機管理（5）－種々の危機管理事案への対応】	種々の危機管理事案への対応について、関係法令の枠組み、共通的な考え方等を消防防災上の観点から学習する。	
		この回の到達目標	種々の危機管理事案への対応について、関係法令の枠組み、共通的な考え方等を消防防災上の観点から理解する。	
		事前学修	政府の事態対処・危機管理に関する業務（ https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/fukutyoukanho.html 等）を調べる。	120分
		事後学修	授業中に配布したレジュメ等を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分

科目名	情報通信政策	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代の経済社会活動の基礎インフラである情報通信技術（ICT）を如何に開発・整備・活用していくか、過去の政策経緯・今後の方向性などを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、国策としてのIT振興の意義、基礎的行政ツールとしての各種ITの展開、ITを活用した行政運営の変革などの理解にたって、今後激変する社会経済情勢の中で、旧来型の発想にとらわれず課題に積極的に取り組むことができる能力を修得する。

【履修条件】
特にICTの専門知識は必要としないが、AI、クラウド、IOT等の用語になじみのない学生は、参考書として掲げた「未来を味方にする技術－これからのビジネスを創るITの基礎の基礎－」を一読しておくことを勧める。

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。					4							
②	我が国の情報通信政策の目指す目標とその手段の適合性などを批判的・論理的に分析し、説明できる。							4					
③	我が国の情報通信政策に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。								4				
④	ICTを活用した新たな行政運営・地域社会の発展策などを自ら考案し、提案できる。									4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。			40	40							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第14・15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標①③④にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5		40	50	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
情報通信白書	総務省	日経印刷	各年	その他	推奨
情報セキュリティ白書	情報処理推進機構	情報処理推進機構	各年	その他	推奨
サイバーセキュリティ	谷脇 康彦	岩波新書	2018	参考書	推奨
ビジュアル版 コンピューター&テクノロジー解体新書	ロン・ホワイト	SB Creative	2015	参考書	任意
未来を味方にする技術ーこれからのビジネスを創るITの基礎の基礎ー	斎藤 昌義 ロン・ホワイト	技術評論社	2017	参考書	任意
サイバーセキュリティ：組織を脅威から守る戦略・人材・インテリジェンス	松原 実穂子	新潮社	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		IT政策立案の実務責任者としての経験に基づく素材を適宜提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	ガイダンス及び最新ICTの動向①	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。②AI、IOT、クラウド、ブロックチェーン等の概要とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、受講のために必要な主要ICTの概要について説明できる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で主なICTの内容や特徴を把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	4月17日	最新ICTの動向②	前回に引き続き、主要ICTの動向とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、受講のために必要な主要ICTの概要について説明できる。	
		事前学修	各自で主なICTの内容や特徴を把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	4月24日	情報通信政策の概観	Society5.0、官民データ活用など、「世界最先端IT国家」の創造をめざすため、政府が展開している各種施策につき学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国中央政府が示す将来の社会像とその実現のためのICT政策の基本的な方向性を説明することができる。	
		事前学修	「成長戦略」などの主要な政府決定文書を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	5月1日	情報通信政策等の経緯（通信自由化等）	独占体制であった我が国情報通信市場が、電電公社民営化、新規参入・規制緩和などの自由化を経て今日に至る経緯を学び、競争によるサービス低廉化やネットワーク高度化が多様なIT産業の創出へ結び付いた意義などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、現在の主要通信キャリア各社がどのような変遷（合併・吸収・事業譲渡等）を経て現在の体制になったか、このためにどのような自由化政策が採用され、影響したかを説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等に電電民営化以降の経緯論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	5月8日	電子政府・電子自治体①	我が国中央政府が推進しているデジタルファースト、オンライン申請、マイナンバー、クラウド化などの取組みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、行政のIT化が、どのように業務運営の効率化、意思決定の高度化、国民本位の行政の実現、政府の透明化などか寄与するか説明することができる。	
		事前学修	受講者が居住する自治体の「情報化推進計画」等をネット等で入手して、その特徴を確認しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	5月15日	電子政府・電子自治体②	自治体クラウドなど地方公共団体におけるICT化の取り組み状況を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、自治体のICT化はなぜ遅れているのか、その一方でなぜICT化を進める必要があるのかなどについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により電子自治体の進捗状況等を学習するとともに、居住自治体の公式ウェブサイトで施設予約・許認可手続・証明書入手・意見提出等がどうすれば出来るか確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	諸外国の電子政府	エストニア、デンマークなど電子政府先進国と言われる諸外国の取り組み状況を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、電子政府先端国の成功の理由は何か、これらの国では我が国で指摘される隘路をどう克服してきたのか説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により諸外国での取り組みを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	5月29日	オープンデータ①（全体像、諸外国の状況）	オープンデータとは何か、我が国より先行している諸外国での状況はどうかなどについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「データ主導経済」の意味及びオープンデータの内容・重要性を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	6月5日	オープンデータ②（我が国の状況）	オープンデータに係る我が国政府・自治体の取り組みを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国におけるオープンデータの進捗状況及びその問題点を具体例に即して説明することができる。	
		事前学修	中央政府のデータカタログ、統計情報提供システムや自治体のオープンデータサイトから実際に情報を入手し、その体験に基づいて授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	6月12日	個人情報保護①	個人情報保護法の対象となる個人情報とは何か、個人情報の取扱に当たって課せられる義務とは何か等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、個人情報保護の基本的考え方と法運用の問題点等について説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により個人情報保護法制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	6月19日	個人情報保護②	2017年5月から新たに導入された「匿名加工情報」の概念、データエコノミー時代におけるその意義などについて学び、併せてEUのGDPR（一般データ保護規則）への対応など国際的なデータ流通をめぐる課題について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、匿名加工情報に係る法制度を理解した上で、個人情報の保護と活用のバランスをどのように図っていくべきかを自分の言葉で説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により個人情報保護法制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	6月26日	ICTセキュリティ①	個人情報漏えい、サーバ攻撃などのICT利用に当たっての各種脅威の概要とその対策について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、ICTの利便性、高機能性等とその反面での様々な脅威とのバランスをどのように考え、いかなる対策を講じていくべきか、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	受講者が実際に体験した、あるいはメディア等で見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめる。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	ICTセキュリティ②	ウイルス感染、サイバー攻撃などの悪意ある侵入者への対策を始めとして、現下の国家的重要課題と なっているサイバー防衛の各種方策を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関して、ICTの利便性、高機能性等とその反面での様々な脅威とのバランスをどのように考え、いかなる対策を講じていくべきか、具体的事例に即して説明することができる。	
		事前学修	受講者が実際に体験した、あるいはメディア等で見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめる。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	7月10日	グループワーク等①	担当教員のIT政策立案の実務経験などを素材に、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
15	7月17日	グループワーク等②	担当教員のIT政策立案の実務経験などを素材に、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	情報の科学 I	担当者	平井 智尚	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの歴史を整理したうえで、インターネットを通じたコミュニケーションや情報環境の現象・問題に社会科学の観点からアプローチし、理解を深めていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活におけるインターネット、ならびにデジタル・メディア利用をコミュニケーションやアイデンティティといったミクロの次元、ならびに政治や経済といったマクロの次元で把握し、それぞれの関係性を理解したうえで、自らの経験や事例に即して説明・論述できるようになることを目標として設定します。

【履修条件】
各自で確認したうえで履修してください。私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。

【授業方法】
講義形式で授業を進めます。必要に応じてプレゼンテーション、映像資料、新聞・雑誌記事を資料として用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	なし

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	デジタル化の進展した社会の市民として高い知識と倫理観を獲得することができる				3							
②	デジタル・メディアによりネットワーク化された社会の仕組みを理解することができる					3						
③	デジタル化の進展した社会の実態を論理的かつ科学的に考察することができる						3					
④	自らの日常生活における経験に即してデジタル化の進展した社会の問題を説明できる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識や技能が身についている かを筆記試験により評価する。	20	20	30	30							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席することは成績評価の前提であるため、出欠 状況自体は加点・減点の対象とはならない。ただし、欠席 が著しい場合は成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、試験の解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる——ソーシャルメディアが若 者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	参考書	推奨
フィルターバブル——インターネットが隠していること	イーライ・パリサー	早川書房	2016	参考書	推奨
備考	特に指定する予定はありません。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00 研究室（9号館6階9601研究室）アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	講義の概要	社会科学の観点から見るインターネット	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、インターネットが普及した現代社会の実態を理解することができる	
		事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
		事後学修	参考書等を揃え、目を通しておく	120分
2	4/17	インターネットの歴史	インターネットの誕生から普及までの歴史を追う	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットの歴史を説明することができる	
		事前学修	参考書等を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	4/24	ウェブ2.0とソーシャル化の進展	ウェブ2.0やソーシャルメディアの発展とその展開を整理する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ウェブ2.0以降に生まれた各種の用語を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	5/1	SNSの普及	社会科学の観点からSNSへアプローチする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、日常生活のSNS利用を授業内容に即して説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	5/8	SNSとコミュニケーション	SNSを通じたコミュニケーションに関する研究	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、SNSとコミュニケーションに関する研究の知見を日常生活の経験に展開し、説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分
6	5/15	SNSとアイデンティティ	SNSとアイデンティティに関する研究	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、SNSとアイデンティティに関する研究の知見を日常生活の経験に展開し、説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	情報接触	インターネットを通じた情報接触の特徴	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じた情報接触の特徴を、事例を交えながら説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分
8	5/29	うわさ	インターネットを流通するうわさについて、うわさの歴史を交えながら考える	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、うわさの種類を区分し、事例を交えながら説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	6/5	フェイクニュース（1）	フェイクニュースの実態	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、フェイクニュースの実態を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	6/12	フェイクニュース（2）	フェイクニュースとプラットフォーム	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、フェイクニュースが生産される背景を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	6/19	デモ・社会運動	インターネットを通じた社会運動	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じたデモ・社会運動を具体例を挙げながら説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	6/26	情報社会論	情報化の進展と社会の変容	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、情報通信技術の発展と社会の関係性を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	プラットフォームの発展	デジタル・プラットフォーマーの台頭とその問題を把握する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネット環境の問題点を説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分
14	7/10	コミュニケーション資本主義	インターネットを介して展開されるコミュニケーションの問題を批判的に読み解く	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネットとコミュニケーションの問題を批判的に説明できる	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分
15	7/17	講義のまとめ	インターネットの社会科学についての総括	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
		事前学修	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分

科目名	情報の科学Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットと文化（ネットカルチャー）に焦点を当て、関連する現象を社会科学の観点から読み解き、理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
インターネット上でユーザーが展開するやりとり、ならびに、それらのやりとりから生じる事象を「文化」という観点から把握し、その意味を明らかにしていきます。授業内で取り上げたテーマを、現在の文脈で見られる具体的事例に即して説明・論述できるようになることを目標として設定します。

【履修条件】
各自で確認したうえで履修してください。私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。

【授業方法】
教科書を用い、講義形式で授業を進めます。映像資料を用いる場合もあります。必要に応じてレジュメあるいはプレゼンテーション資料を用意します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネット上に見られる現象について高い知識を獲得することができる				3							
②	ネットカルチャーの特徴を理解し、説明することができる					3						
③	ネットカルチャーの問題を批判的に考察し、課題を見つけ、見解を示すことができる						3					
④	ネットカルチャーに関わる事象を観察して問題を発見し、具体的事例に即した考察ができる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる知識が身についているかを評価する。	5	10	15	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席することは成績評価の前提であるため、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。ただし、欠席が著しい場合は成績評価の対象としない。	5	10	15	20							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、定期試験の解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネットカルチャーの社会学（仮）	平井智尚	七月社	2020	教科書	必携
備考	特に指定する予定はありません。				

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00 研究室（9号館6階9601研究室）アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	講義の概要	インターネットと文化	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、インターネットと文化の関係を理解することができる	
		事前学修	シラバスや教科書を確認し授業に備える	120分
		事後学修	教科書を揃え、目を通しておく	120分
2	9/25	インターネットと文化の歴史	インターネットの歴史を文化の関連から概観する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、歴史的な流れをふまえながらインターネットと文化の関係を説明できる	
		事前学修	教科書を揃え、目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	10/2	インターネットの思想	インターネットの思想を文化の観点から読み解く	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット普及初期に共有されていた思想を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	10/9	日本のインターネット文化の歴史	日本社会を文脈とするインターネットと文化の歴史を概観する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、日本のインターネット文化の歴史を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	10/16	電子掲示板と文化	匿名掲示板に見られる現象を文化の観点から読み解く	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、匿名掲示板の歴史や現状を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	これまでの授業を振り返り、ノートの整理を行う	120分
6	10/23	インターネットにおける「祭り」	かつてインターネット上に見られた「祭り」と呼ばれる現象を把握する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在の文脈に引きつけてインターネット上の集合行動を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	これまでの授業を振り返り、ノートの整理を行う	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	インターネット文化とテレビ	インターネット文化におけるテレビの位置づけを考える	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在の文脈に引きつけてインターネット上の文化とテレビの関係を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う	120分
8	11/6	動画投稿・共有サービスの発展	インターネットを通じた動画投稿・共有サービスの展開を文化の観点から読み解く	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、具体的な事例を元にして動画投稿・共有サービスを文化の観点から説明することができる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	11/13	インターネット空間の変容	ウェブ2.0やSNS普及以降のインターネット空間の変容を文化の観点からアプローチする	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット空間の変容を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	11/20	インターネットと炎上 (1)	炎上の歴史を具体的な事例を挙げながら概観する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上で起きた炎上の歴史を説明することができる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	11/27	インターネットと炎上 (2)	炎上からインターネット空間の変容を考える	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上で起きた炎上の変容を具体的な事例に基づき説明することができる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	12/4	ネットスラング	ネットスラングの歴史と伝播	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ネットスラングが持つ意味を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	ステマ騒動をめぐって	ネットカルチャーの視点からステマを読み解く	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ステマや類似現象をネットカルチャーの観点から説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分
14	12/18	ネットカルチャーの現在	SNSやプラットフォームが幅を利かせるインターネット空間における文化の位置づけを考える	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネット空間における文化の有り様を説明できる	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分
15	12/25	講義のまとめ	インターネットの現象を文化の観点からアプローチする意味を改めて確認する	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、講義内容をふまえて現代社会におけるインターネットと文化の位置づけや意味を説明できる。本授業の個別具体目標①～④を振り返り、一般目標を達成する	
		事前学修	教科書、および共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく	120分
		事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分

科目名	情報法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの急激な発達により、利用者から見ると放送と通信の境界が曖昧になりつつある。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きている。こうした認識のもと、情報の「自由」「規制」「保護」に着目して情報に関する法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度情報化社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを身につけるため、情報に関する法と倫理について理解する力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	表現の自由の意義を説明することができる。					3	3						
②	情報流通に関するこれまでの政策について説明することができる。					3	3						
③	情報流通に関する法について説明することができる。						3	3					
④	情報流通を巡ってどのような課題があるのかを説明することができる。							3	3				
⑤	情報流通を巡ってる諸課題について考察し、自分の意見を述べることができる。							3	3				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているかを、レポートにより評価する。	10	10	10	10	10						50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 4/7	ガイダンス、情報通信とは何か	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。情報の生産・流通・消費に関する法とは何かを説明する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、大きな変革期にある情報社会における政策・法を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修をすすめることができるようにする。	
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んで、ノートを整理する。	120分
2	第一部 火 4/14	表現の自由 I	検閲の歴史を概観。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の歴史から表現の自由を獲得してきた経緯を説明することができる。	
		事前学修	憲法第21条の内容を確認するとともに、大日本帝国憲法第29条との違いを調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
3	第一部 火 4/21	表現の自由 II	思想の自由市場論、二重の基準論、優越的地位。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、表現の自由の優越的地位について説明することができる。	
		事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
4	第一部 火 4/28	放送制度 I	戦前の放送法制。	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、戦前の放送制度の特徴を説明することができる。	
		事前学修	放送メディアと印刷メディアの違いについて整理する。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
5	第一部 火 5/5	放送制度 II	電波 3 法制定、民放の誕生。	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、放送制度の概要を説明することができる。	
		事前学修	GHQが行った日本の民主化政策にはどのようなものがあったか調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
6	第一部 火 5/12	放送制度 III	放送法の構造。	
		この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、放送の規制根拠を説明することができる。	
		事前学修	放送法第 1 章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 5/19	電気通信政策の変遷Ⅰ	電話から携帯、そしてインターネットへ。	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、電気通信技術の発達と政策の変遷について説明することができる。	
		事前学修	1985年の「通信の自由化」について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
8	第一部 火 5/26	電気通信事業の変遷Ⅱ	ブローバンドとスマートフォンの時代へ。	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、高度情報通信ネットワーク社会の形成に向けた政策を説明することができる。	
		事前学修	Society 5.0について調べる	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
9	第一部 火 6/2	通信の秘密	通信の秘密の保障根拠、通信の秘密への制約。	
		この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、通信の秘密について説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
10	第一部 火 6/9	情報通信法構想Ⅰ	「通信・放送の在り方に関する懇談会」での議論のポイント。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、政府が提案したコンテンツ規制に関する根拠を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
11	第一部 火 6/16	情報通信法構想Ⅱ	コンテンツ規制に対する反対意見の内容、2010年の放送法改正。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、放送のハード・ソフト分離についてメリットとデメリットを説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
12	第一部 火 6/23	インターネットとは何か	インターネットが、これまでのメディアと異なる独自の特徴。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットの光と陰を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火 6/30	インターネットにおける表現の自由	インターネット上の表現の功罪。	
		この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、インターネットにおける表現の自由に関する新たな課題を説明することができる。	
		事前学修	講義「表現の自由Ⅰ、Ⅱ」の授業ノート、事後学習のまとめを改めて読む。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
14	第一部 火 7/7	インターネット法はどうあるべきか	印刷メディアの法、放送メディアの法、コモンキャリアッジの法。	
		この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットを包括する法律が必要か必要ではないか意見を述べることができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
15	第一部 火7/14	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	情報法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの急激な発達により、利用者から見ると放送と通信の境界が曖昧になりつつある。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きている。こうした認識のもと、情報の「自由」「規制」「保護」に着目して情報に関する法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度情報社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを身につけるため、情報に関する法と倫理について理解する力を修得する。

【履修条件】
情報法Ⅰの単位取得者

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	情報流通に関するこれまでの政策について説明することができる。				3	3						
②	情報流通に関する法について説明することができる。				3	3						
③	情報流通を巡ってどのような課題があるのかを説明することができる。					3	3					
④	情報流通を巡ってる諸課題について考察し、自分の意見を述べることができる。						3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせて、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館9階1914）メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 9/15	ガイダンス、情報通信のこれから	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。第4次産業革命の進展。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、大きな変革期にある情報社会における政策・法を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修をすすめることができるようにする。	
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
		事後学修	情報法Ⅰの授業ノートを改めて読む。	120分
2	第一部 火 9/22	名誉毀損とインターネット上の表現の自由	名誉毀損成立の要件および免責要件。ネット上の名誉毀損を含む人権侵害の現状。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、名誉毀損の成立要件を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んで、ノートを整理する。	120分
3	第一部 火 9/29	インターネットにおける名誉毀損の実例	ラーメンチェーン店事件、読売新聞西部本社事件。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、インターネット上の名誉毀損の特徴を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んで、ノートを整理する。	120分
4	第一部 火 10/6	インターネットとわいせつ表現	刑法によるわいせつ表現規制の概要、ウェブ上でのわいせつ表現。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、インターネット上のわいせつ表現の特徴を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	授業内で出された問題をもう一度、考える。	120分
5	第一部 火 10/13	児童ポルノ規制	児童買春ポルノ禁止法。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、児童ポルノ法が抱える課題を説明することができる。	
		事前学修	児童買春ポルノ禁止法を読んで概要を把握する。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
6	第一部 火 10/20	青少年保護と情報の取り扱いⅠ	有害図書規制。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、有害図書規制の合憲性を巡る議論を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 10/27	青少年保護と情報の取り扱いⅡ	青少年インターネット環境整備法など。	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、青少年に対する有害情報対策について説明することができる。	
		事前学修	青少年インターネット環境整備法を読んで概要を把握する。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
8	第一部 火 11/10	インターネット上の差別表現	差別表現の実態、ヘイト・スピーチ規制法。	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、ヘイトスピーチに関する諸課題について説明することができる。	
		事前学修	部落差別について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
9	第一部 火 11/17	個人情報保護法Ⅰ	法律の成立までの過程	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、個人情報保護法が施行された背景を説明することができる。	
		事前学修	自己情報コントロール権について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
10	第一部 火 11/24	個人情報保護法Ⅱ	法律の概要。	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、個人情報保護法の概要を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
11	第一部 火 12/1	個人情報保護法Ⅲ	個人情報保護に関する現在の諸課題。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、個人情報保護に関する現在の諸課題を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
12	第一部 火 12/8	電子取引と契約Ⅰ	ワンクリック請求、なりすまし。	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、電子取引に関する契約成立時の説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	電子取引と契約Ⅱ	モール・サイト運営者の責任	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、インターネット上の消費者保護政策の概要について説明することができる。	
		事前学修	Amazonや楽天などの利用規約を読んでどんなことが記述されているかをまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
14	第一部 火12/22	著作権法	知的財産権のなかでの著作権位置づけ	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、違法コピー問題について説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
15	第一部 火1/12	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	人材マネジメント論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
企業のビジョン・ミッション・戦略を実現するために、経営資源としてのヒトをマネジメントするのが人材マネジメントである。この授業では、日本企業で行われてきた人事施策を「人材の多様化」「人材需給のグローバル化」「人材の流動化」という人材の変化に対し、どう対応すればよいのかという観点から「グローバル人事」を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の「事業のグローバル化」を前提にして、「グローバル人事」とはどのようなものか学び、また、グローバル人事における評価制度や人材配置についてその概要を理解した人材を育成する。

【履修条件】
特になし。「人材マネジメント論Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本企業のグローバル化の問題点について理解している。				3	2	2	2				
②	グローバル人事の必要性とグローバル組織について理解し説明できる。					2	2					
③	グローバル人事における評価制度や人材配置について理解し説明できる。					3	3					
④	グローバル人事における評価制度や人材配置について提案することができる。				3			3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	日本企業のグローバル化における問題点とグローバル人事における適切な評価制度や人材配置について到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新しい人事労務管理〔第5版〕	佐藤 博樹 他	有斐閣	2015	参考書	任意
人事こそ最強の経営戦略	南 和気	かんき出版	2018	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	4/16	人材マネジメント論とは何か	人材マネジメント論とは何かについて説明する。	
		この回の到達目標	人材マネジメント論とは何かについて説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	4/23	日本企業と海外企業の人事慣習の違い	日本企業と海外企業の人事慣習の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	日本企業と海外企業の人事慣習の違いについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	4/30	グローバル人事の必要性	グローバル人事の必要性について説明する。	
		この回の到達目標	グローバル人事の必要性について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	5/7	人材価値の適正評価	グローバル企業における人材価値の適正評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	人材価値を適正に評価する方法について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	5/14	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョン	グローバル人事におけるダイバーシティ・マネジメントとインクルージョンの必要性について説明する。	
		この回の到達目標	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョンについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	グローバル・グレーティング	グローバル・グレーティングについて説明する。	
		この回の到達目標	グローバル・グレーティングについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	5/28	サクセッション・プランニング、人材プール管理	サクセッション・プランニングや人材プール管理について説明する。	
		この回の到達目標	サクセッション・プランニングや人材プール管理について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	6/4	戦略的人事評価制度	グローバル人事における戦略的人事評価制度について説明する。	
		この回の到達目標	戦略的人事評価制度について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	6/11	コンピテンシー評価	グローバル人事におけるコンピテンシー評価について説明する。	
		この回の到達目標	グローバル人事におけるコンピテンシー評価について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	6/18	ノーレイティング、1 on 1 ミーティング	ノーレイティングや、1 on 1 ミーティングについて説明する。	
		この回の到達目標	ノーレイティング、1 on 1 ミーティングについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	6/25	組織開発とイノベーション	グローバル企業における組織開発とイノベーションについて説明する。	
		この回の到達目標	グローバル企業における組織開発とイノベーションについて理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	グローバル人事とHRテクノロジー	グローバル人事におけるHRテクノロジーの現状について説明する。	
		この回の到達目標	グローバル人事におけるHRテクノロジーの現状について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/9	人事におけるA I の活用	人事におけるA I 活用の現状について説明する。	
		この回の到達目標	人事におけるA I 活用の現状について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/16	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について理解する。	
		事前学修	これまでの授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	人材マネジメント論Ⅱ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
I C T分野の急速な発展は企業における労働形態を大きく変化させ、特に、A IやI ｏT、ビッグデータなどの進化は働き方を大きく変えつつある。これらの技術は、人事分野では「H R（Human Resource）テクノロジー」と呼ばれ、業務効率化や採用・配置の精度向上に大きく貢献することが期待されている。この授業では、H Rテクノロジーが企業人事に与える影響を理解することで、学生がH Rテクノロジーを有効活用できる人材になることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
我が国の持続的な経済成長に向けての「H Rテクノロジー」の役割とはどういうものか、また、適切な「H Rテクノロジー」の活用についてその概要を理解することを目的とする。

【履修条件】
特になし。「人材マネジメント論Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の生産性革命とHRテクノロジーの関係について理解している。				3	2						
②	世界と日本のHRテクノロジーの現状について理解している。					2	2					
③	HRテクノロジーについて様々な視点（技術、HRM、労働法、個人情報保護）から説明できる。					3	3					
④	HRテクノロジーの活用方法について提案できる。						3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	HRテクノロジーの様々な視点（技術、HRM、労働法、個人情報保護）について、主に到達目標③④の観点から十分に理解できているか評価する。			40	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	50	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク	労務行政研究所 編	労務行政	2015	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	9/22	HR（Human Resource）テクノロジーとは何か	HR（Human Resource）テクノロジーとは何かについて説明する。	
		この回の到達目標	HR（Human Resource）テクノロジーとは何かについて説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	9/29	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向について説明する。	
		この回の到達目標	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	10/6	HRテクノロジーの現状と可能性	HRテクノロジーの現状と可能性について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーの現状と可能性について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	10/13	HRテクノロジーの事例1（採用・配置、技術的視点）	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置の事例について説明する。	
		この回の到達目標	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	10/20	HRテクノロジーの事例2（採用・配置、HRM的視点）	採用分野におけるHRテクノロジー活用の背景と配置におけるHRテクノロジーの留意点について説明する。	
		この回の到達目標	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	HRテクノロジーの事例3 (採用・配置、労働法的視点)	採用領域における労働法上の問題点と配置における人事権について説明する。	
		この回の到達目標	採用領域における労働法上の問題点と配置における人事権について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	11/10	HRテクノロジーの事例4 (採用・配置、個人情報保護的視点)	採用領域における個人情報保護と配置・評価・報酬に関するHRテクノロジーと個人情報について説明する。	
		この回の到達目標	採用領域における個人情報保護と配置・評価・報酬に関するHRテクノロジーと個人情報について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	11/17	HRテクノロジーの事例5 (人材開発・退職、技術的視点)	A I の活用による人材育成と退職予測について説明する。	
		この回の到達目標	A I の活用による人材育成と退職予測について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	11/24	HRテクノロジーの事例6 (人材開発・退職、労働法的視点)	HRテクノロジーと賃金制度の問題点について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーと賃金制度の問題点について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	12/1	HRテクノロジーの事例7 (人材開発・退職、労働法的視点)	HRテクノロジーと労働時間の問題点について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーと労働時間の問題点について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	12/8	HRテクノロジーの事例8 (人材開発・組織開発、個人情報保護的視点)	HRテクノロジーとキャリア・マネジメント、モチベーション向上施策の問題点について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーとキャリア・マネジメント、モチベーション向上施策の問題点について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	HRテクノロジーの事例 9 (安全配慮、労働法的視点)	HRテクノロジーと安全配慮義務について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーと安全配慮義務について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	12/22	HRテクノロジーの事例 10 (安全配慮・退職、労働法的視点)	HRテクノロジーとハラスメント予測、退職、解雇問題について説明する。	
		この回の到達目標	HRテクノロジーとハラスメント予測、退職、解雇問題について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	1/12	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について理解する。	
		事前学修	これまでの授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅰ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代にいたる西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である（受講者数によって、変更する可能性がある）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクションペーパーを数回程度実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。		2		2					2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。		2		2					
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。		2		2					
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。		2		2					2
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①に関わる基礎知識と到達目標②③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:40-16:10 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・政治思想史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。 また、関連科目である政治哲学との違いを示しながら、政治思想史を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識することができる。	
		事前学修	このシラバスの内容を確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	100分
		事後学修	ガイダンス内容を再確認するとともに、この時点で可能であれば、教科書を入手の上、目を通し、全体の流れを把握しておく。	140分
2	4/14	西洋政治思想の目指したものの個人と共同体	「自由」という概念をキーワードとして、古代から近現代に至る西洋政治思想の流れを学修する。 なお、この回の講義は、この後度々振り返ることになるため、受講者には必ず出席するように求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、西洋政治思想の最重要概念である「自由」の多様性を理解すると共に、西洋政治思想史の全体像を把握することができる。	
		事前学修	教科書を入手し、目次に目を通して全体の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	講義内容を復習するとともに、教科書の「はじめに」に目を通す。	120分
3	4/21	プラトン（古代の政治思想①）	アテナイを中心とする古代ギリシアにおける人間観・政治観・社会観について学修する。その上で、イデア論を中心とするプラトンの哲学を概説し、そして『国家』に代表される彼の政治思想について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋政治思想の源流となった古代ギリシアの政治思想の思想史的意義と、プラトンの政治思想の内容と意味について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第1章第2節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、古代ギリシアについて簡単に調べておく。	120分
		事後学修	第2回講義の内容や配布資料もあわせて参考にしながら、古代ギリシアにおける政治の意味や役割を考える。そのうえで、プラトンの政治思想の特徴をまとめる。	120分
4	4/28	「アリストテレス（古代の政治思想②）」	前回講義したプラトンとの違いを意識しながら、『ニコマコス倫理学』や『政治学』を中心にアリストテレスの政治思想を学ぶ。また、彼の政治思想が現代にいたるまで政治学に影響を与えている理由と、彼の政治思想の意義を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プラトンと比較しながら、アリストテレスの政治思想の思想史上の意義と現代的意義の両方を説明することができる。	
		事前学修	教科書や配付資料などを利用して、プラトンの政治思想について復習する。また、プラトンとの違いを意識しながら、アリストテレスの政治思想について教科書（第1章第3節）などを利用して簡単に確認しておく。	120分
		事後学修	教科書（第1章第2節・第3節）や配布資料などに使って、プラトンとアリストテレスの政治思想の違いについてまとめる。	120分
5	5/5	「中世社会とキリスト教（トマス・アクイナスを中心に）」	まず、草創期から中世にかけてのキリスト教の歴史とその当時のヨーロッパの政治・社会状況を学ぶ。そのうえで、普遍論争やトマス・アクイナスの政治思想について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋社会におけるキリスト教とりわけローマ・カトリックの存在とその影響およびトマス・アクイナスの政治思想について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第2章第3節・第4節および第3章）や歴史書、またインターネットなどを利用して、中世ヨーロッパについて簡単に確認しておく。その際、特にローマ・カトリックやその長であるローマ教皇（法王）に注目する。	120分
		事後学修	教科書（第3章第2節）や配付資料を使用して、講義内容について復習する。 また、トマス・アクイナスについては、充実した無料のインターネット講義が開設されているため、関心があればその視聴をすすめる（サイトの情報は、講義の際に紹介する）。	120分
6	5/12	「ルネサンスと宗教改革」	まず、当時のイタリアの政治状況について把握したうえで、ルネサンスとその政治的意味について考える。そして、マルティン・ルターやジャン・カルヴァンによって始められた宗教改革とそれが政治や社会に与えた影響について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ルネサンスと宗教改革の政治的意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第3章）や関連書籍などの資料を利用して、カトリックを中心としたキリスト教の教義や社会教説、歴史について確認しておく。	120分
		事後学修	教科書（第4章第2節・第3節）や前回の講義資料なども参考にしながらキリスト教の特徴や歴史を確認したうえで、宗教改革とその政治的影響についてまとめる。また、現代社会における政治と宗教をめぐる問題についても考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	「絶対王政の政治思想（ジャン・ボダンを中心に）」	宗教改革によって生じた政治対立（コンフェッショナリズム）やその克服を目的として打ち立てられたジャン・ボダンの主権理論、そしてボダンの理論などを根拠として成立した絶対王政について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、近代国家の基礎となる概念である主権概念の成立と意味について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第3章第1節）や歴史書の利用や講義内容の再確認を通して、封建制を中心とする中世ヨーロッパ社会の特徴について確認しておく。	120分
		事後学修	封建制を中核的特徴とする中世社会とボダンが提唱した中央集権的な政治体制との違いをまとめる。	120分
8	5/26	「ニコロ・マキアヴェリ 近代政治思想の幕開け」	『君主論』で展開されたきわめて現実的な政治思想と『ローマ史論』に見られる共和主義的な政治思想というニコロ・マキアヴェリの政治思想に見られる2つの側面を比較しながら、彼の政治思想を学び、その政治思想史的意義について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代や中世における政治思想と比較した際のマキアヴェリの政治思想の特徴について説明することができる。	
		事前学修	第2回講義から第4回講義までの講義内容を振り返り、古代社会の政治思想について確認しておく。また、教科書の「はじめに」および第4章第1節を読む。	120分
		事後学修	古代や中世の政治思想と比較しながら、マキアヴェリの政治思想の特徴と彼が後の政治に与えた影響について考えてみる。	120分
9	6/2	「モンテスキュー 自由主義の源流」	『法の精神』を主要な材料として、モンテスキューの政治思想について学ぶ。彼の思想には保守主義的性質と自由主義的性質をあわせ持つ複雑な特徴があるため、具体的な政体論の理解などを通して、モンテスキューの政治思想について説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義的性質と自由主義的性質の双方を視野に入れて、モンテスキューの政治思想を説明することができる。	
		事前学修	第7回講義の資料などを利用して、絶対王政について復習する。	120分
		事後学修	「モンテスキューの考える『自由』とはどのようなものだったのか」という問題意識をもって、教科書（第6章第1節）や配付資料を用いて講義内容を再確認する。	120分
10	6/9	「社会契約説とは何か？（社会契約説①）」	「個人」や「擬制」（フィクション）といった概念を材料として、さまざまな思想家によって主張され、今日でも国家の成立根拠のひとつとして承認されている社会契約説という政治思想の本質的な特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「政治という営為はあくまでも人間の営みである」という考え方の登場が、政治に与えた影響について自分なりに解釈することができる。	
		事前学修	「社会や国家は、個人によって形成される」という考え方を意識しながら、第2回講義の内容を再確認する。	120分
		事後学修	社会や国家といった共同体と個人の作為との関係性に注意しながら、配布資料を使って講義内容を復習する。	120分
11	6/16	「トマス・ホッブズ（社会契約説②）」	『リヴァイアサン』を主な材料として、「自然状態」「自然権」「自然法」などの概念を注目しながら、トマス・ホッブズの政治思想を学習する。その際、「自然状態」などの概念は社会契約説を考えるうえで重要な概念であるため、特に注意を払って内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然状態」「自然権」「自然法」という主要概念を用いて、ホッブズの政治思想について説明することができる。	
		事前学修	前回講義の内容を再確認するとともに、教科書（第5章第2節）を使ってトマス・ホッブズの政治思想を概観する。	120分
		事後学修	講義内容や教科書（第5章第2節）を確認し、講義内容を理解する。特に、ホッブズのいう「自然状態」「自然権」「自然法」についてまとめる。	120分
12	6/23	「ジョン・ロック（社会契約説③）」	主として『統治二論』で展開されたジョン・ロックの社会契約説について学ぶ。「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロックの政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロックの政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。	
		事前学修	教科書（第5章第4節）などを使用して、ジョン・ロックの政治思想について確認を行う。	120分
		事後学修	「自然状態」「自然権」「自然法」に注目しながら、トマス・ホッブズとジョン・ロックによるそれぞれの社会契約説の特徴と違いについて考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	「ジャン＝ジャック・ルソー（社会契約説④）」	他の2人の社会契約論者の考え方や啓蒙思想などとの共通点と相違点に注目しながら、ジャン＝ジャック・ルソーの政治思想について学ぶ。特に、一般意志をはじめとするルソーの思想概念は独自性が高く、理解しにくいものも多いため、概念把握に注意する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一般意志を中心とするルソーの政治思想について理解した上で、ホッブズやルソーの政治思想との違いを説明することができる。	
		事前学修	トマス・ホッブズとジョン・ロックの社会契約説をあらためて確認したうえで、教科書（第7章第1節）などを使って、ジャン＝ジャック・ルソーについて確認する。	120分
		事後学修	トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説を比較しながら、それぞれの思想の内容と特徴を十分に理解し、説明できるようにする。そのうえで、3人の思想に共通する要素を考えて、社会契約説が持っている政治思想史的な意義について考察する。必要なら、他の書籍や資料なども確認する。	120分
14	7/7	「フランス革命をめぐる政治思想」	フランス革命のなかで登場してきた政治思想、具体的には急激な改革を求めたジャコバン主義や絶対王政への回帰を望んだ反動思想について学習する。さらに、政治における過激な考え方や実際の暴力といった問題について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会契約説等の政治思想がフランス革命といった現実政治に与えた影響について説明することができる。	
		事前学修	教科書や講義資料などを利用して、トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説について復習を行う。	120分
		事後学修	講義内容を確認するとともに、テロリズムやヘイト・スピーチといった現代の政治的・社会的問題についても考えてみる。	120分
15	7/14	前期総括	古代から近代の市民革命の時代にいたる政治思想について、総括的に考える。また、講義内容に関する質疑応答が設定されているため、必要に応じて利用する。試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治を理論的かつ論理的にに考えることの重要性を説明することができる。	
		事前学修	前期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。	120分
		事後学修	教科書や講義資料などを総復習し、期末試験の準備を行う。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅰ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代にいたる西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。						2		2				2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。						2		2				
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。						2		2				
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2		2				2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①に関わる基礎知識と到達目標②③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	イントロダクション及び導入講義	西洋政治思想史の学問的位置づけおよび学問的意義について紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部月 9/21	西洋政治思想の概観	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、それがどのように考えられてきたかを歴史的に概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部月 9/28	古代ギリシアの政治思想 I：プラトン	古典古代の政治思想として、プラトンの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ギリシアの都市国家について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部月 10/5	古代ギリシアの政治思想 II：アリストテレス	古典古代の政治思想として、アリストテレスの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ギリシアの自然哲学について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部月 10/12	古代ローマの政治思想	古典古代の政治思想として、キケロの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	共和政ローマと帝政ローマについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部月 10/19	中世社会 I：キリスト教	キリスト教の観点から中世社会の政治構造を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	キリスト教の教義について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/26	中世社会Ⅱ：封建制	封建制の観点から中世社会の政治構造を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	中世日本の封建制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部月 11/9	ルネサンス	近世の政治思想として、マキアヴェリの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	15世紀イタリアルネサンスについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部月 11/16	宗教改革	近世の政治思想として、ルター・カルヴァンの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	カトリックとプロテスタントの違いについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	第一部月 11/23	絶対主義の政治思想	近世の政治思想として、ボダンの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ルイ14世治世下のフランスについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部月 11/30	社会契約説Ⅰ：ホッブズ	近代の政治思想として、ホッブズの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	清教徒革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部月 12/7	社会契約説Ⅱ：ロック	近代の政治思想として、ロックの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	名誉革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14	社会契約説Ⅲ：ルソー	近代の政治思想として、ルソーの政治哲学を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	啓蒙思想について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部月 12/21	経済的自由主義	スミスの経済思想を手がかりに、市民革命後の政治と経済の関係を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	産業革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部月 1/18	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代以降の西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。 最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
原則として、「西洋政治思想Ⅰ」が履修済みであることを求める。

【授業方法】		
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である（受講者数によって。変更することがある）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクションペーパーを数回程度実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。						2		2				2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。						2		2				2
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。						2		2				
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2		2				2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①に関わる基礎知識と到達目標②③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	2013年	教科書	必携
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】	
月曜日14:40-16:10 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	「西欧政治思想史Ⅰ」の講義内容について簡単に説明したのち、後期に行う講義の方針や内容、成績評価方法の概要について説明を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、社会契約説を中心とする近代前期の政治思想について説明することができる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、講義の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	今期の講義内容について、教科書を使って全体の流れを把握しておく。	120分
2	9/22	「エドモンド・バーク 革命に対するリアクションとしての保守主義」	「自由」をキーワードとして、エドモンド・バークの保守思想を学ぶ。講義ではバークに限定せず、ヒュームなども含めて広い視野から保守主義について説明を行うので、受講者は保守主義の本質を理解するように努める。また、イギリスとアメリカの保守主義の比較的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義の祖とされるバークの政治思想の本質について、「自由」をキーワードとして説明することができる。	
		事前学修	「保守」または「保守主義」「保守思想」といった言葉が現在一般にどのように使われているのか、インターネットなどを利用して調べてみる。そして、教科書（第7章第3節）を用いて、エドモンド・バークの保守思想について確認しておく。	120分
		事後学修	教科書（第7章第3節）や講義資料などを参考として、「自由」という概念に注目しながら、エドモンド・バークの保守思想について復習を行う。また、現代政治や現代社会における「保守」や「保守主義」「保守思想」についても考えてみる。	120分
3	9/29	「アレクシス・ド・トクヴィル（市民革命後の政治思想①）」	主著『アメリカのデモクラシー』を材料として、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について学ぶ。トクヴィルのいうデモクラシーは一般の認識よりも広い意味を持っているため、その点に注意しながら理解し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トクヴィルのデモクラシー概念の特徴について説明することができる。	
		事前学修	今日、多様な意味で使われている「デモクラシー」という言葉について、インターネットなどを利用して調べてみる。そのうえで、教科書（第8章第2節）を利用しながら、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について確認しておく。	120分
		事後学修	まず、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想におけるデモクラシーの意味について、教科書（第8章第2節）や講義資料などを参考にしながら、復習を行う。そのうえで、現代のデモクラシーが抱えている問題点について考えてみる。	120分
4	10/6	「ジョン・スチュアート・ミル（市民革命後の政治思想②）」	はじめに功利主義やロマン主義について学んだうえで、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想について学習する。ミルの思想的業績は膨大だが、この講義では主に『自由論』と『代議制統治論』について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、功利主義の全体的な特徴を理解した上で、ミルの自由主義思想の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、功利主義について確認しておく。	120分
		事後学修	教科書や講義資料などを利用して、「自由」というものの意味を考えながら、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想の特徴についてまとめる。	120分
5	10/13	「カントとヘーゲル 市民社会と国家」	イマヌエル・カントとゲオルグ・ウィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルの政治思想について学ぶ。彼らの哲学的業績はきわめて多く、多岐にわたるため、この講義では特にそれぞれの人間観や国家観・市民社会観について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カントやヘーゲルに代表されるドイツ観念論について概観した上で、それが市民社会をどのように理解していたのか、英仏の政治思想と対照させながら説明することができる。	
		事前学修	教科書（第8章第1節）や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、ドイツ観念論について確認しておく。詳細は講義の中で説明していくので、事前学習の段階では正確に理解していなくても構わない。	120分
		事後学修	教科書（第8章第1節）や講義資料、その他の文献なども利用しながら、講義の内容について再確認しておく。ドイツ観念論は抽象的な議論が多いため、把握困難な個所があればまとめておく。	120分
6	10/20	フランス初期社会主義（社会主義思想①）	はじめに19世紀の急速な産業化・都市化の進展に伴って発生した、貧困をはじめとする社会問題について理解し、説明できるようにする。それを踏まえて、サン＝シモンやシャルル・フーリエ、ピエール・ジョセフ・ブルドンらによって主張されたフランス初期社会主義思想について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会問題の発生メカニズムとそれらへの対策として構想されたフランス初期社会主義思想の内容と意義について説明することができる。	
		事前学修	18世紀末のフランス革命から19世紀初頭までのフランスの政治・社会状況について、教科書（第8章第3節）や歴史書、またはインターネットなどを利用して簡単に把握しておく。	120分
		事後学修	「社会」という概念に注目し、その意味を考えながら、それぞれの社会主義者の思想内容についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	「カール・マルクス（社会主義思想②）」	「剰余価値」や「上部構造・下部構造」、「疎外」といったカール・マルクスの社会主義思想の基本概念を学習し、そして彼の思想が後の政治に与えた影響やその政治学的な意味について考える。あわせて、現代にも共通する、政治と経済の間に存在する摩擦や緊張に関しても考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マルクスの主要な思想概念およびそれが後世に与えた影響について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第5回講義で取り上げたドイツ観念論および第6回講義のフランス初期社会主義の内容を再確認する。	120分
		事後学修	第5回講義や第6回講義の内容とあわせて、カール・マルクスの社会主義思想・政治思想について復習を行い、その概要をまとめる。必要であれば、各種の書籍やインターネットなども利用する。	120分
8	11/10	「レーニン／ベルンシュタイン（社会主義思想③）」	レーニンやベルンシュタインらによって実際に推進された社会主義構想に関して学習する。彼らが自らの理想の実現にあたって直面した困難に触れることを通して、政治における理論と現実の差とそれを埋める困難さについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レーニンやベルンシュタインの革命思想と実際に彼らが推進した革命運動について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義および第7回講義で取り上げた社会主義思想について再確認しておく。	120分
		事後学修	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義から第8回講義において取り上げた社会主義思想について再確認する。	120分
9	11/17	「全体主義（ファシズム・ナチズム）」	はじめにデモクラシーの特徴とそれを原因として生じる問題点について押さえる。そのうえで、全体主義およびファシズム、ナチズムについて、その定義や特質、発生要因などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、デモクラシーの悪しき帰結としての全体主義という視点から、全体主義が登場した意味を説明することができる。	
		事前学修	第3回講義の内容を再確認して、デモクラシーの本質的な問題点について確認しておく。	120分
		事後学修	「なぜデモクラシーが全体主義の原因になってしまうのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
10	11/24	「ハンナ・アレント 全体主義に対する批判」	第一に全体主義批判、第二に『人間の条件』で展開された理想的な政治のあり方、第三に『イェルサレムのアイヒマン』で示された時代や政治、組織の中における人間の存在に関する考察を材料として、ハンナ・アレントの政治思想を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、全体主義に対するアレントの批判の要点とそれへの対策について説明することができる。	
		事前学修	前回講義の資料などを利用して全体主義の発生要因について確認したうえで、教科書（「結章」）などを利用してハンナ・アレントの政治思想について簡単に把握しておく。	120分
		事後学修	現代の社会や政治、デモクラシーに対する批判としての性格を持っていることを認識したうえで、ハンナ・アレントの政治思想の概要をまとめる。近年、アレントに関する映画が公開されており、関心があればその視聴をすすめる。	120分
11	12/1	「フェデラリストとリパブリカン（アメリカの政治思想①）」	はじめに、ヨーロッパ人によるアメリカ植民の時代から独立戦争、その後のアメリカ合衆国憲法に代表される国家体制の整備の時代にいたる、政治・社会状況について学習する。そして、その経緯であらわれたフェデラリストとリパブリカンの対立を把握したうえで、アメリカという国家の原理について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカ独立の歴史的経緯と独立運動を支えた政治思想について説明することができる。	
		事前学修	教科書（第7章第2節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、アメリカの歴史、とりわけ植民地成立期から独立戦争、その後の国家形成のころまでの経緯について簡単に確認しておく。なお、アメリカの歴史については、在日アメリカ大使館・アメリカンセンターのホームページが詳しく、正確である。	120分
		事後学修	教科書（第7章第2節）や講義資料などを利用して、アメリカ独立の指導者（ファウンディング・ファーザーズ）の政治思想について確認する。	120分
12	12/8	「ロールズのリベラリズム（アメリカの政治思想②）」	『正義論』の内容を中心に、ジョン・ロールズの政治思想についてその詳細を学ぶ。特に、「無知のヴェール」や「正義の2原理」といったロールズの基本概念に関しては、その意味を正確に理解するように努める。また、彼の政治思想が後の政治学や現実の政治に与えた影響についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロールズの政治思想について正確に理解した上で、その政治思想史・政治哲学上の意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書（「結章」）などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について確認しておく。	120分
		事後学修	教科書（「結章」）や講義資料などを利用して、『正義論』を中心にジョン・ロールズの政治思想について復習する。特に「正義の2原理」は十分に理解するように努める。必要に応じて、他の書籍なども確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	「コミュニタリアニズム（アメリカの政治思想③）」	ジョン・ロールズの政治思想に対する批判の中から生まれた、アラスデア・マッキンタイアやマイケル・サンデルらによるコミュニタリアニズム（共同体主義）について学ぶ。また、アメリカの政治思想における「自由」の意味の多様さについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コミュニタリアニズムに関する諸理論を比較しながら、そのそれぞれについて説明することができる。	
		事前学修	教科書（「結章」）や講義資料などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について再確認しておく。特に、彼の重要概念については、その意味を十分に考察する。	120分
		事後学修	ジョン・ロールズの政治思想と比較しながら、さまざまな論者によるコミュニタリアニズムをまとめる。	120分
14	12/22	「近代政治思想の再検討」	フェミニズムやクイア理論、ケアの倫理、またアフリカ系アメリカ哲学などによる問題提起を参考として、「個人」や「理性」、「男性」の存在を前提に形成されてきた近代政治思想の問題点について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フェミニズム等によってなされてきた、近代政治思想に対する本質的批判について説明することができる。	
		事前学修	さまざまな書籍や資料、インターネットなどを利用して、女性差別や人種差別、セクシュアル・マイノリティに対する差別といった社会問題について把握しておく。	120分
		事後学修	前回まで取り上げてきた近代政治思想と今回講義したさまざまな政治思想を比較して、それぞれの評価すべき点や功績と問題点の両方について考えてみる。	120分
15	1/12	後期総括	市民革命後から現代にいたるまでの政治思想に関する総括的講義を行うため、近現代の政治思想全体を把握するように努める。試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治を理論的かつ論理的に考えることの重要性を説明することができる。	
		事前学修	後期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。	120分
		事後学修	教科書や講義資料などを総復習して、期末試験を準備する。	120分

科目名	政策過程論	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
わがくにおける行政機関、とりわけ地方公共団体における政策課題の発見から政策形成段階、政策実施、政策過程の各段階を学修したうえで、その課題を検討する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして行政活動の実態についても学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政策形成過程の各段階の問題点を理解している。また、どのような作業や手法があるのか説明できる。

【履修条件】
講義に出席し、静かに受講できる学生であればよい。公務員志望である必要はないが政策形成と実施について関心があること。公共政策論を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				2							
②	政策過程を批判的・論理的に分析し、説明できる。						2					
③	政策過程に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。							2				
④	効率的、効果的な行政運営などを自ら考案し、提案できる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。			40	40							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第14・15回の授業におけるグループワークにおいて自分の 意見を述べることができたかを基準に、到達目標①③④に かかわる説明能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5		40	50	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部	公職研	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	政策過程とはなにか。その問題テーマについて。	政策過程論の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
		この回の到達目標	政策過程について説明できる	
		事前学修	政策過程とはなにか、簡単について調べてみる	120分
		事後学修	分権時代における政策過程とはなにか考えてみる。	120分
2	9/25	政策過程とはなにか	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について学修する	
		この回の到達目標	政策過程について説明できる	
		事前学修	政策形成について調べる	120分
		事後学修	政策形成の課題について明らかにする。	120分
3	10/2	行政のサイクルとその意味	行政のサイクルについて学修する。	
		この回の到達目標	行政サイクルについて具体例で説明できる	
		事前学修	自治体の政策の流れについて調べてくる	120分
		事後学修	本日の講義の具体例について整理する	120分
4	10/9	政策の立案の前提過程	問題の発見と課題の設定について学修する	
		この回の到達目標	行政課題の設定の流れを説明できる	
		事前学修	行政課題と社会の課題の違いを理解してくる	120分
		事後学修	行政課題について政策的思考について整理する	120分
5	10/16	政策の立案のための分析過程	政策課題の分析と明確化、そして狭義の政策立案について学修する	
		この回の到達目標	政策課題の分析と明確化、そして狭義の政策立案について説明できる	
		事前学修	政策課題について調べてくる	120分
		事後学修	政策立案についてについてまとめる	120分
6	10/23	政策の立案における課題発見	問題の発見や課題の設定に関する手法について学修する	
		この回の到達目標	問題の発見や課題の設定に関する手法について説明できる	
		事前学修	問題の発見や課題について復習してくる	120分
		事後学修	問題の発見や課題の設定に関する手法について問題点を書き出す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	政策の立案のための情報収集	効果的な情報提供とコミュニケーション実現の手法について学修する	
		この回の到達目標	効果的な情報提供とコミュニケーション実現の手法について説明できる	
		事前学修	新聞から政策課題を抜き出してみる。情報提供の方法について検討する。	120分
		事後学修	講義で行った手法についてまとめる	120分
8	11/6	政策実施の研究	政策実施研究の実態について学修する	
		この回の到達目標	政策実施研究の現在について説明できる	
		事前学修	政策実施とはなにか調べてくる	120分
		事後学修	政策立案と政策実施の関係を理解する。政策実施の研究論文を読む	120分
9	11/13	規制行政の実施と実態	規制行政の政策実施について学修する	
		この回の到達目標	規制行政の政策実施の方法や課題について説明できる	
		事前学修	規制行政について考察してくる	120分
		事後学修	規制行政の政策実施の方法についてまとめる	120分
10	11/20	給付行政の実施と実態	給付行政の政策実施について学修する	
		この回の到達目標	給付行政の政策実施の方法や課題について説明できる	
		事前学修	給付行政について考察してくる	120分
		事後学修	給付行政の政策実施の方法についてまとめる	120分
11	11/27	ストリートレベルの実施過程の問題点	ストリートレベルの政策実施について学修する	
		この回の到達目標	ストリートレベルの政策実施のジレンマについて説明できる	
		事前学修	ストリートレベルの公務員の特徴について検討してくる	120分
		事後学修	ストリートレベル特有の政策実施についてまとめる	120分
12	12/4	現代の政策実施課題の課題	政策実施過程の現代的課題について学修する	
		この回の到達目標	政策実施過程の現代的課題について議論できる	
		事前学修	今までの議論を整理してくる	120分
		事後学修	政策実施過程の現代的課題について自分なりの見解をしめす	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	政策評価とはなにか	政策過程システムにおける政策評価の意義について学修する	
		この回の到達目標	政策過程システムにおける政策評価の意義について学修するか説明できる	
		事前学修	前回の議論について理解する	120分
		事後学修	政策評価の構築のための環境整備について検討する。	120分
14	12/18	政策過程の応用	政策評価と政策支援について議論し学修する	
		この回の到達目標	政策過程の地域づくりための応用についての可能性について検討する。	
		事前学修	政策過程の地域づくりための応用についての可能性について検討する。	120分
		事後学修	政策過程の応用についての可能性について検討する。	120分
15	1/15	全体の総括	これまでの授業で扱った政策過程構築の考え方について学修する。	
		この回の到達目標	これまでの授業で扱った政策過程の基本的な視点について他人に説明できる。	
		事前学修	政策過程制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
		事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	政策研究A	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この講義では、国家公務員（内閣府）としてNPO法人行政に関わった経験を引きつつ、新しい公共、共助社会において重要な役割が期待される非営利組織（NPO）について、理論と実証を通じて講義を行う。また、適宜ゲストスピーカーからの話題提供を通じて履修者の理解が深まるようにする。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非営利組織が現実の社会問題（人口減少、雇用、少子化、高齢化、まちづくり）解決において果たす・期待される役割について説明できるようになるために、経済学に基づく理論的背景について修得する。また、営利企業との違いやミッション、現状について議論できるようになる力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノートに基づいて講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、小レポートを2回実施する。また、演習とゲストスピーカーへの質問での極的な授業参加を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	非営利組織における主要な概念や理論を識別することができる。						4		4	4	4			
②	非営利組織のミッションや活動の意義を、論理的に説明することができる。						4		4	4	4			
③	寄付の理論、ボランティアの理論をはじめとする、経済理論を説明することができる。						4		4	4	4			
④	非営利組織（セクター）の活動に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。						4		4	4	4			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、2回行う小レポートにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。				70							70
討論・発表等	授業中の演習・質疑応答において自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標①②③にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	70							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末レポートについては評価のポイント・講評を学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に用いない。講義ノートに基づいて講義を行う。参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国家公務員（内閣府）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国家公務員としてNPO行政に携わった経験をふまえ、非営利組織について最新の情報を提供する。また、ゲストスピーカー（NPO関係者）からの話題提供も行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	【オリエンテーション（非営利組織とは何か）】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、非営利組織の定義など基礎的事項について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、非営利組織について学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	自分の知っている、聞いたことのある非営利組織（NPO法人等）の団体をインターネット等で調べておくこと。	120分
		事後学修	非営利組織について今まで誤解していた部分・初めて知った部分について整理すること。	120分
2	9/22	【営利企業と何が違うか（利潤最大化）】	営利企業との違いを理解するために、営利企業の行動について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済学における営利企業の意味決定について説明できる。	
		事前学修	ミクロ経済学の企業行動について復習しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。	120分
3	9/29	【営利企業と何が違うか（費用最小化）】	非営利組織の行動として費用最小化問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済学における費用最小化行動を説明できる。	
		事前学修	前回の講義内容を復習しておく。ミクロ経済学の企業行動について再復習しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。	120分
4	10/6	【非営利組織は何を目的に行動をするのか（ミッションとは何か）】	非営利組織の目的としてのミッションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非営利組織のミッションとビジョンについて説明できる。	
		事前学修	インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえ、インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べ直すこと。	120分
5	10/13	【非営利組織は何で評価されるのか、何で評価されるべきか。】	社会的インパクト評価について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非営利組織の目標や成果について議論することができる。	
		事前学修	インターネット等で社会的インパクト評価について調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえ、インターネット等で社会的インパクトを調べ直すこと。	120分
6	10/20	【ロジックモデルを作成する】	実際にロジックモデルを作成する。（演習）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分でロジックモデルが作成できる。	
		事前学修	ロジックモデルについて調べておくこと。	120分
		事後学修	自分の関心のある分野のロジックモデルを作成してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	【非営利組織の雇用】	非営利組織の雇用について政府統計等を用いて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非営利組織の雇用の状況についてについて説明できる。	
		事前学修	インターネット等で非営利組織の求人・雇用条件等について調べておくこと。	120分
		事後学修	講義内容で紹介したデータについて復習を行うこと。	120分
8	11/10	【非営利組織で働くということ】	非営利組織で働くゲストスピーカーから、活動やキャリアについてお話をいただく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの話を基に考えを整理することが出来る。	
		事前学修	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べてくること。	60分
		事後学修	小レポートを作成すること。	180分
9	11/17	【寄付について考える】	寄付の経済理論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、利他的動機の経済理論について説明できる。	
		事前学修	個人の消費行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。	120分
		事後学修	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。	120分
10	11/24	【ボランティアについて考える】	ボランティアの経済理論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時間の最適配分の理論と利他的動機について説明できる。	
		事前学修	個人の余暇行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。	120分
		事後学修	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。	120分
11	12/1	【ソーシャル・ビジネス（営利と非営利のあいだ）】	ソーシャル・ビジネスについてその定義や事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソーシャル・ビジネスの現状について議論できるようになる。	
		事前学修	インターネット等でソーシャル・ビジネスについて調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて、ソーシャル・ビジネスについて知識を整理すること。	120分
12	12/8	【営利企業の社会貢献（CSRの実態と課題）】	CSRについて、経団連の取り組みや、各企業の取り組みについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、企業の社会貢献活動について説明でき、議論できるようになる。	
		事前学修	インターネット等で企業の社会貢献について調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて、企業の社会貢献の類型について整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	【グローバルな活動について考える】	途上国支援などNGOで活動するゲストスピーカーから、その活動内容やキャリアについてお話を頂く。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの話を基に考えを整理することが出来る。	
		事前学修	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べておくこと。	60分
		事後学修	小レポートを作成すること。	120分
14	12/22	【行政との協働】	指定管理者制度、ふるさと納税による支援等の実情について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指定管理者制度とふるさと納税について説明でき、そのメリット・デメリットについて議論できるようになる。	
		事前学修	インターネット等で行政とNPOとの協働について調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて、行政とNPOの協働について整理すること。	120分
15	1/12	【まとめ（非営利組織を取り巻く今日的課題）】	ここまでの講義全体の総括と、非営利組織について学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、非営利組織の意味と意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておくこと。	120分
		事後学修	最終レポートを作成すること。	360分

科目名	政策法務論	担当者	牛山 久仁彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
本講座では、地方分権の時代にふさわしい自治体行政運営にとって求められる政策法務について講義を行う。今日の自治体において政策法務が求められていることは広く知られており、多くの自治体での実践が行われている。そこで、まず政策法務が求められてきた状況や背景について理解を進め、その意義について考える。その上で、地方分権改革が政策法務に与えた影響や効果、さらには政策法務の具体的な内容や条例論の展開などについて考えたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義を通じて、政策法務とは何かを学び、地方自治の重要性を理解することを目的とする。また、条例制定や政策への取り組みの具体的な取り組みについて学ぶことで、自治体の法システムを学び、説明できるようになることを目標とする。これらは、公務員を志望する学生にとって必要な知識であるが、公務員志望者でなくとも、地域社会で暮らしていく市民としての知識として政策法務を理解する視点もちたい。関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストを参照しながら、講義を実施する。関連資料は適宜配布するが、基本的には、講義内容をふまえた学生の自主的なノート作成を求めたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治についての確かな知識を習得し、その考え方や内容を説明することができる				2				2			
②	地方分権の考え方とその実践としての政策法務について理解し、実践するための必要性について説明できる。				2		2		2			
③	政策法務の基本的な知識を発展させ、具体的な政策に結びつけることができる						2	2	2			
④	政策を実践するための根拠として、自治体の自主的な法令解釈や条例制定の実務についての知識を習得し、実践することができる。						2	2	2			
⑤	政策法務の実践によって、住民生活を守り、発展させる取り組むことの必要性について理解し、説明することができる。				2			2	2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施し、講義内容についての知識の習得度を 確認する。	10	20	20	10	10						70
小テスト等	定期的に実施するリアクションびペーパーによって、講義 内容についての理解度を確認する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	予定していない。											
討論・発表等	講義後半で行うグループワークによって、条例制定の実務 や政策形成のあり方について議論する。			5	5	5						15
授業への参画度	講義への出席状況を質問などの状況から、講義科目につい ての意欲を確認する。											
その他()		1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		13	23	28	18	18						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容についてのリアクションペーパーやグループらワークによる問題提起に対して、適宜コメントやペーパーを用いてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
分権時代の地域行政（仮題・詳細は講義中に紹介する）	牛山久仁彦他編著	芦書房	月刊行 （予定）	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜12：10～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	／	講義全体の概要と目的 導入講義	講義の内容やスケジュール、成績評価の方法、テキストなどについて説明する。あわせて、講義の全体像を示し、学習の方法や研究姿勢などについて理解を深める。	
		この回の到達目標	①～⑤の到達目標を実現するため、全体の講義を通じて理解すべき内容の概略を理解する。	
		事前学修	シラバスの内容を確認すると共に、教科書の目次で、事前に全体の内容を確認する。	120分
		事後学修	講義スケジュールなどについて確認し、各自の学習計画を立てる。	120分
2	／	地方自治の概念	地方自治の必要性と自治体行政のあり方についての概略を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治の基本を理解する。	
		事前学修	地方自治とはいかなるものかについて、自分の経験や新聞等のニュースを通じて考えてくる。	120分
		事後学修	地方自治がなぜ必要かという点についての理解ができたかどうか、講義ノートを通じて振り返る。	120分
3	／	戦前における日本の地方制度	戦前の日本の地方制度について講義をする。この回では戦前の地方行政制度について、明治憲法下での特徴を、その官治集権的な体制に着目して解説すると同時に、戦後の地方自治に引き継がれている側面にも留意したい。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦前の地方自治制度をふり返り、その課題と意義について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、戦前日本の国家体制と地方制度についての理解を進める。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、戦前の地方制度の特徴をまとめる。	120分
4	／	地方自治と憲法	日本の戦後の地方自治改革について講義をする。日本国憲法の制定によって日本の地方自治の確立が図られ、法制度が整備された。そこで、ここでは日本国憲法における地方自治の規定について確認し、その意義を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、今日の地方自治制度の基本となる法と制度についての知識を習得する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、戦後日本の地方自治制度の成立の背景などについて事前に把握する。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認すると共に、憲法の該当条文を見直して講義内容を整理する。	120分
5	／	高度経済成長と地方自治	高度経済成長期の日本の地方自治の状況について講義をする。高度経済成長期、日本の地域社会は大きく変貌を遂げ、自治体のあり方にもさまざまな影響を与えた。そこにおいて、自治体が問われた都市問題等への対応について概説し、自治体の政策法務が発展したことについて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①および②に関連して、高度経済成長がもたらした地方自治をめぐる状況の変化とその背景、および自治体による政策法務への取り組みについて理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、高度成長期の自治体の政策的な取り組みについて考える。高度成長期の日本の状況について、基本的な知識を習得しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体における政策法務の芽生えについて知識を整理する。	120分
6	／	「地方の時代」と自治体	80年代における、日本の地方自治の発展と課題について講義をする。「地方の時代」と称される80年代に、自治体が直面した政策課題と、そこに生じた課題などについて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①および②に関連して、「地方の時代」の下での地方自治の発展と課題について理解し、自治体が取り組んだ政策についての知識を習得する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、「地方の時代」の下での自治体の状況についての事前の理解を深める。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、80年代の日本の自治体の政策的な取り組みと直面した課題について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	／	地方分権をめぐる背景と状況	1990年代に地方分権改革が進められた背景と状況について講義を行う。あわせて、日本の国と地方の関係が変化することの意味を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、地方分権が求められた日本社会の変化と直面した課題について学び、地方分権の必要性について理解を深める。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、地方分権改革が進められた背景と状況について学習しておくことが望ましい。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、地方分権とは何だったのかを整理する。	120分
8	／	地方分権改革の推進	2000年4月に施行された分権一括法によって、どのように地方自治のあり方が変化したのかを解説する。この回では、主に機関委任事務の廃止について論じ、新しい国と自治体の関係について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、地方分権改革によって生じた変化と、それが政策法務に与えた影響について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、地王分権一括法の全体像について把握しておく。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、機関委任事務の廃止がもつ意味と自治体政策の変化について整理する。	120分
9	／	地方分権改革と国地方関係の変化	8回目につき、分権一括法による自治体の変化について論じる。この回では、国の関与の改革による国と自治体の関係変化について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、地方分権改革による国地方関係と係争処理のあり方について、理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、「国の関与」とは何かについての基本的な知識を事前学習しておきたい。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、「国の関与」の改革を通じて、国と地方の関係がどのように変わったのかを整理しておく。	120分
10	／	自治体の条例制定	自治体の条例制定権について、地方自治法の規定を基に解説する。自治体独自の法創造の視点から、条例制定権についての理解を進めたい。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、自治体が条例制定を行うことの根拠と意義について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体条例にはどのようなものがあるかを知っておく。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体が条例制定権をもつことの意味と役割を整理する。	120分
11	／	自治体の政策形成	自治体が行った「要綱行政」の意義と課題について講義を行う。自治体が直面した政策法務の課題と、その発展方向について、具体的な取り組みを例に論じる。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、1970年代以降にみられた自治体の自主的な政策法務への取り組みのひとつである「要綱行政」の意義と限界について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、1970年代の自治体の「要綱行政」の取り組みについて、その歴史的背景や内容について予習しておく。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、「要綱行政」の意義と限界について整理する。	120分
12	／	自治体による政策法務の実践	自治体が自主的に政策形成に取り組み、条例制定をふまえた実践を行ってきた具体的な事例について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、自治体が行ったさまざまな政策や条例の事例を分析し、その意義について理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体の具体的な取り組み事例について概観しておく。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体の取り組み事例を振り返ると共に、その意義と発展方向について確認する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	／	自治体政策法務の具体的検討①	自治体の政策と条例についての実践的な理解を深めるため、グループワークにより意見交換を行いながら政策と条例について考える。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑤に関連して、これまで得た知識を実践的な課題に結びつけ、政策としてまとめあげることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、あるいは新聞記事などから地域の課題や自治体の政策についての事例等、事前の概略的な知識を習得する。（2時間）	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体にとっての政策の意味や評価のあり方について整理する。（2時間）	120分
14	／	自治体政策法務の具体的検討②	政策法務の実践を通じて生じる自治体行政の組織や体制の変化と、分権時代にふさわしい今後の自治体のあり方についてグループワークを通じて考える。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑤に関連して、これまで得た知識を実践的な課題に結びつけ、政策としてまとめあげるとともに、その根拠となる条例制定につなげることができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を整理し、そこに生じている課題や問題点について考えておくことが望ましい。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認し、これからの自治体行政組織等のあり方について整理しておく。	120分
15	／	政策法務についての理解度の確認 まとめ	自治体政策法務の全体的なまとめを行い、時間内に実施する試験を通じて、最終的な受講生の知識の習得状況を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤までの全体的な内容について、理解度を確認し、不足する部分があれば今後の学習の課題として整理する。	
		事前学修	ここまでの講義内容の全体像についてふり返り、問題意識を整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを全体的に確認し、理解を深める。	120分

科目名	政治学 I	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・ 久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/13	「組織された集団（1）：鉄の三角同盟」	理容所と美容所の事例を参考に、業界団体、官僚、政治家の三者間で業界の利益を擁護する同盟関係が構築されている点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、業界団体、官僚、政治家の三者がなぜ同盟関係を結ぶのか、という点を説明できる。	
		事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「1 鉄の三角同盟」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、改めて、業界団体、官僚、政治家の三者間の同盟関係について説明できるようにまとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	4/20	「組織された集団（2）：少数者たちが支配する？」	業界団体、官僚、政治家の三者間による同盟関係（鉄の三角同盟）に関して、集団理論および多元的民主主義理論の視点から見た場合にどのように理解できるのか、また、フリー・ライダーの可能性が少数者の優位をもたらすのはなぜか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、業界団体、官僚、政治家の鉄の三角同盟を集団理論および多元的民主主義理論の視点からどのように把握できるのか、またフリー・ライダーの可能性が少数者優位をもたらすのはなぜかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「2 少数者たちが支配する？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、鉄の三角同盟に関する集団理論および多元的民主主義理論の理解、およびフリー・ライダーの可能性と少数者優位の関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	4/27	「官と民の関係（1）：規制緩和で何が変わったか？」	電話事業の事例を見ながら、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「1 規制緩和で何が変わったか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自然独占」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	5/4	「官と民の関係（2）：市場の失敗・政府の失敗」	市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「2 市場の失敗・政府の失敗」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「公共財」および「情報の非対称性」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	5/11	「大企業と政治（1）：大企業が政治を支配している？」	財界が政治に対してどのような影響力を及ぼしているのか、その反対に政治は財界をどのようにコントロールしているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、財界に政治に対する影響力、および政治による財界の支配がどのように行われているのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「1 大企業が政治を支配している？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互の一般的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	「大企業と政治（2）：大企業の構造的な影響力と政治的紛争」	財界と政治の相互の影響力関係について、「製造物責任法」の制定過程や影響力の分布調査から浮かび上がるより実際的な関係性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財界と政治の相互の影響力関係が経験的な事例から見てどのようなものであるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「2 大企業の構造的な影響力と政治的紛争」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互のより具体的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	5/25	「選挙と政治（1）：政策で選挙は戦えるか」	政策投票とはどのような投票行動であり、実際に政策投票を行うことの困難さについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政策投票とはどのような投票行動であるのか、また政策投票を行うことに伴う困難さについて説明できる。	
		事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「1 政策で選挙は戦えるか」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政策投票の特徴や実際に行うことの困難さについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	6/1	「選挙と政治（2）：政策に代わる手がかりは」	有権者の投票行動に関して、政策以外の決定因として候補者の個人的資質や政党がどれだけ効いているのか、および戦後の日本の政党対立がどのような軸に沿って展開されてきたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、有権者の投票行動において候補者の個人的資質や政党がどれだけの影響力を持つのか、また戦後の日本政治の対立軸がどのようなものであったのか説明できる。	
		事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「2 政策に代わる手がかりは」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、候補者や政党支持に基づく投票行動モデルにはどの程度の説明能力があるのか、また戦後の日本の政党対立はどのような軸に沿って展開されてきたのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	6/8	「地方分権（1）：自治体には2つの役割がある」	パスポートの発券や沖縄米軍基地用地の代理署名などの事例を踏まえて、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「1 自治体には2つの役割がある」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における機関委任事務が抱えていた長所と短所について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	6/15	「地方分権（2）：国と地方の相互依存」	地方自治体の権限の決め方として挙げられる「制限列举方式」と「包括授權方式」がどのような特徴を持つのか、また戦後の日本の中央地方関係ではどちらの方式が採用されどのような特徴を示していたのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治体の権限に関する2つの方式の長所と短所、および戦後の日本における地方自治体の権限の特徴について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「2 国と地方の相互依存」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、地方自治体の権限に関する「制限列举方式」と「包括授權方式」の特徴、および戦後日本の地方自治体の特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
12	6/22	「マスメディアと政治（1）：マスメディアは政治を動かす？」	実際の事例においてマスメディアが政治に対してどれだけの影響力を発揮したのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞では違いがあるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政治に対するマスメディアの影響力がどのようなものであり、マスメディアにおける政治的中立性の扱いの違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「1 マスメディアは政治を動かす？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアの政治に対する影響力がどのように発揮されたのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞ではどのように対応しているのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	「マスメディアと政治 (2) : マスメディアは誰の 味方か？」	マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について検討する。	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「2 マスメディアは誰の味方か？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、その連携関係がもたらす影響について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	7/6	「講義のまとめ」	教科書の第1章から第6章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	180分
15	7/13	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
		事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
		事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学 I	担当者	杉本 竜也	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。

【授業方法】
基本的に、PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。講義資料は配布する（配布方法は受講者数によって決める）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回程度、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通した定期試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2011		
備考	よりよく講義を理解するためには入手することが望ましいが、購入は義務づけない。また、他の政治学の教科書で代替できるのであれば、それを利用しても構わない。				

【オフィスアワー】
月曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に出来るようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを確認して、講義内容全体を概観する。	100分
		事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味について考える。	140分
2	4/13	政治と経済	現代経済の中核である市場のプラス面とマイナス面を理解したうえで、それらに対する政治や政府の対応を学び、政治と経済の関係について考える。特に、「市場の失敗」が社会に与える影響やそれに対する政府の取り組みに注目して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「市場の失敗」をキーワードとして、政治と経済の関係性について、説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章「政治と経済」を読み、政治と経済の関係性について考える。	120分
		事後学修	講義内容や教科書（第2章）を参考として、「なぜ市場は失敗するのか」「失敗するにもかかわらず、なぜ市場は重視されるのか」「市場の失敗に対して、政治や政府は何を行うべきなのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
3	4/20	自由とは何か	ジョン・ロックからジョン・スチュアート・ミル、そしてジョン・ロールズにいたる自由主義思想について、「自由」の意味の変化に注意を払いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由主義の諸理論を識別することができる。	
		事前学修	教科書第3章「自由と自由主義」を読み、「自由」に関してさまざまな考えがあることを理解する。	120分
		事後学修	政治・経済・社会的背景の変化を考慮しながら、「自由」の意味が変化してきた理由について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
4	4/27	福祉国家の役割とその意味	福祉政策が求められるようになった背景やその基礎となっている理念、福祉国家の形式、そして福祉政策・福祉国家が直面している問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、福祉国家に関する諸理論と現在直面している問題について説明することができる。	
		事前学修	第2回講義の内容を振り返りながら、教科書第4章「福祉国家」を読む。	120分
		事後学修	福祉政策が求められる理由を考えることを通して、現代の国家や政治の果たすべき役割や責任について考察し、自分なりの見解をまとめる。	120分
5	5/4	国家とは何か	前近代の国家との違いを意識しながら近代国家の特徴について理解し、それを支えるさまざまな理念について学修する。また、国家の活動に必然的に付随する権力に関する諸理論について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前近代の国家と比較しながら、近代以降の国家の特質について説明することができる。	
		事前学修	教科書第5章「国家と権力」を読み、国家の役割について考えてみる。	120分
		事後学修	教科書第5章を参考にしながら、近代国家のプラスの側面とマイナスの側面について考察し、自分なりの見解をまとめる。また、国家の「正統性」についても考える。	120分
6	5/11	公と私	政治や社会における「公」と「私」の意味について考えたうえで、市民社会のあり方やナショナリズム・民族の問題について学ぶ。また、その中で、フェミニズム研究が果たした役割についても学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治における「公（公共性）」の重要性について、「官」との違いを区別しながら、説明することができる。	
		事前学修	前回講義の内容を振り返りながら、教科書第6章「市民社会と国民国家」を読む。	120分
		事後学修	教科書第6章や講義内容を参考にしながら、現代の国家における「公（公共性）」について考えてみる。その際、「公」と民族、国家と民族の関係性についても考察を行い、自分なりの見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	国際関係を考える	主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学習する。	
		この回の到達目標	主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学修する。	
		事前学修	教科書第7章「国内社会と国際関係」を読み、前回講義の内容も参考にしながら、国際関係と民族の問題について考える。	120分
		事後学修	前回の講義内容もあわせて参考にしながら、近代国家が形成される過程で民族という概念が果たした役割と弊害の両方について考える。	120分
8	5/25	安全保障に、守るのか？	何を、どのように？ 「四人のジレンマ」や勢力均衡、民主的平和論といった安全保障に関する主な理論や概念について学んだうえで、冷戦後の国際秩序や日本の安全保障について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治に関する諸理論を識別することができる。	
		事前学修	教科書第8章「国際関係における安全保障」を読むとともに、近代から今日にいたる歴史の中で発生したさまざまな戦争や国際紛争を振り返る。（2時間）	120分
		事後学修	「現代の国家が取り組むべき安全保障において、守られるべきものは何なのか」という問いを意識しながら、教科書第8章を読み返し、講義内容を再確認する。（2時間）	120分
9	6/1	グローバリゼーションがもたらしたもの	グローバリゼーションのプラスとマイナスについて、特にそれによってもたらされた格差問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバリゼーションの功罪双方について説明することができる。	
		事前学修	教科書第9章「国際関係における富の配分」を読んだうえで、インターネットなどを使って「グローバリゼーション」について調べる。	120分
		事後学修	教科書第9章や講義内容を参考として、経済学的視点ではなく、政治学的視点で、「格差は仕方ないことなのか、それとも解消されなければいけないことなのか」について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
10	6/8	立法部（議会）の役割と機能	アメリカとイギリスの議会制度の比較を通して、議会の制度と特徴について学ぶ。さらに、日本の議会（国会）の特徴と問題点、そして議会に不可欠な政党の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界国家の議会政治と日本の議会政治を対照させて、それぞれの特質について説明することができる。	
		事前学修	教科書第10章「議会」を読み、世界各国の議会制度の違いについて概観する。	120分
		事後学修	日本の議会政治（国会）に対する一般の評価は決して高くないが、それは議会政治の本質的特徴を原因としたものだろうか、それとも日本の国会特有の問題なのだろうか。教科書第10章の内容や講義内容を参考にし、考察する。	120分
11	6/15	日本の内閣制度	戦前の内閣制度を理解したうえで、それと比較しながら現在の内閣制度の特徴について学ぶ。また、日本やイギリスのような議院内閣制とアメリカのような大統領制における執政部の性格の違いを学習し、それぞれの長所と短所について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的変遷や国際比較等も意識しながら、日本の内閣制度の特徴について説明することができる。	
		事前学修	教科書第11章「執政部」を読むとともに、インターネットなどを利用して日本の内閣と国会の関係をうかがえる記事を探してみる。	120分
		事後学修	日本の内閣制度の変遷、とりわけ小選挙区制導入以降の変化に注目しながら、首相や内閣のリーダーシップのあり方について、自分なりの見解をまとめる。	120分
12	6/22	官僚制	マックス・ウェーバーによる伝統的な官僚制定義を学んだうえで、官僚制が本質的に有している問題点を把握し、それへの対策としての新たな官僚制のあり方（NPMなど）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代官僚制の有する優位点と問題点の双方について、比較考察しながら、説明することができる。	
		事前学修	教科書第12章「官僚制」を読み、官僚制の利点と欠点について把握する。	120分
		事後学修	教科書第12章や講義内容を再確認して、現在の日本においてしばしば官僚制が批判されている理由について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	日本の地方自治	「中央と地方」をキーワードとして、日本の地方分権について学修する。その際、とりわけ2000年頃より進められてきた地方分権改革の内容とその現在について取り上げ、中央と地方の不均衡や格差の問題について詳しく学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治が直面している問題点と地方分権改革の現実について、説明することができる。	
		事前学修	教科書第13章「中央地方関係」を読むとともに、報道などを検索して、現在地方が抱えている諸問題を洗い出す。	120分
		事後学修	教科書第13章や講義内容を参考として、中央と地方の間に生じた不均衡の理由について考察する。	120分
14	7/6	グローバル・ガバナンス	ネオ・リアリズムや覇権安定論といったグローバル・ガバナンスに関する基本的な理論を学び、さらに環境問題に代表される世界規模の諸問題に世界や各国がどのように対処していくべきなのか考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、グローバル・ガバナンスに関する諸理論について理解し、世界的問題に対する自分なりの考えを説明することができる。	
		事前学修	教科書第14章「国際制度」を読み、国内におけるガバナンスと世界規模でのガバナンスの違いについて考える。	120分
		事後学修	第9回講義の内容もあわせて参考として、国際社会の安定に必要な制度的枠組や各国の取り組みについて考える。	120分
15	7/13	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	120分
		事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	120分

科目名	政治学 I	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学[増補版]	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	政治とは何か	政治学について理解するために、政治、政治学とは何かについて学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義で取り上げる政治について説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の34～36頁を読み、政治について自分の考えをまとめる。	60分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
2	4/17	政治学とは何か	今後学んでいく政治学についてよりよく理解するために、社会科学における位置づけや特質等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政治学の社会科学における位置づけや特質等について概説できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政治学について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治学について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	4/24	伝統的政治学と現代政治学の確立	現代政治学を学ぶための基礎的な知識を養うために、伝統的政治学や現代政治学の確立について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、伝統的政治学や現代政治学の確立について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	5/1	現代政治学の展開	現代政治学を学ぶために、基礎的な知識として現代政治学の展開について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、現代政治学の展開について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、現代政治学の展開について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、現代政治学の展開について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	5/8	デモクラシー	政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つであるデモクラシーについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、デモクラシーについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、デモクラシーについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、デモクラシーについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	5/15	政治権力	政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つである政治権力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、政治権力について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政治権力について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治権力について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	支配、権力構造	政治学に関してよりよく理解するために、政治権力の行使に関係する支配や権力構造について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、支配や権力構造について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、支配や権力構造について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、支配や権力構造について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	5/29	リーダーシップ	政治学に関してよりよく理解するために、政治学における基礎的な概念の一つであるリーダーシップについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーダーシップについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、リーダーシップについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、リーダーシップについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	6/5	市民社会の誕生	政治における国家の役割や政治の発展と社会状況等の変化について理解するために、市民社会の誕生について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、市民社会の誕生について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、市民社会の誕生について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の誕生について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	6/12	市民社会の政治	現代の政治状況について理解するために、市民社会の政治とその終焉について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、市民社会の政治とその終焉について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、市民社会の政治とその終焉について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の政治とその終焉について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	6/19	大衆社会の成立	現代の政治状況について理解するために、その基礎となる大衆社会の成立とその制度的特徴について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大衆社会の成立とその制度的特徴について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	6/26	大衆社会の構造や心理	現代の政治状況について理解するために、現代政治社会の基礎となる大衆社会の構造や心理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、大衆社会の構造や心理について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、大衆社会の構造や心理について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の構造や心理について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	議院内閣制	政治制度について理解するために、権力分立や議院内閣制の生成と展開について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、権力分立や議院内閣制の生成と展開について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	7/10	イギリスの議院内閣制	わが国の政治制度について理解するために、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、イギリスの議院内閣制の特徴について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、イギリスの議院内閣制について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	7/17	これまでの講義の総括	現代政治の制度や状況等についてよりよく理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の政治の基礎となる概念や政治状況、政治制度を考慮し、政治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	180分

科目名	政治学 I	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部木 4/16	政治とは何か	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、その特徴を権力と公共性の立場から概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部木 4/23	公共の利益	政治において用いられる公共の利益概念を類型化し、それぞれの特徴を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	アリストテレスの政体論について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部木 4/30	自由主義	自由主義の思想的特徴を概観したうえで、社会契約・市場経済の論理を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	個人主義について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部木 5/7	民主主義	民主主義の思想的特徴を概観したうえで、有権者の合理性やポピュリズム現象について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	コンドルセの陪審定理について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部木 5/14	権力分立	権力機構の分割という考え方を、権力論および三権分立論の再検討とともに概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	絶対王政について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	議会	近代民主主義が採用する代議制の特徴を代表観の複数の類型とともに説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	古代ギリシアの政治体制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部木 5/28	執政部	議院内閣制と大統領制の制度的違い、および行政国家化のもとでの執政権について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	議院内閣制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部木 6/4	官僚	行政府の主要アクターである官僚（制）の機能を、歴史的経緯も交えつつ概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	日本の省庁について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	第一部木 6/11	選挙	様々な選挙制度がもつメリット・デメリットを確認し、有権者の投票行動の分析モデルを提示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	日本の選挙制度について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部木 6/18	政党	現在の議会政治において主要な役割を果たす政党を組織化の論理の観点から論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	最近の総選挙結果について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部木 6/25	団体	団体政治の性質とその是非を、多元主義およびコーポラティズムの区別とともに検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	オイルショックについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	中央地方関係	権限配分および資源配分の観点から、現代日本の中央地方関係を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	地方財政について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部木 7/9	国際関係	主権国家体制の成立を歴史的に跡づけながら、グローバル化時代の国際政治現象を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	主権国家体制について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部木 7/16	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学 I	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/14	政治と政治「学」	政治とは何かについて、特にD. イーストンの定義をを説明するとともに、社会科学の一分野としてのな政治「学」とは何かを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とは何か、学問とは何かを説明することができる。	
		事前学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、どのような問題が政治として取り上げられているかを確認しておく。	120分
		事後学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、自身が関心をもった政治問題について、どのような意見対立があり、どのような決定が下されようとしているのかを調べる。	120分
3	4/21	政治学の展開	アリストテレスやマキャベリの研究を通じて、政治学の分析対象の変遷や彼らの研究の方法論がどのようなものであったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学の分析対象の変遷を説明することができる。	
		事前学修	アリストテレスやマキャベリが生きてきた時代背景を知るために、古代ギリシアや中世ヨーロッパの歴史を確認しておく。	60分
		事後学修	アリストテレスやマキャベリが執筆した『政治学』や『君主論』のうち、いずれかを実際に手に取って読んでみる。	180分
4	4/28	科学としての政治学	第二次世界大戦以降、伝統的政治学の研究対象や方法論が大きく変化してきたことを取り上げ、行動論革命や脱行動論革命が政治学に対してどのようなインパクトを与えたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動論革命と脱行動論革命とは何かを説明することができる。	
		事前学修	第2回の授業内容を基にして、学問とは何かを確認し、他分野と政治学の違いを考えてみる。	90分
		事後学修	授業内容を確認した上で、政治学が社会に対して貢献できることは何かを考えてみる。	150分
5	5/5	政治システム論	D. イーストンの政治システム論とは何かを検討することで、政治学上、政治システム論がどのようなインプリケーションが持っていたのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の構成要素や意義を説明することができる。	
		事前学修	第4回の授業内容を基にして、行動論革命の特徴を整理しておく。	90分
		事後学修	D. イーストンの政治システム論が行動論革命の中で、どのように位置づけられるのかをまとめる。	150分
6	5/12	政治権力	実体的権力概念や関係的権力概念を検討することで、権力行使には様々な様態があり、支配の正統性と密接な関係にあることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つの権力概念、支配の三類型を説明することができる	
		事前学修	いわゆる「権力者」と呼ばれる人物を一人取り上げて、なぜそう呼ばれるのかを調べておく。	120分
		事後学修	各国の指導者と国民の関係について、支配の三類型に照らして分析し違いをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	リーダーシップ論	指導者が支持を調達を手段として、どのようなリーダーシップを発揮しているのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーダーシップの諸類型を説明することができる。	
		事前学修	歴史上の著名なリーダーがなぜ評価されているのかをまとめておく。	120分
		事後学修	歴史上の著名なリーダーをリーダーシップの諸類型に基づいて分類してみる。	120分
8	5/26	市民革命と市民社会	市民革命を経て絶対王政から政治体制が変動したことによって、一部の特権階級から市民層が政治の担い手となっていったことを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学における「市民」概念を説明することができる。	
		事前学修	イギリスにおけるピューリタン革命と名誉革命、フランスにおけるフランス革命の流れを概観しておく。	120分
		事後学修	イギリス、フランスにおける市民革命とドイツ三月革命の違いを調べる。	120分
9	6/2	市民社会と大衆社会	市民社会の成立によって、政治体制が大きく変動したものの民主主義を実現する上で課題が残されていたことを説明する。その背景に、市民社会から大衆社会への移行があったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市民社会に残された課題と大衆の特質を説明することができる。	
		事前学修	各国の参政権について、普通選挙の実現がいつなされたのかをまとめておく。	120分
		事後学修	大衆社会の問題点を検討してみる。	120分
10	6/9	民主主義論①	多義的な意味をもつ言葉として使われる「民主主義」の定義を説明するとともに、シュンペーターやダールの理論を基にして、民主主義と非民主主義の違いを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の各国の政治体制が民主主義であるか否かを説明することができる。	
		事前学修	日本の政治や報道などの中で、「民主主義」がどのような使われ方をしているのかをまとめておく。	120分
		事後学修	Freedom HouseやPolity IVなどを使用し、世界各国の民主主義について考えてみる。	120分
11	6/16	民主主義論②	民主主義がバリエーションに富んだものであることを理解するために、A. レイプハルトの議論を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多極共存型民主主義と多数代表型民主主義とは何かを説明できる。	
		事前学修	イギリスとスイスの政治システムを調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	レイプハルトの理論に基づく日本の民主主義は、どのように位置付けられるのかを検討する。	120分
12	6/23	執政制度①	議院内閣制、大統領制、半大統領制の制度的違いを説明するとともに、各執政制度が政治的安定性に与える影響を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議院内閣制と大統領制を区別する解任と選出のルールを説明することができる。	
		事前学修	首相がいる国、大統領がいる国、両者が併存する国を調べ、整理しておく。	120分
		事後学修	日本において、望ましい執政制度は何かを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	執政制度②	議院内閣制や大統領制は、政権形態や政党の凝集性、大統領に与えられた権限によって、様々なバリエーションを有していることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。	
		事前学修	日本とイギリスの政党について調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	日本において自民党と民主党が政権を担当した時期を、政党の凝集性の観点から比較してみる。	120分
14	7/7	官僚制	主権国家の成立以降、整備されてきた官僚制のメリットとデメリットについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、官僚制のメリットとデメリットを説明することができる。	
		事前学修	プリンシパル・エージェント理論を調べ、その特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	日本において、国民が官僚を統制できているのかを検討してみる。	120分
15	7/14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・ 久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/21	「国会（1）：ねじれ国会」	議院内閣制と大統領制の制度的相違を踏まえて、日本の国会で与党に対して野党がどのような抵抗を取ってきたのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会において野党が与党に対してどのような抵抗を取ってきたのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第7章 国会」の「1 ねじれ国会」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会における野党の抵抗手段について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	9/28	「国会（2）：国会の影響力」	自民党一党支配体制の時代の内閣提出法案の成立率を参照しながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能になってきたのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本の国会において野党の抵抗がなぜ可能であるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第7章 国会」の「2 国会の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能なのか、そして与党の対抗手段である強行採決にはどのような制約があるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかに	120分
4	10/5	「内閣と総理大臣（1）：総理大臣と大統領」	議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領は選ばれ方にどのような違いがあり、それぞれの政治的役割はどのようなものであるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制における執政部の長の選出方法および政治的役割の相違を説明できる。	
		事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「1 総理大臣と大統領」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領の選ばれ方、および政治的役割の相違について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	10/12	「内閣と総理大臣（2）：総理大臣の影響力」	議院内閣制下の首相にはどのような影響力資源があるのか、そしてその影響力資源をいかに活用できるのか、あるいはできないのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制下の首相の影響力資源にはどのようなものがあり、それらの資源をどのような場合に活用できるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「2 総理大臣の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相がどのような影響力資源を持ち、それらの影響力資源をいかに活用できるのか、あるいは活用できないとればなぜかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	10/19	「官僚（1）：大臣と官僚のバトル」	日本における大臣と官僚の間にはどのような関係性が見られるのか、その関係性を規定する要因には何があるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における大臣と官僚の関係性がどのようなものであり、その関係性を規定する要因について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「1 大臣と官僚のバトル」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における大臣と官僚の関係性を規定する要因にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	「官僚（2）：キャリア官僚のキャリア」	キャリア官僚と呼ばれる官僚たちはどのようなキャリアパスを経ているのか、キャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、キャリア官僚のキャリアパスがどのようなものであるのか、またキャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのかを説明できる。	
		事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「2 キャリア官僚のキャリア」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、キャリア官僚のキャリアパスにはどのような特徴があるのか、またその弊害にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	11/9	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（1）：戦後の国際環境」	第二次世界大戦後の国際社会がどのような基本構造をもつものであったのか、そしてその基本構造はそれぞれどのような特徴をもつものであったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、第二次世界大戦後の国際社会の基本構造について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「1 戦後の国際環境」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の国際社会における基本構造である「冷戦構造」と「自由貿易体制」がどのように構築され、どのような特徴をもっていたのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	11/16	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（2）：日本の対外政策」	第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成され定着していったのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、第二次世界大戦後の日本の対外政策の形成と定着の過程について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「2 日本の対外政策」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成・定着していったのか、またその特徴はどのようなものであったのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	11/23	「経済交渉（1）：貿易は世界を幸せにするか？」	国際貿易の基礎にある「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「1 貿易は世界を幸せにするか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「比較優位」とはどのような考え方なのか、そして対外政策に国内政治がどのような影響を及ぼしているのかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	11/30	「経済交渉（2）：経済交渉の行われ方」	日本とアメリカの経済交渉において、アメリカが日本に圧力をかけるアプローチにはどのようなものがあり、どのような特徴をもつのか、実際にそれらのアプローチがとられた経済交渉にはどのような事例があるのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、アメリカが日本との経済交渉において圧力をかけるために用いるアプローチにはどのようなものがあるのか実例を踏まえて説明できる。	
		事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「2 経済交渉の行われ方」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「構造協議アプローチ」と「管理貿易アプローチ」の特徴について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/7	「国境を越える政治（1）：ビリヤード・ゲームのような国際政治」	市場の失敗の一つである「外部不経済」の特徴がどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐって主権国家がどのような立場に立っているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、「外部不経済」とはどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐる主権国家の立場について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「1 ビリヤード・ゲームのような国際政治」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「外部不経済」の特徴、および地球環境問題をめぐる国家の対応について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
13	12/14	「国境を越える政治（2）：裸になる国家」	国際社会の相互依存関係がどれだけ深化しているのか、またトランスナショナルな国際交流が国際政治にどのような影響をもたらしているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際社会の相互依存の深化、およびトランスナショナルな国際交流が国際政治に及ぼす影響について説明できる。	
		事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「2 裸になる国家」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国際的な相互依存関係の深化、およびトランスナショナルな国際交流の国政政治に対する影響について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
14	12/21	「講義のまとめ」	教科書の第7章から第12章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章から第12章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	180分
15	1/18	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
		事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
		事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
同一講師による「政治学I」を履修していることを求める。政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。

【授業方法】
基本的に、PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。講義資料は配布する（配布方法は受講者数によって決める）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通した定期試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝 ほか	有斐閣	2011		
備考	よりよく講義を理解するためには入手することが望ましいが、購入は義務づけない。他の政治学の教科書で代替できるのであれば、それを利用しても構わない。				

【オフィスアワー】
月曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	前期の「政治学I」の講義内容および本講義の内容全体を概観する。	100分
		事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味を再確認する。	140分
2	9/21	国内政治における政策過程	政策過程を学ぶうえで必要な基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。具体的には、政治における意志決定プロセスのほか、政策課題の設定やそれへのメディアの影響、そしてこれらに関する諸研究について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程論の基本的な理論について説明することができる。	
		事前学修	教科書第15章「政策過程」を読んで、特定の政策が具体化していくプロセスをイメージしておく。（2時間）	120分
		事後学修	講義内容や教科書（第15章）などを参考として、講義で取り上げた諸モデル・諸理論について整理する。（2時間）	120分
3	9/28	対外政策における政策過程	対外政策や国際間の意志決定に関する基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。また、国内の社会や利害関係が対外政策に与える影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国内政治における政策過程と比較しながら、対外政策における政策決定過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書第16章「対外政策の形成」を読む。そして、前回講義で取り上げた国内政治における政策過程と対外政策における政策過程の違いを考える。	120分
		事後学修	前回講義の内容を再確認して、あらためて国内的な政策と対外的な政策の決定過程の違いについて考察する。	120分
4	10/5	国家と制度	国家において制度が持つ意味について、歴史的制度論と合理的選択制度論という2つの制度論から考える。また、合理的選択制度論の学習を通して、実証的で論理的に政治現象を分析する方法を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的制度論と合理的選択制度論について、正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書第17章「制度と政策」を読み、国家という存在が政治において果たしている役割や政治における制度の意味について考える。	120分
		事後学修	講義内容や教科書第17章を参考として、今回の講義で取り上げた諸理論、特に合理的選択制度論について十分に理解する。	120分
5	10/12	デモクラシー	古代ギリシアのポリスから近代の代表制デモクラシー、そしてポリアーキーのような現代デモクラシーへといたるデモクラシーの理論的変遷を学ぶ。その他、丸山眞男に代表される日本のデモクラシー論についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、デモクラシーに対する評価の変遷と、市民の主体性の重要性について説明することができる。	
		事前学修	教科書第18章「デモクラシー」を読み、デモクラシーの歴史的変遷や地域的な違いについて簡単に把握しておく。	120分
		事後学修	講義内容や教科書第18章を参考として、デモクラシーに対する評価が時代によって変化してきた理由について考え、デモクラシーに対する自分なりの考えをまとめる。	120分
6	10/19	社会契約説とは何か	西洋近代に理論化され、今日のリベラル・デモクラシーの理論的支柱にもなっている社会契約説に関して、代表的な理論家（ホッブズ、ロック、ルソー）の思想を中心に、その本質と意義、後世の政治への影響に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会契約説の特質を理解し、個々の論者の政治思想について説明することができる。	
		事前学修	前回講義の内容を振り返り、デモクラシーの歴史と主要な理論について復習する。	120分
		事後学修	講義内容を参考として、政治における「個人」および「作為（人為）」の意味について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	フェミニズム	近代政治思想に関してフェミニズムの提起や告発について学び、それらの問題に対してフェミニズムがどのような批判や対案を提示してきたのか、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フェミニズムの諸理論を理解し、近代以降の政治思想に内在している問題点について指摘することができる。	
		事前学修	第5回および第6回講義の内容を再確認し、西洋の政治学において最も重視されてきた概念やそこでの大前提について考えてみる。	120分
		事後学修	講義内容を参考として、フェミニズムによる諸批判を理解したうえで、近代政治思想が本質的に抱えている問題点を考えてまとめる。	120分
8	11/9	投票行動	大衆デモクラシーの成立に伴う市民像の変化が政治学に与えた影響について学修したうえで、いわゆる無党派層の投票行動を中心に近年の選挙で見られる投票行動について考える。また、その中で、行動科学的政治学が成立した背景と意味についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動が選挙結果に及ぼす影響について、理論的に説明することができる。	
		事前学修	教科書第19章「投票行動」を読んだうえで、インターネットなどを利用して、近年行われた日本の国政選挙のひとつを取り上げて、投票率などに現れた人々の政治行動について調べる。	120分
		事後学修	なぜ特性の政党を継続的に支持しない無党派層と呼ばれる人々が現れることになったのか、講義の内容を元にして自分なりの考えをまとめる。	120分
9	11/16	政治における心理	人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学修する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。	
		この回の到達目標	人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学修する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。	
		事前学修	前回講義の内容を踏まえながら、教科書第20章「政治の心理」を概観する。	120分
		事後学修	自分が投票などの政治行動をとる場合、何に基づいて、もしくは何に影響されているのか、自らの実態に沿って考えをまとめる。	120分
10	11/23	ポピュリズム	近年、問題視されているポピュリズムと呼ばれる現象の意味と原因、その影響について学ぶ。特に、日本において発生したポピュリズムと呼ばれている政治現象を考察するほか、「民意」の重視とポピュリズムの違いについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ポピュリズムという概念について説明することができる。	
		事前学修	近年、欧米で見られている政治現象のうち、「ポピュリズム」と呼ばれているものがあれば抽出し、インターネットなどを利用してその概要を調べる。	120分
		事後学修	講義内容を参考にして、ポピュリズムとデモクラシーの違いは何なのか、自分なりの見解をまとめる。	120分
11	11/30	世論とメディア	世論という言葉の本来の意味を理解したうえで、世論に対するメディアの影響や効果（フレーミング効果など）、そして市民とメディアの関係について考察する。また、世論に対するSNSや各種ネットメディアの効果についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メディアが政治的事象に与える影響について、自分なりの考えを説明することができる。	
		事前学修	教科書第21章「世論とメディア」を読み、自分が日常的に接しているメディアについて考える。	120分
		事後学修	現在、主に接しているメディア（テレビ・新聞・SNS・ニュースアプリなど）からどのような影響を受けているのか、特に政治や経済、社会に関する事柄に対する自分の意見の形成にそのメディアがどのように影響しているのか考え、まとめる。	120分
12	12/7	選挙と政治参加	デモクラシーにおける選挙の役割を考え、そのうえで小選挙区制・中選挙区制・比例代表制といった選挙制度の仕組みについて学修する。それ以外に、住民投票やデモといった選挙以外での政治参加について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長所と短所の双方を認識した上で、各選挙制度の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書第22章「選挙と政治参加」を読み、各種選挙制度の概要を把握する。	120分
		事後学修	各種選挙制度を比較し、それぞれののプラスの要素とマイナスの要素についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	政治における利益団体	政治的意志決定に対する利益団体・圧力団体の影響、特に日本におけるこれらの団体の影響について学修する。また、多元主義やコーポラティズムといった利益政治の各種パターンについても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程において利益団体が果たす役割とその問題点について、説明することができる。	
		事前学修	教科書第23章「利益団体と政治」を読んだうえで、政治（政治家・政府）と利益団体をはじめとする特定の個人・団体との関係でその不適切性が問題視された、近年の事例をピックアップする。（2時間）	120分
		事後学修	講義内容や教科書（教科書第23章）を参考にして、デモクラシーにおける利益団体の利益表出機能がもたらす功罪についてまとめる。（2時間）	120分
14	12/21	政党	現代政治・デモクラシーにおいて政党が担っている機能のほか、政党システムやそれに関する各国の状況、デュヴェルジェの法則といった政党に関する諸理論について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党に関する諸理論について説明することができる。	
		事前学修	教科書第24章「政党」を読み、政党に関する諸概念やさまざまな政党システムについて概観する。	120分
		事後学修	選挙制度が政党や政党システムに与える影響（デュヴェルジェの法則）について確認したうえで、日本の政党システムについてまとめる。（2時間）	120分
15	1/18	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	120分
		事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】
Powerpointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学[増補版]	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	政治過程	政治学について理解するために、政治過程について学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実際的かつ動態的に政治について考えるために、政治過程について理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の147～148頁を読み、政治過程について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
2	9/25	選挙	政治過程について理解するために、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	10/2	投票行動	政治現象を理解するために、投票行動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、投票行動について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、投票行動について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	10/9	政党	政治現象を理解するために、政党の成立や定義、機能について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党の成立や定義、機能について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政党の成立や定義、機能について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党の成立や定義、機能について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	10/16	政党と議会	政治過程を動態的に理解するために、政党システムに関する研究や野党について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政党システムに関する研究や野党について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、政党システムに関する研究や野党について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党システムに関する研究や野党について自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	10/23	官僚制	政治過程を理解するために、官僚制について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、官僚制について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、官僚制について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	圧力団体	政治過程を理解するために、圧力団体について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、圧力団体について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、圧力団体について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、圧力団体について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	11/6	マスメディア	政治過程を理解するために、マスメディアについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マスメディアについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、マスメディアについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、マスメディアについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	11/13	政策過程	実際の政治過程を理解するために、政策過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政策過程について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、政策過程について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、政策過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	11/20	国際政治	政治過程についてより理解するために、一国の政治過程にも影響を与える国際政治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際政治について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、国際政治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、国際政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	11/27	地方自治	実際に起こる政治現象を理解するために、地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	12/4	日本の政治	政治上の諸問題を理解するために、日本の政治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の政治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本の政治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	日本の行政	政治上の諸問題を理解するために、日本の行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の行政について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に提示する文献を読み、日本の行政について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、日本の行政について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	12/18	日本の地方自治	政治上の諸問題を理解するために、日本の地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	12/25	これまでの講義の総括	これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治過程におけるアクター等について、より広範囲な視野から、そして詳細な分析の視点から理解し、政治のあり方について自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書等の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部木 9/24	近代政治原理	自由主義・立憲主義・民主主義がどのように戦後憲法に反映されているかを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部木 10/1	近代政治原理前史	近代市民革命の背景として、中世から近世のヨーロッパ政治社会を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	中世・近世について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部木 10/8	自由主義Ⅰ：個人の発見と政府の権威	ホッブズの社会契約説を17世紀前半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	清教徒革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部木 10/15	自由主義Ⅱ：市民的自由と経済的自由	ロックの社会契約説を17世紀後半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	名誉革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部木 10/22	立憲主義Ⅰ：自然法の観念	アメリカ独立革命の政治思想的特徴を自然法の観念から概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	アメリカ独立革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 10/29	立憲主義Ⅱ：権力分立の思想	アメリカ合衆国の建国と憲法制定の理念として、権力分立の概念を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	三権分立について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部木 11/5	民主主義Ⅰ：身分制議会から国民議会へ	フランス革命において目指された人民主権の実際を、直接／間接民主主義の区別から分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部木 11/12	民主主義Ⅱ：ファシズムの経験	参政権・社会権の拡大に伴う民主主義の拡大と、それがもたらした正負の結果を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	第一部木 11/19	戦前日本Ⅰ：明治維新から明治憲法まで	日本の近代化の特徴と、ヨーロッパの近代化との異同を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	自由民権運動について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部木 12/3	戦前日本Ⅱ：議会主義の展開と挫折	大正デモクラシーを経て軍国主義に向かう戦前日本の経緯を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	大正デモクラシーについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部木 12/10	戦後日本Ⅰ：近代主義と戦後憲法	戦後憲法の政治思想的特徴と、丸山眞男ら「近代主義」者の思想活動を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	日本国憲法について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	戦後日本Ⅱ：市民運動の時代	反基地闘争、安保闘争、学生運動に至る直接政治行動の時代とその趨勢を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	高度経済成長期について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部木 12/24	「政治」についてどのように「学」ぶか	政治現象について分析するツールとしての政治学の多様な手法を、事例とともに概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	2016年米国大統領選挙について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部木 1/14	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	政党	「民主主義の生命線」といわれている政党の定義や機能を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党の定義や機能を説明することができる。	
		事前学修	現在の日本には、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	授業で学んだ政党の機能について、現実の政党がその機能を果たしているかを検討してみる。	150分
3	9/29	政党組織と政党システム	政党内部を分析対象とする政党組織と政党間の関係を分析対象とする政党システムの類型について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党組織と政党システムの類型を説明することができる。	
		事前学修	第二次世界大戦から現在に至るまでの日本の政党数や各政党の支持基盤をまとめておく。	120分
		事後学修	現在の日本の政党システムや各政党組織は、理論的にどのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
4	10/6	政党システム形成の要因	政党システムを規定する要因として、選挙制度、社会構造、有権者の選好それぞれについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党システム形成の要因を説明することができる。	
		事前学修	日本がどのような選挙制度を採用しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	現在の日本の政党システムが上記の要因によって説明することができるかを検討してみる。	150分
5	10/13	イギリスの政党政治	典型的な二大政党制の国と言われていたイギリスの政党システムの実態と保守党、労働党の政党組織の変化を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、イギリスは二大政党制の国ではないことを説明することができる。	
		事前学修	イギリスにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	1950年代以降の二大政党の得票率、議席率を調べてみる。	150分
6	10/20	ドイツの政党政治	穏健な多党制の国と言われてきたドイツの政党システムを、キリスト教民主・社会同盟、社民党、ドイツのための選択、左派党に着目して検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツの政党システムの変化について説明することができる。	
		事前学修	ドイツにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
		事後学修	1990年代以降、ドイツの政権に参画する政党のバリエーションが増加していることを確認してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	日本の政党政治	1955年から1993年にかけて続いた「55年体制」の下で政党システムと自民党長期政権の要因を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、55年体制とは何かを説明することができる。	
		事前学修	第二次世界大戦前後の日本における政党の存在を確認してまとめる。	90分
		事後学修	自民政権や1993年の非自民連立内閣、2009年の民主党政権を比較検討してみる。	150分
8	11/10	選挙制度論	民主主義を支える重要な制度としての選挙制度を、議席決定方式や選挙制度が与える影響という観点から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議席決定方式や選挙制度が与える影響を説明することができる。	
		事前学修	直近の国政選挙の選挙制度と結果をまとめる。	120分
		事後学修	自身の国で望ましい選挙制度は何かを考えてみる。	120分
9	11/17	投票行動論	投票行動研究における基礎的理論であるコロンビアモデルおよびミシガンモデルを中心に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、コロンビアモデルおよびミシガンモデルを説明することができる。	
		事前学修	もし、自身が選挙権を行使するならば、どのような基準で投票先を選択するか基準をまとめる。	60分
		事後学修	政党のHP、SNS等を利用して各政党が掲げる主張や現職議員のイメージを確認してみる。	180分
10	11/24	世論とメディア	第四の権力と言われるマスメディアについて、世論や政治に対してどのような影響力を与えているのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メスメディアの影響力について説明することができる。	
		事前学修	同一のニュースについて、各メディアによって伝え方に違いがあるかをまとめる。	120分
		事後学修	SNSが大きな影響を果たしたとされる事例を検討してみる。	120分
11	12/1	利益団体と政治	政党を補完する存在としての利益団体の行動様式や多元社会に与える影響を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、利益団体の行動様式を説明することができる。	
		事前学修	農協や医師会等、自身が興味を持った利益団体の特徴をまとめる。	120分
		事後学修	日本における利益団体が政治に与える影響をどのように評価するか検討してみる。	120分
12	12/8	国家とは何か	政治学において、最も基本的な分析単位であった国家について、その定義や主権国家体系の成立について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家や主権の定義を説明することができる。	
		事前学修	各国家を比較検討して、それぞれの国の類似点を整理しておく。	90分
		事後学修	20世紀以降に発生した主要な戦争とその原因が何かを検討してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	主権国家と超国家的共同体	EUに代表される地域統合が深化した結果、国家の役割は低下したのかということについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の特異性を説明することができる。	
		事前学修	国連等の国際組織の役割や権限をまとめておく。	120分
		事後学修	EUが果たした貢献と問題点は何かを検討してみる。	120分
14	12/22	国家は衰退するのか	EUに代表される地域統合が深化した結果、国家の役割は低下したのかということについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家が直面する問題点を説明することができる。	
		事前学修	各地域の分離独立問題やポピュリズム勢力の台頭を整理しておく。	90分
		事後学修	日本と近隣諸国との関係について、どのような解決策が考えられるのかをも模索してみる。	150分
15	1/12	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	政治学原論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く，体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，現代政治学の代表的な理論や概念のほか，さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として，講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	推奨
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	推奨
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1985	参考書	推奨
『政治学講義〔第2版〕』	佐々木毅	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『現代政治分析』	R. A. ダール	岩波書店	2012	参考書	任意
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション：政治学の第一歩	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	4/15	政治と政治学	「政治」とは何か、「政治学」とは何かについて、「社会」と「社会科学」とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学が対象とする「政治」現象と「政治学」とのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	4/22	現代政治学の対象と方法	現代政治学の対象となる「政治」現象とは何か、その特徴について解説し、現代政治学の方法である「規範的アプローチ」と「経験的アプローチ」のアプローチの特徴や取り扱う内容について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の対象となる政治現象について具体的に説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	4/29	政治権力と国家	現代政治学が取り扱う「政治権力」、「国家」、「政府」との関係と、「政治権力以外の権力」について、政治学の古典にも言及しながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「政治権力」と「国家」とのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	5/6	新しい政治学と政治システム論	行動科学革命と現代政治学とのかかわりについて、これまでの授業で取り扱ってきた講義内容を総括するとともに、今後の内容の導入としての解説も併せて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の主な特徴と、主要な分析枠組みである「政治システム」とのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	5/13	政治システム	イーストン（David Easton）による政治システム（political system）論の内容を中心に、現代政治学における位置づけにも言及しながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	政治システムの構造機能分析	アーモンド (Gabriel A. Almond) とパウエル (G. Bingham Powell, Jr.) による政治システムの構造機能分析について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論における政治システムの構造機能分析について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	5/27	政治システムと政治文化	政治発展 (political development) と政治文化 (political culture) とのかかわりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システムの発展と政治文化とのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	6/3	民主主義	現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	6/10	政党と利益集団	現代民主主義における政党 (political party) と利益集団 (interest group) との共通点と相違点を中心に両者の機能と地位について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学の主な論点である「政党」と「利益集団」とのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	6/17	政党	現代民主主義における政党の変容について、デュベルジェ (Maurice Duverger)、カッツ (Richard Katz) とメア (Peter Mair) の議論をもとに政党組織と機能という点から説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代民主主義における主要なアクターである政党について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	6/24	政党システム	政党システムのタイポロジーについて、サルトーリ (Giovanni Sartori) による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の比較，議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，議院内閣制と大統領制の違い，大統領制化について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	7/8	政策決定過程	個々の公共政策がどのようにつくられ，どのように実施されるのかについて，政治システム論の枠組みをもとに政策決定過程をいくつかの段階に分けて理解することができる点を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，政治システム論をもとにした「政策決定過程」について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	7/15	今学期のまとめ：現代政治学の系譜	現代政治学が単なる政治学ではなく，「現代」の「政治学」であることの意味について，今学期の講義で取り扱ってきた議論をふまえて，総括として解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，現代政治学の主たる理論，モデル，概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治学原論	担当者	吉野 篤	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く，体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，現代政治学の代表的な理論や概念のほか，さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
特にないが，できれば1年次に政治学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
主として講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期中に数回程度、リアクションペーパーで履修学生の質問・意見を聴取し講義に反映させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験後にポータルシステムを使ってフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next教科書シリーズ 政治学』第2版	吉野篤編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	参考書その他の文献・資料は授業中に指示する。なお新聞報道を資料として可能な限り配布する予定。				

【オフィスアワー】
火曜日午前中 研究室（本館8階1807研究室） yoshino.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーションと授業内容の確認	前学期で取り上げる具体的内容の概要を示し、留意事項を伝える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、授業内容の全体像を理解し、注意すべき点、留意点などを把握することができる。	
		事前学修	国内外で問題となっている政治問題について関心を広げ、その経緯や現状を調べてみること。	120分
		事後学修	到達目標②との関係で、授業の全体像について理解し、テキストの該当箇所を確認し、整理すること。	120分
2	4/14	社会科学の方法論	マックス・ウェーバーの社会科学方法論を取り上げ、広く社会科学的な見方・認識の重要性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、ウェーバーの「価値自由」という考え方を理解し、それが政治学的にもきわめて重要な方法論であることを認識できる。	
		事前学修	ウェーバーの立場、社会学者としての業績などを事前に調査して、その全体像を把握すること。	120分
		事後学修	理念型や価値自由といった概念について確認し、著書『職業としての学問』に触れてみる。	120分
3	4/21	権力の概念と構造	権力の概念的整理を行い、とくに政治権力の構造や特質について個別具体的な事例を提示して考察を深め、分析レベルを分けて政治権力の問題を掘り下げる。	
		この回の到達目標	到達目標②との関連で、権力、とくに政治権力の特異性、特質などについて理解し、過去政治史上のエポックを含めて政治権力の実態や脅威について認識し、それを深めることができる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、政治権力の態様や特質について概要を整理すること。	120分
		事後学修	テキストにある参考文献に当たり、さらに政治権力の実態について掘り下げる。	120分
4	4/28	市民革命の歴史的意義とイギリス革命の政治過程	政治の近代化・民主化に与えた市民革命の大きなインパクトを歴史的な文脈の中に位置づけて、その具体的展開をイギリスの市民革命を通して考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、市民革命とはどのような政治変動であったのか、その歴史的意義の正当な評価を行えるとともに、イギリス革命の政治過程を追うことで、イギリス政治がいかに近代化していくかを客観的に理解することができる。	
		事前学修	ネットや辞典類あるいは簡潔な市民革命史の書籍を通じて事前に市民革命の原因や展開、帰結について調べておくこと。	120分
		事後学修	清教徒革命、名誉革命が別個の政治過程を示しているとはいえ、ひとつの政治過程として認識できることを確認すること。	120分
5	5/5	アメリカ独立革命の政治過程	アメリカ独立革命の特異性・独自性を踏まえながら、具体的な政治過程の枠組みを示し、合わせて「最初の新興国家」アメリカの政治的性格を考える。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で他の市民革命とは異なり、アメリカの「独立」革命がいかに大きな課題と特異性を抱えていたかを理解し、アメリカという国家の建国の理念について認識を深めることができる。	
		事前学修	前回と同様にアメリカ独立革命について、発端となった事象や展開、帰結について事前に調査しておくこと。	120分
		事後学修	到達目標③との関係で、独立革命以後のアメリカの発展や課題について自主的に調べ、現在のアメリカの立ち位置について考察する際の視点を考えてみる。	120分
6	5/12	フランス革命の政治過程	フランス革命が「典型的な市民革命」と称されるのはなぜかという問題意識を提起しながら、その背景を示し、具体的な革命の成果や試練について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、革命の規模、革命がより大きなインパクトをヨーロッパに与えた地政学的要因を理解することができ、フランス革命の理念の普遍性がいかに大きな意味をその後の世界に与えたかを理解することができる。	
		事前学修	イギリス革命、アメリカ独立革命の回と同様に、事前に革命の経緯や成果について調べておくこと。高等学用の世界史の本格的な参考書なども有用である。	120分
		事後学修	フランス革命の理念である自由・平等・博愛がいかに重要で普遍的な理念であったかを再認識するために、現在の国際社会の状況などについてメディアの報道などを整理して考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	保守主義の政治理論	フランス革命に対する反動(反応)として現れる近代保守主義の考え方を、保守主義思想の祖型であるエドモンド・バークの考え方を中心に解説し、合わせて20世紀の保守主義研究の事例についても発展的に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、保守主義の考え方とはどのようなものなのか、その核心に何があるのかを理解し、現在の政治状況の中で、そのような認識が根付いているのかどうかを批判的に判断できる。	
		事前学修	歴史的にみて、既成秩序への挑戦がなされたとき、既成秩序側はどのように反応したのか、いくつかの事例を探して調べてみる。	120分
		事後学修	日本の55年体制でいわれた「保守」とバークによって展開された保守の考え方は同じなのか、違うのか、違うとしたら何が違うのかといった問題意識のもとで日本の政治の展開などを整理してみる。	120分
8	5/26	社会主義の政治理論	第一次産業革命後の19世紀に顕在化したいわゆる階級対立を背景にして現れる社会主義の政治理論を、それを確立したマルクスの考え方に沿って説明し、社会主義革命・社会主義社会の展望を含めて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、社会主義の考え方の枠組み、革命へのビジョンなどをマルクスの主張をもとに理解し、その考え方の枠組みが決して時代錯誤とはいえない今日的重要性をもっていることを認識できる。	
		事前学修	産業革命後の社会構造の変化などをはじめとする資本主義社会の変容・深化の問題点などを事前に調べておくこと。	120分
		事後学修	現在の資本主義体制について問題点は何か、それを克服するためには何か方法があるのかを自分なりに考察し、整理してみること。	120分
9	6/2	政党の概念と機能	現代の政治過程におけるアクター分析として、依然としてきわめて重要な存在である政党の概念と機能を古典的定義を含めて観察し、現代の政党に求められる役割を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、政党の存在が現代の政治過程の中でいかなる重要性をもつか、また機能からみて今日的な課題と展望を主体的に考察できる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、合わせて日本や海外の政党の置かれている現状をメディアの報道などで調べておくこと。	120分
		事後学修	ケーススタディとして日本の各政党の立ち位置や政策について主体的に資料に当たり、それらの課題について整理すること。	120分
10	6/9	政党システムの分析枠組み	政党システムの分類学として著名なサルトリーのシステム類型に基づいて、それぞれの政党システムを個別具体的に提示し、合わせて現実の政党政治の展開についても補足的に取り上げる。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、政党政治の展開の枠組みの概要を理解でき、政権形態との関連性や政権のパフォーマンスにそれがどのように作用しているかを認識できる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、さらに日本の政党政治の現状について情報を整理しておくこと。	120分
		事後学修	日本の政党政治は果たして健全に機能しているか、野党の弱体はどこから来ているのかを主体的に考察すること。	120分
11	6/16	選挙の意義と機能	政治参加の最も基本的な手段である選挙について、その大原則・意義・機能などを提示する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、国政選挙、地方選挙ともに低投票率にあえぐ現状を踏まえ、選挙がいかに重要で参加する価値のあるものであるのかを主体的に理解できる。	
		事前学修	例えば直近に参加した選挙の結果などを独自に調べて、自らの投票の意義などを考える材料として整理しておくこと。	120分
		事後学修	なぜ投票率はきわめて低迷したままなのか、若者の政治参加を高めるためには何が求められるかを主体的に考える。	120分
12	6/23	選挙制度の現状と課題	制度としての選挙を類型化して示し、それぞれの基本的な設計を中心に考察する	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で選挙制度の基本的考え方や設計を理解でき、日本の国政での選挙制度の課題などを認識することができる。	
		事前学修	身近な地方選挙あるいは国政選挙の投票率などを調べてみて、なぜ投票率が低くなっているのか考えてみる	120分
		事後学修	現状の選挙制度の在り方を踏まえて、どのような選挙制度が望ましいのか、代替案としてどのような制度が考えられるか、他国の例などを参照しながら主体的に問題提起してみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	議院内閣制の生成	日本を含めて政治制度の大類型である議院内閣制はどのように生まれたのかを、発祥の地イギリスの歴史を追うことで考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、高等学校までの通説的見解とは異なる、議院内閣制の生成過程をイギリス政治史学の成果をもとに理解することができる。	
		事前学修	高等学校の世界史や政治・経済の教科書・参考書などを用いて、議院内閣制の誕生がどのように解説されているかを事前に確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本の議院内閣制は機能しているのか、また大統領制と比較してどのような実体があるかなどについて主体的に考察すること。	120分
14	7/7	戦後日本政治の歴史的展開	いわゆる55年体制の生成からの日本政治の展開を歴史的文脈の中に位置づけて、大きな流れをマクロに追う。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、55年体制の生成とその後の展開をマクロに見通すことができ、日本政治の巨視的変容と課題について主体的に考察することができる。	
		事前学修	テキストの該当箇所を精読し、概要を把握するとともに、他の資料なども参考にしながら日本政治の現状はどこから来たか整理してみる。	120分
		事後学修	自民党一強の体制はどのように築きあげられたか、マクロな政治史的視点に立ってその現状と課題を考えてみる。	120分
15	7/14	日本の国会は機能しているか	自民党政権が継続する中、国会が果たすべき極めて重要な役割である行政監視の機能は健全に果たされているか、またそれに関連して政と官の役割分担は健全になされているか、などの問題点について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標③との関係で、議院内閣制のもとでの立法部と行政部の関係は、日本でどのようになっているのか、また、国会を活性化させるには何が必要かなどの重大な課題についてアクティブに考えることができる。	
		事前学修	ネットなどで国会中継や録画を見直し、国会が討論と説得の場になっているかどうか確認してみる。	120分
		事後学修	新聞報道などに注目し、国会の議論が成熟したものとなっているか、あるいは内閣は国会の要請に誠実に応えているか考えてみること。	120分

科目名	政治過程論	担当者	浅井 直哉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
政治過程論は、政治の動態的な側面に注目し、具体的に政治がどのようなメカニズムで動いているのかについて分析を行う分野である。政治過程を①選挙過程，②立法過程，③政策過程の三つに分けて考え，政治の「流れ」をたどることにより，政治過程を体系的に理解するのに必要な用語やモデルを取り扱い，どのようにして政治を捉え，分析するのかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治過程に関する知識を身につけ、現実政治の流れについて体系的に理解することを目的とする。政治現象の全体像を捉えて現実は何が起きているのかを理解し，説明することができるようになるために，政治過程全体や，政治にかかわりを持つアクターをめぐる理論，モデルを修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として，PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治過程の段階を理解し、区分することができる。							2	2					
②	政治過程にかかわるアクターを識別し、説明することができる。							2	2					
③	政治過程にかかわる理論やモデルを識別し、説明することができる。							2	2					
④	政治過程にかかわる理論やモデルを現実政治に援用するための手続きを適用することができる。							2	2					
⑤	政治の現実と理論の両者に対して、問題点や疑問点を考え、説明することができる。							2	2					
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標④⑤に関して説明できるようになっているかについて評価する。				10	10						20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる政治過程論』	松田憲忠・岡田浩編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
『政治過程論』	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣	2000	参考書	推奨
『現代の政党と選挙〔新版〕』	川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子	有斐閣	2011	参考書	推奨
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション：政治過程論とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、政治過程論の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程論を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	現実政治に関する情報を収集し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	4/14	政治過程の見取り図	イーストン（David Easton）の政治システム論を通じ、政治過程の流れについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	4/21	政治過程論のアプローチ	政治現象を研究するにあたっての考え方や方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、政治学の分析に関する基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	4/28	制度論から新制度論へ	制度の比較を通じた研究から制度とアクターのかかわりに注目する研究への展開に目を向けて、政治学において集団に関心が向けられるようになった過程を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治にかかわる集団の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	5/5	政治過程論の展開	ベントレー（Arther F. Bentley）とトルーマン（David B. Truman）の議論をもとに、政治と集団とのかかわりについて理論的な見方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治にかかわる集団の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	5/12	選挙過程と集団	利益団体の分類や集合行為問題をとり上げて、選挙と集団のかかわりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、投票行動にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	選挙過程と有権者	有権者の投票行動に関する議論として、社会学的アプローチ、社会心理学的アプローチ、経済学的アプローチについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙過程と集団にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	5/26	選挙過程とインターネット	マス・コミュニケーション研究の系譜をたどることによって、メディアが政治に与える効果に注目しながら、選挙過程におけるインターネット使用に関する近年の研究動向について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、選挙過程とインターネットにかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	6/2	選挙過程と政党	選挙過程において政党が中心的な役割を担うのにはどのような理由があると考えられているのかについて、政党の機能と議員の合理的選択という二つの見方説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	6/9	立法過程と政党	立法過程において政党がどのような役割を担い、実際にどのような行動をとるとされるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	6/16	立法過程と議会	立法過程における議会の位置づけについて、日本の事例に注目し、政党、議会、内閣との結びつきを踏まえながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	6/23	立法過程と利益集団	立法過程と集団のかかわりについて、ネオ・コーポラティズムをとり上げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	政策決定過程の理論的枠組み	政策過程を分析するための枠組みについて、拒否権プレイヤー論をとり上げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒否権プレイヤー論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	7/7	政策過程と官僚	政治過程における官僚の役割、官僚制の逆機能について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政策過程における官僚の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	7/14	政治過程論の課題と展望	各国の政治過程を分析するのに必要な先行研究ふまえつつ、政治過程論の体系性について総括として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治過程論の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】 政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。
--

【履修条件】 毎回、180分の事前学修ができ、授業時に、教科書と英和辞典を持参できること。120分の事後学修をすることもいうまでもない。
--

【授業方法】 実施形態は、演習形式であり、各自、事前に、指定された箇所の英文を精読してくる。また、きめられた担当箇所については、レジュメも作成し、報告をおこなう。その後、参加者全員によるディスカッションを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。			25	25								50
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	25	50	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Clash: U.S.-Japanese Relations throughout History	Walter LaFeber	Norton	1997	教科書	必携
『日米関係史』〔新版〕	細谷千博・本間長世編	有斐閣	1991	参考書	推奨
『日米関係通史』	細谷千博編	東京大学出版会	1995	参考書	推奨
『日米関係資料集－1945-97－』	細谷千博・有賀貞・石井修・佐々木卓也編	東京大学出版会	1999	その他	任意
『アメリカ VS ロシア－冷戦時代とその遺産－』	ウォルター・ラフィーバー	芦書房	2012	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 4/7	レジュメの作成方法と報告のポイント	教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などもつうじて、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。	
		事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、参考書を熟読し、日米関係史についておさえておく。	180分
		事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の各自の担当部分を精読する。さらに、参考書を熟読し、日米関係の流れをおさえる。	120分
2	第一部 火 4/14	天皇対「機械の法則」	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第二次大戦中、米国側が天皇の存在をどのように位置づけていたのかを学修する。くわえて、当時の日本の対米観についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書214-218頁のTenno versus the “Laws of the Machine”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
3	第一部 火 4/21	カリフォルニアが戦争に突入するー強制収容所、そしてハリウッドー	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、米国カリフォルニア州の日系人強制収容所の実態を詳細に学修する。くわえて、ハリウッド映画のなかで描かれた日本人像についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書218-223頁のCalifornia Goes to War: The Relocation Camps, and Hollywoodを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
4	第一部 火 4/28	日本の組織の失敗	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第二次大戦時の日本の軍部の戦い方を学修する。くわえて、日本軍の対応を米国側がどのようにとらえていたのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書223-231頁のThe Failure of the Japanese Machineを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
5	第一部 火 5/5	「われわれは、こいつらのためにもて遊ばれている」。米国の戦後計画で、敵が友人になりかわりはじめる	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第二次大戦後の日本の占領方式をめぐる登場したさまざまな議論を学修する。くわえて、日米二国間の関係だけでなく、国際関係の文脈においても、日本の占領方式について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書231-239頁の“We are Being Played for Suckers”：The Enemy Begins to Replace the Friend in U.S. Postwar Planningを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
6	第一部 火 5/12	トルーマンとヤルタ体制の崩壊	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、原子爆弾が開発され、対日戦にもちいられるまでの米国内の議論をおさえる。くわえて、米ソ間の対立の萌芽についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書239-246頁のTruman and the Destruction of the Yalta Systemを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 5/19	「二重の衝撃」、そして終わり	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、原子爆弾投下による日本側への影響を詳細に検討する。くわえて、無条件降伏にいたるまでの日本側の動向についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書246-256頁のThe “Double Shock” -and the Endを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
8	第一部 火 5/26	「パンをください、さもなければ、弾丸をください」	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、マッカーサー訪日までの経緯を学修する。くわえて、マッカーサーと天皇との顔あわせの有する意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書257-262頁の“Give Me Bread or Give Me Bullets”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
9	第一部 火 6/2	第一の占領（1945-47年）	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、占領政策において、米国側が吉田を活用するにいたった政治過程を学修する。あわせて、この当時おこなわれた民主化の具体例についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書262-270頁のThe First Occupation（1945-47）を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
10	第一部 火 6/9	第二の占領（1947-50年）－米国人－	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、ケナンの進言によって対日占領政策が転換する過程を学修する。くわえて、対日政策の転換を国際関係の視点からも考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書270-275頁のThe Second Occupation（1947-50）：The Americansを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
11	第一部 火 6/16	第二の占領（1947-50年）－日本人、米国人、中国人－	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、日本の独立にむけて、吉田がとった行動について、詳細におさえる。くわえて、吉田に対し、米国側がいだいていた認識などについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書275-283頁のThe Second Occupation（1947-50）：Japanese, Americans, and Chineseを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
12	第一部 火 6/23	朝鮮－日本のための戦争、「神の贈りもの」－	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、朝鮮戦争の勃発が、日本におよぼした影響を学修する。くわえて、吉田とダレスとの再軍備をめぐる交渉について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書283-295頁のKorea: The War for Japan-“A Gift of the Gods”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火 6/30	「日本・・・善にも悪にもなる独特の能力を有している」	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、ダレスが日本をどのようにとらえていたのかをくわしく学修する。くわえて、この当時の日米間の文化的な交流の意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書296-301頁の“Japan...Has a Unique Capacity for Good or Evil”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
14	第一部 火 7/7	デミング、ダレス、そして大きな選択ー中国かベトナムか？ー	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、日本の再建と東南アジアの問題を、米国側がどのように関連づけてとらえていたのかを学修する。くわえて、対日政策をめぐる米国内の路線対立についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書301-310頁のDeming, Dulles, and the Great Choice: China or Vietnam?を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
15	第一部 火 7/14	あたらしい冷戦	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第五福竜丸事件が日米関係にあたえたインパクトの大きさをおさえる。くわえて、日本の首相が、吉田から鳩山となったことによる影響についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書310-314頁のA New Cold Warを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書やその他の文献の輪読を行う。その際に、受講生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、リアクション・ペーパー等の方法を取り入れる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。						3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。								3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues and Methods in Comparative Politics: An Introduction	Todd Landman and Edzia Carvalho	Routledge	2017	教科書	必携
備考	1				

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	イントロダクション 導入講義	授業の内容、目的、進め方などについて説明する。	
		この回の 到達目標	授業の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスや教科書に目を通し、授業の概要について予備知識を得る。	120分
		事後学修	授業の内容、目的、進め方などについて振り返り、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	第一部 水4/15	事例比較	Ch.1 Why Compare Countries? Ch.2 How to Compare Countries?	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
3	第一部 水4/22	多事例・少数事例・単一事例の比較	Ch.3 Comparing Many Countries Ch.4 Comparing Few Countries Ch.5 Single-country Studies as Comparison	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
4	第一部 水4/29	経済と政治、政治暴力、社会運動	Ch.6 Economic Development and Democracy Ch.7 Violent Political Dissent and Social Revolution Ch.8 Non-violent Political Dissent and Social Movements	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
5	第一部 水5/6	民主化、政治制度	Ch.9 Transition to Democracy Ch.10 Institutional Design and Democratic Performance	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
6	第一部 水5/13	人権、国際関係と国内政治	Ch.11 Human Rights Ch.12 International Relations and Comparative Politics	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	比較の方法と新しい課題	Ch.13 Common Themes and Different Comparisons Ch.14 New Challenges for Comparative Politics	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
8	第一部 水5/27	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
9	第一部 水6/3	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
10	第一部 水6/10	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
11	第一部 水6/17	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
12	第一部 水6/24	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
14	第一部 水7/8	研究動向レビュー	受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
15	第一部 水7/15	研究動向レビュー	受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
予習等を行った上での出席を前提とする。詳細な履修上の注意事項等を説明するため、第1回授業に必ず出席すること。辞書を持参すること。

【授業方法】		
演習方式で行う。基本的に教科書の内容に関する報告を行う。報告では内容について翻訳および要点の説明などを行う。報告の方法等については、第1回目の授業での担当教員の指示に従うこと。受講状況によりレポートや小テスト（リアクションペーパー含む）等を課す場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告内容について理解を深めるための調査学修や報告内容等に関する討論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告、報告資料、レポート等の講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Understanding Urban Politics: Institutions, Representation, and Policies	Krebs, T.B. and A. Fleischmann	Rowman & Littlefield Publishers	2020	教科書	必携
備考	授業で扱う部分についてはコピーを配布する。また、適宜授業内容に応じて他の文献も使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00 研究室（9号館5階）（事前にメールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	アメリカの地方自治・都市政治について理解するために、アメリカの地方自治・都市政治研究の概要について学修する。また、原書研究を適切に行うために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカの地方自治・都市政治の現状について理解することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、わが国の地方自治に関する文献を読み、アメリカの地方自治と我が国の地方自治との違いを見出す。	120分
		事後学修	授業で扱った文章を読み直し、興味を持った部分について調べ、自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	4/14	アメリカの地方自治、都市政治について	アメリカの地方自治の現状について理解するために、アメリカの地方自治、都市政治の概観について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治の主要な制度や歴史について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治、都市政治について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治、都市政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	4/21	地方自治、都市政治とは何か	アメリカの地方自治・都市政治の捉え方を理解するために、アメリカの地方自治・都市政治研究等を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治・都市政治の捉え方について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治・都市政治について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの都市政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	4/28	アメリカの地方自治、都市政治の発展について	現在のアメリカの地方自治・都市政治を理解するために、アメリカの地方自治、都市政治の発展について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治、都市政治の発展について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治・都市政治の発展について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治・都市政治の発展について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	5/5	第二次世界大戦後のアメリカの地方自治、都市政治	現在のアメリカの地方自治・都市政治を理解するために、第二次世界大戦後にアメリカの地方自治・都市政治がどのように変化したかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次世界大戦後のアメリカの地方自治・都市政治の変化について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、第二次世界大戦後のアメリカの地方自治・都市政治の変化について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、第二次世界大戦後のアメリカの地方自治・都市政治の変化について自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	5/12	中央—地方関係	アメリカの地方自治について理解するために、連邦、州、カウンティ、自治体等の政府間関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治における中央・地方関係について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの中央—地方関係について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの中央—地方関係について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	地方議会	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方議会について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方議会について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方議会についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方議会について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	5/26	首長と行政	アメリカの地方自治について理解するために、行政の執行における首長の役割等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治における行政の執行における首長の役割等について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの首長や行政についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの首長や行政について自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	6/2	地方選挙	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における選挙や投票行動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治における選挙や投票行動について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方選挙や投票行動についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方選挙や投票行動について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	6/9	候補者と選挙活動	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における選挙の候補者や選挙活動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治における選挙の候補者や選挙活動について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方選挙の候補者や選挙活動についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方選挙の候補者や選挙活動について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	6/16	非公的な政治参加	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における圧力団体や住民組織など非公的な政治参加について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治における非公的な政治参加について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治における非公式な政治参加についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治における非公式な政治参加について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	6/23	公共サービスと政策	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体における公共サービスや政策について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの自治体における公共サービスや政策について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体における公共サービスや政策についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体における公共サービスや政策について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/30	財政		アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体の財政、予算等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの自治体の財政、予算等について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の財政についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の財政について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	7/7	開発政策		アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体における開発政策や土地政策等について学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの自治体における開発政策や土地政策等について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の開発政策等についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の開発政策等について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	7/14	生活の質に関わる政策		アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体における環境政策、公共安全などについて学修する。また、期末レポート等の説明及び解説を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの自治体における環境政策、公共安全などについて説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の環境政策等についてについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の環境政策等について自分の考えを述べられるようになる。	120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
第1回授業に必ず出席すること。

【授業方法】
演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当するように割り当てる。詳しい方法は第1回授業で説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。						3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。								3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評は、最後の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Thinking, Fast and Slow	Daniel Kahneman	Penguin	2012	教科書	必携
備考	必ず教科書を入手すること。5月以降は教科書を持たずに出席した場合は、（入手済みかどうかにかかわらず）その都度大幅に減点を行う。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や教科書の他、成績評価の方法について説明を行う。その後に、行動経済学について講義する。	
		この回の到達目標	セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、行動経済学を学ぶ意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	第一部 水4/15	The Characters of the Story (1)	システム1とシステム2について説明した最初の節（「The Characters of the Story」）の最初の3分の1くらいを教員が説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
3	第一部 水4/22	The Characters of the Story (2)	前回に続き「The Characters of the Story」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
4	第一部 水4/29	The Characters of the Story (3)	前回に続き「The Characters of the Story」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
5	第一部 水5/6	Attention and Effort (1)	「Attention and Effort」の前半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「Attention and Effort」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「Attention and Effort」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
6	第一部 水5/13	Attention and Effort (2)	前回に続き「Attention and Effort」の後半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「Attention and Effort」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「Attention and Effort」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	The Lazy Controller (1)	「The Lazy Controller」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
8	第一部 水5/27	The Lazy Controller (2)	前回到続き「The Lazy Controller」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
9	第一部 水6/3	The Lazy Controller (3)	前回到続き「The Lazy Controller」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
10	第一部 水6/10	The Associative Machine (1)	「The Associative Machine」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Associative Machine」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Associative Machine」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
11	第一部 水6/17	The Associative Machine (2)	前回到続き「The Associative Machine」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Associative Machine」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Associative Machine」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
12	第一部 水6/24	The Associative Machine (3)	前回到続き「The Associative Machine」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「The Associative Machine」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「The Associative Machine」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	Cognitive Ease (1)	「Cognitive Ease」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「Cognitive Ease」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「Cognitive Ease」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
14	第一部 水7/8	Cognitive Ease (2)	前回に続き「Cognitive Ease」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「Cognitive Ease」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「Cognitive Ease」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
15	第一部 水7/15	Cognitive Ease (3)	前回に続き「Cognitive Ease」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「Cognitive Ease」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「Cognitive Ease」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポート等の内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The United Nations, Second Edition	J. M. Hanhimaki	Oxford UP	2015	教科書	必携
備考	教科書を持参した者のみ授業を受けることができる。ただし教科書を事前に購入する必要はない。詳しくは初回に説明する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	授業を始めるにあたって、導入講義	授業の進め方を確認する。	
		この回の到達目標	授業の進め方を確認することができる。	
		事前学修	シラバスを確認する。	120分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	/	洋書講読の準備	教科書のChronology (pp. 149-154) とGlossary (pp. 155-156) についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChronology (pp. 149-154) とGlossary (pp. 155-156) についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChronology (pp. 149-154) とGlossary (pp. 155-156) について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
3	/	序章：国際連合の約束	教科書のIntroductionについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のIntroductionについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のIntroductionについて準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
4	/	人類の希望 (1)	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 前半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
5	/	人類の希望 (2)	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 後半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
6	/	混成であることの難しさ (1)	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 前半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	混成であることの難しさ (2)	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 後半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
8	/	戦争と脅威に向き合う (1)	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 前半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
9	/	戦争と脅威に向き合う (2)	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 後半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
10	/	平和維持から平和構築へ (1)	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 前半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
11	/	平和維持から平和構築へ (2)	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 後半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
12	/	経済開発から人間開発へ (1)	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 前半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	経済開発から人間開発へ (2)	教科書のChapter 5 "Economic development to human development" 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 5 "Economic development to human development" 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 5 "Economic development to human development" 後半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
14	/	権利と責任 (1)	教科書のChapter 6 "Rights and responsibilities" 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 6 "Rights and responsibilities" 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 6 "Rights and responsibilities" 前半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
15	/	権利と責任 (2)	教科書のChapter 6 "Rights and responsibilities" 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書のChapter 6 "Rights and responsibilities" 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書のChapter 6 "Rights and responsibilities" 後半部について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえる。これまでの授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
毎回、180分の事前学修ができ、授業時に、教科書と英和辞典を持参できること。120分の事後学修をすることもいうまでもない。

【授業方法】
実施形態は、演習形式であり、各自、事前に、指定された箇所の英文を精読してくる。また、きめられた担当箇所については、レジュメも作成し、報告をおこなう。その後、参加者全員によるディスカッションを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Clash: U.S.-Japanese Relations throughout History	Walter LaFeber	Norton	1997	教科書	必携
『日米関係史』〔新版〕	細谷千博・本間長世編	有斐閣	1991	参考書	推奨
『日米関係通史』	細谷千博編	東京大学出版会	1995	参考書	推奨
『日米関係資料集－1945-97－』	細谷千博・有賀貞・石井修・佐々木卓也編	東京大学出版会	1999	その他	任意
『アメリカ VS ロシア－冷戦時代とその遺産－』	ウォルター・ラフィーバー	芦書房	2012	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 9/15	レジュメの作成方法と報告のポイント	教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などもつうじて、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。	
		事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、参考書を熟読し、日米関係史についておさえておく。	180分
		事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の各自の担当部分を精読する。さらに、参考書を熟読し、日米関係の流れをおさえる。	120分
2	第一部 火 9/22	安全保障条約をめぐる爆発（1957-60年）	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、安保改定にいたる政治過程を学修する。くわえて、ジラード事件が当時の日米関係にあたえた影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書314-324頁のThe Explosion Over the Security Pact（1957-60）を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
3	第一部 火 9/29	池田の「奇跡」と、ほかの「トランジスタの貿易商」	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、所得倍増計画と日本の経済発展の関連を、米国側がどのようにとらえていたのかに関して、詳細に学修する。くわえて、日本政治と米中央情報局（CIA）とのかわりについても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書325-332頁のThe “Miracle” of Ikeda-and Other “Merchants of Transistors” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
4	第一部 火 10/6	ケネディ、池田、そして、「対等な協力関係」という幻想	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、池田内閣期の日米間の政治・経済関係の実情を学修する。くわえて、駐日大使をつとめたライシャワーの役割についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書332-338頁のKennedy, Ikeda, and the Illusion of “Equal Partnership” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
5	第一部 火 10/13	ジョンソン、佐藤、そして、ベトナム	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、佐藤とジョンソンとのあいだで、どのようなやりとりがくりひろげられたのかを学修する。くわえて、ベトナム戦争が日米関係にあたえた影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書338-347頁のJohnson, Sato, and Vietnamを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
6	第一部 火 10/20	ニクソンと佐藤、あるいは「敵との貿易」	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、日本を「敵」とみなしていたニクソンと、佐藤との会談の内容などを学修する。くわえて、ニクソン・ドクトリンの意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書348-352頁のNixon and Sato-or “Trading with the Enemy” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 10/27	ニクソン・ショック	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、米中接近・新経済政策といったニクソン・ショックがおこるまでの政治過程を、日米関係の視点から学修する。くわえて、佐藤・ニクソン会談の内容についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書352-358頁のThe Nixon Shocksを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
8	第一部 火 11/10	冷戦時代の転換点	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、カラーテレビや農産物をめぐる経済摩擦の実態を学修する。くわえて、石油ショックによる日米関係への影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書359-363頁のThe Watershed of the Cold War Eraを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
9	第一部 火 11/17	求むー米国人の肉体を。銀行ではない。または、ナンバーワンの日本をー	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、この当時、さかんに叫ばれた、日本株式会社やジャパン・アズ・ナンバーワンといったことばの意味を学修する。くわえて、政治・経済の両面から、この当時の日米関係の実像についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書363-370頁のNeeded: American Bodies, Not American Banks-Or, Japan as Number Oneを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
10	第一部 火 11/24	1980年代ー「ロン・ヤス」から・・・ー	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、いわゆる「ロン・ヤス関係」時の日米関係の緊密化の過程を学修する。くわえて、与野党対立という視点から、このロン・ヤス関係が、日本の国内政治におよぼした影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書370-373頁のThe 1980s: From “Ron-Yasu” ... を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
11	第一部 火 12/1	・・・競合する2つの資本主義へ・・・	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、激化する日米経済摩擦の実情を学修する。くわえて、日本異質論者（リビジョニスト）の主張をみることで、当時の米国内の空気についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書373-379頁の...to Two Competing Capitalisms.... を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
12	第一部 火 12/8	・・・「1960年以来最悪の関係」へ	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、反日感情のたかまりと経済摩擦の関連を学修する。くわえて、1988年包括通商法の成立過程や次期支援戦闘機（FSX）をめぐる問題などについても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書379-381頁の...to “Relations Have Not Been So Low Since 1960” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火 12/15	「冷戦は終わった。日本人が勝った」	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、米ソ冷戦の終結を受けた、日本異質論者（リビジョニスト）の発言内容をくわしく学修する。くわえて、ジャパン・マナーによって「買われる米国」の実態についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書381-385頁の“The Cold War Is Over, the Japanese Won”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
14	第一部 火 12/22	湾岸戦争－衝突の事例研究－	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、湾岸戦争を契機におこった日本の国際貢献をめぐる議論を学修する。くわえて、冷戦後の新世界秩序の構築に悩む米国の姿についても、日米関係の視点から考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書385-389頁のThe Gulf War: A Case Study of the Clashを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
15	第一部 火 1/12	1990年代－「米国のアジアでの政策は、日本とともに始まる」－	英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、1990年代の日米間の政治・経済関係の実像を学修する。くわえて、国際社会における米国の覇権（ヘゲモニー）の衰退のもつ意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。	
		事前学修	教科書389-395頁のThe 1990s: “American Policy in Asia Begins with Japan”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。	180分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書やその他の文献の輪読を行う。その際に、受講生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、リアクション・ペーパー等の方法を採用入れる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。					4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。							4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。										4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。							4	4	4			4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Politics: Interests, Interactions, Institutions	Jeffry Friedman, David Lake, and Kenneth Schulz	WW Norton	2018	教科書	必携
備考	1				

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	イントロダクション 導入講義	授業の内容、目的、進め方などについて説明する。	
		この回の 到達目標	授業の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスや教科書に目を通し、授業の概要について予備知識を得る。	120分
		事後学修	授業の内容、目的、進め方などについて振り返り、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	第一部 水9/23	国際関係を理解する	Ch.1 What Shaped World Politics? A Historical Introduction Ch.2 Understanding Interests, Interactions, and Institutions	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
3	第一部 水9/30	国家間戦争と国内政治	Ch.3 Why Are There Wars? Ch.4 Domestic Politics and War	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
4	第一部 水10/7	国際制度と国家間戦争、内戦	Ch.5 International Institutions and War Ch.6 Violence by Nonstate Actors: Civil War and Terrorism	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
5	第一部 水10/14	国家間貿易と財政	Ch.7 International Trade Ch.8 International Financial Relations	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
6	第一部 水10/21	国際金融と開発	Ch.9 International Monetary Relations Ch.10 Development: Causes of the Wealth and Poverty of Nations	
		この回の 到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	国境を越えた政治	Ch.11 International Law and Norms Ch.12 Human Rights Ch.13 The Global Environment	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
8	第一部 水11/11	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
9	第一部 水11/18	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
10	第一部 水11/25	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
11	第一部 水12/2	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
12	第一部 水12/9	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	文献の紹介	受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
14	第一部 水12/23	研究動向レビュー	受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
15	第一部 水1/13	研究動向レビュー	受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
		この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
予習等を行った上での出席を前提とする。第1回授業で詳細な履修上の注意事項等を説明するため、出席すること。辞書を持参すること。

【授業方法】		
演習方式で行う。基本的に教科書の内容に関する報告を行う。報告では内容について翻訳および要点の説明などを行う。報告の方法等については、第1回目の授業での担当教員の指示に従うこと。受講状況によりレポートや小テスト（リアクションペーパー含む）等を課す場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告内容について理解を深めるための調査学修や報告内容等に関する討論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告、報告資料、レポート等の講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Urban Politics in a Global Age, 8th Edition.	Kantor, Judd, et al. (eds.)	Routledge	2019	教科書	必携
備考	授業で扱う部分についてはコピーを配布する。また、適宜授業内容に応じて他の文献も使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00 研究室（9号館5階）（事前にメールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	アメリカの地方自治・都市政治について理解するために、アメリカの地方自治・都市政治研究の概要について学修する。また、原書研究を適切に行うために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、今後学ぶアメリカの地方自治・都市政治をめぐる状況について理解する。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、わが国の地方自治に関する文献を読み、アメリカの地方自治と比較ができるようになる。	120分
		事後学修	授業で扱った文章を読み直し、興味を持った部分について調べ、自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	9/22	アメリカの地方自治に関する研究動向	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治に関する研究動向について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの地方自治に関する研究動向について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治に関する研究動向について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治に関する研究動向について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	9/29	City Limits	アメリカの地方自治研究について理解するために、「都市の限界（City Limits）」について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「都市の限界（City Limits）」について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、「都市の限界（City Limits）」について理解する。	120分
		事後学修	資授業で使用した資料や関連文献を参照し、「都市の限界（City Limits）」について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	10/6	都市レジーム研究	アメリカの地方自治研究について理解するために、「都市レジーム（Urban Regime）」研究について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「都市レジーム（Urban Regime）」研究について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、「都市レジーム（Urban Regime）」研究について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、「都市レジーム（Urban Regime）」研究について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	10/13	歴史研究	アメリカの地方自治研究について理解するために、アメリカ地方自治に関する歴史研究について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治に関する歴史研究について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治に関する歴史研究について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治に関する歴史研究について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	10/20	都市政治と経済界	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの都市政治と経済界について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ都市政治と経済界について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市政治と経済界について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの都市政治と経済界について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	都市の開発	アメリカの地方自治について理解するために、都市の開発とアメリカ地方政治について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、都市の開発とアメリカ地方政治について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市の開発について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの都市の開発について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	11/10	多様性と地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における多様性について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカ地方自治における多様性について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治における多様性について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治における多様性について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	11/17	マイノリティと地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治とマイノリティについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治とマイノリティについて説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治とマイノリティについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治とマイノリティについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	11/24	都市と郊外	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における都市と郊外について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治における都市と郊外について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治における都市と郊外について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治における都市と郊外について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	12/1	移民と地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治と移民について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治と移民について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治と移民について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治と移民について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	12/8	財政危機	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における財政危機について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治における財政危機について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治における財政危機について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治における財政危機について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	開発政策	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における開発政策等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治における開発政策等について説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治における開発政策等について理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治における開発政策等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	12/22	ネイバーフッド	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカ地方自治におけるネイバーフッドについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ地方自治におけるネイバーフッドについて説明できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治におけるネイバーフッドについて理解する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治におけるネイバーフッドについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	1/12	授業の総括	アメリカの地方自治における現状やそれに対する研究などについて理解するために、これまでの授業についての総括を行う。また、期末レポート等の説明及び解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの地方自治・都市政治をめぐる制度や課題等を考慮した上で、わが国の地方自治の状況と比較し、地方自治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	初回から学習してきた資料を見直し、興味を持った内容について調べたり、日本との比較等の考察を行い、自分の意見を述べられるようになる。	120分
		事後学修	これまで配布した資料等を見直し、期末レポートの完成に向け取り組む。	180分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
第1回授業に必ず出席すること。

【授業方法】
演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当するように割り当てる。詳しい方法は第1回授業で説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評は、最後の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lectures on Public Economics	Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz	Princeton University Press	2015	教科書	任意
備考	授業に必要な箇所についてはコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や教科書の他、成績評価の方法について説明を行う。その後に、教科書を読むのに必要な基礎的な数学について講義する。	
		この回の到達目標	セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、Public Economicsを学ぶ意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を再確認し、授業で学んだ基礎的な数学について復習する。	120分
2	第一部 水9/23	Introduction (1)	「Lecture 2 (Household Decisions, Income Taxation, and Labour Supply)」の「2-1 Introduction」の前半を教員が説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-1 Introduction」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-1 Introduction」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
3	第一部 水9/30	Introduction (2)	前回に続き「Lecture 2」の「2-1 Introduction」の後半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-1 Introduction」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-1 Introduction」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
4	第一部 水10/7	Income Taxation and Labour Supply (1)	「Lecture 2」の「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
5	第一部 水10/14	Income Taxation and Labour Supply (2)	前回に続き「Lecture 2」の「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
6	第一部 水10/21	Income Taxation and Labour Supply (3)	前回に続き「Lecture 2」の「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-2 Income Taxation and Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	Broader Models of Labour Supply	「Lecture 2」の「2-3 Broader Models of Labour Supply」を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-3 Broader Models of Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-3 Broader Models of Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
8	第一部 水11/11	Empirical Evidence on Labour Supply (1)	「Lecture 2」の「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
9	第一部 水11/18	Empirical Evidence on Labour Supply (2)	前回に続き「Lecture 2」の「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
10	第一部 水11/25	Empirical Evidence on Labour Supply (3)	前回に続き「Lecture 2」の「2-2 2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「2-4 Empirical Evidence on Labour Supply」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
11	第一部 水12/2	Intertemporal Decisions and Taxation (1)	「Lecture 3 (Taxation, Savings, and Decisions over Time)」の「3-1 Intertemporal Decisions and Taxation」の前半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「3-1 Intertemporal Decisions and Taxation」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「3-1 Intertemporal Decisions and Taxation」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
12	第一部 水12/9	Intertemporal Decisions and Taxation (2)	前回に続き「Lecture 3」の「3-1 Intertemporal Decisions and Taxation」の後半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「3-1 Intertemporal Decisions and Taxation」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「3-1 Intertemporal Decisions and Taxation」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	The Basic Intertemporal Model (1)	「Lecture 3」の「3-2 The Basic Intertemporal Model」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「3-2 The Basic Intertemporal Model」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「3-2 The Basic Intertemporal Model」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
14	第一部 水12/23	The Basic Intertemporal Model (2)	前回に続き「Lecture 3」の「3-2 The Basic Intertemporal Model」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「3-2 The Basic Intertemporal Model」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「3-2 The Basic Intertemporal Model」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
15	第一部 水1/13	The Basic Intertemporal Model (3)	前回に続き「Lecture 3」の「3-2 The Basic Intertemporal Model」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	「3-2 The Basic Intertemporal Model」の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	「3-2 The Basic Intertemporal Model」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポート等の内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
International Relations: The Key Concepts, 3rd edition	Steven C.Roach	Routledge	2013	教科書	必携
備考	教科書を持参した者のみ授業を受けることができる。ただし教科書を事前に購入する必要はない。詳しくは初回に説明する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	Introduction及び導入講義	授業の進め方を確認する。	
		この回の到達目標	授業の進め方を確認することができる。	
		事前学修	シラバスを確認する。	120分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	/	"war"を学ぶ	教科書の"war"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"war"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"war"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
3	/	"power"を学ぶ	教科書の"power"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"power"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"power"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
4	/	"sovereignty"を学ぶ	教科書の"sovereignty"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"sovereignty"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"sovereignty"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
5	/	"nationalism"を学ぶ	教科書の"nationalism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"nationalism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"nationalism"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
6	/	"nation-state"を学ぶ	教科書の"nation-state"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"nation-state"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"nation-state"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	"free trade"を学ぶ	教科書の"free trade"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"free trade"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"free trade"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
8	/	"capitalism"を学ぶ	教科書の"capitalism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"capitalism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"capitalism"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
9	/	"realism"を学ぶ	教科書の"Realism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"Realism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"Realism"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
10	/	"Marxism"を学ぶ	教科書の"Marxism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"Marxism"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"Marxism"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
11	/	"human rights"を学ぶ	教科書の"human rights"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"human rights"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"human rights"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
12	/	"interdependence"を学ぶ	教科書の"interdependence"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"interdependence"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"interdependence"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	"globalisation"を学ぶ	教科書の"globalisation"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"globalisation"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"globalisation"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
14	/	"United Nations(UN)"を学ぶ	教科書の"United Nations(UN)"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"United Nations(UN)"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"United Nations(UN)"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
15	/	"European Union(EU)"を学ぶ	教科書の"European Union(EU)"についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の"European Union(EU)"についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の"European Union(EU)"について準備する。	120分
		事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえる。これまでの授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
第二次大戦後の日本政治の展開に多大な関心を有していること。

【授業方法】
授業は、講義形式だけでなく、演習形式もとり入れて、展開する。それゆえ、各自が事前に作成したレジュメの内容を報告し、それにもとづいて活発な議論をおこなう場面も多々ある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『戦後政治の争点－1945－1970－』	藤本一美	専修大学出版局	2000	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休学中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	レジュメの作成方法と報告のポイントおよび1945年から1951年までの日本政治の流れ	教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などをもとにして、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。くわえて、1945年から1951年までの日本政治の流れをおさえる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。さらに、1945年から1951年までの日本政治史をおさえておく。	
		事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、教科書の第1章から第4章までを熟読し、1945年から1948年までの日本政治の動向についておさえておく。	120分
		事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の自分の担当部分を熟読する。さらに、教科書の第5章から第7章までを熟読し、1949年から1951年までの日本政治の流れをおさえる。	120分
2	第一部 火4/14	1952年の日本政治ー日本の独立・抜き打ち解散ー	サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約をめぐる国会での議論などを学修する。くわえて、抜き打ち解散のもつ意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1952年以前の日本政治史の流れをふまえ、1952年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第8章を精読し、1952年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第8章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
3	第一部 火4/21	1953年の日本政治ーバカヤロー解散・スト規制法ー	バカヤロー解散にいたるまでの政治過程を詳細に学修する。くわえて、スト規制法成立の意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1953年以前の日本政治史の流れをふまえ、1953年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第9章を精読し、1953年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第9章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
4	第一部 火4/28	1954年の日本政治ー造船疑獄・吉田内閣の終焉ー	吉田内閣終焉と鳩山内閣発足にいたる政治過程を学修する。くわえて、造船疑獄が日本政治にあたえた影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1954年以前の日本政治史の流れをふまえ、1954年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章を精読し、1954年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第10章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
5	第一部 火5/5	1955年の日本政治ー鳩山ブーム・自民党の誕生ー	戦後日本政治を学ぶうえで、もっとも重要といえる55年体制成立にいたる政治過程について、学修する。くわえて、鳩山ブームの背景について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1955年以前の日本政治史の流れをふまえ、1955年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第11章を精読し、1955年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第11章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
6	第一部 火5/12	1956年の日本政治ー日ソ共同宣言・反米基地闘争ー	日ソ共同宣言がだされるまでの政治過程を学修する。くわえて、反米基地闘争のたかまりの意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1956年以前の日本政治史の流れをふまえ、1956年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第12章を精読し、1956年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第12章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	1957年の日本政治－岸内閣発足・ジラード事件－	岸・アイゼンハワー会談にいたる政治過程を学修する。くわえて、ジラード事件が、日米関係におよぼした影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1957年以前の日本政治史の流れをふまえ、1957年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第13章を精読し、1957年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第13章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
8	第一部 火5/26	1958年の日本政治－話し合い解散・警職法の改正－	与野党間での話し合い解散にいたる政治過程を学修する。くわえて、日本政治において、警職法改正のもつ意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1958年以前の日本政治史の流れをふまえ、1958年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第14章を精読し、1958年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第14章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
9	第一部 火6/2	1959年の日本政治－参院選挙・伊達判決の破棄－	参院選挙での自民党圧勝後の政治過程を学修する。くわえて、伊達判決破棄が、日米関係に果たした意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1959年以前の日本政治史の流れをふまえ、1959年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第15章を精読し、1959年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第15章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
10	第一部 火6/9	1960年の日本政治－安保改定・池田内閣の発足－	岸内閣退陣と池田内閣発足にいたる政治過程について、学修する。くわえて、安保改定が、日本政治におよぼした意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1960年以前の日本政治史の流れをふまえ、1960年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第16章を精読し、1960年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第16章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
11	第一部 火6/16	1961年の日本政治－ライシャワー大使の着任・日米首脳会談－	池田・ケネディ会談をめぐる政治過程を詳細に学修する。くわえて、ライシャワー大使就任のもつ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1961年以前の日本政治史の流れをふまえ、1961年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第17章を精読し、1961年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第17章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
12	第一部 火6/23	1962年の日本政治－参院選挙・社会党の混迷－	自民党が勝利した参院選挙後の政治過程を学修する。くわえて、社会党内の対立が激化していった原因についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1962年以前の日本政治史の流れをふまえ、1962年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第18章を精読し、1962年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第18章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	1963年の日本政治－衆院選挙・企業献金をめぐる裁判－	衆院選挙後の政治過程をくわしく学修する。くわえて、企業献金をめぐるはじめての民事裁判の判決がおよぼした影響についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1963年以前の日本政治史の流れをふまえ、1963年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第19章を精読し、1963年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第19章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
14	第一部 火7/7	1964年の日本政治－総裁選挙・佐藤内閣発足－	池田退陣と佐藤内閣発足にいたる政治過程について、学修する。くわえて、この年におこなわれた自民党総裁選挙のもつ意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1964年以前の日本政治史の流れをふまえ、1964年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第20章を精読し、1964年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第20章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
15	第一部 火7/14	1965年の日本政治－日韓基本条約・佐藤の沖縄訪問－	日韓基本条約の調印にいたる政治過程を学修する。くわえて、現職首相の沖縄訪問のもつ意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1965年以前の日本政治史の流れをふまえ、1965年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第21章を精読し、1965年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第21章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
政治的・社会的課題について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
各テーマについて講義形式とグループワーク形式を組み合わせる。グループワークでは、グループ内で意見を出し合い、その話し合った内容について発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の政策課題』	岩崎正洋（編）	八千代出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/17	「少子化（1）：講義」	日本の少子化の現状、少子化の原因となっている要因、および少子化に対する政府の対策がどのようなものであるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本における少子化の原因および少子化に対する政府の対策について説明できる。	
		事前学修	教科書の第1章を読み、日本の少子化の現状とその原因について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の少子化の現状と政府による対策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	4/24	「少子化（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、少子化の現状とそれに対する政府の対策を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第1章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の少子化の現状と政府による対策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	5/1	「生殖医療（1）：講義」	日本の生殖医療の現状、優生思想の系譜、および今後の生殖医療の政治的課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の生殖医療の現状、優生思想の系譜、今後の生殖医療の政治的課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の第2章を読み、日本の生殖医療の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の生殖医療の現状および政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	5/8	「生殖医療（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の生殖医療の現状、および今後の生殖医療の政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第2章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の生殖医療の現状および政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	5/15	「医師不足（1）：講義」	日本の医師不足をめぐる歴史的経緯と現状、医師政策に関係するステークホルダーの主張、および今後の医師政策をめぐる政治的課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の医師不足の経緯と現状、各ステークホルダーの主張、および今後の医師政策をめぐる政治的課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の第3章を読み、日本の医師不足の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の医師不足の歴史的経緯と現状、医師政策をめぐる利害関係の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	「医師不足（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の医師不足の現状、および今後の医師政策をめぐる政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第3章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の医師不足の歴史的経緯と現状、医師政策をめぐる利害関係の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	5/29	「公務員（1）：講義」	日本の公務員制度の構造、公務員を取り巻く現状、および公務員制度をめぐる政治的課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の公務員制度の構造と現状、および公務員制度をめぐる政治的課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の第4章を読み、日本の公務員の現状や天下りの問題点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の公務員制度の現状と政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	6/5	「公務員（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の医師不足の現状、および今後の医師政策をめぐる政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第4章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の公務員制度の現状と政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	6/12	「地方創生（1）：講義」	日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章を読み、日本の地方創生に関する歴史的経緯と現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の地方創生に関する歴史的経緯と現状について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	6/19	「地方創生（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第5章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、および今後の地方創生に関する政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	6/26	「格差社会（1）：講義」	日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景について説明できる。	
		事前学修	教科書の第6章を読み、日本社会における格差の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本社会の格差の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	「格差社会（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第6章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本社会の格差の現状とその背景の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	7/10	「貧困（1）：講義」	貧困とはどのような状況を意味し、世界および日本社会において貧困の現状がどのようなものであるのか、貧困がうまれる背景にはどのような要因が存在しているのかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本と世界における貧困の現状とその背景要因について説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章を読み、貧困とはどのような状態を意味するのか、そして世界および日本社会における貧困の現状がどのようなものであるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本社会における貧困の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
15	7/17	「貧困（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本と世界における貧困の現状とその背景要因を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第7章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本社会における貧困の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
経済学（ミクロⅠ、マクロⅠ）および財政学を履修していること。

【授業方法】
受講生各人による研究発表、ディスカッションによって授業を進める。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						3						
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						3	3					
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。						3	3	3				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。						3	3	3	3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対する解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の特定、参考書の選定については、受講生状況に応じて決定する。				

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	【ガイダンス、導入授業】	授業のテーマや内容、授業方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本及び世界の法、政治、行政、経済、等の仕組みについての理解を基に、日本の公共政策に関する問題を学修し説明することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。参考書を手に入れ財政に関する様々な問題意識を構築する。	150分
		事後学修	授業で予定された研究テーマに関する情報を、書籍・新聞・政府発表資料（各省庁のHPなど）等から収集する。 次の発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	120分
2	4月17日	【日本の財政状況と特徴】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の財政状況と特徴について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
3	4月24日	【財政の資源配分機能—公共財供給の意義】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に財政の資源配分機能—公共財供給の意義について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
4	5月1日	【財政の所得再分配機能】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に財政による財政の所得再分配機能の意義と方法を理解し、また、ジニ係数値の推移から現状を理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
5	5月8日	【財政の経済安定化機能】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に財政による経済安定化機能の意義と方法について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。（2時間）	120分
6	5月15日	【国家予算制度】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に国家予算制度の意義と特徴について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	【日本財政の一般会計歳出歳入の現状と問題点】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本財政の一般会計歳出歳入の現状と問題点について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
8	5月29日	【租税原則論】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に租税原則論意義について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
9	6月5日	【日本の租税体系と問題点―所得税のメリット、デメリット】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の所得税のメリット、デメリットについて理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
10	6月12日	【日本の租税体系と問題点―消費税のメリット、デメリット】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に消費税のメリット、デメリットについて理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
11	6月19日	【社会保障財政―日本の社会保障制度】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の社会保障制度について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
12	6月26日	【社会保障制度―日本の公的年金制度】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の公的年金制度の現状と問題点について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	【日本の公的年金制度改革】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の公的年金制度改革の意義について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
14	7月10日	【所得再分配におけるベンサム基準とロールズ基準】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に所得再分配におけるベンサム基準とロールズ基準の意義について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。	120分
15	7月17日	【生活保護とフリードマンの「負の所得税」】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてディスカッション。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の生活保護制度の問題点とその改善策としてのフリードマンの「負の所得税」の意義について理解し、意見表明できる。	
		事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。	150分
		事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
必要な予備知識は、特になし。積極的に参加しうる履修者を希望する。。履修者は、新聞やインターネットを利用し、日頃からニュースをチェックしておくこと。

【授業方法】
講義を中心にして、演習、集団討議、小テスト、レポート提出等も適宜実施する。人数・習熟度により弾力的な授業運営を行う。フィードバックは、課題やテスト等の形態毎に、授業内もしくはポータルサイトで適時実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者の希望・人数・習熟度により、ディベートやディスカッションを実施する可能性あり。事前に履修者の意向を確認する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート等は、後日講義内で講評を行う。授業内試験を実施する場合は、試験後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考文献は適宜紹介予定。				

【オフィスアワー】
講義前後の当該講堂。火曜日17：50～18：20（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス アダム・スミスと共感	到達目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明する。また、参考文献案内をする予定。加えて、「共感（同感）」という観点から、私たちの眼前にある紛争や貧困そして難民といったグローバルな問題にどう向き合うべきかを考える。特にアダム・スミスの議論を中心的に取り上げ、そこから、グローバリゼーションや労働の価値、政府の役割などの喫緊の課題と解決策とを考えていく。	
		この回の到達目標	スミスの「共感」の概念について、その基本的内容を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読しておくこと。また、既修科目のテキストやノートを手掛かりに、それらとシラバスとの関連性を検討しておくこと。「共感」という言葉の意味内容を、哲学事典などで調べておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	アダム・スミスの『道徳感情論』と『国富論』には、現在入手可能なものでは、どのような翻訳があるのか、調べること。また日本におけるスミスの受容史を調べておくこと（2時間）。	120分
2	第一部 火4/14	アダム・スミスの生涯と著作	スミスの主要著作と、各著作間の関係を比較検討する。それを通じて、スミスの方法論的枠組みを明らかにする。	
		この回の到達目標	スミスの著作を通じて、彼の思想構造を理解するとともに、法律・政治・経済といった社会科学における隣接分野がいかに結びつきうるかを理解することができる。	
		事前学修	アダム・スミスの主要著作にはどのようなものがあるのか、またそれらの版について刊行年も含め調べておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	スミスの主張で、現代に適用可能な部分を検討し整理しておくこと（2時間）。	120分
3	第一部 火4/21	スミスの思想の時代的背景とスコットランド	当時のスコットランド課題をとり上げることで、スミスの思想背景を理解する。そうした背景から生成された構想から、スミスを「純粋な資本主義」の擁護者として評価しうるか検討する。	
		この回の到達目標	「資本主義」の概略を理解するとともに、そのプラス面・マイナス面を、スミスの思想を手掛かりに説明することができる。	
		事前学修	「資本主義」とは、そもそも何を意味するのか、複数の文献にあたり、調べておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	スミスの主張で、賛成できる箇所・できない箇所を自分なりに検討し、整理しておくこと（2時間）。	120分
4	第一部 火4/28	スミスと「中立な観察者」	グローバル時代に有効な視点として、スミスの「中立な観察者」の概念を説明をする。特にアマルティア・センのスミス理解を手掛かりに、スミスの思想の現代的意義を考える。	
		この回の到達目標	現代における「対立」や「分断」の状況を理解し、それらを解決する手がかりとして、スミスの思想を利用して分析し、解決策を提示することができる。	
		事前学修	「グローバリゼーション」の概念について、どのような人が、どのような定義づけをしているか調べておくこと。複数の定義をおさえておくことが望ましい（2時間）。	120分
		事後学修	スミスはどのようなプロセスで「中立」を担保しようとしているのか、整理しておくこと（2時間）。	120分
5	第一部 火5/5	『国富論』における「富」とは何か？	スミスの「富」の定義を確認するとともに、現代の「富」の認識との共通点・相違点を考察する。加えて、国際体系と「富」がどのように関連するのかを考察し、「富」の外的環境を考える。	
		この回の到達目標	スミスの思想を手掛かりに、現代における自国第一主義の是非を、自分なりに説明することができる。	
		事前学修	「富」（豊かさ）とは何か、自分なりに定義を考えてくること。また、古今の思想家は「富」をどのように定義しているか、調べてくること（2時間）。	120分
		事後学修	スミスの議論のどの部分が現代に応用しうるのかを検討すること（2時間）。	120分
6	第一部 火5/12	分業とその起源	分業論の思想史的系譜を辿り、「分業」の考え方が歴史的にどのように形成され、またどのように変化してきたのかを説明する。その上で、スミスの分業論の特異性を検討する。	
		この回の到達目標	古来より分業論が展開されていることを踏まえた上で、現代で「分業」を論じることの意義や可能性を説明することができる。	
		事前学修	分業のメリットとデメリットを自分なりに考えてくること。具体的事例を用いて説明できるようにしておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	事前学習で調べた事例に、授業内容で扱ったスミスの議論はどのように関連付けることができるのか検討すること（2時間）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	スミスの価格論	スミスにおいて、実質価格、名目価格、労働価格、貨幣価格が、それぞれどのように説明されているかを概観する。その上で、スミスがどのようなものに「商品の価格を構成するもの」を見出しているのかを検討する。	
		この回の到達目標	実質価格、名目価格、労働価格、貨幣価格のそれぞれを類別し、説明することができる。	
		事前学修	スミスは商品の「実質価格」と「名目価格」についてどのように説明しているのか、概要を調べてくること（2時間）。	120分
		事後学修	前半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（2時間）。	120分
8	第一部 火5/26	資本の性格、蓄積、利用（小括：中間試験の可能性あり）	スミスの資財の分類を概観した上で、それと彼の通貨観とを関連付けて検討する。またスミスは生産的労働と非生産的労働とをどのように区別しているのか考察し、この分類が現代ではどのような意義をもちうるか考える（小括：中間試験の可能性あり）。	
		この回の到達目標	スミスの労働観を手掛かりに、現代の労働の在り方を多様な角度から説明・論述することができる。	
		事前学修	現代の日本における「労働」をめぐる問題にどのようなものがあるのか調べておくこと。前半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	スミスは生産的労働と非生産的労働の事例としてどのようなものを挙げていたか確認するとともに、現代特有の労働の在り方を例示し、上記分類のいずれに該当するかけ検討すること（2時間）。	120分
9	第一部 火6/2	資本の性格、蓄積、利用（2）	スミスにおける資本と利子の説明、および資本のさまざまな用途についての説明を概観した上で、トマ・ピケティ『21世紀の資本』や水野和夫『資本主義の終焉と歴史の危機』を手掛かりに、現代資本主義の問題を考える。	
		この回の到達目標	現代の議論において、資本主義の問題のどのようなところに焦点が当たっているのかを理解し、事例を踏まえて論述することができる。	
		事前学修	スミスとマルクスの「資本」の考え方を調べてくること（2時間）。	120分
		事後学修	スミスの資本観は、現代に適用できるか否か、具体例とともに検討すること（2時間）。	120分
10	第一部 火6/9	国による豊かさへの道筋の違い	スミスが歴史の発展・展開をどのように認識していたのかを概観した上で、特にローマ帝国の崩壊後に生まれたヨーロッパの旧秩序と農業への障害をどのように理解していたのかを説明する。	
		この回の到達目標	スミスの歴史観を通して、ヨーロッパの法律・政治・経済の史的展開を理解するとともに、それを手掛かりに、現代のさまざまな問題を分析することができる。	
		事前学修	英国のEU離脱の背景と現状を調べてくること（2時間）。	120分
		事後学修	現代の「グローバリゼーション（もしくはグローバリズム）」や、「リージョナリズム」は、スミスの観点からはどのように分析可能か、自分なりに検討しておくこと（2時間）。	120分
11	第一部 火6/16	国による豊かさへの道筋の違い（2）	スミスがローマ帝国崩壊後の都市の発生と発展についてどう認識していたのかを説明し、彼が農村の発展に対する都市の商業の寄与に着目した理由を検討する。	
		この回の到達目標	スミスの歴史観を通して、ヨーロッパの法律・政治・経済の史的展開を理解するとともに、それを手掛かりに、現代のさまざまな問題を分析し、解決策を提示できる。	
		事前学修	G7を中心とする先進国の経済状況の概要を把握するとともに、それらの相違の原因を政治との関連で説明できるように調べておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	スミスの都市と農村をめぐる議論の現代的意義と限界はどこに見出せるのか、自分なりにまとめておくこと（2時間）。	120分
12	第一部 火6/23	政治経済学の諸体系	スミスの貿易論と、アメリカやインドなどの植民地観を説明し、グローバルな課題への向き合い方を考える。	
		この回の到達目標	帝国時代の英国と、現代のグローバリゼーションとの共通点と相違点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	経済的グローバリズムの問題点を調べておくこと。また「重商主義」という語の意味を確認するとともに、スミスの時代において何が問題とされていたのかを確認しておくこと（2時間）。	120分
		事後学修	「ポスト・コロニアリズム」という語の意味を確認するとともに、その観点からスミスはどう評価するのか検討すること（2時間）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	ディベート（１）	現代世界と「共感」―紛争と平和：スミスの「共感」をキーワードにして、現代の紛争や平和の問題をさまざまな角度から検討する。 *履修者の要望によっては、映像資料の利用によるディスカッションやリアクション・ペーパー提出による講義形式の可能性あり。	
		この回の到達目標	これまでの講義内容を、到達目標①②③④にかかわる形で、現実の問題分析に応用することができる。	
		事前学修	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（２時間）。	120分
		事後学修	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること（２時間）。	120分
14	第一部 火7/7	ディベート（２）	3.11後の日本と「共感」：スミスの「共感」をキーワードにして、3.11後の日本が抱える問題をさまざまな角度から検討し、解決策を検討する。 *履修者の要望によっては、映像資料の利用によるディスカッションやリアクション・ペーパー提出による講義形式の可能性あり。	
		この回の到達目標	これまでの講義内容を、到達目標①②③④にかかわる形で、現実の問題分析・解決策の提示に応用することができる。	
		事前学修	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（２時間）。	120分
		事後学修	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること。 後半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（２時間）。	120分
15	第一部 火7/14	試験および解説授業	試験を実施し、その後に試験についての解説を行う。	
		この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で論述できる。	
		事前学修	後半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（２時間）。	120分
		事後学修	授業全体のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理すること（２時間）。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポートの内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『欧州統合史 二つの世界大戦からブレグジットまで』	益田実・山本健編著	ミネルヴァ書房	2019年	教科書	必携
備考	なるべく早く購入し、初回に持参すること。教科書を持参した履修生のみが受講できる。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	授業を始めるに当たって、導入講義	授業の進め方と学び方を確認する。	
		この回の到達目標	授業の進め方と学び方を確認することができる。	
		事前学修	教科書を購入し持参する。シラバスを確認する。	120分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	/	プレゼンテーションとディスカッションの準備	プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。	
		この回の到達目標	プレゼンテーションとディスカッションの準備を行うことができる。	
		事前学修	教科書を大まかに読み終える。授業の進め方についてあらためて確認する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (1)	教科書の序章「世界史の中の欧州統合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の序章「世界史の中の欧州統合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の序章「世界史の中の欧州統合」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (2)	教科書の第1章「超国家的統合の始動と欧州石炭鉄鋼共同体の形成」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第1章「超国家的統合の始動と欧州石炭鉄鋼共同体の形成」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第1章「超国家的統合の始動と欧州石炭鉄鋼共同体の形成」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (3)	教科書の第2章「欧州防衛共同体の挫折と欧州経済共同体の形成」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第2章「欧州防衛共同体の挫折と欧州経済共同体の形成」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第2章「欧州防衛共同体の挫折と欧州経済共同体の形成」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (4)	教科書の第3章「加盟国拡大と政治協力の起点」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第3章「加盟国拡大と政治協力の起点」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第3章「加盟国拡大と政治協力の起点」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ドキュメンタリー鑑賞 (1)	1940年代から1980年代の欧州統合を題材とするドキュメンタリーを鑑賞し、授業の理解を深める。	
		この回の到達目標	1940年代から1980年代の欧州統合を題材とするドキュメンタリーを鑑賞し、授業の理解を深めることができる。	
		事前学修	放映するドキュメンタリーについて準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (5)	教科書の第4章「草創期の欧州経済共同体」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第4章「草創期の欧州経済共同体」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第4章「草創期の欧州経済共同体」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (6)	教科書の第5章「欧州統合の新段階」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第5章「欧州統合の新段階」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第5章「欧州統合の新段階」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (7)	教科書の第6章「欧州統合の再出発」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第6章「欧州統合の再出発」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第6章「欧州統合の再出発」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (8)	教科書の第7章「冷戦後世界へのダイビング」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第7章「冷戦後世界へのダイビング」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第7章「冷戦後世界へのダイビング」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	/	ドキュメンタリー鑑賞 (2)	1990年代から2010年代の欧州統合を題材とするドキュメンタリーを鑑賞し、授業の理解を深める。	
		この回の到達目標	1990年代から2010年代の欧州統合を題材とするドキュメンタリーを鑑賞し、授業の理解を深めることができる。	
		事前学修	鑑賞するドキュメンタリーについて準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (9)	教科書の第8章「ビッグ・バン拡大からリスボン条約へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第8章「ビッグ・バン拡大からリスボン条約へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第8章「ビッグ・バン拡大からリスボン条約へ」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (10)	教科書の第9章「試練の中の欧州連合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第9章「試練の中の欧州連合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第9章「試練の中の欧州連合」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	/	授業のふりかえり	これまでの授業の内容をふりかえる。欧州統合の全体像を理解し、グローバルな政治経済情勢を展望する。	
		この回の到達目標	これまでの授業の内容をふりかえることができる。欧州統合の全体像を理解し、グローバルな政治経済情勢を展望することができる。	
		事前学修	これまでの授業の内容をふりかえる。	120分
		事後学修	授業をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
第二次大戦後の日本政治の展開に多大な関心を有していること。

【授業方法】
授業は、講義形式だけでなく、演習形式もとり入れて、展開する。それゆえ、各自が事前に作成したレジュメの内容を報告し、それにもとづいて活発な議論をおこなう場面も多々ある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。					4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。					4	4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『戦後政治の決算－1971－1996－』	藤本一美	専修大学出版局	2003	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	レジュメの作成方法と報告のポイントおよび1971年から1979年までの日本政治の流れ	教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などをもとにして、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。くわえて、1971年から1979年までの日本政治の流れをおさえる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。さらに、1971年から1979年までの日本政治史をおさえておく。	
		事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、教科書の第1章から第5章までを熟読し、1971年から1975年までの日本政治の動向についておさえておく。	120分
		事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の自分の担当部分を熟読する。さらに、教科書の第6章から第9章までを熟読し、1976年から1979年までの日本政治の流れをおさえる。	120分
2	第一部 火9/22	1980年の日本政治－ハプニング解散・衆参ダブル選挙－	自民党内における40日抗争をふまえたうえで、史上はじめての衆参ダブル選挙にいたる政治過程を学修する。くわえて、鈴木政権誕生の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1980年以前の日本政治史の流れをふまえ、1980年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章を精読し、1980年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第10章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
3	第一部 火9/29	1981年の日本政治－「日米同盟関係」をめぐる政治的混乱－	鈴木・レーガン会談での共同声明をめぐる生じた混乱の政治過程を学修する。くわえて、国際情勢との関連についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1981年以前の日本政治史の流れをふまえ、1981年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第11章を精読し、1981年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第11章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
4	第一部 火10/6	1982年の日本政治－参院選挙制度改革・鈴木退陣－	与野党間の対立という視点をふまえ、参院選挙制度改革にいたる政治過程を学修する。くわえて、鈴木退陣の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1982年以前の日本政治史の流れをふまえ、1982年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第12章を精読し、1982年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第12章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
5	第一部 火10/13	1983年の日本政治－「運命共同体」の衝撃・衆院選挙－	中曽根・レーガン会談でされた共同声明をめぐる混乱の政治過程を学修する。くわえて、衆院選挙での自民党の惨敗と連立政権誕生の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1983年以前の日本政治史の流れをふまえ、1983年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第13章を精読し、1983年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第13章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
6	第一部 火10/20	1984年の日本政治－自衛隊違憲合法論・二階堂擁立劇－	野党もまきこんだ二階堂政権構想をめぐる政治過程を学修する。くわえて、この当時注目をあつめた自衛隊違憲合法論の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1984年以前の日本政治史の流れをふまえ、1984年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第14章を精読し、1984年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第14章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	1985年の日本政治－「創政会」の結成・衆院定数は正－	創政会の設立＝田中派の分裂にいたる政治過程を学修する。くわえて、衆院定数は正の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1985年以前の日本政治史の流れをふまえ、1985年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第15章を精読し、1985年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第15章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
8	第一部 火11/10	1986年の日本政治－燃糸工連事件・衆参ダブル選挙－	史上2度目の衆参ダブル選挙にいたる政治過程を学修する。くわえて、燃糸工連事件というスキャンダルの意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1986年以前の日本政治史の流れをふまえ、1986年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第16章を精読し、1986年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第16章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
9	第一部 火11/17	1987年の日本政治－東芝機械コム違反事件・中曽根退陣－	中曽根退陣と竹下政権誕生をめぐる政治過程を学修する。くわえて、東芝機械によるコム違反事件が日米関係に与えた影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1987年以前の日本政治史の流れをふまえ、1987年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第17章を精読し、1987年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第17章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
10	第一部 火11/24	1988年の日本政治－リクルート事件・消費税導入－	リクルート事件をめぐる混乱の政治過程を学修する。くわえて、消費税導入が、日本政治にどのような意味をもったのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1988年以前の日本政治史の流れをふまえ、1988年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第18章を精読し、1988年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第18章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
11	第一部 火12/1	1989年の日本政治－竹下内閣退陣・参院選挙－	竹下内閣退陣と宇野政権・海部政権誕生をめぐる政治過程を学修する。くわえて、与野党逆転現象の生じた参院選挙の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1989年以前の日本政治史の流れをふまえ、1989年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第19章を精読し、1989年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第19章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
12	第一部 火12/8	1990年の日本政治－衆院選挙・日米構造協議－	「外圧」をキーワードにして、日米構造協議をめぐる政治過程を学修する。くわえて、衆院選挙の結果をどのようにみるかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1990年以前の日本政治史の流れをふまえ、1990年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第20章を精読し、1990年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第20章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	1991年の日本政治－日ソ首脳会談・海部内閣退陣－	海部内閣退陣と宮沢内閣誕生をめぐる政治過程を学修する。くわえて、海部・ゴルバチョフ会談における北方領土問題について、詳細に考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1991年以前の日本政治史の流れをふまえ、1991年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第21章を精読し、1991年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第21章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
14	第一部 火12/22	1992年の日本政治－参院選挙・竹下派分裂－	竹下派の分裂にいたる政治過程を学修する。くわえて、この年におこなわれた参院選の投票率のひくさの意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1992年以前の日本政治史の流れをふまえ、1992年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第22章を精読し、1992年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第22章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
15	第一部 火1/12	1993年の日本政治－55年体制の終焉・細川連立政権の誕生－	55年体制の崩壊と細川連立政権誕生にいたる政治過程を学修する。くわえて、日本政治史上における55年体制の意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1993年以前の日本政治史の流れをふまえ、1993年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
		事前学修	教科書の第23章を精読し、1993年の日本政治のトピックをおさえておく。	120分
		事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所（第23章）を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
政治的・社会的課題について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
各テーマについて講義形式とグループワーク形式を組み合わせる。グループワークでは、グループ内で意見を出し合い、その話し合った内容について発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。					4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。					4	4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の政策課題』	岩崎正洋（編）	八千代出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/25	「外国人労働者（1）：講義」	日本の外国人労働者をめぐる問題状況、および日本の外国人労働者政策の特徴がどのようなものであるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の外国人労働者をめぐる問題状況、および日本の外国人労働者政策の特徴について説明できる。	
		事前学修	教科書の第8章を読み、日本における外国人労働者の現状、および日本の外国人労働者政策の特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の外国人労働者をめぐる問題状況と政策的対応の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	10/2	「外国人労働者（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、少子化の現状とそれに対する政府の対策を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第8章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の外国人労働者をめぐる問題状況と政府による外国人労働者政策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	10/9	「観光立国（1）：講義」	世界および日本における観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の観光政策の特徴、およびグローバル時代の観光をめぐる功罪について説明できる。	
		事前学修	教科書の第9章を読み、世界および日本における観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本の観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	10/16	「観光立国（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の観光政策の特徴、およびグローバル時代の観光をめぐる功罪を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第9章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本の観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	10/23	「エネルギー問題（1）：講義」	世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の第10章を読み、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	「エネルギー問題（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第10章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	11/6	「防災（1）：講義」	日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について説明できる。	
		事前学修	教科書の第11章を読み、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	11/13	「防災（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第11章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	11/20	「ソーシャルメディアと政治（1）：講義」	「アラブの春」などソーシャルメディアが影響力を發揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ソーシャルメディアが影響力を發揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について説明できる。	
		事前学修	教科書の第13章を読み、ソーシャルメディアが影響力を發揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ソーシャルメディアが影響力を發揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	11/27	「ソーシャルメディアと政治（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソーシャルメディアをめぐる政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第13章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、ソーシャルメディアが影響力を發揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/4	「グローバル化が当たり前なのか？（1）：講義	グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて説明できる。	
		事前学修	事前に配布する「グローバル化が当たり前なのか？」という論考を読み、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
13	12/11	「グローバル化が当たり前なのか？（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル化した時代における国家の役割を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて「グローバル化が当たり前なのか？」を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	12/18	「国会をいかに活性化するか？（1）：講義」	日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、および国会における審議の形骸化をもたらした要因について説明できる。	
		事前学修	事前に配布する「国会をいかに活性化するか？」という論考を読み、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
15	12/25	「国会をいかに活性化するか？（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、および国会における審議の形骸化をもたらした要因を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
		事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて「国会をいかに活性化するか？」を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
積極的に参加しうる履修者を希望する。政治学（原論）、政治思想史、平和学の既修、もしくは本講義と並行して履修者を前提とする。履修者は、新聞やインターネットを利用し、日頃からニュースをチェックしておくこと。

【授業方法】
講義形式を中心に行う。また授業中に意見・感想を求める場合がある。履修者の理解度や習熟度により、弾力的に授業を運営していく予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。				4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。				4	4	4	4				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート等は、後日講義内で講評を行う。授業内試験を実施する場合は、試験後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
内戦の地に生きる：フォトグラファーが見た「いのち」	橋本 昇	岩波ジュニア新書	2019	その他	任意
カラー版 アフガニスタンで考える	中村 哲	岩波ブックレット	2006	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義前後の当該教室。火曜日17：50～18：20（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	ガイダンス 紛争とはなにか 平和とはなにか	到達目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明する。また、参考文献案内をする予定。 加えて、「紛争」および「平和」の概念について基本的内容を確認する。	
		この回の 到達目標	「紛争」および「平和」の概念について、その基本的内容を説明することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを熟読しておくこと。履修上確認しておきたい点をチェックしておくこと。 社会科学系の事典で、「紛争」・「平和」の項目を調べておくこと。	120分
		事後学修	講義後にシラバスを熟読し、履修上必要な事項を確認しておくこと。	120分
2	第一部 火9/22	国際紛争はどうか どうとらえられてきたのか	伝統的紛争観および冷戦後の紛争の異同を確認した上で、民主的平和論の功罪を検討し、現代の紛争の向き合い方を明らかにする。	
		この回の 到達目標	従来の伝統的紛争観の特徴を理解し、説明できるようになる。 現代の紛争の特徴を理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	WWI、WWII、冷戦、イラク戦争の概要を調べておくこと。	120分
		事後学修	シリア内戦と講義内容をどのように関連づけられるか検討する。	120分
3	第一部 火9/29	現代紛争の構造とグローバリゼーション	紛争の現状と形態の変化を説明し、グローバリゼーションと紛争とがいかに結びついているのかを明らかにし、「私たち」との関係性を検討する。	
		この回の 到達目標	グローバリゼーションが何かを理解した上で、その正負両面を理解し、それを紛争と関連づけて説明することができる。	
		事前学修	ユーゴ紛争、ルワンダ紛争の概要を調べておくこと。	120分
		事後学修	中満泉『危機の現場に立つ』（講談社、2017年）を読み、紛争の現場ではどのようなことが起こりうるのかを、講義と関連付けて検討すること。	120分
4	第一部 火10/6	地域機構	冷戦終結と地域機構の再登場という事態を、国際紛争における地域機構の役割および政策としての地域的アプローチという観点から説明する。	
		この回の 到達目標	冷戦前、冷戦後の地域機構の役割の違いを認識し、類別することができる。	
		事前学修	EU、AUが紛争に関係した事例を調べておくこと。	120分
		事後学修	地域機構による紛争への関与の成功例・失敗例を調べ、その原因を検討すること。	120分
5	第一部 火10/13	核軍拡と核軍縮	世界の核兵器の現状を抑えるとともに、核軍拡と核戦略の変遷を辿ることで、戦後の核軍縮の歩みとその現代的課題を検討する。	
		この回の 到達目標	核問題の現状と課題を理解した上で、日本の役割を提示しうる。	
		事前学修	イラン、北朝鮮の核問題の論点を確認しておくこと。	120分
		事後学修	森中三十二、佐藤優『核と戦争のリスク 北朝鮮・アメリカ・日本・中国 動乱の世界情勢を読む』（朝日新書、2017年）を読み、講義との関連性を検討すること。	120分
6	第一部 火10/20	人の移動と難民保護（1）	「移動する人々」の実態を踏まえた上で、人の移動はなぜ起きるのか、その原因を探るとともに、更に長期難民状況の実態を明らかにする。	
		この回の 到達目標	移民・難民の移動原因を、「プッシュ要因」「プル要因」という用語を用いて整理し、論述することができる。	
		事前学修	ミュリエル・ジョリヴェ『移民と現代フランス：フランスは「住めば都」か』（集英社新書、2003年）を読むこと。	120分
		事後学修	日本の移民・難民受け入れ状況とその問題点を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 火10/27	人の移動と難民保護（2）	移動する人々の脆弱性や受入国の受容の在り方の問題等を考察する。その上で、移動する人々の問題にどう向き合うべきなのかを考える。
		この回の到達目標	移動する人々の受け入れ状況と、各国の対応の違いを区別できる。
		事前学修	内藤正典『ヨーロッパとイスラーム：共生は可能か』（岩波新書、2004年）を読んでくること。120分
		事後学修	米川正子『あやつられる難民：政府、国連、NGOのはざまで』（ちくま新書、2017年）と講義内容との関連を確認しておくこと。120分
8	第一部 火11/10	テロリズムとテロ対策（前半のまとめを行う可能性あり）	国際テロリズムの動向を抑えたうえで、テロリズムの原因およびテロ対策を説明する。 *前半のまとめを行う可能性あり。
		この回の到達目標	9.11前後のテロ認識、世界認識の変容を説明することができる。
		事前学修	9.11テロの概要を調べてくること。120分
		事後学修	「テロ」というレッテルを張られる側の論理を考えること。120分
9	第一部 火11/17	紛争後選挙と選挙支援	紛争後選挙の意義と課題を考察し、それを支援するための取り組みを説明する。その上で、移行支援としての選挙支援のあり方を明らかにする。
		この回の到達目標	紛争後選挙の意義を理解し、紛争とデモクラシーとを関連付けて考察することができる。
		事前学修	東ティモールとカンボジアで行われた日本の選挙支援の内容を調べておくこと。120分
		事後学修	選挙監視団が選挙の不正・不公平を報告した事例を調べ、その後の状況を確認しておくこと。120分
10	第一部 火11/24	開発協力（1）	「開発」の意味内容を明らかにした上で、開発の阻害要因としての紛争の影響を説明する。さらに、貧困と紛争とがいかなる関係性を有するのかを検討する。
		この回の到達目標	「開発」と「紛争」との関係性を理解し、記述形式で詳説することができる。
		事前学修	「貧困の罨」「FFW」の意味を調べておくこと。120分
		事後学修	アマルティア・セン『貧困の克服』（集英社新書、2002年）を読み、講義内容をフォローしておくこと。120分
11	第一部 火12/1	開発協力（2）	人道支援から開発協力への流れを考察する。人道支援の内容を押さえた上で、自立に向けて取り組まれる諸施策を説明する。それらを踏まえ、平和構築のための開発の位置づけを考察する。
		この回の到達目標	人道支援と開発協力を対比し、違いを明確に述べることができる。
		事前学修	「ODA」の意味を調べておくこと。120分
		事後学修	アマルティア・セン『人間の安全保障』（集英社新書、2005年）を読み、講義内容との関連を検討すること。120分
12	第一部 火12/8	平和構築とジェンダー	平和とジェンダーとの関係を、種々の社会との関連の中で検討する。その上で、ジェンダー的な暴力の連鎖の実態を説明し、それを回避するため諸施策を考察する。
		この回の到達目標	ジェンダーを紛争および「構造的暴力」というキーワードと関連づけて説明することができる。
		事前学修	マララさんのノーベル平和賞受賞演説を読んでくること。120分
		事後学修	国連・国際NGOのジェンダー的暴力の具体的事例を調べておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	NGOと市民社会	NGOとはなにかをまずは押さえた上で、地域紛争においてNGOがいかなる役割を果たしているのかを説明する。さらに日本のNGOの現状と課題を明らかにする。	
		この回の到達目標	平和のアクターとしてNGOを把握するとともに、「私たち」の観点から平和にどう関わることができるかを示すことができる。	
		事前学修	岸谷美穂『イラクの戦場で学んだこと』（岩波ジュニア新書、2005年）を読んでくること。	120分
		事後学修	鬼丸昌也『平和をつくるを仕事にする』（ちくまプリマー新書、2018）を読み、「私たち」と「紛争」との関わり方を検討すること。任意のNGO団体のHPを調べ、活動内容と財政状況を調べること。	120分
14	第一部 火12/22	理解度の確認：要点のまとめ	重要ポイント振り返るとともに、質疑の時間を設け、個別の論点について解説する。	
		この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で説明ができる。	
		事前学修	ノートなどを見直し、理解が不十分な点を確認しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえ、再度ノートを整理しておくこと。	120分
15	第一部 火1/12	試験及び解説授業	試験を実施し、その後に試験についての解説を行う。	
		この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で論述できる。	
		事前学修	各論点を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	120分
		事後学修	解説を踏まえた上で、自分なりに試験の解答を再度作成しておくこと。	120分

科目名	政治経済専門研究B(選挙制度論)	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レジュメ等の関連資料の配布は、共有フォルダ等の手段を用いて行う。また授業内あるいはポータルシステムを介し、定期的にレポートの提出を求め、授業者の理解度を確認する。定期試験の解説は後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。												
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。						4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。						4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評、報告に対するコメント。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	履修者と相談の上決定する。				

【オフィスアワー】
火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は必要。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。	60分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/22	授業計画の策定	講義の内容や進め方に関して、具体的な担当者の割り振りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の運営について意思決定を行うことで、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。	120分
		事後学修	選定された教科書の目次・内容を確認し、次週の報告内容について自分なりに整理する。	120分
3	9/29	報告（教員）	選定された教科書の概要について、講座担当者がレジュメなどを用い講義を行う。その後、講義の内容・意見・感想について講義担当者及び受講生間でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講座担当者の報告内容を参考にしつつ今後の報告に向けて準備を行うことで、政治的市民として社会的課題について取り組む知識を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び講義内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
4	10/6	報告①（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
5	10/13	報告②（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
6	10/20	報告③（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	報告④（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
8	11/10	報告⑤（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
9	11/17	報告⑥（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
10	10/24	報告⑦（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
11	12/1	報告①（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
12	12/8	報告⑧（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	報告⑨（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
14	12/22	報告⑩（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
15	1/12	報告⑪（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
		事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
		事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	60分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。					4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。					4	4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポートの内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』上巻	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	2016年		
『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』下巻	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	2016年		
備考	上下巻ともになるべく早く購入し、いずれも初回に持参すること。教科書を持参した履修生のみが受講できる。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	授業を始めるに当たって、導入講義	授業の進め方と学び方を確認する。	
		この回の到達目標	授業の進め方と学び方を確認することができる。	
		事前学修	教科書を上下巻ともに購入し、いずれも初回に持参する。	120分
		事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (1)	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (2)	第2章「虚構が協力を可能にした」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	第2章「虚構が協力を可能にした」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第2章「虚構が協力を可能にした」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (3)	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (4)	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (5)	教科書の第7章「書記体系の発明」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第7章「書記体系の発明」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第7章「書記体系の発明」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (6)	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (7)	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (8)	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (9)	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (10)	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (11)	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (12)	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (13)	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	/	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (14)	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
		事前学修	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」について準備する。	120分
		事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治コミュニケーション	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアが政治に関して報道することはいかなる意味があるのか。この講義では、戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を学んだ上で、メディアが様々な政治的・社会的な問題を報道することが、民主主義社会においていかなる意味を有するのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を養成することを目的とする。政治とメディアに関する様々な議論を学ぶことを通じて、政治的・社会的問題の展開にメディアやコミュニケーションが重要な役割を果たしていることを理解できるようになることを目標とする。

【履修条件】
メディア・コミュニケーションの科学Aの履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治とメディアの関係について、理解できるようになる。					3	3	3	3				
②	ニュース生産の背景を、自身の関心に基づいて考察できるようになる。					3	3	3	3				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②と関連して、授業内試験を行う。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、メール等で受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	シラバスやスケジュール、授業の進め方の確認を行う。	
		この回の到達目標	授業の評価方法や、今後の進め方、政治コミュニケーションの授業で扱う内容などを全体的に理解する。	
		事前学修	シラバスを確認すること	120分
		事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	9/23	政治コミュニケーション論の展開（1）	政治コミュニケーションの基本的な考え方について	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーションの基本的な考え方について理解できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	9/30	政治コミュニケーション論の展開（2）	政治コミュニケーション論の展開を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション論の展開を理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	10/7	政治コミュニケーション論の展開（3）	権力論の観点から、政治コミュニケーションを学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、権力論の観点からとらえた政治コミュニケーションを理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	10/14	ニュースとは何か	政治コミュニケーション研究の観点から、ニュース生産について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション研究の観点から、ニュース生産について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	10/21	世論とは何か	世論とメディア、政治との関係について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、世論とメディア、政治との関係について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	政治制度とメディア	政治制度としてのメディアの議論を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政治制度としてのメディアの議論を理解できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	11/11	政治シンボルと儀礼	政治におけるシンボルと儀礼について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政治におけるシンボルと儀礼について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
9	11/18	メディア・イベント	メディア・イベント論について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、メディア・イベント論について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	11/25	映像資料（1）	政治コミュニケーションに関する映像資料	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、映像資料を通じて日常的に接している報道の背景について考察できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	12/2	映像資料（2）	政治コミュニケーションに関する映像資料	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、映像資料を通じて日常的に接している報道の背景について考察できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	12/9	批判的コミュニケーション（1）	言説や物語の有する権力性を具体例を用いて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言説物語の有する権力性について理解できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	批判的コミュニケーション (2)	メディア・フレームの有する権力性について具体例を用いて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メディア・フレームの有する権力性について理解できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	12/23	政治とメディアの今日的課題	政治とメディアの今日的課題	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とメディアの今日的課題について学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	1/13	これまでのまとめ・授業内試験	これまでの授業の振り返りをしつつ、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②が達成できているのかを再確認する。	
		事前学修	これまでの復習。	120分
		事後学修	授業内試験で分からなかったところを復習する。	120分

科目名	政治制度論	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新制度論と呼ばれる一連の理論・分析枠組みについて、伝統的な制度論との対比を明確にしながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治制度をめぐる諸問題について客観的・批判的に観察し、その本質を理解し説明することができるようになるために、「新制度論」と呼ばれる理論的潮流に含まれる一連の理論や分析枠組みを修得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				2							
②	新制度論の分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				2	2						
③	新制度論の基礎的な知識をもとに、現実の政治制度をめぐる問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				2	2	2					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐってどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新制度論』	B・ガイ・ピーター ス／土屋光芳（訳）	芦書房	2007	参考書	任意
『比較政治制度論 』	建林正彦・曾我謙 悟・待鳥聡史	有斐閣	2008	参考書	任意
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/15	「旧制度論と新制度論（1）」	伝統的な政治制度論（旧制度論）として位置づけられる研究として、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューの議論がどのような特徴をもつものであったのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューによる政治制度論の特徴を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューがどのような議論を展開していたのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、旧制度論として位置づけられる理論や分析枠組みの特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	4/22	「旧制度論と新制度論（2）」	政治学における理論的潮流の変化として、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への移り変わりがどのようにして起きたのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への理論的潮流の移り変わりを説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、政治学における旧制度論から行動論・合理的選択論への移り変わりについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治学における旧制度論から現代政治学への変動の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	4/29	「旧制度論と新制度論（3）」	マーチ&オルセンが指摘した現代政治学の特徴および欠点がどのようなものであるのか、新たに登場した新制度論にはどのような理論的特徴があり、またどのような学派が存在しているのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新制度論の理論的特徴を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、現代政治学にはどのような特徴が見られるのか、新制度論と呼ばれる理論的潮流にはどのような特徴が見られるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、現代政治学の特徴と欠点、新制度論の理論的特徴と学派について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	5/6	「新制度論のルーツ（1）」	マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）は、制度をどのように捉えているのか、そして政治的事象をどのような枠組みで理解しようとするのか、という点を履修者が説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マーチ&オルセンの提唱する規範的制度論の特徴および現実的妥当性を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）が、制度をどのように捉え、どのような立場から政治的事象の分析を行うのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	5/13	「新制度論のルーツ（2）」	マーチ&オルセンの規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応をすると理解しているのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応をすると理解しているのかを説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）には、制度の変化をどのような視座から分析するのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	「合理的選択論と制度論 (1)」	合理的選択制度論が、どのような考え方に立脚し、どのようにして制度が形成されると理解しているのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、合理的選択制度論の基礎的認識について説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、合理的選択制度論がどのような考え方に立脚しているのか、制度をどのように捉えているのかという点を自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択制度論の基本的な考え方や制度の形成に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	5/27	「合理的選択論と制度論 (2)」	本人-代理人モデルの基本的な考え方がどのようなものであり、本人-代理人モデルの視座からは民主主義はどのようなシステムと理解できるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本人-代理人モデルの基本的特徴を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、本人-代理人モデル（プリンシパル・エージェント・モデル）とはどのようなモデルであるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、本人-代理人モデルに関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	6/3	「歴史的制度論 (1)」	国家論とはどのような特徴をもち、なぜ登場してきたのか、そしてアクター中心のアプローチにはどのような特徴があるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国家論の登場の背景、およびアクター中心アプローチの特徴を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、国家論アプローチの特徴およびアクター中心のアプローチの特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国家論およびアクター中心のアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	6/10	「歴史的制度論 (2)」	歴史的制度論の基本的なアプローチの特徴がどのようなものであるか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、歴史的制度論のアプローチの基本的特徴について説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、歴史的制度論がどのようなスタンスに立ち、どのようなアプローチをとるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、歴史的制度論の基本的なアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	6/17	「歴史的制度論 (3)」	歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、歴史的制度論は制度の変化をどのように捉えるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「経路依存性」の特徴、および歴史的制度論における制度変化の理解について説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、また歴史的制度論では制度の変化をどのように捉えるのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、経路依存性に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
12	6/24	「社会学的制度論 (1)」	社会学的制度論では、制度概念をどのようなもの捉えているのか、そして個人の行動に対して制度はどのような影響を及ぼすと捉えているのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、社会学的制度論における制度概念、および個人の行動に対する制度の影響の捉え方について説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、社会学的制度論が制度をどのように捉えているのか、またどのような枠組みに基づいて政治的事象を分析するのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論の制度概念および行動に及ぼす制度の影響に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	「社会学的制度論（2）」	社会学的制度論が提起する「制度の同型化」とはどのようなロジックであるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」のロジック、および現実的妥当性を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論で提起される「制度の同型化」に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	7/8	「講義のまとめ」	第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各回で提示された理論やモデルについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各回で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
		事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各回で提示された理論やモデルがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	180分
15	7/15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
		事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	120分
		事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	120分

科目名	政治哲学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは自ずから異なる。本講義では、どのような政治目的を追求すべきかという観点から、幸福、自由といった政治哲学の規範的概念について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治哲学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパー、グループ討議・発表を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。				3	3						
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。						3					3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	イントロダクション及び導入講義	政治目的の規範的分析という観点から政治哲学の諸問題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	120分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	第一部水 4/15	政治の倫理：政治目的	政治目的としての公共の利益概念をアリストテレス等を参照しながら論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	政治倫理綱領について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部水 4/22	公共の利益Ⅰ：共和主義	キケロに始まる共和主義的伝統において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	古典古代の政治について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部水 4/29	公共の利益Ⅱ：契約論	近代の社会契約説とその批判者において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	市民革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部水 5/6	公共の利益Ⅲ：合意論	社会契約説以後の政治思想および経済思想において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	産業革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部水 5/13	公共の利益Ⅳ：功利主義	功利主義の創始者ベンサムを手がかりに公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ベンサムについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	個人と社会Ⅰ：権利論	フランス革命に始まる権利論において個人の権利がどのように論じられてきたかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス人権宣言について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部水 5/27	個人と社会Ⅱ：自由主義	産業革命以後の自由主義社会において個人の自由がどのように論じられてきたかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ビクトリア時代について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部水 6/3	グループ討議／教材上映	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返る。	180分
		事後学修	討議内容を振り返る。	60分
10	第一部水 6/10	目的の調整Ⅰ：保守主義	過去の政策との連続性の観点から、政治目的をどのように設定するかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス革命以後のヨーロッパについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部水 6/17	目的の調整Ⅱ：妥協	利害や価値観の多元性という観点から、政治目的をどのように設定するかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	南北戦争について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部水 6/24	政治の境界Ⅰ：代表	代表する者とされる者の同一性・非同一性から政治的決定の範囲について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	フランス二月革命について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	政治の境界Ⅱ：国際関係	国際関係における国家の倫理的立場から政治的決定の範囲について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	国連憲章について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部水 7/8	政治の境界Ⅲ：世代関係	現在世代と将来世代の関係の観点から政治的決定の範囲について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	地球環境問題について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部水 7/15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治経済理論特殊講義A	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代政治学および比較政治学の中心的なテーマの一つである「政党と政党システム」に関する基本的な知識を幅広く、体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政党と政党システムに関する基本的な理論の検討を通して、政党政治の理論と現実の両方の側面を把握できるような能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政党政治に関する基礎的な知識について説明することができる。						2	2	2				
②	政党政治に関する基本的な理論や概念を識別することができる。						2	2	2				
③	世界各国の政党政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。						2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	必携
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	参考書	推奨
『政党システムの理論と実際』	岩崎正洋編	おうふう	2011	参考書	推奨
『政党システムの理論』	岩崎正洋	東海大学出版会	1999	参考書	任意
『議会制民主主義の行方』	岩崎正洋	一藝社	2002	参考書	任意
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	イントロダクション：政党政治をどのように比較するか	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、この授業が扱う範囲を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政党政治について学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考文献を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	4/13	政党と政党システム	現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党および政党システム、現代民主主義とのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	4/20	政党とは何か、政党システムとは何か	政党とは何か、政党システムとは何か、政党政治とは何かについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党政治について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	4/27	政党システムの三類型	デュベルジェ（Maurice Duverger）に代表される政党システムの三類型（一党制、二党制、多党制）について、さまざまなバリエーションも挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの三類型について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	5/4	政党システムのタイポロジー	サルトリー（Giovanni Sartori）に代表される政党システムのタイポロジー（七類型）について、具体的な事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの七類型について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	5/11	選挙制度と政党システム	デュベルジェ（Maurice Duverger）による選挙制度と政党システムとのかかわりを論じた「デュベルジェの法則」について、具体的な事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、デュベルジェの法則について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	凍結仮説と政党システムの形成	リップセット（Seymour M. Lipset）とロッキン（Stein Rokkan）による政党システムの「凍結仮説」について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「凍結仮説」について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	5/25	凍結仮説の有効性	「凍結仮説」の有効性をめぐる多様な議論に注目することにより、今日における「凍結仮説」の有効性について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「凍結仮説」の今日的な意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	6/1	政党システムの変容	政党システムの変容とは何か、具体的にどのような現象を意味し、どのような基準で捉えることができるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの変容とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	6/8	政党システム変化の指標	先進工業民主主義諸国における政党システム変化の具体的な事例を挙げながら、政党システムの変容の最近の状況について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システム変化の具体的な姿について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	6/15	政党システムの競合構造	政党システムの競合構造について具体的な事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの競合構造について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	6/22	一党優位政党制の条件	日本の政党システムを考えるために一党優位政党制に注目し、一党優位政党制が形成される条件について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一党優位政党制として日本の政党システムの具体的な姿について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	連立政権と政党システム	ヨーロッパと日本の具体的な事例を挙げながら、連立政権と政党システムとのかかわりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連立政権と政党システムとのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	7/6	政党衰退論とポスト政党衰退論	1970年代以降の政党衰退論と、現在の政党政治の状況を説明する議論との両者を対比し、政党政治の現在について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政党政治の現在について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	7/13	比較政党論の課題と展望	各国の政党政治を分析するのに必要な先行研究ふまえつつ、比較政党論の体系性について総括として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較政党論に関する主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治経済理論特殊講義B	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
政治制度/政治機構の基底にある政治的原理、およびそれらが政治制度/政治機構にどのように具現化されているのかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代国家の政治制度/政治機構が、どのような政治的原理に基づくものであるのかを理解し、各国で異なる作動様式を示すことについて論理的に考える能力を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				3							
②	政治制度/政治機構の基底にある政治的原理を理解し説明することができる。				3	3						
③	政治的原理に関する基礎的な知識をもとに、現実の政治制度/政治機構をめぐる問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、政治制度/政治機構をめぐるどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				3	3	3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治制度論〔第3版〕』	田口富久治・中谷義和編	法律文化社	2006	参考書	任意
『主要国政治システム概論〔改訂版〕』	中村勝範編	慶應義塾大学出版会	2005	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/23	「統治機構の基本原則(1)」	政治制度/政治機構とは何を意味する概念であるのか、また政治制度/政治機構の基本原則のひとつである「主権」概念とはどのようなものであるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政治制度/政治機構の概念、および政治制度/政治機構の基本原則のひとつである「主権」概念について、その歴史的背景も含めて説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構とはどのようなものであるのか、および政治制度/政治機構の基本原則のひとつである「主権」概念とはどのようなものか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治制度/政治機構および「主権」概念の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	9/30	「統治機構の基本原則(2)」	政治制度/政治機構の基本原則である「自由主義」概念に関するロックとトクヴィルの議論、「三権分立」概念に関するロックとモンテスキューの議論はどのようなものであるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「自由主義」概念に関するロックとトクヴィルの議論、「三権分立」概念に関するロックとモンテスキューの議論を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構の基本原則である「自由主義」と「三権分立」とはどのような概念であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自由主義」および「三権分立」の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	10/7	「統治機構の基本原則(3)」	政治制度/政治機構の基本原則である「立憲主義」概念に関する成立の歴史的経緯と要件、「議会主義」概念に関する成立の歴史的経緯と民主主義概念との関係性がどのようなものであるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「立憲主義」概念に関する成立の歴史的経緯と要件、「議会主義」概念に関する成立の歴史的経緯と民主主義概念との関係性を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構の基本原則である「立憲主義」と「議会主義」とはどのような概念であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「立憲主義」および「議会主義」の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	10/14	「統治機構の基本原則(4)」	政治制度/政治機構の基本原則のひとつである「社会的公正」概念に関するロールズの「正義論」がどのようなものであるのか検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ロールズの「正義論」の特徴および現実的妥当性を説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構の基本原則のひとつである「社会的公正」とはどのような概念であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「社会的公正」に関するロールズの「正義論」の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	10/21	「執政制度」	民主主義国家の執政制度である大統領制、議院内閣制、半大統領制の制度的特徴がどのようなものであり、その制度的帰結としてどのような相違がもたらされているのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大統領制、議院内閣制、半大統領制の制度的特徴がどのようなものであり、その制度的帰結としてどのような相違がもたらされているのかを批判的な観点から説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、大統領制、議院内閣制、半大統領制がどのような特徴をもつ執政制度であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、大統領制、議院内閣制、半大統領制それぞれの制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	「日本の統治機構（1）」	日本の統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、現実の状況を踏まえながら説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、日本の統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の統治機構の基本構造の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	11/11	「日本の統治機構（2）」	日本の国会および内閣が憲法がどのように規定され運用されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国会および内閣が憲法がどのように規定され運用されているのかについて批判的観点から説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、国会および内閣が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会および内閣の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	11/18	「イギリスの統治機構（1）」	イギリスの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、イギリスの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのかを説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、イギリスの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、イギリスの統治機構の基本構造の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	11/25	「イギリスの統治機構（2）」	イギリスの議会在憲法や法律、慣習によってどのように規定され運用されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、イギリスの議会在憲法や法律、慣習によってどのように規定され運用されているのかを説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、イギリスの議会在憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、イギリスの議会の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	12/2	「アメリカの統治機構（1）」	アメリカの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、行政部が憲法や法律でどのように規定され運用されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、行政部が憲法や法律でどのように規定され運用されているのか説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、アメリカの統治機構の基本構造、および行政部が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、アメリカの統治機構の基本構造および行政部の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
12	12/9	「アメリカの統治機構（2）」	アメリカの議会在憲法や法律によってどのように規定され運用されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカの議会在憲法や法律によってどのように規定され運用されているのか説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、アメリカの議会在憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、アメリカの議会の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	「ドイツの統治機構」	ドイツの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、および行政部と立法部が憲法や法律でどのように規定され運用されているのか、という点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ドイツの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、および行政部と立法部が憲法や法律でどのように規定され運用されているのかを説明できる。	
		事前学修	参考文献などにあたり、ドイツの統治機構の基本構造、および行政部と立法部が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ドイツの統治機構の基本構造および行政部・立法部の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
14	12/23	「講義のまとめ」	第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、政治制度/政治機構の基本原理の要点、および日本、イギリス、アメリカ、ドイツの統治機構の制度的要点について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各回で提示された基本的原理の要点および現実的妥当性、日本、イギリス、アメリカ、ドイツの統治機構の制度的要点について批判的観点から説明できる。	
		事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	120分
		事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治制度/政治機構の基本原理の要点、および日本、イギリス、アメリカ、ドイツの統治機構の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	180分
15	1/13	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた政治制度/政治機構の基本原理の要点、および各国の統治機構の制度的要点について正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治制度/政治機構の基本原理の要点、および各国の統治機構の制度的要点についての試験問題に的確に解答することができる。	
		事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
		事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	120分

科目名	政治経済理論特殊講義C	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは自ずから異なる。本講義では、どのような政治手段に訴えるべきかという観点から、権力、暴力、操作といった政治哲学の規範的概念について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治哲学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
前期に開講する「政治哲学」を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。				3							
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。						3					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	イントロダクション及び導入講義	政治手段の規範的分析という観点から政治哲学の諸問題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	120分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	第一部水 9/23	政治の倫理：政治手段	ウェーバーの政治倫理の分析を手がかりに、政治手段に注目することの意義を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ロッキード事件について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部水 9/30	目的と手段Ⅰ：権力	権力論の系譜を読み解きながら、政治手段としての権力を規範的に分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	権力政治について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部水 10/7	目的と手段Ⅱ：暴力	正統な暴力の独占という国家の定義に注目しながら、政治手段としての暴力を規範的に分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	ナチス・ドイツについて調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部水 10/14	目的と手段Ⅲ：操作	ナッジ等の行動経済学の知見も参考にしつつ、政治手段としての操作を規範的に分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	「四つの自由」演説について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部水 10/21	目的と手段Ⅳ：嘘	全体主義体制におけるプロパガンダ政策など、政治手段としての嘘を規範的に分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	ポスト真実について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	目的と手段Ⅴ：秘密	議会の公開性原則の是非などを手がかりに、政治手段としての秘密を規範的に分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	キューバ危機について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	第一部水 11/11	目的と手段Ⅵ：戦争	正戦論の伝統を考察しながら、政治手段としての戦争を規範的に分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	正戦論について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部水 11/18	グループ討議／教材上映	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返る。	180分
		事後学修	討議内容を振り返る。	60分
10	第一部水 11/25	善悪の此岸Ⅰ：偽善	政治における善悪の結節点として、悪を善と偽ることの規範的是非について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	政治家の公約違反について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部水 12/2	善悪の此岸Ⅱ：腐敗	政治における善悪の結節点として、政治権力を私益のために用いることの規範的是非について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	政治改革関連四法について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部水 12/9	責任の問題Ⅰ：政治家と官僚	責任倫理が政治家と官僚のあいだでどのように分配されるかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	フリードリヒ＝ファイナー論争について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	責任の問題Ⅱ：政治責任	政治責任と刑事責任の区別を援用しながら、政治家における結果責任の位相について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	マキアヴェリの政治思想について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部水 12/23	責任の問題Ⅲ：政治と市民	責任倫理が政策担当者と一般市民のあいだでどのように分配されるかを考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
		事前学修	政治的無関心について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	第一部水 1/13	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、具体的な税金問題を検討しながら、税法学の基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法であり、これを理解することは今という時代を読み解き、生き抜いていく国民として不可欠である。学生諸君は、自力で租税現象・租税問題を的確に理解するとともに、法的にも判断を下せるようになるための基本的な素養を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。						2		2					
②	学修者は、税法の解釈適用における問題を、①の憲法原理との関係でその本質を説明できる。						2		2					
③	学修者は、税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。						2		2					
④	学修者は、税法における納税者の権利の内容を説明できる。						2		2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第10版)』	石村耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実 他	有斐閣	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	税法の学び方	この授業で何を学ぶのか、ここでは税法のうち、基礎理論・総論を扱う。授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書全体を概観し、講義全体を確認する。	120分
		事後学修	配布レジュメと講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書全体を概観し講義全体を確認する。	120分
2	4/13	租税とは何か	そもそも租税とはいったい何なのか、なぜわれわれは税を納付しなければならないのか、また税にはどのような種類のものがあるのかといった内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税の意義、納税の根拠及び税の種類を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税とは何か」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	4/20	租税法律主義	国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法律主義」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	4/27	租税条例主義	地方税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税条例主義」・「地方税制」該当箇所を熟読し、それぞれの内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	5/4	税法の解釈適用と実質課税の原則（1）	税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」について、その内容、意義とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「税法の解釈適用と実質課税の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	5/11	税法の解釈適用と実質課税の原則（2）	税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「借用概念と固有概念」、「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「借用概念と固有概念」、「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「税法の解釈適用と実質課税の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	租税負担公平原則	「租税負担公平原則」とはいったいどういうことなのか、憲法 1 4 条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「租税負担公平原則」とはいったいどういうことなのか、憲法 1 4 条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税負担公平原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	5/25	応能負担原則	租税立法原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法 1 4 条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税立法原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法 1 4 条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「応能負担原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	6/1	課税最低限	わが国所得税法における「課税最低限」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国所得税法における「課税最低限」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「課税最低限」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	6/8	課税の限界	わが国における「課税の限界」とは、どの位なのだろうか。そしてこの限界はどのように導かれてくるのであろうか。この課税の限界について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国における「課税の限界」の具体的内容とその根拠について理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「課税の限界」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	6/15	租税法律関係	納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。これにはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法律関係」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	6/22	租税法と信義誠実の原則	私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法と信義誠実の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	源泉徴収と年末調整（1）	わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の仕組みを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、給与所得者における課税関係の原則である源泉徴収と年末調整の仕組みを理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	7/6	源泉徴収と年末調整（2）	わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の問題点と給与所得者における確定申告権を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、給与所得者における課税関係の原則である源泉徴収と年末調整の問題点と給与所得者における確定申告権を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	7/13	税の使途	税の問題は一般的に納税者からすれば納付に関する内容ばかりが問題とされる。しかし、納付の場面で民主的な制度が構築されていても、その使途が非民主的では意味がない。ここでは税の使途に関する法制度とその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の使途に関する法制度とその問題点を理解し、その説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「税の使途」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
具体的な税金問題を交えながら，税法学の最も大切な基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法で，これを理解することは今の時代を読み解き，生き抜いてい国民として不可欠である。各人が自力で租税現象，租税問題を的確に理解し，法的にも判断を下せるようになるための基本的な視座を獲得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。この税法を，民主主義法学の立場から体系的，具体的に理解し，現代を生きていく者としての基礎的知識を修得するために，ここではことさら総論としての基礎理論の概要，関連する制度の概要，判例，主要な学説を理解する。

【履修条件】
民・商法、憲法等、法律学の基礎科目の基礎知識があるか少なくともこれらとの平行学習が望ましい。簿記会計の素養は理解の助けとなります。

【授業方法】
毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるよう、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日定期試験の解説をポータルサイトにて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	普通の講義型の授業ですが、その場で税法の基本的考え方を習得するのが目標ですから、あえて言うなら、頭の回路は常にアクティブにしておいて下さい。疑問点は放置せずに、その場で質問して理解するように心がけてください。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。					2		2					
②	税法解釈を含めた税法現象と税法との関係を理解しその本質を説明できる。					2		2					
③	近代税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。					2		2					
④	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。					2		2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の評価に加点要素が加味される。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論（第8版）	北野弘久著黒川功監修	勁草書房	2020年	教科書	必携
納税者の権利	北野弘久	岩波新書	1981年1月	参考書	推奨
備考	授業はほぼ税法学原論の内容に従って行われる。				

【オフィスアワー】	
金曜14時40分～16時10分。事前にアポイントメントを取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。研究室	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	導入～税法基礎理論	オリエンテーション、年間講義計画など 租税制度と国民生活・権利	
		この回の到達目標	なぜ「税法のない法学部は未完成である」とわれるのか。現代税法の中心領域といわれる税法の位置と意義を知りましょう。また、この講座での勉強方法も理解しましょう。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
2	/	租税法律関係と税法の本質	現代の暮らしと税金問題～国民生活と税	
		この回の到達目標	現代社会では人々の生活も人権も物質的（経済的）基盤の上にもみ成り立っています。近代国家を成立させるのに不可欠である税は同時に人々の生活の基盤を切り崩してしまいかねないものでもあります。税って何？税法って何？まずは基本的視覚から得ていきましょう。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
3	/	税法学の特質（１）～財政学との関係	財政学と税法の関係、財政学の問題と限界	
		この回の到達目標	税に関する議論は、あらゆる隣接諸科学の視覚から行われます。税法のそれとの違いと問題点を理解して、まずは交通整理から始めましょう。手始めは財政学です。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
4	/	税法学の特質（２-1）～会計学との関係（１）	会計学との関係、税務会計学	
		この回の到達目標	会計学も税法問題に億発言のある分野ですが、その関与には限界と制約があります。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
5	/	税法学の特質（２-2）～会計学との関係（２）	貸借一致の原則、一般会計学の概要と可能性	
		この回の到達目標	会計学の「貸借一致の原則」は、数学の公理を除いては、人類が絶対に正しいと前提できる唯一の原則なのに、税法学において会計学は必ずしも望ましい影響を与えられていません。その問題点と可能性を理解しましょう。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
6	/	税法学の特質（３-1）～行政法学との関係（１）	行政法学との関係（１）旧公法学理論とその問題点	
		この回の到達目標	かつては税の法的研究は行政法各論の問題と位置付けられてきたが、特殊公法性の理論を軸とする行政法一般理論の応用という視点から現代法の中心領域である税法の研究が果たして可能なのか否か理解しましょう。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	税法学の特質（3-2）～行政法学との関係（2）	行政法学との関係（2）、独立税法学の特質と意義	
		この回の到達目標	行政法一般理論の応用による税法研究が不可能であるならば、独立税法学は、どのような性格、特徴を持つのでしょうか。またその機能と使命とは何でしょうか。これを理解します。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
8	/	租税の法的概念（1）	近代税法における租税概念	
		この回の到達目標	日常的に「租税」が徴収されているにも拘わらず、我が国の税法においては租税の定義規定がありません。ほんの20年前までは封建時代の「年貢」と大差のないドグマがこれに代わっていたのですが、その問題点を知り、近代国家における「租税」の備えているべき属性を探ります。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
9	/	租税の法的概念（2）	現行日本法体系下における租税概念	
		この回の到達目標	近代民主主義国家における租税の正当要件を解明して、今日の租税の問題点を理解します。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
10	/	租税の法的分類（1）	国税・地方税、所得・資産・消費税	
		この回の到達目標	租税に関する議論で用いられる租税の種類疑念とそこに含まれる法的問題を正しく知って、これら議論を出しく理解できるようにします。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
11	/	租税の法的分類（2）	人税・物税、直接税・間接税、普通税・目的税、他	
		この回の到達目標	租税に関する議論で用いられる租税の種類疑念とそこに含まれる法的問題を正しく知って、これら議論を出しく理解できるようにします（後半）。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
12	/	租税法律主義の原則（1）	税法の根本原理とその意義、憲法原則	
		この回の到達目標	税法の立法から解釈適用の全てに通ずる基本原則の意義、内容、憲法との関係等を理解します。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	租税法律主義の原則（2）	7つの具体的法理とその内容	
		この回の到達目標	租税法律主義の7つの具体的法理の内容と理論を理解します。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）	15分
14	/	租税法律主義の原則（3）	現代における機能と意義	
		この回の到達目標	租税法律主義の機能と現代性を理解します。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
15	/	総括・試験説明	学習した重要項目についての総括と理解を図ります。	
		この回の到達目標	テキストの持ち込みを認めていますので、暗記は不要です。近代税法の思考方法が身についていることを示すことが肝要です。	
		事前学修	テキスト・ノートに目を通し、考えをまとめておくことが大切です。	30分
		事後学修	うんくかけなかった場合、どこかの理解が不足していたのか自己分析しておきましょう。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、具体的な税金問題を検討しながら、税法学の基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法であり、これを理解することは今という時代を読み解き、生き抜いていく国民として不可欠である。学生諸君は、自力で租税現象・租税問題を的確に理解するとともに、法的にも判断を下せるようになるための基本的な素養を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、国際税法の概要とその問題点について説明ができる。					2		2					
②	学修者は、税務調査手続・滞納処分といった租税手続の概要とその問題点について説明ができる。					2		2					
③	学修者は、租税救済制度についてその概要と問題点について説明ができる。					2		2					
④	学修者は、租税制裁制度についてその概要と問題点について説明ができる。					2		2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論 が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第10版)』	石村耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実 他	有斐閣	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降　9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	税法の学び方	この授業で何を学ぶのか、ここでは税法のうち、租税手続法・租税救済法・租税制裁法・地方財政権そして国際課税を扱う。授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にこなせるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書全体を概観し、講義全体を確認する。	120分
		事後学修	配布レジュメと講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書全体を概観し講義全体を確認する。	120分
2	9/21	租税手続法（１）納税義務の成立と確定	納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税義務の成立と確定、ことさらに納税者からの確定手続きについてを理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「納税義務の成立と確定」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	9/28	租税手続法（２）納税義務成立と確定	納税義務の確定方法、ことさらに課税庁による確定方法とその問題点を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税義務の確定方法、ことさらに課税庁による確定方法とその問題点、修正申告の勧奨を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「納税義務の成立と確定」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	10/5	租税手続法（３）源泉徴収と年末調整	わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の仕組みと問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、源泉徴収と年末調整の仕組みと問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	10/12	租税手続法（４）税務調査（１）	税務調査の種類とその内容、各国が競い合うように制定する「納税者権利憲章」とわが国における現状を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税務調査の種類とその内容、各国の納税者権利憲章制定の背景とわが国の現状を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「税務調査」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	10/19	租税手続法（５）税務調査（２）	税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を習得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「税務調査」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26	租税手続法（５）滞納処分	近年増加傾向にある税金等の滞納処分、この滞納処分の仕組みとその制度的問題点を習得する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、滞納処分の仕組みとその制度的問題点を理解し、これらの内容が説明できる。
		事前学修	配布レジュメと教科書の「滞納処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。120分
8	11/9	租税手続法（６）滞納処分の緩和	滞納処分を規定する国税徴収法は滞納者にとってことさら厳しい内容となっている。その一方で、いくつもの緩和のための措置もとられている。この緩和措置の内容を習得する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、滞納処分の緩和措置を理解し、これらの内容を説明できる。
		事前学修	配布レジュメと教科書の「滞納処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。120分
9	11/16	租税救済法（１）不服申立制度	課税庁の処分に不満がある場合には税務争訟ができる。ただし、税に関する場合は、まずこの不服申立てがなされなければならない。この不服申立制度の内容とその問題点を習得する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不服申立制度の内容とその問題点を理解し、これらの内容が説明できる。
		事前学修	配布レジュメと教科書の「不服申立制度」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。120分
10	11/23	租税救済法（２）租税裁判	不服申立てののち、それでも課税庁の処分に不満がある場合には租税裁判へと移行することになる。この租税裁判の種類とその制度的問題点を習得する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税裁判の種類とその制度的問題点を理解し、これらの内容が説明できる。
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税裁判」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。120分
11	11/30	租税制税法（１）租税犯と附帯税	租税犯とはいったい何をいうのであろうか。この租税犯の意義を明確にするとともに、一般刑法との関係を理解する。併せて附帯税とは何を言うのか、どのような場合に附帯税が適用されるのかを理解する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税犯の意義、一般刑法との関係、さらに租税犯と附帯税との関係を理解し、これらの内容が説明できる。
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税犯と附帯税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。120分
12	12/7	租税処罰法（２）租税犯則調査・通告処分	一般的に「マルサ」といわれる租税犯則調査、この租税犯則調査の内容とその問題点を理解するとともに、通告処分といわれる制裁方法の内容と問題点について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税犯則調査・通告処分の意義、その問題点を理解し、これらの内容が説明できる。
		事前学修	配布レジュメと教科書の「租税犯則調査・通告処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	タックスミックス論と消費課税	近年、税法分野ではタックスミックス論なる考えのもと、消費税に重点が置かれてきた。このタックスミックス論とはどういうことか、さらにはその問題点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、タックスミックス論と消費税率との関係、そしてこの理論が社会に与える影響を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「消費課税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	12/21	地方財政権	地方分権がいわれて久しい今日、自治体が独自に課税できるかといった地方財政権の根本的問題と課題を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方財政権、すなわち自治体が独自に課税できるかといったといった根本的な問題点とその課題を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「地方財政権」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	1/18	国際課税	近年その重要性が高まっている国際課税、この国際課税の仕組みとその概要を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際課税の現状とその具体的内容を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「国際課税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
具体的な税金問題を交えながら、税法学の最も大切な基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法で、これを理解することは今の時代を読み解き、生き抜いてい国民として不可欠である。各人が自力で租税現象、租税問題を的確に理解し、法的にも判断を下せるようになるための基本的な視座を獲得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を修得するために、ここではことさら総論としての基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
民・商法、憲法等、法律学の基礎科目の基礎知識があるか少なくともこれらとの平行学習が望ましい。簿記会計の素養は理解の助けとなります。

【授業方法】
毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるよう、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日定期試験の解説をポータルサイトにて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	普通の講義型の授業ですが、その場で税法の基本的考え方を習得するのが目標ですから、あえて言うなら、頭の回路は常にアクティブにしておいて下さい。疑問点は放置せずに、その場で質問して理解するように心がけてください。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	税法の意義と機能を説明できる。						2		2					
②	税法解釈を含めた税法現象と税法との関係を理解しその本質を説明できる。						2		2					
③	近代税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。						2		2					
④	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。						2		2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の評価に加点要素が加味される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論（第8版）	北野弘久著黒川功監修	勁草書房	2020年	教科書	必携
納税者の権利	北野弘久	岩波新書	1981年1月	参考書	推奨
備考	授業はほぼ税法学原論の内容に従って行われる。				

【オフィスアワー】
金曜14時40分～16時10分。事前にアポイントメントを取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	実質課税論(1)	意義と問題点、歴史	
		この回の到達目標	今日では否定されていますが、萌芽期の我が国税法学界を席捲していた実質課税論の内容と問題点を探り、その正体に迫ります。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
2	/	実質課税論(2)	7つの類型分析、税法現法としての自室課税論の正体	
		この回の到達目標	概念論ではなく、実質課税が主張された議論を類型化してその議論の本質を理解し、小野社会現象としての本質に迫ります。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	20分
		事後学修	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
3	/	応能負担原則(1) 応能負担原則(2)	応能負担原則(1)～憲法原則、公平の概念、最低生活費	
		この回の到達目標	憲法原則としての応能負担原則は、税の実態的在り方を決める上での最重要指導法原則ですが、その根拠、意義、機能を学びます。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
4	/	応能負担原則(2)	応能負担原則(2)～担税力の理論、応益負担論、他	
		この回の到達目標	応能負担の原則の視覚から、最近の税制や税英論議にまで話を広げて、その性格と問題点を探ります。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
5	/	税法と信義則	税法と一般法原則	
		この回の到達目標	公法、とりわけ税法の領域では法の一般原則の適用は排除されるという古い公法理論は、今日では否定されている。そのきっかけとなった信義則の案件の分析を通じてその適用関係を理解する。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
6	/	自治知財政権、租税条例主義	本来的租税条例主義、地方財政権と地方税	
		この回の到達目標	現行憲法下での自治体財政権の位置と意義を探り、地方税における租税条例主義を理解する。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	納税義務の成立・確定	租税構成要件の充足、納税申告方式、賦課課税方式, 他	
		この回の到達目標	納税義務成立～確定までの流れを学習し、そこに含まれる法的問題を理解する。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
8	/	連帯納税義務	連帯納税義務制度	
		この回の到達目標	我が国独特の連帯納税制度の仕組みと根拠を学習し、そこに含まれる法的問題を理解し、わが国に現存する権利軽視の制度を正当に評価しうるだけの判断力を養う。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
9	/	第二次納税義務	第二次納税義務制度	
		この回の到達目標	我が国独特の第二次納税制度の仕組みと根拠を学習し、そこに含まれる法的問題を理解し、わが国に現存する権利軽視の制度を正当に評価しうるだけの判断力を養う。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
10	/	源泉徴収制度	源泉徴収・納付義務、源泉徴収制度の二元的構造、権利救済制度の不備	
		この回の到達目標	二元的構造をもつ源泉徴収制度の特性と問題点を整合的に理解する。自らが社会人となった時、自分の税法上の立場と権利を正確に把握できるようになる。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
11	/	税務調査権	税務調査権の種類、目的、限界	
		この回の到達目標	税務調査権の種類、目的、限界を学習し、税務庁差において守られるべき納税者の権利を体系的・具体的に理解し、自らが税務調査の対象になった場合であっても適切な対応ができるような法的判断力を身につける。。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
12	/	税務争訟制度	税務争訟制度の仕組みと問題点、行政不服申立て前置主義、国税不服審判所制度、訴訟物、立証責任	
		この回の到達目標	わが国の税務争訟制度（行政不服申立て前置主義、国税不服審判所制度、訴訟物、立証責任等）の仕組みと問題点を理解し、近代税法における税務争訟制度の在り方に自らの見解を持てるだけの学識を養う。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	//	租税犯の種類と税務制裁制度	租税犯の種類と犯罪構成要件、偽りその他不正の行為、二重処罰問題	
		この回の到達目標	租税犯の種類と犯罪構成要件、並びに我が国の処罰制度の実態を正しく理解し、租税犯問題に自らの価値観を伴うリーガルマインドを養い、問ひ答える対処能力を養う。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	20分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
14	/	税理士制度	公正な立場、訴訟保佐人、税理士会、税理士の使命	
		この回の到達目標	税理士制度とをの特徴を学び、税の法曹専門家としての税理士の職責と社会的使命を正しく理解・評価できるようになる。場合によっては税理士を目指す契機となることも期待する。	
		事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	20分
		事後学修	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。	15分
15	/	総括、試験説明	税法基礎理論学習の総括、試験説明、	
		この回の到達目標	1年の学習の総括し、学習のそうまとめをする。期末試験説明、質疑応答	
		事前学修	テキスト、ノートに目を通しておくことが望ましい。	40分
		事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分

科目名	税法ⅡA(所得税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである所得税法と個人住民税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら所得税法及び個人住民税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例のもと所得税の確定申告書を作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者は、この授業を通じて所得税及び個人住民税の基本的内容を説明できる						2		2				
②	学修者は、簡単なケースにおける所得税額及び個人住民税が具体的に計算できる						2		2				
③	学修者は、わが国の所得税制についての問題点を指摘することができる						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての所得税制の基本が身についているかを、筆記試験により評価する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに所得税確定申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部 徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾第10版』	石村 耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実	有斐閣	2019年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 研究室（9号館3階阿部徳幸研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	所得税法の学び方	この授業において何を学ぶのか、そしてそれが実生活においてどのような意味があるのかを修得する。そしてその学び方、さらには税理士等の資格試験について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書の所得税箇所を概観し、講義全体を確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書の所得税部分を読みかえし講義全体を確認する。	120分
2	4/17	所得概念	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの所得とはいったい何をいうのか、さらには実定税法のもと、具体的なその範囲と問題点を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、「所得」とはいったいどのようなものをいうのか、またその問題点は何かを修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得概念」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	4/23	所得税の納税義務者と課税の範囲	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの個人とはいったい何をいうのか、この個人の具体的内容を、さらには非課税の分類とその範囲を修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における個人とは何をいうのか、さらには非課税とはどういうことかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の納税義務者と課税の範囲」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	5/1	収入金額と必要経費 1	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。この所得金額は原則として、収入金額から必要経費を控除して求められる。ここではこのうち収入金額について、その問題点とともに学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における収入金額とは何か、わが国の現状と問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「収入金額と必要経費」項目を、ことさら「収入金額」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
5	5/8	収入金額と必要経費 2	所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。この所得金額は原則として、収入金額から必要経費を控除して求められる。ここではこのうち必要経費について、その問題点とともに学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における必要経費とは何か、わが国の現状と問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「収入金額と必要経費」項目を、ことさら「必要経費」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	5/15	所得分類 1	所得税法は、個人が得た経済的利得を10種類の所得として分類する。所得税法は、なぜこのように分類することを要求するのか。その意味を問題点とともに学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法は、なぜ10種類の所得分類を求めるのか、その理由を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得分類」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	所得分類 2	前回、所得分類の意義について学習した。ここではこの 10 種類の所得分類の具体的内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法が要求する 10 種類の所得分類の具体的内容を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得分類」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	5/29	給与所得課税	給与所得の場合、その税額計算は他の所得を明らかに異なる。ここではこの給与所得課税における具体的計算方法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、給与所得課税のにおける税額の計算方法とその問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「給与所得課税」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	6/5	源泉徴収と年末調整	給与所得者の場合、課税関係は源泉徴収と年末調整で完了することになる。ここではこの源泉徴収と年末調整について、その問題点とともに学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、源泉徴収とは、年末調整とは何か、さらにはその問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「給与所得課税」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	6/12	譲渡所得課税	所得分類の一つに「譲渡所得」がある。その譲渡所得の税法的意義をさらに掘り下げて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、譲渡所得課税とは、何に担税力を求め課税するのか。その内容と問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「譲渡所得」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	6/19	所得税の計算構造 1	具体的な所得税は、どのように計算されるのか、具体的な例示のもと所得税額の計算方法を、ここで学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的な所得税額が計算できるようになるとともに、税率の意義を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	6/26	所得税の計算構造 2	前回に引き続き具体的な所得税は、どのように計算されるのか、具体的な例示のもと所得税額の計算方法を、ここで学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的な所得税額が計算できるようになるとともに、税率の意義を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	人的控除	所得税法には、人的控除と呼ばれるものがある。この人的控除の本質的意義とその具体的内容をここでは学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、人的控除の本質的意義と具体的内容を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「その他の所得控除、税額控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	7/10	物的控除と税額控除	所得税法には、人的控除のほかいくつもの所得控除がある。またいくつもの税額控除がある。これらの意義とその具体的内容をここでは学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、物的控除および税額控除の意義と具体的内容を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	7/17	個人住民税	個人住民税について、その全体像を、ことさら所得税との相違点について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、個人住民税の具体的内容と所得税との相違点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法ⅡB(法人税法)	担当者	伊藤 悟	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、企業課税法のうち法人税法についての基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら法人税法の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
税法条文の参照を総務省「法令データ提供システム」を活用することから、P C等でのネット利用できることが望ましい。

【授業方法】
税法の知識・情報として、財務省や国税庁等のサイトを活用する。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習としての課題を与え、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて法人税の基本的内容を説明できる				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける法人税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の法人税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての法人税制の基本が身についているかを、筆記試験により評価する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに法人税確定申告書が作成できるか確認する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60		40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学内おしらせ配信を活用

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
市民のための税法学	伊藤 悟	八千代出版社	2016年		
備考					

【オフィスアワー】
金曜16:10～ 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士として税法事務、各種申告書等の作成などの税理士業務一般
実務経験に基づく実践的教育の内容		法人税の課税標準計算、税額計算、申告書の記載等についての指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18	ガイダンス及び導入講義	シラバスの解説、国税庁WEB等の授業内活用、PC等でのノートテーク可、税法研究論と本授業、企業課税法について	
		この回の到達目標	法人税法の授業概略を理解する。	
		事前学修	カリキュラム表、シラバスの記述確認	120分
		事後学修	国税庁WEB(http://www.nta.go.jp/)>税について調べる、等を閲覧	120分
2	第一部 金9/25	法人所得課税の基礎	所得課税法としての法人税法、税分類と法人税、法人税法の本質	
		この回の到達目標	毎年の課税システムにおける所得課税の基礎を理解する。	
		事前学修	テキスト第14章「課税基礎と税制論」および第15章「所得課税法の基礎」を通読、財務省WEB内税制(http://www.mof.go.jp/tax_policy/)を閲覧	120分
		事後学修	法人税法、法人税法施行令および法人税法施行規則を法令データWEBにて確認、法人税基本通達を国税庁WEBにて確認	120分
3	第一部 金10/2	法人税法の構造	現行法人税法の基本構造、本則と附則、租税特別措置法	
		この回の到達目標	法人税関係法令の基本的構造と関係を理解する。	
		事前学修	テキスト第17章「法人税の基本構造と課題」を通読	120分
		事後学修	法人税の歴史を調べる。法人擬制説に基づく法人税の特徴を考える。	120分
4	第一部 金10/9	法人税法の基礎	納税義務者、各事業年度所得に対する法人税の基本事項、副読本第1章	
		この回の到達目標	原稿法人税法の課税要件の基本を知る。	
		事前学修	会社法に規定する会社とは何か調べる。一般社団法人とは何か。日本の法人設立はどうする。	120分
		事後学修	青色申告制度について調べる。	120分
5	第一部 金10/16	法人税の課税標準	企業損益と税務調整、法人税法22条、副読本第2章	
		この回の到達目標	益金－損金＝所得金額と企業会計の関係を知る。	
		事前学修	副読本第2章を通読する。	120分
		事後学修	税務調整の必要性和分類について考察する。	120分
6	第一部 金10/23	益金の計算	益金事項：売上、受取配当金、副読本第3章・4章	
		この回の到達目標	益金算入、益金不算入について理解する。	
		事前学修	副読本第3章と第4章を通読する。	120分
		事後学修	売上計上基準についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	損金の計算(1)	損金事項(1)：売上原価、テキスト第5章1節	
		この回の到達目標	売上原価＝期首棚卸高＋当期仕入高－期末棚卸高の算式、棚卸高の評価について知る。	
		事前学修	副読本第5章1節を通読する。	120分
		事後学修	期末棚卸商品の評価方法による売上原価と売上利益への影響をまとめる。	120分
8	第一部 金11/6	損金の計算(2)	損金事項(2)：減価償却費、副読本第5章2節	
		この回の到達目標	減価償却資産の減価償却について知る。	
		事前学修	副読本第5章2節を通読する。	120分
		事後学修	償却過不足の当期と翌期の処理を理解する。	120分
9	第一部 金11/13	損金の計算(3)	損金事項(3)：給与、交際費、副読本第6章1節、2節	
		この回の到達目標	役員給与と交際費等の税務措置を知る。	
		事前学修	副読本第6章を通読する。	120分
		事後学修	役員給与の損金算入となる支給方法についてまとめる。	120分
10	第一部 金11/20	損金の計算(4)	損金事項(4)：租税公課、引当金、その他、副読本第6章4節、第7章、第8章	
		この回の到達目標	租税公課の税務処理など損金計算を知る。	
		事前学修	法人企業が負担する税金について検討する。	120分
		事後学修	法人税、住民税、事業税の法人税処理を理解する。	120分
11	第一部 金11/27	法人税額の計算	税額計算、別表4、別表5(1)等、副読本第9章、第10章	
		この回の到達目標	課税標準の処理、税額計算ができる。	
		事前学修	副読本第9章、第10章を通読する。	120分
		事後学修	副読本掲載の設例に基づく処理と申告書記載を理解する。	120分
12	第一部 金12/4	特殊な法人税制度	連結納税とグループ法人税制、更正等、テキスト第11章、第12章、理論演習問題	
		この回の到達目標	連結納税、グループ法人税、その他事項を知る。	
		事前学修	副読本第11章、第12章を通読する。	120分
		事後学修	出題した理論演習問題を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 金12/11	演習(1)		計算演習問題(1) 設例の確認、全経3級法人税法過去問演習
		この回の到達目標	事前に与えた演習(1)の課題を解き、授業にて発表する。	
		事前学修	副読本第10章末の設例を理解する。	120分
		事後学修	演習問題の復習をする。	120分
14	第一部 金12/18	演習(2)		計算演習問題(2) 全経2級法人税法過去問演習
		この回の到達目標	事前に与えた演習(2)の課題を解き、授業にて発表する。	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	120分
		事後学修	演習問題の復習をする。	120分
15	第一部 金12/25	総括		法人税法の課題、国際課税問題
		この回の到達目標	国際課税問題に対応する法人税のあり方を知る。	
		事前学修	授業全体での疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	この講義を基礎とし、法人税法につき税理士試験等をめざし勉強してください。	120分

科目名	税法ⅢA(資産税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである相続税と贈与税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら相続税及び贈与税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例のもと相続税・贈与税の税務申告書を作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて相続税・贈与税の基本的内容を説明する				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける相続税・贈与税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の資産税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての資産税制の基本が身についているかを、筆記試験により評価する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに相続税・贈与税 税務申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部 徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第10版)』	石村 耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実 他	有斐閣	2019年	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 研究室（9号館3階阿部徳幸研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	資産税法の学び方	この授業において何を学ぶのか、そしてそれが実生活においてどのような意味があるのかを修得する。そしてその学び方、さらには税理士等の資格試験について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、資産税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書の「相続税の根拠と課税方式」と「相続税の計算構造」を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書の「相続税の根拠と課税方式」と「相続税の計算構造」を読みかえし講義全体を確認する。	120分
2	9/25	相続税のあらまし	相続税と贈与税の関係について、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式について、その問題点を交えて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税と贈与税の関係について、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式について、さらにはその問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税・贈与税のあらまし」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
3	10/2	相続税の納税義務者と納税義務の範囲	相続税ではその納税義務者の違いにより、課税財産の範囲が異なる。ここでは相続税における納税義務者の種類とその内容、さらにそれぞれの課税範囲について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税における納税義務者とその課税範囲さらにはその問題点を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の納税義務者と納税義務の範囲」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
4	10/9	相続税の課税価格と税額計算 1	相続税の課税財産には、本来の財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税における課税財産と非課税財産の内容を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「課税財産と非課税財産」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	10/16	相続税の課税価格と税額計算 2	相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について重要と思われるものについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の課税価格計算の特例にはどのようなものがあり、その内容はどうなっているのかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の課税価格計算の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
6	10/23	相続税の課税価格と税額計算 3	わが国の相続税額計算における特徴的な相続税の総額の計算方法、さらには様々な税額控除の意義と内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の総額計算と税額控除の具体的内容を修得し、簡単な事例による実際の税務申告書を作成する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の税額計算・税額控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	贈与税の課税価格 1	贈与税の課税財産には、本来の財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税における課税財産と非課税財産の内容を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の課税価格」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。（2時間）	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
8	11/6	贈与税の課税価格 2	相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について重要と思われるものについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の課税価格計算の特例にはどのようなものがあり、その内容はどうなっているのかを修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の課税価格計算の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
9	11/13	相続時精算課税制度	贈与税の課税方式に、暦年課税と相続時精算課税がある。ここではこの相続時精算課税制度の内容と、暦年課税の違いについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税における暦年課税と相続時精算課税について修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「相続時精算課税制度」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
10	11/20	贈与税の税額計算	贈与税の税額計算について、暦年課税と相続時精算課税、それぞれについて学習するとともに、実際の税務申告書を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税の税額計算を修得し、簡単な事例による実際の税務申告書を作成する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の計算」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
11	11/27	延納・物納・連帯納付義務	相続税・贈与税は財産課税であることから、その税額の納付方法に様々な特例が用意されている。この相続税法特有の納付の特例について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、延納・物納・連帯納付義務とは何かを修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「延納・物納・連帯納付義務」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
12	12/4	相続税・贈与税の納税猶予及び納税免除の特例	相続税・贈与税においては様々な政策から、納税猶予及び納税免除が定められている。これらの規定の存在意義とその内容について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税・贈与税の納税猶予及び納税免除の内容とその意義を修得する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の「納税猶予及び納税免除の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/10	事業承継税制	近年、相続税制において様々な事業承継税制が創設されている。またその関心も強いものとなっている。ここでは新たな事業承継税制をその問題点とともに学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、事業承継税制の意義と具体的内容を修得する。	
		事前学修	配布レジюмеと教科書の「事業承継税制」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジюмеと教科書をもとに、レジюмеに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
14	12/17	申告・更正及び決定	相続税では、法定申告期限後に後発事象が生ずるケースが頻繁である。相続税法はこの後発事象に備えて様々な特例を用意する。ここではこの特例の内容を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税法が規定する申告・更正及び決定の内容を修得する。	
		事前学修	配布レジюмеと教科書の「申告・更正及び決定」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジюмеと教科書をもとに、レジюмеに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
15	12/25	財産の評価	相続税・贈与税は財産課税である。財産課税においてその財産は金額で評価しなければならない。ここでは相続税法における各種財産の評価方法について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、財産評価の内容とその具体的方法を修得する。	
		事前学修	配布レジюмеと教科書の「財産評価」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジюмеと教科書をもとに、レジюмеに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法ⅢB(消費・諸税法)	担当者	伊藤 悟	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、それぞれ各自の日々の生活に密説する消費税法を中心にその基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら消費税法の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
税法条文の参照を総務省「法令データ提供システム」を活用することから、P C等でのネット利用できることが望ましい。

【授業方法】
税法の知識・情報として、財務省や国税庁等のサイトを活用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習としての課題を与え、授業内での回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて消費税の基本的内容を説明する				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける消費税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の消費税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての消費税制の基本が身についているかを、筆記試験により評価する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに消費税確定申告書が作成できるか確認する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60		40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学内おしらせ配信を活用

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
市民のための税法学	伊藤悟	八千代出版	2016		
備考					

【オフィスアワー】
金曜16:10～ 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士としての税法事務、各種申告書等の作成などの税理士業務一般
実務経験に基づく実践的教育の内容		消費税の課税標準計算、税額計算、申告書の記載等についての指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	ガイダンス及び導入講義	シラバスの解説、税法研究論と本授業	
		この回の到達目標	本授業の概略理解	
		事前学修	シラバスの記載を確認する。	120分
		事後学修	テキスト「はしがき」を読む。	120分
2	第一部 金4/17	課税基礎論からみた消費課税	課税基礎論、消費課税の位置・意義、消費課税目の分類	
		この回の到達目標	課税基礎論からみた消費課税法の位置づけを理解する	
		事前学修	財務省WEB>税制>わが国税制>税の種類をみて、日本税制の税目を知る。	120分
		事後学修	テキスト第14章「課税基礎と税制論」を読む。	120分
3	第一部 金4/24	消費課税法の諸原則等	税法原理・原則、消費課税諸原則、消費税と付加価値税、財政赤字と消費税、福祉目的税論	
		この回の到達目標	税法基礎原理から消費課税法原則までの展開を知る。	
		事前学修	テキスト第19章「消費課税法の基礎」を読む	120分
		事後学修	税大講本「税法入門」第4章第4節消費税、同「消費税法」（副読本）第1章を読む。消費税法を法令データベース等で確認する。	120分
4	第一部 金5/1	消費税法の取引区分	事業者の取引と消費税、不課税取引と課税取引	
		この回の到達目標	消費税法が規定する消費税の課税対象取引について知る。	
		事前学修	副読本第2章を通読する。	120分
		事後学修	不課税取引と課税取引を理解する。	120分
5	第一部 金5/8	消費税の非課税と免税	課税取引と非課税取引、免税取引	
		この回の到達目標	消費税非課税の意義と法効果、免税の意義と法効果を知る。	
		事前学修	副読本第3章を通読する。	120分
		事後学修	消費税に係る取引区分を理解する。	120分
6	第一部 金5/15	消費税の納税義務者	消費税の納税義務者、免税事業者、納税義務の成立	
		この回の到達目標	各種取引区分と消費税の納税義務者を理解する。	
		事前学修	副読本第4章を通読する。	120分
		事後学修	事業者課税である消費税の特質を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	消費税の課税標準計算等	消費税の計算基礎、地方消費税、関税等、課税標準の計算	
		この回の到達目標	消費税の課税標準計算、税額計算ができる。	
		事前学修	副読本第5章を通読する。	120分
		事後学修	関税等と消費税の関係、消費税計算と地方消費税計算の関係を理解する。端数処理を知る。（2時間）	120分
8	第一部 金5/29	消費税の税額控除制度	仕入税額控除、等	
		この回の到達目標	標準税率と軽減税率の適用と税額控除のシステムを知る。	
		事前学修	副読本第6章仕入税額控除の節を通読する。	120分
		事後学修	原則課税における仕入税額控除の基本を知る。	120分
9	第一部 金6/5	中小企業への消費税特例	簡易課税制度	
		この回の到達目標	簡易課税制度の概略を知る。	
		事前学修	副読本第6章簡易課税制度の節を通読する。	120分
		事後学修	中小企業の消費税負担のあり方を検証する。	120分
10	第一部 金6/12	消費税の基準年度と課税期間、申告等	消費税の課税期間、申告・納付等、雑則	
		この回の到達目標	納税義務の成立と確定、納付について知る。	
		事前学修	副読本第7章、第9章を通読する	120分
		事後学修	個人事業者・法人事業者の申告等手続を理解する。	120分
11	第一部 金6/19	消費税の申告書の記載	一般用申告書、簡易課税用申告書	
		この回の到達目標	消費税の申告書の記載方法を知る。	
		事前学修	副読本(参考)4確定申告書の作成手順を知る。	120分
		事後学修	申告書の記載手順に従い、消費税額の計算を理解する。	120分
12	第一部 金6/26	演習(1)	消費税演習問題(1) 基礎問題、理論問題	
		この回の到達目標	事前に与えた演習(1)の課題を解き、授業にて発表する。	
		事前学修	副読本の記載で不明なところをチェックする。	120分
		事後学修	演習問題を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	演習(2)	消費税演習問題（2）総合計算問題(全経3級消費税法過去問)	
		この回の到達目標	事前に与えた演習(2)の課題を解き、授業にて発表する。	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	120分
		事後学修	演習問題を復習する。	120分
14	第一部 金7/10	演習(3)	消費税演習問題（3）総合計算問題(全経2級消費税法過去問)	
		この回の到達目標	事前に与えた演習(3)の課題を解き、授業にて発表する。	
		事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	120分
		事後学修	演習問題を復習する。	120分
15	第一部 金7/17	総括	消費税法の課題	
		この回の到達目標	現代日本における消費課税の本質を理解し、各自の消費課税論を総括する。	
		事前学修	授業全体での疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	この講義を基礎とし、消費税法につき税理士試験等をめざし勉強してください。	120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的にパワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、次回授業の最初に返却指導（フィードバック）する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中、少なくとも1回はテーマに応じた「調査学習ならびにミニ・レポート提出」を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	授業の初めに実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	3	3	3	3	3						15
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③⑤に関する能力が身についているかを評価する。			5		5						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	23	18	23						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答用紙は、毎回授業の初めに説明する。定期試験の解説はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代ヨーロッパ政治史（増補版）』	杉本稔編	北樹出版	2012	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、西洋政治史を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、西洋政治史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/13	民主主義理論	R. ダールのポリアーキーという議論を参照することで、西ヨーロッパ諸国の市民革命を理論的に検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポリアーキーを説明することができる。	
		事前学修	高校世界史の教科書等を用いて、イギリス革命やフランス革命の概略を整理しておく。	120分
		事後学修	ポリアーキーを基に、近代日本の歴史を考えてみる。	120分
3	4/20	イギリス革命の特質	ピューリタン革命と名誉革命の類似点と相違点を明らかにしていくとともに、なぜ両革命が起こったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ピューリタン革命と名誉革命の類似点と相違点を説明することができる。	
		事前学修	イギリス絶対王政の特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	現在のイギリスにおける、女王と議会の関係性について検討してみる。	120分
4	4/27	名誉革命体制の意義と課題	絶対王政が打倒されたことによって確立された名誉革命体制とは、どのような体制であったのか、民主主義理論の中で、どのように位置づけられるかを検討していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉革命体制の意義と課題を説明することができる。	
		事前学修	日本やイギリスを例にして議院内閣制とは、どのような制度かをまとめておく。	120分
		事後学修	イギリス革命を特殊な出来事として捉えるのではなく、ポリアーキーと結びつけることによって一般化を図ってみる。	120分
5	5/4	フランス革命の展開	フランス革命が勃発した原因を明らかにしていくとともに、それぞれの時期に制定された憲法を比較していくことで、どのような階層が革命の担い手であったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、91年、93年、95年憲法の特質を説明することができる。	
		事前学修	フランス絶対王政の特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	93年憲法と現代日本の憲法を比較をし、それぞれの特徴を整理してしてみる。	120分
6	5/11	フランス革命後の政治体制	ナポレオンが権力を獲得してからナポレオン3世が皇帝になるまで、幾度となく変化してきた政治体制に着目することで、フランス政治の特徴を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナポレオン以降の政治体制の変遷について説明することができる。	
		事前学修	帝政、王政、共和制の違いについて、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	フランス革命を特殊な出来事として捉えるのではなく、ポリアーキーと結びつけることによって一般化を図ってみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	ドイツ帝国の成立	19世紀中ごろまで、ドイツは国民国家としてのまとまりを欠いていた。ビスマルクに焦点を当てることで、ドイツ帝国が成立した過程を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ帝国成立の過程を説明することができる。	
		事前学修	神聖ローマ帝国の歴史を概観し、その流れをまとめておく。	180分
		事後学修	ビスマルク外交がドイツ帝国の成立および安定化に対して、どのような影響を及ぼしたのかを検討してみる。	60分
8	5/25	第一次世界大戦とヨーロッパ政治	第一次世界大戦を契機に、ヨーロッパが相対的に没落をしていった一方で、アメリカやロシアの台頭によって、世界のパワーバランスに変化が見られるようになったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、世界政治のパワーバランスの変化について説明することができる。	
		事前学修	第一次世界大戦の直接的引きがねとなったサラエボ事件の概略をまとめておく。	60分
		事後学修	アメリカの台頭、ロシアでの共産党政権樹立がヨーロッパ統合の萌芽となる「ヨーロッパ合衆国」構想へと繋がっていったことを調べてみる。	180分
9	6/1	イギリスにおける政党政治の構造的変化① 自由党の没落	名誉革命体制以降、イギリス政治の中核を担っていた保守党と自由党のうち、選挙権の拡大や自由主義の変容、第一次世界大戦といった要因によって、自由党が没落していったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自由党没落の要因を説明することができる。	
		事前学修	イギリスにおける選挙権拡大の歴史をまとめておく。	120分
		事後学修	女性参政権運動の激化について調べ、日本と比較をしてみる。	120分
10	6/8	イギリスにおける政党政治の構造的変化② 労働党の台頭	自由党が没落していく中で、有意な存在となった労働党が、いかにして二大政党の一翼を担うようになっていったのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、労働党台頭の要因を説明することができる。	
		事前学修	労働者と自由党の結びつきについてまとめておく。	150分
		事後学修	現在のイギリスの政党システムと当時の二大政党制との違いを検討してみる。	90分
11	6/15	第三共和制の成立と人民戦線内閣	権力の集中を図った帝政ドイツ以後、当時、最も民主的な憲法を備えたワイマール共和国がどのように誕生し、どのような政党政治が展開されたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人民戦線内閣の意義を説明することができる。	
		事前学修	スペインにおいて成立した人民戦線内閣の特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	現在のフランスの政治は、フランス政治史上どのように位置づけられるのかを検討してみる。	120分
12	6/22	ワイマール共和国の誕生	第一次世界大戦によって、崩壊した帝政ドイツ以後、当時、最も民主的な憲法を備えたワイマール共和国がどのように誕生し、どのような政党政治が展開されたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ワイマール共和国誕生の経緯を説明することができる。	
		事前学修	第一次世界大戦によって、なぜ4つの帝国が崩壊したのかを整理しておく。	150分
		事後学修	ワイマール憲法が先進的であり、強大な大統領権限を有していたことを、実際にワイマール憲法を見て確認してみる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ヒトラーの台頭とワイマール共和国の崩壊	世界恐慌をきっかけに不安定化したワイマール共和国が、なぜヒトラーの台頭を招いたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ワイマール共和国崩壊の過程を説明することができる。	
		事前学修	ヴェルサイユ条約によって、ドイツに課された懲罰的な内容をまとめる。	120分
		事後学修	全権委任法の成立がワイマール憲法に与えた影響を考えてみる。	120分
14	7/6	第二次世界大戦への道	全権委任法を成立させたヒトラーは、第一次世界大戦後のヨーロッパ政治を規定したヴェルサイユ体制に挑戦することで、戦後国際秩序に挑戦していったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第二次世界大戦へと至る過程を説明することができる。	
		事前学修	ヨーロッパ列強による植民地獲得競争がどのように展開されていたかをまとめる。	120分
		事後学修	ドイツにおける民主主義において、ワイマール共和国の成立と崩壊をどのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
15	7/13	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的に板書を中心とした伝統的な講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中、少なくとも1回はテーマに応じた「調査学習ならびにミニ・レポート提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。						1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。							1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。							1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。								1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。										1		1
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	授業の初めに実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	3	3	3	3	3						15
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③⑤に関する能力が身についているかを評価する。			5		5						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	23	18	23						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答用紙は、毎回授業の初めに返却する。定期試験の解説はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 4/9	市民的政治体制と絶対王政	シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、市民的政治体制の形成と絶対王政との関連を解説し、それらの特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、絶対王政の特質と意義に加え、市民的政治体制の基本的性格を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを用意すると同時に、教科書の序「西洋政治史を学ぶために」、第1章「市民的政治体制の形成」の「1 市民革命の位置づけと市民的政治体制」を読んで、西洋政治史を学ぶ意味を考えるとともに、自由民主主義体制とは何かイメージしておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
2	4/14 4/16	市民革命と近代市民社会・市民的政治体制	市民革命と近代市民社会の関係を解説し、それらの特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、市民革命と近代市民社会の関係ならびに市民的政治体制の特質と意義を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「1 市民革命の位置づけと市民的政治体制」を読んで、市民革命の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
3	4/21 4/23	イギリス革命とクロムウェル共和制の成立	イギリス革命の前半部分を解説するとともに、クロムウェル共和制の問題点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、イギリスで共和制が成功しなかった理由を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「2 イギリス革命と議会主権の確立」を読んで、ピューリタン革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
4	4/28 4/30	イギリス革命と名誉革命体制の確立	イギリス革命の後半部分を解説するとともに、王政復古や名誉革命体制の特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、王政復古の重要性を説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「2 イギリス革命と議会主権の確立」を読んで、名誉革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
5	5/5 5/7	アメリカ独立革命と合衆国の建国	アメリカ独立革命の全体を解説するとともに、アメリカ独立革命の特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命の特殊性を複数の観点から説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「3 アメリカ独立革命と合衆国の建国」を読んで、アメリカ独立革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
6	5/12 5/14	フランス革命の背景と展開	フランス革命の前半部分を解説するとともに、その背景と特質について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス革命の勃発理由を政治と経済の関係から説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章の「4 フランス革命の展開」を読んで、旧体制の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19 5/21	フランス革命の展開と影響	フランス革命の後半部分を解説するとともに、その特質と影響について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命との違いに加え、フランス革命の影響を政治思想の観点から説明することができる。
		事前学修	教科書第1章の「4 フランス革命の展開」を読んで、恐怖政治の意味を把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
8	5/26 5/28	ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立	ドイツ三月革命とドイツ統一プロセスを解説するとともに、ドイツ三月革命の問題点とドイツ的特殊性との関連について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、市民革命の重要性とドイツ的特殊性の意義を説明することができる。
		事前学修	教科書第1章の「5 ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立」を読んで、ドイツと日本の類似性を把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
9	6/2 6/4	ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化	イギリス革命後の二大政党の状況を解説し、二大政党の発展要因について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政党ならびに政党政治の発展に不可欠な要素を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章「市民的政治体制の展開」の「1 ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化」を読んで、ホイッグとトーリーの違いを把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
10	6/9 6/11	イギリス議院内閣制の成立と展開	イギリス議院内閣制の成立過程を解説し、日本との違いについて考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、議院内閣制の基本的性格を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章の「2 イギリス議院内閣制の生成と展開」を読んで、議院内閣制の意味を把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
11	6/16 6/18	市民的政治体制の展開への試練としてのウィーン体制	ウィーン体制の成立と基本的性格を解説し、その意義と問題点について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際秩序の役割と国内政治への影響を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章の「3 市民的政治体制への試練としての『ウィーン体制』」を読んで、ウィーン会議前後の流れを把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分
12	6/23 6/25	1848年の革命運動	フランスの七月革命と二月革命、イギリスのチャーティスト運動を解説し、西洋政治史における1848年という年の意義について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ウィーン体制崩壊後の変化と意義を説明することができる。
		事前学修	教科書第2章の「4 1848年の革命運動」を読んで、この時期のヨーロッパ主要国の動きを把握しておく。120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/2	イギリス議会政治の近代化と政党の組織化	イギリスにおける選挙法改正と政党組織化プロセスを解説し、両者の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、選挙権の拡大と政党の組織化との関連を説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章の「5 イギリス議会政治の近代化と古典的展開」を読んで、選挙法改正の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
14	7/7 7/9	イギリス議会政治の古典的展開と変容	イギリスにおける大衆デモクラシーの実現過程とその後の展開を解説し、その特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、大衆デモクラシーの特徴と問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章の「5 イギリス議会政治の近代化と古典的展開」を読んで、大衆と大衆社会の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
15	7/14 7/16	アメリカ二大政党の成立とジャクソニアン・デモクラシー、「課題：ビスマルクのリーダーシップ」	アメリカ二大政党の成立過程とジャクソニアン・デモクラシーの意義を解説するとともに、アクティブ・ラーニングの課題「ビスマルクのリーダーシップ」について考え、ミニ・レポートを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ二大政党の起源や相違点、ジャクソニアン・デモクラシーの影響、そしてビスマルク政治の特質を説明することができる。	
		事前学修	アクティブ・ラーニングの課題に適切に答えるため、ビスマルクとボナパルティズムに関する文献を渉猟しておく。	180分
		事後学修	試験範囲に指定された部分を復習し、期末試験に向けて準備をしておく。	60分

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「現代型政治経済システムの形成と変容」をテーマとして、現代欧米政治史を現在の世界情勢も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの変容が今日の政治課題をもたらしていること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
基本的に板書を中心とした伝統的な講義形式で授業を行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中、少なくとも1回はテーマに応じた「調査学習ならびにミニ・レポート提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを、筆記試験にて評価する。	15	15	15	15	15						75
小テスト等	授業の初めに実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	3	3	3	3	3						15
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③⑤に関する能力が身についているかを評価する。			5		5						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	23	18	23						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答用紙は、毎回授業の初めに返却する。定期試験の解説はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/17	第一次世界大戦の勃発	シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、第一次世界大戦の背景や経緯を解説し、第一次世界大戦の特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、第一次世界大戦の特質と意義に加え、現代型政治経済システムの基本的性格を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを用意すると同時に、教科書の序「西洋政治史を学ぶために」、第3章「現代政治の幕開け」の「1 第一次世界大戦の勃発」を読んで、西洋政治史を学ぶ意味を考えるとともに、現代型政治経済システムとは何かイメージしておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
2	9/22 9/24	総力戦体制とロシア革命	第一次世界大戦の影響とロシア革命を解説し、それらの問題点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第一次世界大戦とロシア革命が現代型政治経済システムにおよぼした影響と問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「2 総力戦体制とロシア革命」を読んで、ロシア革命の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
3	9/2910/1	第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約	ドイツ11月革命とヴェルサイユ体制の基本的性格を解説し、それらの特質と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツ11月革命とロシア革命の違い、ヴェルサイユ体制下での内政面の変化を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「3 第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約」を読んで、第一次世界大戦後の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
4	10/6 10/8	ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ(ドイツ、イギリス)	1920年代のドイツとイギリスの内政面での変化を比較しながら解説し、両者の違いについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主化に不可欠な要素を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「4 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ」を読んで、当時のドイツとイギリスの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
5	10/13 10/15	ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ(フランス、世界恐慌)	1920年代のフランスの内政面での変化と世界恐慌の基本的性格を解説し、フランス第3共和制の持続要因ならびに世界恐慌に対するアメリカの反応について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主化に不可欠な要素ならびに世界経済の動向が国内政治におよぼす影響を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「4 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ」を読んで、当時のフランスとアメリカの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
6	10/20 10/22	世界恐慌とナチスの台頭	世界恐慌に対するドイツ・イギリス・フランスの反応を比較しながら解説し、とりわけドイツの問題点について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、デモクラシー崩壊とファシズム台頭の要因を説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章の「5 世界恐慌とナチスの台頭」を読んで、1930年代のドイツ・イギリス・フランスの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/29	第二次世界大戦	第二次世界大戦とナチズムの関係を解説し、今日教訓とすべき事柄について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政治史と政治思想との関連を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章「第二次世界大戦と冷戦」の「1 第二次世界大戦」を読んで、第二次世界大戦の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
8	11/5 11/10	冷戦の始まりとヨーロッパの分断(ドイツとフランスの変容)	第二次世界大戦後のドイツとフランスの変容プロセスを解説し、民主化と変革の要因について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第二次世界大戦による変化と影響を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「2 冷戦の始まりとヨーロッパの分断」を読んで、冷戦の意味を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
9	11/12 11/17	冷戦の始まりとヨーロッパの分断(福祉国家の発展とヨーロッパ統合の起源)	イギリスにおける福祉国家形成過程とヨーロッパ統合の起源を解説し、現代型政治経済システムの基本的性格について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、福祉国家の特質と意義、ヨーロッパ統合のきっかけを説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「2 冷戦の始まりとヨーロッパの分断」を読んで、福祉国家の意味とヨーロッパ統合初期の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
10	11/19 11/24	模索する西ヨーロッパ諸国(1960年代のドイツとフランス)	1960年代のドイツとフランスを比較しながら解説し、政治と経済の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1960年代のドイツとフランスの状況から現代型政治経済システムの問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「3 模索する西ヨーロッパ諸国」を読んで、当時のドイツとフランスの状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
11	12/1 12/3	模索する西ヨーロッパ諸国(1960年代のイギリスとヨーロッパ統合)	1960年代のイギリスならびにヨーロッパ統合を解説し、政治と経済の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1960年代のイギリスとヨーロッパ統合の状況から現代型政治経済システムの問題点を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「3 模索する西ヨーロッパ諸国」を読んで、当時のイギリスとヨーロッパ統合の状況を把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
12	12/8 12/10	冷戦の緊張緩和とオイルショック	1970年代における西欧・南欧・ヨーロッパ統合を解説し、オイルショックの影響と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、世界経済の動向が国内政治におよぼす影響を説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「4 冷戦の緊張緩和とオイルショック」を読んで、当時の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/17	新冷戦から冷戦の終結へ	1980年代におけるドイツ・フランス・イギリス・欧州統合を解説し、冷戦終結ならびに福祉国家と欧州統合の変容について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、冷戦終結・福祉国家再編・ヨーロッパ統合進展の要因を経済面から説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章の「5 新冷戦から冷戦の終結へ」を読んで、冷戦終結に至る流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
14	12/22 12/24	ポスト冷戦期のヨーロッパ政治	1990年代におけるヨーロッパの様々な変容を解説し、現代型政治経済システムのあり方やヨーロッパ統合深化の意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、現代型政治経済システムの課題とその処方箋を説明することができる。	
		事前学修	教科書第5章「冷戦の終焉とグローバリゼーションの時代」を読んで、東欧革命・ドイツ統一・ソ連崩壊の流れを把握しておく。	120分
		事後学修	自分の講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。	120分
15	1/12 1/14	経済のグローバル化と政治のポピュリズム化、課題：「現在における国民国家のあり方」	グローバリゼーションに伴って生じた様々な政治問題を解説し、ポピュリズムをめぐる諸問題とその処方箋について政治史的見地から考え、ミニ・レポートを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国民国家のあり方やポピュリズム台頭の要因を複数の観点から説明することができる。	
		事前学修	アクティブ・ラーニングの課題に適切に答えるため、スコットランド分離独立やBrexitに関する文献を渉猟しておく。	180分
		事後学修	試験範囲に指定された部分を復習し、期末試験に向けて準備をしておく。	60分

科目名	西洋法制史Ⅰ	担当者	出雲 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
この講義では、配布したレジュメを中心に解説を行う。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。各講義の最後には、その回で学修したテーマに関する授業内試験を実施し、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な課題設定を通じたグループワークを行なう。グループワークにおいては、予習時に得た知識および講義中に解説した知識を用いて、具体的な事案に対する法的判断を話し合い、相互理解の共有を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。					2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得しているかを評価する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回実施する授業内試験の結果につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ書房	2004	その他	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談izumo.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6 第二部 水4/8	法典編纂の歴史的基盤	この講義では、近世における法典編纂運動の前提として、法典編纂の必要性がどのような状況に 応じて発生しうるのかを歴史的に考察する。その基本的な出発点は、社会に法典以外の規範が散 在している場合、当該社会構成員が負担するコストの問題である。この講義では、社会における 規範の散在が、紛争解決の長期化、複雑化をもたらし、それに対する不満から法典というひとつ のシステムが要請されるという仮説について歴史的に検討する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、法典の必要性について歴史的に検討を加えることができる。	
		事前学修	日本にどのような法典があるかを調べ、その役割を検討する。	120分
		事後学修	法典が実際に社会コストを削減する機能を有しているのかを検討し、現在日本に存在する法典について具体 的な例を考える。	120分
2	第一部 月4/13 第二部 水4/15	物の分類と所有権	物の分類は、自然科学からみれば物質の分類の問題であるけれども、社会科学からみればそれは 人間生活におけるフレーム設定の問題でもある。この講義では、法典編纂の基礎としての物の分 類方法と、その応用としての所有制度について歴史的に考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、物を分類する意義を理解し、その応用として所有制度を歴史的に考察することができ る。	
		事前学修	日本法における物の分類を調べて整理する。	120分
		事後学修	物の分類はなぜ法典編纂にとって重要であるかを理解し、その分類が実際のルール作りにどのような影響を 与えるかを考察する。	120分
3	第一部 月4/20 第二部 水4/22	占有	近世において、占有は混乱した理解のされた方をしていた。このことは、後にサヴィニーが『占 有法論』において指摘したことである。この講義では、近世における占有の理解とその結果発生 した諸問題について歴史的に考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、近世における占有理解の問題点から、現代法がどのような改善を加えているかを歴史的 に理解し、説明することができる。	
		事前学修	現在の日本の民法学で説明される占有概念を調べて整理する。	120分
		事後学修	近世における占有概念がどのような問題を抱えていたかを整理し、現在の日本の民法典においてどの程度ま で解決されているのかを考察する。	120分
4	第一部 月4/27 第二部 水4/29	役権	現行の日本民法典において、ローマ法の「役権（servitus）」に該当するものとして、地役権が 挙げられる。しかし、近世においては、各国の諸事情に合わせて、さまざまな役権が新たに考案 されていた。この講義では、役権と法文化との関係について歴史的に考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法上の伝統的な制度である役権を理解し、これを現代法と比較して説明すること ができる。	
		事前学修	日本の民法典の地役権について復習する。	120分
		事後学修	近世においてローマ法の役権がどのように活用され、その時代ごとに合わせられていたのかを整理する。	120分
5	第一部 月5/4 第二部 水5/6	取得時効	取得時効の意義については、現在の民法学においてもさまざまな見解がある。この講義では、 ローマ法の「使用取得（usucapio）」などから派生した取得時効制度について、それが近世にお いてどのように発展・継承させられたのかを歴史的に概観する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、取得時効制度の歴史的発展を理解し、現代法の起源を把握して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における取得時効制度を復習する。	120分
		事後学修	近世に発展した取得時効制度を整理し、日本の民法典との異同に注意しつつ、取得時効制度の意義について 再考する。	120分
6	第一部 月5/11 第二部 水5/13	担保	担保制度は金融システムの発達を前提とするものであり、近世以降のグローバルな経済活動は、 その整備を要請していた。しかし、法学サイドからその需要に対する理解が十分にあったとは言 い難いものがある。この講義では、質制度をめぐる近世ドイツでの議論を中心に歴史的に概観 し、当時の法整備の困難さについて再確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、担保制度の発展史を理解し、現代の担保制度がどのような点でその問題を解決している のかを把握して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における担保制度について復習する。	120分
		事後学修	近世ドイツにおける質制度が、譲渡担保と質との混合形態として認識されていたことの意義をまとめ、現在 の日本法においてどのように分離されているかを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18 第二部 水5/20	物の自然な取得	人が物を取得するにあたっては、売買などの契約を通じてこれを行なうこともある一方、川の作用などによる自然現象によってこれが生じることもある。この講義では、近世において「自然な取得（acquisitio naturalis）」と呼ばれていた領域を紹介し、現代法と比較する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約などの取引によらない所有権取得の制度史を理解し、現代の民法典においてどのように活用されているのかを説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典において、取引によらずに所有権を取得する制度にはどのようなものがあるかを調べ、整理する。	120分
		事後学修	物の自然な取得と呼ばれた制度が、日本の民法典のどこに位置付けられているかをまとめる。	120分
8	第一部 月5/25 第二部 水5/27	契約の分類	法典編纂を行なうにあたって、社会で実践されているすべての契約類型を網羅的に規律することはできない。そこで、民法典において規律する典型契約とそれ以外のものを分ける作業が必要になる。この講義では、近世においてどのような契約が典型的とされたのかを概観し、そのカタログの意義について歴史的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの歴史的な意義を理解し、その整理がどのような基準にもとづいているのかを説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における典型契約を調べて整理する。	120分
		事後学修	近世において提示されたさまざまな契約カタログを整理し、それらが日本の民法典における契約カタログとどのように異なるのかをまとめる。	120分
9	第一部 月6/1 第二部 水6/3	給付の均衡	私たちが日常的に取引をするとき、そこには適正価格があることを無意識に前提してしまう。実際、適正価格の概念は法制度のなかでも重要な役割を果たしている。しかし、あたかも物に客観的に価値が付着しているかのように考えると、ある商品に対しては一定の金額を支払うべきだ、という給付の均衡の要請が出てくる。この講義では、給付の均衡が実際の経済システムでは虚構に近いことを踏まえつつ、法典編纂における価格規律の問題を歴史的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格形成が経済システムに依拠していることと、価格規制を行なう法制度との歴史的関係を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本において、取引価格を規制する法律にはどのようなものがあるかを調べる。	120分
		事後学修	取引価格を規制する法律の役割を整理し、それが経済システムが前提とする枠組みとどの程度まで整合的であるかを考察する。	120分
10	第一部 月6/8 第二部 水6/10	過失	過失は、不法行為における難問のひとつであり、近世においてもその理解の困難さは意識されていた。この講義では、法典編纂の機運の中で、過失概念が規律しやすいように単純化される過程を近世ドイツを中心に歴史的に概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一元的な過失理解が、法典編纂との関係でどのように進められたのかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	現在の民法学における過失の概念を復習する。	120分
		事後学修	段階的に理解されていた主観的な過失の定義が、違法性という基準に一元化されていくことの歴史的意義を再考する。	120分
11	第一部 月6/15 第二部 水6/17	無償契約	契約の大きな分類方法として、無償・有償契約がある。この分類は有益であるにもかかわらず、ローマ法には存在していなかった。さらに、近世に入って類似の分類が登場したときも、現在とは異なる理解をされていた。この講義では、無償・有償契約という分類の誕生の歴史的過程を概観し、その前半部として、無償契約を取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典にはどのような無償契約があるかを調べる。	120分
		事後学修	無償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。	120分
12	第一部 月6/22 第二部 水6/24	有償契約	この講義では、前回のテーマの後半部として、有償契約を取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典にはどのような有償契約があるかを調べる。	120分
		事後学修	有償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29 第二部 水7/1	家族制度	いわゆる家父長制が解体される前提として、親権概念の変化を挙げることができる。この講義では、親の権利から子に対する義務の履行へという親権概念の転換を概観しつつ、この啓蒙的発想がどの程度まで近世社会において見出されうるのかを歴史的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子の権利という発想の歴史的起源として、ドイツ啓蒙期における親権概念を把握し、説明することができる。	
		事前学修	日本の民法学において親権がどのように位置付けられているかを調べて整理する。	120分
		事後学修	親の権利から子に対する義務へ、という流れが、現代の国際的潮流とどの程度まで親和的であり、どこから異なっているのかを考察する。	120分
14	第一部 月7/6 第二部 水7/8	相続制度	相続がなぜ認められるのか、また、誰が相続するのか、という問題は、近世においてさまざまな角度から考察されてきた。この講義では、ローマ法上の遺言相続の原則から、無遺言相続の原則への転換期にあたる近世ドイツの諸制度を歴史的に概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、高齢社会における相続制度という問題と絡めて、その歴史的発展を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における相続制度を調べて整理する。	120分
		事後学修	相続制度を根拠づけるさまざまな理由について整理し、それらについて批判的な検討を加える。	120分
15	第一部 月7/13 第二部 水7/15	近世の法典編纂運動に関する有機的総括	第1回からの講義をまとめ、近世における法典編纂運動と各種法制度との相互関連を有機的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における諸制度と法典編纂の運動とを有機的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。	180分
		事後学修	近世における諸制度と法典編纂運動との関係を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。	60分

科目名	西洋法制史Ⅰ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
主として、講義形式で行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得しているかを評価する。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ法とヨーロッパ	ピーター・スタイン	ミネルヴァ書房	2003	参考書	推奨
近世・近代ヨーロッパの法学者たち	勝田有恒・山内進編	ミネルヴァ書房	2008	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室 yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	前学期オリエンテーション・ヨーロッパ法史概説	授業の進め方や成績評価について説明するとともに、ヨーロッパ法史全般について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
		事前学修	ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』、勝田有恒・山内進編『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』などを手がかりに、西洋法制史全般について概観しておくこと。	120分
		事後学修	指示された参考文献を参照しつつ、西洋法制史についての理解を深めておくこと。	120分
2	/	日本近代における西欧的法伝統	明治期における西欧法継受について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治期における西欧法継受について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び日本近代法史に関する参考文献を手がかりに、明治期における西欧法継受について概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、明治期における西欧法継受について基本的な理解を確認すること。	120分
3	/	ヨーロッパ法史の見方（1）	法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について、基本的な事項を概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ヨーロッパ各国の法のあり方について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
4	/	ヨーロッパ法史の見方（2）	法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について、基本的な事項を概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ヨーロッパ各国の法のあり方について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
5	/	古代ローマ（1）	「法律家」という観点からみたローマ法の形成について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「法律家」という観点からみたローマ法の形成について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、「法律家」という観点からみたローマ法の形成について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、「法律家」という観点からみたローマ法の形成について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
6	/	古代ローマ（2）	法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について基本的な理解を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	古代ローマ（3）	古典期におけるローマ法学成立と法学者のあり方について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期におけるローマ法学成立と法学者のあり方について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、法律家の営みとは何か、古典期ローマ法学の担い手であるローマ法学者の具体像について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、古典期におけるローマ法学成立と法学者のあり方について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
8	/	ユスティニアヌス法典の復活（1）	12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について基本的理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について基本的事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
9	/	ユスティニアヌス法典の復活（2）	注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について基本的理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
10	/	ユスティニアヌス法典の復活（3）	注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に基本的な理解を確認しておくこと。	120分
11	/	ローマ法と国民国家（1）	注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
12	/	ローマ法と国民国家（2）	人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ローマ法と国民国家（3）	ドイツにおけるローマ法の継受をめぐる諸問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツにおけるローマ法の継受をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ドイツにおけるローマ法の継受をめぐる諸問題について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
14	/	前期のまとめ	古代ローマからローマ法継受に至る時代を通観し、修得した基本的理解の成果を再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマからローマ法継受に至る時代を通観し、修得した基本的理解の成果を再確認する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、前期の講義内容を総復習しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、古代ローマからローマ法継受に至る時代を通観し、修得した基本的理解の成果を確認しておくこと。	120分
15	/	授業内試験及び解説・講評	授業内試験（60分）及び解説と講評（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの授業の内容を確認する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、前期の講義内容を総復習しておくこと。	120分
		事後学修	授業内試験の結果をふまえて、前期の講義内容を総復習しておくこと。	120分

科目名	西洋法制史Ⅱ	担当者	出雲 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
この講義では、配布したレジュメを中心に解説を行う。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。各講義の最後には、その回で学修したテーマに関する授業内試験を実施し、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な課題設定を通じたグループワークを行なう。グループワークにおいては、予習時に得た知識および講義中に解説した知識を用いて、具体的な事案に対する法的判断を話し合い、相互理解の共有を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。					2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得をめざすことを目標とする。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回実施する授業内試験の結果につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ書房	2004	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談izumo.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14 第二部 水9/16	契約カタログ	西洋法制史IIでは、西洋法制史Iで扱った近世における各種法制度と法典編纂運動との関係を、より理論的なレベルから考察を加える。まず、契約カタログに関わる諸理論の変遷史の概観を通じて、そもそも契約カタログにはどのような機能があるのかを歴史的に明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの意義を、単に実定法上のそれとしてではなく、法典編纂に必要不可欠な規律の方法論として理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における契約カタログによって規律されていない契約を調べる。	120分
		事後学修	契約カタログがない民法典は可能か、また、可能であるとすればどのような形態として可能かを考察する。	120分
2	第一部 月9/21 第二部 水9/23	貨幣と契約理論	契約において、一方の当事者が金銭によって給付を行なう場合、そこには貨幣が介在している。貨幣と何であるかは、近世においても多大な関心を払われていた。この講義では、当時の貨幣論のいくつかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約における貨幣の役割を再検討し、説明することができる。	
		事前学修	日本銀行券とは何であるかを調べる。	120分
		事後学修	近世における貨幣の理解と現代における貨幣の理解との異同を整理してまとめる。	120分
3	第一部 月9/28 第二部 水9/30	契約におけるリスク	契約には、必ずリスクが伴う。それは、債務者の不履行であったり、目的物の予期せぬ滅失によって生じる。この講義では、近世におけるリスクの概念を概観し、当時の人々がどのような対策を講じていたのかを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約におけるリスク概念の基礎を理解し、説明することができる。	
		事前学修	契約におけるリスクにはどのようなものがあるかを整理する。	120分
		事後学修	近世におけるリスク概念を整理し、現代におけるリスク対応との異同をまとめる。	120分
4	第一部 月10/5 第二部 水10/7	法的判断と推論	訴訟において、裁判官は法的推論を行なう。それは論理学に服さなければならないという主張は古くから唱えられてきたものの、法学者は法的推論といわゆる論理との差異に着目し続けてきた。この講義では、18世紀ドイツにおける論理主義の台頭と法学者サイドの反論を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法的三段論法といわゆる論理との異同について理解し、説明することができる。	
		事前学修	法的三段論法について調べて整理する。	120分
		事後学修	近世における論理主義と法学者とのあいだの議論を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
5	第一部 月10/12 第二部 水10/14	蓋然主義	ある複数の選択肢が与えられたとき、最も合理的なものを選択することが要請されていると考えてしまいがちである。しかし、歴史的にみると、最も合理的なものを選択せよ、という要請は自明でないだけでなく、強い反論に晒されていた。この講義では、その反論のひとつである蓋然主義を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中世神学において発達した蓋然主義を理解し、その現代的意義を考察し、説明することができる。	
		事前学修	ふたつの選択肢が与えられたときに、両方に誤りがみつからない場合の行動指針として、どのようなものが考えられるかを考察する。	120分
		事後学修	蓋然主義の内容を整理した上で、その現代的意義を考察する。	120分
6	第一部 月10/19 第二部 水10/21	証拠論	訴訟においては、証明が求められる。証明を行なうためには、何らかの証拠を提示する必要があるが生じる。この講義では、ある事実を証明するとはどういうことであるのか、また、そのために必要な証拠としてどのようなものが考えられていたのかを歴史的に概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴訟における証明と証拠の意義について再検討し、説明することができる。	
		事前学修	日本の法廷における証拠には、どのような種類があるかを調べる。	120分
		事後学修	歴史的に証拠と考えられてきたものを整理し、日本の法廷で扱われている証拠との異同をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26 第二部 水10/28	所有と幾何学	法の制度史、とりわけ領海概念に対しては、幾何学とその応用（測量）が重要な役割を果たしてきた。この講義では、17世紀に生じた領海に関する論争を出発点とし、その現代的意義について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と幾何学との関係を理解し、説明することができる。	
		事前学修	私たちが所有において視覚的情報に頼っているケースとしては、どのようなものがあるかを考える。	120分
		事後学修	所有と幾何学との歴史的関係を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
8	第一部 月11/9 第二部 水11/11	所有と力学	幾何学的な世界観とは別に、近世においては力学的な世界観から法制度を構築しようとする試みもあった。これは、当時の力学をどのように理解するかという科学史的な問題とも関連している。この講義では、単なる幾何学的な分割は所有の本質ではないとし、主体と客体との作用関係を所有の本質と見る近世の考え方を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と力学との関係を理解し、説明することができる。	
		事前学修	近世における力学の発展史を予習する。	120分
		事後学修	近世における力学の発展と、物体に対する作用としての所有という考え方を整理し、近代法にどのような影響があったかをまとめる。	120分
9	第一部 月11/16 第二部 水11/18	無体財産	無体財産は、幾何学的規制に服することが困難な財産であり、その規律は視覚情報とは別の規準によらなければならない。この講義では、18世紀における著作権の萌芽的議論を概観し、従来の所有と異なる無体財産に対する法制度の出発点を歴史的な観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無体財産に関する歴史的起源を理解し、説明することができる。	
		事前学修	現代における無体財産にはどのようなものがあるかを調べて整理する。	120分
		事後学修	近世において考えられていた無体財産の規律と、現代におけるそれとを比較してまとめる。	120分
10	第一部 月11/23 第二部 水11/25	人格の価値	人格に価値があることの発露として、名誉毀損に対する損害賠償請求を上げることができる。では、人格に価値がある、ということは、そもそもどのような事態を指しているのだろうか。この講義では、名誉毀損はありえない、という近世の一学説から出発して、人格の価値の本質を歴史的な観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人格の価値に関して歴史的な学説を踏まえた上で自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
		事前学修	名誉毀損に関する日本の民法典の規律を整理する。	120分
		事後学修	名誉毀損に関する歴史的な学説を整理し、日本の民法学に対してどのような示唆を加うるかを考察する。	120分
11	第一部 月11/30 第二部 水12/2	時効の意義と役割	時効制度はローマ法上の諸制度にヒントを得たものであるけれども、より抽象的な次元では、権利の永続性の問題へと帰着させることができる。すなわち、ある権利に一定の持続性が認められる根拠は何であり、その持続期間は何によって規定されているのか、という問題である。この講義では、所有権および債権に永続性が付与される可能性について歴史的な観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の権利の存続期間というものを設定できる根拠について自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
		事前学修	所有権に消滅時効が存在しないとされている理由について考える。	120分
		事後学修	所有権に消滅時効があるとすれば、どのような場合は、あるいは、消滅時効が存在しない債権というものは考えられるのかについて整理し、自分なりの見解をまとめる。	120分
12	第一部 月12/7 第二部 水12/9	条文の解釈とは何か	条文を解釈する、ということは、古くから法を巡って行なわれてきた作業である。しかし、歴史的にみると、近世までは、条文を解釈するのではなく、衡平などの上位規範によって条文を不適用にする、という発想もまた存在した。この講義では、ある条文を制限解釈することと、その条文を特定の事案に適用しないということとの間に何らかの差異がありうるかを中心に歴史的な観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条文の解釈という作業に関する近世の変遷を理解し、説明することができる。	
		事前学修	条文の解釈にはどのような種類があるかを整理する。	120分
		事後学修	条文を解釈することと、ある事案に対して特別なルールを設定して処理することとの間にはどのような違いがあるのかを考察し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14 第二部 水12/16	法典の複雑性について	法典は、規律を精緻にすればするほどよい、というわけではない。このことは、近世ドイツにおいては、法典編纂が実現するまえから意識されていた。この講義では、法典にとって必要不可欠な規範の量というものがあろうのか否かについて、歴史的観点を踏まえて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法典に収録する規範の量を判定する基準の有無および内容を、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
		事前学修	六法のそれぞれの法典にはどのような条文がどのくらいの量の条文があるのかを調べる。	120分
		事後学修	法典に収録する規範の量を考えるときの基準を整理し、具体的な法典がその基準からどのように評価されるかを考察する。	120分
14	第一部 月12/21 第二部 水12/23	規範の理解可能性について	人間の知的能力には限界がある。歴史的には、この知的能力の限界をかなり低く見積もる学派が存在し続けてきた。この講義では、法律というものが実際に人間にとって理解可能なものであるのか、という観点から、近世の議論を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規範の解釈可能性と人間という存在との関係について、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
		事前学修	通常人にとって、法律は理解可能なものであるか否かを考えて、肯定的な意見と否定的な意見とを考えて整理する。	120分
		事後学修	法律の理解可能性についての学説を整理し、現代の法学に対してどのような示唆を加えることができるかを考察する。	120分
15	第一部 月12/12 第二部 水12/13	近世の法制理論に関する有機的総括	第1回からの講義をまとめ、近世における法制度を巡る理論の相互関連を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における法制度を巡る議論の相互関連を有機的に理解し、説明することができる。	
		事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。	180分
		事後学修	近世における法制度を巡る議論の相互関連を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。	60分

科目名	西洋法制史Ⅱ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
主として、講義形式で行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得をめざすことを目標とする。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、解説と講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ法とヨーロッパ	ピーター・スタイン	ミネルヴァ書房	2003	参考書	推奨
近世・近代ヨーロッパの法学者たち	勝田有恒・山内進編	ミネルヴァ書房	2008	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室 yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	後学期オリエンテーション。ローマ法と法典編纂（１）	啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、１８世紀以後の主要な法学者について調べておくとともに、啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立について、基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立についての基本的な理解を確認しておくこと。	120分
2	/	ローマ法と法典編纂（２）	継受法学の展開、自然法と法律学について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、継受法学の展開、自然法と法律学について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、継受法学の展開、自然法と法律学について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、継受法学の展開、自然法と法律学について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
3	/	ローマ法と法典編纂（３）	啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
4	/	歴史法学とその時代（１）	19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
5	/	歴史法学とその時代（２）	19世紀初頭の法と政治及び法典論争の思想的背景について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀初頭の法と政治及び法典論争の思想的背景について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
6	/	歴史法学とその時代（３）	19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な理解を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	革命前の法と政治（１）	1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
8	/	革命前の法と政治（２）	1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事事前配布資料及び参考文献を手がかりに、1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
9	/	法実証主義の時代（１）	歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について、基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について、基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について、基本的な理解を確認しておくこと。	120分
10	/	法実証主義の時代（２）	19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
11	/	法実証主義の時代（３）	ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
12	/	ローマ法と２０世紀（１）	20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について基本的な理解を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ローマ法と20世紀（2）	20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について基本的な事項を把握しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について基本的な理解を確認しておくこと。	120分
14	/	後期のまとめ	近世自然法論、歴史法学、パンデクテン法学から20世紀に至る時代を通観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世自然法論、歴史法学、パンデクテン法学から20世紀に至る時代を通観し、基本的理解の成果を再確認する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、前期の講義内容を総復習しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、後期の講義内容を総復習しておくこと。	120分
15	/	授業内試験及び後期講義内容の振り返り	授業内試験及び後期講義内容の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の講義内容を確認する。	
		事前学修	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、後期の講義内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、試験の結果をふまえつつ、後期の講義内容をあらためて総復習しておくこと。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	浅野 一弘	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の日本政治を分析するにあたっては、自民党政権下で構築された「政・官・財」の“鉄の三角形”の存在を無視できない。つまり、「55年体制」のもとで生みだされた、さまざまな利権の構造を理解せずに、現代日本政治の本質を浮き彫りにすることは不可能ということになる。そこで、本演習においては、現代の日本政治の実態を把握するため、戦後日本政治全体を対象として、なぜ自民党の一党優位体制が、ながきにわたってつづいたのかについて考察していく予定でいる。その際、戦後の日米関係にも留意したい。なぜならば、戦後日本政治のトピックをみると、そこにはかならずといっていいほど米国の影がみえかくれしているからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
日本政治の現状を分析するための知識の修得をめざすとともに、受講者の関心にあった研究テーマの発見につとめる。そして、そのテーマをもとに、ゼミナール論文へとつなげていく。また、授業時に、グループごとでレジュメを作成したり、ディスカッションをおこなったりするが、こうした作業をつうじて、他者と協働していく意味を確認していく。

【履修条件】
現代日本政治に多大な関心を有していること。

【授業方法】
参加者は、テキストの担当部分を精読し、その内容をレジュメにまとめることを求められる。その際、たんにテキストの内容をまとめるだけではなく、日米両国の新聞・雑誌記事などを調べることはいうまでもない。さらに、インターネットなどを駆使して、多くの情報を収集することもこころがけてもらいたい。そして、担当者は、みずから作成したレジュメをもとに、各テーマの問題点や今後の展望などを詳細に報告する。その後、それにもとづいて参加者全員による活発な討論をおこなう。いうまでもないが、3年次に習得した知識をもとにして、次年度へとつなげていきたい。なお、10回ごとの授業を1つのパートとし、全体は、3部構成からなる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	本科目は、演習科目であるため、毎時間、ディスカッション中心の授業となることはいうまでもない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	55年体制下でおこった政治的事象について、説明することができる。【知識】					3	3						
②	日本政治のしくみについて、的確に説明することができる。【知識】					3	3						
③	民主党政権下の日本政治の特色について、説明することができる。【知識】					3	3						
④	過去の政治的事象を現在の政治状況にあてはめ、日本政治のかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】							3	3	3			3
⑤	日本政治の特質について議論した折りに、みずからの意見を表明するだけでなく、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】										3	3	3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標④⑤に関連して、授業時でのディスカッションの様子（他者の意見に耳をかたむけ、自分の意見を的確に表明できるか）について評価する。				15	15						30
授業への参画度	日本政治への知的好奇心をもって、授業にのぞんでいるかどうかについて、到達目標①②③④⑤との関連で評価する。				5	5						10
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次におこなうので、注意すること。											
その他(ゼミナール論文)	担当部分のレジュメの内容が、到達目標①②③を満たしているかについて評価する。くわえて、ゼミナール論文の構想などについても、評価の対象とする。	20	20	20								60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レジュメの内容や討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	教科書	必携
『増補版 民主党政権下の日本政治－鳩山・菅・野田の対米観－』	浅野一弘	同文館出版	2016	教科書	必携
『戦後政治－1945-55年－』上・下巻	升味準之輔	東京大学出版会	1983	参考書	推奨
『戦後日本外交史』1～7巻	山本進ほか	三省堂	1983-1985	参考書	推奨
『現代政治－1955年以降－』上・下巻	升味準之輔	東京大学出版会	1985	参考書	推奨
『現代日本政治史－政治改革と政権交代－』	薬師寺克行	有斐閣	2014	参考書	推奨
『ドキュメント 平成政治史』1～3巻	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	推奨
『日本内閣史録』5・6巻	林茂・辻清明編	第一法規	1981	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に研究室にくること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	保守合同の意味【第1部「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこない、保守合同の政治過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な保守合同に関して、内政・外交の両面から理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
2	第一部月 4/13	日ソ共同宣言【第1部「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下でだされた、日ソ共同宣言の政治過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な日ソ共同宣言の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
3	第一部月 4/20	安保改定【第1部「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこなうため、安保改定の政治過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な安保改定の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
4	第一部月 4/27	所得倍増計画【第1部「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこなうため、所得倍増計画の内容とそのインパクトについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な所得倍増計画のもつ政治的意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
5	第一部月 5/4	沖縄返還【第1部「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下で実現した、沖縄返還をめぐる政治過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な沖縄返還の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
6	第一部月 5/11	日中国交正常化【第1部「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下でなされた、日中国交正常化の政治過程について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な日中国交正常化の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	ロッキード事件【第1部 「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下で発生したロッキード事件の意味について、政・官・財の鉄の三角形という視点から、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要なロッキード事件の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
8	第一部月 5/25	日米「同盟」関係の進展【第1部 日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこなうため、米国との関係に注目する。とりわけ、日米「同盟」関係ということばのもつ意味について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な日米「同盟」関係の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
9	第一部月 6/1	リクルート事件【第1部 「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下でおこったリクルート事件の意味について、政・官・財の鉄の三角形という視点から、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要なリクルート事件の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
10	第一部月 6/8	55年体制の終焉【第1部 「55年体制」下の日本政治】	日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制が、どのような政治過程をへて、崩壊したのか、その経緯について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な55年体制がどうして終焉したのか、その政治過程を理解し、政権交代の意味についても説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
11	第一部月 6/15	国会のしくみ（制度論）【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである国会に着目して、制度論的なアプローチで検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である国会に関して、制度論的な方法で理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
12	第一部月 6/22	国会のしくみ（米国連邦議会との比較）【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである国会に着目して、米国との比較・検討によって、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である国会に関して、米国との比較によって理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	首相の役割（米国大統領との比較）【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである首相に関して、米国との比較・検討によって、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である首相に着目して、米国との比較によって理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
14	第一部月 7/6	首相のリーダーシップ（米国大統領との比較）【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである首相のリーダーシップに着目して、米国大統領との比較・検討によって、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である首相について、そのリーダーシップに着目し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
15	第一部月 7/13	衆議院議員総選挙【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治にとって重要な意味をもつ衆議院議員選挙に関して、その特色を検証し、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治にとって重要な意味をもつ衆議院議員選挙に着目して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
16	第一部月 9/14	参議院議員通常選挙【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治にとって重要な意味をもつ参議院議員選挙に着目して、その特色を検証し、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治にとって重要な意味をもつ参議院議員選挙に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
17	第一部月 9/21	政党【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである政党に関する検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である政党に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
18	第一部月 9/28	官僚制【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである官僚制に関する検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である官僚制に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 10/5	利益集団【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターである利益集団に関する検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である利益集団に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
20	第一部月 10/12	政治とメディア【第2部 日本政治のしくみ】	日本政治を動かす主要なアクターであるメディアに関する検討をおこない、日本政治とメディアとのかかわりについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在であるメディアに関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
21	第一部月 10/19	マニフェスト【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目されたマニフェストに関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となったマニフェストに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
22	第一部月 10/26	政治主導【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された政治主導に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった政治主導に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
23	第一部月 11/9	事業仕分け【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された事業仕分けに関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった事業仕分けに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
24	第一部月 11/16	政治とカネ【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下でも注目された政治とカネの問題に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった政治とカネに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部月 11/23	地域主権【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された地域主権に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった地域主権に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
26	第一部月 11/30	子ども手当【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された子ども手当に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった子ども手当に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
27	第一部月 12/7	TPP【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目されたTPPに関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となったTPPに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
28	第一部月 12/14	普天間飛行場移設問題【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された普天間飛行場移設問題に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった普天間飛行場移設問題に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
29	第一部月 12/21	尖閣諸島問題【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された尖閣諸島問題に関して、どのようなことがおこったのかを検討し、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった尖閣諸島問題に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分
30	第一部月 1/18	北方領土問題【第3部 政権交代後の日本政治】	民主党政権下で注目された北方領土問題がどの程度進展したのかを検討し、自公政権からの政権交代がどのような影響をもったのかについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった北方領土問題に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分
		事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	阿部 徳幸	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。ゼミ生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：税法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
税法に興味がある者・税理士・国税専門官を目指す者でゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
前学期：教員による各テーマに関して教科書をもとに基礎理論の解説を行う。解説ののちグループごとに当該テーマに関する現状と課題を探索し、報告する。その報告を受け、全体でさらにディスカッションを行う。 後学期：各グループに割り当てられたテーマに関してグループ報告を行う。その報告を受けて、全体でさらにディスカッションを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員による個別テーマについての解説、若しくはゼミ生による課題テーマに関する報告ののち、それぞれのテーマに関してグループディスカッション、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。				3	3						
②	学修者は、各個別税法の概要とその問題点が説明できる。				3	3						
③	学修者は、課されたテーマに関するグループ報告に積極的に参加し、グループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
④	学修者は、各テーマに関するグループディスカッションに積極的に参加し、その結果をグループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
⑤	学修者は、各自ゼミ終了論文のテーマを見出し、その内容を報告できる。				4	4	4	4				4
⑥	学修者は、ゼミの様々な行事を通じて、他者とのコミュニケーション力を養う。									2	2	
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各テーマに関するグループ報告に当たり、報告者以外の者は、その前週までに予習レジュメを作成と提出を求める。その予習レジュメの中で到達目標①②に関連し、各テーマに対する論理的思考力が養われているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等	前学期は税法基礎理論に関する講義を行う。後学期は各テーマに関するグループ報告を行う。その翌週の授業内において、その報告に基づく討論を行う。その中で、到達目標③④⑤に関わる課題の論理的考察力及び討論への積極的参加、意見の明瞭性・論理性及び他者の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べる事が出来たかをチェックリスト等により評価する。			10	10	10						30
授業への参画度	ゼミナールでは、一般授業と異なり合宿等をはじめいくつもの行事が予定されている。到達目標⑥に関連し、トータルのに評価する。						10					10
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミ終了論文の提出は必須。論文としての形式が整っていること、挑戦力、論理的・批判的思考力及び問題発見・解決力などにより総合的に評価する。					30						30
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	40	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾第10版』	石村耕治	清文社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16：30以降、9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ゼミでの学び方	ゼミとはいったいどういうものなのか？ゼミではいったいなにも学ぶのか？学部税法授業とはどのように、何が違うのか？ゼミでの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、ゼミにおいて税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活においてどのように役立つかを習得し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	自分の身の回りにはどのような税があるのか？これらの税はどのようなものなのか？例えば国税庁のWEBサイトなどにより確認する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認するとともに、教科書全体を概観し、ゼミにおける講義というものを考察する。	120分
2	4/13	税法基礎理論 1 租税とは何か	そもそも租税とはいったい何なのか、なぜわれわれは税を納付しなければならないのか、また税にはどのような種類のものがあるのかといった内容を確認する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、租税の意義、納税の根拠及び税の種類を理解し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	4/20	税法基礎理論 2 租税法律主義	国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、地方税における租税条約主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	4/27	税法基礎理論 3 税法の解釈適用と実質課税の原則	税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」・「固有概念と借用概念」・「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」・「固有概念と借用概念」・「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
5	5/4	税法基礎理論 4 租税負担公平原則・応能負担原則	「租税負担公平原則」、租税立法上の原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、「租税負担公平原則」、租税立法上の原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	5/11	税法基礎理論 5 課税最低限と課税の限界	わが国所得税法における「課税最低限と課税の限界」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、わが国所得税法における「課税最低限と課税の限界」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	税法基礎理論 6 租税法律関係	納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	5/25	税法基礎理論 7 租税法と信義誠実の原則	私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	6/1	税法基礎理論 8 税の使途	税の問題は一般的に納税者からすれば納付に関する内容ばかりが問題とされる。しかし、納付の場面で民主的な制度が構築されていても、その使途が非民主的では意味がない。ここでは税の使途に関する法制度とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、税の使途に関する法制度とその問題点を理解し、その説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	6/8	租税手続法 1 納税義務の成立と確定	納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	6/15	租税手続法 2 税務調査	税務調査の種類とその内容、各国が競い合うように制定する「納税者権利憲章」とわが国における現状を確認し、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、税務調査の種類とその内容、各国の納税者権利憲章制定の背景とわが国の現状を理解し説明ができ、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を理解し、これらの内容を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	6/22	租税手続法 3 滞納処分	近年増加傾向にある税金等の滞納処分、この滞納処分の仕組みとその制度的問題点を習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、滞納処分の仕組みとその制度的問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	租税救済法	税務争訟は、大きく不服申立制度と租税裁判に区分される。それらそれぞれの内容とその問題点を習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、租税における不服申立制度と租税裁判、それらそれぞれの内容とその問題点を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	7/6	租税制裁法	租税犯とはいったい何をいうのであろうか。この租税犯の意義を明確にするとともに、一般刑法との関係を理解する。併せて附帯税とは何を言うのか、どのような場合に附帯税が適用されるのかを理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、租税犯の意義、一般刑法との関係、さらに租税犯と附帯税との関係を理解し、これらの内容を理解し、説明ができる。	
		事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
		事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	7/13	夏合宿におけるグループ報告について	前学期の総復習となる夏合宿におけるグループ報告におけるそれぞれのテーマについて、その報告について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、前学期の総復習となる夏合宿におけるグループ報告のテーマに対する内容はもとより、その報告の方法、役割分担などをグループごとに決定する。	
		事前学修	グループ報告のテーマの確認と、当該テーマに関する教科書の該当箇所、授業ノートなどを確認する。	120分
		事後学修	授業中において行われたグループごとの決定事項などを確認する。	120分
16	9/14	後学期におけるゼミでの学び方	後学期では、それぞれグループ発表とそのテーマに対するグループディスカッションを行う。その結果として、各自ゼミ終了論文のテーマを決定することになる。そのためのゼミでの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、ゼミにおいて税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活においてどのように役立つのかを習得し、これらの内容が説明できる。	
		事前学修	ゼミ終了論文のテーマ選定を意識しながら前期における講義ノートを確認するとともに、教科書全体を概観し、後学期のゼミにおける講義というものを考察する。	120分
		事後学修	ゼミ終了論文のテーマ選定とはどういうことなのか、授業内容を振り返り自分なりにまとめる。	120分
17	9/21	グループ報告「なぜ税は必要なのか」	「なぜ税は必要なのか」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「なぜ税は必要なのか」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
18	9/28	グループ報告「税とは何か、誰が、どう払うのか」	「税とは何か、誰が、どう払うのか」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「税とは何か、誰が、どう払うのか」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	グループ報告「なぜ税は必要なのか」、「税とは何か、誰が、どう払うのか」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「なぜ税は必要なのか」、「税とは何か、誰が、どう払うのか」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
		事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
20	10/12	グループ報告「人の懐から払う所得税とは何か」	「人の懐から払う所得税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「人の懐から払う所得税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
21	10/19	グループ報告「人の懐から払う所得税とは何か」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「人の懐から払う所得税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
		事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
22	10/26	グループ報告「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」	「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
23	11/9	グループ報告「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
		事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
24	11/16	グループ報告「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」	「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、グループ報告「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	グループ報告「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
		事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
26	11/30	グループ報告「地域社会のための税、地方税とは何か」	「地域社会のための税、地方税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、グループ報告「地域社会のための税、地方税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
27	12/7	グループ報告「地域社会のための税、地方税とは何か」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「地域社会のための税、地方税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
		事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
28	12/14	グループ報告「明日の税のために、支えあう社会を目指して」	「明日の税のために、支えあう社会を目指して」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「明日の税のために、支えあう社会を目指して」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
29	12/21	グループ報告「明日の税のために、支えあう社会を目指して」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「明日の税のために、支えあう社会を目指して」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
		事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
		事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
30	1/18	ゼミ終了論文のテーマの選定方法	春休みにおける宿題となる「ゼミ終了論文のテーマの選定」とその方法、論文の書き方の解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、「ゼミ終了論文のテーマの選定」とその方法、論文の書き方の解説を理解し、説明できる。	
		事前学修	授業ノート、訂正版予習レジュメ全体を再確認し、各自が興味あるテーマを検討する。	120分
		事後学修	興味あるテーマとテーマ選定方法が合致しているか、論文の書き方を確認する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
【3年次】 国内外の政治制度や政治機構の仕組みについて深く理解し、それらの制度や機構が政治行動にもたらすダイナミズムを明らかにする。 【4年次】 3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【3年次】 政治制度の基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 【4年次】 3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探求心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
【3年次】政治制度・統治機構に関する書籍を取り上げ、その書籍の各章について、毎回全員がレポートを書き発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。 【4年次】各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中にグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				3							
②	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				3	3						
③	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐるどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				3	3	3	3				
⑤	政治制度をめぐる対立の解決のために必要な対策について、政治的市民としての責任を踏まえて、積極的に提示することができる。				3	3	3	3	3			
⑥	グループワークを通じて、政治制度をめぐる論点に関する自らの理解とあるべき対応策について、他者に論理的に主張することができる。				3	3	3	3	3	3		
⑦	グループワークを通じて、異なる考えや思想を持つ他者とコミュニケーションを図り、一方的な意見の押し付けではなく、相互的な自己変容を実現することができる。				3	3	3	3	3	3	3	
⑧	政治制度をめぐる自らの理解とあるべき対応策について、様々な理論やモデルおよび現実の政治的・社会的状況を踏まえて評価し、必要に応じて改善することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②③④⑤にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。		5	5	5	5						20
討論・発表等	グループワークにおいて、異なる他者の考えを踏まえつつ自らの主張を論理的に示し、かつディスカッションを通じて省察することができたかを基準に、到達目標⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。						10	10	5			25
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①⑤⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5							5			10
その他(ゼミナール論文)	各自の興味・関心に沿った研究テーマについてゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	10	10						45
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	15	15	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
授業中に適宜指示する					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントを取る） 9号館4階9403研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/17	レポート発表とグループワーク(1)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	4/24	レポート発表とグループワーク(2)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	5/1	レポート発表とグループワーク(3)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	5/8	レポート発表とグループワーク(4)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	5/15	レポート発表とグループワーク(5)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	レポート発表とグループワーク (6)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	5/29	レポート発表とグループワーク (7)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	6/5	レポート発表とグループワーク (8)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	6/12	レポート発表とグループワーク (9)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	6/19	レポート発表とグループワーク (10)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	6/26	レポート発表とグループワーク (11)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	レポート発表とグループワーク (12)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	7/10	レポート発表とグループワーク (13)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
15	7/17	レポート発表とグループワーク (14)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
16	9/18	レポート発表とグループワーク (15)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
17	9/25	レポート発表とグループワーク (16)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
18	10/2	レポート発表とグループワーク (17)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	レポート発表とグループワーク (18)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
20	10/16	レポート発表とグループワーク (19)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
21	10/23	レポート発表とグループワーク (20)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
22	10/30	レポート発表とグループワーク (21)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
23	11/6	レポート発表とグループワーク (22)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
24	11/13	レポート発表とグループワーク (23)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	レポート発表とグループワーク (24)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
26	11/27	レポート発表とグループワーク (25)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
27	12/4	レポート発表とグループワーク (26)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
28	12/11	レポート発表とグループワーク (27)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
29	12/18	レポート発表とグループワーク (28)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
30	12/25	レポート発表とグループワーク (29)	指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
		事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ファイナンス（特に、コーポレートファイナンス）に関わる未解明の問題を理論的・実証的に解明し、その成果を論文としてまとめる。 3年次：ファイナンス論とデータ分析の基礎を習得し、グループで論文を執筆する。 4年次：3年次に培った論理的な思考能力と証拠を提示する力を駆使して、各自が設定したテーマについて論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見し、その問題を解明するための研究活動を通して、論理的な思考能力を高める。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
主に、学生による発表と討論、それに対する教員のフィードバックによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表や討論、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ファイナンス論とデータ分析の基礎を習得し、応用することができる。				4	4						
②	論理的で説得力のある発表をすることができる。						4	4		4	4	4
③	討論において、論理的で説得力のある意見を述べるすることができる。						4	4		4	4	4
④	先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。				4	4	4	4	4			
⑤	独自性が高く、論理的で説得力のある論文を書くことができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥	ゼミナールメンバーの一員として、責任のある行動ができる。								4	4	4	4
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ファイナンス論やデータ分析の考え方を習得した上で、論理的で説得力のある発表ができたか、また、討論において自分の意見を述べることでできたかを基準に、目標①②③④の達成度を評価する。	5	10	10	5							30
授業への参画度	ゼミナールメンバーの一員としての自覚を持ち、積極的にゼミナール活動に参加・貢献したかを基準に、達成目標⑥を評価する。						10					10
その他(ゼミナール論文)	論理的で説得力のあるグループ論文を書けたか、また、先行研究に対して貢献のある独自性の高いグループ論文を書けたかを基準に、達成目標①④⑤を評価する。	10			10	40						60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	10	15	40	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内で随時フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（1）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
2	第一部 水4/15	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（2）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
3	第一部 水4/22	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（3）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
4	第一部 水4/29	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（4）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
5	第一部 水5/9	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（5）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
6	第一部 水5/13	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（6）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（7）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
8	第一部 水5/27	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（8）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
9	第一部 水6/3	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（9）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
10	第一部 水6/10	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（10）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
11	第一部 水6/17	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（11）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
12	第一部 水6/24	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（12）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（13）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読し、内容に関して討論を行う。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
		事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
14	第一部 水7/8	グループ論文のテーマ決め（1）	グループ論文のテーマの候補を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。	
		事前学修	関心のあるテーマの関して、先行研究を渉猟する。	120分
		事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、研究テーマを決定する。	120分
15	第一部 水7/15	グループ論文のテーマ決め（2）	グループ論文のテーマの候補を発表する。	
		この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。	
		事前学修	関心のあるテーマの関して、先行研究を渉猟する。	120分
		事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、研究テーマを決定する。	120分
16	第一部 水9/16	グループ論文の進捗報告（1）	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
17	第一部 水9/23	グループ論文の進捗報告（2）	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
18	第一部 水9/30	グループ論文の進捗報告（3）	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水10/7	グループ論文の進捗報告 (4)	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
20	第一部 水10/14	グループ論文の進捗報告 (5)	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
21	第一部 水10/21	グループ論文の進捗報告 (6)	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して、研究を進める。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
22	第一部 水10/28	グループ論文の進捗報告 (7)	グループ論文の進捗を報告する。	
		この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
		事前学修	グループで協力して、研究を進める。	120分
		事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
23	第一部 水11/11	論文紹介 (1)	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
		この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
		事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分
24	第一部 水11/18	論文紹介 (2)	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
		この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
		事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
		事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	第一部 水11/25	論文紹介（3）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。
		この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。
		事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。120分
		事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。120分
26	第一部 水12/2	論文紹介（4）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。
		この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。
		事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。120分
		事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。120分
27	第一部 水12/9	論文紹介（5）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。
		この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。
		事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。120分
		事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。120分
28	第一部 水12/16	論文紹介（6）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。
		この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。
		事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。120分
		事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。120分
29	第一部 水12/23	ゼミナール論文のテーマ発表（1）	ゼミナール論文のテーマの候補を発表する。
		この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。
		事前学修	関心のあるテーマのに関して、先行研究を渉猟する。120分
		事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、ゼミナール論文のテーマを決定する。120分
30	第一部 水1/13	ゼミナール論文のテーマ発表（2）	ゼミナール論文のテーマの候補を発表する。
		この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。
		事前学修	関心のあるテーマのに関して、先行研究を渉猟する。120分
		事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、ゼミナール論文のテーマを決定する。120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ディベートや研究発表を通じて憲法に関する学修を深めるとともに、ゼミナール論文で取り上げる研究テーマをみずから発見する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法改正など、日本国憲法に関して将来生じうる国民的課題に、有権者として、適切に対処できる判断力を身につけるために、憲法の基礎理論、人権、統治機構に関する知識を深め、これを基に、さまざまな社会問題を憲法との関連において考察し、その解決策を提案する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オリジナル教材を用いてディベートや研究発表・学術論文の技法を教授し、教科書を羅針盤として基礎的な知識を確認するための講義を行ったうえで、憲法問題に関するいくつかのテーマを設定し、グループ・ディスカッションをふまえたディベートや研究発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション，ディベート，研究発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	憲法に関して生じている諸問題の所在や意義，学術研究の技法を説明することができる。				3	3		3					
②	設定された問題について，他者と協働して，先行研究たる文献・資料を収集し，整理することができる。									3	3		
③	学術研究の技法に則り，他者と協働して，ディベートや研究発表のペーパー類を作成することができる。							4	4	3	3	3	
④	ディベートや研究発表を通じて，他者の意見を評価・批判し，自己の意見を述べるとともに，設定された問題をめぐり，新たな知見を示すことができる。						4	4	4	3	3	3	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト，ワークシートにより，到達目標①に関する能力が身についているかを評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等	グループ・ワーク，グループ・ディスカッション，ディベート，グループ研究発表により，到達目標②③④に関する能力が身についているかを評価する。		30	30	30							90
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し，成績評価は4年次に行う】											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
当日または次週のゼミで解説・講評等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	授業案内・導入	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法学部カリキュラムにおけるゼミナールの位置づけ等を説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，ゼミナールを通じて憲法を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	60分
2	/	研究発表・論文の技法（1）	文献・資料の収集とノートの作成，発表と論文の標準的な構成，法律学・政治学論文の文章作法などを説明し，履修者が学術研究の技法を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，学術研究の技法を理解し，説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材「発表と論文の手引き」pp. 1-4を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り，学術研究の技法をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	/	研究発表・論文の技法（2）	学術論文等における註の役割と表記方法を説明し，ワークを行うことを通じて，履修者が正しく註を表記することができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，註の役割を理解し，これを正しく表記することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材「発表と論文の手引き」pp. 5-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	90分
		事後学修	授業を振り返り，ワークを通じてみつけた問題に注意して，いま一度ワークを行い，正しく註を表記することができるようにする。	90分
4	/	原稿作成の方法（1）	小論文フルペーパーの実例を用いて，学術論文の標準的な構成や論旨の展開を説明し，履修者が学術研究の技法を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，学術論文の標準的な構成や論旨の展開を理解し，実例として用いられたペーパーの論旨を説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材「フルペーパー例（2,000字）」を熟読し，その論旨をノートにまとめておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，事前学修でまとめたノートに必要な修正を加えて，実例として用いられたペーパーの論旨を正しく説明できるようにする。	60分
5	/	原稿作成の方法（2）	履修者が，各自，指導教員が提供した論文の一例をMS-Wordを用いて書写したものを，指導教員がリアルタイムに書き進めていく過程と照らし合わせることによって，履修者が原稿作成の実際のプロセスを理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，正しい書式・表記で学術論文の原稿を作成することができる。	
		事前学修	事前に配布する論文の抜粋部分を，MS-Wordを用いて書写し，授業に持参する。	120分
		事後学修	授業を振り返り，自分が行った書写の問題点を確認し，その部分を正しく表記できるようにする。	60分
6	/	フルペーパーの作成・発表（1）	憲法問題についてのフルペーパー（2,000字程度）を作成・発表させ，これに講評を加えることを通じて，履修者が論理的な文章を作成できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，文献・資料を調べ，それを基にフルペーパーを作成・発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，「憲法総論」，「天皇」，「戦争の放棄」，「個人の尊重と幸福追求権」，「法の下での平等」，のいずれかにかかわりのある憲法問題を取り上げ，フルペーパー（2,000字程度）を作成して事前配布する。他の者は，これらの分野に関する教科書の記述を熟読し，その概要をノートにまとめたうえでゼミに臨む。	180分
		事後学修	授業を振り返り，ペーパー作成の方法に関して得たことをノートにまとめておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	フルペーパーの作成・発表 (2)	憲法問題についてのフルペーパー（2,000字程度）を作成・発表させ、これに講評を加えることを通じて、履修者が論理的な文章を作成できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文献・資料を調べ、それを基にフルペーパーを作成・発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、「精神的自由権」、「経済的自由権」、「身体的自由権」、「受益権」、「社会権」のいずれかにかかわりのある憲法問題を取り上げ、フルペーパー（2,000字程度）を作成して事前配布する。他の者は、これらの分野に関する教科書の記述を熟読し、その概要をノートにまとめたうえでゼミに臨む。	180分
		事後学修	授業を振り返り、ペーパー作成の方法に関して得たことをノートにまとめておく。	60分
8	/	フルペーパーの作成・発表 (3)	憲法問題についてのフルペーパー（2,000字程度）を作成・発表させ、これに講評を加えることを通じて、履修者が論理的な文章を作成できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文献・資料を調べ、それを基にフルペーパーを作成・発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、「国会」、「内閣」、「裁判所」、「財政」、「地方自治」のいずれかにかかわりのある憲法問題を取り上げ、フルペーパー（2,000字程度）を作成して事前配布する。他の者は、これらの分野に関する教科書の記述を熟読し、その概要をノートにまとめたうえでゼミに臨む。	180分
		事後学修	授業を振り返り、ペーパー作成の方法に関して得たことをノートにまとめておく。	60分
9	/	ディベートの意義・方法	ディベートの意義および具体的な方法を説明し、履修者がこれを理解し実践できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ディベートの意義および方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材「ディベートの手引き」を通読し、概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り、ディベートの意義および方法をノートにまとめ、説明できるようにする。	60分
10	/	ディベート（その1）の準備 (1)	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関するディベートを行うため、PRO、CON、FLOORそれぞれのグループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
		事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
		事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
11	/	ディベート（その1）の準備 (2)	PRO、CONの各グループは、ディベート第1立論の原稿（フルペーパー）を作成する。FLOORのグループは、論点を整理し、PRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、ディベートのペーパー類を作成することができる。	
		事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
		事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
12	/	ディベート（その1）の実施	ディベート（その1）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ディベート（その2）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関するディベートを行うため、PRO、CON、FLOORそれぞれのグループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
		事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
		事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
14	/	ディベート（その2）の準備（2）	PRO、CONの各グループは、ディベート第1立論の原稿（フルペーパー）を作成する。FLOORのグループは、論点を整理し、PRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、ディベートのペーパー類を作成することができる。	
		事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
		事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
15	/	ディベート（その2）の実施	ディベート（その2）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。	60分
16	/	前学期の振り返り・後学期の準備	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程、前学期のゼミ内容が後学期にどう関連しているか等を説明し、履修者が後学期授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゼミナールを通じて憲法を学ぶ意義を理解し、説明することができる。	
		事前学修	前学期に配布したすべての教材（教科書を除く。）を通読し、復習しておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り、ノートを確認して、後学期の学修計画を立てる。	60分
17	/	共同研究発表（その1）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関する共同研究発表を行うため、グループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
		事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
		事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
18	/	共同研究発表（その1）の準備（2）	グループごとに、共同研究発表の原稿（フルペーパー）を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、共同研究発表のペーパー類を作成することができる。	
		事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
		事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	共同研究発表（その1）の実施	共同研究発表（その1）を実施し、学生相互の意見交換および指導教員による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、共同研究発表を通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	各グループは、発表のリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	自分のグループの共同研究発表を通じて得られた知見等をノートにまとめておく。	60分
20	/	ディベート（公開ゼミ）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関するディベートを行うため、PRO、CON、FLOORそれぞれのグループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
		事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
		事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
21	/	ディベート（公開ゼミ）の準備（2）	PRO、CONの各グループは、ディベート第1立論の原稿（フルペーパー）を作成する。FLOORのグループは、論点を整理し、PRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、ディベートのペーパー類を作成することができる。	
		事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
		事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
22	/	ディベート（公開ゼミ）の実施	ディベート（公開ゼミ）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。	60分
23	/	ディベート（公開ゼミ）の実施	ディベート（公開ゼミ）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。	60分
24	/	共同研究発表（その2）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関する共同研究発表を行うため、グループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
		事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
		事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	共同研究発表（その2）の準備（2）	グループごとに、共同研究発表の原稿（フルペーパー）を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、共同研究発表のペーパー類を作成することができる。	
		事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
		事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
26	/	共同研究発表（その2）の実施	共同研究発表（その2）を実施し、学生相互の意見交換および指導教員による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、共同研究発表を通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	各グループは、発表のリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	自分のグループの共同研究発表を通じて得られた知見等をノートにまとめておく。	60分
27	/	共同研究発表（その3）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関する共同研究発表を行うため、グループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
		事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
		事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
28	/	共同研究発表（その3）の準備（2）	グループごとに、共同研究発表の原稿（フルペーパー）を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、共同研究発表のペーパー類を作成することができる。	
		事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
		事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
29	/	共同研究発表（その3）の実施	共同研究発表（その3）を実施し、学生相互の意見交換および指導教員による講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、共同研究発表を通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
		事前学修	各グループは、発表のリハーサルを行っておく。	60分
		事後学修	自分のグループの共同研究発表を通じて得られた知見等をノートにまとめておく。	60分
30	/	ゼミ論計画に関する発表	ゼミナール4年で作成するゼミナール論文の構想を発表する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゼミナール論文の計画を立て、その構想・概要についての見通しを説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の構想をまとめ、所定の期日までにゼミ共有フォルダにアップロードする。	90分
		事後学修	他の履修者や教員からの指摘をふまえ、ゼミナール論文の構想に必要な修正を加える。	30分

科目名	ゼミナール3年	担当者	石川 徳幸	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
所属するゼミの専門領域に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワーク、学生フォーラムへの参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など、ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						3					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							3				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								3			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									3		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										3	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											3
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①～⑤に関連し、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる事ができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	90分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	90分
2	第一部 月4/13	専門演習(1)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
3	第一部 月4/20	専門演習(2)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
4	第一部 月4/27	専門演習(3)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
5	第一部 月5/4	専門演習(4)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
6	第一部 月5/11	専門演習(5)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	専門演習(6)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
8	第一部 月5/25	専門演習(7)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
9	第一部 月6/1	専門演習(8)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
10	第一部 月6/8	専門演習(9)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
11	第一部 月6/15	専門演習(10)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
12	第一部 月6/22	専門演習(11)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	専門演習(12)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
14	第一部 月7/6	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
15	第一部 月7/13	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
16	第一部 月9/14	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
17	第一部 月9/21	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
18	第一部 月9/28	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 月10/5	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
20	第一部 月10/12	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
21	第一部 月10/19	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
22	第一部 月10/26	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
23	第一部 月11/9	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
24	第一部 月11/16	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 月11/23	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
26	第一部 月11/30	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
27	第一部 月12/7	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
28	第一部 月12/14	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
29	第一部 月12/21	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
30	第一部 月1/18	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分

科目名	ゼミナール3年	担当者	出雲 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
立法の歴史を通じて、ルールを作るとは何か、ということを考えていく。今年度は西迫大祐『感染症と法の社会史』（新曜社、2018年）をテキストに指定し、感染症をめぐる18・19世紀の法制史を概観する。感染症に対する立法は、差別、パターナリズム、貧困政策などの論点が複雑に絡み合った領域であり、リーガル・マインドに必要な知識の総覧に適した素材である。学生はこの素材を通じて、法の歴史と実社会とを架橋するスキルを修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
このゼミの目的は、18・19世紀の感染症をめぐる法制史を通じて、ルールを作るとはどのようなことであるかを理解し、実社会に応用するスキルを身につけることにある。理想的な状況を目指す規則が良いルールであるとは限らず、高度な理論に支えられた規則が良いルールであるとも限らない。学生がルールと理想とを区別し、どのようなファクターを考慮しつつルール設計をしなければならないのかを理解かつ実践することを目標とする。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
3年次は西迫大祐『感染症と法の社会史』（新曜社、2018年）を輪読する。グループごとに担当部分をまとめ、レジュメを準備した上で発表し、他のゼミ生と議論する。4年次のゼミナール論文は、ルール設計という観点から各人に関心のあるテーマを選んでもらい、それについて執筆指導を行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の発表で、学生同士のディスカッションを行なう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	立法の歴史を学び、立法者たちがルール作りにあたってどのような問題に直面し、どのような工夫をこらしてきたのかを理解する。				3	3						
②	現在の立法学にはどのような立法理論が存在し、どのような議論が行なわれているのかを理解する。				3	3	3					
③	特定の法制度等を踏まえたうえで、適切な分析と批判を加えることができる。					4	4					
④	既存のルールについて、その問題点を発見し、解決案を提示することができる。						4	4	4			
⑤	自分の意見を他の学生に対して適切に伝達し、円滑な議論を行なうことができる。						3			3		
⑥	現実の問題に照らしたルール設計を試み、チームで協働してひとつの具体的なモデルを組むことができる。							3	4	3	3	
⑦	自分たちが作ったルールに対する批判に真摯に応え、反省を加えることができる。									3		3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分が担当するテーマについてレジュメを作成・発表し、他の学生からの質疑に対して適切に応答する。レジュメ、発表、質疑応答のそれぞれの内容を基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	自分が担当していないテーマについて発表者の発表をよく理解し、その理解を掘り下げるために適切な討論を行なう。討論への参加の積極性および発言の内容等を基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他(ゼミナール論文)	ルール設計という観点から、自己の関心に合った具体的な法制度等に着目し、当該制度等に対する分析、考察、提案を含むゼミナール論文を完成させる。論文のスタイル、内容および中間発表を基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	10	10	10	5	5	5				50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	20	20	20	15	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミで前回分の講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
感染症と法の社会史	西迫大祐	新曜社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談izumo.takashi@nihon-u.ac.jp）研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 月4/6	オリエンテーション及び導入講義	関心のあるテーマを含めた自己紹介を行ない、担当を割り当てる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、立法の歴史を振り返ることの意義を説明することができる。	
		事前学修	テキストを通覧し、担当したい箇所を決める。	180分
		事後学修	自分が割り当てられた箇所を再読する。	60分
2	第1部 月4/13	近代史以前の感染症対策	感染症対策の前史として、近代以前の「汚れ」という考え方を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「序章 ミアズマと感染」（19-40頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
3	第1部 月4/20	ペストの通史	古くから深刻な感染症であったペストの歴史を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「ペストの惨禍」以降（40-54頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
4	第1部 月4/27	1720年のマルセイユペスト	第4回からは個別的な近代史を分析する。1720年に発生したマルセイユでのペスト惨禍は、公衆衛生が未発達な時代の最後に位置する大流行であり、それ以降の公衆衛生の発達に繋がる重要なケーススタディとなる。まずは1720年のペスト流行の経緯を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第1章 マルセイユのペスト」（56-69頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
5	第1部 月5/4	マルセイユ市の再建	ペスト惨禍後のマルセイユ市の再建政策と法の役割について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「ランジュロンによる市の再建1」以降（69-83頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
6	第1部 月5/11	ペストと都市構造	ペストの発生源であった不衛生地区と都市構造とについて概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第4章 悪臭と密集」（84-95頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 月5/18	埋葬の問題	感染症による死者の増加に伴い、埋葬の問題が発生する。遺体の放置は衛生環境を悪化させるため、何らかのかたちで処置を施す必要があるものの、受入の拒絶等により実現が困難な場合がある。このような観点から、パリ市などにおける埋葬の対処法について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「埋葬の問題」（95-104頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
8	第1部 月5/25	通気政策	感染症の拡散を防止するためには、閉鎖的な空間における空気のエ循環を防止しなければならない。18世紀における通気の法制史について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「換気と移転」（104-114頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
9	第1部 月6/1	衛生思想（総論）	衛生問題は18世紀の思想家たちにも影響を与えた。第9回から第11回までは、フランスの思想家ルソーとカバニスの見解を概観する。まず、第9回では総論部分を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第3章 腐敗と衛生」（115-127頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
10	第1部 月6/8	衛生思想（ルソー）	第10回ではルソーの衛生学を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「ルソーにおける身体と精神の衛生学」（127-135頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
11	第1部 月6/15	衛生思想（カバニス）	第11回ではカバニスの衛生学を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「カバニスにおける身体と精神」（136-146頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
12	第1部 月6/22	統計の法制史	感染症の発生は、予防接種という政策を誕生させた。しかし、18世紀に生まれた予防接種は、それによって児童が死亡するケースがあり、将来の感染症の予防のためにリスクを負わせてよいのか否かが議論された。これに伴って、統計と確率という発想が生まれる。立法における統計・確率の役割について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「生命の確率」（147-165頁）の第3章を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 月6/29	1832年のコレラ	ペストが克服されつつあったヨーロッパに、新手の感染症であるコレラが到達した。フランスでは1832年に蔓延した。コレラにはペストから得られた知見があまり役立たず、行政介入は混乱を極めた。このような行政介入の失敗の経緯を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第5章 感染症の衛生的統治」（168-186頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
14	第1部 月7/6	1832年のコレラと貧困	1832年のコレラ発生後、研究者たちは統計学にもとづき、コレラの蔓延は貧困および不衛生な環境と対応していることを突き止めた。この発見は、貧困層を隔離しようとする政策と、貧困層を助けようとする政策との対立をもたらした。すなわち、公衆衛生は単なる自然科学の問題ではなく、多分に思想的な側面を有している。このことを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「コレラの後で」（186-201頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
15	第1部 月7/13	精神的伝染病	1832年のコレラで発見された貧困と罹患率との関係は、貧困層の生活改善を要求した。ところが、この要求は一方で、生活スタイルと病気には密接な関係があり、例えば精神異常なども同様の原因から伝染するのだ、という仮説を生み出した。デュルケムの『自殺論』においてもこの仮説が登場する。この学説史を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第6章 手本の感染」（202-214頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
16	第1部 月9/14	アルコール中毒問題	フランスの医師ヴィレルメは、アルコール中毒も精神的感染症であり、アルコール中毒患者からの習慣の感染によって発生すると考えていた。当時のフランス織物労働者におけるアルコール中毒問題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「ヴィレルメと飲酒癖の感染」（214-225頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
17	第1部 月9/21	1849年のコレラ	1849年、ふたたびパリでコレラが発生した。第17回から第19回にかけては、1849年のコレラに対する法制史を中心に概観する。まず第17回では、1832年のコレラを踏まえた上でのパリの公衆衛生対策を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第7章 1849年のコレラと法」（226-236頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
18	第1部 月9/28	1849年のコレラと貧困	第18回では、1849年のコレラにおける貧困層の状況を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「コレラとモンコンフオーン」以降（235-250頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第1部 月10/5	ムラン法	第19回では、1849年のコレラに対応して提案された不衛生住宅の清掃を義務付ける法律および公衆浴場等の整備に関する法律を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「ムラン法」以降（250-266頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
20	第1部 月10/12	人口問題と感染症	公衆衛生は、一定の行為を市民に強要するので、基本的人権である自由権としばしば対立する。この点、ムラン法は自由の尊重という観点から、行政当局に強い権限を認めなかった。フランスにおける感染症対策としての的社会保障制度は、1902年の公衆衛生法によってようやく成立する。この歴史を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「第8章 人口と連帯」（267-277頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
21	第1部 月10/19	自由と感染症	19世紀後半、公衆衛生と自由をめぐる思想の対立が深刻化し始めた。それを象徴するように、1872年の国際衛生会議では、より強い公権力の介入が要求されたのに対して、同年の万国博覧会では、公権力の介入を批判する講演が注目された。自由の制限としての公衆衛生という問題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「衛生と自由の対立」（277-285頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
22	第1部 月10/26	フランス公衆衛生法	1902年に成立したフランスの公衆衛生法を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「公衆衛生法」（285-296頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
23	第1部 月11/9	連帯主義	公衆衛生法の根拠として持ち出された連帯主義を概観する。連帯主義とは、人間は社会の中で密接に関係しあっており、この関係から感染症が発生するので、対策も社会的なものでなければならないという立場である。この思想と結核における実践とを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「連帯主義(1)」以降（296-311頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
24	第1部 月11/16	テキストのまとめ	テキストのまとめを行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テキスト「おわりに」（312-323頁）を読む。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第1部 月11/23	自由テーマ1	第25回から第29回までは、学生自身が歴史的な感染症の事例を取り上げ、そのときの法政策について法制史の観点から分析を加える。第25回までに5つの事例を取り決め、それぞれの分担を定める。このとき、4年次のゼミナール論文執筆のための指導も行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テーマ1について調査、分析する。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
26	第1部 月11/30	自由テーマ2	テーマ2について発表および質疑応答を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テーマ2について調査、分析する。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
27	第1部 月12/7	自由テーマ3	テーマ3について発表および質疑応答を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テーマ3について調査、分析する。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
28	第1部 月12/14	自由テーマ4	テーマ4について発表および質疑応答を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テーマ4について調査、分析する。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
29	第1部 月12/21	自由テーマ5	テーマ5について発表および質疑応答を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	テーマ5について調査、分析する。	120分
		事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
30	第1部 月1/18	ゼミナール論文の準備	4年次のゼミナール論文のテーマを各自発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文のテーマ報告を準備する。	180分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえた上で、自身のテーマを見直す。	60分

科目名	ゼミナール3年	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：行政広報に基づく現代の諸問題について学習し、各自の関心に沿った研究テーマを見つけ、社会科学の方法論を学ぶ。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、ゼミナール論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。ゼミナール入室試験では、担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。前期は、課題図書についてグループによる各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。後期は、各自の関心領域のテーマについて個別発表を行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	担当教員の専門領域を深く理解し、これを適切に用いて自らの関心領域について議論することができる。					3	3	3	3	3			
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	与えられた課題に関して、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論に関して、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文に関して、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各講義の際に、報告者に解説・コメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）研究室 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに卒業論文指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	オリエンテーション及び導入講義	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/13	文献①	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ課題図書におけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/20	文献②	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ課題図書におけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/27	文献③	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ課題図書におけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/4	文献④	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ課題図書におけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/11	グループ研究①	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	グループ研究②	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/25	グループ研究③	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/1	グループ研究④	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/8	グループ研究⑤	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/15	グループ研究⑥	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/22	グループ研究⑦	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	論文進捗発表①	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/6	論文進捗発表②	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/13	論文進捗発表③	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/14	論文進捗発表④	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/21	論文進捗発表⑤	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/28	論文進捗発表⑥	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	フォーラム発表準備①	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/12	フォーラム発表準備②	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/19	フォーラム発表準備③	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/26	フォーラム発表準備④	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/9	論文進捗発表⑦	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/16	論文進捗発表⑧	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	論文進捗発表⑨	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/30	論文進捗発表⑩	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/7	論文テーマの確定①	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
28	12/14	論文テーマの確定②	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
29	12/21	論文テーマの確定③	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
30	1/18	論文テーマの確定④	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
この授業では、比較政治学の代表的な研究業績に注目し、比較政治学の議論がどのようなものなのか、これまでにどのようなテーマが取り扱われてきたのか、過去に注目された議論が徐々に堆積して現在の比較政治学を支えているとしたら、具体的に、どのような研究業績が蓄積されてきたのかについて学修する。比較政治学の課題，対象，方法を理解するためには，具体例を通して学ぶことが最適であり，過去に一定の評価を得た研究業績こそ具体例とするのにふさわしいことから，第二次世界大戦後の比較政治学における主な研究を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して，世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，比較政治学の代表的な理論，モデル，概念などを修得するとともに，現実政治の具体例にそれらを結びつけて説明できることを理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストとして，入門書および専門書の両方を用いながら，比較政治学における主たる研究テーマについて，基礎的な理解と応用的な理解との双方を蓄積していく。そのためには，受講者によるテキストの内容についての報告と，それにもとづく課題に対する研究報告と討論を繰り返すことにより，授業の目的の達成を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週の授業において，受講者による報告と討論を行うとともに，セメスター期間中にレポートの提出と，それに対するフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について比較政治学の理論や概念を用いて具体的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
④	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	セメスター中，数回行うレポートおよびリアクション・ ペーパーにより，到達目標③④に関する学力を評価する。			10	10							20
討論・発表等	セメスター中，数回行う報告および討論により，到達目標 ①②③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①②③④について求められる学力が身につについて いるかを，ゼミナール論文により評価する。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し， 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	必携
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	必携
『政党システムの理論』	岩崎正洋	東海大学出版会	1999	参考書	推奨
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	イントロダクション：比較政治学とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュールなどについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	4/13	政治システム	政治と国家、政治システムとは何かについて、政治システム論の広がりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	4/20	政治発展	政治発展とは何か、政治発展論の主な論点、政治発展論の限界について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論および系譜について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	4/27	政治文化	政治システム論、政治発展論とのかかわりから政治文化論に注目し、古典的な政治文化論と現在の政治文化論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治文化の違いを分析する方法について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	5/4	政治体制	政治体制（民主主義体制、権威主義体制、全体主義体制）の類型化を説明するとともに、民主主義体制と非民主主義体制とを分ける点とは何かについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治体制の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	5/11	ポリアーキー	ダール（Robert A. Dahl）によって提示された民主主義体制を分析した概念である「ポリアーキー」論の内容について具体的な事例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義を捉える主要な分析枠組みである「ポリアーキー」論について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	多極共存型民主主義	レイプハルト（Arend Lijphart）による多極共存型民主主義（consociational democracy）論について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多極共存型民主主義論について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	5/25	民主化	民主化そのものを理解するために、「民主化の第三の波」と、民主主義体制への移行（transition）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	6/1	民主主義の定着	民主化における体制移行後に民主主義体制が定着する（consolidation）過程について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化にかかわる一連の過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	6/8	民主主義	現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	6/15	民主主義の二つのモデル	レイプハルト（Arend Lijphart）による民主主義の二つのモデル（Majoritarian Model of Democracy vs. Consensus Model of Democracy）について、世界各国の状況を示しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義の二つのモデルについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	6/22	選挙	現代民主主義における選挙の機能、選挙制度の類型、選挙制度と政党システムとの関連を取り扱った「デュベルジェ（Maurice Duverger）の法則」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における選挙の意味や問題点について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	政党	政党について、デュベルジェ（Maurice Duverger）をはじめとする代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	7/6	政党システム	政党システムについて、デュベルジェ（Maurice Duverger）やサルトーリ（Giovanni Sartori）による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党システムについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	7/13	政党と政党システム	現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
16	9/14	政党とは何か、政党システムとは何か	政党とは何か、政党システムとは何か、政党政治とは何かについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党政治について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
17	9/21	政党システムの三類型	デュベルジェ（Maurice Duverger）に代表される政党システムの三類型（一党制、二党制、多党制）について、さまざまなバリエーションも挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの三類型について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
18	9/28	政党システムのタイポロジー	サルトーリ（Giovanni Sartori）に代表される政党システムのタイポロジー（七類型）について、具体的な事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの七類型について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	選挙制度と政党システム	デュベルジェ（Maurice Duverger）による選挙制度と政党システムとのかかわりを論じた「デュベルジェの法則」をはじめ、関連する議論について具体的な事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、デュベルジェの法則について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
20	10/12	凍結仮説と政党システムの形成	リップセット（Seymour M. Lipset）とロッカン（Stein Rokkan）による政党システムの「凍結仮説」について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「凍結仮説」について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
21	10/19	凍結仮説の有効性	「凍結仮説」の有効性をめぐる多様な議論に注目することにより、今日における「凍結仮説」の有効性について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「凍結仮説」の今日的な意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
22	10/26	政党システムの変容	政党システムの変容とは何か、具体的にどのような現象を意味し、どのような基準で捉えることができるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの変容とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
23	11/9	政党システム変化の指標	先進工業民主主義諸国における政党システム変化の具体的な事例を挙げながら、政党システムの変容の最近の状況について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システム変化の具体的な姿について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
24	11/16	政党システムの競合構造	メア（Peter Mair）による政党システムの競合構造について、具体的な事例を示しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの競合構造について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	一党優位政党制の条件	日本の政党システムを考えるために一党優位政党制に注目し、一党優位政党制がどのように形成されるかに関する条件について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一党優位政党制として日本の政党システムの具体的な姿について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
26	11/30	連立政権と政党システム	ヨーロッパと日本の具体的な事例を挙げながら、連立政権と政党システムとのかかわりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連立政権と政党システムとのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
27	12/7	政党衰退論とポスト政党衰退論	1970年代以降の政党衰退論と、現在の政党政治の状況を説明する議論との両者を対比し、政党政治の現在について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党政治の現在について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
28	12/14	政治の大統領制化	議院内閣制と大統領制の比較、議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制と大統領制の違い、大統領制化について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
29	12/21	政党政治の比較	各国の政党政治を分析するのに必要な先行研究ふまえつつ、比較政党論の体系性について総括として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較政党論に関する主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
30	1/18	比較政治学の課題と展望	各国の政治を分析する際には、政治システム論や民主主義論の研究蓄積をふまえつつ、政策決定過程論やガバナンス論といった視点からのアプローチが可能であることを総括として解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較政治学の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	臼井 哲也	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループで学術論文を英文で執筆し，全国大会「IBインカレ」で優勝を目指す。企業との共同研究，その他自主的な活動も学生自ら提案し，実践できるゼミである。詳しくは「臼井ゼミ」で検索。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル社会において必須となる知識と技能を徹底的に修得することを目指す。具体的には，論理的な考えに基づき自身の考える解決策を考案し，実務家へ提案，説得する力を修得する。

【履修条件】
ゼミ試験の合格者のみ履修可能

【授業方法】		
グローバル社会において必須となる知識と技能を徹底的に修得することを目指す臼井ゼミでは、チームで学術論文の執筆に取り組んでいます。国際ビジネスに関する研究テーマを学生自身が選定し、文献レビューと企業の担当者へのインタビューを通じて、学術的にも実務的にも意義ある問いを立て、これをアンケート調査等を用いて解明していきます（仮説検証）。論文は英語で執筆し、全国大会「IBインカレ」において英語でプレゼンを行います。臼井ゼミはIBインカレ常勝ゼミです。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のプロゼミにおける発表並びにサブゼミでの準備の繰り返しを通じて、グループ論文を仕上げていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マーケティング，経営学など関連する文献の収集力					4	4						
②	マーケティング，経営学など関連する文献の読解力					4	4						
③	マーケティング，経営学など関連する文献の分析力					4	4						
④	統計学の知識と実践							4	4	4	4	4	4
⑤	パワーポイントスライド等を使用したプレゼンテーション力							4	4	4	4	4	4
⑥	他者の論理を批判する力							4	4	4	4	4	4
⑦	他者の疑問に対して説得的に回答する力							4	4	4	4	4	4
⑧	チーム内で互いに刺激し、協働する力							4	4	4	4	4	4
⑨	自身の独自の論理を組み立て、相手を説得する力							4	4	4	4	4	4
⑩	英語で論文を執筆し、プレゼンテーションを行う力							4	4	4	4	4	4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	グループ論文（英文）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	毎回のプロゼミにおける発言と発表	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	卒業論文	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】	
都度、プロゼミ内でフィードバックを行う	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、関連する文献を紹介する				

【オフィスアワー】	
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務的にも示唆に富む研究に取り組む	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	論文テーマの探索①	グループで研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	240分
2	4月14日	論文テーマの探索②	グループで研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	240分
3	4月21日	論文テーマの探索③	グループで研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	240分
4	4月28日	論文テーマの探索④	グループで研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	240分
5	5月5日	研究テーマの決定①	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
		事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	240分
6	5月12日	研究テーマの決定②	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
		事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	研究テーマの決定③	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
		事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	240分
8	5月26日	リサーチエッション①	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
		この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
		事前学修	グループで協力して文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
9	6月1日	リサーチエッション②	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
		この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
		事前学修	グループで協力して文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
10	6月8日	リサーチエッション③	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
		この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
		事前学修	グループで協力して文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
11	6月15日	調査設計①	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
		この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
		事前学修	グループで協力して調査設計の提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
12	6月22日	調査設計②	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
		この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
		事前学修	グループで協力して調査設計の提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	調査設計③	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
		この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチセッションに対応した調査の設計を行う。	
		事前学修	グループで協力して調査設計の提案書を作成する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチセッションをさらにブラッシュアップする。	240分
14	7月7日	フィールドワーク①	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
		この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
		事前学修	フィールドワークの実施	240分
		事後学修	次のフィールドワークの準備	240分
15	7月14日	フィールドワーク②	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
		この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
		事前学修	フィールドワークの実施	240分
		事後学修	次のフィールドワークの準備	240分
16	9月15日	フィールドワーク③	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
		この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
		事前学修	フィールドワークの実施	240分
		事後学修	次のフィールドワークの準備	240分
17	9月22日	仮説構築①	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
		この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
		事前学修	グループで協力して仮説を提示する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする。	240分
18	9月29日	仮説構築②	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
		この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
		事前学修	グループで協力して仮説を提示する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	データ収集と統計①	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
		この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
		事前学修	データの収集ならびに解析。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	240分
20	10月13日	データ収集と統計②	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
		この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
		事前学修	データの収集ならびに解析。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	240分
21	10月20日	論文執筆①	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	論文の構成を固める。	
		事前学修	論文の構成案を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
22	10月27日	論文執筆②	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	第1章（リサーチクエッション）、第2章（文献レビュー）を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
23	11月10日	論文執筆③	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	第3章（仮説）、第4章（統計分析）を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
24	11月17日	論文執筆④	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	第5章（考察）、第6章（結論）を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	1 1 月 2 4 日	論文執筆⑤		論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。
		この回の到達目標	論文を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
26	1 2 月 1 日	プレゼン準備①		論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。
		この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
27	1 2 月 8 日	プレゼン準備②		論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。
		この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
28	1 2 月 1 5 日	振り返り①		論文大会参加の反省会をグループで行う。
		この回の到達目標	十分に反省点を洗い出し、今後の対策を練る。	
		事前学修	対策を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
29	1 2 月 2 2 日	振り返り①		論文大会参加の反省会をグループで行う
		この回の到達目標	十分に反省点を洗い出し、今後の対策を練る。	
		事前学修	対策を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
30	1 月 1 2 日	総括		ゼミ全体で振り返りを共有し、今後の対策を講じる。
		この回の到達目標	実行可能な対策を立案する。	
		事前学修	対策を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分

科目名	ゼミナール3年	担当者	大久保 拓也	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商事法に関する基本的事例・判例の検討を通じて、商事法の基本的な知識を身に付け、法的に分析する能力を獲得し、ゼミナール論文の執筆を通じて、論理的思考力・分析力・表現能力を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：商事法の基本的な知識と法的思考能力を修得するために、商事法に関する基本的事例・判例を検討し、検討した内容の研究発表を行う。これにより各自の研究テーマを見つけ出すとともに、グループワークを通じて協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容を踏まえて各自が各別の研究テーマについて知識を修得し、グループ全体で考察する。これによりテーマに関する解決策について研究を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者であること。毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】		
3年次：商事法に関する基本的事例・判例について、学修者各自が基本的な概念や制度を調べ、事例を分析する。担当者は割当された課題について発表し、それをもとに全員で質疑応答を行う。これを通じて、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができる能力を身に付ける 4年次：学修者各自が研究テーマを設定し、それについて資料調査と研究発表する。担当者が発表した内容について全員で質疑応答を行うことにより、グループ全体でテーマに関する解決策を検討する。担当者はテーマに関する研究を深めてゼミナール論文を執筆することができるようになる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員、学修者相互間で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商事法の主要論点について十分に理解し、論理的に説明することができる。						3	3						
②	商事法の規定・学説・判例を調査し、適切な説明をし、質疑応答を通じて問題の解決策を提示できる。								3	3	3			
③	商事法の主要論点の検討のためにリーダーシップを発揮し、自分の意見を適切に述べることができる。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	毎回の授業における発表の準備において到達目標①②が身についているかを、討論の方法・内容によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	毎回の授業において担当部分以外の問題の事前調査において到達目標①②が身についているかを、授業中の質疑応答によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(ゼミナール論文)	3年次と4年次の2年間継続して履修し、4年次にゼミナール論文を提出しなければならない。到達目標①②③が身についているかについて、商事法学の水準に照らしてゼミナール論文として適正な内容であるかどうか評価する。	10	20	10								40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解説は、授業内に行うほか、補足説明についてはポータルシステムにて後日配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
六法（最新版（2020(令和2)年版）				その他	必携
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作ほか編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜3時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204） ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	会社の種類	3年次：リクエストに応じ最新の改正や判例を取り上げるため、以下の内容は変更があり得る。 4年次：各自のゼミナール論文のテーマに合わせるので、以下の内容は変更があり得る。 会社の種類はどのようなものか。基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
2	第一部 金4/17	会社の意義と会社法の目的	会社の意義は何か、会社法の目的としてどういうものがあるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
3	第一部 金4/24	会社の能力	会社の権利能力は何か、会社の能力は自然人と異なる点があるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
4	第一部 金5/1	会社の法人格	会社の法人格とはどういうものか、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
5	第一部 金5/8	株主平等の原則	株主平等の原則とはどういう制度か、その例外として属人的定めとは何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
6	第一部 金5/15	種類株式	普通株式とは何か、種類株式はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	新株発行の手続	新株発行とは何か、新株発行手続とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
8	第一部 金5/29	新株発行の差止め、無効、不存在	新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
9	第一部 金6/5	株式譲渡	株式譲渡とはどのような制度か、株式譲渡の制限という制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
10	第一部 金6/12	自己株式	自己株式とは何か、自己株式取得規制はどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
11	第一部 金6/19	自己株式取得の手続	自己株式取得とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
12	第一部 金6/26	社債	社債とは何か、社債発行規制とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	株主総会の運営	機関とは何か、株主総会運営の手続はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
14	第一部 金7/10	株主提案権	説明義務とは何か、株主提案権はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
15	第一部 金7/17	株主総会決議の瑕疵	株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
16	第一部 金9/18	競業取引と利益相反取引	競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
17	第一部 金9/25	取締役の義務	善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
18	第一部 金10/2	取締役と取締役会の役割	取締役とは何か、取締役会とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部 金10/9	取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
20	第一部 金10/16	報酬規制		取締役の報酬とは何か、取締役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
21	第一部 金10/23	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
22	第一部 金10/30	取締役の対会社責任		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
23	第一部 金11/6	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
24	第一部 金11/13	監査役、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 金11/20	資本制度と会社の計算	資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
26	第一部 金11/27	株式会社の設立	株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
27	第一部 金12/4	払込の手続と仮装払込	株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮装払込はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
28	第一部 金12/11	持分会社	合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
29	第一部 金12/18	合併と分割	合併とは何か、分割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
30	第一部 金12/25	株式交換と事業譲渡	株式交換とは何か、株式譲渡とは何か、事業譲渡はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	大杉 麻美	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：家族法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、ゼミのメンバーとともに、家族法に関連する具体的な主題につき、調査・研究を行い、発見した問題点の解決方法につき、グループで議論を深める。また4年次の卒業論文作成に備え、研究テーマの発見につとめる。ゼミ運営の進捗状況を考慮し、シラバス記載の内容が変更される場合がある。 4年次：3年次に選択したテーマにつき、文献調査を行うとともに、ゼミナール論文を執筆する。 3年次・4年次共通：年間を通して、学年を超えた懇親を深めるため、合同懇親会(年数回)、合宿(春・夏)、食事会(4年生のみ、年1回)の開催を予定している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：家族法における基礎的な考え方につき修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、ゼミでのグループワークや懇親会等を通して、他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関して、文献を収集するなどの調査活動を行い、知識を習得し、各自が設定した問題点につき、ゼミナール論文の執筆を通して、その解決を探ることにより、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を養う。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
3年次：家族法に関連する諸問題につき、毎週1名に報告をしてもらい、当該問題点につきグループディスカッションを行う。またゼミ時間中に指定された主題につきレポートを作成し、提出する。 4年次：各自で選定した研究テーマにつき、ゼミナール論文の執筆を行う。なおゼミナール論文の進捗状況は個々により異なることもあるため、シラバス記載よりも早く進捗する場合、遅く進捗する場合、あるいは進め方を変更する場合がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	家族法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				3	3	3					
②	家族法で問題とされる事象につき、積極的に問題点を発見し、それに対する解決の糸口を見出すことができる。							3	3	3	3	
③	現代的課題について理解し、自らの意見を述べるができる。							3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③について基礎知識等が身についているかをゼミナールレポートにより評価する。	20										20	
討論・発表等	到達目標①②③について、あらかじめ決められたテーマに沿って、調査・検討をし、レジュメにまとめ、他のゼミメンバーに分かりやすく発表をすることができるかにつき評価する。		15	15								30	
授業への参画度	到達目標①②③について、グループディスカッションへの積極的な参加をしているか、自ら発見した研究テーマに積極的に取り組んでいるかにより評価する。		15	15								30	
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③について基礎知識等が身についているかをゼミナール論文により評価する。	20										20	
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】												
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		40	30	30								100	

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対するフィードバックは、講義中に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる家族法』	本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月	ミネルヴァ書房	2014	教科書	必携
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』	水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	その他必要に応じて、論文や判例評釈のコピーを指示することがある。				

【オフィスアワー】	
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス及び導入講義	通年の講義内容につき簡単に解説する。授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明する。また、ゼミ運営にあたり必要な事項につき協議をすることにより、受講生は、ゼミの準備や年間計画を作成することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミの年間計画やそのために必要な準備を行うことができる。	
		事前学修	教科書の目次を確認し、家族法の全体像について考えてみる。	120分
		事後学修	ゼミの年間計画を作成し、また研究を選定したテーマについて教科書の該当箇所を読んでおく。	120分
2	第一部月 4/13	婚姻届・婚約	婚姻の形式的要件、婚姻の実質的要件、近親婚の禁止等、婚姻・婚約に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻・婚約に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
3	第一部月 4/20	夫婦財産制	夫婦財産制、夫婦の居住形態についてに関する法的考え方について発表し、夫婦財産関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻・婚約に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、夫婦財産制のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
4	第一部月 4/27	親子関係	婚姻と親子関係、認知に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻と親子関係、認知にに関する法的規律と考え方、親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
5	第一部月 5/4	生殖補助医療	生殖補助医療に関する法的考え方について発表し、親子関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、親子関係に関する法的規律と考え方、親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、親子関係のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
6	第一部月 5/11	親子の権利義務	親権に関する法的考え方について発表し、親子関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、親権に関する法的規律と考え方、親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、親子関係のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	児童虐待	児童虐待に関する法的考え方について発表し、子育てのあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、児童虐待に関する法的規律と考え方、子育てのあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、親子関係のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
8	第一部月 5/25	離婚原因	離婚の形式的要件、離婚の実質的要件、具体的離婚原因、抽象的離婚原因に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の形式的要件、離婚の実質的要件、具体的離婚原因、抽象的離婚原因に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
9	第一部月 6/1	離婚時の財産分与	財産分与の法的性質、財産分与の対象と方法、内縁に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産分与の法的性質、財産分与の対象と方法、内縁に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
10	第一部月 6/7	親権と面会交流	単独親権と共同親権、面会交流、養育費に関する法的考え方について発表し、離婚後の親子関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単独親権と共同親権、面会交流、養育費に関する法的規律と考え方、離婚後の親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
11	第一部月 6/14	研究テーマにかかる政策の調査	婚姻の形式的要件、婚姻の実質的要件、近親婚の禁止等、婚姻・婚約に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻・婚約に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
12	第一部月 6/22	老親扶養	扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法に関する法的規律と考え方、老親と子の関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、老親と子の関係のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	成年後見制度	成年後見制度に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、成年後見制度に関する法的規律と考え方、扶養のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、扶養のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
14	第一部月 7/6	ゼミナールレポート発表	これまでの発表の中で興味を持ったテーマを選び、それに関する法的考え方、社会におけるありかたについてレポートを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らが選んだテーマに関する法的規律と考え方、あり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、自ら選択したテーマのあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
15	第一部月 7/13	まとめ・振り返り	これまでの発表の中で興味を持ったテーマを選び、それに関する法的考え方、社会におけるありかたについて作成したレポートを再構成し、家族法の全体像を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らが選んだテーマに関する法的規律と考え方、あり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、自ら選択したテーマのあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
16	第一部月 9/14	相続人と相続分	相続人・相続分に関する法的考え方について発表し、相続のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続人・相続分に関する法的規律と考え方、相続関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、子の相続のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
17	第一部月 9/21	相続欠格と相続人の廃除	相続欠格と相続人の廃除に関する法的考え方について発表し、相続における親子関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続欠格と相続人の廃除に関する法的規律と考え方、相続における親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
18	第一部月 9/28	相続人の不存在・特別縁故者制度	相続人の不存在・特別縁故者制度に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続人の不存在・特別縁故者制度に関する法的規律と考え方、身寄りのない者の相続のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、身寄りのない者の相続のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 10/5	相続可能な相続財産	相続の対象となる相続財産、特殊な相続が行われる財産に関する法的考え方について発表し、相続財産のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続の対象となる相続財産、特殊な相続が行われる財産に関する法的規律と考え方、相続財産のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、相続財産のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
20	第一部月 10/12	相続財産の共有	相続財産の所有形態、相続財産の管理、相続登記に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続財産の所有形態、相続財産の管理、相続登記に関する法的規律と考え方、相続登記について理解することができる。。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、相続登記についてまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
21	第一部月 10/19	遺言制度	遺言の意義・性質、遺言執行に関する法的考え方について発表し、遺言のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遺言の意義・性質、遺言執行に関する法的規律と考え方、遺言のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、遺言のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
22	第一部月 10/26	相続の承認・放棄	相続の承認・放棄、特別受益・寄与分に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続の承認・放棄、特別受益・寄与分に関する法的規律と考え方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、相続の承認・放棄、特別受益・寄与分に関する法的規律と考え方についてまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
23	第一部月 11/9	遺産分割	遺産分割の種類・方法等に関する法的考え方について発表し、遺産分割のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遺産分割の種類・方法等に関する法的規律と考え方、遺産分割のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、遺産分割のあり方について考えておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
24	第一部 11/16	遺留分	遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の順序等に関する法的考え方について発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の順序等に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解することができる。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の順序等をまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	第一部 11/23	判例調査		これまでの講義で学んだ判例のうち、自らが興味を持つ判例を図書館にて入手し、事案と判旨を分析する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義で学んだ判例のうち、自らが興味を持つ判例を選び、図書館にて入手し、判例に対する自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	これまで学んだ判例のうち、自らが興味を持つ判例を選択する。	120分
		事後学修	これまで学んだ判例のうち、自らが興味を持ち選択した判例の事案と判旨をノートにまとめる。	120分
26	第一部月 11/30	判例評釈の調査		第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館にて入手し、それをまとめ、自らの意見をまとめることができる。	
		事前学修	第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館にて入手する。	120分
		事後学修	第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。	120分
27	第一部月 12/7	判例のまとめ		第25回・第26回の演習で学んだ判例を再度検討し、事案・判旨・判例評釈の概要をまとめ、ゼミで発表する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第25回・第26回の演習で選択した判例の評釈を図書館にて入手し、それをまとめ、自らの意見をまとめることができる。	
		事前学修	第25回・第26回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。	120分
		事後学修	第25回・第26回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。	120分
28	第一部月 12/14	論文の輪読		演習にて指定された論文を輪読し、論文の書き方・考え方を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演習にて指定された論文を輪読し、論文の書き方・考え方を学ぶ。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、論文の書き方・考え方を学ぶ。	120分
		事後学修	輪読した論文を再度読みなおして、わからなかったところを書き出しておく。	120分
29	第一部月 12/21	論文の分析		演習にて指定された論文を分析し、論文の書き方・考え方を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演習にて指定された論文を輪読し、論文の書き方・考え方を学ぶ。	
		事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、論文の書き方・考え方を学ぶ。	120分
		事後学修	輪読した論文を再度読みなおし、論文の流れ・主張すべき点等をレポートにまとめる。	120分
30	第一部月 1/18	まとめ・振り返り		これまでの演習で自らが選択した判例及び輪読した論文を文章にまとめることで、4年次のゼミナール論文に対する準備とする。これにより学生は4年次にスムーズにゼミナール論文執筆に取り組むことができる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの演習で自らが選択した判例につき説明し、自らの考えを述べるができる。また輪読した論文で問題とされていることを理解することができる。	
		事前学修	これまでの演習で自らが選択した判例及び輪読した論文を文章にまとめておく。	120分
		事後学修	これまでの演習で自らが選択した判例及び輪読した論文を文章にまとめなおし、4年次のゼミナール論文の準備を始める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	大山 盛義	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワーク等を通して労働法や労働問題に関して深く学修するとともに、各自の感心に沿った研究テーマを発見できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働法の基礎理論について学修するとともに、課題テーマについて研究する手法を身につける。またグループワークによって、他者との協働の意義と重要性を理解する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可能。

【授業方法】
各回、テーマを設定し担当グループが報告する。これに基づき全体でディスカッションを行い、教員が解説・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマについて予め学習し、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、労働法に関わる問題や課題について総合的に理解し、説明することができる。				3	3						
②	労働法の課題や問題を示し、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する解決策を提示することができる。						3	3	3			
③	他者とのコミュニケーションや協働作業を通じて信頼関係を築き、自己分析による評価を今後に活かすことができる。									4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	主に労働裁判を取り上げ、それについてのディスカッションを行う。その中で、到達目標①②③に関連する課題について論理的考察、意見の明確性・論理性、ゼミに向けての準備がされているか等を評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	テーマについて自らの意見や疑問を積極的に示すことができているかを評価する。			20								20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	成績評価はゼミナール論文の提出を前提とする。	20	20	10								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各報告に対して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。テーマ毎に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜日3校時 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナール報告に向けてレジュメ作成の方法と準備事項、テーマの設定と各報告スケジュールの決定をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各自の報告テーマの方向性と担当者を決める。	
		事前学修	労働法や労働問題に関するニュースをチェックする。	120分
		事後学修	割り当てられた各自のテーマについて必要な資料を確認する。	120分
2	4/14	労働判例の調査方法の指導	ゼミナール報告において必要な労働判例の調べ方と必要な資料の入手方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図書館で資料を迅速に入手できるようにする。	
		事前学修	図書館のHPからデータベースを利用できるようにしておく。	120分
		事後学修	グループ報告にニュース情報等の資料を収集整理する。	120分
3	4/21	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
4	4/28	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
5	5/5	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
6	5/12	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
8	5/26	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
9	6/2	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
10	6/9	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
11	6/16	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
12	6/23	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
14	7/7	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
15	7/14	グループ報告（労働判例・労働問題）	割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
16	9/15	労働判例の基礎知識	ゼミナール報告に向けてレジュメ作成の方法と準備事項の再確認、テーマの設定と各報告スケジュールの決定をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期のゼミで学んだ知識を基に自ら関心のあるテーマを設定できるようにする。	
		事前学修	夏休み中に自らの関心のある労働問題について資料収集をしておく。	120分
		事後学修	選択したテーマについて報告の構成を考える。	120分
17	9/22	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
18	9/29	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
20	10/13	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
21	10/20	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
22	10/27	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
23	11/10	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
24	11/17	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
26	12/1	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
27	12/8	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
28	12/15	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
29	12/22	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
30	1/12	グループもしくは個人報告 (労働判例・労働問題)	自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
		事前学修	報告グループ(担当者)は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法に関する基礎理論を修得するとともに、報告や議論を通じて、現実の社会のなかで刑法がいかに機能しまた機能すべきかについて自らの考えが説明できるようにする。また、最終的に提出すべき論文を書くための、文献の検索方法や引用のルールなどに関する知識を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各自が関心を持つテーマについて、報告し、討論ができ、論文としてまとめられるような能力を修得する。あわせて、グループワークなどを通じて協働する意識を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
各自で設定したテーマについて、報告を行い、全体で議論する。報告を行うためや論文を書くために資料等の収集方法について説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自で設定したテーマについて報告を行い、全体で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における刑法の役割を理解し、説明することができる。						3	3						
②	現実の社会のなかで刑法が抱える問題を発見し、説明することができる。							3						
③	犯罪や刑罰に関する課題について、論理的・合理的な見解が示すことができる。								3	3	3			
④	これまでの刑法をめぐる議論をふまえた上で、新たな問題意識を持ち、独自の解決方法を示すことができる。								3	3	3	3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	基礎的知識をふまえた上で、論点を整理することができ、 説得力を有するものとなっているかを判断する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	テーマを設定した前提を確認しながら、資料・文献の収集 が適切になされているか、正しい引用方法によっている か、論文の構成や論理の展開が妥当であるかを判断する。	10	10	20	20							60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告については終了後にコメントする。論文については添削し論評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜の昼休み時間 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	報告の方法	報告の方法について説明し、討論の進め方を確認する。	
		この回の到達目標	報告の方法を理解し、テーマについての理解を深める。	
		事前学修	報告することの意義について考える。	120分
		事後学修	報告のテーマや順番について全体で話し合い、各自のテーマを決める。	120分
2	4/13	報告テーマの選定	各自が報告するテーマについて、全体で確認しながら、それぞれが概要を述べる。 報告の順番を決める。	
		この回の到達目標	報告テーマについて簡単に説明することができる。	
		事前学修	テーマの概要をまとめておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
3	4/20	報告（1）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマに関する議論をふまえて、次回の報告に反映できるように準備する。	120分
4	4/27	報告（2）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
5	5/4	報告（3）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
6	5/11	報告（4）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	報告（5）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
8	5/25	報告（6）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
9	6/1	報告（7）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
10	6/8	報告（8）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
11	6/15	報告（9）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
12	6/22	報告（10）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	報告（１１）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
14	7/6	報告（１２）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
15	7/13	報告（１３）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
16	9/14	報告（１４）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
17	9/21	報告（１５）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
18	9/28	報告（１６）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	報告（17）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
20	10/12	報告（18）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
21	10/19	報告（19）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
22	10/26	報告（20）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
23	11/9	報告（21）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
24	11/16	報告（22）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	報告（2 3）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
26	11/30	報告（2 4）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
27	12/7	報告（2 5）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
28	12/14	報告（2 6）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
29	12/21	論文テーマの報告	報告を行い、コメントを加える。	
		この回の到達目標	論文の趣旨を説明することができる。	
		事前学修	論文のポイントとなるべき点を整理しておく。	120分
		事後学修	指摘された事項について論文に反映できるようにする。	120分
30	1/18	これまでの報告に関する振り返り	これまでの報告で残された課題等を検討する。	
		この回の到達目標	今後の議論の仕方に反映できるようにする。	
		事前学修	各自の報告について論点を整理し、問題点に対する解決策を考えておく。	120分
		事後学修	報告の際に検討できなかった点を整理しておく。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小澤 久仁男	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会行政は、租税・環境保全・消費者保護といった市民生活や社会生活を営む上で、非常に重大な役割を担っています。このような行政活動に関わる法体系、つまり行政法は「犬も歩けば行政法にあたる」などの法格言が謳われている通り、われわれにとって非常に身近な存在であり、その知識や理解は欠かすことのできないものです。他方で、行政法は、各種資格試験などの主要科目とされています。そのため、本演習の目的の一つは、将来、各種試験の受験を考えている学生の要望に応えることです。しかし、単に受験対策講座に終わるだけでなく、日常生活のさまざまな問題を受講者自身との関わりで考えられるようになってもらいたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次の演習の進め方としては、担当者による報告とそれを踏まえた議論という形式をとっていくことにするが、判例や文献の読み方、関連文献の検索方法、レジュメの作成、論理的な報告・議論といういわば当たり前のことが身につくようにすることも、本ゼミナールでは目指していきます

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
毎回担当者および担当内容を割り当てて発表を行います。発表された内容をもとに教員が解説を行います

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政法に関する基礎的概念を理解していること				3	3	3					
②	行政法に関する基礎的判例を理解していること				3	3	3					
③	現実の行政において、行政および裁判所の判断に関して批判的に見ることができ、そして、解決策を提示することができること						3	3	3			
④	レジュメの形式や報告の仕方などがある程度できるようになっていること								3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④に関して、報告レジュメおよび事前提出の課題などを評価していくことになります。	10	10	10	15							45
授業への参画度	到達目標①②に関して、報告に関しての質疑応答を評価していくことになります。	5	5	5								15
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④に関して、ゼミナール論文が提出されたことを前提に、その内容はもちろんのこと、形式などについて評価していくことになります。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習のため、個別的に対応することにいたします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法の基本（第7版）	北村和生ほか	法律文化社	2019	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか	有斐閣	2017	参考書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか	斐閣	2017	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜授業前・授業後に研究室で行います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4 / 1 0	前期オリエンテーション・導入講義	レジュメの作成の方法や学生の初回の顔合わせなどの他、本年度の授業の概要について確認していきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法全体を踏まえると共に、到達目標④に関連してレジュメの作成などについて、ある程度理解できるようになる。	
		事前学修	行政法の教科書などをザッと確認するようにしてください。	120分
		事後学修	行政法の教科書のうち、前期で勉強する行政作用の部分を確認するようにしてください。	120分
2	4 / 1 7	行政法とは	行政とは何か、そしてまた行政法を構成している法としてはどのようなものがあるのかについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政法とはどのような学問かを示すことができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
3	4 / 2 4	行政法の基本原理①	法律による行政の原理およびこの原理から登場する原則について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法律による行政の原理について説明をすることが出来るようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
4	5 / 1	行政法の基本原理②	法律による行政の原理の例外として特別権力関係、および、行政法の他の基本原理として法の一般原則などについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特別権力関係や、行政上の法の一般原則について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
5	5 / 8	行政基準①	行政が立法を行う場面のうち、市民の権利義務に関する基準を定立する法規命令について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法規命令の意義および法規命令に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
6	5 / 1 5	行政基準②	行政が立法を行う場面のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政規則の意義および行政規則に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5 / 2 2	行政行為①	行政行為と呼ばれる活動の定義・効力・種類などについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政行為の定義・効力・種類について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
8	5 / 2 9	行政行為②	行政行為の附款、取消しすべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、取消と撤回の違いなどについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政行為の附款、取消と無効、取消と撤回などについて説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
9	6 / 5	行政裁量	行政裁量と呼ばれるものについて、種類およびわが国における展開について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政裁量の意義および行政裁量に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
10	6 / 1 5	行政計画	行政計画とは何か、そしてまた、この行政計画が問題となった場合にはどのように争っていくのかといったことについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政計画の意義および行政計画に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
11	6 / 2 2	行政契約	行政契約とは何か、そしてどのような行政契約があるのかについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政契約の意義および行政契約に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
12	6 / 2 9	行政指導	行政指導の概念およびその種類について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政指導および行政手続法に影響を与えた行政手続法に関する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7 / 3	義務履行確保制度	行政上の実効性確保を概観すると共に、行政代執行法で規定されている代執行を中心に学ぶこととなります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政上の義務履行確保制度について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
14	7 / 1 0	行政手続	行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政手続法の重要な点について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
15	7 / 1 7	情報公開・個人情報保護	情報公開法および個人情報保護法に基づいて、これらの重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報公開法および個人情報保護法の重要な点について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
16	9 / 1 8	後期オリエンテーション・導入講義	前期オリエンテーションを踏まえて、後期のテーマについて確認していきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に勉強をすることになる行政救済法の概要を知ることができる。また、到達目標④に関連して、レジュメの作成や報告の仕方などについて再確認することができる。	
		事前学修	行政法の教科書などのうち、行政救済法の部分についてザッと確認するようにしてください。	120分
		事後学修	関心を持った内容などについて、纏めておいてください。	120分
17	9 / 2 5	国家賠償法の沿革と概要	国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国家賠償法の沿革や国家賠償の規定の概要について簡単に説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
18	1 0 / 2	公権力の行使と国家賠償責任①	国家賠償法1条の規定について、その要件および関連する判例について学んでいきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国家賠償法1条の要件およびこれに関連する判例について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10／9	公権力の行使と国家賠償責任②	国家賠償法1条に照らして、いわゆる権限の不行使の概念および関連する判例について学んでいきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権限の不行使の概念およびこれに関連して裁判所で出された基準について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
20	10／16	営造物の設置・管理と国家賠償責任①	国家賠償法2条で規定している公の営造物の瑕疵および道路の瑕疵について学んでいきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公の営造物の瑕疵に関する規定について説明をすることができるようになると共に、特に道路の瑕疵について知識を持つことができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
21	10／23	営造物の設置・管理と国家賠償責任②	国家賠償法2条に関連して、河川の瑕疵について学んでいきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、河川の瑕疵に関する判例の動向を説明することができるようになると共に、道路の瑕疵との違いについて理解できるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
22	10／30	損失補償	損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
23	11／6	行政訴訟の概観と法律上の争訟	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政訴訟の概要および法律上の争訟について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
24	11／13	取消訴訟の訴訟要件①	取消訴訟の要件のうち、処分性について扱っていくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、処分性の概念および判例の動向について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1 1 / 2 0	取消訴訟の訴訟要件②	取消訴訟の要件のうち、原告適格について扱っていくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、原告適格の概念および判例の動向について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
26	1 1 / 2 7	取消訴訟の訴訟要件③	取消訴訟の要件のうち、狭義の訴えの利益およびその他の訴訟要件について扱っていくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、訴訟要件を全て示すことができると共に、狭義の訴えの利益の概念および判例の動向について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
27	1 2 / 4	その他抗告訴訟	その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取消訴訟以外の抗告訴訟が持つ役割について、そこでの要件と共に説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
28	1 2 / 1 1	その他行政訴訟	行政訴訟の類型として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、抗告訴訟以外の行政訴訟が持つ役割について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
29	1 2 / 1 8	行政不服審査	行政不服審査法に基づいて、行政不服審査法の重要な点について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政不服審査法の重要な点について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
30	1 2 / 2 5	総括	1年間で学んだ行政法について、総括を行いたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政法の知識を再確認することができる。また、到達目標④に関連して、レジュメの作成や報告の仕方などについて再確認することができる	
		事前学修	再度、行政法の教科書の全体を確認するようにし、分からなかったところを纏めるようにしてください。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をベースに、ゼミナール論文に際して、どのような内容について執筆を行いたいのか検討をするようにしてください。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小田 司	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法に関する重要項目について研究報告及び討議を行い、その成果として、民事訴訟法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法に関する重要項目について調査、報告、討議を行うことにより、民事訴訟法についての高度な知識を身につけ、論文を作成するための能力を修得する。

【履修条件】
民事訴訟法に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
各自が選択するテーマについて報告を行い、その内容について全員で討議する。また、学修効果を高めるために、民事訴訟法に関する他大学との討論会に参加する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全員での討議において積極的な発言を求めるほか、選択したテーマについてゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法の概念を理解し、これを用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	民事訴訟法の重要な論点を深く理解し、自己の意見に基づいて議論することができる。						3	3	3	3		
③	教員や他の履修者の意見を受け入れ、自己の学修状況を分析した上で、論文の執筆を進めることができる。								3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自選択したテーマについて行われる報告とそれに対する 討議において有益な意見を述べることをできたかを評価する。	20	20									40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	提出されたゼミナール論文について、論理的かつ批判的な 論証が行われているかを評価する。			60								60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の報告に対して講評するほか、ゼミナール論文について執筆段階ごとに講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	今後のスケジュールを確認するとともに、演習を行う上での注意事項等について確認する。
		この回の到達目標	論文執筆に着手するための前提となる事項について説明できる。
		事前学修	論文執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの到達目標を理解する。120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。120分
2	4/15	演習（1）	テーマ「ADR」について演習を行う。
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。120分
3	4/22	演習（2）	テーマ「主権免除」について演習を行う。
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。120分
4	4/29	演習（3）	テーマ「法人の内部紛争」について演習を行う。
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。120分
5	5/6	演習（4）	テーマ「裁判管轄」について演習を行う。
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。120分
6	5/13	演習（5）	テーマ「当事者の確定」について演習を行う。
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	演習（6）	テーマ「法人格のない団体の当事者能力」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/27	演習（7）	テーマ「訴訟能力」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/3	演習（8）	テーマ「訴えの類型」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/10	演習（9）	テーマ「形式的形成訴訟」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/17	演習（10）	テーマ「訴訟物」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/24	演習（11）	テーマ「二重起訴の禁止」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	演習（12）	テーマ「訴えの利益」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/8	演習（13）	テーマ「第三者の訴訟担当」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/15	演習（14）	テーマ「弁論主義」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	前期の振り返り	前期の学修事項を振り返るとともに、テーマについて報告する上での注意事項等を確認する。	
		この回の到達目標	テーマについて報告を行うための前提となる事項を説明できる。	
		事前学修	前期を振り返る。また、報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/23	演習（15）	テーマ「口頭弁論における審理原則」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/30	演習（16）	テーマ「当事者の訴訟行為」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	演習（17）	テーマ「自由心証主義」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/14	演習（18）	テーマ「証明責任」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/21	演習（19）	テーマ「文書提出命令」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/28	演習（20）	テーマ「訴訟上の和解」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/11	演習（21）	テーマ「既判力の作用」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/18	演習（22）	テーマ「既判力の時的限界」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	演習（23）	テーマ「既判力の客観的範囲」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	12/2	演習（24）	テーマ「既判力の主観的範囲」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/9	演習（25）	テーマ「訴えの変更」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/16	演習（26）	テーマ「共同訴訟」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/23	演習（27）	テーマ「訴訟参加」について演習を行う。	
		この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
		事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/13	論文テーマの選択	論文テーマの選択について、選定上の注意事項等を説明する。	
		この回の到達目標	論文のテーマを選択するための前提となる事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小田 勇樹	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：ゼミナール論文執筆の前段階として、学術的な調査・研究の基礎技能を習得するため、個人・グループ単位での調査・研究を実践する。具体的には、先行研究の調査技能、批判的考察の技能の習得のため、学術論文やそれに準ずる資料の調査収集、分析・考察に取り組む。また、グループでの活動、討論を通じて、他者との協働活動や根拠に基づいた批判・討論の訓練を行う。 4年次：各自のゼミナール論文のテーマについて、それぞれ研究調査を進め、進捗状況の報告を行う。報告者の内容に対して、他の履修者は批判を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：学術調査・研究の基礎技能である、資料収集の手法、資料に対する批判的検討の能力、自らの研究課題を適切に選定・設定する能力の習得を目標とする。また、グループでの活動や討論を通じて、他者に対する理解、情報共有と業務分担などの組織活動の基本的能力、根拠に基づいた批判・討論を行う能力の向上を目的とする。

【履修条件】
事前に履修を許可された学生のみ履修可能。

【授業方法】
前期は担当者からの講義も部分的に交えての授業となるが、履修者自身による調査・分析・報告の実践が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者自身による主体的な資料収集・調査、その内容に関する解釈の説明・報告、グループ単位での調査・報告・討論等を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学術研究における先行研究の概念を理解し、適切な資料・文献を見つけた上で、論文として適切な形で引用・要約し、他者に対し説明・報告することができるようになる。					3	3						
②	資料・論文等に対して、学術的な観点から論理的・批判的に議論を展開することができるようになる。							3					
③	既存の研究や論説、公共的問題に対して、新しい観点から独自のリサーチクエストを設定できるようになる。								3	3			
④	自らが設定したリサーチクエストに対して、論理的に実証する方法を説明することができるようになる。								3	3			
⑤	グループ活動や研究に関する討論を通じて、他者との協働・討論、他者に対する論理的な批判を円滑かつ積極的に行うことができるようになる。										3	3	3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内でのグループ活動、討論、発表等の内容を通じて、 到達目標①②③④⑤の達成水準を判断し評価する。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	授業への参加度、事前・事後学修の状況から、到達目標① ②③④⑤の達成水準を判断し評価する。	3	3	3	3	3						15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	提出されたゼミナール論文、レポート・報告資料等の課題 に対して、到達目標①②③④の基準から技能・能力が身に 付いているかを判断し評価する。	15	15	15	15							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		23	23	23	23	8						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内、講義後、翌週に個別にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル	ケイト・L・トゥラビ アン	慶應義塾大学出版会	2012	参考書	任意
備考	教材としていくつかの雑誌論文、学術書等を使用するが、授業内で説明・配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ゼミナールの概要及び導入講義	ゼミナールの進め方に関する概要説明を行う。また、学術研究とは何か、ゼミナール論文として最終的にどのようなものを目標とするのか解説する。	
		この回の到達目標	ゼミナール活動、学術研究とはどのようなものか理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通し、ゼミナール活動の概要について事前に学んでおく。	60分
		事後学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	180分
2	4/14	学術論文の構造	事前に与えられた課題文献を題材に、学術論文の構造について解説・討論する。	
		この回の到達目標	学術研究の構造を理解できるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
3	4/21	先行研究の意義	事前に与えられた課題文献を題材に、先行研究の意義について解説・討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の意義を理解できるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
4	4/28	仮説と実証	事前に与えられた課題文献を題材に、仮説とは何か解説・討論する。	
		この回の到達目標	仮説とは何かを理解できるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
5	5/5	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
6	5/12	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
8	5/26	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
9	6/2	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
10	6/9	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
11	6/16	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
12	6/23	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
		この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
		事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
		事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6/30	課題探究		自らの研究課題の設定に向けて、履修者自身が関心のあるテーマに関する調査・報告を行う。
		この回の到達目標	関心のある研究課題を発見し、研究テーマを設定する。	
		事前学修	関心のある研究課題について、次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	関心のある研究課題について、次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
14	7/7	課題探究		自らの研究課題の設定に向けて、履修者自身が関心のあるテーマに関する調査・報告を行う。
		この回の到達目標	関心のある研究課題を発見し、研究テーマを設定する。	
		事前学修	関心のある研究課題について、次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	関心のある研究課題について、次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
15	7/14	課題探究		自らの研究課題の設定に向けて、履修者自身が関心のあるテーマに関する調査・報告を行う。
		この回の到達目標	関心のある研究課題を発見し、研究テーマを設定する。	
		事前学修	関心のある研究課題について、次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	関心のある研究課題について、次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
16	9/15	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
17	9/22	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
18	9/29	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
20	10/13	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
21	10/20	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
22	10/27	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
23	11/10	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
24	11/17	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
26	12/1	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
27	12/8	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
28	12/15	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
29	12/22	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
30	1/12	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
		この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
		事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
		事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小野寺 千世	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
会社法の基礎を理解し、4年次に作成するゼミナール論文の作成に向け、会社法、保険法を中心とする商法分野の基礎知識を学習するとともに、判例研究を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法を中心とする商法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心にそった研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
3年次を対象とする。

【授業方法】
ゼミナール方式で行う。 必要に応じて関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法における各制度、その趣旨、関連する問題点と法の適用等を理解し、説明できる。				3	3						3
②	会社法の主要な論点に関する裁判例および学説を説明できる。				3	3	3					3
③	商法の主要な論点に関して考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、研究報告、および討論において自分の意見を述べる ことができたかを基準に評価する。	20	20									40
授業への参画度	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、授業、グループワーク等における質疑応答等によ って評価する。	10	10									20
その他(ゼミナール 論文)	到達目標③についての知識・技能・態度が身についている かを、ゼミナール論文により評価する。			40								40
その他()	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成 績評価は4年次に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中に、適宜、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法	神田秀樹	弘文堂			
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:20～13:00研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（9号館3階 9308号室）メールアドレス： onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・導入講義	ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガイダンスをとおして、本ゼミナールの運営方法、内容、全体目標、各回の個別目標とこれらの関係等を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の目次等を読み、会社法全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
2	4/11	会社の種類	会社法上の会社について、その他の会社について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
3	4/18	株式会社の性質	会社の法人格、法人格否認の法理について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
4	4/23	株式の意義	株式の意義、株主平等原則、株式の内容について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
5	5/5	株式の譲渡	株式譲渡自由の原則、その例外について、理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
6	5/12	株主名簿制度	株主名簿の意義、名義書換えの効果等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	株主総会	株主総会における議決権、招集手続、決議、決議の瑕疵等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
8	5/26	取締役会・代表取締役	取締役、取締役会、代表取締役の意義、役割等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
9	6/2	取締役の義務	取締役の義務として、一般的な義務、特別な義務について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
10	6/9	取締役の責任	取締役の責任として、会社に対する責任、第三者に対する責任について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
11	6/16	監査役・監査役会	監査役、監査役会の意義、決議、義務と責任等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
12	6/23	指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社の特徴について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	6/30	監査等委員会設置会社	監査等委員会設置会社の立法趣旨等について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。120分
14	7/7	資金調達	資金調達としての新株発行、社債発行等について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。120分
15	7/14	組織再編	合併、会社分割、株式交換・株式移転等について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。
		事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。120分
		事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。120分
16	9/15	会社の性質に関する判例研究	会社の性質に関する主要論点に関する判例について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。120分
17	9/22	株式に関する判例研究	株式に関する主要論点に関する判例について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。120分
18	9/29	株式の譲渡に関する判例研究	株式の譲渡に関する主要論点に関する判例について理解する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	株主名簿に関する判例研究	株主名簿に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
20	10/13	株主総会に関する判例研究	株主総会に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
21	10/20	取締役会、代表取締役に関する判例研究	取締役会、代表取締役に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
22	10/27	取締役の義務に関する判例研究	取締役の義務に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
23	11/10	取締役の責任に関する判例研究	取締役の責任に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
24	11/17	株主代表訴訟制度に関する判例研究	株主代表訴訟に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	監査役等に関する判例研究	監査役に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
26	12/1	会社の設立に関する判例研究	会社の設立に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
27	12/8	資金調達に関する判例研究	資金調達に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
28	12/15	組織変更、例研究	合併に関する判例、組織変更、合併（新設合併、吸収合併）に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
29	12/22	会社分割、株式交換・株式移転に関する判例研究	会社分割、株式交換・株式移転に関する主要論点に関する判例について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
		事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
30	1/12	判例研究のまとめ	会社法における主要論点を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	判例研究の成果をゼミ論文としてまとめる。	120分
		事後学修	卒業論文に向け、資料の収集、整理をする。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
地方自治の現場で生起している様々な問題を取り上げて考察することで、地方自治の制度や機能に関する基本的な事項を学修すると共に、主権者として地方自治に関わっていくための問題意識を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。さらに3年次を通した学びの中から、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを見つけられることを目標とする。

【履修条件】
原則として、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を既に履修済みか現在履修していること。

【授業方法】
授業で使用する地方自治に関する論文を受講生が主体的に選び取り、報告とディスカッションを中心に据えた演習形式により行う。授業の段取り、報告、ディスカッションの手順などについては、第1回目の授業において担当教員が説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員、受講者全員によるディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治の仕組みや全体像を理解することができる。						3	3			3	3	3	3
②	地方自治で生起する諸問題について、論理的かつ批判的に考察することができる。						3		4		3	3	4	
③	地方自治で生起する諸問題について注意深く観察し、自分の意見を述べるができる。						3			3	3	3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、それらが身についているかを日ごろの授業への関わり（報告、ディスカッション）の中で評価する。ゼミナールは3年時と4年時の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。	20	20	30								70
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年時と4年時の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。また4年時末には、ゼミナールの総仕上げとして「ゼミナール論文」を提出しなければならない。	10	10	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	演習で使う文献、論文については、授業1回目に受講生全員と相談しながら決定する。				

【オフィスアワー】
月曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス：授業内容の説明 導入講義	これからの授業概要、演習計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた演習の内容であること、また演習計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、授業時に紹介した参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部月 4/13	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部月 4/20	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部月 4/27	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部月 5/4	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部月 5/11	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	第一部月 5/25	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	第一部月 6/1	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	第一部月 6/8	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	第一部月 6/15	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	第一部月 6/22	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	第一部月 7/6	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	第一部月 7/13	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
16	第一部月 9/14	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
17	第一部月 9/21	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
18	第一部月 9/28	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 10/5	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
20	第一部月 10/12	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
21	第一部月 10/19	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
22	第一部月 10/26	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
23	第一部月 11/9	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
24	第一部月 11/16	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
25	第一部月 11/23	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション		地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。			
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			
26	第一部月 11/30	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション		地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。			
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			
27	第一部月 12/7	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション		地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。			
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			
28	第一部月 12/14	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション		地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。			
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			
29	第一部月 12/21	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション		地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。			
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			
30	第一部月 1/18	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション		授地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。			
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。			

科目名	ゼミナール3年	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について、グループ活動を含めて学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について学習し、各自の興味・関心に沿った研究テーマを追求できるようになる。知的財産管理技能検定3級の取得を目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、知的財産法に関する現代の諸問題への理解を深め、制度のあり方について自分自身の見解を論理的に提示できるようになる。また、より一般的に、自身の問題関心を、学問的意義で裏付け、他者の力も借りつつ検討し、解決策を見いだす手法を会得する。 関連DP及びCP：法律・経営法学科1，7，8 政治経済・新聞・公共政策学科1～8

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：基本的なテキスト及び時事問題について履修者が担当の発表を行い、その内容についてグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。適宜、外部施設見学を行う。また、履修者の希望に応じて、集団で統一テーマについて対外インタビュー等も実施しながら研究し、対外的に発表を行う。知的財産管理技能検定3級の取得に向けてサブゼミ等を実施する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて文献やインタビュー等を通じて得られた知見を随時発表し、ディスカッション及び教員による解説を行う。ゼミナール論文を作成する段階では、サブゼミ等においてゼミ生や教員との間で議論しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に少人数の討論やグループワークの形式で、学生及び教員の間で双方向のコミュニケーションをとりながら進める。見学、訪問も、問題関心に応じた見学、訪問先の選定や連絡調整、訪問、事後対応を含めて、ゼミ生主導で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産に関わる制度がどのような目的を有しているか、私益と公益のババランスの重要性を含めて、具体的に説明する。						4	3	3	3	3	3	3	
②	知的財産法制度の概要について、具体例を交えながらわかりやすく説明する。						3	4	3	3	3	3	3	
③	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を挙げる。						3	4	4	4	3	3	3	
④	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、個人又はゼミ生の協調を通じて探求する。						3	3	3	3	4	4	4	3
⑤	知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より一般的な法制度上の課題として位置づけて説明する。						3	4	4	4	4	3	3	4
⑥	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例について、個別的に、及び、一般的な法制度上の課題として、解決策を検討する。						3	4	4	4	4	3	3	4
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30
授業への参画度	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。 ゼミナール論文は、テーマ設定から調査研究過程、完成した論文の水準等を総合的に評価する。	5	5	5	5	10	10					40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ活動を通じて随時行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度

【オフィスアワー】	
月曜11時～12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション及び導入講義	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てる。	
		この回の到達目標	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てることができる。	
		事前学修	ゼミ活動について、情報を収集して、イメージをふくらませておく。	120分
		事後学修	立案した計画に基づき、準備を進める。	120分
2	4/14	知的財産法制度の基礎学習①	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
3	4/21	知的財産法制度の基礎学習②	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
4	4/28	知的財産法制度の基礎学習③	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
5	5/5	外部施設見学	特許庁を見学し、知的財産の法制度の概要と特許庁など省庁の役割について理解を深める。	
		この回の到達目標	知的財産の法制度の概要と特許庁など省庁の役割について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	特許庁について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	見学を通じて得られた理解についてさらに調べを進める。	120分
6	5/12	知的財産法制度の基礎学習④	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	知的財産法制度の基礎学習 ⑤	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
8	5/26	知的財産法制度の基礎学習 ⑥	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
9	6/2	知的財産法制度の基礎学習 ⑥	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
10	6/9	外部施設見学②	ゼミ生で選定した外部施設を見学し、知的財産法制度及びそれに関わる当事者について理解を深める。	
		この回の到達目標	知的財産の法制度の概要と見学した施設の役割について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	見学対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	見学を通じて得られた理解についてさらに調べを進める。	210分
11	6/16	知的財産法制度の基礎学習 ⑦	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
12	6/23	知的財産法制度の基礎学習 ⑧	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	知的財産法制度の基礎学習 ⑨	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
14	7/7	知的財産法制度の基礎学習 ⑩	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
15	7/14	前学期の学習のまとめと今後の活動の立案	知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動を検討する。	
		この回の到達目標	知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動について見通しを持つ。	
		事前学修	前学期の基礎学習における疑問点を洗い出し、ゼミ活動に関する意見をまとめておく。	120分
		事後学修	疑問点が解消したかを確認し、今後のゼミ活動について必要な準備を進める。	120分
16	9/15	後学期の学習の準備 導入講義	後学期のゼミ活動についてイメージを出し合い、計画を立案する。	
		この回の到達目標	後学期のゼミ活動について皆のイメージを実現し得るような計画を立案する。	
		事前学修	後学期のゼミ活動についてイメージとその裏付けを膨らませておく。	120分
		事後学修	後学期のゼミ活動の計画に基づいて準備を始める。	120分
17	9/22	グループ学習①	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
18	9/29	グループ学習②	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	グループ学習③	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
20	10/13	グループ学習の中間報告	各グループから調査研究の進捗について発表し、検討する。	
		この回の到達目標	各グループの調査研究の発表について理解し、課題を共有する。	
		事前学修	グループの中間報告をまとめ、課題を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
21	10/20	グループ学習⑥	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
22	10/27	グループ学習⑦	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
23	11/10	グループ学習⑧	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
24	11/17	グループ学習⑨	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	グループ学習の最終発表	各グループから最終発表を行い、検討する。	
		この回の到達目標	各グループの最終発表を理解し、課題を共有する。	
		事前学修	各グループの最終発表を準備し、課題を挙げておく。	120分
		事後学修	各グループの最終発表における課題について、自分なりに調べを進める。	120分
26	12/1	次期ゼミ生の選抜①	次期ゼミ生の選抜について、入ゼミ試験の実施要領等を検討する。	
		この回の到達目標	入ゼミ試験の実施要領等を決定する。	
		事前学修	適当と考える次期ゼミ生とその選抜方法についてイメージを持つ。	120分
		事後学修	入ゼミ試験を準備する。	120分
27	12/8	卒論作成準備①	卒論作成の準備について教員から説明を受け、自身のテーマ設定の検討に着手する。	
		この回の到達目標	卒論作成の準備について見通しを得る。自身のテーマ設定の検討に着手する。	
		事前学修	過去のゼミナール論文のテーマや構成を把握しておく。	120分
		事後学修	卒論作成の準備と自身の学生生活上のタイムスケジュールに見通しを持ち、自身のテーマ設定の検討に着手する。	120分
28	12/15	次期ゼミ生の選抜②	次期ゼミ生の選抜について、入ゼミ試験の結果を踏まえて結論を出す。	
		この回の到達目標	適切な次期ゼミ生を選抜する。	
		事前学修	ゼミ生候補について資料等をもとに検討する。	120分
		事後学修	入ゼミ生の迎え入れを準備する。	120分
29	12/22	卒論作成準備②	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法をゼミ内で共有し検討する。	
		この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法をゼミ内で共有し検討する。	
		事前学修	各自で卒論テーマに関する問題意識と検討手法について構想し、メモを作成する。	120分
		事後学修	ゼミにおける検討結果を踏まえて、準備を進める。	120分
30	1/12	卒論作成準備③ 後学期の活動の総括	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法をゼミ内で共有し検討する。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを検討する。	
		この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法について理解し、今後の準備の見通しを得る。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを得る。	
		事前学修	各自で卒論テーマに関する問題意識と検討手法について構想し、メモを作成する。 ゼミ活動の全体的な課題について整理しておく。	120分
		事後学修	ゼミにおける検討結果を踏まえて、準備を進める。 春休み以降のゼミ活動について、準備を進める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
知的財産法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産法における現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の基本構成を作成できるようになることを目的とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
順番にしたがって、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基本的な法律の解釈について説明することができる。						3	3						
②	基本的な法律に関する判例について説明することができる。								3	3	3			
③	基本的な法律に関する事例について説明することができる。										3	3	3	
④	基本的な法律に関する諸問題について説明することができる。											3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の担当箇所についての的確な発表を行ったか。発表された内容をもとに積極的にグループディスカッションを行ったか。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業に積極的に参画し、的確な発言を行ったか。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜5限、加藤浩研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナールにおける学習内容について説明します。	
		この回の到達目標	ゼミナールにおける学習内容を理解すること。	
		事前学修	ゼミナールにおける学習内容について考えてきてください。	90分
		事後学修	ゼミナールにおける学習内容について整理しておいてください。	90分
2	4月15日	判例研究の基礎Ⅰ	判例研究の基本的な方法について整理します。	
		この回の到達目標	判例研究の基本的な方法を理解すること。	
		事前学修	判例研究の基本的な方法について考えてきてください。	90分
		事後学修	判例研究の基本的な方法について整理しておいてください。	90分
3	4月22日	判例研究の基礎Ⅱ	判例研究の具体的な方法について整理します。	
		この回の到達目標	判例研究の具体的な方法について整理すること。	
		事前学修	判例研究の具体的な方法について考えてきてください	90分
		事後学修	判例研究の具体的な方法について整理しておいてください。	90分
4	4月29日	判例研究・発表（特許法）	特許法に関する判例について論点を整理します。	
		この回の到達目標	特許法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	特許法に関する判例について読んできてください。	90分
		事後学修	特許法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分
5	5月6日	判例研究・発表（意匠法）	意匠法に関する判例について論点を整理します。	
		この回の到達目標	意匠法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	意匠法に関する判例について読んできてください。	90分
		事後学修	意匠法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分
6	5月13日	判例研究・発表（商標法）	商標法に関する判例についてに論点を整理します。	
		この回の到達目標	商標法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	商標法に関する判例について読んできてください。	90分
		事後学修	商標法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	判例研究・発表（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する判例について論点を整理します。	
		この回の到達目標	不正競争防止法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	不正競争防止法に関する判例について読んでください。	90分
		事後学修	不正競争防止法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分
8	5月27日	判例研究・発表（著作権法）	著作権法に関する判例について整理します。	
		この回の到達目標	著作権法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	著作権法に関する判例について読んでください。	90分
		事後学修	著作権法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分
9	6月3日	判例研究・発表（契約法）	契約法に関する判例について論点を整理します。	
		この回の到達目標	契約法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	契約法に関する判例について読んでください。	90分
		事後学修	契約法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分
10	6月10日	判例研究・発表（国際法）	国際法に関する判例について論点を整理する。	
		この回の到達目標	国際法に関する判例について論点を整理すること。	
		事前学修	国際法に関する判例について読んでください。	90分
		事後学修	国際法に関する判例について論点を整理しておいてください。	90分
11	6月17日	企業研究・発表（企業A）	企業Aについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Aについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Aについて調べてきてください。	90分
		事後学修	企業Aの企業法務について整理しておいてください。	90分
12	6月24日	企業研究・発表（企業B）	企業Bについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Bについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Bについて調べてきてください。	90分
		事後学修	企業Bの企業法務について整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	企業研究・発表（企業C）	企業Cについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Cについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Bについて調べてきてください。	90分
		事後学修	企業Cの企業法務について整理しておいてください。	90分
14	7月8日	企業研究・発表（企業D）	企業Dについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Dについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Dについて調べてきてください。	90分
		事後学修	企業Dの企業法務について整理しておいてください。	90分
15	7月15日	総括（まとめ）	前期の総括を行います。	
		この回の到達目標	これまでの判例研究、企業研究について整理すること。	
		事前学修	これまでの判例研究、企業研究について考えてきて下さい。	90分
		事後学修	これまでの判例研究、企業研究について整理しておいてください。	90分
16	9月16日	事例研究の基礎Ⅰ	事例研究の基本的な手法について説明します。	
		この回の到達目標	事例研究の基本的な手法について理解すること。	
		事前学修	事例研究の基本的な手法について考えてきてください。	90分
		事後学修	事例研究の基本的な手法について整理しておいてください。	90分
17	9月23日	事例研究の基礎Ⅱ	事例研究の具体的な手法について説明します。	
		この回の到達目標	事例研究の具体的な手法について理解すること。	
		事前学修	事例研究の具体的な手法について考えてきてください。	90分
		事後学修	事例研究の具体的な手法について整理しておいてください。	90分
18	9月30日	事例研究、発表（特許法）	特許法に関する事例について論点を整理します。	
		この回の到達目標	特許法に関する事例について論点を整理すること。	
		事前学修	特許法に関する事例について考えてきてください。	90分
		事後学修	特許法に関する事例について論点を整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	10月7日	事例研究、発表（意匠法）	意匠法に関する事例について論点を整理します。
		この回の到達目標	意匠法に関する事例について論点を整理すること。
		事前学修	意匠法に関する事例について考えてきてください。
		事後学修	意匠法に関する事例について論点を整理しておいてください。
20	10月14日	事例研究、発表（商標法）	商標法に関する事例について論点を整理します。
		この回の到達目標	商標法に関する事例について論点を整理すること。
		事前学修	商標法に関する事例について考えてきてください。
		事後学修	商標法に関する事例について論点を整理しておいてください。
21	10月21日	事例研究、発表（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する事例について論点を整理します。
		この回の到達目標	不正競争防止法に関する事例について論点を整理すること。
		事前学修	不正競争防止法に関する事例について考えてきてください。
		事後学修	不正競争防止法に関する事例について論点を整理しておいてください。
22	10月28日	事例研究、発表（著作権法）	著作権法に関する事例について論点を整理します。
		この回の到達目標	著作権法に関する事例について論点を整理すること。
		事前学修	著作権法に関する事例について考えてきてください。
		事後学修	著作権法に関する事例について論点を整理しておいてください。
23	11月11日	事例研究、発表（契約法）	契約法に関する事例について論点を整理します。
		この回の到達目標	契約法に関する事例について論点を整理すること。
		事前学修	契約法に関する事例について考えてきてください。
		事後学修	契約法に関する事例について論点を整理しておいてください。
24	11月18日	事例研究、発表（国際法）	国際法に関する事例について論点を整理します。
		この回の到達目標	国際法に関する事例について論点を整理すること。
		事前学修	国際法に関する事例について考えてきてください。
		事後学修	国際法に関する事例について論点を整理しておいてください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	11月25日	小論文の作成（基本的な考え方）	小論文の作成（基本的な考え方）について説明します。
		この回の到達目標	小論文の作成（基本的な考え方）について理解すること。
		事前学修	小論文の作成（基本的な考え方）について考えてきてください。90分
		事後学修	小論文の作成（基本的な考え方）について整理しておいてください。90分
26	12月2日	小論文の作成（テーマ選定）	小論文の作成（テーマ選定）を行います。
		この回の到達目標	小論文の作成（テーマ選定）について理解すること。
		事前学修	小論文の作成（テーマ選定）について考えてきてください。90分
		事後学修	小論文の作成（テーマ選定）について整理しておいてください。90分
27	12月9日	小論文の作成（事例の調査）	小論文の作成（事例の調査）を行います。
		この回の到達目標	小論文の作成（事例の調査）について理解すること。
		事前学修	小論文の作成（事例の調査）について考えてきてください。90分
		事後学修	小論文の作成（事例の調査）について整理しておいてください。90分
28	12月16日	小論文の作成（情報の整理）	小論文の作成（情報の整理）を行います。
		この回の到達目標	小論文の作成（情報の整理）について理解すること。
		事前学修	小論文の作成（情報の整理）について考えてきてください。90分
		事後学修	小論文の作成（情報の整理）について整理しておいてください。90分
29	12月23日	小論文の作成（仕上げ）	小論文の作成（仕上げ）を行います。
		この回の到達目標	小論文の作成（仕上げ）について理解すること。
		事前学修	小論文の作成（仕上げ）について考えてきてください。90分
		事後学修	小論文の作成（仕上げ）について整理しておいてください。90分
30	1月13日	総括（まとめ）	後期の総括を行います。
		この回の到達目標	これまでの事例研究、小論文の作成について整理すること。
		事前学修	これまでの事例研究、小論文の作成について考えてきてください。90分
		事後学修	これまでの事例研究、小論文の作成について整理しておいてください。90分

科目名	ゼミナール3年	担当者	加藤 雅之	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する事例問題に関する議論を通じて、民法学に対する理解を深める。 4年次：各自で設定する研究テーマについて卒業論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法に関する基本的知識を確認するとともに、既存の判例および学説を批判的に検討することにより、新たな知見を得ることを目的とする。

【履修条件】
2年次までに配当の民法に関する講義を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
ゼミナールは、議論または報告など学生の主体的参加によって行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークが考えられる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する理解を整理し、既存の見解を批判的に検討することができる。				4	4	4	4				
②	説得的な理論的根拠に基づく自説を展開することができる。						4	4	4	4		
③	他者との意見交換を通じて、他者の見解を理解し、自身の考えを相対化することができる。								4	4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標に照らして、ゼミナールにおける討論・発表を総合的に評価する。	15	15	15								45
授業への参画度	到達目標に照らして、報告準備、議論への参加等を総合的に評価する。	10	10	10								30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の内容が到達目標に達しているかを評価する。	5	10	10								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミナールにおいて、参加者の報告や発言に対して、担当者からコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8水	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの概要および到達目標について確認する。また、年間の研究計画を参加者全員で検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、現代の民法における問題点について理解し、説明することができる。	
		事前学修	民法に関する基本的知識を整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を通じて、いかなる問題を検討すべきかを整理する。	120分
2	4/15水	事例研究・基礎編（1）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
3	4/22水	事例研究・基礎編（2）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
4	4/29水	事例研究・基礎編（3）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
5	5/6水	事例研究・基礎編（4）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
6	5/13水	事例研究・基礎編（5）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20水	事例研究・基礎編（6）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
8	5/27水	事例研究・基礎編（7）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
9	6/3水	事例研究・基礎編（8）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
10	6/10水	事例研究・基礎編（9）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
11	6/17水	事例研究・基礎編（10）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
12	6/24水	事例研究・基礎編（11）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1水	事例研究・基礎編（12）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
14	7/8水	事例研究・基礎編（13）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
15	7/15水	前期の振り返り	前期に検討した事例問題を総合的に振り返り、基礎知識の確認と問題点の発見を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法に関する基本的知識を定着したことを確認し、民法学における問題点について説明することができる。	
		事前学修	これまでに検討した事例問題を確認・整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、現代における民法の問題点について整理する。	120分
16	9/16水	事例研究・応用編（1）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
17	9/23水	事例研究・応用編（2）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
18	9/30水	事例研究・応用編（3）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7水	事例研究・応用編（4）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
20	10/14水	事例研究・応用編（5）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
21	10/21水	事例研究・応用編（6）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
22	10/28水	事例研究・応用編（7）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
23	11/11水	事例研究・応用編（8）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
24	11/18水	事例研究・応用編（9）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25水	事例研究・応用編（10）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
26	12/2水	事例研究・応用編（11）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
27	12/9水	事例研究・応用編（12）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
28	12/16水	事例研究・応用編（13）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
29	12/23水	事例研究・応用編（14）	事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
		事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
30	1/13水	総括	一年間のゼミナールにおいて検討した問題を振り返り、議論の整理や反省点を確認し、4年次のゼミナールに向けて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法学における新たな問題を提示し、それに対する自分なりの解答を論理的に説明することができる。	
		事前学修	これまでに検討した問題を整理し、理解が不十分なものがあれば再検討しておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
NPO、ソーシャルビジネス等、現代行政における新たなアクターについての基礎理論を身に付け、実際に調査・分析を行うとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文執筆を開始する。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
【前期】グループごとに研究テーマを設定し、既存文献調査の他、NPO・自治体等の実地調査を行い、結果発表を行う。発表された内容をもとにゼミ内でディスカッションを行う。 【後期】論文執筆の基礎的技法についての講義ののち、ゼミナール論文の執筆を開始し（3年次中に5000字執筆）、全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスチョン・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3					
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3					
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。								3			3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。									3	3	3	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10										10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。			10	20							30
授業への参画度	出席、発言状況、各種行事・調査準備への参画状況等を評価する。		20	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。				30							30
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各種発表・レポートに対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省、内閣官房等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政の現場においてNPO等と協力して政策立案に携わってきた経験などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス、演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、前期における調査研究活動に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	3年次前期のスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4月15日	グループ調査研究テーマの議論・グループ分け決定	前期のグループワークで行う調査研究テーマを複数提案しあい、各人の関心に応じたグループ分けを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策課題のうちゼミナールで調査研究するにふさわしい調査研究テーマを探索し、決定できる。	
		事前学修	各人の関心に応じた調査研究テーマをあらかじめ探索し、ゼミナールでの議論に備える。	120分
		事後学修	決定されたグループでの議論を踏まえ、自分の提案したテーマの再探索・深堀りなどを行う。	120分
3	4月22日	調査研究テーマの発表①	グループ内での議論を踏まえ、前期の調査研究テーマを決定・資料化し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループ内での議論を踏まえて適切な調査研究テーマを探索・決定し、適切な方法で発表できる。	
		事前学修	グループ内で各人の提案したテーマをすり合わせ、適切なテーマを決定し、発表の準備をする。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、テーマの再探索・深堀りなどの検討を行う。	120分
4	4月29日	調査研究テーマの発表②	グループ内での議論を踏まえ、前期の調査研究テーマを決定・資料化し発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループ内での議論を踏まえて適切な調査研究テーマを探索・決定し、適切な方法で発表できる。	
		事前学修	グループ内で各人の提案したテーマをすり合わせ、適切なテーマを決定し、発表の準備をする。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、テーマの再探索・深堀りなどの検討を行う。	120分
5	5月6日	調査研究手法・調査対象の発表①	前回までに決定したテーマを踏まえ、どのような手法を用いて調査研究を進めるか、フィールドワークの対象をどこにするか発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークの技法に関する基礎知識、調査対象の探索方法などを身に付け、適切な方法で発表できる。	
		事前学修	公共政策の調査研究に当たってどのような調査手法があるのか、フィールドワーク対象に何があるのか調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、調査技法・対象などの再検討を行う。	120分
6	5月13日	調査研究手法・調査対象の発表②	前回までに決定したテーマを踏まえ、どのような手法を用いて調査研究を進めるか、フィールドワークの対象をどこにするか発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークの技法に関する基礎知識、調査対象の探索方法などを身に付け、適切な方法で発表できる。実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
		事前学修	公共政策の調査研究に当たってどのような調査手法があるのか、フィールドワーク対象に何があるのか調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、調査技法・対象などの再検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	フィールドワークの結果発表①	実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループで協力して適切な技法によりフィールドワークを実施できる。また、それにより得られた成果をわかりやすく資料化して発表できる。	
		事前学修	実地調査対象に赴いてフィールドワークを実施し、今後の分析のための素材を収集するとともに、それらを発表できるように資料化しておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、補充調査を実施するほか、今後の分析に備えてデータ等の整理をさらに進める。	120分
8	5月27日	フィールドワークの結果発表②	実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループで協力して適切な技法によりフィールドワークを実施できる。また、それにより得られた成果をわかりやすく資料化して発表できる。	
		事前学修	実地調査対象に赴いてフィールドワークを実施し、今後の分析のための素材を収集するとともに、それらを発表できるように資料化しておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、補充調査を実施するほか、今後の分析に備えてデータ等の整理をさらに進める。	120分
9	6月3日	フィールドワークの結果発表③	実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループで協力して適切な技法によりフィールドワークを実施できる。また、それにより得られた成果をわかりやすく資料化して発表できる。	
		事前学修	実地調査対象に赴いてフィールドワークを実施し、今後の分析のための素材を収集するとともに、それらを発表できるように資料化しておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、必要に応じて補充調査を実施するほか、今後の分析に備えてデータ等の整理をさらに進める。	120分
10	6月10日	中間発表①	フィールドワーク結果・先行研究などの文献調査結果を総合して、第1次的な調査研究成果の発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
		事前学修	これまでの諸調査で得られた資料等を整理・分析し、一定の仮説に基づいてグループ内でとりあえずの結論を導出し、発表できるようにしておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、仮説の変更、ロジックの再整理、データの補強などを実施する。	120分
11	6月17日	中間発表②	フィールドワーク結果・先行研究などの文献調査結果を総合して、第1次的な調査研究成果の発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
		事前学修	これまでの諸調査で得られた資料等を整理・分析し、一定の仮説に基づいてグループ内でとりあえずの結論を導出し、発表できるようにしておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、仮説の変更、ロジックの再整理、データの補強などを実施する。	120分
12	6月24日	中間発表③	フィールドワーク結果・先行研究などの文献調査結果を総合して、第1次的な調査研究成果の発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
		事前学修	これまでの諸調査で得られた資料等を整理・分析し、一定の仮説に基づいてグループ内でとりあえずの結論を導出し、発表できるようにしておく。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、仮説の変更、ロジックの再整理、データの補強などを実施する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	最終発表①	中間発表以後の再検討・補充調査などの成果を踏まえ、調査研究の最終成果を発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
		事前学修	中間報告以降の検討結果・新たに得られた素材等の整理分析結果を踏まえて成果発表の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、発表内容に修正を加えて最終成果物を完成させる。	120分
14	7月8日	最終発表②	中間発表以後の再検討・補充調査などの成果を踏まえ、調査研究の最終成果を発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
		事前学修	中間報告以降の検討結果・新たに得られた素材等の整理分析結果を踏まえて成果発表の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、発表内容に修正を加えて最終成果物を完成させる。	120分
15	7月15日	最終発表③	中間発表以後の再検討・補充調査などの成果を踏まえ、調査研究の最終成果を発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
		事前学修	中間報告以降の検討結果・新たに得られた素材等の整理分析結果を踏まえて成果発表の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、発表内容に修正を加えて最終成果物を完成させる。	120分
16	9月16日	論文作成のルール・技法①	後期からゼミナール論文を執筆開始するに当たり、論文作成に関するルールや基礎的技法を身に付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、論文執筆の基本的ルールや技法等を身に付け、ゼミナール論文の執筆を開始できる。	
		事前学修	事前に指定する資料・論文等を読み、論文のルール・技法等についてわからないところを質問できるようにしておく。	120分
		事後学修	授業での確認を踏まえて、論文執筆に当たって留意すべき点などを整理する。	120分
17	9月23日	論文作成のルール・技法②	後期からゼミナール論文を執筆開始するに当たり、論文作成に関するルールや基礎的技法を身に付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、論文執筆の基本的ルールや技法等を身に付け、ゼミナール論文の執筆を開始できる。	
		事前学修	事前に指定する資料・論文等を読み、論文のルール・技法等についてわからないところを質問できるようにしておく。	120分
		事後学修	授業での確認を踏まえて、論文執筆に当たって留意すべき点などを整理する。	120分
18	9月30日	論文テーマの決定・発表①	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	論文テーマの決定・発表②	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
20	10月14日	論文テーマの決定・発表③	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
21	10月21日	論文テーマの決定・発表④	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
22	10月28日	論文の構成等①	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチエスチョン・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチエスチョン等の設定について、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチエスチョン・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。	120分
23	11月11日	論文の構成等②	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチエスチョン・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチエスチョン等の設定について、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチエスチョン・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。	120分
24	11月18日	論文の構成等③	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチエスチョン・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチエスチョン等の設定について、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチエスチョン・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1 1 月 2 5 日	論文の構成等④	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスト・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチクエスト等の設定について、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチクエスト・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめる。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構成・フレームワークについてさらに検討を加える。	120分
26	1 2 月 2 日	第1次発表①	ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
27	1 2 月 9 日	第1次発表②	ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
28	1 2 月 1 6 日	第1次発表③	ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
29	1 2 月 2 3 日	第1次発表④	ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
30	1 月 1 3 日	第1次発表⑤	ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	河合 利修	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際法に関する基本的知識を得て、グループワークをとおして、さらに国際法の知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際法に関する知識を身に着け、そして深化させる。そのために、各自の学習意欲の向上はもちろんのこと、グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養いつつ、国際法に関する問題意識と知識を深める。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
ゼミ形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際法に関する基本的知識を得る。						3	3						
②	国際法に関する知識を深化させる。								3					
③	ゼミ生各自が国際法についての問題意識をもちながら、国際法を学習する。									3				
④	グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養う。										4	4	4	4
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークを適切に行う。				50							50
授業への参画度	国際法に関する知識を得、深化させる。	10	10	15								35
その他(ゼミナール 論文)	論文を作成、提出する。			15								15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各回のゼミにおいて個別に行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
金曜日14時30分～16時 研究室	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ゼミ概要及び導入講義	ゼミの概要について説明する。	
		この回の到達目標	ゼミの概要を把握する。	
		事前学修	国際法について調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識を、各自、ニュースなどに応用してみる。	120分
2	4月14日	国際法基本知識①	国際法に関する基本的知識を学習する①	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
3	4月21日	国際法基本知識②	国際法に関する基本的知識を学習する②	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
4	4月28日	国際法基本知識③	国際法に関する基本的知識を学習する③	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
5	5月5日	国際法基本知識④	国際法に関する基本的知識を学習する④	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
6	5月12日	国際法基本知識⑤	国際法に関する基本的知識を学習する⑤	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	国際法基本知識⑥	国際法に関する基本的知識を学習する⑥	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
8	5月26日	国際法基本知識⑦	国際法に関する基本的知識を学習する⑦	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
9	6月2日	国際法基本知識⑧	国際法に関する基本的知識を学習する⑧	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
10	6月9日	国際法基本知識⑨	国際法に関する基本的知識を学習する⑨	
		この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
11	6月16日	グループワーク①	グループワークをととした学習①	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
12	6月23日	グループワーク②	グループワークをととした学習②	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	グループワーク③	グループワークをととした学習③	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
14	7月7日	グループワーク④	グループワークをととした学習④	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
15	7月14日	グループワーク⑤	グループワークをととした学習⑤	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
16	9月15日	グループワーク⑥	グループワークをととした学習⑥	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
17	9月22日	グループワーク⑦	グループワークをととした学習⑦	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
18	9月29日	グループワーク⑧	グループワークをととした学習⑧	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	グループワーク⑨	グループワークをととした学習⑨	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
20	10月13日	グループワーク⑩	グループワークをととした学習⑩	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
21	10月20日	グループワーク⑪	グループワークをととした学習⑪	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
22	10月27日	グループワーク⑫	グループワークをととした学習⑫	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
23	11月10日	グループワーク⑬	グループワークをととした学習⑬	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
24	11月17日	グループワーク⑭	グループワークをととした学習⑭	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	グループワーク⑮	グループワークをととした学習⑮	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
26	12月1日	グループワーク⑯	グループワークをととした学習⑯	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
27	12月8日	グループワーク⑰	グループワークをととした学習⑰	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
28	12月15日	グループワーク⑱	グループワークをととした学習⑱	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
29	12月22日	グループワーク⑲	グループワークをととした学習⑲	
		この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
		事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
30	1月12日	まとめ	一年で学んだことのまとめ	
		この回の到達目標	学んだことのまとめを行う。	
		事前学修	学んだことを確認する。	120分
		事後学修	1年間のゼミを振り返る。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個人研究を主体とし、自分の興味ある経済・財政分野の文献を読み、日本が抱える諸問題の解決方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分が読んだ経済・財政分野の文献を、「序論・本論・結論」の論述構成に還元した上で、それに対する自分の評価を下すことができるようにする。 個人研究だけでなく、法桜祭フォーラム発表を予定しており、グループ研究の重要性を理解する。

【履修条件】
経済学、財政学、マクロ経済学、ミクロ経済学の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
ゼミ生の報告、その後の質疑応答を中心に進める。報告はパワーポイントを利用する。必要に応じて施設見学、合宿を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週、ゼミ生の報告と質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済・財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	経済・財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3			3	3	3	3
③	経済・財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。				3		3	3		3		3
④	経済・財政の思想史的背景を説明することができる。				3							3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告の内容を到達目標に応じて評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	報告への質疑応答の参加度を評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行 う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミ論の内容を評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ生の報告後、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	報告の仕方、順番を確認する。	
		この回の到達目標	報告の技法を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
2	4/14	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
3	4/21	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
4	4/28	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
5	5/5	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
6	5/12	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
8	5/26	施設見学	施設見学	
		この回の到達目標	公的施設を見学し、経済・財政の現状を理解できるようにする。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
9	6/2	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
10	6/9	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
11	6/16	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
12	6/23	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	フォーラム発表	フォーラム発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
14	7/7	フォーラム発表	フォーラム発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
15	7/14	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
16	9/15	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
17	9/22	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
18	9/29	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
20	10/13	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
21	10/20	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
22	10/27	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
23	11/10	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
24	11/17	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
26	12/1	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
27	12/8	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
28	12/15	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
29	12/22	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
30	1/12	まとめ	ゼミ論テーマを設定する。	
		この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワーク、学会への参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など、担当教員各自の趣向により、学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3	3	
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。各自の研究課題に沿った内容の文献を必要に応じ紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/13	専門演習(1)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/20	専門演習(2)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/27	専門演習(3)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/4	専門演習(4)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/11	専門演習(5)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	専門演習 (6)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/25	専門演習 (7)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/1	専門演習 (8)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/8	専門演習 (9)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/15	専門演習 (10)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/22	専門演習 (11)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	専門演習(12)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/6	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/13	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/14	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/21	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/28	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/12	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/19	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/26	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/9	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/16	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/30	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/7	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/14	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/21	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/18	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	喜多 義人	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際社会の法であり、主権国家間の関係を規律する国際法について、まずその特質と機能を理解した上で、国際社会における法的諸制度、すなわち国家の権利義務、陸・海・空の法的地位、人権の保護、国際犯罪の処罰、環境や経済に関する国際法規則、紛争の平和的解決等について学修する。そして、4年次には修得した知識をもとに、卒業論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際法の基礎理論を理解するとともに、各自が興味のある研究テーマを発見する手法を身につける。また、発表原稿を作成することにより、論文の構成、文章表現、参考文献の選択・使用等について学び、もって文章力(論文作成能力)を向上させることを目的とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格していること。

【授業方法】		
個人発表を原則とする。前学期は基本書を輪読し、各自の担当箇所について原稿を準備し、それを読み上げる形で発表を行なう。原稿があれば、構成や文章表現の指導がしやすいからである。発表後、質疑応答と全員での討論を行なう。そして、最後に教員がコメントする。後学期は各自が興味のあるテーマについて発表する。発表や質疑応答、討論の形式は前学期と同じである。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際法が国際社会の平和と発展に果たしている機能について説明することができる。				3	4				3	3	3
②	国際社会の基本構造と主権国家の関係について説明することができる。				3	4	3			3	3	
③	陸・海・空および人に関する国際制度について説明することができる。				3	4	4			3	3	
④	国際法の環境や経済への規律の拡大について説明することができる。				3			3	3	3	3	
⑤	国際紛争の防止および解決に関する国際制度について説明することができる。				3	4		3	4	3	3	
⑥	日本や諸外国の国際社会における行動を法的に評価することができる。				3			4		2	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等	5	5	4	3	3	5					25
授業への参画度	授業への参画度	4	4	4	4	4	5					25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	10	10	7	6	7	10					50
その他()												
到達目標別の比率(%)		19	19	15	13	14	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表原稿および卒論の添削指導を行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際法』第4版	浅田正彦編著	東信堂	2019		
『判例国際法』第3版	薬師寺公夫ほか編集代表	東信堂	2019		
『国際法資料集』第2版	西谷元編	日本評論社	2016		
『国際条約集 2020』	岩沢雄司編集代表	有斐閣	2020		
備考	教科書と使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日15:00～16:00 、水曜日18:00～19:00（メールか電話で予約すること） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	発表分担項目の決定	事前に配布した資料をもとに、各自が興味のある項目を選択し、決定する。教員は関連資料や発表原稿の作成について助言する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、各自が基本書の各項目について分担して発表することにより、国際法の基本原理と国際制度を理解できるようになる。	
		事前学修	指定参考書および図書館で関連図書を読み、興味のある項目を発見すること。	120分
		事後学修	分担項目が決定すれば、関連図書を熟読し、発表原稿の「目次」と「序文」を作成する。	120分
2	/	近代国際法の成立と基本構造	国際法が中世末期のヨーロッパで成立した背景とその基本構造、すなわち国際法の法的性質、主体、国内法との関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、近代国際法の特質と機能を説明できるようになる。	
		事前学修	国際社会における法の機能を理解した上で、国際法が成立した背景を確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際法の法的性質、国内法との差異および関係について説明できるようにする。	120分
3	/	法源	国際法の主要な法源である国際慣習法、条約、法の一般原則および判例・学説について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、国際慣習法の成立要件、条約の締結手続と効力、法の一般原則の内容、法源相互の関係について説明できるようになる。、	
		事前学修	国際法の法源にはどのようなものがあるかを確認しておくこと。	120分
		事後学修	法の一般原則と判例・学説が国際裁判で適用された事例を説明できるようにする。	120分
4	/	国家の成立と権利義務	国際法上の国家の成立要件と国家の基本的権利、すなわち主権、主権免除、自衛権、不干渉義務等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、国家成立の要件・手続および国家の基本権、とくに自衛権の概念と発動要件について説明できるようになる。	
		事前学修	国家の基本的権利義務にはどのようなものがあるかを確認しておくこと。	120分
		事後学修	主権が制限される場合を説明できるようにする。	120分
5	/	外交・領事関係法	外交使節および領事機関の任務・階級・構成員について理解した上で、公館の不可侵権や外交官・領事官の特権免除について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外交官と領事官の任務、不可侵権・特権免除について、具体例をあげて説明できるようになる。	
		事前学修	外交関係に関するウィーン条約と領事関係に関するウィーン条約に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	外交特権と領事特権の違いについて説明できるようにする。	120分
6	/	国際機構	国際機構の発展過程を概観した上で、国際連合の目的および基本原則、組織構造、権限、加盟国の権利義務および意思決定について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、国際連合が平和の維持、福祉の向上に果たしている機能について説明できるようになる。	
		事前学修	国際機構の定義、種類、内部機関について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際連合の専門機関と補助機関の任務・権限について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	国家領域・国際化地域	領土・領海・領空の法的地位と領土の取得方式について理解し、さらに宇宙空間の法的地位について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑥に関連して、国家領域および宇宙空間の法的地位、ある地域を自国領域に編入する手続について説明できるようになる。	
		事前学修	領土、領海、領空の法的地位について確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本の領土問題について国際法的に評価できるようにする。	120分
8	/	海洋法	海洋法の発展過程を確認した上で、領海、内水、接続水域、排他的経済水域、大陸棚および深海底の法的に地位について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、各海域の範囲、法的地位および開発制度について説明できるようになる。	
		事前学修	海洋法が形成された背景と海洋の区分について確認しておくこと。	120分
		事後学修	排他的経済水域、大陸棚および深海底の開発制度について説明できるようにする。	120分
9	/	国際人権法	国際人権法の発展と主要な人権条約を確認した上で、人権条約の履行確保制度について理解するとともに、難民の保護についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①③⑥に関連して、主要な人権条約の履行確保制度の現状と問題点について説明できるようになる。	
		事前学修	人権の国際的保護の進展について確認しておくこと。	120分
		事後学修	難民に関する条約および国際機関について説明できるようにする。	120分
10	/	国際刑事法	国際犯罪の種類と刑事管轄権の発展について理解した上で、国際刑事裁判所の機能について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、国際刑事裁判所の組織構造、対象犯罪、管轄権行使の条件について説明できるようになる。	
		事前学修	国際犯罪の概念と構成要件について確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際刑事裁判所の設立経緯と管轄権行使の条件について説明できるようにする。	120分
11	/	国際環境法	国際環境法の形成過程と法源、基本原則、環境保護に関する国家の義務、国際環境法の履行確保制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、主要な条約をあげ、その構造、規制措置、締約国の義務および履行確保制度について説明できるようになる。	
		事前学修	国際環境法の形成過程を確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際環境法の諸原則について説明できるようにする。	120分
12	/	国際経済法	貿易に関する基本原則と救済制度、投資および通貨・金融に関する国際機関の機能のほか、世界貿易機関(WTO)についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、WTOの貿易に関する諸原則と紛争解決手続、国際通貨基金(IMF)の機能について説明できるようになる。	
		事前学修	貿易に関する基本原則について確認しておくこと。	120分
		事後学修	日本が貿易紛争をWTOで解決した事例について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	国際紛争解決法	国際紛争の平和的解決に関する諸制度、とくに国際裁判手続を中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、交渉・仲介・調停などの非裁判手続、国際機構による紛争解決、仲裁裁判および司法的解決について、事例をあげて説明できるようになる。	
		事前学修	国際司法裁判所の管轄権について確認しておくこと。	120分
		事後学修	事後学修 日本が非裁判手続または裁判手続で紛争を解決した事例について説明できるようにする。	120分
14	/	国際安全保障法	国家が領土と政治的独立を保持するための勢力均衡方式および集団安全保障について理解した上で、国際連合の集団安全保障制度と平和維持活動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、国際連合の集団安全保障制度の理念と現実について説明できるようになる。	
		事前学修	国際連盟と国際連合の集団安全保障制度の問題点を確認しておくこと。	120分
		事後学修	国際連合憲章第7章に基づく強制措置を、事例をあげて説明できるようにする。	120分
15	/	武力紛争法	武力紛争法の発展、基本原則、戦闘手段・方法の規制、捕虜・傷病者・文民の保護について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、武力紛争時に人的・物的惨害を最小限に抑えるための国際法の諸規則について説明できるようにする。	
		事前学修	武力紛争に適用される条約の条文に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	武力紛争法の基本原則について、関係条約をあげて説明できるようにする。	120分
16	/	研究テーマの発見と決定	夏休み中に関連図書を読み、発表のテーマを複数あげておく。その中から教員の指導のもと1つのテーマに決定し、発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、興味のあるテーマを発見し、資料の収集・熟読理解、原稿の作成を行なうことにより、当該テーマの論点を発見できるようになる。	
		事前学修	発表のテーマを2～3考えておくこと。	120分
		事後学修	発表のための資料を収集して熟読し、論点と構成を考えて発表原稿を作成する。	120分
17	/	個人研究発表(1)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
18	/	個人研究発表(2)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	個人研究発表(3)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
20	/	個人研究発表(4)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
21	/	個人研究発表(5)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
22	/	個人研究発表(6)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
23	/	個人選球発表(7)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
24	/	個人研究発表(8)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	個人研究発表(9)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
26	/	個人研究発表(10)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
27	/	個人研究発表(11)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
28	/	個人研究発表(12)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
29	/	個人研究発表(13)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分
30	/	個人研究発表(14)	作成した原稿に基づいて研究発表を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、各自が選択したテーマについて研究成果を発表することにより、そのテーマに関する知識を深化させるとともに、国際法のさまざまな機能を理解できるようになる。	
		事前学修	参考書および収集した資料をもとに発表原稿を作成する。	120分
		事後学修	ゼミ生や教員に指摘された箇所について再検討し、次の授業時間にその結果を報告するための準備を行なう。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	窪田 悠一	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
受講生が自ら設定したテーマに基づく個人研究を行い、その成果を論文としてまとめるとともに、学内外で研究発表を行う。担当教員の主な研究関心は、内戦やテロリズム等を含む政治暴力および途上国の政治経済などであるが、受講生の研究テーマは比較政治学や国際関係論で扱えるものであれば、相談のもと自由に選定できるものとする。その際、研究方法としては質的、計量的アプローチのいずれ（あるいは両方）に依拠するものであっても構わない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
研究論文は日本語もしくは英語で執筆するものとする（担当教員が実質的に指導できる言語がこれらに限られるため）。各論文は実証研究のスタイルに則っていることが求められる。例えば、的確な歴史資料や統計データを用いながら、政治・経済・社会現象に関する因果関係の解明を（社会）科学的な方法論に基づいて厳密に行うことが要求される。これらとともに、明確なりサーチクエスチョンや検証可能な仮説といった論文の重要な構成要素を踏まえておく必要がある。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
学期中はすべての受講生が参加する演習を毎週一回ずつ行う。夏季休暇中の演習に関しては、必要に応じて実施を検討する。演習では実証研究のデザインや社会科学方法論の考え方、また研究論文の書き方に関する文献の輪読を前期に集中的に行う。また後期には、各自が設定した研究テーマに基づき、先行研究のまとめと批判、理論および仮説の構築、資料やデータの収集と分析などの作業を行い、それらに関する進捗の報告と履修者全員による議論を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。		4						
②	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリズムなどの仕組みと、それが直面している問題の解決策を提案することができる。			4					
③	社会科学などの基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。				4				
④	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。					4			
⑤	法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。					4			
⑥	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝え、ときに強い影響を与えることができる。						4		
⑦	社会・共同体のさまざまな活動において、よりよい成果を上げるために、お互いを尊重し、自ら進んで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。							4	
⑧	他者による評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。								4
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ゼミナール論文（研究計画）	10	10	20	20	10	10	10	10			100
討論・発表等	リーディング資料、文献・研究動向・研究計画の紹介に関する口頭発表	10	15	15	10	10	20	10	10			100
授業への参画度	（出席を前提とした）授業への貢献度	10	10	10	10	10	20	15	15			100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	45	40	30	50	35	35			300

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	前半イントロダクション (授業の内容・進め方)	授業の内容、目的、進め方、成績評価の方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通し、授業で求められることを確認する。	80分
		事後学修	授業で説明された内容を確認し、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば担当教員に確認する。	80分
2	第一部 水4/15	研究の進め方	(実証的) 研究の進め方について具体的な例を引き合いに出しながら議論する。	
		この回の到達目標	(実証的) 研究のスタイルや進め方について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
3	第一部 水4/22	研究論文	論文の構成 (タイトル、イントロダクション、研究方法、分析結果) について説明し、議論する。	
		この回の到達目標	論文の一般的な構成について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
4	第一部 水4/29	社会科学の「科学性」	社会科学の基礎的な考え方について説明し、議論する。	
		この回の到達目標	社会科学の基礎的な考え方について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
5	第一部 水5/6	質的研究と因果関係	因果関係の捉え方について質的研究の観点から説明し、議論する。	
		この回の到達目標	質的研究の観点から因果関係の捉え方について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
6	第一部 水5/13	量的研究と因果関係	因果関係の捉え方について量的研究の観点から説明し、議論する。	
		この回の到達目標	量的研究の観点から因果関係の捉え方について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部 水5/20	リサーチ・クエスチョン	実証研究におけるリサーチ・クエスチョンの役割や設定の方法について説明し、議論する。
		この回の到達目標	リサーチ・クエスチョンの役割や設定の方法について具体的な例を踏まえて理解する。
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。80分
8	第一部 水5/27	文献調査・データ収集	実証研究における文献調査やデータ収集の役割や方法について説明し、議論する。
		この回の到達目標	文献調査やデータ収集の役割や方法について理解する。
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。80分
9	第一部 水6/3	仮説の設定	実証研究における仮説の役割や設定の方法について説明し、議論する。
		この回の到達目標	仮説の役割や方法について理解する。
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。80分
10	第一部 水6/10	理論枠組み	実証研究における理論枠組みの役割や設定の方法について説明し、議論する。
		この回の到達目標	理論枠組みの役割や方法について理解する。
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。80分
11	第一部 水6/17	仮説検証	実証研究における仮説検証の役割や設定の方法について説明し、議論する。
		この回の到達目標	仮説検証の役割や方法について理解する。
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。80分
12	第一部 水6/24	研究方法の選択（事例研究）	研究方法の選択について、事例研究に焦点を当てて説明し、議論する。
		この回の到達目標	事例研究を中心とした研究方法について理解する。
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	研究方法の選択（計量分析）	研究方法の選択について、計量分析に焦点を当てて説明し、議論する。	
		この回の到達目標	計量分析を中心とした研究方法について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
14	第一部 水7/8	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
15	第一部 水7/15	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
16	第一部 水9/16	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
17	第一部 水9/23	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
18	第一部 水9/30	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水10/7	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
20	第一部 水10/14	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
21	第一部 水10/21	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
22	第一部 水10/28	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
23	第一部 水11/11	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
24	第一部 水11/18	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 水11/25	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
26	第一部 水12/2	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
27	第一部 水12/9	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
28	第一部 水12/16	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
29	第一部 水12/23	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分
30	第一部 水1/13	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	80分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	80分

科目名	ゼミナール3年	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
是非かで結論の出せるテーマを設定し、チームを組んでディベートを行い、投票により勝敗を決める、一種のゲームを行う中で、自然と学生としての基礎能力を涵養していく。初年度は2年時の税法研究を行うための基礎力養成を行います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら問題を解析し、論点を抽出し、結論に至る論理を組み立て、有力な証拠を探し、効果的に主張する作業を繰り返す中で、法的思考のみならず全ての創造的・社会的活動の基盤となる思考力、論理構成力、表現力を自然に磨いていきます。この能力は、直近では就職面接等で直ぐに試されることになります。

【履修条件】
周囲と誠実に付き合える者であること。

【授業方法】		
基本的にゼミ生達の自主的運営に任されている。ディベートテーマの選定、人員の配置、各種行事の立案と実行等は、ゼミ長（であることが多い）を中心にゼミ生達によって自主的に行われています。それを行うことがすでに修学の一部であり、自分の属する社会と付き合う能力を養うことになります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	最初の説明の時を除き、ゼミ活動そのものがアクティブ・ラーニングであると言ってよい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	問題点、争点を的確に見極める。					3	3	3	3	3	3	3
②	結論を導く論理を強固・整合的に組み立てる。					3	3	3	3	3	3	3
③	相手の主張の弱点を見つけ、効果的な反論を行う。					3	3	3	3	3	3	3
④	自己の主張を支える的確な証拠を発見し、適切に提示する。					3	3	3	3	3	3	3
⑤	聞き手の心象を左右する印象的・説得力ある表現をする。					3	3	3	3	3	3	3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議長等執行役、陪審員、記録・取り纏め役、ディベーター (A、B2チーム)に分かれてディベートを行い、勝敗決定 後、各々試合を振り返り論評する。教員からのアドバイス がなされる。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	参加型ゼミなので、参加しなければ話にならない。	5	5	5	5	5						25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	学士の学識の証である。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のディベートが課題の発表になる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミ生の自主的判断による	NA	NA	NA	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時40分から16時10分まで。まずはアポイントを取ってください。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	コミュニケーションの形成と説明、執行部の選任	目隠しゲーム、自己他己紹介、4年生による指導	
		この回の到達目標	ゼミ運営の基本、人間関係を作ります。笑み活動の概要を説明するとともに、執行部を形成します。	
		事前学修	タオルもしくは目隠しを準備してください。	3分
		事後学修	仲間の顔と名前が一致するようにしてください。	10分
2	/	宗吾霊堂研修 新入生歓迎	税法ゼミの精神的模範、佐倉宗吾の史実を、現地に赴いて学習し、自らの哲学形成の一助とします。	
		この回の到達目標	佐倉宗吾の史実を現地で学び、税法と向き合う自らの立ち位置を再考し、ゼミの哲学的指標を理解します。	
		事前学修	佐倉宗吾の事跡の何たるかくらいは知っておきましょう。	20分
		事後学修	さ佐倉宗吾の事跡をどう評価するか、自分の意見くらいは説明できるようになっておきましょう。	20分
3	/	ディベート（基礎編1）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（1）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
4	/	ディベート（基礎編2）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（2）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
5	/	ディベート（基礎編3）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（3）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
6	/	ディベート（基礎編4）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（4）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ディベート（基礎編5）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（5）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
8	/	ディベート（基礎編6）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（6）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
9	/	ディベート（基礎編7）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（7）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
10	/	ディベート（基礎編8）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（8）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
11	/	ディベート（基礎編9）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（9）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
12	/	ディベート（基礎編10）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（10）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ディベート（基礎編11）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（11）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
14	/	ディベート（基礎編12）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（12）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
15	/	ディベート（基礎編13）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（13）	
		この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	40分
		事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	30分
16	/	就職指導	上級生による就職体験談・指導	
		この回の到達目標	業種ごとにグループ分けの上、エントリーシートから面接に至るまで、抑えておくべきポイントを4年生が自分の体験談を交えて伝授し、実技応答に応えます。	
		事前学修	自分の希望、能力、希望職種・企業の現状・実態等、できるだけ明確に把握しておきましょう。	40分
		事後学修	学んだ内容を自分の就職活動にどう生かすか、大局的、具体的に対応策を練ってください。	50分
17	/	ディベート（発展編1）	前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
18	/	ディベート（発展編2）	前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	/	ディベート（発展編3）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
20	/	ディベート（発展編4）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
21	/	ディベート（発展編5）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
22	/	ディベート（発展編6）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
23	/	ディベート（発展編7）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
24	/	ディベート（発展編8）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
25	/	ディベート（発展編9）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
26	/	ディベート（発展編10）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
27	/	ディベート（発展編11）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
28	/	ディベート（発展編12）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや畏の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
29	/	ディベート（発展編13）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分
30	/	ディベート（発展編14）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
		この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
		事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	40分
		事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	30分

科目名	ゼミナール3年	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際関係論の理論を学び、国際関係を通して論理的思考力を身につける。 4年次：3年次の演習ⅢA・Bにおいて学んだことの集大成である卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
毎回、担当者にパワーポイントでテキストの理解について報告をしてもらい、それをもとに全員で議論する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。											
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。											
③	国際関係における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。											
④	国際関係における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。											
⑤	国際関係における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず，ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する											
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し，成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係理論』	吉川直人・野口和彦著	勁草書房	2015	教科書	必携
『国際紛争 原書第10版 理論と歴史』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	参考書	推奨
『国際関係学 講義（第4版）』	原彬久編	有斐閣	2011	参考書	推奨
『政治学のリサーチ・メソッド』	ステイブソン・ヴァン・エリッ ェウ, 野口和彦・渡辺紫 乃訳	勁草書房	2009	参考書	推奨
『国際政治事典』	猪口孝他編	弘文堂	2005	参考書	推奨
『国際関係論〈第3版〉』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室）（事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	イントロダクション： なぜ国際関係理論が重要な のか	国際関係論を学ぶ意義について解説する。また、国際関係理論の定義や価値基準などを明らかに する。	
		この回の 到達目標	国際関係論を学ぶ意義を理解する。	
		事前学修	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・ 経済の出来事をフォローしておく。	120分
		事後学修	授業中に出てきた用語や内容について確認してノートにまとめる。	120分
2	4/14	国際関係理論とは何か・国 際関係理論の歴史	国際関係理論が発展した経緯や理論が構築された背景などについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	国際関係理論の歴史と背景を理解する。	
		事前学修	「国際関係理論の構図」（p. 2-p. 26）を読み、様々な理論についてノートにまとめる。報告担当者はパワー ポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	国際関係理論の歴史を、さまざまな理論を中心にノートにまとめる。	120分
3	4/21	国際関係理論のアプロ ーチ： 近代国際システム	近代国際システムの成り立ちについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	近代国際システムがどのように構成され、どのように作用しているのか、アナーキーの意味を理解する。	
		事前学修	「第1章 近代国際システムの興隆」（p. 28-p. 61）を読み、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイン トを使用してまとめる。	120分
		事後学修	主権国家体制が確立するまでの過程をノートにまとめる。	120分
4	4/28	社会科学の方法論①： 定性的研究	定性的方法論とは何か、定性的方法論が脚光を浴びている理由について考える。	
		この回の 到達目標	定性的方法論の意味を理解し、定性的方法論を用いて事例研究ができるようになる。	
		事前学修	「第2章 定性的研究方法への道案内」（p. 64-p. 99）を読み、定性的方法論の手法をノートにまとめる。報 告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	研究課題を設定し、仮説をたて、ノートにまとめる。	120分
5	5/5	社会科学の方法論②： 分析レベルと分析アプロ ーチ	ウォルツの3つの分析レベルについて学ぶ。	
		この回の 到達目標	ウォルツの3つの分析レベルを理解し、応用できる。	
		事前学修	「第4章 分析レベルと分析アプローチ」（p. 128-p. 151）を読み、分析レベルと分析アプローチの内容を ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	教科書の分析アプローチ事例をノートにまとめ、理解を深める。	120分
6	5/12	リアリズム社会科学の方法 論③： 分析レベルと分析アプロ ーチ	リアリズムを理解する。	
		この回の 到達目標	国際関係論における中心的理論であるリアリズムについて、その起源や内容について説明できる。	
		事前学修	「第5章 リアリズム」（p. 154-p. 182）を読み、リアリズムについてノートにまとめる。報告担当者はパ ワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	リアリズムがどのような理論であるかノートにまとめ、その利点と欠点を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19	リベラリズム	リベラリズムを理解する。
		この回の到達目標	リベラリズムの国際政治観がどのようなものであるか、国際関係を考えるうえでどのようなアプローチをするのか説明できる。
		事前学修	「第6章 リベラリズム」(p. 184-p. 210)を読み、リベラリズムについてノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。
		事後学修	リベラリズムの特徴をノートにまとめる。
8	5/26	国際政治経済論	国際政治経済論の概要や国際政治が国際経済と深くかかわっていることなどについて議論する。
		この回の到達目標	国際政治経済論が、国家間の経済活動や国際市場を通して政治的関係を理解する理論であることを理解できる。
		事前学修	「第7章 国際政治経済論」(p. 212-p. 238)を読み、政治と経済のかかわりを考えながらノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。
		事後学修	国際社会において、経済力がどのように政治に影響を与えるのか考え、ノートにまとめる。
9	6/2	従属論と世界システム論	従属論と世界システム論について議論する。
		この回の到達目標	従属論と世界システム論の概要を説明できる。
		事前学修	「第8章 従属論と世界システム論」(p. 240-p. 270)を読み、従属論がなぜ必要なのか、また世界システム論がなぜ誕生したのか考えながらノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。
		事後学修	従属論と世界システム論で現代の世界を説明することができるか、ノートにまとめる。
10	6/9	コンストラクティヴィズム	コンストラクティビズムとは何か、コンストラクティビズムの国際関係理論上の意義について議論する。
		この回の到達目標	コンストラクティビズムの概念がリアリズムやリベラリズムとどのように異なるのか理解できる。
		事前学修	「第9章 コンストラクティビズム」(p. 272-p. 292)を読み、コンストラクティビズムの位置づけを考えながら、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。
		事後学修	コンストラクティビズムとは何か、自分の言葉でノートにまとめる。
11	6/16	規範理論	国際関係における規範理論について議論する。
		この回の到達目標	コンストラクティビズムの概念がリアリズムやリベラリズムとどのように異なるのか理解できる。
		事前学修	「第10章 規範理論」(p. 294-p. 323)を読み、なぜ規範理論が必要なのかノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。
		事後学修	授業で学んだ知見をもとに、規範理論におけるリアリズム、リベラリズムについてノートにまとめる。
12	6/23	批判的国際理論	批判的国際関係理論について議論する。
		この回の到達目標	批判的国際関係理論のアプローチを習得する。
		事前学修	「第11章 批判的国際関係理論」(p. 326-p. 357)を読み、批判的国際関係理論が従来の国際関係理論とどう違うのかノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。
		事後学修	批判的国際関係理論がなぜ誕生したのか考え、ノートにまとめる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	卒業論文製作のためのスケジュール確認・参考文献リストの作成	卒業論文を完成させるための工程やスケジュールを確認する。参考文献リストの作り方について講義する。	
		この回の到達目標	卒業論文のテーマを確認する。論文作成のため参考文献リストを作ることができる。	
		事前学修	卒業論文のテーマを検討し、ノートにまとめる。	120分
		事後学修	卒業論文のテーマを決める。テーマに沿った参考文献5本をリストアップし、参考文献リストを作成し、第15回で提出する。	120分
14	7/7	書評論文の書き方	書評論文の書き方について議論する。	
		この回の到達目標	書評論文を作成することができる。	
		事前学修	季刊国際政治、EI研究などの研究学術雑誌から、書評論文を3本ほどピックアップし、その論文の構造を理解し、ノートにまとめてみる。	120分
		事後学修	授業で学んだ知見をもとに3,500字（A4用紙2枚）の書評論文を作成する。後期ゼミナールの中で発表を行うので（第28回、第29回、第30回）、夏季休暇中に参考文献から3本の書評論文を作成する。第30回で3本の書評論文を提出する。	360分
15	7/14	これまでのまとめ：講義から得られた知見と講評	第1回から第14回の振り返りを行う。	
		この回の到達目標	国際社会の現状を国際関係理論を用いて説明することができる。	
		事前学修	これまでのノートおよび教科書を読み返す。	120分
		事後学修	興味のあるテーマをノートに書き出し、国際関係理論を用いて説明してみる。	120分
16	9/15	論文手本と仮説立証	論文手本の分析方法及び仮説立証について議論する。	
		この回の到達目標	論文手本分析ができる。	
		事前学修	仮説とは何かについて、インターネットや論文執筆作法に関する書籍で理解を深めてノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得た知見を踏まえ、事前学修で行った論文手本分析を見直す。	120分
17	9/22	個人報告：論文手本分析①	手本論文の分析を行い、発表する。	
		この回の到達目標	論文の分析方法を習得し、論文の分析ができる。	
		事前学修	手本論文を分析し、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分
18	9/29	個人報告：論文手本分析②	手本論文の分析を行い、発表する。	
		この回の到達目標	論文の分析方法を習得し、論文の分析ができる。	
		事前学修	手本論文を分析し、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	個人報告：論文手本分析③	手本論文の分析を行い、発表する。	
		この回の到達目標	論文の分析方法を習得し、論文の分析ができる。	
		事前学修	手本論文を分析し、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分
20	10/13	スケルトンの説明	スケルトンの作り方について議論する。	
		この回の到達目標	スケルトンについて理解し、テーマに沿ったスケルトンを作成できる。	
		事前学修	スケルトンは単なる「目次」ではなく「論理」を体系的に見せ、大まかな字数もあてはめねばならない。そのつもりで、自分でテーマを選び、スケルトンを作成しノートに書く。	120分
		事後学修	授業で得た知見を踏まえ、事前学修で行ったスケルトンを見直す。	120分
21	10/20	個人報告：スケルトン①	作成したスケルトンを発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文のスケルトンを完成する。	
		事前学修	スケルトンを作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	自分のスケルトンを見直し、必要があれば修正する。	120分
22	10/27	個人報告：スケルトン②	作成したスケルトンを発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文のスケルトンを完成する。	
		事前学修	スケルトンを作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	自分のスケルトンを見直し、必要があれば修正する。	120分
23	11/10	個人報告：スケルトン③	作成したスケルトンを発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文のスケルトンを完成する。	
		事前学修	スケルトンを作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	自分のスケルトンを見直し、必要があれば修正する。	120分
24	11/17	序の作り方	序の作り方を議論する。	
		この回の到達目標	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成することができる。	
		事前学修	参考文献リストの論文を1つ選び、序の部分を読み込む。その際、論文における「序」の役割を意識し、どのような「構成」で執筆されているのかを見抜き、ノートにまとめてみる。	120分
		事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	個人報告：序①	卒業論文の序を作成し、発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文の序を作成する。	
		事前学修	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	序を読み返し、授業で得た知見をもとに修正する。	120分
26	12/1	個人報告：序②	卒業論文の序を作成し、発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文の序を作成する。	
		事前学修	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	序を読み返し、授業で得た知見をもとに修正する。	120分
27	12/8	個人報告：序③	卒業論文の序を作成し、発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文の序を作成する。	
		事前学修	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	序を読み返し、授業で得た知見をもとに修正する。	120分
28	12/15	個人報告：書評論文①	夏季休業中に作成した書評論文の発表を行う。	
		この回の到達目標	書評論文の書き方を習得する。	
		事前学修	夏季休業中に作成した3本の書評論文のうち1本を、1人10分で発表できるようパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得られた知見をもとに、自分の書評論文の見直しを行う。修正後の書評論文と他2本の書評論文は第30回で提出する。	120分
29	12/22	個人報告：書評論文②	夏季休業中に作成した書評論文の発表を行う。	
		この回の到達目標	書評論文の書き方を習得する。	
		事前学修	夏季休業中に作成した3本の書評論文のうち1本を、1人10分で発表できるようパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得られた知見をもとに、自分の書評論文の見直しを行う。修正後の書評論文と他2本の書評論文は第30回で提出する。	120分
30	1/12	個人報告：書評論文③	夏季休業中に作成した書評論文の発表を行う。	
		この回の到達目標	書評論文の書き方を習得する。	
		事前学修	夏季休業中に作成した3本の書評論文のうち1本を、1人10分で発表できるようパワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得られた知見をもとに、自分の書評論文の見直しを行う。修正後の書評論文と他2本の書評論文を提出する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：財務会計論の基本書を輪読して会計学の基本を身につけるとともに、学生コンペに参加して研究発表を行う。 4年次：各自で興味あるテーマの設定を行い、卒業論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：会計学の基礎を身につけ、それをもとに特定のテーマに特化した調査研究を行い、コンペでの発表を目指す。 4年次：卒業論文の執筆を通じて、各自の関心あるテーマや企業・産業に対する理解・見識を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
教科書の輪読を行う。輪読はグループごとに担当個所の報告を行い、全員による質疑を実施する形式で進めていく。必要に応じて教員が解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる報告およびディスカッションを毎回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会計学の基礎的知識を身につける。				3	3						
②	特定のテーマについての問題意識を持ち、研究テーマを設定することができる。						3	3	3			
③	設定したテーマに対して、適切な調査・研究を行うことができる。							3	3	3	3	
④	調査・研究の内容を報告し、ディスカッションすることができる。										3	3
⑤	会計学についてのより高度な調査・研究の成果を論文としてまとめ、発表・ディスカッションすることができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	平時のゼミにおける報告や、それに基づくディスカッションの様子により評価を行う。ただし、評価は下記の「ゼミナール論文」の内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	卒業論文により評価を行う。ただし、評価は上記の「討論・発表等」における報告・ディスカッションの内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用年度ごとに異なるため、授業開始前に教員より指示する。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	グループ編成、発表分担の決定	
		この回の到達目標	1年間のゼミの流れを把握し、グループメンバーとのアイスブレーキングを行う。	
		事前学修	シラバスを熟読し、1年間のゼミ活動をイメージする。	120分
		事後学修	グループメンバーと今後の発表等に向けた準備について打ち合わせる。	120分
2	4/15	発表方法のガイダンス	教員による研究報告のデモンストレーション	
		この回の到達目標	研究報告とはどのようなものかを理解する。	
		事前学修	教員が配布した報告用資料を通読しておく。	120分
		事後学修	研究報告における要点を理解し、次回以降の発表の準備をする。	120分
3	4/22	グループ報告 1回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
4	4/29	グループ報告 2回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
5	5/6	グループ報告 3回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
6	5/13	グループ報告 4回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	グループ報告 5回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
8	5/27	グループ報告 6回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
9	6/3	グループ報告 7回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
10	6/10	グループ報告 8回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
11	6/17	グループ報告 9回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
12	6/24	グループ報告 10回目	担当グループによる報告とディスカッション	
		この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
		事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	全体報告に向けた準備	全体報告に向けた準備を行う	
		この回の到達目標	次回の全体報告に向けた報告資料の収集・作成を行う。	
		事前学修	これまでのゼミにおける学びに基づいて、テーマを決めておく。	120分
		事後学修	次回の報告に向けた準備を整える。	120分
14	7/8	全体報告	前期の学びの集大成として、それぞれのグループによる研究報告を行う	
		この回の到達目標	半期の学びを通じた総まとめとしての全体報告を行い、ディスカッションする。	
		事前学修	本番に向けた準備を進める。	120分
		事後学修	全体報告の内容・ディスカッションを振り返り、課題点を反省する。	120分
15	7/15	後期に向けた準備 まとめ	アカウンティングコンペティション（以下、アカコン）における報告テーマ決定の準備	
		この回の到達目標	アカコンにおける発表テーマを決定に向けた準備を整える。	
		事前学修	前期の学修内容を踏まえて、アカコンにおけるテーマになりうる論点を考える。	120分
		事後学修	ゼミでのディスカッションを踏まえて、テーマ候補を決定する。	120分
16	9/16	テーマ報告と作業計画の発表	アカコンにおけるテーマの発表と後期における作業計画の発表	
		この回の到達目標	報告テーマの明示と作業計画を決定する。	
		事前学修	報告テーマを確定し、本番までにに向けたロードマップを作成する。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
17	9/23	中間発表に向けた準備 1回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
18	9/30	中間発表に向けた準備 2回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	中間発表に向けた準備 3回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
20	10/14	中間発表に向けた準備 4回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
21	10/21	中間発表の予行	中間発表の予行を行う	
		この回の到達目標	公開ゼミにおける中間発表を意識した予行を行う。	
		事前学修	報告全体の6～7割程度は、調査・準備を済ませておく。	120分
		事後学修	公開ゼミ当日に向けて各グループで準備する。	120分
22	10/28	中間発表	中間発表を行う	
		この回の到達目標	中間発表を行い、現時点での研究調査の成果を報告する。	
		事前学修	発表準備をする。	120分
		事後学修	発表結果を踏まえて、本番に向けた準備計画を立てる。	120分
23	11/11	本番当日に向けた準備 1回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
24	11/18	本番当日に向けた準備 2回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	本番当日に向けた準備 3回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
26	12/2	本番当日に向けた準備 4回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
		この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
		事前学修	本番当日に向けて準備を進める。	120分
		事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
27	12/9	本番の予行 1回目	アカコン本番を意識した予行を行う	
		この回の到達目標	本番当日を意識した環境下で、本番の予行を行う。	
		事前学修	本番発表におけるタイムテーブル等を前提にした報告準備を行う。	120分
		事後学修	予行における反省点を洗い出し、想定問答を検討する。	120分
28	12/16	本番の予行 2回目	アカコン本番を意識した予行を行う	
		この回の到達目標	本番当日を意識した環境下で、本番の予行を行う。	
		事前学修	本番発表におけるタイムテーブル等を前提にした報告準備を行う。	120分
		事後学修	予行における反省点を洗い出し、想定問答を検討する。	120分
29	12/23	アカコン本番	アカコン本番における発表を行う	
		この回の到達目標	アカコン本番で発表する。	
		事前学修	当日に向けた最後の準備を行う。	120分
		事後学修	各グループで当日の結果を振り返る。	120分
30	1/13	アカコンの振り返り	本番当日の内容を振り返る	
		この回の到達目標	アカコン本番での発表や審査員からの指摘事項などを振り返り、自分たちの研究内容を総括する。	
		事前学修	アカコン本番での評価点、反省点を洗い出しておく。	120分
		事後学修	次年度に向けた自身の研究活動の指針を立てる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小林 義寛	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア文化を中心に現代文化、とりわけポップカルチャーに焦点をあて、わたしたちの生活の諸側面における文化事象の諸様態とその意義を理解する。その上で、日常生活におけるわたしたちの文化実践について考える。そのために必要な視座あるいはフレームワークに関しては、現代的な諸理論を基盤に学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ポップカルチャーを研究するために必要な視座あるいはフレームワークを学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。 とくに3年次においては、テキスト輪読、発表、ディスカッションを通して、文化研究に関わる諸理論を理解する。また、それと平行して、グループに分かれて共同研究を計画し、遂行する。その際、具体的な文化事象への、現象論ではないアプローチを実践し、それに対する理論的アプローチの基盤を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
テキスト輪読、発表、ディスカッションをおこなう。 それと平行して、グループに分かれて共同研究を計画し、遂行する。 サブゼミをおこない、共同研究を遂行する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキスト輪読および共同研究において、発表、議論、レジュメ作成、報告資料作成などをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	現代文化に関するアプローチを学ぶことで、文化事象を考察するための基本的概念や理論を修得し、理論的フレームワークに基づいて議論ができるようになる。					4						
②	異なる社会や文化におけるそれぞれの社会構造、文化構造との関係で、特定の文化事象にアプローチできるようになる。						4					
③	既存の制度、社会を所与のものとせず、「当たり前」を疑い、疑問をもち、考察できるようになる。							4				
④	身の回りの具体的な文化事象を取り上げ、それに対して理論的なアプローチができるようになる。								4			
⑤	自明視された事象に対し、異なった視点、新たな態度で臨めるようになる。									4		
⑥	共同研究やお互いの議論を通じて、問題に関して深く理解するとともに、他者に対して寛容に議論ができる。										4	
⑦	共同研究やお互いの議論を通じて、グループワークでの協力関係の構築や指導力を発揮し、研究活動ができる。											4
⑧	具体的な事象に対し、現象論ではなく、理論的、方法的なアプローチを通じて、深く考察することができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	15	10	10	10	10	15	20	10			100
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	10	10	10	15	20	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告、議論、レポート、論文指導を通じて適宜講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業時や共同研究の進行に合わせて指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日4限など、事前に連絡して調整をおこなう。研究室　kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	共同研究のテーマ①	共同研究のテーマに関する検討。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	共同研究のテーマに関係する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
2	4/15	共同研究のテーマ②	共同研究のテーマに関する検討。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討しする。	
		事前学修	前回の問題点を修正し、具体的なテーマへつなげる報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
3	4/22	共同研究のテーマ③	共同研究テーマの決定	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて決定する。	
		事前学修	前2回の問題点をふまえ、具体的な研究テーマとなる報告資料を作成する。	120分
		事後学修	具体化された報告テーマを基にした研究計画の修正をおこなう。	120分
4	4/29	テキスト輪読 1-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
5	5/6	テキスト輪読 1-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
6	5/13	テキスト輪読 1-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	テキスト輪読 1-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
8	5/27	テキスト輪読 1-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
9	6/3	テキスト輪読 1-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
10	6/10	テキスト輪読 1-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
11	6/17	テキスト輪読 1-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
12	6/24	テキスト輪読 1-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	テキスト輪読 1-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
14	7/8	共同研究中間報告①	共同研究の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、共同研究テーマに対するアプローチの現状報告をおこない、その報告と議論を通じて、考察と修正をおこなう。	
		事前学修	研究テーマの中間報告のための資料の作成をする。	120分
		事後学修	議論を通じて、報告書作成までの展開を構想する。	120分
15	7/15	共同研究中間報告②	共同研究の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の修正と考察を基にして、報告書作成までの今後の展開と方向性について、議論を通じて構成する。	
		事前学修	前回の議論を基に今後の展開に関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を通じて、報告書作成に向けて展開と方向性などを修正する。	120分
16	9/9	テキスト輪読 2-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
17	9/16	テキスト輪読 2-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
18	9/23	テキスト輪読 2-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	9/30	テキスト輪読 2-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
20	10/7	テキスト輪読 2-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
21	10/14	テキスト輪読 2-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
22	10/21	テキスト輪読 2-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
23	10/28	テキスト輪読 2-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
24	11/11	テキスト輪読 2-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/18	テキスト輪読 2-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
26	11/25	共同研究報告①	共同研究の成果の報告。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、共同研究の成果をまとめ、報告する。	
		事前学修	共同研究の成果を報告するための報告資料を作成する。	120分
		事後学修	報告書作成のために、報告に対する議論を基に問題点等を把握する。	120分
27	12/2	共同研究報告②	報告書作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の報告と議論に基づいて報告書を作成する。	
		事前学修	前回の議論を基に、報告書作成のための展開に関する報告資料を作成する。、	120分
		事後学修	これまでの議論を基に報告書を作成する。	180分
28	12/9	卒業論文へ向けて①	4年生の卒業論文作成のための事前検討。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	卒業論文のテーマやアプローチに関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を基に問題点等を把握し、研究計画をたてる。	120分
29	12/16	卒業論文へ向けて②	4年生の卒業論文作成のための事前検討。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	卒業論文のテーマやアプローチに関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を基に問題点等を把握し、研究計画を修正する。	120分
30	12/23	卒業論文へ向けて③	4年生の卒業論文作成のための事前検討。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	卒業論文のテーマやアプローチに関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を基に問題点等を把握し、研究計画を修正する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	坂本 力也	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
英米法に関する興味のある分野を自発的に選び、その分野の判例につき報告と質疑応答・議論を行い、論文のテーマを選定し、計画的にリサーチを継続し手行い、当該論文のテーマについて法律論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
一次的法源と二次的法源を調査し要約して発表する能力、英米法の法律専門用語を正確に理解しそれらを用い分かりやすく聞き手や読み手に説明する能力、調査に基づく論理的かつ批判的な視点から論文を執筆する能力、を修得する。

【履修条件】
英米法の基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が英米法の分野において自発的に選択する論文のテーマにつき行った発表に対して質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため、合宿や課外活動（例えば、大学対抗仲裁・交渉コンペティションへの参加やフォーラム等）を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例発表と質疑応答を含む授業中の議論における積極的な発言を行う。ゼミナール論文のテーマを自発的に決定し計画的に執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の法律専門用語を正確に理解し、専門演習や判例報告において、これらを適切に用いて議論することができる。				3	3				3		
②	英米法を学ぶ際に大前提となる諸制度を深く理解し、専門演習や判例報告において、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3		
③	他の履修生からの意見や質問を尊重し相互に新たな課題を発見しながら論文執筆作業や課外活動に取り組むことができる。								3	3	3	3
④	③で発見した新たな課題を含め計画的に客観的論証を示す論文の執筆を進めることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	判例報告と質疑応答に基づく中間のレポート課題につき、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	判例報告と質疑応答において他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	自発的に選んだテーマについて一次的法源と二次的法源が正確に引用され、客観的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
判例発表は発表後に講評を行う。レポート課題とゼミナール論文については準備段階ごとに質疑応答を行い講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） Colnetのメールで予約を取る（メールアドレス：sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ニューヨーク州弁護士（アメリカ）と外国法事務弁護士（日本）として国際契約、国際訴訟、国際商事仲裁、国際商事調停の実務に従事。 判例法の法域に特有の法的及び実務的問題点を学修する授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、判例発表の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、英米法につき、判例発表を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/17	専門演習(1)	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
		事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
3	4/24	専門演習(2)	英米法につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
		事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
4	5/1	専門演習(3)	英米法につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
5	5/8	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
6	5/15	判例報告(1)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	判例報告(2)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分
8	5/29	判例報告(3)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分
9	6/5	判例報告(4)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分
10	6¥12	判例報告(5)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分
11	6/19	判例報告(6)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分
12	6/26	判例報告(7)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	判例報告(8)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分
14	7/10	3年次前期のまとめ	前期に行った判例報告の内容と新たな課題へのリサーチの進捗状況を確認し、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答をとおした議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/17	夏期レポート課題とその目的と注意事項	夏期レポート課題の目的と注意事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、夏期レポート課題の目的と注意事項を理解し、説明できる。	
		事前学修	これまでリサーチした一次的法源と二次的法源の資料のリストを作成してくる。	120分
		事後学修	夏季レポート課題報告の準備計画を立てる。	120分
16	9/18	夏期レポート課題報告の注意事項	夏期レポート課題につき報告を行う上での注意事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、夏期レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	15回目で学んだ注意事項を踏まえレポート課題を作成し報告の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/25	課題報告(1)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	10/2	課題報告(2)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	課題報告(3)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/16	課題報告(4)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/23	課題報告(5)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/30	課題報告(6)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/6	課題報告(7)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/13	課題報告(8)	夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
		事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	課題報告の見直し(1)	夏季レポート課題へのさらなる検討の進捗状況について報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
		事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
		事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/27	課題報告の見直し(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
		事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
		事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/4	課題報告の見直し(3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
		事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
		事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/11	課題報告の見直し(4)	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
		事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
		事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/18	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	12/25	春期休暇中の課題（論文テーマの選定）とその注意事項	春期休暇中に論文テーマを選定する際の注意事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での説明と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会学およびメディア研究のテキストクリティークを通して、研究の基礎的なトレーニングを行う。個人研究に加え、共同研究をフィールド調査などを通して行い、その結果をプレゼンテーションする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会学およびメディア研究の基礎理論、方法論について修得するとともに、各自の問題意識・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワーク・共同研究を通して他者との協働性の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミ入室試験に合格したもの

【授業方法】		
テキストのレジュメとディスカッションを基本軸とし、定期的に映像分析を行う。共同研究では、研究計画を立て、それに沿って協働で研究を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像分析 レジュメや資料を作成した、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストの基本的読解とレジュメ等で再構成・発表することができる				3	3	3			3		
②	映像を主にディスコース分析の手法で分析することができる				3	3	3	3				
③	現代社会の諸現象から、テーマを立て、研究を企画することができる				3			3	3			
④	研究テーマにもとづき、関連文献や資料を探索・収集することができる						3	3				
⑤	研究データを的確に収集・まとめることができる				3				3	3	3	
⑥	研究対象やデータを的確に分析し考察することができる					3	3	3				3
⑦	研究結果を論文として構成することができる				4	4	4	4	4	4		4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	共同研究での報告書の作成		5	5			5	5				20
討論・発表等	テキストや映像分析のレジュメ作成とプレゼンテーション	5	5				5					15
授業への参画度	毎回の出席とフィール調査への参加	10				5						15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文			10	10		10	20				50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	15	10	5	20	25				100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文、発表、課題については、講義内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フーコー講義	檜垣立哉	河出書房新社	2010	教科書	必携
備考	参考図書は、適宜指示する				

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	前期のガイダンスおよび導入講義	ゼミナールの共有するテーマとスケジュールを確認し、議論の進め方や評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ゼミナールの共有テーマと現代社会との関係を理解することができる	
		事前学修	シラバスを確認し、教科書の全体構成を把握すること	120分
		事後学修	講義内容をノートに整理し、教科書の序章を読むこと	120分
2	4/15	パンデミックの映像分析	新型インフルエンザを題材にしたドキュメンタリー番組を視聴し、分析・ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を理解することができる	
		事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、報道関連の資料を収集してくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
3	4/22	パンデミックの映像分析	新型インフルエンザを題材にしたドラマ作品を視聴し、分析・ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を医療や社会政策の観点から理解することができる	
		事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、行政関係の資料を収集してくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
4	4/29	フーコーの方法論	第2講、第3講の映像分析を受けて、M・フーコーの生権力論の分析可能性を議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、教科書第1章の内容を的確に理解する	
		事前学修	教科書第1章を読み、内容をまとめてくること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
5	5/6	「人間」の解剖学	近代的な医学の成立を理解すること	
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、教科書第2章の内容を的確に理解する	
		事前学修	教科書第2章を読み、内容をまとめてくること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
6	5/13	二重体としての人間	到達目標①、③に関連し、教科書第3章の内容を的確に理解する	
		この回の到達目標	近代の知のエピステーメーの成立を理解すること	
		事前学修	教科書第3章を読み、内容をまとめてくること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	規律化される人間	到達目標①、③に関連し、教科書第4章の内容を的確に理解する	
		この回の到達目標	近代の規律型権力の特徴と機能を理解すること	
		事前学修	教科書第4章を読み、内容をまとめること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
8	5/27	個人研究発表①	各自の研究テーマに関連した文献を1冊取り上げ、レジュメにまとめ発表し、ディスカッションする（2人）	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成する	
		事前学修	発表レジュメを作成する	200分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
9	6/3	個人研究発表②	各自の研究テーマに関連した文献を1冊取り上げ、レジュメにまとめ発表し、ディスカッションする（2人）	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成する	
		事前学修	発表レジュメを作成する	200分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
10	6/10	個人研究発表③	各自の研究テーマに関連した文献を1冊取り上げ、レジュメにまとめ発表し、ディスカッションする（3人）	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成する	
		事前学修	発表レジュメを作成する	200分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
11	6/17	生権力論とは	到達目標①、③に関連し、教科書第5章の内容を的確に理解する	
		この回の到達目標	規律型権力と生権力との違いを理解する	
		事前学修	教科書5章を読み、内容をまとめること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
12	6/24	統治性の問い方	到達目標①、③に関連し、教科書第6章の内容を的確に理解する	
		この回の到達目標	フーコーの権力論と統治論との関連を理解する	
		事前学修	教科書6章を読み、内容をまとめること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	自己統治の課題	到達目標①、③に関連し、教科書第7章の内容を的確に理解する	
		この回の到達目標	フーコーの生の歴史研究における自己統治と生権力について理解する	
		事前学修	教科書7章を読み、内容をまとめてくること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
14	7/8	フーコーの可能性	到達目標①、③に関連し、教科書第8章の内容を的確に理解する	
		この回の到達目標	フーコーの理論的可能性を理解する	
		事前学修	教科書8章を読み、内容をまとめてくること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
15	7/15	前期講義のまとめ	前期の講義全体を振り返り、パンデミックに対するフーコーの権力論の可能性を議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、⑥に関連して、理論と方法の活かし方を修得する	
		事前学修	教科書全体、発表レジュメ全体を復習しなおすこと	180分
		事後学修	前期15回の講義を振り返り、重要点を整理しなおすこと	120分
16	9/16	後期のガイダンスと導入講義	後期のスケジュールを確認し、議論の進め方や評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ゼミナールの共有テーマと現代社会との関係を理解することができる	
		事前学修	共同研究のテーマの研究計画を各自考えてくること	120分
		事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
17	9/23	公共建築の歴史①	日本の公共建築の歴史をグループワークによって整理する	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤に関連し、日本の近代化のなかで公共建築の建築史を把握することができる	
		事前学修	公共建築に関する文献を探索する	180分
		事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
18	9/30	公共建築の歴史②	日本の公共建築、とりわけ庁舎の歴史をグループワークによって整理する	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、庁舎の建築の歴史を年表化し、時代ごとの特徴をまとめることができる	
		事前学修	公共建築に関する文献を探索する	180分
		事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	公共建築の歴史③	日本の公共建築、とりわけ庁舎の歴史をグループワークによって整理する	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、代表的な庁舎建築を選び、マッピングすることができる	
		事前学修	公共建築に関する文献を探索する	180分
		事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
20	10/14	木曽町の庁舎建築の過程	木曽町の庁舎建築プロジェクトのプロセスをグループワークによって特徴をまとめる	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、木曽町の庁舎プロジェクトの背景を理解することができる	
		事前学修	木曽町の町の人口、産業など地勢に関する情報を収集する	180分
		事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
21	10/21	林業と循環経済	木曽町庁舎の特徴である、木材をめぐる循環経済の仕組みを、グループワークによってまとめる	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、循環型経済について理解することができる	
		事前学修	木材の生産・流通・加工・消費の過程について文献や資料を収集する	180分
		事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
22	10/28	戦後の林業政策	木町庁舎の背景となっている、戦後の林業行政について、グループワークによってまとめる	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、林業行政について理解することができる	
		事前学修	林業行政の資料を収集する	180分
		事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
23	11/11	共同研究報告書の作成①	木曽町庁舎プロジェクトと林業の循環型社会について、グループワークによって報告書を執筆、作成する	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、報告書を論文の形でまとめることができる	
		事前学修	報告書の草稿の執筆	180分
		事後学修	グループワークをふまえ、報告書の原稿の執筆	180分
24	11/18	共同研究報告書の作成②	木曽町庁舎プロジェクトと林業の循環型社会について、グループワークによって報告書を執筆、作成する	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、報告書を論文の形でまとめることができる	
		事前学修	報告書の草稿の執筆	180分
		事後学修	グループワークをふまえ、報告書の原稿の執筆	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	共同研究報告書の作成③	木曽町庁舎プロジェクトと林業の循環型社会について、グループワークによって報告書を執筆、作成する	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、報告書を論文の形でまとめることができる	
		事前学修	報告書の草稿の執筆	180分
		事後学修	グループワークをふまえ、報告書の原稿の執筆	180分
26	12/2	ゼミナール論文の構想発表①	各自のゼミナール論文の構想を発表し、相互にディスカッションする（2人）	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	ゼミナール論文構想のレジュメを作成する	120分
		事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、構想を練り直す	120分
27	12/9	ゼミナール論文の構想発表②	各自のゼミナール論文の構想を発表し、相互にディスカッションする（2人）	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	ゼミナール論文構想のレジュメを作成する	120分
		事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、構想を練り直す	120分
28	12/16	ゼミナール論文の構想発表③	各自のゼミナール論文の構想を発表し、相互にディスカッションする（3人）	
		この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	ゼミナール論文構想のレジュメを作成する	120分
		事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、構想を練り直す	120分
29	12/23	新型コロナウイルスの映像分析	新型コロナウイルスのドキュメンタリー作品を視聴し、分析・ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会、生命や医療との関連を理解することができる	
		事前学修	パンデミックを扱った表象作品を各自見しておく	180分
		事後学修	ディスカッションの内容をまとめ整理しておく	120分
30	1/13	後期の講義の振り返りと4年生にむけた課題	後期の講義を振り返り、あらためて研究論文を書くための手法を確認する	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、研究論文の書き方を修得することができる	
		事前学修	ゼミナール論文構想で指摘された内容を振り返っておくこと	120分
		事後学修	研究論文の書き方の手法を整理しなおし、復習すること	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：メディア、情報流通に関する諸問題についてグループ毎に研究を行い、その成果を法桜祭で発表する。メディア系5大学合同ゼミに参加し、1月の合同発表会で研究成果を披露する。 4年次：3年次に学習した内容を参考に、自分の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナールでのディスカッションを通じて、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：1年次、2年次に学修した基礎的知識を発展させるために、メディア、情報流通に関する現代的な諸問題について理解する能力を修得する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、メディア、情報流通に関する諸問題への理解を深め、自分自身であるべき姿を提案できる能力を修得する。 関連DP及びCP：法律・経営法学科1, 7, 8 政治経済・新聞・公共政策学科1～8

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗状況の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記、授業方法を参照。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、情報流通に関する基本概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。						3			3	3	
③	メディア、情報流通の現代的な諸課題に対し、あるべき姿を提案することができる。							3	3	3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての各能力が身についているかを、毎 回のレポートにより評価する。	10	10									20
討論・発表等	到達目標①②③について各能力が身についているかを、発 表およびディスカッションの発言内容により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文		15	35								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ゼミの進め方 導入講義	レポートの書き方、発表の仕方など	
		この回の 到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	グループ研究テーマを考える。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
2	4/15	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の 到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
3	4/22	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の 到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
4	4/29	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の 到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
5	5/6	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の 到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
6	5/13	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の 到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
8	5/27	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
9	6/3	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
10	6/10	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
11	6/17	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
12	6/24	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
14	7/8	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
15	7/15	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
16	9/16	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
17	9/23	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
18	9/30	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
20	10/14	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
21	10/21	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
22	10/28	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
23	11/11	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
24	11/18	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
26	12/2	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
27	12/9	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
28	12/16	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
29	12/23	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
30	1/13	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	澤田 康広	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容及び新たな課題への取組を通じて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習し、問題解決能力を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：事前に出題した課題に関するレポートに基づいて、担当の学生が説明・報告し、その内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
4年次：事前に出題した課題に関するレポート作成、発表等を通じて各自が研究テーマを決定し、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションを行いながら、適宜、教員が解説して進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から判決に至るまでの各手続を理解し、各手続の適法性の基準を説明することができる。				3	3	3	3	3		3	
②	刑事手続の適法性を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						3	3	3	3		3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければなら ない。 評価にあたっては、研究内容とゼミナール論文の内容のみならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。	40	60									100
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
随時（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）火曜昼休み研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事例を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
2	4/14	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
3	4/21	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
4	4/28	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
5	5/5	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
6	5/12	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
8	5/26	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
9	6/2	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
10	6/9	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
11	6/16	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
12	6/23	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
14	7/7	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
15	7/14	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
16	9/15	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
17	9/22	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
18	9/29	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
20	10/13	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
21	10/20	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
22	10/27	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
23	11/10	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
24	11/17	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
26	12/1	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
27	12/8	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
28	12/15	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
29	12/22	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
30	1/12	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の既存メディアをはじめ、WebやSNSから発信された事柄と、実社会との関係、その事柄が実社会に与える影響やその責任について分析する。 3年時は、グループでテーマを決め研究をし、11月のゼミフォーラムでの発表とその発表を冊子化する。4年次は卒業論文のテーマを自主的に決定しゼミナール講座では中間発表と、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員の指導等のアドバイスを受け、卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は、マスメディア個人から発信される動画、言葉などの「情報」が瞬時に世界を駆け巡り、その反応も早く、時には数時間のうちに世界情勢は大きな変化を見せる。そのただ中で「情報」が与える社会への影響、発信者の役割、責任を解明、学修する。

【履修条件】
新聞学科のみではなく他の4学科に在籍し、既存メディアに強い関心があり、Web、コミュニケーション、ジャーナリズムにも関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
学生の自主性に基づき、3年次は教員の助言や、先輩ゼミ生のアドバイスを受けながら討論をし、年間の研究テーマを決め、講座毎に研究調査のやり方を討論し、最終的に研究発表をし、その成果を冊子にまとめる。 4年次は、卒業論文を自主的に研究課題を選び、教員の助言等アドバイスを受けながら研究を進め、論文作成をし提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる。また、グループワークで映像表現について討論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	①メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容について説明することができる。【知識】				3	3						
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。【知識】【技能】				3			3				
③	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品等資料を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を述べる事が出来る。【態度】						3			3		
④	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を文章や映像等にまとめる事が出来る。【技能】							3		3		
⑤	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。【態度】								3	3		
⑥	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に進行やまとめ役をすることが出来る。【態度】									3	3	
⑦	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。【技能】								3			3
⑧	文字資料・映像資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【知識】【態度】									3		3
⑨	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】					3	3					3
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次には年に何度が提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤にかかわる事が達成されているかを評価する	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標にかかわる能力が身についているかを、映像表現等についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたか等の評定尺度により受講生同士がお互いに評価する。(ピア評価)					4	4	4	4	4		20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他(ゼミナル論文)	4年次に出される卒業論文で最終単位の評価をする。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	13	14	22	4	4		100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	参考書	推奨
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	推奨
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	推奨
もうダメされないための「科学」講義		菊池誠 他	光文社新書541	2011	参考書	推奨
社会の真実の見つけ方		堤 未果	岩波ジュニア文庫673	2011	参考書	推奨
街場のメディア論		内田 樹	光文社新書474	2010	参考書	推奨
備考	教科書は特に使用しないが、上記参考書は読んでおくことが望ましい。					

【オフィスアワー】
講座時間内は勿論だが、そのほかメールアドレスに質問疑問点を送り、対応する。 shibata.shuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特にメディアと社会の関係で取り上げられているものは、解説を加え講座で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 火	イントロダクション～メディアとは何か～	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。講座の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	4/14 火	現代社会とメディアの関係①	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
3	4/21 火	現代社会とメディアの関係②	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
4	4/28 火	現代社会とメディアの関係③	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
5	5/5 火	現代社会とメディアの関係④	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
6	5/12 火	現代社会とメディアの関係⑤	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 火	現代社会とメディアの関係 ⑥	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
8	5/26 火	現代社会とメディアの関係 ⑦	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨標に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
9	6/2 火	メディアと社会の問題①	「メディアスクラム」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑩に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「メディアスクラム」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	「メディアスクラム」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
10	6/9 火	メディアと社会の問題② 「災害報道①」	「災害報道」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑩に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「災害報道」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	「災害報道」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
11	6/16 火	メディアと社会の問題③ 「災害報道②」	前回の講座を受けて「災害報道」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑩に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「災害報道」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	「災害報道」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
12	6/23 火	メディアと社会の問題④ 「SNSと既存メディア①」	「SNSと既存メディア」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「SNSと既存メディア」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	「SNSと既存メディア」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 火	メディアと社会の問題⑤ 「SNSと既存メディア②」	前回の講座を受け「SNSと既存メディア」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査中間発表し、討論する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「SNSと既存メディア」についてのさらなる具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	「SNSと既存メディア」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	90分
14	7/7 火	メディアと社会の問題⑥ 映像作品①	ある映像作品を上映し、その作品について、その問題点等を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査中間発表し、討論する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「映像作品」についてのその具体的情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	ついて事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
15	7/14 火	メディアと社会の問題⑦ 映像作品②	ある映像作品を上映し、その作品について、その問題点等を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査中間発表し、討論する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
		事前学修	「映像作品」についての具体的情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
		事後学修	「映像作品」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
16	9/14 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、発表の準備に入る。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
17	9/21 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文書、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
18	9/28 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文書、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
		この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
20	10/12 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
		この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
21	10/22 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
		この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
22	10/29 火	課題研究発表準備	今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
		この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
		事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
23	11/9 火	課題研究発表反省 メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化する準備をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑥～⑩に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分
24	11/16 火	課題研究発表文章化② メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。。	
		この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23 火	課題研究発表文章化③ メディアと社会の今日的問 題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアッ プした形で冊子化するための討論等を行う。。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分か りやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったか どうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択し て、文章化にかかる。	90分
26	11/30 火	課題研究発表文章化④ メディアと社会の今日的問 題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアッ プした形で冊子化するための討論等を行う。。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分か りやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったか どうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択し て、文章化にかかる。	90分
27	12/7 火	課題研究発表文章化⑤ メディアと社会の今日的問 題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアッ プした形で冊子化するための討論等を行う。。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分か りやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったか どうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択し て、文章化にかかる。	90分
28	12/14 火	課題研究発表文章化⑦ メディアと社会の今日的問 題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアッ プした形で冊子化するための討論等を行う。。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分か りやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったか どうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択し て、文章化にかかる。	90分
29	12/21	課題研究発表文章化⑧ メディアと社会の今日的問 題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアッ プした形で冊子化するための討論等を行う。。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分か りやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったか どうか確認し、省察しておく。	150分
		事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択し て、文章化にかかる。	90分
30	202 I / 1/11 火	課題研究発表文章化完成 メディアと社会の今日的問 題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアッ プした形で冊子化を完成させる。	
		この回の 到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分か りやすくまとめることが出来る。	
		事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったか どうか確認し、省察しておき、完成のための最終案にする。	150分
		事後学修	冊子を完成させ、ゼミ生で共有、また、HPに掲載する。	90分

科目名	ゼミナール3年	担当者	清水 恵介	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法（財産法）に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ選択したテーマに関する高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿や法律討論会、他のゼミナールとの合同勉強会など、学修効果を高めるための創意工夫を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3						
②	民法（財産法）に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3					
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3				3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3		3	3	3	3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】	
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/24	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，民法（財産法）につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	5/1	専門演習(1)	民法（財産法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	5/8	専門演習(2)	民法（財産法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	5/15	専門演習(3)	民法（財産法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/22	専門演習(4)	民法（財産法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/29	専門演習(5)	民法（財産法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	6/5	専門演習(6)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	6/12	専門演習(7)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/19	専門演習(8)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/26	専門演習(9)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	7/3	専門演習(10)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	7/10	専門演習(11)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/17	専門演習(12)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/31	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	8/3	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/18	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/25	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	10/2	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/16	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/23	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/30	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/6	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/13	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/27	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/4	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/11	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/18	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	12/25	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学、政治思想および政治哲学に関する専門的な学修・研究を行う。 政治思想・政治哲学や政治理論の研究を通して、個人の自由と人格を尊重し、公共性への配慮を忘れず、弱者に対する共感と適切な批判精神を備えた市民の育成を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学・政治思想・政治哲学に関する知識や社会人に求められるスキルだけでなく、良識と良心をそなえた市民として必要とされる規範意識を身につけることも目的とする。 3年次においては、政治学・政治思想・政治哲学に関する基礎的な知識や理論の他、自身の考えを理論的に表現する方法を身につける。そして、自らが関心を持ったテーマの研究に必要な情報や知識の習得に努める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者のみを対象とする。

【授業方法】
課題図書の輪読を基礎としながら、学生による発表・プレゼンテーションを中心に授業を行う。その際、学生は積極的に議論を行う。また、法桜祭の際に行われる「学生フォーラム」（学生による研究発表）の準備を、学生間の議論を

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表・プレゼンテーション、また議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	10	15									25
授業への参画度	ゼミナール内で実施する議論に積極的かつ主体的に参加し、論理的な発表を行うことができているかを評価する。	10	15									25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	政治学・政治思想史・政治哲学などの方法論や理論、またそれらに関する基本的概念を理解した上で、適切なテーマ・課題設定と論証を行い、論理的に結論を導き出すことに成功しているかを評価する。	25		15	10							50
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて指定する。				

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/14	専門演習(1)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/21	専門演習(2)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/28	専門演習(3)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/5	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/12	専門演習(5)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	専門演習 (6)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/26	専門演習 (7)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/2	専門演習 (8)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/9	専門演習 (9)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/16	専門演習 (10)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/23	専門演習 (11)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	専門演習(12)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/7	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/14	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/15	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/22	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/29	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/13	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/20	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/27	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/10	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/17	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	12/1	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/8	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/15	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/22	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/12	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	100分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	140分

科目名	ゼミナール3年	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため合宿やフィールドワークなどを行うほか、履修者からの要望も考慮しつつ授業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3				
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3						
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10～13:00（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/14	専門演習(1)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/21	専門演習(2)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/28	専門演習(3)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/5	専門演習(4)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/12	専門演習(5)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	専門演習 (6)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/26	専門演習 (7)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/2	専門演習 (8)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/9	専門演習 (9)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/16	専門演習 (10)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/23	専門演習 (11)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	専門演習(12)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/7	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/14	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/15	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/22	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/29	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10／6	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10／13	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10／20	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10／27	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11／10	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11／17	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11／24	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	12／1	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12／8	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12／15	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12／22	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1／12	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	高畑 英一郎	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：憲法の主要判例を読み込むことによって、現在の憲法的現実を理解する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法に関連する現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定できるようになることを目標とする。また、憲法的素養の向上とともに、論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の養成を目指す。 4年次：憲法に関する現代の諸問題への理解を深め、自らの意見をゼミナール論文にまとめる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：報告担当者が割り当てられた憲法判例の内容・関連判例・学説状況などを報告する。他のゼミ生は、担当者の報告に対して質問することが求められる。そして、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。夏合宿において、中間発表を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次、4年次ともに、ゼミ生は担当する課題やゼミナール論文の内容について報告するとともに、他のゼミ生との質疑応答をしなければならない。報告することともに、他の参加者とともに議論を展開することが求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法の基本的内容の理解				4	4						
②	基本的な憲法判例の内容の理解					4	4	4				
③	判例が説示する判例法理の理解					4	4	4				
④	論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の体得						4	4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミ生は担当する課題を調査し、ゼミに置いて報告することが求められる。	5	5	5	10							25
授業への参画度	報告担当ではないゼミ生は、積極的に質疑応答に参加することが求められる。	5	5	5	10							25
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール4年次にゼミナール論文の提出が求められる。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミの時間において各報告に対して講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタートアップ憲法判例50！ 2版	上田健介ほか	有斐閣	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～ 9号館3階 高畑研究室（9303室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
2	4月13日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
3	4月20日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
4	4月27日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
5	5月4日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
6	5月11日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
8	5月25日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
9	6月1日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
10	6月8日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
11	6月15日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
12	6月22日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
14	7月6日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
15	7月13日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
16	9月14日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
17	9月21日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
18	9月28日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月5日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
20	10月12日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
21	10月19日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
22	10月26日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
23	11月9日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
24	11月16日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月23日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
26	11月30日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
27	12月7日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
28	12月14日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
29	12月21日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
30	1月18日	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
		この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
		事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
		事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
特許法を中心として、知的財産法全般について、法律的な制度や判例などの考え方を学ぶとともに、現代的な課題についても発表を行い、ディスカッションを行うことで理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法を中心として、知的財産法に関して、その制度の内容や現代的な問題を指摘し、これらを説明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
各テーマに基づいてグループごとに調べてきた内容を発表し、これに対してディスカッションをすることを中心とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマの発表とそれに対するディスカッション及びフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の基礎を理解し、説明することができる。				3	3					3	3
②	知的財産法の各制度について理解を深め、説明することができる。						3	3			3	3
③	知的財産権に関する現代的な問題点について理解を深め、説明することができる。								3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③について、ポイントを押さえた発表が行えているかについて評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	到達目標②③について、積極的に授業にかかわり発言を行っているかについて評価する。		10	10								20
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③について、ゼミナール論文により評価する。	10	20	20								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のプレゼン発表の内容に基づいて適宜フィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準特許法第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12時10分～13時 教員研究室（事前に連絡のこと）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	ガイダンス及び導入講義	知的財産法の概要	
		この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の概要を理解する。	
		事前学修	知的財産法の概要を調べてくる。	120分
		事後学修	知的財産法の概要を整理する。	120分
2	第一部火 4/14	特許法の目的	特許法第1条の目的について議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、特許法第1条の法目的の内容を理解する。	
		事前学修	特許法第1条について調べてくる。	120分
		事後学修	特許法の法目的について整理する。	120分
3	第一部火 4/21	特許要件 1	特許法第29条1項柱書について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、特許要件の「産業上利用性」「発明」の内容を理解する。	
		事前学修	「産業上利用性」「発明」の内容について調べてくる。	120分
		事後学修	「産業上利用性」「発明」の内容について整理する。	120分
4	第一部火 4/28	特許要件 2	特許法第29条1項各号について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許要件の新規性の内容について理解する。	
		事前学修	特許要件の新規性について調べてくる。	120分
		事後学修	特許要件の新規性について整理する。	120分
5	第一部火 5/5	特許要件 3	特許法第29条2項について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許要件の進歩性について理解する。	
		事前学修	進歩性の内容を調べてくる。	120分
		事後学修	進歩性の内容を整理する。	120分
6	第一部火 5/12	新規性喪失の例外	特許法第30条について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、新規性喪失の例外の趣旨、内容について理解する。	
		事前学修	新規性喪失の例外の趣旨、内容について調べてくる。	120分
		事後学修	新規性喪失の例外の趣旨、内容について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	特許出願の主体的要件	特許出願人と発明者について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許出願人と発明者について理解する。	
		事前学修	特許出願人と発明者について調べてくる。	120分
		事後学修	特許出願人と発明者について整理する。	120分
8	第一部火 5/26	職務発明制度	特許法35条について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、職務発明制度について理解する。	
		事前学修	職務発明制度について調べてくる。	120分
		事後学修	職務発明制度について整理する。	120分
9	第一部火 6/2	特許の記載要件	特許法36条について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、特許出願書類の記載要件について理解する。	
		事前学修	特許出願書類の記載要件について調べてくる。	120分
		事後学修	特許出願書類の記載要件について整理する。	120分
10	第一部火 6/9	発明の単一性	特許法37条について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、発明の単一性について理解する。	
		事前学修	発明の単一性について調べてくる。	120分
		事後学修	発明の単一性について整理する。	120分
11	第一部火 6/16	先願主義	特許法第39条について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、先願主義について理解する。	
		事前学修	先願主義について調べてくる。	120分
		事後学修	先願主義について整理する。	120分
12	第一部火 6/23	国内優先権制度	国内優先権制度について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、国内優先権制度について理解する。	
		事前学修	国内優先権制度について調べくる。	120分
		事後学修	国内優先権制度について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	特許出願の分割・変更	特許法第44条、第46条について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許出願の分割について理解する。	
		事前学修	特許出願の分割・変更について調べてくる。	120分
		事後学修	特許出願の分割・変更について整理する。	120分
14	第一部火 7/7	審査手続き	審査手続きの流れについて	
		この回の到達目標	到達目標①②について、審査手続きの流れについて理解する。	
		事前学修	審査手続きの流れを調べてくる。	120分
		事後学修	審査手続きの流れを整理する。	120分
15	第一部火 7/14	補正	手続補正について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、手続補正について理解する。	
		事前学修	手続補正について調べてくる。	120分
		事後学修	手続補正についてまとめる。	120分
16	第一部火 9/15	特許権	特許権の内容について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許権の内容について理解する。	
		事前学修	特許権の内容について調べてくる。	120分
		事後学修	特許権の内容について整理する。	120分
17	第一部火 9/22	効力が及ばない範囲	特許権の効力が及ばない範囲について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許権の効力が及ばない範囲について理解する。	
		事前学修	特許権の効力が及ばない範囲について調べてくる。	120分
		事後学修	特許権の効力が及ばない範囲について整理する。	120分
18	第一部火 9/29	技術的範囲	技術的範囲と均等論について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、技術的範囲と均等論について理解する。	
		事前学修	技術的範囲と均等論について調べてくる。	120分
		事後学修	技術的範囲と均等論について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部火 10/6	特許権の共有・移転	特許権の共有・移転について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、特許権の共有・移転について理解する。	
		事前学修	特許権の共有・移転について調べてくる。	120分
		事後学修	特許権の共有・移転について整理する。	120分
20	第一部火 10/13	許諾による実施権	実施権（特許法77条、78条）の内容について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、実施権（特許法77条、78条）の内容について理解する。	
		事前学修	実施権（特許法77条、78条）の内容について調べてくる。	120分
		事後学修	実施権（特許法77条、78条）の内容について整理する。	120分
21	第一部火 10/20	法定実施権・裁定実施権	法定実施権・裁定実施権について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、法定実施権・裁定実施権について理解する。	
		事前学修	法定実施権・裁定実施権について調べてくる。	120分
		事後学修	法定実施権・裁定実施権について整理する。	120分
22	第一部火 10/27	差止請求権	差止請求権（特許法100条）について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、差止請求権（特許法100条）について理解する。	
		事前学修	差止請求権（特許法100条）について調べてくる。	120分
		事後学修	差止請求権（特許法100条）について整理する。	120分
23	第一部火 11/10	間接侵害	間接侵害（特許法101条）について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、間接侵害（特許法101条）について理解する。	
		事前学修	間接侵害（特許法101条）について調べてくる。	120分
		事後学修	間接侵害（特許法101条）について整理する。	120分
24	第一部火 11/17	損害賠償等に関する規定	損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について理解する。	
		事前学修	損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について調べてくる。	120分
		事後学修	損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 11/24	特許異議申し立て制度	特許異議申し立て制度について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、特許異議申し立ての制度について理解する。	
		事前学修	特許異議申し立て制度について調べてくる。	120分
		事後学修	特許異議申し立て制度について整理する。	120分
26	第一部火 12/1	拒絶査定不服審判等	拒絶査定不服審判等査定系審判について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、拒絶査定不服審判等査定系審判について理解する。	
		事前学修	拒絶査定不服審判等査定系審判について調べてくる。	120分
		事後学修	拒絶査定不服審判等査定系審判について整理する。	120分
27	第一部火 12/8	特許無効審判等	特許無効審判等当事者系審判について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、特許無効審判等当事者系審判について理解する。	
		事前学修	特許無効審判等当事者系審判について調べてくる。	120分
		事後学修	特許無効審判等当事者系審判について整理する。	120分
28	第一部火 12/15	審決取消訴訟	審決取消訴訟について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、審決取消訴訟について理解する。	
		事前学修	審決取消訴訟について調べてくる。	120分
		事後学修	審決取消訴訟について整理する。	120分
29	第一部火 12/22	国際特許出願に関する手続	国際特許出願に関する手続について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、国際特許出願に関する手続について理解する。	
		事前学修	国際特許出願に関する手続について調べてくる。	120分
		事後学修	国際特許出願に関する手続について整理する。	120分
30	第一部火 1/12	刑事罰	刑事罰について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、刑事罰について理解する。	
		事前学修	刑事罰について調べてくる。	120分
		事後学修	刑事罰について整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：公共経済学と行動経済学における基礎理論を身につけるためにテキストの輪読とディスカッションを行う。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを見つけ、グループでゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済学、特に公共経済学と行動経済学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
第1回授業に必ず出席すること。その後は、ゼミナール入室試験合格者のみが受講できる。

【授業方法】		
3年次：演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当するように割り当てる。詳しい方法は第1回もしくは第2回授業で説明する。 4年次：グループで研究テーマを見つけ、それに対する調査・分析・論文作成を協働して行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済学、特に公共経済学と行動経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④	解決すべき現代の社会問題に関する問いを自ら見つけることができる。				4	3		3	4			
⑤	上記問いに対して経済学に基づいた解決策を発信することができる。					4	4	4	4	4		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10									20
授業への参画度	到達目標②③について、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		10	10								20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文によって、到達目標④⑤についてに関わる能力が身についているかを評価する。				20	40						60
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	20	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各回の報告に対して、授業中に講評を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	第1回もしくは第2回授業の際に指示する。				

【オフィスアワー】	
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ゼミ説明と入室試験	ゼミの説明を行うとともに、入室試験として面接を行う。	
		この回の到達目標	ゼミナールで学ぶことの意義について認識できる。	
		事前学修	このゼミを志望する動機をまとめたり、どのような質問がされるかを想定したりして面接の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミの説明について再確認する。	120分
2	第一部 水4/15	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や教科書の他、成績評価の方法について説明を行う。その後に、行動経済学について講義する。	
		この回の到達目標	セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、行動経済学を学ぶ意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を再確認し、授業で学んだ行動経済学とはどのような学問かについて復習する。	120分
3	第一部 水4/22	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
4	第一部 水4/29	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
5	第一部 水5/6	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
6	第一部 水5/13	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
8	第一部 水5/27	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
9	第一部 水6/3	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
10	第一部 水6/10	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
11	第一部 水6/17	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
12	第一部 水6/24	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 水7/1	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
14	第一部 水7/8	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
15	第一部 水7/15	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
16	第一部 水9/16	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
17	第一部 水9/23	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
18	第一部 水9/30	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水10/7	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
20	第一部 水10/14	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
21	第一部 水10/21	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
22	第一部 水10/28	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
23	第一部 水11/11	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
24	第一部 水11/18	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	第一部 水11/25	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
26	第一部 水12/2	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
27	第一部 水12/9	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
28	第一部 水12/16	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
29	第一部 水12/23	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
30	第一部 水1/13	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
		この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
		事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
		事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	立福 家徳	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
立福ゼミナール（経済政策論）は、根拠に基づく政策立案（EBPM）について学び、現実の社会課題についてそのどこが問題か、それを解決するための政策介入について考える。具体的には、少子高齢化、教育、医療、貧困・格差、まちづくり、環境、国際協力など、身近な社会課題を取り上げ、データ分析、議論の作法、論文執筆方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政策研究における基礎的な手法について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で、他のメンバーとの協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミのメンバーとの議論を通じて論文としてまとめていく。そうした活動を通じて、政策研究の奥深さに気づき、データ分析、論理的思考を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
3年次：統計手法と論文執筆に関する講義と、パソコンを使った実習を終えたのち、グループ論文について発表し討論を行い作成する。合宿も開催する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時、発表を行い、ゼミ論文をまとめる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次：グループ論文についての報告とそれに対する討論をおこなう。 4年次：ゼミ論文についての報告とそれに対する討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済政策に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	計量分析に関する手法や留意点を深く理解し、これを適切に用いて研究を進めることができる。							4	4	4			
③	プレゼンテーションについての技術や方法について理解し、自分の研究について論理的に報告することが出来る。									3	3	3	
④	他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働してグループ論文執筆作業に取り組むことができる。										4	4	4
⑤	他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、課題を解決しながら段階的にゼミ論文の執筆を進めることができる。										4	4	4
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次に作成されるグループ論文について、学術論文としての形式を守ったうえで、論理的な記述を行っているかを評価する。				20							20
討論・発表等	グループ論文やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する議論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	3	4	3								10
授業への参画度	講義での積極的な発言、ゼミ全体に対する貢献を評価する。	3	4	3								10
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文について、学術論文としての形式を守ったうえで、論理的な記述を行っているかを評価する。					60						60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	8	6	20	60						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後にその都度対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
計量経済学の第一歩-実証分析のススメ -	田中隆一	有斐閣	2015	参考書	推奨
EBPMの経済学：エビデンスを重視した政策立案	大橋弘 編	東京大学出版会	2020	参考書	任意
「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法	中室牧子・津川友介	ダイヤモンド社	2017	参考書	任意
「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実	山口慎太郎	光文社	2019	参考書	任意
備考	教科書は用いない				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	オリエンテーション及び導入講義	ゼミの方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、根拠に基づく政策立案（EBPM）について日本及び各国の取り組みについて紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミ活動の全体像を把握すると共に、根拠に基づく政策立案（EBPM）について学び、学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、1年間の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認する。	120分
2	4/17	政策論文の執筆方法	政策論文の執筆方法についてその概要を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論文執筆の流れについて説明できる。	
		事前学修	講義資料を基に論文執筆とはどのようなものかおおまかに理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、今後の進め方について、自分なりのイメージをまとめる。	120分
3	4/24	計量経済学の方法①	計量経済学の方法について、データの加工、確率論と確率分布について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、データの加工方法、確率論について説明できる。	
		事前学修	講義資料を基に内容の概観を理解しておくこと。	60分
		事後学修	E x c e lを用いてデータの加工を行う。	180分
4	5/1	計量経済学の方法②	計量経済学の方法について、標本平均、不偏性、一致性、大数の法則について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、不偏性、一致性について説明できる。	
		事前学修	講義資料を基に内容の概観を理解しておくこと。	60分
		事後学修	E x c e lを用いて統計的実証の操作を行う。	180分
5	5/8	計量経済学の方法③	計量経済学の方法について、単回帰分析と重回帰分析について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、重回帰分析のメリット、生じる問題について説明できる。	
		事前学修	講義資料を基に内容の概観を理解しておくこと。	60分
		事後学修	E x c e lを用いて回帰分析の操作を行う。	180分
6	5/15	グループワーク①	グループ論文のテーマを決め	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、これら取り組んでいく、グループ論文のテーマを決めることができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文のテーマ案について相談をし、報告資料を作成する。	180分
		事後学修	ゼミで決定したテーマについて下調べを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	グループワーク②	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
8	5/29	グループワーク③	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
9	6/5	グループワーク④	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
10	6/12	グループワーク⑤	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
11	6/19	グループワーク⑥	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
12	6/26	グループワーク⑦	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	グループワーク⑧	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
14	7/10	グループワーク⑨	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
15	7/17	グループワーク⑩	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
16	9/18	グループワーク⑪	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
17	9/25	グループワーク⑫	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
18	10/2	グループワーク⑬	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	グループワーク⑭	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
20	10/16	グループワーク⑮	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
21	10/23	グループワーク⑯	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
22	10/30	グループワーク⑰	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
23	11/6	グループワーク⑱	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
24	11/13	グループワーク⑲	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	グループワーク⑳	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
26	11/27	グループワーク㉑	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
27	12/4	グループワーク㉒	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
28	12/11	グループワーク㉓	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
29	12/18	グループワーク㉔	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
		事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
		事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
30	12/25	まとめ	来年度のゼミ論文執筆に向けた、スケジュール等について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、来年度のゼミ論文執筆について具体的なイメージができる。	
		事前学修	来年度のゼミ論文のテーマについて考えてくる。	120分
		事後学修	来年度のゼミ論文執筆に向けて準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する理論や重要判例を学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法に関する重要な理論について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、民法に関する理論への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：少人数のグループに分かれて重要判例を検討・報告する。報告された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	民法における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				3	3						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察し、他者と意見交換ができる。				4	4	4	4		3	3	3
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、民法における課題を自ら探求することができる。				4	4	4	4	4		3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	重要判例に関する報告や事例問題における討論の内容に応じて評価する。	5	5	10	10							30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を執筆し、それを評価対象とする。	10	10	25	25							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文の執筆経過に応じて講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業において適宜指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/7	オリエンテーション及び導入講義	ゼミの進め方や課題について説明を行う	
		この回の到達目標	①②に関連し、民法の体系を理解し、民法が社会で果たす機能を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に民法の中で興味のある分野や研究してみたい項目をあげておく。	120分
		事後学修	指定された課題について、グループで検討を行う。	120分
2	第一部 4/14	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
3	第一部 4/21	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
4	第一部 4/28	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
5	第一部 5/5	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
6	第一部 5/12	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
8	第一部 5/26	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
9	第一部 6/2	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
10	第一部 6/9	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
11	第一部 6/16	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
12	第一部 6/23	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
14	第一部 7/7	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
15	第一部 7/14	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
		この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
		事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
		事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
16	第一部 9/15	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
17	第一部 9/22	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
18	第一部 9/29	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 10/6	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
20	第一部 10/13	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
21	第一部 10/20	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
22	第一部 10/27	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
23	第一部 11/10	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
24	第一部 11/17	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 11/24	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
26	第一部 12/1	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
27	第一部 12/8	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
28	第一部 12/15	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
29	第一部 12/22	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分
30	第一部 1/12	事例検討	検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。	
		事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分
		事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の憲法学・比較憲法学における重要トピックについて学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これに関する研究論文を作成する。 3年次ゼミで取り扱うテーマについては、受講生と相談の上で決定する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法学・比較憲法学における重要トピックを学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これを研究する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容にもとづいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
ゼミ受講生による報告・グループディスカッション・ディベートを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションによる憲法問題に関する討論	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代の憲法問題を考察することで、現代社会に関する深い知識を修得し、社会問題に対するアプローチを見出すことができる。					3	3	3	3				
②	比較憲法学の知見を修得し、「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。						3	3	3	3			
③	自己の研究について、内容や手法を含めて、他者に明確に説明し、また他の者の研究発表に対しても質疑・コメントができる。									3	3	3	
④	興味をもった憲法問題について、アカデミックな研究手法を用いて、研究論文が執筆できる。						4	4	4	4			4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の報告発表における準備のよさや報告のクオリティを総合的に評価する。	10	10	20								40
授業への参画度	自分以外のゼミ生の報告に対する質疑などを総合的に評価する。			10								10
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成度や独自性を総合的に評価する。				50							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各ゼミ回での教員による解説・評価

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回のゼミで指示する				

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館1607）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	ガイダンス・導入講義	ゼミナールの意義や今後のスケジュール、ゼミの進行などについて概説する。	
		この回の到達目標	今後のゼミの進行やゼミの準備の仕方を理解し、次回以降のゼミの準備ができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回のゼミに関する資料を読み、各自で準備をする。	120分
2	4月17日	第1回討論テーマの事前報告	第1回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	第1回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
3	4月24日	第1回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
		この回の到達目標	第1回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。	150分
4	5月1日	第2回討論テーマの事前報告	第2回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	第2回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
5	5月8日	第2回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
		この回の到達目標	第2回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。	150分
6	5月15日	第3回討論テーマの事前報告	第3回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	第3回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	第3回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
		この回の到達目標	第3回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。	150分
8	5月29日	第4回討論テーマの事前報告	第4回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	第4回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
9	6月5日	第4回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
		この回の到達目標	第4回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。	150分
10	6月12日	第5回討論テーマの事前報告	第5回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	第5回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
11	6月19日	第5回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
		この回の到達目標	第5回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。	150分
12	6月26日	第6回討論テーマの事前報告	第6回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	第6回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	7月3日	第6回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し，討論を行う。
		この回の到達目標	第6回の討論テーマについて，ディベート，討論を通じてより深く理解し，自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて，各人が自己の見解を形成しておく。
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し，ペーパーにまとめておく。
14	7月10日	前期ゼミまとめ①	前期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。
		この回の到達目標	前期ゼミでの討論テーマを再度確認し，問題がどこにあったのかを説明できる。
		事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。
		事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。
15	7月17日	前期ゼミまとめ②	前期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。
		この回の到達目標	前期ゼミでの討論テーマを再度確認し，問題がどこにあったのかを説明できる。
		事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。
		事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。
16	9月18日	第7回討論テーマの事前報告	第7回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。
		この回の到達目標	第7回の討論テーマについて，前提となる知識を身につけ，ディベートのための意見を形成できる。
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。
17	9月25日	第7回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し，討論を行う。
		この回の到達目標	第7回の討論テーマについて，ディベート，討論を通じてより深く理解し，自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて，各人が自己の見解を形成しておく。
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し，ペーパーにまとめておく。
18	10月2日	第8回討論テーマの事前報告	第8回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。
		この回の到達目標	第8回の討論テーマについて，前提となる知識を身につけ，ディベートのための意見を形成できる。
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	10月9日	第8回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。
		この回の到達目標	第8回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。150分
20	10月16日	第9回討論テーマの事前報告	第9回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。
		この回の到達目標	第9回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。150分
21	10月23日	第9回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。
		この回の到達目標	第9回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。150分
22	10月30日	第10回討論テーマの事前報告	第10回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。
		この回の到達目標	第10回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。150分
23	11月6日	第10回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。
		この回の到達目標	第10回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。150分
24	11月13日	第11回討論テーマの事前報告	第11回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。
		この回の到達目標	第11回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	11月20日	第11回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し，討論を行う。
		この回の到達目標	第11回の討論テーマについて，ディベート，討論を通じてより深く理解し，自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて，各人が自己の見解を形成しておく。90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し，ペーパーにまとめておく。150分
26	11月27日	第12回討論テーマの事前報告	第12回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。
		この回の到達目標	第12回の討論テーマについて，前提となる知識を身につけ，ディベートのための意見を形成できる。
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。90分
		事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。150分
27	12月4日	第12回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し，討論を行う。
		この回の到達目標	第12回の討論テーマについて，ディベート，討論を通じてより深く理解し，自己の見解を深めることができる。
		事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて，各人が自己の見解を形成しておく。90分
		事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し，ペーパーにまとめておく。150分
28	12月11日	後期ゼミまとめ①	後期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。
		この回の到達目標	後期ゼミでの討論テーマを再度確認し，問題がどこにあったのかを説明できる。
		事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。120分
		事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。120分
29	12月18日	後期ゼミまとめ②	後期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。
		この回の到達目標	後期ゼミでの討論テーマを再度確認し，問題がどこにあったのかを説明できる。
		事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。120分
		事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。120分
30	1月15日	ゼミ論文テーマ案の決定	4年次に執筆するゼミ論文のテーマ案を報告する。
		この回の到達目標	これまでのゼミ活動を通じて得られた知見や自己の見解から論文テーマを発見することができる。
		事前学修	ゼミ論文のテーマ，論文構成，参考となる資料・判例などを準備しておく。120分
		事後学修	教員・ゼミ生から出された意見などをもとにゼミ論文執筆の準備を始める。120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
新聞学に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，新聞学の関心領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ関心領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
新聞学に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，学生フォーラムへの参加，新聞学に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと思えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，関心領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/13	専門演習(1)	関心領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/20	専門演習(2)	関心領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して関心知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/27	専門演習(3)	関心領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/4	専門演習(4)	関心領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/11	専門演習(5)	関心領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	専門演習 (6)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/25	専門演習 (7)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/1	専門演習 (8)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/8	専門演習 (9)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/15	専門演習 (10)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/22	専門演習 (11)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	専門演習(12)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/6	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/13	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/14	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/21	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/28	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/12	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/19	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/26	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/9	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/16	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/30	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/7	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/14	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/21	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/18	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	友岡 史仁	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
経済行政法をテーマとした研究課題を、関連する設問や討論会を通じて深め、リーガルマインドの形成とあわせて、履修者同士の問題発見や討論方法などを学んでいきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済行政法におけるさまざまな課題について、与えられた設問からいかなる法律問題が存在するかを発見する能力を身に付けます。その応用として、討論会の準備を通じてグループワークの大切さを学ぶと同時に、社会に出た際の不可欠な能力をあわせて取得することを目指します。
4年次：3年次に習得したリーガルマインドに基き、経済行政法に関連した各自の興味・関心に沿う研究テーマを選択したうえで、ゼミナール論文（卒業論文）に関わる中間報告やレポート等の提出を行い、個別の指導を受けたうえで完成を目指します。

【履修条件】
本ゼミナールでの入室試験（面接試験）合格者のみを受講可とします。可否の大まかな判断基準としては、自分の言葉で意思表示できること、2年間継続する強い意思、積極的なゼミ活動への参加意欲などです。

【授業方法】
担当者が事前準備した課題を全員が予習し、授業時にその成果を報告し全体で討論します。このほか、他大学のゼミナールとの討論会を予定します。あわせて、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にかかわる研究テーマの設定を報告や討論を通じて行い、その完成途中での個別指導などを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	復習レポートの提出、討論会に向けたシラバス等の作成を個人またはグループで行うほか、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にあたり、都度担当者がチェックをし、ゼミ内または個別に指摘をすることで、リーガルマインドの素養を取得していきます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が課題を通じて「行政上の規制」のさまざまな現象を現実具体的に理解できるようにする。						3	3			3	3	3	3
②	履修者が法的な言葉遣いでゼミナール内で習得した知識を説得的に語れるよう説明する。								3	3	3	3	3	3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次は履修者全員が前期中は毎回出される課題に対する復習レポートの作成・提出を求める。4年次もゼミナール論文(卒業論文)の作成に当たり発見したテーマについてレポート等にまとめる。	20	10									30
討論・発表等	3年次は履修者全員が後期中は予定される討論会時に利用されるレジュメの作成とその他のための論点整理等の報告を求める。4年次はゼミナール論文(卒業論文)に関する自ら決定した研究テーマを深めるための報告を行い、それに基づき完成させる。	20	10									30
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	20	20									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートがあれば全体または個別に講評し、グループ学習の場合は問題点を担当者が先に指摘したうえで、全体で再度検討の機会を設ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
NBS行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み、9号館210研究室（事前のアポをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/7	【前期オリエンテーション】課題のこなし方のイロハを学ぶ	経済行政法に関連した課題を配布したうえで、それに関連する参考文献などをこれから勉強する方法、授業スケジュール、成績評価等を説明します。これとあわせて、論文文献、判例・裁判例など課題を解くうえでの検索ツールを、個別に依頼する図書館での簡単なガイダンスを通じて学び、今後の授業準備に備えます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法に関する法的な課題がどのようなものかを深く理解できるための最初の一步を理解し、説明することを目指します。	
		事前学修	どのような課題が出るのかを全体像としてつかむとともに、それにむけた憲法・民法といった基本法律科目のテキストを読了しておくことで、これから何を調べ勉強すべきかを自ら検討できるようにしておきます。	120分
		事後学修	次回以降の課題を検討するうえでの資料検索等の準備とゼミ当日の討論に向けた情報収集、教科書を用いた論点発見の作業を行います。	120分
2	第一部 4/14	前期課題①行政政策、公法・私法の関係性	経済行政法の課題を検討できるよう、行政法の基本的素養を身につけられるようにします。このため、まずは行政政策にかかわる内容と、公法・私法の関係性について法的に説明できるようにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の全体像を読み解くための法的論点を説明し理解することを目指します。	
		事前学修	すでに憲法・民法の基本法律科目のテキストを読了していることを前提に、六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題②を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
3	第一部 4/21	前期課題②基本と応用の意味を知る	経済行政法の課題を検討できるよう、行政法の基本的素養の中でも一般法原則に関わる事例とあわせて、今後重要な論点となる料金規制に関わる事例を取り上げることで、関連する実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題③を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
4	第一部 4/28	前期課題③理論的な観点から検討できるようにする	経済行政法の課題を検討できるよう、法治行政に関わる理論的な設問を検討します。これとあわせて、今後重要な論点となる参入規制に関わる事例を取り上げることで、関連する実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題④を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
5	第一部 5/5	前期課題④経済活動への行政介入の在り方について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、経済行政に係る法律問題の主流を占める行政指導について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑤を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
6	第一部 5/12	前期課題⑤独占禁止法との関係・趣旨目的の理解について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、独占禁止法との関わりに意識しながら、法律の趣旨目的の意味を理解します。これとの関係で、規制目的の分類のうち社会的規制を意識した実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑥を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	前期課題⑥（続）趣旨目的の理解について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、前回に続いて、法律の趣旨目的の意味を理解します。これとの関係で、今回は規制目的の分類のうち経済的規制を意識した実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑦を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
8	第一部 5/26	前期課題⑦経済行政に関する契約について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、許認可等の「行政上の規制」とはやや色を異にする経済行政に関する契約に関する課題を取り扱うことにします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑧を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
9	第一部 6/2	前期課題⑧複数論点の存在について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題で登場する単一論点から、次第に複数論点が存在する場合の法的問題の処理方法について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑨を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
10	第一部 6/9	前期課題⑨事後的救済手続等を学ぶ（第1回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第1回目であり、金銭補償の問題を扱います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑩を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
11	第一部 6/16	前期課題⑩事後的救済手続等を学ぶ（第2回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第2回目であり、第1回目で取り残した金銭補償の問題とあわせて、行政争訟の扱い方の第1回目を取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑪を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
12	第一部 6/23	前期課題⑪事後的救済手続等を学ぶ（第3回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第3回目であり、第2回目で取り残した行政争訟の扱い方とあわせて、そこで扱えなかった参入規制等を絡めた論点（特に訴訟手続上の課題）を扱います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑫を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	前期課題⑫事後的救済手続等を学ぶ（第4回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなしした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第4回目ですが、第1回目から第3回目までで学んだ諸論点を複合的に扱う事例を取り上げます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。また、担当者は次回の判例研究での報告のため、資料検索等の準備も行います。	120分
14	第一部 7/7	前期課題⑬判例研究（第1回）	経済行政法の課題を検討できるよう、第2回から第13回まで学んだ内容を応用的に活用し、その総括を行うために、判例研究を行います。取り上げる判例は、できる限り評釈等がない下級審事例とし、各自で興味を持ったものをグループ等で取り上げ、全体報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	担当判例について事実関係を根拠となる判例集から徹底的に読み込んだうえで、裁判所の判断について、これまでに培った問題意識を踏まえた論点を報告し、自らの言葉で質疑応答ができるようにします。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果をレポートの形でまとめ、次週に提出できるようにします。また、担当者は次回の判例研究での報告のため、資料検索等の準備も行います。	120分
15	第一部 7/14	前期課題⑭判例研究（第2回）	本回も、経済行政法の課題を検討できるよう、第2回から第13回まで学んだ内容を応用的に活用し、その総括を行うために、判例研究を行います。取り上げる判例は、できる限り評釈等がない下級審事例とし、各自で興味を持ったものをグループ等で取り上げ、全体報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
		事前学修	担当判例について事実関係を根拠となる判例集から徹底的に読み込んだうえで、裁判所の判断について、これまでに培った問題意識を踏まえた論点を報告し、自らの言葉で質疑応答ができるようにします。	120分
		事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果をレポートの形でまとめ、次週に提出できるようにします。また、担当者は次回の判例研究での報告のため、資料検索等の準備も行います。	120分
16	第一部 9/15	【後期オリエンテーション】討論会に向けた準備	前期で学んだ経済行政法の基本と応用の多様な知識を生かし、討論会に向けた準備をするために何が求められているのか、どのようなノウハウが必要なのか、前期中には見えなかった論文文献、判例・裁判例など課題を解くうえでの新たな検索ツールを再確認し、今後の方針を決めています。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論をするうえでどのような準備が日ごろの学習面で求められているかを確認します。	
		事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定の方法やそのための時事問題への強い関心、その他の問題意識を夏季休暇中等で養います。	120分
		事後学修	討論会に向けた必要な約束事、その他、テーマとして問題となりそうな内容を複数選べるよう、徹底的に情報検索等を行います。	120分
17	第一部 9/22	後期課題①テーマ発見（第1回）	第16回目で決定された今後の方針が進め方として正しいかどうかを再確認します。それとあわせて、討論会で実際に取り上げるテーマ選定をじっくり行います。この場合、できるかぎり賛成と反対が明確につくものを取り上げるため、事前に調査した内容から精査していきます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論テーマを発見するうえで必要な時事問題や法的素養が身につけられるよう目指します。	
		事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定を行うため、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	本回で決定した事項を次回に反映できるよう、他のゼミ生とも議論しながら進められるようにします。	160分
18	第一部 9/29	後期課題②テーマ発見（第2回）	第17回目で議論し取り上げたテーマについて、できる限り多くの詳細な論点と現実的な内容、その内容が正当なものであるのかを、逐次確認し、第2回から第15回までに学んだ方法に従い、討論内容として適切であるのかを検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論テーマを発見するうえで必要な時事問題や法的素養が身につけられるよう目指します。	
		事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定を行うため、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	討論会に向けた必要な約束事、その他、テーマとして問題となりそうな内容を複数選べるよう、徹底的に情報検索等を行います。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 10/6	後期課題③テーマ発見（第3回）	第18回目までである程度決定したテーマについて、他大学の担当者などどの主張を交えて、最終的に決定するための議論をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論テーマを発見するうえで必要な時事問題や法的素養が身につけられるよう目指します。	
		事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定を行うため、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	討論会に向けた必要な約束事、その他、テーマとして問題となりそうな内容を複数選べるよう、徹底的に情報検索等を行います。	160分
20	第一部 10/13	後期課題④テーマに即した論点整理（第1回）	第17回目から第19回目までで得られた知見と決定されたテーマに即して、どのような論点が具体的に取上げられるべきかについて、徹底的に精査していきます。今回はその第1回目なので、精査するためのたたき台を各自提供し、議論の進め方を学んでいきます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのかが理解できることを目指します。	
		事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	160分
21	第一部 10/20	後期課題⑤テーマに即した論点整理（第2回）	第20回目である程度得られた該当テーマに沿った論点について、法制度を踏まえたうえで、自らが立つ賛否いずれかの立場に即した論点となり得ているのかを、徹底的に議論します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのかが理解できることを目指します。	
		事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	160分
22	第一部 10/27	後期課題⑥テーマに即した論点整理（第3回）	第21回目と同様、法制度を踏まえたうえで、自らが立つ賛否いずれかの立場に即した論点となり得ているのかを、徹底的に議論します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのかが理解できることを目指します。	
		事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	160分
23	第一部 11/10	後期課題⑦テーマに即した論点整理（第4回）	第20回から第22回目で得られたテーマに関わる他よな論点を最終的に確認し、きれいに賛否が分かれるのか、法制度としての裏付けはあるのは、その際の判例・裁判例等の法解釈上の問題はあのか、といった実際の討論に向けた準備書面の作成に入る前段階の作業を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのかが理解できることを目指します。	
		事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	120分
		事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	120分
24	第一部 11/17	後期課題⑧プレ討論会	第25回目以降、これまで準備してきたテーマとそれに沿った論点をどのように主張するのかという討論会のノウハウを学ぶため、他校とも調整しながら、前年度までに行ってきた討論テーマを本年度行う現役3年生によって「プレ討論会」と称して、実施します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論された法的論点がどのように展開されれば相手に説得的に伝わるのかについて理解します。	
		事前学修	前年度までに行った討論テーマを実際に討論会形式に焼き直し、それを当日対応できるよう準備します。	120分
		事後学修	実際に体験した討論会形式の内容を踏まえて、必要な作業を確認します。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 11/24	後期課題⑨フル討論会準備 (第1回)	第24回目で行ったブレ討論会を通じて得られた各種知見を最大限生かし、実際に討論会に向けた本格的な準備を進めます。今回は、各自担当を決めて、立論者、質問者等、事前に決められた討論形式に沿った主張ができるよう、反復継続します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。	
		事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。	160分
26	第一部 12/1	後期課題⑩フル討論会準備 (第2回)	第25回目で試行した討論会形式をステップアップするため、当日利用するためのレジュメ作成を本格化させるとともに、すでに決まったテーマや論点においてその内容が正確であるのかといったフィードバックもあわせて行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。	
		事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。	160分
27	第一部 12/8	後期課題⑪フル討論会準備 (第3回)	本回では、第26回目で行ったフィードバックと進行するレジュメ作成を集大成させ、実際の討論会に向けて、立論、質疑応答とあわせて、賛否に分かれて論駁等ができるよう、反復継続します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。	
		事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。	160分
28	第一部 12/15	後期課題⑫フル討論会準備 (第4回)	本回では、第29回目に向けた実際の討論会で行う立論、質疑応答、賛否に分かれた論駁等がその当日で行えるのかを再検討し、さらに既定の時間内でそれらが収まるように試行錯誤を繰り返します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。	
		事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
		事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。	160分
29	第一部 12/22	後期課題⑬討論会の実施	討論会当日は、これまでに培った能力を最大限生かすことで、充実した討論内容にします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでに準備してきたテーマに係るさまざまな内容について理解し、そのうえで、問題解決能力を含めた即応力を習得します。	
		事前学修	本回のために、他のゼミ生とも協力をしながら当日の討論会に対応できるようにします。	120分
		事後学修	討論会を経験することで自ら準備してきた内容とその時に得られた内容とのギャップを感じ、それを次のゼミで報告できるようにします。	120分
30	第一部 1/12	【ゼミ全体の総括】前期課題および討論会終了後のフィードバック	本回は第1回から第29回目までのゼミ全体の内容を総括します。今後のゼミ活動とあわせて、到達目標①②に合わせた内容が達成できているかを担当者が気付いた諸論点にそって互いに論じ合い、履修者自ら確認できる場にします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本・応用的な課題をこなす能力、討論会を通じたテーマ・論点発見とそれにかかわる説得的かつ即応的な討論能力が養われていることを確認します。	
		事前学修	これまでのゼミ活動で得られた内容がどのように自分にフィードバックできるかを、自らの言葉でまとめます。	120分
		事後学修	これまでに得られた知識が就職活動その他社会に出て行った際にいかに役に立つのかを反芻し、次年度の卒論作成に向けた作業準備をスタートさせます。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次前期：受講生は、自らの興味関心にしたがってジャーナリズム、またはメディア分野の文献を読み、その論点を見出し、プレゼンテーションする。また、提示された論点について、ゼミナール受講者によるディスカッションを通じて検討する。 3年次後期：受講生は、自らの興味関心にしたがってゼミナール論文のテーマを見出し、論文執筆のための研究計画を立案する。また、研究計画の実現可能性についてゼミナール受講者によるディスカッションを通じて検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生は、ゼミナール論文の執筆に向けて、自らの興味関心に沿った研究テーマを見出す。また、社会学的なメソッドを学習することを通じて、論文を執筆する基本的な知識と能力を修得する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可とする。

【授業方法】		
3年次前期：受講生はジャーナリズム、またはメディア分野の文献を講読し、その論点を見出し、発表する。その発表をもとに、ゼミナール受講者でディスカッションする。		
3年次後期：受講生はゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表する。その発表をもとに、ゼミナール受講者でディスカッションする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講読文献を事前に読み、自らの問題意識をまとめておく。受講者による講読内容の発表を聞き、それとともなうディスカッションに参加することで、問題意識に対する考察を深めることを通じてその解決を目指す（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズム、またはメディア分野の文献を読み、理解し、発表することができる。				3	3	3					
②	ディスカッションを通じて、自らの思考を反省的な視点から捉えることができる。						3	3	3	3	3	3
③	自らの興味関心にしがたって研究テーマを見出し、それを説明することができる。				3	3	3	3	3			
④	ゼミナール論文の執筆のために研究計画を立案し、その準備に取り組むことができる。				3	3	3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	主体的に発表に取り組んでいるか、独自の意見を述べる ことができているか、発表内容が論理的である、または説得 力であるかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力 が修得できているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	自らの発表担当に真摯に取り組んでいるか、発表後に実施 されるディスカッションに積極的に参画しているか等を基 準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できてい るかを評価する。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身に ついていないかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時のディスカッションを通じて課題に対するフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／ 連絡は大学メールアドレスを用いること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	講読と発表（1-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
2	4/15	講読と発表（1-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションすることを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
3	4/22	講読と発表（1-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
4	4/29	講読と発表（2-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションすることを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
5	5/6	講読と発表（2-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
6	5/13	講読と発表（2-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	講読と発表（3-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
8	5/27	講読と発表（3-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
9	6/3	講読と発表（3-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
10	6/10	講読と発表（4-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
11	6/17	講読と発表（4-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
12	6/24	講読と発表（4-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	講読と発表（5-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
14	7/8	講読と発表（5-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
15	7/15	講読と発表（5-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
		事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
16	9/16	研究計画の発表（1-1）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
17	9/23	研究計画の発表（1-2）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
18	9/30	研究計画の発表（1-3）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	研究計画の発表（1-4）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
20	10/14	研究計画の発表（1-5）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
21	10/21	研究計画の発表（2-1）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
22	10/28	研究計画の発表（2-2）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
23	11/11	研究計画の発表（2-3）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
24	11/18	研究計画の発表（2-4）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	研究計画の発表（2-5）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
26	12/2	研究計画の発表（3-1）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
27	12/9	研究計画の発表（3-2）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
28	12/16	研究計画の発表（3-3）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
29	12/23	研究計画の発表（3-4）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
30	1/13	研究計画の発表（3-5）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
		この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
		事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
		事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
・ 近現代の日本政治に関わる文献・資料を読み、それに基づく発表と討議を通じて、学問・研究の方法を学修する。 ・ 日本政治史に関して自分の研究課題を選定し論文を書く。そのために必要な方法を学び、能力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・ 大人の基礎能力として、社会科学的なものの見方・考え方（客観性・論理性）を身につける。 ・ 社会人の基礎能力として、文献の読解方法や事実の捉え方・調べ方を修得する。 ・ 社会人の基礎能力として、「誰が読んでも理解できる説明文」を書けるようになる。

【履修条件】
入室試験（面接）の合格者。地道な修学・研究作業の継続、ゼミ活動全般への主体的参加を求める。

【授業方法】		
①【文献に基づく発表と討議】文献の読み方、史実の捉え方と調べ方、研究発表の方法等を、実践を通じて指導する。 ②【研究と論文作成】学問的な研究課題の設定、文献の探索・選択・読解方法、史実の扱い方と説明方法、説明文の執筆法等を、論文構想と執筆の実践を通じて指導する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールの諸活動はすべて学生が主体です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会事象に関する客観的・論理的な捉え方・考え方を身につける				3	3	3	3				3
②	近現代日本の国家・政治・社会に関する歴史的知識を得て、自らが生きる現代日本の成り立ちを理解する				3	3	3	3				3
③	学問的な文献の適切な探し方・選び方を修得し、文献を正しく読解できるようになる				3	3	3	3	3	3		3
④	日本語能力を高める（語彙の増加、用語法と適確な文章表現の修得、他者への伝達意識の向上等）				3	3	3	3	3	3		3
⑤	物事を客観的・論理的に説明し、正確に伝達できるようになる（口頭および文章で）				3	3	3	3	3	3	3	3
⑥	他者の発表や論文の論旨を理解し、論理的で公正な検討・批判ができるようになる				3	3	3	3	3	3	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	文献の読解と発表の質、討議（他者の研究に対する批判的検討）の参加度と質	5	10	5		5	10					35
授業への参画度	文献読解、討論、その他ゼミ活動に対する主体的参加 学問と他者の研究に対する敬意、事実の究明に対する真摯 で公正な態度	5		5			5					15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文：研究作業（論文作成プロセス）の質と 量、論文の達成度	10	5	10	10	15						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	10	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
直接伝える

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講読発表用の共通文献（開講後、相談の上で決定）				教科書	必携
発表および論文作成のための参考文献				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ゼミ始動準備 導入講義	ゼミの運営法・日程、共通文献、発表担当等を相談し、決定する ※以下に示す計画日程は人数等により適宜変更する（大枠は不変）	
		この回の 到達目標	協力してゼミ運営について考え、意見を述べ、決定する。自分たちのゼミだという自覚を持つ。	
		事前学修	共同で講読する文献について要望をまとめてくる。	90分
		事後学修	決定事項に従って、なすべき準備をする。	120分
2	第一部 水4/15	発表の要領 文献に関する説明	共通文献に基づく発表の要領、文献と調査方法について説明する。	
		この回の 到達目標	学術文献の種類と見方（選択判断の手掛り）、検索の方法について学ぶ。	
		事前学修	共通文献を入手し目を通しておく。	120分
		事後学修	文献検索を実践してみる（想定する研究対象に関わる参考文献を探し、適切性の判断をして、読むべき文献をリストアップする）	180分
3	第一部 水4/22	日本政治史研究の概説	日本政治史研究の概要、時期区分と代表的論題、題材への接近方法等を説明する。	
		この回の 到達目標	日本政治史研究の概要を把握し、自己の研究対象（題材や接近法）を見出す手掛りをつかむ。	
		事前学修	自分の研究対象を何にするか、関係文献を検索・読書しつつ思案する。 （次回発表担当者は準備に着手する）	120分
		事後学修	説明をふまえて、自己の研究対象の思案、参考文献の検索・読解を続ける。	180分
4	第一部 水4/29	共通文献に基づく発表Ⅰ①	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
5	第一部 水5/6	共通文献に基づく発表Ⅰ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
6	第一部 水5/13	共通文献に基づく発表Ⅰ③	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 水5/20	研究計画検討Ⅰ①		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。	180分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。	60分
8	第一部 水5/27	研究計画検討Ⅰ②		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。	180分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。	60分
9	第一部 水6/3	研究発表Ⅰ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。	90分
10	第一部 水6/10	研究発表Ⅰ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。	90分
11	第一部 水6/17	研究発表Ⅰ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。	90分
12	第一部 水6/24	共通文献に基づく発表Ⅱ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	共通文献に基づく発表Ⅱ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の設定・構成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
14	第一部 水7/8	研究計画検討Ⅱ①	研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。	90分
15	第一部 水7/15	研究計画検討Ⅱ②	研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。	90分
16	第一部 水9/16	中間論文の講評	提出した中間論文の講評を行う。	
		この回の到達目標	論文を書くという行為の意味と、それに必要な作業・方法・留意点等を認識し、自己の研究作業・文章表現等の適否を自覚する。	
		事前学修	提出した中間論文を読み直し、問題点・疑問点等を抽出しておく。	180分
		事後学修	講評をふまえて、研究の内容・方法、論文構想を再考し、改善につなげる。	90分
17	第一部 水9/23	共通文献に基づく発表Ⅲ①	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
18	第一部 水9/30	共通文献に基づく発表Ⅲ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水10/7	論文計画検討Ⅰ①	論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。	
		事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。	90分
20	第一部 水10/14	論文計画検討Ⅰ②	論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。	
		事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。	90分
21	第一部 水10/21	研究発表Ⅱ①	研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
		この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分
22	第一部 水10/28	研究発表Ⅱ②	研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
		この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分
23	第一部 水11/11	研究発表Ⅱ③	研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
		この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分
24	第一部 水11/18	共通文献に基づく発表Ⅳ①	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 水11/25	共通文献に基づく発表Ⅳ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分
26	第一部 水12/2	共通文献に基づく発表Ⅳ③	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分
27	第一部 水12/9	論文計画検討Ⅱ①	論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。	
		事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。	210分
28	第一部 水12/16	論文計画検討Ⅱ②	論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。	
		事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。	210分
29	第一部 水12/23	論文執筆相談	論文計画再考・執筆作業につき指導を受ける。	
		この回の到達目標	論文の執筆が可能な状態に到達する。	
		事前学修	論文計画の練り直し、文献の再読・確認等	210分
		事後学修	論文（下書）の執筆にかかる。	990分
30	第一部 水1/13	下書修正相談	提出した論文下書の修正につき指導を受ける。	
		この回の到達目標	論文を完成させるための注意点、必要な補充作業を認識する。	
		事前学修	下書に付したコメント・添削を熟読し理解した上で、修正作業を進め、残る問題点・疑問点を抽出しておく。	990分
		事後学修	完成稿を仕上げる。	990分

科目名	ゼミナール3年	担当者	中村 進	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際私法と国際民事訴訟法及び国際取引法に関する様々な問題を学修する。具体的には、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を決定する国際私法に関する問題、その様な国際的な私的生活関係に関する紛争が裁判になった場合の裁判手続きについての問題、及び企業間で国際的に発生する契約や不法行為を中心とする取引紛争に関する問題に適用される法規定や裁判例についての研究を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際私法の主たる法源である「法の適用に関する通則法」、国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する規定を中心とする国際民事手続法規定、国際取引において適用されるインコタームズや荷為替信用状統一規則を中心に、国際的な私的紛争が発生した場合に適用さえる様々な法（条約や援用可能統一規則を含む）について、想定的事例や裁判例・判例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得するとともに、研究報告を通じて、学問的探究心、問題に対する積極的な考察と解決策の模索を行う意識を醸成する。また、研究テーマを論文としてまとめる方法についても学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は、講義と判例・裁判例の研究報告に分かれる。講義については、教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。研究報告は、グループ又は個人で、選択した判例・裁判例について調査・検討し、それをパワーポイントを使用して報告を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究報告において、判例・裁判例についての報告を行うとともに、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	国際私法の基本的構造と通則法の総則上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。						3	3	3								
②	通則法の総則法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。									4	4	4	4	4			
③	国際私法の各論上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。						3	3	3								
④	国際私法の各論上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。									4	4	4	4	4			
⑤	国際私法の総論上・各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるができる。									4	4	4	4				
⑥	国際民事手続法上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。						3	3	3								
⑦	国際民事訴訟法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。									4	4	4	4	4			
⑧	国際取引のシステムを理解し、そこで適用される法や統一規則の内容を理解し、説明することができる。						3	3	3								
⑨	国際取引法上の諸規定・統一規則の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定・統一規則を適切に当てはめることができる。									4	4	4		4			
⑩																	
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)				
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等																	
討論・発表等																	
授業への参画度																	
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文について、テーマに対する文献資料の調査力、考察力、オリジナリティ、豊かな視野、論理的展開力を中心に評価する。						10	12	10	12	12	10	12	10	12		100
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)							10	12	10	12	12	10	12	10	12		100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
授業内で講評と解説を行う。																	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2020年	教科書	必携
『国際関係私法講義[改題補訂版]』	松岡博・高杉直	法律文化社	2015年	参考書	推奨
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	必携
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	
備考					
【オフィスアワー】					
金曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【ガイダンス】【国際私法とは】【国際私法の必要性】	前期授業のスケジュール、テーマや内容を説明し、参考文献の紹介を行う。また、「国際関係法〔私法系〕」の中心となる国際私法の全体像と国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について、及び国際私法の必要性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①⑥⑨に関連して、国際私法がどのような法律か、またその国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について理解し、国際私法が必要とされる理由を説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の国際私法のテキストを読み、国際私法がどのような役割を果たしている法律であるか、何故国際私法が必要とされているかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、国際私法と国際民事訴訟法・国際取引法との相違と相互関連性、国際私法の必要性についてノートに分類・整理する。	120分
2	4/14	【国際私法の基礎的観念】 【国際私法の法的性質・機能と隣接法分野】	国際私法の基礎的観念として、国際私法の定義、目的と方法、基本的用語について学修する。また、国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を知ることによって、国際私法がどのような法的性質と機能を持つ法律であるかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法の基礎的観念について知るとともに、国際私法の目的と方法、基本的用語について理解し、説明することができる。また、国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を調べ、他の法分野とは異なる国際私法の性質をより深く理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章「国際私法の基礎的観念」・第3章「国際私法の法的性質と機能」・第4章「隣接法分野」を読み、その大枠について考察するとともに、それが正しく理解されているかが授業内で確認できるようにノートに記述しておき授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習の内容と講義ノートと比較し、今後の学修のために、国際私法の基礎的観念及びその目的と規律方法、基本的用語、及び国際私法の法的性質と機能、及び国際私法と隣接法分野との結びつきについての理解について再度確認し、今後の学修に役立つようにノートに列記する。	120分
3	4/21	【国際私法の沿革】【国際私法の法源】	国際私法が歴史的にどのような様にして発生し、どのように発達してきたか、そしてそれが現在のサヴィニーの国際私法体系にどのようなつながっているかについて学修する。また、国際私法の主たる法源である現行の通則法の成立まで展開を知るとともに、現在は、通則法以外の他の国内法と条約の中の国際私法規則から国際私法という法律分野が形成されていることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法の歴史を理解するとともに、それが現在の国際私法が採用するサヴィニーの国際私法体系にどのような結びついているかについて調べ、説明することができる。また、通則法成立までの展開と通則法以外の国際私法規則の役割とおおよその内容を調べ、説明することができる。	
		事前学修	教科書第5章の「国際私法の沿革」を読み、国際私法の歴史的発展について調べ、それが現在の国際私法理論にどのような結びついているかについて、また、第6章の「法源」を読み、国際私法がどのように発展し、現行法に至っているか、通則法以外の法・条約中の国際私法規定に何があるかについて調べてノートに記述し、授業内容をより理解できるように整理する。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法体系の歴史的形成に関する自己の理解を確認するとともに、それが現在の国際私法規定にどのように結びついているかノートに列記する。また、国際私法規定の展開について理解を図るとともに、国際私法の法源を成す条約と通則法以外の国内諸法の関係性について整理するためのノートを作成する。	120分
4	4/28	【法律関係の性質決定】 【連結点の確定】	国際私法規則の適用の過程で最初に問題になる「法律関係の性質決定」の問題について学修する。また、準拠法の決定過程における連結点の確定について、連結点の中心をなす国籍、常居所を中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、国際私法の体系から必然的に生じる「法律関係の性質決定」の問題と連結点の確定の問題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章の「法律関係の性質決定」を読み、性質決定の問題の重要性について理解するとともに、第8章の「連結点の確定」を読み、国際私法規則における各連結点の役割についてノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法律関係の性質決定の問題、及び連結点の確定の問題について確認し、整理ノートを作成する。	120分
5	5/5	【準拠法の指定】【反致】	準拠法として指定された当事者の本国（国籍国）が地域的・人的に不統一法国である場合の処理について学修する。また、反致とは何か、またそれが準拠法決定においてどのような意味を有するかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、地域的・人的に不統一な国の準拠法が指定された場合の処理について、及び反致の根拠・種類について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第9章の「準拠法の指定」を読み、準拠法の指定を巡りどのような問題が生じているかについて調べ、また、第10章の「反致」を読み、反致のシステムについて調べ、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認し、準拠法の指定を巡る諸問題の解決方法について、及び反致の根拠・種類について整理しノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。	120分
6	5/12	【外国法の適用】【国際私法上の公序】	準拠法として外国法を適用・解釈することの意味、指定された外国の法規に欠缺や内容の不明があった場合の処理について学修する。また、国際私法上の公序について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、外国法を適用する際に発生する問題の解決方法と国際私法上の公序の意味と発動方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第11章「外国法の適用」と第12章「公序」を読み、外国法の適用の過程において発生する問題と国際私法上の公序の問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、外国法の適用過程で生じる諸問題について及び国際私法上の公序に関する諸問題について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	【先決問題と適用問題】 【質疑応答】	国際私法独自の問題である先決問題と適用問題について学修する。国際私法の総則法全体の内容について、疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、先決問題と適用問題の解決方法を理解し、説明することができる。また、到達目標①②④⑤に関連し、国際私法の総則法上の諸規定や判例・裁判例に関する質疑応答を行うことによって、国際私法の総則システムの全体を正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。また、質疑応答に備え、講義ノートと整理ノートで第1～第6回までの授業内容を見直し、理解が十分でない箇所を確認し、授業に備える。	120分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておくき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
8	5/26	【判例研究報告(1)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによる研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておくき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
9	6/2	【判例研究報告(2)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによる研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておくき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
10	6/9	【判例研究報告(3)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによるパワーポイントを利用した研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておくき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
11	6/16	【判例研究報告(4)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによるパワーポイントを利用した研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておくき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
12	6/23	【判例研究報告(5)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによるパワーポイントを利用した研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておくき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【判例研究報告(6)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによるパワーポイントを利用した研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どのように解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておく、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
14	7/7	【判例研究報告(7)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、3名のグループによるパワーポイントを利用した研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の総則規定が実際上どのように解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例についての研究報告と事前学習ノートを確認し、報告内容を整理してノートに列記しておく、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
15	7/14	【小括】【質疑応答】	前期の講義内容と判例・裁判例についての小括を行うとともに、疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、前期授業を小括と質疑応答を通じて、通則法上の総則規定の内容を体系的に理解し、また、判例・裁判例の研究報告による通則法総則規定の実際上の解釈・運用について理解することができる。	
		事前学修	前期の授業全体の内容について、教科書・講義ノート・整理ノートと判例・裁判例の研究報告を見直し、質問事項の有無を確認する。	130分
		事後学修	教科書・講義ノート・整理ノートと判例・裁判例の研究報告を見直し、前期の授業全体の内容の見直しを行う。	130分
16	9/15	【後期ガイダンス】【自然人】	前期授業のスケジュール、テーマや内容を説明し、参考文献の紹介を行う。また、自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力の準拠法の決定、及び後見等の開始の審判に関する国際私法規定について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判に関する国際私法関連規定を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第14章の「自然人」を読み、自然人に関する国際私法上の諸規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	110分
		事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、自然人に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。	110分
17	9/22	【法人】【法律行為】	法人の権利能力の準拠法の決定について、及び外国会社のわが国における権利能力の享有に関する民法等の諸規定について学修する。また、法律行為に関する問題のうち、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法の決定について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、法人に関する国際私法関連規定の内容と法律行為の成立と方式の準拠法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第15章の「法人」と第16章の「法律行為」を読み、法人に関する国際私法上の諸規定と法律行為の実質と方式に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	110分
		事後学修	講義ノートを確認して、法人と法律行為に関する国際私法規定についてについて整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。	110分
18	9/29	【物権法】【契約】	物権の準拠法について学修する。また、契約の準拠法に関する「当事者自治の原則」とその制限論、当事者による準拠法選択がない場合の契約準拠法、更に消費者契約及び労働契約の準拠法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、物権に関する国際私法関連規定、契約の準拠法に関する「当事者自治の原則」と契約準拠法に関する当事者選択がない場合の準拠法の決定に関する国際私法関連の規定、及び消費者契約と労働契約の準拠法に関する国際私法規定の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第17章の「物権法」と第18章の「債権法」のIを読み、物権と契約債権に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	110分
		事後学修	講義ノートを確認して、物権と契約に関する「当事者自治の原則」、また、準拠法選択が無い場合の契約準拠法、消費者契約及び労働契約に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。	110分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	【法定債権】【判例研究報告(8)】	不法行為を中心とした法定債権の準拠法について学修する。また、通則法上の各論規定に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、不法行為を中心とする法定債権に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の各論規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅱ・Ⅲを読み、法定債権に関する国際私法規定の大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。また、事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、法定債権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。判例・裁判例の研究報告と事前学習ノートを確認・整理し、ノートに列記しておく、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
20	10/13	【判例研究(9)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の各論規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例の研究報告と事前学習ノートを確認・整理し、ノートに列記しておく、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
21	10/20	【婚姻】【離婚】	婚姻の実質的・形式的成立要件（方式）、身分的効力・財産的効力（夫婦財産制）及び離婚についての準拠法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、婚姻の実質的・形式的成立要件、身分的・財産的効力及び離婚に関する国際私法規定の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第19章の「婚姻」を読み、婚姻の成立・効力・離婚に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	110分
		事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の成立・効力・離婚に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。	110分
22	10/27	【親子関係】	実親子関係（嫡出親子関係と嫡出でない子の親子関係）・準正の準拠法について学修する。また、養親子関係の実質的成立要件、離縁の準拠法についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、実親子関係の成立・準正、及び養親子関係に関する国際私法規定の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第20章の「親子関係」を読み、実親子関係の成立・準正、及び養親子関係に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	110分
		事後学修	講義ノートを確認して、実親子関係の成立・準正、及び養親子関係に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。	110分
23	11/11	【親族関係・扶養義務・後見】	親族関係、扶養義務、後見・保佐の準拠法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、親族関係、扶養義務、後見・保佐に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第21章の「親族関係」・第22章の「扶養義務」・23章の「後見・保佐」を読み、それぞれの国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	110分
		事後学修	講義ノートを確認して、親族関係と扶養義務及び後見・保佐に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。	110分
24	11/17	【相続・遺言】【判例研究報告(10)】	相続、遺言の準拠法、及び「遺言の方式の準拠法に関する法律」の主要規定について学修する。また、通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、相続、遺言に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、判例・裁判例の研究報告を通じて、通則法上の各論規定が実際上どの様に解釈され、適用されているかを理解し、関連する判例・裁判例を調べ、比較検討することができる。	
		事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。また、事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、判例・裁判例の研究報告と事前学習ノートを確認・整理し、ノートに列記しておく、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	【判例研究報告(11)】	通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、通則法上の総則規定に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例の研究報告と事前学習ノートを確認・整理し、ノートに列記しておき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
26	12/1	【国際民事手続法】	国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行、国際訴訟競合等の国際民事手続法上の諸規定とそれらを巡る諸問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、国際裁判管轄、外国判決の承認・執行、国際訴訟競合等の国際民事訴訟法上の規定の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書第26章の「国際民事手続法」を読み、国際民事手続法上の諸規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。	110分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法の諸規定を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。	110分
27	12/8	【判例研究報告(12)】	国際民事手続法に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、国際民事手続法に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例の研究報告と事前学習ノートを確認・整理し、ノートに列記しておき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
28	12/15	【国際取引法】	国際売買、国際運送、国際保険及び国際決済を中心とする国際取引システムとそこで適用される条約、国内法及び統一規則について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑧⑨に関連して、国際売買、国際運送、国際保険及び国際決済を中心とする国際取引システムとそこで適用される条約、国内法及び統一規則について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布された資料に基づき、国際取引のシステムを理解するとともに、国際取引において適用される条約、国内法及び統一規則を調べ、整理し、ノートの記述し授業に備える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、国際取引において適用される条約、国内法及び統一規則について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。	120分
29	12/22	【判例研究報告(13)】	国際取引法に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑧⑨に関連して、国際取引法に関する判例・裁判例について、パワーポイントを利用した個人研究報告とディスカッションを行う。	
		事前学修	事前に選択・指定されている研究報告の判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、検討を行い、報告担当者はそのための準備を行い、他の受講者はディスカッションに向けてノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	判例・裁判例の研究報告と事前学習ノートを確認・整理し、ノートに列記しておき、他の関連する事例に適用できるようにする。	130分
30	1/12	【質疑応答】【小括】	後期の講義内容と判例・裁判例についての小括を行うとともに、疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、後期授業を小括と質疑応答を通じて、通則法上の各論規定の内容を体系的に理解し、また、判例・裁判例の研究報告による各論規定の実際の解釈・運用について理解することができる。	
		事前学修	後期の授業全体の内容について、教科書・講義ノート・整理ノートと判例・裁判例の研究報告を見直し、質問事項の有無を確認する。	130分
		事後学修	教科書・講義ノート・整理ノートと判例・裁判例の研究報告を見直し、後期の授業全体の内容の見直しを行う。	130分

科目名	ゼミナール3年	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワーク等を通じて行政法の諸問題について深く学修するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法における基礎理論について学修するとともに、各自の興味・関心にそった研究テーマを発見する手法と身に付ける。また、グループワークをすることで、他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の諸問題について、グループ・ディスカッションやディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、行政法の現状や課題について総合的に理解し、説明することができる。				3	3						
②	行政法の課題や問題を提示し、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する解決策を示すことができる。						3	3	3			
③	様々な人とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、学修状況の自己分析による評価を、今後に活かすことができる。									4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	行政法の事例問題を取り上げ、それについてディスカッションを行う。その中で、到達目標①②③に関わる課題の論理的考察力、意見の明確性・論理性、他人の意見への傾聴、討論に向けての事例問題の調査・分析が適切にできているか等を評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければならない。 到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文に向けて、当該研究テーマに積極的に取んだか等を評価するが、成績評価は4年次に行う。	20	20	10								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表に対して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	宇賀・交告・山本編	有斐閣	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
1部は火曜日 12：10 に、2部は水曜日 21：10 に質問を受け付ける。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 4/7 2部 4/8	オリエンテーション及び導入講義	行政法の概要や問題点について解説し、次回以降の発表に向けて、担当者を決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政法の重要な問題点が説明できる。	
		事前学修	教科書の目次を確認し、行政法の問題点について書き出してみること。	120分
		事後学修	担当箇所を読み、発表に向けての準備をすること。	120分
2	1部 4/14 2部 4/15	行政の意義と特徴	行政の意義と特徴について発表・討論・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
3	1部 4/21 2部 4/22	行政法の法源	行政法の法源について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
4	1部 4/28 2部 4/29	行政上の法律関係	行政上の法律関係について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
5	1部 5/5 2部 5/6	行政主体	行政主体について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
6	1部 5/12 2部 5/13	行政機関	行政機関について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 5/19 2部 5/20	国と地方の行政組織	国と地方の行政組織について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
8	1部 5/26 2部 5/27	公務員	公務員について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
9	1部 6/2 2部 6/3	公物	公物について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
10	1部 6/9 2部 6/10	行政過程	行政過程について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
11	1部 6/16 2部 6/17	法律による行政の原理	法律による行政の原理について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
12	1部 6/23 2部 6/24	行政手続	行政手続について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 6/30 2部 7/1	情報公開	情報公開について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
14	1部 7/7 2部 7/8	個人情報保護	個人情報保護について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
15	1部 7/14 2部 7/15	行政調査	行政調査について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
16	1部 9/15 2部 9/16	行政行為の意義と種類	行政行為の意義と種類について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
17	1部 9/22 2部 9/23	行政行為の効力	行政行為の効力について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
18	1部 9/29 2部 9/30	行政裁量	行政裁量について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	1部 10/6 2部 10/7	行政立法	行政立法について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
20	1部 10/6 2部 10/7	行政計画	行政計画について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
21	1部 10/13 2部 10/14	行政指導	行政指導について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
22	1部 10/20 2部 10/21	行政契約	行政契約について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
23	1部 10/27 2部10/28	行政強制	行政強制について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
24	1部 11/10 2部 11/11	行政不服申立ての意義と特徴	行政不服申立ての意義と特徴について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1部 11/17 2部 11/18	行政不服審査法	行政不服審査法について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
26	1部 11/24 2部 11/25	行政上の苦情処理制度	行政上の苦情処理制度について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
27	1部 12/1 2部 12/2	行政事件訴訟の沿革と特徴	行政事件訴訟の沿革と特徴について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
28	1部 12/8 2部 12/9	行政事件訴訟法の類型	行政事件訴訟法の類型について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
29	1部 12/15 2部 12/16	取消訴訟の訴訟要件	取消訴訟の訴訟要件について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
30	1部 12/22 2部 12/23	取消訴訟の審理	取消訴訟の審理について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：犯罪を予防・鎮圧するためにはどのような政策を行えば良いのか、そうした問題を解決する能力を身につけるため、犯罪の事前予防・犯罪者の更生・犯罪被害者支援策等についてグループで調査・研究を行い、それに基づいて全員で議論を行う。 4年次：3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを見つけゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：グループワークやディスカッションを通じて、犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得する。現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。 4年次：3年次に学修した内容を基に、一般的な学術論文に準ずる水準のゼミナール論文を作成することができる。

【履修条件】
西山ゼミナール入室試験合格者のみ履修可能

【授業方法】
3年次：まず、犯罪予防・犯罪者の更生・犯罪被害者政策に関する課題をグループで調査・研究し、全員の前で発表を行う。発表後に質疑応答の時間を設け、その後発表で取り扱ったテーマについて全員で議論を行う。最後に、担当教員が講評する。 4年次：各自が興味をもったゼミナール論文のテーマに関する研究成果を発表し、質疑応答を行う。担当教員が個別で論文指導を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・ディスカッションの他、刑事施設や警視庁の見学等、校外での活動も予定している。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムについて、なぜそのような仕組みとなっているかを正しく理解し、説明することができる。【知識】						4	4						
②	犯罪白書・警察白書等の資料に基づいて、今後どのような対応が必要なのかを調査することができる。【技能】								4	4				
③	犯罪対策について考えるディスカッションにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、新しい理論に関して論理的に議論を行うことができる。【態度】										3	3		
④	グループで行う調査・研究・発表・質疑応答において、他のメンバーと助け合い、より良い研究発表の内容を作りあげていくことができる。【態度】												3	
⑤	ゼミナールでメンバーと協力し学修したことについて、自らの反省や振り返りを行い、4年間の集大成であるゼミナール論文を完成させることができる。【知識】【技能】【態度】													4
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④に関連して、グループの発表・ディスカッションにおいて、他のメンバーの意見を良く聞いていたか、論理的に自分の意見を述べることができたか、発表後の担当教員からの質問に適切に応えていたか等の評定尺度に照らして評価を行う。			20	20							40
授業への参画度	到達目標③④に関連して、講義の時間だけでなく、グループでの勉強会や施設見学等も含めたゼミナール活動全般において、他のメンバーと協力し、お互いに切磋琢磨することによって能力の向上を行っていたかという積極性を基準として評価を行う。			15	15							30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年終了時にゼミナール論文を提出してもらう。到達目標①②⑤に関連して、刑事政策学の基礎が身についているか、取り組んだ問題について適切に分析した上で、自らの意見を説得的に述べているかを基準に評価を行う。	5	5			20						30
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	35	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の終盤に講評を行う。この他適時、全体・グループ別・個別に、調査・研究・発表・議論の方法について、講堂若しくは研究室において指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別
令和元年版 犯罪白書		法務総合研究所	昭和情報プロセス	2019	その他
令和元年版 警察白書		国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2019	その他
備考	教科書は使用しない。適宜、取り扱っているテーマについて最適な文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
適宜指導を行います。質問等は、nishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション、ゼミナールの進め方に関する方向性の説明 導入講義	ゼミナールの概要について説明を行い、その後、担当教員による調査・研究・発表に関する基本的事項の解説を行う。	
		この回の到達目標	受講生がゼミナールの概要を理解し、次回以降に備えられるようにする。このオリエンテーションを通じて、どのように到達目標①②③④⑤を達成していくのかを理解し説明できる。	
		事前学修	ゼミナールで専攻する刑事政策に関して、これまでどのような研究がなされてきているのか、図書館の基本書等で調査してくる。	60分
		事後学修	同じグループとなったメンバーと決定したテーマについて、調査・研究を始める。	180分
2	4月14日	グループでの調査・研究・発表【刑事司法制度の基礎】（Aグループ）	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、刑事司法制度の基礎について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
3	4月21日	グループでの調査、研究、発表【刑事司法制度の基礎】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、刑事司法制度の基礎について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
4	4月28日	グループでの調査、研究、発表【刑事司法制度の基礎】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、刑事司法制度の基礎について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
5	5月5日	グループでの調査・研究・発表【犯罪被害者支援策】（Aグループ）	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪被害者支援策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	5月12日	グループでの調査・研究・発表【犯罪被害者支援策】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪被害者支援策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
7	5月19日	グループでの調査・研究・発表【犯罪被害者支援策】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪被害者支援策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
8	5月26日	グループでの調査・研究・発表【犯罪者の更生】（Aグループ）	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪者の更生について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
9	6月2日	グループでの調査・研究・発表【犯罪者の更生】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪者の更生について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
10	6月9日	グループでの調査・研究・発表【犯罪者の更生】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪者の更生について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	6月16日	グループでの調査・研究・発表【犯罪の事前予防】 (Aグループ)	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べるができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
12	6月23日	グループでの調査・研究・発表【犯罪の事前予防】 (Bグループ)	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べるができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
13	6月30日	グループでの調査・研究・発表【犯罪の事前予防】 (Cグループ)	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べるができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
14	7月7日	刑事施設見学	担当教員引率の下、ゼミ生全員で刑事施設の見学を行い、実際にその場に行き現場の職員の方の話を聞くことで、刑事施設における矯正処遇の実態を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、矯正処遇の現場に足を運び自らの目で確認することによって、理論と現実の両方からの面から、刑事施設における犯罪者の矯正処遇について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	施設見学当日に対応してくれた職員の方に適切な質問ができるように、刑事施設で行われている処遇制度や受刑者の日常生活について配付した資料等で確認を行い、疑問点をノートに列挙する。	120分
		事後学修	刑事施設見学以前までに自分が持っていたイメージと実際に行って見た感想を、それぞれ500文字程度でノートに記述し比較してみる。	120分
15	7月14日	前期のまとめ	前期のゼミナール活動について、後期がより良いものになるよう全員で省察を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、自己の活動がゼミナール活動に貢献することができたかを振り返り、自らの反省点を謙虚に受け止め、改善に向けて取り組むことができる。	
		事前学修	前期のゼミナール活動についての反省点をノートに800文字程度で記述してくる。	120分
		事後学修	全員で話し合った反省点について、どのような改善をすることが必要かを考え、改善策をノートに1000文字程度で記述しておく。	120分
16	9月15日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】(Aグループ)	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
17	9月22日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
18	9月29日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
19	10月6日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
20	10月13日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
21	10月20日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
22	10月27日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
23	11月10日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
24	11月17日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
25	11月24日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）	Aグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
26	12月1日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
27	12月8日	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）	Cグループによる発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べるができる。	
		事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
		事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
28	12月15日	ゼミナール論文作成に向けての研究指導①論文とは何か	ゼミナール論文を書くための準備として、学術論文とはどのようなものであるかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、学術論文とはどのようなものかについて正しく理解し、学術論文の構成や書き方を説明することができる。	
		事前学修	学術論文とはどのようなものであるかについて、図書館等で調べ、ノートに500文字程度で記述してくる。	100分
		事後学修	授業で学んだ学術論文の構成や書き方について、ノートに1000文字程度でまとめておく。	140分
29	12月22日	ゼミナール論文作成に向けての研究指導②テーマの選定	ゼミナール論文を書くにあたってどのようなテーマとするか、各自が自らが取り組みたいテーマについて発表してもらった上で、担当教員が助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、自らがゼミナール論文で取り組むテーマを決定し、4年次に書き上げるゼミナール論文に向けた準備を万全にする。	
		事前学修	自らのゼミナール論文のテーマとしたい、自らが関心を持った刑事政策に関連するテーマを選び、理由を付してノートに列記してくる。	120分
		事後学修	担当教員の助言に基づいて、ゼミナール論文のテーマを決定し、決定したテーマと概要をノートに記述し、調査を開始する。	120分
30	1月12日	後期のまとめ	後期のゼミナール活動について、4年次がより良いものになるよう全員で省察を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、自己の活動がゼミナール活動に貢献することができたかを振り返り、自らの反省点を謙虚に受け止め、改善に向けて取り組むことができる。	
		事前学修	後期のゼミナール活動についての反省点をノートに800文字程度で記述してくる。	120分
		事後学修	全員で話し合った反省点について、どのような改善をすることが必要かを考え、改善策をノートに1000文字程度で記述しておく。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倒産法（破産法・民事再生法・会社更生法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ倒産法の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（特に債権法・担保物権法）に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，倒産法に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産法に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3				
②	倒産法に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4				
③	教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3	3
④	教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							3	3	4	4	4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	10								20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則ったうえで、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	30							60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
破産から新民法がみえる	小林秀之	日本評論社	2018	参考書	推奨
倒産法（有斐閣ストゥディア）	倉部真由美ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
倒産処理法入門（第5版）	山本和彦	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の10時00分から18時00分 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所において法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事紛争について検討する際には学説の検討だけでなく、当該紛争における裁判例の検討や評価、さらには当該紛争類型の背景などについても立ち入って考察を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/15	専門演習(1)	倒産法の理解に必要不可欠な民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	専門演習(2)	倒産法の理解に必要不可欠な民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/29	専門演習(3)	倒産法の理解に必要不可欠な民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/6	専門演習(4)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/13	専門演習(5)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	専門演習(6)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/27	専門演習(7)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/3	専門演習(8)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/10	専門演習(9)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/17	専門演習(10)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/24	専門演習(11)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	専門演習(12)	倒産法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/8	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/23	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/30	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/14	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/21	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/28	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/11	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/18	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	12/2	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/9	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/16	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/23	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/13	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ民法の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，法律討論会やフォーラムへの参加，民法に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	民法に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4	4	4	4				
③	教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。								3	3	3	3
④	教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	10								20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則ったうえで、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	30							60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の10時00分から18時00分 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所において法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事紛争について検討する際には学説の検討だけでなく、当該紛争における裁判例の検討や評価、さらには当該紛争類型の背景などについても立ち入って考察を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/15	専門演習(1)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	専門演習(2)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/29	専門演習(3)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/6	専門演習(4)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/13	専門演習(5)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	専門演習 (6)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/27	専門演習 (7)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/3	専門演習 (8)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/10	専門演習 (9)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/17	専門演習 (10)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/24	専門演習 (11)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	専門演習(12)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/8	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/23	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/30	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/14	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/21	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/28	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/11	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/18	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	12/2	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/9	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/16	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/23	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/13	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法総論および刑法各論の重要論点について、判例を素材に研究し、判例や学説を批判的に検討することにより、あるべき刑法の姿を探究する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学説や判例を調査し、そこから得た情報に検討を加え分析し、説得的な私見を構築し、他者との質疑応答や議論に真摯に向き合う姿勢を身につける。

【履修条件】
ゼミの選考試験に合格していることを条件とする。

【授業方法】
研究ペアが選択した判例について、調査研究をしてもらい、レジュメを用意したうえで発表してもらおう。その後、質疑応答および議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、質疑応答、討論。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例について、その論拠を調査し、前例とも比較しながら、その判例の射程範囲を探る。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	学説について、もれなく渉猟し、その文献を調査及び研究し、議論状況を整理することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	レジュメを作成し、それをもとに明晰な言葉で発表を行うことができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	質疑応答や議論に積極的に向き合い、相互にコミュニケーションを図ることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤	研究ペア同士が互いに協力し、①～④を達成するよう努力する。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑥	他者が発表する際に、その質疑応答および議論に積極的に参加する。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の内容のわかりやすさ、質疑応答や議論へ真摯に臨む姿勢がある。	7	7	7	7	6	6					40
授業への参画度	他者の発表に耳を傾け、質疑応答に積極的に参加する。	5	5	5	5	5	5					30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。4年次に作成するゼミナール論文の成績も加味して行う。	5	5	5	5	5	5					30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	17	17	16	16					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ時に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2011	教科書	必携
刑法各論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月、および水から金の10：30－16：30（授業や会議は除く）研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	イントロダクション及び導入講義	研究発表の割り当てを決定し、ゼミの運営について話し合う。	
		この回の到達目標	研究への士気を高めるとともに、ゼミ活動に主体的に参加する。	
		事前学修	研究ペアと担当課題について最終確認をする。	120分
		事後学修	各自、担当する研究を進める。	120分
2	4月15日	調査及びプレゼンテーションの仕方	研究発表のための技術を学ぶ。	
		この回の到達目標	判例および学説を分析する力を身につけ、法的に重要な事実の見極めの必要性を認識し、こうした技術を通じて私見をつくりあげ、発表し、質疑応答・討論する基礎力を身につける。	
		事前学修	発表のためにどのような作業が必要か考察する。	120分
		事後学修	各自の研究発表にどう生かせるか考察する。	120分
3	4月22日	法律データベースの使い方	第一法規の担当者をお呼びし、D1-Lawの使い方について学ぶ。	
		この回の到達目標	法律情報を効率的および確実に収集する方法を身につけ、実践できるようにする。	
		事前学修	どのような法情報を集める必要があるのか、それをどのように集めるとよいのか、事前に予想を立てる。	120分
		事後学修	今後の研究にどう生かせるか、考察する。	120分
4	4月29日	発表のデモンストレーション	ゼミの担当者が発表および質疑応答の模範をみせる。	
		この回の到達目標	担当者の姿を通じて、学んだ点、修正が必要な点は何かを整理し、自分の発表に役立てるようにする。	
		事前学修	よい発表の仕方はどのようなものか、各自が事前に考察する。	120分
		事後学修	担当者の姿を通じて、生かせる点と改善点について整理し、自分の発表に応用する。	120分
5	5月6日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
6	5月13日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
8	5月27日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
9	6月3日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
10	6月10日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
11	6月17日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
12	6月24日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
14	7月8日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
15	7月15日	研究発表、前期総括	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
16	9月16日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
17	9月23日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
18	9月30日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
20	10月14日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
21	10月21日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
22	10月28日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
23	11月11日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
24	11月18日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
26	12月2日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
27	12月9日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
28	12月16日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
29	12月23日	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
30	1月13日	研究発表、後期総括	担当するテーマについて発表してもらう。	
		この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
		事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
		事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会保障法制度について理解し、現制度における課題・判例について検討し、解決案を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：社会保障法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：グループごとにテーマを設定し、担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表グループの報告を受けて、質問や意見を述べ、グループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会保障法制度について、説明することができる。		3	4					
②	社会保障法制度における課題を発見し、その解決策を提示することができる。					4	4	4	4
③	社会保障法制度における課題と解決策について、批判的に考察し、議論することができる。				4	3	3	4	3
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告グループは、各テーマについて発表し、それを基に議論をする。	10	20	20								50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	現制度について分析し、その課題を抽出した上で、独自の解決策を提示する。	10	30	10								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業において、課題についてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥、柴田洋二郎、島村 暁代、橋爪 幸代、永野 仁美	有斐閣	2019	教科書	必携
社会保障法判例百選 第5版	岩村正彦編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜13：00～14：00 本館9階 1906研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーションー研究の進め方	課題の設定、資料検索の方法、判例検索の方法、発表の方法等について、学ぶ。	
		この回の到達目標	課題についてグループで話し合う。資料収集の方法・発表の方法について理解する。	
		事前学修	医療保険・労災保険・雇用保険・年金保険制度について調べる。	120分
		事後学修	担当となった制度について、教科書を読み、理解する。	120分
2	4月14日	医療保険①制度	医療保険制度について、学ぶ。	
		この回の到達目標	医療保険制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	医療保険制度について調べる。	120分
		事後学修	医療保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
3	4月21日	労災保険①制度	労災保険制度について、学ぶ。	
		この回の到達目標	労災保険制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	労災保険制度について調べる。	120分
		事後学修	労災保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
4	4月28日	雇用保険①制度	雇用保険制度について、学ぶ	
		この回の到達目標	雇用保険制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	雇用保険制度について調べる。	120分
		事後学修	雇用保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
5	5月5日	年金保険①制度	年金保険制度について、学ぶ	
		この回の到達目標	年金保険制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	年金保険制度について調べる。	120分
		事後学修	年金保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
6	5月12日	医療保険②課題と政策提案	医療保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	医療保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	労災保険②課題と政策提案	労災保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	労災保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
8	5月26日	雇用保険②課題と政策提案	雇用保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	雇用保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
9	6月2日	年金保険②課題と政策提案	年金保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	年金保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
10	6月9日	医療保険③判例	医療保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
11	6月16日	労災保険③判例	労災保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
12	6月23日	雇用保険③判例	雇用保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	年金保険③判例	年金保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
14	7月7日	ゲストスピーカー	社会保険制度にかかわる実務家又はNP0などの活動家を招聘し、現場で生じている課題について聞き、議論を行う。＊なお、ゲストの招聘日については、ゲストの予定により変更となる場合がある。	
		この回の到達目標	社会保険制度にかかわる課題を理解し、私見を述べることができる。	
		事前学修	社会保険制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの講演についてまとめ、課題に対する私見を論理的に説明できるようにする。	120分
15	7月14日	社会保険制度のまとめ	社会保険制度における課題を整理し、議論する。	
		この回の到達目標	4つの社会保険制度を理解し、各制度においてどのような課題があったかを説明し、私見を述べられるようにする。	
		事前学修	これまでの議論を整理する。	120分
		事後学修	他の受講者の意見をまとめる。	120分
16	9月15日	児童福祉①制度	児童福祉制度について、学ぶ。	
		この回の到達目標	児童福祉制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	児童福祉制度について調べる。	120分
		事後学修	児童福祉制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
17	9月22日	障害者福祉①制度	障害者福祉制度について、学ぶ。	
		この回の到達目標	障害者福祉制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	障害者福祉制度について調べる。	120分
		事後学修	障害者福祉制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
18	9月29日	高齢者福祉①制度	高齢者福祉制度について、学ぶ。	
		この回の到達目標	高齢者福祉制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	高齢福祉制度について調べる。	120分
		事後学修	高齢福祉制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	生活保護①制度	生活保護制度について、学ぶ。	
		この回の到達目標	生活保護制度の概要について理解し、議論する。	
		事前学修	生活保護制度について調べる。	120分
		事後学修	生活保護制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
20	10月13日	児童福祉②課題と政策提案	児童福祉制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	児童福祉制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
21	10月20日	障害者福祉②課題と政策提案	障害者福祉制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	障害者福祉制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
22	10月27日	高齢者福祉②課題と政策提案	高齢者福祉制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	高齢者福祉制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
23	11月10日	生活保護②課題と政策提案	生活保護制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
		この回の到達目標	生活保護制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
		事前学修	生活保護制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	生活保護課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
24	11月17日	政策提案のまとめ	これまでの議論を踏まえて改善した政策提案について、発表する。	
		この回の到達目標	改善された政策について、説得的に提案する。	
		事前学修	各政策提案について、グループごとに改善策を考え、まとめる。	120分
		事後学修	提案に対して出された批判的な意見への説得的な応答を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	ゲストスピーカー	社会保障にかかわる職業についている人からの講演を聞く。＊なお、ゲストスピーカーの予定により、日程が変更となる場合がある。	
		この回の到達目標	社会保障にかかわる職業とそのやりがい・経験について、私見を述べることができる。	
		事前学修	社会保障にかかわる職業について調べる。	120分
		事後学修	社会保障にかかわる職業について、私見及び他の受講生の意見をまとめる。	120分
26	12月1日	児童福祉③判例	児童福祉制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
27	12月8日	障害者福祉③判例	制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
28	12月15日	高齢者福祉③判例	高齢者福祉制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
29	12月22日	生活保護③判例	生活保護制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
		この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
		事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
		事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
30	1月12日	ゼミナール論文のテーマ設定	ゼミナール論文で取り上げるテーマを決める。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文において取り上げる課題を示す。	
		事前学修	ゼミナール論文で取り上げるテーマを考え、そのテーマについて調べる。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された課題について、調べる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	長谷川 貞之	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法学における現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。今年度は、とくに債権法と相続法の改正点に力点を置いて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。 グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 市民法の原理や法解釈の多様性、民事立法学、および比較法的な視点に立った諸外国の民法典について、基本的な知識を習得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
共通したテーマのもとに、基本書・必読文献の輪読を行い、各自が担当箇所の発表を行う。また、発表された内容をもとにグループディスカッションを行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例については、現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて説明する。考える授業をモットーとする。考える授業をモットーとする。基本的なリーガル・リサーチについて指導する。授業後は、授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理して、まとめる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	到達目標：民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3	3						
②	到達目標：民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。							3	3	3			
③	到達目標：授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。									4	4	4	4
④	到達目標：授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。												4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを，討論・発表，ディスカッションなどにより評価する。			20	10							30
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず，ゼミナール活動への積極的な参加なども評価する。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③および④に関連して、前期・後期の2回レポートを作成し，提出する。また，3・4年次に継続して履修し，4年次にはゼミナール論文を提出しなければならない。				30							30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し，成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
とくに使用しない。必読文献、基本書等は、適宜指示する。					
備考	六法ッは必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所の家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	オリエンテーション／ガイダンス（前期） 導入講義	私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法とはどのような法律か、また、民法典がどのような理念に基づいて編纂されたかを理解し、説明することができる。また、これから学ぶゼミナールの内容について、講義との関連を知り、学修計画を立てることができる。	
		事前学修	六法を手に取り、ポイントとなる民法典の規定を人の一生という観点から概観する。併せて、民法総則等の教科書の全体を２・３回ほど通読する。	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。	120分
2	4/17	テーマ１－１：不動産取引と売買――全体の仕組みと概要	不動産取引のうち、売買を中心に、契約の成立・効力・終了の過程を把握し、わが国における不動産売買の仕組みを取引の実態に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産をめぐる売買がどのようなものであるかを、不動産と売買という観点から把握し、民法典の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を２・３回程度通読する。これから学ぶ不動産売買に関する民法上の規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。	120分
3	4/24	テーマ１－２：不動産取引と売買――論点整理	不動産売買の仕組みと取引の実態を踏まえて、わが国における不動産売買の内容を知り、その問題点を課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不動産売買の概要を明らかにすることができるとともに、その問題点や課題を民法典の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を２・３回程度通読する。問題点となる不動産売買に関する民法上の規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
4	5/1	テーマ１－３：不動産取引と売買――グループディスカッション・解説	わが国における不動産売買の意義、内容、問題点や課題について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における不動産売買の内容、問題点・課題に関する自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となる不動産売買に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
5	5/8	テーマ２－１：不動産売買と登記――全体の仕組みと概要	不動産登記について、売買を中心に、その仕組みを取引の実態に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産登記がどのようなものであるかを、不動産売買と登記という観点から把握し、民法典および不動産登記法の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を２・３回程度通読する。これから学ぶ不動産売買と登記に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
6	5/15	テーマ２－２：不動産売買と登記――論点整理	不動産売買と登記の仕組みの理解を踏まえて、登記制度の歴史や問題点、その課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不動産登記制度の歴史、問題点や課題を、民法典および不動産登記法の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を２・３回程度通読する。問題となる不動産売買と登記に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	テーマ2－3：不動産売買と登記買——グループディスカッション・解説	わが国における不動産売買と登記制度の内容、問題点・課題について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における不動産売買と登記制度の内容、問題点・課題に関する自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となる不動産売買に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
8	5/29	テーマ3－1：不動産賃貸借と借地・借家——全体の仕組みと概要	不動産賃貸借について、不動産と賃貸借という観点から、その仕組みを取引の実態に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産の賃貸借ががどのようなものであるかを、不動産と賃貸借という観点から把握し、民法典および借地借家法の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶ不動産賃貸借に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
9	6/5	テーマ3－2：不動産賃貸借と借地・借家——論点整理	わが国における不動産賃貸借の取引実態を踏まえ、問題点、その課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における不動産賃貸借の取引実態を踏まえ、不動産と賃貸借という観点から、問題点、その課題を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。問題となる不動産賃貸借に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
10	6/12	テーマ3－3：不動産賃貸借と借地・借家——グループディスカッション・解説	わが国における不動産賃貸借と借地・借家の問題や課題について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における不動産賃貸借と借地・借家の問題や課題について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となる不動産売買に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
11	6/19	テーマ4－1：不動産取引と担保——全体の仕組みと概要	抵当権を中心とするわが国における不動産担保取引について、抵当権を中心に、その仕組みや内容を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権を中心とするわが国における不動産担保取引について、不動産と担保という観点から把握し、民法典の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶ不動産担保取引に関する規定を、抵当権を中心に調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
12	6/26	テーマ4－2：不動産取引と担保——論点整理	抵当権を中心とするわが国における不動産担保取引の内容、実態、問題点や課題について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、抵当権を中心とするわが国における不動産担保取引について、不動産と担保という観点から、その内容、実態、問題点や課題挙げ、説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。問題となる不動産担保取引に関する規定を、抵当権を中心に調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	テーマ4－3：不動産取引と担保——グループディスカッション・解説	わが国における不動産担保取引について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、抵当権を中心とするわが国における不動産担保取引の問題点や課題について、不動産と担保という観点から、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となる不動産担保に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
14	7/10	課題と質問の整理（前期）	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、現代社会で用いられる様々な不動産取引について、売買、登記を中心に整理し、基本的な法律関係を説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に整理し、まとめるとともに、重要な論点を確認する。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定する。	120分
15	7/17	レポートの作成・提出／講評（前期）	これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定し、レポートを作成する。事前に作成したレポートを提出した場合には、これに基づきプレゼを行い、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、現代社会で用いられる様々な不動産取引について、売買、登記を中心に整理し、基本的な法律関係をレポートの形でまとめ、発表することができる。	
		事前学修	事前にレポート、参考文献一覧を作成し、提出できる準備をする。	120分
		事後学修	レポートに代えて最終授業回（前期）試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。後期の授業に向けて、関心のある任意のテーマについて文献調査を行い、参考文献一覧を作成する。	120分
16	9/18	オリエンテーション／ガイダンス（後期）——不動産取引各論導入講義	わが国における不動産取引に関する基礎理論の修得を踏まえて、民法典と不動産取引という観点から、民法典および関連する法律を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における不動産取引とはどのような取引か、また、民法典が不動産取引についてどのような規定を設けているかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶ不動産取引に関する民法典および特別法の規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定する。（2時間）	120分
17	9/25	テーマ5－1：サブリース契約——全体の仕組みと概要	不動産賃貸借に関連して、不動産と賃貸借という観点から、サブリース契約の仕組みを取引の実態に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サブリース契約がどのようなものであるかを、不動産と賃貸借、一括借り上げという観点から把握し、民法典および借地借家法の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶサブリース契約に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
18	10/2	テーマ5－2：サブリース契約——論点整理	わが国におけるサブリース契約の取引実態を踏まえ、問題点、その課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国におけるサブリース契約の取引実態を踏まえ、不動産と賃貸借、一括借り上げという観点から、サブリース契約の意義、問題点、その課題を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。問題となるサブリース契約に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	テーマ5－3：サブリース契約——グループディスカッション・解説	わが国におけるサブリース契約の問題や課題について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国におけるサブリース契約の問題や課題について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となるサブリース契約に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
20	10/16	テーマ6－1：死因贈与と相続——全体の仕組みと概要	わが国における死因贈与について、その実態を明らかにし、相続との関係などを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、わが国における死因贈与について、終意処分という観点から、その実態、相続との関係などを説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶ死因贈与、相続に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
21	10/23	テーマ6－2：死因贈与と相続——論点整理	わが国における死因贈与の実態を踏まえ、終意処分という観点から、死因贈与の問題点、その課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における死因贈与の実態を踏まえ、終意処分という観点から、死因贈与の意義、問題点、その課題を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。問題となる死因贈与に関する規定を、相続に関する準用規定に留意しながら調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
22	10/30	テーマ6－3：死因贈与と相続——グループディスカッション・解説	わが国における死因贈与と相続の問題や課題について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における死因贈与の問題や課題について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となる死因贈与に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
23	11/6	テーマ7－1：相続と遺贈——全体の仕組みと概要	わが国における遺贈について、その実態を明らかにし、相続および遺言との関係などを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、わが国における遺贈について、終意処分という観点から、その実態、死因贈与や相続との関係などを説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶ遺贈について、相続、および死因贈与との関係に留意しながら、関連する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
24	11/13	テーマ7－2：相続と遺贈——論点整理	わが国における遺贈の実態を踏まえ、終意処分という観点から、遺贈の問題点、その課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における遺贈の実態を踏まえ、終意処分という観点から、遺贈の意義、問題点、その課題を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。問題となる遺贈に関する規定を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	テーマ7－3：相続と遺贈 ——グループディス カッション・解説	わが国における遺贈の問題や課題について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッ ションを通じて学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における遺贈の問題や課題について、自分の考え方を説明することがで きる。	
		事前学修	問題点や課題となる遺贈に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」な どにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
26	11/27	テーマ8－1：相続と相続 分譲渡契約——全体の 仕組みと概要	わが国における相続分譲渡契約遺贈について、その実態を明らかにし、相続および遺言との関係 などを学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、わが国における相続分譲渡契約について、相続人の地位の譲渡という観点から、その実 態、相続との関係などを説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。これから学ぶ相続分譲渡契約について、関連する規定 を調べて、音読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」な どにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
27	12/4	テーマ8－2：相続と相続 分譲渡契約——論点整理	わが国における相続分譲渡契約の実態を踏まえ、相続人の地位の譲渡という観点から、相続分譲 渡契約の問題点、その課題について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における相続分譲渡契約の実態を踏まえ、相続人の地位の譲渡という観 点から、相続分譲渡契約の意義、問題点、その課題を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書・基本書を2・3回程度通読する。問題となる相続分譲渡契約に関する規定を調べて、音 読しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」な どにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
28	12/11	テーマ8－3：相続と相続 分譲渡契約——グループ ディスカッション・解説	わが国における相続分譲渡契約について、教科書・基本書の輪読、発表・グループディスカッ ションを通じて学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、わが国における相続分譲渡契約について、自分の考え方を説明することができ る。	
		事前学修	問題点や課題となる相続分譲渡契約に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」な どにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
29	12/18	課題と質問の整理（後期）	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。	
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、現代社会で用いられる様々な不動産取引について、終意処分という観点から、 死因贈与、遺贈などを中心に整理し、基本的な法律関係を説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に整理し、まとめるとともに、重要な論点を確認 する。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」な どにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマ を選定する。	120分
30	12/25	レポートの作成・提出／講 評（後期）&総括	これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定し、レポートを作成する。事前に作成したレ ポートを提出した場合には、これに基づきプレゼを行い、ディスカッションを行う。ゼミナール 論文の作成に向けたテーマの選定、文献調査について、学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定し、レポートを作成する。 併せて、ゼミナール論文の作成に向けたテーマの選定、文献調査について、説明することができる。	
		事前学修	事前にレポート、参考文献一覧を作成し、提出できる準備をする。	120分
		事後学修	レポートに代えて最終授業回（前期）試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。次年度 のゼミナール（4年生）に向けて、任意のテーマについて文献調査を行い、参考文献一覧を作成する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	長谷川 福造	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
行政法の領域における理論と判例を1年間掛けて学修していく。4年次に各自が作成するゼミナール論文を見据えて、理論的な分析・調査を実施し合理的な考察を行える素養・知見を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済法・行政作用法・行政組織法等の行政法の各分野を適切に学修するために必要となる基本構造を理解し、これらの基本構造及び他の法領域の骨組みとの相互関連性を修得する。理解・修得したこれらの基礎事項を踏まえて、実際の行政運営における法律上の問題点や判例・裁判例で問題となった事象を分析する。一連の分析に基づいて、口頭及び論文による正確な叙述が行う能力を体得する。

【履修条件】
ゼミナールの入室審査に合格した者が受講可能である。

【授業方法】
各回の報告担当者が、所定の題材について発表を行う。ゼミ生の人数に応じて、報告発表はディスカッサント方式で行う。ゼミ生の希望等に基づいて、年に1回程度任意で、裁判所見学・傍聴を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	対象とするテーマや希望に沿って、グループディスカッションやディベートを実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中学校・高等学校から大学教養課程までの過程で修得したコモンセンスとこれまで2年間の法律専門科目で体得した事柄を基盤に、行政法・公法領域の各種判例・問題項目等を理解し、理論的に説明できるようにする。				3	3	3	1				
②	到達目標①で理解した事象に基づいて、現実の社会で発生している行政上の課題や議論を適切に認識し、将来に向けてどのような解決方法があるか等の具体的・現実的な考察を行い、問題解決を行えるようにする。						1	3	3			
③	到達目標①・②で培った様々な能力を土台に、他者と積極的に議論を行い正確な問題把握と意見交換を実施するとともに、綿密な調査・分析によって自らの意見を適時に形成した上で、口頭及び論文で正しく叙述できるようにする。					1			1	4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	担当した題材の報告発表におけるレポート書面を評価の対象とする。	5	5	10								20
討論・発表等	分担した報告における発表の状況及び他のゼミ生の報告発表における質疑応答を評価の対象とする。	5	5	15								25
授業への参画度	質疑における積極性や正確性を評価の対象とする。	5	5	15								25
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告発表等の際に、ゼミ生に対して質疑と解説を行いフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デイリー六法 2020年版	大石真ほか編修	三省堂	2019	その他	必携
ポケット六法 2020年版	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2019	その他	必携
行政法（第6版）	櫻井敬子・橋本博之	弘文堂	2019	参考書	推奨
備考	行政不服審査法に参照条文が付いていることから、小型六法はデイリー六法を推奨する。上記の小型六法のうちどちらか一方を、毎回必ず持参すること。また、体系書や判例集については、ゼミ開始後の早期に具体的に説明する。まだ体系書を持っていない場合は、上記の『行政法（第6版）』（弘文堂・2019年）を購入すること。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。研究室。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法領域に関係して弁護士として実際に携わった事例や見聞した事柄について、守秘義務に抵触しない範囲で解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4/10	イントロダクション・行政法の概要		ゼミ生がこれまで積み重ねてきた修得内容を踏まえ、今後2年間のゼミナールにおける学修への架橋を行うとともに、学部卒業後の社会生活・職務執行と行政法・公法の学修事項との関連を理解・体得する。 なお、ゼミナールで取り扱う課題・テーマや進め方は、ゼミ生と相談して決定するが、以下では学期開始前の時点での計画を掲げる。
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、これまで自分自身が体得してきたコモンセンスと法律専門科目の学修事項を適切に思い出し、述べることができる。これらの既習事項と今後修得する行政法・公法領域の事項がどのように関連するかを正しく理解し、述べることができる。学部卒業後の職務や社会生活と行政法・公法がどのように関連するかを具体的に確知し、述べることができる。	
		事前学修	第1回の到達目標を踏まえて、自分自身が学修してきた様々な事柄を正確に思い出してキーワードや重要事項を書き出しておくこと。それらの事柄が、行政法・公法とどのように関連するかを考察し、説明できるようにしておくこと。社会における行政法・公法の存在意義と将来へ向けた役割が何かを考え、述べることができるようにしておくこと。 小型六法は毎回持参しなければならないから、必ず準備して携行すること。	
		事後学修	イントロダクションとして説明した行政法の基礎事項を踏まえ、今後の学修計画を各自で一場面に応じて他のゼミ生と意見交換してもよい—策定すること。次回以降の研究発表テーマに沿って、自分が何を準備するべきかを点検し取り組んでおくべき事柄を定めた上で、その事柄を実行すること。	
2	4/17	行政法の重点事項の解説		ゼミナールの初年度でありゼミ生の準備期間が短いことから、第4回までは主に講義形式で進める。個別の報告発表とディスカッションは、5月から開始する。体系書・六法・判例集などに基づいて、行政法の基礎的な解説を実施する。解説で取り上げるテーマは、初回のゼミの際に説明する。
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の概括的な枠組みを正確に理解する。到達目標②との関係で、行政法の分野における従来の議論や判例が、現実の社会でどのような役割を果たしているかを修得する。	
		事前学修	初回に指定した題材について、六法・体系書などの資料に沿って各自で調査する。場面に応じてゼミ生同士で意見交換や情報交換をしてもよい。	
		事後学修	第2回のゼミにおける議論や説明において自分が理解した事柄を文字化してノートを作成すること。ノート作成は手書きを推奨するが、Word等の電子媒体での作成を認める。また、配付資料や自分で探索した資料についても、責任を持ってファイリングすること。このファイリングもプリント・紙媒体での編綴を推奨するが、PDF等での電子記録も認める。ゼミの進行や次年度の卒業論文作成に応じて、これらのノートやファイリングの提示を求め、ゼミ生各自の学修・研鑽状況を確知する機会を設定するから、積極的にノート作成とファイリングを継続すること。	
3	4/24	行政法の重点事項の解説		体系書・六法・判例集などに基づいて、行政法の基礎的な解説を実施する。解説で取り上げるテーマは、初回のゼミの際に説明する。
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の概括的な枠組みを正確に理解する。到達目標②との関係で、行政法の分野における従来の議論や判例が、現実の社会でどのような役割を果たしているかを修得する。	
		事前学修	初回に指定した題材について、六法・体系書などの資料に沿って各自で調査する。場面に応じてゼミ生同士で意見交換や情報交換をしてもよい。	
		事後学修	先週から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。次々週（第5回）から各ゼミ生持ち回りの報告発表が始まることから、自分の担当する題材と日程を改めて確認すること。日程と題材に沿って、自分自身の学修計画を策定すること。自分自身の報告発表でない場合でも、ディスカッサント（報告・質疑の運営係）を担当する際は、報告者と事前に打ち合わせを行うこと。報告担当者・ディスカッサントでない場合でも、ゼミでの質疑応答を準備すること。	
4	5/1	行政法の重点事項の解説		体系書・六法・判例集などに基づいて、行政法の基礎的な解説を実施する。解説で取り上げるテーマは、初回のゼミの際に説明する。
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の概括的な枠組みを正確に理解する。到達目標②との関係で、行政法の分野における従来の議論や判例が、現実の社会でどのような役割を果たしているかを修得する。	
		事前学修	初回に指定した題材について、六法・体系書などの資料に沿って各自で調査する。場面に応じてゼミ生同士で意見交換や情報交換をしてもよい。	
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。次週（第5回）から各ゼミ生持ち回りの報告発表が始まる。先週自ら策定した学修計画を再度点検し、計画を実行すること。自分自身の報告発表でない場合でも、ディスカッサント（報告・質疑の運営係）を担当する際は、報告者と事前に打ち合わせを行うこと。報告担当者・ディスカッサントでない場合でも、ゼミでの質疑応答を準備すること。	
5	5/8	報告発表・ディスカッション		報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 第5回以降、前期の各回で取り扱う題材の候補を、以下各回のシラバスに記載する。 ◆「訴訟要件」の概要
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	5/15	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆処分性の要件	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
7	5/22	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆原告適格	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
8	5/29	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆訴えの利益	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
9	6/5	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆国家賠償請求の概要	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
10	6/12	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆東京高判平成15年5月21日（0-157集団食中毒原因公表事件）	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	6/19	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最判平成27年3月3日（処分基準の性質と効果）	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
12	6/26	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最判平成30年10月23日（議会裁量と「総合考慮」審査）	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
13	7/3	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆広島地判平成21年10月1日（埋立免許の差止訴訟と景観利益の保護）	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
14	7/10	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最大判平成17年12月7日（小田急高架化訴訟と周辺住民の原告適格）	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
15	7/17	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最判平成25年3月26日（国家賠償訴訟における反射的利益論）	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
16	9/18	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 なお、後期に取り扱うテーマについては、前期の早い時機に確定させて情報共有する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
17	9/25	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
18	10/2	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
19	10/9	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
20	10/16	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
21	10/23	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
22	10/30	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
23	11/6	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
24	11/13	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
25	11/20	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
26	11/27	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
27	12/4	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
28	12/11	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
29	12/18	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
30	12/25	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
		事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
		事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
前学期は憲法学の基本事項について講義と質疑応答を行う。後学期はゼミ生が各自の研究テーマを決めてレジュメ・資料を準備した上で口頭で発表する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法学の基礎事項を理解し、その基礎の上に立って各自の研究テーマの発見し、レジュメにまとめて発表できる。

【履修条件】
入室試験に合格した者。

【授業方法】
教員による講義と質問、およびゼミ生による研究発表と相互の議論。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法学の基礎概念を理解し、説明することができる。				3	3				3		
②	課題を発見し、解決に必要な情報（資料）を収集できる。							3	3			
③	収集した情報（資料）のエッセンスをまとめることができる。					3	3					
④	収集した情報（資料）をもとに、課題の解決につながる方法を構築できる。						3	3	3			
⑤	自ら構築した方法に従って、課題の解決に向けた論理を展開できる。						3		3	3		
⑥	自らの考えを論理的・説得的に発表できる				3		4		3	3	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	研究発表の際に要点を的確にまとめたレジュメを作成できること。	3	3	3	3	3						15
討論・発表等	各自最低1回の研究発表を行うこと。	3	3	3	3	3	3					18
授業への参画度	出席回数と報告者に対する質問の頻度。		3				4					7
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】3年次4年次とも上記3項目の点数をそれぞれ40点とし、成績評価の際にその合計点数を0.5倍したものにゼミナール論文の評価点（60点満点）を加えて成績評価する。											
その他(留意事項)	ゼミ合宿に積極的に参加すること。											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文(60点)を作成し、指定の期日までに提出すること。なお、個別指導を受けないで提出した場合、合格点を保証しない。	10	10	10	10	10	10					60
到達目標別の比率(%)		16	19	16	16	16	17					100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表の都度、質問・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
Next教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスパワー】
月曜3時限。本館6階1616研究室。事前予約すれば左記曜日・時間以外も可。higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月10日 (金)	憲法の概念		憲法の概念、分類、特質について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	憲法とはどのような法であるか説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する。	60分
2	4月17日 (金)	国家と憲法		国家の概念および国家と憲法の関係について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	国家と憲法の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
3	4月24日 (金)	主権の概念		主権の概念について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	国民主権と国家主権の違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
4	5月1日 (金)	自衛権の概念		自衛権の意義について講義し、日本国憲法と自衛権について質疑応答を行う。
		この回の到達目標	個別的自衛権と集団的自衛権の違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
5	5月8日 (金)	立憲主義の概念		「立憲主義」の概念の正確な理解を獲得できるよう講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	近代立憲主義と現代立憲主義の違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
6	5月15日 (金)	法の支配		「法の支配」の意義とその日本国憲法における現れを講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	「法の支配」について日本国憲法の条文を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月22日 (金)	権力分立		「権力分立」の意義とその日本国憲法における現れを講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	日本国憲法における権力分立について、条文を挙げて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
8	5月29日 (金)	国民代表		国民代表の意義とその現実の在り様について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	国民代表の理念が現実にはどのように運用されているか説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
9	6月5日 (金)	基本的人権		基本的人権の意義と人権の分類について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	人権の分類と個別の人権の性質について説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
10	6月12日 (金)	公共の福祉		「公共の福祉」の概念について通説的理解とそれへの批判について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	「公共の福祉」による人権の制約について説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
11	6月19日 (金)	司法権の独立		司法権の独立の意義とそれを確保するための制度について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	司法権の独立を確保するしくみについて条文をもとに説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
12	6月26日 (金)	統治行為		「統治行為」の意義および司法権の限界について講義し、質疑応答を行う。
		この回の到達目標	統治行為と司法権の限界に潰ついて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日 (金)	国家緊急権	国家緊急権の意義と立憲主義の関係について講義し、質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	国家緊急権の類型について説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
14	7月10日 (金)	憲法改正	憲法改正の意義と立憲主義の関係について講義し、質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	憲法改正条項があることの意味を説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
15	7月17日 (金)	天皇と国体	国民主権に基づく天皇制と「国体」の関係について講義し、質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	「国体」と「政体」の違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
		事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
16	9月18日 (金)	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
17	9月25日 (金)	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
18	10月2日 (金)	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	10月9日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
20	10月16日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
21	10月23日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
22	10月30日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
23	11月6日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
24	11月13日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	11月20日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
26	11月27日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
27	12月4日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
28	12月11日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
29	12月18日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
30	12月25日 (金)	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
		この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
		事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
		事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分

科目名	ゼミナール3年	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：情報コミュニケーション分野の文献や論文の講読を通じて、専門的な知識の修得を図っていきます。また、共同研究を通じて、論文執筆の方法を学び、ゼミナール論文の執筆に向けた基礎固めを行います。
4年次：ゼミナール論文の執筆に向けた個人の研究報告が中心となります。また、必要に応じて、ゼミナール論文の執筆に関連する文献や論文の講読を行います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：情報コミュニケーション分野の基礎的な概念や理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する方法を身につける。また、共同研究を通じて、テーマ設定、調査、論述といった論文執筆のプロセスを身につける。
4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識の向上をはかり、論理的、批判的、科学的な考察をできるようにする。そうした活動を通じて、学問的探求心を高め、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：文献講読を実施し、報告が割り当てられた担当者は指定箇所のレジュメを作成し、発表を行っていただきます。また、発表された内容をもとにグループディスカッションを実施します。あわせて、共同研究の報告やゼミナール論文に関連する個人の研究報告も実施します。
4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における報告を行っていただきます。また、発表された内容をもとにしたグループディスカッションを実施します。必要に応じて文献講読を実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーション、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	情報コミュニケーションにかかる社会科学の知識を習得し、高い倫理観を身につける					3							
②	現代社会における情報コミュニケーションをめぐる問題のメカニズムを理解し、その問題を説明できる						3						
③	情報コミュニケーションに関する基礎的・専門的な知識を基にして、論理的、科学的、合理的な考察ができる							3					
④	現代社会における事象を注視し、さまざまな営みへと積極的に関与し、自ら問題を発見する								3				
⑤	より良い社会の創造という観点から問題設定を行う									4			
⑥	他者とのコミュニケーションを通じて、自らの研究活動の発展を図る										4		
⑦	社会・共同体における様々なアクターとの協働を促進する											4	
⑧	研究活動を通じて自己の向上や社会貢献を実現する												4
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	12	13	12	13	12	13	12	13			100
その他()												
到達目標別の比率(%)		12	13	12	13	12	13	12	13			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時間内および随時の指導

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる：ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	教科書	必携
インターネット・デモクラシー：拡大する公共空間と代議制のゆくえ	ドミニク・カルドン	トランスビュー	2012	教科書	必携
#リパブリック：インターネットは民主主義になにをもたらすのか	ギャス・サンス ディーン	勁草書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00　9号館6階9601研究室（アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの運営、スケジュール、文献講読の割り当て	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール活動への理解を深める	
		事前学修	自らの興味・関心に則した文献を読む	120分
		事後学修	輪読予定の文献に目を通しておく	120分
2	4/17	文献1-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
3	4/24	文献1-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
4	5/1	文献1-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
5	5/8	文献1-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
6	5/15	文献1-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	共同研究報告1	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
		事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
8	5/29	文献2-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
9	6/5	文献2-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
10	6/12	文献2-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
11	6/19	文献2-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
12	6/26	文献2-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	共同研究報告2	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
		事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
14	7/10	論文報告1	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
15	7/17	論文報告2	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
16	9/18	文献3-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
17	9/25	文献3-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
18	10/2	文献3-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	文献3-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
20	10/16	文献3-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
21	10/23	共同研究報告3	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆、報告に関する打ち合わせ	120分
		事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
22	10/30	文献4-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
23	11/6	文献4-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
24	11/13	文献4-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	文献4-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
26	11/27	文献4-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
27	12/4	共同研究報告4	成果報告：口頭発表	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の成果を互いに共有する	
		事前学修	各種調査の実施、報告に関する打ち合わせ、論文執筆	120分
		事後学修	校正を実施し、論文を完成させる	120分
28	12/11	論文報告3	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
29	12/18	論文報告4	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
30	12/25	まとめ	1年間の振り返り：ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等について	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール運営および研究活動のさらなる発展に向けて意識の共有を図る	
		事前学修	ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等を各自で整理する	120分
		事後学修	確認された課題の改善を図る	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
都市政策に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，都市政策に関する専門領域に関する卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共政策および都市政策における基礎理論について修得するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。地方分権社会における各地域が抱える諸問題について学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。また，グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
文献研究を行い，各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。後半は履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，フォーラムへの参加など，学修効果を高めるための創意工夫がなされる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3						
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。								3	3	3			
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。										4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。													3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
面談、討論、相談、レポートなどの添削により随時おこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み時間 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員としての知見と経験により情報を提供する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/15	専門演習(1)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	専門演習(2)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/29	専門演習(3)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/6	専門演習(4)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。 到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/13	専門演習(5)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	専門演習 (6)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/27	専門演習 (7)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/3	専門演習 (8)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/10	専門演習 (9)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/17	専門演習 (10)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/24	専門演習 (11)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	専門演習(12)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/8	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/23	課題報告(1)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/30	課題報告(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	課題報告 (3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/14	課題報告 (4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/21	課題報告 (5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/28	課題報告 (6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/4	課題報告 (7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	120分
		事後学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
24	11/11	課題報告 (8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/18	課題報告 (9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/25	課題報告 (10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/2	課題報告 (11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/9	課題報告 (12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/16	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/13	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次は、知的財産法の基礎を習得し、実際の事件を下敷きにしたオリジナルの著作権侵害訴訟の「模擬裁判」を体験することで、裁判所、特許庁や企業などの実務の現場において知的財産法がどのように機能しているかについて認識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次は、知的財産法の基礎を習得するために判例研究を数多く行い、4年次に制作するゼミナール論文の研究テーマを自ら選択、決定出来るようになることを目標とする。また、「模擬裁判」を通して、世の中の実際の法律の適用のしかたを実感する。

【履修条件】
当ゼミナール・入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：チームを組んで、判例研究発表を行い、発表された内容をもとに全員でディスカッションを行う。また、「模擬裁判」を実施する。外部研修企画も実施する（JASRAC等）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例研究はチームによる発表が中心となり、模擬裁判も所属する班ごとに主体的に準備を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3	3						
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。						4	4	4	4	4	4
⑤	商標の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
⑥	商標権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3	3						
⑦	商標権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。						4	4	4	4	4	4
⑧	不正競争防止法に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
⑨	不正競争防止法に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3	3						
⑩	不正競争防止法に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。						4	4	4	4	4	4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	担当となった判例研究の発表方法，内容を評価する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
授業への参画度	自分が担当でない判例の研究，他者の発表に対する質問，ディスカッションへの参画度を評価する。 模擬裁判への取り組み方，参画度を評価する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
その他(ゼミナル論文)	ゼミナル論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
その他(留意事項)	ゼミナルは3年次と4年次の2年間継続して履修し，成績評価は4年次を行う											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他 3 名編	有斐閣	2019	教科書	必携
商標・意匠・不正競争判例百選	大淵哲也 他	有斐閣	2007	教科書	推奨
備考	発表担当者は事前にレジュメを用意すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士，特許庁工業所有権審議会委員，財務省専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年間の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス，判例調査の方法	著作権法判例を題材にして，判例調査の方法を習得する。	
		この回の到達目標	法学部図書館の電子ジャーナルを使用して，判例調査の方法を習得する。	
		事前学修	著作権法判例百選 第6版の目次に目を通しておくこと。	30分
		事後学修	自ら調査対象の判例の資料を集めてみる。	60分
2	/	判例研究①	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
3	/	判例研究②	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
4	/	判例研究③	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
5	/	判例研究④	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
6	/	判例研究⑤	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	判例研究⑥	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
8	/	判例研究⑦	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
9	/	判例研究⑧	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
10	/	判例研究⑨ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
11	/	判例研究⑩ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
12	/	判例研究⑪ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	判例研究⑫ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
14	/	判例研究⑬ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
15	/	判例研究⑭ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
16	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
17	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
18	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
20	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
21	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
22	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
23	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
24	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
		この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
		事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
26	/	判例研究⑮	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
27	/	判例研究⑯	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
28	/	判例研究⑰	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
29	/	判例研究⑱	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
30	/	判例研究⑳	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
		この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
		事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
		事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミナール参加者各自が選択した具体的な裁判例に基づいた発表を素材として全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、共同で学習するに当たり、他者との協同意識の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
主に、判例百選の輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとに全員で議論し、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の発表が主体となるので、毎回の授業自体が、アクティブ・ラーニングの形態となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	具体的な裁判例の事案を理解し、説明することができる。				3	3						
②	具体的な裁判例における判決の内容を理解し、説明することができる。						3	3	3			
③	具体的な裁判例を素材として議論することができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミナールにおける議論参加への度合い。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文。	20	20	30								70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナールの最後の回に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法判例百選		有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントをとること）、研究室：本館7階1714室、メールアドレス： fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	オリエンテーション及び導入講義	1年間のゼミナールの進め方を議論する	
		この回の到達目標	ゼミナールの進め方を議論する	
		事前学修	ゼミナールの進め方を考える	120分
		事後学修	ゼミナールの進め方を練り直す	120分
2	4月15日	判例研究	対象として選択した判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
3	4月22日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
4	4月29日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
5	5月6日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
6	5月13日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
8	5月27日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
9	6月3日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
10	6月10日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
11	6月17日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
12	6月24日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
14	7月8日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を理解する	120分
15	7月15日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
16	9月16日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
17	9月23日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
18	9月30日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
20	10月14日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
21	10月21日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
22	10月28日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
23	11月11日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
24	11月18日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
26	12月2日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
27	12月9日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
28	12月16日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
29	12月23日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を履修条件	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分
30	1月13日	判例研究	対象判例の輪読・発表・グループディスカッション・解説	
		この回の到達目標	対象判例の内容を理解する	
		事前学修	対象判例を読む	120分
		事後学修	ディスカッション・解説を反芻する	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	松島 雪江	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
法学の基礎的知識を共有した上で、法哲学的に扱いうる事象につき、個人研究発表、相互の議論、論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法哲学、法思想を通じた法的問題の探求を目的とする。

【履修条件】
3、4年連続して受講すること。

【授業方法】		
法学の基礎知識を共有する時は、テキストの輪読を行う。各学生が担当箇所をまとめて発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。その後個人研究のテーマを見つけ、各学生が個人研究を行う。授業内で発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。論文執筆にあたっては、執筆方法や論文の構成などの指導を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の発表に基づき、相互に意見交換を行い、講評する。それを元に、次回の研究発表を作成していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学の基本的知識を得た上で、それを活用することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	個人研究のテーマを見つけ、それを発展的に研究することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	学生相互間で議論を行うことができる。				3	3	3	3	3	3	3
④	個人研究テーマにつき、形式的に整ったレポートや論文を執筆することができる。				3	3	3	3	3	3	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の見解を言語化し、論理的に示すことができる。	5	10	10	25							50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	25							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
研究発表に関しては、授業内で講評を行う。論文やレポートに関しては、事後的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	その都度必要な文献を利用する。				

【オフィスアワー】
火曜12:20-12:50、研究室1713にて。訪問につき事前に連絡のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション及び導入講義	1年間のゼミ活動計画、研究計画を立てる。	
		この回の到達目標	これから1年間で何をするのか、どのように活動するのか理解し、実行可能な研究計画を立てられるようにする。	
		事前学修	輪読に適すると思われる法学の基礎的文献を探しておく。	120分
		事後学修	輪読文献を読み込み、レジュメ作成などの準備を行う。	120分
2	4月14日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
3	4月21日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
4	4月28日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
5	5月5日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
6	5月12日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
8	5月26日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
9	6月2日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
10	6月9日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
11	6月16日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
12	6月23日	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	6月30日	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
14	7月7日	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
15	7月14日	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
		この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
		事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
		事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
16	9月15日	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
17	9月22日	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
18	9月29日	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
20	10月13日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
21	10月20日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
22	10月27日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
23	11月10日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
24	11月17日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
26	12月1日	研究発表個人	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
27	12月8日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
28	12月15日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
29	12月22日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
30	1月12日	口頭試問	4年生の論文口頭試問に出席し、コメントを述べる。	
		この回の到達目標	4年生の発表を理解し、それに質問や意見を行うことができる。	
		事前学修	4年生のこれまでの発表を理解しておく。	120分
		事後学修	口頭試問で4年生が指摘されたことを受け、自分の研究に活かせる点を模索する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治哲学における現代の諸問題について学修するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治哲学における現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、政治哲学における現代の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表を担当し、グループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の文献購読を通じて、現代の諸問題について理解する。						3	3	3	3				
②	各自の興味・関心に沿った研究テーマを探求する。										4	4	4	4
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の充実度・精確性を評価する。	30										30
授業への参画度	積極的な発言を評価する。	30										30
その他(ゼミナール 論文)	研究テーマの進展を評価する。		40									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	文献1	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
3	第一部水 4/22	文献2	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
4	第一部水 4/29	文献3	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
5	第一部水 5/6	文献4	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
6	第一部水 5/13	文献5	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	文献6	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
8	第一部水 5/27	文献7	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
9	第一部水 6/3	文献8	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
10	第一部水 6/10	文献9	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
11	第一部水 6/17	文献10	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
12	第一部水 6/24	文献11	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	文献12	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
14	第一部水 7/8	文献13	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
15	第一部水 7/15	文献14	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
16	第一部水 9/16	文献15	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
17	第一部水 9/23	文献16	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
18	第一部水 9/30	文献17	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 10/7	文献18	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
20	第一部水 10/14	文献19	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
21	第一部水 10/21	文献20	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
22	第一部水 10/28	文献21	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
23	第一部水 11/11	文献22	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
24	第一部水 11/18	文献23	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部水 11/25	文献24	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
26	第一部水 12/2	文献25	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
27	第一部水 12/9	文献26	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
28	第一部水 12/16	文献27	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
29	第一部水 12/23	文献28	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	指定文献を読み直す。	60分
30	第一部水 1/13	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	輪読文献全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ヨーロッパ諸国の政治について、理論的な検討を加えることによって、日本や世界各国の政治に応用可能な知識を身につける。そのために、受講生が主体となって研究発表やディスカッションを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学における理論を理解し、活用することで、ヨーロッパ各国の政治を把握し説明することができる。また説明にあたっては、適切な資料等を準備し、他者に対して説得的なプレゼンテーションが行える。

【履修条件】
積極的にゼミナール活動に参加すること。

【授業方法】
指定のテキストの輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとに質疑応答を行い、最後に教員がコメント等をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生の発表を中心としたディスカッション形式	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学の基礎理論を説明することができる。				3	3	3	3				
②	ヨーロッパ各国の政治を説明することができる。				3	3	3	3				
③	政治に対して、理論的に自己の意見を表明することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	自身の意見を他者に分かりやすく伝えることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①、②、③、④について、発表に際しては、基本的な文献の内容を把握して、論点を明確に示しているか、適切な資料等が準備されているかを評価する。また、発表者にかかわらず、ゼミナール参加者は積極的に自身の意見を表明することで評価を受ける。	5	5	5	5							20
授業への参画度	到達目標①、②、③、④について、ゼミナールにかかわる様々な活動への積極的な参加の有無によって評価する。参加には、自身の意見を述べるなど主体的なかわりが必須となる。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①、②、③、④について、ゼミナール論文で、適切な文献が用いられているか、基本的な論文の書き方を理解しているかを評価する。	10	10	20	20							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の発表後に適宜、教員がコメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『原因を推論する』	久米郁男	有斐閣	2013	教科書	必携
『ヨーロッパ統合史 増補版』	遠藤乾 編	北海道大学出版会	2014	教科書	必携
『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第二版』	網谷龍介ほか編	ナカニシヤ出版	2014	教科書	必携
備考	その他の文献については、授業の進行に応じて、適宜、紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週月曜日18時以降。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ政治を学ぶ意味やゼミナールという知的共同体で学ぶ意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶことやゼミナールという知的共同体で学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/13	文献購読①	『原因を推論する』の第一章、第二章、第三章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	『原因を推論する』の第一章、第二章、第三章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	150分
		事後学修	『政治学の方法』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。	90分
3	4/20	文献購読②	『原因を推論する』の第四章、第五章、第六章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	『原因を推論する』の第四章、第五章、第六章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	150分
		事後学修	『入門政治経済学方法論』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。	90分
4	4/27	文献購読③	『原因を推論する』の第七章、第八章、第九章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	『原因を推論する』の第七章、第八章、第九章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	150分
		事後学修	『社会科学のリサーチデザイン』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。	90分
5	5/4	文献購読④	『原因を推論する』の第十章、第十一章、第十二章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	『原因を推論する』の第十章、第十一章、第十二章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	150分
		事後学修	『社会科学の方法論争』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。	90分
6	5/11	文献購読⑤	『ヨーロッパ統合史』の序章、第一章、章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
		事前学修	『ヨーロッパ統合史』の序章、第一章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	120分
		事後学修	『原典ヨーロッパ統合史』を活用し、一次資料にもアクセスしてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	文献購読⑥	『ヨーロッパ統合史』の第二章、第三章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパ統合史』の序章、第一章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。120分
8	5/25	文献購読⑦	『ヨーロッパ統合史』の第四章、第五章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパ統合史』の第四章、第五章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。120分
9	6/1	文献購読⑧	『ヨーロッパ統合史』の第六章、第七章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパ統合史』の第六章、第七章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。120分
10	6/8	文献購読⑨	『ヨーロッパ統合史』の第八章、第九章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパ統合史』の第八章、第九章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。120分
11	6/15	文献購読⑩	『ヨーロッパ統合史』の終章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパ統合史』の終章を読んで、疑問点と問題点を整理する。60分
		事後学修	現在のヨーロッパ統合の課題を考えてみる。180分
12	6/22	文献購読⑪	『ヨーロッパのデモクラシー』の第一章、第二章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第一章、第二章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエスションを立ててみる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	6/29	文献購読⑫	『ヨーロッパのデモクラシー』の第三章、第四章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第三章、第四章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエストを立ててみる。120分
14	7/6	文献購読⑬	『ヨーロッパのデモクラシー』の第五章、第六章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第五章、第六章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエストを立ててみる。120分
15	7/13	文献購読⑭	『ヨーロッパのデモクラシー』の第七章、第八章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第七章、第八章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエストを立ててみる。120分
16	9/14	文献購読⑮	『ヨーロッパのデモクラシー』の第九章、第十章の内容を要約し、論点と課題を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。
		事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第九章、第十章を読んで、疑問点と問題点を整理する。120分
		事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエストを立ててみる。120分
17	9/21	研究発表①	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。180分
18	9/28	研究発表②	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	研究発表③	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
20	10/12	研究発表④	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
21	10/19	研究発表⑤	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
22	10/26	研究発表⑥	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
23	11/9	研究発表⑦	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
24	11/16	研究発表⑧	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	研究発表⑨	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
26	11/30	研究発表⑩	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
27	12/7	ゼミナール論文テーマ発表①	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
		事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分
28	12/14	ゼミナール論文テーマ発表②	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
		事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分
29	12/21	ゼミナール論文テーマ発表③	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
		事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分
30	1/18	ゼミナール論文テーマ発表④	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
		事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分

科目名	ゼミナール3年	担当者	三谷 文栄	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治コミュニケーションの理論的枠組みを学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治コミュニケーションの観点からのゼミナール論文作成に向けて、基礎的な考え方を理解するとともに、問題関心を深めることを目的とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通じて、現代社会の諸問題を政治コミュニケーション論の観点から、分析、判断、評価できるようになることを目的とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：輪読で使用するテキストは、かならず事前に読み、自らの視点からのコメントを準備しておくこと。また、発表に対する助言については、各自で研究に活かせるように授業後に振り返ること。 4年次：各自、研究テーマに関する資料の収集を行い、発表の準備をすること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前の予習と、それを生かしたディスカッション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代社会の諸問題に対する関心を高める				3	3						
②	他者の意見に耳を傾けながら、研究を進めていく									3	3	
③	政治コミュニケーションの観点から、各自の研究テーマを掘り下げ、ゼミナール論文を作成する						3	3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①に関連して、研究内容とゼミナール論文が基準に達しているかで評価する。	30										30
授業への参画度	到達目標②に関連して、ゼミナール活動への積極的な参加やコメント内容も評価する。		30									30
その他(ゼミナール論文)	到達目標③に関連して、ゼミナール論文の内容で評価する。			40								40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表内容に対してはその場でコメントするが、その他のことに関してはメール等で受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	参考書は適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前に連絡を入れることが好ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション	
		この回の到達目標	ゼミナールで使用する文献の紹介などを行う。	
		事前学修	シラバスを確認する。	120分
		事後学修	文献を読む。	120分
2	4/15	文献 1	文献 1 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
3	4/22	文献 1	文献 1 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
4	4/29	文献 1	文献 1 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
5	5/6	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
6	5/13	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
8	5/27	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
9	6/3	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
10	6/10	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
11	6/17	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
12	6/24	文献 2	文献 2 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
14	7/8	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
15	7/15	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
16	9/16	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
17	9/23	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
18	9/30	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
20	10/14	文献 3	文献 3 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
21	10/21	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
22	10/28	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
23	11/4	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
24	11/11	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/18	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
26	11/25	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
27	12/2	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
28	12/9	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
29	12/16	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
30	12/23	文献 4	文献 4 を輪読する。	
		この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
		事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
		事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
説得ディベートやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における公共政策及びその形成過程の特質を検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：公共政策に関する基礎理論を修得するとともに、社会問題を解決するための政策オプションについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解します。 4年次：3年次に学修した内容に基いて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミ内で共有・考察します。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成しつつ、最終的に卒業論文を完成させます。

【履修条件】
ゼミナールの入室試験に合格することが必要です。

【授業方法】
毎回、公共政策に関する説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	説得ディベート、グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。				3	3		3				
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				3	3	3	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		3	4	4	3
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。							3	3	3	3	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	20	20							60
授業への参画度	毎回、説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他(ゼミナール論文)	4年次に提出される卒業論文が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	20	20									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の説得ディベートに関する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/17	グループワークの方法論	説得ディベート、グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、説得ディベート、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	4/24	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	5/1	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	5/8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	5/15	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	5/29	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	6/5	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	6/12	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	6/19	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	6/26	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	7/10	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	7/17	まとめ	前期の授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
16	9/18	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
17	9/25	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
18	10/2	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
20	10/16	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
21	10/23	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (フォーラム発表準備)	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
22	10/30	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (フォーラム発表準備)	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
23	11/6	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (フォーラム発表準備)	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
24	11/13	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
26	11/27	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
27	12/4	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
28	12/11	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
29	12/18	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
30	12/25	まとめ	後期の授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
このゼミナールでは、商法（商取引法・会社法・運送法）に関する裁判例の知識や基礎的な理論をベースに、商法分野における体系的知識を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法・会社法・運送法における判例及び学説に関する基礎的な知識について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークやディスカッションの中で他の受講者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミナールの選考を通過したもの

【授業方法】		
判例や事例問題を素材に商法分野についての検討を行い、ゼミナール内において報告し、質疑応答を行うという演習形式で行う。そのため、各自報告する判例や事例問題について検討して、レジュメを作成し、ゼミナール内にて報告をするとともに、担当外の学生についても積極的にディスカッションに参加する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方的な講義形式ではなく、受講生が予め検討した商法に関連する判例及び事例問題について、自ら教科書や体系書・論文等を参照しつつ、レジュメを作成して報告を行い、参加者同士でディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	商法・会社法の制度の全体構造について説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	商法・会社法に関する主要な論点に関する判例・学説を調査し、その内容について説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	商法・会社法に関する論点について判例・学説を踏まえた上で、適切な法的紛争の解決方法を、自らの意見を述べながら考察することができる。				3	3	3	3	3	3	3
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	商法・会社法に関する判例及び事例問題について予め検討した上で、レジュメを作成し、ゼミナール内において積極的に自らの意見を述べながら報告しているかどうかによって評価を行う。	10	10	10								30
授業への参画度	自分の担当外の判例及び事例問題においても、予め自分なりに検討を重ね、ゼミナール内において質疑応答に積極的に参加しているかどうかによって評価を行う。	10		10								20
その他(ゼミナール論文)	自らの興味関心のある論点等について従来の判例や学説等を踏まえた上で、自らの意見を適切に表現されているかによって評価を行う。			50								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	10	70								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内における質疑応答や課題作成等の場合には、適宜、課題への添削という形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、自らが持っている商法・会社法の教科書と六法は必ず持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日の午後1時00分～午後2時30分。ただし、在室中は原則対応する。研究室（本館9階1919研究室） メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイドンス及び商法判例・事例問題の検討方法	ゼミナールの運営方法に関するガイドンスと商法判例や事例問題の検討方法について説明する。	
		この回の到達目標	ガイドンスが学修者が講義の全体像を理解することができる。商法判例や事例問題の検討方法に関して、到達目標①に関連して、その分析手法を知った上で、判例や事例問題についての検討を行うことができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、学修者自身が持っている商法・会社法の教科書を読んでおき、どのような判例や論点があるのかを予め確認する。	120分
		事後学修	判例研究や事例問題の分析の方法について自分なりにまとめておく。	120分
2	4月14日	会社法総論（会社制度・法人制度）に関する判例及び学説の分析	会社法総論のうち会社制度や法人制度に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	会社制度や法人制度に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
3	4月21日	持分会社制度に関する判例及び学説の分析	持分会社制度に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	持分会社制度に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
4	4月28日	会社法総則に関する判例及び学説の分析	会社法総則に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	会社法総則に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
5	5月5日	会社の設立規制に関する判例及び学説の分析	会社の設立規制に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	会社の設立規制に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
6	5月12日	会社設立時における払込規制に関する判例及び学説の分析	会社設立時における払込規制に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	会社設立時における払込規制に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	株式の性質等に関する判例及び学説の分析	株式の性質等に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	株式の性質等に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
8	5月26日	株式の譲渡に関する判例及び学説の分析	株式の譲渡に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	株式の譲渡に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
9	6月2日	譲渡制限株式制度に関する判例及び学説の分析	譲渡制限株式制度に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	譲渡制限株式制度に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
10	6月9日	種類株式等に関する判例及び学説の分析	種類株式等に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	種類株式等に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
11	6月16日	募集株式の発行に関する判例及び学説の分析	募集株式の発行に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	募集株式の発行に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
12	6月23日	募集株式の有利発行や企業買収に関する判例及び学説の分析	募集株式の有利発行や企業買収に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	募集株式の有利発行や企業買収に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	株式会社の機関構造に関する判例及び学説の分析	株式会社の機関構造に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	株式会社の機関構造に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
14	7月7日	株主総会に関する判例及び学説の分析	株主総会に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	株主総会に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
15	7月14日	取締役・取締役会に関する判例及び学説の分析	取締役・取締役会に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	取締役・取締役会に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
16	9月15日	監査役等に関する判例及び学説の分析	監査役・会計参与・会計監査人に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	監査役・会計参与・会計監査人に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
17	9月22日	各種委員会設置会社に関する判例及び学説の分析	各種委員会設置会社に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	各種委員会設置会社に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
18	9月29日	会社の計算に関する判例及び学説の分析	会社の計算に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	会社の計算に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	企業不祥事に関する判例及び学説の分析	企業不祥事に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	企業不祥事に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
20	10月13日	商法総則及び個人商人に関する判例及び学説の分析	商法総則・個人商人に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	商法総則及び個人商人に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
21	10月20日	商取引法に関する判例及び学説の分析	商取引法（商事売買等）に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	商取引法（商事売買など民法上の取引との相違）に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
22	10月27日	場屋営業に関する判例及び学説の分析	場屋営業に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	場屋営業に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
23	11月10日	運送契約に関する判例及び学説の分析	運送契約に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	運送契約に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
24	11月17日	運送人の責任に関する判例及び学説の分析	運送人の責任に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	運送人の責任に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	航空運送契約に関する判例及び学説の分析	航空運送契約に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	航空運送契約に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
26	12月1日	海上運送契約に関する判例及び学説の分析	海上運送契約に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	海上運送契約に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
27	12月8日	海上運送人の責任に関する判例及び学説の分析	海上運送人の責任に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	海上運送人の責任に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
28	12月15日	共同海損・海難救助に関する判例及び学説の分析	共同海損・海難救助に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	共同海損・海難救助に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
29	12月22日	船舶衝突に関する判例及び学説の分析	船舶衝突に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	船舶衝突に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
30	1月12日	金融法に関する判例及び学説の分析	金融法に関する判例・事例問題について検討する。	
		この回の到達目標	金融法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	南 由介	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：関心のあるテーマを選択し、報告を行った後、ゼミ生全員で批判・検討し、議論を行う。 4年次：ゼミナール論文の題材とするテーマについて中間報告を行い、問題点を批判・検討し、内容を深化させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：刑法総論および各論における様々な問題から各自の関心のあるテーマを選択し、刑法学の探究をはかる。 4年次：3年次で学修した知識・思考力を前提に、ゼミナール論文の題材を決め、さらなる刑法学の探究をはかる。

【履修条件】
履修を許可された学生であること。

【授業方法】		
あらかじめ決めておいた担当者が、担当する問題に関する学説の検討・批判や判例の分析・検討を内容とする報告を行い、ゼミ生全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、刑法学の学修を図りたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	あらかじめ決めた担当者に報告をしてもらい、その後にゼミ生全員で議論をしてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	刑法の基礎的知識を修得する。				3	3	3	3	3	3	3
②	刑法総論・各論における重要な論点について、判例および学説を理解する。				3	3	4	3	3	3	4
③	刑法総論・各論における重要な論点について、判例・学説を批判的に検討した上で、自説を展開できるようにする。				3	3	4	4	4	4	4
④	刑法学の学修を通して、法的・論理的思考を涵養し、矛盾なく自分の言葉で自己の考えを示すことができるようにする。				3	3	4	4	4	4	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	3年次・4年次継続して履修し、報告をしなければならない。特に到達目標①②の点が重視される。	10	10	6	6							32
授業への参画度	ただゼミに出席するのみでは足りず、積極的に報告者に質問等を行うなどの発言が求められる。到達目標①の点が問われる。	10	6	6	6							28
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の提出が必要である。特に到達目標②③④の点が重視される。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	26	22	22							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。				

【オフィスアワー】
月曜日10：40～12：10

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	月4/6	オリエンテーション・導入講義	ゼミの運営方針について。
		この回の到達目標	刑法学を概観する。
		事前学修	刑法総論・各論を復習する。120分
		事後学修	刑法総論・各論の文献を読み、報告する題材を探す。120分
2	月4/13	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する120分
3	月4/20	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。120分
4	月4/27	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。120分
5	月5/4	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。120分
6	月5/11	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月5/18	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
8	月5/25	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
9	月6/1	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
10	月6/8	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
11	月6/15	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
12	月6/22	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月6/29	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
14	月7/6	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
15	月7/13	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
16	月9/14	オリエンテーション・導入講義	ゼミナール論文の題材についての現状報告。	
		この回の到達目標	刑法学を概観する。	
		事前学修	刑法総論・各論に関する文献を読み、題材を探す。	120分
		事後学修	題材探しに関し、十分でないところを調べ、さらに探す。	120分
17	月9/21	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
18	月9/28	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	月10/5	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
20	月10/12	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
21	月10/19	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
22	月10/26	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
23	月11/9	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
24	月11/16	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	月11/23	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
26	月11/30	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
27	月12/7	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
28	月12/14	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
29	月12/21	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
30	月1/18	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
		この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
		事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
		事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：日本における知的財産権（主に特許を中心）における現代の諸問題について学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 また、実際にアメリカに特許出願を行うことを通して、勉強の成果を確認する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。また、米国における特許権の諸問題を研究する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
3年次：日本の判例の輪読を行い，各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。 また、3～4人にグループに分け、各班が興味のある題材を自ら決定し発表し、教員がコメントする。 4年次：米国の判例の輪読を行い，各自担当箇所の発表を行う。又、各自が決定した研究テーマについて，随時進捗段階における発表を行う。 輪読・判例の発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	米国特許庁へ出願を行う。そのため、出願に必要な書類を学生自ら作成し、インターネットにて出願を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。		3	3	3	3	3	3	3	3
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。		3	3	3	3	3	3	3	3
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。		3	3	3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。		3	3	3	3	3	3	3	3
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10	
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20	
授業への参画度													
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70	
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う												
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		30	40	15	15							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					
【オフィスアワー】					
火曜昼休み 9号館9408 三村淳一研究室					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	米国弁理士としての米国特許出願や、米国企業との特許ライセンス交渉		
実務経験に基づく実践的教育の内容		机上の勉強を、実際の特許出願として実践する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	/	専門演習(1)	当該専門領域（日本特許法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	/	専門演習(2)	当該専門領域（日本特許法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	/	専門演習(3)	当該専門領域（日本特許法）につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	/	専門演習(4)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	/	専門演習(5)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	専門演習(6)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
8	/	専門演習(7)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	/	専門演習(8)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	/	専門演習(9)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	/	専門演習(10)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	/	専門演習(11)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	専門演習(12)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	/	専門演習(13)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	/	専門演習(14)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	/	専門演習(15)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	/	専門演習(16)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	/	専門演習(17)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	専門演習(18)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	/	専門演習(19)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	/	専門演習(20)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	/	専門演習(21)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	/	専門演習(22)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	/	専門演習(23)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	専門演習(24)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	/	専門演習(25)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	/	専門演習(26)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	/	専門演習(27)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	/	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、判例発表課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	/	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	宮崎 裕介	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商法に関する判例・裁判例・その他の事例を素材として、法的問題点を探求し、その解決策を自ら考える力を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法に関する判例・裁判例・その他の事例を通じて法的問題を探求し、その解決策を自ら提示することができる。 商法の学修を通じて社会・経済が直面する問題を自ら抽出し、分析・考察することができる。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格すること。

【授業方法】
発表者の発表をもとに履修者と教員が互いにディスカッションをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表者の発表に対して教員と履修者が対話をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法に関する判例・裁判例・その他の事例を通じて法的問題点を探求する。				3	3						
②	自ら抽出した商法に関する法的問題点について解決策を自らの力で提示する。						3	3	3			
③	ビジネスと商法との接点を理解する。									4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	対話型のゼミにおける質疑応答	15	15	15								45
授業への参画度	ゼミへの積極的な参加	5	5	15								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	10	10	10								30
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーやウェブサイトなどを用いてフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法判例40	久保田安彦＝舩津浩 司＝松元暢子	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したらゼミでアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンス及び導入講義	ゼミの概要を説明する。研究素材などを提示する。	
		この回の到達目標	ゼミの概要を把握することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	日経新聞等で商法に関する現代的問題点を知る。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	120分
		事後学修	ゼミの概要で理解したことをもとに、改めて日経新聞等を読み返す。	120分
2	4月14日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
3	4月21日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
4	4月28日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
5	5月5日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
6	5月12日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
8	5月26日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
9	6月2日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
10	6月9日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
11	6月16日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
12	6月23日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
14	7月7日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
15	7月14日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
16	9月15日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
17	9月22日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
18	9月29日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
20	10月13日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
21	10月20日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
22	10月27日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
23	11月10日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
24	11月17日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
26	12月1日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
27	12月8日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
28	12月15日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
29	12月22日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
30	1月12日	事例研究	実際の事例を研究する。	
		この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
		事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を学修する。そこで前期は、判例研究を行う上で必要な知識（条文・判例の読み方、文献・資料の調べ方）を学んだ後、グループで判例研究を行い、それを順次発表する。また、後期はゼミナール論文の作成を目指して、各自の興味・関心に沿った研究テーマの発見にも取り組む。
4年次：3年次に学修した内容及び3年次に選定したゼミナール論文のテーマにつき、深く掘り下げ、ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に着ける。さらに、グループワークを通して、他者との協働意識の重要性を理解する。
4年次：3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を正しく修得し、それをグループで共有・考察する。かような活動を通じて、学ぶことの面白さを知り、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索する意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：指定された教科書を輪読後、グループに分かれ、家族法の判例等を各グループで選び、判例研究を行う。さらに、学習の理解度に応じて、事例問題の演習なども随時行うこととする。
4年次：各自が決定したゼミナール論文のテーマにつき、随時、中間報告、発表を行い、これに対する講評を行う。なお、後期は、個別の論文指導も実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	判例研究、ゼミナール論文の執筆を進めていく中で、複数回にわたり、グループ発表、ゼミナール論文等の中間報告を実施する。その際は、個別、グループ問わず、事前に報告予定者は、課題・指示に基づき、入念な報告準備を行い、その報告内容に基づき、授業内で皆でディスカッションを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語・概念につき、正確に理解し、説明することができる。					3	3						
②	民法における諸制度・諸規定につき、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					3	3						
③	授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							3					
④	グループワークを通じて、授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							3					
⑤	グループワークを通じて、他者との協働意識の重要性を理解し、仲間と共に、その分野の課題を探究することができる。										3	3	
⑥	授業で学修した知識に基づき、その分野の法的課題を探究し、ゼミナール論文をテーマを自ら決定できる。								3	3			
⑦	授業で学修した知識に基づき、ゼミナール論文を完成させることができる。							3	3	3			3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標①②③④⑤⑥についての理解度を把握する。	10	10	10	10	5	10					55
授業への参画度	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標⑤の協働意識の重要性を理解し、積極的に行動できているかを確認する。					10						10
その他(留意事項)	【ゼミナールは、3年次と4年次の2年間の継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成により、到達目標⑥⑦を評価する。						5	30				35
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	15	15	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法解釈入門 「法的」に考えるための第一歩 補訂版	山下純司ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
レポート・論文の教科書	小川仁志	筑摩書房	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み（1720研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス及び導入講義	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバスに沿って授業の概要、授業目的、到達目標、授業スケジュール、成績基準等を説明する。それにより、次回以降、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 さらに、春合宿で途中となった民法総則テストの続きを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今後のゼミナールの進め方を確認するとともに、判例研究を進めていくうえでの必須となる知識として、民法に関する基本用語・概念、制度の意義等につき、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、民法総則の復習をしておくこと。	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し、テキスト等の購入など、受講に向けた具体的準備を行う。	120分
2	第一部水 4/15	事例問題演習①：民法総則	民法総則の領域から事例問題を教員が出題するので、その事例検討をグループに分かれて議論を行う。すなわち、該演習問題の論点を正確に見極め、それにつき、論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、事例問題演習を通じて、グループディスカッションの進め方を理解するとともに、民法の基礎知識を深め、正確に説明することができる。	
		事前学修	民法総則の重要な論点を中心に、民法総則のテキストをよく復習してくること。	120分
		事後学修	事例問題の解説を参考に民法総則のテキストの該当箇所をよく復習すること。	120分
3	第一部水 4/22	事例問題演習②：民法総則 物権総論の確認テスト	前回と同様、民法総則の重要な論点にかかわる事例演習問題をグループに分かれて取り組む。 さらに、物権総論の基本的な確認テストを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、事例問題演習の進め方を理解するとともに、物権総論の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	確認テストを実施するため、物権総論のテキストをよく読んでくこと。	120分
		事後学修	事例問題の解説を中心に、民法総則及び物権総論のテキストの該当箇所をよく復習すること。	120分
4	第一部水 4/29	事例問題演習③：物権総論	前回に続き、物権総論の重要な論点にかかわる事例演習問題をグループに分かれて取り組む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、事例問題演習の進め方を理解するとともに、物権総論の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	前回の確認テストで出された点を中心に、物権総論のテキストについて復習してくること。	120分
		事後学修	物権総論のテキストについて復習しておくこと。	120分
5	第一部水 5/6	法解釈の方法：テキストの輪読①	この回から法解釈の方法を学修する。まずは、指定したテキスト『法解釈入門 ―「法的」に考えるための第一歩 補訂版』を皆で輪読（第1部1章、2章）し、それにつき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	指定したテキストのイントロダクション及び第1部1章、2章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
		事後学修	テキストの第一部1章、2章の箇所の要約を作成すること。	120分
6	第一部水 5/13	法解釈の方法：テキストの輪読②	引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第1部3章、4章）し、それにつき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキストの第1部3章、4章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
		事後学修	テキストの第1部3章、4章の箇所の要約を作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	法解釈法方法：テキストの 輪読③	引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第1部5章、6章）し、それにつ き、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することが できる。	
		事前学修	テキストの第1部5章、6章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
		事後学修	テキストの第1部5章、6章の箇所の要約を作成すること。	120分
8	第一部水 5/27	法解釈法方法：テキストの 輪読④	引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第2部7章）し、それにつ き、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することが できる。	
		事前学修	テキストの第2部7章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
		事後学修	テキストの第2部7章の箇所の要約を作成すること。	120分
9	第一部水 6/3	法解釈法方法：テキストの 輪読⑤	引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第2部8章）し、それにつ き、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することが できる。	
		事前学修	テキストの第2部8章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
		事後学修	テキストの第2部8章の箇所の要約を作成すること。	120分
10	第一部水 6/10	判例研究①：判例の調べ 方・データベースの利用の 仕方（ガイダンス）	ここから、グループ（3班）に分かれ、本格的に判例研究を行う。判例研究の進め方及びデー タベースの利用の仕方等について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標④⑤に関連して、判例研究の進め方、データベースの利用の仕方について等について理解し、説明するこ とができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメ等に目を通してくること。	120分
		事後学修	図書館等にいき、実施にデータベースを利用してみること。	120分
11	第一部水 6/17	判例研究②：判例研究の準 備	グループごとに判例研究の判例を重要判例百選等から選び、判例研究の準備を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
		事前学修	判例研究で扱いたいと思うテーマを各自考えてくること。	120分
		事後学修	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくること。	120分
12	第一部水 6/24	判例研究③：判例研究の準 備	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくることとする。	
		この回の 到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
		事前学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を分担して収集してくること。	120分
		事後学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を読み込んでくること。 事案の概要と判旨をグループごとにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	判例研究④：判例研究の中間報告	判例研究のうち、事案の概要と判旨の部分までをまとめ、わかりやすく発表、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができるとともに、わかりやすいプレゼンができるようになる。	
		事前学修	各班ごとに事案の概要と判旨の箇所までのレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の判例についても軽く目を通しておくこと。	120分
		事後学修	授業内で指摘された点を修正するとともに、判例検討を各班ごとに進めること。	120分
14	第一部水 7/8	判例研究⑤：判例研究の準備及び夏合宿のガイダンス	グループに分かれて、判例検討を行い、レジュメを完成させる。夏合宿時における判例研究報告や合宿の予定等について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告ができるようになる。	
		事前学修	判例研究の主となる論点、従前の判例・学説の動向、判例評釈について各自読み込み、さらに、判例の検討・考察をグループで進めておくこと。	120分
		事後学修	次回以降の判例研究の発表準備を行うこと。	120分
15	第一部水 7/15	判例研究⑥	3班のうち、第1班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、夏合宿時の判例研究報告準備を進めること。	120分
16	第一部水 9/16	判例研究⑦：判例研究の準備	新たにグループ分けをし、判例研究を進めていくことにする。前回同様、判例研究のテーマを選択し、判例研究の準備を進める。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
		事前学修	判例研究で扱いたいと思うテーマを各自考えてくること。	120分
		事後学修	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくること。	120分
17	第一部水 9/23	判例研究⑧：判例研究の準備	前回に続き、判例研究の準備として、班の中で分担をしながら収集した資料を皆で読み込み、判例研究のレジュメを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
		事前学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を分担して収集してくること。事案の概要と判旨程度は、グループごとに分担を決め、まとめてくること。	120分
		事後学修	判例研究の主となる論点、従前の判例・学説の動向、判例評釈について各自読み込み、さらに、判例の検討・考察をグループで進め、レジュメを完成させること。	120分
18	第一部水 9/30	判例研究⑨	3班のうち、第1班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 10/7	判例研究⑩	3班のうち、第2班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。	120分
20	第一部水 10/14	判例研究⑪	3班のうち、第3班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正しておくこと。	120分
21	第一部水 10/21	判例研究⑫	新たにグループ分けをし、判例研究を進めていくことにする。前回同様、判例研究のテーマを選択し、判例研究の準備を進める。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
		事前学修	判例研究で扱いたいと思うテーマを各自考えてくること。	120分
		事後学修	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくること。	120分
22	第一部水 10/28	判例研究⑬	前回に続き、判例研究の準備として、分担して収集した資料を読み込み、判例研究のレジュメを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
		事前学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を分担して収集してくること。事案の概要と判旨程度は、グループごとに分担を決め、まとめてくること。	120分
		事後学修	判例研究の主となる論点、従前の判例・学説の動向、判例評釈について各自読み込み、さらに、判例の検討・考察をグループで進め、レジュメを完成させること。	120分
23	第一部水 11/11	判例研究⑭	3班のうち、第1班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。	120分
24	第一部水 11/18	判例研究⑮	3班のうち、第2班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部水 11/25	判例研究⑩	3班のうち、第3班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。	
		事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	発表班は指摘された点を修正しておくこと。	120分
26	第一部水 12/2	小論文の作成①	テキスト『レポート・論文の教科書』を輪読し、小論文の書き方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、卒業論文の前提として、小論文の書き方を理解し、説明することができる。	
		事前学修	テキスト『レポート・論文の教科書』に目を通してくること。	120分
		事後学修	テキストを復習し、重要なポイントをまとめておくこと。	120分
27	第一部水 12/9	小論文の作成②：テーマ及び概要の報告	小論文のテーマ・章立てについての報告を通じて、プレゼンの仕方、討論の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、卒業論文の前提として、小論文の書き方を確認するとともに、わかりやすいプレゼンとは何か、を理解する。	
		事前学修	小論文のテーマ及び章立てについての報告準備を行うこと。	120分
		事後学修	授業で指摘を受けた点を修正しつつ、各自小論文を進めておくこと。	120分
28	第一部水 12/16	小論文の作成③：資料収集・執筆	小論文作成に向けての資料収集及び執筆を開始する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、小論文作成に向けてのさらなる資料収集を行い、執筆の準備を整えることができる。	
		事前学修	資料収集し、その資料の内容を理解し、執筆の準備を行うこと。	120分
		事後学修	引き続き、必要な資料を収集し、その資料の内容の理解に努め、執筆を開始すること。	120分
29	第一部水 12/23	小論文の作成④：進捗状況の報告及び執筆	小論文完成に向け、小論文の進捗状況の報告を行い、時間があればすでに進めている執筆の続きを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、小論文完成に向けて、自己の進捗状況をわかりやく、説明することができる。	
		事前学修	小論文の進捗状況の報告準備をするとともに、小論文の執筆を進めること。	120分
		事後学修	授業で指摘された点に注意しつつ、小論文の執筆を進めること。	120分
30	第一部水 1/13	小論文の完成・提出⑤	小論文完成に向け、推敲を重ねるとともに、引用文献などの注なども完成させ、小論文を提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、小論文完成に向けて、書き上げた論文を推敲し、誤字脱字などの修正を行い、小論文を完成させることができる。	
		事前学修	小論文をひととおり完成させてくること。その際は、テキストを参考にしながら、注も作成してくること。	120分
		事後学修	完成させた小論文については、春合宿で概要を報告してもらうため、その発表準備を進めておくこと。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア・ジャーナリズム理論に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、メディア・ジャーナリズム理論に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自らの学修状況を自己分析しつつメディア・ジャーナリズム理論の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。既存のジャーナリズム論を批判的に乗り越え、新たな理論枠組みのもとで現代のメディア社会を考察できるようになること。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
メディア・ジャーナリズム理論に関する文献の講読、履修者各自が選択する論文の執筆に向けた発表および議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと思えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実	山口仁	勁草書房	2018	参考書	推奨
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	大井真二他編	世界思想社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜3限（法学部本館9階1914研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/15	専門演習(1)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	専門演習(2)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/29	専門演習(3)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/6	専門演習(4)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/13	専門演習(5)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	専門演習 (6)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/27	専門演習 (7)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/3	専門演習 (8)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/10	専門演習 (9)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/17	専門演習 (10)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/24	専門演習 (11)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	専門演習(12)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/8	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/23	専門演習(13)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/30	専門演習(14)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	専門演習 (15)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/14	専門演習 (16)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/21	専門演習 (17)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/28	専門演習 (18)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/11	専門演習 (19)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/18	専門演習 (20)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	専門演習 (21)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	12/2	専門演習 (22)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/9	専門演習 (23)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/16	専門演習 (24)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/23	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/13	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		この回の到達目標	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法の判例研究・事例問題研究を通じて民法の知識を深める。報告は数人のグループで行い、それをふまえて全員で議論する。その際には疑問や意見を積極的に述べてほしい。ゼミ生の要望に応じて研修合宿や他大学との討論会も予定する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法における基礎理論について修得するとともに、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。また判例研究や事例研究を通じて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：数人のグループ内で重要判例・事例問題を検討し、報告を行う。報告担当以外のゼミ生は、報告に対して積極的に意見・疑問を述べる こと。担当者はあくまでもサポート役であり、質疑応答をふまえて講評を行う。また他大学との合同ゼミナールへの参加も予定している。 4年次：各自で決定したゼミナール論文を作成する。研究の進捗状況に応じて随時、研究報告を行い、担当者はこれに対して講評を行う。後期 後半は、個別指導も行う予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回のオリエンテーション、判例研究・事例研究の方法、文献調査方法の説明を除いて、授業のほとん どは学生による報告・質疑応答から成る。他の学生に対して難しい事項や自分の意見を分かりやすく伝 え、他の学生の意見を聴くことでコミュニケーション能力を養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	【自ら学ぶ・自らの役割を認識し、他者と協働する】民法の知識をもとに、高い倫理観に基づきゼミにおける自らの役割を認識し、他者との協働作業の中で課題を解決できるようになる。					3					3	
②	【説明する力・コミュニケーション能力】判例の意義、事例問題の核心をつかみ、他者に対して自らの意見を分かりやすく伝え、他者の意見を聴き・尊重し、積極的にコミュニケーションを実践することができる。						3				3	
③	【考察力・問題解決能力】ゼミでの議論やゼミ論文の作成を通じて法的問題を発見し、当該問題に関する法状況をふまえ、批判的な視点を持ちつつ、当事者の利益を考慮した妥当・公平な解決を示すことを示すことができるようになること。							3	3			
④	【挑戦力・省察力】レジュメ・ゼミ論文の作成を通じて、自ら設定した課題に取り組む。そして、他者の評価を謙虚に受け止めたうえで、問題の改善に努め、課題を解決できるようになること。									3		3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミでのグループ報告。レジュメの内容、報告内容、質疑 応答などを評価する。	3	12	12	3							30
授業への参画度	報告準備においてゼミ生と協働して積極的に活動しようと しているかどうか、報告に対する積極的に意見・疑問を述 べているかどうかを評価する。質問が著しく少ない場合 は、評価が低くなる。 また出席が3回以下の学生には、別途レポートの提出を要求 する等の厳正な措置を講じる（もちろん病気・就活などの 事情には一定の配慮）。無断欠席は厳禁！	5	10	5								20
その他(ゼミナール 論文)	4年次に卒業論文を作成する。	8	15	20	7							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	37	37	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業の中で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門ノート	渡邊力編	法律文化社	2019	参考書	任意
カフェパウゼで法学を	横田明美	弘文堂	2018	参考書	任意
リーガル・リサーチ&リポート ― 法学部の学び方〔第2版〕	田高＝原田＝秋山	有斐閣	2019	参考書	任意
Start Up 判例30！の各シリーズ		有斐閣	2018	参考書	任意
判例百選Ⅰ総則・物権、債権〔各第8版〕、親族・相続〔第2版〕		有斐閣	2018	参考書	任意
				参考書	任意
				参考書	任意
				参考書	任意
備考	上記参考書は、各自の学修目的に応じて用意してもらいたい。詳細は、授業の中で説明するのでそれまで特に購入しなくてよい。				

【オフィスアワー】
水曜3限。研究室。その他の時間でも適宜対応します。事前にメール等でアポイントメントをとってもらえればと思います（アドレスは第1回 目の授業にて）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	オリエンテーション及び導入講義	担当教員、ゼミ生の自己紹介。ゼミの役割決め。今後の予定について決める。 なお、第2回目～第30回目の予定はあくまでも暫定であり、ゼミ生の人数、ゼミ生の要望、他大学との討論会の日程に応じて適宜変更することがある。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生の前でコミュニケーションできるようになること。また今後の大学生活におけるゼミの位置づけ、ゼミにおける自己の役割を認識すること。	
		事前学修	①1年生～2年生の民法で使用した教科書などをもう一度読み、民法の目的、基本用語、基本概念を理解しておくこと。 ②民法ゼミに入って何をしたいのか、今後の2年間でどう過ごすか考えておく。	120分
		事後学修	今後2年間の目標を達成するための計画を立てる。来週までに自己紹介シートの提出。	120分
2	4月15日	判例評釈の方法と文献調査方法①	近時の重要判例を題材に、判例とは何かについて1年次で学んだことを振り返る。次に、図書館やインターネットのデータベースを用いて、判例や法律雑誌を調べる方法を学ぶ。各グループで図書館へ行き、文献をコピーする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法的問題を解決するための文献調査を方法を修得する。	
		事前学修	インターネットのデータベースの使い方など、自主創造の基礎2で学んだことを振り返る。	30分
		事後学修	次の授業までに文献を読み、その内容を理解する。	90分
3	4月22日	判例評釈の方法と文献調査方法②	各グループで調べたことに基づき、判例について法的な主張に基づき各自の意見を述べてもらう。そのうえで、判例評釈の報告をどのように行えばよいのか、について担当者が作成したレジュメ、判例百選や参考文献（リーガル・リサーチ&レポート）を基に理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法的問題を解決するための文献調査を方法を修得する。判例評釈の方法を理解し、問題に法的に考察する視点を得る。 到達目標②に関連して、自分の見解を分かりやすく述べられるようになること。	
		事前学修	次の授業までに文献を読み、その内容を理解する。	120分
		事後学修	文献調査の方法について振り返る。	120分
4	4月29日	判例の選定①	前期の授業の前半部分で報告する判例について、ここ数年の『重要判例解説』または『民法判例百選』から選定する（60分）。 前期の授業の後半部分で報告する判例について、ここ数年の『重要判例解説』または『民法判例百選』から選定する（30分）。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例を見つける。	
		事前学修	興味のある判例について各自で調べてみる。	120分
		事後学修	前期の授業の後半部分で報告する判例について、『重要判例解説』や『判例百選』を参考に調べてみる。	120分
5	5月6日	判例の選定②・グループ報告準備	前期の授業の後半部分で報告する判例について、ここ数年の『重要判例解説』または『民法判例百選』から選定する（30分）。 各グループ（前半のグループ）で担当にあたった判例を報告するための準備を行う（60分）。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例を見つける。また判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解すること。到達目標③・④に関連して、判例の問題の所在、判例の意義、判例の位置づけなどをつかみ、レジュメを作成する。	
		事前学修	前期の授業の後半部分で報告する判例について、『重要判例解説』や『判例百選』を参考に調べてみる。	120分
		事後学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
6	5月13日	グループ報告準備	各グループで担当にあたった判例を報告するための準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例を見つける。また判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解すること。到達目標③・④に関連して、判例の問題の所在、判例の意義、判例の位置づけなどをつかみ、レジュメを作成する。	
		事前学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
		事後学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	判例研究＜前半＞①	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。	60分
8	5月27日	判例研究＜前半＞②	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。	60分
9	6月3日	判例研究＜前半＞③	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。	60分
10	6月10日	グループ報告準備	後半のグループで担当にあたった判例を報告するための準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解すること。到達目標③・④に関連して、判例の問題の所在、判例の意義、判例の位置づけなどをつかみ、レジュメを作成する。	
		事前学修	担当する判例について事前にインターネットのデータベースを用いて資料の所在を調べておくこと。	240分
		事後学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
11	6月17日	グループ報告準備	担当にあたった判例を報告するための準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解すること。到達目標③・④に関連して、判例の問題の所在、判例の意義、判例の位置づけなどをつかみ、レジュメを作成する。	
		事前学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	240分
		事後学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
12	6月24日	判例研究＜後半＞④	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。
13	7月1日	判例研究＜後半＞⑤	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。
14	7月8日	判例研究＜後半＞⑥	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。
15	7月15日	判例研究＜後半＞⑦	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。
16	9月16日	後期のオリエンテーション・基本的な事例問題演習①	後期の授業日程について説明する。後期では事例問題演習を行う予定であるので、その練習として基本的な事例問題について自由に意見を述べてもらう。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、後期のゼミの目的を理解し、ゼミにおける自己の役割を再認識すること。また到達目標②に関して、グループで事例問題を議論し、分かりやすく自己の見解を述べられるようになること。
		事前学修	特にありませんが、夏季期間中に各自で目標を決めて、取り組んでおくことをおすすめします。
		事後学修	事例に関係する法的問題について各自で教科書・論文から議論状況を調べておくこと。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
17	9月23日	基本的な事例問題演習②	前回の授業で示した事例について、法的な観点から主張を述べられるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関して、グループで事例問題を議論し、分かりやすく自己の見解を述べられるようになること。	
		事前学修	事例に関係する法的問題について各自で教科書・論文から議論状況を調べておくこと。	60分
		事後学修	後期の授業で報告する事例問題について各自で検討してみること。	240分
18	9月30日	報告準備	各グループで担当する事例問題の報告準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して事例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解すること。到達目標③・④に関連して、事例問題の法的問題点、判例・学説の状況をつかみ、レジュメを作成する。	
		事前学修	後期の授業で報告する事例問題について各自で検討してみること。	240分
		事後学修	グループでの議論をふまえ、事例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
19	10月7日	報告準備	各グループで担当する事例問題の報告準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して事例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解すること。到達目標③・④に関連して、事例問題の法的問題点、判例・学説の状況をつかみ、レジュメを作成する。	
		事前学修	グループでの議論をふまえ、事例研究の準備を各自で進めておくこと。	240分
		事後学修	グループでの議論をふまえ、事例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
20	10月14日	事例研究①	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生+教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に事例について法的問題点を考え、判例・学説の状況をふまえ、自分の答えを考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみる。	60分
21	10月21日	事例研究②	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生+教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に事例について法的問題点を考え、判例・学説の状況をふまえ、自分の答えを考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
22	10月28日	事例研究③	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生+教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に事例について法的問題点を考え、判例・学説の状況をふまえ、自分の答えを考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみる。	60分
23	11月11日	事例研究④	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生+教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に事例について法的問題点を考え、判例・学説の状況をふまえ、自分の答えを考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみる。	60分
24	11月18日	事例研究⑤	グループで45分前後報告をしてもらい、その後30～35分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
		事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生+教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に事例について法的問題点を考え、判例・学説の状況をふまえ、自分の答えを考えておくこと。	240分
		事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみる。	60分
25	11月25日	討論会準備①	討論会の日程及びテーマ、討論会のルール等について説明する。その後、討論会の役割決め（報告班・質問班など）、題材の検討にうつる。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、討論会（予定）に向けて、ゼミ生と協働して計画を立てる。また到達目標③に関連して、討論会の題材について法的問題点を検討する。	
		事前学修	特になし。	0分
		事後学修	討論会に向けて、ゼミ生と協働して計画を立てる。また討論会の題材について法的問題点を検討する。	120分
26	12月2日	討論会準備②	討論会の題材についてグループで検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、討論会（予定）に向けて、ゼミ生と協働して計画を実行する。また到達目標③に関連して、討論会の題材について法的問題点を検討する。レジュメの作成も進める。	
		事前学修	討論会の題材について法的問題点・判例・学説の状況をふまえ考察すること。	120分
		事後学修	討論会に向けて、ゼミ生と協働して事案を検討し、レジュメを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
27	1 2 月 9 日	討論会準備③	討論会の題材についてグループで検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、討論会（予定）に向けて、ゼミ生と協働して計画を実行する。また到達目標③に関連して、討論会の題材について法的問題点を検討する。レジュメの作成も進める。	
		事前学修	討論会の題材について法的問題点・判例・学説の状況をふまえ考察すること。	150分
		事後学修	討論会に向けて、ゼミ生と協働して事案を検討し、レジュメを作成する。	150分
28	1 2 月 1 6 日	討論会！（実際の日程は詳細が決まってからみんなで考えましょう）	討論会当日。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、他ゼミの学生の前で自己の見解を分かりやすく述べられるようになること。また他のゼミ生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。さらに、他のゼミ生とコミュニケーションをとることができるようになること。	
		事前学修	レジュメの作成に向けてゼミ生と協働し、最後の追い込みを行う。	300分
		事後学修	討論会でうまくいった点、うまくいかなかった点を振り返り、今後の学修に活かす。	60分
29	1 2 月 2 3 日	4年次ゼミに向けて①	4年次のゼミに向けて研究テーマを考えよう。	
		この回の到達目標	到達目標①・③・③に関連して、興味関心のあるテーマについて自ら調べること。	
		事前学修	3年次で学修したテーマ、これから学修したいテーマなどを考え、卒論の題材探しに向けて着手する。	120分
		事後学修	冬休みの期間中に題材探しをコツコツと行っておく。早めにしておくことがおすすめ。	300分
30	1 月 1 3 日	4年次ゼミに向けて②	4年次のゼミに向けて研究テーマを考えよう。 就活、資格試験など各自の目標に向けて計画的に準備をしよう。	
		この回の到達目標	到達目標①・③・③に関連して、興味関心のあるテーマについて自ら調べること。	
		事前学修	冬休みの期間中に題材探しをコツコツと行っておく。早めにしておくことがおすすめ。	120分
		事後学修	就活、資格試験などの各自の目標に向けて計画を立て、実行する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山村 りつ	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
山村ゼミナールでは、社会的な課題に対する政策的対応あるいは政策による影響を卒論の主題とし、それに沿って各自が興味あるテーマを4年次までに決め、最終的な卒論執筆を目指します。3年生では卒論の執筆に必要な論理的思考と社会的課題の分析の方法、さらに自分の意見をいかに言語化するかをグループワークを通じて学び、それをもとに各自が決めた課題について、課題の分析と仮説の設定を行い、実証研究もしくは論証を通じて自らの考えを論文の結論としてまとめます。本ゼミナールにおいては、個人的でかまいませんが問題意識を前提とした積極的参加が非常に重要となります。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：さまざまな社会的課題を題材として、問題の理解と説明のための論理力と、論証に必要な研究の手法を身につける。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに基づいてゼミナール論文を作成する。また、4年生は3年生のメンターとして指導を通じて、論理力や表現力を高めていく。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者。

【授業方法】
3年次：前期は課題図書等についてのグループワーク、後期の進め方は夏合宿中に自分たちで決めてもらいます。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。また、担当する3年生（メンティー）のアドバイスを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会的課題について、その問題性（何が問題であるのか）を言語化できるようになる。						3	3	3	3	3	3	3
②	選択した課題について、自らの考察をもとに仮説を立てること（問いの言語化）ができるようになる。						3	3	3	3	3	3	3
③	設定した仮説に対して、検証のための適切な方法を選択することができるようになる。						3	3	3	3	3	3	3
④	論文執筆のための考察を通じて、自らの考えを適当な手法を用いてプレゼンテーションできるようになる。						3	3	3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	半期に2回程度のグループもしくは個人による発表の機会を設ける。そこで、事前に提示された発表課題に沿った発表を行えているか。また、他の人の発表に対してコメントや質問を提示することができるか。	10	10	5	5							30
授業への参画度												
その他(卒業論文)	4年次修了時に卒業論文の提出を求める。卒業論文の評価については、①指定された形式に従っているか、②内容が一貫しているか、③論理の妥当性および整合性をもとに評価を行う。	15	20	20	15							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	25	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業の中でコメントとしてフィードバックを行い、必要に応じて個別指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜4限。その場合でも必ず事前に連絡をすること。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	今後の授業の進め方についての説明を行う。 資料作成および卒論執筆に必要な知識について指導を行う。	
		この回の到達目標	卒論執筆にあたり、自分に足りないものをリストアップし示すことができるようになる。	
		事前学修	卒論のテーマ設定にあたり、必要な情報の収集と整理を行っておく。	180分
		事後学修	授業での説明を受けて、自分の卒論執筆に必要なものを考察する。	60分
2	4/15	課題図書の選定	前期の授業で用いる課題図書の選定を行う。	
		この回の到達目標	他者の意見を聞き、希望する図書の選定についての理由を言語化できるようになる。	
		事前学修	自分が推薦する図書を熟読し、他の学生に対してその良さをアピールするために必要な情報収集を行い、プレゼンの仕方を検討する。	180分
		事後学修	決定した課題図書を入手し熟読する。	60分
3	4/22	発表課題についての説明	発表「課題図書を用いた要約と考察」について、グループ分け、課題（何が求められているのか）の説明を行う。	
		この回の到達目標	求められている課題が何かを理解し、発表のために必要な項目をリスト化することができるようになる。	
		事前学修	課題図書を熟読し、不明な点や疑問点について自分なりに情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表の説明を踏まえて、必要な情報を収集しておく。	60分
4	4/29	発表に向けたグループ活動	課題発表に向けたグループでの作業活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、適宜グループごとに指導を行う。	
		この回の到達目標	各自がグループ作業に主体的に参加し、メンバー全員が発表の内容についての質問に回答できるようになる。	
		事前学修	作業のために必要と思われる情報の収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表に向けてデモンストレーションを行い、精査する。	60分
5	5/6	課題図書を用いた要約と考察（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
		この回の到達目標	他のグループの発表に対してコメントもしくは質問ができるようになる。	
		事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
6	5/13	課題図書を用いた要約と考察（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
		この回の到達目標	他のグループの発表に対してコメントもしくは質問ができるようになる。	
		事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	前回発表の小括と次の発表についての説明	前回発表「課題図書を用いた要約と考察」についてのコメントを行う。 次の発表「課題図書を用いた論証方法の検討」について、グループ分け、課題（何が求められているのか）の説明を行う。	
		この回の到達目標	求められている課題が何かを理解し、発表のために必要な項目をリスト化することができるようになる。	
		事前学修	課題図書を再度熟読し、新たに生じた不明な点や疑問点について自分なりに情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表の説明を踏まえて、必要な情報を収集しておく。	60分
8	5/27	発表に向けたグループ活動	課題発表に向けたグループでの作業活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、適宜グループごとに指導を行う。	
		この回の到達目標	各自がグループ作業に主体的に参加し、メンバー全員が発表の内容についての質問に回答できるようになる。	
		事前学修	作業のために必要と思われる情報の収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表に向けてデモンストレーションを行い、精査する。	60分
9	6/3	課題図書を用いた論証方法の検討（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
		この回の到達目標	他のグループの発表に対して、自分のグループとの違いを示し、それぞれの長所と短所を指摘できるようになる。	
		事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
10	6/10	課題図書を用いた論証方法の検討（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
		この回の到達目標	他のグループの発表に対して、自分のグループとの違いを示し、それぞれの長所と短所を指摘できるようになる。	
		事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
11	6/17	前回課題の小括と次の発表についての説明	前回発表「課題図書を用いた論証方法の検討」についてのコメントを行う。 次の発表「個別テーマ」について、グループ分け、課題（何が求められているのか）の説明を行う。	
		この回の到達目標	求められている課題が何かを理解し、発表のために必要な項目をリスト化することができるようになる。	
		事前学修	課題図書を熟読し、新たに生じた不明な点や疑問点について自分なりに情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表の説明を踏まえて、必要な情報を収集しておく。	60分
12	6/24	発表に向けたグループ活動	課題発表に向けたグループでの作業活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、適宜グループごとに指導を行う。	
		この回の到達目標	各自がグループ作業に主体的に参加し、メンバー全員が発表の内容についての質問に回答できるようになる。	
		事前学修	作業のために必要と思われる情報の収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表に向けてデモンストレーションを行い、精査する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	個別テーマ（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
		この回の到達目標	自グループの発表の課題を指摘し、改善のための方法を提示することができる。	
		事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
14	7/8	個別テーマ（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
		この回の到達目標	自グループの発表の課題を指摘し、改善のための方法を提示することができる。	
		事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
15	7/15	前期のまとめ	これまでの卒業論文発表について総括を行い、卒論執筆計画②の確認と、今後に向けた指導を個別に行う。	
		この回の到達目標	本格的な卒論執筆に向けて、夏休み中にすべきことを提示できるようになる。	
		事前学修	前期までの卒論に係る発表および収集資料をまとめ、卒論執筆計画②を完成させておく。	180分
		事後学修	授業内で受けた指導を踏まえて、卒論執筆を進める。	60分
16	9/16	後期の授業の進め方について導入講義	後期の進め方についての説明と、卒論執筆における3年次後期の位置づけと役割について説明を行う。	
		この回の到達目標	後期のゼミナールに臨む上での個人の目標を提示することができる。	
		事前学修	後期の授業で取り組みたい課題について、事前に情報を集めておく。	180分
		事後学修	授業の説明を踏まえて、後期の授業で取り組みたい課題についてさらに調べる。	60分
17	9/23	共通課題の設定	後期の合宿に向けた共通課題を設定する。各自のプレゼンテーションから討議して決める。	
		この回の到達目標	計画の選定にあたり、客観的な評価と公正な態度のもとで自己の主張を提示することができる。	
		事前学修	自分が希望するテーマについて情報を収集し、プレゼンテーションのための準備をしておく。	180分
		事後学修	具体的な計画の立案に向けて必要な情報を収集する。	60分
18	9/30	グループワーク①	合宿の課題を前提に活動内容を決める。まずグループに分かれて、各グループが企画案を作成する。	
		この回の到達目標	自グループの案について、課題（目的）との整合性を説明することができるようになる。	
		事前学修	これまでの活動やフィールドワークの事例などを調べ、グループ内で提案する計画の目途を立てておく。	180分
		事後学修	グループのプレゼンテーションを効果的にする方法を検討し、実際に生かす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	グループワーク②	合宿の課題を前提に活動内容を決める。各グループのプレゼンテーションを行う。	
		この回の到達目標	他グループとの比較において、自分たちのプレゼンテーションを客観的に評価できるようになる。	
		事前学修	グループでのプレゼンテーションの準備を行う。そのために必要な情報収集やプレゼンテーションの練習を行う。	180分
		事後学修	提示された計画案のそれぞれについて、考察する（利点・欠点や目的との整合性を評価する）。	60分
20	10/14	グループワーク③	合宿の課題を前提に活動内容を決める。グループのプレゼンテーションを踏まえて最終的に1つの案に絞る。	
		この回の到達目標	客観的かつ公平な態度でディスカッションに主体的に参加することができる。	
		事前学修	どの案を選択するかを想定し、議論を進めるうえで必要となる情報を収集しておく。	180分
		事後学修	最終的に決まった計画について、より具体的な内容を構想しておく。	60分
21	10/21	個人発表①	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
		この回の到達目標	他の人の発表に対して、コメントをすることができるようになる。	
		事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
		事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
22	10/28	個人発表②	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
		この回の到達目標	他の人の発表に対して、コメントをすることができるようになる。	
		事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
		事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
23	11/11	個人発表③	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
		この回の到達目標	他の人の発表に対して、何らかの質問や疑問を提示することができるようになる。	
		事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
		事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
24	11/18	個人発表④	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
		この回の到達目標	他の人の発表に対して、何らかの質問や疑問を提示することができるようになる。	
		事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
		事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	入室試験準備	入室試験の実施にあたり、試験が円滑かつ適正に行われるための方法を全体で検討し、そのための計画・準備を行う。	
		この回の到達目標	共同での計画・活動における課題や注意すべき点を明らかにし、提示することができるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
26	12/2	個人発表⑤	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
		この回の到達目標	他の人の発表に対して、課題の指摘や改善策の提案ができるようになる。	
		事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
		事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
27	12/9	フィールドワークに向けた計画	合宿中のフィールドワークについての最終的な計画を策定し、各自の役割を決める。	
		この回の到達目標	フィールドワークの課題（目的）に対する計画の意図を、自分なりの言葉で説明できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
28	12/16	フィールドワークに向けた準備	合宿中のフィールドワークについての必要な準備作業を進める。	
		この回の到達目標	共同作業における自己の役割を理解し、実際にその役割を果たすことができるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
29	12/23	まとめと総括	後期の授業の総括を行う。	
		この回の到達目標	後期の授業を振り返り、その課題を踏まえて新年度からの目標を立てることができるようになる。	
		事前学修	後期の授業を通じてやり残したことや疑問点がないかを確認し、あればまずは自分で調べたうえで授業に臨む。	180分
		事後学修	卒業論文のテーマに関連して興味ある領域の情報を収集する。	60分
30	1/13	卒業論文執筆に向けて	次年度の卒業論文執筆に向けての指導を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆に必要な点を理解し、新年度からの執筆計画を立てることができるようになる。	
		事前学修	卒業生の卒論で自分のテーマに関連しているもの、興味があるものを熟読する。	180分
		事後学修	自分のテーマに関連した学術論文を探し、熟読する。	60分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際政治学をゼミナール形式で学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際政治学の基礎理論を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
積極的に参加する姿勢を求める。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
教科書を講読し、その内容を議論する。卒業論文のテーマを報告し、その内容を議論する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書の講読と議論、ならびに卒業論文のテーマについての報告と議論は、履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治学の基礎理論を修得できる。					3	4	3					
②	自らの興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。								3	4	3		
③	グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。											4	3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	要件を満たしたレポートを期日までに提出する。	20										20
討論・発表等	要件を満たした報告を行う。	20										20
授業への参画度	議論に積極的に参加する。			30								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	要件を満たしたゼミナール論文を期日までに提出する。		30									30
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者による報告の内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レポート・論文の書き方入門：第4版	河野哲也	慶應義塾出版会	2018年	教科書	必携
備考	上掲の教科書は後学期に用いる。前学期の教科書（必携）と参考書（推奨）は初回に指示する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ゼミナールを始めるにあたって（前学期） 導入講義	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
		この回の到達目標	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
2	/	教科書の講読と議論（1）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
3	/	教科書の講読と議論（2）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
4	/	教科書の講読と議論（3）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
5	/	教科書の講読と議論（4）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
6	/	教科書の講読と議論（5）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	教科書の講読と議論（6）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
8	/	教科書の講読と議論（7）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
9	/	教科書の講読と議論（8）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
10	/	教科書の講読と議論（9）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
11	/	教科書の講読と議論（10）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
12	/	教科書の講読と議論（11）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	教科書の講読と議論（12）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
14	/	教科書の講読と議論（13）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
15	/	教科書の講読と議論（14）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
16	/	授業を始めるにあたって （後学期） 導入講義	後学期の授業を始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
		この回の到達目標	後学期の授業を始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
		事前学修	前学期のゼミナールの内容を確認し、あらためてシラバスを読む。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
17	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告（1）	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
18	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告（2）	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (3)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
20	/	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (4)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
21	/	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (5)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
22	/	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (6)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
23	/	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (7)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
24	/	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (8)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告 (9)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の 到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
26	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告 (10)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の 到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
27	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告 (11)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の 到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
28	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告 (12)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の 到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
29	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告 (13)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の 到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
30	/	教科書の講読、卒業論文の テーマ報告 (14)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
		この回の 到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際経済論について理解を深め、国際経済に関する問題点を見つけ出していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際経済に関する問題について、説明ができるようになる。

【履修条件】
経済学ⅠⅡ、国際経済論ⅠⅡの履修を終えていると、履修の助けとなる。

【授業方法】
文献講読と文献内容の報告。レポートの執筆と発表。レポートの添削や報告・発表へのコメント。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文献内容の報告とレポートの発表。 それらに対するコメントや添削。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。				3	3	3			3	3	3
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。				3	3	3			3	3	3
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。				3		3	3		3	3	3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。				3				3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
世界経済の潮流(世界経済報告)	内閣府			その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントをとること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	世界経済の減速と金融政策の課題	世界経済の減速と金融政策の課題	
		この回の到達目標	世界経済の減速と金融政策の課題を概観できる。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの概要部分に目を通してくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの概要部分に、再度目を通す。	120分
2	4月15日	米中貿易摩擦下の世界経済	米中貿易摩擦下の世界経済	
		この回の到達目標	米中貿易摩擦下の世界経済を概観できる。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第1節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第1節を再度読む。	120分
3	4月22日	金融政策の動向と課題	金融政策の動向と課題	
		この回の到達目標	金融政策の動向と課題を概観できる。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第2節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第2節を再度読む。	120分
4	4月29日	アメリカ経済の動向	アメリカ経済の動向	
		この回の到達目標	アメリカ経済の動向を概観できる。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を再度読む。	120分
5	5月6日	アメリカ経済の見通しとリスク要因	アメリカ経済の見通しとリスク要因	
		この回の到達目標	アメリカ経済の見通しとリスク要因を概観できる。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を再度読む。	120分
6	5月13日	中国経済の動向	中国経済の動向	
		この回の到達目標	中国経済の動向を概観できる。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を再度読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月20日	中国経済の見通しとリスク要因	中国経済の見通しとリスク要因
		この回の到達目標	中国経済の見通しとリスク要因を概観できる。
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を再度読む。120分
8	5月27日	ユーロ圏とイギリスの経済動向	ユーロ圏とイギリスの経済動向
		この回の到達目標	ユーロ圏とイギリスの経済動向を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を再度読む。120分
9	6月3日	ユーロ圏およびイギリス経済の見通しとリスク要因	ユーロ圏およびイギリス経済の見通しとリスク要因
		この回の到達目標	ユーロ圏およびイギリス経済の見通しとリスク要因を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を再度読む。120分
10	6月10日	継続する米中貿易摩擦	継続する米中貿易摩擦
		この回の到達目標	継続する米中貿易摩擦を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章を再度読む。120分
11	6月17日	米中貿易摩擦 米中両国の立場と対応	米中貿易摩擦 米中両国の立場と対応
		この回の到達目標	米中貿易摩擦 米中両国の立場と対応を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の1を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の1を再度読む。120分
12	6月24日	米中貿易摩擦 アメリカにおける追加関税負担	米中貿易摩擦 アメリカにおける追加関税負担
		この回の到達目標	米中貿易摩擦 アメリカにおける追加関税負担を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の2を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の2を再度読む。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	米中貿易摩擦 アメリカ経済への影響	米中貿易摩擦 アメリカ経済への影響	
		この回の到達目標	米中貿易摩擦 アメリカ経済への影響を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の1を読んできく。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の1を再度読む。	120分
14	7月8日	米中貿易摩擦 中国経済への影響	米中貿易摩擦 中国経済への影響	
		この回の到達目標	米中貿易摩擦 中国経済への影響を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を読んできく。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を再度読む。	120分
15	7月15日	米中貿易摩擦 アジア(中国を除く)経済への影響	米中貿易摩擦 アジア(中国を除く)経済への影響	
		この回の到達目標	米中貿易摩擦 アジア(中国を除く)経済への影響を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を読んできく。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を再度読む。	120分
16	9月16日	米中貿易摩擦 世界(アメリカとアジアを除く)経済への影響	米中貿易摩擦 世界(アメリカとアジアを除く)経済への影響	
		この回の到達目標	米中貿易摩擦 世界(アメリカとアジアを除く)経済への影響を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の3を読んできく。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の3を再度読む。	120分
17	9月23日	アメリカの財政・金融政策の動向	アメリカの財政・金融政策の動向	
		この回の到達目標	アメリカの財政・金融政策の動向を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第1,2節を読んできく。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第1,2節を再度、読む。	120分
18	9月30日	アメリカの通商政策の動向	アメリカの通商政策の動向	
		この回の到達目標	アメリカの通商政策の動向を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第3節を読んできく。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第3節を再度読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	10月7日	アメリカ・中国の貿易構造の変化	アメリカ・中国の貿易構造の変化
		この回の到達目標	アメリカ・中国の貿易構造の変化を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第1節に目を通してくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第1節を再度読む。120分
20	10月14日	グローバル・バリュー・チェーンにおける中国の位置づけの変化	グローバル・バリュー・チェーンにおける中国の位置づけの変化
		この回の到達目標	グローバル・バリュー・チェーンにおける中国の位置づけの変化を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の1,2を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の1,2を再度読む。120分
21	10月21日	グローバル・バリュー・チェーンを通じた貿易摩擦の波及可能性	グローバル・バリュー・チェーンを通じた貿易摩擦の波及可能性
		この回の到達目標	グローバル・バリュー・チェーンを通じた貿易摩擦の波及可能性を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の3を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の3を再度読む。120分
22	10月28日	新興国通貨価格変動の影響	新興国通貨価格変動の影響
		この回の到達目標	新興国通貨価格変動の影響を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第3節を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第3節を再度読む。120分
23	11月11日	イギリスのEU離脱がイギリス経済に与える影響	イギリスのEU離脱がイギリス経済に与える影響
		この回の到達目標	イギリスのEU離脱がイギリス経済に与える影響を概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の1,2を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の1,2を再度読む。120分
24	11月18日	EU加盟国における予算案をめぐる動き	EU加盟国における予算案をめぐる動き
		この回の到達目標	EU加盟国における予算案をめぐる動きを概観する。
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の3を読んでくる。120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の3を再度読む。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	民間債務からみた世界経済のリスクの点検	民間債務からみた世界経済のリスクの点検	
		この回の到達目標	民間債務からみた世界経済のリスクの点検を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章に目を通してくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章を再度読む。	120分
26	12月2日	民間債務問題の背景	民間債務問題の背景	
		この回の到達目標	民間債務問題の背景を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第1節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第1節を再度読む。	120分
27	12月9日	世界における民間債務の現状	世界における民間債務の現状	
		この回の到達目標	世界における民間債務の現状を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節を再度読む。	120分
28	12月16日	世界における民間債務 家計部門	世界における民間債務 家計部門	
		この回の到達目標	世界における民間債務 家計部門を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の2を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の2を再度読む。	120分
29	12月23日	世界における民間債務 企業部門	世界における民間債務 企業部門	
		この回の到達目標	世界における民間債務 企業部門を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の3を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の3を再度読む。	120分
30	1月13日	世界における民間債務 金融の国際的伝播	世界における民間債務 金融の国際的伝播	
		この回の到達目標	世界における民間債務 金融の国際的伝播を概観する。	
		事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の4を読んでくる。	120分
		事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の4を再度読む。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	吉田 純平	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法の重要な問題に関する調査、報告、及び議論を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法の重要問題の検討を通して、法律問題に関する調査能力、情報発信能力、ディベート能力を身につける。

【履修条件】
民事訴訟法や民法関連の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
グループや個人による研究報告とそれに基づく議論を行う。課題は原則として前の授業時に決定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業、学生が研究報告行い、そのための調査を行うことで、法律調査能力及び情報発信スキルを身に着ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法における原則や判例の準則を理解し、事案に適用できる。				3	3	3					
②	判例の論点を理解し、自分なりの意見を持つ。						3	3	3	3		
③	グループで調査し、議論することができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミでの発表および討論への積極性を評価する。			40								40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文について、論理性、調査の量及び質、独自 性に基づき評価する。	30	30									60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	法人でない団体の当事者能力	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
2	4/15	当事者適格	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
3	4/22	債権者代位訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
4	4/29	法人の内部紛争	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
5	5/5	確認の利益	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
6	5/13	申立事項と判決事項	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	二重起訴の禁止	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
8	5/27	弁論主義	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
9	6/3	釈明権	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
10	6/10	文書提出命令	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
11	6/17	訴訟物	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
12	6/24	争点効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	基準時後の形成権の行使	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
14	7/8	基準時後の損害拡大	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
15	7/15	一部請求	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
16	9/16	既判力の主観的範囲	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
17	9/23	法人格否認の法理	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
18	9/30	反射効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	和解	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
20	10/14	通常共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
21	10/21	固有必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
22	10/28	類似必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
23	11/11	独立当事者参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
24	11/18	補助参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	訴訟承継	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
26	12/2	上訴の利益	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
27	12/9	不利益変更禁止の原則	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
28	12/16	再審	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
29	12/25	審判権の限界	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
30	1/13	境界確定訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	吉野 篤	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミナール3年次では、例年一定のテーマを教員側が設定し、そのテーマに関する個別具体的な問題領域に沿ってゼミ生が研究報告を行って、その報告に関する質疑応答を行うという形式をとる。 テーマ設定に関しては、なるべく時宜にかなった問題を取り上げるのが通例である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
課題に対してゼミ生各自が研究報告を行うことを通じて、レジュメの作成の仕方、すなわち、どのように課題となっている問題を展開して一定の結論を導き出すかを自主的に学んで、論理的思考力を高め、プレゼンテーションの技法を修得することを目的とする。また、例えばグループで報告する場合などでは特に、互いのコミュニケーションをはかり、ゼミナールの仲間であることを実感してもらい、学研集団としてだけではなく、濃密な活動集団としてのアイデンティティを醸成することも一つの大きな目標とする。

【履修条件】
政治学を履修済みであることが望ましいが、必ずしもそのことにこだわるものではない。

【授業方法】		
基本的に学期初めに年度全体の研究テーマを設定し、研究課題の全体像、研究報告の個別具体的な領域を決めて、研究報告の分担をして、その計画に沿って毎週研究報告を行う。その報告を受けて全員で質疑応答を行い、報告の不十分な点や課題を浮き彫りにし、次回の報告に反映させていくというスタイルをとる。ここ数年の例では、大学祭のフォーラムに向けて通年で考察できるような課題を設定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールは授業そのものがアクティブ・ラーニングそのものであり、課題に対する問題意識、疑問点の解明、今後の発展的な対応など、議論を積み重ねることのできる貴重な場となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学の問題設定、研究領域がどのようなものであるかを研究報告を通じて学修し修得することができることを目標とする。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	個別具体的な課題の分析を通じて、当該領域の深い知見や認識を各自が修得できることを目標とする。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	プレゼンテーションの技法を磨くことを通じて、いかに分かりやすく問題の本質などを伝えることができるかを訓練することを目標とする。				3	3	3	3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	実施しない											
小テスト等	研究報告のレジュメに含まれる											
レポート等	研究報告のレジュメに含まれる											
討論・発表等	この項目の比重が圧倒的に高く、これがゼミの本質的特徴である											
授業への参画度	参画は必須。研究報告の真摯さがなによりも重要となる。											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	30	30	40								100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
報告のたびに具体的な課題・改善点を指摘し、次回の報告に反映できるように個別具体的に指導する	

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用する場合は、できるだけ最新の新書レベルの課題図書を使用する。設定するテーマによって統一の課題図書を使用できない場合がある					

【オフィスアワー】
火曜日の2時限目・研究室(1807)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。						
回数	日程	テーマ		内 容		
1	4/22	オリエンテーション及び導入講義		各自の自己紹介、ゼミ役職者の決定、今後のスケジュールの設定、フォーラム参加の是非を話し合う		
		この回の到達目標	公式な初顔合わせなので、まずお互いを知るためにも自己紹介は重要な機会となる。役職者決定の後は、年度全体のゼミ活動の説明、合宿の過去の取り組み、フォーラムに向けた取り組みなどを話し合う。			
		事前学修	大前提として参加は必須である			120分
		事後学修	ゼミの活動を整理し、自己の取り組み、位置づけを確認してゼミ全体の意義を確認する。			120分
2	4/29	研究課題の報告①		前回のゼミで課題が決定された場合には、それについて報告を開始する。レジュメの書き方、展開の仕方などについて、修正点があれば指摘し、次回の報告に活かしてもらう。		
		この回の到達目標	②と③に関連して、報告がどのようなものであったのか各自で自省し、指摘された点について次回の報告で軌道修正することができるように準備することができる。			
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること。			120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する			120分
3	5/6	研究課題の報告②		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う。。		
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる。			
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること			120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する			120分
4	5/13	研究課題の報告③		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う。		
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる			
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること			120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する			120分
5	5/20	研究課題の報告④		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う		
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる			
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること			120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する			120分
6	5/27	研究課題の報告⑤		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う		
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる			
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること			120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する			120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	6/3	研究課題の報告⑥	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
8	6/10	研究課題の報告⑦	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
9	6/17	研究課題の報告⑧	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
10	6/24	研究課題の報告⑨	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
11	7/1	研究課題の報告⑩	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
12	7/8	研究課題の報告⑪	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/15	研究課題の報告⑫	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
14	7/22	研究課題の報告⑬	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
15	7/29	研究課題の報告⑭	引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
		この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる	
		事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること	120分
		事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する	120分
16	8/5	前学期のゼミ総括	前学期のゼミの報告内容について議論し、反省点、よかった点などを全員で意見を出し合い、後学期にそれを反映できるように合意形成する	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、後学期の内容を議論する。	
		事前学修	今までの研究報告を振り返り、改めて重要な論点や疑問点、今後の学修課題などを整理する	120分
		事後学修	自らの報告と他の報告を比較し、メリット・デメリットを整理して、後学期の学修に活かせるように学修計画を立てる	120分
17	9/16	後学期のゼミ内容の確定と報告の手順の確定	フォーラムでの研究発表をある程度前提として、具体的な報告内容を議論し確定させる	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、報告テーマに反映させる	
		事前学修	フォーラム参加を前提として、自らの役割について整理しておく	120分
		事後学修	決められた役割に従って、それを十分自覚して具体的作業に進むための段取りを整理する	120分
18	9/23	フォーラム発表に向けた研究報告①	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる	
		事前学修	報告内容について入念な準備を行う	120分
		事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	9/30	フォーラム発表に向けた研究報告②	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる
		事前学修	報告内容について入念な準備を行う120分
		事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする120分
20	10/7	フォーラム発表に向けた研究報告③	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる
		事前学修	報告内容について入念な準備を行う120分
		事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする120分
21	10/14	フォーラム発表に向けた研究報告④	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる
		事前学修	報告内容について入念な準備を行う120分
		事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする120分
22	10/21	フォーラム発表に向けた研究報告⑤	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる
		事前学修	報告内容について入念な準備を行う120分
		事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする120分
23	10/28	発表の最終調整とリハーサル	報告内容全体を再吟味し、完成度を高めるための議論を進める
		この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる
		事前学修	報告の全体像を各人が共有するための認識を深める120分
		事後学修	最終調整してフォーラムに臨めるように改めて各自で報告の調整を仕上げる120分
24	11/11	残り期間のゼミ内容を確定	ゼミナール論文に向けた研究課題を議論し、併せて改めて論文作成の手順を確認する
		この回の到達目標	①、②、③に関連して各自の問題意識や関心領域について議論し、ゼミ論文作成への足がかりとなる報告を開始するための段取りを調整し、論文への関心をさらに高めることができる
		事前学修	あらかじめ各自でゼミ論文のテーマ設定について考えておくこと120分
		事後学修	設定されたテーマが妥当であるかどうか自ら吟味し、テーマについて再考すること120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	11/18	ゼミ論テーマについての概要の報告①	具体的に設定されたテーマについて報告を行う
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる
		事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること120分
		事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること120分
26	11/25	ゼミ論テーマについての概要の報告②	具体的に設定されたテーマについて報告を行う
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる
		事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること120分
		事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること120分
27	12/2	ゼミ論テーマについての概要の報告③	具体的に設定されたテーマについて報告を行う
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる
		事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること120分
		事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること120分
28	12/9	ゼミ論テーマについての概要の報告④	具体的に設定されたテーマについて報告を行う
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる
		事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること120分
		事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること120分
29	12/16	ゼミ論テーマについての概要の報告⑤	具体的に設定されたテーマについて報告を行う
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる
		事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること120分
		事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること120分
30	12/23	ゼミ論テーマについての概要の報告⑥	具体的に設定されたテーマについて報告を行う
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる
		事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること120分
		事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	米倉 律	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
テレビを中心とした映像ジャーナリズムが現代社会においてどのような役割・機能を果たしているのか、送り手、受け手、コンテンツの各レベルについて研究を行なう。研究は、内容分析、フィールドワーク、アンケート調査など、複数の方法論を組み合わせで行う

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：映像ジャーナリズムについての基礎文献などの講読を行なって基礎知識を習得するとともに、各自の興味・関心に沿ってグループ研究を行ない、研究結果をグループで共有・考察する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループ内で共有・考察する。また、そうした活動を通じて課題設定や課題解決策を模索する問題意識を醸成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文献講読、番組の映像視聴と内容分析、フィールドワーク

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像視聴を通じたディスカッション、分析内容・研究成果のプレゼンテーションとディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	映像ジャーナリズムについての基礎的理論、概念、歴史などについて説明することができる						3	3						
②	映像ジャーナリズムの制作過程について理解し、その内容や問題点などについて述べるることができる							3	3	3	3			
③	映像ジャーナリズムを対象にしてオリジナリティのある研究のある研究を実践し、成果を共有することができる								3	3	3	3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②に関連し、課題文献や映像資料についての確に分析し、その結果を共有することができるかどうかを評価する。	20	15									35
授業への参画度	到達目標①②③に関連し、質疑応答・ディスカッションに積極的に参画しているかどうかを評価する。	5	5	5								15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標②③に関連し、設定した課題・テーマを対象に、適切な方法論を用いて有意義な研究成果を出すことができたかどうかを評価する。		25	25								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に適宜フィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新放送論	米倉律・島崎哲彦編	学文社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方、評価の仕方を説明するとともに、パイロット研究の導入を行なう	
		この回の到達目標	1年間の活動内容と目標を理解し説明することができる	
		事前学修	教科書、シラバスに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理する	90分
2	4月14日	パイロット研究①	パイロット研究のテーマについてのブレインストーミング	
		この回の到達目標	パイロット研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
3	4月21日	パイロット研究②	パイロット研究のテーマについてのブレインストーミング	
		この回の到達目標	パイロット研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
4	4月28日	パイロット研究③	パイロット研究の対象、方法論の検討	
		この回の到達目標	パイロット研究のテーマについて、適切な対象と方法論を説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
5	5月5日	パイロット研究④	パイロット研究のデータ収集と分析	
		この回の到達目標	対象となるデータ収集と分析を的確に遂行できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
6	5月12日	パイロット研究⑤	パイロット研究のデータ収集と分析	
		この回の到達目標	対象となるデータ収集と分析を的確に遂行できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	パイロット研究⑥	パイロット研究の分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析結果を的確にまとめたうえで、それについて多角的に考察を行うことができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
8	5月26日	パイロット研究⑥	パイロット研究の分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析結果を的確にまとめたうえで、それについて多角的に考察を行うことができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
9	6月2日	パイロット研究⑦	パイロット研究の成果を発表する	
		この回の到達目標	研究成果をプレゼンテーションで共有し質疑応答を行うことができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
10	6月9日	共同研究①	共同研究テーマについてのブレーストーミング	
		この回の到達目標	共同研究にふさわしいテーマについて説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
11	6月16日	共同研究②	共同研究テーマについてのブレーストーミング	
		この回の到達目標	共同研究にふさわしいテーマについて説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
12	6月23日	共同研究③	共同研究テーマについてのブレーストーミング	
		この回の到達目標	共同研究にふさわしいテーマについて説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	共同研究④	共同研究テーマに関する先行研究レビュー	
		この回の到達目標	共同研究テーマに関する先行研究を的確に収集しその内容を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
14	7月7日	共同研究⑤	共同研究テーマに関する先行研究レビュー	
		この回の到達目標	共同研究テーマに関する先行研究を的確に収集しその内容を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
15	7月14日	共同研究⑥	共同研究テーマに関する先行研究レビュー	
		この回の到達目標	共同研究テーマに関する先行研究を的確に収集しその内容を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
16	9月15日	共同研究⑦	共同研究の研究計画策定	
		この回の到達目標	共同研究についての目的、対象、方法論などを研究計画として策定できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
17	9月22日	共同研究⑧	共同研究の研究計画策定	
		この回の到達目標	共同研究についての目的、対象、方法論などを研究計画として策定できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
18	9月29日	共同研究⑨	対象と方法論の検討	
		この回の到達目標	研究対象と方法論についてより具体的に説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	共同研究⑩	対象と方法論の検討	
		この回の到達目標	研究対象と方法論についてより具体的に説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
20	10月13日	共同研究⑪	対象と方法論の検討	
		この回の到達目標	研究対象と方法論についてより具体的に説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
21	10月20日	共同研究⑫	データ収集と分析	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
22	10月27日	共同研究⑬	データ収集と分析	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
23	11月10日	共同研究⑭	データ収集と分析	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
24	11月17日	共同研究⑮	データ収集と分析	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	共同研究⑩	分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
26	12月1日	共同研究⑪	分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
27	12月8日	共同研究⑫	プレゼンテーションの作成	
		この回の到達目標	研究成果を論理的かつ分かりやすくプレゼンテーションできる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
28	12月15日	共同研究⑬	プレゼンテーションの作成	
		この回の到達目標	研究成果を論理的かつ分かりやすくプレゼンテーションできる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
29	12月22日	共同研究⑭	研究成果のプレゼンテーション	
		この回の到達目標	研究成果を論理的かつ分かりやすくプレゼンテーションできる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
30	1月12日	総括	年間の研究活動の総括	
		この回の到達目標	一年間の研究成果を整理し説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

科目名	ゼミナール3年	担当者	渡邊 容一郎	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：教員が指定した西洋政治史に関する課題について、各自エッセイやレジュメを作成・配布し、調べてきた内容の報告（プレゼン）を行う。その後、各自の報告内容に関する質疑応答やディスカッション、ディベートなどを行い、最後に教員が講評して総括（フィードバック）する。 4年次：3年次に決定したゼミナール論文研究テーマに基づき、各自教員の前で報告（プレゼン）を行い、その後、教員が今後の課題や修正点などを指導（フィードバック）する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：西洋政治史に関する課題や共通テーマについて研究し、その成果を自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることに加え、各自の興味・関心に沿った具体的な研究テーマを発見してもらうことを到達目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通じて歴史的見地から政治の本質を理解できるようになることに加え、それを自分の言葉と文章で説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験（面接試験）合格者のみ受講可。政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
上記「授業の概要」に基づき、ゼミナリステンの自主的かつ積極的なアクティブ・ラーニング(下記参照)を原則とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	初回のオリエンテーション以外は、課題や共通テーマ(3年次)、あるいは各自のゼミナール論文テーマ(4年次)に関連した「研究調査ならびにそれをまとめたエッセイ、レジュメ等の提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の共通テーマに関する概要と問題点を理解し説明することができる。				3	3		3				
②	各自の研究テーマに関する知見を論理的に説明することができる。				4	4	4					
③	各自の研究テーマを踏まえて、現代社会を批判的に分析することができる。						3	4	4			
④	各自の研究テーマに基づく自分の調査報告・調査結果に対する他者の評価や見解を尊重し、受け容れることができる。				4		4	3		4	3	3
⑤	ゼミナリスト同士でゼミナール行事の難題に挑戦したり、コミュニケーションを取ったり、協働したりすることができる。							3	4	4	4	4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	毎回提出するエッセイが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑤を踏まえて、ゼミナール行事等の参加度も重視する。					5						5
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを普段の授業でチェックするとともに、その成果は「ゼミナール論文」の内容で最終評価する。	15	15	15	15	15						75
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業(3年次：討論・発表、4年次：論文個別指導)の中で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの1930年代（3年生のみ使用）	斉藤孝	岩波書店	1990	教科書	必携
					推奨
備考	参考文献等は、必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日13：00－14：30 研究室（9号館2階 9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション／ファシズムの発生	春休みのプレゼミナールの総括と今後のゼミナール活動について、ファシズムの発生要因について考える。	
		この回の到達目標	各自ゼミナリステンとしての自覚をもつようになること。到達目標①②③④⑤に関連して、ファシズムの発生要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを用意して、共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
2	4/14	体制としてのファシズム	ファシズム体制の特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ファシズム体制の特徴と問題点を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
3	4/21	ファシズムの伝播	ファシズム伝播の流れと特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ファシズム伝播の流れと特徴を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
4	4/28	運動としてのナチズム	ナチズム運動の特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ナチズム運動の特徴を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
5	5/5	「国民革命」	国民革命の特徴について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国民革命の特徴を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
6	5/12	ドイツ社会の変容	ドイツ社会の変容とその要因について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツ社会の変容を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	戦争の準備	第二次世界大戦に至った要因について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第二次世界大戦に至った要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
8	5/26	コミンテルンとフランス共産党	コミンテルンとフランス共産党の関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、コミンテルンとフランス共産党の関係を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
9	6/2	フランス人民戦線の形成	フランス人民戦線の形成要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス人民戦線の形成要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
10	6/9	「ブルムの実験」	ブルムの実験の特徴と失敗要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ブルムの実験を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるように準備しておく。	120分
11	6/16	スペイン第二共和国	スペイン第二共和国の特徴と問題点について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スペイン第二共和国の特徴と問題点を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
12	6/23	スペイン人民戦線の形成	スペイン人民戦線の形成要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スペイン人民戦線の形成要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	内戦の発生	スペイン内戦の意義について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スペイン内戦の意義を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
14	7/7	スペイン内戦の国際的影響	スペイン内戦の国際的影響について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スペイン内戦の国際的影響を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
15	7/14	スペイン内戦とソ連・コミンテルン	スペイン内戦とソ連・コミンテルンの関係について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スペイン内戦とソ連・コミンテルンの関係を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
16	9/15	フランコ独裁の成立	フランコ独裁の成立要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランコ独裁の成立要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
17	9/22	戒厳令的社会主義	スターリン時代のソ連が戒厳令的社会主義となった要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スターリン時代のソ連が戒厳令的社会主義となった要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
18	9/29	大粛清	スターリン時代のソ連で大粛清が行われた要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、スターリン時代のソ連で大粛清が行われた要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	イギリスと宥和政策	イギリスの宥和政策の背景と問題点について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、イギリスで宥和政策が採られ失敗に終わった要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
20	10/13	チェコスロヴァキアの解体	チェコスロヴァキアが解体された要因について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、チェコスロヴァキアが解体された要因を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
21	10/20	ヨーロッパの外交戦	この時期のヨーロッパ外交戦の特徴と問題点について考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、この時期のヨーロッパ外交戦の特徴と問題点を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
22	10/27	1930年代の遠望	1930年代の西洋政治史とは何だったのか、21世紀への教訓などについて考える。 法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1930年代の西洋政治史を学ぶ意味を理解し説明できるようになること。	
		事前学修	共通テキストに目を通しておく。	120分
		事後学修	授業中に提示された課題についてのリサーチを行い、エッセイにまとめて提出できるよう準備しておく。	120分
23	11/10	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
24	11/17	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
26	12/1	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
27	12/8	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
28	12/15	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
29	12/22	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
30	1/12	各自の個人研究報告	自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
		事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
		事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	阿部 徳幸	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。ゼミ生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：税法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
税法に興味がある者・税理士・国税専門官を目指す者でゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
前学期：教員による各テーマに関して教科書をもとに基礎理論の解説を行う。解説ののちグループごとに当該テーマに関する現状と課題を探索し、報告する。その報告を受け、全体でさらにディスカッションを行う。 後学期：各グループに割り当てられたテーマに関してグループ報告を行う。その報告を受けて、全体でさらにディスカッションを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員による個別テーマについての解説、若しくはゼミ生による課題テーマに関する報告ののち、それぞれのテーマに関してグループディスカッション、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。				3	3						
②	学修者は、各個別税法の概要とその問題点が説明できる。				3	3						
③	学修者は、課されたテーマに関するグループ報告に積極的に参加し、グループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
④	学修者は、各テーマに関するグループディスカッションに積極的に参加し、その結果をグループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
⑤	学修者は、各自ゼミ終了論文のテーマを見出し、その内容を報告できる。				4	4	4	4				4
⑥	学修者は、ゼミの様々な行事を通じて、他者とのコミュニケーション力を養う。									2	2	
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各テーマに関するグループ報告に当たり、報告者以外の者は、その前週までに予習レジュメを作成と提出を求める。その予習レジュメの中で到達目標①②に関連し、各テーマに対する論理的思考力が養われているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	前学期は税法基礎理論に関する講義を行う。後学期は各テーマに関するグループ報告を行う。その翌週の授業内において、その報告に基づく討論を行う。その中で、到達目標③④⑤に関わる課題の論理的考察力及び討論への積極的参加、意見の明瞭性・論理性及び他者の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べる事が出来たかをチェックリスト等により評価する。			10	10	10						30
授業への参画度	ゼミナールでは、一般授業と異なり合宿等をはじめいくつもの行事が予定されている。到達目標⑥に関連し、トータルの評価する。						10	10				20
その他(ゼミ終了論文)	ゼミ終了論文の提出は必須。論文としての形式が整っていること、挑戦力、論理的・批判的思考力及び問題発見・解決力などにより総合的に評価する。					30						30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	40	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾第10版』	石村耕治	清文社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16：30以降、9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ゼミでの学び方	4年生のゼミでは、ゼミ終了論文の作成を最終的な目標とする。そのため3年生最終ゼミ授業で課した宿題、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告し、教員による講評を受け、各自の問題点等を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を決定する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	各自ゼミ終了論文のテーマと概要をまとめる。	120分
		事後学修	各自ゼミ終了論文のテーマと概要について受けた講評をもとに、テーマと概要を再構築する。	120分
2	4/13	所得税法1	所得税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで所得税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、所得税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の所得税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
3	4/20	所得税法2	所得税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで所得税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、所得税法の各論と所得税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の所得税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
4	4/27	ゼミ終了論文作成①	第1回の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。	
		事前学修	第1回の授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。	120分
5	5/4	法人税法1	法人税法の基本原則と法人税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで法人税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、法人税法の基本原則と法人税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の法人税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
6	5/11	法人税法2	法人税法の各論と法人税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで法人税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、法人税法の各論と法人税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の法人税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	ゼミ終了論文作成②	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。	120分
8	5/25	相続税法1	相続税法の基本原則と相続税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで相続税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、相続税法の基本原則と相続税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の相続税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
9	6/1	相続税法2	相続税法の各論と相続税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで相続税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、相続税法の各論と相続税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の相続税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
10	6/8	ゼミ終了論文作成③	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。	120分
11	6/15	消費税法1	消費税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで消費制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、消費税法の基本原則と消費税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の消費税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
12	6/22	消費税法2	消費税法の基本原則と消費税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで消費税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、消費税法の各論と消費税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の消費税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ゼミ終了論文作成④	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。	120分
14	7/6	地方税法	地方税の基本原則と地方税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで地方税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、地方税の基本原則と地方税制に関する現状と課題を理解する。	
		事前学修	教科書の地方税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
		事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
15	7/13	ゼミ終了論文作成指導①	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前学期中に指摘された各自のゼミ終了論文の問題点を理解・解決し、作成に向けた準備を整える。	
		事前学修	前学期中に指摘された各自のゼミ終了論文の問題点の内容・疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
16	9/14	後学期でのゼミ授業での学び方	今学期は、ゼミで学修した項目をまとめ上げるゼミ終了論文の完成を目的とする。前学期に引き続き、各自の進捗状況に併せ、報告のもと現段階での講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前学期中に指摘された各自のゼミ終了論文の問題点を理解・解決し、作成に向けた準備を整える。	
		事前学修	前学期最後の授業において指摘された各自のゼミ終了論文の問題点の内容・疑問点をまとめておく。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
17	9/21	ゼミ終了論文作成報告①	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
18	9/28	ゼミ終了論文作成報告②	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	ゼミ終了論文作成報告③	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
20	10/12	ゼミ終了論文作成報告④	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
21	10/19	ゼミ終了論文作成報告⑤	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
22	10/26	ゼミ終了論文作成報告⑥	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
23	11/9	ゼミ終了論文作成報告⑦	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
24	11/16	ゼミ終了論文作成報告⑧	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	ゼミ終了論文作成報告⑨	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
26	11/30	ゼミ終了論文作成報告⑩	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
27	12/7	ゼミ終了論文作成報告⑪	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
28	12/14	ゼミ終了論文作成報告⑫	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
29	12/21	ゼミ終了論文作成指導②	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
30	1/18	ゼミ終了論文作成指導③	前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
		事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
		事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
【3年次】国内外の政治制度や政治機構の仕組みについて深く理解し、それらの制度や機構が政治行動にもたらすダイナミズムを明らかにする。
【4年次】3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【3年次】政治制度の基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。
【4年次】3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探求心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
【3年次】政治制度・統治機構に関する書籍を取り上げ、その書籍の各章について、毎回全員がレポートを書き発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。		
【4年次】各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中にグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				4							
②	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				4	4						
③	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐるどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				4	4	4	4				
⑤	政治制度をめぐる対立の解決のために必要な対策について、政治的市民としての責任を踏まえて、積極的に提示することができる。				4	4	4	4	4			
⑥	グループワークを通じて、政治制度をめぐる論点に関する自らの理解とあるべき対応策について、他者に論理的に主張することができる。				4	4	4	4	4	4		
⑦	グループワークを通じて、異なる考えや思想を持つ他者とコミュニケーションを図り、一方的な意見の押し付けではなく、相互的な自己変容を実現することができる。				4	4	4	4	4	4	4	
⑧	政治制度をめぐる自らの理解とあるべき対応策について、様々な理論やモデルおよび現実の政治的・社会的状況を踏まえて評価し、必要に応じて改善することができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②③④⑤にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。		5	5	5	5						20
討論・発表等	グループワークにおいて、異なる他者の考えを踏まえつつ自らの主張を論理的に示し、かつディスカッションを通じて省察することができたかを基準に、到達目標⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。						10	10	5			25
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①⑤⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5							5			10
その他(ゼミナール論文)	各自の興味・関心に沿った研究テーマについてゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	10	10						45
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	15	15	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
授業中に適宜指示する					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントを取る） 9号館4階9403研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/17	卒論の進捗報告とグループワーク (1)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
3	4/24	卒論の進捗報告とグループワーク (2)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
4	5/1	卒論の進捗報告とグループワーク (3)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
5	5/8	卒論の進捗報告とグループワーク (4)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
6	5/15	卒論の進捗報告とグループワーク (5)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	卒論の進捗報告とグループワーク (6)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
8	5/29	卒論の進捗報告とグループワーク (7)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
9	6/5	卒論の進捗報告とグループワーク (8)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
10	6/12	卒論の進捗報告とグループワーク (9)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
11	6/19	卒論の進捗報告とグループワーク (10)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	6/26	卒論の進捗報告とグループワーク (11)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
13	7/3	卒論の進捗報告とグループワーク (12)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
14	7/10	卒論の進捗報告とグループワーク (13)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
15	7/17	卒論の進捗報告とグループワーク (14)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
16	9/18	卒論の進捗報告とグループワーク (15)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
17	9/25	卒論の進捗報告とグループワーク (16)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
18	10/2	卒論の進捗報告とグループワーク (17)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
19	10/9	卒論の進捗報告とグループワーク (18)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
20	10/16	卒論の進捗報告とグループワーク (19)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
21	10/23	卒論の進捗報告とグループワーク (20)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
22	10/30	卒論の進捗報告とグループワーク (21)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
23	11/6	卒論の進捗報告とグループワーク (22)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
24	11/13	卒論の進捗報告とグループワーク (23)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
25	11/20	卒論の進捗報告とグループワーク (24)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
26	11/27	卒論の進捗報告とグループワーク (25)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
27	12/4	卒論の進捗報告とグループワーク (26)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
28	12/11	卒論の進捗報告とグループワーク (27)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
29	12/18	卒論の進捗報告とグループワーク (28)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
30	12/25	卒論の進捗報告とグループワーク (29)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
		事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
		事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	齋藤 康輝(代講 池田 実)	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個別発表，部分原稿添削指導を通じて，ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法改正など，日本国憲法に関して将来生じうる国民的課題に，有権者として，適切に対処できる判断力を身につけるために，憲法の基礎理論，人権，統治機構に関する知識を深め，これを基に，さまざまな社会問題を憲法との関連において考察し，その解決策を提案する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学術論文の技法を確認したうえで，履修者自らが憲法問題に関するテーマを設定し，これを考察する論文の部分原稿を定期的に提出する。指導教員は，提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを授業で共有し，履修者全員に共通する問題や要注意点を説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究発表，ゼミナール論文の作成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	憲法に関して生じている諸問題の所在や意義，学術研究の技法を説明することができる。						3	3		3					
②	設定された問題について，先行研究たる文献・資料を収集し，整理することができる。											3	3		
③	学術論文の技法に則り，ゼミナール論文を作成することができる。									4	4	3	3	3	
④	他者の研究発表を評価・批判し，自己の意見を述べることができる。								4	4	4	3	3	3	4
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	定期的に行われるゼミナール論文の中間発表におけるパフォーマンスおよびゼミナール論文部分原稿の内容から、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	完成し提出されたゼミナール論文の内容から、到達目標①②③に関する能力が身についているかを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
当日または次週のゼミで解説・講評等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	授業案内・導入	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，ゼミナール3年との関連でゼミナール4年を履修する意義等を説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，ゼミナール4年を履修する意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール3年の学修を通じて自分が得た気づき，知見をノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	60分
2	/	註の表記方法	学術論文等における註の役割と表記方法を説明し，ワークを行うことを通じて，履修者が正しく註を表記することができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，註の役割を理解し，これを正しく表記することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	90分
		事後学修	授業を振り返り，ワークを通じてみつけた問題に注意して，いま一度ワークを行い，正しく註を表記することができるようにする。	90分
3	/	論理の展開	指導教員の論文を題材に，その構成や論旨を解説することによって，履修者が論理を展開させる方法を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，学術論文において展開される論理を追い，論旨を正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する論文を熟読し，要旨をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，題材となった論文を再読し，その論理展開をノートに図式化する。	120分
4	/	ゼミナール論文構想の発表(1)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
5	/	ゼミナール論文構想の発表(2)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
6	/	ゼミナール論文構想の発表(3)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ゼミナール論文構想の発表 (4)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
8	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（1）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
9	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（2）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
10	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（3）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
11	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（4）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
12	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（5）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（6）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
14	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（7）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
15	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（8）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
16	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（9）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
17	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（10）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
18	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（11）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（12）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
20	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（13）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
21	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（14）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
22	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（15）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
23	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（16）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
24	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（17）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（18）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
26	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（19）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
27	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（20）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
28	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（21）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
29	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（22）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
30	/	ゼミナールの総括	2年間のゼミナール活動を振り返り、将来の展望を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゼミナールの経験を将来にどのように活かすかを展望し、説明することができる。	
		事前学修	ゼミナールの経験を将来にどのように活かすかを考え、まとめておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り、自分の将来展望を見直す。	60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個別発表，部分原稿添削指導を通じて，ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法改正など，日本国憲法に関して将来生じうる国民的課題に，有権者として，適切に対処できる判断力を身につけるために，憲法の基礎理論，人権，統治機構に関する知識を深め，これを基に，さまざまな社会問題を憲法との関連において考察し，その解決策を提案する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学術論文の技法を確認したうえで，履修者自らが憲法問題に関するテーマを設定し，これを考察する論文の部分原稿を定期的に提出する。指導教員は，提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを授業で共有し，履修者全員に共通する問題や要注意点を説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	研究発表，ゼミナール論文の作成

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法に関して生じている諸問題の所在や意義，学術研究の技法を説明することができる。				3	3		3				
②	設定された問題について，先行研究たる文献・資料を収集し，整理することができる。									3	3	
③	学術論文の技法に則り，ゼミナール論文を作成することができる。						4	4	3	3	3	
④	他者の研究発表を評価・批判し，自己の意見を述べることができる。					4	4	4	3	3	3	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	定期的に行われるゼミナール論文の中間発表におけるパフォーマンスおよびゼミナール論文部分原稿の内容から、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	完成し提出されたゼミナール論文の内容から、到達目標①②③に関する能力が身についているかを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
当日または次週のゼミで解説・講評等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	授業案内・導入	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，ゼミナール3年との関連でゼミナール4年を履修する意義等を説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，ゼミナール4年を履修する意義を理解し，説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール3年の学修を通じて自分が得た気づき，知見をノートにまとめておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	60分
2	/	註の表記方法	学術論文等における註の役割と表記方法を説明し，ワークを行うことを通じて，履修者が正しく註を表記することができるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して，註の役割を理解し，これを正しく表記することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	90分
		事後学修	授業を振り返り，ワークを通じてみつけた問題に注意して，いま一度ワークを行い，正しく註を表記することができるようにする。	90分
3	/	論理の展開	指導教員の論文を題材に，その構成や論旨を解説することによって，履修者が論理を展開させる方法を理解できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して，学術論文において展開される論理を追い，論旨を正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する論文を熟読し，要旨をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	授業を振り返り，題材となった論文を再読し，その論理展開をノートに図式化する。	120分
4	/	ゼミナール論文構想の発表 (1)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
5	/	ゼミナール論文構想の発表 (2)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
6	/	ゼミナール論文構想の発表 (3)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ゼミナール論文構想の発表 (4)	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
8	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（1）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
9	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（2）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
10	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（3）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
11	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（4）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
12	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（5）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（6）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
14	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（7）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
15	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（8）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
16	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（9）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
17	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（10）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
18	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（11）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（12）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
20	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（13）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
21	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（14）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
22	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（15）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
23	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（16）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
24	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（17）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（18）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
26	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（19）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
27	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（20）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
28	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（21）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
29	/	ゼミナール論文部分原稿の発表（22）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。	
		事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。	180分
		事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分
30	/	ゼミナールの総括	2年間のゼミナール活動を振り返り、将来の展望を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゼミナールの経験を将来にどのように活かすかを展望し、説明することができる。	
		事前学修	ゼミナールの経験を将来にどのように活かすかを考え、まとめておく。	60分
		事後学修	授業を振り返り、自分の将来展望を見直す。	60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	石川 徳幸	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
所属するゼミの専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，学生フォーラムへの参加，当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				その他	
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	ガイダンス 論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	90分
2	第一部 月4/13	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	90分
3	第一部 月4/20	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	90分
4	第一部 月4/27	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	90分
5	第一部 月5/4	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	90分
6	第一部 月5/11	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	90分
8	第一部 月5/25	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	90分
9	第一部 月6/1	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	90分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	90分
10	第一部 月6/8	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	90分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	90分
11	第一部 月6/15	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	90分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	90分
12	第一部 月6/22	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	90分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	90分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	90分
14	第一部 月7/6	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	90分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	90分
15	第一部 月7/13	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	90分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	90分
16	第一部 月9/14	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	90分
17	第一部 月9/21	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	90分
18	第一部 月9/28	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 月10/5	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	90分
20	第一部 月10/12	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	90分
21	第一部 月10/19	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	90分
22	第一部 月10/26	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分
23	第一部 月11/9	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分
24	第一部 月11/16	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 月11/23	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分
26	第一部 月11/30	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分
27	第一部 月12/7	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分
28	第一部 月12/14	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	90分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	90分
29	第一部 月12/21	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	90分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	90分
30	第一部 月1/18	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	90分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させ、期日までに論文を提出する。	90分

科目名	ゼミナール4年	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)

【履修条件】

【授業方法】

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①													
②													
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)												

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
2				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
3				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
4				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
5				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
6				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
8				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
9				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
10				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
11				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
12				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
14				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
15				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
16				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
17				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
18				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
20				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
21				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
22				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
23				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
24				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
26				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
27				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
28				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
29				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		
30				
		この回の到達目標		
		事前学修		
		事後学修		

科目名	ゼミナール4年	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として3年次に学習した内容に基づき、ゼミナール論文を論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：行政広報に基づく現代の諸問題について学習し、各自の関心に沿った研究テーマを見つけ、社会科学の方法論を学ぶ。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、ゼミナール論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。3年生のゼミナールからの継続。

【授業方法】		
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4	4						
②	担当教員の専門領域を深く理解し、これを適切に用いて自らの関心領域について議論することができる。				4	4	4	4	4			
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。								4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	与えられた課題に関して、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論に関して、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文に関して、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各講義の際に、報告者に解説・コメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに卒業論文指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	オリエンテーション及び導入講義	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を再確認できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/13	卒業論文進捗発表表①	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/20	卒業論文進捗発表表②	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
4	4/27	卒業論文進捗発表表③	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
5	5/4	卒業論文進捗発表表④	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
6	5/11	卒業論文進捗発表表⑤	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	卒業論文進捗発表⑥	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
8	5/25	卒業論文進捗発表⑦	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
9	6/1	卒業論文進捗発表⑧	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
10	6/8	卒業論文進捗発表⑨	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
11	6/15	卒業論文進捗発表⑩	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
12	6/22	卒業論文進捗発表⑪	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	卒業論文進捗発表⑫	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/6	卒業論文進捗発表⑬	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/13	卒業論文進捗発表⑭	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/14	課題の確認・検討①	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/21	課題の確認・検討②	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/28	課題の確認・検討③	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	課題の確認・検討④	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/12	課題の確認・検討⑤	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/19	課題の確認・検討⑥	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/26	課題の確認・検討⑦	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/9	論文の第一次報告①	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
24	11/16	論文の第一次報告②	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	論文の第一次報告③	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
26	11/30	論文の第一次報告④	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
27	12/7	論文の第二次報告①	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/14	論文の第二次報告②	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/21	論文の第二次報告③	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
30	1/18	論文提出に向けた最終調整	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
この授業では、比較政治学の代表的な研究業績に注目し、比較政治学の議論がどのようなものなのか、これまでにどのようなテーマが取り扱われてきたのか、過去に注目された議論が徐々に堆積して現在の比較政治学を支えているとしたら、具体的に、どのような研究業績が蓄積されてきたのかについて学修する。比較政治学の課題，対象，方法を理解するためには，具体例を通して学ぶことが最適であり，過去に一定の評価を得た研究業績こそ具体例とするのにふさわしいことから，第二次世界大戦後の比較政治学における主な研究を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して，世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，比較政治学の代表的な理論，モデル，概念などを修得するとともに，現実政治の具体例にそれらを結びつけて説明できることを理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストとして，入門書および専門書の両方を用いながら，比較政治学における主たる研究テーマについて，基礎的な理解と応用的な理解との双方を蓄積していく。そのためには，受講者によるテキストの内容についての報告と，それにもとづく課題に対する研究報告と討論を繰り返すことにより，授業の目的の達成を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週の授業において，受講者による報告と討論を行うとともに，セメスター期間中にレポートの提出と，それに対するフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について比較政治学の理論や概念を用いて具体的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
④	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	セメスター中，数回行うレポートおよびリアクション・ ペーパーにより，到達目標③④に関する学力を評価する。			10	10							20
討論・発表等	セメスター中，数回行う報告および討論により，到達目標 ①②③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①②③④について求められる学力が身につについて いるかを，ゼミナール論文により評価する。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し， 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	必携
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	必携
『政党システムの理論』	岩崎正洋	東海大学出版会	1999	参考書	推奨
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション：大統領制化の比較政治学とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュールなどについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	4/15	大統領制化の比較政治学	大統領制化（presidentialization）論の概要について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学における研究テーマの一つである「大統領制化」に関して学修する際の問題意識や、当該テーマの射程を説明することができる。	
		事前学修	教科書の序章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	4/22	ドイツにおける大統領制化の停滞	ドイツにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第1章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	4/29	ブレア後のイギリス	イギリスにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、イギリスにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第2章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	5/6	フランスにおける半大統領制の大統領制化	フランスにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランスにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第3章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	5/13	多極共存型民主主義における大統領制化	ベルギーにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ベルギーにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第4章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	オーストリアの大統領制化	オーストリアにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オーストリアにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	5/27	日本の大統領制化と政策過程の変容	日本における大統領制化と政策過程の変容の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本における大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	6/3	スウェーデンの大統領制化	スウェーデンにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スウェーデンにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第7章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	6/10	イスラエルの大統領制化	イスラエルにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、イスラエルにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第8章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	6/17	ロシアの大統領制化	ロシアにおける大統領制化の事例について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロシアにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第9章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	6/24	トルコの大統領制化	トルコにおける大統領制化の事例について、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トルコにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	日本政治の大統領制化	日本における大統領制化の事例について、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本における大統領制化の事例について説明することができる。	
		事前学修	教科書の終章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	7/8	大統領制化論の課題	各国の大統領制化の事例により明らかになった課題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国における大統領制化の抱える課題について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	7/15	大統領制化の比較政治学の意義	大統領制化の比較研究を行う意義について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大統領制化論の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
16	9/16	ゼミナール論文の執筆要領	ゼミナール論文の執筆要領について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の執筆および完成に向けて、ゼミナール論文に必要なことについて説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
17	9/23	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
18	9/30	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
20	10/14	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
21	10/21	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
22	10/28	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
23	11/11	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
24	11/18	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
26	12/2	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
27	12/9	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
28	12/16	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
29	12/23	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
30	1/13	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個人でマーケティングあるいは経営学に関する研究テーマを決定し，卒業論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
卒業論文の執筆を通じて，問題発見力，論理的思考力，データを用いた実証研究能力，プレゼンテーション能力を身につける。

【履修条件】
ゼミ試験の合格者のみ履修可能

【授業方法】
毎回のプロゼミにおける発表並びにサブゼミでの準備の繰り返しを通じて，個人で卒業論文を執筆する。その成果は，他大学の学生と合同発表会にて報告し，評価を受ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のプロゼミにおける発表並びにサブゼミでの準備の繰り返しを通じて、グループ論文を仕上げていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マーケティング，経営学など関連する文献の収集力				4	4	4					
②	マーケティング，経営学など関連する文献の読解				4	4	4					
③	マーケティング，経営学など関連する文献の分析力				4	4	4					
④	統計学の知識と実践							4	4	4	4	4
⑤	パワーポイントスライド等を使用したプレゼンテーション力							4	4	4	4	4
⑥	他者の論理を批判する力							4	4	4	4	4
⑦	他者の疑問に対して説得的に回答する力							4	4	4	4	4
⑧	チーム内で互いに刺激し、協働する力							4	4	4	4	4
⑨	自身の独自の論理を組み立て、相手を説得する力							4	4	4	4	4
⑩	英語で論文を執筆し、プレゼンテーションを行う力							4	4	4	4	4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	毎回のプロゼミにおける発言と発表	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	卒業論文	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
都度、プロゼミ内でフィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、関連する文献を紹介する				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務的にも示唆に富む研究に取り組む	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	論文テーマの探索①	個人で研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
2	4月14日	論文テーマの探索②	研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
3	4月21日	論文テーマの探索③	研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
4	4月28日	論文テーマの探索④	研究テーマを探索する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
		事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
5	5月5日	研究テーマの決定①	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
		事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	120分
6	5月12日	研究テーマの決定②	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
		事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	研究テーマの決定③	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
		この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
		事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	120分
8	5月26日	リサーチエッション①	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
		この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
		事前学修	文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
9	6月1日	リサーチエッション②	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
		この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
		事前学修	文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
10	6月8日	リサーチエッション③	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
		この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
		事前学修	文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
11	6月15日	調査設計①	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
		この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
		事前学修	調査設計の提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
12	6月22日	調査設計②	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
		この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
		事前学修	調査設計の提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	調査設計③	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
		この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチセッションに対応した調査の設計を行う。	
		事前学修	調査設計の提案書を作成する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、リサーチセッションをさらにブラッシュアップする。	120分
14	7月7日	フィールドワーク①	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
		この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
		事前学修	フィールドワークの実施	120分
		事後学修	次のフィールドワークの準備	120分
15	7月14日	フィールドワーク②	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
		この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
		事前学修	フィールドワークの実施	120分
		事後学修	次のフィールドワークの準備	120分
16	9月15日	フィールドワーク③	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
		この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
		事前学修	フィールドワークの実施	120分
		事後学修	次のフィールドワークの準備	120分
17	9月22日	仮説構築①	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
		この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
		事前学修	仮説を提示する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする。	120分
18	9月29日	仮説構築②	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
		この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
		事前学修	仮説を提示する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	データ収集と統計①	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
		この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
		事前学修	データの収集ならびに解析。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	120分
20	10月13日	データ収集と統計②	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
		この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
		事前学修	データの収集ならびに解析。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	120分
21	10月20日	論文執筆①	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	論文の構成を固める。	
		事前学修	論文の構成案を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
22	10月27日	論文執筆②	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	第1章（リサーチクエッション）、第2章（文献レビュー）を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
23	11月10日	論文執筆③	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	第3章（仮説）、第4章（統計分析）を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
24	11月17日	論文執筆④	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
		この回の到達目標	第5章（考察）、第6章（結論）を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	1 1 月 2 4 日	論文執筆⑤		論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。
		この回の到達目標	論文を完成させる。	
		事前学修	草稿を準備する。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
26	1 2 月 1 日	中間報告①		全体での討論を通じて論文のブラッシュアップを図る
		この回の到達目標	完成論文を準備する。	
		事前学修	他者の論文を読む。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
27	1 2 月 8 日	中間報告①		全体での討論を通じて論文のブラッシュアップを図る
		この回の到達目標	完成論文を準備する。	
		事前学修	他者の論文を読む。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
28	1 2 月 1 5 日	中間報告①		全体での討論を通じて論文のブラッシュアップを図る
		この回の到達目標	完成論文を準備する。	
		事前学修	他者の論文を読む。	240分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
29	1 2 月 2 2 日	プレゼン準備①		論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。
		この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	120分
30	1 月 1 2 日	プレゼン準備②		論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。
		この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
		事前学修	プレゼンテーションの準備する。	120分
		事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商事法に関する基本的事例・判例の検討を通じて、商事法の基本的な知識を身に付け、法的に分析する能力を獲得し、ゼミナール論文の執筆を通じて、論理的思考力・分析力・表現能力を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：商事法の基本的な知識と法的思考能力を修得するために、商事法に関する基本的事例・判例を検討し、検討した内容の研究発表を行う。これにより各自の研究テーマを見つけ出すとともに、グループワークを通じて協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容を踏まえて各自が各別の研究テーマについて知識を修得し、グループ全体で考察する。これによりテーマに関する解決策について研究を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者であること。毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】		
3年次：商事法に関する基本的事例・判例について、学修者各自が基本的な概念や制度を調べ、事例を分析する。担当者は割当された課題について発表し、それをもとに全員で質疑応答を行う。これを通じて、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができる能力を身に付ける。 4年次：学修者各自が研究テーマを設定し、それについて資料調査と研究発表する。担当者が発表した内容について全員で質疑応答を行うことにより、グループ全体でテーマに関する解決策を検討する。担当者はテーマに関する研究を深めてゼミナール論文を執筆することができるようになる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員、学修者相互間で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商事法の主要論点について十分に理解し、論理的に説明することができる。						3	3						
②	商事法の規定・学説・判例を調査し、適切な説明をし、質疑応答を通じて問題の解決策を提示できる。								3	3	3			
③	商事法の主要論点の検討のためにリーダーシップを発揮し、自分の意見を適切に述べることができる。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次と4年次の2年間継続して履修し、4年次にゼミナール論文を提出しなければならない。到達目標①②③が身についているかについて、商事法学の水準に照らしてゼミナール論文として適正な内容であるかどうか評価する。											
討論・発表等	毎回の授業における発表の準備において到達目標①②が身についているかを、討論の方法・内容によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	毎回の授業において担当部分以外の問題の事前調査において到達目標①②が身についているかを、授業中の質疑応答によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(ゼミナール論文)	3年次と4年次の2年間継続して履修し、4年次にゼミナール論文を提出しなければならない。到達目標①②③が身についているかについて、商事法学の水準に照らしてゼミナール論文として適正な内容であるかどうか評価する。	10	20	10								40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解説は、授業内に行うほか、補足説明についてはポータルシステムにて後日配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
六法（最新版（2020（令和2）年版）				その他	必携
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作ほか編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜3時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204） ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	会社の種類	3年次：リクエストに応じ最新の改正や判例を取り上げるため、以下の内容は変更があり得る。 4年次：各自のゼミナール論文のテーマに合わせるので、以下の内容は変更があり得る。 会社の種類はどのようなものか。基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
2	第一部 金4/17	会社の意義と会社法の目的	会社の意義は何か、会社法の目的としてどういうものがあるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
3	第一部 金4/24	会社の能力	会社の権利能力は何か、会社の能力は自然人と異なる点があるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
4	第一部 金5/1	会社の法人格	会社の法人格とはどういうものか、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
5	第一部 金5/8	株主平等の原則	株主平等の原則とはどういう制度か、その例外として属人的定めとは何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
6	第一部 金5/15	種類株式	普通株式とは何か、種類株式はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	新株発行の手続	新株発行とは何か、新株発行手続とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
8	第一部 金5/29	新株発行の差止め、無効、不存在	新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
9	第一部 金6/5	株式譲渡	株式譲渡とはどのような制度か、株式譲渡の制限という制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
10	第一部 金6/12	自己株式	自己株式とは何か、自己株式取得規制はどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
11	第一部 金6/19	自己株式取得の手続	自己株式取得とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
12	第一部 金6/26	社債	社債とは何か、社債発行規制とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	株主総会の運営	機関とは何か、株主総会運営の手続はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
14	第一部 金7/10	株主提案権	説明義務とは何か、株主提案権はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
15	第一部 金7/17	株主総会決議の瑕疵	株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
16	第一部 金9/18	競業取引と利益相反取引	競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
17	第一部 金9/25	取締役の義務	善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
18	第一部 金10/2	取締役と取締役会の役割	取締役とは何か、取締役会とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部 金10/9	取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
20	第一部 金10/16	報酬規制		取締役の報酬とは何か、取締役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
21	第一部 金10/23	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
22	第一部 金10/30	取締役の対会社責任		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
23	第一部 金11/6	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
24	第一部 金11/13	監査役、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 金11/20	資本制度と会社の計算	資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
26	第一部 金11/27	株式会社の設立	株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
27	第一部 金12/4	払込の手続と仮装払込	株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮装払込はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
28	第一部 金12/11	持分会社	合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
29	第一部 金12/18	合併と分割	合併とは何か、分割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分
30	第一部 金12/25	株式交換と事業譲渡	株式交換とは何か、株式譲渡とは何か、事業譲渡はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
		この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分
		事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：家族法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、ゼミのメンバーとともに、家族法に関連する具体的な主題につき、調査・研究を行い、発見した問題点の解決方法につき、グループで議論を深める。グループでの議論の内容は全員で共有し、最善の解決策を探る。また4年次の卒業論文作成に備え、研究テーマの発見につとめる。 4年次：3年次に選択したテーマにつき、文献調査を行うとともに、ゼミナール論文を執筆する。 3年次・4年次共通：年間を通して、学年を超えた懇親を深めるため、合同懇親会(年数回)、合宿(春・夏)、食事会(4年生のみ、年1回)の開催を予定している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：家族法における基礎的な考え方につき修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、ゼミでのグループワークや懇親会等を通して、他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関して、文献を収集するなどの調査活動を行い、知識を習得し、各自が設定した問題点につき、ゼミナール論文の執筆を通して、その解決を探ることにより、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を養う。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
3年次：家族法に関連する諸問題につき、毎週1名に報告をしてもらい、当該問題点につきグループディスカッションを行う。またゼミ時間中に指定された主題につきレポートを作成し、提出する。 4年次：各自で選定した研究テーマにつき、ゼミナール論文の執筆を行う。なおゼミナール論文の進捗状況は個々により異なることもあるため、シラバス記載よりも早く進捗する場合、遅く進捗する場合、あるいは進め方を変更する場合がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	家族法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				3	3	3					
②	家族法で問題とされる事象につき、積極的に問題点を発見し、それに対する解決の糸口を見出すことができる。							3	3	3	3	
③	現代的課題について理解し、自らの意見を述べるができる。							3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】				到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)														
小テスト等														
レポート等														
討論・発表等														
授業への参画度	到達目標①②③について、グループディスカッションへの積極的な参加をしているか、自ら発見した研究テーマに積極的に取り組んでいるかにより評価する。				10	10								20
その他(ゼミナル論文)	到達目標①②③について基礎知識等が身につけているかをゼミナル論文により評価する。			80										80
その他(留意事項)	【ゼミナルは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】													
その他()														
到達目標別の比率(%)				80	10	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対するフィードバックは、講義中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる家族法』	本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月	ミネルヴァ書房	2014	教科書	必携
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』	水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書	推奨

備考	その他必要に応じて、論文や判例評釈のコピーを指示することがある。
----	----------------------------------

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス及び導入講義	通年の講義内容につき簡単に解説する。授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明する。また、ゼミ運営にあたり必要な事項につき協議をすることにより、受講生は、ゼミの準備や年間計画を作成することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミの年間計画やそのために必要な準備を行うことができる。	
		事前学修	自らが興味をもった研究テーマに関連する新書を読み、何が書かれているかをまとめる。	120分
		事後学修	ゼミの年間計画を作成し、また研究を選定したテーマについて教科書の該当箇所を読んでおく。	120分
2	第一部月 4/13	研究テーマの調査	ゼミナール論文の研究テーマに関する資料を収集するために、パソコンを用いる検索方法を紹介する。また実際にパソコンを活用しての研究テーマ資料の検索を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマに関連する資料をリストアップすることができる。	
		事前学修	図書館でゼミナール論文の研究テーマに関連する書籍を探してみる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の研究テーマに関連してリストアップした資料を確認しておく。	120分
3	第一部月 4/20	研究テーマの選定	ゼミナール論文の研究テーマに関連する資料を引き続きパソコンを用いて検索し、興味・関心のあるテーマを探す。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマに関連する資料をリストアップし、調査を進めることができる。	
		事前学修	パソコンを用いて得られた検索結果をまとめ、必要に応じてプリントアウトしておく。	120分
		事後学修	プリントアウトした資料を読み、研究テーマの選定を行う。	120分
4	第一部月 4/27	研究テーマにかかる論文の収集	引き続き、パソコンを用いて検索をし、リストアップした論文を大学図書館や国会図書館で資料収集するための手法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマに関連する論文を図書館で入手することができる。	
		事前学修	パソコンを通してリストアップした論文のうち、図書館で入手すべき資料をリストアップする。	120分
		事後学修	大学図書館や国会図書館で論文を入手する。	120分
5	第一部月 5/4	研究テーマにかかる論文の調査	大学図書館や国会図書館等で入手した論文を整理し、読み進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学図書館や国会図書館等で入手した論文を読み進め、ゼミナール論文の研究テーマを整理することができる。	
		事前学修	大学図書館や国会図書館等で入手した論文を読んで、わからなかったところを書き出しておく。	120分
		事後学修	大学図書館や国会図書館等で入手した論文を読んで、わかったところをノートにまとめておく。	120分
6	第一部月 5/11	研究テーマにかかる論文の輪読	大学図書館や国会図書館等で入手した論文を、ゼミメンバー間で共有し、互いのゼミナール論文の研究テーマにつき議論をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学図書館や国会図書館等で入手した論文をもとに、ゼミメンバー間で議論を深めることができ	
		事前学修	ゼミメンバーとの議論のために、これまで自ら入手した論文をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミメンバーとの議論を通して、気づいた点をノートにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	研究テーマにかかる判例の収集	パソコンを用いて、テーマにかかる判例をリストアップする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、判例の検討・分析を通して、わが国における家族にかかわる問題を認識することができる。	
		事前学修	これまでの講義を受けて興味をもった判例をリストアップし、読んでおく。	120分
		事後学修	パソコンを用いて、リストアップした判例のリストを整理し、判例入手の準備をする。	120分
8	第一部月 5/25	研究テーマにかかる判例の分類	パソコンを用いて、リストアップした判例を整理・分類し、ノートにまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の事実と判旨を理解することができる。	
		事前学修	パソコンを用いてリストアップした判例の<事実の概要><判旨>を確認し、読んでノートにまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の<事実の概要><判旨>を再度確認し、入手予定の判例評釈をリストアップする。	120分
9	第一部月 6/1	研究テーマにかかる判例評釈の分析	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例についての判例評釈を読み、何が問題点であるかを明確にし、ノートにまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読み、何が問題となっているかを理解することができる。	
		事前学修	大学図書館・国会図書館等で入手した判例評釈を読み、わからないところを確認しておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈で何が問題とされているかをノートにまとめる。	120分
10	第一部月 6/7	研究テーマにかかる判例評釈の検討	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読み、問題とされていることに関しての自らの考えをまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読んで、自らの考えを述べることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読んで、何が書かれているかをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を再度読みなおし、気づいたことをノートにまとめておく。	120分
11	第一部月 6/14	研究テーマにかかる政策の調査	ゼミナール論文の研究テーマにかかり、現在わが国が取り組んでいる政策について調査する(インターネット・図書館を利用する)。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関してわが国ではどのような取り組みがあるかについて知り、理解することができる。	
		事前学修	インターネットでゼミナール論文の研究テーマに関連する新聞記事を調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかり、わが国が取り組んでいることをノートにまとめる。	120分
12	第一部月 6/22	研究テーマにかかる政策の分析・検討	ゼミナール論文の研究テーマにかかり、現在わが国で取り組んでいる政策について調査した資料を分析・検討し、何が問題となっているか理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、研究テーマにかかる政策を分析・検討し、何が問題となっているかを理解し、自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	インターネットで、官公庁のHPを検索し、自治体の取り組みを調査する。	120分
		事後学修	インターネットで調査し得られた結果をノートにまとめ、自らの意見を書き加えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部月 6/29	ゼミナール論文の主題		これまでの資料調査・分析・検討を通して自らが興味をもったテーマを設定し、当該テーマに関する問題点をまとめる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまで収集した資料を調査し、分析し、検討することにより、問題点を理解するとともに、自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでに収集した資料を再度読みなおし、自らが興味を持った問題点についてノートにまとめておく。	120分
		事後学修	研究テーマにつき、問題の所在や現在争われていること、収集した資料のリストを作成する。	120分
14	第一部月 7/6	ゼミナール論文の構成		これまでの資料の収集・分析・検討を通して得られた問題意識をもとに作成された、研究論文の主題をもとに、研究論文の構成を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでの資料の収集・分析・検討を通して自らが興味を持ったテーマにつきゼミナール論文の構成を作成し、何をどのように執筆するかを理解することができる。	
		事前学修	あらかじめ収集が済んでいる資料を再度読みなおし、必要な個所をピックアップし、ノートにまとめておくこと。	120分
		事後学修	作成したゼミナール論文の構成を再度確認し、論文の組み立てや考えの流れをノートにまとめておく。	120分
15	第一部月 7/13	まとめ・振り返り		これまで収集した資料を再度確認し、不足している資料を調査・収集・分析を行い、ノートにまとめる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまで収集した資料を再度確認するとともに、あらたに調査・収集の必要がある資料をリストアップし、自らが興味を持ち選定したゼミナール論文のテーマについて、大まかな論文構成と方向性を理解することができる。	
		事前学修	これまで収集した資料を再度確認し、わからない点をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	不足している資料を調査・収集・分析を行う、理解できた点をノートにまとめておく。	120分
16	第一部月 9/14	第1章の執筆準備		ゼミナール論文の第1章執筆に必要な資料を準備し、第1章で執筆すべきことを整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第1章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第1章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。	120分
17	第一部月 9/21	第1章の執筆		ゼミナール論文の第1章を執筆するにあたり、必要な資料を再度確認し、執筆をすすめる。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第1章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文第1章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。	120分
18	第一部月 9/28	第1章の振り返り		ゼミナール論文の第1章を執筆した原稿を読みなおし、第1章の文章を整え、問題点を整理する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章で問題点として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第1章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第1章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 10/5	第2章の執筆準備	ゼミナール論文の第2章執筆に必要な資料を準備し、第2章で執筆すべきことを整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第2章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第2章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。	120分
20	第一部月 10/12	第2章の執筆	ゼミナール論文の第2章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第2章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第2章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第2章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。	120分
21	第一部月 10/19	第2章の振り返り	ゼミナール論文の第2章を執筆した原稿を読みなおし、第2章の文章を整え、問題点を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第2章で問題点として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第2章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第2章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分
22	第一部月 10/26	第3章の執筆準備	ゼミナール論文の第3章執筆に必要な資料を準備し、第3章で執筆すべきことを整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第3章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第3章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第3章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。	120分
23	第一部月 11/9	第3章の執筆	ゼミナール論文の第3章を執筆するにあたり、必要な資料を再度確認し、執筆をすすめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第3章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第3章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第3章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。	120分
24	第一部 11/16	第3章の振り返り	ゼミナール論文の第3章を執筆した原稿を読みなおし、第3章の文章を整え、問題点を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第3章で問題点として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第3章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第3章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 11/23	第4章の執筆準備	ゼミナール論文の第4章執筆に必要な資料を準備し、第4章で執筆すべきことを整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第4章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第4章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第4章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。	120分
26	第一部月 11/30	第4章の執筆	ゼミナール論文の第4章を執筆するにあたり、必要な資料を再度確認し、執筆をすすめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第4章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第4章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第4章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。	120分
27	第一部月 12/7	第4章の振り返り	ゼミナール論文の第4章を執筆した原稿を読みなおし、第4章の文章を整え、問題点を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第4章で問題として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第4章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第4章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分
28	第一部月 12/14	第5章の執筆準備・執筆	ゼミナール論文の第5章を執筆準備し、執筆し、第5章の文章の整え、問題点を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第5章の執筆準備を進め、執筆し、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の第5章に執筆すべき内容を確認し、執筆する。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の第5章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分
29	第一部月 12/21	振り返り・まとめ	作成したゼミナール論文を通読し、誤字脱字の修正、論理構成につき再度確認し、修正を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自らゼミナール論文を批判的に検討し、修正をすることができる。	
		事前学修	作成したゼミナール論文を再度確認し、気になった点をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	作成したゼミナール論文を再度修正し、内容を再度確認する。	120分
30	第一部月 1/18	ゼミナール論文提出 まとめ	完成した論文を最終的に確認し、まとめて提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、完成した研究テーマに関して問題点を意識し、自らの考えを述べ、文章にまとめることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の提出にあたり、誤字脱字を再度確認し、体裁を整えておく。	120分
		事後学修	提出したゼミナール論文の概要につき、別途ノートにまとめておく。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	大山 盛義	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次のゼミナールにおいて学んだ判例に関する知識を基に、各自で設定したテーマについてより学修を深め、ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働法の基礎理論を確固たるものにして、各自の興味にしたがってテーマに関する資料収集・情報整理と論文作成という過程で専門的知識を身につける。

【履修条件】
3年次、本ゼミを履修していること。

【授業方法】
グループワークを通じて研究報告をした3年次とは異なり、本年はゼミナール論文完成に向けて個人で調査研究と報告を行い、それぞれのテーマに関して全体で議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマに従い、予め学習した上でディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、労働法に関わる現状や課題について総合的に理解し、説明することができる。				3	3						
②	労働問題や労働法に関する課題や問題を提示し、論理的・批判的な考察を通じて課題に対する解決策を示すことができる。						4	4	4			
③	ゼミナールを通じて様々な意見や疑問に触れることによって、協働することや多様性について考え、社会生活に生かすことができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自ら選択したテーマについて、必要な知識を獲得しこれを 分析整理した上で、プレゼンテーションができているか、 論文作成ができているかを評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなけれ ばならない。	20	20	10								50
その他(留意事項)	ゼミナールは2年間継続して履修し、成績評価は4年次後期 に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表・報告に対してその都度講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。各自のテーマ毎に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜日3校時。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナール論文作成に向けて準備事項の説明と、報告スケジュールの決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各自の報告テーマの方向性を決定する。	
		事前学修	春休み中に完成させたゼミナール論文の概要を確認する。	120分
		事後学修	各自のテーマについて必要な資料を確認する。	120分
2	4/14	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
3	4/21	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
4	4/28	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
5	5/5	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
6	5/12	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	個別テーマについての概要 報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
8	5/26	個別テーマについての概要 報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
9	6/2	個別テーマについての概要 報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
10	6/9	個別テーマについての概要 報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
11	6/16	個別テーマについての概要 報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
12	6/23	個別テーマについての概要 報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
14	7/7	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
15	7/14	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
16	9/15	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
17	9/22	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
18	9/29	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
20	10/13	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
21	10/20	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
22	10/27	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
23	11/10	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
24	11/17	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
26	12/1	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
27	12/8	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
28	12/15	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
29	12/22	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
30	12/12	個別テーマについての総括	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
		事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	岡西 賢治	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法に関する基礎理論を修得するとともに、報告や議論を通じて、現実の社会のなかで刑法がいかに機能しまた機能すべきかについて自らの考えが説明できるようにする。また、最終的に提出すべき論文を書くための、文献の検索方法や引用のルールなどに関する知識を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各自が関心を持つテーマについて、報告し、討論ができ、論文としてまとめられるような能力を修得する。あわせて、グループワークなどを通じて協働する意識を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
各自で設定したテーマについて、報告を行い、全体で議論する。報告を行うためや論文を書くために資料等の収集方法について説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自で設定したテーマについて報告を行い、全体で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における刑法の役割を理解し、説明することができる。						3	3						
②	現実の社会のなかで刑法が抱える問題を発見し、説明することができる。							3						
③	犯罪や刑罰に関する課題について、論理的・合理的な見解が示すことができる。								3	3	3			
④	これまでの刑法をめぐる議論をふまえた上で、新たな問題意識を持ち、独自の解決方法を示すことができる。								3	3	3	3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	基礎的知識をふまえた上で、論点を整理することができ、 説得力を有するものとなっているかを判断する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	テーマを設定した前提を確認しながら、資料・文献の収集 が適切になされているか、正しい引用方法によっている か、論文の構成や論理の展開が妥当であるかを判断する。	10	10	20	20							60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告については終了後にコメントする。論文については添削し論評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜の昼休み時間 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	報告の方法	報告の方法について説明し、討論の進め方を確認する。	
		この回の到達目標	報告の方法を理解し、テーマについての理解を深める。	
		事前学修	報告することの意義について考える。	120分
		事後学修	報告のテーマや順番について全体で話し合い、各自のテーマを決める。	120分
2	4/13	報告テーマの選定	各自が報告するテーマについて、全体で確認しながら、それぞれが概要を述べる。 報告の順番を決める。	
		この回の到達目標	報告テーマについて簡単に説明することができる。	
		事前学修	テーマの概要をまとめておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
3	4/20	報告（1）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマに関する議論をふまえて、次回の報告に反映できるように準備する。	120分
4	4/27	報告（2）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
5	5/4	報告（3）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
6	5/11	報告（4）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	報告（5）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
8	5/25	報告（6）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
9	6/1	報告（7）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
10	6/8	報告（8）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
11	6/15	報告（9）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
12	6/22	報告（10）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	報告（１１）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
14	7/6	報告（１２）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
15	7/13	報告（１３）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
16	9/14	報告（１４）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
17	9/21	報告（１５）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
18	9/28	報告（１６）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	報告（１７）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
20	10/12	報告（１８）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
21	10/19	報告（１９）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
22	10/26	報告（２０）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
23	11/9	報告（２１）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分
24	11/16	報告（２２）	報告を行い、全体で討論する。	
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。	
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。	120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	11/23	報告（2 3）	報告を行い、全体で討論する。
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。120分
26	11/30	報告（2 4）	報告を行い、全体で討論する。
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。120分
27	12/7	報告（2 5）	報告を行い、全体で討論する。
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。120分
28	12/14	報告（2 6）	報告を行い、全体で討論する。
		この回の到達目標	報告の内容について理解し、テーマに関する議論ができるようにする。
		事前学修	報告テーマについて問題点を整理し、課題が指摘できるようにしておく。120分
		事後学修	テーマについて指摘された事項を報告に反映することができる。120分
29	12/21	論文テーマの報告	報告を行い、コメントを加える。
		この回の到達目標	論文の趣旨を説明することができる。
		事前学修	論文のポイントとなるべき点を整理しておく。120分
		事後学修	指摘された事項について論文に反映できるようにする。120分
30	1/18	これまでの報告に関する振り返り	これまでの報告で残された課題等を検討する。
		この回の到達目標	今後の議論の仕方に反映できるようにする。
		事前学修	各自の報告について論点を整理し、問題点に対する解決策を考えておく。120分
		事後学修	報告の際に検討できなかった点を整理しておく。120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
行政法上で議論されている様々な問題について、自己の関心に基づいて論文執筆を行うとともに、他の受講生の動向についてもゼミナール形式で議論などを行うことによって広く行政上の問題について考察する機会を持ちたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成して貰います。また、他の受講生がテーマについても理解することによって、広く行政法上の問題について、理解をして貰いたいと考えています。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行いたいと思います。発表された内容をもとに全員で議論していきたいと思います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政法に関する基礎的概念を理解していること						3	3	3					
②	行政法に関する基礎的判例を理解していること						3	3	3					
③	現実の行政において、行政および裁判所の判断に関して批判的に見ることができ、そして、解決策を提示することができること								3	3	3			
④	論文の形式や、論文の事前報告の仕方などがある程度できるようになっていること										3	3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関して、報告に関しての質疑応答を評価していくことになります。	5	5	5								15
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④に関して、ゼミナール論文が提出されたことを前提に、その内容はもちろんのこと、形式などについて評価していくことになります。	20	20	20	25							85
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習のため、個別的に対応することにいたします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	ゼミナール論文作成がメインとなり、各自で文献を入手する必要があるため、教科書・参考書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日の授業前・授業後に行います。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4／8	前期オリエンテーションおよび論文作成の手引き①	ゼミナール論文作成の手引きについて、まずはテーマ設定について行っていききたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討するようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
2	4／15	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
3	4／22	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
4	4／29	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
5	5／6	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
6	5／13	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5 / 2 0	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
8	5 / 2 7	論文作成の手引き②	ゼミナール論文作成の手引きについて、資料収集について取り上げたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生がテーマを決定したことを前提に、文献の収集方法などについて確認することができるようになる。	
		事前学修	自身のテーマに関連する文献をピックアップするようにしてください。	120分
		事後学修	実際に文献を収集するようにしてください。	120分
9	6 / 3	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
10	6 / 1 0	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
11	6 / 1 7	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
12	6 / 2 4	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7 / 1	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
14	7 / 8	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
15	7 / 15	前期総括	ゼミナール論文についての前期までの進捗状況を客観的に把握してもらいたいと考えています。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文についての自身の状況を客観的に把握することができるようになる。	
		事前学修	当初の状況と現在を比べてどの点が進んだのか、あるいは、成長したのかを考えるようにしてください。	120分
		事後学修	論文提出までに何を行っていく必要があるのかを検討するようにしてください。	120分
16	9 / 16	後期オリエンテーション及び導入講義	論文の体裁や締切などを再度確認していきたいと思います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文についての自身の状況を客観的に把握することができるようになる。	
		事前学修	論文執筆を開始する、あるいは、文献を読み込んで執筆内容を検討するようにしてください。	120分
		事後学修	論文提出までに何を行っていく必要があるのかを検討するようにしてください。	120分
17	9 / 23	ゼミナール論文の報告会（中間報告）①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
18	9 / 30	ゼミナール論文の報告会（中間報告）②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	ゼミナール論文の報告会 (中間報告) ③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
20	10/14	ゼミナール論文の報告会 (中間報告) ④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
21	10/21	ゼミナール論文の報告会 (中間報告) ⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
22	10/28	ゼミナール論文の報告会 (中間報告) ⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
23	11/1	ゼミナール論文の報告会 (最終報告) ①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
24	11/8	ゼミナール論文の報告会 (最終報告) ②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1 1／2 5	ゼミナール論文の報告会 (最終報告) ③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
26	1 2／2	ゼミナール論文の報告会 (最終報告) ④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
27	1 2／9	ゼミナール論文の報告会 (最終報告) ⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
28	1 2／1 6	ゼミナール論文の報告会 (最終報告) ⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
29	1 2／2 3	完成版のゼミナール論文の 報告会①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	最終提出に向けて準備を整えるようにしてください。	120分
30	1／1 3	完成版のゼミナール論文の 報告会②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
		事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
		事後学修	最終提出に向けて準備を整えるようにしてください。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小田 司	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法に関する重要項目について研究報告及び討議を行い、その成果として、民事訴訟法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法に関する重要項目について調査、報告、討議を行うことにより、民事訴訟法についての高度な知識を身につけ、論文を作成するための能力を修得する。

【履修条件】
民事訴訟法に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
各自が選択するテーマについて報告を行い、その内容について全員で討議する。また、学修効果を高めるために、民事訴訟法に関する他大学との討論会に参加する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全員での討議において積極的な発言を求めるほか、選択したテーマについてゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法の概念を理解し、これを用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	民事訴訟法の重要な論点を深く理解し、自己の意見に基づいて議論することができる。						3	3	3	3		
③	教員や他の履修者の意見を受け入れ、自己の学修状況を分析した上で、論文の執筆を進めることができる。								3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自選択したテーマについて行われる報告とそれに対する 討議において有益な意見を述べることをできたかを評価す る。	20	20									40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	提出されたゼミナール論文について、論理的かつ批判的な 論証が行われているかを評価する。			60								60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の報告に対して講評するほか、ゼミナール論文について執筆段階ごとに講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	論文テーマの選定（1）	論文のテーマを選定するための質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	論文のテーマを選定するにあたり、適切ね議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補をいくつか挙げて、選定した理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
2	4/15	論文テーマの選定（2）	論文のテーマを選定するための質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	論文のテーマを選定するにあたり、適切ね議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補をいくつか挙げて、選定した理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	論文テーマの選定（3）	論文のテーマを選定するための質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	論文のテーマを選定するにあたり、適切ね議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補をいくつか挙げて、選定した理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
4	4/29	文献の収集（1）	論文のテーマに関する文献を収集するための質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	論文のテーマに関する文献を収集するにあたり、注意事項を説明することができる。	
		事前学修	文献の収集方法について検討し、質問事項をまとめておく。	120分
		事後学修	授業で確認したことを踏まえて、関連する資料を収集する。	120分
5	5/6	文献の収集（2）	論文のテーマに関する文献を収集するための質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	論文のテーマに関する文献を収集するにあたり、注意事項を説明することができる。	
		事前学修	文献の収集方法について検討し、質問事項をまとめておく。	120分
		事後学修	授業で確認したことを踏まえて、関連する資料を収集する。	120分
6	5/13	文献収集（3）	論文のテーマに関する文献を収集するための質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	論文のテーマに関する文献を収集するにあたり、注意事項を説明することができる。	
		事前学修	文献の収集方法について検討し、質問事項をまとめておく。	120分
		事後学修	授業で確認したことを踏まえて、関連する資料を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	文献の整理 (1)	収集した文献を確認・整理し、不足について指示する。	
		この回の到達目標	収集した文献を確認・整理するにあたり、注意事項を説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を確認・整理し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業で確認したことを踏まえて、必要に応じて関連する資料を収集する。	120分
8	5/27	文献の整理 (2)	収集した文献を確認・整理し、不足について指示する。	
		この回の到達目標	収集した文献を確認・整理するにあたり、注意事項を説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を確認・整理し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業で確認したことを踏まえて、必要に応じて関連する資料を収集する。	120分
9	6/3	文献の整理 (3)	収集した文献を確認・整理し、不足について指示する。	
		この回の到達目標	収集した文献を確認・整理するにあたり、注意事項を説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を確認・整理し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業で確認したことを踏まえて、必要に応じて関連する資料を収集する。	120分
10	6/10	学説の確認・整理 (1)	学説を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	論文に必要な学説の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関連する学説を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/17	学説の確認・整理 (2)	学説を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	論文に必要な学説の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関連する学説を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/24	学説の確認・整理 (3)	学説を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	論文に必要な学説の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関連する学説を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	判例の確認・整理（1）	判例を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	論文に必要な判例の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関連する判例を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/8	判例の確認・整理（2）	判例を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	論文に必要な判例の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関連する判例を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/15	判例の確認・整理（3）	判例を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	論文に必要な判例の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関連する判例を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	前期の振り返り	前期の学修事項を振り返るとともに、論文を作成する上での注意事項等を確認する。	
		この回の到達目標	論文を作成するための前提となる注意事項を説明できる。	
		事前学修	前期を振り返る。また、論文を作成する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/23	課題の確認・検討（1）	課題を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関する課題を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/30	課題の確認・検討（2）	課題を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関する課題を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	課題の確認・検討（3）	課題を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文に関する課題を整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/14	論文の一次報告（1）	論文の一次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	学説・判例の検討を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、論文に修正を加える。	120分
21	10/21	論文の一次報告（2）	論文の一次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	学説・判例の検討を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、論文に修正を加える。	120分
22	10/28	論文の一次報告（3）	論文の一次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	学説・判例の検討を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、論文に修正を加える。	120分
23	11/11	論文の二次報告（1）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分
24	11/18	論文の二次報告（2）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	論文の二次報告（3）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分
26	12/2	論文の二次報告（4）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
		この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
		事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分
27	12/9	論文の最終調整（1）	作成した論文を検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文を完成するにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて準備する。	120分
		事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
28	12/16	論文の最終調整（2）	作成した論文を検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文を完成するにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて準備する。	120分
		事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
29	12/23	論文の最終調整（3）	作成した論文を検討し、不十分な個所について指示する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文を完成するにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて準備する。	120分
		事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/13	全体の振り返り	2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文を完成させるにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて準備を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、論文提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小野寺 千世	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した商法分野の基礎的知識に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを設定したうえで、当該テーマに関する裁判例および学説を考察し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学修した内容に基いて、商法学における各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な社会的問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
4年次生を対象とする。

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、随時、進捗段階における報告表を行い、報告内容をもとにグループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	研究テーマに関する主要な論点、それに関する裁判例および学説を説明することができる。				3	3						3
②	研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3	3	3	3	3
③	研究テーマについて、ゼミナール論文としてまとめることができる。				3		3	3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、研究報告、および討論において自分の意見を述べる ことができたかを基準に評価する。	20	20									40
授業への参画度	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、授業、グループワーク等における質疑応答等によ って評価する。	10	10									20
その他(ゼミナール 論文)	到達目標③についての知識・技能・態度が身についている かを、ゼミナール論文により評価する。			40								40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、講義中に行う。必要がある場合には、電子メール等によって行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法判例百選第3版	岩原=神作=藤田編	有斐閣	2016	参考書	任意
保険法判例百選	山下=洲崎編	有斐閣	2010	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:20～13:00研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（9号館3階 9308号室）メールアドレス： onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	卒業論文のテーマ設定	卒業論文における問題意識を明確にする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明し、問題意識を明確に述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
2	4/14	テーマの確認	卒業論文におけるテーマを決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明し、問題意識を明確に述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
3	4/21	テーマの最終決定	卒業論文の考察順等を決定する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明し、問題意識を明確に述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
4	4/28	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
5	5/5	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
6	5/12	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
8	5/26	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
9	6/2	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
10	6/9	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
11	6/16	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
12	6/23	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	中間報告	文献等を分析した結果のプレゼンテーションを受け、テーマに関して議論する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は中間報告の準備をし、担当者以外は資料等に目を通し、テーマに関する検討をする。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
14	7/7	中間報告	文献等を分析した結果のプレゼンテーションを受け、テーマに関して議論する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は中間報告の準備をし、担当者以外は資料等に目を通し、テーマに関する検討をする。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
15	7/14	中間報告	文献等を分析した結果のプレゼンテーションを受け、テーマに関して議論する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	報告担当者は中間報告の準備をし、担当者以外は資料等に目を通し、テーマに関する検討をする。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
16	9/15	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
17	9/22	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
18	9/29	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
20	10/13	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
21	10/20	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
22	10/27	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
23	11/10	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
24	11/17	論文進捗報告	文献・資料を分析した結果を説明・解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
		事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	論文進捗報告	卒業論文における考察について最終的な確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
		事前学修	卒業論文を完成させる。	120分
		事後学修	議論をふまえ、卒業論文を推敲する。	120分
26	12/1	論文進捗報告	卒業論文における考察について最終的な確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
		事前学修	卒業論文を完成させる。	120分
		事後学修	議論をふまえ、卒業論文を推敲する。	120分
27	12/8	論文進捗報告	卒業論文における考察について最終的な確認をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
		事前学修	卒業論文を完成させる。	120分
		事後学修	議論をふまえ、卒業論文を推敲する。	120分
28	12/15	最終報告	テーマに関する考察結果を、簡潔に、わかりやすく報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
		事前学修	完成した卒業論文を推敲する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、完成した卒業論文を推敲する。	120分
29	12/22	最終報告	テーマに関する考察結果を、簡潔に、わかりやすく報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
		事前学修	完成した卒業論文を推敲する。	120分
		事後学修	議論をふまえ、完成した卒業論文を推敲する。	120分
30	1/12	最終報告	テーマに関する考察結果を、簡潔に、わかりやすく報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
		事前学修	完成した卒業論文を推敲する。	120分
		事後学修	完成した卒業論文を提出する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
地方自治の現場で生起している様々な問題を取り上げて考察することで、地方自治の制度や機能に関する基本的な事項を学修すると共に、主権者として地方自治に関わっていくための問題意識を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民(＝主体)として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考(考え方)を修得する。

【履修条件】
原則として、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を既に履修済みか現在履修していること。

【授業方法】

授業で使用する地方自治に関する論文を受講生が主体的に選び取り、報告とディスカッションを中心に据えた演習形式により行う。また折々に卒論作成の進捗状況について発表し、受講生皆で検討する。なお授業の段取り、報告、ディスカッションの手順などについては、第1回目の授業において担当教員が説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員、受講者全員によるディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治の仕組みや全体像を理解することができる。				3	3			3	3	3	3
②	地方自治で生起する諸問題について、論理的かつ批判的に考察することができる。				3		3		3	3	3	3
③	地方自治で生起する諸問題について注意深く観察し、自分の意見を述べるができる。				3			3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、それらが身についているかを日ごろの授業への関わり（報告、ディスカッション）の中で評価する。	20	20	30								70
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年時と4年時の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。また4年時末には、ゼミナールの総仕上げとして「ゼミナール論文」を提出しなければならない。	10	10	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	演習で使う文献、論文については、授業1回目に受講生全員と相談しながら決定する。				

【オフィスアワー】
月曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス：授業内容の説明 導入講義	これからの授業概要、演習計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた演習の内容であること、また演習計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、授業時に紹介した参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部月 4/13	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部月 4/20	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部月 4/27	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部月 5/4	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部月 5/11	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	第一部月 5/25	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	第一部月 6/1	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	第一部月 6/8	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	第一部月 6/15	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	第一部月 6/22	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	第一部月 7/6	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	第一部月 7/13	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
16	第一部月 9/14	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
17	第一部月 9/21	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
18	第一部月 9/28	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 10/5	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
20	第一部月 10/12	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
21	第一部月 10/19	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
22	第一部月 10/26	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
23	第一部月 11/9	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
24	第一部月 11/16	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部月 11/23	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心に向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
26	第一部月 11/30	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心に向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
27	第一部月 12/7	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心に向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
28	第一部月 12/14	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心に向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
29	第一部月 12/21	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心に向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
30	第一部月 1/18	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	授地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
		この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心に向ける。	120分
		事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について，グループ活動を含めて学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について学習し，各自の興味・関心に沿った研究テーマを追求できるようになる。知的財産管理技能検定3級の取得を目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し，知的財産法に関する現代の諸問題への理解を深め，制度のあり方について自分自身の見解を論理的に提示できるようになる。また，より一般的に，自身の問題関心を、学問的意義で裏付け、他者の力も借りつつ検討し、解決策を見いだす手法を会得する。 関連DP及びCP：法律・経営法学科1，7，8 政治経済・新聞・公共政策学科1～8

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：基本的なテキスト及び時事問題について履修者が担当の発表を行い，その内容についてグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。適宜，外部施設見学を行う。また，履修者の希望に応じて，集団で統一テーマについて対外インタビュー等も実施しながら研究し，対外的に発表を行う。知的財産管理技能検定3級の取得に向けてサブゼミ等を実施する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて文献やインタビュー等を通じて得られた知見を随時発表し，ディスカッション及び教員による解説を行う。ゼミナール論文を作成する段階では，サブゼミ等においてゼミ生や教員との間で議論しながら進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に少人数の討論やグループワークの形式で、学生及び教員の間で双方向のコミュニケーションをとりながら進める。見学、訪問も、問題関心に応じた見学、訪問先の選定や連絡調整、訪問、事後対応を含めて、ゼミ生主導で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	知的財産に関わる制度がどのような目的を有しているか、私益と公益のババランスの重要性を含めて、具体的に説明する。					3	3	3	3	3	3	3
②	知的財産法制度の概要について、具体例を交えながらわかりやすく説明する。					3	3	3	3	3	3	3
③	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を挙げる。					3	3	3	3	3	3	3
④	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、個人又はゼミ生の協調を通じて探求する。					3	3	3	3	3	3	3
⑤	知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より一般的な法制度上の課題として位置づけて説明する。					3	3	3	3	3	3	3
⑥	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例について、個別的に、及び、一般的な法制度上の課題として、解決策を検討する。					3	3	3	3	3	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30	
授業への参画度	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30	
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。 ゼミナール論文は、テーマ設定から調査研究過程、完成した論文の水準等を総合的に評価する。	5	5	5	5	10	10					40	
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		15	15	15	15	20	20					100	

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ活動を通じて随時行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度

【オフィスアワー】	
月曜11時～12時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	オリエンテーション及び導入講義	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てる。	
		この回の到達目標	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てることができる。	
		事前学修	ゼミ活動について、情報を収集して、イメージをふくらませておく。	120分
		事後学修	立案した計画に基づき、準備を進める。	120分
2	4/14	知的財産法制度の基礎学習①	時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
3	4/21	知的財産法制度の基礎学習②	時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
4	4/28	知的財産法制度の基礎学習③	時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
		この回の到達目標	時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
5	5/5	卒論テーマに関する学習①	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
		この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を認識する。	
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
6	5/12	卒論テーマに関する学習②	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/19	卒論テーマに関する学習③	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
8	5/26	卒論テーマに関する学習④	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
9	6/2	卒論テーマに関する学習⑤	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
10	6/9	外部施設見学	知的財産関連施設を見学し、知的財産法制度と対象施設の役割を理解する。
		この回の到達目標	知的財産の法制度の概要と当該施設の役割について理解し、説明できるようになる。
		事前学修	見学対象施設について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	見学を通じて得られた理解についてさらに調べを進める。210分
11	6/16	卒論テーマに関する学習⑥	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
12	6/23	卒論テーマに関する学習⑦	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	卒論テーマに関する中間報告①	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題を検討する。	
		この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題について把握する。	
		事前学修	中間報告を準備し、課題を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
14	7/7	卒論テーマに関する中間報告②	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題を検討する。	
		この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
		事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
15	7/14	前学期の学習のまとめと今後の活動の立案	各自の卒論テーマについて知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動を検討する。	
		この回の到達目標	知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動について見通しを持つ。	
		事前学修	前学期の卒論テーマに関する学習を通じた疑問点や課題を洗い出し、ゼミ活動に関する意見をまとめておく。	120分
		事後学修	疑問点や課題の解消を確認し、今後のゼミ活動について必要な準備を進める。	120分
16	9/15	後学期の学習の準備	後学期のゼミ活動についてイメージを出し合い、計画を立案する。	
		この回の到達目標	後学期のゼミ活動について皆のイメージを実現し得るような計画を立案する。	
		事前学修	後学期のゼミ活動についてイメージとその裏付けを膨らませておく。	120分
		事後学修	後学期のゼミ活動の計画に基づいて準備を始める。	120分
17	9/22	卒論テーマに関する学習⑧	計画に基づき、各自、調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
18	9/29	卒論テーマに関する学習⑨	計画に基づき、各自、調査研究を進める。	
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	10/6	卒論テーマに関する学習⑩	計画に基づき、各自、調査研究を進める。
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
20	10/13	卒論テーマに関する学習⑪	計画に基づき、各自、調査研究を進める。
		この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。
		事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
21	10/20	卒論テーマに関する中間報告2①	各自の卒論テーマに関する2回目の中間報告を行い、今後の課題を検討する。
		この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題について把握する。執筆の準備を始める。
		事前学修	中間報告を準備し、課題を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
22	10/27	卒論テーマに関する中間報告2②	各自の卒論テーマに関する2回目の中間報告を行い、今後の課題を検討する。
		この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題について把握する。執筆の準備を始める。
		事前学修	中間報告を準備し、課題を挙げておく。120分
		事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。120分
23	11/10	卒論執筆①	卒論の執筆を開始する。
		この回の到達目標	卒論の執筆を開始する。
		事前学修	卒論の執筆を開始する準備を進める。120分
		事後学修	卒論の執筆を開始する。120分
24	11/17	卒論執筆②	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。
		この回の到達目標	卒論を執筆する。
		事前学修	卒論を執筆する。120分
		事後学修	卒論を執筆する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	卒論執筆③	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。	
		この回の到達目標	卒論を執筆する。	
		事前学修	卒論を執筆する。	120分
		事後学修	卒論を執筆する。	120分
26	12/1	卒論執筆④	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。	
		この回の到達目標	卒論を執筆する。	
		事前学修	卒論を執筆する。	120分
		事後学修	卒論を執筆する。	120分
27	12/8	卒論執筆⑤	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。	
		この回の到達目標	卒論を執筆する。	
		事前学修	卒論を執筆する。	120分
		事後学修	卒論を執筆する。	120分
28	12/15	卒論執筆⑥	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。	
		この回の到達目標	卒論を執筆する。	
		事前学修	卒論を執筆する。	120分
		事後学修	卒論を執筆する。	120分
29	12/22	卒論執筆⑦ 提出に向けた課題の整理	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。	
		この回の到達目標	卒論を執筆する。 提出に向けた課題を把握する。	
		事前学修	卒論を執筆する。 執筆上の課題を整理しておく。	120分
		事後学修	ゼミにおける検討結果を踏まえて、準備を進める。	120分
30	1/12	卒論執筆⑧ 提出に向けた課題の整理	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを検討する。	
		この回の到達目標	卒論を執筆する。 提出に向けた課題を把握する。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを得る。	
		事前学修	卒論を執筆する。 執筆上の課題を整理しておく。	120分
		事後学修	卒論の感性に向けて、執筆する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
知的財産法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産法における現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の基本構成を作成できるようになることを目的とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
順番にしたがって、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基本的な法律の解釈について説明することができる。				3	3						
②	基本的な法律に関する判例について説明することができる。						3	3	3			
③	基本的な法律に関する事例について説明することができる。								3	3	3	
④	基本的な法律に関する諸問題について説明することができる。									3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の担当箇所についての的確な発表を行ったか。発表された内容をもとに積極的にグループディスカッションを行ったか。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業に積極的に参画し、的確な発言を行ったか。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜5限、加藤浩研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナール（2年目）における学習内容について説明します。	
		この回の到達目標	ゼミナールにおける学習内容を理解すること。	
		事前学修	ゼミナールにおける学習内容について考えてきてください。	90分
		事後学修	ゼミナールにおける学習内容について整理しておいてください。	90分
2	4月15日	時事問題の基礎Ⅰ	時事問題に関する研究の基本的な方法について整理します。	
		この回の到達目標	時事問題に関する研究の基本的な方法を理解すること。	
		事前学修	時事問題に関する研究の基本的な方法について考えてきてください。	90分
		事後学修	時事問題に関する研究の基本的な方法について整理しておいてください。	90分
3	4月22日	時事問題の基礎Ⅱ	時事問題に関する研究の具体的な方法について整理します。	
		この回の到達目標	時事問題に関する研究の具体的な方法について整理すること。	
		事前学修	時事問題に関する研究の具体的な方法について考えてきてください	90分
		事後学修	時事問題に関する研究の具体的な方法について整理しておいてください。	90分
4	4月29日	時事問題・討論（特許法）	特許法に関する時事問題について論点を整理します。	
		この回の到達目標	特許法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	特許法に関する判例について読んできてください。	90分
		事後学修	特許法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分
5	5月6日	時事問題・討論（意匠法）	意匠法に関する時事問題について論点を整理します。	
		この回の到達目標	意匠法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	意匠法に関する時事問題について読んできてください。	90分
		事後学修	意匠法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分
6	5月13日	時事問題・討論（商標法）	商標法に関する時事問題についてに論点を整理します。	
		この回の到達目標	商標法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	商標法に関する時事問題について読んできてください。	90分
		事後学修	商標法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	時事問題・討論（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する時事問題について論点を整理します。	
		この回の到達目標	不正競争防止法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	不正競争防止法に関する時事問題について読んでください。	90分
		事後学修	不正競争防止法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分
8	5月27日	時事問題・討論（著作権法）	著作権法に関する時事問題について整理します。	
		この回の到達目標	著作権法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	著作権法に関する時事問題について読んでください。	90分
		事後学修	著作権法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分
9	6月3日	時事問題・討論（契約法）	契約法に関する時事問題について論点を整理します。	
		この回の到達目標	契約法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	契約法に関する時事問題について読んでください。	90分
		事後学修	契約法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分
10	6月10日	時事問題・討論（国際法）	国際法に関する時事問題について論点を整理する。	
		この回の到達目標	国際法に関する時事問題について論点を整理すること。	
		事前学修	国際法に関する時事問題について読んでください。	90分
		事後学修	国際法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	90分
11	6月17日	企業研究・発表（企業A）	企業Aについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Aについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Aについて調べてください。	90分
		事後学修	企業Aの企業法務について整理しておいてください。	90分
12	6月24日	企業研究・発表（企業B）	企業Bについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Bについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Bについて調べてください。	90分
		事後学修	企業Bの企業法務について整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	企業研究・発表（企業C）	企業Cについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Cについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Bについて調べてきてください。	90分
		事後学修	企業Cの企業法務について整理しておいてください。	90分
14	7月8日	企業研究・発表（企業D）	企業Dについて、企業研究を行い、発表を行います。	
		この回の到達目標	企業Dについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
		事前学修	企業Dについて調べてきてください。	90分
		事後学修	企業Dの企業法務について整理しておいてください。	90分
15	7月15日	総括（まとめ）	前期の総括を行います。	
		この回の到達目標	これまでの時事問題、企業研究について整理すること。	
		事前学修	これまでの時事問題、企業研究について考えてきて下さい。	90分
		事後学修	これまでの時事問題、企業研究について整理しておいてください。	90分
16	9月16日	事例研究の基礎Ⅰ	事例研究の基本的な手法について説明します。	
		この回の到達目標	事例研究の基本的な手法について理解すること。	
		事前学修	事例研究の基本的な手法について考えてきてください。	90分
		事後学修	事例研究の基本的な手法について整理しておいてください。	90分
17	9月23日	事例研究の基礎Ⅱ	事例研究の具体的な手法について説明します。	
		この回の到達目標	事例研究の具体的な手法について理解すること。	
		事前学修	事例研究の具体的な手法について考えてきてください。	90分
		事後学修	事例研究の具体的な手法について整理しておいてください。	90分
18	9月30日	研究発表（特許法）	特許法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	特許法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	特許法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	特許法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	研究発表（意匠法）	意匠法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	意匠法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	意匠法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	意匠法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分
20	10月14日	研究発表（商標法）	商標法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	商標法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	商標法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	商標法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分
21	10月21日	研究発表（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	不正競争防止法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	不正競争防止法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	不正競争防止法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分
22	10月28日	研究発表（著作権法）	著作権法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	著作権法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	著作権法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	著作権法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分
23	11月11日	研究発表（契約法）	契約法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	契約法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	契約法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	契約法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分
24	11月18日	研究発表（国際法）	国際法に関する研究発表について論点を整理します。	
		この回の到達目標	国際法に関する研究発表について論点を整理すること。	
		事前学修	国際法に関する研究発表について考えてきてください。	90分
		事後学修	国際法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	卒業論文の作成（基本的な考え方）	卒業論文の作成（基本的な考え方）について説明します。	
		この回の到達目標	卒業論文の作成（基本的な考え方）について理解すること。	
		事前学修	卒業論文の作成（基本的な考え方）について考えてきてください。	90分
		事後学修	卒業論文の作成（基本的な考え方）について整理しておいてください。	90分
26	12月2日	卒業論文の作成（テーマ選定）	卒業論文の作成（テーマ選定）を行います。	
		この回の到達目標	卒業論文の作成（テーマ選定）について理解すること。	
		事前学修	卒業論文の作成（テーマ選定）について考えてきてください。	90分
		事後学修	卒業論文の作成（テーマ選定）について整理しておいてください。	90分
27	12月9日	卒業論文の作成（事例の調査）	卒業論文の作成（事例の調査）を行います。	
		この回の到達目標	卒業論文の作成（事例の調査）について理解すること。	
		事前学修	卒業論文の作成（事例の調査）について考えてきてください。	90分
		事後学修	卒業論文の作成（事例の調査）について整理しておいてください。	90分
28	12月16日	卒業論文の作成（情報の整理）	卒業論文の作成（情報の整理）を行います。	
		この回の到達目標	卒業論文の作成（情報の整理）について理解すること。	
		事前学修	卒業論文の作成（情報の整理）について考えてきてください。	90分
		事後学修	卒業論文の作成（情報の整理）について整理しておいてください。	90分
29	12月23日	卒業論文の作成（仕上げ）	卒業論文の作成（仕上げ）を行います。	
		この回の到達目標	卒業論文の作成（仕上げ）について理解すること。	
		事前学修	卒業論文の作成（仕上げ）について考えてきてください。	90分
		事後学修	卒業論文の作成（仕上げ）について整理しておいてください。	90分
30	1月13日	総括（まとめ）	後期の総括を行います。	
		この回の到達目標	これまでの研究発表、卒業論文の作成について整理すること。	
		事前学修	これまでの研究発表、卒業論文の作成について考えてきてください。	90分
		事後学修	これまでの研究発表、卒業論文の作成について整理しておいてください。	90分

科目名	ゼミナール4年	担当者	加藤 雅之	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する事例問題に関する議論を通じて、民法学に対する理解を深める。 4年次：各自で設定する研究テーマについて卒業論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法に関する基本的知識を確認するとともに、既存の判例および学説を批判的に検討することにより、新たな知見を得ることを目的とする。

【履修条件】
2年次までに配当の民法に関する講義を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
ゼミナールは、議論または報告など学生の主体的参加によって行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークが考えられる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する理解を整理し、既存の見解を批判的に検討することができる。				4	4	4	4				
②	説得的な理論的根拠に基づく自説を展開することができる。						4	4	4	4		
③	他者との意見交換を通じて、他者の見解を理解し、自身の考えを相対化することができる。								4	4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標に照らして、ゼミナールにおける討論・発表を総合的に評価する。	15	15	15								45
授業への参画度	到達目標に照らして、報告準備、議論への参加等を総合的に評価する。	10	10	10								30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の内容が到達目標に達しているかを評価する。	5	10	10								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミナールにおいて、参加者の報告や発言に対して、担当者からコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8水	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの概要および到達目標について確認する。ゼミナール論文（卒業論文）作成の計画を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゼミナール論文のテーマとなりうる民法上の問題をいくつか挙げるができる。	
		事前学修	現代社会における民法上の問題点を調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を通じて、いかなる問題を検討すべきかを整理する。	120分
2	4/15水	論文作成の準備（1）	ゼミナール論文作成の手順を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学に関する学術論文の執筆に際して必要な事項を説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文のテーマに関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	論文執筆に際して、必要な事項を自身のテーマとの関係で確認する。	120分
3	4/22水	論文作成の準備（2）	ゼミナール論文作成の手順を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学に関する学術論文の執筆に際して必要な事項を説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文のテーマに関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
		事後学修	論文執筆に際して、必要な事項を自身のテーマとの関係で確認する。	120分
4	4/29水	資料収集について	論文を作成するにあたり必要になる資料の収集方法について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術論文の執筆に際して必要な資料を的確に収集する方法を説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の執筆にあたり、必要と思われる文献のリストを準備する。	120分
		事後学修	作成したリストに修正すべき点があれば修正し、必要な文献等を追加する。	120分
5	5/6水	ゼミナール論文テーマと文献リストの確認	ゼミナール論文のテーマとそれに対応した文献リストを作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の執筆にあたり必要な文献リストをいったん完成させる。	
		事前学修	文献リストを確認し、ゼミナール論文のテーマに必要なものであるかを再確認する。	120分
		事後学修	完成した文献リストに基づき文献（資料）の収集を開始し、資料の読み込みを開始する。	120分
6	5/13水	文献の読み込み（1）	ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20水	文献の読み込み（2）	ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
8	5/27水	文献の読み込み（3）	ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
9	6/3水	文献の読み込み（4）	ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
10	6/10水	文献の読み込み（5）	ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。	
		事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
11	6/17水	ゼミナール論文概要報告（1）	ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
12	6/24水	ゼミナール論文概要報告（2）	ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1水	ゼミナール論文概要報告 (3)	ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
14	7/8水	ゼミナール論文概要報告 (4)	ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
15	7/15水	ゼミナール論文概要報告 (5)	ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
16	9/16水	ゼミナール論文進捗度確認	各自の論文進捗状況を確認し、論文完成に向けて必要な情報を整理する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の進捗状況と今後の課題について説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の進捗状況を報告するために必要な資料を準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆の際に考慮すべき点を整理する。	120分
17	9/23水	中間報告 (1)	ゼミナール論文の中間報告を行う (2名程度)。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
18	9/30水	中間報告 (2)	ゼミナール論文の中間報告を行う (2名程度)。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7水	中間報告（3）	ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
20	10/14水	中間報告（4）	ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
21	10/21水	中間報告（5）	ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
22	10/28水	中間報告（6）	ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
23	11/11水	中間報告（7）	ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
		事前学修	中間報告の準備。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
24	11/18水	民法研究（1）	ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
		事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25水	民法研究（2）	ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
		事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
26	12/2水	民法研究（3）	ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
		事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
27	12/9水	民法研究（4）	ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
		事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
28	12/16水	民法研究（5）	ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
		事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
29	12/23水	ゼミナール論文の最終確認	ゼミナール論文の内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容を明快に説明することができる。	
		事前学修	執筆したゼミナール論文の内容を簡潔に報告できるよう準備する。	120分
		事後学修	ゼミで得た指摘を受けて、提出するゼミナール論文に反映させる。	120分
30	1/13水	総括	各自のゼミナール論文の内容を相互に確認し、ゼミナール活動で得た知見を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法学における新たな問題を提示し、それに対する自分なりの解答を論理的に説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の内容と関連する社会的問題を説明できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3 年次に学修した内容に基づいて，担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワークを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3			3	3		
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3	3	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10										10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。			10	20							30
授業への参画度	出席、発言状況、各種行事・調査準備への参画状況等を評価する。		20	10								30
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。				30							30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各種発表・レポートに対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省、内閣官房等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政の現場においてNPO等と協力して政策立案に携わってきた経験などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	文献の収集①	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項をを説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
2	4月15日	文献の収集②	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項をを説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
3	4月22日	文献の収集③	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項をを説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4月29日	文献の確認・整理①	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5月6日	文献の確認・整理②	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5月13日	文献の確認・整理③	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月20日	文献の確認・整理④	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5月27日	学説等の確認・検討①	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分
9	6月3日	学説等の確認・検討②	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6月10日	学説等の確認・検討③	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6月17日	学説等の確認・検討④	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6月24日	課題の確認・検討①	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	7月1日	課題の確認・検討②	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。
14	7月8日	課題の確認・検討③	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。
15	7月15日	課題の確認・検討④	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。
16	9月16日	ゼミナール論文の第2次発表①	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。
17	9月23日	ゼミナール論文の第2次発表②	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。
18	9月30日	ゼミナール論文の第2次発表③	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	ゼミナール論文の第2次発表④	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10月14日	ゼミナール論文の第2次発表⑤	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10月21日	ゼミナール論文の第2次発表⑥	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10月28日	ゼミナール論文の最終発表①	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
23	11月11日	ゼミナール論文の最終発表②	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
24	11月18日	ゼミナール論文の最終発表③	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1 1 月 2 5 日	ゼミナール論文の最終発表 ④	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
26	1 2 月 2 日	ゼミナール論文の最終発表 ⑤	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
27	1 2 月 9 日	ゼミナール論文の最終発表 ⑥	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
28	1 2 月 1 6 日	論文提出に向けた最終調整 ①	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これをゼミナール論文を反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分
29	1 2 月 2 3 日	論文提出に向けた最終調整 ②	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これをゼミナール論文を反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分
30	1 月 1 3 日	論文提出に向けた最終調整 ③、全体の振り返り	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これをゼミナール論文を反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年生で学んだ知識をふまえて、国際法に関する知識を進化させ、論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際法に関する知識を身に着け、そして深化させる。そのために、各自の学習意欲の向上はもちろんのこと、グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養いつつ、国際法に関する問題意識と知識を深める。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
ゼミ形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際法に関する基本的知識を得る。						3	3						
②	国際法に関する知識を深化させる。								3					
③	ゼミ生各自が国際法についての問題意識をもちながら、国際法を学習する。									4				
④	グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養う。										4	4	4	4
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークを適切に行う。				20							20
授業への参画度	国際法に関する知識を得、深化させる。	10	10									20
その他(論文)	論文を作成、提出する。			60								60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各回のゼミにおいて個別に行う。	

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度

【オフィスアワー】	
金曜日14時30分～16時 研究室	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ゼミ概要及び導入講義	ゼミの概要について説明する。	
		この回の到達目標	ゼミの概要を把握する。	
		事前学修	3年生で得た知識を復習する。	120分
		事後学修	論文作成について考える。	120分
2	4月14日	個別学習①	論文作成準備①	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
3	4月21日	個別学習②	論文作成準備②	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
4	4月28日	個別学習③	論文作成準備③	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
5	5月5日	個別学習④	論文作成準備④	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
6	5月12日	個別学習⑤	論文作成準備⑤	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	個別学習⑥	論文作成準備⑥	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
8	5月26日	個別学習⑦	論文作成準備⑦	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
9	6月2日	個別学⑧	論文作成準備⑧	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
10	6月9日	個別学習⑨	論文作成準備⑨	
		この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
		事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
11	6月16日	論文作成①	論文作成作業①	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
12	6月23日	論文作成②	論文作成作業②	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	論文作成③	論文作成作業③	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
14	7月7日	論文作成④	論文作成作業④	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
15	7月14日	論文作成⑤	論文作成作業⑤	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
16	9月15日	論文作成⑥	論文作成作業⑥	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
17	9月22日	論文作成⑦	論文作成作業⑦	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
18	9月29日	論文作成⑧	論文作成作業⑧	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	論文作成⑨	論文作成作業⑨	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
20	10月13日	論文作成⑩	論文作成作業⑩	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
21	10月20日	論文作成⑪	論文作成作業⑪	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
22	10月27日	論文作成⑫	論文作成作業⑫	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
23	11月10日	論文作成⑬	論文作成作業⑬	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
24	11月17日	論文作成⑭	論文作成作業⑭	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	論文作成⑮	論文作成作業⑮	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
26	12月1日	論文作成⑯	論文作成作業⑯	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
27	12月8日	論文作成⑰	論文作成作業⑰	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
28	12月15日	論文作成⑱	論文作成作業⑱	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
29	12月22日	論文作成⑲	論文作成作業⑲	
		この回の到達目標	論文を作成する。	
		事前学修	各自、論文を作成する。	120分
		事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
30	1月12日	まとめ	一年で学んだことのまとめ	
		この回の到達目標	学んだことのまとめを行う。	
		事前学修	学んだことを確認する。	120分
		事後学修	2年間のゼミを振り返る。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個人研究を主体とし、自分の興味ある経済・財政分野の文献を読み、日本が抱える諸問題の解決方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分が読んだ経済・財政分野の文献を、「序論・本論・結論」の論述構成に還元した上で、それに対する自分の評価を下すことができるようにする。 個人研究だけでなく、法桜祭フォーラム発表を予定しており、グループ研究の重要性を理解する。

【履修条件】
経済学、財政学、マクロ経済学、ミクロ経済学の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
ゼミ生の報告、その後の質疑応答を中心に進める。報告はパワーポイントを利用する。必要に応じて施設見学、合宿を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週、ゼミ生の報告と質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済・財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				4							
②	経済・財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					4			4	4	4	4
③	経済・財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。				4		4	4	4	4		4
④	経済・財政の思想史的背景を説明することができる。				4							4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告の内容を到達目標に応じて評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	報告への質疑応答の参加度を評価する。	5	5	5	5							20
その他(ゼミナール 論文)	ゼミ論の内容を評価する。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ生の報告後、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	ゼミ論のテーマ票を確認する。	
		この回の到達目標	論文作成の技法を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
2	4/14	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
3	4/21	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
4	4/28	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
5	5/5	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
6	5/12	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
8	5/26	施設見学	施設見学	
		この回の到達目標	公的施設を見学し、経済・財政の現状を理解できるようにする。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
9	6/2	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
10	6/9	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
11	6/16	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
12	6/23	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
14	7/7	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
15	7/14	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
16	9/15	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
17	9/22	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
18	9/29	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
20	10/13	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
21	10/20	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
22	10/27	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
23	11/10	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
24	11/17	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
26	12/1	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
27	12/8	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
28	12/15	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
29	12/22	個人発表	個人発表	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
30	1/12	まとめ	ゼミ論を完成する。	
		この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
		事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
		事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワーク、学会への参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など、担当教員各自の趣向により、学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3	3	
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。各自の研究課題に沿った内容の文献を必要に応じ紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	4/13	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	4/20	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	4/27	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	5/4	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	5/11	研究調査内容検討(1)	確定した論文のテーマに関する調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	研究調査内容検討(2)	確定した論文のテーマに関する調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	5/25	研究調査内容検討(3)	確定した論文のテーマに関する調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	6/1	アンケート作成(1)	アンケート調査にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	6/8	アンケート作成(2)	アンケート調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	6/15	アンケート作成(3)	アンケート調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	6/22	アンケート実施(1)	アンケート実施にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	アンケート実施(2)	アンケート実施にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	7/6	アンケート集計(1)	アンケート集計にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	7/13	夏期休暇中の課題の確認 振り返り	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文に取り組むための前提事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/14	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、研究課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
		事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、研究課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめる。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	9/21	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	9/28	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	10/12	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	10/19	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	10/26	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	11/9	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	11/16	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	11/30	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	12/7	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	12/14	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	12/21	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、研究テーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
		事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	1/18	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
		事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	喜多 義人	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際社会の法であり、主権国家間の関係を規律する国際法について、まずその特質と機能を理解した上で、国際社会における法的諸制度、すなわち国家の権利義務、陸・海・空の法的地位、人権の保護、国際犯罪の処罰、環境や経済に関する国際法規則、紛争の平和的解決等について学修する。そして、4年次には修得した知識をもとに、卒業論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に修得した知識に基づき、卒論のテーマを決定し、資料を収集し、分析して卒論を作成することにより、興味のあるテーマに関する知識をさらに深化させることを目的とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格していること。

【授業方法】		
前学期に卒論のテーマを決定し、文献の収集、分析を行なう。教員はテーマの選択、論文の構成、参考文献について個別に指導する。後学期は、卒論の作成を指導し、夏休み中に執筆した部分について添削、助言を行なう。なお、前学期、後学期とも1授業時間に1人の発表が原則であるが、発表者以外のゼミ生も指導・助言を求めることができる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際法が国際社会の平和と発展に果たしている機能について説明することができる。 ②国際社会の基本構造と主権国家の関係について説明することができる。					3	4				3	3	3
②	国際社会の基本構造と主権国家の関係について説明することができる。					3	4				3	3	
③	陸・海・空および人に関する国際制度について説明することができる。					3	4	4			3	3	
④	国際法の環境や経済への規律の拡大について説明することができる。					3			3	3	3	3	
⑤	国際紛争の防止および解決に関する国際制度について説明することができる。					3	4	3	4		3	3	3
⑥	日本や諸外国の国際社会における行動を法的に評価することができる。					3			4		3	3	3
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等	4	3	3	3	3	4					20
授業への参画度	授業への参画度	4	3	3	3	3	4					20
その他()												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	12	10	8	7	8	15					60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	16	14	13	14	23					100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表原稿および卒論の添削指導を行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際法』第4版	浅田正彦編著	東信堂	2019		
『判例国際法』第3版	薬師寺公夫ほか編集代表	東信堂	2019		
『国際法資料集』第2版	西谷元編	日本評論社	2016		
『国際条約集 2020』	岩沢雄司編集代表	有斐閣	2020		
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日15:00～16:00 、水曜日18:00～19:00（メールか電話で予約すること） 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	卒論指導 (1)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
2	/	卒論指導 (2)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
3	/	卒論指導 (3)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
4	/	卒論指導 (4)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
5	/	卒論指導 (5)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
6	/	卒論指導 (6)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	卒論指導 (7)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみること。	120分
8	/	卒論指導 (8)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみること。	120分
9	/	卒論指導 (9)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみること。	120分
10	/	卒論指導 (10)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみること。	120分
11	/	卒論指導 (11)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみること。	120分
12	/	卒論指導 (12)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	卒論指導 (13)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
14	/	卒論指導 (14)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
15	/	卒論指導 (15)	4年次は1授業時間に1名を指定して、卒論の指導を行なう。ゼミ生はあらかじめ卒論のテーマを複数考えておき、教員の指導・助言をもとにテーマを決定する。テーマは3年次の研究テーマを発展させたものでも、新たに発見したテーマでもよい。就職活動のため指定日に出席できない学生には後日、指導を行なう。指導が1巡したときは、2巡目の指導を行なう。指導を受ける学生以外の学生も自由に意見を述べ、指導・助言を求めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①/～⑥に関連して、国際法の学術論文として妥当なテーマを発見し、資料を収集し、論点を整理することにより、学術論文を作成するための技法を修得できるようになる。	
		事前学修	春休み中にテーマを複数考えておくとともに、参考文献をできるだけ多く収集しておくこと。	120分
		事後学修	テーマが決まれば、参考文献を熟読し理解した上で、論文の目次を作成し、まず序文を書いてみる。	120分
16	/	卒論発表 (1)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
17	/	卒論発表 (2)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
18	/	卒論発表 (3)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	卒論発表(4)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
20	/	卒論発表(5)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
21	/	卒論発表(6)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
22	/	卒論発表(7)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
23	/	卒論発表(8)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
24	/	卒論発表(9)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	卒論発表(10)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
26	/	卒論発表(11)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
27	/	卒論発表(12)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
28	/	卒論発表(13)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
29	/	卒論発表(14)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分
30	/	卒論発表(15)	毎授業時間に1名ずつ、卒論の構成と内容について指導を行なう。ゼミ生は指定日までに目次と序文を必ず、本文もできるだけ書いておく。発表者以外の学生も意見を述べ、自己の論文に関して指導・助言を求めることができる。時間が許せば、2巡目の指導を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑥に関連して、目次、序文、本文の構成、論旨、文章表現および参考文献の引用法等について問題点の指摘を受け、再検討し、修正することにより、優れた学術論文を作成できるようになる。	
		事前学修	目次、序文および参考文献一覧を必ず作成しておくこと。	120分
		事後学修	論文の添削指導を受けるため、指定期日までに指摘された箇所を修正しておくこと。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に身に付けた論理構成力を、今度は専門分野の税法の問題で本当の理論構築・主張を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門性が高く、最初はチンプンカンプンだった税法問題について、自分なりの仮説を立て、皆の前で報告する。批判・否定される過程の中で、論破されないよう改善を図ることにより、税法の法理や法的思考を身に付け、論拠、証拠の見つけ方・使い方をマスターする。ちゃんと専門性をもった卒論を仕上げ、真の学士として胸を張って卒業する。

【履修条件】
きちんと出てきて議論に参加すること。

【授業方法】
まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張する（テーマ報告）。論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき批判的な質疑応答を行う。これに堪えられるよう改善した報告を行い（改良版報告）、再び批判を受ける。これをふまえて作成した仮卒論を報告し（仮卒論布告）、同様に批判を受ける。最後に、卒論の結論をテーマとした1対多数のディベート形式のディスカッション（こき下ろし隊ディベート）を行い、生き残った理論で卒論を作成する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 各人の研究報告とこれに対する質疑応答（批判）はそれ自体参加型である。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	明確な論拠と論理					3	3	3	3	3	3	3
②	社会の現実と齟齬しない議論					3	3	3	3	3	3	3
③	客観的、科学的証拠・資料					3	3	3	3	3	3	3
④	歴史的、国際的な広い視野					3	3	3	3	3	3	3
⑤	物事の本質を見抜く洞察力					3	3	3	3	3	3	3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	字号4回の報告とディベート	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	参加型ゼミなので、出席しなければ話にならない。	5	5	5	5	5						25
その他(卒論)	学士の学識の証である。	10	10	10	10	10						50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
最大の課題は卒論であり評価の基礎。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論第8版	北野弘久著、黒川功 改定	勁草書房	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜14時40分～16時10分。アポイントを取ってからアクセスのこと。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	3年生とのコミュニケーションの形成と指導	目隠しゲーム、自己他己紹介、3年生の指導	
		この回の到達目標	ゼミ活動の基本であるコミュニケーションを学年間を含めて形成します。	
		事前学修	去年のことをよく思い出してください。	5分
		事後学修	後輩1人1人を認知してください。	10分
2	/	宗吾霊堂研修・新入生歓迎	学外研修、新入営歓迎コンパ	
		この回の到達目標	税法ゼミの精神的模範、佐倉宗吾の史実を、現地に赴いて学習し、自らの哲学を再確認します。	
		事前学修	できれば後輩に説明委できる程度の知識を持っておきましょう。	10分
		事後学修	今の自分の生き方をもう一度振り返ってみましょう。	10分
3	/	テーマ報告 (1)	まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張・報告する。各人10分程度報告、5分程度質疑応答。6人程度。	
		この回の到達目標	まずは興味を持てそうな税法問題を見つけましょう。論破されるものであっても、自分の理論を立ててみましょう。	
		事前学修	色々なものに目を通し、興味を持てそうな税法問題を見つけます。	60分
		事後学修	ダメ出しを食らった部分が持ち堪えられるよう、材料を探し論理を練ります。	120分
4	/	テーマ報告 (2)	まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張・報告する。各人10分程度報告、5分程度質疑応答。6人程度。	
		この回の到達目標	まずは興味を持てそうな税法問題を見つけましょう。論破されるものであっても、自分の理論を立ててみましょう。	
		事前学修	色々なものに目を通し、興味を持てそうな税法問題を見つけます。	60分
		事後学修	ダメ出しを食らった部分が持ち堪えられるよう、材料を探し論理を練ります。	120分
5	/	テーマ報告 (3)	まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張・報告する。各人10分程度報告、5分程度質疑応答。6人程度。	
		この回の到達目標	まずは興味を持てそうな税法問題を見つけましょう。論破されるものであっても、自分の理論を立ててみましょう。	
		事前学修	色々なものに目を通し、興味を持てそうな税法問題を見つけます。	60分
		事後学修	ダメ出しを食らった部分が持ち堪えられるよう、材料を探し論理を練ります。	120分
6	/	改良版報告 (1)	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
		この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
		事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
		事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	改良版報告（2）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
		この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
		事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
		事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分
8	/	改良版報告（3）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
		この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
		事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
		事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分
9	/	改良版報告（4）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
		この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
		事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
		事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分
10	/	仮卒論報告（1）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
		この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
		事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
		事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
11	/	仮卒論報告（2）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
		この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
		事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
		事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
12	/	仮卒論報告（3）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
		この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
		事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
		事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	仮卒論報告（4）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
		この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
		事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
		事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
14	/	仮卒論報告（5）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
		この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
		事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
		事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
15	/	予備日 振り返り	予定通り進まなかった部分をリカバリーし、全員が夏休み中に卒論の目鼻を付けられるようにする。	
		この回の到達目標	遅れの出ている者はここで追いつくように。	
		事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
		事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
16	/	ディベート（1）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
17	/	ディベート（2）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
18	/	ディベート（3）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	ディベート（4）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
20	/	ディベート（5）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
21	/	ディベート（1）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
22	/	ディベート（6）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
23	/	ディベート（7）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
24	/	ディベート（8）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	ディベート（9）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
26	/	ディベート（10）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
27	/	ディベート（11）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
28	/	ディベート（12）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
29	/	ディベート（13）	各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
		この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
		事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
		事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
30	/	最終確認、ゼミ誌編集内容確認	全員の卒論の作成状況を確認する。ゼミ誌の編集・発行方法・内容の確認。	
		この回の到達目標	卒論促成、ゼミ誌発行の最終確認。	
		事前学修	最終確認。	30分
		事後学修	最終確認	30分

科目名	ゼミナール4年	担当者	柑本 英雄	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：国際関係論の理論を学び、国際関係を通して論理的思考力を身につける。 4年次：3年次の演習において学んだことの集大成である卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。 4年次：自ら問題意識をもって選んだテーマに基づき、討議することを通して、より 深い見識を得ること、社会で必要とされる論理的思考を高めることを目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：毎回、担当者にパワーポイントでテキストの理解について報告をしてもらい、それをもとに全員で議論する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力			
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力			
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力			
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。									
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。									
③	国際関係における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。									
④	国際関係における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。									
⑤	国際関係における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。									
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係理論』	吉川直人・野口和彦著	勁草書房	2015	教科書	必携
『国際紛争 原書第10版 理論と歴史』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	参考書	推奨
『国際関係学 講義（第4版）』	原彬久編	有斐閣	2011	参考書	推奨
『政治学のリサーチ ・メソッド』	スティーブソン・ヴァン・エイク エ、野口和彦・渡辺紫乃訳	勁草書房	2009	参考書	推奨
『国際政治事典』	猪口孝他編	弘文堂	2005	参考書	推奨
『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室）（事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	卒業論文の完成までのスケジュールの確認	卒業論文完成に向けたスケジュールや注意すべき事項などについて議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文作成のために取り組むべき事項を明確にし、就職活動や未履修科目の受講など他の行動なども含めた計画を策定する。	
		事前学修	残っている単位数の確認および就職活動に関わる動きや希望する業種の報道などをチェックする。	120分
		事後学修	就職活動、他教科、その他の自分の活動予定を書きだし、卒業論文完成までのスケジュールをノートにまとめる。	120分
2	4/13	個人報告：スケルトンの修正報告①	3年次に作成したスケルトンを修正し、発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文の概要を明確にし、スケルトンの修正を通して、卒業論文完成への道筋を明確にする。	
		事前学修	修正したスケルトンをパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、再度スケルトンを見直し、必要があればスケジュールを修正しノートにまとめる。	120分
3	4/20	個人報告：スケルトンの修正報告②	3年次に作成したスケルトンを修正し、発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文の概要を明確にし、スケルトンの修正を通して、卒業論文完成への道筋を明確にする。	
		事前学修	修正したスケルトンをパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、再度スケルトンを見直し、必要があればスケジュールを修正しノートにまとめる。	120分
4	4/27	個人報告：スケルトンの修正報告③	3年次に作成したスケルトンを修正し、発表する。	
		この回の到達目標	卒業論文の概要を明確にし、スケルトンの修正を通して、卒業論文完成への道筋を明確にする。	
		事前学修	修正したスケルトンをパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、再度スケルトンを見直し、必要があればスケジュールを修正しノートにまとめる。	120分
5	5/4	引用文献リストの作成・書評論文の発表①	スケルトンに沿った引用文献リストを作成し文献の読み込みを行う。また、書評論文を作成し、発表を行う。	
		この回の到達目標	引用文献リストを完成させ、引用文献を読み込む。	
		事前学修	引用文献リストを作成する。その中から主たる文献を選んで書評論文を作成し、パワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	書評論文を作成しなかった文献についても読み込みを行いノートにまとめる。	240分
6	5/11	引用文献リストの作成・書評論文の発表②	スケルトンに沿った引用文献リストを作成し文献の読み込みを行う。また、書評論文を作成し、発表を行う。	
		この回の到達目標	引用文献リストを完成させ、引用文献を読み込む。	
		事前学修	引用文献リストを作成する。その中から主たる文献を選んで書評論文を作成し、パワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	書評論文を作成しなかった文献についても読み込みを行いノートにまとめる。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	引用文献リストの作成・書評論文の発表③	スケルトンに沿った引用文献リストを作成し文献の読み込みを行う。また、書評論文を作成し、発表を行う。	
		この回の到達目標	引用文献リストを完成させ、引用文献を読み込む。	
		事前学修	引用文献リストを作成する。その中から主たる文献を選んで書評論文を作成し、パワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	書評論文を作成しなかった文献についても読み込みを行いノートにまとめる。	240分
8	5/25	テンプレートの解説	卒業論文のテンプレートについて議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の形式的な確認を行う。	
		事前学修	卒業論文を読み返し、内容をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業で学んだことをノートにまとめる。	120分
9	6/1	個人報告：スケルトンに要旨を載せ込む①	スケルトンに要旨を載せ込み、発表する。	
		この回の到達目標	要旨を作成することで卒業論文の骨子を固める。	
		事前学修	スケルトンに要旨を載せ込み、パワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに要旨を見直し、ノートにまとめる。	120分
10	6/8	個人報告：スケルトンに要旨を載せ込む②	スケルトンに要旨を載せ込み、発表する。	
		この回の到達目標	要旨を作成することで卒業論文の骨子を固める。	
		事前学修	スケルトンに要旨を載せ込み、パワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに要旨を見直し、ノートにまとめる。	120分
11	6/15	個人報告：スケルトンに要旨を載せ込む③	スケルトンに要旨を載せ込み、発表する。	
		この回の到達目標	要旨を作成することで卒業論文の骨子を固める。	
		事前学修	スケルトンに要旨を載せ込み、パワーポイントにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに要旨を見直し、ノートにまとめる。	120分
12	6/22	個人報告：卒業論文の中間発表①	卒業論文の中間発表を行う。	
		この回の到達目標	製作途中の論文を発表することによって、執筆部分に問題がないか確認するとともに、今後の執筆内容の見直しを行う。	
		事前学修	卒業論文の執筆した部分を見直し、内容や課題、今後の執筆予定などについて、パワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、卒業論文見直し、修正する必要がある場合はその部分について、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	個人報告：卒業論文の中間発表②	卒業論文の中間発表を行う。	
		この回の到達目標	製作途中の論文を発表することによって、執筆部分に問題がないか確認するとともに、今後の執筆内容の見直しを行う。	
		事前学修	卒業論文の執筆した部分を見直し、内容や課題、今後の執筆予定などについて、パワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、卒業論文見直し、修正する必要があるればその部分について、ノートにまとめる。	120分
14	7/5	個人報告：卒業論文の中間発表③	卒業論文の中間発表を行う。	
		この回の到達目標	製作途中の論文を発表することによって、執筆部分に問題がないか確認するとともに、今後の執筆内容の見直しを行う。	
		事前学修	卒業論文の執筆した部分を見直し、内容や課題、今後の執筆予定などについて、パワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、卒業論文見直し、修正する必要があるればその部分について、ノートにまとめる。	120分
15	7/13	これまでの総括	卒業論文の完成に向けて、前期に取り組んだ事項を振り返る。	
		この回の到達目標	これまでに執筆を進めてきた卒業論文の見直しと、完成までの残された課題を明確にする。	
		事前学修	執筆途中の論文を読み返し、計画を見直す。	120分
		事後学修	執筆のために必要となる文献などをノートにまとめ、収集をする。必要があるれば執筆計画を修正する。	120分
16	9/14	今後のスケジュールの確認	卒業論文執筆の進捗を確認し、完成までのスケジュールを策定し、議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の作成状況を確認し、卒業論文完成までに必要な事項をチェックする。	
		事前学修	卒業論文の執筆状況を確認する。	120分
		事後学修	卒業論文の提出までに必要な事項をノートに書きだし、スケジュールを再確認する。	120分
17	9/21	論文形式の確認	論文の形式を議論する。	
		この回の到達目標	作成中の卒業論文が論文の形式に従っているか確認する。	
		事前学修	様々な論文に目を通し、論文の形式をノートにまとめる。	120分
		事後学修	自分の論文の形式をノートにまとめる。	120分
18	9/28	論文執筆およびディスカッション①	執筆中の卒業論文についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	執筆中の論文の内容をディスカッションすることによって、論文の内容や形式をチェックし、質の高い論文の作成を試みる。	
		事前学修	自分の卒業論文を読み込むほか、中間発表の時の資料などゼミ生の資料にも目を通し、疑問点や補足すべき事項などをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションで得た知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	論文執筆およびディスカッション②	執筆中の卒業論文についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	執筆中の論文の内容をディスカッションすることによって、論文の内容や形式をチェックし、質の高い論文の作成を試みる。	
		事前学修	自分の卒業論文を読み込むほか、中間発表の時の資料などゼミ生の資料にも目を通し、疑問点や補足すべき事項などをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションで得た知見をノートにまとめる。	120分
20	10/12	論文執筆およびディスカッション③	執筆中の卒業論文についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	執筆中の論文の内容をディスカッションすることによって、論文の内容や形式をチェックし、質の高い論文の作成を試みる。	
		事前学修	自分の卒業論文を読み込むほか、中間発表の時の資料などゼミ生の資料にも目を通し、疑問点や補足すべき事項などをノートにまとめる。	120分
		事後学修	ディスカッションで得た知見をノートにまとめる。	120分
21	10/19	個人報告：卒業論文進捗報告①	各自卒業論文の進捗状況の報告を行う。	
		この回の到達目標	進捗状況を報告することによって、完成のために必要な事項を確認する。	
		事前学修	自分の進捗状況を報告ができるようにノートにまとめる。	120分
		事後学修	論文完成のために必要な資料などをそろえる。予定より遅れている場合には計画を見直し、ノートにまとめる。	120分
22	10/26	個人報告：卒業論文進捗報告②	各自卒業論文の進捗状況の報告を行う。	
		この回の到達目標	進捗状況を報告することによって、完成のために必要な事項を確認する。	
		事前学修	自分の進捗状況を報告ができるようにノートにまとめる。	120分
		事後学修	論文完成のために必要な資料などをそろえる。予定より遅れている場合には計画を見直し、ノートにまとめる。	120分
23	11/9	個人報告：卒業論文進捗報告③	各自卒業論文の進捗状況の報告を行う。	
		この回の到達目標	進捗状況を報告することによって、完成のために必要な事項を確認する。	
		事前学修	自分の進捗状況を報告ができるようにノートにまとめる。	120分
		事後学修	論文完成のために必要な資料などをそろえる。予定より遅れている場合には計画を見直し、ノートにまとめる。	120分
24	11/16	卒業論文仕上げに向けての指導	卒業論文完成の前に最終確認事項などを議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を完成させるために必要な事項の確認を行う。	
		事前学修	卒業論文完成までに残された課題をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業で得られた知見から、課題への対応策をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	個人報告：卒業論文発表①	完成した卒業論文の発表を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文の発表を通して、最終チェックを行う。	
		事前学修	自分の卒業論文について1人10分で発表できるようパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	卒業論文が提出する形式になっているか確認する。	120分
26	11/30	個人報告：卒業論文発表②	完成した卒業論文の発表を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文の発表を通して、最終チェックを行う。	
		事前学修	自分の卒業論文について1人10分で発表できるようパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	卒業論文が提出する形式になっているか確認する。	120分
27	12/7	個人報告：卒業論文発表③	完成した卒業論文の発表を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文の発表を通して、最終チェックを行う。	
		事前学修	自分の卒業論文について1人10分で発表できるようパワーポイントを使用してまとめる。	120分
		事後学修	卒業論文が提出する形式になっているか確認する。	120分
28	12/14	卒業論文発表会の準備	卒業論文を最終成果物として発表できる形に仕上げる。	
		この回の到達目標	卒業論文の最終チェックを行い、卒業論文を提出可能な形に仕上げる。	
		事前学修	卒業論文発表で明らかになった課題などをノートにまとめ、どのように修正を行うか検討する。	120分
		事後学修	卒業論文提出に必要な修正を行う。	120分
29	12/21	卒業論文発表会	各自完成した卒業論文を発表する。	
		この回の到達目標	発表の場を通して、取り組んだテーマについて理解を深めるとともに、人前で説明することに対する自覚を持つ。	
		事前学修	卒業論文の内容をパワーポイント3枚程度にまとめ、発表するための資料を整える。	120分
		事後学修	卒業論文論文の提出前チェックを行う。卒業論文を提出する。	120分
30	1/18	総括	これまでに習得した事項を振り返る。	
		この回の到達目標	これまでに学習したことを振り返り、社会人としての心構えを整える。	
		事前学修	2年間のゼミナールを振り返り、成長したと思われること、できなかったことなどをノートに記入する。	120分
		事後学修	大学生と社会人の違いをノートにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：財務会計論の基本書を輪読して会計学の基本を身につけるとともに、学生コンペに参加して研究発表を行う。 4年次：各自で興味あるテーマの設定を行い、卒業論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：会計学の基礎を身につけ、それをもとに特定のテーマに特化した調査研究を行い、コンペでの発表を目指す。 4年次：卒業論文の執筆を通じて、各自の関心あるテーマや企業・産業に対する理解・見識を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
各自が関心あるテーマについて、順次報告を行う。概ね、テーマについての導入報告→中間報告→最終報告の順で進める。それぞれの発表に対してゼミ生による質疑を行い、教員が適宜コメント・指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人による報告および全体でのディスカッションを毎回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会計学の基礎的知識を身につける。				3	3						
②	特定のテーマについての問題意識を持ち、研究テーマを設定することができる。						3	3	3			
③	設定したテーマに対して、適切な調査・研究を行うことができる。							3	3	3	3	
④	調査・研究の内容を報告し、ディスカッションすることができる。										3	3
⑤	会計学についてのより高度な調査・研究の成果を論文としてまとめ、発表・ディスカッションすることができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	平時のゼミにおける報告や、それに基づくディスカッションの様子により評価を行う。ただし、評価は下記の「ゼミナール論文」の内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	卒業論文により評価を行う。ただし、評価は上記の「討論・発表等」における報告・ディスカッションの内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	卒業論文テーマ選定に関するガイダンス	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆計画を立て、1年間のゼミの流れを把握する。	
		事前学修	シラバスを熟読し、1年間のゼミ活動をイメージする。	120分
		事後学修	卒業論文のテーマを選定し、関連する先行研究を調査する。	120分
2	4/15	導入報告 1回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
3	4/22	導入報告 2回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
4	4/29	導入報告 3回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
5	5/6	導入報告 4回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
6	5/13	導入報告 5回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	導入報告 6回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
8	5/27	導入報告 7回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
		この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
9	6/3	卒論執筆 1	卒業論文の準備と執筆	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
10	6/10	卒論執筆 2	卒業論文の準備と執筆	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
11	6/17	卒論執筆 3	卒業論文の準備と執筆	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
12	6/24	卒論執筆 4	卒業論文の準備と執筆	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	卒論執筆 5	卒業論文の準備と執筆	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
14	7/8	卒論執筆 6	卒業論文の準備と執筆	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
		事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
15	7/15	前期総括	前期の総括を行い、後期における報告順を決める。	
		この回の到達目標	前期における卒業論文の執筆状況の簡単な報告を行い、後期における中間報告の報告順を決める	
		事前学修	前期における卒業論文執筆の進捗状況を簡単にまとめておく。	120分
		事後学修	後期に向けた準備を進める。	120分
16	9/16	中間報告 1回目	卒業論文の中間報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
17	9/23	中間報告 2回目	卒業論文の中間報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
18	9/30	中間報告 3回目	卒業論文の中間報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	中間報告 4回目	卒業論文の中間報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
20	10/14	中間報告 5回目	卒業論文の中間報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
21	10/21	中間報告 6回目	卒業論文の中間報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
22	10/28	中間報告 7回目	卒業論文の中間報告と最終報告の準備	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。また、次回以降の最終報告に向けて報告順を決定する。	
		事前学修	発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
23	11/11	最終報告 1回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
24	11/18	最終報告 2回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	最終報告 3回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
26	12/2	最終報告 4回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
27	12/9	最終報告 5回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
28	12/16	最終報告 6回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
29	12/23	最終報告 7回目	卒業論文の最終報告を行う	
		この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
		事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
		事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
30	1/13	2年間の振り返り	2年間のゼミ活動を振り返る	
		この回の到達目標	卒業論文の執筆経験を踏まえ、2年間のゼミ活動で得たものを振り返る	
		事前学修	卒業論文を完成させ、提出を済ませておく。	120分
		事後学修	ゼミでの経験を振り返り、今後の人生に活かせるよう、まとめておく。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小林 聡明	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次までに学修した「知」を、どのくらい自由に使いこなし、既存の「知」の体系や蓄積に、いかなる積み上げを行うことができるのか。これらの点を踏まえ、自らの関心にそって研究テーマを定め、ゼミナール論文を執筆する。自己の思考を、「言葉」として紡ぎ上げるためには、ゼミナールの構成員みなで議論し、検討する営みが重要である。ゼミナールは、そのための時間となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本ゼミナールの目的は、次の3点である。第一に、「知」の体系を把握し、蓄積を活用することで、自らの思考に奥行きと幅の広さを与えること。第二に、他者の研究に対する内在的かつ生産的なコメントを行いうる力を獲得すること。第三に、自らの言葉で、自らの思考を論理的に示す力の涵養させることである。

【履修条件】
3年次のゼミナールを履修していること

【授業方法】
研究進捗状況の発表と討論

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生主導による発表と討論の実施	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知の体系や蓄積を踏まえ、問題を発見する力				3	3	3	3	3		3	3
②	発見された問題を解くための方法の習得				3	3	3	3	3		3	3
③	自らの思考を論理的に説明し、記述できる力				3	3	3	3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	発表やコメントのクオリティ	5	5	5								15
授業への参画度	発表やコメントの質と量	5	5	5								15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文の評価	20	20	30								70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表や討論に対する教員からの助言

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜ゼミナールの時間前後とする 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ゼミナール論文とは何か	ゼミナール論文執筆のための「作法」を教授する	
		この回の到達目標	論文とは何かについて理解する	
		事前学修	自らの関心は、どこにあるのかについて考え、メモを作成してくること。	90分
		事後学修	自らの関心を、もう一度、捉え直し、問題の所在について、整理して検討してみる。	90分
2	4/15	学生による問題関心の発表	各自、ゼミナール論文で、何に取り組みたいのか。暫定的なテーマについて発表する。、	
		この回の到達目標	テーマを見つける力の獲得	
		事前学修	発表準備	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
3	4/22	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
4	4/29	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
5	5/6	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
6	5/13	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/20	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
8	5/27	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
9	6/3	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
10	6/10	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
11	6/17	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
12	6/24	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
14	7/8	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
15	7/15	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	90分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、自らの問題関心を整理する。	90分
16	9/16	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
17	9/23	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
18	9/30	個別発表	研究の進捗状況について、学生による発表と討論	
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	10/7	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
20	10/14	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
21	10/21	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
22	10/28	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
23	11/4	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
24	11/11	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	11/18	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
26	11/25	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
27	12/2	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
28	12/9	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
29	12/16	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分
30	1/13	個別発表		研究の進捗状況について、学生による発表と討論
		この回の到達目標	自らの問いを説明し、コメントや質問に応答する力の涵養および内在的かつ生産的にコメントしうる力の養成	
		事前学修	発表準備およびゼミナール論文の執筆	120分
		事後学修	ゼミナールの時間に受けたコメントや助言を踏まえ、ゼミナール論文の執筆作業を行う。	180分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小林 義寛	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア文化を中心に現代文化、とりわけポップカルチャーに焦点をあて、わたしたちの生活の諸側面における文化事象の諸様態とその意義を理解する。その上で、日常生活におけるわたしたちの文化実践について考える。そのために必要な視座あるいはフレームワークに関しては、現代的な諸理論を基盤に学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ポップカルチャーを研究するために必要な視座あるいはフレームワークを学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。 とくに4年次においては、テキスト輪読、発表、ディスカッションを通して、文化研究に関わる諸理論を理解する。それらを通して、具体的な文化事象への、現象論ではないアプローチを実践し、理論的アプローチに基づいた卒業論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
テキスト輪読、発表、ディスカッションをおこなう。卒業論文にむけての報告と議論をおこなう。 卒業論文における研究に関しては、サブゼミにおいても展開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキスト輪読および卒業論文作成にあたって、発表、議論、レジュメ作成、報告資料作成などをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	現代文化に関するアプローチを学ぶことで、文化事象を考察するための基本的概念や理論を修得し、理論的フレームワークに基づいて議論ができるようになる。						4						
②	異なる社会や文化におけるそれぞれの社会構造、文化構造との関係で、特定の文化事象にアプローチできるようになる。							4					
③	既存の制度、社会を所与のものとせず、「当たり前」を疑い、疑問をもち、考察できるようになる。								4				
④	身の回りの具体的な文化事象を取り上げ、それに対して理論的なアプローチができるようになる。									4			
⑤	自明視された事象に対し、異なった視点、新たな態度で臨めるようになる。										4		
⑥	卒業論文作成における研究やお互いの議論を通じて、問題に関して深く理解するとともに、他者に対して寛容に議論ができる。											4	
⑦	卒業論文作成における研究やお互いの議論を通じて、他の受講生の研究への助言や協力を通じて指導力を発揮し、研究活動ができる。												4
⑧	具体的な事象に対し、現象論ではなく、理論的、方法的なアプローチを通じて、深く考察することができる。												4
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	15	15	10	10	10	15	15	10			100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	15	15	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】	
報告、議論、レポート、論文指導を通じて適宜講評する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業時や共同研究の進行に合わせて指示する。				

【オフィスアワー】	
火曜日4限など、事前に連絡して調整をおこなう。研究室　kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	卒業論文のテーマ①	卒業論文のテーマに関する検討。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	卒業論文のテーマに関係する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
2	4/16	卒業論文のテーマ②	卒業論文のテーマに関する検討。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討しする。	
		事前学修	前回の問題点を修正し、具体的なテーマへつなげる報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
3	4/23	卒業論文のテーマ③	卒業論文テーマの決定	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて決定する。	
		事前学修	前2回の問題点をふまえ、具体的な研究テーマとなる報告資料を作成する。	120分
		事後学修	具体化された報告テーマを基にした研究計画の修正をおこなう。	120分
4	4/30	テキスト輪読 1-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
5	5/7	テキスト輪読 1-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
6	5/14	テキスト輪読 1-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	テキスト輪読 1-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
8	5/28	テキスト輪読 1-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
9	6/4	テキスト輪読 1-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
10	6/11	テキスト輪読 1-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
11	6/18	テキスト輪読 1-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
12	6/25	テキスト輪読 1-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	テキスト輪読 1-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
14	7/9	卒業論文中間報告①	卒業論文の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマに対するアプローチの現状報告をおこない、その報告と議論を通じて、考察と修正をおこなう。	
		事前学修	研究テーマの中間報告のための資料の作成をする。	120分
		事後学修	議論を通じて、卒業論文作成までの展開を構想する。	120分
15	7/16	卒業論文中間報告②	卒業論文の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の修正と考察を基にして、卒業論文作成までの今後の展開と方向性について、議論を通じて構成する。	
		事前学修	前回の議論を基に今後の展開に関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を通じて、卒業論文作成に向けて展開と方向性などを修正する。	120分
16	9/10	テキスト輪読 2-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
17	9/17	テキスト輪読 2-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
18	9/24	テキスト輪読 2-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/1	テキスト輪読 2-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
20	10/8	テキスト輪読 2-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
21	10/15	テキスト輪読 2-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
22	10/22	テキスト輪読 2-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
23	10/29	テキスト輪読 2-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
24	11/12	テキスト輪読 2-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/19	テキスト輪読 2-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
		事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
26	11/26	共同研究報告①	共同研究の成果の報告。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、共同研究の成果をまとめ、報告する。	
		事前学修	共同研究の成果を報告するための報告資料を作成する。	120分
		事後学修	報告書作成のために、報告に対する議論を基に問題点等を把握する。	120分
27	12/3	共同研究報告②	報告書作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の報告と議論に基づいて報告書を作成する。	
		事前学修	前回の議論を基に、報告書作成のための展開に関する報告資料を作成する。、	120分
		事後学修	これまでの議論を基に報告書を作成する。	180分
28	12/10	卒業論文完成へ向けて①	卒業論文作成作成の最終テック。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文を報告と議論を通じて最終的な検討をし、チェックをおこなう。	
		事前学修	卒業論文に関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を基に問題点等を把握し、最終段階の問題点の解消に向けて検討をする。	120分
29	12/17	卒業論文完成へ向けて②	卒業論文作成作成の最終テック。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	卒業論文に関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を基に問題点等を把握し、最終段階の問題点の解消に向けて検討をする。	120分
30	12/24	卒業論文完成へ向けて③	卒業論文作成作成の最終テック。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
		事前学修	卒業論文に関する報告資料を作成する。	120分
		事後学修	議論を基に問題点等を把握し、最終段階の問題点の解消に向けて検討をする。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
英米法に関する興味のある分野を自発的に選び、その分野の判例につき報告と質疑応答・議論を行い、論文のテーマを選定し、計画的にリサーチを継続して行い、当該論文のテーマについて法律論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
一次的法源と二次的法源を調査し要約して発表する能力、英米法の法律専門用語を正確に理解しそれらを用い分かりやすく聞き手や読み手に説明する能力、調査に基づく論理的かつ批判的な視点から論文を執筆する能力、を修得する。

【履修条件】
英米法の基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が英米法の分野において自発的に選択する論文のテーマにつき行った発表に対して質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため、合宿や課外活動（例えば、大学対抗仲裁・交渉コンペティションへの参加やフォーラム等）を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	判例発表と質疑応答を含む授業中の議論における積極的な発言を行う。ゼミナール論文のテーマを自発的に決定し計画的に執筆する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の法律専門用語を正確に理解し、専門演習や判例報告において、これらを適切に用いて議論することができる。				3	3				3		
②	英米法を学ぶ際に大前提となる諸制度を深く理解し、専門演習や判例報告において、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3		
③	他の履修生からの意見や質問を尊重し相互に新たな課題を発見しながら論文執筆作業や課外活動に取り組むことができる。								3	3	3	3
④	③で発見した新たな課題を含め計画的に客観的論証を示す論文の執筆を進めることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	判例報告と質疑応答に基づく中間のレポート課題につき、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	判例報告と質疑応答において他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	自発的に選んだテーマについて一次的法源と二次的法源が正確に引用され、客観的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
判例発表は発表後に講評を行う。レポート課題とゼミナール論文については準備段階ごとに質疑応答を行い講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） Colnetのメールで予約を取る（メールアドレス：sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ニューヨーク州弁護士（アメリカ）と外国法事務弁護士（日本）として国際契約、国際訴訟、国際商事仲裁、国際商事調停の実務に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		判例法の法域に特有の法的及び実務的問題点を学修する授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	論文テーマの報告(1)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、設定した論文テーマの内容につき適切な議論を展開できる。	
		事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
2	4/17	論文テーマの報告(2)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
		事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
3	4/24	論文テーマの報告(3)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
		事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
4	5/1	論文テーマの報告(4)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
		事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
5	5/8	資料の収集（一次的法源と二次的法源）	確定した論文のテーマ毎に、一次的法源と二次的法源となる資料の収集の仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、一次的法源と二次的法源となる資料収集の方法について説明することができる。	
		事前学修	一次的法源と二次的法源となる資料の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での説明を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分
6	5/15	資料の収集と内容の確認（一次的法源と二次的法源）(1)	確定した論文のテーマ毎に、収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、確定した論文のテーマに関して収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を説明することができる。	
		事前学修	収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での内容確認を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	資料の収集と内容の確認 (一次的法源と二次的法源) (2)	確定した論文のテーマ毎に、収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、確定した論文のテーマに関して収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を説明することができる。	
		事前学修	収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での内容確認を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分
8	5/29	資料の収集と内容の確認 (一次的法源と二次的法源) (3)	確定した論文のテーマ毎に、収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、確定した論文のテーマに関して収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を説明することができる。	
		事前学修	収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での内容確認を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分
9	6/5	判例の確認・検討(1)	収集した判例の先例拘束性を確認・検討し、他の判例との関係が十分説明されているかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、判例の先例拘束性が他の判例との関係で保持されているかどうかについて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	使用する判例を整理し、その相関関係をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえて判例の相関関係をさらに検討する。	120分
10	6¥12	判例の確認・検討(2)	収集した判例の先例拘束性を確認・検討し、他の判例との関係が十分説明されているかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、判例の先例拘束性が他の判例との関係で保持されているかどうかについて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	使用する判例を整理し、その相関関係をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえて判例の相関関係をさらに検討する。	120分
11	6/19	判例の確認・検討(3)	収集した判例の先例拘束性を確認・検討し、他の判例との関係が十分説明されているかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、判例の先例拘束性が他の判例との関係で保持されているかどうかについて、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	使用する判例を整理し、その相関関係をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえて判例の相関関係をさらに検討する。	120分
12	6/26	課題の確認・検討(1)	これまでの作業をとおして発見した課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	課題の確認・検討(2)	これまでの作業をとおして発見した課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/10	課題の確認・検討(3)	これまでの作業をとおして発見した課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7/17	ゼミナール論文の執筆とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、文献の引用の仕方を含む注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/18	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9/25	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	10/2	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10/16	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10/23	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10/30	論文の第一次報告(7)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
23	11/6	論文の第一次報告(8)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
24	11/13	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	11/27	論文の第二次報告(3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/4	論文の第二次報告(4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/11	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/18	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	12/25	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会学およびメディア研究のテキストクリティークを通して、研究の基礎的なトレーニングを行う。個人研究に加え、共同研究をフィールド調査などを通して行い、その結果をプレゼンテーションする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会学およびメディア研究の基礎理論、方法論について修得するとともに、各自の問題意識・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワーク・共同研究を通して他者との協働性の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミ入室試験に合格したもの

【授業方法】
テキストのレジュメとディスカッションを基本軸とし、定期的に映像分析を行う。共同研究では、研究計画を立て、それに沿って協働で研究を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像分析 レジュメや資料を作成した、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストの基本的読解とレジュメ等で再構成・発表することができる				4	4	4			4		
②	映像を主にディスコース分析の手法で分析することができる				4	4	4	4				
③	現代社会の諸現象から、テーマを立て、研究を企画することができる				4			4	4			
④	研究テーマにもとづき、関連文献や資料を探索・収集することができる						4	4				
⑤	研究データを的確に収集・まとめることができる				4				4	4	4	
⑥	研究対象やデータを的確に分析し考察することができる					4	4	4				4
⑦	研究結果を論文として構成することができる				4	4	4	4	4	4		4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	共同研究での報告書の作成		5	5			5	5				20
討論・発表等	テキストや映像分析のレジュメ作成とプレゼンテーション	5	5				5					15
授業への参画度	毎回の出席とフィールド調査への参加	10				5						15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文			10	10		10	10				40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	15	10	5	20	15				90

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文、発表、課題についての応答は、講義内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	前期のガイダンスおよび導入講義	ゼミナールのスケジュールを確認し、進め方や評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、ゼミナール論文の企画・計画を立てることができる	
		事前学修	シラバスを確認し、ゼミナール論文のテーマを構想する	120分
		事後学修	講義の内容を整理し、復習する	120分
2	4/15	パンデミックの映像分析①	新型インフルエンザを題材にしたドキュメンタリー番組を視聴し、分析・ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を理解することができる	
		事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、報道関係の資料を収集しておく	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
3	4/22	パンデミックの映像分析②	新型インフルエンザを題材にしたドラマ作品を視聴し、分析・ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を医療や社会政策の観点から理解することができる	
		事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、行政関係の資料を収集しておく	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
4	4/29	個人研究発表①	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	発表レジュメを作成する	180分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
5	5/6	個人研究発表②	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	発表レジュメを作成する	180分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
6	5/13	個人研究発表③	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	発表レジュメを作成する	180分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	個人研究発表④	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
		事前学修	発表レジュメを作成する	180分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
8	5/27	自己と生権力	表象作品『夏物語』（川上未映子）を読解し、生殖と生権力について議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
		事前学修	『夏物語』を読んでくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
9	6/3	家族と生権力	表象作品『夏物語』（川上未映子）を読解し、家族と生権力について議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
		事前学修	『夏物語』を読んでくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
10	6/10	コミュニケーションと自己	表象作品『某』（川上弘美）を読解し、自己とコミュニケーションについて議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
		事前学修	『某』を読んでくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
11	6/17	生と死と自己のあり方	表象作品『某』（川上弘美）を読解し、生と死をめぐる自己のあり方について議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
		事前学修	『某』を読んでくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
12	6/24	感染症と文学①	『ペスト』（カミュ）を読解し、感染症と社会の不条理について議論する	
		この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
		事前学修	『ペスト』を読んでくること	120分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	コレラを題材にした映像分析	映像作品『コレラ時代の愛』を視聴し、分析・ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、映像テキストを分析することができる	
		事前学修	原作『コレラ時代の愛』を読んでくること	180分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
14	7/8	感染症と文学②	文学作品『コレラ時代の愛』（G・マルクス）を読解する	
		この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
		事前学修	『コレラ時代の愛』を読んでくること	180分
		事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
15	7/15	前期講義のまとめ	前期の講義を振り返り、感染症と表象との関係、およびゼミナール論文の各自の課題を確認する	
		この回の到達目標	到達目標、①、②、③、④、⑤、⑥に関連し、理論や方法論の活かし方を修得することができる	
		事前学修	前期の講義ノート、レジュメ、資料を復習する	120分
		事後学修	ディスカッションした内容を整理する	120分
16	9/16	後期のガイダンスと導入講義	後期のスケジュールを確認し、評価方法・基準を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、ゼミナール論文の執筆の計画を立てることができる	
		事前学修	ゼミナール論文の執筆計画を企画する	120分
		事後学修	執筆計画を再構成すること	120分
17	9/23	個人研究発表⑤	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
18	9/30	個人研究発表⑥	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	個人研究発表⑦	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
20	10/14	個人研究発表⑧	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
21	10/21	パンデミック映画の分析	『アウトブレイク』を視聴し、分析ディスカッションする	
		この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を理解することができる	
		事前学修	感染症について、文献を探索し読んでおくこと	180分
		事後学修	ディスカッションの論点を整理すること	60分
22	10/28	個人研究発表⑨	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
23	11/11	個人研究発表⑩	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
24	11/18	個人研究発表(11)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	個人研究発表(12)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
26	12/2	個人研究発表(13)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
27	12/9	個人研究発表(14)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
28	12/16	個人研究発表(15)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
29	12/23	個人研究発表(16)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
		事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
30	1/13	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、ゼミナール論文の社会的位置づけ、各自の問題意識を明確にする	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
		事前学修	ゼミナール論文の執筆を進めること	200分
		事後学修	ゼミナール論文の「目的」の原稿を復習しなおすこと	180分

科目名	ゼミナール4年	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：メディア、情報流通に関する諸問題についてグループ毎に研究を行い、その成果を法桜祭で発表する。メディア系5大学合同ゼミに参加し、1月の合同発表会で研究成果を披露する。 4年次：3年次に学習した内容を参考に、自分の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナールでのディスカッションを通じて、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：1年次、2年次に学修した基礎的知識を発展させるために、メディア、情報流通に関する現代的な諸問題について理解する能力を修得する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、メディア、情報流通に関する諸問題への理解を深め、自分自身であるべき姿を提案できる能力を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗状況の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記、授業方法を参照。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、情報流通に関する基本概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。						3			3	3	
③	メディア、情報流通の現代的な諸課題に対し、であるべき姿を提案することができる。							3	3	3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての各能力が身についているかを、毎回のレポートにより評価する。	10	10									20
討論・発表等	到達目標①②③について各能力が身についているかを、発表およびディスカッションの発言内容により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。		15	35								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ゼミの進め方	ゼミナール論文研究の進め方、論文の書き方など。	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の研究テーマを考える。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
2	4/15	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
3	4/22	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
4	4/29	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
5	5/6	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
6	5/13	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
8	5/27	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
9	6/3	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
10	6/10	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
11	6/17	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
12	6/24	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
14	7/8	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
15	7/15	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
16	9/16	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
17	9/23	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
18	9/30	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
20	10/14	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
21	10/21	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
22	10/28	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
23	11/11	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
24	11/18	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
26	12/2	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
27	12/9	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
28	12/16	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
29	12/23	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
30	1/13	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
		事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	澤田 康広	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。
4年次：3年次に学習した内容及び新たな課題への取組を通じて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習し、問題解決能力を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：事前に出題した課題に関するレポートに基づいて、担当の学生が説明・報告し、その内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
4年次：事前に出題した課題に関するレポート作成、発表等を通じて各自が研究テーマを決定し、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションを行いながら、適宜、教員が解説して進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から判決に至るまでの各手続を理解し、各手続の適法性の基準を説明することができる。				3	3	3	3	3		3	
②	刑事手続の適法性を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						3	3	3	3		3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければなら ない。 評価にあたっては、研究内容とゼミナール論文の内容のみならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。	40	60									100
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁ほか編	有斐閣	2017	参考書	任意
					推奨
備考					

【オフィスアワー】
随時（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp） 火曜昼休み研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事例を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
2	4/16	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
3	4/23	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
4	4/30	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
5	5/7	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
6	5/14	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
8	5/28	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
9	6/4	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
10	6/11	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
11	6/18	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
12	6/25	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
14	7/9	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
15	7/16	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
16	9/17	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
17	9/24	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
18	10/1	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/8	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
20	10/15	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
21	10/22	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
22	10/29	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
23	11/5	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
24	11/12	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/19	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
26	12/3	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
27	12/10	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
28	12/17	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
29	12/24	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
30	1/14	公判・証拠法	公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
		この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
		事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
		事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法を中心とする刑事法の領域において、学術的研究に相応しいテーマを発見し、いままでゼミナールをはじめとする授業等で学んできた専門的知識と手法を用いて、文献調査、実態調査等により資料・情報を収集・分析し、担当教員や他のゼミ生とともに検討して、水準の高い学術論文にまとめる方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法を中心とする刑事法の領域において、学術的研究に相応しいテーマを発見し、資料・情報を収集して合理的かつ批判的な考察を加え、課題を設定して解決策を案出し、これを独創性のある論文にまとめて提出する。

【履修条件】
3年次から引き続き当ゼミナールを履修しているものであることを要する。

【授業方法】		
前期は、論文作成の基本的な技法を学修した上でテーマを発見して報告させ、後期は、発見した自己の論文のテーマをより掘り下げて、具体的な課題設定を行い、資料・情報を収集・分析した結果や論文骨子（スケルトン）・第一次原稿について報告させ、いずれについても担当教員らがコメントし、意見交換をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールの時間に限らず、随時、メールで担当教員と連絡を取り、面談をして、意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	論文作成の技法を身につける。				3	3	3	3	3	3	3
②	テーマを発見し、これに関する資料・情報を収集・分析して、より具体的な課題設定を行う。				3	3	3	3	3	3	3
③	設定した課題につき、担当教員らに報告して意見交換をする。				3	3	3	3	3	3	3
④	設定する課題を確定し、解決のために必要な資料・情報を収集して検討する。				3	3	3	3	3	3	3
⑤	論文の全体構造を骨子（スケルトン）の形にし、担当教員らに報告して意見交換をする。				3	3	3	3	3	3	3
⑥	論文の骨子を確定し、論文を執筆する。				3	3	3	3	3	3	3
⑦	第一次草稿を担当教員らに示し、意見交換をする。				3	3	3	3	3	3	3
⑧	推敲を十分にした上で、完成稿を提出する。				3	3	3	3	3	3	3
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	的確な内容の発表・報告であるか、資料・情報の収集が十分なされているか、収集した資料・情報の分析方法が適切なものであるか、論文の骨子が的確なものであるか、によって評価する。	5	5	5	5	5	5	5				35
授業への参画度												
その他(ゼミナル論文)	提出された論文について、内容に独創性があるか、課題設定が的確になされているか、参考文献等の資料の分析が的確になされているか、適切な表現や正しい引用がなされているか、によって評価する。								65			65
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	5	65			100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告・連絡に対し、随時、コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	ゼミ生と協議して決定する。				

【オフィスアワー】
金曜日（12：10）授業講堂ないし研究室において行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	学術論文の書き方	学術論文とはどのようなものか 学術論文として認められるための要件は何か 優れた学術論文と凡庸な学術論文との差異 テーマを発見するためにはどのようなことをすればよいか	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、上記内容を理解し、自己の論文作成に生かす。	
		事前学修	学術論文の書き方に関する書物（例えば、木下是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房）を1冊以上読んで、上記の「内容」記載の事項について考え、メモを作成する。	120分
		事後学修	授業で学んだことをまとめる。	120分
2	4/17	テーマの発見と課題の設定	発見したテーマから課題を導出する方法 的確な課題設定ないし問題提起はどのようにすれば可能か 課題設定の重要性	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、上記内容を理解し、自己の論文作成に生かす。	
		事前学修	テーマと課題の相違について、検討し、メモを作成する。	120分
		事後学修	授業で学んだことをまとめる。	120分
3	4/24	違法・不正な論文を書かないために	著作権法違反の論文の例 不正な論文と不適切な論文 正しい引用の仕方	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、上記内容を理解し、自己の論文作成に生かす。	
		事前学修	文部科学省のサイト等で、研究活動の不正行為について調べ、メモを作成する。どのような引用であれば著作権法上許されるのかについて調べ、メモを作成する。	120分
		事後学修	授業で学んだことをまとめる。	120分
4	5/1	テーマ報告（1）	発見したテーマ、あるいは、テーマを探す領域について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テーマの発見を行う。	
		事前学修	テーマを発見するか、少なくともテーマを探す領域について、報告できるように準備する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、テーマを再検討する。	120分
5	5/8	テーマ報告（2）	前回の意見交換により再検討した結果を報告し、さらに意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、よりの確なテーマの発見を行う。	
		事前学修	再検討の結果を報告できるようにまとめる。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、テーマをさらに検討する。	120分
6	5/15	テーマ報告（3）	前回の意見交換の後、さらに検討した結果を報告し、意見交換をして、テーマを確定する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テーマを確定する。	
		事前学修	検討した結果を報告できるようにまとめる。	120分
		事後学修	確定したテーマにつき、課題設定に必要な資料・情報を集める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	テーマから課題へ（１）	課題設定に必要な資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題設定に必要な資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	課題設定に必要な資料・情報につき、報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
8	5/29	テーマから課題へ（２）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報につき、報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
9	6/5	テーマから課題へ（３）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
10	6/12	テーマから課題へ（４）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
11	6/19	テーマから課題へ（５）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
12	6/26	テーマから課題へ（６）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	テーマから課題へ（7）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
14	7/10	テーマから課題へ（8）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、さらに資料・情報を集める。	120分
15	7/17	テーマから課題へ（9）	新たに集めた資料・情報について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、新たに集めた資料・情報の内容を理解する。	
		事前学修	新たに集めた資料・情報について報告できるように整理する。	120分
		事後学修	今までの意見交換の結果に基づき、集めた資料・情報を整理して分析し、課題設定につなげる。	120分
16	9/18	課題設定（1）	課題設定について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、的確な課題設定を行う。	
		事前学修	課題を設定して報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、課題設定を再考する。	120分
17	9/25	課題設定（2）	修正された課題設定について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、的確な課題設定を行う。	
		事前学修	修正した課題設定について報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、課題設定を再考する。	120分
18	10/2	課題設定（3）	修正された課題設定について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、的確な課題設定を行う。	
		事前学修	修正した課題設定について報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、課題設定を再考する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	課題設定（4）	修正された課題設定について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、的確な課題設定を行う。	
		事前学修	修正した課題設定について報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づき、課題設定を再考する。	120分
20	10/16	課題設定（5）	修正された課題設定について報告し、意見交換をする。 課題を確定する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、的確な課題設定を行い、課題を確定する。	
		事前学修	修正した課題設定について報告できるようにする。	120分
		事後学修	確定した課題につき、解決策（仮説）を提示するために必要な資料・情報を収集・分析し、論文骨子を組み立てる。	120分
21	10/23	論文骨子の作成（1）	論文骨子について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、論文骨子を作成して報告し、意見交換をする。	
		事前学修	論文骨子を作成し、報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、論文骨子を修正する。	120分
22	10/30	論文骨子の作成（2）	修正した論文骨子について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、論文骨子を作成して報告し、意見交換をする。	
		事前学修	修正した論文骨子を報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、論文骨子を修正する。	120分
23	11/6	論文骨子の作成（3）	修正した論文骨子について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、論文骨子を作成して報告し、意見交換をする。	
		事前学修	修正した論文骨子を報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、論文骨子を修正する。	120分
24	11/13	論文骨子の作成（4）	修正した論文骨子について報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、論文骨子を作成して報告し、意見交換をする。	
		事前学修	修正した論文骨子を報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、論文骨子を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11 /20	論文骨子の作成（5）	修正した論文骨子について報告し、意見交換をして、論文骨子を確定する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、論文骨子を作成して報告し、意見交換をして、確定する。	
		事前学修	さらに修正した論文骨子を報告できるようにする。	120分
		事後学修	確定した論文骨子を基に、第一次原稿を執筆する。	120分
26	11 /27	第一次原稿の検討（1）	第一次原稿に基づいて報告し、意見交換する。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、第一次原稿について報告し、意見交換をする。	
		事前学修	第一次原稿について報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、第一次原稿を修正する。	120分
27	12/4	第一次原稿の検討（2）	修正した第一次原稿に基づいて報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、第一次原稿について報告し、意見交換をする。	
		事前学修	修正した第一次原稿について報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、第一次原稿を修正する。	120分
28	12 /11	第一次原稿の検討（3）	修正した第一次原稿に基づいて報告し、意見交換をする。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、第一次原稿について報告し、意見交換をする。	
		事前学修	再度修正した第一次原稿について報告できるようにする。	120分
		事後学修	意見交換の結果に基づいて、第一次原稿を修正する。	120分
29	12 /18	第一次原稿の検討（4）	修正した第一次原稿に基づいて報告し、意見交換をした上、第一次原稿を確定する。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、第一次原稿について報告し、意見交換をした上、第一次原稿を確定する。	
		事前学修	さらに修正した第一次原稿について報告できるようにする。	120分
		事後学修	確定した第一次原稿につき推敲をする。	120分
30	12 /25	原稿の推敲	原稿推敲の結果について報告し、提出原稿を確定する。	
		この回の到達目標	到達目標⑧に関連して、論文をいつでも提出できる状態にする。	
		事前学修	原稿の推敲を終える。	120分
		事後学修	完成原稿に表紙をつけ、教務課に提出する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の既存メディアをはじめ、WebやSNSから発信された事柄と、実社会との関係、その事柄が実社会に与える影響やその責任について分析する。 3年時は、グループでテーマを決め研究をし、11月のゼミフォーラムでの発表とその発表を冊子化する。4年次は卒業論文のテーマを自主的に決定しゼミナール講座では中間発表と、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員の指導等のアドバイスを受け、卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は、マスメディア個人から発信される動画、言葉などの「情報」が瞬時に世界を駆け巡り、その反応も早く、時には数時間のうちに世界情勢は大きな変化を見せる。そのただ中で「情報」が与える社会への影響、発信者の役割、責任を解明、学修する。

【履修条件】
新聞学科のみではなく他の4学科に在籍し、既存メディアに強い関心があり、Web、コミュニケーション、ジャーナリズムにも関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
学生の自主性に基づき、3年次は教員の助言や、先輩ゼミ生のアドバイスを受けながら討論をし、年間の研究テーマを決め、講座毎に研究調査のやり方を討論し、最終的に研究発表をし、その成果を冊子にまとめる。 4年次は、卒業論文を自主的に研究課題を選び、教員の助言等アドバイスを受けながら研究を進め、論文作成をし提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる。また、グループワークで映像表現について討論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	①メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容について説明することができる。【知識】					4	4						
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。【知識】【技能】					4			4				
③	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品等資料を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を述べる事が出来る。【態度】							4			4		
④	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を文章や映像等にまとめる事が出来る。【技能】								4		4		
⑤	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。【態度】									4	4		
⑥	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に進行やまとめ役をすることが出来る。【態度】										4	4	
⑦	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。【技能】									4			4
⑧	文字資料・映像資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【知識】【態度】										4		4
⑨	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】						4	4					4
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標にかかわる能力が身についているかを、映像表現等についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたか等の評定尺度により受講生同士がお互いに評価する。（ピア評価）				4	4	4	4	4	8		28
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	1	1				7
その他(ゼミナル論文)	4年次に出される卒業論文の内容が中間発表とアドバイスの結果、書式の指定とともに、充実したものとなっているかの評価をする。	5	10	5	5	10	5	5	5	15		65
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	11	6	10	15	10	10	9	23		100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	参考書	推奨
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	推奨
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	推奨
もうダメされないための「科学」講義		菊池誠 他	光文社新書541	2011	参考書	推奨
社会の真実の見つけ方		堤 未果	岩波ジュニア文庫673	2011	参考書	推奨
街場のメディア論		内田 樹	光文社新書474	2010	参考書	推奨
備考	教科書は特に使用しないが、上記参考書は読んでおくことが望ましい。					

【オフィスアワー】
講座時間内は勿論だが、そのほかメールアドレスに質問疑問点を送り、対応する。 shibata.shuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特にメディアと社会の関係で取り上げられているものは、解説を加え講座で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 火	イントロダクション～メディアとは何か～	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。講座の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	4/14 火	現代社会とメディアの関係①	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
3	4/21 火	現代社会とメディアの関係②	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
4	4/28 火	現代社会とメディアの関係③	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
5	5/5 火	現代社会とメディアの関係④	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
6	5/12 火	現代社会とメディアの関係⑤	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 火	現代社会とメディアの関係 ⑥	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
8	5/26 火	現代社会とメディアの関係 ⑦	現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
		事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
		事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
9	6/2 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。	90分
10	6/9 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。	90分
11	6/16 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。	90分
12	6/23 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問 題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し (3～4人ずつ)、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップ する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを 使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直 す。	90分
14	7/7 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問 題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し (3～4人ずつ)、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップ する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを 使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直 す。	90分
15	7/14 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問 題	卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し (3～4人ずつ)、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップ する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。	
		事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを 使用するなど工夫をした発表を準備する。	150分
		事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直 す。	90分
16	9/14 火	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問 題	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導す る。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月半になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上 で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要 な場合は加え、表現等を工夫する	90分
17	9/21 火	卒論終盤段階発表 A班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導す る。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月半になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上 で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要 な場合は加え、表現等を工夫する	90分
18	9/28 火	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導す る。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月半になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上 で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要 な場合は加え、表現等を工夫する	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5 火	卒論終盤段階発表 B班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する。	90分
20	10/12 火	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
21	10/22 火	卒論終盤段階発表 A班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
22	10/29 火	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
23	11/9 火	卒論終盤段階発表 B班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
24	11/16 火	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23 火	卒論終盤段階発表 A班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日の問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
26	11/30 火	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日の問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
27	12/7 火	卒論終盤段階発表 B班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日の問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄2か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
28	12/14 火	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日の問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄2か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
29	12/21	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日の問題について講義・討論する	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出迄2か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。	150分
		事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する	90分
30	2021/1/11 火	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班6人、B班5人に分1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。	
		事前学修	卒論提出直前だったので、書かれた内容の誤字脱字等の確認、点検をきちんとし、丁寧な装丁や提出締め切りを間違得ることなく提出する。	150分
		事後学修	提出締め切りを間違得ることなく確認し確実に提出する。	90分

科目名	ゼミナール4年	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法（財産法）に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ選択したテーマに関する高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿や法律討論会、他のゼミナールとの合同勉強会など、学修効果を高めるための創意工夫を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3						
②	民法（財産法）に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3					
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3				3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3		3	3	3	3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/24	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	5/1	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	5/8	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	5/15	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/22	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/29	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	6/5	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	6/12	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6/19	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6/26	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	7/3	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	7/10	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/17	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/31	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	8/3	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/18	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9/25	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	10/2	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10/16	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10/23	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10/30	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/6	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/13	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	11/27	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/4	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/11	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/18	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	12/25	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学、政治思想および政治哲学に関する専門的な学修・研究を行う。 政治思想・政治哲学や政治理論の研究を通して、個人の自由と人格を尊重し、公共性への配慮を忘れず、弱者に対する共感と適切な批判精神を備えた市民の育成を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学・政治思想・政治哲学に関する知識や社会人に求められるスキルだけでなく、良識と良心をそなえた市民として必要とされる規範意識を身につけることも目的とする。 3年次においては、3年次に決定したテーマにもとづき、ゼミナール論文を完成させる。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者のみを対象とする。

【授業方法】
課題図書 の 輪読 を 基礎 と し な が ら、学 生 に よ る 発 表 ・ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 中 心 に 授 業 を 行 う。その際、学生は積極的に議論を行う。 また、法桜祭の際に行われる「学生フォーラム」（学生による研究発表）の準備を、学生間の議論を

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表・プレゼンテーション、また議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	10	15									25
授業への参画度	ゼミナール内で実施する議論に積極的かつ主体的に参加し、論理的な発表を行うことができているかを評価する。	10	15									25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	政治学・政治思想史・政治哲学などの方法論や理論、またそれらに関する基本的概念を理解した上で、適切なテーマ・課題設定と論証を行い、論理的に結論を導き出すことに成功しているかを評価する。	25		15	10							50
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて指定する。				

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4/14	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/21	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4/28	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/12	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	5/26	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	6/2	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	6/9	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	6/16	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	6/23	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/7	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7/14	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/15	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9/22	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	9/29	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10/13	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10/20	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10/27	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/10	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/17	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	12/1	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/8	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/15	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/22	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/12	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	100分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	140分

科目名	ゼミナール4年	担当者	関 正晴	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
4年次：事訴訟の後半部分の手続について、審判対象論、証拠法、裁判の効力等につての課題と事例の検討を通じて学習し、また3年次にレポート作成等を通して学習した内容とともに各自の関心に沿った研究テーマを発見して、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
4年次：3年次の学習に加えて4年次に学習する課題の検討を通して、刑事訴訟法の重要な基本的問題について理解し、刑事訴訟法の諸問題を検討するための総合的な理解と法的思考力を修得するとともに、各自の関心に沿った研究テーマを発見し、4年次に作成するゼミナール論文のテーマを決定できるようにし、ゼミナール論文の作成を通して刑事訴訟法の諸問題への理解を深め基本的な説明を出来るようになることを目標とする。

【履修条件】
(ゼミナール入室試験合格者のみ受講可) 3年のゼミナールに出席し授業を履修していること。

【授業方法】		
4年次：刑事訴訟法の基本問題についての課題と事例問題について各自担当箇所の発表を行い、それについてグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。また、4年次の授業なので、各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表をしてもらい、その内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予め指定しておいた事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成して報告し、それに基づいてゼミ生を中心にした討論を行い、その後に教師が解説をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から判決に至るまでの各手続を理解し、各手続の適法性の基準を説明することができる。				3	3	3	3	3		3	
②	刑事手続の適法性の基準を具体的事例に即して適用し、その適法性を判断することができる。						3	3	3	3		3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。】											
その他(ゼミナール論文)	3年次・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければならない。成績評価にあたっては、研究内容とゼミナール論文の内容のみならず、担当回の報告・発表の内容やゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。	40	60									100
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説・講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N e x t 教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	平成31年	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁ら編	有斐閣		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時間に質問を受ける。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	公判の諸原則、事前準備手続、公判前整理手続と証拠開示	口頭主義、直接主義、公開主義等、公判前整理手続の目的及び従前の準備手続との異同、公判前整理手続に組み込まれている証拠開示制度の趣旨・目的、争点を整理し立証計画を立てるシステムについて学修し理解する。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする。	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
2	4月17日	公判期日の手続(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)	公判期日の手続(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)と裁判所の訴訟指揮権について学修しその内容を理解する。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
3	4月24日	裁判員裁判制度	裁判員裁判の基本構造(対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決の方法)についての学修しその内容を理解する。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
4	5月1日	簡易手続(簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続)	簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続の意義と内容について学修しその内容を理解する。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
5	5月8日	訴因制度訴因制度	訴因制度、訴因と公訴事実の関係、訴因の明示・特定の要請、判例の訴因が明示・特定されているか否かの基準と具体的事例の説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
6	5月15日	訴因変更制度①(訴因変更の要否)	訴因変更制度の意義、訴因の追加、撤回、狭義の変更、訴因変更の要否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	訴因変更制度②(公訴事実の同一性)	公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更の時機的な限界についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説できることを目標とする。	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
8	5月29日	訴因変更命令	裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
9	6月5日	証拠の意義と種類、証拠裁判主義	裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
10	6月12日	自由心証主義、挙証責任	自由心証主義の意義と例外、挙証責任の意義、証拠提出責任、争点形成責任、挙証責任の転換が認められるかについての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
11	6月19日	自白法則	自白の意義、自白法則の趣旨についての判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
12	6月26日	自白法則に関する裁判例	自白法則に関する裁判例を検討、約束による自白、偽計による自白、違法な手続で採取された自白等の具体的事例に則しての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	補強法則	自白に補強証拠を必要とする理由、公判廷自白にも補強証拠が必要とされるか、補強証拠適格、補強証拠が必要とされる範囲、補強証拠に『必要とされる証明力の程度、共犯者の自白に補強証拠が必要とされるかについての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目標とする。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
14	7月10日	伝聞法則①	伝聞証拠の意義、供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則と憲法との関係、伝聞法則が適用されない場合についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目標とする。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。	140分
15	7月17日	伝聞法則②	伝聞法則の例外を認める理由と例外を認める場合の柱、伝聞書面と伝聞供述について条文に則した例外とされる場合の説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目標とする。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
16	9月18日	ゼミナール卒業論文の指導	ゼミナール卒業論文のテーマの策定	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目標とする。それと関連させて卒業論文のテーマを策定して、同論文の執筆を進めることを目標とする。	
		事前学修	学生は、前期からゼミナール卒業論文のテーマについて考えてきた複数のテーマについて、その問題点や内容を参考文献・資料を読んで把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆のための準備をすること。	140分
17	9月25日	ゼミナール卒業論文の指導	ゼミナール卒業論文のテーマの策定	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目標とする。それと関連させて卒業論文のテーマを策定して、同論文の執筆を進めることを目標とする。	
		事前学修	学生は、前期からゼミナール卒業論文のテーマについて考えてきた複数のテーマについて、その問題点や内容を参考文献・資料を読んで把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆のための準備をすること。	140分
18	10月2日	ゼミナール卒業論文の指導	ゼミナール卒業論文のテーマの策定	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目標とする。それと関連させて卒業論文のテーマを策定して、同論文の執筆を進めることを目標とする。	
		事前学修	学生は、前期からゼミナール卒業論文のテーマについて考えてきた複数のテーマについて、その問題点や内容を参考文献・資料を読んで把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆のための準備をすること。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月9日	違法収集証拠の排除法則①	違法収集証拠の排除法則の根拠、違法収集証拠の証拠能力が否定される要件とその判断の際に考慮する要素、判例の立場主要な学説の考え方。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
20	10月16日	違法収集証拠の排除法則②	毒樹の果実の法理、違法に収集された証拠か派生して収集された証拠の取扱いと判例の事案の説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
21	10月23日	裁判の効力(確定判決の内容的確定力)	裁判の種類、裁判の成立の時点、裁判の確定の意義とその効力、実体裁判の内容的確定力の意義とそれが及ぶ事件の範囲についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
22	10月30日	裁判の効力②(一事不再理効、二重の危険の禁止)	一事不再理効の意義及び根拠、一事不再理効の発生時期、一事不再理効の及ぶ客観的範囲についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
23	11月6日	ゼミナール論文の進捗状況に応じた中間発表	学生が執筆を進めているゼミナール卒業論文について中間発表し、それに基づいて卒業論文の内容の充実のための検討の作業を行う。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。それとの関連で卒業論文の執筆を進めることを目標とする。。	
		事前学修	ゼミナールの学生は、卒業論文の執筆のための準備を進めておき、執筆を予定している卒業論文の概要を発表できるように準備しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に指摘された事項を検討し、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆を進めること。	140分
24	11月13日	ゼミナール論文の進捗状況に応じた中間発表	学生が執筆を進めているゼミナール卒業論文について中間発表し、それに基づいて卒業論文の内容の充実のための検討の作業を行う。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。それとの関連で卒業論文の執筆を進めることを目標とする。。	
		事前学修	ゼミナールの学生は、卒業論文の執筆のための準備を進めておき、執筆を予定している卒業論文の概要を発表できるように準備しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に指摘された事項を検討し、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆を進めること。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月20日	ゼミナール論文の進捗状況に応じた中間発表	学生が執筆を進めているゼミナール卒業論文について中間発表し、それ基ついて卒業論文の内容の充実のための検討の作業を行う。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。それとの関連で卒業論文の執筆を進めることを目標とする。。	
		事前学修	ゼミナールの学生は、卒業論文の執筆のための準備を進めておき、執筆を予定している卒業論文の概要を発表できるように準備しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に指摘された事項を検討し、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆を進めること。	140分
26	11月29日	ゼミナール論文の進捗状況に応じた中間発表	学生が執筆を進めているゼミナール卒業論文について中間発表し、それ基ついて卒業論文の内容の充実のための検討の作業を行う。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。それとの関連で卒業論文の執筆を進めることを目標とする。。	
		事前学修	ゼミナールの学生は、卒業論文の執筆のための準備を進めておき、執筆を予定している卒業論文の概要を発表できるように準備しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に指摘された事項を検討し、ゼミナール論文作成のための文献や資料を更に集めて執筆を進めること。	140分
27	12月4日	上訴総説(上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の効力)	上訴制度の意義と種類、上訴の利益、不利益変更禁止の原則、破棄判決の拘束力についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
28	12月11日	上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の効力 控訴審の構造	控訴理由の種類、控訴審の基本構造	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
29	12月18日	控訴審の審理手続	控訴審の審理手続、事実の取調べ、上告理由の種類、上告審の行う裁判の種類、職権破棄事由についての説明	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分
30	12月25日	非常救済手続(再審、非常上告)	再審、非常上告の手続についての概説、再審開始の要件としての証拠の新規性と明白性についての説明。	
		この回の到達目標	刑事訴訟の基本構造と手続の流れを修得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目指す。特に、①公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明できること、②公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明できることを目標とする	
		事前学修	事前に指定した事例問題、説明問題について担当した学生がレポートを作成する。他のゼミ生もその事例問題、説明問題のテーマについての教科書や参考書の該当部分を読み内容を把握しておくこと。	100分
		事後学修	授業中に紹介された文献、判例を読み、授業で説明した内容を確認し復習すること。	140分

科目名	ゼミナール4年	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため合宿やフィールドワークなどを行うほか、履修者からの要望も考慮しつつ授業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3				
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3						
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指定する				

【オフィスアワー】
月曜日12:10～13:00（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4／6	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4／13	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4／20	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4／27	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5／4	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5／11	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5 / 1 8	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5 / 2 5	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6 / 1	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6 / 8	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6 / 1 5	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6 / 2 2	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6 / 2 9	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7 / 6	課題の確認・検討(1)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7 / 1 3	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9 / 1 4	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9 / 2 1	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	9 / 2 8	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10／5	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10／12	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10／19	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10／26	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11／9	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11／16	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1 1 / 2 3	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	1 1 / 3 0	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	1 2 / 7	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	1 2 / 1 4	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	1 2 / 2 1	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1 2 / 1 8	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：憲法の主要判例を読み込むことによって、現在の憲法的現実を理解する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法に関連する現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定できるようになることを目標とする。また、憲法的素養の向上とともに、論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の養成を目指す。 4年次：憲法に関する現代の諸問題への理解を深め、自らの意見をゼミナール論文にまとめる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：報告担当者が割り当てられた憲法判例の内容・関連判例・学説状況などを報告する。他のゼミ生は、担当者の報告に対して質問することが求められる。そして、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。夏合宿において、中間発表を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次、4年次ともに、ゼミ生は担当する課題やゼミナール論文の内容について報告するとともに、他のゼミ生との質疑応答をしなければならない。報告することともに、他の参加者とともに議論を展開することが求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法の基本的内容の理解				3	3	3	3	3	3	3	3
②	基本的な憲法判例の内容の理解				3	3	3	3	3	3	3	3
③	判例が説示する判例法理の理解				3	3	3	3	3	3	3	3
④	論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の体得				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミ生は担当する課題を調査し、ゼミに置いて報告することが求められる。	5	5	5	10							25
授業への参画度	報告担当ではないゼミ生は、積極的に質疑応答に参加することが求められる。	5	5	5	10							25
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール4年次にゼミナール論文の提出が求められる。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミの時間において各報告に対して講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～ 9号館3階 高畑研究室(9303室)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月9日	ゼミナール論文テーマ発表	ゼミナール論文のテーマを各自が発表する。
		この回の到達目標	ゼミナール論文のテーマを各自が発表して、論文提出までのスケジュールを確認する。
		事前学修	ゼミナール論文のテーマについて、概要を用意する。120分
		事後学修	論文の作成と提出までのスケジュールを再確認する。120分
2	4月16日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。120分
3	4月20日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。120分
4	4月27日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。120分
5	5月4日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。120分
6	5月11日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
8	5月25日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
9	6月1日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
10	6月8日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
11	6月15日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
12	6月22日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
14	7月6日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
15	7月13日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
16	9月14日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
17	9月21日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
18	9月28日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月5日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	憲各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
20	10月12日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
21	10月19日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
22	10月26日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
23	11月9日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
24	11月16日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月23日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
26	11月30日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
27	12月7日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
28	12月14日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
29	12月21日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
30	1月18日	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
		事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
		事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
特許法を中心として、知的財産法全般について、法律的な制度や判例などの考え方を学ぶとともに、現代的な課題についても発表を行い、ディスカッションを行うことで理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作権法を中心として、知的財産法に関して、その制度の内容や現代的な問題を指摘し、これらを説明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
各テーマに基づいてグループごとに調べてきた内容を発表し、これに対してディスカッションをすることを中心とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマの発表とそれに対するディスカッション及びフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	著作権法の基礎を理解し、説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	著作権法の各制度について理解を深め、説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	著作権に関する現代的な問題点について理解を深め、説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③について、ポイントを押さえた発表が行えているかについて評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	到達目標②③について、積極的に授業にかかわり発言を行っているかについて評価する。		10	10								20
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①②③について、ゼミナール論文により評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のプレゼン発表の内容に基づいて適宜フィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 著作権法第4版	高林龍	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12時10分～13時 教員研究室（事前に連絡のこと）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	ガイダンス及び導入講義	知的財産法の概要	
		この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の概要を理解する。	
		事前学修	知的財産法の概要を調べてくる。	120分
		事後学修	知的財産法の概要を整理する。	120分
2	第一部火 4/14	著作権の目的	著作権法第1条の目的について議論を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②について、著作権法第1条の法目的の内容を理解する。	
		事前学修	著作権法第1条について調べてくる。	120分
		事後学修	著作権法の法目的について整理する。	120分
3	第一部火 4/21	著作権の客体 1	著作権の客体について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、著作物の内容を理解する。	
		事前学修	「著作物」の内容について調べてくる。	120分
		事後学修	「著作物」の内容について整理する。	120分
4	第一部火 4/28	著作権の客体 2	著作権の客体について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、表現形式による著作物の分類について理解する。	
		事前学修	表現形式による著作物の分類について調べてくる。	120分
		事後学修	表現形式による著作物の分類について整理する。	120分
5	第一部火 5/5	著作権の客体 3	二次的著作物について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、二次的著作物について理解する。	
		事前学修	二次的著作物を調べてくる。	120分
		事後学修	二次的著作物を整理する。	120分
6	第一部火 5/12	著作権の客体 4	編集著作物，データベースの著作物について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、編集著作物，データベースの著作物について理解する。	
		事前学修	編集著作物，データベースの著作物について調べてくる。	120分
		事後学修	編集著作物，データベースの著作物について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	著作権の主体（１）	著作者について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、著作者について理解する。	
		事前学修	著作者について調べてくる。	120分
		事後学修	著作者について整理する。	120分
8	第一部火 5/26	著作権の主体（２）	共同著作について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、共同著作について理解する。	
		事前学修	共同著作について調べてくる。	120分
		事後学修	共同著作について整理する。	120分
9	第一部火 6/2	著作権の主体（３）	職務著作について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、職務著作について理解する。	
		事前学修	職務著作について調べてくる。	120分
		事後学修	職務著作について整理する。	120分
10	第一部火 6/9	著作権の主体（４）	映画の著作者・著作権者について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、映画の著作者・著作権者について理解する。	
		事前学修	映画の著作者・著作権者について調べてくる。	120分
		事後学修	映画の著作者・著作権者性について整理する。	120分
11	第一部火 6/16	著作権の効力（１）	支分権について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、支分権について理解する。	
		事前学修	支分権について調べてくる。	120分
		事後学修	支分権について整理する。	120分
12	第一部火 6/23	著作権の効力（２）	侵害とみなす行為について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、侵害とみなす行為について理解する。	
		事前学修	侵害とみなす行為について調べる。	120分
		事後学修	侵害とみなす行為について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	権利の制限（１）	著作権法の保護を受けない著作物について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、著作権法の保護を受けない著作物について理解する。	
		事前学修	著作権法の保護を受けない著作物更について調べてくる。	120分
		事後学修	著作権法の保護を受けない著作物更について整理する。	120分
14	第一部火 7/7	権利の制限（２）	時間的限界について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、時間的限界について理解する。	
		事前学修	時間的限界を調べてくる。	120分
		事後学修	時間的限界を整理する。	120分
15	第一部火 7/14	権利の制限（３）	著作権の制限規定について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、著作権の制限規定について理解する。	
		事前学修	著作権の制限規定について調べてくる。	120分
		事後学修	著作権の制限規定についてまとめる。	120分
16	第一部火 9/15	権利の利用	権利の利用について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、権利の利用について理解する。	
		事前学修	権利の利用について調べてくる。	120分
		事後学修	権利の利用について整理する。	120分
17	第一部火 9/22	著作者人格権	著作者人格権について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、著作者人格権について理解する。	
		事前学修	著作者人格権について調べてくる。	120分
		事後学修	著作者人格権について整理する。	120分
18	第一部火 9/29	公表権	公表権について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、公表権について理解する。	
		事前学修	公表権について調べてくる。	120分
		事後学修	公表権について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部火 10/6	氏名表示権	氏名表示権について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、氏名表示権について理解する。	
		事前学修	氏名表示権について調べてくる。	120分
		事後学修	氏名表示権について整理する。	120分
20	第一部火 10/13	同一性保持権	同一性保持権について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、同一性保持権について理解する。	
		事前学修	同一性保持権について調べてくる。	120分
		事後学修	同一性保持権について整理する。	120分
21	第一部火 10/20	名誉声望を害する方法での利用の禁止	名誉声望を害する方法での利用の禁止について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、名誉声望を害する方法での利用の禁止について理解する。	
		事前学修	名誉声望を害する方法での利用の禁止について調べてくる。	120分
		事後学修	名誉声望を害する方法での利用の禁止について整理する。	120分
22	第一部火 10/27	著作隣接権	著作隣接権について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、著作隣接権について理解する。	
		事前学修	著作隣接権について調べてくる。	120分
		事後学修	著作隣接権について整理する。	120分
23	第一部火 11/10	著作権と著作隣接権の関係	著作権と著作隣接権の関係) について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、著作権と著作隣接権の関係) について理解する。	
		事前学修	著作権と著作隣接権の関係について調べてくる。	120分
		事後学修	著作権と著作隣接権の関係について整理する。	120分
24	第一部火 11/17	実演家	実演家について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、実演家について理解する。	
		事前学修	実演家について調べてくる。	120分
		事後学修	実演家について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 11/24	実演家人格権	実演家人格権について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、実演家人格権について理解する。	
		事前学修	実演家人格権について調べてくる。	120分
		事後学修	実演家人格権について整理する。	120分
26	第一部火 12/1	レコード製作者	レコード製作者について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、レコード製作者について理解する。	
		事前学修	レコード製作者について調べてくる。	120分
		事後学修	レコード製作者について整理する。	120分
27	第一部火 12/8	放送事業者・有線放送事業者	放送事業者・有線放送事業者について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、放送事業者・有線放送事業者について理解する。	
		事前学修	放送事業者・有線放送事業者について調べてくる。	120分
		事後学修	放送事業者・有線放送事業者について整理する。	120分
28	第一部火 12/15	差止請求	差止請求について	
		この回の到達目標	到達目標①②③について、差止請求について理解する。	
		事前学修	差止請求について調べてくる。	120分
		事後学修	差止請求について整理する。	120分
29	第一部火 12/22	損害賠償請求	損害賠償請求に関する手続について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、損害賠償請求に関する手続について理解する。	
		事前学修	損害賠償請求に関する手続について調べてくる。	120分
		事後学修	損害賠償請求に関する手続について整理する。	120分
30	第一部火 1/12	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について	
		この回の到達目標	到達目標①②について、著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について理解する。	
		事前学修	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について調べてくる。	120分
		事後学修	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について整理する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する理論や重要判例を学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法に関する重要な理論について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、民法に関する理論への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：少人数のグループに分かれて重要判例を検討・報告する。報告された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	民法における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				3	3						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察し、他者と意見交換ができる。				4	4	4	4		3	3	3
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、民法における課題を自ら探求することができる。				4	4	4	4	4		3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	重要判例に関する報告や事例問題における討論の内容に応じて評価する。	5	5	10	10							30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を執筆し、それを評価対象とする。	10	10	25	25							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文の執筆経過に応じて講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業において適宜指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/7	ゼミナール論文テーマの策定・指導	ゼミナール論文作成のための指導を行い、併せて各自が興味のあるテーマを絞り込んでいく。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、これまでに学習した民法の分野でさらに探究したい分野を絞り、その問題となる点を把握し、説明できるようにする。	
		事前学修	事前に民法の分野で興味を持てる分野や時事的な問題点を検討しておく。	120分
		事後学修	各自のテーマに従い、文献を集め、現在の学説がどこまで議論を進めているかなどを調べる。	120分
2	第一部 4/14	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
3	第一部 4/21	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
4	第一部 4/28	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
5	第一部 5/5	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
6	第一部 5/12	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
8	第一部 5/26	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
9	第一部 6/2	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
10	第一部 6/9	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
11	第一部 6/16	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
12	第一部 6/23	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
14	第一部 7/7	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
15	第一部 7/14	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
16	第一部 9/15	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
17	第一部 9/22	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
18	第一部 9/29	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 10/6	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
20	第一部 10/13	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
21	第一部 10/20	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
22	第一部 10/27	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
23	第一部 11/10	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
24	第一部 11/17	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 11/24	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
26	第一部 12/1	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
27	第一部 12/8	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
28	第一部 12/15	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
29	第一部 12/22	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、研究を進める。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	報告者は当日の議論を踏まえて検討を進め、他のゼミ生は報告者の報告を踏まえて自身の論文に生かせる点はないか考える。	120分
30	第一部 1/12	論文進捗発表	担当者が現在の論文の進捗を報告し、検討中の項目について他のゼミ生や教員と議論を行い、ゼミナール論文の最終的な仕上げを行う。	
		この回の到達目標	①②③④に関連し、ゼミナール論文におけるテーマの研究を進め、自分の到達状況を説明できるようにする。	
		事前学修	報告者は、他のゼミ生にもわかるように論文のテーマのプレゼンテーションを準備し、他のゼミ生は該当するテーマについて調べてくる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文提出に向け、最終的な仕上げを行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の憲法学・比較憲法学における重要トピックについて学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これに関する研究論文を作成する。 3年次ゼミで取り扱うテーマについては、受講生と相談の上で決定する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法学・比較憲法学における重要トピックを学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これを研究する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容にもとづいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
ゼミ受講生によるゼミ論文に関する報告・ディスカッションを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションによる憲法問題に関する討論	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代の憲法問題を考察することで、現代社会に関する深い知識を修得し、社会問題に対するアプローチを見出すことができる。					3	3	3	3				
②	比較憲法学の知見を修得し、「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。						3	3	3	3			
③	自己の研究について、内容や手法を含めて、他者に明確に説明し、また他の者の研究発表に対しても質疑・コメントができる。									3	3	3	
④	興味をもった憲法問題について、アカデミックな研究手法を用いて、研究論文が執筆できる。						4	4	4	4			4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の報告発表における準備のよさや報告のクオリティを総合的に評価する。	10	10	20								40
授業への参画度	自分以外のゼミ生の報告に対する質疑などを総合的に評価する。			10								10
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成度や独自性を総合的に評価する。				50							50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各ゼミ回での教員による解説・評価	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回のゼミで指示する				

【オフィスアワー】	
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館1607）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	ガイダンス・導入講義	ゼミナールの意義や今後のスケジュール、ゼミの進行などについて概説する。	
		この回の到達目標	今後のゼミ論文執筆の進行やゼミ論文の準備の仕方を理解し、次回以降のゼミの準備ができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
		事後学修	次回以降のゼミで発表する報告レジュメ・原稿を作成する。	120分
2	4月17日	論文テーマの個別報告①	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
3	4月24日	論文テーマの個別報告②	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
4	5月1日	論文テーマの個別報告③	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
5	5月8日	論文テーマの個別報告④	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
6	5月15日	論文テーマの個別報告⑤	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	論文テーマの個別報告⑥	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
8	5月29日	論文構成案の個別報告①	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分
9	6月5日	論文構成案の個別報告②	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分
10	6月12日	論文構成案の個別報告③	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分
11	6月19日	論文構成案の個別報告④	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分
12	6月26日	論文構成案の個別報告⑤	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	論文構成案の個別報告⑥	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分
14	7月10日	論文の書き方①	論文の執筆にあたって必要となる引用ルールや参照方法などを具体的に解説する。	
		この回の到達目標	具体的な論文の執筆方法を学び、論文執筆に反映できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
		事後学修	これまで書いた文章について、執筆ルールに則った修正を施す。	120分
15	7月17日	論文の書き方②	論文の執筆にあたって必要となる引用ルールや参照方法などを具体的に解説する。	
		この回の到達目標	具体的な論文の執筆方法を学び、論文執筆に反映できる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
		事後学修	これまで書いた文章について、執筆ルールに則った修正を施す。	120分
16	9月18日	論文内容の個別報告①	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
17	9月25日	論文内容の個別報告②	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
18	10月2日	論文内容の個別報告③	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月9日	論文内容の個別報告④	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
20	10月16日	論文内容の個別報告⑤	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
21	10月23日	論文内容の個別報告⑥	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
22	10月30日	ゼミ論文の最終個別報告①	論文の最終案について、報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
23	11月6日	ゼミ論文の最終個別報告②	論文の最終案について、報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
24	11月13日	ゼミ論文の最終個別報告③	論文の最終案について、報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月20日	ゼミ論文の最終個別報告④	論文の最終案について、報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
26	11月27日	ゼミ論文の最終個別報告⑤	論文の最終案について、報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
27	12月4日	ゼミ論文の最終個別報告⑥	論文の最終案について、報告を行う。	
		この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
		事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
		事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
28	12月11日	論文公聴会①	各自のゼミ論文を公聴会形式で発表する。	
		この回の到達目標	自分の見解を示した学術論文をプレゼンすることができる。	
		事前学修	ゼミ論文の内容をまとめてプレゼン資料を作成する。	120分
		事後学修	プレゼンの内容を文書化して、論文要旨を作成する。	120分
29	12月18日	論文公聴会②	各自のゼミ論文を公聴会形式で発表する。	
		この回の到達目標	自分の見解を示した学術論文をプレゼンすることができる。	
		事前学修	ゼミ論文の内容をまとめてプレゼン資料を作成する。	120分
		事後学修	プレゼンの内容を文書化して、論文要旨を作成する。	120分
30	1月15日	ゼミ論文に対する講評	各自のゼミ論文に対する教員の講評を行う。	
		この回の到達目標	これまでの論文執筆活動を総括し、ゼミ論文の内容に対する客観的評価を聞くことで、更なる課題を見つけることができる。	
		事前学修	自分のゼミ論文をもう一度よく読み返しておく。。	120分
		事後学修	講評を参考にして、修正可能な点については修正を施す。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
新聞学に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，新聞学の関心領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ関心領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
新聞学に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，学生フォーラムへの参加，新聞学に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4/13	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/20	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4/27	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/4	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/11	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5/25	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6/1	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6/8	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6/15	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6/22	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/6	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7/13	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/14	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9/21	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	9/28	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/5	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10/12	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10/19	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10/26	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/9	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/16	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/23	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	11/30	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/7	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/14	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/21	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/18	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	友岡 史仁	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
経済行政法をテーマとした研究課題を、関連する設問や討論会を通じて深め、リーガルマインドの形成とあわせて、履修者同士の問題発見や討論方法などを学んでいきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済行政法におけるさまざまな課題について、与えられた設問からいかなる法律問題が存在するかを発見する能力を身に付けます。その応用として、討論会の準備を通じてグループワークの大切さを学ぶと同時に、社会に出た際の不可欠な能力をあわせて取得することを目指します。
4年次：3年次に習得したリーガルマインドに基き、経済行政法に関連した各自の興味・関心に沿う研究テーマを選択したうえで、ゼミナール論文（卒業論文）に関わる中間報告やレポート等の提出を行い、個別の指導を受けたうえで完成を目指します。

【履修条件】
本ゼミナールでの入室試験（面接試験）合格者のみを受講可とします。可否の大まかな判断基準としては、自分の言葉で意思表示できること、2年間継続する強い意思、積極的なゼミ活動への参加意欲などです。

【授業方法】
担当者が事前準備した課題を全員が予習し、授業時にその成果を報告し全体で討論します。このほか、他大学のゼミナールとの討論会を予定します。あわせて、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にかかわる研究テーマの設定を報告や討論を通じて行い、その完成途中での個別指導などを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	復習レポートの提出、討論会に向けたシラバス等の作成を個人またはグループで行うほか、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にあたり、都度担当者がチェックをし、ゼミ内または個別に指摘をすることで、リーガルマインドの素養を取得していきます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が課題を通じて「行政上の規制」のさまざまな現象を現実具体的に理解できるようにする。						3	3			3	3	3	3
②	履修者が法的な言葉遣いでゼミナール内で習得した知識を説得的に語れるよう説明する。								3	3	3	3	3	3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次は履修者全員が前期中は毎回出される課題に対する復習レポートの作成・提出を求める。4年次もゼミナール論文(卒業論文)の作成に当たり発見したテーマについてレポート等にまとめる。	20	10									30
討論・発表等	3年次は履修者全員が後期中は予定される討論会時に利用されるレジュメの作成とその他のための論点整理等の報告を求める。4年次はゼミナール論文(卒業論文)に関する自ら決定した研究テーマを深めるための報告を行い、それに基づき完成させる。	20	10									30
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートがあれば全体または個別に講評し、グループ学習の場合は問題点を担当者が先に指摘したうえで、全体で再度検討の機会を設ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
NBS行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み、9号館210研究室（事前のアポをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/7	【前期オリエンテーション】ゼミナール論文（卒業論文）の重要性を確認する	ゼミナール論文（卒業論文）に関連したテーマを選べるよう、より精度を増した情報検索の方法や判例の読み方、引用方法などの論文作成のノウハウについて説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論文を作成することの意味を理解することを目指します。	
		事前学修	3年次に学習した内容を踏まえて、自分がゼミナール論文（卒業論文）論文作成時に当たり関心をいっただいテーマをどのように深堀したらよいのかについて、あらかじめ検討します。	120分
		事後学修	テーマ選定を行う上での指針を自分自身でたてます。	120分
2	第一部 4/14	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための一マ設定①	テーマ選定にあたり、どのような視角から検討するかを学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、検討する場合の論点抽出方法を理解できることを目指します。	
		事前学修	ゼミ当日にできる限り関心のある時事問題を選んできます。	120分
		事後学修	ゼミ時に指摘された内容に従い、多数の論点が含まれているかについて再検討します。	120分
3	第一部 4/21	ゼミナール論文（卒業論文）作成のためのテーマ設定②	第2回目で学んだ方法と事後学修に照らして準備した内容を踏まえて、精度を上げたテーマ内容になるよう、絞り込む作業をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テーマの絞り方でどのような問題が各種文献やさまざまな情報源で取り上げられているかを発見することを目指します。	
		事前学修	第2回目で学んだ論点抽出方法について、関連する各種文献や情報源を探索します。	120分
		事後学修	ゼミ時に指摘された内容に従い、第4回目でテーマの絞り込むを行う準備をするための文献・情報検索を行います。	120分
4	第一部 4/28	ゼミナール論文（卒業論文）作成のためのテーマ設定③	ゼミナール論文（卒業論文）で実際に取り上げるテーマを絞り込み、できる限り論文の完成につながるように検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第3回目までに調べた内容を精査したうえで、それらが論文作成に当たり正しいものとなっているかが理解できることを目指します。	
		事前学修	第3回目までに多様な方法で取得した情報に照らして、自ら設定したテーマに考察すべき論点を含んでいるのかを検討します。	120分
		事後学修	次回からの本格的な情報収集作業のために、自ら選択したテーマにどのような諸文献があるのかを検索し、必要に応じて読了します。	120分
5	第一部 5/5	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習①	第4回目までにテーマの絞り込みに際し必要となった情報の存在を確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第4回目まで調べた内容を裏付ける情報の存在が何であるのかを発見することを目指します。	
		事前学修	第4回目までに習得した情報が錯綜していないかを、確認していきます。	60分
		事後学修	情報収集作業の第1回目を通じて得られた情報を、自ら選択したテーマとどの程度関わり合いがあるのかを精査しながら、それに不足している情報を発見します。	180分
6	第一部 5/12	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習②	引き続き関連する情報の存在を確認する作業とあわせて、その情報の正確性を別の情報と照合する作業を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一つの情報だけでなく他の情報と照らし合わせる作業を通じて、自ら選択したテーマに多様性を持たせるようにします。	
		事前学修	前回までに整序できた情報を、より系統立てるための縦軸を意識した整理を試みます。	60分
		事後学修	多様性を持たせることで発見できた新たな情報を深められる論点を発見します。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習③	前回までにある程度情報収集を行ったことで発見し整序できた論点について、肉付けをする作業を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論点の多様化によって得られた知識を具体的に活用するための方策を発見します。	
		事前学修	情報収集を通じて得られた情報源をたどりながら、肉付けできそうな他の情報を文献のみならず、実際に関連組織や人的関係をたどることができるかを発見していきます。	60分
		事後学修	具体的方策を発見できたら、それを文章に落とし込む前のメモ等の作成を行います。	180分
8	第一部 5/26	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習④	これまでテーマの多様化や発見した情報の整合性などの作業を通じて、多数の情報に接したことで、次の論点整理の作業にかかわる情報収集作業の集大成を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、収集できた情報源が正しいものであるのか、学術的に信頼が置けるのかといった第三者の視点に立つ必要性を学びます。	
		事前学修	第7回目までに得られた情報のリストアップを行います。	60分
		事後学修	信頼性に足る情報源であることの確認を引き続き怠ることなく、社会的に還元できるための情報源の習得に引き続き励みます。	180分
9	第一部 6/2	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理①	前回までに十分に情報収集作業ができたことを前提にして、自ら選択したテーマについて賛否が分かれる視点を整理します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、収集した情報を賛否に分けて整理する能力を身につけます。	
		事前学修	作成したリストアップをもとに賛成と反対の考え方がそれぞれあるかについて、検討します。	120分
		事後学修	整理できた論点が正しいかを、さらに収集できた情報に照らして精査します。	120分
10	第一部 6/9	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理②	賛否に分かれた論点がさらに枝分かれてしているかを、改めて検証します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、枝分かれする際にも新しい論点であることを発見する能力を身につけます。	
		事前学修	収集できた情報に照らした情報がどの程度枝分かれするかを、自らの頭で検証してみます。	120分
		事後学修	枝分かれした論点が最初の論点とどの程度整合的であるかを、再度検証します。	120分
11	第一部 6/16	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理③	最初の起点と枝分かれした支点との整合性を確認したうえで、それを法的に説明し得るかについて、検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら発見した論点に照らし合わせながら、その法的解決策を見出すための思考能力の育成を図ります。	
		事前学修	多数の論点を出せる場合はその集約、少数の論点しか存在しない場合は選択したテーマそのものの妥当性を、この時点で検証します。	120分
		事後学修	確信を得た論点をフローチャート等で起こすなどの作業を心がけます。	120分
12	第一部 6/23	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理④	第13回目の作業に向けて、これまで発見したさまざまな論点を文字化し、そこに適切なタイトルを付すことを学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、錯綜する論点を集約する力を身につけたうえで、それを総括できる思考力を養います。	
		事前学修	思考の整理をするため、改めて関連する文献を読了するなどします。	120分
		事後学修	第13回目以降の目次作成に向けた作業のためにレジュメ等を作成し、報告準備をします。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための目次作成①	選定したテーマに係る主副の各論点を交えて、自分の伝えたい内容を検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第12回までに整理した諸論点が適切に体系化できるための思考能力を養います。	
		事前学修	伝えたい内容をレジюмеに起こし、それらを口頭でいえるよう準備します。	120分
		事後学修	伝えられているかを確認したうえで、それができていなかった場合、不足している場合などを、各自顧みたうえで、第16回目からの中間報告会に向けた準備を行います。	120分
14	第一部 7/7	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための目次作成②	第13回目までには伝えられなかった選定したテーマに係る主副の各論点について、検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、他の履修者との議論を通じて得られた内容を踏まえて、諸論点を適切に体系化できるための思考能力を養います。	
		事前学修	伝えたい内容をレジюмеに起こし、それらを口頭でいえるよう準備します。	120分
		事後学修	第14回目までに伝えられているかを確認したうえで、それができていなかった場合、不足している場合などを、各自顧みたうえで、第16回目からの中間報告会に向けた準備を行います。	120分
15	第一部 7/14	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための目次作成③と方針確定	第14回目までには伝えられなかった選定したテーマに係る主副の各論点について、検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、他の履修者との議論を通じて得られた内容を踏まえて、諸論点を適切に体系化できるための思考能力を養います。	
		事前学修	伝えたい内容をレジюмеに起こし、それらを口頭でいえるよう準備します。	120分
		事後学修	第15回目までに伝えられているかを確認したうえで、それができていなかった場合、不足している場合などを、各自顧みたうえで、第16回目からの中間報告会に向けた準備を行います。	120分
16	第一部 9/15	【後期オリエンテーション】経過報告のための準備	第15回目までにできあがった目次案を検討することの妥当性を確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第15回目までに作業してきた一連の内容について、その正当性が第三者に説明できる思考能力を身につけます。	
		事前学修	目次案に照らしてタイムラグのある情報について、改めて収集を心がけます。	60分
		事後学修	第三者に正当性を説明できることが分かったことから、できる限り文字化してゼミナール論文（卒業論文）の体裁に近づけていく作業を始めます。	180分
17	第一部 9/22	中間報告会①	各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全体で討論できるに値するプレゼンテーションの仕方を学びながら、履修者全員から納得が得られる表現力を身につけます。	
		事前学修	報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
		事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行います。	120分
18	第一部 9/29	中間報告会②	第17回目と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第17回目と同様に、全体で討論できるに値するプレゼンテーションの仕方を学びながら、履修者全員から納得が得られる表現力を身につけます。	
		事前学修	第17回目と同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
		事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、第17回目と同様です。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 10/6	中間報告会③	前回と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回と同様に、全体で討論できるに値するプレゼンテーションの仕方を学びながら、履修者全員から納得が得られる表現力を身につけます。	
		事前学修	前回までと同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
		事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、前回までと同様です。	120分
20	第一部 10/13	中間報告会④	前回と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回と同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	
		事前学修	前回までと同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
		事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、前回までと同様です。	120分
21	第一部 10/20	中間報告会⑤	前回と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回と同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	
		事前学修	前回までと同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
		事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、前回までと同様です。	120分
22	第一部 10/27	卒論作成時の文書チェック①	第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。	
		事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。	120分
		事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みます。	120分
23	第一部 11/10	卒論作成時の文書チェック②	第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。	
		事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。	120分
		事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みます。	120分
24	第一部 11/17	卒論作成時の文書チェック③	第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。	
		事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。	120分
		事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みるのは、前回と同様です。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
25	第一部 11/24	卒論作成時の文書チェック④		第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。		
		事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。		
		事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みるのは、前回までと同様です。		
26	第一部 12/1	卒論作成時の文書チェック⑤		第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。		
		事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。		
		事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みるのは、前回までと同様です。		
27	第一部 12/8	卒論完成の最終確認①		第26回までに執筆作業を行ってきたことを、担当者から反復継続的にチェックを受け、最終的な体裁を整えます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら選定したテーマに対する分析能力、文章能力を通じてリーガルマインドが育成されることを目指します。		
		事前学修	第26回目までの内容を踏まえて、論文としての体裁を整えられるよう、本文のほかにも引用の形式なども踏まえて、担当者のチェック前に入念に自らもチェックします。		
		事後学修	チェックを受けたうえで、誤りなアップデートしきれていない内容、引用の方法などを再度確認します。		
28	第一部 12/15	卒論完成の最終確認②		第26回までに執筆作業を行ってきたことを、担当者から反復継続的にチェックを受け、最終的な体裁を整えます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら選定したテーマに対する分析能力、文章能力を通じてリーガルマインドが育成されることを目指します。		
		事前学修	第26回目までの内容を踏まえて、論文としての体裁を整えられるよう、本文のほかにも引用の形式なども踏まえて、担当者のチェック前に入念に自らもチェックします。		
		事後学修	チェックを受けたうえで、誤りなアップデートしきれていない内容、引用の方法などを再度確認するのは、前回と同様です。		
29	第一部 12/22	卒論完成の最終確認③		第26回までに執筆作業を行ってきたことを、担当者から反復継続的にチェックを受け、最終的な体裁を整えます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら選定したテーマに対する分析能力、文章能力を通じてリーガルマインドが育成されることを目指します。		
		事前学修	第26回目までの内容を踏まえて、論文としての体裁を整えられるよう、本文のほかにも引用の形式なども踏まえて、担当者のチェック前に入念に自らもチェックします。		
		事後学修	チェックを受けたうえで、誤りなアップデートしきれていない内容、引用の方法などを再度確認するのは、前回までと同様です。		
30	第一部 1/12	【ゼミ全体の総括】卒論完成・2年間の反省と展望		最終確認を受け体裁が整った卒論を提出し、改めて3年次から自らを振り返る作業をします。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自らの言葉で第三者に説得的に物事を語ることで社会に還元できるリーガルマインドの育成を試みます。		
		事前学修	卒論作成以外にも、3年次の課題や討論会の内容を踏まえたうえで、何が不足していたか、何が成長していたかを自らの言葉で履修者全員に公表できるよう準備します。		
		事後学修	2年間を通じて得られた経験を、できるだけ社会に還元できるようにします。		

科目名	ゼミナール4年	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
・近現代の日本政治に関わる文献・資料を読み、それに基づく発表と討議を通じて、学問・研究の方法を学修する。 ・日本政治史に関して自分の研究課題を選定し論文を書く。そのために必要な方法を学び、能力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・大人の基礎能力として、社会科学的なものの見方・考え方（客観性・論理性）を身につける。 ・社会人の基礎能力として、文献の読解方法や事実の捉え方・調べ方を修得する。 ・社会人の基礎能力として、「誰が読んでも理解できる説明文」を書けるようになる。

【履修条件】
入室試験（面接）の合格者。地道な修学・研究作業の継続、ゼミ活動全般への主体的参加を求める。

【授業方法】		
①【文献に基づく発表と討議】文献の読み方、史実の捉え方と調べ方、研究発表の方法等を、実践を通じて指導する。 ②【研究と論文作成】学問的な研究課題の設定、文献の探索・選択・読解方法、史実の扱い方と説明方法、説明文の執筆法等を、論文構想と執筆の実践を通じて指導する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールの諸活動はすべて学生が主体です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会事象に関する客観的・論理的な捉え方・考え方を身につける				4	4	4	4				4
②	近現代日本の国家・政治・社会に関する歴史的知識を得て、自らが生きる現代日本の成り立ちを理解する				4	4	4	4				4
③	学問的な文献の適切な探し方・選び方を修得し、文献を正しく読解できるようになる				4	4	4	4	4	4		4
④	日本語能力を高める（語彙の増加、用語法と適確な文章表現の修得、他者への伝達意識の向上等）				4	4	4	4	4	4	4	4
⑤	物事を客観的・論理的に説明し、正確に伝達できるようになる（口頭および文章で）				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥	他者の発表や論文の論旨を理解し、論理的で公正な検討・批判ができるようになる				4	4	4	4	4	4	4	4
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	文献の読解と発表の質、討議（他者の研究に対する批判的 検討）の参加度と質	5	10	5		5	10					35
授業への参画度	文献読解、討論、その他ゼミ活動に対する主体的参加 学問と他者の研究に対する敬意、事実の究明に対する真摯 で公正な態度	5		5			5					15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文：研究作業（論文作成プロセス）の質と 量、論文の達成度	10	5	10	10	15						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	10	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
直接伝える

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講読発表用の共通文献（開講後、相談の上で決定）				教科書	必携
発表および論文作成のための参考文献				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ゼミ始動準備 導入講義	ゼミの運営法・日程、共通文献、発表担当等を相談し、決定する ※以下に示す計画日程は人数等により適宜変更する（大枠は不変）	
		この回の 到達目標	協力してゼミ運営について考え、意見を述べ、決定する。自分たちのゼミだという自覚を持つ。	
		事前学修	共同で講読する文献について要望をまとめてくる。	90分
		事後学修	決定事項に従って、なすべき準備をする。	120分
2	第一部 水4/15	発表の要領 文献に関する説明	共通文献に基づく発表の要領、文献と調査方法について説明する。	
		この回の 到達目標	学術文献の種類と見方（選択判断の手掛り）、検索の方法について学ぶ。	
		事前学修	共通文献を入手し目を通しておく。	120分
		事後学修	文献検索を実践してみる（想定する研究対象に関わる参考文献を探し、適切性の判断をして、読むべき文献をリストアップする）	180分
3	第一部 水4/22	日本政治史研究の概説	日本政治史研究の概要、時期区分と代表的論題、題材への接近方法等を説明する。	
		この回の 到達目標	日本政治史研究の概要を把握し、自己の研究対象（題材や接近法）を見出す手掛りをつかむ。	
		事前学修	自分の研究対象を何にするか、関係文献を検索・読書しつつ思案する。 （次回発表担当者は準備に着手する）	120分
		事後学修	説明をふまえて、自己の研究対象の思案、参考文献の検索・読解を続ける。	180分
4	第一部 水4/29	共通文献に基づく発表Ⅰ①	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
5	第一部 水5/6	共通文献に基づく発表Ⅰ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
6	第一部 水5/13	共通文献に基づく発表Ⅰ③	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 水5/20	研究計画検討Ⅰ①		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。	180分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。	60分
8	第一部 水5/27	研究計画検討Ⅰ②		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。	180分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。	60分
9	第一部 水6/3	研究発表Ⅰ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。	90分
10	第一部 水6/10	研究発表Ⅰ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。	90分
11	第一部 水6/17	研究発表Ⅰ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。	90分
12	第一部 水6/24	共通文献に基づく発表Ⅱ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	共通文献に基づく発表Ⅱ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の設定・構成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
14	第一部 水7/8	研究計画検討Ⅱ①	研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。	90分
15	第一部 水7/15	研究計画検討Ⅱ②	研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。	
		事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。	90分
16	第一部 水9/16	中間論文の講評	提出した中間論文の講評を行う。	
		この回の到達目標	論文を書くという行為の意味と、それに必要な作業・方法・留意点等を認識し、自己の研究作業・文章表現等の適否を自覚する。	
		事前学修	提出した中間論文を読み直し、問題点・疑問点等を抽出しておく。	180分
		事後学修	講評をふまえて、研究の内容・方法、論文構想を再考し、改善につなげる。	90分
17	第一部 水9/23	共通文献に基づく発表Ⅲ①	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分
18	第一部 水9/30	共通文献に基づく発表Ⅲ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	第一部 水10/7	論文計画検討Ⅰ①		論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。	
		事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。	90分
20	第一部 水10/14	論文計画検討Ⅰ②		論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。	
		事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。	90分
21	第一部 水10/21	研究発表Ⅱ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分
22	第一部 水10/28	研究発表Ⅱ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分
23	第一部 水11/11	研究発表Ⅱ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。
		この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。	
		事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分
		事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分
24	第一部 水11/18	共通文献に基づく発表Ⅳ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 水11/25	共通文献に基づく発表Ⅳ②	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分
26	第一部 水12/2	共通文献に基づく発表Ⅳ③	文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
		この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。	
		事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分
		事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分
27	第一部 水12/9	論文計画検討Ⅱ①	論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。	
		事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。	210分
28	第一部 水12/16	論文計画検討Ⅱ②	論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
		この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。	
		事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献	210分
		事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。	210分
29	第一部 水12/23	論文執筆相談	論文計画再考・執筆作業につき指導を受ける。	
		この回の到達目標	論文の執筆が可能な状態に到達する。	
		事前学修	論文計画の練り直し、文献の再読・確認等	210分
		事後学修	論文（下書）の執筆にかかる。	990分
30	第一部 水1/13	下書修正相談	提出した論文下書の修正につき指導を受ける。	
		この回の到達目標	論文を完成させるための注意点、必要な補充作業を認識する。	
		事前学修	下書に付したコメント・添削を熟読し理解した上で、修正作業を進め、残る問題点・疑問点を抽出しておく。	990分
		事後学修	完成稿を仕上げる。	990分

科目名	ゼミナール4年	担当者	中村 進	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際私法と国際民事訴訟法及び国際取引法に関する様々な問題を学修する。具体的には、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を決定する国際私法に関する問題、その様な国際的な私的生活関係に関する紛争が裁判になった場合の裁判手続きについての問題、及び企業間で国際的に発生する契約や不法行為を中心とする取引紛争に関する問題に適用される法規定や裁判例についての研究を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際私法の主たる法源である「法の適用に関する通則法」、国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する規定を中心とする国際民事手続法規定、国際取引において適用されるインコタームズや荷為替信用状統一規則を中心に、国際的な私的紛争が発生した場合に適用さえる様々な法（条約や援用可能統一規則を含む）について、想定的事例や裁判例・判例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得するとともに、研究報告を通じて、学問的探究心、問題に対する積極的な考察と解決策の模索を行う意識を醸成する。また、研究テーマを論文としてまとめる方法についても学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は、講義と判例・裁判例の研究報告に分かれる。講義については、教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。研究報告は、グループ又は個人で、選択した判例・裁判例について調査・検討し、それをパワーポイントを使用して報告を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究報告において、判例・裁判例についての報告を行うとともに、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	国際私法の基本的構造と通則法の総則上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。												
②	通則法の総則法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。												
③	国際私法の各論上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。												
④	国際私法の各論上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。												
⑤	国際私法の総論上・各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。												
⑥	国際民事手続法上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。												
⑦	国際民事訴訟法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。												
⑧	国際取引のシステムを理解し、そこで適用される法や統一規則の内容を理解し、説明することができる。												
⑨	国際取引法上の諸規定・統一規則の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定・統一規則を適切に当てはめることができる。												
⑩													
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文について、テーマに対する文献資料の調査力、考察力、オリジナリティ、豊かな視野、論理的展開力を中心に評価する。		10	12	10	12	12	10	12	10	12		100
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			10	12	10	12	12	10	12	10	12		100
【課題に対するフィードバックの方法】													
授業内で講評と解説を行う。													

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2020年	教科書	必携
『国際関係私法講義[改題補訂版]』	松岡博・高杉直	法律文化社	2015年	参考書	推奨
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	必携
『六法』（種類は特に指定しない）			2019年	その他	
備考					
【オフィスアワー】					
金曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【前期授業ガイダンス】 【導入講義】	前期授業のスケジュールについて説明する。また、卒論の提出までの一般的な流れを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、卒論の提出までの一般的な流れを理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、3年次に学修した内容を復習し、興味・関心のある国際私法・国際民事手続法・国際取引法のテーマについてノートに整理し、報告できるように準備する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、卒論の提出までの流れ、興味・関心のあるテーマについてノートに分類・整理する。	100分
2	4/14	【研究テーマ策定から卒論作成まで】	国際私法・国際民事手続法・国際取引法の分野の中より、各自が興味・関心のある研究テーマを発見する手法とそれを卒論としてまとめる方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法の分野の中より、各自が複数の興味・関心のある研究テーマの中から卒論テーマを発見する手法とそれを論文としてまとめる方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	3年次に学修した内容を復習し、興味・関心のある国際私法・国際民事手続法・国際取引法のテーマについて幾つかの候補を選びノートにまとめ、報告できるように準備する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、卒論の提出までの流れを分類・整理した上で、複数の興味・関心のあるテーマの中から、卒論にまとめるテーマを一つに絞る。	100分
3	4/21	【研究テーマ報告(1)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	100分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	100分
4	4/28	【研究テーマ報告(2)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	120分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	120分
5	5/5	【研究テーマ報告(3)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	120分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	120分
6	5/12	【研究テーマ報告(4)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	120分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	【研究テーマ報告(5)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	100分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	100分
8	5/26	【研究テーマ報告(6)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	130分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	130分
9	6/2	【研究テーマ報告(7)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
		事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	130分
		事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	130分
10	6/9	【卒業論文のまとめ方(1)】	卒業論文のまとめ方として、論文の構成、書き方、考え方について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、自身が策定したテーマに沿って、論文の論文の実質的・形式的な要件について理解する。	
		事前学修	卒論のテーマを複数の候補の中から一つに確定し、そのテーマにおける中心的な論点を確認する。	130分
		事後学修	講義ノートを参考にしながら、策定した卒論テーマに沿って、論文の構成、書き方、考え方についてノートに整理する。	130分
11	6/16	【卒業論文のまとめ方(2)】	卒業論文のまとめ方として、論文作成の具体的な手順について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、自身が策定したテーマに沿って、論文作成のための具体的な手順について理解する。	
		事前学修	策定した卒論テーマについて、教科書や判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、中心的な論点をノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを参考にしながら、策定した卒論テーマに沿って論文を作成するための具体的なプログラムを組み、それをノートに整理する。	130分
12	6/23	【卒業論文のまとめ方(3)】	卒業論文のまとめ方として、図書館棟において、日本語文献と欧文文献の収集方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、オンラインとオフラインで、論文に関する様々な日本語・欧文の文献の収集方法を知ることができる。	
		事前学修	策定した卒論のテーマに関し、どの様な文献を収集すべきかについて調べ、ノートにまとめ授業に備える。	130分
		事後学修	オンラインとオフラインで、論文に関する様々な日本語・欧文の文献の収集方法を知ることができる。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	【卒業論文のまとめ方(4)】	卒業論文のまとめ方として、図書館棟において、日本語文献と欧文文献の収集方法を学修し、実際に収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、オンラインとオフラインで、自身の卒論に関する必要な日本語・欧文の文献を調べ、収集を行うことができる。	
		事前学修	策定した卒論テーマに沿って論文を作成するために必要な文献をリストアップし、図書館における収集に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを参考にしながら、論文の収集方法を確認するとともに、自宅からオンラインで収集できる文献を実際に収集する。	130分
14	7/7	【卒業論文のまとめ方(5)】	卒業論文のまとめ方として、日本語文献・欧文文献の引用方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、論文を作成する際に必要となる日本語文献・欧文文献の引用方法について理解することができる。	
		事前学修	前回の授業の講義ノートを参考にしながら収集した文献に目を通し、どれの文献がどの様にして参考文献を引用しているかを確認するとともに、不明な点がある場合には、質疑事項をノートに記述し授業に備える。	130分
		事後学修	講義ノートを参考にしながら、論文の引用方法を確認するとともに、自宅からオンラインによる文献の収集を続ける。	130分
15	7/14	【質疑応答】	前期の講義内容と判例・裁判例についての小括を行うとともに、疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、前期授業を小括と質疑応答を通じて、卒業論文の具体的な手順と文献の引用方法について理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義ノートを参考にしながら、策定した卒論のテーマにおける論点、論文としてまとめるための具体的な手順及び収集すべき文献を確認する。また、不明な点があれば、それをノートに記述し、質問できるように準備する。	130分
		事後学修	既に入手した文献に目を通しながら、休暇中に収集すべき文献をリストアップする。	130分
16	9/15	【後期ガイダンス】【導入講義】	後期の授業の進め方、卒論の提出までのスケジュールについてのガイダンスを行い、論文のまとめ方について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、論文の書き方と・考え方についての理解を最終的に確認することができる。	
		事前学修	夏季休暇中に収集した文献に目を通し、卒論のテーマの論点を確認する。	120分
		事後学修	授業内で示されたスケジュールに沿って、卒論の作成までの自分なりのスケジュールを作成する。	120分
17	9/22	【収集文献の確認(1)】	卒論をまとめる際に必要な文献の有無を確認するとともに、図書館で未収集の文献を探す様々な方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、卒論に必要な参考文献を確認するとともに、未収集の文献を様々な検索方法について理解し、文献を収集することができる。	
		事前学修	既に収集した卒論用の参考文献を確認するとともに、未収集の文献をリストアップし、授業に備える。	120分
		事後学修	収集した文献に目を通して、収集すべき更なる文献の有無を確認する。	120分
18	9/29	【収集文献の確認(2)】	卒論をまとめる際に必要な文献の有無を確認するとともに、図書館で未収集の文献を探す様々な方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、卒論に必要な参考文献を確認するとともに、未収集の文献を様々な検索方法について理解し、文献を収集することができる。	
		事前学修	収集した卒論用の参考文献を確認するとともに、未収集の文献をリストアップし、授業に備える。	120分
		事後学修	収集した文献に目を通して、収集すべき更なる文献の有無を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/6	【論文の書き方に関する質疑応答(1)】	10月末締切の一次提出用の卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問についての質疑応答を行い、問題をゼミナール内で共有するとともに、論文の書き方・考え方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、論文の執筆の際して生じた、論文の書き方・考え方、文献の引用方法に関する様々な疑問を解消することができる。	
		事前学修	卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問をノートに整理・記述し、授業内で質問できる様に準備する。	120分
		事後学修	質疑応答を受けて、執筆を終えた箇所の見直しと、執筆の継続を行う。	120分
20	10/13	【論文の書き方に関する質疑応答(2)】	10月末締切の一次提出用の卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問についての質疑応答を行い、問題をゼミナール内で共有するとともに、論文の書き方・考え方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、論文を執筆する際に生じる様々な問題についての疑問を解消することで、論文のまとめ方を理解することができる。	
		事前学修	卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問をノートに整理・記述し、授業内で質問できる様に準備する。	120分
		事後学修	質疑応答を受けて、執筆を終えた箇所の見直しと、執筆の継続を行う。	120分
21	10/20	【論文の書き方に関する質疑応答(3)】	10月末締切の一次提出用の卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問についての質疑応答を行い、問題をゼミナール内で共有するとともに、論文の書き方・考え方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、論文を執筆する際に生じる様々な問題についての疑問を解消することで、論文のまとめ方を理解することができる。	
		事前学修	卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問をノートに整理・記述し、授業内で質問できる様に準備する。	120分
		事後学修	質疑応答を受けて、執筆を終えた箇所の見直しと、執筆の継続を行う。	120分
22	10/27	【論文の書き方に関する質疑応答(4)と一次提出用卒論の進捗状況の確認】	卒論の第一次提出を控え、執筆中に生じた疑問について、個別相談を通じて解消し、論文の書き方・考え方、参照すべき文献の存在について学修する。また、一次提出用卒論の進捗状況についての確認を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆中に生じた疑問を解消し、参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認する。	120分
		事後学修	個別相談の結果を受けて、執筆を終えた箇所の見直しを行い、10月末の締め切りに向けて第一次提出用の卒論の執筆を行う。	120分
23	11/10	【一次提出用卒論の内容確認(1)】	提出した第一次卒論について、個別指導による添削指導を受け、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の有無について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、次の第二次提出に向けて論文の執筆を継続する。	120分
24	11/17	【一次提出用卒論の内容確認(2)】	提出した第一次卒論について、個別指導による添削指導を受け、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の有無について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、次の第二次提出に向けて論文の執筆を継続する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/24	【一次提出用卒論の内容確認(3)と二次提出用卒論の進捗状況の確認】	提出した第一次卒論についての添削指導と、第二次提出に向けて論文執筆中に生じた疑問についての個別相談によって、執筆上で生じた疑問を解消するとともに、論文の書き方・考え方と文献の引用方法、更なる参考文献の有無について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導と個別相談を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、質疑応答を行うための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削と質疑応答を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、次の第二次提出に向けて論文の執筆を継続する。	120分
26	12/1	【二次提出用卒論の内容確認(1)】	提出した第二次卒論について、個別指導による添削指導を受け、新たに生じた執筆上の疑問を解消し、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の存在について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、卒論の最終提出に向けて執筆を継続する。	120分
27	12/8	【二次提出用卒論の内容確認(2)】	提出した第二次卒論について、個別指導による添削指導を受け、新たに生じた執筆上の疑問を解消し、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の存在について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆箇所の修正を行い、卒論の最終提出に向けて執筆を継続する。	120分
28	12/15	【二次提出用卒論の内容確認(3)】	提出した第二次卒論について、個別指導による添削指導を受け、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の有無について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆箇所の修正を行い、卒論の最終提出に向けて論文の執筆を継続する。	120分
29	12/22	【二次提出用卒論の内容確認(4)と最終提出用卒論の進捗状況の確認】	提出した第二次卒論についての添削指導と、最終提出に向けて論文執筆中に生じた疑問についての個別相談によって、執筆上で生じた疑問を解消するとともに、論文の書き方・考え方と文献の引用方法、更なる参考文献の有無について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や更なる参考文献の有無を確認することができる。	
		事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。	120分
		事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆箇所の修正を行い、卒論の最終提出に向けて論文の執筆を継続する。	120分
30	1/12	【最終提出用卒論の内容確認】	個別指導を通じて、提出用卒論の形式についての最終チェックを行い、卒論を完成させる方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、提出用卒論の形式についての最終チェックを行い、論文の形式的要件を理解し、論文を完成させることができる。	
		事前学修	提出用卒論について、未完成箇所を執筆し、完成させて、最終チェックを受ける準備を行う。	120分
		事後学修	最終チェックで指摘を受けた箇所の手直しを行い、卒論を完成させる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワーク、法律討論会やフォーラムへの参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など、担当教員各自の趣向により、学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3	3	
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務を活かした実務的な議論。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4/15	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4/29	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/6	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/13	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5/27	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6/3	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6/10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6/17	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6/24	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/8	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9/23	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	9/30	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10/14	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10/21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10/28	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/11	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/18	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	12/2	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/9	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/16	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/23	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/13	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワーク等を通じて行政法の諸問題について深く学修するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマについてゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法における基礎理論について学修するとともに、個人の研究発表及びグループディスカッションを通じ、また個別の添削指導を受けながら、ゼミナール論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
輪読を行い、各自担当箇所の発表およびグループ・ディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 ゼミナール論文の部分原稿を発表・提出し、教員の添削を受けた原稿を互いに講評し合うことを通じて、ゼミナール論文を作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の諸問題について、グループ・ディスカッションやディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、行政法の現状や課題について総合的に理解し、説明することができる。					3	3						
②	行政法の課題や問題を提示し、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する解決策を示すことができる。							3	3	3			
③	様々な人とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、学修状況の自己分析による評価を、今後に活かすことができる。										4	4	4
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	卒業論文の完成に向けて、個人発表・講評を行う。その中で、到達目標①②③に関わる課題の論理的考察力、意見の明確性・論理性、他人の意見への傾聴、討論に向けての事例問題の調査・分析が適切にできているか等を評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければならない。 到達目標①②③に関連し、当該研究テーマに対する積極的な取り組み、発表状況、ゼミナール論文の内容等について評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表に対して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀・交告・山本編	有斐閣	2017年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
1部は火曜日 10：30 に、2部は木曜日 21：10 に質問を受け付ける。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 4/7 2部 4/9	オリエンテーション 行政事件訴訟の仮の救済	4年のゼミナール授業内容についての概説と卒業論文に関するテーマを決定する。 行政事件訴訟の仮の救済について発表・討論・講評をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政事件訴訟の仮の救済について説明できる。	
		事前学修	各ゼミ生は、卒業論文のテーマを決めておくこと。発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
2	1部 4/14 2部 4/16	行政事件訴訟の終了	行政事件訴訟の終了について発表・討論・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
3	1部 4/21 2部 4/23	教示制度	教示制度について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
4	1部 4/28 2部 4/30	取消訴訟以外の訴訟類型の訴訟要件	取消訴訟以外の訴訟類型の訴訟要件について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
5	1部 5/5 2部 5/7	国家賠償制度	国家賠償制度の概要について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
6	1部 5/12 2部 5/14	公権力責任（1条責任）	国家賠償法の1条責任の意義、要件、効果について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 5/19 2部 5/21	営造物責任(2条責任)	国家賠償法の2条責任の意義、要件、効果について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
8	1部 5/26 2部 5/28	賠償責任者	賠償責任者の意義、内容、求償権について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
9	1部 6/2 2部 6/4	損失補償制度	損失補償制度の意義、根拠、内容、方法について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
10	1部 6/9 2部 6/11	国家補償の谷間	国家補償の谷間の問題点と対応策について発表・討議・講評する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
11	1部 6/16 2部 6/18	ゼミナール卒業論文指導	自分が選んだ卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
12	1部 6/23 2部 6/25	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 6/30 2部 7/2	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
14	1部 7/7 2部 7/9	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
15	1部 7/14 2部 7/16	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
16	1部 9/15 2部 9/17	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
17	1部 9/22 2部 9/24	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
18	1部 9/29 2部 10/1	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	1部 10/6 2部 10/8	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
20	1部 10/13 2部 10/15	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
21	1部 10/20 2部 10/22	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
22	1部 10/20 2部 10/21	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
23	1部 10/27 2部10/29	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
24	1部 11/10 2部 11/12	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	1部 11/17 2部 11/19	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
26	1部 11/24 2部 12/26	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
27	1部 12/1 2部 12/3	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
28	1部 12/8 2部 12/10	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
29	1部 12/15 2部 12/17	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
30	1部 12/22 2部 12/24	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
		事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
		事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	野中 貴弘	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
倒産法（破産法・民事再生法・会社更生法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倒産法（破産法・民事再生法・会社更生法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
倒産法および民法（特に債権法・担保物権法）に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，倒産法に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産法に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	倒産法に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4	4	4	4				
③	教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。								3	3	3	3
④	教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	10								20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則ったうえで、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	30							60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日の10時00分から18時00分 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所において法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事紛争について検討する際には学説の検討だけでなく、当該紛争における裁判例の検討や評価、さらには当該紛争類型の背景などについても立ち入って考察を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4/15	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4/29	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/6	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/13	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5/27	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6/3	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6/10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6/17	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6/24	課題の確認・検討(1)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	7/1	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分
14	7/8	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。120分
16	9/16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。120分
17	9/23	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。120分
18	9/30	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
20	10/14	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
21	10/21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
22	10/28	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/11	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/18	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	12/2	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/9	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/16	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/23	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/13	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，法律討論会やフォーラムへの参加，民法に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3	3				
②	民法に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						4	4	4	4				
③	教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。										3	3	3	3
④	教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4	4	4	4	4	4	4
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	10								20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則ったうえで、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	30							60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の10時00分から18時00分 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所において法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事紛争について検討する際には学説の検討だけでなく、当該紛争における裁判例の検討や評価、さらには当該紛争類型の背景などについても立ち入って考察を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4/15	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4/29	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/6	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/13	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5/27	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6/3	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6/10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6/17	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6/24	課題の確認・検討(1)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/8	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
17	9/23	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
18	9/30	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
20	10/14	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
21	10/21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
22	10/28	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/11	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/18	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	12/2	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/9	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/16	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/23	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/13	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	野村 和彦	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法総論および刑法各論の解釈上の論点について、卒業論文を作成してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学説や判例を調査し、そこから得た情報に検討を加え分析し、説得的な私見を構築し、他者との質疑応答や議論に真摯に向き合う姿勢を身につける。

【履修条件】
ゼミの選考試験に合格していることを条件とする。

【授業方法】
毎回研究テーマの進行具合について報告してもらい、適切に助言を与え卒論作成を支援する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、質疑応答、討論。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	判例について、その論拠を調査し、前例とも比較しながら、その判例の射程範囲を探る。						3	3	3	3	3	3	3
②	学説について、もれなく渉猟し、その文献を調査及び研究し、議論状況を整理することができる。						3	3	3	3	3	3	3
③	レジュメを作成し、それをもとに明晰な言葉で発表を行うことができる。						3	3	3	3	3	3	3
④	質疑応答や議論に積極的に向き合い、相互にコミュニケーションを図ることができる。						3	3	3	3	3	3	3
⑤	研究ペア同士が互いに協力し、①～④を達成するよう努力する。						3	3	3	3	3	3	3
⑥	他者が発表する際に、その質疑応答および議論に積極的に参加する。						3	3	3	3	3	3	3
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の内容のわかりやすさ、質疑応答や議論へ真摯に臨む姿勢がある。	7	7	7	7	6	6					40
授業への参画度	他者の発表に耳を傾け、質疑応答に積極的に参加する。	5	5	5	5	5	5					30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。4年次に作成するゼミナール論文の成績も加味して行う。	5	5	5	5	5	5					30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	17	17	16	16					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ時に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2011	教科書	必携
刑法各論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月、および水から金の10：30－16：30（授業や会議は除く）研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	イントロダクション及び導入講義	卒論発表の課題を提出してもらい、簡単にどうしてそのテーマを選んだのか、プレゼンテーションしてもらおう。	
		この回の到達目標	研究への士気を高めるとともに、ゼミ活動に主体的に参加する。	
		事前学修	各自の研究テーマについて、概要を発表できるよう、準備しておく。	120分
		事後学修	各自、担当する研究を進める。	120分
2	4月15日	卒論作成のための技術	卒論発表のための技術を学ぶ。	
		この回の到達目標	自己の抱いた疑問についてどのように取り組み、どのような論証を経て、私見を打ち立てるべきか、そのための技術を習得する。	
		事前学修	卒論完成のためには、どのような作業が必要か考察する。	120分
		事後学修	各自の研究にどう生かせるか考察する。	120分
3	4月22日	法律データベースの使い方	第一法規の担当者をお呼びし、D1-Lawの使い方について学ぶ。	
		この回の到達目標	法律情報を効率的および確実に収集する方法を身につけ、実践できるようにする。	
		事前学修	どのような法情報を集める必要があるのか、それをどのように集めるとよいのか、事前に予想を立てる。	120分
		事後学修	今後の研究にどう生かせるか、考察する。	120分
4	4月29日	発表のデモンストレーション	ゼミの担当者が発表および質疑応答の模範をみせる。	
		この回の到達目標	担当者の姿を通じて、学んだ点、修正が必要な点は何かを整理し、自分の発表に役立てるようにする。	
		事前学修	よい発表の仕方はどのようなものか、各自が事前に考察する。	120分
		事後学修	担当者の姿を通じて、生かせる点と改善点について整理し、自分の発表に応用する。	120分
5	5月6日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらおう。	
		この回の到達目標	少しずつ卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
6	5月13日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらおう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
8	5月27日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
9	6月3日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
10	6月10日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
11	6月17日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
12	6月24日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
14	7月8日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
15	7月15日	卒論指導、前期総括	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
16	9月16日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
17	9月23日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
18	9月30日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
20	10月14日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
21	10月21日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
22	10月28日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
23	11月11日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
24	11月18日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
26	12月2日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
27	12月9日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
28	12月16日	卒論指導	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
29	12月23日	研究発表	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分
30	1月13日	卒論指導、後期総括	担当するテーマについて、研究の進み具合を報告してもらう。	
		この回の到達目標	卒論に取り組む姿勢を養っていく。	
		事前学修	自己の研究がどの程度進んだか整理する。	120分
		事後学修	引き続き研究に取り組む。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会保障法制度について理解し、現制度における課題・判例について検討し、解決案を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：社会保障法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：グループごとにテーマを設定し、担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表グループの報告を受けて、質問や意見を述べ、グループディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法制度について、説明することができる。					3	4				1		
②	社会保障法制度における課題を発見し、その解決策を提示することができる。								4	4	4	4	4
③	社会保障法制度における課題と解決策について、批判的に考察し、議論することができる。							4	3	3	4	3	4
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告グループは、各テーマについて発表し、それを基に議論をする。	10	20	20								50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	現制度について分析し、その課題を抽出した上で、独自の解決策を提示する。	10	30	10								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業において、課題についてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥、柴田洋二郎、島村 暁代、橋爪 幸代、永野 仁美	有斐閣	2019	教科書	必携
社会保障法判例百選 第5版	岩村正彦編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜13：00～14：00 本館9階 1906研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーションーゼミナール論文の進め方	ゼミナール論文の書き方等について学習する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の書き方について理解する。	
		事前学修	ゼミナール論文で取り上げる制度について調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文で取り上げる制度について、調べたことをまとめる。	120分
2	4月14日	ゼミナール論文テーマについての議論・指導①	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
3	4月21日	ゼミナール論文テーマについての議論・指導②	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
4	4月28日	ゼミナール論文テーマについての議論・指導③	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
5	5月5日	ゼミナール論文テーマについての議論・指導④	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
6	5月12日	論文進捗発表①制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	論文進捗発表②制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
8	5月26日	論文進捗発表③制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
9	6月2日	論文進捗発表④制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
10	6月9日	論文進捗発表①課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
11	6月16日	論文進捗発表②課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
12	6月23日	論文進捗発表③課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	論文進捗発表④課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
14	7月7日	ゲストスピーカー	社会保険制度にかかわる実務家又はNP0などの活動家を招聘し、現場で生じている課題について聞き、議論を行う。＊なお、ゲストの招聘日については、ゲストの予定により変更となる場合がある。	
		この回の到達目標	社会保険制度にかかわる課題を理解し、私見を述べることができる。	
		事前学修	社会保険制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	ゲストスピーカーの講演についてまとめ、課題に対する私見を論理的に説明できるようにする。	120分
15	7月14日	前期のまとめ	ゼミナール論文テーマにおける制度とその課題について整理する。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける、今後の方向性を確認する。	
		事前学修	ゼミナール論文執筆において、現時点での、課題を確認する。	120分
		事後学修	他の受講者の意見を参考に、今後の進め方を考える。	120分
16	9月15日	論文進捗発表①解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える。	120分
		事後学修	卒業論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分
17	9月22日	論文進捗発表②解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分
18	9月29日	論文進捗発表③解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える。	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	論文進捗発表④解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分
20	10月13日	論文進捗発表①改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
21	10月20日	論文進捗発表②改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
22	10月27日	論文進捗発表③改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
23	11月10日	論文進捗発表④改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
		事前学修	制度における課題について調べる。	120分
		事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
24	11月17日	政策提案のまとめ	これまでの議論を踏まえて改善した政策提案について、発表する。	
		この回の到達目標	改善された政策について、説得的に提案する。	
		事前学修	各政策提案について、改善策を考え、まとめる。	120分
		事後学修	提案に対して出された批判的な意見への説得的な応答を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	ゲストスピーカー	社会保障にかかわる職業についている人からの講演を聞く。＊なお、ゲストスピーカーの予定により、日程が変更となる場合がある。	
		この回の到達目標	社会保障にかかわる職業とそのやりがい・経験について、私見を述べることができる。	
		事前学修	社会保障にかかわる職業について調べる。	120分
		事後学修	社会保障にかかわる職業について、私見及び他の受講生の意見をまとめる。	120分
26	12月1日	最終報告①	ゼミナール論文について、最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
		事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
		事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
27	12月8日	最終報告②	ゼミナール論文について、最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
		事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
		事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
28	12月15日	最終報告③	卒業論文について、最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
		事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
		事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
29	12月22日	最終報告④	ゼミナール論文について、最終的な報告を行う。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
		事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
		事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
30	1月12日	論文の最終確認	提出するゼミナール論文の最終指導を行う。	
		この回の到達目標	ゼミナール論文を最終的にまとめるにあたって、修正すべき点を確認する。	
		事前学修	ゼミナール論文を書き上げる。	120分
		事後学修	修正点を論文に反映させる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	長谷川 貞之	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。 担当教員の弁護士としての実務経験に基づき、理論と実務の両面から指導を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。 民法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。 市民法の原理や法解釈の多様性、民事立法学、および比較法的な視点に立った諸外国の民法典について、基本的な知識を習得する。 ゼミナール論文の作成を通し、民法学における現代の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
任意に選択したテーマについて、随時、進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。また、当該テーマに関連して、基本書・必読文献の輪読を行い、グループディスカッションを行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。考える授業をモットーとする。 参考文献等の調査については、基本的なリーガル・リサーチを指導する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	到達目標：民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	到達目標：民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						3	3	3			
③	到達目標：授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								4	4	4	4
④	到達目標：授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。											4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを，討論・発表，ディスカッションなどにより評価する。			20	10							30
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず，ゼミナール活動への積極的な参加なども評価する。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③および④に関連して、前期・後期の2回レポートを作成し，提出する。また，3・4年次に継続して履修し，4年次にはゼミナール論文を提出しなければならない。				30							30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
とくに使用しない。必読文献、基本書等は、適宜指示する。					
備考	六法ッは必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所の家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	オリエンテーション／ガイダンス（前期） 導入講義	私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、任意に選択したテーマについてディスカッションを行い、ゼミナール論文の作成に至るまでの過程を説明し、学修計画を立てることができる。	
		事前学修	ゼミナール論文の作成を通し、民法学における現代の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るように、ゼミナール論文のテーマを選定しておく。民法等の教科書や基本書などを参照し、テーマ選定のための理解を深める。	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。	120分
2	4/17	テーマ1－1：テーマの選定と作業方針――概要	3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、当該テーマを選んだ理由・背景を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書や基本書、新聞記事などを精読し、研究テーマをいくつか選定する。各自が決定した研究テーマについて発表の準備をしておく。リーガル・リサーチは必要不可欠である。	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。	120分
3	4/24	テーマ1－2：テーマの選定と作業方針――文献調査	選定した研究テーマについて、リーガル・リサーチの仕方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、選定した研究テーマについて、リーガル・リサーチの仕方を学び、基本文献等を収集することができる。	
		事前学修	リーガル・リサーチの基本を修得しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
4	5/1	テーマ1－3：テーマの選定と作業方針――参考文献父欄の作成	選定した研究テーマについて、リーガル・リサーチの仕方を学び、参考文献一覧の作成を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、リーガル・リサーチの仕方を学び、参考文献の一覧を作成し、主要文献を紹介することができる。	
		事前学修	リーガル・リサーチの仕方を学び、参考文献の一覧を作成しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
5	5/8	テーマ2－1：論文の概要と章立て	任意に選択したテーマについて、基本文献等を収集し、整理するとともに、論文の骨格となる章や節を組み立て、全体の構想を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、任意に選択したテーマについて、基本文献等を収集し、整理するとともに、論文の骨格となる章や節を組み立て、全体の構想を説明することができる。	
		事前学修	選定した研究テーマについて、基本文献等を収集し、整理する。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
6	5/15	テーマ2－2：論文の構想と得られる研究成果	任意に選択した研究テーマについて、得られる結果（成果）とテーマとの整合性を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、任意に選択した研究テーマについて、作成した基本文献等の一覧を参照しながら、得られる結果（成果）を予想し、研究の意義を説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ基本書や概説書、収集した基本文献等を読み、研究の意義を明らかにしておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	テーマ2－3：論文の構想と研究テーマの検討方法	論文の構想と任意に選択した研究テーマについて、具体的な研究方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、任意に選択した研究テーマについて、何を・どこまで・どのような方法で検討するのか、また、そのためには、どのような文献を読めばよいのかを、説明することができる。	
		事前学修	問題点や課題となる不動産売買に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
8	5/29	テーマ3－1：進捗段階における発表①——全体の構想と序章の概要	研究テーマの全体構想と序章について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、研究テーマの全体構想と序章について、収集した基本文献等を参照しながら、説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書や概説書などを通読する。作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、全体の構想と序章の内容を整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
9	6/5	テーマ3－2：進捗段階における発表①——序章の論点整理	進捗段階における発表①（序章）について、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表①（序章）について、問題点や課題を挙げて説明することができる。	
		事前学修	これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、全体の構想と序章の内容を整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
10	6/12	テーマ3－3：進捗段階における発表①——序章のグループディスカッション・解説	進捗段階における発表①（序章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表①（序章）について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	進捗段階における発表①（序章）に関する論点を整理し、問題点や課題について自分の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
11	6/19	テーマ4－1：進捗段階における発表②——第2章の概要	進捗段階における発表②（第2章）について、概要を明らかにし、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表②（第2章）について、収集した基本文献等を参照しながら、問題点や課題を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書や概説書など通読する。これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表②（第2章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
12	6/26	テーマ4－2：進捗段階における発表②（第2章）——論点整理	進捗段階における発表②（第2章）について、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表②（第2章）について、問題点や課題挙げて説明することができる。	
		事前学修	作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表②（第2章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	テーマ4－3：進捗段階における発表①（第2章）——グループディスカッション・解説	進捗段階における発表②（第2章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表②（第2章）について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	進捗段階における発表②（第2章）に関する論点を整理し、問題点や課題について自分の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
14	7/10	課題と質問の整理（前期）	これまでの報告内容を、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容について、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめたうえで、説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
15	7/17	中間レポートの作成・提出／講評（前期）	これまでの報告を振り返り、任意のテーマ（序章・第2章）について、レポートを作成する。事前に作成したレポートを提出した場合には、これに基づきプレゼを行い、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、任意のテーマ（序章・第2章）について、主要論点を中心に整理し、論文の概要をレポートの形でまとめ、発表することができる。	
		事前学修	事前に論文の概要（序章・第2章）をレポートの形でまとめ、参考文献の一覧を作成し、提出できる準備をする。	120分
		事後学修	後期の授業に向けて、関心のなる任意のテーマ（第3章・第4章）について文献調査を行い、参考文献一覧を作成する。	120分
16	9/18	オリエンテーション／ガイダンス（後期）——今後の課題と進捗状況の報告導入講義	前期の学修を踏まえて、研究テーマの全体構想と進捗状況の報告、進捗段階における発表③（第3章）について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、研究テーマの全体構想と進捗段階における発表③（第3章）について、収集した基本文献等を参照しながら、説明することができる。	
		事前学修	これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、全体の構想と序章の内容を整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定する。（2時間）	120分
17	9/25	テーマ5－1：進捗段階における発表③——第3章の概要	進捗段階における発表③（第3章）について、概要を明らかにし、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、収集した基本文献等を参照しながら、問題点や課題を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書や概説書など通読する。これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表③（第3章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
18	10/2	テーマ5－2：進捗段階における発表③（第3章）——論点整理	進捗段階における発表③（第3章）について、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、問題点や課題挙げて説明することができる。	
		事前学修	作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表③（第3章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	テーマ5－3：進捗段階における発表③（第3章）——グループディスカッション・解説	進捗段階における発表③（第3章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	進捗段階における発表③（第3章）に関する論点を整理し、問題点や課題について自分の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
20	10/16	テーマ6－1：進捗段階における発表④——第4章の概要	進捗段階における発表④（第4章）について、概要を明らかにし、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表④（第4章）について、収集した基本文献等を参照しながら、問題点や課題を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書や概説書など通読する。これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表③（第3章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
21	10/23	テーマ6－2：進捗段階における発表④（第4章）——論点整理	進捗段階における発表④（第4章）について、問題点や課題を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、問題点や課題挙げて説明することができる。	
		事前学修	作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表④（第4章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
22	10/30	テーマ6－3：進捗段階における発表④（第4章）——グループディスカッション・解説	進捗段階における発表④（第4章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④および③に関連して、進捗段階における発表④（第4章）の主要論点について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、自分の考え方を説明することができる。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
23	11/6	テーマ7－1：進捗段階における発表⑤——補遺1の概要	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、論文の完成に向けて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などがあれば補い、修正点などを分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などの点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
24	11/13	テーマ7－2：進捗段階における発表⑤（補遺1）——論点再整理	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺1）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺1）などについて、分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺1）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に、調べておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	テーマ7－3：進捗段階における発表⑤（補遺1）——グループディスカッション・解説	再整理した論点や課題（補遺1）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、再整理した主要論点や課題（補遺1）について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に調べ、自分の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
26	11/27	テーマ8－1：進捗段階における発表⑥——補遺2の概要	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、論文の完成に向けて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などがあれば補い、修正点などを分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などの点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
27	12/4	テーマ8－2：進捗段階における発表⑥（補遺2）——論点再整理	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に、調べておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
28	12/11	テーマ8－3：進捗段階における発表⑥（補遺2）——グループディスカッション・解説	再整理した論点や課題（補遺2）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、再整理した主要論点や課題（補遺2）について、自分の考え方を説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に調べ、自分の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
29	12/18	課題と質問の整理（後期）	これまでの報告内容を、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容について、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめたうえで、説明することができる。	
		事前学修	これまでの報告内容を、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめておく。	120分
		事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定する。	120分
30	12/25	レポートの作成・提出／講評&総括	ゼミナール論文を完成し、提出する。これに基づきプレゼを行い、ディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、ゼミナール論文を完成し、論文の概要等を分かりやすく説明することができる。	
		事前学修	事前に論文を作成し、推敲したうえで、完成させる。併せて、参考文献一覧を作成し、提出できる準備をする。	120分
		事後学修	授業終了後、教室にて、個々の論文について解説を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	東 裕	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミナール論文の作成に向けて、各自の研究テーマについて前学期・後学期ともにそれぞれ最低2回の発表を行うこと。また、ゼミナール論文については、後学期中に（11月・12月）に個別指導を行う。個別指導を受けないで論文を提出した場合、不合格とすることもあるので注意すること。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に各自が学修した内容をさらに深め、その成果を報告し、ゼミナール参加者の間で議論することにより、学修成果の共有と一層の研究の発展につなげる。それによって憲法に対する理解を深めると共に、様々な課題を発見し、それに対し自ら調査し、考察し、そして解決策を説得的に提示できる能力を養成する。

【履修条件】
3年次にゼミナールを履修登録し、出席氏、3回以上発表を行った者。

【授業方法】		
各自レジュメと資料を用意して発表し、質疑応答を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	課題を発見することができる。									3	3			
②	課題の解決に必要な資料（情報）を収集することができる。						3							
③	資料（情報）を正確に読み取り分析することができる。						3							
④	課題の解決策を立案できる。								3	3	3		3	
⑤	解決策を正確かつ説得力のある文章で表現できる。							3	4	3	3	3		3
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	所定の回数の発表を行うこと。積極的に質問すること。(20点)	4	4	4	4	4						20
授業への参画度	年間を通じて授業回数の3分の2以上出席すること。ただし、出席回数には個別指導を含む。(20点)	4	4	4	4	4						20
その他()	2年間の平常点を80点×0.5=40点、ゼミ論文を60点として100点満点で評価する。											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文(60点)を作成し、指定の期日までに提出すること。なお、個別指導を受けないで提出した場合、合格点を保証しない。	12	12	12	12	12						60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表時の講評および個別指導の際のコメントによる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック 日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2015	参考書	推奨
Next教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜3限。事前連絡があれば、他の曜日・時間帯も可。本館6階1616研究室。higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月10日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
2	4月17日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
3	4月24日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
4	5月1日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
5	5月8日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
6	5月15日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月22日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
8	5月29日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
9	6月5日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
10	6月12日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
11	6月19日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
12	6月26日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日 (金)	研究発表	発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジюме・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジюмеにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
14	7月10日 (金)	研究発表	発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジюме・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジюмеにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
15	7月17日 (金)	研究発表	発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジюме・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジюмеにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
16	9月18日 (金)	研究発表	発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジюме・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジюмеにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
17	9月25日 (金)	研究発表	発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジюме・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジюмеにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
18	10月2日 (金)	研究発表	発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジюме・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジюмеにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	10月9日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
20	10月16日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
21	10月23日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
22	10月30日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
23	11月6日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
24	11月13日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	11月20日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
26	11月27日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
27	12月4日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
28	12月11日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
29	12月18日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
30	12月25日 (金)	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
		この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
		事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
		事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	平井 智尚	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：情報コミュニケーション分野の文献や論文の講読を通じて、専門的な知識の修得を図っていきます。また、共同研究を通じて、論文執筆の方法を学び、ゼミナール論文の執筆に向けた基礎固めを行います。
4年次：ゼミナール論文の執筆に向けた個人の研究報告が中心となります。また、必要に応じて、ゼミナール論文の執筆に関連する文献や論文の講読を行います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：情報コミュニケーション分野の基礎的な概念や理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する方法を身につける。また、共同研究を通じて、テーマ設定、調査、論述といった論文執筆のプロセスを身につける。
4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識の向上をはかり、論理的、批判的、科学的な考察をできるようにする。そうした活動を通じて、学問的探求心を高め、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：文献講読を実施し、報告が割り当てられた担当者は指定箇所のレジュメを作成し、発表を行っていただきます。また、発表された内容をもとにグループディスカッションを実施します。あわせて、共同研究の報告やゼミナール論文に関連する個人の研究報告も実施します。
4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における報告を行っていただきます。また、発表された内容をもとにしたグループディスカッションを実施します。必要に応じて文献講読を実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーション、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	情報コミュニケーションにかかる社会科学の知識を習得し、高い倫理観を身につける						3						
②	現代社会における情報コミュニケーションをめぐる問題のメカニズムを理解し、その問題を説明できる							3					
③	情報コミュニケーションに関する基礎的・専門的な知識を基にして、論理的、科学的、合理的な考察ができる								3				
④	現代社会における事象を注視し、さまざまな営みへと積極的に関与し、自ら問題を発見する									3			
⑤	より良い社会の創造という観点から問題設定を行う										4		
⑥	他者とのコミュニケーションを通じて、自らの研究活動の発展を図る											4	
⑦	社会・共同体における様々なアクターとの協働を促進する												4
⑧	研究活動を通じて自己の向上や社会貢献を実現する												4
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	12	13	12	13	12	13	12	13			100
その他()												
到達目標別の比率(%)		12	13	12	13	12	13	12	13			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時間内および随時の指導

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる：ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	教科書	必携
インターネット・デモクラシー：拡大する公共空間と代議制のゆくえ	ドミニク・カルドン	トランスビュー	2012	教科書	必携
#リパブリック：インターネットは民主主義になにをもたらすのか	ギャス・サンス ディーン	勁草書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00-14:00　9号館6階9601研究室（アポイントは不要ですが事前に調整いただけると助かります）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの運営、スケジュール、文献講読の割り当て	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール活動への理解を深める	
		事前学修	自らの興味・関心に則した文献を読む	120分
		事後学修	輪読予定の文献に目を通しておく	120分
2	4/17	文献1-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
3	4/24	文献1-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
4	5/1	文献1-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
5	5/8	文献1-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
6	5/15	文献1-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	共同研究報告1	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
		事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
8	5/29	文献2-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
9	6/5	文献2-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
10	6/12	文献2-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
11	6/19	文献2-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
12	6/26	文献2-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	共同研究報告2	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
		事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
14	7/10	論文報告1	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
15	7/17	論文報告2	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
16	9/18	文献3-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
17	9/25	文献3-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
18	10/2	文献3-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	文献3-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
20	10/16	文献3-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
21	10/23	共同研究報告3	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆、報告に関する打ち合わせ	120分
		事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
22	10/30	文献4-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
23	11/6	文献4-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
24	11/13	文献4-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	文献4-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
26	11/27	文献4-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
		事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
		事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
27	12/4	共同研究報告4	成果報告：口頭発表	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の成果を互いに共有する	
		事前学修	各種調査の実施、報告に関する打ち合わせ、論文執筆	120分
		事後学修	校正を実施し、論文を完成させる	120分
28	12/11	論文報告3	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
29	12/18	論文報告4	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
		事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、論文執筆	120分
		事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
30	12/25	まとめ	1年間の振り返り：ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等について	
		この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール運営および研究活動のさらなる発展に向けて意識の共有を図る	
		事前学修	ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等を各自で整理する	120分
		事後学修	確認された課題の改善を図る	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	福島 康仁	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
都市政策に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，都市政策に関する専門領域に関する卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共政策および都市政策における基礎理論について修得するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。地方分権社会における各地域が抱える諸問題について学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。また，グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
文献研究を行い，各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。後半は履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，フォーラムへの参加など，学修効果を高めるための創意工夫がなされる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3	3	3	3		
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。							3	3	3	3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							3	3	3	3	3		3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学 修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を 解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる 報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益 な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者 倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われてい るかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
面談、討論、相談、レポートなどの添削により随時おこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み時間 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員としての知見と経験により情報を提供する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	4/15	論文テーマの確定(2)	当選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	4/22	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	あ確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	4/29	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	5/6	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	到達目標③④に関連
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	5/13	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
8	5/27	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。120分
9	6/3	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
10	6/10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
11	6/17	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。120分
12	6/24	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	7/8	課題の確認・検討(3) 課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	7/15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	9/16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	9/23	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	9/30	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	10/14	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	10/21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	10/28	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	11/4	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	11/11	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/18	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	11/25	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	12/2	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	12/9	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	12/16	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	1/13	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
4年次は、3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文の制作をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
4年次：ゼミナール論文の制作を通して、知的財産法の法的問題点の分析能力を養い、自ら紛争解決や提言を行えるようにする。

【履修条件】
当ゼミナール・入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとに全員でディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究テーマに沿って材料を集めることを主体的に行っていく。文献調査，企業ヒアリングなどの結果を随時報告する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				4	4	4					
②	商標権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				4	4	4					
③	不正競争防止法に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				4	4	4					
④	研究テーマとなっている法的問題点について、立法、契約モデル等の具体的な解決方法、提言をする。							4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の研究テーマに関する判例研究などの発表方法，内容を評価する。 自分のテーマではない仲間の研究活動について，他者の発表に対する質問，問題提起など，ディスカッションへの参画度を評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の内容を評価する。	10	10	20	20							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail: akiko_fujita@lapinrose.jp 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士，特許庁工業所有権審議会委員，財務省専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年間の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	法律論文の書き方講座	法律論文の特徴，書き方，構成の仕方	
		この回の到達目標	法律論文の書き方，構成の仕方を習得する。	
		事前学修	興味のあるテーマの論文を1つ見つけて読んでおく。	60分
		事後学修	法律論文の書き方に則った方法でテーマを探す。	120分
2	/	研究発表①	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを探索する。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
3	/	研究発表②	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
4	/	研究発表③	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
5	/	研究発表④	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
6	/	研究発表⑤	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	研究発表⑥	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
8	/	研究発表⑦	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
9	/	研究発表⑧	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
10	/	研究発表⑨	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
11	/	研究発表⑩	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
12	/	研究発表⑪	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	研究発表⑫	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
14	/	研究発表⑬	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
15	/	研究発表⑭	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
16	/	研究発表⑮	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
17	/	研究発表⑯	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
18	/	研究発表⑰	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	研究発表⑱	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
20	/	研究発表⑲	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
21	/	研究発表⑳	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
22	/	研究発表 2 1	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
23	/	研究発表 2 2	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
24	/	研究発表 2 3	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	研究発表 2 4	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
26	/	研究発表 2 5	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
27	/	研究発表 2 6	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
28	/	研究発表 2 7	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
29	/	研究発表 2 8	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
30	/	研究発表 2 9	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
		この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
		事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
		事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミ生全員で共有する。そうした活動を通じて、学問的探究心を養い、身近な問題に対しても積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
3年次にゼミに所属していたこと

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、随時、進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとに全員で議論し、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、学生からの発表が主体となるので、それ自体がアクティブ・ラーニングの形態となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法財産法の基本的な知識を身につける。						3	3						
②	具体的な裁判例における論理展開を理解する。								3	3	3			
③	裁判例を素材とする議論において他者の意見を汲み上げ、自己の見解を確固たるものとする。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミナールにおける発表、議論への参加の度合い。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文。	20	20	30								70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナールの最後の回に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
		有斐閣			
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にアポイントメントをとること）、研究室：本館7階1714室、メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文のテーマ策定	
		事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
2	4月15日	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文のテーマの策定	
		事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
3	4月22日	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの策定	
		事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
4	4月29日	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの策定	
		事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
		事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
5	5月6日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
6	5月13日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
8	5月27日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
9	6月3日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
10	6月10日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
11	6月17日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
12	6月24日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
14	7月8日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
15	7月15日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
16	9月16日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
17	9月23日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
18	9月30日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
20	10月14日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
21	10月21日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
22	10月28日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
23	11月11日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
24	11月18日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
26	12月2日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
27	12月9日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
		事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
		事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
28	12月16日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の最終指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の完成	
		事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて	120分
		事後学修	ゼミナール論文の内容確認	120分
29	12月23日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の最終指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の完成	
		事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて	120分
		事後学修	ゼミナール論文の内容確認	120分
30	1月13日	ゼミナール論文	ゼミナール論文の最終指導	
		この回の到達目標	ゼミナール論文の完成	
		事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて	120分
		事後学修	ゼミナール論文の内容確認	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	松島 雪江	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
法学の基礎的知識を共有した上で、法哲学的に扱いうる事象につき、個人研究発表、相互の議論、論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法哲学、法思想を通じた法的問題の探求を目的とする。

【履修条件】
3、4年連続して受講すること。

【授業方法】		
法学の基礎知識を共有する時は、テキストの輪読を行う。各学生が担当箇所をまとめて発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。その後個人研究のテーマを見つけ、各学生が個人研究を行う。授業内で発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。論文執筆にあたっては、執筆方法や論文の構成などの指導を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の発表に基づき、相互に意見交換を行い、講評する。それを元に、次回の研究発表を作成していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学の基本的知識を得た上で、それを活用することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	個人研究のテーマを見つけ、それを発展的に研究することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	学生相互間で議論を行うことができる。				3	3	3	3	3	3	3
④	個人研究テーマにつき、形式的に整ったレポートや論文を執筆することができる。				3	3	3	3	3	3	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の見解を言語化し、論理的に示すことができる。	5	10	10	25							50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	25							50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
研究発表に関しては、授業内で講評を行う。論文やレポートに関しては、事後的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	その都度必要な文献を利用する。				

【オフィスアワー】
火曜12:20-12:50、研究室1713にて。訪問につき事前に連絡のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	オリエンテーション及び導入講義	1年間のゼミ活動計画、研究計画を立てる。	
		この回の到達目標	これから1年間で何をするのか、どのように活動するのか理解し、実行可能な研究計画を立てられるようにする。	
		事前学修	研究発表のための資料収集、レジュメの作成、発表準備を行うにあたり、1年間の流れを確認しておく。	120分
		事後学修	ゼミの活動計画、研究計画に基づき、自分の研究を進める。	120分
2	4月14日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
3	4月21日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
4	4月28日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
5	5月5日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
6	5月12日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
8	5月26日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
9	6月2日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
10	6月9日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
11	6月16日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
12	6月23日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
14	7月7日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
15	7月14日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
16	9月15日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
17	9月22日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
18	9月29日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
20	10月13日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
21	10月20日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
22	10月27日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
23	11月10日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
24	11月17日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
26	12月1日	研究発表個人	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
27	12月8日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
28	12月15日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
29	12月22日	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
		この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
		事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
		事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
30	1月12日	口頭試問	4年生の論文口頭試問に出席し、コメントを述べる。	
		この回の到達目標	4年生の発表を理解し、それに質問や意見を行うことができる。	
		事前学修	4年生のこれまでの発表を理解しておく。	120分
		事後学修	口頭試問で4年生が指摘されたことを受け、自分の研究に活かせる点を模索する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治哲学における現代の諸問題について学修するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学修した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治哲学における現代の諸問題について理解し，4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し，政治哲学における現代の諸問題への理解を深め，自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表を担当し、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の文献購読を通じて、現代の諸問題について理解する。				3	3	3	3				
②	各自の興味・関心に沿った研究テーマを探求する。								4	4	4	4
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の充実度・精確性を評価する。	30										30
授業への参画度	積極的な発言を評価する。	30										30
その他(ゼミナール 論文)	研究テーマの進展を評価する。		40									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	報告1	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
3	第一部水 4/22	報告2	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
4	第一部水 4/29	報告3	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
5	第一部水 5/6	報告4	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
6	第一部水 5/13	報告5	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	報告6	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
8	第一部水 5/27	報告7	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
9	第一部水 6/3	報告8	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
10	第一部水 6/10	報告9	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
11	第一部水 6/17	報告10	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
12	第一部水 6/24	報告11	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	報告12	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
14	第一部水 7/8	報告13	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
15	第一部水 7/15	報告14	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
16	第一部水 9/16	報告15	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
17	第一部水 9/23	報告16	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
18	第一部水 9/30	報告17	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 10/7	報告18	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
20	第一部水 10/14	報告19	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
21	第一部水 10/21	報告20	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
22	第一部水 10/28	報告21	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
23	第一部水 11/11	報告22	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
24	第一部水 11/18	報告23	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部水 11/25	報告24	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
26	第一部水 12/2	報告25	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
27	第一部水 12/9	報告26	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
28	第一部水 12/16	報告27	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
29	第一部水 12/23	報告28	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
		事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
30	第一部水 1/13	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	輪読文献全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ヨーロッパ諸国の政治について、理論的な検討を加えることによって、日本や世界各国の政治に応用可能な知識を身につける。そのために、受講生が主体となって研究発表やディスカッションを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学における理論を理解し、活用することで、ヨーロッパ各国の政治を把握し説明することができる。また説明にあたっては、適切な資料等を準備し、他者に対して説得的なプレゼンテーションが行える。

【履修条件】
積極的にゼミナール活動に参加すること。

【授業方法】
指定のテキストの輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとに質疑応答を行い、最後に教員がコメント等をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生の発表を中心としたディスカッション形式	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治学の基礎理論を説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	ヨーロッパ各国の政治を説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	政治に対して、理論的に自己の意見を表明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
④	自身の意見を他者に分かりやすく伝えることができる。				3	3	3	3	3	3	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①、②、③、④について、発表に際しては、基本的な文献の内容を把握して、論点を明確に示しているか、適切な資料等が準備されているかを評価する。また、発表者にかかわらず、ゼミナール参加者は積極的に自身の意見を表明することで評価を受ける。	5	5	5	5							20
授業への参画度	到達目標①、②、③、④について、ゼミナールにかかわる様々な活動への積極的な参加の有無によって評価する。参加には、自身の意見を述べるなど主体的なかわりが必須となる。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①、②、③、④について、ゼミナール論文で、適切な文献が用いられているか、基本的な論文の書き方を理解しているかを評価する。	10	10	20	20							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の発表後に適宜、教員がコメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文献については、授業の進行に応じて、適宜、紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週月曜日18時以降。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶことやゼミナールという知的共同体で学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
2	4/16	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
3	4/23	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
4	4/30	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
5	5/7	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	69分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。。	180分
6	5/14	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/21	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。180分
8	5/28	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。180分
9	6/4	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。180分
10	6/11	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。180分
11	6/18	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。180分
12	6/25	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
14	7/9	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
15	7/16	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑧	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
16	9/17	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
17	9/24	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
18	10/1	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/8	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
20	10/15	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
21	10/22	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
22	10/29	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
23	11/5	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
24	11/12	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/19	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
26	12/26	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
27	12/3	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
28	12/10	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
29	12/17	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
30	1/21	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑧	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
		事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
		事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

科目名	ゼミナール4年	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
説得ディベートやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における公共政策及びその形成過程の特質を検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：公共政策に関する基礎理論を修得するとともに、社会問題を解決するための政策オプションについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解します。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミ内で共有・考察します。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成しつつ、最終的に卒業論文を完成させます。

【履修条件】
ゼミナールの入室試験に合格することが必要です。

【授業方法】
毎回、公共政策に関する説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	説得ディベート、グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。				3	3		3				
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				3	3	3	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		3	4	4	3
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。							3	3	3	3	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	20	20							60
授業への参画度	毎回、説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他(ゼミナール論文)	4年次に提出される卒業論文が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	20	20									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の説得ディベートに関する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/17	卒業論文執筆の方法論	卒業論文執筆に関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、卒業論文執筆の方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	4/24	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	5/1	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	5/8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論報告）	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	5/15	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	5/29	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	6/5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	6/12	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	6/19	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	6/26	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	7/10	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	7/17	まとめ	前期の授業で指摘された諸政策の問題や課題について確認、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
16	9/18	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
17	9/25	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
18	10/2	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/9	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
20	10/16	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
21	10/23	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
22	10/30	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
23	11/6	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
24	11/13	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/20	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
26	11/27	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
27	12/4	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論最終報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
28	12/11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論最終報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
29	12/18	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論最終報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
30	12/25	まとめ	後期の授業で指摘された諸政策の問題や課題について確認、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
このゼミナールでは、商法（商取引法・会社法・運送法）に関する裁判例の知識や基礎的な理論をベースに、商法分野における体系的知識を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法・会社法・運送法における判例及び学説に関する基礎的な知識について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークやディスカッションの中で他の受講者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミナールの選考を通過したもの

【授業方法】		
判例や事例問題を素材に商法分野についての検討を行い、ゼミナール内において報告し、質疑応答を行うという演習形式で行う。そのため、各自報告する判例や事例問題について検討して、レジュメを作成し、ゼミナール内にて報告をするとともに、担当外の学生についても積極的にディスカッションに参加する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方的な講義形式ではなく、受講生が予め検討した商法に関連する判例及び事例問題について、自ら教科書や体系書・論文等を参照しつつ、レジュメを作成して報告を行い、参加者同士でディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法の制度の全体構造について説明することができる。					3	3						
②	商法・会社法に関する主要な論点に関する判例・学説を調査し、その内容について説明することができる。							3	3	3			
③	商法・会社法に関する論点について判例・学説を踏まえた上で、適切な法的紛争の解決方法を、自らの意見を述べながら考察することができる。									4	4	4	4
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	商法・会社法に関する判例及び事例問題について予め検討した上で、レジュメを作成し、ゼミナール内において積極的に自らの意見を述べながら報告しているかどうかによって評価を行う。	10	10	10								30
授業への参画度	自分の担当外の判例及び事例問題においても、予め自分なりに検討を重ね、ゼミナール内において質疑応答に積極的に参加しているかどうかによって評価を行う。	10		10								20
その他(ゼミナール論文)	自らの興味関心のある論点等について従来の判例や学説等を踏まえた上で、自らの意見を適切に表現されているかによって評価を行う。			50								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	10	70								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内における質疑応答や課題作成等の場合には、適宜、課題への添削という形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、自らが持っている商法・会社法の教科書と六法は必ず持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日の午後1時00分～午後2時30分。ただし、在室中は原則対応する。研究室（本館9階1919研究室） メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ガイダンス及び受講生の興味関心のある判例・事例問題の検討方法	ゼミナールの運営方法に関するガイダンスと自ら興味のある判例や事例問題の検討方法について説明する。	
		この回の到達目標	受講生が興味のある判例や事例問題の検討方法に関して、到達目標①に関連して、その分析手法を知った上で、判例や事例問題についての検討を行うことができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、学修者自身が持っている法律学等の教科書を読んでおき、どのような判例や論点があるのかを予め確認する。	120分
		事後学修	判例研究や事例問題の分析の方法について自分なりにまとめておく。	120分
2	4月14日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
3	4月21日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
4	4月28日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
5	5月5日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
6	5月12日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
8	5月26日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
9	6月2日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
10	6月9日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
11	6月16日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
12	6月23日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
14	7月7日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
15	7月14日	ゼミナール論文作成の準備	第14回までのゼミナールを踏まえて、ゼミナール論文を作成するために、自分自身の興味関心を報告し、ゼミナール論文の書き方について学修する。	
		この回の到達目標	3年次及び4年次のゼミナールを通じて、受講生自身の興味関心のある判例・事例問題等について説明し、ゼミナール論文の書き方を身につけることができる。	
		事前学修	受講生自身が興味関心のある判例・事例問題等についてレジュメを作成し、ゼミナール論文の作成の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
16	9月15日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
17	9月22日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
18	9月29日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月6日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
20	10月13日	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
21	10月20日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
22	10月27日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
23	11月10日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
24	11月17日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月24日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
26	12月1日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
27	12月8日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
28	12月15日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
29	12月22日	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析	商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
		この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
30	1月12日	ゼミナール論文の作成	これまでのゼミナールを通じて検討してきた判例・事例問題等について最終的にゼミナール論文という形で報告をする。	
		この回の到達目標	会社法・商法総則・商行為法等に関する判例・事例問題等について検討し、自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	受講生自身が興味関心のある判例・事例問題等について、関連する判例や文献を調査し、ゼミナール論文を作成して報告の準備を行う。	120分
		事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したゼミナール論文をブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	三村 淳一	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：日本における知的財産権（主に特許を中心）における現代の諸問題について学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 また、実際にアメリカに特許出願を行うことを通して、勉強の成果を確認する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。また、米国における特許権の諸問題を研究する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
3年次：日本の判例の輪読を行い，各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。 また、3～4人にグループに分け、各班が興味のある題材を自ら決定し発表し、教員がコメントする。 4年次：米国の判例の輪読を行い，各自担当箇所の発表を行う。又、各自が決定した研究テーマについて，随時進捗段階における発表を行う。 輪読・判例の発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	米国特許庁へ出願を行う。そのため、出願に必要な書類を学生自ら作成し、インターネットにて出願を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3	3	3	3	3
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3	3	3	3	3
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることであったかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					
【オフィスアワー】					
火曜昼休み 9号館9408 三村淳一研究室					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	米国弁理士としての米国特許出願や、米国企業との特許ライセンス交渉		
実務経験に基づく実践的教育の内容		机上の勉強を、実際の特許出願として実践する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	/	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	/	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	/	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	/	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
		事前学修	定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	/	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	/	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	/	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	/	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	/	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	/	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	/	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
		事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
		事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	/	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
		事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
		事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	/	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	/	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	/	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	/	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	/	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	/	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	/	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	/	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	/	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	/	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	/	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
		事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	/	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
		事後学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
30	/	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
		事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
		事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を学修する。そこで前期は、判例研究を行う上で必要な知識（条文・判例の読み方、文献・資料の調べ方）を学んだ後、グループで判例研究を行い、それを順次発表する。また、後期はゼミナール論文の作成を目指して、各自の興味・関心に沿った研究テーマの発見にも取り組む。
4年次：3年次に学修した内容及び3年次に選定したゼミナール論文のテーマにつき、深く掘り下げ、ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に着ける。さらに、グループワークを通して、他者との協働意識の重要性を理解する。
4年次：3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を正しく修得し、それをグループで共有・考察するかような活動を通じて、学ぶことの面白さを知り、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索する意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：指定された教科書を輪読後、グループに分かれ、家族法の判例等を各グループで選び、判例研究を行う。さらに、学習の理解度に応じて、事例問題の演習なども随時行うこととする。
4年次：各自が決定したゼミナール論文のテーマにつき、随時、中間報告、発表を行い、これに対する講評を行う。なお、後期は、個別の論文指導も実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	判例研究、ゼミナール論文の執筆を進めていく中で、複数回にわたり、グループ発表、ゼミナール論文等の中間報告を実施する。その際は、個別、グループ問わず、事前に報告予定者は、課題・指示に基づき、入念な報告準備を行い、その報告内容に基づき、授業内で皆でディスカッションを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語・概念につき、正確に理解し、説明することができる。					3	3						
②	民法における諸制度・諸規定につき、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					3	3						
③	授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							3					
④	グループワークを通じて、授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							3					
⑤	グループワークを通じて、他者との協働意識の重要性を理解し、仲間と共に、その分野の課題を探究することができる。										3	3	
⑥	授業で学修した知識に基づき、その分野の法的課題を探究し、ゼミナール論文をテーマを自ら決定できる。								3	3			
⑦	授業で学修した知識に基づき、ゼミナール論文を完成させることができる。							3	3	3			3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標①②③④⑤⑥についての理解度を把握する。	10	10	10	10	5	10					55
授業への参画度	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標⑤の協働意識の重要性を理解し、積極的に行動できているかを確認する。					10						10
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成により、到達目標⑥⑦を評価する。						5	30				35
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	15	15	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で実施する	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日昼休み（1720研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	ガイダンス・判例研究	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバスに沿って授業の概要、授業目的、到達目標、授業スケジュール、成績基準等を説明する。それにより、次回以降、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 さらに、春合宿で途中となった判例研究の発表の続きを実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文のテーマ及び今後の進め方を確認するとともに、ゼミナール論文作成にあたり必須となってくる判例研究の方法についての復習を行う。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、判例研究報告の準備を行う。	120分
		事後学修	各自、ゼミナール論文作成の計画を完成させる。	120分
2	第一部水 4/15	判例研究	前回に続き、卒業論文作成にあたって必要な技術といてよい判例研究について班ごとに研究発表を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、卒業論文作成にあたり必要な技術といてよい判例研究の方法について確認し、卒業論文の前提となる基礎的な知識を深める。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、判例研究報告の準備を行う。	120分
		事後学修	各自、ゼミナール論文の概要及び作成計画を完成させ、次回の報告に備える。	120分
3	第一部水 4/22	ゼミナール論文の概要及び作成計画の報告	事前に準備してきてもらったゼミナール論文の概要及び作成計画を報告し、今後、どのような流れでゼミナール論文を進めていけばよいのかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、ゼミナール論文の進め方を理解し、今後のゼミナール論文の準備をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	各自、ゼミナール論文の概要及び作成計画を完成させ、次回の報告に備える。	120分
		事後学修	ゼミナール論文の報告会で指摘された点につき、修正を行うとともに、資料収集のための準備を行う。	120分
4	第一部水 4/29	ゼミナール論文の概要及び作成計画の報告	前回に続き、事前に準備してきてもらったゼミナール論文の概要及び作成計画を報告し、今後、どのような流れで卒業論文を進めていけばよいのかを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、ゼミナール論文の進め方を理解し、今後の卒業論文の準備をスムーズに行うことができる。	
		事前学修	各自、ゼミナール論文の概要及び作成計画を完成させ、次回の報告に備える。	120分
		事後学修	卒業論文の報告会で指摘された点につき、修正を行うとともに、資料収集のための準備を行う。	120分
5	第一部水 5/6	資料収集及び文献リストの作成（第一次）	ゼミナール論文のテーマ内容にしたがい、二つの班に分かれて、ゼミナール論文作成作業を進めていく。班分けをした後、各自のゼミナール論文計画に従って資料収集を進めていく。なお、それにあたり、資料収集の仕方などを再度確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、ゼミナール論文作成の第一歩として資料収集を実施する。	
		事前学修	効率的に資料収集を行うため、めばしい資料等のあたりをつけておく。	120分
		事後学修	収集した資料を整理し、集めた文献資料をよみこんでおく。	120分
6	第一部水 5/13	資料収集及び文献リストの作成（第一次）	ゼミナール論文のテーマ内容にしたがい、分かれた班ごとにゼミナール論文作成作業を進めていく。各自、ゼミナール論文計画に従って資料収集を進めていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成の第一歩として資料収集を実施する。	
		事前学修	効率的に資料収集を行うため、めばしい資料等のあたりをつけておく。	120分
		事後学修	収集した資料を整理し、集めた文献資料をよみこんでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第一次）	ゼミナール論文計画に従い、引き続き、文献収集を行うとともに、収集した資料の読み込みを行う。なお、その際は、文献リストの作成を同時並行で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、収集した文献を読み、テーマへの理解を深める。	
		事前学修	収集した資料を整理し、集めた文献資料の読み込みを始める。	120分
		事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料収集の準備を行う。	120分
8	第一部水 5/27	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第一次）	各自、文献資料の読み込みを行い、さらに必要となった文献資料の収集を行う。なお、その際は、文献リストの作成を同時並行で行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、収集した文献の読み込みを進めながら、さらなるテーマへの理解を深める。	
		事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
		事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
9	第一部水 6/3	資料収集及び文献リストの作成（第二次）	第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献も広く収集する。その際は、文献リストの作成も同時に進める。なお、順次、文献リストのチェックを受ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集を行い、論文の質を高める。	
		事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
		事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
10	第一部水 6/10	資料収集及び文献リストの作成（第二次）	引き続き、第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献を広く収集する。その際は、文献リストの作成も同時に進める。なお、文献リストのチェックを受ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集を行い、論文の質を高める。	
		事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
		事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
11	第一部水 6/17	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第二次）	引き続き、第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献をより範囲を広げて収集し、読み込みを行う。その際は、文献リストの作成も同時に進める。また、収集した文献の内容で重要なものについてはメモも作成する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集・読み込み作業を行い、論文の質を高める。	
		事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
		事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
12	第一部水 6/24	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第二次）	引き続き、第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献をより範囲を広げて収集し、読み込みを行う。その際は、文献リストの作成及び、収集した文献の内容で重要なものをまとめていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集・読み込み作業を行い、論文の質を高める。	
		事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
		事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	ゼミナール論文の進捗状況の報告（財産法グループ）	ゼミナール論文の目次及び概要について各自報告するとともに、報告内容についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、ゼミナール論文作成のため、中間報告会を行うことで、有益な意見を互いに出しあい、テーマへの理解をさらに深め、論文の質を高める準備を進める。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次及び論文の概要の報告準備を行う。	120分
		事後学修	授業内で指摘されたことについての検討を行うとともに、引き続き、資料収集等を行う。	120分
14	第一部水 7/8	ゼミナール論文の進捗状況の報告（家族法グループ）	前回に続き、ゼミナール論文の目次及び概要について各自報告するとともに、報告内容についてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、卒業論文作成のため、中間報告会を行うことで、有益な意見を互いに出しあい、各自のテーマへの理解をいっそう深め、論文の質を高める準備を進める。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次及び論文の概要の報告準備を行う。	120分
		事後学修	授業内で指摘されたことについての検討を行うとともに、引き続き、資料収集等を行う。	120分
15	第一部水 7/15	資料収集及び夏合宿時のゼミナール論文の中間報告会についてのガイダンス	夏合宿時におけるゼミナール論文の中間報告会までにやっておくべき作業の確認を行う。確認後は、各自、文献資料の収集、読み込みなどを行うとともに、必要な場合には、ゼミナール論文の目次内容等について個別指導を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、論文執筆に向けて重要な時期である夏合宿時の中間報告会に向けてのガイダンスを行うことで、やるべきことを明確にし、夏合宿時の中間報告会を有益なものとする。	
		事前学修	授業内で指摘された有益なアドバイスに従い、ゼミナール論文の目次等の書き直し及び収集した文献の読み込みをさらに進め、文献リストの作成も行う。	120分
		事後学修	夏合宿時のゼミナール中間報告会に向けての報告準備を行う。	120分
16	第一部水 9/16	ゼミナール論文執筆の進め方の確認及び資料収集	論文執筆に向け、必要な基本的事柄（注の作成の仕方など）について再度確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、ゼミナール論文の執筆に向け、目次構成を再度確認し、執筆に向けた準備を行う。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成の見直しを行う。	120分
		事後学修	修正したゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
17	第一部水 9/23	論文作成指導：論文執筆作業	班ごとに、2週に1回、教員から個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。なお、論文指導を受けない週は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分
18	第一部水 9/30	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 10/7	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分
20	第一部水 10/14	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分
21	第一部水 10/21	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分
22	第一部水 10/28	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分
23	第一部水 11/11	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分
24	第一部水 11/18	論文作成指導：論文執筆作業	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。	120分
		事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部水 11/25	論文作成指導：第一章、最終章の確認	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。なお、論文完成に向け、すでに一度、書き上げてある第一章について見直し、私見及び最終章との対応について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。すでに書き上げている第一章の検討を行う。	120分
		事後学修	個別指導等で指摘を受けた点を踏まえて第一章の加筆修正を行うとともに、ゼミナール論文の完成を目指して書き進める。	120分
26	第一部水 12/2	論文作成指導：第一章、最終章の確認	前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。なお、論文完成に向け、すでに一度、書き上げてある第一章について見直し、私見及び最終章との対応について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。すでに書き上げている第一章の検討を行う。	120分
		事後学修	個別指導等で指摘を受けた点を踏まえて第一章の加筆修正を行うとともに、ゼミナール論文の完成を目指して書き進める。	120分
27	第一部水 12/9	論文作成指導：論文の概要報告	ひとまず最後まで書き上げた論文の推敲作業に入る前に、論文の目次、概要について報告会を行い、論文の質を高めるための準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。	
		事前学修	報告会に向けて、論文の概要等を作成する。	120分
		事後学修	報告会で指摘された点を踏まえて、論文の推敲作業を進めていく。	120分
28	第一部水 12/16	論文作成指導：推敲	班ごとに引き続き2週に1回、教員から個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で推敲を重ねた論文の検討を行う。なお、論文指導を受けない班は、推敲作業を進める。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、推敲作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文提出に向け、推敲作業を進めていく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文提出に向け、個別指導で指摘された点を中心に推敲作業を進めていく。	120分
29	第一部水 12/23	論文作成指導：推敲	前回個別指導を受けなかった班が、今回は、個別論文指導を受け、また、テーマ内容が近い者同士で引き続き推敲を重ねた論文の検討を行う。なお、論文指導を受けない班は、推敲作業を進める。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、推敲作業を進めていく。	
		事前学修	ゼミナール論文提出に向け、推敲作業を進めていく。	120分
		事後学修	ゼミナール論文提出に向け、個別指導で指摘された点を中心に推敲作業を進めていく。	120分
30	第一部水 1/13	論文作成指導：注・参考文献及び提出様式等の確認	注・参考文献及び、卒業論文提出に向けて提出様式等の最終確認を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、注・参考文献を含め推敲作業を進め、論文を完成させる。	
		事前学修	注・参考文献を含めて推敲作業を進める。	120分
		事後学修	ゼミナール論文を完成させ、印刷し、期限内に卒業論文を提出する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	山村 りつ	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
山村ゼミナールでは、社会的な課題に対する政策的対応あるいは政策による影響を卒論の主題とし、それに沿って各自が興味あるテーマを4年次までに決め、最終的な卒論執筆を目指します。3年生では卒論の執筆に必要な論理的思考と社会的課題の分析の方法、さらに自分の意見をいかに言語化するかをグループワークを通じて学び、それをもとに各自が決めた課題について、課題の分析と仮説の設定を行い、実証研究もしくは論証を通じて自らの考えを論文の結論としてまとめます。本ゼミナールにおいては、個人的でかまいませんが問題意識を前提とした積極的参加が非常に重要となります。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：さまざまな社会的課題を題材として、問題の理解と説明のための論理力と、論証に必要な研究の手法を身につける。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに基づいてゼミナール論文を作成する。また、4年生は3年生のメンターとして指導を通じて、論理力や表現力を高めていく。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者。

【授業方法】
3年次：前期は課題図書等についてのグループワーク、後期の進め方は夏合宿中に自分たちで決めてもらいます。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。また、担当する3年生（メンティー）のアドバイスを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会的課題について、その問題性（何が問題であるのか）を言語化できるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	選択した課題について、自らの考察をもとに仮説を立てること（問いの言語化）ができるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	設定した仮説に対して、検証のための適切な方法を選択することができるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	論文執筆のための考察を通じて、自らの考えを適当な手法を用いてプレゼンテーションできるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	半期に2回程度のグループもしくは個人による発表の機会を設ける。そこで、事前に提示された発表課題に沿った発表を行えているか。また、他の人の発表に対してコメントや質問を提示することができるか。	10	10	5	5							30
授業への参画度												
その他(卒業論文)	4年次修了時に卒業論文の提出を求める。卒業論文の評価については、①指定された形式に従っているか、②内容が一貫しているか、③論理の妥当性および整合性をもとに評価を行う。	15	20	20	15							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	25	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業の中でコメントとしてフィードバックを行い、必要に応じて個別指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	今後の卒業論文執筆の進め方についての説明を行う。 また、卒業論文に必要な問いの立て方と論証の方法についての指導を行う。	
		この回の到達目標	卒論執筆にあたり、自分に足りないものをリストアップし示すことができるようになる。	
		事前学修	卒論のテーマ設定にあたり、必要な情報の収集と整理を行っておく。	180分
		事後学修	授業での説明を受けて、自分の卒論執筆に必要なものを考察する。	60分
2	4/15	卒論執筆計画①の確認	各自の卒論執筆計画①についてコメントと指導を行う。	
		この回の到達目標	卒論執筆計画①を踏まえて、次の発表までに必要な課題を具体的に提示できるようになる。	
		事前学修	卒論執筆計画①を作成しておく。そのために必要な情報収取を行う。	180分
		事後学修	自分の卒論執筆計画①を見直し、必要があれば修正を行う。	60分
3	4/22	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
		この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
4	4/29	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
		この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
5	5/6	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
		この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
6	5/13	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
		この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
		この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
8	5/27	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
		この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
9	6/3	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
		この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
10	6/10	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
		この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
11	6/17	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
		この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
12	6/24	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
		この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
		この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
14	7/8	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
		この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
		事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
		事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
15	7/15	前期のまとめ	これまでの卒業論文発表について総括を行い、卒論執筆計画②の確認と、今後に向けた指導を個別に行う。	
		この回の到達目標	本格的な卒論執筆に向けて、夏休み中にすべきことを提示できるようになる。	
		事前学修	前期までの卒論に係る発表および収集資料をまとめ、卒論執筆計画②を完成させておく。	180分
		事後学修	授業内で受けた指導を踏まえて、卒論執筆を進める。	60分
16	9/16	今後の卒論指導について	今後の卒論指導の進め方についての説明と、卒論執筆における基本的な注意事項・確認事項を説明し、卒論執筆に向けた個々の計画の確認を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文提出までの具体的な執筆計画を立てる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、これまでの執筆分の整理と質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
17	9/23	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。	
		この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、課題と必要な修正箇所、加えて完成に向けた具体的な計画を提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
18	9/30	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。	
		この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、課題と必要な修正箇所、加えて完成に向けた具体的な計画を提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。	
		この回の到達目標	卒業論文の仮説（問い）および論証のための方法を提示する。またその理由を言語化できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
20	10/14	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。	
		この回の到達目標	卒業論文における自分の主張を概念図として提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
21	10/21	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。	
		この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
22	10/28	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。	
		この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
23	11/11	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。	
		この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
24	11/18	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。	
		この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	卒業論文・個別指導（3回目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
		この回の到達目標	卒論の最終的な構成と内容を確定させる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
26	12/2	卒業論文・個別指導（3回目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
		この回の到達目標	卒業論文を40%程度まで文章化する。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
27	12/9	卒業論文・個別指導（3回目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
		この回の到達目標	卒業論文を60%程度まで文章化する。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
28	12/16	卒業論文・個別指導（3回目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
		この回の到達目標	卒業論文を80%程度まで文章化する。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
29	12/23	卒業論文・個別指導（3回目） 卒業論文（下書き）完成	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。また、これまでに卒業論文の下書きを完成させ、提出前の最終指導を行う。	
		この回の到達目標	卒業論文の下書きを完成させる。	
		事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認をし、最終指導のための準備をしておく。	180分
		事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
30	1/13	卒論の最終確認	卒論の内容に関する最終的な確認と、提出に向けた準備等について指導を行う。	
		この回の到達目標	体裁等の軽微な修正の必要を残し、卒論を完成させる。	
		事前学修	前回からの修正点の整理と確認をし、卒論の下書きを完成させておく。	180分
		事後学修	最後に体裁その他の軽微な修正を行い、卒論の提出に臨む。	60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際政治学をゼミナール形式で学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際政治学の基礎理論を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
積極的に参加する姿勢を求める。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
卒業論文の提出に向けて履修者が報告を行い、その内容を議論する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卒業論文についての報告と議論は、履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治学の基礎理論を修得できる。					3	4	3					
②	自らの興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。								3	4	3		
③	グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。											4	3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	要件を満たしたレポートを期日までに提出する。	20										20
討論・発表等	要件を満たした報告を行う。	20										20
授業への参画度	議論に積極的に参加する。			30								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間連続して履修し、成績 評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	要件を満たしたゼミナール論文を期日までに提出する。		30									30
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者による報告とレポートの内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レポート・論文の書き方入門：第4版	河野哲也	慶應義塾大学出版会	2018年	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ゼミナールを始めるにあたって（前学期） 導入講義	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
		この回の到達目標	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
		事前学修	シラバスを読む。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
2	/	卒業論文の中間報告（1）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
3	/	卒業論文の中間報告（2）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
4	/	卒業論文の中間報告（3）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
5	/	卒業論文の中間報告（4）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
6	/	卒業論文の中間報告（5）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	卒業論文の中間報告（6）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
8	/	卒業論文の中間報告（7）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
9	/	卒業論文の中間報告（8）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
10	/	卒業論文の中間報告（9）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
11	/	卒業論文の中間報告（10）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
12	/	卒業論文の中間報告（11）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	卒業論文の中間報告（12）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
14	/	卒業論文の中間報告（13）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
15	/	卒業論文の中間報告（14）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
16	/	ゼミナールを始めるにあたって（後学期）	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
		この回の到達目標	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
		事前学修	前学期のゼミナールの内容をふりかえり、あらためてシラバスを読む。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
17	/	卒業論文の最終報告（1）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
18	/	卒業論文の最終報告（2）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	卒業論文の最終報告（3）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
20	/	卒業論文の最終報告（4）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
21	/	卒業論文の最終報告（5）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
22	/	卒業論文の最終報告（6）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
23	/	卒業論文の最終報告（7）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
24	/	卒業論文の最終報告（8）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	卒業論文の最終報告（9）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
26	/	卒業論文の最終報告（10）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
27	/	卒業論文の最終報告（11）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
28	/	卒業論文の最終報告（12）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
29	/	卒業論文の最終報告（13）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
30	/	卒業論文の最終報告（14）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
		この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
		事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
		事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際経済論について理解を深め、国際経済に関する問題点を見つけ出していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際経済に関する問題について、説明ができるようになる。

【履修条件】
経済学ⅠⅡ、国際経済論ⅠⅡ、国際金融論ⅠⅡの履修を終えていると、履修の助けとなる。

【授業方法】
文献講読と文献内容の報告。卒業研究の執筆と発表。卒業研究の添削や報告・発表へのコメント。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文献内容の報告と卒業研究の発表。 それらに対するコメントや添削。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。				3	4	4			3	3	3
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。				3	4	4			3	3	3
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。				3		4	4		3	3	3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。				3				4	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	15	15	15	15							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
各自の卒業研究のテーマに応じて決める。				その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントをとること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	卒業研究	卒業研究テーマ案を挙げる	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案を挙げる	
		事前学修	卒業研究テーマ案を挙げる	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案を再度考える	120分
2	4月15日	卒業研究	卒業研究テーマ案を挙げる	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案を挙げる	
		事前学修	卒業研究テーマ案を挙げる	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案を再度考える	120分
3	4月22日	卒業研究	卒業研究テーマ案の説明	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案の説明	
		事前学修	卒業研究テーマ案の説明	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案の説明を再度考える	120分
4	4月29日	卒業研究	卒業研究テーマ案の説明	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案の説明	
		事前学修	卒業研究テーマ案の説明	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案の説明を再度考える	120分
5	5月6日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
6	5月13日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
8	5月27日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
9	6月3日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
10	6月10日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
11	6月17日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
12	6月24日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
14	7月8日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
15	7月15日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
16	9月16日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
17	9月23日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
18	9月30日	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
		事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
		事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	卒業研究	卒業研究の章立てする	
		この回の到達目標	卒業研究の章立てする	
		事前学修	卒業研究の章立てする	120分
		事後学修	卒業研究の章立てする	120分
20	10月14日	卒業研究	卒業研究の章立てする	
		この回の到達目標	卒業研究の章立てする	
		事前学修	卒業研究の章立てする	120分
		事後学修	卒業研究の章立てする	120分
21	10月21日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
22	10月28日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
23	11月11日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
24	11月18日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
26	12月2日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
27	12月9日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
28	12月16日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
29	12月23日	卒業研究	卒業研究執筆	
		この回の到達目標	卒業研究執筆	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究執筆	120分
30	1月13日	卒業研究	卒業研究提出前最終確認	
		この回の到達目標	卒業研究提出前最終確認	
		事前学修	卒業研究執筆	120分
		事後学修	卒業研究提出前最終確認	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	吉田 純平	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法の重要な問題に関する調査、報告、及び議論を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法の重要問題の検討を通して、法律問題に関する調査能力、情報発信能力、ディベート能力を身につける。

【履修条件】
民事訴訟法や民法関連の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
グループや個人による研究報告とそれに基づく議論を行う。課題は原則として前の授業時に決定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業、学生が研究報告行い、そのための調査を行うことで、法律調査能力及び情報発信スキルを身につける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法における原則や判例の準則を理解し、事案に適用できる。				3	3	3					
②	判例の論点を理解し、自分なりの意見を持つ。						3	3	3	3		
③	グループで調査し、議論することができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミでの発表および討論への積極性を評価する。			40								40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文について、論理性、調査の量及び質、独自 性に基づき評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	法人でない団体の当事者能力	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
2	4/15	当事者適格	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
3	4/22	債権者代位訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
4	4/29	法人の内部紛争	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
5	5/5	確認の利益	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分
6	5/13	申立事項と判決事項	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	二重起訴の禁止	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
8	5/27	弁論主義	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
9	6/3	釈明権	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
10	6/10	文書提出命令	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
11	6/17	訴訟物	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
12	6/24	争点効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	基準時後の形成権の行使	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
14	7/8	基準時後の損害拡大	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
15	7/15	一部請求	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
16	9/16	既判力の主観的範囲	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
17	9/23	法人格否認の法理	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
18	9/30	反射効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	和解	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
20	10/14	通常共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
21	10/21	固有必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
22	10/28	類似必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
23	11/11	独立当事者参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
24	11/18	補助参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	訴訟承継	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
26	12/2	上訴の利益	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
27	12/9	不利益変更禁止の原則	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
28	12/16	再審	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
29	12/25	審判権の限界	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
30	1/13	境界確定訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
		この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
		事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
		事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	吉野 篤	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミ4年生はゼミナール論文作成を目指して、各自の論文のテーマと構成をできるだけ早い段階で決めて、それを完成させるべく個別に研究報告を行い、論理構成をブラッシュアップしてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学の学びの集大成として、論文作成という形でそれを具体化させる。特に重視されるのは論理構成を明確に示すための目次作成であり、この作業を通じて、自らの問題意識を明確に提示させ、それを具体的に論文で展開することで、学生としてのアイデンティティを自覚させることを目的とする

【履修条件】
3年次の活動を発展的に展開できる態勢を整える

【授業方法】
個人的な研究報告をレジュメをもとに行う。それを受けて質疑応答し、論点を明確化し、論文の構成を明らかにしてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミはアクティブ・ラーニングそのものであり、質疑応答はそのまま学生と教員の相互作用となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治学の対象領域を明確に意識できることができる				3	3	3	3	3	3	3
②	質疑応答を通じて、自らの問題意識や考え方を明確化することができる				3	3	3	3	3	3	3
③	報告することを通じて、自分の考え方、論理を自覚的に提示して、それを論文目次を通じて明らかにできる				3	3	3	3	3	3	3
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	実施しない											
小テスト等	研究報告に含まれる											
レポート等	研究報告に含まれる											
討論・発表等	研究報告が圧倒的な比重を占める											
授業への参画度	就活で支障がある場合を除き、参加は必須											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	30	30	40								100
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告のたびごとに個別具体的に議論し、問題にたいする認識を深められるように丁寧に指導する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	ゼミ論作成が使命なので使用できない				

【オフィスアワー】
火曜日2時限目 研究室(1807)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/22	オリエンテーション及び導入講義	報告の日程、担当者を確定して、今後の展開を議論して、次回以降の報告について概説する	
		この回の到達目標	とくに①に関連して、政治学のゼミ論文の位置づけ、内容的な適否などを伝えて、それを十分理解させ、それを通じて具体的な論題の設定を考察することができる	
		事前学修	あらかじめ、問題関心について各自考察し、それをゼミの時間に概説できるように準備すること	120分
		事後学修	各自のテーマ設定に沿って、参考文献などをあらかじめ収集、チェックしておくこと	120分
2	4/29	研究報告①	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
3	5/6	研究報告②	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
4	5/13	研究報告③	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
5	5/20	研究報告④	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
6	5/27	研究報告⑤	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	6/3	研究報告⑥	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
8	6/10	研究報告⑦	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
9	6/17	研究報告⑧	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
10	6/24	研究報告 ⑨	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
11	7/1	研究報告⑩	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
12	7/8	研究報告⑪	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/15	研究報告⑫	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
14	7/22	研究報告⑬	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
15	7/29	研究報告⑭	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
16	8/5	研究報告⑮	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
17	9/16	後学期研究報告①	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
18	9/23	後学期研究報告②	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	9/30	後学期研究報告③	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
20	10/7	後学期研究報告④	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
21	10/14	後学期研究報告⑤	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
22	10/21	後学期研究報告⑥	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
23	10/28	後学期研究報告⑦	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
24	11/11	後学期研究報告⑧	報告計画に沿って具体的な報告をする	
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
		事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
25	11/18	後学期研究報告⑨	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
26	11/25	後学期研究報告⑩	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
27	12/2	後学期研究報告⑪	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
28	12/9	後学期研究報告⑫	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
29	12/16	後学期研究報告⑬	報告計画に沿って具体的な報告をする
		この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる
		事前学修	入念に報告を準備を進めること120分
		事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること120分
30	12/23	後学期研究報告の総括	これまでの研究報告を振り返り、目次の微調整などがあれば行い、ゼミ論文提出に向けて具体的に執筆を加速させる
		この回の到達目標	各自のゼミ論の論題、論点、目次構成を改めて総点検し、併せてゼミ活動を総括することができる
		事前学修	改めて自らの論文について考察を深め、論文の微調整に務める120分
		事後学修	ゼミ活動を各自総括して、互いの親善・交流を振り返る120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	米倉 律	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
テレビを中心とした映像ジャーナリズムが現代社会においてどのような役割・機能を果たしているのか、送り手、受け手、コンテンツの各レベルについて研究を行なう。研究は、内容分析、フィールドワーク、アンケート調査など、複数の方法論を組み合わせで行う

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：映像ジャーナリズムについての基礎文献などの講読を行なって基礎知識を習得するとともに、各自の興味・関心に沿ってグループ研究を行ない、研究結果をグループで共有・考察する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループ内で共有・考察する。また、そうした活動を通じて課題設定や課題解決策を模索する問題意識を醸成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文献講読、番組の映像視聴と内容分析、フィールドワーク

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像視聴を通じたディスカッション、分析内容・研究成果のプレゼンテーションとディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	映像ジャーナリズムについての基礎的理論、概念、歴史などについて説明することができる				3	3						
②	映像ジャーナリズムの制作過程について理解し、その内容や問題点などについて述べるることができる					3	3	3	3			
③	映像ジャーナリズムを対象にしてオリジナリティのある研究のある研究を実践し、成果を共有することができる						3	3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②に関連し、課題文献や映像資料についての確 に分析し、その結果を共有することができるかどうかを評 価する。	20	15									35
授業への参画度	到達目標①②③に関連し、質疑応答・ディスカッションに 積極的に参画しているかどうかを評価する。	5	5	5								15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標②③に関連し、設定した課題・テーマを対象に、 適切な方法論を用いて有意義な研究成果を出すことができ たかどうかを評価する。		25	25								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に適宜フィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新放送論	米倉律・島崎哲彦編	学文社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方、評価の仕方を説明するとともに、卒業研究の導入を行なう	
		この回の到達目標	1年間の活動内容と目標を理解し説明することができる	
		事前学修	教科書、シラバスに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理する	90分
2	4月15日	卒業研究のアイデア検討①	卒業研究のテーマについてのブレインストーミング	
		この回の到達目標	卒業研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
3	4月22日	卒業研究のアイデア検討②	卒業研究のテーマについてのブレインストーミング	
		この回の到達目標	卒業研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
4	4月29日	卒業研究の対象、方法論の検討①	卒業研究の対象、方法論の検討	
		この回の到達目標	パイロット研究のテーマについて、適切な対象と方法論を説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
5	5月6日	卒業研究の対象、方法論の検討②	卒業研究の対象、方法論の検討	
		この回の到達目標	対象となるデータ収集と分析を的確に遂行できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
6	5月13日	中間報告 1 ー①	各自の研究計画の報告	
		この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	中間報告 1－②	各自の研究計画の報告	
		この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
8	5月27日	中間報告 1－③	各自の研究計画の報告	
		この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
9	6月3日	中間報告 1－④	各自の研究計画の報告	
		この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
10	6月10日	中間報告 2－①	先行研究のレビュー結果の報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
11	6月17日	中間報告 2－②	先行研究のレビュー結果の報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
12	6月24日	中間報告 2－③	先行研究のレビュー結果の報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	中間報告2－④	先行研究のレビュー結果の報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
14	7月8日	中間報告3－①	研究計画の策定と報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
15	7月15日	中間報告3－②	研究計画の策定と報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
16	9月16日	中間報告3－③	研究計画の策定と報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
17	9月23日	中間報告3－④	研究計画の策定と報告	
		この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
18	9月30日	中間報告4－①	データ収集と分析の報告	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10月7日	中間報告 4－②	データ収集と分析の報告	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
20	10月14日	中間報告 4－③	データ収集と分析の報告	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
21	10月21日	中間報告 4－④	データ収集と分析の報告	
		この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
22	10月28日	中間報告 5－①	分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
23	11月11日	中間報告 5－②	分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
24	11月18日	中間報告 5－③	分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11月25日	中間報告 5－④	分析結果のまとめと考察	
		この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
26	12月2日	最終報告①	論文の構成と主要部分、結論の報告	
		この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
27	12月9日	最終報告②	論文の構成と主要部分、結論の報告	
		この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
28	12月16日	最終報告③	論文の構成と主要部分、結論の報告	
		この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
29	12月23日	最終報告④	論文の構成と主要部分、結論の報告	
		この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分
30	1月13日	総括	年間の研究活動の総括	
		この回の到達目標	一年間の研究成果を整理し説明することができる	
		事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	90分
		事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	90分

科目名	ゼミナール4年	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次は、企業や組織の戦略情報の分析に基づいて戦略の全体像を推定する「戦略プロファイリング」手法を、実在の企業や機関（複数）の経営戦略のプロファイリングを通して修得する。 4年次後半に、それまでの戦略プロファイリング結果を見直しゼミナール論文として提出。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：戦略プロファイリング（特定組織の戦略情報の分析に基づいて組織の経営戦略の全体像について推論を行うこと）に必要なスキルを修得する。 4年次：3年次に修得したスキルを組織（企業・機関等）の経営戦略に適用し、各組織の経営戦略についてプロファイリングを実施する。その中から一組織を選び、ゼミナール論文として提出する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
3年次：最初に戦略プロファイリングの基本ステップを理解する。次に、ゼミ生各人がプロファイリング対象企業を選び、戦略プロファイリングを実施する。プロファイリング結果について、あらかじめ割り振られた日にプレゼンテーションを行い、それについて他の受講生や教員も含めて討議する。その後、討議内容を踏まえて、戦略プロファイリング結果（戦略マップ）を修正し再提出する。 4年次：3年次同様に各自がプロファイリング対象企業を選び、戦略プロファイリングを実施し、その結果プレゼンテーションを実施する。最後に、一組織の戦略プロファイリング結果を説明記述や使用データとともに、ゼミレポートとして提出する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義とそれに基づく教員・履修者間の討議、課題とそれに基づく履修者によるプレゼンテーションと教員・履修者間の討議、。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	戦略プロファイリングの基本コンセプトを理解し、説明できるようになること。						3	3	3	3	3	3	3
②	公開情報に基づいて、戦略プロファイリングを基本的な手順で実施できるようになること。						3	3	3	3	3	3	3
③	自身の分析結果を簡潔かつ明確に説明できるようになること。						3	3	3	3	3	3	3
④	より多くのケースの分析を通して、高い精度で戦略プロファイリングを実施できるようになること。						3	3	3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各期初に申告した企業・組織の戦略プロファイリング結果 (戦略マップ)の提出と、それに基づくプレゼンテーショ ン。			43								43
授業への参画度	他の履修生の戦略プロファイリング結果に対する、適切な 改善提案。			43								43
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文の提出。	4	4	3	3							14
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		4	4	89	3							100

【課題に対するフィードバックの方法】
戦略プロファイリング結果に対しては授業時間中に講評を実施。累計出席回数は希望者にメールにより回答。講義に使用したスライド（PDF）は共有フォルダーで公開。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦略マップ	キャプラン・ノートン	ランダムハウス	2005年	参考書	任意
戦略マップ（復刻版）	キャプラン・ノートン	東洋経済新報社	2014年	参考書	任意
戦略づくりの七つ道具	若林広二	中央経済社	2004年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡）木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上）金曜 18：00～20：00（同上）研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容	経営コンサルティング業務の知見に基づき、戦略論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナールの概要、目的、方法、成績評価方法等についての説明。	
		この回の到達目標	ゼミナールの概要を理解し、説明できるようになること。	
		事前学修	興味のある企業・組織について、いくつか選ぶ。選択基準は、就職先としての自身の評価。	120分
		事後学修	上記企業・組織についての情報収集。	120分
2	第一部木 4/16	戦略プロファイリングのコンセプト	戦略プロファイリングの概要説明，分析対象企業の選定。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの基本コンセプトを理解し、説明できるようになること。	
		事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年（コピー事前配布）を熟読し、戦略プロファイリングの概念を理解する。戦略プロファイリング企業・組織（2社）を選定する。	180分
		事後学修	配布資料に基づいて、戦略プロファイリング手順を記憶に定着させる。選定した企業・組織の公開情報の質・量を再確認する。	60分
3	第一部木 4/23	ケース（演習）	ケース（戦略プロファイリング例），プレゼンテーションスケジュール設定	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングの実在企業の適用を通して、戦略プロファイリングのコンセプトの理解を深める。	
		事前学修	指定された企業の経営情報（特に戦略情報）の収集と戦略プロファイリング（戦略マップの作製）	180分
		事後学修	授業中に提示された戦略プロファイリング例と自身が事前に作成した戦略マップの差異の理由について検討する。	60分
4	第一部木 4/30	戦略プロファイリング1	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
5	第一部木 5/7	戦略プロファイリング2	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
6	第一部木 5/14	戦略プロファイリング3	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	戦略プロファイリング 4	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
8	第一部木 5/28	戦略プロファイリング 5	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
9	第一部木 6/4	戦略プロファイリング 6	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
10	第一部木 6/11	戦略プロファイリング 7	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
11	第一部木 6/18	戦略プロファイリング 8	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
12	第一部木 6/25	戦略プロファイリング 9	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	戦略プロファイリング 1 0	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
14	第一部木 7/9	戦略プロファイリング 1 1	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業にある程度適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
15	第一部木 7/16	戦略プロファイリング 1 2	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
16	第一部木 9/17	オリエンテーション及び導入講義	後期のゼミナールの進め方の説明。分析対象企業の選定。	
		この回の到達目標	ゼミナールの概要を再確認し、説明できるようになること。	
		事前学修	戦略プロファイリング企業・組織（2社）を選定する。その際、3年次と4年次前期までで、最も自信のある戦略プロファイリング結果を最終回の発表の対象企業とする。	180分
		事後学修	選定した企業・組織の公開情報の質・量を再確認する。	60分
17	第一部木 9/24	戦略プロファイリング 1 3	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
18	第一部木 10/1	戦略プロファイリング 1 4	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部木 10/8	戦略プロファイリング 1 5	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
20	第一部木 10/15	戦略プロファイリング 1 6	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
21	第一部木 10/22	戦略プロファイリング 1 7	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
22	第一部木 10/29	戦略プロファイリング 1 8	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	180分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正し再提出する。その他、興味を持った組織について、他のゼミ生のプロファイリング結果をレビューする。	60分
23	第一部木 11/5	戦略プロファイリング 1 9	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分
24	第一部木 11/12	戦略プロファイリング 2 0	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを実在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部木 11/19	戦略プロファイリング 2 1	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分
26	第一部木 12/3	戦略プロファイリング 2 2	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分
27	第一部木 12/10	戦略プロファイリング 2 3	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分
28	第一部木 12/17	戦略プロファイリング 2 4	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分
29	第一部木 12/24	戦略プロファイリング 2 5	戦略プロファイリング結果のプレゼンテーションとそれに基づく討議。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを实在企業に適切に適用できるようになること。	
		事前学修	各自に割り振られた日の前に選択した組織の戦略情報を収集し、戦略プロファイリングを実施し、それについてのプレゼンテーション資料を作成し提出する。発表予定日以外については、他のゼミ生のプレゼンテーション予定組織について、自身でも戦略プロファイリングを試行して授業に臨む。	120分
		事後学修	自身がプレゼンテーションを実施した回については、討議内容を踏まえて戦略プロファイリング結果を修正する。また、戦略マップの説明（戦略ストーリー）の記述と、根拠データを付与する。	120分
30	第一部木 1/14	まとめ	2年間のゼミナールを振り返るとともに、ゼミナール論文の提出に備える。	
		この回の到達目標	戦略プロファイリングを完全に修得し、いつでもどんな企業・組織にも自信を持って適用できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール論文（戦略プロファイリング結果、戦略ストーリー、根拠データ等）を完成させる。	200分
		事後学修	ゼミナール論文のファイル（PPT）を各人の専用ホルダーに保存する。	40分

科目名	ゼミナール4年	担当者	渡邊 容一郎	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：教員が指定した西洋政治史に関する課題について、各自エッセイやレジュメを作成・配布し、調べてきた内容の報告（プレゼン）を行う。その後、各自の報告内容に関する質疑応答やディスカッション、ディベートなどを行い、最後に教員が講評して総括（フィードバック）する。
4年次：3年次に決定したゼミナール論文研究テーマに基づき、各自教員の前で報告（プレゼン）を行い、その後、教員が今後の課題や修正点などを指導（フィードバック）する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：西洋政治史に関する課題や共通テーマについて研究し、その成果を自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることに加え、各自の興味・関心に沿った具体的な研究テーマを発見してもらうことを到達目標とする。
4年次：ゼミナール論文の作成を通じて歴史的見地から政治の本質を理解できるようになることに加え、それを自分の言葉と文章で説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験（面接試験）合格者のみ受講可。政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
上記「授業の概要」に基づき、ゼミナリスTENの自主的かつ積極的なアクティブ・ラーニング(下記参照)を原則とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	初回のオリエンテーション以外は、課題や共通テーマ(3年次)、あるいは各自のゼミナール論文テーマ(4年次)に関連した「研究調査ならびにそれをまとめたエッセイ、レジュメ等の提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の共通テーマに関する概要と問題点を理解し説明することができる。				3	3		3				
②	各自の研究テーマに関する知見を論理的に説明することができる。				4	4	4					
③	各自の研究テーマを踏まえて、現代社会を批判的に分析することができる。						3	4	4			
④	各自の研究テーマに基づく自分の調査報告・調査結果に対する他者の評価や見解を尊重し、受け容れることができる。				4		4	3		4	3	3
⑤	ゼミナリスTEN同士でゼミナール行事の難題に挑戦したり、コミュニケーションを取ったり、協働したりすることができる。							3	4	4	4	4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	毎回提出するエッセイが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑤を踏まえて、ゼミナール行事等の参加度も重視する。					5						5
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを普段の授業でチェックするとともに、その成果は「ゼミナール論文」の内容で最終評価する。	15	15	15	15	15						75
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業(3年次：討論・発表、4年次：論文個別指導)の中で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの1930年代（3年生のみ使用）	斉藤孝	岩波書店	1990	教科書	必携
備考	参考文献等は、必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日13：00－14：30 研究室（9号館2階 9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	オリエンテーション及び導入講義	学業と就職活動の両立の仕方について考える。	
		この回の到達目標	大学4年生としての自覚をもつようになること。到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようにすること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
2	4/15	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようにすること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
3	4/22	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようにすること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
4	4/29	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようにすること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
5	5/6	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようにすること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
6	5/13	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようにすること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
8	5/27	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
9	6/3	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
10	6/10	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
11	6/17	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
12	6/24	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
14	7/8	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
15	7/15	ゼミナール論文の中間報告	各自作成したゼミナール論文内容に関する中間報告と、それを踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を最後まで作成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
16	9/16	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
17	9/23	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
18	9/30	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	10/7	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
20	10/14	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
21	10/21	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
22	10/28	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
23	11/11	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
24	11/18	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	11/25	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
26	12/2	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
27	12/9	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
28	12/16	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
		事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
29	12/23	完成したゼミナール論文の点検	完成したゼミナール論文の最終点検指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、完成したゼミナール論文をもう一度見直し、不備のない状態で提出できるようになること。	
		事前学修	完成したゼミナール論文を、提出前に再度熟読しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、論文の提出に備えておく。	120分
30	1/13	完成したゼミナール論文の点検	完成したゼミナール論文の最終点検指導。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、完成したゼミナール論文をもう一度見直し、不備のない状態で提出できるようになること。	
		事前学修	完成したゼミナール論文を、提出前に再度熟読しておく。	120分
		事後学修	授業中に示された修正点や反省点などを各自振り返りながら、完成したゼミナール論文を期日前に教務課へ提出する。	120分

科目名	選挙制度論	担当者	小島 勇人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
代議制民主主義は、選挙で選出された国民の代表である政治家のもと様々な意思決定を行う政体である。したがって選挙に関するルール、すなわち選挙制度は代議制民主主義において根幹的な制度であるといえる。そこで本講座では、民主主義における選挙制度の役割を導入部分として、学生が主として選挙制度の類型やその影響について政治学者に関する議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目（V群）で学習した政治学に関する基礎的知識を発展させるために、生徒が選挙制度の概要やその役割を理解・説明し、選挙制度の視角から現代政治を捉える能力を習得する。

【履修条件】
我が国の選挙制度について理解する意欲を求める。

【授業方法】		
教科書を使用しつつ、必要に応じて各講義で資料を配布する。教科書や配布資料にない事例等を話す場合があるので、ノートへの筆記も必要となる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	選挙制度に関する主要な構成要素を理解することができる。					3						
②	選挙制度に関する政治学者の主要な理論を説明することができる。					3	3					
③	選挙制度が現実政治に及ぼす影響を評価することができる。						3	3				
④	選挙制度が現実政治に及ぼす影響に対する自分なりの評価を説明できる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	25	25	20	10							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関連し、講義ごとに解説される選挙制度の詳細について理解・評価し、その評価についてリアクションペーパーにて説明できる。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
前学期末の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務と研修のためのわかりやすい公職選挙法 第15次改訂版	選挙制度研究会	ぎょうせい	平成30年度		
備考					

【オフィスアワー】
質問等については、授業時間中もしくは終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	地方公務員として選挙管理実務に44年間、携わる。総務省管理執行アドバイザー、総務省研究会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		44年に及ぶ実務経験と総務省管理執行アドバイザー、総務省研究会などの成果を踏まえ、実践的かつ我が国の現実の選挙制度について、講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス・これからの選挙制度論の概要について	オリエンテーション、シラバスによる講義計画、我が国の選挙制度の基本となる憲法における選挙の原則について説明し、今後の講義への理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の講義計画を理解し、履修の有無を決められるようにする。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、憲法の選挙に関する基本原則を理解しておく。	120分
		事後学修	我が国の憲法における選挙の原則を講義内容とともに復習する。また、次回の講義内容を予習する。	120分
2	4/15	我が国の現行選挙制度のあらまし	我が国の民主主義の基本となる主に公職選挙法に基づく選挙制度のあらましについて講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、我が国の民主主義の基本となる主に実定法である公職選挙法に基づく選挙制度のあらましについて講義を行う。	
		事前学修	前回の講義内容を復習するとともに、教科書により我が国の現行選挙制度を概観しておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の講義内容を予習する。	120分
3	4/22	選挙制度の源流と我が国の選挙制度の沿革	選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化について、理解を深める講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化について、理解する。	
		事前学修	教科書の該当部分を読み、選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化について理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布資料に基づき、選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化について理復習する。また、次回の講義内容を予習する。	120分
4	4/29	諸外国の選挙制度等	主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等を概観し、我が国の選挙制度のあり方を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等を理解し、我が国の選挙制度のあり方を考察できるようにする。	
		事前学修	教科書の主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等に関する講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）に関する講義内容を予習する。	120分
5	5/6	多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）	選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）について、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）について、説明し、選挙制度全般の理解に資する。	
		事前学修	選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）に係る教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布資料に基づき選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）に係る内容を復習する。また、次回の小選挙区比例代表制の種類とその仕組みに関する講義内容を予習する。	120分
6	5/13	小選挙区比例代表制の種類とその仕組み	我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みについて、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みについて、理解し、今後の選挙制度のあり方を考察することができるようにする。	
		事前学修	我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みに関する教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布資料に基づき我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みについて復習する。また、次回の定数配分と投票価値の平等に関する講義内容を予習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	定数配分と投票価値の平等	憲法で保障された法の下の平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、我が国の数値的現状をした上で、判例などにより定数配分と投票価値の平等について理解できるよう説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法で保障された法の下の平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、我が国の数値的現状をした上で、判例などにより定数配分と投票価値の平等について理解できるようにする。	
		事前学修	憲法で保障された法の下の平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	講義内容と配布資料に基づき憲法で保障された法の下の平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、我が国の数値的現状とともに、判例などにより定数配分と投票価値の平等について復習する。また、次の選挙権と被選挙権に関する講義内容を予習する。	120分
8	5/27	選挙権と被選挙権	選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度についての理解に資する。	
		事前学修	選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度について、教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度について、講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次の選挙の執行プロセス(2)とする立候補の届出、当選人などの講義内容を予習する。	120分
9	6/3	選挙の執行プロセス(1)	選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について公職選挙法に基づき概説し、選挙執行の実際について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について公職選挙法に基づいた概説から、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を理解する。	
		事前学修	選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について公職選挙法に基づいた概説から、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次の選挙の執行プロセス(2)とする立候補の届出、当選人などの講義内容を予習する。	120分
10	6/10	選挙の執行プロセス(2)	選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について公職選挙法に基づき概説し、選挙執行の実際について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について現行の公職選挙法に基づき概説し、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を理解する。	
		事前学修	選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について現行の公職選挙法に基づく、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について現行の公職選挙法に基づく、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次の選挙運動と政治活動に関する講義内容を予習する。	120分
11	6/17	選挙運動と政治活動	候補者が有権者に発信する当選するための政策、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、現行の公職選挙法に基づき実際の問題事例を加味しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、候補者が有権者に発信する当選するための政策、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、現行の公職選挙法に沿って理解する。	
		事前学修	候補者が有権者に発信する当選するための政策、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	候補者が有権者に発信する当選するための政策、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次の選挙の管理執行に関する問題事例と選挙争訟に係る講義内容を予習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	6/24	選挙の管理執行に関する問題事例と選挙争訟	これまでに実際に起きた各種選挙における選挙の管理執行に関する問題事例と選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟について説明する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでに実際に起きた各種選挙における選挙の管理執行に関する問題事例と選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟について説明し、有権者にとって適正な選挙執行のあり方を理解する。	
		事前学修	選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟について教科書の該当部分を読み、選挙の規定違反を是正するための選挙人等が提起する争訟制度について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟について教科書の該当部分を読み、選挙の規定違反を是正するための選挙人等が提起する争訟制度について講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次の選挙犯罪と制裁について、講義内容を予習する。	120分
13	7/1	選挙犯罪と制裁	選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールの違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールの違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ、選挙に関するコンプライアンスについて、考え理解する。	
		事前学修	選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールの違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ、選挙に関するコンプライアンスについて、教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
		事後学修	選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールの違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ、選挙に関するコンプライアンスについて、講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次の政治資金の規正講義内容を予習する。	120分
14	7/8	政治資金の規正	政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、現行政治資金規正法に基づき、問題事例を踏まえ、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、現行政治資金規正法に基づき、問題事例を踏まえ、政治とカネの問題について、理解し、政治のあり方について理解する。	
		事前学修	政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、教科書の該当部分を読み、報道された問題事例にも目を配り、理解しておく。	120分
		事後学修	政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回最終回の講義のためにこれまでの振り返りをしておく。	120分
15	7/15	これまでの講義の振り返り	これまでに講義した我が国の選挙制度の全体像と課題などについて、解説し、試験に備える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでに講義した我が国の選挙制度の全体像と課題などについて、解説し理解を固める。	
		事前学修	これまでの講義内容を教科書とこれまでに配布した資料を踏まえ選挙制度のあり方と意義を考える。	120分
		事後学修	これまでの講義内容を再確認し、期末試験に備える。	120分

科目名	選挙制度論	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代民主主義では、選挙で選出された国民の代表である政治家のもと様々な意思決定を行う。したがって選挙に関するルール、すなわち選挙制度は、現代民主主義において根幹的な制度であるといえる。そこで本講座では、民主主義における選挙制度の役割を導入部分として、学生が主として選挙制度の類型やその影響について政治学者に関する議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目（V群）で学習した政治学に関する基礎的知識を発展させるために、生徒が選挙制度の概要やその役割を理解・説明し、選挙制度の視角から現代政治を捉える能力を習得する。

【履修条件】
特になし。ただし選挙制度について理解する姿勢を求める。

【授業方法】
プレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義期間中、リアクション・ペーパーの提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	選挙制度に関する主要な構成要素を理解することができる。					3						
②	選挙制度に関する政治学者の主要な理論を説明することができる。					3	3					
③	選挙制度が現実政治に及ぼす影響を評価することができる。						3	3				
④	選挙制度が現実政治に及ぼす影響に対する自分なりの評価を説明できる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	20	20	15	5							60
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関連し、学生が講義ごとに解説される 選挙制度に関する議論の内容が定着しているのかどうか を、理解しているのかどうかを、レポートを通じて評価す る。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関連し、学生が講義ごとに解説される 選挙制度に関する議論の内容を理解しているのかどうか を、リアクションペーパーにて確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
前期末の講義にて行う	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材については、受講者との相談のうえで決定する。				

【オフィスアワー】	
火曜の昼休憩時に研究室にて（12時～13時まで）。事前の予約が必要。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7/	ガイダンス・選挙制度論の概要について	授業目的、講義の概要、成績評価の方針について説明する。また民主主義の問題について、簡単な事例を示し、以降の講義への理解度を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の授業計画について理解し、履修の有無を決定できる。履修する場合は、ガイダンスで提示される民主主義固有の問題について自分なりに評価できる。	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、講義の流れについて確認する。	120分
		事後学修	シラバスの内容や講義の内容をもとに、自分なりの民主主義に対する考え方を整理しておくこと。	120分
2	4/14	民主主義と選挙制度	近代以降の社会的発展なかで民主主義及び選挙制度が重要性を持った歴史的背景、選挙制度の機能と構成要素について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義と選挙制度の関係、選挙制度の機能と構成要素について説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを読み、自分の考えを練っておくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
3	4/21	選挙の基本原則と普通選挙制の拡大	とくにイギリスを中心として選挙の基本的原理として選挙権拡大の歴史的背景について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、普通選挙制の歴史的展開とその意義について説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
4	4/28	平等選挙と一票の格差	選挙の基本的原理として、平等選挙の原理と一票の格差の問題を取り扱う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、一票の格差問題やゲリマンダーについて説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
5	5/5	選挙制度の類型：小選挙区制	狭義の「選挙制度」の類型について説明し、そのなかでも、小選挙区制及びそれから派生する制度について、諸外国の事例をふまえて講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度の構成要素と小選挙区制の内容について説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
6	5/12	選挙制度の類型：比例代表制	選挙制度の類型のなかでも、比例代表制とその議席配分の方式の差異について、諸外国の事例をふまえて講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比例代表制の比例配分の具体的方法について配分方式ごとに説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	選挙制度の類型：その他選挙制度	小選挙区制及び比例代表制以外の重要な選挙制度として、混合制及び中選挙区制の内容について、とくにドイツおよび日本を事例としつつ解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比例代表制の比例配分の具体的方法について配分方式ごとに説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
8	5/26	選挙制度と政党システム	選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度と政党システムの関連性について理解し、その主要な議論を説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
9	6/2	選挙制度と政党組織	選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度と政党組織の関連性について理解し、その主要な議論を説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
10	6/9	選挙制度と選挙キャンペーン	選挙制度と選挙キャンペーンの関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な選挙キャンペーンの手段について理解し、それらと選挙制度との関係性について説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
11	6/16	日本の選挙制度：中選挙区制から並立制へ	55年体制下で用いられていた中選挙区制下での政治の特徴と94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯について、それまでの講義で提示した枠組みをふまえつつ、講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な政治コミュニケーションの手段について理解し、それらと選挙制度との関係性について説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
12	6/23	日本の選挙制度：政治改革と並立制	94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯、およびその後の日本政治の展開について、それまでの講義で提示した枠組みをふまえつつ、講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、並立制下の政治の特徴について理解し、説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	日本の選挙制度：公職選挙法の問題点	日本の公職選挙法の抱える問題点について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本における公職選挙法やその周辺にある制度の現状と問題点について説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジюме等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
14	7/7	日本の選挙制度：ドキュメンタリー映画の鑑賞	今までの講義を踏まえつつ、日本における選挙の実態に関するドキュメンタリー映画を鑑賞し、日本政治に対する理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、映画の内容について、今までの講義内容と関連付けながら評価し、説明できる。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジюме等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
15	7/14	授業内試験および解説	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その後試験問題に関する解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことについて、試験を通じて定着を図る。	
		事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジюме等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
		事後学修	本講義の内容を再度確認し、期末試験に備えること。	120分

科目名	専門演習A	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義、グループワーク、個人ワークを混合して実施する。各グループごとに調査対象の公共的問題を設定し、授業内で学修した文献調査の技法を活用し、実際に文献の調査収集から、最終的には文献レビューの成果を報告する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを通じ、学生間相互の教え合いを複数回実施する。 教員が説明した文献調査の技法を、学生が主体的に応用・実践し実際の文献調査・収集を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥									4			
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業内あるいは翌週の授業時に個別にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政策リサーチ入門	伊藤修一郎	東京大学出版会	2011	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	文献のレビューとは	授業の概要説明を行った上で、文献レビューの技能を習得する必要性、意義について説明する。	
		この回の到達目標	文献のレビューとはどのような活動か、学術的に適切な文献の読み方を習得する意義を理解できるようになる。	
		事前学修	シラバスをよく確認し、自らの学修段階、技能水準に適した内容であるかどうかを確認する。	120分
		事後学修	大学生活の中でこれまでに書いたレポートを振り返り、現時点での文献を読む能力、先行研究のレビューを行う技能の水準を確認する。	120分
2	4/14	公共的問題とは何か？	具体的な公共的問題を授業内で複数提示し、その事例を題材に公共的問題に特有な意見対立、利害対立の構造を学修する。	
		この回の到達目標	公共的問題に関する議論には多様な立場と意見があることを理解し、文献レビューに取り組む前段階の知識を習得する。	
		事前学修	身の回りのニュースを見て、公共的な問題と思われるもののうち、関心のあるニュースをリストアップしまとめておく。	120分
		事後学修	事前学修でまとめておいたニュースのトピックを振り返り、それぞれの問題に存在する利害対立、意見の対立構造を発見し考察する。	120分
3	4/21	文献の探し方の基本、グループごとの課題設定	文献の探し方の基本を復習した上で、各グループが調査する公共的問題を決定する。	
		この回の到達目標	文献の探し方の基本を習得し、翌週のための課題調査に活用できるようになる。	
		事前学修	自らの関心があり、この授業で調査してみたい公共的問題を最低3つ選択し、その問題の概略について簡潔にまとめてくる。	120分
		事後学修	自分のグループの担当する公共的問題について、関係があると思われる資料を探して翌週の授業で報告できるよう目を通し準備しておく。	120分
4	4/28	文献レビューの実践 資料内容の要約	文献・資料の内容を「読む」「要約する」際の、学術的な視点について学修するとともに、実際に事前準備した資料の要約を行う。また、要約した結果について、各グループの中で自身が調査した資料の内容を発表・解説し、教え合いを行うとともに各課題についての知識を共有・深化させる。	
		この回の到達目標	学術的な目的での文献レビューの視点を身に付けるとともに、文献のポイントを絞って要約する技能を習得する。	
		事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、関係があると思われる資料を探して授業で報告できるよう目を通し準備しておく。	120分
		事後学修	授業内で他のグループメンバーが行った調査報告の内容が適切か、元の資料にあたって確認してみる。	120分
5	5/5	公共的問題の外観を掴む	KJ法を活用し、各グループの公共的問題を取り巻く様々な論点、問題の原因、解決案などを列挙・整理し、次の段階の調査の準備を進める。	
		この回の到達目標	KJ法を習得するとともに、各グループの担当する公共的問題を巡る論点、問題の原因、リサーチクエストンを見定めるための準備を整える。	
		事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、今後追加的な調査が必要だと思われる疑問点や、その問題の解決策、関連する諸問題などを思いつくまに列挙しておく。	120分
		事後学修	ブレインストーミング、グループでのディスカッションを通じて登場した新たな調査項目、疑問点などについて改めて検討し、さらに追加の調査が必要な問題は何かを検討する。	120分
6	5/12	問題の整理・報告の技法	これまでに集めた情報を他人に伝達・報告する技法について学修するとともに、各グループで収集した情報を集約し報告の準備を整える。	
		この回の到達目標	学術的な観点での、文献情報の整理・報告技法を理解し、実際に情報の整理・要約に活用することができるようになる。	
		事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、どのような部分にスポットを絞り報告するのがよいか事前に検討する。	120分
		事後学修	授業で学修した内容を活用し、次週の報告に向けて準備を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	5/19	中間報告		各グループが担当する公共的問題を取り巻く状況、論点、今後の調査の方向性を、グループごとに報告する。	
		この回の到達目標	自分たちのグループがこれまでに調査した内容を、他のグループの学生にも理解できるように伝達することができるようになる。		
		事前学修	授業内でスムーズに報告ができるよう、各グループの中で報告準備を進める。		
		事後学修	他のグループの報告を聞いて、良かったところ、わかりにくかったところなどを確認し、次以降の自らの報告に活用できるようまとめておく。		
8	5/26	学術論文・専門書の調査		これまでの一般的な資料収集の段階を超えて、学術的な先行研究を調査・レビューする手法、学術研究の視点、文献を読む際のポイントについて学修する。今後どのようなリサーチクエストをさらに調査していくか、グループ内でディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	学術的な先行研究を調査・レビューする手法を理解し、実際に実践できるようになる。		
		事前学修	中間報告でのフィードバック内容を踏まえて、今後どのようなリサーチクエストをさらに調査していくか検討しておく。		
		事後学修	グループ内でのディスカッションを通じて決まったリサーチクエストに関連する文献を実際に図書館やインターネットで探してみる。		
9	6/2	資料の調査・共有		事前に収集した論文・専門書を持参し、その内容を要約した上で、グループ内で情報の共有、文献内容の教え合いを行う。その上で、リサーチクエストをさらに具体的に設定し、可能であれば追加的な文献の調査収集を行う。	
		この回の到達目標	学術的な文献要約の訓練を行い、文献レビューの技能を向上させる。		
		事前学修	グループ内でのディスカッションを通じて決まったリサーチクエストに関連する文献を実際に図書館やインターネットで探し、準備しておく。		
		事後学修	授業内でのディスカッションを踏まえ、さらに論文・専門書の調査収集に取り組む。		
10	6/9	問題構造の理解の深化		QC手法の1つである特性要因図（魚の骨）の技法を学修し、自らのリサーチクエストに対して「なぜ」を繰り返すことで、問題構造の理解の深化、具体化を試みる。	
		この回の到達目標	特性要因図（魚の骨）の使い方を習得し、漠然としたリサーチクエストをより具体的で深い内容に改善できるようになる。		
		事前学修	これまでの調査の際に掲げていたリサーチクエストを改めて見直し、学術的な研究調査とするためにどのような方向へ内容を具体化するのがよいか検討する。		
		事後学修	再考した結果を踏まえ、さらに論文・専門書の調査収集に取り組む。		
11	6/16	先行研究の文献調査		学術的な論文における先行研究の意義とその範囲、文献レビューを行う目的を再確認しつつ、実際に文献調査を行いながら、適切な文献を調査できているか教員からのフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	リサーチクエストの内容に応じた、適切な先行研究を調査収集することができるようになる。		
		事前学修	各グループの進行状況に応じて、文献の調査、グループ内での情報共有を行う。		
		事後学修	教員からのフィードバックを踏まえた上で、さらに論文・専門書の調査収集に取り組む。		
12	6/23	先行研究レビューの実践		学術論文の構成・特徴を説明した上で、実際にグループで収集した文献を要約、レビューの構成を検討する。	
		この回の到達目標	学術論文の構成を再確認した上で、文献の適切な要約、整理、批評ができるようになる。		
		事前学修	グループのメンバーがそれぞれに収集した文献を共有できるよう、各自で文献内容の要約に取り組む。		
		事後学修	グループ内で、最終的な報告に向けてどのような報告を行うか相談・検討する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	最終報告案の検討	グループ内でディスカッションを行い、ここまでの文献レビューの成果を最終的にどのような方向性でまとめるかを定めた上で、不足する資料の調査、報告資料の作成に取り組む。	
		この回の到達目標	最終報告に向けて、報告内容案の骨子を確定させ、次週以降は報告資料の作成に取り掛かれるように準備を完了させる。	
		事前学修	グループ内で、最終的な報告に向けてどのような報告を行うか相談・検討する。	120分
		事後学修	グループ内で、担当を分担し、それぞれが文献レビューで取り上げる内容の要約・整理を行う。	120分
14	7/7	報告資料の作成	パワーポイントのまとめ方について学修した上で、各グループで最終報告のための資料作成を行う。	
		この回の到達目標	報告のストーリーを明確に固めた上で、最終報告のためのパワーポイントを完成させる。	
		事前学修	グループ内で、最終報告のストーリー仕立てを相談しておく。	120分
		事後学修	グループ内で、パワーポイントの品質向上に取り組む。	120分
15	7/14	最終報告	各グループで、これまで調査した成果を報告する。	
		この回の到達目標	これまで調査した成果を、学術的な観点から整理・要約するとともに、それぞれの公共的問題における研究課題を提示できるようになる。	
		事前学修	グループ内で、パワーポイントの品質向上に取り組む。	120分
		事後学修	他のグループの報告を聞いて、良かったところ、わかりにくかったところなどを確認し、今後の自らの報告に活用できるようまとめておく。	120分

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/14	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	4/21	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	4/28	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	5/5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	5/12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	5/26	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	6/2	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	6/9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	6/16	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	6/23	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	7/7	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	9/22	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	9/29	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	10/6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	10/13	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	10/20	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	11/10	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	11/17	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	11/24	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	12/1	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	12/8	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	12/22	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	1/12	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	専門演習A	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
【重要】第2回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には演習形式をとりながら、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのため、各自が授業に向けて情報収集と整理を行うとともに、授業内で示される次の授業までの段階的タスクのためのワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の最終回に発表の結果についての公表と、希望者には個別にその詳細を提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。 ・授業において重要となる基本的な語句および概念についての説明と整理を行う。	
		この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。 授業で用いる「マイノリティ」と「社会政策」の意味について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを熟読をし、マイノリティの意味について考察をする。	120分
		事後学修	授業での課題設定を踏まえて、今後の自分の課題を大まかに決めておく。	120分
2	9/23	マイノリティとは	・「マイノリティ」の意味と現状についての講義を行う。 ・発表のグループと日程を決める（受講生数によっては個人発表とする）。	
		この回の到達目標	現代社会におけるマイノリティ発生の背景について説明できるようになる。	
		事前学修	自分が考えるマイノリティについて考えを整理しておく。	60分
		事後学修	授業での説明を踏まえてマイノリティと、その問題性とは何かについて文章化する。	180分
3	9/30	世界におけるマイノリティ問題	・世界におけるマイノリティ問題について講義を行う。 ・グループディスカッション（自分たちのグループの対象を決める）。	
		この回の到達目標	グループ内でマイノリティについて共通理解を獲得し、それを踏まえて自分たちのテーマとなるマイノリティを決定する。	
		事前学修	自分の生活を振り返り、身の回りに発生する「マイノリティ」をリストアップする。	60分
		事後学修	授業の学びを受けて、グループの対象のマイノリティ性について文章化する。	180分
4	10/7	政策が作るマイノリティ	・政策が作りだすマイノリティについて講義を行う。 ・グループディスカッション（自分たちの対象のマイノリティ性を図示する）	
		この回の到達目標	自分たちがテーマとするマイノリティについて、政策による周縁化とマイノリティ発生のメカニズムを文章化する。	
		事前学修	前回の授業で決定したテーマとなるマイノリティについて、必要な情報を集め、ほかのメンバーへの説明を考える。	120分
		事後学修	授業内でのグループの作業を振り返り、足りない部分をリストアップし、必要な情報を集める。	120分
5	10/14	マイノリティ政策とは	・マイノリティ政策についての講義を行う。 ・グループディスカッション（対象の生活課題について考える）	
		この回の到達目標	マイノリティ政策の意味と種類について説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業で示された段階までグループの課題を完成させるため、必要な情報を集め、ほかのメンバーへの説明を考える。	120分
		事後学修	授業内でのグループの作業を振り返り、足りない部分をリストアップし、必要な情報を集める。	120分
6	10/21	誰のための政策か：対象設定の課題	・政策における対象設定の課題について講義を行う。 ・グループディスカッション（発表で扱う生活課題を決める）	
		この回の到達目標	自分たちが定めたテーマについて、どのような政策提案を行うかの方向性を決め、グループ内で共有できるようにする。	
		事前学修	前回の授業で示された段階までグループの課題を完成させるため、必要な情報を集め、発表の課題を精緻化するために必要なことをリストアップする。	120分
		事後学修	授業内でのグループの作業を振り返り、中間発表に向けて必要な情報を集める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	中間発表・講評中	中間発表・講評	
		この回の到達目標	他グループの発表および講評を受け、発表に向けての今後の課題を具体的に示す。	
		事前学修	中間発表の準備（資料収集・練習）および中間発表で指摘されそうな点について考え、その対策を練る。	180分
		事後学修	中間発表に対する講評等を参考に発表テーマを最終的に決定する。もしくは決定のために必要な情報収集を行いグループディスカッションの準備をする。	60分
8	11/11	事例検討①	・社会的マイノリティに関する取り組みについての事例の紹介と説明。 ・グループディスカッション（発表のテーマおよび内容の深化）	
		この回の到達目標	事例を受けて、自らの発表における提案をより具体的なものにするための課題を指摘できるようになる。	
		事前学修	中間発表を受けて、発表までに今後必要なことをリストアップする。	60分
		事後学修	事例を踏まえてグループの発表の課題を考察し、ほかのメンバーと共有する。	180分
9	11/18	事例検討②	・社会的マイノリティに関する取り組みについての事例の紹介と説明。 ・グループディスカッション（発表のテーマおよび内容の深化）	
		この回の到達目標	事例を受けて、自らの発表における提案をより具体的なものにするための課題を指摘できるようになる。	
		事前学修	中間発表および事例検討を通じて明らかになったグループ発表の課題について、文章化しておく。	60分
		事後学修	発表の課題を整理し、それを踏まえた発表までの具体的計画を立てる。	180分
10	11/25	優先順位とマイノリティ	・マイノリティ政策における優先順位について講義を行う。 ・グループディスカッション（発表の全体像の確定）	
		この回の到達目標	政策における優先順位の意味とマイノリティ対策における課題を言語化できるようになる。	
		事前学修	プレゼンテーションを完成させるために必要なことをリストアップする。	120分
		事後学修	最終的なプレゼンテーションを想定して、課題がないかを考察する。またその課題克服のための計画を立て、グループ内で共有する。	120分
11	12/2	発表準備	・発表に必要なプレゼンテーションおよびPPTについての知識と技術の講義。 ・グループ作業	
		この回の到達目標	プレゼンテーションにおける重要な要素を知り、より良いプレゼンテーションのための自分なりの作業手順を作成する。	
		事前学修	発表のためのプレゼンテーションをおおむね完成させておく。	120分
		事後学修	授業を通じて、最終的なプレゼンテーションのチェックと必要な修正を行い、完成させる。	120分
12	12/9	課題発表1回目	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
		この回の到達目標	他グループの発表に対して、ポジティブフィードバックと同時に課題の指摘をし、文章化する。	
		事前学修	発表に向けた最終確認と、他のグループ発表の講評のにむけた情報収集をしておく。	60分
		事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	課題発表2回目	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
		この回の到達目標	他グループの発表に対して、ポジティブフィードバックと同時に課題の指摘をし、文章化する。	
		事前学修	発表に向けた最終確認と、他のグループ発表の講評のにむけた情報収集をしておく。	60分
		事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。	180分
14	12/23	課題発表3回目	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
		この回の到達目標	他グループの発表に対して、ポジティブフィードバックと同時に課題の指摘をし、文章化する。	
		事前学修	発表に向けた最終確認と、他のグループ発表の講評のにむけた情報収集をしておく。	60分
		事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。	180分
15	12/13	まとめと振り返り	・発表に対する個人の講評 ・教員による発表の総括と総評（講義）	
		この回の到達目標	発表全体を通じて、自らの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
		事前学修	講義とプレゼンを通してグループの発表に対して自分なりの改善および修正を加えて、個人としてのプレゼンテーションを完成させる。	180分
		事後学修	授業を通じての学びを今後の生活にどう生かすかについての目標を1つ以上設定する。	60分

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	9/22	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	9/29	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	10/6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	10/13	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	10/20	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	11/10	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	11/17	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	11/24	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	12/1	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	12/8	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	12/22	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	1/12	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/14	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	4/21	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	4/28	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	5/5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	5/12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	5/26	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	6/2	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	6/9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	6/16	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	6/23	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	7/7	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	専門演習C	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
授業名：『企業活動と福祉』：この授業では、講義による知識・情報の提供とそれを活用してのプレゼンテーションを行う。そのプロセスを通じて、企業活動や市場といったこれまで福祉とは相容れないと思われてきた領域について、新たな視点と現在の社会政策の観点から考えていくことを目的とする。また、公共政策が与える影響または受ける影響や、公共政策との関わりについての思索を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：個々の学生が興味関心をもつ領域の企業による社会福祉実践と公共政策について、その現状とそこにみられる関係性や課題、重要な理念を理解し、具体的な問題解決案の提示を通じて、それらの情報を活用できるようになること。企業とのかかわりにおける公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。

【履修条件】
【重要】第2回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのため、各自が情報収集と整理、授業内で示される	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業による福祉実践の制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。				2		3	2	2	1	1	2
②	個別のテーマについて、企業による福祉実践を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。				2		2	3	3	3	3	3
③	公共政策の新たな資源としての企業活動の活用における課題を言語化する。				2		3	1	2	2	1	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の最終段階で求められるプレゼンテーションの、内容 (課題への妥当性、具体性、実現可能性)および技術(プ レゼンテーションスキル、PPT作成スキル)。	10	30	20								60
授業への参画度	グループ作業への参加度および授業内で示される段階に 沿った課題達成プロセスとの一致度。		20	10								30
その他(グループ内 評価)	同じグループ内でのポジティブフィードバックを収集。		10									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に発表の結果についての公表と、希望者にはその詳細を個別に提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。 ・授業において重要となる基本的な語句および概念についての説明と整理を行う。	
		この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。 授業で用いる「福祉」と「企業」の語句の意味について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、企業と福祉の関わりについて自分なりのイメージをまとめておく。	60分
		事後学修	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。	180分
2	9/25	社会政策における企業の役割	・社会政策における企業の役割について講義を行う。 ・発表のグループおよび日程を決める（受講人数によっては個人発表とする）	
		この回の到達目標	社会政策において企業とその活動があたえる影響を理解し、プロバイダーとしての企業の具体的な活動を挙げることができるようになる。	
		事前学修	自分が取り組みたいと考えているテーマについて、基本的な情報を集めておく。	120分
		事後学修	自分が取り組みたいと考えているテーマについて、グループメンバーにどのように説明するかを考えておく。（2時間）	120分
3	10/2	社会問題と企業活動の関わり	・社会問題と企業活動の関わりについて講義を行う。 ・グループディスカッション（発表テーマの決定）	
		この回の到達目標	グループの発表テーマを決める。 企業活動における倫理的動機について理解し、企業責任との関係を説明できるようになる。	
		事前学修	発表のテーマについてのグループでの議論のための準備をする。	180分
		事後学修	グループの発表テーマに対する自分の動機付け（なぜ・どのような目的で取り組むのかの明確化）を行って おく。	60分
4	10/9	企業のCSRと慈善活動	・企業のCSRと慈善活動についての講義を行う。 ・グループディスカッション（発表のテーマから最終的な課題、仮説を設定する）	
		この回の到達目標	自分のグループで決定したテーマについて、慈善活動とCSRのそれぞれの違いと具体的な活動を示す。	
		事前学修	グループの発表テーマについて情報を集めておく。	120分
		事後学修	グループの発表テーマに沿って、慈善活動とCSRのそれぞれの活動について調べ、自分の発表内容を精査する。	120分
5	10/16	社会政策領域における企業の参入	・社会政策領域における企業の参入について講義を行う。 ・グループディスカッション（次回の中間発表の準備）	
		この回の到達目標	なぜ社会政策のファクターに営利企業が取り込まれたのかを理解し、その利点と課題について説明できるようになる。	
		事前学修	前回の考察を踏まえて、発表に必要な情報を集め、グループ作業の準備をする。	120分
		事後学修	グループの発表テーマの分野について、営利企業参入の問題点を調べ、自分の発表内容を精査する。	120分
6	10/23	中間発表	各グループの発表の内容と現在の状況について発表を行い、それに対する講評を行う。	
		この回の到達目標	自分たちの発表テーマとこの時点での進捗状況を客観的に把握し、発表までの具体的な行動計画を立てる。	
		事前学修	中間発表の準備を整えておく。	120分
		事後学修	中間発表への講評を踏まえてグループの発表を改善点と、今後の発表準備の計画を立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	発表に必要な枠組み・要素	仮説検証型の研究について、発表との関係と発表に必要な枠組み・要素について講義を行う。 グループディスカッション（発表までの計画の共有）	
		この回の到達目標	プレゼンテーションを行う上での重要な要素と技術について知り、自分たちの発表に反映させる。 各自の発表までの計画をまとめ、グループとしての統一された計画を共有する。	
		事前学修	中間発表での講評とその改善点を踏まえてグループの発表に必要な情報を集める。	180分
		事後学修	発表までのグループの計画に従って、自分の発表に向かう計画を立てる。	60分
8	11/6	市場型福祉とは	・市場型福祉についての講義を行う。 ・グループディスカッション（発表内容の精緻化）	
		この回の到達目標	福祉における市場的要素と、市場型福祉の違いを説明できるようになる。	
		事前学修	グループ発表に向けて必要な情報を集める。	120分
		事後学修	授業での学びに引き付けて、グループの発表の問題点や修正点を明らかにし、考察しなおす。	120分
9	11/13	事例検討①	・企業が行う福祉活動についての事例の提示と検討を行う。 ・グループディスカッション（事例を受けてグループの発表内容を再考する）	
		この回の到達目標	挙げられた事例をもとに、自分たちが進める発表内容の課題点を指摘する。	
		事前学修	グループ発表に向けて必要な情報を集める。	120分
		事後学修	授業で指摘した課題点について、必要な修正を行う。	120分
10	11/20	事例検討②	・企業が行う福祉活動についての事例の提示と検討（講義） ・グループディスカッション（事例を受けてグループの発表内容を再考する）	
		この回の到達目標	挙げられた事例をもとに、自分たちが進める発表内容の課題点を指摘する。	
		事前学修	グループ発表に向けて必要な情報を集める。	120分
		事後学修	授業で指摘した課題点について、必要な修正を行う。	120分
11	11/27	政策による誘導と規制	・社会政策における政策による企業の誘導と規制について講義を行う。 ・グループディスカッション（発表に向けた最終準備）	
		この回の到達目標	社会政策における企業の誘導の方法を具体的に挙げるができるようになる。	
		事前学修	グループの発表を完成させるために必要なものをすべて揃えて授業に臨む。	120分
		事後学修	自分のグループ発表に向けた準備と練習。	120分
12	12/4	成果発表①	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
		この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
		事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
		事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	成果発表②	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
		この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
		事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
		事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
14	12/18	成果発表③	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
		この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
		事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
		事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
15	12/25	まとめと振り返り	・全発表を通じた総評と、結果の公表を行う。 ・希望者および希望グループには、個別の評価内容について伝達する。	
		この回の到達目標	自らのグループの発表とその評価について、疑問点があれば質問をし、今後に向けた課題を提示できるようになる。	
		事前学修	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。	180分
		事後学修	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。	60分

科目名	専門演習D	担当者	藤本 知彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式と演習形式を適宜組み合わせで行います。 指定テキストを参照しながら授業を進めますので、毎回持参してください。 授業方法等については、受講者数、受講者の理解度、授業進度等に応じて変更することもあります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	指定テーマに基づくグループワークやプレゼンテーションを予定しています。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。							4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。								4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。									4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。										4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。											4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	30	20							70
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5			5	5					20
授業への参画度	グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。				5			5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	25	5	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートについては、授業内で講評・解説を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての社会保障 第17版	棕野美智子・田中耕太郎	有斐閣	2020年	教科書	必携
備考	その他については、授業時に適宜紹介します。				

【オフィスアワー】
水曜日 17：50～ 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス，社会保険と公共政策	授業計画・成績評価方法等，社会保険と公共政策との関係，日常生活と社会保険との関わり	
		この回の到達目標	主に到達目標①②に関連して，社会保険と公共政策との関係や日常生活と社会保険との関わりを理解し，説明できる。	
		事前学修	シラバスを読み，授業の概要を把握する。テキストに目を通し，全体構成を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
2	第一部 水4/15	社会保険の基礎 1	医療保険制度の概要	
		この回の到達目標	主に到達目標①②に関連して，医療保険制度の概要を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
3	第一部 水4/22	社会保険の基礎 2	介護保険制度の概要	
		この回の到達目標	主に到達目標①②に関連して，介護保険制度の概要を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
4	第一部 水4/29	社会保険の基礎 3	公的年金制度の概要	
		この回の到達目標	主に到達目標①②に関連して，公的年金制度の概要を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
5	第一部 水5/6	公共政策の基礎 1	公共政策の意義，基本構造，類型	
		この回の到達目標	主に到達目標①②③に関連して，公共政策の意義，基本構造及び類型を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
6	第一部 水5/13	公共政策の基礎 2	公共政策のデザイン（アジェンダ設定，政策問題の構造化，公共政策の手段，規範的判断）	
		この回の到達目標	主に到達目標①②③に関連して，公共政策のデザインに関する基礎知識を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	社会保障と社会保険	社会保障の目的と機能，社会保障の保障方法	
		この回の到達目標	主に到達目標①②③に関連して，社会保障の目的，機能及び保障方法を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
8	第一部 水5/27	社会保険の意義と基本構造 1	社会保険の意義，仕組み，原理	
		この回の到達目標	主に到達目標①②③に関連して，社会保険の意義，仕組み及び原理を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
9	第一部 水6/3	社会保険の意義と基本構造 2	社会保険の特徴，メリット・デメリット	
		この回の到達目標	主に到達目標①②③に関連して，社会保険の特徴やメリット・デメリットを理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
10	第一部 水6/10	社会保険の意義と基本構造 3	社会保険の財源（費用負担），行政機構	
		この回の到達目標	主に到達目標①②③に関連して，社会保険の財源や行政機構を理解し，説明できる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
11	第一部 水6/17	社会保険制度の変遷と課題 1	医療保険制度の変遷と課題	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して，医療保険制度について，その歴史的変遷を踏まえて政策課題を理解し，解決策としての意見を述べることができる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分
12	第一部 水6/24	社会保険制度の変遷と課題 2	介護保険制度の変遷と課題	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して，介護保険制度について，その歴史的変遷を踏まえて政策課題を理解し，解決策としての意見を述べることができる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	社会保険制度の変遷と課題 3	公的年金制度の変遷と課題	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して、公的年金制度について、その歴史的変遷を踏まえて政策課題を理解し、解決策としての意見を述べることができる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。	120分
14	第一部 水7/8	現代社会と社会保険	社会経済状況の変化と社会保険	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して、社会経済状況の変化を踏まえて社会保険の現代的課題を理解し、その解決策としての意見を述べることができる。	
		事前学修	テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。	120分
		事後学修	授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。	120分
15	第一部 水7/15	まとめ	これまでの授業内容の総括	
		この回の到達目標	主に到達目標⑦に関連して、社会保険の現代的課題に対する自らの考え方をこれまでの授業内容に基づいて振り返ることができる。	
		事前学修	テキスト・参考書等のこれまでの該当箇所を読み、総復習をする。	120分
		事後学修	本授業を通して学んだ内容をまとめ、理解を深める。	120分

科目名	専門演習D	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
社会問題や政策に関する意見を文章化する技術を上げたい学生を望む。社会思想等の問題も扱うので、それらに興味がなく、単に試験の通過だけを考えている学生の参加は望まない。

【授業方法】
履修人数にもよるが、班ごとにテーマについて討議を行い、数回に一回の小論文執筆を通じて文章力を磨いてゆく。課題を毎週出すため、調査や文章執筆に積極的で、かつ相互批評を怖れない学生の参加を望む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で作成した課題に関し、コメントや相互批評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。							4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。								4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。									4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。										4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。											4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	30	20							70
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5			5	5					20
授業への参画度	グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。				5			5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	25	5	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金 9/18	イントロダクション及び導入講義	文章表現について、イントロダクション	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。	
		事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。	120分
		事後学修	文章表現について、演習内容を確認しておくこと。	120分
2	第一部 金 9/25	課題提示日（1）	高齢化社会について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習しておくこと。これまでの自分の「高齢化社会」についての知識を確認した上で、そのテーマにつき調査しておくこと。	120分
		事後学修	演習内容を確認し、自分で「高齢化社会」に関して調査しておくこと。提出課題の準備をしておくこと。	120分
3	第一部 金 10/2	課題提出日（1）	高齢化社会について執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容で指示があった、文章表現のポイントを復習しておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、執筆内容を元にさらに「高齢化社会」について調査しておくこと。	120分
4	第一部 金 10/9	相互評価日（1）	高齢化社会について確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習し、「高齢化社会」についてさらに掘り下げた視点を得ておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、自分の意見がどれだけ変化したかを確認し、書き直しておくこと。	120分
5	第一部 金 10/16	課題提示日（2）	国際化と日本社会について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習しておくこと。これまでの自分の「国際化と日本社会」についての知識を確認した上で、そのテーマにつき調査しておくこと。	120分
		事後学修	演習内容を確認し、自分で「国際化と日本社会」に関して調査しておくこと。提出課題の準備をしておくこと。	120分
6	第一部 金 10/23	課題提出日（2）	国際化と日本社会について執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容で指示があった、文章表現のポイントを復習しておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、執筆内容を元にさらに「国際化と日本社会」について調査しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金 10/30	相互評価日（2）	国際化と日本社会について確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習し、「国際化と日本社会」についてさらに掘り下げた視点を得ておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、自分の意見がどれだけ変化したかを確認し、書き直しておくこと。	120分
8	第一部 金 11/6	課題提示日（3）	少子化問題について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習しておくこと。これまでの自分の「少子化問題」についての知識を確認した上で、そのテーマにつき調査しておくこと。	120分
		事後学修	演習内容を確認し、自分で「少子化問題」に関して調査しておくこと。提出課題の準備をしておくこと。	120分
9	第一部 金 11/13	課題提出日（3）	少子化問題について執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容で指示があった、文章表現のポイントを復習しておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、執筆内容を元にさらに「少子化問題」について調査しておくこと。	120分
10	第一部 金 11/20	相互評価日（3）	少子化問題について確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習し、「少子化問題」についてさらに掘り下げた視点を得ておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、自分の意見がどれだけ変化したかを確認し、書き直しておくこと。	120分
11	第一部 金 11/27	課題提示日（4）	災害対策について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習しておくこと。これまでの自分の「災害対策」についての知識を確認した上で、そのテーマにつき調査しておくこと。	120分
		事後学修	演習内容を確認し、自分で「災害対策」に関して調査しておくこと。提出課題の準備をしておくこと。	120分
12	第一部 金 12/4	課題提出日（4）	災害対策について執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容で指示があった、文章表現のポイントを復習しておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、執筆内容を元にさらに「災害対策」について調査しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金 12/11	相互評価日（４）	災害対策について確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習し、「災害対策」についてさらに掘り下げた視点を得ておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、自分の意見がどれだけ変化したかを確認し、書き直しておくこと。	120分
14	第一部 金 12/18	課題提示日（５）	貧困と生活保護について学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容を復習しておくこと。これまでの自分の「貧困と生活保護」についての知識を確認した上で、そのテーマにつき調査しておくこと。	120分
		事後学修	演習内容を確認し、自分で「貧困と生活保護」に関して調査しておくこと。提出課題の準備をしておくこと。	120分
15	第一部 金 12/25	課題提出日（５）	貧困と生活保護について執筆する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題を作成できる。	
		事前学修	前回の演習内容で指示があった、文章表現のポイントを復習しておくこと。	120分
		事後学修	提出課題について、執筆内容を元にさらに「貧困と生活保護」について調査しておくこと。これまでの演習内容と課題を確認し、再学習しておくこと。	120分

科目名	専門演習D	担当者	山田 正雄	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。コンピュータ・リテラシーを履修済みであることが望ましいが、受講生のスキルに応じてMicrosoft Execlによるデータ分析やグラフ化、Word等へのでータ転用など基礎から学習する時間を設ける。

【授業方法】
PC教室での講義やグループワーク、個々の調査研究成果をもとにプレゼンテーションやレポート作成を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回、第9回の間発表後に受講生を隣接領域ごとにグループ分けして相互に検討・評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。						4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。							4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。								4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。										4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。											4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	30	20							70
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5			5	5					20
授業への参画度	グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。				5			5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	25	5	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
PC教室での講義やグループワーク、個々の調査・研究成果を次回の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。 また期末レポート含めた総合的なフィードバックもポータルサイトより行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。講義時に適宜資料を配付する。				

【オフィスアワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	企業や官公庁等の組織のトレンド分析	・授業ガイダンス ・法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
		この回の到達目標	企業や官公庁等について経営資源を基軸としたトレンド分析の重要性について理解を深める。COLNetの各種ツールへの理解を再確認する。	
		事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・インターネット上に公開された企業や官公庁の経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する情報や業界・企業研究サイト等を閲覧・検討しておくこと。 (2時間)	120分
2	9月22日	組織（企業・官公庁）とは何か？	・組織（企業・官公庁）とは・・・（目的・戦略・経営行動・情報開示） ・利害関係者と情報要求、Accountability、CSR	
		この回の到達目標	組織（企業・官公庁）等の社会的組織について、ヒト・モノ・カネ・情報・ブランドやナレッジ等の経営資源を基軸とした分析方法と利害関係者集団とのアカウンタビリティの重要性を理解する。	
		事前学修	・資料（企業とは何か）を熟読し、A4一枚にまとめ、指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
		事後学修	・企業や官公庁等の各組織の利害関係者を挙げて情報ニーズを考察しWordにまとめる。 ・資料（Excel入門1）を熟読しておく。 (2時間)	120分
3	9月29日	各種組織情報の収集	・HP上の企業（官公庁）情報の収集1（財務情報の収集・評価）	
		この回の到達目標	財務情報を中心としたデータの収集と分析技法を習得する。	
		事前学修	・企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報から財務情報を中心にデータをダウンロードしておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
4	10月6日	各種組織情報の分析	・HP上の企業（官公庁）情報の収集2（財務情報の収集・評価）	
		この回の到達目標	財務情報以外のデータの収集と分析技法を習得する。	
		事前学修	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲を広げる。 (2時間)	120分
		事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
5	10月13日	各種組織情報の評価	・HP上の企業（官公庁）情報の収集3（その他情報の収集・評価）	
		この回の到達目標	各種組織について経営資源を基軸とした総合的なデータの分析・評価の技法を習得する。	
		事前学修	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲をさらに広げる。 (2時間)	120分
		事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
6	10月20日	データ分析の技法再入門	・Microsoft Excelによるデータ分析1（合計・平均の計算、各種グラフ作成）	
		この回の到達目標	データの分析ツールとしてMicrosoft Excelの表作成・各種計算。グラフ作成など基本的な技法を習得する。	
		事前学修	・資料（Excel入門2）を熟読しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・Excelデータの集計を指定課題で復習する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	データ分析の最新技法	・Microsoft Excelによるデータ分析2（ピボットテーブルによるクロス集計と分析）	
		この回の到達目標	クロス集計への理解を深め、さらにデータの分析の最新ツールとしてMicrosoft Excelのピボットテーブル技法を習得する。	
		事前学修	・Excelデータの集計結果をWordにまとめる。 (2時間)	120分
		事後学修	・ExcelデータをMicrosoft Wordに転用する技法を課題で予習する。 (2時間)	120分
8	11月10日	調査・研究成果の再検討	・企業「（官公庁）研究の成果の中間発表 1	
		この回の到達目標	各自が進める調査・研究について中間発表によって間主観的な修正を行う。	
		事前学修	・調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)	120分
		事後学修	・発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)	120分
9	11月17日	調査・研究成果の再検討	・企業（官公庁）研究の成果の中間発表 2	
		この回の到達目標	各自が進める調査・研究について中間発表によって間主観的な修正を行う。	
		事前学修	・調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)	120分
		事後学修	・発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)	120分
10	11月24日	時系列的データ分析の重要性	・企業（官公庁）情報の分析（時系列的財務分析と企業評価）	
		この回の到達目標	各種データについて時系列的分析の重要性を理解して各自のレポートで発展させる。	
		事前学修	・資料（利益の算出過程）を一読して損益計算書の構造を理解しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・各種財務データを時系列的にExcelにセイルしておく。 (2時間)	120分
11	12月1日	各種組織の最新・最重要課題	・企業（官公庁）情報の分析（戦略的経営行動と企業評価）	
		この回の到達目標	企業や官公庁、個々の組織が直面する課題の多様性を理解する。	
		事前学修	・有価証券報告書の概要や各種白書の概要についてサンプルを一読しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・Excelデータの集計を課題で復習し、指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
12	12月8日	プレゼンテーション技法の習得	・PowerPointによるプレゼンテーション方法について実習	
		この回の到達目標	PowerPointと副次的なツールや資料を利用したプレゼンテーション技法を習得する。	
		事前学修	・資料（PowerPoint入門講座）を一読してプレゼン資料作成の基本を学習しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーション資料の作成と発表準備 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	調査・研究の成果発表	・企業（官公庁）研究の成果発表 1	
		この回の到達目標	各自が取り組んだ調査・研究テーマを発表し議論することで問題点を明らかにして質的な向上を図る。	
		事前学修	・プレゼンテーションの準備 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)	120分
14	12月22日	調査・研究の成果発表	・企業（官公庁）研究の成果発表 2	
		この回の到達目標	各自が取り組んだ調査・研究テーマを発表し議論することで問題点を明らかにして質的な向上を図る。	
		事前学修	・プレゼンテーションの準備 (2時間)	120分
		事後学修	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)	120分
15	1月12日	組織研究の重要性のレポート作成の課題再確認	・プレゼンテーションの講評と経営トレンド分析の概要について講評	
		この回の到達目標	経営資源と利害関係者の情報ニーズを基軸とした組織研究の重要性とレポート作成技法を理解する。	
		事前学修	・プレゼンテーション評価集計表を各自集計しておく。 (2時間)	120分
		事後学修	・各自のプレゼンテーション資料をまとめて指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

科目名	専門演習E	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政策立案や実施段階での政府と国民との双方向性コミュニケーションや国民相互のコミュニケーションの促進が、政策の有効性を確保するために重要になってきていることを自らで調べ、グループワークによる作業を行うことで、日本におけるPublic Relations（広報・広聴）活動の実態の分析・整理・課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基本的な素養を獲得するために、学修者は広報の実態を把握し、今後の在り方を専門的に検討できる能力を養成することを目的とする。そこで過去の様々な文献・理論の学習や、具体的事例に基づいた議論を通して、その考え方を身につけるとともに、メディア使用や方法論を学ぶことにより、これらを具体的ケースに即して適用できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式に加え、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者・NPO職員など公共政策における広報手法を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4							
②	各種の政策課題が何をもって公共課題として認知されるのか、また、何故、公共的な解決に当たって広報が必要とされるのか理解し説明できる。						4					
③	解決が求められる様々な課題の優先順位はどうつけるべきか、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか広報の枠組みに基づいて説明できる。							4				
④	これまで利害対立等で解決が進まなかった政策課題に対する具体的な広報方を提案できる。								4			
⑤	なぜ特定の課題解決に当たっては私権が制限されるのか、「良い」政策とは何かなど、意見が対立する者に対して広報を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4		
⑥	公共政策課題解決のため、多くのステークホルダーと積極的に議論し、社会にとって最も良い解決策を見出せるよう広報方をリードできる。										4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が独善的なものになっていないか、真に公益に寄与するものになっているか、広報を基礎としつつ他者との議論を通じ自らを振り返ることができる。											4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について行政広報の基礎が自分の言葉で説明できているか等をレポートにより評価する。	5	5	10								20
小テスト等	グループワークにおいて議論をまとめることができたか、自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標④⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。				10	10	5					25
レポート等	到達目標⑤⑥⑦について、多くの者が参加する場において、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度が身についているか等を評価する。					10	5	5				20
討論・発表等	到達目標①②③④⑤に関して、各広報対象の立場、考え方が異なる中で、どのように最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できているか評価する。	5	5	5	10	10						35
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	20	30	10	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスをを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス、広報のキーワード	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報のキーワードや研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①～⑦に関連して、授業全般の構成について把握するとともに、行政広報というものの全体的イメージを理解し、その概要や方法論を説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で行政にはなぜ広報が必要か、それがないと行政運営はどうなるか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
2	9/25	広報の概念	広報の概念について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、課題の解決のための政策決定に当たって、なぜ広報の概念が必要となるのか説明できる。	
		事前学修	自治体の広報紙・ホームページを見て、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	10/2	広報の理論	広報の理論について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、政策と広報の在り方を自分の言葉で説明することができる。	
		事前学修	民間企業の広報活動を調べておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	10/9	広報の対象	広報対象について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、広報の意義、その今日的広報対象の重要性について考察 し説明できる。	
		事前学修	行政の広報と民間の広報を比較検討しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	10/16	広報と社会構造	社会構造分析と広報について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、対象の細分化の必要性を理解し、説明することができる。	
		事前学修	市町村と都道府県の広報の違いを見ておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	10/23	広報メディアの種類	メディアの種類と双方向性、住民参加について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住民参加考え方が政策等にどのように影響を 与えているか考察し、説明できる。	
		事前学修	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加について理解しておくこと。	120分
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/30	住民参加と広報	住民参加手法と広報メディアの関連について学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住民参加と広報メディアの関係を、具体例に沿って考察し、説明できる。
		事前学修	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加手法について理解しておくこと。
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。
8	11/6	グループ・ワークとディスカッション①	調査対象メディア別にグループ分けを行い、ディスカッションを行いつつ調査計画をたてる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、メディア別のメリット、デメリットを説明することができる。
		事前学修	自分が調査分析したい、広報メディアについて検討しておく。
		事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、自分の関心領域を、さらに深く理解しておく。
9	11/13	グループ・ワークとディスカッション②	研究対象メディアの調査・分析を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、広報メディアを分析し、自分の言葉で説明できる。
		事前学修	メディア別の課題の整理を行い、発表の構成をそれぞれで考える。
		事後学修	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。
10	11/20	グループ・ワークとディスカッション③	各グループごとに選定した広報メディアに関し、担当箇所のグループワーク及びディスカッションを行う。
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。
		事前学修	各自でメディア別の課題の整理を行い、自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。
		事後学修	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。
11	11/27	グループ・ワークとディスカッション④	各グループごとに選定した広報メディアに関し、担当箇所のグループワーク及びディスカッションを行う。
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。
		事前学修	各自で自分の担当箇所の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。
12	12/4	発表①	それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）
		この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。
		事前学修	発表に向けての準備。
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	発表②	それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）	
		この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
		事前学修	発表に向けての準備。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	120分
14	12/18	発表③	それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）	
		この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
		事前学修	発表に向けての準備。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	120分
15	12/25	まとめと課題発見	これまでの講義・討議などを通じて得られた広報に関する知見をベースに、学修者たちが各グループで選択したテーマの研究発表の反省点を共有し、参加者全員で広報の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
		この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
		事前学修	書く発表テーマに基づいて自分の反省点を整理し、これまでの学修内容も振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容、及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見などを再整理し、自分なりの課題をみつけ、克服に向けた計画をたてる。	120分

科目名	専門演習E	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政策立案や実施段階での政府と国民との双方向性コミュニケーションや国民相互のコミュニケーションの促進が、政策の有効性を確保するために重要になってきていることを自らで調べ、グループワークによる作業を行うことで、日本におけるPublic Relations（広報・広聴）活動の実態の分析・整理・課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基本的な素養を獲得するために、学修者は広報の実態を把握し、今後の在り方を専門的に検討できる能力を養成することを目的とする。そこで過去の様々な文献・理論の学習や、具体的事例に基づいた議論を通して、その考え方を身につけるとともに、メディア使用や方法論を学ぶことにより、これらを具体的ケースに即して適用できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
①講義形式に加え、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る） ②上記①と並行して論文・レポート執筆の基本的技法・ルールを講義し、それに基づいて提出されたレポート等の批評・添削をグループ等で実施する（具体的な実施方法は受講人数に応じて調整する）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者・NPO職員など公共政策における広報手法を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4							
②	各種の政策課題が何をもって公共課題として認知されるのか、また、何故、公共的な解決に当たって広報が必要とされるのか理解し説明できる。						4					
③	解決が求められる様々な課題の優先順位はどうつけるべきか、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか広報の枠組みに基づいて説明できる。							4				
④	これまで利害対立等で解決が進まなかった政策課題に対する具体的な広報方策を提案できる。								4			
⑤	なぜ特定の課題解決に当たっては私権が制限されるのか、「良い」政策とは何かなど、意見が対立する者に対して広報を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4		
⑥	公共政策課題解決のため、多くのステークホルダーと積極的に議論し、社会にとって最も良い解決策を見出せるよう広報方策をリードできる。										4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が独善的なものになっていないか、真に公益に寄与するものになっているか、広報を基礎としつつ他者との議論を通じ自らを振り返ることができる。											4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について行政広報の基礎が自分の言葉で説明できているか等をレポートにより評価する。	5	5	10								20
小テスト等	グループワークにおいて議論をまとめることができたか、自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標④⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。				10	10	5					25
レポート等	到達目標⑤⑥⑦について、多くの者が参加する場において、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度が身についているか等を評価する。					10	5	5				20
討論・発表等	到達目標①②③④⑤に関して、各広報対象の立場、考え方が異なる中で、どのように最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できているか評価する。	5	5	5	10	10						35
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	20	30	10	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
正義論	宇佐美 誠 他	法律文化社	2019	参考書	推奨
公共政策規範	佐野 亘	ミネルヴァ書房	2010	参考書	推奨
これからの正義の話をしよう	M. サンデル	早川書房	2011	参考書	推奨
公共哲学とはなんだろう	桂木 隆夫	勁草書房	2016	参考書	推奨
正義とは何かー現代政治哲学の6つの視点	神島 裕子	中公新書	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィシアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月10日	ガイダンス及び公共政策規範の概要	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公共政策規範とはなにかについて学習する。	
		この回の到達目標	授業全般の構成について把握するとともに、公共政策規範というものの全体的イメージを理解し、その概要及び哲学・倫理学とどのように違うのかを説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で公共政策にはなぜ規範が必要か、それが無いと行政運営はどうなるか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	4月17日	正義論の系譜①（正義とは何か）	①様々な正義の考え方を具体的事例に即して学習する。 ②学術論文の基本的ルール・技法を学習する。”	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、公共課題の解決のための政策決定に当たって、なぜ正義の概念が必要となるのか説明できる。また、学術論文のルール・技法に基づいたレポート執筆を開始できるようになる。	
		事前学修	指定された文献等により様々な正義論の類型を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
3	4月24日	正義論の系譜②（アリストテレス、カントから現代まで）	①なぜ公共政策規範の中心概念が「正義」とされてきたのか、過去の思想家たちの考えに基づいて学習する。②論文執筆に必須の先行研究の探し方・引用の方法などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、どのような場合にも通用する一般的「正義」があり得るのか。正義の考え方の違いによってどのように政策の在り方が変わるのかを自分の言葉で説明することができる。併せて適切な先行研究の探索方法・引用手法を駆使できる。	
		事前学修	指定された文献等により、特にカント、アリストテレスなどに言及した部分を読み込み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
4	5月1日	自由主義①（古典的自由主義）	”①公共政策規範における自由の意義について学習する。 ②論文執筆に必要なリサーチ・クエスチョンの立て方、仮説設定方法等を学習する。”	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、正義論において自由が強調されるようになった歴史的背景や、古典的自由主義の3原則である価値中立原則、他者危害原則及び自己責任原則の意義、その今日的意義について考察し説明できる。併せて、適切な問題意識のもとで首尾一貫した論文を執筆できる。	
		事前学修	指定された文献等によりジョン・ロックやミルの思想などについて、その概要を把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
5	5月8日	自由主義②（リバタリアン等の思想）	”①徹底的な自由主義者であるリバタリアンの主張及びその功罪を学習する。 ②論文の素材集めに必要な実地調査・フィールドワークの技法を学習する。”	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、リバタリアンの思想が経済政策・社会施策などに及ぼした影響について考察できる。また、パタナリズム的な政府の介入を支持する立場とリバタリアンの主張とが米国政治等に深刻な亀裂を引き起こしている現状などについても理解し、説明することができる。併せて実際に行政の現場等での調査を開始できる。	
		事前学修	指定された文献等により、リバタリアンの思想傾向の概要、その特徴・問題点などを把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
6	5月15日	功利主義①（ベンサム思想）	”①現代の公共政策において、いまだ衰えない影響力を持つ功利主義の基礎的な概念について学習する ②文献調査・実地調査等で収集したデータの処理方法等について学習する。”	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、古典的功利主義における効用最大化の考え方が現代の経済・福祉政策等どのように影響を与えているか考察し、説明できる。また、収集したデータから意味のある結論を引き出すことができる。	
		事前学修	指定された文献等により、ベンサムの思想を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月22日	功利主義②（現代的展開）	前回授業の内容を踏まえ、功利主義の発想が現代社会科学等に与えた影響等について具体的事例に即して学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、「最大多数の最大幸福」という原理は、少数者の権利利益の侵害につながらないか、これを防止するためにはどうすれば良いか、さまざまな思想家の言説を紹介しつつ、具体例に沿って考察し、説明できる。	
		事前学修	指定された文献等により「最大多数の最大幸福」という原理のメリット・デメリットを考察し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
8	5月29日	ロールズの正義論①	功利主義に対抗してロールズ理論が登場してきた背景事情及び同理論のエッセンス について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、功利主義のメリットと限界を踏まえてし、ロールズの思想が登場する思想史的流れ及びその背景にある社会経済事情を理解し、説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等にロールズ思想のエッセンスを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
9	6月5日	ロールズの正義論②	前回講義で学んだ「原初状態」、「無知のヴェール」、「格差原理」等の概念は、現実の政策課題に応用が可能であるか、具体的な政策課題に即して学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、いわゆる「正義の二原理」を具体的事例に適用して分析し、自分の言葉で説明できる。	
		事前学修	ロールズ思想を具体的事例に適用する場面について各自考察し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
10	6月12日	グループワーク及びディスカッション①（自由とは何か）	公共政策分野において個人の「真の自由」はあり得るかをメインテーマとして、各グループごとに具体的事例を選びグループワーク及びディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
		事前学修	各自で当該テーマに関する自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分
11	6月19日	グループワーク及びディスカッション②（平等とは何か）	公共政策分野における「平等」とは何を意味するか、すべての人々が「幸福」となる政策はあり得るかについてをメインテーマとして、各グループごとに具体的事例を選びグループワーク及びディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
		事前学修	各自で当該テーマに関する自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分
12	6月26日	グループワーク及びディスカッション③（機会均等論について）	生まれながらの不平等（家庭環境、豊かさ、能力、容姿、性格など）をどう考えるべきか。公共政策はこれをどこまでカバーすべきか、受講者が選んだ題材を基にグループワーク及びディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
		事前学修	各自で当該テーマに関する自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月3日	個人研究発表①（自由テーマ）	これまでの講義・討議などを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、学修者が各自選択したテーマの研究発表を行い、参加者全員で公共政策規範の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は100分を超える）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分
14	7月10日	個人研究発表②（自由テーマ）	これまでの講義・討議などを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、学修者が各自選択したテーマの研究発表を行い、参加者全員で公共政策規範の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は100分を超える）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分
15	7月17日	個人研究発表③（自由テーマ）	これまでの講義・討議などを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、学修者が各自選択したテーマの研究発表を行い、参加者全員で公共政策規範の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
		この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
		事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は100分を超える）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	発表内容、及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分

科目名	専門演習F	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						4	4				3
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				4		3	4				4
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						4		3	4	4	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								4	4	4	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	4/14	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	4/21	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	4/28	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	5/5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	5/12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	5/26	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	6/2	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	6/9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	6/16	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	6/23	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	7/7	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
		事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
		事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	専門研究B	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
企業活動とは経営戦略の実行であり当然これを実行した結果が決算書に表れてくる。つまりより良く企業を知るためには企業が目指す経営戦略を念頭に置いて決算書を読み解く必要がある。つまり経営分析を行うためにも経営戦略の評価が必要であり、経営分析は正しい戦略的意思決定を行うプロセスであるといえる。本講義では戦略的意思決定を行うための経営分析の知識を身に付け、実際に財務諸表を読み解くケーススタディを実施する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業経営を評価するための前提として経営戦略を念頭に置いた経営分析を理解し、正しい意思決定ができる人材を育成する。

【履修条件】
特になし。会計知識があることが望ましいが、基礎から説明するので初学者でも可。

【授業方法】
パワーポイントと資料を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務3表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）について理解している。				2		2	2				
②	会計数値や会計指標について理解している。				2		2	2				
③	各指標を用いて経営分析を行うことができる。						3	3				
④	分析結果から適切な意思決定を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	財務3表について各指標を用いて分析ができるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
		この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
		事前学修	財務3表について調べる（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	4/14	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）について説明する。	
		この回の到達目標	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）について理解できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	4/21	売上高、利益、原価率（P/L）	売上高、利益、原価率（P/L）について説明する。	
		この回の到達目標	売上高、利益、原価率（P/L）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	4/28	キャッシュフロー計算書（C/F）	キャッシュフロー計算書（C/F）について説明する。	
		この回の到達目標	キャッシュフロー計算書（C/F）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	5/5	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）について説明する。	
		この回の到達目標	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	5/12	連結決算（B/S、P/L）	連結決算（B/S、P/L）について説明する。	
		この回の到達目標	連結決算（B/S、P/L）について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ケーススタディ 1	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	5/26	ケーススタディ 2	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	6/2	ケーススタディ 3	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	6/9	ケーススタディ 4	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	6/16	ケーススタディ 5	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	6/23	ケーススタディ 6	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	ケーススタディ 7	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	7/7	ケーススタディ 8	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
		この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
		事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	7/14	まとめ	授業内容の総まとめ	
		この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
		事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	ソーシャル・キャピタル論	担当者	小藪 明生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この授業では近年注目を浴びている「ソーシャル・キャピタル（Social Capital・社会関係資本）」の概念とそれをを用いた分析の実際について論じる。この議論は幅広い領域に応用されているが、さまざまな目標変数（経済発展、治安、健康など）の向上に効果を持つことから、それ自体の育成が「政策目標」とされる。さらにソーシャル・キャピタルがどのように形成されるのか、どのように目的変数の向上がなされるのかについてのメカニズムを体系的に説明する必要があるという点で「社会理論」ともなっている。本授業では、このような理論、実証、実践にまたがるソーシャル・キャピタル論を体系的に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ソーシャル・キャピタル論について現時点までの議論の整理を行い、その概念と議論全体の特徴と、それをを用いた分析の実際について学んで行く。ソーシャル・キャピタル論の特色は、相互に関連しあう社会科学の諸分野の人々が同じ土俵で議論に参加していること、新しい社会指標として政策担当者からも注目されていること、指標と目的変数との関連性が実証研究によりある程度確認されているなどの点にある。本講義では、SCの内容とその影響、及びそれに影響を与える要因を分析することを目的とし、最終的にはこのソーシャル・キャピタルの政策含意を明らかにできることを目標としている。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
講義形式、配付の資料に基づき講義を行う。適宜映像資料を視聴する。購入が必須の教科書はないが、予習復習・理解の深化のために参考書を適宜参照することを推奨する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ソーシャル・キャピタル概念とそれに関連する概念を理解し、説明することができる。【知識】				2		2	2	2			
②	ソーシャル・キャピタルが豊かである（不足している）と社会にどのような影響をもたらすのか、ソーシャル・キャピタルはどのようにして育成・蓄積されるのか、その社会科学的メカニズムについて理解し、説明することができる。【知識】				2		2	2	2			
③	ソーシャル・キャピタルの概念やその測定がどのような事例に適応・応用されているのかこれまでの事例や研究を調べることができる。【技能】				2		2	2	2			
④	ソーシャル・キャピタルの概念やその測定方法を自分の身近な事例に適応・応用し、ある特徴を持った集団・社会がどのようなアウトカムを生み出すのか、またそのような結果がどのようにして生じるのか、社会科学的メカニズムを説明することができる。【技能】				2		2	2	2			
⑤	ソーシャル・キャピタルに関連する討議において、現実・現代の社会の諸条件にも配慮しながら冷静に対象集団・社会の状態を評価し、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				2		2	2	2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内試験：75% 内容理解問題（①・②）と論述問題（①～⑤）からなる試験を行う。この論述問題には、概念の知識的理解に加え、自分なりの事例分析の視点を踏まえた内容（④・⑤）が含まれる。	15	15	15	15	15						75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	平常点評価：25% 授業内容に関連するコメントシートを提出してもらい、その記入内容（①・②・④）および提出回数をもって、出席への積極的関与（⑤）の評価に加える。	5	5		5	10						25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	15	20	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回提出のコメントシートに対する講評を行い、受講者の疑問やさらなる応用事例の紹介に努める。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ソーシャル・キャピタル入門	稲葉陽二	中央公論新社	2011	参考書	任意
社会関係資本の地域分析	埴渕知哉	ナカニシヤ出版	2018	参考書	任意
ソーシャル・キャピタルと社会—社会学における研究のフロンティア	佐藤嘉倫・編著	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
リーディングス ネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本	野沢慎司・翻訳	勁草書房	2006	参考書	任意
備考	購入が必須の教科書はありません。概略を理解したい場合は、価格が手ごろで読みやすい『ソーシャル・キャピタル入門』稲葉陽二を推奨します。				

【オフィスアワー】
メールにて相談すること。（アドレスは授業資料に記載）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の实務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。	
		この回の到達目標	授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができるようになる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認する。	120分
		事後学修	授業で使用した資料（学生教員共有ドライブにアップする予定）で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
2	4/15	ソーシャル・キャピタル論登場の時代背景、資本という考え方	ソーシャル・キャピタルという概念がどのような時代背景のもとで登場したのか、この概念を使用し測定を試みる研究者達がどんな目的をもっていたのか、なぜ資本という用語を用いているのか、解説する。（キーワード：ソーシャル・キャピタル、人的資本、第三の道）	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連し、ソーシャル・キャピタル概念とその社会科学のなかでの位置づけについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
3	4/22	経済発展・治安とSC	ソーシャル・キャピタル概念を理解するための具体的応用事例・研究例として、開発・経済発展の分野と治安に関する研究を概観する。（開発経済学、マイクロクレジット、地域社会と治安）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、経済学や犯罪心理学分野におけるソーシャル・キャピタル概念の適用事例について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
4	4/29	格差と健康とSC	ソーシャル・キャピタル概念を理解するための具体的応用事例・研究例として、公衆衛生学と格差に関する議論と具体的研究事例を解説する。（公衆衛生学、イチロー・カワチ、ウィルキンソン、格差と再生産）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、健康・公衆衛生学分野におけるソーシャル・キャピタル概念の適用事例について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
5	5/6	ミクロなソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにミクロ（個人）レベルで解釈・適応している研究者の例としてナン・リン、ブルデューを取り上げ、その議論と分析を解説する。（ナン・リン、ブルデュー、文化資本）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、個人レベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
6	5/13	メゾレベルのソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにメゾ（中間集団・地域等の小～中規模社会）レベルで解釈・適応している研究者の例としてJ.S. コールマンを取り上げ、その議論と分析を解説する。（社会学者J.S. コールマン、「コールマン・レポート」）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、メゾレベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	弱い紐帯の強さと構造的隙間論	ソーシャル・キャピタル概念のをマイクロ～メゾレベルにまたがって、集団間をブリッジ・重複所属することの効果や影響を分析している研究者の例としてグラノベッターとパートを取り上げ、その議論と分析を解説する。（人脈とは、弱い紐帯の強さ、構造的隙間）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、強い紐帯・弱い紐帯の区別やそれがもたらす意義について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
8	5/27	マクロレベルのソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにマクロレベル（大規模集団・広域社会）レベルで解釈・適応している研究者の例としてバットナムを取り上げ、そのイタリア研究と米国研究の議論と分析を解説する。（バットナム、『Making Democracy Work（哲学する民主主義）』、『孤独なボウリング』）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、マクロレベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
9	6/3	社会的ジレンマ	ソーシャル・キャピタルの豊かさによって影響される重要な問題として社会的ジレンマの基本構造について解説する。また、具体的事例研究としてオストロムらの研究を紹介する。（社会的ジレンマ、フリーライダー問題、エリノア・オストロム）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、社会的ジレンマ（集合行為のジレンマ）について検討する基本的な視座と、エリノア・オストロムらの具体的研究事例について、およびなぜこの分野における研究がソーシャル・キャピタル論と関連してくるのか、について解説する。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
10	6/10	ゲーム理論と繰り返し囚人のジレンマゲーム	ゲーム理論とアクセルロッドの繰り返し囚人のジレンマゲームについて基礎的な部分、およびなぜこの分野における研究がソーシャル・キャピタル論と関連してくるのか、について解説する。（ロバート・アクセルロッド、繰り返し囚人のジレンマゲーム）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、ソーシャル・キャピタルが豊かな社会が、どのようにして個人の協力的態度を引き出し、社会的ジレンマを解決しうるのかを理解し、ゲーム理論の研究成果を応用して説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
11	6/17	ソーシャル・キャピタルの豊かさ和个人の特性：信頼	ソーシャル・キャピタルの豊かさや信頼の関係について、また人々が一般的信頼を持つことがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、さまざまな先行研究と、特に山岸俊男の議論を取り上げつつ解説する。（山岸俊男、安心社会と信頼社会）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、一般的信頼という概念やその測定方法が持つ意義と欠点、およびそれがもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
12	6/24	ネットワークの構造・社会参加とソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタルの豊かさや社会構造の特徴および自発的社会参加（草の根民主主義）の関係について、また人々が活発に社会参加することがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、バットナムや関連するさまざまな先行研究を取り上げつつ解説する。（社会参加、草の根活動、トクヴィル『アメリカンデモクラシー』）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、ネットワークの構造特性および自発的社会参加やその測定方法が持つ意義と欠点、およびそれがもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	規範・文化的特性とソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタルの豊かさとそれを支える規範・文化的特性について、どのような文化的特性や規範となる社会観・人間観を中心に示えることがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、関連する先行研究を取り上げつつ解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、その社会が持っている規範や文化的特性がもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。（政治文化論、文化資源と地域）	
		事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
14	7/8	まとめ「社会関係資本が豊かな社会」とは、および試験説明	これまで紹介してきた先行研究の議論を総合し、内向きの関係性と開放的な関係性、ミクロなレベルの分析からマクロなレベルがリンクする社会科学的なメカニズムについてまとめる。また、次週に行う授業内試験の内容や準備・対策について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤全てに関連し、内向きの関係性と開放的な関係性のそれぞれの利点と欠点、ミクロレベルで分析することとマクロレベルで分析することの視点の違い、およびそれらを総合した視座について総合的に理解し、柔軟な発想で社会を分析することができる。（ミクロ・マクロリンク）	
		事前学修	これまで授業で使用した資料を全体的に復習し概念と各回相互の関係性についての理解に努める。	120分
		事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
15	7/15	授業内試験 まとめ	基本概念を理解しているか（①②）、基本概念を用いて事例分析が論理的になされているか（③④）、自分の意見が体験に基づき記述されているか（⑤）について試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤全てに関連し、知識の理解、分析する技能、冷静に評価する態度を養う。	
		事前学修	これまで授業で使用した資料を全体的に復習し概念の理解に努める。また、論述問題として出題される自分に身近な事例を使った論考の準備する。	120分
		事後学修	試験において自分の理解の浅かった部分やうまく論述できなかった内容について、授業で使用した資料と参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

科目名	地域開発論	担当者	小倉 眞	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
地域間格差形成のメカニズムについて整理した後に、地域間格差の是正，経済政策の一環として公共ファクターが主導する地域開発について学習する。具体的には地域開発政策の端緒となったアメリカのニューディールによるTVA開発の内容（点から面へ）を分析し、日本の地域開発政策としての国土開発政策の歴史的展開過程と地域問題について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地域間格差解消に関する研究に必要な社会システムの理解力、問題発見・解決力および挑戦力を習得するために、日本の地域開発政策等をまず整理し、経済開発政策と不均等発展について理論的に理解する、また、地域間格差と地域活性化策の展開との関係についても整理・分析し、地域開発の展開状況を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストは使用せず、配布プリント・板書等によって授業を進める。また、適宜PC（パワーポイント）を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。また、小テスト実施後の講評と討論を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域開発論における主要な概念や理論を識別できる。					2		2				
②	地域開発論に関連する日本及び世界の社会システムにおける主要な概念や理論を識別できる。					2		2				
③	地域開発論に関連する出来事を教訓として、現代社会における問題及び自分なりの解決方法を提示できる。					2		2	2			
④	地域開発論に関連する現代社会の問題に対して、新たな考え及び従来示されてこなかった政策案を示すことができる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	25		25							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②③④に関わる基礎知識を評価する。		5	5	5							15
レポート等	セメスター中、レポートにより、到達目標②③④に関わる基礎知識を評価する。		5	5	5							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	10	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのレポート内容についての講評と討論、また試験についてはポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	配布プリント等によって授業を行う。、参考文献は特に指定しないが必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 14：00～16：00 研究室（4号館4階441） メールアドレス： ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	地域開発論を学ぶ意味	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識をを示しながら、地域開発論を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、産業立地論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスで授業内容を確認する共に、講義全体を概観する。	90分
		事後学修	ノートを見て、立地論の分析視点と経済空間の関係について整理する。	150分
2	4/15	地域間不均等発展論の理論的整理（1）	資本主義による生産と所得の偏在の形成について、産業構造の変容過程との関係で考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、資本主義による生産と所得の偏在の形成について理解し、説明できる。	
		事前学修	地域間格差形成の要因などについて具体的事象を取り上げて整理してみる。	120分
		事後学修	ノートを見て産業構造と地域発展の要因となる事項について整理・検証してみる。	120分
3	4/22	地域間不均等発展論の理論的整理（2）	日本における地域的不均等発展論に関する既研究（島・矢田等）を取り上げ、理論の特色及びその問題点などについて考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本における地域的不均等発展論について理解し、説明できる。	
		事前学修	中央と地方の格差形成がなぜ起きるのか、またその主要な要因は何かについて事前に調べてみる。	90分
		事後学修	資本主義社会における資金の移動と地域発展との関係について整理する。 与えられた課題についての小レポート作成する。	150分
4	4/29	日本の近代化期における産業変動と地域経済（1）	日本海側と太平洋側の経済発展格差形成過程に注目し、特に人・モノ・金の移動の側面から地域変動について考察する。 前回授業時の課題小レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人・モノ・金の移動の側面から日本海側と太平洋側の地域変動について理解し、説明できる。	
		事前学修	日本の近代化期における産業構造の変化状況についてプリントに基づいて考察してみる。	120分
		事後学修	商業活動における日本海側の果たした役割と変容過程について整理する。	120分
5	5/6	日本の近代化期における産業変動と地域経済（2）	鉄道施設など公共資本投資と地域に与えた影響などについて分析・考察する。 （3回授業時の小レポートに対する講評と討議も行う。確認学習）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、鉄道施設など公共資本投資と地域に与えた影響について理解し、説明できる。	
		事前学修	半島・離島などの空間的位置と経済発展の関係（離島・半島振興法）について考察・検証してみる。	120分
		事後学修	日本海側が裏日本と称されるようになった経緯と実態についてまとめる。	120分
6	5/13	国土利用論と地域開発政策	国土利用論について整理し、国土開発（自然災害対応も含む）と地域開発政策の関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、国土開発と地域開発政策の関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	プリントを見て、地域経済圏と国土開発政策について整理する。	120分
		事後学修	外国の国土開発の事例や日本の地域開発について比較・検討し、その位置づけの特色について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	国民経済と地域開発 (ニューディール政策) (1)	戦争経済からの転換に伴い、急速な消費経済の拡大と社会資本整備の展開について考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、第一次大戦後の急速な消費経済の拡大と社会資本整備の展開について理解し、説明できる。	
		事前学修	1920年代のアメリカ経済の概要について事前に調べてみる。	120分
		事後学修	自動車・建設・道路等公共投資がどのように行われ、社会発展（生産と消費）にどのように繋がったかについて配布プリントを中心に整理する。	120分
8	5/27	国民経済と地域開発 (ニューディール政策) (2)	消費の一巡と投資の停滞、金融市場の活況を経て、経済の急速な減退に至った状況と経済復興策としてのニューディール政策について整理・考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、世界大恐慌とニューディール政策について理解し、説明できる。	
		事前学修	経済成長の停滞と経済破綻がなぜ起きたかについて、生産と金融の観点から整理してみる。	120分
		事後学修	金融・産業政策を中心にニューディール政策の内容について整理する。	120分
9	6/3	国民経済と地域開発 (ニューディール政策) (3)	ニューディール政策政策の一環として実施されたTVAの地域開発政策の内容と、社会・経済的意義について整理・考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、VAの地域開発政策の内容と社会・経済的意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	アメリカ南部テネシー川が置かれた地域的性格について事前に調べてみる。	90分
		事後学修	TVAの具体的な開発政策の展開状況について整理する。 与えられた課題についてのレポート作成をする。	150分
10	6/10	日本の国土開発政策と地域 開発 (1)	終戦直後の国土の荒廃と災害の多発、緊急に対策しなければならない事項（食料供給など）を整理し、国土開発計画策定に至る過程、及び全国総合開発計画の内容について考察する。 前回授業時の課題レポートを提出する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、国土開発計画策定に至る過程、及び全国総合開発計画について理解し、説明できる。	
		事前学修	戦後日本における傾斜生産方式など経済・産業政策について整理する。	120分
		事後学修	特に新産業都市指定と地域開発との関係について整理する。	120分
11	6/17	日本の国土開発政策と地域 開発 (2)	新・第三次全国総合開発計画と大規模プロジェクト構想、定住圏構想の具体的内容と地域へ影響を与えた内容について検証する。（9回授業時の課題レポートについての講評と討議を行う。確認学習）	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、定住圏構想の具体的内容と地域への影響について理解し、説明できる。	
		事前学修	地域経済状況の変化、特に1970年代初期と1970年代後期の経済状況について事前に調べてみる。	120分
		事後学修	産業の高度化と地域経済力の低下状況の下で提案された地域定住圏やテクノポリス地域指定についての内容と問題点について整理する。	120分
12	6/24	日本の国土開発政策と地域 開発 (3)	交通ネットワーク形成、多軸型国土形成政策の展開と地域開発との関係について考察する。	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、多軸型国土形成政策の展開と地域開発の意義・問題点等について理解し、説明できる。	
		事前学修	都市圏以外の地域における人口減少、産業の空洞化過程について、資料などの利用により調べる。	90分
		事後学修	なぜ地方が衰退しているのか、地域開発との関係で検討してみる。（次回小テストの準備をする）	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	地域活性化と町・村おこし	大分県豊後高田市における「昭和の町並み」展開による町おこしについての例示を挙げ、地方都市の展開状況について分析・考察する。（日本の地域開発に関する小テストを行う）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方都市の展開状況を理解し、町おこしに対する自分なりの考えを提示できる。	
		事前学修	豊後高田市の人口規模、産業構造などについて市の広報や統計資料などから事前に調べてみる。	120分
		事後学修	人口減・資金不足のため残された古い街並みを利用して行われた町おこしの内容・地域住民などについて整理する。	120分
14	7/8	地域間格差と地域活性化策	三重県熊野市紀和町の例 辺境地域で棚田集落という不利条件地域の開発を事例として農村の社会関係を維持しようとしている地域について分析・考察する。（13回授業時の小テストに関する講評と討議も行う。確認学習）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不利条件地域の開発について理解し、問題解決のための自分なりの考えを提示できる。	
		事前学修	熊野市紀和町の位置と千枚田の分布について確認する。	120分
		事後学修	生産性・労働力不足により放棄された千枚田の再建と村おこし・地域政策について整理する。	120分
15	7/15	地域開発と地域経済との関係	地域開発論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地域開発論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で各指標に対する判断ができる。	
		事前学修	地域開発と国・地方との関係について考える。	120分
		事後学修	地域経済政策について整理すると共に、期末テストに向けて準備する。	120分

科目名	地域コミュニケーションA	担当者	小林 聡明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディアを通じて、おびただしい量の韓国や北朝鮮情報が流布されている。だが、このことは、韓国を見つめるまなざしが豊かであること、あるいは知識の広がりや思考の奥行きを、かならずしも担保していない。本授業は、地域研究や国際政治学、歴史学、メディア研究の知の蓄積を援用しながら、韓国とは何かという本質的かつ根源的な問いに向かい合おうとするものである。なお、随時、北朝鮮についても触れるものとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、韓国の歴史や文化、政治や経済などについて包括的に学び、メディア報道を批判的に読み解くための力＝リテラシーの養成を目的とする。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。

【授業方法】
原則として、毎回、受講生には論文あるいは著書1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教師からのフィードバックを中心に行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題の論文、あるいは著書1章分を読み、上記のペーパーを提出したうえで授業に参加し、講義内で課題の解説とペーパーへの応答を行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	朝鮮半島の歴史や文化、政治、経済、社会について説明できる。				3							
②	日韓、日朝関係について説明できる。					3						
③	韓国社会に内在する論理を把握することができる。						3					
④	日韓（および日朝）関係における諸問題を発見し、解決にむけた方策をデザインすることができる。							3				
⑤	「他者」の論理に配慮しながら、事実と自らの知見に基づき、議論を組み立てることができる。									3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③④の知識が、どの程度身につけているのかを、評価する。	2	2	2	2							8
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。			12								12
討論・発表等												
授業への参画度	課題文を読んで作成するペーパーの提出について、読解の深さと、十分に練られたコメントの内容によって到達目標①②③④⑤に関わる知識と洞察力について評価する。	6	6	6	6	6						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	30	18	16						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で講評するほか、成績評価のための課題に関してはポータルシステムなどを活用して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『戦後日韓関係史』	李鍾元、木宮正史ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
『「歴史認識」とは何か－対立の構図を超えて』	大沼保昭	中公新書	2015	参考書	推奨
『日韓外交史』	趙世瑛	平凡社新書	2015	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、水曜日12時20分から13時。研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	イントロダクション・導入講義	授業のテーマや進め方を説明したうえで、受講者による韓国・北朝鮮へのイメージについてディスカッションを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国や北朝鮮について学ぶことの意味を把握し、社会科学的思想形式の重要性を認識したうえで、今後の能動的に学修していくための方法を習得することができる。	
		事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	2	日韓関係の現在	世論調査データを読み解きながら、現在の状況について把握する。	
		この回の到達目標	世論調査データを読む力を習得し、データに基づいた分析的思考を獲得することができる。	
		事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
		事後学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
3	3	1950年代の日韓関係	植民地支配の終焉と大韓民国の成立、そして日韓関係の始まりについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、19世紀末から20世紀中葉までの朝鮮半島の歴史的歩みについて、日本との関係のなかで述べることができる。	
		事前学修	2回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	4	分断体制の出現と朝鮮戦争	二つの相異なる政治体制によって、それぞれがそれぞれを全否定し、激しく対立する分断体制は、どのように出現し、現在にいたっているのか。朝鮮戦争のインパクトという観点から考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1950年代の朝鮮半島の社会構造について、述べることができる。	
		事前学修	3回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	5	李承晩政権期の日韓関係	経済復興への模索と、日韓関係の新たな展開にむけた「前段階」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1950年代の朝鮮半島について、日韓関係の観点から述べることができる。	
		事前学修	4回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	6	朴正熙政権期の日韓関係	日韓国交正常化のプロセスについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1950年代の日韓関係について述べることができる。	
		事前学修	5回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	日韓国交正常化	日韓国交正常化が有する光と影の側面について、法と歴史の文脈から考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日韓国交正常化のプロセスを把握し、そこに孕まれた問題点について述べるができる。	
		事前学修	6回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
8	8	全斗煥政権期の日韓関係	民主主義をめぐる闘いと韓国の冷戦外交の展開について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国における民主化闘争の展開と、その意味について述べるができる。	
		事前学修	7回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
9	9	盧泰愚政権期の日韓関係	冷戦終結・韓国の経済成長・民主化移行について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1980年代の韓国社会の変容について、民主化と冷戦終結の観点から述べるができる。	
		事前学修	8回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	新授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
10	10	金泳三政権期の日韓関係	文民政権の意味と新たな日韓関係の到来について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1990年代前半の韓国社会の有り様と、日本との関係について述べるができる。	
		事前学修	9回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
11	11	金大中政権期の日韓関係	「日韓パートナーシップ宣言」の歴史的意味と現在への教訓について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、1990年代後半から2000年代初頭における韓国社会の特徴について、日本との関係から述べるができる。	
		事前学修	10回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
12	12	盧武鉉政権期の日韓関係	政治レベルでの困難と民間レベルでの文化交流の活性化について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、2000年代前半における韓国社会の構造的変容について、日韓関係の悪化と改善という二つのパラダイムから述べるができる。	
		事前学修	11回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。1	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	李明博政権期の日韓関係	「実用外交」の限界と歴史・領土問題をめぐる対立の先鋭化について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、李明博政権の対日外交の特徴を指摘し、同政権による対日外交の展開について述べることができる。	
		事前学修	12回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	14	朴槿恵政権期の日韓関係	歴史認識問題をめぐる困難と対立の構造について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日韓歴史認識問題の展開過程について述べることができる。	
		事前学修	13回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	15	文在寅政権期の日韓関係	どのようにすればよいのか。受講者とともに、こうした「難問」に挑む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日韓関係の歴史的展開と、韓国の政治や文化、経済、社会に関する知識を活用することで、これからの東アジア世界について、どのようにデザインしていけばよいかという問いに対する独創性のあるアイデアと、具体的な法案について述べることができる。	
		事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	地域コミュニケーションB	担当者	張 新慧	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
近年、中国は国際社会における存在感が増大し続け、その動向が注目されている。中国とどう付き合うべきか、日本を含めて世界の国々に対して重要な課題となっている。その基盤となるのが相互理解にあり、それを促すのは情報の共有と言える。特にマス・メディアを通じて伝えられる情報は受け手に一定の影響を与えるものと考えられる。本講義では、日本と比較する視点に立ち、中国という地域におけるマス・コミュニケーションを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日中間のコミュニケーション・ギャップを考察する上で、必要な中国のマス・コミュニケーション環境に関する基本知識を得ることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回ではPPTを使い、配布資料を参考にしつつ講義を進める。これと同時に授業内容と関連する文献、映像や新聞記事を活用する。授業内発表やレポートに対する講評と解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回講義の最後にリアクションペーパーを提出し、次回の講義内で解説と応答を行う。また、期末に履修生全員で話し合い（プレゼンテーション）、お互いに感想や知見を共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中華人民共和国に関する知識、中国のマス・コミュニケーション環境に関する知識について説明できる。						3							
②	近現代の日中関係の概況について説明することができる。							3						
③	日中両国のコミュニケーション・ギャップは、どこから、そしてどのように生まれるかについての問題を論理的に推論することができる。								3					
④	日中両国のコミュニケーション・ギャップを解消するにあたり、その解決策を構想し、提案することができる。									3				
⑤	多角的に他国の文化や社会の仕組みを考察し、相手の立場を理解した上で、国際的な問題の解決に協調することができる。										3			
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑥にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
討論・発表等	プレゼンテーションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③⑥に関わる能力が身につけているかを評価する。			10		10						20
授業への参画度	授業内のリアクションペーパーの内容によって、到達目標①②③④に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	2	2	2	2	2						10
その他(感想文)	授業内で視聴する2回のビデオに対する感想文を提出し、感想文の内容によって、到達目標①②③④に関する知識が、身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	27	17	22						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内及びポータルシステムを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)	山本 賢二	学生教員共有フォルダに掲載	2019	その他	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）研究室とメールアドレスは追ってお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	オリエンテーション及び導入講義	本講義についての説明、コミュニケーション研究概説、中国研究概説。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、授業の内容や進め方を理解し、中国について学ぶことの意味を把握し、今後、能動的な学修を進めていく方法を身につけることができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考文献に目を通し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、他の履修科目との関係を考える上で、自分の学習計画を作成する。	120分
2	第一部水 4/15	近現代日中関係概説Ⅰ	日中国交正常化以前の両国の関係を概観し、日中関係の重要性と複雑性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日中国交正常化以前の日中関係の構造について説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	第一部水 4/22	近現代日中関係概説Ⅱ	日中国交正常化以降の両国関係の変遷を概観し、日中関係の重要性と複雑性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日中国交正常化以降の日中関係の構造について説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	第一部水 4/29	日中相互イメージの構図Ⅰ	世論に関連する概念を理解し、日中両国に関する世論調査結果について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、「世論」と「輿論」についての基礎概念、及び国際的な世論調査の状況について、説明することができる。	
		事前学修	日中世論調査に関するマス・メディアの報道について調べる。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	第一部水 5/6	日中相互イメージの構図Ⅱ	日中世論調査結果から見える日中相互イメージを理解し、その背景について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、世論調査データを読む力を習得し、データに基づいた分析的思考を獲得することができる。	
		事前学修	日中世論調査に関するマス・メディアの報道について調べる。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
6	第一部水 5/13	ビデオ視聴及び議論	NHKドキュメンタリーを視聴し、番組が伝える中国のメディア環境を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ドキュメンタリーに反映される中国のマス・メディアの構造や現状について記述することができる。	
		事前学修	『激流中国』 単行本(2008) NHKスペシャル取材班(著)に目を通すこと。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	日中コミュニケーション・ギャップを考えるⅠ	コミュニケーション・ギャップに関する基礎概念を理解し、その表現と背景について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、言語の相違から生まれるコミュニケーション・ギャップについて説明することができる。	
		事前学修	自分の異文化交流経験から考えることをメモし、異文化交流に関するマス・メディアの報道について調べる。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
8	第一部水 5/27	日中コミュニケーション・ギャップを考えるⅡ	コミュニケーション・ギャップに関する基礎概念を理解し、その表現と背景について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、価値観の相違から生まれるコミュニケーション・ギャップについて説明することができる。	
		事前学修	自分の異文化交流経験から考えることをメモし、異文化交流に関するマス・メディアの報道について調べる。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
9	第一部水 6/3	中国のマス・メディアの構造	中国のマス・コミュニケーションについての基本的構造についての知識を得る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、今の中国のマス・コミュニケーションについての基本的構造について説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
10	第一部水 6/10	中国のマス・メディアにおける対日報道	日本に駐在した中国人記者の回想録を手がかりとして、中国のマス・メディアに描かれる日本像について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国のマス・メディアがどのように日本の出来事を報道していたかについて説明することができる。	
		事前学修	最近の中国のマス・メディア(英語版、日本語版をあわせて利用する)における日本関連報道に目を通すこと。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
11	第一部水 6/17	日本のマス・メディアにおける対中報道	メディア・フレームの観点から、時系列的に日本のマス・メディアに描かれる中国像について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日本のマス・メディアがどのように中国の出来事を報道してきたかについて説明することができる。	
		事前学修	最近の日本のマス・メディアにおける中国関連報道に目を通すこと。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
12	第一部水 6/24	ビデオ視聴及び議論	NHKドキュメンタリーを視聴し、当時の米国のジャーナリズムについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ベトナム戦争をめぐるアメリカのメディアの報道について記述することができる。	
		事前学修	米国の憲法修正第一条を確認しておく。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	日中相互理解とメディアリテラシーⅠ	メディアリテラシーに関する基礎概念を把握し、中国の対外発信の展開過程とその背景を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国の国外向けの情報発信はどのようにスタートし、進行しているかについて説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
14	第一部水 7/8	日中相互理解とメディアリテラシーⅡ	中国側から発信される情報をどのように受け止め、我々が身につけるべきメディアリテラシーについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国の対外発信強化の取り組みについて説明し、どのようにメディアリテラシーを身につけるかについて説明することができる。	
		事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
		事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
15	第一部水 7/15	期末発表	これまでの授業で扱ったトピックやその中で考えたことに纏め、履修生全員で話し合う（プレゼンテーション）。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、自主学習や調査で分かったことを議論することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を整理し、学んだ知識や考えたことを纏めておく。プレゼンテーションの内容を準備する。	120分
		事後学修	中国のマスコミュニケーション環境に関する知識を再確認する。	120分

科目名	地域政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
地方分権時代を迎え、地域社会における自治体の役割と責任は増大している。この授業では、「住民」と「都市自治体」「他のアクター」との関係性に注目しながら、都市自治体を取り巻く環境、政策過程に関する基本的な事項、政策形成の基本的な考え方を学修する。都市問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材としてその解決策を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として身についておくべき、地域政策に関する基礎的知識を習得し、その知識をもとに諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ説明でき、主体的に行動できる。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。講義にでること前提としているので、地域課題の解決について考えることができること。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域政策に関する主要な概念や理論を識別することができる。					4							
②	地域政策で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							4					
③	地域策に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							4	4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	25	25	20		20						90
小テスト等	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やリポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20		20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部	公職研	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	都市自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	地域政策の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
		この回の到達目標	地域における地方自治体の役割について説明できる	
		事前学修	地方自治体の構成要素や役割について地方自治論の参考書などで調べる	120分
		事後学修	地方自治体の役割について考えて、国との役割の違いを検討する	120分
2	9/22	地方分権化時代の地域づくり	地方分権化時代の地域づくりの特徴について学修する。	
		この回の到達目標	地方分権化時代の地域づくりの特徴について説明できる。	
		事前学修	地方分権下の地域における自治体の役割変化や求められることについて検討する	120分
		事後学修	地方分権法の意義について考える	120分
3	9/29	ローカルガバナンス	ローカルガバナンスとはなにかについて学修する。	
		この回の到達目標	ローカルガバナンスの概念について説明できる	
		事前学修	ローカルガバメントとの違いについて考える	120分
		事後学修	ローカルガバナンスの主役（主体）はなにか考える	120分
4	10/6	国土計画と地域政策の関係	地域からみた国土計画の歴史について学修する。	
		この回の到達目標	地域からみた国土計画について自分なりに説明できる	
		事前学修	国土計画法の概要について調べる	120分
		事後学修	国土計画の歴史を整理する	120分
5	10/13	国土計画と地域政策の諸相	国土計画の半化による地域政策のあり方について学修する。	
		この回の到達目標	国土計画の考え方の転換点と地方自治体の役割について説明できる	
		事前学修	国土計画の歴史とそれぞれの計画の概要について整理してくる	120分
		事後学修	国土計画の考え方の転換点についてまとめる	120分
6	10/20	地域づくりのりと公民連携の概要と課題	地域づくりを公民連携によってどのように課題を解決し、新たな地域社会を実現するか学修する。	
		この回の到達目標	地域づくりを公民連携する方法を説明できる	
		事前学修	公民連携の必要性について考える	120分
		事後学修	公民連携の形態について整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	地域づくりと公民連携の形態	地域づ地域における公民連携の在り方について学修する。	
		この回の到達目標	地域づくりを公民連携する方法とそのメリットとデメリットについて説明できる	
		事前学修	PPPとはなにか整理する	120分
		事後学修	PPPの種類と選択方法について整理する	120分
8	11/10	地域づくりの限界と観光政策	地域づくりにおける観光政策の意義と位置づけについて学修する	
		この回の到達目標	定住人口の政策の限界について説明でき観光政策の意義について説明できる	
		事前学修	定住人口と交流人口の違いについて検討する	120分
		事後学修	交流人口政策の意義について整理する	120分
9	11/17	地域づくりと観光	地域づくりと観光についてその類型と課題について学修する。	
		この回の到達目標	定住人口政策から交流人口政策としての観光政策の類型と課題について説明できる	
		事前学修	定住人口の限界について学習する	120分
		事後学修	観光政策の手法について整理する	120分
10	11/24	国際化と地域の課題	地域の国際化の現状と課題について学修する	
		この回の到達目標	地域の国際化、とりわけ外への国際化について学修する。	
		事前学修	日本の在住外国人の人数や出身国と変化について調べる	120分
		事後学修	諸外国と自治体の関係について考える	120分
11	12/1	国際化と地域政策	地域の国際化に対応する政策展開について学修する	
		この回の到達目標	外なる国際化と内なる国際化政策について説明できる	
		事前学修	在住外国人の生活問題について考える	120分
		事後学修	自治体にとって、なぜ国際化が必要なのか整理する	120分
12	12/8	ICTの発展と地域政策	ICTを活用した地域づくりの方向性について学修する	
		この回の到達目標	ICTを活用した地域づくりについて説明できる	
		事前学修	ICTとはなにか、その意義について検討する	120分
		事後学修	ICTを活用した地域づくりについて先進例を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	ICTを活用した地域づくり	ICTが自治体の住民サービスと運営改革について学修する	
		この回の到達目標	ICTが自治体の住民サービスと運営改革に関して説明できる	
		事前学修	ICTの有効的な手法について考える	120分
		事後学修	ICTの課題について整理する	120分
14	12/22	空き家と地域	人口減少時代の空き家問題について学修する。	
		この回の到達目標	空き家に関する解決策について説明できる	
		事前学修	空き家の将来推計について調べる	120分
		事後学修	空き政策の課題と限界を整理する	120分
15	1/12	統括と政策思考方法	これまでの授業で扱った政策の考え方について学修する。	
		この回の到達目標	これまでの授業で扱った地域政策の基本的な視点について他人に説明できる。	
		事前学修	自分の調べた先進的な地域政策について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
		事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	知的財産英語	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本講義では、知的財産英語における基本的な英語表現について説明したうえで、特許法、意匠法、商標法、著作権法それぞれの事例を紹介して、具体的な英語表現についてわかりやすく解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産権のグローバル化に伴い、知的財産に関わる法務では、英語を用いる機会が増加している。そこで、本講義では、知的財産に関する基本的な英語表現について習得することを目的とする。また、本講義では、知的財産英語の基本的な英語表現について理解し、英語で知的財産法務を行えるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法に関する基礎科目の履修は、本講義の履修条件とはしない。本講義の中で、知的財産法の基本事項を確認しながら講義を進める。）

【授業方法】
講義形式とする。毎回、英語辞書を持参のこと。（知的財産法に関する時事問題として、英語ニュースや英文記事などを題材とする。）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産英語の基本を理解することができる。							4					
②	知的財産英語の実務の基本を説明することができる。							4					
③	知的財産英語（事例）の主要な論点を説明することができる。								4	4			
④	知的財産英語（事例）を巡る諸問題について自分の意見を述べることができる。								4	4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知的財産英語のスキルを習得しているかについて筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業では、必要に応じて質問を行い、質問に対する自己の考えを提出させ、それが的確な根拠に基づくものかを評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、レジメを配布する。（知的財産法に関する時事問題として、英語ニュースや英文記事など）				

【オフィスアワー】
木曜日 5 時限目に設定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	知的財産英語とは何か	知的財産英語とは何かについて講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産英語の重要性について理解する。	
		事前学修	知的財産英語とは何かについて考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産英語とは何かについて整理しておいてください。	120分
2	4/13	特許法に関する事例（１）	特許法に関する事例（１）について講義します。（事例１：パテントトロール）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（１）について理解する。（事例１：パテントトロール）	
		事前学修	事例（１）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（１）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
3	4/20	特許法に関する事例（２）	特許法に関する事例（２）について講義します。（事例２：強制ライセンス）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（２）について理解する。（事例２：強制ライセンス）	
		事前学修	事例（２）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（２）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
4	4/27	特許法に関する事例（３）	特許法に関する事例（３）について講義します。（事例３：WIPO Green）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（３）について理解する。（事例３：WIPO Green）	
		事前学修	事例（３）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（３）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
5	5/4	意匠法に関する事例（１）	意匠法に関する事例（１）について講義します。（事例１：Green Design）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（１）について理解する。（事例１：Green Design）	
		事前学修	事例（１）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（１）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
6	5/11	意匠法に関する事例（２）	意匠法に関する事例（２）について講義します。（事例２：Universal Design）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（２）について理解する。（事例２：Universal Design）	
		事前学修	事例（２）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（２）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	意匠法に関する事例（３）	意匠法に関する事例（３）について講義します。（事例３：IP and Development）
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（３）について理解する。（事例３：IP and Development）
		事前学修	事例（３）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。120分
		事後学修	事例（３）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。120分
8	5/25	まとめと授業内試験（１）	これまでのまとめと授業内試験を行います。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。
		事前学修	授業内テストを行いますので、テスト範囲を復習しておいてください。120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。120分
9	6/1	商標法に関する事例（１）	商標法に関する事例（１）について講義します。（事例１：商標の管理①）
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（１）について理解する。（事例１：商標の管理①）
		事前学修	事例（１）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。120分
		事後学修	事例（１）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。120分
10	6/8	商標法に関する事例（２）	商標法に関する事例（２）について講義します。（事例２：商標の管理②）
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（２）について理解する。（事例２：商標の管理②）
		事前学修	事例（２）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。120分
		事後学修	事例（２）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。120分
11	6/15	商標法に関する事例（３）	商標法に関する事例（３）について講義します。（事例３：地域ブランド）
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（３）について理解する。（事例３：地域ブランド）
		事前学修	事例（３）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。120分
		事後学修	事例（３）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。120分
12	6/22	著作権法に関する事例（１）	著作権法に関する事例（１）について講義します。（事例１：マンガ・アニメ）
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（１）について理解する。（事例１：マンガ・アニメ）
		事前学修	事例（１）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。120分
		事後学修	事例（１）を整理して著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	著作権法に関する事例（２）	著作権法に関する事例（２）について講義します。（事例２：グーグルブック）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（２）について理解する。（事例２：グーグルブック）	
		事前学修	事例（２）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（２）を整理して、著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
14	7/6	著作権法に関する事例（３）	著作権法に関する事例（３）について講義します。（事例３：芸術家によるベンチャー）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（３）について理解する。（事例３：芸術家によるベンチャー）	
		事前学修	事例（３）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
		事後学修	事例（３）を整理して、著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
15	7/13	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	授業内テストを行いますので、テスト範囲を復習してきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するフィードバックを行う。また、講義内容に基づいて明細書等を作成しレポートとする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版		高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説		特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許調査など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10	総論	知的財産権法の概要について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考える。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理する。	120分
2	第一部 金4/17	特許法の目的	特許法の歴史と制度の目的について	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許法の歴史とその制度の目的（特許法1条）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許法の目的について復習し、発明の保護と利用の関係について整理する。	120分
3	第一部 金4/24	特許の保護対象	特許上の発明（保護対象）について	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許法上の発明について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許の発明（特許法2条1項）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許の発明（保護対象）について復習し、特許法2条1項の解釈を整理する。	120分
4	第一部 金5/1	特許要件（1）	産業上の利用可能性について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、産業上の利用可能性（特許法29条1項柱書）について考えてくる。	120分
		事後学修	産業上の利用可能性について復習し、その内容を整理する。	120分
5	第一部 金5/8	特許要件（2）	新規性の要件について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、新規性の要件（特許法29条1項各号）について考えてくる。	120分
		事後学修	新規性の要件について復習し、その内容を整理する。	120分
6	第一部 金5/15	特許要件（3）	進歩性の要件について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、進歩性の要件（特許法29条2項）について考えてくる。	120分
		事後学修	進歩性の要件について復習し、進歩性に関する事例を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22	特許要件（４）	先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について考えてくる。	120分
		事後学修	先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について復習し、内容を整理する。	120分
8	第一部 金5/29	授業内試験（１）	授業内試験(小テスト)とこれまでのまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をすること。	120分
		事後学修	試験でできなかったところをフィードバックするので、しっかりと復習すること。	120分
9	第一部 金6/5	権利の主体（１）	発明者・出願人について	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、発明者と出願人について考えてくること。	120分
		事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者、出願人、特許を受ける権利について整理する。	120分
10	第一部 金6/12	権利の主体（２）	職務発明制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてくる。	120分
		事後学修	職務発明制度について復習し、その要件や制度の内容を整理する。	120分
11	第一部 金6/19	特許出願手続き（１）	特許出願書類、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許出願書類について復習し、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について整理する。	120分
12	第一部 金6/26	特許出願手続き（２）	出願公開制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてくる。	120分
		事後学修	出願公開制度について復習し、制度の内容（制度趣旨時期や公開内容）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3	特許出願手続き（3）	審査請求制度、特許審査手続きについて	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審査請求制度、特許審査手続きについて理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、審査請求制度、特許審査の手続きについて理解すること。	120分
		事後学修	審査請求制度の内容、審査手続きについて復習し、内容を整理する。	120分
14	第一部 金7/10	出願・審査手続（4）	出願分割・出願変更制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願分割・出願変更制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、出願分割・出願変更について考えてくる。	120分
		事後学修	出願分割・出願変更について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分
15	第一部 金7/17	出願・審査手続（5）	国内優先権制度、外国語出願制度について	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国内優先権制度、外国語出願制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、国内優先権制度・外国語出願制度について考えてくる。	120分
		事後学修	国内優先権制度・外国語出願制度について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するコメントを講義。また、講義内容に従った仮想出願書類作成の体験学習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				1		1					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				2		2	2				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						2	2				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				2		2	2				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版		高林龍	有斐閣	2017	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説		特許庁編	発明協会	2017	参考書	推奨
特許判例百選 第5版		小泉・田村編	有斐閣	2019	参考書	任意
備考	上記教科書は最新改正法を網羅していないので、以下の参考書①にて最新改正法をフォローアップする。					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（９号館４階9４０8研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許出願実務経験を通じ、例えば、学生個々に実際に特許庁のデータベースにアクセスさせ、特定の発明特許法上の発明要件の充足性について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	総説（１）	知的財産権法の概要及び現状 知的財産権を構成する法律（特許法・実用新案法・意匠法・種苗法・半導体チップ保護法・著作権法・商標法・不競法）の保護対象及び法の制定趣旨を説明し、それぞれの関連を解説する。また、世界で起きている知的財産権に関するトラブル（侵害・模倣・海賊版）の現状を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産権にどのような法律があるのか説明できる。	
		事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、知的財産権を構成する法律について、どのような法律があるのかを教科書で調べノートに列記する。授業時には、それぞれの関連性について説明を行う。 https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/seidogaiyo/chizai02.html	180分
		事後学修	今まで自己が考えてきた無体財産はどのような法律で守られているのか認識する。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどのような方向に進むべきか考え、ノートに書き出しておく。知的財産権について、問題意識を持って欲しい。尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、参考書にて対応する講義主題を確認する。	60分
2	/	総説（２）	特許法の目的及び特許権成立までの概略 特許法の目的を規定する第1条を解説する。この1条では、特許法の究極目的を「産業の発達」としており、この目的を理解することで、今後講義を行う各制度の意義を理解できるようにする。また、特許権は、発明の着想に始まり特許査定により成立するため、一連の過程を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法が制定された理由及び発明から特許成立までの流れを説明できる。	
		事前学修	教科書P1-22を事前に読んでおき、なぜ特許法が制定されたのか理解し、ノートに書きだしておく。以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、特許成立までの流れを調べ、ノートに列記する。 https://faq.inpit.go.jp/industrial/faq/search/result/10409.html?event=FE0006	180分
		事後学修	特許法1条の各用語の意味を再確認し、ノートに列記する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	60分
3	/	特許要件（１）	客体要件（発明、産業上の利用性） 「発明」及び「産業上利用可能性」を規定する特許法2条・29条を正確に理解する。「発明」要件を正確に理解しているか確認するため、受講者は、特許庁のデータベースであるJ-platpatを使用し、実際に出願された発明が法上の「発明要件」を満足するか、調査学習を行う。調査学習の成果をレポートにて提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、どのようなアイデアが法の保護対象となっているか説明でき、また、到達目標②③④に関連して、特許法の目的とからめて、特許要件である産業上の利用可能性について説明できる。	
		事前学修	教科書P23-48を事前に読んでおき、一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解し、ノートに書きだしておく。また、特許成立に必要な「産業上の利用性」を理解、ノートに書きだしておく次回授業で発明、産業上の利用性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	講義で説明した発明要件を再確認し、ノートに列挙する。授業内で説明した特許庁データベース（Jplatpat）を各自が利用し、その調査手法を身につける。その上で、各自が調査し、抽出した特許庁に実際に出願されているアイデアが、自己が作成したノートに照らし、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。	140分
4	/	特許要件（２）	客体要件（新規性、進歩性） 特許を取得するための要件である「新規性」の場所・時間・内容の基準を講義する。また、発明が当業者から見て、従来の技術から容易に発明できる場合（進歩性がない場合）は特許にはならない。この進歩性の判断基準について講義する。また、前回講義の発明性に関する調査学習に関する講評をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許法の要件である新規性・進歩性の要件を説明できる。	
		事前学修	教科書P48-52、56-61を事前に読んでおき、新規であるとはどういう状況をいうのか理解し、また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解し、ノートに書きだしておく。次回授業で新規・進歩性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	講義で説明した新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、ノートに列挙し、参考書で確認する。	140分
5	/	特許要件（３）	新規性喪失の例外 発明者の意に反して自己の発明が公開されてしまったり、自己の発意に基づいて自己の発明が公開した場合に、新規性を失い、特許を取得できないとすることは発明者保護の欠けるので、このような場合の一定の例外規定を講義し、その法的効果についても言及する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、新規でない場合であっても新規であると擬制して取り扱う理由について説明でき、その場合の法的な取り扱いについても説明できる。	
		事前学修	教科書P53-56を事前に読んでおき、新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどのような場合であるか、理解をし、ノートに列挙する。次回授業で新規性喪失の例外規定について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	通常、新規性を喪失した発明は特許化が不可能であることは、研究者は知っているはずであるが、どのような場合に、この規定の適用を受けることになるのか、考察し、その考えをノートに列挙し、参考書で確認する。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	/	特許要件（４）	客体要件（不特許事由） 新規性・進歩性を有していても、産業政策上・公益上の理由から特許すべきではない場合がある。それら不特許事由について講義するとともに、最近の裁判例についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、公益を目的として特許の対象から外されている発明にはどのようなものがあるか、なぜそのように取り扱われているかを説明できる。	
		事前学修	教科書P67-70を事前に読んでおき、上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明（例えば犯罪目的の発明など）を具体的にノートに列挙する。そして、その列挙した発明をグループ化し、その理由をノートに書きだしておく。次回授業で 不特許事由について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	事前に考えた特許すべきではない発明が、授業で取り上げなかった場合、講義で説明する不特許事由の趣旨に照らし、自己の考えの正当性についてノートに書きだすとともに、他の受講者と意見交換を行う。	140分
7	/	特許要件（５）	先願主義 同一の発明が2以上競合した場合、二重特許を排斥する手段として先に出願した人に権利を付与するとした先願主義を講義する。この場合、同日出願と異日出願では手続きが異なるので、その理由や制度自体を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、二重特許を排斥する手段として日本がなぜ先願主義を採用したのか、また、その制度の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書P61-63を事前に読んでおき、先願主義とは何かを理解し、ノートに書き出しておく。同一の発明が同日に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願の場合と異なる点を十分に理解し、ノートに列記する。次回授業で先願主義について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どのような利点があるかを考察し、ノートに列記する。また、先発明主義を採用していた国の制度の詳細をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	140分
8	/	特許要件（６）	拡大された先願範囲の地位 本規定の定義及び制度趣旨（準公知・審査請求制度導入・防衛出願排除）を講義し、規定の内容としては、先願主義との比較を中心に、同日出願の場合、実用新案法下での出願との関係発明者同一／出願人同一による例外規定の講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、29条の2の規定を3つの制度趣旨を説明できる。	
		事前学修	教科書P64-67及び参考書①P83-92（本規定は特に理解が難しため）を事前に読んでおき、規定の内容をノートに書き出しておく。次回授業で「拡大先願」について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	本規定の条文である29条の2について、授業後、再度読み返し、規定の内容と条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
9	/	出願・審査手続（１）	出願書類・明細書及び請求項の記載要件／発明の単一性 特許出願で提出する書類（願書・明細書。必要な図面。要約書）及びその内容（実施可能要件・発明明確要件）を講義する。その後、体験学習として、特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるか各自が考えたうえ、前述の要件にあった出願書類を作成し、次週提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、特許出願書類を準備することができ、また、到達目標②③④に関連して、1つの出願で特許出願が行える発明の範囲に関し説明できる。	
		事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、出願書類にはどのような記載をすべきであると法が規定しているか理解し、ノートに列記する。また、1つの出願で権利の請求が行える発明の範囲についてもノートに列記する。 https://www.inpit.go.jp/blob/archives/pdf/patent.pdf	100分
		事後学修	物の発明と方法の発明では、その記載方法や記載すべき内容も異なる点を参考書で確認し、ノートに列記する。さらに、この回の講義では、体験学習として仮想特許出願書類作成の課題を行うので、自己が作成したノートを参照しつつ、書類を作成し、次週に提出する。	140分
10	/	出願・審査手続（２）	優先権（パリ条約による優先権・パリ条約の例による優先権、国内優先権） 発明者の権利保護を目的として、第1国の出願にもとづいて優先権を主張して第2国へ出願をする と、後の出願について、一定事項（特許要件等）については、最初の出願の時を基準として判断される優先権制度での設立趣旨、規定の内容を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、パリ条約の同盟国民及びWTOに加盟する国民が日本に特許出願するに際して、不利な取り扱いを受けない制度である優先権制度を説明できる。	
		事前学修	教科書P326-327、238-240を事前に読んでおき、外国において特許を取得する理由や取得するための手続きについて理解し、ノートに書き出しておく。次回授業で優先権一般について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	優先権の種類や利用場面を考え、ノートに列挙する。この講義はパリ条約4条に基づき規定された国内法であるため、パリ条約4条を読み理解を深めるとともに、参考書①143-162も読み、ノートに書き出しておく。	140分
11	/	出願・審査手続（３）	補正 特許庁への手続（特許出願・請求その他特許に関する手続：3条2項）について、その内容の補充又は訂正を行うことを意味する補正について、講義する。特に明細書や特許請求の範囲の補正ができる内容的制限や時制的制限に関し、その理由及び規定の内容を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、補正をする目的や補正の制約を説明できる。	
		事前学修	第2回講義の特許取得までのフローを思い出しながら、P232-235を事前に読み、手続きの補正とは何か、何故、その様な補正を行うのかについて十分理解し、ノートに書きだす。また、そのような補正が何時、どのような範囲で行うことができるのかをノートに列挙する。	100分
		事後学修	補正は、その補正時期により、制限事項が異なることを参考書で確認し、ノートに書きだす。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	/	出願・審査手続（４）	出願分割及び出願変更 一の出願に二以上の発明が含まれている場合、その出願の一部を抜き出して別出願とする分割出願制度や意匠や実用新案登録出願から特許出願に変更を認める出願変更制度の制度趣旨や規定の内容を講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、出願分割及び出願変更に関し、制度内容や目的、法上の取り扱いを説明できる。	
		事前学修	教科書P235-237を事前に読んでおき、出願分割や変更は、どのような制度であるか、なぜ認められているのか、どのような状況での利用となるのか、理解し、ノートに書き出す。次回授業で出願分割及び出願変更について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	出願分割は、パリ条約でも同盟国民に認められている権利であることから、パリ条約４条Fについても、参考書を読んで、日本の分割・変更制度と内容の同一性に関して確認し、相違点があればノートに列挙する。	140分
13	/	出願・審査手続（５）	外国語書面出願 外国語により作成された書類での特許出願を認めるに至った制度趣旨や規定の内容を講義する。最終的には日本語の翻訳文を提出するが、誤訳訂正や補正の範囲についても講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、外国語書面で特許出願した場合のその後の手続きについて説明できる。	
		事前学修	参考書内の36条の2及びその解説を事前に読んでおき、日本語に加え一部の言語にて、日本では特許出願が可能であることを理解した上で、外国語出願した出願人がその後取るべき手続やその内容を理解し、ノートに書き出す。	100分
		事後学修	外国語書面出願の場合、翻訳ミスがあった場合の訂正は、通常の手続補正書では行わないため、どのような手法で誤訳を訂正するのか、講義での内容を確認し、ノートに書き出す。また、補正の範囲は翻訳の範囲など、通常の日本語出願とは大きく異なる点があるので、相違点を理解し、箇条書きにしてノートに書き出す。	140分
14	/	出願・審査手続（６）	特許庁の行為１（出願公開及び補償金請求権） 出願後、一定期間経過したこと又は出願公開の請求があったことを条件に、審査の段階の如何にかかわらず、特許出願の内容を公衆に知らせる公開制度の意義、公開による仮保護となる補償金請求権の規定（権利行使の時期や手法）について講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、早期に発明内容を公開する意義、公開による出願人の保護を行う補償金請求権の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書P227-229を事前に読んでおき、出願公開の要件及び出願公開に伴い発生する補償金請求権の要件及び内容を理解し、ノートに書き出す。次回授業で出願公開及び補償金請求権について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
		事後学修	参考書の第三章の二（64条-65条）にある出願公開制度、補償金制度、早期公開制度の解説を読み、講義内容、規定の内容、条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
15	/	出願・審査手続（７）	特許庁の行為２（拒絶理由通知、査定と登録） 特許要件を具備する・具備しない発明に対する特許庁のアクションについて講義する。 尚、上記講義終了後、学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許要件を満たしていない出願に対し、どのような行為をなされるかを説明でき、その対応により、審査部での最終判断としての処分がどのようなものになるか説明できる。	
		事前学修	教科書P231、241-242を事前に読んでおき、拒絶理由通知を受けた出願人の対応手法を理解し、ノートに書き出す。特に最終回の講義では、今まで講義した内容全般から知識を問う形で出題するため、今までまとめてきたノートを繰り返し読み返す	100分
		事後学修	参考書の49条（拒絶査定）、50条（拒絶理由通知）、51条（特許査定）にて講義内容を確認し、ノートに追記する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認し、全体としてのまとめを書き出す。	140分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	加藤 浩	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習 成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習 成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考	使用しない。（毎回、レジュメを配布する。）				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許クレームの作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	総論	知的財産法の概要	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	4/13	特許法の目的	特許法の目的について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許法の目的（特許法1条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許法の目的について復習し、特許法1条の解釈について整理しておいてください。	120分
3	4/20	保護対象	特許の保護対象について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許の保護対象について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許の保護対象（特許法2条1項）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許の保護対象について復習し、特許法2条1項の解釈について整理しておいてください。	120分
4	4/27	特許要件（産業上の利用可能性）	産業上の利用可能性について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、産業上の利用可能性（特許法29条1項柱書）について考えてきてください。	120分
		事後学修	産業上の利用可能性について復習し、特許法29条1項柱書の解釈について整理しておいてください。	120分
5	5/4	特許要件（新規性）	新規性の要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、新規性の要件（特許法29条1項各号）について考えてきてください。	120分
		事後学修	新規性の要件について復習し、特許法29条1項各号の解釈について整理しておいてください。	120分
6	5/11	特許要件（進歩性）	進歩性の要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、進歩性の要件（特許法29条2項）について考えてきてください。	120分
		事後学修	進歩性の要件について復習し、特許法29条2項の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	特許要件（記載要件）	明細書等の記載要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	明細書等の記載要件について復習し、特許法３６条、３７条の解釈について整理しておいてください。	120分
8	5/25	まとめと授業内試験（１）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	6/1	権利の主体（１）	発明者・出願人について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、発明者と出願人について考えてきてください。	120分
		事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者適格、出願人適格について整理しておいてください。	120分
10	6/8	権利の主体（２）	職務発明制度について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	職務発明制度について復習し、特許法３５条の解釈について整理しておいてください。	120分
11	6/15	特許出願手続き（１）	特許出願書類について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許出願書類（特許法３６条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許出願書類について復習し、特許法３６条の解釈について整理しておいてください。	120分
12	6/22	特許出願手続き（２）	出願公開制度について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	出願公開制度について復習し、特許法６４条、６５条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	特許出願手続き（３）	特許審査について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許審査について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許審査（特許法４９条、５０条、５１条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許審査について復習し、特許法４９条、５０条、５１条の解釈について整理しておいてください。	120分
14	7/6	特許出願手続き（４）	審判制度について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審判制度について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、審判制度（特許法１２１条、１２３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	審判制度について復習し、特許法１２１条、１２３条の解釈について整理しておいてください。	120分
15	7/13	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を知得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業・特許事務所での特許権等に関する訴訟・ライセンスの経験を通じ、これらに関する実践的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 金9/18	特許権の効力と制限（１）	特許権の存続期間について
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間について理解すること。
		事前学修	事前に参考書などを読んで、特許権の存続期間について考えてくる。
		事後学修	特許権の存続期間について復習し、内容を整理する。
2	第一部 金9/25	特許権の効力と制限（２）	特許権の効力と制限について
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてくる。
		事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理する。
3	第一部 金10/2	特許権の効力と制限（３）	特許発明の技術的範囲について
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてくること。
		事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理する。
4	第一部 金10/9	特許権の効力と制限（４）	権利の共有について
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の共有について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考える。
		事後学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考えてくる。
5	第一部 金10/16	特許権の活用（１）	実施権（専用実施権・通常実施権）について
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権について理解すること。
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてくる。
		事後学修	実施権の内容を復習し、各実施権の内容整理する。
6	第一部 金10/23	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。
		事前学修	参考書を読んで、法定実施権（７９条）、裁定実施権（８３条）について考えてくる。
		事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、権利の趣旨・内容を整理する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30	授業内試験（小テスト）まとめ	授業内試験を行い、これまでのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をする。	120分
		事後学修	試験でできなかったところをフィードバックしますので、しっかりと復習すること。	120分
8	第一部 金11/6	特許権の侵害と救済（１）	特許権侵害の成立要件について	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許権侵害の成立要件について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
9	第一部 金11/13	特許権の侵害と救済（２）	特許権の間接侵害について	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許権の間接侵害（１０１条）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権の間接侵害について復習し、その趣旨と内容を整理する。	120分
10	第一部 金11/20	特許権の侵害と救済（３）	特許権侵害に対する救済について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済（差止請求、損害賠償請求等）について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済（１００条、その他）について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法１００条、その他関連する条文の解釈について整理する。	120分
11	第一部 金11/27	審判制度（１）	拒絶査定不服審判・審査前置について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判・審査前置制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、拒絶査定不服審判・審査前置制度について考えてくる。	120分
		事後学修	拒絶査定不服審判・審査前置制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分
12	第一部 金12/4	審判制度（２）	特許無効審判制度・特許異議申立制度について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判制度・特許異議申立制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、特許無効審判制度・特許異議申立制度について考えてくる。	120分
		事後学修	特許無効審判制度・特許異議申立制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11	特許訴訟	審決取消訴訟を中心にた特許に関する訴訟について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について考えてくる。	120分
		事後学修	審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
14	第一部 金12/18	実用新案法	実用新案制度について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度について理解すること。	
		事前学修	参考書を読んで、実用新案制度について考えてくる。	120分
		事後学修	実用新案制度について、特許制度の違いを中心に復習し整理する。	120分
15	第一部 金12/25	特許権とライセンス契約	特許権とライセンス契約について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権とライセンス契約について考えてくる。	
		事前学修	参考書を読んで特許権とライセンス契約について考えてくる。	120分
		事後学修	特許権とライセンス契約について復習し、内容を整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を知得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				1		1					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				2		2	2				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						2	2				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	推奨
特許判例百選 第5版	小泉・田村編	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館4階9408研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許ライセンス実務経験を通じ、例えば、特許ライセンス手法について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	特許を受ける権利	権利対象、権利侵害に対する救済、権利の利用	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許を受ける権利の発生・消滅・主体変動を説明できる。	
		事前学修	教科書P73-79、参考書②33-34条及びそれらの解説を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	共有に係る場合の特則や訴訟提起の場合の単独性について教科書を利用し理解する。	120分
2	/	職務発明制度	職務発明の従業員の権利及び使用者の権利	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、青色LED事件を用いて法改正がなされた理由や改正により権利の原始的帰属がどのように変わったのかを説明できる。	
		事前学修	教科書P80-97を事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解する。	120分
		事後学修	旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考える。	120分
3	/	特許権の効力（１）	効力範囲	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権者の権利（即ち侵害者の行為）を説明できる。	
		事前学修	教科書P98-118を事前に読んでおく。特に特許権者はどのようなことを独占排他的に行えるのか理解する。	120分
		事後学修	特に、消尽説を教科書102-114を利用し理解する。	120分
4	/	特許権の効力（２）	効力の制限、拡張的効力	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の積極的・消極的効力の制限がなされる具体的な状況を説明できる。	
		事前学修	教科書189-191（効力制限）、教科書174-186（間接侵害）を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	「グアニジノ安息香酸誘導体III上告審」平成10（受）153を読み、69条1項の理解を深める。	120分
5	/	特許権の存続期間	特許権及び延長特許権の期間の算出方法や延長の手続	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の始期及び周期を説明でき、さらに後発医薬品にかかる問題で69条1項との関係を説明できる。	
		事前学修	教科書118-122を事前に読んでおく。特許が延長される場合について理解する。	120分
		事後学修	「パシーフカプセル事件」（最高裁判所第1小法廷平成21年（行ヒ）第326号平成23年4月28日）を読み、講義の理解を深める。	120分
6	/	特許権侵害（１）	成立要件（技術的範囲の判断、均等論）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、68条及び70条の規定を説明しつつ、特許侵害の判断手法を説明し、さらに拡張的な例外（均等論）の内容及び要件を説明できる。	
		事前学修	教科書127-173を事前に読んでおく。特許侵害はどのように判断されるのか理解する。	120分
		事後学修	「ボールスプライン軸受」平成6(オ)1083を読み、均等の5要件の意味を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	特許権侵害（２）	民事的救済（差止請求権、損害賠償請求権）	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許侵害の場合に差し止め請求はどこまで認められるのか、損害賠償は、特許法上の規定を利用する場合、どの様に算出されるのか説明できる。	
		事前学修	教科書279-316を事前に読んでおく。損害賠償にかかる特別規程の内容を理解する。	120分
		事後学修	講義にて簡単な事例問題を提示するので、各自賠償額を計算する。	120分
8	/	権利の変動（１）	専用実施権／許諾による通常実施権	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、専用実施権／許諾による通常実施権の内容及び独禁法との境界線や問題点を説明できる。	
		事前学修	教科書193-207を事前に読んでおく。専用と通常の相違点を理解する。	120分
		事後学修	企業間の実施契約を非独占的なものであるため、この契約をする上で必要となる要素を考える。	120分
9	/	権利の変動（２）	法定通常実施権及び裁定通常実施権常実施権	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、すべての法定実施権、裁定による通常実施権を説明でき、また、強制実施権である裁定に関し、その制度存在の是非について説明できる。	
		事前学修	教科書207-218を事前に読んでおく。各実施権の内容を理解する。特に裁定の場合、実施権種類により判断主体が異なる点、その理由を含めて理解する。	120分
		事後学修	国家間で問題となっている国家による強制実施権について考える。	120分
10	/	権利の変動（３）	権利の移転／仮専用実施権及び仮通常実施権	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許を受ける権利に基づくライセンスについて、また、特許権取得後にはそれらがどのように法上で取り扱われるかについて説明できる。	
		事前学修	教科書P218（移転）、参考書②34条の2及び34条の3及びそれらの解説（仮実施権）を事前に読んでおく。	120分
		事後学修	仮実施権と実施権の相違、特許権成立後の仮実施権の取り扱いについて理解する。	120分
11	/	審判（１）	審判手続	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審判の種類及び共通する審判手続きの流れを説明できる。	
		事前学修	教科書P245-247を事前に読んでおく。審判手続きは、各種審判に共通する部分が多い。まず、本講義でおこなわれる一般的な審判の流れや共通する手続き、特定の審判にのみ用いられる手続きなどを理解する。	120分
		事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分
12	/	審判（２）	拒絶査定不服審判／前置審査	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判の手続き及び意義について説明でき、さらに審判請求時の補正による前置審査制度について説明できる。	
		事前学修	教科書P245-247を事前に読んでおく。拒絶査定不服審判請求時に補正を行う場合と行わない場合で、審判手続きに差異が生じる点を理解する	120分
		事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	審判（3）	特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判の手続き及び意義について説明できる。	
		事前学修	教科書P247-257を事前に読んでおく。類似手続きである訂正審判と訂正請求の相違を理解する。	120分
		事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分
14	/	訴訟	異議申立制度及び審決取消訴訟・その他の訴訟	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許事件に関し、司法で争う場合の手続きや主体要件など、当事者系と査定系に分けて説明できる。また、繰り返し改正される異議申し立て制度の内容及び改正理由（改正ごとに異なる趣旨）を説明できる。	
		事前学修	教科書P257-259（異議）及びP260-278（訴訟）を事前に読んでおく。異議制度と無効審判の相違を理解する。	120分
		事後学修	審決取消訴訟は、査定系と当事者系があるが、請求主体が異なると考えられているため、その点を参考書①を利用して理解を深める。	120分
15	/	実用新案登録制度	実用新案制度及び実用新案技術評価書 学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度の存在意義、特許法との相違、その相違から規定されることになった特殊な評価制度の意義を説明できる。	
		事前学修	教科書P317-324を事前に読んでおく。特に、権利行使に必要である技術評価書はどのようなものであるか理解する	120分
		事後学修	特許制度との相違を理解する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を習得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考	使用しない。（毎回、レジュメを配布する。）				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許クレームの作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	9/21	特許権の効力・制限（１）	特許権の存続期間について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の存続期間（特許法６６条、６７条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権の存続期間について復習し、特許法６６条、６７条の解釈について整理しておいてください。	120分
3	9/28	特許権の効力・制限（２）	特許権の効力と制限について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理しておいてください。	120分
4	10/5	特許権の効力・制限（３）	特許発明の技術的範囲について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許発明の技術的範囲について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理しておいてください。	120分
5	10/12	特許権の効力・制限（４）	権利の共有について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の共有について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、権利の共有（特許法７３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	権利の共有について復習し、特許法７３条の解釈について整理しておいてください。	120分
6	10/19	特許権の活用（１）	実施権（ライセンス）について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権（ライセンス）について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	実施権について復習し、特許法７７条、７８条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、法定実施権（特許法７９条）、裁定実施権（特許法８３条、９２条、９３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、特許法７９条、８３条、及び関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
8	11/9	まとめと授業内試験（１）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	11/16	特許権の侵害と救済（１）	特許権侵害の成立要件について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害の成立要件について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	11/23	特許権の侵害と救済（２）	特許権の間接侵害について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権の間接侵害（特許法１０１条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権の間接侵害について復習し、特許法１０１条の解釈について整理しておいてください。	120分
11	11/30	特許権の侵害と救済（３）	特許権侵害に対する救済について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済（差止請求、損害賠償請求等）について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済（特許法１００条、その他）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法１００条、その他関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	12/7	特許権の侵害と救済（４）	特許権侵害に対する刑事罰について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する刑事罰について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する刑事罰（１９６条、１９６条の２）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許権侵害に対する刑事罰について復習し、特許法１９６条、１９６条の２、その他関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	実用新案法（１）	実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について考えてきてください。	120分
		事後学修	実用新案権の保護対象、登録要件、登録手続き等について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	12/21	実用新案法（２）	実用新案権の侵害と救済について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の侵害と救済について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実用新案権の侵害と救済について考えてきてください。	120分
		事後学修	実用新案権の侵害と救済について復習し、関連する条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	1/18	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法B(意匠)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
魅力的な工業デザインは、今日の企業活動における重要な財産である。それらを保護する意匠法を中心に、商標法、及び、両法を補完する関係にある不正競争防止法にも目配りしながら、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
意匠法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 意匠制度をはじめとする知的財産法の法体系を理解し、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
意匠法に加えて商標法、不正競争防止法について理解を深めるために、知的財産法C(商標・不正競争防止) も併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式で行うが、一部、アクティブ・ラーニングとして、意匠権活用の事例を希望者に発表してもらう。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。試験の解説はポータルサイトで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	任意課題として、履修者が作成した意匠権活用の事例に関するレポートに基づき、講義時に発表し、教員がコメントする形式を試みる。レポート及び発表は成績評価に加味する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	意匠法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。				3	3	3	3	3			
②	意匠法及び関連知的財産法の概要に関する理解に基づいて、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができる。				3	3	3	3	3			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②に関して、筆記試験における記述内容により評価する。	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席の有無、及び、リアクションペーパーの記載内容において自己の見解が示されているかから評価する。	20	20									40
その他(任意のレポート及び発表)	アクティブ・ラーニングとして実施する意匠権の活用に関する任意のレポート及びそれをもとにした発表に関して加 点する。(20点分まで)											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時にリアクションペーパーにより寄せられる質問、コメントに対して、次回講義時に解説等を加える。期末試験を含む成績の講評を学期末にポータルサイトで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
意匠法	茶園成樹	有斐閣	2012年	教科書	必携
事例から学ぶ意匠制度活用ガイド（以下「ガイド」とする）	特許庁		2017年	教科書	必携
備考	『事例から学ぶ意匠制度活用ガイド』は履修者に配布を予定しています。				

【オフィスアワー】
月曜11時～12時、研究室(本館1718)にて。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	知的財産法の体系	知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明した上で、本講義で扱う対象について、概要と進め方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書(茶園)の1章1節「知的財産法と意匠法」、及び、参考書(土肥著作、序論)に目を通す。	120分
		事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、疑問点について自身で調べる。	120分
2	4/15	知的財産法における意匠法の位置づけ	前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特色を考察する。 「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特色を説明できる。「知財ミックス」の概念とその重要性について説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園)1章2節「意匠法の目的」、3節「意匠法の概要」、4節「他法による意匠の保護」、および、参考書(土肥著作3章1節)に目を通す。	120分
		事後学修	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧する。「知財ミックス」の事例について調べる。	120分
3	4/22	意匠法の沿革、意義	日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのかについて講義する。 意匠法が抱える今日的な問題点についても、概要を説明し、以降の各論への導入とする。	
		この回の到達目標	到達目標①及び②について、日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのか説明できる。意匠法が抱える今日的な問題点について概要を説明できる。	
		事前学修	前回の事前学習対象(教科書(茶園)の1章2～5節、及び、参考書(土肥著作3章1節))に再度目を通す。	60分
		事後学修	特許庁HP掲載書籍「意匠制度120年の歩み」に目を通し、講義内容について理解を深める。興味をひかれた意匠登録事例について調べてみる。	180分
4	4/29	意匠法上の意匠	意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて講義する。近時、保護のニーズが指摘されて法改正により保護が始まった、技術革新により生まれた意匠についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて説明できる。近時、保護のニーズが指摘されて法改正により保護が始まった、技術革新により生まれた意匠についても説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園)2章「意匠の概念」、及び、参考書(土肥著作3章2節)に目を通す。	120分
		事後学修	講義内容について特許庁HP(特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いか、考えてみる。	120分
5	5/6	意匠の登録要件	前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業上利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業上利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園)4章「意匠登録要件」、及び、参考書(土肥著作3章3節1～2)に目を通す。	120分
		事後学修	講義内容について特許庁HP(特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いか、考えてみる。	120分
6	5/13	意匠権に係る手続き(含む国際条約)	前回までで学んだ要件を満たす意匠について、特許庁に登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ解説する。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願も説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、特許庁に意匠登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ説明できる。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願について理解する。	
		事前学修	教科書(茶園)6章「意匠登録出願手続き」、1章5節「意匠に関する国際条約」、及び、参考書(土肥著作3章3節3、7章5節)に目を通す。	120分
		事後学修	特許庁HP掲載の「出願の手続」第四章「意匠登録出願の手続」の概要を把握する。国際登録出願についても、特許庁の関連サイトを閲覧しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	特別な意匠登録制度（１） 秘密意匠、組物の意匠等	ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 7 章 3 節「組物の意匠制度」、4 節「秘密意匠制度」、及び、参考書(土肥著作 3 章 3 節 7、8)に目を通す。	120分
		事後学修	特許庁H P 掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。秘密意匠、組み物の意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。	120分
8	5/27	特別な意匠登録制度（２） 部分意匠、関連意匠等	ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 7 章 1 節「部分意匠制度」、2 節「関連意匠制度」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節 3、3 節 9)に目を通す。	120分
		事後学修	特許庁H P 掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。部分意匠、関連意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。	120分
9	6/3	意匠権	前回講義した手続きを経て登録される意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 9 章「意匠権」に目を通し、意匠権の排他的効力のあらましについて理解する。	120分
		事後学修	配布資料及び教科書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の時間的、空間的な効力について整理してみる。	120分
10	6/10	意匠権の制限	前回講義した意匠権の効力を想起しながら、その制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、意匠権の制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 1 0 章 4 節「侵害主張に対する防御手段」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節 8)に目を通す。	120分
		事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の効力が制限される場面、および、その必要性について自身で説明してみる。	120分
11	6/17	意匠権の類似の判断と侵害	意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて検討する。意匠権侵害の類型にも触れる。	
		この回の到達目標	到達目標①について、意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて説明できる。意匠権侵害の類型を説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 5 章「意匠の類似」、1 0 章 1 節「直接侵害」、2 節「間接侵害」、3 節「他の権利との利用・抵触関係」に目を通す。	120分
		事後学修	『判例百選』に掲載されている類似が判断された事案に関する記事を読み、より具体的に調べてみる。	120分
12	6/24	意匠権の侵害に対する救済（１）民事	権利侵害に対してとりえる民事的な措置(差止請求、損害賠償請求等)について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、権利侵害に対してとりえる民事的な措置(差止請求、損害賠償請求等)について説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 1 0 章 5 節「侵害に対する救済」に目を通す。	120分
		事後学修	講義で紹介された事例について、より具体的に調べる。知的財産高等裁判所H P を閲覧して、裁判所の機能や知財関連の民事事件の傾向を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	意匠権の侵害に対する救済 (2) 行政：水際措置、刑事	意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて説明できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 1 0 章 5 節「侵害に対する救済」に再度目を通す。	60分
		事後学修	講義で紹介された税関、警察庁のHPを自身でも閲覧して、国内や水際における知的財産侵害物品の規制の仕組みと、近時の傾向を理解する。輸出入差止を申し立てている企業の具体的な事例について調べてみる。	180分
14	7/8	意匠権の活用	意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて講義する。各企業におけるそれら活用の事例も可能な限り紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて説明できる。各企業におけるそれら活用の事例を紹介できる。	
		事前学修	教科書(茶園) 1 1 章「意匠権の利用」に目を通す。	120分
		事後学修	配布資料及び『ガイド』、参考書に基づいて講義内容を復習する。 『特許行政年次報告書』における意匠権の変動(譲渡、ライセンス等)に関する記事及び統計を確認する。	120分
15	7/15	講義のまとめ	これまでの講義を総括し、定期試験に向けて要点を確認する。	
		この回の到達目標	これまでの講義を総括し、定期試験に向けて要点を確認する。	
		事前学修	前回までの配布資料を見返す。	120分
		事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習して定期試験への準備をする。	120分

科目名	知的財産法C(商標・不正競争)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
自社ブランドを体現する商標の保護に係る商標法や、競業者による不正な競争行為を封じることのできる不正競争防止法は、今日の企業活動における重要な法領域であり、とりわけ、ブランドの形成と維持においてこれら標識法の果たす役割は大きい。これらの法の概要と、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 知的財産法の体系を理解し、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
商標法、不正競争防止法に加えて意匠法についても理解を深めるために、知的財産法B(意匠法) も併せて履修することが望ましい。

【授業方法】		
基本的に講義形式で行うが、アクティブ・ラーニングとして、履修者による任意のレポート作成及び発表も行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。試験の解説はポータルサイトで行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	任意課題として、履修者が標識の保護の活用事例について作成したレポートに基づいて講義で発表し、教員がコメントする形式を試みる。レポート及び発表は成績評価に加味する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商標法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。				3	3	3	3	3			
②	不正競争防止法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。				3	3	3	3	3			
③	商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要に関する理解に基づいて、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができる。				3	3	3	3	3			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②及び③に関して、筆記試験における記述内容により評価する	40	20									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席の有無、及び、リアクションペーパーの記載内容において自己の見解が示されているかから評価する。	20	20									40
その他(任意のレポート及び発表)	アクティブ・ラーニングとして実施する意匠権の活用に関する任意のレポート及びそれをもとにした発表に関して加 点する。(20点分まで)											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時のリアクションペーパーにおける質問やコメントに対して、次回講義時に解説する。定期試験を含む講義の講評を、学期末にポータル サイトにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産法入門 第16版	土肥一史	中央経済社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜11時～12時、研究室(本館1718)にて。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。 kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産関連シンクタンク勤務時の国内外の調査研究を含めた制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	知的財産法の体系	知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明したうえで、2つの法律を扱う本講義の概要と進め方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②について、知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書(序論)に目を通す。	60分
		事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HP(特に『事例から学ぶ 商標活用ガイド』)の内容、及び、商標制度を紹介する動画を自身で閲覧し、疑問点を自身で調べてみる。	180分
2	9/23	知的財産法における商標法、不正競争防止法の位置づけ	前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中で標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを考察する。「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②について、標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを説明できる。「知財ミックス」の概念とその重要性について説明できる。	
		事前学修	教科書(序論)に再度目を通し、商標法及び不正競争防止法の特徴を書き出しておく。	60分
		事後学修	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、講義内容と照合する。「知財ミックス」の事例について調べる。	180分
3	9/30	商標法の沿革と意義	現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも想起しながら講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも含めて説明できる。	
		事前学修	教科書(2章1節「商標の沿革」)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	講義で紹介した特許庁HP掲載の資料を閲覧して、興味をひかれた歴史的事実や事例について調べてみる。	120分
4	10/7	商標の機能、商標法上の商標(商標法上の商品・役務、商標の使用概念)	現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて説明できる。	
		事前学修	教科書(2章2～5節)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	講義内容を踏まえて、一般にいわれる商標と商標法上の商標とはどのように異なるのか、自身で説明してみる。非伝統的な商標の保護に関する特許庁HP掲載の動画を視聴する。J-Platpatにおいて様々な商標について検索してみる。	120分
5	10/14	商標の登録要件	商標登録に当たっては、商標法上の商標であるだけでなく、商標法上の数々の登録要件を満たすことも求められる。それらの要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、商標法上の数々の登録要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら説明できる。	
		事前学修	教科書(2章6節「商標の登録要件」)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	講義で紹介した特許庁HP掲載動画、および、商標審査基準を自身で閲覧して、どのような商標が登録可能なのか、具体例を挙げて説明してみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べる。	120分
6	10/21	商標権に係る手続き(含むマドリッド協定及びマドリッド協定附属議定書)	前回までに学んだ要件を満たす商標について、特許庁に登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら解説する。グローバルな事業展開に必須である、マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きも学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①について、特許庁に商標登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら説明できる。マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きを理解する。	
		事前学修	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」に目を通す。教科書(7章4節「商標に関する国際条約」)に目を通す。	120分
		事後学修	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」、及び、「国際出願」の「マドリッド協定議定書…」に目を通す。仮に自身がある標章を用いて事業を展開するとして、どのような標章についてどのような措置を講ずるか、説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	商標権	前回講義した手続きを経て登録できる商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①について、商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら説明できる。	
		事前学修	教科書(2章10節「商標権」)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	教科書を再読して、商標権の時間的、空間的な効力について整理しておく。	120分
8	11/11	商標権の制限(実施権の設定を含む)と活用	前回講義した商標権の効力を念頭に置きながら、その制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面について解説し、それら制限の意義を検討する。さらに、譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①及び③について、商標権の効力の制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面と、それらを設ける意義を説明できる。商標権の譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について説明できる。	
		事前学修	教科書(2章10節2～11、7節「団体商標制度と地域団体商標制度」)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	特許庁HP掲載の『特許行政年次報告書』で商標権の変動に関する統計・解説を読む。特許庁HP「事例から学ぶ 商標活用ガイド」で紹介している事例に目を通す。特許庁HP「地域団体商標について」に目を通し、特許庁HP掲載の地域団体商標制度を紹介する動画を視聴する。	120分
9	11/18	不正競争防止法の目的、沿革	明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯をもとに、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを概観する。さらに、日本の不正競争防止法の特色について、諸外国との比較や、他の法領域との関係の整理を通じて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯、及び、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを説明できる。日本の不正競争防止法の特色について、諸外国との比較や、他の法領域との関係を整理して説明できる。	
		事前学修	教科書(1章1節「不正競争防止法の歴史」、2節「不正競争防止法の目的」)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	経済産業省HPの「政策について」>「不正競争防止法」の掲載内容を把握しておく。	120分
10	11/25	不正競争行為の類型(1)商品・営業主体混同行為、著名商品等表示の無断使用行為(冒用行為)、商品形態の隸属的模倣行為	不正競争防止法が規制する不正競争行為の中でも、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、不正競争防止法が規制する不正競争行為のうち、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて説明できる。	
		事前学修	教科書(1章3節「不正競争行為の種類」)の1～3に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」掲載の解説資料において、3類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。	120分
11	12/2	不正競争行為の類型(2)営業秘密及び限定提供データに係る不正競争行為	技術情報から営業情報までを含む営業秘密、さらに有用な情報(限定提供データ)に関する不正競争行為は、度々の法改正を通じて厳しく規制されている。それら規制の背景と留意事項を確認し、行為類型別に規制の在り方を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、営業秘密及び限定提供データに関する不正競争行為の背景と留意事項、行為類型別の規制の在り方について説明できる。	
		事前学修	教科書(1章3節4「営業秘密に関する不正競争行為」、5「限定提供データに関する不正競争行為」)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」の営業秘密、限定提供データに関する記事を読む。講義で紹介した判例について調べる。仮に自分が所属する営業主体において、営業秘密や有用な情報の保護に関する措置を採る立場に置かれた場合にどうするか、説明してみる。	120分
12	12/9	不正競争行為の類型(3)技術的制限手段無効化装置等の提供行為、ドメイン名にかかる不正行為、品質等誤認惹起行為、信用毀損行為、代理人等の商標無断使用行為	古典的といえるものから技術革新を通じて規制対象に加わったものまで、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を踏まえて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標②について、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を含めて説明できる。	
		事前学修	教科書(1章3節6～10)に目を通し、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」の上記類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	不正競争防止法の適用除外、商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済（１）民事	不正競争行為に対する適用除外の類型を整理した上で、これまで学んだ2つの法律規定に反する行為に直面した権利者がどのような措置を講ずることが可能か、権利者が権利行使をしやすいよう配慮されているか、まず民事的措置から解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①ないし③について、不正競争行為に対する適用除外の類型、商標法及び不競法の規定に反する行為に直面した権利者が講じることのできる民事的な措置について説明できる。	
		事前学修	教科書（１章7節「適用除外」、４節「不正競争行為に対する救済」）に目を通い、不明な点を調べる。	120分
		事後学修	知的財産高等裁判所のHPを閲覧して、裁判所の機能や知的財産に関する民事事件の傾向を把握する。講義で紹介された事例についてさらに調べる。	120分
14	12/23	商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済（２）行政、刑事	知的財産侵害物品を規制する、税関による水際措置、及び、刑事手続きの概要と利用の現状について、権利者が利用可能な水際の輸出入差止申立てを含めて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①ないし③について、水際の輸出入差止申立てを含む税関による水際措置、及び、刑事手続きについて、概要と利用の現状を説明できる。	
		事前学修	教科書（１章８節）に目を通し、不明な点を調べる。税関HP＞知的財産侵害物品の取締り、警察庁HP＞内部部局から＞生活安全局 を閲覧する。	120分
		事後学修	講義で触れた税関、警察庁HPの関連ページを閲覧する。さらに、これまでに学んだ不正競争行為と並んで不正競争防止法が規制している外国・政府間国際機関の紋章等の使用制限、及び、外国公務員等に対する不正利益供与等の禁止に関して、教科書（１章５、６節）に目を通しておく。	120分
15	1/13	講義のまとめ	これまでの講義内容を概観し、定期試験に向けて要点を確認する。	
		この回の到達目標	これまでの講義内容を概観し、定期試験に向けて要点を確認する。	
		事前学修	教科書及びこれまでの資料類を整理し、見返しておく。	120分
		事後学修	配付資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習して、定期試験への準備をする。	120分

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	藤田 晶子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な不可欠な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。

【授業方法】
パワーポイントを使用して講義を進め、毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。定期試験の解説を後日解説する。基本的に講義形式であるが、受講生も積極的に手を挙げて発言してほしい。、試験問題解答のフィードバックは、後日答案構成を解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドにより、積極的な発言を促す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を，後日，発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名	有斐閣	2019	教科書	必携
標準 著作権法 第4版	高林龍	有斐閣	2019	教科書	推奨
「著作権法 第4版」	中山信弘	有斐閣	2019	参考書	任意
復習レジュメ	藤田 晶子		2020	その他	推奨
備考	各回復習レジュメをアップする。				

【オフィスアワー】
火曜日 16：30pm～17：30pm 研究室にて 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士，財務省専門委員（知的財産），特許庁工業所有権審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	著作権法制の概要	オリエンテーション，我が国の知的財産法および著作権法制の概要	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法および著作権法の概要について説明できる。	
		事前学修	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
2	/	著作物性（1）書体，キャラクター	「著作物」とは何か。裁判例は最判平12.9.7（書体），最判平9.7.17（キャラクター）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「著作物」とは何か，様々なバリエーションや論点があることを理解する。書体やキャラクターに関する判例を通じて「著作物」の本質を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
3	/	著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物	「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。裁判例は仙台高判平14.7.9（フェアビー人形），東京地判平12.3.23（色見本帳），東京地判平12.3.17（データベース）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
4	/	著作物（3）「二次的著作物」，「共同著作物」	「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か。裁判例は知高判平18.9.26（考古学研究事典），最判平13.10.25（キャンディ・キャンディ）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か，両者の特徴，相違点をなどを理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
5	/	「著作者」	「著作者」とは何か。映画の著作物の「著作者」はどのようなものか。裁判例は最判平5.3.30（智恵子抄），東京地判平10.10.29（雑誌のインタビュー記事）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、様々な事件の著作権の帰属主体に関する認定や、映画の著作物の場合の特殊性を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
6	/	「職務著作」	「職務著作」とは何か，裁判例は最判平15.4.11（RGBアドベンチャー），知高判平18.10.19（計装士学会）等 を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「職務著作」と条文，具体的論点についての解釈を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	著作権・「複製権」	「複製」とは何か、翻案との違い。裁判例は東京高判平14. 2. 18（雪月花），最判昭53. 9. 7（ワシ・レイニー・ナイト・イン・トーキョー）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「複製」とは何か、複製の要件、翻案との違い等を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
8	/	「翻案権」・二次的著作物の原著作者の権利	「翻案」とは何か。裁判例は最判平13. 6. 28（江差追分），東京高判平14. 9. 6（記念樹）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「翻案」とは何か、判例の規範や二次的著作物の原著作者との関係を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
9	/	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権	複製権、翻案権以外の権利の内容。裁判例は東京高判平17. 3. 3（2ちゃんねる），最判平14. 4. 25（中古ソフト）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権・翻案権以外の「支分権の束」と具体的判例を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
10	/	著作権の「制限」	私的複製，引用等の著作権の「制限」。裁判例は東京高判昭60. 10. 17（藤田嗣治），東京地判平9. 9. 5（ダリ）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法律上設けられている著作権の「制限」規定，論点，判例等を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
11	/	権利譲渡・利用許諾	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，電子書籍関連。裁判例は知高判平20. 3. 27（VonDutch）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件，出版権設定行為等を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
12	/	「著作者人格権」，「著作隣接権」	著作者人格権の内容・条文。裁判例は東京地判平12. 2. 29（中田英寿），大阪地判平17. 1. 17（セキスイツーユーホーム）等を検討する。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文，論点を理解する。著作隣接権とは何かを理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」	各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。裁判例は東京高判平成17.3.31（P2Pファイル交換），最判平23.1.18（まねきＴＶ）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、保護期間，著作権侵害に基づく差止請求の構成や判例法理を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
14	/	侵害と救済（２）損害賠償請求，みなし侵害等	著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。裁判例は最判平13.3.2（ビデオメイツ），東京地判平13.5.16（東京リーガルマインド）等を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権侵害に基づく損害賠償請求の算定方法，論点・解釈等を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
15	/	刑事罰，国際関係	著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，裁判例は実際の刑事事件を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法の罰則規定の理解，国際関係の論点を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	齋藤 崇	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか，実に種類豊富，多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため，前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために，著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして，著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い，と実感してほしい。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
授業は，資料を配布し講義形式にて行う。また，授業内容に対する定着度の確認や，質問や要望等に応えるため，授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	著作権法に関する諸問題についての問いかけを行い，各自検討してみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説について、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、講義資料を配布する。なお、文献については、必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の5時限目（16：20～17：50）に設定する。（なお、事前にアポイントメントがあると、対応がしやすい。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 4/6	著作権法の総論	著作権法のガイダンス、および、知的財産法のなかにおける著作権法の位置づけについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、著作権法がどのような法律なのか、また、ほかの知的財産法との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	新聞やインターネットなどを用いて、著作権に関する話題について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作権法の概要および知的財産法のなかにおける位置づけについて、まとめておく。	120分
2	第二部月 4/13	著作物の概要	著作権法の重要な概念である著作物について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権法が保護対象とする著作物の概念について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権法が保護対象とする著作物について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作物の概念について、まとめておく。	120分
3	第二部月 4/20	著作物の例示	著作権法上に例示されている著作物について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権法上に例示されている著作物について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義内容および講義資料を確認して、著作権法上の著作物の例示について、まとめておく。	120分
4	第二部月 4/27	編集著作物、データベースの著作物、応用美術	編集著作物およびデータベースの著作物、応用美術と著作権法の関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、編集著作物およびデータベースの著作物の概要、応用美術と著作権法の関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、編集著作物およびデータベースの著作物の概要、応用美術と著作権法の関係について、まとめておく。	120分
5	第二部月 5/4	二次的著作物、共同著作物	二次的著作物および共同著作物の概要について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、二次的著作物および共同著作物の概要について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、二次的著作物および共同著作物の概要について、まとめておく。	120分
6	第二部月 5/11	著作者と著作権者	著作者の概要および著作権者との違いについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作者となることができる者および著作権者との違いについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作者の概要および著作権者との違いについて、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 5/18	職務著作制度	職務著作制度の概要や特徴について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、創作者主義の例外に該当する職務著作制度について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念および著作者となることができる者について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、創作者主義の例外に該当する職務著作制度について、まとめておく。	120分
8	第二部月 5/25	映画の著作物の著作者と著作権者	通常の著作物の著作者とは異なる扱いがされている、映画の著作物の著作者と著作権者について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、通常の著作物の著作者とは異なる扱いがされている、映画の著作物の著作者と著作権者について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念、映画の著作物および著作者となることができる者について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、映画の著作物の著作者と著作権者の扱いについて、まとめておく。	120分
9	第二部月 6/1	著作権の概要	「著作権」という権利の発生の仕方やその性質等の概要について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「著作権」という権利の発生の仕方やその性質等の概要について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物および著作者の概念について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、「著作権」という権利の発生の仕方やその性質等の概要について、まとめておく。	120分
10	第二部月 6/8	複製権	「著作権」の中核となる複製権や複製の意味について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「著作権」の中核となる複製権や複製の意味について、理解し説明することができる。	
		事前学修	日常的に行われる、著作物を複製（コピー）することとは、どういうことを意味するのか、について、調べておき、著作権法上の複製について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、「著作権」の中核となる複製権や複製の意味について、まとめておく。	120分
11	第二部月 6/15	翻案権等、二次的著作物の原作者の権利	二次的著作物に関する権利である、翻案権等や翻案等の意味および二次的著作物の原作者の権利について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二次的著作物に関する権利である、翻案権等や翻案等の意味および二次的著作物の原作者の権利について、理解し説明することができる。	
		事前学修	二次的著作物を創作するとはどういうことを意味するのか、について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、二次的著作物に関する権利である、翻案権等や翻案等の意味および二次的著作物の原作者の権利について、まとめておく。	120分
12	第二部月 6/22	上演権・演奏権、公衆送信権、頒布権等	上演権・演奏権、公衆送信権、頒布権等の意味について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、上演権・演奏権、公衆送信権、頒布権等の支分権や当該諸行為の意味について、理解し説明することができる。	
		事前学修	JASRACや違法アップロードなどに関係する事例について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、上演権・演奏権、公衆送信権、頒布権等の支分権や当該諸行為の意味について、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 6/29	著作権者人格権の概要、公表権、氏名表示権	「著作権」とは異なる著作者人格権という権利の性質等の概要、および、公表権や氏名表示権の意味について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「著作権」とは異なる著作者人格権の性質等の概要、および、公表権や氏名表示権の意味について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物および著作者の概念について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作者人格権という権利の性質等の概要、および、公表権や氏名表示権の意味について、まとめる。	120分
14	第二部月 7/6	同一性保持権、著作者の死後の人格的利益の保護	著作者人格権の中核となる同一性保持権という権利の概要、および、著作者の死後の人格的利益の保護の意味について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権の中核となる同一性保持権という権利の概要、および、著作者の死後も人格的利益が保護されることに意味について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作物の概念および著作者人格権の性質等について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作者人格権の中核となる同一性保持権という権利の概要、および、著作者の死後の人格的利益の保護の意味について、まとめる。	120分
15	第二部月 7/13	授業内試験	前期で扱った内容について、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で扱った内容について、授業内試験を行い、知識の定着度を確認する。	
		事前学修	前期で扱った内容について、講義内容および講義資料を確認して、まとめる。	120分
		事後学修	授業内試験の内容を踏まえて、前期で扱った内容を復習しておく。	120分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。

【授業方法】
後期は毎回、初見の演習問題を配付する。パワーポイントを使用して講義を進め、毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。基本的に講義形式であるが、受講生にも積極的発言を促す。、試験問題解答のフィードバックは、後日答案構成を解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドにより、積極的な発言を促す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明するだけでなく、問題の解決能力を養うことができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名	有斐閣	2019	教科書	必携
標準 著作権法 第4版	高林龍	有斐閣	2016	教科書	推奨
「著作権法 第4版」	中山信弘	有斐閣	2014	参考書	任意
復習レジュメ	藤田 晶子		2020	その他	推奨
備考	各回復習レジュメをアップする。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 研究室にて 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士，財務省専門委員（知的財産），特許庁工業所有権審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	著作権法制の概要	オリエンテーション，我が国の知的財産法および著作権法制の概要	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、著作権法制の概要，著作権法制全体の概要，条文構造を説明できる。	
		事前学修	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
2	/	著作物性（1）書体，キャラクター	「著作物」に関する知識の確認と演習問題の分析をする。「著作物」とは何か，判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法上の客体としての「著作物」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
3	/	著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物	「応用美術」，「編集著作物」，「データベースの著作物」に関する知識の確認と演習問題の分析をする。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
4	/	著作物（3）「二次的著作物」，「共同著作物」	「二次的著作物」，「共同著作物」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二次的著作物，共同著作物に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
5	/	「著作者」	「著作者」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「著作者」とは何か。映画の著作物の「著作者」はどのようなものか。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の帰属主体に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
6	/	「職務著作」	「職務著作」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「職務著作」とは何か，判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「職務著作」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	著作権・「複製権」	「複製権」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「複製」とは何か、翻案との違い。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「複製」に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
8	/	「翻案権」・二次的著作物の原作者の権利	「翻案権」・二次的著作物の原作者の権利に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「翻案」とは何か。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「翻案」、二次的著作物の原作者との関係に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
9	/	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権	公衆送信権・上演権・頒布権・出版権等の支分権に関する知識の確認及び演習問題を検討する。複製権、翻案権以外の権利の内容。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権・翻案権以外の支分権に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
10	/	著作権の「制限」	著作権の「制限」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。私的複製、引用等の著作権の「制限」。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法律上設けられている著作権の「制限」に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
11	/	権利譲渡・利用許諾	著作権のライセンス契約の解釈、譲渡契約の解釈、登録と対抗要件に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作権のライセンス契約の解釈、譲渡契約の解釈、登録と対抗要件、電子書籍関連。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権のライセンス契約の実務、登録と対抗要件に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
12	/	「著作者人格権」，「著作隣接権」	「著作者人格権」，「著作隣接権」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作者人格権の内容・条文。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，間接侵害に関する知識の確認及び演習問題を検討する。各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，保護期間，著作権侵害に基づく差止請求に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
14	/	侵害と救済（２）損害賠償請求，みなし侵害等	損害賠償請求，みなし侵害等に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，著作権侵害に基づく損害賠償請求に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
15	/	刑事罰，国際関係	刑事罰，国際関係に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，判例知識を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，著作権法の罰則規定の理解，国際関係に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	齋藤 崇	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富，多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため，前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために，著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして，著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い，と実感してほしい。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
授業は，資料を配布し講義形式にて行う。また，授業内容に対する定着度の確認や，質問や要望等に応えるため，授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	著作権法に関する諸問題についての問いかけを行い，各自検討してみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し，わかりやすく説明するだけでなく，問題の解決能力を養うことができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説について、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、講義資料を配布する。なお、文献については、必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の5時限目（16：20～17：50）に設定する。（なお、事前にアポイントメントがあると、対応がしやすい。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部月 9/14	著作権法の総論	著作権法のガイダンス、および、知的財産法のなかにおける著作権法の位置づけについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、著作権法がどのような法律なのか、また、ほかの知的財産法との関係について、理解し説明することができる。	
		事前学修	新聞やインターネットなどを用いて、著作権に関する話題について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作権法の概要および知的財産法のなかにおける位置づけについて、まとめておく。	120分
2	第二部月 9/21	著作権の制限規定の概要、私的使用のための複製、非営利のための上演等	著作権の制限規定の概要、および、その個別的な制限規定の概要について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に規定されている、著作権の制限規定の意味およびその個別的な制限規定の内容について、理解し説明することができる。	
		事前学修	普段何気なく行っている複製（コピー）などは、著作権法上、なぜ行うことができるのか、について、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作権の制限規定の概要、および、その個別的な制限規定の概要について、まとめておく。	120分
3	第二部月 9/28	引用	著作権の制限規定のうち、最も重要な引用の概念について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法の制限規定のうち、最も重要な引用の概念について、理解し説明することができる。	
		事前学修	レポート作成や卒業論文執筆などにおいて行う引用の方法について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、引用の概念について、まとめておく。	120分
4	第二部月 10/5	著作隣接権の概要	「著作権」とは異なる権利である、著作隣接権という権利の性質等や「著作権」との違いについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、これまでの「著作権」とは異なる著作隣接権という権利について、理解し説明することができる。	
		事前学修	「著作権」という権利の概要について、講義資料を確認し、著作隣接権との違いについて、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作隣接権の概要について、まとめておく。	120分
5	第二部月 10/12	実演家の権利、レコード製作者の権利、放送事業者の権利、有線放送事業者の権利	著作隣接権の個別的な権利や権利者に関して、「著作権」と比較しながらその違いについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作隣接権として規定されている、実演家の権利、レコード製作者の権利、放送事業者の権利および有線放送事業者の権利の概要について、理解し説明することができる。	
		事前学修	「著作権」の概要と著作隣接権の概要について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作隣接権の個別的な権利や権利者について、まとめておく。	120分
6	第二部月 10/19	著作権の譲渡	著作権の譲渡に関する契約の特徴について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作権の譲渡に関する契約の特徴について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権やほかの知的財産権の性質等について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作権の譲渡に関する契約の特徴について、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部月 10/26	著作物の利用許諾	著作物の利用許諾に関する契約の特徴について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作物の利用許諾に関する契約の特徴について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権のほかの知的財産権の性質等について、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作物の利用許諾に関する契約について、まとめておく。	120分
8	第二部月 11/9	出版権	著作物の出版や公衆送信に関する権利である、出版権の概要について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作物の出版や公衆送信に関する権利である、出版権の概要について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権やほかの知的財産権の性質等について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、出版権の概要について、まとめておく。	120分
9	第二部月 11/16	著作物の保護期間	著作物の保護期間（著作権の存続期間）の特徴について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作権とほかの知的財産権の存続期間の違いや、特殊な状況下における著作物の保護期間について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権法以外のほかの知的財産権の存続期間などについて、調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作物の保護期間（著作権の存続期間）の特徴について、まとめておく。	120分
10	第二部月 11/23	著作権侵害の認定	著作権侵害の認定について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作権侵害と判断される基準について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権侵害と判断されるのはどういう場合なのかについて、考えておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作権侵害と判断される基準について、まとめておく。	120分
11	第二部月 11/30	みなし侵害	著作権侵害を直接していない場合であっても、著作権侵害とみなされる行為について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権侵害を直接していない場合であっても、著作権侵害とみなされる行為について、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権侵害の認定について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、著作権侵害とみなされる行為について、まとめておく。	120分
12	第二部月 12/7	侵害主体	著作権侵害における直接侵害と間接侵害の主体の違いについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権侵害における直接侵害と間接侵害の主体の違いについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権侵害の認定について、講義資料を確認しておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して、直接侵害と間接侵害の違いについて、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部月 12/14	侵害と救済	著作権侵害における差止請求権，損害賠償請求権，名誉回復等措置請求権などの救済手段について，学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，著作権侵害における差止請求権，損害賠償請求権，名誉回復等措置請求権などの救済手段について，理解し説明することができる。	
		事前学修	著作権侵害が生じた場合，どのような法的措置による救済手段があるのかについて，調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して，著作権侵害における救済手段について，まとめておく。	120分
14	第二部月 12/21	著作権侵害の刑事罰	著作権法に規定されている罰則規定について，学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して，著作権侵害罪において科される刑事罰の概要について，理解し説明することができる。	
		事前学修	新聞やインターネットなどを用いて，著作権侵害事件において刑事罰が科された事例について，調べておく。	120分
		事後学修	講義資料を確認して，著作権法に規定されている罰則規定について，まとめておく。	120分
15	第二部月 1/18	授業内試験	後期で扱った内容について，授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，後期で扱った内容について，授業内試験を行い，知識の定着度を確認する。	
		事前学修	後期で扱った内容について，講義内容および講義資料を確認して，まとめておく。	120分
		事後学修	授業内試験の内容を踏まえて，後期で扱った内容を復習しておく。	120分

科目名	知的財産法E(関連条約) I	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、パリ条約について講義し、また、知的財産法の各論として、特許法に関する条約、意匠法に関する条約について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産法に関する条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（パリ条約）のほか、特許法に関する条約、意匠法に関する国際条約の主要な論点を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	知的財産関連条約の意義及び特質を説明することができる。		3		3				
②	国際出願にはどのような手続きが必要であるかを説明することができる。		3		3	3			
③	知的財産条約に関する主要な論点について説明することができる。				3	3			
④	知的財産条約をめぐる諸問題について自分の意見を述べることができる。。		3		3	3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④について、知的財産条約に関する基礎的な制度や問題点などを理解しているか、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業において、必要に応じて、質問を行い、質問に対する自己の考えを提出させて、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産関係条約基本解説	奥田百子	法学書院	2017	教科書	任意
知的財産関係条約	茶園成樹	有斐閣	2015	教科書	任意
備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	4/14	W I P O 設立条約	W I P O 設立条約の概要について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、W I P O 設立条約の概要について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、W I P O 設立条約の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	W I P O 設立条約の概要について復習し、W I P O の目的（W I P O 設立条約 3 条）、任務（W I P O 設立条約 4 条）などについて整理しておいてください。	120分
3	4/21	パリ条約（1）	パリ条約における「内国民待遇の原則」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、パリ条約の「内国民待遇の原則」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「内国民待遇の原則」（パリ条約 2 条、3 条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	パリ条約の「内国民待遇の原則」について復習し、パリ条約第 2 条、第 3 条の解釈について整理しておいてください。	120分
4	4/28	パリ条約（2）	パリ条約における「優先権制度」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の「優先権制度」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「優先権制度」（パリ条約 4 条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	パリ条約の「優先権制度」について復習し、パリ条約 4 条の解釈について整理しておいてください。	120分
5	5/5	パリ条約（3）	パリ条約における「各国独立の原則」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の「各国独立の原則」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「各国独立の原則」（パリ条約第 4 条の 2、第 6 条 3 項）について考えてきてください。	120分
		事後学修	パリ条約の「各国独立の原則」について復習し、パリ条約第 4 条の 2、第 6 条 3 項の解釈について整理しておいてください。	120分
6	5/12	パリ条約（4）	パリ条約における「不実施・不使用」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約における「不実施・不使用」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約における「不実施・不使用」（パリ条約 5 条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	パリ条約における「不実施・不使用」について復習し、パリ条約 5 条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	パリ条約（５）	パリ条約における「各論」（特許・意匠・商標など）について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の各論（特許、意匠、商標など）について理解すること、	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の各論（特許、意匠、商標など、パリ条約５条の２以降）について考えてきてください。	120分
		事後学修	パリ条約の各論（特許、意匠、商標など、パリ条約５条の２以降）について整理しておいてください。	120分
8	5/26	まとめと授業内試験（１）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	6/2	特許に関する条約（１）	特許協力条約における「国際出願・国際公開」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許協力条約における「国際出願・国際公開」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国際出願・国際公開」（ＰＣＴ第３条、第２１条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許協力条約における「国際出願・国際公開」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	6/9	特許に関する条約（２）	特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」（ＰＣＴ第１５条、第３３条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
11	6/16	特許に関する条約（３）	特許協力条約における「国内段階」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許協力条約における「国内段階」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国内段階」（ＰＣＴ第２２条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	特許協力条約における「国内段階」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	6/23	意匠に関する条約（１）	ハーグ協定における「国際出願・国際登録」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「国際出願」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「国際出願」（ハーグ協定３条～９条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	ハーグ協定における「国際出願」について復習し、ハーグ協定３条～９条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	意匠に関する条約（２）	ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「国際登録・国際公開」（ハーグ協定１０条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	7/7	意匠に関する条約（３）	ハーグ協定における「拒絶の通報」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「拒絶の通報」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「拒絶の通報」（ハーグ協定１２条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	ハーグ協定における「拒絶の通報」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	7/14	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法E(関連条約)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、TRIPS協定について講義し、また、知的財産法の各論として、商標法に関する条約、著作権法に関する条約について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産法に関する条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（TRIPS協定）のほか、商標法に関する条約、著作権法に関する国際条約の主要な論点を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	知的財産関連条約の意義及び特質を説明することができる。		3		3				
②	国際出願にはどのような手続きが必要であるかを説明することができる。		3		3	3			
③	知的財産条約に関する主要な論点について説明することができる。				3	3			
④	知的財産条約をめぐる諸問題について自分の意見を述べるすることができる。		3		3	3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、知的財産条約に関する基礎的な制度や問題点などを理解しているか、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業において、必要に応じて、質問を行い、質問に対する自己の考えを提出させて、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産関係条約基本解説	奥田百子	法学書院	2017	参考書	推奨
知的財産関係条約	茶園成樹	有斐閣	2015	参考書	任意
備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
		事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
		事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	9/22	商標に関する条約（１）	マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について考えてきてください。	120分
		事後学修	マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
3	9/29	商標に関する条約（２）	マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について考えてきてください。	120分
		事後学修	マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
4	10/6	商標に関する条約（３）	マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について考えてきてください。	120分
		事後学修	マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
5	10/13	著作権法に関する条約（１）	ベルヌ条約の概要について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ベルヌ条約について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ベルヌ条約の論点について考えてきてください。	120分
		事後学修	ベルヌ条約の概要について復習し、ベルヌ条約の論点について整理しておいてください。	120分
6	10/20	著作権法に関する条約（２）	ローマ条約、レコード保護条約について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ローマ条約、レコード保護条約について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ローマ条約、レコード保護条約の論点について考えてきてください。	120分
		事後学修	ローマ条約、レコード保護条約について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	著作権法に関する条約 (3)	W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約について講義します。	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約の論点について考えてきてください。	120分
		事後学修	W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
8	11/10	まとめと授業内試験（1）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	11/17	T R I P S 協定（1）	T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」（1条～8条）について講義します。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」（T R I P S 協定1条～8条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	11/24	T R I P S 協定（2）	T R I P S 協定における「保護規範」について講義します。	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、T R I P S 協定における「保護規範」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「保護規範」（T R I P S 協定9条～40条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	T R I P S 協定における「保護規範」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
11	12/1	T R I P S 協定（3）	T R I P S 協定における「権利行使」について講義します。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、T R I P S 協定における「権利行使」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「権利行使」（T R I P S 協定41条～61条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	T R I P S 協定における「権利行使」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	12/8	T R I P S 協定（4）	T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」について講義します。	
		この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して、T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」（T R I P S 協定42条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	TRIPS 協定（５）	TRIPS 協定における「紛争処理」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、TRIPS 協定における「紛争処理」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、TRIPS 協定における「紛争処理」（TRIPS 協定 63 条、64 条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	TRIPS 協定における「紛争処理」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	12/22	TRIPS 協定（６）	TRIPS 協定における「経過措置」について講義します。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、TRIPS 協定における「経過措置」について理解すること。	
		事前学修	参考書、授業プリントを読んで、TRIPS 協定における「経過措置」（TRIPS 協定 65 条～67 条）について考えてきてください。	120分
		事後学修	TRIPS 協定における「経過措置」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	1/12	まとめと授業内試験（２）	これまでのまとめと授業内試験を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
		事前学修	これまでの授業の復習をして、試験の準備をしてきてください。	120分
		事後学修	試験において、できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	地方行財政特殊講義C	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」の展開科目として、この授業では既に学んだ地方自治に関する基本的事項を踏まえ、さらに掘り下げた地方自治に関する制度や機能、原理や歴史を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、授業内容に豊富な事例を取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地域社会において主体的な住民として活動していくための、必要となる地方自治に関する深い理解力を身につける。またその理解をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に取り組むために必要とされる能力を修得する。

【履修条件】
あくまでも「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」の展開科目としての位置づけなので、原則「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」を受講済みであるか、相応の理解力を有している者に限る。

【授業方法】
教科書を指定し、演習形式により行う。受講者は順次報告者としてレジュメを準備し報告を行い、それをもとに教員、受講者全員によるディスカッションにより授業は進められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表者、受講者、教員による濃密なディスカッション＝コミュニケーションを土台とした演習形式。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治の仕組みや全体像を理解することができる。						1	1	1				
②	地方自治で生起する諸問題について、論理的かつ批判的に考察することができる。						1	1	1				
③	地方自治に生起する諸問題について注意深く観察し、自分の意見を述べるができる。						1	1	1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	演習形式の授業なので、期末の試験などは行わない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、それらが身についているかを日ごろの授業おける積極的な関わり＝参画度（報告、ディスカッション）の中で評価する。	30	30	40								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業において適宜解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治論 - 2つの自律性のはざままで - 』	北村 亘他	有斐閣	2017	教科書	必携
地方自治を学ぶー要点と資料ー〔第2版〕	賀来 健輔	三恵社	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 4/9	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部木 4/16	1.「首長」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第1章の「首長」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「首長」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部木 4/23	2.「議会」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第2章の「議会」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「議会」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部木 4/30	3.「地方公務員」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第3章の「地方公務員」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「地方公務員」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部木 5/7	4.「選挙と住民投票」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第4章の「選挙と住民投票」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「選挙と住民投票」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部木 5/14	5.「条例制定」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第5章の「条例制定」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「条例制定」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部木 5/21	6.「地方自治体の組織編成」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第6章の「地方自治体の組織編成」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「地方自治体の組織編成」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部木 5/28	7.「地方自治体の権能と大都市制度」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第7章の「地方自治体の権能と大都市制度」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「地方自治体の権能と大都市制度」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部木 6/4	8.「地方税財政と予算」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第8章の「地方税財政と予算」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「地方税財政と予算」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部木 6/11	9.「中央政府と地方政府」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第9章の「中央政府と地方政府」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「中央政府と地方政府」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部木 6/18	10.「学校教育」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第10章の「学校教育」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「学校教育」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部木 6/25	11.「子育て行政」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第11章の「子育て行政」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「子育て行政」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 7/2	12. 「高齢者福祉」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第12章の「高齢者福祉」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「高齢者福祉」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部木 7/9	13. 受講生が各自任意に選んだテーマの報告とディスカッション(1)	受講生が各自任意に選んだテーマで報告し、参加者とディスカッションを行うことで、その課題や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	テーマに関する課題や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部木 7/16	14. 受講生が各自任意に選んだテーマの報告とディスカッション(2)	受講生が各自任意に選んだテーマで報告し、参加者とディスカッションを行うことで、その課題や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	テーマに関する課題や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、教員に質問し疑問を解消する。	120分

科目名	地方行財政特殊講義D	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」の展開科目として、この授業では既に学んだ地方自治に関する基本的事項を踏まえ、さらに掘り下げて、特に地方自治における住民参加の制度や機能、原理や歴史を学修する。なかでも「条例の制定又は改廃の直接請求」について、中心的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地域社会において主体的な住民として活動していくための、必要となる住民参加の諸制度に関する深い理解力を身につける。またその理解をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけて取り組むために必要とされる能力を修得する。

【履修条件】
あくまでも「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」の展開科目としての位置づけなので、原則「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」を受講済みであるか、相応の理解力を有している者に限る。

【授業方法】
教科書を指定し、演習形式により行う。受講者は順次報告者としてレジュメを準備し報告を行い、それをもとに教員、受講者全員によるディスカッションにより授業は進められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表者、受講者、教員による濃密なディスカッション＝コミュニケーションを土台とした演習形式。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治における住民参加の諸制度について、仕組みや全体像を理解することができる。						1	1	1				
②	地方自治の現場で実際に生起する住民参加の諸問題について、十分に考察することができる。						1	1	1				
③	地方自治に生起する諸問題について注意深く観察し、自ら積極的に参加し取り組む能力を身につけることができる。						1	1	1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	演習形式の授業なので、期末の試験などは行わない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、それらが身についているかを日 ごろの授業における積極的な関わり＝参画度（報告、ディス カッション）の中で評価する。	30	30	40								100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業において適宜解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『条例の制定又は改廃の直接請求－住民発意による政策実現の 困難－』	賀来 健輔	日本評論社	2019	教科書	必携
地方自治を学ぶ－要点と資料－〔第2版〕	賀来 健輔	三恵社	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部木 9/17	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部木 9/24	1.「条例の制定改廃請求のフレームワーク」をテーマとして報告とディスカッション(1)教科書1,2	教科書第1章の「条例の制定改廃請求のフレームワーク」の1,2を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「条例の制定改廃請求のフレームワーク」の1,2に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部木 10/1	2.「条例の制定改廃請求のフレームワーク」をテーマとして報告とディスカッション(2)教科書3	教科書第1章の「条例の制定改廃請求のフレームワーク」の3を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「条例の制定改廃請求のフレームワーク」の3に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部木 10/8	3.「条例の制定改廃請求の実証分析」をテーマとして報告とディスカッション	教科書第2章の「条例の制定改廃請求の実証分析」を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「条例の制定改廃請求の実証分析」に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部木 10/15	4.「条例の制定改廃請求の制度的変遷」をテーマとして報告とディスカッション(1)教科書1,2,3	教科書第3章の「条例の制定改廃請求の制度的変遷」の1,2,3を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「条例の制定改廃請求の制度的変遷」の1,2,3に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部木 10/22	5.「条例の制定改廃請求の制度的変遷」をテーマとして報告とディスカッション(1)教科書4,5,6	教科書第3章の「条例の制定改廃請求の制度的変遷」の4,5,6を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	「条例の制定改廃請求の制度的変遷」の4,5,6に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部木 10/29	6.「制度上の制約要因の検討」をテーマとして報告とディスカッション(1)教科書1, 2, 3, 4		教科書第4章の「制度上の制約要因の検討」の1, 2, 3, 4を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。
		この回の到達目標	「制度上の制約要因の検討」の1, 2, 3, 4に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部木 11/5	7.「制度上の制約要因の検討」をテーマとして報告とディスカッション(2)教科書5, 6, 7, 8		教科書第4章の「制度上の制約要因の検討」の5, 6, 7, 8を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。
		この回の到達目標	「制度上の制約要因の検討」の5, 6, 7, 8に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部木 11/12	8.「制度改革のための手掛かり」をテーマとして報告とディスカッション(1)教科書1		教科書終章の「制度改革のための手掛かり」の1を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。
		この回の到達目標	「制度改革のための手掛かり」の1に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部木 11/19	9.「制度改革のための手掛かり」をテーマとして報告とディスカッション(2)教科書2		教科書第9章の終章の「制度改革のための手掛かり」の2を取り上げ報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。
		この回の到達目標	「制度改革のための手掛かり」の2に関する制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部木 12/3	10. 各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして報告とディスカッション(1)		各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして取り上げ、報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。
		この回の到達目標	各自受講者が取り上げた住民参加の諸制度について制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	取り上げる予定の住民参加制度について、参考書の該当箇所などを読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、その住民参加制度に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部木 12/10	11. 各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして報告とディスカッション(2)		各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして取り上げ、報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。
		この回の到達目標	各自受講者が取り上げた住民参加の諸制度について制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	取り上げる予定の住民参加制度について、参考書の該当箇所などを読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、その住民参加制度に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部木 12/17	12. 各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして報告とディスカッション(3)	各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして取り上げ、報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	各自受講者が取り上げた住民参加の諸制度について制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとする。とすることができる。	
		事前学修	取り上げる予定の住民参加制度について、参考書の該当箇所などを読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、その住民参加制度に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部木 12/24	13. 各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして報告とディスカッション(4)	各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして取り上げ、報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	各自受講者が取り上げた住民参加の諸制度について制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとする。とすることができる。	
		事前学修	取り上げる予定の住民参加制度について、参考書の該当箇所などを読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、その住民参加制度に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部木 1/14	14. 各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして報告とディスカッション(5)	各自受講者が住民参加の諸制度をテーマとして取り上げ、報告とディスカッションを行い、その制度的概要や問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	各自受講者が取り上げた住民参加の諸制度について制度的概要や問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとする。とすることができる。	
		事前学修	取り上げる予定の住民参加制度について、参考書の該当箇所などを読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、その住民参加制度に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

科目名	地方財政論Ⅰ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
国家財政と地方財政の違い，戦後，地方財政が経済成長のためにどのように利活用されてきたのかについて学ぶ．そのうえで，地方財政の中心的役割を担う地方交付税について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私たちの生活は地方自治体が供給するさまざまなサービスから影響を受けている．地方財政論Ⅰは，地方自治体がどのような経済活動によってサービスを提供しているのか，地方交付税を中心に学ぶ．そこから，地方財政の解決すべき問題を見つけ出すことを目的とする．地方財政の制度や仕組みを知り，また，新聞やニュース等で地方自治体が抱える問題を知ろう．そのうえで，改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることがこの授業の最大の目標としている．

【履修条件】
特に無い．余裕があれば財政学も履修すると，より楽しく学ぶことができるだろう．また，後期に地方財政論Ⅱを履修すると，より理解が深まるであろう．

【授業方法】
【授業区分】に沿って，講義形式で進める予定である．授業の最後に質問やコメントを書いてもらい，次の授業でレスポンスするなど，双方向性を高めたいと考えている．定期試験の解説は試験終了後，ポータルシステムにて配信する．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が地方財政の制度，現状について知識を身に付け説明できるようにする．						3						
②	学生が自分の居住する地方自治体の問題点を発見し，解決方法を示せるようにする．								3				
③	学生が授業内容に対して自分の意見を述べられるようにする．									3			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が身についているかを筆記試験によって評価する.	40	45									85
小テスト等												
レポート等	到達目標③に関して，授業で学んだ内容に対し自分の意見（賛成反対など）を具体的かつ理論的に説明できているかを評価する.			15								15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	45	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する.	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない．授業で使用する教材については，毎回ポータル等を通じて配布する．				

【オフィスアワー】	
木曜授業後（14:30～）に講堂で受け付けるが，事前に下記のアドレスにメールを送ること．hideaki_saito318@yahoo.co.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	【ガイダンス】地方財政論とは。	・履修上の注意。 ・前期の授業では何か学ぶのか。	
		この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えを持つ。	
		事前学修	新聞やニュースで地方財政について触れておく。	60分
		事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考える。また、単位習得のための心構えをする。	180分
2	第一部 木4/16	【歴史】地方財政の過去と今を知る。	過去と今を知ろう ・地方財政の歴史と現状。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政のこれまでにについて理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。	
		事前学修	全国総合開発計画を調べておく。	60分
		事後学修	地域開発政策を復習する。	180分
3	第一部 木4/23	【制度】公共財の性質を知る。	財政学との関係 ・財政の3機能。 ・公共財と地方公共財の違い。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共財の性質を理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。	
		事前学修	財政の機能を調べておく。	60分
		事後学修	公共財と地方公共財の違いを復習する。	180分
4	第一部 木4/30	【現状】中央政府と地方自治体の財政の違い。	中央政府の財政と地方の財政（1） ・地方財政の現状。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政状況を理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。	
		事前学修	基礎的財政収支を調べておく。	60分
		事後学修	地方財政の現状を復習する。	180分
5	第一部 木5/7	【現状】地方財政計画について理解する。	国の財政と地方の財政（2） ・地方財政計画とは何か。 ・地方交付税の原資は何か。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政計画とは何かを理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。	
		事前学修	地方財政計画を調べておく。	60分
		事後学修	地方交付税の推移を確認する。	180分
6	第一部 木5/14	【現状】地方自治体の財政依存状況を知る。	国の財政と地方の財政（3） ・地方自治体の国への依存。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治体の財政依存を知る。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。	
		事前学修	中央政府から地方自治体へのお金の流れを調べておく。	60分
		事後学修	地方財政計画の各項目を復習しておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	【制度】地方交付税の概要について.	地方交付税の役割（１） ・地方交付税制度の概略. ・地方財政計画との関係.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税制度を理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	地方交付税の性質を調べておく.	60分
		事後学修	地方財政計画での地方交付税の役割を復習しておく.	180分
8	第一部 木5/28	【制度】地方交付税の算定について.	地方交付税の役割（２） ・地方交付税算定に関する問題点.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税の算定方法を理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	地方交付税の算定方法を調べておく.	60分
		事後学修	算定方法の問題点を整理する.	180分
9	第一部 木6/4	【制度】基準財政需要額について.	地方交付税の役割（３） ・基準財政需要額とは何か.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基準財政需要額について理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	基準財政需要額を確認する.	60分
		事後学修	基準財政需要額の考え方が妥当か否か考える.	180分
10	第一部 木6/11	【制度】基準財政需要額の算定について.	地方交付税の算定（１） ・基準財政需要額の計算方法.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基準財政需要額の計算方法について理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	基準財政需要額の計算方法を調べる.	60分
		事後学修	基準財政需要額の構造を復習する.	180分
11	第一部 木6/18	【制度】単位費用、補正係数について.	地方交付税の算定（２） ・単位費用、補正係数.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基準財政需要額の算定について理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	単位費用、補正係数とは何か調べる.	60分
		事後学修	単位費用、補正係数にはどのようなものがあるか復習する.	180分
12	第一部 木6/25	【制度】地方交付税算定の妥当性について.	地方交付税の算定（３） ・地方交付税の算定をめぐる見方.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税の算定が妥当か否かを考える. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	地方交付税の算定方法を再確認する.	60分
		事後学修	地方交付税の算定方法は妥当か否か考える.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	【現状】自治体間の財政力格差について.	財政力格差と地方交付税（1） ・地方自治体の財政力格差.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政力格差に対する地方交付税の役割を理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	財政力格差の現状を調べる.	60分
		事後学修	格差の原因を説明できるようにする.	180分
14	第一部 木7/9	【現状】地方交付税に対する誤解について.	財政力格差と地方交付税（2） ・地方交付税に対する誤解.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税に対する誤解を正せるようにする。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	あらためて地方交付税の推移を調べておく.	60分
		事後学修	地方交付税への誤解とそれに対する解答を考える.	180分
15	第一部 木7/16	【総括】前期授業の総復習	前期授業のまとめと復習 ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期授業の内容を復習する.	
		事前学修	第2回～第14回の内容を振り返っておく.	60分
		事後学修	授業の内容を復習し、テストに備える.	180分

科目名	地方財政論Ⅱ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
国家財政と地方財政の違い，戦後，地方財政が経済成長のためにどのように利活用されてきたのかについて学ぶ．そのうえで，租税，公債，補助金について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私たちの生活は地方自治体が生産するさまざまなサービスから影響を受けている．地方財政論Ⅱでは，地方財政の抱える問題を観察しながら，それらを解決するための方法を考え，自分の言葉で紡ぎだせるようにする． 地方財政の制度や仕組みを知り，また，新聞やニュース等で地方自治体抱える問題を知ろう．そのうえで，改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることをこの授業の最大の目標とする．

【履修条件】
特に無し．余裕があれば財政学も履修すると，より楽しく学ぶことができるであろう．また，前期に地方財政論Ⅰを履修すると，より理解が深まるだろう．

【授業方法】
【授業区分】に沿って，講義形式で進める予定である．授業の最後に質問やコメントを書いてもらい，次の授業でレスポンスするなど，双方向性を高めたいと考えている．定期試験の解説は試験終了後，ポータルシステムにて配信する．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が地方財政の制度，現状について知識を身に付け説明できるようにする．						3						
②	学生が自分の居住する地方自治体の問題点を発見し，解決方法を示せるようにする．								3				
③	学生が授業内容に対して自分の意見を述べられるようにする．									3			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が身についているかを筆記試験によって評価する.	40	50									90
小テスト等												
レポート等	授業で学んだ内容に対し自分の意見（賛成反対など）を具体的かつ理論的に説明できているかを評価する.			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	50	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する.	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布する.				

【オフィスアワー】	
木曜授業後（14:30～）に講堂で受け付けるが、事前に下記のアドレスにメールを送ること。hideaki_saito318@yahoo.co.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	【ガイダンス】地方財政論とは。	授業の説明。 ・履修上の注意。 ・後期の授業では何か学ぶのか。	
		この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えを持つ。	
		事前学修	新聞やニュースで地方財政について触れる。	60分
		事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考える。また、単位習得のための心構えを持つ。	180分
2	第一部 木9/24	【制度】地方税について。	地方税について学ぼう（１） ・国税と地方税の租税原則。 ・所得税と住民税 ・地方自治体間の税収格差。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国税と地方税の違いを理解する。	
		事前学修	身近な租税にはどのようなものがあるか調べる。	60分
		事後学修	国税と地方税の持つ役割の違いを整理する。	180分
3	第一部 木10/1	【理論】地方税の問題について。	地方税について学ぼう（２） ・足による投票、スピルオーバー効果。 ・租税外部性、租税輸出。 ・課税競争、重複課税。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治体による徴税のメリット・デメリットを知る。	
		事前学修	足による投票、スピルオーバー効果とは何かを調べる。	60分
		事後学修	受益と負担が一致しないときの弊害を整理する。	180分
4	第一部 木10/8	【制度】国庫支出金について。	国庫支出金について知ろう ・地方交付税との違い。 ・政府間財政移転。 ・一般補助金と特定補助金	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国庫支出金の制度と意義を理解する。	
		事前学修	国庫支出金について調べる。	60分
		事後学修	地方交付税と国庫支出金の違いを整理する。	180分
5	第一部 10/15	【制度】地方債について。	財源不足の対処方法を知ろう ・国債と地方債の違い。 ・地方債の発行方法と残高。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方債を含めた公債発行の弊害を理解する。	
		事前学修	公債の種類について整理しておく。	60分
		事後学修	公債の弊害を整理する。	180分
6	第一部 木10/22	【制度】地方財政健全化法について。	財政悪化を防ぐ方法を知ろう（１） ・自治体財政健全化法。 ・健全化判断指標。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政健全化法について理解する。	
		事前学修	自治体財政健全化法成立の背景を調べる。 健全化判断指標にはどのようなものがあるか調べる。	60分
		事後学修	財政再建が必要とされる基準を整理する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	【制度】健全化判断指標について.	財政悪化を防ぐ方法を知ろう（2） ・健全化判断指標の相互関係. ・地方債との関係.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健全化判断指標の相互関係、地方債発行との関係を理解する.	
		事前学修	健全化判断指標の適用範囲を調べておく.	60分
		事後学修	健全化判断指標の相互関係、地方債発行との関係を整理しておく.	180分
8	第一部 木11/5	【現象】公共財供給方法について.	別の方法での政策実施方法を知ろう ・地方公営企業. ・第3セクター、PFI.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公営企業、第三セクターの役割について理解する.	
		事前学修	自分の住んでいる自治体にある第三セクターを調べる.	60分
		事後学修	第三セクター、PFIのメリット・デメリットを確認する.	180分
9	第一部 木11/12	【現象】地方分権の流れについて.	地方分権の効果を考えてみよう ・市町村合併推進の背景. ・道州制導入の妥当性. ・コンパクトシティの推進について.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2000年以降の地方分権の流れを理解する.	
		事前学修	市町村合併が行われた目的を調べる.	60分
		事後学修	道州制導入の現実的妥当性を考える.	180分
10	第一部 木11/19	【理論】地域活性化について.	自治体を成長させる方法を考えよう（1） ・生産関数を用いた経済成長.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地域活性化のための経済成長理論を理解する.	
		事前学修	ミクロ経済学の教科書をもとに生産関数を復習しておく.	60分
		事後学修	経済成長理論を復習する.	180分
11	第一部 木12/3	【現象】企業誘致の利用について.	自治体を成長させる方法を考えよう（2） ・NIMBY. ・コースの定理.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業誘致とNIMBYの関係を理解する.	
		事前学修	NIMBYの意味を調べる.	60分
		事後学修	自分にとってのNIMBYを考える.	180分
12	第一部 木12/10	【現象】企業誘致の利用について.	自治体を成長させる方法を考えよう（3） ・原子力発電所の経済効果.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原子力発電所誘致の効果を理解する.	
		事前学修	原子力発電所が立地する地方自治体の特徴を調べてみましょう.	60分
		事後学修	原子力政策を推進すべきか否かを考える.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	【現象】企業誘致の利用について.	自治体を成長させる方法を考えよう（4） ・核廃棄物処分場.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、核廃棄物処分場の立地問題を理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
		事前学修	高レベル放射性廃棄物とは何か調べる.	60分
		事後学修	高レベル放射性廃棄物をどのように処分するか考える.	180分
14	第一部 木12/24	【理論】政策実施の基準について.	政策実施の基準を考えてみよう ・費用便益分析 ・費用対効果分析.	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、費用対便益について理解する.	
		事前学修	費用対便益とは何か調べる.	60分
		事後学修	費用対便益と費用対効果の違いを確認する.	180分
15	第一部 木1/14	【総括】後期授業の復習.	後期授業のまとめと復習 ・後期授業の復習 ・試験準備のポイント説明	
		この回の到達目標	後学期末試験に向けてこれまでの授業を復習する.	
		事前学修	第2回～第14回の内容を振り返る.	60分
		事後学修	授業の内容を復習し、テストに備える.	180分

科目名	地方自治法Ⅰ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業では、地方自治法に関する重要な問題を取り上げて解説することで、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治法の全体像と主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて地方自治法の基本構造、地方公共団体の種類、事務、立法、財政等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに地方自治法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	最終授業回数において、授業内試験60分、解説30分を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治法をめぐって、どのような問題が生じているかを説明できる。				2		2					
②	地方自治法をめぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、地方自治法に関する基礎的な知識が十分に身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①②にかかわる基礎知識が身についているかを確認する	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治法	池村好道・西原雄二編	弘文堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、1部は火曜日１４：３０に、2部は水曜日１７：３０に質問を受付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 4/7 2部 4/8	ガイダンス 地方自治法の概説	授業のテーマや内容、成績評価の方法を含めて、地方自治法の学習方法等を学修したうえで、地方自治法の概要と重要性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法とはどのような法律なのか、その概要と重要性について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。	120分
		事後学修	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。	120分
2	1部 4/14 2部 4/15	地方自治とは何か	地方自治の2つの要素である住民自治と団体自治の意義や内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の意義や重要性について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	1部 4/21 2部 4/22	憲法上の地方自治	憲法が規定する地方自治の基本原則及び地方自治の主要なテーマが何であることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の基本原則と主要な問題について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	1部 4/28 2部 4/29	地方自治法の基本構造	地方自治法の基本構造と地方自治法とは何かについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修者が地方自治法の基本構造について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
5	1部 5/5 2部 5/6	普通地方公共団体	普通地方公共団体の種類と特色について学修する。	
		この回の到達目標	普通地方公共団体の種類と特色について学修する。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
6	1部 5/12 2部 5/13	特別地方公共団体	特別地方公共団体の種類や内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特別地方公共団体の種類や内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 5/19 2部 5/20	地方公共団体の事務の歴史と特質	地方公共団体の事務の歴史と特質について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の歴史と特質について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
8	1部 5/26 2部 5/27	地方公共団体の事務の種類と内容	地方公共団体の事務の種類と内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の事務の種類と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
9	1部 6/2 2部 6/3	自治立法	地方公共団体における自治立法の意義や特色について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体における自治立法の意義や特色について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
10	1部 6/9 2部 6/10	条例制定権の諸問題	条例制定権をめぐる諸問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条例制定権に関する憲法と条例の問題について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。	120分
11	1部 6/16 2部 6/17	法律と条例	法律と条例をめぐる問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律と条例の関係について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
12	1部 6/23 2部 6/34	財政	地方公共団体の財政の仕組みや争点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の基本的な内容や原則について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 7/1 2部 7/2	情報公開	情報公開制度の意義、情報公開条例、判例の展開について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、情報公開条例の意義や内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。	120分
14	1部 7/7 2部 7/8	個人情報保護	個人情報保護制度の意義と概要について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、個人情報保護の重要性について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。	120分
15	1部 7/14 2部 7/15	授業内試験と解説	地方自治法の基本問題に関して、授業内試験（60分）を行い、残りの時間で解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の重要な論点について説明できる。	
		事前学修	教科書や講義ノート等を使って、授業内試験のための準備をする。	120分
		事後学修	授業内試験の問題について、教科書や講義ノート等を使って復習をする。	120分

科目名	地方自治法Ⅱ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業では、地方自治法に関する重要な問題を取り上げて解説することで、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を修得する。前期の「地方自治法Ⅰ」で取り上げなかった重要な問題を中心に解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治法の全体像と主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて地方自治法の基本構造、地方公共団体の種類、事務、立法、財政等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに地方自治法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	最終授業回数において、授業内試験60分、解説30分を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治法をめぐって、どのような問題が生じているかを説明できる。				2		2					
②	地方自治法をめぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、地方自治法に関する基礎的な知識が十分に身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①②にかかわる基礎知識が身についているかを確認する	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治法	池村好道・西原雄二編	弘文堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、1部は火曜日１４：３０に、2部は水曜日１７：３０に質問を受付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1部 9/15 2部 9/16	ガイダンス、地方自治法の概説	授業のテーマや内容、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、地方自治法の概要について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の概要と重要性について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。	120分
		事後学修	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。	120分
2	1部 9/22 2部 9/23	地方自治の歴史	地方自治の歴史と現代的意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の主要な歴史について説明できる。	
		事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	1部 9/29 2部 9/30	憲法と地方自治	憲法が規定する地方自治の基本原則と論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の基本原則と主要な問題について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	1部 10/6 2部 10/7	地方自治法の全体像	地方自治法の全体像と主要な内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修者が地方自治法の基本構造について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
5	1部 10/13 2部 10/14	地方公共団体の議会	地方公共団体の議会の特色、権限、運営等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の議会の基本的な仕組みについて説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
6	1部 10/20 2部 10/21	地方公共団体の執行機関	地方公共団体の執行機関の種類や内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の執行機関の基本的な仕組みについて説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	1部 10/27 2部 10/28	議会と執行機関の関係	地方議会と執行機関の関係について具体的に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議会と執行機関の關係の主要な特色について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
8	1部 11/11 2部 11/12	住民の参政権	地方公共団体の住民の参政権である選挙権、直接請求、住民投票について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の参政権の意義と種類について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
9	1部 11/17 2部 11/18	公の施設利用権	住民の権利の1つである公の施設利用権の意義や内容等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の施設利用権の内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
10	1部 11/24 2部 11/25	住民監査請求	住民監査請求の仕組みと論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民監査請求の意義と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。	120分
11	1部 12/1 2部 12/2	住民訴訟	住民訴訟の仕組みと論点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民訴訟の意義と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
12	1部 12/8 2部 12/9	住民の義務	地方公共団体の住民の義務、行政サービス制限条例について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の義務の具体的内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1部 12/15 2部 12/16	地方公共団体に対する国の関与	地方公共団体に対する国の関与の意義、基本原則、手続について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国の関与の意義と基本原則について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。	120分
14	1部 12/22 2部 12/23	国と地方の紛争処理制度	国と地方公共団体の紛争処理制度の意義と概要について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国と地方の紛争処理制度の重要性と内容について説明できる。	
		事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
		事後学修	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。	120分
15	1部 1/12 2部 1/13	授業内試験と解説	地方自治法の基本問題に関して、授業内試験（60分）を行い、残りの時間で解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の重要な論点について説明できる。	
		事前学修	教科書や講義ノート等を使って、授業内試験のための準備をする。	120分
		事後学修	授業内試験の問題について、教科書や講義ノート等を使って復習をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中折をみてリアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治を学ぶ－要点と資料－〔第2版〕』	賀来 健輔	三恵社	2019	教科書	必携
『Next教科書シリーズ地方自治論〔第2版〕』	福島 康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された教科書、参考文献等を確認し、理解できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	第一部金 4/17	1. 地方公共団体の種類(1)普通地方公共団体について① 都道府県と市町村	普通地方公共団体のうち県・市町村について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	県、市町村の制度的概要やその問題点などを理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	第一部金 4/24	1. 地方公共団体の種類(2)普通地方公共団体について② 指定都市と中核市ほか	普通地方公共団体のうち指定都市・中核市・施行時特例市について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	指定都市・中核市・施行時特例市の制度的概要やその問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	第一部金 5/1	1. 地方公共団体の種類(3)特別地方公共団体について① 特別区と組合	特別地方公共団体のうち特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	特別地方公共団体のうち特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	第一部金 5/8	1. 地方公共団体の種類(4)特別地方公共団体について② 財産区とその他の外郭団体	特別地方公共団体の財産区と、また地方公共団体と関係性の深い外郭団体等について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	特別地方公共団体の財産区と、また地方公共団体と関係性の深い外郭団体等について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	第一部金 5/15	2. 地方公共団体の区域(1)区域の変更について	市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとしてすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	2. 地方公共団体の区域(2)市町村合併について	市町村合併の制度的概要、その問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	市町村合併の制度的概要、その問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	第一部金 5/29	2. 地方公共団体の区域(3)平成の大合併とは何だったのか？	平成の大合併を検証し、その内容、意味合い、功罪等について学ぶ。	
		この回の到達目標	平成の大合併の内容、意味合い、功罪等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	第一部金 6/5	2. 地方公共団体の区域(4)都道府県レベルの区域の問題－道州制と連邦制－	都道府県の区域の問題、具体的には道州制や連邦制について、その概要と問題点を学ぶ。	
		この回の到達目標	都道府県の区域の問題の意味するところについて理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	第一部金 6/12	3. 地方公共団体の組織(1)首長、首長の補助機関	地方公共団体の組織のうち首長とその補助機関について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち首長とその補助機関について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	第一部金 6/19	3. 地方公共団体の組織(2)出先機関、執行機関の付属機関	地方公共団体の組織うち出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち、出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	第一部金 6/26	3. 地方公共団体の組織(3)行政委員会①行政委員会とは何か？	地方公共団体の組織うち行政委員会について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち行政委員会について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	3. 地方公共団体の組織(4)行政委員会②行政委員会の有する課題	地方公共団体の組織うち行政委員会の個々の委員会について焦点を当て、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	個々の行政委員会について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	第一部金 7/10	4. 地方公共団体の事務について	地方公共団体の事務について、その制度的概要、問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体の事務に関して、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	第一部金 7/17	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度を測るために、理解到達度試験を行う。また後半の時間を使って、試験の解説、また学期中のまとめとして、この間に行った主要な事柄に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で行った地方自治論の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について、ノートや教科書、参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった教科書、参考書、講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。それでも残った疑問点は教員に質問する。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。			1				
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。			1				
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。					1		
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論[第2版]	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例： 寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	4/15	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	4/22	明治時代の地方制度	現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	4/29	第二次世界大戦期までの地方制度	現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	5/6	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	5/13	地方公共団体の種類等	地方自治制度をを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	地方公共団体内の諸機関	動態的に地方自治を理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	5/27	地方分権改革と地方自治	現在の地方自治をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	6/3	第一次地方分権改革以降の地方分権改革	現在の地方自治をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	6/10	地方財政制度	地方自治制度の基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	6/17	地方財政制度の改革等	地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	6/24	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政	わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	7/8	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	7/15	これまでの講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。			1				
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。			1				
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。					1		
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 第2版	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休みの時間 研究室（本館１６０３） 他の学生との時間を調整するのでアポをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している点を生かして実際に教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	4/14	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	4/21	明治時代の地方制度	地方自治制度の成り立ちを理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	4/28	第二次世界大戦期までの地方制度	地方自治制度の成り立ちをよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	5/5	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度の制度保障を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	5/12	地方公共団体の種類等	地方自治制度の基本的枠組みを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	地方公共団体内の諸機関	地方自治の枠組みを理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	5/26	地方分権改革と地方自治	地方自治の改革をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	6/2	第一次地方分権改革以降の地方分権改革	現在の地方自治の制度改革をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	6/9	地方財政制度	地方自治制度の財政的な基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	6/16	地方財政制度の改革等	地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	6/23	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政	わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	7/7	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	7/14	前期の講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるようになる。	
		事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治を学ぶー要点と資料ー〔第2版〕』	賀来 健輔	三恵社	2019	教科書	必携
『Next教科書シリーズ地方自治論〔第2版〕』	福島 康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。 研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	5. 地方議会の組織と機能(1) 議会の基本的性格	議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要と問題点を学ぶ。	
		この回の到達目標	議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要と問題点などを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
2	第一部金 9/25	5. 地方議会の組織と機能(2) 議会の権限ほか	議会の権限、議会と住民との関係、地方議会の諸問題等について学ぶ。	
		この回の到達目標	議会の権限、議会と住民との関係、地方議会の諸問題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
3	第一部金 10/2	6. 地方公共団体への住民参加(1)住民参加とは何か？	地方公共団体への住民参加について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
4	第一部金 10/9	6. 地方公共団体への住民参加(2)「統制」の観点から住民参加を理解する	地方公共団体への住民参加について、政治や行政への「統制」という観点から焦点を当て、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加について、政治や行政への「統制」という観点からを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
5	第一部金 10/16	6. 地方公共団体への住民参加(3)直接請求制度とは何か？	地方公共団体への住民参加のうち、直接請求制度の制度的概要やその問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加のうち、直接請求制度の制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
6	第一部金 10/23	6. 地方公共団体への住民参加(4)住民投票制度について	地方公共団体への住民参加のうち、条例に基づく住民投票の制度的概要やその問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	地方公共団体への住民参加のうち、条例に基づく住民投票の制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	7. 地方公共団体に対する統制(1)情報公開制度について①制度的概要	情報公開制度の概要、変遷、制度の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	情報公開制度の概要、変遷、制度の仕組みを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	第一部金 11/6	7. 地方公共団体に対する統制(2)情報公開制度について②制度に有する論点と課題	情報公開の「範囲」をめぐる論点、その課題等について学ぶ。	
		この回の到達目標	情報公開の「範囲」をめぐる論点、その課題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	第一部金 11/13	7. 地方公共団体に対する統制(3)オンブズマン制度について①制度的概要	オンブズマン制度の概要、変遷、制度の仕組みについて学ぶ。	
		この回の到達目標	オンブズマン制度の概要、変遷、制度の仕組みを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	第一部金 11/20	7. 地方公共団体に対する統制(4)オンブズマン制度について②事例研究	川崎市のオンブズマン制度を事例として、その制度と実態、課題等について学ぶ。	
		この回の到達目標	川崎市のオンブズマン制度を事例として、その制度と実態、課題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	第一部金 11/27	8. 地方公共団体の基本原理(1)憲法から見た地方自治	日本国憲法から地方自治について、その概要と問題点等を学ぶ。	
		この回の到達目標	日本国憲法から地方自治について、その概要と問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	第一部金 12/4	8. 地方公共団体の基本原理(2)地方自治に関する所論について	地方自治に関する所論を取り上げ、その概要を紹介すると共に課題、問題点等について学ぶ。	
		この回の到達目標	地方自治に関する所論を取り上げ、その概要を紹介すると共に課題、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	9. 地方公共団体の歴史的変遷(1) 戦前の地方制度	戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性について学ぶ。	
		この回の到達目標	戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性を理解し、到達目標①②③を自分のものとする事ができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	第一部金 12/18	9. 地方公共団体の歴史的変遷(2) 戦後の地方制度	戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性について学ぶ。	
		この回の到達目標	戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性を理解し、到達目標①②③を自分のものとする事ができる。	
		事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
		事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	第一部金 12/25	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。後半の時間を使って、試験の解説、また期間のまとめとして、この間行った主要な事柄について質問に答える。	
		この回の到達目標	半期で行った地方自治論の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③を自分のものとする事ができる。	
		事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について、教科書、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
		事後学修	これまでに授業でとった教科書、参考書、講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験の準備を行う。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなどの基本的なマナーをわかまえていることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論[第2版]	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例： 寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	地方自治制度と自治体	地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	9/23	新たな自治体経営の手法	自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	9/30	自治体経営の具体例	自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	10/7	自治体の行政統制（監査制度）	地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	10/14	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）	地方自治を動的に理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	10/21	自治体の広報・公聴活動	地方自治の現状について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	自治体の情報化	地方自治の現状について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	11/11	住民の役割や協働	地方自治を動的に理解するために、住民の役割や協働について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	11/18	住民参加の制度やコミュニティ	地方自治を動的に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	11/25	住民運動や自治基本条例	地方自治を動的に理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる	
		事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	12/2	自治体の行政組織及び特徴	地方自治の行政、執行について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	12/9	持続可能な発展と地方自治	地方自治における課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	自治体における政策	地方自治を動的に理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	12/23	自治体の政策の事例	地方自治の現状や課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	1/13	これまでの講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁 編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本号館1603）（事前にメールでアポイントメントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	地方自治制度と自治体	地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	9/22	新たな自治体経営の手法	ニューパブリックマネジメントにもとづくあたらしい自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	9/29	自治体経営の具体例	市場原理が機能しないため、行政に導入された自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	10/6	自治体の行政統制（監査制度）	アカウンタビリティと地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	10/13	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）	行政責任と行政統制を理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	10/19	自治体の広報・公聴活動	行政の外への発信と住民との信頼確保の方策について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	自治体の情報化	地方自治の内部管理と外部との情報管理について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	11/10	住民の役割や協働	地域におけるアクターの役割分担とちいきづくりに理解するために、住民の役割や協働について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	11/17	住民参加の制度やコミュニティ	住民参加に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	11/24	住民運動や自治基本条例	地域の自立的運営について理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる	
		事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	12/1	自治体の行政組織及び特徴	自治の運営主体である自治体について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	12/8	持続可能な発展と地方自治	持続可能な地域課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	自治体における政策	自治体の政策過程について理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	12/22	自治体の政策の事例	地域課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
		事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	1/12	後学期の講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	180分

科目名	調査ジャーナリズム	担当者	高橋 俊一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリストが現場で実際に何をしているか、ニュースをどう発掘するかを具体的に知り、調査報道について理解する。ジャーナリスティックなセンスを磨き、各自の進路開拓にも役立てる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大手新聞2社でいずれも社会部記者をつとめた講師キャリアを生かした「実戦的な内容」にする。当局発表や統計調査とはまったく異なる、記者自らが隠れた事実を調べあげて、自らの責任で報道する「調査報道」の真実と実態を受講生が理解することを目的とする。 「記者に何が必要か」「ジャーナリズムの責任」を学び、現代マスコミの問題も見きわめることをめざす。報道への基本知識と新聞、テレビ、ネットの情報を読み解く力を身につけられることを目標とする。実際の調査報道手法を学びながら、社会の動きに対する感性を少しずつ磨いていき、取材最前線だけでなく学界をめざす人にも一助とする。 関連DPおよびCP：新聞学科1，2，3

【履修条件】
とくにありません。ニュースに少しでも関心があれば十分です。

【授業方法】
講義を軸に、必要ならマスコミ各社や報道現場への見学、一線記者との接触なども考慮する。 フィードバックは、定期試験の解説を当日中に行うことを原則とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	必要に応じて適時とりいれることもあり得る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ニュースへの接し方、摂取の姿勢を確認し、メディアへの適正なアプローチを開始する基礎をつくる。【知識】					3							
②	「言論の自由」の意義を具体的な問題事例を通じて理解する。【知識・技能】						3						
③	取材と人権擁護との兼ね合いを考察する基礎的知識を深め、「知る権利」をめぐる諸制度について考察する。【知識・技能】							3					
④	調査報道の社会的、歴史的意義を考えつつ、ノウハウを摂取する。【技能】								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義最終日あるいはその前回講義において、記述式で行う。メディアやニュース、調査報道について、講義内容の暗記や繰り返しではなく、自分の言葉で語ることが求められる。知識と実戦との結ぶ個々人のセンスをどこまで磨いたかを確認する。		10	10	50							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の進展に応じて、最新ニュースを中心にやり取りし、個々人の社会的な関心の深まりを検証していく。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義全般の要点解説を2020年12月23日に、定期試験（授業内試験＝最終講義日を予定）の講評を最終講義日の試験終了後に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし。必要な場合は適時指定する。				

【オフィスアワー】
後半の授業時間とその前後に適時実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	毎日新聞一朝日新聞記者を40年近く務めた。いずれも社会部。
実務経験に基づく実践的教育の内容		時事のニュースを読み解き、ともに考えながら実戦的なジャーナリスティック感覚を身につけさせる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	【ガイダンス】【ニュースとメディアに関する考え方と実際】	ニュースの発信者あるいは受信者として、正しいとらえ方を確認し、メディアの実際への理解を深めていく。各回講義の内容を紹介し、それぞれを全体の中でどう位置付けるべきかをともに考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、基本的な考え方とプロの姿勢や取り組みを理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。ニュースに関心を持ち、新聞を少しでも精読する。	120分
		事後学修	各自の進路希望に応じてガイダンス内容を再確認する。	120分
2	第一部水 9/23	【調査報道の事例紹介とその研究】	調査報道の代表的事例を取り上げて、報道とメディアの意味と実際について、国際的な感覚もふくめた考え方の基礎作りに資する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実際例を先入観なく具体的に知る。	
		事前学修	新聞の精読をできる範囲で行う。	120分
		事後学修	授業内容を再確認する。	120分
3	第一部水 9/30	【各メディアの特質】	新聞、テレビ、ネットの実態と特質を正確に把握し、ニュースに対する姿勢や機能を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メディアごとの特徴と問題点を学び取る。	
		事前学修	新聞の精読やテレビニュースの摂取をできる範囲で進めるとともに、ノートの合理的なつけ方を考える。	120分
		事後学修	ノートの再確認を的確に行う。	120分
4	第一部水 10/7	【日本の調査報道とそのやり方】	日本国内で実際に展開された調査報道の中からわかりやすい事例を取り上げて、取材の基本的考え方を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全般に通じるノウハウを確認し、事例に独自の特徴や社会的意義について考えていく。	
		事前学修	新聞の精読を進めつつ、テレビやネットニュースの過不足を考える。	120分
		事後学修	授業内容の再確認とともに、諸メディアの特質をまとめる。	120分
5	第一部水 10/14	【取材の実際とメディアの日常】	具体的な取材方法論とその課題について、偏見を除去しつつ考えていく。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取材の実態を知り、先入観を改めつつ、ニュースへの考え方を再確認する。	
		事前学修	新聞の精読を、社会面を中心に行う。	120分
		事後学修	最新ニュースの摂取を社会面中心に進めつつ、授業内容を再確認する。	120分
6	第一部水 10/21	【調査報道の一般概念】	調査報道の基本的構造について、共通点を確認する。あわせて、その「原点」について考え、把握する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、調査報道とは何かを考える第一歩をしっかりと構築する。	
		事前学修	新聞の精読を、経済面を重点に行い、よく出る経済容疑を理解しておく。	120分
		事後学修	授業内容を再確認し、問題の本質を数点にしぼって考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部水 10/28	【事例研究】【調査報道の現状と広がり】	地方紙をふくめた調査報道事例の研究を進める。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、その時々々の社会情勢と取材対象の特異性をどうふまえて対処するかを、実際例を資料に検討する。
		事前学修	新聞記事の精読を、政治面中心に。120分
		事後学修	授業内容の再確認し、社会問題への意識を固める。120分
8	第一部水 11/11	【事例研究の継続と課題の検証】	調査報道事例の研究（全国紙レベルを中心に）と課題の分析を進める。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、課題や問題点にも触れて、とらえ方を磨く。
		事前学修	新聞各紙のニュースの扱い方を点検し、その根本姿勢を考えておく。120分
		事後学修	授業内容とニュースの社会性を確認する。120分
9	第一部水 11/18	【取材対象の特異的研究と学習】	調査報道の対象と個別的な手法を調べることを通じて、取材の実態に触れながら学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、調査報道にまわりつく課題や問題点、批判を分析、確認する。
		事前学修	新聞の精読をできる範囲で進める。120分
		事後学修	ニュースの社会性とその反響を再確認する。120分
10	第一部水 11/25	【取材競争の意味】	特ダネ競争と調査報道の関係およびそれぞれのあり方について
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メディア間の競争がもたらすプラスとマイナスを確認していく。
		事前学修	最新のビッグニュースは何か、ニュース価値をそれぞれの世界観に従って検討する。120分
		事後学修	授業内容を再確認し、ノートに各自の意見をまとめる。120分
11	第一部水 12/2	【プライバシーと取材の壁】	現代調査報道と個人情報、プライバシー保護について実際上の問題点を探る。
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、調査報道取材と切り離しては考えられないプライバシーの問題を検討し、対処法を確認する。
		事前学修	新聞の精読やテレビニュースの摂取をできる範囲で。120分
		事後学修	重要ニュース事例の選択に関して、優先順位やその可否を考える。120分
12	第一部水 12/09	【全国レベルの政財界機密】	調査報道と国家機密あるいは行政の秘密
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、国家レベルもしくは社会や政財界に大きなインパクトを与えるクラスの情報との対し方を検証する。
		事前学修	新聞一面を精読し、最も重要と考えるニュースをピックアップして、その根拠をまとめる。120分
		事後学修	「知る権利」の重要性とニュース現場の責務を、授業内容に照らして考察する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	【報道実現までの諸問題】	メディア内部の諸問題について、実際に即して学習、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③④④に関連して、メディア内部の取材にたしする反響に触れ、さまざまな動きについて検証する。	
		事前学修	ニュース報道と人権をめぐる議論を点検する。	120分
		事後学修	授業内容を再確認し、自分の意見をまとめる。	120分
14	第一部水 12/23	【調査報道の条件と特質】	前回までの講義内容をフィードバックしつつ、調査報道の意義付けと現代における特質を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④④に関連して、調査報道の課題と克服の事例を把握し、プロのジャーナリストのあり方まで学習する。	
		事前学修	初回からの授業内容を再点検し、ノートに自分自身の考え方を補充して記しておく。	120分
		事後学修	報道現場の在り方に思いをはせ、事例ごとの評価と批判を行う。	120分
15	第一部水 1/13	【総括、振り返り】【授業内試験】	まとめ・質問受け付け。総括的なテストをすることもある。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④④に関連して、理解度を検証するとともに、授業全体を振り返り、メディアやニュースと個々人のあり方について再確認する作業の一助とする。	
		事前学修	ノートを再点検し、授業で触れてきたニュース事例が今に及ぼす影響を考える。	120分
		事後学修	授業内容全般の再確認をし、自分の「ニュース観」を固める。	120分

科目名	倒産法Ⅰ	担当者	倉部 真由美	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この講義では、日本の倒産法制のうち、主に清算型倒産手続を規定する破産法を学修する。各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深め学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における倒産処理手続の必要性を理解するために、破産手続を中心とする各倒産法制の概要や手続きの流れ、相違点や論点等を修得する。

【履修条件】
特にないが、担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。六法は最新のものを持参すること。

【授業方法】
事前にレジュメを配布して講義を行う。講義では、スライド（パワーポイント）も使用しながら、配布レジュメに沿って進めていく。。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	社会的関心の高い倒産事件や、消費者破産制度について、小グループに分かれてグループ・ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度の概要について説明することができる。				3		3					
②	破産手続の基本的な流れを説明することができる。				3		3					
③	破産法における倒産実体法の内容について、民法上の制度と比較することができる。				3		3					
④	破産手続における担保権の役割について説明することができる。				3		3					
⑤	破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて説明することができる。				3		3					
⑥	破産手続における相殺権の取扱いについて、相殺の担保的機能とともに説明することができる。				3		3					
⑦	詐害行為取消権と否認権の制度について、比較することができる。				3		3					
⑧	消費者破産制度における破産免責制度について、自分の意見を述べるができる。				3		3					
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等	提出されたリアクションペーパー等の章レポートが、書式 等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっている かを基準に、到達目標④⑤⑥⑦にかかわる基礎知識が身に ついていないかを評価する				5	5	5	5				20
討論・発表等	第14回の授業におけるグループディスカッションにおいて 自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標② ⑧にかかわる能力・知識が身についているかを評価する。		5						5			10
授業への参画度	授業中に質問や意見をどれだけ活発にできたかを基準に、 到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についてい るかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	20	5	5	5	5	5			100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストウディア倒産法	倉部真由美＝高田賢 治＝上江洲順子	有斐閣	2018	参考書	推奨
倒産処理法入門〔第5版〕	山本和彦	有斐閣	2018	参考書	推奨
現代倒産手続法	中島弘雅＝佐藤鉄男	有斐閣	2013	参考書	推奨
倒産判例百選〔第5版〕	伊藤眞ほか編	有斐閣	2013	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13:00－14:00（事前にメールでアポイントをとること） 研究室（4号館1階413研究室） sugimoto.junkoi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス 倒産処理制度の概要	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、倒産処理制度の概要について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倒産処理制度とはどのような制度なのか、その概要と必要性について説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、倒産に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。	120分
		事後学修	倒産処理制度の概要について、講義ノートを確認しながら復習する。	120分
2	4/15	破産手続の基本的な流れ	破産手続の基本的な流れについて概観を学ぶとともに、破産管財人を中心とする破産手続の機関について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続の基本的な流れを説明することができる。	
		事前学修	講義レジュメを参考にしながら倒産処理制度の概要について改めて復習し、「破産」とはどのような状態に陥ることを言うのかについて、自分で調べておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを確認しながら、破産手続の社会における必要性和基本的な手続の流れについて復習する。	120分
3	4/22	破産手続の申立てから開始決定	破産手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを学習する。破産法の条文を参考に、破産手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、破産手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文を参考にしながら、破産手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の申立てから開始決定までの流れを復習する。	120分
4	4/29	破産財団の範囲・債権の優先順位	破産手続における破産財団の範囲、債権の種類と優先順位について学習する。破産法の条文を参考に、破産財団の固定主義や自由財産、破産債権・財団債権の性質等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、破産手続における破産財団の範囲と債権の優先順位について説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文を参考に、破産財団の定義と破産手続における債権の種類と優先順位について予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産財団の定義・範囲と破産手続における債権の種類と優先順位について復習する。	120分
5	5/6	別除権の取扱い	破産手続における別除権の取扱いについて学習する。平時における担保権の性質や役割が、破産手続においてどのように反映されているのかについて、各担保物権の知識の再確認とともに学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、破産手続における担保権の役割、別除権の取扱いについて説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続における別除権の取扱いについて予習するとともに、民法における担保物権の種類や各々の担保物権の性質について復習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における別除権の定義やその取扱いについて復習する。	120分
6	5/13	多数債務者関係と破産債権	破産手続における多数債務者関係と破産債権について学習する。平時における保証契約や連帯保証契約が、破産手続においてどのように取り扱われるのか、破産手続における保証人や連帯保証人の地位と債権者の権利について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、破産手続における保証人や連帯保証人の地位と債権者の権利行使について説明することができる。	
		事前学修	民法を参考にしながら、保証契約や連帯保証契約について復習しておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における多数債務者関係について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	双方未履行双務契約の処理（１）	破産手続における双方未履行双務契約の処理について学習する。売買契約を中心にしながら、契約の一方当事者に破産手続が開始した場合、双方未履行状態の双務契約がどのように取り扱われるのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、破産手続における双方未履行双務契約の基本的な処理について、条文と共に説明することができる。	
		事前学修	民法を参考に、売買契約や請負契約を中心とする双務契約について復習しておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、双務契約の性質を確認するとともに、破産手続における双方未履行双務契約の処理について復習する。	120分
8	5/27	双方未履行双務契約の処理（２）	産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いを復習するとともに、請負契約や雇用契約等の破産手続における取扱いについても、さらに理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、双方未履行双務契約の処理について、請負契約や雇用契約など個別の契約類型の取扱いについて説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いについて復習しておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、各々の双方未履行双務契約の処理について、民法の条文も再確認しながら復習する。	120分
9	6/3	取戻権・相殺権	破産手続における取戻権の取扱いと相殺権について学ぶ。特に、相殺の担保的機能が破産手続においてどのように反映されているのかについて、債権者平等原則とともに理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標③⑥に関連して、破産手続における取戻権と相殺権の取扱いについて説明することができる。	
		事前学修	民法を参考にしながら、相殺制度について復習しておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における取戻権と相殺権の行使について復習する。特に、民法における相殺の要件を再確認しながら、破産法における相殺権の行使と限界について復習をしておく。	120分
10	6/10	否認権（１）	破産手続における否認権の制度について学習する。否認制度の趣旨や民法における詐害行為取消権との相違点、さらには基本的な否認類型である詐害行為否認と偏頗行為否認について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③⑦に関連して、破産手続における否認権の制度について、詐害行為否認と偏波行為否認の基本的類型を中心に、説明することができる。	
		事前学修	民法を参考にしながら、詐害行為取消権の制度について復習する。債権法改正に伴って、詐害行為取消権は大きく変容したことから、破産法の否認権の条文と民法の詐害行為取消権の条文を比較してみる。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、否認権の制度趣旨と基本類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）について復習する。	120分
11	6/17	否認権（２）	引き続き、破産手続における否認権の制度について学習する。対抗要件否認や転得者に対する否認など、特殊な否認類型について学ぶ。	
		この回の到達目標	対抗要件否認や転得者否認など、否認権の応用類型についても説明することができる。	
		事前学修	到達目標③⑦に関連して、破産法の条文を参考に、否認権の基本的類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）と否認制度の趣旨について復習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、対抗要件否認や転得者に対する否認等の要件やその効果等を復習する。	120分
12	6/24	破産手続における訴訟の中断と受継	破産手続開始決定前に既に係属していた訴訟等の取扱いについて学習する。破産管財人の権限を改めて理解するとともに、既に継続していた訴訟の中断と受継の手続きについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続開始前に係属していた訴訟等の取扱いについて、破産管財人の権限とともに説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続開始決定に伴う破産者の取扱いと破産管財人の権限について復習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続開始による係属中の民事訴訟手続等の処理について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	破産債権の届出・調査・確定	破産手続における破産債権の届出・調査・配当までの手続きの流れを学習する。さらに、配当後から破産手続の終了までについても、手続きの流れを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産債権の届出・調査・確定手続の流れについて説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文や配布資料等を参考に、破産債権の届出・調査・確定までの流れについて予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産債権の確定手続・配当・終了までの手続きの流れを復習する。	120分
14	7/8	消費者破産制度	消費者破産制度について、その目的や趣旨を理解する。法人の破産手続との相違点を学び、消費者破産手続における免責制度について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者破産制度について、法人破産との相違点を確認するとともに、破産免責制度について説明することができる。	
		事前学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の社会における必要性について復習するとともに、消費者破産に関する報道やニュース記事等を自分で検索してみる。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、消費者破産手続の特徴と免責制度について復習する。	120分
15	7/15	破産法まとめ	破産手続の流れを復習するとともに、契約関係の処理や否認権の制度等、倒産実体法の復習を行う。	
		この回の到達目標	破産手続の基本的な流れや、倒産実体法の全般的な内容について説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義レジュメや講義ノートを復習しておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の流れを確認するとともに、倒産実体法の理解を深める。	120分

科目名	倒産法Ⅱ	担当者	倉部 真由美	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この講義では、日本の倒産法制のうち、主に再建型倒産手続の一つである民事再生法を学ぶ。 さらに、各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における倒産処理手続の必要性を理解するために、民事再生手続を中心とする再建型倒産法制の概要や手続きの流れ、相違点や論点等を修得する。

【履修条件】
担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。六法は最新のものを持参すること。

【授業方法】
事前にレジュメを配布して講義を行う。講義では、スライド（パワーポイント）も使用しながら、配布レジュメに沿って進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度の概要について説明することができる。				3		3					
②	民事再生手続の基本的な流れを説明することができる。				3		3					
③	民事再生法における倒産実体法の内容について、破産法と比較することができる。				3		3					
④	民事再生手続における担保権の役割について説明することができる。				3		3					
⑤	民事再生手続における双方未履行双務契約の取扱いについて説明することができる。				3		3					
⑥	民事再生手続における相殺権の取扱いについて、相殺の担保的機能とともに説明することができる。				3		3					
⑦	詐害行為取消権と否認権の制度について、比較することができる。				3		3					
⑧	会社更生手続と民事再生手続の相違点について、説明することができる。				3		3					
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③⑧に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20					10			70
小テスト等												
レポート等	提出されたリアクションペーパー等の章レポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④⑤⑥⑦にかかわる基礎知識が身についているかを評価する				5	5	5	5				20
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見をどれだけ活発にできたかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	5	5	5	5	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
倒産処理法入門〈第5版〉	山本 和彦	有斐閣	2018	参考書	推奨
有斐閣ストゥディア 倒産法	倉部真由美ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
現代倒産手続法	中島弘雅＝佐藤鉄男	有斐閣	2013	参考書	推奨
民事再生法入門〈第2版〉	松下淳一	有斐閣	2014	参考書	推奨
倒産判例百選〈第5版〉	伊藤眞ほか編	有斐閣	2013	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13:00－14：00 （事前にメールでアポイントをとること） 研究室（4号館1階413研究室） sugimoto. junkoi@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	ガイダンス 再建型倒産処理手続の概要 導入講義	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、再建型倒産手続の概要について学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、再建型倒産手続とはどのような制度なのか、その概要と必要性について説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、事業再生や企業再建に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再建型倒産手続の必要性和概観について復習する。	120分
2	/	民事再生手続の基本的な流れ	民事再生手続の基本的な流れの概観を学習するとともに、事業譲渡も含めた事業再生概念の拡大について、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、民事再生手続の基本的な流れを説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文や講義レジュメを参考にしながら、再建型倒産手続の概要について復習し、事業再生と破産とはどのような相違があるのかについて、実際の事業再生事例などを自分で調べておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の基本的な流れと事業再生の概念について復習する。	120分
3	/	民事再生手続の申立てから 開始決定	民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの流れを学習する。民事再生法の条文を参考に、再生手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件について破産法と比較しながら学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れや保全措置について復習する。	120分
4	/	再生手続における各種機関	民事再生手続における機関について、主に再生債務者の法的地位、監督委員の役割と職務、債権者の手続参加を学ぶ。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、民事再生手続における再生債務者・監督委員・債権者等の各機関について説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の機関となる再生債務者、監督委員、債権者の役割について予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債務者の第三者性や公平誠実義務、監督委員の役割、債権者集会や債権者委員会について復習する。	120分
5	/	再生手続における債権の種類 と優先順位	再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を中心に、その相違点を学習する。再生債権と再生計画との関係についても理解を深める。	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続と比較しながらその相違点を説明することができる。	
		事前学修	民事再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続の場合と比較して予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を再確認しながら復習する。	120分
6	/	再生手続における債権の届出・ 調査・確定	再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続との比較をしながら学習する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続と比較しながら説明することができる。	
		事前学修	民事再生手続における債権の届出・調査・確定手続について、破産手続と比較して予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債権の届出・調査・確定までの手続について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	再生手続における担保権の取扱い	再生手続における担保権の処遇について学習する。破産手続における別除権との相違や、担保権消滅請求制度の役割についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら説明することができる。	
		事前学修	民事再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら予習する。改めて、民法における担保物権の復習もしておく。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続における別除権の取扱いについて、破産手続との比較も行いながら復習する。	120分
8	/	債務者財産の調査と確保（1）	再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生債務者による財産の調査や報告、双方未履行双務契約の処理について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥⑦に関連して、再生債務者の財産の調査や確保の方法について、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の知識を復習をしながら、その概要を説明することができる。	
		事前学修	破産法の条文や講義レジュメを参考に、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における双方未履行双務契約の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。	120分
9	/	債務者財産の調査と確保（2）	第8回に続き、再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生手続における否認権や相殺権の行使について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥⑦に関連して、再生債務者の財産の調査や確保の方法について、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の知識を復習をしながら、その概要を説明することができる。	
		事前学修	再生手続と破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について、類似性や相違点について復習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における否認権や相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。	120分
10	/	再生計画案の立案・認可	再生手続における再生計画案の立案・認可について学習する。再生債務者による再生計画の立案について、その要件や再生方針の決定など、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画案の立案・認可に関して、計画案の内容や認可のための要件等を条文で確認しながら説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の立案要件や権利変更等について予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画立案の要件や時期、再生方針の多様性について復習する。	120分
11	/	再生計画案の決議・認可	再生手続における再生計画の立案と認可について学習する。再生計画案に対する再生債権者の決議と計画案認可の可決要件について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画案に対する再生債権者の決議方法と認可のために必要な可決要件について、条文で確認しながら説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の決議と認可の方法について予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の決議方法や認可の要件等について復習する。	120分
12	/	再生計画の履行確保	再生手続において、再生計画認可後の再生計画の履行確保について学習する。再生計画の遂行における監督委員の役割についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画認可後の履行方法について、監督委員の役割とともに説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の履行確保の方法について予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の履行確保の方法等について復習する。再生手続における監督委員の役割と職務についても復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	再生手続の終了・廃止	民事再生手続の終結決定と、破産手続へ移行する場合の手続きの流れや各債権の移行について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生手続の終了・廃止と破産手続への移行について、条文を確認しながら説明することができる。	
		事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の終了や破産手続への移行について予習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の終了方法や破産手続の移行、その場合の各債権の取扱いについて復習する。	120分
14	/	個人再生手続の概要	消費者のための再建型倒産手続である個人再生手続について、その概観と手続きの基本的な流れについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人再生手続の概要や手続きの基本的な流れについて、消費者破産制度と比較しながら説明することができる。	
		事前学修	個人再生手続の特徴や必要性について、破産手続と比較しながら予習する。消費者や破産手続ではなく、再生手続を利用する場合のメリットについても自分で考えてみる。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、個人再生手続の流れや特徴について、消費者破産手続と比較しながら復習する。	120分
15	/	再建型倒産手続まとめ	民事再生手続と中心とした再建型倒産手続のまとめとして、破産手続との比較を行いながら、再確認していく。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、破産手続や会社更生手続と比較しながら、民事再生手続の流れについて説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義レジュメや講義ノートを参考にしながら、民事再生手続を中心とする再建型倒産手続について復習する。	120分
		事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続を中心に再建型倒産手続の流れを理解し、破産手続との相違点を確認する。	120分

科目名	東洋法制史Ⅰ	担当者	加藤 雄三	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義では、帝制期の中国における法制史を論じます。講義前半では、法典編纂の沿革を通史的に説明します。中国の前近代法というと律令格式をイメージする方が多いでしょうが、それは隋唐の時期に出現した一時的な完成形態にしか過ぎません。受講生には、その固定観念を振り払って、実態として法体系がどのように変遷したのかを学ぶよう期待します。後半は5年程度のサイクルで時代を区切り、各論的なトピックを論じます。今年度は、国制が複雑な展開を見せた宋代を対象として、司法、刑罰、家族のありようを論じます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国前近代法の体系的変遷を理解することを目的とし、宋代の司法、刑罰、家族のありようを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
パワーポイントスライドを用いて講義形式で行う。スライドをPDF化したものをノート用にポータル上で配布する。授業内テストの解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中国前近代法の体系的変遷を説明できる。【知識】						2						
②	宋代の司法、刑罰、家族のありようを説明できる。【知識】							2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義内容の理解度および課題を適切に論ずる能力を見る。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テストの結果について注意点も含めてポータルシステム上で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『訳注 中国歴代刑法志（補）』	内田智雄編、富谷至補	創文社	2005年	参考書	任意
『訳注 続中国歴代刑法志（補）』	内田智雄編、梅原郁補	創文社	2005年	参考書	任意
『訳注中国近世刑法志』上・下	梅原郁編	創文社	2002-3年	参考書	任意
『中国法制史論集：法典と刑罰』	滋賀秀三	創文社	2003年	参考書	任意
『宋代司法制度研究』	梅原郁	創文社	2006年	参考書	任意
『宋代民事法の世界』	青木敦	慶應義塾大学出版会	2014年	参考書	任意
『唐宋時代刑罰制度の研究』	辻正博	京都大学学術出版会	2010年	参考書	任意
『宋代庶民の女たち』	柳田節子	汲古書院	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問などについては、木曜講義の前後に教室で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木4/9	イントロダクション，導入講義	前近代中国法史総論	
		この回の到達目標	前近代中国法の体系について説明できる。	
		事前学修	高校の世界史教科書などで中国歴代王朝の境域の変遷を確認しておく。	120分
		事後学修	前近代中国法の体系について理解する。（2時間）	120分
2	木4/16	統一秦までの法	帝制以前の法と秦代の律と令について学ぶ。	
		この回の到達目標	帝制以前の法と秦代の律と令について説明できる。	
		事前学修	戦国時代から秦の天下一統、その国家体制を確認しておく。	120分
		事後学修	秦代の法制が国内各地に通達される単行法によっていたことを理解する。	120分
3	木4/23	漢代の法	秦の法体系を受け継いだ、漢代の律と令について学ぶ。	
		この回の到達目標	漢代の律と令について説明できる。	
		事前学修	漢代の国家体制と匈奴との関係について確認しておく。	120分
		事後学修	秦代の法制が漢代にどのように引き継がれたかを理解する。	120分
4	木4/30	魏晋南北朝：法典の出現	魏晋南北朝期における律典と令典の形成と展開について学ぶ。	
		この回の到達目標	魏晋南北朝期における律典と令典の形成と展開について説明できる。	
		事前学修	「中国」がふたたび分裂し、南北に出自がことなる貴族制国家が出現したことを確認する。	120分
		事後学修	書写材料の変化と法典の出現の関係を理解する。また、北方の遊牧集団の法が中華王朝の法に流入したことを把握する。	120分
5	木5/7	隋唐兩朝：律令格式体系の完成	律令格式体系の完成と社会変容について学ぶ。	
		この回の到達目標	律令格式体系の完成と社会変容について説明できる。	
		事前学修	隋による南北統一と唐代なかばからの藩鎮割拠情況、兩代における遊牧集団由来の支配者の系譜を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	律令格式の4法典からなる体系が出現した社会背景とそれらの法的実効性について理解する。（2時間）	120分
6	木5/14	五代と宋代：法典類型の変化	五代諸王朝と宋朝において実用的な変遷を遂げた法典について学ぶ。	
		この回の到達目標	五代諸王朝と宋朝において実用的な変遷を遂げた法典について説明できる。	
		事前学修	五代十国時期の諸王朝の国家体制とその中での沙陀系集団の意義、宋代に完成する皇帝独裁制について確認する。	120分
		事後学修	五代から南宋までの法典編纂が法律の実効性向上をめざしてのものだったことを理解する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木5/21	遼金西夏元：支配集団の固有法と中華王朝系の律の相克	北方から崛起し、中華王朝の支配者となった集団の法的な漢化問題について学ぶ。	
		この回の到達目標	北方から崛起し、中華王朝の支配者となった集団の法的な漢化問題について説明できる。	
		事前学修	北方の遊牧集団が開いた遼金元の3王朝とチベット系タンгут集団が開いた西夏について、それぞれ国家体制を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	遼、金、西夏、元の諸王朝では、支配者集団の固有法を尊重する動きと中華王朝系の律中心の体系に倣おうとする動きの両者がせめぎあっていたことを理解する。（2時間）	120分
8	木5/28	明清両朝：律例体系の出現	明清の律と例からなる新たな法体系について学ぶ。	
		この回の到達目標	明清の律と例からなる新たな法体系について説明できる。	
		事前学修	モンゴルの要素を継承しながら「唐宋に倣う」ことを志向した明朝とマンジュ・モンゴル・中国の三面に君臨した清朝の国家体制を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	律例の体系がいかに成立し、編纂がどのように制度化されていったかを理解する。（2時間）	120分
9	木6/4	宋代の中央司法制度	宋代の中央司法機構について学ぶ。	
		この回の到達目標	宋代の中央司法機構について説明できる。	
		事前学修	現代日本の司法機構と司法行政について確認する。	120分
		事後学修	宋代の司法官僚と司法機構について理解を深める。	120分
10	木6/11	宋代の地方司法制度	宋代の路・府・州・県の司法機構について学ぶ。	
		この回の到達目標	宋代の路・府・州・県の司法機構について説明できる。	
		事前学修	第9回講義の内容を確認する。	120分
		事後学修	他の時代と異なる宋代の地方司法機構について理解を深める。	120分
11	木6/18	宋代の健訟問題	多訟であった宋代社会について学ぶ。	
		この回の到達目標	多訟であった宋代社会について説明できる。	
		事前学修	日本近世も訴訟が少なくはなかったことについて確認する。	120分
		事後学修	訴訟を厭わない宋代の社会構造について理解する。	120分
12	木6/25	宋代の折杖と杖殺	杖刑を多用した宋代の刑罰制度について学ぶ	
		この回の到達目標	杖刑を多用した宋代の刑罰制度について説明できる。	
		事前学修	日本における量刑の相場について確認する。	120分
		事後学修	宋代、律や勅の条文上の刑罰を実際に執行される刑罰へ読み替えていたことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木7/2	宋代の編配	宋代の流刑的刑罰について学ぶ。	
		この回の到達目標	宋代の流刑的刑罰について説明できる。	
		事前学修	日本における流刑の変遷について確認する。	120分
		事後学修	宋代の国情に合わせた編配制度の展開について理解する。	120分
14	木7/9	宋代における女性の地位	宋代における女性の社会的・家族内的地位について理解する。	
		この回の到達目標	宋代における女性の社会的・家族内的地位について説明できる。	
		事前学修	現代日本における女性の地位について調べておく。	120分
		事後学修	儒教的な家族観にかかわらず、宋代の女性が社会的にも、家族内でも一定の地位を得ることがありえたことを理解する。	120分
15	木7/16	授業内テストおよび総括	授業内テストの実施および解説、ならびに授業の総括と質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	前期の講義内容を理解し、課題を適切に論ずることができる。	
		事前学修	授業を総括すること。	120分
		事後学修	授業内容全体の理解を深めること。	120分

科目名	東洋法制史Ⅱ	担当者	加藤 雄三	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、1) 帝制末期の王朝であり、前近代の王朝の中でもっとも多く資料が残り、司法と社会の実態を詳細に知ることができる清朝時代と2) 清末から民国時代にかけて進められた司法の近代化について論じます。本講の前半では、法源論、刑罰論、法意識、家族関係といった面から清代の司法と社会について説明します。本講の後半は、清末から民国時代にかけての司法と法制の近代化に向けられた努力について論じます。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
この講義は、1) 帝制末期の王朝であり、前近代の王朝の中でもっとも多く資料が残り、司法と社会の実態を詳細に知ることができる清朝時代と2) 清末から民国時代にかけて進められた司法の近代化について理解することを目的とし、前近代中国法の最終形態と中国法の近代化過程について説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
パワーポイントスライドを用いて講義形式で行う。スライドを印刷したものをノート用に配布する。授業内テストの解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国法の近代化過程について説明できる。【知識】						2							
②	前近代中国法の最終形態について説明できる。【知識】							2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内容の理解度および課題を適切に論ずる能力を見る。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()	、。											
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テストの結果について注意点も含めてポータルシステム上で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『清代中国の法と裁判』	滋賀秀三	創文社	1984年	参考書	任意
『続・清代中国の法と裁判』	滋賀秀三	創文社	2009年	参考書	任意
『中国法制史』	寺田浩明	東京大学出版会	2018年	参考書	任意
『民国司法志』	汪楫宝	正中書局	1954年	参考書	任意
『中国近代法律史講義』	陳新宇・陳煜・江照信	九州出版社	2016年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問などについては、講義の前後に教室で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木9/17	イントロダクション：清代の律例	清代の律例編纂について学ぶ。	
		この回の到達目標	清代の律例編纂について説明できる。	
		事前学修	前期受講生は前期第8講の内容を復習しておくこと。	120分
		事後学修	清代の法体系が定期的に改訂される律例を中心として成立していることを理解する。	120分
2	木9/24	清代の裁判機構	清代の刑事裁判を司る裁判機構について学ぶ。	
		この回の到達目標	清代の刑事裁判を司る裁判機構について説明できる。	
		事前学修	日本の司法機構について復習しておく。	120分
		事後学修	清代の民政機関の裁判機構としての役割と関係性、裁判の進め方について理解する。	120分
3	木10/1	清代の断罪	清代の刑事裁判について学ぶ。	
		この回の到達目標	清代の刑事裁判について説明できる。	
		事前学修	日本の刑事判決起案における裁判官の思考について調べておく。	120分
		事後学修	清代の量刑がどのような準則にもとづいて、いかなる論理で行われたのかを理解する。	120分
4	木10/8	律例と成案、判決の基礎付けと判決の統一	清代の刑事裁判における判決について考察する。	
		この回の到達目標	清代の刑事裁判における判決について説明できる。	
		事前学修	日本の司法における判例の意義について調べておく。	120分
		事後学修	清代における全国的な司法管理について理解する。	120分
5	木10/15	清代の聴訟	民事的な争訟において言及される「情・理・法」の概念について学ぶ。	
		この回の到達目標	民事的な争訟において言及される「情・理・法」の概念について説明できる。	
		事前学修	日本の裁判で援用される法源について調べておく。	120分
		事後学修	「聴訟」をキーワードとして講義内容を整理する。	120分
6	木10/22	清代の刑罰	律の上での正刑（五刑）とその周辺で発展した諸刑罰、地方で執行された臨時の刑罰について学ぶ。	
		この回の到達目標	律の上での正刑（五刑）とその周辺で発展した諸刑罰、地方で執行された臨時の刑罰について説明できる。	
		事前学修	日本刑法内の刑罰について調べておく。	120分
		事後学修	正刑とその読み替え、例外、やむを得ざる状況下における臨時の措置という諸刑罰の体系と関係性について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木10/29	清代家族法上の基本概念	清代の家族関係、相続関係にかかわる諸概念について学ぶ。	
		この回の到達目標	清代の家族関係、相続関係にかかわる諸概念について説明できる。	
		事前学修	日本の家族関係や相続関係を民法に則して調べるとともに、家族内で話し合う。	120分
		事後学修	礼にもとづく家族関係、同居共財という財産関係を理解する。	120分
8	木11/5	中国近代史序説	中国近代史の概略を学ぶ。	
		この回の到達目標	中国近代史の概略を論じることができる。	
		事前学修	アヘン戦争以来の中国の国際関係について復習しておくこと。	120分
		事後学修	清代末期に中国が欧米列強とわたりあわねばならない環境に巻き込まれていったことを理解する。	120分
9	木11/12	清末の法制改革	清末の法制改革について学ぶ。	
		この回の到達目標	清末の法制改革について説明できる。	
		事前学修	世界史教科書あるいは中国史基本書の該当箇所を読み直す。	120分
		事後学修	日清戦争、義和団戦争から意識された国政改革の必要性からもたらされた法制改革の動きについて理解する。	120分
10	木11/19	近代公法の変遷	近代中国の立憲政治の模索について学ぶ。	
		この回の到達目標	近代中国の立憲政治の模索について説明できる。	
		事前学修	世界史教科書あるいは中国史基本書の該当箇所を読み直す。	120分
		事後学修	清末における君主立憲制の探求、民国期の共和制下の憲政への変遷について理解する。	120分
11	木12/3	近代刑法の変遷	中国における近代刑法の編纂とその内容について学ぶ。	
		この回の到達目標	中国における近代刑法の編纂とその内容について説明できる。	
		事前学修	明治期日本における刑事法典の編纂過程について確認する。	120分
		事後学修	固有法から近代刑法に移行するために紆余曲折があったことを理解する。	120分
12	木12/10	近代私法の変遷	中国における近代民法典及び商事単行法の編纂とその内容について学ぶ。	
		この回の到達目標	中国における近代民法典及び商事単行法の編纂とその内容について説明できる。	
		事前学修	日本の民法典論争について確認する。	120分
		事後学修	中華民国民法典が制定されるまでの私法の状況と同法典の先進的構成と固有法的規定について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木12/17	近代司法の変遷	司法の近代化過程におけるナショナリズムの発揚と昇華について学ぶ。	
		この回の到達目標	司法の近代化過程におけるナショナリズムの発揚と昇華について説明できる。	
		事前学修	世界史教科書あるいは中国史基本書のナショナリズムにかかわる箇所を読み直す。	120分
		事後学修	近代化の過程において中国的なものが失われることについての危機感が知識人に共有されたことを理解する。	120分
14	木12/24	近代史上生じた特殊な地域の法	租界社会における司法について上海の2租界を事例として学ぶ。	
		この回の到達目標	租界社会における司法について説明できる。	
		事前学修	世界史教科書あるいは中国史基本書の該当箇所を読み直す。	120分
		事後学修	租界における法の混淆状況について理解する。	120分
15	木1/14	授業内テストおよび総括	授業内テストの実施および解説、ならびに授業の総括と質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	後期の講義内容を理解し、課題を適切に論ずることができる。	
		事前学修	授業を総括すること。	120分
		事後学修	授業内容全体の理解を深めること。	120分

科目名	都市政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
地方分権時代を迎え、地域社会における都市自治体の役割と責任は増大している。この授業では、「住民」と「都市自治体」「他のアクター」との関係性に注目しながら、都市自治体を取り巻く環境、政策過程に関する基本的な事項、政策形成の基本的な考え方を学修する。都市問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材としてその解決策を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として身についておくべき、都市政策に関する基礎的知識を習得し、その知識をもとに都市における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ説明でき、主体的に行動できる。

【履修条件】
特にないが、講義中私語をする者は他の者の迷惑となるので履修を遠慮すること。講義に出席が難しい場合、単位の取得は難しいので注意すること。併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	都市政策に関する主要な概念や理論を識別することができる。					4						
②	都市政策で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							4	4			
③	都市政策に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							4	4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やリポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	テキストは使用しない				

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 都市自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容	審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	都市政策の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
		この回の到達目標	まちづくりという用語の意味とその背景について説明できる。都市政策とまちづくりの関係を説明できる。	
		事前学修	「まちづくり」とはなにか、どのような場面で使われているか考えてくる	120分
		事後学修	「街づくり」と「まちづくり」の違いを理解できたか考える	120分
2	4/14	都市の様相の変化と都市政策	新時代の都市の様相、都市の再生、成熟化する都市について学修する。	
		この回の到達目標	新時代の都市の様相をとらえたうえで、都市の再生、成熟化する都市について説明できる。	
		事前学修	時代ごとに都市はどのような変化について考える	120分
		事後学修	成熟化した都市の住民の考え方について学習する	120分
3	4/21	都市形成の歴史	歴史のなかでの都市とはなにかについて学修する。	
		この回の到達目標	都市の機能の移り変わりについて説明できる	
		事前学修	都市の定義について調べてみる	120分
		事後学修	都市の時代ごとの役割を復習する	120分
4	4/28	都市の原理	都市をつくる指針について学修する。	
		この回の到達目標	都市をつくる指針とはなにかを自分なりに説明できる	
		事前学修	都市をつくる指針とはなにかを自分なりに考えてくる	120分
		事後学修	自分の住む自治体の長期構想を読んでみる	120分
5	5/5	都市の機能と時代	都市と時代背景について学修する。	
		この回の到達目標	都市の時代背景について説明できる	
		事前学修	都市の時代背景の関係について、各国で比較してみる	120分
		事後学修	都市の時代背景とその誕生について整理してみる	120分
6	5/12	都市の主体と都市の構造	都市の主体はなにか、都市の構造はどのようなになっているかを学修する。	
		この回の到達目標	都市の構造とそのなかで都市の主体が果たす役割について説明できる	
		事前学修	新しい公共とはなにか考える	120分
		事後学修	都市と新しい公共についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	都市の法規	都市を形成するための法規について学修する。	
		この回の到達目標	都市を形成する法規について、主要なものについては説明できる	
		事前学修	都市を形成する法規について調べてくる	120分
		事後学修	都市を形成する法規の役割と機能についてまとめる	120分
8	5/26	都市計画	都市計画制度について学修する	
		この回の到達目標	用途地域について説明できる	
		事前学修	都市計画法を読んでくる	120分
		事後学修	用途地域について事例を考えながらまとめる	120分
9	6/2	都市計画	都市計画区域について学修する。	
		この回の到達目標	都市計画域の構造について学修する	
		事前学修	都市計画区域について調べてくる	120分
		事後学修	都市計画区域について概要を再認する	120分
10	6/9	都市をまもる；安全安心な都市	都市をまもる；安全安心な都市について学修する	
		この回の到達目標	体感治安とまちづくりの関係について学修する。	
		事前学修	日本の犯罪率について考える	120分
		事後学修	体感治安とまちづくりに与える影響について検討する	120分
11	6/16	安心なまち	安心と安全の違いを学修し、町づくりとの関係について学修する	
		この回の到達目標	犯罪をなくす取り組みについて説明できる	
		事前学修	犯罪をなくす先進的な取り組みについて考える	120分
		事後学修	犯罪のない街の特徴を整理する	120分
12	6/23	コミュニティ政策	コミュニティとまちづくりの関係について学修する	
		この回の到達目標	まちづくりにとってコミュニティの再生が必要なことを説明できる	
		事前学修	コミュニティの定義について過去のものを調べてくる	120分
		事後学修	コミュニティの在り方について整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	コミュニティ政策と町の形成	現代のコミュニティについて学修する	
		この回の到達目標	現代街づくりに必要なコミュニティについて説明できる	
		事前学修	ソーシャルキャピタルの定義について調べてみる	120分
		事後学修	自治体のコミュニティ政策の変化について整理する	120分
14	7/7	環境政策	都市の環境政策の手法について学修する	
		この回の到達目標	都市の環境政策の手法について説明できる	
		事前学修	都市自治体の環境政策について、市町村レベルと都道府県レベルの相違を調べる（2時間）	120分
		事後学修	環境政策の有効性と住民との関係について考える	120分
15	7/14	シビックプライド	シビックプライドについて政策との関係を学修する。	
		この回の到達目標	都市のシビックプライドの手法について説明できる	
		事前学修	シビックプライドの概念について調べる	120分
		事後学修	シビックプライドの課題について整理する	120分

科目名	日本経済論Ⅰ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
日本経済の現状について、財政・金融面から産業、国際面まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。しばらく議論されてきたバブル崩壊以降の失われた20年といった経済成長の問題だけでなく、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係についても取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本経済の現状について歴史・制度面から把握し、理解することができる。				2	2						
②	日本経済の現状について経済理論とデータ面から把握し、理解することができる。				2	2						
③	現代の日本経済が抱える課題を認識することができる。					2						
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、日本経済の現状と課題に対する理解と認識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	30								80
小テスト等	数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本経済読本（第21版）	大守隆	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木4/9	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・停滞する日本経済 ・デフレ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、日本経済の現状と課題を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	第一部 木4/16	課題先進国になった日本	・長期停滞要因に関する様々な仮説 ・なお残る優位 ・「課題先進国」	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の長期停滞について説明できる。	
		事前学修	教科書 第1章 第3節～第5節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
3	第一部 木4/23	日本経済の歩み(1)	・戦前の経済発展 ・戦後復興 ・高度経済成長	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦前から高度経済成長までの日本経済の大まかな流れについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
4	第一部 木4/30	日本経済の歩み(2)	・オイルショック ・円高 ・バブル経済とその崩壊	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、オイルショック以降の日本経済の大まかな流れについて説明できる。	
		事前学修	教科書 第2章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
5	第一部 木5/7	日本の経済政策(1)	・経済政策の分類 ・バブル経済までの経済政策	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の経済政策について説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
6	第一部 木5/14	日本の経済政策(2)	・バブル経済崩壊後の経済政策 ・国際経済政策	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最近の日本の経済政策について説明できる。	
		事前学修	教科書 第3章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木5/21	財政赤字の拡大と再建への 取組み(1)	・財政の3機能 ・日本の財政制度	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割と日本の財政制度について説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章 第1節と第2節の2までの全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
8	第一部 木5/28	財政赤字の拡大と再建への 取組み(2)	・日本の税制 ・財政の現状 ・財政再建	
		この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、日本財政の現状について説明できる。	
		事前学修	教科書 第4章 第2節の3と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
9	第一部 木6/4	異次元の金融政策の効果と リスク(1)	・金融の役割 ・日本の金融制度 ・金融政策	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、日本の金融制度と金融政策について説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	第一部 木6/11	異次元の金融政策の効果と リスク(2)	・非伝統的な金融政策 ・バブルと金融危機	
		この回の 到達目標	到達目標②③に関連して、非伝統的な金融政策について説明できる。	
		事前学修	教科書 第5章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	第一部 木6/18	創生に取り組む地方経済(1)	・地方経済の現状 ・地方創生	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、地方経済の現状について説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	第一部 木6/25	創生に取り組む地方経済(2)	・地方財政の現状 ・地方分権改革 ・ソーシャル・キャピタルと地域経済	
		この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、地方行財政の現状について説明できる。	
		事前学修	教科書 第6章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木7/2	国際的な競争環境の変化と 企業行動(1)	・比較優位 ・日本の輸出産業の比較優位	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、比較優位について説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	第一部 木7/9	国際的な競争環境の変化と 企業行動(2)	・アジア域内での国際分業 ・海外生産の増加	
		この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、国際的な競争環境と日本の産業構造について説明できる。	
		事前学修	教科書 第7章 第2節～第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
15	第一部 木7/16	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、日本経済の現状と課題を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、日本経済の現状と課題について総合的に説明できる。	
		事前学修	教科書やノートを読み直して、これまでの授業内容について整理し、疑問点があればそれをまとめる。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理して、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	日本経済論Ⅱ	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の現状について、財政・金融面から産業、国際面まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。しばらく議論されてきたバブル崩壊以降の失われた20年といった経済成長の問題だけでなく、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係についても取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本経済の現状について歴史・制度面から把握し、理解することができる。							2	2				
②	日本経済の現状について経済理論とデータ面から把握し、理解することができる。							2	2				
③	現代の日本経済が抱える課題を認識することができる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、日本経済の現状と課題に対する理解と認識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	30								80
小テスト等	数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本経済読本（第21版）	大守隆	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の月曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・日本の労働市場 ・人手不足	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、日本経済の現状と課題を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	第一部 木9/24	人口減少のなかでの雇用とその二極化	・非正規雇用の増加 ・日本的雇用慣行 ・働き方の変化	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日本の雇用について説明できる。	
		事前学修	教科書 第8章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
3	第一部 木10/1	国民生活の現状と格差問題(1)	・家計消費の動向 ・家計貯蓄の動向	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、家計消費と貯蓄の動向について説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
4	第一部 木10/8	国民生活の現状と格差問題(2)	・家計保有資産の現状 ・経済格差 ・貧困問題	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の経済格差と品行問題について説明できる。	
		事前学修	教科書 第9章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
5	第一部 木10/15	少子高齢化時代の社会保障(1)	・高齢化問題 ・日本の社会保障制度	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の高齢化と社会保障について説明できる。	
		事前学修	教科書 第10章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
6	第一部 木10/22	少子高齢化時代の社会保障(2)	・少子化問題 ・子育て支援	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の少子化問題について説明できる。	
		事前学修	教科書 第10章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	増加した所得収支黒字とインバウンド(1)	・日本の国際収支 ・日本の貿易構造の変化	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の国際収支の変化について説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
8	第一部 木11/5	増加した所得収支黒字とインバウンド(2)	・円の為替レート ・円安と日本経済	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円の為替レートと日本経済の関係について説明できる。	
		事前学修	教科書 第11章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
9	第一部 木11/12	資源エネルギー戦略の再構築(1)	・原発事故までのエネルギー政策 ・原発事故後のエネルギーの状況	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、原発事故と日本のエネルギー政策について説明できる。	
		事前学修	教科書 第12章 第1節～第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	第一部 木11/19	資源エネルギー戦略の再構築(2)	・再生可能エネルギーと政策 ・シェール革命	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、これからのエネルギー政策について説明できる。	
		事前学修	教科書 第12章 第4節～第6節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	第一部 木12/3	経済との関係が強まる環境問題(1)	・公害問題 ・循環型社会	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、循環型社会について説明できる。	
		事前学修	教科書 第13章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	第一部 木12/10	経済との関係が強まる環境問題(2)	・生物多様性の保全 ・気候変動問題	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、生物多様性の保全と気候変動問題について説明できる。	
		事前学修	教科書 第13章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	回復が続く世界経済の現状と主要課題(1)	・主要国の経済成長率 ・リーマンショック ・世界金融危機	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、世界金融危機について説明できる。	
		事前学修	教科書 第14章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	第一部 木12/24	回復が続く世界経済の現状と主要課題(2)	・世界経済の動向 ・地域経済連携	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、世界経済の動向について説明できる。	
		事前学修	教科書 第14章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
		事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
15	第一部 木1/14	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、日本経済の現状と課題を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、日本経済の現状と課題について総合的に説明できる。	
		事前学修	教科書やノートを読み直して、これまでの授業内容について整理し、疑問点があればそれをまとめる。	120分
		事後学修	これまでの内容を整理して、定期試験の準備を行う。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
特になし。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】
主に講義形式で実施するが、授業前に課す課題には必ず取り組んでくること。授業に臨む際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる					2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる					2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べることができる						2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる						2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる						2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる							2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる							2					
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	5	15	15	15	15		15				80
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、②③④⑤の知識がどの程度身についているかを、主として形成的評価として判断する。		1	2	1	1						5
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを評価する。	5					5	5				15
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	16	17	16	16	5	20				100

【課題に対するフィードバックの方法】
形成評価のための小テストに関しては授業内に解説を行い、成績評価のための課題に関してはポータルシステム等を使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
2	第一部 火4/14	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
3	第一部 火4/21	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
4	第一部 火4/28	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
5	第一部 火5/5	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
6	第一部 火5/12	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	成長期の新聞①	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
8	第一部 火5/26	成長期の新聞②	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
9	第一部 火6/2	商業新聞への転換①	編集と経営の改革 言論第一主義の復活	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
10	第一部 火6/9	商業新聞への転換②	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
11	第一部 火6/16	戦争と新聞①	日清戦争と新聞 新聞の近代化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
12	第一部 火6/23	戦争と新聞②	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
14	第一部 火7/7	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
15	第一部 火7/14	総括	日本の近代化と新聞 営利企業としての新聞と「中立性」	
		この回の到達目標	到達目標①⑥⑦に関連し、メディア史料を調べて読み解くことができる。 本講義の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。	120分
		事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「メディアと歴史」の単位を先に修得していることが望ましい。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】
主に講義形式で実施するが、授業前に課す課題には必ず取り組んでくること。授業に臨む際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる				2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる				2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べるることができる					2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる					2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる					2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる						2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる						2					
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	5	15	15	15	15		15				80
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、②③④⑤の知識がどの程度身についているかを、主として形成的評価として判断する。		1	2	1	1						5
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを評価する。	5					5	5				15
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	16	17	16	16	5	20				100

【課題に対するフィードバックの方法】
形成評価のための小テストに関しては授業内に解説を行い、成績評価のための課題に関してはポータルシステム等を使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
2	第一部 月9/21	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
3	第一部 月9/28	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
4	第一部 月10/5	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
5	第一部 月10/12	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
6	第一部 月10/19	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	成長期の新聞①	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
8	第一部 月11/9	成長期の新聞②	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
9	第一部 月11/16	商業新聞への転換①	編集と経営の改革 言論第一主義の復活	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
10	第一部 月11/23	商業新聞への転換②	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
11	第一部 月11/30	戦争と新聞①	日清戦争と新聞 新聞の近代化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
12	第一部 月12/7	戦争と新聞②	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞 小テスト	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
14	第一部 月12/21	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
		この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
15	第一部 月1/18	総括	日本の近代化と新聞 営利企業としての新聞と「中立性」	
		この回の到達目標	到達目標①⑥⑦に関連し、メディア史料を調べて読み解くことができる。 本講義の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。	120分
		事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」で扱った幕末期から大正前期の内容を踏まえて、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「日本ジャーナリズム史Ⅰ」の単位を修得していること。

【授業方法】
主に講義形式で実施するが、授業前に課す課題には必ず取り組んでくること。授業に臨む際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。						3						
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。							3					
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。								3				
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関わる知識および技能が身についているかを，ペーパーテストによって評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内のディスカッションやリアクションペーパーによって、到達目標④に関する知識および態度を評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内およびポータルサイトを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 月4/6	ガイダンス・導入講義	ジャーナリズムの歴史を学ぶ意義
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる
		事前学修	日本ジャーナリズム史Ⅰの内容の振り返り。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
2	第一部 月4/13	国際会議と新聞①	補論1：日本のジャーナリズムと国際通信の歴史 パリ講和会議と新聞
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
3	第一部 月4/20	国際会議と新聞②	軍縮条約交渉と新聞 新聞争議と流言飛語
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
4	第一部 月4/27	国際会議と新聞③	大正期における編集と経営の変化
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
5	第一部 月5/4	『朝毎』全盛時代①	政党政治の腐敗墮落と新聞 大阪系新聞の東京制覇
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分
6	第一部 月5/11	『朝毎』全盛時代②	東京各紙の没落 新聞の軍部批判
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	『朝毎』全盛時代③	軍部による言論統制と二・二六 補論2：日本における通信社の歴史	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
8	第一部 月5/25	大日本帝国の崩壊と新聞①	日中戦争と新聞 第2次世界大戦の開幕と新聞	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
9	第一部 月6/1	大日本帝国の崩壊と新聞②	新聞の統廃合	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
10	第一部 月6/8	大日本帝国の崩壊と新聞③ 占領期の新聞①	敗戦と新聞 GHQの新聞政策	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期・占領期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
11	第一部 月6/15	占領期の新聞②	新聞の民主化運動 取材源証言拒否事件と捏造報道	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、占領期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
12	第一部 月6/22	飛躍する新聞①	対日講和条約と新聞 激化する販売競争	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	飛躍する新聞②	新聞界の技術革新と報道協定 安保問題と新聞	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	COLNet共有フォルダに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
		事後学修	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。	120分
14	第一部 月7/6	授業内試験と解説	大正後期から昭和期までのジャーナリズムの歴史のまとめ 理解度テスト	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期から昭和期までの日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
		事前学修	自筆のノートの内容の振り返り。	120分
		事後学修	テスト内容の見返し。	120分
15	第一部 月7/13	総括	質疑応答とディスカッション	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。	
		事前学修	自筆のノートの内容の振り返り。（2時間）	120分
		事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。（2時間）	120分

科目名	日本政治過程論	担当者	浅井 直哉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
この授業は、日本を対象としたケーススタディを取り扱う。1993年の非自民連立政権から第2次安倍政権に至るまでの政権においてどのような政治過程が観察されてきたのかに関して、日本政治の流れや各政権の特徴について学修する。日本では、長らく自民党が単独で政権を担っていたが、1990年代に入ると、複数の政党が協力して政権を担当する様子がみられるようになった。このような変化を踏まえると、現代の日本政治を考えるには、連立政権という視点に立つことが重要となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
1990年代以降の日本政治の特徴を理解するために、連立政権という分析視角を修得し、各政権に適用することができるとともに、政権ごとの特色や政権間の共通点および相違点を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として、PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本政治における連立の形態を識別し，説明することができる。						2	2					
②	日本政治における連立政権の形成について理解し，説明することができる。						2	2					
③	日本政治における連立政権の変化について理解し，説明することができる。						2	2					
④	日本政治における連立政権の実績について理解し，その後への影響と結びつけて説明できる。						2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～④について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標④に関して説明することができるかについて評価する。				20							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の連立政権』	岩渕美克・岩崎正洋編	八千代出版	2018	教科書	必携
『現代日本政治史』	薬師寺克行	有斐閣	2014	参考書	推奨
『現代の政党と選挙〔新版〕』	川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子	有斐閣	2011	参考書	推奨
『ドキュメント平成政治史1 崩壊する55年体制』	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	任意
『ドキュメント平成政治史2 小泉劇場の時代』	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	任意
『ドキュメント平成政治史3 幻滅の政権交代』	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	任意
『永田町政治の興亡 権力闘争の舞台裏』	星浩	朝日新聞出版	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	イントロダクション：日本における連立政権	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、1993年以降の日本政治の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本政治過程論を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	1993年以前の日本政治に関する知識や情報を整理し、授業前にノートにまとめる。	60分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	9/22	連立政権の理論的枠組み	連立政権とは何か、連立政権を考えるための枠組みにはどのようなものがあるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連立政権の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	9/29	細川政権	細川政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、細川政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	10/6	羽田政権	羽田政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、羽田政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	10/13	村山政権	村山政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成と実績を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、村山政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	10/20	橋本政権	橋本政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、橋本政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	小渕・森政権	小渕政権・森政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、小渕政権・森政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	11/10	小泉政権	小泉政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、小泉政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	11/17	第1次安倍政権	第1次安倍政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、第1次安倍政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	11/24	福田・麻生政権	福田政権・麻生政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、福田政権・麻生政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	12/1	鳩山政権	鳩山政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、鳩山政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	12/8	菅政権	菅政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、菅政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	野田政権	野田政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、野田政権の発足から終焉について説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	12/22	第2次安倍政権	第2次安倍政権におけるこれまでの政治過程や特徴について、連立政権の形成・変化・実績をそれぞれ説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前の政権とのつながりを踏まえつつ、第2次安倍政権の発足から現時点までを説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	1/12	日本の連立政権における展望と課題	これまでに扱った各政権の共通点や差異点について、連立政権の形成・変化・実績という点から説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各政権の特徴を理解するとともに、政権同士の比較を通じて共通点や差異点を導き出し、説明することができる。	
		事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
原則として、教職を目指す者を受講の対象とする。

【授業方法】
授業は、明治維新を起点として、時系列に沿って、講義を中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる						1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる							1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる						1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる						1		1					1
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い(問題文)に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する(到達目標では特に①②③に関わる)	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う(ポータル＋希望者には個別に)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代日本の官僚	清水唯一郎	中央公論新社	2012年	参考書	推奨
増補版 1940年体制	野口悠紀雄	東洋経済新報社	2014年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日昼休みまたは金曜日昼休み

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9／14	日本型官僚主導とはなにか	日本の政治経済体制の特徴は「官僚主導」であるといわれ、「政治主導」の確立が政治の課題とされてきたが、その意味するところは何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④にもとづき、現代日本の政治経済体制としての「官僚主導」とはいかなるものかについて説明できる。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や授業を通しての到達目標について、理解しておくこと。	120分
		事後学修	現代政治における「官僚主導」と「政治主導」について、指示された文献などを通じて、確認することを求める。	120分
2	9／21	明治維新と近代国家の形成	明治維新より、日本が目指した近代国家形成に向けて「中央集権」体制をいかに確立していったかを論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①③④にもとづき、明治維新の政治的意味と明治政府が目指した近代国家とは何かについて、欧米との比較において説明できる。	
		事前学修	明治維新や近代国家について、基礎的な知識を学習しておくことを求める。	120分
		事後学修	徳川幕藩体制と明治政府の体制の違いについて、「分権」と「集権」の違いを確認しておくこと。	120分
3	9／28	初期近代官僚制の形成	日本の近代官僚制の形成について、明治初年の政体書から明治21年の高等文官試験制度の確立までを論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②にもとづき、明治初期における近代国家の形成と官僚制の成立過程について説明できる。	
		事前学修	明治初期に起きた、さまざまな政治的な事件などについて、日本史での学習を振り返り、基礎的な知識を得ておくことを求める。	120分
		事後学修	初期官僚制形成の中で、大久保利通が果たした役割について、再確認しておくこと。	120分
4	10／5	明治憲法体制の確立と官僚制	大日本帝国憲法の発布に伴う帝国議会の成立が明治政府と官僚制に与えた影響について、明治政府が目指した独自の憲法体制について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③にもとづき、明治憲法体制の特徴を現代の日本国憲法体制との比較の中で説明できる。	
		事前学修	今日の日本国憲法の下で、立法、行政、司法はそれぞれどのように位置づけられているかについて、基礎的な知識を確認しておくこと。	120分
		事後学修	帝国憲法において、内閣や議会そして官僚制はどう位置づけられたかについて、各種文献などを通じて、再確認しておくことを求める。	120分
5	10／12	初の政党内閣の誕生と官僚制への影響	明治維新以来、初の政党内閣である隈板内閣の成立と官僚人事への介入が薩長藩閥政治に与えた衝撃と、その後の山県内閣による官僚制度の改革について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②にもとづき、明治官僚制の最終的な確立について、政党政治と藩閥政治との関係を前提に説明できる。	
		事前学修	明治時代における政党の発達の歴史について、自由党などを中心に概観的に学んでおくことが求められる。	120分
		事後学修	1899年の文官任用令の改正と軍部大臣現役武官制の導入が、その後の日本政治に与えた影響について、再確認しておくこと。	120分
6	10／19	大正デモクラシーと政党政治の発展	明治後期から大正にかけての政党政治の発展と桂園時代における政党政治と官僚制との関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③にもとづき、明治憲法体制下における政党政治の発展とその限界について説明することができる。	
		事前学修	すでに授業で学んだ大日本帝国憲法体制とは、どのような体制であったのかを確認しておくことを求める。	120分
		事後学修	大正デモクラシーの下での政党政治が政権争奪戦となっていく中で、軍部の影響力が拡大していった過程について、授業内容を前提に文献などで確認しておくことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	昭和恐慌と新官僚の登場	昭和初期における経済危機における政党政治の機能不全と5.15事件を契機に台頭する「新官僚」と呼ばれる官僚群の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③④にもとづき、昭和恐慌、世界恐慌などの経済危機と5.15事件が政党政治に与えた影響について説明できる。	
		事前学修	第一次世界大戦後とその後の世界恐慌について、基礎的な知識を学んでおくことを求める。	120分
		事後学修	5.15事件後に台頭した新官僚が、その施策の拠り所としたロシア革命以後のソビエトの政治経済体制について、各種の文献などを通じて、確認しておくことを求める。	120分
8	11/9	戦時総動員体制と革新官僚	満州事変以降の戦時体制の確立と、「革新官僚」呼ばれた新しい官僚とその政策について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③にもとづき、第二次世界大戦に向かう日本政治と台頭した「革新官僚」について説明できる。	
		事前学修	世界恐慌以後の世界政治の動向と当時の日本政治の状況について、あらかじめ文献などで基礎的な知識を学んでおくことが求められる。	120分
		事後学修	「革新官僚」が拠り所とした、当時のドイツのナチスの国家社会主義とは何かについて文献や資料などを通じて、確認すること。	120分
9	11/16	1940年体制	戦時総動員体制の下、1940年前後に登場した「1940年体制」と呼ばれた政治経済体制について、体系的に学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②④にもとづき、1940年体制とは何か、それが現代日本にまで及んだ影響について説明することができる。	
		事前学修	革新官僚が目指した国家社会主義とは何かについて、ナチス・ドイツを例に取り、文献などで学んでおくことを求める。	120分
		事後学修	1940年体制下で作られた各種立法とその後について、文献や資料などで自ら調べておくこと。	120分
10	11/23	日本の敗戦と占領政策	第二次世界大戦における日本の敗戦と占領体制の下、GHQが行った戦後改革が戦後の政治体制に与えた影響について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③にもとづき、占領軍による占領政策と戦後改革について説明することができる。	
		事前学修	第二次世界大戦後の占領政策について、ドイツやイタリアの事例を自ら調べておくことが求められる。	120分
		事後学修	この授業では触れきれなかった占領軍による5大改革について、文献や資料を用いて自ら調べておくことを求める。	120分
11	11/30	吉田茂と官僚出身政治家	第二次世界大戦後の日本政治を担った吉田茂の人物像と考え方、その施策について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②にもとづき、吉田茂の人物像とその施策について説明することができる。	
		事前学修	1945年から1950年頃までの日本政治の変遷について、政党、政治家などの観点から事前に調べておくことを求める。	120分
		事後学修	吉田茂の政治の特質について授業で触れきれなかったものについて、確認しておくことを求める。	120分
12	12/7	朝鮮戦争と占領体制の終焉	朝鮮戦争を契機とする日本の独立と占領体制の終焉が、日本の政治や官僚制にいかなる影響を与えたかについて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標③④にもとづき、朝鮮戦争が戦後日本の政治に与えた影響について説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦後の米ソ対立の歴史的背景について、基礎的な学習を行っておくことが望ましい。	120分
		事後学修	朝鮮戦争が日本の経済復興に与えた影響について確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12／14	五五年体制の登場と自民党一党優位体制	保守合同による自民党の誕生と社会党の再統一の背景とその影響について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①④にもとづき、五五年体制や自民党一党優位体制について説明することができる。	
		事前学修	再度、戦後の政党の変遷について、基礎的な知識を学んでおくことが望ましい。	120分
		事後学修	二大政党制確立に対する国民世論の反応について、確認しておくこと。	120分
14	12／21	官僚政治と高度経済成長	自民党による「一党優位体制」の確立と「高度経済成長」の中で、官僚制が果たした役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④にもとづき、1955年以降の高度経済成長の特質と政治的背景について説明できる。	
		事前学修	「高度経済成長」とは何かについて、基礎的な学習を行っておくことが望ましい。	120分
		事後学修	自民党という政党はいかなる政党かについて、確認しておくこと。	120分
15	1／18	日本型官僚主導体制	明治から現代に至るまで、官僚制が果たした役割と政官関係の変遷について、これまでの授業内容を再度、振り返り、まとめの学習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④にもとづき、日本型官僚主導体制とは何かを説明することができる。	
		事前学修	これまでの学習を振り返り、「官僚主導」とは何かについて、基礎的な学習を行っておくことが求められる。	120分
		事後学修	再度、「1940年体制」とは何かについて、確認しておくこと。	120分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
特になし ※1年生はできるだけ木曜1限で受講してください

【授業方法】
授業時に配布するレジュメ（各回の概要と構成を記したプリント）に基づいて、講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い(問題文)に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する(到達目標では特に①②③に関わる)	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評と解説を行う(ポータルで公表＋希望者には個別にも)

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第2・3・4巻	坂本多加雄ほか	中公文庫	2012-13	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』②③④	牧原憲夫ほか	岩波新書	2006-07	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み(12:10-12:50, 事前にメール等で予約して下さい) 研究室(9号館4階9405号) nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	科目と講義の案内 序論(1) 歴史の見方 (2) ①時代区分とは	「日本政治史」という科目の学問上の位置、講義の概要と方針 序論： 歴史的な「事実」の捉え方、時代区分の意味	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、「事実」に対する認識の仕方と、それに基づく歴史の捉え方を理解し説明できる（これは本講義の聴き方、講義内容の理解の仕方でもあると認識すること）	
		事前学修	受講全体の準備：中高で学んだ日本史の近代・現代（明治維新から太平洋戦争終結あたりまで）を復習してください。その際、教科書や参考書の「部」「章」等の区分（目次で一覧できます）がどのように立てられているかも確認してください。	180分
		事後学修	学問上の「事実」の捉え方が解りましたか。また中高の教科書や本講の参考書等で、時代区分がどのようになされているかを確認してみてください。	60分
2	第一部 火4/14	序論(2) ②「近代」と「現代」 1. 明治国家の形成 (1) 明治維新と新政府(1853-1882)	序論：日本に関する「近代」と「現代」の時期区分、「近代国家」と「現代国家」の区分 1-(1) 明治維新の政治的な意味、明治新政府の構成、国家形成の初期政策	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治維新の政治的な意味と、新政府の構成、統一国家形成に必要な政策を理解し説明できる	
		事前学修	「近代国家」とは何か。考えて定義してみてください。さらに一般的にどう説明されているかを確認し（世界史や現代社会等で教わったはずです）、改めてその意味内容を考えてみてください。	90分
		事後学修	明治維新は要するに何だったのか。どんな人々が新政府を構成したか。近代的な統一国家を作るには何が必要だったか。このように、講義を論題（レジュメの見出し部分）ごとに捉え、その中に細部の説明事項を位置づけると理解しやすくなるはずです。	150分
3	第一部 火4/21	1. 明治国家の形成 (1) 続き (2) 統治体制の構築 (1883-1889)	1-(1) 2つの政変を通じた政府構成の変化と政策路線の確定 1-(2) 憲法制定に備えて構築された統治機構（権力中枢部と行政機構）	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、政変を機に新政府内の政治勢力が変化し政策路線が定まる経緯と、政府が構築した統治機構が政治（国家運営）において持つ意味を理解し説明できる	
		事前学修	「政府」、「統治」、「三権分立の」「三権」。以上の語義を、国語辞典と政治学事典の両方で調べてください。その上で、国をつくる（国家形成）という行為を具体的に考えてみてください。	90分
		事後学修	到達目標に記した内容を「理解する」ような復習をし、憲法制定・国会開設「の前に」統治体制を整えたことが持つ意味を認識してください。	150分
4	第一部 火4/28	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ①「天皇主権」の規定と運用	明治国家の政治構造は、帝国憲法と関係法令が規定した政治機構とその運用によって定まる。この回は、憲法に規定された天皇の地位・権限および天皇権限の運用方法（権限行使の要件）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、天皇の権限（大権）を天皇の一存では発動できないようにした仕組み（他の国家機構が持つ権限との関係）を理解し、明治国家の政治体制が「親政」ではない理由を説明できる	
		事前学修	「大日本帝国憲法」に目を通してください（法律の授業で使う六法に載っています）。特に、条文の前の「告文」「憲法発布勅語」と、第一章（天皇）・第四章（国务大臣及枢密顧問）の各条文は念入りに読んでください。	90分
		事後学修	大権の種類ごとに設定された権限行使の要件が重要です（それが「親政ではない」状態を作るからです）。それは天皇の権限と他の国家機関（内閣、元老、軍、議会）が持つ権限との対抗関係と捉えることができます。その仕組みと論理を理解してください。	150分
5	第一部 火5/5	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ②「政治」の力量と限界（議会と内閣）	明治国家の政治構造のうち、帝国議会[立法府]の構成・権限と、内閣制度[行政府]の特質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、帝国議会に付与された権限とその力量を、内閣・天皇が持つ権限との関係で理解する（＝立法府と行政府の制度上の力関係）。また、当時の内閣制度の特質と、それが政治運営にもたらす影響（弱点）を理解し、説明できる	
		事前学修	立法府（立法権）と行政府（行政権）の役割と違いを理解していますか。それは近代以降現在に至るまで、政治の基本的な概念であり仕組みですから、理解は必須です（高校までの社会科で教わったはず）。わからなければ勉強すること。	90分
		事後学修	貴族院は身分制議会、衆議院の選挙権は資産制限あり（どちらも当時世界的に存在した仕組み）。議会の権限は天皇や内閣の権限と対抗関係にある。現在の議会制度（国会）との違いは解りますか。内閣も現在の制度とは違います。枢密院は天皇主権国家ならではの機関。各々理解してください。	150分
6	第一部 火5/12	2. 明治国家の確立過程 (1) 初期議会期～日清戦後期の内閣と議会（1890-1903）	議会政治開始後の政治の動きについて、内閣（藩閥政府）と衆議院（民党勢力）の関係に焦点を絞って概説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、内閣と衆議院勢力の関係とその変化を通じて、日本における議会政治の運営手法の形成過程を理解し、説明できる	
		事前学修	議会政治の運営手法は第5講で学んだ議会制度（帝国議会の構成と権限）を前提として成り立つので、理解を確認しておいてください。	60分
		事後学修	内閣と衆議院の関係が政治課題をめぐる試行錯誤のうちに「変化していく過程」を理解してください。各動向が生じた理由を知ると共に、時期毎の変化を大きく捉える視点も持つこと。「政界縦断的」「政界横断的」という語は、両者の関係を把握するための政治史学の概念用語です。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	2. 明治国家の確立過程 (2) 日清戦争・戦後外交・日露戦争 (1894-1905)	明治期最重要の外交課題（朝鮮半島をめぐる利害関係）をめぐって、清国ついでロシアとの戦争に至った経緯と帰結を概説する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、当時の日本にとって朝鮮半島がどのような意味を持っていたか（それが戦争の原因=目的であること）を理解し説明できる	
		事前学修	日本近代史を細分する時代区分の一つに「日清・日露戦争期」があります。10年を隔てて遂行された2つの戦争が時代を画する変化をもたらしたからです。戦争が政治や経済・社会にどんな影響を与え得るか、考えてみてください。	60分
		事後学修	この時代、戦争は外交の一つの手段でした（第一次大戦以降、戦争は違法とされるようになりますが）。戦争目的（日本にとっての利害）と帰結（講和条約に反映する）を結びつけて、戦争を行なった理由を理解してください。	180分
8	第一部 火5/26	2. 明治国家の確立過程 明治国家の確立（日清・日露戦争期の帰結と新たな課題）	日清・日露戦争を経て、明治維新以来の国家目標が達成されたことと、その間の変動（経済・社会の変化、戦争の影響・成果等）を通じて生じた新たな政治課題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、明治維新～日露戦争終結までの近代日本政治を大きく捉え直す。また、戦争が国家・社会にもたらした影響について理解し説明できる	
		事前学修	日清・日露戦争を経て、明治政府は維新の目的を達成します。明治維新の最大の目的（必要性）は何だったかを思い出しておいてください（第2講 1-(1) で説明しました）。	60分
		事後学修	維新以来の日本の国家目標の達成と、その過程から生じた新たな課題をまとめました。初回以来の講義内容をふまえて理解してください。それは近代日本が置かれた状況と政治の展開を大きく捉えるものになるはずです。	180分
9	第一部 火6/2	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 (1905-1912) ① 桂園時代の政局	日露戦後期に現れた政治運営体制（桂園体制）について、それが形成された経緯とともに説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、桂園時代は単なる首相の交代ではなく、桂と西園寺が各々率いる「2つの政治勢力の拮抗状態」が根幹にあること、その2勢力の妥協の手段が政権委譲という手法であったことを理解し、説明できる	
		事前学修	ここからは、維新の想定を超えた新たな政治課題に対処する過程で政権の構造が変化していく局面に入ります。新たな政治課題は前回説明した「帝国化」「大衆化」と概括できますが、その意味内容を思い出しておいてください。	60分
		事後学修	桂園時代を生んだ2勢力の対抗と妥協の関係は、2-(1) で説明した内閣と衆議院の関係が発展したものです。そのつながりを含めて理解してください。	180分
10	第一部 火6/9	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 (1905-1912) ② 桂園時代の外交	日露戦後期の主要な外交問題として、日本政府の韓国に対する対応・措置と、南満州権益に関する対処を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、維新以来外交の焦点だった朝鮮半島問題が植民地化に帰結したこと、それが外交を通じて為されたこと、また満州権益はこの時点で必要性の乏しい戦果にすぎなかったこと（対処も当面の措置に留まる）を理解し、説明できる	
		事前学修	朝鮮半島には現在2つの国家が存在しますが、それはいつからか。また「満州」という地域（現在は「中国東北部」と呼ばれる）はどこにあるか。調べて知っておいてください。	60分
		事後学修	植民地や権益（租借地等）を持つことの得失を長期的・世界的な視野で考えてみてください。日本でも他国でも、この時代（帝国主義時代）に為したことの影響は現在も様々な形で存在しますから、これは現代の問題でもあります。日本におけるその影響は何かを調べ考えてみてください。	180分
11	第一部 火6/16	3. 明治国家体制の動揺 (2) 「民衆的示威運動」の時代：憲政擁護運動と二つの政変 (1912-1914)	憲政擁護運動が起きた経緯、それが惹起した2つの政変の経過と、その政治史上の意味を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、民衆を巻き込んだ運動の高揚によって政変（倒閣）が生じた経緯とその政治史的な意味を理解し、説明できる	
		事前学修	「大正デモクラシー」という語が何を指すものか、日本史辞典等で調べてみてください。結構多面的です（講義ではそれが政治の動向として現われた局面を話します）。	60分
		事後学修	世論が政治に反映し具体化する過程は見えにくいのですが、大正政変はそれがよくわかる事例です。経過だけでなく、それが日本政治の「民主化」という点で画期的な出来事だという歴史的評価の意味を理解してください。	180分
12	第一部 火6/23	3. 明治国家体制の動揺 (3) 第一次大戦期の政治：政党内閣への抵抗 (1914-1918)	政党内閣を求める世論に対する元老ら政界中枢の対処が第二次大隈・寺内2代の内閣を成立させた経緯と、第一次大戦期の日本外交の推移について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第一次大戦期の政治・外交の事実経過と、世論が直ちに政治に反映するわけではない政治の性質を理解し、説明できる	
		事前学修	大隈重信がどういう立場で何をした人だったかを思い出しておいてください（本講では1-(1)と2-(1)で登場）。また第一次世界大戦は欧州諸国と日本とではずいぶん様相が違います。大戦全体の概要を調べてみてください。	60分
		事後学修	護憲運動は倒閣を引き起こしましたが、その要求がそのまま政治には反映されない事実（政治が各勢力の力関係に左右される側面）とともに、それでも世論動向は政治に影響し変化をもたらす側面があること、その両面を理解してください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	4. 第一次大戦後の政治 (1) 政党内閣の成立と施政 (1918-1922)	本格的な政党内閣（原政友会内閣）の成立状況と、原敬が主導した諸政策をその政治的意図（党利）と関係づけて、説明する	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、原内閣の施政を通じて、政策（社会の諸問題への対処）と権力追求（政治的利益の獲得、権力争奪）が表裏の関係にあることを理解し、説明することができる	
		事前学修	日本の「大戦景気」がどんな様相だったか、それが日本社会にどのような変化をもたらしたかを、調べてみてください。	60分
		事後学修	原敬は、公益にも適う政策手段を駆使して自らの政治目的を実現していく有能な政治家でした。その政治手腕の理解とともに、彼がめざしたものと世論が期待した「デモクラシー」は必ずしも一致しなかったことを理解してください。	180分
14	第一部 火7/7	4. 第一次大戦後の政治 (2) 政友会内閣の崩壊と「中間内閣」の継続(1922-1924)	高橋内閣期に定まったワシントン体制（大戦後の東アジアの国際秩序）を概説した後、原敬死後の政友会の状況とそれによる内閣の崩壊、その後「中間内閣」が3代続いた経緯を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、高橋内閣の崩壊と中間内閣継続の経緯から、政党を基盤とする内閣の特質と政党内閣が続かなかった状況を、理解し説明することができる	
		事前学修	第一次大戦の経験は世界各国に多大な影響を残し、世界秩序（国家間ルール）の組み替えをもたらしました。パリ講和会議や、引き続き開かれたワシントン会議の概要を調べ、大戦後の日本が向き合った世界の状況を知ってください。	90分
		事後学修	高橋内閣の総辞職は、政党を基盤とする政権が党の内紛によって倒れた例。これはようやく実現した政党内閣が続かなかった理由にもつながる。そのように捉えて復習してください。	150分
15	第一部 火7/14	試験実施予定 講義のまとめ	講義内容の理解を測り、重要点を確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に即して講義内容を理解し、その説明を論理的な文章で記述することができる	
		事前学修	本講では明治～大正期の日本政治の推移を概説しました。レジュメのタイトル（時期区分と主題を示す）や各部分の見出しを手掛りにして、時期ごとの政治の特質と変化を大きく捉え、その枠組ごとに個別説明の要点を押さえるようにすると、理解しやすくなるはずです。	240分
		事後学修	興味を引かれた時期や事柄を扱った本を探して読んでみてください（参考書欄やレジュメに記した書籍でもよいです）。講義は概説に留まりますが、歴史の本当の面白さは細部にあり、具体的な事実を知るほど面白くなるものです。	120分

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する（Ⅱでは、Ⅰで扱った明治・大正期に続く昭和戦前期を扱う）。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
原則として、中静担当の「日本政治史Ⅰ」を履修していること。

【授業方法】
授業時に配布するレジュメ（各回の概要と構成を記したプリント）に基づいて、講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の理解と能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い（問題文）に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う（ポータルで公表＋希望者には個別にも）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第4・5巻	有馬学、北岡伸一	中公文庫	2013	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』④⑤⑥	成田龍一ほか	岩波新書	2007	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15	前史の概観	日本政治史Ⅰで扱った時代・題材を、大きな時期区分ごとに概括する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講の前提となる明治・大正期の日本政治に関する理解を再確認し、昭和戦前期の政治の理解につなげることができる	
		事前学修	日本政治史Ⅰの講義内容を思い出しておいてください。	120分
		事後学修	Ⅱで扱う時期（昭和戦前期）も国家機構や政治運営の仕組みは基本的に同じですから、その理解がⅡの講義を理解する土台になります。Ⅰの試験結果もふまえ理解の足りない点は十分に復習してください。	120分
2	第一部 火9/22	1. 政党内閣の時代 序：政党内閣期と元老西園寺 (1) 憲政会内閣の内政と政党の動向(1924-1927)	政党内閣期（政治史上の時期区分）と、その時期を“演出”した唯一の元老・西園寺公望について説明した後、加藤高明（護憲三派～憲政会単独）内閣の施政と同時期の政党の動向を概説する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政権を事実上選定する元老という存在と、政党内閣期が元老の下に存立したこと、また政友会以外の政党の伸張と政党間の対抗関係を理解し、説明することができる	
		事前学修	時代は政党内閣の最盛期に入ります。明治期以来の主要政党の結党時とその後の系統関係を確認しておいてください（Ⅰでその都度説明しましたし、日本史辞典類には政党系統図などの資料も載っています）。	90分
		事後学修	政党内閣期は各政党の動向が政治を左右する主因になるので、政界状況の説明が増えます。権力獲得をめざす政党の行動は政治が持つ重要な特質の一つですから、理解に努めてください。	150分
3	第一部 火9/29	1. 政党内閣の時代 (2) 田中(政友会)内閣の内政と政党の動向(1927-1929)	田中義一の政友会総裁就任、田中内閣の施政を左右した政友会政治家の特質と施策の概要、立憲民政党結成による二大政党体制の成立と政党間の対抗動向を説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、昭和期の政友会の性格の形成要因、政友本党の分裂的消滅により二大政党制が成立した経緯、また拮抗関係にある政党間の権力争奪のあり方と各政党の差異を理解し、説明することができる	
		事前学修	田中義一は政友会に総裁として迎え入れられ、まもなく首相になります。田中義一の経歴を調べてみてください（日本史辞典にも人名辞典にも載っているはずです）。	90分
		事後学修	田中内閣は歴史上あまり評判がよくないが、一因は内相の鈴木喜三郎にある。田中も鈴木も新参党员ながらすぐ党幹部となり昭和期の政友会を形作った人物です。復習に際しては、憲政会-民政党と政友会の違いという対比の視点も持って理解するようにしてください（次回の外交も同様）。	150分
4	第一部 火10/6	1. 政党内閣の時代 (3) 両党内閣の外交：「幣原外交」と「田中外交」(1924-1929)	加藤-若槻内閣の外相・幣原喜重郎の外交と、田中内閣（兼任外相田中+外務政務次官森恪）の外交を、対中外交・大陸政策を中心として対比的に説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、一般に「幣原協調外交」「田中積極外交」と称される各外交の特徴と差異を理解し、対比的に説明することができる	
		事前学修	辛亥革命(1912-1913年)と以後の中国の国内情勢について調べ、概要を知っておいてください。	90分
		事後学修	「幣原協調外交」「田中積極外交」の語で済むほど現実には単純ではないと理解してください。違いの焦点は満州権益をめぐる対応ですが、それも当該期に関しては程度の違いと見なし得るものです。そのように捉えて復習してください。	150分
5	第一部 火10/13	1. 政党内閣の時代 (4) 浜口（民政党）内閣の内政(1929-1930)	田中義一の辞任に続く浜口民政党内閣の成立と、その主要政策として推進された金解禁政策、同時期の政界動向について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金解禁（金本位制復帰）政策の意図と概要を、実施のための準備施策を含めて理解し、説明することができる	
		事前学修	「金本位制」とはどのような仕組みかを調べ、知っておいてください。	80分
		事後学修	時代が進むにつれ経済政策の重要性が高まる。浜口内閣は井上準之助を蔵相に据えて金解禁にふみきりますが、後に判断の誤りとされる結果をもたらすことになります。経済政策は難しいかも知れませんが理解に努めてください。	160分
6	第一部 火10/20	1. 政党内閣の時代 (5) 浜口内閣の外交と外交問題(1929-1931)	浜口内閣の外交（第2次幣原外交）の概要と、ロンドン海軍軍縮条約をめぐる政治問題の発生と展開について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2次幣原外交は第1次期と異なる中国情勢の難度をふまえて理解する。軍縮条約問題は政友会が内閣批判に利用したために拡大したことを、その批判の論理（「統帥権干犯」と称した根拠）とともに理解し、説明することができる	
		事前学修	再任の幣原外相が直面した中国情勢は以前とは違う。国民政府成立(1927年)以降の中国国内情勢を調べてください。軍縮条約問題はⅠで説明した軍令・軍政の区別の論理(憲法第11・12条)が関係するので復習してください。	90分
		事後学修	ロンドン軍縮条約問題は、条約自体（外交問題）ではなく国内の政治問題として説明していることに注意。問題の経過とともに、条約支持派と反対派の争点となった「論理」を理解してください。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27	2.「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム (1930-1932)	複合的な要因で発生した昭和恐慌と、「非常時」の引き金を引いた満州事変の発生と経過について、説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、満州事変の事実経過とともに、1930年代の政治的困難は軍部によるものだけではないという多角的な理解をし、説明することができる	
		事前学修	世界恐慌（大恐慌）について概要を調べて知っておいてください。	60分
		事後学修	恐慌の実態、特に農村部の惨状は想像しにくいと思う。レジュメの参考文献『労働者と農民』は、近現代日本に生きた「普通の人々」の状態を知りうる好著です。「窮乏の農村」の章だけでも読んでみるように。	180分
8	第一部 火11/10	2.「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム (1930-1932)の続き	「非常時」を受けた政界の動向、事変の拡大と「満州国」の出現、テロリズムの発生（血盟団事件、五・一五事件）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、恐慌・事変とテロリズムが連動して発生したこと、政治の側の対処の努力と困難な状況を理解し、説明することができる	
		事前学修	満州事変の首謀者・石原莞爾は昭和日本のダークヒーロー。関心が高いので関係書も多い。どんな人物だったか調べてください。	60分
		事後学修	この時期の政治（特に軍との関係）を理解するには、テロリズムの恐怖が政治家の身に迫るものとして存在したことを考えに含める必要がある。恐慌と軍の暴走に直面した内閣の動揺と苦難の実態を具体的に理解してください。	180分
9	第一部 火11/17	2.「非常時」の政治 (2) 挙国一致内閣の成立と満州国承認(1932-1933)	五・一五事件(犬養首相暗殺)後の後継首班選定、斎藤内閣下の恐慌対策（高橋財政）と外交（満州国承認と国際連盟脱退）について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「政党内閣の途絶」が迷った末の選択であり政党内閣が以後途絶するとは考えられていなかったこと、高橋財政の意味と意義、「満州国」の成立と承認が意味することを理解し、説明することができる	
		事前学修	斎藤内閣の蔵相・高橋是清はこの時期の財政指揮でその名を残したが、自らの命を賭すことにもなった。国際連盟脱退時の連盟総会代表・松岡洋右は、後に外相として日本国の運命を導く一人となる。二人の人物について調べてみてください。	60分
		事後学修	満州事変の推移、後継首班選定経過など、やや細部にわたる事実経過の説明が続きますが、詳細な事実を知らなければ理解できない事があります。十分に復習して理解に努めてください。	180分
10	第一部 火11/24	2.「非常時」の政治 (3) 挙国一致内閣の継続と政党の動向(1933-1936)	斎藤・岡田両内閣期の政党の動向と、天皇機関説問題、二・二六事件の経過の概略を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、政権奪取や党の維持存続のための手段が国家・社会に重大な影響をもたらすに至った事実を、政治が持つ性質の一面として理解する。二・二六事件の経緯と背後にあった状況要因を理解する。以上を説明することができる	
		事前学修	美濃部達吉の憲法学説「天皇機関説」（国家法人説）の概要を調べ、知っておいてください。	80分
		事後学修	二・二六事件は関心の高い歴史的事件の一つ。講義は政治への影響に限定した説明ですが、陸軍や首謀者達に焦点を当てた関係書も多数あります。事件について調べたり、関連文献を読んでみてください。	160分
11	第一部 火12/1	3.「革新」の政治：陸軍の政治介入と政界の動向(1936-1937)	二・二六事件後の首班選定・組閣の状況、広田内閣の諸政、「革新」をめぐる政界内の思惑について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、「軍部の台頭」「軍の政治介入」と言われる事態を二・二六事件後の事実経過をふまえて理解すること、政界内でもその影響が「革新派」の台頭という形で表われることを理解し、説明することができる	
		事前学修	政治が軍の存在抜きに語れなくなる時期に入ってきています。政治機構上の軍の位置づけ、軍の組織（「省」と「部」の2組織とその役割分担）について、改めて理解を確認しておいてください。	80分
		事後学修	広田内閣が陸軍の強い圧力の下に成立し政策にもそれが反映していること、「革新」色が薄れた林内閣をはさんで、政界の「革新派」で構成された近衛内閣が成立する、という事態の推移を大きく捉えて理解してください。	160分
12	第一部 火12/8	4. 戦時下の政治 (1) 日中戦争：意思なき開戦と拡大(1937-1938)	近衛「革新」内閣の下で、偶発的に起きた盧溝橋事件から日中戦争への拡大の経緯と、「国家総動員法」に象徴される国内戦時体制の構築について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日中戦争の発生・拡大の事実経過から「するつもりのない戦争も起こりうる」ことを知る。それを具体的な事実の積み重ねとして理解し説明できること。	
		事前学修	近衛文麿について人物や経歴を調べてみてください。1945年の敗戦後までカリスマ性を持ち続けた人物ですが、そのことと政治家として現実にしたこととのギャップが謎でもあります。	60分
		事後学修	全面戦争への拡大を導いた重大な要因は、当時の日本に（政界・軍にも国民にも）広く存在した中国に対する侮蔑意識です。満州事変以降の対中関係は現在に至る日中関係の根底にある問題ですから、事実を正しく学んでください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15	4. 戦時下の政治 (2) 対外関係の混迷 (1938-1939)	日中戦争期（近衛-平沼-阿部内閣期）の対外関係のうち、日独伊防共協定の強化問題、対米関係の悪化、ノモンハン事件、独ソ不可侵条約締結について、それぞれ概略を説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日中戦争が解決できないまま、国際情勢の変化や出先の駐留軍・外交官が起した諸問題にに振り回される外交と軍の様相を理解し、説明することができる	
		事前学修	この時期の日本の針路に大きな影響を与えた国は、アメリカとともにドイツです。1930年代のドイツ（特に外交）について調べてみてください。	60分
		事後学修	「出先の暴走」は外交官にもあったことを知ってください。また日中戦争が米国との関係悪化をもたらす淵源は第一次大戦後の国際ルール(九ヵ国条約、不戦条約)にあるので、内容を確認して理解してください。	180分
14	第一部 火12/22	4. 戦時下の政治 (3) 欧州戦争の下で (1939-1940)	欧州戦争勃発・ドイツ軍の快進撃を受けて生じた外交・軍事方針の変化（対独接近論・南進論の浮上）、それに連動して動き出した「近衛新体制」のなりゆきについて説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際情勢（欧州戦争のなりゆき）に乗じた外交・軍事方針の決定、それに連動して再活性化した「革新」政治（権力強化をめざした「近衛新体制」）など、戦時期の政治家達の判断と選択を、具体的な事実に基づいて理解し説明することができる	
		事前学修	「フランス領インドシナ（仏印）」「オランダ領東インド（蘭印）」が現在のどこに位置するかを調べ、地図上で確認しておいてください。この時期に本格化する「南進」の行き先です。	60分
		事後学修	平沼・阿部・米内と短命内閣が続いた後、近衛がまたも輿望を担って登場する。「大政翼賛会」の名はよく知られるが、それが何をめざした末の帰結だったかを理解してください。また欧州戦争の推移と南進論や国内政治の連動について理解してください。	180分
15	第一部 火1/12	4. 戦時下の政治 (4) 太平洋戦争（対米英開戦）に至る経緯（1940-1941）	松岡外交（日独伊三国同盟、日ソ中立条約の締結）・南進の実行と米国の対応、対米交渉と開戦に向う方針決定の推移について説明する	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、米英との戦争決定を、政治選択を積み重ねた具体的な事実として理解し説明することができる	
		事前学修	日本を幻惑したドイツ軍の快進撃。1939年以降ドイツ軍が侵攻し占領した国々と範囲を地図上で確認してください。	30分
		事後学修	本講では、政党内閣期、その崩壊と「革新」政治（軍を含む）の台頭、止められない対中戦争とそれが要因となった対米英開戦まで、昭和戦前期の政治の推移を説明しました。現実の事象は様々な要因が作用して発生し進展します。「なぜそうなったのか」という視点を持って復習して下さい。	240分

科目名	日本政治思想史Ⅰ	担当者	上地 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
19世紀半ばから20世紀初期という時期を対象に、西洋の衝撃（ウェスタンインパクト）の前と後でなにがどう変わったのか、国家の樹立・国民の創出とは何を意味するのか、日本の（東）アジアや世界に対する認識はどのように変化したのか、といった問題意識のもと、東アジアという空間のなかで日本列島の政権が近代国家を樹立して行く過程で生じたさまざまな思想を、同時代の文脈に位置づけつつ学んでいく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「西洋の衝撃」以降の「常識」を相対化し、現在の政治社会制度を多元的に想像し直す思考の「くせ」の取得および育成を目的とする。①「西洋の衝撃」以前と以後の秩序観の対比を理解し、明治維新以降の政治思想を説明できること、②社会科学的方法論を意識化し、教科書読解の過程で実践すること、③現在の政治社会制度を相対化する思考の「くせ」の取得と育成を到達目標とする。

【履修条件】
歴史一般に対する関心を持っている方が望ましい。また必須条件ではないが、対象時期が連続し内容も関連するため、可能であれば後期「日本政治思想史Ⅱ」と併せて受講することが望ましい。

【授業方法】
前週のレビューシートへの応答と講義を行う。教科書に沿ったレジュメを当日配布し、板書を書き写す形式で進める。関連資料、前週のレジュメの配布は共有フォルダを通じて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生がレビューシートで寄せたコメントや質問をレジュメで共有し、授業内で応答する。コメントや質問、講師の応答に対する他の学生のリアクション（レビューシートのコメント）も次回のレジュメで共有し、双方向のコミュニケーションを確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ウェスタンインパクト以降に東アジア（日本）で生じた諸思想の特徴を理解し、説明することができる。【知識】						2							
②	前近代から近代にかけての東アジアにおける世界秩序の変容を、グローバルな視座から説明することができる。【知識】							2						
③	歴史的視座から批判的に現在を見つめ直し、「国民」など一般概念の普遍性を疑うことができる。【態度・習慣】								2					
④	思想（家）を同時代の政治社会的文脈において理解し、思想と社会を全体として構想することができる。【技能】													2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④に関する知識や技能が身に付いているかを、筆記（論述）試験により評価する。	30	20		20							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	レビューシートへの質問や意見を基準に評価する。授業で得た知見（到達目標①②）を現代社会に当てはめ、普通を疑う態度（到達目標③）が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は後日、共有フォルダにコメントファイルをアップロードする形で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『近代日本思想案内』	鹿野政直	岩波書店	1999年	教科書	必携
備考	石田徹、2012年、「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」飯田泰三・李曉東編『「転形期」における日本と中国―その苦悩と展望―』国際書院を併用する（PDF配布）。その他、関連した資料や論文を配布し使用することがある。				

【オフィスアワー】
水曜日 17時50分～18時30分（事前にメールで連絡すると確実です） 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部水 4/8	【ガイダンス】【日本政治思想史を学ぶということ】		前期ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価の説明）ののち、「日本政治思想史を学ぶということ」について教科書「はじめに一思想と向き合う」の内容に沿って確認する。
		この回の到達目標	思想を学ぶことは現在と過去をどのような関係にあるかを理解し、一般的・普遍的と思われる身近な概念を疑ってみる。（到達目標③）	
		事前学修	シラバスを確認し講義全体を概観する。共有フォルダより教科書「はじめに一思想と向き合う」および関連資料を取得し事前に読む。	120分
		事後学修	シラバスおよび講義ノートを確認し、自分の学習計画や他の理由科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 4/15	華夷秩序と万国公法体制 ①：西洋の衝撃と対外認識		明治維新以前の東アジアの国際秩序観、世界観を学び、日本列島の政権が有していた対外認識が「西洋の衝撃」の前と後とでどのように変化していったのかを考察する。
		この回の到達目標	近代以前と以後の国際秩序の違い、幕末から明治にかけての対外認識の変化について理解を深め説明することができる。（到達目標②）	
		事前学修	石田徹「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」（共有フォルダ）を読み、華夷秩序下と現在の外交関係における国家概念の違いについて予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、華夷秩序の特徴と現在の外交関係の違い、華夷秩序時代の徳川幕府の外交について理解した点と不明点をまとめる。	120分
3	第一部水 4/22	華夷秩序と万国公法体制 ②：西洋の衝撃と国際関係		「西洋の衝撃」がもたらした秩序観の変化が徳川幕府／明治政府と東アジア諸国のそれまでの国際関係に与えた影響について考える。
		この回の到達目標	近代以前の国際秩序（華夷秩序）から国際秩序（万国公法）への変化が生みだした政治的摩擦を学び、その背景を説明することができる。（到達目標①）	
		事前学修	石田徹「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」（共有フォルダ）を読み、「西洋の衝撃」以降の徳川幕府／明治政府と東アジア諸国の外交上の変化とその原因について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、徳川幕府／明治政府と東アジアとの国際関係が変化した背景と原因について理解した点と不明点をまとめる。	120分
4	第一部水 4/29	華夷秩序と万国公法体制 ③：西洋の衝撃と近代的国家観		華夷秩序のなかの国家観と万国公法体制のなかの国家観を比較し、近代国家という存在が過去数百年の間に構築されてきたものであることを再確認する。
		この回の到達目標	華夷秩序と万国公法の国際関係観の違いを比較し、近代国家がなぜ普遍的な概念ではないのかを説明することができる。（到達目標②③）	
		事前学修	石田徹「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」（共有フォルダ）を読み、「西洋の衝撃」以降の徳川幕府／明治政府と東アジア諸国の外交上の変化とその原因について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、万国公法体制の歴史性について理解した点と不明点をまとめる。	120分
5	第一部水 5/6	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見①：「西洋」の受けとめ方		ペリー来航を契機として人々がどのように「西洋」を知ろうとし、受けとめたのかについて考察する。
		この回の到達目標	幕末の志士や知識人の「西洋」に対する認識を学び、接触の衝撃を同時代的視座から説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」が徳川幕府時代の人々にもたらした影響について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、「西洋の衝撃」の影響について理解した点と不明点をまとめる。	120分
6	第一部水 5/13	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見②：アヘン戦争の影響		アヘン戦争の衝撃、西洋の探索などが前近代・華夷秩序時代の中国観を変えていき、同時に「日本」が意識化されていく様子をたどる。
		この回の到達目標	アヘン戦争が日本を含めた東アジア諸国に与えた衝撃と影響について同時代的視座から説明することができる。（到達目標②④）	
		事前学修	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」が東アジアと徳川幕府／明治政府時代の人々の中国観、日本観に与えた影響について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、徳川幕府／明治政府時代の人々の中国観、日本観の変化について理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 5/20	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見③：幕末の変化	「日本」の意識化により、幕藩体制を超える視野と身分制打破の意識が生じた過程を確認し、幕末のこうした動きの上に近代日本思想が展開していった様子を確認する。	
		この回の到達目標	「西洋」の発見が、幕末の人々の社会秩序認識に与えた影響を理解し、説明することができる。（到達目標①②）	
		事前学修	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」以降、徳川幕府／明治政府の制度や思想に生じた変化について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、徳川幕府／明治政府の制度や思想に生じた変化が明治維新以降の社会に与えた影響について理解した点と不明点をまとめる。	120分
8	第一部水 5/27	啓蒙思想家が目指したもの①：啓蒙思想とは何か	明治維新、日本という国家を建設しようと意図した「文明開化」の流れの中で、その国の住人（国民）を造り上げることを目指した啓蒙思想の諸相について学ぶ。	
		この回の到達目標	啓蒙思想が目的としていたものについて理解を深め、国民を造り上げるとはどういうことか説明することができる。（到達目標①③）	
		事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読み、啓蒙思想家の危機感と目的、およびその国際政治的背景について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、国民を作るとはどういうことか、自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
9	第一部水 6/3	啓蒙思想家が目指したもの②：明六社と福沢諭吉	啓蒙思想家がどのように「西洋」の導入を試み、人々の気風の改革を目指したのかについて明六社や福沢諭吉を中心に理解を深める。	
		この回の到達目標	明六社の多様性と、福沢諭吉の国家と「国民」に対する考え方を理解し、説明することができる。（到達目標①③）	
		事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読み、明六社と福沢諭吉の思想と活動について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、明六社の多様性、福沢諭吉の思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
10	第一部水 6/10	啓蒙思想家が目指したもの③：「文明」と翻訳の問題	啓蒙思想によって歴史の見方に文明という尺度が取り入れられたこと、また思想の導入の過程で翻訳の問題が生じたことなどを確認する。	
		この回の到達目標	「文明」がなぜ新しい歴史の見方になるのか、翻訳の問題とはなにか、理解し説明することができる。（到達目標③）	
		事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読み、文明からみた歴史観および翻訳という行為の含意について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、文明からみた歴史観とそうでない歴史、翻訳の孕む問題と可能性について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
11	第一部水 6/17	自由民権運動①：植木枝盛を中心に	自由民権運動がどのような政治状況から生まれ、何を主張し、のちにどのような影響を与えたのかについて植木枝盛の主張と著書を中心に学ぶ。	
		この回の到達目標	植木枝盛の主張のポイントを理解し、説明することができる。（到達目標①）	
		事前学修	教科書「3 自由と平等」を読み、自由民権運動の概要および植木枝盛という人物について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、自由民権運動と植木枝盛の問題意識と思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
12	第一部水 6/24	自由民権運動②：中江兆民を中心に	引き続き自由民権運動について中江兆民の主張と著書を中心に学ぶ。	
		この回の到達目標	中江兆民の主張のポイントを理解し、説明することができる。（到達目標①）	
		事前学修	教科書「3 自由と平等」を読み、中江兆民の人物と思想について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、中江兆民の問題意識と思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	自由民権運動③：天皇制との関係	自由民権思想における「西洋」と「東洋」について、また同思想が天賦人権説と天皇制にどのように向き合ったか、確認する。	
		この回の到達目標	天皇制や天賦人権説と自由民権思想の間の思想的・論理的関係を理解し、説明することができる。（到達目標①③④）	
		事前学修	教科書「3 自由と平等」を読み、自由民権思想と「西洋」と「東洋」の問題、および天皇制との関係について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、自由民権思想における「西洋」と「東洋」の問題、天皇制の問題について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
14	第一部水 7/8	自由民権運動とアジア主義	自由民権運動から国粋主義、アジア主義的な運動が生まれた思想的背景を確認し、朝鮮半島および中国大陆の知識人が近代どのように向き合ったのか概観する。	
		この回の到達目標	「アジア主義」について理解を深め、明治日本と東アジアの思想を同時代的な文脈から理解し、比較することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	アジア主義に関する事前配布資料（授業中に指示）を読み、自由民権運動から国粋主義、アジア主義的な運動へ続く系譜について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、アジア主義が孕むナショナリズムと東アジアの知識人の移動について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
15	第一部水 7/15	【授業内試験と全体の解説】	西洋の衝撃前後の時代から20世紀初期という時間、東アジアという空間の中で、日本が近代以前の国際秩序観から近代国家化へ動き出す過程をもう一度振り返る。 授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	「近代」が日本（および東アジア）の人々の社会観や世界観にもたらした質的な変化を理解し、説明することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	初回からの教科書の各章、講義ノートと配布レジュメを復習し、近代化前後の東アジアおよび日本における世界観、思想上の変化について考察する。試験の準備をする。	120分
		事後学修	前期授業と試験をふりかえり「分からないこと」を把握し、ノートにまとめる。	120分

科目名	日本政治思想史Ⅱ	担当者	上地 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
国家形成を達成し、ナショナリズムの昂揚、帝国主義化を経験していく日本において展開していく思想を、「国体論」「社会主義」「フェミニズム」の側面から理解を深める。それぞれの思想が同時代的状況への応答であり、直面する政治社会との往還のなかで生み出されてきていることを確認したうえで、そうした思想の多面性、帰結、影響、可能性、陥穽についてもできるかぎり学んでいく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「国体論」「社会主義」「フェミニズム」に対する理解を深め、現在の政治社会制度に対する多様な視座の育成を目的とする。①上記4つの思想潮流について理解を深め説明できること、②社会科学的方法論を意識化し、教科書読解の過程で実践すること、③現在の政治社会制度とこれらの思想の関係を捉え直し、幅広い理解力の取得と育成を到達目標とする。

【履修条件】
歴史一般に対する関心を持っている方が望ましい。また必須条件ではないが、対象時期が連続し内容も関連するため、可能であれば後期「日本政治思想史Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。

【授業方法】
前週のレビューシートへの応答と講義を行う。教科書に沿ったレジュメを当日配布し、板書を書き写す形式で進める。関連資料、前週のレジュメの配布は共有フォルダを通じて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生がレビューシートで寄せたコメントや質問をレジュメで共有し、授業内で応答する。コメントや質問、講師の応答に対する他の学生のリアクション（レビューシートのコメント）も次回のレジュメで共有し、双方向のコミュニケーションを確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ウェスタンインパクト以降に東アジア（日本）で生じた諸思想の特徴を理解し、説明することができる。【知識】				2							
②	前近代から近代にかけての東アジアにおける世界秩序の変容を、グローバルな視座から説明することができる。【知識】					2						
③	歴史的視座から批判的に現在を見つめ直し、「国民」など一般概念の普遍性を疑うことができる。【態度・習慣】						2					
④	思想（家）を同時代の政治社会的文脈において理解し、思想と社会を全体として構想することができる。【技能】											2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④に関する知識や技能が身に付いているかを、筆記（論述）試験により評価する。	30	20		20							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	レビューシートへの質問や意見を基準に評価する。授業で得た知見（到達目標①②）を現代社会に当てはめ、普通を疑う態度（到達目標③）が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は後日、共有フォルダにコメントファイルをアップロードする形で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『近代日本思想案内』	鹿野政直	岩波書店	1999年		
備考	石田徹、2012年、「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」飯田泰三・李曉東編『「転形期」における日本と中国―その苦悩と展望―』国際書院を併用する（PDF配布）。その他、関連した資料や論文を配布し使用することがある。				

【オフィスアワー】
水曜日 17時50分～18時30分（事前にメールで連絡すると確実です） 授業講堂

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	【ガイダンス】【日本政治思想史を学ぶということ】 【前期の確認】	後期ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価の説明）ののち、「日本政治思想史を学ぶということ」について教科書「はじめに一思想と向き合う」の内容に沿って確認する。併せて前期の授業内容を確認する。	
		この回の到達目標	思想を学ぶことは現在と過去をどのような関係にあるかを理解し、一般的・普遍的と思われる身近な概念を疑ってみる。前期の授業内容の大枠を説明することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	シラバスを確認し講義全体を概観する。共有フォルダより教科書「はじめに一思想と向き合う」および関連資料を取得し事前に読む。	120分
		事後学修	シラバスおよび講義ノートを確認し、自分の学習計画や他の理由科目との関係について検討する。	120分
2	第一部水 9/23	国体を巡る思想①：「国体」概念の歴史	明治日本が近代国家化を進める過程において、人々の思想と行動に対する影響力を強めていった「国体」観念について概観する。明治維新以前の水戸学から帝国憲法・教育勅語までの時期を対象に「国体」の含意を確認する。	
		この回の到達目標	「国体」概念の発展と特徴について理解を深め、説明することができる。（到達目標①②④）	
		事前学修	教科書「6 国体論」を読み、「国体」概念の特徴と歴史的背景について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、日本独自の「国体」概念が発達してきた背景について理解した点と不明点をまとめる。	120分
3	第一部水 9/30	国体を巡る思想②：北一輝と幸徳秋水の挑戦	19世紀末までに定着した「国体」思想に対して挑戦した北一輝と幸徳秋水の思想について学ぶ。	
		この回の到達目標	北一輝と幸徳秋水がどのような思想や論理で「国体」に対して反対したのか、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「6 国体論」を読み、北一輝と幸徳秋水の思想について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、北一輝と幸徳秋水が「国体」概念に挑戦した思想的・理論的方法について理解した点と不明点をまとめる。	120分
4	第一部水 10/7	国体を巡る思想③：農本思想と「国体」	「国体」思想を支えた思想としての農本主義について理解を深め、第二次世界大戦以前の昭和において「国体」概念がどのように使用されて、どのような知的・言論的風土を築いたのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	「農本主義」の基本的な考え方を理解し、歴史的イベントの思想背景について説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「6 国体論」を読み、農本主義の思想と背景、昭和における「国体」概念の機能について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、農本主義と「国体」の論理的繋がり、昭和における「国体」の機能について理解した点と不明点をまとめる。	120分
5	第一部水 10/14	国体を巡る思想④：戦時期の「国体」	第二次世界大戦以前の昭和において「国体」概念がどのように使用されて、どのような知的・言論的風土を築いたのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	昭和期において「国体」概念が引き起こした言論関連事件について理解し、「国体」との関係において説明することができる。（到達目標③④）	
		事前学修	教科書「6 国体論」を読み、昭和における「国体」概念の機能について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、昭和における「国体」の機能について理解した点と不明点をまとめる。	120分
6	第一部水 10/21	日本における社会主義思想の位置①：初期社会主義と帝国主義	社会主義思想が近代日本にもたらした歴史観・世界観の重要性を確認し、初期社会主義の思想上の意義（幸徳秋水の帝国主義批判、平民社と非戦論、アナキズム）を考察する。	
		この回の到達目標	初期社会主義者の活動によって示された帝国主義批判と非戦論について理解をふかめ、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、社会主義思想黎明期の言論活動と初期社会主義の思想上の意義について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、初期社会主義の多様性と思想上の意義について理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10/28	日本における社会主義思想の位置②：初期社会主義と非戦論、アナキズム	初期社会主義の思想上の意義（幸徳秋水の帝国主義批判、平民社と非戦論、アナキズム）について引き続き考察をすすめる。	
		この回の到達目標	幸徳秋水、大杉栄、石川三四郎の思想について理解をふかめ、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、社会主義思想黎明期の言論活動と初期社会主義の思想上の意義について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、引き続き初期社会主義の思想上の意義について理解した点と不明点をまとめる。	120分
8	第一部水 11/11	日本における社会主義思想の位置③：マルクス主義と三木清	昭和におけるマルクス主義の影響力を確認し、三木清の思想を概観する。	
		この回の到達目標	日本のマルクス主義に対する三木清の思想上の貢献について理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、マルクス主義の概要と三木清の思想について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、マルクス主義の世界観と三木清の思想の概要について理解した点と不明点をまとめる。	120分
9	第一部水 11/18	日本における社会主義思想の位置④：講座派と戸坂潤	マルクス主義の諸相として講座派の思想と戸坂潤の「日本イデオロギー」論を概観する。	
		この回の到達目標	講座派と労農派の議論のポイント、「日本イデオロギー」で戸坂潤が主張したことを理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、講座派の思想活動と戸坂潤の思想について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、マルクス主義の世界観と戸坂潤の思想の概要について理解した点と不明点をまとめる。	120分
10	第一部水 11/25	日本における社会主義思想の位置⑤：昭和期のマルクス主義（者）	治安維持法下の言論活動と昭和期の弾圧、転向の問題について考察する。また中野重治の詩をもとに、当時の社会主義者の視座の広がりと限界を確認する。	
		この回の到達目標	治安維持法の言論界に対する影響を理解し、転向の問題をどのように考えればよいか、説明することができる。中野重治の詩のどこが「限界」なのか説明することができる。（到達目標①②④）	
		事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、治安維持法と転向の問題、植民地と社会主義の関係について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、「転向」の問題について理解した点と不明点をまとめる。また中野重治の詩を読んだ感想をまとめてみる。	120分
11	第一部水 12/2	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）①：与謝野晶子について	自由民権運動から大正期までを中心に、女性をとりまく政治・社会・言論の変化のなかで、女性という立場の視座と主張を確認する。与謝野晶子の思想と行動を中心に理解を深める。	
		この回の到達目標	与謝野晶子の思想について理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、女性という視座とこれまで見てきた思想史の関係、および与謝野晶子について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、女性という視座からみた歴史とこれまで知っていた歴史との差異について、また与謝野晶子の思想について理解した点と不明点をまとめる。	120分
12	第一部水 12/9	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）②：平塚らいてうと青鞥社	平塚らいてうと青鞥社の活動を中心に当時のフェミニズム思想の理解を深める。	
		この回の到達目標	青鞥社の活動と平塚らいてうの思想について理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
		事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、平塚らいてうと青鞥社について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、平塚らいてうの思想について理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12/16	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）③：高群逸枝の思想、三つの論争	高群逸枝の思想を概観する。貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論争を学び、議論の焦点となった問題について理解を深める。	
		この回の到達目標	高群逸枝の思想の特徴について説明することができる。貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論争が生じた社会背景について説明することができる（到達目標①③④）。	
		事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、高群逸枝について、および三つの論争について予習する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、高群逸枝の思想と三つの論争の社会背景について理解した点と不明点をまとめる。	120分
14	第一部水 12/23	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）④：三つの論争（続き）と「男らしさ」の問題	貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論争を学び、議論の焦点となった問題について理解を深める（続き）。「男らしさ」という概念について理解を深める。	
		この回の到達目標	貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論のそれぞれの主張について理解し、論争のポイントを説明することができる。「男らしさ」について自分の意見をまとめて説明することができる。（①③④）	
		事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、三つの論争について予習する。配布資料をもとにフェミニズムと「男らしさ」概念の関係について事前に考察する。	120分
		事後学修	講義ノートと配布レジュメを確認し、三つの論争の争点について、およびフェミニズムと「男らしさ」概念の関係について理解した点と不明点をまとめる。	120分
15	第一部水 1/13	【授業内試験と全体の解説】	近代国家樹立以降から第二次世界大戦前の昭和という時間、東アジアのなかの日本という社会・言論空間の中で国内的、対外的にどのような思想が胚胎されたのかをもう一度概観する。授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	近代以降の「日本」における「国体」、「社会主義」、「フェミニズム」といった思想の内容を、社会的背景とともに理解し、説明することができる。（到達目標①②③④）	
		事前学修	初回からの教科書の各章、講義ノートと配布レジュメを復習し、明治から昭和期にかけての「国体論」「社会主義」「フェミニズム」について考察する。試験の準備をする。	120分
		事後学修	前期授業と試験をふりかえり「分からないこと」を把握し、ノートにまとめる。	120分

科目名	日本政治特殊講義B(選挙運動論)	担当者	小島 勇人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
選挙時において候補者が有権者に自らの政策や公約などを訴え、投票を獲得するために行う選挙運動とともに平常時乃至選挙時の政治活動の実際について現行の公職選挙法等に基づくルールを実践的に学ぶ。平常時・選挙時における現実の政治活動と選挙運動は微妙に交錯する場面が多く、公正な選挙運動の実践に向けた判断力を養うため、それぞれの規制を理解するために、現行法によるルールの基本を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
選挙は、民主政治の基礎であり基盤をなすものである。選挙時において候補者が有権者に自らの政策や公約などを訴え、投票を依頼するために行う選挙運動とともに平常時乃至選挙時の政治活動の実際について現行の公職選挙法等に基づくルールを実践的に学び、正しい選挙・政治のあり方とは何かを考える力を養成する。平常時・選挙時における現実の政治活動と選挙運動は微妙に交錯する場面が多く、それぞれの規制を理解するために、現行法によるルールの基本を習得し、公正な政治活動と選挙運動の実践に向けた判断力を養うことを目標とする。

【履修条件】
特にないが、日本政治の重要な仕組みとなっている政治活動と選挙運動について理解する意欲を求めたい。

【授業方法】
教科書を使用しつつ、必要に応じて授業区分ごとに参考資料を配布する。教科書や資料にない具体的事例等を交えて講義するので、ノートへの筆記も必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現行公職選挙法等に基づく政治活動と選挙運動の基本的構成要素を理解することができる。						3						
②	日本政治における政治活動と選挙運動を規制する公職選挙法等の役割を説明することができる。						3	3					
③	実世界での公職の候補者等の諸活動の公職選挙法等が与える影響を評価することができる。						3		3				
④	実際の選挙において、候補者等が行う政治活動と選挙運動について、公正的確に判断できるようにする。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に係る能力が習得されているかを、筆記試験により評価すること。	30	20	20	30							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後学期末の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務と研修のためのわかりやすい公職選挙法 第15次改訂版	選挙制度研究会	ぎょうせい	2017		
備考					

【オフィスアワー】
質問等については、授業時間中もしくは終了後に授業講堂にて対応する。（水曜3限）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		地方公務員として選挙管理委員会の現場実務に4 4 年間、携わる。その間に旧自治省選挙課での勤務経験や現総務省の管理執行アドバイザー、総務省選挙部研究会委員等
		4 4 年に及ぶ選挙管理の第一線における実務経験と総務省管理執行アドバイザー、総務省研究会委員などの成果を踏まえ、現行公職選挙法等による日本政治における政治活動と選挙運動を実践的に講義する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	オリエンテーション、授業概要、講義計画等の説明、現行法の政治活動・選挙運動の概念等について	オリエンテーション、シラバスによる授業概要、講義計画等の説明、現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の理解の前提となる選挙運動の概念の解説	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の授業概要、講義計画等を理解し、履修の有無を決められるようにする。	
		事前学修	選挙運動論の命題である「選挙運動」の概念を配布資料と教科書により掴んでおく。	120分
		事後学修	講義計画、選挙運動の概念を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
2	9/23	選挙運動の期間、事前運動	選挙運動をする側の基本的ルールである選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止と政治活動との関係を事例を示して考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動をする側の基本的ルールである選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止と政治活動との関係について理解する。	
		事前学修	教科書の選挙運動の期間、事前運動に関する該当部分を読み、選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙運動をする側の基本的ルールである選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止と政治活動との関係について配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。	120分
3	9/30	選挙運動の主体に関する規制	選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容とともに、具体的事例について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容について理解する。	
		事前学修	選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容について教科書の該当部分を読み、選挙運動の主体について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容について配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
4	10/7	選挙運動の方法に関する規制（１）文書図画による選挙運動	選挙運動の方法に関する規制（１）は、一般的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容とともに、具体的事例について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の方法に関する規制（１）として、基本的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
		事前学修	最も基本的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動における文書図画について理解しておく。	120分
		事後学修	最も基本的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
5	10/14	選挙運動の方法に関する規制（２）言論による選挙運動	選挙運動の方法（２）は、文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の方法（２）として、文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
		事前学修	文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、言論について理解しておく。	120分
		事後学修	文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
6	10/21	選挙運動の方法に関する規制（３）その他の方法による選挙運動の制限	選挙運動の方法（３）は、その他の方法による選挙運動の制限として、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の方法（３）として、その他の方法による選挙運動の制限について、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
		事前学修	その他の方法による選挙運動の制限について、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、その他の選挙運動について理解しておく。	120分
		事後学修	その他の方法による選挙運動の制限について、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/20	選挙運動に関する費用に関する制限	選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
		事前学修	選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めている現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動に関する費用について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めている現行規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
8	11/10	選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給	選挙の公正確保と費用抑制の観点から、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について公職選挙法は、厳格に規定しているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の公正確保と費用抑制の観点から、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について公職選挙法は、厳格に規定しているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
		事前学修	選挙の公正確保と費用抑制の観点から、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について厳格に規定する現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について趣旨や規定の内容を理解しておく。	120分
		事後学修	選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について厳格に規定する現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について趣旨や規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
9	11/17	政治資金の規正	政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について主に現行の政治資金規正法の内容について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について、主に現行の政治資金規正法の内容について、同法の政治活動の公明と公正を確認するための規定の内容を理解し、わが国の政治のあり方を考える。	
		事前学修	政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について、主に現行の政治資金規正法の内容について、同法の政治活動の公明と公正を確認するための規定の内容を教科書の該当部分を読み、政治資金の規正について理解しておく。	120分
		事後学修	政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について、主に現行の政治資金規正法の内容について、同法の政治活動の公明と公正を確認するための規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
10	11/24	寄附の禁止	すべてにわたって身辺を清潔にし、きれいな選挙、金のかからない選挙の実現を図る目的のために選挙に関すると否とにかかわらず、およそ公職の候補者等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定を具体的事例を含めて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公職の候補者等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定の内容と目的とする趣旨を理解し、きれいな選挙、金のかからない選挙の実現を図るための政治とカネの問題を考える。	
		事前学修	公職の候補者等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定の内容について、教科書の該当部分を読み、政治家等の寄附の禁止について理解しておく。	120分
		事後学修	公職の候補者等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定の内容について、配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
11	12/2	政治活動の概念・平常時における政治活動の規制	広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念と政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念と政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について理解し、学生が有権者としてみた政治団体や政治家の政治活動のあり方を考えられるようにする。	
		事前学修	広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念と政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について、教科書の該当部分を読み、政治活動の概念・平常時における政治活動について理解しておく。	120分
		事後学修	広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念と政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について、配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/9	選挙時における政治活動の規制（１）	選挙時における政治活動の規制（１）として、政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、現行公職選挙法に規定する内容を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治活動の規制（１）として、政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、現行公職選挙法に規定する内容を理解する。	
		事前学修	選挙時における政治活動の規制（１）として、政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、教科書の該当部分を読み、選挙時における政治活動について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙時における政治活動の規制（１）として、政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
13	12/16	選挙時における政治活動の規制（２）	選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容と具体的事例を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容を理解する。	
		事前学修	選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容を教科書の該当部分を読み、選挙時における政治活動について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
14	12/23	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則・制裁	選挙運動・政治活動の規制違反とそれに対する罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動・政治活動の規制違反と罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を理解する。	
		事前学修	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動・政治活動の規制違反と制裁について理解しておく。	120分
		事後学修	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
15	1/13	現行公職選挙法における政治活動・選挙運動のまとめ	これまでの講義を振り返り、現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の規制等の全体像や課題などについてまとめの解説を行い、試験に備える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義を振り返り、現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の規制等の全体像や課題などについて理解し、試験に備える。	
		事前学修	これまでの講義内容を教科書とこれまでに配布した資料を踏まえ、政治活動・選挙運動の在り方を考察し、自分なりに整理して理解を深める。	120分
		事後学修	これまでの講義内容を再確認し、期末試験に備える。	120分

科目名	日本政治論Ⅰ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で客観的かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態など多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
「日本政治論Ⅱ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、この授業の対象者は政治経済学科生のみである。くわえて、定期試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。				1	1						
②	現代日本政治の成り立ちを知り、今日の日本政治の背景を知ることができる。					1						
③	現代日本における政治と経済の関連性について、説明することができる。				1							
④	現代日本政治の今後について、考え、予測することができる。				1	1						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①④を中心に評価する。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学3』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『現代政治の争点－日米関係・政治指導者・選挙－』	浅野一弘	同文館出版	2013	参考書	推奨
『現代政治論－解釈改憲・TPP・オリンピック－』	浅野一弘	同文館出版	2015	参考書	推奨
『増補 「解散」の政治学－戦後日本政治史－』	藤本一美	第三文明社	2009	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/8	アルファベットで読む日本政治	日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をとおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべきアルファベットの略語のいくつか（GDP、TAGなど）を修得し、日本政治をみる目をやしなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限のアルファベットの略語の意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
		事前学修	教科書1頁～19頁の下から5行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、GDP、MOF	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
2	第一部水 4/15	カタカナで読む日本政治	日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をとおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべきカタカナのいくつか（レームダック、アナウンスメント効果など）を修得し、日本政治をみる目をやしなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限のカタカナの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
		事前学修	教科書48頁～55頁および143頁～150頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、コンプライアンス、ナショナル・インタレストといったことばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
3	第一部水 4/22	「亥年現象」ということば	12年ごとにみられるとされる、いわゆる「亥年現象」ということばを手がかりに、日本の選挙の特質（投票率、無党派層など）について考える。可能であれば、外国の選挙の事例との比較をこころみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「亥年現象」ということばの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書72頁～79頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「亥年現象」ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
4	第一部水 4/29	「衆参ダブル選挙」ということば	「衆参ダブル選挙」（＝「衆参同日選挙」）ということばを手がかりに、内閣総理大臣の解散権などについて考える。可能であれば、英国の首相の解散権との比較もおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんぱんに登場する「衆参ダブル選挙」ということばの意味と過去の事例について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書80頁～87頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「衆参ダブル選挙」ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分
5	第一部水 5/6	吉田茂と鳩山一郎との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、占領期にかわされた、吉田と鳩山との「密約」に着目することで、吉田政治から鳩山政治への路線転換の意味について探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な吉田と鳩山との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書88頁～91頁の上から9行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、吉田と鳩山の関係を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献について	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 5/13	岸信介と大野伴睦・河野一郎との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、岸と大野、岸と河野とのあいだでかわされた「密約」に着目することで、岸の権力への執着と安保改定にかける意気ごみの一端について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な岸と大野・河野との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書91頁の上から10行目～97頁の下から9行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、岸と大野・河野との関係を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
7	第一部水 5/20	福田赳夫と大平正芳との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、福田と大平とのあいだでかわされた、「密約」に着目することで、自由民主党内の40日抗争への萌芽について検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な福田と大平との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書97頁の下から8行目～103頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、福田と大平との関係を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
8	第一部水 5/27	沖縄返還をめぐる「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、「核ぬき・本土なみ」ということばの意味を意識しつつ、沖縄返還をめぐる、日米間でかわされた、「密約」に着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な沖縄返還をめぐる「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書135頁～142頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、沖縄返還をめぐる政治過程を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
9	第一部水 6/3	ヤルタ協定という「密約」	国際政治史上においても、さまざまな「密約」がかわされてきた。ここでは、現在の北方領土問題の根源ともいべき、ヤルタ協定という「密約」に着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要なヤルタ協定という「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の北方領土交渉にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書104頁～110頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「世界史」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、ヤルタ協定の内容を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
10	第一部水 6/10	北方領土問題	日本外交にとっての懸案の一つである北方領土問題の経緯について検証するとともに、現在の交渉状況にも配慮する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な北方領土問題の内容を理解し、課題解決の方策を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書24頁～39頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、北方領土問題の基本を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 6/17	国際連合と日本	国際連合の組織にくわえ、日本の国連分担金や旧敵国条項などについて検証したうえで、湾岸危機・戦争によってわきおこった日本と国連との関連についての議論にも着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な国際連合の役割を理解し、国連と日本とのかかわりを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書19頁の下から4行目～23頁および56頁～63頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、国際連合と日本のかかわりに関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
12	第一部水 6/24	米国と日本	日米経済摩擦の実態について検証したうえで、ドナルド・トランプ政権下でよりいっそう求められている在日米軍駐留経費の負担増の問題の現状などにも着目する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な米国との関係を理解し、日米関係という側面から、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書42頁の上から7行目～47頁および115頁の上から13行目～118頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、米国と日本とのかかわりに関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
13	第一部水 7/1	「施政方針演説」ということば	施政方針演説のことばの意味を探り、その重要性を認識すると同時に、所信表明演説とのちがいについても考える。可能であれば、米国大統領による一般教書演説との比較などもこころみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「施政方針演説」ということばの意味とその内容を概観し、そこでの理解をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書119頁～127頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、施政方針演説の有する基本的意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
14	第一部水 7/8	地方政治の現状	国政選挙と同様に、統一地方選挙の投票率も低下の一途をたどっている。そこで、こうした現状について、代議制デモクラシーという観点から考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方政治の現状を理解し、今後の方向性を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書151頁～158頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方政治をとりまく実状を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分
15	第一部水 7/15	地方議会の課題	地方議会をめぐっては、議員のなり手不足という問題が深刻化しているにもかかわらず、有効な解決策がみいだされていないのが現状である。そこで、議員のなり手不足解消のための方策について考えてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて深刻な地方議会の課題を理解し、その解決方法を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書159頁～166頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方議会がかかえる問題の一端を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	150分

科目名	日本政治論Ⅰ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で客観的かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態などを多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
政治経済学科以外の学生のみ

【授業方法】
授業は、基本的に講義を形式で行う。必要に応じて、スライドやムービーを用いることもある。また、シラバスに示された授業の合間に、適宜、時事的な問題について受講生の求めに応じて、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。				1	1						
②	現代日本政治の成り立ちを知り、今日の日本政治の背景を知ることができる。					1						
③	現代日本における政治と経済の関連性について、説明することができる。				1							
④	現代日本政治の今後について、考え、予測することができる。				1	1						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①④を中心に評価する。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う（ポータル＋希望者には個別に）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦後政治史	石川真澄ほか	岩波新書	2012	参考書	推奨
現代日本政治史	薬師寺克行	有斐閣	2014	参考書	推奨
現代日本政治講義	藪野祐三	北海道大学出版会	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:00-13:00 研究室（9号館2階9208研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	現代日本政治を学ぶ意義	選挙権が18歳に下げられる一方で、若者の政治離れや政治的無関心の増大が問題となる中、何故、日本の政治について学ばなければならないのか、それを学ぶことによって、何をすることができるのかについて、考えます。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現代日本政治を学ぶことの意味を理解することを通して、政治に対する関心と問題意識を持つことができる。	
		事前学修	テレビや新聞、ネットのニュースなどを通じて、今日の日本政治に対する各自の問題意識を持つことを求める。	120分
		事後学修	日本政治を学ぶことによって、自分の社会生活の中で、何をすることができるのかを考えること。	120分
2	4/13	日本政治の現状	日本の政治は今、どのような状況にあるのかについて「一強多弱」「政界再編」「憲法改正」「グローバル化」などをキーワードとして、最新のデータなども取り上げて学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、今日の日本政治の現状について、具体的に説明できる。	
		事前学修	テレビや新聞、ネットのニュースなどを通じて、日本の政治がどのような状況にあるのかについて、概観しておくことを求める。	120分
		事後学修	講義で取り上げたキーワードの中で、関心を持った事象について、ネットなどを検索して、どのような課題があるかについて調べ、各自の問題意識を高めることを求める。	120分
3	4/20	日本政治の特質	諸外国の政治と比較して、日本の政治の特徴とは何かについて「自民党一党優位」「政治家中心主義」「官僚主導」などをキーワードとして解説すると同時に、1990年代以前と比べて、その特徴がどのように変化したかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国と比べた時の日本政治の特徴は何か、また、それはどのように変化してきたのかを説明できる。	
		事前学修	日本政治を考える上で不可欠なキーワードは何かについて、前回学んだ、日本政治の現状を踏まえて、各自が考え、析出することを求める。	120分
		事後学修	日本政治の特徴の変化の背景に何があるのかについて、歴史的事象を調べ、その要因について考えてみること。	120分
4	4/27	戦後復興と日本政治	現代の日本政治を知る上で、そのスタートラインとなる第二次世界大戦以前と以後を比較し、政治体制や政治制度がどのように変わったのかを学び、その一方で、政治の実態を踏まえた時、何が変わらなかったのかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、第二次世界大戦の戦前と戦後で、日本政治はどのように変わったのか、また、変わらなかったものは何かについて、具体的に説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦前の政治システムはどのようなものであったのかについて、大日本帝国憲法を軸に高校の日本史や政治経済の教科書などで学んでおくこと。	120分
		事後学修	講義の中で扱う戦後の公職追放に伴う官僚出身政治家の誕生が、その後の日本政治に与えた影響について、歴代の総理大臣の出自などを調べてみること。	120分
5	5/4	五五年体制の成立	1955年の保守合同と左右社会党の再統合で自民党、社会党という二大政党が誕生したが、いわゆる「五五年体制」が成立したが、その背景を知ると同時に自民党、社会党の違いについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、「五五年体制」とは何か、また、その主役である自民党と社会党の違いはどこにあるのかについて、両者を比較して説明できる。	
		事前学修	戦後の日本の政党の変遷について、ネットなどを検索し、変遷を示す図表を手に入れ、そこでの政界再編がどのように進んでいったのかについて、調べておくこと。	120分
		事後学修	「五五年体制」とは何かに、また、いつ終演したのかについては、さまざまな意見があるが、それについて調べ、「五五年体制」に対する認識を深めること。	120分
6	5/11	自民党一党優位体制と高度経済成長	1955年の保守合同で誕生した自民党は、その後、今日に至るまで日本政治の「主役」の座を維持しているが、この自民党「一党優位体制」とは何かについて知った上で、それが日本の高度経済成長を生み出した原動力になった実情について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自民党政権の安定と経済の高度成長との相互関係について説明できる。	
		事前学修	政治と経済の相互関係について、一般的な考え方について、基礎的な知識を得ておくこと。	120分
		事後学修	1955年～1970年までの高度経済成長とはどのようなものであったのか、関係の事象やデータを調べ、今日の日本経済と比べた時の凄さを確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	多党化時代の到来	1960年代から日本の政界には民社党や公明党など新たな政党が登場し、自民・社会の二大政党から多党化の時代を迎えることになるが、多党化は何故、起きるのか、それは政治にどのような影響を与えるのかについて、理論的、実証的に学んでいく。	
		この回の到達目標	1960年代の日本における多党化はどのように生じたのか、また、その背景には何があるのかを説明できる。	
		事前学修	1960年代のアメリカとソビエトの対立の変化を中心に国際関係がどのように変わっていったのかについて、「デタント」や「緊張緩和」などをキーワードに調べておくこと。	120分
		事後学修	1960年代の多党化と今日の多党化の違いについて、調べてみること。	120分
8	5/25	高度経済成長の終焉と保革伯仲	1960年代以降、自民党の「長期低落」傾向が顕著になり、自民党の一方優位にも「ゆらぎ」が見られるようになる中、1973年の第四次中東戦争に端を発する石油危機が日本の高度経済成長を終焉に向かわせ、遂には、「保革伯仲」が生じるが、その理由と影響について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自民党の長期低落の原因について、経済との関係において、説明することができる。	
		事前学修	自民党の長期低落について、1955年以降の自民党の選挙結果につて調べ、その実情について理解しておくこと。	120分
		事後学修	石油危機は1973年と78年にも起きているが、両者の日本経済への影響の違いについて調べてみること。	120分
9	6/1	バブル経済と政治腐敗	1980年以降、日本の経済が復調する一方で、アメリカ経済が衰退し、その対応のため、1985年にプラザ合意が行われるが、その副作用として、日本はバブル経済に突入したが、その裏で、自民党の衰退が金権腐敗政治を生み出すことになった。そのメカニズムと背景について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本政治における政治と金との構造的関係について説明することができる。	
		事前学修	バブル経済とはどのようなものであったのか、社会現象や実証データを調べておくこと。	120分
		事後学修	日本独自の中選挙区制とはどのようなものであるか、その問題点も含めて、再確認しておくこと。	120分
10	6/8	政治改革と政界再編	1980年代に深化した政治腐敗に対し、抜本的な政治改革を求める声が高まったが、その背景を探ると同時に、政治と金の問題が、いかにして選挙制度改革に進んでいったのかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、1994年に実現した政治改革の内容と背景について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	1980年代に起きたリクルート事件をはじめとする金権スキャンダルには、どのようなものがあったのかについて、調べておくこと。	120分
		事後学修	政治改革実現によって、導入された小選挙区比例代表並立制とは、どのような選挙制度で、その狙いはどこにあったのかについて、再確認しておくこと。	120分
11	6/15	混迷する日本政治	政治改革をめぐり自民党が分裂し、1993年に初の政権交代が実現するが、その後の日本政治は、政界再編などをめぐり、混迷を深めることになるが、その混迷の原因と影響について学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小選挙区比例代表並立制の導入が日本の政党政治に与えた影響について説明できる。	
		事前学修	1990年代における政党の離合集散について、政党の変遷に関する図表を調べ、その状況について、理解を深めておくこと。	120分
		事後学修	1994年に誕生した自民・社民・さきがけの連立による村山富市政権の特異性について、調べ、それがその後の社民党の凋落に与えた影響について確認しておくこと。	120分
12	6/22	小泉政権の誕生と劇場政治	2001年に誕生した小泉純一郎内閣は、熱狂的ブームを巻き起こしたが、「劇場政治」と呼ばれた政治手法は、その後の政治のスタイルを一変させることになったが、小泉劇場政治とは、どのようなものであったのか、そしてその功罪について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、小泉内閣の特徴と当時の「小泉ブーム」について説明することができる。	
		事前学修	2000年前後の日本の政治と経済の状況について、調べておくこと。	120分
		事後学修	小泉内閣のメディア戦略について、具体的にどのような事が行われたのかについて、調べてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	民主党政権の登場と崩壊	2009年の総選挙で民主党が圧勝し、初の本格的な政権交代が実現したが、民主党政権は発足当初からつまみ食い、党内の混乱もあり、信任を失って崩壊したが、民主党政権とは、どのような政権であったのか、また、崩壊の理由は何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、民主党政権の特徴と問題点について、具体的に説明できる。	
		事前学修	1996年の結党以降、民主党がいかに勢力を伸ばしてきたか、選挙データを調べて確認してみること。	120分
		事後学修	民主党政権が実現できたこと、実現できなかったことを、当時のマニフェストなどを参考に調べてみること。	120分
14	7/6	安倍一強多弱体制	2012年、自民党が総選挙で圧勝し、第二次安倍内閣が誕生するが、その一方で、大敗北を喫した野党は混乱し、「一強多弱」と呼ばれる政治状況が生まれ、安倍内閣は、日本憲政史上最長の内閣となったが、その強さの理由は何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第二次安倍内閣の強さについて、その理由を説明することができる。	
		事前学修	第一次安倍内閣が崩壊してから第二次安倍内閣が誕生するまでの安倍氏の動向について、調べてみること。	120分
		事後学修	安倍内閣の政策的主張とその成果について調べてみること。	120分
15	7/13	日本政治の課題	ここまでの授業を振り返り、日本政治が将来に向けて抱えている課題について、健全な議会制民主主義という観点から探ることを通じて、今後の日本政治のゆくえについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、現代日本政治の変遷を総括し、今後の日本政治の課題を明らかにすることができる。	
		事前学修	ここまでの講義を振り返り、日本の政治がどう変わってきたのかについて、まとめてみること。	120分
		事後学修	各自が考える日本政治の課題を析出し、問題を解決するためには、何が必要かを提示してみること。	120分

科目名	日本政治論Ⅱ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で、客観的、かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態など多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
「日本政治論Ⅰ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、この授業の対象者は政治経済学科生のみである。くわえて、定期試験の答案作成にあたっては、黒のボールペンを使用すること。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。					1	1						
②	現代日本政治の制度が現実の政治に与える影響について知ることができる。						1						
③	日本政治の制度と諸外国の政治制度を比較分析することを通じて、政治に対する視野を広げることができる。					1	1						
④	現代日本政治の課題について、考え、今後の日本政治の行方を予測、問題解決に寄与することができる。					1							
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①⑤に関して評価を行う。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学2』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と政治過程－1951年～83年－』	藤本一美・浅野一弘	龍溪書舎	1994	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/16	地名で読む日本政治	日本政治と密接な関係にある地名がある。そこで、「永田町」「霞が関」といったことばを手がかりに、日本の権力構造の基盤について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、知っておくべき地名の意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
		事前学修	教科書1頁～10頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「永田町」「霞が関」といったことばのもつ意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	第一部水 9/23	世襲議員	報道でもよく耳にする「世襲議員」（＝「二世議員」）ということばがある。では、この世襲議員は、どのような点で、優位な立場にあるのかについて、“三パン”という視点から、考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な世襲議員ということばの意味について理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書23頁～32頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、世襲議員ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	第一部水 9/30	自由民主党総裁選挙のしくみ	最新の自由民主党総裁選挙を例にとり、同党の総裁選挙のしくみがどのようになっているのかを検討する。時間が許せば、ほかの政党の代表選出選挙についても言及する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙のしくみについて理解し、それをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書85頁～95頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、自由民主党総裁選挙の基本的なしくみをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	第一部水 10/7	自由民主党総裁選挙の歴史	自由民主党の総裁選挙の歴史は、金権選挙の歴史であるともいわれる。その起源がどこにあるのか、そして、総裁選挙と派閥との関連などについて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙の歴史について理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書97頁～106頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、自由民主党総裁選挙の歴史的な流れをおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	第一部水 10/14	内閣改造・自由民主党役員人事	内閣改造と自由民主党の役員人事をめぐるのは、派閥間で活発なかけひきが見られた。そうした歴史をふりかえるとともに、最新の内閣改造と党役員人事の特徴についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な内閣改造・自由民主党役員人事の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書107頁～117頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、内閣改造・自由民主党役員人事についての基本事項をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	第一部水 10/21	閣議の実態	「内閣総理大臣がこれを主宰する」（内閣法・第4条2項）とされる閣議のしくみについて考えるだけでなく、その特質についても検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な閣議の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書119頁～129頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、閣議についての知識の基本事項をおさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	第一部水 10/28	冷戦と日本政治	冷戦のはじまりと終わりの時期について検討するとともに、冷戦が日本の政治にあたえた影響について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治に大きな影響をあたえた冷戦の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書11頁～21頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「世界史」「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、冷戦の意味と冷戦が日本政治におよぼした影響の一端を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	第一部水 11/11	旧日米安全保障条約と吉田茂	日本国内では、旧日米安全保障条約の締結に批判的な声があったものの、なぜ、吉田は、同条約を結ぶことを決断したのか、その政治過程について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な旧日米安全保障条約をめぐる政治過程を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書33頁～38頁の上から6行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、旧日米安全保障条約締結までの政治過程を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	第一部水 11/18	旧日米安全保障条約の問題点	旧日米安全保障条約には、さまざまな問題点があったとされている。そこで、同条約がかかえていた問題点を整理し、なぜ、そのような問題点をのこしたまま、条約が締結されたのかについても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な旧日米安全保障条約のもつ問題点を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書38頁の上から7行目～42頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、旧日米安全保障条約の問題点を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	第一部水 11/25	池田・ロバートソン会談	日米関係史上、きわめて重要とされる池田・ロバートソン会談をめぐる政治過程をおさえ、MSA（日米相互防衛援助）協定締結の意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な池田・ロバートソン会談の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書43頁～45頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本政治史上における池田・ロバートソン会談の意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	第一部水 12/2	重光・ダレス会談	旧日米安全保障条約の改定をめざした重光葵は、ジョン・ダレスとのあいだで会談をおこない、要望を伝えたものの、ダレスはまったくとりあわなかったとされる。そこで、同会談でなにが話しあわれたのかに着目すると同時に、この会談と55年体制成立の関連についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な重光・ダレス会談の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書46頁～53頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、重光・ダレス会談の意味と同会談と保守合同とのかかわりについての基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	第一部水 12/9	安保改定の実像	“片務性”のあった旧日米安全保障条約が、“双務性”をもつ新日米安全保障条約へと改定される政治プロセスを詳細に検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な安保改定の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書55頁～60頁の下から5行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、安保改定に関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	第一部水 12/16	安保闘争	岸信介による安保改定への批判がたかまり、岸内閣は崩壊する。安保闘争とよばれる、その反対運動の特質と意味についても考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な安保闘争の意味を理解し、そこで得た知識をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書60頁の下から4行目～64頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本政治上、安保闘争の有する基本的意味を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	第一部水 12/23	日本国憲法のなかの地方自治	日本国憲法のなかで規定されている地方自治の内容と現実との乖離について、「地方自治の本旨」ということばをキーワードに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方自治のしくみに関して、日本国憲法との関連で理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書79頁の上から10行目～84頁および151頁～161頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方自治をとりまく実状を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	第一部水 1/13	危機管理	1995年の阪神・淡路大震災以来、「危機管理」ということばがさかんにさげられるようになった。ここでは、2018年におこった北海道胆振東部地震を例にとり、危機管理の意味について考えてみたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な危機管理の実状を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
		事前学修	教科書65頁～74頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本における危機管理の現状と課題の一端を的確におさえておく。	120分
		事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅱ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現代の日本政治を正しく理解するためには、日本政治に関する冷静で、客観的、かつ体系的な学習が必要である。本講義では、現代日本政治を歴史、制度、実態など多角的かつ体系的に学ぶことを通じて、日本政治の特徴と問題点を明らかにしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちが暮らしている日本の政治を知り、政治を冷静かつ客観的に「見る眼」を養い、「良き主権者」になるために、現代日本政治を歴史、制度、実態などについて、体系的に学ぶことを目的とする。日本政治論Ⅰでは、現代日本政治を歴史的に学んでいく。

【履修条件】
政治経済学科以外の学生のみ

【授業方法】		
授業は、基本的に講義を形式で行う。必要に応じて、スライドやムービーを用いることもある。また、シラバスに示された授業の合間に、適宜、時事的な問題について受講生の求めに応じて、解説を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代日本政治の実態を知ることにより、政治を客観的に見る眼を養うことができる。						1	1						
②	現代日本政治の制度が現実の政治に与える影響について知ることができる。							1						
③	日本政治の制度と諸外国の政治制度を比較分析することを通じて、政治に対する視野を広げることができる。						1	1						
④	現代日本政治の課題について、考え、今後の日本政治の行方を予測、問題解決に寄与することができる。						1							
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、定期試験における論述問題に回答することを通じて、その理解度や説明力などを評価する。	15	20	20	15							70
小テスト等	授業の区切りにおいて行う小テストにより、到達目標②③について授業内容をどの程度理解しているかについての確認を行う。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内容に関する疑問などについて、積極的に質問し、現代日本政治を理解しようとする努力を行っているかどうかを到達目標①⑤に関して評価を行う。	5			5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験終了後、答案の講評・設問の解説を行う（ポータル＋希望者には個別に）

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アクセス日本政治論	平野浩ほか	日本経済評論社	2003	参考書	推奨
日本の選挙	加藤秀治郎	中公新書	2003	参考書	推奨
現代日本政治講義	藪野祐三	北海道大学出版会	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:00-13:00 研究室 （9号館2階9208研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	政治制度と現実政治	さまざまな現実の政治現象の背景には、政治の仕組みである政治制度が色濃く関係していることを説明し、日本政治の実態を理解する上で、政治制度を学ぶことが重要であることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治制度が現実の政治をいかに規定するかについて、具体的に説明することができる。	
		事前学修	現代の日本政治を見ながら、各自が疑問に思うことを明らかにしておくことを求める。	120分
		事後学修	政治制度が実際の政治のあり方を左右する事例をアメリカやイギリスなどとの比較を含めて健闘してみることに。	120分
2	9/21	小選挙区制と比例代表制	外題の議会制民主主義の基本である代表選出の仕組みである選挙制度について、小選挙区制と比例代表制というふたつの代表的選挙制度について、基礎的な知識を確認した上で、両者の長所と短所について、比較して説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、選挙制度の基本である小選挙区制と比例代表制の違いや、その長所や短所について、説明することができる。	
		事前学修	世界各国の選挙制度について、調べてみることに。	120分
		事後学修	小選挙区制と比例代表制を比較し、日本の政治の現状を考えた時、どの選挙制度が望ましいかを理由を含めて考えてみることに。	120分
3	9/28	衆議院の選挙制度	現在、日本の衆議院で使われている選挙制度である小選挙区比例代表並立制について、その特徴や投票方法、当選者の決定方法などを具体的かつ詳細に学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、衆議院の選挙制度である小選挙区比例代表並立制について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	1889年以来の日本の衆議院の選挙制度の変遷について、歴史的に振り返ってみることに。	120分
		事後学修	1994年の政治改革に際し、小選挙区比例代表並立制が導入された経緯について調べてみることに。	120分
4	10/5	参議院の選挙制度	参議院の現行の選挙制度について、その特徴や投票方法、当選者の決定方法などを具体的、かつ詳細に説明すると同時に、参議院の選挙制度ならではの問題についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②に力関連して、参議院の選挙制度について説明できると同時に衆参の選挙制度の違いについて説明できる。	
		事前学修	参議院の選挙制度の変遷や比例代表制が導入されるに至った経緯について調べておくことに。	120分
		事後学修	参議院の一票の格差をめぐる訴訟に対する最高裁判決の変遷について調べてみることに。	120分
5	10/12	中選挙区制	1925年から1994年まで使われていた衆議院の中選挙区制は、日本独自の選挙制度であったが、何故、中選挙区制が導入されたのか、小選挙区制や比例代表制と比べた場合、中選挙区制の特質はいかなるものかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、日本独自の中選挙区制の導入理由と、他の選挙制度と比べた時の特質について説明できる。	
		事前学修	中選挙区制が導入されるきっかけとなった第二次護憲運動について調べておくことに。	120分
		事後学修	中選挙区制が70年間も日本で利用されてきた理由について、考えてみることに。	120分
6	10/19	中選挙区制と金権政治	理論的には問題の少ない中選挙区制には、政治家中心の政治を促すことを通して、金のかかる政治を生み出す構造的欠陥があったが、中選挙区制がもたらす問題点を明らかにすると同時に政治改革に際し、中選挙区制を廃止することが叫ばれた背景について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、中選挙区制の構造的な問題点について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	1980年代後半に続発した政治と金をめぐるスキャンダルについて、それがどのようなものであったのかを調べておくことに。	120分
		事後学修	今日でも中選挙区制を擁護する議論があるが、その理由は何かについて調べてみることに。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	1994年政治改革	1980年代後半に相次いだ政治と金をめぐるスキャンダルを契機に、政治改革の必要性が叫ばれ、政治改革運動が高まったが、政治と金をめぐる問題が選挙制度改革に発展した経緯と、当時の改革派が選挙制度改革を通じて目指したものについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、1994年の政治改革について、その目的や理念について、説明することができる。	
		事前学修	戦後の政治改革に関する議論では、何が課題とされてきたかについて調べてみること。	120分
		事後学修	小選挙区制や比例代表制と政党政治との関係について、西欧諸国を事例として調べてみること。	120分
8	11/9	日本型議院内閣制	日本の政府はイギリスにならって、議院内閣制を基本としているが、そもそも議院内閣制とは何か、大統領制との違いは何かを学んだ上で、日本の議院内閣制の特徴をイギリスと比較して明らかにしていく。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の議院内閣制について、イギリスやドイツと比較した場合の違いや特質について、説明することができる。	
		事前学修	イギリスの議院内閣制とアメリカの大統領制の違いについて、その考え方の違いに重点をおいて、調べるべくこと。	120分
		事後学修	政府のあり方には、様々なものがあるが、世界各国の政府に関する政治制度がどうなっているかについて、調べてみること。	120分
9	11/16	日本の国会	議会制民主主義の政治における中心は議会であり、議会制度は選挙制度と並んで、最も重要な政治制度であるが、その実態は余り知られていない。そこで世界の議会制度の中で、日本の国会の制度独自の特徴は何かについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカやイギリスと比較した場合の日本の国会制度の違いや特質を説明することができる。	
		事前学修	世界のさまざまな国の議会制度について、調べてみること。	120分
		事後学修	日本の国会とアメリカの連邦議会、イギリスの議会を比較して、それぞれについて、類似の部分と異なっている部分について調べてみること。	120分
10	11/23	二院制と強すぎる参議院	日本は衆議院と参議院からなる二院制を採用し、衆議院の優越が憲法で規定されている。しかし、制度の欠陥から両院が対立した場合、「決められない国会」に陥る可能性もある。そこで日本における両院関係を明らかにし、「強すぎる参議院」といわれる現象はどのようなものかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、日本の国会の二院制の特質と問題点について、具体的に説明することができる。	
		事前学修	世界のさまざまな国の議会制度について、一院制か二院制かに着目して調べてみること。	120分
		事後学修	講義で扱った「ねじれ国会」について、そこで起きた混乱について調べてみること。	120分
11	11/30	自民党一党優位体制	日本政治を語る上で、欠くことができないアクターは自民党であり、自民党は、現代史の中でほとんどの期間、政権政党であり続けた。このような自民党一党優位体制とは何か、また、その功罪は何かについて、具体的な事例を含みながら学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、自民党一党優位体制とは何かと、その功罪について、説明することができる。	
		事前学修	自民党という政党がどのように誕生したのか、1955年の保守合同について調べてくること。	120分
		事後学修	自民党の理念や基本政策は何か、また、選挙での公約はどう変化してきたかについて、調べてみること。	120分
12	12/7	自民党の特徴	日本政治の「主役」ともいえるべき自民党の特徴について、組織面、政策面をはじめとして、さまざまな角度から明らかにし、その独自性について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、自民党の組織的特徴について、独特の議員政党という観点から説明することができる。	
		事前学修	自民党とはどのような政党かについてのさまざまな議論を比較の観点から調べ、各自の「自民党観」を持つようにすること。	120分
		事後学修	自民党における派閥が果たしてきた役割と、その問題点について調べること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	自民党は何故強いのか	自民党は日本政治の中で、何故、ここまで強い存在であるのか、組織だけでなく、政策や支持者や選挙など、さまざまなその強さの理由について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自民党が一党優位体制を築き上げた理由と背景について、説明することができる。	
		事前学修	自民党の過去の選挙結果を集め、その動向について考察してみること。	120分
		事後学修	「自民党は大きい故に強い」という、一見、トートロジーとも見える見方について、その理由を考察してみること。	120分
14	12/21	変わる政治と変わらぬ政治	自民党一党優位体制と言われる中で、日本政治はどう変わってきたのか、また、何が変わらなかったのかについて、「変革の時代」といわれた1990年代を軸に学んでいく。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、1990年代以降の日本政治の変化について、説明することができる。	
		事前学修	各自がここまで学んできて、日本政治が変わった点と変わらない点は何かについて、考えておくこと。	120分
		事後学修	自民党一党優位体制に対し、野党はどうあるべきか、その対抗策について考えてみること。	120分
15	1/18	日本政治の課題	激変する政治環境の下で、日本政治が当面、抱える問題は何か、その問題にどう対処していくべきかについて、これまで学んできたことを基礎に総括する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、現代日本政治が抱える課題について、各自が新たな問題意識を持つことができる。	
		事前学修	各自がここまで学んできて、日本政治が変わった点と変わらない点は何かについて、考えておくこと。	120分
		事後学修	各自が最も重要と考える日本政治の課題を挙げ、その何が問題か、それを解決するためには何をすべきかを、具体的に考え、明らかにしてみること。	120分

科目名	日本法制史Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを修得するために、明治前期を中心に近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性と合わせて理解する。

【履修条件】
日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

【授業方法】
テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明治初期の国家機構について説明することができる。				2	2						
②	明治初期の刑事法の内容について説明することができる。				2	2						
③	明治初期の民事法の内容について説明することができる。				2	2						
④	明治初期の司法制度について説明することができる。				2	2						
⑤	大日本帝国憲法の内容と権力機構について説明することができる。				2	2						
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての基本的な知識が身について いるかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	教科書	必携
日本近代法案内	山中 永之佑 編	法律文化社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 火4/7	日本法制史の基本的な考え方	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	法制史という学問の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	第一部 第二部 火4/14	時代区分とそれぞれの法の特色～古代・中世～	大化の改新以前の法、律令法・鎌倉幕府法・室町幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
		事前学修	図書館等で、古代・中世の法に関する文献を一読しておくこと。	120分
		事後学修	律令制と初期武家法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	第一部 第二部 火4/21	時代区分とそれぞれの法の特色～近世～	戦国家法と江戸幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
		事前学修	図書館等で、戦国期・江戸幕府の法に関する文献を一読しておくこと。	120分
		事後学修	戦国家法と江戸期の法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	第一部 第二部 火4/28	時代区分とそれぞれの法の特色～明治期～	明治期を三期に分けて、それぞれの時期の法の概要と特徴的な事象について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
		事前学修	テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	明治期の法体系の全体像を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	第一部 第二部 火5/5	明治初期の国家機構～太政官制～	明治初期の国家機構である太政官制の発足・改正の流れを追いながら、太政官制という統治システムの特色を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が、太政官制の内容を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	太政官制の特徴と意義を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	第一部 第二部 火5/12	明治初期の国家機構～廃藩置県～	中央集権国家体制構築にあたり、従来の体制を解体する過程とこれらの改革から発生した様々な問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が、太政官制の内容を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	封建体制の解体過程と派生した問題点について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 火 5/19	明治初期の刑事法と治安法制	明治初期に施行された律型刑法典の内容と特徴および言論統制法を中心とした治安立法の内容と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が、律型刑法典の内容を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第1節「明治初期刑法と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	律型刑法典の特色と各種治安法制の内容・目的を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	第一部 第二部 火 5/26	明治初期の民事法	明治初期における統一的民事法の作成作業の流れと現実に発生していた民事事件の解決策の内容と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が、明治初期の民事事件の解決法の内容を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第11章「財産法制」第2節「明治前期における諸立法」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	統一的民法典作成の動きと現実に発生した民事事件の対処策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	第一部 第二部 火 6/2	明治初期の司法制度	司法制度の近代化に向けた江藤新平の司法改革・大審院の設置・司法官の養成・代言人制度の内容と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が、明治初期の司法制度の内容を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第9章「司法制度」第1節「太政官制下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	近代的司法制度構築へ向けての動きと法曹養成の方法ついてを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	第一部 第二部 火 6/9	旧刑法の成立と治安法制	本格的な近代的法典の嚆矢である旧刑法の成立過程とその内容・特徴と自由民権運動対策としての治安立法の整備・強化の内容について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が、旧刑法の内容と特徴を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第2節「旧刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	近代的法典の嚆矢である旧刑法の特徴と自由民権運動取締の動きについて自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	第一部 第二部 火 6/16	大日本帝国憲法の制定～制定前史～	明治初期の憲法制定に向けたさまざまな動きの内容と特徴、自由民権運動の拡大に伴う様々な私擬憲法草案の内容と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、大日本帝国憲法制定に至る過程を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	明治初期の憲法制定へ向けての動きや各種私擬憲法草案の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	第一部 第二部 火 6/23	大日本帝国憲法の制定～制定過程と内容・特色～	大日本帝国憲法の制定過程の流れと大日本帝国憲法の内容と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、大日本帝国憲法の内容と特徴を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	大日本帝国憲法の制定過程とその内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 火 6/30	内閣と枢密院	内閣制度の発足当初の特徴と憲法制定に伴い制定された内閣官制の内容、枢密院の組織・権限、元老の役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、内閣と枢密院の内容と特徴を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	内閣および枢密院の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	第一部 第二部 火 7/7	帝国議会	帝国議会の組織・各種権限について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、帝国議会の構成と権限を説明することができる。	
		事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	帝国議会の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	第一部 第二部 火 7/14	前期のまとめ	前期をふりかえり、補充説明などを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の内容の再確認を行えるようにする。	
		事前学修	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。	120分
		事後学修	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。	120分

科目名	日本法制史Ⅱ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性を合わせて法律学を考える能力を養成することを目的とし、現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。

【履修条件】
日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

【授業方法】
テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明治憲法下の司法制度について説明することができる。				2	2						
②	民法、商法の編纂の過程を説明することができる。				2	2						
③	戦前の民事・刑事裁判手続の内容について説明することができる。				2	2						
④	条約改正と日本の対外政策の変化について説明することができる。				2	2						
⑤	大正期の法の再編と戦時立法について説明することができる。				2	2						
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての基本的な知識が身について いるかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	教科書	必携
日本近代法案内	山中永之佑編	法律文化社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 火9/14	明治後期から大正・昭和期 それぞれの法の特徴	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法につ いて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	法制史という学問の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	第一部 第二部 火9/21	明治憲法下の司法制度～裁 判所構成法の制定～	近代的司法制度の根拠法である裁判所構成法の制定過程と内容・特徴について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、学修者が裁判所構成法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	裁判所構成法の内容と特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	第一部 第二部 火9/28	明治憲法下の司法制度～司 法官の任用と弁護士制度～	近代的な司法官養成制度の内容と旧世代の司法官との人事の入れ替え、弁護士制度の発足と発展 の内容について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①に関連して、学修者が司法官養成制度と弁護士制度の内容と特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	近代的な法曹養成制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	第一部 第二部 火10/5	民法典の編纂と法典論争～ 民法典の編纂過程～	旧民法の編纂過程とその内容と法典論争後の民法典の編纂過程と民法典の特徴について説明す る。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、学修者が民法の編纂課程と内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	旧民法と新民法の相違点を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	第一部 第二部 火10/12	民法典の編纂と法典論争～ 法典論争の動きと評価～	民法典の編纂をめぐって起こった法典論争の流れとこの論争をめぐる歴史的評価について説明す る。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法典論争の展開とその評価を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	法典論争における延期派・断行派の主張の内容と特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理してお く。	120分
6	第一部 第二部 火10/19	商法の成立	旧商法の成立過程とその内容、施行延期を受けて新たな商法の成立過程と商法の特徴、施行延期 のきっかけとなった商法典論争の動きについて説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標②に関連して、学修者が商法の編纂過程とその特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第14章「商事・産業法制」第1節「明治商法の成立」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	商法の成立過程と商法典論争の動きを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 火 10/26	刑事訴訟法の成立	明治初期の刑事裁判手続の内容と治罪法・明治刑事訴訟法における刑事裁判手続の内容と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が明治刑事訴訟法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	治罪法・明治刑事訴訟法における訴訟手続の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	第一部 第二部 火 11/9	民事訴訟法の成立	明治初期の民事裁判手続の内容と民事訴訟法の成立過程とその特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が民事訴訟法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第3節「民事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	明治初期の民事訴訟手続の内容と民事訴訟法の成立過程・特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	第一部 第二部 火 11/16	条約改正と日本の対外政策	条約改正実現に向けての流れと日清・日露戦争を経た日本の対外政策の変化について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が条約改正までの過程と対外政策の変化を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第16章「近代日本の対外的軌跡と国際法制」第1節「明治維新以後の日本の対外政策の基調と日清戦争」・第2節「日露戦争と日本帝国主義の確立」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	条約改正の流れと日本帝国主義の確立の過程を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	第一部 第二部 火 11/23	現行刑法の成立と治安法制	現行刑法の成立過程とその特徴と労働・農民運動対策の治安法制の内容について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が現行刑法の制定過程と治安立法の変化の背景を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第3節「現行刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	刑法の成立過程と労働・農民運動対策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	第一部 第二部 火 11/30	臨時法制審議会	大正期における法の再編作業のために設置された臨時法制審議会の組織・諮問事項・影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が大正期の法の再編の背景を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第13章「家族法制」第3節「民法改正の動き」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	大正期における法の再編・強化の流れを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	第一部 第二部 火 12/7	刑事訴訟法の改正と陪審制	大正刑事訴訟法の成立過程とその特徴と日本における陪審制度の導入とその問題点について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が大正刑事訴訟法と陪審法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	刑事訴訟法の改正内容と陪審制の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 火 12/14	普通選挙法と治安維持法の成立	普通選挙法の成立に向けた流れと治安維持法の内容・運用上の特徴と昭和期の改正の内容について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が普通選挙導入の背景と治安維持法の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト序章「日本近代法総論」第2節「日本近代国家の法構造の変容」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	普通選挙法の内容と治安維持法の内容・運用の変化を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	第一部 第二部 火 12/21	国家総動員法の成立と戦時立法	国家総動員法の内容・統制の実際と主要な戦時特別法の内容について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が準戦時・戦時体制下の法の特徴を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第14章「商事・産業法制」第4節「国家総動員法の制定と一九三八年の商法改正」の部分を一読しておくこと。	120分
		事後学修	国家総動員法による統制の内容と戦時特別法の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	第一部 第二部 火 1/18	後期のまとめ	後期をふりかえり、補充説明などを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の内容の再確認を行えるようにする。	
		事前学修	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。	120分
		事後学修	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	中村 美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
授業には、英和や和英の辞典、電子辞書の持参が望ましい。また、スマホの辞書アプリの利用も可。

【授業方法】
毎回、重要と思われる世界的な事件・事故、国際的な取り決めなどを授業の題材として取り上げる。授業は、取り上げたニュースの解説、学生による授業時間内の翻訳、翻訳の確認、の3つの要素で構成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内試験の翌週に解説を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。毎回、ニュースのコピーを教材として配付する。				

【オフィスアワー】	
授業時間内（木曜１・２限）で質問を受けることを基本とする。また、メールでも受け付ける（yokko.gee@gmail.com）。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	ガイダンス・導入講義	授業のガイダンスを行う。授業方法を理解するために、短い英語ニュースを実際に翻訳する。	
		この回の到達目標	取り上げるニュース項目の幅の理解を助け、ニュースを読み解く視点を提供する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業を概観する。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳力を確認する。	120分
2	4月16日	日中関係	中国習国家主席の日本公式訪問①	
		この回の到達目標	諸外国のニュースと日本との関係を理解し、英語ニュースの構造と常用語を取得する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
3	4月23日	日中関係	中国習国家主席の日本公式訪問②	
		この回の到達目標	習主席の日本訪問について、諸外国の視点を理解し、英語ニュースの構造と常用語を取得する。	
		事前学修	習主席の日本訪問に関連する英語ニュースを、日本語のニュースと対照しながら読み取る。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
4	4月30日	イギリスのEU離脱	イギリスのEU離脱の進捗状況と経済界に与える影響①	
		この回の到達目標	EU離脱後について、イギリス発の報道をビジネスの観点から理解する。	
		事前学修	イギリスのEU離脱について、知識を深める。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
5	5月7日	イギリスのEU離脱と日本	イギリスのEU離脱② 日本との関係を英語読解する。	
		この回の到達目標	日英の貿易関係を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
6	5月14日	災害・事件・事故	国内外の災害や事件・事故に関するニュース①	
		この回の到達目標	災害や事件・事故のニュースで使用される英語表現を学ぶ。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月21日	復習		翻訳および英語ニュース常用単語を確認する。
		この回の到達目標	授業で行ったすべてのニュースの翻訳を確実にする。	
		事前学修	授業期間前半の教材で、英訳の不明点を確認する。	120分
		事後学修	翻訳の不明点を解消する。	120分
8	5月28日	東京2020		東京2020オリンピック・パラリンピック大会関連ニュース①
		この回の到達目標	開催まで2か月を切った時点で、東京2020に関する日本の報道の特徴を把握する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインや日本の新聞の社説をチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
9	6月4日	東京2020		東京2020オリンピック・パラリンピック大会関連ニュース②
		この回の到達目標	東京2020オリンピック・パラリンピック大会について、諸外国のメディアの伝え方を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News、CNN等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
10	6月11日	G7サミットと日本		G7マイアミサミット①
		この回の到達目標	トランプ大統領が所有するマイアミのリゾートで開催されるG7サミットに関して、日本の報道視点を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
11	6月18日	G7サミットと世界		G7マイアミサミットn②
		この回の到達目標	トランプ大統領が所有するマイアミのリゾートで開催されるG7サミットに関して、諸外国の報道視点を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
12	6月25日	米大統領選挙		米大統領選関連ニュース（党大会のゆくえ）
		この回の到達目標	11月の大統領選挙に向けた山場の1つの報道を題材に、大統領選の課題と選挙をめぐる英語表現を習得する。	
		事前学修	米大統領選の党大会に関するニュースをNHKや外国ニュース報道でチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	復習	前期後半の教材を復習する。	
		この回の到達目標	和訳を徹底し、重要単語を把握する。	
		事前学修	試験に備え、復習し、疑問点を整理する。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
14	7月9日	まとめと授業内試験	授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	試験により、学生それぞれの能力を確認する。	
		事前学修	試験に備え、復習する。	120分
		事後学修	試験問題を復習する。	120分
15	7月16日	試験の講評	試験結果について、講評する。	
		この回の到達目標	後期の授業につながるために、ニュースを読み解くポイントを提供する。	
		事前学修	試験問題を復習する。	120分
		事後学修	英語ニュース常用語および表現を復習し、後期授業に備える。	120分

科目名	ニュース英語 I	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
授業内での英和・和英辞書、電子辞書、スマートフォンの辞書アプリの使用は許可する。

【授業方法】		
事前に配布した（あるいはポータルサイトにアップした）資料やニュース記事をもとに、解説や学生を中心とした翻訳を行う。必要があればパワーポイントを用いて行う。ニュースや時事問題を取り上げることから、授業直前に生じた出来事や注目されたニュースを題材とし、シラバス内に記載されているテーマとは異なるものを取り上げることもある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についての事前学習型授業	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。						2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行ったテストは、翌週にフィードバックを行い、誤りが多かったところなどを指摘する。それを通じて復習する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書等は特にないが、授業の際に話題になっているニュースや出来事を取り上げるため、日本語の主要各紙やNHK World、BBC News、英語の主要紙に日常的に接することが望ましい。				

【オフィスアワー】
毎週水曜日の14時半～16時 研究室（本館9階1915研究室） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	授業のガイダンスを行う。授業方法を理解するために、詳しく説明する。また、小テストの3回の配分等を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースを読む際に何が求められるのかを理解できる。	
		事前学修	シラバスを読むこと	120分
		事後学修	配布した資料を翌週までに読むこと	120分
2	4/14	アジアのニュース（1）	日本社会の身近なニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、身近な出来事に関する英語のニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
3	4/21	アジアのニュース（2）	アジアの経済ニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、アジアの経済の現状を英語のニュースで理解できるようになる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
4	4/28	アジアのニュース（3）	東アジアの政治に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、東アジアの政治に関するニュースを英語で理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
5	5/5	小テスト（1） これまでの授業の振り返り	アジアに関するニュースの理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テスト（1）でわからなかった部分を確認すること。と	120分
6	5/12	ヨーロッパのニュース（1）	ヨーロッパの社会問題に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、ヨーロッパの社会問題を英語で理解できるようになる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	ヨーロッパのニュース (2)	ヨーロッパの政治に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、ヨーロッパの政治のニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
8	5/26	ヨーロッパのニュース (3)	ヨーロッパの文化に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、ヨーロッパの文化に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
9	6/2	小テスト (2) これまでの授業の振り返り	ヨーロッパに関するニュースの理解度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テスト (2) でわからなかった部分を確認すること	120分
10	6/9	アメリカのニュース (1)	アメリカの文化に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、アメリカの文化に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
11	6/16	アメリカのニュース (2)	アメリカの政治に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連し、アメリカの政治に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分
12	6/23	アメリカのニュース (3)	アメリカの外交に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連し、アメリカの外交に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前の疑問が解消されたのかを確認し、配布した資料を翌週までに読むこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	小テスト（3） これまでの授業の振り返り	アメリカに関するニュースの理解度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テスト（3）でわからなかった部分を確認すること	120分
14	7/7	小テスト（1）（2） （3）の講評	これまでの小テストの結果の評価	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習を行い、できなかった部分を再度考えてくること	120分
		事後学修	これまでの授業でわからなかった部分を確認すること	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業をすべて振り返り、解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習を行い、できなかった部分を再度考えてくること	120分
		事後学修	小テスト（1）（2）（3）でわからなかった部分を確認すること	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	柳沢 亨之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
日本語の主要新聞を毎日読む。中上級者向けの英和や和英の辞典（電子辞書やスマホの辞書アプリも含む）を授業に持参する。

【授業方法】
授業で使う資料を数日前までにポータルサイトの共有ファイルに掲げる。学生はこれをよく読んだ上で授業に臨む。授業ではパワーポイントを使う。パワーポイントは授業の数日後までに共有ファイルに掲げる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	最新の時事問題の理解を促すため、各授業の冒頭、最新のニュースについて見出しの形式でまとめた短い英文を毎回示し、概要の説明を求める。挙手した学生に優先的に答えてもらうが、指名することもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内試験を試験直後に解説し、正答例をポータルシステムで配信する。次回の授業で講評する。定期試験の解説と講評を同システムで配信する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	日本語の主要紙を毎日読むことが履修条件であるから、新聞を「教科書」あるいは「参考書」と位置付ける。				

【オフィスアワー】
授業終了直後に直接、授業講堂で質問できる。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 報道機関に勤務し、約25年間にわたり、社会や人間の事象を日英両語で取材、執筆、編集。
実務経験に基づく実践的教育の内容		取材、執筆、編集の楽しさや難しさを自らの体験から語り、報道現場を立体的に解説する。日英両語を活用してきた経験から、英文報道と日本語報道の違いや特徴を具体的に説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土4/4	ニュース英語とは	①「ニュース英語」とは何か②なぜ「和訳」が大切か③なぜ「英訳」が大切か④どのように授業を進めていくのか——を解説する。	
		この回の到達目標	時事英語を学ぶ意味を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業を概観する。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、最新ニュースの社会的意義を頭の中で整理する。	120分
2	第二部 土4/11	主要演説を英語で読む	主要国の首脳らが行う演説が現在の世界情勢に与える影響や意義を考察する。こうした影響や意義を象徴する重要な時事英語表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	主要国首脳の演説を英語で読み、世界情勢に関する基礎的な概念とその英語表現を知る。	
		事前学修	主要国首脳が行った最新演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
3	第一部 土4/18	主要演説を英語で読む	主要国の首脳らが行う演説が現在の世界情勢に与える影響や意義を考察する。こうした影響や意義を象徴する重要な時事英語表現について学ぶ。	
		この回の到達目標	主要国首脳の演説を英語で読み、世界情勢に関する基礎的な概念とその英語表現を知る。	
		事前学修	主要国首脳が行った最新演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
4	第一部 土4/25	日本を伝える	働き方改革が英語を通じて世界でどのように報じられているかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	日本の政治や経済、社会が英語メディアで海外に発信されることを意味を知る。	
		事前学修	働き方改革に関する英文の記事や公的文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
5	第一部 土5/2	日本を伝える	働き方改革が英語を通じて世界でどのように報じられているかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	日本の政治や経済、社会が英語メディアで海外に発信されることを意味を知る。	
		事前学修	働き方改革に関する英文の記事や公的文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
6	第一部 土5/9	授業内試験と解説	授業内で小テストを行う。小テストを解説する。	
		この回の到達目標	時事英語と最新ニュースを理解するために必要な知識とはどのようなものかを認識する。	
		事前学修	過去5回の授業を復習する。	120分
		事後学修	小テストの解説を詳細に振り返る。今後どのように勉強すべきかを自分の頭で考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土5/16	授業内試験の講評、「核と原子力」の英語	前の週に行った小テスト（採点済み）を返却し、講評する。5月22日に閉幕する予定の核拡散防止条約（NPT）再検討会議を取り上げ、核軍縮と原子力開発の現状と課題が英語でどのように論じられているかを学ぶ。	
		この回の到達目標	時事英語と最新ニュースを理解するために必要な知識とはどのようなものかを認識する。日本にとって枢要な核軍縮と原子力開発についての基礎知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	NPT再検討会議に関連する英文を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
8	第一部 土5/23	「核と原子力」の英語	5月22日に閉幕する予定の核拡散防止条約（NPT）再検討会議を取り上げ、核軍縮と原子力開発の現状と課題が英語でどのように論じられているかを学ぶ。	
		この回の到達目標	日本にとって枢要な核軍縮と原子力開発についての基礎知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	NPT再検討会議に関連する英文を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
9	第一部 土5/30	「核と原子力」の英語	5月22日に閉幕する予定の核拡散防止条約（NPT）再検討会議を取り上げ、核軍縮と原子力開発の現状と課題が英語でどのように論じられているかを学ぶ。	
		この回の到達目標	日本にとって枢要な核軍縮と原子力開発についての基礎知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	NPT再検討会議に関連する英文を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
10	第一部 土6/6	G7サミットの英語	6月10～12日に開かれる「先進7か国（G 7）による主要国首脳会議」にかかわる英語表現を学び、今年G7サミットの意義や日本にとっての重要性を考察する。	
		この回の到達目標	今年G7サミットの主要議題を日英両語で知る。世界情勢を把握する上で不可欠な概念を日英両語で習得する。	
		事前学修	G7サミットに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
11	第一部 土6/13	G7サミットの英語	6月10～12日に開かれる「先進7か国（G 7）による主要国首脳会議」にかかわる英語表現を学び、今年G7サミットの意義や日本にとっての重要性を考察する。	
		この回の到達目標	今年G7サミットの成果文書を読解することにより、世界情勢を把握する上で不可欠な概念を日英両語で習得する。	
		事前学修	G7サミットの成果文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
12	第一部 土6/20	G7サミットの英語	6月10～12日に開かれる「先進7か国（G 7）による主要国首脳会議」にかかわる英語表現を学び、今年G7サミットの意義や日本にとっての重要性を考察する。	
		この回の到達目標	今年G7サミットの成果文書を読解することにより、世界情勢を把握する上で不可欠な概念を日英両語で習得する。	
		事前学修	G7サミットの成果文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土6/27	米大統領選の英語	7月13～16日に開かれる米民主党大会にかかわる英文や英語報道を読み、今年の大統領選の焦点と世界的な意義を学ぶ。	
		この回の到達目標	今年の大統領選にかかわる基礎知識を日英両語で身に着ける。	
		事前学修	米民主党大会にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
14	第一部 土7/4	米大統領選の英語	7月13～16日に開かれる米民主党大会にかかわる英文や英語報道を読み、今年の大統領選の焦点と世界的な意義を学ぶ。	
		この回の到達目標	今年の大統領選にかかわる基礎知識を日英両語で身に着ける。	
		事前学修	米民主党大会にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
15	第一部 土7/11	東京五輪・パラリンピックの英語	東京五輪（7月24日～8月9日）と東京パラリンピック（8月25日～9月6日）にかかわる英語表現を通じて、両大会における英語の重要性を知る。	
		この回の到達目標	東京五輪・パラリンピックで英語が果たす役割を認識する。	
		事前学修	東京五輪・パラリンピックにかかわる英文を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は講義形式で行いつつ、適宜指名する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についての事前学習型授業。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができているのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	試用しない（資料を配布する）				

【オフィスアワー】
火曜2限（1914研究室） ※メールや手紙などで事前に連絡をすること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	授業のガイダンスを行う。授業方法を理解するために、詳しく説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースを読む際に何が求められるのかを理解できる。	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。	120分
		事後学修	配布した資料を読み、理解を深めること。	120分
2	4/15	アジアのニュース（１）	日本社会に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
3	4/22	アジアのニュース（２）	アジアの経済ニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
4	4/29	アジアのニュース（３）	東アジアの政治ニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
5	5/6	アジアのニュース（４）	東アジアの国際政治に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
6	5/13	欧州のニュース（１）	欧州の社会問題に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	欧州のニュース（2）	欧州の政治に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
8	5/27	欧州のニュース（3）	欧州の文化に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
9	6/3	欧州のニュース（4）	欧州の経済に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
10	6/10	米国のニュース（1）	米国の文化に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
11	6/17	米国のニュース（2）	米国の政治に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
12	6/24	米国のニュース（3）	米国の外交に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	米国のニュース（4）	米国の経済に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
14	7/8	まとめと授業内試験	これまでの授業の復習と授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、これまでの授業で分からなかったところを理解し、ニュースを深く読むことができるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
15	7/15	試験結果の講評	試験の結果の評価	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、英語でニュースを読み、理解できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	中村 美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
授業には、英和や和英の辞典、電子辞書の持参が望ましい。また、スマホの辞書アプリの利用も可。

【授業方法】
毎回、重要と思われる世界的な事件・事故、国際的な取り決めなどを授業の題材として取り上げる。授業は、取り上げたニュースの解説、学生による授業時間内の翻訳、翻訳の確認、の3つの要素で構成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。						3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。					3	3						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の翌週に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。毎回、ニュースのコピーを教材として配付する。				

【オフィスアワー】
授業時間内（木曜１・２限）で質問を受けることを基本とする。また、メールでも受け付ける（yokko.gee@gmail.com）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	東京2020大会後	東京2020オリンピック・パラリンピック大会終了後の関連ニュース①	
		この回の到達目標	基本的に、日本のメディアの評価を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC Newsや日本の新聞の社説（英語）等をチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
2	9月24日	東京2020大会後	東京2020オリンピック・パラリンピック大会終了後の関連ニュース②	
		この回の到達目標	IOC（国際オリンピック委員会）やIPC（国際パラリンピック委員会）の評価を読み取る。	
		事前学修	IPCやIOCの公式サイトをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
3	10月1日	フェイクニュース	フェイクニュースと伝統メディアの対応	
		この回の到達目標	テレビや新聞等伝統メディアによるフェイクニュース対策を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
4	10月8日	SNS事業者	FacebookやTwitterのコンテンツ規制に関するニュース	
		この回の到達目標	利用が拡大するSNS事業者が、プラットフォーム上のアカウントやコンテンツを規制するとしたら、その考え方を理解する。	
		事前学修	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
5	10月15日	ノーベル賞2020	ノーベル賞発表関連ニュース	
		この回の到達目標	毎年発表されるノーベル賞の動向を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
6	10月22日	復習	後期授業で取り上げた英語ニュースの翻訳を復習する。	
		この回の到達目標	授業で行ったすべてのニュースの翻訳を確実にする。	
		事前学修	各ニュースの和訳を確認し、不明な点を明確にする。	120分
		事後学修	重要英単語を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	地球温暖化	地球温暖化と各国の対応	
		この回の到達目標	日本および各国の地球温暖化対策を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
8	11月5日	災害・事件・事故	国内外の災害・事件ニュース②	
		この回の到達目標	災害や事件・事故のニュースで使用される英語表現を学ぶ。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
9	11月12日	教育とテレビ	教育テレビ日本賞の結果関連ニュース	
		この回の到達目標	ニュースを通じて、放送の役割と諸外国の子ども番組の傾向を理解する。	
		事前学修	NHKの日本賞のサイトをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
10	11月19日	G20サミット	G20サウジアラビアサミット関連ニュース	
		この回の到達目標	米大統領選挙を前に開催されるG20サミットと各国首脳の対応を理解する。	
		事前学修	NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）	120分
11	12月3日	米大統領選挙結果	2020年米大統領選関連ニュース①	
		この回の到達目標	米大統領選挙が終了し、米国の選択と世界の受け止め方を理解する。	
		事前学修	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分
12	12月10日	米大統領選挙結果	2020年米大統領選関連ニュース②	
		この回の到達目標	米大統領選結果に関する日本発の英語ニュースを読み、世界に向けた日本の姿勢を理解する。	
		事前学修	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。	120分
		事後学修	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	12月17日	復習		後期授業で取り上げたすべての英語ニュースの翻訳を確認する。
		この回の到達目標	英語ニュースの翻訳を完璧に行う。	
		事前学修	後期授業で取り上げた英語ニュースを復習し、質問を準備する。	120分
		事後学修	試験に備える。	120分
14	12月24日	まとめと授業内試験		まとめと授業内試験を行う。
		この回の到達目標	試験により、各自の習得状況を確認する。	
		事前学修	試験に備える。	120分
		事後学修	試験問題を復習する。最終授業に備える。	120分
15	1月14日	試験の講評		試験結果を講評する。
		この回の到達目標	ニュースでよく出る英単語を習得し、日本で伝えられるニュースの読み取る視点やメディアの課題を考える。	
		事前学修	試験問題に関する質問を準備する。	40分
		事後学修	英語ニュースの常用単語および表現を復習する。	60分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	三谷 文栄	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
授業内での英和・和英辞書、電子辞書、スマートフォンの辞書アプリの使用は許可する。

【授業方法】		
事前に配布した（あるいはポータルサイトにアップした）資料やニュース記事をもとに、解説や学生を中心とした翻訳を行う。必要があればパワーポイントを用いて行う。ニュースや時事問題を取り上げることから、授業直前に生じた出来事や注目されたニュースを題材とし、シラバス内に記載されているテーマとは異なるものを取り上げることもある		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についての事前学習型授業	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						3	3		
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行ったテストは、翌週にフィードバックを行い、誤りが多かったところなどを指摘する。それを通じて復習する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書等は特にないが、授業の際に話題になっているニュースや出来事を取り上げるため、日本の主要各紙やNHK World, BBC News, 英語の主要紙に日常的に接することが望ましい。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（本館9階1915研究室） *事前に連絡することが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	授業のガイダンスを行う。授業方法を理解するために、詳しく説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースを読む際に何が求められるのかを理解できる。	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。	120分
		事後学修	配布した資料を読み、理解を深めること。	120分
2	9/22	アジアのニュース（１）	日本社会の身近なニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、身近な出来事に関する英語のニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
3	9/29	アジアのニュース（２）	アジアの経済ニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、アジアの経済の現状を英語のニュースで理解できるようになる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
4	10/6	アジアのニュース（３）	東アジアの政治に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、東アジアの政治に関するニュースを英語で理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
5	10/13	小テスト（１） これまでの授業の振り返り	アジアに関するニュースの理解度を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、目標が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テスト（１）で分からなかった部分を確認すること。	120分
6	10/20	ヨーロッパのニュース（１）	ヨーロッパの社会問題に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、ヨーロッパの社会問題を英語で理解できるようになる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	ヨーロッパのニュース (2)	ヨーロッパの政治に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、ヨーロッパの政治のニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
8	11/10	ヨーロッパのニュース (3)	ヨーロッパの文化に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、ヨーロッパの文化に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
9	11/17	小テスト (2) これまでの授業の振り返り	ヨーロッパに関するニュースの理解度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、目標が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テスト (2) で分からなかった部分を確認すること。	120分
10	11/24	アメリカのニュース (1)	アメリカの文化に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、アメリカの文化に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
11	12/1	アメリカのニュース (2)	アメリカの政治に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連し、アメリカの政治に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
12	12/8	アメリカのニュース (3)	アメリカの外交に関するニュース	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連し、アメリカの外交に関するニュースを理解することができる。	
		事前学修	配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	小テスト（3） これまでの授業の振り返り	アメリカに関するニュースの理解度を確認する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、目標が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テスト（3）で分からなかった部分を確認すること。	120分
14	12/22	小テスト（1）（2） （3）の講評	これまでの小テストの結果の評価	
		この回の 到達目標	到達目標①②が達成できているのかを確認する。	
		事前学修	これまでの復習を行い、できなかった部分を再度考えてくること。	120分
		事後学修	これまでの授業でわからなかった部分を確認すること。	120分
15	1/12	まとめ	これまでの授業をすべて振り返り、解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②と関連して、これまでの授業で分からなかったところを理解し、ニュースを深く読むことができるようになる。	
		事前学修	これまでの復習を行い、できなかった部分を再度考えてくること。	120分
		事後学修	小テスト（1）（2）（3）でわからなかった部分を確認すること。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	柳沢 亨之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
授業には、語彙が多い中上級者向けの英和や和英の辞典を持参する。電子辞書やスマホの辞書アプリでも中上級者向けなら問題ない。

【授業方法】
授業で使う資料を数日前までにポータルサイトの共有ファイルに掲げる。学生はこれをよく読んだ上で授業に臨む。授業ではパワーポイントを使う。パワーポイントは授業の数日後までに共有ファイルに掲げる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	最新の時事問題の理解を促すため、各授業の冒頭、最新のニュースについて見出しの形式でまとめた短い英文を毎回示し、概要の説明を求める。挙手した学生に優先的に答えてもらうが、指名することもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						3	3						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内試験を試験直後に解説し、正答例をポータルシステムで配信する。次回の授業で講評する。定期試験の解説と講評を同システムで配信する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	本語の主要紙を毎読むことが履修条件であるから、新聞が「教科書」あるいは「参考書」とえる。				

【オフィスアワー】
授業終了直後に直接、授業行動講堂で質問できる。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 報道機関に勤務し、約25年間にわたり、社会や間の事象を英両語で取材、執筆、編集。
実務経験に基づく実践的教育の内容		取材、執筆、編集の楽しさや難しさを自らの体験から語り、報道現場を立体的に解説する。日英両語を活用してきた経験から、英文報道と日本語報道の違いや特徴を具体的に説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土9/19	東京五輪・パラリンピックの英語	後期の授業を概観する。東京五輪（7月24日～8月9日）と東京パラリンピック（8月25日～9月6日）にかかわる英語表現を通じて、両大会における英語の重要性を知る。	
		この回の到達目標	東京五輪・パラリンピックで英語が果たした役割を理解する。	
		事前学修	東京五輪・パラリンピックにかかわる英文を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
2	第一部 土9/26	国連の英語	9月22日に始まる国連総会の一般討論で日本の首相が行う演説を聞いたり読んだりして、日本外交の中心的な政策や概念を英語でどのように表現するかを知る。国連で記者が取材する方法などを論じる。	
		この回の到達目標	日本政府が描く世界像や国際情勢の基礎的な構図を日英両語で習得する。	
		事前学修	国連総会の一般討論に関連した文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
3	第一部 土10/3	国連の英語	9月22日に始まる国連総会の一般討論で主要国首脳が行う演説を聞いたり読んだりして、世界の諸課題を学ぶ。国連で記者が取材する方法などを論じる。	
		この回の到達目標	国際情勢の基礎的な構図を日英両語で習得する。	
		事前学修	国連総会の一般討論に関連した文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
4	第一部 土10/10	国連の英語	9月22日に始まる国連総会の一般討論で主要国首脳が行う演説を聞いたり読んだりして、世界の諸課題を学ぶ。国連で記者が取材する方法などを論じる。	
		この回の到達目標	国際情勢の基礎的な構図を日英両語で習得する。	
		事前学修	国連総会の一般討論に関連した文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
5	第一部 土10/17	米大統領選の英語	11月3日に投票日を迎える米大統領選にかかわる英文や英語報道を読み、今年の米大統領選の構図と世界的な意義を学ぶ。	
		この回の到達目標	今年の米大統領選の意義を日英両語で認識する。	
		事前学修	米大統領選にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
6	第一部 土10/24	授業内試験と解説	授業内で小テストを行う。小テストを解説する。	
		この回の到達目標	時事英語と最新ニュースを理解するために必要な知識とはどのようなものかを理解する。	
		事前学修	過去5回の授業を復習する。	120分
		事後学修	小テストの解説を詳細に振り返る。今後どのように勉強すべきかを自分の頭で考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土10/31	授業内試験の講評、米大統領選の英語	前の週に行った小テスト（採点済み）を返却し、講評する。11月3日に投票日を迎える米大統領選にかかわる英文や英語報道を読み、今年の米大統領選の構図と世界的な意義を学ぶ。	
		この回の到達目標	時事英語と最新ニュースを理解するために必要な知識とはどのようなものかを理解する。今年の米大統領選の意義を日英両語で認識する。	
		事前学修	米大統領選にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
8	第一部 土11/7	米大統領選の英語	11月3日に投票日を迎える米大統領選にかかわる英文や英語報道を読み、今年の米大統領選の構図と世界的な意義を学ぶ。	
		この回の到達目標	米大統領選の結果の意義を理解するのに必要な概念や知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	米大統領選にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
9	第一部 土11/14	米大統領選の英語	11月3日に投票日を迎える米大統領選にかかわる英文や英語報道を読み、今年の米大統領選の構図と世界的な意義を学ぶ。	
		この回の到達目標	米大統領選の結果の意義を理解するのに必要な概念や知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	米大統領選にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
10	第一部 土11/21	中東政治の英語	サウジアラビアで11月21日に開幕する主要20か国・地域首脳会議に関する英語メディアの報道などを通じて、世界の主要課題を論じるとともに、米国の域内関与の変容で中東諸国の政治地図が複雑化している現状を考察する。	
		この回の到達目標	国際情勢、特に中東政治の理解に不可欠な基礎的な概念や思想を日英両語で身に着ける。	
		事前学修	G20サミットにかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
11	第一部 土11/28	中東政治の英語	サウジアラビアで11月21日に開幕する主要20か国・地域首脳会議の成果文書を通じて、世界の主要課題を論じるとともに、米国の域内関与の変容で中東諸国の政治地図が複雑化している現状を考察する。	
		この回の到達目標	国際情勢、特に中東政治の理解に不可欠な基礎的な概念や思想を日英両語で身に着ける。	
		事前学修	G20サミットにかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
12	第一部 土12/5	英国とEUの英語	英国の欧州連合（EU）離脱に伴う「移行期間」の12月末終了を控え、急速に具体像が見えてくる両者の関係を整理する。	
		この回の到達目標	英国のEU離脱について基礎的な知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	英国のEU離脱にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土12/12	英国とEUの英語	英国の欧州連合（EU）離脱に伴う「移行期間」の12月末終了を控え、急速に具体像が見えてくる両者の関係を整理する。	
		この回の到達目標	英国のEU離脱について基礎的な知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	英国のEU離脱にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
14	第一部 土12/19	英国とEUの英語	英国の欧州連合（EU）離脱に伴う「移行期間」の12月末終了を控え、急速に具体像が見えてくる両者の関係を整理する。	
		この回の到達目標	英国のEU離脱について基礎的な知識を日英両語で蓄える。	
		事前学修	英国のEU離脱にかかわる文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分
15	第一部 土12/26	日本と英語	政治家や有名人ら日本人が英語で行う記者会見などの発言を点検する。	
		この回の到達目標	日本で英語を学ぶ必要性について自らの認識を高める。	
		事前学修	著名日本人が英語で語った記者会見などの内容を記した文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要をおさえる。	120分
		事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、背景となる事象の社会的意義を頭の中で整理する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は講義形式で行いつつ、適宜指名する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題についての事前学習型授業。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				3	3						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	試用しない（資料を配布する）				

【オフィスアワー】
火曜2限（1914研究室） ※メールや手紙などで事前に連絡をすること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンス及び導入講義	授業のガイダンスを行う。授業方法を理解するために、詳しく説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースを読む際に何が求められるのかを理解できる。	
		事前学修	シラバスに目を通してくること。	120分
		事後学修	配布した資料を読み、理解を深めること。	120分
2	9/23	アジアのニュース（5）	日本社会に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
3	9/30	アジアのニュース（6）	アジアの経済ニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
4	10/7	アジアのニュース（7）	アジアの政治社会問題に関するニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
5	10/14	欧州のニュース（5）	欧州の社会問題に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
6	10/21	欧州のニュース（6）	欧州の政治に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	欧州のニュース（7）	欧州の文化・経済に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
8	11/11	米国のニュース（5）	米国の文化に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
9	11/18	米国のニュース（6）	米国の政治に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
10	11/25	米国のニュース（7）	米国の文化・経済に関するニュース	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
11	12/2	アフリカのニュース	アフリカのニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
12	12/9	中東のニュース	中東のニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	中南米のニュース	中南米のニュースを取り上げる	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、ニュースを理解することができる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
14	12/23	まとめと授業内試験	これまでの授業の復習と授業内試験	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、これまでの授業で分からなかったところを理解し、ニュースを深く読むことができるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分
15	1/13	試験結果の講評	試験の結果の評価	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、英語でニュースを読み、理解できるようになる。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること。	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したか確認すること。	120分

科目名	農業政策	担当者	小倉 眞	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
先進工業国内で食料自給率が最も低い状況に至った日本農業について、農業政策の変遷と地域農業の対応関係の観点を中心に学修する。具体的には農地改革実施過程の内容と特徴、農村変動の主因ともなった農業基本法農政、そして総合農政から食料・農業・農村基本法政策までの展開過程を分析・整理し、農業政策と日本農業の特質・位置づけなどについて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の農業は米の生産過剰、農業就業人口の高齢化社会と減少、農地改廃と耕作放棄地の拡大、農家と農業の乖離など、農業・農村の崩壊ともいえる現象を呈していることについて客観的に整理し、理解する。そのうえで農村（農業地域）の変容とその問題点を把握し、日本農業の方向・課題について考察する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
プリントの配布により講義形式で行う。また、レポートの提出や講義中に小テストを実施することがある。発問について考えたり、討議したりする時間も設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題レポートの提出と、その課題に関する議論を行う。またピア・レビューを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	農業政策の展開過程についての確に整理し説明することができる。				4							
②	①に関連して地域農業の展開実態について客観的に分析・考察することができる。						4	4				
③	農業政策と地域農業問題に関する、新たな考え及び従来示されてこなかった政策案等を示すことができる。							4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかについて、筆記試験により評価する。	20	20	30								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、第3回は到達目標①にかかわる戦前の農業・農村の実態が理解ができているか、第8回は到達目標②にかかわる基本法農政の内容が理解できているかについて評価する。	5	5									10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④及び⑤に関して論理展開ができているかについて評価する。		10	10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験内容についての解説、講評は後日ポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
(月) 12:10～12:50 (水) 12:10 ～12:50 事前にアポイントメントをとること。 研究室 (4号館4階441) メールアドレス : ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	農業政策を学ぶ意味	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、農業政策を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義の全体像を把握するとともに、農業政策を学ぶ意味と意義が認識できる。	
		事前学修	シラバスで授業内容を確認するとともに、講義全体を概観する。	90分
		事後学修	配布プリント及びノートを見て、農業・農村の分析視点について整理する。	150分
2	4/13	戦前の状況と農民、土地改革	戦前期における農業・農村の展開について整理し、地主・小作関係について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦前（特に明治期）の農業・農村状況の概要について説明できる。	
		事前学修	地租改正の内容・実施状況について調べる。	90分
		事後学修	地租改正以降の地代の相対的上昇や、小作の増加状況について資料に基づき整理する。	150分
3	4/20	戦前の地主・小作関係と第一次農地改革の実施	戦前の地主・小作関係を整理し、第一次農地改革の内容との関連について考察する。（内容の理解に関する小テストを行う）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して第一次農地改革の内容とその課題について説明できる。	
		事前学修	1945・46年のGHQの改革方針について調べる。	120分
		事後学修	第一次農地改革に対するGHQの対応・指摘などについて検証してみる。	120分
4	4/27	戦後農業の起点としての第二次農地改革	GHQの指摘を受けて作成された、第二次農地改革の内容について分析・考察する。（第3回授業時の小テストに関する講評と討議を行う。確認学修）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次農地改革の目的・内容について理解し、その問題について説明することができる。	
		事前学修	第二次農地改革案と政府の対応状況について調べる。	60分
		事後学修	農地改革と農業状況について整理し、その意義・問題点などについてまとめる。（与えられた課題についてのレポート作成する）	200分
5	5/4	農地改革とそれが農業・農村に与えた影響と問題	各自が作成したレポート内容についてピア・レビュー方式により議論する。（確認学修）（授業終了時にレポートを提出する）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農地改革とそれが農村社会に与えた影響について整理し、その問題点などについての的確に説明できる。	
		事前学修	農地改革の意義・問題点などを理解できているか確認し、レポート内容について点検する。	180分
		事後学修	他者の発表に比してどの視点が良かったか、また不足していたかを検証する。	60分
6	5/11	基本法農政と地域農業（1）選択的拡大政策	戦後の農業・農村変容の起点ともなった基本法農政について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して基本法農政、特に食料需用の変動と選択的拡大政策との関係について理解し、説明できる。	
		事前学修	食の西欧化と日本農業の実態について調べる。	120分
		事後学修	米から野菜・肉・乳製品などへの作付転換と機械化への政策転換と農業・農村の実態との乖離について検証する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	基本法農政と地域農業 (2) 農村の労働力移動と農業近代化事業	高度経済成長期における農業労働力移動と省力化、自立農業経営指向について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して農業近代化政策と農業実態について認識し、その問題点などについて説明できる。	
		事前学修	高度経済成長期初期の工業人口と農村人口の比率・内容及び特徴について調べる。	100分
		事後学修	経済成長と農業労働力移動の実態を分析し、工業化のための農業・農村政策について整理する。	140分
8	5/25	農業基本法と地域農業 (3) 圃場整備事業と地域農業	基本法農政の主要政策である圃場整備事業の導入と、兼業化の促進に関して考察する。 (内容の理解に関する小テストを行う)	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して農業の合理化政策と農業経営の乖離（農民層の分化・兼業化）について理解し、その問題点などを提起できる。	
		事前学修	圃場の規格変更（10→30a）のメリットとデメリットについて考える。	120分
		事後学修	農業労働力賦存と農家経営について検証する。	120分
9	6/1	総合農政の展開（1）米過剰と減反政策	米生産の過剰問題と食糧管理政策の転換、特に米の減反と転作奨励政策について考察する。 (第8回授業時の小テストに関する講評と討議も行う。確認学修)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して食糧会計の赤字解消策としての減反政策と農業・農村に与えた影響について認識し、その問題点などについて説明できる。	
		事前学修	なぜ米が生産過剰になったか、その理由について調べる。	120分
		事後学修	ノートを整理し、減反政策による一律割り当てと農村の混乱について検証する。	120分
10	6/8	総合農政の展開（2）農地異動の緩和	農地法の大幅な改定と農地流動（財産としての農地）の実態について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して農地法改定の内容と農家の対応状況についての的確に説明できる。	
		事前学修	農地所有をめぐって、農業継続と農家の維持の関係について調べる。	60分
		事後学修	総合農政の目指した内容と農業・農村への影響、及び総合農政の問題点などについて整理する。 (与えられた課題についてのレポート作成する)	200分
11	6/15	新農業政策の展開 農産物自由化と地域農業	GATTウルグアイラウンド合意に伴う農産物市場の自由化と地域農業の変容について考察する。 (前回授業時の課題レポートを提出する)	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して農産物自由化に対応して、国内農業における担い手選別政策（認定農業者）など農業基盤強化策と地域農業の変動について理解し、的確に説明できる。	
		事前学修	日米貿易関係及び多角間貿易交渉締結内容について調べる。	120分
		事後学修	ノートを整理し、1990年以降の農業・農村変動の内容について整理する。	120分
12	6/22	食料・農業・農村の基本法政策の展開（1）	新基本法が主要政策と位置付ける「環境保全型農業（外部経済の内部化）」の内容について考察する。 (第10回授業時の課題レポートについての講評と討議を行う。確認学修)	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して農業生産と環境保全、地域農業が担うもの等について、その内容を理解し、問題点について提起できる。	
		事前学修	山間地域や水田地などと環境保全に関する事項を調べる。	120分
		事後学修	土壌侵食・水資源涵養機能など多面的な公益機能と農業生産性との関係について分析・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	食料・農業・農村の基本法政策の展開（２） 中山間地等直接支払制度	農産物価格支持政策から「条件不利地域」での直接支払制度導入の背景と地域農業の対応について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後継労働者不足・耕作放棄地の拡大などの状況の中で、新しく導入された直接支払制度の内容について把握し、的確に説明できる。	
		事前学修	直接支払制度と集落協定の意味について考察・検証する。	120分
		事後学修	条件不利地域における集落営農がどのように展開しているかについて分析し、整理する。	120分
14	7/6	食料・農業・農村の基本法政策の展開（３） 農業生産法人と地域農業	農業生産法人の設立・新規参入と地域農業の態様変動について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して株式会社による農業生産法人の設立・参入に伴う農地の集約化と集落営農の崩壊などの状況について分析・整理し、その特徴や問題点などについての的確に説明できる。	
		事前学修	農業生産法人の設立形態、設立者（大手資本、地域農業者等）、営農形態などについて整理してみる。	120分
		事後学修	農地法改定、新基本法などによって伝統的農業地域が大きく変化する状況を踏まえて日本の農業・農村の存在意義について考えてみる。	120分
15	7/13	農業政策と農業・農村の役割	農業政策の内容を総括し、政策変動と地域農業に関する諸問題と課題などについて確認する。（「日本農業の方向と課題」について討議もする）	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して戦後における農業政策の変遷過程と地域農業の変動に関して、その問題点や課題などを的確に説明し、日本農業の将来方向について、自ら考えた案も含めて提起できる。	
		事前学修	日本農業が直面する課題について整理するとともに、本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	90分
		事後学修	農業政策について整理するとともに、期末テストに向けて準備する。	150分

科目名	犯罪心理学	担当者	水田 一彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
犯罪心理学が扱う分野は幅広いが、本講義では、①各種犯罪とその犯人像，②犯罪捜査と心理学，③少年非行の心理，の三つに絞って授業を進める。①においては，暴力犯罪，殺人罪，性犯罪等を扱う。②においては，目撃証言の信頼性，虚偽自白等を扱う。③においては，児童虐待と少年非行の関連等を扱う。授業を通して，犯罪の心理は一般的な心理からも了解可能であること，少年非行には環境面の問題も大きく影響することなどについて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪心理学の基礎的な知識や考え方を学ぶとともに，新聞等で報道されるような具体的な事例を検討することにより，犯罪・非行を行う者の心理を行動科学的観点から理解し説明できる力を身につける。 対応DP及びCP:公共政策学科1，3，4

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。スライドの内容については，原則として授業前日までにポータルシステムにて配信する。毎回の授業終了時に小テストを実施し，次の授業で解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	犯罪を研究対象とする人間科学の中での犯罪心理学の位置及び犯罪心理学が扱う範囲について説明できる。					4							
②	我が国における犯罪・非行の動向について，統計等の客観的な情報に基づいて説明できる。					4							
③	犯罪・非行を行う者の心理的特徴について，これまでの研究成果に基づいて罪種別に説明できる。					4							
④	刑事司法手続きが直面する問題の解決に心理学の知見がどのように活かされているか説明できる。					4							
⑤	児童虐待が子供のパーソナリティ形成に与える影響及び非行・犯罪との関係について説明できる。					4							
⑥	犯罪心理学が扱う分野に関する事項について，自ら問いを設定して考察し，その結果を発表できる。							4	4				
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤の達成度を筆記試験により総合的に評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	毎回の授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識が身についているか確認する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑥の達成度を評価する。					30						30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	14	14	14	44						100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評は、後日、ポータルシステムにて配信する。レポートの解説・講評は、最終授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Progress & Application 犯罪心理学	越智啓太	サイエンス社	2012	参考書	推奨
ケースで学ぶ犯罪心理学	越智啓太	北大路書房	2013	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 16:20～17:00（事前にメールでアポイントメントを取ること）授業講堂 メールアドレス:mizuta.kazuhiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	心理技官として法務省所管の矯正施設(少年鑑別所, 刑務所)に30年以上勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		心理技官として少年鑑別所, 刑務所等に勤務した経験を活かし, 犯罪者・非行少年の心理等について講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月 9/14	【ガイダンス】【犯罪心理学の概略】	①授業の内容、進め方、評価方法等について説明する。②犯罪心理学の人間科学における位置及び犯罪心理学が扱う範囲について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、犯罪心理学の人間科学における位置及び犯罪心理学が扱う範囲について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、犯罪心理学の人間科学における位置及び犯罪心理学が扱う範囲についてノートに整理する。	80分
2	月 9/21	【犯罪心理学の学び方】	①犯罪心理学の学習方法について、過去の事例から学ぶことの重要性について学修する。②犯罪心理学の学習方法について、統計資料から学ぶことの重要性について学修する。③犯罪統計を読む上で必要となる統計用語の意味などについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、犯罪統計を読む上で必要となる統計用語の意味等を説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、犯罪統計を読む上で必要となる統計用語の意味についてノートに整理する。	80分
3	月 9/28	【罪種別に見た犯罪①窃盗の心理】	窃盗の動向及びそれを行う者の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、窃盗を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
4	月 10/5	【罪種別に見た犯罪②暴力犯罪の心理】	暴行、傷害等の暴力犯罪を行う者の心理について、攻撃行動に関する研究知見に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、暴力犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
5	月10/12	【罪種別に見た犯罪③殺人の心理(単数殺人)】	親族間での殺人等、我が国における殺人の特徴及び殺人を行う者の内、単数殺人の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、我が国における殺人の特徴及び単数殺人を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
6	月 10/19	【罪種別に見た犯罪④殺人の心理(複数殺人)】	到達目標③に関連して、連続殺人及び大量殺人を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、連続殺人及び大量殺人を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月 10/26	【罪種別に見た犯罪⑤性犯罪の心理】	性犯罪の動向及びそれを行う者の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、性犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
8	月 11/9	【罪種別に見た犯罪⑥子供に対する性犯罪】	子供を対象に性犯罪を行う者の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、子供を対象に性犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
9	月 11/16	【罪種別に見た犯罪⑦薬物犯罪】	我が国における薬物犯罪の特徴及び薬物犯罪を行う者の心理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、薬物犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
10	月 11/23	【目撃証言の心理】	目撃証言の信用性を左右する要因について、人間の認知特性に関する研究知見に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、目撃証言の信用性を左右する要因について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
11	月 11/30	【子供の目撃証言】	子供の目撃証言の信用性について、認知発達に関する研究知見等に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、子供の目撃証言の信用性を左右する要因について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
12	月 12/7	【虚偽自白と取調べ】	虚偽自白に至る心理について、同調行動に関する研究知見等に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、虚偽自白に至る心理について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月 12/14	【プロファイリング】	犯罪捜査を支援する道具としてのプロファイリングについて、行動科学の知見に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、プロファイリングについて、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
14	月 12/21	【児童虐待と少年非行】	児童虐待がパーソナリティ形成に影響を与え非行・犯罪と関係することについて、愛着研究の知見等に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、児童虐待が子供のパーソナリティ形成に与える影響及び非行・犯罪との関係について説明できる。	
		事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
		事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
15	月 1/18	【講義のまとめ】	犯罪心理学の研究成果に基づいて犯罪・非行を論理的に考察することの重要性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、犯罪心理学が扱う分野に関する事項について、自ら問いを設定して考察し、その結果を発表できる。	
		事前学修	初回からの講義資料と講義ノートを見直し、学修した犯罪心理学の知見について復習する。	80分
		事後学修	初回からの講義資料と講義ノートを見直した上でレポートを作成する。また、期末試験に向けて準備をする。	80分

科目名	比較行政論	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
米英独仏の行政制度を概観し、それぞれの行政と議会との関係、官僚制度、行政運営方式の違い等について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、各国間の行政システム・官僚制度の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を踏まえて課題に積極的に取り組むことができる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各国の行政制度の成り立ちが、それぞれ固有の歴史的経緯に根差すものであることを理解し、いたずらに外国制度を賛美・称揚せずに我が国行政組織を分析できる。						2						
②	日米欧各国の行政組織の差異を歴史的経緯や政治文化、国民意識など照らし、論理的に説明できる。					2		2					
③	世界の先進事例を学び、我が国行政の改善策を提案できる。								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について自分の言葉で説明できているか等を筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわる説明能力が身についているかを評価する。		15	5								20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	55	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公務員人事改革：最新 米・英・独・仏の動向を踏まえて	村松 岐夫 他	学陽書房	2018	参考書	推奨
アメリカの政治	岡山 裕 他	弘文堂	2019	参考書	任意
ドイツの政治	平島 健司	東京大学出版会	2017	参考書	任意
フランスの行政	下條 美智彦	早稲田大学出版部	1999	参考書	任意
フランスの政治制度	大山 礼子	東信堂	2013	参考書	任意
フランス法	滝沢 正	三省堂	2013	参考書	任意
古代ローマの帝国官僚と行政	新保 良明	ミネルヴァ書房	2016	参考書	任意
ローマ教皇庁の歴史	B・シンメルペニツヒ	刀水書房	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 10:40-11:30 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		米英独仏各国政府関係者との実務交渉や情報交換等の経験に基づく素材を適宜提供する。	
		米英独仏各国政府関係者との実務交渉や情報交換等の経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月18日	ガイダンス及び政治行政体制区分	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②政治行政体制の大まかなカテゴリーを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、大統領制と議院内閣制の差異、国ごとの政官関係の違い等につき概括的に説明することができる。	
		事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②あらかじめ配布するレジュメに目を通し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	180分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	9月25日	アメリカの政治行政体制	アメリカ特有の厳格な三権分立制度の成立経緯・実際の運用状況ホワイトハウス、各省などの組織体制等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、アメリカ政治行政の歴史的背景、そのメリット・デメリット、我が国システムとの比較等を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等によりアメリカ政治行政の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	10月2日	アメリカの官僚制度	アメリカ公務員制度等の歴史的発展経緯、幹部公務員職制度（SES）、政治任用制などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、日英独仏とアメリカの官僚制度の主な違いは何か、また違いの生まれる理由は何か説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等によりアメリカ官僚制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	10月9日	英国の政治行政体制	英国王室・議会・内閣・各省庁・自治体等について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して英国と他国の内閣・省庁関係の違いについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により英国政治行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	10月16日	英国の官僚制度	政官接触禁止など英国特有の官僚制度・運営を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、英国官僚制度の形成過程・政官の分離などについて説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により英国行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	10月23日	ドイツの政治行政体制	ドイツ連邦制の成立経緯・現状、政府の構成などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ドイツの連邦一州関係が成立した理由を歴史的背景を含めて説明することができる。	
		事前学修	行政学テキスト等によりドイツ政治行政体制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月30日	ドイツの官僚制度	ラウフバーン制度・政治的官吏などドイツ特有の官僚システムを学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ドイツ官僚制と日英米仏の制度との異同及びその理由を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等によりドイツ官僚制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	11月6日	フランスの国家と社会	今日のフランス社会、国家制度、フランス人の意識構造を形作ってきた歴史的展開、気候風土、社会文化、隣国との関係などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスという国は何を指すのか、フランス人とはどういう人たちなのか説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等によりフランス国家社会の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	11月13日	フランスの憲法・統治構造	フランス第5共和政の特徴である立法府に対する行政府の圧倒 的な優越等を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスの強力な大統領制・行政の立法府に対する優越はどのような経緯で成立 し、具体的にどのように運営されているのか説明することができる。	
		事前学修	世界史教科書等により第2次大戦後にフランスの置かれた状況と、アルジェリア動乱の経緯を学習しし、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	11月20日	フランスのライシテ	フランス革命の遺産として今日まで引き継がれた政教分離原則や現代フランスが直面するイスラム教との関係などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ヨーロッパ各国政治行政の歴史におけるカトリック教会の影響力の理解にたって政教分離原則の意義を説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等によりフランスのライシテについて学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	11月27日	フランスの行政制度①	”ナポレオンの確立した近代フランス行政制度の成立背景・特徴などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、近代フランス行政制度の特徴を王政下の行政体制と比較して説明することができる。	
		事前学修	世界史教科書等で皇帝ナポレオン1世が政治・行政体制確立の上で果たした事績について学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	12月4日	フランスの行政制度②	フランス行政組織の特徴である国務院（コンセイユデタ）、憲法院などの制度を始め、各省庁の構成・組織編成方式 などについて我が国制度と対比させつつ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国務院等の組織の特徴を王政下での歴史的起源も援用しつつ説明することができる。	
		事前学修	指定された文献等により現代フランスの行政システムについて学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月11日	フランスの官僚制度	現代フランス官僚制に特徴的なコール制度（職団制度）、ENA卒業生を中核とする極端なエリート主義、政官の結節点である大臣キャビネ（官房）制度、高級公務員の政治化・民間企業の支配状況などについて学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス官僚制の特徴を日米英独と対比しつつ説明することができる。	
		事前学修	指定された文献によりフランス公務員制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	12月18日	フランスの地方制度	中世以来の歴史的・文化的地域区分である「州」と大革命期以降に創設された人為的行政区画である「県」が混在した地方制度について学習する。ミッテラン政権時代の分権改革で県が国の機関から「自治体」への変貌した経緯等を学習する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスの地方制度の変遷について我が国の地方分権改革と対比させて説明することができる。	
		事前学修	世界史教科書等で「キューバ危機」の概要を把握し、可能であれば米映画「13デイズ」をDVD等で視聴しておくこと が望ましい	120分
		事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	12月25日	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
		事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	比較憲法 I	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
異なる文化や歴史的状況から展開されてきた現代の諸国家の憲法体制を比較し、それぞれの特質を分析するための基本的な知識や方法論を学修する。比較憲法Iでは、国家組織・統治機構に関する比較憲法学を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における憲法体制の多様性を理解し、それらの比較研究ができるようにするために、各国の憲法体制の特徴を知り、それらを特定の観点において比較する方法論を会得するとともに、広い視野で世界の憲法体制を見ることのできる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法Ⅱ（統治機構）」を履修済みであるか、現在、履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式にて行う。 講義は単元ごとに配布するレジュメに従って進行する。 指定教科書は事前学修・事後学修で用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	世界の多様な憲法体制と、そこにおける国家組織・統治機構のあり方を客観的視点で比較し、現代憲法が直面する問題を説明できる。					2						
②	「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。							2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について，比較憲法学に関する基本的知識及び比較方法論の応用方法が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較憲法	東裕・玉蟲由樹編	弘文堂	2019	教科書	必携
新解説世界憲法集〔第4版〕	初宿正典・辻村みよ子編	三省堂	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	比較憲法とは何か	比較憲法とは何かを，比較憲法学の方法論や対象範囲を概説することによって明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して，比較憲法学の方法論や比較の対象となる事柄を説明できる。	
		事前学修	教科書第1章「比較憲法とは何か」を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて，自分なりの講義ノートを作っておく。	150分
2	4月14日	日本国憲法と比較憲法学	日本にとって比較憲法学がいかなる意味をもつものであるかを，歴史的・現代的観点から概説する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して，日本における比較憲法学の意義を説明できる。	
		事前学修	教科書第2章「日本の憲法学と比較憲法」を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて，日本の憲法体制の展開，憲法学の展開の流れがわかるような講義ノートを作っておく。	150分
3	4月21日	近代立憲主義の展開	日本国憲法との比較対象とされることの多い近代立憲主義の憲法体制について，歴史的展開を中心に説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して，近代立憲主義という憲法体制について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章「現代憲法の特質」を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて，比較のキーワードとなる近代立憲主義についての自分なりの講義ノートを作っておく。	150分
4	4月28日	現代の憲法体制の展開	現代の憲法体制の特徴について，特にイギリス，アメリカ，フランス，ドイツを中心に概説する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して，イギリス，アメリカ，フランス，ドイツの憲法体制について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章「各国憲法の概観（1）イギリス」～第7章「各国憲法の概観（4）ドイツ」を読んでおく。	150分
		事後学修	それぞれの国の憲法体制について，その特徴を理解できるようなノートを作っておく。	90分
5	5月5日	民主制の2つの類型	民主制に関する「多数派支配型デモクラシー」と「協調型デモクラシー」との違いを，憲法体制の観点から概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して，多くの憲法体制で採用される民主制のあり方を比較憲法学的手法で説明できる。	
		事前学修	教科書第11章「民主制」を読んでおく。	90分
		事後学修	民主制の類型についての理解を，事前学修で得た知識と合わせて整理しておく。	120分
6	5月12日	議会制民主主義と選挙制度	民主制の具体的な形態としての議会制民主主義と，それを支える選挙制度について比較憲法的手法により概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して，議会制民主主義のあり方が選挙制度と強く結びついていることを各国の憲法体制の比較から説明できる。	
		事前学修	教科書第11章「民主制」を読んでおく。	90分
		事後学修	特に各国の選挙制度のあり方に関するノートを作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	政治部門の権力分立	統治構造における立法府と行政府との権力分立を、比較憲法学的な見地から概説する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、大統領制、議院内閣制などの具体的な権力分立制度を説明できる。	
		事前学修	教科書第12章「権力分立」を読んでおく。	90分
		事後学修	特に大統領制と議院内閣制との違い（民主的正当化のプロセスの違い）をまとめたノートを作っておく。	150分
8	5月26日	権力分立と「法律の留保」	議会を中心とした権力分立にとっての重要な理念である「法律の留保」が各国憲法においてどのように位置づけられているのかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して、各国の憲法条文・憲法実例を素材として「法律の留保」の位置づけを説明できる。	
		事前学修	事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	各国の憲法判例を整理して、法律の留保についての各国のスタンスの違いをまとめたノートを作っておく。	150分
9	6月2日	裁判制度	各国の裁判制度について、比較憲法的手法により、それぞれの特徴を明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、一元的裁判所システムや多元的裁判所システムなどの各国の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書第13章「裁判制度」を読んでおく。	90分
		事後学修	講義で取り扱った国の裁判制度について、システムの違いを中心として整理したノートを作っておく。講義中で取り扱えなかった国については、追加資料を参照しておく。	150分
10	6月9日	司法権と違憲審査権	各国における「司法権」と「違憲審査権（憲法裁判権）」との関係性に関する理解を概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して、司法権と違憲審査権との関係性が違憲審査制の具体的システムに大きな影響を与えることを説明できる。	
		事前学修	教科書第14章「違憲審査制」を読んでおく。	90分
		事後学修	違憲審査制の類型がどのような憲法理解と結びついているかに関するノートを作っておく。	150分
11	6月16日	付随的違憲審査制の特徴	各国における具体的な違憲審査制度について、付随的違憲審査制を中心に概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、付随的違憲審査制の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書第14章「違憲審査制」と第4章～第10章の違憲審査該当部分を読んでおく。	150分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、付随的違憲審査制の具体的構成に関するノートを作っておく。	90分
12	6月23日	抽象的違憲審査制の特徴	各国における具体的な違憲審査制度について、抽象的違憲審査制を中心に概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、抽象的違憲審査制の特徴を説明できる。	
		事前学修	教科書第14章「違憲審査制」と第4章～第10章の違憲審査該当部分を読んでおく。	150分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、抽象的違憲審査制の具体的構成に関するノートを作っておく。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	憲法保障	憲法保障の意義と制度について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して、各国の憲法における憲法保障がもつ意義を説明できる。	
		事前学修	教科書第21章「憲法保障」を読んでおく。	90分
		事後学修	講義で述べたことを参考に、憲法保障が憲法体制の維持にとってどのような意味をもっているのかを、具体的な事例との関係で整理したノートを作っておく。	150分
14	7月7日	憲法改正	憲法保障の一環としての「憲法改正」について、各国の改正制度や改正実例を比較する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、憲法改正の手続や改正実例についての各国の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書第21章「憲法保障」を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、憲法改正についての具体的論点をまとめたノートを作っておく。	150分
15	7月14日	まとめ	国家組織に関する各国比較についてのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、国家組織及び国家統治に関する憲法体制の違いを全体的に俯瞰して説明できる。	
		事前学修	これまで自分で作成したノートを読んでおく。	90分
		事後学修	講義での全体的まとめを参考に、ノートを再度修正したり、記述を追加したりしておく。	150分

科目名	比較憲法Ⅱ	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
異なる文化や歴史的状況から展開されてきた現代の諸国家の憲法体制を比較し、それぞれの特質を分析するための基本的な知識や方法論を学修する。比較憲法Ⅰでは、国家組織・統治機構に関する比較憲法学を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における憲法体制の多様性を理解し、それらの比較研究ができるようにするために、各国の憲法体制の特徴を知り、それらを特定の観点において比較する方法論を会得するとともに、広い視野で世界の憲法体制を見ることのできる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法Ⅰ（人権）」を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式にて行う。 講義は単元ごとに配布するレジュメに従って進行する。 指定教科書は事前学修・事後学修で用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の多様な憲法体制と、そこにおける国家組織・統治機構のあり方を客観的視点で比較し、現代憲法が直面する問題を説明できる。					2							
②	「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。							2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について，比較憲法学に関する基本的知識及び比較方法論の応用方法が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較憲法	東裕・玉蟲由樹編	弘文堂	2019	教科書	必携
新解説世界憲法集〔第4版〕	初宿正典・辻村みよ子編	三省堂	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	各国の人権保障の展開	憲法上の人権が世界の国々においてどのように保障されてきたかを歴史的な展開を通じて論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、比較憲法学における人権保障の理解を説明できる。	
		事前学修	教科書第15章「人権保障」を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、各国での人権保障の特徴に関するノートを作っておく。	150分
2	9月22日	現代の人権保障の特徴	現代の憲法体制が共通に抱える人権保障の課題について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して、人権保障に関する共通の問題性を説明できる。	
		事前学修	教科書第15章「人権保障」を読んでおく。	90分
		事後学修	とりわけ人権保障と国家権力の発動との関係性に関する議論について、理解を整理し、ノートを作っておく。	150分
3	9月29日	包括的人権規定（イギリス・アメリカ）	英米法圏の各国における包括的人権規定の解釈やその具体化についての議論を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国の憲法体制での包括的人権規定の位置づけと解釈を説明できる。	
		事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	イギリス・アメリカにおける不文の権利の保障に関する議論を整理して、ノートを作っておく。	150分
4	10月6日	包括的人権規定（フランス・ドイツ）	大陸法圏の各国における包括的人権規定の解釈やその具体化についての議論を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国の憲法体制での包括的人権規定の位置づけと解釈を説明できる。	
		事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	フランス・ドイツにおける不文の権利の保障に関する議論を整理して、ノートを作っておく。	150分
5	10月13日	各国での平等論の変遷	平等という概念の歴史的な展開を各国憲法の条文構造なども参照しつつ概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①と関連して、平等概念が抱える解釈上の難問を比較憲法学的見地から説明できる。	
		事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	絶対的平等/相対的平等、形式的平等/実質的平等に関する理解を整理してノートを作っておく。	150分
6	10月19日	現代の平等問題	各国において問題となっている具体的な平等問題を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国での具体的な平等問題とそれに対する対応を説明できる。	
		事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	特にアファーマティブ・アクションやパリテに関する議論を整理してノートを作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	信教の自由	各国における信教の自由保障及び政教分離原則のあり方について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、ヨーロッパにおけるイスラムスカーフの問題などを信教の自由の観点から説明できる。	
		事前学修	教科書第16章「精神的自由権」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	信教の自由の位置づけの違いを中心に議論を整理してノートを作っておく。	150分
8	11月10日	表現の自由	各国における表現の自由保障について論じる。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、表現の自由の保障とそれに関わる裁判所の役割論について説明できる。	
		事前学修	教科書第16章「精神的自由権」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
		事後学修	表現の自由に関する各国の裁判例を整理してノートを作っておく。	150分
9	11月17日	職業の自由	職業活動の自由が各国の憲法体制においてどのように保障されているかを論じる。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国における職業活動の自由の保障の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書第17章「経済的自由権」を読んでおく。	90分
		事後学修	特にアメリカのロックナー判決やドイツの薬事法判決などを整理してノートを作っておく。	150分
10	11月24日	財産権保障	各国における財産権保障について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、財産権保障のあり方の違い、その具体化に関する議論を説明できる。	
		事前学修	教科書第17章「経済的自由権」を読んでおく。	90分
		事後学修	財産権保障がもつ共通の特徴に対して各国がどのような対応をしてきたかを整理しノートを作っておく。	150分
11	12月1日	刑事手続と人権保障	各国における刑事手続と人権保障との関係性を論じる。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、刑事手続の重要性と人権保障とのバランスングについて説明できる。	
		事前学修	教科書第18章「人身の自由」を読んでおく。	90分
		事後学修	とりわけ現代的なテロ対策と人権保障との関係についての各国の対応を整理してノートを作っておく。	150分
12	12月8日	手続的権利・受益権	各国における手続的権利・受益権の保障について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国での手続的権利・受益権の保障のあり方を説明できる。	
		事前学修	教科書第19章「参政権・国務請求権」を読んでおく。	90分
		事後学修	各国における手続保障の特徴について整理してノートを作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	生存保障	各国の憲法体制における生存保障のあり方について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、生存保障の諸類型について説明できる。	
		事前学修	教科書第20章「社会権」を読んでおく。	90分
		事後学修	生存保障を憲法レベルで行う国家（日本、フランスなど）と憲法レベルでは行わない国家（アメリカ、ドイツなど）との比較を整理してノートを作っておく。	150分
14	12月22日	労働・教育保障	各国の憲法体制における労働・教育保障のあり方について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標②と関連して、労働・教育保障についての各国の違いを説明できる。	
		事前学修	教科書第20章「社会権」を読んでおく。	90分
		事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、労働・教育保障についての具体的論点をまとめたノートを作っておく。	150分
15	1月12日	まとめ	人権保障に関する各国比較についてのまとめを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、人権保障に関する憲法体制の違いを全体的に俯瞰して説明できる。	
		事前学修	これまで自分で作成したノートを読んでおく。	90分
		事後学修	講義での全体的まとめを参考に、ノートを再度修正したり、記述を追加したりしておく。	150分

科目名	比較ジャーナリズム史	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本授業は、メディアと社会の諸関係に構造化された問題群について、次の二つのアプローチから考えようとする。第一に、「比較」であり、ここでは、日本、東アジア諸国、アメリカの事例を扱いながらグローバルな視野で問題群を捉える。第二に、「歴史」の観点である。そこには、過去と現在との分かちがたい結びつきのなかで、問題群を理解し、乗り越えていくべき方向性を見通しうる、一つの思考枠組みを示すねらいがある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、メディアの可能性と限界を把握し、現代社会に構造化されたメディアの諸問題を克服するために、グローバルな視野と歴史的視点を獲得する。それは、異なる地域における歴史的展開を比較し、歴史の重層性、複数性（histories）を感知しながら、現在の問題を立体的に考えることのできる思考枠組を培おうとするものである。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。

【授業方法】
海外のメディアやジャーナリズム、国際政治、国際関係に関する授業もあわせて受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業では学生の理解を助けるために、レジュメを配付し、随時、視聴覚教材を活用する。また、学生との対話を重視した インタラクティブな授業を実施する。授業内での課題やレポートに対して、次回の授業でフィードバックを行うことで理解を深める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの歴史的展開について、社会との関係性を踏まえながら、説明することができる。						1							
②	日本を含む東アジア諸国やアメリカにおけるメディアと社会の関係性について、歴史的な観点から、その特徴と構造、メカニズムを説明することができる。							1						
③	現代社会におけるメディアの諸問題について、歴史的な観点から、把握し、その克服の方案を示すことができる。								1					
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	5	5	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。	5	5	10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評するほか、成績評価のための課題についてはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし、関連文献は授業内で紹介する					
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本館9階小林（聡））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1	イントロダクション・導入講義	授業の目的や進め方などについて説明する。グローバルに、かつ、歴史的に、物事を捉えることとは、どのようなことなのか。こうした授業を貫く「軸」について概要を述べ、受講生が次回以降の授業に入っていくやすくなるための心構えを伝える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史から現在を問い、未来を考えるための思考的枠組みを獲得し、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を習得できる。	
		事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	2	歴史とは何か	ここでは、歴史とは何かという普遍的なテーマを扱いながら、最近の新たな研究潮流であるグローバル・ヒストリーの観点からメディアの歴史を捉えることの可能性と意義、限界について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーというアプローチの意義について説明できる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
3	3	近代日本の新聞成立	日本という空間のなかで、新聞はどのように誕生したのかを説明する。そのうえで、近代日本の新聞成立という歴史的事象を東アジアの空間に再配置して捉えた場合、そこから、いかなる意味が浮かび上がってくるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、近代日本における新聞の成立過程について説明し、そこで特徴的にあらわれる社会の様相について述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	4	19世紀末東アジアと日中メディア関係(1)	19世紀末の中国におけるメディア、ジャーナリズム状況について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、中国における新聞の成立について説明し、それが、東アジア世界と、どのような関係を取り結びながら展開していたのか、特に日本との関係に注目して、述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	5	19世紀末東アジアと日中メディア関係(2)	琉球をめぐる論争が、日中のメディアで、どのような沸き起こっていたのか、その状況を説明し、ジャーナリズムが、空間を超えて機能する様相について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、琉球をめぐる歴史的状況と、そこに、日中のメディアが、いかに関与していたのかについて、説明できる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	6	19世紀末東アジアと日中メディア関係(3)	19世紀末の日中関係から、現代社会に与える教訓を読み取り、説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、日本と中国の近代史について説明し、そこから得られる、現代社会における課題を述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7	メディアの戦争責任	戦争を賛美し続けたメディアが、いかに戦争反対のメディアへと展開していったのか。その過程で忘れ去られた問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代日本メディアが、自らの戦争責任について、どのように向きあってきたのか、あるいはこなかったのかについて述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
8	8	メディアと記憶（日本編）	メディアが、どのように私たちの記憶をつくりだしているのかについて、日本のケースを取り上げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアと記憶の関係について、具体的な事例を挙げながら、述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
9	9	メディアと記憶（アメリカ・ソ連・中国編）	メディアによる記憶形成メカニズムについて、米ソ中を事例として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、記憶形成におけるメディアの役割と、そのメカニズム、問題点を述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
10	10	メディアと記憶（韓国・北朝鮮編）	メディアによる記憶形成メカニズムについて、韓国・北朝鮮を事例として説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、韓国や北朝鮮の歴史と社会について、メディアによる記憶形成の観点から述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
11	11	GHQ占領期のメディア検閲	日本への民主主義の導入・促進を目指したGHQが、民主主義とは正反対の性格を持つ検閲を実施したことの「矛盾」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、言論の自由と民主主義について、歴史的なアプローチから述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
12	12	戦後日本のジャーナリズム教育とアメリカ	アメリカによるジャーナリズム教育の導入と、そこに含意されているものについて説明し、ジャーナリズム研究や教育に内包され、構造化されている「アメリカ」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアの民主化と、ジャーナリズム教育の導入にまつ政治性について述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13	朝鮮戦争とNHK	朝鮮戦争期、NHKが、国連軍による心理戦に「参戦」した事実を取り上げ、公共性とは何か、権力とメディアの関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアによる戦争協力について、ポスト戦後期という文脈から述べることができる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	14	時事問題の解説	授業期間中に起きた外交・国際政治に関するイシューをとりあげ、これまでに学んできた知見のいくつかを用いて解説する。それは、授業で得た知識や思考枠組みが、現実の問題に対して、どのような独創的な観点から切り込んでいけるのかを、具体的に受講者に示す試みとなる。	
		この回の到達目標	国際情勢に関する問題を発見し、自らの独自の視点で分析し、その解決方を提示できる。	
		事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	15	まとめ	グローバルに、そして、歴史的に考えることの意義について、あらためて説明し、得られた知識の確認と定着、そして、それを応用するための思考枠組みの再提示を試みる。	
		この回の到達目標	授業の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
		事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	比較政治学	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
比較政治学の基本的な知識を幅広く、体系的に正確に学修する。そのために、初めて比較政治学を学修しようとする場合に「最低限これだけ知っておけば、比較政治学の入門レベルをおさえることができるとともに、これから先の学修に役立つ」という内容を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して、世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために、比較政治学の代表的な理論、モデル、概念などを修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2	2	2				
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2	2	2				
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	推奨
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	推奨
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令	早稲田大学出版部	1985	参考書	推奨
『現代世界の民主主義理論』	白鳥令・曾根泰教編	新評論	1984	参考書	推奨
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	参考書	任意
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10～12:50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	イントロダクション：比較政治学とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
		事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	4/13	政治システム	政治と国家、政治システムとは何か、政治システム論の広がりについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第1章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	4/20	政治発展	政治発展とは何か、政治発展論の主な論点、政治発展論の限界について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論および系譜について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第2章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	4/27	政治文化	政治システム論、政治発展論とのかかわりから政治文化論に注目し、古典的な政治文化論と現在の政治文化論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治文化の違いを分析する方法について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第3章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	5/4	政治体制	政治体制（民主主義体制、権威主義体制、全体主義体制）の類型化を説明するとともに、民主主義体制と非民主主義体制とを分ける点とは何かについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治体制の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	5/11	ポリアーキー	ダール（Robert A. Dahl）によって提示された民主主義体制を分析した概念である「ポリアーキー」論の内容について具体的な事例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義を捉える主要な分析枠組みである「ポリアーキー」論について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	多極共存型民主主義	レイプハルト（Arend Lijphart）による多極共存型民主主義（consociational democracy）論について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多極共存型民主主義論について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	5/25	民主化	民主化そのものを理解するために、「民主化の第三の波」と、民主主義体制への移行（transition）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	6/1	民主主義の定着	民主化における体制移行後に民主主義体制が定着する（consolidation）過程について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主化にかかわる一連の過程について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第5章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	6/8	民主主義	現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主主義とは何かについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	6/15	民主主義の二つのモデル	レイプハルト（Arend Lijphart）による民主主義の二つのモデル（Majoritarian Model of Democracy vs. Consensus Model of Democracy）について、世界各国の状況を示しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主主義の二つのモデルについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第6章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	6/22	選挙	現代民主主義における選挙の機能、選挙制度の類型、選挙制度と政党システムとの関連を取り扱った「デュベルジェ（Maurice Duverger）の法則」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における選挙の意味や問題点について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第7章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	政党と政党システム	政党と政党システムについて、デュベルジェ（Maurice Duverger）やサルトーリ（Giovanni Sartori）による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の第8章，第9章および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	7/5	政治の大統領制化	議院内閣制と大統領制の比較，議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，議院内閣制と大統領制の違い，大統領制化について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第10章および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	7/13	比較政治学の課題と展望	各国の政治を分析する際には，政治システム論や民主主義論の研究蓄積をふまえつつ，政策決定過程論やガバナンス論といった視点からのアプローチが可能であることを総括として解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，比較政治学の主たる理論，モデル，概念などの相互関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書の第11章，第12章および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
		事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	東アジア経済論	担当者	陳 文挙	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
21世紀はアジアの時代だと言われ、中国、ASEAN諸国等アジア新興国の台頭により東アジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図が急変している。本講義では経済発展論の一般理論に基づき、東アジア地域の経済発展の歴史、成長の原動力、産業経済、労働移動、国際貿易、地域経済統合および人口、環境等諸問題について学習する。また、世界第2位の政治経済力を有する中国の動きは日中関係を含め、東アジア地域にどのような影響を与えるかについてもダイナミックな検討をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
昨今、国際政治経済における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域経済の重要性、多様性、複雑性、可能性等について立体的な視点から考察することは、東アジア経済論の基礎知識を修得するだけでなく、東アジア地域実体経済変動の規律を把握することにとって重要である。本講義は講義全体の学習を通じて学生諸君が東アジア地域経済の学問的基礎知識を習得することを目的とし、東アジア地域経済発展に対する考察力、理解力、分析力、そして説明力を高めることを目標とする。

【履修条件】
特にない。

【授業方法】
シラバスに沿ってパワーポイントによる講義を行う。講義の中、ビデオ鑑賞や事例研究も行う。最新の新聞・雑誌等参考資料を随時に配布し、講義の補足や宿題の参考とする。授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、講義に対する理解状況をチェックし、次の授業時にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済発展論の基礎、東アジア経済発展の歴史、制度的要因、原動力、日本との関わりなどを理解し、説明できる。（知識）					2		2		2		
②	中国経済の発展とその影響、日中・米中関係とその影響について理解、説明できる。（知識）					2		2		2		
③	データをもって東アジア地域の経済事象を説明できる。（技能）					2		2		2		
④	実際の経済問題（例えば米中貿易紛争、新型肺炎のショックが経済に与える影響）について分析、説明できる。（知識・技能）					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験をしないが、代わりに期末レポートを求める。											
小テスト等	第9回目の授業の後半により、前半到達目標①、②、③、④を確認するために、小テストを行う。	5	5	5	5							20
レポート等	提出されたレポートが作成要項の要件を満たし、課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標①、②、③、④に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明を推奨し、到達目標①、②、③、④に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(リアクション ペーパー)	毎回の講義内容を簡単にまとめ、理解し、質問できるかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義最初にリアクションペーパーや課題、宿題などについて共通問題を解説し、講義最後に個別問題に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし	なし	なし	なし		
備考	本講義は「経済発展論」、「東アジア経済論」、「中国経済論」等諸学問分野を総合し、最新資料、最新の経済動向分析を行うため、教科書を固定せず、事前・事後の学習には参考書を活用してほしい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み（事前にメールでアポイントメントを取ることをお願いしたい。メール：chin.bunkyo@nihon-u.ac.jp）場所：10号館2階講師室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水9/16	ガイダンス（東アジア経済論とは）	講義内容、研究テーマ、スケジュール、学習方法、講義ノートの取り方などについて紹介し、成績評価を説明する。また、質問を応答する。	
		この回の到達目標	東アジア経済論を履修する意義、学習範囲、勉強方法、単位取得の必要条件等について理解できる。	
		事前学修	図書館やWebサイトから「東アジア経済論」について調べてみる。講義全体について概観する。	120分
		事後学修	講義ノートの確認、東アジア経済についての学習意識を明確にし、学習計画を検討する。	120分
2	第一部 水9/23	現代経済社会の仕組み	現代経済社会の仕組みについて学習し、生産活動の主役（生産者、消費者、政府）とそれぞれの役割を明確にする。経済成長、経済発展の原動力を説明する。また、経済学の源流、諸学派の基本的考え方の違いを紹介する。	
		この回の到達目標	経済活動の主役、政治経済制度、経済成長の原動力および経済学の諸学説の源流等について理解できる。	
		事前学修	現代経済社会の仕組みについて予習する。特に、人類文明の転換、生産活動の歴史について調べてみる。	120分
		事後学修	生産活動に必要な3要素（資本、労働、技術）について復習し、技術進歩の重要性を検討する。	120分
3	第一部 水9/30	産業革命との東アジア地域の経済発展の初期条件	近代アジア経済発展の歴史を研究する。英国産業革命のアジアに与えた影響について、「アヘン戦争」および日本明治維新の歴史研究を通じて明確にし、近代経済発展における西欧や日本の植民地政策の功罪について検討する。	
		この回の到達目標	産業革命は如何に発生したのか。中国の「アヘン戦争」、日本の「明治維新」発生の歴史、経済背景、西欧列強の植民政策の功罪について理解できる。	
		事前学修	イギリス産業革命及び世界経済に与える影響、そして帝国主義時代の植民政策について調べてみる。	120分
		事後学修	日中両国の近代化の過程および相違について比較し、まとめてみよう。	120分
4	第一部 水10/7	「緑の革命」と東アジア地域の農業発展	アジア農業の発展と「緑の革命」について学習する。農業生産の特性、品種改良、機械化、大規模農業の形成、資本集約的農業と技術集約的農業の違いについて日本と途上国農業の実態を比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	「緑の革命」発生の原因、東アジア農業の発展に与える影響、アジア地域および世界の食糧問題の解決について理解できる。	
		事前学修	東西「冷戦」、計画経済、市場経済の特徴について調べる。需要の価格弾力性の概念を予習しておく。	120分
		事後学修	農業生産における「豊作貧乏」問題に対する処方箋、遺伝子組み換え農産品の食安全の問題について考える。	120分
5	第一部 水10/14	人口問題について考える	アジアの経済発展と人口問題について学習する。人口発展の3つの段階や人口爆発、中国の「一人っ子政策」および日本の少子高齢化問題について「機会費用」概念を用いて考えてみる。	
		この回の到達目標	経済社会において生産活動に欠かせない「費用」、「機会費用」の概念を理解し、人口爆発問題、少子高齢化問題について説明できる。	
		事前学修	人口問題について調べ、マルサス人口論や「算数級数」、「対数級数」の概念を予習しておく。	120分
		事後学修	中国の一人っ子政策の廃止後の人口動向を調べ、日本政府の少子化対策の問題点についてまとめる。	120分
6	第一部 水10/21	経済発展と産業構造変換	産業構造変化と労働移動について学習する。その中で産業の分類、ペティ・クラークの法則、雁行形態、産業移転、労働移動、インフォーマル部門の形成要因等を探る。	
		この回の到達目標	経済発展に伴い産業構造も大きく変換することは先進国、途上国を問わず起きていることを理解し、産業移転や空洞化などの現象を説明できる。	
		事前学修	最新『日経業界地図』から日本の業界分類、注目企業、労働雇用および業界別賃金水準について調べる。	120分
		事後学修	東アジアの過剰都市化問題、スラム街の形成と現状を調べて、非正規労働形成の原因を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水10/28	東アジア地域の貧困と格差問題	中国を中心に東アジア地域農村地帯における貧困、農村と都市間の経済格差、農業労働移動の実態について事例研究を通じて考察する。貧困と格差問題を解決するためには、農村地域の経済を如何に発展させるかを考える。	
		この回の到達目標	経済発展に取り残された農村地域の貧困問題、都市農村間経済格差問題について理解し、これらの問題を解決する有効な政治経済的な手法を考え出す。	
		事前学修	東アジア地域において国民経済（GDP）に占める農業の割合、総労働人口に占める農業労働者の割合のデータを入手し、エクセルでその時系列推移を観察する。	120分
		事後学修	日本や中国では農村から都市への出稼ぎ労働が多く、それぞれの実態を調べ、比較してみよう。	120分
8	第一部 水11/11	グローバル経済	分業、比較優位性および国際貿易について学習し、経済効率性や経済グローバル化の理論背景を説明する。	
		この回の到達目標	古典派経済学の基礎知識、絶対優位性、比較優位性および国際貿易の必要性、グローバル経済の基本を身に付けることができる。	
		事前学修	「重農主義」、「重商主義」、リカードの比較優位仮説について調べる。	120分
		事後学修	リカードの比較優位性仮説についてExcelを使って具体的な数値によって確認する。また、比較劣位性はどのような場合に発生するのをも検証する。	120分
9	第一部 水11/18	東アジアの工業化	東アジアの工業化について学習する。「脱植民地」に成功した東アジア地域経済の事例を用いて、「輸入代替」から「輸出振興」に発展戦略の変換の重要性を検討する。	
		この回の到達目標	政治の独立を果たした東アジア地域の経済は如何に経済の独立を実現したかを理解し、経済連携やグローバル化の必要性を説明できる。	
		事前学修	国民経済（GDP）計算式を予習しておく。輸出入の拡大と経済成長の関係を考察してみる。	120分
		事後学修	貿易依存度を用いて、日本、韓国、シンガポール、ASEAN諸国の経済国際化の度合いを計測し、比較する。	120分
10	第一部 水11/25	中国経済 1：社会主義建国	中国建国、社会主義計画経済の実施とその成果および教訓について学習し、現代中国形成の歴史とその歩みを明らかにする。	
		この回の到達目標	中国は如何に社会主義計画経済を選択、実行したか、戦前戦後および冷戦の歴史を理解し、1950年代の中国の経済発展を説明できる。	
		事前学修	中国の建国、朝鮮戦争および「朝鮮特需」と日本経済復興について調べておく。	120分
		事後学修	毛沢東はなぜ「大躍進」戦略をとったのか、またその失敗の後、どのように責任を取ったのかをまとめる。	120分
11	第一部 水12/2	中国経済 2：計画経済	中国の「改革・開放」の歴史経緯について学習する。「文化大革命」運動の悪影響、米中・日中国交回復によって明示された中国と先進国との経済格差、毛沢東の死去、極貧状態の中国農村部の反抗、「トップ・ダウン」と「ボトムアップ」との改革方式の違いについて検討する。	
		この回の到達目標	中国の計画経済の実施状況、政治経済の激動と混乱、後に改革開放政策の実施の歴史経緯を理解できる。	
		事前学修	中国の「文化大革命」運動、米中・日中国交回復について調べ、政治と経済の関係を考えてみる。	120分
		事後学修	1970年代末期に中国改革・開放政策実施の諸初期条件について考えてまとめる。	120分
12	第一部 水12/9	中国経済 3：改革開放	中国の農業生産制度改革、郷鎮企業の興隆、外資の導入および世界工場の形成について学習し、経済発展の初期条件および諸要因を探る。	
		この回の到達目標	中国の改革開放政策の実施、中国農業の実態、政策変更により経済の激変および農業と工業の相互関係について理解できる。	
		事前学修	「緑の革命」を復習し、中国農業生産の拡大、余剰労働の発生、世界工場形成の条件などについて調べる。	120分
		事後学修	中国経済の成功における制度改革の重要性について農業の自由化、外資導入、貿易促進政策などの面から確認し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水12/16	中国経済 4：工業発展	中国の企業成長と経済の発展について企業レベルから考察し、改革開放後 40 年の間に生まれた中国を代表する著名企業の成長、発展の経緯を検討する。	
		この回の到達目標	「世界の工場」と言われる中国工業の発展の歴史、制度改革、成長の原動力などについて事例研究を通じて理解できる。	
		事前学修	ファーウェイ（Huawei）、アリババ（Alibaba）、ハイアール（Haier）、吉利汽車（Geely）という中国を代表する企業について調べる。	120分
		事後学修	米中貿易紛争におけるファーウェイ問題について調べ、先端技術における米中熾烈な競争の実態をまとめる。	120分
14	第一部 水12/23	地域経済協力	東アジア地域経済統合について検討する。その中で、ASEAN地域経済協定の締結、日中韓FTAの動向、環太平洋パートナーシップ（TPP）、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）などの地域経済連携の最新状況について解説し、行方を探る。	
		この回の到達目標	国際貿易、地域経済協力によって東アジア地域にどのような政治経済効果をもたらすかを理解し、説明できる。	
		事前学修	世界の地域経済協定についてWTO、EU、ASEAN、FTA、TPPについて調べる。	120分
		事後学修	産業構造の変換、「雁行形態」の理論を復習し、日本企業の中国から東南アジア地域への産業移転について調べ、まとめる。	120分
15	第一部 水1/13	まとめと期末レポート作成要領	ま半期講義の要点をまとめ、確認するうえ期末レポート作成要領、評価の仕方、提出方法、フィードバックについて説明する。	
		この回の到達目標	半期の講義内容を取りまとめ、理論体系、実際政治経済の動向を通じて要点がよく説明できる。	
		事前学修	半期の学習の要点をまとめ、確認をする。半期授業のポイントを整理したうえ、自分の学習目標の達成状況、基礎知識の修得状況、そして分析力、説明力の向上状況を確認する。	120分
		事後学修	期末レポートを作成、提出する。	120分

科目名	東アジア政治論Ⅰ	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義では、学術的な思考様式や分析手順を学びながら、アジアにおける政治動態を概観する。特に、複数の国家、地方自治体、社会集団、また個人などの政治的アクター・単位を比較対象としながら、政治（・経済・社会）現象に関する因果関係の解明を試みる。本講義では現象を規定する幅広い要因を考察の対象としていることから、本学における他の社会科学関連、あるいは地域研究の科目を補完するものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目標は、アジア政治論で議論されてきた理論や分析方法を理解し、現実政治における問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら様々な政治（・経済・社会）現象を捉え、そこから国家や社会といった政治単位ごとの相違・類似点を見抜く洞察力を養うことを目指すことにする。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本学における卒業論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学卒業後も社会人として不可欠なものとなる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義では先行研究に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレゼンテーションを行う。また、そうした知識を他の事例に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、自ら現実政治に関する問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリスティックなどの仕組みを専門的観点から説明することができる。						2						
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察することができる。								2				
③	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践することの重要性を認識することができる。										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	リーディングに関するリアクション・ペーパー、グルー プ・ディスカッションに関するレポート		8		8		8					24
レポート等	研究論文		15		15		15					45
討論・発表等	リーディングに関するプレゼンテーション、研究計画発 表・最終発表		7		7		7					21
授業への参画度	(出席を前提とした) 講義中の積極的な発言		3		3		4					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)			33		33		34					100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	イントロダクション（シラバスの説明、アジア政治論のテーマ）	授業の目的、内容、進め方などについて説明する。	
		この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。	120分
		事後学修	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	第一部 月4/13	分析の手順	リサーチ・クエスチョン、仮説検証、比較の意味と方法	
		この回の到達目標	実証的な政治分析の方法について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	120分
		事後学修	授業で示された分析の手順に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
3	第一部 月4/20	（比較）政治学の歴史	比較政治学を中心とした政治研究の潮流・動向	
		この回の到達目標	比較政治学を中心とした政治研究の潮流や動向について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された政治学の歴史に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
4	第一部 月4/27	アジアとは、アジア政治論とは	アジアの地理的特性、政治動態の歴史・特徴	
		この回の到達目標	アジアという地域の特性やそこにおける政治の特徴について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアやアジア政治論に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
5	第一部 月5/4	政治制度	執政・立法の制度	
		この回の到達目標	執行府や議会関係に関する理論について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された政治制度に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
6	第一部 月5/11	アジアにおける政治制度	アジア諸国における執政・立法の制度	
		この回の到達目標	アジア諸国における執行府や議会関係に関する背景や状況を理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける政治制度に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	研究計画発表	受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	第一部 月5/25	研究計画発表	受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	第一部 月6/1	民主主義体制	民主主義に関する概念、国家―社会関係に関する諸制度	
		この回の到達目標	民主主義体制に関する概念や国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
10	第一部 月6/8	アジアにおける民主主義体制	アジア諸国における民主主義に関する概念とその比較、国家―社会関係に関する諸制度	
		この回の到達目標	アジアに諸国における民主主義の捉え方とその多様性、また国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
11	第一部 月6/15	非民主主義体制	非民主主義体制に関する概念、国家―社会関係に関する諸制度	
		この回の到達目標	非民主主義体制に関する概念や国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された非民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
12	第一部 月6/22	アジアにおける非民主主義体制	アジア諸国における非民主主義体制の特徴とその比較、国家―社会関係に関する諸制度	
		この回の到達目標	アジアに諸国おけ非民主主義体制の特徴とその多様性、また国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける非民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	民主化	民主化の条件とプロセス	
		この回の到達目標	民主化の条件とプロセスに関する諸理論について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された民主化に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
14	第一部 月7/6	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	第一部 月7/13	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	東アジア政治論Ⅱ	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義では、学術的な思考様式や分析手順を学びながら、アジアにおける政治動態を概観する。特に、複数の国家、地方自治体、社会集団、また個人などの政治的アクター・単位を比較対象としながら、政治（・経済・社会）現象に関する因果関係の解明を試みる。本講義では現象を規定する幅広い要因を考察の対象としていることから、本学における他の社会科学関連、あるいは地域研究の科目を補完するものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目標は、アジア政治論で議論されてきた理論や分析方法を理解し、現実政治における問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら様々な政治（・経済・社会）現象を捉え、そこから国家や社会といった政治単位ごとの相違・類似点を見抜く洞察力を養うことを目指すことにする。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本学における卒業論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学卒業後も社会人として不可欠なものとなる。

【履修条件】
東アジア政治論Ⅰの単位を修得していること。

【授業方法】		
講義では先行研究に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレゼンテーションを行う。また、そうした知識を他の事例に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、自ら現実政治に関する問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリスティックなどの仕組みを専門的観点から説明することができる。												
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察することができる。												
③	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践することの重要性を認識することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	リーディングに関するリアクション・ペーパー、グループ・ディスカッションに関するレポート		8		8		8					24
レポート等	研究論文		15		15		15					45
討論・発表等	リーディングに関するプレゼンテーション、研究計画発表・最終発表		7		7		7					21
授業への参画度	(出席を前提とした) 講義中の積極的な発言		3		3		4					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)			33		33		34					100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
水曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	イントロダクション（シラバスの説明、アジア政治論のテーマ）	授業の目的、内容、進め方などについて説明する。	
		この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
		事前学修	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。	120分
		事後学修	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	第一部 月9/21	前期の復習	東アジア政治論Ⅰで議論したテーマについてレビューする。	
		この回の到達目標	東アジア政治論Ⅰで議論したテーマについて思い起こし、改めて理解する。	
		事前学修	東アジア政治論Ⅰのシラバスや教材を読み返し、どのようなテーマを扱ったかについてレビューする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
3	第一部 月9/28	アジアにおける民主化	アジア諸国における民主化の条件とプロセス	
		この回の到達目標	アジア諸国における民主化の条件とプロセスに関する諸理論について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける民主化に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
4	第一部 月10/5	政治と経済	政治と経済の相互関係に関する理論と思想	
		この回の到達目標	政治と経済の相互関係に関する理論と思想について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された政治と経済の相互関係に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
5	第一部 月10/12	アジアにおける政治と経済	アジア諸国における政治と経済の相互関係の背景と実情	
		この回の到達目標	アジア諸国における政治と経済の相互関係の背景と実情について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける政治と経済の相互関係の背景と実情に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
6	第一部 月10/19	福祉国家	福祉国家に関する理論と思想	
		この回の到達目標	福祉国家に関する理論と思想について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された福祉国家に関する理論と思想に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	研究計画発表	受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	第一部 月11/9	研究計画発表	受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	第一部 月11/16	アジアにおける福祉国家	アジアにおける福祉国家の背景と実情	
		この回の到達目標	アジアにおける福祉国家の背景と実情を理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける福祉国家の背景と実情に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
10	第一部 月11/23	エスニシティ、ナショナリズム	エスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と理論	
		この回の到達目標	エスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と理論について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたエスニシティやナショナリズムをめぐる現状と理論に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
11	第一部 月11/30	アジアにおけるエスニシティ、ナショナリズム	アジア諸国におけるエスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と背景	
		この回の到達目標	アジアにおけるエスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と背景について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおけるエスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と背景に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
12	第一部 月12/7	紛争・内戦	紛争・内戦をめぐる現状と理論	
		この回の到達目標	紛争・内戦をめぐる現状と理論について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された紛争・内戦をめぐる現状と理論に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	アジアにおける紛争・内戦	アジア諸国における紛争・内戦をめぐる現状と背景	
		この回の到達目標	アジアにおける紛争・内戦をめぐる現状と理論について理解する。	
		事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示されたアジアにおける紛争・内戦をめぐる現状と理論に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
14	第一部 月12/21	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	第一部 月1/18	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
		この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
		事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
		事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	ビジネスロー文献講読Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
この講座では、欧米のビジネスローの専門書や報告書の原文を使用して、国際ビジネスや国際金融に関する内容を学習する。主として英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード、さらに国際的に活動する金融機関に関する規制であるバーゼル規制を題材として理論とプラクティスを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスローに関する外国専門書（英語）について理解、修得することを目的とする。サブプライム金融危機以後の国際金融法規制、コーポレート・ガバナンス（企業統治）等の重要テーマを中心にG20のバーゼル銀行監督委員会、英国コーポレート・ガバナンス・コードなど最新の文献を題材に進める。欧米のガバナンス、取締役会など法的スキームを学び、概要など説明できるようになることを目標とする。英語が苦手な者も、だからこそ是非参加してほしい。大歓迎する。国際ビジネス法に関する専門の英語文献について学び、それに基づき専門書を読むことに慣れることを学習する。細かい法知識の修得もさることながら、専門書講読が苦にならなくなることが眼目である。英語習得は今や必須である。

【履修条件】
特にない。学科を問わず広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。また2年生も広く大歓迎する。金融機関や国際的分野の就職志望者、留学希望者、留学生、英語を改めて学びたい者も来て欲しい。

【授業方法】
政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。 授業内試験の解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業のビジネスにおいて必要な米国や英国の法制度について、英語の原文で法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				3			3		3		
②	他の法律とは異なる欧米のビジネス法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				3			3		3		
③	国際ビジネスに関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3			3		3		
④	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3			3		3		
⑤	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑥	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑦	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑧	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑨	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑩	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】				3			3		3		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。					

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日又は金曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験があり、米国経営大学院においてCEOプログラム研修を受けている。米国ロースクールの客員研究員の経験も有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		欧米のビジネス法制度に関して、経営などとリンクした原書（英語）による講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 4/10	【ガイダンス】【導入講義】	G20のバーゼル銀行監督委員会とサブプライム金融危機後のコーポレート・ガバナンスを強化するための諸原則 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	①②に関連して、ビジネス法に関して原書で学習し知識を得ることの意義を理解する。以下、全て原書によって理解できるようにする。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第一部金 4/17	【OECDコーポレート・ガバナンス原則】	OECD（経済協力開発機構）のコーポレート・ガバナンス(Corporate Governance)原則	
		この回の到達目標	①②に関連して、OECDコーポレート・ガバナンス原則を理解する。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンスに関して、概要を把握して考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、OECD（経済協力開発機構）のコーポレート・ガバナンス原則の内容を復習する。	120分
3	第一部金 4/24	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】	バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度の概観 バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスに関する報告書などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。	
		事前学修	バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、バーゼル銀行監督委員会のコーポレート・ガバナンス原則の内容を復習する。	120分
4	第一部金 5/1	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【取締役会の責務と実務】	銀行のコーポレート・ガバナンス（１） 取締役会の責務と実務 バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスに関する報告書をもとに、取締役会の責務と実務などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、取締役会の責務と実務を理解する。	
		事前学修	銀行の取締役会の責務と実務について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、銀行の取締役会の責務と実務の内容を復習する。	120分
5	第一部金 5/8	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【戦略と目標、リスク許容度】	銀行のコーポレート・ガバナンス（２） 銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、戦略と目標、リスク許容度を理解する。	
		事前学修	銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、銀行の戦略と目標などの内容を復習する。	120分
6	第一部金 5/15	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【取締役会議長、独立社外取締役】	銀行のコーポレート・ガバナンス（３） 取締役会議長（Chairman）、独立社外取締役（Outside Independent Director） バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、取締役会議長、独立社外取締役について学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、取締役会議長、独立社外取締役を理解する。	
		事前学修	取締役会議長、独立社外取締役について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、取締役会議長、独立社外取締役の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 5/22	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【企業価値基準と行動規範】	銀行のコーポレート・ガバナンス（４） 企業価値基準と行動規範(Code of Conduct) バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、企業価値基準と行動規範について学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、企業価値基準と行動規範を理解する。	
		事前学修	企業価値基準と行動規範について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、企業価値基準と行動規範の内容を復習する。	120分
8	第一部金 5/29	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【取締役会の監視機能、取締役の資質】	銀行のコーポレート・ガバナンス（５） 上級管理職(Senior Management)に対する監視、取締役の資質 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、上級管理職(Senior Management)という業務執行機能に対する取締役会の監視機能、取締役の資質について学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、取締役会の監視機能、取締役の資質を理解する。	
		事前学修	上級管理職(Senior Management)に対する監視について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、上級管理職(Senior Management)に対する監視、取締役の資質の内容を復習する。	120分
9	第一部金 6/5	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【支配株主、指名・報酬・監査委員会】	銀行のコーポレート・ガバナンス（６） 取締役会の構造と機能、支配株主、指名・報酬・監査委員会 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、取締役会の構造と機能、支配株主などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、支配株主、指名・報酬・監査委員会を理解する。	
		事前学修	取締役会の構造と機能について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、取締役会の構造と機能、支配株主などを復習する。	120分
10	第一部金 6/12	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【グループ構造、持株会社】	銀行のコーポレート・ガバナンス（７） グループ構造、持株会社、親子会社の支配・権利義務・少数株主関係 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、持株会社、親子会社の支配・権利義務関係などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、一構 造、持株会社を理解する。	
		事前学修	持株会社、親子会社の支配・権利義務について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、持株会社、親子会社関係の権利義務などを復習する。	120分
11	第一部金 6/19	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【上級管理職の役割と責任】	銀行のコーポレート・ガバナンス（８） 上級管理職の役割と責任、規律付け バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、上級管理職の役割と責任などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、上級管理 職の役割と責任を理解する。	
		事前学修	上級管理職の役割と責任、規律付けについて考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、上級管理職の役割と責任などを復習する。	120分
12	第一部金 6/26	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【リスク管理】	健全なコーポレート・ガバナンスの原則（１） リスク管理 (Risk Management) と内部統制 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、銀行のリスクマネジメント、内部統制などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、リスク管 理について理解する。	
		事前学修	リスクマネジメント、内部統制について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、リスクマネジメント、内部統制などを復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 7/3	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【報酬規制】	健全なコーポレート・ガバナンスの原則（2） 新しい報酬規制と対応など バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、報酬規制と対応などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、報酬規制について理解する。	
		事前学修	役員の報酬規制について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、報酬規制などを復習する。	120分
14	第一部金 7/10	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【情報開示】	健全なコーポレート・ガバナンスの原則（3） 複雑または不透明な組織構造、情報開示 (Disclosure)と透明性、銀行の監督当局の役割、健全なコーポレート・ガバナンスを支える環境 の育成など バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、情報開示と透明性、規制環境などを学習する。	
		この回の到達目標	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、情報開示と透明性について理解する。	
		事前学修	情報開示と透明性について考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、情報開示と透明性などを復習する。	120分
15	第一部金 7/17	【前期の総まとめ】	前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。レポートの解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、前期の全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内試験と解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	ビジネスロー文献講読Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
この講座では、欧米のビジネスローの専門書や報告書の原文を使用して、国際ビジネスや国際金融に関する内容を学習する。主として英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード、さらに国際的に活動する金融機関に関する規制であるバーゼル規制を題材として理論とプラクティスを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスローに関する外国専門書(英語)について理解、修得することを目的とする。サブプライム金融危機以後の国際金融法規制、コーポレート・ガバナンス(企業統治)等の重要テーマを中心にG20のバーゼル銀行監督委員会、英国コーポレート・ガバナンス・コードなど最新の文献を題材に進める。欧米のガバナンス、取締役会など法的スキームを学び、概要など説明できるようになることを目標とする。英語が苦手な者も、だからこそ是非参加してほしい。大歓迎する。国際ビジネス法に関する専門の英語文献について学び、それに基づき専門書を読むことに慣れることを学習する。細かい法知識の修得もさることながら、専門書講読が苦にならなくなることが眼目である。英語習得は今や必須である。

【履修条件】
特にない。学科を問わず広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。また2年生も広く大歓迎する。金融機関や国際的分野の就職志望者、留学希望者、留学生、英語を改めて学びたい者も来て欲しい。

【授業方法】
政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。 授業内試験の解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、少人数のグループに分けてディスカッションし、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業のビジネスにおいて必要な米国や英国の法制度について、英語の原文で法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				3			3		3		
②	他の法律とは異なる欧米のビジネス法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				3			3		3		
③	国際ビジネスに関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3			3		3		
④	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3			3		3		
⑤	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑥	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑦	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑧	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑨	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑩	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】				3			3		3		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。					

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日又は金曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験があり、米国経営大学院においてCEOプログラム研修を受けている。米国ロースクールの客員研究員の経験も有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		欧米のビジネス法制度に関して、経営などとリンクした原書（英語）による講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部金 9/18	【英国におけるスチュワードシップ・コード】	英国におけるスチュワードシップ・コード（機関投資家向けの規律）と株主責任の概要 スチュワードシップ・コードの概要について、学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるスチュワードシップ・コードの概要を理解する。	
		事前学修	英国におけるスチュワードシップ・コードについて、概要を把握して考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードの概要について復習する。	120分
2	第一部金 9/25	【英国におけるスチュワードシップ・コード】 【課題と展望】	英国スチュワードシップ・コード(Stewardship Code)の課題と展望 スチュワードシップ・コードの課題と展望について、比較法的に学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるスチュワードシップ・コードの概要を理解する。課題と展望について、比較法的に学習することで理解が深まる。	
		事前学修	英国スチュワードシップ・コードの課題について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードの課題と展望について復習する。	120分
3	第一部金 10/2	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】	英国コーポレート・ガバナンス・コード（企業経営者向けの規律）の概要と課題 コーポレート・ガバナンス・コードについて、概要などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。	
		事前学修	英国コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて概要などを復習する。	120分
4	第一部金 10/9	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【コーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（1） コーポレート・ガバナンスおよびコード (Code)の概説 英国のコーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要およびコードの内容について学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。コーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要について、理解が深まる。	
		事前学修	英国のコーポレート・ガバナンスおよびコードの概要について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、英国のコーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要およびコードの内容などを復習する。	120分
5	第一部金 10/16	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【プリンシプル・ベース】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（2） プリンシプル（原則）・ベースの意義 英国のコーポレート・ガバナンス・コードにおけるプリンシプル・ベースの意義などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。プリンシプル・ベースについて、理解が深まる。	
		事前学修	プリンシプル・ベースの意義について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、英国のコーポレート・ガバナンス・コードにおけるプリンシプル・ベースの意義などを復習する。	120分
6	第一部金 10/23	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【コンプライ・オア・エクスプレイン】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（3） コンプライ・オア・エクスプレイン(遵守せよ、さもなければ説明せよ) 原則 プリンシプル・ベースに関するコンプライ・オア・エクスプレインの内容を学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。コンプライ・オア・エクスプレインについて、理解が深まる。	
		事前学修	コンプライ・オア・エクスプレインの意義などについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベースに関するコンプライ・オア・エクスプレインの内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部金 10/30	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【リーダーシップと経営戦略】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（４） 経営陣のリーダーシップと経営戦略 コーポレート・ガバナンス・コードにおける経営陣のリーダーシップと経営戦略の役割、機能などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。リーダーシップと経営戦略について、理解が深まる。	
		事前学修	経営陣のリーダーシップと経営戦略などについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、経営陣のリーダーシップと経営戦略の内容を復習する。	120分
8	第一部金 11/6	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【取締役会の有効性と取締役会評価】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（５） 取締役会の有効性と取締役会評価 (Evaluation) コーポレート・ガバナンス・コードにおける取締役会の有効性と取締役会評価などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。取締役会の有効性と取締役会評価について、理解が深まる。	
		事前学修	取締役会の有効性と取締役会評価について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、取締役会の有効性と取締役会評価の内容を復習する。	120分
9	第一部金 11/13	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【説明責任と透明性】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（６） 説明責任と透明性(Transparency) コーポレート・ガバナンス・コードにおける説明責任と透明性などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。説明責任と透明性について、理解が深まる。	
		事前学修	説明責任と透明性について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、説明責任と透明性の内容を復習する。	120分
10	第一部金 11/20	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【対話とエンゲージメント】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（７） 機関投資家との関係、対話とエンゲージメント (Engagement) 作り コーポレート・ガバナンス・コードにおける機関投資家、対話とエンゲージメントなどを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。対話とエンゲージメントについて、理解が深まる。	
		事前学修	機関投資家、対話とエンゲージメントについて、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、機関投資家、対話とエンゲージメントの内容を復習する。	120分
11	第一部金 11/27	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【報酬規制】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（８） 報酬規制とコードの役割 コーポレート・ガバナンス・コードにおける報酬規制などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。報酬規制について、理解が深まる。	
		事前学修	報酬規制について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、報酬規制の内容を復習する。	120分
12	第一部金 12/4	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【業務執行取締役に対する業績連動型報酬】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（９） 業務執行取締役に対する業績連動型報酬の設計など コーポレート・ガバナンス・コードにおける業務執行取締役に対する業績連動型報酬などを学習する。	
		この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。業務執行取締役に対する業績連動型報酬規制について、理解が深まる。	
		事前学修	業務執行取締役について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、業務執行取締役に対する業績連動型報酬の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部金 12/11	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【開示のあり方】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（10）コーポレート・ガバナンスにかかる開示（Disclosure） コーポレート・ガバナンス・コードにおける開示のあり方などを学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。開示のあり方について、理解が深まる。	
		事前学修	コーポレート・ガバナンスにかかる開示について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスにかかる開示の内容を復習する。	120分
14	第一部金 12/18	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【非業務執行取締役の役割】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（11）非業務執行取締役（Non Executive Director）の役割、取締役の研鑽・研修（Training）など コーポレート・ガバナンス・コードにおける非業務執行取締役の役割などを学習する。	
		この回の到達目標	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。非業務執行取締役の役割について、理解が深まる。	
		事前学修	非業務執行取締役について、考察する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、非業務執行取締役の役割の内容を復習する。	120分
15	第一部金 12/25	【後期総まとめ】	解説等を行う。総まとめを行い、体系的な学習を行う。レポートの解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
		事前学修	最初からの講義ノートを見直し、講義全体の体系を考察する。	120分
		事後学修	授業内試験と解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	フォト・ジャーナリズム	担当者	会田 法行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
言葉を越えた世界共通言語である報道写真を理解する。報道写真に対するリテラシーを深め、日々溢れかえる報道写真をしっかりと受け止め、そこにこめられた情報を享受することができるようになること。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
写真という世界共通言語を通してジャーナリズムを学ぶことを授業目的とする。報道写真の歴史や倫理、日々溢れる報道写真を通して、報道写真のグローバルスタンダードを身につけ、その役割を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
写真とジャーナリズムに興味があること。

【授業方法】
座学とディスカッション形式。小レポートの全体講評を授業内にて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界共通の視覚的言語である写真を通して、世界で起きていることを理解することができる。				3	3	3	3				
②	日ごろからニュース写真に接する習慣を身につけることができる。				3	3	3	3				
③	写真を通して、他者の痛みを自分の痛みとして置き換えることができる。				3	3	3	3				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	毎授業後に、小レポートを提出してもらい、その都度、授業の理解度や個々の考えを確認する。これを出欠確認にも用います。	80										80
討論・発表等	クラス内の発表で、世界共通の視覚的言語である写真について自分なりの言葉で明文化し、他者へ伝えられるようにする。	20										20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		100										100

【課題に対するフィードバックの方法】
クラスの発表会などで

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
他者の苦痛へのまなざし	スーザン・ソントグ	みすず書房	2003	参考書	推奨
備考	テーマに合わせて資料を配布いたします。				

【オフィスアワー】
授業前後に対応します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	朝日新聞社写真部カメラマン、フリーランスの報道写真家として紛争地の取材
実務経験に基づく実践的教育の内容		教科書にはない現場でのできごとを伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/16	オリエンテーション	オリエンテーション。報道写真でなんだろう？
		この回の到達目標	報道写真について自分なりに考える
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
		事後学修	気になる人物の肖像写真を徹底的に見て、自分の好きな一枚を選ぶ 新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
2	9/23	報道写真に触れる	世界報道写真コンテストから、実際の報道写真に触れる
		この回の到達目標	本物の、実際の報道写真を見て、触れて、感じる。
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
		事後学修	昨年撮影された本年度の報道写真受賞作品の中からお気に入りの一枚を選ぶ 新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
3	9/30	報道写真を見て言語化する	学生による気になる人物の肖像写真と世界報道写真展受賞作品の発表会
		この回の到達目標	「なんとなく気になる」ではなく、気になる写真についてしっかりと言語化してみること
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
4	10/7	肖像写真と報道写真	アンリカルティエブレッソンに学ぶ、肖像写真と報道写真
		この回の到達目標	報道写真の原点である、人物写真（肖像写真）について考える。よい人物写真とは何か？
		事前学修	20世紀を代表する報道写真家であるアンリ・カルティエ・ブレッソンについて調べる 彼のお気に入りの一枚を選ぶ120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
5	10/14	報道写真の歴史	報道写真の世界史、日本史を学ぶ
		この回の到達目標	写真がこの世に誕生してから200年余りの間に、どのように写真は報道のなかに組み込まれ、活用されてきたのか
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする120分
6	10/21	報道写真家集団マグナムとは？	ロバート・キャパとマグナムの写真家たちについての紹介と、そもそもよい報道写真とは何かを考える
		この回の到達目標	第二次世界大戦前後に結成され、今も世界の報道写真シーンを引っ張るマグナムを知る
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする（2時間）120分
		事後学修	キャパをはじめとしたマグナムの写真家たちの写真を徹底的に見て、お気に入りのをさがす（2時間）120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	気になるマグナム写真家発表会	学生による気になるマグナム写真家発表会	
		この回の到達目標	マグナムの写真家をひとり選び、その写真家と写真の魅力を発表する	
		事前学修	お気に入りの写真家や写真について、なぜ好きなのかをしっかりと言語化できるように写真としっかりと向き合ってくること。（2時間）	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする（2時間）	120分
8	11/11	報道写真の倫理 1	報道写真の倫理 1。『ハゲワシと少女』に見る「撮るべきか、助けるべきか」の議論	
		この回の到達目標	報道写真家の仕事を理解したうえで、「撮るか」、「助けるか」を考える	
		事前学修	『ハゲワシと少女』と呼ばれる写真と向き合いながら、自身が現場に立ったつもりであれこれ想像してくる	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
9	11/18	報道写真の倫理 2	報道写真の倫理 2。全米報道写真家協会の倫理コードから学ぶ最先端の報道写真のルール	
		この回の到達目標	全米報道写真家協会の倫理コードを学ぶ	
		事前学修	全米報道写真家協会の倫理コードを熟読してくる	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
10	11/25	報道写真の倫理 3	報道写真の倫理 3。写真を撮るという攻撃的な行為について考える。自己責任論と報道の意義。	
		この回の到達目標	自己責任論とは何かを考える	
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
11	12/02	最前線の報道写真かを知る 1	ジェームズナクトウェイの戦場のフォトグラファー前編	
		この回の到達目標	報道写真家ジェームズナクトウェイ氏のドキュメンタリー映画を観る	
		事前学修	今も最前線で活躍する写真家ジェームズナクトウェイについて調べてくる（2時間）	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする（2時間）	120分
12	12/09	最前線の報道写真かを知る 2	ジェームズナクトウェイの戦場のフォトグラファー後編	
		この回の到達目標	報道写真家ジェームズナクトウェイ氏のドキュメンタリー映画を観る	
		事前学修	今も最前線で活躍する写真家ジェームズナクトウェイの写真をできるだけたくさん見てくる	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	これからの報道写真	ネット時代の報道写真。写真と映像の共存	
		この回の到達目標	マルチメディアについて知る、考える	
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
14	12/23	報道カメラマンとしての企画を立ててみる 1	好きなこと、気になることを徹底的に掘り下げてみる。問題意識を深める	
		この回の到達目標	写真家の故星野道夫氏の人生から「好き」を自分の仕事に深める術を学ぶ	
		事前学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分
15	01/13	報道カメラマンとしての企画を立ててみる 2	報道カメラマンになったつもりで、現代社会と向き合い、自分なら今何を撮りたいのか、企画書を書いてみる	
		この回の到達目標	自分が今現在暮らす社会にアンテナを張り、自分なら何を撮るかを考える	
		事前学修	現代社会が抱える問題のなかで、こういったテーマならば写真表現が合うのではないかと？というテーマを探してみる	120分
		事後学修	新聞や雑誌、ネットなどで日々の報道写真をチェックする	120分

科目名	福祉政策	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉に関する政策について講義を行う。社会福祉についての概観とともに、それに関連する政策を、歴史的な動向と、その背景にある思想や理念の変化とともに考察していく。その後、現代の福祉政策において重要となる個別の理論や思想について整理するとともに、個別領域にも目を向け、実際の政策策定およびその運用における現実的課題との対応を捉え、今後の福祉政策における考察に必要な知識的理解の基礎を得る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
福祉政策の要素と基礎となる概念、拠って立つべき理念を養成することを目的とし、現在の福祉政策に対する自分の意見を持ち、表明できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義方式を取る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	福祉政策の要素をあげ、全体像を図示できるようになる。		2		2	2	2			
②	福祉政策の理念と公共政策との関係について自分の言葉で説明できるようになる。		4		4	3	4			
③	現在の福祉政策の課題を説明するとともにその解決策についての自らの意見を表明できるようになる。		4		3	4	4			
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験による評価。試験の詳細については授業内で受講生全体に対して伝達する。	10	20	30								60
小テスト等	各授業回の終わりにコメントカードを配布する。その内容によって一定の点数を加算する。	15	15	10								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業回のコメントに対しては、次の授業でリプライを行う。また最終回の後に、それまでのコメントおよび質問に対する総合的リプライを行う。試験終了後には模範解答と解説を受講生に対して提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 障害者政策	山村りつ編著	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
社会保障法令便覧2019	社会保障法令便覧編集委員会	労働調査会	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（それ以外是要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	オリエンテーション／福祉政策の基本的知識と理解	授業の進め方や評価方法についての説明を行う。 また、福祉政策について学ぶ上で必要な基本的知識と理解のための講義を行う。	
		この回の到達目標	福祉政策の範囲、機能、役割について自分の言葉で説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスを熟読し、「福祉政策」とは何かについて考える。	60分
		事後学修	授業で得た知識と事前に考察した「福祉政策」の範囲について相違点を整理しておく。	180分
2	9/22	福祉政策に係る理論と考え方	福祉政策について考えるうえで抑えておくべき基本的な理念や考え方を説明する。	
		この回の到達目標	福祉政策の理念的基盤となる理論を具体的にあげ、その概要を説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
3	9/29	ソーシャルワークと福祉政策	福祉政策に対して実践部門であるソーシャルワークとの関係と福祉政策の背景について説明する。	
		この回の到達目標	福祉政策と権利保障の関係について、自らの言葉で説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
4	10/6	ニーズと岡村理論	福祉政策の実施において重要となるニーズについての説明と、その理解に必要な岡村理論の説明を行う。	
		この回の到達目標	ニーズの種類とその特徴、および福祉政策との関係を図示し、説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
5	10/13	福祉政策と行政組織	福祉政策に係る行政組織とその関係性を国・都道府県・市町村に分けて説明する。	
		この回の到達目標	福祉政策に係る行政組織を段階構造で示し、それぞれの役割と特徴を説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
6	10/20	福祉政策の担い手	福祉政策において実際の給付や実務を行う者の政策的位置づけについて説明する。	
		この回の到達目標	現在の日本の福祉の担い手を複数あげ、それぞれの特徴と活用方法を説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	福祉政策のプロセス	福祉政策が作られ、施行されるプロセスについて説明する。	
		この回の到達目標	福祉政策策定から施行までのプロセスを図示し、福祉政策独自の特徴を指摘できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
8	11/10	個別領域① 福祉政策	福祉政策の代表的領域の一つである児童に関する政策について、その概要と特徴的な事象および課題について説明する。	
		この回の到達目標	児童に関する福祉政策における課題を1つ以上あげ、その問題性の説明と対策についての自らの意見を言語化できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
9	11/17	個別領域② 障害者に関する福祉政策	福祉政策の代表的領域の一つである障害者に関する政策について、その概要と特徴的な事象および課題について説明する。	
		この回の到達目標	障害者に関する福祉政策における課題を1つ以上あげ、その問題性の説明と対策についての自らの意見を言語化できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。）	120分
10	11/24	個別領域③ 高齢者に関する福祉政策	福祉政策の代表的領域の一つである高齢者に関する政策について、その概要と特徴的な事象および課題について説明する。	
		この回の到達目標	高齢者に関する福祉政策における課題を1つ以上あげ、その問題性の説明と対策についての自らの意見を言語化できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
11	12/1	個別領域④ 生活困窮者に関する福祉政策	福祉政策の代表的領域の一つである生活困窮者に関する政策について、その概要と特徴的な事象および課題について説明する。	
		この回の到達目標	生活困窮者に関する福祉政策における課題を1つ以上あげ、その問題性の説明と対策についての自らの意見を言語化できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
12	12/8	個別領域⑤ 福祉政策	近年、福祉政策において大きな関心事となっている労働と労働者に関する政策について、その概要と特徴的な事象および課題について説明する。	
		この回の到達目標	労働および労働者に関する福祉政策における課題を1つ以上あげ、その問題性の説明と対策についての自らの意見を言語化できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	近年の特徴的動向	我が国の福祉政策にみられる近年の動向について説明する。	
		この回の到達目標	現代の日本の福祉政策の特徴をあげ、その社会的背景との関係について自分なりの見解を述べることができるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
14	12/22	福祉政策が抱える困難	福祉政策が根源的に抱える困難について説明する。	
		この回の到達目標	福祉政策にみられる二項対立構造について説明し、両者に対する自らの立場を理由を含めて表明できるようになる。	
		事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
		事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
15	1/12	国際社会と福祉政策／まとめと振り返り	グローバリゼーションの中で福祉政策が受ける影響とその対策について説明する。また、特にこれまでの授業で出されたコメントを中心に授業を総評し、まとめを行う。	
		この回の到達目標	国際化のなかで発生する生活レベルでの福祉的課題と、それについての自らの見解を述べることができるようになる。	
		事前学修	これまでの授業を振り返り疑問点を整理しておく。	120分
		事後学修	試験に備えて自分が回答をしようとするテーマについて再考し、文章化しておく。	120分

科目名	物権・担保物権法	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典の第2編「物権」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、所有権の意義や効力の他、こうした所有権をはじめとする物権が複数に譲渡等された場合の優先関係に関するルールや、お金を借りるにあたって設定される抵当権についてのルールなどを学ぶことになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法総則の知識を前提に、所有権や抵当権を典型とした物権・担保物権法の基礎的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
前期の「民法総則」の単位を修得済みであることが望ましい。

【授業方法】		
授業は、下記授業区分のとおりと、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権・担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2						
②	物権・担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。						2						
④	物権・担保物権法に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べることができる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	10	10							80
小テスト等	授業中の小テストや演習、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④の達成度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回に行う授業内試験について、解説を第15回講義時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
物権〔第2版〕エッセンシャル民法2	永田眞三郎ほか	有斐閣	2019年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13：00－17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	講義案内、民法における物権法の位置付け、物権・担保物権法とは何か	後期に扱う物権・担保物権法を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法の中でも物権・担保物権法というのはどのような場面を取り扱うものなのかを説明することができる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 教科書1－4頁を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 本講座と並行して履修することで効率的に学修を進められる講座を探すなど、半年間の学修計画を立てる	120分
2	9/22	所有権①（所有権の内容・対象・制限）	所有権はどのような内容を持っていて、何について成立し、どのような制限を受けるのかを学ぶ。所有権がどのような内容を持っているのかを学ぶにあたっては、所有権を典型とした物権が債権とどう異なるのかを意識する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、所有権（物権）の内容につき、債権と比較をしながらその特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の5－19頁を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 物権と債権の違いについてレジュメ1頁目の表を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第4回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
3	9/29	所有権②（物権的請求権）	所有権が侵害された場合にどう保護されるのか、具体的には物権的請求権と呼ばれる権利の性質や、この物権的請求権が衝突する場面での調整の在り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所有権が侵害された場合における保護として物権的請求権を学び、両当事者の行為によらないで侵害状態が生じた場合にどちらの費用負担により回復がなされるべきかについて、自身の考えをのべることができる。	
		事前学修	教科書の20－25頁を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと そもそもどういった論理の流れにより「物権的請求権の衝突」があるとされてきたのか説明できるようにしておくこと。 第4回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
4	10/6	所有権③（所有権の取得方法）、演習（第1回）	前回学んだ所有権が侵害された場合におけるルールについて引き続き学ぶとともに、そもそも所有権はどのように取得されるか、さらには複数人が共同で所有権を有する場合等の規律について学ぶ。また、これまでの復習を兼ねた演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物を返さざる得なくなった返還債務者が有する諸権利についてその要件とともに整理して説明することができる。また、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の26－32頁を読んでおくこと あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
5	10/13	物権変動①（所有権の移転時期や不動産の物権変動）	物権はどのように移転するのか、不動産についての物権変動の公示はどのようになされるのか等を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権の移転の方法や時期について日本民法はどのような態度をとっているかを説明できるとともに、不動産が二重に譲渡された場合の優劣関係についての民法の基準を説明できる。	
		事前学修	教科書の45－62頁を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の移転方法と移転時期について区別して整理する。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
6	10/20	物権変動②（177条の物権変動の範囲）	登記がなければ対抗できない物権変動とはいかなる範囲かを学ぶ。具体的には、「取消しと登記」「遺産分割と登記」「時効と登記」と呼ばれる論点における判例の議論を分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記授業内容について、判例がどのような理由からそうした解釈をしているのかを論理的に説明することができる。	
		事前学修	教科書の62－70頁を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で扱った3つの論点についての判例の態度はどういった点で共通するかをまとめておくこと。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/27	物権変動③（177条の「第三者」の範囲）	177条の「第三者」となるための要件を学ぶ。どのような関係に立つ者が「登記の欠缺を主張する正当な利益を有する者」なのかを分析することになる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記授業内容につき、判例多数説と有力説との対立は、どういった考え方から生じているかを理論的に説明でき、そのうえでこの問題につき自身の考えを述べることができる。
		事前学修	教科書の70－76頁を読んでおくこと120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第三者の主観的要件として、悪意者排除説と背信的悪意者排除説とが対立する。それぞれの論拠をまずおさえること。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
8	11/10	物権変動④（動産、即時取得も含む）	今回は、不動産ではなく、動産の所有権が移転する場合を想定して、不動産の場合と同様に、「動産の物権変動の公示はどのようになされるのか」等を知ったうえで、動産物権変動に特有の「即時取得制度」を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動産の公示制度としての4種類の引渡しについて説明したうえで、無権利者から取得した場合にも例外的に所有権を取得しうる制度としての即時取得につき、その典型場面と限界事例とをイメージしながら、要件を説明することができる。
		事前学修	教科書の76－92頁を読んでおくこと120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 動産物権変動の対抗要件である「引渡し」には4種類あるとされる。それぞれ自分で説明できる状態にしておくこと。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
9	11/17	演習（第2回）、用益物権、占有	物権変動①～④の復習を兼ねた演習をするとともに、地上権や地役権といった用益物権、さらには占有に付与される法的効果を概観する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。
		事前学修	教科書の93－122頁を読んでおくこと あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 地上権と地役権はどこが異なるか整理すること。 演習問題の回答を整理する120分
10	11/24	抵当権①（基本）	担保物権の基本型としての抵当権について、その枠組みや基本用語をおさえたうえで、優先弁済権を持つとされる抵当権の効力を中心に学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権者、抵当権設定者、物上保証人、第三取得者、被担保債権、物上代位などの用語の意味を説明することができる。また、担保の設定を受けずとも債務名義を取得して強制執行することもできるわけだが、こうした場合と抵当権を有している場合との相違を体系的に説明することができる。
		事前学修	教科書の123－141頁を読んでおくこと120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 物上代位とはどのようなものであり、なぜ抵当権にはこのような効力が認められるのか考える。 第13回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
11	12/1	抵当権②（発展）	抵当権の実行の在り方、不動産利用権との調整の在り方、さらには抵当不動産の第三取得者を保護する制度などについて簡単に学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当権を実行する場合も必ずしも競売手続だけでないこと、また第三取得者をはじめとした第三者との権利の調整の見地から様々な制度があることを、簡単にでも説明することができる。
		事前学修	教科書の142－178頁を読んでおくこと120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 授業レジュメを踏まえ、出てきた条文を六法で読んでおくこと。 第13回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分
12	12/8	抵当権以外の担保物権	抵当権以外の担保物権、すなわち抵当権と同じ「約定担保物権」として質権、「法定担保物権」として留置権・先取特権、さらには民法典に規定のない「非典型担保物権」と呼ばれるものとして、譲渡担保や仮登記担保、所有権留保などといった物権について概観する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記授業内容について、抵当権以外の担保物権につき、それぞれ世の中でどのような場面において用いられているか具体的にイメージをすることができるようになる。
		事前学修	教科書の179－221頁を読んでおくこと120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと（2時間） 債権質はどのようなものであり、なぜ実際に使われるのかをまとめておくこと。 第13回講義の際に扱う演習（後期第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	演習（第3回）	用益物権・占有および抵当権をはじめとした担保物権について、復習を兼ねた演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する	120分
14	12/22	質疑応答と授業内試験	質疑応答を30分した後、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。	
		事前学修	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく	120分
		事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする	120分
15	1/12	授業内試験の解説・講評	第14回に実施した授業内試験について解説・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験で自身が不十分であったところを確認し、自身が得意なところと苦手なところを認識し、春休み中において何をより深く勉強すべきかを理解する。	
		事前学修	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく	120分
		事後学修	これまでのレジュメを整理するとともに、物権・担保物権法の総復習をする	120分

科目名	物権・担保物権法	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典の第2編「物権」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、所有権の意義や効力の他、こうした所有権をはじめとする物権が複数に譲渡等された場合の優先関係に関するルールや、お金を借りるにあたって設定される抵当権についてのルールなどを学ぶことになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法総則の知識を前提に、所有権や抵当権を典型とした物権・担保物権法の基礎的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法総則の単位を修得済みであることが望ましい。民法総則の単位を修得していない場合は教科書を読むなどして基礎知識をおさえておくこと。

【授業方法】		
講義形式により配布レジュメに沿って授業を進める。物権・担保物権法では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、これは皆さんが主体的に授業に参加することを目的に設けたものである。つまり、空欄だけが重要なのではない。皆さんには、空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、私の説明もしっかりと聞き、メモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	時間の許す範囲で、択一型形式の問題や簡単な論述問題を解いてもらう時間を設けたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権・担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2						
②	物権・担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。						2						
④	物権・担保物権法に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べることができる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	10	10							80
小テスト等	授業中の小テストや演習、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④の達成度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で小テストを行った場合、口頭で解説するか解説のプリントを配布する。非常にタイトなスケジュールのため、小テストはポータルサイトを活用することもある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新ブリメール民法2 物権・担保物権法	今村＝張＝鄭＝中谷＝高橋	法律文化社	2018	教科書	推奨
物権2ーエッセンシャル民法2〔第2版〕	永田＝松本＝松岡＝中田＝横山	有斐閣	2019	教科書	推奨
講義 物権・担保物権法〔第3版〕	安永正昭	有斐閣	2019	参考書	任意
民法Ⅱ物権〔第3版〕	石田＝武川＝占部＝田高＝秋山	有斐閣	2019	参考書	任意
最新版の六法（改正民法が含まれているもの）		各自の好みでどうぞ			
備考	各自の学修目的に応じて、「物権」と「担保物権法」の両方の内容が含まれている教科書を選んでください。詳しくは第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜日3時限。授業前後にアポイントメントをとってもらえると大変ありがたいです。その他の時間にも適宜対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び導入講義	授業の前半では、授業の目的と内容、授業の進行方法、教科書の使い方、成績評価方法について説明します。授業の後半では、民法とは何か、民法における物権・担保物権法の重要性について学びます。	
		この回の到達目標	授業に必ず出席すること！この授業の目的、到達目標を理解すること。物権・担保物権法の民法における位置づけについて理解すること。	
		事前学修	なぜこの授業をとるのかを考えること。物権法・担保物権法を効果的に学習するために他にどのような授業を取った方が良いのかを考え、時間割を組むこと。	120分
		事後学修	自身の学修目的にあった教科書を購入し、はしがきや目次を読んでみる。教科書のページ数につき、「プリメール民法」はPM、「エッセンシャル民法」はESと表す。PM1～22、ES1～4頁を読むこと。	120分
2	9月23日	物権の意義、物権の効力①	物権は債権とどのような点で違うのか、物権にはどのような種類のものがあるのかについて学びます。その後、物権が侵害された場合に生じる物権的請求権の概要を具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、物権と債権の異同、物権の種類、物権的請求権について具体例を通して説明できるようになること。	
		事前学修	PM24～31頁、ES5～12、19～22頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	9月30日	物権の効力②、物権変動総論	物権的請求権についてその性質と費用負担の問題について考えます。その後、次回以降の授業で学ぶ「物権変動」「公示の原則」「公信の原則」の意義を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、物権的請求権の性質と費用負担の問題について具体例を通して、判例・学説の内容をふまえ、自分の見解を述べられるようになること。到達①・②に関連して、物権変動・公示の原則・公信の原則について具体例をふまえてその意義を説明できるようになること。	
		事前学修	PM31～33、36～38、54頁、ES22～25頁、52～54頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	10月7日	不動産物権変動①ー不動産登記の効力、177条の第三者	授業の前半では、不動産物権変動の公示手段としての登記について詳しくみていきます。授業の後半では、不動産物権変動と対抗問題を学びます。例えば、Aが、自身が所有する甲土地をBに売却し、Bが所有権移転登記をしていなかったところ、AがCにも甲土地を売却し、Cが所有権移転登記を行ったとします。このような場合を不動産の二重譲渡といいますが、二重譲渡に関する民法177条の制度趣旨、同条の「第三者」とはどのような者をいうのか、について具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、不動産登記の意義、民法177条の「第三者に対抗できない」とはどのような意味をいうのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	PM45～58、69～75頁、ES70～75頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	10月14日	不動産物権変動②ー取消しと登記、時効と登記①	授業の前半では、取消しと登記の問題を学びます。例えば、AがBから詐欺を受けて自己所有の甲土地を売却しました。AがAB間の売買契約を取り消したのちに、BがCに甲土地を転売し、BからCへの移転登記を行った場合、Cは甲土地を取得できるのか、という問題です。その後、時間の許す範囲で、「時効と登記」の問題について判例法理を学びます。例えば、Aの甲土地をBが善意・無過失で10年間占有し、時効が完成しました。この時効完成前にCがAから甲土地を買い受けて所有権移転登記を経由しました。CがBに対して甲土地の明渡しを求めた場合、Bは時効による所有権取得をCに主張できるか、Cの買受けがBの取得時効の成立後だとどうなるのかということを検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、取消しと登記について問題の所在、判例と主な学説の立場をふまえて自分の見解を示すことができるようになること。到達目標①・②に関連して、時効と登記の問題の所在、判例の立場を説明できるようになること。	
		事前学修	PM58～59、64～66頁、ES62～67頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	10月21日	不動産物権変動③ー時効と登記②、相続と登記	前回の授業に続いて、時効と登記の問題を学びます。その後、相続と登記の問題を学びます。例えば、Aが死亡し、子のBとCがA所有の甲土地を共同相続したのち、Bが遺産分割協議書を偽造して、甲土地の単独相続の登記を行い、甲土地をDに売却したとします。このとき、CはDに対していかなる主張ができるか（共同相続と登記）という問題を学びます。時間の許す範囲で、相続放棄と登記、遺産分割と登記についてもみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、時効と登記の問題に関する主な学説の立場を理解し、前回の授業で学んだ判例の立場もふまえて、自分の見解を示すことができるようになること。到達目標①・②・③・④に関連して、相続と登記の問題に関する判例の立場、改正法による規律を説明できるようになること。	
		事前学修	PM64～69、60～64頁、ES66～70頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	動産物権変動―178条の意義、即時取得	この回の授業では、動産の物権変動について学びます。まずは、動産の「引渡し」にはどのような種類があるのかを具体例をみていきます。その後、即時取得制度を学びます。例えば、Aが所有していたパソコンをBに貸したところ、BがそのパソコンをCに売却したとします。では、AはCからパソコンを取り戻すことができるでしょうか。この場合、「即時取得」が認められると、残念ながらAはCからパソコンを取り戻すことができません。この回では、即時取得がなぜ認められるのか、いかなる要件の下で成立するのか、をみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、どのような者が民法178条の第三者にあたるのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。到達目標①・②・③・④に関連して、具体例をふまえて即時取得制度の意義、制度趣旨、要件、効果について説明できるようになること。	
		事前学修	PM78～89頁、ES76～89頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	11月11日	所有権	この回では、まず所有権の意義についてみます。その後、所有権の制限を簡潔にふれ、隣地する土地相互間の法律関係を調整するために設けられた相隣関係、所有権の取得、区分所有について各種規定の内容を概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、所有権の意義とは何か、所有権の制限にはどのようなものがあるのか、相隣関係に関する規定の内容はどのようなもので、なぜそのような規定が設けられているのか、マンションの一部屋を所有する場合などの区分所有にはどのような規律があるのか、などについて具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	PM93～114頁、ES6～18、28～44頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	11月18日	占有権、物権のまとめ	人が物を事実上支配している場合に、その事実に基づいて様々な効果を発生させる権利を「占有権」といいます。この回では、この占有権が侵害された場合の効力、占有権の取得、不適法占有者と所有者間の法律関係について学びます。時間があれば、授業内で物権法のまとめの小テストをします。時間がなければポータルサイトを通じて行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、占有権の意義とは何か、占有権が侵害された場合にその回復のために法はどのような手段を設けているのか、占有権の取得に関してどのような規律があるのか等について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	PM131～153頁、ES107～122頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
10	11月25日	担保物権の概要	物的担保とは何か、物的担保にはどのような種類があるのか、抵当権、質権、留置権、先取特権の概要を具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、担保とは何か、人的担保、物的担保の違い、約定担保物権、法定担保物権の意義・異同について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	PM15～22、156～161頁、ES123～133、192～194、212～219頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	12月2日	抵当権の設定・効力	抵当権はどのように設定されるのか、抵当権の優先弁済的効力とは何か、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲、抵当権侵害に対する効力について具体例を通してその基礎知識を学びます。例えば、①債務者Sが債権者Gから3000万円を借り、その担保として自己所有の甲不動産に抵当権を設定しました。その後、Dが甲を放火し、甲が焼失しました。Sは火災保険に入っていました。このとき抵当権の効力は火災保険金にも及ぶでしょうか。②債権者Gが債務者Sの所有する土地に抵当権の設定を受けていました。その後、Sがお金を返さなかったため、Gが抵当権を実行したところ、第三者DがSの土地を占有していたとします。このとき、GはDに対していかなる請求ができるか、という問題をみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、抵当権の及ぶ範囲、効力について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	P1M161～186頁、ES133～143、152～155頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
12	12月9日	法定地上権	例えば、Sが土地と建物を有しており、Gからお金を借りる際に建物に抵当権を設定しました。その後、抵当権が実行されて、Aが建物を買い受けました。SはAが土地の利用権を持っていないことを理由に建物を壊して出ていけ！と言えるでしょうか。このとき「法定地上権」が成立していると、Sの主張は認められません。この回では、こうした法定地上権の意義と制度趣旨、成立要件について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、法定地上権とは何か、なぜそのような制度があるのかについて、どのような要件を満たした場合に法定地上権が認められるのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。また法定地上権が認められる場合と認められない場合について判例の立場を説明できるようになること。	
		事前学修	PM186～193頁、ES144～147頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 6 日	抵当権者と第三取得者、抵当権と利用権、抵当権の処分	抵当不動産について所有権を取得した者のことを第三取得者と言います。この回では、第三取得者を抵当権の負担から解放するための制度である代価弁済、抵当権消滅請求、建物賃借人の引渡猶予制度について学びます。次に、抵当権の処分についてみていきます。具体的には①転抵当、②抵当権の譲渡・放棄および抵当権の順位の譲渡・放棄、③抵当権の順位の変更について時間的に可能な範囲でみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代価弁済、抵当権消滅請求、建物賃借人の引渡猶予制度、転抵当、抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄、抵当権の順位の変更について具体例をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	PM193～207頁、ES148～152、155～161頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	1 2 月 2 3 日	非典型担保①	例えば、GがSにお金を貸そうとしています、その担保として提供できるのはSの工場で使用している機械くらいであるとしします。このとき、質権を利用することは理論的にはできますが、実際上は行われません。なぜなら、機械に質権が設定されると、機械はSの元を離れてしまい、工場で使用できなくなるからです。そこで、質権に代わって「譲渡担保」が利用されます。この譲渡担保とは、民法が予定していない「非典型担保」と呼ばれるものです。この回では、非典型担保の中でも譲渡担保を中心に学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、非典型担保がなぜ必要とされるのか、譲渡担保とは何か、どのような目的のために用いられるのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、譲渡担保の法律構成にはどのようなものがあるのか、を説明できるようになること。	
		事前学修	PM248～260頁、ES177～189頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
15	1 月 1 3 日	非典型担保②、担保物権のまとめ	譲渡担保・仮登記担保・所有権留保を学びます。 時間があれば、授業内で担保物権法のまとめの小テストをします。時間がなければポータルサイトを通じて行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、譲渡担保以外の非典型担保（仮登記担保・所有権留保）の概要を説明できるようになること。また担保法全体を通して分からなかったことが何か振り返り、疑問点を試験前までに解消しておくこと。	
		事前学修	PM262～270頁、ES204～209頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

科目名	平和学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○		

【授業の概要】
本授業では、国際社会の倫理という観点から、戦争と平和、環境と開発、領土と移民など、「平和」にまつわる思想的・哲学的諸問題を論じていく。現代の国際社会では、各国の経済的・社会的相互依存が深まる一方で、「自国第一主義」が目立つようになっている。この授業では、他国民に対する不偏的配慮と自国民に対する偏向的配慮の相克を理論的柱として、現代の国際社会における平和問題とその分析・評価視点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、平和学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパー、グループ討議・発表を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。						2	2				
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	イントロダクション及び導入講義	国際社会の倫理という観点から平和学の諸問題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	120分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	第一部月 4/13	国際倫理の二面性	世界に対する一般義務と自国に対する特別義務のあいだのジレンマを紹介・検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	パーマストン英国首相について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	第一部月 4/20	自国第一主義の論理	自国に対する特別義務の妥当性を、本人＝代理人関係や連帯的責務から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	トランプ大統領について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	第一部月 4/27	貧困	グローバル正義の観点から、南北の格差・貧困問題に対処すべき理由を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ODA大綱について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	第一部月 5/4	貿易	貿易の「公平性」がもつ複数の意味と、そこから支持される貿易体制を分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	WTO交渉について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	第一部月 5/11	環境	地球温暖化を例として、先進国が率先して環境問題に取り組むべき理由を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	京都議定書について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	第2～6回についての討議	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
		事前学修	第2～6回の授業内容を振り返る。	180分
		事後学修	討議内容を振り返る。	60分
8	第一部月 5/25	移民	自由および平等の観点から、国境を解放／閉鎖する様々な理由を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	スウェーデンの移民政策について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	第一部月 6/1	領土	歴史的・現在の観点から、各国が主張する領有権の妥当性および限界を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	イギリスの植民地政策について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	第一部月 6/8	戦争	自国の勝利のために何ができる／できないかを、正戦論の観点から考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	国際人道法について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	第一部月 6/15	介入	人道的危機に対する国際社会による軍事介入の妥当性および限界を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	ソマリア介入について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	第一部月 6/22	映像教材上映	授業内容に関する映像教材を上映・鑑賞する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
		事前学修	ルワンダ介入について調べる。	180分
		事後学修	教材内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	国際倫理の理想と現実	規範の軽視を招きやすい国際社会で、なお国際倫理を遵守すべき理由を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
		事前学修	国連気候変動会議について調べる。	180分
		事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第一部月 7/6	第8～13回についての討議	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
		事前学修	第8～13回の授業内容を振り返る。	180分
		事後学修	討議内容を振り返る。	60分
15	第一部月 7/13	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
		事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
		事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	法医学Ⅰ	担当者	大野 曜吉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法医学は「法律に関係のある医学的問題を研究し応用する学問」であり、医学領域では社会医学に属し、具体的問題を対象として社会活動をしなければならない立場にある。法医学では実務として司法解剖が重要であり、法学領域では刑法・刑事訴訟法などと関連する。また、民事関係でも生命保険・損害保険・損害賠償などが関連している。そこで刑事・民事・社会医学的事例を多く提示し、学生諸君に理解しやすいようにと計画する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：法医学という学問分野が医学に属し自然科学を基礎としていることを理解し、社会における様々な事件事故に法医学が果たしている役割を理解することを目的とする。 到達目標：法医学の基本的事項を修得し、回答できる。ただし医学生レベルまでは求めない。法医学の各事例について、それぞれ問題点を指摘できる。 関連DP及びCP：法律学科1， 2 公共政策学科1， 3， 4

【履修条件】
各事例については守秘を厳守願いたい。また、パワーポイントで紹介する写真などについて電子機器などでの撮影は厳禁する。学生諸君との信頼関係がないと講義が成立しないことを理解して受講されたい。

【授業方法】
パワーポイントを使って講義する。毎回プリントを1週間前までにポータルサイトにアップロードする予定。 定期試験の解説を後日ポータルサイトにアップロードする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本の検死制度・解剖制度について説明できる。		1	1					
②	死の定義、判定方法、脳死の定義について、また臓器移植法について理解している。		1	1					
③	アルコールの功罪について説明できる。		1	1					
④	死体現象、死後経過時間推定について、その困難さや法医学上の問題点をある程度説明できる。		1	1					
⑤	創傷の定義と種類、成傷器の推定について説明できる。また、頭部損傷の特殊性を理解する。交通事故の現状を理解する。		1	1					
⑥	窒息や溺水について定義と分類を説明できる。		1	1					
⑦	薬害や医療事故についてある程度説明できる。		1	1					
⑧	民事事件における法医学の役割について具体例を提示し解説できる。		1	1					
⑨	大規模災害における法医学の役割を理解し、説明できる。		1	1					
⑩	刑事事件や再審請求事件における法医学の役割と現状・問題点に関して具体例を提示して論説できる。		1	1					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	受講者数にもよるが、基本的には定期試験の成績で評価する。	5	5	5	10	10	10	5	10	10	30	100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	10	10	10	5	10	10	30	100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日、ポータルシステムで配信する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
臨床法医学テキスト	佐藤喜宣	中外医学社	2012	参考書	任意
備考	教科書としては指定しない。				

【オフィスアワー】
水曜日 講義終了後10分程度。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	法医解剖・法医学鑑定
実務経験に基づく実践的教育の内容		各講義の内容により実際の経験例などについて例示・紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 水4/8	法医学概論	法医学とその関連領域、法医学による鑑定、解剖の種類（司法・行政・承諾・死因調査法）。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）	160分
2	第1部 水4/15	検索と異状死体	死体検索と異状死体について。医療事故と異状死体届け出義務：医師法21条の届け出義務について、臨床医と法医の考え方が異なることなど。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
3	第1部 水4/22	注射と薬害	注射による大腿四頭筋拘縮症についてVTRを交えて紹介し、薬害について考える。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
4	第1部 水4/29	死の判定、脳死、アルコール	死の判定、脳死、アルコール事故：死の定義、脳死の定義と実際の脳死状態を経過した脳。アルコールによる事故についてはVTRでの紹介も加える予定。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
5	第1部 水5/6	保険と死亡の種類	死亡の種類と保険：病死・外因死（災害死・自殺・他殺・その他及び不詳）・不詳の死の区別が保険や損害賠償に重要な影響を与えること。生命保険と損害保険との相違。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
6	第1部 水5/13	死体現象	死体現象と死亡時刻の推定：死亡時刻を推定することの法医学上の重要性、早期死体現象、時間があれば晩期死体現象。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 水5/20	直腸温からの死後経過時間推定	直腸温降下曲線法と民事鑑定例：直腸温からの死後経過時間推定と事例の紹介。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
8	第1部 水5/27	窒息と民事鑑定	窒息の定義と種類、自殺か事故かが民事事件として問題となったある縊死例の紹介。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
9	第1部 水6/3	溺水と浴槽内死亡	溺水の診断、解剖所見と、入浴中の死亡の統計、民事事例紹介。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
10	第1部 水6/10	創傷と頭部損傷、交通事故	創傷の定義、頭部損傷、交通事故の現状、	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
11	第1部 水6/17	創傷鑑定と松橋事件	刺創の成傷器の推定と、再審無罪となった松橋事件について行った創傷鑑定の詳細。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	130分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	190分
12	第1部 水6/24	大量死亡事故	大規模災害や航空機事故などに際しての法医学の役割とPTSDなどの精神的傷害について。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 水7/1	食中毒と製造物責任	中毒についてと法医中毒学について。シガテラ食中毒の裁判例の紹介と製造物責任について。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	60分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	160分
14	第1部 水7/8	ロザール事件	ロザール事件（殺人否認事件）のVTRを交えた紹介と再鑑定の問題点。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	130分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。	190分
15	第1部 水7/15	トリカブト事件	トリカブト殺人事件のVTRを用いた紹介と、その詳細をナトリウムチャンネルに作用する毒物とともに講義する。	
		この回の到達目標	今回の内容についておおよそを説明できる。	
		事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。	130分
		事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の試験の後に質問する。	190分

科目名	防衛政策	担当者	藤重 博美	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
日本の安全保障にとっての主要な政策ツール（手段）である自衛隊の役割に着目し、終戦後直後から現代までの安全保障政策の歴史と現状、今後への課題について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自衛隊の役割の変遷に特に注目しつつ、戦後日本の防衛政策についての理解を深める。また、現在の日本の防衛政策について主体的に考察する能力の育成を目指す。

【履修条件】
防衛政策に関心を持っていること。

【授業方法】		
教員が行う講義が中心となる（2-1 1回）。講義はスライドを中心に行うが数分程度のビデオやWeb上の資料を見せる等して受講生の関心を喚起したい。第1 2回には、講義のまとめと期末試験のポイントを説明し、受講生が早めに試験準備に取り組めるようにする。第1 3回には、授業内容に直結したビデオを視聴することで受講生の理解を促進する。また、第1 3回に、各受講生に講義の内容や関連事項に対する質問を提出してもらい、第1 4回は、この質問に教員が答えることで双方向型の学習を試みる。第1 4回には授業内試験を実施する。さらに論理的な読解力と文章力を養うため、本授業に関連した教科書に関するレポート課題も提出される。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	大人数の授業のため、毎回の授業で双方向の学習を行うことが難しいため、第1 3回に各受講生から教員に対する質問を出してもらい、第1 4回に教員がこれに答えることで、受講生との双方向型のコミュニケーションを目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の防衛政策に関する基本的な（歴史的な流れ、重要用語、現在の課題などについての）理解を獲得する。				4	4	4	4	4			
②	現状の問題について、なぜそうなったのか、どうすれば解決できるか、今後の見通しはどのようなものであるかについて、主体的に考える力を強化する。				4	4	4	4	4			
③	時事ニュースに注意を払い、最新の情勢が本講義で学んだことと関連付けながら考察する分析力を養う。				4	4	4	4	4			
④	教科書を1冊読み通し、また、それに基づいてレポートを書くことで、論理的な読解力・文章力を育てる。				4	4	4	4	4			
⑤	授業で学んだことに対して、積極的にフィードバックを行う。				4	4	4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業の最終回（１５回）に授業内試験（一部持ち込み可）を実施。	20	15	15								50
小テスト等	第１３回で視聴するビデオに対するフィードバック、同じく第１３回に提出予定の質問（各５％ずつ）					10						10
レポート等	教科書を読んだ上でのレポート				40							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	15	40	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートについて、特に興味深い考察や重要な疑問に対して授業内にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際平和協力入門:国際社会への貢献と日本の課題	上杉勇司・藤重博美（編）	ミネルヴァ書房	2018	教科書	必携
冷戦後における自衛隊の役割とその変容	藤重博美	内外出版	2018	参考書	推奨
新訂第5版 安全保障学入門	防衛大学校安全保障学研究会（編）	亜紀書房	2018	その他	任意
国際関係・安全保障用語辞典[第2版]	小笠原高雪他（編）	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
自衛隊史：防衛政策の七〇年	佐道明広	筑摩書房	2015	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
教員に対して質問などがある場合、授業の前後に直接話しかけるか、長めの時間が必要な場合はメールでアポを取る。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自衛隊の訓練等への参加・視察
実務経験に基づく実践的教育の内容		自衛隊関係者と直接関わった経験を元に授業を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ガイダンスと導入	なぜ、日本の安全保障政策について考える必要があるのか、その中でも、なぜ自衛隊の役割について理解する必要があるのか、第2回以降、本格的に授業を行う前の導入的な講義を行った上で、授業の実施や評価の方法について説明する。	
		この回の到達目標	日本の安全保障政策について考える意義と必要性を理解する。	
		事前学修	日本の安全保障政策や自衛隊に関する書籍やニュースに触れておく。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。	100分
2	9/23	戦後（1）：日本の敗戦と占領時代～非軍事化から再軍備へ～	敗戦後の日本の安全保障政策がどのように方向付けられたか、当時の吉田茂首相が導入した基本的な方向性（吉田ドクトリン）を中心に歴史的に検討する。	
		この回の到達目標	「吉田ドクトリン」の意味を十分に理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。	100分
3	9/30	戦後（2）：安保闘争	1950年代末、日本を揺るがせた日米安保条約改定をめぐる大騒動（いわゆる「安保闘争」）を経て、日本の安全保障政策に与えたインパクトを考える。	
		この回の到達目標	「安保法制」が日本の安全保障政策に与えた影響を理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでもわからなければ、次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。	100分
4	10/7	戦後（3）：自衛隊に課せられた様々な制約	1960年代以降、自衛隊の役割に課せられた多くの制約について検討する。	
		この回の到達目標	安保闘争後、自衛隊の役割がなぜ、また、どのように抑制されていったかを理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。	100分
5	10/14	冷戦後（1）：「湾岸ショック」と「国際貢献論」の高まり	冷戦の終結直後の1990年代、日本の安全保障政策が大きく揺れ動くことになった要因とその後の変化についてみていく。（また、この授業中、レポート課題についての指示を出す。提出締切は第14回）	
		この回の到達目標	冷戦により、日本の安全保障政策がなぜ、また、いかに急激な方向転換を迫られたかを理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分
6	10/21	冷戦後（2）：流動する東アジアの戦略環境と「日米同盟の再定義」	冷戦後、日米同盟が直面した試練とその克服の過程について、1990年代前半～末の時期について学ぶ。	
		この回の到達目標	冷戦後に生じた日米同盟の役割の変化を理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	冷戦後（3）「テロとの戦い」と「北朝鮮の脅威」との交錯点	2000年代に入り、国際的には、9.11テロとアフガニスタンでの対テロ戦争、イラク戦争が立て続けに発生し、近隣では北朝鮮の脅威が先鋭化する中、日本の安全保障政策がどのように変化していったかを確認する。	
		この回の到達目標	国際的なテロとの戦いと東アジアの戦略環境の悪化が、いかに絡み合って日本の安全保障政策を変化させていったかを理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分
8	11/11	時事問題（1）：中国の軍事的台頭と日本の対応	時事問題の週は、2010年代以降の状況について学ぶ。この週は、過去10年間に飛躍的に顕著になった中国の軍事的台頭に対応するため、日本の安全保障政策がどのような対応を迫られてきたかをみていく。	
		この回の到達目標	軍事大国・中国の台頭という深刻な状況に対し、日本の安全保障政策がどのような対応を迫られてきたか、今後、どのような対策が必要かを考える。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分
9	11/18	時事問題（2）：基地問題～普天間問題に解決策はあるか？	日本の安全保障政策の基盤は日米同盟だが、一方、米軍基地の沖縄への集中という問題を招いてきた。その中でも、住宅地に近接する普天間基地の問題解決は急を要する問題にも関わらず、なかなか実現していない。その背景と今後の見通しを概観する。	
		この回の到達目標	日米同盟の重要性の背後で、沖縄が過重な基地受け入れ負担に苦しんできたこと、それにもかかわらず、その解決が容易でないことを理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分
10	11/25	時事問題（3）：自衛隊の新しい役割：国際貢献と災害派遣	冷戦後の自衛隊は、伝統的な国防の役割以外に、国内外で「人助け」を目的とした国際貢献や災害派遣の任務を行うようになってきた。どうしてそのような任務が増えたのか、その課題は何かを検証する。	
		この回の到達目標	自衛隊が、なぜ、どのように「人助け」の任務を行うようになったのか、また、今後の課題はなにかを理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分
11	12/2	時事問題（4）：日米同盟の現在と将来	日米同盟は、日本の安全保障政策の要だが、近年、不透明生が増している。現状と今後の方向性について考える。	
		この回の到達目標	日同盟が今日直面している問題および今後の方向性について理解する。	
		事前学修	次回授業のスライドを確認し、不明点があれば、自分で調べた上で、次回授業に出席し、それでも、なおわからなければ次回授業後に教員に質問する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。レポートに取り組む。	140分
12	12/9	講義のまとめ：試験と課題についての説明	第11回までの講義を振りかえった上で、試験範囲や内容について説明する。	
		この回の到達目標	試験によって、何を問われるか、その目的を理解する。	
		事前学修	講義のまとめの週なので、これまでの授業の資料をすべて振り返りる。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返り、試験勉強を始める。レポートに取り組む。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	映像学習：東日本大震災時の自衛隊災害派遣についてのビデオ視聴	東日本大震災時に自衛隊が行なった史上最大の災害派遣についてのドキュメンタリービデオを視聴し、授業の後半では、そのビデオについてのリアクションペーパーを書く（1ページ程度）。	
		この回の到達目標	自衛隊の活動の実例について、映像教材で理解を深める。	
		事前学修	東日本大震災時の自衛隊の災害救援活動について、書籍やインターネットなどで調べておく。また、この週に、第14回授業のための質問を準備する。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。理解が十分でない点があれば、次回授業時、教員に質問できるように準備する。試験準備をする。レポートに取り組む。	200分
14	12/23	授業内容についての質疑応答	第13回に受講生から提出された質問に対して教員が回答したり、補足説明を行う。	
		この回の到達目標	この授業を通じて抱いた疑問が解消される。	
		事前学修	疑問に思ったことについて、自分なりに調べてみる。	100分
		事後学修	授業の内容を振り返る。試験準備をする。	200分
15	1/13	授業内試験と解説	本授業の内容を十分理解できたことを授業内試験と解説によって確認する。	
		この回の到達目標	期末に試験を実施することによって、本授業で学んできた内容の定着を目指す。試験後の解説によって、より理解を深める。	
		事前学修	第12週で説明した試験内容に基づいて準備する。	200分
		事後学修	この授業を通じて何を学んだか、振り返ってみる。	80分

科目名	法学Ⅰ	担当者	上野 幸彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
基本的に教科書によりながら講義の形式で行う。しかし、多様な意見に接することも、法学の学修においては大切であり、大勢の受講者がいるクラスの授業では制約も大きいですが、できるだけ受講者の意見を共有しながら議論できるチャンスを設けたい。なお、法律について学ぶ授業なので、学習の道具として「六法」は欠かせない。毎時間、必ず六法を持参のこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記によるテスト実施後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国家と社会の基本法（第4版）	上野幸彦・古屋等	成文堂	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室にて10分程度応接する。これ以外に、メールによる質問等を随時受け付ける。メルアド：ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	【法律の条文】	法律の学習を始める出発点として、まず法律にはどのようなことが記述されているのかを、実際に具体的な条文（規定）に触れながら理解し、条文の基本的な読み方、法律の分野における表現上の決まり、法律用語の使い方などについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法律の条文を実際読み、「六法」に収録されている法律の分け方について理解し、その理由を説明することができる。	
		事前学修	六法（ポケット六法）を手にとって、「日本国憲法」、「民法」、「刑法」というタイトルの法律の条文を読んで、どんなことが書かれているのか確認する。	120分
		事後学修	六法の引き方・使い方を再確認し、一般の用法とは異なる法令上の用語法について復習する。（1時間）	120分
2	第一部 火4/14	【法律の規定の意味について】	法律の条文の記述を通じて、その規定の意味について考える。条文の構造を分析しながら、その条文から導きだされる具体的な意味・内容を明確に理解し、法規定と規範的特質との関係について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、実定法の規定構造を理解することにより、法の規範的な性質とその機能について説明することができる。	
		事前学修	法律の条文には、さまざまな指図が含まれている。そこで、刑法199条、177条、179条1項、民法709条、415条1項、4条、憲法13条、21条1・2項、25条1・2項、41条、66条1項、76条1項の各規定について、指図（ないしルール）の内容を確認するとともに、その指図が、誰による、誰に対するものなのかを考える。	120分
		事後学修	法律用語等につき、ポータル上の「演習問題1」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
3	第一部 火4/21	【法の分類】	法は、さまざまな観点から分類・整理することができる。ここでは、存在形式、法律関係の対象、規定の内容などを基準として整理し、法のさまざまな種類について知ることにより、法の多様性について理解する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法をどのような仕方で認識でき、またどのような基準で分類されているのかを知り、法の存在形式および主要な分類について説明することができる。	
		事前学修	教科書214～216頁を読み、（1）国内法と国際法の特徴的な違いと国際法の法源、（2）公法と私法とを区別する一般的な基準とそれぞれに属する代表的な法律、（3）社会法に分類される典型的な法律をチェックしてくる。	120分
		事後学修	規範的構造、法の分類につき、ポータル上の「演習問題2」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
4	第一部 火4/28	【国家法の体系的構造】	主権者自身が制定した「憲法」を頂点とする国家法の段階的構造を中心に、憲法と条約との関係、国家法と自治体の自主法との関係、さらに制定法と慣習法との関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法の形式的効力による分類を理解し、一国の法体系が階層構造に基づき成立していることを説明することができる。	
		事前学修	「日本国憲法」、「法律」、「命令」の制定主体は誰か、そしてこれらの形式的効力の優劣関係、さらに制定法である法律と不文法である慣習法との関係について、教科書221～225頁を参照して予習しておく。	120分
		事後学修	制定主体による法の分類について再確認するとともに、国家主権との関連における憲法と条約をめぐる優劣の問題や国の法令とは別個独立した条例を制定する場合の限界などの問題について復習する。	120分
5	第一部 火5/5	【法と道徳】	法と道徳との関係や異同に関する伝統的な見解について説明するとともに、道徳に反する法の有効性や道徳に違反しているという理由だけに基づいて法によって強制することの正当性の問題について議論し、考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、社会規範として法と同様の性質を有する道徳との比較を通じ、法と道徳それぞれの妥当領域を理解し、法と道徳との違いと関連について説明することができる。	
		事前学修	法と道徳との関係や違いについて、教科書206～211頁を参照して整理するとともに、現在、欧米では同性婚を認める国が増えているが、婚姻の成立を異性婚に限っている日本の法制度について、その根拠を調べるとともに、問題点を指摘する。	120分
		事後学修	制定法の種類や相互関係、法と道徳に関する問題について、ポータル上の「演習問題3」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
6	第一部 火5/12	【法と裁判】	法と裁判との相互関係について歴史的に分析したうえ、日本の司法システムについて、日本国憲法及び裁判所法に基づいて説明するとともに、民事及び刑事事件に関する手続の概要について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、法と裁判との歴史的・機能的な結びつきと裁判の手続きを理解し、両者の関係と裁判手続の概要を説明することができる。	
		事前学修	日本の司法システムについて、（1）裁判所の組織・権限（教科書89～91頁参照）、（2）民事及び刑事手続の概要（教科書231～236頁、240～244頁参照）を予習しておく。	120分
		事後学修	公正な裁判を支える一般的な原則を確認し、日本の裁判システムにおいて、具体的にどのような形で表れているのかをチェックする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19	【実際の裁判例と法の解釈・適用（１）】	夫婦が生殖補助医療により代理母に出産させた場合における親子関係が問題となった裁判例を取り上げて、新たな問題に対する現行法上の解釈の限界や立法的措置の必要性等について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。	
		事前学修	最高裁判所平成19年3月23日決定を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分
		事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。	120分
8	第一部 火5/26	【実際の裁判例と法の解釈・適用（２）】	従来の判例の傾向とは異なる判断を下した裁判例として注目される事件を取り上げて、変更に至った背景や実質的な考慮を探り、「解釈する」という営みの中にどのような価値判断が控えているのかを明らかにする。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。	
		事前学修	最高裁判所平成27年4月9日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分
		事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、裁判官がこのような結論を採用するにあたってどのような事情を考慮したと推測できるかを分析し、このような結論が社会に及ぼす影響やその判断の是非を検討する。	120分
9	第一部 火6/1	【実際の裁判例と法の解釈・適用（３）】	刑罰法規における解釈の特徴について理解するとともに、法廷意見と反対意見とを比較しながら、理論的な問題点について分析する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。	
		事前学修	最高裁判所昭和60年10月23日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。	120分
		事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。	120分
10	第一部 火6/9	【解釈の技法と法の適用】	法律の規定を適用する際の解釈の方法について、これまで授業で取り上げた裁判例を含め、具体的な事例を素材にしながら、解釈を通じた適用の在り方を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、法の適用における法解釈の方法を理解し、解釈の技法と法解釈の特徴について説明することができる。	
		事前学修	教科書225-228頁を読み、法解釈の一般的な方法について予習しておく。	120分
		事後学修	司法システム、裁判手続、法の解釈・適用につき、ポータル上の「演習問題4」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次回の授業時に行う。	120分
11	第一部 火6/16	【法の紛争解決機能】	社会的な紛争解決の諸方式と裁判とを対比させながら、法と裁判の特徴を理解するとともに、司法及び裁判システムについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①④に関連して、裁判の紛争解決機能の特徴について理解し、法機能の一部である紛争解決機能について説明することができる。	
		事前学修	教科書218-219頁、229-230頁を参照しながら、紛争を解決する方式について、裁判による場合とそれ以外の方式（ADR）とを比較し、それぞれの方式のメリットとデメリットを指摘し、裁判の特徴について説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	日本の司法システムにつき、日本国憲法及び裁判所法の規定を参照しながら、裁判所の組織・権限を整理し、また民事・刑事に関する裁判手続の概要についてまとめる。	120分
12	第一部 火6/23	【社会システムとしての法】	社会の秩序化を図る法という観点から、法の社会統合・秩序化機能と関連させながら、法と国家との関係や法と強制との結合について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会における法の機能について理解し、法の社会的機能を説明することができる。	
		事前学修	法が存在しない社会を仮定したうえで、その状態と法の必要性ないし存在根拠について考える。	120分
		事後学修	社会的機能や社会システムという観点から、法の特徴を分析し、法の構造的な特質について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30	【法の理念】	法の価値に関する側面に焦点を当て、とくに正義と法的安定性という価値について、実定法と関連させながら学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法に内在する価値的側面に注目し、法理念としての正義や法が果たしている規範的正当化機能について説明することができる。	
		事前学修	教科書211-214頁を読み、法の理念に関するこれまでの考え方について予習し、実定法の中に正義あるいは法的安定性の理念が具体的にどのような形で表れているのか、確認する。	120分
		事後学修	法の構造及び理念に関して、ポータル上の「演習問題5」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
14	第一部 火7/7	【授業内試験及び解説】	これまで行ってきた授業につき、学修の定着度をチェックするためテスト（45分間）を実施し、併せて解説を行うことにより、知識の正確性及び理解の的確性の向上を図る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、これまでの授業を振り返り、学修の成果をチェックするために試験を行い、その後解説する。	
		事前学修	これまでの授業内容を振り返り、学習した内容をチェックするとともに、自己の知識や理解を確認する。	120分
		事後学修	テストの問題について、各自見直しを行い、条文・裁判例等をチェックしながら確認の作業を行う。	120分
15	第一部 火7/14	【法とは何か】	これまでの授業と学修の積み重ねに基づき、「法とは何か」というテーマで、議論する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、各自の意見を法的に表現し、法的思考によりながら自分の主張を述べることができる。	
		事前学修	「法とは何か」、あらためて各自考えてくる。	120分
		事後学修	他の受講者の意見や議論を振り返り、自分の意見と比較しながら再検討し、もう一度各自の見解を見直す。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
講義形式によって行うことになります。 授業内試験の解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】						1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】						1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】						1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】						1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】						1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】						1				1			
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回目に行う他、教員学生フォルダにもアップをいたします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（金曜17：50）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/10	法律学の勉強の仕方①	法律学の勉強の仕方や議論の仕方などの大枠について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①②に関連して、法律学のイメージを形成し、法律学がどのような学問なのかを説明することができるようになる。
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。
2	4/17	法律学の勉強の仕方②	条文の読み方について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、条文を自分で調べ、参照することができるようになる。
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、「ポケット六法」に付いている「有斐閣六法の使い方・読み方」(小冊子)を再確認するようにしてください。
3	4/24	法律学の勉強の仕方③	判例の読み方および検索の仕方などの大枠について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①④に関連して、判例を自分で調べ、参照することができるようになる。
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、学内又は学外の判例検索ツールで、判例検索を行ってみるようにしてください。
4	5/1	法曹養成	法律学を勉強することによって、どのような特殊な職業に関連していくのかを学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標①に関連して、法律学と関連の強い職業について他者に紹介することができるようになる。
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法学部で学んだことを、ご自身の将来の職業にどう活かしていきたいかを考えてみてください。
5	5/8	法とは何か①	法と社会生活、および、法と道徳について、それぞれの違いについて学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、法とは何かということを、他の社会規範と照らして説明をすることができるようになる。
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法と道徳の違いについてはご自身でも考えてみてください。
6	5/15	法とは何か②	法を担保する上で重要な手段の1つである強制について学んでいくことになります。
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、法の強制との関係について説明をすることができるようになる。
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	法とは何か③	法の目的として、法的安定性や正義などについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、法の目的である法的安定性や正義について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法的安定性と正義についてはご自身でも考えてみてください。	120分
8	5/29	法とは何か④	権利と義務とは何か、そしてこれらの関係について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標③⑤⑥に関連して、権利と義務について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ご自身のこれまでを振り返ってみて、権利のみを主張して義務を果たしていなかったかを検証してみてください。	120分
9	6/5	法の適用	法を実際に適用する場面である裁判制度の概要とそこでの訴訟手続の諸原則について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して、裁判手続の概要について理解ができ、そしてこれらを説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、裁判所の種類や、訴訟手続上の原則については覚えるようにしてください。	120分
10	6/12	法源①	法源として、実際に文書化されている制定法と呼ばれるものについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、制定法とは何かを説明することができるようになり、そしてその種類を挙げることができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、制定法にどのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。	120分
11	6/19	法源②（慣習法、判例、学説、条理）	法源として、いわゆる不文法（慣習法、判例、学説、条理）について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、不文法とは何かを説明することができるようになり、そしてその種類を挙げるができるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、不文法源にはどのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。	120分
12	6/26	法の分類	法の分類方法として、公法と私法の違いについて学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標①③に関連して、公法とは何か・私法とは何かを説明することができるようになり、そして、それぞれどのような法律があるのかを挙げるができるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公法と私法にそれぞれ、どのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7／3	法の解釈	法の解釈の種類について学んでいくことになります。	
		この回の到達目標	主に到達目標④⑤⑥に関連して、法解釈の種類について説明をすることができるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法の解釈の種類については覚えるようにしてください。	120分
14	7／10	まとめと授業内試験	これまでに授業で学んだことを再確認することになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、これまでに学んだ知識・思考を他者に伝達できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から3および教科書の該当ページについては、再度復習するようにしてください。	120分
		事後学修	間違えたところなどを再確認するようにしてください。	120分
15	7／17	フィードバック	授業内試験において間違えた箇所および、その他理解が十分でなかった箇所について再確認することになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、理解が不十分な箇所をフォローアップし、より発展的な思考へと結びつけることができるようになる。	
		事前学修	参考資料や教科書、そしてフィードバックを確認するようにしてください。	120分
		事後学修	法学Ⅱだけではなく、他の法律関係科目にも、法学Ⅰで学んだことは活かしていく必要があるため、理解が不十分な箇所については確認するようにしてください。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
シラバスに従って教科書の該当箇所を読んできていることを前提に解説し、随時グループディスカッションやディベートを行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションやディベートによる	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】	
提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う。	提出されたレポートに添削し、返却する。また、ディベート等のあと、講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホーンブック法学原理 ンブック法学原理	ホー 沢木・荒木・南部 沢木・荒木・南部 沢木・荒木・南部	北樹出版 北樹出版 北樹出版 北樹出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜16時20分から17時の間、本館9階1904号室で実施する。なおメールで予約して下さい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本BBS連盟副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等 副会長・顧問、警視庁委員会委員、東京家裁ボランティア等 日本BBS連盟
実務経験に基づく実践的教育の内容		司法機関や施設の見学を実施する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス・導入講義	法の技術性と価値判断について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、法文化と一般常識の差異について説明できる	
		事前学修	教科書の序章を読んでおく	120分
		事後学修	法文化と一般常識の差異について理解する	120分
2	4/16	法とは何か（1）	規範としての法とその目的について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連し、法の目的について説明することができる	
		事前学修	教科書の19～32ページを読んでおく	120分
		事後学修	規範の種類についてまとめておく	120分
3	4/23	法とは何か（2）	行為規範の種類と相互の関係について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連し、法と道德の関係を説明することができる	
		事前学修	教科書の32～39ページを読んでおく	120分
		事後学修	法と道德の関係を整理しておく	120分
4	4/30	法とは何か（3）	権利義務の内容と権利の乱用について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②関連し、権利義務の内容と権利の乱用について説明することができる	
		事前学修	教科書の40～59ページを読んでおく	120分
		事後学修	権利義務の内容とその分類、及び権利の乱用についてまとめる	120分
5	5/7	法と実力	法的制裁の内容と種類について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②関連し、法的制裁の役割について説明することができる	
		事前学修	教科書の59～71ページを読んでおく	120分
		事後学修	法的制裁の役割についてまとめておく	120分
6	5/14	法と言語	法的な言語の意味と解釈の種類について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、解釈の種類と内容について説明することができる	
		事前学修	教科書の72～90ページを読んでおく	120分
		事後学修	解釈の種類と方法について、その差異をまとめておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	法の目的と理念	具体的妥当性と秩序維持について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、法の目的である具体的妥当性と秩序維持について説明することができる	
		事前学修	教科書90～103ページを読んでおく	120分
		事後学修	法の目的としての具体的妥当性と秩序維持の関係についてまとめる	120分
8	5/28	法系と法の継受	日本の法の成り立ちと形式について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、日本法の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書104～114ページを読んでおく	120分
		事後学修	大陸法と英米法のミックスされた法体系である日本法を理解する	120分
9	6/4	法源（1）	制定法から附合契約についてまでを学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、制定法の役割について説明することができる	
		事前学修	教科書114～129ページを読んでおく	120分
		事後学修	成文法と不文法、とりわけ制定法に関する事項についてまとめる	120分
10	6/11	法源（2）	慣習法、判例法、学説、通説、条理について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①に関連し、制定法以外の法源について説明することができる	
		事前学修	教科書129～150ページを読んでおく	120分
		事後学修	制定法以外の法源の効力や社会生活における適用事例について整理しておく	120分
11	6/18	裁判制度の基礎	裁判制度の歴史と一般原則について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、裁判制度の歴史と一般原則について説明することができる	
		事前学修	教科書151～158ページを読んでおく	120分
		事後学修	現行裁判制度に至る歴史的な発展についてまとめる	120分
12	6/25	民事紛争の解決	紛争解決制度の種類とその効力について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、紛争解決制度の種類について説明できる	
		事前学修	教科書159～169ページを読んでおく	120分
		事後学修	民事に関する紛争解決の制度の違いについてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	裁判制度とその理念	裁判制度と公正かつ公平な裁判を担保する理念について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、紛争解決制度の種類について説明できる	
		事前学修	教科書159～169ページを読んでおく	120分
		事後学修	民事に関する紛争解決の制度の違いについてまとめる	120分
14	7/9	裁判の基本原則	当事者主義に基づく裁判とは何かについて学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、当事者主義の裁判構造について説明ができる	
		事前学修	教科書181～205ページを読んでおく	120分
		事後学修	当事者主義、自由心証主義、挙証責任について整理し、まとめておく	120分
15	7/16	まとめと試験	用語に関する書き取りと説明　＋　論述試験　を実施する	
		この回の到達目標	1 4回の講義を踏まえ、歌津目標の①～⑤に関する基本的な知識を有しているかについて評価する	
		事前学修	1～1 4回までの講義中に、書き取り試験にする項目と論述試験にする項目について触れるので、復習しておく。	120分
		事後学修	論点整理をして、課題について適切な回答ができたか、自己採点してみる	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法（令和2年[2020年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。また、授業の妨げとなる行為（私語、スマートフォン等の電子機器の使用）を禁ずる。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代法学入門[第4版]	伊藤正己・加藤一郎編	有斐閣	2005年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	【イントロダクション】 【導入講義】	法学の全体像、法と常識、法と社会生活を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、法学の理解を深めるための必要事項、法と常識、法と社会生活を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の1頁から11頁までを読み、社会生活において法の果たす役割を説明できるように準備する。	120分
		事後学修	ガイダンスを踏まえ、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、法と社会生活との関係を整理する。	120分
2	第一部月 4/13	【法とは何か】	法と道徳、法と強制、法の目的等を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と道徳との違い、法と強制（国家的サンクションを含む）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の7頁から32頁までを読み、法と道徳（法と強制を含む）との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法と道徳（法と強制を含む）との関係を整理する。	120分
3	第一部月 4/20	【裁判の基準となるもの－法源】	紛争解決ルールという観点から、法源（法の実在形式）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、法源の種類（制定法、慣習法、判例等）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の49頁から65頁までを読み、法源の種類を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、裁判の基準という観点から、制定法・慣習法・判例の違いを整理する。	120分
4	第一部月 4/27	【法の分類】	制定法である公法と私法との関係、実定法の体系を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、公法と私法の分類のほか、実定法の体系を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の83頁から93頁までを読み、公法と私法の関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、裁判の基準という観点から、公法と私法の関係（公法と私法の融合を含む）を整理する。	120分
5	第一部月 5/4	【国家と法－憲法】	公法に属し、国の基本法である憲法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本国憲法の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の94頁から109頁までを読み、近代憲法の特徴、日本国憲法の基本原理を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、日本国憲法の基本原理を整理する。	120分
6	第一部月 5/11	【犯罪と法－刑法】	犯罪と刑罰に関する刑法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、犯罪と刑法、刑法の機能、犯罪の成立要件を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の111頁から127頁までを読み、刑法の機能、犯罪の成立要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、犯罪の成立要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	【財産関係と法Ⅰ－民法 (総則・物権法・債権 法)】	財産法の全体像、取引の主体・客体、取引の手段たる契約を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、法と権利義務、財産法の基本原則、権利能力・行為能力、物の分類のほか、契約（契約の諸類型、売買契約、賃貸借契約等）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の26頁から31頁、141頁から155頁までを読み、財産法の基本原則、権利能力・行為能力、物の分類のほか、契約の諸類型・締結を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、権利能力と行為能力との違い、物権と債権との関係を整理する。	120分
8	第一部月 5/25	【財産関係と法Ⅱ－民法 (債権法)】	契約と不法行為との違い、債務不履行・不法行為による損害賠償を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、債務不履行による損害賠償と不法行為による損害賠償、過失責任の原則とその適用範囲を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の146頁から155頁までを読み、契約と債務不履行との関係、債務不履行・不法行為による損害賠償の要件の比較、債務不履行と不法行為との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、契約と債務不履行との関係、債務不履行・不法行為による損害賠償の要件の比較、債務不履行と不法行為との関係を整理する。	120分
9	第一部月 6/1	【家族生活と法Ⅰ－民法 (親族法)】	家族法の意味（財産法との対比）、婚姻・離婚、親子関係を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、家族法の全体像、婚姻・離婚、親子（嫡出子・非嫡出子、親権と後見）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から136頁までを読み、婚姻・離婚の要件、嫡出子・非嫡出子との違いを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、婚姻・離婚の要件、嫡出子・非嫡出子との違いを整理する。	120分
10	第一部月 6/8	【家族生活と法Ⅱ－民法 (相続法)】	相続制度の概要のほか、扶養を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標③に関連して、相続制度の概要（遺言、遺留分、相続人、遺産分割）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から139頁までを読み、遺言、遺留分、相続人、遺産分割を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、遺言、遺留分、相続人、遺産分割相互の関係を整理する。	120分
11	第一部月 6/15	【法の適用Ⅰ】	具体的事件への法の適用、裁判制度を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、民事事件・刑事事件の各裁判制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の33頁から42頁までを読み、民事事件・刑事事件の各裁判制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、具体的事件への法適用の理解を踏まえて、民事事件・刑事事件の各裁判制度の違いを整理する。	120分
12	第一部月 6/22	【法の適用Ⅱ】	裁判制度、訴訟手続の諸原則、強制執行を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標④に関連して、裁判制度の概要を踏まえて、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の36頁から47頁までを読み、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	【法の解釈Ⅰ】	事実認定と法の解釈を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法的三段論法、事実認定、適用法規の解釈を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の66頁から76頁までを読み、法的三段論法（事実、法規、結論）、を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法的三段論法（事実、法規、結論）を踏まえて、事実認定、適用法規の解釈を整理する。	120分
14	第一部月 7/6	【法の解釈Ⅱ】	法の解釈の性質・方法を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法の解釈の性質・方法を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の66頁から80頁までを読み、法の解釈の性質・方法を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、法の解釈の性質・方法を整理する。	120分
15	第一部月 7/13	【総合】	これまでの授業における学修項目の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べ、説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の1頁から155頁までを読み、各学修項目のポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえて、項目相互間の関連性を整理する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
なるべく出席し、あらかじめ図書館等で下調べをして講義に参加することを望む。また、六法は必ず持参のこと。

【授業方法】
板書を中心とした講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ法学〔第3版〕	高橋雅夫編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 水4/8	講義の方針についての説明	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法律学の学習方法や研究方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	テキスト第1章「法の学び方」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法の学び方について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	第一部 第二部 水4/15	法の目的について	法の目的である正義・合目的性・法的安定性とは、それぞれどういうことであるかを具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の目的の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	正義、合目的性、法的安定性について自分なりに説明できるようにて、ノートを整理しておく。	120分
3	第一部 第二部 水4/22	法の社会的機能について	法の伝統的な三つの機能に加え、法の機能の拡大化によって注目されるようになった機能について具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の社会的機能の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法の伝統的機能に加え、新しく注目される機能について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	第一部 第二部 水4/29	法とその隣接領域について	法と緊密に隣接する領域である道徳・政治・経済との関係について具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法と隣接する領域の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法と道徳、政治、経済との関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	第一部 第二部 水5/6	法源（成文法）について	成文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、それぞれの関係はどのようなになっているのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が成文法の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	成文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	第一部 第二部 水5/13	法源（不文法）について	不文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、成文法との関係はどのようなになっているのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が不文法の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	不文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 水5/20	法の分類（公法・私法・社会法、実体法と手続法）について	公法・私法・社会法および実体法・手続法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	公法・私法・社会法の内容と実体法と手続法の関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	第一部 第二部 水5/27	法の分類（強行法と任意法、一般法と特別法、固有法と継受法）について	強行法と任意法・一般法と特別法・固有法と継受法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	強行法と任意法の内容、一般法と特別法の関係、固有法と継受法の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	第一部 第二部 水6/3	法の効力範囲について	法の時間的・場所的・人的効力範囲とはどのようなことを言うのか、具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の効力範囲の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第2章「法の内容」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法の時間的、場所的、人的効力について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	第一部 第二部 水6/10	法と裁判について	日本の裁判制度はどのようなシステムになっているのかについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	日本の裁判制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	第一部 第二部 水6/17	裁判の特質について	裁判には様々な制約原理がある。また、裁判という紛争解決システムには制約からくる限界がある。これらはどのようなことなのか、そして限界を避けるために色々なシステムが構築されている。これらについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	裁判をめぐる制約原理とシステムの限界について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	第一部 第二部 水6/24	法的事実の認定方法について	裁判における事実認定の方法＝証拠をめぐる問題とさまざまな事情で事実認定が不可能になった場合どのような方法をとるのかについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、学修者が事実認定の方法を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	事実認定の方法と事実認定が不可能な場合の方法について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 水7/1	法解釈の意義について	認定された事実について法を適用するために、解釈という作業を行う。この法解釈はなぜ必要なのか、また法解釈は誰が行うのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	法解釈の必要性、法解釈の機関について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	第一部 第二部 水7/8	法解釈の技法について	法解釈にはさまざまなテクニックがある。これらについて具体例を挙げて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
		事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
		事後学修	各種の法解釈の技法の内容と具体例について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	第一部 第二部 水7/15	半年間の総括	半年間をふりかえり、補充説明等を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の総括を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	テキストなどを参照して、ノート等を整理する。	120分
		事後学修	テキストなどを参照して、ノート等の不備な箇所を補充する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
実務や学界の動向，最新判例，債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し，どのように考えるかを口頭で表現してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学入門	早川吉尚	有斐閣	2016	教科書	推奨
リーガル・リサーチ&レポート 第2版	田高寛貴	有斐閣	2019	教科書	推奨
実定法学入門 第3版	田中英夫	東京大学出版会	1974	教科書	任意
備考	基本的にレジュメを配布して授業を行うが、各自自分に合った教科書を準備することが好ましい。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取る） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、法学で学ぶ規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス及び導入講義	授業内容、授業の進行方法、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を行い、これから学習する法学の導入部分や学習方法について説明し、今後の学習準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学が実社会においてどのような地位を占めているかが説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、六法の条文を読むなどして、法律の文に慣れておく。	120分
		事後学修	授業で扱った法学についての説明を確認し、法の必要性や社会的意義を踏まえ、法学がどういった事柄を対象としたものかを理解し、自分なりに説明できるようにする。	120分
2	第一部 水4/15	法とは何か1	形式的な「法律」以外にも様々な社会的規範としての「法」が存在する。それぞれの性質が異なっているが、どのような社会規範としての「法」が存在するのか、各社会規範の役割等について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「法律」及びその他の社会規範について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書を読み、社会規範としての法にはどのような形式のものが存在するか確認する。	120分
		事後学修	「法律」以外にもどのような社会規範が存在するのか、また、なぜそのような社会的規範が存在し、その社会規範は法にどのような影響を与えるものかについて、自分なりに説明できるようにし、疑問点を質問できるようにする。	120分
3	第一部 水4/22	法とは何か2	形式的には同じ「法律」として扱われるものにも「私法」や「公法」といった分類がなされることがあるが、どのような目的によるものか、またその性質がどのように異なるものであるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公法と私法の分類及び解釈の仕方について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書を読み、法の構造について、公法・私法・国際法とは何かを確認し、それぞれがどのような定義であるかを確認する。	120分
		事後学修	各法がどのような分野を規律しているものか整理し、それぞれの役割の違いを理解し、それぞれの特徴について説明ができるようにしておく。	120分
4	第一部 水4/29	法学の学習について	実際に条文を読み、法律の適用の仕方を学ぶ。前回までに学んだ法律の分類(公法、私法、刑法等)がどのように反映されているかについて実感できることを目的とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、法律の分類と適用の仕方の関係について説明できる。	
		事前学修	前回までの授業で扱った法の社会における役割を確認し、法学が学ぶ対象としている法律がどいったものかについて確認する。	120分
		事後学修	実際に授業で扱った条文の読み方や適用の仕組みについて、法律の分類に気を付けながらなぜそのような適用がなされるのか自分の言葉で説明できるようにする。	120分
5	第一部 水5/6	法源1	法源とは何かについて、具体的な例を交えながら解説を行う。また、そのような法源がどのような機能を有しているか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法源の機能について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、法源という概念がどのようなものか確認し、どのような機能を有しているかを確認する。	120分
		事後学修	法源としての法の機能がどのようなものか、授業中に扱った分類の仕方とその性質について自分なりに説明できるようにする。	120分
6	第一部 水5/13	法源2	制定法の法源と判例法の法源について、どのように役割が異なっているかを考え、具体的な事例をもとにその機能を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、制定法と判例法の機能の違いについて説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、制定法と判例法がどのように異なり、どのような機能を営むのか確認する。	120分
		事後学修	制定法と判例法の機能の違いを理解し、具体的な事例において、どのような適用関係となるか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	法の分類1	強行法規や任意法規について、法律を分類する意義ないし必要性を理解し、どのような立法趣旨が存在するのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、強行法規と任意法規の機能の違いについて説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、強行法規、任意法規の概念を調べ、どのような機能を有しているかを確認する。	120分
		事後学修	各法の分類を行う意義及び各法の性質の違いを理解し、どのような制度趣旨が存在するのかを説明できるようにする。	120分
8	第一部 水5/27	法の分類2	実体法と手続法という概念の区別があるが、初学者にとっては非常にわかりにくい概念であり、それぞれの定義と実際に営んでいる機能について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連して、実体法と手続法の違いについて説明できる。	
		事前学修	前回の授業の復習をするとともに、各自の教科書で、実体法と手続法についてそれぞれの定義を確認する。	120分
		事後学修	具体的な実体法と手続法にはどのような法律が分類されるのかを確認し、それぞれの特色について説明ができるようにする。	120分
9	第一部 水6/3	私人間における法適用1	私人間に適用される法は、どのような解釈ないし適用がなされており、そのような法解釈ないし法適用はどのような目的の下に行われているのか解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私人間の法適用について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、私人間に適用される法律としてどのような法律が存在するのかを確認しておく。	120分
		事後学修	私人間における法適用の特徴がどのようなものであり、当事者の利害関係についてどのような配慮をしているか説明できるようにする。	120分
10	第一部 水6/10	私人間における法適用2	私人間における法適用と公法の適用では、どのような点が異なっており、考え方がどのように異なるのかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私人間の法適用に関して公法の適用との相違について説明できる。	
		事前学修	各自の教科書で、私人間における法の適用と公法の適用ではどのような差異があるか確認しておく。	120分
		事後学修	私人間における法の適用では、どのような特徴があるか、公法の場合と比較して理解できるようにし、その特色を説明できるようにする。	120分
11	第一部 水6/17	解釈論と立法論1	法学では解釈論を学ぶことが多いが、立法的な対応がなされることもあり、従来どのような内容が立法的に解決されてきたのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、解釈論と立法論の概要について説明できる。	
		事前学修	不明確な条文があった場合にはどのような問題が生じるか、また、新たに立法が必要になるのはどのような場合か考えてみる。	120分
		事後学修	解釈論の限界と立法論の必要性について、具体的な例を踏まえて説明できるようにする。	120分
12	第一部 水6/24	解釈論と立法論2	実際に裁判になった事案であり、解釈論の限界を超え、実質的に立法に近いと批判されることのある事案を紹介し、解釈論について考えてもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、解釈論の限界について説明できる。	
		事前学修	前回の授業を復習し、解釈論と立法論がどのように異なるか理解できているか確認する。	120分
		事後学修	授業内で扱った事案について、裁判所が行った判断がどのようにして正当化できるのか、あるいは、正当化できないのかそれぞれ検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水7/1	法の実現	実体法上認められた権利は、実際に実現されなければ意味がないが、法律はどのような手段を用意しているのか、及び法の実現のために実際の裁判所がどのような対応をしており、どのような制度が用意されているのかについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、法の実現と裁判手続について説明できる。	
		事前学修	実際に裁判所のホームページなどを確認し、裁判所の手続を確認してみる。	120分
		事後学修	裁判所における手続を具体的に理解し、各段階でどのような意義があるのか考え、実体法上の権利をどのようにすれば実現できるか説明できるようにする。	120分
14	第一部 水7/8	まとめ及び授業内試験	前期の授業内容のまとめをするとともに、前期の授業内容を俯瞰し、大きなシステムとしての法がどのような機能を営んでいるかを解説し、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学の機能について説明できる。	
		事前学修	前期の授業をまとめ、それぞれの制度を自分の言葉で説明ができるか確認し、不明点を確認しておく。	120分
		事後学修	今後の学ぶ具体的な法律の予習の際に、法的思考能力が身につき、論理的に考えられているかを実践する。	120分
15	第一部 水7/15	試験講評	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、試験の講評を踏まえて、今後の法律の学習に必要な法学の機能について説明できる。	
		事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
		事後学修	全15回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	西山 智之	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎授業終了時にリアク ションペーパーを提出してもらい、その次の回にリアクションペーパーに記載されていた意見や質問に対応する。また学期末試験については、web上で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ [第3版]	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	授業の進め方、勉強の仕方についての説明	授業の目的、到達目標、授業の方法、評価方法等について受講生に説明した上で、法を学ぶとはどのようなことなのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が次回以降の授業の準備を円滑に行うことができる。	
		事前学修	法に関するものならば何でも良いので、自らの関心のある法に関係したテーマを見つけて学習意欲を高め、ノートに記述してくる。	120分
		事後学修	授業で配布したレジュメを見直し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、法学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で記述する。	120分
2	4月15日	法に関する情報の探し方	インターネット上の判例検索システムや雑誌記事索引データベース等を中心に、法に関する学術論文や判例はどのように探せばいいのかについて解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が今後大学での学習を進めるうえで、自ら必要な情報を集めることができる。	
		事前学修	インターネットや図書館等で法に関する情報源にはどのようなものがあるのかを調べ、ノートに列記してくる。	120分
		事後学修	実際に自分が関心のある法に関するテーマの文献等を、インターネット上のデータベースで検索し、その論文や判例を読み、ノートに500文字程度で要約してみる。	180分
3	4月22日	社会と秩序と法	社会において、法がなぜ必要なのかについて身近な事例を用いて解説し、法の存在理由について理解を深めてもらう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が法の存在理由について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書12頁、23～26頁を読み、なぜ社会には法が必要なのかについて考え、自分なりの意見をノートに列記してくる。	120分
		事後学修	社会における法の存在理由について、他学部の人や家族に説明できるように、ノートに500文字程度で整理し、実際に他学部の人や家族に説明してみる。	180分
4	4月29日	法の存在形式	法と呼ばれるものには、「法律」の他、「条約」「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等様々なものが存在する。そうした法の存在形式について、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が「法」と「法律」の違いや、「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等の社会に多く存在する法について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書35～43頁を読み、自分たちの周りにはどのような法が存在するのかを確認してノートに列記してくる。	120分
		事後学修	授業で取り扱った「憲法」「法律」「命令」「条例」「条約」について、どのような関係性にあるのかを図式化してみる。	180分
5	5月6日	法の分類	自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法等、法の分類方法とその具体例について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が法の分類方法と具体例について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書45～53頁を読み、第4回で取り扱った法はどれに分類されるかを考え、ノートに列記してくる。	100分
		事後学修	配付したレジュメを確認し、法の分類について具体例を含めてまとめを行い、改めて自分でノートに図式化してみる。	140分
6	5月13日	法と道徳	法と道徳の関係性について、具体例を挙げながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が法と道徳の関係性について正しく理解し、法と道徳の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書12～17頁を読み、法と道徳の関係性について、図にまとめノートに300文字程度で記述してくる。	100分
		事後学修	授業で解説した内容について、具体例も含め、法と道徳について自分はどう考えるのかをノートに500文字程度にまとめる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	正義とは何か	正義とは何かについて、法哲学における正義を取り上げ解説し、受講生に事例を基に正義についての意見を求める。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生がこれまで人類で議論されてきた正義の考え方についてある程度理解したうえで、自らの意見を言うことができる。	
		事前学修	教科書26～29頁を読み、正義とは何かについて考え、自分の考えをノートに列記してくる。	100分
		事後学修	アリストテレスの正義論について、どのような分類がなされているのか、各300文字程度で解説をノートに記述する。	140分
8	5月27日	条文の読み方、判例の読み方	具体的な条文を使用し、条文の基本的な読み方、「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」等の表現の使い方について解説を行う。また判例の探し方、読み方についても解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として問題のない程度に条文のつくりを理解し条文を読むことができる。同到達目標に関連して、受講生が法学部生として問題のない程度に判例のつくりを理解し判例を読むことができる。	
		事前学修	教科書の5～9頁を読み、配付されている六法を開き、関心のある法律の条文を声に出して読んでみる。	60分
		事後学修	授業で解説した条文の読み方を踏まえて、事前学習で読んだ条文を再び声に出して読んでみる。関心のある事件の判例を探し、500文字程度でノートにまとめてみる。	180分
9	6月3日	法の解釈と適用	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈等の解釈方法について、具体例を用いながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が様々な法解釈の方法について正確に理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書55～66頁を読み、66頁のコラム「「車馬」の解釈について」はどのようなことを言っているのか、ノートに300文字程度で記述してくる。	80分
		事後学修	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈の各解釈方法について、ノートに自分の言葉で例を挙げながら解説を書く。	160分
10	6月10日	裁判と法	我が国の裁判の種類や裁判所の構成、裁判の原則、法曹三者、裁判員制度等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、受講生が日本の裁判システムについて正確に理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書213～232頁を読み、法曹三者とは誰の事をいうのか、その三者はどのような仕事をするのかをそれぞれ300文字程度でノートに記述してくる。	100分
		事後学修	ノートに、裁判所の種類とその構成について図式化し、裁判の種類とその概要をそれぞれ300文字程度にまとめ記述しておく。	140分
11	6月17日	日本国憲法	日本国憲法の構成や基本的人権・統治機構等について、基本事項を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が日本国憲法について、構造や基本事項をおおまかに理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書67～106頁を読み、日本国憲法の前文+1条～99条までを声に出して読んでくる。	60分
		事後学修	日本国憲法とはどのようなものか、小学生にも分かるようにノートに解説を記述しておく。	180分
12	6月24日	財産と法、家族と法	私法の基本原則や婚姻・親子関係・相続に関する事項を、具体例を用いながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、私法の基本原則や家族関係の法について、正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書107～149頁を読み、その後、民法の条文に目を通してくる。	80分
		事後学修	授業で配付したレジュメを見直したうえで、教科書107～149頁を再び読み直し、私法の基本原則についてノートに300文字程度で記述しておく。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	企業と法、雇用と法	法人・会社の種類や機能について、また労働関係の法について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、法人や会社の仕組み、労働関係の法について、正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書171～211頁を読み、その後、会社法・労働基準法の条文に目を通してくる。	80分
		事後学修	法人の種類、会社の種類についてノートに図式化し記述しておく。労働法と民法の関係について具体例を挙げながら、ノートに自分の言葉で300文字程度でまとめ記述しておく。	160分
14	7月8日	犯罪と刑罰	刑法の基本原理や犯罪の成立要件、刑罰の意義、刑罰の種類等について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑法の機能や刑罰の役割について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書151～170頁を読み、その後、刑法の条文に目を通してくる。	80分
		事後学修	罪刑法定主義から導かれる原則を4つ挙げ、それぞれ400文字程度でノートに解説を列記しておく。	160分
15	7月15日	情報と法、行政と法	行政の概念や法律による行政の原理等の行政法に関する事項、また個人情報保護法や特定秘密保護法などの情報に関する法について、解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、行政に関する法の基本や情報に関する法の基本について正しく理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書233～272頁を読み、「行政法」とは何を指しているのかについてノートに200文字程度で記述してくる。また個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）に目を通してくる。	80分
		事後学修	法律による行政の原理に関する原則を3つ挙げ、それぞれ自分の言葉で200～500文字程度でノートに記述しておく。特定秘密保護法の問題点について、ノートに300文字程度で記述しておく。	160分

科目名	法学Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の最初に、そのフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルを通して、課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編著	弘文堂	2017年 度		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること）（メールアドレスは、ポータルにて連絡） 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月8日	ガイダンス及び導入講義	法の社会における機能について学ぶ。
		この回の到達目標	法の社会における機能について説明することができる。
		事前学修	六法や法学の教科書等をざっと目を通してみること。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
2	4月15日	法の学び方	六法の使い方や法律データベースの使い方について学ぶ。
		この回の到達目標	法律の検索や判例の検索をすることができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
3	4月22日	法の概念①	法と社会秩序、法と道徳について学ぶ。
		この回の到達目標	法と社会秩序、法と道徳について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
4	4月29日	法の概念②	法と強制、権利と義務について学ぶ。
		この回の到達目標	法と強制、権利と義務について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
5	5月6日	法の目的・機能①	法の意義、目的・正義、法的安定性について学ぶ。
		この回の到達目標	法の意義、目的・正義、法的安定性について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分
6	5月13日	法の目的・機能②	行為規範、裁判規範について学ぶ。
		この回の到達目標	行為規範、裁判規範について説明することができる。
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月20日	法の存在形式		成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源について学ぶ。
		この回の到達目標	成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	5月27日	法の分類		自然法と実定法、公法と私法について学ぶ。
		この回の到達目標	自然法と実定法、公法と私法について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	6月3日	法の分類		実体法と手続法、国内法と国際法について学ぶ。
		この回の到達目標	実体法と手続法、国内法と国際法について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	6月10日	法にかかわる職業		弁護士、検察官、裁判官などの法にかかわる職業について学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。
		この回の到達目標	法にかかわる職業について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。法にかかわる職業について、調べておく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
11	6月17日	裁判制度		裁判制度について学ぶ。
		この回の到達目標	裁判制度について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	6月24日	法の解釈の意義		法の解釈の意義について学ぶ。
		この回の到達目標	法の解釈の意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでお。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	事実認定と法の解釈	具体的な事例や判例を素材に、事実認定と法の解釈について学ぶ。	
		この回の到達目標	事実認定と法の解釈について説明し、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	7月8日	法の解釈の方法	具体的な事例や判例を素材に、法の解釈の方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	法の解釈の方法について説明し、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	7月15日	前学期のまとめ試験及び振り返り	1～14回の内容を確認し、フィードバックを行う。	
		この回の到達目標	法学の基礎知識を習得できているか確認し、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	前学期講義内容を確認する。	120分
		事後学修	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	法学 I	担当者	長谷川 福造	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
指定教科書と2020年版の小型六法（ポケット六法〔有斐閣〕又はデイリー六法〔三省堂〕）を必ず毎回持参すること。

【授業方法】		
指定教科書の順序に沿って講義形式で行うことを基本とする。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。説明の展開に対応して教室のプロジェクターと板書を使用するので、黒板とスライドが見やすい席に座ること。受講者数に基づいて座席指定制とする。受講者数と講義の進展状況に応じて、適宜質疑応答やリアクションペーパーでの理解度の点検を実施する。指定教科書と2020年版の小型六法を毎回持参すること。2019年版より前の六法を使用してはならない。教科書又は六法を持参し忘れて質疑に回答できない場合やリアクションペーパーに回答できない場合、評価を減点するので注意すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の人数、理解の進捗状況及び希望に基づいて、講義内で指名して質疑応答や口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べる事ができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での解説及び前期終了後のポータルシステムでの配信によってフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第3版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
ポケット六法（2020年版）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2019	教科書	必携
デイリー六法（2020年版）	大石眞ほか編修	三省堂	2019	教科書	必携
ブレップ法学を学ぶ前に（第2版）	道垣内弘人	弘文堂	2018	参考書	推奨
法律の条文解釈入門（新版）	小室百合	信山社	2018	参考書	推奨
超約 ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト著	東京書籍	2019	その他	任意
備考	ポケット六法2020年版とデイリー六法2020年版は、どちらか1冊を必ず毎回持参すること。法学（第3版）Next教科書シリーズと六法を必ず毎回持参すること。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。なお、法学（第3版）Next教科書シリーズは2020年3月刊行予定である。また『超約ヨーロッパの歴史』は、法学の系譜・経緯を理解する手助けとなる書籍の一つである。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については、必要に応じて個別に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士として実際に経験・見聞した事例に基づいて、法学の教材に関連する事柄を守秘義務に抵触しない範囲で具体的に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水曜 4月8日 第二部 月曜 4月6日	イントロダクション・大学で法を学ぶこととは	高等学校までの12年間に設定されている各科目（社会科や国語だけでなく、英語・数学・理科なども含む）の学修事項と、法学の理解・体得は密接に関連している。また、法学部の4年間で修得する法学・法律・法の仕組みは、今後の就職活動・各種資格試験準備や卒業後の職務執行にダイレクトに繋がっている。初回のイントロダクションにおいて、大学で法を学ぶ意義を体得し、今後の大学生活と社会人としての人生の歩み方の重要性を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①及び②に関連して、高等学校までの学修と法学の連続性を理解し説明できるようになるとともに、法学部卒業後の社会生活と法学の密接不可分性を理解し説明することができる。到達目標③に関連して、前期15回の講義の展開を理解し、具体的に正しく説明することができる。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法学部での4年間の学修における法学の位置づけと重要性を体得し、正しく明確に説明することができる。	
		事前学修	必ず指定教科書と六法を講義前日（4月7日）までに購入し、当日（4月8日）の講義に持参すること。シラバスに書かれている事項を全て読んだ上で、7月下旬までの15週間で自分が何をしなければならないか、執り行わなければならない各種の義務を具体的に正確に理解しておくこと。高等学校までに自己が学んできた事柄について、社会科や国語だけでなく、英語・数学・理科での学修事項を思い出して、これらの学修事項と法学部での学修がどのように関連しているかを具体的に考え、述べるようにしておくこと。	120分
		事後学修	第1回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせて、7月下旬までの15週間の学修計画を具体的に策定すること。到達目標を必ず正確に達成すること。1年生を対象とした前期の講義科目であることに配慮して、受講する学生の利便性向上・サポートのため、各回の事前・事後学修事項を丁寧に工夫して叙述しました。また、紙幅の関係でこのシラバスに記載していない受講生の義務も沢山あります。自分自身が実行すべき事柄を正しく確知して着実に実行し、大学生活最初の学期15週間を爽りあるものにしましょう。	120分
2	第一部 水曜 4月15日 第二部 月曜 4月13日	法の学び方	指定教科書第1章「法の学び方」を題材とする。法と論理的思考、法律や判例の読み方・探し方を体得し、実行することができる。なお、シラバス作成時点で、教科書第3版が刊行前であるため、このシラバスは第2版に準拠して章立てと講義回を組み合わせている。第3版の構成が第2版と異なる場合は、適宜第3版に対応して内容を補訂する。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法と論理的思考を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法律や判例の読み方を正しく体得し、実行できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第1章「法の学び方」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。5月以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第2回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせて、法をどのように学ぶことが適切かを理解し実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
3	第一部 水曜 4月22日 第二部 月曜 4月20日	法の目的・機能	指定教科書第3章「法の目的・機能」を題材とする。講義回数に対応させて章立てを配分したことから第2章を配当していないが、第2章で説明のある事項については、第3回～第15回までの間に適切に工夫して解説する。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法が存在することの意味を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、行為規範・裁判規範としての法を正しく理解し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第3章「法の目的・機能」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。5月以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第3回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の目的・機能を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今後2か月間の当期の学修計画を再点検し、必要に応じて修正して、再構成した計画に基づいて学修と鍛錬を実行する。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
4	第一部 水曜 4月29日 第二部 月曜 4月27日	法の存在形式（法源論）	指定教科書第4章「法の存在形式（法源論）」を題材として、講義・説明を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法が存在形式を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、成文法源と不文法源を正しく理解し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第4章「法の存在形式（法源論）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。次週以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
		事後学修	第4回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の存在形式（法源論）を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
5	第一部 水曜 5月6日 第二部 月曜 5月4日	法の分類	指定教科書第5章「法の分類」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、自然法と実定法の関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、公法・私法の識別、実体法・手続法の識別、及び国内法・国際法の識別を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第5章「法の分類」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。今回以降、講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第5回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の分類を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今期が始まって1か月が経過したことから、この1か月間で法学及び法律専門科目で修得してきた事項が何かを詳細に点検するとともに、1か月間で到達すべき水準に達していない事柄を特定した上で、今後2か月間でどのように充足・向上させていくかの計画を正しく策定する。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
6	第一部 水曜 5月13日 第二部 月曜 5月11日	法の解釈と適用	指定教科書第6章「法の解釈と適用」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、事実認定と法の解釈の関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法の解釈の性質と方法を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第6章「法の解釈と適用」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第6回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の解釈と適用を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
7	第一部 水曜 5月20日 第二部 月曜 5月18日	日本国憲法（人権）	指定教科書第7章「日本国憲法（人権）」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、人権の特質、享有主体、及び基本的人権の限界を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、包括的基本権、法の下での平等、自由権、社会権、及び国務請求権・参政権を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第7章「日本国憲法（人権）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた憲法に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第7回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。日本国憲法（人権）を理解し、既に始まっている憲法の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
8	第一部 水曜 5月27日 第二部 月曜 5月25日	日本国憲法（統治）	指定教科書第8章「日本国憲法（統治）」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、統治の基本構造を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、国会、内閣、裁判所、及び財政・地方自治を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第8章「日本国憲法（統治）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた憲法に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第8回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。日本国憲法（統治）を理解し、既に始まっている憲法の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
9	第一部 水曜 6月3日 第二部 月曜 6月1日	家族と法	指定教科書第9章「家族と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、家族法の理念を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、婚姻と離婚、親子、扶養、及び相続を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第9章「家族と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた家族に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第9回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。家族と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今期の期末まで約1か月になっていることから、これから先の1か月間で、各講座における法律の学修の到達目標の実現度合いを必ず点検すること。この点検に基づいて、7月下旬までどのように学修を進捗させていくべきか、取り組むべき事項、優先順位、及び具体的なスケジュールを詳しく計画化すること。策定した計画を必ず実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
10	第一部 水曜 6月10日 第二部 月曜 6月8日	財産と法	指定教科書第10章「財産と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、私法の構造を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、民法総則、物権、及び債権を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第10章「財産と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第10回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。財産と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。第9回の事後学修において策定した計画について、この1週間どの程度実行できたか、実行できなかった事項が何かを各自で具体的に必ず点検すること。この点検に基づいて、今期末までの1か月間、どのように学修を実施するかを明確に計画化すること。策定した計画を必ず実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
11	第一部 水曜 6月17日 第二部 月曜 6月15日	犯罪と刑罰	指定教科書第11章「犯罪と刑罰」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、犯罪と刑法、及び刑罰の内容と本質を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、刑法の基本原則、及び犯罪の成立要件を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第11章「犯罪と刑罰」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第11回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。犯罪と刑罰を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
12	第一部 水曜 6月24日 第二部 月曜 6月22日	企業と法	指定教科書第12章「企業と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、企業の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法人企業、非法人企業、及び企業の活動（商取引）を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第12章「企業と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第12回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。企業と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水曜 7月1日 第二部 月曜 6月29日	雇用と法	指定教科書第13章「雇用と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。また、7月に入った後13回目から15回目においては、場面に応じて今期の「法学」の講座に関する総括的な解説・説明を、受講者の理解状況に照応して実施する予定である。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、労働法の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、個別的労働関係法、集団的労働関係法、及び労働市場法を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第13章「雇用と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第13回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。雇用と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
14	第一部 水曜 7月8日 第二部 月曜 7月6日	裁判と法	指定教科書第14章「裁判と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、裁判の意義・種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、裁判所の構成、三審制度、裁判公開の原則、法曹三者、及び裁判員制度を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第14章「裁判と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第14回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。裁判と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
15	第一部 水曜 7月15日 第二部 月曜 7月13日	行政と法	指定教科書第15章「行政と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜リアクションペーパー作成や質疑応答を実施する。必要に応じて進捗を【学生教員共有フォルダ】で告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。指定教科書第16章については、講義回数に対応してテーマとして配当していないが、必要に応じて各回で工夫して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、行政の意義、及び法律による行政の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、行政救済、行政手続、及び市民参加と行政を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
		事前学修	指定教科書第15章「行政と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって質疑応答やリアクションペーパーが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
		事後学修	第15回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。行政と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

科目名	法学Ⅰ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心とする。資料はプリントないしデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、スマホ等で「e-GOV法令データ提供」を利用してもよい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回に、出題した全ての設問に関して解説する。また試験問題を含め、法学に関する質問に答える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学(教材コード 000515)		通信教育部教材			
備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」とする。このテキストは、丸沼書店にて購入することになります。ガイダンスの際に説明します。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスを中心に進める。法学Ⅰの全体としての講義内容について説明し、テキスト、参考文献、成績評価方法などについて説明する。また、「e-Gov法令検索」、「判例検索」、法律関係データベースの使用方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の定義を大まかに理解し、その定義を簡単に説明する。	
		事前学修	法学を学ぶことの意味を考えてみる。テキスト「法学1第1章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	論理的思考と論理的説明の重要性をよく理解すること。	120分
2	4月16日	法とは何か	法とはどのようなものであり、なぜ必要なのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の必要性を理解し、その必要性を説明する。	
		事前学修	法という言葉から何を連想するか確かめる。テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法は社会的生活を営む人が作り出すものであることを理解すること。テキスト第1章と第8章を合わせて理解する。	120分
3	4月23日	日本の法制度 継受法 固有法	法がどのように形成されてきたか、おもに日本における法制度について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における法制度が明治期に大きく変わることを理解し、現代につながる法制度を説明する。	
		事前学修	日本の法制度を日本史から考えてみる。テキスト「法学1第3章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	他国との関係から日本の法制度がどのように変化し現代に至っているかをまとめておくこと。	120分
4	4月30日	法と他の社会規範1 法と道徳の違い	社会規範である法と道徳とは全く別のものとして分類されるのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と道徳の違いについて理解し、説明する。	
		事前学修	我々の生活を律するものは法以外に存在するのか考えてみる。テキスト「法学1第2章、法学1第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法と道徳の区別ができるようにまとめておくこと。	120分
5	5月7日	法と他の社会規範2 法と宗教、法と慣習(習俗)との違い	社会規範である法と宗教、慣習(習俗)とは全く別のものとして分類されるのか考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と宗教、慣習(習俗)との違いについて理解し、説明する。	
		事前学修	法と他の社会規範との違い。テキスト「法学1第2章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法と宗教、慣習(習俗)との区別ができるようにまとめておくこと。	120分
6	5月14日	法の目的 法と正義	法の目的としての正義とはどのようなものであるか、法は人を平等に扱うが、例えば、大人と子供を対等に扱うことが平等な扱いなのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、法のいう正義、平等を正しく理解し、その理解に基づいて系統立てて説明する。	
		事前学修	法は何を実現しようとするのか。テキスト「法学1第11章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法のいうところの正義とはどのようなものかを理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	5月21日	法源1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴		現代社会における法を発見する手掛かりになるものとして、「成文法」と「不文法」との特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、成文法と不文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての的確に説明できる。		
		事前学修	法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。		
		事後学修	現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴、不文法の種類と特徴を理解すること。		
8	5月28日	法源2 法源としての成文法		現代社会における法を発見する手掛かりになるものとしての「成文法」と種類と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、各成文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての的確に説明できる。		
		事前学修	成文法について、テキスト「法学1第8章」、「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。		
		事後学修	法の解釈・適用において重要であるから、各成分法の関係を理解すること。		
9	6月4日	法源3 法源としての不文法		現代社会における法を発見する手掛かりになるものとしての「不文法」と種類と特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、各不文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての的確に説明できる。		
		事前学修	不文法について、テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。		
		事後学修	裁判所の判決が、不文法とされる理由を説明できるようにすること。		
10	6月11日	法の分類と特別法、法、公法、私法、社会経済法 など		普通法(一般法) 強行法と任意私法、社会経済法 など 各法の相互の関係について説明する。例えば、一般法(普通法)と特別法、任意法と強硬法、公法と私法と社会経済法、など	
		この回の到達目標	到達目標②⑤に関連して、各法の関係を理解し、法の適用においてその関係に従った説明をする。		
		事前学修	法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法学1第4章」を読んでおくこと。		
		事後学修	法の適用には順番があること、どの法(条文)が優先するのか正しく理解すること。		
11	6月18日	法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲		法(日本の国内法)の効力範囲(時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲)について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、現代法の大原則と各効力範囲に関して理解し、法の適用範囲を説明する。		
		事前学修	日本の法律はどのような範囲に効力が及ぶのか確かめる。テキスト「法学1第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。日本の法律はどのような範囲に効力が及ぶのか確かめる。		
		事後学修	国境のないインターネットの世界では、どこの国の法律が適用されるのかを考えまとめておくこと。		
12	6月25日	法の解釈と適用 1 事実認定 推定、擬制		法の解釈と適用について、法を適用する事実をどのように発見するのかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、事実認定、推定、擬制について理解し、それらに基づき法を適用し結論を導くことを説明する。		
		事前学修	脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるか考える。テキスト「法学1第9章」を読んでおくこと。		
		事後学修	どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	法の解釈と適用2 有権解釈 学理解釈 論理解釈 拡張解釈と類推解釈など	法の解釈と適用について、具体的な事実に対し抽象的な法律を適用する為の法の解釈方法について考える。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、現代法の大原則と各解釈方法に基づく結論の導き方を理解し、具体的事実に対し解釈に基づく法の適用により結論を導くことを説明する。	
		事前学修	テキスト「法学1 第9章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解しまとめておくこと。	120分
14	7月9日	試験(授業内評価) 授業の振り返り	これまでの講義内容に関する質問に答えたいうえで、講義の範囲内からの出題で論述式試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、出題された選択肢から一問を選び、問題に関して十分に理解し、的確に十分に説明(解答)する。	
		事前学修	今期の講義内容を復習しておく。	120分
		事後学修	解答が十分であったか否かについて復習しておくこと。	120分
15	7月16日	試験に関する解説	出題した全ての設問に関して解説する。また試験問題を含め、法学に関する質問に答える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、出題された全選択肢について十分に理解し、的確に十分に説明(解答)する。	
		事前学修	試験の解答が十分であったか否かについて、他の選択肢の解答について復習しておくこと。	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところは、復習すること。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
法学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式にて授業を行います。その他の参照物や持参するものについては、別途初回の授業において、各担当教員から行われます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1						
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験後に、教員学生共有フォルダなどを用いてフィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（金曜17：50）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・導入講義	今後、法学Ⅱで学ぶことおよび授業方針などを確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書ではどのような内容を取り上げているかを確認してみてください。	120分
2	9/25	憲法①；近代国家と憲法	近代国家とは何か、そして近代憲法とは何かを学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、近代国家や近代憲法について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、近代憲法とはどのような条件が必要かといったことを再確認するようにしてください。	120分
3	10/2	憲法②；わが国における憲法	明治憲法や日本国憲法の特徴や成立過程について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、わが国の憲法の成立過程などについて説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、明治憲法や日本国憲法でそれぞれどのような特徴があったのかといったことを再確認するようにしてください。	120分
4	10/9	憲法③；基本的人権①	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、人権の享有主体性について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、人権享有主体性について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、人権享有主体性について、各主体（外国人や法人など）ごとにどのような議論がなされているか再確認するようにしてください。	120分
5	10/16	憲法④；基本的人権②	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、法の下の平等について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、法の下の平等について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、平等といった場合、どのような平等があるのかについて再確認するようにしてください。	120分
6	10/23	憲法⑤；基本的人権③	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、精神的自由権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、精神的自由の種類や議論について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、表現の自由については再確認するようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	憲法⑥；基本的人権④	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、社会権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会権について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、生存権の規定を根拠に裁判請求をできるかどうかについて、各学説の違いを再確認するようにしてください。	120分
8	11/6	憲法⑦；基本的人権⑤	日本国憲法で規定されている基本的人権の議論のうち、経済的自由権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済的自由権について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、目的二分論について再確認するようにしてください。	120分
9	11/13	憲法⑧；権力分立	日本国憲法で規定されている権力分立のうち、その概要および立法権、行政権、そして司法権について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、三権分立についての各議論について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
10	11/20	刑事法①：犯罪	罪刑法定主義や犯罪の成立要件などについて学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、罪刑法定主義や犯罪の成立要件について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、犯罪の成立要件については再確認するようにしてください。	120分
11	11/27	刑事法②：刑事手続	刑事事件における捜査手続や公判手続について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、捜査手続や公判手続における概要および原則について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、捜査手続や公判手続においてどのような原則が採用されているのかについては再確認するようにしてください。	120分
12	12/4	民事法①；基本原則	民事法における基本原則やわが国民法体系の概要について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、わが国民法体系の概要について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、わが国の民法ではどのような領域を持っており、そしてどのような基本原理・原則を採用しているのかについて再確認するようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	民法法②；物権と債権	物権と債権について、そこでの種類や原理について学ぶことになります。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、物権と債権の概要について説明できるようになる。	
		事前学修	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
		事後学修	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、物権と債権でどのような点で異なるのかに注意しつつ、再確認するようにしてください。	120分
14	12/18	まとめと授業内試験	これまでに各回で学んだ知識を確認できるようになると共に、理解が十分でなかった部分を明確にすることになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な解答ができるようになる。	
		事前学修	参考資料1から3および教科書の該当部分を、再確認するようにしてください。	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習するようにしてください。	120分
15	1/15	試験のフィードバック	これまでの授業および授業内試験で、理解が十分でなかった部分を明確にすることになります。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、検討することができるようになる。	
		事前学修	参考資料1から3および教科書の該当部分、そして授業内試験のフィードバックを、確認するようにしてください。	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習するようにしてください。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関するリアクションペーパーを書いてもらい、次の授業でフィードバックする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1						
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルを通じて、課題のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編著	弘文堂	2017年度		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること）（メールアドレスは、ポータルにて連絡）研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	ガイダンス及び導入講義	本授業で取り扱う法の各分野（公法・私法・社会法）の全体像について学ぶ。	
		この回の到達目標	法の各分野について説明することができる。	
		事前学修	法学の教科書等をざっと目を通してみる。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを作成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめる。	120分
2	9月23日	憲法（基本原理）	憲法の基本原理について学ぶ。	
		この回の到達目標	憲法の基本原理について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを作成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめる。	120分
3	9月30日	人権（精神的自由）	精神的自由について、判例を素材にじっくり学ぶ。	
		この回の到達目標	精神的自由について説明し、判例について、論理的に私見を述べる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを作成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめる。	120分
4	10月7日	人権（経済的自由）	経済的自由について、具体的な判例を素材にじっくり学ぶ。	
		この回の到達目標	経済的自由について説明し、判例について、論理的に私見を述べる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを作成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめる。	120分
5	10月14日	憲法（統治機構）	統治機構について学ぶ。	
		この回の到達目標	統治機構について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを作成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめる。	120分
6	10月21日	行政法の基礎	行政法の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	行政法の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを作成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月28日	行政法（行政行為）	行政行為について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	行政行為について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
8	11月11日	行政法（行政救済法）	行政救済制度について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	行政救済制度について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
9	11月18日	民法の基礎	民法の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	民法の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
10	11月25日	契約法	契約法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	契約法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
11	12月2日	家族法	家族法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	家族法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分
12	12月9日	社会法の基礎	社会法の役割について学ぶ。	
		この回の到達目標	社会法の役割について説明することができる。	
		事前学修	教科書等を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	労働法	労働法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	労働法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	12月23日	社会保障法	社会保障法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
		この回の到達目標	社会保障法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
		事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	1月13日	後学期のまとめ試験及び振り返り	1～14回の内容を確認し、フィードバックを行う。	
		この回の到達目標	法学の基礎知識を習得できているか確認し、論理的に私見を述べることができる。	
		事前学修	後学期講義内容を確認する。	120分
		事後学修	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
法学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義が中心となる。参考資料を必要に応じプリント又はデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、「e-GOV法令データ提供」を利用しても構わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の講義の際、試験問題の全選択肢について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学 通信教育部教材	通信教育部	通信教育部教材		参考書	推奨
インターネット法	松井茂紀	有斐閣	2015年	参考書	推奨
備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」を使用する。法学Ⅰを履修する際に用意したものでよい。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail：mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	ガイダンス及び導入講義	授業方針の説明を行う。インターネットやコンピュータの領域への現行法の適用を考えてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
		事前学修	テキスト第9章を読んで法の適用と解釈についてもう一度復習しておくこと。	120分
		事後学修	現に行われている法の解釈の範囲で法が執行されることの理由を理解し、法の適用の限界をまとめる。	120分
2	9月24日	権利の主体	権利の主体になることができるのは、誰なのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、権利について説明できるようになる。	
		事前学修	権利の主体とは何であるか、テキスト「法学1第5章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	誰が権利の主体となり得るのか、理解すること。	120分
3	10月1日	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の成立過程について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法の成立の過程について説明できるようになる。	
		事前学修	日本国憲法の成立過程を調べてみる。テキスト「法学2(日本国憲法)第2章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	日本国憲法の成立過程を、法的、論理的に説明できるようにすること。	120分
4	10月8日	日本国憲法と条約	日本国憲法と条約との関係について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法と条約との関係について説明できるようになる。	
		事前学修	日本国憲法と条約の関係について、テキスト「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	前期に学んだ法の適用と解釈により解釈を实践して、論理的に説明できるようにすること。	120分
5	10月15日	通信の秘密	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるかどうかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、通信の秘密の意義について説明できるようになる。	
		事前学修	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるか考え、テキスト「法学2(日本国憲法)第7章(7)」、刑法各論のテキスト刑法133条(信書開封罪)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	手紙や有線電話の時代と異なり、盗み見ができる時代の通信の秘密を正しく理解できるよう復習すること。	120分
6	10月22日	インターネットからの忘れられる権利	インターネット検索エンジンと個人情報の削除について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、個人情報の取り扱い方について説明できるようになる。	
		事前学修	インターネット検索エンジンと個人情報の削除。「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」日本法学82巻1号(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf)を読んでおくこと。	120分
		事後学修	インターネット上で自己のプライバシーを侵害されないための方法を理解し実践できるよう、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	特定商取引ー通信販売	現実社会で取引に適用される法律以外に、インターネット上の契約に適用される法律にはどのようなものがあるか考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネット上の契約について説明できるようになる。	
		事前学修	参考書「インターネット法 第7章3(電子契約をめぐる私法的な問題)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	インターネット上の契約に適用される法律を理解し、違法サイトを見抜くことができるよう復習する。	120分
8	11月5日	電子マネーとサービスポイント	電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)の違いについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、電子マネーとサービスポイントの違いについて説明できるようになる。	
		事前学修	電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)は同じものなのか確認する。参考書「インターネット法第8章3(電子マネーをめぐる法的問題)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	電子マネーとサービスポイントの保護の違いを理解すること。	120分
9	11月12日	インターネットと著作権(ホームページの著作権、いわゆる自炊)	図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネットと著作権について説明できるようになる。	
		事前学修	図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「いわゆる自炊行為」)を読んでおくこと。	120分
		事後学修	HPを公開することは頒布にあたる。どこまでデジタル化が可能か正しく理解し、安易なコピー行為により著作権を侵害しないよう復習し実践する。	120分
10	11月19日	フィルタリングとブロッキング	未成年者が携帯電話(スマホを含む)を利用する場合のフィルタリングとすべての者の利用に適用されるブロッキングとはどういうことなのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、フィルタリングとブロッキングについて説明できるようになる。	
		事前学修	スマホで接続できないサイトがあるか確認する。新聞などでブロッキングについて確認する。参考書「インターネット法第5章」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	青少年の保護と政治的な目的によるブロッキングや知る権利との境界線を正しく理解できるよう復習する。	120分
11	12月3日	インターネット上の名誉毀損	インターネット上の名誉毀損とは、どのような行為が該当するかについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネット上の名誉毀損行為について説明できるようになる。	
		事前学修	名誉毀損罪(刑法230条、230条の2)を確認しておく。 参考書「インターネット法第3章」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	自分が加害者、被害者とならないようネチケットとして捉え、理解し、実践できるようまとめる。	120分
12	12月10日	デジタル万引き	本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った場合、犯罪になるのかどうか考える。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、デジタル万引きがどういうことかについて説明できるようになる。	
		事前学修	本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った。万引き?「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」国士館法学45号(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「デジタル万引き」)を読んでおく。	120分
		事後学修	法学Ⅰ「法の適用と解釈」を復習し具体的な法の適用と解釈としてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月17日	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用は、法律上どのようなようになるかを考える。	
		この回の到達目標	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用は、法律上どのようなようになるかを説明する。	
		事前学修	大学のパソコンのIDやPWを友達に教え使わせるのは？「イマドコサーチ」アプリはコンピュータウイルス？参考書「インターネット法第9章4 ネットワークセキュリティの保護」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。	120分
14	12月24日	試験(授業内評価)授業の振り返り	今学期の講義内容に関して試験直前の質問に答えたいので、今学期「法学Ⅱ」の講義内容の範囲で論述方式の試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な解答ができるようになる。	
		事前学修	今学期の法学Ⅱでの講義内容を復習する。	120分
		事後学修	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるよう復習する。	120分
15	1月14日	試験問題の解説。	試験問題中の全ての選択肢について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全ての選択肢に関して十分な解答ができるようになる。	
		事前学修	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるか復習し、疑問点を質問できるように準備をする。(2時間)	120分
		事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習すること。(2時間)	120分

科目名	法学演習A I（憲法基礎演習）	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。						1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。											1	
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第7版	芦部信喜	岩波書店	2019	参考書	推奨
憲法判例百選Ⅰ第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 (後期) 月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月4/6	ガイダンス：憲法とは何か。	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、憲法と立憲主義について解説するとともに、公法と私法の区別などの法学の基礎事項についても説明する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「立憲の意味の憲法」（近代的意味の憲法）の意義について、説明することができる。また、権利と義務の関係、公法と私法の違い、法的三段論法について説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、憲法がどのような内容をもつ法律であるかを調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	月4/13	事例問題の解き方及び判例の読み方	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。	
		この回の到達目標	事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	月4/20	表現の自由（１）：憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制	憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、検討する。どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、説明できる。どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、説明できる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	月4/27	表現の自由（２）：明確性の理論	明確性の理論について、判例を踏まえて検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明確性の理論について、判例を踏まえて説明できる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	月4/27	表現の自由（３）：違憲審査基準	違憲審査基準について検討する。「表現の自由を規制する立法の合憲性は、経済的自由を規制する立法よりも厳しい基準によって審査されなければならない」という見解や、表現の内容に着目した規制と表現内容に中立的な規制を区別する見解について、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、二重の基準及び内容規制・内容中立規制二分論について説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	月5/4	表現の自由（４）：報道の自由、取材の自由	報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月5/11	表現の自由（５）：ビラ配布、パブリックフォーラム	ビラ配布等の表現行為の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ビラ配布等の表現行為の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	月5/18	表現の自由（６）：受刑者及び未決拘禁者の人権	受刑者及び未決拘禁者の人権について、閲読の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受刑者及び未決拘禁者の人権について、閲読の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	月5/25	幸福追求権（１）	憲法13条後段の定める「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の権利としての性格について、判例を踏まえて、検討する。「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法13条後段の定める「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の権利としての性格について、判例を踏まえて、検討する。「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	月6/1	幸福追求権（２）	プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	月6/8	人権の私人間効力	私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためにどのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためにどのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	月6/15	政教分離（１）	どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、目的効果基準に照らして考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月6/22	政教分離（2）	どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、砂川・空知太神社訴訟等の新しい判例を踏まえて、検討する。また、政教分離規定違反の判断枠組みについての学説を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、砂川・空知太神社訴訟等の新しい判例を踏まえて、説明することができる。また、政教分離規定違反の判断枠組みについての学説を説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	月7/6	信教の自由	信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	月7/13	総復習	前期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅠ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特に指定しない。

【授業方法】
前期は講義形式と演習形式を併用する。受講者数や進度に応じて講義中に小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、課題の解決に向けたレポートを課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。						1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。											1	
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に受講者に評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。研究室（本館1721号）にて実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事、刑事及び行政領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		ガイダンスと概論	法を学ぶ上で必要となる指針と高等学校までの学修の架橋を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法学の基礎事項を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み学修計画を立てること。これまで社会科や大学の教養科目等で学修した法に関連する事柄を思い出し、手控えを作成しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスでの説明と法学概説を踏まえて、各自で今期の計画を策定すること。	120分
2		法の学び方、法の概念	法と社会秩序、法と道德、法と強制、権利と義務といった一連の重要事項を概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法を学ぶ際に必要な各種用語の意味と機能を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 22までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
3		法の目的・機能	法と正義、法的安定性、行為規範、裁判規範といった一連の重要事項を概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法を学ぶ際に必要な各種用語の意味と機能を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 34までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
4		法の存在形式（法源論）	成文法、不文法について、実例に則して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法を学ぶ際に必要な各種用語の意味と機能を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 43までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
5		法の分類	自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法などの枠組みを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法の分類を理解し、到達目標②との関係で、第4回までの講義に基づく理解を踏まえて質疑応答ができるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 53までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
6		法の解釈と適用	法の解釈と適用を、指定教材と実例に基づいて解説する。第6回目から課題レポートの発表を含めることがある。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法の解釈と適用を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 66までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。報告発表やレポート提出を行う場合は、その準備を行う。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		日本国憲法（人権）	人権の特質、自由権、社会権、国務請求権などの重要事項を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、人権の重要事項を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 86までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
8		日本国憲法（統治）	国会、内閣及び裁判所の役割と財政・地方自治の仕組みを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、統治機構の重要事項を理解する。また、到達目標②との関係で、憲法の役割を説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 106までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
9		家族と法	家族法の理念、婚姻・離婚、親子、扶養、相続について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、家族と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 126までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
10		財産と法	私法の構造、民法の財産編について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、財産と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 147までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
11		刑罰と犯罪	刑法の構成・社会的機能、刑罰の本質、刑法の基本原理、犯罪の成立要件を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、犯罪と刑罰について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 168までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
12		企業と法	法人企業、企業活動について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、企業と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 188までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		雇用と法	労働法の原理、労働関係法、労働市場法について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、雇用と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 209までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
14		裁判と法	裁判の種類、裁判所の構成、裁判員制度などの裁判と法に関する重要事項を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、裁判と法について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 230までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分
15		今期の総まとめ	これまでの講義と各自の発表・レポートを踏まえて、質疑と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎事項を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	これまでに自己の作成した手控え・ノートを熟読し、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明に基づいて、各自で重要事項・基本事項をまとめて、必要なものは覚えること。	120分

科目名	法学演習A I	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での講評その他

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
土曜日10:30～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際の訴訟、紛争等で民法及び民事訴訟法等がどのように活用されているかについて言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/4	ガイダンス及び導入講義	学習する内容や授業の進行予定等	
		この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	4/11	実体法と手続法	実体法と手続法の関係、これらの各種民事手続における役割等について概観する。	
		この回の到達目標	実体法と手続法の関係、これらの各種民事手続における役割等の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	4/18	民法の全体像	民法の全体像を概観する。	
		この回の到達目標	民法の全体像、条文の構造等について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	4/25	民事訴訟法の全体像	民事訴訟法の全体像を概観する。	
		この回の到達目標	民事訴訟法の全体像、条文の構造等について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）	120分
5	5/2	契約法の全体像、贈与契約	契約法(1)：契約法の全体像及び贈与契約	
		この回の到達目標	契約法の全体像、贈与契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	5/9	売買契約	契約法(2)：売買契約	
		この回の到達目標	売買契約の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/16	消費貸借契約	契約法(3)：消費貸借契約
		この回の到達目標	消費貸借契約の概要について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
8	5/23	使用貸借契約	契約法(4)：使用貸借契約
		この回の到達目標	使用貸借契約の概要について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
9	5/30	賃貸借契約	契約法(5)：賃貸借契約
		この回の到達目標	賃貸借契約の概要について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
10	6/6	請負契約	契約法(6)：請負契約
		この回の到達目標	請負契約の概要について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
11	6/13	委任契約	契約法(7)：委任契約
		この回の到達目標	委任契約の概要について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
12	6/20	雇用契約	契約法(8)：雇用契約
		この回の到達目標	雇用契約の概要について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/27	全体の復習(1)	総復習(1)：前期授業の総復習を行う	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	7/4	全体の復習(2)	総復習(2)：前期授業の総復習及びレポートの提出	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	7/11	全体の復習(3)	総復習(3)：前期授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。						1			
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第7版	芦部信喜	岩波書店	2019	参考書	推奨
憲法判例百選Ⅰ第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 (後期) 月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	月9/14	ガイダンス：導入講義	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	月9/21	事例問題の解き方及び判例の読み方	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	月9/28	職業の自由（１）	職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明する。職業選択の自由の制約について、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	月10/5	職業の自由（２）	職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	月10/12	集会の自由（１）	集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。また、これに関連して、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。また、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	月10/19	集会の自由（２）	集会の自由の保障の制約について、道路交通の安全を確保する場合及び公共の秩序を維持する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、道路交通の安全を確保する場合及び公共の秩序を維持する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	月10/26	良心の自由（１）	思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	月11/9	良心の自由（２）	思想及び良心の自由の制約について、公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	月11/16	財産権（１）	財産権に対する制約について、共有物の分割請求権を制限する場合及び金融商取引におけるインサイダー情報の不当な利用の防止に係る規制を課す場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財産権に対する制約について、共有物の分割請求権を制限する場合及び金融商取引におけるインサイダー情報の不当な利用の防止に係る規制を課す場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	月11/23	財産権（２）	憲法29条3項の定める「公共のために用ひる」の意味について検討する。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかについて、判例を踏まえて、検討する。憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法29条3項の定める「公共のために用ひる」の意味及び憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味を説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかについて、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	月11/30	平等（１）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定及び日本国民の父と外国籍の母との間に出生し、その後、父から認知された子に対して、帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、日本国民の父と外国籍の母との間に出生し、その後、父から認知された子に対して、帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	月12/7	平等（２）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	月12/14	平等（3）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、夫婦同氏制の合憲性などの新しい判例を素材として、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、夫婦同氏制の合憲性などの新しい判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	月12/21	外国人の人権	外国人に選挙権や被選挙権が保障されるか否か、国政選挙と地方選挙の場合について、検討する。外国人に公務就任権が保障されるか、既に公務員となっている定住外国人に管理職への昇進の機会を与えないことが平等原則に違反するかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国人に選挙権や被選挙権が保障されるか否か、外国人に公務就任権が保障されるか否かなどについて、判例を踏まえて、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	月1/18	総復習	後期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。	
		事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特に指定しない。前期の法学演習AⅠから継続して履修することが望ましい。

【授業方法】		
演習形式を主体とする。報告発表や質疑応答が主体となる。演習の具体的方式は履修人数や理解の進度に応じて調整する。報告発表の講評及び解説を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、課題の解決に向けたレポートを課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。				1							
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
質疑応答及び報告発表の際に受講者に評価と解説を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考	教科書と小型六法を毎回必ず持参すること。六法はデイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣）を使用すること。六法と各書籍は、必ず最新版を使用すること。				

【オフィスアワー】
火曜日15:00から16:00まで。研究室（本館1721号）にて実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容	民事、刑事及び行政領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法の運用を説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		ガイダンスと概論	今期の講座の進め方について説明するとともに、法学に関する一定の知見を持っていることを踏まえて、それぞれの枠組みがどのように連動・連携しているかを概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法学の理解を展開する際に必要な重要事項を理解する。	
		事前学修	シラバスを点検するとともに、これまで各自が学修してきた法学の重要事項の理解度合いを確かめておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、各自の到達度合いを点検し、今期の学修計画を策定する。	120分
2		情報と法	情報化社会の実状、知る権利とプライバシー、情報公開と個人情報保護について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、情報と法に関する重要事項を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 255から270までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、情報と法の重要事項の理解を進めておく。	120分
3		行政と法	法律による行政の原理、行政救済、行政手続、市民参加について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政と法に関する重要事項を理解する。	
		事前学修	指定教材P. 231から254までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、行政と法の重要事項の理解を進めておく。	120分
4		法と社会秩序、法と道徳	規範の当為性、近代以降の法と道徳の分離論について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、法と社会秩序、法と道徳について理解する。到達目標②との関係で、8回目以降の報告発表の準備を進めておく。	
		事前学修	指定教材P. 11から17までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、社会秩序や道徳と法規範との関係性を理解するとともに、報告発表の準備を具体的に進捗させていく。	120分
5		法と強制、権利と義務	法的強制の意義、権利の種類と本質論を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、権利義務の意味や強制について理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 18から22までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義における説明を踏まえて、これまで自分が学修してきた法に関する重要事項と、強制・権利義務の位置づけや役割を点検しておく。	120分
6		法の目的・機能	法の理念、目的、法規範の枠組みを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法の目的や機能を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 23から34を読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義での説明を踏まえて、これまで学んだ各法が、それぞれどのような機能と目的を持っているかを考察しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		法の存在形式（法源論）	成文法源の区分けと不文法源の機能を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法の存在形式を理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	指定教材P. 35から43までを読み、自分が理解している事項とまだ理解していない事項を識別しておく。	120分
		事後学修	講義での説明に基づいて、法の存在形式の実例と理論を考察し、理解を進めておく。次回以降の報告発表に備える。	120分
8		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分
9		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分
10		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分
11		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分
12		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分
14		報告発表	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分
15		報告発表・今期の総まとめ	これまでに本講義や他の講座で学修した法学の各領域の中から、各自が希望するテーマについて報告発表を実施し、レポートを提出する。	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、憲法・民法・刑法などの基盤的分野について、各自が理論的に説明できるようにする。	
		事前学修	報告担当者は発表の準備を行い、他の受講者は当日のテーマについて予習をしておく。	120分
		事後学修	報告後のコメントに沿って自己の理解度合いを確かめるとともに、今後の法の学修の指針を構築する。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。				1							
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での講評その他

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
土曜日10:30～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際の訴訟、紛争等で民法及び民事訴訟法等がどのように活用されているかについて言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/19	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス:学習する内容や授業の進行予定等	
		この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	9/26	前期で扱った内容の確認	前期授業の総復習	
		この回の到達目標	前期で扱った内容の概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	10/3	主要な民事手続の概要	民事手続(1)：保全、訴訟、執行手続の概観	
		この回の到達目標	主要な民事手続の概要について理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	10/10	民事訴訟：訴えの提起、処分権主義等	民事手続(2)：訴えの提起、処分権主義等	
		この回の到達目標	民事訴訟における訴えの提起等に関する手続の概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	10/17	民事訴訟：審理の進行(口頭弁論、争点及び証拠の整理)	民事手続(3)：審理の進行(口頭弁論、争点及び証拠の整理)	
		この回の到達目標	民事訴訟における審理等に関する手続の概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	10/24	民事訴訟：審理の進行(弁論主義)	民事手続(4)：審理の進行(弁論主義)	
		この回の到達目標	民事訴訟における弁論主義等に関する概要を理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/31	民事訴訟：証拠調手続	民事手続(5)：証拠調手続
		この回の到達目標	民事訴訟における証拠調べ等に関する手続きの概要を理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
8	11/7	民事訴訟：訴訟の終了	民事手続(6)：訴訟の終了
		この回の到達目標	民事訴訟における訴訟の終了等に関する手続きの概要を理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
9	11/14	民事訴訟：訴状作成	具体的な事例を通じた学習(1)：訴状の作成
		この回の到達目標	民事訴訟における訴状の体裁及び記載事項等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
10	11/21	民事訴訟：答弁書作成	具体的な事例を通じた学習(2)：答弁書の作成
		この回の到達目標	民事訴訟における答弁書の体裁及び記載事項等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
11	11/28	民事訴訟：給付訴訟	具体的な事例を通じた学習(3)：給付訴訟
		この回の到達目標	具体的な裁判例等を通じて、民事訴訟の手続き等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分
12	12/5	民事訴訟：確認訴訟	具体的な事例を通じた学習(4)：確認訴訟
		この回の到達目標	具体的な裁判例等を通じて、民事訴訟の手続き等について理解すること
		事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。120分
		事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	全体の復習(1)	総復習(1)：後期授業の総復習を行う	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	12/19	全体の復習(2)	総復習(2)：後記授業の総復習及びレポートの提出	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	12/26	全体の復習(3)	総復習(3)：後記授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
		この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
		事前学修	事前に配布するレジюмеをよく読むこと。	120分
		事後学修	配布されたレジюмеに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習BⅠ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
この講座は、私法である民法・公法である行政法を素材として、当該法分野に関する基本的知識を提供するとともに、その基本的知識を土台として、当該法分野に関する具体的諸問題について解説するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の一般法である民法を学修するために必要となる民法（財産法）に関する基本的事項を理解する。より具体的には、民法総則、物権法（担保物権を含む）、債権法（主に契約・不法行為）の規定が社会生活・紛争解決のためにどのように役立っているかを学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
六法（令和2年[2020年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法（財産法）の全体像を踏まえて、権利義務の主体を前提とし、債権の発生原因である契約の要件を整理・分類し、説明することができる。【知識】					1					1	
②	債務不履行の要件と効果、売主の担保責任のほか、責任財産の保全の必要性を説明することができる。【知識】					1					1	
③	債権担保の重要性のほか、所有権に関する基本的知識（特に物権的請求権、物権変動）を説明することができる。【知識】					1					1	
④	債権の発生原因である不法行為の全体像を説明することができる。【知識】					1					1	
⑤	民法の諸規定の内容を理解し、与えられた事例に対し諸規定を適切にあてはめることができる。【技能】					1					1	
⑥	民法の解釈論上の意見交換に積極的に参加し、そこにおいて、お互いを尊重することができる。【態度・習慣】					1					1	
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	20	20					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法	松久三四彦・遠山純弘・林誠司	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	【イントロダクション】 【導入講義】	民法の意義を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を把握し、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法の意義、財産法の全体像（財産権の種類、家族法との関係）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の3頁から30頁（7頁から23頁までは最初は飛ばしてもよい）までを読み、民法の位置づけ、財産権の種類（物権と債権）、パンデクテン体系の意味を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。※余裕があれば、教科書の33頁から49頁も読んでおきたい。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、民法の位置づけ、財産法の鳥観図を整理する。	120分
2	第一部 月4/13	【権利義務の主体（自然人・法人）】	権利・義務の主体、権利能力・意思能力・行為能力、法人を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、権利・義務の主体、権利能力・意思能力・行為能力の違い、法人制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の51頁から88頁までを読み、権利能力・意思能力・行為能力の違いを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、権利能力・意思能力・行為能力の区別、行為能力制度（制限行為能力者制度）の概要を整理する。	120分
3	第一部 月4/20	【契約の成立要件と有効要件①－心裡留保、虚偽表示】	契約の成立要件と有効要件との関係、心裡留保、虚偽表示の各制度を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の成立要件と契約の有効要件①（心裡留保、虚偽表示）を理解し、説明することができる。を理解する。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の89頁から102頁までを読み、契約の成立要件と有効要件の関係、心裡留保、虚偽表示の各制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、契約の成立要件と有効要件の関係、心裡留保、虚偽表示の各制度の概要を整理する。	120分
4	第一部 月4/27	【契約の有効要件②－錯誤、詐欺・強迫】	錯誤、詐欺・強迫の各制度を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の有効要件①（錯誤、詐欺・強迫）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の103頁から112頁までを読み、契約の有効要件①（錯誤、詐欺・強迫）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、錯誤の要件・効果、詐欺・強迫の要件・効果を整理する。	120分
5	第一部 月5/4	【契約の有効要件③－代理制度】	契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）と、代理制度の全体像を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）のほか、代理制度全体を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の92頁から112頁のほか、40・41頁、120頁から124頁までを読み、契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）のほか、代理の要件・効果、無権代理、表見代理を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、代理の要件・効果、無権代理、表見代理を整理する。	120分
6	第一部 月5/11	【契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）】	契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の分類、同時履行の抗弁権を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の127頁から137頁まで、192頁から195頁までを読み、契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、契約の分類（双務・片務契約、有償・無償契約）、同時履行の抗弁権が用いられる場面を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	【債権の消滅原因（弁済・相殺の概説、消滅時効の概説）】	債権の消滅原因（弁済・相殺の概説、消滅時効の概説を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、債権の消滅原因（弁済、相殺、消滅時効等）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の137頁から158頁までを読み、弁済、相殺、消滅時効を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債権の消滅原因という観点から、弁済、相殺、消滅時効を整理する。	120分
8	第一回 月5/25	【債務不履行①－損害賠償請求、解除】	債務不履行による損害賠償請求、債務不履行による解除を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、債務不履行に対する救済手段、債務不履行による損害賠償請求、解除制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の160頁から181頁までを読み、債務不履行に対する救済手段（損害賠償請求、解除）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、債務不履行に対する救済手段（損害賠償請求、解除）を整理する。	120分
9	第一部 月6/1	【債務不履行②－売主の担保責任】	売主の担保責任を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、売主の担保責任の全体像を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の181頁から189頁までを読み、売主の担保責任の全体像を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、契約不適合給付に対する買主の救済手段を整理する。	120分
10	第一部 月6/8	【強制履行と債権者代位権】	強制履行と債権者代位権を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、強制執行による債権回収、責任財産の保全制度である債権者代位権を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の161頁から165頁まで、197頁から202頁までを読み、強制執行の種類、強制執行と債権者代位権との関係、債権者代位権の要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、強制執行の種類、債権者代位権の要件を整理する。	120分
11	第一部 月6/15	【債権の担保（抵当権、保証）】	債権の担保（抵当権、保証）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の205頁から228頁までを読み、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を整理する。	120分
12	第一部 月6/22	【所有権①（物権的請求権、物権変動の仕組み前編）】	物権的請求権、不動産の物権変動の仕組みを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権的請求権、占有、不動産の物権変動を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の233頁から255頁までを読み、物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の対抗要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の対抗要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	【所有権②（物権変動の仕組み後編、即時取得、取得時効）】	動産の物権変動の仕組み、即時取得、取得時効を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権変動の仕組み、即時取得、取得時効を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の255頁から268頁までを読み、動産の物権変動の対抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、動産の物権変動の対抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理する。	120分
14	第一部 月7/6	【不法行為①（一般の不法行為）】	一般の不法行為（709条以下）全般を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、不法行為Ⅰ（総論、成立要件、効果等）を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の270頁から293頁までを読み、不法行為の成立要件と効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、不法行為の成立要件とその効果、消滅時効を整理する。	120分
15	第一部 月7/13	【不法行為②（特殊の不法行為[監督者責任・使用者責任]）】	特殊の不法行為（特に責任無能力者の監督者責任・使用者責任）を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、特殊の不法行為（責任無能力者の監督者責任、使用者責任）の概要を理解する。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の293頁から300頁までを読み、責任無能力者の監督者責任、使用者責任を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、責任無能力者の監督者責任、使用者責任の各制度の概要を整理する。	120分

科目名	法学演習BⅠ	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、将来、公務員や法曹（裁判官・検察官・弁護士）等、法律の解釈・適用に携わる職業を志望する学生には特に、この授業を通じてリーガルマインドを養ってほしい。

【授業方法】
基礎知識の講義（研究者兼現役弁護士の担当教員が実務経験にも照らして行う）を踏まえ、学生が各テーマの問題について考えてもらう。その上で報告者を決めて、報告してもらう。レポートの講評・解説を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、課題の解決に向けたレポート等を課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	行政法に関する諸問題についての知識を説明できる。						1			
②	養成した行政法領域の知見に基づいて適切に報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的・実務的テーマについてレポートを作成する。	15	25									40
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	15	25									40
授業への参画度	授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評・解説を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法 第2版	宇賀克也	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日17：50～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法に関する実務経験に基づく説明と演習によって理論と実務の架橋を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		イントロダクション 導入講義	法学の重要事項を確認するとともに、行政法の位置づけを説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、行政法の役割と位置づけを理解する。	
		事前学修	シラバスをよく確認しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。	120分
2		法律による行政の原理	講義と問題の検討	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、法律による行政の原理を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
3		法律による行政の原理	－前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の 到達目標	到達目標②との関係で、法律による行政を説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
4		比例原則	講義と問題の検討	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、比例原則を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
5		比例原則	－前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の 到達目標	到達目標②との関係で、比例原則を説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
6		信義則	－講義と問題の検討	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、信義則を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		信義則	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、信義則について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
8		行政情報の公開	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政情報の公開を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
9		行政情報の公開	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政情報の公開について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
10		行政裁量	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政裁量を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
11		行政裁量	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政裁量について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
12		行政行為の瑕疵	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政行為の瑕疵を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		行政行為の瑕疵	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政行為の瑕疵について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
14		行政契約	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政契約を理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
15		行政契約	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政契約について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
この講座は、私法である民法・公法である行政法を素材として、当該法分野に関する基本的知識を提供するとともに、その基本的知識を土台として、当該法分野に関する具体的諸問題について解説するものである。なお、本講座は、法学演習BⅠ（BⅠで民法を履修した者は、引き続きBⅡでも民法を履修することが望ましい。また、BⅠで行政法を履修した者は、引き続きBⅡでも行政法を履修することが望ましい）を履修していることを前提とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の一般法である民法を学修するために必要となる民法（財産法）に関する基本的事項を理解する。より具体的には、民法総則、物権法（担保物権を含む）、債権法（主に契約・不法行為）の規定が社会生活・紛争解決のためにどのように役立っているかを学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
六法（令和2年[2020年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学演習BⅠで学んだことを整理して、説明することができる。【知識】					1						1	
②	意思表示に関する重要論点、無権代理・表見代理に関する重要論点を説明することができる。【知識】					1						1	
③	債権総論に関する重要事項（弁済、相殺、詐害行為取消権、債務不履行、受領遅滞、債権譲渡・債務引受）、債権各論に関する重要事項（同時履行の抗弁、危険負担、売主の担保責任）を説明することができる。【知識】					1						1	
④	債権の担保（担保物権、連帯債務・連帯保証）、所有権に関する重要事項、法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）を説明することができる。【知識】					1						1	
⑤	民法の諸規定の内容を理解し、与えられた事例に対し諸規定を適切にあてはめることができる。【技能】					1						1	
⑥	民法の解釈論上の意見交換に積極的に参加し、そこにおいて、お互いを尊重することができる。【態度・習慣】					1						1	
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	20	20					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法	松久三四彦・遠山純弘・林誠司	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	【法学演習BⅠの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度】	法学演習BⅠで学んだことの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を把握し、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、法学演習BⅠで学んだことの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の358頁から373頁、53頁から56頁、59頁から77頁までを読み、法学演習BⅠで学んだことの総復習を踏まえ、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を整理する。	80分
2	第一部 月9/21	【心裡留保・虚偽表示の事例演習、法人制度】	心裡留保・虚偽表示の具体的事例、法人制度の概要を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、心裡留保・虚偽表示の事例、法人制度の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の97頁から102頁、77頁から88頁までを読み、心裡留保・虚偽表示の要件・効果、法人制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、心裡留保・虚偽表示の事例、法人制度の概要を整理する。	80分
3	第一部 月9/28	【錯誤・詐欺・強迫】	錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の102頁から112頁までを読み、錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を整理する。	80分
4	第一部 月10/5	【表見代理、無権代理】	表見代理・無権代理の制度・諸論点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、表見代理・無権代理の制度・諸論点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の121頁から124頁までを読み、表見代理・無権代理の制度・諸論点を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、表見代理・無権代理の制度を整理する。	80分
5	第一部 月10/12	【同時履行の抗弁権、危険負担】	同時履行の抗弁権・危険負担に関する事例を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、同時履行の抗弁権・危険負担に関する事例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から137頁、192頁から195頁までを読み、同時履行の抗弁権・危険負担の事例を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、同時履行の抗弁権・危険負担の概要と事例を整理する。	80分
6	第一部 月10/19	【弁済、相殺】	弁済・相殺の制度・諸論点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、弁済・相殺の制度・諸論点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の137頁から152頁までを読み、弁済・相殺の制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、弁済・相殺の制度・諸論点を整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	【債務不履行、受領遅滞】	債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の165頁から181頁まで、189頁から191頁までを読み、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を整理する。	80分
8	第一回 月11/9	【売主の担保責任】	売主の担保責任の具体的事例を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、売主の担保責任の具体的事例を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の181頁から189頁までを読み、売主の担保責任の類型・具体例を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、契約不適合給付に対する買主の救済手段を具体的な事例を用いて整理する。	80分
9	第一部 月11/16	【詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受】	詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の202頁から205頁まで、212頁から216頁までを読み、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を整理する。	80分
10	第一部 月11/23	【債権の担保①－留置権・先取特権・質権・譲渡担保】	抵当権以外の典型担保物権（留置権・先取特権・質権）、譲渡担保を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の216頁から231頁までを読み、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を整理する。	80分
11	第一部 月11/30	【債権の担保②－連帯債務、連帯保証】	債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の208頁から211頁までを読み、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を整理する。	80分
12	第一部 月12/7	【所有権①－物権変動の諸論点】	物権変動の諸論点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、物権変動（176条、177条、178条）に関する諸論点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の244頁から258頁までを読み、物権変動の仕組み（176条、177条、178条）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、物権変動の仕組み（176条、177条、178条）全体を整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	【所有権②ー即時取得、取得時効】	即時取得の諸論点、取得時効の諸論点を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、即時取得の諸論点、取得時効の諸論点を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の258頁から268頁までを読み、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理する。	80分
14	第一部 月12/21	【事務管理、不当利得】	事務管理、不当利得を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、事務管理・不当利得の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の45頁（欄外のnotes参照）、282頁から283頁までを読み、事務管理・不当利得の概要を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、事務管理・不当利得の概要、他の制度との関係を整理する。	80分
15	第一部 月1/18	【不法行為②ー特殊の不法行為（工作物責任、共同不法行為）】	工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の概要を理解する。	
		事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の300頁から305頁までを読み、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の概要を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、工作物責任と共同不法行為の要件・効果を整理する。	80分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、将来、公務員や法曹（裁判官・検察官・弁護士）等、法律の解釈・適用に携わる職業を志望する学生には特に、この授業を通じてリーガルマインドを養ってほしい。

【授業方法】
基礎知識の講義（研究者兼現役弁護士の担当教員が実務経験にも照らして行う）を踏まえ、学生が各テーマの問題について考えてもらう。その上で報告者を決めて、報告してもらう。レポートの講評・解説を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、課題の解決に向けたレポート等を課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	行政法に関する諸問題についての知識を説明できる。						1			
②	養成した行政法領域の知見に基づいて適切に報告発表ができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的・実務的テーマについてレポートを作成する。	15	25									40
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	15	25									40
授業への参画度	授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評・解説を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法 第2版	宇賀克也	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日17：50～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法に関する実務経験に基づく説明と演習によって理論と実務の架橋を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1		イントロダクション 導入講義	行政法の仕組みについて受講者の理解度合いを確認するとともに、今期の進め方と学修の骨組みを説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、行政法の理解を深めるための必要事項を理解する。	
		事前学修	シラバスをよく確認しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。	120分
2		行政指導	－講義と問題の検討	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、行政指導について理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
3		行政指導	－前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の 到達目標	到達目標②との関係で、行政指導について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
4		行政基準（行政立法）	－講義と問題の検討	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、行政基準について理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
5		行政基準（行政立法）	－前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の 到達目標	到達目標②との関係で、行政基準について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
6		行政手続	－講義と問題の検討	
		この回の 到達目標	到達目標①との関係で、行政手続について理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7		行政手続	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政手続について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
8		行政不服申立て	講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政不服申立てを理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
9		行政不服申立て	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政不服申立てについて説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
10		行政訴訟（主に取消訴訟）	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、取消訴訟について理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
11		行政訴訟（主に取消訴訟）	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、取消訴訟について理解する。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
12		国家賠償請求	講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、国家賠償請求について理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13		国家賠償請求	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、国家賠償請求について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
14		損失補償	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標①との関係で、損失補償について理解する。	
		事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
		事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
15		損失補償	－ 講義と問題の検討	
		この回の到達目標	到達目標②との関係で、損失補償について説明できるようにする。	
		事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
		事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	

科目名	法学演習E I	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
憲法の権利論について演習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論について批判的討究ができる力を養成することを目的とする。 法の下の平等に関する諸問題について他者と議論できるようになることを目標とする。

【履修条件】
この演習を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
演習形式。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法上の権利論について全体的な見通しを持って議論することができる。				3						3	
②	平等の判例について精密に読むことができる。				3						3	
③	平等の諸問題について創造的に議論することができる。				3						3	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート等で行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】											
授業内で行う予定である。											

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。判例については授業で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日の19：00～20：00とします。13号館1階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお，相談内容等により，改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	開講の辞 導入講義	憲法の権利論とは何かを考察する。	
		この回の 到達目標	①に即してイメージを持つことができる。	
		事前学修	憲法の権利論を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）	120分
2	4月13日	憲法の権利論の概説	憲法の権利論を概説する。	
		この回の 到達目標	①に即して前回のイメージを再点検することができる。	
		事前学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）	120分
		事後学修	次回以下のこの演習の展開を希望的に予測すること。（2時間）	120分
3	4月20日	主題判例1の概説	主題判例1について概説する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1について概要を説明することができる。	
		事前学修	主題判例1について考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
4	4月27日	主題判例1の「判断枠組み」の前提	主題判例1の「判断枠組み」の前提について考察する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の「判断枠組み」の前提について説明することができる。	
		事前学修	主題判例1について深く考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
5	5月4日	主題判例1の「判断枠組み」	主題判例1の「判断枠組み」について考察する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の「判断枠組み」について説明することができる。	
		事前学修	主題判例1について一層深く考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
6	5月11日	主題判例1の「判断枠組み」の当てはめ	主題判例1 主題判例1の「判断枠組み」の当てはめについて考察する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の「判断枠組み」の当てはめについて説明することができる。	
		事前学修	主題判例1について批判的に考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	主題判例2の概説	主題判例2について概説する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2について概要を説明することができる。	
		事前学修	主題判例2について考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
8	5月25日	主題判例2の「判断枠組み」の前提	主題判例2の「判断枠組み」の前提について考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2の「判断枠組み」の前提について説明することができる。	
		事前学修	主題判例2について深く考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
9	6月1日	主題判例2の「判断枠組み」	主題判例2の「判断枠組み」について考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2の「判断枠組み」について説明することができる。	
		事前学修	主題判例2について一層深く考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
10	6月8日	主題判例2の「判断枠組み」の当てはめ	主題判例2の「判断枠組み」の当てはめについて考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2の「判断枠組み」の当てはめについて説明することができる。	
		事前学修	主題判例2について批判的に考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
11	6月15日	主題判例3	主題判例3について考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例3について説明することができる。	
		事前学修	主題判例3について自分なりに考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
12	6月22日	主題判例3の問題点	主題判例3の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例3の問題点について説明することができる。	
		事前学修	主題判例3について深く考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	主題判例 4	主題判例 4 について考察する。	
		この回の到達目標	③に即して主題判例 4 について説明することができる。	
		事前学修	主題判例 4 について自分なりに考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
14	7月6日	主題判例 4 の問題点	主題判例 4 の問題点について考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例 4 の問題点について説明することができる。	
		事前学修	主題判例 4 について深く考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
15	7月13日	閉講の辞振り返り	平等の観点から憲法上の権利論を再考する。	
		この回の到達目標	①②③に即して憲法上の権利論について平等の観点から批判的に議論することができる。	
		事前学修	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）	120分
		事後学修	事前の想像と閉講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）	120分

科目名	法学演習EⅡ	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
憲法の権利論（今のところ表現の自由に関する諸問題を考えている。）について演習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論について討議できる力を養成することを目的とする。 表現の自由に関する諸問題について他者と議論できるようになることを目標とする。

【履修条件】
この演習を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
演習形式。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法の権利論について討議することができる。				3						3	
②	表現の自由の判例を精密に読むことができる。				3						3	
③	表現の自由についての憲法論について批判的に議論することができる。				3						3	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート等を以て評価する予定である。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う予定である。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、文献等は授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
木曜日の18：00～19：00とします。前日までに13号館1階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	開講の辞 導入講義	憲法上の権利論とは何かについて考察する。	
		この回の 到達目標	①に即して憲法上の権利論とは何かについて考察できること。	
		事前学修	憲法の権利論を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）	120分
2	9月21日	表現の自由の新たな視角	表現の自由について新たな視角から考える。	
		この回の 到達目標	①②③に即して表現の自由について従来の一般的な理解を確認し、それを相対化できること。	
		事前学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）	120分
		事後学修	次回以下のこの演習の展開を希望的に予測すること。（2時間）	120分
3	9月28日	主題判例1の概要	主題判例1の概要を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の概要を把握できること。	
		事前学修	主題判例1について考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
4	10月5日	主題判例1の構造1	主題判例1の構造を把握する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の構造を把握できること。	
		事前学修	主題判例1について丁寧に読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
5	10月12日	主題判例1の構造2	主題判例1の構造を説明する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の構造を説明できること。	
		事前学修	主題判例1の論理展開を辿っておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
6	10月19日	主題判例1の当てはめ	主題判例1の当てはめを把握する。	
		この回の 到達目標	①②③に即して主題判例1の当てはめを把握できること。	
		事前学修	主題判例1の当てはめを考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	主題判例2の概要	主題判例2の概要を把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2の概要を把握できること。	
		事前学修	主題判例2について考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
8	11月9日	主題判例2の構造	主題判例2の構造を把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2の構造を把握できること。	
		事前学修	主題判例2について丁寧に読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
9	11月16日	主題判例2の当てはめ	主題判例2の当てはめを把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例2の当てはめを把握できること。	
		事前学修	主題判例2の当てはめを考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
10	11月23日	主題判例3の概要	主題判例3の概要を把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例3の構造を把握できること。	
		事前学修	主題判例3について丁寧に読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
11	11月30日	主題判例3の構造1	主題判例3の構造を把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例3の構造を把握できること。	
		事前学修	主題判例3について丁寧に読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
12	12月7日	主題判例3の構造2	主題判例3の構造を説明する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例3の構造を説明できること。	
		事前学修	主題判3の論理展開を辿っておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	主題判例3の当てはめ	主題判例3の当てはめを把握する。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例3の当てはめを把握できること。	
		事前学修	主題判例3の当てはめを考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
14	12月21日	主題判例のまとめ	主題判例1、2、3のまとめを行う。	
		この回の到達目標	①②③に即して主題判例1、2、3の全体像を把握できること。	
		事前学修	主題判例1、2、3について相互に関連づけて考えておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分
15	1月18日	閉講の辞振り返り	憲法上の権利論とは何かについて表現の自由についての新たな視角から考察する。	
		この回の到達目標	①②③に即して憲法上の権利論とは何かについて表現の自由についての新たな視角から考察できること。	
		事前学修	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）	120分
		事後学修	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）	120分

科目名	法学特殊講義(ジェンダーと法)Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				

【授業の概要】
「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。 ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。

【履修条件】
真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことが要請される。

【授業方法】
各授業の始めに基本的事項を講義した後、グループディスカッションや相互の意見交換、小レポートの作成などを行う。 レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション。 授業内レポートを作成し、それをフィードバックして検討する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジェンダーとは何かを理解し、説明することができる。					2			2				
②	ジェンダーに関係する法律上の問題について理解し、説明することができる。					2			2				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関し、授業内で試験を行う。	25	25									50
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関し、授業内で小レポートを作成する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成した小レポートは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レクチャージェンダー法（シラバスではAと表記）	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編	法律文化社	2012年	教科書	推奨
セクシュアリティと法（シラバスではBと表記）	谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編	法律文化社	2017年	教科書	推奨
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7 階1713研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月8日	前期オリエンテーション及び導入講義	ジェンダーと法を学ぶ意義
		この回の到達目標	ジェンダーとは何か、それが法とどう関係するかにつき理解できるようにする。
		事前学修	「ジェンダー差別」という言葉から想起される事例を各自考えた上で、教科書Aの序章を読んでおく。120分
		事後学修	「ジェンダー・ステレオタイプ」の例を挙げる。自分の問題として、ジャンダーがどう関わっているのか、具体例を挙げて考える。120分
2	4月15日	ジェンダー法を学ぶ基礎1	ジェンダーと憲法・民法・刑法
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A0章Ⅰ～Ⅲを読んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。120分
3	4月22日	ジェンダー法を学ぶ基礎2	ジェンダーと社会法・国際法
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A0章Ⅳ、Ⅴを読んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。120分
4	4月29日	日本における性差別	歴史的、法的に存在する性差別
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A1章を読んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。120分
5	5月6日	フェミニズム法学の展開	フェミニズムの主張、フェミニズムが法学に与えてきた影響
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A3章を読んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。120分
6	5月13日	学校教育に見るジェンダーバイアス	ジェンダーバイアスとはどのようなものか、学校のカリキュラムに潜むジェンダーバイアス
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A4章を読んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	家族と平等	婚姻の成立、夫婦同姓、親子関係	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A5章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
8	5月27日	家族と自由	標準的家族モデル、「家族」の保護	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A6章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
9	6月3日	逸失利益	失われたものの「値段」の男女差	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A7章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
10	6月10日	雇用とジェンダー	雇用におけるジェンダー問題、ワーク・ライフ・バランス	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A8章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
11	6月17日	社会保障とジェンダー	社会保障におけるジェンダー問題、第二号被保険者	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A9章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
12	6月24日	政治・行政、立法、司法分野とジェンダー	三権におけるジェンダーバランスとポジティブ・アクション	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A15、16章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	男性にとってのジェンダー法	男らしさの代償	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A17章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
14	7月8日	授業内試験及び講評	前期に扱ったテーマの振り返り	
		この回の到達目標	前期の内容について理解し、様々な立場や見解を踏まえた上で、より妥当なあり方について論理的に論じられるようにする。	
		事前学修	前期の内容につき、要点を整理しておく。現状や法的扱いなどを理解し、それを論理的に示せるように準備しておく。	120分
		事後学修	講評に基づき、自分の作成した解答を検討する。次回に備えて、問題点等を明確にしておく。	120分
15	7月15日	前期まとめ	ジェンダー法学の応用	
		この回の到達目標	前期の内容・要点について理解した上で、相互にディスカッションできるようにする。	
		事前学修	これまでの授業の要点につき、再度確認しておく。教科書A18章を読んでおく。	120分
		事後学修	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題が他の領域に与える影響について考察する。	120分

科目名	法学特殊講義(ジェンダーと法)Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				

【授業の概要】
「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。 ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。

【履修条件】
真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことが要請される。

【授業方法】
各授業の始めに基本的事項を講義した後、グループディスカッションや相互の意見交換、小レポートの作成などを行う。 レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション。 授業内レポートを作成し、それをフィードバックして検討する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジェンダーとは何かを理解し、説明することができる。					2			2				
②	ジェンダーに関係する法律上の問題について理解し、説明することができる。					2			2				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関し、授業内で試験を行う。	25	25									50
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関し、授業内で小レポートを作成する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成した小レポートは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レクチャージェンダー法（シラバスではAと表記）	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編	法律文化社	2012年	教科書	推奨
セクシュアリティと法（シラバスではBと表記）	谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編	法律文化社	2017年	教科書	推奨
備考	なし				

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7 階1713研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	オリエンテーション及び導入講義	ジェンダーとは何か、「ジェンダーと法」が明らかにするもの	
		この回の到達目標	ジェンダーとは何か、ジェンダーの視角を法に取り入れることにより、何が明らかになり得るかを理解する。	
		事前学修	ジェンダーと何か、ジェンダーを巡ってどのような問題があるのかを、自分に引きつけて具体的に考えておく。教科書Aを概観し、ジェンダーと法に関してどのような問題があるのか、把握しておく。	120分
		事後学修	自分に起きたジェンダーに関する具体的問題を、ジェンダー中立的見地から眺めるとどのように考えられるか、挙げておく。	120分
2	9月23日	セクシュアル・ハラスメント	セクハラ概念、類型、特徴、法により規制可能な範囲	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A11章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
3	9月30日	ドメスティック・バイオレンス、ストーカー	ドメスティック・バイオレンス、ストーカー概念、類型、特徴、法により規制可能な範囲	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A12章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
4	10月7日	性犯罪をめぐる問題	強制性交等の性犯罪の特徴、強姦神話、法により規制可能な範囲	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A10章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
5	10月14日	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	性に関する自己決定のあり方、中絶におけるプロライフとプロチョイス	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A13章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
6	10月21日	性表現とジェンダー	性表現の自由とその規制のあり方、限界	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A14章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月28日	法的性別の根拠		性的マイノリティの多様性、性的に「ノーマル」とは
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B1章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
8	11月11日	性同一性障がいと法		性的指向と性自認
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B2章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
9	11月18日	性的マイノリティの親子関係		性的マイノリティは親子関係を持てるのか
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B4章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
10	11月25日	同性婚と法		異性婚の根拠、同性婚を取り巻く環境
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B5章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
11	12月2日	性的マイノリティと労働		性的マイノリティからみる労働環境とその問題
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B7章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
12	12月9日	性的マイノリティと学校教育		学校教育とジェンダーバイアス、性的ノーマティヴィティ
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B8章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	人権の多様性	クイア理論、法が守る少数派の権利とは	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B9章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
14	12月23日	授業内試験及び講評	後期の内容全般の振り返り	
		この回の到達目標	後期の内容について理解し、様々な立場や見解を踏まえた上で、より妥当なあり方について論理的に論じられるようにする。	
		事前学修	後期の内容につき、要点を整理しておく。現状や法的扱いなどを理解し、それを論理的に示せるように準備しておく。	120分
		事後学修	講評に基づき、自分の作成した解答を検討する。次回に備えて、問題点等を明確にしておく。	120分
15	1月13日	後期まとめ	「セクシュアリティと法」のゆくえ	
		この回の到達目標	ジェンダーやセクシュアリティの視点から、社会的弱者が法により守られるとはどういうことか、その限界はどこにあるか、理解できるようにする。	
		事前学修	後期の内容につき、再度確認しておく。教科書B12章を読んでおく。それについてディスカッションできるように準備しておく。	120分
		事後学修	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題型の領域に与える影響について考察する。	120分

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	井上 琢也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
授業時に配布するプリントに沿って、講義形式で行います。ノートをしっかりとってください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関し、授業内で小テストを行う	35	35									70
レポート等	到達目標①②に関連して、レポートを作成する	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	規定のレポート課題の提出・授業時に実施する上記小テストの受験のすべてを前提として、小テスト(70%)とレポート(30%)で評価する											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストやレポートに関する講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『法思想史』（有斐閣アルマシリーズ）	中山竜一他	有斐閣	2019年	参考書	任意
『法思想史 第二版』（有斐閣Sシリーズ）	田中成明他	有斐閣	1997年	参考書	任意
『法思想史 新版』	三島淑臣	青林書院	1993年	参考書	任意
『政治思想史講義』	小野紀明	岩波書店	2015年	参考書	任意
『政治思想の源流―ヘレニズムとヘブライズム』	古賀敬太	風行社	2010年	参考書	任意
『法思想の水脈』	森村進他	法律文化社	2016年	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:10～16:20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7 第二部 火4/7	<プレリュード>「自然」という言葉について	開幕にあたり、授業で何を話すか、授業をどう進めていくか評価方法も含めて説明します。その上で、古代から中世にかけての「自然法」論の流れを辿る本授業において「船頭」的役割を果たす「自然」という言葉の意味について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、nature＝自然・本性という言葉が通時的に持っている重層的な意味を説明することができるようになる。	
		事前学修	「自然」という言葉の意味を辞典で調べておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然」という言葉がもつ複数の意味について整理しておいて下さい。	120分
2	第一部 火4/14 第二部 火4/14	<古代ギリシアの法思想と女神達>西洋「法」思想の源流を訪ねて	「自然法」論を検討するための前提となる材料を確保するために、戯曲『オイディプス王』等を参照しながら、テミスやディケー等の女神たちとギリシア法思想が契った関係について概観します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の舞台でも体感できる古代ギリシアの演劇の中に、法や正義の多様な姿がすでに現れていることを説明できるようになる。	
		事前学修	ソポクレス作『オイディプス王』のあらすじについて調べておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、アルカイック期における「自然と人為」の関係性の变化について整理しておいて下さい。	120分
3	第一部 火4/21 第二部 火4/21	<ピュシスとノモス>その出会いと別れについて	プラトンのソフィスト批判に注目して、「自然法」論のはじまりに立てられた「ピュシスとノモス」という二つの旗の意味について考察しながら、古代ギリシアを規定した客観的な正義・法観念を支えた「自然本性」のふるまいを追跡します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代正義論の範型となるソフィストの議論を精確に理解し、プラトンのアイデア論が「自然」概念を媒介として国家論、法理論とどのようにつながっているか説明できるようになる。	
		事前学修	世界史の教科書等を参照して、紀元前6世紀から前4世紀にかけてのギリシアの状況を確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、プラトンが「ピュシス」と「法」の関係についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。	120分
4	第一部 火4/28 第二部 火4/28	<アリストテレスと自然、正義（1）>「幸福」という言葉について	万学の祖とされるアリストテレスの「目的」論的世界観を、「自然」、「運動」、「最高善」といった言葉に寄り添って概観し、ポリス＝国家と徳、幸福との関係性について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アリストテレスの「ポリスの動物」という概念を精確に理解し、現在流行中の「徳倫理学」とアリストテレスの議論がどうつながっているか説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが提示した「ポリ斯的動物」という言葉の意味を確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、アリストテレスが「目的」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。	120分
5	第一部 火5/5 第二部 火5/5	<アリストテレスと自然、正義（2）>「全体的正義」あるいは「随意的行為」について	アリストテレスが「正義」について試みた基本的かつ複合的整理を紹介するとともに、彼の「行為」論の中から、「自由意志」や「過失」について考える手がかりを探し出してみます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、手続的正義等の種々の正義概念の概要を説明し、現代の刑法理論等で展開されている責任論の底流にある「行為」概念を的確に操作できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが「徳」という言葉をどのように使用していたか、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「配分的正義」、「選択」、「熟慮」等の重要概念の意味を整理しておいて下さい。	120分
6	第一部 火5/12 第二部 火5/12	<ストア派周辺の人々と自然法>法体系論と運命論について	「自然法」について考えるとき準拠される枠組みをほぼ完成させたストア派周辺の議論を整理し、キケロらが提示した「ius」「万民法」「運命」等の概念の意味について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然法」論の土台には理性＝ロゴス概念が存在することを精確に提示し、現代においても議論が白熱している、「自由意志」をめぐる「両立論」について説明できるようになる。	
		事前学修	3回目に配布したプリントに基づいて、ソフィストが「ノモス」をどう批判したか、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「ius」や「運命」という言葉がもつ多層的な意味について、慎重に整理しておいて下さい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火5/19 第二部 火5/19	<アウグスティヌスと自然法>「神の光」と「悪」について	「神の国」論や「照明」説にも当然目配りしながら、「永久法」概念等に基づくアウグスティヌスのキリスト教的「自然法」論について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アウグスティヌスが「悪」と国家、理性、意志との関係をどのように考えていたかを整理した上で、正義や法をめぐる「主意主義」・「主知主義」的理解について説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アウグスティヌスが「秩序」の形成についてどう考えていたか、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、アウグスティヌスが「神の光」や「神と悪」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。	120分
8	第一部 火5/26 第二部 火5/26	<トマス・アクィナスと自然法（1）>理性と永久法と自然法について	中世スコラ学を体系化し、その後の「法」の見方についても決定的な影響を与えた教会人トマスの「自然法」論について、人間の理性や神の理性との関わりに留意して、アリストテレスやアウグスティヌスの思想と比較しながら検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「理性的被造物の永久法への参与」と自然法が定義されることの意味を提示し、現代自然法論においても重要な論点となっている自然法と理性との関係性について説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、トマスが「超自然」と「自然」との関係についてどう考えていたか、確認しておいてください。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、トマスが正義や人間の理性についてどう考えていたか、慎重に整理しておいて下さい。	120分
9	第一部 火6/2 第二部 火6/2	<トマス・アクィナスと自然法（2）>「自然の光」と「神の恩恵」について	トマスが国家や法についてどう考えていたか、「自然本性」や「主知主義」といった言葉に立ち戻って包括的に検討した上で、「意志は誤ることはない」といったフレーズを手がかりに「意志と自由意志」という難題についても考察します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トマスが人間を「政治的・社会的動物」とみなしたことの意味を説明し、「意志」と「自由意志」概念を区別しながら、真の自由と選択の自由について説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、「主意主義」や「恩恵」という言葉に与えられた意味について確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「恩恵は自然を廃さず、むしろそれを完成する」や「善にも悪にも向かい得る自由意志」等のフレーズの意味について整理しておいて下さい。	120分
10	第一部 火6/9 第二部 火6/9	<『薔薇の名前』の法思想史>オッカムの正義論と「神の意志への服従」「自由意志による服従」について	14世紀の哲学者オッカムには主意主義者や唯名論者という属性が通常付与されるのですが、聖書や教会に潜む難題について彼が与えた解答の意味を「神への憎悪は悪ではない」というフレーズや認容的「自然法」というカテゴリー等の枠組に依拠して考察します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オッカムが「倫理的に正しい行為」をどう定義づけたか精確に提示し、「主意主義」的法実証主義者としてのオッカムが展開した自然法論の概要を説明できるようになる。	
		事前学修	『薔薇の名前』という小説・映画について調べておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「イサクを殺す命令」や「教皇の任命権」を正当化する理由についてオッカムがどう考えたか、整理しておいて下さい。	120分
11	第一部 火6/16 第二部 火6/16	<「清貧論争」におけるオッカム>墮罪前の「支配の権能」と「使用の権能」について	中世末の教会を震撼させた「清貧論争」において、オッカムが「所有していなくても使用できる」と考えた論拠について、墮罪前と墮罪後、カインによる財産分割の前と後等に分けて、詳細に紹介します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「天使的支配権」や「私的所有のライセンス」といった言葉を効果的に使いながら、現在もなお「私的所有」論の典拠とされる、オッカムの自然法上の「使用の権能」論について説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、オッカムが「使用の権能」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、トマスとオッカムが「私的所有」と「緊急使用权」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。	120分
12	第一部 火6/23 第二部 火6/23	<グロティウスにおける「所有」と「嘘」>「共用される海」と「悪でない嘘」について	16歳で弁護士になった早熟の天才グロティウスの主著『戦争と平和の法』が含む膨大な論点の中から、「先占」を発端とする「私的所有」成立論や「知る権利」を前提とした「嘘」に関する新しい考え方について紹介します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トマスやグロティウス等を比較しながら西洋における「所有」にも自然本性的に「共用」が内在していることや民法で登場する「心裡留保」には神学的背景があることを説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、グロティウスが「私的所有」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「嘘」と「悪」と「心裡留保」の関係について整理しておいて下さい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火6/30 第二部 火6/30	<「死者」の法思想史> 「自殺」をめぐる法手続について	ヨーロッパ社会において、「死者」がどのように扱われてきたか、「自殺者」へのサンクションや「自殺」の原因論等に注目しながら、法思想史の立場から考察します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西欧近代が「自殺」を峻別し「病理化」「脱犯罪化」するに至ったプロセスについて説明することができるようになる。	
		事前学修	「自殺」と「自死」の違いについて確認するとともに、江戸時代以前の日本で「自殺者」はどう扱われていたか調べてみて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自殺者」の峻別について整理した上で、現代を生きるあなたが「自死」者としてどう対するか考えてみて下さい。	120分
14	第一部 火7/7 第二部 火7/7	<授業を総括するテストとその反省>	これまで紹介した様々な自然法論の内容が理解できているか確認するテストを実施したあと、そのねらいについて説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアから中世にいたる自然法論の流れを整理して、現代とのつながりを説明する。	
		事前学修	重要な言葉の意味をしっかりと確認して、各思想家が同じ素材をどう料理したか、その違いを整理して、試験に臨んで下さい。	120分
		事後学修	試験でうまく答えられなかった箇所を反省しながら、自然法論の概略を改めて整理し直して下さい。	120分
15	第一部 火7/14 第二部 火7/14	<「異形」の法思想史> 「自然」の中にあるものと外にあるもの	これまでの授業で紹介した古代・中世「自然法」論を踏まえて、ヨーロッパ社会において、「異形なるもの」が法的にどのように扱われてきたか、アリストテレス、アウグスティヌス、プラトン等を例に挙げて概観してみます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代中世の自然法論が、ルソーらの「一般意志」論を通じて、現代の法理論に接続していることを説明できるようになる。	
		事前学修	13回目に配布したプリントに基づいて、西欧古代・中世において「異形なるもの」は「自然」の内部にいたか否か、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、マルブランシュが「一般意志」と「自然の法」と「異形なるもの」をどう結びつけていたか、整理しておいて下さい。	120分

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについて小レポートを作成してもらう。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を進める材料とする。授業内で議論し合うこともある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内レポートを作成し、それをフィードバックして検討する。 一定テーマにつき、グループで話し合いを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関し、授業内で小テストを行う	25	25									50
レポート等	到達目標①②に関連して、レポートを作成する	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想の水脈（シラバスではAと標記）	森村進編	法律文化社	2016年	教科書	任意
はじめて学ぶ法哲学・法思想（シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之他 編	ミネルヴァ書房	2010年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7 階1713研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月7日	前期オリエンテーション及び導入講義	法思想史とはなにか
		この回の到達目標	法思想を学ぶ意義を考え、そもそも法とは何か、法的な正しさと社会的な正しさとは同じなのかについて理解し、要点を示すことができるようにする。
		事前学修	社会的な正しさと、法的な正しさとの異同を考えておく。教科書A0章を読んでおく。120分
		事後学修	法思想史における様々なアプローチを大まかに整理し、法思想史を学ぶ意義を押さえておく。120分
2	4月14日	古代ギリシアの法思想1	ソクラテス、プラトンの法思想
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの11～19ページを読み、時代背景も把握しておく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。120分
3	4月14日	古代ギリシアの法思想2	アリストテレス
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの19～26ページを読み、時代背景も把握しておく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。120分
4	4月28日	神学的自然法論	アウグスティヌス、トマス・アクィナス
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの2章を読み、時代背景も把握しておく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）120分
5	5月5日	ディスカッション及び小テスト	なぜ責任を問えるのか？ アリストテレスとカントから
		この回の到達目標	これまでの内容につき、提示されたテーマをもとにディスカッションを行い、自分の見解を提示できるようにする。
		事前学修	1～4回の内容について確認したうえで、教科書Bの40～51ページを読んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）120分
6	5月12日	法の支配	クック、ベンサム、ミル
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの42～57ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	社会契約論 1	ホッブズ、ロック	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの58～65ページを読み、時代背景も把握しておく。(2時間)	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分
8	5月26日	社会契約論 2	ルソー	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの66～73ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分
9	6月2日	ドイツ観念論	カント、ヘーゲル	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの5章を読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
10	6月9日	ディスカッション及び小テスト	権利とは何か？ ホッブズとイエーリングから	
		この回の到達目標	6～10回目の内容につき、提示されたテーマをもとにディスカッションを行い、自分の見解を示すことができる。	
		事前学修	6～9回の内容について確認したうえで、教科書Bの16～27ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
11	6月16日	概念法学	サヴィニー、プフタ、イエーリング	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの96～122ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
12	6月23日	法社会学の形成	エールリッヒ、ウェーバー	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの123～137ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	プラグマティズム	ホームズ	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の34～35ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	7月7日	価値相対主義の法哲学	ラートブルフ	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの205～218ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
15	7月14日	ディスカッション及び小テスト	法の支配とは何か ホップズとロックから	
		この回の到達目標	11～15回の内容につき、提示されたテーマをもとにディスカッションを行い、自分の見解を示すことができる。	
		事前学修	11～14回の内容について確認したうえで、教科書Bの89～102ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。（2時間）	120分

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	井上 琢也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
授業時に配布するプリントに沿って、講義形式で行います。ノートをしっかりとってください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。				2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関し、授業内で小テストを行う	35	35									70
レポート等	到達目標①②に関連して、レポートを作成する	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	規定のレポート課題の提出・授業時に実施する上記小テストの受験のすべてを前提として、小テスト(70%)とレポート(30%)で評価する											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストやレポートに関する講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『法思想史』(有斐閣アルマシリーズ)	中山竜一他	有斐閣	2019年	参考書	任意
『法思想史 第二版』(有斐閣Sシリーズ)	田中成明他	有斐閣	1997年	参考書	任意
『法思想史 新版』	三島淑臣	青林書院	1993年	参考書	任意
『政治思想史講義』	小野紀明	岩波書店	2015年	参考書	任意
『法思想の水脈』	森村進他	法律文化社	2016年	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:10～16:20 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火9/15 第二部 火9/15	<インターミッション> 「契約」という言葉について	この授業でどのようなことを話すか、どのように進めていくか、評価方法も含めて説明します。その上で、近世の「社会契約論」について念入りに復習する本授業を貫く鍵概念としての「契約」という言葉がもつ多様な意味を「信約」や「合意」等の言葉と対比しながら確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学部生なら当然知っているべきなのにあやふやな理解にしばしば留まっている、「契約」の基本的な枠組みについて、その歴史的・社会的背景も踏まえて説明できるようになる。	
		事前学修	世界史の教科書等を参照して、ヨーロッパで「近世」と呼ばれる時代のイメージをつかんでおいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「契約」という言葉がどんな意味で使われてきたか整理しておいて下さい。	120分
2	第一部 火9/22 第二部 火9/22	<グロティウスと近世自然法論>アベルとカルネアデスをめぐる物語について	グロティウスの「自然法」論を紹介しながら「近世自然法論」の基本的な枠組みを確認するとともに、『戦争と平和の法』に登場するカルネアデス批判を通じて「社会性」について、アベル殺しの物語を通じて「刑罰権」の起源について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グロティウスの「自然法論」について「社会性」等に注目して説明できるようになるとともに、「緊急避難」等について語る語彙を増やす。	
		事前学修	「自然法」という言葉の意味を辞典やインターネット等で再度確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、新旧の「自然法」論の違いについて整理しておいて下さい。	120分
3	第一部 火9/29 第二部 火9/29	<ホッブズと社会契約 総論（１）>「熟慮する人間」と「あらゆるものに対する権利」について	ホッブズの「社会契約論」の基層にある「自然権」「自然法」という概念の意味について、意志、理性等の言葉やホッブズの人間観、運動論にも留意しながら詳論してみます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズが使った「意志的行為」という言葉の意味や「人権」概念を擁護するあるいは批判しようとする際に不可欠な「自然権」という言葉の意味を精確に説明できるようになる。	
		事前学修	世界史の教科書等を参照して、ピューリタン革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「恐怖」を出発点として、ホッブズが人間をどう描こうとしたか整理しておいて下さい。	120分
4	第一部 火10/6 第二部 火10/6	<ホッブズと社会契約 総論（２）>「役者としての主権者」と「法を命じる主権者」について	「信約によって作り出された合一を担う主権者」等の「社会契約」に関するホッブズ固有の考え方を手がかりに、国家成立後に登場した「法」や「外的障害がないこと」と定義づけられた「自由」について彼がどう考えていたか紹介します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然法が法となった」プロセスについて精確に語り、権利と義務と自由の関係についての古典的議論を説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ホッブズが「自然法」や「自然権」をどう意味づけたか確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、契約の担い手や合一、代表等について、ホッブズがどのように捉えていたか整理しておいて下さい。	120分
5	第一部 火10/13 第二部 火10/13	<ホッブズと社会契約 各論>「ホッブズ問題」と「主権者としてのモーセ」について	聖書解釈等と関連づけられて進化し続けている、ホッブズ「社会契約論」に関する研究の最先端を、「片方未履行信約」がもつ拘束力という論点や17世紀イングランドと古代イスラエルの政治状況を対比するという視角にも留意しながら紹介します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「囚人のジレンマ」等を引用しながらホッブズの社会契約論が孕む矛盾の解決策の一例を提示し、モーセを巡る契約を相互契約として社会契約の源流とみなす考え方を説明できるようになる。	
		事前学修	旧約聖書でモーセがどのように登場するか、確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「ホッブズ問題」や「主権的預言者」概念について、内容を整理しておいて下さい。	120分
6	第一部 火10/20 第二部 火10/20	<ロックと社会契約（１）>「固有物としてのproperty」と「固有権としてのproperty」について	経験主義的認識論の紹介や「自然的権力」や「固有権」等の語義確認をした上で、ロックの「社会契約論」について、何を譲渡するのかということにとりわけ注意を払いながら検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロックが使用する「自然法」「自然権」「自然的権力」等の言葉の意味を精確に提示し、「自己所有権」等をめぐる現代的議論に参加する際にロックのproperty概念を適切に使用できるようになる。	
		事前学修	世界史の教科書等を参照して、名誉革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、ロックが「自然権」「自然法」等の概念をどう意味づけていたか慎重に整理しておいて下さい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火10/27 第二部 火10/27	<ロックと社会契約（2）> >「governmentの中核としての立法部」と「governmentの解体」について	「信託」や「同意」といった言葉に依拠してロックの「社会契約論」に登場するgovernmentについて分析するとともに、彼が法や自由についてどう考えていたか、ホッブズ等と比較しながら検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「信託」違反行為が発生した際の帰結や法と自由の関係についてロックがどのように考えていたか説明するとともに、ネーティブ・アメリカンに関する発言を念頭に彼の「社会契約論」の「限界」についても説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ロックが「信託」という言葉をどのように使用したか確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、ロックが「立法部」をどう位置づけていたか整理しておいて下さい。	120分
8	第一部 火11/10 第二部 火11/10	<ルソーと社会契約 総論（1）> >「自然的感情」と「理性」の相克について	ルソーが展開した論理的シミュレーションとしての『不平等起源論』を出発点として、「憐れみ」や「自己愛」等の概念に注目しながら、彼の「社会契約論」を裏で支えている「理性を具えた人間への批判的視線」について考察します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「純粋な自然状態」には戻れない人間が直面している不平等を生んだ原因についてルソーがどう考えていたか、現代社会にある「不都合な現実」を意識しながら説明できるようになる。	
		事前学修	世界史の教科書等を参照して、ルソーが生きた18世紀フランスのイメージをつかんでおいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが提示した複数の「自然状態」について、内容を整理しておいて下さい。	120分
9	第一部 火11/17 第二部 火11/17	<ルソーと社会契約 総論（2）> >「自分自身との契約」と「自分で自分を支配する自由」について	「自律ファースト」を旨とするルソーの「社会契約論」について、誰と誰の契約なのか、何を譲渡するのか、市民が享有する自由とは何なのか、等の普遍的な論点に留意しながら、慎重に検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「公共」について考える際に今なお参照を余儀なくされる、「共同体全体」と「個人」という二つの名宛人を前提としたルソーの「社会契約論」について、「自然的自由から市民的自由へ」や「法は誤らない」等のフレーズを用いながら精確に説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「一般意志」という言葉をどう意味づけていたか確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーの「君の名は。」的な「社会契約」論において、個人と共同体全体が結んだ関係性について整理しておいて下さい。	120分
10	第一部 火11/24 第二部 火11/24	<ルソーと社会契約 各論（2）> >「本来的自然法」と「理性的自然法」について	理性を当然の前提とした「自然法論」に対するルソーの鋭敏な批判を手がかりに、ホッブズやロックらと比較しながら近世「社会契約論」の整理をした上で、「共和主義」等の現代的論点へのルソー思想の繋がりについても紹介します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代人も享有する「不平等は自然法に反する」という考え方をいち早く提示したルソーが「自然法論」の批判者でもあったことの意味を説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「立法者」や「共和国」についてどう考えていたか確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが「自然法」や「理性」に与えた複数の評価について整理しておいて下さい。	120分
11	第一部 火12/1 第二部 火12/1	<「敵を罰することは可能か」という問いを巡る法思想史> >「市民としての犯罪者」と「敵としての犯罪者」について	ホッブズやルソー等の「社会契約論」は刑罰や犯罪者をどう位置付けていたか確認した上で、ルソーの戦争論や9/11以来賑やかになっている「対敵刑法」を巡る議論に基づいて、「敵を罰すること」と「法」との関係について検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ルソーの戦争論やヤコブスの対敵刑法論等に基づくならば、戦場の兵士やテロリストはどのような理由で罰することができるのか、あるいは罰することができないか、説明できるようになる。	
		事前学修	3回目や8回目等に配布したプリントに基づいて、ホッブズやルソーの「自然状態」論について復習しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、各思想家の「刑罰権」論、「戦争」論の違い等を整理しておいて下さい。	120分
12	第一部 火12/8 第二部 火12/8	<「例外状態にどう対すればいいのか」という問いを巡る法思想史> >「法から排除された存在」かつ「法に包含された存在」について	アガンベン「ホモ・サケル」という言葉を手がかりに、カール・シュミットらが定義づけた「例外状態」という存在がもつ二面性について考察し、「例外状態」が遍在化している現代を生きるヒントを提供したい。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ルソーの「独裁」論やホッブズの「自然状態」論等を用いて、「境界線上にある存在」としての「例外状態」が現代社会において日常的に顕在化する仕組みを説明できるようになる。	
		事前学修	「緊急事態」等の言葉を巡ってどのような議論が存在するのか、憲法の教科書等を参照して確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、アガンベンがホッブズの「狼」概念に注目して展開した「例外状態」論について整理しておいて下さい。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火12/15 第二部 火12/15	<「主権者」に注目した「社会契約論」回顧>「リアルに生きている群衆」かつ「不可視な群衆」について	アガンベンの『スタシス』に依拠して、「内戦状態」について検討した上で、「君主制において臣民たちは群衆であり王は人民である」というホッブズの発言を手がかりに、「社会契約論」の鍵となる「主権者」の属性について再度確認してみます。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大赦制度の起源について説明するとともに、「群衆」や「人民」という言葉を的確に使用して、「主権者」や「社会契約」について説明できるようになる。	
		事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アガンベンが「内戦」についてどう考えていたか確認しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーやホッブズが社会契約において「主権者」をどう位置づけたか、整理しておいて下さい。	120分
14	第一部 火12/22 第二部 火12/22	<授業を総括するテストとその反省>	これまで紹介した様々な「社会契約論」の内容が理解できているか確認するテストを実施したあと、そのねらいについて説明します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の様々な法概念とのつながりを意識しながら、近世の様々な社会契約論の異同を精確に記述できるようになる。	
		事前学修	重要な言葉の意味をしっかりと確認して、各思想家が同じ素材をどう料理したか、その違いを整理して、試験に臨んで下さい。	120分
		事後学修	試験でうまく答えられなかった箇所を反省しながら、「社会契約論」の全体像について改めて整理し直して下さい。	120分
15	第一部 火1/12 第二部 火1/12	<「自由と責任」の法思想史>「フランクファート型事例」と「テセウスの船」について	断片的にしか検討することができなかった「自由でなければ責任はないのか」という問題について、ホッブズらが提示した様々な「自由」定義やロックの「同一性」論等を手がかりに検討します。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自由意志」についての様々な考え方を整理して、「解離性障害を抱える者に刑事責任を問えるか」等の問いについて自分なりの答えを的確に表現できるようになる。	
		事前学修	4回目と7回目に配布したプリントに基づいて、ホッブズやロックが「自由」についてどう考えていたか、復習しておいて下さい。	120分
		事後学修	配布したプリント等に基づいて、「酩酊中の行為に関する法的責任」について自分なりの解答を作成して下さい。	120分

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについて小レポートを作成してもらう。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を進める材料とする。授業内で議論し合うこともある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内レポートを作成し、それをフィードバックして検討する。 一定テーマにつき、グループで話し合いを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関し、授業内で小テストを行う	25	25									50
レポート等	到達目標①②に関連して、レポートを作成する	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想の水脈（シラバスではAと標記）	森村進編	法律文化社	2016年	教科書	任意
はじめて学ぶ法哲学・法思想（シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之他編	ミネルヴァ書房	2010年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7 階1713研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	後期オリエンテーション導入講義	法的妥当性と正義	
		この回の到達目標	法、正義、国家とは何か、それぞれどのような関係にあるのかについて検討し、要点を示すことができるようにする。	
		事前学修	法的な正しさと国家との関係について考えておく。参考書の2、3ページ及び46、47ページを読んでおく。	120分
		事後学修	正義と国家とがどのように関係しているのか、論点を整理しておく。	120分
2	9月22日	国法学と立憲主義 1	イエリネク	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの77～88ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	9月29日	国法学と立憲主義 2	天皇機関説	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
4	10月6日	法実証主義 1	ケルゼン、シュミット	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの153～165ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	10月13日	ディスカッションと小テスト	法的な人格とは何か？ ケルゼンから	
		この回の到達目標	後期のこれまでの内容につき、提示されたテーマをもとにディスカッションを行い、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	16～19回の内容について確認したうえで、教科書Bの28～39ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	10月20日	法実証主義	H. L. A. ハート	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの170～183ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	再生自然法論	ハート・フラー論争	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの184～202ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
8	11月10日	正義論 1	ロールズ	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの203～216ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
9	11月17日	正義論 2	ドゥオーキン	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
10	11月24日	ディスカッションと小テスト	デモクラシーと多数決 ルソー、トクヴィルから	
		この回の到達目標	21～25回の内容につき、提示されたテーマをもとにディスカッションを行い、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	20～24回の内容について確認したうえで、教科書Bの176～189ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
11	12月1日	正義論 3	A. セン	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。参考書の182～183ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
12	12月8日	正義論 4	リバタリアニズム	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの217～228ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	正義論 5	コミュニタリアニズム、フェミニズム	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の120～123ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	12月22日	正義論 6	多文化主義	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の124～125ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
15	1月12日	ディスカッションと小テスト	自由の規制 ミルとバーリンから	
		この回の到達目標	26～30回の内容につき、提示されたテーマをもとにディスカッションを行い、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	26～29回の内容について確認したうえで、教科書Bの251～262ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。	120分

科目名	法情報学Ⅰ	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○			

【授業の概要】
コンピュータネットワークやインターネットを通して、データベースを利用するなどし、法律学のレポートを作成するための情報、資料の収集を学ぶとともに、インターネットやコンピュータに関する諸問題とその法律関係を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
少なくとも法学部図書館から利用できるデータベースを通して、様々な情報を検索する。インターネット上に生ずる様々な問題を現行法を通してどのように解決できるのか、また現行法上の問題点を考え、諸問題の解決方法を正しく習得させること。 インターネット上の商取引の問題点を正しく理解し、解決の方向性を見出せるようになること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	1回、2回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	ある問題を法律に基づいて解決するために、必要とされる様々な情報を収集し、分類する。		2					
②	収集した様々な情報から問題解決のための情報を対比、選択し、情報の要素を発見し、結論を導く。		2					
③	国境を越えた問題を解決するために、問題に対する世界の情報を収集し、グローバルスタンダードを発見し、問題解決のために、応用、適用する。			2				
④	既存の法律を単純に適用できないインターネット上に現れる様々な問題の解決方法を指摘し、各人の権利が守られるルールを提案する。						2	
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	10	20	10	60							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	60							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井・鈴木・山口	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	コンピュータ、インターネットに関する問題は多様で、このテキストに講義内容の全ての項目が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月8日	ガイダンス及び導入講義		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。	
		事前学修	コンピュータやインターネットに関する法的問題にはどのようなものがあるか事前に考えてみる。テキスト第1章を読んでおくこと。	120分
		事後学修	毎日の新聞にどのような事件として、記事として掲載されているかを読み、コンピュータやインターネット上で起こる問題と法の適用を整理する。	120分
2	4月15日	インターネットの概念とコンピュータの活用法		インターネットやコンピュータ、AIを利用し、作業効率を上げる方法を考える。例えば、翻訳ソフトの利用で作業効率は向上するのか考える。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネットやコンピュータの利用がもたらすメリット、デメリットを理解し、利用できる。	
		事前学修	コンピュータ、インターネットを利用することでどのように時間を節約できるかを考える。利用できるデータベースシステムを検索する。	120分
		事後学修	コンピュータ、インターネットを学習のために利用し、時間の節約、有効利用を実践してみる。図書館のデータベースを利用する。ネット上の翻訳ソフトを使用する。e-GOV法令検索を利用する。	120分
3	4月22日	デジタル経済社会の進展と競争政策		インターネットとコンピュータを利用すれば人、物、時間に関して効率的なビジネスモデルを構築することができそうであるが、そのために人は何を失う可能性があるのか考える。
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サイバービジネスとビックデータの結びつきと、プライバシーとの関係を理解し、説明できる。	
		事前学修	コンピュータ、インターネットの利用がもたらす経済効果と情報の支配を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第8章15(デジタル経済社会の進展と競争政策)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	コンピュータ、インターネットがもたらす省資源化とプライバシーの関係を考え、その調和の妥協点を説明できるようにまとめる。	120分
4	4月29日	電子決済1 (クレジットカード決済)		インターネット上の取引における場合と、対面販売における場合のクレジットカード決済の違いについて考える。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、インターネット上と対面販売における場合のクレジットカード決済の違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	店舗での対面販売の際のクレジットカード決済について調べておくこと。テキスト第8章「1電子商取引の支払いと決済の仕組み」、「6クレジットカードをめぐる法的問題」部分を読んでおくこと。(2時間)	120分
		事後学修	通常の店舗でのクレジットカード決済とインターネットにおけるクレジットカード決済の違いを十分に理解し、説明できるようまとめる。(2時間)	120分
5	5月6日	電子決済2 (電子マネー、プリペイドカード)		インターネット上の取引に利用される電子マネーとはどのようなものなのか。暗号資産との違いはあるのかを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、電子マネーに関連する法律を理解し、電子マネーについての的確に説明する。	
		事前学修	電子マネー、プリペイドカードとはどういうものなのか、自らが利用しているか調べておくこと。テキスト第8章「1電子商取引の支払いと決済の仕組み」、「2電子マネーをめぐる法的問題」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	電子マネー、プリペイドカードの法的保護について正しく理解し、説明できるようにまとめる。	120分
6	5月13日	サービスポイント制度の問題点		様々な販売形態その他により付与されるサービスポイントとはどのようなもので、法律上どのようなものなのかを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サービスポイントの性格を理解し、電子マネーとの違いを説明する。	
		事前学修	マイレージやサービスポイントとはどういうものなのか？ 参考書「情報ネットワークの法実務第5章12(ポイントサービス)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	サービスポイントの法的性格を正しく理解し、電子マネーの保護との違いを説明できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	インターネットオークションサイトの問題点	インターネットオークションサイトの主催者、出店者と落札者の権利義務はどのような関係にあるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、関係者それぞれについてその権利と義務に関して理解し、説明する。	
		事前学修	インターネットオークションサイトに関わる事件を調べておくこと。テキスト「第7章電子契約をめぐる私法的な問題」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	インターネットオークションサイトの主催者やサイトの責任について正しく理解し、説明できるようにまとめる。	120分
8	5月27日	インターネット上の古物営業と盗品の譲渡	インターネットの特性を利用した盗品の販売に関して理解し、適用される法律について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、インターネットの特性と盗品販売に関する法律について理解し、説明する。	
		事前学修	盗品の譲渡について理解しておくこと。刑法256条以下、古物営業法について確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第4章15(インターネット・オークションと古物営業法)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	現実社会とインターネット上での取引との違いに関して、法の改正と適用の違いについて説明できるようにまとめる。	120分
9	6月3日	インターネット上での売買	個人がインターネット上のサイトに商品を掲載し販売する場合に適用される法律について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、一般法、特別法が適用される場合を区別して理解し、的確に説明できる。	
		事前学修	インターネット上の取引に関して適用される法律である特定商取引法を事前に確認しておくこと。テキスト第7章「電子商取引と契約」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	法律に則った店舗であるか否かを見極めることができるよう、問題点を整理しまとめる。	120分
10	6月10日	ネットワーク上の悪質商法	インターネット上で見かけられる悪徳商法について、問題点と適用できる法を考える。例、「販売預託商法」、「紙幣販売」	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、規制の必要の是非を理解し、適用すべき法律の理由を的確に説明できる。	
		事前学修	マルチ商法、業務提携誘引販売取引、販売預託商法について調べておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第4章6(ネットワーク上の悪質商法(1))部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	インターネットを利用することによる悪徳商法が行われやすいことを理解し、対策、問題点を説明できるようにまとめる。	120分
11	6月17日	電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律について	インターネット上の取引に関する消費者の保護に関する法律が何故必要となったのか、及び、その適用について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、インターネット上の取引における消費者の保護について理解し、その保護の効果についての的確に説明できる。	
		事前学修	民法526条(隔地者間の契約の成立時期)および民法95条(錯誤)と、電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律の違いについて確認しておく。テキスト第7章4部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	民法の特例に関する法律がネット上の取引にどのように適用されているかを確認し、説明できるようにまとめる。	120分
12	6月24日	アフィリエイトとドロップシッピング	インターネット上のアフィリエイト、ドロップシッピングと「ネット広告詐欺」について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、アフィリエイト、ドロップシッピングの内容と、ネット広告詐欺に利用される場合を理解し、その問題点と解決法を説明する。	
		事前学修	インターネット上のオークションサイトに同一商品を販売する店舗が多いのか考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務第4章20(アフィリエイトとドロップシッピング)部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	契約の当事者が誰であるのかを明確にし、契約について説明できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	電気通信事業者の電話勧誘行為	電気通信事業者による通信回線に関する電話勧誘行為について電気通信事業法、個人情報保護法の適用も含めて考える。広告メールが規制されるのに電話勧誘行為が許される理由を考える。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、電気通信事業者による電話勧誘行為について理解し、諸法の適用範囲を理解し、電話勧誘行為の規制についての的確に説明する。	
		事前学修	電話勧誘に関する法律(特定商取引法)と電気通信事業法を確認しておくこと。特定商取引法の参考書の「電話勧誘」の部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	電話勧誘行為を規制する諸国との違いを知り、どのような規制が望ましいか、その考えをまとめる。	120分
14	7月8日	個人情報の保護	ネットワーク、コンピュータを利用した個人情報取得の許容範囲について考える。収集されたBigデータの利用とプライバシーの保護を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集とBigデータの利用について理解し、どのような観点から、何を保護すべきなのかを的確に説明する。	
		事前学修	日頃、個人情報がどのように収集されているか調べておくこと。テキスト第11章「インターネット上の個人情報の保護」を読んでおくこと。	120分
		事後学修	わが国における個人情報の集中化とその利用、漏洩と自らの情報の管理と提供の状況を説明できるようにまとめる。	120分
15	7月15日	今学期のレポート課題についての解説	今学期のレポート課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。	
		事前学修	今学期のレポート課題ついて口頭で説明できるようにまとめる。	120分
		事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。	120分

科目名	法情報学Ⅱ	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○			

【授業の概要】
コンピュータネットワークやインターネットを通して、データベースを利用するなどし、法律学のレポートを作成するための情報、資料の収集を学ぶとともに、インターネットやコンピュータに関する諸問題とその法律関係を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
少なくとも法学部図書館から利用できるデータベースを通して、様々な情報を検索する。インターネット上に生ずる様々な問題を現行法を通してどのように解決できるのか、また現行法上の問題点を考え、諸問題の解決方法を正しく習得させること。 データベース等の利用がスムーズに行えること。インターネット上の商取引の問題点を正しく理解し、解決の方向性を見出せるようになること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	1回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ある問題を法律に基づいて解決するために、必要とされる様々な情報を収集し、分類する。				2							
②	収集した様々な情報から問題解決のための情報を対比、選択し、情報の要素を発見し、結論を導く。				2							
③	国境を越えた問題を解決するために、問題に対する世界の情報を収集し、グローバルスタンダードを発見し、問題解決のために、応用、適用する。					2						
④	既存の法律を単純に適用できないインターネット上に現れる様々な問題の解決方法を指摘し、各人の権利が守られるルールを提案する。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	10	20	10	60							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	60							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井・鈴木・山口	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	コンピュータ、インターネットに関する問題は多様で、このテキストに講義内容の全ての項目が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9月16日	ガイダンスと前期講義内容に関する質問と回答		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。	
		事前学修	コンピュータやインターネットに関する法的問題にはどのようなものがあるか事前に考えてみる。例えば、毎日の新聞にどのような事件として、記事として掲載されているか見てみる。	120分
		事後学修	コンピュータやインターネット上で起こる問題と現実世界で起こる問題の違いを説明できるようにまとめる。	120分
2	9月23日	情報ネットワーク利用に関する著作権		SNSなどで情報を提供する場合や、ブログなどのサイト画面を作成する場合の著作権は誰にあるのか考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作権について理解し、SNSやサイト画面の作成の際の著作権関係を説明する。	
		事前学修	ブログやフェイスブックのサイトを作成する際のソースの著作権は誰にあるのか考えてみる。	120分
		事後学修	公衆送信権と複製の私的使用の違いを正しく理解し、それを説明できるようにまとめる。	120分
3	9月30日	自炊と著作物の私的利用		本や雑誌をまるごと電子化することは、著作物の私的使用の為の複製といえるのか考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作物の私的使用の為の複製について理解し、電子化の是非について説明する。	
		事前学修	書籍のデジタル化に関して、最高裁平成23年1月20日第一小法廷判決を読んでおく。	120分
		事後学修	書籍のデジタル化に関し、代行業者に依頼する場合と自ら行う場合の違いを理解し、説明できるようにまとめる。	120分
4	10月7日	ソフトウェアの利用許諾		パソコン用ソフトウェアを購入した場合、そのソフトウェアの所有権は誰にあるのか。ソフトウェアの利用許諾契約とはどのような権利義務関係の契約なのか考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソフトウェア利用許諾契約の権利義務関係を理解し、説明する。	
		事前学修	物品の購入と所有権について知識を確認しておく。最判平成14年4月25日を読んでおく。	120分
		事後学修	利用許諾契約と売買契約の違いについて正しく理解し、説明できるようにまとめる。	120分
5	10月14日	情報通信装置を利用した従業員の監視		情報通信機器を利用し従業員の職務専念義務や業務上のミスを監視することや、タクシー運転手の位置情報の取得の是非について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、使用者と雇用者の関係に基づいた、情報通信機器を利用したあるいは利用情報による雇用者の監視について理解し、適否を説明する。	
		事前学修	電子メールのモニタリングやGPS機能を利用した位置情報の取得が許される場合と許されない場合を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第7章15(IT機器を利用した従業員の監視の在り方)」部分を読んでおく。	120分
		事後学修	種々のケースに当てはめ、プライバシーの保護の境界線を考え説明できるようにまとめる。	120分
6	10月21日	仮想通貨の諸問題		暗号資産と電子マネーの違いについて理解し、暗号資産の流通によるメリット、デメリットを考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、暗号資産とは何なのか、メリット、デメリットを理解し、流通による効果を的確に説明する。	
		事前学修	仮想通貨を利用するメリット、デメリットを調べておく。テキスト第8章7(仮想通貨をめぐる法的問題)部分を読んでおく。	120分
		事後学修	仮想通貨が主流となった場合のメリット、デメリットを比較して説明できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	10月28日	検索エンジンの問題点		検索エンジンを利用する際に「サジェスト」と「スニペット」が表示されることの是非について考える。「スニペット」とは要約の意味であり、承諾なしに要約することは許されるのか考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、検索エンジンとはどのように定義されるものか、諸法との関連を理解し、その合法性、違法性を説明する。	
		事前学修	検索エンジンを利用する際に表示される検索語や結果の要約と著作権、名誉毀損との関係を確認する。テキスト第11章(インターネット上の個人情報の保護)部分を読んでおく。	120分
		事後学修	検索結果が諸権利を侵害しない理由を説明できるようにまとめる。	120分
8	11月11日	放送受信料制度をめぐる問題点		番組のインターネット同時配信の開始により、スマートフォンは「放送を受信することのできる受信設備」に該当するのか。放送受信料制度について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、放送法の各条を理解し、放送受信料制度について説明する。	
		事前学修	最高裁H29年12月6日判決を読んでおく。	120分
		事後学修	NHKに放送受信料を支払わなくてよい場合、諸外国の公共放送とを比較して説明できるようまとめる。	120分
9	11月18日	コンサートチケットの転売		コンサートチケットの転売とマスクの高額転売を比較し、転売の是非を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、いわゆる「チケット不正転売禁止法」、「ダフ屋行為」について理解し、様々な物の高額転売について説明する。	
		事前学修	コンサートチケットの高額転売は許されるのか考える。不正転売規制法について検索し、その趣旨を理解しておく。	120分
		事後学修	コンサートチケットの転売の有効な対策はあるのか、主催者側、消費者側の立場から説明できるようまとめる。	120分
10	11月25日	ポケモンGOの法的諸問題		日本で配信される前に、他国で配信され、その利用者による様々な違法な問題が起きていたアプリを、問題に対する対策をとることなく日本国内に配信し、他国と同様な問題が生じた場合の配信者の責任について考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、配信後に日本国内で生じた違法な問題に対する配信者の責任を問うことができるか否かを理解し、結論を的確に説明する。	
		事前学修	ポケモンGOの社会現象がもたらした法的な問題点を考える。刑法61条、62条、未必の故意、概括的故意について刑法のテキストを読んでおく。	120分
		事後学修	法の解釈、適用の範囲を考え、(例えば、教唆、幫助)各法条が適用できるのか説明できるようにまとめる。	120分
11	12月2日	バイオメトリクス個人認証		バイオメトリクス認証システムを利用した社会のメリット、デメリットとプライバシーの保護を考える。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、バイオメトリクス認証について理解し、その運用により守られる利益とプライバシーの保護について説明する。	
		事前学修	顔認証システムはどのように利用されているか確認すること。参考書「情報ネットワークの法実務第7章6(バイオメトリクス個人認証)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	バイオメトリクス情報の利用とプライバシー侵害の境界線を説明できるようにまとめる。	120分
12	12月9日	IoTの法的課題		すべての機器がインターネットに接続され、管理されることのメリット、デメリットについて考える。
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、IoT社会とユビキタス社会の相違について、IoT社会のもたらす社会について理解し、プライバシーの保護の範囲を説明する。	
		事前学修	IoTの意味を調べ、問題点を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第7章17(IoTの法的課題)」部分を読んでおくこと。	120分
		事後学修	IoTにより集積されるデータの保護とプライバシーの保護を比較し説明できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	検索エンジンサイト、プロバイダー、SNS等の自主規制	検索エンジン、SNSでは、違法な発信がなされる場合があるが、検索エンジン、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダ(ISP)が発信、通信内容に関して自主規制を行うことの是非を考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、検索エンジンサイト運営者、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダは、発信、送信内容に関して責任を負うべきなのか否かを理解し、その責任の存否について説明する。	
		事前学修	インターネットにおける自主規制の必要性について調べる。テキスト第2章「インターネットにおける表現の自由」部分を読んでおく。	120分
		事後学修	インターネットとは何なのかを再考して、規制の要否を考え十分な説明ができるようまとめる。	120分
14	12月23日	不正アクセス禁止法の諸問題	大学のパソコンを利用する為のIDとパスワードを学生(A)友人(B)に教え、その友人(B)に大学のパソコンを利用させる行為や、その友人(B)が友人(C)に学生(A)のID、パスワードを教え、大学のパソコンを使わせる行為は許されるのかを考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不正アクセス禁止法と、パソコンの利用規約を正しく理解し、不正アクセス行為、規約違反について説明する。	
		事前学修	コルネットのIDやパスワードを友人に使わせると、違法か否か考える。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおく。	120分
		事後学修	不正アクセス行為が国により違うことを理解し、その理由を説明できるようにまとめる。	120分
15	1月13日	今学期のレポート課題についての解説	今学期のレポートについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。	
		事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。	120分
		事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。	120分

科目名	法哲学Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。

【授業方法】		
講義形式を基本としながら、授業内でディスカッション、レポート作成等を行う。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内でリアクションペーパーを作成し、それをフィードバックして検討する。 一定のテーマにつき、グループで話し合いを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。				2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。		35	35									70
小テスト等	到達目標①②について、前半の講義内容が身についているかを確認する。		15	15									30
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2016年	教科書	推奨
はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢他編	ミネルヴァ書房	2010年	参考書	任意
よくわかる法哲学・法思想	深田三徳、濱真一郎 編著	ミネルヴァ書房	2011年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7 階1713研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月9日	前期オリエンテーション及び導入講義	法とは何か？	
		この回の到達目標	法と正義の異動について検討し、自分の考えをまとめることができるようにする。	
		事前学修	法とは何か、正義とは何かについて自分の考えをまとめておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』の46・47ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
2	4月16日	ドーピングは禁止すべきか？ 1	ドーピングをめぐる現在の状況	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の1章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	4月23日	ドーピングは禁止すべきか？ 2	パターナリズムとフェアプレイ	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』90、91ページ及び156ページ「パターナリズムの拒絶と自己責任」を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）	120分
4	4月30日	自己の臓器を売ることは許されるべきか？ 1	自己所有権の意義と正当化	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の2章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	5月7日	自己の臓器を売ることは許されるべきか？ 2	ドゥオーキン、ノージックに見る権利概念	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』194、195ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	5月14日	犯罪者を薬物で改良して良いか？ 1	化学的去勢、刑罰の条件	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の3章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5月21日	犯罪者を薬物で改良して良 いか？ 2	ミルの危害原理
		この回の 到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見 解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』88、89ページを読ん でおく。
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。
8	5月28日	ダフ屋を規制すべきか？ 1	法規制の根拠
		この回の 到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見 解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の4章を読んでおく。
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。
9	6月4日	ダフ屋を規制すべきか？ 2	功利主義
		この回の 到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見 解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』104～107ページを読 んでおく。
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。
10	6月11日	チンパンジーは監禁されな い権利を持つか？ 1	動物の権利
		この回の 到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見 解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の5章を読んでおく。
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。
11	6月18日	チンパンジーは監禁されな い権利を持つか？ 2	自然の権利訴訟
		この回の 到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見 解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』164～165ページを読 んでおく。
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。
12	6月25日	女性専用車両は男性差別 か？ 1	差別はなぜ許されるのか？/許されないのか？
		この回の 到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見 解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の6章を読んでおく。
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	女性専用車両は男性差別か？2	フェミニズムと人権の普遍性	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』122、123ページ及び132、133ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	7月9日	授業内試験及び解説	前期の内容に関して	
		この回の到達目標	与えられたテーマに関して、対立し合う論点を整理し、どのような見方ができるのかを検討し、法的に妥当と思われる合理性について論理的に記述できるようにする、	
		事前学修	前期の内容につき、要点をまとめ、論理的な記述が行えるようにしておく。	120分
		事後学修	授業内試験で扱ったテーマにつき、解説を踏まえた上で自分の解答を振り返る。	120分
15	7月16日	法と正義	ディスカッション	
		この回の到達目標	前期の内容につき、論点を踏まえつつ、論理的に自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前期の内容について要点を再度確認し、それぞれの要点について議論する準備をしておく。	120分
		事後学修	これまで扱った問題を踏まえた上で、法・正義について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	法哲学 I	担当者	西村 清貴	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レジュメを配布する。小テストにつき、実施した次の週において返却・講評を行う予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。				2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	35									70
小テスト等	到達目標①②について、前半の講義内容が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの返却・解説および試験後の講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想史入門	西村清貴	成文堂	2020	教科書	必携
備考	上記教科書を用いるが、開講時点ではおそらく未公開である。詳細は開講時に指示する。				

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部木 4/9	ガイダンスおよび前期の概要	授業・評価の方法の説明を行い、シラバスに沿って前期講義内容の概要について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法哲学がどのような対象を取り扱う学問であるかを理解し、説明することができるようになる	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
2	第二部木 4/16	古代ギリシアの法思想(1)	ソクラテス、プラトンの法思想を見る。とりわけ、彼らが人間の目的をどのように捉えたかを見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ソクラテスやプラトンの哲学と法との関係について理解し、説明ができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
3	第二部木 4/23	古代ギリシアの法思想(2)	アリストテレスの法思想を見る。とりわけ、徳と人間の自然本性の関係について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アリストテレスの思想が自然法論に与えた影響について理解し、説明ができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
4	第二部木 4/30	ストア派の法思想	古代ギリシア・ローマの哲学者であるストア派の法思想を見る。とりわけ、自然法論と宇宙観がどのような関係にあるかを見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストア派の自然法論の背景にある宇宙観・人間観について理解し、説明ができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
5	第二部木 5/7	古代キリスト教の法思想	アウグスティヌスの自然法論を見る。とりわけ、アウグスティヌスの悲観的な人間観と自然法論がどのような関係にあるかを見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代キリスト教と自然法論との関係について理解し、説明ができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
6	第二部木 5/14	中世キリスト教の法思想	トマス・アクィナスの自然法論を見る。とりわけ、トマスにおいてキリスト教とアリストテレス哲学がどのように結びついているかを見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キリスト教における自然法論の意義の転換について理解し、説明ができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部木 5/21	社会契約論(1)	トマス・ホッブズの社会契約論を見る。とりわけ、ホッブズが自然法を理性のアドヴァイスとして理解したことの意義を見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズがもたらした、アレストテレス以来の人間観および自然法論の転換について理解し、説明ができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
8	第二部木 5/28	ここまでの振り返りと小テスト	これまでの講義内容を振り返った上で、小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に達しているかを確認する	
		事前学修	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
9	第二部木 6/4	社会契約論(2)	ジョン・ロックの社会契約論を見る。とりわけ、勤労を神に与えられた人間の使命と捉えるロックの思想が法の理解とどのように関わるかを見る。また、前回行った小テストの返却も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロックのキリスト教的人間観と自然法の関係について理解し、説明することができること。	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと。小テストの問題について再確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること。返却された答案と模範解答を照らし合わせる	120分
10	第二部木 6/11	社会契約論(3)	J・J・ルソーの社会契約論を見る。とりわけ、ルソーが重視した人間の自由が法とどのような関係にあるかを見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主的に制定された法こそが人間の自由に不可欠であるというルソーの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
11	第二部木 6/18	カントの法思想(1)	イマニエル・カントの道徳思想を見る。とりわけ、道徳的自律こそが人間の自由を可能とするというカントの議論を見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間の正しい生き方は道徳法則に従うことにあるというカントの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
12	第二部木 6/25	カントの法思想(2)	イマニエル・カントにおける法と道徳の関係について見る。とりわけ、国家の設立が人間の道徳的義務であるとするカントの議論を見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道徳的義務と区別された法的義務に関するカントの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部木 7/2	ヘーゲルの法思想	G・W・F・ヘーゲルの法思想をみる。とりわけ、人間の自由を展開するために国家が必要であるという彼の議論を見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由な意思の自己展開というヘーゲルの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
14	第二部木 7/9	前期の振り返り	ここまでの振り返りと質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義内容を理解し、説明することか可能かどうかをあらためて確認する。	
		事前学修	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
15	第二部木 7/16	授業内試験および解説	授業内試験を行う。また、試験終了後、出題意図の解説や模範解答の説明も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に達しているかを確認する	
		事前学修	これまでの講義内容につき、教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。	120分
		事後学修	自身の答案が、適切な解答であったかどうかを、教科書、レジュメ、ノートおよび解説に基づいて確認すること。	120分

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。

【授業方法】
講義形式を基本としながら、授業内でディスカッション、レポート作成等を行う。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業内でリアクションペーパーを作成し、それをフィードバックして検討する。 一定のテーマにつき、グループで話し合いを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。						2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	35									70
小テスト等	到達目標①②について、前半の講義内容が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2016年	教科書	推奨
はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢他編	ミネルヴァ書房	2010年	参考書	任意
よくわかる法哲学・法思想	深田三徳、濱真一郎 編著	ミネルヴァ書房	2011年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7 階1713研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月17日	後期オリエンテーション及び導入講義	法的な正しさの作られ方	
		この回の到達目標	正義とは何か、これまでどのように捉えられてきたのかについて理解し、自分の見解をまとめられるようにする。	
		事前学修	正義とは何か、これまでに正義観はどのように把握されてきたのかを整理する。参考書『よくわかる法哲学・法思想』94～101ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
2	9月24日	相続制度は廃止すべきか？ 1	相続制度の存在理由	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の8章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	10月1日	相続制度は廃止すべきか？ 2	ロールズの格差原理	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』108～111ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）	120分
4	10月8日	児童手当は独身者差別か？ 1	児童手当の意義、善に対する正義の優位	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の9章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	10月15日	児童手当は独身者差別か？ 2	リベラリズムとコミュニタリアニズム	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』96、97ページ及び120、121ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	10月22日	年金は世代間の助け合いであるべきか？ 1	世代間正義	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の10章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月29日	年金は世代間の助け合いであるべきか？ 2	法と経済学、財・資源・潜在能力の平等	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』144、145ページ及び183ページ「センの潜在能力アプローチ」を読んでおく。（2時間）	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
8	11月5日	女性議席を設けるべきか？ 1	議会の正統性	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の12章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
9	11月12日	女性議席を設けるべきか？ 2	ポジティブ・アクション	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』166～167ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
10	11月19日	悪法に従う義務はあるか？ 1	自然法論と法実証主義	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の13章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
11	12月3日	悪法に従う義務はあるか？ 2	ラートブルフ、ハート、フラー	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』48～53ページを読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
12	12月10日	国家は廃止すべきか？ 1	最小国家論、国家民営化論	
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の14章を読んでおく。	120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	12月17日	国家は廃止すべきか？ 2	ハイエク、ノージック
		この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』112～117ページを読 んでおく。120分
		事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて 調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。120分
14	12月24日	授業内試験及び解説	後期の内容に関して
		この回の到達目標	与えられたテーマに関して、対立し合う論点を整理し、どのような見方ができるのかを検討し、法的に妥当と思わ れる合理性について論理的に記述できるようにする、
		事前学修	後期の内容につき、要点をまとめ、論理的な記述が行えるようにしておく。120分
		事後学修	授業内試験で扱ったテーマにつき、解説を踏まえた上で自分の解答を振り返る。120分
15	1月14日	法的な正しさの考え方	ディスカッション
		この回の到達目標	後期の内容につき、論点を踏まえつつ、論理的に自分の見解を示せるようにする。
		事前学修	後期の内容について要点を再度確認し、それぞれの要点について議論する準備をしておく。120分
		事後学修	これまで扱った問題を踏まえた上で、法的な正しさについて自分の考えをまとめる。120分

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	西村 清貴	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レジュメを配布する。小テストにつき、実施した次の週において返却・講評を行う予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。				2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	35									70
小テスト等	到達目標①②について、前半の講義内容が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの返却・解説および試験後の講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想史入門	西村清貴	成文堂	2020	教科書	必携
備考	上記教科書は、シラバス執筆時点では未刊行であるが、開講時点では公刊されている予定である。詳細は開講時に指示する。				

【オフィスアワー】
授業終了後の講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部木 9/17	ガイダンスおよび後期の概要	授業・評価の方法の説明を行い、シラバスに沿って講義内容の概要について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法哲学がどのような対象を取り扱う学問であるかを理解し、説明することができるようになる。	
		事前学修	前期の講義の復習を行っておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
2	第二部木 9/24	功利主義の法思想	ジェレミー・ベンサム の法思想を見る。とりわけ法典と幸福の関係について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明確な内容を有した法典こそが人々の幸福に資するというベンサムの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
3	第二部木 10/1	歴史法学の法思想(1)	F・C・v・サヴィニーの法思想について見る。とりわけ法典編纂反対論についてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民族の確信から生まれる法こそが真の法であるというサヴィニーの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
4	第二部木 10/8	歴史法学の法思想(2)	F・C・v・サヴィニーの法思想について見る。とりわけ実定法と法律の関係について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律や慣習法は民族精神から生まれた実定法を明示するものにすぎないというサヴィニーの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
5	第二部木 10/15	サヴィニー以後のドイツ法思想	サヴィニー以後のドイツ法学、とりわけゲルマニストと社会学的法学の議論について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲルマニストや社会学的法学がサヴィニーの議論といかなる関係にあるかについて理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
6	第二部木 10/22	ケルゼンの法思想	ハンス・ケルゼンの法思想について見る。とりわけ、法を純粋法学という観点から捉えようとすることの意義について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学は純粋法学という独自の学問とならねばならないというケルゼンの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部木 10/29	再生自然法論	ナチスに対する反省ののち、戦後現れた再生自然法論を見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生自然法論の意義と役割について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
8	第二部木 11/5	ここまでの振り返りと小テスト	これまでの講義内容を振り返った上で、小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に達しているかを確認する	
		事前学修	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること	120分
9	第二部木 11/12	ハートの法思想	H・L・A・ハートの法思想について見る。とりわけ、法を社会的ルールという観点から捉えることの意義について見る。また、前回行った小テストの返却も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法を主権者の命令ではなく社会的ルールとして捉えるハートの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと。小テストの問題について再確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること。返却された答案と模範解答を照らし合わせる	120分
10	第二部木 11/19	ドゥオーキンの法思想	ロナルド・ドゥオーキンの法思想について見る。とりわけ、裁判論について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、裁判が純一性という理念に従って行われなければならないとするドゥオーキンの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
11	第二部木 12/3	リベラリズムの思想	ジョン・ロールズの思想を見る。とりわけ、正義の二原理について見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原初状態から導き出された原理を正義として取り扱うロールズの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
12	第二部木 12/10	リバタリアニズムの思想	ロバート・ノージックの思想を見る。とりわけ最小国家論についてみる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家や法の役割を可能な限り縮減しようとするノージックの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部木 12/17	コミュニタリアニズムの思想	マイケル・サンデルの思想を見る。とりわけロールズ批判を見る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法や政治を論じるために人間観を踏まえる必要があるとするサンデルの思想について理解し、説明することができること	
		事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
14	第二部木 12/24	後期の振り返り	ここまでの振り返りと質疑応答	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義内容を理解し、説明することか可能かどうかをあらためて確認する。	
		事前学修	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること	120分
		事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
15	第二部木 1/14	授業内試験および解説	授業内試験を行う。また、試験終了後、出題意図の解説や模範解答の説明も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に達しているかを確認する	
		事前学修	これまでの講義内容につき、教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
		事後学修	自身の答案が、適切な解答であったかどうかを、教科書、レジュメ、ノートおよび解説に基づいて確認すること。	120分

科目名	法律外国語A I【法律学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際的な物品売買契約に適用されるウィーン売買条約（英文略称：CISG、英文正式名称：UNITED NATIONS CONVENTION ON CONTRACTS FOR THE INTERNATIONAL SALES OF GOODS、日本語名：「国際物品売買契約に関する国際連合条約」）における主要な条文の英語正文と公定訳の対訳を教材として、学校教育で学ぶ英語とは違う、基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、英米法系の契約法を学修し、または、英文の契約書を取り扱うこととなった場合に、そこで用いられている基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを日本語で理解し、応用することができるようにする。

【履修条件】
授業内で実施する理解度確認テストおよび期末試験の合計が 60点以上であること。

【授業方法】		
講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学修した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加が必要である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に毎回、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、予習が不可欠である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語の法律用語を理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】				1					1		
②	英語の法的な言い回しを理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】				1					1		
③	英語の法律用語を用いて、日本語の法律用語を適切に英訳することができる。【技能】				1					1		
④	英語の法的な言い回しを用いて、日本語の法的言い回しを適切に英訳することができる。【技能】				1					1		
⑤	英語の法律用語について、自分の意見を積極的に述べる。【態度・習慣】				1					1		
⑥	英語の法的な言い回しについて、自分の意見を積極的に述べる。【態度・習慣】				1					1		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	前期の最終講義日に、到達目標①～④に関する記述式の 授業内前期末試験を実施する。	40										40
小テスト等	事前通告方式にて、前期の授業内に3回の理解度確認テ ストを実施する。 このテストは、前回までの講義内容で最低限理解して欲し い、到達目標①～④に関することについて、語群選択およ び正誤問題の方式で各5問を出題する。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習し た内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話 形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加 が必要であり、上記の筆記試験やテストの得点とは別枠の 授業への参画度として加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、試験実施日の翌週の講義日に答案を返却して解説する。期末試験については、ポータルシステムにて解説を 配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引』 一よくわかる理論と実務―	亀田尚己編著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義時間内または講義終了後に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7火	【ガイダンス】 【ウィーン売買条約とは】 ウィーン売買条約【前文】	「万民法型統一私法」であるウィーン売買条約の概要について学修する。 授業のテーマ、内容およびスケジュール、成績評価の方法を説明し、併せて使用するテキストと参考文献を紹介する。また、ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳を配布し、それにより受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	ウィーン売買条約の前文を参照し、この条約が必要とされた背景について、国際物品売買契約における準拠法決定の問題をクリアし、当事者の双方にとって共通の理解が可能な「万民法型統一私法」条約の便利性を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の参考文献を読み、ウィーン売買条約がどのような役割を果たしているかを調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。また、ウィーン売買条約が必要とされた背景について、国際私法における準拠法決定の問題および当事者の双方にとって共通の理解が可能な「万民法型統一私法」条約の便利性との関係をノートに整理する。	80分
2	4/14火	第1条 第2条	第1条【適用基準】および第2条【適用除外】を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
3	4/21火	第3条～第6条	ウィーン売買条約の第3条【製作物供給契約・役務提供契約】、第4条【条約の規律する事項】、第5条【人身損害についての適用除外】、第6条【条約の適用排除、任意規定性】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
4	4/28火	第7条～第8条	ウィーン売買条約の第7条【条約の解釈及び補充】、第8条【当事者の行為の解釈】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
5	5/5火	第9条～第13条	ウィーン売買条約の第9条【慣習および慣行】、第10条【営業所】、第11条【方式の自由】、第12条【第96条に基づく留保宣言の効果】および第13条【書面の定義】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
6	5/12火	第14条	ウィーン売買条約の第14条【申込み】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19火	第15条～第17条	ウィーン売買条約の第15条【申込みの効力発生時期、申込みの取りやめ】、第16条【申込みの撤回】および第17条【拒絶による申込みの失効】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
8	5/26火	第18条	ウィーン売買条約の第18条【承諾の方法、承諾の効力発生時期、承諾期間】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
9	6/2火	第19条	ウィーン売買条約の第19条【変更を加えた承諾】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
10	6/9火	第20条	ウィーン売買条約の第20条【承諾期間の計算】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
11	6/16火	第21条～第22条	ウィーン売買条約の第21条【遅延した承諾、通信の遅延】および第22条【承諾の取り扱い】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
12	6/30火	第23条～第24条	ウィーン売買条約の第23条【契約の成立時期】および第24条【到達の定義】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/7火	前文および第1条～第24条	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、学修する。 併せて、前期末試験の出題範囲を発表する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、理解し、説明できる。	
		事前学修	前期の講義ノートレビューし、その内容を総復習し、重点ポイントを整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
14	7/14火	学生と教員との質疑応答	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に学生と教員との間で質疑応答の形式により学修する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に、疑問点があれば抽出し、準備する。	80分
		事後学修	前期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、前期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容をノートに整理する。	80分
15	7/21火	前期末授業内試験の実施 まとめ	前期の講義内容の重点ポイントについて、前期末授業内試験の実施する。	
		この回の到達目標	前期の講義内容の重点ポイントについて、理解し説明できる。	
		事前学修	前期の講義内容の重点ポイントについて、ノートを整理する。	80分
		事後学修	前期の講義内容の重点ポイントについて、前期末授業内試験の内容を自分のノートを中心に確認する。	80分

科目名	法律外国語A I【経営法学科】	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の5点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)想定された仮のビジネスについて行われる模擬国際交渉をとおして、上述の(3)で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。(5)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、国際契約・国際ビジネスに興味のある学生であればなお良い。

【授業方法】
事前学修の内容を前提に、配布資料をもとに、英語と日本語（主に英語）で講義を行う。Students will form teams to conduct team mock negotiations. Students may also form teams to give country presentations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書と配布する資料に基づいたグループディスカッションや模擬交渉のロールプレイを行う。想定された仮のビジネスについて実施される模擬交渉をとおして、国際交渉の方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
③	特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。				1					1		
④	上述の③で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。				1					1		
⑤	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。				1					1		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内に行う３回の小テストにより、到達目標①、②、及び⑤についてそれぞれ理解し、自らの言葉で簡潔な説明と正確な記述ができているかを評価する。	10	10			10						30
レポート等												
討論・発表等	到達目標③についてグループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。			20								20
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から⑤について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()	到達目標③の模擬国際交渉において授業で学んだ法律専門用語を使用し相手方の国やビジネス文化を理解して適切なコミュニケーションをとることができるようになっているかを評価する。				25							25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	25	30	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、実施した回の次の授業において講評する。模擬国際交渉は、その実施日に授業内において講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際交渉の法律英語ーそのまま文書化できる戦略的表現』	中村秀雄 ・野ロジュ ディー	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
予約制とし、授業を行った教室で授業後に相談を受ける。予約のための連絡先（メールアドレス）は授業中に提示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカと日本で25年間以上のあいだ法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/6	Class Overview. Introduction to U.S. Legal System (General). 【授業の概要】 【アメリカの法制度とは(概要)】	各回の授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、及び参考文献について理解する。その理解に基づき、授業の準備を効率的に行うことができるようになる。アメリカの法制度について基本的な知識を学修する。また、教科書のsection <1> “assert” から <5> “submit” までの専門用語の法的意味について学修し、それらの専門用語を使用しコミュニケーションする。模擬交渉のためのチーム分けを行う。
		この回の到達目標	Gain knowledge of the U.S. legal system (overview) and explain fundamental concepts. Increase legal vocabulary by studying the assigned text. アメリカの法制度の概要について基本的知識を獲得し、同制度の基本的な概念について説明できるようになる。教科書の指定部分を事前学修することにより、法律専門用語の語彙を増やす。
		事前学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Research and summarize in your class notes a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国について調べ授業ノートに要約する。60分
		事後学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Research and summarize in your class notes a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国について調べ授業ノートに要約する。60分
2	4/13	Introduction to the American Legal System (Stare Decisis and Court System). 【アメリカの法制度とは(司法制度(判例、先例拘束性の原理と裁判制度)】	Jurisprudence. Introducing Stare Decisis and the U.S. court system. 判例、先例拘束性の原理、及び裁判制度について基本的な知識を学修する。教科書のsection <6> “intend, mean” から <10> “disapprove, demur” の専門用語の法的意味について学修する。クラスディスカッションと模擬交渉をととしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the American legal system. Explain the fundamentals of the U.S. court system and its hierarchy. Build your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. アメリカの法制度について理解を深める。アメリカの裁判所の構成に関する基本的事項を説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Read section <6> “intend” to section <10> “disapprove, demur” and practice using these terms. Continue to work on your hypothetical company and the goods you will sell. Choose a country that you would like to study. 教科書のsection <6> “intend, mean” から <10> “disapprove, demur” を読み、これらの専門用語の使用を練習し身に付ける。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国を選択する。60分
		事後学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。今回の授業で学修した新たな法律専門用語を次回の授業において積極的に使用するための準備を行う。60分
3	4/20	Jurisdiction, Dual Court System. 【管轄権、連邦裁判所と州裁判所の二重構造】	Gain an understanding of and explain Mandatory/Binding versus Persuasive Authority, Dual Court System and State Law and Federal Law. アメリカ法のリサーチの際に必要な強制的/拘束力を有する法源 (Mandatory/Binding Authority) と説得的法源、連邦裁判所と州裁判所の二重構造 (Dual Court System) 及び州法と連邦法 (State Law and Federal Law) の関係について学修する。
		この回の到達目標	Study section <11> “exclude, restrict…” to section <15> “deem, consider.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書のsection <11> “exclude, restrict…” から section <15> “deem, consider” の法的意味について理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをととしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Read section 11 “exclude, restrict” to section 15 “deem, consider.” Practice using these terms. Read and study any handouts provided earlier. 教科書のsection <11> “exclude, restrict…” から section <15> “deem, consider” を読む。これらの専門用語の使用を練習し身に付ける。これまでに配布した資料を読み学修する。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。これまでの授業で使用できるようになった法律専門用語を次回の授業において積極的に使用するための準備を行う。60分
4	4/27	Legal Systems. Common Law vs. Civil Law. 【法制度】 【コモンロー（英米法 対 シヴィルロー（大陸法）】	コモンローとシヴィルローの特徴を比較してその相違点を学修する。契約交渉スキル（アメリカ型交渉に共通の誤り）について学修する。Discuss section <16> “distinguish” to section 20 “contribute.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書のsection <16> “distinguish” からsection <20> “contribute” の法的意味について学修する。模擬交渉とクラスディスカッションをととしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		この回の到達目標	教科書のsection <16> “distinguish” からsection <20> “contribute” の専門用語の法的意味について理解、説明できるようになる。アメリカ型交渉と日本型交渉の問題点を理解し、例を挙げて説明できるようになる。
		事前学修	教科書の section <16> “distinguish” から section <20> “contribute” を読み、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。これらの法律専門用語の使用を練習し身に付ける。これまでに配布した資料を読み復習する。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
5	5/4	Negotiations. Culture. Quiz #1 【交渉とは】 【交渉に影響を及ぼす文化とは】 【小テスト(1回目)】	コモンローとシヴィルローについて交渉と交渉に影響を及ぼす文化における相違点を比較し学修する。契約交渉スキル（日本型交渉に共通の誤り）について学修する。 授業の終わりに、第1回目から第4回目までの授業内容について的小テスト(1回目)を実施する。
		この回の到達目標	アメリカ型交渉と日本型交渉の問題点を理解し、説明できるようになる。Study the vocabulary in section <21> “fail” to section <25> “suffer, damage.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書の section <21> “fail” から section <25> “suffer, damage” の法的意味を理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Read text section <21>-<25>. Continue working on your company details and country. Prepare for the Quiz #1. Section <21>から<25>を読む。自分が選択した会社の詳細事項と国について調べ、情報を整理し、発表の準備をする。小テスト（1回目）の準備をする。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for country presentations. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。選択した国についての発表の準備を進める。60分
6	5/11	Contracts. Offer, Acceptance and Consideration. 【契約】 【契約の成立要件：申込、承諾と約因】	契約の成立要件である申込、承諾、及び約因に関する基本的な法理と専門用語の意味と使用する場面を理解し説明できるようになる。 契約の成立要件である申込、承諾、及び約因に関する基本的な法理と専門用語の意味と使用する場面を学修する。 契約の交渉シミュレーションと契約の成立要件についてグループを作りディスカッションを行う。 Feedback on the Quiz #1. 前回の授業で行った小テスト(1回目)についてフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	契約の成立要件である「申込(Offer)」、「承諾(Acceptance)」及び「約因(Consideration)」の基礎的知識を身に付け、説明できるようになる。グループディスカッションと模擬交渉をとおしてそれらの概念を理解し、説明・使用できるようになる。教科書のsection <26> “derogate from” からsection <30> “confer” の法的意味を理解し、説明できるようになる。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み契約の成立のための各要件が果たしている役割について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Read text section <26>-<30>. Continue to work on your company and country assignment. 教科書のsection <26> “derogate from” からsection <30> “confer” ままで読む。発表する会社と国についての発表の準備を続ける。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。60分
7	5/18	Contracts. General Terms. 【契約】 【一般条項】	Contracts. Learn and explain basic contract terminology and basic forms of the contract. 契約の基本的な条項と契約書の構造について学修する。 交渉シミュレーションをとおして、契約書の構造がどのように国際契約の交渉の流れに反映されているかを学修する。
		この回の到達目標	Understand and explain section <31> “hire” to section <35> “conclude.” Continue working on your company and country project. Prepare for group presentations. 教科書のsection <31> “hire” からsection <35> “conclude” の法的意味を理解し、説明できるようになる。発表する会社と国についての発表の準備を続ける。グループ発表の準備を行う。契約の基本的な条項と契約書の構造について理解し、説明できるようになる。契約書の構造がどのように国際契約の交渉の流れに反映されているかを理解し、説明できるようになる。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際契約の交渉の流れについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Read text section <31>-<35>. Continue working on your company and country presentation. 教科書のsection <31>から<35>を読む。発表する会社と国についての発表の準備を続ける。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。60分
8	5/25	Contracts. Basics of Nondisclosure Agreements (NDA). 【契約】 【秘密保持契約の基本的知識】	秘密保持契約に関する基本的知識（Basics of Nondisclosure Agreements(NDA)）と、NDAの理解に必要な法律専門用語を学修する。 交渉シミュレーションをとおして、NDAの交渉の流れを学修する。 Group discussion of country and company project. 調べている会社と国についてグループディスカッションを行う。
		この回の到達目標	教科書のsection <36> “despite” からsection <40> “putative” の法的意味を理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。各グループの国についてのプレゼンテーションをとおしてコモンローとシヴィルローと文化の相違点を理解し、説明することができる。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み秘密保持契約（NDA）の役割を調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Read text section <36>-<40>. Continue working on your company details. 教科書のsection <36>から<40>を読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。次回の授業でこれまで学修してきた専門用語を積極的に使用できるように準備をする。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
9	6/1	Contracts. Nondisclosure Agreements (continued). 【契約】 【秘密保持契約の交渉の流れ（続き）】	Nondisclosure Agreements (continued) 前回に続き、様々なNDAの交渉の流れを交渉シミュレーションをとおして学修する。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the basic clauses found in a typical NDA agreement and be able to explain them. Read, understand and discuss section <41> “presumably” to section <45> “admittedly.” 典型的な秘密保持契約に見られる基本的条項を理解しそれらの内容を説明することができる。教科書のsection <41> “presumably” からsection <45> “admittedly” までを読み、理解し、自らの意見を示すことができる。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み様々な産業セクターで国際秘密保持契約がどのような役割を果たしているのかについて調べ、その結果をノートに整理し、講義内容と比較・検討できるように準備する。 Read text section <41>-<45>. Continue working on your company details. 教科書のsection <41> “presumably” からsection <45> “admittedly” を読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。
10	6/8	Contracts. Basics of Sales Agreements. Quiz #2 【契約】 【売買契約の基本的知識】 【小テスト(2回目)】	Overview of Sales Agreements. 売買契約に関する基本的知識を学修する。 交渉シミュレーションをとおして、国際売買契約の交渉の流れを学修する。 授業の終わりに、第6回目から第10回目までの授業内容について小テスト(2回目) を実施する。
		この回の到達目標	売買契約の基本的な知識を理解し、説明できるようになる。交渉シミュレーションをとおして、国際売買契約の交渉の流れを理解し、説明できるようになる。教科書のsection <46> “in fact, in actual fact, in reality” から section <50> “affirmatively” の法的意味について理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。
		事前学修	Review your notes, the text and handouts. Read text section <46>-<50>. Prepare for the Quiz #2. 授業ノート、教科書、及び配布資料を見直す。教科書の section <46>から<50>を読む。小テスト（2回目）の準備をする。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。
11	6/15	Contracts. Sales Agreements(continued). 【契約】 【売買契約(続き)】	前回の授業に続き、交渉シミュレーションをとおして、基本的な国際売買契約の交渉の流れを学修する。 Feedback on Quiz #2. 前回の授業で行った小テスト(2回目)についてフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	Understand and explain the basics of a sales agreement. Gain an understanding of a basic sales agreements and discuss them in class. 交渉シミュレーションをとおして、国際売買契約の交渉の流れを理解し、より具体的に説明できるようになる。基本的な売買契約への理解を深め、クラスディスカッションで自らの意見を示すことができるようになる。
		事前学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Read text section <51>-<55>. Continue working on your company details. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。会社の詳細について発表の準備を続ける。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms on behalf of your company. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。会社の詳細について発表の準備を続け、その会社のために法律専門用語を使用して交渉する準備を行う。
12	6/22	Contracts. Mock Negotiations of Contracts. 【契約】 【模擬契約交渉】	Sales Agreements (continued)。売買契約について継続して学修する。 教科書のsection <56>から<60>の法的意味を学修し、模擬交渉と授業でのディスカッションでそれらの使用を身に付ける。
		この回の到達目標	Understand and explain section <56> to section <60> of the text. Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms with mock negotiations and class discussion. 教科書のsection <56> から<60>の法的意味を理解し、説明できるようになる。模擬交渉とクラスディスカッションでの練習をとおしてそれらの使用を身に付ける。
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際売買契約がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。 Read text section <56>-<60>. Continue working on your company details. 教科書のsection <56>から<60>までを読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。次回の授業でこれまで学修してきた専門用語を積極的に使用できるように準備をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	Contracts. Case Study. 【契約】 【判例研究】	Contracts. Case Study 1. (handout) 国際契約に関するアメリカの判例について配布資料を使用して学修する。	
		この回の到達目標	Be able to explain the salient points of the case and holding. Explain your thoughts on the holding. 配布資料にある判例について目立った特徴を説明することができるようになる。判決について自らの考えを示すことができるようになる。	
		事前学修	Read text section <61>~<63>. Continue working on your company details. 教科書のsection <61>から<63>を読む。会社の詳細について発表の準備を続ける。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	60分
14	7/6	Contracts. Case Study (continued). Quiz #3. 【契約】 【判例研究(続き)】 【小テスト(3回目)】	Contracts. Case Study 2. (handout) 前回の授業に続き、国際契約について、新たなアメリカの判例に関する配布資料を使用し判例研究をする。 授業の終わりに、第11回目から第14回目までの授業内容について小テスト(3回目)を実施する。	
		この回の到達目標	Gain an understanding and be able to discuss the salient points of the case and holding. Explain your thoughts on the holding. 配布資料にある判例について目立った特徴を説明することができる。判決について自らの考えを示すことができる。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、これまで学んだ各国の国際契約へのアプローチの特徴をノートに整理し、各グループの発表内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your company and contract negotiation results for class presentation. クラスでの発表に向けて会社の詳細及び契約交渉の結果について発表の準備を続ける。小テスト(3回目)の準備をする。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for your group presentation. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	120分
15	7/13	Group Presentations. 【グループ発表】	Feedback on Quiz 3. 前回の授業で行った小テスト(3回目)についてフィードバック(講評)を行う。 Group Presentation and feedback. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
		この回の到達目標	Each team will present their company, country and contract negotiation results. 各チームとも、会社、国及び契約交渉の結果について発表を行う。	
		事前学修	シラバスを確認すると同時に、これまで学んだ各国の国際契約へのアプローチの特徴をノートに整理し、各グループの発表内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your company and contract negotiation results for class presentation. クラスでの発表に向けて会社の詳細及び契約交渉の結果について発表の準備を続ける。	120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	60分

科目名	法律外国語AⅡ【法律学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際的な物品売買契約に適用されるウィーン売買条約（英文略称：CISG、英文正式名称：UNITED NATIONS CONVENTION ON CONTRACTS FOR THE INTERNATIONAL SALES OF GOODS、日本語名：「国際物品売買契約に関する国際連合条約」）における主要な条文の英語正文と公定訳の対訳を教材として、学校教育で学ぶ英語とは違う、基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、英米法系の契約法を学修し、または、英文の契約書を取り扱うこととなった場合に、そこで用いられている基礎的かつ重要な英語による法律用語および言い回しを日本語で理解し、応用することができるようにする。

【履修条件】
授業内で実施する理解度確認テストおよび期末試験の合計が 60点以上であること。

【授業方法】		
講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学修した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加が必要である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に毎回、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習した内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話形式により進行するので、予習が不可欠である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	英語の法律用語を理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】	1					1			
②	英語の法的な言い回しを理解し、それを日本語の法律用語で適切に説明することができる。【知識】	1					1			
③	英語の法律用語を用いて、日本語の法律用語を適切に英訳することができる。【技能】	1					1			
④	英語の法的な言い回しを用いて、日本語の法的言い回しを適切に英訳することができる。【技能】	1					1			
⑤	英語の法律用語について、自分の意見を積極的に述べることができる。【態度・習慣】	1					1			
⑥	英語の法的な言い回しについて、自分の意見を積極的に述べることができる。【態度・習慣】	1					1			
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	後期の最終講義日に、到達目標①～④に関する記述式の 授業内後期末試験を実施する。	40										40
小テスト等	事前通告方式にて、後期の授業内に3回の理解度確認テ ストを実施する。 このテストは、前回までの講義内容で最低限理解して欲し い、到達目標①～④に関することについて、語群選択およ び正誤問題の方式で各5問を出題する。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義は、教員が翌週の講義内容を伝え、学生が事前学習し た内容について教員が理解を確認する目的で学生との対話 形式により進行するので、その質疑応答への積極的な参加 が必要であり、上記の筆記試験やテストの得点とは別枠の 授業への参画度として加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、試験実施日の翌週の講義日に答案を返却して解説する。期末試験については、ポータルシステムにて解説を 配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引』 一よくわかる理論と実務―	亀田尚己編著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義時間内または講義終了後に質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	9/15火	【ガイダンス】 導入講義		ウィーン売買条約における売主の義務および買主の義務、ならびに、危険の移転、履行の停止、損害賠償および当事者の免責などについて、その概要を学修する。 併せて、成績評価の方法を説明し、使用するテキストと参考文献を紹介する。 また、ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳を配布し、今後の学習教材とする。
		この回の到達目標	ウィーン売買条約の物品の売買における、売主の義務、売主の契約違反に対する買主の救済、および、買主の義務、買主の契約違反に対する売主の救済、ならびに、危険の移転、履行の停止、損害賠償、および、当事者の免責の概要について、条約の概要を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の参考文献を読み、ウィーン売買条約における売主および買主の義務を調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、ウィーン売買条約における売主および買主の義務について、その概要をノートに整理する。	80分
2	9/22火	第25条～第27条		第25条【重大な契約違反】、第26条【解除の方法】および第27条【通信の遅延又は不到達】を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
3	9/29火	第28条～第29条		ウィーン売買条約の第28条【現実の履行を命ずる裁判】および第29条【契約の変更または終了】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
4	10/6火	第30条～第31条		ウィーン売買条約の第30条【売主の義務】および第31条【引渡し場所及び引渡義務の内容】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
5	10/13火	第35条		ウィーン売買条約の第35条【物品の適合性】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
6	10/20火	第45条		ウィーン売買条約の第45条【買主の救済方法】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27火	第53条～第54条 第60条～第61条	ウィーン売買条約の第53条【買主の義務】、第54条【代金支払義務】、第60条【引渡受領義務】および第61条【売主の救済方法】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
8	11/10火	第66条～第68条	ウィーン売買条約の第66条【危険移転の効果】、第67条【運送を伴う売買契約における危険の移転】および第68条【運送中の物品の売買契約における危険の移転】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	これらの条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、これらの条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
9	11/17火	第71条	ウィーン売買条約の第71条【履行の停止】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
10	11/24火	第74条	ウィーン売買条約の第74条【損害賠償の範囲】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
11	12/1火	第77条	ウィーン売買条約の第77条【損害の軽減】を精読し、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
12	12/8火	第79条	ウィーン売買条約の第79条【債務者の支配を超えた障害による不履行】を精読し、これらの条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、その内容について学修する。	
		この回の到達目標	この条文を精読し、そこで用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	ウィーン売買条約の条文の英語正文と公定訳の対訳と教科書を用い、この条文で用いられている英語の法律用語および言い回し、並びに、この条文の内容について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/7火	後期において学修したすべての条文	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、学修する。併せて、後期末試験の出題範囲を発表する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、理解し、説明できる。	
		事前学修	後期の講義ノートレビューし、その内容を総復習し、重点ポイントを整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分が事前学修した内容と講義における教員の解説した内容を確認し、適切な内容でノートに整理する。	80分
14	7/14火	学生と教員との質疑応答	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に学生と教員との間で質疑応答の形式により学修する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に、疑問点があれば抽出し、準備する。	80分
		事後学修	後期の講義内容を総復習し、その重点ポイントについて、後期末試験の出題範囲を中心に行われた学生と教員との質疑応答の内容をノートに整理する。	80分
15	7/21火	後期末授業内試験の実施 まとめ	後期の講義内容の重点ポイントについて、後期末授業内試験の実施する。	
		この回の到達目標	後期の講義内容の重点ポイントについて、理解し説明できる。	
		事前学修	後期の講義内容の重点ポイントについて、ノートを整理する。	80分
		事後学修	後期の講義内容の重点ポイントについて、後期末授業内試験の内容を自分のノートを中心に確認する。	80分

科目名	法律外国語AⅡ【経営法学科】	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の5点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)想定された仮のビジネスについて行われる模擬国際交渉をとおして、上述の(3)で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。(5)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、国際契約・国際ビジネスに興味のある学生であればなお良い。

【授業方法】
事前学修の内容を前提に、配布資料をもとに、英語と日本語（主に英語）で講義を行う。Students will form teams to conduct team mock negotiations. Students may also form teams to give country presentations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書と配布する資料に基づいたグループディスカッションや模擬交渉のロールプレイを行う。想定された仮のビジネスについて実施される模擬交渉をとおして、国際交渉の方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
③	特定の1つの国とその国の1つの会社を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。				1					1		
④	上述の③で培った理解を尊重し、国際ビジネスの相手方との模擬交渉において生産的なコミュニケーションを取ることができる。				1					1		
⑤	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。				1					1		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内に行う前後期それぞれ3回の小テストにより、到達目標①、②、及び⑤についてそれぞれ理解し、自らの言葉で簡潔な説明と正確な記述ができているかを評価する。	10	10			10						30
レポート等												
討論・発表等	到達目標③についてグループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。			20								20
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から⑤について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()	到達目標③の模擬国際交渉において授業で学んだ法律専門用語を使用し相手方の国やビジネス文化を理解して適切なコミュニケーションをとることができるようになっているかを評価する。				25							25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	25	30	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、実施した回の次の授業において講評する。模擬国際交渉は、その実施日に授業内において講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際交渉の法律英語ーそのまま文書化できる戦略的表現』	中村秀雄 ・野ロジュ ディー	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
予約制とし、授業を行った教室で授業後に相談を受ける。予約のための連絡先（メールアドレス）は授業中に提示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカと日本で25年間以上のあいだ法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9/14	Class Overview American Jurisprudence 【授業の概観】 【アメリカ法学】	Class Overview. アメリカの法学と国際ビジネスの関係について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the American legal system. Build legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. アメリカの法学と国際ビジネスとの関係を理解し、説明することができる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <1>-<5> and write 3 samples sentences to discuss in class. Think about a company you would like to represent for mock negotiations. 教科書の<1>から<5>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社について考えて授業ノートに要約する。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Think of a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。考察したい国について調べ授業ノートに要約する。60分
2	9/21	Contracts. Distributor Agreements(continued). Grant of Distribution Rights, Non-exclusivity, Territory. 【契約】 【販売店契約】 【販売権の付与、非独占性、販売地域】	販売店契約についてGrant of Distribution Rights, Non-exclusivity, Territory（販売権の付与、非独占性、販売地域）に関する合意に関して学修する。
		この回の到達目標	Understand and explain the basics of a distribution agreement. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 販売店契約の基本的知識を理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Read section <6>-<10> and write 3 sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and the goods you will sell. 教科書の<1>から<5>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社と販売する商品について考えて要約する。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。発表する会社の詳細と交渉の対象となる法的内容について準備を行う。60分
3	9/28	Contracts. Distributor Agreements (continued). Sub-distributors. Agents. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【副販売、代理店】	Overview of Distributor Agreements (2) Sub-distributors. Agents. 販売店契約について副販売と代理店販売に関して引き続き学修する。
		この回の到達目標	Gain an understanding of the sub-distribution right and use of agents in a distributor contract. Be able to explain these terms. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 販売店契約における副販売と代理店販売について理解し、これらの法律専門用語について説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <11>-<15> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<11>から<15>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。発表する会社の詳細と交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備を行う。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
4	10/5	Contracts. Distributor Agreements (continued). Minimum Purchase Requirements, Incentives, Inventory. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【最低注文数量要件、販売手数料、在庫（のリスク）】	Overview of Distributor Agreements (3) Minimum Purchase Requirements, Incentives, Inventory. 販売店契約について最低注文数量要件、販売手数料、在庫（のリスク）に関する交渉も含め引き続き学修する。	
		この回の到達目標	Negotiate a distributor agreement for your company. Discuss any purchase requirements and incentives. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のために販売店契約を交渉する能力を身に付ける。購入要件と販売手数料について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
		事前学修	Please study textbook section <16>-<20> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<16>から<20>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を続けて行う。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	60分
5	10/12	Contracts. Distributor Agreements (continued). International Negotiations. Quiz #1. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【国際交渉】 【小テスト（1回目）】	Distributor Agreements. Sales Promotions, Competing Products. Quiz #1. 販売店契約について販促活動、競合製品に関する交渉も含め引き続き学修する。 授業の終わりに、第1回目から第4回目（前回）までの授業内容について小テスト（1回目）を実施する。	
		この回の到達目標	Negotiate a distributor agreement for your company and discuss any sales promotions and competing products clauses. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のために販売店契約を交渉し、販促活動と競合製品に関する条項について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
		事前学修	Please study textbook section <21>-<25> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. Prepare for the Quiz #1. 教科書の<21>から<25>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を行う。小テスト（1回目）の準備をする。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate the legal terms and conditions of the agreement. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、その会社のために法律専門用語を使用して交渉する準備を行う。	60分
6	10/19	Contracts. 【契約】 Distributor Arrangements. 【販売店契約の概要（続き）】	Distributor Agreements. Intellectual Property, Audit, Compliance with Laws. Feedback on the Quiz #1. 販売店契約について知的財産権、監査、法の順守に関する交渉も含め引き続き学修する。前回の授業で行った小テスト(1回目)についてフィードバック（講評）を行う。	
		この回の到達目標	Understand and explain intellectual property rights, audits and compliance with laws as they pertain to a distribution agreement. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 販売店契約に関する知的財産権、監査、及び法の遵守を理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
		事前学修	Please study textbook section <26>-<30> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<26>から<30>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について引き続き詳細を詰め交渉の準備を行う。	60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10/26	Contracts. 【契約】 Distributor Arrangements (continued). 【販売店契約の概要（続き）】 Compliance with Laws, Foreign Corrupt Practices Act. 【法の順守、海外不正行為 防止法、契約の終了】	Distributor Agreements. Compliance with Laws, FCPA, Termination. 販売店契約について法の順守、海外不正行為防止法、契約の終了に関する交渉も含め引き続き学修する。
		この回の 到達目標	Finalize your negotiations and discuss the Foreign Corrupt Practices Act and termination clauses. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 交渉を完結し、海外不正行為防止法及び契約の終了に関する条項を交渉する知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <31>-<35> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<31>から<35>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理をしたい仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。
8	11/2	Contracts. OEM. Manufacturing Agreements. Specification and Processes. 【契約】 【OEM】 【製造契約】 【仕様と工程】	OEM、製造、仕様と工程についての契約について学修する。
		この回の 到達目標	We will study OEM and manufacturer agreements. Become familiar with these types of agreements and be able to explain their use. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. OEM契約と製造契約について理解し、説明できるようになる。3つの種類の契約について理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <36>-<40> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<36>から<40>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。
9	11/9	Contracts. Manufacturers. Manufacturing Agreements. Subcontractors. Intellectual Property. 【契約】 【製造者】 【製造契約】 【下請人】 【知的財産権】	製造契約における下請人と知的財産権に関する合意の交渉について学修する。
		この回の 到達目標	Negotiate an OEM agreement for your company. Discuss use of subcontractors and intellectual property rights. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のためにOEM契約を交渉するための知識と能力を身に付ける。下請人と知的財産権の利用について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <41>-<45> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<41>から<45>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
10	11/16	International Negotiations. Manufacturing Agreements. Competing Products, Payment, Quality. Quiz #2. 【国際交渉】 【製造契約】 【競合製品、支払、質】 【小テスト（2回目）】	製造契約に関する国際交渉における競合製品、支払、及び質に関する合意の交渉について学修する。 授業の終わりに、第5回目から第9回目（前回）までの授業内容について小テスト（2回目）を実施する。
		この回の到達目標	Continue negotiating your OEM agreement and be able to defend whether you will allow competing products and quality standards. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. OEM契約の交渉を継続し、競合製品と品質標準について自社の利益を守るための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の仕様を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <46>-<50> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and a potential OEM arrangement. distribution of products. Prepare for the Quiz #2. 教科書の<46 >から<50>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社とOEM契約の可能性のある製品について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。小テスト（2回目）の準備をする。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。60分
11	11/23	International Negotiations. General Provisions. Governing Law, Venue, Language. 【国際交渉】 【一般条項】 【準拠法、法廷地、言語】	国際交渉における一般条項について学修し、一般条項として定められる準拠法、法廷地、準拠言語に関する合意の内容を学修する。Feedback on the Quiz #2. 前回の授業で行った小テスト(2回目)についてフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	Understand and explain why governing law, venue and governing language are important in negotiating contracts. Explain the benefits of choosing a venue and governing law. 契約交渉で、一般条項として、準拠法、法廷地、準拠言語についてあらかじめ合意する理由を理解し、説明できるようになる。法廷地と準拠法を選択する際の便益を理解し、説明できるようになる。
		事前学修	Please study textbook section <51>-<55> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<51 >から<55>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。60分
12	11/30	International Negotiations. Force Majeure, Assignment, Indemnity. 【国際交渉】 【不可抗力、譲渡、補償】	国際交渉における一般条項について、不可抗力、譲渡、補償に関する合意の内容を学修する。
		この回の到達目標	国際契約に定める不可抗力条項、譲渡条項、及び補償条項について基本的な知識を理解し、説明できるようになる。かかる条項を交渉をするための能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を身に付ける。チームのメンバーとこれらの条項の重要性について議論し、自らの意見を述べることができる。
		事前学修	Please study textbook section <56>-<60> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<56>から<60>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理をしたい会社とその製品の販売について引き続き交渉の準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	12/7	Case Study. Litigation. Settlement of Disputes, Arbitration, Jurisdiction. 【判例研究】 【訴訟】 【和解、仲裁、管轄権】	訴訟における和解、仲裁、管轄権に関する判例を学修する。
		この回の到達目標	Digest and explain the salient points presented in the case study. Be able to argue your opinion even if it differs from the holding. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 研究した判例に示された目立った特徴を要約し説明することができるようになる。たとえ判決の見解と異なっていたとしても自らの立場を論じることができるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の仕様を身に付ける。
		事前学修	Please study textbook section <61>-<63> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and the group presentation. 教科書の<61>から<63>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理を希望する仮想の会社について詳細を詰め模擬交渉に向けて引き続き準備を行う。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。60分
14	12/14	Case Study. Litigation (continued). Settlement of Disputes, Arbitration, Jurisdiction, Choice of Law. Quiz #3. 【判例研究】 【訴訟（続き）】 【和解、仲裁、管轄権、準拠法】 【小テスト（3回目）】	引き続き判例の研究をとおして和解、仲裁、管轄権、準拠法に関して学修する。 授業の終わりに、第10回目から第13回目（前回）までの授業内容について小テスト（3回目）を実施する。
		この回の到達目標	Discuss and explain how disputes are settled and the importance of choice of law and jurisdiction. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. Quiz #3. 紛争の解決方法と準拠法条項と管轄条項の重要性についてより深く理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語を身に付け、それらに対する理解を深化させる。
		事前学修	Please read the remainder of the text and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and prepare for the group presentation. Prepare for the Quiz #3. 教科書の残りの部分を読み、授業で議論する3つの例文を書く。仮想の会社の詳細についてグループ発表の準備を続ける。小テスト（3回目）の準備をする。60分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。120分
15	12/21	Case Study. Litigation (continued). Group Presentation. 【判例研究】 【訴訟（続き）】 【グループ発表】	前回に続き判例の研究をとおして和解、仲裁、管轄権、準拠法に関して学修する。 Feedback on the Quiz #3. 前回の授業で行った小テスト(3回目)についてフィードバック（講評）を行う。 Group Presentation and feedback. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック（講評）を行う。
		この回の到達目標	Present your company and the results of mock negotiations. 会社、国及び契約交渉の結果について発表を行う。
		事前学修	Prepare for your class presentation. Review the class assignment, text, handouts and class notes. クラスでの発表の準備をする。授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直す。120分
		事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直す。60分

科目名	法律外国語B I【法律学科】	担当者	平野 英則	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国際化が加速する今日において、貿易取引における３つの決済方法を理解したうえで、企業の法務部門で英文契約書の理解および作成に必要とされる法律外国語に特有な言い回しなどを、「2007年改訂版 信用状統一規則」英文（公式翻訳付き）および教科書を用いて学修します。また、債権法や国際私法を未履修の受講生がいる場合には、法律関係の理解をするために必要とされる基本的な解説も行ったうえで、学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業は、企業の法務部門における英文契約書の理解および作成に必要とされる法律外国語に特有な言い回しなどを修得することを目的とし、実務でも活用できるようになることを目標とする。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、債権法および国際私法を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
教員による講義および学生との質疑応答により、学生の理解度を確認する方法で授業を行う。また、理解度確認テストについては、次の講義時に答案を返却し、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、教員が翌週の授業内容を伝えるので、学生が講義日までに予習し、教員と学生の質疑応答により、学生の理解度を確認する方法で授業を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	貿易代金の３つの決済方法の長所と短所および信用状が必要とされる背景と仕組みを理解し、説明できる。【知識】				3	3				3		
②	英文契約書の理解および作成に必要とされる法律外国語に特有な表現などを理解し、説明できる。【知識】				3	3				3		
③	貿易代金の３つの決済方法の長所と短所および信用状の仕組みを理解したうえで、ビジネス交渉に利用することができる。【技能】				3	3				3		
④	法律外国語およびその特有な表現方法を理解したうえで、英文の法律文章を作成することができる。【技能】				3	3				3		
⑤	貿易代金の３つの決済方法と信用状に関する授業内の質疑応答に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3	3				3		
⑥	法律外国語およびその特有な表現方法に関する質疑応答に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3	3				3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	前期末の講義日に達成目標の①～④に関する、前期末授業内試験を記述式により実施する。	40										40
小テスト等	前期内に3回の授業内理解度確認テストを実施する。その範囲は前回までの講義内容とし、最低限理解してほしいことを確認する意味で、形式は語群選択および正誤問題とする。また、実施日の前週の講義時に予告する。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、教員が翌週の授業内容を伝えるので、学生が講義日までに予習し、教員と学生の質疑応答により、アクティブラーニングの形態で学生の理解度を確認する方法で授業を行うので、授業への参画度として、前期末授業内試験および授業内理解度確認テストとは別枠で加点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内理解度確認テストについては、実施日の翌週の講義時間に答案を返却し、解説を行う。前期末授業内試験については、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』	亀田尚己編著平野英則ほか著	文真堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内に書面または口頭にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7火	【ガイダンス】 【貿易代金の決済方法】 【法律英語およびその表現】	貿易代金の3つの決済方法および信用状の意義と機能について学修し、講義の導入とする。 「2007年改訂版 信用状統一規則（UCP600）」英文（公式翻訳付き）で用いられている英語および言い回しについて、重要なものをいくつかピックアップし、学修する。	
		この回の到達目標	貿易代金の3つの決済方法および信用状の意義と機能について理解し、説明できる。 UCP600における重要ないくつかの英語の法律用語および言い回しについて理解し、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに教科書の該当箇所を精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。また、講義内容の復習のために、ノートを整理する。	80分
2	4/14火	【貿易取引の概要】	貿易取引の概要（国際商取引のあらまし）について学修する。	
		この回の到達目標	貿易取引の概要（国際商取引のあらまし）について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
3	4/21火	【支払いの方法（前払い送金、後払い送金）】	貿易代金支払いの方法のうち、前払い送金、後払い送金の意義とそのメリットデメリットについて学修する。	
		この回の到達目標	貿易代金支払いの方法のうち、前払い送金、後払い送金の意義とそのメリットデメリットについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
4	4/28火	【支払いの方法（支払渡し、引受渡し）】	貿易代金支払いの方法のうち、信用状なし荷為替手形による支払渡し（D/P）条件や引受渡し（D/A）条件による決済およびそのメリットデメリットについて学修する。	
		この回の到達目標	貿易代金支払いの方法のうち、信用状なし荷為替手形による支払渡し（D/P）条件、引受渡し（D/A）条件による決済およびそのメリットデメリットについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
5	5/5火	【支払いの方法（信用状による決済 - その1：信用状の利用目的）】	貿易代金支払いの方法のうち、信用状による決済に関し、信用状の利用目的について学修する。	
		この回の到達目標	貿易代金支払いの方法のうち、信用状による決済に関し、信用状の利用目的について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分
6	5/12火	【支払いの方法（信用状による決済 - その2：信用状取引の概要と特徴）】	貿易代金支払いの方法のうち、信用状による決済に関し、信用状取引の概要と特徴について学修する。	
		この回の到達目標	貿易代金支払いの方法のうち、信用状による決済に関し、信用状取引の概要と特徴について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を事前に精読し、ノートに整理したうえで、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	教科書の該当箇所および講義内容を確認し、その復習のために、ノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19火	第1条【UCPの適用】	信用状統一規則の第1条【UCPの適用】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について、事前配付レジュメを用いて学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第1条【UCPの適用】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	信用状統一規則の第1条【UCPの適用】の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめにより、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
8	5/26火	第2条【定義】	信用状統一規則の第2条【定義】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について、事前配付レジュメを用いて学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第2条【定義】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	信用状統一規則の第2条【定義】の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめにより、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
9	6/2火	第3条【解釈】	信用状統一規則第3条【解釈】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について、事前配付レジュメを用いて学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第3条【解釈】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	信用状統一規則の第3条【解釈】の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめにより、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
10	6/9火	第4条【信用状と契約】—その1	信用状統一規則第4条【信用状と契約】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について、事前配付レジュメを用いて学修する。 主に、信用状の独立抽象性の意義について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則第4条【信用状と契約】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容（主に、信用状の独立抽象性）について理解し、説明できる。	
		事前学修	信用状統一規則第4条【信用状と契約】の条文と教科書の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめにより、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
11	6/16火	第4条【信用状と契約】—その2	信用状統一規則第4条【信用状と契約】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について、事前配付レジュメを用いて学修する。 主に、信用状の独立抽象性の制度目的について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則第4条【信用状と契約】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容（主に、信用状の独立抽象性の制度目的）について理解し、説明できる。	
		事前学修	信用状統一規則第4条【信用状と契約】の条文と教科書の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめにより、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
12	6/23火	第5条【書類と物品、サービスまたは履行】	信用状統一規則第5条【書類と物品、サービスまたは履行】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容について、事前配付レジュメを用いて学修する。 主に、信用状の書類取引の原則について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則第5条【書類と物品、サービスまたは履行】で使用されている、重要な法律用語および言い回しならびにその内容（主に、信用状の書類取引の原則）について理解し、説明できる。	
		事前学修	信用状統一規則第5条【書類と物品、サービスまたは履行】の条文と教科書の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめにより、それを講義内容（主に、信用状の書類取引の原則）と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30火	【前期講義内容の総括】	前期講義内容を振り返り、その総括を行い、その重要ポイントを修得する。併せて、前期末試験の範囲を発表する。	
		この回の到達目標	前期講義内容を振り返り、その総括を行い、その重要ポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	講義ノートおよび講義内容を書き込んだ事前配付のレジュメを中心に精読し、その事前取りまとめにより、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、講義内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
14	7/7火	【前期末試験の範囲に関する質疑応答】	教員と学生との間で、前期末試験の範囲に関する質疑応答を実施し、前期講義内容の重要ポイントについて学修する。	
		この回の到達目標	前期講義内容の重要ポイントについて理解し、説明できる。	
		事前学修	前期の講義における疑問点の事前取りまとめにより、それを質疑応答の内容と比較・検討できるように準備する。	80分
		事後学修	講義内容の復習のために、質疑応答の内容をノートした事前配付レジュメを確認し、ノートを整理する。	80分
15	7/14火	【前期末授業内試験の実施】まとめ	前期末授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	前期末授業内試験の内容について理解し、説明できる。	
		事前学修	前期講義内容の全体的復習により、前期末授業内試験の準備をする。	80分
		事後学修	自己の前期末授業内試験の解答の確認し、レジュメ、講義ノートおよび教科書により確認する。	80分

科目名	法律外国語BⅠ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ法（憲法・不法行為法・財産法・契約法）の代表判例を用い、その判決要旨を解説する。尚、全ての講義は、英語にて実施するが、極めて重要な箇所は、日本語と英語にて解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・不法行為法・財産法・契約法の法域で用いられている法律英語の意味を理解し、それらの用語を用いて受講者同士で、英語にて法的な論点について英語で会話できることを目標とし、後期開講の法律外国語BIIを合わせて、授業終了後には、米国のロースクールに入学しても講義についていくことができ、最終的に、米国人弁護士とリーガル・ディベートを行いうる人材を育成することを目的とする。

【履修条件】
特に無いが、法律外国語Aや米国法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。

【授業方法】
講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者全員に判例を割り当て、その判例を講義内にて英語及び日本語で発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各法域で使用される法律英語の意味や内容を説明することができる。				3	1				3		
②	米国憲法・米国不法行為法・米国契約法に関する主要な判例例につき, 事実, 争点, 判旨を説明することができる。				3	3				3		
③	米国憲法・米国不法行為法・米国契約法めぐる諸問題について考察し, 自分の意見を述べるすることができる。				3	3				3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての米国憲法・米国不法行為法・ 米国契約法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点 など身についているかを, レポート評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	適宜授業では, 受講者に判例を1つ担当させ, 事実関係及び判 旨を英語で発表させ, その内容を評価する。	10	15	15								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教科書は使用しない				教科書	
判例要約を受講者に配布				その他	必携
教員の作成したレジメ				その他	必携
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国での契約実務経験等を通じ, 契約書文言での企業間のトラブルについての考察を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	Orientation & Constitutional Law(1)	米国憲法が規定する政府の3つのブランチ（立法権、執行権、司法権）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて米国憲法で規定される2つのブランチを説明できる。	
		事前学修	事前に配布する資料（判例要旨及びレジメ）の米国憲法 Article I - III に該当する箇所を読んでおき、詳細をノートに書きだしておく。	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
2	4/13	Constitutional Law(2)	連邦議会が制定する連邦法が合衆国憲法に違反した場合の最高裁の違法立法審査権に有無に関する上記判例を用いて解説するとともに、大統領もまた法の支配に服することをNIXON事件を用いて解説する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて連邦憲法が最高法規であることを判例を用いて説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Marbury v. Madison, 5 U.S. 137 (1803) United State v. Nixon, 418 U.S. 683 (1803)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
3	4/20	Constitutional Law (3)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、手続的デュー・プロセスや実体的デュー・プロセスを講義した後、基本的な権利として中絶に関する権利や同性婚、死ぬ権利などについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて個人の権利を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Roe v. Wade, 410 U.S. 113 (1973), Lawrence v. Texas, 539 U.S. 558 (2003) Washington v. Glucksberg, et al	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
4	4/27	Constitutional Law (4)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、表現や結社の自由、出版の自由などを名誉棄損との関係で解説する。また、平等による保護と黒人差別について米国での流れについて解説する。まずは、奴隷の開放について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて黒人の歴史や法上の取り扱いを説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 New York Times v. Sullivan, 376 U.S. 254 (1964)) Dred Scott v. Stanford, 60 U.S. 393 (1857)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
5	5/4	Constitutional Law (5)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、奴隷の開放から平等による保護と黒人差別について上記判例を用いて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてSegregation とDiscrimination の相違を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業み、詳細をノートに書きだしておく。 Plessy v. Ferguson, 163 U.S. 537 (1896) Brown v. Board of Education, 347 U.S. 483 (1954)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	5/11	Torts Law(1)	子供による不法行為の責任、故意による不法行為の成立要件、故意による不法行為(1)：暴行及び不法監禁について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて米国の不法行為の一般概念を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Van Camp v. McAfoos, 261 Iowa 1124 (1968), Garratt v. Dailey, 46 Wn.2d 197(1955)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
7	5/18	Torts Law(2)	故意による不法行為(2)：不法侵入、土地又は動産への不法侵害、精神的加害による故意の迷惑行為について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて不法行為の種類を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Coblyn v. Knnedey' s Inc, 359 Mass. 319 (1971), Katko v. Briney, 183 N.W. 2d 657 (1971)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
8	5/25	Torts Law(3)	過失による不法行為の要件（4要件）を解説する。即ち、 a. Duty of care, b. Breach of this duty by negligence, c. Actual damages, d. Causationを判例を用いで確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて不法行為の要件を説明できる。	
		事前学修	過失による不法行為に関する箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Wilkinson v. Downton, 2 Q.B. 57 (1897) ※イギリス判決	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
9	6/1	Torts Law(4)	過失による不法行為の各要件に関する意味を判例を用いで確認する。特に、過失推定論については、Res Ipsa Loquiturという言葉で表現されるので、その意味を十分理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて過失推定論とは何かを説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Byrne v. Boadle, 2 H. & C. 722(1863) ※イギリス判決 Summers v. Tice, 33 Cal. 2d 80 (1948)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
10	6/8	Torts Law(5)	製造物責任及び動物の不法行為に関する米国での取り扱いを題材に講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてPL訴訟の法的根拠や自己管理課の家畜と野生動物が原因の不法行為の取り扱いに関して説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Lee v. Crookston Coca-Cola Bottling Co, 290 Minn. 321(1971) Gehrts v. Batteen, 620 N.W. 2d 775(S.D. 2001)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
11	6/15	Contract Law(1)	契約法の概略、契約法を管理する法律を解説した後、契約の種類、契約の成立について講義する。 特に、契約の成立には、米国特有のConsideration（約因）が必要であるため、判例を用いて、約因の有無で効力が異なることを理解する。また、Shrinkwrap Licenseも学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約の種類や成立要件を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Lucy v. Zehmer, 196 Va 493(Va.1954) ProCD, Inc v. Zeidenberg, 96 F.3d 1447(7th Cir. 1996) Mills v. Wyman, 20 Mass. 207(Mass. 1825)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
12	6/22	Contract Law(2)	契約の成立で重要な相互合意の成立とはどういうことか、また、Parol Evidence Ruleとななにか、契約成立に対する抗弁にはどのようなものがあるかについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約内容に当事者の見解の齟齬が発生した場合の解決法について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Webb v. McGowin, 27 Ala.App. 82(Ala.App. 1935) Mitchill v. Lath, 247 N.Y. 377 (N.Y. 1928) Taylor v. Caldwell, 3 Best & S. 826(1863)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
13	6/29	Contract Law(3)	義務の放免（履行不能による放免・履行実行困難性による放免）について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約を履行しないでいい場合について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Jacob & Young v. Kent, 230 N.Y. 239(N.Y. 1921) Walker & Co. v. Harrison, 347 Mich. 630(Mich. 1957) Hadley v. Baxendale, 9 Exch. 341(1854)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
14	7/6	Contract Law(4)	重大な契約違反をした場合、些細な契約違反をした場合の相違及び救済について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約違反の場合の救済について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Johnson v. M ^r Intosh, 21 U.S. 543(1823) Armory v. Delamirie, 1 Strange 505(1722) McAvoy v. Medina, 93 Mass 548(1866)&Mannillo v. Gorski, 54 N.J. 378(1969)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
15	7/13	Contract Law(5)	契約違反をした場合の救済について講義する。また、レポート課題に対し、30分程度の解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約違反の場合の賠償の算出手法を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Swartzbaugh v. Sampson, et al, 11 Cal App.2d 451(1936) In re Marriage of Graham, 574 P.2d 75(1978) Berg v. Wiley, 264 N.W.2d 145(Minn1978)	60分
		事後学修	自己がまとめた課題レポートにおいて言及が足りなかった部分について、再度判決文を読み返し、今まで半期で習ってきた法律用語を見直し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分

科目名	法律外国語BⅡ【法律学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国際化が進展する企業において、法務部門で英文契約書等を理解するために、また、契約書を作成するうえで必要とされる法律外国語を学修する。 なお、この授業の受講生が債権法や国際私法を未履修である場合には、必要に応じて法律関係の基本的な解説も行ったうえで、学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法律外国語の基本的な知識の修得を目的として、貿易代金の決済に用いられる「2007年改訂版 信用状に関する統一規則（UCP600）」の英語による条文の精読を通じて、信用状に関する法律関係を学修する。 また、法律英語における重要な単語や慣用句の言い回しを修得するとともに、信用状取引の基本的な法律構造を理解し説明できることを目標とする。

【履修条件】
法律外国語AⅠを履修済みであることが望ましい。また、債権法や国際私法も履修済みであることが望ましいが、格別の履修条件は設けないものとする。

【授業方法】
事前配付のレジュメに基づき、学生がUCP600の公式翻訳および教科書により予習し、講義日に講師による講義および学生との質疑応答により、その理解度を確認する方法で授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前配付のレジュメに基づき、学生がUCP600の公式翻訳および教科書により予習し、講義日に講師による講義および学生との質疑応答によりアクティブラーニングの形態で、理解度を確認する方法で授業を行う。 したがって予習は不可欠である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	UCP600の英語による条文の精読を通じ、信用状に関する法律関係を理解し、説明できる。【知識】					3	3				3		
②	UCP600の英語による条文の精読を通じ、法律英語における重要な単語や慣用句の言い回しを理解し、説明できる。【知識】					3	3				3		
③	信用状に関する法律関係を理解したうえで、初歩的な信用状の実務対応ができる。【技能】					3	3				3		
④	UCP600の英語による条文の精読を通じ、法律英語における重要な単語や慣用句の言い回しを用い、法律文章の和文英訳ができる。【技能】					3	3				3		
⑤	信用状に関する法律関係に関する教員との質疑応答について、適切に自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】					3	3				3		
⑥	法律英語における重要な単語や慣用句の言い回しについて、適切に自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】					3	3				3		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	後期最後の講義日に、達成目標①～④に関する記述式の後 期末授業内試験を実施する。	40										40
小テスト等	後期に3回、授業内理解度確認テストを実施する。 テスト実施日の前週に事前予告する。 内容は、前週までの講義内容のうち最低限理解してほしい ことについての理解を問うものであり、形式は語群選択お よび正誤問題とする。	20	20	20								60
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	事前配付のレジュメに基づき、学生がUCP600の公式翻訳お よび教科書により予習し、講義日に教員と学生の質疑応答 によるアクティブラーニングの形態で、授業を行うので、 その参画度については期末試験及び理解度確認テストの加 点要因とする。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
理解度確認テストについては、次回の講義時間に答案を返却し、解説を行う。後期末試験については、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代国際商取引』－よくわかる理論と実務－	亀田尚己編著平野英 則ほか著	文眞堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内に書面または口頭にて受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15火	【ガイダンス】 第6条【利用可能性、有効期限および呈示地】	後期の講義のガイダンスとして、前期に実施した法律外国語AⅠの要点を解説する。 信用状統一規則の第6条【利用可能性、有効期限および呈示地】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第6条【利用可能性、有効期限および呈示地】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第6条【利用可能性、有効期限および呈示地】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
2	9/22火	第7条【発行銀行の約束】 (その1)	信用状統一規則の第7条【発行銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、発行銀行の約束の内容）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第7条【発行銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、発行銀行の約束の内容）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第7条【発行銀行の約束】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
3	9/29火	第7条【発行銀行の約束】 (その2)	信用状統一規則の第7条【発行銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、発行銀行の約束の成立時期およびその効力の発生時期）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第7条【発行銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、発行銀行の約束の成立時期およびその効力の発生時期）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第7条【発行銀行の約束】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
4	10/6火	第8条【確認銀行の約束】 (その1)	信用状統一規則の第8条【確認銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、確認銀行の約束の内容）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第8条【確認銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、確認銀行の約束の内容）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第8条【確認銀行の約束】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
5	10/13火	第8条【確認銀行の約束】 (その2)	信用状統一規則の第8条【確認銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、確認銀行の約束の成立時期およびその効力の発生時期）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第8条【確認銀行の約束】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、確認銀行の約束の成立時期およびその効力の発生時期）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第8条【確認銀行の約束】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
6	10/20火	第12条【指定】	信用状統一規則の第12条【指定】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第12条【指定】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第12条【指定】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27火	第14条【書類点検の標準】 第15条【充足した呈示】	信用状統一規則の第14条【書類点検の標準】および第15条【充足した呈示】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第14条【書類点検の標準】および第15条【充足した呈示】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第14条【書類点検の標準】および第15条【充足した呈示】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
8	11/10火	第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】（その1）	信用状統一規則の第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、ディスクレパンスの意義）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、ディスクレパンスの意義）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
9	11/17火	第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】（その2）	信用状統一規則の第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、ディスクレパンスに基づく支払拒絶の方法）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、ディスクレパンスに基づく支払拒絶の方法）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第16条【ディスクレパンスのある書類、権利放棄および通告】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
10	11/24火	第34条【書類の有効性等に関する銀行の責任排除】	信用状統一規則の第34条【書類の有効性等に関する銀行の責任排除】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第34条【書類の有効性等に関する銀行の責任排除】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第34条【書類の有効性等に関する銀行の責任排除】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
11	12/1火	第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】（その1）	信用状統一規則の第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、銀行の責任排除の制度趣旨）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、銀行の責任排除の制度趣旨）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
12	12/8火	第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】（その2）	信用状統一規則の第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、書類紛失をめぐる各当事者の権利義務関係）について学修する。	
		この回の到達目標	信用状統一規則の第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】の条文に基づき、重要な法律英語および言い回し並びにその内容（主に、書類紛失をめぐる各当事者の権利義務関係）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	信用状統一規則の第35条【伝送および翻訳に関する銀行の責任排除】の条文を事前に精読し、重要な法律英語および言い回し並びにその内容について、事前配付レジュメを利用して重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15火	【後期講義のまとめ】	後期講義を振り返り、その重要ポイントについて、整理して学修する。 併せて、後期末試験の範囲を発表する。	
		この回の到達目標	後期講義の重要ポイントについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	後期講義の重要ポイントについて整理し、講義の準備をする。	80分
		事後学修	講義内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
14	12/22火	【質疑応答】	後期末試験の範囲の重要ポイントについて、教員と学生の間で質疑応答を行う。	
		この回の到達目標	後期末試験の範囲の重要ポイントについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	後期の講義内容で疑問な点についての事前取りまとめを行い、講義の準備をする。	80分
		事後学修	質疑応答の内容を復習して、レジュメの記入事項の見直しや講義ノートの整理を行い、理解を確実なものにする。	80分
15	1/12火	【授業内後期末試験】 まとめ	授業内後期末試験を実施する。	
		この回の到達目標	後期末試験の問題について理解し、説明することができる。	
		事前学修	後期講義の全体体的な復習をする。	80分
		事後学修	解答内容の確認を行う。	80分

科目名	法律外国語BⅡ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ法（証拠法・刑法・捜査法）の代表判例を用いながら、基本的な知識を身につける。尚、全ての講義は、英語にて実施するが、極めて重要な箇所は、日本語と英語にて解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
証拠法、刑法、捜査法の法域で用いられている法律英語の意味を理解し、それらの用語を用いて受講者同士で、英語にて法的な論点について英語で会話できることを目標とし、前期開講の法律外国語BIと合わせて、授業終了後には、米国のロースクールに入学しても講義についていくことができ、最終的に、米国人弁護士とリーガル・ディベートを行いうる人材を育成することを目的とする。

【履修条件】
特に無いが、法律外国語A、BIや米国の法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。

【授業方法】
講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者全員に判例を割り当て、その判例を講義内にて英語及び日本語で発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各法域で使用される法律英語の意味や内容を説明することができる。				3	1				3		
②	米国財産法・米国証拠法・米国刑法・米国捜査法に関する主要な判例例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。				3	3				3		
③	米国財産法・米国証拠法・米国刑法・米国捜査法めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べるることができる。				3	3				3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての米国財産法・米国証拠法・米 国刑法・米国捜査法に関する基礎的な制度・裁判例・現在 の問題点など身についているかを、レポート評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	適宜授業では、受講者に判例を1つ担当させ、事実関係及び判 旨を英語で発表させ、その内容を評価する。	10	15	15								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の講義の時間で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教科書は使用しない				教科書	
判例要約を受講者に配布				その他	必携
教員の作成したレジメ				その他	必携
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国での契約実務経験等を通じ、契約書文言での企業間のトラブルについての考察を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	Property Law(1)	財産権法の概要について説明した後、インディアン土地所有権について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて財産の取得手段を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Johnson v, M ^c Intosh, 21 U.S, 543(1823),	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
2	9/21	Property Law(2)	不動産の時効取得やLost Item とMislaid itemにおける発見者及び発見場所のオーナー及び元の所有者の権利関係を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて遺失物と置き忘れの法的効果について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Mannillo v, Gorski, 54 N.J, 378(1969), Armory v, Delamirie, 1 Strange 505(1722), McAvoy v, Medina, 93 Mass 548(1866)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
3	9/28	Property Law(3)	資格の共有財産,土地の共有財産（Joint Tenancy, the tenancy by the entirety, the tenancy in common）を講義する。。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて離婚時の財産分与の際、医師資格や弁護士資格の取り扱いや共有で土地を取得した場合の共有財産形態を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Swartzbaugh v, Sampson, et al, In re Marriage of Graham, 574 P,2d 75(1978),	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
4	10/5	Property Law(4)	テナント／大家の関係,土地の収用を講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてテナントの権利及び大家の権利を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Berg v, Wiley, 264 N.W,2d 145(Minn1978, Hilder v, St, Peter,144 Vt 150 (1984), Pennsylvania Coral Co, v, Mahon, 260 U.S, 393(1922)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
5	10/12	Evidence (1)	証拠法において、証拠は事件と関連性があるものでなければならないが、関連性とは何を意味するのか？	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて証拠にはどのようなものがあるかを説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Michelson v, United States, 335 U.S, 469(1948)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
6	10/19	Evidence (2)	証拠法における性格証拠とは何かを講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてキャラクターエビデンスの民事上と刑事上の取り扱いの相違を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 State v, Cassidy, 3 Conn,App 374 (1985) United States v, Cunningham, 103 F,3d 553(7th Cir,1996)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	Evidence (3)	物的証拠, 文書証拠, 証人の資格（特に幼児の証人適格）について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてベストエビデンスルールを説明し、コンフリクトする証拠の取り扱いを説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Sirico v, Cotto, 67 Misc,2d 636 (NY 1971) Hill v, Skinner, 81 Ohio App 375 (NY 1947)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
8	11/9	Evidence (4)	証人への信ぴょう性の攻撃, 証言特権（特に弁護士特権, 医師特権, 配偶者特権, 聖職者特権について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、証言拒否ができる場合はどのような場合であることを説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 United States v, Owens21 M, J, 117 (NY 1985), United States v, Woodruff, 383 F,Supp 696(Penn 1974), Clark v, State, 159 Texas Cr,R, 187 (1953)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
9	11/16	Evidence (5)	伝聞証拠について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、証言拒否ができる場合はどのような場合であることを説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Estate of Murdock, 32 Muc, 352 (1983), United States v, English, 201 N,C, 295 (1931), Truck Ins, Exchange v, Michling, 364 S,W,2d 172(1963)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
10	11/23	Criminal Law(1)	刑法の管轄権や犯罪の分類, 犯罪の吸収など概略について講義する。また, 犯罪の本質的要素としてであるactus reus及びmens reaについて講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて犯罪を構成する「犯罪行為」と「犯意」について説明でき、犯意により分類された様々な犯罪を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 People v, Newton, 340 N,Y,S, 77(1973), Regina v, Prince, L,R, 2 Crim, Cas, Res, 154(CCCR 1875) United States v, Diaz, 864 F,2d 544 (7th Cir, 1988)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
11	11/30	Criminal Law(2)	共犯者責任（正犯・従犯）・未完全犯罪・犯罪能力に関し講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて未完成犯罪の種類や、犯罪能力について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業み、詳細をノートに書きだしておく。 United States v, Diaz, 864 F,2d 544 (7th Cir, 1988) McQuirter v, State, 63 So,2d 388(Ala, App,1953)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	12/7	Criminal Law(3)	無罪の基本原理（正当防衛, 脅迫の抗弁, 同意）について講義する。また, 人に対する犯罪, 性犯罪（強姦・法定強姦・重婚他）について講義する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して, 英語にて暴行, 重傷害, 殺人, 不当監禁, 誘拐, 性犯罪について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み, また該当箇所のレジメを読み, 詳細をノートに書きだしておく。 People v, La Voie, , Rowland v, State, People v, Hickman, People v, Liberta, Brown v, State, State v, Colvin,	60分
		事後学修	配布資料(レジメ) を用いて, 授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し, さらに, 配布資料（判例要旨）を用いて, レジメ内の法律用語がどのように使用されていか, 裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
13	12/14	Criminal Procedure(1)	被疑者の権利としてどのような規定があるか, 概略を説明する。特に, 修正4～6条, 修正8条を含めて講義を行う。 まずは証拠排除即として, 「毒樹の果実の法理」を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して, 英語にて証拠排除則について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み, また該当箇所のレジメを読み, 詳細をノートに書きだしておく。 Mapp v, Ohio, 367 U,S, 643(1961)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ) を用いて, 授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し, さらに, 配布資料（判例要旨）を用いて, レジメ内の法律用語がどのように使用されていか, 裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
14	12/21	Criminal Procedure(2)	逮捕（相当な理由がある場合や令状が不要な場合）の講義をし, 証拠の搜索や押収の手法について講義する。捜査法や刑事訴訟等を扱った米国のメディアを視聴し, 各場面での様な手続きが行われているのか確認し, 課題レポートとして最終回の授業までに提出する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して, 英語にて令状不要な6事情を説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み, また該当箇所のレジメを読み, 詳細をノートに書きだしておく。 Illinois v, Gates, 462 U,S, 213(1983), United States v, Watson, 423 U,S, 411(1976) United States v, Robinson, 414 U,S, 218 (1973)	60分
		事後学修	配布資料(レジメ) を用いて, 授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し, さらに, 配布資料（判例要旨）を用いて, レジメ内の法律用語がどのように使用されていか, 裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分
15	12/18	Criminal Procedure(3)	自白（特に, 自己に不利な証言を強要されないミランダ警告）, ラインナップ手続きに代表される同一性の確認, プリトライアルや一事不再理について講義する。課題レポートに関しフィードバックを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して, 英語にてミランダ事件について説明できる。また捜査により行われる各種の手続きの法的根拠について説明できる。	
		事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み, また該当箇所のレジメを読み, 詳細をノートに書きだしておく。 Miranda v, Arizona, 384 U,S, 436 (1966), United States v, Wade, 388 U,S, 218 (1967), Batson v, Kentucky, 476 U,S, 79 (1986), Oregon v, Kennedy, 456 U,S, 667 (1982)	60分
		事後学修	通常の事後学習に加え, 再度メディアを見返して, 教員のフィードバックの箇所を確認し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	60分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記原理Ⅱとあわせて履修することが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解を深めるため、適宜問題演習を織り交ぜながら、講義を行う。なお、簿記の問題演習には電卓が必要となるので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、授業内試験の場合は試験終了後に、定期試験の場合はポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記	大野智弘 編著	創成社	2020	教科書	必携
検定簿記ワークブック 3級	渡部裕亘、片山覚、北村敬子（編著）	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部 4/7	ガイダンスおよび簿記一巡の手続き		全体の授業計画の説明と、教科書Chapter1より簿記の全体像を学ぶ
		この回の到達目標	半期の授業計画を把握し、簿記手続きの全体像を理解する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、教科書Chapter1を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、簿記の全体像を説明できるようにする。	150分
2	第一部 4/14	勘定科目と分類		教科書Chapter2より勘定科目と分類を学ぶ
		この回の到達目標	簿記で用いる勘定科目とはどのようなものであり、具体的にどのような科目・分類があるかを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter2を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、勘定科目と分類の全体像を説明できるようにする。	150分
3	第一部 4/21	取引と仕訳		教科書Chapter3より取引と仕訳を学ぶ
		この回の到達目標	簿記上の取引にはどのような経済事象が該当するかを理解し、それが仕訳という手続きによって表現される過程を理解する。	
		事前学修	教科書Chapter3を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、仕訳の基本的な形式を理解し、取引を仕訳できるようにする。	150分
4	第一部 4/28	転記		教科書Chapter4より転記を学ぶ
		この回の到達目標	簿記上の取引は、仕訳されたのちに仕訳で使用された各勘定科目へと、転記される。この基本的な手続きの流れを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter4を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、仕訳から転記に至るまでの基本的な手続きの流れを身につける。	150分
5	第一部 5/5	試算表の原理		教科書Chapter5より試算表の原理を学ぶ
		この回の到達目標	仕訳と転記の正確性を検証するために作成される試算表について、その基本的な構造を理解する。	
		事前学修	教科書Chapter5を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、試算表作成のための基本的な手続きを身につける。	150分
6	第一部 5/12	精算表の仕組み		教科書Chapter6より精算表の仕組みを学ぶ
		この回の到達目標	精算表は、試算表から財務諸表作成までの一連の流れをシミュレートするために作成する表である。この精算表の基本的な構造を理解する。	
		事前学修	教科書Chapter6を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、試算表作成のための基本的な手続きを身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/19	損益計算書と貸借対照表の様式	教科書Chapter7より財務諸表の様式と基本的な作成の仕組みを学ぶ	
		この回の到達目標	損益計算書と貸借対照表という、主要な財務諸表の様式を把握し、それらの作成方法を身につける。	
		事前学修	教科書Chapter7を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、損益計算書および貸借対照表の作成手続きを身につける。	150分
8	第一部 5/26	現金預金	教科書Chapter8より現金預金取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	現金取引、普通預金取引および当座預金取引の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter8を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、現金預金取引の簿記処理を身につける。	150分
9	第一部 6/2	現金過不足と小口現金	教科書Chapter9より現金過不足と小口現金の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	現金過不足勘定を用いた処理と、インプレストシステムにおける小口現金取引の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter9を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、現金過不足および小口現金の簿記処理を身につける。	150分
10	第一部 6/9	商品売買：記帳方法	教科書Chapter10より商品売買の記帳方法を学ぶ	
		この回の到達目標	分記法と三分法の記帳方法を理解し、両者の違いを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter10を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、分記法および三分法による簿記処理を身につける。	150分
11	第一部 6/16	手付、商品券、クレジット販売	教科書Chapter11より手付、商品券、クレジットによる商品販売の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	手付の授受による商品売買や、商品券・クレジットカードによる商品販売の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter11を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、手付、商品券・クレジット販売の簿記処理を身につける。	150分
12	第一部 6/23	約束手形と電子記録債権	教科書Chapter12より約束手形取引および電子記録債権取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	約束手形の振出や決済、電子記録債権の発生や決済の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter12を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、約束手形取引・電子記録債権取引の簿記処理を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/30	貸倒れと貸倒引当金	教科書Chapter13より貸倒れと貸倒引当金の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	債権の貸倒れや貸倒引当金設定時の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter13を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、貸倒れおよび貸倒引当金の簿記処理を身につける。	150分
14	第一部 7/7	有形固定資産	教科書Chapter14より有形固定資産の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	有形固定資産の取得や売却、減価償却時の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter14を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、有形固定資産の取得・売却や減価償却の簿記処理を身につける。	150分
15	第一部 7/14	前期総括	複式簿記の基本から有形固定資産までの学修内容の確認とポイントの解説	
		この回の到達目標	簿記の基本的事項から、各論における具体的な簿記処理の内容を把握する。	
		事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。電卓を用意できる者。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式だが、問題演習も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。教科書にある問題は予習・復習に使うことができるようになっている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニュースステップアップ簿記（第2版）	大野智弘編著	創成社	2020年	教科書	必携
備考	4月に第2版が刊行されるので、それを購入のこと。昨年まで使用していたものは使用しない。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日 5・6 限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部とも4/10金曜日	ガイダンス（簿記と会計の世界）、簿記検定、電卓	簿記と会計の世界を説明することによってこの科目を学ぶ意義を理解することができる。今後取得できる各種簿記検定について理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④と関連して、学問としての簿記や会計について理解することができる。	
		事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、簿記の学習で大切なことを把握できるよう準備すること。	90分
		事後学修	履修を決定したら、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。	150分
2	第一部・第二部とも4/17金曜日	簿記一巡の手続き	複式簿記の基本前提と一連の手続きの流れについて学ぶ。この授業で扱う日商簿記初級についてその内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、複式簿記の基本前提と簿記一巡の流れについて理解することができる。日商簿記初級について、その位置づけと設定目標について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter1の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	第一部・第二部とも4/24金曜日	勘定の分類	勘定（資産・負債・資本・収益・費用）について、その役割を学ぶ。さらに日商簿記初級で出てくる勘定についてもその内容を理解する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、勘定の意味と役割について理解することができる。日商簿記初級で出てくる勘定について説明することができる。	
		事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	第一部・第二部とも5/1金曜日	取引と仕訳の基礎	簿記上の取引と仕訳について、基本的な問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、簿記上の取引について説明することができる。さらに、仕訳の基本的な考え方を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
5	第一部・第二部とも5/8金曜日	取引と仕訳の応用	日商簿記初級レベルの仕訳について、応用的な問題を解くことで理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
6	第一部・第二部とも5/15金曜日	転記のしくみ	総勘定元帳への転記についてそのしくみを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、転記のやり方を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter4の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部とも5/22金曜日	試算表の原理	試算表の意義と役割について学ぶとともに、実際に問題を解くことで知識の定着を図る。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、試算表の意義と役割を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter5の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
8	第一部・第二部とも5/29金曜日	損益計算書と貸借対照表の様式	財務諸表である損益計算書と貸借対照表の構造について学ぶ。当期純利益の2つの計算方法について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、損益計算書と貸借対照表の構造を理解することができる。当期純利益の計算方法について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter7の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
9	第一部・第二部とも6/5金曜日	普通預金、定期預金、小切手	普通預金、定期預金、小切手に関して、その概念と仕訳を中心に基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、普通預金、定期預金、小切手に関する基本的な仕訳について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter8の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
10	第一部・第二部とも6/12金曜日	商品売買（三分法と返品）	商品売買の基本的処理方法である三分法に関して、その概念を学ぶ。さらに、返品処理も含めた仕訳について基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、三分法のしくみを理解することができる。さらに、返品処理を含めて仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter10の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
11	第一部・第二部とも6/19金曜日	商品売買（諸掛、内金・手付金、クレジット決済）	仕入や売上に付随して発生する諸掛、内金・手付金、クレジットカードによる決済について、その概念を学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仕入諸掛、売上諸掛、前払金・前受金、クレジット売掛金についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
12	第一部・第二部とも6/26金曜日	約束手形と電子記録債権債務	約束手形と電子記録債権債務について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、受取手形・支払手形及び電子記録債権・電子記録債務についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter12の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
13	第一部・第二部とも7/3金曜日	有形固定資産と税金	有形固定資産と税金について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、未収入金・未払金、有形固定資産の取得、有形固定資産の売却、減価償却、租税公課、消費税についての仕訳を理解することができる。
		事前学修	教科書Chapter14と17の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。120分
		事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。120分
14	第一部・第二部とも7/10金曜日	月次合計残高試算表	日商簿記初級で出てくる月次合計残高試算表について、そのしくみと構造を学ぶ。この回のみ補助プリントを配付し、そこにある問題を解くことで理解を深める。授業内試験について伝達する。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの月次合計残高試算表を解くことができる。
		事前学修	教科書Chapter18の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。120分
		事後学修	配付したプリントを解くことで復習しておくこと。（2時間）120分
15	第一部・第二部とも7/17金曜日	授業内試験実施とその解説	日商簿記初級レベルの授業内試験の実施（45分）及び試験の解説実施（30分）さらに成績評価と簿記原理Ⅱの説明（15分）。授業内試験は電卓のみ持込可とする。
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。
		事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。180分
		事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。60分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
座学による講義および問題演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についている かを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	必携
検定簿記講義／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後および電子メールにより対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	簿記の意義 講義の進め方	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財務諸表論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	簿記を学ぶ意義と講義の狙いについて理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/16	簿記の意義としくみ（１）	(1) 簿記の意義、(2) 簿記の基礎、(3) 貸借対照表について説明し、簿記の基礎について学習する。	
		この回の到達目標	簿記学習の基礎的前提を理解する。	
		事前学修	教科書・第1章の「簿記の意義」、「簿記の基礎」、「貸借対照表」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
3	4/23	簿記の意義としくみ（２）	(1) 損益計算書、(2) 貸借対照表と損益計算書の関係について説明し、簿記の基礎について学習する。	
		この回の到達目標	主要財務諸表の意義と相互の関連性について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
4	4/30	仕訳と転記（１）	(1) 勘定、(2) 取引の意義と種類、（３）取引の８要素と結合関係について説明し、複式簿記の基礎について学習する。	
		この回の到達目標	仕訳と元帳への転記の仕組みを理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
5	5/7	仕訳と転記（２）	(1) 仕訳と転記について説明し、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。	
		この回の到達目標	仕訳と元帳への転記が実際に行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
6	5/14	仕訳帳と総勘定元帳	(1) 帳簿の種類、（２）仕訳帳への記入、（３）仕訳帳から総勘定元帳への転記について説明し、前回は引き続き、複式簿記の基礎となる仕訳と転記について学習する。	
		この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について簿記の構造及び複式記入の優位性について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5/21	決算（１）		(1)試算表の作成について説明するとともに、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。
		この回の到達目標	継続記録と決算の関係について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	5/28	決算（２）		(1)決算の概要、（２）決算の手続、（３）帳簿決算の手順について説明し、帳簿上での決算について学習する。
		この回の到達目標	簿記について決算が果たす役割について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	6/4	決算（３）		(1)財務諸表の作成について説明し、帳簿決算から財務諸表の作成への手順について学習する。
		この回の到達目標	簿記一巡の流れを理解し、実際に決算の手続きを行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	6/11	現金と預金（１）		「現金」、「現金過不足」について説明し、現金勘定に関わる会計処理について学習する。
		この回の到達目標	簿記における現金と預金の意義について理解する	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	6/18	現金と預金（２）		「当座預金と当座借越」、「小口現金」について説明し、当座預金勘定および小口現金勘定に関わる会計処理について学習する。
		この回の到達目標	現金と預金に関する記録が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	6/25	商品売買（１）		商品売買取引に係る会計処理について説明し、特に３分法について学習する。
		この回の到達目標	3分法の意義を理解し、記録が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	商品売買（2）	商品売買取引に係る補助簿について説明し、補助簿について学習する。	
		この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について理解し、実際に記録が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	7/9	決算（4）	決算手続における精算表の位置づけについて説明し、精算表の作成について学習する。	
		この回の到達目標	精算表の作成が行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	7/16	講義のまとめ	講義全体の内容を復習し簿記一連の手続きについて確認する。	
		この回の到達目標	簿記一連の手続きを理解する。	
		事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う 定期試験に向けて講義全体を振り返り、十分に準備する。	120分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記原理Ⅰとあわせて履修することが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解を深めるため、適宜問題演習を織り交ぜながら、講義を行う。なお、簿記の問題演習には電卓が必要となるので、授業には電卓を持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についている かを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は、授業内試験の場合は試験終了後に、定期試験の場合はポータルシステムにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記	大野智弘 編著	創成社	2020	教科書	必携
検定簿記ワークブック 3級	渡部裕亘、片山覚、北村敬子（編著）	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/15	簿記原理Ⅰの学修内容の確認および簿記原理Ⅱの全体像の確認	簿記原理Ⅰにて学修した内容を復習しつつ、簿記原理Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
		この回の到達目標	簿記原理Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
		事前学修	シラバスを熟読するとともに、教科書Chapter1～14を通読して、前期の学修内容を確認する。	90分
		事後学修	教科書Chapter1～14までの内容を、説明できるようにする。	150分
2	第一部 9/22	その他の債権と債務	教科書Chapter15より様々な債権債務に関する諸取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	簿記で用いる勘定科目とはどのようなものであり、具体的にどのような科目・分類があるかを把握する。	
		事前学修	教科書Chapter15を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、各種債権債務取引の簿記処理を身につける。	150分
3	第一部 9/29	株式会社の資本金と繰越利益剰余金	教科書Chapter16より資本金や繰越利益剰余金の増減に関する取引の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	株式会社の資本金や繰越利益剰余金の増減に関する取引の仕訳と転記ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter16を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、設立時や増資時、配当時の簿記処理を身につける。	150分
4	第一部 10/6	税金の処理および訂正仕訳	教科書Chapter17より株式会社における諸税金の処理と誤処理の修正仕訳を学ぶ	
		この回の到達目標	費用として処理される諸税金や、法人税等の利益を課税標準とする税金に関する取引の仕訳と転記ができるようになる。また、誤って行われた仕訳の修正仕訳ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter17を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、各種税金の納付に関する簿記処理と、訂正仕訳の方法を身につける。	150分
5	第一部 10/13	試算表と掛明細表	教科書Chapter18より試算表と掛明細表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	期中の取引内容を反映した試算表の作成ができるようになる。また、掛明細表による取引先別の掛代金残高が把握できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter18を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、実践的な試算表の作成方法と掛明細表の作成方法を身につける。	150分
6	第一部 10/20	試算表の演習	教科書Chapter19より演習を通じて試算表の作成方法を修得する	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、検定試験レベルの試算表の作成ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter19を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベル試算表の作成能力を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/27	売上原価と売上総利益の計算	教科書Chapter20より売上原価および売上総利益の計算構造を学ぶ	
		この回の到達目標	三分法による決算整理仕訳と、それによって売上原価が導出される過程を理解するとともに、売上総利益の計算構造を把握する。	
		事前学修	教科書Chapter20を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、三分法の決算整理と売上総利益を計算する仕組みを身につける。	150分
8	第一部 11/10	費用・収益の前払・前受・未払・未収	教科書Chapter21より費用・収益の繰延や見越の簿記処理を学ぶ	
		この回の到達目標	費用や収益の各項目について、前もって受払された部分を取り消す処理や、まだ受払されていない部分を追加計上する処理ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter21を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、費用・収益の前払・前受、未収・未払の簿記処理を身につける。	150分
9	第一部 11/17	決算整理事項と決算整理仕訳	教科書Chapter22より決算整理手続きの全体を概観する	
		この回の到達目標	これまで扱ったChapterに登場した決算整理手続きをひとまとめにして整理し、一連の決算整理仕訳ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter22を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、一連の決算整理事項の簿記処理を身につける。	150分
10	第一部 11/24	決算整理事項と八桁精算表	教科書Chapter23より八桁精算表における決算整理手続きを学ぶ	
		この回の到達目標	一連の決算整理仕訳を、八桁精算表の上で表現する方法を学び、精算表の基本構造が理解できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter23を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、八桁精算表における決算整理仕訳の表現方法を身につける。	150分
11	第一部 12/1	八桁精算表の作成	教科書Chapter24より実践的な八桁精算表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、検定試験レベルの精算表が作成できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter24を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベルの精算表の作成能力を身につける。	150分
12	第一部 12/8	財務諸表の作成	教科書Chapter25より財務諸表の作成方法を学ぶ	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、決算整理を踏まえて財務諸表が作成できるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter25を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベルの財務諸表の作成能力を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/15	帳簿決算（英米式決算法による締切）	教科書Chapter26より帳簿決算の方法（締切まで）を学ぶ	
		この回の到達目標	年間の帳簿記入の締めくくりとして、帳簿の締切手続きと次期における開始記入ができるようになる。	
		事前学修	教科書Chapter26を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、帳簿の締切手続きを身につける。	150分
14	第一部 12/22	決算整理手続きの総復習	演習問題を通じて精算表における決算整理手続きを修得する	
		この回の到達目標	問題演習を通じて、精算表による決算整理手続きの実施を完全に修得する。	
		事前学修	第10回および第11回の内容を復習して、理解が不十分な点を整理しておく。	90分
		事後学修	授業内で扱った問題を復習して、有形固定資産の取得・売却や減価償却の簿記処理を身につける。	150分
15	第一部 1/12	後期総括	その他の債権と債務から帳簿決算までの学修内容の確認とポイントの解説	
		この回の到達目標	簿記の全体的な手続きの流れを把握する。	
		事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
		事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。簿記原理Ⅰを学習済みであること。

【授業方法】		
教科書を使用する講義形式だが、問題練習も行うので、毎回、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。科目の性格上、続けて休むと理解することが困難になります。そのような場合には、早めに各自で授業内容のフォローをしておいてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニュースステップアップ簿記 （第2版）	大野智弘編著	創成社	2020月	教科書	必携
備考	前期の簿記論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日 5．6 限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部・第二部とも9/18金曜日	前期の復習と帳簿決算	夏休みをはさんだので、簿記の知識を思い出してもらう目的で前期の復習を確認する。帳簿上で行われる決算手続きに関して学習する。	
		この回の到達目標	前期に学習した内容の振り返りを行うことができる。帳簿決算において行われる振替仕訳について理解することができる。	
		事前学修	到達目標①～④に関連して、教科書Chapter26の学習のポイントを読んでおくこと。さらに、前期学習した箇所を再度読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
2	第一部・第二部とも9/25金曜日	当座預金、現金過不足、小口現金	当座預金の銀行別管理、当座借越への振替え、現金過不足、小口現金に関して、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、当座預金〇〇銀行、当座借越、現金過不足、小口現金についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter8と9の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	第一部・第二部とも10/2金曜日	発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定	売上時の発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定に関して、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、発送費の立替え、受取商品券、〇〇商店勘定についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	第一部・第二部とも10/9金曜日	電子記録債権債務、貸倒引当金	債務者請求方式による電子記録債権債務と貸倒引当金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、債務者請求方式、貸し倒れ、貸倒引当金についての概念と仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter12と13の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
5	第一部・第二部とも10/16金曜日	有形固定資産に関する応用処理	定額法による減価償却、月割計算、有形固定資産の売却、改良と修繕に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、定額法の計算、有形固定資産の売却、改良と修繕についての概念と仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter14の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
6	第一部・第二部とも10/23金曜日	その他の債権と債務	仮払い・仮受け、立替え・預かり、金融手形、法定福利費、差入保証金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仮払金・仮受金、立替金・預り金、手形貸付金・手形借入金、法定福利費、差入保証金についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter15の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部・第二部とも10/30金曜日	株式会社純資産、法人税等、訂正仕訳	株式会社の純資産構成、法人税等、訂正のための仕訳に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本金、繰越利益剰余金、利益準備金、法人税等、訂正仕訳についての仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter16と17の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
8	第一部・第二部とも11/6金曜日	日商簿記3級レベルの試算表	日商簿記3級でよく出題される合計残高試算表に関して、その作成方法を学習する。実際に問題を解くことでさらなる理解を深めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの合計残高試算表の作成方法を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter18と19の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
9	第一部・第二部とも11/13金曜日	売上原価と売上総利益の計算	三分法特有の売上原価に関する決算処理についての考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、売上原価算定のための振替処理と売上総利益の計算について理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter20の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
10	第一部・第二部とも11/20金曜日	費用収益の繰延と見越	期間損益計算に従って生じる費用と収益の期間帰属に関してその考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、費用収益の前払・前受・未払・未収についての概念と仕訳を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter21の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
11	第一部・第二部とも11/27金曜日	決算整理事項のまとめ	今まで学習した決算整理に関する事項の総復習を行うとともに、決算整理後残高試算表作成問題を解いていくことでさらなる理解を深めることができる。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、決算整理事項の確認と決算整理後残高試算表の作成を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter22の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
12	第一部・第二部とも12/4金曜日	日商簿記3級レベルの財務諸表の基本	日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、基本問題を基にその解き方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の基本を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部・第二部とも12/11金曜日	日商簿記3級レベルの財務諸表の応用	日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、応用問題を基にその解き方を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の応用を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
14	第一部・第二部とも12/18金曜日	伝票式会計	伝票式会計に関してその概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。授業内試験について伝達する。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、伝票を用いた会計システムのしくみと簿記上の処理を理解することができる。	
		事前学修	教科書Chapter27の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
		事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
15	第一部・第二部とも12/25金曜日	授業内試験の実施とその解説	授業内試験実施（60分、教科書・ノート・電卓持込可）、試験の解説（30分）	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
		事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。	180分
		事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習（将来の日商簿記3級受験も含めて）に役立てること。	60分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特にないが、最低限の簿記会計の専門用語に触れたことがあることが望ましい。

【授業方法】
座学による講義および問題演習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についている かを，筆記試験により評価する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説授業を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記講義／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	推奨
検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・ 北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日授業終了後および電子メールにより対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	前期科目の振返りと講義の概要説明。	前期末の定期試験の講評を行う。また、前期に学習した内容について概観し、講義の進行方法や成績評価等について説明を行う。	
		この回の到達目標	講義の意義を理解する。	
		事前学修	学習予定の教科書の範囲について読み、後期の講義全体を俯瞰する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、理解できていない部分について教科書、講義ノートを読み返す。	120分
2	9/24	債権と債務（１）	売掛金と買掛金、前払金と前受金について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における売掛金と買掛金の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
3	10/1	債権と債務（２）	受取手形と支払手形について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における手形の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
4	10/8	債権と債務（３）	その他の債権と債務について説明し、各々の債権と債務の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	売掛金、買掛金、手形以外の簿記処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
5	10/15	債権と債務（４）	債権の譲渡（クレジット売掛金）、電子記録債権・債務について説明し、各々の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における電子債権等の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
6	10/22	債権と債務（５）	債権の回収に係る貸倒れと貸倒損失、貸倒の見積もりと貸倒引当金の設定について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	貸倒引当金の意義を理解し、実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	固定資産（１）	有形固定資産の取得、売却および減価償却について説明し、有形固定資産の会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における固定資産の処理の意義について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	11/5	固定資産（２）	前回の基本的な会計処理を踏まえて、有形固定資産の減価償却後の売却などについて学習する。	
		この回の到達目標	固定資産の処理に伴う各種記録を行えるようにする。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	11/12	株式会社会計	株式会社会計の基礎となる資本金、利益剰余金、剰余金の配当について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	資本金の基本的な意義を理解し実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	11/19	収益と費用	収益と費用、収益および費用の見越し・繰延べ、消耗品費の処理について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	収益及び費用の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	12/3	税金	固定資産税など、法人税・住民税・事業税、消費税について説明し、会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	簿記・会計における税金の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	12/10	伝票	伝票会計について説明し、伝票を用いた会計処理について学習する。	
		この回の到達目標	伝票を用いた記録が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	決算（５）	決算と決算手続について説明し、決算整理事項について学習する。	
		この回の到達目標	決算の意義について理解する。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	12/24	決算（６）	決算と決算手続にかかる試算表の作成、財務諸表の作成、精算表の作成の総合問題について説明し、答案練習を行う。	
		この回の到達目標	決算手続が行えるようになる。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	1/14	講義のまとめ	講義全体を振り返り、情報記録システムとしての簿記が果たす役割について説明する。	
		この回の到達目標	簿記一巡の手続き及び決算の手続きを理解し、実際にそれを記録する事が出来る。	
		事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
		事後学修	講義全体の内容を確認し、定期試験の準備を行う。	180分

科目名	マーケティング戦略論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
競争市場における事業戦略とマーケティング行動の関係について体系的に理解する。とくに戦略経営論の基礎と戦略的マーケティング論について理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「マーケティング論ⅠとⅡ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にすること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	戦略の発生原理について説明できる					2	2	2				
②	競争市場の構造について説明できる					2	2	2				
③	ポジショニング・アプローチについて説明できる					2	2	2				
④	資源ベース・ビューについて説明できる					2	2	2				
⑤	マーケティング・ケイパビリティについて説明できる					3	3	3				
⑥	ビジネスモデルについて説明ができる					3	3	3				
⑦	理論やフレームワークに基づき、戦略的マーケティング計画を立案できる					3	3	3		2	2	
⑧	他者へ戦略的マーケティング計画を説明できる						3			3	3	
⑨	他者の戦略的マーケティング計画を批判的に検討できる						3	3		3	3	
⑩	成功した企業の戦略的マーケティング実践について説明できる					2	2			2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する。講義内で学習した内容の理解度を筆記試験を用いて測定する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを3回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	25	15	15	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際マーケティング・ケイパビリティ	諸上茂登著	同文館出版	2019	教科書	必携
備考	本書は第6回以降の講義にて使用する。また「マーケティング戦略論Ⅱ」でも同一の教科書を使用する。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	4月14日	戦略とは何か	そもそも企業はなぜ戦略を必要とするのだろうか。マーケティングと戦略の異同と関係性について理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、マーケティングと戦略の異同と関係性について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。現実の戦略問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	4月21日	ポジショニング・アプローチ①	外部環境と企業の戦略の関係について理解する	
		この回の到達目標	②と③の関連において、外部環境と企業の戦略の関係について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。現実の戦略問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
4	4月28日	ポジショニング・アプローチ②	外部環境と企業の戦略の関係について理解する	
		この回の到達目標	②，③の関連において、航空業界の魅力度について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
5	5月5日	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	航空業界の市場構造分析を行う	
		この回の到達目標	②，③，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、航空業界の魅力度について分析し、報告する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
6	5月12日	資源ベース・ビュー①	企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	資源ベース・ビュー②	企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
8	5月26日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習2)	資源ベース・ビューに基づき事業戦略を立案する	
		この回の到達目標	②, ④, ⑦, ⑧, ⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、戦略を立案し、報告する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
9	6月2日	マーケティング・ケイパビリティ①	優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力であるマーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
		この回の到達目標	⑤の関連において、マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
10	6月9日	マーケティング・ケイパビリティ②	優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力であるマーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
		この回の到達目標	⑤の関連において、マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
11	6月16日	マーケティング・ケイパビリティ③	優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力であるマーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
		この回の到達目標	⑤の関連において、マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
12	6月23日	アクティブ・ラーニング③ (グループ演習③)	教科書のケーススタディを用いてマーケティング・ケイパビリティの内容を分析する	
		この回の到達目標	⑤, ⑦, ⑧, ⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	ビジネスモデル①	ビジネスモデルとマーケティングの相違と共通性、特徴を理解する	
		この回の到達目標	⑥の関連において、ビジネスモデルとマーケティングの相違と共通性、特徴を説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
14	7月7日	ビジネスモデル②	ビジネスモデルとマーケティングの相違と共通性、特徴を理解する	
		この回の到達目標	⑥の関連において、優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
15	7月14日	授業内試験とフィードバック	授業内試験を実施し、フィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標を授業内試験を通じて確認する	
		事前学修	試験の準備	240分
		事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング戦略論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
競争市場における事業戦略とマーケティング行動の関係について体系的に理解する。とくに国際マーケティング戦略について理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「マーケティング論ⅠとⅡ」ならびに「マーケティング戦略論Ⅱ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にくること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案するマーケティング計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の企業が直面している国際マーケティング問題について説明できる					2	2	2				
②	海外市場参入戦略について説明できる					2	2	2				
③	国際マーケティング環境について説明できる					2	2	2				
④	標準化と適応化戦略について説明できる					2	2	2				
⑤	国際マーケティング・ケイパビリティについて説明できる					3	3	3				
⑥	多国籍企業における国際マーケティング・ケイパビリティの独自問題について説明できる					3	3	3				
⑦	理論やフレームワークに基づき、国際マーケティング計画を立案できる					3	3	3		2	3	
⑧	他者へ国際マーケティング計画を説明できる						3			3	2	
⑨	他者の国際マーケティング計画を批判的に検討できる						3	3		3	2	
⑩	成功した企業の国際マーケティング実践について説明できる					2	2			2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約5,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際マーケティング計画を立案する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	5	10	10	5	5	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義，個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	20	20	15	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際マーケティング・ケイパビリティ	諸上茂登著	同文館出版	2019	教科書	必携
備考	本書は講義にて使用する。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	9月22日	海外市場参入戦略①	企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する	
		この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する動機について説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	9月29日	海外市場参入戦略②	企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する	
		この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する手順について説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	10月6日	アクティブ・ラーニング① （グループ演習1）	海外市場参入戦略における標的国市場を分析する	
		この回の到達目標	①，②，③，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、ケース事業の海外市場参入について分析し，報告する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
5	10月13日	海外市場参入戦略③	企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する	
		この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する方法について説明できる。	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	10月20日	アクティブ・ラーニング② （グループ演習2）	海外市場参入戦略における参入モードを分析する	
		この回の到達目標	①，②，③，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、ケース事業の海外市場参入について分析し，適切な参入モードを提案する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	標準化と適応化戦略①	現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
8	11月10日	標準化と適応化戦略②	現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。レポート準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備。レポート準備	120分
9	11月17日	標準化と適応化戦略③	現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
10	11月24日	アクティブ・ラーニング③ (グループ演習3)	実在の製品に関して標準化と適応化戦略を立案する	
		この回の到達目標	②, ④, ⑦, ⑧, ⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、実在の製品の標準化と適応化について分析し、適切な戦略を提案する	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
11	12月1日	国際マーケティング・ケイパビリティ①	優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力である国際マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
		この回の到達目標	⑤, ⑥の関連において、国際マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。レポート準備 (レポート提出日)	180分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
12	12月8日	国際マーケティング・ケイパビリティ②	優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力である国際マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
		この回の到達目標	⑤, ⑥の関連において、国際マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる	
		事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	アクティブ・ラーニング④ (個人演習1)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際マーケティング計画を立案し、提案できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備。	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備。	120分
14	12月22日	アクティブ・ラーニング⑤ (個人演習2)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際マーケティング計画を立案し、提案できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備。	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備。	120分
15	1月12日	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する 自身の理解度に関する振り返り	
		事前学修	自身の理解度に関する振り返り	240分
		事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング活動の内容につき体系的に講じる。とくにSTPと4Pを用いたマーケティング計画の具体的手順と実践につき理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	市場の形成の歴史的経緯について説明できる				2	2	1					
②	マーケティングの発生原理について説明できる				2	2	1					
③	製品・サービス戦略について説明できる				2	2	1					
④	価格デザインについて説明できる				2	2	1					
⑤	マーケティング・チャネル戦略について説明できる				2	2	1					
⑥	プロモーション戦略について説明ができる				2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する。講義内で学習した内容の理解度を 筆記試験を用いて測定する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
小テスト等	特に予定していない。											
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案 書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグ ループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタ ディ，ゲスト講義などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容 の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達 度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	25	15	15	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・ 余田著	日本経済新聞社	2013	参考書	任意
				教科書	
備考	本書は参考書であり，講義内で毎回の使用はしない。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	マーケティングを大学で学ぶことの意義と本講義の目標	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	4月15日	マーケティングの発生、定義、原理	なぜそもそも企業においてマーケティング活動が必要なのだろうか。市場の形成とマーケティングの発生原理について理解する	
		この回の到達目標	①と②の関連において、市場の形成とマーケティングの発生原理について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	4月22日	マーケティング・マネジメント	企業内部におけるマーケティング活動の基本である4Pについて、その概要を理解する	
		この回の到達目標	②と⑧の関連において、マーケティング・マネジメントの必要性と内容について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	4月29日	コンセプトと製品・サービス (Product)	製品とサービスの開発手順に関して理解する。また顧客に提供する価値の中心を表現する「コンセプト」について理解する	
		この回の到達目標	③の関連において、とサービスの開発手順と「コンセプト」を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。自身の考えるヒット製品、サービスについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	5月6日	アクティブ・ラーニング① (グループ演習1)	実在する製品・サービスのコンセプトを立案する	
		この回の到達目標	③，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたコンセプトを立案する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
6	5月13日	価格のデザイン (Price)	価格のデザインの論理と手順について理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、価格デザインの論理と手順を説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	マーケティング・チャネル (Place)	チャネル開発と管理の論理と実際について理解する。	
		この回の 到達目標	⑤の関連において、価格デザインの論理と手順を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。コンビニの棚割りを確認しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
8	5月27日	プロモーション(Promotion) ①	プロモーション（広告等を使った販売促進方法）の論理と手順について理解する。とくにデジタル・マーケティングについて解説する	
		この回の 到達目標	⑥の関連において、プロモーションの論理と手順を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。優れたプロモーションの事例を確認しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
9	6月3日	プロモーション(Promotion) ②	プロモーション（広告等を使った販売促進方法）の論理と手順について理解する。とくにデジタル・マーケティングについて解説する	
		この回の 到達目標	⑥の関連において、プロモーションの論理と手順を説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。優れたプロモーションの事例を確認しておく	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
10	6月10日	消費者行動の理解①	消費者行動のメカニズムにつき、既存の複数のフレームワークを理解する	
		この回の 到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
11	6月17日	消費者行動の理解②	消費者行動のメカニズムにつき、既存の複数のフレームワークを理解する。	
		この回の 到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
12	6月24日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習②)	消費者行動に基づきプロモーションを立案する	
		この回の 到達目標	⑥、⑦、⑧、⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する	
		事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備（2.0時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	アクティブ・ラーニング③ (ケーススタディ演習)	ケーススタディ：実在の企業ケースを用いた演習を行う。	
		この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	7月8日	アクティブ・ラーニング④ (ゲスト講義)	ケーススタディ：ゲストスピーカーによる講義（予定）	
		この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	7月15日	授業内試験とフィードバック	授業内試験を実施し、フィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標を授業内試験を通じて確認する	
		事前学修	試験の準備	240分
		事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動、流通のしくみなどにつき体系的に講じる。とくにブランド論と小売業の業態と戦略について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案するマーケティング計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	セグメント，ターゲティング，ポジショニング（STP）について説明できる				2	2	1					
②	STPと4Pの関係について説明できる				2	2	1					
③	市場調査の方法について説明できる				2	2	1					
④	ブランドについて説明できる				2	2	1					
⑤	流通のしくみについて説明できる				2	2	1					
⑥	多様な小売業態の特徴について説明ができる				2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約5,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身でマーケティング計画を立案する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	10	10					10	10	10	10	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを5回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義，個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10					20	20	20	20	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著	日本経済新聞社	2013	参考書	推奨
備考	本書は参考書であり，講義内で毎回の使用はしない。				

【オフィスアワー】
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	マーケティングを大学で学ぶことの意義と本講義の目標	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
		この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
		事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
		事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	9月23日	STP①	セグメント、ターゲティング、ポジショニング（STP）について説明できる	
		この回の到達目標	①と②の関連において、STPについて説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	9月30日	STP②	企業内部におけるマーケティング活動の基本である4PとSTPの関係ならびに市場調査の方法について理解する	
		この回の到達目標	①、②、③の関連において、STPと4Pの関係ならびに市場調査の方法について説明できる	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	10月7日	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	STPを立案する	
		この回の到達目標	①、②、⑦、⑧、⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたSTPを立案する	
		事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	10月14日	ブランド・マネジメント①	ブランドの機能と管理方法のついて理解する	
		この回の到達目標	④の関連において、ブランドの機能と管理方法のついて説明できる。	
		事前学修	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集。レポート準備	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備。レポート準備	120分
6	10月21日	ブランド・マネジメント②	ブランドの機能と管理方法のついて理解する	
		この回の到達目標	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集	
		事前学修	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集。レポート準備	120分
		事後学修	講義ノートの整理と復習ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集。レポート準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月28日	アクティブ・ラーニング② (グループ演習2)	実在のブランドに関してその強みを分析する
		この回の到達目標	④，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、時間内に当該ブランドを分析する
		事前学修	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集。レポート準備
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備
8	11月11日	流通のしくみ①	社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について理解する
		この回の到達目標	⑤の関連において，社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について説明できる
		事前学修	講義ノートの準備。レポート準備
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備
9	11月18日	流通のしくみ②	社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について理解する
		この回の到達目標	⑤の関連において，社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について説明できる
		事前学修	講義ノートの準備。レポート準備
		事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備
10	11月25日	小売業態の発展と競争①	様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき理解する
		この回の到達目標	⑥ に関連し、様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき説明できる
		事前学修	講義ノートの準備。レポート準備（レポート提出日）
		事後学修	講義ノートの整理と復習
11	12月2日	小売業態の発展と競争②	様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき理解する
		この回の到達目標	⑦と⑩ に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる
		事前学修	講義ノートの準備
		事後学修	講義ノートの整理と復習
12	12月9日	アクティブ・ラーニング③ (ゲスト講義)	ケーススタディ：ゲストスピーカーによる講義（予定）
		この回の到達目標	⑥，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する
		事前学修	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる
		事後学修	リアクションペーパーの準備

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月16日	アクティブ・ラーニング④ (個人演習)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	⑦, ⑧, ⑨, ⑩の関連において、優れたマーケティング計画を理解し説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	12月23日	アクティブ・ラーニング⑤ (個人演習)	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
		この回の到達目標	⑦, ⑧, ⑨, ⑩の関連において、優れたマーケティング計画を理解し説明できる	
		事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
		事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	1月13日	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
		この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する	
		事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
		事後学修	振り返り	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。							2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル / レイブソン / リスト マクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2019年	教科書	必携
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	【オリエンテーション】 マクロ経済学の対象と方法 と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるミクロ経済学との違いを示しながら、マクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	4/13	【国の富】	マクロ経済の範囲、GDP算出のフレームワークについて説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、GDP算出のアプローチ（生産＝支出＝所得）説明できる。	
		事前学修	教科書第5章1、2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の復習問題1～8について説明をまとめること。	120分
3	4/20	【生計費の計算】	消費者物価指数の計測、インフレ率、生産者物価指数、実質値と名目値の違いについて説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、物価指数、インフレ率の算出方法を説明できる。	
		事前学修	教科書第5章3、4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の復習問題9～17について説明をまとめること。	120分
4	4/27	【総所得】	生産性と経済成長の関係について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、豊かな国と貧しい国がなぜ生じるのか説明できる。	
		事前学修	教科書第6章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第6章の復習問題について説明をまとめること。	120分
5	5/4	【経済成長の要因】	成長性を高めるための政府の政策について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、経済成長を規定する要因について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第7章の復習問題について説明をまとめること。	120分
6	5/11	【豊かな国と貧しい国】	なぜ貧しい国はそのまま、豊かな国は豊かになれたのかについて説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、地理的要因と制度的要因の意味について説明できる。	
		事前学修	教科書第8章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第8章の復習問題について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/18	【雇用と失業の測定】	失業率と労働市場均衡について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失業率と労働市場の性質について説明できる。
		事前学修	教科書第9章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。120分
		事後学修	教科書の第9章の復習問題1～7について説明をまとめること。120分
8	5/25	【失業の性質】	失業が生じる理由と失業の種類について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、失業の性質について説明でき、雇用政策について議論できる。
		事前学修	教科書第9章3．4．5．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。120分
		事後学修	教科書の第9章の復習問題8～12について説明をまとめること。120分
9	6/1	【クレジット市場】	クレジット市場について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クレジット市場の均衡、実質金利と名目金利について説明できる。
		事前学修	教科書第10章1．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。120分
		事後学修	教科書の第10章の復習問題1～4について説明をまとめること。120分
10	6/8	【銀行と金融仲介機関】	マクロ経済における銀行と金融仲介の役割について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、信用創造と金融仲介機関の役割について説明できる。
		事前学修	教科書第10章2．3．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。120分
		事後学修	教科書の第10章の復習問題5～9について説明をまとめること。120分
11	6/15	【貨幣】	マクロ経済における貨幣の役割について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貨幣数量説について説明できる。
		事前学修	教科書第11章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。120分
		事後学修	教科書の第11章の復習問題1～4について説明をまとめること。120分
12	6/22	【インフレーションと中央銀行】	中央銀行の役割について説明する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央銀行と政策金利について説明でき、金融政策の基礎について議論できる。
		事前学修	教科書第11章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。120分
		事後学修	教科書の第10章の復習問題5～13について説明をまとめること。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	【開放経済の基礎】	財の国際フローについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貿易の基本的な理論について説明できる。	
		事前学修	教科書第14章の1. 部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第14章の復習問題1～3について説明をまとめること。	120分
14	7/6	【経常収支と金融収支】	金融の国際フローについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経常収支と金融収支について説明でき、貿易政策について議論できる。	
		事前学修	教科書第14章の2. 3. 部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第14章の復習問題4～12について説明をまとめること。	120分
15	7/13	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、マクロ経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
		事後学修	期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次回の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷 巖	日本評論社	2007年		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	【オリエンテーション】マクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目であるミクロ経済学との違いを示しながら、マクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	90分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	150分
2	4/14	GDPと物価指数(1)： GDPとGNP、付加価値、名目と実質、フローとストックについて	マクロ経済学におけるもっとも重要な経済指標である国内総生産（GDP）の計算方法について説明する。また、統計を理解するうえで重要である名目と実質、フローとストックという概念について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国内総生産を含む国民経済計算の仕組みを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「GDP」と「付加価値」の概念を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、GDPの概念およびGDPとGNPの違いについてまとめること。	120分
3	4/21	GDPと物価指数(2)： GDPの計算における消費と投資の違いについて	国内総生産の計算過程における民間「消費」と民間「投資」の違いについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国内総生産の計算過程における民間「消費」と民間「投資」の違いについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを計算する上で「消費」「投資」という概念がどのように異なるかを理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、内閣府のホームページにある統計データを実際に確認してみること。	120分
4	4/28	GDPと物価指数(3)： 三面等価（生産・分配・支出）の原則の理解	国内総生産を生産面・分配面・支出面から確認し、これらが等価になる原則（三面等価の原則）について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、三面等価の原則について理解し、説明ができる。	
		事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを考える上で「生産」「分配」「支出」といった異なる側面があることを理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、「生産」「分配」「支出」面から確認するGDPの値が一致することをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
5	5/5	GDPと物価指数(4)： 三面等価の原則と現実の世界について（統計としてのGDPと現実世界の乖離）	三面等価の原則について再度説明し、現実の世界との違いについて説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則と現実世界がどのように乖離しているかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような場合にマクロ経済学におけるGDPの分析枠組みが有用かを理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、GDPに含まれていないが重要な要素をまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
6	5/12	GDPと物価指数(5)： 物価水準の指標とGDPデフレーター の計算	経済指標を比較する場合に大きく影響する「物価水準」を意味する指標として、GDPデフレーター及び消費者物価指数に関する説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、GDPデフレーター及び消費者物価指数の計算方法及び解釈を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPデフレーターの計算式および計算式に含まれる各要素の意味を理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、物価水準に関する各指標の特徴をまとめること。また、練習問題の内容及び計算方法を再度確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	所得の決定メカニズム(1)：財市場における数量調整と価格調整の違いについて	短期モデルと長期モデルの違いを説明したうえで、供給者の販売戦略として「数量調整」及び「価格調整」について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、マクロ経済学における短期と長期の概念及び数量調整と価格調整について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような時にモノを販売する財市場において「価格」又「数量」が調整されるのかを理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、総需要曲線と総供給曲線の概念をまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、ミクロ経済学との考えの違いについてまとめること。	120分
8	5/26	所得の決定メカニズム(2)：消費関数と投資関数について（人々の消費行動又は投資行動は何によって決定されているのか）	人々の行動を表す「消費関数」及び「投資関数」について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学における家計の消費行動及び企業の投資行動について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、関数の考え方と、「消費」及び「投資」を決定する要素について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、「限界概念」「消費性向」「投資の効率」について正確に理解できるよう自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
9	6/2	所得の決定メカニズム(3)：45度線モデルと所得の決定	国民所得の水準を決定するメカニズムを三面等価の原則及び45度線モデルによって説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、45度線モデル及び三面等価の原則について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、総需要曲線が上にシフトする要因と45度線が意味するものについて理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、45度線モデルによってどのように所得が決定されるかを自分で作図することで確認すること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
10	6/9	所得の決定メカニズム(4)：乗数波及効果とデフレギャップ、インフレギャップについて	政府の公共投資の効率性を乗数効果によって説明する。また、デフレギャップ及びインフレギャップについても説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、政府支出乗数及び乗数波及効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、政府「乗数効果」の概念及び計算方法について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、政府支出乗数の計算方法及びその意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、再度計算問題を解くこと。	120分
11	6/16	貨幣の需給バランスと利子率(1)：ストック（貨幣）市場におけるワルラスの法則について	貨幣市場における需要と供給のバランスについて、ワルラスの法則を用いて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣市場における需給バランスとワルラスの法則について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣市場の定義およびそこで取引される「貨幣以外」の資産について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、ワルラスの法則を示している数式(3)について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
12	6/23	貨幣の需給バランスと利子率(2)：貨幣の3つの機能と割引現在価値	貨幣が有する3つの機能と割引現在価値の概念について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣の3つの機能及び割引現在価値について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣の機能及び貨幣に対する需要の種類について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、割引現在価値の概念とその計算方法について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	貨幣の需給バランスと利子率(3)：債券価格と利子率の関係	利子率の変動と債券価格及び流動性選好の関係について説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、利子率の変動が債券価格及び貨幣需要に与える影響を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、債券価格の決定要因としての利子率の役割について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、利子率が上昇（低下）した場合の債券価格の動きをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
14	7/7	貨幣の需給バランスと利子率(4)：貨幣の供給と政策について	貨幣市場の需給バランスと中央銀行による金融政策の関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央銀行の金融政策及びその意義について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、日本銀行の役割と金融政策について理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、金融政策とその効果についてまとめること。現在の日本において、そのような金融政策が必要であるかを考えること。	120分
15	7/14	マクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認	マクロ経済学Ⅰの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
		事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	120分
		事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式 フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して授業内試験の解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷巖	日本評論社	2007	教科書	必携
基本経済学	大淵三洋ほか	八千代出版	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
質問、要望などがあれば、授業前後など、気軽にお声がけいただきたい（メールでも対応可）。また、やむを得ず欠席する場合も、以下のメールアドレスに事前連絡（欠席理由も報告）いただきたい。sunbears7@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	他学部にて、マクロ経済分析の授業、兼任校にて、社会学概論のスクーリング、本務校にて、経営学総論、経営管理基礎・応用理論の授業を担当している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		ミクロ経済学だけでなく、資本主義システムと関連して、社会学や経営学など、社会科学の周辺領域のなかで、マクロ経済学の位置づけを意識できるように工夫している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月4/6	社会科学のなかでのマクロ経済学とは	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係について解説する。履修希望者は、必ず出席すること。	
		この回の到達目標	社会科学全体のなかで、マクロ経済学の位置づけについて理解することができる。	
		事前学修	シラバスを読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係を復習しておくこと。（2時間）	120分
2	第一部 月4/13	世界経済のなかでの日本経済	世界経済との関連で、日本経済の動向と今後の展望について解説する。	
		この回の到達目標	世界経済との関連で、日本経済の動向について理解することができる。	
		事前学修	第2回に行われる第1章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
3	第一部 月4/20	国民所得統計とGDP	フローとストック、名目と実質、静学と動学など、マクロ経済学を学習するためのいくつかの概念を解説したうえで、国民所得統計としてのGDPの概念について解説する。	
		この回の到達目標	国民所得統計とGDPの概念について理解することができる。	
		事前学修	第3回に行われる第2章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第3回になった解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
4	第一部 月4/27	マクロ経済の循環	三面等価の原則、ISバランスおよび物価水準について解説したうえで、簡単な数値例を基に、物価水準に関する簡単な計算問題を行う。	
		この回の到達目標	マクロ経済の循環について理解することができる。	
		事前学修	第4回に行われる第2章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
5	第一部 月5/4	短期とは	マクロ経済学の枠組みとして、日常生活における「歴史的時間」とマクロ経済学における「抽象的時間」の違いを解説したうえで、「短期」と「長期」の違い、「総供給曲線」と「総需要曲線」の関係について解説する。	
		この回の到達目標	マクロ経済学の短期モデルの概要について理解することができる。	
		事前学修	第5回に行われる第3章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
6	第一部 月5/11	長期とは	マクロ経済学の枠組みとして、「短期」における総供給曲線と「長期」における総供給曲線の違いから、「有効需要の原理」と「セイの法則」について解説する。その後、「短期」と「長期」のそれぞれにおける物価水準と産出量の決定過程について解説する。	
		この回の到達目標	マクロ経済学の長期モデルの概要について理解することができる。	
		事前学修	第6回に行われる第3章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月5/18	財市場の分析（消費と投資）	財市場の分析として、消費や投資といった総需要を構成する経済変数に関連して、消費関数、投資の限界効率、投資関数から、国民所得決定の過程について解説する。	
		この回の到達目標	国民所得決定の仕組みについて理解できる。	
		事前学修	第7回に行われる第4章前半を整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
8	第一部 月5/25	財市場の分析（財政政策と金融政策）	財市場の分析として、財市場の均衡式から、財政政策の有効性と乗数について解説する。その後、簡単な数値例を基に、均衡国民所得や乗数に関連する計算問題を行う。	
		この回の到達目標	財政政策の効果と乗数について理解できる。	
		事前学修	第8回に行われる第4章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
9	第一部 月6/1	資産市場の分析（貨幣需要）	資産市場の分析として、資産の特性とワルラスの法則について解説したうえで、貨幣の機能、債券価格と利子率の関係から、貨幣の保有動機（貨幣の需要）について解説する。	
		この回の到達目標	貨幣保有動機と貨幣需要について理解できる。	
		事前学修	第9回に行われる第5章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
10	第一部 月6/8	資産市場の分析（貨幣供給）	資産市場の分析として、貨幣の種類と乗数について解説したうえで、貨幣の供給について解説する。その後、貨幣市場の均衡と利子率の決定や金融政策の有効性について解説する。	
		この回の到達目標	貨幣供給と金融政策について理解できる。	
		事前学修	第10回に行われる第5章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
11	第一部 月6/15	IS-LM分析の導出（IS曲線とLM曲線）	財市場のモデルからIS曲線、貨幣市場のモデルからLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みについて解説する。	
		この回の到達目標	IS曲線とLM曲線とIS-LMモデルの基本的な枠組みについて理解できる。	
		事前学修	第11回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
12	第一部 月6/22	IS-LM分析政策（財政政策と金融政策）	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。	
		この回の到達目標	財政政策、金融政策および物価水準の下落によるIS曲線やLM曲線がシフトする仕組みを理解できる。	
		事前学修	第12回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月6/29	IS-LM分析（財政政策と金融政策の効果を妨げる現象）	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について解説する。簡単な数値例を基に、IS曲線、LM曲線、IS-LMモデルに関連する簡単な計算問題を行う。	
		この回の到達目標	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について理解できる。	
		事前学修	第13回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
14	第一部 月7/6	短期モデル（財市場、貨幣市場およびIS-LMモデル）の総復習	マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）に繋げる（対応させる）ために、財市場の分析、貨幣市場の分析およびIS-LM分析など、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の総復習を行う。	
		この回の到達目標	財市場、貨幣市場およびIS-LMモデルの仕組みから、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の全体像を理解できる。	
		事前学修	第14回に行われる第4章から第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	第一部 月7/13	マクロ経済学Ⅱ（長期モデル）へ向けて	授業内試験および前期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	IS-LMモデルの仕組みを理解することによって、国際マクロ経済学および長期モデルを単元とするマクロ経済学Ⅱへと繋げることができる。	
		事前学修	これまでの単元を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）、特に、IS-LMモデルの基本的な枠組みを十分復習し、マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）の受講準備をしておくこと。（2時間）	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	武縄 卓雄	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
数学の予備知識は必要としないが、割り算の意味を理解していないと単位修得は難しい。また、経済学もしくは経済学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式。毎週、原則として講義冒頭に復習問題を行い、解説します。課題などの提出物は、原則として提出時の翌週に、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時に解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マクロ経済学 第4版	吉川洋	岩波書店	2017/3/3	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで問い合わせてください。takenawa1953@yahoo.co.jp 時間調整をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	5月11日 (月)	第1章 マクロ経済学の諸概念	(目次xi～P.3) ストックとフロー、財市場、貨幣市場、労働市場	
		この回の到達目標	経済活動の測度対象としてのストック概念とフロー概念を理解する。 マクロ経済学の分析対象となる財市場、貨幣市場、労働市場の関係を理解する。	
		事前学修	テキストとノートを準備する。事前にシラバスを確認しておく。	30分
		事後学修	マクロ経済学とは何かを中心にノートの整理をする。	60分
2	5月18日 (月)	第1章 マクロ経済学の諸概念	(P.3～P.22) とその統計原則、名目GDPと実質GDP GDP	
		この回の到達目標	フロー概念の代表的経済指標であるGDPの定義と、統計上の測定法を理解する。実際の経済活動値が名目値、推測値が実質であることを理解し、名目値GDPと実質GDPとの関連を理解する。	
		事前学修	前回のノートを再確認する。	30分
		事後学修	GDPの定義を中心にノートを整理し、実質GDPを算出する数値例を自作して、計算する。	60分
3	5月25日 (月)	第1章 マクロ経済学の諸概念	(P.22～P.33) GDP統計の限界、貯蓄・投資バランス	
		この回の到達目標	GDP統計値が豊かさの尺度としては役割不足であることを理解する。 マクロ経済モデルの財市場における均衡条件式、財の総供給（貯蓄）＝財の総需要（投資）の導出法を理解する。	
		事前学修	前回のノートを再確認する。	30分
		事後学修	ノートを整理する際に、財市場の均衡条件式の導出法を文章化する。	60分
4	6月1日 (月)	まとめ (1)	(P.1～P.33) 第1章のまとめ	
		この回の到達目標	GDP統計値の定義・特徴を理解する。 マクロ経済モデルの財市場における均衡条件式（財の総供給＝財の総需要）の導出法を理解する。	
		事前学修	第1回～第3回のノートを再確認する。	30分
		事後学修	今日のまとめを再確認するとともに、不足してるノートの箇所があれば、補っておく。	60分
5	6月8日 (月)	第2章 GDPの決定	(P.35～P.47) 消費関数、平均消費性向、限界消費性向	
		この回の到達目標	ケインズの消費関数を理解する。	
		事前学修	前3回分のノートを再確認する。	30分
		事後学修	ノートを整理する。 消費関数を自作し、作図する。	60分
6	6月15日 (月)	第2章 GDPの決定	(47～P.55) 財市場におけるマクロの需給均衡とGDPの決定、有効需要の原理、	
		この回の到達目標	財市場の需給を均衡させる所得（GDP）の決定法を理解する。財市場を均衡させるためにケインズが唱えた「有効需要の原理」を理解する。	
		事前学修	前回のノートを再確認する。	30分
		事後学修	ノートを整理し、GDPの決定について文章化する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	6月22日 (月)	第2章 GDPの決定	(P. 93~P. 99) ケインズの投資関数、資本の限界効率	
		この回の到達目標	ケインズの投資関数を理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。	30分
		事後学修	ケインズの投資関数の導出法を中心に、ノートを確認する。	60分
8	6月29日 (月)	第2章 GDPの決定	(P. 54~P. 57) 投資乗数、インフレギャップとデフレギャップ、完全雇用	
		この回の到達目標	需要サイドの投資増加により、それ以上の供給側の所得（GDP）が増加する仕組みを理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認し、GDP決定の計算例を一題作問する。	30分
		事後学修	ノートを確認し、投資乗数メカニズムを文章化する。	60分
9	7月6日 (月)	第2章 GDPの決定	(P. 57~P. 60) 政府支出と税	
		この回の到達目標	需要サイドの政府支出増加、もしくは減税により、それ以上の供給側の所得（GDP）が増加する仕組みを理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認し、投資乗数の計算例を一題作問する。	30分
		事後学修	財政乗数・租税乗数を中心に、ノートを確認する。	60分
10	7月13日 (月)	まとめ (2)	(P. 47~P. 60 & P. 93~P. 99) 第2章のまとめ	
		この回の到達目標	需要サイドの政府支出増加、もしくは減税により、それ以上の供給側の所得（GDP）が増加する仕組みを理解する。	
		事前学修	第5回～第9回のノートを確認する。	30分
		事後学修	今日のまとめを確認するとともに、不足しているノートの箇所があれば、補っておく。	60分
11	7月20日 (月)	第3章 資産市場	(P. 65~P. 70) 資産の特性と貨幣、貨幣の取引需要と資産需要、貨幣の取引需要関数	
		この回の到達目標	資産を債券と貨幣に二分されると仮定して、貨幣が取引需要と資産需要で構成されることを理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。	30分
		事後学修	貨幣の取引需要関数を中心にノートを確認する。	60分
12	7月27日 (月)	第3章 資産市場	(P. 80~P. 89) 貨幣の供給源、貨幣の供給メカニズム	
		この回の到達目標	貨幣の供給メカニズムを理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。	30分
		事後学修	貨幣の供給メカニズムを中心に、ノートを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	8月3日 (月)	第3章 資産市場	(P. 78~P. 80) 幣市場の均衡、ケインズの利子率決定論	貨
		この回の到達目標	貨幣市場を均衡させる利子率が、どのようにして決定されるかを理解する。	
		事前学修	貨幣需要関数と貨幣供給関数を中心に、ノートを確認する。	30分
		事後学修	物価水準が変化したとき、それに対応して利子率がどのように変化するかを文章化しよう。	60分
14	8月17日 (月)	第4章 財市場と貨幣市場	財市場の均衡と貨幣市場の同時均衡	
		この回の到達目標	財市場と貨幣市場の両市場を同時に均衡させる、利子率と所得の関係を理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。	30分
		事後学修	同時均衡の数値問題を1問作成し、ノートを確認する。120	60分
15	8月24日 (月)	まとめ (3)	(P. 65~P. 80) 第3章と第4章のまとめ	
		この回の到達目標	第11回～第14回のノートを確認する。	
		事前学修	同時均衡を文章化し、ノートを確認する。	30分
		事後学修	今日のまとめを確認するとともに、不足しているノートの箇所があれば、補っておく。	60分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
マクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、マクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル / レイブソン / リスト マクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	【オリエンテーション】 マクロ経済政策とは何か。	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、マクロ経済学Ⅰでの内容の復習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	教科書のマクロ経済学Ⅰの部分を復習しておくこと	120分
		事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する	120分
2	9/21	【景気変動と景気循環】	景気変動の特徴について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、景気変動と景気循環を説明できる。	
		事前学修	教科書第12章 1. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第12章の復習問題 1～4 について説明をまとめること。	120分
3	9/28	【マクロ経済均衡】	経済ショックの与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済ショックによる均衡の移動を説明できる。	
		事前学修	教科書第12章 2. 3. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第12章の復習問題 5～12について説明をまとめること。	120分
4	10/5	【IS曲線の導出】	IS曲線の導出方法及び性質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財市場均衡を用いてを説明できる。	
		事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
5	10/12	【LM曲線の導出】	LM曲線の導出方法及び性質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、金融市場均衡を説明できる。	
		事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
6	10/19	【IS-LM分析】	IS-LM分析の基礎、その拡張（動学的効果、名目利子率と実質利子率）について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済政策の効果について IS-LM分析を用いてを説明できる。	
		事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	【為替レート】	名目為替レートと変動為替相場制について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名目為替レートと変動為替相場制について説明できる。	
		事前学修	教科書第15章 1. 2. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第15章の復習問題 1～8 について説明をまとめること	120分
8	11/9	【開放経済における為替の影響】	マンデル・フレミングモデルと、それら為替レートの与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、為替政策のマクロ経済に与える影響について説明できる。	
		事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
9	11/16	【実質為替レートと輸出】	実質為替レートが純輸出に与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、為替政策のマクロ経済に与える影響について議論できる。	
		事前学修	教科書第15章 3. 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第15章の復習問題 1～8 について説明をまとめること	120分
10	11/23	【総需要曲線】	総需要曲線の性質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総需要曲線の導出について説明できる。	
		事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
11	11/30	【総需要・総供給モデル】	総供給曲線の性質、総需要・総供給の均衡、シフトについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マクロ経済政策の基礎的なモデルについて説明できる。	
		事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
12	12/7	【マクロ経済政策①：金融】	中央銀行による金融政策がインフレ率と失業率に与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、金融政策の内容について説明できる。	
		事前学修	教科書第13章 1. 2. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第13章の復習問題 1～11について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	【マクロ経済政策②：財政】	政府による財政政策がインフレ率と失業率に与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政府の役割や財政政策について議論できる。	
		事前学修	教科書第13章 3. 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第13章の復習問題12～15について説明をまとめること。	120分
14	12/21	【マクロ経済政策③：貿易】	現在の開放経済におけるマクロ経済政策について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、開放経済におけるマクロ経済政策について議論できる。	
		事前学修	教科書第15章 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書第15章の復習問題12について説明をまとめること。	120分
15	1/18	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、マクロ経済学、マクロ経済政策を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、マクロ経済学、マクロ経済政策を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
		事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷 巖	日本評論社	2007年		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	【オリエンテーション】マクロ経済政策とは何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、マクロ経済学Ⅰでの内容の復習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	90分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	150分
2	9/22	IS-LM分析(1)： IS-LM分析の考え方とIS曲線の導出	財市場を均衡させる利子率と国民所得の組み合わせを意味するIS曲線について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財市場におけるIS曲線の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「IS曲線」と「LM曲線」の概念を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の違いについてまとめること。また、IS曲線の導出方法についても自分なりにまとめること。	120分
3	9/29	IS-LM分析(2)： IS-LM分析の考え方とLM曲線の導出	貨幣市場を均衡させる利子率と国民所得の組み合わせを意味するLM曲線について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貨幣市場におけるLM曲線の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「LM曲線」がどの市場を対象としており、そのように導出できるかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、LM曲線の導出方法についてまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
4	10/6	IS-LM分析(3)： IS曲線とLM曲線の交点とその意味	財市場と貨幣市場を同時に均衡させられるような利子率と国民所得の組み合わせをIS曲線とLM曲線を使用して説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、IS曲線とLM曲線の交点で財市場と貨幣市場の均衡を同時に達成できることを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS曲線とLM曲線が交わる点は何を意味するかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の交点とその意味についてまとめる。また、練習問題の内容を確認し、どのようにIS曲線とLM曲線を導出するかを再確認すること。	120分
5	10/13	IS-LM分析と財政政策・金融政策(1)： 財政政策・金融政策とIS-LM曲線のシフト	労働市場における均衡を達成させるために有効な手段として財政政策と金融政策があることを説明する。さらに、これらの政策がいずれの曲線をシフトさせるかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完全雇用GDPを達成させるための有効な政策として財政政策及び金融政策が存在することを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、財政政策と金融政策には何が含まれるかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、それぞれの政策がどちらの曲線をどの方向にシフトさせるかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
6	10/20	S-LM分析と財政政策・金融政策(2)： クラウディングアウト、金融政策が機能しないケースについて	クラウディングアウト及び中央銀行による金融政策が機能しないケースについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、金融政策が機能しないケースなどの特殊な例に関して理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、金融政策が機能しない状況について重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、金融政策が機能しないケースに関して、日本がどのような経験をしてきたかをまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	国際マクロ経済の理解(1)：国際収支表の理解と為替制度の歴史	国際収支表のシステムについて説明を行う。また第二次世界大戦後の世界の為替制度の変遷についての説明も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際収支表から読み取れる情報及びその内容を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、国際収支表の概念とその構成要素について重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、為替制度の歴史と講義日時点での（例えば日本円とアメリカドル）の為替レートを確認すること。また、実際の日本の国際収支表についても確認すること。	120分
8	11/10	国際マクロ経済の理解(2)：マンデル＝フレミングモデルについて	IS-LM分析の発展形として、国際貿易を含んだ理論モデルであるマンデル＝フレミングモデルについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、IS-LM分析とマンデル＝フレミングモデルの違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS-LM分析に海外部門が加わる意味と為替レートについて重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、海外部門がある時とない時のIS-LM分析の違いをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
9	11/17	国際マクロ経済の理解(3)：固定相場制と変動相場制におけるマンデル＝フレミングモデル	為替制度の違いによってマンデル＝フレミングモデルの結果がどのように変化するかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マンデル＝フレミングモデルにおける各為替制度の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、固定相場制と変動相場制における中央銀行の役割および為替レートの決定方法について再確認すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、マンデル＝フレミングモデルにおいて、固定相場制又は変動相場制であることによって各政策の効果が異なることをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
10	11/24	マクロ経済学における短期モデルと長期モデルの違いとその応用	マクロ経済学における短期と長期の概念を確認し、どのように経済モデルに応用するかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マクロ経済学における長期と短期の違い及び経済モデルへの応用方法を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第3・8章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、マクロ経済学における「短期」「長期」の概念について再確認すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、「長期」におけるIS-LM分析の意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
11	12/1	物価水準の決定メカニズム(1)：ケインズと古典派の総供給曲線	古典派経済学とケインズの総供給曲線について再確認し、物価水準との関係を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総供給曲線の概念について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「総供給曲線」について再確認すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、「古典派」が何を意味するかを再確認すること。また、これらの学派における「総供給曲線」についてもまとめること。	120分
12	12/8	物価水準の決定メカニズム(2)：現実的な短期の総供給曲線と価格の調整速度について	短期の総供給曲線と価格調整について、現実的な問題を含めて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現実的な短期の総供給曲線と企業の価格調整について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「価格調整」と「数量調整」について再確認すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、理論的な概念である「短期」と現実の「短期」の違いを再確認すること。また、「短期」という概念を絶対的な時間で理解するのではなく、概念的な時間として考えることで経済学的な思考を試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	インフレーションとデフレーション(1)：インフレとデフレを理解する	物価水準が変化することの意味と、インフレーションとデフレーションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物価変動を意味するインフレーションとデフレーションについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、インフレとデフレの違い及びそれぞれが景気とどのように連動しているかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
14	12/22	インフレーションとデフレーション(2)：合理的期待形成とインフレ及びデフレの社会的費用	合理的期待仮説と物価変動がもたらす社会的費用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合理的期待の概念と物価変動がもたらす社会的費用について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、合理的期待形成の概念と物価変動が経済などに与える社会的費用についてそれぞれまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
15	1/12	マクロ経済学Ⅱのまとめ及び試験内容の確認	マクロ経済学Ⅱの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
		事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	120分
		事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。フィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して授業内試験の解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷巖	日本評論社	2007年	教科書	必携
基本経済学	大淵三洋他	八千代出版	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
質問、要望などがあれば、授業前後など、気軽にお声がけいただきたい（メールでも対応可）。また、やむを得ず欠席する場合は、以下のメールアドレスに事前連絡（欠席理由も報告）いただきたい。sunbears7@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 他学部にて、マクロ経済分析、本務校にて、経営学総論、経営管理基礎・応用理論を担当している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		ミクロ経済学だけでなく、資本主義経済の誕生、経営学や社会学など、他の社会科学との関連で、マクロ経済学の位置づけを意識できるように工夫している。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 月9/14	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の復習	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の概要について復習する。履修希望者は、必ず出席すること。	
		この回の到達目標	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の全体像について理解できる。	
		事前学修	シラバスを読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学Ⅰ《短期モデル》）を復習しておくこと。（2時間）	120分
2	第一部 月9/21	IS-LMモデルの枠組み	財市場と貨幣市場のモデルからIS曲線とLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みを復習する。	
		この回の到達目標	IS-LMモデルの基本的な枠組みについて理解できる。	
		事前学修	第2回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
3	第一部 月9/28	財政政策と金融政策の有効性	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。	
		この回の到達目標	財政政策と金融政策の有効性、IS曲線、LM曲線の動きについて理解できる。	
		事前学修	第3回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第3回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
4	第一部 月10/5	IS-LMモデルと計算問題	IS-LMモデルに関する簡単な計算問題を行うことによって、IS-LMモデルの理解を深める。	
		この回の到達目標	IS-LMモデルの理解を深めることができる。	
		事前学修	第4回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
5	第一部 月10/12	国際収支の仕組み	国際収支の構造と外国為替制度について解説する。	
		この回の到達目標	国際収支の仕組みと外国為替制度について理解することができる。	
		事前学修	第5回に行われる第7章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
6	第一部 月10/19	IS-LMモデルとマンデル＝フレミング・モデル	固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度におけるマンデル＝フレミング・モデルについて解説する。	
		この回の到達目標	固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度における財政政策や金融政策の流れと有効性について理解することができる。	
		事前学修	第6回に行われる第7章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 月10/26	マンデル＝フレミング・モデルと計算問題	国際マクロ経済学のポイントを整理したうえで、簡単な計算問題を行う。	
		この回の到達目標	国際マクロ経済学の理解を深めることができる。	
		事前学修	第7回に行われる第7章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
8	第一部 月11/9	長期モデル	短期モデルと長期モデルの枠組みについて解説する。	
		この回の到達目標	短期モデルとの関連で長期モデルの仕組みについて理解できる。	
		事前学修	第8回に行われる第8章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
9	第一部 月11/16	海外部門と長期モデル	海外部門を考慮した短期モデル（マンデル＝フレミング・モデル）と海外部門を考慮した長期モデルの枠組みについて解説する。	
		この回の到達目標	海外部門との関連で長期モデルの仕組みについて理解できる。	
		事前学修	第9回に行われる第8章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
10	第一部 月11/23	フィッシャー方程式とインフレ率	名目利子率と実質利子率に関連したフィッシャー方程式、インフレ率を考慮したIS-LMモデルについて解説する。	
		この回の到達目標	利子率とフィッシャー方程式との関係、インフレ率とIS-LMモデルとの関係について理解できる。	
		事前学修	第10回に行われる第8章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
11	第一部 月11/30	総供給曲線（短期と長期）	ケインジアン総供給曲線と古典派総供給曲線について解説する。	
		この回の到達目標	短期（ケインジアン）モデルと長期（古典派）モデルとの関連で総供給曲線の仕組みについて理解できる。	
		事前学修	第11回に行われる第9章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
12	第一部 月12/7	物価水準と総需要管理政策	物価水準の決定と総需要管理政策の有効性について解説する。	
		この回の到達目標	物価水準と総需要管理政策の関係について理解できる。	
		事前学修	第12回に行われる第9章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 月12/14	総供給曲線と総需要曲線	総供給曲線から、インフレ供給曲線、フィリップス曲線について、総需要曲線から、インフレ需要曲線について解説する。	
		この回の到達目標	インフレーションとの関連で総供給曲線と総需要曲線の関係について理解できる。	
		事前学修	第13回に行われる第10章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
14	第一部 月12/21	合理的期待形成と自然失業率仮説	合理的期待形成と自然失業率仮説について解説する。	
		この回の到達目標	合理的期待形成と自然失業率仮説の概念について理解できる。	
		事前学修	第14回に行われる第10章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	第一部 月1/18	マクロ経済学と現実の経済	授業内試験および後期学習内容の振り返り	
		この回の到達目標	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）とマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）で習得した知識や理論を基に、現実の経済問題について考えることができる。	
		事前学修	これまでの単元を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）とマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）で習得した知識や理論を基に、現実の経済問題を考え、自分の考えで積極的に議論に臨んでいくこと。（2時間）	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）	N. グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2013年	教科書	必携
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法 と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるマクロ経済学との違いを示しながら、ミクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	4/17	【機会費用】	機会費用と絶対優位・比較優位について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、機会費用と絶対優位・比較優位について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第3章の復習問題2．4．について説明をまとめること。	120分
3	4/24	【需要と供給】	需要曲線と供給曲線、正常財、劣等財、代替財、補完財、均衡について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、重要曲線と供給曲線、財の性質を説明できる。	
		事前学修	教科書第4章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第4章の復習問題3．8．について説明をまとめること。	120分
4	5/1	【需要の弾力性】	需要の価格弾力性、所得弾力性、交差価格弾力性について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、弾力性の算出方法が説明できる。	
		事前学修	教科書第5章1．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の復習問題1．4．について説明をまとめること。	120分
5	5/8	【供給の弾力性】	供給の価格弾力性、税の帰着について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、弾力性と税負担について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章2．3．第6章2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の復習問題10．第6章の復習問題7．について説明をまとめること。	120分
6	5/15	【厚生分析の基礎】	消費者余剰、生産者余剰を説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者余剰と生産者余剰について図を用いて説明できる。	
		事前学修	教科書第7章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第7章の復習問題1．2．について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	【厚生分析の応用】	総余剰、市場の効率性、課税による死荷重について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章3．4．第8章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第7章の復習問題4．第8章の復習問題1．5について説明をまとめること。	120分
8	5/29	【消費者行動の基礎】	予算制約線と無差別曲線について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効用の概念について説明できる。	
		事前学修	教科書第21章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第21章の復習問題1．2．について説明をまとめること。	120分
9	6/5	【最適化】	消費の最適化、個人の需要曲線の導出、労働供給の決定について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消費の最適化問題、その応用について説明できる。	
		事前学修	教科書第21章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第21章の復習問題4．6．について説明をまとめること。	120分
10	6/12	【生産コスト】	生産関数、総費用曲線、さまざまな費用、短期と長期の費用について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生産活動の短期と長期の違いについて説明できる。	
		事前学修	教科書第13章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第13章の復習問題5．7．について説明をまとめること。	120分
11	6/19	【企業行動の基礎】	競争市場における企業行動、利潤最大化について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場における企業の行動原理について説明できる。	
		事前学修	教科書第14章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第14章の復習問題2．3．について説明をまとめること。	120分
12	6/26	【企業の供給】	供給曲線の導出、参入と退出の自由について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業の参入と退出について説明できる。	
		事前学修	教科書第14章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第14章の復習問題5．8．について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	【独占の基礎】	独占が生じるメカニズム、独占企業の行動、独占による費用、価格差別戦略について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、独占が生じるメカニズムとその問題点について説明できる。	
		事前学修	教科書第15章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第15章の復習問題2．3．6について説明をまとめること。	120分
14	7/10	【独占的競争】	独占的競争とは何か、製品差別化、広告の効果について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、製品の差別化戦略、広告の経済学的意味について議論できる。	
		事前学修	教科書第16章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第16章の復習問題1．6．について説明をまとめること。	120分
15	7/17	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、ミクロ経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	60分
		事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	180分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次回の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『入門ミクロ経済学第2版』	井堀利宏	新世社	2004		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	【【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法 と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるマクロ経済学との違いを示しながら、ミクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	90分
		事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	150分
2	4/15	需要と供給について1： 需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の概念と導出方法について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、需要曲線と供給曲線の意味及び導出方法を理解し、説明及び導出できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線は何を表しているかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、需要曲線と供給曲線の違いについてまとめること。	120分
3	4/22	需要と供給について2： 弾力性と市場価格の決定	価格変化と需要量の関係を示す需要の価格弾力性と市場における価格決定メカニズムについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、需要の価格弾力性及び市場の価格決定メカニズムについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、弾力性の概念と「市場価格」がいかに決定されるかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、弾力性の計算方法及び市場価格の決定メカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
4	4/29	消費（需要）の理論1： 効用関数と限界効用	家計の幸福度を表す効用の概念を説明し、効用関数及び限界効用について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効用関数と限界効用の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「効用」及び「限界」概念を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、例を参考に効用と限界概念についてうまくイメージしながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
5	5/6	消費（需要）の理論2： 予算制約、無差別曲線、（限界代替率）	効用最大化行動を理解するための準備段階として、予算制約線及び無差別曲線によって説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、予算制約線及び無差別曲線について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、無差別曲線の考え方を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、予算政策と無差別曲線の解釈について、特に図を書くことでまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
6	5/13	消費（需要）の理論3： 均衡点及び所得変化の影響	家計の主体的均衡点の導出方法及び所得変化が主体的均衡点に与える影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主体的均衡点と所得効果について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、所得変化が効用に与える影響を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、所得が変化することによってどのように効用個人の均衡点が変化するかについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	企業（供給）の理論1：生産関数、限界・平均生産	企業の行動を理解するために、生産関数及び限界生産・平均生産の概念を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生産関数及び限界生産・平均生産の意味を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産関数の構成要素及び限界概念を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、消費者側の考え方との違いについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
8	5/27	企業（供給）の理論2：等生産量曲線と等費用曲線	生産要素の組み合わせと産出量の関係を理解するために、等生産量曲線及び等費用曲線の概念について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、等生産量曲線と等費用曲線の意味及び違いを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、それぞれの曲線について、その意味及び導出方法を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、図を用いながら2つの曲線の意味と導出方法について再度まとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
9	6/3	企業（供給）の理論3：限界費用・平均費用曲線と費用最小化問題	企業の生産費用に関して、限界費用、平均費用について説明した上で、企業の費用最小化問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各費用曲線の意味及び企業の費用最小化問題を理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業の行動と費用との関係を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、費用の種類及びその考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
10	6/10	生産の決定1：完全競争市場、利潤最大化行動	完全競争市場の概念及び完全競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完全競争市場の設定及び企業の利潤最大化行動について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争の仮定を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争下における企業の利潤最大化（費用最小化）行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
11	6/17	生産の決定2：損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線	企業の戦略を説明するために、損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業は生産活動をどこまで行うか、そして市場の供給曲線はどのように表せるかを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業がどこまで操業を続けるかを理解するためには何が必要かを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、どの点に達した時に企業は生産をストップさせるか、改めてそのメカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
12	6/24	市場の均衡1：価格調整メカニズム	完全競争市場における価格調整メカニズムについて説明し、資源配分の効率性について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、価格調整メカニズム及び市場の効率性について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線が「シフト」する意味を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、各曲線がシフトする要因及びシフトする方向についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	市場の均衡2：余剰分析、死荷重、政府の介入	余剰分析の概念及び完全競争市場において政府の市場への介入が死荷重を発生させることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、余剰分析を行うことで政府の介入が死荷重を発生させることを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産者余剰及び消費者余剰を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場において、政府の介入は死荷重を発生させてしまうことについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
14	7/8	市場の均衡3：パレート最適	パレート最適について説明を行い、資源配分の効率性改善について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パレート最適の概念について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ボックスダイアグラムの見方を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、パレート最適に成立についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
15	7/15	ミクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認	ミクロ経済学Ⅰの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ミクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済問題に対する判断ができる。	
		事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	90分
		事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること	150分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。受講者は、ノートをとること。スライドを用いて講義を行う。定期試験の解説をポータルシステムにて後日配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。							2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の講義にて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学の第一歩	安藤至大	有斐閣	2013	教科書	必携
備考	受講者の手元に教科書があるという前提で講義を行う。この前提が満たされない場合，講義は理解不能となろう。				

【オフィスアワー】
火曜15:00～16：00 日本大学経済学部8号館321室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	イントロダクション	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的に行えるようにする。	
		この回の到達目標	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的に行えるようにする。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照．以下同様）を確認して，自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4月14日	ミクロ経済学とは（その1）	価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を学ぶ．あわせて，ミクロ経済学の目的を明らかにする。	
		この回の到達目標	価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を説明できるようになる．あわせて，ミクロ経済学の目的を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第1章，1「価格と価値の違い」2「財・サービスを買う」3「合意に基づく交換」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。	120分
3	4月21日	ミクロ経済学とは（その2）	利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ．また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から明らかにする。	
		この回の到達目標	利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようになる．また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第1章，4「交換の利益と余剰」5「価格の決まり方」6「ミクロ経済学の目的」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に，「ミクロ経済学にとって，資源配分とは何か」と自問し，自答してみよう．	120分
4	4月28日	個人の選択を考える（その1）	効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ．特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを考える．	
		この回の到達目標	効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようになる．特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを説明できるようになる．	
		事前学修	教科書第2章，1「個人の選択と効用の最大化」2「人はインセンティブに反応する」3「人々はトレードオフに直面している」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．授業で議論した報酬体系の事例，トレードオフの事例それぞれについて，同様の考察が成立する類似の事例を自分の生活の中から探してみよう．	120分
5	5月5日	個人の選択を考える（その2）	機会費用，限界効用，限界利潤，限界便益など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ．特に，経済学で頻出する「限界〇〇」について，その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで考察する。	
		この回の到達目標	機会費用，限界効用，限界利潤，限界便益など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようになる．特に，経済学で頻出する「限界〇〇」について，その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで説明できるようになる．	
		事前学修	教科書第2章，4「機会費用に着目する」5「人は限界的な部分を見て意思決定を行う」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に「「限界〇〇」と「〇〇」の関連を述べよ」と自問し，自答してみよう．また，機会費用という考え方がうまくあてはまる事例を自分の生活の中から探してみよう．	120分
6	5月12日	需要曲線と供給曲線（その1）	完全競争市場，需要曲線，また「与件」とは何かを学ぶ．特に，数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとしての需要曲線を構成する．加えて，「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを学ぶ．	
		この回の到達目標	完全競争市場，需要曲線，また「与件」とは何かを説明できるようになる．特に，数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとしての需要曲線を説明できるようになる．加えて，「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを説明できるようになる．	
		事前学修	教科書第3章1「完全競争市場とは」2「財・サービスと市場」3「需要曲線」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に，与件のどのような変化が需要曲線のどのような変化に対応するか，あらゆる場合を考えて復習しよう．	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	5月19日	需要曲線と供給曲線（その2）		完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を考える。それを数量-価格平面において集約して表示するものとしての供給曲線を構成する。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを学ぶ。
		この回の到達目標	完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を説明できるようになる。それを数量-価格平面において集約して表示するものとして説明できるようになる。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第3章4「供給曲線」を通読し、需要曲線との異同、関連を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が供給曲線のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分
8	5月26日	問題演習		これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各章末練習問題、および類似の独自問題に取り組む。
		この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のための各章末練習問題、および類似の練習問題を解けるようになる。	
		事前学修	教科書第1章から第3章までの章末練習問題に取り組もう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
9	6月2日	市場均衡と効率性（その1）		需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。
		この回の到達目標	需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを説明できるようになる。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第4章1「需要と供給の組み合わせ」2「需要曲線と消費者余剰」3「供給曲線と生産者余剰」を通読し、それぞれの「余剰」の意味と、その数量-価格平面における表示を考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、数量-価格平面において各余剰を描いてみよう。	120分
10	6月9日	市場均衡と効率性（その2）		需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを理解する。また、その点の特徴づける最も重要な性質を学ぶ。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を学習する。
		この回の到達目標	需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを説明できるようになる。また、その点の特徴づける最も重要な性質を説明できるようになる。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第4章4「完全競争市場の効率性」5「市場均衡点の変化」6「ここまでのまとめ」を通読し、均衡が効率的であるとはどのようなことを意味するかを考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が均衡点のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分
11	6月16日	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その1）		価格規制について、経済学的考察を行う。その功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
		この回の到達目標	価格規制について、経済学的考察ができるようになる。価格規制の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第5章1「価格規制」を通読し、価格規制のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、価格規制の例を自分の身の回りから探し、そのメリットとデメリットを再考してみよう。	120分
12	6月23日	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その2）		参入規制、税金、補助金について、経済学的考察を行う。これらの政策の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
		この回の到達目標	参入規制、税金、補助金について、経済学的考察ができるようになる。これらの政策の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第5章2「参入規制」3「税金と補助金」を通読し、参入規制や税金・補助金のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、税金・補助金の議論が、「大きな政府vs小さな政府」の議論に与える影響を考えてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	市場の失敗と政府の役割	市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して学ぶ。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。	
		この回の到達目標	市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して説明できるようになる。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第6章1「市場の失敗とは」2「市場の失敗と政府による介入の例」を通読し、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、身近な市場を考え、それは完全競争市場であるかどうか、市場の失敗が認められるかどうかを考えてみよう。	120分
14	7月7日	問題演習	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各章末練習問題、および類似の独自問題に取り組む。	
		この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のための各章末練習問題、および類似の練習問題を解けるようになる。	
		事前学修	教科書第4章から第5章の練習問題に取り組もう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
15	7月14日	問題演習	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、独自の練習問題に取り組む。	
		この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のための各章末練習問題、および類似の練習問題を解けるようになる。	
		事前学修	教科書のうち授業で議論した部分を再読し、最も重要なところはどこであることを考えてみよう。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートを初回分から読み直し、期末試験に向けて準備をしよう。	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	武縄 卓雄	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
数学の予備知識は必要としないが、割り算の意味を理解していると単位修得が容易である。また、経済学もしくは経済学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式。毎週、原則として講義冒頭に復習問題を行い、解説します。 課題などの提出物は、原則として提出時の翌週に、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2					
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2					
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2					
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時に解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グラフィックミクロ経済学 第2版	金谷貞男吉田真理子	新世社	2008年		
備考					

【オフィスアワー】
メールで問い合わせてください。takenawa.takuo@nihon-u.ac.jp 時間調整をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日 (月)	第1章 序	経済学、ミクロ経済学およびマクロ経済学の特徴	
		この回の到達目標	経済学、ミクロ経済学およびマクロ経済学の特徴を理解する。	
		事前学修	テキストとノートを準備する。事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	経済学の定義、ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを中心にノートを整理する。	120分
2	9月21日 (月)	第1章 序	基本概念（1） 経済主体、行動原理、財・用益の市場と経済循環、	
		この回の到達目標	企業、家計という経済主体の行動原理を理解する。 市場と経済循環の関係を描いた経済循環図を理解する。	
		事前学修	前回のノートを再確認する。	120分
		事後学修	行動原理を中心にノートを整理する。	120分
3	9月28日 (月)	第1章 序	基本概念（2） 需要と供給	
		この回の到達目標	需要と需要量の違いを理解する。 供給と供給量の違いを理解する	
		事前学修	前回のノートを再確認し、経済循環図を文章化する。	120分
		事後学修	需要(供給) と需要量(供給量) との相違を中心にノートを整理する。	120分
4	10月5日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（1） 効用関数と効用曲線	
		この回の到達目標	関数とは何かを理解する。 1 財モデルの効用関数から、効用曲線の導出方法を理解する。	
		事前学修	前回のノートを再確認する。	120分
		事後学修	ノートを整理し、効用曲線の導出法を文章化する。	120分
5	10月12日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（2） 限界効用逓減の法則 無差別曲線	
		この回の到達目標	限界効用とは何かを理解する。 2 財モデルの効用関数から、無差別曲線の導出方法を理解する。	
		事前学修	限界効用を重点にして、前回のノートを再確認する。	120分
		事後学修	限界効用が逓減する根拠が何かを考えながら、ノートを整理する。	120分
6	10月19日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（3） 予算制約線とグラフ化	
		この回の到達目標	予算制約線の描き方を理解する。	
		事前学修	前回のノートを再確認しながら、無差別曲線の特徴を文章化する。	120分
		事後学修	予算制約線の数値例を作成し、それをグラフに作図することがスムーズにできるまで、繰り返す。 ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（4） 最適消費量の決定 加重限界効用均等	
		この回の到達目標	無差別曲線と予算制約線を使って、2財モデルにおける最適購入量の決定方法を理解する。 最適購入量が決定されていると、加重限界効用が均等していることを理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。また、作図された予算制約線上で消費の組合せが決定されることを文章化する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、最適消費量の決定を文章化する。	120分
8	11月9日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（5） 予算線のシフト：代替効果と所得効果	
		この回の到達目標	予算線のシフトによって、新たな均衡点に移動する際の、代替効果と所得効果を理解する。	
		事前学修	最適消費点で加重限界効用が均等になることを文章化しながら、前回のノートを確認する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、代替効果と予算線のシフトに関して文章化する。	120分
9	11月16日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（6） 個別需要曲線の導出 市場需要曲線の導出	
		この回の到達目標	個別の需要曲線と市場需要曲線の導出方法について理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。その際、所得効果と予算線のシフトに関して文章化する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、個別需要曲線の導出法について文章化する。	120分
10	11月23日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（7） 需要の価格弾力性	
		この回の到達目標	需要の価格弾力性とは何かを理解する。 需要の価格弾力性を定義すると共に、図と文字式でも再確認する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。その際、市場需要曲線の導出法について文章化する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、需要の価格弾力性の作図法を文章化する。	120分
11	11月30日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（8） 需要の価格弾力性と支払額	
		この回の到達目標	需要曲線と供給曲線がシフトした場合の取引額（支払額＝売上額）の変化を理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。その際、需要の価格弾力性の値を求める数値例を1問作成する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、価格の変化と取引額の変化について文章化する。	120分
12	12月7日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論（9） 需要曲線の供給曲線のシフト	
		この回の到達目標	需要曲線および供給曲線のシフト要因とシフト方向を理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。その際、価格変化が与える取引額の変化についての数値例を1問作成する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、需要曲線のシフト要因を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論 (10) 労働供給の決定 労働供給曲線の導出	
		この回の到達目標	家計の供給側の行動として、労働供給の決定法を理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、労働供給曲線の導出を文章化する。	120分
14	12月21日 (月)	第2章 家計の行動	家計の理論 (11) 貯蓄の決定	
		この回の到達目標	2 期間モデルを使って、家計の貯蓄決定メカニズムを理解する。	
		事前学修	前回のノートを確認する。その際、導出した労働供給曲線を所得効果と代替効果に分解してみる。	120分
		事後学修	ノートを整理する。その際、貯蓄の決定を文章化する。	120分
15	1月18日 (月)	期末試験及び解説	解答用紙は添削して、メールで返却します。	
		この回の到達目標	試験終了後、試験内容を解説し、再確認する。	
		事前学修	これまでのノートを全て再確認する。	120分
		事後学修	行った試験を再チェックする。	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、ミクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）

【授業方法】		
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。						2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学 戦略的アプローチ	梶井厚志、松井彰彦	日本評論社	2002年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	【オリエンテーション】 ゲーム理論とは何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、ゲーム理論について簡単な紹介を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	教科書の第1章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/25	【戦略と均衡】	戦略形表現と支配戦略、最適反応、ナッシュ均衡について学説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適反応戦略について説明できる。	
		事前学修	教科書の第2章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第2章の練習問題を解くこと。	120分
3	10/2	【裁量カルールか】	展開形表現とバックワード・インダクションについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、バックワード・インダクションの解き方について説明できる。	
		事前学修	教科書の第3章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第3章の練習問題3. 1、3. 4を解くこと。	120分
4	10/9	【情報とゲーム（ベイズ完全均衡）】	ベイズ完全均衡について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の非対称性があるときの最適反応戦略について説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章5. 1、5. 2、5. 3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の練習問題5. 1を解くこと。	120分
5	10/16	【シグナリング】	混在型均衡について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の非対称性があるときのシグナリング効果について説明できる。	
		事前学修	教科書の第5章5. 4、5. 5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第5章の練習問題5. 5を解くこと。	120分
6	10/23	【交渉ゲーム】	最後通牒ゲーム、2段階の交渉、n段階の交渉について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、交渉ゲームの基本について説明できる	
		事前学修	教科書の第4章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第4章の練習問題4. 1を解くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/30	【公共財供給】	公共財のフリーライダー問題、集団意思決定のインセンティブについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財供給についてインセンティブの視点から説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章7. 1、7. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第7章の練習問題7. 2を解くこと。	120分
8	11/6	【メカニズムデザイン】	Groves-Clarkeメカニズムについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メカニズムデザインについて説明できる。	
		事前学修	教科書の第7章7. 3、7. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第7章の練習問題7. 1を解くこと。	120分
9	11/13	【オークションの基礎理論】	オークションの種類について学び、それぞれの最適戦略について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オークションルールが最適戦略にどう影響を与えるかについて説明できる。	
		事前学修	教科書の第6章6. 1、6. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第6章の練習問題6. 4を解くこと。	120分
10	11/20	【オークションの比較】	売り手にとって望ましいオークションルール、最低入札価格の意味、オークションのくり返しゲームについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オークションルールが価格にどう影響を与えるかについて説明できる。	
		事前学修	教科書の第6章6. 3、6. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第6章の練習問題6. 2、6. 5を解くこと。	120分
11	11/27	【寡占市場】	クールノー競争について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、クールノー競争の反応戦略について説明できる。	
		事前学修	教科書の第10章10. 1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第10章の練習問題10. 1を解くこと。	120分
12	12/4	【寡占市場の性質】	寡占市場における最適企業数、談合の効果について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適な企業規模について議論できる。	
		事前学修	教科書の第10章10. 1. 1～10. 1. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第10章の練習問題10. 3を解くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/11	【製品差別化の基礎理論】	ホテリング・モデルについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、製品差別化が生じる場合と生じない場合について説明できる。	
		事前学修	教科書の第13章13. 1. ～13. 1. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第13章の練習問題13. 1を解くこと。	120分
14	12/18	【製品差別の応用】	集積効果、価格競争のある場合の製品差別について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複雑な市場での製品の差別化戦略について議論できる。	
		事前学修	教科書の第13章13. 2. ～13. 3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
		事後学修	教科書の第13章の練習問題13. 3を解くこと。	120分
15	12/25	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、ミクロ経済学（ゲーム理論）を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、ミクロ経済学（ゲーム理論）を学ぶ意味と意義を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	60分
		事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	180分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次回の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。						2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『入門ミクロ経済学第2版』	井堀利宏	新世社	2004		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	ミクロ経済学Ⅰの復習1： 講義概要と成績評価方法の 説明	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	ミクロ経済学Ⅰに関する内容を確認するために講義ノートを熟読すること。また、シラハースの内容を確認してくる。	90分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、前期に学んだミクロ経済学の理解に必要な基礎知識をまとめること	150分
2	9/23	ミクロ経済学Ⅰの復習2： 完全競争市場の理論	復習として、完全競争市場の概念及び余剰分析について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、完全競争市場及び余剰分析の意味について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争の仮定及び各プレイヤーの行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
3	9/30	独占市場1：完全競争市場と 不完全競争市場	完全競争以外の市場形態として不完全競争の概念を説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、独占市場、寡占市場、独占的競争について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、不完全競争市場の中でも独占市場について重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、独占市場の特徴についてまとめ、どのような歪みが発生するかを理解すること。また、練習問題も再確認すること。	120分
4	10/7	独占市場2：独占企業の利潤 最大化問題	独占市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、独占企業の利潤最大化行動について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争企業との違いを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、特に独占度の概念についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
5	10/14	独占市場3：価格差別化及び 余剰分析	独占企業の価格差別化行動及び独占市場の余剰分析について説明する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、独占企業の価格差別化行動及び独占市場においては死荷重が発生することを理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、独占企業の弊害がどこに現れるかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場における余剰分析の結果と比較し、独占企業の弊害についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
6	10/21	ゲーム理論1：囚人のジレン マ、ナッシュ均衡	ゲーム理論1：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、囚人のジレンマ及びナッシュ均衡について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ナッシュ均衡の直感的な意味を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、囚人のジレンマとナッシュ均衡についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	ゲーム理論2：繰り返しゲーム（動学的分析）	前回行った静学的分析ではなく、動学的分析である繰り返しゲームについて説明を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、静学と動学に違い及び繰り返しゲームについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、静学と動学の違いを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、繰り返しゲームの性質と現実への応用についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
8	11/11	寡占市場1：屈折需要曲線	不完全競争の1つである寡占市場について理解するために、屈折需要曲線について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、寡占市場の意味及び屈折曲線について説明でき、理解できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争市場、独占市場との違いを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、屈折需要曲線の考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
9	11/18	寡占市場2：クールノー・モデルと独占的競争	クールノーモデル及び独占的競争について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、クールノーモデル及び独占的競争について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、独占的競争モデルを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、独占的競争モデルについてまとめ、現実の世界ではどの産業が当てはまるかをまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
10	11/25	外部性の問題1：外部経済・外部不経済及びピグー課税	市場の失敗の例として外部性について説明を行い、その解決方法としてピグー税について紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外部経済・外部不経済及びピグー税について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、市場の失敗には何が含まれるかを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、ピグー課税の考え方について図を使用しながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
11	12/2	外部性の問題2：コースの定理、公共財	外部性の内部化を説明するために、コースの定理を説明する。また、市場の失敗の例として公共財の性質について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、コースの定理及び公共財の特徴について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、コースの定理及び公共財の特徴について重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、市場が失敗した時の政府の役割についてまとめること。また、練習問題も再確認する	120分
12	12/9	不確実性の問題：リスク、期待効用、リスクに対する選好	ミクロ経済学における不確実性の概念について説明し、期待効用及びリスク選好について確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスク、期待効用、リスクへの選好について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、リスク（危険）と期待値の考え方を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、リスクに対する選好についてまとめ、自身はどのタイプかについて考えてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	不完全情報（情報の非対称性）1：モラルハザード	市場の失敗の例として、情報の非対称性の問題を取り上げる。その中でも、モラルハザードについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性及びモラルハザードについて理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、情報の非対称性及びモラルハザードを重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、市場が失敗する原因の一つとしてモラルハザードがあることについてまとめ、現実世界ではどうかを考えること。また、練習問題も再確認すること。	120分
14	12/23	不完全情報（情報の非対称性）2：逆選択	情報の非対称性が逆選択を発生させることを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、逆選択の発生及びその解消方法について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「情報の重要性」を重点的に理解すること。	120分
		事後学修	講義資料及びノートを確認し、情報の非対称性が存在することで市場が歪んでしまうこと、そして政府の対応についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
15	1/13	ミクロ経済学Ⅱのまとめ及び試験内容の確認	ミクロ経済学Ⅱの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ミクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済問題に対する判断ができる。	
		事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	90分
		事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること	150分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰの学習を前提とする。

【授業方法】
講義形式。受講者は、ノートをとること。スライドを用いて講義を行う。一部、教科書にない内容を配布資料にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。						2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学の第一歩	安藤至大	有斐閣	2013		
備考	受講者の手元に教科書があるという前提で講義を行う。この前提が満たされない場合，講義は理解不能となろう。				

【オフィスアワー】
火曜15：00～16:00 日本大学経済学部8号館321室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9月15日	復習：完全競争市場の効率性	需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。
		この回の到達目標	需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復説明できるようになる。
		事前学修	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する。
		事後学修	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照．以下同様）を確認して，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する．また，自分の学習計画と他の履修科目との関係についても検討する。
2	9月22日	独占（その1）	独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を学ぶ．特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを理解する。
		この回の到達目標	独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を説明できるようになる．特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを説明できるようになる。
		事前学修	教科書第7章1「独占とは」2「独占の定義」3「独占企業による利潤最大化行動」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に，「限界収入＝限界費用」条件を適切に図示できるかどうかを再確認する。
3	9月29日	独占（その2）	独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較する．この比較を，数量－価格平面において適切に図示できるようにする。
		この回の到達目標	独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較できるようになる．特に，数量－価格平面において適切に図示を用いて比較できるようになる。
		事前学修	教科書第7章4「独占はなぜ問題なのか」を通読し，独占市場における余剰分析について考える。
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．特に，各種余剰を適切に図示できるかどうかを再確認する。
4	10月6日	独占（その3）	章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察する。
		この回の到達目標	章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察できるようになる。
		事前学修	教科書第7章1～4節を通読し，独占市場の理解の定着を図る．また，章末の練習問題に取り組む。
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する．わからない場合は，あらためて模範解答を書くこと試みる．また，類似の練習問題を自ら作成し，自答してみよう．
5	10月13日	外部性（その1）	経済学独特の概念・用語である「外部性」について，その意味を事例を通じて理解する．さらに，それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と，「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」について学ぶ．
		この回の到達目標	経済学独特の概念・用語である「外部性」について，その意味を事例を通じて説明できるようになる．さらに，それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と，「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」を説明できるようになる．
		事前学修	教科書第8章1「外部性とは」2「コースの定理と効率的な結果の実現」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察しよう．
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．また，自分の身の回りから外部性の事例となるものを探してみよう．さらには，それにコースの定理を適用してその含意を導いてみよう．（2時間）
6	10月20日	外部性（その2）	正の外部性・負の外部性など，様々な外部性のあり方について説明できるようになる．余剰を比較し，効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について説明できるようになる．
		この回の到達目標	正の外部性・負の外部性など，様々な外部性のあり方について考える．余剰を比較し，効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について考察する．
		事前学修	教科書第8章3「波及効果による外部性」4「生産の正の外部性と消費の正・負の外部性」5「外部性の問題を解決・軽減するための取り組み」を通読し，各図示の理解に努めよう．
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する．わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る．また，正負様々な外部性について，課税・補助金による問題解決を適切に図示できるかどうかを確認しよう．

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	外部性（その3）	外部性問題の理解の定着のため、独自の練習問題を考察する。	
		この回の到達目標	外部性問題の理解の定着のための練習問題を解けるようになる。	
		事前学修	教科書8章全体を通読し、外部性問題の理解の再確認しよう。また、章末問題に取り組もう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
8	11月10日	非対称情報の経済学（その1）	経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて理解する。また、それがどのような問題を引き起こすのかを考える。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて考察する。	
		この回の到達目標	経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて説明できるようになる。また、それがどのような問題を引き起こすのかを説明できるようになる。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第10章1「情報の非対称」を通読し、それが何を意味し、どのような問題を引き起こすかを考えよう。特に、経済学における「情報」という語の意味・用法、またそれが「非対称」とはどういうことかを考えよう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「逆淘汰」「モラルハザード」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分
9	11月17日	非対称情報の経済学（その2）	「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて学ぶ。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に理解する。	
		この回の到達目標	「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて説明できるようになる。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第10章2「当事者による情報の非対称への対策」3「情報の非対称に対処するための政府の取り組み」を通読し、「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて、大まかな理解を得ることを目指そう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「スクリーニング」「シグナリング」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分
10	11月24日	ゲーム理論（その1）	ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを学ぶ。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに考察する。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を学ぶ。	
		この回の到達目標	ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを説明できるようになる。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに説明できるようになる。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第12章1「ゲーム理論とは何か」2「ゲームの構成要素」3「銀行行動の容疑者たち」4「ナッシュ均衡」5「司法取引と囚人のジレンマ」を通読し、ゲーム理論とはどのような「理論」であるかの大まかな理解を得ることを目指そう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。	120分
11	12月1日	ゲーム理論（その2）	「囚人のジレンマ」とは本質的に異なるゲーム的状况である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について考察する。特に、それらのゲームのナッシュ均衡に注目する。	
		この回の到達目標	「囚人のジレンマ」とは本質的に異なるゲーム的状况である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について説明できるようになる。特に、それらのゲームのナッシュ均衡を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第12章全体をあらためて通読し、前回の議論を思い起こそう。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「囚人のジレンマ」「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について、そのナッシュ均衡の性質の違いを復習しよう。	120分
12	12月8日	公共財	「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義する。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的考察を与える。	
		この回の到達目標	「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義できるようになる。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的に説明できるようになる。	
		事前学修	教科書第9章1「公共財とは」2「公共財の効率的な活用」3「公共財供給の決定」を通読し、公共財とは何か、その実現に際し何が問題となるのかについて、大まかな理解を得ることを試みよう。	120分
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、公共財の定義を、その実例とともに他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
13	12月15日	取引費用・全体のまとめ		「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて概観する。また、理解の定着のため、各章末問題に取り組む。	
		この回の到達目標	「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて説明できるようになる。また、各章末問題を解けるようになる。		
		事前学修	教科書第11章1「取引費用とは？」2「政府による取引費用の削減策」を通読し、「取引費用」とは何かについて、大まかな理解を得ることを目指そう。また、各章末問題に取り組もう。		
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、章末問題の解答が納得できるものであるかを再確認しよう。		
14	12月22日	まとめの練習問題		これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各主題について独自の練習問題に取り組む。	
		この回の到達目標	各主題についての練習問題を解けるようになる。		
		事前学修	教科書・講義ノートを初回から再読し、まとめの練習問題に備えよう。		
		事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。		
15	1月12日	講義内試験		講義内試験（60分）を実施し、さらにその解説を与える。	
		この回の到達目標	試験問題に取り組み、さらにその解説を聞くことによって、問題とその解答を解説できるようになる。		
		事前学修	教科書・講義ノートを初回から再読し、講義内試験に備えよう。		
		事後学修	本講義を履修して学んだことは何か、自問自答してみよう。		

科目名	民事執行・保全法	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事執行法および民事保全法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事執行制度および民事保全制度を有効かつ適切に利用・運営するため、民事執行および民事保全における様々な場面において適切な法規を適用することができ、また、民事執行法および民事保全法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる能力を修得する。

【履修条件】
民法科目（特に担保物権法）及び民事訴訟法を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式によるが、授業後には小テストで授業内容を復習し、または、応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事執行制度・民事保全制度の概要を理解して説明することができる。				3	3						
②	民事執行法および民事保全法における主要な原則の内容を説明することができる。				3	3	3					
③	民事執行および民事保全に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。					3	3					
④	民事執行法および民事保全法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べることができる。					3	3		3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	事例問題で、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			35	35							70
小テスト等	民事執行制度および民事保全制度の概要や民事執行法および民事保全法おける原則の基礎的知識を問う(①および②)。	10	10									20
レポート等	民事執行法および民事保全法に関する判例について、学説等について自ら調査して、論理的に評することができるかを問う(④)。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	45	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事執行法・民事保全法	小田司編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9305研究室）yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	民事執行・民事保全の意義	民事手続の各分野における民事執行と民事保全が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
		この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	/	民事執行手続の構造と執行の主体	金銭執行の基本的な構造と執行裁判所および執行官について解説する。	
		この回の到達目標	金銭執行の基本的な流れを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	/	強制執行の実施要件	債務名義の意義と種類について解説する。	
		この回の到達目標	債務名義の意義を説明し、および種類を複数挙げることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	/	執行文	執行文の意義、および種類とそれぞれの役割を解説する。	
		この回の到達目標	執行文の種類を挙げ、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	/	民事執行における救済	民事執行における救済制度の種類、およびそれぞれの性質を解説する。	
		この回の到達目標	執行異議、執行抗告、請求異議の訴え、第三者異議の訴えについて意義を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	/	執行手続の進行	執行手続の申立てから終了までの流れを説明する。	
		この回の到達目標	執行手続の当事者がそれぞれの場面でどのような申立てをしなければならないかを理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	不動産執行（１）	不動産執行における差押えの意義を解説する。	
		この回の到達目標	不動産に対する差押えの効力を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	/	不動産執行（２）	不動産競売の準備について解説する。	
		この回の到達目標	３点セットの意義について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	/	不動産執行（３）	不動産競売における売却手続の流れを解説する。	
		この回の到達目標	不動産競売における買受人の地位について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	/	不動産執行（４）	不動産執行における配当の方法について解説する。	
		この回の到達目標	不動産執行において複数の債権者がいる場合にどのように配当するするか説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	/	動産執行	動産執行の手続を解説する。	
		この回の到達目標	不動産執行と比較して動産執行の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	/	権利執行（１）	権利執行の意義と債権執行における差押えの効力について解説する。	
		この回の到達目標	不動産執行等と比較して債権執行の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	権利執行（2）	債権執行における差押えの効力に関する判例を検討する。	
		この回の到達目標	債権執行における差押えの効力について判例を意義を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	/	権利執行（3）	債権執行における換価の方法について解説する。	
		この回の到達目標	取立てと転付命令の取得の違いを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	/	非金銭執行	非金銭執行の種類とそれぞれの手続について解説する。	
		この回の到達目標	非金銭請求権の実現方法について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	/	担保権実行（1）	担保権実行の総論的解説をする。	
		この回の到達目標	強制執行と担保権実行の違いについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	/	担保権実行（2）	不動産担保権実行と債権担保権実行について手続を解説する。	
		この回の到達目標	賃料債権に対する物上代位について判例の流れを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	/	形式競売・財産開示手続	形式的競売および財産開示制度の手続を解説する。	
		この回の到達目標	財産開示の要件を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	民事保全の意義	民事保全の種類とそれぞれの意義を解説する。	
		この回の到達目標	挙げられた事案に必要な保全処分を指摘することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	/	保全命令手続	保全命令手続の概要を解説する。	
		この回の到達目標	保全命令手続の特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	/	仮差押え	仮差押命令の発令および執行について、関連する判例とともに解説する。	
		この回の到達目標	仮差押えが必要な場合と、仮差押えの効力について解説することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	/	占有移転禁止の仮処分	占有移転禁止の仮処分命令の発令と執行について関連する判例とともに解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合に占有移転禁止の仮処分が必要となるか説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	/	処分禁止の仮処分	処分禁止の仮処分命令と執行について関連する判例とともに解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合に処分禁止の仮処分が必要となるか説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	/	仮の地位を定める仮処分	仮の地位を定める仮処分について関連する判例とともに解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合に仮の地位を定める仮処分が必要となるか挙げることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	民事保全における不服申立て（１）	保全異議の申立て、および保全取消しの申立てについて解説する。	
		この回の到達目標	保全異議と保全取消しの違いを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	/	民事保全における不服申立て（２）	保全抗告の意義について解説する。	
		この回の到達目標	民事保全における不服申立ての流れについて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	/	民事保全における不服申立て（３）	違法な保全があった場合の損害賠償請求について解説する。	
		この回の到達目標	違法な保全があった場合の損害賠償請求の性質について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	/	民事保全の現代的課題	インターネットをめぐる民事保全など、民事保全に関する比較的新しい問題を紹介し、検討する。	
		この回の到達目標	授業内で挙げられた社会問題と民事保全の関係を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	/	民事執行法総合演習	民事執行法に関する総合問題を基に、民事執行法における諸原則の意義を検討する。	
		この回の到達目標	具体的な事案において適用されるべき民事執行法の法規を指摘することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業内で出題された問題を復習する。	120分
30	/	民事保全法総合演習	民事保全法に関する総合問題を基に、民事保全法における諸原則の意義を検討する。	
		この回の到達目標	授業で挙げられた事案について、どのような保全処分を求めるのが適切か挙げることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	授業内で出題された問題を復習する。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式によるが、授業後には小テストで授業内容を復習し、または、応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。				2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。				2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。				2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。				2		2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	事例問題で、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			35	35							70
小テスト等	民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識を問う(①および②)。	10	10									20
レポート等	民事訴訟法に関する判例について、学説等について自ら調査して、論理的に評することができるかを問う(④)。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	45	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法（第2版）	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
		この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	/	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
		この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	/	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
		この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	/	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
		この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	/	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
		この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	/	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
		この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
		この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	/	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
		この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	/	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
		この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	/	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
		この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	/	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
		この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	/	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
		この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	訴訟行為	訴訟行為についての規範を説明する。	
		この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	/	証拠法総論	事実認定の方法の基本的な概念を説明する。	
		この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	/	証拠調べの手続き	証拠調べのルールを説明する。	
		この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	/	書証・文書提出命令	書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	/	自白	自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。	
		この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	/	訴訟の終了	訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。	
		この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	/	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	/	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
		この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	/	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
		この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	/	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	/	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
		この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	共同訴訟（１）	通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。	
		この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	/	共同訴訟（２）	固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	/	補助参加	補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。	
		この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	/	独立当事者参加	独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。	
		この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	/	上訴・再審	上訴・最新の種類と性質について解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	/	特別訴訟	少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。	
		この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	吉田 純平	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式によるが、授業後には小テストで授業内容を復習し、または、応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	事例問題で、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			35	35							70
小テスト等	民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識を問う(①および②)。	10	10									20
レポート等	民事訴訟法に関する判例について、学説等について自ら調査して、論理的に評することができるかを問う(④)。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	45	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法（第2版）	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9305研究室）yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
		この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	/	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
		この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	/	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
		この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	/	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
		この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	/	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
		この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	/	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
		この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
		この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	/	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
		この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	/	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
		この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	/	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
		この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	/	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
		この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	/	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
		この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	訴訟行為	訴訟行為についての規範を説明する。	
		この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	/	証拠法総論	事実認定の方法の基本的な概念を説明する。	
		この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	/	証拠調べの手続き	証拠調べのルールを説明する。	
		この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	/	書証・文書提出命令	書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	/	自白	自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。	
		この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	/	訴訟の終了	訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。	
		この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	/	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	/	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
		この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	/	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
		この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	/	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	/	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
		この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	共同訴訟（１）	通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。	
		この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	/	共同訴訟（２）	固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	/	補助参加	補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。	
		この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	/	独立当事者参加	独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。	
		この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	/	上訴・再審	上訴・最新の種類と性質について解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	/	特別訴訟	少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。	
		この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式によるが、授業後には小テストで授業内容を復習し、または、応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	事例問題で、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			35	35							70
小テスト等	民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識を問う(①および②)。	10	10									20
レポート等	民事訴訟法に関する判例について、学説等について自ら調査して、論理的に評することができるかを問う(④)。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	45	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法（第2版）	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9305研究室）yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
		この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	/	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
		この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	/	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
		この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	/	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
		この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	/	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
		この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	/	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
		この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
		この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	/	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
		この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	/	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
		この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	/	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
		この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	/	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
		この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	/	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
		この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	訴訟行為	訴訟行為についての規範を説明する。	
		この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	/	証拠法総論	事実認定の方法の基本的な概念を説明する。	
		この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	/	証拠調べの手続き	証拠調べのルールを説明する。	
		この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	/	書証・文書提出命令	書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	/	自白	自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。	
		この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	/	訴訟の終了	訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。	
		この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	/	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	/	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	/	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
		この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	/	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
		この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	/	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
		この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	/	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
		この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	/	共同訴訟（１）	通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。	
		この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	/	共同訴訟（２）	固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	/	補助参加	補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。	
		この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	/	独立当事者参加	独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。	
		この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	/	上訴・再審	上訴・最新の種類と性質について解説する。	
		この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	/	特別訴訟	少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。	
		この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
		事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	担当者	奥田 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法に関する基本的かつ典型的な事例問題を事前に検討してもらい、これを素材として、要件事実についての基本的な理解及びその理解の説明が可能になるよう、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心とした演習を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法の基礎的な理解を踏まえ、要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ、機能しているかについて理解し、説明できる力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、又はそれと同等以上に民法等を勉強しようとする意欲を有する者が望ましい。

【授業方法】
言い分方式による事例問題を素材とし、その事前検討の結果を踏まえて、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進める。レポートの提出を求め、又は小テストを実施することがあり、その場合には、その内容を添削して返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業時に次回の授業で取り扱う事例問題を提供するので、事前に問題点等を検討してもらい、授業では、当該設例に含まれる法的問題点を中心に、教師と学生間、学生同士で質疑応答や議論をしてもらうことになる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。							3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの提出を求めたり、小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
毎週金曜日の午後２時から午後４時までとし、法務研究科の当職の研究室（1342研究室）において対応する。okuda.masaaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	オリエンテーション 要件事実の役割と機能について	オリエンテーションとして、授業の進め方や事前準備の内容・程度、受講に際しての心構え等について説明するほか、民事裁判手続の流れを概説した上で、民事裁判における争点整理の重要性、要件事実の役割と機能についても概説する。	
		この回の到達目標	民事裁判における争点整理及び要件事実の役割と機能について一応の説明をすることができる。	
		事前学修	民事裁判や要件事実に関する概説書を参照するなどして、要件事実の考え方が民事裁判実務でなぜ必要とされているのかを各自考えておくこと。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
2	水9/23	物権的請求権に基づく目的物引渡請求権	要件事実を検討するに際してその前提となる訴訟物や請求原因、抗弁等の意味、機能を説明し、その理解を得たうえで、物権的請求権に基づく目的物引渡請求権を行使する際の要件事実について事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	訴訟物、請求原因、抗弁等の意味、機能について一応の説明ができる。 物権的請求権に基づく目的物引渡請求権を行使する場合の要件事実を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
3	水9/30	物権的請求権と対抗要件	物権的請求権に基づく目的物引渡請求権を行使する場合における対抗要件の持つ意義、機能について説明し、その場合の要件事実について事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	物権的請求権に基づく目的物引渡請求権を行使する場合における対抗要件の位置づけ等について事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
4	水10/7	所有権喪失の抗弁等	所有権喪失の抗弁等について、その意味合いや機能を事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	所有権喪失の抗弁について、要件事実の観点から事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
5	水10/14	所有権移転登記抹消登記手続請求権	所有権移転登記抹消登記手続請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	所有権移転登記抹消登記請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
6	水10/21	取得時効を理由とする目的物引渡請求権	取得時効を理由とする目的物引渡請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	取得時効を理由とする目的物引渡請求権を行使する場合の要件事実について事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	抵当権設定登記抹消登記手続請求権	抵当権設定登記抹消登記手続請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	抵当権設定登記抹消登記手続請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
8	水11/11	売買代金請求権	売買代金請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	売買代金請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
9	水11/18	消滅時効の抗弁	消滅時効の抗弁について、要件事実の観点から事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	消滅時効の抗弁を主張する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
10	水11/25	貸金返還請求権	貸金返還請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	貸金返還請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
11	水12/2	動産引渡請求権 即時取得	即時取得を理由に動産引渡請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	即時取得を理由に動産引渡請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
12	水12/9	賃貸借契約終了に基づく土地明渡請求権	賃貸借契約終了に基づく土地明渡請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	賃貸借契約終了に基づく土地明渡請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	譲受債権についての支払請求権	譲受債権についての支払請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	譲受債権に基づく支払請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
14	水12/23	保証債務履行請求権	保証債務履行請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して検討する。	
		この回の到達目標	保証債務履行請求権を行使する場合の要件事実について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
15	水1/13	要件事実に関する重要な問題点についての復習	これまでに学修した要件事実に関する重要な問題点についての復習	
		この回の到達目標	要件事実全般について、その意義、役割等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	担当者	中野 哲弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法に関する基本的かつ典型的な事例問題を事前に検討してもらい、これを素材として、要件事実についての基本的な理解及びその理解の説明が可能になるよう、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心とした演習を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法の基礎的な理解を踏まえ、要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ、機能しているかについて理解し、説明できる力を修得する。

【履修条件】
法職課程（含む法職コース）に在籍する者、もしくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者を歓迎する。

【授業方法】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題（民法）を素材として、学生同士の討論も加えて、授業を進める。 授業内レポートの解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。								3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。												3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートへの講評は授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 14：30～15：30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	40年間裁判官として実務を行った。
実務経験に基づく実践的教育の内容		民法を裁判でどのように使うかを説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火4/7	ガイダンス及び導入講義	オリエンテーション。	
		この回の到達目標	事例問題と民法各編の関係につき一定の理解ができる。	
		事前学修	民法の法文を手元に置くこと。新民法を中心とする。事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
2	火4/14	事例問題の解き方と説明	事例問題（1）（総則・物権）。	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
3	火4/21	事例問題の解き方と説明	事例問題（2）（総則・物権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
4	火4/28	事例問題の解き方と説明	事例問題（3）（総則・物権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
5	火5/5	事例問題の解き方と説明	事例問題（4）（総則・物権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
6	火5/12	事例問題の解き方と説明	事例問題（5）（総則・物権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	火 5/19	事例問題の解き方と説明	事例問題（6）（総則・物権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
8	火 5/26	事例問題の解き方と説明	事例問題（7）（債権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
9	火 6/2	事例問題の解き方と説明	事例問題（8）（債権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
10	火 6/9	事例問題の解き方と説明	事例問題（9）（債権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
11	火 6/16	事例問題の解き方と説明	事例問題（10）（債権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
12	火 6/23	事例問題の解き方と説明	事例問題（11）（債権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火 6/30	事例問題の解き方と説明	事例問題（12）（債権）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
14	火7/7	事例問題の解き方と説明	事例問題（13）（総合）	
		この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
15	火 7/14	全体を振り返って	授業内レポートの作成と解説	
		この回の到達目標	民法各編と事例問題の関係につき理解ができる。	
		事前学修	これまでの資料を予め検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	担当者	中野 哲弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 （DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針） （CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針）	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
後学期である本講義では、民事訴訟実務の基礎について修得してもらうため、訴訟物と要件事実を中心に、事例問題の演習と解説を行う。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
民法の基礎的な理解を踏まえ、要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ、機能しているかについて理解し、説明できる力を修得する。

【履修条件】
法職課程（含む法職コース）に在籍する者、もしくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者。

【授業方法】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題（法律実務基礎・民事）を素材として、学生同士の討論も含めて授業を進める。授業内レポートの解説も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。							3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。					80						80
討論・発表等	授業中の質疑応答において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標③④にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	80						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートへは、コメントを付して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問題研究 要件事実	司法研修所	法曹会	2003年	参考書	推奨
紛争類型別の要件事実	司法研修所	法曹会	2006年	参考書	推奨
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 14：30～15：30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	40年間裁判官として実務を行った。
実務経験に基づく実践的教育の内容		裁判実務における民法要件事実の使い方を理解できるように説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	火 9/15	オリエンテーション（1）	民法と要件事実（1）	
		この回の到達目標	要件事実の意義を理解できる。	
		事前学修	民事訴訟法について出来るだけ学習してくることを。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
2	火 9/22	オリエンテーション（2）	民法と要件事実（2）	
		この回の到達目標	前回と同じ	
		事前学修	民事訴訟法について出来るだけ学習してくることを。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
3	火 9/29	問題文の読み方（1）	事例研究（1）（貸金）	
		この回の到達目標	事実関係の分析ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくることを。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
4	火 10/6	問題文の読み方（2）	事例研究（2）（貸金）	
		この回の到達目標	事実関係の分析ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくることを。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
5	火 10/13	訴訟物の理解（1）	事例研究（3）（貸金）	
		この回の到達目標	問題文から訴訟物の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくることを。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
6	火 10/20	訴訟物の理解（2）	事例研究（4）（売買）	
		この回の到達目標	問題文から訴訟物の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくることを。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	火 10/27	請求原因事実の理解（1）	事例研究（5）（売買）
		この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。120分
8	火 11/10	請求原因事実の理解（2）	事例研究（6）（売買）
		この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。120分
9	火 11/17	請求原因事実の理解（3）	事例研究（7）（登記）
		この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。120分
10	火 11/24	請求原因事実の理解（4）	事例研究（8）（登記）
		この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。120分
11	火 12/1	抗弁事実の理解（1）	事例研究（9）（登記）
		この回の到達目標	問題文から抗弁事実の理解ができる。
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。120分
12	火 12/8	抗弁事実の理解（2）	事例研究（10）（明渡し）
		この回の到達目標	問題文から抗弁事実の理解ができる。
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	火 12/15	抗弁事実の理解（3）	事例研究（1 1）（明渡し）	
		この回の到達目標	問題文から抗弁事実の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
14	火 12/22	再抗弁事実の理解	事例研究（1 2）（明渡し）	
		この回の到達目標	問題文から再抗弁事実の理解ができる。	
		事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
15	火 1/12	全体を振り返って	授業内レポートの作成と解説をする。	
		この回の到達目標	具体例において要件事実を理解できる。	
		事前学修	これまでの資料を復習してくること。	120分
		事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅱ(判例演習)A	担当者	奥田 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法上の基本的な問題点に関する事例を素材とした問題と、これに関連する基本的な判例を事前に検討してもらい、授業では、その検討結果を踏まえ、各自の考え方を述べてもらうほか、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点を整理し、考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における民法の役割を理解し、基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力、各種事案に含まれる法的問題点を抽出し、その解決策を見出すことのできる力、これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし、民法の基本的な知識、理解を踏まえ、論理的かつ合理的な思考のもと、設例における事案に即した問題点を発見し、その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、若しくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者が望ましい。

【授業方法】
民法上の基本的な問題点に関する事例問題を素材として、その検討結果を踏まえた各自の意見を述べてもらい、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進めるが、その際、当該部分に関する民法理論の基本的な理解や判例の到達点等を併せて振り返ることとする。なお、場合により、レポートの提出を求めたり、小テストを実施する可能性がある。その場合には、その内容を添削して返却する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業時に、次の授業で取り扱う事例問題を提供し、事前に問題点及び関連する判例を検討してもらい、授業では、当該設例に含まれる法的問題点を中心に、教師と学生間、学生同士で質疑応答や議論をしてもらうことになる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例を中心とした民法の基本用語及び概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	判例を中心とした民法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	民法判例に関連する法適用上の問題につき、論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。							3				
④	民法判例に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの提出を求めた場合又は小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の午後２時から午後４時までの間、大学院法務研究科の当職の研究室（１３４２研究室）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	オリエンテーション 改正民法の概要	オリエンテーションとして、授業の進め方や方針,受講に際しての心構え等について説明するとともに、本年4月から施行される債権法に関する改正民法のうちの重要な部分についてその概要を簡単に説明する。	
		この回の到達目標	債権法に関する改正民法の主要な部分について、基本的なコンセプトや主な改正内容を説明することができる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認して授業で取り扱う分野の概要を把握するとともに、債権法に関する改正民法の概要についても勉強しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
2	水4/15	契約とは何か（単なる合意との異同） 契約の拘束力	契約とは何か（単なる合意との異同），また，契約の拘束力について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	契約と単なる合意との異同や契約の拘束力について，事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
3	水4/22	契約の当事者（預金者の特定，買主の特定）	預金者の特定，買主の特定に関する事例を素材として，契約の当事者について考察する。	
		この回の到達目標	契約の当事者について，事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
4	水4/29	契約締結の能力（権利能力，意思能力，行為能力）	契約締結の能力（権利能力，意思能力，行為能力）について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	権利能力，意思能力，行為能力について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
5	水5/6	契約と意思表示（1） 通謀虚偽表示，詐欺	通謀虚偽表示，詐欺について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	通謀虚偽表示，詐欺に関して，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
6	水5/13	契約と意思表示（2） 錯誤	錯誤（表示の錯誤，動機の錯誤）について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	錯誤（表示の錯誤，動機の錯誤）について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	契約の無効 暴利行為、強行法規違反	暴利行為、強行法規違反に関する事例を素材として、契約の有効・無効について事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	暴利行為、強行法規違反に関する事例に即して、契約の有効・無効について説明し、適切な解決策を検討することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
8	水5/27	契約の取消しと追認	詐欺や未成年であることを理由とする意思表示取消しの事例を素材として、契約の取消しと追認について考察する。	
		この回の到達目標	詐欺取消し、未成年取消しに関する事例を素材として、契約の取消し及び追認の意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
9	水6/3	契約と代理（1） 有権代理 109条の表見代理	有権代理及び109条の表見代理について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	有権代理及び109条の表見代理に関して、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
10	水6/10	契約と代理（2） 110条の表見代理	110条の表見代理について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	110条の表見代理について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
11	水6/17	契約と無権代理（1） 無権代理行為と追認 無権代理行為と相続	無権代理行為と追認、無権代理行為と相続について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	有権代理と無権代理との関係について、また、無権代理行為と追認、無権代理行為と相続に関して事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
12	水6/24	契約と無権代理（2） 無権代理の効果 無権代理人の責任	無権代理の効果、無権代理人の責任について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	無権代理の効果、無権代理人の責任について事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	契約の効力 双務契約（原始的不能，同時履行の抗弁権，危険負担）	契約の効力，双務契約（原始的不能，同時履行の抗弁権，危険負担）について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	契約の効力，双務契約（原始的不能，同時履行の抗弁権，危険負担）について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
14	水7/8	契約の付款 条件と期限 条件成就の妨害	契約の付款，条件と期限，条件成就の妨害について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	契約の付款，条件と期限，条件成就の妨害について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
15	水7/15	手付契約 受領遅滞	手付契約，受領遅滞について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	手付契約，受領遅滞について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）B	担当者	奥田 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法上の基本的な問題点に関する事例を素材とした問題と、これに関連する基本的な判例を事前に検討してもらい、授業では、その検討結果を踏まえ、各自の考え方を述べてもらうほか、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点を整理し、考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における民法の役割を理解し、基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力、各種事案に含まれる法的問題点を抽出し、その解決策を見出すことのできる力、これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし、民法の基本的な知識、理解を踏まえ、論理的かつ合理的な思考のもと、設例における事案に即した問題点を発見し、その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、若しくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者が望ましい。

【授業方法】		
民法上の基本的な問題点に関する事例問題を素材として、その検討結果を踏まえた各自の意見を述べてもらい、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進めるが、その際、当該部分に関する民法理論の基本的な理解や判例の到達点等を併せて振り返ることとする。なお、場合により、レポートの提出を求めたり、小テストを実施する可能性がある。その場合には、その内容を添削して返却する予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業時に次回の授業で取り扱う事例問題を提供するので、事前に問題点及び関連判例を検討してもらい、授業では、当該設例に含まれる法的問題点を中心に、教師と学生間、学生同士で質疑応答や議論をしてもらうことになる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例を中心とした民法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3							
②	判例を中心とした民法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3							
③	民法判例に関連する法適用上の問題につき、論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。								3				
④	民法判例に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。												3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの提出又は小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の午後２時から午後４時までとし、大学院法務研究科の当職の研究室（1342研究室）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	オリエンテーション 履行請求権 原始的不能と後発的不能	オリエンテーションとして、授業の進め方や方針，受講に際しての心構え等について説明するとともに，履行請求権，原始的不能と後発的不能について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	履行請求権，原始的不能，後発的不能について事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
2	水9/23	債権者代位権	債権者代位権について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	債権者代位権について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
3	水9/30	債権者取消権	債権者取消権について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	債権者取消権について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
4	水10/7	特定物債権，種類債権（種類債権の特定） 受領遅滞 危険負担	特定物債権，種類債権（種類債権の特定），受領遅滞，危険負担について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	種類債権，種類債権の特定，受領遅滞，危険負担について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
5	水10/14	第三者の弁済 弁済の提供	第三者の弁済，弁済の提供について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	第三者の弁済，弁済の提供について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
6	水10/21	同時履行の抗弁権 不安の抗弁権	同時履行の抗弁権，不安の抗弁権について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	同時履行の抗弁権，不安の抗弁権に関して，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	契約解除	契約解除について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	契約解除について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
8	水11/11	債権譲渡 譲渡制限特約 債務者及び第三者対抗要件	債権譲渡（譲渡制限特約、債務者及び第三者対抗要件）について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	債権譲渡（譲渡制限特約、債務者及び第三者対抗要件）について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
9	水11/18	契約自由の原則 契約の成立要件 契約締結過程における紛争	契約自由の原則、契約の成立要件、契約締結過程における紛争について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	契約自由の原則、契約の成立要件、契約締結過程における紛争について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
10	水11/25	契約と物権変動 売買の予約	契約と物権変動、売買の予約について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	契約と物権変動、売買の予約について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
11	水12/2	売買契約 売主の契約不適合責任	売買契約、売主の契約不適合責任について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	売買契約、売主の契約不適合責任に関して、その意義や要件等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
12	水12/9	賃貸借契約 賃借権の対抗要件 賃借権に基づく妨害排除	賃貸借契約、賃借権の対抗要件、賃借権に基づく妨害排除請求権について、事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	賃貸借契約、賃借権の対抗要件、賃借権に基づく妨害排除請求権について、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	請負契約	請負契約（仕事の完成，請負人の契約不適合責任，所有権の帰属）について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	請負契約（仕事の完成，請負人の契約不適合責任，所有権の帰属）について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
14	水12/23	不当利得	不当利得について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	不当利得について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
15	水1/13	不法行為	不法行為について，事例に即して考察する。	
		この回の到達目標	不法行為について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
		事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
		事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

科目名	民法法特殊講義Ⅳ(商法)A	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
この講義では、運送法の特殊形態である鉄道運送に関する法的問題について取り扱う。商法と呼ばれる分野のうち、運送法に関する部分について、平成30年に商法制定以来の大改正が行われ、陸上運送・航空運送・海上運送に関する規定の現代化が行われた。この講義は、陸上運送のうち鉄道運送に特化して、その特殊性や実態等について、文献や判例を素材に学習するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、運送法のうち鉄道運送に関する法的問題や法理論の修得を目的とする。運送法と呼ばれる分野でも鉄道運送については、その特殊性から、従前の判例や学説ではあまりクローズアップされてこなかったことから、この講義では、鉄道関連法令の基本を修得するとともに、鉄道が関係する法的諸問題（例えば、旅客営業規則の問題、鉄道事故における賠償など）について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
商法Ⅴ（運送法）を（同時に・既に）受講していることが望ましいが、特に条件を求めない。

【授業方法】
一定の課題について受講生と共に議論する演習形式を予定している。またアウトプットされたものに対してコメントを行う。なお、検討の素材は教科書や論文・判例等を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	この講義は、演習形式で行われ、受講生との対話・質疑応答により、理解や知識を深めていく方法で行われる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	鉄道法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。					3			3				
②	鉄道法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。								3				3
③	鉄道法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業の最後に課すレポートにより、到達目標①に関わる知識が身についているかを確認する。	50										50
討論・発表等	毎回の授業におけるレジュメの作成や報告において、到達目標③が身についているかを評価する。			30								30
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②が身についているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイト等を通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしい鉄道の法規（四訂版）	和久田康雄	成山堂書店	1999年	参考書	任意
備考	上記書籍は絶版のため、担当教員が別途資料等を用意する。				

【オフィスアワー】
毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	4月6日	ガイダンス・鉄道法概論		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献（運送法の概説書）の紹介をし、運送法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が講義の準備を具体的にこなせるようにする。
		この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 鉄道法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の序章部分を読んでおき、鉄道関連法令にはどのようなものがあるのかをあらかじめ確認する	120分
		事後学修	鉄道運送に関する法令の特殊性について自分なりにまとめ、他の運送モードとの違い等について把握しておく。	120分
2	4月13日	運送契約概論		鉄道運送だけではなく、その特殊性を把握するため、他の運送モード（自動車運送、航空運送、海上運送）の基礎について講義する。
		この回の到達目標	運送契約概論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	運送法の概説書を読み、運送法全体を概観する。	120分
		事後学修	陸上運送・航空運送・海上運送の異同について自分なりにまとめ、鉄道運送における法的問題について確認しておく。	120分
3	4月20日	鉄道の定義と種類		鉄道運送法を検討するに当たり、その総論的な部分として、鉄道の意義や鉄道事業の種別、民営鉄道・公営鉄道について講義する。
		この回の到達目標	鉄道の定義と種類に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第1章 鉄道の定義と種類」を読み、鉄道の意義、鉄道事業の種別、民営鉄道と公営鉄道との違いについて把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	実際に、受講生が利用する鉄道運送がどのように行われているのかについて、他の文献等を利用しながらまとめておく。	120分
4	4月27日	鉄道の開業		鉄道事業の免許制度や鉄道を運行するための法的手続（行政手続等）について講義する。
		この回の到達目標	鉄道の開業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第2章 鉄道の開業まで」を読み、鉄道事業免許制度や運行計画に関する法制度等について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	最近、鉄道事業の免許を申請した事例等を探して、どのように手続きされているのかを改めて確認する。	120分
5	5月4日	鉄道事業の譲渡等		鉄道事業を譲渡したり、昨今、地方鉄道でしばしば見られる鉄道の廃止（廃線）時の手続等について講義する。
		この回の到達目標	鉄道事業の譲渡等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 鉄道の譲渡や合併と廃止」を読み、鉄道事業の譲渡や廃線時の手続等について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	最近、鉄道路線を廃止した事例等を探して、どのように手続きされているのかを改めて確認する。	120分
6	5月11日	鉄道の直通運転		東京近郊では、各種鉄道事業者間において直通相互運転（例えば、東京メトロ半蔵門線と東急田園都市線など）が行われているが、そのようは運行がなされている場合、どのような法的手続があるのかについて講義する。
		この回の到達目標	鉄道の直通運転に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第4章 鉄道の間の関係」を読み、他社の車両を走らせる場合、他社に業務を行わせる場合にはどのようなものがあるのかを把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	相互直通運転にはどのようなものがあるのか、そこでの運賃精算はどのようになっているのかについて、調べてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	鉄道運賃制度	鉄道運賃は、鉄道事業者が全てを決めることができるのではなく、認可制を採用していることから、鉄道運賃はどのように決まっているのか、についてその概要を講義する。	
		この回の到達目標	鉄道運賃制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第5章 鉄道の運賃をめぐる」を読み、鉄道運賃の認可制について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	鉄道運賃が高い路線と安い路線があるとしばしば指摘されているが、どの程度の差があるのか、なぜそのような差が生じているのかについて、調べてみる。	120分
8	5月25日	鉄道事業会計	鉄道事業の会計は、他の事業会社とは少し異なる点があることから、鉄道事業者の会計はどのようなになっているのかについて講義する。	
		この回の到達目標	鉄道事業会計に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第6章 鉄道の会計と財務」を読み、鉄道事業者の会計が他の種類の会社とはどのように異なっているのか等について把握し、レジュメを作成する。なお、教科書は会社法制定前であることから、会社法ではどのようなになっているのか注意すること。	120分
		事後学修	一般の事業会社と鉄道事業者の会計の異同について、自分なりにまとめてみる。	120分
9	6月1日	鉄道設備と安全基準	鉄道設備の種類やその安全基準がどのように設定されているのかについて講義する。	
		この回の到達目標	鉄道設備と安全基準に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第7章 鉄道の設備についての基準」を読み、鉄道の設備にはどのようなものがあるのか、どのような安全基準が設定されているのかなどについて把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	鉄道設備の安全基準がどのように定められ、どのように利用されているのかについて、改めて確認して自分なりにまとめてみる。	120分
10	6月8日	鉄道職員	鉄道職員の種類と、その職務内容について講義する。	
		この回の到達目標	鉄道職員に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第8章 鉄道の運転と従業員」を読み、鉄道職員に関する規制について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	鉄道職員の職務内容について、自分なりにまとめ、どのような権限があるのかなども確認しておく。	120分
11	6月15日	鉄道旅客運送契約	旅客運送契約の全体及び鉄道旅客運送契約の特殊性や約款（旅客営業規則）について講義する。	
		この回の到達目標	鉄道旅客運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第9章 鉄道と利用者の関係」を読み、鉄道旅客運送契約等について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	鉄道旅客運送契約に関する他の法的問題について確認しておく。	120分
12	6月22日	鉄道事業補助制度	鉄道事業は、民営鉄道であったとしても、公共インフラとして位置づけられていることから、そこに支出される補助金等について講義する。	
		この回の到達目標	鉄道事業補助制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第10章 鉄道の補助・税制など」を読み、鉄道事業に対して支出される補助金や、逆に鉄道事業者が納付する税金について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	不採算路線ではどのような補助金が支給されているのかを調べて、まとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	鉄道用地	鉄道用地にはどのような規制があるのか、鉄道用地の収用の手続がどうなっているかなどについて講義する。	
		この回の到達目標	鉄道用地に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第11章 鉄道用地の法律関係」を読み、鉄道用地の特徴や収用について把握し、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	鉄道用地に関する特別法であるいわゆる一体化法とはどのような法律なのかについて調べて、まとめておく。	120分
14	7月6日	鉄道関係の官庁組織	国土交通省（及び地方出先機関）における鉄道関係の官庁組織について講義する。	
		この回の到達目標	鉄道関係の官庁組織に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第12章 鉄道関係の官庁組織」を読み、どのような行政組織があるのかを確認し、レジュメを作成する。ただし、現在、国土交通省となり官庁組織が大幅に変更されているので、同省のHP等を確認すること。	120分
		事後学修	国土交通省設置法などを確認しながら、鉄道関係の官庁組織を図示してみる。	120分
15	7月13日	鉄道法総復習	受講生から出た疑問を教員及び受講生同士で検討する。	
		この回の到達目標	鉄道法全体について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
		事前学修	教科書を再読し、分からない点や深めたい点を自分なりに調べておく。	120分
		事後学修	分からない点や深めたい点に対する回答をまとめておく。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)B	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
この講義では、運送法の特殊形態である鉄道運送に関する法的問題について取り扱う。商法と呼ばれる分野のうち、運送法に関する部分について、平成30年に商法制定以来の大改正が行われ、陸上運送・航空運送・海上運送に関する規定の現代化が行われた。この講義は、陸上運送のうち鉄道運送に特化して、その特殊性や実態等について、文献や判例を素材に学習するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、運送法のうち鉄道運送に関する法的問題や法理論の修得を目的とする。運送法と呼ばれる分野でも鉄道運送については、その特殊性から、従前の判例や学説ではあまりクローズアップされてこなかったことから、この講義では、鉄道関連法令の基本を修得するとともに、鉄道が関係する法的諸問題（例えば、旅客営業規則の問題、鉄道事故における賠償など）について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
商法Ⅴ（運送法）を（同時に・既に）受講していることが望ましいが、特に条件を求めない。

【授業方法】
一定の課題について受講生と共に議論する演習形式を予定している。またアウトプットされたものに対してコメントを行う。なお、検討の素材は教科書や論文・判例等を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	この講義は、演習形式で行われ、受講生との対話・質疑応答により、理解や知識を深めていく方法で行われる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	鉄道法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。					3			3				
②	鉄道法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。								3				3
③	鉄道法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業の最後に課すレポートにより、到達目標①に関わる知識が身についているかを確認する。	50										50
討論・発表等	毎回の授業におけるレジュメの作成や報告において、到達目標③が身についているかを評価する。			30								30
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②が身についているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイト等を通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
やさしい鉄道の法規（四訂版）	和久田康雄	成山堂書店	1999年	参考書	任意
備考	上記書籍は絶版のため、担当教員が別途資料等を用意する。				

【オフィスアワー】
毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	9月14日	鉄道関連訴訟の概要	鉄道関連訴訟にはどのような訴訟があるのかなどについて講義する。
		この回の到達目標	鉄道関連訴訟の概要に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	前期15回分を振り返り、ノートやレジュメなどを確認しておく。120分
		事後学修	講義で配布された鉄道関連訴訟に一通り目を通しておく。120分
2	9月21日	鉄道運送と高価品免責	鉄道運送における高価品の滅失に関する裁判例を検討する。
		この回の到達目標	鉄道運送と高価品免責に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	鉄道運送における高価品の滅失に関する最判昭和63年3月25日判時1296号52頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道運送における高価品特則についてまとめる。120分
3	9月28日	鉄道旅客運送と安全配慮義務	鉄道旅客運送における安全配慮義務に関する裁判例を検討する。
		この回の到達目標	鉄道旅客運送と安全配慮義務に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	鉄道旅客運送における安全配慮義務に関する東京地判平成17年10月4日判時1944号113頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道旅客運送における安全配慮義務についてまとめる。120分
4	10月5日	公営電車と法	公営電車における鉄道事故に関する裁判例を検討する。
		この回の到達目標	公営電車に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	公営電車における鉄道事故と損害賠償責任に関する大阪高判昭和43年5月23日判時521号55頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、公営電車における鉄道事故と損害賠償責任についてまとめる。120分
5	10月12日	車内検札の法的意義	鉄道乗車券の検査の法的な意味について裁判例を素材に検討する。
		この回の到達目標	車内検札の法的意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	鉄道乗車券の検査に関する大判大正5年7月15日民録22輯1543頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道乗車券の検査の法的問題についてまとめる。120分
6	10月19日	鉄道回数乗車券の法的性質	鉄道回数乗車券とはどのような法的性質を有するものかについて検討する。
		この回の到達目標	鉄道回数乗車券の法的性質に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。
		事前学修	鉄道回数乗車券の性質に関する大判大正6年2月3日民録23輯35頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道回数乗車券の性質についてまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	鉄道車室内のトラブル	鉄道車室内での事故と旅客同士の損害賠償責任について検討する。	
		この回の到達目標	鉄道車室内のトラブルに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	鉄道車室内での事故における旅客同士の損害賠償責任に関する大津地判昭和62年2月23日判時1242号98頁を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめて、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道車室内での事故と旅客の損害賠償責任についてまとめる。	120分
8	11月9日	鉄道利用予定者の法的地位	乗車券を購入していない鉄道利用予定者に対する損害賠償責任について検討する。	
		この回の到達目標	鉄道利用予定者の法的地位に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	乗車券を購入していない鉄道利用予定者に対する損害賠償責任に関する大阪地判昭和54年3月29日判タ383号66頁と判例評釈を読み、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、乗車券を購入していない者に対する責任についてまとめる。	120分
9	11月16日	鉄道旅客営業規則の免責規定	鉄道旅客営業規則における免責規定の有効性について検討する。	
		この回の到達目標	鉄道旅客営業規則の免責規定に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	鉄道事業者の故意による遅延と免責約款の有効性に関する最判昭和55年5月8日判タ417号83頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめて、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道旅客営業規則における免責規定の有効性についてまとめる。	120分
10	11月23日	新幹線運賃制度	新幹線運賃の算出方法と法的問題について検討する。	
		この回の到達目標	新幹線運賃制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	新幹線の運賃を在来線の営業キロを基準として算出することの許容性に関する最判昭和61年3月28日判時1195号82頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、新幹線運賃の算出方法に関する法的問題についてまとめる。	120分
11	11月30日	鉄道運行阻害者の責任	鉄道事業者の運行阻害事業者に対する責任について検討する。	
		この回の到達目標	鉄道運行阻害者の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	鉄道事業者の鉄道設備毀損事業者に対する損害賠償請求に関する東京地判平成22年9月29日判時2095号55頁を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問を踏まえ、鉄道事業者の損害賠償請求についてまとめる。	120分
12	12月7日	鉄道事故と法	いわゆる信楽高原鉄道事件の概要を把握し、論点を整理する。	
		この回の到達目標	鉄道事故関連法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	鉄道事故と旅客に対する損害賠償責任に関する大阪高判平成14年12月26日判時1812号3頁を読んで、事実の概要をまとめ、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で整理した論点を把握し、判旨を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月14日	相互直通運転時の責任	鉄道の相互直通運転をしている場合に、損害賠償責任をどのように負担するかについて検討する。	
		この回の到達目標	相互直通運転時の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	鉄道事故と旅客に対する損害賠償責任に関する大阪高判平成14年12月26日判時1812号3頁を読んで、判旨と検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、鉄道の相互直通運転時に生じた事故の責任についてまとめる。	120分
14	12月21日	駅構内における事故	いわゆる新幹線三島駅事件の概要を把握し、論点を整理する。	
		この回の到達目標	駅構内における事故に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	駆け込み乗車と旅客の死亡に関する静岡地裁沼津支判平成13年3月7日判時1752号90頁を読んで、事実の概要をまとめる。	120分
		事後学修	講義で整理した論点を把握し、判旨を読んでおく。	120分
15	1月18日	駆け込み乗車と安全配慮義務	駆け込み乗車に対する鉄道事業者の注意義務について検討する。	
		この回の到達目標	駆け込み乗車に関する訴訟に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
		事前学修	駆け込み乗車と旅客の死亡に関する静岡地裁沼津支判平成13年3月7日判時1752号90頁を読んで、判旨と検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
		事後学修	講義で出た質問をふまえ、駅構内における鉄道事業者の注意義務についてまとめる。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
「不動産の現況と権利関係を登記簿に記録して公示する制度」である不動産登記について、登記簿の概要、登記業務を行う官庁である登記所と登記官、実際の登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請情報・添付情報等）を用いて講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
不動産物権変動の対抗要件である不動産登記（民法177条）について、不動産登記法の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。不動産登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合にも役立つ不動産登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1， 4， 8

【履修条件】
・民法の物権・担保物権の基本を理解していることが前提。

【授業方法】
・齋藤隆夫著『集中講義 不動産登記法〔第3版補訂版〕』（成文堂、2019）を指定教科書として、毎回レジュメを配布して講義を行う。六法必携。学外授業として、東京法務局見学会（最寄駅地下鉄「九段下駅」）を実施予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法の特別法（手続法）である不動産登記法の特徴を理解したうえで、不動産登記法の概略を説明することができる。					3			3				3
②	不動産登記法は、不動産の物権変動を登記簿に反映するために、どのような手続をとっているかを理解し、手続の概略を説明することができる。					3			3				3
③	不動産登記申請の仕組と登記所が行う登記の実行を理解したうえで、不動産登記簿を読み解くことができる。					3			3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	最終講義内で提出された課題レポートが、書式等の要件を満たしたうえで、課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問・意見表明・聴講態度を基準に到達目標①②に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して、レポートの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
集中講義 不動産登記法 [第3版補訂版]	齋藤隆夫	成文堂	2019	教科書	必携
模範小六法2020 令和2年版	判例六法編修委員会、竹下 守夫（代表）	三省堂	2019	その他	推奨
詳細 登記六法 2020年版	山野目 章夫 他	きんざい	2019	その他	任意
備考	教科書をもとに、適宜レジュメを配布して講義を行う。				

【オフィスアワー】
火曜18時以降、講師室（2号館1F）にて（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること。）なお、メールにより授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	司法書士登録後15年。企業法務経験30年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		・不動産登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新の話題を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	【ガイダンス】【登記法とは何か】	不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像と当該業務を行う法務局（登記所）等の組織について説明する。	
		この回の到達目標	不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像を理解すること。	
		事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html)	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
2	第一部火 4/14	不動産登記制度の概要	不動産登記制度概要－登記簿、登記所、登記官等	
		この回の到達目標	不動産登記制度の概要（登記簿、登記所、登記官等）を理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
3	第一部火 4/21	登記の種類及び順位	不動産登記法総論（１）－登記の種類・登記の順位	
		この回の到達目標	不動産登記にはどのような種類があるか、優劣の順位はどのように定まるかを理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
4	第一部火 4/28	申請原則と申請方法	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理①	
		この回の到達目標	不動産登記の申請原則と申請方法について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
5	第一部火 5/5	申請方法とその後の処理	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理②	
		この回の到達目標	不動産登記の申請方法とその後の登記所内での処理について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
6	第一部火 5/12	登記申請書（申請情報）	不動産登記法総論（３）－登記申請書（申請情報）	
		この回の到達目標	登記申請書の記載内容について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	登記原因証明情報及び登記識別情報	不動産登記法総論（４）－添付情報①（登記原因証明情報、登記識別情報）	
		この回の到達目標	登記申請に必要な登記原因証明情報と登記識別情報について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
8	第一部火 5/26	印鑑証明書と住所証明書等	商不動産登記法総論（５）－添付情報②（印鑑証明書、その他の添付情報）	
		この回の到達目標	印鑑証明書、住所証明書、委任状等について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
9	第一部火 6/2	権利の登記の各種類	不動産登記法総論（６）－権利に関する登記の手續上の分類（移転登記、変更・更正登記、抹消登記）	
		この回の到達目標	権利の登記について、各種の類型について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
10	第一部火 6/9	所有権保存登記	不動産登記法各論（１）－所有権に関する登記①（所有権保存）	
		この回の到達目標	所有権保存登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
11	第一部火 6/16	所有権移転登記	不動産登記法各論（２）－所有権に関する登記②（所有権移転）	
		この回の到達目標	所有権移転登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
12	第一部火 6/23	抵当権設定登記	不動産登記法各論（３）－抵当権等に関する登記①	
		この回の到達目標	抵当権に関する登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	根抵当権設定登記	不動産登記法各論（４）－抵当権等に関する登記②	
		この回の到達目標	根抵当権に関する登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
14	第一部火 7/7	相続登記及び判決による登記	不動産登記法各論（５）－単独申請の登記（相続登記、判決による登記等）	
		この回の到達目標	単独申請である相続登記及び判決による登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
15	第一部火 7/14	東京法務局見学会	東京法務局見学会（学外授業）実施予定	
		この回の到達目標	登記業務が実際に行われている現場を見学して、学んできた理論・知識に裏付けを与えることにより、理解を深めること。	
		事前学修	・これまでに配布されたレジュメ、教科書で登記所について改めて確認するとともに、法務局HPを閲覧し、登記所のイメージをつかんでおくこと。	80分
		事後学修	東京法務局で当日配布される資料を復習すること。	50分

科目名	民事法特殊講義Ⅵ(商業登記法)	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
商業登記制度は、取引の安全等のために「会社について、一定事項を登記簿に記録して公示する制度」である。会社のうち株式会社について、登記簿の概要、登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請書・添付書類）を用いて講義する。その他、司法書士業務である供託、債権譲渡登記及び動産譲渡登記についても簡単に解説する。なお、最終講義で企業法務業務と契約業務の概要を説明する予定である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・商業登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。本講義では、実体法である商法・会社法の理解を深めるために最低限必要となる商業登記（株式会社に限定）の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。 ・法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合に役立つ商業登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8

【履修条件】
・商法・会社法の基本を理解していることが前提。

【授業方法】
・配布するレジュメをもとに講義を行う。六法必携。民事法特殊講義Ⅴで東京法務局見学会を実施予定であり、合わせて受講することが望ましいが、本講義のみ選択ももちろん可。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法等の特別法（手続法）である商業登記法の特徴を理解したうえで、商業登記法の概略を説明することができる。					3			3				3
②	商業登記法は、企業の情報を公示することにより取引の安全と円滑に資することを目的とするが、そのためにどのような手続をとっているかを理解し、手続の概略を説明することができる。					3			3				3
③	商業登記申請の仕組と登記所が行う登記の実行を理解したうえで、商業登記簿を読み解くができる。					3			3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	最終講義までに提出された課題レポートが、書式等の要件を満たしたうえで、課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問・意見表明・聴講態度を基準に到達目標①②に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義最終日に又は後日ポータルシステムを利用して、レポートの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
模範小六法2020 令和2年版	判例六法編修委員、 竹下守夫（代表）	三省堂	2019	その他	推奨
商業登記ハンドブック〔第3版〕	松井 信憲	商事法務	2015	参考書	任意
備考	・教科書は使用しない。レジュメを配布して講義を行う。				

【オフィスアワー】
火曜18時以降、講師室（2号館1F）にて（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること。）なお、メールにより授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	司法書士登録後15年。企業法務経験30年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		・商業登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新の話題を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	会社法と商業登記法の関係	会社法と商業登記法の関係について全体像を説明する。	
		この回の到達目標	会社法と商業登記法の全体像を理解すること。	
		事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html)	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
2	第一部火 9/22	商業登記制度の概要	商業登記法総論（１）①商業登記制度とは ②登記所・登記官・登記簿	
		この回の到達目標	商業登記制度の概要（登記簿、登記所・登記官）を理解すること。	
		事前学修	・事前に商法及び会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
3	第一部火 9/29	登記申請手続概論	商業登記法総論（２）①登記申請手続概論 ②印鑑届出制度・商業登記電子証明書	
		この回の到達目標	登記申請手続の概要について理解すること。	
		事前学修	・事前に商法及び会社法の教科書で、講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
4	第一部火 10/6	株式会社設立登記	商業登記法各論―株式会社の設立の登記（１）	
		この回の到達目標	株式会社設立登記の概要を理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
5	第一部火 10/13	株式会社設立登記	商業登記法各論―株式会社の設立の登記（２）	
		この回の到達目標	株式会社設立登記の概要を理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
6	第一部火 10/20	商号変更・目的変更・公告方法の変更登記	商業登記法各論一定款記載事項と登記（１）①商号変更 ②目的変更 ③公告方法の変更	
		この回の到達目標	商号変更、目的変更、公告方法の変更登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部火 10/27	本店移転登記		商業登記法各論一定款記載事項と登記（２）本店移転
		この回の到達目標	本店移転の登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
8	第一部火 11/10	役員変更登記		商業登記法各論―役員に関する登記（１）
		この回の到達目標	役員変更登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
9	第一部火 11/17	役員変更登記		商業登記法各論―役員に関する登記（２）
		この回の到達目標	役員変更登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
10	第一部火 11/24	募集株式の発行登記手続		商業登記法各論―増資（募集株式発行）の登記
		この回の到達目標	募集株式の発行手続と登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
11	第一部火 12/1	資本減少の登記手続		商業登記法各論―減資（資本減少）の登記
		この回の到達目標	資本減少の手続と登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
12	第一部火 12/8	吸収合併の登記手続		商業登記法各論―吸収合併に関する登記
		この回の到達目標	吸収合併の手続と登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	新設合併の登記手続	商業登記法各論―新設合併に関する登記	
		この回の到達目標	新設合併の手続と登記について理解すること。	
		事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
14	第一部火 12/22	供託法、動産譲渡登記、債権譲渡登記	供託法、動産譲渡登記（法人がする動産の譲渡について登記によって公示）、債権譲渡登記（法人の行う債権譲渡のための簡便な対抗要件制度）	
		この回の到達目標	供託法、動産譲渡登記、債権譲渡登記の各手続について理解すること。	
		事前学修	・民法の教科書で、供託及び動産・債権譲渡登記について読んでおくこと。	60分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
15	第一部火 1/12	企業法務・契約	企業法務概論・契約講義	
		この回の到達目標	企業法務全般と契約業務について理解すること。	
		事前学修	・特になし。	0分
		事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	60分

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)A	担当者	中西 茂	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な論点について一定の時間をかけ、多くの平易な事例を用いて議論、検討、説明等を行う。講義は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にしたいと考えている。授業の中で、学生からの質問に対して丁寧に説明を行い、授業内容を発展させたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
訴訟の実際を踏まえつつ、民事訴訟の基本的な事項についての理解及び応用力を養成することを目的とする。具体的な事例の中で、これらの法理が、どのように働くのかを受講生が説明できることを目標とする。 なお、講義資料はできるだけ理解しやすいものにして、学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的に講義形式をとるが、できるだけ多くの具体的な事例問題に基づき議論、起案等を行う。レポートの提出等は求めないが、事前にレジュメを読み込んでくることが予定されている。授業の中で起案を行う場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例や設問を適宜出題し、議論や起案を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事第1 審裁判手続の概括的な流れを理解し、説明することができる。【知識】 【態度・習慣】					3							
②	民事訴訟の当事者の確定、訴訟能力、当事者適格等を理解し、具体的な事例に対して結論を導くことができる。【知識】 【技能】					3			3				3
③	訴訟要件全般及び訴えの利益を理解し、具体的な事例に対して結論を導くことができる。【知識】 【技能】					3			3				3
④	重複起訴禁止を理解し、具体的な事例に当てはめて結論を導くことができる。【知識】 【技能】					3			3				3
⑤	処分権主義と弁論主義を理解し、具体的な事例を分析して結論を導くことができる。【知識】 【技能】					3			3				3
⑥	既判力を理解し、具体的な事例に対して結論を導くことができる。【知識】 【技能】					3			3				3
⑦	証明と証拠を理解し、具体的な事例を分析して結論を導くことができる。【知識】 【技能】					3			3				3
⑧	民事訴訟の法的問題に関する議論に参加し、自己の意見を的確に述べるができる。【態度・習慣】					3			3				3
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議論に参加し、自己の意見を明瞭、的確に述べるこ とができたか等を評価する。								30			30
授業への参画度	十分な予習をして、到達目標①から⑦までに 関わる学習に取り組み、授業において積極 的に発言したか、発言内容は適正なもの であったか等を評価する。起案をさせる 場合は、その評価も含める。	10	10	10	5	10	15	10				70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	5	10	15	10	30			100

【課題に対するフィードバックの方法】
起案は解説をした上、添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる民事訴訟法	和田吉弘	商事法務	2012	参考書	推奨
民事訴訟法判例百選 〔第5版〕	高橋宏志ほか編	有斐閣	2015	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:00～15:30 研究室（13号館5階1355号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官（東京高裁、東京地裁等）として裁判実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、裁判実務の実態を説明しながら、民事訴訟の理論とその実際について理解できるような授業をしていきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火4/7	民事訴訟のイメージ（訴えの提起から判決までの流れ）（1）	典型的な民事訴訟事件（貸金返還訴訟）の提示、一連の手続の流れ（1） 訴訟物、請求の趣旨、訴えと請求、「口頭弁論終結日」の重要性	
		この回の到達目標	裁判手続の概括的流れを理解する。 訴訟物、請求の趣旨、請求の意味と実際の訴訟での機能、役割を理解し、説明ができるようになる。 口頭弁論終結の意義を理解する。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
2	第一部 火4/14	民事訴訟のイメージ（訴えの提起から判決までの流れ）（2）	典型的な民事訴訟事件（貸金返還訴訟）の提示、一連の手続の流れ（2） 主張立証責任の概要、法律要件分類説、請求原因、抗弁などの意味、本証と反証、管轄	
		この回の到達目標	裁判手続の概括的流れを理解する。 主張立証責任を理解し、簡単な事例に関して説明ができるようになる。 請求原因、抗弁などの意味と働きを理解する。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
3	第一部 火4/21	当事者の確定、当事者能力、訴訟能力、当事者適格、法定代理人（1）	人違いと被告の確定 当事者能力（権利能力なき社団等）	
		この回の到達目標	当事者の確定の必要性和方法を理解する。 当事者能力を理解し、具体的な事例で説明ができるようになる。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
4	第一部 火4/28	当事者の確定、当事者能力、訴訟能力、当事者適格、法定代理人（2）	訴訟能力（未成年者や意思能力を欠く者の訴訟行為） 当事者適格（給付訴訟、確認訴訟、形成訴訟） 法定代理の制度	
		この回の到達目標	訴訟能力及びこれを欠く場合の訴訟遂行の方法（法定代理人の制度）を理解する。 当事者適格を理解し、各訴訟類型ごとに説明ができるようになる。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
5	第一部 火5/5	訴訟要件、訴えの利益（1）	訴訟要件の類型と職権調査・職権探知 抗弁事項、本案前の抗弁	
		この回の到達目標	訴訟要件の意義とその審理を理解する。 被告の応訴としての抗弁を理解する。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
6	第一部 火5/12	訴訟要件、訴えの利益（2）	訴えの利益（特に確認の利益）	
		この回の到達目標	訴えの利益（特に確認の利益）について、具体的な事例をもとに理解し、説明ができるようになる。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ	内 容		
7	第一部 火 5/19	重複起訴の禁止		重複起訴の判断基準・機能 重複起訴と反訴 重複起訴と相殺の抗弁	
		この回の到達目標	重複起訴禁止の意義、趣旨、機能を理解する。 重複起訴と反訴、相殺等との関係を理解する。		
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。		120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。		120分
8	第一部 火 5/26	処分権主義と弁論主義（１）		処分権主義の意味と内容 弁論主義の第１～第３テーゼの内容と民訴法１７９条	
		この回の到達目標	処分権主義の意味と内容を理解する。 弁論主義の第１～第３テーゼを理解し、具体的事例を用いて説明できるようになる。		
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。		120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。		120分
9	第一部 火 6/2	処分権主義と弁論主義（２）		弁論主義の機能 弁論主義と裁判所の釈明権・釈明義務，消極的釈明と積極的釈明	
		この回の到達目標	具体的事例における弁論主義の機能、特に裁判所の釈明権と釈明義務について理解する。		
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。		120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。		120分
10	第一部 火 6/9	既判力（１）		既判力の客観的範囲 訴訟物と既判力 既判力の消極的作用と積極的作用	
		この回の到達目標	既判力の意味を理解する。 既判力の客観的範囲について、訴訟物との関係も含めて、具体的に説明できるようになる。		
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。		120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。		120分
11	第一部 火 6/16	既判力（２）		具体的事例における既判力の作用（訴訟物の同一性、先決関係、矛盾関係） 相殺と既判力	
		この回の到達目標	具体的事例における既判力の作用を説明できるようになる。 相殺と既判力の関係を理解する。		
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。		120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。		120分
12	第一部 火 6/23	既判力（３）		既判力の主観的範囲	
		この回の到達目標	民訴法１１５条１項各号について、事例を挙げて説明できるようになる。		
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。		120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部 火 6/30	証明と証拠（１）		証明と疎明 本証と反証 法律上の推定と事実上の推定 暫定真実
		この回の到達目標	証明の意味について理解する。 本証と反証を具体的に説明できるようになる。 法律上の推定と事実上の推定を理解し、具体的事例を挙げて説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
14	第一部 火 7/7	証明と証拠（２）		文書の証拠調べ 書証の成立、形式的証拠力と実質的証拠力 具体的事例における二段の推定
		この回の到達目標	文書の証拠調べの実際と役割を理解し、説明できるようになる。 書証の成立を理解する。 二段の推定を理解し、具体的事例で説明できるようになる。	
		事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
15	第一部 火 7/14	まとめ		民事裁判の一連の流れの中で、１回から１４回までのまとめを行う。
		この回の到達目標	１回から１４回までで学んだことを、民事裁判の一連の流れの中でどのように機能しているかを理解する。	
		事前学修	これまでの学習を振り返り、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
		事後学修	授業内容を復習し、理解が不足している個所は、参考書等を用いて学習を深めること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)B	担当者	井上 哲男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な論点について一定の時間をかけ、多くの平易な事例を用いて議論、検討、説明等を行う。民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）Aで取り上げなかった事項が対象となる。講義は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にしたいと考えている。担当者（元裁判官）の実務経験（東京高裁，東京地裁等）を活かしながら，民事訴訟の理論とその実際について理解できるような授業をしていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
訴訟の実際を踏まえつつ，民事訴訟の基本的な事項についての理解及び応用力を養成することを目的とする。具体的な事例の中で，これらの法理がどのように働くのかを受講生が説明できることを目標とする。なお，講義資料はできるだけ理解しやすいものにして，学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的に講義形式をとるが，できるだけ多くの具体的な事例問題に基づき議論，起案等を行う。レポートの提出等は求めないが，事前にレジュメを読み込んでおくことが予定されている。起案は添削して返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例や設問を適宜出題し，議論や起案を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事裁判の実際を知り，民訴法が適正な紛争解決にどのように機能しているかを理解し，議論ができる。【態度・習慣】【倫理観】					3			3				3
②	民訴法の基本原理（処分権主義，弁論主義等）が，一部請求等でどのように現れるのかを理解し，説明できる。【知識】					3			3				3
③	複雑な訴訟類型（訴えの併合，共同訴訟，参加等）の特質を理解し，具体的事例において問題点を摘出できる。【技能】					3			3				3
④	当事者の交代から生じる諸問題について理解し，説明ができる。【知識】					3			3				3
⑤	裁判によらない訴訟の完結（和解，取下げ等）の実際とその機能を理解し，紛争解決の在るべき姿について議論ができる。【態度・習慣】					3			3				3
⑥	上訴に関する特有の問題を把握し，具体的事例の下で，適切な結論を導き出すことができる。【技能】					3			3				3
⑦	具体的事例について検討した法律上の論点等を簡潔で分かり易い文章にまとめることができる。【技能】					3			3				3
⑧	学習した知識を使って，具体的事例について，民訴手続上の問題点を抽出し，説明し，議論できる。【態度・習慣】					3			3				3
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議論に参加し、自己の意見を明瞭、的確に述べるこ うできたか等を評価する。								30			30
授業への参画度	十分な予習をして、到達目標に関わる学習に取 り組み、授業において積極的に発言したか、発 言内容は適正なものであったか等を評価す る。起案をさせる場合は、その評価を含める。	10	10	10	10	10	10	10				70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	30			100

【課題に対するフィードバックの方法】
起案は解説した上、添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる民事訴訟法	和田吉弘	商事法務	2012	参考書	推奨
民事訴訟法判例百選〔第5版〕	高橋宏志ほか編	有斐閣	2015	参考書	推奨
備考	講義資料は、学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。				

【オフィスアワー】
木曜日 16時20分～18時

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		裁判官（東京高裁，東京地裁等）として，民事事件を中心に裁判実務に従事した。 裁判実務の経験を活かし，裁判の実際を紹介しながら，具体的な事例を使って説明・議論をして，民事訴訟法の論点についての理解が進むようにしていきたい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第一部 木 9/17	一部請求（１）		一部請求の意義 明示的一部請求，一部請求と外側説，一部請求の既判力，後遺症の発生と既判力
		この回の到達目標	一部請求の意義を理解し，その機能や問題点を説明することができる。外側説の概要を説明することができ，具体的な事例の中で結論を導き出すことができる。一部請求の既判力について，後遺症との関係で，その問題点を議論できる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
2	第一部 木 9/24	一部請求（２）		一部請求に対する相殺と既判力
		この回の到達目標	一部請求に対する相殺の抗弁に関する諸問題を説明することができ，具体的事例の中での確な議論ができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
3	第一部 木 10/1	請求の客観的併合，訴えの変更		請求の客観的併合，単純併合，予備的併合，選択的併合，訴えの変更の要件
		この回の到達目標	請求の併合等から生じる特有の問題について理解し，説明することができる。また，これらの論点について，具体的な事例の中で議論することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
4	第一部 木 10/8	反訴，中間確認の訴え，中間判決		反訴の要件，予備的反訴，中間確認と中間判決の異同
		この回の到達目標	反訴，中間判決，中間確認の訴え等の異同，要件，機能について，的確な説明をすることができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
5	第一部 木 10/15	共同訴訟（１）		通常共同訴訟と共同訴訟人独立の原則，共同訴訟人と主張共通の原則，主観的予備的併合，同時審判の申出
		この回の到達目標	共同訴訟における基本原則や機能を理解し，説明することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
6	第一部 木 10/22	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟，必要的共同訴訟における当事者の訴訟行為の効果
		この回の到達目標	具体的な事例の中で，共同訴訟の特有な論点について議論することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木 10/29	参加（１）	共同訴訟参加，訴えの主観的追加的併合	
		この回の到達目標	共同訴訟参加等の要件，機能について説明することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
8	第一部 木 11/5	参加（２）	補助参加，訴訟告知，参加的効力，独立当事者参加の要件・具体例	
		この回の到達目標	補助参加及び独立当事者参加の要件，問題点等を具体的な事例の中で議論することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
9	第一部 木 11/12	訴訟承継（１）	当然承継と特定承継，訴訟承継主義	
		この回の到達目標	訴訟承継の類型，基本原則等について理解し，説明することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
10	第一部 木 11/19	訴訟承継（２）	承継の基準，紛争の主体たる地位の承継と具体的事案	
		この回の到達目標	訴訟承継に関する著名事件を教材として多角的に検討し，議論することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
11	第一部 木 12/3	裁判によらない訴訟の完結（１）	取下げ，請求の放棄・認諾	
		この回の到達目標	判決以外による紛争解決手段の実際を知り，その社会的機能について説明することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
12	第一部 木 12/10	裁判によらない訴訟の完結（２）	和解の既判力，和解の無効	
		この回の到達目標	和解の瑕疵，効力等について，判例等の事例に基づいて議論することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木 12/17	上訴（１）	確定遮断効と移審，附帯控訴，上訴不可分の原則，上訴の利益	
		この回の到達目標	上訴制度の意義，機能，基本原則等について説明することができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
14	第一部 木 12/24	上訴（２）	控訴棄却，取消し，自判・差戻し，不利益変更の禁止，上告	
		この回の到達目標	上訴から生じる問題点について，具体的事例の中で議論し，結論を導き出すことができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
15	第一部 木 1/14	総復習	重要論点の確認・復習	
		この回の到達目標	これまでの学習内容を踏まえ，重要論点について議論し，自己の意見を述べることができる。	
		事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
		事後学修	授業を踏まえた総復習をすること。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する（ポータルサイト）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び開設を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合には、定期試験の解説・講評を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新ハイブリッド民法Ⅰ 民法総則』	小野秀誠、良永和隆 他3名	法律文化社	2018年	教科書	必携
『民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]』	潮見佳男・道垣内弘 人編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 12：10～13：00 研究室(4号館3階431研究室)

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	ガイダンス、民法の体系と概要	民法の体系を概観し、私法の一般法・民法の体系・民法の各編の概要と関係について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の体系について簡単に説明することができる。	
		事前学修	教科書序「民法を学ぶあたって 民法の体系の概観」を読んで、民法の体系について内容を確認しておく。	120分
		事後学修	民法の各編の概要についてまとめ、各編の関係についてノートにまとめておく。	120分
2	第一部火 9/15	民法の法源	民法の法源：民法典、民法の特別法、民法の口語化、慣習法・判例法・条理、民法の解釈：解釈基準、民法の効力について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の解釈基準の基礎的な考え方について説明し、簡単な文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法の法源、民法の解釈、民法の効力」を読んで、慣習法・判例法・条理の違いについてまとめておく。	120分
		事後学修	講義中に示された判例の事案と判旨をまとめ、民法の解釈基準についての考え方をノートにまとめておく。	120分
3	第一部火 9/22	民法上の権利	民法上の権利：権利の体系、私権の種類、私権の行使・信義則・権利の濫用の禁止、民法の指導原理と効力：民法の基本原則・指導原理、民法1条について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における権利の種類について説明することができる。	
		事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法上の権利、民法の指導原理と効力」を読んで、民法の基本原則と指導原理についてまとめておく。	120分
		事後学修	私権の種類についてノートにまとめ、民法1条の基本的な考え方について整理しておく。	120分
4	第一部火 9/22	民法における能力	権利能力：権利能力の意義、権利能力の始期、胎児、権利能力の終期、意思能力と行為能力(制限行為能力者制度)：意思能力、制限行為能力者制度、未成年者について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における能力の種類につき説明し、文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第2章人「権利能力、意思能力と行為能力(意思能力、制限行為能力者制度の意義と行為能力、未成年者)」を読んで、権利能力・意思能力・行為能力の違いについてまとめておく。	120分
		事後学修	未成年者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
5	第一部火 9/29	意思能力と行為能力	意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力と行為能力の違いについて文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第2章人「意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)」を読んで、成年後見制度についてまとめておく。	120分
		事後学修	高齢者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
6	第一部火 9/29	失踪宣告	住所：住所、居所・仮住所、不在者の財産管理、失踪宣告：失踪宣告の意義・失踪宣告の要件・失踪宣告の効果・失踪宣告の取消しと遡及効について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、住所、居所・仮住所、失踪宣告などについて説明することができる。	
		事前学修	教科書第2章人「住所、不在者の財産管理、失踪宣告」を読んで、失踪宣告の手続きについてまとめておく。	120分
		事後学修	失踪宣告が必要とされる場面について整理をし、簡単な説明ができるようにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/6	法律行為	法律行為の意義：法律行為の意味、法律行為の分類、法律行為の成立、準法律行為、法律行為の解釈：当事者の真意の探求と信義則、事実たる慣習、任意法規について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の法的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の意義、法律行為の解釈」を読んで、法律行為とは何かについて考えてみる。	120分
		事後学修	法律行為の意味、法律行為の分類についてノートにまとめ、具体的な事例にどのようなものがあるかについて考える。	120分
8	第一部火 10/6	公序良俗	法律行為の限界－強行規定および公序良俗：法律行為の限界、公序良俗、公序良俗の分類、強行規定、取締規定、脱法行為について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公序良俗の考え方について説明し、事例をあげることができる	
		事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の限界－強行規定および公序良俗」を読んで、強行規定と任意法規の違いについて考えてみる。	120分
		事後学修	公序良俗が適用される具体的な場面について、教科書を復習しつつノートにまとめる。	120分
9	第一部火 10/13	意思表示	意思表示の意義と構造：意思表示とは何か、意思の不存在と瑕疵ある意思表示を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の不存在と瑕疵ある意思表示の違いについて具体的な事例を挙げながら説明することができる、	
		事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の意義と構造、意思表示の意義」を読んで、意思表示の構造について内容を確認する。	120分
		事後学修	意思表示の基本的な考え方について整理するとともに、具体的な事例をあげて基礎的な説明ができるようにしておく。	120分
10	第一部火 10/13	心裡留保、虚偽表示	意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保と虚偽表示について具体的な事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示」を読んで、心裡留保と虚偽表示の違いについて考えてみる。	120分
		事後学修	心裡留保と虚偽表示の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。	120分
11	第一部火 10/20	錯誤・脅迫	意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤・詐欺・脅迫について具体的な事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第6章「意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫」を読んで、詐欺と強迫の違いについて整理する。	120分
		事後学修	詐欺と強迫の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。	120分
12	第一部火 10/20	意思表示の効力	意思表示の効力発生時期：問題点、問題へのアプローチ、民法が採用する考え方、表意者の死亡・意思能力の喪失・行為能力の制限、意思表示の受領能力について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の効力発生時期について具体的に文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の効力発生時期」を読んで、何が問題となっているのかについて整理する。	120分
		事後学修	意思表示の効力発生時期について、具体的な場面を想定して、その解決方法を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 10/27	前半講義まとめ	第1回講義から第12回講義までのまとめをするとともに、前期振り返りのための確認テストを実施し、あわせて解説を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を理解することができる。	
		事前学修	これまでの授業で分からなかったところを書き出しておく。	120分
		事後学修	振り返り確認テストにつき講義で解説されたことをノートにまとめる。	120分
14	第一部火 10/27	代理の意義	序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為(代理既定の適用範囲)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理の基本的考え方について説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章代理「序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。	120分
		事後学修	代理の意義、代理の種類について整理し、具体的な契約の場面で想定される代理についてインターネットで検索する。	120分
15	第一部火 11/10	代理の法律関係	代理の法律関係：代理権(本人・代理人間)、代理行為(代理人・相手方間)、代理行為の効果(本人・相手方間)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理権・代理行為・代理行為の効果について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章代理「代理の法律関係：代理権、代理行為、代理行為の効果」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。	120分
		事後学修	代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。	120分
16	第一部火 11/10	復代理	復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理と復代理の違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章代理「復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係」を読んで、復代理の法律関係について図式化してみる。	120分
		事後学修	復代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。	120分
17	第一部火 11/17	無権代理の意義	無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権」を読んで無権代理の仕組みについて整理しておく。	120分
		事後学修	無権代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、無権代理の法律関係が説明できるようにまとめておく。	120分
18	第一部火 11/17	無権代理と相続	無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の発展的事例について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理」を読んで無権代理人の責任について整理しておく。	120分
		事後学修	無権代理人と相続について、講義で紹介された判例について事案と判旨をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部火 11/24	表見代理の意義	表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理」を読んで表見代理の仕組みについて整理しておく。	120分
		事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、表見代理の法律関係が説明できるようにまとめる。	120分
20	第一部火 11/24	表見代理の類型	表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の類型について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係」を読んで代理権消滅後の表見代理について法律関係を整理しておく。	120分
		事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、無権代理と表見代理の関係について説明できるようにまとめる。	120分
21	第一部火 12/1	無効と取消し	無効と取消し：無効取消しの概念(2つの効果の相違、無効と取消しの二重効、無効または取消しの効果)、無効、取消しについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しの違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第8章「無効と取消し：無効取消しの概念、無効、取消し」を読んで、無効と取消しの違いについて整理しておく。	120分
		事後学修	具体的な契約事例ごとに、無効と取消しの法的効果がいずれが該当するかについて整理する。	120分
22	第一部火 12/1	条件と期間	付款の意義、条件(条件の意義、停止条件と解除条件、条件に親しまない行為、条件付き法律行為の効力、特殊な条件)、期限(期限の意義、条件と不確定期限、期限に親しまない行為、期限付き法律行為の効力、期限の利益)、期間(期間の意義、期間の計算方法)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期間の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第9章条件と期限、期間「付款の意義、条件、期限、期間」を読んで、契約に条件が付けられる場合について具体的な事例をあげてみる。	120分
		事後学修	条件付き契約の類型について整理するとともに、具体的な契約の場面について書き出してみる。	120分
23	第一部火 12/8	時効制度の意義	時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄(時効の援用と援用権者、時効利益の放棄)、時効の完成猶予と時効の更新(時効障害事由の再構成、時効の完成猶予と完成猶予事由、時効の更新、時効の完成猶予または時効の更新の及ぶ者の範囲)について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第10章時効「時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄、時効の完成猶予と時効の更新」を読んで、時効の存在理由についてまとめる。	120分
		事後学修	時効の援用と利益の放棄、完成猶予と更新について、具体的な事例をあげて考え方を整理する。	120分
24	第一部火 12/8	取得時効	取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第10章時効「取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効」を読んで、取得時効の類型について整理する。	120分
		事後学修	取得時効について考え方を整理したうえで、具体的事例をあげて考え方を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 12/15	消滅時効	消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書第10章時効「消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度」を読んで、消滅時効を類型別に整理する。	120分
		事後学修	消滅時効について、具体的事例をあげて要件・効果をノートに整理する。	120分
26	第一部火 12/15	法人の種類	序説：法人の種類、法人の設立について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の種類について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章法人「序説：法人の種類、法人の設立」を読んで、法人の種類を整理しておく。	120分
		事後学修	興味のある法人を選んで、当該法人の種類を調べるとともに、法人の設立について整理しておく。	120分
27	第一部火 12/22	法人の能力	法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の能力について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第3章法人「法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人」を読んで、法人の能力であげられる具体的事例を整理する。	120分
		事後学修	一般法人と公益法人の違いについて整理するとともに、法人の能力について類型別に整理する。	120分
28	第一部火 12/22	権利の客体	権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、権利の客体について具体的事例をあげながら説明することができる。	
		事前学修	教科書第4章物「権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実」を読んで、それぞれの類型別に整理する。	120分
		事後学修	権利の客体である「物」を具体的事例をあげて再度整理をし直す。	120分
29	第一部火 1/12	判例解説	講義のまとめと、民法改正、最近の判例についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例について文章にまとめることができる。	
		事前学修	これまでの講義についてよくわからなかったところを書き出しておく。具体的事例に対する条文の適用で不明確な点を整理しておく。	120分
		事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
30	第一部火 1/12	民法総則のまとめ	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期学習内容の振り返り。解説については定期試験終了後ポータルサイトに配信する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでわからなかったことが理解でき、ノートに文章をまとめることができる。	
		事前学修	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第29回の講義での解説で残された疑問点を整理し、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）【法職課程】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書および講義資料（ポータルシステムを通じて配布予定）を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験について、採点後の答案を返却した上で解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔補訂版〕	原田昌和、寺川永、 吉永一行]	日本評論社[	2018	教科書	必携
民法の基礎 1 総則〔第4版〕	佐久間毅	有斐閣	2018	参考書	任意
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15火	ガイダンス，民法総説	授業の進め方および成績評価方法について説明する。 民法とはどのような法律かについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
		事前学修	授業の対象となる領域を確認しておくこと。	120分
		事後学修	民法とはどのような法律か，および，そのうち民法総則はどのような問題を扱うか，について答えられるようにする	120分
2	9/16水	法体系における民法の位置，民法の全体像	民法総則の基本事項の確認，民法の全体像	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，民法総則の基本事項や民法の全体像について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
3	9/22火	意思表示・法律行為総説，心裡留保および虚偽表示	意思表示・法律行為総説，心裡留保，虚偽表示について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，意思表示・法律行為の意義や心裡留保，虚偽表示について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
4	9/23水	意思表示に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，意思表示・法律行為概念の意義および解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，意思表示・法律行為という概念に関する解釈上の問題とそれに対する見解を具体的に説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
5	9/29火	錯誤，詐欺・強迫	錯誤，詐欺・強迫に関する規定の内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，錯誤，詐欺，強迫に基づく意思表示について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
6	9/30水	錯誤と詐欺に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，錯誤および詐欺に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，錯誤または詐欺による意思表示の効力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6火	法律行為の有効要件	法律行為の内容の確定と有効要件について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の内容の確定と有効要件について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
8	10/7水	法律行為の有効要件に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、法律行為の有効要件に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の有効要件に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
9	10/13火	条件・期限、無効・取消し	条件・期限の付された法律行為の効力および無効・取消しの相違について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条件・期限の意義、無効と取消しの相違について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
10	10/14水	条件・期限に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、条件・期限に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件・期限に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
11	10/20火	権利の主体としての人	権利主体としての人に関する権利能力、意思能力および行為能力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利能力、意思能力および行為能力について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
12	10/21水	意思能力・行為能力に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、意思能力および行為能力に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力および行為能力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27火	小括－基本事項の確認	これまでの内容に関する理解度を確認するために、基本的事項に関する小テストを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの内容に関する基本的事項を説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返り、民法の規定を中心に基本的事項の理解を確認する。	120分
		事後学修	小テストの解説を参考にして、自らの解答を振り返り、理解が足りない部分を補っておく。	120分
14	10/28水	小括－解釈上の問題の検討	これまでの内容に関する発展的な事例を題材として、質疑応答やグループワークにより各自の理解度を高める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する解釈上の問題とそれに対する見解を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返り、解釈上の問題を確認する。	120分
		事後学修	授業で得た知見を基に、解釈上の問題について自分なりの考えをまとめる。	120分
15	11/10火	代理総説、有権代理	代理制度の基本構造について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理の内部関係・外部関係について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
16	11/11水	代理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、代理に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
17	11/17火	無権代理・表見代理	無権代理の法律関係および表見代理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無権代理行為が行われた場合の法律関係について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
18	11/18水	無権代理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、無権代理に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24火	時効	時効制度の基本構造，時効の完成を妨げる事由について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，時効制度の仕組みについて説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
20	11/25水	時効に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，時効に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，時効に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
21	12/1火	法人	法人の意義・種類，法人の行為の効力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，法人制度の概略について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
22	12/2水	法人に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，法人に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法人に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
23	12/8火	第三者保護の問題	法律行為の無効・取消しと第三者の保護について学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法律行為の無効・取消しと第三者の保護をめぐる論点について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
24	12/9水	第三者保護に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，第三者保護の問題に関する判例法理とその問題点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して，法律行為の無効・取消しと第三者の保護をめぐる論点について考察し，課題を探求できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15火	私権の行使に対する制限	私権の行使を制限する規定の内容について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、信義則および権利濫用の禁止をめぐる論点について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
26	12/16水	一般原則に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、一般条項の適用と解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、一般条項の適用および関係する論点について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
27	12/22火	まとめと授業内試験	民法総則に関する理解度を確認するために筆記試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	対象範囲全体について、教科書、講義資料およびノートを参考にして、重要と思われる点を確認しておく。	120分
		事後学修	試験問題をノートや教科書等を参考に再検討する。	120分
28	12/23水	授業内試験の解説	授業内試験の解説をするとともに、質疑応答等により理解度を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	授業内試験について、自分なりの模範解答を準備する。	120分
		事後学修	解説講義を受けて、自らの理解度を確認し、足りない部分を補う。	120分
29	1/12火	民法総則の意義と物権法・債権法への	民法総則の内容を復習することにより、物権法および債権法を理解する上で必要となる事項を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の構造、物権法および債権法の基本的な考え方について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
30	1/13水	民法の現代的課題	現代的問題を題材に、民法が直面する課題について検討する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の現代的課題を説明し、それに対する解決策を探究することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を復習し、不明な点があれば、あらかじめまとめておくこと。	120分
		事後学修	授業全体を通じて得られたものを再確認しておくこと。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書およびポータルシステムにて配信する講義資料を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔第2版〕	中舎寛樹	日本評論社	2018	教科書	必携
民法入門・総則〔第5版〕	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/21	ガイダンス，民法総則の構造と民法の歴史	履修条件を満たし得ることを確認した上で，シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標，授業方法，成績評価の基準，教科書・参考書について説明し，次回以降，受講生が授業に参加できるよう，その準備や心構えを促すとともに，民法総則の構造と民法の歴史について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法総則の構造と民法の歴史について説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し，授業概要を踏まえつつ，各回の授業内容を読み込む。	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し，教科書・参考書・六法・ノートの購入等，受講に向けた具体的準備を行うとともに，教科書第1章・第2章（1～26頁）を読み，授業のテーマについて再検討する。	120分
2	4/24	基礎①：民法の基本原則，権利の主体・客体	民法の基本原則，民法における権利の主体と客体について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法の基本原則，権利の主体・客体について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章・第4章（27～59頁）を読み，民法の基本原則について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
3	4/28	基礎②：法律行為総論	権利変動の原因と法律行為，法律行為の種類，準法律行為，法律行為の成立要件・有効要件について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法律行為の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第5章（60～73頁）を読み，法律行為の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
4	5/1	基礎③：契約の成立，条件・期限	法律行為・意思表示の効力発生時期，契約の成立時期，条件，期限について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の成立，条件・期限について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章（88～111頁）を読み，契約の成立，条件・期限について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
5	5/5	基礎④：契約の無効原因	法律行為遵守の原則を説明した上で，法律行為の実現不可能性，法律行為の不完全性について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の無効原因について説明できる。	
		事前学修	教科書第8章（112～126頁）を読み，契約の無効原因について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
6	5/8	基礎⑤：意思能力，行為能力	意思無能力，制限行為能力者制度，成年後見制度，任意後見制度について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，意思能力，行為能力について説明できる。	
		事前学修	教科書第9章（127～152頁）を読み，意思能力，行為能力について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/12	基礎⑥：虚偽表示	意思表示の意義・構造・基本原理について説明した上で、心裡留保、虚偽表示について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、虚偽表示について説明できる。	
		事前学修	教科書第10章～第12章（153～191頁）を読み、虚偽表示について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	5/15	基礎⑦：錯誤	錯誤の意義・要件・効果、基礎事情錯誤について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、錯誤について説明できる。	
		事前学修	教科書第13章（203～222頁）を読み、錯誤について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	5/19	基礎⑧：詐欺・強迫	詐欺、強迫、第三者の保護について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、詐欺・強迫について説明できる。	
		事前学修	教科書第14章（223～231頁）を読み、詐欺・強迫について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	5/22	基礎⑨：強行法規、公序良俗	強行法規違反、公序良俗違反の意義・効果について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、強行法規、公序良俗について説明できる。	
		事前学修	教科書第16章（246～270頁）を読み、強行法規、公序良俗について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	5/26	基礎⑩：無効・取消し	無効の多様化、無効行為の転換、取消後の法律関係、二重効について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無効・取消しについて説明できる。	
		事前学修	教科書第17章（271～297頁）を読み、無効・取消しについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	5/29	基礎⑪：代理総論	他人による法律行為の諸態様、代理の意義・要件、代理権の授与、代理権濫用、代理行為について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代理の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第18章のうち298～333頁を読み、代理の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/2	基礎⑫：無権代理	無権代理，表見代理の意義・効果，代理権授与表示による表見代理，権限外行為の表見代理，代理権消滅後の表見代理について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，無権代理について説明できる。	
		事前学修	教科書第18章のうち333～379頁を読み，無権代理について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
14	6/5	基礎⑬：時効総論	時効制度の存在理由を，時効の法律構成，時効の完成，時効援用，時効利益の放棄について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，時効の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち380～400頁を読み，時効の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
15	6/9	基礎⑭：取得時効，消滅時効	所有権の取得時効，所有権以外の財産権の取得時効，消滅時効の対象となる権利，消滅時効の期間・起算点，消滅時効に類似する制度について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取得時効と消滅時効の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち400～429頁を読み，取得時効，消滅時効について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
16	6/12	基礎⑮：団体の法理	法人の意義・必要性・種類，法人制度の改革，法人の設立・組織，法人の能力・代表，法人制度と実体との調整について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法人制度の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第20章（430～470頁）を読み，団体の法理について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
17	6/16	基礎⑯：一般条項，まとめ(1)	私権行使の基本原則，信義誠実の原則，権利濫用の禁止について説明し，理解させるとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，一般条項について説明できる。	
		事前学修	教科書第21章（471～491頁）を読み，一般条項について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
18	6/19	中間テスト及びまとめ(2)	中間テストを実施するとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち，欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し，中間テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	中間テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	6/23	中間テストの講評	中間テストの採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中間テストの問題について考察し、課題を探究できる。
		事前学修	中間テストで扱われたテーマについて、再度教科書等にあたって考察する。120分
		事後学修	テストの講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等にあたって確認し、再検討する。120分
20	6/26	発展①：民法の解釈と契約の解釈	民法の解釈、法律行為の解釈、法律行為の補充・修正について説明し、理解させる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の解釈と契約の解釈について説明できる。
		事前学修	教科書第6章（74～87頁）を読み、民法の解釈と契約の解釈の違いについて考察する。120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。120分
21	6/30	発展②：民法94条2項の類推適用	不動産取引と登記の公信力、判例による民法94条2項類推適用の発展過程、類推適用の要件・射程範囲、権利概観法理について説明し、理解させる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法94条2項の類推適用法理について説明できる。
		事前学修	教科書第12章のうち191～202頁を読み、民法94条2項の類推適用法理について考察する。120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。120分
22	7/3	発展③：消費者契約法	消費者契約法の目的・対象を説明した上で、誤認取消し、困惑・過量取引取消し、不当条項規制について説明し、理解させる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者契約法について概括的に説明できる。
		事前学修	教科書第15章（232～245頁）と第16章のうち255～258頁を読み、消費者契約法について考察する。120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。120分
23	7/7	発展④：無権代理と相続	無権代理人相続型、本人相続型、共同相続型、二重相続型、追認拒絶後相続型、後見人兼任型について説明し、理解させる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理と相続の問題について説明できる。
		事前学修	教科書第18章のうち344～349頁を読み、無権代理と相続の問題について考察する。120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。120分
24	7/10	発展⑤：表見代理の諸問題	白紙委任状と民法109条、名称の使用許可、民法110条の基本権限、法定代理における表見代理について説明し、理解させる。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、について説明できる。
		事前学修	教科書第18章のうち349～379頁をもう一度読み、表見代理の諸問題について考察する。120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/14	発展⑥：取得時効の諸問題	取得時効と登記，不動産賃借権の時効取得，抵当権の時効消滅について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，表見代理の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち400～411頁をもう一度読み，取得時効の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
26	7/17	発展⑦：消滅時効の諸問題	保証と消滅時効の援用，形成権と消滅時効，除斥期間について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，消滅時効の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第19章のうち411～429頁をもう一度読み，消滅時効の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
27	7/21	発展⑧：成年後見制度の諸問題	障害者権利条約と意思決定支援，法定後見制度の問題点，任意後見制度の問題点について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，成年後見制度の諸問題について説明できる。	
		事前学修	教科書第9章のうち135～152頁をもう一度読み，成年後見制度の諸問題について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
28	7/28	授業内試験及びまとめ(3)	授業内試験を実施するとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち，欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し，授業内試験に向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分
29	7/30	授業内試験（予備日）及びまとめ(4)	これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに，やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し，授業内での質問事項をまとめる。	120分
		事後学修	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について，その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し，再検討する。	120分
30	8/3	授業内試験の講評	授業内試験の採点結果を踏まえ，特に誤りがちであった点を中心に講評し，随時質問を受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，授業内試験の問題について考察し，課題を探究できる。	
		事前学修	授業内試験で扱われたテーマについて，再度教科書等に当たって考察する。	120分
		事後学修	試験の講評内容やその後の質疑応答について，その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し，再検討する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
1年次および2年次以降の学生を対象とする。学習効果を上げるために、憲法・刑法を学んでいることが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅰ——総則〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	山田卓生ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9/14	【ガイダンス】民法総則を学ぶ意義／民法とは？	私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法とはどのような法律か、また、民法典がどのような理念に基づいて編纂されたを理 解し、説明することができる。	
		事前学修	六法を手に取り、ポイントとなる民法典の規定を人の一生という観点から概観する。併せて、教科書の全体 を2・3回ほど通読する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
2	第一部水 9/16	民法の基本原理、民法典の 編別とパンデクテン体系	民法典の基本原理、理念と基本原理、民法典の編別などについて、民法が理念として掲げる自由 と平等という観点から、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が権利の主体である人の権利・義務を、その誕生から死亡に至るまでを5つの編 に分けながら、パンデクテン方式をもって体系化していることについて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、近代私法の諸原則——法律行為自由・所有権絶対・過失責任の各原則、 および法的人格の平等——を把握しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
3	第一部水 9/21	権利能力・意思能力・制限 能力	権利能力・意思能力・制限能力と相互の関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の主体である人の能力について、権利能力・意思能力・制限能力のそれぞれの意義 と相互の関係について、ポイントとなる民法典の規定を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の主体である人（自然人）とは何か。人は出生から死亡に至るまで どのような法的地位を有するかを、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
4	第一部水 9/23	住所と失踪宣告、同時死亡 の推定	権利の主体に関して、住所、失踪宣告、同時死亡の推定	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生活の本拠である住所の意義と、最後の住所地を去って行方が知れない者の法律関係に ついて、不在者の財産管理、失踪宣告による身分・財産関係の整理という観点から、説明することができる。ま た、併せて、所有者不明の不動産について、不在者の財産管理の観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、人が活動する生活の本拠「住所」とは何か、人が行方不明になった場合 の取扱いなどについて把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
5	第一部水 9/28	制限行為能力者・成年後見 制度——未成年者・事理弁 識能力が欠如する者	到達目標①②に関連して、未成年者と事理弁識能力が欠如する者について、権利の主体の観点か ら、制限行為能力者制度および成年後見制度を学修する。	
		この回の到達目標	制限行為能力者制度について、未成年者とそれ以外の事理弁識能力が欠如する者（3類型）を区別したうえで、民 法典の規定を挙げながら、その概要を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、未成年者や事理弁識能力が欠如する者について、民法上、どのような処 遇がなされるのかを、民法典の規定に即して把握しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
6	第一部水 9/30	法人制度概説	法人制度の意義と概略、その基本的な仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自然人と並ぶ権利の主体である法人について、その意義を明らかにししたうえで、社団 と財団、営利と非営利などに分類しながら、法人格を取得する手続を説明することができる。また、民法上の法人 として、公益法人の設立、法律関係などを説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、自然人以外で権利能力の帰属主体となりうる法人について、公益・営利の観点から分類す るとともに、法人制度の意義・内容について、その概要を理解しておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/5	権利の客体	権利の客体に関して、物の分類・種類、不動産と動産、土地の定着物と従物・付合物・付加物の区別について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有体物を不動産と動産に区別する意義、不動産の定着物と従物・付合物・付加物との関係、地上建物（マンションを含む）などについて、民法典の規定を挙げながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の客体である「物」について、不動産・動産の観点から把握する。民法典には、不動産・動産と並んで、定着物・従物・付合物・付加物や果実などの分類もあるので、相互の関係に注意が必要である。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
8	第一部水 10/7	権利の客体と無体物、知的財産	無体物と知的財産について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、無体物は民法上どのように扱われるのか、民法と特許・発明などの知的財産とはどのような関係にあるのか、民法その他の法律の規定を挙げながら、説明することができる。また、有体物主義の問題点を挙げて、無体物に関する権利のあり方について、議論することができる。、	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物理的に触知しえない物（無体物）について、民法典はどのような取扱いをしているかを把握しておく。あわせて、無体物に対する権利にはどのようなものがあるか、これについても調べておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
9	第一部月 10/12	法律行為制度——概説	意思表示における意思主義と表示主義、任意法規と強行法規について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思の自律と私的自治の原則の観点から、法律行為の意義を明らかにし、法律行為の種類・内容について、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
10	第一部水 10/14	公序良俗、強行法規	公序良俗違反の法律行為とその解釈などについて、法律行為の有効・無効という観点から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、公序良俗違反の法律行為が無効とされる場合とはどのようなことをいうのか、法律行為の自由に対する制限について、わが国の裁判例を整理したうえで、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
11	第一部月 10/19	意思表示と法律行為——民法典における意思主義と表示主義	意思表示の意義、契約と法律行為との関係、意思表示における意思主義と表示主義について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の意味を明らかにしたうえで、契約と法律行為との関係について、意思主義と表示主義という観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
12	第一部水 10/21	心裡留保と通謀虚偽表示	法律行為を構成する意思が欠如する場合に、民法典にはどのような規定が設けられているかを理解し、意思表示論の観点から、心裡留保と通謀虚偽表示について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法が規定する心裡留保・通謀虚偽表示とはどのようなことをいうのか、典型例を挙げながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 10/26	錯誤	法律行為に関する錯誤の意義と種類、動機の錯誤について、意思表示論の観点から、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為のの錯誤を内心的効果意思を中心に分類したうえで、動機などの前提条件に関する錯誤がどのように扱われるか、民法典の規定に即して、説明することができる。／また、近時の債権法改正に伴って改正された錯誤規定について、その概要を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
14	第一部水 028	詐欺・強迫と消費者契約法	民法上の詐欺・強迫、および、沈黙による詐欺、不退去などを規定する消費者契約法について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法上の詐欺・強迫の意義、要件・効果を明らかにしたうえで、裁判例を検討し、また、その不備ないし限界を補うために消費者契約法に設けられた誤認・困惑などを理由とする取消しについて、その制度趣旨を理解し、民法上の詐欺・強迫との関係を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、消費者関連基本三法の1つである消費者契約法についても調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
15	第一部月 11/9	法律行為の無効・取消と第三者の保護	法律行為の無効・取消に関して、第三者の保護が問題となる場面を取り上げて、善意者保護制度の観点から学修する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が錯誤や詐欺・強迫などを理由に取り消された場合に、その事情を知らないで取引関係に入った第三者を保護するために民法典にはどのような規定が設けられているか、争われた裁判例の事案を紹介しながら、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、法律行為が無効・取消となった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
16	第一部水 11/11	代理制度——総論	代理制度の意義、代理の種類と類似する他の制度（委任、間接代理、信託など）について、私的自治の補充・拡張という観点から、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度の意義、代理の種類と構造について、民法典が定める代理は直接代理であることを理解し、他の類似する制度と比較・対比しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理制度の意義について理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
17	第一部月 11/16	代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理	代理制度に関して、代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理の問題を取り上げ、これについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、代理権の濫用とはどのようなことをいうのか、また、代理権が濫用された場合の効果について、基本となる裁判例を挙げて、問題点を整理したうえで、具体的に説明し、または議論することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理権が濫用された場合の本人保護と相手方の関係について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
18	第一部水 11/18	表見代理	代理における無見代理に関して、表見代が成立する場面を、表見代理の3類型の即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める表見代の意義、要件・効果について、過去の裁判例に現れた事案を整理し、説明するとともに、問題点について議論することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、適法かつ有効な有権代理と無権代理、および表見代理との関係について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部月 11/23	代理をめぐる解釈上の諸問題	代理をめぐる解釈上の問題のうち、代理と相続の問題を取り上げ、判例・学説の議論を踏まえながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、相続と代理をめぐる問題の3類型を整理しながら、その問題点を明らかにし、解決法理について説明し、議論することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理をめぐる解釈上の諸問題について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
20	第一部水 11/25	法律行為の無効・取消し	法律行為の無効・取消しに関し、その意義と効果、取消しの遡及効、出費節約の法理、原状回復などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が無効となり、あるいは、取消権の行使により遡及的に無効とされる場合に、当事者間の法律関係と第三者との関係を、民法典の規定に即しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為が無効・取消しとなった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
21	第一部月 11/30	無効行為の転換	法律行為の無効に関し、無効の意味と無効行為の転換について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為の効力が全部または一部否定される場合に、無効な法律行為が他の目的のために存続する例を、教科書に挙げられた基本的裁判例を紹介しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、無効行為の転換とはどのようなことをいうのか、無効行為の転換によって無効な法律行為が一定の要件のもとに有効とされる場合があるかを、検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
22	第一部水 12/2	条件・期限、期間	民法典が定める条件・期限、および期間の意義と民法上の原則について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める条件・期限、および期間について、法律行為の効力発生要件という観点から、売買や金銭消費貸借などの基本となる契約を例に挙げながら、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為の効力発生要件である条件・期限、および期間について検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
23	第一部月 12/7	時効一総論	時効の意義、時効制度が設けられた意義（存在理由）などについて、民法典の規定に即して、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効の意義、時効制度の存在理由について、時効の援用の意義を明らかにしながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度について調べてみよう。なぜこのような制度が必要とされるのか、時効制度の存在理由はどこにあるのか。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
24	第一部水 12/9	時効と類似するその他の制度	時効と類似するその他の制度、時効と除斥期間との関係について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効と類似するその他の制度として、どのような制度があるか、また、時効期間と除斥期間はどのように区別して扱われるかについて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効と類似する除斥期間などの制度を調べ、違いを検討してみよう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部月 12/14	取得時効	時効制度のうち、取得時効の意義、要件・効果について、学修する。、	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の意義、要件と効果について、自主占有の意義、起算点と遡及効、所有権の原始取得などの点に留意しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効について理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
26	第一部水 12/16	取得時効と即時取得	取得時効と即時取得との関係について、動産取引を例に挙げながら、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の目的物が動産である場合に、即時取得を定めた民法192条との関係について、判例・学説を整理し、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効と関連する即時取得について、理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
27	第一部月 12/21	消滅時効	時効制度のうち、消滅時効の意義、要件・効果について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消滅時効の意義、要件と効果について、各種の債権を整理・分類しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、消滅時効について理解を深める。（2時間）	120分
		事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
28	第一部水 12/23	時効制度と民法改正	債権法改正に関連して、時効制度の改正点と問題点、課題について整理し、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、時効制度が債権法改正に際してどのように改正されたのか、主要な改正点を理解し、その概要と問題点について、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度の問題点などを検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
29	第一部水 1/13	一般条項と民法典	民法典が定める一般条項につき、公共の福祉、信義則、権利の濫用を取り上げ、学修する。併せて、民法典を取り巻く私法の現状と課題について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、公共の福祉、信義則、権利の濫用の意義・概念を理解し、これらをめぐる代表的な裁判例を挙げて、具体的に説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、公共の福祉、信義則、権利の濫用のそれぞれの意義・概念について、基礎知識を得ておく。併せて、教科書に掲載の基本判例を調べてみる。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
30	第一部月 1/18	総括と質疑応答	これまで学んできた授業を振り返り、民法総則の意義・内容を整理し、総括する。 (受講者数によっては、最終授業回において、定期試験に代えて授業内試験を行う)	
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、民法に関する基礎知識を総則の規定を中心に整理し、民法が理念として掲げる自由と平等という観点から私法の基本原理について、説明することができる。	
		事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。試験の講評、解説はポータルサイトで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記授業方法の中で学生の主体的な意見の表明を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムによる

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則	藤村和夫	信山社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室：本館7階、1714室メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を素材として講義に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月16日	民法の意義	授業の進め方の説明、基本的事項（１）	
		この回の到達目標	民法の意義を説明できる。	
		事前学修	教科書～18頁を読んでおく（以下、同様）。	120分
		事後学修	民法とは、およそどういうものであるかに思いを致してみる。	120分
2	9月18日	民法の基本原則	基本的事項（2）	
		この回の到達目標	民法の基本原則を説明できる。	
		事前学修	18頁～23頁。	120分
		事後学修	近代私法の三大原則および民法上の基本原則とはどういうものを理解する。	120分
3	9月23日	権利主体	権利主体としての自然人	
		この回の到達目標	民法上の権利主体について説明できる。	
		事前学修	25頁～30頁。	120分
		事後学修	権利能力についての理解を確かなものにする。	120分
4	9月25日	権利能力	権利能力、制限行為能力者（１）	
		この回の到達目標	制限行為能力者について説明できる。	
		事前学修	30頁～39頁。	120分
		事後学修	制限行為能力者の意義について理解する。	120分
5	9月30日	制限行為能力者	制限行為能力者（２）	
		この回の到達目標	複数の制限行為能力者に関する関係を説明できる。	
		事前学修	39頁～45頁。	120分
		事後学修	制限行為能力者の種類とその違いを理解する。	120分
6	10月2日	任意後見制度	制限行為能力者（３）	
		この回の到達目標	任意後見制度について説明できる。	
		事前学修	45頁～54頁。	120分
		事後学修	任意後見制度等についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月7日	制限行為能力者	制限行為能力者の相手方の保護	
		この回の到達目標	制限行為能力者の相手方の保護について説明できる。	
		事前学修	54頁～61頁。	120分
		事後学修	制限行為能力者の相手方がどのように保護されるかについて理解する。	120分
8	10月9日	不在者	失踪宣告、住所	
		この回の到達目標	失踪宣告について説明できる。	
		事前学修	61頁～70頁。	120分
		事後学修	失踪宣告の意義について理解する。	120分
9	10月14日	権利の客体	権利の客体としての物	
		この回の到達目標	権利の客体について説明できる。	
		事前学修	71頁～75頁。	120分
		事後学修	権利の客体にはどのようなものがあるかを確認する。	120分
10	10月16日	法律行為	法律行為一般	
		この回の到達目標	法律行為の意義を説明できる。	
		事前学修	77頁～85頁。	120分
		事後学修	法律行為の意義を確認する。	120分
11	10月21日	意思表示	意思表示（1）	
		この回の到達目標	意思表示の意義を説明できる。	
		事前学修	86頁～92頁。	120分
		事後学修	意思表示の意義を理解する。	120分
12	10月23日	意思表示	意思表示（2）	
		この回の到達目標	無効な意思表示のうち、虚偽表示について説明できる。	
		事前学修	92頁～110頁。	120分
		事後学修	虚偽表示とは何かを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	10月28日	意思表示		意思表示（3）
		この回の到達目標	錯誤について説明できる。	
		事前学修	110頁～120頁。	120分
		事後学修	錯誤についての理解を確実なものにする。	120分
14	10月30日	意思表示		意思表示（4）
		この回の到達目標	瑕疵ある意思表示について説明できる。	
		事前学修	121頁～132頁。	120分
		事後学修	瑕疵ある意思表示とは何かを理解する。	120分
15	11月6日	意思表示		意思表示（5）
		この回の到達目標	消費者契約法による取消について説明できる。	
		事前学修	132頁～139頁。	120分
		事後学修	消費者契約法ではどのような規制があるのかを理解する。	120分
16	11月11日	代理		代理総説
		この回の到達目標	代理の意義について説明できる。	
		事前学修	139頁～143頁。	120分
		事後学修	代理の意義と法的構成について理解する。	120分
17	11月13日	代理		代理権
		この回の到達目標	代理権について説明できる。	
		事前学修	143頁～154頁。	120分
		事後学修	代理権を巡る基礎的な理解を確実にする	120分
18	11月18日	代理		代理行為（1）
		この回の到達目標	代理権の濫用について説明できる。	
		事前学修	154頁～158頁。	120分
		事後学修	代理権の濫用と消滅について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	11月20日	代理		代理行為（2）
		この回の到達目標	代理行為について説明できる。	
		事前学修	158頁～164頁。	120分
		事後学修	代理行為についての理解を深める。	120分
20	11月25日	無権代理		無権代理と表見代理
		この回の到達目標	無権代理とは何かを説明できる。	
		事前学修	164頁～174頁。	120分
		事後学修	無権代理と表見代理の意義を理解する。	120分
21	11月27日	無権代理		狭義の無権代理
		この回の到達目標	協議の無権代理について説明できる。	
		事前学修	175頁～192頁。	120分
		事後学修	無権代理人の責任等について理解する。	120分
22	12月2日	無効と取消		無効および取消
		この回の到達目標	無効と取消の意義を説明できる。	
		事前学修	192頁～206頁。	120分
		事後学修	無効と取消の意義と効果について理解する。	120分
23	12月4日	条件と期限		条件および期限
		この回の到達目標	条件と期限の意義を説明できる。	
		事前学修	206頁～216頁。	120分
		事後学修	条件と期限の意義と効力について理解する。	120分
24	12月9日	期間		期間、時効総説
		この回の到達目標	期間計算ができる。	
		事前学修	217頁～222頁。	120分
		事後学修	期間の意義と時効制度の存在理由について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月11日	時効	時効（１）	
		この回の到達目標	時効制度の存在理由を説明できる。	
		事前学修	223頁～242頁。	120分
		事後学修	取得時効の意義と効果を理解する。	120分
26	12月16日	時効	時効（２）	
		この回の到達目標	債権の消滅時効について説明できる。	
		事前学修	242頁～260頁。	120分
		事後学修	債権および債権以外の消滅時効について理解する。	120分
27	12月18日	時効	時効（３）	
		この回の到達目標	消滅時効類似の制度について説明できる。	
		事前学修	260頁～279頁。	120分
		事後学修	消滅時効類似の制度と時効中断について理解する。	120分
28	12月23日	時効	時効（４）	
		この回の到達目標	時効の援用と放棄について説明できる。	
		事前学修	279頁～302頁。	120分
		事後学修	時効の援用と時効利益の放棄について理解する。	120分
29	12月25日	法人	権利主体としての法人（１）	
		この回の到達目標	法人とは何かを説明できる。	
		事前学修	303頁～338頁。	120分
		事後学修	法人の意義と種類、法人の設立について理解する。	120分
30	1月13日	法人	権利主体としての法人（２）	
		この回の到達目標	法人の権利主体について説明できる。	
		事前学修	338頁～356頁。	120分
		事後学修	法人の能力等について理解する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
義形式により配布レジュメに沿って授業を進める。民法総則では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、これは皆さんが主体的に授業に参加することを目的に設けたものである。つまり、空欄だけが重要なのではない。皆さんには、空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、私の説明もしっかりと聞き、メモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修人数によっては、適宜、質問をしたり、問題演習をすることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での小テストの解説、ポータルサイトを通じての試験の採点講評

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新ブリメール民法1 民法入門・総則〔第2版〕	中田＝後藤＝鹿野	法律文化社	2020	教科書	必携
民法総則（日評ベーシックシリーズ）〔補訂版〕	原田＝寺川＝吉永	日本評論社	2018	教科書	推奨
ユーリカ民法1 民法入門・総則	田井監修、大中編	法律文化社	2019	教科書	推奨
民法判例百選 総則・物権〔第8版〕	潮見＝道垣内編	有斐閣	2018	参考書	任意
START UP！民法1 総則 判例30！	原田＝秋山＝山口	有斐閣	2017	参考書	任意
最新版の六法		各自の好みでどうぞ			
備考	上記はあくまでも参考です。自身の学修目的に応じた教科書を1冊購入してください。教科書の使用方、内容については第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜3時限（授業前後にアポイントメントをとってもらえると助かります。その他の時間でも適宜対応します）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	ガイダンス、民法とは何か、民法総則の位置づけ	まずガイダンスとして、受講上の注意、授業の進行方法、教科書・参考書の使用法、成績評価方法について説明します。そのため、第1回目から出席してください！その後、民法総則とは何か、民法における民法総則の位置づけについて学びます。	
		この回の到達目標	この授業の到達目標を確認し、単位を修得するためにはどのような学修が必要であるのかを理解する。	
		事前学修	なぜ民法Ⅰを履修するのか、ほかにどのような科目を履修すれば効果的に学習することができるのか授業計画を立てること。	120分
		事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。以下の教科書数は、プリメール民法〔シラバス作成時点では初版〕のページ数を記載している。教科書2～43頁を読み、民法の全体像、基礎知識を復習しておくこと。	120分
2	9月16日	民法とは何か、権利能力	第1回に引き続き、民法とはどのような法であるのかを概観します。その後、権利能力について学びます。権利能力とは、私法上の権利を有したり、義務を負ったりする資格のことです。民法3条1項では、「私権の享有は、出生に始まる」とされます。それでは、まだ出生していないが、お腹の中では生きている胎児には権利能力が認められるのでしょうか。認められるとすれば、それはどのような場合でしょうか。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利能力の意義、権利能力制度が設けられた趣旨を理解し、説明できるようになること。	
		事前学修	教科書22～25頁、45～49頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	9月22日	権利能力・失踪宣告、意思能力	前回に続いて、権利能力制度をみたのち、失踪宣告制度の概要について学びます。その後、重度の認知症を患った高齢者が持っていた指輪を売却してしまった場合を例にあげて「意思能力」について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利能力制度や失踪宣告制度の趣旨、意思能力の意義について具体例を用いて説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書45～51頁、68～71頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	9月23日	意思能力、行為能力①	まず、意思能力制度の問題点をみます。そのうえで、「制限行為能力」制度の必要性やその概要について学びます。例えば、未成年者が親の同意を得ずにバイクを購入してしまった場合に契約の効力はどうか、という問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、意思能力制度にはどのような問題点があるのか、制限行為能力制度がなぜ必要なのか、制限行為能力制度にはどのような類型があるのかについて具体例を用いて説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書51～68頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	9月29日	行為能力②、問題演習	前回の授業でみたように、未成年者は原則として自分で有効に契約を締結することができず、保護者の同意を得ずに契約を締結した場合、契約を取り消すことができます。それでは、未成年者が契約をする際に契約の相手方に対して「自分が成人である」と偽っていた場合には契約を取消しできるのでしょうか。この回では、制限行為能力制度の相手方の保護について学ぶとともに、制限行為能力制度を題材に論述演習をする予定です。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、未成年者が保護者の同意を得ずに契約をした場合やその場合の相手方の保護の規律について具体例を用いて説明できるようにすること。また到達目標①・②・③・④に関連して、事例問題の検討方法（論述問題の作成方法）について理解できるようにすること。	
		事前学修	教科書51～68頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。事例問題の検討方法を復習する。	120分
6	9月30日	権利の客体としての「物」、意思表示・法律行為、	まず次回以降の授業で必要となる権利の客体としての「物」、動産と不動産について学びます。その後、これも次回以降の授業で必要となる「意思表示」「法律行為」とは何か、ということをみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、「物」「意思表示」「法律行為」について具体例を用いて説明できるようにすること。	
		事前学修	教科書72～76頁、112～117頁、144～147頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	10月6日	心裡留保、通謀虚偽表示	この回では、法律行為の具体例として、まず心裡留保を学びます。例えば、Aが自身が所有するパソコンをBに売るつもりがないのに、「5万円で売ってあげる」とBに冗談で言った場合に契約の効力はどうなるのか、またBがこのパソコンをCに転売する契約を締結していた場合はどうなるのか、ということを見ていきます。次に虚偽表示について学びます。例えば、AはGから1000万円を借りていますが、返済の目途が立たません。このままでは、自分が所有する甲土地がGに差し押さえられてしまう…。そう考えたAは、Bに相談して、甲土地をBに売ったことにしました。その後、Bは、甲土地をCに売ってしまいました。このとき、Aは、甲土地をCから取り戻せるのかという問題を考えます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、心裡留保・通謀虚偽表示の具体例、その場合に民法は「なぜ」「どのような」規律を設けているのか（制度趣旨）を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、民法94条2項の第三者の保護要件として「登記」や「無過失」まで必要かどうかについて検討できるようになること。
		事前学修	教科書144～155頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
8	10月7日	94条2項類推適用	Aから甲土地を買い受けたBが、実際には所有権をCに移転する意思がないのに、Aから直接Cへの移転登記を行いました。その後、Cは甲土地をDに売却しました。このような場合は、94条2項を適用できません。そこで、94条2項を「類推適用」することでDを保護することができるか、ということが問題となります。この回では、上記例を題材に、「類推適用」とは何か、民法94条2項の制度趣旨を踏まえて、どのような場合に94条2項の類推適用が認められているかということ学びます。また民法94条2項の第三者からの転得者は保護されるのか、という問題も学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、民法94条2項の制度趣旨（権利外観法理）をふまえて類推適用ができるのか、「登記に公信力がない」こととの関係でどこまでの範囲で類推適用が認められるのかについて、具体的な事例を題材に自分の意見を述べられるようになること。
		事前学修	教科書155～158頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
9	10月13日	錯誤	「100,000円」で売却するはずのパソコンを「10,000円」で売却してしまった…とある有名な画家の本物の絵画であると信じて絵画甲を高値で買ったが甲は実際には偽物だった…。このような事例を対象として、「錯誤」について学びます。改正民法によると、前者のパソコンの事例は「意思欠缺錯誤」、後者の絵画の事例は「基礎事情錯誤」と呼ばれるところ、その要件が異なっていますので、各要件の内容を詳しく学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、錯誤が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのか、なぜ効果は取消しなのか、を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、判例を参照しつつ錯誤の各要件をどのように解釈するのかを踏まえ、錯誤の事例問題に対して、法的根拠に基づき自己の意見（錯誤取消しの成否）を示すことができるようになること。
		事前学修	教科書158～175頁、125頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
10	10月14日	詐欺・強迫、意思表示の取消しと第三者	人式の着物の着付けについて「万全のサポート」とチラシに書いていたのに式の当日に着物の着付けをしてくれなかった…。この回では、このような例をあげて、詐欺や強迫による契約の取消しについてみていきます。また、AがBに騙されて甲土地を売却したが、契約を取消す前に、甲がBからCに売却されてしまった場合、Aは甲をCから取り戻せるのか、という問題も検討します。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、詐欺や強迫が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのかを説明できるようになること。到達目標③・④に関連して、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺の第三者が条文上異なっている理由を説明できるようになること。
		事前学修	教科書176～183頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。
11	10月20日	消費者契約法	消費者の被害の救済を図る方法として、民法の特別法である消費者契約法があります。この回では、まず消費者契約法の目的やその対象をみます。その上で、甲マンションの売買契約の際に、販売業者が甲の隣に乙マンションが建設されることを知りながら「日当たり抜群！」とお客さんに説明をした場合や、スポーツクラブが「このクラブの利用に際して一切の損害賠償責任を負わない」という条項を定めていた場合などを例にあげて、消費者契約法による契約締結過程や不当条項の内容規制を学びます。
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、消費者契約法がなぜ制定され、どのような範囲を対象にしているのか、具体例を題材に消費者契約法の規律を説明できるようになること。
		事前学修	教科書187～200頁を読むこと。
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	10月21日	法律行為の内容確定と有効要件	民法では、当事者間で自由に契約内容を決めることができます。しかし、殺人契約や麻薬の売買契約、金銭を得て不倫関係をやめる契約は、認められません。公序良俗（民法90条）に反するからです。それでは、どのような行為が公序良俗にあたり、無効となるのでしょうか。例えば、愛人の生活を保全するためになされた遺贈は無効か、食品衛生法に違反するアラレを販売したことは民法上どのように評価されるのでしょうか。この回では、こうした例をあげて、公序良俗について学びます。また契約解釈の基準についてもみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、公序良俗にはどのような具体例があるのか、取締規定に違反した場合の効力はどうなるのか、について具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書117～142頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
13	10月27日	条件・期限、取消し・無効	「3年以内に結婚したらご祝儀で10万円あげるわ」と友達に約束した、「留年したらもう仕送りを送らない」と親に言われてしまった、20歳の誕生日が来たら御祝いをもらおう。こうした例を参考に、法律用語としての「条件」「期限」について学びます。また授業の後半では、これまでの授業で登場してきた「無効」「取消し」に関する規律をもう少し詳しく学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、条件・期限の意義について具体例を用いて説明できるようになること、取消しと無効の違いについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書243～275頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	10月28日	第2回目～第13回目までの復習①	第2回目～第13回目までの内容を択一型の小テストを用いて確認します（なお、授業の進行速度により予定を変更する可能性は大いにありますので、あくまでも目安の予定です）。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	今までの範囲をレジュメや教科書を用いて復習する。	360分
		事後学修	小テストの内容を復習する。	120分
15	11月10日	第2回目～第13回目までの復習②	前回の小テストの解説を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	小テストの問題をもう一度解いてみる。	120分
		事後学修	小テストの解説をふまえ、権利能力、法律行為の授業内容を復習する。	120分
16	11月11日	代理制度の意義、有権代理	未成年者は、原則として自分で有効に契約を締結することができません。そのため、未成年者の代わりに契約をしてくれる人が必要です。また、自分で有効に契約を締結することができる人であっても、専門的知識がある他人に契約をしてもらった方が良いことがあります。このような場合に、「代理制度」が使われます。この回では、代理制度の必要性和その社会的役割、代理制度の種類をみた後、代理が有効に成立するための要件と代理が成立した場合の効果について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代理制度とは何か、なぜ代理制度が必要なのか、代理が有効に成立するためにはどのような要件が必要なのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書207～216頁、219～225頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
17	11月17日	無権代理の基礎、利益相反行為、代理権の濫用	第16回目で学習したように、代理の効果が本人に有効に帰属するためには、本人が代理人に代理権を授与することが必要です（任意代理の場合）。それでは、代理権を有していない人が、本人の代理人と称して相手方と契約をした場合、その効果はどうなるのでしょうか。この回では、このような「無権代理」が行われた場合の効果や無権代理人が負う責任の内容、利益相反行為、代理権の濫用について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無権代理行為が行われた場合の効果、相手方を保護するためにいかなる規律があるのかを説明できるようになること。また到達目標①・②・③・④に関連して、利益相反行為や代理権の濫用とは何か、両者の違い、改正民法で規定された効果の意味について、改正前の判例法理をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書217～219頁、226～227頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
18	1 1 月 1 8 日	無権代理と相続	例えば、Aの子どもであるBがAの代理人と勝手に称して、Aの有する甲土地をCに売却したとします。このとき、本人Aは、Cに対して「Bが勝手に甲土地を売っただけであり、そんな契約は認められない」と主張できます。これを追認拒絶といいます（前回の授業で学びます）。それでは、上記事例においてBの無権代理行為の後に、Aが死亡して、その地位をBが相続した場合、Bは追認を拒絶できるでしょうか。逆に、Bの無権代理行為の後に、Bが死亡し本人Aがその地位を相続した場合、Aは追認を拒絶できるでしょうか。この回では、こうした無権代理と相続の問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、無権代理と相続の各種事例について、まずは判例及び学説の立場を理解できるようになること、その上で判例の問題点をふまえつつ、判例と学説のいずれの考え方が良いのかを検討し、自分の意見を述べられるようになること。	
		事前学修	教科書 2 3 7～2 4 2 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
19	1 1 月 2 4 日	表見代理の意義と具体例（109条1項・110条・112条1項・重畳適用）	第1 6～1 7回で学んだように、無権代理人が代理行為をした場合であっても本人に効果が帰属することがあります。これを表見代理といいます。なぜ民法では表見代理制度があるのか、どのような表見代理の種類があるのかについて具体例を題材に学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ表見代理制度が認められているのか、なぜ各条文はそのような要件を規定しているのかについて、表見代理制度の制度趣旨をふまえて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書 2 2 7～2 2 9 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
20	1 1 月 2 5 日	白紙委任状と表見代理	AがC銀行からお金を借りる際に、自己が所有する甲土地に抵当権を設定しようと考えました（抵当権を設定することでC銀行はAからお金を回収できます）。その際、Aは、Bに抵当権設定の代理権を与え、必要な書類や「白紙委任状」をBに渡しました。しかし、Bは委任状をDに交付しました。その後、Dが空欄の委任事項欄に「甲土地の処分に関する一切の権限」と書き入れ、甲土地をEに売却しました。では、Eは甲土地を取得できるでしょうか。こうした例を題材に、「白紙委任状と表見代理」の問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、白紙委任状を用いて代理人や他人が代理権の範囲外の行為をした場合に、なぜ民法109条1項や110条が問題となるのか、表見代理はどの範囲まで認められるのか（認められないのか）について判例や学説に基づき考察し、自己の意見（表見代理の成否）を述べられるようになること。	
		事前学修	教科書 2 2 9～2 3 1 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
21	1 2 月 1 日	権限外の行為の表見代理の応用事例	夫Aが妻Bから代理権を与えられていないのに、代理人としてBが持っている土地を勝手にCに売却してしまいました。この場合、無権代理となるのが原則ですが、表見代理は成立する可能性はないでしょうか。また民法94条2項と110条の重畳適用の事例について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日常家事債務と表見代理について判例や学説に基づき、どのような場合に表見代理が認められうるのかについて説明できるようになること、また94条2項と110条の類推適用について、なぜ重畳適用が問題となるのか、第三者の保護要件はどうあるべきかについて判例や学説に基づき考察し、自分の意見を述べられるようになること。	
		事前学修	教科書 2 3 1～2 3 4 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
22	1 2 月 2 日	試験の概要説明と論述演習	そろそろ試験の時期が近づいてきました…！！この回では、論述試験においてどのような答案を作成する必要があるのか、論述試験の勉強をどのように行えばよいのか、を説明した後、法律行為や代理を題材に論述演習を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、どのような点に気をつけて論述問題を作成すればよいのかを修得すること、また試験準備のスケジュールを組んで余裕をもって試験対策をすること。	
		事前学修	前回までの講義を復習しておく。	120分
		事後学修	試験に向けて計画を立てること。論述問題の対策をコツコツとはじめること。実際に答案を書いてみること。	120分
23	1 2 月 8 日	時効制度の意義、時効の存在理由、取得時効（1）	時効とは何でしょうか。例えば、時効制度によると、Aが甲土地を一定期間占有すると、たとえ甲が本当はBが有する土地であっても、Aは甲土地を取得できる可能性があります。またCがDに対して貸金債権乙を有していたが、乙の返還請求権を長年の間行使しないでいると、Cは乙の返還を求めることができない可能性があります。それでは、なぜこのような制度が認められているのでしょうか。この回では、時効制度の存在理由、時効制度の全体像を概観したのち、AがBの甲土地を取得できるような場合（取得時効）について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ時効という制度があるのか、時効にはどのような種類があるのか、取得時効制度の要件・効果はどのような規律であるのかについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書 2 7 7～2 8 6 頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
24	1 2 月 9 日	取得時効（２）・消滅時効（１）	まず前回からの続きとして、取得時効について学びます。その後、授業の後半では、消滅時効の起算点や時効期間について学びます。債権は①債権者が権利を行使できることを知った時から５年間、②権利を行使することができる時から１０年間で消滅するところ、「権利を行使することができる時」とはどのような意味なのかを具体的にみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、取得時効制度の要件と効果、消滅時効制度の意義と要件と効果について説明できるようになること。	
		事前学修	教科書２８２～２９４頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
25	1 2 月 1 5 日	消滅時効（２）	前回に続いて、消滅時効を学びます。例えば、判例を題材に、保険金請求権の起算点や、じん肺にり患した場合の起算点はどうなるのかという問題を学びます。その他、改正民法による除斥期間説の不採用、人の生命や身体に関する損害賠償の時効期間の改正についてもみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、判例では消滅時効の起算点はどのように判断されているのかについて説明できるようになること。また到達目標①・②に関連して、改正前民法724条後段の除斥期間説にはどのような問題があり、改正民法においてどのような規律へと変更したのか、人の生命や身体に関する損害賠償の消滅時効がなぜ、どのように改正されたのかについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書２８９～２９６頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
26	1 2 月 1 6 日	時効の完成猶予・更新	まず、時効の完成猶予・更新について学びます。例えば、AがBに対して100万円を弁済期（お金を返す日）を１年後として貸した。だが、１年後にBはお金をAに返さない。そこで、①Aは、Bに裁判外で100万円を返すように求めた、②この求めに対してBは「１か月以内に返すからもう少し待って」と言った。しかし、Bがお金をまったく返さないの、③Aは100万円とその利息の返還請求訴訟を提起した。これら①～③のような事象は、時効の完成にどのような影響を及ぼすのか、という問題を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効の完成猶予・更新の意義、具体例を用いてなぜこの場面では完成猶予や更新が問題となるのか、について時効制度の趣旨を踏まえつつ、説明できるようになること。	
		事前学修	教科書２９６～３０５頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
27	1 2 月 2 2 日	時効の援用、時効利益の放棄、債務承認後の援用	時効が完成するためには、当事者が時効により利益を受ける旨の意思表示をすることが必要です。これを時効の援用といいます。例えば、100万円を借りている借主が貸主に対して「時効が成立しているから100万円は払わない！」という意思表示をしなければなりません。またこの回では、債務者がいったん債務を承認しながら、「やっぱり時効期間が完成してるから債務を払わない」といえるのか、という問題についても学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効の援用とは何か、時効利益の放棄、債務承認後に時効の援用が認められるのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書３０５～３１４頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
28	1 2 月 2 3 日	法人	受講生の皆さんは、学校法人、財団法人、NPO法人、株式会社といった言葉を聞いたことがあると思います。この回では、人の集合や財産の集まりである「法人」について、法人とは何か、なぜ法人制度が必要なのか、法人はどのように成立し、どのような種類があるのか、権利能力なき社団とは何か、ということを学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、法人制度がなぜ必要なのか、法人制度にはどのような種類があるのか、権利能力なき社団とは何かについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書７７～１０９頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
29	1 月 1 2 日	第１６回目以降の復習①	代理、時効制度について択一型の小テストを用いて確認します（なお、授業の進行速度により予定を変更する可能性は大いにありますので、あくまでも目安の予定です）。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	今までの範囲についてレジュメや教科書を用いて復習すること。	360分
		事後学修	小テストの内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
30	1月13日	第16回目以降の復習②		前回の小テストの解説を行います。
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できていないのかを確認する。	
		事前学修	小テストの内容を復習する。	120分
		事後学修	小テストの解説をふまえて、代理・時効・法人制度の授業内容を復習する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	田中 夏樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関連しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。なお、法改正を踏まえ、最新のものを用意すること。

【授業方法】
講義形式によって行う。あらかじめ、パワーポイントによって資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガルベイス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 火9/15	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。	120分
		事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	第二部 木9/17	民法の体系と位置づけ	民法は、一般に民法総則・物権・債権・親族・相続に分けられるが、それぞれの意義や機能が異なっている。これらの民法の体系について解説するとともに、特別法との関係など民法以外の法分野との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の体系について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法には総則以外にどのような内容の条文が存在し、どのような意味を有するのか確認しておく。	120分
		事後学修	民法が営む機能について、公法や刑事法の分野とはどのように異なるのかを確認し、民法の位置づけについての理解を深め、自分なりに説明できるようにする。	120分
3	第二部 火9/22	民法の基本原則	民法総則には、民法全体に及ぶ基本原則である信義則や権利濫用の禁止といった概念が規定されている。しかし、このような概念は抽象的であるため、判例などを通じて具体的にはどのように認められるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の基本原則について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法総則の中でも信義則や権利濫用の禁止といった概念がどのようなものか調べておく。	120分
		事後学修	授業内で言及した判例以外の関連判例を調べ、信義則・権利濫用の禁止等の基本原則が判例上どのように扱われているのかを調べる。	120分
4	第二部 木9/24	自然人の権利主体性	民法を学ぶ上では、権利能力・行為能力・意思能力といった各概念を理解する必要がある。これらの能力について具体例や判例を交えながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利能力・行為能力・意思能力の関係性について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利義務の主体という概念がどのようなものであるか調べ、権利能力という用語の意味を調べておく。	120分
		事後学修	授業内で学習した内容を踏まえ、権利能力・行為能力・意思能力の意味内容のみならず、それぞれの関係性について自分なりに説明できるようにする。	120分
5	第二部 火9/29	行為能力の制限	一定の場合に行為能力が制限され、成年被後見人・被保佐人・被補助人といった制度が民法上規定されている。各概念の目的や内容について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行為能力が制限されることの趣旨や機能について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、行為能力が制限される必要性としてどのような場合か調べておく。	120分
		事後学修	行為能力の制限について、意思能力との関係がどのようなものであるか、例えば、行為能力の制限を受けていながら意思能力を有している場合があるかなどを検討する。	120分
6	第二部 木10/1	不在者の財産管理	不在者が財産を有している際には、これを管理する必要がある。しかし、特に数年に及ぶ行方不明である場合には不在者の権利関係がそのまま残り、不都合が生じる場合がある。この場合に利用される失踪宣告について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不在者の財産を管理する必要性や制度について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不在者の財産を管理する必要性が生じるのはいかなる場合であり、その場合にどのような問題が生じるのかを確認する。	120分
		事後学修	失踪宣告がなされ、不在者が死亡したものと扱われたのちに、不在者の生存が確認された場合にはどのように扱われるのか、調べ、検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 火10/6	法人の権利能力	法人は現在の社会では欠くことのできない存在であるが、その性質上自然人とは異なった法理が適用される。法人に関する民法の規定を踏まえ、法人の権利能力に関して解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人の行為能力について、自然人の場合と比較しながら説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法人と自然人の概念の違いを確認し、法人を制度の趣旨を調べておく。	120分
		事後学修	法人にも類型が存在するが、民法上にはどのような種類の法人が存在するのかを確認したうえで、それぞれの制度趣旨の相違について検討する。	120分
8	第二部 木10/8	権利の客体	権利の客体としての「物」に関し、動産・不動産の区別や主物・従物の区別を解説し、民法上の扱いを説明する。また、債権の客体についてもこの授業内で取り上げたい。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の対象としての客体やその性質について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利の客体としてはどのような具体例が存在するのか調べ、該当する条文を確認しておく。	120分
		事後学修	財産権には物権と債権が存在するが、物権の客体と債権の客体とではその性質がどのように異なるか、授業内容を踏まえて、自分なりに説明できるようにする。	120分
9	第二部 火10/13	法律行為概説	法律行為に共通することとして、法律行為の有効性や法律行為の概念がどのように扱われているかについて解説を行い、次週以降に解説する予定の意思表示との関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の概念と体系について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法律行為がどのような概念であるかを調べ、法律行為の類型を調べておく。	120分
		事後学修	法律行為と事実行為との関係について、それぞれの概念がどう異なっているか、法律上はどのように扱われるかを検討する。	120分
10	第二部 木10/16	意思表示の意義・構造	意思表示は、動機・内心的効果意思・表示意思といった構造を有しており、その構造を解説するとともに、そのような構造を観念することの意義について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の仕組みと位置づけについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思表示が法律行為との関係においてどのような位置づけにあるのかを確認し、その意義を調べておく。	120分
		事後学修	意思表示の構造について、実際に自分が法律行為を行う場面を想定し、自分の行為がどの段階にあたるのかを確認し、法的な意味を考える。	120分
11	第二部 火10/20	法律行為の無効と取消し	法律行為は無効あるいは取消される場合が存在するが、それぞれの法的な効果は異なっている。無効と取消しの意義を説明するとともに、法的な効果の違いを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しと無効の相違について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、無効と取消しの概念がどのような意義を有し、法的な効果がどのようなものであるかを確認する。	120分
		事後学修	法律行為の無効と取消しは、法律行為の構造と関係しており、無効原因と取消し原因が法律行為の構造との間ではどのような関係にあるかをまとめ、説明ができるようにする。	120分
12	第二部 木10/22	意思の欠缺 ¹	心裡留保及び虚偽表示に関して、法律行為の構造との関係を踏まえながら解説を行う。また、関連する判例が多く存在するため、判例の事実関係を踏まえながら解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意思の欠缺に関連して、心裡留保や虚偽表示の趣旨や制度について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思の欠缺が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。	120分
		事後学修	心裡留保及び虚偽表示に関しては、意思の欠缺の問題ではあるが、各規定の趣旨が異なっている。法律行為の構造との関係を踏まえながらも、それぞれの規定が当事者の利害関係をどのように調停しているのかを検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 火10/27	意思の欠缺2	錯誤及び錯誤に起因する各種の問題点について、昨今の議論を踏まえて解説する。特に、錯誤は第三者の保護との関係で重要な議論があり、第三者の保護の在り方を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤の趣旨や制度について説明ができるとともに、改正前後の違いを説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回の授業の復習をするとともに、錯誤が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。	120分
		事後学修	錯誤の効果については、無効と取消しの相違に関連して重要な議論があり、各自の教科書等においてそれぞれの立場からの考え方を説明ができるようにする。	120分
14	第二部 木10/29	瑕疵ある意思表示1	瑕疵ある意思表示として、詐欺及び強迫の条文解説から始め、瑕疵ある意思表示が意思の欠缺とはどのように異なるのか、及び、その違いが要件や効果にどのような影響を与えるものであるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の欠缺と瑕疵ある意思表示の相違を説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、法律行為の構造との関係では、どの段階の問題であるかを確認する。	120分
		事後学修	詐欺及び強迫に関し、瑕疵ある意思表示はその効果が取消しとされているが、これはどのような考慮によるものか。例えば、詐欺は刑法でも処罰対象となっているが、民法上の契約は当事者の意思に委ねられている理由は何か、検討する。	120分
15	第二部 木11/5	瑕疵ある意思表示2	詐欺及び強迫は、同一の条文に規定されていながら、第三者の保護に関しては異なる取り扱いをしている。法が第三者を含めた各当事者の利害関係をどのように調整しているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺及び強迫について、錯誤等の他の制度と比較しながら説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、第三者の保護に関してはどのような取り扱いがなされ、そこから読みとれる法の趣旨を考えておく。	120分
		事後学修	意思の欠缺及び瑕疵ある意思表示において、それぞれ各当事者の利害関係が異なっているが、法律効果にどのような影響を及ぼしているのか、整理し、自分なりに説明できるようにする。	120分
16	第二部 火11/10	代理制度概説	代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度一般に関して説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理制度がどのような構造であるか、登場する当事者を確認し、条文を調べる。	120分
		事後学修	代理の要件について、一般的に3つの要件が必要であるが、これらの要件についてそれぞれが必要とされる趣旨及び欠けた場合の法律関係に関して検討する。	120分
17	第二部 木11/12	無権代理	代理には3要件が存在するが、それぞれの要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無権代理の制度及び無権代理がどのような位置づけであるかについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理の要件のうち、いずれが欠けると無権代理となるのか、また、それはなぜか確認しておく。	120分
		事後学修	無権代理となるのは、代理人が勝手に代理人を名乗った場合だけでなく、代理人が過失なく代理権を証明できない場合も含むが、この場合に代理人を保護する方法はないか、検討する。	120分
18	第二部 火11/17	表見代理1	前提となる、表見代理一般の法理論や制度趣旨について解説する。表見代理が相手方保護の法理であることや本人の利益をどの範囲で保護しようとしているかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表見代理一般について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、表見代理がどのような概念か、無権代理との関係を調べておく。	120分
		事後学修	表見代理の成否によって、無権代理の地位はどのような影響を受けるか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第二部 木11/19	表見代理2	表見代理の一類型である、代理権授与表示の表見代理について解説する。どのような場合に本人の犠牲のもと相手方の保護が認められるのかを意識して学習してほしい。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法109条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法109条を調べ、表見代理の一類型を知るとともに、要件を確認しておく。	120分
		事後学修	代理権授与表示というものは、実際の判例ではどのようにして認められているのか、授業中に言及した判例の事実関係を意調べ、理解する。	120分
20	第二部 火11/24	表見代理3	表見代理の一類型である、権限外行為の表見代理について解説する。また、民法110条は拡張されて適用される傾向にあり、民法110条が適用される特殊な場面として日常家事代理についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法110条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法110条を調べ、基本権限の概念を踏まえて、要件を確認しておく。	120分
		事後学修	民法110条の基本権限としてどのようなものが含まれるのか、授業中に言及した判例をもとに、検討する。特に、事実行為に関する権限が基本権限に含まれるかについて、関連判例を調べる。	120分
21	第二部 火12/1	表見代理4	表見代理の一類型である、代理権消滅後の表見代理について解説する。また、民法109条と民法110条、民法110条と民法112条の重畳適用についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法112条の表見代理に関して、どのような制度であるか、民法109条及び民法110条との関係性について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法112条を調べ、代理権消滅後の表見代理の事実関係を把握し、要件を確認しておく。	120分
		事後学修	重畳適用について、授業中に言及した判例の事実関係を調べ、どのような事実が認められる場合に適用ができるかを検討する。	120分
22	第二部 木12/3	条件・期限	停止条件、解除条件・停止期限、解除期限の概念について解説し、それぞれの機能や期限の利益喪失等といった関連する法律関係について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各条件・期限について制度の仕組みを説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、条件・期限の概念を調べ、契約においてどの段階で問題となる概念かを考えておく。	120分
		事後学修	条件・期限がそれぞれ契約に付与された場合にどのような意義を有するのか、検討し、説明できるようにする。	120分
23	第二部 火12/8	時効制度1	事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度について解説する。そのうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について解説を行う予定である。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時効制度一般の趣旨について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、時効制度について、条文を調べ、その意義及び制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	時効制度の趣旨を復習し、時効によって不利益を受ける当事者が存在する場合に、それが正当化されるのかを検討する。	120分
24	第二部 木12/10	時効制度2	時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に解説する。また、所有権以外の取得時効についても、制度趣旨の相違を踏まえて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取得時効の要件及び効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、取得時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
		事後学修	時効制度の趣旨を踏まえ、債権の時効取得がなぜ可能か検討し、関連する判例を調べておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第二部 火12/15	時効制度3	時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に解説する。消滅時効が、取得時効とはどのように異なり、制度趣旨や機能の相違を踏まえながら解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消滅時効の要件及び効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、消滅時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
		事後学修	時効の更新や完成猶予について、時効制度全体の趣旨との関連を踏まえて、どのような機能を有しているのか、説明できるようにする。	120分
26	第二部 木12/17	時効制度4	時効と登記の問題や除斥期間について解説する。特に除斥期間は、時効とは異なった制度趣旨を有している類似した制度であり、注意する必要があるため、制度趣旨及びそこから導かれる機能を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効から派生する問題について、その問題点と適用条文等について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、除斥期間の概念を調べ、時効とはどのように異なる概念かを確認しておく。	120分
		事後学修	改正前の民法724条を調べ、時効と除斥期間のいずれであるかを検討し、説明できるようにする。	120分
27	第二部 12/22	複合的問題について	これまでに解説してきた総則の内容は、それぞれが完全に独立しているものではなく、複合的な問題となって生じる場合がある。簡単な事例問題を題材にし、今までに学習してきた知識を用いて法律関係を理解できるように講義を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、民法総則の各制度がどのように関係しているかについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに学習してきた内容が相互に関係することを理解し、今までに扱った判例等が複合的な問題を有していることを理解する。	120分
		事後学修	授業内で扱った事例や判例について、どのような条文が適用されているのか適用関係を検討し、実際に条文を引く条文操作を行う。	120分
28	第二部 木12/24	債権法改正	債権法改正の作業が行われ、今後施行される予定であるが、民法総則の分野でも法律行為や時効の範囲において改正が行われている。それぞれの改正がどのような趣旨で行われ、運用に影響を及ぼすものかについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権法改正によって民法総則の規定がどのように影響を受けたのか説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正によって、民法総則のうちどの分野が改正されるのかを確認する。また、新旧の条文を確認することが望ましい。	120分
		事後学修	新旧の条文を比較し、どのように改正がなされたのかを確認し、授業で扱った判例の結論や論理構成に影響を与えるものであるか検討する。	120分
29	第二部 火1/12	授業内試験及びまとめ	授業内にて民法総則の試験を行い、併せてまとめとなる授業を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに扱った内容を復習し、疑問点が残らないようにする。	120分
		事後学修	授業内試験やこれまでの授業で扱った内容のうち、解消できなかった疑問点を整理し、最終授業にて質問ができるようにする。	120分
30	第二部 木1/14	授業内試験の解説	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、試験の講評を踏まえて課題を発見し、その解決方法を探求できる。	
		事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
		事後学修	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	野中 貴弘	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は、下記授業区分のとおり、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第２８回に行う授業内試験について、解説を残り時間および第２９回の冒頭に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門・総則〔第５版〕エッセンシャル民法１	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日１３：００－１７：００（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館６階１６０８） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような法律かを説明することができる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	9/17	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）	民法がどのような場面において適用される法律であることを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような場面に適用される法律かを理解したうえで、民法典の構造、契約においてどのような形で債権債務が発生し、物権が移転するのかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて素読してみる	120分
3	9/22	民法の全体像②（民法の基本概念）	民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の3大原則を説明できるようになるとともに、所有権の移転方法における民法の原則と例外の考え方を理解する。	
		事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
4	9/24	権利の主体（人）①	権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 3つの能力概念には、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いてした法律行為の効力をおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
5	9/29	権利の主体（人）②	前回の続きとして、行為能力が十分でない者を保護する制度としての「制限行為能力者制度」について、相手方保護の在り方も含めて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。また、そうして保護をする一方で、相手方にも配慮して一定の制度があることも理解する。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力者制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性とその手段について一連の流れでおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
6	10/1	権利の主体（人）③、権利の客体（物）	権利主体の問題として、最後に、失踪宣告制度を学んだ後、権利の客体となる物概念について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失踪宣告制度に関し、判例多数説と有力説との違いを理解し、それぞれの見解を論理的に説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」と「第5章 物」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 失踪宣告の取消しに関し、民法32条1項後段の「善意」の意味について、講義内容を踏まえ自らの考えをまとめる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
7	10/6	演習（第1回）	民法の全体像、権利の主体（人）、権利の客体（物）として学んだ内容について、復習を兼ねた演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
		事前学修	あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
8	10/8	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈）	隔地者間における意思表示はいったいいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にずれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示や契約の成立時期を理解するとともに、成立した契約の内容について両当事者の認識が異なっていた場合にはすぐに錯誤を検討するのではなく、まずは契約内容の確定という契約解釈が必要であることを理解し、その方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
9	10/13	法律行為と意思表示②（心裡留保）	一方当事者が冗談で契約の申込みをし、相手方がその冗談を信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、心裡留保の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと そもそも心裡留保とはどのような場合か、その具体例を複数挙げられるようにしておく。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
10	10/15	法律行為と意思表示③（通謀虚偽表示）	契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通謀虚偽表示があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみる こと。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
11	10/20	法律行為と意思表示④（錯誤）	契約締結にあたり一方当事者に勘違いがあったとき、当該契約の効力はどうなるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、錯誤の箇所を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義内容を踏まえ、2017年改正後の民法95条を精読し、レジュメで出てきた知識と条文とを結びつけて理解できるようにしておくこと。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
12	10/22	法律行為と意思表示⑤（詐欺、強迫）	契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていたとき、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していたときと比べると何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺や強迫があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読んでくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
13	10/27	演習（第2回）	法律行為と意思表示①～⑤の復習を兼ねて演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
		事前学修	あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
14	10/29	法律行為の自由と制約	契約は原則として自由であるものの、公序良俗や強行法規に反する場合には当該契約は効力を有しない。それでは、取締規定に反した場合はどうか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約自由の原則がどういった理由からどのような形で修正されているのかを簡単に説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」を読んでくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみること。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
15	11/5	無効と取消し	無効と取消しは、どのような違いがあるのか。取消しの主体や期間はどのように定められているか。取消しができなくなる場合として追認や法定追認も学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しとはどのような差異があるのかを整理して説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第8章 無効と取消し」を読んでくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 無効・取消しの違いを整理する。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
16	11/10	条件と期限	そもそも条件と期限とはどのような差があるか。条件成就を妨害した場合にはどのような法的効果が生じるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期限とはどのような観点から区別されるのかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第9章 条件・期限」を読んでくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 「期限の利益」とは何か、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
17	11/12	演習（第3回）	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限について、復習を兼ねた演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
		事前学修	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
18	11/17	代理①（代理の基本的仕組みと機能）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その構造と機能を学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理とはそもそどのような場合に利用されるのかを説明できるようになる	
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでもくること（2時間）	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 代理と使用者の違いを整理する。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）	120分
19	11/19	代理②（代理権、顕名、代理行為）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理とはどういった要件を満たすと、有権代理として認められるのかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでもくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顕名として許されているのかにつき、顕名が求められている趣旨に遡って考えてみること。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
20	11/24	代理③（無権代理）	代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方として、無権代理人の責任を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、有権代理の要件を満たさない場合には無権代理となるが、無権代理の場合に民法は相手方の保護としてどのような救済を図っているかを整地して説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節を読んでもくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 117条は、2017年改正によりどこが変わったのか、条文を比較して整理してみる。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
21	12/1	代理④（表見代理）	前回に引き続き、有権代理の要件を満たさないために効果が本人に帰属しない局面における相手方保護の在り方として、表見代理制度を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の場合にもかかわらず、なお例外的に本人に効果帰属する表見代理について、そのパターンを具体例とともに説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第5節を読んでもくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
22	12/3	演習（第4回）	代理①～④を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる	
		事前学修	あらかじめ演習（第4回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
23	12/8	時効①（取得時効）	永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでもくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
24	12/10	時効②（消滅時効）	「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節を読んでくること
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正で消滅時効における時効期間が整理されたが、その趣旨を調査したうえで、その是非を考えること。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
25	12/15	時効③（時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度）	取得時効及び消滅時効に共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度について学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度における諸論点についての判例の理解をめぐる多様性を理解し、事例が少し変わっただけで結論が変わり得ることを理解する。
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第3節・第4節を読んでくること
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
26	12/17	演習（第5回）	時効①～③を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる
		事前学修	あらかじめ演習（第5回）の問題を全問検討してくる
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する
27	12/22	総合演習（第6回）	民法総則全体を終えて、その重要部分について総復習をする演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる
		事前学修	これまでの授業レジュメ全てと教科書を参照しながら、あらかじめ演習（第6回）の問題を全問検討してくる
		事後学修	演習問題の回答を整理する
28	12/24	授業内試験と解説	授業内試験をした後、試験問題についての簡単な解説を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。
		事前学修	これまでのレジュメを全て整理し、授業内試験に備える。 分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する
		事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする
29	1/12	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）①	民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。
		事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみる
		事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
30	1/14	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）②	民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。この最終回は、学生が物権法や債権法にスムーズに入っていけるよう、物権法や債権法をも意識した事例問題を提示する予定である。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。	
		事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみる	120分
		事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる	120分

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心を持ち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を取得していること。

【授業方法】
教科書および講義資料（ポータルシステムを通じて配布予定）を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				1	1						
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験について、採点後の答案を返却した上で解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法の基礎2 物権 [第2版]	佐久間毅	有斐閣	2019	教科書	推奨
物権法	松岡久和	成文堂	2017	参考書	任意
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8水	ガイダンス，物権法総説	授業の進め方および成績評価方法について説明する。 物権とは何か，物権の種類および一般的効力など物権法に関する基本的知識について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，物権法の概要を説明できる。	
		事前学修	民法総則の内容を復習しておく。	120分
		事後学修	教科書等を参考にして，授業ノートをまとめ知識を整理しておくこと。	120分
2	4/9木	物権と債権の相違	具体的事例の検討を通じて，物権法の基本的構造を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，物権の性質や債権との相違について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
3	4/15水	物権的請求権	物権の効力としての物権的請求権について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，物権的請求権の意義および内容について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
4	4/16木	物権的請求権に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，物権的請求権の意義および解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，物権的請求権に関する解釈上の問題とそれに対する見解を具体的に説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
5	4/22水	所有権の内容	所有権の意義および取得原因について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して，所有権の意義および取得原因について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
6	4/23木	所有権の取得原因に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，所有権の取得（とくに添付法理）に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，添付法理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4/29水	共有	共同所有の諸形態および法律関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、共有に関する法律関係について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
8	4/30木	共有に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、共有に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、共有に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
9	5/6水	相隣関係・用益物権	所有権の制限としての相隣関係および用益物権について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相隣関係および用益物権の内容について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
10	5/7木	相隣関係・用益物権に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、相隣関係および用益物権に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相隣関係および用益物権に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
11	5/13水	物権変動総説	物権変動論の基本構造について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権変動の種類、基本原則等について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
12	5/14木	不動産物権変動に関する具体的事例の検討	不動産所有権の二重譲渡事例の検討を通じて、物権変動論に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産物権変動論に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/20水	不動産物権変動論各論 (1) 取消しと登記, 解除と登記	不動産物権変動に関する公示の原則と公信の原則について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 「取消しと登記」および「解除と登記」とはどのような問題かを説明することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返り, 民法の規定を中心に基本的事項の理解を確認する。	120分
		事後学修	小テストの解説を参考にして, 自らの解答を振り返り, 理解が足りない部分を補っておく。	120分
14	5/21木	登記を要する物権変動に関する具体的事例の検討	取消しと登記に関する事例の検討を通じて, 判例法理とそれに対する批判的見解について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して, 取消しと登記に関する解釈上の問題とそれに対する見解を説明できる。	
		事前学修	これまでの講義内容を振り返り, 解釈上の問題を確認する。	120分
		事後学修	授業で得た知見を基に, 解釈上の問題について自分なりの考えをまとめる。	120分
15	5/27水	不動産物権変動論各論 (2) 取得時効と登記	取得時効に関する基本的知識および不動産登記との関係を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 不動産所有権の取得時効について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み, 疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
16	5/28木	不動産所有権の取得時効に関する具体的事例の検討	取得時効と登記に関する事例の検討を通じて, 判例法理とそれに対する批判的見解について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して, 取得時効と登記に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み, 疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
17	6/3水	177条の第三者	民法177条の第三者の意義および判例法理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して, 民法177条の第三者の意義について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み, 疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
18	6/4木	177条の第三者に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて, 背信的悪意者論に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して, 背信的悪意者論に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み, 疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/10水	動産物権変動	動産物権変動の基本構造および即時取得について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動産物権変動の対抗要件および即時取得の仕組みについて説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
20	6/11木	即時取得に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、即時取得に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、即時取得に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
21	6/17水	占有	占有の意義および占有の要件・効力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、占有の概略について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
22	6/18木	占有訴権に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、占有訴権に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、占有訴権に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
23	6/24水	占有と本権との関係	占有と本権（所有権）との関係について学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、占有と所有権の関係について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
24	6/25水	占有の効力に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、占有者と回復者の間の法律関係に関する解釈上の問題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、占有の効力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/1水	総括（物権変動論のまとめ）	物権変動論における、公示と公信の関係について理論的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産物権変動論における公示の原則と公信の原則について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
26	7/2木	総括（物権の効力のまとめ）	物権の効力について理論的に考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権の効力に関する解釈上の問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
		事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
27	7/8水	まとめと授業内試験	物権法に関する理解度を確認するために筆記試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権法に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	対象範囲全体について、教科書、講義資料およびノートを参考にして、重要と思われる点を確認しておく。	120分
		事後学修	試験問題をノートや教科書等を参考に再検討する。	120分
28	7/9木	授業内試験の解説	授業内試験の解説をするとともに、質疑応答等により理解度を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権法に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	授業内試験について、自分なりの模範解答を準備する。	120分
		事後学修	解説講義を受けて、自らの理解度を確認し、足りない部分を補う。	120分
29	7/15水	物権法の現代的課題（１） 民法改正案の検討を中心に	不動産所有権に関する民法および不動産登記法の改正に関する議論を参照し、現代における問題点について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産所有権法の現代的課題とそれに対する解決策を探究できる。	
		事前学修	これまでの授業内容を復習し、物権法の全体構造を再確認しておく。	120分
		事後学修	物権法の現代的課題について、参考資料をあつめ、自分なりの見解をまとめる。	120分
30	7/16木	物権法の現代的課題（２） 社会の変容と物権法	科学技術の発展による社会の変容が物権法に与える影響について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権法の現代的課題を説明し、それに対する解決策を探究できる。	
		事前学修	これまでの授業内容を復習し、物権法の全体構造を再確認しておく。	120分
		事後学修	物権法の現代的課題について、参考資料をあつめ、自分なりの見解をまとめる。	120分

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	益井 公司	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心を持ち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
講義には必ず出席すること。

【授業方法】
講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義において疑問が生じたときにはただちに質問していただきたい。また学生が理解しているか否かにつき質問をするので積極的に答えていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				1	1						
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては文章または口頭で答える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
物権法講義（第3版）	山川一陽	日本評論社	2012年		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の12時15分より13時15分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義のあとで予約を入れるようにしていただきたい）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月7日 日	物権法をいかに学ぶか。	講義のガイダンス 物権の意義と特質
		この回の到達目標	物権法の学習方法につき理解してもらう。
		事前学修	民法総則で民法の学習の仕方を習っていたものと思われるので、それをもう一度出して読んでおいていただきたい。以下すべての事前学習では教科書の該当部分を必ず読んでおくことが必要であり、そのことは繰り返して書かないで、その際注意すべき点など留意すべきことのみを簡単に指摘しておくことにした。 60分
		事後学修	物権・債権の違い、なぜ両者を峻別しているのか等についてもう一度検討しておくこと。120分の復習をする（以下各授業の事後学習として120分の復習をすること）（2時間）（なお、その時間が取れない場合でも、少なくとも各60分は学習時間をとること。横の時間はそれを示している。） 60分
2	4月7日	物権法定主義	物権の種類 ①物権法定主義 ②慣習法上の物権
		この回の到達目標	物権法定主義につき理解する。
		事前学修	物権法定主義にした理由をよく考えながら教科書を読み、慣習法上の物権で物権法定主義に反するものとそうでないものが生じるのはなぜかを考えてみる。120分の予習をすること（以下各授業ごとに事前学習をして120分の予習をすること）（2時間） 60分
		事後学修	譲渡担保が認められる理由について、よく検討すること。（2時間） 60分
3	4月14日	物権の客体	物権の客体
		この回の到達目標	物権の客体につき理解する
		事前学修	特定性、独立性を必要とし、一物一権主義をとっている理由を考えてください。そうすれば必然的に集合物についてどうするかということが理解できるはずである。（2時間） 60分
		事後学修	集合物に関する最判昭和54年2月15日民衆33巻1号51頁、最判昭和62年11月10日民衆41巻6号1559頁をもう一度よく検討すること。（2時間） 60分
4	4月14日	物権の効力	物権の効力 ①優先的効力 ②物権的請求権
		この回の到達目標	物権の効力につき理解する。
		事前学修	物権・債権を分けたことの意味が物権の効力を検討することで分かるようになります。物権的請求権がなぜ認められているのかの理由を考えらすが、教科書の該当部分をよく読んでいくことが必要である。（2時間） 60分
		事後学修	物権的請求権の性質、費用負担の問題は重要である。さらには、物権的請求権の相手方は誰になるのかについての最判平成6年2月8日民衆48巻2号373頁の判例を検討しておくこと。（2時間） 60分
5	4月21日	物権変動	物権変動 ①序説 i 物権変動の意義 ii 公示の原則と公信の原則
		この回の到達目標	i 物権変動の意義 ii 公示の原則と公信の原則につき理解する。
		事前学修	物権の得喪・変更・喪失が物権変動ですが、それを公示する必要があるのか、公示されているものを信頼して取引した場合どうなるのかを考えること。（2時間） 60分
		事後学修	不動産登記簿はどのようにできているかを見ることによってどのような形で公示されているかを見ること。民法94条2項の類推適用の意味を検討すること。（2時間） 60分
6	4月21日	物権変動	②物権変動を生じる法律行為 i 物権行為と債権行為 ii 意思主義と形式主義 iii 物権行為の独自性 iv 無因性
		この回の到達目標	物権変動を生じる法律行為 i 物権行為と債権行為 ii 意思主義と形式主義 iii 物権行為の独自性 iv 無因性につき理解する。
		事前学修	フランス法、ドイツ法、日本法の物権変動の法的構造を考えながら教科書を読むこと。日本法の条文をドイツ法がとっているように解釈することもできるが、かなり無理があり、意思主義、対抗要件主義になっていることを理解すること。（2時間） 60分
		事後学修	物権行為の独自性を認める意味があるのか否かを検討すること。（2時間） 60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月28日	物権変動	③物権変動の時期	
		この回の到達目標	物権変動の時期につき理解する。	
		事前学修	契約時、代金支払い時、登記時のどこで所有権が移転するか考えてみよ。所有権移転時期を議論する実益はどの点にあるのか。（2時間）	60分
		事後学修	有償性理論で説明することができるのか、さらには段階的の所有権移転説（鈴木禄弥）をとることができるか検討せよ。（2時間）	60分
8	4月28日	物権変動	不動産物権変動における公示 ①序説 ②公示方法としての登記	
		この回の到達目標	不動産物権変動における公示について理解してもらう。	
		事前学修	物権の特質から公示する必要性が出てくることを考えながら教科書を読むこと。（2時間）	60分
		事後学修	なぜ公示の原則がとられているのか、公示の原則は徹底しているかを考えてみよ。（2時間）	60分
9	5月5日	物権変動	②不動産物権変動と対抗 i 対抗とは何か	
		この回の到達目標	不動産物権変動と対抗の問題につき理解してもらう。	
		事前学修	無権利者法理による第三者保護と対抗要件主義による第三者保護の関係を考えよ。さらに、「対抗できない」ということの法的意味について考えること。（2時間）	60分
		事後学修	176条で売買の意思表示だけでAからBに所有権が移転しているのならその時点で、すでにAは無権利者のはずなのに、さらにAがCに所有権を移転しCが先に登記するとなぜCが勝つのはなぜかをどう説明するか。（2時間）	60分
10	5月5日	物権変動	ii 取消と登記 iii 解除と登記	
		この回の到達目標	取消と登記および解除と登記の問題について理会してもらう。	
		事前学修	不動産売買契約が取り消されたり解除された場合にその不動産が第三者にすでに売られていたとか、取り消し、解除されたのにそのうちに第三者に売られた場合の法的処理について考えよ。民法総則でやった取消の問題と関連させながら理解することが必要である。（2時間）	60分
		事後学修	大審院昭和17年9月30日民衆21巻911頁、最判昭和25年11月29日民衆14巻13号2869頁の判例をよく読むこと。こうした復帰的物権変動説をとるか、遡及的無効説（無権利説）をとるべきか検討せよ。（2時間）	60分
11	5月12日	物権変動	iv 相続と登記	
		この回の到達目標	相続と登記の問題について理会してもらう。	
		事前学修	①共同相続人の登記の冒用、②相続放棄、③遺産分割協議、④遺贈、死因贈与、さらには、⑤相続させる旨の遺言があった場合のケースなどで登記なくして第三者に対抗できるか否かを検討せよ。（2時間）	60分
		事後学修	①最判昭和38年2月22日民集17巻1号235頁、②最判昭和42年1月20日民集21巻1号16頁、③最判昭和46年1月26日民集25巻1号90頁、④最判昭和39年3月6日民集18巻3号437頁、⑤最判平成3年4月19日民集45巻4号477頁をよく読んでみること。（2時間）	60分
12	5月12日	物権変動	v 時効と登記	
		この回の到達目標	時効と登記の問題につき理解してもらう。	
		事前学修	他人Aの不動産を時効取得したBはAに対してだけでなく、Aからの譲り受け人Cに対しても登記なくしてその取得を対抗できるであろうかについて検討せよ。（2時間）	60分
		事後学修	①占有開始時における所有者との関係（最判昭和42年7月21日民集21巻6号1653頁）、②時効完成前の第三取得者との関係（最判昭和41年11月22日民集20巻9号1901頁）、時効完成後の第三取得者との関係（最判昭和33年8月28日民集12巻12号1936頁）、さらには、最判昭和46年11月5日民集25巻8号1087頁の判例についても検討せよ。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月19日	物権変動	④第三者の範囲 悪意者の問題（背信的悪意者）	
		この回の到達目標	177条における第三者の問題について理会してもらう。	
		事前学修	民法177条にいう「第三者」とはいかなる者をいうか。無制限説をとるか、制限説をとるか、不法占有者に新所有者は登記なくして自分が所有者といえるか、また賃借人に対し新所有者は登記なくして賃料を請求できるかなどを考えよ。177条の第三者には悪意者も含まれるか考えよ。（2時間）	60分
		事後学修	①大連判明治41年12月15日民録14輯1276頁（制限説を採用）、②最判昭和25年12月19日民集4巻12号660頁（不法占拠者）、③最判昭和49年3月19日民集28巻2号325頁（賃料請求）、④最判平成18年1月17日民集60巻1号27頁（背信的悪意者）⑤最判平成8年10月29日民集50巻9号2506頁（背信的悪意者からの転得者）の判例につき検討せよ。（2時間）	60分
14	5月19日	物権変動	登記の推定力と公信力（94条2項の類推適用） 仮登記の効力	
		この回の到達目標	登記の推定力と公信力（94条2項の類推適用）について理会してもらう。	
		事前学修	登記の効力と順位について考えよ。対抗力、推定力、公信力について検討せよ。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和34年1月8日民集13巻1号1頁（登記の推定力）、登記には公信力がないが94条2項の類推適用により公信力があるのに近い運用がなされている。これらのことにつき整理しておくこと。（2時間）	60分
15	5月26日	物権変動	登記手続 登記請求権、登記の有効要件（中間省略登記、登記の流用）	
		この回の到達目標	登記手続 登記請求権、登記の有効要件（中間省略登記、登記の流用）について理会してもらう。	
		事前学修	登記の申請手続き、登記請求権、登記の有効要件についてみておくこと。特に中間省略登記、登記の流用が重要である。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和40年9月21日民集19巻6号1560頁（中間省略登記）最判昭和49年12月24日民集28巻10号2117頁（登記の流用）について検討せよ。この問題については不動産判例百選を参照のこと。（2時間）	60分
16	5月26日	物権変動	明認方法等	
		この回の到達目標	明認方法につき理解してもらう。	
		事前学修	なぜ明認方法のような対抗要件が必要とされるのかを考えてみること。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和36年5月4日民集15巻5号1253頁の判例を検討すること。（2時間）	60分
17	6月2日	物権変動（動産）	動産物権変動と対抗要件（178条）	
		この回の到達目標	動産物権変動と対抗要件（178条）について理会してもらう。	
		事前学修	動産物権変動における対抗要件である引き渡しは、現実の引き渡し以外に観念的な引き渡しも認められていることに注意する必要がある。（2時間）	60分
		事後学修	間接占有下にある動産の譲渡と「対抗」の関係について、大判大正8年10月16日民録25輯1824頁、最判昭和29年8月31日民集8巻8号1567頁を参考に考えてみよ。（2時間）	60分
18	6月2日	物権変動（動産）	動産の即時取得	
		この回の到達目標	即時取得について理会してもらう。	
		事前学修	なぜ即時取得制度が必要とされるのか、その要件効果はどうなっているのかを事前に教科書で確認しておくこと。占有改定でも即時取得は成立するかについてよく見ておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和35年2月11日民集14巻2号168頁（占有改定と即時取得）、最判平成12年6月27日民集54巻5号1737頁（194条に該当する善意占有者の使用収益権）をよく検討すること。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月9日	物権の消滅	物権の消滅	
		この回の到達目標	物権の消滅について理會してもらう。	
		事前学修	混同、目的物の滅失、消滅時効、放棄、公用徴収などについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	混同の問題・海没した土地の所有権の問題・抵当権についての396条などについて検討すること。（2時間）	60分
20	6月9日	占有権	占有権 ①占有と占有権 ②占有権の取得	
		この回の到達目標	①占有と占有権 ②占有権の取得に理解してもらう。	
		事前学修	占有権が成立するための所持と意思についてみておくこと、相続は新たな権限か、占有承継（187条）の問題についてよく読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和58年3月24日民集37巻2号131頁（占有意思）、最判昭和32年2月15日民集11巻2号270頁（法人の代表機関と占有）、最判平成8年11月12日民集50巻10号2591頁（相続と新たな権原）、最判昭和53年3月6日民集32巻2号135頁（前主の無過失と10年の取得時効[占有の承継の問題]）につき検討すること。（2時間）	60分
21	6月16日	占有権	③占有権の効力、占有権の消滅。準占有	
		この回の到達目標	占有権の効力、占有権の消滅、準占有について理會してもらう。	
		事前学修	占有訴権（占有訴権の種類、交互侵奪の問題、占有訴権と本権の訴え）、権利の推定機能、占有者と回復者との関係（果実の取得等不当利得との関係）について見ておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	大判大13年5月22日民集3巻224頁（交互侵奪の問題）、最判昭和40年3月4日民集19巻2号197頁（占有訴権と反訴による本権の訴え）について検討すること。（2時間）	60分
22	6月16日	所有権	所有権 ①所有権の意義と性質 ②所有権の内容	
		この回の到達目標	①所有権の意義と性質 ②所有権の内容について理會してもらう。	
		事前学修	近代的所有権の性質、所有権の内容、所有権行使の制限、土地所有権の及ぶ範囲（土地の上下、地中の鉱物、地下水、海面下の土地）（2時間）	60分
		事後学修	大判昭和10年10月5日民集14巻1965頁（宇奈月温泉事件）等権利の濫用事件、最判昭和52年12月12日判時878号65頁・最判昭和61年12月16日判時1221号3頁（海面下の土地）について検討すること。（2時間）	60分
23	6月23日	所有権	③相隣関係 ④所有権の取得	
		この回の到達目標	相隣関係、所有権の取得（附合等）について理會してもらう。	
		事前学修	隣地通行権や境界付近の工作物に関する相隣関係を中心に教科書の該当部分を、所有権の取得については附合・加工を中心とし他所有権の取得の部分を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成2年11月20日民集44巻8号1037頁・最判平成18年3月16日民集60巻3号735頁（通行券の問題）、最判昭和54年1月25日民集33巻1号26頁（建築途中の建物への第三者の工事と所有権の帰属）、最判平成6年1月25日民集48巻1号18頁（建物が合体した場合、抵当権はどうなるか）の判例を検討すること。（2時間）	60分
24	6月23日	所有権（共有）	⑤共有	
		この回の到達目標	共有について理會してもらう。	
		事前学修	共有・合有・総有について理解するとともに、共有物の管理、共有物の分割について教科書の該当部分を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和31年5月10日民集10巻5号487頁（共有物の管理）、最判昭和41年5月19日民集20巻5号947頁（共有者相互間の明渡し請求）、最判平成8年10月31日民集50巻9号2563頁（全面的価格賠償を認めた判例）を検討すること。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	6月30日	区分所有		⑥建物の区分所有（教科書の記述は簡単すぎるのでもう少し詳しく説明する）
		この回の到達目標	建物の区分所有について理會してもらう。	
		事前学修	いわゆるマンション法に關しての概要を簡単に説明するので、教科書の該当部分はずず読んでくること。（2時間）	60分
		事後学修	この部分については、皆さんにとつても重要となることが考えられるので、区分所有法に關するいくつかの本を紹介するので、さらに勉強したい人はそれを読んでください。（2時間）	60分
26	6月30日	地上權		地上權、区分地上權
		この回の到達目標	地上權について理會してもらう。	
		事前学修	以下用益物權についての概略を説明し、地上權に入っていく、賃借權の物權化との關係も考えながら、該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	借地借家法による修正を検討しておくこと。（2時間）	60分
27	7月7日	永小作權		永小作權
		この回の到達目標	永小作權について理會してもらう。	
		事前学修	小作權の歴史や農地法の制定との關係で永小作權のことを考えるとともに、日本の農政をどうするかということを考えていただきたい。（2時間）	60分
		事後学修	農地法が大きく変わっていることとの關係を考えて、日本の農政がどうあるかを再検討すること。（2時間）	60分
28	7月7日	地役權		地役權
		この回の到達目標	地役權について理會してもらう。	
		事前学修	地役權とは何かを理解するとともに、地役權の對抗力については、重要な判例がいくつかあるのでそれを読んでおくこと（その一つは爾後学習の欄に示している）。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成10年2月13日民集52卷1号62頁（未登記地役權の對抗力）について再検討すること。（2時間）	60分
29	7月14日	入會權		入會權
		この回の到達目標	入會權について理會してもらう。	
		事前学修	入會權の社会的意義、法的性質、入會權の内容、入會權の変動、入會權の近代化事業等について該当部分を読みながら考えること。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和48年3月13日民集27卷2号272頁（官地編入によつても入會權は消滅しない）、最判平成6年5月31日民集48卷4号1065頁（入會団体による総有權確認請求權）について検討すること。（2時間）	60分
30	7月14日	質問受付		まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあつた場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）
		この回の到達目標	物權に關し分からない点がないようにするために質問を受け付け、理會を深める。	
		事前学修	これまで学習したことでよくわからない点について質問できるよう、自分のノート等を整理してみること。（2時間）	60分
		事後学修	質問の回答を基によりさらに自分で考えてみること。（2時間）	60分

科目名	民法Ⅱ（物権法）【法職課程】	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心をもち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書に沿って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で扱う重要判例を事前に読んできてもらい、それを翌週以降の授業の中でディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				1	1							
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1							
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1						
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを 筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修人数等に応じて 異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確 認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法の基礎[第2版]	佐久間 毅	有斐閣	2019	教科書	必携
民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]	道垣内 弘人ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（1号館7階1720研究室） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7	ガイダンス：条文の読み方・法律用語の確認	履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書等について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。物権法の内容に入る前に、一般的な条文の読み方も併せて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連民法典の中で物権法がどのような位置を占めているか及び条文の該当箇所を知り、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。条文の読み方を学修するため、最新の六法を準備し、授業にもってくること	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書等の購入等、受講に向けた具体的準備を行う。また、初回授業で配布した条文の読み方のレジュメを復習しておくこと	120分
2	第一部水 4/8	物権法序論①：物権の意義	物権を理解するうえで必の須項目となる、物権とは何か、物権の種類、物権と債権の違い、慣習上の物権につき、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権の意義、種類といった基本的概念について正確に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の該当箇所（1-11頁）に目を通しておく。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所を復習すること。特に、物権の定義、物権法定主義といった基本用語をノートにまとめておくこと。譲渡担保が認められる理由について検討すること。	120分
3	第一部火 4/14	物権法序論②：物権の対象	前回に続き、物権の基本概念の理解を深めるため、物権の客体につき、学修する。民法総則の知識も必要となる箇所であるので、民法総則の復習も兼ねている。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権の客体という基本的概念について正確に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の該当箇所（12-17頁）に目を通すとともに、民法総則の教科書の該当箇所（物）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をケースを中心に復習すること。特に、一物一権主義、主物と従物、元物と果実といった基本用語をノートにまとめておくこと	120分
4	第一部水 4/15	物権法序論③：物権の一般的効力	物権の一般的効力にはどのようなものがあるのかを知り、なかでも優先的効力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権の一般的効力である優先的効力、追求効内容について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所(17-19頁)及び事前に配布しているレジュメの該当箇所を読み、物権の一般的効力の内容についてまとめておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をケースを中心に復習すること。特に、優先効の内容及び担保物権の意義・内容をノートにまとめて理解を深めること	120分
5	第一部火 4/21	物権的請求権	物権的請求権の意義、種類、根拠、要件、内容について学修する。特に、物権的請求権の内容については多くの学説が展開しているので、それぞれの学説の内容、違いについても理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権的請求権の意義、種類、要件、内容について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所(303-317頁)及び事前に配布しているレジュメに目を通し、物権的請求権の内容、問題点についてまとめておくこと。	120分
		事後学修	物権的請求権の意義、種類、要件、内容について教科書の該当箇所を復習し、しっかりとまとめておくこと。次回以降の授業の中で、物権法序論の確認テストを行うため、その準備をしておくこと	120分
6	第一部水 4/22	物権変動①：物権変動の意義	物権変動の意義、各種の物権変動（発生・変更・消滅）とその原因、物権変動論の意義及び大枠について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権変動の意義、各種の物権変動（発生・変更・消滅）とその原因について、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	物権法序論の確認テストを行うため、その準備をしておくのとともに、教科書の該当箇所(27-36頁)及び事前に配布しているレジュメに目を通しておくこと	120分
		事後学修	物権変動の意義、原因について教科書の該当箇所を復習し、まとめておくのとともに、確認テストの間違った箇所を復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 4/28	物権変動②：法律行為を原因とする物権変動	法律行為を原因とする物権変動として、民法176条の意味、民法176条の「意思表示」意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法176条の意味、民法176条の「意思表示」意義につき、理解し、正確に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の該当箇所（37-40頁）を読んでもくこと	120分
		事後学修	民法176条の意味、「意思表示」の意義について教科書の該当箇所を復習し、しっかりとまとめておくこと。	120分
8	第一部水 4/29	物権変動③：物権変動の時期	物権変動の時期についての判例の立場を理解するとともに、判例に対する批判の学説の展開についても学修し、理解を深める。さらに、物権変動の時期にまつわる判例の事案の概要、判旨などを学修し、判例の読み方についての解説も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権変動の時期に関する判例の立場について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（40-42頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、物権変動の時期についてまとめておくこと。	120分
		事後学修	物権変動の時期について教科書の該当箇所を復習し、しっかりとまとめておくこと。なお、この箇所では、教科書の発展学習、補論の箇所もきちんと読むこと。	120分
9	第一部火 5/5	不動産に関する物権変動①：不動産物権変動の公示、公示の原則、公信の原則	この講義より不動産の物権変動につき、9回にわたり学修する。そのうちの第1回目として、不動産の物権変動の公示の必要性と方法、公示の原則と公信の原則という基礎概念について扱うこととする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権変動の公示の必要性、公示の原則、公信の原則について正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（43-45頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、不動産物権変動の公示の必要性及び公示の原則、公信の原則についてまとめておく。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。とりわけ、公示の原則、公信の原則については重要項目となるので、しっかりと確認すること。	120分
10	第一部水 5/6	不動産に関する物権変動②：不動産登記・登記の効力	不動産物権変動の公示方法としての不動産登記の意義、不動産登記簿の編成、登記の種類、登記手続き、さらに、登記の効力について一通り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産登記の意義を理解し、説明できるとともに、不動産登記簿の見方を修得する。	
		事前学修	教科書の該当頁（45-50、116-127頁）を読み、不動産登記簿の登記事項証明書の例をみておくこと。	100分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。さらに、所有者不明土地問題の解決策として重要な意味をもつ登記にまつわる最近の議論について法務省のHPや新聞記事などで情報を取得し、理解を深めること。	140分
11	第一部火 5/12	不動産に関する物権変動③：民法177条の効果	ここから民法177条の法解釈について学修する。ここでは、民法177条の効果、すなわち、「対抗することができない」の意味するところを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法177条の効果について理解し、正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（51-55頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、民法177条の効果についてまとめておく。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、さまざまな学説について、それぞれの学説の内容、異同についてまとめておくこと。	120分
12	第一部水 5/13	不動産に関する物権変動④：民法177条の要件（序論）	民法177条の要件、すなわち、①不動産物権変動の存否、②第三者の意義のうち、①の不動産物権変動の存否をめぐる判例・学説の現状について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法177条の要件が何かを理解するとともに、①不動産物権変動の存否にまつわる判例・学説の現状つき、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（51-62頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、民法177条の1つ目の要件についてまとめておく。	120分
		事後学修	民法177条適用の前提としての「物権の得喪及び変更」の意味するところについて、とりわけ、レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 5/19	不動産に関する物権変動 ⑤：取消しと登記	登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも最も代表的な問題である「取消しと登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「取消しと登記」に関する法的議論について、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（82-89頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、とりわけて重要な論点の1つである「取消しと登記」については、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨については、判例百選などを用いてまとめること。	120分
14	第一部水 5/20	不動産に関する物権変動 ⑥：解除と登記	登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも代表的な問題として挙げられる「解除と登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「解除と登記」に関する法的議論につき、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（89-92頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「解除と登記」についても、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめること。	120分
15	第一部火 5/26	不動産に関する物権変動 ⑦：相続と登記	前回に続き、今回も、登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも代表的な問題として、「相続と登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「相続と登記」に関する法的議論につき、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（92-105頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「相続と登記」については、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめること。	120分
16	第一部水 5/27	不動産に関する物権変動 ⑧：取得時効と登記	引き続き、登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも代表的な問題として挙げられる「取得時効と登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「取得時効と登記」に関する法的議論につき、理解し、正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（105-115頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「取得時効と登記」については、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめること。	120分
17	第一部火 6/2	不動産に関する物権変動 ⑨：177条の第三者	民法177条の要件について復習したうえで、民法177条の第三者の範囲について学修する。とくに、学生が誤って理解しがちな背信的悪意者の意味するところについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法177条の要件のなかでも、「第三者」の範囲について説明することができる。	
		事前学修	レジュメ及び教科書該当頁（62-81頁）を読み、民法177条の要件のなかでも、民法177条の第三者の範囲につき、しっかりと確認しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである民法177条の「第三者」の範囲については、教科書を繰り返し読み、内容を正しく理解すること。次回以降の授業の中で、不動産の物権変動にまつわる確認テストを行うため、その準備をしておくこと。	120分
18	第一部水 6/3	動産の物権変動①：動産物権譲渡の対抗	不動産の物権変動に続き、動産の物権変動について学修する。ここでは、民法178条の要件、動産物権譲渡の公示方法の「引渡し」、民法178条の「第三者」の意味について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、民法178条の要件、動産物権譲渡の公示方法としての「引渡し」とは何か、民法178条でいう「第三者」とはだれかについて、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（129-143頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、「引渡し」の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部火 6/9	動産の物権変動②：即時取得(1)	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つが即時取得を学修する。即時取得の意義、要件、効果を中心に理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法192条を中心とする即取取得の意義等について正確に説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（144－155頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「即時取得」については、教科書を繰り返しよみ、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめておくこと。	120分
20	第一部水 6/10	動産の物権変動③：即時取得(2)（盗品・遺失物に関する例外）	前回に続き、即取取得を学修するが、主として、盗品または遺失物の場合の例外について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法192条を中心とする即時取得の例外について正確に説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（156－159頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分
21	第一部火 6/16	立木等に関する物権変動、明認方法、物権の消滅	立木等の物権変動の公示方法や明認方法の意義、態様、公示のほか、物権の消滅原因として主に、混同について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、立木等に関する物権変動、明認方法、物権の消滅原因について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（28-32、161－162頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、明認方法や混同の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分
22	第一部水 6/17	占有権①：意義、権能、態様	占有権は、所有権等と並列される物権の一種である。ここでは、占有（権）の一般的要件・効力及び占有（権）の消滅について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、占有権の意義や内容について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（257-294頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	占有の一般的要件や占有の効力にまつわる主要な判例の事案の概要と判旨については、判例百選などを用いてまとめておくこと。	120分
23	第一部火 6/23	占有権②：占有訴権	前回に続き、占有権について理解を深める。占有権の中でも、重要な論点である、占有訴権（意義、種類、効果、占有の訴えの要件、交互侵害）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、占有訴権について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当頁（294-301頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。次回以降の授業の中で、占有権に関する確認テストを行うため、その準備をしておくこと。	120分
24	第一部水 6/24	所有権①：所有権の意義・性質・内容・相隣関係	物に全面的かつ排他的な支配を及ぼすことのできる所有権の意義と内容、相隣関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所有権の意義を説明できるとともに、物権関係規定の見直し議論の中でも問題となっている所有権放棄の可否等についての理解し、関心を深めること。	
		事前学修	教科書の該当頁（165－172頁）を読むとともに、所有者不明土地問題とはどのような問題なのか、インターネットなどを利用して情報を収集し、まとめておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、所有権の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 6/30	所有権②：所有権の取得原因	前回に続き、所有権について学修する。所有権の取得原因、とりわけ添付について説明し、理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有権の取得原因について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（173－190頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、「添付」の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分
26	第一部水 7/1	所有権③：共有	前回に続き、所有権、なかでも重要論点の1つである共有について学修する。共有の意義、形態、共有の法律関係（内部・外部関係）について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法Ⅱの重要論点の1つである共有について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（191－219頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、「共有の法律関係」について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分
27	第一部火 7/7	所有権④：建物区分所有	一物一権主義の例外となる、建物区分所有について学修する。建物区分所有の意義、内容について説明し、理解を促すこととする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、建物区分所有について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（221－236頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分
28	第一部水 7/8	用益物権	他人の土地の利用を本質的な内容とする各種用益物権の意義及び内容（成立原因、対抗要件、存続期間、権利の内容）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、用益物権について正確に理解し、説明できること。	
		事前学修	各種用益物権の意義及び内容について、教科書の該当箇所（239－253頁）や事前に配布したレジュメを参考にまとめておくこと。	120分
		事後学修	各種用益物権の異同に注意しながら、レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分
29	第一部火 7/14	不動産実務と法律	不動産実務に精通するゲストスピーカーを呼び、特に相続法改正及び物権法改正の議論にまつわる不動産実務の現状について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産実務の実状を理解するとともに、物権まつわる近年の法律動向について理解し、説明することができる。	
		事前学修	物権法改正、相続法改正の議論の動向につき、法務省のホームページ等を参照し、調べておくこと	120分
		事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分
30	第一部水 7/15	総まとめ・質問受付	第29回までの講義でまとめたレジュメ及び教科書を用いて、総まとめを行う。なお、授業内試験を実施する場合には、講義時間中に試験と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら発信することができる。	
		事前学修	これまでの講義をよく復習し、よくわからなかったところを書き出しておく。	120分
		事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理し、試験に向けての準備を行うこと。	120分

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心をもち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書に沿って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で扱う重要判例を事前に読んできてもらい、それを翌週以降の授業の中でディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				1	1							
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1							
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1						
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを 筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修人数等に応じて 異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確 認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法の基礎[第2版]	佐久間 毅	有斐閣	2019	教科書	必携
民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]	道垣内 弘人ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（1号館7階1720研究室） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	ガイダンス：条文の読み方・法律用語の確認	履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書等について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。物権法の内容に入る前に、一般的な条文の読み方も併せて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連民法典の中で物権法がどのような位置を占めているか及び条文の該当箇所を知り、説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。条文の読み方を学修するため、最新の六法を準備し、授業にもってくること	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書等の購入等、受講に向けた具体的準備を行う。また、初回授業で配布した条文の読み方のレジュメを復習しておくこと	120分
2	第一部水 9/16	物権法序論①：物権の意義	物権を理解するうえで必の須項目となる、物権とは何か、物権の種類、物権と債権の違い、慣習上の物権につき、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権の意義、種類といった基本的概念について正確に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の該当箇所（1-11頁）に目を通しておく。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所を復習すること。特に、物権の定義、物権法定主義といった基本用語をノートにまとめておくこと。譲渡担保が認められる理由について検討すること。	120分
3	第一部火 9/22	物権法序論②：物権の対象	前回に続き、物権の基本概念の理解を深めるため、物権の客体につき、学修する。民法総則の知識も必要となる箇所であるので、民法総則の復習も兼ねている。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権の客体という基本的概念について正確に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の該当箇所（12-17頁）に目を通すとともに、民法総則の教科書の該当箇所（物）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をケースを中心に復習すること。特に、一物一権主義、主物と従物、元物と果実といった基本用語をノートにまとめておくこと	120分
4	第一部水 9/23	物権法序論③：物権の一般的効力	物権の一般的効力にはどのようなものがあるのかを知り、なかでも優先的効力について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権の一般的効力である優先的効力、追求効内容について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所(17-19頁)及び事前に配布しているレジュメの該当箇所を読み、物権の一般的効力の内容についてまとめておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をケースを中心に復習すること。特に、優先効の内容及び担保物権の意義・内容をノートにまとめて理解を深めること	120分
5	第一部火 9/29	物権的請求権	物権的請求権の意義、種類、根拠、要件、内容について学修する。特に、物権的請求権の内容については多くの学説が展開しているので、それぞれの学説の内容、違いについても理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物権的請求権の意義、種類、要件、内容について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所(303-317頁)及び事前に配布しているレジュメに目を通し、物権的請求権の内容、問題点についてまとめておくこと。	120分
		事後学修	物権的請求権の意義、種類、要件、内容について教科書の該当箇所を復習し、しっかりとまとめておくこと。次回以降の授業の中で、物権法序論の確認テストを行うため、その準備をしておくこと	120分
6	第一部水 9/30	物権変動①：物権変動の意義	物権変動の意義、各種の物権変動（発生・変更・消滅）とその原因、物権変動論の意義及び大枠について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権変動の意義、各種の物権変動（発生・変更・消滅）とその原因について、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	物権法序論の確認テストを行うため、その準備をしておくのとともに、教科書の該当箇所(27-36頁)及び事前に配布しているレジュメに目を通しておくこと	120分
		事後学修	物権変動の意義、原因について教科書の該当箇所を復習し、まとめておくのとともに、確認テストの間違った箇所を復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/6	物権変動②：法律行為を原因とする物権変動	法律行為を原因とする物権変動として、民法176条の意味、民法176条の「意思表示」意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法176条の意味、民法176条の「意思表示」意義につき、理解し、正確に説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の該当箇所（37-40頁）を読んでもくこと	120分
		事後学修	民法176条の意味、「意思表示」の意義について教科書の該当箇所を復習し、しっかりとまとめておくこと。	120分
8	第一部水 10/7	物権変動③：物権変動の時期	物権変動の時期についての判例の立場を理解するとともに、判例に対する批判の学説の展開についても学修し、理解を深める。さらに、物権変動の時期にまつわる判例の事案の概要、判旨などを学修し、判例の読み方についての解説も行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権変動の時期に関する判例の立場について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（40-42頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、物権変動の時期についてまとめておくこと。	120分
		事後学修	物権変動の時期について教科書の該当箇所を復習し、しっかりとまとめておくこと。なお、この箇所では、教科書の発展学習、補論の箇所もきちんと読むこと。	120分
9	第一部火 10/13	不動産に関する物権変動①：不動産物権変動の公示、公示の原則、公信の原則	この講義より不動産の物権変動につき、9回にわたり学修する。そのうちの第1回目として、不動産の物権変動の公示の必要性と方法、公示の原則と公信の原則という基礎概念について扱うこととする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権変動の公示の必要性、公示の原則、公信の原則について正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（43-45頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、不動産物権変動の公示の必要性及び公示の原則、公信の原則についてまとめておく。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。とりわけ、公示の原則、公信の原則については重要項目となるので、しっかりと確認すること。	120分
10	第一部水 10/14	不動産に関する物権変動②：不動産登記・登記の効力	不動産物権変動の公示方法としての不動産登記の意義、不動産登記簿の編成、登記の種類、登記手続き、さらに、登記の効力について一通り学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産登記の意義を理解し、説明できるとともに、不動産登記簿の見方を修得する。	
		事前学修	教科書の該当頁（45-50、116-127頁）を読み、不動産登記簿の登記事項証明書の例をみておくこと。	100分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。さらに、所有者不明土地問題の解決策として重要な意味をもつ登記にまつわる最近の議論について法務省のHPや新聞記事などで情報を取得し、理解を深めること。	140分
11	第一部火 10/20	不動産に関する物権変動③：民法177条の効果	ここから民法177条の法解釈について学修する。ここでは、民法177条の効果、すなわち、「対抗することができない」の意味するところを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法177条の効果について理解し、正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（51-55頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、民法177条の効果についてまとめておく。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、さまざまな学説について、それぞれの学説の内容、異同についてまとめておくこと。	120分
12	第一部水 10/21	不動産に関する物権変動④：民法177条の要件（序論）	民法177条の要件、すなわち、①不動産物権変動の存否、②第三者の意義のうち、①の不動産物権変動の存否をめぐる判例・学説の現状について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法177条の要件が何かを理解するとともに、①不動産物権変動の存否にまつわる判例・学説の現状つき、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書該当箇所（51-62頁）及び事前に配布しているレジュメを読み、民法177条の1つ目の要件についてまとめておく。	120分
		事後学修	民法177条適用の前提としての「物権の得喪及び変更」の意味するところについて、とりわけ、レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 10/27	不動産に関する物権変動 ⑤：取消しと登記	登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも最も代表的な問題である「取消しと登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「取消しと登記」に関する法的議論について、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（82-89頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、とりわけて重要な論点の1つである「取消しと登記」については、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨については、判例百選などを用いてまとめること。	120分
14	第一部水 10/28	不動産に関する物権変動 ⑥：解除と登記	登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも代表的な問題として挙げられる「解除と登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「解除と登記」に関する法的議論につき、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（89-92頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「解除と登記」についても、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめること。	120分
15	第一部火 11/10	不動産に関する物権変動 ⑦：相続と登記	前回に続き、今回も、登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも代表的な問題として、「相続と登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「相続と登記」に関する法的議論につき、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（92-105頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「相続と登記」については、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめること。	120分
16	第一部水 11/11	不動産に関する物権変動 ⑧：取得時効と登記	引き続き、登記を要する物権変動か否かをめぐる議論の中でも代表的な問題として挙げられる「取得時効と登記」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「取得時効と登記」に関する法的議論につき、理解し、正確に説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（105-115頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「取得時効と登記」については、教科書を繰り返し読み、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめること。	120分
17	第一部火 11/17	不動産に関する物権変動 ⑨：177条の第三者	民法177条の要件について復習したうえで、民法177条の第三者の範囲について学修する。とくに、学生が誤って理解しがちな背信的悪意者の意味するところについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法177条の要件のなかでも、「第三者」の範囲について説明することができる。	
		事前学修	レジュメ及び教科書該当頁（62-81頁）を読み、民法177条の要件のなかでも、民法177条の第三者の範囲につき、しっかりと確認しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである民法177条の「第三者」の範囲については、教科書を繰り返し読み、内容を正しく理解すること。次回以降の授業の中で、不動産の物権変動にまつわる確認テストを行うため、その準備をしておくこと。	120分
18	第一部水 11/18	動産の物権変動①：動産物権譲渡の対抗	不動産の物権変動に続き、動産の物権変動について学修する。ここでは、民法178条の要件、動産物権譲渡の公示方法の「引渡し」、民法178条の「第三者」の意味について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、民法178条の要件、動産物権譲渡の公示方法としての「引渡し」とは何か、民法178条でいう「第三者」とはだれかについて、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（129-143頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、「引渡し」の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部火 11/24	動産の物権変動②：即時取得(1)	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つが即時取得を学修する。即時取得の意義、要件、効果を中心に理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法192条を中心とする即取取得の意義等について正確に説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（144－155頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	民法Ⅱのなかでも、重要な論点の1つである「即時取得」については、教科書を繰り返しよみ、内容を正確に理解すること。さらに、主要な判例の事案の概要と判旨について、判例百選などを用いてまとめておくこと。	120分
20	第一部水 11/25	動産の物権変動③：即時取得(2)（盗品・遺失物に関する例外）	前回に続き、即取取得を学修するが、主として、盗品または遺失物の場合の例外について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法192条を中心とする即時取得の例外について正確に説明できる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（156－159頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分
21	第一部火 12/1	立木等に関する物権変動、明認方法、物権の消滅	立木等の物権変動の公示方法や明認方法の意義、態様、公示のほか、物権の消滅原因として主に、混同について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、立木等に関する物権変動、明認方法、物権の消滅原因について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（28-32、161－162頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、明認方法や混同の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分
22	第一部水 12/2	占有権①：意義、権能、態様	占有権は、所有権等と並列される物権の一種である。ここでは、占有（権）の一般的要件・効力及び占有（権）の消滅について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、占有権の意義や内容について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（257-294頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	占有の一般的要件や占有の効力にまつわる主要な判例の事案の概要と判旨については、判例百選などを用いてまとめておくこと。	120分
23	第一部火 12/8	占有権②：占有訴権	前回に続き、占有権について理解を深める。占有権の中でも、重要な論点である、占有訴権（意義、種類、効果、占有の訴えの要件、交互侵害）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、占有訴権について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当頁（294-301頁）を読むのと同時に、事前に配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。次回以降の授業の中で、占有権に関する確認テストを行うため、その準備をしておくこと。	120分
24	第一部水 12/9	所有権①：所有権の意義・性質・内容・相隣関係	物に全面的かつ排他的な支配を及ぼすことのできる所有権の意義と内容、相隣関係について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所有権の意義を説明できるとともに、物権関係規定の見直し議論の中でも問題となっている所有権放棄の可否等についての理解し、関心を深めること。	
		事前学修	教科書の該当頁（165－172頁）を読むとともに、所有者不明土地問題とはどのような問題なのか、インターネットなどを利用して情報を収集し、まとめておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、所有権の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部火 12/15	所有権②：所有権の取得原因	前回に続き、所有権について学修する。所有権の取得原因、とりわけ添付について説明し、理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有権の取得原因について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（173－190頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、「添付」の内容について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分
26	第一部水 12/16	所有権③：共有	前回に続き、所有権、なかでも重要論点の1つである共有について学修する。共有の意義、形態、共有の法律関係（内部・外部関係）について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法Ⅱの重要論点の1つである共有について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（191－219頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。特に、「共有の法律関係」について、教科書をしっかりと読み、正確に理解すること。	120分
27	第一部火 12/22	所有権④：建物区分所有	一物一権主義の例外となる、建物区分所有について学修する。建物区分所有の意義、内容について説明し、理解を促すこととする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、建物区分所有について正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の該当箇所（221－236頁）を読むのと同時に、あらかじめ配布してあるレジュメにも目を通しておくこと。	120分
		事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分
28	第一部水 12/23	用益物権	他人の土地の利用を本質的な内容とする各種用益物権の意義及び内容（成立原因、対抗要件、存続期間、権利の内容）について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、用益物権について正確に理解し、説明できること。	
		事前学修	各種用益物権の意義及び内容について、教科書の該当箇所（239－253頁）や事前に配布したレジュメを参考にまとめておくこと。	120分
		事後学修	各種用益物権の異同に注意しながら、レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所をしっかりと復習すること。	120分
29	第一部火 1/12	不動産実務と法律	不動産実務に精通するゲストスピーカーを呼び、特に相続法改正及び物権法改正の議論にまつわる不動産実務の現状について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不動産実務の実状を理解するとともに、物権まつわる近年の法律動向について理解し、説明することができる。	
		事前学修	物権法改正、相続法改正の議論の動向につき、法務省のホームページ等を参照し、調べておくこと	120分
		事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分
30	第一部水 1/13	総まとめ・質問受付	第29回までの講義でまとめたレジュメ及び教科書を用いて、総まとめを行う。なお、授業内試験を実施する場合には、講義時間中に試験と解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら発信することができる。	
		事前学修	これまでの講義をよく復習し、よくわからなかったところを書き出しておく。	120分
		事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理し、試験に向けての準備を行うこと。	120分

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	根本 晋一	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心をもち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式を採用し、板書事項をしっかりと示す。なお、シラバス（学習計画）は凡その目安である。法改正や新判例、新論点を追加した場合、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					1	1						
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確 認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内もしくはポータルサイトにて行う。	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業開始後に紹介をする。				

【オフィスアワー】	
水道橋における出講は前期土曜日の午前中のみなので、原則として授業の前後の休み時間に対応をする。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月 4日	授業の進め方と成績評価の方法、民法学における物権の位置づけ、など。	ガイダンス、民法学における物権法の位置づけなど。	
		この回の到達目標	物権法は民法学の一部なので、民法典における物権編の位置づけを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
2	4日	物権法総論	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
3	11日	物権法総論	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）②	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
4	11日	物権法総論	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）③	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
5	18日	物権法総論	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
6	18日	物権変動総論	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）②	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	25日	物権変動総論	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）③	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
8	25日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
9	5月 2日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）②	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
10	2日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）③	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
11	9日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）④	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
12	9日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑤	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	16日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑥	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
14	16日	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑦	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
15	23日	動産物権変動	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
16	23日	動産物権変動	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）②	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
17	30日	動産物権変動	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）③	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
18	30日	物権法各論・占有権	占有権（意義と効力、占有訴権、準占有など）	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月 6日	物権法各論・所有権	所有権総論（意義と効力、完全物権と制限物権、不動産所有権に関する相隣関係など）	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
20	6日	所有権の取得原因	所有権の取得（取得原因、無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、附合、混和、加工、など）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
21	13日	所有権の所得原因	所有権の取得（取得原因、無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、附合、混和、加工、など）②	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
22	13日	所有権の態様・共有	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
23	20日	所有権の態様・共有	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）②	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
24	20日	所有権の態様・共有	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）③	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	27日	物権法各論・用益物権・地上権	地上権（意義と効力、区分地上権、不動産賃借権との相違、とくに借地借家法の適用を受ける建物所有を目的とする借地について）①	
		この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
26	27日	物権法各論・用益物権・地上権	地上権（意義と効力、区分地上権、不動産賃借権との相違、とくに借地借家法の適用を受ける建物所有を目的とする借地について）②	
		この回の到達目標	物権法各論・用益物権・地上権	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
27	7月4日	物権法各論・用益物権・永小作権、地役権、入会権など	永小作権、地役権、入会権など①	
		この回の到達目標	永小作権、地役権、入会権など	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
28	4日	物権法各論・用益物権・永小作権、地役権、入会権など	永小作権、地役権、入会権など②	
		この回の到達目標	物権法各論・用益物権・永小作権、地役権、入会権など	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
29	11日	補遺など	補遺・調整・まとめ①	
		この回の到達目標	やり残したと思われる箇所について説明するので、それを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
30	11日	おさらい・まとめ	補遺・調整・まとめ②	
		この回の到達目標	30回分の授業全体を概観し、おさらいをなし、まとめるので、それを理解し、説明できるようになる。	
		事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
		事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）【法職課程】	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
条文上は，民法第2編物権のうち，第295条から第398条の22までが対象領域であるが，金融実務に促される形で日々発展を遂げている非典型担保の諸類型も，担保物権法の重要な領域の1つを構成している。全体として，債権の回収を容易にするための様々な物的保護手段を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会で生じる問題に対して妥当な解決を見出すことができるようになるために，一般に理解が困難とされる担保法の仕組みやその社会的意義を理解し，的確に説明することができる力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ・Ⅱ（民法総則・物権法）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
実務や学界の動向，最新判例なども視野に入れつつ講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し，どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に，知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2						
②	担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NBS担保物権法〔第2版〕	田高寛貴ほか	日本評論社	2019	教科書	必携
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、担保物権法とは	履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で担保物権法がどのような位置を占めているかについて説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。	120分
2	9/18	担保物権法序説(1)：担保物権の機能・種類	本授業の全体像を把握させるため、担保物権一般の機能や種類を整理して説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保物権の機能・種類について説明できる。	
		事前学修	教科書第1章のうち、1～8頁を読み、担保物権の意義や種類について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
3	9/22	担保物権法序説(2)：他分野の権利との比較、担保物権の通有性	前回の授業に引き続き、担保物権法の序説として、担保物権が他の物権や債権との間で示す性質や効力を説明するとともに、人的担保との対比や、付従性や随伴性、不可分性、物上代位性といった担保物権が共通して有する性質(通有性)について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、他分野の権利との比較、担保物権の通有性について説明できる。	
		事前学修	教科書第1章のうち、8～15頁を読み、担保物権と他分野の権利との比較や担保物権の通有性について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
4	9/25	抵当権(1)：抵当権の意義	実務上の典型的な担保物権である抵当権について、公示の原則をはじめとする諸原則を説明し、特別法上の特殊な抵当権を概観するとともに、価値権説に代表される抵当権の本質をめぐる議論を説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当権の意義について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、16～22頁を読み、抵当権の意義について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
5	9/29	抵当権(2)：抵当権の設定・公示・対抗、被担保債権の範囲	抵当権設定契約と抵当権の被担保債権・目的物について説明するとともに、抵当権の公示方法・対抗要件としての登記について、その諸問題とともに説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、抵当権の設定・公示・対抗、被担保債権の範囲について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、22～29頁を読み、抵当権の設定・公示・対抗や抵当権の被担保債権の範囲について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
6	10/2	抵当権(3)：抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲	抵当目的物本体である不動産(土地・建物)だけでなく、付加一体物や従たる権利、果実など、不動産に関連する他の物にも抵当権の効力が及ぶかといった目的物の範囲をめぐる諸問題を説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、29～37頁を読み、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	抵当権(4)：抵当権侵害	担保権侵害一般の特徴を説明した後、抵当権侵害をめぐる諸問題として、抵当権に基づく物権的請求権、損害賠償請求権、期限の利益喪失、増担保請求権を採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当権侵害について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、37～44頁を読み、抵当権侵害について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	10/9	抵当権(5)：物上代位の意義・対象・手続	担保物権の通有性としての物上代位について一般的な説明を加えた後、抵当権に基づく物上代位を採り上げ、その意義・対象・手続について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物上代位の意義・対象・手続について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、45～53頁を読み、抵当権に基づく物上代位の意義・対象・手続について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	10/13	抵当権(6)：物上代位と第三者の権利との競合	前回の授業に引き続き、抵当権に基づく物上代位に関する諸問題として、抵当権に基づく物上代位と第三者の権利との競合について採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物上代位と第三者の権利との競合について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、53～58頁を読み、前回の授業内容を踏まえつつ、抵当権に基づく物上代位と第三者の権利との競合について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	10/16	抵当権(7)：担保不動産競売、担保不動産収益執行	抵当権が有する優先弁済権の実現過程のうち、担保不動産競売について、その具体的手続の流れを中心に説明するとともに、2003年改正により創設された担保不動産収益執行についても説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、担保不動産競売、担保不動産収益執行について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、59～68頁を読み、担保不動産競売や担保不動産収益執行について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	10/20	抵当権(8)：共同抵当	同一の債権の担保として複数の不動産に設定される抵当権を意味する共同抵当について、とりわけ配当段階に生じる後順位抵当権者の代位（民法392条2項後段）をめぐる諸問題を中心に説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、共同抵当について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、68～73頁を読み、共同抵当について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	10/23	抵当権(9)：賃借人の保護	抵当目的不動産の利用権と抵当権との調整に関し、特に賃借人を保護するための制度として、いずれも2003年改正により導入され、建物の明渡猶予の制度（民法395条）と、抵当権者の同意による賃借権への対抗力の付与の制度（同387条）を採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当不動産の賃借人の保護について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、74～78頁を読み、抵当不動産の賃借人の保護について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	抵当権(10)：法定地上権の制度趣旨・要件(1)建物存在要件	抵当不動産の競売に伴い成立する民法388条の法定地上権について、その制度趣旨とともに、その成立要件のうち、地上建物の存在の要件について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定地上権の制度趣旨・建物存在要件について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、79～86頁を読み、担保不動産競売に伴う法定地上権の制度趣旨と、その成立要件のうち地上建物の存在の要件について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
14	10/30	抵当権(11)：法定地上権の要件(2)同一所有者要件、一括競売	前回の授業に引き続き、担保不動産の競売に伴う法定地上権の成立要件のうち、土地と建物が同一の所有者に属することの要件(同一所有者要件)について、判例上現れる諸類型をめぐる問題を中心的に採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法定地上権の同一所有者要件、一括競売について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、86～95頁を読み、前回の授業内容を踏まえつつ、担保不動産競売に伴う法定地上権の成立要件のうち同一所有者要件について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
15	11/6	抵当権(12)：第三取得者との関係	抵当権設定後の不動産を取得した第三者を意味する第三取得者につき、これを保護する法的仕組みとして、第三者弁済・代価弁済のほか、抵当権消滅請求を採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、担保不動産の第三取得者の保護について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、95～99頁を読み、抵当権者と担保不動産の第三取得者との関係について考察する。	120分
		事後学修	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分
16	11/10	抵当権(13)：抵当権の処分・消滅	転抵当や抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄といった抵当権の種々の処分について説明するとともに、近時判例が出現している抵当権の消滅をめぐる諸問題を採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、抵当権の処分・消滅について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、100～107頁を読み、抵当権の処分・消滅について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
17	11/13	抵当権(14)：根抵当権	実務上も重要な抵当権の類型である根抵当権について、通常の抵当権との違いを中心に説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、根抵当権について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち、107～112頁を読み、根抵当権について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
18	11/17	抵当権(15)：特別法上の抵当権／質権(1)：質権の種類・意義・設定	前回までの授業内容を踏まえつつ、特別法上の抵当権について詳述した後、質権のパートに進み、その種類・意義・設定について整理して説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特別法上の抵当権と各種の質権について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章をおさらいするとともに、教科書第3章のうち、113～116頁を読み、質権の種類・意義・設定について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/20	質権(2)：質権の効力・実行・消滅，権利質	前回の授業に引き続き，質権のうち，その効力・実行・消滅について説明するとともに，特殊な質権である権利質について，債権質を中心に説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，質権の効力・実行・消滅，権利質について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章のうち，117～124頁を読み，質権の効力・実行・消滅と権利質について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
20	11/24	非典型担保(1)：非典型担保の意義，譲渡担保の意義・法的構成	民法に規定されていない担保手段としての非典型担保について，その実務上の意義を説明するとともに，実務上多く用いられる非典型担保としての譲渡担保につき，その意義を説明し，併せて，その法的構成をめぐる問題についても説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，非典型担保の意義，譲渡担保の意義・法的構成について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち，125～133頁を読み，非典型担保の意義のほか，譲渡担保の意義と法的構成について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
21	11/27	非典型担保(2)：譲渡担保の目的物と公示・対抗・実行	前回の授業に引き続き，譲渡担保をめぐる諸問題のうち，その目的物と公示・対抗・実行に関する問題を，判例を中心に採り上げて説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，譲渡担保の目的物・公示・対抗・実行について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち，133～139頁を読み，譲渡担保の目的物と公示・対抗・実行について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
22	12/1	非典型担保(3)：譲渡担保の対外的効力	前回の授業に引き続き，譲渡担保をめぐる諸問題のうち，その対外的効力に関する問題を，判例を中心に採り上げて説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，譲渡担保の対外的効力について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち，139～145頁を読み，譲渡担保の対外的効力について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
23	12/4	非典型担保(4)：仮登記担保，所有権留保	譲渡担保以外の非典型担保として，特別法上の規律がある仮登記担保のほか，近時重要判例が続出している所有権留保を採り上げて説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，仮登記担保，所有権留保について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち，145～153頁を読み，仮登記担保と所有権留保について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
24	12/8	非典型担保(5)：債権担保	債権譲渡担保や相殺の担保的機能，代理受領，振込指定といった非典型担保としての債権担保を採り上げて説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，債権上の非典型担保について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち，154～164頁を読み，非典型担保としての債権担保について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/11	法定担保(1)：先取特権	当事者の約定がなくても成立する法定担保のうち、特別法を含めて種々の類型がみられる先取特権を採り上げて説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、各種の先取特権について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章のうち、165～176頁を読み、先取特権について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
26	12/15	法定担保(2)：留置権の意義、民事留置権の成立要件	法定担保のうち、留置権について、その一般的意義を説明した上で、民法295条以下に基づく民事留置権を採り上げ、その成立要件について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、留置権の意義、民事留置権の成立要件について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章のうち、176～183頁を読み、留置権の意義のほか、民事留置権の成立要件について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
27	12/18	法定担保(3)：民事留置権の効力・消滅、商事留置権	前回の授業に引き続き、民事留置権のうち、その効力・消滅について説明した上で、商事留置権についても採り上げ、民事留置権との違いを中心に説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民事留置権の効力・消滅、商事留置権について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章のうち、184～190頁を読み、民事留置権の効力消滅と商事留置権について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
28	12/22	授業内試験及びまとめ(1)	授業内試験を実施するとともに、残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち、欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し、授業内試験に向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分
29	12/25	授業内試験（予備日）及びまとめ(2)	これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに、やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し、授業内での質問事項をまとめる。	120分
		事後学修	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。	120分
30	1/12	授業内試験の講評	授業内試験の採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験の問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	授業内試験で扱われたテーマについて、再度教科書等に当たって考察する。	120分
		事後学修	試験の講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。	120分

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
条文上は、民法第2編物権のうち、第295条から第398条の22までが対象領域であるが、金融実務に促される形で日々発展を遂げている非典型担保の諸類型も、担保物権法の重要な領域の1つを構成している。全体として、債権の回収を容易にするための様々な物的保護手段を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会で生じる問題に対して妥当な解決を見出すことができるようになるために、一般に理解が困難とされる担保法の仕組みやその社会的意義を理解し、的確に説明することができる力を修得する。

【履修条件】
民法総則は履修済みであること。物権法の基礎理論については履修していることが望ましいが、本講義でも復習を兼ねて講義をする。債権法総論と各論は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問＆検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅱ——物権〔題4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	淡路剛久ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
新基本法コンメンタール 物権	鎌田薫・松岡久和・松尾弘	日本評論社	2020	参考書	推奨
論点体系 判例民法3〔第3版〕	能見義久・加藤慎太郎	第一法規	2019	参考書	任意
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 4/6	【ガイダンス】担保物権法を学ぶ意義：担保物権とは？	これから学ぶ“担保”とは何か、担保物権とはどのような権利であるかを学修する。また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典における担保物権がどのようなものであるか、担保物権の概要ないし輪郭を担保の視点から把握し、民法典の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書を2・3回通読する。併せて、これから学ぶ民法典の担保物権に関する規定（民法295条―398条の22）を音読しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。物的担保の概要および民法典における担保物権の輪郭を把握し、整理する。（2時間）	120分
2	第一部水 4/8	担保物権の意義と基本的特徴	民法典の物権編における担保物権の意義、位置付けについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「物」を「直接に」「債権」の「担保にあてる」法律上の手段とは何かを理解し、担保物権の基本的性質を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める4種類の担保物権（典型担保）の特徴を把握しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
3	第一部水 4/13	担保物権の種類	担保物権の種類を民法典の条文に即して整理し、典型担保・非典型担保との区別、法定担保物権・約定担保物権の違いなどを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保物権の種類とその内容を、優先弁済的効力・留置的効力・収益的効力の観点から把握し、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、担保物権の種類ごとに法的性質を調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
4	第一部水 4/15	担保物権の効力と性質	担保物権の基本的な効力と性質を、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保物権の効力を付従性・随伴性・不可分性・物上代位性の観点から整理し、担保物権の種類に応じて説明することができる。また、担保物権の性質を付従性・随伴性・不可分性・物上代位性の観点から整理し、各種の担保物権に備わる性質を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、担保物権の効力を調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
5	第一部水 4/20	留置権の意義・法的性質	法定担保物権の1つである留置権の社会的意義、種類、性質について、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、留置権とは何か、どのような機能を有しているのかを、留置権の社会的意義、種類、性質から説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、留置権の沿革を調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。留置権の意義・性質を整理するとともに、同時履行の抗弁権との異同を整理する。（2時間）	120分
6	第一部水 4/22	留置権の成立要件	留置権が成立する要件を、民法典の規定に即して学習する。また、留置権の成立要件に関して争われた基本的な裁判例を整理し、その内容を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、留置権の成立要件を挙げて、その内容を説明することができる。また、成立要件のうち、「物と債権との牽連関係」をめぐる裁判例について、論点を整理し、判例の意味するところを説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、留置権の成立要件を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。とくに、物と債権と牽連関係について裁判例を整理し、理解を深める。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 4/27	留置権の消滅	留置権の消滅について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、留置権の消滅を、物権および担保物権一般の消滅原因との関係で理解するとともに、固有の消滅原因について説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、留置権の効果を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
8	第一部水 4/29	先取特権の意義・性質	法定担保物権の1つである先取特権の社会的意義、種類、性質について、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、先取特権とは何か、どのような機能を有しているのかを、先取特権の社会的意義、種類、性質から説明することができる。また、先取特権が担保される目的物の違いにより、一般の先取特権と特別の先取特権に分類され、後者はさらに動産の先取特権と不動産の先取特権に分けられることを、具体例を挙げながら説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、先取特権の沿革、先取特権が担保目的物に着眼してどのように分類されるかを調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
9	第一部水 5/4	先取特権の順位・効力と消滅	先取特権の種類と効力ついて、民法典の規定に即して学習する。民法典が定める先取特権は一般先取特権と特別の先取特権を合わせて15種類あり、相互の順位関係がどのように規律されているかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、総財産の上に成立する一般の先取特権と特別の先取特権との区別、および相互の順位関係について、説明することができる。また、動産の先取特権のうち、不動産賃貸の先取特権は借家内のすべての動産に及ぶかどうかについて、教科書に従って判例・学説を整理し、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、先取特権の効果を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
10	第一部水 5/6	質権の意義・性質	約定担保物権の1つである質権について、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、質権とは何か、質権が社会の中でどのように用いられ、いかなる機能を有しているかを、説明することができる。また、質権がその対象となる目的物に応じて動産質・不動産質・債権質の3つに分けられることについて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、質権の沿革、現代社会における質権の役割・機能を調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
11	第一部水 5/11	質権の設定の要件と効力	質権設定の要件と効果について、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、質権の意義を踏まえて、質権設定の要件と効果について、一般的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、質権設定の一般的要件および効果を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
12	第一部水 5/13	各種の質権と成立要件・効力	質権の目的物の違いに応じて、動産質権・不動産質権・権利質のそれぞれの特色と、その成立要件・効力について、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、動産質権・不動産質権・権利質のそれぞれにつき、その成立要件と効力について、説明することができる。また、動産質につき、質物を第三者に奪われたり詐取された場合を例に挙げながら、質物返還請求の当否について、明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、質権が設定される目的物に即して、質権設定の要件および効果を確認しておく。質物を第三者に奪われたり詐取された場合の事例を、事前に検討する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 5/18	抵当権の意義・性質、近代 抵当制度と日本の抵当権	約定担保物権の中心をなす抵当権について、民法典の規定に即して、その意義・法的性質を学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権がわが国の社会の中でどのように利用され、機能しているのか、説明することができる。また、わが国の抵当権が近代抵当制度の観点から見て、どのような特徴を有しているのか、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の沿革、取引社会における抵当権の機能・役割、近代抵当制度という観点から、わが国の抵当制度がどのような特徴を有しているかをなどを確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
14	第一部水 5/20	抵当権の効力の及ぶ範囲 （その1）——目的物の 範囲	抵当権の効力の及ぶ範囲のうち、抵当権の目的物となり得るものについて、民法典の規定に即して学修する	
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲につき、従物と付加物に関する過去の裁判例を踏まえながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権が不動産に設定されることの意味、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
15	第一部月 5/25	抵当権の効力の及ぶ範囲 （その2）——被担保債権	抵当権の効力の及ぶ範囲うち、抵当権のによって担保される被担保債権について、民法典の規定に即して学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権のによって担保される被担保債権はどの範囲で認められるのか、質権と対比しながら、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の実行によって担保される債権の範囲を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
16	第一部水 5/27	抵当権の実効手続と民事執行法	抵当不動産の競売を概観し、抵当権の物上代位、担保不動産収益執行について、民法および民事執行法の規定に即して学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、抵当不動産の競売手続の概略を理解し、その内容を、抵当権の物上代位、担保不動産収益執行との関連において、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の実効手続としてどのようなものがあるかを把握しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
17	第一部月 6/1	抵当権と利用権との関係 （その1）——抵当不動産 の第三取得者と代価弁済・ 抵当権消滅請求	抵当不動産が売却された場合の法律関係について、第三取得者の法的地位と代価弁済・抵当権消滅請求について、抵当権と利用権との関係という観点から、学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権と利用権との関係、抵当不動産の第三取得者の地位、および、それをめぐる代価弁済・抵当権消滅請求との関係につき、民法典の規定に即して説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当不動産に対する抵当権者と利用権者との利害の対立とその調整方法、抵当不動産の第三取得者の地位などについて確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
18	第一部水 6/3	抵当権と利用権との関係 （その2）——法定地上権 の意義・成立要件	抵当不動産が売却された場合の法律関係について、法定地上権の意義とその成立要件・効果について、学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、法定地上権とはどのような権利で、それが認められる理由や成立要件・効果について、基本的な裁判例を参照し、整理したうえで、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権者と利用権者との利害調整として、法定地上権がどのような機能を有しているかを確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部水 6/8	抵当権の処分	抵当権の処分として、民法典が認める転抵当、抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権の処分とは何か、抵当権の処分の意義・目的を理解したうえで、どのような行為が抵当権の処分に当たるかを説明することができる。また、抵当権の処分として、民法典が定める転抵当、抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡について、説明することができる。	
		事前学修	抵当権の処分とは何かを、民法典の規定および教科書を読み、確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
20	第一部水 6/10	共同抵当	共同抵当の意義と種類、共同抵当における配当法について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、1つの債権を担保するために複数の目的物に抵当権が設定された場合の法律関係につき、共同抵当における同時配当と異時配当という観点から、具体例を挙げて説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、共同抵当の意義、配当方法における同時配当と異時配当の関係を確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
21	第一部水 6/15	根抵当の意義	普通抵当と区別される根抵当権の意義と性質について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、わが国の根抵当がどのように利用され、今日の形を取るに至ったのか、説明することができる。また、普通抵当と区別される根抵当の特徴を、民法典の規定に即して説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、極度額と元本確定という観点から根抵当の仕組みを確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
22	第一部水 6/17	根抵当権の内容の変更と処分	根抵当における極度額とその変更、被担保債権の譲渡・質入れ、根抵当権の譲渡などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、根抵当を構成する基本概念である極度額の意味を理解したうえで、被担保債権の譲渡・質入れ、根抵当権の譲渡などについて、民法典の規定に即して説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、根抵当権の内容の変更と処分をめぐる問題について確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
23	第一部水 6/22	非典型担保-総論：非典型担保の意義と種類	民法典が定める担保権以外の担保（非典型担保）について、譲渡担保、仮登記担保、所有権留保について、学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非典型担保の意義を明らかにして、どのような担保が非典型担保とされるのか、民法典以外にどのような非典型担保があるのか、非典型担保の特色と機能を説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、民法典が定める典型担保以外にどのような担保があるか、その特徴について確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
24	第一部水 6/24	譲渡担保の意義	非典型担保としての譲渡担保について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②おに関連して、譲渡担保という担保制度が必要とされる理由と意義について、民法典の規定、とりわけ質権との関係を明らかにしながら、説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、譲渡担保の沿革、譲渡担保の意義と特色について確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
25	第一部月 6/29	譲渡担保の効力		譲渡担保の効力について、目的物の動産・不動産・権利に留意しながら、学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、譲渡担保にはどのような効力があるのか、目的物（動産・不動産・債権など）の違いを踏まえて、譲渡担保の対内関係と対外関係を整理し、具体的に明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、譲渡担保の効力について、裁判例を参照し、対内的関係と対外的関係の観点から確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
26	第一部水 7/1	仮登記担保		非典型担保の1つである仮登記担保について、学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、仮登記担保とはどのような非典型担保なのか、代物弁済の予約、停止条件付売買との関係に留意しながら、仮登記担保法の構造を明らかにし、規定に即して説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、仮登記担保の意義と特色、立法上の手続について確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
27	第一部月 7/6	所有権留保		非典型担保の1つである所有権留保について、学習する。
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、所有権留保とはどのような非典型担保なのか、所有権留保付き自動車の売買を例に挙げて、裁判例を参照し、その法律関係を説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、所有権留保の意義と特色について確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
28	第一部水 7/8	特殊の担保		特殊の担保として、工場抵当法における工場財団、その他の財団抵当制度、企業担保などについて、学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める抵当権の不動産中心主義を補充するために認められてきた各種の財団抵当制度、企業担保などを理解し、その概要について説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、工場財団を中心とした各種の財団抵当制度、企業担保などの仕組みを確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）。	120分
29	第一部月 7/13	その他の非典型担保		債権担保のために用いられる債権制度としては、どのようなものがあるか。ここでは、代理受領、再売買予約、相殺などを取り上げて、学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、代理受領、再売買予約や相殺などの債権法に根拠を置く民法上の制度が、非典型担保として債権担保の機能を有することを理解し、問題となる各場面につき、具体的に説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法における非担保制度としての担保的利用としてどのようなものがあるか確認しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
30	第一部水 7/15	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、担保物権の意義内容を整理し、総括する。 （受講者数によっては、最終授業回において、定期試験に代えて授業内試験を行う）
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、現代社会で用いられる様々な物的担保について、抵当権を中心に整理し、債権の履行を確保する法的手段という観点から、その概要を説明することができる。	
		事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。「課題と質問」を整理する。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	担当者	峯川 浩子	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
条文上は、民法第2編物権のうち、第295条から第398条の22までが対象領域であるが、金融実務に促される形で日々発展を遂げている非典型担保の諸類型も、担保物権法の重要な領域の1つを構成している。全体として、債権の回収を容易にするための様々な物的保護手段を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会で生じる問題に対して妥当な解決を見出すことができるようになるために、一般に理解が困難とされる担保法の仕組みやその社会的意義を理解し、的確に説明することができる力を修得する。

【履修条件】
民法総則を履修済みであること。物権・債権総論を履修済みないし履修中であることが望ましい。

【授業方法】
講義形式による。2コマ続きとなるので、練習問題を解くなど気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめたい。授業内で実施した試験は、試験後に解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業中に解説する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
担保物権法〔第3版〕	山川一陽	弘文堂	平成23年	教科書	必携
担保物権法〔第3版〕	道垣内弘人	有斐閣	平成27年	参考書	任意
民法判例百選Ⅰ総則・物権第8版	潮見佳男ほか	有斐閣	平成30年	参考書	推奨
備考	レジュメを配布して授業を進めるので教科書は持参しなくても構わない。事前・事後学習で活用してもらいたい。条文を参照するので六法を必ず持参すること。				

【オフィスアワー】	
金曜授業終了後19:30～ 授業講堂にて質問を受け付ける。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス、担保物権とは何か	ガイダンス。担保の意義、担保の必要性、物的担保と人的担保について学修する。	
		この回の到達目標	担保の意義、担保の必要性、物的担保と人的担保について理解し説明できる。	
		事前学修	シラバスの確認。担保物権に関する規定（民法295条～398条の22）と教科書に目を通し、担保物権法とはどのような法律かを把握しておく。	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
2	4/10	担保物権の意義、種類、機能からみた効力	法定担保物権と約定担保物権、民法上の典型担保物権、特別法上の典型担保物権、非典型担保物権、機能からみた効力について学修する。	
		この回の到達目標	法定担保物権と約定担保物権、民法上の典型担保物権、特別法上の典型担保物権、非典型担保物権、機能からみた効力について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書7頁～16頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
3	4/17	担保物権の性質	担保物権に共通して認められる性質（附従性、随伴性、不可分性、物上代位性）、担保物権と物権的請求権について学修する。	
		この回の到達目標	担保物権に共通して認められる性質（附従性、随伴性、不可分性、物上代位性）、担保物権と物権的請求権について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書16頁～24頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
4	4/17	留置権（1）意義、法的性格、成立要件	留置権の意義と内容、法的性格について学修する	
		この回の到達目標	留置権の意義と内容、法的性格について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書25頁～31頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
5	4/24	留置権（2）成立要件、効力、消滅	留置権の成立要件、債権と物との牽連性、留置権の効力、消滅、同時履行の抗弁権との相違について学修する。	
		この回の到達目標	留置権の成立要件、債権と物との牽連性、留置権の効力、消滅、同時履行の抗弁権との相違について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書32頁～49頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
6	4/24	先取特権（1）意義、法的性質、種類	先取特権の意義、内容、法的性格、種類について学修する。	
		この回の到達目標	先取特権の意義、内容、法的性格、種類について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書51頁～67頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/1	先取特権（2）順位、効力、消滅	先取特権の順位、効力、消滅について学修する。	
		この回の到達目標	先取特権の順位、効力、消滅について理解し、説明できる。	
		事前学修	教科書67頁～74頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
8	5/1	質権（1）権の設定	質権の概要、質	質権の意義と機能、質権の機能の限界、法的性格、質権の対象、種類について学修する。
		この回の到達目標	質権の意義と機能、質権の機能の限界、法的性格、質権の対象、種類について理解し説明できる。	
		事前学修	教科書75頁～81頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
9	5/8	質権（2）動産質権	動産質権の設定、対抗要件、動産質権の対象となる物、被担保債権、動産質権の設定の効力について学修する。	
		この回の到達目標	動産質権の設定（設定契約、対抗要件、動産質権の対象となる物、被担保債権）、動産質権の設定の効力について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書82頁～98頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
10	5/8	質権（3）動産転質と不動産質権	動産転質、不動産質権について学修する。	
		この回の到達目標	動産転質、不動産質権について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書90頁～99頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
11	5/15	質権（4）権利質	権利質の意義、権利質権の成立、債権質権の効力について学修する。	
		この回の到達目標	権利質の意義、権利質権の成立、債権質権の効力について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書99頁～105頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
12	5/15	抵当権（1）抵当権の意義と機能、法的性質	抵当権の意義と機能、法的性質について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権の意義と機能、法的性質について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書107頁～132頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5/22	抵当権（2）抵当権の設定、対象	抵当権の設定、対象について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権の設定、対象について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書133頁～137頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
14	5/22	抵当権（3）抵当権の効力・範囲	抵当権の効力、効力の及ぶ目的物の範囲、被担保債権の範囲について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権の効力、効力の及ぶ目的物の範囲、被担保債権の範囲について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書138頁～155に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
15	5/29	抵当権（4）抵当権の侵害、消滅	抵当権に基づく物権的請求権、損害賠償請求権、期限の利益と増担保義務、抵当権の消滅について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権に基づく物権的請求権、損害賠償請求権、期限の利益と増担保義務、抵当権の消滅について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書155頁～169頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
16	5/29	抵当権（5）法定地上権①	抵当権の用益権の関係、法定地上権の意義、成立要件について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権の用益権の関係、法定地上権の意義、成立要件について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書169頁～177頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
17	6/5	抵当権（6）法定地上権②	土地と建物が存在するのに、土地のみ・建物の上に抵当権が設定された場合、土地と建物についてともに抵当権が設定された場合の法定地上権について学修する。	
		この回の到達目標	土地と建物が存在するのに、土地のみ・建物の上に抵当権が設定された場合、土地と建物についてともに抵当権が設定された場合の法定地上権について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書169頁～182頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
18	6/5	抵当権（7）法定地上権に関するその他の問題点	抵当権設定後に土地と建物が同一所有者に帰属した場合、土地と建物が別の所有者に帰属した場合、更地について抵当権を設定した後に建物を建築した場合の法定地上権について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権設定後に土地と建物が同一所有者に帰属した場合、土地と建物が別の所有者に帰属した場合、更地について抵当権を設定した後に建物を建築した場合の法定地上権について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書183頁～204頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6/12	抵当権（８）共有と法定地上権、抵当不動産の第三取得者の地位	共有と法定地上権、抵当不動産の第三取得者の地位（第三者弁済、代価弁済、抵当権消滅請求、抵当権消滅請求手続）について学修する。	
		この回の到達目標	共有と法定地上権、抵当不動産の第三取得者の地位（第三者弁済、代価弁済、抵当権消滅請求、抵当権消滅請求手続）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書192頁～205頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
20	6/12	抵当権（９）抵当権の処分	抵当権処分の意義、転抵当、譲渡、放棄、順位の譲渡・放棄について学修する。	
		この回の到達目標	抵当権処分の意義、転抵当、譲渡、放棄、順位の譲渡・放棄について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書205頁～214頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
21	6/19	抵当権（10）共同抵当権	共同抵当権の意義、同時配当、異時配当の場合の抵当不動産の負担について学修する。	
		この回の到達目標	共同抵当権の意義、同時配当、異時配当の場合の抵当不動産の負担について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書215頁～218頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
22	6/19	根抵当権（１）根抵当権の意義、性格、成立、範囲	根抵当権の意義、性格、成立、範囲について学修する。	
		この回の到達目標	根抵当権の意義、性格、成立、範囲について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書219頁～225頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
23	6/26	根抵当権（２）根抵当権の確定、共同根抵当	根抵当権の確定、処分、共同根抵当について学修する。	
		この回の到達目標	根抵当権の確定、処分、共同根抵当について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書226頁～233頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
24	6/26	非典型担保の概要、所有権留保、譲渡担保（１）	非典型担保の種類、機能、所有権留保、譲渡担保の意義について学修する。	
		この回の到達目標	非典型担保の種類、機能、所有権留保、譲渡担保の意義について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書235頁～246頁、295頁～301頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7/3	譲渡担保（２）設定、対抗要件、効力	譲渡担保権の法的構成、設定、対抗要件、効力について学修する。	
		この回の到達目標	譲渡担保権の法的構成、設定、対抗要件、効力について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書244頁～252頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
26	7/3	譲渡担保（３）目的物の利用関係、処分、実行	譲渡担保権が設定された目的物の利用関係、担保目的物の処分、譲渡担保権の実行について学修する。	
		この回の到達目標	譲渡担保権が設定された目的物の利用関係、担保目的物の処分、譲渡担保権の実行について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書252頁～263頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
27	7/10	譲渡担保（４）集合譲渡担保	集合譲渡担保の意義、分析論と集合物論、流動譲渡担保権の設定と被担保債権、対抗要件について学修する。	
		この回の到達目標	集合譲渡担保の意義、分析論と集合物論、流動譲渡担保権の設定と被担保債権、対抗要件について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書263頁～272頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
28	7/10	仮登記担保（１）意義、基本的構造	仮登記担保の意義、性格論、所有権の移転時期、清算義務について学修する。	
		この回の到達目標	仮登記担保の意義、性格論、所有権の移転時期、清算義務について理解し説明することができる。	
		事前学修	教科書272頁～284頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
29	7/17	仮登記担保（２）仮登記担保権と後順位担保権者の保護	仮登記担保権と後順位担保権者の保護、仮登記担保契約の手続の構造、抵当権規定の準用について学修する。	
		この回の到達目標	仮登記担保権と後順位担保権者の保護、仮登記担保契約の手続の構造、抵当権規定の準用について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書286頁～298頁に目を通しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
30	7/17	授業内試験及び解説	授業内試験及び解説を行う。	
		この回の到達目標	これまで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する。	
		事前学修	教科書と配布したレジュメ全てに目を通して学修しておく	120分
		事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて、これまでの学修内容を確認し復習する	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰ・Ⅱ（民法総則・物権法）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
実務や学界の動向、最新判例、債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。また、事前に授業範囲のパワーポイントを配布する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
債権総論	石田剛 他	日本評論社	2018	教科書	推奨
リーガルベシス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
債権総論 第3版	中田裕康	岩波書店	2014	教科書	任意
備考	最新版の六法を持参すること。また教科書については初回の授業で補足説明する。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で債権法総論がどのような位置を占めているかが説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。	120分
		事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	第一部 金4/10	民法の体系と債権法の位置づけ	債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法の体系と債権法の位置づけについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。	120分
		事後学修	特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。	120分
3	第一部 水4/15	債権の種類	債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特定物債権、種類債権について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権の中でもどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているのかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。	120分
		事後学修	何故そのような分類をする必要があり、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。	120分
4	第一部 金4/17	債務不履行1	債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前に不明点を明らかにしておく。	120分
		事後学修	債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。	120分
5	第一部 水4/22	債務不履行2	債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の意義・種類・効果についてその概要を説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。	120分
		事後学修	債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。	120分
6	第一部 金4/24	債務不履行3	債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを遡及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。	120分
		事後学修	債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水4/29	受領遅滞	受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受領遅滞の要件と効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。	120分
		事後学修	受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。	120分
8	第一部 金5/1	履行の強制	契約の不履行の際に、履行を強制することができるが、債権の性質が異なるように履行の強制の方法も異なっている。債権の性質と関連付けて履行の強制について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の効果としての履行の強制について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務者が債務不履行に陥った場合に、履行の強制の種類としてどのようなものがあるか、どのような性質を有しているかを確認する。	120分
		事後学修	債務不履行との連続性を意識し、かつ、債権の性質を踏まえ、債権が最終的にどのように実現されるかを説明できるようにする。	120分
9	第一部 水5/6	損害賠償1	損害賠償制度について、日本の損害賠償制度の趣旨がどのようなものであるかを解説し、損害とは何か、どのように算出されるのかななどを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償制度に関して損害の意義について説明できるようにし、日本の損害賠償制度における問題点を明らかにする。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、損害賠償制度について、どのような目的の制度であるかなどの制度趣旨を確認する。	120分
		事後学修	債務不履行に基づく損害賠償制度の目的や機能について、不法行為に基づく損害賠償制度との違いを踏まえながら理解し、説明できるようにする。	120分
10	第一部 金5/8	損害賠償2	損害賠償の損害額を算出するにあたっては、当事者の公平を保つため、債権者側、債務者側に特殊事情が存在する場合にはそれを考慮する必要があるが、どのような理論的根拠に基づいて行われるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償制度における損害額の算出方法について説明できるようにし、損害額に影響を及ぼす諸制度についての妥当性に問題意識を持てるようにする。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、損害賠償の際に考慮しなければならない特殊事情としてどのようなものが存在するのかを確認する。	120分
		事後学修	損害額を算出するにあたって、どのような事由が考慮され、また、考慮されないのかについてそれぞれの論理的な根拠を自分なりに説明ができるようにする。	120分
11	第一部 水5/13	責任財産の保全1	債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任財産の概念について説明できるようにし、責任財産がどのような意義を持っているかを説明できるようにする。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。	120分
		事後学修	責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。	120分
12	第一部 金5/15	責任財産の保全2	責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しているが、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択するべきであるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者代位権と詐害行為取消権とが責任財産の保全に関してどのような位置づけにあるかについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。	120分
		事後学修	責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水5/20	多数当事者の債権関係	今までは基本的に当事者は債権者と債務者の関係を念頭に置いていたが、一方あるいは双方の当事者が複数人存在する法律関係も存在し、どのような場合にそのような法律関係が生じるのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多数当事者の場合における特殊性について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、多数当事者とはどういった事実関係で問題となるのか、今まで学習してきた事実関係と対比させて、問題点を確認しておく。	120分
		事後学修	多数当事者という制度が必要な理由を考え、二当事者の場合と比べてどのような点に影響があるのかを確認し、説明ができるようにする。	120分
14	第一部 金5/22	連帯債務1	多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連帯債務の要件・効果について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。	120分
		事後学修	連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡張を説明できるようにする。	120分
15	第一部 水5/27	連帯債務2	連帯債務の場合には、当事者が複数人存在するため、一人に特定の事情が生じた場合、他の債務者や債権者との関係でどのような影響が生じるのかを理解する必要がある、理論的根拠とともに解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連帯債務において各当事者間の関係性について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務者の一人に生じた事情が他の債務者に影響を及ぼす場合と及ぼさない場合が存在することを確認し、どのようにして分類できるのかを考えてみる。	120分
		事後学修	授業で扱った各事情がなぜ他の債務者に影響を及ぼすのか、逆になぜ他の債務者に影響を及ぼさないのか、分類を暗記するのではなく、論理的根拠から説明ができるようにする。	120分
16	第一部 金5/29	保証債務1	保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。	120分
		事後学修	保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているのかを理解し、説明ができるようにする。	120分
17	第一部 水6/3	保証債務2	保証債務には、連帯保証債務というより債権者の債権を強化した類型が存在するが、保証債務に比して非常に債権者の債権が強化されており、保証人の権利が制限されている。これらの制度趣旨を解説し、かつ、保証人の保護について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証債務と連帯保証債務の相違について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の中に連帯保証債務という類型が存在することを確認し、通常の保証債務とどのような点で異なり、制度趣旨がどのようなものか確認しておく。	120分
		事後学修	連帯保証債務について、保証債務及び連帯債務とどのように異なっており、どのような場面で使い分けがなされているのか、債権者との関係を踏まえて考え、説明ができるようにする。	120分
18	第一部 金6/5	債権譲渡1	債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡制度の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。	120分
		事後学修	債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	第一部 水6/10	債権譲渡2	債権譲渡の対抗要件は債務者に対するものと第三者に対するものでは異なった条文が用意されている。それぞれの特色及び債権譲渡の対抗関係特有の問題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡の対抗要件制度の特殊性について、物権の対抗要件制度と比較しながら説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の対抗要件として、どのような制度が用意されているのかを確認する。この際、債務者と第三者ではどのように異なっているかを特に意識する。	120分
		事後学修	債権譲渡の対抗要件と物権法の対抗要件との制度の相違を確認し、なぜそのような相違が生じるのかを考え、それぞれの法的性質や制度趣旨を理解し、説明ができるようにする。	120分
20	第一部 金6/12	債務引受等	債権が移転するのが債権譲渡であるが、債務や契約上の地位が移転する制度も存在する。しかし、各当事者の利害関係は債権譲渡とは異なっており、異なる考察が必要であることから、各当事者の利害関係を中心に解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務引受について、債権譲渡と比較しながら説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡に隣接した制度として債務引受、契約上の地位の移転が存在することを確認し、制度の構造がどのようなものか確認する。	120分
		事後学修	契約上の地位の移転には、賃貸借契約上の地位の移転等、それぞれの契約類型に応じて問題点が異なっており、具体的な事案との関係で各当事者の利害関係を考えてみる。	120分
21	第一部 水6/17	債務消滅 - 弁済1	発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務の消滅一般について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務が消滅するのはどういった類型が存在するか確認し、弁済についての該当箇所を確認する。	120分
		事後学修	債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。	120分
22	第一部 金6/19	債務消滅 - 弁済2	弁済がどのような場合に有効であるのか、また、誤った弁済を行ってしまった場合にどのような処理がなされるのかを解説し、債権者と債務者間の利害関係がどのように調整されているのかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、弁済の概要について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、弁済の要件及び効果について理解し、弁済が否定される場合や誤った弁済の取り扱いについてどのような問題が存在するのかを確認する。	120分
		事後学修	誤った弁済がなされた場合にどのような例外が認められるか、その後の求償関係の処理はどのようになされるのかについて、事例設定から結論までの順序を説明できるようにする。	120分
23	第一部 水6/24	債務消滅 - 弁済による代位	第三者が弁済を行った場合には、第三者が債務者に対して求償権を取得する。この場合には、債権者、債務者に加えて第三者の存在をも考慮した検討が必要となる。利害関係が複雑になるが、法がどのような調整を図っているかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済による代位について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、第三者が弁済をすることによって債務が消滅した際に、当該第三者が債務者に対してどのような権利を有するのか、求償権について確認する。	120分
		事後学修	第三者が一部しか弁済していない場合と第三者が全額を弁済した場合には、当然各当事者の利害関係の程度が異なっており、第三者の弁済の程度によって検討事項や結論に影響を及ぼすか考える。	120分
24	第一部 金6/26	債務消滅 - 代物弁済	代物弁済は、通常の弁済と比べて債権者との合意が必要であり、代物弁済契約として扱われ、通常の弁済とは異なった法理論に服することになる。代物弁済の特色を解説し、弁済との相違を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代物弁済について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代物弁済という類型が弁済とはどのように異なった制度化を確認し、要件・効果の相違を確認する。	120分
		事後学修	代物弁済がなされたのち、代物として引き渡されたものに瑕疵が存在していた場合や当事者に錯誤が生じていた場合、どのような扱いになるのか、既に学習してきた知識を利用して検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	第一部 水7/1	債務消滅 - 供託	供託は、供託所に目的物を引き渡すことによって債務を免れる行為であり、債権者が弁済を受け入れない場合等に利用される制度である。供託は、供託所を介することによって通常の弁済とは異なった制度が用意されており、これを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、供託について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、供託制度の概要を確認し、供託を行う場合の手順を理解しておく。	120分
		事後学修	今まで学習してきた範囲を含めて供託制度がどのような事例で用いられるかを調べ、供託制度を他の法律関係と有機的に結び付け、全体像を理解でき、説明ができるようにする。	120分
26	第一部 金7/3	債務消滅 - 相殺1	相殺は、双方の当事者が相手方に対して債権を有している際に対等額を消滅される制度である。債務を消滅されるものであるが、双方の債務を消滅されるものである以上、通常の弁済よりも利害関係が複雑であり、相殺が制限される場合もある。これらの制度を相殺の類型に応じて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺制度一般について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、相殺制度についてどのような当事者間の関係で用いられる制度かを確認する。	120分
		事後学修	債権譲渡や責任財産の保全の分野でも相殺は重要な機能を有しており、相殺の機能を理解するとともに、他の法制度ではどのように適用がなされるのかをパワーポイントの復習をしながら確認する。	120分
27	第一部 水7/8	債務消滅 - 相殺2	相殺を行おうとした債権ないし債務が第三者によって差押えられる場合がある。しかし、相殺を望む当事者の利益を法は強く保護しており、第三者との間でどのような利害関係の調整しているのかを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相殺と差押えについて説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、相殺と差押えの問題について、どのような当事者が存在し、どのような利害関係を有しているのかを確認する。	120分
		事後学修	相殺と差押えはいくつかの類型に場合分けをすることができるが、各場合において各当事者の利害関係が異なっており、それぞれの当事者の利害関係が結論にどのように影響を与えるのか自分で説明ができるようにする。	120分
28	第一部 金7/10	債権法改正について	債権法が改正されたが、単に個々の条文を改正したのではなく、大きな改正の趣旨が存在しており、各制度や条文を理解するうえで必要な知識となっている。改正の目的やどのように条文化したかなどの解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債権法改正の影響等について説明できる。	
		事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正について、どのような目的のもと、どの分野が改正されたのかおおよそ確認する。	120分
		事後学修	改正された条文がなぜそのように改正されたのか等、条文から直ちに読み取ることができない改正の目的を理解し、有機的な条文のつながりを説明ができるようにする。	120分
29	第一部 水7/15	授業内試験及びまとめ	授業内で試験を行った後、債権法総論のまとめとなる解説を合わせて行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	授業内試験を行うため、配布したパワーポイントを確認し、復習を行う。	120分
		事後学修	授業内試験で扱った内容のうち、不明点を整理し、次の授業までに質問ができるようにする。	120分
30	第一部 金7/17	授業内試験の解説	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して、試験の講評を踏まえて課題を発見し、その解決方法を探求できる。	
		事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
		事後学修	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方(仕組み)を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例(現代社会が直面している問題)の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得済みであること。

【授業方法】
授業は、下記授業区分のとおり、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第２７回に行う授業内試験について、解説を第２７回の残り時間および第２８回に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
有斐閣ストゥディア民法４債権総論	山本敬三監修	有斐閣	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日１３：００－１７：００（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館６階１６０８） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における債権法総論の位置づけ	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、債権法総論の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法における債権法総論の位置づけを説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	9/16	民法の全体像（民法とは何か、民法の全体像、民法の基本概念）	民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。さらに、民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権総論の前提となる民法総則や物権法の知識を復習し、説明することができるようになる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第2回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて読んでみる 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
3	9/22	契約の履行①（弁済、第三者による弁済）	弁済権者や弁済受領権者、弁済の方法、弁済の充当を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済における各種の原則と例外を整理した後、478条がいかなる理由から債権者ではない者に対する弁済をも例外的に有効としているかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 478条の存在理由（制度趣旨）を自分の言葉で説明できるように理解する 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
4	9/23	契約の履行②（多数当事者の債権債務関係 i）	分割債権・分割債務、連帯債権・連帯債務、不可分債権・不可分債務について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者や債務者が多数になる場合にもいくつかのパターンがあることを認識し、分割債務の原則には不合理な場面も多いことからその例外が広く解されていることを体系的に説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
5	9/29	契約の履行③（多数当事者の債権債務関係 ii）	単なる保証と異なる連帯保証、共同保証、根保証を学ぶ。それぞれ、通常の保証とどこが異なるのかを意識しながら学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保証契約とはそもそも誰との間の契約であるのか、他にも保証人がいると信じて契約した場合には契約をなかったことにできるのかといったことも含めながら、保証債務の性質を説明することができる。また、通常の保証と連帯保証や保証連帯との相違を説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 普通の保証人には分別の利益および補充性があるとされる。それぞれどのような意味か具体例を挙げて説明できるようにしておく。また、連帯保証人と普通の保証人との違いを意識しながら、再度連帯保証に関する条文を素読してみること。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
6	9/30	契約の履行④（弁済による代位、決済システム）	「弁済による代位」の意味、および代物弁済の実際における用いられ方、さらには供託制度を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証人や連帯債務者が一定の弁済をすれば主債務者や他の連帯債務者に求償をすることができるにもかかわらず、それに加えてなぜ弁済による代位という制度が用意されているのかを論理的に説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 弁済による代位により取得した債権と求償権との関係性について調べてみること。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	演習（第1回）	民法の全体像、契約の履行①②③④を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
8	10/7	契約の不履行①（債務履行の強制 i）	債務不履行の種類をおさえたうえで、債務者に債務不履行があった場合に債権者が選択できる手段を学ぶ。また、履行不能の場合には履行請求ができないことから、履行不能とはどのようなものかを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行がある場合、債権者は履行請求ができるのが原則であるが、これができない場合もある。それがどういった場合であるのか理解し、条文に即して説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。 4 1 5 条は 2 0 1 7 年に改正されている。事前に新旧を比較し、どのように変わったのか考えてみる。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 債務不履行があった場合に債権者が選択できる手段と、債務不履行の種類とはどのような関係にあるか整理してみる。また、履行不能か否かを判断するにあたっては、物理的に履行不能か否かだけでなく、契約その他の債務の発生原因や取引上の社会通念をも加味される。後者によって履行不能と判断されるようなケースを複数挙げてみる。さらに、「種類債権の特定」は 4 0 1 条 2 項で規定されているが、これと関係する規定が債権法各論の売買契約の中に 5 6 7 条 1 項として規定されている。4 1 0 条 2 項と 5 6 7 条 1 項の関係性について考える。 第 1 2 回講義の際に扱う演習（第 2 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
9	10/13	契約の不履行②（債務履行の強制 ii）	履行強制の方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務の性質に応じてどのような履行強制が用意されているのかを説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第 1 2 回講義の際に扱う演習（第 2 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
10	10/14	契約の不履行③（契約の解除 i）	そもそも解除とはどのようなものなのかから始まり、解除が認められるための要件を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、解除の種類を理解したうえで、民法改正により法定解除が認められる要件がどのように整備されたのかを条文に即して説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第 1 2 回講義の際に扱う演習（第 2 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
11	10/20	契約の不履行④（契約の解除 ii）	契約が解除できた場合の効果としての原状回復について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約が解除された場合の原状回復につき、買主が受領物を返還できない場合の法的処理などの未だ解決をみない問題についても近時の有力説を意識しながら自身の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第 1 2 回講義の際に扱う演習（第 2 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる	120分
12	10/21	演習（第2回）	履行の強制と契約の解除を終え、復習を兼ねて演習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	契約の不履行⑤（損害賠償請求の要件）	債務不履行による損害賠償の要件を学ぶ。いかなる場合には債務者は免責されるのかを意識して学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債務者の帰責事由につき、改正の前後により解釈がどのように変わり得るのかを、事例に即して説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。 4 1 6 条は 2 0 1 7 年に改正されている。事前に新旧を比較し、どのように変わったのか考えてみる。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておく 遅延賠償を求める場合と填補賠償を求める場合とは、要件がどのように異なるか整理する 第 1 6 回講義の際に扱う演習（第 3 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
14	10/28	契約の不履行⑥（損害賠償請求の効果）	損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、さらには過失相殺や違約金の定めなどについて学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償の範囲につき、判例多数説と有力説とはどのような考え方の対立であり、具体的にどのような事例において差が生じるのかを説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 過失相殺に關係して、債権者の損害軽減義務が語られることがあるが、この損害軽減義務とはどのようなものであり、判例は債権者のこうした義務を認めているか検討する。 第 1 6 回講義の際に扱う演習（第 3 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
15	11/10	契約の不履行⑦（第三者による債権侵害・受領遅滞など）	債権が債務者ではなく第三者により侵害され得るかどうかも含め、この議論の特殊性を理解するとともに、近時の議論の動きを学ぶ。また、受領遅滞についても改正による影響を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権侵害と受領遅滞につき、改正により明文化された部分とそうでない部分を意識しながら、近時の学説の到達点を説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第 1 6 回講義の際に扱う演習（第 3 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
16	11/11	演習（第 3 回）	損害賠償の要件・効果、さらには第三者による債権侵害や受領遅滞を終え、この復習を兼ねて演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	あらかじめ演習（第 3 回）の問題を全問検討してくること	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
17	11/17	不良債権の回収①―責任財産の保全（総論）	責任財産という概念を理解したうえで、こうした責任財産が減少しようとしている場合における債権者保護の在り方について、債権者の予めの手立ても含め、総合的に学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務者が任意に支払いをしない場合、債権者はどのような手順により債務者の責任財産に対して強制執行をしていくのかをおさえたうえで、こうした強制執行を頼りにするのでは不安な点があるという見地から、物的担保や人的担保の必要性や責任財産保全制度の意義を説明することができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 「抵当権、保証、責任財産、強制執行、無資力」などといった法律用語を用いて、責任財産保全の必要性を説明してみる。 第 2 0 回講義の際に扱う演習（第 4 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
18	11/18	不良債権の回収②―責任財産の保全（債権者代位権）	債権者代位権の要件・効果・転用事例を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任財産保全のための制度である債権者代位権が債権回収のために用いられているというのはどういうことを理解し、こうした法運用をどう評価すべきか自身の意見を述べることができる。	
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 債権者代位権にも事実上の優先弁済機能があると言われるが、それはどのようなものか自分の言葉で説明できるようにする。 第 2 0 回講義の際に扱う演習（第 4 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
19	11/24	不良債権の回収③―責任財産の保全（詐害行為取消権）	詐害行為取消権の要件・効果を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法改正では、破産法上の否認権との逆転現象を回避すべく詐害行為取消権がどのように改正されたのかという観点から説明することができる。
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正で新設された詐害行為取消権についての規定を復習として読んでおく。 第20回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
20	11/25	演習（第4回）	責任財産の保全総論、債権者代位権、詐害行為取消権を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。
		事前学修	あらかじめ演習（第4回）の問題を全問検討してくること
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する
21	12/1	不良債権の回収④―変則的な債権回収（相殺i）	相殺の一般的要件・方法・効果を学んだうえで、相殺が制限・禁止される場面を学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相殺制度に独特の法律用語をおさえたうえで、相殺の要件を説明することができる。また、相殺が制限・禁止される場合については、なぜ制限・禁止されるのかを論理的に説明することができる。
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第25回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
22	12/2	不良債権の回収⑤―変則的な債権回収（相殺ii・代物弁済）	相殺と差押えについて、具体的事例を挙げながら、2017年改正前における判例・学説の主張とその論拠をそれぞれ学び、こうした判例学説が改正法においてどのような変化を受けるのかを学修する。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺と差押えを中心として、改正前の重要判例が改正でどう取り込まれたのかを説明することができる。
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第25回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
23	12/8	不良債権の回収⑥―変則的な債権回収（債権譲渡i）	世の中でなぜ債権譲渡が行われるのかをおさえたうえで、譲渡制限特約や債権譲渡の成立要件を学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡とはどのような場合に行われるものであり、なぜ譲渡制限特約なるものがなされ、その効果は改正によりどう変更されたのかを説明することができる。
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 相殺の効果は相殺適状時に遡るが、こうした遡及効が与えられているのはなぜかにつき調べてみること。 第25回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること
24	12/9	不良債権の回収⑦―変則的な債権回収（債権譲渡ii）	債権譲渡の対抗要件や、その他の発展的問題として、債権譲渡と相殺、さらには異議なき承諾制度の廃止と今後の取扱いについて学ぶ。
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡では第三者対抗要件についても債務者に対する通知承諾が中核に据えられている理由を論理的に説明したうえで、債権譲渡と相殺や異議なき承諾制度の廃止といった発展的問題についても概要を説明することができる。
		事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでくること。
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 債務者対抗要件だけでなく、第三者対抗要件についても、債務者の認識を問題とするのはなぜかにつき、判例の立場を論理を追って説明できるようにする。また、相殺と差押えについての最大判昭和45年6月24日を実際に読んでみる。さらに、2017年改正前までの民法では、債務者が主張できる抗弁に関し、468条1項において「異議なき承諾」があった場合の効果が定められていた。どのような制度であり、なぜ当該規定が削除されたのか調べてみよう。 第25回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	演習（第5回）	相殺、代物弁済、債権譲渡を終え、その復習を兼ねて演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	あらかじめ演習（第5回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第26回講義の際に扱う演習（第6回）の問題につき解いておくこと	120分
26	12/16	総合演習（第6回）	これまでの重要箇所についておさらいをしながらより総合的な演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	あらかじめ演習（第6回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
27	12/22	質疑応答と授業内試験	質疑応答を30分した後、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。	
		事前学修	これまでのレジュメを全て整理し、授業内試験に備える。 分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する	120分
		事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする	120分
28	12/23	授業内試験の解説・講評	第27回で実施した授業内試験について解説・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき不十分であったものを認識し、今後の学習課題を発見する。	
		事前学修	授業内試験の内容を思い出したうえで、疑問点等があれば質問できるよう準備しておく	120分
		事後学修	試験において減点されている部分が、知識不足であるのか、応用力であるのか、さらには文章表現力にあるのかを分析する。 これまでのレジュメ全てを整理して、債権法総論の総復習をする	120分
29	1/12	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）①	債権法総論の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験も踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。	
		事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみる	120分
		事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる	120分
30	1/13	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）②	債権法総論の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験も踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未知の複雑な事例問題に対しても、これまでに修得した知識をもとに問題点を発見し、基礎知識を応用して論理的に民法の解決策を導き出すことができる。	
		事前学修	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索してみる	120分
		事後学修	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	益井 公司	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
講義には必ず出席すること。

【授業方法】
講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義においてわからないことがあれば積極的に質問すること。また講義中に学生が理解しているか質問をするので積極的に答えるようにしてもらいたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
抗議内容が理解できているかを短時間で書いてもらう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・マルシェ債権総論	宮本健蔵編著	嵯峨野書院	2019年		
備考	債権総論は大きく改正されたが、まだ施行されていないため、新法と旧法の両方を説明する。新法についてはプリントを配布する予定である。4月の講義のときまでに新法の内容をもった適切な教科書が見つければ講義の初めに教科書を変更したことをお知らせする。				

【オフィスアワー】
火曜日の12時20分より13時20分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義の終わりに予約を入れておいていただきたい）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	いかに民法を学習するか。	講義のガイダンス	
		この回の到達目標	債権総論の学習の仕方を習得する。	
		事前学修	第一回目の講義なので、債権法総論に関し予習する必要はないが、民法総則、物権法をすでに学んでいるので、それら全体をもう一度見ておいていただきたい。（2時間）以下かつこ内の時間は詳細に学習するとそれくらいかかるということを示している。	60分
		事後学修	民法の学び方に関し、プリントを配布するので、それをもう一度よく読んでおくこと。120分の復習をすること（以下各授業の終わりには必ず120分の復習をすること）。（2時間）	60分
2	9月15日	債権の意義	1 債権法の意義 ①債権の基本概念 ②債権と物権 債権法の特質	
		この回の到達目標	債権の基本概念を理解する。	
		事前学修	債権の基本概念 債権と物権 債権法の特質に関する教科書簿部分をあらかじめ読んでくること。120分の予習をすること（以下各授業の初めに120分の予習をすること）。（2時間）	60分
		事後学修	債権と物権の峻別にどのような意味があるのか、債権法の普遍的性質等についてももう一度考えること。（2時間）	60分
3	9月22日	債権の目的	債権の目的 ①特定物債権 ②種類債権 旧規定による特定物ドグマの否定（新483条）、特定物と機変負担等との関係が新法では改正されていることに注意する必要がある。	
		この回の到達目標	特定物債権・種類債権について理解する。	
		事前学修	教科書の特定債権、種類債権の部分を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和30年10月18日民集9巻11号1642頁、この部分に関する改正法の内容についてももう一度確認しておくこと。（2時間）	60分
4	9月22日	債権の目的	③金銭債権 ④利息債権 ⑤選択債権 ⑥任意債権	
		この回の到達目標	金銭債権・利息債権につき理解する。	
		事前学修	金銭債権、利息債権、選択債権、任意債権の箇所をあらかじめ学習しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成22年4月20日民衆64巻3号921頁、最判平成20年6月10日民集62巻6号1488頁をよく読んでみること。（2時間）	60分
5	9月29日	債権の効力	2 債権の効力 ①序説（債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力） i 不完全債務（自然債務）	
		この回の到達目標	債権の効力につき理解する。」	
		事前学修	債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力、不完全債務（自然債務）について、あらかじめ読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	自然債務という概念が、必要か否を検討すること。（2時間）	60分
6	9月29日	債券侵害	ii 第三者による債権侵害（不法行為の成立と妨害排除）	
		この回の到達目標	第三者による債券侵害につき理解する。	
		事前学修	第三者による債権侵害と不法行為、債権に基づく妨害排除請求の部分を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	大審院大正4年3月10日刑録21輯279頁（第三者の債権侵害と不法行為）、最判昭和30年5月31日民集9巻6号774頁（2重譲渡）、東京地判平成20年12月10日判時2035号70頁（引き抜き）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1515頁（妨害排除）、最大判昭和61年6月11日民集40巻4号872頁（人格権）を検討すること。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月6日	現実的履行の強制	②現実的履行の強制	
		この回の到達目標	履行の強制につき理解する。	
		事前学修	債務の履行の強制の部分を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	大決昭和10年12月16日民集14巻2044頁（謝罪広告）、幼児の引き渡し請求の問題について整理しておくこと。（2時間）	60分
8	10月6日	債務不履行責任の拡大現象	③損害賠償の請求（債務不履行の種類、債務不履行責任の拡大）	
		この回の到達目標	債務不履行責任の拡大現象につき理解する。	
		事前学修	債務不履行責任の拡大（客観的拡大、人的拡大、時間的拡大）、つまり、安全配慮義務、契約交渉破棄における責任、説明義務違反に基づく損害賠償について、あらかじめ教科書等で見ておくこと（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和50年2月25日民集29巻2号143頁（判然配慮義務）、最判昭和59年9月18日判時1137号51頁（契約交渉破棄における責任）、最判平成23年4月22日民集65巻3号1405頁（契約締結説明義務違反）（2時間）	60分
9	10月13日	債務不履行の種類と要件	i 債務不履行の種類と要件（履行不能、履行遅滞、不完全履行）	
		この回の到達目標	債務不履行に一般的形態につき理解する。	
		事前学修	履行不能、履行遅滞、不完全履行について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	債務者の帰責事由（帰責事由か免責事由か）履行補助者の故意・過失（どのような形で債務を履行するかという契約内容の問題か）など自分でもう一度整理しておくこと。（2時間）	60分
10	10月13日	債務不履行による損害賠償	ii 債務不履行による損害賠償（損害賠償の範囲を中心に） 損害の概念 損害の種類、損害賠償の範囲、損害賠償の調整（損益相殺、過失相殺）、損害賠償の予定、代償請求権の新法での明文化	
		この回の到達目標	債務不履行の効果（損害賠償の範囲等）につき理解する。	
		事前学修	債務不履行の効果の部分を読んでおくこと。（2時間）	60分
		事後学修	損害賠償の範囲を中心として、最判平成21年1月19日民集63巻1号97頁（損害回避減少措置）、大審院大正7年8月27日民集24巻1658頁（416条2項の予見時期）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1448頁および最判昭和47年4月20日民集26巻3号520頁（損害算定期間）をもう一度整理しておくこと。（2時間）	60分
11	10月20日	受領遅滞	④受領遅滞	
		この回の到達目標	受領遅滞につき理解する。	
		事前学修	受領遅滞に関し教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	新法による受領遅滞における効果の明文化、受領不能か履行不能か争われるケース（最判昭和62年7月17日民集41巻5号1350頁）を検討すること。また受領遅滞の解消に関し最判昭和45年8月20日民集24巻9号1243頁を検討すること。（2時間）	60分
12	10月20日	債権者代位権	3 責任財産の保全 ①債権者代位権 その1（意義と機能、債権者代位権の要件、債権者代位権の対象となる権利）	
		この回の到達目標	債権者代位権の意義・要件につき理解する。	
		事前学修	債権者代位権の意義・機能と要件の部分教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和55年7月11日民集34巻4号628頁（内容確定前の金銭債権）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（債務者の無資力）、最判平成13年11月22日民集55巻6号1033頁（遺留分減殺請求）、最判昭和58年10月6日民集37巻8号1041頁（慰謝料請求）、最判昭和43年9月26日民集22巻9号2002頁（時効の援用権）について検討すること。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10月27日	債権者代位権	その2（行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用）	
		この回の到達目標	債権者代位権の行使方法・行使の効果。債権者代位権の転用につき理解する。	
		事前学修	債権者代位権の行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用につき教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和44年6月24日民集23巻7号1079頁（行使できる範囲）、大判明治43年7月6日民録16輯537頁（登記請求権の代位行使）、大判昭和4年12月16日民集8巻944頁、最判昭和29年9月24日民集8巻9号1658頁（不動産賃借権の保全）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（金銭債権の特定債権としての保全）を検討すること。（2時間）	60分
14	10月27日	詐害行為取消権	2 詐害行為取消権 その1（意義、法的性質、詐害行為取消権の要件①[詐害行為]） 相対的取消を否定し絶対的取消を新法では認める。要件は相関的判断による。	
		この回の到達目標	詐害行為取消権の意義・要件につき理解する。	
		事前学修	詐害行為取消権の意義、その法的性質、詐害行為取消権の要件（①詐害行為）について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	時価相当価額での不動産の売却、一部の債権者への弁済または担保の供与等につき新法および旧法での議論を整理しておくこと。（2時間）	60分
15	11月10日	詐害行為取消権	その2（詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果、行使期間等）	
		この回の到達目標	詐害行為取消権の効果につき理解する。	
		事前学修	詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	対抗要件を具備させる行為は詐害行為となるか、相続の放棄・遺産分割の合意・離婚に際しての財産分与等は詐害行為になるか検討しておくこと。特定債権でも被保全債権となるか、被保全債権の成立時期さらには取消権の範囲および内容について整理しておくこと。（2時間）	60分
16	11月10日	多数当事者の債権関係	4 多数当事者の債権関係 ①序説 ②分割債権関係、③不可分債権関係	
		この回の到達目標	多数当事者の債券関係のうち、分割債券関係、不可分債権関係、連隊債権関係につき理解する。	
		事前学修	多数当事者の債権関係の①意義、②分割債権関係、③不可分債権関係について教科書などで勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	平成17年9月8日民集59巻7号1931頁、最判昭和42年8月25日民集21巻7号1740頁の判例を検討すること。不可分の給付の対価の支払い義務は不可分債務か検討せよ（大判対象1年11月24日民集1巻670頁、大判昭和7年6月8日裁判例6巻民179頁）。（2時間）	60分
17	11月17日	多数当事者の債権関係（連帯債務）	④連帯債務関係 その1（意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力（連帯債務の対外的効力、連帯債務の一人について生じた事由））	
		この回の到達目標	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力につき理解する。	
		事前学修	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	債務者の一人についての無効・取消し、連帯債務の一人について生じた事由につき絶対的効力事由差応対的効力事由について整理しておくこと。（2時間）	60分
18	11月17日	連帯債務の対内的効力	その2（連帯債務の対内的効力（求償関係）、不真正連帯債務、連帯債権）	
		この回の到達目標	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務につき理解する。	
		事前学修	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務、連帯債権について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	大判昭和7年9月30日民集11巻2008頁（有効とみなす効果の法的構成（相対的效果説））、最判平成22年10月8日民集64巻7号1719頁、最大判平成28年12月19日民集70巻8号2121頁を検討せよ。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
19	11月24日	保証債務		⑤保証債務 その1（意義と性質、保証債務の成立）
		この回の到達目標	保障債務の意義と性質、保証債務の成立につき理解する。	
		事前学修	保障債務の意義と性質、保証債務の成立について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁、最判平成28年1月12日民集70巻1号1頁を検討しておくこと。（2時間）	60分
20	11月24日	保証債務		その2（保証債務の内容、保証債務の対外的効力）
		この回の到達目標	保証債務の内容、保証債務の対外的効力につき理解する。	
		事前学修	保証債務の内容、保証債務の対外的効力について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁・最判昭和47年3月23日民集26巻2号274頁、最判昭和20年5月21日民集24巻9頁を検討のこと。（2時間）	60分
21	12月1日	保証債務		その3（主たる債務者または保証人に生じた事由の効力）
		この回の到達目標	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力につき理解する。	
		事前学修	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成15年3月14日民集57巻3号286頁、最判昭和46年10月26日民集25巻7号1019頁、最判昭和43年10月17日判時540号34頁、大判昭和20年9月10日民集24巻82頁を検討すること。（2時間）	60分
22	12月1日	保証債務		その4（保証債務の内部関係、特殊な保証）
		この回の到達目標	保証債務の内部関係、特殊な保証（特に根保証）につき理解する。	
		事前学修	保証債務の内部関係、特殊な保証を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成2年12月18日民集44巻9号1686頁、最判昭和60年2月12日民集39巻1号89頁、最判平成27年11月19日民集69巻7号1988頁、平成24年12月14日民集66巻12号3559頁を検討のこと。（2時間）	60分
23	12月8日	債権・債務の移転		5 債権・債務の移転 ①序説 ②債権譲渡 その1（債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限など）
		この回の到達目標	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限につき理解する。	
		事前学修	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和53年12月15日判時916号25頁、最判平成11年1月29日民集53巻1号151頁、最判平成13年11月22日民集55巻6号1059頁を検討すること。譲渡制限に関しては新法でかなり内容が変わっているので注意すること。（2時間）	60分
24	12月8日	債権・債務の移転		その2（債権譲渡の債務者および第三者対抗要件）
		この回の到達目標	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件につき理解する。	
		事前学修	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件のぶぶんを教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和49年3月7日民集28巻2号174頁、最判昭和55年1月11日民集34巻1号42頁、最判平成5年3月30日民集47巻4号3334頁を検討のこと。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12月15日	債権・債務の移転	③債務引き受け・契約上の地位の移転	
		この回の到達目標	債務引き受け・契約上の地位の移転につき理解する。	
		事前学修	債務引き受け・契約上の地位の移転について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和41年12月20日民集20巻10号2139頁、最判昭和46年4月23日民集25巻3号388頁を検討すること。（2時間）	60分
26	12月15日	債権の消滅	6 債権の消滅 ①序説 ②弁済	
		この回の到達目標	債権の消滅（弁済）につき理解する。	
		事前学修	債権の消滅 ①序説 ②弁済の部分を教科書等で勉強しておくこと（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和63年7月1日判時1287号63頁、最判昭和37年8月21日民集16巻9号1809頁、最判昭和59年2月23日民集38巻3号445頁、平成15年4月8日民集57巻4号337頁を検討のこと。（2時間）	60分
27	12月22日	債権の消滅（弁済者代位）	弁済者代位	
		この回の到達目標	弁済者代位につき理解する。	
		事前学修	弁済者代位の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判昭和59年5月29日民集38巻7号885頁、平成7年3月23日民集49巻3号987頁、最判平成23年11月22日民集65巻8号3165頁、最判昭和61年11月27日民集40巻7号1205頁を検討のこと。（2時間）	60分
28	12月22日	債権の消滅（相殺）	③相殺	
		この回の到達目標	総裁について理解する。	
		事前学修	相殺の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成25年2月28日民集67巻2号343頁、最判昭和45年6月24日民集24巻6号587頁を検討すること。（2時間）	60分
29	1月12日	債権の消滅（代物弁済・供託、更改・免除・混同）	④代物弁済・供託、更改・免除・混同	
		この回の到達目標	代物弁済・供託、更改・免除・混同につき理解する。	
		事前学修	代物弁済・供託、更改・免除・混同について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	最判平成24年9月4日金判1413号46頁、最判昭和46年10月14日民集25巻7号933頁を検討すること。（2時間）	60分
30	1月12日	質問受付	まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）	
		この回の到達目標	債権法は大幅な改正がなされているのでその点に注意しながら、債権総論で良くわからなかった点につき質問を受け、理解を深めてもらう。	
		事前学修	これまでの講義においてよくわからなかった点を自分で整理しておくこと。（2時間）	60分
		事後学修	質問に対する説明を受けたはずなのでそれを整理しておくこと。（2時間）	60分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
2年次以降の学生を対象とする。民法総則は履修済みであること。あわせて債権総論を履修する（している）ことが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問＆検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅳ——債権各論〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	藤岡康宏ほか	有斐閣	2019	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
講座：現代の契約法 各論1・2・3	内田貴・門口正人（編）	青林書院	2019	参考書	任意
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14	【ガイダンス】債権法各論を学ぶ意義：債権法とは？／付・近時の債権法改正と民法典	これから学ぶ“債権法”とは何か、債権と物権の違い、債権法総則と各論の区別、近時の債権法改正の意義などを理解し、債権法各論を学ぶ意義と目的を学修する。また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める債権法とはどのような法律で、何を規律し、どのような意味を持っているかを、近時の債権法改正を視野に入れながら、その要点ないしポイントを、民法典の体系に即して説明することができる。	
		事前学修	あらかじめ教科書の全体を2・3回ほど通読する。併せて、これから学ぶ民法典の債権各論に関する規定（民法521条―724条）を音読しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
2	第一部月 9/16	契約法総論―契約の意義、契約の種類と性質、契約の分類	契約法総論として、契約の意義、契約の種類と性質について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典に規定された13種類の典型契約について、契約の意義、契約の種類と性質を理解し、諾成・要物、様式・不様式、有償・無償、双務・片務の観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、債権が売買や賃貸借などの各種の契約を主たる原因として発生すること、契約の一般的ルールがどのようなものであるかを、民法典の規定に即して整理しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
3	第一部月 9/21	契約自由の原則とその制限、約款取引	契約自由の原則とその制限、約款取引／現代社会における契約の特色――契約の多角的法律関係、複合的給付などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約自由の原則とその制限、約款取引について、その実態を知り、説明することができる。また、現代社会における契約の特質を明らかにし、契約の多角的法律関係という観点から、現代契約の意義ないし特徴を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約に共通する契約の一般的ルールについて、理解を深めておく。併せて、現代社会における契約の特色を調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
4	第一部月 9/23	契約の成立と効力（その1）：申込と承諾―契約の成立時期	契約の契約の成立と効力（その1）――申込と承諾、契約の成立時期、契約と信義則、事情変更の原則について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の成立を申込と承諾の観点から把握するとともに、各種の契約について、何時・どの段階で契約が成立するのかを説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、契約が成立するための要件について、申込と承諾、承諾機関の有無、対話者・隔地者間の取引の違いなどを考慮し、検討しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
5	第一部月 9/28	契約の成立と効力（その2）：双務契約と牽連関係	契約の成立と効力（その2）――双務契約と牽連関係、契約締結上の過失理論について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、契約が成立した後の効力について、売買などの双務契約を中心に、牽連関係という観点から整理し、説明することができる。また、双務契約と牽連関係に関連して、契約締結上の過失理論とは何かを明らかにし、民法典の規定に即して、その意味内容を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
6	第一部月 9/30	契約の成立と効力（その3）：危険負担、債務不履行	契約の成立と効力（その3）――危険負担、債務不履行について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、売買や請負などの契約締結後、目的物が引き渡されるまでの間に、当該目的物が滅失・損傷した場合の法律関係について、契約の牽連関係という観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 10/5	契約の成立と効力（その4）：契約の解除、解除と第三者	契約の成立と効力（その4）——契約の解除、解除と第三者について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、契約の締結後、履行期が到来したにもかかわらず、自己の債務を履行しない債務者について、どのような責任が生じるのかについて、説明することができる。また、契約が解除された場合の契約当事者間および第三者との間の法律関係について、判例・学説の見解ないし議論を整理し、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
8	第一部月 10/7	贈与の意義・種類、成立と効力、特殊の贈与	財貨移転型契約：贈与の意義と種類、成立と効力／特殊の贈与——負担付贈与、死因贈与、定期贈与などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会における贈与の意義を理解し、贈与が成立する場合の要件と効力を、動産・不動産の区別に従って、説明することgできる。また、死因贈与、負担付き贈与などの特殊な贈与について、社会における活用と問題点について、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、贈与の社会的意義を知ったうえで、贈与がどのような場合に成立し、いかなる効力を有するかをを学習しておく。併せて、贈与の種類についても、理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
9	第一部月 10/12	売買：意義と性質、売買の成立	売買の意義と性質、売買の成立と効力、手付の意義・種類、買戻・再売買の予約	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、典型契約の中心となる売買について、その特徴を諾成・不様式・有償・双務の観点から明らかにし、動産と不動産とでどのような取引法理の違いが生ずるのか、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、現代社会の取引の根幹をなす売買について、消費者取引の観点から、売買の意義・性質、売買が成立するに至るプロセスを調べておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
10	第一部月 10/17	売買の効力：売主の契約不適合責任	売買における売主の契約不適合責任について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、売買契約において種類・品質・数量に関して不適合が生じた場合に、売主にどのような責任が生じるのかについて、買主の権利という観点から、民法典の規定に即して説明することができる。また、近時の債権法改正において、どのような改正が行われたかを、民法典の規定に即して説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、引き渡された給付の目的物に欠陥・瑕疵があった場合の処理につて、動産売買と不動産売買とを対比しながら、売主の責任を検討しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
11	第一部月 10/19	特殊の売買——割賦販売・訪問販売／交換	特殊の売買——消費者契約補、割賦販売・訪問販売など／交換について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、特殊の売買として、消費者契約法や割賦販売法、特定商取引法が制定されている意義、および、これらの特別法が民法とどのような関係に立つのかを、消費者保護の観点か、らその内容を明らかにし、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める売買と異なる取引類型である割賦販売と訪問販売について、消費者取引の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
12	第一部月 10/21	消費貸借意義、成立と効力、金利と利息に関する規制	貸借型契約：消費貸借の意義、成立と効力、利息に関する法規制——金利と利息制限、刑罰などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の消費貸借が金銭を中心に営まれていることを理解したうえで、金銭消費貸借をめぐる法律関係について、金利と利息、刑罰などの観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、金銭などの消費物の借入がどのような仕組みで行われるのかについて学習しておく。金銭の消費貸借は売買と並んで現代社会で最も重要な契約である。併せて、利息に関する法規制についても調べておこう。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	第一部月 10/26	使用貸借の意義、成立と効力／ 賃貸借の意義		使用貸借の意義、成立と効力、使用貸借の終了／賃貸借の意義について、学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約としての使用貸借契約のわが国における利用について、具体例を挙げながら、説明することができる。／賃借型契約の中核となる賃貸借について、その特徴を諾成・不様式・有償・双務の観点から明らかにし、動産と不動産とでどのような取引法理の違いが生ずるのか、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物の貸し借りの中核をなす賃貸借について、意義、成立と効力などを学習しておく。売買と同様に、賃貸借も多様な目的物を対象としているから、注意を要する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
14	第一部月 10/28	賃貸借の成立と効力		賃貸借の成立と効力―賃貸借の存続期間・更新、賃貸借の終了、賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係について、学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、不動産に関する賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認し、基本的な法律関係を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、賃貸借が成立した後の当事者間の権利・義務関係について、学習しておく。併せて、賃貸中の不動産の譲渡、賃借権の譲渡や賃借物の転貸などの第三者に対する関係についても、理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
15	第一部月 11/9	特殊の賃貸借―借地借家契約		特殊の賃貸借―借地借家契約（その1）
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、土地を中心とした賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認するとともに、これらの法律関係が借地借家法によりどのように修正されているかを、説明することができる。併せて、宅地以外の農地などの賃貸借関係についても、農地法などの規定を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
16	第一部月 11/11	特殊の賃貸借―借地借家		特殊の賃貸借―借地借家（その2）について、学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、建物を中心とした賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認するとともに、これらの法律関係が借地借家法によりどのように修正されているかを、説明することができる。併せて、区分所有法が対象とする区分所有建物（マンション）の賃貸借関係についても、説明することができる。	
		事前学修	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
17	第一部月 11/16	雇用の意義、成立と効力／ 請負の意義、成立と効力		労務提供型契約：雇用の意義、成立と効力、雇用の終了／請負の意義、成立と効力、請負人の担保責任、特殊の解除権などについて、学修する。
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める雇用について、労働基準法や労働者派遣法、労働契約法などの規定を参照しながら、成立と効力、雇用の終了などの基本原則を確認し、特別法によってどのように修正されているかを、労働者保護の観点から、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める雇用・請負について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
18	第一部月 11/18	請負人の契約不適合責任／委任の意義、成立と効力	請負人の契約不適合責任／委任の意義、委任と準委任、サービス契約などについて、学修する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、請負契約における請負人の契約不適合責任を、売買における契約不適合責任と対比しながら、到達目標①②および③に関連して、瑕疵修補・代金減額・損害賠償・契約解除の観点から、説明することができる。／現代社会におけるサービス契約の基礎となる委任契約について、法律行為の委任と事務処理の委託（準委任）を区別しながら、その概要および問題点を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める請負・委任について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
19	第一部月 11/23	委任における受任者の善管注意義務、専門家の責任／寄託の意義、成立と効力、消費寄託と特殊の寄託	委任における受任者の善管注意義務、専門家の責任寄託の意義、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、委任における受任者の義務を整理したうえで、受任者の善管注意義務、専門家の責任との関係について、説明することができる。／民法上の寄託の意義について、商事寄託と対比しながら、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託などを、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める委任・寄託について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
20	第一部月 11/25	組合・終身定期金・和解	組合・終身定期金・和解について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が規定する13種類の典型契約のうち、その他の典型契約として組合・終身定期金・和解の各契約が民法典に定められている意義を理解し、それぞれの契約が規律する内容を、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める組合・終身定期金・和解について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
21	第一部月 11/30	不法行為法——概説	法定債権：不法行為制度の意義と目的、民事責任における不法行為法の現状などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為とは何かについて、法定債権に属する事務管理・不当利得との異同を明らかにしたうえで、民事責任の観点から、不法行為の意義と制度趣旨、機能を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、契約以外の債権の主たる発生原因である不法行為について、民事責任の観点から事前に学習しておく。現代社会における不法行為は、自動車事故に限らず幅広いものが対象となるから、注意を要する。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
22	第一部月 12/2	一般的不法行為の成立要件	不法行為における成立要件：故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為を一般的不法行為と特殊的不法行為に分類したうえで、一般的不法行為が成立する要件につき、故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生などの観点から、代表的な裁判例を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為制度の沿革、あらゆる不法行為に共通する不法行為の成立要件について、事前に学習しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
23	第一部月 12/7	不法行為の効果	金銭賠償の原則、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為が成立した場合の効果として、金銭賠償の原則を挙げたうえで、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺などの基本項目を、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が成立した場合の賠償責任について、賠償の基本的ルールを事前に学習しておく。（2時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
24	第一部月 12/9	特殊の不法行為：法定監督者の責任、使用者責任	特殊の不法行為（その１）：責任無能力者の不法行為と監督者の責任、使用者責任について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為の加害者が未成年者などの事理弁識能力のない者であった場合、あるいは、不法行為が加害者の業務執行中に起こった場合、賠償責任は誰に・どのような手続で求めて行くことになるのかについて、基本的な裁判例を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、一般の不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく。（２時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（２時間）。	120分
25	第一部月 12/14	特殊の不法行為：注文者の責任、土地工作物責任、動物占有者責任	特殊の不法行為（その２）：注文者の責任、工作物責任、動物占有者責任について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為の加害者が請負関係にある請負人、土地工作物の設置者（背入社・所有者）、または、動物の占有者（飼主）と認められる場合に、賠償責任は誰に・どのような手続で求めて行くことになるのかについて、基本的な裁判例を挙げて、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、一般の不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく。（２時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
26	第一部月 12/16	特殊の不法行為：共同不法行為責任／民法典以外のその他の不法行為	共同不法行為／民法典以外の特別法上の不法行為——運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、共同して生じた１つの不法行為から損害が発生した場合に、誰に・どのような償責任を求めることができるのかについて、共同不法行為の観点から、説明することができる。／民法典以外の特別法が定める運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任などについて、その概要を説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が競合する場合の複数主体による賠償責任について学習しておく。あわせて、民法典以外のその他の不法行為についても、現代社会における民事責任の観点から理解を深めておく。（２時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
27	第一部月 12/21	不当利得の意義と目的、不当利得の類型	不当利得の意義と目的、不当利得の類型について、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不当利得とは何か、不当利得を学ぶ意義を理解するとともに、不当利得を利得の不当性という観点から、給付利得・侵害利得・費用利得などに分類して、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不当利得の意義と目的、不当利得の類型を学習しておく。不当利得において類型論的処理が必要とされる理由・根拠をしっかりと理解することが重要である。（２時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（２時間）	120分
28	第一部月 12/23	不当利得の要件と効果	不当利得の要件と効果 騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得	
		この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不当利得が成立する場合の要件と効果を明らかにし、不当利得で議論されることの多い事例——騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得など——について、議論の状況や問題点などを明らかにし、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不当利得における給付利得にはどのような問題があるのかを理解する。あわせて、多数当事者間の不当利得の問題についても、理解を深めておく。（２時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
29	第一部月 1/13	事務管理	事務管理の意義、要件と効果、代理との関係などについて、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事務管理とは何か、なぜ事務管理に関する規定が民法上必要であるかを理解するとともに、他人の事務の意味内容を明らかにし、事務管理の要件と効果について、説明することができる。	
		事前学修	民法典の規定および教科書を読み、事務管理がどのような場合に成立し、事務管理者はいかなる範囲で本人に対して費用の償還を請求することができるのか、他人の事務の要件・成立範囲、その効果を学習しておく。（２時間）	120分
		事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
30	第一部月 1/18	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、契約法および不法行為法などの債権法各論に関する講義内容を整理し、総括する。（受講者数によっては、最終授業回において、定期試験に代えて授業内試験を行う）
		この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、現代社会における契約の意義および特質を明らかにし、民法等が定める取引法理を挙げて、その内容を説明することができる。また、現代型の不法行為について、自動車事故、医療過誤、製造物責任などの責任関係を明らかにしながら、説明する説明することができる。	
		事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分
		事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。「課題と質問」を整理する。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）【法職課程】	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。 試験の講評、解説はポータルシステムで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記授業方法の中で学生からの主体的な意見表明を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムによる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
契約法	藤村和夫	信山社	2018年		
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室：本館7階、1714室メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を素材として授業に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	民法の基本構造	民法の構造、民法における契約法の位置づけ	
		この回の到達目標	民法の基本構造を説明できる。	
		事前学修	教科書～13頁を読んでおく（以下、同様）。	120分
		事後学修	民法とは、およそどのようなものかの復習をする。	120分
2	4月10日	契約法の基礎	契約法の原理	
		この回の到達目標	契約の意義を説明できる。	
		事前学修	17頁～24頁。	120分
		事後学修	契約の意義と種類についての理解を確かなものにする。	120分
3	4月15日	契約の成立	契約の成立	
		この回の到達目標	契約の成立要件について説明できる。	
		事前学修	25頁～30頁。	120分
		事後学修	契約の成立要件と契約締結上の過失についての理解を確かなものにする。	120分
4	4月17日	契約の成立	各種の契約成立方法	
		この回の到達目標	契約の成立の仕方を説明できる。	
		事前学修	30頁～43頁。	120分
		事後学修	契約が成立する際の仕組みについて理解する。	120分
5	4月22日	契約の効力	契約の効力（1）	
		この回の到達目標	契約の一般的有効要件について説明できる。	
		事前学修	45頁～58頁。	120分
		事後学修	同時履行の抗弁権とはどのようなものであるか理解する。	120分
6	4月24日	契約の効力	契約の効力（2）	
		この回の到達目標	危険負担制度の変遷について説明できる。	
		事前学修	58頁～70頁。	120分
		事後学修	危険負担とはどのようなものか理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	4月29日	第三者のためにする契約	第三者のためにする契約	
		この回の到達目標	第三者のためにする契約の意義を説明できる。	
		事前学修	70頁～82頁。	120分
		事後学修	第三者のためにする契約とはどのようなものかの理解を深める。	120分
8	5月1日	解除	解除（1）	
		この回の到達目標	解除の意義と機能について説明できる。	
		事前学修	82頁～90頁。	120分
		事後学修	解除の意義と機能について理解する。	120分
9	5月6日	解除	解除（2）	
		この回の到達目標	法定解除について説明できる。	
		事前学修	90頁～104頁。	120分
		事後学修	法定解除権の種類とその発生原因を確認する。	120分
10	5月8日	解除	解除（3）	
		この回の到達目標	法定解除の効果について説明できる。	
		事前学修	104頁～120頁。	120分
		事後学修	法定解除の効果等について理解する。	120分
11	5月13日	解除	解除（4）	
		この回の到達目標	約定解除について説明できる。	
		事前学修	120頁～131頁。	120分
		事後学修	約定解除、解除契約、定型約款について理解する。	120分
12	5月15日	贈与	贈与	
		この回の到達目標	贈与の意義と効力について説明できる。	
		事前学修	135頁～140頁。	120分
		事後学修	贈与一般について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	5月20日	売買	売買（1）	
		この回の到達目標	売買の意義を説明できる。	
		事前学修	141頁～146頁。	120分
		事後学修	売買の意義と成立についての基礎的な事柄を理解する。	120分
14	5月22日	売買	売買（2）	
		この回の到達目標	売買の効力を説明できる。	
		事前学修	146頁～164頁。	120分
		事後学修	売主の担保責任に関する内容に関する変遷を理解する。	120分
15	5月27日	売買	売買（3）	
		この回の到達目標	買い主の義務について説明できる。	
		事前学修	164頁～171頁（2時間）	120分
		事後学修	特殊の売買にはどのようなものがあるかを理解する（2時間）	120分
16	5月29日	買戻	買戻	
		この回の到達目標	買戻しの意義等を説明できる。	
		事前学修	172頁～176頁。	120分
		事後学修	買戻の意義、効力等を理解する。	120分
17	6月3日	交換、消費貸借	交換、消費貸借	
		この回の到達目標	交換の意義と消費貸借の成立について説明できる。	
		事前学修	177頁～190頁（2時間）	120分
		事後学修	消費貸借の意義と効力についての理解を確かなものにする（2時間）	120分
18	6月5日	使用貸借	使用貸借	
		この回の到達目標	使用貸借の意義と効力について説明できる。	
		事前学修	191頁～198頁（2時間）	120分
		事後学修	使用貸借の意義と効力について理解する（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	6月10日	賃貸借	賃貸借（1）	
		この回の到達目標	賃貸借の意義を説明できる。	
		事前学修	199頁～207頁。	120分
		事後学修	賃貸借の意義と存続期間についての理解を深める。	120分
20	6月12日	賃貸借	賃貸借（2）	
		この回の到達目標	賃貸借当事者ノ義務について説明できる。	
		事前学修	207頁～222頁。	120分
		事後学修	賃貸借の効力について理解する。	120分
21	6月17日	賃貸借	賃貸借（3）	
		この回の到達目標	賃借権の譲渡・転貸について説明できる。	
		事前学修	222頁～233頁。	120分
		事後学修	賃借権の譲渡・転貸についての規制を理解する。	120分
22	6月19日	雇用	雇傭	
		この回の到達目標	雇用の意義について説明できる。	
		事前学修	235頁～244頁。	120分
		事後学修	雇傭の意義と効力について理解する。	120分
23	6月24日	請負	請負	
		この回の到達目標	請負について説明できる。	
		事前学修	245頁～254頁。	120分
		事後学修	請負の意義と効力について理解する。	120分
24	6月26日	委任	委任	
		この回の到達目標	委任について説明できる。	
		事前学修	255頁～263頁。	120分
		事後学修	委任の意義と効力について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	7月1日	寄託	寄託	
		この回の到達目標	寄託について説明できる。	
		事前学修	265頁～276頁。	120分
		事後学修	寄託の意義と効力について理解する。	120分
26	7月3日	組合	組合（1）－組合の意義・性質、その規制	
		この回の到達目標	組合の意義を説明できる。	
		事前学修	277頁～286頁。	120分
		事後学修	組合の意義と業務執行について理解する。	120分
27	7月8日	組合	組合（2）－組合の財産関係、解散と清算	
		この回の到達目標	組合の財産関係について説明できる。	
		事前学修	286頁～296頁。	120分
		事後学修	組合の財産関係について理解する。	120分
28	7月10日	終身定期金と和解	終身定期金、和解についての概説	
		この回の到達目標	終身定期金と和解の意義を説明できる。	
		事前学修	297頁～300頁。	120分
		事後学修	終身定期金と和解の意義を確かめる。	120分
29	7月15日	不法行為	不法行為（1）	
		この回の到達目標	不法行為に義と成立要件について説明できる。	
		事前学修	配布するレジュメを熟読する。	120分
		事後学修	不法行為の成立要件についてその基礎を理解する。	120分
30	7月17日	不法行為	不法行為（2）	
		この回の到達目標	不法行為の効果について説明できる。	
		事前学修	配布するレジュメを熟読する。	120分
		事後学修	不法行為の効果についてその基礎を理解する。	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	峯川 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
民法総則を受講済みであることが望ましい。

【授業方法】		
講義形式による。2コマ続きとなるので、気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめたい。また、定期試験については、試験終了後か後日ポータルシステム上で解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業のなかで解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レジュメを配布するので特に指定しない。					
新標準講義 民法債権各論 第2版	池田真朗	慶應義塾大学出版会	2019年	参考書	任意
民法（全）	潮見佳男	有斐閣	2018年	参考書	任意
基本講義 債権各論〈1〉契約法・事務管理・不当利得	潮見佳男	新世社；第3版	2017年	参考書	任意
基本講義 債権各論〈2〉不法行為法	潮見佳男	新世社；第3版	2017年	参考書	任意
債権各論Ⅰ 契約法	平野裕之	日本評論社	2018年	参考書	任意
債権各論Ⅱ 事務管理・不当利得・不法行為法	平野裕之	日本評論社	2019年	参考書	任意
民法判例百選Ⅱ 債権第8版	中田裕康ほか	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考	条文を参照するので六法は必ず持参すること。予習・復習のため、自分がわかりやすいと思う「債権各論」の参考書を一冊準備しておく（記載した参考書に限定する必要はない）。				

【オフィスアワー】
金曜授業終了後16:10～ 授業講堂にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	ガイダンス・債権法の基礎	債権法の構造、債権の概念と債権の特色、債権の発生原因、給付の内容に応じた債権の分類について学修する。	
		この回の到達目標	債権法の構造、債権の概念と債権の特色、債権の発生原因、給付の内容に応じた債権の分類について理解し説明できる	
		事前学修	シラバス確認、参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
2	9/18	契約の成立	隔地者間の契約、申込みと承諾以外の方法による契約の成立について学修する。	
		この回の到達目標	隔地者間の契約、申込みと承諾以外の方法による契約の成立について理解し説明できる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
3	9/25	同時履行の抗弁権	同時履行の抗弁権の意義、留置権との対比、要件、効果、適用範囲、不安の抗弁権について学修する。	
		この回の到達目標	同時履行の抗弁権の意義、留置権との対比、要件、効果、適用範囲、不安の抗弁権について理解し説明できる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
4	9/25	危険負担/第三者のためにする契約	危険負担の意義、要件、効力、解除との関係、第三者のためにする契約の意義、契約の構造、成立と効力について学修する。	
		この回の到達目標	危険負担の意義、要件、効力、解除との関係、第三者のためにする契約の意義、契約の構造、成立と効力について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
5	10/2	契約の解除（１）	解除の意義、解除に類似した制度との区別、法定解除の成立要件・効果について学修する。	
		この回の到達目標	解除の意義、解除に類似した制度との区別、法定解除の成立要件・効果について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
6	10/2	契約の解除（２）	解除による原状回復の範囲、解除と第三者、解除権の消滅について学修する。	
		この回の到達目標	解除による原状回復の範囲、解除と第三者、解除権の消滅について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/9	売買契約（１）	売買契約の成立、売主・買主の義務、権利に関する契約不適合と買主の救済について学修する。	
		この回の到達目標	売買契約の成立、売主・買主の義務、権利に関する契約不適合と買主の救済について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
8	10/9	売買契約（２）	売買目的物の契約不適合と買主の救済、権利行使期間について学修する。	
		この回の到達目標	売買目的物の契約不適合と買主の救済、権利行使期間について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
9	10/16	売買契約（３）	売買の予約、手付と解除、買戻し、再売買の予約について学修する。	
		この回の到達目標	売買の予約、手付と解除、買戻し、再売買の予約について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
10	10/16	贈与契約	贈与契約の意義、成立、書面によらない贈与、特殊の贈与について学修する。	
		この回の到達目標	贈与契約の意義、成立、書面によらない贈与、特殊の贈与について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
11	10/23	使用貸借契約/賃貸借契約（１）	使用貸借契約の成立と効力、賃貸借契約の成立について学修する。	
		この回の到達目標	使用貸借契約の成立と効力、賃貸借契約の成立について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
12	10/23	賃貸借契約（２）	賃貸人・賃借人の権利義務、賃貸借の終了と効果について学修する。	
		この回の到達目標	賃貸人・賃借人の権利義務、賃貸借の終了と効果について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/30	賃貸借契約（3）	賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃貸人の地位の移転、妨害排除請求について学修する。	
		この回の到達目標	賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃貸人の地位の移転、妨害排除請求について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
14	10/30	消費貸借契約	消費貸借契約の成立と効力、消費貸借契約の予約、諾成的消費貸借契約、消費者信用について学修する。	
		この回の到達目標	消費貸借契約の成立と効力、消費貸借契約の予約、諾成的消費貸借契約、消費者信用について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
15	11/6	請負契約	請負契約の成立と効力、請負契約と雇用契約・委任契約との違い、請負人の契約不適合責任・危険負担について学修する。	
		この回の到達目標	請負契約の成立と効力、請負契約と雇用契約・委任契約との違い、請負人の契約不適合責任・危険負担について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
16	11/6	委任契約	委任契約の成立と効力、委任と解除について学修する。	
		この回の到達目標	委任契約の成立と効力、委任と解除について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
17	11/13	和解契約/寄託契約	和解契約の成立と効果、寄託契約の成立と効果について学修する。	
		この回の到達目標	和解契約の成立と効果、寄託契約の成立と効果について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
18	11/13	組合契約	組合契約の意義、組合の内部関係、外部関係、組合の財産関係について学修する。	
		この回の到達目標	組合契約の意義、組合の内部関係、外部関係、組合の財産関係について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/20	事務管理/不当利得概説	事務管理の成立要件と効力、不当利得の意義、不当利得制度の本質論について学修する。	
		この回の到達目標	事務管理の成立要件と効力、不当利得の意義、不当利得制度の本質論について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
20	11/20	一般不当利得	給付利得、侵害利得、三当事者の不当利得について学修する。	
		この回の到達目標	給付利得、侵害利得、三当事者の不当利得（転用物訴権）について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
21	11/27	三当事者の不当利得/特殊の不当利得	三当事者の不当利得（騙取金による不当利得、誤振込み）、特殊の不当利得（非債弁済、弁済期前の債務の弁済、他人の債務を自己の債務と誤信して弁済した場合、不法原因給付）について学修する。	
		この回の到達目標	三当事者の不当利得（騙取金による不当利得、誤振込み）、特殊の不当利得（非債弁済、弁済期前の債務の弁済、他人の債務を自己の債務と誤信して弁済した場合、不法原因給付）について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
22	11/27	不法行為制度概説	不法行為制度の意義、目的、構造、不法行為制度と債務不履行制度との関係について学修する。	
		この回の到達目標	不法行為制度の意義、目的、構造、不法行為制度と債務不履行制度との関係について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
23	12/4	一般不法行為の成立要件（1）	故意・過失、権利侵害と違法性について学修する。	
		この回の到達目標	故意・過失、権利侵害と違法性について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
24	12/4	一般不法行為の成立要件（2）	損害の発生、因果関係、責任能力について学修する。	
		この回の到達目標	損害の発生、因果関係、責任能力について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/11	不法行為の効果（１）	損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲について学修する。	
		この回の到達目標	損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所に通目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
26	12/11	不法行為の効果（２）	損害賠償請求権者、損害賠償額の調整（損益相殺、過失相殺）、消滅時効	
		この回の到達目標	損害賠償請求権者、損害賠償額の調整（損益相殺、過失相殺）、消滅時効について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所に通目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
27	12/18	特殊な不法行為（１）監督義務者の責任	責任主体、監督義務者と代理監督者の責任関係、行為者に責任能力がある場合の保護者の損害賠償責任について学修する。	
		この回の到達目標	責任主体、監督義務者と代理監督者の責任関係、行為者に責任能力がある場合の保護者の損害賠償責任について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所に通目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
28	12/18	特殊な不法行為（２）使用者責任	使用者責任の意義、責任の性質、成立要件と効果について学修する。	
		この回の到達目標	使用者責任の意義、責任の性質、成立要件と効果について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所に通目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
29	12/25	特殊な不法行為（３）共同不法行為	制度趣旨、意義、共同不法行為の要件・効果について学修する。	
		この回の到達目標	制度趣旨、意義、共同不法行為の要件・効果について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所に通目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分
30	12/25	特殊な不法行為（４）工作物責任・動物占有者の責任	工作物責任（意義、成立要件と効果、損害賠償義務者）、動物占有者責任（意義、成立要件と効果、損害賠償義務者）について学修する。	
		この回の到達目標	工作物責任（意義、成立要件と効果、損害賠償義務者）、動物占有者責任（意義、成立要件と効果、損害賠償義務者）について理解し説明することができる。	
		事前学修	参考書の該当箇所に通目を通しておくこと	120分
		事後学修	レジュメ・参考書を用いて復習	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	清水 恵介	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
民法Ⅰ・Ⅱに関する基本的知識を有することが望ましい。

【授業方法】
講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新ハイブリッド民法4債権各論	滝沢昌彦ほか	法律文化社	2018	教科書	必携
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス、債権法各論とは	履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権法各論の体系的位置づけについて説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。	120分
2	9/16	基礎①：契約総論	契約の概念、契約の成立について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約の基本的仕組みについて説明できる。	
		事前学修	教科書第1章のうち1～21頁を読み、契約の基本的仕組みについて考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
3	9/22	基礎②：同時履行の抗弁権、危険負担	同時履行の抗弁権、危険負担について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、同時履行の抗弁権、危険負担について説明できる。	
		事前学修	教科書第1章のうち22～36頁を読み、特に同時履行の抗弁権、基本負担について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
4	9/23	基礎③：契約の解除	契約の解除について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、契約の解除について説明できる。	
		事前学修	教科書第1章のうち36～49頁を読み、契約の解除について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
5	9/29	基礎④：定型約款、手付	定型約款、手付について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定型約款、手付について説明できる。	
		事前学修	教科書第1章のうち49～51頁と第2章のうち52～58頁を読み、特に定型約款、手付について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
6	9/30	基礎⑤：売買	売買の成立、契約の効力について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、売買について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち58～85頁を読み、売買について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/6	基礎⑥：贈与，消費貸借	贈与，消費貸借について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，贈与，消費貸借について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち92～100頁と第3章のうち101～107頁を読み，特に贈与，消費貸借について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
8	10/7	基礎⑦：賃貸借	賃貸借の効力，賃借権譲渡，転貸借について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，賃貸借について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章のうち107～139頁を読み，特に賃貸借について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
9	10/13	基礎⑧：借地借家法	賃借権の対抗力，存続期間の長期化について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，借地借家法の概要について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章のうち107～134頁をもう一度読み，借地借家法について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
10	10/14	基礎⑨：請負，委任	請負，委任について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，請負，委任について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち140～154頁を読み，特に請負，委任について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
11	10/20	基礎⑩：寄託，組合	寄託，組合について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，寄託，組合について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち154～164頁を読み，特に寄託，組合について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
12	10/21	基礎⑪：和解，事務管理	和解，事務管理について説明し，理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，和解，事務管理について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち164～167頁と第5章のうち168～177頁を読み，和解，事務管理について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	10/27	基礎⑫：不当利得	不当利得の要件・効果・類型論について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不当利得について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章のうち177～215頁を読み、不当利得について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
14	10/28	基礎⑬：一般的不法行為の要件	一般的不法行為の要件について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一般的不法行為の要件について説明できる。	
		事前学修	教科書第6章のうち226～248頁を読み、一般的不法行為の要件について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
15	11/10	基礎⑭：損害賠償額の算定	不法行為における損害賠償額の算定について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不法行為における損害賠償額の算定について説明できる。	
		事前学修	教科書第6章のうち248～278頁を読み、特に不法行為における損害賠償額の算定について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
16	11/11	基礎⑮：責任無能力者監督者責任、使用者責任	責任無能力者監督者責任、使用者責任について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、責任無能力者監督者責任、使用者責任について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章のうち279～295頁を読み、責任無能力者監督者責任、使用者責任について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
17	11/17	基礎⑯：土地工作物責任、共同不法行為	土地工作物責任、共同不法行為について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、土地工作物責任、共同不法行為について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章のうち295～301頁、304～306頁、309～322頁を読み、特に土地工作物責任、共同不法行為について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
18	11/18	中間テスト及びまとめ(1)	中間テストを実施するとともに、残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち、欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し、中間テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	中間テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
19	11/24	中間テストの講評	中間テストの採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中間テストの問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	中間テストで扱われたテーマについて、再度教科書等にあたって考察する。	120分
		事後学修	テストの講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等にあたって確認し、再検討する。	120分
20	11/25	発展①：契約不適合責任	有償契約における契約不適合責任について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約不適合責任について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち59～83頁をもう一度読み、契約不適合責任について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
21	12/1	発展②：割賦販売法	割賦販売法の概要や抗弁の接続について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、割賦販売法の概要について説明できる。	
		事前学修	教科書第2章のうち85～92頁を読み、特に割賦販売法について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
22	12/2	発展③：賃貸人たる地位の移転、敷金	賃貸借における賃貸人たる地位の移転、敷金について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、賃貸人たる地位の移転、敷金について説明できる。	
		事前学修	教科書第3章のうち108～109頁、123～127頁をもう一度読み、賃貸人たる地位の移転、敷金について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
23	12/8	発展④：安全配慮義務	労働契約等における安全配慮義務について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、安全配慮義務について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち143～144頁をもう一度読み、安全配慮義務について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
24	12/9	発展⑤：銀行取引	預金や振込み等の銀行取引や銀行取引約定書について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、銀行取引の概要について説明できる。	
		事前学修	教科書第4章のうち156～158頁をもう一度読み、銀行取引について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
25	12/15	発展⑥：三者間不当利得	騙取金弁済や誤振込等における三者間不当利得について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、三者間不当利得について説明できる。	
		事前学修	教科書第5章のうち215～225頁を読み、三者間不当利得について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
26	12/16	発展⑦：製造物責任	特殊不法行為としての製造物責任について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、製造物責任について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章のうち301～304頁を読み、製造物責任について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
27	12/22	発展⑧：運行供用者責任	特殊不法行為としての運行供用者責任について説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、運行供用者責任について説明できる。	
		事前学修	教科書第7章のうち306～309頁を読み、運行供用者責任について考察する。	120分
		事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
28	12/23	授業内試験及びまとめ(2)	授業内試験を実施するとともに、残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	教科書の各章のうち、欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し、授業内試験に向けて学習事項をまとめる。	120分
		事後学修	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分
29	1/12	授業内試験（予備日）及びまとめ(3)	これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに、やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
		事前学修	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し、授業内での質問事項をまとめる。	120分
		事後学修	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。	120分
30	1/13	授業内試験の講評	授業内試験の採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験の問題について考察し、課題を探究できる。	
		事前学修	授業内試験で扱われたテーマについて、再度教科書等に当たって考察する。	120分
		事後学修	試験の講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。	120分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、家族をめぐる状況を理解し、社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができるために必要となる民法第4編(親族)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ(民法総則)の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書に沿って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを筆記試験により評価する。	50	20	10	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる家族法』	本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月	ミネルヴァ書房	2014	教科書	必携
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)	水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 4/7	ガイダンス、家族法とは	家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍(婚姻後の実家の戸籍の記載)、日本の家族(過去・現在・未来)について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍に関する基本用語・概念について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅰ総則「家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍、日本の家族：過去・現在・未来」について解説する。	120分
		事後学修	教科書コラムⅠ「性別適合手術と戸籍」を読んで、戸籍の特徴についてまとめておく。	120分
2	第一部 火 4/14	婚姻届の意味	婚約の意味・婚姻するために必要なこと・婚姻届を出せない(1)：婚姻の形式的要件、婚姻届を出せない(2)：婚姻の実質的要件、婚姻届を出せない(3)：近親婚の禁止について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚約の意味・婚姻するために必要なこと(婚姻の形式的要件、実質的要件)について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅱ婚姻「婚約の意味・婚姻するために必要なこと・婚姻届を出せない(1)(2)(3)」を読んで、婚姻届を出せない場合についてまとめておく。	120分
		事後学修	教科書資料②戸籍の記載例、資料③婚姻届の様式を確認し、記載事項についてまとめておく。	120分
3	第一部 火 4/21	夫婦の役割分担	夫婦の役割分担、マイホームの購入：夫婦の財産関係、夫婦の別居について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、夫婦のお財布事情について法的視点から説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅱ婚姻「夫婦の役割分担、マイホームの購入、夫婦が別居したら」を読んで、夫婦のお財布事情について考えてみる。	120分
		事後学修	マイホームを購入する際の夫婦の金銭的負担のあり方について自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
4	第一部 火 4/28	子どもの出生と親子関係	子どもの出生と名前、婚姻と親子関係、できちゃった結婚と子ども、子どもが夫の子でないとき、認知について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律上の親子関係について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅲ親子「子どもの出生と名前、婚姻と親子関係、できちゃった結婚と子ども、子どもが夫の子でないとき、未婚の母と子ども：認知しますか、させますか」を読んで、親子の法律関係の類型についてまとめておく。	120分
		事後学修	子どもの名前を付ける権利は誰にあるか、親の命名権について具体的事例を調べて自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
5	第一部 火 5/5	生殖補助医療、養子縁組	生殖補助医療で生まれた子ども：人工授精と体外受精、代理母とその問題、他人の子どもを養子にする：普通養子、特別養子について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療、養子制度について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅲ親子「生殖補助医療で生まれた子ども(1)(2)、他人の子どもを養子する(1)(2)」を読んで、要旨の法的類型についてまとめておく。	120分
		事後学修	生殖補助医療の現状をインターネットで調べて、親子関係をどのように認めるべきかについて自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
6	第一部 火 5/12	親子の権利義務	子育てと親の義務、だれが親権者か、中学生で母？ 親の体罰と教師の体罰について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、親子の権利義務について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅳ親子間の権利義務「子育てと親の義務、だれが親権者か、中学生で母？親の体罰と教師の体罰」を読んで、親子の法的関係についての法律の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	子どもを育てるに当たり、法律では親にどのような義務を課しているのかについて、具体的事例を述べられるようにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19	子ども虐待	子どものものは親のもの？子ども虐待、医療と子ども虐待、親権の喪失と制限について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親権及び子ども虐待について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅳ親子間の権利義務「子どものものは親のもの？子ども虐待、医療と子ども虐待、親権の喪失と制限、親権者がいなくなったら」を読んで、虐待の具体的事例についてマスコミで報道された事例を調べておく。	120分
		事後学修	子ども虐待、医療ネグレクトをインターネットで調べて、虐待を減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにまとめる。	120分
8	第一部火 5/26	離婚届と離婚原因	離婚届の意味(1)：協議離婚、離婚届の意味(2)：離婚と戸籍、離婚届を出せない(1)：離婚の種類、離婚届を出せない(2)：具体的離婚原因、離婚届を出せない(3)：抽象的離婚原因について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、離婚届の意味、具体的離婚原因、抽象的離婚原因について説明することがで	
		事前学修	教科書Ⅴ離婚「離婚届の意味(1)(2)、離婚届を出せない(1)(2)」を読んで、離婚の種類についてまとめる。	120分
		事後学修	有責配偶者からの離婚請求についての考え方をまとめ、離婚原因の具体的事例について、まとめる。	120分
9	第一部火 6/2	財産分与	離婚後の生活はどうなる(1)：財産分与の法的性質、離婚後の生活はどうなる(2)：財産分与の対象と方法、内縁について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財産分与について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅴ離婚「離婚後の生活はどうなる(1)(2)」を読んで、財産分与の法的性質についてまとめる。	120分
		事後学修	財産分与の手続きと支払い基準について、家庭裁判所のHPを閲覧してまとめる。	120分
10	第一部火 6/9	親権と面会交流	父母共同親権から単独親権へ、子ども争奪戦、別れて暮らす家族に会いたい：面会交流、それでも合わせてくれないとき、離婚後の子どもの養育費について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、親権のあり方について自らの意見を述べるができる。	
		事前学修	教科書Ⅵ離婚と子ども「父母共同親権から単独親権へ、子ども争奪戦、別れて暮らす家族に会いたい(1)(2)、離婚後の子どもの養育費(1)(2)」を読んで、離婚後の親子関係についてまとめる。	120分
		事後学修	子どもの手続き代理人、養育費・婚姻費用算定表をHPで調べて具体的な手続きについて説明できるようにまとめる。	120分
11	第一部火 6/16	国際結婚、国際離婚	国際結婚、国際結婚から生まれた子どもの国籍、国際養子縁組、国際離婚、国境を越えた子の連れ去りとハーグ条約について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、子の連れ去りに関するハーグ条約の内容について問題意識を持つことができる。	
		事前学修	教科書Ⅶ国際結婚と子ども「国際結婚、国際結婚から生まれた子どもの国籍、国際養子縁組、国際離婚、国境を越えた子の連れ去りとハーグ条約」を読んで、国際結婚から発生する家族関係の法ルールについてまとめる。	120分
		事後学修	インターネットでハーグ条約について調べ、具体的事例について説明できるようにしておく。	120分
12	第一部火 6/23	扶養と後見	老親扶養の義務は誰に(1)(2)：扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、成年後見制度の概要について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅷ扶養と後見「老親扶養の義務は誰に(1)(2)：扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務」を読んで、成年後見の制度についてまとめる。	120分
		事後学修	成年後見制度と任意後見制度の違いについてまとめる。成年後見制度の特徴と問題点について考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30	老親扶養	老親扶養、親族法と相続法のかかわりについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、老親扶養の法的仕組みについて理解し、問題意識を持つことができる。	
		事前学修	教科書Ⅷ扶養と後見「老親を看取る」を読んで、老親扶養の特徴と問題点についてまとめる。	120分
		事後学修	親族法と相続法のかかわりについてまとめておく。老親扶養の問題について自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
14	第一部火 7/7	最新の家族法判例	講義のまとめ、最新の家族法判例についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、親族法と相続法のかかわりについて理解することができる。	
		事前学修	これまでの講義をよく復習し、よくわからなかったところを書き出しておく。第12回・第13回の講義で支持された判例を読んで、事案と判旨をまとめておく。	120分
		事後学修	講義で解説した内容をノートにまとめ、判例については事案・争点・判旨についてまとめ、関連する社会的課題について追加調査を行う。	120分
15	第一部火 7/14	親族法のまとめと授業内試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期授業の振り返り、解説については定期券終了後ポータルサイトに配信する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べることができる。	
		事前学修	第14回の講義でまとめたノートをもとに、主要判例の解説を行う。授業内試験を実施する場合には、講義時間中に試験と解説を行う。14回の講義をもとに、第15回の講義で行われる判例をまとめておく。	120分
		事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
テキストに沿って授業を行うが、必要に応じて授業に関連するレジュメを配布する。なお、六法は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で扱う重要判例を事前に読んできてもらい、翌週以降の授業の中で、その判例に関するディスカッションを行うこととする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	50	20		20							90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる説明をすることができているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日の12:15～12:50に研究室（本館7F1720）にて行う。（※相談の上、別の日時に設定することもあり。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	ガイダンス：条文の読み方・家族法総論	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバス、レジュメに沿って、授業の概要、授業目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、教科書等について説明する。それにより、受講生は、授業計画を理解し、次回以降の授業の準備をスムーズに行うことができる。さらに、次回以降の授業のために、条文の読み方の基本についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での家族法の位置づけ、概要を理解するとともに、条文の読み方を再確認する。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業内容をふまえつつ、各回の授業内容を読み込む。最新の六法を購入し、初回授業に持参すること。	120分
		事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書を購入するとともに、条文の見方について説明したレジュメを参考にしながら、親族法の条文の見出し及び条文を確認し、次回以降の授業に備える。	120分
2	第一部火 9/22	家族法序論、親族とは何か	民法典の中で第4編親族の位置づけを学修するとともに、家族紛争の処理手続きについて理解し、説明することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族法の意義及び構成、親族、相続法の沿革と基本原則、家族紛争の処理手続きといった家族法の基本を正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の序論（1-7頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書7頁のチェック問題を解いてみること。	120分
3	第一部火 9/29	親族の範囲、戸籍	親族の範囲として、親族の種類、親等などの基礎概念を学修する。さらに、親族関係の発生、消滅を中心に、親族関係の変動を概観し、加えて、氏名、戸籍制度についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族法を学ぶ上で必須となる概念の1つである親族の種類、親等など親族の範囲、氏名や戸籍制度などを理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の第1部第1章総則（11-17頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書17頁のチェック問題を解いてみること。併せて関連条文を見直しておくこと	120分
4	第一部火 10/6	夫婦関係（1）婚姻の成立	婚姻の成立には、実質的要件と形式的要件をみとす必要がある。なかでも、重要なのが、実質的要件としての婚姻意思の合致と婚姻障碍事由の不存在であるので、それを中心に学修する。また、婚姻意思を理解する判例として、子を嫡出子にするための婚姻の有効性が問われた有名な事案があるので、それを素材に判例の読み方についても学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻の成立要件、なかでも実質的要件を正確に理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の第1部2章（18-27頁）読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書26、27頁のチェック問題を解いてみること。あわせて関連条文を見直しておくこと	120分
5	第一部火 10/13	夫婦関係（2）婚姻の無効・取消し、婚姻の一般的効果・財産的效果（夫婦財産制）	婚姻の無効、取消原因について学修するとともに、婚姻の一般的効果、財産的效果について広く学修していく。婚姻破綻後の不倫と慰謝料をめぐる判例、日常家事債務と表見代理の判例など重要判例が複数存在するので、それらの説明も併せて行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻の一般的効果、財産的效果を正確に理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び関連条文を確認しておくとともに、教科書の第1部2章（27-43頁）を読むこと	120分
		事後学修	教科書43頁のチェック問題を解いてみること、その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめること。	120分
6	第一部火 10/20	夫婦関係（3）離婚の成立	離婚の方法、種類について学修する。なかでも、自ら婚姻が破たんする原因を作り出した配偶者を有責配偶者というが、この者から離婚請求できるかという有責配偶者からの離婚請求に関する判例法理の展開、諸外国の立法例を含めた議論状況を中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の成立、効果につき、正確に理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び、教科書の第1部2章（54-65頁）を読むこと	60分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書65頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	夫婦関係（４） 離婚の効果	離婚の効果、なかでも財産分与制度について学修する。具体的には、財産分与の内容とその問題点、慰謝料と財産分与との関係に関する判例理論、財産権としての財産分与請求権、年金分割などについて理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の効果、なかでも財産分与制度の意義や問題点を理解し、説明できる。	
		事前学修	事前に配布したレジユメの該当箇所及び、教科書の第１部２章（66-76頁）を読んでくること	120分
		事後学修	レジユメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書76頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめておくこと。	120分
8	第一部火 11/10	婚姻外の関係（婚約、内縁・事実婚）、DV	婚約の成立要件と保護の内容、内縁保護法理、内縁の効果、同性婚との同棲カップルの法的保護の状況について学修する。あわせて、夫婦関係にまつわる現代的課題について理解を深める。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、婚姻外の関係を中心に、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジユメの該当箇所を読んでおくのとともに、教科書の第１部２章（44-52頁）を読んでくること	120分
		事後学修	教科書52頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめておくこと。	120分
9	第一部火 11/17	親子関係（１） 実親子関係①：嫡出子	実子のうち、父母が婚姻関係にある場合の嫡出子をめぐる問題を概観する。嫡出子には、推定を受ける嫡出子、推定を受けない嫡出子、さらに、推定の及ばない子がいるので、これらにつき学修する。併せて、近年問題となっている無戸籍児の問題についても取り上げ、理解を深めることにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子関係の中でも実親子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジユメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（80-83頁）を読んでくること	120分
		事後学修	レジユメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、教科書94頁のチェック問題を解いてみること	120分
10	第一部火 11/24	親子関係（２） 実親子関係②：非嫡出子	実子のうち、父母が婚姻関係にない場合の非嫡出子をめぐる問題を概観する。具体的には、認知制度、準正といった制度について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回に続く、親子関係の中でも実親子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジユメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（88-90頁）を読んでくること	120分
		事後学修	レジユメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、実親子にまつわる関連条文を見直しておくこと	120分
11	第一部火 12/1	親子関係（３） 養親子関係：普通養子、特別養子、里親	普通養子制度、さらには法改正されたばかりの特別養子制度の意義につき、養子の実態、特別養子制度導入の経緯も含めて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子関係の中でも法定親子、養子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況等を理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジユメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（90-94頁）を読んでくること	120分
		事後学修	レジユメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、実親子にまつわる関連条文を見直しておくこと	120分
12	第一部火 12/8	親子関係（４） 生殖補助医療	近年、医学の発展に伴い、従来、法が予定していなかった問題が生じており、生殖補助医療で誕生した子の法的親子関係の在り方も問われているところである。そこで、代理母に関する重要判例も含め、広く生殖補助医療を巡る法的動向につき、学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療で誕生した子の親子関係についての法的課題につき、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジユメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（84-88頁）を読んでくること	120分
		事後学修	レジユメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書94頁のチェック問題を解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	親子関係（5） 親権①： 親権に服する者、親権者、 親権の内容	児童虐待が増える中、親権とは何かについて改めて問われている。親権の意義、親権の当事者、親権行使のルール、親権の具体的内容について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療で誕生した子の親子関係についての法的課題につき、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部4章（95-121頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのと同時に、教科書121頁のチェック問題を解いてみること	120分
14	第一部火 12/22	親子関係（6） 親権②： 児童虐待・医療ネグレクト	前回に続き、親権の意義、親権の当事者、親権行使のルール、親権の具体的内容について学修するが、とりわけ児童虐待と親権制限を中心に理解を深める。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、児童虐待を巡る法的課題につき、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部4章（95-121頁）を読むこと	140分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのと同時に、教科書121頁のチェック問題を解いてみること	100分
15	第一部火 1/12	後見・保佐・補助、扶養	未成年者や認知症高齢者など判断能力が十分でない人を法的に保護するための民法上の制度である後見制度の意義、趣旨、内容及び扶養の問題について学修する。	
		この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、後見・保佐・補助、扶養についての意義、趣旨、内容について、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部5、6、7章（122-152頁）を読んでくること。さらに最後の授業となるので、授業全体を通して質問すべき点がないかを考えてくること	140分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理するのと同時に、教科書135、143、152頁のチェック問題を解いてみる。また、配布したレジュメ、教科書及びまとめノートを試験に向けてよく復習しておくこと	200分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	武田 政明	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
子ども、男女、夫婦、親子、高齢者、広く家族・親族関係に関する諸問題に関心のある者に受講してもらいたい。

【授業方法】
教科書に即して講義方式で行う。必要に応じて配布する資料に基づいた講義も行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	50	20		20							90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる説明をすることができているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を試験後に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
親族法・相続法講義〔第六版〕	山川一陽	日本加除出版	平成26年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅲ 親族・相続	水野紀子・大村敦編	有斐閣	平成27年	参考書	推奨
コンダクト民法	宮本健蔵編著	嵯峨野出版	令和2年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
希望する場合には、授業の際にあらかじめ相談の上、火曜授業の前後に時間をとり可能な限り応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	第2部 火4/7	憲法と家族法		男女平等の本質、就労・社会・家族生活における具体的意義。
		この回の到達目標	家族法の実現目的を憲法規定との関係から理解し、解説することができる。	
		事前学修	シラバスを確認する。教科書「第1部家族法の基礎知識 第1章家族法の構造と特質」を読む。憲法の理念を現行家族法がどの程度実現しているかを考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み直し、講義内容を確認する。日本国憲法の理念と家族法の関係、家庭内における男女の平等の法的意義を検討する。	120分
2	第2部 火4/14	親族の種類と範囲		家族法が規定する血族、配偶者、姻族の意義。
		この回の到達目標	家族法が定める親族の種類と範囲の根拠と問題点を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第2部親族法 第1章親族とその機能」を読む。親族の種類と範囲について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。親族の範囲を条文で定めることの問題点を検討する。	120分
3	第2部 火4/21	親族関係の発生、終了		自然血族関係と法定血族関係の発生・終了事由と問題点。
		この回の到達目標	自然血族関係について家族法上と生物学上とで異なること、法定血族関係である普通養子縁組について実方との親族関係が存続することについて理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「3親族関係の発生と限界」を読む。自然血族関係と法定血族関係について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。法律上の親子関係と生物学上の親子関係について整理・検討する。	120分
4	第2部 火4/28	家族法と戸籍		家族法上の身分関係の変動と戸籍簿記載の原則。
		この回の到達目標	戸籍編製の原則に基づいた家族法上の身分関係の変動の記載を具体的事例を通して理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第2章家族関係とその公示」を読む。戸籍の機能と基本構造を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。戸籍記載の基本原則、入籍と除籍の記載実例、現代社会における戸籍制度のあり方を検討する。	120分
5	第2部 火5/5	婚姻制度、婚約、内縁		家族法の婚姻、婚約、内縁に対する基本的法的立場。
		この回の到達目標	家族法が婚姻をどのような法的関係と捉えているか、また婚約や内縁にどの程度の婚姻の効果を与えているかを理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第2章婚姻」を読む。婚姻制度の変遷、現代社会における婚姻の意義を諸外国とも比較して考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。婚姻の歴史、婚約の成立要件、内縁の効果を整理・検討する。2時間	120分
6	第2部 火5/12	婚姻の成立要件		家族法が婚姻が成立するために定める要件。
		この回の到達目標	家族法が婚姻が成立するために定めるそれぞれの要件の具体的内容と問題点を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「3婚姻の成立 第3婚姻の無効と取消」を読む。婚姻の成立要件を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。形式成立要件、実質的成立要件、無効と取消の効果の差異、各問題点を整理・検討する。2時間	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第2部 火5/19	婚姻の効力	家族法が夫婦に定める権利と義務。	
		この回の到達目標	家族法が夫婦に定める権利と義務を、一般的効力と財産的効力の両面で具体的に理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第4 婚姻の効力」を読む 婚姻の効力全般について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。一般的効力、財産的効力について整理・検討する。	120分
8	第2部 火5/26	婚姻の解消	死亡と失踪による婚姻の解消、離婚制度と手続。	
		この回の到達目標	法的な死亡の意義、協議離婚、家庭裁判所における調停と審判離婚について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第3 章婚姻の解消」を読む。死亡と失踪による解消、離婚による解消、離婚制度の変遷、現代社会における離婚の意義を諸外国とも比較して考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。死亡と失踪による婚姻解消の要件、協議離婚、調停離婚、審判離婚、それぞれの問題点を整理・検討する。2 時間	120分
9	第2部 火6/2	離婚原因	裁判離婚における離婚事由。	
		この回の到達目標	裁判離婚に適用される法定離婚事由の内容と問題点を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「4 判決離婚制度」を読む。離婚原因の意義、離婚原因を諸外国とも比較して考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。離婚原因の解釈、有責配偶者からの離婚請求、破綻主義について諸外国とも比較検討して整理・検討する。	120分
10	第2部 火6/9	離婚の効果	離婚に際して家族法が定める効果。	
		この回の到達目標	離婚に際しての一般的効果、身分上の効果、財産上の効果とそれぞれが有する問題点を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「5 離婚の効果」を読む。一般的効果 身分上の効果、財産上の効果について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。復氏、親権者の指定・変更、監護権者、財産分与請求権について整理・検討する。	120分
11	第2部 火6/16	嫡出子	嫡出子の親子関係に関する法。	
		この回の到達目標	嫡出子について、母子関係の成立、父子関係の成立を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第4 章親子」を読む。夫婦間の子について、父との親子関係を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。推定を受ける嫡出子、推定の及ばない嫡出子、推定を受けない嫡出子、親子関係の否定と確定について整理・検討する。	120分
12	第2部 火6/23	嫡出でない子	嫡出でない子の親子関係に関する法。	
		この回の到達目標	嫡出でない子について、母子関係、父子関係の成立を理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の「3 嫡出でない子」を読む。母子関係、認知制度について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。母の認知、任意認知、認知の無効と取消、強制認知、認知の効果、準正について整理・検討する。2 時間	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第2部 火6/30	養子縁組	普通養子縁組、特別養子縁組に関する法。	
		この回の到達目標	普通養子縁組と特別養子縁組について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第3養子縁組」を読む。普通養子縁組、特別養子縁組について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。普通養子縁組、特別養子縁組の成立要件と問題点を整理・検討する。	120分
14	第2部 火7/7	親権と扶養	親権、後見、保佐、補助、扶養に関する法。	
		この回の到達目標	子どもの権利の尊重を踏まえた親権の意義内容、成年後見制度、扶養の原則について理解し、説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第5章親権・後見・保佐・補助について 第6章扶養について」を読む。親権の内容、成年後見制度について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。現代社会における親権制度の意義からの親権に関する法制度の見直し、成年後見制度の利用促進のための要件、公的扶養と私的扶養の新たな関係、扶養義務者、扶養の方法と程度について整理・検討する。	120分
15	第2部 火7/14	これからの家族法	少子高齢者社会に対応する家族法。	
		この回の到達目標	少子高齢社会で生ずる家族法上の諸問題を理解し、必要とされる解決方法を解説することができる。	
		事前学修	初回からの教科書の各箇所と講義記録を見直す。憲法の理念、家族法の指導原理からの不適合箇所を考察する。 初回からの教科書の各箇所および講義記録を読み直し、憲法の理念、家族法の指導原理により適合することが求められてい制度、条文を検討する。2時間	120分
		事後学修	初回からの講義記録を読み、全講義内容を確認して、これからの家族法に求められている社会における機能を検討する。	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、財産承継に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すために必要となる民法第5編(相続)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を習得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(ポータルサイト)。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを筆記試験により評価する。	50	20	10	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる家族法』	本澤巳代子、大杉麻 美他2名	ミネルヴァ書房	2014年		
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6	ガイダンス、相続の歴史・根拠	死を迎えたとき：相続のしくみ、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか：相続の歴史・根拠について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書Ⅸ相続の開始と相続人「死を迎えたとき、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか」を読んで現代の相続の特徴について考えてみる。	120分
		事後学修	わが国の葬儀の特徴についてまとめるとともに、葬儀契約のトラブル事例についてインターネットで検索する。	120分
2	第一部月 4/13	子どもの相続分	子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、子どもの相続分について具体的事例をあげながら説明することができる	
		事前学修	教科書Ⅸ相続の開始と相続人「子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分」を読んで、相続できる相続人の範囲についてまとめておく。	120分
		事後学修	相続人の確定に関連する法律にはどのようなものがあるかについて講義の説明をもとにまとめておく。	120分
3	第一部月 4/20	相続欠格と相続人の廃除	相続人になれない子ども：相続欠格、親の意思で相続人を決定するのか：相続人の廃除について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続欠格と相続人の廃除の違いについて文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書Ⅸ相続の開始と相続人「相続人になれない子ども、親の意思で相続人を決定するのか」を読んで、相続欠格と廃除の違いについてまとめておく。	120分
		事後学修	相続廃除に関する判例の事例を確認し、それに対する自らの意見を述べられるようにノートにまとめておく。	120分
4	第一部月 4/27	相続人の不存在	相続人が存在しないとき：身寄りのない者の財産と国庫帰属、相続財産を取り戻せ：相続回復請求について解説する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続人が存在しないときの相続の考え方について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅸ相続の開始と相続人「相続人が存在しないとき、相続財産を取り戻せ」を読んで、相続人がいないとはどのような事例であるかについて考えてみる。	120分
		事後学修	相続人が存在しない場合の相続手続きについてノートにまとめておく。	120分
5	第一部月 5/4	相続財産	相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)：親の「遺骨」は誰のものか、特殊な相続財産(2)：保険契約の受取人について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続できる財産・相続できない財産について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅹ相続財産の確定「相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)(2)」を読んで、相続の対象とすることができる財産の種類についてまとめておく。	120分
		事後学修	講義で取り上げられた事例のうち、最も興味を持った事例についての法的規制について自らの意見を述べられるようにオートにまとめておく。	120分
6	第一部月 5/11	相続財産の共有	相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続財産の所有形態に関する基本的な考え方について説明することができる。	
		事前学修	教科書Ⅹ相続財産の確定「相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記」について読んで、相続財産の共有に関する法律の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	相続財産に関する登記が行われる事例を整理して、それぞれの解決策について簡単に結論が述べられるようにノートにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/18	遺言の種類・性質	遺言のスタイル：意義・性質、『遺言書』を書く：自筆証書遺言、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言の種類について具体的事例をあげながら説明することができる	
		事前学修	教科書XI遺言「遺言のスタイル、『遺言書』を書く、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人」を読んで、遺言書の書式事例をインターネットで調べておく。	120分
		事後学修	遺言書に関するトラブルを減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにノートにまとめておく。	120分
8	第一部月 5/25	遺言内容の実現	遺言内容の実現：遺言の効力、遺言による贈与(1)：遺贈・包括遺贈、遺言による贈与(2)：その他の遺贈、遺言内容の実現：遺言の執行について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈・包括遺贈、遺言の執行に関し簡単に説明することができる。	
		事前学修	教科書XI遺言「遺言内容の実現、遺言による贈与(1)(2)、遺言内容の実現」を読んで、遺言による贈与の類型についてまとめておく。	120分
		事後学修	遺言による遺贈の具体的事例についてインターネットで調べておく。	120分
9	第一部月 6/1	相続の承認・放棄	相続の承認・放棄、「借金」の相続：限定承認について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認と放棄の違いについて文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書XII遺産分割「相続の承認・放棄、『借金』の相続」を読んで、相続・承認の類型についてまとめておく。	120分
		事後学修	相続の承認と放棄の違いについて、ノートにまとめておく。	120分
10	第一部月 6/8	特別受益・寄与分	特別受益、寄与分について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特別受益と寄与分の違いについて文章にまとめることができる。	
		事前学修	教科書XII遺産分割「親からの援助：特別受益、介護は報われるか：寄与分」を読んで、特別受益と寄与分の違いについてまとめておく。	120分
		事後学修	教科書コラムー13「長男の嫁」問題についてHPで調べて具体的な問題点について説明できるようにしておく。	120分
11	第一部月 6/15	遺産分割の種類・方法	遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の基本的な考え方について説明することができる。	
		事前学修	教科書XII遺産分割「遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法」について読んで、遺産分割の流れについてまとめる。	120分
		事後学修	教科書資料⑮遺産分割協議書、登記申請書についてインターネット調べ、具体的に説明できるようにしておく。	120分
12	第一部月 6/22	遺留分	最低限は保障されるか：遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の『順序』について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分の基本的な考え方について説明することができる。	
		事前学修	教科書XII遺産分割「遺留分、遺留分減殺請求権、遺留分減殺の『順序』」を読んで、遺留分減殺の制度についてまとめる。	120分
		事後学修	講義中に解説した遺留分減殺請求権の内容につき、ノートにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 6/29	相続法改正	相続法改正の経緯・内容について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続法改正の経緯・内容について簡単に説明することができる。	
		事前学修	相続法改正について法務省のHPにアクセスして、講義で指示される資料をダウンロードし、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	相続法改正についてまとめておく。現行法との違いについてまとめておく。	120分
14	第一部月 7/6	最新の判例	講義のまとめと、最新の家族法判例についての解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例の事案と判旨をまとめることができる。	
		事前学修	これまで配布された資料を見直し、よくわからなかったところを書き出しておく。第12回・第13回の講義で指示された判例を読んで、事案と判旨をまとめておく。	120分
		事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
15	第一部月 7/13	相続法のまとめと授業内試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期学習内容の振り返り。解説については定期試験終了後ポータルサイトにて配信する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学んだことを文章にまとめ、簡単に説明することができる。	
		事前学修	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第14回の講義で解説された判例について、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
		事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、相続法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
教科書に沿って授業を行うが、必要に応じて授業に関連するレジュメを配布する。なお、六法は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で扱う重要判例を事前に読んできてもらい、翌週以降の授業の中で、その判例に関するディスカッションを行うこととする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	50	20		20							90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる説明をすることができているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日の12:15～12:50に研究室（本館 7 F 1720）にて行う。（※相談の上、別の日時に設定することもあり。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15	ガイダンス（条文の読み方、法律用語の確認）、家族法入門	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバス、レジュメに沿い、授業の概要、授業目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、教科書等についての説明を行う。それにより、受講生は、授業計画を理解し、次回以降の授業準備をスムーズに行うことが可能となる。さらに、次回以降の授業のために、条文の読み方の基本についても復習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での家族法（相続法）の位置づけ、概要を理解するとともに、条文の読み方を理解し、条文を素早く引けるようになる。	
		事前学修	シラバスを確認し、授業内容を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。最新の六法を購入し、初回授業に持参すること	120分
		事後学修	授業で説明された内容を確認し、教科書を購入するとともに、条文の見方について説明したレジュメを参考にしながら、相続法の条文の見出し及び条文を確認し、次回以降の授業に備える。	120分
2	第一部火 9/22	「相続」総論：相続制度の歴史的沿革、意義	民法典の中での第5編相続の位置づけを確認するとともに、相続制度の歴史的沿革、日本と欧米諸国の相続制度の違い、相続制度の意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での第5編相続の位置づけを歴史的沿革も踏まえたうえで、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部8章（155－163頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書163頁のチェック問題を解いてみること	120分
3	第一部火 9/29	総則：相続の開始原因、相続回復請求権、相続財産に関する費用	相続の開始原因、さらに、相続が開始した場合に、それに要する費用、自分の相続権が侵害された場合の対応について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の開始原因、相続回復請求権の意義等につき、正確に理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部9章（164－171頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書171頁のチェック問題を解いてみること	120分
4	第一部火 10/6	相続人と相続分(1) 意義、相続人の種類と順位	ここから数回にわたり、法定相続の基本原則について学修する。具体的には、同時存在の原則、相続の種類と順位について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、同時存在の原則、相続の種類と順位につき、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章（172－175頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書181頁のチェック問題を解いてみること	120分
5	第一部火 10/13	相続人と相続分(2)：相続欠格、廃除	前回に続き、法定相続の基本原則について学ぶ。具体的には、相続欠格、廃除について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、相続欠格、廃除につき、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章（177－181頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書181頁のチェック問題を解いてみること	120分
6	第一部火 10/20	相続人と相続分(3)、相続の効力(1)：代襲相続人の相続分、相続財産の範囲	前回に続き、法定相続の基本原則及び新たに相続の効力について学修する。具体的には、代襲相続、相続財産の範囲について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、代襲相続人の相続分、相続財産の範囲につき、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章、11章（175－176、182－190頁）を読むこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ここまでの授業のノート整理をしっかりと行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27	相続の効力(2)：相続分	前回に続き、相続の効力について学ぶ。具体的には、法定相続分、指定相続分、特別受益者、寄与者の相続分について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続分、指定相続分、特別受益者、寄与者の相続分の意義、算定方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章（190－198 頁）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書214頁のチェック問題を解いてみること	120分
8	第一部火 11/10	相続の効力(3)：共同相続	前回に続き、相続の効力について学ぶ。具体的には、遺産共有の意義、法的性格、共有中の相続財産の管理について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産共有の意義、法的性格、共有中の相続財産の管理について理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章（198－205 頁）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連個所についてもしっかりと復習を行うこと。	120分
9	第一部火 11/17	遺産分割(1)：意義、実行、分割の基準と方法	相続法の重要な論点の1つである遺産分割について学ぶ。具体的には、遺産分割の意義、基準、具体的実行方法について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の意義、実行、分割の基準と方法について、理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章（205－209 頁）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連個所についてもしっかりと復習を行うこと。	120分
10	第一部火 11/24	遺産分割(2)：効果、共同相続人間の担保責任	前回に続き、遺産分割の理解を深める。この回では、遺産分割の効果、共同相続人間の担保責任などについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の効果、共同相続人間の担保責任について、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章（205－210頁）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連個所についてもしっかりと復習を行うこと。	120分
11	第一部火 12/1	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	当然相続主義と自己責任の原則とを調和させるために規定されている相続の承認・放棄という制度を扱うとともに、財産分離、相続人の不存在の場合における残された財産の行方について広く学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在について、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部12、13、14章（215－230頁）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書222、226、230頁のチェック問題を解いてみること	120分
12	第一部火 12/8	遺言(1)：意義、法的性格、遺言事項、遺言の種類と方式、遺言の撤回・取消し	財産処分に関する自己決定の尊重を人の死後も実現するために認められてきた制度が遺言制度である。この授業では、近年、利用者が増えている遺言の基礎知識について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言制度の意義、法的性格、遺言事項、遺言の種類と方式、遺言の撤回・取消しにつき、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部15章（231－242 頁）を読んでくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書252頁のチェック問題を解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15	遺言(2)：遺贈、遺言の執行	前回到続き、遺言についての理解を深める。今回の授業では、遺贈、遺言の執行について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈、遺言の執行について、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部15章(242-252頁)を読んでもくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書252頁のチェック問題を解いてみること	120分
14	第一部火 12/22	遺留分(1)：意義・目的、遺留分権利者と遺留分割合、遺留分の算定	遺留分とは、被相続人の財産処分の自由と遺された一定範囲の遺族の利益との調整を図ることを目的に用意された制度である。今回は、遺留分制度の基礎について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分制度の意義・目的、遺留分権利者と遺留分割合、遺留分の算定の仕方について、正しく理解し、説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部16章(253-258頁)を読んでもくこと	120分
		事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書264頁のチェック問題を解いてみること	120分
15	第一部火 1/12	遺留分(2)：遺留分侵害額請求権、遺留分の放棄	前回到続き、遺留分制度の理解を深める。今回は、遺留分侵害額請求権の意義、趣旨、算定の仕方、さらに、遺留分の放棄について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分侵害額請求権、遺留分の放棄につき、理解し、正しく説明することができる。	
		事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部16章(258-264頁)を読んでもくこと。さらに、最後の授業となるので、授業全体を通して質問事項がないかを考えてくこと	120分
		事後学修	授業の内容をレジュメを参考にしながらノート整理するのと同時に、教科書264頁のチェック問題を解いておくこと。また、配布したレジュメ及び教科書、まとめノートを試験に向けてよく復習しておくこと	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	武田 政明	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】 民法第5編(相続編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、相続法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】 相続に関する争い事、これからの相続法はどのようにあるべきかに関心のある者に受講してもらいたい。
--

【授業方法】 教科書に即して講義方式で行う。必要に応じて配布する資料に基づいた講義も行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	50	20		20							90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる説明をすることができているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、試験後にする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
親族法・相続法講義〔第六版〕	山川一陽	日本加除出版	平成26年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅲ 親族・相続	水野紀子・大村敦志編	有斐閣	平成27年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
希望する場合には、授業の際にあらかじめ相談の上で、授業の前後に時間をとり可能な限り応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第2部 火9/15	日本相続法の特色	日本相続法の歴史と特色、相続の根拠	
		この回の到達目標	相続法の歴史と存在意義から日本相続法の目的と特色を理解し、解説することができる。	
		事前学修	シラバスを確認する。教科書の「第3部相続法 第1章相続の歴史とその意義」を読む。戦前の相続法と現行相続法の基本理念、達成目標の根本的違いを考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。現行相続法が家族生活における個人の尊重という憲法の理念をどの程度達成しているか、またこれからの相続法はどのようにあるべきかについて、整理・検討する。	120分
2	第2部 火9/22	相続の開始と相続回復請求権	相続の開始原因とその時期、相続回復請求権	
		この回の到達目標	相続の開始原因と特別な措置規定が適用される場合、現代における相続回復請求権の意義と機能を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第2章相続の開始 1 相続の開始原因とその時期 2 その意義と同時存在の原則 3 相続回復請求権」を読む。相続の開始について大規模自然災害の場合を考察する。相続回復請求権の法的存在意義等を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続開始原因としての死亡の法的意義、同時存在の原則、当然開始の原則等を検討する。相続回復請求権の意義、判例、行使の当事者、遺産分割請求権との関係、消滅等の問題を整理・検討する。 2時間	120分
3	第2部 火9/29	相続人の意義	配偶者相続人、血族相続人、相続人の二重資格、相続順位	
		この回の到達目標	各法定相続人の意義、胎児についての特例、相続順位を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第3章相続人と相続分」を読む。配偶者相続人、血族相続人、相続順位、相続人の二重資格等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。配偶者の意義、血族相続人の意義、相続順位、胎児の相続権、相続人の二重資格等について現行相続法規が抱える問題点を整理・検討する。	120分
4	第2部 火10/6	法定相続と相続分	法定相続分、代襲相続	
		この回の到達目標	法定相続における相続人の順位、代襲相続の意義、相続人の順位に応じた相続分を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「2 法定相続分 3 代襲相続」を読む。相続人と法定相続分、代襲相続人の資格要件等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。代襲相続も含めて相続人となる場合とそのときの相続分の割合の関係を整理・検討する。	120分
5	第2部 火10/13	配偶者相続人	配偶者の相続に関する諸規定	
		この回の到達目標	配偶者の相続に関して、新たに配偶者保護のために定められた規定の意義を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「4 配偶者相続の諸問題」を読む。相続法の改正条文から配偶者の相続権に関係する部分を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。配偶者居住権、遺産分割における配偶者保護のための方策等を整理・検討する。	120分
6	第2部 火10/20	相続人となれない者	欠格、廃除制度	
		この回の到達目標	欠格、廃除の意義、要件を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「5 相続欠格 6 相続人の廃除」を読む。制度の目的、それぞれの事由と効果等を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。欠格・廃除制度の事由を現在の親子・家族生活を踏まえて整理・検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第2部 火10/27	指定相続分と特別受益者	相続分の指定があるときの相続分、特別受益制度	
		この回の到達目標	相続分の指定があるときの相続、特別受益の意義と相続分の算定方法を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第2 指定相続分 第3 特別受益者の相続分」を読む。相続分の指定がなされた場合、相続人の中に特別受益者がいる場合の相続人各自の相続分等を考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続分の指定方法、指定の解釈、遺留分や相続債務との関係等について整理・検討する。特別受益の意義・評価、特別受益者がいる場合の相続分の算定方式等を具体的事例に則して整理・試算・検証する。	120分
8	第2部 火11/10	寄与分と相続分取戻権	寄与分、相続分取戻権	
		この回の到達目標	寄与分の意義と算定方法、相続分の取り戻しの意義と方法、相続分の譲渡と登記について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第4 寄与分 第5 相続分の取戻権について」を読む。寄与分の要件、相続分の譲渡、取り戻し権の行使等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。寄与分制度の意義と問題点、寄与分の算定方式等を具体的事例に則して整理・試算・検証する。相続分取戻権の意義、相続分の遺産分割前の譲渡と登記、譲渡を受けた者の法的立場等について整理・検討する。	120分
9	第2部 火11/17	遺産分割	遺産分割の意義と具体的方法	
		この回の到達目標	遺産分割の意義、基準、方法、効果等を理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第6 遺産分割について」を読む。遺産分割に関する諸問題、代償財産の取扱い、遺産分割の基準・方法、遺産分割の禁止、遺産分割の効果等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。遺産分割に関する諸問題を整理し、さまざまな場合を想定した遺産分割協議書を実際に作成してみて問題点を検証する。	120分
10	第2部 火11/24	相続財産	遺産共有の法的性質、相続財産の管理	
		この回の到達目標	相続財産の意義、遺産共有の法的性質、相続財産の管理について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第4 章相続財産」を読む。相続財産の意義、無権代理と相続、遺産共有の法的性質、共同財産の管理等に関する諸問題について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続財産の範囲、無権代理と相続の類型、合有説と共有説の主張、共同相続財産の管理、相続と登記等に関する諸問題を整理・検討する。	120分
11	第2部 火12/1	相続の承認と放棄	熟慮期間、相続の承認、相続放棄の要件と効果	
		この回の到達目標	熟慮期間の意義と算定、相続放棄の要件と効果について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第5 章相続の承認と放棄」を読む。承認・放棄の法的性格、熟慮期間、相続放棄の方式等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。熟慮期間の起算点と特則、熟慮期間と特別事情、相続放棄の方式と効果等について整理・検討する。	120分
12	第2部 火12/8	相続の承認と財産分離	単純承認、法定単純承認、限定承認、財産分離	
		この回の到達目標	法定単純承認、限定承認、財産分離の意義、要件、効果について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第3 相続の承認 第6 章財産分離」を読む。法定単純承認、限定承認、財産分離の機能について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。法定単純承認となる場合、限定承認の意義と効果、財産分離の意義と効果等について整理・検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第2部 火12/15	相続人の不存在、遺言	相続人の不存在と手続、遺言事項と遺言能力	
		この回の到達目標	相続人が不存在の時の手続、遺言事項、遺言能力について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第7章相続人の不存在 第8章遺言制度について」を読む。相続人不存在の意義と手続き、遺言能力、遺言事項等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続人不存在の場合の手続の進め方、特別縁故者の意義と財産分与、国庫帰属について問題点を整理し検討する。遺言制度の意義と機能から遺言能力、遺言事項について検討する。	120分
14	第2部 火12/22	遺言の方式と執行	遺言の方式、要件、効力、執行方法	
		この回の到達目標	遺言の各種方式、それぞれの要件、遺言の執行方法について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「4 遺言の方式から9 遺言の執行について」までを読む。遺言の種類と方式、遺言の効力、遺贈、遺言の執行等について考察する。	120分
		事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。各方式の遺言方法、効力、遺言の無効・取消し等について実際に遺言書を作成し、各遺言方式の問題点を整理・検討する。受遺者と遺贈義務者の法的関係、包括遺贈と特定遺贈、負担付贈与等の諸問題についても検討する。	120分
15	第2部 火1/12	遺留分、これからの相続法	遺留分制度、これからの相続法	
		この回の到達目標	遺留分制度の意義、具体的算定方法について理解し、またこれからの相続法のために改正されるべき規定について理解し、解説することができる。	
		事前学修	教科書の「第2 遺留分制度」を読む。遺留分制度を考察する。また、初回からの教科書の各箇所と講義記録を読み直し、憲法の理念から、これからの相続法において改めるべきところを考察する。	120分
		事後学修	初回からの教科書の各箇所と講義記録を確認する。社会においてこれからの相続法に求められている機能、その実現方法をを検討する。	120分

科目名	民法総則	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典第1編「総則」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を中心に学ぶ。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
授業は、下記授業区分のとおりに、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。			2				
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。			2				
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。			2				
④	民法総則に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。			2				
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	10	10							80
小テスト等	授業中の小テストや演習、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④の達成度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回に行う授業内試験について、解説を第15回講義時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門・総則〔第5版〕エッセンシャル民法1	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13：00－17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような法律かを説明することができる。	
		事前学修	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおく 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	4/14	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）	民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような場面に適用される法律かを理解したうえで、民法典の構造、契約においてどのような形で債権債務が発生し、物権が移転するのかを説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて読んでみる	120分
3	4/21	民法の全体像②（民法の基本概念）	民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の3大原則を説明できるようになるとともに、所有権の移転方法における民法の原則と例外の考え方を理解する。	
		事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第5回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
4	4/28	権利の主体（人）	権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学び、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いていた法律行為の効力をおさえる。また、行為能力が十分でない者を保護する制度としての制限行為能力者制度についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。また、そうして保護をする一方で、相手方にも配慮して一定の制度があることも理解する。	
		事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性和その手段について一連の流れでおさえる。 第5回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
5	5/5	権利の客体（物）、演習（第1回）	民法上の権利の客体となる物概念について学んだあと、第2回以降の講義内容の復習を兼ねた演習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第5章 物」を読んでおくこと あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
6	5/12	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保）	隔地者間における意思表示はいったいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にすれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか、一方当事者が相手をだますつもりで契約の申込みをし、相手方が信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか、といったことを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示や契約の成立時期を理解するとともに、成立した契約の内容について両当事者の認識が異なっていた場合にはすぐに錯誤を検討するのではなく、まずは契約内容の確定という契約解釈が必要であることを理解し、その方法を説明することができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保の箇所を読んでく	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第8回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	法律行為と意思表示②（通謀虚偽表示、錯誤）	契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。契約締結にあたり、一方当事者に勘違いがあった場合はどうか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通謀虚偽表示や錯誤があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示と錯誤の箇所を読むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみる こと。 第8回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
8	5/26	法律行為と意思表示③（詐欺、強迫）、演習（第2回）	契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていた場合、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していた場合に何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。	
		この回の到達目標	詐欺および強迫を学んだ後、到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読むこと あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 演習問題の回答を整理する	120分
9	6/2	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限	取締規定に反する契約は全て効力が生じないか。そもそも無効と取消しは、どのような違いがあるのか。条件と期限にはどのような差があるか。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約自由の原則がどういった理由からどのような形で修正されているのか、また無効と取消しとはどのような差異があるのか、条件と期限はどのような観点から区別されるのかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」「第8章 無効と取消し」「第9章 条件・期限」を読むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみる。こと。 第11回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
10	6/9	代理①（代理の基本的仕組みと機能、代理権、代理行為）	第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理とはそもそもどのような場合に利用され、その場合にはどういった要件を満たすと、代理として認められるのかを説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顔名として許されているのかにつき、顔名が求められている趣旨に遡って考えてみる。こと。 第11回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
11	6/16	代理②（無権代理、表見代理）、演習（第3回）	代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方について学ぶ。	
		この回の到達目標	代理の後半を学んだ後、到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節および第5節を読むこと あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくる	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 演習問題の回答を整理する	120分
12	6/23	時効①（取得時効）	永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。	
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読むこと	120分
		事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	時効②（消滅時効、時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度）	「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。また、前回の取得時効にも共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度についても学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度における諸論点についての判例の理解をめぐる多様性を理解し、事例が少し変わっただけで結論が変わり得ることを理解する。	
		事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節～第4節を読むこと	120分
		事後学修	日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する	120分
14	7/7	質疑応答と授業内試験	質疑応答を30分した後、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。	
		事前学修	これまでのレジュメを読み返し、理解の不十分な箇所をあらかじめ明らかにして質問できるようにしておくこと	120分
		事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする	120分
15	7/14	授業内試験の解説・講評	第14回に実施した授業内試験について解説・講評を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験で自身が不十分であったところを確認し、自身が得意なところと苦手なところを認識し、夏季休暇中において何をより深く勉強すべきかを理解する。	
		事前学修	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく	120分
		事後学修	これまでのレジュメを整理するとともに、民法総則の総復習をする	120分

科目名	民法総則	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典第1編「総則」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示してしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を中心的に学ぶ。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
講義形式により配布レジュメに沿って授業を進める。民法総則では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、これは皆さんが主体的に授業に参加することを目的に設けたものである。つまり、空欄だけが重要なのではない。皆さんには、空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、私の説明もしっかりと聞き、メモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	時間の許す範囲で、択一型形式の問題や簡単な論述問題を解いてもらう時間を設けたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。						2						
④	民法総則に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	10	10							80
小テスト等	授業中の小テストや演習、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④の達成度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第1 5 回目の授業内試験の解説またはポータルサイトを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則（補訂版）日評ベーシックシリーズ	原田＝寺川＝吉永	日本評論社	2018	教科書	必携
最新版の六法（改正民法が記載されているもの）		各自の好みでどうぞ			
新ブリメール民法1 民法入門・総則〔第2版〕	中田＝後藤＝鹿野	法律文化社	2020	教科書	推奨
ユーリカ民法1 民法入門・総則	大中有信編	法律文化社	2019	教科書	推奨
備考	上記教科書は参考です。各自の学修目的に応じて教科書を選んでください。教科書・参考書の内容、使い方については第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜3時限（授業前後にアポイントメントをとってもらえると助かります。その他の時間でも適宜対応します）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月8日	ガイダンス及び導入講義	授業の前半では、授業の目的と内容、授業の進行方法、教科書の使い方、成績評価方法について説明します。授業の後半では、民法とは何か、民法における民法総則の位置づけについて学びます。	
		この回の到達目標	民法の全体像、民法総則の位置づけについて学ぶ。	
		事前学修	授業に「必ず」出席すること！ なぜ民法総則を履修するのかについて考えておくこと。民法を学修するにあたって他にどのような科目を履修した方が良いのかについても考えて授業計画を考えること。	120分
		事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。 教科書1～16頁を読んで授業内容を復習すること。以下の事後学修の教科書は、民法総則（日本評論社ペーシックシリーズ）のページ数を記載している。	120分
2	4月15日	民法の基本原則、権利の主体・客体	まず初めに、民法の基本原則を学びます。その後、権利の主体と客体をみていきます。前者については、権利能力を学びます。権利能力とは、私法上の権利を有したり、義務を負ったりする資格のことです。民法3条1項では、「私権の享有は、出生に始まる」とされます。それでは、まだ出生していないが、お腹の中では生きている胎児には権利能力が認められるのでしょうか。認められるとすれば、それはどのような場合でしょうか。後者については、権利の客体となる物についてごく簡単に学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利の主体・客体について学び、特に権利能力とは何か、について説明できるようになること。	
		事前学修	教科書74～78頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	4月22日	未成年者と成年後見制度	重度の認知症を患った高齢者が持っていた指輪を売却してしまった場合や、未成年者が親の同意を得ずに高価な時計を購入した場合、契約の効力はどうなるのでしょうか。この回では、こうした問題を解決するにあたり重要な概念として、まず「意思能力」をみていきます。次に、意思能力制度の問題点をみたのち、「制限行為能力」制度の必要性やその概要について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、意思能力・行為能力の概念の意義・必要性を学び、具体例を用いて説明できるようになること	
		事前学修	教科書85～105頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	4月29日	第1～3回の復習、法律行為・意思表示概論	これまで学んだ権利能力・意思能力・行為能力について復習します（小テスト①）。その後、第5回目以降の重要な概念として「意思表示」「法律行為」とは何か、ということを見ていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、意思能力・権利能力・行為能力について具体例をあげながら説明でき、また具体的な事例を検討して、自分の意見を述べられるようになること。到達目標①・②に関連して、意思表示・法律行為の概念の意義・必要性を学び、具体例を用いて説明できるようになること	
		事前学修	これまでのレジュメ・教科書の該当ページを復習する。 教科書17～23頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	5月6日	意思の不存在①	法律行為の具体例として、心裡留保・通謀虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫についてごく簡単な具体例をあげ、法律行為の全体像をつかみ、各制度の共通点と違いを学びます。その後、民法94条2項の類推適用について類推適用とは何か、同条の趣旨である権利外観法理とは何か、ということ学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、心裡留保・通謀虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫について具体例をあげて説明できるようになること。また到達目標①・②に関連して、そもそも類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、なぜ類推適用できるのか、権利外観法理とは何かについて具体例をあげて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書23～33頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	5月13日	意思の不存在②、瑕疵ある意思表示①	錯誤について意思欠缺錯誤、基礎事情錯誤の各要件と効果について学びます。たとえば、100,000円で売るはずのパソコンを10,000円で売却してしまった場合、絶好の眺望を期待してマンションを購入したが、マンションの前に高層ビルが建ち、眺望が遮られてしまった場合、契約の効力はどうなるのか、という問題をみていきます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、意思欠缺錯誤や基礎事情錯誤はどのような事例であり（両者の異同をおさえ）、その要件と効果は何かについて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書33～40頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月20日	瑕疵ある意思表示②、法律行為と第三者保護規定	相手方や第三者から詐欺や強迫を受けて契約を締結してしまった場合に契約の効力はどうなるのか、という問題を学びます。その後、心裡留保・通謀虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫の復習もかねて、「保護される（されない）第三者」とは何か、という問題を具体例を通して学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、詐欺と強迫の具体例と要件・効果につき説明できるようになること。 到達目標①・②に関連して、「93条2項・94条2項・95条4項・96条3項」の善意（＋無過失）の第三者とはどのような者をいうのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書40～49頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	5月27日	公序良俗、無効と取消し、条件・期限	契約を締結したとしても社会的に妥当でないもの（例：殺人をしたら報酬をもらう契約、麻薬の取引、不倫の継続の維持を目的としてなされた贈与）は認められません。この回では、公序良俗違反の契約について具体例を通して学ぶとともに、これまで度々登場した「無効」「取消し」、「条件」「期限」についてもう一度概要を確認します。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、公序良俗の具体例を説明できるようになること。 到達目標①・②に関連して、無効・取消しの違い、条件・期限の違い、なぜ法律行為の各場面で「無効」「取消し」という規律がなされているのか、その理由を説明できるようになること。	
		事前学修	教科書53～71頁を読む。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	6月3日	第4回～第8回の復習	第4回目～第8回目（法律行為）の内容を復習します（小テスト②）。 （授業時間の関係で、復習時間が取れなかった場合は、ポータルサイトで問題演習を行うこともある。この点も第1回目の授業で説明する）	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、これまで学んできた法律行為の様々な概念の意義・必要性を説明できるようになること、各事例の法的問題点を考え、法的根拠に基づき自分の意見を述べられるようになること。	
		事前学修	これまでのレジュメ・教科書の該当ページを復習する。	120分
		事後学修	これまでの授業を通じて、どこまでは理解できているのか、何が理解できていないのかを確認し、特に後者について試験までにレジュメ・教科書を用いたり、友人や先生に聞くなどして分かるようにしておくこと。	120分
10	6月10日	代理①	本人が自分の代わりに他人に契約をしてもらう制度として「代理」があります。この回では、代理とは何か、なぜ代理制度が必要なのか、代理が有効に行われるために必要な要件は何か（有権代理）、それらの要件が欠けた場合はどうなるのか（無権代理）について学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代理制度の具体例・代理制度の必要性、要件と効果について説明できるようになること。	
		事前学修	教科書107～126頁を読むこと（なお細かい記述は読み飛ばしてよい）	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	6月17日	代理②	前回に引き続き、無権代理について学びます。その後、表見代理についてなぜそのような制度が認められるのか（制度趣旨）、どのような事例があるのか、ということ具体例を通じて学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無権代理の具体例、相手方を保護するための規律、表見代理の意義・必要性・要件と効果について具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書126～142頁を読むこと（なお細かい記述は読み飛ばしてよい）	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
12	6月24日	時効①	時効とはどのような制度か、なぜ時効という制度が存在しているのかということについて学びます。その後、取得時効制度の基礎を学びます。	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効制度の意義・時効の存在理由、取得時効制度の要件について具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書143～150頁を読むこと。	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	時効②、第10回～13回の復習	消滅時効制度の基礎を学びます。その後、（時間があれば）代理及び時効制度について復習します（小テスト③）。	
		この回の到達目標	なぜ消滅時効があるのか、時効の完成猶予、更新、援用とはどのような制度でなぜ存在するのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
		事前学修	教科書150～177頁を読むこと（なお細かい記述は読み飛ばしてよい）	120分
		事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	7月8日	授業内試験！！	到達目標①・②に関連して、民法総則の基本用語・概念の意義、民法総則の各種規定の制度趣旨が理解できているのかを確認するために、授業内試験を行います。試験では、択一型試験、穴埋め、説明問題を出題する予定です。また到達目標③・④に関連して、事例問題を出題します。その目的は、事例から法的問題点を見つけだし、その問題点に関する法的根拠（条文・判例・学説）をふまえて自分の意見を述べられるようになっているかを確認するためです。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④が到達できているかどうか（詳細は上記授業内容を参照）。	
		事前学修	試験前の猛勉強（時間はあくまでも目安であって、各自で異なるが、前日から準備しても手遅れの可能性が高い）。レジュメを繰り返し、説明問題・論述問題の準備をしておくことを推奨する。体調を万全にしておくこと！	600分
		事後学修	振り返りを行う。	30分
15	7月15日	授業内試験の解説（授業内試験の予備日）	前回の試験について試験の講評を行います。	
		この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、試験の講評と自身の答案を比較して理解できた点、（現実から目をそらさずに）理解できなかった点を確認する。とくにできなかった点は放置せずに、復習すること。また民法総則の授業を通じて何が得られたのかを確認する。	
		事前学修	前回の試験について、できたところはどこか、また（現実から目をそらさずに？）どこができなかったのかについて確認しておく。	120分
		事後学修	試験の講評と自身の答案を比較して理解できた点、理解できなかった点を確認する。とくにできなかった点は放置せずに、復習すること。	120分

科目名	メディア演習Ⅰ	担当者	高木 強	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
新聞メディアを中心にジャーナリズム活動の現状と社会的・法的・経済的環境、およびそれらの理解を通じて、ジャーナリズム活動の構造や社会的な意義・役割について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の中でのジャーナリズム、メディアの構造、制度への理解を深め、メディア、情報に接する主体的判断力を養うことを目的とする。そのため、ジャーナリズム・メディア・言論の自由の問題をさまざまな観点から考察し、ジャーナリズム活動の現状・構造や社会的役割や意義、課題を理解する。

【履修条件】
ジャーナリズム、言論・表現の自由に関心を有していること。

【授業方法】
主に講義形式で行う。質疑応答、討論の時間を適宜設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ジャーナリズムをめぐるトピックについてディベートを実施する（1回）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会の中でのジャーナリズムの活動に関連する法制度や倫理の知識を習得し、社会人として情報の受け手や発信者としての役割、倫理観を身に着ける。						3						
②	日本と諸外国におけるメディアの位置づけや制度の違いを理解、説明することができる。							3					
③	日頃のマスメディアの報道を客観的、批判的に考察し、情報の流れ、世論の動向などに対する自分の意見をもつことができる。								3				
④	メディアやジャーナリズムの活動における課題や問題点を見つけ、どのような解決策があるかを提示することができる。									3			
⑤	メディアやジャーナリズムをめぐるさまざまな意見が存在すること、メディアの実態を理解したうえで、ジャーナリズムのあり方について自分の考えを説得性、合理性をもって伝えることができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業内レポートが、自分の意見を論理的に説明できているかを基準に、到達目標②、③、④、⑤にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。		10	20	20	20						70
討論・発表等	ディベートにおいて、自分の意見を説得的、理論的に述べることができたかを基準に、到達目標①、②、⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10			10						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	20	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内リポートのフィードバックを最終回で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。授業ごとに適宜、資料を配布する。				

【オフィスアワー】
授業内（土曜2限）で質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部 土9/19	ガイダンス	全体の授業計画の流れ、概要、評価方法などを説明する。ジャーナリズムやメディアの活動に関する疑問や関心テーマに関する質疑応答をする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、日ごろのメディアによる報道に対する自分の考えを説明できるようにする。	
		事前学修	シラバスを熟読し、授業概要、目的について理解しておく。自分が疑問、関心をもっているジャーナリズムやメディアに関するテーマを考えておく。	120分
		事後学修	新聞を熟読する。新聞あるいは新聞社に対するイメージを考える。	120分
2	9/26	新聞メディアの活動と構造 1（組織）	新聞社がどのような組織体であり、どのような構造となっており、どのような活動を行っているのかを説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②、⑤に関して、新聞を中心とするメディアの組織的な構造を理解し、説明することができる。	
		事前学修	新聞あるいは新聞社に対するイメージをまとめておく。	120分
		事後学修	新聞以外に自分が関心を持っているメディアの組織・構造について考える。	120分
3	10/3	新聞メディアの活動と構造 2（活動）	新聞社の中心的活動である取材と報道の基本的な流れ、構造について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、取材・報道の仕組み、流れを理解し、説明することができる。	
		事前学修	新聞の取材・報道について日頃気になっていることをまとめておく。	120分
		事後学修	新聞以外の他のメディアの取材や報道の仕組みについて考える。	120分
4	10/10	新聞メディアの活動と構造 3（産業）	新聞産業・経営の概要、構造について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、ジャーナリズム活動を支える経営構造を理解し、説明することができる。	
		事前学修	新聞社の経営がどのように成り立っているのかについて想像しておく。	120分
		事後学修	新聞以外の他のメディアの経営構造について考える。	120分
5	10/17	ジャーナリズムの倫理1 （新聞倫理綱領）	新聞を中心に、取材・報道倫理について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、ジャーナリズム活動における倫理について理解し、説明することができる。	
		事前学修	日頃の報道の中で倫理上、疑問に感じたことをまとめておく。	120分
		事後学修	倫理綱領などに照らして、日々の新聞やテレビなどの報道について考える。	120分
6	10/24	ジャーナリズムの倫理2	諸外国での取材・報道倫理やその向上のための活動について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②、④、⑤に関連して、日本と諸外国のメディアをめぐる制度的な違いを理解し、説明することができる。	
		事前学修	倫理について考えをまとめておく。	120分
		事後学修	日本の報道倫理と比較し考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/31	メディアと法制度 1	取材・報道に関連する法制度の概要について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズムにかかわる日本の法制度を理解し、説明することができる。	
		事前学修	刑法・民法の違いを整理しておく。	120分
		事後学修	名誉毀損訴訟など報道に関わる判決文を読んでみる。	120分
8	11/7	メディアと法制度 2 :	取材・報道に関連する法制度の概要について説明する。（前回続き）	
		この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、ジャーナリズムにかかわる日本の法制度を理解し、法制度の問題点を客観的に認識し、説明することができる。	
		事前学修	法律と倫理の違いについて考えておく。	120分
		事後学修	日頃の報道を、報道する側と報道される側の立場になって考えてみる。	120分
9	11/14	言論の自由をめぐる問題 1	言論の自由の意義、戦前・戦中と戦後の比較について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②、⑤に関連して、言論の自由の意義を認識し、説明できるようにする。	
		事前学修	言論の自由の必要性について考えをまとめておく。	120分
		事後学修	戦前の言論統制に関する書籍を読んでみる。	120分
10	11/21	言論の自由をめぐる問題 2	組織的ジャーナリズムにおける言論の自由について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標②、⑤に関連して、個人のジャーナリズム活動と組織的（企業内）ジャーナリストの活動との違いを理解し、説明できるようにする。	
		事前学修	フリーのジャーナリストと企業のジャーナリストはどちらがより自由かについて考えをまとめておく。	120分
		事後学修	仮に自分がジャーナリストになるとして、フリーと企業のどちらを選択するかを考えてみる。	120分
11	11/28	言論の自由をめぐる問題 3	ヘイト・スピーチ規制の是非を具体的なテーマとして、討論する。	
		この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、ヘイト・スピーチの法的規制の是非をテーマに、言論の自由と人権との関係の在り方について自分の考えを相手に理解できるように伝えることができる。	
		事前学修	ヘイト・スピーチ規制の是非について考えをまとめておく。	120分
		事後学修	自分が組織内ジャーナリストになったと想定し、言論の自由と組織の論理、人権、法律、読者・視聴者との関係で、どのように行動するかを考えてみる。	120分
12	12/5	民主主義とジャーナリズムの役割	民主主義社会におけるジャーナリズムの役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、民主主義社会におけるジャーナリズムの役割を理解し、その役割を果たすうえでの課題などについて自分の考えを説明できるようにする。	
		事前学修	民主主義の仕組み、意義を整理しておく。	120分
		事後学修	民主主義と自由が対立した場合にジャーナリズムはどうあるべきかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/12	メディアの社会的責任・公共性	メディアの社会的責任や期待される役割について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①、④、⑤に関連して、メディア、ジャーナリズムの社会的責任や役割を理解し、課題の解決策について自分の考えを説明できるようにする。	
		事前学修	社会はマスメディアに何を求めているのかについて考えをまとめておく。	120分
		事後学修	現在のマスメディアの役割や責任について考えてみる。	120分
14	12/19	まとめと授業内レポート	事前に告知するテーマについて、授業内でレポートを執筆する。レポート作成の要点、理論的な書き方についても説明する。	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、論理的に自分の考えを相手に伝えることができる。	
		事前学修	事前に告知するレポートテーマについて考えを整理し、執筆構成を準備しておく。	120分
		事後学修	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問などをまとめておく。	120分
15	12/26	まとめ	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問をもとに質疑応答する。前回レポート内容などについて講評、フィードバックする。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連し、日ごろのメディアの報道などを疑問視し、その理由を説明できるようにする。	
		事前学修	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問などをまとめておく。	120分
		事後学修	今後のジャーナリズム、メディアの役割について考える。120	120分

科目名	メディア演習Ⅱ	担当者	黒井 克行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
「〇〇論」をぶつものではない。学問としてはともかく、実際のメディアの現場を再現した中での、既存の屁の役にも立たない理屈を一切排除した講義となろう。これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか。すでに報じられ歴史的に定着をみている事象の再検証とメディアの功罪と意義を問うものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今、現実には起こっている出来事やメディアで報じられている事をそのまま鵜呑みにすることなく、その行間に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考えを加えて発信し伝える力を養成することを目的とする。 これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1，4，8

【履修条件】
「新聞学科を極めたい」「3年間学んできたけど物足りない」「もっと刺激が欲しい」「気が付けば4年になっていた」という諸兄。

【授業方法】
担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けされた理論や認識をほとんどのマシンガントークと、残された時間は「演習」と名のつくかぎり、授業内レポートや発言を求めたい。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の冒頭で政治、経済から事件、スポーツ、芸能に至るまでタイムリーな話題の中から各自が関心を抱く話題をフリートークする。例えば、「日大アメフト問題」が提案されたら、各自どう考えるか？ 就活への影響や大学スポーツのあり方等、報じられている身近な出来事をテーマに議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	今日までのメディアの足跡を検証し、現代社会が直面、内包、さらに予測される問題を的確に捉え、分析することができる。〔知識〕				3	3		3				
②	発信されているニュース・情報の意図や思惑を推論し、行間に隠された情報の価値や意義を再考する。〔技能〕						3	3				
③	いかなるニュース・情報にも柔軟な思考で対応・理解することができる。〔態度・習慣〕						3	3				
④	形成されている世論にとらわれることなく、自分の中で自分流にダイジェストし、自分の言葉で表現することができる。〔技能〕									3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業を通して得た知識、思考方法、鍛錬された創造力をスキルとして身につけ、 最終的な発表として評価する。				40							40
討論・発表等												
授業への参画度	90分間集中して授業を面白がり、講師との間でソフトな 丁々発止で交わされる対話を通じ、言葉足らずでも課題に 積極的に向き合う姿勢を評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。強いて挙げれば日常の新聞か。				

【オフィスアワー】
講義のある日（金曜3限）は、その1時間前後は講師控室にて面談可能。予めメールにてアポイントを取ることが望ましいが、他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールのやりとりにてコミュニケーションをはかることにも積極的に応じる。メルアドは教室にて告知。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版、映像現場での取材・執筆・評論活動（現在続行中）
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記の実務経験を活かし、机上では果たせぬ“生の現場”を教壇から発信し、「リアルな再現」を心がける。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方やテーマ、成績評価の方法等、受講生が授業の準備にあたってのオリエンテーション。	
		この回の到達目標	日常のニュースや情報に対する問題意識を高め、習慣化する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。	10分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	10分
2	4/16	「時代とメディア」	かつて、生活必需品だったラジオ。「風呂屋から女性が消えた」時代があったが、その背景にラジオがあった。	
		この回の到達目標	ラジオはメディアの化石か？ 災害時の存在感等、今にも息づくラジオというメディアを再考し、足跡を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
3	4/23	「時代とメディア」	街頭テレビ。「プロレスが戦後復興」の狼煙だった。	
		この回の到達目標	最近までメディアの主役だったテレビ。テレビが社会に及ぼしてきた役割を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
4	4/30	「時代とメディア」	娯楽は映画。「映画館の扉が閉まらない」。映画が国民の心のよすがだった時代があった。	
		この回の到達目標	映像文化においてはビデオやスマホに席巻されようとしている映画。日本文化の中心の一つを担った映画に明日はあるのか？ 果たしてきた役割を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
5	5/7	「時代とメディア」	青春のバイブル。「左手に朝日ジャーナル、右手に平凡パンチ」。若者御用達のメディアがあった。それは一つの時代の象徴だった。	
		この回の到達目標	活字文化は知的生活の象徴であり、青春の道標だったが。学生街から消してはならぬ活字文化を問う。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
6	5/14	「スポーツとメディア」	1964年東京オリンピック。メディアが果たした役割。	
		この回の到達目標	メディアはスポーツ文化の大演出装置。1964年はそれを証明した。実績を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	「時代とメディア」	テレビ黄金時代。三種の神器と高度経済成長。テレビなくしてそれは語れない。	
		この回の到達目標	高度経済成長期、テレビが社会を動かし、時代のプロントランナーたらんとしていた。時代の寵児だったテレビ再考。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
8	5/28	「時代とメディア」	テレビの曲がり角。選ばれるメディア、そして視聴率との攻防。	
		この回の到達目標	社会の変容とメディアの関係。メディアは社会の変化に従うのか。上から目線のテレビの驕りと商業メディアとしてのあり方。メディアは誰のものを問う。	
		事前学修	各メディアをアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
9	6/4	「メディアの権力」	調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～田中金脈	
		この回の到達目標	メディアが第四の権力といわれる所以を示す事件から学ぶ。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
10	6/11	「調査報道」	調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～リクルート事件	
		この回の到達目標	メディアの社会的役割を再認識された事件から学ぶ。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
11	6/18	「調査報道」	調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～ロス疑惑	
		この回の到達目標	調査報道という取材手法と、ブームを作り出すメディアの特質を学ぶ。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
12	6/25	「スキャンダル報道」	スキャンダル報道のあり方と功罪	
		この回の到達目標	メディアはどこまで報じるべきか？ タブーはあるのか？ 報道倫理を最近の出来事から検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	「メディアの暴力」	メディアの暴力～何度も殺された松下幸之助	
		この回の到達目標	報道被害や情報操作による社会的混乱。大きな影響力を持つメディアゆえに常に危うさを併せ持つが、特に今の時代に求められているのは何かを問う。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
14	7/9	「スポーツとメディア」	2020年東京オリンピック。メディアの役割	
		この回の到達目標	オリンピックの歴史はメディアの歴史でもある。2020年はどんな歴史を刻むのか？ メディアの可能性と将来性を問う。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
15	7/16	総括	レポート提出と総括	
		この回の到達目標	半期のまとめと、“時代を映す鏡”である「メディア」を身近なものとして再認識する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分

科目名	メディア演習Ⅲ	担当者	黒井 克行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
「〇〇論」をぶつものではない。学問としてはともかく、実際のメディアの現場を再現した中での、屁の役にも立たない理屈を一切排除した講義となろう。これまでにメディアが取り上げてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどう活かしていくか。すでに報じられ歴史的に定着をみている事象の再検証とメディアの功罪と意義を問うものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今、現実には起こっている出来事やメディアで報じられている事をそのまま鵜呑みにすることなく、その行間に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考え方を加えて発信し、伝える力を養成することを目的とする。 これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1，4，8

【履修条件】
前期「メディア演習Ⅱ」を履修した者の引き続きの取り組みが望ましい。この「Ⅲ」を持って、新聞学科の集大成として、最終的な成果を掴み取って欲しい。

【授業方法】
担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けされた理論や認識をほとんどのマシンガントークと、残された時間は「演習」と名の付く限り授業内レポートや発言を求めたい。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の冒頭で各自が政治や経済、さらに事件やスポーツ、芸能にいたるまで関心を抱くタイムリーな話題を提案してフリートーク。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	今日までのメディアのの足跡を検証し、社会が直面、内包、予測される問題を的確に捉え、分析することができる。〔知識〕					4	4		4				
②	発信されているニュース・情報の行間に隠された意図や思惑を推論し、その価値や意義を再考する。〔技能〕							4	4				
③	いかなるニュース・情報にも柔軟な思考で対応し理解することができる。〔態度・習慣〕							4	4				
④	形成されている世論にとらわれることなく、自分の中で自分流にダイジェストし、自分の言葉で表現できる。〔技能〕										4		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業を通して得た知識や思考方法、創造力を駆使した最終的な発表を評価する。				40							40
討論・発表等												
授業への参画度	90分間集中して授業を面白がり、講師との間でソフトな丁々発止で交わされる対話を通じ、言葉足らずでも課題に積極的に向き合う姿勢を評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。強いて挙げれば、日常の新聞か。				

【オフィスアワー】
講義のある日は、その1時間前後は講師控室にて面談可能。予めメールにてアポイントを取ることが望ましいが、他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールのやりとりにてコミュニケーションをはかることにも積極的に応じる。メルアドは教室内にて告知。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 出版、映像現場における取材、評論、執筆活動（現在続行中）
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、机上ではかなわぬ“生の現場”を教壇から発信し、「リアルな現場」を再現する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/7	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方やテーマ、成績評価の方法等、受講生が授業の準備にあたってのオリエンテーション。	
		この回の到達目標	日常のニュースや情報に対する問題意識を高め、習慣化する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。	10分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	10分
2	9/24	「皇室報道」	『玉音放送』と戦後民主主義	
		この回の到達目標	戦後復興の最初の第一歩は『玉音放送』から始まった。どのようにして伝えられたのか。歴史的イベントでもあった。メディアと戦後民主主義の歩みとの関係を検証し、メディアの歴史的役割を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
3	10/1	「皇室報道」	『昭和天皇崩御と報道のあり方』	
		この回の到達目標	戦後、新憲法下、「開かれた皇室」として国民と共に歩んできた皇室だが、間を取り持つメディアのあり方を学ぶ。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
4	10/8	「紙文化」	紙からネットへ	
		この回の到達目標	今、熱心に新聞を読んでいる学生は果たしてどれだけのいるのか？ 紙文化からネット時代への移行を考える。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
5	10/15	「芸能ニュース」	芸能ニュース～安室引退、嵐解散、スマップ解体で見える社会	
		この回の到達目標	芸能ニュースも新聞の一面を飾るのも珍しくなくなった。その社会的影響は小さくないキラコンコンテンツにもなる。芸能ニュースとは？ 検証を試みる。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
6	10/22	「昭和の事件史」	『日航ジャンボ機墜落事故』	
		この回の到達目標	史上最大の航空機事故。当時の災害現場を再現し、報道のあり方を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	「昭和の事件史」	『グリコ森永事件』	
		この回の到達目標	これほど奇怪な事件はない。企業恐喝事件だが、死者も被害金もない。日本中が翻弄され、怪人21面相を名乗る犯人に対し、一億総探偵になった。報道の混乱ぶりが奇怪さを物語るが、検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
8	11/5	「平成のスポーツ史」	『野茂英雄から大谷翔平まで 日本人メジャー』	
		この回の到達目標	スポーツニュースも社会に大きな影響を与えるキラコンテンツの時代になった。メディアをグローバル化するきっかけとなったメジャーリーグ報道を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
9	11/12	「平成のスポーツ史」	『ゆとり世代の世界的活躍』	
		この回の到達目標	スポーツシーンに見られる「ゆとり世代」の活躍を検証する。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
10	11/19	「スポーツメディア」	『スポーツメディア』の可能性	
		この回の到達目標	各メディアが扱うスポーツへのウエイトが大きくなっている。経済的にもスポーツを取り巻く環境に光が差し込んでいることにあるのだろうが、スポーツをビジネスチャンスとするメディアの可能性を探る。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
11	12/3	「政治とメディア」	『大統領選挙とメディア戦略』	
		この回の到達目標	フェイクニュース、ネガティブキャンペーン等、米大統領選における当落を左右するメディアの役割を考える。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
12	12/10	「災害報道」	『2つの大震災に見るメディアの社会的意義と役割』	
		この回の到達目標	阪神淡路大震災と東日本大震災で果たしたメディアの役割と今後の可能性を探る。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	「メディアのあり方」	『メディアの社会的影響力の変遷と未来』	
		この回の到達目標	今やネット社会。メディア環境の変換と、今後、活字やテレビ・ラジオの行方は？ 未来のメディアのあり方を考える。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
14	12/24	「インタビュー術」	情報収集のノウハウ	
		この回の到達目標	良質な情報あつてのメディア。いかにそれを掴むか？ そのノウハウの伝授と演習。情報発信側の立場を学ぶ。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分
15	1/7	総括	レポート提出と総括	
		この回の到達目標	半期を総括。ニュースや情報に流されず、自分の中で自分流に自分の言葉で表現できる。	
		事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	30分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
マス・コミュニケーションは現代社会でどのような効果を有しているのだろうか。効果研究はマス・コミュニケーション研究の初期から中心的なテーマとされている。この講義では、効果研究の系譜を紹介するとともに、特に第3期の強力効果論を中心に具体的な事例を交えて様々な研究を紹介する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
効果研究の系譜等を通じ、知識を養成することを目的とする。マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な効果研究を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。

【履修条件】
コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マス・コミュニケーション論の基本的な思考枠組みが理解できるようになる。						3	3	3				
②	マス・メディアの効果を理解できるようになる。						3	3	3				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、マス・コミュニケーション論、メディアの効果論を理解できているのかを基準に評価する。	20	20	40								80
小テスト等	到達目標①②に関連して小テストを行い、マス・コミュニケーション論、メディアの効果論を理解できているのかを基準に評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、授業後に受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10、その他日程応相談 研究室（9号館602階小林（義）研究室） kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	ガイダンス及び導入講義	講義内容の確認とマス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について。第一回目は必ず出席するように。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念を学ぶ。	
		事前学修	シラバスを確認すること	120分
		事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	9/22	マス・コミュニケーションの機能	マス・コミュニケーションの機能について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーションの機能について学ぶ。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	9/29	第1期の効果研究 皮下注射モデル（1）	マス・コミュニケーションが研究されるようになった社会的背景を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーション研究が始まった当初の視点を学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	10/6	第1期の効果研究 皮下注射モデル（2）	初期のマス・コミュニケーションの効果研究を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、初期のマス・コミュニケーションの効果研究を学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	10/13	第2期の効果研究 限定効果モデル（1）	ピープルズ CHOICE、イノベーションの普及過程理論	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、限定効果モデルの中心的なモデルを理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	10/20	第2期の効果研究 限定効果モデル（2）	説得コミュニケーションとコミュニケーション効果の一般化	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、クラッパーのまとめなどを学ぶ。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	第2期の効果研究 限定効果モデル（3）	利用と満足研究、これまでの復習	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、限定効果モデルに対する批判などを学ぶ。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	11/10	これまでのまとめ、小テスト（1）	これまで授業で取り上げた内容の論述試験・振り返り	
		この回の到達目標	これまでの授業で取り上げたマス・コミュニケーションの機能や、効果研究の皮下注射モデルと限定効果モデルを理解できているか再確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テストでできなかったところを復習する。	120分
9	11/17	第3期の効果研究 強力効果モデル（1）	強力効果モデルの登場とアジェンダ設定効果	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、強力効果モデルが登場した社会的背景を学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	11/24	第3期の効果研究 強力効果モデル（2）	プライミング効果、精緻化見込みモデルなど	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、認知に与える影響について考える。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	12/1	第3期の効果研究 強力効果モデル（3）	知識ギャップ仮説	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、知識ギャップ仮説について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	12/8	第3期の効果研究 強力効果モデル（4）	フレーミング効果	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、フレーミング効果について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	第3期の効果研究 強力効果モデル（5）	沈黙の螺旋理論	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、沈黙の螺旋理論について理解する	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	12/22	第3期の効果研究 強力効果モデル（6）	培養効果論	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、培養効果論について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	1/12	これまでのまとめ、小テスト（2）	強力効果モデルに関する論述試験・振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、強力効果モデルの理解を再確認する、	
		事前学修	これまでの復習。	120分
		事後学修	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること	120分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
マス・コミュニケーションは現代社会でどのような効果を有しているのだろうか。効果研究はマス・コミュニケーション研究の初期から中心的なテーマとされている。この講義では、効果研究の系譜を紹介するとともに、特に第3期の強力効果論を中心に具体的な事例を交えて様々な研究を紹介する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
効果研究の系譜等を通じ、知識を養成することを目的とする。マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な効果研究を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。

【履修条件】
コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マス・コミュニケーション論の基本的な思考枠組みが理解できるようになる。				3	3	3					
②	マス・メディアの効果を理解できるようになる。				3	3	3					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、マス・コミュニケーション論、メディアの効果論を理解できているのかを基準に評価する。	20	20	40								80
小テスト等	到達目標①②に関連して小テストを行い、マス・コミュニケーション論、メディアの効果論を理解できているのかを基準に評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、授業後に受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で必要な文献を提示するので、各自で確認するように。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス及び導入講義	講義内容の確認とマス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について。第一回目は必ず出席するように。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念を学ぶ。	
		事前学修	シラバスを確認すること	120分
		事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	4/14	マス・コミュニケーションの機能	マス・コミュニケーションの機能について学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーションの機能について学ぶ。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	4/21	第1期の効果研究 皮下注射モデル（1）	マス・コミュニケーションが研究されるようになった社会的背景を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーション研究が始まった当初の視点を学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	4/28	第1期の効果研究 皮下注射モデル（2）	初期のマス・コミュニケーションの効果研究を学ぶ	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、初期のマス・コミュニケーションの効果研究を学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	5/5	第2期の効果研究 限定効果モデル（1）	ピープルズ CHOICE、イノベーションの普及過程理論	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、限定効果モデルの中心的なモデルを理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	5/12	第2期の効果研究 限定効果モデル（2）	説得コミュニケーションとコミュニケーション効果の一般化	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、クラッパーのまとめなどを学ぶ。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	第2期の効果研究 限定効果モデル（3）	利用と満足研究、これまでの復習	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、限定効果モデルに対する批判などを学ぶ。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	5/26	これまでのまとめ、小テスト（1）	これまで授業で取り上げた内容の論述試験・振り返り	
		この回の到達目標	これまでの授業で取り上げたマス・コミュニケーションの機能や、効果研究の皮下注射モデルと限定効果モデルを理解できているか再確認する。	
		事前学修	これまでの復習	120分
		事後学修	小テストでできなかったところを復習する。	120分
9	6/2	第3期の効果研究 強力効果モデル（1）	強力効果モデルの登場とアジェンダ設定効果	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、強力効果モデルが登場した社会的背景を学ぶ	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	6/9	第3期の効果研究 強力効果モデル（2）	プライミング効果、精緻化見込みモデルなど	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、認知に与える影響について考える。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	6/16	第3期の効果研究 強力効果モデル（3）	知識ギャップ仮説	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、知識ギャップ仮説について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	6/23	第3期の効果研究 強力効果モデル（4）	フレーミング効果	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、フレーミング効果について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	第3期の効果研究 強力効果モデル（5）	沈黙の螺旋理論	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、沈黙の螺旋理論について理解する	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	7/7	第3期の効果研究 強力効果モデル（6）	培養効果論	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、培養効果論について理解する。	
		事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
		事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	7/14	これまでのまとめ、小テスト（2）	強力効果モデルに関する論述試験・振り返り	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連し、強力効果モデルの理解を再確認する、	
		事前学修	これまでの復習。	120分
		事後学修	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること	120分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提にメディアについて考察する。

【履修条件】
マス・コミュニケーション論を先修していることが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式。授業資料はColネット共有フォルダー(Y：小林義寛：)にpdfとしておいておくので、事前事後及び授業時参照できるようにしておくこと。小レポートの講評等を授業内に授業と関連させて、おこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートおよび身近なメディア現象に関して、講評と議論をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	21世紀のメディア研究の課題と問題点を理解する。				3							
②	現代のメディア研究における、構造主義以降の現代思想の影響と関係を説明する。				3							
③	世界と日本のメディア研究の相違点と問題点を理解する。					3						
④	生活世界とメディアとの関連を説明する。					3						
⑤	これまでの規範的研究の問題点と課題について説明する。						3					
⑥	これまでのメディア研究の問題点を認識し、これからのメディア研究について思考する。						3					
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②③④⑤に関連し、小レポートを2回以上課す。課題に適切に答え、議論を構成できているかを基準に評価する。		10	10	10	10						40
レポート等	到達目標①⑥に関連し、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、現代のメディア研究について理解できているかを評価する。	30					30					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	10	10	10	10	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小レポートの内容に関して、授業時に講評をおこない、議論をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業資料はCo1ネット共有フォルダーにpdfとしておいておく。参考書は、当資料および授業時に適宜、指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日14:40-16:10、その他日程応相談 研究室（9号館602階小林（義）研究室） kobayashi.yoshihiroi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	授業の概要	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにマスコミュニケーション論との関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、規範的研究（効果研究）を中心に、その問題点を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
		事後学修	授業の流れを理解しておくこと。 コミュニケーション論の授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。	240分
2	4/14	規範的な研究へのホールの批判①	規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、効果研究を中心にしたメディア研究の問題点を認識し、ホールの問題提起を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。	180分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。	60分
3	4/21	規範的な研究へのホールの批判②	ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬；遠近法（ルネサンス）、 近代における視覚の優位性etc	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの提起した社会的条件の具体的な内容を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。	180分
4	4/28	規範的な研究へのホールの批判③	デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的・ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの仮説的なモデルを実例を使って説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。	180分
5	5/5	オーディエンス研究①	ホールの議論の確認－レポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提－創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、ホールの提起した問題の意義を理解する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。	180分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。	60分
6	5/12	オーディエンス研究②	エスノグラフィックなアプローチ エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、 エチックとイーミック、外在的理解と内在的理解、厚い記述、 オリエンタリズムの衝撃etc	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホール以降のオーディエンス研究への理論的基盤を理解する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 言語相対仮説を調べておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ=ストロースについて調べておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	オーディエンス研究③	モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、CSのオーディエンス研究とホールの議論との関連について説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。	120分
8	5/26	オーディエンス研究④	モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義 ←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）－構造主義とは	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、CSを中心にしたオーディエンス研究の意義とこれまでの規範的研究との相違点を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。	180分
9	6/2	オーディエンス研究⑤	フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常的実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc	
		この回の到達目標	到達目標②④⑤⑥に関連し、メディアを生活世界との関連で捉える必要性を理解する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。	180分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習する。	180分
10	6/9	ハートレイのオーディエンス研究への疑義①	ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ハートレイの問題提起の意義を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。	120分
11	6/16	ハートレイのオーディエンス研究への疑義②	オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連し、ハートレイの議論の意義を理解し、その議論を日本の場合に応用して説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアン批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。	120分
12	6/23	メディア・テクノロジー研究①	ホールの社会的条件の復習 →シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回	
		この回の到達目標	到達目標②④⑥に関連し、生活世界との関係でこれまでのメディア研究の欠落点を認識する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。構造主義の展開とリミットを考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	メディア・テクノロジー研究②	ドメスティケーション・モデルとは－社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc →ホールの仮説的モデルの応用－社会決定論	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連し、ドメスティケーション・モデルを用いて日本の身近な事例について説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。	180分
14	7/7	メディア・テクノロジー研究③	ドメスティケーション・モデルの問題点 12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、これまでのメディア研究の限界点を認識し、それを批判的に検討することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。	120分
15	7/14	全体のまとめ	これからのメディア研究に必要な視点とは？ レポートの課題提示	質疑応答と最終
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、21世紀以降のメディア研究に必要な視点を展望することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。	60分
		事後学修	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。	480分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提にメディアについて考察する。

【履修条件】
マス・コミュニケーション論を先修していることが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式。授業資料はColネット共有フォルダー(Y：小林義寛：)にpdfとしておいておくので、事前事後及び授業時参照できるようにしておくこと。小レポートの講評等を授業内に授業と関連させて、おこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートおよび身近なメディア現象に関して、講評と議論をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	21世紀のメディア研究の課題と問題点を理解する。				3							
②	現代のメディア研究における、構造主義以降の現代思想の影響と関係を説明する。				3							
③	世界と日本のメディア研究の相違点と問題点を理解する。					3						
④	生活世界とメディアとの関連を説明する。					3						
⑤	これまでの規範的研究の問題点と課題について説明する。						3					
⑥	これまでのメディア研究の問題点を認識し、これからのメディア研究について思考する。						3					
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②③④⑤に関連し、小レポートを2回以上課す。課題に適切に答え、議論を構成できているかを基準に評価する。		10	10	10	10						40
レポート等	到達目標①⑥に関連し、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、現代のメディア研究について理解できているかを評価する。	30					30					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	10	10	10	10	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小レポートの内容に関して、授業時に講評をおこない、議論をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	授業の概要	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにマスコミュニケーション論との関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、規範的研究（効果研究）を中心に、その問題点を理解する。	
		事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
		事後学修	授業の流れを理解しておくこと。 コミュニケーション論の授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。	240分
2	9/22	規範的な研究へのホールの批判①	規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点	
		この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、効果研究を中心にしたメディア研究の問題点を認識し、ホールの問題提起を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。	180分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。	60分
3	9/29	規範的な研究へのホールの批判②	ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬；遠近法（ルネサンス）、 近代における視覚の優位性etc	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの提起した社会的条件の具体的な内容を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。	180分
4	10/6	規範的な研究へのホールの批判③	デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的－ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの仮説的なモデルを実例を使って説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。	180分
5	10/13	オーディエンス研究①	ホールの議論の確認－レポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提－創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、ホールの提起した問題の意義を理解する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。	180分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。	60分
6	10/20	オーディエンス研究②	エスノグラフィックなアプローチ エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、 エチックとイーミック、外在的理解と内在的理解、厚い記述、 オリエンタリズムの衝撃etc	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホール以降のオーディエンス研究への理論的基盤を理解する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 言語相対仮説を調べておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ=ストロースについて調べておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	オーディエンス研究③	モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、CSのオーディエンス研究とホールの議論との関連について説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。	120分
8	11/10	オーディエンス研究④	モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義 ←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）－構造主義とは	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、CSを中心にしたオーディエンス研究の意義とこれまでの規範的研究との相違点を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。	180分
9	11/17	オーディエンス研究⑤	フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常的実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc	
		この回の到達目標	到達目標②④⑤⑥に関連し、メディアを生活世界との関連で捉える必要性を理解する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。	180分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習する。	180分
10	11/24	ハートレイのオーディエンス研究への疑義①	ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc	
		この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ハートレイの問題提起の意義を説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。	120分
11	12/1	ハートレイのオーディエンス研究への疑義②	オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc	
		この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連し、ハートレイの議論の意義を理解し、その議論を日本の場合に応用して説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアンの批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。	120分
12	12/8	メディア・テクノロジー研究①	ホールの社会的条件の復習 →シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回	
		この回の到達目標	到達目標②④⑥に関連し、生活世界との関係でこれまでのメディア研究の欠落点を認識する。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。構造主義の展開とリミットを考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	メディア・テクノロジー研究②	ドメスティケーション・モデルとは－社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc →ホールの仮説的モデルの応用－社会決定論	
		この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連し、ドメスティケーション・モデルを用いて日本の身近な事例について説明することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。	60分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。	180分
14	12/22	メディア・テクノロジー研究③	ドメスティケーション・モデルの問題点 12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて	
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、これまでのメディア研究の限界点を認識し、それを批判的に検討することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。	120分
		事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。	120分
15	1/12	全体のまとめ	これからのメディア研究に必要な視点とは？ レポートの課題提示	質疑応答と最終
		この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、21世紀以降のメディア研究に必要な視点を展望することができる。	
		事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。	60分
		事後学修	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。	480分

科目名	メディア史	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアの歴史は、人びとの言語や記号とコミュニケーションの歴史であり、社会との相互関係の歴史でもある。古代から中世、中世から近代、そして19世紀以降の近・現代のメディアの歴史的展開を追うことで、メディアと社会との歴史的関係を浮き彫りにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、メディアに対する歴史的パースペクティブを身につけるために、通史的な歴史的知識を修得したうえで、学説的なフレームから歴史的変容を説明する力を修得し、さらに具体的な事例研究やケーススタディ研究を学生自らが行う力を修得する。

【履修条件】
V群Ⅲ星の必修科目「メディアと歴史」を既習しておくことが望ましい

【授業方法】
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や歴史資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの文明史的な通史を説明することができる。				3							
②	19世紀以降のメディアの近現代史を地域や国の違いをふまえ、特徴を説明することができる					3						
③	学説を用いて、メディアの歴史的変容を説明することができる						3					
④	歴史的資料を自ら分析し、レポートとしてまとめることができる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身に付いているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②が身に付いているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標④の分析する力が身に付いているか、レポートで評価する				10							10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代メディア史 新版	佐藤卓己	岩波書店	2018	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4/8	ガイダンス及び導入講義	メディア史の学問的位置づけを確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しメディア史の通史的な概要を理解し、説明することができる
		事前学修	シラバスを読み、確認すること。教科書の第1章を読んでくること120分
		事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。120分
2	4/15	メディア史の射程	世界史の通史的な流れをふまえ、メディア史との重層的な関係を把握する
		この回の到達目標	到達目標①、②に関連しメディア史の通史的な概要とメディアとの関係を理解し、説明することができる
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
3	4/22	声の文化から文字の文化	オングの議論を通して、コミュニケーションの歴史とメディアの歴史との関係を把握する
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアとコミュニケーションとの関係を理解し、説明することができる)
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
4	4/29	メディアのシステムと文明	イニスの議論を通して、メディア（＝記号システムと物質性）と文明の政治的システムとのダイナミズムを把握する
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアと政治システムとの関係を理解し、説明することができる)
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
5	5/6	中世から近代へ	マクルーハンの議論を通して、印刷技術とメディアの近代を把握する
		この回の到達目標	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
6	5/13	中世のメディアと権力	映像資料『薔薇の名前』に対して、第3講および第4講の講義内容から分析を行う
		この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアと権力との関係を理解し、説明することができる)
		事前学修	CoINET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	メディアと都市の形成	メディアが近代社会、とりわけヨーロッパ都市の形成と不可分な関係にあることを議論する
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー都市ー近代の関係構造を把握し、説明することができる
		事前学修	教科書・第2章を読んでくること120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
8	5/27	国民国家と出版資本主義	アンダーソンの議論を媒介にして、出版資本主義と国民国家との関係を把握する
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー出版ー国民国家の関係構造を把握し、説明することができる
		事前学修	教科書・第3章を読んでくること120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
9	6/3	小テスト	第3講～8講の範囲で小テストを前半（45分）で行い、後半（45分）で小テストの解説を行う
		この回の到達目標	到達目標①、②、③が実際に身についているかを自ら評価する。
		事前学修	第3講～第8講までの復習120分
		事後学修	小テストの結果をふまえ、講義の内容を復習する120分
10	6/10	民主主義とメディア	近代の政治的統治システムである民主主義とメディアとの関係を把握する
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー市民ー民主主義の関係構造を把握し、説明することができる
		事前学修	教科書・第4章を読んでくること120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
11	6/17	映画と表象のテクノロジー	19世紀後半に登場する映画を通して、表象とテクノロジーの関係を把握する
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、映画ー表象ーテクノロジーの関係構造を把握し、説明することができる
		事前学修	教科書・第5章を読んでくること120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分
12	6/24	プロパガンダとメディア	ラジオが登場し浸透するなかで駆使された、宣伝と動員について考える
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、ラジオープロパガンダーテクノロジーの関係構造を把握し、説明することができる
		事前学修	教科書・第6章を読んでくること120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	メディア・イベントとプロパガンダ	第二次世界大戦時のプロパガンダ映画を通して、トーキー映画の社会的役割と機能を検討する	
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、映画－プロパガンダ－戦争の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第7章を読んでくること	120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
14	7/8	戦後日本社会とメディア	テレビ、ラジオだけでなく、家電、電話等のテクノロジーと戦後社会の歴史との関係を把握する	
		この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディア－戦後社会－生活の関係構造を把握し、説明することができる	
		事前学修	教科書・第9章を読んでくること	120分
		事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
15	7/15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、現在の情報社会の歴史的位置づけを考える	
		この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連し、情報社会と歴史との関係を把握し、説明することができる	
		事前学修	レポートの作成（テーマは第13講時に提示する）	180分
		事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習する	120分

科目名	メディア／情報産業Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
新聞、放送など私たちが普段接しているメディアの産業としての成り立ち方や、インターネットの登場によってメディア産業が抱える課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大きな変革期にあるメディア産業を考察する力を身につけるために、メディアの産業構造、社会的意義を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアとして社会に受容された過程を説明することができる。				3	3						
②	メディアの媒体特性を説明することができる。				3	3						
③	メディアの産業構造の特徴を説明することができる。				3	3						
④	広告の役割について説明することができる。				3	3						
⑤	インターネットの登場により、メディアが抱える課題について説明することができる。						3	3				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているかを、レポートにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア[新版]	藤竹暁ほか	NHK出版	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第一部 火 9/15	ガイダンス、メディア産業を概観	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディアとは何か、メディアの自由度と露出度相關。
		この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、メディア産業を学ぶ意義を理解することで、能動的に今後の学修を進めることができるようにする。
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。120分
		事後学修	ガイダンスで紹介されたメディアに興味を持ったものについてその役割を調べる。120分
2	第一部 火 9/22	メディア産業の全体像	日本のメディアの産業の全体の考察。
		この回の到達目標	達成目標②③に関連し、産業としてのメディアの基本構造を説明することができる。
		事前学修	電通ホームページ内の「2019年 日本の広告費」を読み、ポイントをまとめる。120分
		事後学修	授業を踏まえ、自分の各メディアに対する自分の評価を再度、まとめる。120分
3	第一部 火 9/29	新聞の歴史	パンフレットから新聞へ。新聞産業と大衆。
		この回の到達目標	達成目標①に関連し、新聞が大衆社会に受け入れられた過程を説明することができる。
		事前学修	コーヒーハウスの起源について調べる。120分
		事後学修	どのようにしてマス広告が誕生したのかをまとめる。120分
4	第一部 火 10/6	新聞産業の概要Ⅰ	新聞媒体の種類と特徴。宅配と再版制度。
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、新聞媒体の特徴を説明することができる。
		事前学修	新聞にはどのような種類があるかを調べる。120分
		事後学修	なぜ、再版制度が必要なのかについてまとめる。120分
5	第一部 火 10/13	新聞産業の概要Ⅱ	新聞広告の種類、広告の料金の決定要因。
		この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関連し、新聞広告の特徴を説明することができる。
		事前学修	新聞を見て、新聞広告にはどのような種類があるかについて調べる。120分
		事後学修	新聞広告の種類と特徴をまとめる。120分
6	第一部 火 10/20	放送の誕生過程	通信の発達過程から放送の誕生まで
		この回の到達目標	達成目標①に関連し、放送の媒体として特徴を説明することができる。
		事前学修	電気を使った通信が始まる前は、どのような手段で通信を行っていたかを調べる。120分
		事後学修	放送の誕生した理由をまとめる。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 10/27	民放テレビの営業概論Ⅰ	民放テレビのネットワーク。CMの種類。	
		この回の到達目標	達成目標舞②③④に関連し、テレビCMの特徴を説明することができる。	
		事前学修	テレビを見て、CMにはどのような種類と形態があるのかをまとめる。	120分
		事後学修	通常物やサービス購入とは異なるテレビCMの特徴をまとめる。	120分
8	第一部 火 11/10	民放テレビの営業概論Ⅱ	テレビ営業の仕組み。視聴率と視聴質。	
		この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、民放テレビのビジネスモデルを説明することができる。	
		事前学修	ビデオリサーチのホームページで、視聴率調査の実施方法について調べる。	120分
		事後学修	民放テレビがどのように収入を得ているかについてまとめる。	120分
9	第一部 火 11/17	出版メディアⅠ	出版メディアの特徴、文庫本革命、ベストセラー。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連し、出版の特徴を説明することができる。	
		事前学修	1990年以降の書籍、雑誌の売り上げの推移について調べる。	120分
		事後学修	文庫本の歴史をまとめる。	120分
10	第一部 火 11/24	出版メディアⅡ	出版の流通と販売。取次、再販制度。出版のデジタル化。	
		この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関連し、出版流通の特徴を説明することができる。	
		事前学修	電子書籍を読む。	120分
		事後学修	出版のデジタル化のメリットをまとめる。	120分
11	第一部 火 12/1	映画産業Ⅰ	サイレント映画からデジタル化まで。	
		この回の到達目標	達成目標①に関連し、サイレント映画から現在までの映画産業の発展過程を説明することができる。	
		事前学修	エジソンとリュミエール兄弟が発明したものを調べる。	120分
		事後学修	サイレント映画、活動写真、トーキー映画の特徴と違いを整理する。	120分
12	第一部 火 12/8	映画産業Ⅱ	興行収入、入場者数の変遷。映画ビジネスの収益配分、映画興行事業の現状。	
		この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、映画産業の構造を説明することができる。	
		事前学修	過去10年間の映画の興行収入1位～10位を調べ、特徴をまとめる。	120分
		事後学修	映画ビジネスの収益配分方法についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火 12/15	音楽産業	パッケージビジネスから360度ビジネスへ。	
		この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関し、音楽産業の構造を説明することができる。	
		事前学修	過去20年のCDの売り上げの推移について調べる。	120分
		事後学修	現在の音楽ビジネスの潮流についてまとめる。	120分
14	第一部 火 12/22	広告会社とは	広告会社の役割、種類、総合広告会社の組織。	
		この回の到達目標	達成目標④⑤に関し、広告会社の役割を説明することができる。	
		事前学修	どのような広告会社があるのかを調べる。	120分
		事後学修	広告会社の種類とそれぞれの役割をまとめる。	120分
15	第一部 火 1/12	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア調査	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
新聞、テレビ、そしてインターネットをはじめとするメディアからもたらされる情報を的確に収集、分析、そして解釈する能力は、情報化社会において非常に重要である。以上のような前提のもと、本科目では①メディア調査の方法、②データ解釈の方法、そして③メディア調査の実例について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、メディアを社会調査の技法を用いて調査するために、社会調査についての知識と方法論およびメディア調査特有の視点を修得する。また、その過程を通じて、メディアから得られる情報を的確に理解、分析、そして解釈するための能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライドを用いて講義を実施する。適宜、授業内容に合わせた資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	メディア調査の意義を理解し、その調査方法について立案できる。				2	2	2	2				
③	メディア調査の技法を、調査対象となるメディアの特性に応じて使い分けることができる。				2	2	2	2				
④	メディア調査から得られたデータを、適切に解釈し、読み解くことができる。				2	2						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力が修得できているかを評価する。	15			15							30
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートの要点をまとめた課題を提出させることで、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているかを基準として、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第9回の講義において、第8回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。第15回の授業で実施した筆記試験及びこれまでの課題に対しては、COLnetを通して解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 マス・コミュニケーションの調査研究法	鈴木裕久・島崎哲彦	創風社	2006	参考書	任意
社会調査のための統計学	神林博史・三輪哲	技術評論社	2011	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス・導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
		この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/14	メディア調査とは何か	メディア調査の考え方、およびメディア研究の類型について学習する。ついで、メディア調査の効用と限界について考察する。	
		この回の到達目標	メディア調査の考え方やメディア研究の類型について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第1回目の授業「ガイダンス」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	4/21	メディア調査の企画と立案	メディア調査の企画と立案、および調査方法について学習する。ついで、メディアの特性に応じた調査方法を選択する意義について考察する。	
		この回の到達目標	メディア調査の企画と立案、および調査方法について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第2回目の授業「メディア調査とは何か」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	4/28	メディア調査の準備	メディア調査を実施するにあたって必要な準備について学習する。ついで、調査票作成における留意点について考察する。	
		この回の到達目標	メディア調査を実施するにあたって必要な準備について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第3回目の授業「メディア調査の企画と立案」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	5/5	メディア調査対象の選定	メディア調査を実施するにあたって調査対象を選定する方法について学習する。標本調査において調査対象を抽出する方法について考察する。	
		この回の到達目標	メディア調査の対象を選定する方法について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第4回目の授業「メディア調査の準備」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	5/12	データの処理	メディア調査の結果として収集したデータを集計・分析する方法について学習する。その際、データとは何か、変数とは何かについて考察する。	
		この回の到達目標	収集したデータを集計・分析する方法について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第5回目の授業「メディア調査対象の選定」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	データの見方	メディア調査の結果として集計したデータを分析するにあたり、その見方について学習する。その際、度数分布表やクロス集計表の意義についても考察する。	
		この回の到達目標	集計したデータを分析するにあたり、その見方について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第6回目の授業「データの処理」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	5/26	総括（1）	第2回から第7回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第2回から第7回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、メディア調査への総合的な理解を深めておく。	120分
		事後学修	第2回から第7回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分
9	6/2	送り手調査	メディア調査における送り手調査の方法論について、実際の調査事例を参照しつつ学習する。ついで、送り手 調査の意義について考察する。	
		この回の到達目標	送り手調査の方法論を事例を通じて学習することを通じて、メディア調査を実施するための基本的なリテラシーを修得する。	
		事前学修	第2回目から第7回目の授業の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノート of 復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	6/9	内容分析（1）	メディア調査における内容分析の方法論を学習する。ついで、内容分析の意義について考察する。	
		この回の到達目標	メディア調査における内容分析の方法論について、実際の調査事例を参照しつつ学習する。	
		事前学修	第9回目の授業「送り手調査」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノート of 復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	6/16	内容分析（2）	メディア調査における内容分析の方法論について、実際の調査事例を参照しつつ学習する。	
		この回の到達目標	内容分析を実際の調査事例を参照しつつ学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	第10回目の授業「内容分析（1）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノート of 復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	6/23	受け手調査（1）	メディア調査における受け手研究の方法論について、その基本的な考え方を中心に学習する。特に接触と知覚に関する研究について、実際の調査事例を参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	受け手研究の方法論について学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	第11回目の授業「内容分析（2）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノート of 復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	受け手調査（2）	メディア調査における受け手研究の方法論について、その基本的な考え方を中心に学習する。特に接触と知覚に関する研究について、実際の調査事例を参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	受け手研究の方法論について学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	第12回目の授業「受け手調査（1）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	7/7	受け手調査（3）	メディア調査における受け手研究の方法論について、その基本的な考え方を中心に学習する。特に心理・行動の実態と変化に関する研究について、実際の調査事例を参照しつつ考察する。	
		この回の到達目標	受け手研究の方法論について学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
		事前学修	第13回目の授業「受け手調査（2）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
		事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	7/14	総括（2）	第9回から第14回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
		事前学修	第9回から第14回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、メディア調査への総合的な理解を深めておく。	120分
		事後学修	第9回から第14回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
学部1年生を対象にした少人数制の科目で、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、新聞学科での4年間の学びの基礎を身につけるため、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内の解説、関連動画の視聴などを行い、それをめぐる質疑によって理解を深める	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野についての基礎的な概念や方法論について説明することができる				1							
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関連する社会の各分野、業界等の特徴や問題点などについて述べるができる					1						
③	メディア史研究や地域研究などの基礎知識や方法論について説明することができる。						1					
④	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために基礎的な資料や文献を収集し、解釈することができる							1				
⑤	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために、今後の研究の目標を立てることができる								1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤に関わる能力がみについているかを確認する	20	20	18	18	18						94
討論・発表等	基礎的知識や方法に関する質疑応答において自分の意見を的確に述べることができるかどうかを基準に、到達目標③④に関わる能力や態度が身についているかを評価する			2	2	2						6
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題発表時に授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁 竹下俊郎	NHK出版	2018	教科書	推奨
よく分かるメディア・スタディーズ	伊藤守編著	ミネルヴァ書房	2015	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オムニバス講義のため、各回の担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	イントロダクション、及び導入講義	新聞学科での学びの概要と方法について	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新聞学科での学びの概要や特徴などについて説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
2	/	メディア・コミュニケーション①	メディア研究の基礎概念、方法論	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、メディア研究に関する基礎概念や方法論について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
3	/	メディア・コミュニケーション②	コミュニケーション研究の基礎概念、方法論	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
4	/	メディア・コミュニケーション③	メディア研究、コミュニケーション研究の射程	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究にどのような意義や可能性があるかについて述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
5	/	ジャーナリズム①	ジャーナリズム研究の基礎概念、方法	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズム研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
6	/	ジャーナリズム②	ジャーナリズムとは何か、その役割と意義	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズムの存在意義や社会的役割について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ジャーナリズム③	ジャーナリズムと現代社会	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代社会におけるジャーナリズムの諸相、問題点について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
8	/	ジャーナリズム④	ジャーナリズムと政治	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治とジャーナリズムの関わりについて述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
9	/	放送①	放送メディアの基本的特徴	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、放送メディアの基本的なメディア特性について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
10	/	放送②	放送産業の構造と特徴	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送産業の基本的な特徴や現状、問題点などについて述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
11	/	放送③	放送③	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送ジャーナリズムの特徴、社会的役割について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
12	/	メディア史①	日本におけるメディアの歴史	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本におけるメディア、ジャーナリズムの歴史的展開について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	メディア史②	メディア史研究の射程と可能性	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ディア史研究の意義や可能性について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
14	/	地域研究	東アジア地域におけるメディア研究	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、東アジア地域におけるメディアを取り巻く現状や課題について述べることができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
15	/	総括とレポート	15回の講義を総括し、授業内レポートを作成、提出する	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新聞学科で扱われる学問・研究領域の特徴について説明することができる	
		事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
		事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて、授業内で指示をする				

【オフィスアワー】
【2020年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日14:30～15:00 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 木9/17	イントロダクション、及び 導入講義	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
		事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
		事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	第一部 木9/24	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	第一部 木10/1	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
		事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
		事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	第一部 木10/8	グループワークとプレゼン テーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
		この回の 到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	第一部 木10/15	グループワークとプレゼン テーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	第一部 木10/22	グループワークとプレゼン テーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
		この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 木10/29	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	第一部 木11/5	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	第一部 木11/12	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
		事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
		事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	第一部 木11/19	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	第一部 木12/3	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	第一部 木12/10	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	第一部 木12/24	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	第一部 木1/14	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
		事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
		事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	岸本 裕紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
前半の時間は講義形式で必要事項をまとめ、それに基づいて後半30－40分で実際に文章を書いてもらう。 講義の後半期に、それまで提出したいくつかの文章をもとにフィードバックとして個人面接を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実際、テレビ局などに出向き、生徒に取材してもらいながら、どうやって番組が作られるかを学び、そこで働く人々の声を聞く	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最後の方に、2度にわたり、個人面談の場を設ける。そこで、それまでの提出物を参考にして面談する。質問なども受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
			使用しない。		
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
次の授業に支障がない範囲で、月曜日2時限目の授業後に教室内で質問に対応する。なお、質問・回答が長くなると想定される場合は、事前にメールで予約することとする。yukiko@b07.itscom.net

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版社での編集経験、その後、本を約30冊ほど書いています。
実務経験に基づく実践的教育の内容		本を書く際、企画し、取材し、どのように効果的にまとめるか、それを講義においても伝授していきたいと思います	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	ガイダンス，導入授業	ガイダンス。授業のテーマや目的、授業スケジュール、成績評価の方法、などを含めて説明する。	
		この回の到達目標	講義全体の理解	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、各人の受けた「メディアテキストの基礎Ⅰ」を復習し、講義全体を概観する。	60分
		事後学修	第一回は文章の提出がないので、ガイダンスの内容を復習し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	60分
2	4月13日	好きと嫌いの表現	文章表現 好き・嫌いの軸 自分の肯定的な感情を文章で表現するにはどうするのがよいか、どのような要素を盛り込むといいか、どのような表現が効果的に相手に伝わるか、などを学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。	
		この回の到達目標	好きなことについて効果的にまとめる	
		事前学修	{メディアテキストの基礎Ⅱ}を復習する。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。	60分
3	4月20日	好きと嫌いの表現	文章表現 好き・嫌いの軸 自分の否定的な感情を文章で表現するにはどうするのがよいか、どのような要素を盛り込むといいか、どのような表現が効果的に相手に伝わるか、などを学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。	
		この回の到達目標	嫌い、苦手なことについて効果的にまとめる	
		事前学修	前回の授業の復習をする。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。	60分
4	4月27日	よいと悪いの表現	文章表現 良い・悪いの軸 ある現象について、評価すべき点、問題となる点の両面から考え、それをいかに文章に盛り込むか、などを学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。	
		この回の到達目標	ある事象のいい点について効果的にまとめる	
		事前学修	前回の授業の復習をする。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。	60分
5	5月4日	古いと新しいの表現	文章表現 古い・新しいの軸 ブームの背景を探り、何が人々に受け入れられたかを分析・整理する手法を学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。	
		この回の到達目標	昔からある事象がなぜ今、ブームなのかについて効果的にまとめる	
		事前学修	前回の授業の復習をする。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。	60分
6	5月11日	取材のテーマと方法	企画を立てて、取材し、まとめる 取材の仕方、その際のテーマの探し方を学ぶ。また、仮にあるテーマを取材をするとして、自分はどのような点に注目するかをまとめてみる。	
		この回の到達目標	企画を立てたうえで、取材をどう進めるかを考察する	
		事前学修	前回の授業の復習をする。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	現場での取材	企画を立てて、取材し、まとめる テレビ局か出版社を実際に取材する。	
		この回の到達目標	実際、マスコミの現場に出向き、取材する	
		事前学修	テレビ局（出版社）の放送（出版物）をチェックし、質問事項など取材の準備をする。	80分
		事後学修	取材の内容を振り返る、自分なりに取材を終えてということでもとめてみる。	80分
8	5月25日	現場での取材	企画を立てて、取材し、まとめる テレビ局か出版社を実際に取材する…	
		この回の到達目標	実際、マスコミの現場に出向き、取材する	
		事前学修	テレビ局（出版社）の放送（出版物）をチェックし、質問事項など取材の準備をする。	80分
		事後学修	取材の内容を振り返り、自分なりに取材を終えて、ということでもとめてみる。	80分
9	6月1日	政治・社会報道の注意点	政治社会評論 報道を読み解く際の注意点を知り、そのうえで社会問題を自分の考えにまとめていく方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	新聞などでどう政治・社会評論に接するかを学ぶ	
		事前学修	新聞を読んで、自分が何に興味を持ったのか、その理由は何かを考える。	60分
		事後学修	講義ノートを確認して、改めて新聞を読んでみる。	60分
10	6月8日	論文の書き方	論文を書く 論文の組み立て方の方法を学ぶ。	
		この回の到達目標	論文を書く上で、論旨の展開方法を学ぶ	
		事前学修	新聞を読んで、その中で興味を持って問題について考えてみる。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、授業の内容を復習する。	60分
11	6月15日	論文の書き方	論文を書く 論文テーマの説明をする。テーマはその時々話題になりっているもので、事前の下調べが必要であり、かつ自分なりの論を展開できるものを選んでいく。	
		この回の到達目標	論文のテーマの説明をし、理解を促す	
		事前学修	新聞を読んで、興味を持った内容について考えてみる。	60分
		事後学修	講義ノートを確認し、自分なりに論文の構成を考えてみる。	60分
12	6月22日	論文の書き方	論文を書く 論文の文献、データの活用、体験談の盛り込み方、歴史的経緯の追いかた、などについての説明をする。	
		この回の到達目標	論文を書く際、統計資料や文献などをどう盛り込むかを学ぶ	
		事前学修	自分なりに論文の下調べを行い、構成を考えてみる。（	60分
		事後学修	実際に論文作成に取り掛かる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	個人面談・文章評価	文章評価 フィードバックとしての個人面談をする。それまでの提出物を参考にする（他の履修者は論文作成）。	
		この回の到達目標	フィードバックとして、それまでの提出物を参考に個人面談する	
		事前学修	それまでの提出物を思い出し、自分なりに問題点や質問を整理しておく	60分
		事後学修	面談の内容をまとめて、自分なりに復習する。	60分
14	7月6日	個人面談・文章評価	文章評価 フィードバックとしての個人面談をする。それまでの提出物を参考にする（他の履修者は論文作成）。	
		この回の到達目標	フィードバックとして、それまでの提出物を参考に個人面談する	
		事前学修	それまでの提出物を思い出し、自分なりに問題点や質問を整理しておく	60分
		事後学修	面談の内容をまとめて、自分なりに復習する。	60分
15	7月13日	講義のまとめと自分論	これまでの講義全体のまとめ 自分論 自分の特徴をどうつかみ、表現するかを学ぶ。	
		この回の到達目標	これまでの講義内容の理解を促す	
		事前学修	これまでのすべての授業を復習する。	60分
		事後学修	全ての授業の内容をまとめておく。	60分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	高橋 俊一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの基本的なルールを理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
指定の教科書を「必携」とする。

【授業方法】
さまざまな分野で生まれるニュースや用語に触れつつ、解釈や考え方を書きこなすための要点やコツを整理してわかりやすく示す。講義のフィードバックも適時行い、ときには実際に原稿を書きながら感受性や表現力を高めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ほとんどの時間にかす課題作文にかかわる提出物・内容に基づいて次週に解説、必要によっては対面式の指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『すぐ書ける！ 「頭のいい文章」ちょっとしたコツ』	高橋俊一	三笠書房（知的生きかた文庫）	2019	教科書	必携
備考	教科書は「必携」とする。文庫サイズのため廉価。				

【オフィスアワー】
授業時間とその前後に適時実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 朝日、毎日の両新聞で記者を40年近く。いずれも社会部。
実務経験に基づく実践的教育の内容		文章の基本を踏まえつつ、タイムリーなニュースセンスを磨き、プロの原稿執筆への基礎作りを一人一人の個性に応じて推進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水4/8	【ガイダンス】【メディアで実戦的な文章とは】	講義の基本と構成などについて話し、メディア界で通用する文章への考え方を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の内容を理解し、社会で使える、人に通じる文章や表現法の基礎的考え方を理解する。	
		事前学修	シラバスを読み、授業概要や目的を理解しておく。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を自分の希望進路や学習志望とよく照合すること。	120分
2	第一部 水4/15	【メディアの文章】【その基本的姿勢への理解】	「有用な情報伝達」の条件、マスメディアと接するノウハウ習得の基本姿勢などについて考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「使える・通じる文章」をまとめるうえでの基本姿勢を確認していく。	
		事前学修	新聞や教科書の精読を始める。	120分
		事後学修	ニュースとの接し方や時事用語に対する基本を確認する。	120分
3	第一部 水4/22	【文章執筆の意義】	文章を書く意味と楽しさ、おもしろさについて、要点をまとめ、ともに考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、書くことの楽しさや意義を大づかみに振り返り、「プロの文章」への地歩を固める。	
		事前学修	教科書の中で関心のある個所をできるだけ読んでおく。	120分
		事後学修	文法の基本や原稿構成の再検証を少しずつ始める。	120分
4	第一部 水4/29	【プロの仕事と文章】	メディア情報を扱う仕事と文章の基本条件を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、プロ意識の醸成への第一歩を確認する。	
		事前学修	教科書の通読を進める。	120分
		事後学修	到達目標①②③に関連して、最新ニュースに関心を持ち、情報収集に努める。	120分
5	第一部 水5/6	【読解力と執筆力】	現代メディアの情報と記事文章を読み解く練習をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読むことの意義、実践にどうつなげるかを確認する。	
		事前学修	教科書の通読を進めながら、最新ニュースの中から関心のある分野を絞っていく。	120分
		事後学修	新聞記事の一面をチェックしておく。	120分
6	第一部 水5/13	【具体的執筆への準備】	原稿を書くための事前準備にかかり、何をすればよいかから検討を始める。（2時間）	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、書き出す前に何をすべきかを正しく認識する。	
		事前学修	新聞やテレビ報じるニュースから、関心事をピックアップする。	120分
		事後学修	授業を振り返って、自分の中心課題をさがす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水5/20	【執筆のポイント】	実際に文章を書くときの基本姿勢を確認し、コツのいくつかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆を進める際の忘れがちなポイントをしっかりふまえる。	
		事前学修	政治面の新聞記事をよく読んでおき、重要政策への問題意識を高める。	120分
		事後学修	原稿の全体構成を確認し、知識探索の方法も確かめる。	120分
8	第一部 水5/27	【実原稿の執筆】	実際に文章を書き、その基本と応用力の習得を進める。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原稿づくりにとりかかる。まず基本を確認、習得していく。	
		事前学修	教科書の通読を仕上げ段階に進める。	120分
		事後学修	自分の文章力とその課題を検討しておく。	120分
9	第一部 水6/3	【ニュースへのアプローチ】	ニュースと新聞記事の基本構造を知る。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連して、社会の動きに関心を持ち、とくに政治経済社会面の判読力をつける第一歩とする。	
		事前学修	ニュース用語のピックアップを進める。	120分
		事後学修	自分の文章力確認を進め、どこまで通じるかを考えておく。	120分
10	第一部 水6/10	【文章力向上への心得と執筆要領】	原稿中の主語述語の再確認と誤解を防ぐための具体的ポイントについて研究する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的な基本と実戦的な文章力向上の兼ね合いを確認する。	
		事前学修	新聞やテレビニュースに出る経済用語を確認する。	120分
		事後学修	わかりやすい原稿の基本条件と自分の文章力の特徴を絞り込む。	120分
11	第一部 水6/17	【文章力練磨の注意点】	句読点や修飾語の使い方の基本と注意事項を確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、改行や句読点の有効活用法を習得する。	
		事前学修	新聞の社会面を中心に、最新ニュースとその用語を調べる。	120分
		事後学修	最新ニュースの出方、メディアごとの扱い方を確認する。	120分
12	第一部水 6/24	【各自の文章上の癖と個性を知る】	文章を輝かせるコツと条件およびノウハウを研究し、学生それぞれのレベルを再確認する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、自分の文章における個性を知り、長所短所を確認する。	
		事前学修	教科書が強調する文章力錬成のポイントを再確認する。	120分
		事後学修	世論の関心が高い話題をピックアップし、その意義づけを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 7/1	【プロレベルとは】	プロの記事・作品構成の基礎と応用を実際の記事から研究する。あわせて、自分の現状と筆力レベルを確認する。	
		この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各自のレベルとプロのレベルをしっかりと把握する。	
		事前学修	自分の文章力を基本から再検討し、課題を整理する。	120分
		事後学修	最新ニュースをもとに政治・経済・社会のニュースや社説の意義づけを考える。	120分
14	第一部水 7/8	【原稿の仕上げと推敲】	原稿の仕上げに必要な注意事項を考え、習得する。授業の後半に全般的なまとめにとりかかる。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して、原稿のまとめ、仕上げには何が必要かを習得する。	
		事前学修	国際面、スポーツ面のニュースにも関心を持ち、重要事項とその要点をノートに記す。	120分
		事後学修	講義中に提起された重要事項を再確認する。	120分
15	第一部水 7/15	【まとめ】【質問受け付け】【要点を振り返る】	ディスカッションもふくめて、解説や振り返りを行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習得したことの再確認と今後の進路への応用について考える。	
		事前学修	世界の中での日本という観点から最新ニュースを研究・検証する。	120分
		事後学修	講義が何をどれだけ身につけられたかを、静かに検証する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	新田 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
隔週程度の頻度で、講義時間内に実際に課題文を書いて提出してもらう。それ以外の時間には、前回課題の講評、注意点を述べたり、文章作成上の注意点や論の組み立て方など、基本的なことを解説する。必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	さまざまな課題を与え、講義時間内に文章を作成する。課題は、前以て示す場合と、その場で示す場合とがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
文章は添削し、返却する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文章課題となる図書については講義中に指示する。				

【オフィスアワー】	
授業（水曜3限）終了時にアポイントを取ること。その翌週の授業後に時間をもうける。文章作成に関する質問には可能な限り応じる。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版会社編集部勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		読みやすい文章と読みにくい文章の違いはどこにあるのか、「読者」側を意識した文章作成を考える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 水 4/8	【ガイダンス】表現について	何を目的として、どう書くか、その際に必要な「表現」について考える。 / 課題文の作成	
		この回の到達目標	到達目標①を念頭に、臆せずに自分の言葉で表現することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、講義を概観しておくこと。	60分
		事後学修	ガイダンス及び第1回講義内容の復習。各自、再度各自課題文章を作成し、問題点を確認すること。	180分
2	第一部 水 4/15	文章作成の基本（1）文法・文型	適切な表現のために必要な基礎を学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、文章の基礎的なルールを学ぶ再確認できる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第2回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
3	第一部 水 4/22	文章作成の基本（2）読みやすい文章・読みにくい文章	ほんの少し書き方が違うだけで、読みやすくも、読みにくくなる。他者に内容が過不足なく伝わる表現を学ぶ。 / 課題文の作成	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、引き続き文章の基礎的なルールを習得することができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第3回講義内容の復習を求める。	120分
4	第一部 水 4/29	文章作成の基本（3）書き手の〈視点〉	一人の書き手でも、〈視点〉を変えることができる。そこから別のものの捉え方ができる。文章も同様である。ここでは、〈視点〉を変えることを学ぶ。 / 課題文の作成	
		この回の到達目標	到達目標②③を踏まえ、引き続き文章の基礎的なルールを学びつつ、表現の幅を広げることができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第4回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
5	第一部 水5/6	文章作成の基本（4）思考法について	さまざまな思考法を駆使し、別の〈視点〉を持つことを学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標②④に関連し、実際に用いられている思考法について知識を得ることができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第5回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
6	第一部 水 5/13	文章作成の基本（5）思考法の応用	書き手の興味と、読み手の要求について考えながら、前回に学んだ思考法を応用し、実際に文章を作成する。 / 課題文作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、与えられた課題に対し、思考し、文章を作成することができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第6回講義内容の復習を求める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 水 5/20	創作文（１）ストーリーを考える	だんだん書くことに慣れてきたら、思いきって創作文にも挑戦したい。その際の注意点について学ぶ。	
		この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、プロットの組み立て方を学び、自分の想像したストーリーを作り上げることができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第7回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
8	第一部 水 5/27	創作文（２）ストーリーの文章化	前回の授業で得た知識をもとに、ストーリーを制限字数内で文章化する。／ 課題文の作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、自在に自分の思い描く世界を文章化できる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第8回講義内容の復習を求める。	120分
9	第一部 水 6/3	発想を広げ、文章力を蓄える	一口に「文」「文章」と言っても、新聞記事のような文章もあれば、詩や小説など、それぞれ特徴が異なるものが存在する。それぞれのスタイルや特長について考える。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連し、自己の目的とする表現にはどのようなスタイルが適切かを知ることができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第9回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
10	第一部 水 6/10	さまざまな課題への対応（１）	具体的には将来、読み手からどのような文章を要求されるのか、また、その要求に対してどう応えればより効果的なのかを、その要求から考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、他からの要求にどう応じたら良いか、選択する能力を得ることができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第10回講義内容の復習を求める。	120分
11	第一部 水 6/17	さまざまな課題への対応（２）	キセル文・三題漸について学ぶ。／ 課題文の作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特異な課題にも対応できる能力を養うことができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第11回講義内容の復習を求める。	120分
12	第一部 水 6/24	さまざまな課題への対応（３）	抽象的な課題に対して、どう取り組んでいけば良いかを考える。／ 課題文の作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特異な課題にも対応できる能力を養うことができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第12回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 水 7/1	さまざまな課題への対応 (4)	前回2回の課題文について、特に問題となるような点について取り上げ、より良い文章表現とは何かを探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、より洗練された文章力を身につけることができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
		事後学修	第13回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
14	第一部 水 7/8	さまざまな課題への対応 (5) 時事問題へのアプローチ	「自分の意見」とは何か今一度確認し、説得力ある意見とはどういうものなのかを考える。／課題文作成	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、「意見文」を作成する能力を養うことができる。	
		事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。	120分
		事後学修	第14回講義内容の復習をすること。	120分
15	第一部 水 7/15	校正・推敲について	基本的な校正方法、自分で行う推敲の方法を学ぶ。。質疑に応ずる。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連し、より洗練された文章力を身につけることができる。	
		事前学修	推敲・校正について講義するので、予備知識を得ておくこと。講義全体について確認し、不明な点を書き出しておくこと。	120分
		事後学修	第15回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分

科目名	メディア・ビジネス	担当者	公野 勉	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
講師はメディア・ビジネス実務者の立場として“ナマの声”で講義する。 コンテンツ産業のエポックメイキングとビジネス実態の概説を展開し、様々なエンターテインメントビジネスの成功ケース・特異ケースを例示する。さらにエンターテインメントビジネスの基礎構造を解説し、具体的なエンターテインメントビジネスの施作が立案スキルを学修する。(担当教員は映画会社日活で製作・配給担当取締役、アニメ会社タツノコプロの取締役を務めた後、VFX企業・白組のコンテンツスーパーバイザー、劇団飛行船 映劇ライヴエンターテインメント社顧問の現任中。映画プロデューサー・映画監督)。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
コンテンツ産業における経済構造とクリエイティヴとプロデュースの関係性実態、各種ビジネスモデル群の把握から、それらを第三者へ説明できるようになる事、さらにはコンテンツ制作組織の機能を他者に説明する事が出来るようになる事を目的とする。 到達目標A： コンテンツビジネスの構造と実態、さらに当該産業の会計基準等の商習慣を第三者に説明できるようになる。 到達目標B： 制作現場編成と興行リテール等の経済的成果や、市場に対するコンテンツマーケティングを含めた企画を第三者にプレゼンテーションできるようになる。

【履修条件】
2年生以上。

【授業方法】
コンテンツ関連の時事情報を例示、学生との意見交換により講義を展開。フィードバックについては質問等を講義内およびメールにて受け付け、返信・回答するが受講者全員の前でレビューした方が良いと判断した場合は講義内で行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 コンテンツ閲覧を行い、ディスカッション等を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。				3	3	3	3				
②	日本及び世界の各種コンテンツ及びそのビジネスの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
③	コンテンツ技術の基礎的知識を基に、高いクリエイティビティで、市場的、倫理的かつ歴史承継的な視点を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。				3	3	3	3				
④	社会・共同体のさまざまな営みに自ら参加したコンテンツにより積極的ににかかわる中で、社会や市場を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)															
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩																
試験(定期試験／ 授業内試験)	1. 評価ウェイト＝「①積極的な授業参加度80%」:「②提出レポート課題20%」 2. 出席のみでは評価せず、①では毎回の質疑量を参加度として評価する。 3. ②は講義最終前回に課題を出し、最終回にて回収、完成度によって評価する 【以下：具体例】 <table><tr><td></td><td>積極的な授業参加</td><td>最終課題</td><td>合計</td></tr><tr><td>到達目標A</td><td>40</td><td>10</td><td>50</td></tr><tr><td>到達目標B</td><td>40</td><td>10</td><td>50</td></tr><tr><td>合 計</td><td>80</td><td>20</td><td>100</td></tr></table>		積極的な授業参加	最終課題	合計	到達目標A	40	10	50	到達目標B	40	10	50	合 計	80	20	100										
	積極的な授業参加	最終課題	合計																								
到達目標A	40	10	50																								
到達目標B	40	10	50																								
合 計	80	20	100																								
小テスト等																											
レポート等	(※以下、上記「試験（定期試験／授業内試験）」を受けて詳述) 当該講義の基本的な目的である、スキル確立の到達(他者に説明できるスキル獲得)を講義最終回に提出を求める企画書を講義内試験として測る予定(評価ウェイト20%)。最終講義前回に課題を掲示し質疑応答によって、企画書作成の為の材料・情報を講師から付与する予定。	5	5	5	5							20															
討論・発表等	毎																										
授業への参画度	毎回、受講者との質疑量の積算を「積極的な参加度」(評価ウェイト80%)とする予定。基本的に出席者全員と質疑する予定。	20	20	20	20							80															
その他()																											
その他()																											
その他()																											
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100															

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の質疑応答、講師メールアドレス開示による随時的な質問の受付を行う。最終回前の企画書作成課題に対する総括を最終回で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンテンツ製造論	公野 勉	風塵社	2016	教科書	推奨
備考	可能であれば持参の事。				

【オフィスアワー】
講義設定日(後期土曜2限)の前後休み時間に講義室にて。メールによる受け付けも可能(kuno.tom@gmail.com)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	93年より㈱円谷プロダクションでマーチャンダイジング、95年より映画製作。99年より㈱ギャガで全国配給作品『バトルロワイアルⅡ』製作。05年より日活㈱製作・買付・配給担当取締役、全国配給作品『レディ・ジョーカー』『ユメ十夜』等製作。06年、㈱GONZOにて『AFRO SAMURAI』等配給、07年よりタカラトミー社のコンテンツアドバイザー・タツノコプロ取締役。
実務経験に基づく実践的教育の内容		映画メディアの実製作者の立場から、各種の制作現場の解説・ビジネスモデル群を例示。トレンドにより知財側面からもアップデート行い、現場視点で講義する事によって受講者にメディア制作の疑似的な体感をさせる事を方法論としている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
1	一部金 4/10	講師紹介およびメディア産業界概観①		講師自己紹介およびガイダンス、メディア業界概説
		この回の到達目標	講師の紹介と業界概説からメディア産業の構造把握を学修する。この質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は自身の修学目的を定める事が出来る。	
		事前学修	講師の事歴をインターネット等で検索、熟読しておくこと。	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと。	120分
2	一部金 4/17	メディア産業界概観②(前年例※変更有)		大手メディアの勢力関係解説
		この回の到達目標	メディア——メジャー大手マスコミを中心とした解説。その構造を把握、学修する。質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は自身の就職目的に向けた技法の学修を定める事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
3	一部金 4/24	メディア産業界ビジネス構造外観③(前年例※変更有)		映像業界の構造解説
		この回の到達目標	メディア——特に映像業界の構造について解説。その勢力関係等の産業構造把握を学修する。質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は映像業界を目指した修学目的を定める事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
4	一部金 5/1	興行概説(前年例※変更有)		映画興行について(コンテンツ・リテール)
		この回の到達目標	映画興行の構造について解説。映画の利益構造を学修する。興収・配収・配給手数料、P&A等宣伝費等の抛・回収の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のビジネス構造を理解し、説明する事出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
5	一部金 5/8	配給概説(前年例※変更有)		映画配給について(コンテンツ・ディストリビューション)
		この回の到達目標	映画配給の具体的なタスクについて解説。映画のマーケティングを学修する。劇場編成やP&A等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の配給構造を理解し、説明する事出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
6	一部金 5/15	映画宣伝(前年例※変更有)		映画宣伝について(コンテンツ・マーケティング)
		この回の到達目標	映画宣伝の具体的なタスクについて解説。映画の配給宣伝を学修する。そのコンセプトワークやP&A等宣伝の予算配分等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のマーケティング構造を理解し、説明する事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	一部 金 5/22	二次セールス(前年例※変更有)	劇場公開終了後のビジネス(ライセンス・ビジネス)	
		この回の到達目標	映画公開後の具体的な二次販売について解説。映画のライセンス・ビジネスを学修する。そのライセンス先やマーチャンダイジングの収益の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の二次セールス構造を理解し、説明する事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
8	一部 金 5/29	海外販売(前年例※変更有)	邦画の海外戦略について(ワールド・セールス)	
		この回の到達目標	映画等の具体的な海外での展開について解説。映画の二次販売のさらなる深化を学修する。そのセールス先や翻案権利等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の海外展開の戦略例を理解し、説明する事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
9	一部 金 6/5	ライツ・ビジネス(前年例※変更有)	映像版權について(知的財産権的観点)	
		この回の到達目標	映画等のマーチャンダイジング展開等について解説。二次販売から発する更なる二次制作等、コンテンツ・ビジネスのさらなる展開を学修する。そのメディア・チェンジの方法や権利切り出し等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のライツ・ビジネスの構造を理解し、説明する事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
10	一部 金 6/12	コンテンツ企業運営(前年例※変更有)	コンテンツ企業のメカニズム解析(トレンド企業のエポックメイキング解説)	
		この回の到達目標	メディアにおけるコンテンツのエポックメイキング等について解説。時代を変えたようなコンテンツの誕生と経緯、エポックとなった理由を学修する。そのヒットの解説や分析を行う。その結果、受講生はコンテンツのヒット構造のモデル例を理解し、説明する事が出来る。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
11	一部 金 6/19	コンテンツの知的財産現況概説(前年例※変更有)	キャラクターコンテンツ企業のメカニズム解析(知財展開例：アニメーション等)	
		この回の到達目標	コンテンツにおける知的財産権の現状について解説。トレンドと判例の移り変わる事例を学修する。その判例や係争の解説や分析を行う。その結果、受講生はコンテンツの知的財産権に対する意識を喚起する事が出来るようになる。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
12	一部 金 6/26	コンテンツの知的財産保全技法概説(前年例※変更有)	玩具企業のマーチャンダイジングメカニズム解析(知財保全技法例等)	
		この回の到達目標	コンテンツにおける知的財産権の保全方法について解説。移り変わる法事情や著作人格権法理を学修する。その事例から創出される著作権保全法の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの知的財産権における保全方法を獲得する事が出来るようになる。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	一部 金 7/3	企画書作成(前年例※変更有)		企画書の作り方.(その項目等条件の解説)
		この回の到達目標	コンテンツにおける企画書の作成方法について解説。変遷するトレンドやタレント素材編成の方法等を学修する。実際の企画書事例から創出された作品を閲覧し、その相違点等の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの企画書作成におけるビジネス・プランニングやプレゼンテーション技能を獲得する事が出来るようになる。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
14	一部 金 7/10	収支計画(前年例※変更有)		収支計画の作り方.(主にPL的視点とCF的事情の解説)
		この回の到達目標	コンテンツにおける収支計画について解説。変質する市場や金融環境に対する収支立案方法等を学修する。実際の予算策定事例から創出された作品を閲覧し、その相違点等の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの収益計画作成におけるプレゼンテーション技能を獲得する事が出来るようになる。	
		事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
		事後学修	最終講義回収予定のテーマのレポートを作成しておくこと(120分)	120分
15	一部 金 7/17	総括(前年例※変更有)		総括. レポート回収
		この回の到達目標	前回に提示された企画書課題の回収とポイントの作成解説。また講義の総括を行い、メディア・ビジネスのその時点からの未来与作を行う。トレンド・コンテンツ、事件、問題点等の解説を行う。その結果、受講生はメディア・ビジネスに対する修学意識や具体的なビジネス感覚を獲得する事が出来るようになる。	
		事前学修	前回講義末提示のテーマのレポートを作成しておくこと(120分以上)	120分
		事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認するおくこと(120分)	120分

科目名	メディア文化演習Ⅰ	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
文化社会学やカルチュラルスタディーズの先行研究を参照し、現代におけるグローバル化や流動化（リキッドモダニティ）などの状況を踏まえて、文化やメディアのあり方を考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代における文化とメディアの関係性を捉える教養と問題発見、さらにディスカッションによる問題解決や省察能力の涵養を目的とする。基本的な概念や文献を学び、各自が文化やメディアを多角的に捉え考察するための知識取得、議論などのインプットとアウトプットの訓練を行うことを目的とする。メディアや文化を政治や社会との関連から分析し、考察できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義と学生によるグループディスカッションや発表などを併用する演習形式（半分程度はディスカッションや発表）。学術文献を予習として事前に一読することが必須。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文化研究やメディア論などにおける文化のグローバル化や国家との関係について理解し説明できる				3	3						
②	メディアや文化を政治や社会との関連から分析し、考察できる						3	3				
③	メディアや文化を政治や社会との関連から議論し意見を述べる事が出来る						3	3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末に課すレポートにより、文化分析の基礎的知識やメディアと社会・政治との関係性の理解を確認し評価する	20	20									40
討論・発表等	授業内で実施するグループディスカッションや発表の参加、それに付随するコメントペーパーの提出によって評価する	20	20	20								60
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題は授業内での総評やコメントによりフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『越境するポピュラーカルチャー』	谷川・王・呉編	青弓社	2009	教科書	必携
『文化の対話力』	岩淵功一	日本経済新聞出版社	2007	参考書	推奨
『サブカルで読むナショナリズム』	谷川・王・呉編	青弓社	2010	参考書	任意
『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー』	高井編	人文書院	2011	参考書	任意
備考	演習の対象とする文献は、受講生の人数等を鑑み変更する可能性もある。				

【オフィスアワー】
授業前後(1230-1300など)に講義教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	イントロダクション・導入講義	近代・モダニティの基本概念の導入	
		この回の到達目標	授業の背景・趣旨を理解する。「近代」の概念を再検討する	
		事前学修	シラバスをよむ	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
2	9/24	グローバル化とリキッドモダニティ	グローバル化とリキッドモダニティの概念・理論の説明	
		この回の到達目標	グローバル化とリキッドモダニティの概念を理解する	
		事前学修	近代化の歴史についてインターネットや世界史の教科書で調べる。	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
3	10/1	文化研究の基本概念①	文化研究の学説史	
		この回の到達目標	文化研究・カルチュラルスタディーズの概要を理解する。岩淵功一『文化の対話力』の概略を理解する。	
		事前学修	カルスタについてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
4	10/8	文化研究の基本概念②	岩淵功一『文化の対話力』について	
		この回の到達目標	岩淵功一『文化の対話力』における文化と国家のあり方、メディアにおける「外国人」の問題を理解する	
		事前学修	外国人タレント・番組についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
5	10/15	文化研究の基本概念③	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	文化と国家のあり方を考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
6	10/22	メインストリーム×サブカルチャー①	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	文化の動態について考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	メインストリーム×サブカルチャー②	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	文化の動態について考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
8	11/5	メインストリーム×サブカルチャー③	メディアと文化 ポストコロニアリズム	
		この回の到達目標	アジア等の戦前の占領下・植民地時代、戦後などの国家とメディア・文化との関係を理解する	
		事前学修	ポストコロニアリズムについてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
9	11/12	様々なサブカルチャーの事例考察①	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	文化と消費・経済の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
10	11/19	様々なサブカルチャーの事例考察②	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	文化と消費・経済の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
11	12/3	様々なサブカルチャーの事例考察③	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	文化と消費・経済の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
12	12/10	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本①	クールジャパン政策	
		この回の到達目標	コンテンツの海外展開、クールジャパン政策について理解する	
		事前学修	「クールジャパン」についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本②	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	東アジア等における1990-2010年年代の日本コンテンツの展開、クールジャパン政策について考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
14	12/24	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本③	発表・ディスカッション等	
		この回の到達目標	東アジア等における1990-2010年年代の日本コンテンツの展開、クールジャパン政策について考察・分析し意見を述べられるようになる	
		事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。	240分
15	1/14	まとめ	文化と国家の関係性、社会との関係性の総括	
		この回の到達目標	アジア等における文化と国家の関係性、社会との関係性を理解する	
		事前学修	海外のオタクについてインターネットで調べる。これまでの授業資料を一読する。	120分
		事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。	240分

科目名	メディア文化演習Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディア文化の世界を、社会のトレンドから分析をおこなう。とくに、流行やファッションを対象に進めていく。メディア文化演習Ⅱでは、流行という現象がどのように発生するのか。なぜ、人びとは流行を選択するのか、その動機、目的などを探る。そして流行が発生する社会とは、社会的条件とは、そこにある時代の世相や風俗をみる。1960年代から2018年、その歴史的過程をたどりながら、今日のトレンドを明らかにしていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
流行とファッションを理解する基礎的な前提を教科書から探ってみる。人びとの動機や目的を知り、それを実現する社会的条件を考えてみる。流行が発生するメディア環境を整理することで、流行のメカニズムが明らかになり、時代の流れと流行発生の関係性を理解してもらうことを目的とする。 時代に応じたさまざまなトレンドの意味を、考えることで、その時代精神や時代性を正確によみとるための基本的思考を理解し、説明できるようにすることを目的とする。
関連DP及びCP：新聞学科1，4，8

【履修条件】
とくにありません

【授業方法】
基礎的な部分は教科書を用いた講義からはじめる。つぎに、教科書の要点から、学生にレポートし、発表し、意見などを求めながら進めていく時間にしたい。演習科目という正確から、学生の主体的な取り組みを期待したい。 授業内発表の際は都度講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	マス・メディアの視点から自己の関心を比較し、より知識と教養を高めます。そして自己の考えを述べるができます。(知識)		3										
②	マス・メディアのコンテンツを理解し、それが登場した社会のシステムを理解し、説明することができます。(知識)			3									
③	個人研究の過程で、論理的・批判的思考力を高めます。そして創造することができます。(技能)				3								
④	個人研究の過程で、問題発見能力と解決力を養います。それを発表し、見せることができます。(態度・習慣)					3							
⑤	個人研究発表により、コミュニケーション力が高まり、協働することができます。(態度・習慣)								3				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等	授業内の課題に応じた意見や報告を参考にする。到達目標①②にかかわる課題の論理的理解力、積極的な意見をもとにした参加度を評価する。		30	30									60
授業への参画度	授業テーマへの理解と他人へ向けた的確な意見③④を参考にする。授業への積極的参加、意見などの発言内容などを評価する。				20	20							40
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			30	30	20	20							100
【課題に対するフィードバックの方法】													
報告内容・報告資料への講評・解説、振り返りを実施します。													

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『H・ブルーマーの集合行動論—流行理論を軸として—』	仲川秀樹	学文社	2015		
備考					
【オフィスアワー】					
原則授業（月曜2限）終了後、講堂にて授業中に詳細を指示します					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4 ／ 6	メディア文化演習Ⅱ紹介	メディア文化演習Ⅱの進め方と評価方法について説明。	
		この回の到達目標	演習科目の性格を知り、メディア文化の領域についてテーマ設定と講義部分を理解し、説明することができます。	
		事前学修	シラバス内容と使用教科書を事前に確認してください。	120分
		事後学修	教科書の講読範囲を確認し、ノートに確認部分をまとめてください。	120分
2	第一部 4 ／ 1 3	理論的な理解とは	集合行動としての流行を考えます。メディア文化のフレームから流行の理論的背景に進みます。	
		この回の到達目標	集合行動論の全体を理解し、人が集まる状況を説明することができます。	
		事前学修	教科書の第2章を、事前に読んでおいてください。	120分
		事後学修	流行の位置づけを明確に理解してください。	120分
3	第一部 4 ／ 2 0	基礎理論を知る	流行の基礎理論1（流行の基本的性格）として、流行現象のメカニズムを考えます。	
		この回の到達目標	流行という用語、流行に関する類似概念を整理し、理解することで、流行現象の構造と機能を説明することができます。	
		事前学修	教科書の第3章Ⅰを、読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
4	第一部 4 ／ 2 7	流行選択の個人的動機とは	流行の基礎理論2（流行を採用する個人の動機）について考えます。	
		この回の到達目標	人びとは流行やトレンドに関心を示すのか、その選択動機を理解します。流行を選択する個人の動機を説明することができます。	
		事前学修	教科書の第3章Ⅱを、読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
5	第一部 5 ／ 4	流行を選択するパターンとは	流行の基礎理論3（流行を選択するパターン）について考えます。	
		この回の到達目標	人びとが流行を選択する過程について理解し、説明することができます。	
		事前学修	教科書の第3章Ⅲを、読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
6	第一部 5 ／ 1 1	流行が発生する社会とは	流行の基礎理論4（流行の発生する社会）について考えます。	
		この回の到達目標	どのような条件のもとで流行は発生するのか、その社会的条件を理解し、流行の発生する社会構造を説明することができます。	
		事前学修	教科書の第3章Ⅳを、読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 5 ／ 1 8	流行発生の時代性とは		流行の基礎理論 5（流行と社会変動）について考えます。
		この回の到達目標	世相と風俗から流行をみることができます。社会変動過程において流行はどのように推移するのか、流行が発生する時代性を理解し、説明することができます。	
		事前学修	教科書の第 3 章Ⅲを、読んでおいてください。	120分
		事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
8	第一部 5 ／ 2 5	流行をテーマに発表をはじめる		学生のレポートと報告準備に入ります。
		この回の到達目標	流行現象に関する個人発表のための準備をします。学生レポート作成する意味を理解し、流行に関して説明することができます。	
		事前学修	これまでの教科書内容を整理しておいてください。	120分
		事後学修	レポートと報告のための資料作成	120分
9	第一部 6 ／ 1	学生個人発表①		学生のレポートと報告①に入ります。
		この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
		事前学修	レポートと報告学生のテーマを事前に把握してください。	120分
		事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
10	第一部 6 ／ 8	学生個人発表②		学生のレポートと報告②に入ります。
		この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
		事前学修	レポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
		事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
11	第一部 6 ／ 1 5	学生個人発表③		学生のレポートと報告③
		この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
		事前学修	レポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
		事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
12	第一部 6 ／ 2 2	学生個人発表④		学生のレポートと報告④
		この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
		事前学修	レポートと報告学生のテーマを事前に把握してください。	120分
		事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6 ／ 2 9	学生個人発表⑤	学生のレポートと報告⑤	
		この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
		事前学修	レポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
		事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
14	第一部 7 ／ 6	学生個人発表⑥	学生のレポートと報告⑥	
		この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
		事前学修	レポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
		事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
15	第一部 7 ／ 1 3	メディア文化演習Ⅱの総括	メディア文化演習Ⅱ総括とレポートの提出。	
		この回の到達目標	メディア文化の理解、個人発表から得た視点を集合行動としての把握につとめます。流行発生のシステムを理解し、その現象を説明することができます。	
		事前学修	これまでレポートした内容を、まとめて提出する準備をしてください。	120分
		事後学修	メディア文化演習Ⅱを振り返り、実践的な取り組みに進めるようつとめてください。	120分

科目名	メディア文化演習Ⅲ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディア文化演習Ⅲでは、マス・メディアと流行をテーマにする。1970年代『an・an』『non-no』の登場から、『JJ』『CanCam』『ViVi』『Ray』の4大女性誌創刊の1980年代。1990年代に入り、『Popteen』からギャル系雑誌の全盛。2015年以降、女性誌からSNSへと、女性誌読者層のファッション選択は大きな変化を遂げた。メディアとファッションの関係を女性誌を中心（女性誌だけを限定せず他の媒体も参照）に歴史的連続性から探ってみたい

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時代の流れ、歴史的過程を、マス・メディアである女性誌に求める。現在（いま）のファッションを探るには、時代をさかのぼり、連続的にみるが必要となる。メディア文化演習Ⅲでは、雑誌と流行の関係を時代の流れから探り、そこに発生したさまざまなスタイルから、社会の変動を理解していくことを目的とする 上記のことから、社会の変動を理解し、説明できるようになることを目標とする

【履修条件】
メディア文化演習Ⅱの履修者が望ましい

【授業方法】
マス・メディアと流行の関係について概観を論じる。つぎに、学生たちから雑誌の分析、トレンドに影響を与える媒体をマス・メディアからSNSと変化する様子を探ってもらう。それをレポートし、報告し、意見交換の場としたい 授業内発表の際は都度講評を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マス・メディアから得る知識とそれを応用することで、教養が高まり、その内容を説明することができます。(知識)				4							
②	社会の構造を理解するためメディアのコンテンツを理解し、社会のシステムに影響を与えていることを述べることができます(知識)					4						
③	個人研究レポートの準備を進めながら、論理的にテーマを調べることができます。(技能)						4					
④	研究報告から独自の問題を発見し、解決する能力を養い、個人研究に応えることができます。(態度・習慣)							4				
⑤	個人発表により、コミュニケーション力の高まり、協働することができます。(態度・習慣)									4		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内の個人発表内容および討論などで評価します。	30	30									60
授業への参画度	授業の出席、積極的な意見交換など、授業参画によって評価します。			20	20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
個人発表への講評・評価の振り返りを実施します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
H・ブルーマーの集合行動論－流行理論を軸として－	仲川秀樹	学文社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則授業（月曜2限）終了後、講堂にて。授業中に詳細を指示します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4 ／ 6	メディア文化演習Ⅲの概観	メディア文化演習Ⅲの進め方について説明します。	
		この回の到達目標	メディア文化のカテゴリーから個人発表のテーマ設定について理解し、自己のテーマを説明することができます。	
		事前学修	関心のある雑誌をピックアップしておいてください。	120分
		事後学修	講義ノートを参考にメディア文化演習Ⅲに関する資料を集めてください。	120分
2	第一部 4 ／ 1 3	女性誌とトレンドについて	1 9 7 0 年代『a n ・ a n』『n o n - n o』登場と女性のライフ・スタイル①を説明します。	
		この回の到達目標	女性誌の登場が社会に与えたものを	
		事前学修	女性誌誕生と女性のライフ・スタイルの変化を考える。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
3	第一部 4 ／ 2 0	女性のライフ・スタイルとは	1 9 7 0 年代『a n ・ a n』『n o n - n o』登場と女性のライフ・スタイル②を説明します。	
		この回の到達目標	雑誌が女性の日常に与えた影響について考えます。マス・メディアが女性のライフ・スタイルを確立した事情を理解し、その背景を説明することができます。	
		事前学修	『a n ・ a n』『n o n - n o』創刊がもたらした女性文化を考える。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
4	第一部 4 ／ 2 7	女子学生キャンパス・ファッションとは	『J J』創刊とキャンパス・ファッション①の登場について説明します。	
		この回の到達目標	『J J』創刊がもたらした、女学生のライフ・スタイルの変化について考えます。雑誌の編集意図とトレンドの関係について理解し、説明することができます。	
		事前学修	キャンパス・ファッションとは何かを事前に考えてください。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
5	第一部 5 ／ 4	マス・メディアの教科書化とは	『J J』創刊とキャンパス・ファッション②から、女子学生に与えた影響について説明します。	
		この回の到達目標	女子学生のライフ・スタイルをカバーする女性誌の存在を考えます。『J J』がキャンパス・ファッションの教科書となった背景について理解し、説明することができます。	
		事前学修	女性誌がファッションの教科書になった背景を考えてください。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
6	第一部 5 ／ 1 1	4大女性誌とは	『C a n C a m』『V i V i』『R a y』の4大女性誌時代①について説明します。	
		この回の到達目標	4大女性誌が登場した時代背景を考えます。景気高揚とブランド選択との関係を理解し、景気と雑誌の関係を説明することができます。	
		事前学修	景気高揚とブランド至上主義の時代背景を追ってください。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5 ／ 1 8	バブル景気と時代とは	『C a n C a m』『V i V i』『R a y』の4大女性誌時代②全盛がもたらした社会現象について説明します。	
		この回の到達目標	バブル時代を理解し、説明することができます。	
		事前学修	景気高揚とバブル時代を考えてください。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
8	第一部 5 ／ 2 5	ギャルとは	『P o p t e e n』『B L E N D A』からギャル世代の登場について説明します。	
		この回の到達目標	時代の変化とマス・メディアの変化について考えます。4大女性誌からギャルの登場によって、ファッションン変化を理解し、説明することができます。	
		事前学修	ギャル登場の時代背景を考えてください。（2時間）	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
9	第一部 6 ／ 1	マス・メディアのセグメンテーション化とは	『m i n a』『Z i p p e r』『C U T i E』ストリート・カジュアルの浸透について説明します。	
		この回の到達目標	女性誌の分化がもたらした社会のファッド化について考えます。時代の変化とファッド化を理解し、セグメンテーション化を説明することができます。	
		事前学修	景気後退から時代の変化を考えてください。	120分
		事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
10	第一部 6 ／ 8	個人発表の進め方とは	雑誌とファッション分析の進め方について説明します。	
		この回の到達目標	個人テーマを設定し、報告要旨作成、発表方法について考えます。報告要旨の内容を理解し、説明することができます。	
		事前学修	事前に雑誌を選択し、その内容を理解してください。	120分
		事後学修	マス・メディアと流行の関係を、講義ノートから整理してください。	120分
11	第一部 6 ／ 1 5	個人研究発表①	マス・メディアとファッション分析レポート報告①を実施します。	
		この回の到達目標	個人発表から、研究内容を理解し、説明することができます。	
		事前学修	レポート報告の資料作成の準備。	120分
		事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	120分
12	第一部 6 ／ 2 2	個人研究発表②	マス・メディアとファッション分析レポート報告②を実施します。	
		この回の到達目標	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	
		事前学修	レポート報告の資料作成の準備。	120分
		事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6 ／ 2 9	個人研究発表③	マス・メディアとファッション分析レポート報告③を実施します。	
		この回の到達目標	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	
		事前学修	レポート報告の資料作成の準備。	120分
		事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	120分
14	第一部 7 ／ 6	個人研究発表④	マス・メディアとファッション分析レポート報告④を実施します。	
		この回の到達目標	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	
		事前学修	レポート報告の資料作成の準備。	120分
		事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	120分
15	第一部 7 ／ 1 3	メディア文化演習Ⅲの総括	メディア文化演習総括と総括レポート提出を実施します。	
		この回の到達目標	個人発表内容のレポートを作成し、本テーマを理解し、説明することができます。	
		事前学修	メディア文化演習Ⅲの提出用報告レポートをまとめてください。	120分
		事後学修	マス・メディアとファッションの歴史的連続性から、時代の世相や風俗をよみとってください。	120分

科目名	メディア法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道の機能を説明できる。					3							
②	報道の自由の意義を説明できる。					3							
③	マスメディアと法を巡ってどのような問題が生じているかを説明できる。					3	3						
④	マスメディアと法を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べるができる。							3					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「メディア判例百選」第2版	長谷部 恭男ほか	有斐閣	2018	参考書	任意
「法とジャーナリズム」第3版	山田 健太	学陽書房	2017	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜、プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第1部 火 4/7	ガイダンス、メディアを取り巻く法	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を説明。
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができようにする。
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。120分
		事後学修	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。120分
2	第1部 火 4/14	表現の自由と報道の自由	表現の自由はなぜ憲法で保障されているのか、表現の自由と報道の自由・取材の自由の関係。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、報道の自由が保障されている意義を説明することができる。
		事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
3	第1部 火 4/21	検閲の禁止と報道の自由	検閲の禁止の意味、検閲の具体例。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の禁止とはどのようなことなのかを説明することができる。
		事前学修	北方ジャーナル事件について調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
4	第1部 火 4/28	知る権利とは何か	アメリカのジャーナリストが提唱した「The Right to Know」。博多駅テレビフィルム提出命令事件。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、知る権利の重要性を説明することができる。
		事前学修	ケント・クーパーについて調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
5	第1部 火 5/5	裁判の公開と報道の自由	法廷における取材、裁判員制度。
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、司法取材の特徴を説明することができる。
		事前学修	最高裁判所のホームページにアクセスし、どのような情報が公開されているかについて調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
6	第1部 火 5/12	取材源の秘匿	証言拒否、ビデオテープの証拠採用、押収、差し押さえ。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、取材源の開示の強制やビデオテープの証拠採用がその後の報道活動に与える影響を説明することができる。
		事前学修	日本テレビ・リクルートテープ押収事件について調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 火 5/19	名誉棄損と報道の自由	名誉毀損とは、その成立要件と免責要件。	
		この回の到達目標	達成目標①②④に関連し、名誉毀損と報道の自由の関係について説明することができる。	
		事前学修	月刊ペン事件、夕刊和歌山時事事件について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
8	第1部 火 5/26	プライバシーの侵害と報道の自由	プライバシー権の確立と発展過程と報道。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、犯罪報道とプライバシーの関係を説明することができる。	
		事前学修	イエロージャーナリズムについて調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
9	第1部 火 6/2	個人情報保護法と報道の自由	メディアの適用除外、個人情報保護法制定による報道への影響。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、個人情報保護と報道の自由のバランスを説明することができる。	
		事前学修	日本新聞協会ホームページ内の『「個人情報保護法」「人権擁護法案」に関する見解等』を読んで、概要をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
10	第1部 火 6/9	少年法と報道の自由	少年法61条の意義と概要、小松川高校女子生徒殺害事件、徳山高専生殺害事件など実際の報道ケースの検証。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、少年保護と報道の自由のバランスを説明することができる。	
		事前学修	過去の少年事件の報道について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
11	第1部 火 6/16	わいせつの概念と表現	わいせつの3要件。チャタレー事件、悪徳の栄え事件、四畳半襖の下張事件判例の考察。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、社会変化・時代の変化とともにわいせつの捉え方が変わることを説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
12	第1部 火 6/23	放送の自由 I	放送法と放送の自由。なぜ放送は規制されるのか。放送法以外の法律による制約。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、法律によって放送が規律される理由を説明することができる。	
		事前学修	放送メディアと印刷メディアの媒体特性の違いをまとめる。	120分
		事後学修	放送に対する規制根拠を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 火 6/30	放送の自由Ⅱ	「番組編集準則」と政府解釈の変遷。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、番組編集準則の解釈が時代とともにどのように変化したかを説明することができる。	
		事前学修	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
14	第1部 火 7/7	放送の自由Ⅲ	自主自律と放送倫理。放送局のガイドラインの考察。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、放送における自主自律の重要性を説明することができる。	
		事前学修	放送倫理・番組向上機構（ＢＰＯ）ホームページ内の「ＢＰＯについて」と３つの委員会の役割を読んで、概要をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
15	第1部 火 7/14	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア法 I	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道の機能を説明できる。				3							
②	報道の自由の意義を説明できる。				3							
③	マスメディアと法を巡ってどのような問題が生じているかを説明できる。				3	3						
④	マスメディアと法を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べるができる。						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「メディア判例百選」第2版	長谷部 恭男ほか	有斐閣	2018	参考書	任意
「法とジャーナリズム」第3版	山田 健太	学陽書房	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	第1部 火 9/14	ガイダンス、メディアを取り巻く法	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を説明。
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができようにする。
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。120分
		事後学修	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。120分
2	第1部 火 9/21	表現の自由と報道の自由	表現の自由はなぜ憲法で保障されているのか、表現の自由と報道の自由・取材の自由の関係。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、報道の自由が保障されている意義を説明することができる。
		事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
3	第1部 火 9/28	検閲の禁止と報道の自由	検閲の禁止の意味、検閲の具体例。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の禁止とはどのようなことなのかを説明することができる。
		事前学修	北方ジャーナル事件について調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
4	第1部 火 10/5	知る権利とは何か	アメリカのジャーナリストが提唱した「The Right to Know」。博多駅テレビフィルム提出命令事件。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、知る権利の重要性を説明することができる。
		事前学修	ケント・クーパーについて調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
5	第1部 火10/12	裁判の公開と報道の自由	法廷における取材、裁判員制度。
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、司法取材の特徴を説明することができる。
		事前学修	最高裁判所のホームページにアクセスし、どのような情報が公開されているかについて調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分
6	第1部 火 10/19	取材源の秘匿	証言拒否、ビデオテープの証拠採用、押収、差し押さえ。
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、取材源の開示の強制やビデオテープの証拠採用がその後の報道活動に与える影響を説明することができる。
		事前学修	日本テレビ・リクルートテープ押収事件について調べる。120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部 火 10/26	名誉棄損と報道の自由	名誉毀損とは、その成立要件と免責要件。	
		この回の到達目標	達成目標①②④に関連し、名誉毀損と報道の自由の関係について説明することができる。	
		事前学修	月刊ペン事件、夕刊和歌山時事事件について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
8	第1部 火 11/9	プライバシーの侵害と報道の自由	プライバシー権の確立と発展過程と報道。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、犯罪報道とプライバシーの関係を説明することができる。	
		事前学修	イエロージャーナリズムについて調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
9	第1部 火 11/16	個人情報保護法と報道の自由	メディアの適用除外、個人情報保護法制定による報道への影響。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、個人情報保護と報道の自由のバランスを説明することができる。	
		事前学修	日本新聞協会ホームページ内の『「個人情報保護法」「人権擁護法案」に関する見解等』を読んで、概要をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
10	第1部 火 11/23	少年法と報道の自由	少年法61条の意義と概要、小松川高校女子生徒殺害事件、徳山高専生殺害事件など実際の報道ケースの検証。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、少年保護と報道の自由のバランスを説明することができる。	
		事前学修	過去の少年事件の報道について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
11	第1部 火 11/30	わいせつの概念と表現	わいせつの3要件。チャタレー事件、悪徳の栄え事件、四畳半襖の下張事件判例の考察。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、社会変化・時代の変化とともにわいせつの捉え方が変わることを説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
12	第1部 火 12/7	放送の自由 I	放送法と放送の自由。なぜ放送は規制されるのか。放送法以外の法律による制約。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、法律によって放送が規律される理由を説明することができる。	
		事前学修	放送メディアと印刷メディアの媒体特性の違いをまとめる。	120分
		事後学修	放送に対する規制根拠を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部 火 12/14	放送の自由Ⅱ	「番組編集準則」と政府解釈の変遷。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、番組編集準則の解釈が時代とともにどのように変化したかを説明することができる。	
		事前学修	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
14	第1部 火 12/21	放送の自由Ⅲ	自主自律と放送倫理。放送局のガイドラインの考察。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、放送における自主自律の重要性を説明することができる。	
		事前学修	放送倫理・番組向上機構（ＢＰＯ）ホームページ内の「ＢＰＯについて」と３つの委員会の役割を読んで、概要をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
15	第1部 火 1/18	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
メディア法Ⅰの単位取得者。

【授業方法】
パワーポイントを使用し、講義形式で行う。また、授業内での小テスト、試験の講評も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道の機能を説明できる。				3			3				
②	報道の自由の意義を説明できる。				3			3				
③	マスメディアと法を巡ってどのような問題が生じているかを説明できる。				3	3		3				
④	マスメディアと法を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べるができる。						3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	到達目標①②③④についての各能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜、プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1914研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 9/15	ガイダンス、メディア法とは	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を説明。	
		この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができようにする。	
		事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
		事後学修	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。	120分
2	第一部 火 9/22	国家秘密と報道の自由 I	公務員の職務上の秘密、防衛上の秘密。	
		この回の到達目標	達成目標①③に関連し、国家秘密と国民の知る権利について説明することができる。	
		事前学修	外務省沖縄密約事件について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
3	第一部 火 9/29	秘密国家秘密と報道の自由 II	特定秘密保護法。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、特定秘密保護法の問題点を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
4	第一部 火 10/6	選挙と報道の自由	公職選挙法。政見放送、政党スポット。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、テレビの選挙報道における公平性の考え方を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
5	第一部 火 10/13	国民投票法と報道の自由	国民投票運動、広報活動、メディア規制。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、国民投票における広告の問題点について説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
6	第一部 火 10/20	メディアと人権	国内機構の地位に関する原則。人権擁護法案。集团的過熱取材。	
		この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、メディアスクラムに対する新聞・放送界の取り組みに至る経緯を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 10/27	社会秩序の維持と表現の自由	ヘイト・スピーチ、デモ・ビラ規制。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関し、ヘイト・スピーチと表現の自由に関する課題を説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
8	第一部 火 11/10	オンブズマン制度	苦情処理機関、プレス評議会。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、苦情処理機関が抱える課題を説明することができる。	
		事前学修	名古屋テレビ「オンブス6」、関西テレビ「オンブスカンテレ委員会」について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
9	第一部 火 11/17	損害賠償と謝罪広告	謝罪広告強制事件、サンケイ新聞事件、記事の事前差止。	
		この回の到達目標	達成目標③④に関連し、賠償額の引き上げの背景と高額化による報道への影響を説明することができる。	
		事前学修	サンケイ新聞事件について調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
10	第一部 火 11/24	公共放送と民間放送Ⅰ	NHKと民間放送の二元体制、NHKの経営体制。	
		この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、日本の放送体制の特徴について説明することができる。	
		事前学修	NHKと民間放送の組織や財源の違いについて調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
11	第一部 火 12/1	公共放送と民間放送Ⅱ	NHKの法的位置づけ。	
		この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、受信料をめぐる議論について説明することができる。	
		事前学修	NHKのホームページで「NHK経営計画（2018-2020年度）修正版」を読んで、ポイントをまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
12	第一部 火 12/8	公共放送と民間放送Ⅲ	構造規制、参入規制、資本規制。	
		この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、放送法の規制概要（内容規制以外）の説明することができる。	
		事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んで、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火 12/15	記者クラブ	閉鎖性、発表ジャーナリズム問題。	
		この回の到達目標	達成目標①②に関連し、記者クラブが抱える問題点について説明することができる。	
		事前学修	記者クラブにはどのようなものがあるか調べる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
14	第一部 火 12/22	広告の自由と規制	さまざまな広告規制。	
		この回の到達目標	達成目標③に関連し、広告の規制構造の概要について説明することができる。	
		事前学修	日本新聞協会のホームページで「新聞広告倫理綱領/新聞広告掲載基準」を、日本民間放送連盟のホームページで「放送基準（広告に関する部分）」を読んで、概要をまとめる。	120分
		事後学修	COLNe tにある資料を読んでノートを整理する。	120分
15	第一部 火 1/12	授業内試験、解説	60分の試験の後に解説を行う。	
		この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
		事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
		事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア理論	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムとは（メディア・）コミュニケーションの一機能である。したがって、ジャーナリズムを根源的に理解し、調査・研究を行うためには、メディア・コミュニケーションに関する理論の理解は欠かせない。この授業ではそうしたジャーナリズムを理解するのに有用と思われる社会理論を学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディア理論をジャーナリズム研究の点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にそれらに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア理論に関する概念について説明することができる。				3							
②	メディア理論に基づいて、現代社会のジャーナリズムについて考察し論じることができる。					3						
③	既存のジャーナリズム研究をメディア理論に基づいて批判的に考察し論じることができる。						3					
④	既存のジャーナリズム、ジャーナリズム研究の問題点を認識し、明確に説明することができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②③④に関する到達度を評価する。	25	20	20	10							75
小テスト等	なし											
レポート等	期末レポート実施する。		5	5	5							15
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。	1	1	1	2							5
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。	1	1	1	2							5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	27	27	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション研究 第4版	大石裕	慶應義塾大学出版会	2016	参考書	推奨
メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実	山口仁	勁草書房	2018	参考書	必携
マス・コミュニケーション研究	デニス・マクウェール	慶應義塾大学出版会	2010	その他	任意
よくわかる社会学史	早川洋行編	ミネルヴァ書房	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	イントロダクション及び導入講義	メディア理論とジャーナリズムに関する議論の射程について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、メディア理論とジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
		事前学修	シラバスを熟読してくること。	90分
		事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	90分
2	4/15	メディアと社会問題①	社会問題の構築主義について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、社会問題の構築主義について理解することができる。	
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
3	4/22	メディアと社会問題②	社会的構築主義と「客観的」な現実について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、モラル・パニック論の問題点について理解することができる。	
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
4	4/29	メディアと社会問題の構築主義	社会問題の構築主義のメディア論的应用について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、社会問題の構築主義のメディア論的应用についてについて理解することができる。	
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
5	5/6	メディアと社会問題報道①	初期水俣病事件報道について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、初期水俣病事件報道の問題点について理論的に理解することができる。	
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
6	5/13	メディアと社会問題報道②	転換期以降の水俣病事件報道について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、転換期以降の水俣病事件報道の問題点について理論的に理解することができる。	
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	5/20	メディアと社会問題報道③	ダイオキシン問題報道について解説する。
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、ダイオキシン問題の問題点について理論的に理解することができる。
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。90分
8	5/27	メディアと社会問題報道④	「ダイオキシン報道問題」に関する報道について解説する。
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「社会問題化されていくダイオキシン問題報道」の問題点について理論的に理解することができる。
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。90分
9	6/3	メディア・ジャーナリズム理論①	論評主体から論評対象へ転換するジャーナリズムについて解説する。
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「マスコミ批判」の一般化という現象を理論的に理解することができる。
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。90分
10	6/10	メディア・ジャーナリズム理論②	「メディア・レファレンス（メディア言及）」という概念を用いて、論評対象としてのジャーナリズムを考察する。
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「マスコミ批判」の一般化の事例を理論的に理解することができる。
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。90分
11	6/17	世論とメディア理論①	ジャーナリズムは世論を「形成」し「構築」できるのか、構築主義的観点から考察する。
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、構築主義的観点にもとづく世論現象の問題を理論的に理解することができる。
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。90分
12	6/24	世論とメディア理論②	世論と社会の分断について現代社会の議論を中心に考察する。
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、現代の社会理論にもとづいて世論現象の今日的問題を理論的に理解することができる。
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	インターネット社会とメディア理論	現代のインターネット社会におけるメディア・ジャーナリズム理論の困難について論じる。	
		この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、自己反省的な視点から、現代のジャーナリズム研究の問題を理論的に理解することができる。	
		事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
14	7/8	メディア理論によるジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、現代のジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
		この回の到達目標	授業目標③④に関して、自己反省的な視点から、現代のジャーナリズム研究の問題を理論的に理解することができる。、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
		事前学修	今までの資料全般を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	90分
		事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	90分
15	7/15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
		事前学修	授業内試験の準備	160分
		事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	20分

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅰ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本授業は、近年のヨーロッパ各国でみられる共通の現象を理論的に検討するとともに、その理論を用いて各国事例を説明する。その際のキーワードは、デモクラシー、大統領制化、ポピュリズム、極右勢力である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ヨーロッパの各国政治に対する理解を深めるとともに、理論と事例を検討することで、演繹的思考能力、帰納的思考能力を身につける。また、ヨーロッパ政治への理解を深めることで、その知見を日本政治へと応用できるよう能力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヨーロッパ各国の政治制度を理解し説明することができる。					2						
②	ヨーロッパ各国を分析するための分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					2						
③	ヨーロッパ各国を分析するための分析枠組み、理論、モデル等で説明できない逸脱事例の有無を検討することができる。					2		2				
④	ヨーロッパ政治の知識を応用して、自身の国の政治システムを相対化することができる。					2		2				
⑤	民主主義社会における政治システムの多様性を理解することで、他者との違いに配慮した議論ができる。					2		2		2		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	10							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標⑤に関わる基礎知識を評価する。					10						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	25	15	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ政治を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。民主主義、大統領制化、ポピュリズムといった各キーワードを調べ、講義全体を概観する。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	4/13	多数代表型民主主義	A. レイプハルトの“Patterns of Democracy”を基に多数代表型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多数代表型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明することができる。	
		事前学修	政治学で学んだ政治制度を振り返り、それぞれの特徴をまとめておく。	90分
		事後学修	イギリスをモデルとした日本の政治改革と多数代表型民主主義の接点を考えてみる。	150分
3	4/20	多極共存型民主主義	A. レイプハルトの“Patterns of Democracy”を基に多極共存型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明することができる。	
		事前学修	第二回の授業内容を基にして、多数代表型民主主義の特徴を整理しておく。	90分
		事後学修	多数代表型民主主義と多極共存型民主主義のメリットとデメリットを比較検討してみる。	150分
4	4/27	イギリスにおける民主主義	多数代表型民主主義の典型例といわれるイギリスの民主主義が変容してきていることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多数代表型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。	
		事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、イギリス政治の現状を確認しておく。	60分
		事後学修	レイプハルトの理論を基にして、イギリスが民主化した過程を調べてみる。	180分
5	5/4	ドイツにおける民主主義	コンセンサス型民主主義といわれているドイツの民主主義が変容してきていることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。	
		事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、ドイツ政治の現状を確認しておく。	60分
		事後学修	レイプハルトの理論を基にして、ドイツが民主化した過程を調べてみる。	180分
6	5/11	フランスにおける民主主義	イギリスやドイツと異なり、半大統領制を採用しているフランスの民主主義が変容してきていることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。	
		事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、フランス政治の現状を確認しておく。	60分
		事後学修	レイプハルトの理論を基にして、フランスが民主化した過程を調べてみる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	大統領制化の理論	執政制度の変更を伴わないにもかかわらず、首相のリーダーシップ様式が大統領制におけるリーダーシップに近づいてきていることを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。	
		事前学修	政治学で学んだ議院内閣制、大統領制、半大統領それぞれの特徴を整理しておく。	90分
		事後学修	大統領制化の理論に修正すべき点がないかを検討してみる。	150分
8	5/25	イギリスにおける大統領制化	大統領制化の典型例と言われるサッチャーやブレアの検討を行うとともに、その後、首相においても大統領制化の現象が見られるかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ブレア後の大統領制化について、自身の考えを述べることができる。	
		事前学修	サッチャーやブレアの政治を自ら調べて、それぞれの特徴を整理しておく。	150分
		事後学修	現在のイギリス首相のリーダーシップについて検討してみる。	90分
9	6/1	ドイツにおける大統領制化	大統領制化の典型例と言われるシュレーダーの検討を行うとともに、その後、首相においても大統領制化の現象が見られるかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、メルケル時代のドイツの大統領制化について、自身の考えを述べることができる。	
		事前学修	シュレーダーの政治を自ら調べて、その特徴を整理しておく。	120分
		事後学修	現在のドイツ首相のリーダーシップについて検討してみる。	120分
10	6/8	フランスにおける大統領制化	議院内閣制下の大統領制化だけではなく、半大統領制を採用するフランスにおいても大統領制化現象が見られるのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第五共和制憲法下における大統領権限の変化を説明することができる。	
		事前学修	第五共和制憲法の特質を第五共和制成立過程とともにまとめる。	120分
		事後学修	現在のフランス大統領のリーダーシップについて検討してみる。	120分
11	6/15	ポピュリズムの理論	多義的な意味を付与され、ネガティブな現象として語られることが多いポピュリズムに関する定義を説明するとともに、議会制民主主義との関係を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ポピュリズムの理論を説明することができる。	
		事前学修	ポピュリズムという言葉が様々な媒体で、どのような文脈の下で使われているかを調べておく。	150分
		事後学修	ポピュリズムの理論を基にして、日本の政治にポピュリズムが見られるかを検討してみる。	90分
12	6/22	イギリスにおけるポピュリズム	2016年に実施されたEU離脱の是非を問う国民投票とイギリス独立党のファラージを事例として、イギリスのポピュリズムを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、EUをめぐるイギリス政治の分断を説明することができる。	
		事前学修	1975年に行われたEC加盟の是非を問う国民投票を調べ、それまでの過程をまとめる。	180分
		事後学修	2016年国民投票以後のイギリスとEUとの関係を整理してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	ドイツにおけるポピュリズム	2017年総選挙を事例に極右政党AfD（ドイツのための選択枝）が躍進したことによって、政党システムに変化が生じたのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツの政党システムの変化について、自身の考えを述べることができる。	
		事前学修	西ドイツ建国から2017年総選挙までのドイツの政党システムをまとめておく。	120分
		事後学修	左派党（Die Linke）が政党システムに与える影響を検討してみる。	120分
14	7/6	フランスにおけるポピュリズム	2017年大統領選挙を事例に、極右政党の候補者ルペンとマクロンが決選投票を戦ったことで、二大政党ブロックによるフランス政治が変化したのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、2017年大統領選挙の決選投票における対立軸を説明することができる。	
		事前学修	第五共和制下で行われた大統領選挙の決選投票の結果についてまとめておく。	120分
		事後学修	マクロンと既成政党との連続性について検討してみる。	120分
15	7/13	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本授業は、ヨーロッパ政治を理解する上で必要不可欠であるEUについて、その歴史、制度およびヨーロッパ統合の理論を説明するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
EUの歴史や制度、ヨーロッパ統合の理論を検討することで、国家の存在を相対化することができる能力を修得する。また、EUを多角的な視点から分析することで、ヨーロッパ統合の現在を理解し、国家の在り方を考察できるための能力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヨーロッパ各国とEUの制度的つながりを理解し説明することができる。					2						
②	ヨーロッパ統合の歴史を理解し説明することができる。					2						
③	ECSC、EEC、EC、EUの制度を理解し説明することができる。					2		2				
④	ヨーロッパ統合を説明するための理論を理解し説明することができる。					2		2				
⑤	ヨーロッパ統合の知見を活かし地域統合について自身の考えを述べるができる。					2		2		2		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	5						65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標⑤に関わる基礎知識を評価する。					10						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評	5	5	5	5	5						25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	25	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ統合を学ぶ意味と意義について考える。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ統合を学ぶ意味と意義を認識できる。	
		事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
		事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	9/21	ヨーロッパ統合への道	第一次世界大戦から第二次世界大戦までの間に展開したヨーロッパの統合を訴える主張とその時代的背景を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、クーデンホーフ=カレルギーの『パン・ヨーロッパ』の内容を説明することができる。	
		事前学修	第一次世界大戦と第二次世界大戦がヨーロッパに与えた影響をまとめておく。	90分
		事後学修	「西洋の没落」と米ソが台頭したことによる国際関係の変容を検討する。	150分
3	9/28	ECSCの誕生	第二次世界大戦後、経済、軍事、規範の面で西ヨーロッパ諸国の協調が進んだことを基礎にしてECSCが誕生していったことを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECSCが経済的な目的だけでなく政治的な目的を有していたことを説明することができる。	
		事前学修	東西冷戦構造を自ら調べて、ヨーロッパの分裂を招いたことを整理しておく。	90分
		事後学修	現在のEUとECSCを比較することで、主権の共有範囲がいかに異なるかを考えてみる。	150分
4	10/5	統合の深化	石炭と鉄鋼に限定されていたヨーロッパ統合が経済の全般的な統合を目指してEECを設立していった過程、関税同盟の形成と共通農業政策の実施について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECSCとEECの質的な違いを説明することができる。	
		事前学修	1950年代には、統合の深化を狙って複数のプランが発表されていたことを調べておく。	60分
		事後学修	授業で取り扱った時期において、ヨーロッパでは、ECSC、EEC、EURATOMの3機関が併存していたことを整理する。	180分
5	10/12	統合の深化と拡大	ECSC、EEC、EURATOMの3機関がECに収束し、統合の深化が進んでいくのと同時に加盟国の拡大が行われていったこと検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ヨーロッパ統合が経済分野だけでなく政治分野にも広がりを見せようとしていたことを説明することができる。	
		事前学修	「ルクセンブルク妥協」がヨーロッパ統合にもたらした影響についてまとめておく。	60分
		事後学修	イギリスのEC加盟の経緯を調べ、現在のBREXIT問題との関係を考える。	180分
6	10/19	EUの誕生	ヨーロッパ統合の性質を決定的に変化させたEUの誕生とマーストリヒト条約の下での問題点を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECとEUの違いについて説明することができる。	
		事前学修	ヨーロッパ統合における「民主主義の赤字」についてまとめておく。	60分
		事後学修	EUの誕生によって、ヨーロッパ諸国で、アンチEUの政党や政治勢力が結成されたことを調べる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	リスボン条約の締結とEUの現在	マーストリヒト条約以降に締結されたアムステルダム条約、ニース条約、リスボン条約による変化と残された課題について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ギリシア危機がヨーロッパ統合に与えた影響を説明することができる。	
		事前学修	ユーロ導入の経緯とEUのガバナンスの問題について整理しておく。	90分
		事後学修	現在のEUと国家のあり方どのような方向性に進んでいくのかを考えてみる。	150分
8	11/9	新機能主義	ヨーロッパ統合を説明する理論的枠組みとして新機能主義を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、ハースの新機能主義を説明することができる。	
		事前学修	第2回から第7回までの授業を基に、ヨーロッパ統合の歴史を整理しておく。	150分
		事後学修	新機能主義の問題点を検討してみる。	90分
9	11/16	リベラル政府間主義	ヨーロッパ統合を説明する理論的枠組みとしてリベラル政府間主義を検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、モラフチクのリベラル政府間主義を説明することができる。	
		事前学修	政治学における合理的選択論の考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	リベラル政府間主義の問題点を検討してみる。	120分
10	11/23	連邦主義	ヨーロッパ統合における共同体の形成、発展に関して、連邦主義の立場から検討する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、モネやスピネリが検討した連邦的統合とは何かを説明することができる。	
		事前学修	ドゴールに代表される「諸祖国からなるヨーロッパ」という考え方をまとめておく。	120分
		事後学修	EUにおける連邦的統合が進展するの可否かを検討してみる。	120分
11	11/30	欧州委員会	国家における政府と形容される欧州委員会がもつ権限や役割について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州委員会の権限や役割を説明することができる。	
		事前学修	国家における政府の権限や役割を整理しておく。	150分
		事後学修	国家における政府と欧州委員会の違いについてまとめておく。	90分
12	12/7	欧州理事会	ヨーロッパ統合の指針を決定する欧州理事会がもつ権限や役割について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州理事会の権限や役割を説明することができる。	
		事前学修	統合の拡大の歴史をまとめると同時に、特定多数決制度を調べておく。	180分
		事後学修	EUにおける欧州理事会の位置付けと国益との関係について考えてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	欧州議会	欧州市民の声を代表する欧州議会がもつ権限や役割について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州議会の権限や役割を説明することができる。	
		事前学修	国家における議会の権限や役割を整理しておく。	120分
		事後学修	「民主主義の赤字」と欧州議会の関係について検討してみる。	120分
14	12/21	欧州中央銀行	金融政策の安定化を図ることを目的としている欧州中央銀行がもつ権限や役割について検討する。	
		この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州中央銀行の権限や役割を説明することができる。	
		事前学修	各国における中央銀行制度を確認するとともに、金融政策と財政政策の関係をまとめておく。	120分
		事後学修	ギリシア危機がEUに波及した問題点を考えてみる。	120分
15	1/18	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
		事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
		事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分

科目名	リサーチ・ペーパー(メディアと社会)	担当者	安達 周	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
テレビ、新聞、インターネットなど、情報を広く伝える手段がメディアだ。これらメディアと社会との関係について学修する。新聞、テレビなどのマスメディアの歴史的発展過程、マスメディアの果たしてきた役割と功罪（功績と罪過）、フェイクニュースの発信と拡散などで社会を揺るがすソーシャルメディア、権力の不正を暴く調査報道、映像と報道写真の力、取材陣が人権侵害を引き起こすメディア・スクラム、情報を読み解くメディア・リテラシー、地震など災害時のメディアの役割などが学修のテーマとなる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
欧米を含めたマスメディアの発展過程、マスメディアの果たしてきた役割と功罪、私たちの日常生活に深く浸透し影響力を増すソーシャルメディアの特性と問題点などを理解し、民主主義社会におけるメディアの重要性とあるべき姿を修得する。

【履修条件】
原則としてゼミに入らない学生が対象。

【授業方法】
講義形式で行う。授業ごとに資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各メディアの発展過程と特性を理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3		3		
②	メディアの役割と功罪を理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3		3		
③	メディアの情報を鵜呑みにせずに批判的に読み解くメディア・リテラシーを理解し、実践できるようにする。【技能】				3	3	3	3		3		
④	各テーマへの質問や意見など、積極的な姿勢で授業に臨むことができる。【態度・習慣】				3	3	3	3		3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③の達成度を評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④について、各テーマへの質問などによる積極的な授業参画度を評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日 4 限の授業終了後、授業講堂にて。次の個人メールアドレスmeguru@arion.ocn.ne.jpでも受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	木 4/9	【ガイダンス】【ヨーロッパの新聞の発展と役割】	ガイダンスとして、授業計画、成績評価方法などの説明をする。 ガイダンスの後、ヨーロッパの新聞の発祥と発展過程、果たした役割を学修する。近代的新聞の発展過程は「国家権力との闘い」「検閲との闘い」であることを理解する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「表現の自由」、メディアによる「権力の監視」の重要性を理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、新聞が「第4の権力」といわれる理由を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートをもとに、近代ヨーロッパ、アメリカで新聞の果たした役割を整理する。	120分
2	木 4/16	【日本の新聞の発展と役割】	日本は近代化が遅れたことなどにより、日本の新聞は欧米と違う発展を見せる。国家と対峙したこともあるが戦中は国家権力の補完装置となってしまうことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治・大正・昭和期における新聞の発展過程を理解し、新聞の役割と功罪は時代状況と密接に関係していることを説明できる。	
		事前学修	明治初期に現れた「政論新聞」、新聞が権力に取り込まれる転換点となった大正時代の「白虹事件」、太平洋戦争中の軍部による「大本営発表」について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、日本の新聞の歴史的役割と功罪を整理する。	120分
3	木 4/23	【ラジオの発展と役割】	政府機関的色彩の強かった日本とナチス・ドイツのラジオは、「国家のプロパガンダ装置」として利用されることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「国家のプロパガンダ装置」として利用された日本とナチス・ドイツのラジオ、主に広告媒体として利用されたアメリカのラジオについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	戦前戦中の日本とドイツ、アメリカのラジオが果たした役割を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、日本とドイツ、アメリカのラジオの役割の違いを整理する。	120分
4	木 4/30	【テレビの巨大な影響力】	テレビは20世紀が生んだ最強のメディアだ。テレビは人々の生活に深く入り込み、生活様式を変えてしまった。テレビの巨大な影響力と功罪を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テレビの社会への影響力について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ウォルター・リップマンの「疑似環境の環境化」はじめ、テレビの影響について言及した学者の説を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、テレビというメディアが社会に及ぼした影響を整理する。	120分
5	木 5/7	【ソーシャルメディアの威力 脅かされる民主主義】	いまや誰でもソーシャルメディアを利用することにより不特定多数に情報を発信し拡散できる。別の言い方をすれば「個人がメディアになれる」時代だ。SNSでフェイクニュース（デマ）を発信することによって政治介入が行われ、各国の民主主義が脅かされている実態などを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国の民主主義制度にSNSなどのソーシャルメディアが巧みに入り込み、影響を与えている実態を理解し、説明することができる。	
		事前学修	「エコーチェンバー（共鳴室）」はじめ、ソーシャルメディアの社会への影響に触れた学説について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを参考に、授業以外のフェイクニュースによる各国への政治介入の事例とその影響を調べる。	120分
6	木 5/14	【ソーシャルメディアの威力 人権侵害の温床】	ソーシャルメディア、特にSNSは、プライバシーの侵害、名誉棄損など人権侵害の温床となっている。時には殺人や自殺願望に応えることに利用される。「忘れられる権利」も含め、ソーシャルメディアによる人権侵害の実態を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ソーシャルメディアの書き込みと拡散が原因となって起こる人権侵害について理解し、説明することができる。	
		事前学修	犯罪履歴がいつまでもネットに掲示され続けることにより人権侵害が起こる場合がある。この場合に生じる権利「忘れられる権利」と憲法21条が保障する「表現の自由」の関係について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、憲法21条の「表現の自由」保障について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	木 5/21	【メディアの功績 米国の調査報道】	新聞による調査報道によって権力の不正、社会の不公平が暴かれることがある。調査報道の成果は「権力の監視機能」としてのメディアの功績だ。ジャーナリストの世界的連携による調査報道、代表的な米国の調査報道事例を考察することにより、メディアの重要性を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、調査報道によって暴かれた権力の不正、社会の不公平の実例を学び、メディアの果たすべき役割を理解し、説明することができる。	
		事前学修	ジャーナリストの世界的連携による「パナマ文書」報道、米国を揺るがした「ウォーターゲート事件」「ペンタゴン・ペーパーズ」報道について調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、「国益」と「報道の自由」の関係について整理する。	120分
8	木 5/28	【メディアの功績 映像と写真の力】	テレビ映像と報道写真の力について学修する。戦争や飢餓、難民危機などの場合、テレビによる現場の映像や報道写真は、時に数百行の記事に勝る力を持ち、世論を変化させることがある。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、テレビ映像と報道写真の持つ力を理解し、説明することができる。	
		事前学修	アメリカが敗北したベトナム戦争が「テレビに負けた戦争」といわれる意味を調べておく。	120分
		事後学修	ジャーナリズムの永遠の課題ともいえる「人命優先か報道優先か」について考察し、自分の意見をまとめる。	120分
9	木 6/4	【メディアの功績 日本の調査報道】	権力の不正を暴いた日本の新聞による調査報道を、代表的な事例に基づいて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本のメディアによる調査報道の功績を理解し、説明することができる。	
		事前学修	企業犯罪を暴き、内閣総辞職に至る「リクルート事件」報道を調べておく。	120分
		事後学修	授業で取り上げた事例以外の調査報道を調べ、その功績を整理する。	120分
10	木 6/11	【メディア・リテラシー】	メディア・リテラシーは、メディアの情報を鵜呑みにするのではなく、何が事実かを意識しながら情報を読み解く能力のこと。フェイクニュースや偏った情報があふれる時代、その重要性は増すばかりだ。新聞社によって情報の扱い方が違うこと、テレビのでっち上げ番組などを例に挙げ、メディア・リテラシーについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、同じ出来事でも各新聞社、各テレビ局の考え方の違いによってニュースの切り口や扱い方が違うこと、ネット情報の正確性の問題点、テレビの「ねつ造番組」などを考察し、メディア・リテラシーを理解し実践でできるようにする。	
		事前学修	メディアの情報によって人々がだまされ、社会問題となった事例を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、メディア・リテラシーを養うためのポイントを整理しておく。	120分
11	木 6/18	【メディア・スクラムによる人権侵害】	報道被害であるメディア・スクラムを学修する。大事件や大事故の発生時、現場に取材陣が多数押しかけ、事件事故の関係者、近隣住民などに取材攻勢をかけることにより、人権侵害が発生することがある。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、メディア・スクラムによる人権侵害の実態を理解し、メディアが抱える構造的な問題点を説明することができる。	
		事前学修	「和歌山カレー毒物混入事件」「松本サリン事件」で発生したメディア・スクラムと「推定無罪の原則」を調べておく。	120分
		事後学修	授業で取り上げた事例以外のメディア・スクラムによる人権侵害の実態を調べる。	120分
12	木 6/25	【広告の問題点と法律規制】	広告の問題点と広告の法律規制について学修する。広告もメディアによる情報であり、憲法の「表現の自由」保障の対象となっている。しかし広告は虚偽・誇大な「不当表示」によって消費者に被害を与える場合があり、法律で規制されている。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、広告の虚偽・誇大表現、法律による規制を理解し、説明することができる。	
		事前学修	代表的な不当表示規制である「景品表示法」の概略を調べておく。	120分
		事後学修	授業で取り上げた事例以外の、最近の景品表示法違反事例を、消費者庁のホームページや報道記事によって調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	木 7/2	【災害時のメディアの役割】	日本は地震や台風、大雨など自然災害に頻繁に見舞われる国だ。こうした災害時に、テレビ、ラジオ、新聞、ソーシャルメディアが果たす役割を学修する。災害時、長所・短所を含めたメディアの特性が明らかになる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、災害時のメディアが果たす役割を、各メディアの長所と短所を考察することによって理解し、説明することができる。	
		事前学修	災害時、SNSなどのソーシャルメディアによるデマの発生と拡散、デマによる被害の事例を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、災害時、自身はどのメディアをどのように利用したか（利用するか）を考え、メディアの果たす役割を整理する。	120分
14	木 7/9	【メディアによる差別表現】	メディアは人権差別的な表現を使って批判されることがある。身分、障害、性差などに対する偏見差別と闘うことはメディアの使命の一つだが、何気なく書いた記事やテレビ番組により、差別や偏見を助長し固定化する場合があることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、メディアによる人権差別表現の問題点と、差別が生まれる歴史的背景を理解し、説明することができる。	
		事前学修	人権差別表現としてメディアが批判され、炎上するなどした事例を調べておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノートを確認し、身分、職業、性差、LGBT、心身障害などに対するメディア表現の問題点を整理する。	120分
15	木 7/16	【授業のまとめ】	授業を振り返ることによって、メディアと社会との関係を概括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メディアと社会との関係を授業テーマごとに説明することができる。	
		事前学修	これまでの配布資料や講義ノートによって、授業内容を復習しておく。	120分
		事後学修	配布資料や講義ノート、授業の振り返りによって、メディアと社会の関係を整理する。	120分

科目名	リサーチ・ペーパー（情報と社会）	担当者	小林 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
情報と社会に関する調査・研究を実施していくための方法を学習します。 リサーチペーパーの作り方。事例の調査。事例への評価の調査。分析可能な概念や理論の理解。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報と社会に関連する事象を実際に調査・分析し、レポートが作成できるようになることを目的とします。受講者自身が関心を持つ情報社会の事象を調査・分析し、レポートを作成できるようになることが到達目標となります。

【履修条件】
科目履修に関連する条件等は各自で確認してください。

【授業方法】
演習形式を想定していますが受講者数に応じて調整します。実際取り扱うテーマは受講者の関心を喚起上げたいと思います。例えば、最近話題になっている「バイトテロ」を取り上げるということもあり得ます。レポートの講評・解説を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で具体的に指示	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	レポート作成能力				3	2	3	3		3		
②	調査能力				3	3	3	3		3		
③	対話する力、姿勢				3	3	3	3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験の代わりにレポート作成	60										60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内で適宜指示		15	15								30
授業への参画度	当然重要			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	15	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業における対話や発表がこれに当たる

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定なし	指定なし	指定なし	指定なし		
備考	教科書は指定しませんが授業に関連する文献を使用します。最初の講義で言及します。その他、適宜資料を配布します。				

【オフィスアワー】
希望者は水曜3限授業後に授業講堂にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	1 回	テーマを考える	ガイダンス：情報と社会に関する調査・分析の進め方。授業の姿勢。テーマに関して相談	
		この回の到達目標	テーマを考える	
		事前学修	情報と社会に関する事象に興味を持って接する（2時間）	60分
		事後学修	レポートの執筆に向け全体的な構想を考える（2時間）	60分
2	2 回	テーマを理解する	情報と社会の基礎：講義を進めるにあたって参考となる資料の紹介	
		この回の到達目標	問題を理解する	
		事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	60分
		事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する（2時間）	60分
3	3 回	テーマを理解する	情報と社会の基礎：講義を進めるにあたって参考となる資料の紹介	
		この回の到達目標	問題を理解する	
		事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	60分
		事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）	60分
4	4 回	テーマを理解する	具体的にどのような事例であるのか報告や確認	
		この回の到達目標	問題を理解する	
		事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	60分
		事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）	60分
5	5 回	テーマを理解する	具体的にどのような事例であるのか報告や確認	
		この回の到達目標	問題を理解する	
		事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	60分
		事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）	60分
6	6 回	文献調査	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認	
		この回の到達目標	調査方法を身につける	
		事前学修	リサーチ対象について下調べを行う（2時間）	60分
		事後学修	リサーチ（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	7回	文献調査	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認	
		この回の到達目標	調査方法を身につける	
		事前学修	リサーチを通じて収集した情報を整理（2時間）	60分
		事後学修	リサーチ（2時間）	60分
8	8回	文献調査	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認	
		この回の到達目標	調査方法を身につける	
		事前学修	リサーチを通じて収集した情報を整理（2時間）	60分
		事後学修	これまで調べたことを整理する（2時間）	60分
9	9回	文献調査	事例を分析できる社会学やメディア論の考えについて取り上げる	
		この回の到達目標	調査方法を身につける	
		事前学修	これまで調べたことを整理する（2時間）	60分
		事後学修	授業で取り上げた理論や概念の理解（2時間）	60分
10	10回	文献要約	事例を分析できる社会学やメディア論の考えについて取り上げる	
		この回の到達目標	調査方法を身につける	
		事前学修	指定した文献および配布資料を読んでおく（2時間）	60分
		事後学修	授業で取り上げた理論や概念の理解（2時間）	60分
11	11回	文献要約	取り上げた理論や概念の応用について考察	
		この回の到達目標	調査方法を身につける	
		事前学修	指定した文献および配布資料を読んでおく（2時間）	60分
		事後学修	取り上げた理論や概念の応用について考察を再度行う（2時間）	60分
12	12回	文献要約	リサーチ中間報告（1）：リサーチにおける進捗を報告	
		この回の到達目標	プレゼンテーションを行う	
		事前学修	中間報告の準備（2時間）	60分
		事後学修	指摘やコメントをふまえて今後のリサーチの進め方を改めて確認する（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	13回	文献要約	リサーチ中間報告（1）：リサーチにおける進捗を報告	
		この回の到達目標	プレゼンテーションを行う	
		事前学修	中間報告の準備（2時間）	60分
		事後学修	指摘やコメントをふまえて今後のリサーチの進め方を改めて確認する（2時間）	60分
14	14回	要約を整理	リサーチペーパー作成 1	
		この回の到達目標	リサーチペーパーを作成する	
		事前学修	リサーチペーパーについて準備（2時間）	60分
		事後学修	リサーチペーパー作成の準備（2時間）	60分
15	15回	リサーチ作成	リサーチペーパー作成 2	
		この回の到達目標	リサーチペーパーを作成する	
		事前学修	リサーチペーパーの準備（2時間）	60分
		事後学修	授業内容をふまえた情報と社会に関する事象を把握、復習（2時間）	60分

科目名	リサーチ・ペーパー（政治行動論）	担当者	水野 泰志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
政治全般についてジャーナリズムの視点から考察し、日常的な政治への興味から、ニュースの入手、政治問題に関する調査研究、署名やデモの政治活動、選挙における投票行動にいたるまで、さまざまな政治行動の実情や課題についてを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ゼミに相当するリサーチペーパー・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲと続く一連の科目を履修するための基礎力を身につける。政治全般、とくに政治行動の基礎的知識を習得するとともに可能な限り実践し、初歩的な論文（レポート）をまとめることを修得する。関連DP及びCP：新聞学科1・2・3・4・6

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
個々の受講生が興味を持つ政治行動に関するテーマを選び、論文（レポート）としてまとめる。受講者のプレゼンを踏まえ、受講者全員で討議する（ゼミ形式）。論文（レポート）は、中間報告を含め発表の都度、講評や解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼン、討論、選挙学修など	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基本的な論文（レポート）を作成することができる。【技能】				3	3	3	3				
②	論文（レポート）を作成するためのノウハウを修得できる。【技能】政				3	3	3	3				
③	論文（レポート）を作成するための調査研究を実践できる。【技能】				3	3	3	3				
④	作成した論文（レポート）を、簡潔に要領よくプレゼン（発表）することができる【態度】						3	3		3		
⑤	さまざまなプレゼン（発表）に対し、自身の考えをまとめて述べる【態度】						3	3		3		
⑥	政治全般について関心をもち、議論することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑦	治行動全般について理解し、説明することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑧	政治行動の具体例を列挙し、詳述することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑨	政治参加の意義を理解し、討議することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑩	政治参加を実践し、自身の考えをまとめることができる【態度】						3	3		3		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各々が設定したテーマに基づき、論文（レポート）を作成する	10	10	10	10		10					50
討論・発表等												
授業への参画度	プレゼン（発表）された、さまざまな論文（レポート）について、内容を理解し、自身の考えや見解を明らかにする	10	10	10	10		10					50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20		20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評・解説

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。				

【オフィスアワー】
火曜日18:00～19:00（事前にメールでアポイントメントをとること）図書館L302 メールアドレス：aei03021@nifty.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	新聞記者（政治、情報通信、メディア）
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治全般	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 火 4/7	ガイダンス及び導入講義	講座の趣旨、テーマ、内容、スケジュール、論文（レポート）作成、成績評価の方法などについて説明する。それにより、受講者は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リサーチペーパーの講座の位置づけなどを理解するとともに、到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、政治全般および政治行動について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、政治全般および政治行動全般について、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	とくに、政治行動全般について整理する。	120分
2	第一部 火4/14	政治行動の類型	政治行動の類型について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、政治行動の類型について理解し、説明することができる。	
		事前学修	政治行動の類型について調べて準備する。	120分
		事後学修	政治行動の類型について整理する。	120分
3	第一部 火 4/21	政治行動に関する論文（レポート）の事例研究	政治行動に関する研究テーマの事例について研究する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、政治行動の研究テーマの事例について理解し、説明することができる。	
		事前学修	自らが研究する政治行動に関するテーマについて検討する。	120分
		事後学修	検討した政治行動のテーマについて整理する。	120分
4	第一部 火 4/28	政治行動に関する論文（レポート）の研究テーマの設定	個々の受講者が論文（レポート）作成のための政治行動に関する個々の研究テーマを設定する。	
		この回の到達目標	到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、自らが取り組む政治行動に関する研究テーマについて、選択の理由、背景、内容などについて説明することができる。	
		事前学修	自らが研究する政治行動に関するテーマを決定する。	120分
		事後学修	次回以降、受講者はそれぞれ決定した研究テーマについて、順次、プレゼンするので、それぞれ準備にとりかかる。	120分
5	第一部 火 5/5	政治参加の意義と概要	政治参加の意義と概要について学修する。受講者がそれぞれ設定した論文（レポート）の研究テーマの概要と研究の進め方を報告する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、政治参加について理解を深めるとともに、受講者が自ら設定した研究テーマの概要について説明することができる。	
		事前学修	自ら設定した研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。	120分
6	第一部 火 5/12	新聞メディアと政治行動	新聞メディアが政治行動に及ぼす影響などについて学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 火 5/19	放送メディアと政治行動	放送メディアが政治行動に及ぼす影響などについてを学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
8	第一部 火 5/26	ネットメディアと政治行動	ネットメディアが政治行動に及ぼす影響などについて学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
9	第一部 火 6/2	選挙における投票行動	政治行動の最終段階といわれる選挙における投票行動を学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについて論文（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
10	第一部 火 6/9	選挙におけるネットの活用	選挙におけるネットの活用について学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
11	第一部 火 6/16	18歳選挙権の導入	18歳選挙権の導入について学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
12	第一部 火 6/23	ネット時代の政治と政権	ネット時代の政治を政権を中心に学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（政治行動）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 火 6/30	ネット時代の政治と国民	ネット時代の政治を国民を中心に学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（政治行動）の中間報告行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
		事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
14	第一部 火 7/7	都知事選等における投票行動	都知事選等において究極の政治行動である投票を実践するとともに、さまざまなメディアの開票報道を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	都知事選教について基本的知識を身につける。	120分
		事後学修	参院選の投票・開票における体験を踏まえ、政治行動について知見を深める。	120分
15	第一部 火 7/14	まとめ	リサーチペーパー（政治行動論）における、政治行動に関する論文（レポート）をまとめる	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマについて説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
		事前学修	受講者全員が提出する最終論文（レポート）を作成する。	120分
		事後学修	講座全般の内容について、知見を深める	120分

科目名	リサーチ・ペーパー（メディアと文化）	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディアと文化、そして社会との関係について、メディアの歴史とのサブカルチャーを事例に分析する。授業前半では、メディアの発達とプロパガンダの関係、アニメ・マンガの歴史をみながら表現（サブカルチャーの生産）と社会・政治との関連を考察する。後半では、現在のグローバル化した生産・消費をテーマとし、産業、受容者、政策等の側面が絡み合ったサブカルチャーについて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代における文化とメディアの関係性を捉える教養を育成すること及び問題発見を目的とする。アニメーションやマンガの歴史的経緯とプロパガンダの関係性、メディアと政治の関係やグローバル化の流れ、そしてアニメやマンガを中心とした文化の特徴とを理解し、政治や社会との関係性を踏まえたサブカルチャーの捉え方ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。ただし、授業で紹介する資料に英語資料・英語のWEBサイト、動画等を含むため、英語への抵抗感がないことが望ましい

【授業方法】
配付資料を参照しながら講義形式を中心に行う。必要に応じ視聴覚資料を利用する。適宜、ミニレポートやその講評などを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アニメーションやマンガの歴史的経緯とプロパガンダの関係性を理解する				3	3	3					
②	メディアと政治の関係やグローバル化の流れ、文化の特徴を理解する				3	3	3					
③	政治や社会との関係性を踏まえたサブカルチャーの分析をし、文章で表現ができる				3	3	3	3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末に課すレポートによって、サブカルチャー分析の基礎的知識や社会との関係性の理解を確認し到達目標の達成度を評価する	15	15	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	授業内で指示し、その場ないし自宅で作業による提出するコメントやミニレポートによる評価	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間中提出課題については授業内での総評やコメントによりフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』	大塚英志・大澤信克	角川書店		参考書	推奨
『ミッキーの書式』	大塚英志	角川書店		参考書	推奨
『キャラクターとは何か』	小田切博	筑摩書房		参考書	推奨
『アジア海賊版文化』	土佐昌樹	光文社		参考書	推奨
『メイン・ストリーム』	フレデリック・マルテル	岩波書店		参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後(1230-1300など)に講義教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	メディア産業に関する調査・コンサルティング
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル化する各国地域のメディア産業の実態や日本コンテンツの海外展開についての調査実務経験も踏まえ、授業でそれら事象について説明、および調査分析手法の指導を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス・導入講義	メディアと文化：「サブカルチャー」についての基礎知識の導入	
		この回の到達目標	授業全体の全体知識の確認と理解	
		事前学修	シラバスをよむ。サブカルチャー、文化の概念を調べる	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
2	4/16	エンターテインメントメディアと戦争	娯楽メディアと戦争の関係について	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	前回授業で指示した資料を一読する。または19世紀のメディアについてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
3	4/23	エンターテインメントメディアと戦争	20世紀前半の戦争とプロパガンダの実例	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	前回授業で指示した資料を一読する。または第一次大戦当時の映画についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
4	4/30	キャラクター文化とリアリズム	日本に開ける戦前・戦中のメディア状況とキャラクターブーム	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	日本の第二次世界大戦時のメディア状況についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
5	5/7	キャラクター文化とリアリズム	戦時中日本のアニメーション、マンガにみるリアリズムと科学	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	日本の第二次世界大戦時のメディア状況についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
6	5/14	現代のエンターテインメントメディアと国家	戦後のプロパガンダの実例	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	前回授業で指示した資料を一読する	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	現代のエンターテインメントメディアと国家	戦争とアニメ・コミックの変質	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
8	5/28	現代のエンターテインメントメディアと国家	キャラクターとプロパガンダ・広告	
		この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
		事前学修	原子力博覧会、行政のマスコットキャラについてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
9	6/4	グローバル化するメディア産業	メディア産業グローバル化の象徴としてのメディアコングロマリッド	
		この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
		事前学修	メディアコングロマリッドについてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
10	6/11	メディアの世界市場と政策	国境を越える映像コンテンツ流通とそのハブ	
		この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
		事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
11	6/18	メディアの世界市場と政策	グローバル化するメディア産業	
		この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
		事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
12	6/25	メディアの世界市場と政策	海賊版と著作権の国際的調和	
		この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
		事前学修	海賊版についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。提示した参考書を読む。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	グローバリズムとサブカルチャー	文化とナショナリティの関係性	
		この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
		事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。提示した参考書を読む。	240分
14	7/9	グローバリズムとサブカルチャー	「クールジャパン」とファン：海外での受容	
		この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
		事前学修	海外のアニメ受容者についてインターネットで調べる。	120分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と読読、レポート執筆。	240分
15	7/16	まとめ	これまでの授業内容を総括した文化とメディアの議論を整理し、学術的な意義を確認する	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関する総合的なメディアと政治、文化の関係性を分析することができる	
		事前学修	提示した参考書を読む。	240分
		事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と読読、レポート執筆。	300分

科目名	リスク・コミュニケーション	担当者	中森 広道	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
非常時や緊急時などの人々の生命や生活に影響を与える状況の中での情報、メディアの機能、人々の意識・行動・コミュニケーションならびに報道などについて、社会学、社会心理学、社会情報論、マス・コミュニケーションの観点から考えていく。主な内容は、パニック・流言・デマ、災害時の情報と避難、災害報道とメディア、災害とジャーナリズムなどについて講義をし、これらを踏まえて、主に災害に関する、リスク・コミュニケーションの特性と課題について検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「リスク・コミュニケーション」とは、人々に危険を与える可能性があり生命・健康・生活等を脅かす現象や事態について、その被害や影響を最小限に食い止めるために行われる情報の対応や合意形成等のことである。ここでは、事例を挙げながら、リスク・コミュニケーションに関する問題について検討し、情報の混乱への対応、災害報道・メディアの機能、災害などの非常時の対策につなげていく課題を再考する能力を養成することを目的に授業を進めていく。 そして、各自が、リスク・コミュニケーションの課題を抽出し、問題と解決策を提示できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1， 2， 6

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式で行う。必要に応じて資料の配布や映像を利用する。出欠をとることもある（毎回ではない）。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	リスク・コミュニケーションの意味と概要について理解し、説明することができる。【知識】		3	3	3	3				
②	社会学、社会心理学ならびにマス・コミュニケーション論の視点からの災害を中心としたリスクコミュニケーションについて理解し、説明することができる。【知識】		3	3	3	3				
③	マス・メディアの特性を理解し、災害情報を扱うために、それぞれのメディアがどのような役割を果たすかを理解し、説明することができる。【知識】		3	3	3	3				
④	災害報道の歴史と機能について理解し、今日の災害報道の特性について考察する。【知識】		3	3	3	3				
⑤	災害における人々の行動や意識について、社会心理学の視点から理解し、その特性を説明できる。【知識】		3	3	3	3				
⑥	情報の混乱や誤情報について、社会的な背景と関連づけて理解し、その特性を説明できるようにする。【知識】		3	3	3	3				
⑦	アンケートをはじめとする社会調査について理解し、調査データを読みとる能力を高める。【能力】		3	3	3	3				
⑧	災害と情報に関する問題点を挙げ、その解決に導くための方策を検討する力を養う。【能力】		3	3	3	3				
⑨	受講学生自身が災害情報を伝える立場、または、ジャーナリストとして災害について報道する立場になった際に、どのような調査を行い、どのような工夫をするのか、などについて考える。【能力】		3	3	3	3				
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験により、授業内容を理解し到達目標①～⑨に達しているのかを確認し、評価する。	10	20	10	10	10	10			10		80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメント)	授業内で不定期にコメントシートを配布し、到達目標①～⑥についてどの程度達しているのか、⑦～⑨についてどの程度能力が養われているのかを確認し、評価する。							10	10			20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	10	10	10	10	10	10		100

【課題に対するフィードバックの方法】
学生からのコメントに対する解説など

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考書などは授業内に紹介する。				

【オフィスアワー】	
授業（火曜２限）終了後、講堂にて。Eメールでも対応する（nakamori.qa@gmail.com）。	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	ガイダンス 授業の概要（以下、予定）。	シラバスに基づいて、授業内容と授業計画の説明を行う。受講生は、授業の概要を理解し、学習目標を立てることや、今後の授業の準備を円滑に行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスク・コミュニケーションや災害研究の概要を理解し、説明することができるようにする。	
		事前学修	シラバスを読んで、授業の概要を理解しておく。	120分
		事後学修	リスク・コミュニケーションや災害社会学・災害の社会心理学に関連する書籍・資料等を読む。	120分
2	4/14	情報の社会的混乱（1）流言・うわさ・デマ①	一般的には同じような意味で使用されている「流言」「うわさ」「デマ」の、それぞれの意味と、それぞれの特性について説明する。受講生は、「流言」「うわさ」「デマ」の本来の意味と使い方を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、流言・うわさ・デマの意味を理解し、説明することができるようにする。	
		事前学修	流言・うわさ・デマについて、それぞれが思いつく事例を整理しておくこと。	120分
		事後学修	流言・うわさ・デマに関する基本的な文献を読み、授業内容を復習すること。	120分
3	4/21	情報の社会的混乱（2）流言・うわさ・デマ研究の展開	これまでの、流言・うわさ・デマに関する研究について、社会学・社会心理学・心理学が、それぞれどのような視点から行われているのかを説明する。受講生は、流言・うわさ・デマ研究の事例から、社会学・社会心理学・心理学の違いと特性を理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、流言・うわさ・デマの研究方法について説明することができるようにする。	
		事前学修	前回の授業をもとに、あらためて、流言・うわさ・デマについての事例を整理しておくこと。	120分
		事後学修	社会学・社会心理学等の専門書（入門書レベル）の中で、流言・うわさ・デマ関連の項目を読んでおくこと。	120分
4	4/28	情報の社会的混乱（3）流言・うわさ・デマの事例	これまでの、流言・うわさ・デマに関する事例を紹介する。受講生は、流言・うわさ・デマについての代表的な具体例を説明することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、流言・うわさ・デマの事例を通じて、それぞれの特性を説明できるようにする。	
		事前学修	流言・うわさ・デマに関する文献等を読んでおくこと。	60分
		事後学修	事例として挙げた出来事背景を、歴史に関する資料や当時の報道に関する資料から再考すること。	60分
5	5/5	情報の社会的混乱（4）流言・うわさ・デマとメディア	これまでの、流言・うわさ・デマとメディアの関わりについて事例をもとに説明する。受講生は、流言・うわさ・デマとメディアの関わりを学ぶことにより、メディアの機能について理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑧に関連して、メディアの機能と特性を説明できるようにする。	
		事前学修	マス・メディア論やメディア論に関する専門書を読んでおくこと。	120分
		事後学修	メディアが関係する情報の混乱についての事例を調べておくこと。	120分
6	5/12	情報の社会的混乱（5）情報パニック	情報によって引き起こされた社会的混乱について事例をもとに説明する。受講生は、この内容を通じて、パニックについて理解することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③⑧に関連して、パニックの意味と特性を説明できるようにする。	
		事前学修	社会学・社会心理学・心理学の専門書の中の「パニック」に関する項目を読んでおくこと。	120分
		事後学修	「パニック」の日常の使われ方と学問における使い方の違いを確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	災害とメディア（１）情報ニーズ	災害時における情報ニーズについて、事例調査を踏まえて説明する。受講生は、災害発生の際の情報ニーズと復旧の際の情報ニーズの近いを理解することができるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①から⑧に関連して、災害情報のニーズとその扱い方について再考することができる、	
		事前学修	メディアの特性について考えておくこと。	120分
		事後学修	災害時に、各自がどのような情報が必要になるのかについて考えておくこと。	120分
8	5/26	災害とメディア（２）災害報道の展開①	災害報道の変遷を辿る。この回は、昭和の災害報道について説明する。受講生は、災害報道がどのように展開していったのかを理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標④⑧に関連して、災害報道の特性を理解することができる。	
		事前学修	近現代史の年表等を読んでおくこと。	120分
		事後学修	報道史に関する資料を参照しながら、授業内容を復習する。	120分
9	6/2	災害とメディア（３）災害報道の展開②	災害報道の変遷を辿る。この回は、平成の災害報道について説明する。受講生は、災害報道がどのように展開していったのかを理解できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標④⑧に関連して、災害報道の特性を理解することができる。	
		事前学修	現代史の年表等を読んでおくこと。	120分
		事後学修	報道史に関する資料を参照しながら、授業内容を復習する。	120分
10	6/9	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（１）災害情報と避難①	予報・警報などの災害情報の展開と避難などの対応について、昭和の災害情報を中心に説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、災害の経験が、災害情報の改善や新設、人々の意思決定についてどのように関わっているのかを説明できるようになる。	
		事前学修	人的被害の多い災害についての資料を読む。	120分
		事後学修	災害時の人々の避難の事例についてまとめる。	120分
11	6/16	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（２）災害情報と避難②	予報・警報などの災害情報の展開と避難などの対応について、平成の災害情報を中心に説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、人々が避難しない理由について説明できるようになる。	
		事前学修	人的被害の多い災害についての資料を読む	120分
		事後学修	災害時の人々の避難の事例についてまとめる	120分
12	6/23	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（３）災害情報と避難③	「東日本大震災」をもとに、災害情報と避難について説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、「東日本大震災」とリスク・コミュニケーションについて理解できるようになる。	
		事前学修	東日本大震災における情報と避難の問題について整理しておく	120分
		事後学修	災害時の人々の対応の特性についてまとめておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（４） 災害情報と避難④	「東日本大震災」以降の災害情報と避難などの対応について説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、近年の災害における災害情報と避難に関する問題について理解できるようになる。	
		事前学修	「東日本大震災」以降の災害情報と避難の問題についてまとめる	120分
		事後学修	授業で紹介したデータを整理しておく	120分
14	7/7	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（５） 新しい災害情報	「緊急地震速報」「特別警報」など、新しい災害情報について解説する。受講生は、あらたな災害情報が設けられる上での課題を再考できる。	
		この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、近年の災害における災害情報に関する課題について理解できるようになる。	
		事前学修	最近の災害における問題点を整理しておくこと	120分
		事後学修	授業で紹介したデータを整理しておくこと	120分
15	7/14	まとめ	これまでの授業をもとに、今後の課題について解説する。受講生は、これまでの授業の復習と再整理をしながら、リスク・コミュニケーションに関する問題提起を行う。	
		この回の到達目標	⑨に関連して、授業内容からリスク・コミュニケーションに関する問題提起や立案ができるようになる。	
		事前学修	これまでの授業の内容をまとめる	120分
		事後学修	定期試験に備えること	120分

科目名	立法過程論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討し、国会や立法過程についての基礎的な知識を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国会の抱える諸問題や、その課題及び改革の方向性に関して理解します。

【履修条件】
履修条件は特にありませんが、現代の日本政治に関心のある学生の履修が望ましいと思われます。

【授業方法】
原則として、講義を軸に授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、授業の中に対話形式を取り入れます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、国会や立法過程に興味を持ち、メディアの報道内容を理解できるようになる。						2	2				
②	学生が、国会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。					2	2	2				
③	学生が、国会の抱える諸問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の観点から、国会や政策形成過程の特質やその問題について、十分に理解できているかを評価する。	10	30	40								80
小テスト等	到達目標②③の観点から、授業中に実施される小テストにおいて、立法過程を分析する視点が身についているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説、講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治 第3版	加藤秀治郎・水戸克典	慈学社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	ガイダンス及び導入講義	国会に関する「常識」と「非常識」について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の通説に関する真偽を自分で判断することができる。	
		事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
		事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	4/17	現代の政治と議会	現代社会における議会の存在意義について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政国家化現象と議会の役割について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
3	4/24	政治制度と議会	議院内閣制と大統領制を取り上げ、制度によって立法過程の意味が大きく変わることを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制下においては、議員立法が少なくなる仕組みを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
4	5/1	議会の諸類型	ポルスビーの用いた「変換機能」と「アリーナ機能」に触れながら、議会の基本的な役割を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポルスビーのモデルを用いながら、議会の役割を理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
5	5/8	帝国議会と戦後の国会	戦前の帝国議会と戦後の国会の異同について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦前と戦後で、立法府の何がどう変わったのかを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
6	5/15	国会の制度と慣行	国会の運営は制度だけではなく、様々な慣行によっても規定されている。その仕組みについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、具体的な慣行を示しながら、国会の運営を理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	国会一内閣提出法案と議員立法	法案の種類を説明しつつ、議員立法の少ないことが必ずしも国会機能の低下を招いているわけではないことを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本では、なぜ内閣提出法案が多くなるのかについて理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
8	5/29	国会一会期制と会期不継続の原則	国会の特質の一つである会期の断片化や会期不継続の原則に触れ、審議・審査が活性化しない背景を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会期の断片化が立法過程にもたらす影響について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
9	6/5	国会一委員会における審査と本会議における審議	戦前の本会議中心主義と戦後の委員会中心主義を比較しながら、その両者の特徴を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読会制や定例日制に触れながら、戦前と戦後の議会の相違について理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
10	6/12	国会一わが国の二院制と参議院	二院制の類型に言及しながら、日本の参議院の特殊性について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他国の二院制と日本のそれがどのように異なるのかを理解し、自分の言葉で説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
11	6/19	与・野党の立法行動	国会内における主たるアクターである政党（会派）に焦点を当て、その行動パターンを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、与党と野党に特有の行動パターンを理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
12	6/26	議院運営委員会と国会対策委員会	議院運営委員会と国会対策委員会に焦点を当て、なぜ国会の運営が分かりにくくなるのかを学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院運営委員会と国会対策委員会の違いを理解しつつ、それが立法過程に及ぼす影響を理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	政党の党議決定と党議拘束	政党による党議拘束に触れながら、国会機能の問題と課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政党内意思決定の仕組みを理解しつつ、党議拘束の問題・課題を他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
14	7/10	国会無能論と国会機能論	日本の国会の評価については、相反する「国会無能論」と「国会機能論」が存在している。何がどう異なるのかについて学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無能論と機能論の相違を理解しつつ、それらが立法過程の何を評価しているのかを他者に説明することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
15	7/17	まとめ	前期の授業内容を振り返りつつ、国会の特質や課題について学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国の国会及び政策形成過程に関する主要な論点を理解することができる。	
		事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
		事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

科目名	労働事情	担当者	白川 欽也	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
雇用就業状況等の労働事情について、経済財政白書、労働経済白書等を参考に、全体的状況について広く把握する。 また、ワークライフバランス、女性の活躍、第4次産業革命（AI）、グローバル化などのトピックにも焦点を当てて学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在の労働事情について理解することを授業目的とし、雇用就業状況やワークライフバランス、女性の活躍、第4次産業革命（AI）、グローバル化等の現状と課題について、論理的、多面的に分析し、説明できる力を養成することを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義は、レジメ・スライドを使用して行う。 講義に使用するレジメは、COLNetを利用して、事前に配布する（COLNetの学生教員共有の私のフォルダにアップロード）。 また、小テスト（授業内試験）は、試験終了後に解説等を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済情勢（GDP、景気等）と雇用や賃金等との関係を理解し説明することができる。（知識）				2							
②	雇用情勢、労働時間・賃金の動向を理解し説明することができる。（知識）				2							
③	ワークライフバランスについて理解し説明するとともに、その課題を指摘することができる。				2							
④	女性の活躍の現状について理解し説明するとともに、その課題を指摘することができる（問題発見、解決力）。						2					
⑤	人手不足の状況と生産性、賃金、物価について理解し、説明するとともに、その課題を指摘できる。						2					
⑥	企業の人材マネジメントや能力開発について、理解し説明することができる（知識）				2							
⑦	グローバル化に伴う国内雇用への影響、外国人労働力の受入れについての課題を指摘することができる（論理的・批判的思考力）						2					
⑧	労使関係、個別労働紛争について、理解し説明するとともに、その課題を指摘できる（問題発見、解決力）						2					
⑨	非正規雇用の現状と問題点を指摘できる。（問題発見・解決力）						2					
⑩	第4次産業革命（AI）等の現状と雇用や働き方に及ぼす影響とその課題、将来の姿を予測する。（（論理的・批判的思考力）						2					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内で小テストを2回行い、到達目標にかかわる基礎知識が身についているかを評価する。	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	70
レポート等	労働事情に関する課題についてのレポートの提出により、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を評価する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は、成績評価の前提となる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの終了後に、授業内において解説を行う。また、レポートの講評を授業内において行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済財政白書 令和元年版		内閣府	全国官報販売協同組合	2019	参考書	推奨
労働経済白書 令和元年版		厚生労働省編	全国官報販売協同組合	2019	参考書	推奨
男女共同参画白書 令和元年版		内閣府男女共同参画局	全国官報販売協同組合	2019	参考書	推奨
OECD Employment Outlook(The Future of Work) 2019		OECD	OECD	2019	参考書	任意
LEAN IN(リーン・イン) 女性、仕事、リーダーへの意欲		シェリル・サンドバーグ	日経ビジネス人文庫	2018	参考書	任意
ワーク・シフト ― 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図		リンダ・グラットン	プレジデント社	2012	参考書	任意
備考	経済財政白書、男女共同参画白書は内閣府HPより、労働経済白書は厚生労働省HPより、OECD Employment OutlookはOECD Libraryより、利用することもできる。					

【オフィスアワー】
土曜2限講義終了後に、授業講堂にて行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土 4/4	オリエンテーション、経済と雇用・賃金	オリエンテーション（授業のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の説明等）、経済と雇用・賃金との基本的関係について学習する。	
		この回の到達目標	講義全体の概要を理解するとともに、経済情勢（GDP、景気等）と雇用や賃金の関係を理解し、説明することができる	
		事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。事前配布する講義レジメ、労働経済白書（令和元年版）第1章「一般経済の動向」、経済財政白書（令和元年版）P33～p34を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、経済と雇用の関係を考察する。	140分
2	第一部 土 4/11	雇用情勢、労働時間・賃金	雇用情勢（就業者、雇用者、失業率等）、労働時間・賃金の動向について学習する。	
		この回の到達目標	雇用情勢、労働時間・賃金の動向を理解し説明することができる。	
		事前学修	労働経済白書の第2章（雇用失業情勢）、第3章（労働時間・賃金）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、就業者、雇用者の動向について自分なりの説明をまとめる。	140分
3	第一部 土 4/18	若年者雇用	若年者雇用の動向、就職活動、ニート等について学習する。	
		この回の到達目標	若年者雇用の動向を理解し説明するとともに、その課題を指摘できる。	
		事前学修	労働経済白書のp42～44（就職活動、新規学卒者）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、若年者雇用の動向、就職活動、ニート等について、自分なりの説明をまとめる。	140分
4	第一部 土 4/25	ワークライフバランス	ワークライフバランス、労働時間・有給休暇の実態と動向、効率的な働き方について学習する。	
		この回の到達目標	ワークライフバランスについて理解し説明するとともに、その課題を指摘することができる。	
		事前学修	労働経済白書（平成29年版）第Ⅱ部第3章（ワークライフバランス）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、ワークライフバランスについて自分なりの説明をまとめる。	140分
5	第一部 土 5/2	人材マネジメント	企業の人材マネジメント、人材育成について学習する。	
		この回の到達目標	企業の人材マネジメント、人材育成について理解し説明することができる。	
		事前学修	労働経済白書（平成30年版）の第Ⅱ部第3章（雇用管理）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、業の人材マネジメント、人材育成について自分なりの説明をまとめる。	140分
6	第一部 土 5/9	女性の活躍	女性の雇用の現状や政策決定への女性の参画の現状について学習する。	
		この回の到達目標	女性の雇用の現状や政策決定への女性の参画の現状を理解し説明するとともに、その課題を指摘できる	
		事前学修	男女共同参画白書（令和元年版）Ⅱ第1部第3章（政策決定への参画）、第4章（雇用）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、女性の雇用の現状や政策決定等について、自分なりの説明をまとめる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土 5/16	人手不足と企業の対応	人手不足と企業の対応、高齢者雇用、障害者雇用について学習する。	
		この回の到達目標	人手不足と企業の対応、高齢者雇用、障害者雇用について理解し説明することができる。	
		事前学修	労働経済白書の第Ⅱ部第1章（人手不足等の現状）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、人手不足と企業の対応、高齢者雇用、障害者雇用等について、自分なりの説明をまとめる。	140分
8	第一部 土 5/23	非正規雇用 授業内試験（第1回）	非正規雇用（パート、契約社員、派遣労働者等）について、学習する。 また、第1回授業内試験）を行う。試験終了後に解説等を行う。	
		この回の到達目標	非正規雇用（パート、契約社員、派遣労働者等）の現状を理解し説明するとともに、その課題を指摘できる。	
		事前学修	労働経済白書のp35～p40を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、非正規雇用非正規雇用（パート、契約社員、派遣労働者等）について自分なりの説明をまとめる。	140分
9	第一部 土 5/30	少子化と地域経済、雇用	少子化の動向と地域経済と雇用について学習する。	
		この回の到達目標	少子化の動向と地域経済、雇用について理解し説明することができる	
		事前学修	労働経済白書（30年版）の第Ⅰ部第2章コラム1－4（p44～45）、労働経済白書（27年版）第4章（人口減少下の地域経済・雇用）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、少子化、地域経済と雇用について自分なりの説明をまとめる。ミニテストの結果を振り返り、これまでの講義の復習を行う。	140分
10	第一部 土 6/6	グローバル化と雇用、外国人労働者	グローバル化と雇用、外国人労働者について学習する。	
		この回の到達目標	グローバル化に伴う国内雇用への影響、外国人労働力の受入れについて理解し、その課題を指摘することができる	
		事前学修	経済財政白書第3章第3節（グローバル化と国内雇用等）、p213（外国人労働者）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、グローバル化に伴う国内雇用への影響、外国人労働力の受入れについての課題について自分なりの説明をまとめる。	140分
11	第一部 土 6/13	働きがい、職場環境	働きがいと職場環境について学習する。	
		この回の到達目標	働きがいと職場環境についての状況について理解し、その課題を指摘することができる	
		事前学修	労働経済白書の第Ⅱ部第2章（働きやすさ）、第3章（働きがい、環境）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、働きがいと職場環境について自分なりの説明をまとめる。	140分
12	第一部 土 6/20	安全衛生と労働災害、メンタルヘルス	職場における安全衛生と労働災害、メンタルヘルスについて、学習する。	
		この回の到達目標	職場における安全衛生と労働災害、メンタルヘルスについて、理解し説明することができる	
		事前学修	厚生労働省のリーフレット「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動 ～小売業・社会福祉施設・飲食店の労働災害の減少に向けて」、「Self care こころの健康 気づきのヒント集」を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、職場における安全衛生と労働災害、メンタルヘルスについて、自分なりの説明をまとめる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 土 6/27	労使関係、個別労働紛争	労使関係、個別労働紛争について、学習する。	
		この回の到達目標	労使関係、個別労働紛争について、理解し説明するとともに、その課題を指摘できる	
		事前学修	厚生労働省「平成30年度個別労働紛争解決制度の施行状況（PDF）」を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、労使関係、個別労働紛争について、現状と課題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）	140分
14	第一部 土 7/4	技術革新（AI等）と雇用、働き方の変革	技術革新（AI）等の現状と雇用や働き方に及ぼす影響について学習する。	
		この回の到達目標	技術革新（AI）等の現状と雇用や働き方に及ぼす影響とその課題、将来の姿を予測する	
		事前学修	経済財政白書（令和元年版）p96～106（Society5.0）、平成30年版p170～p204（第4次産業革命）を読み、内容を考察する。	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、労働生産性と能力開発について自分なりの説明をまとめる。ミニテストの結果を振り返り、これまでの講義の復習を行う。	140分
15	第一部 土 7/11	労働の未来 授業内試験（第2回）	グローバルな観点から、未来の労働と雇用の課題について学習する。 また、第2回授業内試験を行う。試験終了後に解説等を行う。レポートの講評も行う。	
		この回の到達目標	グローバルな観点から、未来の労働と雇用の課題について、理解し説明することができる。	
		事前学修	OECD Employment Outlook 2019 (The Future of Work (https://www.oecd.org/employment/Employment-Outlook-2019-Highlight-EN.pdf))を読み、内容を考察する。（2時間）	100分
		事後学修	講義ノートを確認して、グローバルな観点から、未来の労働と雇用の課題について、自分なりの説明をまとめる。授業内試験の結果を振り返り、これまでの講義全体を復習する。	140分

科目名	労働法Ⅰ	担当者	新谷 真人	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
日頃から労働問題に関心をもち、新聞報道等に注意してほしい。なお、労働法Ⅱを履修すると労働法の全体を学習することができる。

【授業方法】
ほぼテキストの順序どおりに講義する。毎回パワーポイントを使用する。スライドは事前又は事後に「学生教員共有ホルダー」にアップする。必要に応じ、新聞記事、DVD等を使用する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	60	20	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜質問を受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法・第2版	新谷真人編著	弘文堂	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日9:30～10:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 4/6 第二部火 4/7	ガイダンス・導入講義	労働法の体系	
		この回の 到達目標	労働法体系の全体像を理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を復習しておく。	120分
2	第一部月 4/13 第二部火 4/14	労働法の原理	労働法の法的特色	
		この回の 到達目標	労働法の特質と労働法の歴史について理解する。	
		事前学修	テキスト第1章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
3	第一部月 4/20 第二部火 4/21	日本国憲法と労働法	労働法の歴史と団結権保障の意義。	
		この回の 到達目標	わが国における労働法の展開と憲法の労働基本権保障について理解する。	
		事前学修	テキスト第1章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
4	第一部月 4/27第二 部火4/28	労働契約の意義	労働契約の成立，労働憲章	
		この回の 到達目標	労働契約の重要性と労働基準法の原理を理解する。	
		事前学修	テキスト第2章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
5	第一部月 5/11第二 部火5/12	労働契約の入口規制	採用内定、試用期間	
		この回の 到達目標	採用内定及び試用期間の法的性質を理解する。	
		事前学修	テキスト第2章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
6	第一部月 5/18第二 部火5/19	就業規則の意義	就業規則とその変更	
		この回の 到達目標	就業規則と労働契約の関係を理解する。	
		事前学修	テキスト第3章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部月 5/25第二 部火5/26	就業規則の懲戒規定	企業秩序と懲戒	
		この回の 到達目標	使用者の懲戒権とその濫用基準を理解する。	
		事前学修	テキスト第3章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
8	第一部月 6/1第二 部火6/2	配転・出向・転籍	企業社会における人事異動と法的諸問題。	
		この回の 到達目標	配転・出向・転籍の法的違いを説明できる。	
		事前学修	テキスト第4章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
9	第一部月 6/8第二 部火6/9	賃金の保護	賃金の定義、賃金請求権。	
		この回の 到達目標	賃金の法的な定義を理解する。	
		事前学修	テキスト第5章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
10	第一部月 6/15第二 部火6/16	賃金支払いの留意点	最低賃金、賃金支払いの原則	
		この回の 到達目標	最低賃金の意義、賃金支払いの4原則を説明できる。	
		事前学修	テキスト第5章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
11	第一部月 6/22第二 部火6/23	労働時間とは何か	法定労働時間と規制緩和	
		この回の 到達目標	法定労働時間を説明できる。	
		事前学修	テキスト第6章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
12	第一部月 6/29第二 部火6/30	時間外労働の法律問題	時間外・休日労働と割増賃金	
		この回の 到達目標	罰則付き上限規制という働き方改革を理解する。	
		事前学修	テキスト第6章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月7/6第二部火7/7	休憩・休日・年次有給休暇	休憩・休日・年次有給休暇と働き方改革	
		この回の到達目標	年次有給休暇の改正点を説明できる。	
		事前学修	テキスト第7章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
14	第一部月7/13第二部火7/14	労働災害の予防と補償	労働安全衛生法、労災保険法の基礎知識。	
		この回の到達目標	安衛法、労災保険法の仕組みを理解する。	
		事前学修	テキスト第8章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
15	第一部月7/20第二部火7/21	前学期末試験	論述式試験	
		この回の到達目標	なし	
		事前学修	これまでのノート、教科書に目を通しておく。	120分
		事後学修	試験を振り返る。	120分

科目名	労働法Ⅰ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法」及び民法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予めインターネット、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて発言する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	60	20	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ労働法	新谷真人編	弘文堂	2019年	教科書	推奨
ジュリスト労働判例百選9版		有斐閣	2014	参考書	推奨
備考	その他、講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館3階434研究室） ooyama.seigi@nihon-u.ac.jp（アポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 4/8 第二部 4/7	ガイダンス・労働法の概要	講義の進め方、評価方法等についての説明。労働法の概要を解説する。	
		この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられるのかを説明できる。	
		事前学修	憲法上の社会権と労働者の権利を概観する	120分
		事後学修	社会権および労働者の権利が憲法上承認されている意義を確認する。	120分
2	第一部 4/15 第二部 4/14	戦後社会の変容と労働法	戦後社会における労働法の機能と変化を概説し、現代における問題状況を考察する。	
		この回の到達目標	社会状況の変化に対応する労働法の機能とともに、現状における労働法の課題を説明できる。	
		事前学修	高校の「現代社会」もしくは「政治・経済」を復習し戦後日本社会の変容を学習する。	120分
		事後学修	紹介した裁判例を通じて、労働法の史的展開の意義と役割を理解する。	120分
3	第一部 4/22 第二部 4/21	労働関係の成立	どのようにして労働関係が成立するのか、また労働関係の意義を解説する。	
		この回の到達目標	労働関係成立のプロセスそれぞれの場合における問題がどのように処理されるのか説明できる。	
		事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読んでおく	120分
		事後学修	労働関係に関わる法文・裁判例等について知識を確実にする。	120分
4	第一部 4/29 第二部 4/28	労働関係の当事者	労働関係とは、労働者、労働組合、使用者を基本的形成されることを解説する	
		この回の到達目標	「労働者」「使用者」の概念は各法律の目的によって異なり、その画定作業が重要であることを説明できる。	
		事前学修	労働者概念が問題となる理由・背景を調べる。	120分
		事後学修	「労働者」「使用者」を画定するための実体的要素と法適用の効果を理解する。	120分
5	第一部 4/29 第二部 4/28	労働条件の決定と変更	労働条件の決定・変更について、労働契約・就業規則・労働協約それぞれの機能を解説する。	
		この回の到達目標	労働契約・就業規則・労働協約が労働条件決定・変更についてそれぞれの関係性を説明できる。	
		事前学修	教科書などを通じて就業規則の意義を調べる	120分
		事後学修	就業規則で労働条件の決定・変更を行う場合の要件を確認する	120分
6	第一部 5/6 第二部 5/5	賃金について	労働関係において重要な賃金に関する法規制について解説する。	
		この回の到達目標	賃金の定義、法規制の意義について説明できる。	
		事前学修	各地域の最低賃金を調べ、教科書の当該テーマ部分を読む。	120分
		事後学修	賃金に関する法規制の原則を確認し、将来、これがどのように変化するのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 5/13 第二部 5/12	労働時間	労働時間の意義と規制方法について解説する	
		この回の到達目標	労働時間は賃金や労働災害の場面だけではなくワークライフバランスの観点からも重要な検討課題であることを説明できる。	
		事前学修	日本における長時間労働問題を調べる。	120分
		事後学修	労働時間の原則的な法規制のあり方を確認する。	120分
8	第一部 5/20 第二部 5/19	変形労働時間・裁量労働制	原則的労働時間とは別に変形労働時間や裁量労働制が容認されている背景と課題を説明する。	
		この回の到達目標	変形労働時間制・裁量労働制が認められる要件と実体的課題を説明できる。	
		事前学修	変形労働時間制・裁量労働制について身近な例を考えてみる。	120分
		事後学修	変形労働時間制・裁量労働制に関する法規制の意義を役割を再検討する。	120分
9	第一部 5/27 第二部 5/26	休憩時間・有給休暇・休日	労働時間ではない労働者の時間に関する法規制を解説する。	
		この回の到達目標	労働者が労働から解放される時間とはどのような意義を有するのか、法規制のあり方を説明できる。	
		事前学修	有給休暇取得に関する統計データ等を官公庁のウェブサイトで入手し読んでおく。	120分
		事後学修	実効性のあるワークライフバランスを確立するために何が必要か考える。	120分
10	第一部 6/3 第二部 6/2	配転・出向について	使用者の配転・出向命令の権限と制限に関して解説する。	
		この回の到達目標	労働契約法や裁判例を通して、配転・出向の有効要件を説明できる。	
		事前学修	配転・出向を労働者のワークライフバランスという観点から検討しておく。	120分
		事後学修	従来の判例法理の課題を踏まえ、今後の展開について考えをまとめる。	120分
11	第一部 6/10 第二部 6/9	使用者の懲戒権	使用者の懲戒権とは何か、その根拠と限界について解説する。	
		この回の到達目標	懲戒権に関する判例法理の整理と課題について説明できる。	
		事前学修	懲戒処分に関する基本的事項について教科書等で学習する。	120分
		事後学修	裁判例で出される懲戒権の根拠について整理する。	120分
12	第一部 6/17 第二部 6/16	労働関係の終了	労働者による退職、使用者による解雇、それぞれに対する法規制のあり方について説明する。	
		この回の到達目標	使用者の解雇権に対する制約法理を労働契約法や裁判例をとおして説明できる。	
		事前学修	合意解約、退職、解雇、それぞれの法的相違を調べる。	120分
		事後学修	解雇無効の場合における金銭的解決制度の導入の課題をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 6/24 第二部 6/23	有期労働契約の終了	非典型雇用である有期労働契約の期間満了と使用者による更新拒絶の場合について、更新拒絶ができない要件を説明する。	
		この回の到達目標	有期労働契約を締結した場合に生じる法的問題を、労働契約法や裁判例を通して説明できる。	
		事前学修	非正規雇用（有期労働契約、パートタイム労働者、派遣労働者等）の現状について官公庁の調査結果を調べる。	120分
		事後学修	法文・裁判例等についての知識を確実にする。	120分
14	第一部 7/1 第二部 6/30	非典型雇用と法規制	派遣労働者、パートタイマー、有期契約労働者などに関する法的保護はどのようにになっているのかを説明する。	
		この回の到達目標	非典型雇用で働く労働者の状況と法的保護の課題を説明できる。	
		事前学修	三者間構成される派遣労働の法的関係を整理しておく。	120分
		事後学修	非典型雇用ともに個人事業主やフリーランサーの法的保護のあり方を考える。	120分
15	第一部 7/8 第二部 7/7	労働者の人格権の保護	労働者は使用者の指揮命令に従って働くが、その際にも労働者の人格権は保護されなければならない、労働現場において労働者の人格権保護がどのような形で問題となるかを説明する。	
		この回の到達目標	職場におけるハラスメントや服務規律と労働者の自己決定権の問題を裁判例等を通して説明できる	
		事前学修	憲法13条の幸福追求権を学習する。	120分
		事後学修	労働者としての人格権、一個人としての人格権、それぞれの異同と制約論理をまとめる。	120分

科目名	労働法Ⅱ	担当者	新谷 真人	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
集团的労働法分野と新たな労働法領域を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働組合法など集团的分野を中心に、労働組合、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争、労使紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
日頃から労働問題に関心をもち、新聞報道等に注意してほしい。労働法Ⅰから継続して履修するのが望ましい。

【授業方法】
ほぼテキストの順序どおりに講義する。毎回パワーポイントを使用する。スライドは事前又は事後に「学生教員共有ホルダー」にアップする。必要に応じ、新聞記事、DVD等を使用する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	集团的働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。						2		2				
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。						2		2				
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。						2		2				
④	新たな労働法分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。						2		2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	60	20	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
適宜質問を受け付ける。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法・第2版	新谷真人編著	弘文堂	2019年	教科書	推奨
備考	教科書は2019年2月刊行予定。初版は働き方改革の動向が反映されておらず適切でない。				

【オフィスアワー】	
月曜日9:30～10:30	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部月 9/14第二 部火9/15	ガイダンス・導入講義	後学期は、均等法、解雇などの個別的労働法と、労働組合法を中心とした集团的労働法を扱う。	
		この回の 到達目標	残された労働問題にはどのようなものがあるかを理解する。	
		事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。	120分
		事後学修	ガイダンスの内容を復習しておく。	120分
2	第一部月 9/21第二 部火9/22	男女雇用機会均等法	男女雇用機会均等法の概要。	
		この回の 到達目標	男女雇用機会均等法の概要を説明できる。	
		事前学修	テキスト第9章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
3	第一部月 9/28第二 部火9/29	セクシュアルハラスメント	セクシュアルハラスメントの防止義務（DVD使用予定）	
		この回の 到達目標	何がセクハラに当たるかを理解する。	
		事前学修	テキスト第9章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
4	第一部月 10/5第二 部火10/6	有期労働法制	非正規労働者の法律問題	
		この回の 到達目標	無期転換制度、同一労働同一賃金などの考え方を説明できる。	
		事前学修	テキスト第9章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
5	第一部月 10/12第二 部火 10/13	雇用の終了	退職と解雇	
		この回の 到達目標	解雇予告制度、解雇権濫用の法理を説明できる。	
		事前学修	テキスト第10章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
6	第一部月 10/19第二 部火 10/20	特殊な雇用終了	整理解雇、定年制	
		この回の 到達目標	高年齢者雇用確保措置について説明できる。	
		事前学修	テキスト第10章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
7	第一部月 10/26第二部火 10/27	団結権保障と労働組合法	団結権保障、公務員の労働基本権
		この回の到達目標	憲法28条の団結権保障の意義を理解する。
		事前学修	テキスト第11章を読んでおく。120分
		事後学修	スライドを確認する。120分
8	第一部月 11/9第二部火 11/10	労働組合法	労組法上の労働組合、組合活動の正当性
		この回の到達目標	労組法上の労働組合の定義と組合活動の正当性の限界を理解する。
		事前学修	テキスト第11章を読んでおく。120分
		事後学修	スライドを確認する。120分
9	第一部月 11/16第二部火 11/17	不当労働行為制度	不当労働行為制度の概要
		この回の到達目標	不当労働行為制度の沿革について説明できる。
		事前学修	テキスト第12章を読んでおく。120分
		事後学修	スライドを確認する。120分
10	第一部月 11/23第二部火 11/24	不当労働行為の救済	不当労働行為の類型と法的救済
		この回の到達目標	労働組合はどのように不当労働行為から保護されているかを理解する。
		事前学修	テキスト第12章を読んでおく。120分
		事後学修	スライドを確認する。120分
11	第一部月 11/30第二部火 12/1	団体交渉	団体交渉の当事者、交渉事項など。
		この回の到達目標	団体交渉のルールを理解する。
		事前学修	テキスト第13章を読んでおく。120分
		事後学修	スライドを確認する。120分
12	第一部月 12/7第二部火 12/8	労働協約	労働協約の効力
		この回の到達目標	労働協約の構造と効力について説明できる。
		事前学修	テキスト第13章を読んでおく。120分
		事後学修	スライドを確認する。120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部月 12/14第 二部火 12/15	争議行為	争議行為の意義	
		この回の 到達目標	争議権保障の重要性を理解する。	
		事前学修	テキスト第14章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
14	第一部月 12/21第 二部火 12/22	争議行為の正当性	争議行為の種類と正当性	
		この回の 到達目標	争議行為の正当性の判断基準を説明できる。	
		事前学修	テキスト第14章を読んでおく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分
15	第一部月 1/18第 二部火 1/12	復習	後学期の内容を復習する。	
		この回の 到達目標	団結権、労働組合の法的位置付けを再確認する。	
		事前学修	これまでの教科書、ノートに目を通しておく。	120分
		事後学修	スライドを確認する。	120分

科目名	労働法Ⅱ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法」及び民法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予めインターネット、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて発言する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④	新たな労働法分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを筆記試験により評価する。	55	15	15	15							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	15	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ労働法	新谷真人編	弘文堂	2019年	教科書	推奨
ジュリスト労働判例百選9版		有斐閣	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館3階434研究室） ooyama.seigi@nihon-u.ac.jp（アポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/16 第二部 9/15	ガイダンス・労働法の概要	講義の進め方、評価方法等についての説明。特に集团的労働法の概要を解説する。	
		この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられるのかを説明できる。	
		事前学修	憲法上の社会権と労働者の権利を概観する。	120分
		事後学修	社会権および労働者の権利が憲法上承認されている意義を確認する。	120分
2	第一部 9/23 第二部 9/22	労働災害の予防	労働災害に関し事前予防のための労働安全衛生法について概要を説明する。	
		この回の到達目標	労働災害を防止するために労働安全衛生法が果たしている役割を説明できる。	
		事前学修	どのような労働災害が発生しているのか厚労省の発表資料など基に調べる。	120分
		事後学修	労働者のメンタルヘルスケアについて企業が行うべき措置を考える。	120分
3	第一部 9/30 第二部 9/29	労働災害に対する補償	法律上、労働災害とは何か、また不幸にして労働災害が発生した場合、被災労働者あるいは遺族に対してどのような補償があるのか、これらを説明する。	
		この回の到達目標	労働災害として労働災害補償保険法の適用を受ける場合の業務上外の認定基準について説明できる。	
		事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読んでおく。	120分
		事後学修	労災民訴と労災保険との関係を整理する。	120分
4	第一部 10/7 第二部 10/6	育児介護への労働者の関わり	労働者のライフステージには育児や介護にかかわる場合が生じる。労働者が働きながら育児介護に携わるための法律である育児介護休業法を説明する。	
		この回の到達目標	労働者が育児介護休業等を取得する場合の要件や使用者に不利益取り扱い禁止などについて説明できる。	
		事前学修	育児や介護で休業している労働者が周辺にいる場合、実態の聞き取りをする。	120分
		事後学修	現行法の課題と改善策について考えをまとめる。	120分
5	第一部 10/14 第二部 10/13	雇用における均等・均衡待遇問題	雇用機会均等法を中心に雇用における両性の平等、雇用形態を理由とした差別的取扱いの禁止等を説明できる。	
		この回の到達目標	合理的な理由ない差別が労働現場において禁止されていることを立法や裁判例を通じて説明できる。	
		事前学修	現代社会における雇用差別とはどのようなものがあるか、調べる。	120分
		事後学修	今後、雇用機会均等法がどのように展開していくと予想されるか、考える。	120分
6	第一部 10/21 第二部 10/20	労働組合とは	憲法28条で保障されている労働三権に基づき、労働者は労働組合を結成し活動することができる。労働組合に関する歴史的展開と労働組合が直面する課題について説明する。	
		この回の到達目標	労働組合の意義と機能について考え、「刑事免責」「民事免責」が認めらる労働組合は単なる結社ではないこと、また憲法上保障された労働者の権利が公務員については制約されていることも説明できる。	
		事前学修	現在労働組合がどのような活動をしているのかを労働組合のホームページなどで調べる。	120分
		事後学修	これまでの企業別労働組合が直面している課題は何か、また新たな労働組合運動の課題は何かを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/28 第二部 10/27	労働組合法上の労働者と使用者	誰が労働組合を結成することができるのか、また誰が労働組合の相手方となる使用者となるのかについて説明する。	
		この回の到達目標	労働組合法上の労使関係当事者の決定するためには、それぞれどのような事情が必要となるのか裁判例を通して説明できる。	
		事前学修	新聞、テレビ、ウェブサイトのニュースなどで労使紛争の断面を理解する。	120分
		事後学修	労働組合法上保護を受ける前提として労働組合の組織運営等について調べる。	120分
8	第一部 11/11 第二部 11/10	不当労働行為（不利益取り扱い）	使用者は労働者が労働組合員であることなどをもって解雇などの不利益取り扱いをすることは不当労働行為として法的に禁じられている。不当労働行為制度の概要について解説する。	
		この回の到達目標	行政救済としての不当労働行為制度と司法救済を裁判例などを通じて説明できる。	
		事前学修	行政救済と取消のための行政訴訟手続きについて調べて理解しておく。	120分
		事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について考える。	120分
9	第一部 11/18 第二部 11/17	不当労働行為の種類態様	不当労働行為の種類と態様について裁判例などを通じて説明し、不当労働行為についてはどのような救済がなされるのかを説明する。	
		この回の到達目標	不当労働行為の種類と態様によってそれぞれ救済方法も異なることなどを説明できる。	
		事前学修	労組法上の使用者概念と労働者概念についてあらためて調べる。	120分
		事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について考える。	120分
10	第一部 11/25 第二部 11/24	団体交渉	労働組合と使用者との団体交渉の意義、団体交渉事項、使用者が団体交渉を拒否した場合などについて説明する。	
		この回の到達目標	使用者の団体交渉拒否と団体交渉応諾義務の内容について説明できる。	
		事前学修	労働者個人の労働条件決定システムについて復習する。	120分
		事後学修	団体交渉が認められてきた歴史的経緯を踏まえ、労働組合の権能について考えてみる。	120分
11	第一部 12/2 第二部 12/1	労働協約	労働組合と使用者は、労働条件などについて労働協約を締結することができる。労働協約の効力などについて説明する。	
		この回の到達目標	労働協約の形式、効力、法的性質について説明できる。	
		事前学修	労働条件決定システムにおける労働協約の位置づけを調べる。	120分
		事後学修	労働協約の効力について一般的拘束力と少数組合の独立性について考える。	120分
12	第一部 12/9 第二部 12/8	労働協約変更による労働条件の不利益変更	使用者と労働組合は労働協約を変更することにより労働組合員等の労働条件を不利益に変更することもできる。この場合の要件等について説明する。	
		この回の到達目標	労使自治、協約自治の原則により労働条件の不利益変更は可能であるが、一方で協約自治にも限界があることを説明できる。	
		事前学修	就業規則の不利益変更の場合における、有効要件を労働契約法や裁判例で確認する。	120分
		事後学修	労働協約と就業規則の役割の違いと理解したうえで、労働条件の不利益変更が認められる場合の要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/16 第二部 12/15	組合活動	労働組合は、争議行為とは別に情宣活動など通常様々な活動をしている。これらの活動が場合によっては使用者との対立事項となることもある。これらが法的に保護されるための要件について説明する。	
		この回の到達目標	判例上、正当な労働組合活動とはどのような形態をいうのか、様々な事例から説明できる。	
		事前学修	ニュースなどで労働組合活動と法的トラブルについて調べる。	120分
		事後学修	労働組合活動の意義と現代的展開について考えてみる。	120分
14	第一部 12/23 第二部 12/22	争議行為	労働組合は自らの要求を使用者に認めさせるためにストライキを行う権利を有している。こうした争議行為について説明する。	
		この回の到達目標	争議行為の意義、正当性、使用者による対抗手段等について説明できる。	
		事前学修	ニュースなどで過去日本において行われた争議にはどのようなものがあったかを調べる。	120分
		事後学修	争議行為が認められた歴史的経緯を踏まえたうえで、争議行為の現代的な意味を考えてみる。	120分
15	第一部 1/13 第二部 1/12	個別的労使紛争と救済制度	個別的労使紛争については、司法救済だけではなく行政が関与することによって問題解決を図る制度が用意されている。これについて説明する。	
		この回の到達目標	自らが労使紛争の当事者となった場合、いかなる	
		事前学修	ウェブサイト上で公的機関が設けている労働相談窓口等の種類を調べる。	120分
		事後学修	自らの権利を守るためにどのような手段を取りうるのか制度等を整理しておく。	120分

科目名	ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	担当者	大西 正行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
世論を地方及び中央メディアの情報質量の総和と捉え、地方紙、地方民放（テレビ、ラジオ）地方出版、コミュニティFM等による情報発信の現況を把握し、地域再生と向き合う「ローカル／コミュニティ・メディア」の今日の取り組みを、中央メディアとの発展過程の対比も交えて俯瞰する。加えてネット社会がもたらす既存メディアの変容も把握し、急速に進む日本の少子高齢化と地方の人口減、東京一極集中が問われる中、地方からの視座を堅持しつつ、世界の潮流、安全保障もにらんで地域からの情報発信を続ける地方メディアの現場主義を再評価し、メディアリテラシー向上に資する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
地方自立の世論を担う地方メディアの課題と使命を全国メディアの姿と併せて説明できる人材を養成することを目的とする。地方が取り組む地域再生等の報道内容を吟味。地方で全国紙以上の世論形成力を持つ地方紙を中心に、中央目線では発信し得ないコンテンツの重要性を学修する。イージス・アショア配備問題で国のデータの誤りを突いた県紙の調査報道、必要論に立つ整備新幹線報道はじめ、外交・防衛も地方の眼で捉え、様々なテーマに対し関係する資料を履修者自らも調べ問題発見を重ねる学修態度が備わるよう努める。地方メディアと通信社との不可分な関係も把握し、ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会で適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
パワーポイントで講義。 随時、時事的テーマも取り上げる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	体験学習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中央目線では発信し得ない地方メディアならではの情報内容（コンテンツ）の重要性を説明することができる。						3	3	3	3		3		
②	ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会において、適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになる。											3		
③	授業で関心を抱いたテーマに対し、自ら様々な報道内容や文献を調査して更なる問題発見を重ねる積極的な学修態度が備わるようになる。									3	3			
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	中央目線では発信し得ない地方メディアならではの情報内容の重要性を説明することができる）ために➡戦前の「一県一紙」政策が継承された地方紙や他のメディアの歴史も念頭に、概ねその地方においては全国紙を凌ぐ世論形成力を持つ地方紙発の報道を例に、ネット社会にあって既存地方メディアの現状と展望を説明してもらう課題を問う。	40										40
小テスト等												
レポート等	〈自ら様々な報道内容や文献を調査して更なる問題発見を重ねる積極的な学修態度が備わるようになる〉ために➡授業後に提出してもらうリアクションペーパーに、過去の授業で学生が個々に関心を抱いたテーマに関し自ら図書館、ネット等で調べた結果、「納得した」あるいは「更なる疑問を抱いた」内容について書いて出してもらう。			40								40
討論・発表等	〈実社会において、適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになる〉ために➡現場の体験学習（共同通信社見学）、さらに見学後の授業で「現場で実感した中央メディアと地方メディアの差異と課題等」について論理的な主張内容を各自書面にしたうえで討議し、論理的かつ説得力のある発表討論能力・コミュニケーション能力向上の機会とさせる。		20									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説はポータルサイトにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
リアクションペーパーも活用し質問や相談等に対応する。オフィスアワー（金曜日授業終了後の１７：５０～１８：２０）に「授業講堂」にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	平成17年4月から日本大学法学部新聞学科非常勤講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		平成5年から約7年間、地方紙編集局長。それまでの記者経験なども踏まえて、文章作法（新聞学科）や地域メディア論（他大）の授業も担当	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/10	「ガイドンス」〈列島の地方紙の今〉	地方メディアの中心的存在である地方紙の全体像を学修する。 また、授業のテーマや内容、授業の流れ、成績評価の方法等を説明することにより、受講生は授業計画を知り、授業に準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、地方メディアの基軸と言ってよい、全国各地で毎日発行されているの地方紙の実際の姿を「鳥の目」で大づかみし、全国紙と対比して説明できるようになる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでもらい、講義全体の流れを概観する。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
2	4/17	「地方紙はなぜ必要か」 (上) イージス・アショア問題の 地方紙調査報道から考える	秋田県へのイージス・アショア配備問題における県紙の報道や社説を例に、 地方目線に立った地方メディアの長期にわたる報道姿勢を検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、2019年の新聞協会賞を受賞した秋田魁新報の報道ぶりを検証することで、地方メディアの調査報道の重要性を説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
3	4/24	「地方紙はなぜ必要か」 (下) 整備新幹線延伸等の地方紙 報道から考える	財政難を理由とした政府の整備新幹線建設抑制方針と対峙し、新幹線を地方活性化の最重点に据えて建設促進を社説等で唱え続けた地方メディア（地方紙）の世論が、地方を動かし、政府の高い壁を突き崩した歴史を検証する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、北陸新幹線「東京―金沢間」が開通し、福井から大阪への延伸報道が活発化する今、建設促進を是とする沿線地方紙とこれにブレーキをかけてきた全国紙の報道・社説を巡る攻防の歴史等から、地方紙・全国紙の整備新幹線報道に内在する正反対の立ち位置を説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
4	5/1	戦前の「一県一紙」政策と 地方紙	地方メディア（地方紙）の発展は、県民の政治意識の高まりに加え、戦前、国防を意識した政府の「一県一紙」政策とも密接に関わっていたことに対する認識を深める。 （地方紙から説き起こす地方メディアの成長と戦時報道（戦前戦中編）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、「報道報国」の名のもと、国防と世論統制の必要から実施された「一県一紙」政策は、さながら全国紙の〈都会からの緊急避難〉の様相を呈し、そのことが今日の地方紙の存立基盤を固めさせる要因となった点などを説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
5	5/8	地方紙を重視した 民主主義の国アメリカ	地方メディアの発達とは、日本の敗戦後、日本の民主化を主導したアメリカを抜きにしては語れず、新聞の民主化を積極的に推進したGHQの施策と日本の地方紙を含むメディアの変容についての認識を深める。（戦後編）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、国防の必要から編み出された「一県一紙」政策は、敗戦後、GHQの占領下もくぐり抜け（「1940年体制論」維持論も紹介）、戦後民主主義の中で定着し、地方紙各紙は「地方メディア」の中核として、地方の世論を牽引して今日に至っていることを説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
6	5/15	地方紙とも競合する 全国紙の今は	「全国紙（全国紙対全国紙）VS地方紙（ブロック紙対県紙）」の複雑な競合関係のもとで戦後も地方紙との運命共同体として生き残る通信社の立ち位置について認識を深める。 （現代編）	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、全国紙各紙の2020年の大方針等をもとにして、多くの地方紙と競合する構造にある全国紙の報道を軸とした今後の展開の方向性を説明できる。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/22	共同通信社見学 (体験学習)	地方メディア〈地方紙等〉に伴走してきた日本最大の通信社（共同通信社）の現場を見学することで、同社のメディア業界における位置づけと存在感を直に受けとめ、今後のメディアに関する質問、発表、討論等の説得力の弾みとする。	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関して、多くの地方紙が運命共同体と位置付ける共同通信社（本社は東京・汐留）を見学して、地方（地方民放等も含む）メディアへの影響力をリアルに説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
8	5/29	体験学習を踏まえた (討論・発表) ガリバー共同通信の明日の課題と「ネット」展開	一般社団法人「共同通信社」が見つめる令和の時代のジャーナリズムとは何かについて、様々な意見を開陳し討論することで、日本最大の通信社の今後を通して日本のメディアの姿を模索する機会とする。 インターネットで伝えるニュースの展開・地方紙と共同通信（47News）等のネット戦略	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、共同通信社の目指すメディアとしての方向性を理解し、質問し、多角的に評価できるようになる。新聞離れが言われる中、加盟地方紙への記事配信に付加し、加盟地方紙との連携によるネット記事戦略も説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
9	6/5	ラジオがあったからこそ テレビの時代がやってきた	民放キー局は全国紙、地方民放局は多くの地方紙もその誕生に関わる日本のテレビの発達、ラジオの発達と深く関わっている。特に民放ラジオの発展は「広告の鬼」と呼ばれた電通吉田秀雄氏が推進したCMの定着が大きく、その実績が民放テレビの普及を促進した要素などについて学び、NHKとの対比の中で電波メディア全体の認識を深める。 (NHKを見据えて)	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、NHKラジオの「君の名は」の空前のブームなど電波メディアの発達史をたどりながら、広告費をとる民放ラジオが誕生し、民放テレビの登場の地ならしとなった背景を説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
10	6/12	テレビの父・正力松太郎 と地方局	読売新聞の経営中枢を担う一方、テレビによる「国民の娯楽」を追求した戦後のメディア王の生き方を、東京から地方への文化発信の流れとも併せて説明できるようにする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、NHKの動きをにらんで、富山県出身の元警察官僚正力松太郎が奔走した民放テレビ局の誕生の歴史と後続のキー局、系列の地方局誕生の流れが説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
11	6/19	系列地方局の今日と明日	インターネット時代にあって、地方民放テレビが問われるものは、それこそ「地方に根差した地方コンテンツの発信の量と質」と言われるが、キー局への依存体質の見直しは容易でない現実を直視する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、NHKの番組ネット同時配信に民放キー局も追随する「放送と通信の本格的な融合時代」にあって、キー局系列下の地方民放は「自主番組」制作能力が一層問われる時代を迎えており、その取り組みを説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
12	6/26	地域社会の弱小電波 コミュニティFMが 燃やし続ける松明（たいまつ）	アジアの子どもの教育支援等も企画するなど、放送エリアの地域と結びついた取り組みも積極的に進める埼玉県鴻巣市のフラワーラジオ等の展開を例に、コミュニティFMの課題を説明できる	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、災害情報発信の切り札として誕生し歴史を重ねてきた全国各地のコミュニティFMの課題と新たな取り組みを説明できる。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/3	地方出版のゆくえ	メジャーの出版社とは違い郷土史の発行などで生き残っている地方の出版社の日常を俯瞰し、都会のメジャー出版社との対比の中で、「良い本」づくりの可能性を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地元のみならず全国の読者に評価される本の出版にこだわり続ける長野県の龍鳳書房などに焦点を当てて、その志を見つめ、超零細と言われながら地方に息づく出版人の存在を説明できるようにする。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
14	7/10	広告ビジネスは地方メディアを支えるか	インターネット広告費がテレビの広告費を越えていく境目の時代にあって、地方紙の広告収入の厳しさ、テレビの視聴率、ラジオの聴取率等が地方民放にもたらす影響などを見つめ、「地方のジャーナリズム」「地方文化の継承発展の担い手」である地方メディアの将来を読む。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、地方ジャーナリズムを支える収入面の推移を大手広告会社のデータなどから分析。地方紙の広告収入の厳しさ、地方民放の経営の厳しさを見つめ、地方メディアの現況を説明できる。	
		事前学修	予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義で配布した資料等をもとに復習し関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
15	7/17	授業内試験	前期のまとめ〈課題執筆〉	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、「地方自立の世論を担う地方メディアの課題と歴史的使命を全国の状況と併せて理解し説明できる人材を養成することを目的とする」という授業の目的を踏まえ、設定した課題に対しその到達目標に即した課題に対する答案を書いてもらう	
		事前学修	これまでの授業を振り返って学んだことを整理し授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	各講義で配布した資料等を再点検し、就職活動や社会に出てからの就業の糧にしてもらう	120分

科目名	ローカル／コミュニティ・メディアⅡ	担当者	大西 正行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
世論を地方及び中央メディアの情報質量の総和と捉え、地方紙、地方民放（テレビ、ラジオ）地方出版、コミュニティFM等による情報発信の現況を把握し、地域再生と向き合う「ローカル／コミュニティ・メディア」の今日の取り組みを、中央メディアとの発展過程の対比も交えて俯瞰する。加えてネット社会がもたらす既存メディアの変容も把握し、急速に進む日本の少子高齢化と地方の人口減、東京一極集中が問われる中、地方からの視座を堅持しつつ、世界の潮流、安全保障もにらんで地域からの情報発信を続ける地方メディアの現場主義を再評価し、メディアリテラシー向上に資する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自立の世論を担う地方メディアの課題を全国の状況と併せて理解し説明できる人材を養成することを目的とする。地方が直面する人口減少、少子高齢化、地域再生等の報道内容を直視。中央目線では発信し得ないコンテンツの重要性を学修する。地方メディアの発達過程と現況を軸に学修した一学期を踏まえて、二学期では、メディア企業への就職就業を志したり、公務員等メディアと関わる進路を意識する学生のニーズも意識。ジャーナリズムやメディアに係るテーマを取り上げ、長年、新聞編集に関わった教員の実務経験も元に、地方・行政・社会・福祉等、多岐にわたるジャンルの課題をより実践的に捉え、学生にとって地に足がついた現場感覚の洞察力が身につく契機とする。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
パワーポイントで講義。 随時、時事的テーマも取り上げる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方再生・行政・社会・福祉等、多岐にわたるジャーナリズムの課題を洞察力を身に付け幅広く実践的に捉え、説明することができる。				3	3	3	3				
②	授業で関心を抱いたテーマに対し、自ら様々な報道内容や文献を調査して更なる自己発見を重ねる積極的な学習態度が備わるようになる。						3	3				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	〈地方再生・行政・社会・福祉等、多岐にわたる分野のジャーナリズムの課題を洞察力をもって幅広く実践的に捉えることができるようになる〉ために ➡地方における今日的問題を絡めた報道最近あるいは過去の重要と思われる出題テーマを掘り下げ、そのニュースに説得力のある意味付けをして執筆できるようにする。	60										60
小テスト等												
レポート等	〈自ら様々な報道内容や文献を調査して更なる自己発見を重ねる積極的な学修態度が備わるようになる〉ために ➡授業の折々に提出してもらうリアクションペーパーに、それまでの授業で学生が個々に関心を抱いたテーマを自ら積極的に図書館等で調べた結果、「納得」あるいは「更なる疑問を抱いた」事柄について書いて提出してもらう。		40									40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説はポータルサイトにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
リアクションペーパーも活用し質問や相談等に対応する。オフィスアワー<金曜日１７：５０～１８：２０=授業終了後>に「授業講堂」にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	平成17年4月から日本大学法学部新聞学科非常勤講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		平成5年から約7年間、地方紙編集局長。それまでの記者経験なども踏まえて、文章作法（新聞学科）や地域メディア論（他大）の授業も担当	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/18	「地方紙の五輪（スポーツ）報道」	後期ガイダンス（地方メディアの情報発信を例に、その内燃と自噴の大切さに触れていく。後期段階の国内外・地方の情勢を踏まえ、地方メディアと関係する時事的テーマも、今後の授業で加味（取捨選択）していくことについても説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、地方メディアの東京五輪（スポーツ）報道を例に、在京紙と比較し、その内燃と自噴の大切さを説明できる。	
		事前学修	シラバスの内容をよく読んでもらい、講義全体の流れを概観する。	120分
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
2	9/25	「令和時代の皇室報道」	地べたのジャーナリズムを担う地方メディアならではの皇室報道を、歴史も辿りながら掘り下げる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、地方への行幸啓等の対する各メディアの報道ぶりから、令和時代の皇室のありようを説明できる。	
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
3	10/2	「憲法改正論議と地方紙・全国紙の社説論調」	地方・中央メディアの社説の論調と、二極化が際立つ中央メディアの論調の源流（憲法とも関連付けて）を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、全国紙の憲法を巡る論調の二極化と主要地方紙の社説等を比較し、憲法改正問題の現状を説明できる。	
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
4	10/9	「外交と安全保障」 一極東、中東問題報道から考える	朝鮮半島情勢、中東問題等と絡む外交・安全保障を地方・中央メディアの報道を比較しつつ分析する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、米大統領選の行方にもらんで、日本の外交・防衛問題とそれを報道する全国紙はもとより、沖縄の地方紙をはじめとするメディアの姿勢を説明できる。	
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
5	10/16	「地方メディアと社会保障報道」	地方と密接不可分の社会保障問題について地方・中央メディアの報道を検証し人口減、少子高齢化に直面する地方の今後の方向性を探る。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、地域が共に支えなければならないこれからの福祉の本質を説明することができる。	
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分
6	10/23	「地方政治行政報道と地方メディア」	霞が関・永田町の中央目線と一定の距離を置く地方（都道府県市町村）の行政政治報道からうかがえる、地方メディア・中央メディアの立ち位置をそれぞれの報道ぶりから洞察する	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、地方自治をかけがえのないものと位置付け地方の自立を重視する地方メディアの報道を、霞が関・永田町（国政）の動向も絡めて説明できる。	
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。	120分
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	10/30	「災害報道と地方メディア」		地方が現場になるケースが多い災害と、防災報道に取り組む地方メディアの問題意識を中央メディアも見据えて探る。	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、かつて全国知事会が防災省の設置を要請したほど喫緊の課題である地方の防災への取り組みが説明できる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
8	11/6	「事件報道の原点と警察取材」		事件発生を知る端緒となる警察（県警）と伴走する地方メディア（中央メディアも見据えて）の取材の原点をリアルに把握する。	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、かつて政権崩壊につながったリクルート事件の端緒も例に、結果として政治や経済、人々の日々の暮らしに直結した社会問題の最大のニュース源を説明できる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
9	11/13	「県政報道と地方メディア」		地方行政をつかさどる知事を頂点とする県政の動きと地方メディア（中央メディアも見据えて）の姿を見つめ、地方自治の重要性を実感する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、地域に暮らす人々にとって、かけがえのない地方自治の推進は、首長と地方議会が主役だが、その政策を巡っては、IR問題に限らず、地方の望ましい発展を是々非々で評価する地方メディアの報道姿勢と首長・議員の判断が相反するケースも国政同様、少なくないことを説明できる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
10	11/20	「地域再生と地方メディア」		国に頼り切らない地方の経済発展は、常に地方の課題であり、各地方の地方経済発展の松明（たいまつ）役を担う地方メディアの報道を検証する。	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、地方メディア発の地域経済発展の提言報道等をもとに、その重要性を説明することができる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
11	11/27	「地方文化発展の中核を担う地方メディア」		県民性あつての地方文化と地方メディア（明治150年後。中央メディアも見据えて）の関係を掘り下げる。	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、地方メディア（とりわけ一世紀以上の歴史を持つ地方紙）の立脚点は、その地方の歴史に育まれた県民性への誇りと切り離せないことを認識し、説明できる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
12	12/4	「地域ブランディングとメディア」		これからの永続的論点：政府の地方創生と並走し、地域活性化のために地方からの全国・世界への発信を志す地域ブランディングの取り組み	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、地域を活性化させる方策としての地域ブランディングの取り組み等から、メディアのもう一つの役割を説明できる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
13	12/11	「地方の人口減と外国人労働者と地方メディア」		これからの永続的論点：人口減少と地方消滅の危機、少子高齢化対策（外国人労働者受け入れ拡大）と地方メディアの報道	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、東京一極集中がもたらす問題を地方メディアの報道等から探り、「事実上の移民政策」と言われる日本の地方の現況を説明できる。		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
14	12/18	「エネルギー問題と原発と地方メディア」		これからの永続的論点：東日本大震災に伴う福島第一原発事故後を報じてきた地方・中央メディアを見つめ、福島県、福井県等、日本のエネルギー基地を担ってきた地域の報道のありようを検証する。	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、地方メディアの原発報道の来し方行く末などから、日本のエネルギー問題に関わる世論の分断、趨勢を説明できる		
		事前学修	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。		
		事後学修	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。		
15	12/25	授業内試験		後期のまとめ<課題執筆>	
		この回の到達目標	地到達目標①②③④に関連し、「地方自立の世論を担う地方メディアの課題と歴史的使命を全国の状況と併せて理解し説明できる人材を養成することを目的とする」という授業の目的を踏まえ、設定した課題に対しその到達目標に即した課題に対する受講生の見解を書いてもらう。		
		事前学修	これまでの授業を振り返って整理し、授業に臨んでもらう。		
		事後学修	各講義で配布した資料等を再点検し、就職活動や社会に出てからの就業の糧にもしてもらう。		

科目名	ローマ法Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
この講義では、配布したレジュメを中心に解説を行う。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。各講義の最後には、その回で学修したテーマに関する授業内試験を実施し、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース・スタディを通じたグループワークを行なう。グループワークにおいては、予習時に得た知識および講義中に解説した知識を用いて、具体的な事案に対する法的判断をグループ内で話し合い、相互理解の共有を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、ローマ法に関する基礎的な知識の修得度及び理解度を授業内試験で評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回提出する授業内課題につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ物権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2007	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談izumo.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金4/10 第二部 木4/9	物の種類と分類	古典期ローマ法における物の種類とその分類を学修する。物概念は財産法の基礎であり、どのような物が規律の対象となるかは、財産法全体の構造を規定する問いである。この問いを導きの糸として、古代社会と現代日本社会との比較を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における物概念と日本の民法における物概念との異同を理解し、現代日本社会における物概念の特徴を記述することができる。	
		事前学修	日本の民法典における物の定義、種類、分類を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における物概念と日本の民法典における物概念との異同を整理し、現代日本社会における物の特徴をまとめる。	120分
2	第一部 金4/17 第二部 木4/16	占有（総論）	古典期ローマ法における占有の基本ルールを学修する。占有はローマ法の中でも難解な部類に属しており、現在においてもその社会的実像は強い関心を引いている。この講義では、その最も基礎的な部分を学修し、ローマ占有法の全体像を把握するための手がかりを提供する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の基本概念を理解し、日本法における占有概念と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における占有制度を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における占有制度と日本の民法典における占有制度との異同を整理し、現代日本社会における占有制度の概要をまとめる。	120分
3	第一部 金4/24 第二部 木4/23	占有（占有の取得・継続・喪失）	古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを学修する。占有の取得等の方法は多様であり、必ずしも画一的な基準に服するものではない。この講義では、その多様な占有の取得等を網羅的に紹介し、個々の具体的態様についても解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを理解し、日本法における占有の取得等のプロセスと比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における占有の取得、継続および喪失に関するルールを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失と日本の民法典におけるそれらとの異同を整理し、日本法における占有の取得等のプロセスをまとめる。	120分
4	第一部 金5/1 第二部 木4/30	占有（占有の保護）	古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを学修する。ローマ法における占有保護手段の中核は「特示命令（interdictum）」と呼ばれるものであり、この講義では、当該制度を中心に解説を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを理解し、日本法における占有保護の諸制度と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における占有の保護に関するルールを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における占有の保護と日本の民法典における占有の保護との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
5	第一部 金5/8 第二部 木5/7	所有（総論）	古典期ローマ法における所有の基本ルールを学修する。所有は近代法と最も密接な関連のある制度のひとつであるが、ローマ法上の「所有（dominium）」概念は、必ずしも近代法のそれと一致するわけではない。この講義ではその異同に注目しつつ、近代法の基盤である私的所有権制度の前身としてのローマ所有法を解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有の基本ルールを理解し、日本法における所有権概念と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における所有制度を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における所有制度と日本の民法典における所有制度との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
6	第一部 金5/15 第二部 木5/14	所有（相隣関係）	古典期ローマ法における相隣関係のルールを学修する。相隣関係は、所有権の絶対性を破る重要な例外のひとつであり、古代ローマにおいても無思慮な建設等は社会的制約を受けた。この講義では、古代ローマ人たちが相隣関係をどのように規律して生活していたのか、その一端を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における相隣関係のルールを理解し、日本法における相隣関係法と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における相隣関係のルールを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における相隣関係のルールと日本の民法典における相隣関係のルールとの異同を整理し、日本法における相隣関係の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金5/22 第二部 木5/21	所有（原始取得）	古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを学修する。日本法においても原始取得と承継取得の区別は維持されており、この講義では、原始取得から順番に紹介を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを理解し、日本法における所有権の原始取得のルールと比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における所有権の原始取得を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における所有権の原始取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
8	第一部 金5/29 第二部 木5/28	所有（承継取得）	古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを学修する。この講義では、前回の原始取得の学修を踏まえた上で、所有権の承継的な取得について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを理解し、日本法における所有権の承継取得と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における所有権の承継取得を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における所有権の承継取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
9	第一部 金6/5 第二部 木6/4	所有（所有権の保護）	古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。ローマ法上の所有権の保護は、いわゆる「所有物取戻し請求（rei vindicatio）」をはじめとして多岐に渡る。この講義では、日本法との異同に注意しつつ、これらの所有権保護制度を概観する。古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の保護制度を理解し、日本法における所有権の保護制度と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における所有権の保護制度を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における所有権の保護制度と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
10	第一部 金6/12 第二部 木6/11	役権	古典期ローマ法における「役権（servitus）」を学修する。役権は日本法においても地役権等の制度に名残をのこしているが、必ずしも同一の法制度であるとはいえない。この講義では、古代ローマ社会において重要な役割を果たしてきた役権について、日本法との異同に注意しつつ紹介を行なう。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における役権を理解し、日本法における類似制度と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における地役権を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における役権と日本の民法典における地役権との異同を整理し、日本法における地役権との違いをまとめる。	120分
11	第一部 金6/19 第二部 木6/18	用益権	古典期ローマ法における「用益権（ususfructus）」を学修する。用益権は旧民法では認められていたものの、現行民法の編纂過程で削除された経緯がある。日本では馴染みのない概念であるけれども、比較法上は重要な地位を占める。この講義では、ローマ法上の用益権の紹介を通じて、日本法の特徴について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における用益権を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本の旧民法の編纂過程において用益権が削除された理由を調べる。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における用益権を踏まえた上で、日本の民法典が用益権を採用していないことによって生じている論点を整理し、考察する。	120分
12	第一部 金6/26 第二部 木6/25	担保権	古典期ローマ法における担保権を、「質（pignus）」を中心に学修する。現代日本においても「質」という用語は民法典に明確に規定されているけれども、歴史的には日本法における意味が普遍的に妥当するわけではない。この講義では、質契約についても踏まえつつ、古代ローマにおける担保制度を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における担保権を、質を中心に理解し、日本法における担保権と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の民法典における担保権を復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における担保権と日本の民法典における担保権との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金7/3 第二部 木7/2	盗	古典期ローマ法における「盗（furtum）」を学修する。現代法においては私法と公法とが明確に区別されており、窃盗罪と窃盗によって生じた財産権侵害の私法上の救済（例えば損害賠償請求）とは分けて規律される。この講義では、私法と公法の区別が明確ではない古代ローマ法における盗の取り扱いを紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における盗を理解し、日本法における諸制度と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の法制度では窃盗に対して私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における盗に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
14	第一部 金7/10 第二部 木7/9	不法損害	古典期ローマ法における「不法損害（injuria）」を学修する。日本法もそうであるように、他人の名誉を傷つけることは、公法上のみならず私法上も救済の対象となる。この講義では、古代ローマ法における「不法損害」という概念を通じて、人格侵害に対する救済を考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における不法損害を理解し、現代日本における人格権の保護と比較して説明することができる。	
		事前学修	日本の法制度では他人の人格を貶めた場合に私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における人格侵害に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
15	第一部 金7/17 第二部 木7/16	まとめ（ローマ物権法の有機的理解）	この講義では、古典期ローマ法における物権法および不法行為法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。	
		事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。	180分
		事後学修	法の歴史的発展について、物権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。	60分

科目名	ローマ法Ⅰ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
主として、講義形式で行なう。授業内試験とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して、ローマ法に関する基礎的な知識の修得度及び理解度を授業内試験で評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ法の歴史	マンテ著田中・瀧澤 訳	ミネルヴァ書房	2008	参考書	推奨
歴史の中の民法－ローマ法との対話	ベーレンツ著 河上正 二訳	日本評論社	2001	参考書	推奨
新ローマ法案内	木庭 顕	勁草書房	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室 yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	前学期のオリエンテーション・ローマ法史概説	授業の進め方や成績評価について説明するとともに、ローマ法の歴史を概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
		事前学修	参考書を手がかりに、ローマ法史及び日本近代法史についての基礎的な知識を修得しておくこと。	120分
		事後学修	参考書を手がかりに、ローマ法史及び日本近代法史についての理解を確認しておくこと。	120分
2	/	日本民法典と西欧的法伝統（1）	明治期の西欧法継受・法典編纂史及び学説継受について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治期の西欧法継受・法典編纂史及び学説継受について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	日本近代法史について、ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法ーローマ法との対話』補講1などを参考に基礎的な知識を修得しておくこと。	120分
		事後学修	上参考書を手がかりに、日本近代法史についての理解を深めておくこと。	120分
3	/	日本民法典と西欧的法伝統（2）	日本民法典とローマ法との関係について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本民法典とローマ法との関係について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	日本近代法史について、ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法ーローマ法との対話』補講1などを参考に基礎的な知識を修得しておくこと。	120分
		事後学修	参考書を手がかりに、日本近代法史についての理解を深めておくこと。	120分
4	/	ローマ古代 十二表法以前（1）	最古の所有権訴訟・神聖賭金による対物的法律訴訟について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最古の所有権訴訟・神聖賭金による対物的法律訴訟について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりにローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分
5	/	ローマ古代 十二表法以前（2）	握取行為による儀式的所有権移転・ネクスムについて説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、握取行為による儀式的所有権移転・ネクスムについて基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりにローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分
6	/	ローマ古代 十二表法とその後（1）の社会	家族法・家長権・婚姻について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、家族法・家長権・婚姻について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、家族制度の歴史をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ローマ古代の社会（2） 十二表法とその社会	共和政期の国制・十二表法の成立について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、共和政期の国制・十二表法の成立について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、十二表法以後のローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分
8	/	ローマ共和政期(1)	古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について基本的な理解を修得しておくこと。	120分
9	/	ローマ共和政期(2)	法学の形成に関するギリシア思想の影響について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学の形成に関するギリシア思想の影響について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、法学の形成に関するギリシア思想の影響について基本的な理解を確認すること。	120分
10	/	ローマ古典期(1)	ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。	120分
11	/	ローマ古典期(2)	ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。	120分
12	/	ローマ古典期以後の時代	テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ユスティニアヌスの時代	ユスティニアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について説明する。	
		この回の到達目標	ユスティニアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ユスティニアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について基本的な理解を確認すること。	120分
14	/	前学期の総復習	前学期の総復習を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの理解を再確認する。	
		事前学修	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
		事後学修	試験をふまえつつ、配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
15	/	授業内試験及び解説	授業内試験（60分）及び解説（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験を通してローマ法についての理解を深める。	
		事前学修	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、前学期の講義内容の全般を復習し理解を深めるとともに、現代法との接続を考えること。	120分

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
この講義では、配布したレジュメを中心に解説を行う。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。各講義の最後には、その回で学修したテーマに関する授業内試験を実施し、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース・スタディを通じたグループワークを行なう。グループワークにおいては、予習時に得た知識および講義中に解説した知識を用いて、具体的な事案に対する法的判断をグループ内で話し合い、相互理解の共有を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	ローマ法に関する基礎的な知識の習得度及び理解度を授業 内試験で評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回提出する授業内課題につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ債権法講義	ゲオルク・クリンゲン ンベルク（著）＝瀧 澤栄治（訳）	大学教育出版	2001	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（この時間帯が困難である場合は要相談izumo.takashi@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 金9/18 第二部 木9/17	訴権法体系の基礎	古典期ローマ法における訴権の概念を学修する。日本法はドイツ法の影響から、請求権を中心とする私法体系を構築している。この講義では、それとは異なる「訴権（actio）」概念を用いた古典期ローマ法の体系を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴権を基礎とする古典期ローマ法と請求権を基礎とする現代法との差異を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における請求権の概念を復習する。	120分
		事後学修	講義で扱った訴権法体系と現代の請求権との違いを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
2	第一部 金9/25 第二部 木9/24	債務関係の分類	古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。日本の民法典にも契約カタログが準備されているように、古典期ローマ法においても有名契約という概念が存在した。そこではいわゆる類型強制という仕組みが重要な役割を果たす。この講義では、契約自由の原則が妥当しない古代ローマ法における債務関係の基礎を紹介する。古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法における債務関係が現代法の基礎になっていることを理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における債務関係にはどのようなものがあるかを調査する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における債務関係と日本法における債務関係との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
3	第一部 金10/2 第二部 木10/1	要物契約（消費貸借）	この回からは、順次、古典期ローマ法における契約カタログを、個々の類型ごとに概観していく。まず最初に要物契約から取り掛かり、古典期ローマ法における「消費貸借（mutuum）」のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における消費貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
4	第一部 金10/9 第二部 木10/8	要物契約（寄託・使用貸借・プレカリム）	古典期ローマ法における「寄託（depositum）」「使用貸借（commodatum）」「プレカリウム（precarium）」のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における寄託および使用貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。また、古典期ローマ法で認められていたプレカリウムという法制度がなぜ現代法では消失しているのかを考える。	120分
5	第一部 金10/16 第二部 木10/15	要物契約（質・信託）	古典期ローマ法における「質（pignus）」および「信託（fiducia）」のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における質および信託と日本の民法における質および信託との異同を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における質および信託とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における質および寄託と日本法における質および信託との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
6	第一部 金10/23 第二部 木10/22	言語契約（問答契約）	古典期ローマ法における「問答契約（stipulatio）」のあり方を学修する。問答契約は、契約内容自由の原則が妥当しない古代ローマ法において、契約に付随的な条項を追加する重要な手段のひとつであった。この講義では、契約内容自由の原則の意義を再確認する文脈で、問答契約の仕組みを解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における問答契約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
		事前学修	現代日本における契約が文言上の要式性を求められていない理由を考える。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における問答契約は、現代日本におけるどのような制度によって代替されているのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 金10/30 第二部 木 10/29	諾成契約（売買：総論）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、成立要件および効果の面から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買の成立要件と効果を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における売買とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、その成立要件および効果の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
8	第一部 金11/6 第二部 木11/5	諾成契約（売買：担保責任）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、担保責任の面から学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買がどのような担保責任によって支えられていたかを理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における売買にはどのような担保責任があるのかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、担保責任の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
9	第一部 金11/13 第二部 木11/12	諾成契約（賃約）	古典期ローマ法における「賃約（locatio conductio）」のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における賃約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
		事前学修	賃約は日本法におけるどの契約類型に対応しているかを調査する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における賃約が日本の民法典においてどのようなかたちで現れているかを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
10	第一部 金11/20 第二部 木11/19	諾成契約（委任）	古典期ローマ法における「委任（mandatum）」のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における委任とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
11	第一部 金11/27 第二部 木12/3	諾成契約（組合）	古典期ローマ法における「組合（societas）」のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における組合とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
12	第一部 金12/4 第二部 木12/10	無名契約	古典期ローマ法における無名契約のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、ある契約が有名契約であるかそれとも無名契約であるかは、民法典の規定の直接的な規律に服するか否かという点において、どちらも有効な契約であることに変わりはない。しかし、古代ローマにおいては、無名契約であることは救済対象にならないというリスクに晒されていた。この講義では、そのような状況下における無名契約の救済手段を紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無名契約と日本の民法典における無名契約との異同を理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における無名契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における無名契約と日本法における無名契約との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 金12/11 第二部 木12/17	無方式合意	古典期ローマ法における「無方式合意（pactum）」のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、当事者は何ら方式によらずに自由に付随的な合意をなすことができる。しかし、古代ローマ法においては、無方式合意は訴権を発生させず、そのままでは履行を貫徹させられないという構造があった。この講義では、そのシステムと救済手段について紹介する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無方式合意を理解し、日本法におけるどのような制度と対応関係があるのかを説明することができる。	
		事前学修	日本の契約実務における付随的な合意にはどのようなものがあるかを調べる。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における無方式合意と、日本法における付随的な合意との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
14	第一部 金12/18 第二部 木12/24	準契約	古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。この講義で扱う準契約とは、いわゆる事務管理や不当利得に類する制度であり、日本法と比較してさまざまな異同を有していた。この講義ではそれらの異同を踏まえつつ、古代ローマ法上の準契約という概念を解説する。古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における準契約を、事務管理およびコンディクチオを中心に理解し、説明することができる。	
		事前学修	日本法における準契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
		事後学修	古典期ローマ法における準契約と、日本の民法典における準契約との異同を、事務管理およびコンディクチオを中心に整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
15	第一部 金12/25 第二部 木1/14	まとめ（ローマ債権法の有機的理解）	この講義では、古典期ローマ法における債務法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。	
		事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。	180分
		事後学修	法の歴史的発展について、債権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。	60分

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
主として、講義形式で行なう。授業内試験とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	ローマ法に関する基礎的な知識の習得度及び理解度を授業 内試験で評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ法の歴史	マンテ著田中・瀧澤 訳	ミネルヴァ書房	2008	参考書	推奨
歴史の中の民法－ローマ法との対話	ベーレンツ著 河上正 二訳	日本評論社	2001	参考書	推奨
新ローマ法案内	木庭 顕	勁草書房	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室 yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	/	後学期のオリエンテーション・ローマ民事訴訟法概説	ローマ民事訴訟法の歴史的展開について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ民事訴訟法についてについて基本的な理解を修得する。	
		事前学修	参考文献などを手がかりに、後期の講義内容についての基礎的な理解を修得しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ民事訴訟法についてについて基本的な理解を確認すること。	120分
2	/	ローマ刑事法	ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について基本的な理解を確認する。	120分
3	/	ローマ所有権法（１）	ローマ所有権法について概説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ所有権法について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりにローマ所有権法についてについて基本的な理解を確認すること。	120分
4	/	ローマ所有権法（２）	資料を講読しながらローマ所有権法の基本的な考え方を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ所有権法について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ法史料を読みつつ、ローマ所有権法の考え方についての理解を深めておくこと。	120分
5	/	契約法（１）ーローマ契約法の歴史概説	ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分
6	/	ローマ契約法（２）ー問答契約	ローマ契約法の歴史的展開として、とくに問答契約について基本的な理解を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	/	ローマ契約法（3）－諾成契約・売買	ローマ契約法の歴史的展開のうち諾成契約及び売買について基本的な理解を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分
8	/	ローマ契約法（4）－諾成契約・賃約	ローマ契約法の歴史的展開のうち諾成契約及び賃約について基本的な理解を説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分
9	/	ローマ不法行為法（1）－市民法上の不法行為	主としてローマ法における市民法上の不法行為法について説明修得する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主としてアクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、アクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を確認すること。	120分
10	/	ローマ不法行為法（2）－不法損害	主としてアクィリウス法に基く不法損害について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主としてアクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、アクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を確認すること。	120分
11	/	ローマ不法行為法（3）－不法行為の歴史的展開－中世	不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、不法行為法の歴史的展開として、民法719条前史について基本的な理解を確認すること。	120分
12	/	ローマ不法行為法（4）－不法行為法の歴史的展開－近世	不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について基本的な理解を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	/	ローマ家族法の諸問題	家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について基本的な理解を修得する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について基本的な理解を確認すること。	120分
14	/	後学期のまとめ	後学期の内容を振り返る。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後学期の内容を確認する。	
		事前学修	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
		事後学修	試験をふまえつつ、配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
15	/	授業内試験及び解説	授業内試験（60分）及び解説（30分）を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後学期の内容を確認する。	
		事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
		事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めるとともに、現代法との接続を考えること。	120分

VIII群

教職課程科目

VIII群

教職課程科目

科目名	教育課程論	担当者	奥田 智	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。その際、全国学力・学習状況調査結果等から生徒の学習課題を明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントをはじめとする教育課程編成に関わる全国の事例研究を行う。また、過去の学習指導要領の改訂の歴史的な変遷にも触れながら、教育課程編成の意義についても理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。 【到達目標】 1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、説明できるようになること。 2. 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できるようになること。 3. 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できるようになること。 4. 学習指導要領改訂にある背景及び要点を理解し、説明できるようになること。

【履修条件】
教員免許の取得を目指す者

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な教育課程編成の事例研究などについては原則は講義形式で行うが、必要に応じて演習形式も随時取り入れ、対話的・協働的な学びの場とする。レポートの講評を授業内にて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5回以降、事例研究に関する課題に関わる演習及びディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	教育課程の基本概念について説明できる。【知識】								
②	新学習指導要領のねらいについて説明できる。【知識】								
③	カリキュラム・マネジメントについて説明できる。【知識】								
④	学校における教育課程編成の手続きと内容について調査及び説明することができる。【知識】【技能】								
⑤	教育課程の意義について積極的に意見を述べることができる。【態度・習慣】【技能】								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第3回の授業内において到達目標①②③に関わる内容が理解できているか、レポート等の作成を通して確認する。	20	20	20								60
討論・発表等	第7回及び15回の授業内において到達目標④⑤に関わる事例を踏まえてディスカッション等を行い理解度を確認する。	20	20									40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート等及びディスカッション後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成30年度		
中学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成29年度		
備考					

【オフィスアワー】
授業開始前後15分間に教室で対する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員 教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員・教育委員会指導主事の経験を生かして学習指導案作成及び模擬授業指導においてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部水 9／16	教育課程	教育課程の基本概念について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して教育課程の基本概念について理解し説明することができる。	
		事前学修	教育課程の基本概念について事前に調べる。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
2	第一部水 9／23	学習指導要領	学習指導要領の変遷と時代背景について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して学習指導要領の変遷と時代背景について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
3	第一部水 9／30	学習指導要領	新学習指導要領のねらいについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して新学習指導要領のねらいについて理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
4	第一部水 10／7	教育課題	国際学力調査及び全国学力学習状況調査結果からわかる教育課題について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して教育課題について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
5	第一部水 10／14	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。1	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
6	第一部水 10／21	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。2	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部水 10 ／ 28	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。3	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
8	第一部水 11 ／ 11	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの重要性について説明する。	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
9	第一部水 11 ／ 18	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(調査等による課題把握)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
10	第一部水 11 ／ 25	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(課題の対応策検討)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
11	第一部水 12 ／ 2	カリキュラム・マネジメント	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(評価及び更なる改善)	
		この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
12	第一部水 12 ／ 9	教育課程編成の手続きと内容	学校における教育課程編成の手続きと内容について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して学校における教育課程編成の手続きと内容について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部水 12 ／16	教育課程の意義	教育課程の意義について解説する。(授業改善の重要性)	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
14	第一部水 12 ／23	教育課程の意義	教育課程の意義について解説する。(学校改善の重要性)	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分
15	第一部水 1 ／13	総括	教育課程の意義について総括する。	
		この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
		事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
		事後学修	授業中に指示する。	120分

科目名	教育原論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育を人類の歴史の中に位置づけ、教育を人類の営みと考えるて教育の原理を考察する。多くの教育論の中から、教育学の成立と発展に大きな影響を与えた人々の教育観に注目して教育について考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間と教育の関係、学校の成立とそれを支える教育思想、を歴史的な視点から理解することを目的とし、これからの教育の在り方を自ら考察することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
教員採用試験の受験を考えている学生。

【授業方法】
講義だけでなく、教員採用試験対策問題等を行いながら、解説を加えていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30		20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育政策・行政	安藤忠・壽福隆人監修	弘文堂	平成25年3月		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	人類と教育	人類のいとなみと教育の関係について	
		この回の到達目標	人類史の中で教育をとらえられるようになる。	
		事前学修	各自の教育歴を自ら振り返り、今の自分という人格がはどのようにして形成されたのかを考える。それをもとに人がどのよう成長していくか、人の人格はどのように形成されていくのかについて考える。	120分
		事後学修	文献やインターネットを利用して、人の営みと教育が深くどのように深く関連しているのかを説明する事例を収集する。その中から、各自が各自の言葉で教育について表現できるようにする。	120分
2	4月13日	教育現象の分類	教育現象の分類について（海後宗臣の教育論紹介を例として）	
		この回の到達目標	教育現象は単純な現象ではなく、分類して検討できることを理解する。	
		事前学修	あらゆる生活現場で起きている教育現象の中から、人格の形成において、人類に共通する問題に注目して、その事例を収集整理する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「陶冶」「教化」「形成」という教育現象の分類を通して教育を考え整理する。この三つの教育現象のそれぞれの特徴をまとめる。	120分
3	4月20日	「子ども」文化とはなにか	「子ども」文化の成立と教育の発達について（久木幸男の教育論紹介を例として）	
		この回の到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
		事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	4月27日	学校の定義	学校の定義について考える	
		この回の到達目標	学校とは何か、なぜ人類は学校を発展させたかについて理解する。	
		事前学修	学校とは何か、学校の発生はいつかという問題に答えることができる文献や記事を収集する。同時に、庶民が学校に通うようになったのはいつ頃かについても考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学校が持つ教育機能について知見を広める。同時に庶民のための学校が存在しない時代でも、庶民は教育を受けていた事実を理解する。	120分
5	5月4日	古代ギリシャの教育	近代教育学成立以前の教育・学校（古代ギリシャの教育の紹介）	
		この回の到達目標	アテネとスパルタの古代ギリシャの教育を比較して、教育の本質を考える。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目で学んだことを手掛かりに、古代ギリシャの歴史を調べ、アテネとスパルタの国家体制の違いに注目する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、社会体制の違いが教育のありかたに強く影響することを古代ギリシャの諸ポリスの例から確認することができることを、自らの表現で説明できるようにする。	120分
6	5月11日	ルソーの教育思想	ルソーの教育思想 ― 子どもの発見とは何か ―	
		この回の到達目標	教育学成立の源流としてルソーの教育思想について理解する。	
		事前学修	第3回目の講義を手掛かりに、子どもの発見者と呼ばれるルソーについての知見を広める。高等学校や大学講義を手掛かりにして、18世紀のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
		事後学修	教育学の成立・発展にルソーが果たした役割についてまとめる。『エミール』を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	新教育運動	新教育運動の展開	
		この回の到達目標	近代中部ヨーロッパで展開した教育活動を理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、16世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。とくに、宗教改革について注目し、スイス、チェコ、ドイツなど中部ヨーロッパの歴史を理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コメニウスの生涯と彼の著作『大教授学』及び「世界図絵」が今日の学校教育に及ぼした影響についてまとめる。	120分
8	5月25日	ペスタロッチの教育思想	近代教育学の成立（1）ペスタロッチの教育思想	
		この回の到達目標	ペスタロッチの教育思想を学び、近代教育学成立の源流を理解する。	
		事前学修	ナポレオン戦争などを通して多くの孤児が生まれた18世紀前後のヨーロッパの歴史を調べる。当時の社会福祉政策がどのようなものであったかなど混乱したヨーロッパの状況を調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ペスタロッチの生き方と後に「直観教授」と呼ばれる教授法の開発についてまとめ、各自が自らの言葉でペスタロッチの業績を説明できるようにする。	120分
9	6月1日	ヘルバルトの教育思想	近代教育学の成立（2）ヘルバルトの教育思想	
		この回の到達目標	ヘルバルトの生涯を理解し、教育学成立の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、18世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ヘルバルトとペスタロッチの出会いや教育学成立に果たした役割についてまとめ、自らの言葉でその意義を説明できるようにする。	120分
10	6月8日	デューイの教育思想	進歩主義教育運動の展開	
		この回の到達目標	プラグマティズムとデューイの教育思想を理解し、アメリカでの教育学発達の意味を理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、新教育運動がアメリカに伝わって、進歩主義教育といわれるようになった経緯を明らかにし、デューイ主義が世界に及ぼした影響についてまとめる。	120分
11	6月15日	コアカリキュラム	デューイ主義とコアカリキュラム	
		この回の到達目標	コアカリキュラムとは何かを理解する。	
		事前学修	教育学用語としての「コアカリキュラム」、近年文科省が指摘している「コアカリキュラム」の意味について、教育学辞典や書籍を検索してまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、コアカリキュラムの意味を理解し、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
12	6月22日	日本近代教育史	わが国近代公教育の成立と発展	
		この回の到達目標	わが国の学校教育発展の過程から教育の意義や意味を理解する。	
		事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、近代日本の教育政策について調べる。とくに、富国強兵政策と教育政策の関係についてまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、戦前の学校教育が国家主義教育と呼ばれる理由についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月29日	戦後教育改革	戦後教育改革と学習指導要領の変遷	
		この回の到達目標	戦後教育改革の理念を理解して、現代教育の原点を知る。	
		事前学修	戦後教育改革とはどのようなものであったかを理解するために、高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、終戦と戦後史について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、戦後教育改革が目指したものについてまとめる。とくに、GHQが示した日本の教育改革への指令が意味していたものとは何かまとめる。	120分
14	7月6日	現代教育の原点	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
		この回の到達目標	ゆとり教育成立の背景を理解し、現代の教育の原点を知る。	
		事前学修	1970年代後半から日本の学校教育が直面した「いじめ」、「非行」、「校内暴力」という言葉について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
		事後学修	1970年代後半から1980年代にかけて日本の教育界が目指したものとは何であったか。そこから試行されてきた「ゆとり教育」の導入がもたらしたものとは何だったか、講義ノートを確認して、まとめる。	120分
15	7月13日	現代の教育	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
		この回の到達目標	新学力観による学校教育の意味を理解し、これからの教育を展望できるようになる。	
		事前学修	「ゆとり教育」の時代から新しい価値観の教育へと変遷した経過について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、これからの学校が求められるものとは何か、どのような改革が必要か、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
これまでの教職課程での学びを総括するかたちで学習を進めていきます。学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。 【文部科学省「教職実践演習」設置の意向に沿うように、学校教育現場の教師を外部講師として招聘し、教育実践家から学びます】

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。受講者の多数が介護等体験や教育実習を経験していることを踏まえ、これまで学び得た知見をグループによる発表と討議をもって、共有、相対化できることを最終的な到達目標とします。

【履修条件】
教職を志望する学ぶ4年生を対象とします。

【授業方法】
個人報告を中心に進めます。報告内容には、授業ごとに講評いたします。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。なお、予習復習の時間は、あくまで目安であり、個々人の生活状況に応じて調整してください。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	教職の歴史的意義と、現代における多様な課題について理解し、自己の見解を叙述できる。												
②													
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	口頭報告の内容に関するレポート（50%）。	50										50
討論・発表等	個々人による口頭報告（50%）。	50										50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとの口頭報告に対するリプライ。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定いたしません。				

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9.17（木曜日：1限）	ガイダンス・導入講義	授業の進め方についての説明とグループ分け。	
		この回の到達目標	授業の目的について理解する。	
		事前学修	新聞をチェックし、教職に関する話題に目を向ける。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
2	9.24（木曜日：1限）	公教育と教育実践	学生による発表報告（1）学校教育現場の構造について学ぶ。	
		この回の到達目標	公教育と教育実践について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
3	10.1（木曜日：1限）	学校教育現場と教職の意義	学生による発表報告（2）学校教育現場の「実践知」について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と教職の意義について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
4	10.8（木曜日：1限）	学校教育現場と生活指導	学生による発表報告（3）学校教育現場における生活指導について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と生活指導の意義について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
5	10.15（木曜日：1限）	学校教育現場と教科教育	学生による発表報告（4）学校教育現場における教科教育について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と教科教育の関係について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
6	10.22（木曜日：1限）	学校教育現場と授業実践	学生による発表報告（5）学校教育現場における授業実践について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と授業実践の関係について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10. 29 (木曜 日：1 限)	学校教育現場と教育実践	学生による発表報告（6）学校教育現場における教育実践について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と教育実践の関係について学ぶ	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
8	11.5 (木曜 日：1 限)	学校教育現場と教育行政	学生による発表報告（7）学校教育現場と教育行政の関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と教育行政の相関について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
9	11. 12 (木曜 日：1 限)	学校教育現場と教育政策	学生による発表報告（8）学校教育現場と教育政策の関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と教育政策の相関について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
10	11. 19 (木曜 日：1 限)	学校教育現場と社会問題	学生による発表報告（9）学校教育現場と社会問題の関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校教育現場と社会問題の構築について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
11	12.3 (木曜 日：1 限)	青少年文化と学校教育	学生による発表報告（10）青少年文化論と学校教育の関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	近年の青少年文化と学校教育の関係について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
12	12. 10 (木曜 日：1 限)	学校表象と教育課題	学生による発表報告（11）表象文化論と学校教育の関係について学ぶ。	
		この回の到達目標	学校表象と教育課題相関について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12. 17 (木曜 日：1 限)	逸脱と非行	学生による発表報告（12）逸脱と非行について学ぶ。	
		この回の 到達目標	逸脱と非行と教育課題について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
14	12. 24 (木曜 日：1 限)	学校教育と犯罪	学生による発表報（13）学校教育と犯罪の関係について学ぶ。	
		この回の 到達目標	学校教育を分析対象とする犯罪社会学と教育社会学の知見について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
15	1. 14 (木曜 日：1 限)	教職の歴史と現代日本	まとめ（総括討議）	
		この回の 到達目標	教職の歴史と現代日本について理解する。	
		事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
		事後学修	教職課程での学習を振り返る。	120分

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教職課程での学びと、教育実習の経験、成果を通して、教育者として必要な知識、技法等を確認して、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的能力と態度を身に付け、心構えや使命感を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学の教職課程での学びと教育実習を振り返り、教職や教科に関する専門的知識、理論、技能等を実践するための基礎を確認して不足を補う。学校実務に携わるための基礎知識や技能などの獲得を確認して、学校経営、学級経営等の教育活動の理解をすすめる。これらを総合して、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等を理解して、不足を補う。

【履修条件】
教育実習を修了していること。教職に関する特別講義（3回）に出席すること（日程は授業中に通知する）。

【授業方法】		
学生各自の教職課程での学びを振り返り、それに基づいて集団討議や特別講義への参加、課題レポートの提出を行う。また、法学部教職課程特別講義（年3回程度、教育委員会、附属高等学校等教職員と連携済み）に出席して、そのテーマについてレポートし、討議する（日程は別途指示する）。 なお、第8回から10回の授業において、外部講師を招聘して教育現場の実情や教育問題等に関連するテーマによる講義を行う予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	集団討議、ロールプレイング等を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	教育者としての愛情と使命感を深めて、教員になる上での能力や適性、課題を自覚する。								
②	教育実習から得られた成果と課題等を省察して、教員免許取得までに、不足している知識や技能等を自覚する。								
③	児童、生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。								
④	学校経営方針や教育活動を含めた組織体制のもとで、学級担任や教科担任等の教育活動、および学校実務の課題と内容を理解できる。								
⑤	大学での教科、教職に関する専門的知識、理論、技術等を、教科や教科外の指導場面で実践するために、学習指導案の作成と授業実施、情報機器を含む学習指導に必要な技術を活用することができる。								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標1、2、3、4、5について、各自の課題を設定して学術書、資料等からレポートを行い、その内容、表現等から到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等	到達目標1、2、3、4、5について、討議や発表のための事前準備や発表態度、発表の方法、資料の使い方等から、到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
授業への参画度	到達目標1、2、3、4、5について、各授業のリフレクションペーパーから、授業への参画度を評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に配布する資料、文科省HPからのダウンロードした資料、文献検索による資料を用いる。				

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分から13時まで。9号館501研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	第一部 木9/17	教育者としての自分を意識する		授業の計画と評価方法の説明。資料の点検を行う。	
		この回の到達目標	到達目標1 教員免許を取得して教育者として実践する自分を意識して、大学での学びおよび教育実習で獲得した知識、技能を説明できる。		
		事前学修	「教育実習ノート」、実習中の資料等を用意する。授業計画の中で、特別講義の日程を確認する。		
		事後学修	教育実習だけではなく、教職課程での学びを振り返る。グループでそれらを分かち合う。		
2	第一部 木9/24	教職過程での学びをふりかえる		大学の教職課程での学びのふりかえり：教職過程で得た知識、理論、技能について確認して、不足点をまとめる。	
		この回の到達目標	到達目標1、2 教員免許を取得するために、現在の自分に不足している知識、技能等を説明できる。		
		事前学修	教職課程の学びをまとめて文章にする。2時間の予習。		
		事後学修	自分と他者の学びの共通点、相違点を考えて記述する。グループでそれを分かちあう。2時間の復習。		
3	第一部 木10/1	教育実習での学びをふりかえる1		教育実習で何を学んだか：個人の学びのまとめと、教師の日常の業務を振り返り、集団討議する。	
		この回の到達目標	到達目標3、4、5 教育実習での学習指導案の作成と授業実施の振り返りから、不足点を指摘して、今後の課題を説明できる。		
		事前学修	教職課程での学びの中で、教育実習での学びをまとめて、実習校の先生方、指導の先生、他の実習生等との関わりについて、記述する。2時間の予習。		
		事後学修	教師の1日がどのように進んでいくのかについて、まとめる。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。		
4	第一部 木10/8	教育実習での学びをふりかえる2		教育実習で何を学んだか：個人の発表と全体の討議1：授業のための学習指導案の作成、授業展開、授業方法について、工夫した点と改善点についてグループで議論する。	
		この回の到達目標	到達目標3、4、5 教育実習での授業の改善点を意識して、「授業」を実施できる。		
		事前学修	実際の授業で使用した授業案、資料を基に、再度「授業」を行うための改善点を列記する。2時間の予習。		
		事後学修	授業案等から、自分の教育実習での授業の作り方、展開、振り返りについて、改善点をまとめて記述する。2時間の復習。		
5	第一部 木10/15	児童生徒との関わりと実態と課題の把握と対処		教師と生徒との「距離の取り方、距離感」について、各自の経験と知識や技能等をいかした対処について考え、グループで討議する。	
		この回の到達目標	到達目標3、4、5 教師と生徒との距離感とは何か、について経験を振り返り、「適度な距離」と「距離の取り方」を説明できる。		
		事前学修	「教師と生徒」という関係について、実習での経験を振り返り、問題点と課題をまとめる。2時間の予習。		
		事後学修	教師と生徒との関係について、経験から学んだことをまとめる。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。		
6	第一部 木10/22	学級経営と教師の役割		学級経営における「教師」の役割と仕事について、教育実習での各自の経験を基にグループで討議する	
		この回の到達目標	到達目標3、4、5 学級経営について、教師としていつ、なにを、どのように行うのか、について、計画を提示できる。		
		事前学修	「学級経営」について、教育実習での経験をまとめて記述する。2時間の予習。		
		事後学修	教師として学級経営で自分が行ったこと、課題等をまとめて、グループで分かち合う。2時間の復習。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
7	第一部 木10/29	組織としての学校		「組織としての学校」について、何を学んだかを、各自の経験を基にグループで討議する。
		この回の到達目標	到達目標3、4、5、組織としての学校とは何か、具体的な意味と内容を理解して、「教師」として要求される業務内容を理解して説明できる。	
		事前学修	「組織としての学校」について、教育実習での経験をまとめて記述する。2時間の予習。	120分
		事後学修	組織として学校がいかに機能しているのか、その中での教師の役割、等について、配布資料、自分の経験をまとめて記述する。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。	120分
8	第一部 木11/5	特別講義1		特別講義について：第1回特別講義の内容について、討議する。
		この回の到達目標	到達目標1、2 教員となるための能力や適性を考えて、自分の不足点や今後の課題を指摘できる。	
		事前学修	第1回特別講義について、テーマに関する配布資料等をまとめる。2時間の予習。	120分
		事後学修	第1回特別講義について、テーマに関するレポートを作成する。2時間の復習。	120分
9	第一部 木11/12	特別講義2		特別講義について：第2回特別講義の内容について、グループ、全体で討議する
		この回の到達目標	到達目標1、2 教員となるための能力や適性を考えて、自分の不足点や今後の課題を指摘できる。	
		事前学修	第2回特別講義について、テーマに関する配布資料をまとめる。2時間の予習。	120分
		事後学修	第2回特別講義について、レポートを作成する。2時間の復習。	120分
10	第一部 木11/19	特別講義3		特別講義について：第3回特別講義の内容について、グループおよび全体で討議する。
		この回の到達目標	到達目標1、2 教員となるための能力や適性を考えて、自分の不足点や今後の課題を指摘できる。	
		事前学修	第3回特別講義について、資料やノートをまとめる。2時間の予習。	120分
		事後学修	第3回特別講義について、レポートを作成する。2時間の復習。	120分
11	第一部 木12/3	職業としての教師		教師という職業について考える： 教師という職業の特殊性を、他の職業との比較から考えてグループで討議する。
		この回の到達目標	到達目標1、2 「教師の分業化」について、メリット、デメリットを指摘して、自分の意見を説明できる。	
		事前学修	教教師という職業：教師という職業の特殊性と実際についてまとめる。2時間の予習。	120分
		事後学修	教師という職業と他の職業の相違点をまとめて記述する。2時間の復習。	120分
12	第一部 木12/10	教師になる、とは		教師という職業について考える： 教師という職業を自分が選択することの意味について考える。
		この回の到達目標	到達目標1、2 教師という職業をなぜ自分が選択するのか、教師になるための不足点と今後の課題とその解消方法について説明できる。	
		事前学修	自分の将来計画において、教師という職業を選択する意味を考えて記述する。2時間の予習。	120分
		事後学修	教師という職業が自分にとって適している点と不適な点を記述する。2時間の復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 木12/17	模擬授業	模擬授業：1人20分程度の模擬授業を行い、その内容や方法等をグループで討議する。	
		この回の到達目標	到達目標3、4、5 これまでの議論を踏まえて、各自学習指導案を作成して、模擬授業を行うことができる。	
		事前学修	授業計画、資料の準備、等を行い、模擬授業実施の準備をする。2時間の予習。	120分
		事後学修	自分の授業方法のよかった点と改善点を確認して記述する。2時間の復習。	120分
14	第一部 木12/24	理想の教師、期待される教師	自分の理想の教師、皆から期待される教師とはどのような教師か？全体で討議する。	
		この回の到達目標	達成目標1、2 理想の教師とはなにか、期待される教師とはなにか、現実の自分はどのような教師となるのか、を説明できる。	
		事前学修	これからの教師になる人間に期待されることについて、考えをまとめて記述する。グループで分かち合う。2時間の予習。	120分
		事後学修	自分の理想の教師像、皆から期待される教師像、現在の自分の何がどの様に不足しているのかをまとめて記述する。2時間の復習。	120分
15	第一部 木1/14	教師となる	総合的なまとめ：大学での教職課程における学びと教師となる自分	
		この回の到達目標	到達目標1、2、3、4、5 全体的なまとめを行い、自分にとって教師になることの意味を説明できる。	
		事前学修	配布資料、まとめ等を再度確認する。2時間の予習。	120分
		事後学修	自分が教師という職業を選択して、教師になることの意味、自分の人生における位置づけを再度確認して、今後の課題設定と遂行計画を記述する。2時間の復習。	120分

科目名	教育制度論	担当者	李 吉魯	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育においては、その目的とそれに関わる者の範囲（児童、生徒、教師など）が教育制度によって規定されており、目的達成のための方法・手段（学校制度、学校経営、学校組織、教育内容、教材など）にも共通性が認められる。この授業では、教育に関する社会的、制度的および経営的事項についての知識を習得し、今日に抱えている様々な教育問題や最近の教育改革などに関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
- 授業目的 教育に関する基礎的知識、概念、また法規や制度について学び、学校教育のあり方や国民の教育を受ける権利などを理解する力を養成することを目的とする。 - 到達目標 教育に関する社会的、制度的および経営的事項について学び、それに基づき今日の教育改革や学校運営の取り組みなど、直面している様々な教育問題を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
学生諸君は気持ちを引き締めて、教職への強い志をもって受講されたい。

【授業方法】
授業方法は講義形式であるが、必要に応じてグループ・ディスカッション、ディバート、グループワークなどのアクティビティを用いる。また授業時に使用する資料等は適宜配布しながら、授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回以降、現代の教育問題に関する課題を与え、次回の授業で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学校と教育の歴史・思想について基礎知識を知り、幅広く理解を深めることができる。（知識）										
②	専門知識を系統的に習得し、得られた知識を理解し、説明することができる。（知識）										
③	自ら教職への適性について考え、自己を高めることができる。（技能）										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	15回目の授業内試験により、到達目標①②に関する知識(基礎及び応用)が身についているか、及び到達目標②③に関する専門知識や今日に抱えている教育問題などを幅広く理解しているかについて確認する。	30	30									60
小テスト等	授業内(2回)に実施する小テストにより、1回目は到達目標①にかかわる基礎知識が身についているか、2回目は到達目標②にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポート課題が、適切に求められている内容になっているか、到達目標③にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたか、到達目標③にかかわる能力が身についているかを評価する。			10								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に作成したリアクションペーパーを含め、試験（授業内試験・小テスト）やレポート課題などについてはフィードバックを行う。（例えば、テストの解説・レポートの講評・採点後の返却など）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新訂版『わかりやすく学ぶ教育制度―課題と討論による授業の展開―』	北野秋男編	啓明出版	2012年	参考書	推奨
現代教育概論	佐藤晴雄	学陽書房	2017年	参考書	任意
教育動向	武田明典編	北樹出版	2017年	参考書	任意
大学教育と読書―大学生協からの問題提起―	玉真之介編	大学教育出版	2017年	参考書	推奨
格差・秩序不安と教育	広田照幸	世織書房	2009年	参考書	任意
備考	教職は厳しい側面もあるが、何よりも人も育て、人間同士の関係を育てていく仕事である。それは未来を育てる仕事でもある。この授業を通して、学校と教育制度との関連について興味を持ってもらえればいいと思う。				

【オフィスアワー】
金曜日12:20～13:00 授業講堂にて（事前にメールでアポイントメントを取ること）。メールアドレス：onkochishin6@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 金	【学校と教育制度】	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法などを説明し、参考資料の紹介を行う。また、学校や社会と教育との関係について学修する。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度が何を意味するのか、またその学校と教育の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教育及び教育制度の定義などについて調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、自分の学習計画と他の教職科目との相互関連性についてノートに分類・整理する。	120分
2	第二部 金	【なぜ学校が普及したのか】	学校のはじまり、近代学校の制度化過程、学校教育制度発展の道筋などについて学修する。それによって受講生は教育を目的として設立された学校、あるいは学校教育制度を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校教育制度が先行して実施された欧米における学校教育の歴史を概観してその制度を理解し、明治維新以降、欧米の教育制度に学びながら急速に近代化を果たした日本の学校教育制度について説明することができる。	
		事前学修	近代化と学校との関係について整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認するとともに、欧米と日本の近代学校制度の流れについてノートに分類・整理する。	120分
3	第二部 金	【公教育の仕組み】	公教育の原理（義務制、無償性、中立性）、及び公教育の理念「教育を受ける権利」と「教育の機会均等」などについて学修する。それによって受講生は公教育の仕組みを知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。	
		事前学修	公教育制度をめぐる課題についてノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、公教育の基本原則及び公教育制度をめぐる課題などについて整理する。	120分
4	第二部 金	【教育法規】	教育法規の種類や内容を説明し、教育法規が教育の機会均等と教育水準の維持向上に果たしている役割について学修する。また、教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化などについて検討する。それによって受講生は教育法規の特徴を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。	
		事前学修	教育法規の中心となる教育基本法及び学校教育法の内容やその特徴について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、教育法規の種類や内容について検討する。また、教育基本法と改正教育基本法の違いについてノートに分類・整理する。	120分
5	第二部 金	【教育政策と教育行政】	中央（国）及び地方の教育政策形成過程の特徴や教育行政の役割について学修する。また、中央と地方の教育行政制度相互の関係について検討するとともに、教育行政制度の今日的課題についても言及する。それによって受講生は教育政策と教育行政制度の仕組みを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教育政策と教育行政制度の仕組みを幅広く理解し、教育改革の今日的課題について説明することができる。	
		事前学修	教育政策の形成過程及び教育行政制度の特徴について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、教育政策の形成過程及び教育行政制度の特徴や、中央と地方の教育行政制度相互の関係についてノートに分類・整理する。	120分
6	第二部 金	【教育行政機関の役割】	教育の目標に重要な役割を果たす文部科学省及び教育委員会の組織と役割について学修する。また、その教育目標を実現させるための教育行政全体構造を検討する。それによって受講生は教育行政の仕組みを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央及び地方の教育行政機関の組織と役割について理解し、説明することができる。	
		事前学修	文部科学省と教育委員会の役割について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、文部科学省の役割と権限、及び都道府県と市町村の教育委員会の組織と権限などについてノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 金	【教育制度と学校経営】	教育活動における学校経営、学校改善に資する学校評価システム、学校と家庭、地域との連携・協働を促す動向などについて学修する。また、学級と教育内容・方法に関する制度の今日的課題について検討する。それによって受講生は学校経営と学級経営の概念及び内容を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校経営と学級経営の概念及び内容を理解し、また、学級と教育内容・方法に関する制度の今日的課題について説明することができる。	
		事前学修	学校経営と学級経営の概念及び内容について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、新しい学校づくりを推進する学校経営の在り方についてノートに分類・整理する。	120分
8	第二部 金	【学校と家庭・地域の連携】	家庭教育とその支援、地域のなかの多様な学びの機会、学校と家庭・地域の連携と協働などについて学修する。また、近年の学校・家庭・地域・地域の連携に関わる法制度の改正について検討する。それによって受講生は学校教育において家庭と地域との連携の重要性を知り、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校・家庭・地域の連携に関わる具体的な内容を理解し、説明することができる。	
		事前学修	近年の学校・家庭・地域の連携に関わる法改正について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、学校と家庭・地域社会との連携の重要性についてノートに分類・整理する。	120分
9	第二部 金	【学校評価】	教育活動における学校評価の在り方について学修する。具体的には、児童生徒の管理および指導、学校評価の導入の経緯とその目的と意義、学校評価の内容と実施方法など、幅広く検討する。それによって受講生は学校評価の目的及び実施方法を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校評価の考え方と進め方などについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	第三者評価の内容を策定し、「2010（平成22）年3月に改訂された「学校評価ガイドライン」について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、学校評価の基本的な考え方についてノートに分類・整理する。	120分
10	第二部 金	【教員養成制度】	教員養成の仕組み、教職課程の具体像、教員免許状の種類、教員免許制度改革の動向について学修する。また、教師教育における研修の形態や研修施策の展望などについて検討する。それによって受講生は教職員の研修システムが理解でき、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教職員の法定研修としての初任者・10年経験者研修の目的や実施状況などを知り、説明することができる。	
		事前学修	教育公務員には研修を行う義務があり、研修の機会が保障されている。教職員の研修にかかわる条文（例えば、教育基本法、教育公務員特例法、地方公務員法など）を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、初任者研修と10年経験者研修の具体的な実施状況を理解し、「学び続ける教員」を支える仕組みについてノートに整理する。	120分
11	第二部 金	【学校保健及び学校安全】	学校保健及び学校安全の中心となる児童・生徒及び職員の健康診断と食品の安全性の確保、事件・事故や災害時の安全対策などについて学修する。それによって受講生は保健管理及び安全管理の在り方を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校保健では健康診断の時期や実施者、感染症予防の措置など、また、安全管理に関して安全計画や対策を理解し、説明することができる。	
		事前学修	学校保健及び学校安全にかかわる条文を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、災害に対する備えと発生時及び発生後の対応策について整理する。	120分
12	第二部 金	【生涯学習と社会教育】	生涯学習の理念と社会教育、社会教育行政と生涯学習推進、社会教育の施設と職員、社会教育の団体と指導者などについて学修する。それによって受講生は生涯学習と社会教育の理念及びその基本的な考え方を理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生涯学習と社会教育との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	生涯学習と社会教育にかかわる条文を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、「生涯教育・生涯学習に関する略年表」の作成するとともに、生涯教育の考え方は社会教育の分野で次第に根付いていったことを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 金	【諸外国の学校制度と教育状況】	諸外国に行われる学校制度は、それぞれの国の歴史的事情、社会的条件などを背景として成立したものであり、国によって異なっている。ここでは、アメリカ・イギリス・ドイツ・フランスなどの学校教育制度などについて学修する。それによって受講生は諸外国の教育制度と日本のそれとの違いを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、諸外国の学校体系や教育制度の仕組みなどを理解し、説明することができる。	
		事前学修	学校体系（複線型、単線型、分岐型）のそれぞれの特徴を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、諸外国の教育制度と日本の教育制度の共通点と相違点についてノートに分類・整理する。	120分
14	第二部 金	【現代日本の教育制度改革】	子どもの貧困や教育格差、大学入試制度の改革など、現在抱えている教育問題について学修する。また、「格差」と公教育の役割について検討する。それによって受講生は現代の教育改革の動きを理解し、授業の準備を行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭の経済力や教育力の格差が子どもの学力の格差に結びつき、それらがさらに進学や雇用の機会に影響することを理解し、説明することができる。	
		事前学修	公教育の役割について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
		事後学修	授業内容を確認して、「格差」と公教育の役割についてノートに整理する。	120分
15	第二部 金	【授業内試験】 まとめ	授業のまとめとして、これまでの授業内容を振り返り、到達目標①②③に示される知識（基礎及び応用）が身についているか、及び今日に抱えている教育問題などをも含めて理解しているかについて確認する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎及び専門知識が身についているか、またその現代の教育問題との関連性について理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験を準備する。	120分
		事後学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験の解説についてノートに整理する。	120分

科目名	教育相談	担当者	和田 万紀	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
オムニバス形式で3名の担当者が講義中心で行う。講義ごとに、関連したエクササイズまたは知識の確認のための質問を取り入れる。これにはグループ討議、ロールプレイング、心理検査（性格検査等）、事例研究等を含み、最後に討議などを行い、リフレクションペーパーを作成して提出する。文科省等のHPからダウンロードした資料を使用して、グループ討議等行う。最後に課題についてのレポート提出を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
幼児、児童、生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団で適応的に生活する力を育み、個性や人格の成長を支援する。発達状況に即して心理的特質や教育課題をとらえて支援する基礎知識や、カウンセリングの意義、理論、技法の知識を身に着ける。そのために、①教育相談の基本的知識を養成することを目的とし、その実践のために、②組織内外や専門家と、また教員同士と「連携」をしながら、③教師自らがカウンセリングの理論と技術の基礎、基本的態度を身につけ、心理教育的援助の実践に寄与できる知識と資質を得ることを目標とする。そして、教師としての教育相談のあり方を考え、学ぶこととする。

【履修条件】
心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、発達と学習、を履修済みまたは履修中であること。精神分析学を履修することが望ましい。

【授業方法】
3名の担当によるオムニバス形式の授業となる。講義形式を中心として、技法などを実習する。そのために授業中にロールプレイングや場面想定法、検査実習などを行い、、集団討議等を行う。それぞれのフィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイング、検査実習、集団討議等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学校における教育相談の意義と課題を理解している。											
②	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。											
③	幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。											
④	学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。											
⑤	受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。											
⑥	職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。											
⑦	いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。											
⑧	教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。											
⑨	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。											
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	各授業ごとに、その授業でのキーワードなどの理解度を評価する。また復習としてそれまでの授業でのキーワードなどに関して、知識の定着度を評価する。 10%	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9
レポート等	授業全体を通して、「教育相談」に対する各自の考えや興味等に関連する学術文献等を読み、レポートを提出する。文献等の選択、理解度、文章表現等を評価する。	8	8	8				8		8		40
討論・発表等	カウンセリングの意義、理論、技法等の基礎的知識の獲得、ロールプレイングや検査実習等の結果、及び心理学的知識に基づくカウンセリングの理論、基礎的技法の獲得などを評価する。		7	7	7	7	7	7				42
授業への参画度	心理検査実習やロールプレイなどのまとめと各授業でのレフレクションペーパーの内容、提出等から、参画度を評価する。10%	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	17	17	9	9	9	17	2	10		100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業においてフィードバックする	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				その他	
備考	文科省HPからダウンロードした資料等を使用する。また、授業中に資料を配布する。				

【オフィスアワー】	
月曜日昼休み研究室にて	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	大学附属特別支援学校 教諭 特別支援教育コーディネーター（森澤亮介）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特別支援教育コーディネーターとして地域の幼稚園・小学校・中学校の巡回を行ってきた。 また教員や職員向けの特別支援に関する研修の講師を行ってきた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 木9/17	教育相談の授業の進め方と受講の注意点を理解する	授業の進め方、評価の方法等の説明と集団討議、心理検査実習、ロールプレイング等のグループ分けの実施、及び、評価の方法について（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 1 「教師という職業」にとって、なぜ教育相談が必要なのか、どの様に学ぶのかを理解して説明できる。	
		事前学修	授業形式、授業概要、評価の方法、各授業の内容の概要を読み、受講のための注意事項を確認する。	120分
		事後学修	本授業は、3人の担当者によるオムニバス形式であること、実習を含むこと、授業日程（特別指定された日程は別途示す）に注意して、自分の学修計画全体の中の位置づけを確認する。	120分
2	第二部 木9/24	教育相談の歴史	教育相談総論：（1）歴史と理念を理解する （教育相談とは、日本の教育相談の歴史と特徴、諸外国の教育相談の例等）（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 1 教育相談の歴史を日本と日本以外の国々から学び、現代日本における意義と必要性を理解して説明できる。	
		事前学修	「教育相談」のイメージ、自分の経験の中での教育相談について、まとめる。	120分
		事後学修	「教育相談」のイメージが、授業前後でどのように変化したのか（しなかったのか）、それはなぜか、をまとめる。	120分
3	第二部 木10/1	教育相談のシステム	教育相談総論：（2）理論と方法を理解する （学校という組織、校内相談システムと専門機関との連携、協働、SC、SSWRとの連携と協働、教育相談における予防、治療、開発の側面）（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 1、8、9 教育相談の理論と方法について、「学校という組織」「連携」という視点から知識を獲得して理解して説明できる。	
		事前学修	「学校という組織」そして「連携」とはどのような意味か。教育相談は、誰が、どのような方法で、だれに対して行うのか、についてまとめる。	120分
		事後学修	学校という組織として「協働」を基本として教育相談が行われるのはなぜか、をまとめる。	120分
4	第二部 木10/8	教育相談の実際	教育相談総論：（3）教育相談の課題と解決のための学校等組織の取り組みを理解する。 （教育相談の年間計画と運営、形態、展開、評価と活用、教育相談担当者に求められる基本的態度、保護者の理解と対応）（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 6 児童、生徒、さらに保護者に対する教育相談において、具体的にどのような内容を計画、実施するのかを理解して説明できる。	
		事前学修	学校組織における教育相談の実際を考え、教師として行う行動計画を具体的にまとめる。	120分
		事後学修	学校組織の中で、教育相談の具体的過程を知り、組織の一員としての教師に求められる行動をまとめる。	120分
5	第二部 木10/15	児童生徒にとっての教育相談とは	教育相談総論：（4）児童生徒にとっての教育相談の意味を理解し、援助の方法を理解する。 心理検査等の実習等を行い、アセスメントの理解を深める。（自己開示、悩みと相談、児童生徒の発達課題と教育相談、アセスメントと方法）（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 3 児童生徒にとっての教育相談とは何か、について理解して、援助方法を理解して説明できる。	
		事前学修	児童生徒にとって、悩みとは何か。誰に相談するのか、その後の経過について、自分の経験等を通して考えてまとめる。	120分
		事後学修	児童生徒の悩みは、教育相談を通じてどのような過程を経るのか。その際のアセスメントとは何か、その方法についてまとめる。	120分
6	第二部 木10/22	カウンセリングの基礎理論と技法：カウンセリングマインド	カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法 1：カウンセリングマインドの意味と意義を実習をもとに理解を深める。（カウンセリングマインド、カウンセリングにおける人間関係、傾聴、共感リフレーミング）（担当：伊藤令枝）	
		この回の到達目標	到達目標 2、4、5 カウンセリングマインドとは何か、カウンセリングの基礎理論と技法について理解して説明できる。	
		事前学修	教師が教育相談を行う際に求められる資質とは何かを考えてまとめる。	120分
		事後学修	教師にとってなぜカウンセリングマインドが必要であるのか、基礎的な理論と技法をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 木10/29	カウンセリングの心理学的基礎理論	カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法2：カウンセリングの心理学的基礎理論と技法を理解する。（フロイト、ロジャースの理論、学習理論と認知行動療法）（担当：伊藤令枝）	
		この回の到達目標	到達目標2、4、5 フロイト、ロジャースの理論、学習理論、認知行動療法について、理解して説明できる。	
		事前学修	参考書などから、臨床心理学についての知識を得て、カウンセリングの基礎理論と技法をまとめる。	120分
		事後学修	フロイト、ロジャース、学習理論、認知行動療法、について、その特徴と相違点をまとめる。	120分
8	第二部 木11/5	教育相談の予防、開発的側面	予防、開発的取り組み：ソーシャルスキルトレーニングを中心にしてその理論と技法を理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
		この回の到達目標	到達目標2、3、7 教育相談における予防、開発的側面とは何か、具体的に理解してその理論と技法を説明できる。	
		事前学修	上手な人間関係の築き方に必要なスキルについてまとめる。	120分
		事後学修	社会的スキルとは何か、また自分の社会的スキルの自己評価と人間関係について振り返り、まとめる。	120分
9	第二部 木11/12	問題行動と教育相談1 暴力といじめ	「問題行動」と教育相談1：問題行動とはなにかについて、暴力、いじめ問題を中心にして理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
		この回の到達目標	到達目標2、3、7 具体的な問題行動、暴力といじめについて、ロールプレイングを行い、理解して説明できる。	
		事前学修	暴力といじめに関する統計や事例、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をまとめる。	120分
		事後学修	暴力、いじめなどについて、加害者と当事者及び教師の立場から、教育相談の関連をまとめる。	120分
10	第二部 木11/19	問題行動と教育相談2 不登校	「問題行動」と教育相談2：不登校を中心にして、ロールプレイングを行い、その理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
		この回の到達目標	到達目標2、3、7、 不登校について、ロールプレイングを行い、理解して説明できる。	
		事前学修	不登校についての統計や事例、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をまとめる。	120分
		事後学修	不登校の事例について、教師としての立場から教育相談の関連と展開をまとめる。	120分
11	第二部 木12/3	「学力問題」という問題	「問題行動」と教育相談3：「学力問題」という問題について理解する。ロールプレイングを行い、その理解を深める。（学習意欲、学習習慣、学級崩壊等）（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標6 児童生徒、教師、保護者のそれぞれの視点から、「学力問題」とは何かを事例をもとにしながら理解して説明できる。	
		事前学修	なぜ学ぶことに積極的になれないのか、なぜ子供の学力が問題なのか、教師にとって児童、生徒の学力問題とは何か、学級崩壊とは何か、等についてまとめる。	120分
		事後学修	学ぶことに消極的な児童生徒に、教師として、保護者として、また教師が保護者に対して、どのような教育相談が考えられるかをまとめる。	120分
12	第二部 木12/10	発達障害と教育相談	発達障害と教育相談；発達障害のとらえ方と対応、アセスメント、認知発達、社会情動発達言語発達とその支援、保護者への支援について、集団討議等を行い理解する。（担当：森澤亮介）	
		この回の到達目標	到達目標2、3、6、8、9 発達障害の定義、児童生徒及び保護者への教育支援の実際について、事例から医理解して説明できる。	
		事前学修	「発達障害」の定義と教育相談の事例を調べてまとめる。	120分
		事後学修	発達障害と教育相談の実際について教師と保護者の視点からまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 木12/17	インクルーシブ教育と教育相談	インクルーシブ教育と教育相談：インクルーシブ教育の基本的概念、インクルーシブ教育の必要条件について検討し、教員への支援、保護者への支援について集団討議等を行い理解する。 (担当：森澤亮介)	
		この回の到達目標	到達目標 2, 3, 6, 8, 9 インクルーシブ教育の基本的概念と実際、教員と保護者への支援について、事例から理解して説明できる。	
		事前学修	「インクルーシブ教育」の定義を調べて、日本の現状についての資料等からまとめる。	120分
		事後学修	インクルーシブ教育の実際について、教師と保護者の視点からまとめる。	120分
14	第二部 木12/24	教師のメンタルヘルス	教師の支援と教育相談：感情労働とバーンアウト、教師のメンタルヘルス、教師支援と教育相談、休職と職場復帰とそのサポートについて、理解をする。（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 1, 4 教師のメンタルヘルスについて、教師支援という視点から理解して説明できる。	
		事前学修	感情労働、バーンアウト、メンタルヘルス、職場復帰、について定義を調べてまとめる。	120分
		事後学修	教師のストレスとは何かを記述して、自分のストレスに対する対処法の特徴から具体的な対処の例を記述する。、	120分
15	第二部 木1/14	教育相談とは何か	総合的なまとめを行う（担当：和田万紀）	
		この回の到達目標	到達目標 1 教育相談の意義、理論、方法、展開について、理解して説明できる。	
		事前学修	授業での資料等をまとめて、理解不足の点をまとめる。	120分
		事後学修	教育相談のを履修した自己評価と、今後の学修計画への展開をまとめる。	120分

科目名	教育の方法・技術論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育方法学は教育学の基礎を形成していて、簡単に言うと、学び方、教え方を探求する学問である。本講義では教育方法学の研究領域と研究方法の基礎を学ぶとともに、具体的な教育技術にも言及して、教育実践力を身につけた教員の養成を目指す。私の実務経験を紹介しながら、教育実践力を身に付けられるような講義を展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
これからの子どもに求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができるようになることを目的とし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
教職に強い関心がある学生、プレゼンテーション技術を学びたい学生。

【授業方法】
講義を中心に展開するが、適宜レポートを提示して、学生自らが情報機器を利用して教材・資料制作を行う機会を設ける。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育方法学・教育技術論の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	教育方法学・教育技術論が現代の学校教育や社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代学校の問題点はどこに原因があるのか、教育方法学の立場から明らかにして、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の学校教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。					20						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30		20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歴史教育の課題と教育の方法・技術	壽福隆人	DTP出版	平成27年4月		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	教育方法学とは何か	教育学における教育方法学の位置について	
		この回の到達目標	教育学における教育方法学の位置や意義を理解して、教育方法学的重要性を理解する。	
		事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、わかりやすい授業とはどのような授業であったか、興味関心が高まる授業とはどんな授業であったかを思いおこしてまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、教育方法学研究が教育学の成立を促したことをまとめる。教育学研究のなかで、教育方法学の意味について自らの言葉で表現できるようにする。	120分
2	9月21日	教育方法学の歴史	教育方法学に寄与した教育家の理論と実践	
		この回の到達目標	近代教育学成立に寄与した教育方法学研究を理解する。	
		事前学修	教育原論で学習した「教育学の成立」についてふりかえる。講義ノートを確認して、ペスタロッチやヘルバルトの教育論、教育方法論をまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、「直観教授」の理論、「訓育的教授」の理論をまとめて、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分
3	9月28日	わが国の教育方法学研究	わが国近代公教育の成立と教授法の紹介（古典的教授理論の紹介）	
		この回の到達目標	わが国の公教育発展の歴史から教育方法学研究導入の過程を理解し、教育方法学とはどのような研究か理解する。	
		事前学修	日本の近世末期の手習塾の教授方法を調べる。近代公教育で一般的に用いられている「一斉教授」との違いを明確にするために、教育学事典や文献を調査する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、近代公教育の教授法についてまとめる。教育機器やメディアを用いた最新の教育方法の基礎を形成する古典的な教授法の理解に努める。	120分
4	10月5日	一斉教授法	一斉教授法の成立と問題点	
		この回の到達目標	学校教育で最もポピュラーな教授法「一斉教授」の発展を理解し、そこにどのような問題点があるのか理解する。	
		事前学修	高等学校での学習や大学での学習を基礎として、イギリス産業革命期の歴史について学ぶ。とくに、年少労働者が過酷な環境のなかで、資本主義の発達を支えた問題に注目して文献検索をおこなう。	120分
		事後学修	産業革命期の庶民教育の方法として、安価で合理的な教授法として「一斉教授」が普及した事実を、講義ノートから確認する。また、この教授法が基本的に無理な教授法であったことに理解を深める。	120分
5	10月12日	学習集団	学習集団の編成と学習集団に適した指導法の紹介	
		この回の到達目標	学習集団は重層的な構造をもつてることを理解し、学習集団の編成が学習指導において重要な問題であることを理解する。	
		事前学修	学校教育において、学習は集団を編成して行われる。この集団の種類や編成方法について、各自の教育歴・学校歴の中から経験をまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習集団編成の理論と方法についてまとめる。学習集団の編成とは深い関係があることを理解し、自らの言葉で表現できるようにする。	120分
6	10月19日	教具・教育機器（1）	教具・教育機器を用いたバズ学習の実践方法	
		この回の到達目標	学習活動を豊かにする物的手段についてその種類と利用方法について理解する。	
		事前学修	小集団学習、いわゆるグループ学習の経験を各自の教育歴・学校歴の中から抽出してまとめる。各自の経験の中で、どのような学習集団が望ましかったか考え、その理由についてまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、バズセッションの理想的な編成方法と意義についてまとめる。また、バズ学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月26日	教具・教育機器（2）	教具・教育機器を用いた完全習得学習の実践方法	
		この回の到達目標	学習活動を豊かにする物的手段についてその種類と利用方法について理解する。	
		事前学修	各自お教育歴・学校歴の中から、形成テスト（ドリル・小テストなど）の経験についてまとめる。	120分
		事後学修	完全習得学習の実践方法についてまとめる。また、完全習得学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。	120分
8	11月9日	ティームティーチング	ティームティーチングでの教具・教育機器の利用	
		この回の到達目標	ティームティーチングの進め方を理解して、ティームティーチングに必要な教材開発、それにとまなう教具・教育機器について理解する。	
		事前学修	フィンランドなど北欧諸国の教育を紹介したサイトをインターネットで検索し、それらの国の授業風景との日本の教室での授業風景との違いについて感じることをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ティームティーチングの方法について自らの言葉でその意義を表現できるようにする。	120分
9	11月16日	学習指導案	学習指導案とは何か（種類と目的）	
		この回の到達目標	学習指導案の種類や目的について理解し、学習指導案作成の重要性を理解する。	
		事前学修	インターネットで文部科学省のホームページを検索して、学習指導案や各種解説の入手方法について学ぶ。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案の意義と目的について理解する。また、各都道府県が示している学習指導案のモデルの入手方法についてまとめる。	120分
10	11月23日	教材研究	学習指導案作成のための教材研究の方法	
		この回の到達目標	学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。	
		事前学修	インターネットで紹介されているさまざまな学習指導案を検索し、それらの特徴や注目点について考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。また、教材研究の方法について考える。	120分
11	11月30日	古典的教具	教具・教育機器の発達（1）古典的教具	
		この回の到達目標	学校教育成立時から用いられ、今日でも重要な教具・教育機器=古典的教具にはどのようなものがあるかを理解したうえで、その利用方法について理解する。	
		事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、経験したことがある教具、教育機器についてまとめ、それらがそのような教育効果を上げたか、各自の考えをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、掛け図や紙媒体の資料を実際にPC上で作成してみる。その過程で、教材作成の難しさや煩雑さを体験する。	120分
12	12月7日	映像メディア	教具・教育機器の発達（2）映像メディア	
		この回の到達目標	映像を用いた教育の効果を理解したうえで、その使い方、教材作成の方法を理解する。	
		事前学修	各自の教育歴や学校歴の中から経験したことがある映像提示機器についてまとめる。また、映像教材が学習課題の理解にどのように役立ったかを説明できるようにする。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、各自のテーマにしたがって、映像教材を作成してみる。また、映像教材の背景にある制作者の意図と学習課題との関係適切であったどうかを考える必要性についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ		内 容
13	1 2 月 1 4 日	ICT		教具・教育機器の発達 (3) ICTを用いた教育
		この回の到達目標	ICTを用いた教育の現状を調査し、その教育効果を理解する。	
		事前学修	インターネットを検索して、明らかにフェイクニュース・情報であると思われるものを探し、講義の中で紹介できるように準備する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、インターネットを用いて教材を作るときの問題点を明らかにし、ICT教育の実践において留意しなければならないことを明らかにする。	120分
14	1 2 月 2 1 日	評価法		評価法の種類と歴史及び意義
		この回の到達目標	教育評価の重要性とその方法について理解する。	
		事前学修	通知表や調査書など教育評価の方法を考える。各自の教育歴・学校歴の中から、教育評価を示す資料にはどのようなものがあるか、どういう方法が用いられているかまとめる。	120分
		事後学修	課題として示すあるクラスの成績をもとに5段階評価と各生徒に伝えるコメントを実際に作成してみる。一覧表をレポートとして提出する。	120分
15	1 月 1 1 日	移動要録		通知表・指導要録作成の意義と方法
		この回の到達目標	通知表・指導要録の違いを理解して、教育評価の記録と通知方法について理解する。	
		事前学修	各自の教育歴・学校歴の中で、各自が通知表や調査書を受け取った経験をまとめる。通知表は子どもや青年にどのような心理的影響を与えるか考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認するとともに、テキストに紹介されている指導要録を見て、教師にとって成績評価の重要性について考え、各自が各自の言葉でこのことを表現できるようにする。	120分

科目名	現代教職論	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
(1) 日本における学校教育や教職の社会的意義を学習します。(2) 教育界の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を学習します。(3) 教員の職務内容の全体像や教員の服務上・身分上の義務を学習します。(4) 学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について学習します。(以上、文部科学省「コアカリキュラム」から引用)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本における学校教育や教職の社会的意義を学習し、教育界の動向を踏まえ、今日の教職員に求められる役割や資質能力を養成することを目的とします。また、学校教育現場の実情や教育実践を理解できることを目標とします。

【履修条件】
教育学分野、教育社会学分野に関心のある学生が対象になります。なお、予習と復習の時間は、あくまでも目安になっています。

【授業方法】
講義形式。毎回、受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、そのつど応答をします。また、学校教育現場に勤務する教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本教育史と戦後史のなかの教職の位置づけを理解し、自己の見解を叙述できる。												
②	教職教育学の知見から教育実践の意義を理解し、自己の見解を叙述できる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (60%)。	30	30									60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペー パー)	コメントペーパー (40%)。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に応答いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定いたしません。				

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4. 6（月曜日・5限）	被教育体験と教育体験	被教育経験を相対化する試み	
		この回の到達目標	被教育体験と教育体験の差異について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	教職課程ガイダンス内容について振り返る。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
2	4. 13（月曜日・5限）	公教育システムと教職	教職についての概論：公教育システムの構造と教職の役割とは？	
		この回の到達目標	公教育システムと教職について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
3	4. 20（月曜日・5限）	戦前の教師像	教師観の歴史的変遷：戦前の公教育システムと教師像「ビンボーの時代と曙の時代？」	
		この回の到達目標	戦前の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
4	4. 20（月曜日・5限）	戦後初期の教師像	教師観の歴史的変遷：戦後の公教育システムと教師像 管理教育と民間教育研究運動「押さえつけと、たたかいの時代？」	
		この回の到達目標	戦後初期の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
5	5. 4（月曜日・5限）	教師の身分と服務	教師の身分と服務（1）：教師の身分保障「どうしたらクビになる？」	
		この回の到達目標	教師の身分と服務について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
6	5. 11（月曜日・5限）	教師の身分と服務	教師の身分と服務（2）：体罰と懲戒の区別「殴られたら、やりかえす？」	
		この回の到達目標	体罰の位置づけについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5.18（月曜日・5限）	学校教育における教育実践	教師の役割と仕事（1）：学習指導（授業実践）、生活・生徒指導（教育実践）「頭髪検査に意味はあるか？」	
		この回の到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
8	5.25（月曜日・5限）	学校教育と保護者	教師の役割と仕事（2）：校務分掌、学校経営、保護者と地域社会「PTAは、なんのため？」	
		この回の到達目標	学校教育と保護者の関係の意義について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
9	6.1（月曜日・5限）	教師の専門性	教師の資質・能力：教職の専門性の輪郭「プロか、職人か、公務員か？」	
		この回の到達目標	教師の専門性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
10	6.8（月曜日・5限）	教員研修	教師の研修：教員研修の種別と内実	
		この回の到達目標	教員研修について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
11	6.15（月曜日・5限）	テレビドラマのなかの教師像	多様な教師像 テレビドラマ「金八先生」から「鈴木先生」へ	
		この回の到達目標	テレビドラマのなかの教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
12	6.22（月曜日・5限）	教職と多忙化	教師の多忙化と教育労働「教職はブラックか？」	
		この回の到達目標	教職と多忙化について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6.29（月曜日・5限）	学校教育と地域	チームとしての学校：「開かれた学校」と「コミュニティ・スクール」	
		この回の到達目標	学校教育と地域について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
14	7.6（月曜日・5限）	教師像の多様さ	教師の理想と現実「教師の価値＝バレンタインのチョコの数か？ 卒業式の色紙の数か？」	
		この回の到達目標	教職像の多様さについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
15	7.13（月曜日・5限）	近代教育と教職	近代教育のなかの教師意義と限界	
		この回の到達目標	近代教育と教職の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
		事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

科目名	自然地理学概論Ⅰ	担当者	永田 玲奈	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地球温暖化など環境変化の人間社会に対する影響や人間活動による自然環境への影響の理解を十分なものとするために、自然地理学的知識は有用と考えられる。本授業では、環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響に主眼を置いた地理学的諸トピック挙げて、その時空間分布と影響について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業では、教育職員として地理歴史科を教える上で必要な自然地理学的な基礎知識やものの見方・考え方の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、自然地理学的なものの見方・考え方を理解し説明出来るようになる。											
②	学生が、主体的に環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響を発見し、自分の意見を提示出来るようになる。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、 確実な知識とこれを説明する能力 が身についているかを、 筆記試験により評価する。	60										60
小テスト等	到達目標①について、 授業中に説明のあった現象に関する 知識を説明する能力が身についているか否か、 小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等	第8回および第14回の授業における プレゼン及びディスカッションにおいて 説明および意見交換の内容を基準に、 到達目標②にかかわる能力を評価する。		30									30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にテストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義の後に授業講堂にて受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7 第二部木 4/9	講義ガイダンス～自然地理の知識は思わず人に教えたくなります！～	全15回の授業で学ぶ講義内容について説明を行う。これにより、今後の授業の流れを把握するとともに、自然地理とはどのような現象を扱う学問であるのかを理解することができる。	
		この回の到達目標	これから15回の講義で学ぶ内容について理解することで、日常生活の中で見られる自然地理の現象について目にとめ興味を持つことができるようになる。	
		事前学修	シラバスを読んで自分が興味のあるテーマについて調べてくること。	120分
		事後学修	今後の講義で扱う内容について簡単にノートにまとめること。	120分
2	第一部火 4/14 第二部木 4/16	地理情報の活用～地理情報を使って便利な生活をしよう！～	身近な地図と地理情報の活用方法について学修する。	
		この回の到達目標	いつも何気なく利用している地図についてより深く読み込めるようになるとともに、私たちの生活に欠かせない地理情報の便利な活用方法について理解し説明することができる。	
		事前学修	普段私たちが日常で使っている地理情報にはどのようなものがあるのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	今回学んだ地図や地理情報の知識を今後の生活にどのように活かしたら良いかについて、講義内容をまとめながら考察を行うこと。	120分
3	第一部火 4/21 第二部木 4/23	地形はどうやって作られるのか？～地球内部はゆっくりですが動いています！～	普段目にする高く険しい山はどうやって作られるのか、その形成過程について学修する。	
		この回の到達目標	私たちが住んでいる地球の表面、つまり地形の形成には地球内部の動きが関係しているという点について理解し説明することができる。	
		事前学修	プレートテクトニクスとは何かについて調べてくること。	120分
		事後学修	地球の内部はどのような構造をしているのか？また、私たちが住んでいる日本に高い山があるのはなぜか？についてノートにまとめること。	120分
4	第一部火 4/28 第二部木 4/30	火山噴火や地震はどうして起こるのか？～プレート境界と地震・火山噴火との関係～	日本で地震・火山噴火が多い理由について学修する。	
		この回の到達目標	地球の表面を覆う「プレート」の動きにより地震や火山噴火が発生するということを理解し説明することができる。	
		事前学修	日本付近のプレートの特徴と、地震・火山噴火との関係について調べてくること。	120分
		事後学修	地震・火山噴火はどのような場所で発生するのか、その発生メカニズムを含めてノートにまとめること。	120分
5	第一部火 5/5 第二部木 5/7	小地形とは何か？～何気なく見ている地形それは川や海が作っています！～	河川や海の侵食によって作られる小地形について学修する。	
		この回の到達目標	普段見慣れている風景が川の流れや土地の隆起などにより作られていることを理解し説明することができる。	
		事前学修	侵食とは何かと、侵食によって作られる地形にはどのようなものがあるのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	河川や海が作り出す地形の種類と形成過程をまとめるとともに、自分が住んでいる地域の周辺にある小地形について調べること。	120分
6	第一部火 5/12 第二部木 5/14	世界の気候；その1～気候は何で決まるのか？～	世界には様々な気候が存在するがそれはなぜなのかを理解しながら、気候を決定する要因について学修する。	
		この回の到達目標	海外旅行に行くと日本とは全く異なった気候を経験する。なぜ日本と世界の他の国々の気候は異なるのかについて理解し説明することができる。	
		事前学修	日本以外で自分が興味のある地域の気温・降水量を調べ、東京の気温・降水量と比較してみること。	120分
		事後学修	気候を決定する要因をきちんと理解し、世界の気温・降水量分布との関係についてノートにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19 第二部木 5/21	世界の気候；その2～風と水により作り出される気候～	季節によって風の向きは変化する。この風の変化はなぜ生じるのかを学ぶとともに、海洋が気候の形成に与える影響について学修する。	
		この回の到達目標	季節によって風向が変化する「モンスーン」と、広い海を常に一定方向に流れる大きな流れである「海流」により気候が変化するということを理解し説明することができる。	
		事前学修	以下の用語について調べてくること；モンスーン・暖流・寒流。	120分
		事後学修	季節変化が起こるメカニズムと、西岸気候と東岸気候の違いについてノートにまとめること。	120分
8	第一部火 5/26 第二部木 5/28	世界の気候区分～気候が違ふと文化も違ふ～	世界を同一の気候の特色をもった地域に区分する「気候区分」とは何かと、気候区分ごとの気温・降水量の特徴について学修する。	
		この回の到達目標	世界には様々な特徴を持った気候があり、それにより多様な文化が形成されているということを理解し説明することができる。	
		事前学修	ケッペンの気候区分とは何かを調べてくること。	120分
		事後学修	気候区分ごとの気温・降水量と文化の特徴についてノートにまとめること。	120分
9	第一部火 6/2 第二部木 6/4	日本の気候～歌に詠まれる美しい日本の四季～	日本における四季ごとの気温・降水量の特徴について理解するとともに、それらをもたらす要因について学修する。	
		この回の到達目標	日本は四季が明瞭であり、かつ地域によってその特徴が異なる理由について理解し説明することができる。	
		事前学修	気団とは何かと、季節に応じて日本付近にやってくる気団の種類について調べること。	120分
		事後学修	梅雨・秋雨時の降水量の特徴と、冬季の日本の降雪の地域差についてノートにまとめること。	120分
10	第一部火 6/9 第二部木 6/11	日本の気候と自然災害～災害大国日本で身を守るために必要な知識とは？～	第9回で学んだ日本の気候の特徴を踏まえて、日本で発生する豪雨災害の実態について学修する。	
		この回の到達目標	日本で甚大な災害を引き起こしている台風に伴う豪雨や都市型豪雨（いわゆる「ゲリラ豪雨」）が発生するメカニズムについて理解し説明することができる。	
		事前学修	自分の記憶に残っている気象災害を1つ選んで調べてくること。	120分
		事後学修	日本ではどのような気象災害が発生しやすいのかをノートにまとめるとともに、自分の住んでいる地域で起こりうる気象災害を想定し、実際に直面した際の対応策を考えること。	120分
11	第一部火 6/16 第二部木 6/18	日本の地形と自然災害～日本の地形特有の自然災害とは？～	日本は世界でも有数の火山集中帯であり、また大きな地震もたびたび発生している。過去の地震・火山噴火による災害の事例について学ぶとともに、防災の取り組みについても学修する。	
		この回の到達目標	日本で過去に甚大な被害をもたらした地震や火山噴火の発生メカニズムを理解することで、自然災害が発生した際の対処法について考える力を養うことができる。	
		事前学修	過去に日本で甚大な被害を引き起こした地震または火山噴火の事例について調べてくること。	120分
		事後学修	過去に発生した地震・火山噴火の事例から学んだ「今後の防災に役立てられること」をノートにまとめること。	120分
12	第一部火 6/23 第二部木 6/25	世界の環境問題～環境に対して私たちが日常生活で出来ることとは？～	私たちが直面している地球温暖化・オゾン層の破壊・森林減少などの様々な環境問題の実態について学修する。	
		この回の到達目標	私たちが現在直面している環境問題は人間活動によるものであるということを理解し、解決に向けて私達に何ができるのかについて考える力を身につける。	
		事前学修	地球温暖化・オゾン層の破壊・森林減少の中で興味のあるテーマを決め、今何が問題とされているのかについて調べてくること。	120分
		事後学修	現在、地球環境を脅かしている問題についてノートにまとめるとともに、今後必要な対策は何であるのかについて自分の意見をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30 第二部木 7/2	世界の自然災害～大雨・火山噴火・地震など日常に危険は潜んでいる！～	世界で発生している地震・火山による自然災害、異常気象による気象災害について学修するとともに、第12回で学んだ環境問題との関連について理解する。	
		この回の到達目標	世界の自然災害の中には、第12回で学修した人間活動が引き起こしているものがあるという点を理解し説明することができる。	
		事前学修	最近世界で発生した地震・火山による災害、もしくは干ばつなどの異常気象のうち興味のある事例について調べてくること。	120分
		事後学修	現在世界で発生している自然災害の実態とその要因についてノートにまとめること。	120分
14	第一部火 7/7 第二部木 7/9	環境問題への取り組み～限りある自然と資源を守るためにできること～	第12回には環境問題について、第13回では人間活動による環境破壊が自然災害を引き起こしていることを学んだ。今回は世界で行われている様々な環境対策について学修する。	
		この回の到達目標	世界で発生する自然災害の一因となっている環境問題を解決する世界的な取り組みについて、理解し説明することができる。	
		事前学修	第13回で学んだ環境問題に対する世界的な対策について1つテーマを決めて調べるとともに、自分が日々の生活でできる環境対策について考えてくること。	120分
		事後学修	過去から現在まで行われている環境対策の歴史についてノートにまとめ、課題として残っているのはどのような点であるのかについて考察すること。	120分
15	第一部火 7/14 第二部木 7/16	講義のまとめ～自然地理の知識を生活に活かそう！～	全ての講義を通して復習を行い、得られた知識の体系化を行う。	
		この回の到達目標	私達が日々目にする自然の成り立ちを理解し、その自然を維持するために自分たちがすべきことについて考える力を養う。	
		事前学修	全ての講義内容について復習を行い、疑問点をまとめてくること。	120分
		事後学修	講義の中で今後も自分が関心を持って調べていきたいテーマを選び、実際に調べてみること。	120分

科目名	自然地理学概論Ⅱ	担当者	永田 玲奈	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地球温暖化など環境変化の人間社会に対する影響や人間活動による自然環境への影響の理解を十分なものとするために、自然地理学的知識は有用と考えられる。本授業では、環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響に主眼を置いた地理学的諸トピック挙げて、その時空間分布と影響について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業では、教育職員として地理歴史科を教える上で必要な自然地理学的な基礎知識やものの見方・考え方の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業後に任意でリアクションペーパーの記入をおこなう。学生によるプレゼン及びディスカッションをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、自然地理学的なものの見方・考え方を理解し説明出来るようになる。											
②	学生が、主体的に環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響を発見し、自分の意見を提示出来るようになる。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	60										60
小テスト等	到達目標①について、授業中に説明のあった現象に関する知識を説明する能力が身についているか否か、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等	第8回および第14回の授業におけるプレゼン及びディスカッションにおいて説明および意見交換の内容を基準に、到達目標②にかかわる能力を評価する。		30									30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパー内の意見に関しては、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00に研究室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 9/15 第二部 9/17	ガイダンス	後学期講義の概要，評価方法の解説，心構えなど	
		この回の到達目標	後学期授業の流れを理解する（SB0s①）	
		事前学修	シラバスを読む	120分
		事後学修	全15回の授業内容とその意図を理解する	120分
2	第一部 9/22 第二部 9/24	自然地理学の概要	基礎的概念の復習，自然地理学の研究対象とはなんであるか？	
		この回の到達目標	前学期を通しておこなった自然地理学の基礎的概念やその研究対象について理解し説明できるようになる（SB0 s①）	
		事前学修	前学期の授業内容を復習する	120分
		事後学修	自然地理学的なものの見方や考え方を考える	120分
3	第一部 9/29 第二部 10/1	環境問題とその地域的差異	環境問題とは何か？，環境問題の空間分布	
		この回の到達目標	環境問題とはどのような性質をもっているのか。また，これらの環境問題の空間分布はどのような様になっているのか説明できるようになる。（SB0 s①②）	
		事前学修	中学校・高等学校等で勉強した環境問題を復習する	120分
		事後学修	環境問題の空間分布を復習する	120分
4	第一部 10/6 第二部 10/8	環境問題Ⅰ	世界の環境問題，時空間分布とその要因	
		この回の到達目標	世界中で発生する様々な環境問題の時間的・空間的分布を理解し，その要因に関わる自然地理学的現象について理解し説明できるようになる。（SB0 s①②）	
		事前学修	環境問題の空間分布を復習する	120分
		事後学修	授業中で取り扱った環境問題の空間分布とこの要因に関わる自然地理学的現象を復習する	120分
5	第一部 10/13 第二部 10/15	環境問題Ⅱ	気候変動，地球温暖化	
		この回の到達目標	気候変動に関わる自然的要因とこの人間社会への影響を理解し説明できるようになる。（SB0 s①②）	
		事前学修	前学期授業内にて学んだ気候や気候変動に関わる部分を復習する	120分
		事後学修	気候変化や気候変動に関わる自然的要因とこの人間社会への影響を復習する	120分
6	第一部 10/20 第二部 10/22	環境問題Ⅲ	森林破壊，砂漠化，酸性雨	
		この回の到達目標	授業中で取り扱った現象の自然的・人為的要因とその影響にを理解し説明できるようになる。（SB0 s①②）	
		事前学修	砂漠化や酸性雨について事前に調べる	120分
		事後学修	砂漠化や酸性雨の発生要因や影響について復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 10/27 第二部 10/29	環境問題に関する総括	環境問題に係わる自然的・人為的要因・環境変化の実態・人間社会への影響について	
		この回の到達目標	授業中で取り扱った様々な事例について、環境の変化～問題の発生～解決に至る一連の過程を理解し説明できるようになる。(SB0 s ①②)	
		事前学修	3～6回の授業内容を復習する	120分
		事後学修	環境問題のタームに関して復習する	120分
8	第一部 11/10 第二部 11/5	プレゼン及びディスカッション	身近な環境問題に関する資料作成及びプレゼン	
		この回の到達目標	身近な自然環境の中に存在する問題とその影響を理解し、他人に説明をすることで、問題発見の視座を習得する。(SB0 s ②)	
		事前学修	身近な環境問題を調べ、プレゼン資料を作成する	120分
		事後学修	他のグループのプレゼン内容における視座やまとめ方を復習する	120分
9	第一部 11/17 第二部 11/12	自然災害Ⅰ	地震、地震に伴う諸現象	
		この回の到達目標	地震のメカニズムやこれに関係する様々な自然現象や影響を理解し説明できるようになる。(SB0 s ①)	
		事前学修	地震やこれに伴う様々な災害について調べる	120分
		事後学修	地震のメカニズムやこれに関わる様々な現象を理解する	120分
10	第一部 11/24 第二部 11/19	自然災害Ⅱ	火山災害	
		この回の到達目標	火山に関わる様々な自然災害について発生要因や影響を理解し説明できるようになる。(SB0 s ①)	
		事前学修	火山や火山活動に関わる災害を調べる	120分
		事後学修	火山に関わる自然災害について復習する	120分
11	第一部 12/1 第二部 12/3	自然災害Ⅲ	気象災害、水害	
		この回の到達目標	気象災害や水害について発生要因や影響を理解し説明できるようになる。(SB0 s ①)	
		事前学修	気象災害や水害について調べる	120分
		事後学修	気象災害や水害について復習する	120分
12	第一部 12/8 第二部 12/10	自然科学的ケーススタディ	自然科学的事例研究の紹介	
		この回の到達目標	自然科学的方法を用いた自然地理学的研究事例から見方や考え方を習得し実践できるようになる。(SB0 s ①②)	
		事前学修	1～11回の授業を通して学んだ自然地理学的な視座がどのようなものか考えておく	120分
		事後学修	自然地理学的な視座を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 12/15 第二部 12/17	人類紀自然学的ケーススタ ディ	人類紀自然学的事例研究の紹介	
		この回の 到達目標	人類紀における人間圏 - 自然圏間の相互作用を対象とした研究事例から見方や考え方を習得し実践できるようになる。(SB0 s ①②)	
		事前学修	人類紀とは何であるか調べる	120分
		事後学修	人類紀における自然と人間の関係について復習する	120分
14	第一部 12/22 第二部 12/24	プレゼン及びディスカッ ション	人間生活と自然災害に関する資料作成及びプレゼン	
		この回の 到達目標	自然災害の事例を通して自然環境と人間社会の関係を考察し、他人に説明することで、問題発見の視座を習得する。(SB0 s ②)	
		事前学修	これまでの授業を通して学んだ自然と人間の関係をもとにプレゼン資料を作成する	120分
		事後学修	他のグループのプレゼン内容における視座やまとめ方を復習する	120分
15	第一部 1/12 第二部 1/14	後学期の総括	後学期講義の内容復習	
		この回の 到達目標	全授業の内容を復習し、自然地理学的に現象を切り取るフレームワークを身に着け、実践できるようになる。(SB0 s ①②)	
		事前学修	後学期を通じた授業内容を復習する	120分
		事後学修	後学期に学んだ内容をノートにまとめる	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	奥田 智	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景及び改訂のポイント及び、中学校社会科公民分野に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、事例研究等を行いながら「思考力」「判断力」「表現力」等々を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 中学校社会科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている中学校社会科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
中学校社会科の教員免許取得に必修である。また、高等学校公民科・地理歴史科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成及び模擬授業等については演習形式で行う。演習後、指導案及び模擬授業の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学習指導案の作成及び発表を行う。 模擬授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成についてについて説明できる。【知識】												
②	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいについて説明できる。【知識】												
③	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた学習指導案を作成することができる。【知識】【技能】												
④	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を展開することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】												
⑤	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を批評することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7・8回の授業において「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた学習指導案を作成させ到達目標①②③に関わる内容が理解できているか評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	第9～14回の授業において「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を展開させ到達目標④⑤に関わる内容が習得できているか評価する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
学習指導案作成及び模擬授業後講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版	年1月 一部改		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後及び休憩時間、講堂にて行う。授業時間：水曜6限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員及び教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員及び教育委員会指導主事の経験を生かしてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部水4／8	新学習指導要領	新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて理解及び説明することができる。	
		事前学修	学習指導要領とはどのような性格を有するものか事前に調べる。	120分
		事後学修	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて復習する。	120分
2	第二部水4／15	新学習指導要領	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について確認する。	120分
		事後学修	講義の内容を受けて、学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について復習する。	120分
3	第二部水4／22	新学習指導要領	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。①	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。	120分
		事後学修	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。	120分
4	第二部水4／29	新学習指導要領	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。②	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。	120分
		事後学修	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。	120分
5	第二部水5／6	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開（中学校社会科公民分野）に関わる事例研究①を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
		事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
6	第二部水5／13	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開（中学校社会科公民分野）に関わる事例研究②を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
		事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部水5／20	学習指導案作成	グループ毎に学習指導案（政治分野・経済分野・国際分野）を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元（政治分野・経済分野・国際分野）の教科書記述を理解しておく。	120分
		事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
8	第二部水5／27	学習指導案作成	グループ毎に学習指導案（政治分野・経済分野・国際分野）を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元（政治分野・経済分野・国際分野）の教科書記述を理解しておく。	120分
		事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り改善を加える。	120分
9	第二部水6／3	模擬授業	指定されたグループは模擬授業（政治分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
10	第二部水6／10	模擬授業	指定されたグループは模擬授業（政治分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする	120分
11	第二部水6／17	模擬授業	指定されたグループは模擬授業（経済分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
12	第二部水6／24	模擬授業	指定されたグループは模擬授業（経済分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水7／1	模擬授業	指定されたグループは模擬授業（国際分野）を行う。1グループ30分×2グループ受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
14	第二部水7／8	模擬授業	指定されたグループは模擬授業（国際分野）を行う。1グループ30分×2グループ受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
15	第二部水7／15	総括	生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件についてレポートにまとめる 生徒の学習意欲を高める学習指導という観点で授業を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して新学習指導要領において求められている授業のあり方について理解及び説明することができる。	
		事前学修	生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件について自身の考えをまとめる。	120分
		事後学修	学習意欲を高める授業の在り方について振り返る。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成を目指す。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。												
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。												
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。												
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような力を身につける。												
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	芦書房	2019		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学習指導要領に沿った教材の作成を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月6日	社会科の成立	19世紀末から20世紀初頭のNEAを中心としたアメリカのカリキュラム改革運動に注目し、社会科成立の背景を理解して社会科教育の意義・意味を理解する。アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
		この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
		事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。	120分
2	4月13日	社会科の目標と内容	学習指導要領とは何か、どのような記述があるのかから初めて、中学校社会科および高等学校公民科に関する記述を理解する。	
		この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。	
		事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。	120分
3	4月20日	教育課程と社会科・公民科	教育課程全体のなかで、社会科・公民科教育の位置について理解するために、カリキュラム・教育課程について学ぶ。	
		この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する。	
		事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。	120分
		事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。	120分
4	4月27日	中学校社会科公民的分野(1)	中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	中学校社会科公民的分野の学習範囲と教材構成を理解して、公民的分野が目指す教育について理解する。	
		事前学修	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
		事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科が目指す「公民的資質」についてまとめる。	120分
5	5月4日	中学校社会科公民的分野(2)	中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	中学校社会科公民的分野の学習範囲と教材構成を理解して、公民的分野が目指す教育について理解する。	
		事前学修	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科公民的分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。	120分
6	5月11日	中学校社会科の構造	中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて考える。	
		この回の到達目標	中学校社会科の3分野の構造と学習における関連性について理解する。	
		事前学修	中学校社会科地理的分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。	120分
		事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月18日	高等学校教育と公民科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
		この回の到達目標	高等学校公民科が目指す教育目標を明らかにし、公民科学習が現代の青年の育成にいかに関与するかを理解する。	
		事前学修	高等学校公民科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
		事後学修	講義ノートと高等学校王家家の教科書から、高等学校公民科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	5月25日	高等学校現代社会（公共）	高等学校現代社会（公共）の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校現代社会（公共）が扱う学習範囲と意義について理解する。	
		事前学修	高等学校現代社会（公共）の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校現代社会（公共）の学習課題をまとめる。とくに、政治的分野と経済的分野および青年論的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校現代社会についての理解を深める。	120分
9	6月1日	高等学校政治経済	高等学校政治経済の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校で学ぶ英二経済の学習範囲と学習の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校政治経済の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校政治経済の学習課題をまとめる。とくに、政治と経済の学習がどのように配置されているかに注目して政治経済学習の今後のあり方を考える。	120分
10	6月8日	高等学校倫理	高等学校員りの背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校で学ぶ倫理の学習範囲と学習の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校倫理の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校員りの学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	6月15日	公民科指導の工夫（1）	暗記教科とまらないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
		この回の到達目標	公民科教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心を引き付ける教育活動の実態を理解する。	
		事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
		事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型公民科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	6月22日	公民科指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
		この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ公民科教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
		事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、公民科の形成テストも大きく変わっていかなければならないことについて考える。	120分
		事後学修	デベートやグループによる発表を指導する社会科公民科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月1日	公民科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
		この回の到達目標	評価法と公民科の関係について考え、公民科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
		事前学修	これからの高等学校教育や公民科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
		事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科公民科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	7月8日	教材研究の方法（1）	発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
		この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
		事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科公民科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
		事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	7月15日	教材研究の方法（2）	発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
		この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身につける。	
		事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
		事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	奥田 智	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景・ポイント、高等学校公民科に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、ディベート学習等の事例研究等を行いながら生徒の学習意欲を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 高等学校公民科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている高等学校公民科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
高等学校公民科の教員免許取得に必修である。また、高等学校地理歴史科及び中学校社会科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成及び模擬授業等については演習形式で行う。演習後、指導案及び模擬授業の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学習指導案の作成及び発表、ディベートの実施、模擬授業の実施	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習指導要領における「公民科」の内容構成についてについて説明できる。【知識】												
②	学習指導要領における「公民科」のねらいについて説明できる。【知識】												
③	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた学習指導案を作成することができる。【知識】【技能】												
④	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた授業を展開することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】												
⑤	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた授業を批評することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第8・9回の授業において「公民科」のねらいを踏まえた学習指導案を作成させ到達目標①②③に関わる内容が理解できているか評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	8～14回の授業において「公民科」のねらいを踏まえた模擬授業を実施させ到達目標④⑤に関わる内容が習得できているか評価する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
学習指導案の作成及び模擬授業後に評論する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	教育出版	平成22年6月		
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後及び休憩時間、講堂にて行う。授業時間：水曜6限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員及び教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員及び教育委員会指導主事の経験を生かして学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 水 9 ／ 1 6	新学習指導要領	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて理解及び説明することができる。	
		事前学修	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて事前に調べる。	120分
		事後学修	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて復習する。	120分
2	第二部 水 9 ／ 2 3	新学習指導要領	新学習指導要領における新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
		事後学修	公民としての資質とは何かについてまとめる。	120分
3	第二部 水 9 ／ 3 0	新学習指導要領	公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
		事後学修	「現代社会」「政治経済」「倫理」の目標等をまとめる。	120分
4	第二部 水 10 ／ 7	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「現代社会」に関わる事例研究を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
		事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
5	第二部 水 10 ／ 1 4	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「政治経済」「倫理」に関わる事例研究を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
		事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
6	第二部 水 10 ／ 2 1	ディベート実践	公民科におけるディベート学習の有効性について解説するとともに、グループ別に「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」という論題でディベート準備を行う。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連してディベート学習の有効性について理解及び説明することができる。	
		事前学修	ディベート学習について事前に調べる。	120分
		事後学修	ディベート準備を継続する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 水 10 ／ 28	ディベート実践	代表グループが模擬ディベートを実施する。（論題：「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」）	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連してディベート学習の有効性について理解及び説明することができる。	
		事前学修	ディベートに必要な基礎資料を用意する。	120分
		事後学修	公民科におけるディベート学習の有効性を整理する。	120分
8	第二部 水 11 ／ 11	学習指導案作成	グループ毎に学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。 ※グループ毎に担当科目を指定する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。	120分
		事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
9	第二部 水 11 ／ 18	学習指導案作成	グループ毎に学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。 ※グループ毎に担当科目を指定する。	
		この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
		事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。	120分
		事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
10	第二部 水 11 ／ 25	模擬授業	指定されたグループは模擬授業「現代社会」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
11	第二部 水 12 ／ 2	模擬授業	指定されたグループは模擬授業「現代社会」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
12	第二部 水 12 ／ 9	模擬授業	指定されたグループは模擬授業「政治経済」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部水 12 ／16	模擬授業	指定されたグループは模擬授業「政治経済」を行う。1グループ30分×2グループ受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
14	第二部水 12 ／23	模擬授業	指定されたグループは模擬授業「倫理」を行う。1グループ30分×2グループ受講者同士で批評する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
		事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
		事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
15	第二部水 1 ／13	総括	公民科における課題追究学習の重要性についてレポートにまとめる。 公民科における課題追究学習の重要性の観点で授業を総括する。	
		この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して公民科における課題追究学習の重要性について理解及び説明することができる。	
		事前学修	公民科における課題追究学習の重要性について自身の考えをまとめる。	120分
		事後学修	公民科の授業の在り方について振り返る。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科公民科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際 to 実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	足書房	2019年		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月14日	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法	
		この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。	
		事前学修	文献や記事、授業で使う資料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分
		事後学修	教科教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分
2	9月21日	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法	
		この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。	
		事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分
		事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分
3	9月28日	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題	
		この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。	
		事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分
		事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分
4	10月5日	中学生・高校生のの学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義	
		この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるため、生徒を理解することを学ぶ。	
		事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分
		事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分
5	10月12日	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法	
		この回の到達目標	生徒の学力にあった教材作りとは何かを理解し、実践してみる。	
		事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分
		事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分
6	10月19日	教育工学	教育の工学的方法について	
		この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法を実際に用いる。	
		事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
7	10月26日	紙媒体の資料（プリント）作成		紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。		
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		
		事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		
8	11月9日	映像資料を用いた授業		映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	映像資料を作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。		
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		
		事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		
9	11月16日	インターネットを用いた授業		インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	インターネットを用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を身に付ける。		
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。		
		事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		
10	11月23日	教科書の利用		教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。		
		事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。		
		事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。		
11	11月30日	ディベートを用いる授業(1)		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
		事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。		
		事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。		
12	12月7日	ディベートを用いる授業(2)		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
		事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。		
		事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2 月 1 日	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
		この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
		事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
		事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっさいするための資料および指導案を作成する。	120分
14	1 2 月 2 1 日	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
		この回の到達目標	生徒のグループ発表を用いた授業の難しさを理科し、指導方法を考える。	
		事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
		事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	1 月 1 1 日	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
		この回の到達目標	校外教育における実施調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
		事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
		事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。										
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。										
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。										
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。										
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。										
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	芦書房	2019		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月7日	社会科の成立	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。
		この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。
		事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。
		事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。
2	4月14日	社会科の目標と内容	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。
		この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。
		事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。
3	4月21日	教育課程と社会科・地歴科	教育課程の意義と編成方法について考える。
		この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する
		事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。
		事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。
4	4月28日	中学校社会科歴史科分野	中学校社会科地理的分野の指導目標と指導上の留意点について。
		この回の到達目標	中学校社会科地理的分野の指導目標と教材構成を理解して、地理的分野が目指す教育について理解する。
		事前学修	中学校社会科地理的分野・歴史的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。
		事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科地理的分野・歴史的分野が扱う学習課題を理解する。
5	5月5日	中学校社会科歴史的分野	中学校社会科歴史的分野の指導目標と指導上の留意点について。
		この回の到達目標	中学校社会科歴史的分野の学習範囲と教材構成を理解して、歴史的分野が目指す教育について理解する。
		事前学修	小学校の地理的分野・歴史的分野があつかう教材、高等学校地歴科であつかう教材と中学校社会科があつかう教材を比較して、その違いを検討し、中学校地理的分野・歴史的分野が目的とする学習課題を明確にする。
		事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科地理的分野・歴史的分野分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。
6	5月12日	中学校社会科の構造	中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。
		この回の到達目標	中学校社会科の3分野と学習における関連性について理解する。
		事前学修	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。
		事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	高等学校教育と地歴科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
		この回の到達目標	高等学校地歴科が目指す教育目標を明らかにし、地歴科学習が現代の青年の育成がいかに重要か理解する。	
		事前学修	高等学校地歴科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
		事後学修	講義ノートと高等学校地歴科の教科書から、高等学校地歴科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	5月26日	高等学校地理	高等学校地理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校地理が扱う学習範囲と意義について理解する。	
		事前学修	高等学校地理の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校地理の学習課題をまとめる。とくに、人文地理学的分野と自然地理学的分野および経済地理学的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校地歴科についての理解を深める。	120分
9	6月2日	高等学校日本史	高等学校日本史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校で学ぶ日本史学習範囲と学習の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校日本史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校日本史の学習課題をまとめる。とくに、政治・経済と文化史の学習がどのように配置されかに注目を注目して日本史学習の今後のあり方を考える。	120分
10	6月9日	高等学校世界史	高等学校世界史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校で学ぶ世界史の学習範囲と学習の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校世界史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校世界史の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	6月16日	地理歴史指導の工夫（1）	暗記教科とならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
		この回の到達目標	地歴教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心をひきつける教育活動の実態を理解する。	
		事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
		事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型地歴科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	6月23日	地理歴史指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
		この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ地理歴史教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
		事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、地歴科の形成テストも大きく変わっていかねなければならないことについて考える。	120分
		事後学修	デバートやグループによる発表を指導する社会科地歴科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	地歴科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
		この回の到達目標	評価法と地歴科の関係について考え、地歴科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
		事前学修	これからの高等学校教育や地歴科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
		事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科地歴科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	7月9日	教材研究の方法（1）	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
		この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
		事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科・地歴科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
		事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	7月16日	教材研究の方法（2）	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
		この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身に付ける。	
		事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
		事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ【新課程】	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	芦書房	2019		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	日程	テーマ	内 容
1	4月7日	社会科の成立	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。
		この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。
		事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。
		事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。
2	4月14日	社会科の目標と内容	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。
		この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。
		事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。
		事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。
3	4月21日	教育課程と社会科・地歴科	教育課程の意義と編成方法について考える。
		この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する
		事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。
		事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。
4	4月28日	中学校社会科歴史科分野	中学校社会科地理的分野の指導目標と指導上の留意点について。
		この回の到達目標	中学校社会科地理的分野の指導目標と教材構成を理解して、地理的分野が目指す教育について理解する。
		事前学修	中学校社会科地理的分野・歴史的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。
		事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科地理的分野・歴史的分野が扱う学習課題を理解する。
5	5月5日	中学校社会科歴史的分野	中学校社会科歴史的分野の指導目標と指導上の留意点について。
		この回の到達目標	中学校社会科歴史的分野の学習範囲と教材構成を理解して、歴史的分野が目指す教育について理解する。
		事前学修	小学校の地理的分野・歴史的分野があつかう教材、高等学校地歴科であつかう教材と中学校社会科があつかう教材を比較して、その違いを検討し、中学校地理的分野・歴史的分野が目的とする学習課題を明確にする。
		事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科地理的分野・歴史的分野分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。
6	5月12日	中学校社会科の構造	中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。
		この回の到達目標	中学校社会科の3分野と学習における関連性について理解する。
		事前学修	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。
		事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	高等学校教育と地歴科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
		この回の到達目標	高等学校地歴科が目指す教育目標を明らかにし、地歴科学習が現代の青年の育成がいかに重要か理解する。	
		事前学修	高等学校地歴科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
		事後学修	講義ノートと高等学校地歴科の教科書から、高等学校地歴科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	5月26日	高等学校地理	高等学校地理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校地理が扱う学習範囲と意義について理解する。	
		事前学修	高等学校地理の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校地理の学習課題をまとめる。とくに、人文地理学的分野と自然地理学的分野および経済地理学的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校地歴科についての理解を深める。	120分
9	6月2日	高等学校日本史	高等学校日本史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校で学ぶ日本史学習範囲と学習の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校日本史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校日本史の学習課題をまとめる。とくに、政治・経済と文化史の学習がどのように配置されかに注目に注目して日本史学習の今後のあり方を考える。	120分
10	6月9日	高等学校世界史	高等学校世界史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
		この回の到達目標	高等学校で学ぶ世界史の学習範囲と学習の意義について理解する。	
		事前学修	高等学校世界史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
		事後学修	講義ノートを確認し、高等学校世界史の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	6月16日	地理歴史指導の工夫（1）	暗記教科とならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
		この回の到達目標	地歴教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心をひきつける教育活動の実態を理解する。	
		事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
		事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型地歴科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	6月23日	地理歴史指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
		この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ地理歴史教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
		事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、地歴科の形成テストも大きく変わっていかなければならないことについて考える。	120分
		事後学修	デバートやグループによる発表を指導する社会科地歴科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7月2日	地歴科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
		この回の到達目標	評価法と地歴科の関係について考え、地歴科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
		事前学修	これからの高等学校教育や地歴科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
		事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科地歴科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	7月9日	教材研究の方法（1）	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
		この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
		事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科・地歴科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
		事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	7月16日	教材研究の方法（2）	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
		この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身に付ける。	
		事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
		事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	足書房	2019年		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法	
		この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。	
		事前学修	文献や記事、授業で使う考古学的史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分
		事後学修	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分
2	9月22日	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法	
		この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。	
		事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分
		事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分
3	9月29日	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題	
		この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。	
		事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分
		事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分
4	10月6日	中学生・高校生の学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義	
		この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるために、生徒を理解することを学ぶ。	
		事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分
		事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分
5	10月13日	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法	
		この回の到達目標	生徒の学力にあった教材づくりとはなにかを理解し、実践してみる。	
		事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分
		事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分
6	10月20日	教育工学	教育の工学的方法について	
		この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法に実際に用いる。	
		事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	紙媒体の資料（プリント）作成	紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。	
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
		事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
8	11月10日	映像資料を用いた授業	映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	映像資料の作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。	
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
		事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
9	11月17日	インターネットを用いた授業	インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	インターネットを用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を見つける。	
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）	120分
		事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）	120分
10	11月24日	教科書の利用	教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。	
		事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。	120分
11	12月1日	ディベートを用いる授業（1）	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
		事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。	120分
12	12月8日	ディベートを用いる授業（2）	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
		事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。	120分
		事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2月15日	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
		この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
		事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
		事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすのための資料および指導案を作成する。	120分
14	1 2月22日	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
		この回の到達目標	グループ学習を用いた授業の難しさを理解し、指導方法を考える。	
		事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
		事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	1 月12日	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
		この回の到達目標	校外教育における実地調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
		事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
		事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ【新課程】	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	足書房	2019年		
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9月15日	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法	
		この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。	
		事前学修	文献や記事、授業で使う考古学的史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分
		事後学修	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分
2	9月22日	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法	
		この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。	
		事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分
		事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分
3	9月29日	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題	
		この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。	
		事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分
		事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分
4	10月6日	中学生・高校生の学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義	
		この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるために、生徒を理解することを学ぶ。	
		事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デベートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分
		事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分
5	10月13日	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法	
		この回の到達目標	生徒の学力にあった教材づくりとはなにかを理解し、実践してみる。	
		事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分
		事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分
6	10月20日	教育工学	教育の工学的方法について	
		この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法に実際に用いる。	
		事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	紙媒体の資料（プリント）作成	紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。	
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
		事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
8	11月10日	映像資料を用いた授業	映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	映像資料の作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。	
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
		事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
9	11月17日	インターネットを用いた授業	インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	インターネットを用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を見つける。	
		事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）	120分
		事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）	120分
10	11月24日	教科書の利用	教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。	
		事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。	120分
11	12月1日	ディベートを用いる授業(1)	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
		事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。	120分
		事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。	120分
12	12月8日	ディベートを用いる授業(2)	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
		この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
		事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。	120分
		事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	1 2月15日	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
		この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
		事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
		事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすのための資料および指導案を作成する。	120分
14	1 2月22日	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
		この回の到達目標	グループ学習を用いた授業の難しさを理解し、指導方法を考える。	
		事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
		事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	1 月12日	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
		この回の到達目標	校外教育における実地調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
		事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
		事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	人文地理学概論Ⅰ	担当者	品田 光春	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を通じて学修する。本授業では特に人文地理学の教材としての地図の利用法に重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人文地理学に関する諸概念や教材としての地図類の利用法などについて学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 本授業では特に人文地理学の教材としての地図の利用法を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義資料（プリント）を中心とした講義形式。必要に応じて、授業中に作業を行う。可能ならば映像教材も多用する。また、授業中の作業や試験についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地理教育における人文地理学の位置付けや他分野との関連性について理解し、説明することができる。【知識】												
②	人文地理学の学問的特質と基礎概念や関連する地理学用語を正確に理解し、具体的に説明することができる。【知識】												
③	地形図をはじめとする地図資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について読解することができる。【技能】												
④	地理写真や統計・グラフなどの地理資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について調べることができる。【技能】												
⑤	具体的な人文地理学的事象とその要因について客観的に考察し、それをふまえて自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についている かを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業（水曜４・５限）後に授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水4/8	ガイダンス、導入授業	本授業の進め方、受講上の注意について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意について理解する。	
		事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学および人文地理学の概要について調べる。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。	120分
2	水4/15	地理学の体系と人文地理学、地域と地域スケール	地理学の体系と人文地理学および系統地理学と地誌学の関係性、さらに地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、地理学の体系と人文地理学および系統地理学と地誌学の関係性、さらに地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（系統地理学、地誌学、地域、地域スケール、縮尺などなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（地理学の体系における人文地理学の位置づけ、系統地理学と地誌学の関係性、地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係などなど）について復習する。	120分
3	水4/22	人文地理学的資料・教材としての地図	地図の分類と身近な地図としての「住宅地図」について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②⑤に関して、地図の分類と身近な地図としての「住宅地図」について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（地図、住宅地図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（地図、住宅地図など）について復習する。	120分
4	水4/29	地形図の読み方（1） 地形図の概要	地形図の概要（種類、記載内容、作成法など）について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、地形図の概要（種類、記載内容、作成法など）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（地形図の種類、記載内容、作成法など）について復習する。	120分
5	水5/6	地形図の読み方（2） 地形図読解の基本ルール	地形図読解の基本ルール（地図記号・等高線などについて詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地形図読解の基本ルール（種類、記載内容、作成法など）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（地図記号・等高線など）について復習する。	120分
6	水5/13	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係（1） 平野の分類	平野の分類（侵食平野、堆積平野、沖積平野など）について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関して、平野の分類（侵食平野、堆積平野、沖積平野など）について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（堆積平野、沖積平野など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（堆積平野、沖積平野など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水5/20	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係 (2) 扇状地	扇状地の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、扇状地の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（扇状地など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（扇状地の地形と農業的土地利用・集落立地の関係の読図など）について復習する。	120分
8	水5/27	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係 (3) 氾濫原	氾濫原の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、氾濫原の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（氾濫原など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（氾濫原の地形と農業的土地利用・集落立地の関係の読図など）について復習する。	120分
9	水6/3	交通地理学における旧版地形図の利用	交通地理学における旧版地形図の利用法とその事例として旧版地形図から鉄道廃線を読む方法について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、交通地理学における旧版地形図の利用法とその事例として旧版地形図から鉄道廃線を読む方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（交通地理学、旧版地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（交通地理学、旧版地形図の利用法、鉄道廃線の読図など）について復習する。	120分
10	水6/10	都市化の地理 (1) 浦安の都市化	地理学における都市化の概念と、事例として千葉県浦安市の都市化の実態について新旧地形図や地理写真、映像を用い詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における都市化の概念と、千葉県浦安市の都市化の実態について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（都市化など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（浦安の都市化の実態とその読図など）について復習する。	120分
11	水6/17	都市化の地理 (2) 多摩ニュータウン	ニュータウンの概要と、事例として多摩ニュータウンの都市化の実態について新旧地形図や地理写真、映像を用い詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、ニュータウンの概要と、多摩ニュータウンの都市化の実態について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（ニュータウンなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（多摩ニュータウンの特徴とその変遷についての読図など）について復習する。	120分
12	水6/24	戦争と地図 旧版地形図における戦時改描	旧版地形図における戦時改描について事例を取り上げて詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、戦時改描の概要と改描の実態について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（戦時改描など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（旧版地形図における戦時改描の実態など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水7/1	分布論、分布の一致から地理的事象を読む	地理学における「分布の一致」の概念と、その事例として犯罪地図とハザードマップについて詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における「分布の一致」の概念と、その事例として犯罪地図とハザードマップについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（分布の一致、ハザードマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（分布図の事例からみた分布の一致の意義・有用性など）について復習する	120分
14	水7/8	授業内試験と解説	授業内試験（60分、持ち込み不可）を実施した後、試験の解説を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容全般について復習し、地形図読解や重要な地理用語について、具体的に説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	試験内容について復習する。	120分
15	水7/15	古地図と歴史地理 （授業内試験予備日または試験欠席者レポート提出）	歴史地理学的資料として様々な古地図から過去の地理を読む方法について、詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、歴史地理学的資料として様々な古地図から過去の地理を読む方法について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（古地図、歴史地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（古地図の利用法など）について復習する。	120分

科目名	人文地理学概論Ⅱ	担当者	品田 光春	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】 地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を通じて学修する。本授業では特に地域概念・メンタルマップ・環境・景観に重点を置く。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 人文地理学に関する諸概念や教材としての各種地理資料の利用法などについて学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 本授業では特に地域概念・メンタルマップ・環境・景観に関する諸概念と具体的事例を理解し、説明できるようになることを目標とする。
--

【履修条件】 特になし。

【授業方法】 講義資料（プリント）を中心とした講義形式。必要に応じて、授業中に作業を行う。可能ならば映像教材も多用する。また、授業中の作業や試験についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地理教育における人文地理学の位置付けや他分野との関連性について理解し、説明することができる。【知識】												
②	人文地理学の学問的特質と基礎概念や関連する地理学用語を正確に理解し、具体的に説明することができる。【知識】												
③	主題図・メンタルマップをはじめとする地図資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について読解することができる。【技能】												
④	地理写真や統計・グラフなどの地理資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について調べることができる。【技能】												
⑤	具体的な人文地理学的事象とその要因について客観的に考察し、それをふまえて自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についている かを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業（水曜４・５限）後に授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	水9/16	ガイダンス、導入授業	本授業の進め方、受講上の注意本授業の進め方、受講上の注意について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意について理解する。	
		事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学および人文地理学の概要について調べる。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（人文地理学における本授業の位置づけなど）について復習する。	120分
2	水9/23	等質地域と機能地域の概念	等質地域・機能地域とは何か、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、等質地域・機能地域とは何か、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（等質地域、機能地域など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（等質地域と機能地域の概念、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分など）について復習する。	120分
3	水9/30	機能地域からみた商業地理	機能地域としての商圏の形成と変容について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、機能地域としての商圏の形成と変容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（商業地理学、商圏など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（商圏の定義、商圏の形成と変容の実態など）について復習する。	120分
4	水10/7	実質地域と形式地域の関係からみた政治地理	実質地域と形式地域の関係からみた政治地理について、県境と国境の事例を取り上げて詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、実質地域と形式地域の関係、県境と国境の設定に関する政治地理について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（実質地域、形式地域、政治地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（実質地域と形式地域の定義、県境と国境をめぐる地域問題の実例など）について復習する。	120分
5	水10/14	メンタルマップ（1） 頭の 中の世界像	メンタルマップの概念、世界地図を対象としたマクロスケールのメンタルマップの研究事例について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メンタルマップの概念、世界地図を対象としたマクロスケールのメンタルマップの研究事例について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（メンタルマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（メンタルマップの定義。手書き世界地図の分析、子どもの成長と世界像など）について復習する。	120分
6	水10/21	メンタルマップ（2） 都市 のイメージ	都市のイメージに関するミクロスケールのメンタルマップの研究事例について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、都市のイメージに関するミクロスケールのメンタルマップの研究事例について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（リンチの「都市のイメージ」など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（リンチなど都市のメンタルマップ研究の事例など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	水10/28	地理学における環境概念	地理学における環境概念、環境決定論と環境可能論について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における環境概念、環境決定論と環境可能論について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（環境、環境決定論、環境可能論など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（環境の定義と分類、環境決定論と環境可能論など）について復習する。	120分
8	水11/11	現代の開発と環境問題（1） アラル海の砂漠化	現代の開発と環境問題の事例として、アラル海の砂漠化について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、アラル海の砂漠化の実態とその要因について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（砂漠化など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（砂漠化の定義、アラル海の縮小問題の実態とその要因など）について復習する。	120分
9	水11/18	現代の開発と環境問題（2） アマゾンの熱帯林破壊	現代の開発と環境問題の事例として、アマゾンの熱帯林破壊について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、アマゾンの熱帯林破壊の実態とその要因について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（熱帯林、森林破壊など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（アマゾンの熱帯林破壊の実態とその要因など）について復習する。	120分
10	水11/25	環境論と歴史・文化地理 (1) 『銃・病原菌・鉄』 (1) 文明のはじまり	歴史・文化地理研究の事例としてジャレド・ダイヤモンドの『銃・病原菌・鉄』（DVD第1巻 文明のはじまり）を取り上げ、環境論の視点から研究の意義について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、ジャレド・ダイヤモンドの『銃・病原菌・鉄』（DVD第1巻 文明のはじまり）の内容を理解し、環境論の視点から研究の意義について批評できる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（歴史地理学、文化地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	環境決定論と環境可能論の差異をふまえた上で、配布プリント・ビデオの重要事項（『銃・病原菌・鉄』第1巻）の内容を復習する。	120分
11	水12/2	環境論と歴史・文化地理 (2) 『銃・病原菌・鉄』 (2) 二つの世界の衝突	歴史・文化地理研究の事例としてジャレド・ダイヤモンドの『銃・病原菌・鉄』（DVD第2巻 二つの世界の衝突）を取り上げ、環境論の視点から研究の意義について考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、ジャレド・ダイヤモンドの『銃・病原菌・鉄』（DVD第2巻 二つの世界の衝突）の内容を理解し、環境論の視点から研究の意義について批評できる。	
		事前学修	前回の授業内容およびビデオのあらすじ復習しておく。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	環境決定論と環境可能論の差異をふまえた上で、配布プリント・ビデオの重要事項（『銃・病原菌・鉄』第2巻および3巻の一部）の内容を復習する。	120分
12	水12/9	地理学における景観概念と 景観保全	地理学における景観概念、景観法と日本の景観保全について詳しく解説する。	
		この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における景観概念、景観法と日本の景観保全について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（景観、自然景観、文化景観、風景、景観法など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事（景観の定義と分類、景観法の意義など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	水12/16	文化的景観としての石見銀 山	石見銀山の文化的景観の特徴と世界遺産としての評価について詳しく解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤に関して、石見銀山の文化的景観の特徴と世界遺産としての評価について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（文化的景観、世界遺産など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（石見銀山の文化的景観の徴と世界遺産としての価値など）を復習する。	120分
14	水12/23	授業内試験と解説	授業内試験（60分、持ち込み不可）を実施した後、試験の解説を行う。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。	
		事前学修	これまでの授業内容全般について復習し、重要な地理用語や研究事例について、具体的に説明できるようにしておく。	120分
		事後学修	試験内容について復習する。	120分
15	水1/13	近代化産業遺産の保全と活用 (授業内試験予備日または 試験欠席者レポート提出)	長崎県端島（軍艦島）の景観的特徴と近代化産業遺産の保全・活用の実態について詳しく解説する。	
		この回の 到達目標	到達目標①～⑤に関して、長崎県端島（軍艦島）の景観的特徴と近代化産業遺産の保全・活用の実態について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容に関する地理学用語（近代化産業遺産、鉱山集落など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
		事後学修	配布プリントの重要事項（長崎県端島の景観的特徴と近代化産業遺産の保全・活用の実態値など）について復習する。	120分

科目名	生徒指導・進路指導論	担当者	山田 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育は、すべての児童生徒の人格の健全な育成を図ることを目的に存在している。時代の変化の中で、表面化する問題への対処の仕方にも違いが出てくるが、生徒指導・進路指導には不易な部分がある。この不易な部分を学び、なおかつ現実を知ることが必要である。本講義では、学校教育現場で起こっている現実を見据え、児童生徒の個性の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、進路指導の在り方や具体的な方策について取り組みについて考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
上記の知識を養成することを目的とする。 中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導及び進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義とアクティブラーニングによる授業を行う。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5・6・9・10・12・13回等の授業の中でディスカッション、プレゼンテーションを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。											
②	中学校・高等学校における生徒の発達に即した進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験（１回×４０点）	20	20									40
小テスト等												
レポート等	題材系統図の作成（１回×１５点）	5	10									15
討論・発表等	討論への参加状況　リアクションペーパー（１５回×１点）	7	8									15
授業への参画度	授業への参加状況　リアクションペーパー（１５回×２点）	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		47	53									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する解説・講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書　名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。資料を随時配布する。				

【オフィスアワー】
授業（金曜４・５限）終了後、講堂にて。メールでも対応する。tomoyuki@juen.ac.jp yamada.tomoyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校教諭、主幹教諭、副校長
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験に基づき理論と実践をリアルに解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第1部金 4/10 第2部 金4/10	【ガイダンス】【進路指導・キャリア教育の意義と課題】	ガイダンス及び、進路指導・キャリア教育の意義と課題について学習する。	
		この回の到達目標	本科目の授業展開などを理解し、進路指導・キャリア教育の意義と課題について説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
2	第1部金 4/17 第2部 金4/17	【進路指導・キャリア教育の歴史的経緯】	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯について学習する。	
		この回の到達目標	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
3	第1部金 4/24 第2部 金4/24	【進路指導・キャリア発達理論】	進路指導・キャリア発達理論（克蘭ボルツ、スーパー、シャイン等）について学習する。	
		この回の到達目標	進路指導・キャリア発達理論について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
4	第1部金 5/1 第2部 金5/1	【ガイダンスとカウンセリング】	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能について学習する。	
		この回の到達目標	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
5	第1部金 5/8 第2部 金5/8	【自己理解】	【AL】自己理解に関わる授業事例の検討し学習する。 人生双六<金の糸>	
		この回の到達目標	自己理解に関わる授業事例の検討・理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
6	第1部金 5/15 第2部 金5/15	【職業観・勤労観】	【AL】職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討し学習する。	
		この回の到達目標	職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討・理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第1部金 5/22 第2部 金5/22	【これからの時代の進路指導・キャリア教育】	これからの時代の進路指導・キャリア教育について学習する。	
		この回の到達目標	これからの時代の進路指導・キャリア教育について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
8	第1部金 5/29 第2部 金5/29	【進路指導・キャリア教育の組織と体制】	進路指導・キャリア教育の組織と体制について学習する。（課題提示）	
		この回の到達目標	進路指導・キャリア教育の組織と体制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
9	第1部金 6/5 第2部 金6/5	【職場体験とキャリア教育】	【AL】職場体験とキャリア教育について学習する。	
		この回の到達目標	職場体験とキャリア教育について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
10	第1部金 6/12 第2部 金6/12	【三者面談とキャリア教育】	【AL】三者面談とキャリア教育について学習する。	
		この回の到達目標	三者面談とキャリア教育について理解し、説明することができる。	
		事前学修	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
11	第1部金 6/19 第2部 金6/19	【生徒指導の組織と体制】	生徒指導の組織と体制について学習する。	
		この回の到達目標	生徒指導の組織と体制について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
12	第1部金 6/26 第2部 金6/25	【リーダーシップ】	【AL】リーダーシップの育成に関わる授業事例について検討し学習する。	
		この回の到達目標	リーダーシップの育成に関わる授業事例について検討・理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第1部金7/3 第2部金7/3	【いじめ問題】	【AL】いじめ問題に関連する教育課題と解決策について学習する。	
		この回の到達目標	いじめ問題に関連する教育課題と解決策について理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
14	第1部金7/10 第2部金7/10	【学校現場におけるリスクマネジメント】	学校現場におけるリスクマネジメントについて学習する。	
		この回の到達目標	学校現場におけるリスクマネジメントについて理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
		事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
15	第1部金7/17 第2部金7/17	【まとめ】	まとめの学習	
		この回の到達目標	本講義全体について。そのポイントを理解し、説明することができる。	
		事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	200分
		事後学修	半期の学びを整理する。（2時間）	30分

科目名	西洋史概論Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
西洋の歴史を、古代オリエントから古代ギリシア・古代ローマを経てカール大帝の時代に至るまでの通史を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするために、政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。

【履修条件】
少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価など。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	古代オリエントからカール大帝の時代に至るまでのヨーロッパに関する通史を説明できる。										
②	①を踏まえながら、「ヨーロッパ」とは何かに関する自らの見解を論述することができる。										
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述試験(参照不可)により評価する。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養のための西洋史入門	中井 義明ほか	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕	服部 良久ほか	ミネルヴァ書房	2006	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山 哲ほか	ミネルヴァ書房	2011	参考書	任意
ヨーロッパ論Ⅱ	澤田 昭夫ほか	放送大学教育振興会	1996	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
授業終了後、質問・相談等を受付ける。一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜２限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4月7日	ヨーロッパ（西洋）とは何か	ヨーロッパの通史を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ（西洋）史の通史を扱うこの講義が、どのような独特な二つの視点に立って展開されていくのかを説明できる。	
		事前学修	「ヨーロッパ（西洋）とは何か」との問いへの答えを考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
2	4月14日	超民族的文化共同体としてのヨーロッパ	超民族的文化共同体としてのヨーロッパを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、超民族的文化共同体を説明できる。	
		事前学修	ヨーロッパとは、どのような文化を持った世界なのかを考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	4月21日	ヨーロッパの歴史的構造	ヨーロッパの歴史的構造：時代区分問題を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義で学んだ、時代五区分について要点を説明できる。	
		事前学修	ヨーロッパの通史が、なぜ「古代」「中世」「近代」と分けられているのかを考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	4月28日	ヨーロッパの語源	ヨーロッパの語源についての諸説を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパの語源について、どのような説があるかを説明できる。	
		事前学修	古代アッシリア、新バビロニア、アケメネス朝ペルシア、古代ギリシアについて調べ、政治・社会・文化などの特徴を調べ、ノートに整理しておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	5月5日	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパ	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地理的表現および価値表現として「ヨーロッパ」という語がどのように用いられていたのか、その理由を説明できる。	
		事前学修	歴史地図を探し、古代ギリシア人が活動した地域がどこまで及んでいたのかを調べておく。また、ペルシア戦争、アテネの民主政、アレクサンドロス大王の功績について調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	5月12日	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合が、どのようになされたかを説明できる。	
		事前学修	古代ギリシアの建築、学問、娯楽がどのようなものであったのか、また、「ルネサンス」と古代ギリシアがどのように関係しているか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5月19日	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアの教育方法がどのように現代にまで引き継がれてきたのか、また古代ギリシアと現在のデモクラシーとはどのように異なるのかを説明できる。	
		事前学修	教養教育とは何か、また、古代アテネの民主政がどのように誕生したかについて調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	5月26日	「国々」を支配したローマ共和国	「国々」を支配したローマ共和国を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、皇帝のいないローマ共和国も帝國的支配をしていたとはどういうことなのかを説明できる。	
		事前学修	共和政期のローマが、どのように周辺の国々や地域を支配下に置いたのか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	6月2日	ローマ共和国を支配した人々	ローマ共和国を支配した人々を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ共和国がどのような人々によって支配されていたのかを説明できる。	
		事前学修	共和政期の古代ローマの元老院や民会がどのようなものであったのか、またローマの支配者たちがどのようにローマ市民たちを治めていたのか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	6月9日	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマに支配された地域が、どのようにしてローマの文化的影響を受けたのかを説明できる。	
		事前学修	古代ローマがどの地域まで支配下に置いていたのか、そして今日その地域において古代ローマのどのような遺跡が存在するか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	6月16日	地中海世界に浸透したローマの「文明」	地中海世界に浸透したローマの「文明」：「自由な帝国」を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマの支配者たちがなぜ教養教育を重視したのかを説明できる。	
		事前学修	古代ローマにおいて支配者たちがどのような教育を受けていたのか調べてみる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	6月23日	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ヨーロッパ」という言葉が、文化共同体的な意味でどのように使われ始めたかを説明できる。	
		事前学修	ゲルマン民族による民族大移動と西ローマの崩壊の流れを、フランク王国のクローヴィスの時代まで学んでおく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6月30日	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プラン	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プランを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カール大帝がなぜキリスト教帝国を建設しようとしたのか、またどのような政治・社会・文化政策を推進したのかを説明できる。	
		事前学修	フラン王国カロリング朝の王たちの功績や、イギリスの七王国とその文化を調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	7月7日	ヨーロッパ王国からキリスト教社会への移行	ヨーロッパ王国からキリスト教社会への移行を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カール大帝の戴冠からグレゴリウス7世までの間に、皇帝（王）と教皇とがどのような関係にあったのかを説明できる。	
		事前学修	カール大帝の時代から教皇グレゴリウス7世の時代までに、カールの帝国がどのように変容したか調べておく。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
15	7月14日	キリスト教社会までの通史	古代ペルシアから教皇グレゴリウス7世までの流れを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い（ヨーロッパとは何か）」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	古代ペルシアから教皇グレゴリウス7世までの流れを復習する。	120分
		事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布資料を読み、西洋史概論の知識やヨーロッパの意味を自分の研究や教育活動に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋史概論Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
西洋の歴史を、カール大帝の時代から現在に至るまでの通史を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするために、政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。

【履修条件】
少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価など。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	カール大帝の時代から現在に至るまでのヨーロッパに関する通史をを説明できる。											
②	①を踏まえながら、「ヨーロッパ」とは何かに関する自らの見解を論述することができる。											
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述試験(参照不可)により評価する。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養のための西洋史入門	中井 義明ほか	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕	服部 良久ほか	ミネルヴァ書房	2006	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山 哲ほか	ミネルヴァ書房	2011	参考書	任意
ヨーロッパ論Ⅱ	澤田 昭夫ほか	放送大学教育振興会	1996	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
授業終了後、質問・相談等を受付ける。一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	日程	テーマ		内 容	
1	9月15日	キリスト教社会の拡充		キリスト教社会の拡充：ベネディクトから托鉢修道会までの発展をを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国境や民族の壁を越えて、修道院が文化共同体を各地で広め、キリスト教社会を支え、発展させていたこと、また、キリスト教社会の崩壊の危機を生み出したことを説明できる。		
		事前学修	ベネディクト修道会、クリューニ修道院、シトー会、フランシスコ会、ドミニコ会がどのような修道会であるか調べておく。また、「中世ヨーロッパの都市」がいつ頃からどのように発展した、インノケンティウス3世とはどんな人物であったのか調べておく。	120分	
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分	
2	9月22日	大学の登場とその成果		大学の登場とその成果：討論とスコラ哲学を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国境や民族の壁を越えて、大学が知的権威を発揮して分析的・批判的精神を有する人材を輩出し、キリスト教社会を支えていたこと、またキリスト教社会崩壊の危機を生み出したことを説明できる。		
		事前学修	いつ頃から大学がヨーロッパに登場したのか、また、大学で何がどのように学ばれていたのか、またスコラ学とは何かについて調べておく。	120分	
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分	
3	9月29日	民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺		民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス国王などの民族王権の台頭と、ローマ教皇権の衰退がどのように生じたのかを説明できる。		
		事前学修	教皇ボニファティウス8世以降、カペー朝とヴァロア朝のフランス国王たちが教皇権に対抗してどのように王権を強めていったか調べておく。	120分	
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分	
4	10月6日	世界像の変容		世界像の変容：新たな地理的知識を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマの文化やキリスト教を通じてヨーロッパに継承されてきた世界像が、どのように変容したのか、また、その変容によって、ヨーロッパ人のアイデンティティがどのようなものになったのかを説明できる。		
		事前学修	ヨーロッパが、セルジューク朝トルコ、モンゴル帝国、中国の元朝、オスマン朝トルコとどのような関係にあったか調べておく。また、北方ゲルマン（ノルマン人やデーン人）の移動やイベリア半島でのレコンキスタについて調べておく。	120分	
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分	
5	10月13日	キリスト教社会から再びヨーロッパへ		キリスト教社会から再びヨーロッパへ：ヒューマニストによる「ヨーロッパ」の復活を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヒューマニストたちによって、「ヨーロッパ」がどのような意味で用いられ始めたかを説明できる。		
		事前学修	ヒューマニストとは何か、またその作品や業績にどんなものがあるのか調べておく。	120分	
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分	
6	10月20日	主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパ		主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主権国家の形成がどのようになされたのか、また、皇帝権や教皇権に代わって新たな国際秩序形成の力となったものがなんだったのかを説明できる。		
		事前学修	絶対王政、宗教改革、イギリス国教会、三十年戦争、名誉革命とはどのようなものか調べておく。	120分	
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10月27日	啓蒙と世俗化のヨーロッパ	啓蒙と世俗化のヨーロッパを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパにおいて、信仰（恩寵の光）ではなく理性の重視へとなぜ変わったのか、また、「理性の時代」にもそれに沿わない、あるいは反する文化が力を伸ばしていたことを説明できる。	
		事前学修	アリストタルコス、プトレマイオス、コペルニクス、ケプラー、ガリレオ、ニュートンが天文学とどのように関係していたのか調べておく。また、啓蒙思想とは何か、その思想に関係する人物にどのような人々がいるか調べておく。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	11月10日	ヨーロッパの平和の模索	ヨーロッパの平和の模索：さまざまな統合案・平和案を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、18世紀末までに、ヨーロッパの平和への多種多様な案が唱えられていたことを説明できる。	
		事前学修	教皇権や皇帝権がヨーロッパ世界秩序の要として機能しなくなったこの時代、ヨーロッパ世界の平和を実現するのにどんな方法があるか考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	11月17日	ナショナリズムのヨーロッパ	ナショナリズムのヨーロッパ：フランス革命とナポレオンを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス革命とナポレオンによって、どのようにナショナリズムがヨーロッパに広まったのかを説明できる。	
		事前学修	フランス革命、ナポレオンによる支配によってヨーロッパがどのように変容したか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	11月24日	反ナポレオンの「愛欧心」	反ナポレオンの「愛欧心」：ウィーン体制とメッテルニヒを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナポレオン帝国崩壊後のヨーロッパ新秩序がどのようにつくられたのか、また、その新秩序はなぜ不安定となったのかを説明できる。	
		事前学修	ナポレオンがなぜ失脚したのか、ウィーン体制とは何か、メッテルニヒとはどのような人物であったのか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	12月1日	ヨーロッパ世界の世界的拡大	ヨーロッパ世界の世界的拡大：産業革命および帝国主義を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界がヨーロッパ化されていく過程と、ヨーロッパそのものの文化が他の文化との接触で変容することを説明できる。	
		事前学修	「産業革命」とはどのように始まったのか、また、「帝国主義時代」とはどのようなものなのか調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	12月8日	さまざまなヨーロッパ像が共存するヨーロッパ	さまざまなヨーロッパ像が共存するヨーロッパを概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナショナリズム、リベラリズム、社会主義、民族主義、帝国主義などに基づく新たな理想像が登場したことを説明できる。	
		事前学修	19世紀末のヨーロッパの人々の間に、どのような理想的な国家像や世界像があったのか考えてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12月15日	二つの世界大戦	二つの世界大戦を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパの「近代」に登場した体制や思想・理想が発展し衝突支配ながら、ヨーロッパ列強（主権国家）間の争いが世界規模で戦争を引き起こしたことを説明できる。	
		事前学修	第一次世界大戦と第二次世界大戦について、それぞれ原因と経過と結果について調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	12月22日	戦後ヨーロッパの向かうところ	戦後ヨーロッパの向かうところ：共同体としてのヨーロッパの見直し・挑戦を概観する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、かつての共同体としてのヨーロッパの復活を、新たな原理によって試みているヨーロッパについて説明できる。	
		事前学修	第二次世界大戦終結からEUの誕生までのヨーロッパの統合の流れを調べてくる。	120分
		事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
15	1月12日	後期のまとめ	後期のまとめ	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い（ヨーロッパとは何か）」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
		事前学修	ヨーロッパの王カールの帝国（超民族連合体）崩壊から第二次世界大戦後のヨーロッパ連合までの流れを復習する。	120分
		事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布資料を読み、西洋史概論の知識やヨーロッパの理解を自分の研究や教育活動に応用する力を確かなものにしていく。	120分

科目名	地誌学概論Ⅰ	担当者	小倉 眞	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教職課程の本講義では、地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象について実態分析を行い、「地域構造」を把握するすることを目標とする。具体的には地理学の学問的特徴と地誌学の関係、地域のの画定方法、また日本の諸地域（北海道等）について地誌学手視点から整理をすると共に、微視的地誌の分析として富山県の扇状地地域を抽出して小地域の地誌的観点からの分析・整理などを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地誌学は地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象を整理すると共に詳細な実態分析を行い、「地域の構造」を把握することを目的としている。到達目標：１.地域の諸要素を抽出し、地域の特色を客観的に理解できる。２.日本及び世界の諸地域における多様性や特徴を把握し、説明できる。３.地図・地理資料などを使用して地理学的視点に基づいて説明できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストは使用せず、配布したプリントによって授業を進める。また、適宜にPC（パワーポイント）・ビデオ等を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出と講評、課題に関するディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地誌学の学説や理論的内容について、整理し説明できる。												
②	日本及び世界の地域に関して、地誌学的視点から分析し、その特質などを的確に抽出することができる。												
③	具体的地域に関して、その地域構造を分析・整理し、論理的にまとめることができる。												
④	社会科・地歴科の授業の地誌的分野について、内容を的確に構成し、授業展開ができる。												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかを中心に検証し、評価する。	20	30	20								70
小テスト等	小テスト（第13回）や、リアクション・ペーパー等により、地誌的基礎知識を評価する。	5	5									10
レポート等	レポート（第3回・第8回）が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準として、地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。	10		10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内でのレポート内容についての講評とディスカッション、また、試験については試験実施直後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校使用の「地図帳」				参考書	必携
備考	教科書は使用せず、配布したプリントに沿って授業を行う。				

【オフィスアワー】
（月）12：10～13：00 14：40～16：00 （水）12：10～13：00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/6	地誌学と地理学（１）「地理学の学問的特徴」	地理学の歴史的発展過程と地誌学の位置づけについて整理すると共に、教科としての地理について整理・考察する。	
		この回の到達目標	地理学の学問的特色と地域の位置づけについて認識できる。	
		事前学修	シラバスで授業内容の確認をする。	90分
		事後学修	地理学の歴史と発展過程，地域研究との関係について具体的事例を踏まえて整理する。	150分
2	4/13	地誌学と地理学（２）系統地理学と地誌学における地域の捉え方	地理学（系統地理学）と地誌学の位置づけについて理論的に整理・考察する。	
		この回の到達目標	地理学を構成する研究分野の整理、及び地誌学と系統地理学の関係について、的確に説明できる。	
		事前学修	プリントにより地理学の研究範囲（自然地理学と人文地理学）と地誌学の関係について検証する。	120分
		事後学修	系統地理学（テーマ研究）と地誌学（総合的地域研究）の相違・特色について整理する。	120分
3	4/20	地域の空間構造「地域抽出方法と地域の画定」	行政区域とは異なり、地理学的視点で地域を画定する論理的根拠・方法について提起・考察する。	
		この回の到達目標	地域の抽出方法には実質地域と形式地域があり、地誌学は実質地域を対象にしていることを、論理的に説明することができる。	
		事前学修	地域に内在する諸要素について自然的・社会的観点から抽出し考察してみる。	60分
		事後学修	分布要素の種類と分布領域との関係について整理して、具体的事例地域を選定し、実際に画定してみる。（与えられた課題レポートを作成する。）	180分
4	4/27	地理教育と地誌学	第二次大戦後の社会の位置づけ、その後の社会科・地理科の変遷過程について整理し、その概要について考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）	
		この回の到達目標	社会科科目としての地理科の位置づけや変遷について整理すると共に、地歴科の中の地理分野の特徴について認識することができる。	
		事前学修	地理の教科書の内容について、項目・構成内容・展開順等について整理してみる。	150分
		事後学修	地理教育の変遷について整理し、地理Aと地理Bとの関係，自然と人文との関係について検証する。（2時間）	90分
5	5/4	地誌の捉え方・記述内容	歴史的に見て地域の地誌的記述にどのような変遷があるのか、また、その内容を理論的に整理し、地域を対象にどのようにまとめることができるかについて考察する。（3回授業時のレポートに対する講評と討議も行う）	
		この回の到達目標	地誌書の歴史的展開を整理し、地誌の記述様式等を分析し、地誌の意義について理解することができる。	
		事前学修	プリントに基づき既存の書籍において、地誌学的記述がどのような内容・構成をしているかを整理してみる。	120分
		事後学修	古典的近代地誌や総合地誌についての記述内容を整理し、その特徴を検証する。	120分
6	5/11	日本における地帯構造と自然・社会文化の特徴	日本における自然的特徴（自然災害大国）と社会・文化の特徴について考察する。	
		この回の到達目標	日本の自然的特徴や文化・歴史等を概観し、日本を大きく2地帯に分けることができること、またそれぞれに特色ある地域現象が存在していること等について説明することができる。	
		事前学修	日本の自然的特徴などについて事前に整理・考察してみる。	120分
		事後学修	東北日本と西南日本の文化的・歴史的特徴と地域区分について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/18	日本地誌（１）北海道地方	開拓史と経済開発を中心として 日本における植民地域として機能した北海道の地誌的位置づけと特色について考察する。	
		この回の到達目標	北海道地方を地誌的単位として、地域の自然現象や産業構造、歴史的特色等を整理し、北海道の地域構造について、概括的に説明することができる。	
		事前学修	北海道の自然的特徴、特に火山列・地震列の特色について考察する。	120分
		事後学修	屯田村・道央開発の歴史、農林業の展開、産業の特徴について整理する。	120分
8	5/25	日本地誌（２）東北地方	太平洋側と日本海側の地域的特徴 気候・地形から見た日本海側と太平洋側の自然的相違と展開の歴史的特徴について考察する。	
		この回の到達目標	東北地方の地体構造（山地・盆地列）が特徴ある地域現象を形成していることや、農業の展開と地域の問題について整理し、説明することができる。	
		事前学修	地誌的観点から、東北６県のそれぞれの特徴についてまとめてみる。	60分
		事後学修	関東外縁の福島県と遠隔地に位置する青森・岩手県等について経済的発展状況の相違について整理する。（与えられた課題についてのレポートを作成する）	180分
9	6/1	日本地誌（３）関東地方	自然環境、農業・工業等の展開 関東地方の農業展開の特色や工業立地（内陸工業団地）について整理・考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）	
		この回の到達目標	東京を中心とする関東地方に関して、自然・産業等を分析し、南関東と北関東また東関東と西関東に分けてそれぞれの地域的特色について理解し、説明することができる。	
		事前学修	関東地方を地域的なまとまりから小地域に分類してそれぞれの地域的特徴について考察する。	120分
		事後学修	近郊農業地域として日本有数の農業生産地域であることを確認し、農業の地域的展開について検証する。	120分
10	6/8	日本地誌（４）首都圏地域の産業構造の変容を中心として	首都圏の範囲とその特徴について整理すると共に、都市化と都市問題について整理・考察する。（８回授業時の課題レポートについての講評と討議も行う）	
		この回の到達目標	東京圏を中心として都市化とその対応に焦点をあて、都市圏形成過程について分析し、都市化と歴史的町並み保存など現代の都市・地域問題について位置づけ、説明することができる。	
		事前学修	首都圏の範囲と、根拠となる法について調べ、その諸県を抽出してみる。	120分
		事後学修	首都圏における都市化の具体的展開状況と問題点などについて整理する。	120分
11	6/15	日本地誌（５）北陸地方	自然的特徴と社会の歴史的展開 半周辺地域としての位置づけや特色について考察する。	
		この回の到達目標	半周辺地域とも言える北陸地方の特色について、自然的特徴と産業構造を中心に分析・整理し、その地域的位置づけを理解し、説明することができる。	
		事前学修	北陸地方の自然的特徴、特に冬の降雪の特徴と社会生活について考察する。	120分
		事後学修	半周辺地域にあるといわれる産業構造の特徴について検証する。	120分
12	6/22	日本地誌（６）微視的地誌としての扇状地地域の分析（富山県を中心に）	扇状地の地形的特色を整理すると共に、自然条件と地域の社会的展開過程について考察する。	
		この回の到達目標	扇状地地形の特色（透水性・砂礫地形・包蔵水量）とこれらを条件の克服・利用などの展開過程について適切に説明することができる。	
		事前学修	富山県を流れる河川と扇状地平野の分布について調べる。	60分
		事後学修	扇状地地形の地形的特色、三角州平野との違いと村落立地について整理する。次回小テストの準備をする。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/29	日本地誌（7）微視的地誌としての扇状地地域分析（黒部川扇状地）	扇状地地形が持つ特色と、地域としての展開について具体的に考察する。（黒部川扇状地と地域的関連に関する小テストを行う 20分）	
		この回の到達目標	自然的条件によって地域区分した黒部川扇状地について、農業の展開を中心として地域発展の過程を地域構造的に整理し、地域現象に関して客観的に位置づけることができる。	
		事前学修	地形図を読図し、地域的特徴について整理する。 5万分の1の地形図の表記や土地利用の特徴について整理する。	120分
		事後学修	合口事業・流水客土事業等を整理し、自然と地域問題について検証する。	120分
14	7/6	日本地誌（8）東海・近畿地方、西日本地方	自然環境、産業、人口等の地域的特色 東海・近畿地方及び西日本地方の自然的特徴について整理すると共に、前期の授業内容についてまとめる。	
		この回の到達目標	東海・近畿地方を中心として、広域的地域地誌を的確にまとめることができる。	
		事前学修	東海地方・近畿地方を地域区分し、その地域的特徴について、産業の立地展開の視点で考察する。	120分
		事後学修	経済の相対的低下傾向にある大阪と自動車産業を中心に経済的拡大傾向の名古屋の産業・経済状況について整理すると共に、前期授業の内容についてまとめ、授業内試験についての準備をする。	120分
15	7/13	地誌学と地域の関係	地誌学の内容を総括し、地域構造と地域に関して、地誌学的観点から整理する。授業内試験（50分）及び試験後の講評を行う（40分）。	
		この回の到達目標	地誌学的観点からの地域の分析手法やまとめ方などを的確に行い、地域構造について説明することができる。	
		事前学修	西日本の自然と社会についての文献を選び考察すると共に、前期試験の準備をする。	210分
		事後学修	プリントと講義ノートを見直し、地誌学の内容を再整理してみる。	40分

科目名	地誌学概論Ⅱ	担当者	小倉 眞	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教職課程の本講義では、地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象を整理するとともに詳細な実態分析を行い、「地域構造」を把握するすることを目標とする。具体的には世界地誌をテーマとして取り上げ、アジア州全体と中国の地誌、ヨーロッパ州特にEU諸国とオランダ地誌、北アメリカ州とアメリカ合衆国地誌、南アメリカ地誌、オセアニア州とオーストラリア地誌について分析・整理する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地誌学は地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象を整理すると共に詳細な実態分析を行い、「地域の構造」を把握することを目的としている。到達目標：１.地域の諸要素を抽出し、地域の特色を客観的に理解できる。２.日本及び世界の諸地域における多様性や特徴を把握し、説明できる。３.地図・地理資料などを使用して地理学的視点に基づいて説明できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストは使用せず、配布したプリントによって授業を進める。また、適宜にPC（パワーポイント）・ビデオ等を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出と講評、課題に関するディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地誌学の理論的内容について、整理し説明できる。										
②	日本及び世界の地域に関して、地誌学的視点から分析し、その特質などを的確に抽出することができる。										
③	具体的地域に関して、その地域構造を分析・整理し、論理的にまとめることができる。										
④	社会科・地歴科の授業の地誌的分野について、内容を的確に構成し、授業展開ができる。										
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかを中心に検証し、評価する。	20	30	20								70
小テスト等	小テスト（第9回）やリアクション・ペーパー等により、地誌的基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等	レポート（第4回）が書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準として、地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。	10		5								15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート提出と講評、課題に関するディスカッションを行う。また、授業内試験実施後に問題内容についての解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校使用の「地図帳」				参考書	必携
備考	教科書は使用せず、配布したプリントに沿って授業を行う。				

【オフィスアワー】
(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 メールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/14	教科目と世界地誌	世界地誌と教科科目の位置づけについて考察する。	
		この回の到達目標	地歴科の地理科では世界地誌をどの様に取り上げ、整理されているか理解することができる。	
		事前学修	シラバスで授業内容を確認する。	90分
		事後学修	世界地誌が教科目でどのように取り扱われているかについて整理する	150分
2	9/21	世界の地域区分方法	世界の各地域についての地域区分についての歴史的経緯を整理し、その特徴について考察する。	
		この回の到達目標	世界の地域区分方法について、諸説を整理し、現在多く取り上げられている地域区分の根拠等を説明することができる。	
		事前学修	大陸と地域区分の方法と相違について事前に調べてみる。	120分
		事後学修	自然地域区分・社会歴史地域区分・経済地域区分の相違と特徴について整理する。	120分
3	9/28	世界地誌（１）アジア州 地域区分とその分析視点	アジア諸国の自然環境、人口、産業、文化を中心に、アジア地域の特徴について地誌的観点から整理・考察する。	
		この回の到達目標	アジアを文化・宗教・歴史などの指標に基づいて大地域区分し、西アジア・南アジア・東アジア等それぞれの特徴を整理し、概括的に説明することができる。	
		事前学修	西アジア・中央アジア・南アジア・東アジア地域の地域区分と地域的特徴について整理してみる。	120分
		事後学修	世界の60%を占める人口分布状況と、乾燥アジア・湿潤アジアの地域的展開について整理する。	120分
4	10/5	世界地誌（２）アジア州 中国の資源・経済展開を中心に	中国の社会・経済的特色について整理すると共に、高校教書ではどのように取り上げられているか分析・考察する。	
		この回の到達目標	東アジアを代表する中国に関する地帯構造と地形的特色、農業地域・工業地域・経済の自由化等について整理し、その特徴を把握すると共に、中国の地誌的分析視点について理解し、説明することができる。	
		事前学修	中国の南部・北部における農業の相違と、沿岸部・内陸部における工業分布の特徴について調べる。	90分
		事後学修	中国の改革開放体制と経済開発、工業立地の特質について整理する。 与えられた課題についてのレポートを作成する。	150分
5	10/12	世界地誌（３）ヨーロッパ EU諸国の自然と産業・政治・文化	EU加盟の歴史について整理し、その拡大過程とEUの機能変化・特色等を中心に考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）	
		この回の到達目標	EU地域の気候・地形の特徴を整理し、地誌的観点から地域内諸国を区分して、それぞれの特質を的確にまとめ、説明することができる。	
		事前学修	EU地域の自然的特徴についての整理とその分布について調べる。	120分
		事後学修	EU地域における農業・工業の展開と地域的経済格差について整理する。	120分
6	10/19	世界地誌（４）ヨーロッパ オランダの自然環境と地域開発を中心として	一国地誌としてのオランダについて地誌学的観点から考察する。（４回授業時の課題レポートに対する講評と討議も行う）	
		この回の到達目標	日本とも歴史的な繋がりが深い、オランダに焦点をあて、その地誌的特徴を整理し、説明することができる。	
		事前学修	バルト海とライン川沿岸に位置するオランダの地理的特徴について考察する。	120分
		事後学修	低地地域の干拓と地域開発、ヨーロッパの窓口としての経済構造について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/26	世界地誌（5）北アメリカ州 北アメリカの自然環境と産業と都市	アメリカ合衆国を中心として、その地形・気候の特色を中心に考察する。	
		この回の到達目標	アメリカ合衆国の地域的特徴や地域区分のもとになっている自然的特徴（地形・気候）についての確に整理し、説明することができる。	
		事前学修	アメリカ合衆国とカナダとの地形・気候の特徴について事前に調べる。	120分
		事後学修	地形・気候の特徴として東西関係と南北関係の意味について確認・整理する。	120分
8	11/9	世界地誌（6）北アメリカ州 アメリカ合衆国の自然的特徴と農業地域の分布	世界の大農業国であるアメリカ合衆国の農業の地域的展開状況を中心に整理すると共に、地理教科目での取り上げ方について考察する。	
		この回の到達目標	アメリカ合衆国における農業の地域的特色と世界の農産物市場との関係について整理すると共に、地歴科科目としてどの様に取り上げるかについて提起することができる。	
		事前学修	西経100度線を境に自然環境や農業が大きく変わることを検証し、地図等で確認する。	80分
		事後学修	アメリカ合衆国の農業地域分布、世界的農産物輸出国としての特徴について整理する。次回小テストの準備をする。	160分
9	11/16	世界地誌（7）北アメリカ州： アメリカ合衆国の資源と工業地域変動	サンベルト等を代表に、ICなどの先端産業地域の分布とその特徴について考察する。 （アメリカの農業分布に関する小テストを行う 20分）	
		この回の到達目標	アメリカ合衆国の工業地域変動について整理し、現代のアメリカにおける工業立地と経済構造変容に関して分析し、説明することができる。	
		事前学修	アメリカ合衆国の資源分布状況について調べ、確認する。	150分
		事後学修	アメリカ合衆国におけるICを中心とした工業変動と工業地域について検証と整理する。	90分
10	11/23	世界地誌（8）南アメリカ州 南アメリカ諸国の自然環境と社会文化	南アメリカ諸国について整理すると共に、ブラジル地誌について取り上げ、考察する。 （9回授業時の小テストに関する講評と討議も行う）	
		この回の到達目標	南アメリカ州の国別特徴を地誌学的に整理すると共に、特にブラジルを採り上げて、その地域構造を説明することができる。	
		事前学修	南アメリカ州に含まれる諸国を抽出し、各国の地域的特色について考察する。	120分
		事後学修	資源大国のブラジルの経済開発について特に重点的に検証する。	120分
11	11/30	世界地誌（9）アフリカ州 アフリカ諸国の自然環境、産業、地域問題	アフリカの地誌学的地域区分について整理すると共に、アフリカ諸国の社会・歴史（植民地）・経済（資源産出）について考察する。	
		この回の到達目標	アフリカの地域区分について検討すると共に、その地域的特色（気候・農業・鉱業）を的確にまとめることができる。	
		事前学修	アフリカのサヘル地域の分布と砂漠化の状況について考察する。	120分
		事後学修	アフリカの資源分布と経済開発、地域格差や地域紛争について整理する。	120分
12	12/7	世界地誌（10）オセアニア州 オセアニアの範囲と自然環境の特徴	大部分が乾燥気候地域にあるオーストラリアや温帯気候に位置するニュージーランドの自然について考察する。	
		この回の到達目標	オーストラリア・ニュージーランドの気候・地形（乾燥大陸、氷河地形、新期造山帯等）を整理して、その地誌的特色について説明することができる。	
		事前学修	オセアニアの自然的特徴について事前に調べてみる。	120分
		事後学修	太平洋諸国の地域区分及び火山国ニュージーランドの自然的特徴について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/14	世界地誌（11）オセアニア州 オーストラリアの自然環境と資源分布、植民の歴史	特に植民の歴史やアボリジニの歴史・文化、及び工業資源の賦存状況と輸出について考察する。	
		この回の到達目標	オーストラリアにおける原住民族の社会的地位や有色民族の移民制限史の検証と、経済の基盤となっている鉱物資源について分析し、オーストラリアの社会・経済的特についてまとめ説明することができる。	
		事前学修	乾燥大陸オーストラリアの地形的特徴（卓状地など安定大陸）について整理すると共に、アボリジニの社会生活や移民について調べる。	120分
		事後学修	オーストラリアの社会構成、農業や工業資源の分布と展開について整理する。	120分
14	12/21	世界地誌（12）オセアニア州 オーストラリアの空間構造（都市の分布、経済構造、日本との関係）	特にオーストラリアと日本との関係について考察し、議論する。	
		この回の到達目標	経済・社会的観点において、空間の克服が課題となっているオーストラリアの地域構造について整理し、その特徴を説明することができる。	
		事前学修	オーストラリアの都市分布と人口規模について事前に調べる。また、オーストラリアと日本の関係について経済・観光などの中心に検証してみる。	120分
		事後学修	オーストラリアにおける空間構造（都市・外国との関係）と経済構造の特徴について整理する。また、授業内試験の準備をする。	120分
15	1/18	世界地誌の地域的展開についての整理	世界地誌の内容を総括し、世界の地域構造に関して、地誌学的観点から整理する。授業内試験（50分）及び試験後の講評を行う（40分）。	
		この回の到達目標	地誌学的観点からの地域の分析手法やまとめ方などを的確に行い、世界の地域構造について説明することができる。	
		事前学修	世界の各地域に関する文献を整理すると共に、後期試験の準備をする。	210分
		事後学修	プリントと講義ノートを見直し、後期授業の内容について整理する。	40分

科目名	哲学概論Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「哲学とは何か」という問題を焦点にし、古代から近代に至るまで西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、ソクラテス以前の自然観が、ソクラテスを経てプラトンに始まり、近代にまで至る形而上学的な自然観によってどのように変貌してゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な問題について哲学的に考えることができる姿勢を身につけることを通して、人間教育にとって不可欠な総合的視野を修得する。その過程のなかで、1. 古代から近代までの西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解すること、2. 様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解すること、3. 時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書の順序に合わせ、配布するレジュメ（※共有フォルダでも入手可）に沿い、講義形式ですすめてゆく。リアクションペーパーを提出してもらい、その返答の機会を設けてゆく。受講者数に応じて、演習形式を取り入れる場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解し、説明することができる。												
②	様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明することができる。												
③	時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、授業内の筆記試験により評価する。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、試験についての講評、解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
反哲学史（講談社学術文庫）	木田元	講談社	2000年4月10日	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 4/7 第二部土 4/4	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
2	第一部火 4/14 第二部土 4/11	哲学は何を問うてきたのか	常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。	
		この回の到達目標	常識や科学知と哲学との違いや関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
		事前学修	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	常識や科学知と哲学との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	第一部火 4/21 第二部土 4/18	「哲学」の誕生	ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ソクラテスのいう「無知の知」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ソクラテスのいうフィロソフィアについてその意味と役割について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	第一部火 4/28 第二部土 4/25	アイロニーとしての哲学	ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について考える。	
		この回の到達目標	ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	皮肉と嘘の違いや共通点について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ソクラテスのアイロニーについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	第一部火 5/5 第二部土 5/2	ソクラテス裁判	ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。	
		この回の到達目標	ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ソクラテス裁判について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ソクラテスの無限否定性についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	第一部火 5/12 第二部土 5/9	ソクラテス以前の自然観	ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について考える。	
		この回の到達目標	ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	自然について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ソクラテス以前のフュシスについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 5/19 第二部土 5/16	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、ソクラテス以前の自然観という点からソクラテスのフィロソフィアの意味や役割について考える。	
		この回の到達目標	ソクラテス以前の自然観という点からソクラテスのフィロソフィアの意味や役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ここまでの授業内容を振り返り、自然観という点から見たソクラテスの役割についてノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	自然観という点から見たソクラテスの役割についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
8	第一部火 5/26 第二部土 5/23	プラトンのイデア論	プラトンのイデア論の真意を探り、イデア論と物質的自然観との関係について考える。	
		この回の到達目標	プラトンのイデア論と物質的自然観との関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	プラトンのイデア論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	イデア論と物質的自然観との関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
9	第一部火 6/2 第二部土 5/30	アリストテレスの形而上学	アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	プラトンとアリストテレスとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
10	第一部火 6/9 第二部土 6/6	プラトン・アウグスティヌス主義の復興	デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	スコラ哲学について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	スコラ哲学のデカルト哲学への影響についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
11	第一部火 6/16 第二部土 6/13	デカルトと近代哲学の創建	デカルトによる量的自然観の基礎づけについて、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトによる量的自然観の基礎づけについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	デカルトとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	デカルトによる量的自然観の基礎づけについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
12	第一部火 6/23 第二部土 6/20	近代哲学の構図	デカルトに始まる近代哲学の構図について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトに始まる近代哲学の構図について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	科学的世界観について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	近代哲学の構図についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 6/30 第二部土 6/27	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。筆記試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。	
		この回の到達目標	ソクラテス以前からデカルトに至るまでの自然観の変遷について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	授業内容の全体を振り返り、ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
14	第一部火 7/7 第二部土 7/4	哲学とは何かを振り返るー授業内試験	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認するために、筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
15	第一部火 7/14 第二部土 7/11	試験の講評・解説、授業全体の総括、質疑応答	試験の講評・解説を踏まえ、授業全体の総括をしたあと、質問を受け回答する。	
		この回の到達目標	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	180分

科目名	哲学概論Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「哲学とは何か」という問題を焦点にし、近代から現代に向けて西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、近代哲学において形而上学的な自然観がどのように完成されてゆくのか、現代哲学に向かって、近代哲学の自然観の限界がどのように克服されてゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な問題について哲学的に考えることができる姿勢を身につけることを通して、人間教育にとって不可欠な総合的視野を修得する。その過程のなかで、1. 近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界を抽出し、現代哲学の源流としてその克服を目指す主要な哲学的立場とその概念を理解すること、2. 様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解すること、3. 時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解することを目指す。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書の順序に合わせ、配布するレジュメ（※共有フォルダでも入手可）に沿い、講義形式ですすめてゆく。リアクションペーパーを提出してもらい、その返答の機会を設けてゆく。受講者数に応じて、演習形式を取り入れる場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界の意味を理解し、説明することができる。												
②	様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明することができる。												
③	時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、授業内の筆記試験により評価する。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、試験についての講評、解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
反哲学史（講談社学術文庫）	木田元	講談社	2010年4月10日	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部火 9/15 第二部土 9/19	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
		事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
2	第一部火 9/22 第二部土 9/26	哲学は何を問うてきたのか	常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。	
		この回の到達目標	常識や科学知と哲学との違いや関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
		事前学修	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	常識や科学知と哲学との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	第一部火 9/29 第二部土 10/3	近代哲学の構図	デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	科学の可能性と限界について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	近代哲学が招いた問題についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	第一部火 10/6 第二部土 10/10	カントと近代哲学の完成	カントのコペルニクスの転回とは何か。直観の形式と思考のカテゴリーという発想について、その意味を考える。	
		この回の到達目標	直観の形式と思考のカテゴリーという発想について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	カントとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	カントのコペルニクスの転回についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	第一部火 10/13 第二部土 10/17	ヘーゲルと近代哲学の完成	ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について考える。	
		この回の到達目標	ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ヘーゲルの弁証法について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ヘーゲルの弁証法、および形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	第一部火 10/20 第二部土 10/24	後期シェリングと実存哲学	後期シェリングの実存主義について考える。	
		この回の到達目標	後期シェリングの実存主義について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ヘーゲルとシェリングとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	後期シェリングの実存という概念についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部火 10/27 第二部土 10/31	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について考える。	
		この回の到達目標	授業の前半部の内容を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ここまでの授業を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
8	第一部火 11/10 第二部土 11/7	実存とは	「実存」をめぐって、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について考える。	
		この回の到達目標	「実存」をめぐって、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	実存主義について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	実存についての後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
9	第一部火 11/17 第二部土 11/14	マルクスの自然主義	マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について。	
		この回の到達目標	マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	マルクスの労働概念について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	マルクスのいう自然主義についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
10	第一部火 11/24 第二部土 11/21	ニーチェのニヒリズム	ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について考える。	
		この回の到達目標	ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ニヒリズムについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	ニーチェのいう「ヨーロッパのニヒリズム」についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
11	第一部火 12/1 第 二部土 11/28	ニーチェと「力への意志」の哲学	「力への意志」という点からニーチェの自然観について考える。	
		この回の到達目標	力への意志」という点からニーチェの自然観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	ニーチェのいう「力への意志」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	「力への意志」という考えにおけるニーチェの自然観についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
12	第一部火 12/8 第 二部土 12/5	近代から現代へ	近代哲学にまで至る自然観の変遷を振り返る。	
		この回の到達目標	近代哲学にまで至る自然観の変遷について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部火 12/15 第二部土 12/12	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。筆記試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。	
		この回の到達目標	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	授業内容の全体を振り返り、近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
14	第一部火 12/22 第二部土 12/19	哲学とは何かを振り返る―授業内試験	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認するために、筆記試験を実施する。	
		この回の到達目標	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
		事後学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
15	第一部火 1/12 第 二部土 12/26	試験の講評・解説、授業全体の総括、質疑応答	試験の講評・解説を踏まえ、授業全体の総括をしたあと、質問を受け回答する。	
		この回の到達目標	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
		事前学修	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味をノートに整理しておくこと。	150分
		事後学修	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	180分

科目名	道徳教育の理論と方法	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】 道徳教育の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育実践の目標や内容、指導計画等を理解します。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけることを目的とします。（以上、文部科学省「コアカリキュラム」より引用：一部改）

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を養成することを目的とします。道徳教育実践を構想し、計画、立案、実践できることを到達目標とします。

【履修条件】 おもに、教職を志望する学生を対象とします。なお、教職を志望していない学生は、基本的には模擬授業の実施の必要はありません。また、予習と復習の時間は、あくまで目安であり、個々人で学習計画を立案してください。
--

【授業方法】 講義、学生による模擬授業を中心に進めます。模擬授業に対する講評は、そのつど実施します。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～15回のいずれかを予定）。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力			
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力			
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力			
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	道徳教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。									
②	天皇制公教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。									
③	戦前における「教育勅語」の位置づけについて理解し、自己の見解を叙述できる。									
④	道徳教育の諸実践の意義と課題について理解し、自己の見解を叙述できる。									
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (30%)	10	10	5	5							30
討論・発表等	模擬授業 (60%)。	20	20	10	10							60
授業への参画度	コメントペーパー (10%)。	3	3	2	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	17	17							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に講評いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
いのちに触れる	鳥山敏子	太郎次郎社エディタ ス	2011	教科書	必携
からだといのちと食べものと	鳥山敏子	自然食通信社	2003	参考書	任意
ブタまるごと一頭食べる	鳥山敏子	フレーベル館	1987	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9.18（金曜日・5限）	被教育体験と道德教育	被教育体験のなかの道德教育	
		この回の到達目標	被教育体験と道德教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	教科書や参考文献に目を通しておく。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
2	9.25（金曜日・5限）	人間の育ちと道德性	「道德」の輪郭 哲学における道德性の発達と概念の定義をめぐって	
		この回の到達目標	人間の育ちと道德性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
3	10.2（金曜日・5限）	日本道德教育史①	日本における戦前の道德教育史 江戸時代の通俗道德から修身教育まで	
		この回の到達目標	日本道德教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。（2時間）	120分
4	10.9（金曜日・5限）	日本道德教育史②	日本における戦後の道德教育史 敗戦後から「教科化」まで	
		この回の到達目標	日本道德教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
5	10.16（金曜日・5限）	教育実践史と学校教育①	具体的な戦後の道德教育実践（1）「いのち」の授業：黒田恭史を事例として	
		この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
6	10.23（金曜日・5限）	教育実践史と学校教育②	具体的な戦後の道德教育実践（2）「いのち」の授業：鳥山敏子を事例として	
		この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10.30（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践①	道徳教育の学習指導案 作成と方法	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
8	11.6（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践②	模擬授業の検討（1） 教材研究	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
9	11.13（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践③	模擬授業の実際（1） 各グループによる小授業	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
10	11.20（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践④	模擬授業の検討（2） 各グループへの意見交流	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
11	11.27（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践⑤	模擬授業の実際（2） 各グループによる授業実践（小学校）	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
12	12.4（金曜日・5限）	道徳教育の授業実践⑥	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（中学校）	
		この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12. 11（金曜 日・5 限）	道徳教育の授業実践⑦	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（高等学校）	
		この回の 到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
14	12. 18（金曜 日・5 限）	道徳教育と教育評価	各グループの教育評価のあり方をめぐって	
		この回の 到達目標	道徳教育と教育評価の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
15	12. 25（金曜 日・5 限）	道徳教育と公教育システム	総合討議。	
		この回の 到達目標	道徳教育と公教育システムについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
		事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
		事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

科目名	東洋史概論Ⅰ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
先史時代から近現代にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史」の授業を行うにあって、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から近現代にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシア、東南アジアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。

【履修条件】
向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。

【授業方法】
講義を主としますが、それぞれの授業の冒頭に「事前確認シート」を使って事前学習について確認をし、当日のテーマを講義し、適宜「まとめレポート」を課します。なお、プリントを配布します。A4版のクリアブック／クリアフォルダーを用意して下さい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東洋史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。												
②	①を踏まえながら、古代から現代までの東洋史の歴史的展開のなかで、歴史的な事項を位置づけ、その意味・意義を把握し、自らの見解を明らかにできる。												
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。												
④	①②③を踏まえて、中学校の社会科「歴史分野」、高等学校の「世界史」・「日本史」（一部）に関する授業の組み立てができる。												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験かは受講者数に応じて調整する。	30	30	10	10							80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期テストの場合は同様の内容をポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国の歴史	岸本美緒	ちくま学芸文庫（筑摩書房）	2015年	教科書	必携
遊牧民から見た世界史 増補版	杉山正明	日経ビジネス文庫（日経新聞社）	2011年	参考書	推奨
朝鮮思想全史	小倉紀蔵	ちくま新書（筑摩書店）	2017年	参考書	推奨
教養の中国史	津田資久ほか編	ミネルヴァ書房	2018年	参考書	推奨
中国経済史	岡本隆司編	名古屋大学出版会	2013年	参考書	推奨
中華の成立 唐代まで 〈シリーズ 中国の歴史①〉	渡辺信一郎	岩波書店（新書）	2019年	参考書	推奨
江南の発展 南宋まで 〈シリーズ 中国の歴史②〉	丸橋充拓	岩波書店（新書）	2020年	参考書	推奨
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017年	参考書	任意
備考	授業はもとより事前学習・事後学習には教科書が必要です。必ずそろえて下さい。また検定教科書・世界史図録も用意して下さい。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7 4/8	人類の誕生 旧石器時代の中国	〔中国史1〕授業内容やスケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介をするとともに、人類の誕生、ホモ・サピエンスの登場、さらに中国における人類の足跡やと旧石器時代について概述する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「人類の誕生」「旧石器時代の中国」を説明できる。	
		事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の導入部分を読み、授業にそなえる。	120分
		事後学修	「人類の誕生・ホモ・サピエンスの登場・中国における人類の足跡・旧石器時代の中国」についてまとめてみよう。	120分
2	4/14 4/15	中国文明の多元性	〔中国史2〕中国文明の誕生 中国文明の多元性について	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国文明の多元性を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
		事後学修	中国文明の多元性についてまとめてみよう。	120分
3	4/21 4/22	殷周時代	〔中国史3〕 中国初期王朝の形成―殷周時代	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、殷周時代を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
		事後学修	殷周時代についてまとめてみよう。	120分
4	4/28 4/29	春秋から秦の統一	〔中国史4〕 春秋戦国 秦の統一	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、春秋から秦の統一を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』「3 春秋・戦国から秦の統一へ」を読んで春秋戦国時代から秦の統一についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「春秋戦国 秦の統一」についてまとめてみよう。	120分
5	5/5 5/6	漢王朝の時代	〔中国史5〕 漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、漢王朝の時代を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』「4 漢帝国と周辺地域」を読んで漢帝国と周辺地域についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興」についてまとめてみよう。	120分
6	5/12 5/13	魏晋南北朝時代	〔中国史6〕 中国の分裂 三国の鼎立 南北朝時代 中国における胡漢融合と六朝政権	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、魏晋南北朝時代を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』「5 分裂と融合の時代」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「中国の分裂 中国における胡漢融合と六朝政権」についてまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19 5/20	隋唐律令国家	〔中国史7〕 隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、隋唐律令国家を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』 「6 隋唐帝国の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域」についてまとめてみよう。	120分
8	5/26 5/27	東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化	〔中国史8〕 東アジア文化圏の成立、隋唐の国際関係	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「東アジア文化圏の成立」「隋唐の国際関係と文化」を説明できる。	
		事前学修	配布プリントの「羈縻政策」を読んでまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化」についてまとめてみよう。	120分
9	6/2 6/3	スキタイと匈奴	〔中央ユーラシア史1〕 騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、スキタイと匈奴を説明できる。	
		事前学修	『遊牧民から見た世界史 増補版』のスキタイ、匈奴に関する記述（p110～p135、匈奴：p144～p164）を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代」についてまとめてみよう。	120分
10	6/9 6/10	草原世界の「民族大移動」と北アジアの展開	〔中央ユーラシア史2〕 草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、草原世界の「民族大移動」と北アジアの展開を説明できる。	
		事前学修	『遊牧民から見た世界史 増補版』（p245～p280）を参考にして、五胡、柔然、高車、「カンカハンカ」について概述してみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然」についてまとめてみよう。	120分
11	6/16 6/17	古テュルク時代からウイグル遊牧国家の成立まで	〔中央ユーラシア史3〕 古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家 オアシス世界の展開 オアシス世界への中華文化の流入	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古テュルク時代からウイグル遊牧国家の成立までを説明できる。	
		事前学修	『遊牧民から見た世界史 増補版』（p280～p311）を参考にして、突厥についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家」についてまとめてみよう。	120分
12	6/23 6/24	古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立まで	〔朝鮮史1〕 朝鮮の神話と伝承 朝鮮三国以前－古朝鮮・漢の四郡・三韓 高句麗・百済・新羅・伽耶諸国、朝鮮三国の抗争に	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までを説明できる。	
		事前学修	『朝鮮思想全史』（p49～p58、p62～p64、p69～～p73）を参考にして、古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までをまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までをまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30 7/1	唐の滅亡と東アジア世界の変容・中央ユーラシアの変容	〔中国史9／中央ユーラシア史4〕 唐の滅亡と東アジア世界の変容、中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク化について概述し、その後、朝鮮史と中央ユーラシア史の小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「唐の滅亡と東アジア世界の変容」「中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク」を説明できる。	
		事前学修	『遊牧民から見た世界史 増補版』（p311～p322）を参考にして、唐滅亡後の東アジア、ウイグル崩壊後の中央ユーラシアのイスラーム化とテュルク化についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「唐の滅亡と東アジア世界の変容 中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク化」についてまとめてみよう。	120分
14	7/7 7/8	「東洋史概論」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内中間試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については旧石器時代から唐の滅亡まで、朝鮮については古朝鮮から統一新羅・渤海まで、中央ユーラシアについてはスキタイ・匈奴から中央ユーラシアの変容までについて基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題をときながら、教科書・参考書を味読して知識・理解を深める。	60分
15	7/14 7/15	試験解説、「東洋史概論」に関する講義総括	試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については旧石器時代から唐の滅亡まで、朝鮮については古朝鮮から統一新羅・渤海まで、中央ユーラシアについてはスキタイ・匈奴から中央ユーラシアの変容までを説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度試験を解く。	120分

科目名	東洋史概論Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
12世紀から近現代にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史」の授業を行うにあって、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から近現代にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシア、東南アジアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。

【履修条件】
向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。

【授業方法】
講義を主としますが、それぞれの授業の冒頭に「事前確認シート」を使って事前学習について確認をし、当日のテーマを講義し、適宜「まとめレポート」を課します。なお、プリントを配布します。A4版のクリアブック／クリアフォルダーを用意して下さい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東洋史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。												
②	①を踏まえながら、古代から現代までの東洋史の歴史的展開のなかで、歴史的な事項を位置づけ、その意味・意義を把握し、自らの見解を明らかにできる。												
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。												
④	①②③を踏まえて、中学校の社会科「歴史分野」、高等学校の「世界史」・「日本史」（一部）に関する授業の組み立てができる。												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験かは受講者数に応じて調整する。	30	30	10	10							80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内テスト返却時において解説・講評・成績評価の基準について明確にする。定期試験の場合は同様の内容ををータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国の歴史	岸本美緒	ちくま学芸文庫（筑摩書房）	2015年	教科書	必携
遊牧民から見た世界史 増補版	杉山正明	日経ビジネス文庫（日経新聞社）	2011年	参考書	推奨
朝鮮思想全史	小倉紀蔵	ちくま新書（筑摩書店）	2017年	参考書	推奨
教養の中国史	津田資久ほか編	ミネルヴァ書房	2018年	参考書	推奨
中国経済史	岡本隆司編	名古屋大学出版会	2013年	参考書	推奨
江南の発展 南宋まで 〈シリーズ 中国史②〉	丸橋充拓	岩波書店（新書）	2020	参考書	推奨
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017年	参考書	任意
備考	授業はもとより事前学習・事後学習には教科書が必要です。必ずそろえて下さい。また検定教科書・世界史図録も用意して下さい。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15 9/16	宋朝の成立と中国の統一	〔中国史8〕 宋朝の成立と中国の統一 「唐宋変革」	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宋朝の成立と中国の統一を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」を参考にして宋朝についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「宋朝の成立と中国の統一 「唐宋変革」」についてまとめてみよう。	120分
2	9/22 9/23	遼と西夏、金－北方民族の台頭	〔中国史9／中央ユーラシア史5〕 遼と西夏、金－北方民族の台頭 「征服王朝論」	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遼と西夏、金について説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」、『遊牧民から見た世界史』（p322～p338）を参考に遼、西夏、金についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「遼と西夏、金－北方民族の台頭 「征服王朝論」」についてまとめてみよう。	120分
3	9/29 9/30	モンゴル帝国の成立と元朝の中国統治	〔中央ユーラシア史6／中国史10〕 モンゴル帝国の成立 元朝の中国統治	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、モンゴル帝国の成立と元朝の中国統治について説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」「8 元から明へ」、『遊牧民から見た世界史』（p358～p374）を参考に してモンゴル帝国の成立と元朝についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「モンゴル帝国の成立 元朝の中国統治」についてまとめてみよう。	120分
4	10/6 10/7	明朝の成立・発展と周辺諸地域	〔中国史11〕 明朝の成立・発展と周辺諸地域	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、明朝の成立・発展と周辺諸地域を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』 「8 元から明へ」を参考にして、明朝についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「明朝の成立・発展と周辺諸地域」についてまとめてみよう。	120分
5	10/13 10/14	清朝支配の成立と広域統治	〔中国史12〕 清朝支配の成立と広域統治	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、清朝支配の成立と広域統治を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』 「9 清朝の平和」を参考にして、清朝についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「清朝支配の成立と広域統治」についてまとめてみよう。	120分
6	10/20 10/21	チベット仏教国家・高麗と朝鮮王朝	〔中央ユーラシア史8／朝鮮史4〕 チベット仏教国家 チベット仏教国家と中国王朝 高麗の歴史	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、チベット仏教国家・高麗と朝鮮王朝について説明できる。	
		事前学修	配布プリントを参考にして、チベットの歴史について、『朝鮮思想全史』（p105～p108）を参考にして、 「高麗の歴史」についてまとめてみよう。まとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「チベットの歴史」と「高麗の歴史」についてまとめてみよう	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27 10/28	清朝の動揺と社会の変容	〔中国史13〕 清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、清朝の動揺と社会の変容を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』『10清末の動乱と社会の変容』を参考にして、二つのアヘン戦争と太平天国ついてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失」についてまとめてみよう。	120分
8	11/10 11/11	中国ナショナリズムの形成	〔中国史14〕 中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命元朝の支配	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国ナショナリズムの形成を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』『11中国ナショナリズムの形成』を参考にして、日清戦争から辛亥革命までをまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命」についてまとめてみよう。	120分
9	11/17 11/18	五・四運動から「国民政府」による中国統一まで	〔中国史15〕 五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、五・四運動から「国民政府」による中国統一までを説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』『12五・四運動と社会の変容』を参考にして、第一次世界大戦と中国ついてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一」についてまとめてみよう。。	120分
10	11/24 11/25	抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立	〔中国史16〕 抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抗日戦争と中国革命、中華人民共和国の成立について説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』『13抗日戦争と中国革命』を参考にして、抗日戦争の展開と人中華人民共和国の成立についてまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立」についてまとめてみよう。	120分
11	12/1 12/2	社会主義国家の建設の時代	〔中国史17〕 社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会主義国家の建設の時代を説明できる。	
		事前学修	『中国の歴史』『14社会主義国家の建設の時代』を参考にして、人民共和国成立後の中国の歴史をまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題」についまとめてみよう。	120分
12	12/8 12/9	近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで	〔朝鮮史 5〕 近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで概述し、その後朝鮮王朝の成立から大韓帝国に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近代の朝鮮王朝から大韓帝国までを説明できる。	
		事前学修	『朝鮮思想全史』（p127～p130、p214～243）を参考にして、朝鮮王朝の時代をまとめてみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて「近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで」についてまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15 12/16	東南アジア略史	〔東南アジア史〕 前近代東南アジア史のなかの「中国」／中国の歴代王朝と東南アジアの諸国家の交流／朝貢冊封関係と東南アジア／中国文化の受容－仏教と儒教／ベトナムの独立王朝について概述し、その後東南アジア史に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、東南アジア史を説明できる。	
		事前学修	配布プリントを参考にして、中国と東南アジアとの関係を概述してみよう。	120分
		事後学修	授業内容をふまえて東南アジア諸地域の歴史についてまとめてみよう。	120分
14	12/22 12/23	「東洋史概論Ⅱ」に関する講義総括、授業内試験	講義を総括し、授業内試験を実施する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については五代から現代まで、朝鮮については高麗から近代まで、中央ユーラシアについてはモンゴル・チベットに関連する歴史的展開、さらに東南アジア史について基礎的な知識について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	本講義全体に関する基礎的な知識を復習し、要点をノートに整理しておくこと。	180分
		事後学修	再度、試験問題をときながら、教科書・参考書を味読して知識・理解を深める。	60分
15	1/12 1/13	試験解説、	「東洋史概論Ⅱ」（前期）に関する講義総括試験解説、講義総括を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については五代から現代まで、朝鮮については高麗から近代まで、中央ユーラシアについてはモンゴル・チベットに関連する歴史的展開、さらに東南アジア史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
		事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	120分
		事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度試験を解く。	120分

科目名	特別活動論	担当者	金澤 信之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
特別活動という言葉が学校で聞く機会はありません。しかし、実はホームルーム、生徒会、学校行事など実に幅広い領域をカバーしており、それぞれの内容も多岐にわたっています。また、道徳教育とも深く関連しています。ある意味、多くの事が入りすぎている感もありますが、逆に、工夫次第では生徒の自立に関わるおもしろい取り組みも可能です。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、やっかいでもあり、楽しくもある「特別活動」について「何をやるのか」「なぜやるのか」「どんな指導方法があるのか」「問題点は何か」などといったことを学生のみなさんとともに考えていきたいと思っています。また、最近話題になることが多い特別活動と深い関係のある部活動についても最新事情を踏まえながら考えてみようと思っています。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義を中心として行うが、動画を視聴したりしながらグループ討議等を随時行う。毎時間配布するリアクションペーパーで、授業内容についての振り返りを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、グループ討議、発表を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特別活動の意義について理解できる。												
②	特別活動の歴史について理解できる。												
③	特別活動の各分野の現状と課題について知り、課題の解決について議論し考察することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の中でまとめの試験を行う。	70										70
小テスト等												
レポート等	グループ討議後にワークシートを提出する。		10									10
討論・発表等	グループ討議で分担を決めて発表をする。			10								10
授業への参画度	毎時間のリアクションペーパーにより確認する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	10	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパー等について講義の中でコメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編	文部科学省		2018年	参考書	必携
中学校学習指導要領（平成30年告示）解説特別活動編	文部科学省		2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂にて、講義についての質問と回答

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	県立高校における教員経験など
実務経験に基づく実践的教育の内容		困難を有する生徒の支援についてなど	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	教育課程の中の特別活動	教育課程とは何か、そこにどのように特別活動は位置づけられているか。	
		この回の到達目標	自分の体験を整理し議論することができる。 学習指導要領などにおける位置づけについて説明することができる。	
		事前学修	高校までの自分の特別活動体験についてまとめておく。	120分
		事後学修	学習指導要領の該当箇所を確認し考察する。	120分
2	4/14	他の領域と特別活動 特別活動の意義	特別活動の内容、他の領域との関係を知る。	
		この回の到達目標	特別活動の内容、他の領域との関係を説明することができる。 具体的な事例に基づいて議論をし、自分の考えを示すことができる。	
		事前学修	他の領域との関係について整理しておく。	120分
		事後学修	学習指導要領の該当箇所を確認し考察する。	120分
3	4/21	特別活動の歴史－1	戦前の状況について知り、考察する。	
		この回の到達目標	戦前の状況について知り、考察することができる。	
		事前学修	戦前の状況について調べておく。	120分
		事後学修	知識を整理し、自分の考えをまとめる。	120分
4	4/28	特別活動の歴史－2	戦後から現在までの流れについて知り、考察する。	
		この回の到達目標	戦後から現在までの状況について知り、考察することができる。	
		事前学修	戦後の状況について調べておく。	120分
		事後学修	知識を整理し、自分の考えをまとめておく。	120分
5	5/5	学級、ホームルーム活動の理念と実際	学習指導要領の中でどのように記述されてきたかを確認する。 担任の関わり方の実際について知り、考察する。	
		この回の到達目標	学級、ホームルームの成立について説明することができる。 担任の実際について教職に就くことを前提として準備することができる。	
		事前学修	学習指導要領で該当事項を確認する。自分の学級、ホームルーム経験を整理する。	120分
		事後学修	知識を整理し、担任の在り方について自分の考えをまとめる。	120分
6	5/12	いじめについて 生徒指導との関連を含めて	2011年大津いじめ事件について考察する。	
		この回の到達目標	いじめについてその構造を説明できる。 いじめの定義の変遷について理解できる。	
		事前学修	大津いじめ事件について調べておく。	120分
		事後学修	いじめについての考え方を整理し、自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	男女相互の理解と協力	性教育との関連について整理し、考察する。 デートDVについて知り、対応方法を考える。	
		この回の到達目標	性教育と特別活動との関連について説明することができる。 デートDVの実際について知り、教員としての対応について考えることができる。	
		事前学修	学習指導要領と性教育について調べる。 デートDVについて調べる。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分
8	5/26	国際理解と国際交流の推進	多文化共生 外国につながるのある生徒の支援を含めて事例をもとに考察する。	
		この回の到達目標	現状について理解し、説明することができる。 困難を有する児童、生徒に対する支援について考えることができる。	
		事前学修	外国につながる児童、生徒の状況や支援の実際について調べる。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分
9	6/2	進路指導からキャリア支援	学習指導要領における位置づけについて知る。 キャリア教育の変遷についてについて知る。	
		この回の到達目標	キャリア教育と進路指導の関係について説明できる。 キャリア教育の在り方について考察できる。	
		事前学修	学習指導要領の該当箇所を確認し、キャリア教育の変遷について調べる。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分
10	6/9	進路指導の実際（就職、進学など）	進路指導の実際について最新事情をもとに考察する。 困難を有する児童、生徒への支援について考察する。	
		この回の到達目標	進路指導、キャリア支援の実際について知り、準備することができる。	
		事前学修	進学、就職の最新事情について調べて、自分の考えをまとめる。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分
11	6/16	生徒会活動・学校行事	生徒会活動、学校行事について考察する。	
		この回の到達目標	生徒会活動、学校行事の課題について知り、考察する。	
		事前学修	自分のこれまでの体験について整理し、考えをまとめておく。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分
12	6/23	部活動の制度的な側面	部活動と学習指導要領の関係について確認する。	
		この回の到達目標	部活動と学習指導要領の関係を説明することができる。	
		事前学修	学習指導要領の該当箇所を確認し、自分の部活動体験についてまとめておく。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	部活動の運営、改革に向けて現状と課題	教員の働き方改革や部活動のガイドラインなどについて知り、考察する。	
		この回の到達目標	教員の働き方改革や部活動のガイドラインなどについて知り、議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	
		事前学修	教員の働き方改革や部活動のガイドラインについて調べておく。	120分
		事後学修	知識を整理し、課題にどのように対応するか考えをまとめる。	120分
14	7/7	生徒参加と主権者教育 1 8歳成人	1 8歳成人の課題と展望について考察し、主権者教育について考える。	
		この回の到達目標	1 8歳成人の課題と展望について考察することができる。 主権者教育について知り、考察することができる。	
		事前学修	1 8歳成人、主権者教育について調べておく。	120分
		事後学修	知識を整理し、教員としてどのように対応するか考えをまとめる。	120分
15	7/14	まとめと試験	これまでの講義の内容を整理し、確認する。	
		この回の到達目標	これまでの講義の内容を確認し、整理することができる。	
		事前学修	これまでの講義内容について確認する。	120分
		事後学修	講義の内容を振り返り、教職に就いた時に特別活動をどのように行うのか、考察する。	120分

科目名	特別支援教育概論	担当者	森澤 亮介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×8回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
講義形式中心で行われる。講義には簡単な障害疑似体験、障害の実態についてのVTR、事例検討、グループでの事例検討等を含み、その後にリフレクションペーパーを作成して提出する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
支援を必要としている幼児、児童、生徒に関する特性について基礎的な知識を身につける。また「適応行動の問題」を踏まえて個別の教育的ニーズに応じた支援、対応、教育方法について考え例示することができる。その際、他の教員や、関係機関と連携するといった周囲の資源を活用し、組織的に対応していく方法を学習する。

【履修条件】
教員免許状の取得を希望する者

【授業方法】		
講義形式中心で行われる。講義には簡単な障害疑似体験、障害の実態についてのVTR視聴などを含む第7回、第8回では、これまでの講義内容を踏まえて授業の指導案をグループに分かれて作成する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第7回、第8回では、これまでの講義内容を踏まえて授業の指導案をグループに分かれて作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	各種障害の概要や定義についての知識を身につけ説明することができる。【知識】												
②	特別支援教育に関する教育課程や、インクルーシブ教育システムについて、講義を通して基礎的な知識を身につける。【知識】												
③	発達障害を伴うもしくは発達障害の診断がない幼児・児童・生徒への支援方法について考えまとめることができる。【態度・習慣】												
④	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。その際、具体的な支援方法等を明示する様に促す。【技能】												
⑤	「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」に関する基礎的な知識を、講義を通して身につける。さらにこれらが、どのように活用されているのか、現場の実践から考える。 また、架空事例をもとに、「個別の指導計画」を作成する。【技能】												
⑥	実際の連携、また校内委員会等の事例を通して、携わり方の基本的な知識や技能、態度について考える。【態度・習慣】												
⑦	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。授業づくり2ではチームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。【態度・習慣】												
⑧	「特別支援教育コーディネーター」についての役割や立場など、チームでの連携を見通した、基本的な知識を身につけ説明することができる。【知識】												
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	架空事例を対象とした個別の指導計画の作成や授業の指導案作成を通して、到達目標④、⑤に関わる能力が身についているのか評価をする。				20	20						40
レポート等	授業ごとに各授業に即したレポート課題を出し、到達目標①②⑧に関する知識が身についているか確認する。 また授業後のリフレクションペーパーにより到達目標③⑥について積極的な学習態度が身についているかどうか評価する。	10	10	10			10	10	10			60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	20	20	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとのレポートや作成した課題を取り上げ講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業後、講堂にて行う

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 大学附属特別支援学校 教諭 特別支援教育コーディネーター
実務経験に基づく実践的教育の内容		特別支援教育コーディネーターとして地域の幼稚園・小学校・中学校の巡回を行ってきた。 また教員や職員向けの特別支援に関する研修の講師を行ってきた。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 土11/7	障害の状態像の理解	特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性および心身の発達の理解	
		この回の到達目標	到達目標①に関連して、障害の特性について理解し説明することができる。	
		事前学修	シラバスを確認し、自身の障害観について説明することができる。	120分
		事後学修	特別な支援を必要とする子どもの特性についてまとめる。	120分
2	第一部 土11/7	発達障害・特別な教育的ニーズの理解	発達障害及び発達障害に関わらない特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の特性および心身の発達の理解	
		この回の到達目標	到達目標③に関連して、障害の有無にかかわらず支援が必要な幼児・児童及び生徒の支援方法について考えまとめることができる。	
		事前学修	障害のない支援が必要な子どもとはどういうことか資料を確認する。	120分
		事後学修	障害の有無に関わらず、支援が必要な子どもと判断する要因についてまとめる。	120分
3	第一部 土11/14	特別支援教育に関する教育課程、特別支援教育に関する制度	「通級による指導」「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 インクルーシブ教育システムについての理解	
		この回の到達目標	到達目標②に関連して特別支援教育に関する教育課程や、インクルーシブ教育システムについて、講義を通して基礎的な知識を身に付け、説明することができる。	
		事前学修	特別支援教育に関する教育課程について最新の学習指導要領を確認する。	120分
		事後学修	インクルーシブ教育システムについてまとめる。	120分
4	第一部 土11/14	個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成とその意義	個別の教育支援計画・個別の指導計画に関する基礎的な知識を身につける 架空事例をもとに個別の指導計画を作成する	
		この回の到達目標	到達目標⑤に関連してこれまでの講義で身につけた知識や技能をもとに架空事例から個別の指導計画を作成する。	
		事前学修	個別の指導計画について文部科学省のHP等や書籍を確認してまとめる。	120分
		事後学修	作成した個別の指導計画について振り返り、別の事例でも作成する。	120分
5	第一部 土11/28	特別支援教育コーディネーターの理解Ⅰ	特別支援教育コーディネーターについて役割や立場などチーム連携を見通した基本的な知識を身につける	
		この回の到達目標	到達目標⑧に関連して特別支援教育コーディネーターについて基本的な知識を身につけその役割について説明することができる	
		事前学修	特別支援教育コーディネーターとは何か書籍や文部科学省のホームページを確認してまとめる。	120分
		事後学修	特別支援教育コーディネーターの役割や仕事についてまとめることができる。	120分
6	第一部 土11/28	特別支援教育コーディネーターの理解Ⅱ	架空の校内委員会の事例から連携について考える	
		この回の到達目標	到達目標⑥に関連して実際の連携、また校内委員会等の事例を通して、携わり方の基本的な知識や技能、態度について考える。	
		事前学修	校内委員会について事前に確認しまとめることができる。	120分
		事後学修	特別支援教育コーディネーターの役割などを踏まえて校内委員会についてまとめることができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 土12/5	特別支援の視点を取り入れた授業づくりⅠ	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する	
		この回の到達目標	到達目標④に関連して特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。その際、これまでの講義の内容を踏まえて具体的な支援方法等を明示する。	
		事前学修	これまでに自身が作成した学習指導案について確認する。	120分
		事後学修	本講義で作成した学習指導案を振り返り、チームで授業を進めるために必要な指導案の内容について考え、まとめる。	120分
8	第一部 土12/5	特別支援の視点を取り入れた授業づくりⅡ	チームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。	
		この回の到達目標	到達目標⑦に関連して特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。チームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。	
		事前学修	7回で作成した学習指導案をもとに、特別支援学校で授業を行うことを想定した学習指導案についてまとめる。	120分
		事後学修	チームで授業を行うために共有すべき必要な要素についてまとめる。	120分

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【歴史学入門＆日本前近代史概論】将来中学や高校の日本史を教育する教員として教壇に立つものを想定して、必要な素養を養うことを目的とする。歴史教師は「もの知り」や「歴史ファン」というだけでは勤まらない。高校レベルの内容を教育するためには、自ら歴史の探究者である必要がある。そのための基礎を築くべく、前半では歴史学入門を、後半では日本前近代史概説を講義する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史学という学問の特徴について、基本的な理解をもつこと、③日本史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、④日本前近代史の骨格を理解すること、⑤教科書的な「日本史」の向こう側にアプローチできるようになること、⑥以上のような事柄を中心に、日本史を教える教員としての素養を育成することを目的とし、オリジナルな日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動やオリンピックを理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと。

【授業方法】
レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。講義中に小テストや小レポートを課すことがある。また毎回コメントカードの提出を課す。講評をポータルサイトで発表することをもってフィードバックとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実習やディスカッション、コメントカード、小レポートなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史学という学問の特徴について、基本的な理解を獲得する。											
②	日本史という教科の存在理由や問題点を理解する。											
③	各時代の基本的特徴・時代像を把握する。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	学期末授業内試験により、到達目標が達成されているかについて判定する。	20	20	20								60
小テスト等	コメントカードや授業中の課題の提出状況により、到達目標が達成されているかについて判定する。	5	5									10
レポート等	中間レポート（レポート試験）により、到達目標が達成されているかについて判定する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトにおける講評。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。なお、中学社会科歴史分野又は高校日本史Bの教科書（会社は指定しない）は用意しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜13:00～14:00 金曜18:00～18:30 講義とは直接関係のない質問や相談にも応対します。メールでアポイントを取ると確実です。9604室。メールはohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		社会教育における歴史学の意味について。歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/9	ガイダンス・イントロダクション 講義の目的などの説明	講義の目的・履修案内・注意事項・文献紹介・講義計画	
		この回の到達目標	本講義の目的や講義概要について理解し、履修を決めることができる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。	120分
		事後学修	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。	120分
2	4/16	よく生きるための歴史 ——なぜ歴史を学ぶのか？	自分の過去を振り返るのはなぜか？を考えることを端緒に、歴史を学ぶことを意義について考える。	
		この回の到達目標	歴史学を学ぶことの意義について、答えを持つことができるようになる。	
		事前学修	これまでの日本史・世界史の学習歴を振り返りつつ、「なぜ歴史を学ぶのか」について自分なりの答えを考えてくる。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「なぜ歴史を学ぶのか」について考えをまとめる。	120分
3	4/23	過去の痕跡としての史料	史料とは何か？ 史料をめぐる諸問題や史料批判の重要性について考える。	
		この回の到達目標	史料保存の重要性や公文書の作成・保存・公開の重要性について理解する。	
		事前学修	地元の歴史博物館や郷土史料館に足を運んで、史料を見てくる。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。特に「史料批判」の意義についてまとめる。	120分
4	4/30	「歴史」が生まれる ——歴史学という営み	学問としての歴史学とはどういうものか、「歴史」の客観性や科学性について考える。	
		この回の到達目標	歴史学という学問の特徴について、基本的な認識を獲得する。	
		事前学修	「「歴史」とは何か」について、自分なりの答えを考えてくる。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。歴史学という学問の特徴についてまとめる。	120分
5	5/7	「日本史」とはなんだろう ——「日本史」の歴史	古代以来の歴史書編纂の歴史を概観し、その歴史認識の特徴や、歴史と政治との関係について考える。	
		この回の到達目標	日本史教育の意義や問題点について、考える視点を獲得する。	
		事前学修	学校教育で、なぜ「日本史」を学習させられるのだろうか？を考えてくる。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「「日本史」の歴史」の特徴と問題点をまとめる。	120分
6	5/14	歴史を教えるということ ——歴史教育と歴史学	歴史学が大きく変化していく中で、既存の「日本史」教育では見えてこなかった問題や「日本史」を相対化する視点が指摘されてきている。一方、学校教育では「歴史離れ」も指摘されている。歴史学の成果を活かした歴史教育の可能性について考える。	
		この回の到達目標	既存の歴史教育の問題点を認識し、それを克服する歴史教育を構想する力を獲得する。	
		事前学修	自らが受けてきた「日本史教育」の問題点を挙げてみる。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。既存のスタイルを壊して、どんな歴史の授業をしてみたいかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/21	ヤマト王権の形成と東アジア ―原始から古代へ	東アジア世界の影響の中で王権の形成が進んでいく過程を検討する。	
		この回の到達目標	東アジアとの関係を重視しながら、この時代の歴史過程の基本事項と時代像を獲得する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、原始・古代の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。レジュメ記載の練習問題に解答する。参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
8	5/28	「日本」の誕生 ―律令制国家の確立と東アジア	律令制の整備とともに、「日本」「天皇」という語が生まれたり、歴史書編さんが始まったこと、「蝦夷」の制圧が進んだことなどに着目しながら、「日本」という古代国家の誕生について検討する。	
		この回の到達目標	東アジア世界との関係を含みこみながら、古代国家形成過程の基本事項と当該期の歴史像を獲得する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、古代の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
9	6/4	中世の政治と社会 ―分権と多元性	権力の分立と社会の多元性という中世社会の特徴について検討する。	
		この回の到達目標	中世の政治社会の特徴を理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世前期の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
10	6/11	いくつもの「日本」 ―中世の西と東・北と南	西国と東国、蝦夷と琉球など、相対的に異なった文化の重層・複合として、日本列島の歴史見ることの重要性を考える。	
		この回の到達目標	日本列島の多元性とその背景について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世後期の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
11	6/18	戦争と平和 ―中世から近世へ	「自力救済」を基本とする分権的な中世から、「惣無事」を実現する集権的な権力（幕藩体制）が誕生する近世への時代の転換をたどる。	
		この回の到達目標	中世社会の特徴を克服していく過程から近世という時代が始まっていくことについて理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦国時代の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
12	6/25	鎖国とは何か―近世の対外関係	近世の特徴の一つである「鎖国」と呼ばれる幕府の対外政策について検討する。	
		この回の到達目標	東アジア世界のなかでの「鎖国」の意義を理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、幕府の対外関係の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/2	幕藩体制と社会秩序 ―安定支配のしくみと正統性	幕藩体制の仕組みと支配の正統性について検討する。	
		この回の到達目標	幕藩体制の安定の基礎にある正統性について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世前半の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
14	7/9	近世社会の成熟と動揺 ―近代への序章	商品経済の拡大や町人文化の発達が見られる一方で、一揆や打ちこわしなどによる秩序の動揺が見られた幕末の社会を論じ、近代への転換を展望する。	
		この回の到達目標	一揆や打ちこわしがいかなる意味で危機であるのかを構造的に理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世後半の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
15	7/16	テストと振り返り	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
		この回の到達目標	本講義の目標に到達したか否かを問う問題について、適切に解答できる。また、自己の達成について振り返り、今後の課題を見出すことができる。	
		事前学修	全講義を復習して試験に備える。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	朴澤 直秀	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この講義では、高等学校地歴科の免許の取得にふさわしい力量を育むことを目的とする。具体的には、日本史を対象として、地域の形成・変容と支配のありように焦点を当て、時代の特質とその変遷への理解を深める学修を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教科書に書かれていることの背景に対する理解を深めること。研究状況の進展を確認すること。また、歴史学の特質について理解を深めること。それらにより、研究状況の進展に即して、自ら教科書や教材を理解し、常に知識を更新して授業を行う力量を修得する。地域の形成・変容と支配のありようを軸に、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
教職科目である。高等学校「日本史B」履修程度の十分な知識・理解を必須の受講の前提とする。未履修者は十分に予習し理解したうえで講義に臨むこと。履修済みの者であっても十分に知識・理解を確認したうえで講義に臨むこと。

【授業方法】
基本的に講義形式で行うが、受講者数によって柔軟に対応する。受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容や、取り上げる史料の解釈などに関する質疑応答を、授業内で随時展開する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新しい研究成果に基づき、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できる。											
②	研究状況の進展に即して、知識を更新できる。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	90	10									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		90	10									100

【課題に対するフィードバックの方法】
達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『岩波講座日本歴史』	大津透ほか	岩波書店	2013-2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/7	導入講義	授業内容の概観、授業方法に関する説明と指導	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連し、その到達目標の意義を理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通す。高等学校「日本史B」履修程度の、古代史の内容について、振り返っておく。	120分
		事後学修	授業内のアンケートで問われた内容につき、調べる。	120分
2	4/14	原始から古代へ	古代社会の成立期について講述する。	
		この回の到達目標	集落や社会の形成について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回説明された授業概要をめぐって、質問すべき点はなかったか、振り返っておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
3	4/21	古代 1	ヤマト政権に関して講述する。	
		この回の到達目標	ヤマト政権について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
4	4/28	古代 2	律令国家の形成について講述する。	
		この回の到達目標	律令国家の形成について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
5	5/5	古代 3	律令国家の確立について講述する。	
		この回の到達目標	律令国家の確立について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
6	5/12	古代 4	古代の地域社会の様相について講述する。	
		この回の到達目標	古代の地域社会の様相について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/19	古代 5	古代国家の展開について講述する。	
		この回の到達目標	古代国家の展開について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
8	5/26	古代から中世へ	古代から中世への展開に関して講述する。	
		この回の到達目標	古代から中世への展開について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
9	6/2	中世 1	院政について講述する。	
		この回の到達目標	院政の特質について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
10	6/9	中世 2	史料からみえる荘園経営の様相について講述する。	
		この回の到達目標	荘園経営のありようについて理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
11	6/16	中世 3	荘園制について講述する。	
		この回の到達目標	荘園制に関する基本的な知識について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
12	6/23	中世 4	武家政権と朝廷との関係について講述する。	
		この回の到達目標	武家政権と朝廷との関係について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	6/30	中世 5	鎌倉幕府の構造について講述する。	
		この回の到達目標	鎌倉幕府の構造について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
14	7/7	重要な論点の補足	これまでの受講生の反応から把握した「誤解」「理解の薄い論点」などを手がかりに、論点を補足し、「史料」をめぐる問題に関する理解度を高める	
		この回の到達目標	今学期の授業で取り上げた諸論点について、ここまでの達成を踏まえてさらに理解を深め、一步深い理解に基づいた説明ができる	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、自分の理解を点検しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
15	7/14	授業の目的に関する確認	この授業の目的について改めて確認し、それを踏まえて、受講生の到達度を確認する。	
		この回の到達目標	新しい研究成果に基づき、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できる。	
		事前学修	今学期の授業内容を整理し、授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく。	120分
		事後学修	今学期の達成度を振り返り、理解の不十分な点について学習を深める。	120分

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【世界史のなかの近現代日本】 将来高校日本史を担当する教員として教壇に立つものを想定して、それに必要な素養を養うことにする。Ⅱでは「世界史のなかの近現代日本」と題して、日本近現代史を概論する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、③日本近現代の歴史過程とその特質について基本的な認識を持つこと、④政治・外交の推移や社会変容を構造的に理解できるようになること、⑤教科書的な「日本史」像の向こう側にアプローチできるようになること、以上のような素養を中心に、日本史教員としての基礎力を育成することを目的とし、オリジナルの日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動やオリンピックを理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと

【授業方法】
レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。講義中に作業課題や小テスト、小レポートを課すことがある。また毎回コメントカードの提出を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実習やディスカッション、コメントカード、小レポートなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の近現代の歴史に関する基礎的な知識を獲得する。											
②	世界史との連関で日本近現代史の展開を理解する。											
③	日本の近現代史に関するオリジナルな授業を構想できる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末授業内試験により、到達目標が達成されているかについて判定する。	30	30									60
小テスト等	コメントカードや授業中の課題の提出状況により、各授業の目標が達成されているかについて判定する。	5	5									10
レポート等	中間レポート（レポート試験）により、講義による学びが深められているかについて判定する。	0	15	15								30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	50	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトにおける講評。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。なお、中学社会科歴史分野・高校日本史の教科書（会社は指定しない）は用意しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜13:00～14:00 金曜18:00～18:30 講義とは直接関係のない質問や相談にも応ずる。試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談には答えられない。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		社会教育における歴史学の意味について。歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/17	世界史のなかの近現代日本・イントロダクション	前半で講義の趣旨と概要、履修条件・注意事項・文献紹介 後半で「世界史の中の近現代日本」というテーマ設定の含意を説明する。	
		この回の到達目標	本講義の目的や講義概要について理解し、履修を決めることができる。	
		事前学修	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。	120分
		事後学修	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。	120分
2	9/24	世界史のなかの「開国」	19世紀の世界のなかでのいわゆる「開国」の歴史的意義について、世界資本主義システムや国民国家体系への包摂という観点から説明する。	
		この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「開国」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
3	10/1	「文明国」になるということ——<文明化>と<国民化>	明治維新政府の政策を<文明化>と<国民化>という観点から説明し、「文明国」になるという目標の意味について考察する。	
		この回の到達目標	「文明国」になるという目標から展開された明治新政府の政策の両義性について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治維新」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
4	10/8	「民権」と「国権」——明治憲法体制の形成	自由民権運動から大日本帝国憲法制定までの過程をたどりつつ、<文明化>と<国民化>の観点から、その意義と限界を分析する。	
		この回の到達目標	明治憲法制定に至る過程、および憲法制定の意義と限界について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「自由民権運動」「明治憲法」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
5	10/15	明治政府の外交と東アジア国際秩序の再編	明治政府の東アジア外交の展開による近隣との関係再編過程を考察する。	
		この回の到達目標	明治政府による東アジア外交の歴史的意義について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治政府の外交」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
6	10/22	日清・日露戦争——帝国主義と東アジア	日清・日露戦争期に東アジアに帝国主義が本格的に展開していく過程を扱う。	
		この回の到達目標	日本と東アジアにおける帝国主義との関係を理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日清戦争」「日露戦争」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/29	「帝国」日本と植民地主義	日本の帝国主義的拡大の過程と植民地主義の特質を考察する。	
		この回の到達目標	日本の帝国主義的拡大の過程と植民地主義の特質について説明することができる。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「韓国併合」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
8	11/5	第一次世界大戦後の世界の変容と日本の針路	第一次世界大戦後の国際秩序の変化と日本の対外政策との関わりについて考察する。	
		この回の到達目標	1920年代の日本外交のあり方について、世界の変容との関わりで説明できる。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「第一次世界大戦」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
9	11/12	政治的・社会的デモクラシーと政治体制の民主化	大正デモクラシー期における政治的・社会的デモクラシーの傾向と1920年代の政治体制の民主化との関わりについて考察する。	
		この回の到達目標	1920年代の政治・社会の変容を構造的に理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「大正デモクラシー」「政党政治の実現」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
10	11/19	「帝国」の再膨張 ――満州事変から日中戦争へ	満州事変を契機として中国侵略の本格化と立憲政治の後退が進んでいく過程を考察する。	
		この回の到達目標	満州事変以降の日本の動きが当時の世界にもった意味を理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「満州事変」「華北分離工作」「日中戦争」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
11	12/3	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の性格について、日中戦争との連続性、開戦決定過程の特質、「大東亜共栄圏」の実態などの側面から考える。	
		この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の基本的性格について説明できる。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日中戦争」「太平洋戦争」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
12	12/10	「大日本帝国」の崩壊	総力戦体制下の国民生活の実態、絶望的抗戦における兵士の無残な死、敗戦を引き延ばしたがゆえに拡大した民間人の戦争被害など、内部崩壊していく「大日本帝国」を考える。	
		この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の実態、および敗戦過程の特質について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「太平洋戦争」の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/17	非軍事化と民主化 ——焼跡からの再出発	非軍事化と民主化を基調とする戦後改革とその成果について検討する。	
		この回の到達目標	戦後デモクラシーの意義と限界について理解する。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦後改革の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
14	12/24	冷戦下の日本の現代 ——高度成長から経済大国へ	冷戦下の東アジア情勢を背景とした復興・高度成長・経済大国化の進展とその問題点を考える。	
		この回の到達目標	環境破壊や人権軽視、戦後処理の不十分さなどの問題点を抱えた日本の現代について批判的に思考できる。	
		事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、高度成長・経済大国の部分を読んでおく。	120分
		事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
15	1/14	テストと振り返り	本講義の目標を達成できているかどうかを授業内試験により考査する。また、自己の達成を確認し今後の課題を発見する振り返りを行う。	
		この回の到達目標	本講義における自己の達成を適切に評価し、今後の課題について説明できる。	
		事前学修	全講義を復習して試験に備える。	150分
		事後学修	これまでの学びを振り返り、獲得したものと足りないものを確認する。	90分

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	朴澤 直秀	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この講義では、高等学校地歴科の免許の取得にふさわしい力量を育むことを目的とする。具体的には、「日本史概論Ⅰ」を承け、日本史を対象として、地域の形成・変容と支配のありように焦点を当て、時代の特質とその変遷への理解を深める学修を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教科書に書かれていることの背景に対する理解を深めること。研究状況の進展を確認すること。また、歴史学の特質について理解を深めること。それらにより、研究状況の進展に即して、自ら教科書や教材を理解し、常に知識を更新して授業を行う力量を修得する。地域の形成・変容と支配のありようを軸に、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
教職科目である。高等学校「日本史B」履修程度の十分な知識・理解を必須の受講の前提とする。未履修者は十分に予習し理解したうえで講義に臨むこと。履修済みの者であっても十分に知識・理解を確認したうえで講義に臨むこと。

【授業方法】
基本的に講義形式で行うが、受講者数によって柔軟に対応する。「日本史概論Ⅰ」の状況や、受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容や、取り上げる史料の解釈などに関する質疑応答を、授業内で随時展開する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新しい研究成果に基づき、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できる。											
②	研究状況の進展に即して、知識を更新できる。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	90	10									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		90	10									100

【課題に対するフィードバックの方法】
達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『岩波講座日本歴史』	大津透ほか	岩波書店	2013-2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/15	導入講義	授業内容の概観、授業方法に関する説明と指導	
		この回の到達目標	到達目標①・②に関連し、その到達目標の意義を理解する。	
		事前学修	シラバスに目を通す。高等学校「日本史B」履修程度の、中世史の内容について、振り返っておく。朴澤担当の「日本史概論Ⅰ」の受講者は、前期の要点についても振り返っておく	120分
		事後学修	授業内のアンケートで問われた内容につき、調べる。朴澤担当の「日本史概論Ⅰ」を受講していない者は、授業内での指示に従い、該当内容について調べる。	120分
2	9/22	中世 1	鎌倉時代の東西関係の展開について講述する。	
		この回の到達目標	鎌倉時代の東西関係の展開について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回説明された授業概要をめぐって、質問すべき点はなかったか、振り返っておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
3	9/29	中世 2	蒙古襲来と社会の変容に関して講述する。	
		この回の到達目標	蒙古襲来と社会の変容について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
4	10/6	中世 3	南北朝内乱について講述する。	
		この回の到達目標	南北朝内乱について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
5	10/13	中世 4	室町幕府の成立について講述する。	
		この回の到達目標	室町幕府の成立について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
6	10/20	中世 5	室町幕府の支配の様相について講述する。	
		この回の到達目標	室町幕府の支配の様相について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/27	中世 6	戦国時代の社会の特質について講述する。	
		この回の到達目標	戦国時代の社会の特質について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
8	11/10	中世から近世へ	中世から近世への移行に関して講述する。	
		この回の到達目標	中世から近世への移行について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
9	11/17	近世 1	近世社会の確立と特質について講述する。	
		この回の到達目標	近世社会の確立と特質について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
10	11/24	近世 2	近世社会の展開について講述する。	
		この回の到達目標	近世社会の展開について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
11	12/1	近世 3	近世社会の変動について講述する。	
		この回の到達目標	近世社会の変動について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
12	12/8	近世から近代へ	近世から近代への移行について講述する。	
		この回の到達目標	近世から近代への移行について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/15	近現代	近現代の史料を読解する。	
		この回の到達目標	史料からみえる近代社会の特質について理解し、それを踏まえた説明ができる。	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
14	12/22	重要な論点の補足	これまでの受講生の反応から把握した「誤解」「理解の薄い論点」などを手がかりに、論点を補足し、「史料」をめぐる問題に関する理解度を高める	
		この回の到達目標	今学期の授業で取り上げた諸論点について、ここまでの達成を踏まえてさらに理解を深め、一步深い理解に基づいた説明ができる	
		事前学修	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、自分の理解を点検しておく。	120分
		事後学修	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する。	120分
15	1/12	授業の目的に関する確認	この授業の目的について改めて確認し、それを踏まえて、受講生の到達度を確認する。	
		この回の到達目標	新しい研究成果に基づき、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できる。	
		事前学修	今学期の授業内容を整理し、授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく。	120分
		事後学修	今学期の達成度を振り返り、理解の不十分な点について学習を深める。	120分

科目名	発達と学習【新課程】	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
人間の発達と学習の過程について、その基礎を主に心理学を中心として講義する。そして、実際の教育指導との関連性を講義して、基本的な知識と教育実践でのその応用可能性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を養成することを目的とする。 各発達段階の心理的特性を踏まえて、学習成立の基礎過程と学習活動を支える教育指導の基礎となる考え方を理解し、講義内の心理検査実習等を通じて、実際の知識の獲得と応用を可能にすることを目標とする。

【履修条件】
心理学を履修済み、または履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
講義を中心とする。知識の確認等について、リフレクションペーパーを提出する。また、講義中に検査実習を含めた様々なエクササイズを取り入れる。レポート（テーマは授業中指示）を提出する。試験を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	心理検査実習、グループ討議、リフレクションペーパー提出等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。												
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。												
③	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。												
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。												
⑤	幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を行う。到達目標①から⑤までの到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等	授業ごとにキーワードに関する小テストを行い、キーワードの理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	課題（授業中指示する）について学术论文、資料等を選択して、その内容をレポートとして提出する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度	授業ごとのリフレクションペーパーの内容について、授業の参画をもとにした理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中またはポータルサイトによってフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育心理学	和田万紀	弘文堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2時限目昼休み研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 月4/6	発達と教育	発達の概念及び理論と教育における発達理解の意義を考える	
		この回の到達目標	到達目標1 発達の概念と定義、教育における発達理解の意義を理解して説明できる。	
		事前学修	発達の定義について、教科書、参考書等からまとめる。この科目を履修する意義をまとめる。	120分
		事後学修	実践的な教育現場で、発達と学習の知識をもつことの重要性、意義についてまとめる。	120分
2	第一部 第二部 月4/13	発達の理論	発達の一般的特徴と過程についての理論（遺伝と環境、発達の原理、生涯発達等）	
		この回の到達目標	到達目標1 人間の発達の一般的特徴と過程について理解して説明できる。	
		事前学修	人間の心身の発達の特徴をどのようにとらえるのかについて、他の動物等との比較や内的外的要因の相互作用、現代日本の現状についての資料から具体的例を考える。	120分
		事後学修	生涯発達という観点から、自分の現在の発達の特徴はどこにあるのかをまとめる。	120分
3	第一部 第二部 月4/20	発達の各時期の特徴と理論	発達の各時期の特徴と理論（ピアジェ、ビゴツキー、バルテス、エリクソン等）	
		この回の到達目標	到達目標1 発達に関する代表的理論から、発達の具体的特徴と容を理解して説明できる。	
		事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	発達に関する各理論から、発達の特徴と内容の説明を比較してまとめる。	120分
4	第一部 第二部 月4/27	乳児期、青年期の発達の特徴	発達の各時期の特徴を具体的に理解する（運動、言語、認知の発達、社会性の発達等）	
		この回の到達目標	達成目標2 乳児期、青年期の発達の特徴を運動、言語、認知、社会性の発達等から理解して説明できる。	
		事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、理論等をまとめる。	120分
		事後学修	発達の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達の特徴をまとめる。	120分
5	第一部 第二部 月5/4	青年期の心身発達	青年期の心身発達の特徴を理解する（第2の誕生、エリクソンの理論等）	
		この回の到達目標	到達目標2 青年期の心身の発達の特徴について、理解して説明できる。	
		事前学修	教科書の青年期の発達の特徴に関する章を読み、各発達理論についてまとめて比較する。	120分
		事後学修	青年期の発達の特徴と教育場面での具体的な支援の例をまとめる。	120分
6	第一部 第二部 月5/11	学習成立の基礎と理論	学習の成立過程を理解する（記憶の過程、ワーキングメモリー、知識等）	
		この回の到達目標	到達目標3 学習の形態や概念、過程に関する基礎知識と、発達を踏まえた学習指導の考え方を理解して説明できる。	
		事前学修	学習成立過程について、教科書、参考書から該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習成立過程について、基礎的理論と実際の学習指導の具体例を対応させながらまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 月5/18	学習成立の基礎：知識の獲得と問題解決	知識の獲得と問題解決の過程について理解して説明できる（メタ認知、直感、アルゴリズム等）	
		この回の到達目標	到達目標3 知識の獲得と問題解決の過程について、認知過程から説明を理解して説明できる。	
		事前学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教科書、参考書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教育場面での支援をの例を具体的にまとめる。	120分
8	第一部 第二部 月5/25	学習行動と動機づけ	学習の動機づけと行動（外発的、内発的動機づけ、自律性、報酬と阻害効果等）	
		この回の到達目標	到達目標4 学習行動について、動機、動機付けの観点から、基礎理論を理解して説明できる。	
		事前学修	学習行動と動機づけについて、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習行動と動機づけの関係について、教育場面での具体例をについて基礎理論からまとめる。	120分
9	第一部 第二部 月6/1	学習行動と認知過程	認知と学習行動（原因帰属、統制感、学習性無力感、目標設定等）	
		この回の到達目標	到達目標5 学習行動について、認知過程から基礎理論を理解して説明できる。	
		事前学修	学習行動と認知過程について、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習行動と認知過程について、教育場面での具体例について基礎理論からまとめる。	120分
10	第一部 第二部 月6/8	知的能力と学力観	知的能力と学力（知能とは何か、知能検査の歴史、教師期待効果等）	
		この回の到達目標	到達目標4 頭の良さとは何か、それを測ることはできるのか、どの様に測るのか、について、知能の定義、知能検査の歴史、学力観等について理解して、説明することができる。	
		事前学修	測定と評価に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	頭の良さとは何か、について、自分の考えをまとめて考察する。	120分
11	第一部 第二部 月6/15	学習行動の形成	学習行動の形成（古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化等）	
		この回の到達目標	到達目標5 学習行動の形成に関する基礎理論を理解して、教育場面での具体的な指導へと応用できる。	
		事前学修	学習行動の形成に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習行動の形成を支援する指導の具体例を、基礎理論に基づいて説明してまとめる。	120分
12	第一部 第二部 月6/22	教授法と学習行動	教授法と学習行動（発見学習、仮説実験授業、意味受容学習、適正処遇効果等）	
		この回の到達目標	到達目標5 教授法の基礎理論と種類等について理解して、個人に適した学習指導法について提案できる。	
		事前学修	教授法に関する教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	教授法の基礎理論と方法、また適正処遇効果という観点から、自分の学習行動に適した教授法はどれか、それはなぜかを説明する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 月6/29	評価と学習行動	評価と学習行動（評価目的、評価基準、形成的評価等）	
		この回の到達目標	到達目標4 学習行動の結果としての評価について、評価の目的、基準、種類等を理解して、説明できる。、	
		事前学修	測定と評価についての教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	「測定」と「評価」は、どのような効果、意味を持つのかについて、教師と生徒の各視点から考えてまとめる。	120分
14	第一部 第二部 月6/6	発達障害とインクルーシブ教育	発達障害とインクルーシブ教育（発達障害の定義、インクルーシブ教育等）	
		この回の到達目標	到達目標5 発達障害の定義と教育の支援について、インクルーシブ教育という観点から理解して、説明できる。	
		事前学修	文科省HPから発達障害に関する資料をダウンロードして、現代日本のインクルーシブ教育の現状についてまとめるとともに、教科書の該当の章を読む。	120分
		事後学修	インクルーシブ教育が一般の児童生徒に対して持つ影響を考えてまとめる。	120分
15	第一部 第二部 月7/13	学級という社会	学級という社会（教師のリーダーシップ、学級雰囲気、生徒の人間関係等）	
		この回の到達目標	到達目標4 学級という社会の特徴について、生徒個人の視点、生徒個人と学級という集団という視点から理解して、教師として学級運営、教育支援等の提案ができる。	
		事前学修	学級という社会の特徴について、教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	「学級という社会」の特徴と、その特徴が教師と児童生徒に与える影響をまとめる。	120分

科目名	発達と学習	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
人間の発達と学習の過程について、その基礎を主に心理学を中心として講義する。そして、実際の教育指導との関連性を講義して、基本的な知識と教育実践でのその応用可能性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を養成することを目的とする。 各発達段階の心理的特性を踏まえて、学習成立の基礎過程と学習活動を支える教育指導の基礎となる考え方を理解し、講義内の心理検査実習等を通じて、実際の知識の獲得と応用を可能にすることを目標とする。

【履修条件】
心理学を履修済み、または履修中であることが望ましい。

【授業方法】
講義を中心とする。知識の確認等について、リフレクションペーパーを提出する。また、講義中に検査実習を含めた様々なエクササイズを取り入れる。レポート（テーマは授業中指示）を提出する。試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	心理検査実習、グループ討議、リフレクションペーパー提出等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。											
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。											
③	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。											
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。											
⑤	幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を行う。到達目標①から⑤までの到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等	授業ごとにキーワードに関する小テストを行い、キーワードの理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	課題（授業中指示する）について学术论文、資料等を選択して、その内容をレポートとして提出する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度	授業ごとのリフレクションペーパーの内容について、授業の参画をもとにした理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中またはポータルサイトによってフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育心理学	和田万紀	弘文堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2時限目昼休み研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第一部 第二部 月9/14	発達と教育	発達の概念及び理論と教育における発達理解の意義を考える	
		この回の到達目標	到達目標1 発達の概念と定義、教育における発達理解の意義を理解して説明できる。	
		事前学修	発達の定義について、教科書、参考書等からまとめる。この科目を履修する意義をまとめる。	120分
		事後学修	実践的な教育現場で、発達と学習の知識をもつことの重要性、意義についてまとめる。	120分
2	第一部 第二部 月9/21	発達の理論	発達の一般的特徴と過程についての理論（遺伝と環境、発達の原理、生涯発達等）	
		この回の到達目標	到達目標1 人間の発達の一般的特徴と過程について理解して説明できる。	
		事前学修	人間の心身の発達の特徴をどのようにとらえるのかについて、他の動物等との比較や内的外的要因の相互作用、現代日本の現状についての資料から具体的例を考える。	120分
		事後学修	生涯発達という観点から、自分の現在の発達の特徴はどこにあるのかをまとめる。	120分
3	第一部 第二部 月9/28	発達の各時期の特徴と理論	発達の各時期の特徴と理論（ピアジェ、ビゴツキー、バルテス、エリクソン等）	
		この回の到達目標	到達目標1 発達に関する代表的理論から、発達の具体的特徴と容を理解して説明できる。	
		事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、疑問点をまとめる。	120分
		事後学修	発達に関する各理論から、発達の特徴と内容の説明を比較してまとめる。	120分
4	第一部 第二部 月10/5	乳児期、青年期の発達の特徴	発達の各時期の特徴を具体的に理解する（運動、言語、認知の発達、社会性の発達等）	
		この回の到達目標	達成目標2 乳児期、青年期の発達の特徴を運動、言語、認知、社会性の発達等から理解して説明できる。	
		事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、理論等をまとめる。	120分
		事後学修	発達の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達の特徴をまとめる。	120分
5	第一部 第二部 月10/12	青年期の心身発達	青年期の心身発達の特徴を理解する（第2の誕生、エリクソンの理論等）	
		この回の到達目標	到達目標2 青年期の心身の発達の特徴について、理解して説明できる。	
		事前学修	教科書の青年期の発達の特徴に関する章を読み、各発達理論についてまとめて比較する。	120分
		事後学修	青年期の発達の特徴と教育場面での具体的な支援の例をまとめる。	120分
6	第一部 第二部 月10/19	学習成立の基礎と理論	学習の成立過程を理解する（記憶の過程、ワーキングメモリー、知識等）	
		この回の到達目標	到達目標3 学習の形態や概念、過程に関する基礎知識と、発達を踏まえた学習指導の考え方を理解して説明できる。	
		事前学修	学習成立過程について、教科書、参考書から該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習成立過程について、基礎的理論と実際の学習指導の具体例を対応させながらまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第一部 第二部 月10/26	学習成立の基礎：知識の獲得と問題解決	知識の獲得と問題解決の過程について理解して説明できる（メタ認知、直感、アルゴリズム等）	
		この回の到達目標	到達目標3 知識の獲得と問題解決の過程について、認知過程から説明を理解して説明できる。	
		事前学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教科書、参考書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教育場面での支援をの例を具体的にまとめる。	120分
8	第一部 第二部 月11/9	学習行動と動機づけ	学習の動機づけと行動（外発的、内発的動機づけ、自律性、報酬と阻害効果等）	
		この回の到達目標	到達目標4 学習行動について、動機、動機付けの観点から、基礎理論を理解して説明できる。	
		事前学修	学習行動と動機づけについて、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習行動と動機づけの関係について、教育場面での具体例をについて基礎理論からまとめる。	120分
9	第一部 第二部 月11/16	学習行動と認知過程	認知と学習行動（原因帰属、統制感、学習性無力感、目標設定等）	
		この回の到達目標	到達目標5 学習行動について、認知過程から基礎理論を理解して説明できる。	
		事前学修	学習行動と認知過程について、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習行動と認知過程について、教育場面での具体例について基礎理論からまとめる。	120分
10	第一部 第二部 月11/23	知的能力と学力観	知的能力と学力（知能とは何か、知能検査の歴史、教師期待効果等）	
		この回の到達目標	到達目標4 頭の良さとは何か、それを測ることはできるのか、どの様に測るのか、について、知能の定義、知能検査の歴史、学力観等について理解して、説明することができる。	
		事前学修	測定と評価に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	頭の良さとは何か、について、自分の考えをまとめて考察する。	120分
11	第一部 第二部 月11/30	学習行動の形成	学習行動の形成（古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化等）	
		この回の到達目標	到達目標5 学習行動の形成に関する基礎理論を理解して、教育場面での具体的な指導へと応用できる。	
		事前学修	学習行動の形成に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	学習行動の形成を支援する指導の具体例を、基礎理論に基づいて説明してまとめる。	120分
12	第一部 第二部 月12/7	教授法と学習行動	教授法と学習行動（発見学習、仮説実験授業、意味受容学習、適正処遇効果等）	
		この回の到達目標	到達目標5 教授法の基礎理論と種類等について理解して、個人に適した学習指導法について提案できる。	
		事前学修	教授法に関する教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	教授法の基礎理論と方法、また適正処遇効果という観点から、自分の学習行動に適した教授法はどれか、それはなぜかを説明する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第一部 第二部 月12/14	評価と学習行動	評価と学習行動（評価目的、評価基準、形成的評価等）	
		この回の到達目標	到達目標4 学習行動の結果としての評価について、評価の目的、基準、種類等を理解して、説明できる。、	
		事前学修	測定と評価についての教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	「測定」と「評価」は、どのような効果、意味を持つのかについて、教師と生徒の各視点から考えてまとめる。	120分
14	第一部 第二部 月12/21	発達障害とインクルーシブ教育	発達障害とインクルーシブ教育（発達障害の定義、インクルーシブ教育等）	
		この回の到達目標	到達目標5 発達障害の定義と教育の支援について、インクルーシブ教育という観点から理解して、説明できる。	
		事前学修	文科省HPから発達障害に関する資料をダウンロードして、現代日本のインクルーシブ教育の現状についてまとめるとともに、教科書の該当の章を読む。	120分
		事後学修	インクルーシブ教育が一般の児童生徒に対して持つ影響を考えてまとめる。	120分
15	第一部 第二部 月1/18	学級という社会	学級という社会（教師のリーダーシップ、学級雰囲気、生徒の人間関係等）	
		この回の到達目標	到達目標4 学級という社会の特徴について、生徒個人の視点、生徒個人と学級という集団という視点から理解して、教師として学級運営、教育支援等の提案ができる。	
		事前学修	学級という社会の特徴について、教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
		事後学修	「学級という社会」の特徴と、その特徴が教師と児童生徒に与える影響をまとめる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得する。具体的には、倫理学に関する幅広い知識と思考力を修得するために、主に西洋思想と日本思想における主要な倫理学説の意味とその現代的意義について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得するために、主に西洋思想と日本思想における主要な倫理学説の意味を深く理解し、さらに自主創造の理念のもとで現代社会の諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになる。

【履修条件】
教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学修意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視するため、積極的な参加が求められる。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、グループワーク（他の学生との意見交換）やリアクションペーパー（自分の考えのまとめ）も重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回～第12回、第15回の授業時にグループワーク（意見交換）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学説の知識を修得した上で、その意味を深く理解し、説明することができる。【知識】											
②	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、問題解決に向けて独自の考えを創造することができる。【技能】											
③	現代社会の諸問題について深い関心をもち、議論することができる。【態度・習慣】											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②に関わる倫理学説の知識を修得できているか、現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	28	28									56
小テスト等												
レポート等	授業内のリアクションペーパーにより、到達目標①②③に関わる倫理学説の知識を修得できているか、現代社会の倫理的諸問題について他の学生とも積極的に議論した上で独自の考察結果を表現できているかについて確認する。	14	15	15								44
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		42	43	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、授業内試験とリアクションペーパーの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『もういちど読む山川倫理』	小寺聡（編）	山川出版社	2011	参考書	推奨
備考	授業時に資料を配布する。				

【オフィスアワー】
時間帯：水曜12:20～12:50, 14:30～14:40（事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂。メールアドレス：開講時に告知する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	4/8	導入 倫理学を学ぶ意義について	倫理学を学ぶ意義について学修する。また、シラバスの内容について詳しい解説を行う。それによって受講生は、授業計画を把握し、授業準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような学問か、また倫理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する。	120分
2	4/15	西洋思想と倫理（1）ソクラテス・プラトン	ソクラテス・プラトンの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
3	4/22	西洋思想と倫理（2）アリストテレス	アリストテレスの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
4	4/29	西洋思想と倫理（3）デカルト	デカルトの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
5	5/6	西洋思想と倫理（4）カント	カントの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
6	5/13	西洋思想と倫理（5）ヘーゲル	ヘーゲルの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	5/20	西洋思想と倫理（6）ニーチェ	ニーチェの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
8	5/27	西洋思想と倫理（7）ハイデガー	ハイデガーの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
9	6/3	日本思想と倫理（1）親鸞	親鸞の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
10	6/10	日本思想と倫理（2）道元	道元の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
11	6/17	日本思想と倫理（3）西田幾多郎	西田幾多郎の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
12	6/24	日本思想と倫理（4）和辻哲郎	和辻哲郎の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	7/1	現代社会の倫理的課題	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
		事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
14	7/8	理解度の確認とまとめ	理解度の確認（授業内試験）と解説を行う。それによって受講生は、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義を明確に表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
		事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
15	7/15	総括	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、議論を通して自らの考察をさらに深めることができる。	
		事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
		事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この授業では、倫理学という学問を生んだ古代ギリシア哲学の中の倫理思想、西洋倫理に大きな影響を与えたキリスト教の倫理思想、それらを継承しつつも新たな展開を見せた西洋近代の倫理思想を学びます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明することができるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。

【履修条件】
高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。

【授業方法】
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学上の問題についての様々な考えや基本的な知識を理解し、説明することができる。												
②	倫理学上の問題について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。												
③	様々な倫理的立場を比較検討し、倫理学上の問題を自ら考察することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	20	20								70
小テスト等	到達目標①の知識が身についているかを、小テストにより評価する。	30										30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もういちど読む山川倫理	小寺聡	山川出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 木4/9	ガイダンス 公民と倫理学	授業計画や評価方法などの説明。 「公民とは誰か」を考える。また、倫理学(ethica/ethics)という学問の成立について学ぶ。	
		この回の 到達目標	公民とはどういう人間のことであるか、倫理学(ethica/ethics)という学問がどのようにして成立したかを理解する。	
		事前学修	このシラバス全体を読み、また教科書を使って、授業の概要を理解する。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
2	第二部 木4/16	ソフィストとソクラテス	古代ギリシアのソフィストとソクラテスの考え方と生き方を比較する。	
		この回の 到達目標	ソフィストとソクラテスの考え方と生き方の違いを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
3	第二部 木4/23	プラトンの国家論	プラトンが理想の国家をどのようなものだと考えたかを学ぶ。	
		この回の 到達目標	プラトンの正しい国家こそが人々を幸福にするという考えを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
4	第二部 木4/30	アリストテレスの倫理思想	「倫理学」という学問を成立させたアリストテレスの倫理思想を学ぶ。	
		この回の 到達目標	アリストテレスの考える幸福とは何か、徳（人間としての優秀性）とは何かを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
5	第二部 木5/7	エピクロスとストア派の倫理思想	エピクロスの快楽主義とストア派の禁欲主義を学ぶ。	
		この回の 到達目標	エピクロスの求めた快楽とはどのようなものか、ストア派がなぜ幸福を得るために欲望や感情を抑えようとしたのかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
6	第二部 木5/14	キリスト教の倫理思想	キリスト教のアガペー(愛)の思想を学ぶ。	
		この回の 到達目標	キリスト教が求めたアガペーとはどのような愛であるかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 木5/21	キリスト教の宗教改革	ルターとカルヴァンによるキリスト教の宗教改革について学ぶ。	
		この回の到達目標	ルターやカルヴァンの宗教改革の背後にある宗教思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
8	第二部 木5/28	デカルトの人間観	デカルトの近代的人間観を学ぶ。	
		この回の到達目標	デカルトの「我思うゆえに我あり(＝私は思考する、だから私は存在する)」という言葉の中の「我(私)」とはどのような人間なのかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
9	第二部 木6/4	ホッブズとロックの社会契約説	ホッブズとロックの社会契約説に見られる人間観と国家観を学ぶ。	
		この回の到達目標	ホッブズとロックのそれぞれの人間観とそれに基づくそれぞれの国家観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
10	第二部 木6/11	ルソーの社会契約説	ホッブズとロックとは異なるルソーの社会契約説を学ぶ。	
		この回の到達目標	ルソーの近代文明社会への批判と彼の目指す理想国家を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
11	第二部 木6/18	カントの義務論	カントの幸福主義批判と彼の義務論を学ぶ。	
		この回の到達目標	カントがどんな理由で幸福主義(人生の目的を幸福の追求だと考える立場)を批判し、義務(人間としてなすべきこと)を中心とした倫理学説を唱えたかを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
12	第二部 木6/25	ベンサムとミルの功利主義	ベンサムとミルの「最大多数の最大幸福」の実現を目指す功利主義を学ぶ。	
		この回の到達目標	ベンサムとミルの功利主義思想を理解すると同時に、この思想に含まれる問題点(「最大多数の最大幸福」を追求することの問題点)も理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 木7/2	アダム・スミスの道徳感情論	道徳的判断は理性ではなく感情に基づくと考えるアダム・スミスの道徳感情論を学ぶ。	
		この回の到達目標	アダム・スミスの理性主義（善悪は理性で判断するという立場）への批判を理解し、道徳的判断は感情に基づくと考える彼の立場を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
14	第二部 木7/9	ヘーゲルの人倫思想	ヘーゲルの人間と共同体（家族・市民社会・国家）の関係についての考えを学ぶ。	
		この回の到達目標	ヘーゲルの考える家族・市民社会・国家のあり方を、人間の生き方との関係において理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
15	第二部 木7/16	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
		この回の到達目標	この授業全体を振り返って、西洋の倫理思想の概要と主要な学説を理解する。	
		事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
		事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得する。具体的には、倫理学に関する幅広い知識と思考力を修得するために、主に社会思想と宗教思想における主要な倫理学説の意味とその現代的意義について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得するために、主に社会思想と宗教思想における主要な倫理学説の意味を深く理解し、さらに自主創造の理念のもとで現代社会の諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになる。

【履修条件】
教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学修意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視するため、積極的な参加が求められる。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、グループワーク（他の学生との意見交換）やリアクションペーパー（自分の考えのまとめ）も重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回～第12回、第15回の授業時にグループワーク（意見交換）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学説の知識を修得した上で、その意味を深く理解し、説明することができる。【知識】											
②	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、問題解決に向けて独自の考えを創造することができる。【技能】											
③	現代社会の諸問題について深い関心をもち、議論することができる。【態度・習慣】											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②に関わる倫理学説の知識を修得できているか、現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	28	28									56
小テスト等												
レポート等	授業内のリアクションペーパーにより、到達目標①②③に関わる倫理学説の知識を修得できているか、現代社会の倫理的諸問題について他の学生とも積極的に議論した上で独自の考察結果を表現できているかについて確認する。	14	15	15								44
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		42	43	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、授業内試験とリアクションペーパーの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『もういちど読む山川倫理』	小寺聡（編）	山川出版社	2011	参考書	推奨
備考	授業中に適宜資料を配布する。				

【オフィスアワー】
時間帯：水曜12:20～12:50, 14:30～14:40（事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂。メールアドレス：開講時に告知する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	9/16	導入 倫理学を学ぶ意義について	倫理学を学ぶ意義について学修する。また、シラバスの内容について詳しい解説を行う。それによって受講生は、授業計画を把握し、授業準備をスムーズに行うことができる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような学問か、また倫理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる。	
		事前学修	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する。	120分
2	9/23	社会思想と倫理（１）ミル	ミルの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
3	9/30	社会思想と倫理（２）アーレント	アーレントの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
4	10/7	社会思想と倫理（３）ハーバーマス	ハーバーマスの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
5	10/14	社会思想と倫理（４）ロールズ	ロールズの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
6	10/21	宗教思想と倫理（１）ユダヤ教	ユダヤ教の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	10/28	宗教思想と倫理（２）キリスト教	キリスト教の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
8	11/11	宗教思想と倫理（３）イスラーム	イスラームの倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
9	11/18	宗教思想と倫理（４）仏教	仏教の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
10	11/25	宗教思想と倫理（５）儒教	儒教の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
11	12/2	宗教思想と倫理（６）道教	道教の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
12	12/9	宗教思想と倫理（７）神道	神道の倫理学説について学修する。また、グループワークを通して、その現代的意義について意見交換を行う。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
		事後学修	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	12/16	現代社会の倫理的課題	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
		事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
14	12/23	理解度の確認とまとめ	理解度の確認（授業内試験）と解説を行う。それによって受講生は、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義を明確に表現できるようになる。	
		この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
		事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
		事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
15	1/13	総括	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
		この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、議論を通して自らの考察をさらに深めることができる。	
		事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
		事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この授業では、仏教や儒教などの東洋の倫理思想、それらの東洋思想や西洋思想の影響を受けた日本の倫理思想、マルクス主義や実存主義に代表される現代の倫理思想を学びます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明することができるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。

【履修条件】
高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。

【授業方法】
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学上の問題についての様々な考えや基本的な知識を理解し、説明することができる。										
②	倫理学上の問題について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。										
③	様々な倫理的立場を比較検討し、倫理学上の問題を自ら考察することができる。										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	20	20								70
小テスト等	到達目標①の知識が身についているかを、小テストにより評価する。	30										30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もういちど読む山川倫理	小寺聡	山川出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
1	第二部 木9/17	ガイダンス 仏教の世界観	授業計画や評価方法などの説明。 仏教の世界観について学ぶ。	
		この回の到達目標	仏教の因縁生起の世界観（すべての物事は関係によって成り立っているという世界観）を理解する。	
		事前学修	このシラバス全体を読んで、教科書を使いながら授業の概要を理解する。 上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
2	第二部 木9/24	仏教の人生観	仏教の人生観について学ぶ。	
		この回の到達目標	仏教では人生は苦しいものだと考えられているが、なぜ人間は苦しむのか、またどうしたら苦しみから逃れられるのかという問題に対する仏教の考えを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
3	第二部 木10/1	儒教思想と老荘思想	古代中国の儒教思想と老荘思想について学ぶ。	
		この回の到達目標	人々をまとめ国を治めようとした孔子の思想を理解した上で、孟子の性善説と荀子の性悪説の違いを理解する。 自然に従うことを大切だと考えた老子と荘子の思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
4	第二部 木10/8	朱子学と陽明学	朱子学と陽明学の思想を比較する。	
		この回の到達目標	朱子学の理気二元論と陽明学の朱子学批判を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
5	第二部 木10/15	日本古来の思想と古代日本の仏教思想	日本古来の思想と古代日本の仏教思想を学ぶ。	
		この回の到達目標	外来思想が伝わる以前の日本固有の思想と奈良・平安時代の仏教思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
6	第二部 木10/22	鎌倉仏教	鎌倉時代の仏教思想を学ぶ。	
		この回の到達目標	法然や親鸞の浄土信仰の思想、栄西や道元の禅宗の思想、日蓮の思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
7	第二部 木10/29	儒教と国学	江戸時代の儒教と国学について学ぶ。	
		この回の到達目標	江戸時代に日本に広まった朱子学と陽明学の思想と国学の思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
8	第二部 木11/5	近代日本の思想	近代日本の思想について学ぶ。	
		この回の到達目標	仏教や儒教などの東洋思想を受け継ぎながらも、新たに西洋思想を受け入れた福沢諭吉や和辻哲郎などの近代日本の思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
9	第二部 木11/12	マルクス主義	マルクスの社会主義について学ぶ。	
		この回の到達目標	現代社会に大きな影響を与えたマルクスの社会観と歴史観を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
10	第二部 木11/19	実存主義	サルトルの「実存は本質に先立つ」「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味を考え、実存主義に基づく人生観を学ぶ。	
		この回の到達目標	マルクス主義とともに現代社会に大きな影響を与えたサルトルの実存主義思想を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
11	第二部 木12/3	アーレント	アーレントの公共論について学ぶ。	
		この回の到達目標	アーレントの近代社会への批判と彼女の公共論を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
12	第二部 木12/10	ロールズ	ロールズのリベラリズム（自由主義）について学ぶ。	
		この回の到達目標	ロールズの功利主義批判と彼の正義論を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	日程	テーマ	内 容	
13	第二部 木12/17	ロールズ批判	ノージックとサンデルによるロールズ批判を学ぶ。	
		この回の到達目標	ロールズのリベラリズムの問題点を理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
14	第二部 木12/24	生命倫理学	科学技術の進歩による新たな倫理問題を学ぶ。	
		この回の到達目標	科学技術が進歩すると新たな倫理問題が生まれることを理解する。	
		事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	60分
		事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。	180分
15	第二部 木1/14	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
		この回の到達目標	この授業全体を振り返って、東洋思想、日本思想、現代思想の概要を理解する。	
		事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
		事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分